諸橋轍次著

大漢和辭典

巻五

修訂版

大修館書店

修訂者

東京教育大学名誉教授
文学博士　鎌田　正

財団法人静嘉堂文庫長　米山寅太郎

表紙背模様
引縄直
「程氏墨苑」（明版）巻十所載
（静嘉堂文庫蔵）
表紙平模様
唐千秋萬歳鉄鑑
「宣和博古図録」（明版）巻三十所載
（静嘉堂文庫蔵）
背文字
田代秋鶴筆
扉文字
諸橋轍次筆

装幀　山崎　登

巻五所載

總文字

部首順による檢字

親文字の下に記した洋數字は其の文字の番號。和數字は其の文字を掲載した頁。

戈部

文字	番號	頁
戈	11530	一
一畫		
戉	11531	三
戊	11532	三
[illegible]	11533	三
[illegible]	11534	三
二畫		
戌	11535	三
[illegible]	11536	四
戍	11537	四
戋	11538	五
戎	11539	五
[illegible]	11540	八
[illegible]	11541	八
[illegible]	11542	八
成	11542′	八
三畫		
[illegible]	11543	八
成	11544	八
我	11545	一九
[illegible]	11546	二三
狘	11547	二三
戒	11548	二三
或	11549	二六
[illegible]	11550	二六
[illegible]	11551	二六
[illegible]	11552	二六
[illegible]	11553	二六
四畫		
[illegible]	11554	二六
[illegible]	11555	二六
[illegible]	11556	二六
[illegible]	11557	二六
[illegible]	11558	二六
戔	11559	二六
[illegible]	11560	二七
[illegible]	11561	二七
戕	11562	二七
或	11563	二七
[illegible]	11564	二八
[illegible]	11565	二八
[illegible]	11566	二八
[illegible]	11567	二八
[illegible]	11568	二八
五畫		
[illegible]	11569	二八
[illegible]	11570	二八
[illegible]	11571	二八
[illegible]	11572	二八
[illegible]	11573	二九
[illegible]	11574	二九
[illegible]	11575	二九
[illegible]	11576	二九
[illegible]	11577	二九
[illegible]	11578	二九
[illegible]	11579	二九
哉	11580	二九
武	11581	二九
战	11582	二九
六畫		
[illegible]	11583	二九
[illegible]	11584	二九
[illegible]	11585	二九
[illegible]	11586	二九
[illegible]	11587	二九
[illegible]	11588	二九
[illegible]	11589	二九
[illegible]	11590	二九
[illegible]	11591	二九
[illegible]	11592	二九
[illegible]	11593	二九
七畫		
戚	11594	二九
[illegible]	11595	三一
[illegible]	11596	三二
[illegible]	11597	三二
戛	11598	三二
[illegible]	11599	三二
[illegible]	11600	三二
[illegible]	11601	三二
[illegible]	11602	三二
戝	11603	三二
八畫		
[illegible]	11604	三二
戞	11605	三二
戟	11606	三二
戟	11606′	三二
[illegible]	11607	三二
[illegible]	11608	三二
[illegible]	11609	三二
[illegible]	11610	三二
[illegible]	11611	三四
[illegible]	11612	三四
[illegible]	11613	三四
九畫		
[illegible]	11614	三四
[illegible]	11615	三四
戡	11616	三四
戢	11617	三四
[illegible]	11618	三五
[illegible]	11619	三五
[illegible]	11620	三五
[illegible]	11621	三五
[illegible]	11622	三五
[illegible]	11623	三五
[illegible]	11624	三五
[illegible]	11625	三五
[illegible]	11626	三五
[illegible]	11627	三五
[illegible]	11628	三五
[illegible]	11629	三五
[illegible]	11630	三五
[illegible]	11631	三五
戦	11631′	三五
十畫		
[illegible]	11632	三五
[illegible]	11633	三五
[illegible]	11634	三五
[illegible]	11635	三五
[illegible]	11636	三六
[illegible]	11637	三六
[illegible]	11638	三六
截	11639	三六
[illegible]	11640	三七
[illegible]	11641	三七
[illegible]	11642	三七
[illegible]	11643	三七
[illegible]	11644	三七
[illegible]	11645	三七
[illegible]	11646	三七
[illegible]	11647	三七
十一畫		
[illegible]	11648	三八
[illegible]	11649	三八
[illegible]	11650	三八
[illegible]	11651	三八
[illegible]	11652	三八
[illegible]	11653	三八
戯	11654	三八
戮	11655	三八
[illegible]	11656	三九
[illegible]	11657	三九
[illegible]	11658	三九
[illegible]	11659	三九
[illegible]	11660	三九
[illegible]	11661	三九
[illegible]	11662	三九
[illegible]	11663	三九
[illegible]	11664	三九
戱	11665	三九
十二畫		
戴	11666	三九
戰	11667	三九
戲	11668	四四
[illegible]	11669	四四
[illegible]	11670	四四
[illegible]	11671	四四
[illegible]	11672	四四
[illegible]	11673	四四

⿰鬲戈 11674 四四
⿰飠戈 11675 四四
⿹戈⿱雨电 11676 四四
⿰冓戈 11677 四四

十三畫

⿰⿱每糸戈 11678 四四
⿰木⿹咸灬 11679 四四
⿰僉戈 11680 四四
⿰壴戈 11681 四四
⿰丵戈 11682 四八
⿰⿱大魚戈 11683 四八

十四畫

戳 11684 四八
戴 11685 四八

十五畫

戲 11686 五五
⿰⿱廿豆戈 11687 五五
⿰⿱坴灬戈 11688 五五
⿹𢦏⿱甶共 11690 五五

十六畫

⿹𢦏⿱田異 11691 五五
鹹 11692 五五

十七畫

⿰⿱爫金戈 11693 五五
⿹𢦏⿱雨異 11694 五五

十八畫

⿰瞿戈 11695 五五

戶部

戶 11696 五五

一畫

戹 11697 五九
戸 11698 六〇

二畫

⿸戶十 11699 六〇
⿸戶匕 11700 六〇
⿸戶二 11701 六〇
⿸戶人 11702 六〇

三畫

戺 11703 六〇
⿸戶巳 11704 六〇
⿸戶乇 11705 六〇
⿸戶土 11706 六〇
戻 11707 六〇
戼 11708 六〇
⿸戶千 11709 六〇

四畫

⿸戶木 11710 六〇
⿸戶丑 11711 六一
戾 11712 六一
⿸戶反 11713 六一
房 11714 六三
所 11715 六七
⿰戶⺋ 11716 七〇
⿸戶叐 11717 七〇
⿸戶巴 11718 七〇
⿸戶公 11719 七〇
⿸戶乍 11720 七〇

五畫

⿸戶民 11721 七〇
⿸戶立 11722 七〇
⿸戶且 11723 七〇
扁 11724 七〇
⿸戶生 11725 七二
⿸戶古 11726 七二
⿸戶电 11727 七二
扃 11728 七二
⿸戶由 11729 七二
⿸戶卯 11730 七三
⿸戶幵 11731 七三
⿸戶句 11732 七三
⿸戶夙 11733 七三
⿸戶矢 11734 七三
⿸戶寺 11735 七三
⿸戶丙 11736 七三

六畫

⿸戶同 11737 七三
⿸戶否 11738 七三
⿸戶艮 11739 七三
⿸戶耳 11740 七三
扅 11741 七三
扆 11742 七三
扇 11743 七四
扇 11743′ 七六
⿸戶至 11744 七六
⿸戶吉 11745 七六

七畫

扈 11746 七六
扂 11747 七七
⿸戶盆 11748 七七
⿸戶巠 11749 七七

八畫

扉 11750 七七
扊 11751 七七
⿸戶夏 11752 七八
⿸戶肥 11753 七八
⿸戶昏 11754 七八

九畫

⿸戶畐 11755 七八
⿰⿱吅目戶 11756 七八
⿸戶肰 11757 七八

十畫

⿸戶盍 11758 七八
⿸戶咠 11759 七八
⿸戶嗣 11760 七八

十一畫

⿸戶品 11761 七八
⿸戶祭 11762 七八

十二畫

媥 11763 七八

十三畫

⿸戶襄 11764 七八

十四畫

⿸戶辟 11765 七八
⿸戶賓 11766 七八

十七畫

⿸戶魏 11767 七八

手部

手 11768 七八
才 11769 八七
扌 11770 九一

一畫

扎 11771 九一
⿱丿无 11772 九一
⿰手乚 11773 九一

二畫

⿰扌丩 11774 九一
⿰扌丂 11775 九一
执 11776 九一
⿰扌凵 11777 九一
扐 11778 九一
扑 11779 九二
扒 11780 九二
打 11781 九二
扔 11782 一〇一
⿰扌几 11783 一〇一
払 11784 一〇一
⿰手刂 11785 一〇一
扠 11786 一〇一
⿰扌刀 11787 一〇一
扖 11788 一〇一

三畫

⿰扌寸 11789 一〇一
⿰扌巾 11790 一〇一
⿰扌弋 11791 一〇一
扗 11792 一〇一
托 11793 一〇一
扪 11794 一〇二
扙 11795 一〇三
扚 11797 一〇三
扛 11798 一〇三
扞 11799 一〇三
扜 11800 一〇三
扝 11801 一〇三
⿰扌廾 11802 一〇三
扟 11803 一〇四
扱 11804 一〇四
扡 11805 一〇四
扢 11806 一〇五
扣 11807 一〇五
扤 11808 一〇六
⿰扌弓 11809 一〇六
抓 11810 一〇六
⿰扌才 11811 一〇六
扥 11812 一〇六
⿰扌孑 11813 一〇六
扦 11814 一〇六
扶 11815 一〇六
扨 11816 一〇六

扞	11817	一〇六
払	11818	一〇六
扥	11819	一〇六
托	11820	一〇六
扔	11821	一〇六
𡕒	11822	一〇六
执	11823	一〇六
扱	11824	一〇六
四畫		
扨	11825	一〇七
扭	11826	一〇七
捽	11827	一〇七
扢	11828	一〇七
扮	11829	一〇七
扮	11830	一〇七
扝	11831	一〇七
抪	11832	一〇七
扯	11833	一〇八
扰	11834	一〇八
扱	11835	一〇八
扲	11836	一〇八
扳	11837	一〇八
扴	11838	一〇九
扵	11839	一〇九
扶	11840	一〇九
扶	11841	一一四
扷	11842	一一四
𢪃	11843	一一四
㧗	11844	一一四
批	11845	一一四
扺	11846	一一六
扻	11847	一一七
扼	11848	一一七
捐	11849	一一七
扽	11850	一一七
找	11851	一一七
承	11852	一一八
汞	11853	一二五
扨	11854	一二五
技	11855	一二五
技	11856	一二六
拝	11857	一二六
抗	11858	一二六
抂	11859	一二六
抃	11860	一二六
托	11861	一二六
抋	11862	一二六
抄	11863	一二七
抄	11864	一二八
抅	11865	一二八
㧍	11866	一二八
抛	11867	一二八
扙	11868	一二八
攱	11869	一二八
扫	11870	一二八
扫	11871	一二八
抈	11872	一二八
抉	11873	一二八
把	11874	一二九
抝	11875	一三〇
抌	11876	一三〇
𢪛	11877	一三一
抚	11878	一三一
拼	11879	一三一
抎	11880	一三一
抏	11881	一三一
抐	11882	一三一
抑	11883	一三一
抒	11884	一三三
抓	11885	一三四
抔	11886	一三四
投	11887	一三四
抖	11888	一四〇
抗	11889	一四〇
折	11890	一四二
拜	11891	一五〇
拝	11892	一五〇
拏	11893	一五〇
𢪈	11894	一五〇
抧	11895	一五〇
扑	11896	一五〇
抚	11897	一五〇
扼	11898	一五〇
抍	11899	一五〇
扬	11900	一五〇
五畫		
抛	11901	一五〇
拔	11901′	一五〇
抝	11902	一五〇
択	11902′	一五〇
抦	11903	一五〇
抧	11904	一五〇
抨	11905	一五〇
抩	11906	一五〇
捉	11907	一五〇
抪	11908	一五一
披	11909	一五一
抬	11910	一五三
抗	11911	一五三
抗	11912	一五四
抮	11913	一五四
抯	11914	一五四
抰	11915	一五四
抓	11916	一五四
抱	11917	一五四
抱	11917′	一五八
抲	11918	一五八
抳	11919	一五八
抴	11920	一五八
抵	11921	一五八
抶	11922	一六〇
抷	11923	一六〇
抸	11924	一六〇
拐	11925	一六〇
抹	11926	一六〇
抺	11927	一六一
抻	11928	一六一
押	11929	一六一
抽	11930	一六三
抾	11931	一六五
抿	11932	一六六
𢪀	11933	一六六
𢪋	11934	一六六
𢪜	11935	一六六
拂	11936	一六六
𢫕	11937	一六八
拃	11938	一六八
𢪆	11939	一六八
拄	11940	一六八
担	11941	一六九
𢪧	11942	一六九
拆	11943	一六九
拇	11944	一七〇
拈	11945	一七〇
拉	11946	一七〇
拊	11947	一七三
拋	11948	一七三
批	11949	一七四
掌	11950	一七四
拌	11951	一七四
拍	11952	一七五
拎	11953	一七六
挐	11954	一七六
拐	11955	一七六
拑	11956	一七七
拒	11957	一七七
拓	11958	一七八
拔	11959	一八一
拕	11960	一八五
拖	11961	一八五
拗	11962	一八六
拘	11963	一八七
抋	11964	一八九
拙	11965	一八九
拚	11966	一九一
拼	11967	一九一
招	11968	一九一
拜	11969	一九六
拝	11969′	二〇一
拏	11970	二〇一
拺	11971	二〇一
扷	11972	二〇一
拳	11973	二〇一
𢫃	11974	二〇一
𢪏	11975	二〇一
𢪒	11976	二〇一
享	11977	二〇一
奉	11978	二〇一
拯	11979	二〇一
拯	11980	二〇一

𢪛	11981	二〇一
拞	11982	二〇一
𢪃	11983	二〇一
拟	11984	二〇一
抛	11985	二〇一
拡	11985′	二〇二
六畫		
拪	11986	二〇二
拫	11987	二〇二
括	11988	二〇二
拭	11989	二〇三
拮	11990	二〇三
拯	11991	二〇三
拰	11992	二〇四
𢪽	11993	二〇四
拱	11994	二〇四
拲	11995	二〇五
拳	11996	二〇五
拘	11997	二〇七
𢫬	11998	二〇七
挀	11999	二〇七
拴	12000	二〇七
拵	12001	二〇七
𢪀	12002	二〇七
㧢	12003	二〇七
抮	12004	二〇七
𢪱	12005	二〇七
拷	12006	二〇八
𢫦	12007	二〇八
拸	12008	二〇八
拹	12009	二〇八
捒	12010	二〇八
拻	12011	二〇八
拼	12012	二〇八
拽	12013	二〇八
拾	12014	二〇九
拿	12015	二一〇
𢪮	12016	二一一
掔	12017	二一一
㧖	12018	二一一
持	12019	二一一
挂	12020	二一四
𢪏	12021	二一六
𢪥	12022	二一六
採	12023	二一六
𢫨	12024	二一六
挃	12025	二一六
𢫕	12026	二一六
𢪲	12027	二一六
𢫚	12028	二一六
挄	12029	二一六
探	12030	二一六
採	12031	二一六
𢭓	12032	二一六
𢫐	12033	二一六
指	12034	二一六
挈	12035	二二一
𢫛	12036	二二三
𢫓	12037	二二三
按	12038	二二三
拏	12039	二二四
𢫯	12040	二二四
排	12041	二二五
𢫜	12042	二二五
𢪋	12043	二二五
𢪻	12044	二二五
拒	12045	二二五
𢪚	12046	二二五
挌	12047	二二五
𢪏	12048	二二五
𢫡	12049	二二五
挍	12050	二二五
挎	12051	二二五
挏	12052	二二五
𢫷	12053	二二六
挐	12054	二二六
挑	12055	二二六
挒	12056	二二八
拜	12057	二二八
𢬉	12058	二二八
𢫮	12059	二二八
挓	12060	二二八
𢫝	12061	二二八
投	12062	二二八
𢭃	12063	二二八
𢪶	12064	二二八
挔	12065	二二八
𢪫	12066	二二八
𢫃	12067	二二八
𢪼	12068	二二九
𢪹	12069	二二九
挖	12070	二二九
𢫈	12071	二二九
𢫰	12072	二二九
挗	12073	二二九
扛	12074	二二九
捀	12075	二二九
𢪒	12076	二二九
𢪑	12077	二二九
𢫧	12078	二二九
𢪟	12079	二二九
挦	12080	二二九
㧴	12081	二二九
挙	12081′	二二九
七畫		
挨	12082	二二九
挩	12083	二三〇
挪	12084	二三〇
𢬴	12085	二三一
𢭇	12086	二三一
挫	12087	二三一
𢫿	12088	二三一
挬	12089	二三三
挭	12090	二三三
𢭀	12091	二三三
𢫻	12092	二三三
振	12093	二三三
捏	12094	二三六
抄	12095	二三六
𢫆	12096	二三六
捘	12097	二三七
挳	12098	二三七
挴	12099	二三七
𢫫	12100	二三七
挵	12101	二三七
挶	12102	二三七
𢫯	12103	二三七
挸	12104	二三七
挹	12105	二三七
挺	12106	二三七
挻	12107	二三九
𢫲	12108	二三九
挼	12109	二三九
拗	12110	二三九
挽	12111	二三九
㧗	12112	二四〇
𢫽	12113	二四〇
𢭅	12114	二四〇
𢫵	12115	二四〇
𢬿	12116	二四〇
𢬌	12117	二四〇
挾	12118	二四一
𢭋	12119	二四三
𢮝	12120	二四三
掐	12121	二四三
𢬆	12122	二四三
捁	12123	二四三
捂	12124	二四三
捃	12125	二四三
𢬷	12126	二四三
捄	12127	二四三
𢬸	12128	二四四
㨆	12129	二四四
捅	12130	二四四
捆	12131	二四四
𢭆	12132	二四四
𢬝	12133	二四四
𢬵	12134	二四四
捈	12135	二四四
捉	12136	二四四
押	12137	二四五
𢬊	12138	二四五
捊	12139	二四五
捋	12140	二四五
捌	12141	二四六
𢭰	12142	二四六
捍	12143	二四六
𢭏	12144	二四六
㧡	12145	二四六
𢭊	12146	二四七

捽	12147	二四七
捎	12148	二四七
捏	12149	二四七
捐	12150	二四七
⿰扌豆	12151	二四九
捴	12152	二四九
⿰扌吳	12153	二四九
捒	12154	二四九
挪	12155	二四九
捔	12156	二五〇
捕	12157	二五〇
捖	12158	二五一
⿰扌⿱𠂉夭	12159	二五三
捗	12160	二五三
捘	12161	二五三
⿰扌秀	12162	二五三
⿰扌匈	12163	二五三
揾	12164	二五三
搉	12165	二五三
捙	12166	二五三
挳	12167	二五三
挈	12168	二五三
捡	12169	二五三
揣	12170	二五三
捚	12171	二五三
招	12172	二五三
挸	12173	二五三
⿰扌瓦	12174	二五三
⿰扌⿱人出	12175	二五三
⿰扌孝	12176	二五三
⿱丑手	12177	二五三
⿰扌⿱巛月	12178	二五三
⿰扌叜	12179	二五三
搜	12179′	二五三
八畫		
⿰扌㝵	12180	二五三
捥	12181	二五三
⿱穵手	12182	二五三
捦	12183	二五三
⿰扌於	12184	二五三
揩	12185	二五三
⿰扌豖	12186	二五三
⿰扌表	12187	二五三
⿰扌兹	12188	二五三
捧	12189	二五三
⿱⿰丰殳手	12190	二五四
捨	12191	二五四
捨	12191′	二五五
捩	12192	二五五
⿰扌⿸厂果	12193	二五五
⿰扌固	12194	二五五
捪	12195	二五五
⿰扌忽	12196	二五五
捫	12197	二五五
⿰扌㫃	12198	二五六
⿰扌畀	12199	二五六
捭	12200	二五六
⿰扌⿸尸早	12201	二五六
揥	12202	二五六
⿰扌㚇	12203	二五六
据	12204	二五六
捯	12205	二五七
捰	12206	二五七
⿰扌匡	12207	二五七
捲	12208	二五七
⿰扌秉	12209	二五八
括	12210	二五八
⿰扌⿱从心	12211	二五八
⿰扌⿱人心	12212	二五八
⿰扌𠂢	12213	二五八
⿰扌典	12214	二五八
捶	12215	二五八
捷	12216	二五九
⿰扌隶	12217	二六〇
⿰扌奔	12218	二六〇
⿰扌軋	12219	二六〇
⿰扌承	12220	二六〇
捺	12221	二六〇
捻	12222	二六一
捼	12223	二六一
⿰扌⿰凶力	12224	二六一
捽	12225	二六三
捾	12226	二六三
捿	12227	二六三
挎	12228	二六三
⿰扌虎	12229	二六三
掀	12230	二六三
⿰扌直	12231	二六三
揀	12232	二六三
⿰扌長	12233	二六三
⿰扌享	12234	二六三
⿰扌⿸𠂆古	12235	二六三
⿰扌幷	12236	二六三
掃	12237	二六三
掃	12237′	二六五
掄	12238	二六五
掅	12239	二六五
掆	12240	二六五
掇	12241	二六五
授	12242	二六六
掉	12243	二六八
掊	12244	二六九
掊	12245	二六九
⿰扌⿸厂氐	12246	二六九
⿰扌尚	12247	二六九
掌	12248	二六九
掍	12249	二七二
掎	12250	二七二
掏	12251	二七三
掾	12252	二七三
掐	12253	二七三
掑	12254	二七三
⿱𡗗手	12255	二七四
排	12256	二七四
掓	12257	二七七
⿰扌周	12258	二七七
掔	12259	二七七
掕	12260	二七七
⿰扌阜	12261	二七七
掖	12262	二七八
掗	12263	二七八
掘	12264	二七八
掙	12265	二七九
掚	12266	二八〇
掛	12267	二八〇
掜	12268	二八二
掝	12269	二八二
掞	12270	二八二
⿰扌⿱艹丙	12271	二八二
掟	12272	二八二
掠	12273	二八二
採	12274	二八三
⿰扌林	12275	二八五
探	12276	二八五
掣	12277	二八八
⿰扌制	12278	二八九
掤	12279	二八九
接	12280	二八九
揚	12281	二九三
⿰扌易	12282	二九三
控	12283	二九三
推	12284	二九四
掩	12285	二九九
措	12286	三〇一
掫	12287	三〇二
⿱⿰臣殳手	12288	三〇二
⿰扌桼	12289	三〇二
掬	12290	三〇二
⿰扌囷	12291	三〇三
⿱波手	12292	三〇三
⿱𣪠手	12293	三〇三
⿰扌务	12294	三〇三
⿰扌昊	12295	三〇三
⿰扌叀	12296	三〇三
⿰扌系	12297	三〇三
⿱享手	12298	三〇三
⿱⿰丰聿手	12299	三〇三
⿰扌⿱人羊	12300	三〇三
⿰扌⿱日圭	12301	三〇三
⿱㕘手	12302	三〇三
⿰扌色	12303	三〇三
挨	12304	三〇三
⿰扌坴	12305	三〇三
⿰扌胃	12306	三〇三
掭	12307	三〇三
⿰扌眉	12308	三〇三
⿰扌⿱艹月	12309	三〇三
⿰扌⿰开开	12310	三〇四
⿱秊手	12311	三〇四
揭	12311′	三〇四

九畫

挫	12312	三〇四
掾	12313	三〇四
掿	12314	三〇四
揀	12315	三〇四
揁	12316	三〇五
捪	12317	三〇五
揂	12318	三〇五
揃	12319	三〇五
揄	12320	三〇五
⿰扌則	12321	三〇六
揥	12322	三〇六
⿰扌段	12323	三〇六
揅	12324	三〇六
捜	12325	三〇六
揆	12326	三〇六
揇	12327	三〇六
⿰扌肴	12328	三〇七
揈	12329	三〇七
⿰扌者	12330	三〇七
⿰扌希	12331	三〇七
揉	12332	三〇七
⿰扌胃	12333	三〇七
揊	12334	三〇七
揋	12335	三〇七
揌	12336	三〇七
揍	12337	三〇八
揎	12338	三〇八
描	12339	三〇八
⿰⿳士冖手殳	12340	三〇八
⿱⿰丰刃手	12341	三〇八
⿰扌⿸虍巾	12342	三〇八
⿰扌律	12343	三〇八
提	12344	三〇八
揑	12345	三一三
插	12346	三一四
揷	12346′	三一五
⿰扌函	12347	三一五
揓	12348	三一五
揔	12349	三一五
揕	12350	三一五
揖	12351	三一六
揗	12352	三一六
揘	12353	三一六
揙	12354	三一六
揚	12355	三一七
⿰扌夾	12356	三二一
⿰扌夋	12357	三二一
換	12358	三二一
揜	12359	三二三
揝	12360	三二三
揞	12361	三二四
揟	12362	三二四
揠	12363	三二四
掔	12364	三二四
搜	12365	三二四
握	12366	三二四
揢	12367	三二六
⿰扌交	12368	三二六
⿰扌欥	12369	三二六
⿰扌炭	12370	三二六
揣	12371	三二六
⿰扌扁	12372	三二七
⿰扌卿	12373	三二七
⿰扌保	12374	三二七
⿰扌室	12375	三二七
⿰扌韋	12376	三二七
⿰扌⿱𢆶夊	12377	三二七
⿰扌垐	12378	三二七
⿰扌帝	12379	三二七
揦	12380	三二八
掣	12381	三二八
揨	12382	三二八
揩	12383	三二八
揪	12384	三二八
揫	12385	三二八
⿱⿰夂禾手	12386	三二八
⿰扌⿱癶殳	12387	三二八
⿰扌⿱穴夭	12388	三二八
揭	12389	三二九
⿰扌草	12390	三三〇
⿰扌禹	12391	三三〇
捽	12392	三三〇
⿰扌尭	12393	三三〇
揮	12394	三三〇
⿰扌柬	12395	三三三
⿰扌匧	12396	三三三
⿰扌衍	12397	三三三
⿰扌苴	12398	三三三
揖	12399	三三三
揰	12400	三三三
⿰扌⿱艹也	12401	三三三
⿱⿻𦥑丨手	12402	三三三
揲	12403	三三三
揳	12404	三三三
揻	12405	三三三
⿰扌恭	12406	三三三
援	12407	三三三
揾	12408	三三四
揵	12409	三三四
捿	12410	三三五
⿰扌敫	12411	三三五
⿰扌尌	12412	三三五
⿰扌彔	12413	三三五
揬	12414	三三五
⿰扌𤼽	12415	三三五
⿰扌𡗗	12416	三三五
⿰扌⿰⿱十冂⿱十冂	12417	三三五
⿰扌侯	12418	三三五
⿰扌启	12419	三三五
⿰扌⿱𡉉兀	12420	三三五
⿰扌⿱罒寸	12421	三三五
⿰扌面	12422	三三五
⿰扌⿱罒心	12423	三三五
掠	12424	三三五
⿰扌⿰井井	12325	三三五
捊	12426	三三五
⿰扌㝵	12427	三三五
⿰扌從	12428	三三五
⿰扌脊	12429	三三五
⿰扌邦	12430	三三五
⿰扌咼	12431	三三六
⿰扌合	12432	三三六
⿰扌郎	12433	三三六
⿰扌弁	12434	三三六
⿰扌鬼	12435	三三六
⿰扌衮	12436	三三六
揶	12437	三三六
⿰扌幸	12438	三三六
搭	12439	三三六
⿰扌苜	12440	三三六
⿰扌表	12441	三三六
⿰扌科	12442	三三六
揸	12443	三三六
揱	12444	三三六
捷	12445	三三六
揺	12445′	三三六

十畫

⿰扌奚	12446	三三六
搆	12447	三三六
⿰扌衾	12448	三三七
搈	12449	三三七
⿰扌蚩	12450	三三七
搉	12451	三三七
⿰扌苟	12452	三三七
搊	12453	三三七
撊	12454	三三七
揀	12455	三三七
⿰扌虔	12456	三三八
搋	12457	三三八
搌	12458	三三八
損	12459	三三八
⿰扌負	12460	三三九
⿰扌屑	12461	三三九
搸	12462	三三九
⿰扌泰	12463	三四〇
搎	12464	三四〇
⿰扌豈	12465	三四〇
搏	12466	三四〇
搷	12467	三四一
⿰扌脊	12468	三四一
⿰扌送	12469	三四一
⿰扌叜	12470	三四二
搠	12471	三四二
搖	12472	三四二
搑	12473	三四二
搒	12474	三四二
⿰扌國	12475	三四二
搓	12476	三四二
搔	12477	三四二

搕	12478	三四三
搖	12479	三四三
搗	12480	三四五
搘	12481	三四五
搙	12482	三四六
搚	12483	三四六
搛	12484	三四六
[illegible]	12485	三四六
搜	12486	三四六
[illegible]	12487	三四七
搝	12488	三四七
搞	12489	三四七
搟	12490	三四七
搠	12491	三四八
[illegible]	12492	三四八
搡	12493	三四八
搢	12494	三四八
搣	12495	三四八
揋	12496	三四八
搤	12497	三四八
搥	12498	三四九
搞	12499	三四九
搦	12500	三四九
[illegible]	12501	三四九
搧	12502	三四九
搨	12503	三四九
搩	12504	三五〇
搪	12505	三五〇
搫	12506	三五〇
搬	12507	三五〇
搭	12508	三五〇
搮	12509	三五一
搯	12510	三五一
搰	12511	三五一
[illegible]	12512	三五二
[illegible]	12513	三五二
[illegible]	12514	三五二
[illegible]	12515	三五二
搲	12516	三五二
搳	12517	三五二
[illegible]	12518	三五二
搴	12519	三五二
搵	12520	三五三
搖	12521	三五三
掔	12522	三五三
[illegible]	12523	三五三
[illegible]	12524	三五三
搶	12525	三五三
搷	12526	三五四
搸	12527	三五四
搹	12528	三五四
携	12529	三五四
換	12530	三五四
揎	12531	三五四
[illegible]	12532	三五四
搊	12533	三五四
[illegible]	12534	三五四
[illegible]	12535	三五四
[illegible]	12536	三五四
[illegible]	12537	三五四
搃	12538	三五四
捜	12539	三五四
[illegible]	12540	三五四
[illegible]	12541	三五四
[illegible]	12542	三五四
搋	12543	三五五
搼	12544	三五五
搜	12545	三五五
[illegible]	12546	三五五
揔	12547	三五五
[illegible]	12548	三五五
[illegible]	12549	三五五
[illegible]	12550	三五五
[illegible]	12551	三五五
搽	12552	三五五
搾	12553	三五五
[illegible]	12554	三五五
搗	12555	三五五
揌	12556	三五五
[illegible]	12557	三五五
[illegible]	12557′	三五五

十一畫

摋	12558	三五五
撇	12559	三五五
[illegible]	12560	三五五
摌	12561	三五五
摍	12562	三五六
[illegible]	12563	三五六
摎	12564	三五六
摏	12565	三五六
摐	12566	三五六
[illegible]	12567	三五六
[illegible]	12568	三五六
[illegible]	12569	三五六
[illegible]	12570	三五七
[illegible]	12571	三五七
摑	12572	三五七
[illegible]	12573	三五七
[illegible]	12574	三五七
摒	12575	三五七
摓	12576	三五七
摔	12577	三五七
摕	12578	三五七
摖	12579	三五七
摗	12580	三五七
[illegible]	12581	三五七
摘	12582	三五八
[illegible]	12583	三五九
摙	12584	三五九
揲	12585	三五九
摚	12586	三五九
摛	12587	三五九
[illegible]	12588	三五九
撘	12589	三五九
[illegible]	12590	三五九
摜	12591	三五九
[illegible]	12592	三六〇
摝	12593	三六〇
摞	12594	三六〇
摟	12595	三六〇
摠	12596	三六〇
摡	12597	三六〇
[illegible]	12598	三六〇
[illegible]	12599	三六〇
摢	12600	三六〇
摣	12601	三六〇
[illegible]	12602	三六一
摤	12603	三六一
[illegible]	12604	三六一
[illegible]	12605	三六一
[illegible]	12606	三六一
摥	12607	三六一
摦	12608	三六一
摧	12609	三六一
[illegible]	12610	三六三
[illegible]	12611	三六三
摩	12613	三六三
摩	12613′	三六七
[illegible]	12614	三六七
摪	12615	三六七
[illegible]	12616	三六七
搈	12617	三六七
[illegible]	12618	三六七
[illegible]	12619	三六七
[illegible]	12620	三六七
[illegible]	12621	三六七
摫	12622	三六八
摬	12623	三六八
摭	12624	三六八
[illegible]	12625	三六八
摮	12626	三六八
[illegible]	12627	三六八
[illegible]	12628	三六八
[illegible]	12629	三六八
[illegible]	12630	三六八
[illegible]	12631	三六八
摯	12632	三六八
摰	12633	三六九
[illegible]	12634	三六九
摱	12635	三六九
[illegible]	12636	三六九
摲	12637	三六九
摳	12638	三七〇
摴	12639	三七〇
摵	12640	三七〇
[illegible]	12641	三七〇
摶	12642	三七〇
摷	12643	三七一
摸	12644	三七一
摹	12645	三七二

⿰扌羕	12646	三七三
摺	12647	三七三
⿱毄手	12648	三七四
摻	12649	三七四
摼	12650	三七四
摽	12651	三七四
⿰扌⿱罒卷	12652	三七五
摾	12653	三七五
掩	12654	三七五
⿰扌副	12655	三七五
捧	12656	三七五
⿰扌㑹	12657	三七五
⿰扌紬	12658	三七五
⿰扌剬	12659	三七六
⿰扌⿱目长	12660	三七六
⿰扌臧	12661	三七六
揆	12662	三七六
⿱殸手	12663	三七六
⿰扌脊	12664	三七六
⿰扌⿸厂面	12665	三七六
⿰扌⿱罒木	12666	三七六
⿰扌⿺辶豈	12667	三七六
⿰扌⿱亠兟	12668	三七六
⿰扌臬	12669	三七六
⿰扌⿱叀殳	12670	三七六
⿰扌動	12671	三七六
⿰扌⿱大幸	12672	三七六
⿰扌⿱罒各	12673	三七六
⿰扌虒	12674	三七六
擊	12674′	三七六
十二畫		
⿰扌屖	12675	三七六
撅	12676	三七六
撆	12677	三七六
撇	12678	三七六
撈	12679	三七七
摮	12680	三七七
⿰扌戠	12681	三七七
撊	12682	三七七
撋	12683	三七八
⿰扌⿱罒幸	12684	三七八
撌	12685	三七八
⿰扌賁	12686	三七八
撍	12687	三七八
⿰扌曾	12688	三七八
⿰扌寒	12689	三七八
⿰扌壴	12690	三七八
撏	12691	三七八
⿰扌喿	12692	三七八
撐	12693	三七八
撑	12694	三七九
攄	12695	三七九
⿰扌惠	12696	三七九
撒	12697	三七九
撓	12698	三八一
⿰扌畱	12699	三八二
撔	12700	三八二
搷	12701	三八二
⿰扌⿹戉北	12702	三八二
⿰扌畫	12703	三八二
⿰扌着	12704	三八二
撕	12705	三八二
⿰扌貳	12706	三八二
⿰扌普	12707	三八二
⿰扌⿱⺮旱	12708	三八二
撖	12709	三八二
撗	12710	三八二
撘	12711	三八二
撙	12712	三八三
撚	12713	三八三
撛	12714	三八三
撜	12715	三八四
撝	12716	三八四
撞	12717	三八四
⿰扌欮	12718	三八五
撟	12719	三八五
⿰扌戩	12720	三八六
擸	12721	三八六
⿰扌斑	12722	三八六
⿰扌桼	12723	三八六
撢	12724	三八六
撣	12725	三八六
撤	12726	三八七
撥	12727	三八七
⿰扌⿱龹曰	12728	三九〇
⿰扌⿰丬毛	12729	三九〇
⿱絲手	12730	三九〇
⿰扌翕	12731	三九〇
⿰扌㝷	12732	三九〇
⿰扌虘	12733	三九〇
⿰扌善	12734	三九〇
⿰扌幾	12735	三九〇
撨	12736	三九〇
⿰扌⿱祭小	12737	三九〇
⿰扌肅	12738	三九〇
⿰扌絜	12739	三九一
⿰扌費	12740	三九一
撩	12741	三九一
⿰扌⿱夂𠦝	12742	三九一
撫	12743	三九一
⿰扌⿱业木	12744	三九四
⿱⿰氵㕦手	12745	三九四
⿰扌毳	12746	三九四
播	12747	三九四
撮	12748	三九六
⿰扌焱	12749	三九七
⿰扌⿰柬犬	12750	三九七
⿰扌褱	12751	三九七
⿰扌⿱𦍌自	12752	三九七
撰	12753	三九七
⿰扌⿰丬肖	12754	三九八
撲	12755	三九八
⿱學手	12756	三九九
⿱學手	12757	三九九
⿰扌⿱𢀖壬	12758	三九九
擘	12759	三九九
⿰扌⿰林戊	12760	三九九
搜	12761	三九九
⿰丰堯	12762	三九九
⿰扌虒	12763	三九九
⿰扌朝	12764	三九九
⿰扌茍	12765	三九九
⿰扌⿸广朋	12766	三九九
⿰扌旋	12767	三九九
⿰扌⿱罒心	12768	三九九
⿰扌⿱谷臼	12769	三九九
揃	12770	三九九
撳	12771	三九九
撴	12772	三九九
十三畫		
⿰扌毀	12773	四〇〇
撻	12774	四〇〇
撼	12775	四〇〇
撽	12776	四〇一
⿱毀手	12777	四〇一
撾	12778	四〇一
撿	12779	四〇一
⿰扌⿰辛斗	12780	四〇二
擁	12781	四〇二
⿱奞手	12782	四〇四
擂	12783	四〇四
㩒	12784	四〇四
⿰扌⿱罒非	12785	四〇四
擃	12786	四〇四
擄	12787	四〇四
⿰扌⿱覀𠦝	12788	四〇四
⿰扌⿺辶重	12789	四〇四
擅	12790	四〇五
⿰扌頻	12791	四〇六
⿰扌⿰冉頁	12792	四〇六
⿱毄手	12793	四〇六
⿰扌⿰臽殳	12794	四〇六
⿰扌著	12795	四〇六
擇	12796	四〇六
擛	12797	四〇八
⿰扌⿱巠皿	12798	四〇八
擉	12799	四〇八
擊	12800	四〇八
⿰扌⿸厂㱿	12801	四一一
擋	12802	四一一
⿰扌⿱大炎	12803	四一一
⿰扌⿸厂欶	12804	四一一
⿰扌⿱𦬙凡	12805	四一一
操	12806	四一三
擖	12807	四一四
擎	12808	四一四
⿰扌⿰鬲攵	12809	四一四
⿰扌⿱龹黽	12810	四一四
⿰扌⿱龹能	12811	四一四
⿰扌𢧵	12812	四一四

擐	12813	四一四
摻	12814	四一五
擑	12815	四一五
擒	12816	四一五
㩓	12817	四一五
擩	12818	四一五
攨	12819	四一五
㩡	12820	四一五
攄	12821	四一五
擐	12822	四一五
擓	12823	四一五
擨	12824	四一五
擓	12825	四一五
擅	12826	四一五
擇	12827	四一五
擔	12828	四一五
擄	12829	四一七
擕	12830	四一七
擕	12831	四一七
撫	12832	四一七
擖	12833	四一七
擗	12834	四一七
擘	12835	四一七
擨	12836	四一八
㩘	12837	四一八
擙	12838	四一八
據	12839	四一八
擊	12840	四一九
擛	12841	四一九
㩌	12842	四一九
擹	12843	四一九
撻	12844	四一九
㩍	12845	四一九
擡	12845′	四一九

十四畫

摷	12846	四一九
擟	12847	四一九
擠	12848	四一九
㩞	12849	四二〇
㩎	12850	四二〇
擡	12851	四二〇
擢	12852	四二一
擣	12853	四二一
擝	12854	四二二
𢺊	12855	四二二
擇	12856	四二二
擤	12857	四二二
摶	12858	四二二
擊	12859	四二二
擥	12860	四二二
擈	12861	四二二
擦	12862	四二三
擧	12863	四二三
擹	12864	四二七
擜	12865	四二七
擩	12866	四二八
擪	12867	四二八
擫	12868	四二八
𢹊	12869	四二八
擬	12870	四二八
擖	12871	四三〇
𢹅	12872	四三〇
㩭	12873	四三〇
擶	12874	四三〇
㩌	12875	四三〇
擭	12876	四三〇
㩮	12877	四三〇
㩜	12878	四三〇
擮	12879	四三〇
擯	12880	四三〇
㩅	12881	四三一
㩂	12882	四三一
擰	12883	四三一
𢹗	12884	四三一
㩗	12885	四三一
㩟	12886	四三一
㩌	12887	四三一
㩟	12888	四三一
擲	12889	四三一
㩐	12890	四三一
㩴	12891	四三一
擱	12892	四三一

十五畫

擲	12893	四三二
擳	12894	四三三
擴	12895	四三三
㩉	12896	四三三
擵	12897	四三三
㩫	12898	四三三
㩊	12899	四三三
擷	12900	四三三
𢹓	12901	四三三
擸	12902	四三三
𢸘	12903	四三四
㩔	12904	四三四
㩤	12905	四三四
㩨	12906	四三四
㩪	12907	四三四
㩣	12908	四三四
𢺞	12909	四三四
擺	12910	四三四
𢺕	12911	四三五
擻	12912	四三五
擼	12913	四三五
𢺍	12914	四三五
㩐	12915	四三五
𢺊	12916	四三五
𢺗	12917	四三五
𢹫	12918	四三五
擽	12919	四三五
擾	12920	四三五
㩞	12921	四三六
擿	12922	四三六
㩵	12923	四三七
攜	12924	四三七
攀	12926	四三七
𢺐	12927	四三八
攁	12928	四三八
攂	12929	四三八
㩧	12930	四三八
攃	12931	四三九
攄	12932	四三九
攅	12933	四三九
㩴	12934	四三九
㩃	12935	四三九
㩯	12936	四三九
𢹜	12937	四三九
㩬	12938	四三九
𢺋	12939	四三九
㩥	12940	四三九
𢺃	12941	四三九
㩟	12942	四三九
𢺓	12943	四三九
攆	12944	四三九

十六畫

攕	12945	四三九
攇	12946	四三九
攘	12947	四三九
𢺐	12948	四三九
𢺕	12949	四四〇
𢺛	12950	四四〇
攉	12951	四四〇
𢺅	12952	四四〇
擧	12953	四四〇
攀	12954	四四〇
𢺊	12955	四四〇
㩮	12956	四四〇
攊	12957	四四〇
攈	12958	四四〇
㩳	12959	四四〇
撫	12960	四四〇
攋	12961	四四〇
攌	12962	四四〇
攍	12963	四四〇
㩡	12964	四四〇
攎	12965	四四一
𢺕	12966	四四一
攏	12967	四四一
攘	12968	四四一
𢺙	12969	四四一
𢺑	12970	四四一
𢺒	12971	四四一
㩸	12972	四四一
㩺	12973	四四一
𢺌	12974	四四一
㩻	12975	四四一
㩹	12975′	四四一

十七畫

攙	12976	四四一
攔	12977	四四一

⿰扌戲	12978	四四二
攕	12979	四四二
⿱𦥯手	12980	四四二
⿰扌⿱𦥯手	12981	四四二
⿰扌⿱敫糸	12982	四四二
⿰扌檗	12983	四四二
⿰扌⿱登皿	12984	四四二
⿰扌燮	12985	四四二
攖	12986	四四三
攗	12987	四四三
⿰扌齋	12988	四四三
攘	12989	四四三
⿰扌糞	12990	四四四
攙	12991	四四四
⿰扌蕐	12992	四四五
⿰扌馘	12993	四四五
⿰扌邀	12994	四四五
⿰扌擎	12995	四四五
⿰扌谿	12996	四四五
⿰扌⿱髟夋	12997	四四五
⿰扌⿱艹喿	12998	四四五
十八畫		
⿰扌雛	12999	四四五
擘	13000	四四五
⿰扌爵	13001	四四五
⿰扌壘	13002	四四五
⿰扌雚	13003	四四五
⿰扌竄	13004	四四五
⿰扌⿱𦥑婁	13005	四四六
⿰扌⿱吅臬	13006	四四六
⿰扌瞿	13007	四四六
攜	13008	四四六
⿰扌⿱𦥑奐	13009	四四六
攝	13010	四四七
⿰扌蕭	13011	四四九
⿰扌⿸广⿱林音	13012	四四九
⿰扌盬	13013	四四九
⿰扌㡭	13014	四四九
⿰扌薩	13015	四四九
⿰扌羸	13016	四四九
⿰扌蕪	13017	四四九
擾	13018	四四九
十九畫		
⿰扌遽	13019	四四九
⿰扌⿲木爾木	13020	四四九
⿰扌關	13021	四四九
攞	13022	四五〇
⿰扌廬	13023	四五〇
攠	13024	四五〇
⿱靡手	13025	四五〇
攤	13026	四五〇
⿰扌⿱癶敫	13027	四五〇
⿰扌嬴	13028	四五〇
⿰扌藥	13029	四五〇
攢	13030	四五〇
⿰扌縣	13031	四五一
攣	13032	四五一
⿰扌⿱艹難	13033	四五二
⿱鞏手	13034	四五二
⿰扌薑	13035	四五二
攦	13036	四五二
⿰扌薾	13037	四五二
二十畫		
⿰扌纂	13038	四五三
⿰扌藤	13039	四五三
攩	13040	四五三
攪	13041	四五三
⿰扌獻	13042	四五三
攫	13043	四五三
⿰扌⿱艹彌	13044	四五四
⿰扌蘘	13045	四五四
二十一畫		
攬	13046	四五四
⿰扌霸	13047	四五五
⿰扌⿸尸辡	13048	四五五
⿰扌廱	13049	四五五
⿰扌屬	13050	四五五
⿰扌纍	13051	四五五
⿰扌蠡	13052	四五五
⿰扌薌	13053	四五五
二十二畫		
⿰扌⿱䙴土	13054	四五五
攮	13055	四五五
⿰扌⿱麗疋	13056	四五五
二十四畫		
⿰扌靈	13057	四五五
⿰扌⿱䜌灬	13058	四五五
二十五畫		
⿰扌蠻	13059	四五五
二十九畫		
⿰扌鬱	13060	四五五
支部		
支	13061	四五五
二畫		
⿰卜支	13062	四六一
三畫		
⿱宀支	13063	四六一
四畫		
歧	13064	四六一
⿰礻支	13065	四六一
⿰斤支	13066	四六一
五畫		
⿰玄支	13067	四六一
⿰石支	13068	四六二
⿰世支	13069	四六二
⿰𠂤支	13070	四六二
六畫		
⿱臼支	13071	四六二
⿰危支	13072	四六二
⿰朿支	13073	四六二
⿰亥支	13074	四六二
⿰灰支	13075	四六二
⿰各支	13076	四六二
⿰交支	13077	四六二
⿰曲支	13078	四六二
七畫		
⿰束支	13079	四六二
⿰吾支	13080	四六二
八畫		
起	13081	四六二
⿰豖支	13082	四六二
⿰臣支	13083	四六二
⿰⿱龷月支	13084	四六二
⿰垂支	13085	四六二
⿰奇支	13086	四六二
⿰幸支	13087	四六二
⿰果支	13088	四六二
⿰享支	13089	四六二
九畫		
鼓	13090	四六三
⿰彖支	13091	四六三
⿰虐支	13092	四六三
十畫		
⿰豙支	13093	四六三
⿰𡔷支	13094	四六三
十一畫		
⿱𦥯支	13095	四六三
十二畫		
⿱埶支	13096	四六三
⿰喜支	13097	四六三
⿰焱支	13098	四六三
⿺支尋	13099	四六三
十三畫		
⿰厥支	13100	四六三
⿰敫支	13101	四六三
⿰嘉支	13102	四六三
⿰⿱吅豕支	13103	四六三
⿰⿱吉豆支	13104	四六三
⿰⿱艹敝支	13105	四六四
⿰義支	13106	四六四
十六畫		
⿰嚴支	13107	四六四
攴部		
攴	13108	四六四
攵	13109	四六四
二畫		
收	13110	四六四
攷	13111	四七〇
三畫		
⿰屮攴	13112	四七〇
攸	13113	四七〇
改	13114	四七〇
攺	13115	四七五
⿰已攴	13116	四七五
⿰山攴	13117	四七五
⿰幺攴	13118	四七五
⿰女攴	13119	四七五
攻	13120	四七五

攷	13121	四七七
攼	13122	四七七
攻	13123	四七七
⿱攴子	13124	四七七
四畫		
⿰夫攴	13125	四七七
攽	13126	四七七
⿰屯攴	13127	四七七
⿰朩攴	13128	四七七
⿰令攴	13129	四七七
⿱今攴	13130	四七七
⿰氏攴	13131	四七七
⿰乡攴	13132	四七七
放	13133	四七七
⿰屮攴	13134	四八六
政	13135	四八六
攸	13136	四九〇
攺	13137	四九〇
⿰火攴	13138	四九〇
⿰玄攴	13139	四九〇
⿰云攴	13140	四九〇
⿰木攴	13141	四九〇
⿰交攴	13142	四九〇
⿰斤攴	13143	四九〇
⿺乞攴	13144	四九〇
⿰户攴	13145	四九〇
胡	13146	四九〇
⿰厄攴	13147	四九〇
⿰亥攴	13148	四九〇
五畫		
⿰叵攴	13149	四九〇
⿰叴攴	13150	四九〇
⿰台攴	13151	四九〇
⿰术攴	13152	四九〇
⿰未攴	13153	四九〇
⿰白攴	13154	四九〇
敁	13155	四九〇
⿰可攴	13156	四九〇
⿰𩙿攴	13157	四九一
⿱覀攴	13158	四九一
⿰民攴	13159	四九一
⿰矛攴	13160	四九一
故	13161	四九一
⿰岀攴	13162	四九八
⿰乍攴	13163	四九八
⿰氐攴	13164	四九八
⿰仑攴	13165	四九八
⿰戊攴	13166	四九八
⿰旦攴	13167	四九八
⿰𠂤攴	13168	四九八
⿰凶攴	13169	四九八
⿰生攴	13170	四九八
⿰示攴	13171	四九八
六畫		
⿰杀攴	13172	四九八
⿰合攴	13173	四九八
⿰朵攴	13174	四九八
敇	13175	四九八
⿰羊攴	13176	四九八
⿰戌攴	13177	四九八
⿰𤘌攴	13178	四九八
⿰圭攴	13179	四九八
⿰岂攴	13180	四九八
⿰忩攴	13181	四九八
⿰耒攴	13182	四九八
⿰杀攴	13183	四九八
⿰吉攴	13184	四九八
⿰舌攴	13185	四九八
效	13186	四九八
⿰狄攴	13187	五〇〇
⿰共攴	13188	五〇〇
⿰臣攴	13189	五〇〇
⿰危攴	13190	五〇〇
敉	13191	五〇〇
⿰赤攴	13192	五〇〇
⿰并攴	13193	五〇〇
⿰享攴	13194	五〇〇
⿰癶攴	13195	五〇〇
⿰众攴	13196	五〇〇
⿰朱攴	13197	五〇〇
⿰关攴	13198	五〇〇
⿰阝攴	13199	五〇〇
⿰亥攴	13200	五〇〇
⿰㞢攴	13201	五〇〇
⿰此攴	13202	五〇〇
敏	13202′	五〇〇
七畫		
⿰君攴	13203	五〇一
⿰旱攴	13204	五〇一
敍	13205	五〇一
敘	13206	五〇二
⿰甬攴	13207	五〇二
⿰甫攴	13208	五〇二
⿱孚攴	13209	五〇二
⿰癸攴	13210	五〇二
⿰孛攴	13211	五〇二
⿰孝攴	13212	五〇二
教	13213	五〇七
⿰肖攴	13214	五〇七
⿰谷攴	13215	五〇七
⿰曲攴	13216	五〇七
⿰每攴	13217	五〇七
啟	13218	五〇八
⿰夾攴	13219	五〇八
⿰𠮷攴	13220	五〇八
救	13221	五〇八
⿰侃攴	13222	五一一
⿰兌攴	13223	五一一
⿰吾攴	13224	五一一
敕	13225	五一一
⿰考攴	13226	五一三
敗	13227	五一五
⿰炏攴	13228	五一七
⿰芊攴	13229	五一七
娘	13230	五一七
⿰豈攴	13231	五一七
⿰歹攴	13232	五一七
⿰壴攴	13233	五一七
⿰光攴	13234	五一七
⿰区攴	13235	五一七
⿰叔攴	13236	五一八
⿰宗攴	13237	五一八
⿰是攴	13238	五一八
⿰𡭽攴	13239	五一八
⿰屏攴	13239′	五一八
八畫		
⿰豖攴	13240	五一八
⿰車攴	13241	五一八
⿰单攴	13242	五一八
⿰戾攴	13243	五一八
⿰念攴	13244	五一八
⿰休攴	13245	五一八
⿰尚攴	13246	五二〇
⿰典攴	13247	五二〇
⿰佳攴	13249	五二〇
⿰幸攴	13250	五二〇
⿰叕攴	13251	五二一
⿰杈攴	13252	五二一
⿰奄攴	13253	五二一
⿰豈攴	13254	五二一
⿰岩攴	13255	五二一
⿰冒攴	13256	五二一
⿰舍攴	13257	五二一
⿰皃攴	13258	五二一
⿰易攴	13259	五二一
敢	13260	五二一
⿰昌攴	13261	五二二
⿰乖攴	13262	五二二
⿰林攴	13263	五二二
⿰爭攴	13264	五二三
散	13265	五二三
⿰空攴	13266	五三〇
⿰冏攴	13267	五三〇
⿰忽攴	13268	五三〇
⿰朋攴	13269	五三〇
⿰果攴	13270	五三〇
⿰帚攴	13271	五三〇
⿰坴攴	13272	五三〇
⿰炎攴	13273	五三〇
⿰卓攴	13274	五三一
⿰彖攴	13275	五三一
敦	13276	五三一
⿰吉攴	13277	五三五
⿰東攴	13278	五三五
⿰直攴	13279	五三五
⿰𣏂攴	13280	五三五
⿰𤆍攴	13281	五三五
⿰系攴	13282	五三五
⿰苟攴	13283	五三五
⿰录攴	13284	五三五

敝	13285	五三五
敬	13285′	五三五
九畫		
敫	13286	五三五
敨	13287	五三五
敎	13288	五三五
㪈	13289	五三五
敳	13290	五三六
敼	13291	五三六
㪏	13292	五三六
㪂	13293	五三六
斂	13294	五三六
㪇	13295	五三六
敱	13296	五三六
㪉	13297	五三六
㪌	13298	五三六
敹	13299	五三六
敦	13300	五三六
㪃	13301	五三六
毀	13302	五三六
敬	13303	五三六
敞	13304	五四二
㪆	13305	五四二
敭	13306	五四二
敕	13307	五四二
㪋	13308	五四二
㪅	13309	五四二
敍	13310	五四二
数	13311	五四二
㪄	13312	五四二
敐	13313	五四二
㪕	13314	五四二
㪁	13315	五四二
㪀	13316	五四二
敨	13317	五四三
敐	13318	五四三
数	13319	五四三
十畫		
㪍	13320	五四三
敠	13321	五四三
㪐	13322	五四三
㪑	13323	五四三
㪒	13324	五四三
㪓	13325	五四三
敳	13326	五四三
敪	13327	五四三
敷	13328	五四三
㪔	13329	五四三
敼	13330	五四三
鼓	13331	五四三
㪖	13332	五四三
㪗	13333	五四三
㪘	13334	五四三
㪙	13335	五四三
㪚	13336	五四三
敲	13337	五四三
敲	13338	五四四
㪛	13339	五四四
㪜	13340	五四四
㪝	13341	五四四
㪞	13342	五四四
㪟	13343	五四四
㪠	13344	五四四
㪡	13345	五四四
敺	13346	五四四
十一畫		
戲	13347	五四四
戰	13348	五四四
㪢	13349	五四五
㪣	13350	五四五
敷	13351	五四五
整	13352	五四五
戲	13353	五四五
敵	13354	五四五
敻	13355	五四七
㪤	13356	五四七
敶	13357	五四七
㪥	13358	五四七
敷	13359	五四七
敷	13359′	五四九
㪦	13360	五四九
㪧	13361	五四九
㪨	13362	五四九
數	13363	五四九
數	13364	五五三
數	13365	五五三
㪩	13366	五五三
敺	13367	五五三
歐	13368	五五三
㪪	13369	五五三
㪫	13370	五五三
敻	13371	五五三
敗	13372	五五三
敾	13373	五五三
十二畫		
敿	13374	五五三
鼓	13375	五五四
敘	13376	五五四
斀	13377	五五四
斁	13378	五五四
斁	13379	五五四
斂	13380	五五四
斂	13381	五五四
敲	13382	五五四
敿	13383	五五四
斆	13384	五五四
敵	13385	五五四
鼓	13386	五五四
斃	13387	五五四
斀	13388	五五四
斀	13389	五五四
散	13390	五五四
敬	13391	五五四
戲	13392	五五四
整	13393	五五四
整	13394	五五四
斅	13395	五五六
肇	13396	五五六
擻	13397	五五六
敹	13398	五五六
十三畫		
斀	13399	五五六
斁	13400	五五六
斁	13401	五五六
斂	13402	五五六
鼓	13403	五五六
斃	13404	五五六
斀	13405	五五六
戰	13406	五五七
斂	13407	五五七
斁	13408	五五八
散	13409	五五八
斄	13410	五五八
戲	13411	五五八
十四畫		
斅	13412	五五八
斂	13413	五五八
斃	13414	五五八
斀	13415	五五八
斁	13416	五五八
斃	13417	五五九
斆	13418	五五九
斁	13419	五五九
斀	13420	五五九
敬	13421	五五九
斆	13422	五五九
十五畫		
斀	13423	五五九
斀	13424	五五九
斄	13425	五五九
戲	13426	五五九
斄	13427	五五九
十六畫		
戲	13428	五五九
斂	13429	五五九
斀	13430	五五九
斅	13431	五五九
斃	13432	五六〇
斀	13433	五六〇
斁	13434	五六〇
斄	13435	五六〇
數	13436	五六〇
斆	13437	五六〇
斀	13438	五六〇
斀	13439	五六〇
十七畫		
斀	13440	五六〇
斀	13441	五六〇
斃	13442	五六〇
斀	13443	五六〇

十八畫
敼 13444 五六〇

十九畫
變 13445 五六〇
𣁋 13446 五六〇
𣀺 13447 五六〇
𣁀 13448 五六〇

二十一畫
𣁁 13449 五六〇

文部

文 13450 五六〇

二畫
齐 13451 六〇二

三畫
𢻯 13452 六〇二
斈 13453 六〇二

四畫
斉 13454 六〇三
斊 13455 六〇三

五畫
𢼸 13456 六〇三

六畫
𢽾 13457 六〇三
𢽳 13458 六〇三
𢼽 13459 六〇三
斋 13460 六〇三
𣁇 13561 六〇三

七畫
𣁈 13462 六〇三
𢿈 13463 六〇三
𢿉 13465 六〇三
斍 13466 六〇三
斎 13467 六〇三

八畫
斌 13468 六〇三
斐 13469 六〇三
斑 13470 六〇四

九畫
斒 13471 六〇六
斔 13472 六〇六
𢿥 13473 六〇六
𦳣 13474 六〇六
𣀔 13475 六〇六

十一畫
𣁉 13476 六〇六
𣀍 13477 六〇六
𣁊 13478 六〇六
𣁌 13479 六〇六

十二畫
𣁍 13480 六〇六
𣁎 13481 六〇六

十四畫
𣁏 13482 六〇六
𣁐 13483 六〇六

十五畫
𣁑 13484 六〇六

十六畫
斖 13485 六〇六

十七畫
斕 13486 六〇六

十九畫
𣁒 13487 六〇七
𣁓 13488 六〇七

斗部

斗 13489 六〇七
㪯 13490 六一一

三畫
𣁬 13491 六一一
𣁭 13492 六一一

四畫
𣁮 13493 六一一
𣁯 13494 六一一
𣁰 13495 六一一

五畫
㪳 13496 六一一
𣁱 13497 六一一

六畫
𣁲 13498 六一一
𣁳 13499 六一一
𣁴 13500 六一一
料 13501 六一一
𣁵 13502 六一三
𣁶 13503 六一三

七畫
𣁷 13504 六一三
𣁸 13505 六一三
𣁹 13506 六一三
𣁺 13507 六一三
斛 13508 六一三
斜 13509 六一三
𣁻 13510 六一五
𣁼 13511 六一五

八畫
斝 13512 六一五
𣁽 13513 六一六
𣁾 13514 六一六
𣁿 13515 六一六

九畫
斞 13516 六一六
斟 13517 六一六
𣂀 13518 六一七
𣂁 13519 六一七

十畫
𣂂 13520 六一七
斠 13521 六一七
斡 13522 六一七
𣂃 13523 六一八
𣂄 13524 六一八

十一畫
𣂅 13525 六一八
𣂆 13526 六一八
𣂇 13527 六一八

十二畫
斢 13528 六一八

十三畫
𣂈 13529 六一八
𣂉 13530 六一八
𣂊 13531 六一八

十五畫
𣂋 13532 六一八

十九畫
𣂌 13533 六一八

斤部

斤 13534 六一八

一畫
斥 13535 六一九
𣂑 13536 六二一

二畫
𣂒 13537 六二一

四畫
所 13538 六二一
斧 13539 六二一
斨 13540 六二二
𣂓 13541 六二三
𣂔 13542 六二三
𣂕 13543 六二三
𣂖 13544 六二三

五畫
𣂗 13545 六二三
听 13546 六二三
斪 13547 六二三
斫 13548 六二三
𣂘 13549 六二三

六畫
𣂙 13550 六二三
𣂚 13551 六二三
𣂛 13552 六二三
𣂜 13553 六二三
𣂝 13553′ 六二三

七畫
𣂞 13554 六二三
斬 13555 六二三
𣂟 13556 六二五
断 13557 六二五

八畫
𣂠 13558 六二五
𣂡 13559 六二五
𣂢 13560 六二五
𣂣 13561 六二五
斮 13562 六二五
斯 13563 六二六
𣂤 13564 六二七
𣂥 13565 六二七
𣂦 13566 六二七
𣂧 13567 六二七
𣂨 13568 六二七
𣂩 13569 六二七

盺 13570 六二七
𦈢 13571 六二七
九畫
新 13572 六二七
𣃊 13573 六四六
𩛂 13574 六四六
齗 13575 六四七
𣃁 13576 六四七
𣃔 13577 六四七
𣂼 13578 六四七
𣂺 13579 六四七
𣂷 13580 六四七
𣃅 13581 六四七
𣃆 13582 六四七
𣃇 13583 六四七
十畫
𣃋 13584 六四七

𣃌 13585 六四七
𣃍 13586 六四七
新 13587 六四七
𣃎 13588 六四七
十一畫
𣃏 13589 六四八
𣃐 13590 六四八
𣃑 13591 六四八
𣃒 13592 六四八
𣃓 13593 六四八
十二畫
𣃕 13594 六四八
𣃗 13595 六四八
𣃖 13596 六四八
𣃙 13597 六四八
𣃚 13598 六四八
𣃛 13599 六四八

𣃜 13600 六四八
𣃝 13601 六四八
十三畫
𣃞 13603 六四八
𣃘 13604 六四八
𡳾 13605 六四八
𣃟 13606 六四八
𣃠 13607 六四八
𣃧 13608 六四八
十四畫
𣃡 13609 六四八
斵 13610 六四八
斷 13611 六四八
𣃣 13612 六五四
𣃤 13613 六五四
𣃥 13614 六五四
十五畫

𣃢 13615 六五四
𣃦 13616 六五四
十六畫
𣃩 13617 六五四
十八畫
𣃪 13618 六五四
二十一畫
斸 13619 六五四

方部

方 13620 六五四
二畫
㫃 13621 六七五
𣃨 13622 六七五
三畫
𣃫 13623 六七五
𣃬 13624 六七六
四畫
斺 13625 六七六
斻 13626 六七六
𣃭 13627 六七六
於 13628 六七六
五畫
施 13629 六七八
𣃵 13630 六八三
𣃶 13631 六八三
斿 13632 六八三
𣃷 13633 六八三
𣃸 13634 六八三
𣃹 13635 六八四
六畫
旁 13637 六八四
旂 13638 六八八
𣄃 13639 六八九

旃 13640 六八九
旆 13641 六九〇
旄 13642 六九〇
𣄊 13643 六九一
旅 13644 六九一
㫋 13645 六九五
𣄍 13646 六九五
𣄎 13647 六九五
𣄏 13648 六九五
𣄕 13649 六九五
七畫
旇 13650 六九五
𣄠 13651 六九五
𣄆 13652 六九五
㫝 13653 六九五
𢑑 13654 六九五
旊 13655 六九五

旋 13656 六九六
𣄧 13657 六九八
旌 13658 六九八
旍 13659 七〇一
旎 13660 七〇一
族 13661 七〇一
𣄨 13662 七〇四
𣄪 13663 七〇四
𣄫 13664 七〇四
八畫
𣄭 13665 七〇四
𣄰 13666 七〇四
𣄯 13667 七〇四
旐 13668 七〇四
𣄱 13669 七〇四
𣄲 13670 七〇四
𣄿 13671 七〇四

旑 13672 七〇四
𣄬 13673 七〇四
九畫
𣄶 13674 七〇四
𣄷 13675 七〇四
旒 13676 七〇四
𣄸 13677 七〇五
旓 13678 七〇五
𣄹 13679 七〇五
𣄺 13680 七〇五
𣄻 13681 七〇五
十畫
𣄽 13682 七〇五
𣄼 13683 七〇五
𣄾 13684 七〇五
旖 13685 七〇五
𣅀 13686 七〇五

旗 13687 七〇五
𣅁 13688 七〇九
十一畫
旚 13689 七〇九
𣅂 13690 七〇九
𣅃 13691 七〇九
十二畫
𣅄 13692 七〇九
𣅅 13693 七〇九
旘 13694 七〇九
旞 13695 七〇九
𣅈 13696 七〇九
十三畫
𣅋 13697 七〇九
𣅌 13698 七〇九
十四畫
𣅎 13699 七〇九

旛 13700 七〇九
𣅏 13701 七一〇
𣅐 13702 七一〇
𣅑 13703 七一〇
𣅒 13704 七一〇
十五畫
旜 13705 七一〇
旝 13706 七一〇
𣅔 13707 七一〇
𣅕 13708 七一〇
十六畫
旟 13709 七一〇
十七畫
𣅗 13710 七一〇
十八畫
𣅘 13711 七一一
𣅙 13712 七一一

十九畫		
⿰方顛	13713	七二一
二十畫		
⿰方夒	13714	七二一
二十一畫		
⿰方顯	13715	七二一

无部

无	13716	七二一
旡	13717	七二一
三畫		
⿱无口	13718	七二二
⿸𠂆无	13719	七二二
五畫		
⿺无可	13720	七二二
既	13721	七二二
六畫		
⿱无王	13722	七二二
⿺旡色	13723	七二二
七畫		
旣	13724	七二二
旣	13725	七二三
八畫		
⿺旡京	13726	七二四
⿰京旡	13727	七二四
九畫		
⿰京旡	13728	七二四
⿺旡恩	13729	七二四
⿰咼旡	13730	七二四
⿺旡咼	13731	七二四
十二畫		
⿺旡爲	13732	七二四

日部

日	13733	七二四
一畫		
旦	13734	七四一
⿰日乙	13735	七四三
⿱一日	13736	七四三
旧	13737	七四三
二畫		
旨	13738	七四三
⿱亠日	13739	七四四
⿰日力	13740	七四四
⿱日巳	13741	七四四
早	13742	七四四
旪	13743	七四八
⿱日二	13744	七四八
⿰日刀	13745	七四八
旬	13746	七四八
旭	13747	七四九
⿱亼日	13748	七四九
⿱日亏	13749	七四九
⿰日人	13750	七四九
三畫		
旰	13751	七四九
旱	13752	七五〇
旲	13753	七五一
⿱丆日	13754	七五一
⿱日廾	13755	七五一
⿰日亡	13756	七五一
⿱日巴	13757	七五一
⿱夂日	13758	七五一
⿰日夕	13759	七五一
旳	13760	七五一
旴	13761	七五二
⿱日山	13762	七五二
⿰日乞	13763	七五二
昌	13764	七五三
⿱日丑	13765	七五三
⿱千日	13766	七五三
⿴囗日	13767	七五三
⿱夭日	13768	七五三
⿱日壬	13769	七五三
⿱日兀	13770	七五三
⿺廴旦	13771	七五三
时	13772	七五三
四畫		
旹	13773	七五三
旺	13774	七五三
⿱日丈	13775	七五三
⿰日攵	13776	七五三
旽	13777	七五三
⿱乇日	13778	七五三
⿰日内	13779	七五三
旿	13780	七五三
昀	13781	七五三
⿰日市	13782	七五三
昂	13783	七五三
⿸厂百	13784	七五四
⿸尸⿱日人	13785	七五四
⿸厂⿱日乚	13786	七五四
昊	13787	七五四
⿱日六	13788	七五四
昄	13789	七五四
昅	13790	七五四
⿱不日	13791	七五四
昆	13792	七五四
⿱比日	13793	七五七
昇	13794	七五七
昈	13795	七五八
昉	13796	七五八
⿱日万	13797	七五八
⿱日殳	13798	七五八
⿱日矢	13799	七五八
⿱夭日	13800	七五九
⿰⿱丿日寸	13801	七五九
⿰⿱丆日寸	13802	七五九
昌	13803	七五九
昍	13804	七六三
明	13805	七六三
昏	13806	七八四
⿰日尤	13807	七八七
昐	13808	七八七
⿰日夫	13809	七八七
⿰日气	13810	七八七
昑	13811	七八七
昒	13812	七八七
⿱⿰刀刀日	13813	七八七
易	13814	七八七
映	13815	七九四
昔	13816	七九四
昕	13817	七九五
⿰日卆	13818	七九五
⿰日公	13819	七九五
⿱日且	13820	七九五
⿰日犬	13821	七九五
⿰日互	13822	七九五
⿱少日	13823	七九五
昙	13824	七九六
⿰日欠	13825	七九六
⿰日冊	13826	七九六
亘	13827	七九六
五畫		
⿱夰日	13828	七九六
⿰日兄	13829	七九六
⿱日兄	13830	七九六
⿰日巨	13831	七九六
昜	13832	七九六
⿰日它	13833	七九六
昝	13834	七九六
昞	13835	七九六
昺	13836	七九六
星	13837	七九六
映	13838	八〇六
昡	13839	八〇七
昢	13840	八〇七
⿱日由	13841	八〇七
昣	13842	八〇七
昤	13843	八〇七
春	13844	八〇七
⿱日介	13845	八三三
昧	13846	八三三
昨	13847	八三四
昩	13848	八三四
昪	13849	八三四
昪	13850	八三四
⿰日旦	13851	八三四
昫	13852	八三五
昬	13853	八三五
⿰日氐	13854	八三五
昭	13855	八三五
⿱日另	13856	八四三
⿰日犮	13857	八四三
⿰日幼	13858	八四三
是	13859	八四三
昰	13860	八四五
⿰日台	13861	八四五
显	13862	八四五
昲	13863	八四五

昳	13864	八四五
昴	13865	八四六
昵	13866	八四六
昶	13867	八四六
㫗	13868	八四六
昹	13869	八四六
昷	13870	八四七
昺	13871	八四七
畢	13872	八四七
昄	13873	八四七
㫳	13874	八四七
昸	13875	八四七
曺	13876	八四七
曽	13877	八四七
昝	13878	八四七
𣅊	13879	八四七
㫕	13880	八四七
㫺	13881	八四七
昛	13882	八四七
昏	13883	八四七
㫟	13884	八四七
昂	13885	八四七
昼	13886	八四七

六畫

晠	13887	八四七
晀	13888	八四七
晁	13889	八四七
時	13890	八四八
晃	13891	八六一
晄	13892	八六一
晅	13893	八六一
晆	13894	八六一
晘	13895	八六一
晇	13896	八六一
晈	13897	八六一
晉	13898	八六三
晋	13899	八六七
晊	13900	八六八
杲	13901	八六八
𣆴	13902	八六八
晌	13903	八六八
晑	13904	八六八
𣆈	13905	八六八
𣆶	13906	八六八
𣆥	13907	八六八
晍	13908	八六八
𣇎	13909	八六八
晷	13910	八六八
𣆸	13911	八六八
𣆷	13912	八六八
晎	13913	八六八
晏	13914	八六八
𣇘	13915	八七一
晐	13916	八七一
㬇	13917	八七一
㬀	13918	八七一
𣆊	13919	八七一
𣇀	13920	八七一
昰	13921	八七一
𣅹	13922	八七一
𣆅	13923	八七一
晒	13924	八七一
𣆑	13925	八七一
冒	13926	八七一
㫫	13927	八七一
書	13928	八七一
春	13929	八七一
显	13930	八七一

七畫

㬊	13931	八七一
𣇜	13932	八七三
晗	13933	八七三
晘	13934	八七三
𣇚	13935	八七三
𣆪	13936	八七三
𣇆	13936′	八七三
𣇉	13937	八七三
𣇕	13938	八七三
晙	13939	八七三
晚	13940	八七三
𣇑	13941	八七八
晛	13942	八七八
𣇃	13943	八七八
晜	13944	八七八
最	13945	八七九
𣇣	13946	八七九
𣇤	13947	八七九
晝	13948	八七九
晞	13949	八八二
晟	13950	八八三
𣇦	13951	八八三
晡	13952	八八三
晢	13953	八八三
晣	13954	八八三
𣇢	13955	八八三
晤	13956	八八三
晥	13957	八八四
晩	13958	八八四
𣇠	13959	八八四
晦	13960	八八四
晧	13961	八八五
晨	13962	八八六
昬	13963	八八九
𣆭	13964	八八九
𣇓	13965	八八九
𣇋	13966	八八九
𣇡	13967	八八九
㬂	13968	八八九
𣇵	13969	八八九
𣇯	13970	八八九
𣇈	13971	八八九
𣇊	13972	八八九

八畫

𣈍	13973	八八九
晪	13974	八八九
㬝	13975	八八九
晫	13976	八八九
晬	13977	八八九
𣈔	13978	八九〇
𣈅	13979	八九〇
𣇸	13980	八九〇
晭	13981	八九〇
普	13982	八九〇
景	13983	八九三
晾	13984	九〇一
𣈲	13985	九〇一
晱	13986	九〇一
𣈛	13987	九〇三
𣈉	13988	九〇三
晲	13989	九〇三
晰	13990	九〇三
晢	13991	九〇三
晳	13992	九〇三
𣈘	13993	九〇三
晴	13994	九〇三
晴	13994′	九〇四
𣈩	13995	九〇四
𣈓	13996	九〇四
晵	13997	九〇四
𣈞	13998	九〇四
𣈳	13999	九〇四
晶	14000	九〇四
晿	14001	九〇四
𣈙	14002	九〇四
𣈡	14003	九〇四
𣈝	14004	九〇四
暑	14005	九〇四
𣉉	14006	九〇五
𣈏	14007	九〇五
晷	14008	九〇五
暘	14009	九〇五
智	14010	九〇五
𣈾	14011	九〇九
𣉐	14012	九〇九
晻	14013	九一〇
𣈿	14014	九一〇
𣈦	14015	九一〇
晼	14016	九一〇
𣈴	14017	九一〇
晽	14018	九一〇
𣈒	14019	九一〇
替	14020	九一〇
𣈪	14021	九一〇
𣈺	14022	九一〇
𣈌	14023	九一〇
𣈕	14024	九一〇
𣈗	14025	九一〇
匙	14026	九一一
㬊	14027	九一一
㫩	14028	九一一

㬥	14029	九一一
晵	14030	九一一
晚	14030′	九一一
暁	14031	九一一
暑	14031′	九一一

九畫

㬗	14032	九一一
暄	14033	九一一
㬊	14034	九一一
暆	14035	九一一
暇	14036	九一一
暈	14037	九一二
暉	14038	九一二
㬙	14039	九一三
暊	14040	九一三
暋	14041	九一三
㬰	14042	九一三
㬂	14043	九一三
㬮	14044	九一三
暌	14045	九一三
㬋	14046	九一三
暍	14047	九一三
暎	14048	九一三
暐	14049	九一三
暏	14050	九一三
暑	14051	九一四
暒	14052	九一四
㬎	14053	九一四
暓	14054	九一四
暔	14055	九一四
㬅	14056	九一四
暕	14057	九一五
㬣	14058	九一五
㬟	14059	九一五
㬇	14060	九一五
㬈	14061	九一五
㬉	14062	九一五
㬓	14063	九一五
暖	14064	九一五
暗	14065	九一六
暘	14066	九二〇
𣈮	14067	九二〇
暞	14068	九二〇
曹	14069	九二〇
𣈾	14070	九二〇
暙	14071	九二〇
景	14072	九二〇
鼂	14073	九二〇
畱	14074	九二〇
𣆶	14075	九二〇
㫶	14076	九二〇
暁	14077	九二一

十畫

暚	14078	九二一
㬣	14079	九二一
暛	14080	九二一
𣇮	14081	九二一
㬜	14082	九二一
暝	14083	九二一
𣉻	14084	九二一
暷	14085	九二一
暤	14086	九二一
㬛	14087	九二一
暟	14088	九二一
暠	14089	九二一
㬡	14090	九二一
暅	14091	九二一
㬞	14092	九二一
暜	14093	九二二
暡	14094	九二三
暢	14095	九二三
㬤	14096	九二三
𣉸	14097	九二三
𣉼	14098	九二三
㬎	14099	九二三
暊	14100	九二三
暤	14101	九二三
㬢	14102	九二三
㬥	14103	九二三
㬦	14104	九二三
暿	14105	九二三
㬧	14106	九二三
㬨	14107	九二三
學	14108	九二三
㬩	14109	九二三
曽	14110	九二三
暆	14111	九二三
暦	14111′	九二三

十一畫

暩	14112	九二四
㬪	14113	九二四
暵	14114	九二四
暪	14115	九二四
暭	14116	九二四
暩	14117	九二四
暯	14118	九二四
暪	14119	九二四
暫	14120	九二四
暫	14121	九二五
暬	14122	九二五
暤	14123	九二五
暰	14124	九二五
暱	14125	九二五
暳	14126	九二五
曹	14127	九二五
暮	14128	九二五
暯	14129	九二七
暰	14130	九二七
暶	14131	九二七
暱	14132	九二七
暲	14133	九二七
暬	14134	九二七
暳	14135	九二七
暳	14136	九二八
暴	14137	九二八
暵	14138	九三三
暶	14139	九三三
㬫	14140	九三三
暓	14141	九三三
暼	14142	九三三
暴	14143	九三三
暸	14144	九三三
暷	14145	九三三
㬬	14146	九三三
㬭	14147	九三三

十二畫

暸	14148	九三三
暽	14149	九三三
暹	14150	九三三
暺	14151	九三三
暻	14152	九三三
暻	14153	九三三
暿	14154	九三三
暼	14155	九三三
曕	14156	九三三
曔	14157	九三三
㬮	14158	九三三
曒	14159	九三三
曒	14160	九三三
曔	14161	九三三
曦	14162	九三三
曀	14163	九三三
曁	14164	九三四
曁	14165	九三四
曾	14166	九三四
曂	14167	九三四
曃	14168	九三四
曄	14169	九三四
曅	14170	九三四
曆	14171	九三四
曇	14172	九三六
曉	14173	九三七
曊	14174	九三七
曈	14175	九三七
曉	14176	九三七
曊	14177	九四二
曋	14178	九四二
𣊫	14179	九四二
曟	14180	九四二
曖	14181	九四二
㬳	14182	九四二
曌	14183	九四二
𣋂	14184	九四二
曍	14185	九四二
㬴	14186	九四二
曹	14187	九四二
暴	14188	九四二
㬵	14189	九四二
曘	14190	九四二
𣋚	14191	九四二

暍 14192 九四二

十三畫

曎 14194 九四二
鄳 14195 九四二
曐 14196 九四二
曑 14197 九四二
㬈 14198 九四二
𣋝 14199 九四三
曒 14200 九四三
㬥 14201 九四三
曔 14202 九四三
𣋌 14203 九四三
曕 14204 九四三
𣋉 14205 九四三
曖 14206 九四三
䵶 14207 九四三
𣋎 14208 九四三

曗 14209 九四三
㬢 14210 九四三
𣌀 14211 九四三
𤏶 14212 九四三
𣋩 14213 九四三
𣌆 14214 九四三
𣋫 14215 九四三
㬸 14216 九四三

十四畫

𣌭 14217 九四三
曘 14218 九四三
𣌁 14219 九四三
曙 14220 九四四
𣌬 14221 九四四
㬯 14222 九四四
曚 14223 九四四
曛 14224 九四四

曓 14225 九四五
曤 14226 九四五
曜 14227 九四五
曜 14227′ 九四五
𣋳 14228 九四五
𣌮 14229 九四五
𣋥 14230 九四五
𣋲 14231 九四五
曋 14232 九四五
曈 14233 九四五
𪰶 14234 九四五

十五畫

𣌨 14235 九四五
𣋪 14236 九四五
𣌏 14237 九四五
㬗 14238 九四六
曝 14239 九四六

㬰 14240 九四六
曞 14241 九四六
曡 14242 九四六
𥩈 14243 九四六
曟 14244 九四六
曠 14245 九四七
𢋿 14246 九四九
㬓 14247 九四九
𣍂 14248 九四九

十六畫

𣍐 14249 九四九
曣 14250 九四九
𣌂 14251 九四九
曥 14252 九四九
曦 14253 九四九
𣍃 14254 九四九
曨 14255 九五〇

𣍑 14256 九五〇
𣍒 14257 九五〇

十七畫

曩 14258 九五〇
𣍓 14259 九五〇

十八畫

𪱆 14260 九五〇
𣌾 14261 九五〇
𣍈 14262 九五〇
㬭 14263 九五〇

十九畫

曪 14264 九五〇
曫 14265 九五〇
曬 14266 九五〇
𣍝 14267 九五一
𣍍 14268 九五一
𣍎 14269 九五一

二十畫

𣌷 14270 九五一
曭 14271 九五一
曮 14272 九五一
𣍙 14273 九五一

二十一畫

曯 14274 九五一
𣍞 14275 九五一

二十四畫

𣌹 14276 九五一

三十二畫

𣊫 14277 九五一

曰部

曰 14278 九五三

一畫

甲 14279 九五三

二畫

曲 14280 九五三
曳 14281 九六一
曵 14282 九六一

三畫

更 14283 九六三
𣎆 14284 九六五
𣌻 14285 九六五

四畫

𣍗 14286 九六五
曶 14287 九六五
𣌽 14288 九六五

五畫

𣍕 14289 九六五
曷 14290 九六五
𣎑 14291 九六六
𣍖 14292 九六六

𣍚 14293 九六六

六畫

書 14294 九六六
㑹 14295 九七七
𣍟 14296 九七七

七畫

曹 14297 九七七
曼 14298 九八八

八畫

曾 14299 九九〇
替 14300 九九八
最 14301 九九九
朁 14302 一〇〇一
𣌿 14303 一〇〇一
𣍛 14304 一〇〇一
會 14305 一〇〇一

九畫

會 14306 一〇〇一
𣍴 14307 一〇〇八
𣍵 14308 一〇〇八

十畫

𣍶 14309 一〇〇八
朄 14310 一〇〇八
朅 14311 一〇〇九
𣍷 14312 一〇〇九

十一畫

𣍸 14313 一〇〇九
𣍹 14314 一〇〇九
𣍺 14315 一〇〇九

十二畫

𣍻 14316 一〇〇九
𣍼 14317 一〇〇九

十三畫

𣍽 14318 一〇〇九
𣍾 14319 一〇〇九

十四畫

𣍿 14320 一〇〇九
𣎀 14321 一〇〇九

十五畫

𣎁 14322 一〇〇九

十六畫

𣎂 14323 一〇〇九
𣎃 14324 一〇〇九

十七畫

𣎄 14325 一〇〇九

二十一畫

𣎅 14326 一〇〇九

二十三畫

𣎇 14327 一〇一〇

二十八畫

𣎈 14328 一〇一〇

三十一畫 讚 14329 一〇一〇

月部

一畫 月 14330 一〇一〇 二畫 月 14331 一〇三四 有 14332 一〇三四 肞 14333 一〇三五 三畫 肎 14334 一〇三五 肌 14335 一〇三五 朋 14336 一〇三五 肴 14337 一〇三五 岄 14338 一〇三五 四畫

朊 14339 一〇三五 朋 14340 一〇三五 朋 14340′ 一〇三七 肝 14341 一〇三七 肭 14342 一〇三七 朌 14343 一〇三七 肬 14344 一〇三七 服 14345 一〇三八 服 14345′ 一〇四三 枂 14346 一〇四三 胚 14347 一〇四三 五畫 朎 14348 一〇四三 肮 14349 一〇四三 䏶 14350 一〇四三 朏 14351 一〇四三 胡 14352 一〇四四

朐 14353 一〇四四 朌 14354 一〇四四 六畫 䏑 14355 一〇四四 朒 14356 一〇四四 胚 14357 一〇四四 朓 14358 一〇四四 朔 14359 一〇四四 胖 14360 一〇四七 朕 14361 一〇四七 胶 14362 一〇四七 朗 14362′ 一〇四七 七畫 朖 14363 一〇四七 朗 14364 一〇四七 朘 14365 一〇四八 朙 14366 一〇四八

朚 14367 一〇四八 望 14368 一〇四九 望 14368′ 一〇五四 䏧 14369 一〇五四 腕 14370 一〇五四 胳 14371 一〇五四 膄 14372 一〇五四 八畫 脝 14373 一〇五四 朝 14374 一〇五四 朝 14374′ 一〇六九 脼 14375 一〇六九 胃 14376 一〇六九 朞 14377 一〇六九 期 14378 一〇七〇 腮 14379 一〇七二 朧 14380 一〇七二

胼 14381 一〇七二 腥 14382 一〇七二 扇 14383 一〇七二 九畫 腷 14384 一〇七二 膜 14385 一〇七二 腢 14386 一〇七二 朡 14387 一〇七二 腁 14388 一〇七二 十畫 𣎑 14389 一〇七二 膧 14390 一〇七二 朢 14391 一〇七三 滕 14392 一〇七三 十一畫 膰 14393 一〇七三 膱 14394 一〇七三

䏶 14395 一〇七三 朦 14396 一〇七三 腹 14397 一〇七三 十二畫 膠 14398 一〇七三 膘 14399 一〇七三 朣 14400 一〇七三 膰 14401 一〇七三 膶 14402 一〇七三 膃 14403 一〇七三 膊 14404 一〇七三 十三畫 膨 14405 一〇七三 臎 14406 一〇七三 覷 14407 一〇七三 十四畫 臀 14408 一〇七三

朦 14409 一〇七三 𦢊 14410 一〇七四 十六畫 朧 14411 一〇七四 䐿 14412 一〇七四 十九畫 臙 14413 一〇七四 二十畫 臘 14414 一〇七四

總畫順による檢字

親文字の下に記した和數字は其の文字を掲載した頁。

三畫
才 八〇　扌 九二

四畫
戈 一　戶 五五　手 九六　扎 九二　攴 四四四　支 四四四　攵 四四四　文 四五〇　斗 六〇七　斗 六二一　斤 六二八　厈 六三一　方 六六四　无 七一二　旡 七一二　日 七二四　曰 九五三　月 一〇〇〇

五畫
戉 三　戊 三　戋 三
戉 三　戹 五九　戸 六〇　毛 九一　孔 九一　抖 九一　扝 九一　执 九一　扣 九一　扐 九一　扑 九二　扒 九二　打 九二　扔 一〇一　扤 一〇一　払 一〇一　扠 一〇一　扨 一〇一　扖 一〇一　斥 六一九　旦 七四一　旷 七四三　百 七四三　旧 七四三　甲 九五三　月 一〇二四

六畫
戌 三
戉 四　戌 四　戋 五　戎 五　戕 八　戔 八　戋 八　成 八　屵 六〇　尼 六〇　巵 六〇　戻 六〇　刋 一〇二　扗 一〇二　抻 一〇二　扥 一〇二　扗 一〇二　托 一〇二　扪 一〇三　扙 一〇三　扚 一〇三　扛 一〇三　扜 一〇三　扝 一〇三　扝 一〇三　扞 一〇三　扟 一〇四　扠 一〇四　扡 一〇四
扢 一〇五　扣 一〇五　抗 一〇六　扝 一〇六　抓 一〇六　扗 一〇六　托 一〇六　抑 一〇六　扦 一〇六　扶 一〇六　扨 一〇六　扑 一〇六　払 一〇六　托 一〇六　抎 一〇六　执 一〇六　扱 一〇六　攱 四六一　收 四六四　攷 四七〇　齐 六〇三　斺 六二一　㫃 六七五　加 六七五　旨 七四三　盲 七四四　助 七四四　㫖 七四四　早 七四四　旪 七四八　旵 七四八　旫 七四八　旬 七四八　旭 七四九
旮 七四九　旱 七四九　旵 七四九　曲 九五三　曳 九六一　曳 九六一　有 一〇二四　肍 一〇三五

七畫
戋 八　成 八　我 一九　戚 二三　狘 二三　戒 二三　或 二六　戓 二六　或 二六　或 二六　戓 二六　戺 六〇　扂 六〇　扈 六〇　屋 六〇　戾 六〇　邪 六〇　戽 六〇　托 一〇六　夆 一〇六　扨 一〇七　扭 一〇七　抍 一〇七　扢 一〇七
扮 一〇七　扮 一〇七　扐 一〇七　抪 一〇七　扯 一〇八　扰 一〇八　扱 一〇八　扲 一〇八　扳 一〇八　扴 一〇九　扲 一〇九　扶 一〇九　扶 一一四　扷 一一四　拱 一一四　批 一一四　扺 一一六　扻 一一七　扼 一一七　抈 一一七　抛 一一七　找 一一七　拐 一二五　技 一二五　技 一二六　拝 一二六　抗 一二六　抂 一二六　抃 一二六　托 一二六　抡 一二六　抄 一二七　拙 一二八　拘 一二八
扮 一二八　批 一二八　抆 一二八　扫 一二八　扫 一二八　抈 一二八　抉 一二八　把 一二九　扸 一三〇　扰 一三〇　抸 一三一　抚 一三一　拼 一三一　抎 一三一　抏 一三一　抐 一三一　抑 一三一　抒 一三三　抓 一三四　抔 一三四　投 一三四　抖 一四〇　抗 一四〇　折 一四三　抒 一五〇　抙 一五〇　扬 一五〇　抃 一五〇　抚 一五〇　抳 一五〇　拌 一五〇　抛 一五〇　拔 一五〇　拗 一五〇
抧 一五〇　斋 四六一　敊 四七〇　攸 四七〇　改 四七〇　攺 四七五　改 四七五　敁 四七五　攽 四七五　攱 四七五　攻 四七五　攼 四七七　孜 四七七　孜 四七七　斈 四七七　李 六〇三　李 六〇三　斜 六二一　料 六二一　於 六七五　旁 六七六　杳 七一三　凨 七一三　旰 七四九　旱 七五〇　昊 七五一　昏 七五一　昇 七五一　旷 七五一　邑 七五一　昝 七五一　明 七五一　昀 七五一　旴 七五三
昍 七五三　吃 七五三　昌 七五三　昱 七五三　香 七五三　回 七五三　昝 七五三　呈 七五三　晃 七五三　昍 七五三　时 七五三　更 九六三　曳 九六五　旱 九六五　肓 一〇三五　肝 一〇三五　朋 一〇三五　育 一〇三五　胡 一〇三五

八畫
戕 二六　我 二六　戋 二六　戕 二六　戛 二六　戔 二六　戒 二七　戓 二七　戕 二七　或 二七　戚 二八　戚 二八　戔 二八
戓 二八　裁 二八　扄 六〇　扃 六二　扂 六二　扅 六二　房 六三　所 六七　所 七〇　扆 七〇　扈 七〇　扊 七〇　肩 七〇　牂 一一四　承 一一八　秉 一二五　牧 一二八　拜 一五〇　拏 一五〇　拗 一五〇　抦 一五〇　抧 一五〇　抨 一五〇　拼 一五〇　挔 一五〇　抪 一五一　披 一五一　抬 一五三　抗 一五三　抗 一五四　抮 一五四　抯 一五四　抰 一五四　抓 一五四
抱 一五四　抱 一五九　抲 一五九　抳 一五九　拙 一五九　抵 一五九　抶 一六〇　抷 一六〇　抂 一六〇　拐 一六〇　抹 一六〇　抹 一六一　抻 一六一　押 一六一　抽 一六三　抾 一六五　抿 一六六　拔 一六六　抸 一六六　抲 一六六　拂 一六六　拁 一六八　拃 一六八　拒 一六八　拄 一六八　担 一六九　抳 一六九　拆 一六九　拇 一七〇　拈 一七〇　拉 一七〇　拊 一七三　抛 一七三　批 一七四
拌 一七四　拍 一七五　拎 一七六　拐 一七六　拑 一七七　拒 一七七　拓 一七八　拔 一八一　拕 一八五　拖 一八五　拗 一八六　拘 一八七　拯 一八九　拙 一八九　拼 一九一　拼 一九一　招 一九一　拝 二〇一　抹 二〇一　抶 二〇一　掏 二〇一　抓 二〇一　拯 二〇一　拯 二〇一　拼 二〇一　扸 二〇一　拭 二〇一　拟 二〇一　抛 二〇一　拡 二〇三　跂 四六一　敊 四六一　攲 四六一　攱 四七七
放 四七七　效 四七七　敏 四七七　敍 四七七　敘 四七七　敀 四七七　敂 四七七　放 四七七　敀 四八六　政 四八六　攸 四九〇　敀 四九〇　敂 四九〇　效 四九〇　敊 四九〇　敉 四九〇　效 四九〇　敏 四九〇　敊 四九〇　敃 四九〇　故 四九〇　敊 四九〇　效 四九〇　斉 六〇三　斉 六〇三　斛 六二一　斩 六二一　斩 六二一　所 六三二　斧 六三二　斨 六三三　斨 六三三　斦 六三三　斫 六三三
斯 六三三　斺 六七六　杭 六七六　旁 六七六　於 六七六　旹 七五三　旺 七五三　旻 七五三　旼 七五三　旽 七五三　昝 七五三　昞 七五三　昨 七五三　昀 七五三　昁 七五三　昂 七五三　栢 七五四　昃 七五四　厓 七五四　臭 七五四　昊 七五四　昄 七五四　吸 七五四　杳 七五四　昆 七五四　皆 七五七　昇 七五七　昈 七五八　昉 七五八　昦 七五八　旻 七五八　昊 七五八　香 七五九　昏 七五九
㫗 七五九　昌 七五九　田 七六三　明 七六三　昏 七六四　眈 七六七　昐 七六七　昳 七六七　昕 七六七　吟 七六七　昒 七六七　昭 七六七　易 七六七　映 七七四　昔 七七四　昕 七七五　昨 七七五　昖 七七五　昌 七七五　昳 七七五　昵 七七五　省 七七五　昙 七七六　欣 七七六　昛 七七六　亘 七七六　良 九六五　昭 九六五　畢 九六五　朊 一〇三五　朋 一〇三五　朋 一〇三七　肸 一〇三七　肭 一〇三七

朌一〇七　肬一〇七　服一〇六　服一〇三　朐一〇三　肧一〇三

九畫

戒二八　我二八　戚二八　戚二八　哦二九　戩二九　娀二九　戎二九　戚二九　戗二九　或二九　戓二九　武二九　战二九　扆七〇　屄七〇　扂七〇　扁七〇　厓七三　居七三　扈七三　扃七三　屆七三　扉七三　屏七三　扃七三

扊七三　戾七三　扇七三　扃七三　挙一七四　挈一七六　拜一九六　挐二〇一　拳二〇一　拼二〇一　享二〇一　拲二〇一　拪二〇三　报二〇三　括二〇三　拭二〇三　拮二〇三　拯二〇三　抵二〇四　挍二〇四　拱二〇四　拘二〇七　抅二〇七　拓二〇七　拴二〇七　挬二〇七　拼二〇七　拭二〇七　拶二〇七　抹二〇七　拷二〇八　捎二〇八　拸二〇八　協二〇八

揀二〇八　掖二〇八　拼二〇八　拽二〇八　拾二〇九　捆二二一　抓二二一　持二二一　挂二二四　律二二六　抹二二六　採二二六　挮二二六　挃二二六　抗二二六　洗二二六　扭二二六　挑二二六　搡二二六　採二二六　抳二二六　拘二二六　指二二六　拓二三三　摑二三三　按二三三　折二三四　拝二三五　拖二三五　挎二三五　拆二三五　拒二三五　揷二三五　挌二三五

挍二三五　挎二三五　挏二三五　捍二三六　挑二三六　挒二三八　扼二三八　挓二三八　揆二三八　投二三八　揉二三八　括二三八　掀二三八　揖二三八　抽二三八　挣二三九　拍二三九　挖二三九　指二三九　搖二三九　挟二三九　扛二三九　挄二三九　抃二三九　挓二三九　挦二三九　扮二三九　攴四六一　攱四六二　戝四六二　叚四六二　敀四九〇　敆四九〇　攸四九〇

敷四九〇　敕四九〇　敀四九〇　战四九〇　敏四九〇　敆四九一　叜四九一　敃四九一　敄四九一　故四九一　敱四九八　敁四九八　敧四九八　敛四九八　敂四九八　敀四九八　叚四九八　殹四九八　敉四九八　敄四九八　斂六〇三　斗六二一　斛六二一　所六三三　所六三三　斨六三三　斫六三三　所六三三　施六七八　旆六八三　旃六八三　旂六八三　旊六八三　旁六八三

於六八四　冠七二三　既七二三　旾七九六　晛七九六　晃七九六　昛七九六　易七九六　昵七九六　昝七九六　昞七九六　昺七九六　星七九六　映八〇六　昡八〇七　昢八〇七　昷八〇七　昣八〇七　昤八〇七　春八〇七　昇八二三　昧八二三　昨八二四　昧八二四　昪八二四　昇八二四　昛八二四　昫八三五　昏八三五　昵八三五　昭八三五　昜八四三　晙八四三　昒八四三

是八四三　昰八四五　昭八四五　显八四五　昲八四五　昳八四五　昴八四六　昵八四六　昶八四六　景八四六　昹八四六　昷八四七　昌八四七　畢八四七　昳八四七　昜八四七　昸八四七　曺八四七　曹八四七　智八四七　書八四七　昩八四七　昨八四七　昡八四七　香八四七　晃八四七　昴八四七　昼八四七　曹九六五　曷九六五　昫九六六　昷九六六　旱九六六　肣一〇三

肮一〇三　脫一〇三　朏一〇三　胡一〇四　胊一〇四　胎一〇四

十畫

戓二九　戕二九　戚二九　裁二九　曳二九　或二九　威二九　戋二九　咸二九　戜二九　栽二九　扃七三　居七三　扆七三　屑七三　扅七三　扆七三　扇一七四　扇一七六　屋一七六　居一七六　拲二〇五　拳二〇五　拿二一〇　擊二一一　挈二一二

挲二二四　拳二二五　挐二二五　挈二二六　拜二二八　挐二二八　犁二二九　沓二二九　挙二二九　挨二二九　捝二三〇　挪二三〇　捥二三一　捖二三一　挫二三一　抹二三一　捋二三三　挭二三三　挮二三三　振二三三　捏二三六　抄二三六　挼二三七　揑二三七　挴二三七　我二三七　拼二三七　揭二三七　挷二三七　挸二三七　挹二三七　挺二三七　挻二三九　括二三九

挍二三九　拗二三九　挽二三九　挶二四〇　掬二四〇　挠二四〇　抓二四〇　挢二四〇　捍二四〇　挾二四一　捕二四三　捀二四三　掐二四三　捂二四三　捁二四三　捂二四三　据二四三　捂二四三　捄二四三　挑二四四　挪二四四　捅二四四　捆二四四　摑二四四　掴二四四　捸二四四　捈二四四　捉二四四　押二四五　捙二四五　捊二四五　捋二四五　捌二四六　搣二四六

捍二四六　掟二四六　捋二四六　搲二四七　捽二四七　捎二四七　捏二四七　捐二四七　拉二四九　捻二四九　揔二四九　揀二四九　掷二四九　换二五〇　捕二五〇　捖二五一　扶二五三　捗二五三　捘二五三　捣二五三　掏二五三　掊二五三　推二五三　捭二五三　控二五三　捨二五三　揣二五三　捚二五三　招二五三　掋二五三　捡二五三　捧二五三　捎二五三　採二五三

搜二五三　叟四六三　敏四六三　敊四六三　敊四六三　敊四六三　敆四六三　效四六三　敼四六三　敍四九八　敓四九八　敕四九八　敕四九八　敉四九八　敞四九八　敓四九八　敁四九八　敳四九八　敍四九八　敉四九八　敍四九八　故四九八　敌四九八　效四九八　敚五〇〇　敊五〇〇　敁五〇〇　敆五〇〇　敉五〇〇　敊五〇〇　敉五〇〇　敦五〇〇　敠五〇〇　敚五〇〇

敉五〇〇　敫五〇〇　敞五〇〇　效五〇〇　敼五〇〇　敪五〇〇　敏五〇〇　敘六〇三　散六〇三　斊六〇三　斋六〇三　亲六〇三　斜六二一　斗六二一　斜六二一　料六二一　斝六二三　料六二三　挑六二三　斬六三三　斧六三三　斷六三三　斫六三三　斯六三三　旁六八四　旅六八八　旎六八九　旆六八九　旗六九〇　旄六九〇　旃六九一　旅六九一　旐六九五　旆六九五

旃六九五　旆六九五　旃六九五　星七二三　旝七二三　晠八四七　晀八四七　晁八四七　時八四八　晃八六二　晄八六二　晅八六二　晆八六二　晛八六二　晧八六二　晈八六二　晉八六三　晉八六七　晊八六八　杲八六八　晚八六八　晌八六八　曷八六八　晗八六八　晳八六八　晥八六八　晍八六八　脩八六八　晷八六八　晎八六八　旰八六八　晎八六八　晏八六八　晐八七一

晐八七一　昜八七一　晋八七一　昆八七一　晒八七一　是八七一　皆八七一　晟八七一　晒八七一　音八七一　旨八七一　晃八七一　書八七一　春八七一　显八七一　書九六六　倉九七七　曹九七七　胼一〇四　胭一〇四　脠一〇四　脁一〇四　朔一〇四　胖一〇七　脒一〇七　胶一〇七　朗一〇七

十一畫

戚二九　戚三一　戡三二　戩三二　夏三二

戜 三三　㦸 三三　㦻 三三　戗 三三　戝 三三　扈 七六　扂 七七　屋 七七　挚 二五三　挲 二五六　挈 二五三　掤 二五三　擧 二五三　捋 二五三　捥 二五三　捡 二五三　掺 二五三　搭 二五三　掾 二五三　捩 二五三　掽 二五三　捧 二五三　捦 二五四　捨 二五五　掝 二五五　搡 二五五　掴 二五五　揢 二五五　揔 二五五　捫 二五五　揊 二五六　摒 二五六　捭 二五六　捭 二五六

掎 二五六　掟 二五六　据 二五六　捯 二五七　捰 二五七　捲 二五七　捱 二五七　揀 二五八　括 二五八　捴 二五八　捴 二五八　掤 二五八　捵 二五八　捶 二五八　捷 二五九　捸 二六〇　捹 二六〇　摢 二六〇　掾 二六〇　捺 二六〇　捻 二六一　掇 二六一　掛 二六一　捽 二六二　掯 二六二　捿 二六二　挎 二六二　掽 二六二　掀 二六二　植 二六三　揀 二六三　振 二六三　掉 二六三　掂 二六三

拼 二六三　掃 二六三　掃 二六五　掄 二六五　掅 二六五　掆 二六五　掇 二六五　授 二六六　掉 二六八　掊 二六九　掋 二六九　掮 二六九　掍 二七一　掎 二七一　掏 二七三　掾 二七三　掐 二七三　掑 二七三　排 二七四　掓 二七七　捆 二七七　捘 二七七　捍 二七七　掖 二七八　掗 二七八　掘 二七八　掙 二七九　插 二八〇　掛 二八〇　挩 二八二　掝 二八二　掞 二八二　掚 二八二　掟 二八二

掠 二八二　採 二八三　掭 二八五　探 二八五　掣 二八九　掤 二八九　接 二八九　揚 二九三　掦 二九三　控 二九三　推 二九四　掩 二九九　措 三〇一　掫 三〇三　捺 三〇三　掬 三〇三　掴 三〇三　撈 三〇三　揁 三〇三　揀 三〇三　搮 三〇三　掙 三〇三　揰 三〇三　掩 三〇三　揆 三〇三　搓 三〇三　揹 三〇三　掭 三〇三　揖 三〇三　揹 三〇三　揭 三〇四　敇 四六二　敁 四六二　趧 四六二

敳 四六二　鼓 四六二　敔 五〇一　戰 五〇一　敍 五〇一　敘 五〇三　敵 五〇三　敽 五〇三　叟 五〇三　敜 五〇三　敎 五〇三　教 五〇三　教 五〇七　散 五〇七　欲 五〇七　敝 五〇七　敏 五〇七　啟 五〇八　敇 五〇八　散 五〇八　救 五〇八　儆 五一二　敓 五一二　敌 五一二　敕 五一二　敖 五一三　敗 五一五　敠 五一七　鞁 五一七　娘 五一七　敳 五一七　敼 五一七　敹 五一七　敞 五一七

敺 五一七　敓 五一八　敊 五一八　敓 五一八　散 五一八　殹 五一八　畜 六〇三　敘 六〇三　悈 六〇三　竟 六〇三　齋 六〇三　斜 六一三　將 六一三　斢 六一三　斛 六一三　斜 六一三　酙 六一五　斛 六一五　斦 六二三　斬 六二三　斲 六二五　断 六二五　旅 六九五　旒 六九五　旃 六九五　旆 六九五　旉 六九五　旄 六九五　旋 六九六　旃 六九八　旌 六九八　旂 七〇一　旎 七〇一　族 七〇一

旃 七〇四　旃 七〇四　旃 七〇四　既 七一二　既 七一三　晨 八七一　晅 八七二　晗 八七二　晘 八七二　晛 八七二　晃 八七二　冒 八七二　昌 八七二　眼 八七二　晙 八七二　晚 八七二　勉 八七八　晛 八七八　晁 八七八　第 八七八　設 八七九　㬥 八七九　量 八七九　晝 八七九　晞 八八二　晟 八八三　喊 八八三　晡 八八三　晢 八八三　晣 八八三　哨 八八三　晤 八八三　晥 八八四　晩 八八四

晧 八八四　晦 八八四　晧 八八五　晨 八八六　昏 八八九　昂 八八九　畀 八八九　昇 八八九　哮 八八九　昝 八八九　晙 八八九　晌 八八九　魁 八八九　晅 八八九　曹 九七七　曼 九八八　朖 一〇四七　朗 一〇四七　朘 一〇四八　朙 一〇四八　萠 一〇四八　望 一〇四九　望 一〇五四　脂 一〇五四　脘 一〇五四　胳 一〇五四　腰 一〇五四

十二畫

戣 三三　戛 三三　戟 三三　戟 三三　戠 三三

戚 三三　戩 三三　戥 三三　戡 三四　戚 三四　戭 三四　扊 七七　扉 七七　扆 七七　扊 七八　扉 七八　肩 七八　拏 二五三　挈 二五四　掊 二六九　掌 二六九　搴 二七四　掔 二七七　掣 二八八　擊 三〇二　婆 三〇三　擊 三〇三　拳 三〇三　挈 三〇三　拿 三〇三　掰 三〇四　弄 三〇四　挫 三〇四　掾 三〇四　掿 三〇四　揀 三〇四　損 三〇五　揢 三〇五　揞 三〇五

揃 三〇五　揄 三〇五　揤 三〇六　揙 三〇六　搬 三〇六　揑 三〇六　揆 三〇六　揥 三〇六　揹 三〇七　掏 三〇七　揹 三〇七　播 三〇七　揉 三〇七　揖 三〇七　揊 三〇七　揋 三〇七　揌 三〇七　揍 三〇八　揎 三〇八　描 三〇八　搋 三〇八　揵 三〇八　提 三〇八　揑 三一三　插 三一四　揷 三一五　揷 三一五　揓 三一五　揔 三一五　揕 三一五　揖 三一六　揗 三一六　揘 三一六　揙 三一六

揚 三一七　揳 三二一　挨 三二一　換 三二一　揜 三二三　揩 三二三　揞 三二四　揹 三二四　揠 三二四　搜 三二四　握 三二四　挌 三二六　掖 三二六　揪 三二六　撥 三二六　揣 三二六　揙 三二七　揤 三二七　揆 三二七　揎 三二七　揋 三二七　擾 三二七　揆 三二七　揥 三二七　揦 三二八　揨 三二八　揩 三二八　揪 三二八　撥 三二八　揆 三二八　揭 三二九　揮 三三〇　揷 三三〇　捽 三三〇

撓 三三〇　揮 三三〇　揈 三三三　揓 三三三　揅 三三三　揁 三三三　揟 三三三　揰 三三三　揜 三三三　揲 三三三　揳 三三三　揻 三三三　揲 三三三　援 三三三　搵 三三四　揵 三三四　揰 三三五　撒 三三五　揭 三三五　揉 三三五　揆 三三五　揆 三三五　撰 三三五　揹 三三五　揆 三三五　揞 三三五　撓 三三五　捋 三三五　揓 三三五　揌 三三五　揁 三三五　揊 三三五　捊 三三五　揟 三三五

揔 三三五　揞 三三五　揶 三三五　揭 三三六　揞 三三六　揶 三三六　搜 三三六　揙 三三六　揆 三三六　揶 三三六　搽 三三六　搭 三三六　揞 三三六　揲 三三六　揊 三三六　揸 三三六　揹 三三六　捷 三三六　揺 三三六　散 四六二　戟 四六二　敧 四六二　敨 四六三　戰 四六三　敦 四六三　敥 五一八　敕 五一八　敚 五一八　敲 五一八　斂 五一八　敝 五一八　敞 五二〇　敷 五二〇　儆 五二〇

敎 五二〇　敠 五二二　敉 五二二　敏 五二二　數 五二二　敬 五二二　敧 五二二　敥 五二二　敡 五二二　敢 五二二　敢 五二二　敨 五二三　敕 五二三　敉 五二三　敳 五二三　散 五二三　致 五三〇　毃 五三〇　敠 五三〇　敝 五三〇　戰 五三〇　敵 五三〇　敊 五三〇　敋 五三〇　敧 五三一　敘 五三一　敦 五三一　敁 五三五　敕 五三五　敁 五三五　敎 五三五　教 五三五　敆 五三五　敁 五三五

敵 五三五　敞 五三五　敬 五三五　斌 六〇三　斐 六〇三　斑 六〇四　斝 六一五　斛 六一六　斜 六一六　斞 六一六　新 六二五　斷 六二五　斳 六二五　斲 六二五　斮 六二五　斯 六二六　廝 六二七　斳 六二七　斳 六二七　斯 六二七　斳 六二七　斱 六二七　斯 六二七　笥 六二七　旃 七〇四　旉 七〇四　旃 七〇四　旎 七〇四　旅 七〇四　旌 七〇四　旋 七〇四　旖 七〇四　旂 七〇四　粽 七一四

就 七一四　晰 八八九　暎 八八九　晝 八八九　晫 八八九　晬 八八九　暃 八九〇　置 八九〇　㬬 八九〇　晭 八九〇　普 八九〇　景 八九三　晾 九〇一　暡 九〇一　晱 九〇一　㫷 九〇三　巽 九〇三　晲 九〇三　晰 九〇三　晢 九〇三　晳 九〇三　睫 九〇三　晴 九〇四　晴 九〇四　睡 九〇四　暌 九〇四　晵 九〇四　隸 九〇四　晉 九〇四　晶 九〇四　唱 九〇四　昦 九〇四　昲 九〇四　晘 九〇四

晷 九〇四　晇 九〇五　晸 九〇五　昝 九〇五　暘 九〇五　智 九〇五　崘 九〇九　喇 九〇九　晻 九一〇　暀 九一〇　睩 九一〇　晼 九一〇　昴 九一〇　晽 九一〇　㬘 九一〇　替 九一〇　曬 九一〇　昏 九一〇　瞁 九一〇　孔 九一〇　暴 九一〇　匙 九一二　量 九一二　㬎 九一二　皋 九一二　啟 九一二　晚 九一二　曉 九一二　暑 九一二　曾 九九〇　替 九九八　最 九九九　朁 一〇〇一　春 一〇〇一

壺 一〇〇二　會 一〇〇二　朜 一〇五四　朝 一〇五四　朝 一〇六九　䑩 一〇六九　冐 一〇六九　朞 一〇六九　期 一〇七〇　腍 一〇七三　朧 一〇七三　腁 一〇七三　腟 一〇七三　扇 一〇七三

十三畫

截 二三四　戠 二三四　戡 二三四　戢 二三四　戥 二三五　戡 二三五　戛 二三五　戔 二三五　戣 二三五　戩 二三五　戳 二三五　戮 二三五　㦷 二三五　㦸 二三五　戲 二三五　臧 二三五　戥 二三五　戫 二三五

戰 二三五　扁 七八　扉 七八　猒 七八　擘 三〇六　殼 三〇八　挈 三〇八　掔 三二四　掣 三二八　挲 三二八　擊 三二八　擎 三三二　搩 三三六　搆 三三六　揜 三三七　搈 三三七　揓 三三七　推 三三七　㨝 三三七　揞 三三七　擉 三三七　揁 三三七　揀 三三八　搋 三三八　搌 三三八　損 三三八　損 三三九　揹 三三九　揍 三三九　搸 三四〇　搎 三四〇　㨟 三四〇　搏 三四〇　搷 三四一

揝 三四一　搋 三四一　搜 三四三　搠 三四三　搉 三四三　搨 三四三　搒 三四三　搰 三四三　搓 三四三　搔 三四三　搕 三四三　搖 三四三　搗 三四五　搢 三四五　搙 三四六　搶 三四六　搛 三四六　搥 三四六　搜 三四六　搽 三四七　搷 三四七　搞 三四七　搟 三四七　搠 三四八　搉 三四八　搡 三四八　搢 三四八　搣 三四八　攖 三四八　搤 三四八　搥 三四九　搞 三四九　搦 三四九　搿 三四九

搧 三四九　搨 三四九　搩 三五〇　搪 三五〇　搬 三五〇　搭 三五〇　揲 三五二　搯 三五二　揟 三五二　搵 三五二　搉 三五二　揮 三五二　摠 三五二　搳 三五二　搿 三五二　搵 三五三　搖 三五三　搜 三五三　搐 三五三　搶 三五三　搷 三五四　搸 三五四　搞 三五四　攜 三五四　搹 三五四　搵 三五四　搫 三五四　搊 三五四　搮 三五四　搯 三五四　揔 三五四　搜 三五四　搌 三五四　搥 三五四

搠 三五四　捿 三五五　搼 三五五　搜 三五五　摒 三五五　搊 三五五　揳 三五五　摟 三五五　搠 三五五　揑 三五五　搽 三五五　搾 三五五　搗 三五五　搃 三五五　揘 三五五　摂 三五五　敼 四六三　敍 四六三　敂 四六三　敫 五三五　敠 五三五　敜 五三五　敤 五三五　敳 五三六　敐 五三六　敠 五三六　敁 五三六　敆 五三六　敞 五三六　散 五三六　敔 五三六　㪇 五三六　敹 五三六　敦 五三六

斅 五三六　毀 五三六　敬 五三六　敲 五四二　敭 五四二　敹 五四二　敷 五四二　敵 五四二　敽 五四二　敎 五四二　数 五四二　敲 五四二　敱 五四二　敨 五四二　敥 五四二　敤 五四二　敢 五四三　敯 五四三　数 五四三　徧 六〇六　渙 六〇六　嵗 六〇六　萋 六〇六　殿 六〇六　斝 六一六　斟 六一六　斞 六一七　斛 六一七　新 六一七　斱 六四六　斮 六四六　断 六四七　斵 六四七　斷 六四七

新 六四七　斯 六四七　斲 六四七　斮 六四七　斶 六四七　斴 六四七　旝 七〇四　旐 七〇四　旒 七〇四　旘 七〇五　旓 七〇五　旞 七〇五　旐 七〇五　旋 七〇五　就 七一四　殪 七一四　旣 七一四　禍 七一四　昬 九一二　暄 九一二　暅 九一二　暆 九一二　暇 九一二　暈 九一三　暉 九一三　暜 九一三　暊 九一三　暋 九一三　喩 九一三　暛 九一三　暠 九一三　暌 九一三　晜 九一三　暍 九一三

暎 九一三　暐 九一三　暏 九一三　暑 九一四　暒 九一四　㬥 九一四　暓 九一四　暔 九一四　㬚 九一四　暕 九一五　暀 九一五　暋 九一五　暚 九一五　暍 九一五　暵 九一五　㬊 九一五　暖 九一五　暗 九一六　暘 九二〇　曄 九二〇　㬅 九二〇　曾 九二〇　睺 九二〇　晫 九二〇　景 九二〇　鴦 九二〇　留 九二〇　睼 九二〇　喇 九二〇　曉 九二一　會 一〇〇二　輮 一〇〇八　奠 一〇〇八　脜 一〇七三

朠 一〇七三　腸 一〇七三　腜 一〇七三　膡 一〇七三

十四畫

戧 二三五　乾 二三五　戣 二三五　駴 二三五　戩 二三六　戩 二三六　戴 二三六　截 二三六　棫 二三七　戴 二三七　戚 二三七　棘 二三七　叟 二三七　戣 二三七　戰 二三七　截 二三七　屋 七八　眡 七八　嗣 七八　擊 三五〇　搿 三五三　搴 三五三　擊 三五三　翕 三五四　擎 三五四　猘 三五五　撥 三五五　撇 三五五

撻 三五五　摍 三五六　摎 三五六　撍 三五六　樅 三五六　撦 三五六　摳 三五六　挽 三五七　撎 三五七　擭 三五七　擲 三五七　擐 三五七　摒 三五七　撻 三五七　摔 三五七　擀 三五七　擦 三五七　撇 三五七　捘 三五七　摘 三五八　摿 三五九　摙 三五九　摌 三五九　摚 三五九　摛 三五九　摑 三五九　撘 三五九　摖 三五九　摜 三五九　掎 三六〇　摝 三六〇　摞 三六〇　摟 三六〇　摠 三六〇

摡 三六〇　撇 三六〇　撓 三六〇　捧 三六〇　摣 三六〇　撈 三六二　挾 三六二　控 三六二　搗 三六二　㨰 三六二　揚 三六二　摦 三六二　摧 三六二　搋 三六三　掤 三六三　摩 三六七　摪 三六七　㨸 三六七　㨹 三六七　撣 三六七　摀 三六七　𢶡 三六七　摫 三六八　摬 三六八　摭 三六八　撇 三六八　㨵 三六八　㨫 三六八　摰 三六九　摱 三六九　摲 三六九　摳 三七〇　摢 三七〇　摵 三七〇

㨔 三七〇　搏 三七〇　摷 三七一　摸 三七一　㨾 三七三　摺 三七三　摻 三七四　摼 三七四　摽 三七四　捲 三七五　搶 三七五　掩 三七五　摑 三七五　捧 三七五　擓 三七五　搐 三七五　㩁 三七六　搷 三七六　擨 三七六　擦 三七六　擠 三七六　撐 三七六　㯃 三七六　擡 三七六　撓 三七六　搗 三七六　㩅 三七六　撞 三七六　捧 三七六　搰 三七六　擄 三七六　毅 四六三　鼓 四六三　嫈 四六三

敕 五四三　敥 五四三　嫠 五四三　㪊 五四三　毅 五四三　韍 五四三　𢿛 五四三　敵 五四三　敷 五四三　毃 五四三　𢿱 五四三　豉 五四三　敺 五四三　歀 五四三　餿 五四三　豰 五四三　敦 五四三　敲 五四三　敲 五四四　㪍 五四四　敿 五四四　數 五四四　夔 五四四　㪔 五四四　㪗 五四四　斂 五四四　毆 五四四　斠 六一七　斢 六一七　斡 六一七　斜 六一八　𣃇 六一八　斷 六四七　斵 六四七

斲	六四七
新	六四七
斵	六四七
㫙	七〇五
㫻	七〇五
旆	七〇五
旖	七〇五
旛	七〇五
旗	七〇五
旄	七〇九
暚	九二一
暀	九二一
暛	九二一
暒	九二一
普	九二一
暝	九二一
暿	九二一
暷	九二一
暞	九二一
𣋠	九二一
暟	九二一
暠	九二一
㬕	九二一
暆	九二一
暊	九二一
晢	九二一
暡	九二三
暢	九二三
暣	九二三
翰	九二三
暽	九二三
㬎	九二三
曞	九二三
暤	九二三
暥	九二三
最	九二三
暇	九二三
暗	九二三
猒	九二三
暓	九二三
學	九二三
暈	九二三
曾	九二三
晬	九二三
曆	九二三
䡆	一一〇八
輮	一〇〇八
朅	一〇〇九
普	一〇〇九
朝	一〇七二
朚	一〇七二
望	一〇七三
滕	一〇七三
十五畫	
戳	三八
戫	三八
戣	三八
戭	三八
戢	三八
截	三八
戲	三八
戮	三八
戩	三九
截	三九
截	三九
𢧐	三九
戱	三九
錢	三九
戴	三九
裁	三九
戚	三九
戲	三九
腒	七八
脤	七八
掔	三五五
窶	三五六
窒	三五六
摩	三六三
摩	三六七
摩	三六七
摩	三六八
摮	三六八
摮	三六八
挈	三六八
摯	三六八
摯	三六九
摲	三六九
摹	三七三
擘	三七四
擎	三七六
擊	三七六
握	三七六
撅	三七六
撤	三七六
撈	三七七
擑	三七七
撊	三七七
撋	三七八
擇	三七八
擯	三七八
擯	三七八
播	三七八
擋	三七八
撟	三七八
撞	三七八
撏	三七八
撲	三七八
撐	三七八
撐	三七九
攄	三七九
撫	三七九
撒	三七九
撓	三八一
播	三八二
撣	三八二
撱	三八二
撠	三八二
撞	三八二
撩	三八二
撕	三八二
撼	三八二
擿	三八二
撑	三八二
撤	三八二
撗	三八二
搭	三八二
撙	三八三
撚	三八三
撛	三八三
撜	三八四
撝	三八四
撞	三八四
撳	三八五
撟	三八五
撖	三八六
撖	三八六
擬	三八六
撚	三八六
撢	三八六
撣	三八六
撤	三八七
撥	三八七
擔	三九〇
攮	三九〇
撿	三九〇
捋	三九〇
據	三九〇
搘	三九〇
機	三九〇
撫	三九〇
撨	三九〇
擦	三九〇
攋	三九一
撌	三九一
撩	三九一
撁	三九一
撫	三九一
撲	三九四
撬	三九四
播	三九四
撮	三九六
掞	三九七
撒	三九七
攘	三九七
撦	三九七
撰	三九七
撱	三九八
撲	三九八
搖	三九九
擸	三九九
擾	三九九
擹	三九九
攗	三九九
擶	三九九
擹	三九九
擫	三九九
擕	三九九
擠	三九九
擩	三九九
撿	三九九
撽	三九九
孌	四六三
數	四六三
斂	四六三
戲	五四四
戮	五四四
敹	五四五
皺	五四五
戲	五四五
整	五四五
戲	五四五
敵	五四五
夐	五四七
斂	五四七
陬	五四七
嫠	五四七
敷	五四七
敷	五四九
穀	五四九
㲉	五四九
敹	五四九
數	五四九
數	五五三
數	五五三
敹	五五三
歐	五五三
歐	五五三
敺	五五三
散	五五三
敹	五五三
敫	五五三
斂	五五三
斄	六〇六
數	六〇六
敹	六〇六
斆	六〇六
斠	六一八
斣	六一八
斲	六一八
斸	六四八
斷	六四八
斳	六四八
斷	六四八
斲	六四八
旚	七〇九
旛	七〇九
旞	七〇九
暩	九二四
暜	九二四
暿	九二四
暸	九二四
曒	九二四
瞟	九二四
暚	九二四
暪	九二四
暫	九二四
嘶	九二五
晳	九二五
晫	九二五
㬇	九二五
𣋠	九二五
𣊭	九二五
曹	九二五
暮	九二五
暝	九二七
暰	九二七
曉	九二七
暱	九二七
暲	九二七
晳	九二七
晴	九二七
暳	九二八
暴	九二八
暯	九二三
暶	九二三
㬥	九二三
晉	九二三
曾	九二三
暴	九二三
曄	九二三
暷	九二三
最	九二三
臭	九二三
聲	一〇〇九
甦	一〇〇九
豊	一〇〇九
膰	一〇七三
䑊	一〇七三
䏹	一〇七三
腂	一〇七三
腹	一〇七三
十六畫	
戴	三九
戰	三九
戲	四四
戭	四四
戴	四四
戧	四四
臧	四四
戴	四四
戫	四四
餓	四四
截	四四
戳	四四
媥	七八
擊	三七六
擎	三七七
擧	三九〇
擧	三九四
擊	三九九
擊	三九九
擘	三九九
撓	三九九
擻	四〇〇
擡	四〇〇
撼	四〇〇
撽	四〇一
擓	四〇一
撿	四〇一
擀	四〇三
擁	四〇三
擂	四〇四
擽	四〇四
擗	四〇四
擃	四〇四
擄	四〇四
撢	四〇四
擁	四〇四
擅	四〇五
擷	四〇六
擷	四〇六
擊	四〇六
擆	四〇六
擇	四〇六
擈	四〇八
擫	四〇八
擉	四〇八
搬	四一一
擋	四一一
擼	四一一
擻	四一一
擋	四一一
操	四一三
擖	四一四
撤	四一四
㩅	四一四
捲	四一四
擮	四一四
擐	四一四
撈	四一五
擮	四一五
擒	四一五
擡	四一五
擩	四一五
㧜	四一五
擲	四一五
擄	四一五
擣	四一五
擁	四一五
擁	四一五
擒	四一五
㯳	四一五
捍	四一五
擔	四一五
揚	四一七
攜	四一七
攜	四一七
撫	四一七
擖	四一七
擗	四一七
擏	四一八
㩘	四一八
擙	四一八
據	四一八
擈	四一九
擠	四一九
擇	四一九
擡	四一九
擽	四一九
擿	四一九
嫚	四六三
廒	四六三
敵	四六三
穀	四六三
敼	五五四
鼓	五五四
斂	五五四
敲	五五四
戴	五五四
戲	五五四
敾	五五四
敾	五五四
敲	五五四
敹	五五四
敫	五五四
敺	五五四
敼	五五四
敷	五五四
敽	五五四
穀	五五四
散	五五四
敬	五五四
敵	五五四
整	五五四
整	五五四
數	五五六
肇	五五六
㪃	五五六
斁	五五六
斄	六〇六
斀	六〇六
斢	六一八
斲	六四八
斯	六四八
斸	六四八
斵	六四八
斮	六四八
斲	六四八
斳	六四八
毚	六四八
旓	七〇九
旝	七〇九
旘	七〇九
旞	七〇九
㫽	七〇九
騷	七一四
暸	九二三
㬈	九二三
遲	九二三
暺	九二三
嘯	九二三
暻	九二三
暥	九二三
暼	九二三
暽	九二三
曔	九二三
瞈	九二三
暾	九二三
暾	九二三
㬂	九二三
暿	九二三
曀	九二三
晉	九二三
暨	九二四
㬝	九二四
曂	九二四
曃	九二四
曄	九二四
曅	九二四
曆	九二四
曇	九二六
㬓	九二七
㬎	九二七
曈	九二七
曉	九二七
曊	九四二
曋	九四二
曹	九四二
曟	九四二
暖	九四二
暀	九四二
閒	九四二
暽	九四二
曍	九四二
曌	九四二
暜	九四二
曓	九四二
瘱	九四二
曘	九四二
暘	九四二
暍	九四二
替	一〇〇九
朥	一〇〇九
膡	一〇七三
膘	一〇七三
膧	一〇七三
膬	一〇七三
朤	一〇七三
䑆	一〇七三
膊	一〇七三
十七畫	
戮	四四
臧	四四
戧	四四
戲	四四
截	四八
戴	四八
屨	七八
擊	四〇一
攀	四〇四
擊	四〇六
擊	四〇八
擎	四一四
擘	四一七
擊	四一九
操	四一九
擟	四一九
擠	四一九
擲	四二〇
擦	四二〇
擡	四二〇
擢	四二一
擣	四二一
㩚	四二三
擾	四二三
擽	四二三
擤	四二三
擱	四二三
擥	四二三
擈	四二三
擦	四二三
擽	四二七
擻	四二七
擩	四二八
擪	四二八
攝	四二八
擬	四二八
擖	四三〇
擙	四三〇
㩌	四三〇
擿	四三〇
㩃	四三〇
擭	四三〇
擸	四三〇
擨	四三〇
擮	四三〇
擯	四三〇

擇 四三二　控 四三二　擰 四三二　劉 四三二　搣 四三二　搮 四三二　擽 四三二　擵 四三二　擲 四三二　揔 四三二　擐 四三二　擱 四三二　鼔 四三三　皷 四三三　敾 四六四　敬 四六四　穀 五五六　敺 五五六　斀 五五六　戲 五五六　歔 五五六　斁 五五六　斂 五五六　斆 五五七　斂 五五七　斅 五五八　斀 五五八　斃 五五八　斁 五五八　對 六一八　斶 六一八　斟 六一八　斳 六四八　斲 六四八

屬 六四八　新 六四八　斵 六四八　斷 六四八　旛 七〇九　旝 七〇九　曎 九四三　鄏 九四二　曐 九四二　曑 九四二　曘 九四二　曔 九四三　暴 九四三　曒 九四三　曈 九四三　曕 九四三　曍 九四三　曖 九四三　曗 九四三　曦 九四三　曥 九四三　嘗 九四三　曚 九四三　署 九四三　曡 九四三　曑 九四三　曫 一〇〇九　曬 一〇〇九　朦 一〇七三　朧 一〇七三　覷 一〇七三

十八畫

戳 四八　戴 四八　辟 七八　賾 七八　擘 四三三　擧 四三三　擪 四二八　擲 四三三　擮 四三三　擴 四三三　擳 四三三　擥 四三三　擶 四三三　擷 四三三　擸 四三三　擹 四三三　擻 四三四　擼 四三四　擽 四三四　擾 四三四　擿 四三四　攂 四三四　攄 四三四　攃 四三四　攅 四三四　攆 四三五　攇 四三五　攈 四三五　攉 四三五　攊 四三五　攋 四三五　攌 四三五

攍 四三五　攎 四三五　攏 四三六　攐 四三六　攑 四三七　攒 四三七　攓 四三八　攔 四三八　攕 四三八　攖 四三八　攗 四三九　攘 四三九　攙 四三九　攚 四三九　攛 四三九　攜 四三九　攝 四三九　攞 四三九　攟 四三九　攠 四三九　攡 四三九　數 五五八　斂 五五八　斃 五五八　斄 五五八　斅 五五八　斆 五五九　斈 五五九　斉 五五九　斊 五五九　斋 五五九　斌 五五九

斍 六〇六　辯 六〇六　斎 六四八　斏 六四八　斐 六四八　斑 六五四　斒 六五四　斓 六五四　旞 七〇九　旟 七〇九　旐 七一〇　旜 七一〇　旝 七一〇　旚 七一〇　嚮 九四三　曘 九四三　曝 九四三　曙 九四四　曚 九四四　曛 九四四　曜 九四四　曝 九四四　曞 九四五　曟 九四五　曠 九四五　曡 九四五　曢 九四五　曣 九四五　曤 九四五　曥 九四五　曦 九四五　曧 一〇〇九

曨 一〇〇九　膹 一〇七三　臘 一〇七三　臚 一〇七四

十九畫

戲 五五五　戳 五五五　戴 五五五　戰 五五五　擊 四三五　攀 四三七　擧 四三九　攕 四三九　攖 四三九　攗 四三九　攘 四三九　攙 四四〇　攚 四四〇　攛 四四〇　攜 四四〇　攝 四四〇　攞 四四〇　攟 四四〇　攠 四四〇　攡 四四〇　攢 四四〇　攣 四四〇　攤 四四〇　攥 四四〇　攦 四四〇　攧 四四〇　攨 四四〇　攩 四四一　攪 四四一

攫 四四一　攬 四四一　攭 四四一　攮 四四一　攳 四四一　攰 四四一　攱 四四一　攲 四四一　攳 四四一　斁 五五九　斀 五五九　斃 五五九　數 五五九　斄 五五九　斆 六〇六　斆 六一八　斵 六五四　斷 六五四　旞 七一〇　旟 七一〇　旜 七一〇　旝 七一〇　曤 九四五　曦 九四五　曨 九四五　曩 九四六　曪 九四六　曫 九四六　曬 九四六　曭 九四六　曮 九四六　曯 九四六　曰 九四七　曱 九四九

曲 九四九　曳 九四九　更 一〇〇九

二十畫

戴 五五五　戲 五五五　擊 四四〇　攀 四四一　攁 四四一　攂 四四一　攃 四四二　攄 四四二　攅 四四二　攆 四四二　攇 四四二　攈 四四二　攉 四四二　攊 四四三　攋 四四三　攌 四四三　攍 四四三　攎 四四四　攏 四四四　攐 四四五　攑 四四五　攒 四四五　攓 四四五　攔 四四五　攕 四四五　攖 四四五　攗 四六四　戲 五五九　斀 五五九

斀 五五九　斁 五五九　斂 五六〇　斃 五六〇　斄 五六〇　斅 五六〇　數 五六〇　斆 五六〇　斉 五六〇　斳 六〇六　斷 六五四　旟 七一〇　曡 九四九　曦 九四九　曨 九四九　曫 九四九　曬 九四九　曮 九四九　曯 九五〇　曩 九五〇　曪 九五〇　曭 一〇〇九　曬 一〇〇九　朧 一〇七四　臙 一〇七四

二十一畫

戳 五五五　戴 五五五　屬 七八　攀 四四二　攡 四四五　攢 四四五

攦 四四五　攧 四四五　攨 四四五　攩 四四六　攪 四四六　攫 四四六　攬 四四六　攭 四四六　攮 四四七　攳 四四九　攰 四四九　攱 四四九　攲 四四九　攳 四四九　攴 四四九　攵 四四九　收 四四九　攷 五六〇　攸 五六〇　改 五六〇　攺 五六〇　攻 六〇六　旛 七一〇　曩 九五〇　曬 九五〇　曭 一〇〇九

二十二畫

戳 五五五　擊 四四五　攥 四四九　攦 四四九　攬 四四九　攞 四五〇

攠 四五〇　攡 四五〇　攢 四五〇　攣 四五〇　攤 四五〇　攥 四五〇　攦 四五一　攧 四五二　攨 四五二　攩 四五二　攪 四五二　斆 五六〇　斷 六五四　旞 七一二　旟 七一二　曬 九五〇　曭 九五〇　曮 九五〇　曯 九五〇

二十三畫

攀 四五〇　攣 四五一　攣 四五二　攫 四五二　攬 四五二　攭 四五二　攮 四五二　攳 四五二　攰 四五二　攱 四五二　攲 四五四　攳 四五四　變 五六〇

斁 五六〇　斀 五六〇　斃 五六〇　斄 六〇七　斅 六〇七　斆 六一八　旟 七一二　曬 九五〇　曬 九五〇　曭 九五〇　曮 九五一　曯 九五一　曦 九五一　臙 一〇七四

二十四畫

攬 四五四　攮 四五五　攭 四五五　攫 四五五　攩 四五五　攪 四五五　攥 四五五　攦 四五五　旟 七一二　曭 九五一　曮 九五一　曯 九五一　曬 九五一　臙 一〇七四

二十五畫

攩 四五五　攮 四五五

攬 四五五　斅 五六〇　斷 六五四　攦 七一二　曯 九五一　曬 九五一　爨 一〇〇九

二十七畫

攮 四五五　攫 四五五　攭 一〇一〇

二十八畫

攬 四五五　曬 九五一

三十二畫

攮 四五五　讕 一〇一〇

三十五畫

讚 一〇一〇

三十六畫

齉 九五一

大漢和辭典

諸橋轍次著

戈部

【戈】11530　〔集韻〕古禾切　歌　クヮ　ㄍㄜ　kē

戈（小篆）　㊀**ほこ**。柄の先端に兩刃の刀を横に著け、主として人の頸を扼して殺傷するもの。横刀が單出するものを戈、左右に雙出するものを戟といふ。〔說文〕戈、平頭戟也、从㆑弋、一衡㆑之、象形。〔鍇注〕戟、小枝上向則爲㆑戟、平㆑之則爲㆑戈。〔說文通訓定聲〕戈、按、戈者、柲也、長六尺六寸、其刃横出、可㆑句可㆑擊、與㆓矛專刺、殳專擊者㆒不㆑同、亦與㆘戟之兼㆓刺與㆒㆑句者㆖異。〔釋名、釋兵〕戈、句矛戟也、戈、過也、所㆓刺擣㆒則決過、所㆓鉤引㆒則制㆑之弗㆑得㆑過也。〔周禮、考工記、冶氏〕戈、廣二寸、內倍㆑之、胡三㆑之、援四㆑之。〔東觀餘論〕戈之制、兩旁有㆑刃、横置而末銳若㆓劍鋒㆒、所謂援也、援之下如㆓磬折㆒、稍剡而漸直、若㆓牛頸之垂胡㆒者、所謂胡也、胡之旁一接㆑柲者、所謂內也、援形正横、而鄭以爲㆓直刃㆒、禮圖從而圖㆑之、若㆓矛槊㆒然、誤矣、蓋戈、擊兵也、可㆑句可㆑啄、而非㆓用以刺㆒也、是以衡而弗㆑從。〔考工創物小記〕戈之制、有㆑援、援、其刃之正者、衡出以啄㆑人、其本、卽內也、內衡㆓貫於頬之鑿㆒而出㆑之、如㆓量鑿正枘之枘㆒、讀如㆘出㆓內朕命㆒之內㆖、故謂㆓之內㆒、援接㆑內處、折而下垂者、謂㆓之胡㆒、胡之言喉、如㆓喉承㆑頬折而直下㆒也、援衡㆓胡上㆒、故曰㆓平頭㆒也、驗㆘古戈之流㆓傳於今㆒者㆖、皆如㆑此。〔詩、秦風、無衣〕脩㆓我戈矛㆒。〔傳〕戈、長六尺六寸。㊁**いくさ。たたかひ**。〔吳志、孫皓傳〕止㆑戈興㆑仁。〔杜甫、秦州雜詩〕鳳林戈未㆑休。㊂**國の名**。春秋時代、宋・鄭二國の國境に存在した國。〔左氏、哀、元〕逐滅㆓過・戈㆒。㊃**姓**。〔通志、氏族略、以㆑國爲㆑氏〕戈氏、夏時諸侯豷之國也、少康滅㆑之、其地在㆓宋鄭之閒㆒、子孫以㆑國爲㆑氏。邦**ほこづくり**。漢字字劃上の名。

名乘　モチ。カタ。

解字　象形。弋に横の刃を意味する一を加へた形。刃が横に出、引きかけたり、擊つたりする兵器。〔說文〕戈、平頭戟也、从㆑弋、一衡㆑之、象形。〔段注〕戈者、兼㆓句與㆒㆑毄者也、用㆓其横刃㆒則爲㆓句兵㆒、用㆓横刃之喙㆒以啄㆑人、則爲㆓毄兵㆒、毄與㆑句相因爲㆑用。

【戈羽】1　クヮウ　舞者の執るほこと竿頭に鳥羽の飾を附けたもの。〔禮、月令〕〔仲夏之月〕執㆓干戚戈羽㆒。〔疏〕戈、鉤孑戟、羽、鳥羽、周禮、羽舞・皇舞之屬、是也。〔呂覽、仲夏〕執㆓干戚戈羽㆒。〔新書、傳職〕干戚戈羽之舞、管籥琴瑟之會。

【戈影】2　クヮエイ　ほこのかげ。〔駱賓王、從軍行〕埜日分㆓戈影㆒、天星合㆓劍文㆒。

【戈偃】3　クヮエン　武器を藏めて用ひぬこと。轉じて戰爭をやめる意。偃武。〔楊巨源、春日奉㆓獻聖壽無㆑疆詞㆒〕戈偃征苗後、詩傳宴鎬初。

【戈鎧】4　クヮガイ　ほことよろひ。戈甲。〔唐書、王鍔傳〕旗幟光鮮、戈鎧犀密、回鶻恐不㆓敢仰視㆒。

【戈腔】5　クヮカウ　戲劇曲調の一。一に戈調に作る。一名、戈陽梆子秧腔。俗に揚州梆子といふ。調子は極めて平易。或は古の弋陽腔か。

【戈甲】6　クヮカフ　ほことよろひ。戈鎧。〔尉繚子、兵令下〕內卒出戍、令㆔將吏授㆓旗鼓戈甲㆒。〔南史、劉之亨傳〕仗㆑節而西、樓船戈甲甚盛。〔張說、奉㆓和聖製太行山中言㆑志應制詩㆒〕羽儀映㆓松雪㆒、戈甲帶㆓春寒㆒。〔王涯、從軍詞〕戈甲從㆑軍久、風雲識㆓陣難㆒。

【戈檻】7　クヮカン　警備のためにほこを並べて作ったかこひ。〔杜牧、羊欄浦夜陪㆓宴會㆒詩〕戈檻營中夜未㆑央、雨沾雲惹侍㆓襄王㆒。

【戈旗】8　クヮキ　ほことはた。〔南齊書、氐楊傳〕此府器械山積、戈旗林聳、士卒剽勁、蓄㆑銳權㆑威、除㆑難勦㆑寇、豈俟㆓徵習㆒。

【戈麾】9　クヮキ　戈でさしまねく。援㆑戈撝㆑日(54)を見よ。〔唐書、韓愈傳〕陛下卽位以來、躬㆓親聽斷㆒、旋㆑乾轉㆑坤、關機闔開、雷厲風飛、日月清照、天戈所㆑麾、無㆑不㆓從順㆒。

【戈腳】10　クヮキャク　筆法の名。右向の斜鉤をいふ。戈法(37)を見よ。〔宣和書譜〕釋智永善㆓羲之書㆒、而虞世南師㆑之、頗得㆓其體㆒、太宗乃以㆑書師㆓世南㆒、然嘗患㆓戈腳不㆑工、偶作㆓戩字㆒、遂空㆓其戈㆒、令㆓世南足㆑之、以示㆓魏徵㆒、徵曰、今觀㆓聖作㆒、惟戩字戈法逼㆑眞、太宗歎㆔其高㆓於藻識㆒、然自㆑是益加㆑工焉。

【戈居】11　クヮキョ　縣名。漢、置く。北地郡に屬す。北地郡は今の甘肅省環縣の南。〔漢書、地理志下〕北地郡、縣十九、戈居。

【戈棘】12　クヮキョク　ほこ。〔謝靈運、撰征賦〕孤矢罄㆓楚孝之心智㆒、戈棘單㆓吳子之精靈㆒。

【戈戟】13　クヮゲキ　ほこをいふ。戈は一つまた、戟は三つまたのほこ。〔司馬法、定爵〕右㆑兵、弓矢御、殳矛守、戈戟助。〔隋煬帝、遺㆓陳尚書江總㆒檄〕望㆓我寬仁㆒、思㆑倒㆓戈戟㆒、通在㆓戎行㆒、更成㆓敵國㆒。

【戈戟齊】14　クヮゲキサイ　古の合金の品數の名。〔周禮、考工記、輈人〕四㆓分其金㆒而錫居㆑一、謂㆓之戈戟之齊㆒。

【戈擊】15　クヮゲキ　ほこでうつ。〔左氏、襄、十八〕中行獻子、將㆑伐㆑齊、夢與㆓厲公㆒訟弗㆑勝、公以㆑戈擊㆑之、首墮㆓於前㆒、跪而戴㆑之、奉㆑之以走、見㆓梗陽之巫皐㆒。

【戈劍】16　クヮケン　ほことつるぎ。〔呂覽、侈樂〕世之人主、多以㆓珠玉戈劍㆒爲㆑寶、愈多而民愈怨、國人愈危、身愈危累、則失㆓寶之情㆒矣。〔墨子、節葬下〕戈劍、羽旄、齒革。〔徐堅、奉㆔和聖製送㆓張說巡㆑邊詩〕鼙鼓喧㆓雷電㆒、戈劍凜㆓風霜㆒。〔白居易、東南行〕戈劍星芒耀、魚龍電策驅。

【戈源】17　クヮゲン　淸の人。濤の弟。字は仙舟。號は橘浦。乾隆の進士。官は太僕寺少卿。〔國朝耆獻類徵、初編、九十一〕・〔大淸畿輔先哲傳、三十三〕。

【戈胡】18 クワコ　ほことほこのかま。胡は戈の鋒の曲つて旁出するもの、かま。字解の㊀を見よ。〔周禮、考工記、冶氏〕戈廣二寸、内倍レ之、胡三レ之、援四レ之。〔注〕胡、其孑。

【戈載】19 クワサイ　清、吳縣の人。字は順卿。號は山塘詞隱、校詞讀畫之齋。詞に巧。書室を瀟碧軒・翠微花館といふ。著に翠微雅詞・詞林正韻がある。〔清畫家詩史、庚、下〕・〔國朝書人輯略、九〕。

【戈霜】20 クワサウ　ほこの光が霜のやうに白く威あること。〔虞世南、結客少年場行〕餤餤戈霜動、耿耿劍虹浮。

【戈汕】21 クワサン　明、常熟の人。字は莊樂。詩・畫に巧。〔常熟志〕。

【戈氂】22 クワシヤウ　戈の一種。戈刃を黃金で塗り、朱竿には雲氣を畫き、五色のはたをつけ、はたの末端に鈴を附けたもの。〔三才圖會、儀制四、戈氂圖考〕按、釋名曰、戈、勾孑戟也、戈、過也、所レ刺所レ決過レ之、所二勾引一制レ之、不レ得レ過也、今制爲二戈刃一、以二黃金一塗レ之、朱竿畫二雲氣一、上綴二五色旛帶一、末俱綴二金銅鈴一。

【戈城】23 クワジヤウ　ほこで作つたしろ。戈を並べて城のやうにしたまもり。〔皎然、從軍行〕萬里戈城合、三邊羽檄分。

【戈殳】24 クワシユ　ほこ。殳は車上に用ひる長さ一丈二尺の梃。〔曹植、七啓〕丹旗耀レ野、戈殳晧旰。

【戈盾】25 クワジユン　ほことたて。戈楯。〔詩、大雅、抑、弓矢戎兵、疏〕又言、戎兵、容二戈盾矛戟之類一、軍之所レ用皆是。〔周禮、夏官、旅賁氏〕喪紀則衰葛執二戈盾一、軍旅則介而趨。〔周禮、夏官、司戈盾〕掌二戈盾之物一、而頒レ之。

【戈楯】26 クワジユン　戈盾に同じ。〔左氏、昭、二十五〕臧氏使下五人以二戈楯一、伏中諸桐汝之閭上。

【戈舂】27 クワシヨウ　先のとがつたほこで米をつく。なし難いことの喩。〔荀子、勸學〕不レ道二禮憲一、以二詩書一爲レ之、譬レ之猶二以レ指測レ河也、以レ戈舂レ黍也、以レ錐飡レ壺也。

【戈刃】28 クワジン　ほことやいば。兵刃。〔後漢書、盧植傳論〕當下植抽二白刃嚴閣之下一、追二帝河津之閒一、排二戈刃一赴中戕折上、豈先計哉、君子之於二忠義一、造次必於レ是、顚沛必於レ是也。

【戈星】29 ホコボシ　桙形をした彗星。破軍星。〔日本紀略、三〕天曆元年正月二十七日癸丑、此夜怪星見二西方一、俗人號二戈星一、有二三所一。〔貞信公記〕天曆二年正月十九日、坤方見二長七尺許物一、舊式云、戈星也。

【戈戚】30 クワセキ　ほことをの。矛斧。干戚(**4－9165‥66**)を見よ。〔詩、大雅、公劉〕干戈戚揚、爰方啓レ行。〔傳〕戚、斧也。

【戈船】31 クワセン　㊀蛟鼉などの害をふせぐために船の底の外面にほこを施した船。一說に、戈を載せて敵を防ぐ船。戰船。〔越絕書、越絕外傳記地傳〕句踐伐レ吳霸二關東一、從二瑯琊一起二觀臺一、臺周七里、以望二東海一、死士八千人、戈船三百艘。〔漢書、武帝紀〕夏四月、南越王相呂嘉反、殺二漢使者及其王・王太后一、云云、遣二伏波將軍路博德一、出二桂陽一下二湟水一、樓船將軍楊僕、出二豫章一下二湞水一、歸義越侯嚴爲二戈船將軍一、出二零陵一下二離水一。〔注〕張晏曰、越人於二水中一負二人船一、又有二蛟龍之害一、故置二戈於船下一、因以爲レ名也、臣瓚曰、伍子胥書有二戈船一、以載二干戈一、因謂二之戈船一也、師古曰、以二樓船之例一言レ之、則非レ爲レ載二干戈一也、此蓋船下安二戈戟一以御二蛟鼉水蟲之害一、張說近レ之。〔王先謙補注〕劉攽曰、船下安レ戈、既難二措置一、又不レ可二以行一、且今造二舟船一甚多、未三嘗有二置レ戈者一、顏北人不レ知レ行レ船、故信二張說一、予謂瓚說是、宋祁曰、戈船將軍、當時所レ建之官、如二驃騎虎牙之類一是也、戈船今有レ之、設二干戈於船上一、以禦レ敵也。〔左思、吳都賦〕戎車盈二於石城一、戈船掩二於江湖一。〔宋書、謝晦傳〕檀道濟統二勁銳武卒三萬一、戈船蔽レ江、星言繼發、千帆俱擧、萬棹遄征。〔梁元帝、討二侯景一檄〕朱旗夕建、如二赤城之霞起一、戈船夜動、若二滄海之奔流一。〔庾信、哀江南賦〕戎車屯二於石城一、戈船掩二乎淮泗一。㊁漢代、將軍の名號。

【戈鋋】32 クワセン　ほこ。㊀鋋は、こぼこ。〔班固、東都賦〕元戎竟野、戈鋋彗雲。〔注〕善曰、說文曰、鋋、小矛也。〔柳宗元、招二海賈一文〕高下迾置滔二危顚一、崩濤搜疏剡二戈鋋一。〔杜牧、分司東都寓居履道叨承二州尹劉大夫恩知一詩〕戈鋋迴二紫塞一、干戚散二彤庭一。

【戈殺】33 クワタイ　ほこ。戈殳(24)に同じ。〔詩、曹風、候人〕彼候人兮、何二戈與レ殺。〔傳〕殺、殳也。

【戈濤】34 クワタウ　清、獻縣の人。字は芥舟。號は蓮園・坳堂。乾隆の進士。官は刑科給事中。著に獻邑志・坳堂詩集・坳堂雜著がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵初編、一百三十七〕・〔大清畿輔先哲傳、二十二〕。

【戈鐵】35 クワテツ　ほこ先の鐵。戈の刃。〔薩都剌、過二居庸關一詩〕夜來鋤レ豆得二戈鐵一、雨蝕風吹失二顏色一。

【戈登】36 ゴルドン　清の時の人。英國の軍人(Charles George Gordon)。又、哥頓と音譯す。咸豐十年、中國に派遣され、同治二年三月、李鴻章の請に應じて常熟を救援し、五年五月、遂に太平軍の根據、常熟を攻落し、功により、提督の號を賜はり、黃袍を與へらる。同年十一月、中國を去つて埃及スダン總督となり、蠻族を討つて戰死した。〔清史稿、四百四十二〕・〔續碑傳集、七十〕・〔中興將帥列傳、三十〕。

【戈法】37 クワハフ　書法で、斜に右に向つてはねるはね。戈腳(10)を見よ。

【戈柲】38 クワヒ　ほこの柄。〔周禮、考工記、總目〕車軫四尺、謂二之一等一、戈柲六尺有六寸、既建而迤二崇於軫一四尺、謂二之二等一。

【戈兵】39 クワヘイ　兵器。轉じて、戰爭。〔易、說卦〕離爲レ火、爲レ日、爲レ電、爲二中女一、爲二甲冑一、爲二戈兵一。〔殷堯藩、署中答二武功姚合一詩〕全家笑無レ辱、曾不レ見二戈兵一。

【戈壁】40 ゴビ　蒙古の大部分を占めてゐる沙漠の名。戈壁は蒙古語、沙漠の意。大漠(**3－5831**‥1929)を見よ。

【戈鋒】41 クワホウ　ほこの尖端。ほこさき。鋒鏑。〔庾肩吾、奉二使北徐州參丞御一詩〕迴レ天隨二輦道一、駐レ日逐二戈鋒一。

【戈矛】42 クワボウ　ほこ。矛は枝のないほこ。〔書、費誓〕備二乃弓矢一、鍛二乃戈矛一。〔詩、秦風、無衣〕王于興レ師、脩二我戈矛一。〔後漢書、孔融傳〕流矢雨集、戈矛內接、融隱レ几讀レ書、談笑自若。〔唐書、禮樂志、六〕長者持二弓矢一、短者持二戈矛一。

【戈櫓】43 クワロ　ほことたて。〔曹植、東征賦〕循二戈櫓于清流一兮、汜二雲梯一而容與。

【偃レ戈】44 ホコヲフス　ほこをふせて用ひぬ。戰をやめる義。偃革。偃甲。偃武。〔陳彭年、大寶箴〕不レ懈二于位一、俗乃偃レ戈。

【止レ戈】45 ホコヲトドム　戈を用ひることを止める。兵亂を止める。武の字を分てば戈・止となる、故に戈を止めるを武の本義とする。〔左氏、宣、十二〕楚子曰、非二爾所レ知也、夫止レ戈爲レ武。

〖止レ戈之武〗46 ホコヲトドムルノブ　武の本義をいふ。武の字は止戈の二字を合せたものであるからいふ。〔後漢書、光武紀下〕退二功臣一而進二文吏一、戢二弓矢一而散二馬牛一、云云、斯亦止レ戈之武焉。

【倒レ戈】47 クワヲサカシマニス　味方にやいばを向ける。うらぎりする。〔書、武成〕前徒倒レ戈、攻二于後一以北。

【枕レ戈】48 ホコヲマクラニス　常に兵器を持ち、寢に就くにも、之を枕邊に用意する。㊀父母の讐を復する苦心をいふ。寢レ苫(**9－30802**‥14)を見よ。〔徐陵、冊二陳王九錫一文〕公枕レ戈嘗レ膽、提レ劍折レ心。〔唐律、賊盜、釋文〕枕レ戈、謂二父母之讐一、忍報二其讐一、至二於寢睡一、尚枕二戈器一、以圖二復殺一。〔杜甫、壯遊詩〕枕レ戈憶二句踐一、渡レ浙想二秦王一。㊁常に心を軍國に存するをいふ。〔五代史、雜三十八、劉詞傳〕劉詞居暇日常披レ甲枕レ戈而臥、謂レ人曰、吾以レ此取二富貴一、豈可二一日輙忘一レ之。

〖枕レ戈寢レ甲〗49 クワヲマクラニシカフニイヌ　戈を枕とし甲を着たまま寢る。武備を怠らぬこと。常に戰爭に從ふこと。〔晉書、赫連勃勃載記〕勃勃曰、云云、自枕レ戈寢レ甲十有二年。

〖枕レ戈待レ旦〗50 ホコヲマクラニシテタンヲマツ　戈を枕にして夜明けを待つ。非常を戒める意。心を軍國に存して安眠しない喩。〔晉書、劉琨傳〕吾枕レ戈待レ旦、志レ梟二逆虜一、常恐三祖生先二吾著一レ鞭。

【戈什哈】51 クワジフカフ　清代、將軍・都統・副都統等の左右に在つて之を護衛する官。戈什哈は滿洲語で、護衛の義。後、督撫の差官も戈什と稱した。〔清國行政法汎論、地方官廳、總督、組織、備考〕備二員於總督衙門一者、大凡有レ六、一曰中軍副將、二曰武巡捕、三曰戈什哈、云云、戈什哈係二滿洲語一、爲二侍奉之義一、多由二青年武舟中一選二拔之一。

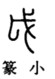
【戈守智】52クヮシュチ　清、平湖の人。字は達夫。著に漢溪書法通解がある。〔四庫提要、一百十四〕。

【戈宙襄】53クヮチウジャウ　清、元和の人。號は小蓮・半樹齋。幼にして辭章に巧。老母のために仕進の意を絶つ。著に大儒傳道錄・名儒傳經錄・小人儒錄・半樹齋文がある。〔碑傳集補、五十四〕。

【援レ戈撝レ日】54ホコヲヒイテヒヲサシマネク　戈を手にとつて、日の入らうとするのをさしまねく。撝は麾。〔淮南子、覽冥訓〕魯陽公與レ韓構レ難、戰酣日暮、援レ戈而撝レ之、日爲レ之反三舍。

一畫

【戉】11531

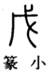


㊀エツ ヲチ　〔集韻〕王伐切　月。
㊁ゲツ グワチ　〔正韻〕魚厥切　月。

㊀㊁❶まさかり。始めは武器に用ひられたが、後に威儀をしめすために儀仗に用ひられた大斧。或は鉞（11－40313）に作る。〔說文〕戉、大斧也、从レ戈乚聲、司馬灋曰、夏執二玄戉一、殷執二白戚一、周ナ杖二黃戉一、又把二白髦一。〔集韻〕戉、或从レ金。〔書、牧誓〕王左執二黃鉞一。〔釋文〕鉞、本又作レ戉。〔釋名、釋兵〕戉、豁也、所レ向莫二敢當一レ前、豁然破散也。〔書、牧誓〕王左杖二黃鉞一。〔傳〕鉞以二黃金一飾レ斧、左手杖レ鉞、示レ無レ事二於誅一。〔疏〕太公六韜云、大柯斧、重八斤、云云、鉞以殺戮、殺戮用二右手一、用二左手一杖レ鉞、示レ無レ事二於誅一。❷星の名。〔漢書、天文志〕東井西曲星曰レ戉。❸こえる。越（10－37110）に通ず。〔說文通訓定聲〕戉、叚借爲レ越、曲水詩、序文、鉞二碧砮之琛一。

參考　戊（5－11532）・戌（5－11535）・戍（5－11537）は別字。〔字彙、辨似、四字相似〕戊、茂務二音、十干名。戉、音越、鉞同、斧戉。戌、音恤、十二支名。戍、戍守、邊戍。

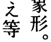
【戊】11532



㊀ボウ モ　〔集韻〕莫候切　宥。　ㄨˋ wu⁴
㊁ボウ モ　〔集韻〕莫後切　有。
慣ボ

㊀㊁❶つちのえ。十干の一。第五位にあたり、方位は中央、五行では土に屬する。〔說文〕戊、中宮也、象二六甲五龍相拘絞一也、戊承レ丁、象二人脅一。〔段注〕六甲者、漢書、日有二六甲一、是也、五龍者、五行也。〔爾雅、釋天〕太歲在レ戊曰二著雍一、月在レ戊曰レ厲。〔詩、小雅、吉日〕吉日維戊。〔呂覽、季夏〕其日戊己。〔注〕戊己、土日。〔漢書、百官公卿表上、戊己校尉、注〕師古曰、云云、一說、戊己、居レ中、鎭二覆四方一。❷ほこ。矛の古字。〔說文通訓定聲〕戊、从レ戊、古文矛字。❸しげる。〔釋名、釋天〕戊、茂也、物皆茂盛也。

名乘　シゲ。

解字　象形。段玉裁によれば、六甲（日に六甲あり）五龍（五行）が互にまつはるに象る。萬物の枝葉が茂盛する意。茂（9－30833）の本字。十干の第五位にあて、方位では中央、五行では土に配す。　▽ （金文）　象形。斧のやうな刃のついた戈に象る。つちのえ等の意は假借。

參考　❶五代、梁の太祖は曾祖茂琳の諱を避けて、戊を武と讀んだ。一說に、父の諱は誠で戊が成に類するによるといふ。〔琅琊代醉編、戊音〕十干戊字、只與レ茂同音、俗輩呼爲レ務、非也、吳中術者、稱爲レ武、偶閱二舊五代史一、梁開平元年、司天監上言、日辰內戊字、請改爲レ武、乃知亦有レ所レ自也、今北人語多曰レ武、朱溫父名誠、以三戊類二成字一、故司天諂レ之耳。❷戉（5－11531）・戌（5－11535）・戍（5－11537）は別字。戉の參考を見よ。

【戊己】1キボ　❶十干の戊と己。つちのえとつちのと、五行では土に當る。〔呂覽、季夏〕其日戊己。〔注〕戊己、土日。❷山名。山東省東阿縣の西南張秋鎭の南。〔泰安府志〕明弘治間築レ土所レ成、以鎭二黃河決口一、下臨二龍潭一、卽口決口也、山名二戊己一、取二土制レ水之象一、山上有レ亭、爲二張秋名勝一。

【戊己校尉】2ボキカウヰ　官名、漢、元帝置く。西域の車師前部を鎭撫したもの。車師（10－38172・・93）を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕戊己校尉、元帝初元元年置。〔注〕師古曰、甲乙丙丁庚辛壬癸、皆有二正位一、惟戊己寄治耳、今所レ置校尉、亦無二常居一、故取二戊己一爲レ名也、有二戊校尉一、有二己校尉一、一說、戊己居レ中、鎭二覆四方一、今所レ置校尉、亦處二西域之中一、撫二諸國一也。

【戊地】3チボ　地名。中亞細亞にあつて、大唐西域記では伐地といふ。西安・烏那曷・安國ともいふ。今の Betiko。又、氏の名。唐代、康居九姓の一。〔唐書、西域下、康傳〕校庶分王、曰安、曰曹、曰石、曰米、曰何、曰火尋、曰戊地、曰史、世謂二九姓一。

【戊姆】4ボボ　女師の異稱。〔事物異名錄、倫屬、師〕表異錄、漢書女師爲二戊姆一。

【戊夜】5ヤボ　夜の寅の刻。五更の時。今の午前四時。〔南史、梁武帝紀〕梁武帝、云云、少而篤學、云云、雖二萬幾多務一、猶卷不レ輟レ手、燃レ燭側レ光、常至二戊夜一。

【戊巳芝】6シボシ　黃精の別名。〔本草、黃精〕釋名、「黃芝、戊巳芝、菟竹。」

【戊申錄】7ボシンロク　閻魔の廳に在る人間の功罪錄。閻魔帳。〔酉陽雜俎、玉格〕命二先過戊申錄一、錄如二人聞詞狀一、首冠二人生辰一、次言二姓名年紀一、下注二生月日一、別行橫二布六旬甲子一、所レ有功過、日下具レ之、如無卽書二無事一、趙自窺二其錄一、姓名生辰日月、一無二差錯一。

【戊部候】8ボブコウ　後漢の時、西域車師後部に置いた營所の名。〔後漢書、西域傳序〕復置二戊己校尉一、領二兵五百人一、居二車師前部高昌壁一、又置二戊部候一、居二車師後部候城一、相去五百里。

【戊戌政變】9ボジュツノセイヘン　清の光緖二十四年（一八九八年）、德宗は、銳意變法を畫策して、康有爲等新學の士を召し、固陋の大臣を黜けたが、西太后の忌諱に觸れて、瀛臺に幽せられ、有爲の弟廣仁・譚嗣同・劉光第・楊深秀・楊銳・林旭等は殺され、有爲は海外に逃れ、太后がまた垂簾の政を執るに至つた。之を戊戌政變といふ。

【戊申詔書】10ボシンセウショ　明治四十一戊申の年十月十三日、明治天皇が時の總理大臣桂太郎を召され、廣く國民に下し給うた詔書。國民の品性を陶治し、剛健質實の精神を作興し、以て國家の隆盛と社會の發達とを期すべきを諭された。

【戊辰之亂】11ボシンノラン　明治元、戊辰の年、官軍が舊幕軍を討平した戰。正月三日の鳥羽伏見の戰に始まり、五月、彰義隊との上野戰爭、奧羽越諸藩の白石同盟との戰などを經て、九月二十二日の會津落城に終る。〔川田甕江、岩倉公所レ藏正宗鍛刀記〕戊辰之亂、六師東征、幕帥德川慶喜、屛居待レ罪。

二畫

【戋】11533

キョ　義未詳。〔海篇〕戋、音渠。

【⿻戈丿】11534

ト　義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿻戈丿、音斗。

【戌】11535

シュツ シュチ　〔集韻〕雪律切　質。　ㄒㄩ hsü¹
慣ジュツ

❶いぬ。十二支の第十一位。㋑いぬの年。〔爾雅、釋天〕太歲在レ戌曰二閹茂一。㋺いぬの月、九月。〔說文〕戌、威也、九月昜气微、萬物畢成、昜下入レ地也、五行、土生二於戊一、盛二於戌一、从二戊一一、一

亦聲。〔釋名、釋天〕戌、恤也、物當㆔收斂矜㆓恤之㆒也、亦言㆓脫也、落也㆒。〔淮南子、天文訓〕戌爲㆑成。㋩いぬの日。〔左氏、桓、五〕正月甲戌。㋥いぬの刻。今の午後七時から九時まで。〔指月錄〕黃昏戌狂子、施功投㆓暗室㆒。㋭方位では西北。〔宋史、樂志十二〕表㆓于辰位㆒、伏㆓于戌方㆒。㋬五行では土。〔論衡、物勢〕戌、土也。㋣動物では犬。〔論衡、物勢〕戌、其禽犬也。❷まこと。〔玉篇〕戌、誠也。❸溫氣。〔風俗通、祀典〕戌者溫氣也。❹たつ。けづる。〔史記、司馬相如傳〕眇閻易以戌削。〔注〕集解曰、徐廣曰、戌削、言㆑如㆓刻畫作㆑之。〔司馬相如、子虛賦〕揚袘戌削。〔注〕善曰、張揖曰、戌削、裁制貌也。❺うつくしい。䘏(10−33968)に通ず。〔史記、司馬相如傳上〕揚袘卹削。〔漢書、司馬相如傳上〕揚袘戌削。〔注〕張揖曰、戌、鮮也、削、衣刻除貌也、師古曰、云云、或擧或曳、則戌削然、見㆓其降殺之美㆒也。❻あはれむ。〔說文通訓定聲〕戌、恤也、人被㆓殺傷㆒可㆓矜恤㆒也、从㆑戌、古文矛字、一、指事、識㆓其殺傷處㆒。❼姓。〔萬姓統譜〕戌盈孫、河陽令。

解字 會意。戌と一との合字。戌は茂、一は一陽。九月に草木が老熟して、一陽がその中に殘つてゐる意。故に陰曆九月の氣節を戌といふ。一は又、聲を兼ねる。〔說文〕从㆓戌一㆒、一亦聲。〔段注〕一者一陽也、戌中含㆑一、會意。

參考 戊(**5−11532**)・戉(**5−11531**)・戍(**5−11537**)は別字。〔字彙、辨似、四字相似〕戊、茂務二音、十干名。戉、音越、鉞同、斧戉。戌、音恤、十二支名。戍、戍守、邊戍。

【戌月】1 ジュツゲツ 九月の異名。字解の❶の㋺を見よ。

【戌削】2 ジュツサク けづつて作ること。きりもりするさま。裁制。卹削(**2−2862**‥7)に同じ。〔史記、司馬相如傳〕眇閻易以戌削。〔注〕集解曰、徐廣曰、言㆑如㆓刻畫作㆑之。〔司馬相如、子虛賦〕衯衯裶裶、揚袘戌削。〔注〕善曰、張揖曰、戌削、裁制貌也。〔漢書注〕張揖曰、戌、鮮也、削、衣刻除貌也、師古曰、云云、或擧或曳、則戌削然見㆓其降殺之美㆒。〔王先謙補注〕類篇、袘、裳下緣也、衪・袘・袘、同一字、訓爲㆓裳緣㆒、戌削、狀㆓行時裳緣之整齊㆒、張訓㆓裁制貌㆒得㆑之、顏說非。

【戌時】3 ジュツジ 午後七時から九時の間。字解❶の㋥を見よ。

【戌臘】4 ジュツラフ 冬至後、第三の戌の日に行ふ祭祀。〔後漢書、禮儀志中、勞㆑農大享臘、注〕高堂隆曰、帝王各以㆓其行之盛㆒而祖、以㆓其終㆒而臘、火生㆓於寅㆒、盛㆓於午㆒、終㆓於戌㆒、故火家以㆑午祖、以㆑戌臘、秦靜曰、古禮、出行有㆓祖祭㆒、歲終有㆓蜡臘㆒、無㆓正月必祖之祀㆒、漢氏以㆑午祖、以㆑戌臘、午南方、故以祖、冬者歲之終、物畢成、故以㆑戌臘、而小數之學者、因爲㆓之說㆒、非㆓典文㆒也。〔風俗通、祀典、雄雞〕臘者所㆓以迎㆑刑送㆑德也、大寒至、常恐㆓陰勝㆒、故以㆓戌日㆒臘、戌者、溫氣也、用㆓其氣日㆒、殺㆑雞以謝㆓刑德㆒、雄著㆑門、雌著㆑戶、以和㆓陰陽㆒、調㆑寒配㆑水、節㆓風雨㆒也。

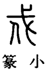
【⿰尤戈】 11536

キウ グ 〔集韻〕渠尤切 尤

ほこのかざり。〔集韻〕⿰尤戈、矛飾。

【戍】 11537

シュ 〔集韻〕舂遇切 遇 ㄕㄨˋ shù 慣ジュ


小篆

❶**まもる。**㋑武器を執つて國境を警備する。〔說文〕戍、守㆑邊也、从㆓人持㆑戈。〔說文通訓定聲〕戍者、下㆑人上㆑戈、人何㆑戈也。〔詩、王風、揚之水〕不㆓與㆑我戍㆑申。〔傳〕戍、守也。〔公羊、莊、十七〕衆殺㆓戍者㆒也。〔注〕以㆑兵守㆑之曰㆑戍。〔史記、陳涉世家〕戍㆓漁陽㆒。〔注〕索隱曰、戍者、屯㆑兵而守也。㋺警衛する。〔左氏、僖、十三〕諸侯戍㆑周。〔注〕戍、守也。❷**まもり。**㋑國境を守る役。やくめ。〔詩、小雅、采薇〕我戍未㆑定。〔左氏、僖、二十八〕公子買戍㆑衞、不㆑卒㆑戍。㋺さきもり。戍守の人。國境の兵。兵士。〔左氏、定、元〕乃歸㆓諸侯之戍㆒。❸**たむろ。**ぢんや。守備兵が宿舍警備にあたる屯營。〔北史、齊武成帝紀〕築㆓戍於軹關㆒。〔王烈、塞上曲〕黃花戍上雁長飛。❹**とめる。**禁遏する。〔爾雅、釋言〕戍、遏也。

解字 會意。人と戈との合字。人が戈を持つて、邊境を守る意。

參考 戊(**5−11532**)・戉(**5−11531**)・戌(**5−11535**)は別字。戌の參考を見よ。

【戍衞】1 ジュエイ 國境をまもりかためる。又、その人。戍守。〔南海古蹟記〕嘗置㆓戍衞㆒。

【戍徭】2 ジュエウ まもりのえだち。戍役。〔史記、李斯傳〕賦斂愈重、戍徭無㆑已。

【戍役】3 ジュエキ 邊塞をまもるえだち。國境をかためる兵役。又、其のかため。又、其の兵士。〔詩、小雅、采薇序〕以㆓天子之命㆒命㆓將率㆒、遣㆓戍役㆒、以守㆓衞中國㆒。〔事物紀原、戰陣攻守部、戍邊〕紂之時、西患㆓昆夷㆒、北離㆓玁狁㆒、文王以㆓紂命㆒遣㆓戍役㆒以守㆓衞中國㆒、采薇所㆑歌是也、其事始㆓於商辛失㆑道之世㆒。

【戍煙】4 ジュエン 守備兵のたく煙。〔劉長卿、平蕃曲〕渺渺戍煙孤、茫茫塞草枯。

【戍屋】5 ジュヲク 守り小屋。守備兵のたむろする小屋。〔林景熙、括城詩〕落日漁舟吹㆓遠笛㆒、斷烟戍屋帶㆓荒城㆒。

【戍歌】6 ジュカ 戍兵の歌。國境守備兵の歌ふ歌。〔張說、幽州新歲作詩〕邊鎭戍歌連夜動、京城燎火徹㆑明開。

【戍客】7 ジュカク 邊戍の卒。〔尉繚子、攻權〕遠堡未㆑入、戍客未㆑歸、則雖㆑有㆑人、無㆑人矣。〔李白、關山月詩〕戍客望㆓邊邑㆒、思㆑歸多㆓苦顏㆒。

【戍甲】8 ジュカフ 國境邊塞をまもる兵士。戍兵。戍卒。甲は鎧を著た兵。〔史記、大宛傳〕益㆓發戍甲卒十八萬㆒。

【戍旗】9 ジュキ まもりの兵のたてるはた。〔王粲、七哀詩〕登㆑城望㆓亭隧㆒、翩翩飛㆓戍旗㆒。〔趙嘏、歙州道中僕逃詩〕秋山重疊戍旗多。

【戍禦】10 ジュギョ 敵を防ぐこと。〔鹽鐵論、輕重〕中國困㆓於繇役㆒、邊民苦㆓於戍禦㆒。

【戍火】11 ジュクワ 守備兵のたく火。〔陸游、出㆑城詩〕戍火難㆑尋玉關夢、衣塵空愧草堂靈。

【戍鼓】12 ジュコ 邊塞守備の軍中で擊つ陣太鼓。〔劉孝綽、夕逗㆓繁昌浦㆒詩〕隔㆑山聞㆓戍鼓㆒、傍㆑浦喧㆓棹謳㆒。〔盧照鄰、還㆑蜀詩〕野禽喧㆓戍鼓㆒、春草變㆓征衣㆒。〔杜甫、月夜憶㆓舍弟㆒詩〕戍鼓斷㆓人行㆒、秋邊一聲雁。〔司空圖、寄㆓永嘉崔道融㆒詩〕戍鼓和㆑潮暗、船燈照㆑島幽。

【戍漕】13 ジュサウ 軍需品を舟で運ぶこと。〔史記、主父偃傳〕以逐㆓匈奴㆒、內省㆓轉輸戍漕㆒、廣㆓中國㆒滅㆑胡之本也。

【戍柵】14 ジュサク 敵を防ぎ守る柵。〔袁袠、東湖聯句〕「戍柵依㆑樟密。

【戍山】15 ジュサン 山名。浙江省長興縣の西北。又、夫槩山といふ。吳王が夫槩に戍城を築かせたから名づける。明初、元帥耿炳文が山上に軍を點したことから、俗に點軍山といふ。〔讀史方輿紀要、浙江、湖州府、長興縣〕戍山、縣西三里、一名夫槩山、吳王使㆔夫槩於㆑此築㆓戍城㆒、故名、梁吳興大守張崍等、亦於㆑此築㆑城捍㆓侯景㆒、明初、耿炳文點㆓軍山上㆒、俗因呼爲㆓點軍山㆒。

【戍死】16 ジュシ 國境を守つて死ぬこと。〔史記、陳涉世家〕戍死者固十六七。

【戍守】17 ジュシュ 國境の要害を守る。又、其のまもり。〔宋史、李繼和傳〕願㆘於㆓要害處㆒置㆓族帳砦柵㆒、以爲㆗戍守㆖。

【戍所】18 ジュショ ぢんや。たむろ。〔國朝漢學師承記、洪亮吉〕君神氣自若、將㆑抵㆓戍所㆒。

【戍人】19 ジュジン 古、邊境を守る軍士の通稱。〔左氏、昭、二十五〕趙簡子令㆔諸侯之大夫輸㆓王粟㆒、具㆓戍人㆒。〔陰鏗、和㆔傅郞歲暮還㆓湘州㆒詩〕戍人寒不㆑望、沙禽迴未㆑驚。

【戍卒】20 ジュソツ 邊境を守る兵卒。〔史記、三王世家〕虛㆓御府之藏㆒以賞㆓元戎㆒、開㆓禁倉㆒以賑㆓貧窮㆒、減㆓戍卒之半㆒、百蠻之君、靡㆑不㆑鄕㆑風。〔史記、匈

奴傳〕減二北地以西戍卒半一。〔漢書、鼂錯傳〕南攻二揚粤一、置二戍卒一焉。〔揚雄、羽獵賦〕儲積共偫、戍卒夾レ道。

【戍卒叫】21 ジュソツサケブ　衞戍の兵士がときの聲をあげて叫ぶ。轉じて、叛逆人あるをいふ。〔杜牧、阿房宮賦〕獨夫之心、日益驕固、戍卒叫函谷擧。

【戍兵】22 ジュヘイ　戍卒に同じ。〔蘇軾、司竹監燒二葦園一因召二都巡檢柴貽勗左藏一以二其徒一會二獵園下一詩〕戍兵久閑可二小試一、戰鼓雖レ凍猶堪レ撾。〔遼史、食貨志上〕當時沿邊各置二屯田戍兵一。

【戍邊】23 ジュヘン　國境を守る。邊境を戍守する。〔杜甫、兵車行〕去時里正與裹レ頭、歸來頭白還戍レ邊。〔蘇軾、次二韻回文一詩〕風葉落殘驚二夢蝶一、戍邊回雁寄二情郞一。〔蘇轍、民政策〕內郡之兵、當二常在レ內、而不二以戍レ邊。

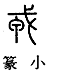
【戍邏】24 ジュラ　國境を見まはつて警備する兵士。〔晉書、羊祜傳〕於レ是戍邏減レ半、分以墾二田八百餘頃一、大獲二其利一。

【戍樓】25 ジュロウ　まもり見張るために設けたやぐら。城のものみやぐら。〔梁元帝、登レ隄望レ水詩〕旅泊依二村樹一、江槎擁二戍樓一。〔唐玄宗、早渡二蒲津關一詩〕月落戍樓空。〔儲光羲、隴頭水送別詩〕寒雲隱二戍樓一。〔高適、塞上聽レ吹レ笛詩〕雪淨胡天收レ馬還、月明羌笛戍樓閒。〔許渾、金陵詩〕玉樹歌殘王氣終、景陽兵合戍樓空。

【戍罰作】26 ジュバツサク　漢代、邊郡の戍備に派して勞役に服させる刑罰。〔漢舊儀〕男爲二戍罰作一、女爲二復作一、皆一歲。

【戋】11538　サイ　戋(**5－11543**)に同じ。〔集韻〕戋、或省。

【戎】11539　[一] ジュウ ニュ　〔集韻〕而融切　ㄖㄨㄥˊ jung²　[東]
[二] ジョウ ニョウ　〔集韻〕如蒸切　[蒸]


小篆

[一]❶**いくさだうぐ**。武器の總稱。もと𢦦(**5－11569**)に作る。〔正字通〕戎、本作レ𢦦。〔說文〕𢦦、兵也、从二戈甲一。〔段注〕兵者械也。〔易、萃〕君子以除二戎器一。〔虞注〕戎、兵也。〔禮、王制〕戎器不レ粥二於市一。〔注〕戎器、軍器也。〔禮、月令〕以習二五戎一。〔注〕五戎、謂二五兵一、弓矢殳矛戈戟也。❷**いくさぐるま**。兵車。〔詩、秦風、小戎〕小戎俴收。〔傳〕小戎、兵車也。〔左氏、桓、七〕與二其戎右少師一。〔注〕戎右、車右也。〔潘岳、閑居賦〕其西則有二元戎禁營一。〔注〕善曰、元戎、兵車也。❸**いくさ**。征伐。戰爭。〔書、大禹謨〕惟口出レ好興レ戎。〔傳〕戎、謂レ伐レ惡。〔書、說命〕惟甲冑起レ戎。〔周禮、天官、巾車〕以卽レ戎。〔注〕戎、謂二兵事一。❹**軍隊**。**軍旅**。〔孔子家語、弟子行〕材任治レ戎。❺**つはもの**。兵士。〔易、同人〕戎伏二于莽一。〔潘岳、楊荊州誄〕實統二禁戎一。❻**えびす**。西方の未開種族の稱。〔爾雅、釋地〕九夷八狄七戎六蠻、謂二之四海一。〔禮、王制〕西方曰レ戎。〔大戴禮、千乘〕西辟之民曰レ戎。❼**大きい**。崇(**4－8152**)に通ず。〔說文通訓定聲〕戎、叚借爲レ崇。〔爾雅、釋詁〕戎、大也。〔詩、大雅、緜〕戎醜攸レ行。〔傳〕戎、大也。〔詩、周頌、烈文〕念二茲戎功一。〔傳〕戎、大也。❽**そへ**。たすけ。從(**4－10152**)に通ず。〔說文通訓定聲〕戎、叚借爲レ從、實爲レ从。〔爾雅、釋言〕戎、相也。〔詩、小雅、常棣〕烝也無レ戎。〔傳〕戎、相也。❾**ぬく**。むしる。搑(**5－12473**)に通ず。〔說文通訓定聲〕戎、叚借爲レ搑。〔方言、三〕戎、拔也、自レ關而東、江淮南楚之閒、或曰レ戎。〔箋疏〕某氏大禹謨傳云、戎謂レ伐レ惡、泰誓、戎レ商必克、是戎之訓レ拔、以レ除爲レ義。❿**なんぢ**。汝(**6－17138**)に通ず。〔說文通訓定聲〕戎・汝・若・而、皆一聲之轉。〔新方言、釋言〕今江南浙江濱海之地、謂レ汝爲レ戎、音如レ農。〔詩、大雅、民勞〕戎雖二小子一。〔箋〕戎、猶レ女也。〔詩、大雅、韓奕〕纘二戎祖考一。〔箋〕戎、猶レ女也。〔詩、大雅、江漢〕肇二敏戎公一。〔箋〕戎、猶レ女也。〔後漢書、周擧傳〕詩不レ云乎、肇二敏戎功一。〔注〕戎、汝也。⓫**さかんなさま**。戎戎(52)を見よ。⓬**國の名**。春秋時代の一國。今の山東省曹縣の東南。〔左氏、隱、二〕公會二戎于潛一。〔注〕陳留濟陽縣東南有二戎城一。⓭⿰扌戎(**5－12003**)に通ず。〔爾雅、釋言、戎相也、釋文〕戎、本或作レ⿰扌戎。⓮駥(**12－44707**)に通ず。〔爾雅、釋畜、馬八尺爲レ駥、釋文〕駥、本亦作レ戎。⓯茸(**9－30918**)に通ず。〔詩、邶風、旄丘〕狐裘蒙戎。〔左氏、僖、五〕狐裘尨茸。⓰茙(**9－30868**)に通ず。〔爾雅、釋草〕戎叔謂二之荏叔一。〔列子、力命〕進二其茙叔一。⓱**姓**。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕戎氏、隱公會二戎於潛一之戎也、杜預云、陳留濟陽縣東南有二戎城一、漢功臣有二柳丘侯戎賜一、宣帝婕妤戎氏生二中山哀王一、望出二江陵扶風一。〔尙友錄〕戎、茙姓同、齊人戎夷之後、又望出二扶風一。[二]**よる**。**ひく**。扔(**5－11782**)に同じ。〔集韻〕扔、說文、因也、一曰、引也、或作レ⿰扌戎、亦省。

[解字] 會意。說文は𢦦(**5－11569**)に作る。戈と甲との合字。戈と甲とは共に兵器。甲字の古文は 、又は に作り、省いて十に作る。兵器の總稱。

【戎夷】1 ジュウイ　えびす。未開の國。又、其の土人。戎狄。戎は西方、夷は東方のえびす。〔禮、王制〕中國戎夷五方之民、民有レ性也。〔呂覽、義賞〕戎夷胡貉巴越之民。〔蜀志、許靖傳〕世路戎夷、禍亂遂合。

【戎衣】2 ジュウイ　いくさにきるもの。軍服。戎服。甲冑。又、甲冑を身につける。武裝する。一說に、戎は兵、衣は殷の誤で、戎殷は殷を伐つ意といふ。〔書、武成〕一戎衣、天下大定。〔傳〕衣、服也、一著二戎服一而滅レ紂。〔禮、中庸〕壹戎衣而有二天下一。〔注〕戎、兵也、衣、讀如レ殷、聲之誤也、齊人言レ殷聲如レ衣、虞夏商周氏者多矣、今姓有レ衣者、殷之胄與、壹戎レ殷者、一用レ兵伐レ殷也。〔杜審言、贈二蘇味道一詩〕邊聲亂二羌笛一、朔風卷二戎衣一。

【戎威】3 ジュウイ　軍隊の威光。〔何遜、行經二孫氏陵一詩〕豹變分二奇略一、虎視肅二戎威一。

【戎右】4 ジュウユウ　周官の名。夏官の屬。戎車の右方に驂乘して武器を執る者。勇者を選んでこれに充てる。車右(**10－38172‥6**)を見よ。〔周禮、夏官、戎右〕掌二戎車之兵革使一。〔左氏、桓、八〕鬭丹獲三其戎車與二其戎右少師一。〔注〕戎右、車右也。

【戎昱】5 ジュウイク　唐、荊南の人。至德中、文學を以て進士に登る。官は辰楚二州の刺史。〔琅琊代醉編、二十八〕。

【戎殷】6 ジュウイン　❶大いなる殷。〔書、康誥〕天乃大命二文王一、殪二戎殷一。〔蔡傳〕乃大命二文王一、殪二滅大殷一。〔左氏、宣、六〕周書曰、殪二戎殷一、此類之謂也。❷殷を伐つ。戎衣(2)を見よ。

【戎衞】7 ジュウエイ　❶衞の國を戎として取扱ふ。春秋で、衞の國を筆誅し、戎狄として記してゐること。〔穀梁、隱、七〕戎者、衞也、戎レ衞者、爲三其伐二天子之使一、貶而戎レ之也。〔疏〕釋曰、麋信云、不レ言二夷狄一、獨言レ戎者、因三衞有二戎邑一故也。❷唐代に置かれた軍隊の名。禁衞の兵。〔通典、職官、武官上、左右領軍衞〕大唐復採二舊名一、別置二領軍衞一、分爲二左右一、龍朔二年、改爲二左右戎衞一、咸亨元年復レ舊。

【戎鹽】8 ジュウエン　味の甜い鹽。飴鹽。今の蒙古等に産する岩鹽。〔周禮、天官、鹽人〕王之膳羞共二飴鹽一。〔注〕飴鹽、鹽之恬者、今戎鹽有焉。〔本草、戎鹽〕釋名、胡鹽、羌鹽、青鹽、禿登鹽、陰土鹽、大明曰、西番所レ食者、故號二戎鹽・羌鹽一、集解、別錄曰、戎鹽生二胡鹽山及西羌北地酒泉福祿城東南角一、北海青、南海赤、十月采。〔涼州異物志〕鹽山二岳、三色爲レ質、赤者如レ丹、黑者如レ漆、作レ獸避レ惡、佩レ之爲レ吉、名曰二戎鹽一、可二以療レ疾。

【戎歌】9 ジュウカ　いくさうた。〔舊唐書、音樂志四〕戎歌陣舞、曄曄震震。

【戎戒】10ジュウカイ 戰爭の用意。〔宋書、禮志三〕王赫出討、戎戒淹レ時。

【戎行】11ジュウカウ 軍隊の行列。行軍。進軍。又、軍隊をいふ。〔左氏、成、二〕下臣不幸、屬當二戎行一、無レ所二逃隱一。〔會箋〕戎行、戎車之道。〔晉書、陸機傳〕拔二呂蒙於戎行一。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕君則攝進、首啓二戎行一、此君之忠二於本朝一也。〔注〕向曰、先開二兵戎之行伍一、以除レ亂也。〔唐玄宗、送二張説巡レ邊詩〕三軍臨二朔野一、駟馬卽二戎行一。〔杜甫、新婚別〕勿レ爲二新婚念一、努力事二戎行一。

【戎校】12ジュウカウ 將帥の任。將校。〔後漢書、袁紹傳〕奉二職憲臺一、擢授二戎校一。

【戎剛】13ジュウガウ 兵車の名。戎車と剛車。一説に、つよくたけだけしい兵。〔張協、七命〕爾乃列二輕武一、整二戎剛一。〔注〕善曰、輕武戎剛、四車名也、向曰、輕武、車名、戎剛、兵之剛猛者。

【戎號】14ジュウガウ 大いなる命令。〔北史、淳于誕傳〕誕不レ願三先受二榮爵一、乃固讓二實官一、止參二戎號一。

【戎甲】15ジュウカフ いくさだうぐ。又、つはもの。兵卒。〔荀子、議兵〕若レ是則戎甲愈衆、奉養必費。

【戎捍】16ジュウカン 敵をふせぐ。防備。〔魏書、明帝紀〕戎捍所レ有レ寄、實惟斯等。

【戎閒】17ジュウカン 戎馬之閒(83)の略。

【戎艦】18ジュウカン いくさぶね。軍艦。戰艦。〔張仲素、漲昆明池賦〕迎レ秋而大閱二戎艦一、今漲也乘レ春而無レ竭二陂池一。

【戎寄】19ジュウキ 軍事の囑託。兵事の委任。〔柳宗元、代二鄜州太守一賀レ赦表〕忝承二戎寄一。

【戎葵】20ジュウキ 草の名。今の蜀葵。たちあふひ。〔爾雅、釋草〕菺、戎葵。〔注〕今蜀葵也、似レ葵、華如二木槿華一。〔疏〕戎蜀、蓋其所レ自也、因以名レ之。〔郝懿行義疏〕蜀葵似レ葵而高大、戎蜀皆大之名、非下自二戎蜀一來上也。〔張衡、西京賦〕王蒭莔臺、戎葵懷羊。〔黃庭堅、次二韻文潛休沐不レ出詩〕戎葵一笑粲、露井百尺深。

【戎旗】21ジュウキ いくさのはた。〔後漢書、南匈奴傳論〕赫然命レ將、戎旗星屬。

【戎麾】22ジュウキ 戰爭に用ひるさしづ旗。軍旗。又、軍隊。〔晉書、明帝紀論〕不レ得レ不下推二誠將相一、以總二戎麾一、樓船萬計、兵倍中王室上。

【戎器】23ジュウキ 戰爭用具。又、殺傷に用ひる器具。はもの。〔易、萃〕君子以除二戎器一、戒二不虞一。〔禮、明堂位〕越棘・大弓、天子之戎器也。

【戎器不レ粥二於市一】24ジュウキハイチニヒサガズ 戰爭用具は町に賣り出さない。〔禮、王制〕戎器不レ粥二於市一、用器不レ中レ度、不レ粥二於市一。

【戎機】25ジュウキ 戰爭の大權。又、戰爭。〔無名氏、木蘭辭〕萬里赴二戎機一、關山度若レ飛。〔杜甫、遣悶詩〕自從收二帝里一、誰復總二戎機一。

【戎弓】26ジュウキュウ 戰爭に用ひる弓。〔穀梁、定、八〕盜二竊寶玉大弓一、寶玉者、封圭也、大弓者、武王之戎弓也。〔注〕是武王征伐之弓。

【戎禁】27ジュウキン 禁衞の官をいふ。〔沈約、奏二彈王源一文〕源頻叨二諸府戎禁一、預二班通徹一。

【戎具】28ジュウグ 戎器(23)に同じ。〔宋史、李漢瓊傳〕加二賜戰馬金甲寶劍戎具一以寵レ之。

【戎華】29ジュウクワ えびすと中華。華は禮文の盛な地、卽ち中國。〔隋書、音樂志中〕協二同內外一、混二一戎華一。

【戎穴】30ジュウケツ えびすの巢窟。〔晉書、隱逸、郭瑀傳〕二都盡爲二戎穴一。

【戎羯】31ジュウケツ えびす。羯は匈奴の別種で、五胡の一。〔唐書、禮樂志十二〕帝又好二羯鼓一、云云、蓋本二戎羯之樂一。

【戎孽】32ジュウゲツ えびすのわざはひをいふ。戎孽猘狂を見よ。

【戎孽猘狂】33ジュウゲツセイキャウ えびすがさわぎくるふこと。〔王安石、祭二范潁州一文〕戎孽猘狂、敢齮二我疆一。

【戎軒】34ジュウケン いくさぐるま。兵車。戎車。戎路。轉じて、軍隊又は軍事をいふ。〔後漢書、馬武傳贊〕有レ來羣后、捷二我戎軒一。〔注〕戎車所レ至、皆克捷也。〔陸機、漢高祖功臣頌〕戎軒肇レ跡、荷レ策來附。〔隋書、高祖文帝紀上〕戎軒大擧、長二驅晉魏一。〔魏徵、述懷詩〕中原還逐レ鹿、投レ筆事二戎軒一。〔唐詩選箋注〕戎軒、兵車也。

【戎伍】35ジュウゴ 軍隊の列伍。軍隊。〔唐書、曹華傳〕華雖レ出二戎伍一、而動必由レ禮、愛二重士大夫一、不下以レ貴倨上レ人、至二廝豎一必待以二誠信一、人以爲レ難。

【戎公】36ジュウコウ 大きな仕事。公は事。一説に、戎は汝で、汝の事。〔詩、大雅、江漢〕肇二敏戎公一、用錫二爾祉一。〔傳〕戎、大、公、事也。〔箋〕戎、猶レ女也、云云、今謀二女之事一、乃有二敏德一。〔陳奐傳疏〕後漢書宋弘傳注、引二詩傳一作レ功、功與レ公通用。

【戎功】37ジュウコウ 大きないさを。〔詩、周頌、烈文〕念二茲戎功一、繼序其皇レ之。〔傳〕戎、大。

【戎克】38ジャンク 中國の沿海や河沼等に使用する小形の私有運送船。帆や櫓であやつる。

【戎閫】39ジュウコン 軍門。閫は、しきみ。〔白居易、與二師道一詔詩〕卿業重二相門一、位崇二戎閫一。

【戎裝】40ジュウサウ いくさのよそほひ。戰鬪の仕度。武裝。戎衣。〔北史、楊大眼傳〕(大眼)妻潘氏、善二騎射一、自詣レ軍省二大眼一、至二攻戰遊獵之際一、潘亦戎裝、齊レ鑣並驅。〔唐書、百官志一〕兵士調習、戎裝克備、爲二督領之最一。

【戎索】41ジュウサク 戎夷の尺度。戎狄の用ひる繩の丈尺。〔左氏、定、四〕啓以二夏政一、疆以二戎索一。〔注〕太原近レ戎而寒、不下與二中國一同上、故自以二戎法一也。

【戎驂】42ジュウサン 兵車のそへうま。戎車のそへのり。天子にそへのりして戰を助ける將をいふ。〔後漢書、皇甫張段傳贊〕戎驂糾結、塵斥二河潼一。

【戎士】43ジュウシ つはもの。兵卒。〔管子、小匡〕昔先君襄公、云云、陳レ妾數千、食必粱肉、衣必文繡、而戎士凍飢。〔史記、衞將軍驃騎傳〕大將軍青、躬率二戎士一。〔漢書、霍去病傳〕票騎將軍、率二戎士一隃二烏盭一。

【戎子】44ジュウシ 複姓。〔萬姓統譜〕戎子、戎子駒支之後。

【戎事】45ジュウジ 戰爭。〔禮、檀弓上〕夏后氏尙レ黑、云云、戎事乘レ驪、牲用レ玄。〔韓非子、外儲說左下〕且夫卿必有二軍事一、是故循二車馬一、比二卒乘一、以備二戎事一。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕戎事將獨難。

【戎事不レ邇二女器一】46ジュウジニハヂヨキヲチカヅケズ 軍事は嚴をたふとび、婦女の道具類は近づけない。〔左氏、僖、二十二〕婦人送迎不レ出レ門、見二兄弟一不レ踰レ閾、戎事不レ邇二女器一。

【戎州】47ジュウシウ ❶地名。春秋、衞の邑。楚丘に在る。衞の莊公が戎州を翦り、出づるに及んで戎州の人が攻殺したところ。山東省曹縣の東南。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、周〕戎、杜預曰、陳留濟陽縣東南有二戎城一、古戎國、今山東曹縣東南有二楚邱城一、括地志云、卽春秋戎州己氏邑也。❷州名。㋑南朝梁、置く。僰道を治とす。四川省宜賓縣。〔讀史方輿紀要、四川〕敍州府、禹貢梁州之域、後爲二蠻地一、漢建元六年、開二西南彝一、置二犍爲郡一、後漢因レ之、晉亦曰二犍爲郡一、宋齊仍レ舊、梁置二六同郡及戎州一、隋初、郡廢州存、大業初、復曰二犍爲郡一、唐武德初、復曰二戎州一、天寶初、曰二南溪郡一、乾元初、復爲二戎州一。㋺元、置く。四川省興文縣。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府〕興之縣、元至元十七年、設二大壩都總管一、以授二蠻酋一、二十二年、升爲二戎州一、隸二馬湖路一、明初降爲レ縣、萬曆四年、改二今名一。

【戎醜】48ジュウシウ おほぜい。多人數。大衆。〔詩、大雅、緜〕迺立二冢土一、戎醜攸レ行。〔傳〕戎、大、醜、衆也。〔爾雅、釋天〕乃立二冢土一、戎醜攸レ行。〔注〕戎醜、大衆。

【戎疾】49ジュウシツ 大いに人をにくみ害すること。一説に、疾は難で、大難をいふ。〔詩、大雅、思齊〕肆戎疾不レ殄、烈假不レ遐。〔傳〕戎、大也、故大疾二害人一者、不レ絕レ之而自絕也。〔集傳〕戎、大也、疾、猶レ難也、大難如二羑里之囚、及昆夷獫狁之屬一也。

【戎車】50ジュウシャ いくさぐるま。兵車。〔詩、小雅、六月〕六月棲棲、戎車既飭。〔周禮、夏官、戎僕〕掌レ馭二戎車一。〔左氏、桓、八〕鬭丹獲二其戎車與二其戎右少師一。〔國語、齊語〕戎車待二游車之裂一。〔注〕戎車、兵車也。〔呂覽、精諭〕乃儆二戎車卒士一、以待レ之。〔史記、周紀〕戎車三百乘、虎賁三千人。〔後漢書、張衡傳〕戰國交爭、戎車競驅。〔晉書、輿服志〕戎車駕二四馬一、天子親戎所レ乘者也。

【戎首】51ジュウシュ 兵を率ゐ謀をなすもの。軍隊の大將。〔禮、檀弓下〕今之君子、進レ人若レ將レ加二諸膝一、退レ人若レ將レ墜二諸淵一、毋レ爲二戎首一、不二亦善一乎。〔注〕言二放逐之臣、不レ服二舊君一也、爲二兵主一來攻伐、曰二戎首一。〔孫希旦集解〕戎首、兵戎之首。〔鍾會、檄レ蜀文〕叛レ主讎賊、還爲二戎首一。〔注〕良曰、戎首、謂レ爲レ將伐レ魏也。

【戎戎】52ジュウジュウ 盛なさま。〔詩、召南、何彼襛矣〕何彼襛矣、〔傳〕襛、猶二戎戎一也。〔陳奐傳疏〕戎戎、

卽茸茸也。〔張衡、冢賦〕靈木戎戎、繁霜峩峩。〔古文苑注〕戎戎、盛貌。〔杜甫、放船詩〕江市戎戎暗、山雲淰淰寒。

【戎菽】53ジユウシユク 豆の一種。豌豆の異名。ゑんどう。一說に、大豆をいふ。〔詩、大雅、生民〕荏菽旆旆、傳〕荏菽、戎菽也。〔箋〕戎菽、大豆也。〔爾雅、釋草〕戎菽謂二之荏叔一。〔注〕卽胡豆也。〔郝懿行義疏〕詩生民傳、用二爾雅一、箋云、戎菽、大豆也、正義引孫炎說、與レ箋同、云、大豆卽名菽、凡經典稱レ菽、多指二大豆一而言。〔列子、楊朱〕戎菽、甘枲、莖芹、萍子。〔管子、戒〕北伐二山戎一、出三冬葱與二戎菽一、布二之天下一。

【戎洵】54ジユウジユン 明、鄞の人。字は君實。官は宣德中の黃州府推官。〔鄞縣志〕。

【戎胥】55ジユウシヨ 姓。〔路史〕商仲衍之後戎胥軒、娶二酈山氏一、後有二戎胥氏一。

【戎心】56ジユウシン えびすの心。〔國語、晉語一〕疆場無レ主、則啓二戎心一。

【戎臣】57ジユウシン つはもの。兵士。〔白居易、春遊二西林寺一詩〕智士勞二思謀一、戎臣苦二征役一。

【戎人】58ジユウジン えびすの人。〔新書、解縣〕胡忍以二陛下之明一、承二天下之資一、而久爲二戎人欺傲一、若レ此。

【戎神】59ジユウシン 佛を卑しめていふ。

【戎政】60ジユウセイ 軍政。〔王儉、褚淵碑文〕兼授二衞軍一、戎政輯睦。

〖戎政尙書〗61ジユウセイシヤウシヨ 官名。明の永樂の初、協理京營戎政を置き、京營操練の事を掌らしめ、尙書侍郞・右都御史が之にあたつたが、嘉靖の時、戎政を專理して戎政尙書といふ。明亡びて、廢す。〔明史、職官志一〕協理京營戎政一人、掌二京營操練之事一、永樂初、設二三大營一、總二於武將一、景泰元年、始設二提督團營一、命二兵部尙書于謙一兼レ領之、後罷、成化三年復設、率以二本部尙書一、或都御史兼レ之、嘉靖二十年、始命二尙書劉天和一轄二部務一、另給二關防一、專理二戎政一。

【戎昭】62ジユウセウ 北周、裴果(**10－34362**・・28)の字。

〖戎昭軍〗63ジユウセウグン 行政區域の名。唐末、置く。治は金州。陝西省安康縣。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、唐〕昭信節度、治二金州一、先レ是興元初、尙可孤駐二兵藍田一討二朱泚一、置二商州節度一授レ之、尋罷、光啓二年、升二金商防禦一爲二節度一、大順二年、改爲二昭信防禦使一、兼領二均州一、光化初、升爲二昭信節度一、天祐二年、金州爲二蜀所レ取、移二治均州一、兼領二房州一、賜二號戎昭軍一、三年、幷入二忠義軍一。

【戎節】64ジユウセツ 兵事を掌る者に賜はるわりふ。節度使をいふ。〔韓愈、烏氏廟碑銘〕授二我戎節一、制有二壇墟一。

【戎捷】65ジユウセフ いくさのかち。戰勝。又、其の獲物。ぶんどりもの。〔春秋、莊、三十一〕六月、齊侯來獻二戎捷一。〔杜注〕捷、獲也、獻、奉レ上辭也。〔會箋〕捷、勝也、戰勝而有レ獲、故以レ捷爲レ獲也。〔李德裕、紀二聖功一碑銘〕諸侯有二四夷之功一、獻二其戎捷一、春秋舊典也。

【戎旃】66ジユウセン いくさに用ひるはた。軍旗。〔謝朓、拜二中軍記室一辭二隨王一牋〕契二闊戎旃一、從二容讌語一。〔注〕翰曰、戎、兵、旃、旌也。〔舊唐書、裴度傳〕遙聽二鼓鼙一、更張二琴瑟一、煩二我台席一、董二茲戎旃一。

【戎氈】67ジユウセン 西域に產する毛織のむしろ。〔劉基、九難〕蜀錦、戎氈、越紙、齊紈、跨レ海踰レ山、轉致二流通一。

【戎繕】68ジユウゼン 軍事と宮室などの土木工事。〔魏書、世宗紀〕戎繕兼興、未レ遑二儒教一。

【戎卒】69ジユウソツ つはもの。兵士。〔魏志、文帝紀〕臨レ江觀レ兵、戎卒十餘萬、旌旗數百里。〔資治通鑑、晉紀〕(孝武帝、太元八年)堅發二長安一、戎卒六十餘萬、騎二十七萬、旗鼓相望、前後千里。

【戎帳】70ジユウチヤウ 軍營。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕敢問賢弟、因レ甚不レ至二戎帳一。

【戎場】71ジユウヂヤウ 戰場。〔晉書、陶侃傳贊〕長沙勤レ王、擁二旆戎場一。

【戎重】72ジユウヂユウ 軍政の重職。重大な兵權。〔丘遲、與二陳伯之一書〕明德茂親、總二茲戎重一。

【戎儲】73ジユウチヨ 兵器のたくはへ。〔南史、蕭引傳〕及二呂梁覆レ師、戎儲空匱。

【戎女】74ジユウヂヨ ❶春秋、晉の獻公の夫人、驪姬をいふ。驪戎の女であるからいふ。〔班固、幽通賦〕戎女烈而喪レ孝兮、伯徂二歸於龍虎一。〔注〕善曰、曹大家曰、戎女、驪姬也。❷螟蛉(**10－33429**・・9)の異名。〔詩、小雅、小宛〕螟蛉有レ子、〔釋文〕螟、亡丁反、蛉、音零、俗謂二之桑蟃一、一名戎女。

【戎陣】75ジユウヂン いくさのぢんだて。〔蜀志、諸葛亮傳〕亮身率二諸軍一攻二祁山一、戎陣整齊、賞罰肅而號令明。

【戎亭】76ジユウテイ 兵營をいふ。〔後漢書、章帝紀贊〕儒館獻レ歌、戎亭虛候。

【戎狄】77ジユウテキ えびす。戎は西方、狄は北方のえびす。〔詩、魯頌、閟宮〕戎狄是膺、荊舒是懲。〔集傳〕戎、西戎、狄、北狄。〔荀子、正論〕蠻夷戎狄之國、同レ服不レ同レ制。〔史記、匈奴傳〕戎狄攻二大王亶父一。〔潘岳、關中詩〕蠢爾戎狄、狡焉思レ肆。

【戎翟】78ジユウテキ 戎狄に同じ。〔國語、周語上〕自竄二於戎翟之閒一。〔注〕翟、或作レ狄。〔史記、匈奴傳〕乃興レ師伐二逐戎翟一、誅二子帶一。〔漢書、五行志中之上〕晉居二深山一、戎翟之與鄰。

〖戎翟無レ親〗79ジユウテキハシンナシ えびすには恩親の情がない。〔國語、晉語七〕戎翟無レ親而好レ得、不レ若レ伐レ之。

【戎統】80ジユウトウ 軍政をすべくくること。〔宋書、孔覬傳〕總司戎統、聳レ劍東馳、申二愼海曲一。

【戎毒】81ジユウドク ひどい弊害。大害。戎は大。〔書、盤庚上〕乃不レ畏二戎毒于遠邇一。〔傳〕戎、大。

【戎馬】82ジユウバ 兵車に駕する馬。又、兵車をいふ。兵馬。〔周禮、夏官、馬質〕一曰戎馬、二曰田馬。〔周禮、夏官、校人〕種馬一物、戎馬一物。〔左氏、昭、三〕戎馬不レ駕、卿無二軍行一。〔管子、小匡〕戎馬待二游車之弊一、戎士待二陳妾之餘一。〔史記、韓長孺傳〕今匈奴負二戎馬之足一。〔漢書、刑法志〕戎馬四萬匹、兵車萬乘。〔崔駰、安二封侯一詩〕戎馬鳴兮金鼓震、壯士激兮忘二身命一。

〖戎馬之閒〗83ジユウバノアヒダ 戰爭の閒をいふ。略して戎閒ともいふ。〔韓愈、歸二彭城一詩〕歸來戎馬閒、驚顧似レ羈レ雌。

〖戎馬生レ郊〗83'ジユウバカウニシヤウズ 軍馬が國境に生れる。隣國との間に戰爭の絕えぬこと。〔老子、四十六〕天下無レ道、戎馬生二于郊一。

〖戎馬關山北〗84ジユウバクワンザンノキタ 杜甫の詩の句で、吐蕃の關中に寇することが絕えず、關山の北には戰爭の止む時の無いことをいふ。〔杜甫、登二岳陽樓一詩〕戎馬關山北、憑レ軒涕泗流。

〖殺二戎馬一而求二狐狸一〗85ジユウバヲコロシテコリヲモトム 軍馬を殺して狐や狸を求めること。小利を求めるために大なる犧牲をはらふ喩。〔淮南子、說山訓〕殺二戎馬一而求二狐狸一、援二兩鼈一而失二靈龜一、斷二右臂一而爭二一毛一、折二鏌邪一而爭二錐刀一、用レ智如レ此、豈足レ高乎。

【戎旆】86ジユウハイ 大きなはた。又、軍用のはた。〔韓愈・孟郊、秋雨聯句〕因思征レ蜀士、未レ免濕二戎旆一。〔韓愈、奉二酬振武胡十二丈大夫一詩〕戎旆暫停辭二社樹一、里門先下敬二鄉人一。

【戎貊】87ジユウハク えびす。戎は西方のえびす、貊は朝鮮・滿洲に居たえびす。〔傅玄、失題詩〕一擧覆二三軍一、再擧殄二戎貊一。

【戎幕】88ジユウバク 軍中の役所。〔李白、宣城送二劉副使入レ秦詩〕寄レ深且戎幕、望レ重必台司。

【戎蠻】89ジユウバン ❶えびす。戎は西方のえびす、蠻は南方のえびす。四夷の略稱。〔列子、仲尼〕觀二吾之鄉一、如二戎蠻之國一。〔晉書、樂志上〕重華隆二帝道一、戎蠻或不レ賓。❷春秋時代の小國の名。子爵。楚に滅ぼさる。今の河南省臨汝縣の西南の蠻城は古の戎蠻國城の地。〔春秋、昭、十六〕楚子誘二戎蠻子一殺レ之。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、周〕戎蠻、河南汝州西南有二蠻城一、卽戎蠻子國、哀四年、楚圍二蠻氏一盡俘以歸。

【戎備】90ジユウビ 戰爭の準備。〔左氏、莊、二十八〕楚令尹子元、欲レ蠱二文夫人一、爲二館於其宮側一、而振レ萬焉、夫人聞レ之泣曰、先君以二是舞一也、習二戎備一也。

【戎府】91ジユウフ 唐代、兵部の官舍をいふ。〔常袞、故四鎭北庭行營節度扶風郡王馬公神道碑銘〕初奮二厥武車師戎府一。〔孟郊、寄二院中諸公一詩〕戎府多二秀異一。〔事物異名錄、官室、官廨〕唐制、俾レ升二戎府一、按、謂二兵部官舍一也。

【戎俘】92ジユウフ とりこ。俘虜。捕虜。〔韻府引、柳宗元、文〕南平劍門西獲二戎俘一。〔李德裕、幽州紀二聖功一碑銘〕又命二牙門將云云一獻二戎俘一、皇帝受而勞レ之。

【戎服】93ジユウフク 軍服をきる。又、軍服。戎衣。〔左氏、襄、二十五〕鄭子產獻二捷于晉一、戎服將レ事。〔注〕戎服、軍旅之衣、異二於朝服一。〔漢書、匈奴傳贊〕赫然發レ憤、遂躬戎服、親御二鞍馬一、云云、馳二

射上林一、講二習戰陣一。〔韓愈、奉二和庫部盧四兄曹長元日朝廻一詩〕戎服上趨承二北極一、儒冠列侍映二東曹一。

【戎副】94 ジュウフク 副將をいふ。〔稱謂錄、副將、戎副〕方以智、通雅、今之勳將、古之戎右也、或稱二戎副一、或曰二偏帥一、或曰二軍倅一。

【戎兵】95 ジュウヘイ ❶軍服と兵器。〔書、立政〕其克詰二爾戎兵一、以陟二禹之迹一。〔傳〕治二汝戎服兵器一。〔詩、大雅、抑〕修二爾車馬、弓矢戎兵一。❷戰士。〔戰國、韓策〕秦馬之良、戎兵之衆、探レ前趹レ後、蹄閒三尋騰者、不レ可二勝數一也。〔管子、內業〕惡氣迎レ人、害二於戎兵一。

【戎僕】96 ジュウボク 周官の名。夏官の屬。兵車を御するを掌る。〔周禮、夏官、戎僕〕掌レ馭二戎車一。

【戎略】97 ジュウリャク 軍事上のはかりごと。軍略。〔韓儀、授二李成慶夏州節度使一制〕繼二美勛門一、生知二戎略一。

【戎旅】98 ジュウリョ 討伐の軍隊。軍旅。又、戰爭。〔魏志、張郃傳〕今將軍外勒二戎旅一、內存二國朝一。〔張協、雜詩〕述職投二邊城一、羈二束戎旅閒一。

【戎虜】99 ジュウリョ えびす。〔蔡琰、胡笳十八拍〕唯我薄命兮沒二戎虜一。

【戎隸】100 ジュウレイ えびすの賤者。〔唐書、李密傳〕遙謂二化及一曰、公家本戎隸、破野頭爾。

【戎路】101 ジュウロ ❶王者の乘るいくさぐるま。又、兵車。いくさぐるま。〔周禮、春官、車僕〕掌二戎路之萃、廣車之萃、云云、輕車之萃一。〔注〕戎路、王在レ軍所レ乘也。〔左氏、莊、九〕公喪二戎路一、傳乘而歸。〔注〕戎路、兵車也。〔唐書、李勣傳〕勣從二秦王一平二建德一、俘二世充一還、秦王爲二上將一、勣爲二下將一、皆服二金甲一、乘二戎路一、告二捷於廟一。❷白い飾を施した兵車。〔禮、月令〕（孟秋之月）乘二戎路一、駕二白駱一。〔注〕戎路、兵車也、制如二周革路一、而飾レ之以レ白。〔呂覽、孟秋〕乘二戎路一、駕二白駱一。〔注〕戎路、白路也。

【戎輅】102 ジュウロ 戎路に同じ。〔潘勗、冊二魏公九錫一文〕是用錫二君大輅・戎輅各一、玄牡二駟一。

【戎輅之服】103 ジュウロノフク 兵車に乘る時の服、卽ち韋冕の服。〔左氏、僖、二十八〕策二命晉侯一爲二侯伯一、賜二之大輅之服・戎輅之服、云云一。〔注〕戎輅、戎車也。

【戎盧】104 ジュウロ 漢代、西域十六國の一。治は卑品城。渠勒の東。三國の時は于闐に屬す。故地は今、新疆省洛浦縣の東の戈壁中。〔漢書、西域傳上〕戎盧國王、治二卑品城一。

【佐レ戎】105 ジュウニサタリ 軍の屬官となる。〔韓愈、祭二十二郎一文〕吾佐二戎徐州一。

【戎邑道】106 ジュウイフダウ 縣名。漢、置く。今、甘肅省秦安縣の東。〔漢書、地理志下〕天水郡、縣十六、戎邑道。

【戎宣王尸】107 ジュウセンワウシ 犬戎の神の名。〔山海經、大荒北經〕犬戎肉食、有二赤獸一、馬狀無レ首、名曰二戎宣王尸一。

【無レ戎而城讐必保焉】108 ジュウナクシテキヅケバアダカナラズタモツ 敵がないのに城壁を築いたりすると、必ず仇が起つてその城壁に據る。〔左氏、僖、五〕無レ喪而慼、憂必讐焉、無レ戎而城、讐必保焉。

【𢦐】11540 ガ 我（5－11545）の篆字。〔正字通〕𢦐、篆文我字。

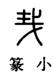
【㦮】11541 ショウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕㦮、音升。

【戋】11542 セン 錢（11－40563）の略字。

【成】11542′ セイ 成（5－11544）の略字。

三畫

【𢦏】11543 サイ 〔集韻〕將來切 灰


小篆

きずつく。そこなふ。〔說文〕𢦏、傷也、从レ戈才聲。

【成】11544 セイ ジヤウ 〔集韻〕時征切 庚 chʻêng²

小篆

古文

❶**なる**。㋑できあがる。しあがる。〔說文〕成、就也、从レ戊丁聲。〔書、大禹謨〕地平天成。〔傳〕五行敍曰レ成。〔太玄經、玄錯〕成者、功就不レ可レ易也。㋺さだまる。きまる。〔國語、吳語〕吳晉爭レ長未レ成。〔注〕成、定也。㋩をはる。〔周禮、天官、司書〕及二事成一、則入要レ貳焉。〔注〕成、猶レ畢也。〔儀禮、士虞禮〕西面告二利成一。〔注〕成、畢也。〔書、益稷〕簫韶九成。〔鄭注〕成、猶レ終也。㋥そなはる。ととのふ。〔詩、齊風、猗嗟〕儀既成兮。〔箋〕成、猶レ備也。㋭しげる。〔呂覽、先己〕松柏成而塗之人已蔭矣。〔注〕成、茂。㋬みのる。〔國語、晉語七〕是穀不レ成也。〔注〕不レ成、謂レ秕也。〔呂覽、明理〕五穀萎敗不レ成。〔注〕成、熟也。㋣ふとる。〔孟子、滕文公下〕犧牲不レ成、不二實肥腯一也。㋠おこる。生起。興起。〔戰國、秦策〕黃帝以二姬水一成、炎帝以二姜水一成。〔注〕成、謂レ所二生長以成レ功也。㋷さかん。〔釋名、釋言語〕成、盛也。㋦すすむ。〔逸周書、命訓解〕大命日成。〔注〕日成、日進也。㋸よい。まったい。〔禮、王制〕成器不レ粥二於市一。〔注〕成、猶レ善也。㋾ふるい。昔からの。〔荀子、正名〕從二諸夏之成俗一。〔注〕成俗、舊俗方言也。〔荀子、解蔽〕不レ蔽二於成積一。〔注〕成積、舊習也。㋻大きい。〔左氏、襄、十四〕成國不レ過レ半二天子之軍一。〔注〕成國、大國也。㋕成人する。一人前になる。〔左氏、哀、五〕齊燕姬生レ子、不レ成而死。〔注〕不レ成、未レ冠也。❷**なす**。㋑しあげる。しとげる。〔詩、周南、樛木〕福履成レ之。〔傳〕成、就也。〔太玄經、玄文〕成レ功者退。〔注〕成レ功、謂二秋收一也。㋺たてる。〔戰國、秦策〕以成二伯王之名一。〔注〕成、立也。㋩たひらげる。さだめる。〔左氏、桓、二〕以成二宋亂一。〔注〕成、平也。㋥ならす。均平にする。〔周禮、地官、質人〕掌レ成二市之貨賄人民牛馬兵器珍異一。〔注〕成、平也。㋭とりもつ。調停する。〔周禮、地官、調人〕以レ民成レ之。〔注〕成、平也。㋬かためる。約束する。〔楚辭、離騷〕初既與レ余成レ言兮。〔注〕成、平也。❸**たひらぐ**。なかなほりする。〔左氏、隱、六〕鄭伯請二成於陳一。〔注〕成、猶レ平也。〔呂覽、原亂〕乃與レ晉成。〔注〕成、平也。❹**さばき**。決裁。〔詩、大雅、緜〕虞芮質二厥成一。〔傳〕成、平也。〔周禮、秋官、方士〕司寇聽二其成于朝一。〔注〕成、平也。❺**きりもり**。權衡。〔詩、小雅、節南山〕誰秉二國成一。〔傳〕成、平也。❻**しきたり**。さだめ。慣例。〔周禮、天官、大宰〕八灋、五曰、官成。〔注〕謂二官府之成事品式一也。❼**しめ**。くくり。かぞへだか。總計。〔禮、王制〕司會以二歲之成一質二於天子一。〔注〕成、計要。❽**あはさる**。かさなる。重（11－40132）・緟（8－27650）に通ず。〔說文通訓定聲〕成、叚借爲レ重、實爲レ緟。〔廣雅、釋詁四〕成、重也。〔爾雅、釋丘〕一成爲二敦丘一、再成爲二陶丘一。〔儀禮、既夕禮〕俎二以成。〔注〕成、猶レ倂也。〔呂覽、音初〕九成之臺。〔注〕成、猶レ重也。❾**まこと**。まことに。あてにする。誠（10－35537）に通ず。〔說文通訓定聲〕成、叚借爲レ誠。〔詩、小雅、我行其野〕成不二以富一。〔國語、吳語〕勝未レ可レ成。〔注〕成、

必也。❿**方十里の地**。〔周禮、地官、小司徒、九夫爲レ井、注〕司馬法云、通十爲レ成。〔周禮、考工記、匠人〕方十里爲レ成。〔左氏、哀、元〕有二田一成一。〔注〕方十里爲レ成。⓫**北斗が戌の方位をさす日**。建除家で吉凶によつて附した日の名。月建（ヲザス）の後四辰に居る。建除十二神（**4－9574**‥118）を見よ。⓬**吉祭**。卒哭の祭。〔禮、檀弓下〕卒哭曰二成事一。〔注〕成、祭事也、祭以レ吉爲レ成。⓭**しろ**。城（**3－5120**）に通ず。〔說文通訓定聲〕成、叚借爲レ城、魯峻碑陰、勃海高成、河閒阜成。⓮古は戚（**5－11572**）に作る。〔集韻〕成、古从レ午。⓯**國の名**。㋑漢の侯國。涿郡に屬す。今、河北省清苑縣の境。〔漢書、地理志上〕涿郡、縣二十九、成。〔注〕侯國。㋺十六國の一。成漢（33）を見よ。⓰**地名**。春秋、魯の孟孫氏の邑。今の山東省寧陽縣の東北。郕（**11－39409**）に通ず。〔說文通訓定聲〕成、叚借爲レ郕。〔禮、檀弓下〕聞子皐將レ爲二成宰一。⓱**謚**。〔逸周書、謚法解〕安レ民立レ政曰レ成。⓲**姓**。〔通志、氏族略、以レ字爲レ氏〕成氏、楚若敖之後、以レ字爲レ氏、又有二郕國之後一、亦去レ邑爲レ成、又周成肅公成桓公、未レ知二其以レ字以レ邑。⓳現割。割引する。

名乘 アキ。アキラ。ナリ。シゲ。ナル。マサ。フサ。ミチ。ノリ。ヒラ。

解字 形聲會意。戊をもととし、丁を聲とする。丁は壯丁充實の意で、戊と丁と合して、充實して茂りできあがる意を示す。

【成安】1（セイアン） 縣名。❶漢、置く。侯國。今、河南省臨汝縣の東南。〔漢書、地理志上〕潁川郡、縣二十、成安。〔注〕侯國也。❷漢、置く。今、河南省考城縣の地。〔漢書、地理志上〕陳留郡、縣十七、成安。❸北齊、置く。本、考城縣の地。故治は河南省考城縣の東南。〔讀史方輿紀要、河南、歸德府、睢州〕考城縣、在二州東北九十里一、北齊省入二成安縣一。❹北齊、置く。漢の斥邱縣の地。明清以後之に仍る。河北省大名縣の西北。〔讀史方輿紀要、直隸、廣平府〕成安縣、府南六十里、高齊復置、改曰二成安一。〔清史稿、地理志〕直隸、廣平府、縣九、成安。

【成案】2（セイアン） ❶實施の出來るやうに成立した見こみ。又、成立した考案。みつもり。〔韓愈、藍田縣丞廳壁記〕文書行吏、抱二成案一詣レ丞。❷法律の前例。成文の法例。事件の實例。成案已經二遠年一を見よ。

【成案已經二遠年一】3（セイアンステニエンネンヲフ） ある事件に關して作成した案文が長年を經過する。其の當時には效力があるが、長年を經過した後は其の效力を失ふことをいふ。〔續律提綱〕遠年成案、不レ准三援爲二依據一、屢奉二刑部駁一。

【成菴】4（セイアン） 清、姚夔（**3－6202**‥27）の號。

【成葊】5（セイアン） 清、姚夔（**3－6202**‥27）の號。

【成衣】6（セイイ） ❶衣服を仕立てる。〔淮南子、說山訓〕先レ針而後レ縷、可二以成一レ帷、先レ縷而後レ針、不レ可二以成一レ衣。❷ch'êng² i¹ 裁縫師。

【成衣局】7 ch'êng² i¹ chü² 仕立屋。裁縫屋。

【成衣工】8 ch'êng² i¹ kung¹ 裁縫師。

【成爲】9 ch'êng² wei² なる。なす。

【成友】10（セイイウ） 清、吳德信（**2－3365**‥812）の字。

【成育】11（セイイク） 育て仕上げる。又、そだつて大きくなる。おひたつ。成長。〔漢書、丙吉傳〕所下以擁二全神靈一、成中育聖躬上。〔淮南子、本經訓〕斟二酌萬殊一、旁二薄衆宜一、以相嘔咐醞釀、而成二育羣生一。〔王褒、四子講德論〕胎卵得二以成育一、草木遂二其零茂一。

【成一】12（セイイツ） 宋、姚勉（**3－6202**‥110）の字。

【成允】13（セイイン） 信をなす。言語に僞なく履行すること。〔書、大禹謨〕降水儆レ予、成レ允成レ功。〔蔡傳〕允、信也、禹奏言而能踐二其言一、試レ功而能有二其功一、所謂成レ允成レ功也。〔左氏、襄、五〕夏書曰、成レ允成レ功。

【成運】14（セイウン） 朝鮮、李朝の昌寧の人。字は健叔。遺集數卷がある。〔人物考〕。

【成窰】15（セイエウ） 明の成化年間、官窰で製造した磁器。瓷質精細、製法奇巧で、就中五采のものが最も貴ばれる。せいくわやき。〔遵生八牋、論二饒器新窰古窰一〕余意、青花成窰、不レ及二宣窰五彩一、宣廟不レ如二憲廟一、宣窰之青、乃蘇浡泥青也、後俱用盡、至二成窰時一、皆平等青矣、宣窰五彩、深厚堆垛、故不二甚佳一、而成窰五彩、用二色淡淺一、頗有二畫意一。〔紅樓夢、四十一〕裡面放二個成窰五彩泥金小蓋鐘一、奉二與賈母一。

【成兗】16（セイエン） 清、大名の人。字は魯公。鄉貢より經歷となる。畫に巧。〔國朝畫識、八〕。

【成淹】17（セイエン） 後魏、居庸の人。字は季文。謚は定。文學者。景明中、平陽太守となる。〔魏書、七十九〕・〔北史、四十六〕。

【成燕】18（セイエン） さかもりをする。〔張衡、西京賦〕恣二意所一レ幸、下レ輦成レ燕。〔注〕向曰、言三天子所レ幸、宮伎既多、下レ輦之處、卽爲二燕樂一。

【成家】19（セイカ） ❶家を構へる。家を造る。〔吳越春秋、越王無余外傳〕塗山之歌曰、綏綏白狐、九尾痝痝、我家嘉夷、來賓爲レ王、成レ家成レ室、我造二彼昌一、天人之際、於レ茲則行明矣哉。❷家室を成立する。轉じて、結婚することをいふ。〔遼史、后妃、景宗睿知皇后蕭氏傳〕北府宰相思溫女、早慧、思溫嘗觀二諸女埽一レ地、惟后潔除、喜曰、此女必成レ家。❸後漢の公孫述が、建武元年、巴蜀に據つて建てた國。〔後漢書、公孫述傳〕建武元年四月、遂自立爲二天子一、號二成家一、色尙レ白、建レ元曰二龍興元年一。〔注〕以レ起二成都一、故號二成家一。

【成賈】20（セイカ） ❶價格を定める。又、定まつた價。〔周禮、地官、司市〕以二量度一成レ賈而徵レ儥。〔注〕物有二定賈一、則買者來也。❷賣買の約束をする。〔左氏、昭、十六〕韓子買二諸賈人一、既成レ賈矣。〔釋文〕成賈、本或作レ價。

【成嘉】21（セイカ） ❶春秋、楚の人。若敖の曾孫。字は子孔。穆王の時、令尹となる。羣舒の反を討平す。〔左氏、文、十二〕。❷清、江德量（**6－17140**‥502）の字。

【成價】22（セイカ） 成賈（20）に同じ。

【成戒】23（セイカイ） 動かすべからざるいましめ。〔魏志、王朗傳、注〕窮レ兵黷レ武、古有二成戒一。

【成諧】24（セイカイ） 明、興化の人。字は和仲。少くして奇節あり。擊劍を好み、六壬數を得。總督翁萬達の幕賓となる。〔揚州府志〕。

【成交】25（セイカウ） 商取引の成立をいふ。授受を終る。受け渡しずみ。手合せ。〔癸辛雜識〕今已成交得レ錢、決無二悔理一。

【成交量】26（セイカウリヤウ） 取引商。

【成行】27（セイカウ） ❶征旅の準備をする。〔左氏、襄、十〕子蟜曰、諸侯既有レ成レ行、必不レ戰矣。❷（ナリユキ）物事のなりゆく過程。結果。

【成效】28（セイカウ） できあがり。結果。成功。成績。〔吳志、薛綜傳〕假二其威寵一、借二之形勢一、責二其成效一。

【成皋】29（セイカウ） ❶縣名。漢、置く。古の東虢國。春秋、鄭の制邑。又、虎牢といふ。春秋の鄭・戰國の韓、皆重要の地とす。楚漢も亦此處に對峙す。河南省汜水縣の西北、今の上街鎭。〔史記、秦紀〕使二蒙驁伐一レ韓、韓獻二成皋鞏一。〔注〕正義曰、括地志云、洛州汜水縣、古之虢國、亦鄭之制邑、又名二虎牢一、漢之成皋。〔漢書、地理志上〕河南郡、縣二十二、成皋。〔注〕故虎牢、或曰レ制。❷民國、置く。河南省鄭縣の西北。黃河に臨む。

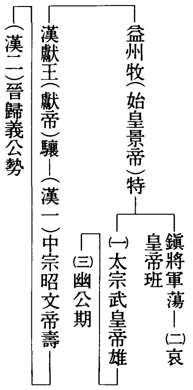
【成康】30（セイカウ） ❶周の成王と康王をいふ。〔詩、周頌、執競〕不レ顯成康、上帝是皇。〔集傳〕豈不レ顯哉、成王・康王之德。〔史記、周紀〕故成康之際、天下安寧、刑錯四十餘年不レ用。〔漢書、景帝紀贊〕周云二成康一、漢言二文景一、美矣。〔班固、兩都賦序〕昔成康沒、而頌聲寢。❷成し安んずる。〔詩、周頌、執競〕不レ顯成康、上帝是皇。〔傳〕不レ顯乎其成二大功一而安レ之也。

【成客】31 ch'êng² k'ê⁴ 遠慮する。

【成合】32 ch'êng² hê² 婚儀をすます。

【成漢】33（セイカン） 國の名。晉代、五胡十六國の一。西晉の惠帝の時、氐族の李特は、其の弟庠・流と共に、關中の流民を率ゐて蜀に入り、益州の刺史趙廞と亂をなし、後、廞と難を構へたが、特の子雄に至り、太安二年、成都王と號し、建興と建元し、二年の後、遂に帝位に卽き、成都に都し、國を成と號した。雄の死後、李壽は、雄の子の期を幽して簒立し、國號を漢と改めた。壽の死後、子の勢が立つたが、驕淫で國事を憂へず、永和三

年、晉の桓溫に滅ぼされた。故に史家は、成漢といひ、又後蜀ともいふ。國を稱すること三世、六主、四十六年。今の四川及び陝西の南部、雲南貴州の北部の地を領した。



〔十六國春秋、蜀錄〕夏六月、僭㆓卽帝位㆒、大赦、改㆑元、號㆓大成㆒。〔晉書、李壽載記〕以㆓咸康四年㆒、僭㆓卽僞位㆒、赦㆓其境內㆒、改元爲㆓漢興㆒。

【成岩】34ナラハ　尾張國の地名。

【成己】35セイキ　宋、石余亨(**8―24024**‥1044)の字。

【成季】36セイキ　❶春秋晉、趙衰(**10―37171**‥185)の謚。❷字號。㋑宋、吳全節(**2―3365**‥726)の字。㋺宋、洪擬(**6―17402**‥52)の字。㋩宋、李昭玘(**6―14459**‥1583)の字。

【成紀】37セイキ　❶條理を成す。紀綱を成す。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕發㆑音在㆑詠、動㆑容成㆑紀。〔注〕善曰、韓詩曰、淑女奉㆓順坤德㆒、成㆓其紀綱㆒。❷縣名。漢、置く。古、伏羲氏が此處で生れたといふ。故城は甘肅省泰安縣の北。〔帝王世紀〕伏羲生㆓於成紀㆒。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、秦州〕成紀廢縣、今州治、帝王世紀、伏羲生㆓於成紀㆒、漢置㆑縣屬㆓天水郡㆒、後漢屬㆓漢陽郡㆒、魏晉仍屬㆓天水郡㆒、後魏因㆑之、尋廢、後周復置㆑縣、屬㆓秦州㆒、隋唐仍㆑舊。❸複姓。〔萬姓統譜〕成紀天水、見㆓姓苑㆒。

【成軌】38セイキ　後魏、居庸の人。字は洪義。謚は孝惠。官は建義の初、衞將軍。爵は始平縣侯。〔魏書、九十四〕・〔北史、九十二〕。

【成規】39セイキ　❶標準法度とする。法則となる。〔周禮、夏官、司弓矢〕天子之弓、合㆑九而成㆑規。〔莊子、田子方〕昔之見㆑我者、進退一成㆑規、一成㆑矩。❷前人の仕上げた法規。ふるい法規。又、出來上つた法規。〔蜀志、蔣琬費禕傳評〕咸承㆓諸葛之成規㆒、因循而不㆑革。〔晉書、溫嶠傳〕嶠重與㆓侃書㆒曰、云云、僕才輕任重、實憑㆓仁公篤愛㆒、遠稟㆓成規㆒。〔潘岳、關中詩〕親奉㆓成規㆒、稜威遐厲。

【成毀】40セイキ　なることとやぶれること。❶一方に於て成るといふことは、同時に他方に於てやぶれることである。例へば、木を伐つて家を作るに、家の方から見れば成であるが、木の方から見れば毀である。之を莊子の成毀論といふ。〔莊子、齊物論〕其分也成也、其成也毀也、凡物无㆓成與㆑毀、復通爲㆑一、唯達者知㆓通爲㆑一。〔注〕我之所謂成、而彼或謂㆓之毀㆒。〔疏〕或於㆑此爲㆑成、於㆑彼爲㆑毀、物之涉用、有㆓此不㆑同、則散㆑毛成㆑氈、伐㆑木爲㆑舍等也。❷成るといふことは必ず毀れることの前提である。〔莊子、山木〕合則離、成則毀、廉則挫、尊則議。〔疏〕合則離㆑之、成者必毀。

【成器】41セイキ　❶よいうつは。善器。〔禮、王制〕錦文珠玉成器、不㆑粥㆓於市㆒。〔注〕成、猶㆑善也。〔禮、少儀〕毋㆑訾㆓衣服成器㆒。〔注〕成、猶㆑善也。❷善器をつくりなすこと。才藝器能を成就すること。〔易、繫辭下〕是以出而有㆑獲、語㆓成㆑器而動者㆒也。〔禮、學記〕玉不㆑琢、不㆑成㆑器、人不㆑學、不㆑知㆑道。

【成毅】42セイキ　清、湘鄉の人。字は忍齋。號は求在我齋。道光の進士。岳州教授となる。著に求在我齋文集がある。

【成虧】43セイキ　なることとかけること。〔列子、天瑞〕損盈成虧、隨世隨死。

【成宜】44セイギ　縣名。漢、置く。故城は綏遠の境。烏喇特旗の南の故九原城の西。〔漢書、地理志下〕五原郡、縣十六、成宜。

【成義】45セイギ　唐、李撝(**6―14459**‥199)の本名。

〖成義侯〗46セイギコウ　漢、文齊(**5―13450**‥188)の封號。

【成議】47セイギ　❶既に決定した議論。〔阮瑀、爲㆓曹公㆒作㆑書與㆓孫權㆒書〕遂齎㆓見㆑薄之決計㆒、秉㆓翻然之成議㆒。❷chʻêng^2 i^4　相談を定める。

【成九】48セイキウ　清、賴珍(**10―36861**‥19)の字。

【成久】49 chʻêng^2 chiu^3　いつまでも。滅多に。

【成仇】50 chʻêng^2 chʻou^2　讎敵となる。仇となる。

【成臼】51セイキウ　河の名。今、臼成河といふ。〔左氏、定、五〕王之奔㆑隨也、將㆑涉㆓於成臼㆒。

【成求】52セイキウ　求める所を成就する。〔左氏、哀、七〕若夏盟㆓於鄫衍㆒、秋而背㆑之、成㆑求而不㆑違、四方諸侯、其何以事㆑君。

【成及】53セイキフ　五代、吳越、錢塘の人。字は弘濟。錢鏐と事を同じうす。官は保大彰義等の軍の節度使。〔五代史、六十七〕。

【成鄉】54セイキヤウ　縣名。❶漢、置く。侯國、故治は山東省安丘縣の北。〔漢書、地理志上〕北海郡、縣二十六、成鄉。〔注〕侯國。❷漢、置く。高密國に屬す。高密國は山東省高密縣の西南。〔漢書、地理志下〕高密國、縣五、成鄉。

【成玉】55セイギヨク　宋、胡幼黃(**9―29400**‥403)の字。

【成斤】56セイキン　古、我が國で租稻に用ひた量目の名。稻一束、卽ち大斤百六十兩。今の三升強に當る。〔令義解、十二〕令文二十二束、與㆓今十五束㆒、員數實同、但先束者不㆑成㆑斤、今十五束、成㆑斤耳。

【成均】57セイキン　❶周の大學をいふ。其の虧けたところを整成し、其の過不及を均平する意。一說に、音樂の調子を整へる意に取つて名づけるといふ。周代には五學を建て、中央を辟雍(中學)、南を成均(南學)、北を上庠(北學)、東を東序(東學)、西を瞽宗(西學)といふ。成均は大司樂が五學の教を總べ、樂德・樂語・樂舞を教へる所。因つて又、五學の統稱となる。一說に、五帝の學校といふ。大學(**3―5831**‥316)を見よ。〔周禮、春官、大司樂〕掌㆓成均之灋㆒、以治㆓建國之學政㆒、而合㆓國之子弟㆒焉。〔注〕鄭司農云、均、調也、樂師主㆑調㆓其音㆒、大司樂主㆑受㆓此成事已調之樂㆒、玄謂、董仲舒云、成均、五帝之學、成均之法者、其遺禮可㆑法者、國之子弟公卿大夫之子弟當㆑學者、謂㆓之國子㆒、文王世子曰、於㆓成均㆒以及㆑取㆓爵於上尊㆒、然則周人立㆓此學之宮㆒。〔疏〕成均、五帝學也、云㆓成均之法㆒者、其遺禮可㆑法者、鄭見㆔經掌㆓成均之法㆒、卽是有㆔遺禮可㆓法效㆒、乃可㆑掌㆑之、故知㆑有㆓遺禮㆒也。〔王與之訂義〕鄭鍔曰、周人立㆓五學㆒、中曰㆓辟廱㆒、環㆑之以㆑水、水南爲㆓成均㆒、水北爲㆓上庠㆒、東爲㆓東序㆒、西爲㆓瞽宗㆒、學㆑禮者就㆓瞽宗㆒、學㆑書者就㆓上庠㆒、學㆑舞㆓干戈羽籥㆒者就㆓東序㆒、學㆓樂德樂語樂舞㆒者就㆓成均㆒、惟天子承㆑師問㆑道、及養㆓老更㆒之類、乃就㆓辟廱㆒、故大戴禮有㆘帝入㆓東學・南學・西學・北學・太學㆒之文㆖。〔孫詒讓正義〕黃以周云、文王世子、以㆘於㆓成均㆒別㆗郊學之人㆖、是成均爲㆓周大學之通稱㆒、云、然則周人立㆓此學之宮㆒者、鄭以㆓經言㆑掌㆓成均之法㆒、嫌㆘唯掌㆓其禮法㆒、而不㆖立㆓其宮舍㆒、故據㆓文王世子㆒、證㆓成其義㆒、學宮卽謂㆓學舍㆒、大戴禮記保傅篇、說㆓小學㆒云、小者、所㆑學之宮也、若然、此成均、亦卽大學之宮、鄭彼注以㆓成均㆒爲㆓虞庠㆒者、案、虞庠有㆑二、一爲㆓大學之北學㆒、亦曰㆓上庠㆒、一爲㆓四郊之小學㆒、曰㆓虞庠㆒云云、段玉裁云、文王世子注之虞庠、謂㆓國之大學㆒、上庠非㆓小學㆒、洪頤煊云、下言㆔樂祖祭㆓於瞽宗㆒、成均有㆓瞽宗㆒、則卽大學也、文王世子注虞庠、當㆔是謂㆓虞之上庠㆒、鄭彼注、釋㆓菜於虞庠㆒、則儐㆓賓於東序㆒、虞庠與㆓東序㆒同㆑處、是亦虞之上庠也、孔疏以㆓西郊小學㆒、當㆓此之虞庠㆒、亦失㆑之矣、案、段洪說是也、呂飛鵬說同、此經成均、當㆑爲㆓大學㆒、固無㆓疑義㆒、而鄭文王世子注、謂㆘郊人得㆗於㆓虞庠㆒酌㆓上尊㆒以相旅㆖、則似㆘仍主㆔四郊小學㆒爲㆖說、段玉裁參㆓合此經及文王世子二文㆒、謂㆓大學小學皆得㆑謂㆓之成均㆒、鄭指或當㆑如㆓段說㆒、蓋成均爲㆓五帝之學㆒、舜卽五帝之一、故鄭謂㆔成均近㆓是虞庠㆒、然古書無㆓成均卽虞庠之文㆒、故仍爲㆓存㆑疑之詞㆒、云、今通㆘校諸經涉㆓學制㆒之文㆖、知㆘周制國中爲㆓小學㆒、在㆓王宮之左㆒、南郊爲㆓五學㆒、是爲㆓大學㆒、辟雍卽大學、在㆑郊、與㆓四學㆒同㆑處、殆無㆗疑義㆖、至㆓五學方位㆒、北上庠、東東序、西瞽宗、古無㆓異說㆒、唯成均辟雍、衆說不㆑同、鄭鍔云、周五學、中曰㆓辟雍㆒、環㆑之以㆑水、水南爲㆓成均㆒、水北爲㆓上庠㆒、水東爲㆓東序㆒、水西爲㆓瞽宗㆒、其義最塙、陸佃・黃以周、說㆓五學方位㆒亦同、孔廣森亦以㆓成均㆒爲㆑在㆑南云、周人尙㆑赤、先㆓南方㆒、是以五宮首㆓明堂㆒、五學首㆓成均㆒、林喬蔭云、王制云、天子曰㆓辟雍㆒、其位當㆑在㆑中、故大戴禮保傅篇引㆓學禮㆒云、帝入㆓東學・南學・西學・北學・中學㆒、凡爲㆓五學㆒、對㆓小學㆒言㆑之、五者皆稱㆓大學㆒、對㆓四學㆒言㆑之、則中學又獨稱㆓大學㆒、蓋東西南北四學、爲㆓國子肆㆑業之所㆒、中之辟雍、乃天子所㆑居、非㆓學者之宮㆒、易傳太初篇、所謂在㆓中央㆒曰㆓大學㆒、

天子之所㆓自學㆒者、是也、金鶚云、五學以㆓辟雍居㆑中爲㆓最尊㆒、成均在㆑南亦尊、承㆑師問㆑道、必在㆓辟雍㆒、辟雍之尊可㆑知、大司樂、總㆓五學之教㆒、而教㆓樂德樂語樂舞㆒、必於㆓成均㆒、成均之尊亦可㆑知、故統㆓五學㆒可㆔名爲㆓辟雍㆒、亦統㆓五學㆒可㆔名爲㆓成均㆒、大司樂云、掌㆓成均之灋㆒、以治㆓建國之學政㆒、此成均乃五學之通稱也、明堂爲㆓正南一堂㆒、而五室可㆔統稱爲㆓明堂㆒、亦猶㆑是也、然別而言㆑之、則成均自是南學之名、今案㆓諸說㆒、謂㆓成均㆒爲㆓南學㆒、辟雍爲㆓中學㆒、皆不易之論。〔禮、王制、大學在㆑郊天子曰㆓辟廱㆒、集說〕山陰陸氏曰、又新書曰、五帝大學謂㆓之成均㆒、三王大學謂㆓之辟廱㆒。〔禮、文王世子〕於㆓成均㆒以及㆑取㆓爵於上尊㆒也。〔注〕董仲舒曰、五帝名㆓大學㆒曰㆓成均㆒、則虞庠近㆑是也。❷文學の官をいふ。〔王融、三月三日曲水詩序〕崇文成均之職、導㆑德齊㆑禮。〔注〕銑曰、崇文成均、文學官也。

〖成均監〗58セイキンカン 唐代、國子監を改め稱した。國子監(**3－4798**··252)を見よ。〔唐書、百官志三、注〕垂拱元年、改㆓國子監㆒、曰㆓成均監㆒。〔通典、職官九、諸卿下、國子監〕光宅元年、改㆓國子監㆒爲㆓成均監㆒。

〖成均館〗59セイキンクワン 朝鮮の大學の名。高麗の忠宣王の時、國學を成均館と稱したのに始まる。以後、恭愍王の時、國子監と改めたが、やがて舊稱に復し、李朝一代を通じて此の名を用ひた。

【成金】60セイキン ❶善い金。〔管子、輕重甲〕得㆓成金萬一千餘斤㆒。〔纂詁〕成、猶㆑善也。❷ナリキン 俄分限者。將棋の「步」が「金」となるに譬へた語。

〖成金者流〗61ナリキンシヤリウ 貧乏人から急に金持になつたもの。なりあがりもの。

【成禽】62セイキン 成擒に同じ。〔後漢書、袁紹傳〕許攸進曰、云云、若分㆓遣輕軍㆒、星行掩襲、許拔則操爲㆓成禽㆒、如㆓其未㆑潰、可㆑令㆓首尾奔命㆒、破㆑之必矣。

【成擒】63セイキン 捕虜となる。就擒。〔晉書、宣帝紀〕棄㆑城預走、上計也、據㆓遼水㆒以拒㆓大軍㆒、次計也、坐守㆓襄平㆒、此成㆑擒耳。〔劉因、武當野老歌〕一聲白鴈已成㆑擒、回㆓望丹梯㆒淚滿㆑襟。

【成句】64セイク ❶句と句とが結びついて一つのまとまつた意義をなす文句。❷昔から傳はつて弘く人に知られてゐる文句。

【成矩】65セイク 法則となる。成規(39)に同じ。〔莊子、田子方〕進退一成㆑規、一成㆑矩。

【成駒】66ナリコマ 將棋で銀・桂・香・步が敵陣に入れば金となる、之を成駒といふ。轉じて、俄分限、又は威勢のよいことをいふ。

【成空】67セイクウ 全く無くなる。又、全く無いやうに見える。〔李白、流㆓夜郞㆒至㆓江夏㆒陪㆓長史叔及薛明府㆒宴㆓興德寺南閣㆒詩〕岸廻沙不㆑盡、日映㆑水成㆑空。

【成化】68セイクワ 明の憲宗、朱見濡の年號。(1465－1487)

〖成化帝〗69セイクワテイ 明の憲宗、朱見濡をいふ。

【成果】70セイクワ できばえ。出來上り。

【成裹】71 ch'êng² kuo³ 縫ひ合せる。

【成回】72セイクワイ 春秋の人。子路の弟子。子路に學ぶこと三年、恭敬已まず、子路に君子として推重された。〔說苑、辨物〕。

【成光】73セイクワウ ひかりが出來上る。〔白虎通、日月〕八日成㆑光、二八十六日、轉而歸㆑功。

【成篁】74セイクワウ たかむらをなす。〔張衡、西京賦〕篠簜敷衍、編㆑町成㆑篁。

【成君】75セイクン 定まつた君。一定の君主。〔國語、晉語四〕晉無㆓寧歲㆒、民無㆓成君㆒。

【成勳】76セイクン ❶立派に成し遂げたいさをし。〔後漢書、楊賜傳〕三葉宰相輔㆑國以㆑忠、朕昔初載授㆓道帷幄㆒、遂階㆓成勳㆒以陟㆓大猷㆒。❷いさをしを立派に成し遂げる。〔宋書、武帝紀中〕詔曰、云云、是以成㆑勳告㆑就、文命有㆓玄圭之錫㆒、四海來王、姬旦饗㆓龜・蒙之封㆒。〔宋書、劉穆之傳〕劉孟諸公、與㆑公倶起㆓布衣㆒、共立㆓大義㆒、本欲㆔匡㆑主成㆑勳、以取㆓富貴㆒耳。

【成羣】77セイグン 群をなす。〔列子、黃帝〕雄雌在㆑前、孳尾成㆑羣。

〖成羣搭夥〗78 ch'êng² ch'ün² ta¹ huo³ 多人數が黨を組む。

【成形】79セイケイ 出來上つたかたち。〔莊子、齊物論〕一受㆓其成形㆒、不㆑亡以待㆑盡。〔柳宗元、柳州山水近㆑治可㆑遊者記〕成形如㆓肺肝㆒、如㆓茄房㆒。

【成計】80セイケイ はかりごとをなす。〔魏志、荀彧傳〕若先疑㆑之、彼將㆓怒而成㆑計。

【成荊】81セイケイ 齊の景公の勇士。成覸。成慶。〔戰國、韓策〕聶政直入上㆑階、刺㆓殺韓傀㆒云云、政姉嫈聞㆑之、云云、乃之㆑韓視㆑之、曰、勇哉氣矜之隆、是其軼㆓賁育㆒而高㆓成荊㆒矣。〔注〕成荊、古之勇士也。〔史記、范雎傳〕成荊・孟賁・王慶忌・夏育之勇焉而死。〔注〕集解曰、許愼曰、成荊、古勇士。〔淮南子、齊俗訓〕孟賁成荊、無㆑所㆑行㆓其威㆒。〔注〕成荊、古勇士也。

【成慶】82セイケイ 荊軻(**9－30940**··6)をいふ。一說に、古の勇士。成荊に同じ。〔漢書、景十三王、廣川惠王越傳〕其殿門有㆔成慶畫㆒、短衣大絝長劍。〔注〕晉灼曰、成慶、荊軻也、衞人謂㆓之慶卿㆒、燕人謂㆓之荊卿㆒、師古曰、成慶、古之勇士也、事見㆓淮南子㆒、非㆓荊卿㆒也。

【成蹊】83セイケイ 小みちが出來る。〔史記、李廣傳〕諺曰、桃李不㆑言、下自成㆑蹊、此言雖㆑小、可㆓以喩㆑大也。

【成業】84セイゲフ ❶生業とする。〔史記、貨殖傳〕邯鄲郭縱、以㆓鐵冶㆒成㆑業、與㆓王者㆒埒㆑富。❷なしとげた事業。〔晉書、王羲之傳〕思簡而易㆑從、便足㆔以保㆓守成業㆒。

【成見】85 ch'êng² chien⁴ 見込み。考へ。定見。

【成卷】86セイケン 卷物に拵へる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕粘連成㆑卷。

【成俔】87セイケン 朝鮮、李朝の昌寧の人。字は磬叔。號は慵齋。諡は文戴。官は工曹判書。後、大提學。著に虛白堂詩文集、風雅錄、奏議、浮休子談論、慵齋叢話、錦囊行跡、樂學軌範、桑榆備覽がある。〔海東名臣錄〕。

【成愆】88セイケン 周の人。靈王の時、蔿邑の大夫。〔左氏、襄、三十〕戊子、儋括圍㆑蔿逐㆓成愆㆒。

【成憲】89セイケン 先王の定めたおきて。〔書、說命下〕監㆓于先王成憲㆒、其永無㆑愆。〔蔡傳〕憲、法、云云、先王成法者、子孫之所㆑當㆑守者也。

【成縣】90セイケン 縣名。❶漢、置く。侯國。河北省保定府の境。〔漢書、地理志上〕涿郡、縣二十九、成。〔注〕侯國。❷後漢、置く。故城は山東省寧陽縣の北。〔後漢書、郡國志三〕濟北國、成、本國。〔注〕左傳、衞師入㆑郕、杜預曰、東平剛父縣西南有㆓郕鄉㆒。❸明、置く。甘肅省武都縣の東北。縣の西に仇池山があり、西南に犀牛江がある。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府〕成縣、古西戎地、明初改㆑州爲㆑縣。〔淸史稿、地理志〕甘肅、階州直隸州、縣二、成。

【成覸】91セイケン 古、齊の景公に仕へた勇士。成荊。成覵。〔孟子、滕文公上〕成覸謂㆓齊景公㆒曰、彼丈夫也、我丈夫也、吾何畏㆑彼哉。

【成覵】92セイケン 成覸に同じ。〔說文〕覵、云云、齊景公之勇臣有㆓成覵者㆒。

【成顓】93セイケン 五代吳越、錢弘仰(**11－40563**··310)の諡。

【成言】94セイゲン 約束する。盟の言葉をたてる。成議。〔易、說卦〕戰㆓乎乾㆒、勞㆓乎坎㆒、成㆓言乎艮㆒、云云、艮、東北之卦也、萬物之所㆑成㆑終、而所㆑成㆑始也、故曰、成㆓言乎艮㆒。〔左氏、襄、二十七〕楚公子黑肱先至、成㆓言於晉㆒。〔注〕成㆓盟載之言㆒。〔楚辭、離騷〕初既與㆑余成㆑言兮、後悔而有㆑他。〔注〕成、平也、言、猶㆑議也。〔補注〕成言、謂㆓誠信之言、一成而不㆑易也。

【成嚴】95セイゲン 明、山東樂安の人。永樂中、監察史となる。彈劾するに權貴を避けず、帝をして貴戚に諭して、朕、汝が輩の罪を赦すも、嚴之を許さずと言はしめるに至る。〔蘭臺法鑑錄、二〕。

【成固】96セイコ 縣名。漢、置く。陝西省城固縣の西北。城固(**3－5120**··48)を見よ。〔漢書、地理志上〕漢中郡、縣十二、成固。〔後漢書、郡國志〕成固屬㆓益州漢中郡㆒。

【成語】97セイゴ 古語で後人に常に引用される語。故事成語を集めたものには明の丘濬の故事必讀成語考がある。熟語。〔紅樓夢、二十八回〕或古詩舊對、四書五經成語。

【成公】98セイコウ ❶複姓。〔通志、氏族略、以㆓爵諡㆒爲㆑氏〕成公氏、姬姓、衞成公之後、以㆑諡爲㆑氏。❷漢の隱者。自ら姓名を隱し、世と交はらず、時人目して成公と爲す。成帝出游して之を訪ひ、威光を以て仕へしめようとしたが、遂に屈する能はず、郞官二人をして就いて政事十二篇を受けしめた。〔高士傳、中〕。❸唐、段秀實(**6－16619**··89)の字。

〖成公英〗99セイコウエイ 三國、魏の金城の人。列侯に封ぜらる。〔三國志、十五〕。

〖成公簡〗100セイコウカン 晉、東郡の人。字は宗舒。官

は散騎侍郎。〔晉書、六十二〕。

【成公興】101 セイコウコウ 後魏、膠東の人。字は廣明。太武の時の大儒。殷紹の師。〔魏書、九十一〕。

【成公綏】102 セイコウスイ 晉、白馬の人。字は子安。詩賦に巧。官は中書郎。賈充等と法律を參定す。著に詩賦雜筆十餘卷がある。〔晉書、九十二〕。

【成功】103 セイコウ ❶事業をなしとげる。功果をあげあらはす。又、出來上り。〔書、大禹謨〕來禹、洚水儆レ予、成レ允成レ功。〔書、禹貢〕禹錫二玄圭一告二厥成功一。〔書、太甲下〕臣罔下以二寵利一居中成功上。〔論語、泰伯〕巍巍乎其有二成功一也。〔中庸〕及二其成レ功一也。〔莊子、外物〕聖人躊躇以興レ事、以毎成レ功、奈何哉。〔荀子、君道〕雖レ欲二成立一得乎哉。〔增注〕立、宋本・羣書治要、共作レ功。❷秋のとり入れ。〔左氏、昭、二十三〕三務成レ功、民無二內憂一、而又無二外懼一、國焉用レ城。〔注〕春夏秋三時之務也。❸複姓。〔萬姓統譜〕成功、禹治レ水成レ功、而少子遂以爲レ姓。❹明、新泰の人。字は文煥。永樂の間、四川按察司僉事となり、後、湖廣副使となる。著に登庸錄がある。〔蘭臺法鑒錄、七〕。

【成功舞】104 セイコウノマヒ 晉の武舞の名。昭德舞(5－13855··143)の❷を見よ。〔唐餘錄〕晉天福五年、詔二有司一復脩正、至二朝會一舞之制一、以二文舞一爲二昭德之舞一、武舞爲二成功之舞一、十一月冬至、遂奏レ之。

〖成功之下不レ可二久處一〗105 セイコウノモトヒサシクヲルベカラズ 功業をなしとげて、長く名譽富貴の地位にをると、他人から怨まれ嫉まれて、禍を蒙るに至るから、久しく之に居るべきではない。〔史記、蔡澤傳〕書曰、成功之下、不レ可二久處一、四子之禍、君何居焉。

【成興】106 セイコウ 字號。❶後魏、尉聿(4－7440··2)の字。❷北周、達奚武(11－39011··27)の字。

【成國】107 セイコク ❶大國。〔左氏、襄、十四〕成國不レ過レ半二天子之軍一。〔注〕成國、大國也。〔疏〕方四百里以上爲二成國一。❷漢、劉熙(2－2224··155)の字。

〖成國公〗108 セイコクコウ 明、朱能(6－14424··489)の封號。

【成骨】109 セイコツ 骱骨の上端。〔素問、刺腰痛論〕刺二少陽成骨之端一出レ血。

【成劫】110 ジヤウコフ 佛 ❶四劫の一。世界が出來あがつて人類の生殖する時代をいふ。〔倶舍論、十二〕成劫從二風起一、至二地獄初生一。❷劫をなす。劫は佛教でいふ最も長い時間。〔蘇軾、遷居詩〕念念自成レ劫、塵塵各有レ際。

【成昏】111 セイコン 結婚する。成婚。〔左氏、桓、三〕會二于嬴一、成二昏于齊一也。〔疏〕此成昏、謂レ聘二文姜一也。

【成婚】112 セイコン 成昏に同じ。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕今已二十七、卿可二去成レ婚。〔魏志、張邈傳〕陳珪恐二術布成婚一。〔陸游、沾池農家詩〕買二花西舍一喜二成婚一、持二酒東鄰一賀二生子一。〔明律、戶律、昏姻〕若再許二他人一者杖八十、已成レ婚者杖八十。

【成渾】113 セイコン 朝鮮、李朝の昌寧の人。字は浩原。號は默菴。諡は文簡。官は左參贊。〔月沙集〕。

【成才】114 セイサイ 才能を成就する。又、其の才能。成材。〔魏志、管輅傳、注〕輅別傳曰、神在二廣博一、志不レ務レ學、弗レ能レ成レ才。

【成災】115 セイサイ ❶災害を成す。〔班固、幽通賦〕巽羽化二乎宣宮一兮、彌二五辟一而成レ災。❷災害で收穫の五割以上を損失したもの。成災不成災を見よ。

〖成災不成災〗116 セイサイフセイサイ 成災とは水旱災の被害が大きくて農民の災となること。不成災とは被害が少なくてあまり災とならぬこと。〔淸會典、戶部〕康熙三十二年九月十六日上諭、內閣江浙二省、今年夏旱、雖二不成災一、秋狀量必有レ限。〔淸會典、戶部〕康熙四十二年九月十四日上諭、云云、今京師遣二往三路一賑濟、人員俱掣簽派撥、州縣並不レ分二成災與一レ否、一槩散賑。〔六部成語、戶部、成災不成災、注解〕水旱等災田禾已壞曰二成災一、尚未二大損一曰二不成災一。

【成歲】117 セイサイ ❶一歲となる。一年の分量となる。〔管子、山權數〕故王者歲守二十分之參一、三年與二少半一成レ歲、三十一年、而藏二十一年與二少半一。❷としを定める。〔書、堯典〕以二閏月一定二四時一成レ歲。

【成齋】118 セイサイ 字號。❶西依周行の號。西依成齋(10－34763··696)を見よ。❷小島知足の號。小島成齋(4－7473··1567)を見よ。❸重野安繹の號。重野成齋(11－40132··555)を見よ。

【成濟】119 セイサイ セイセイ 成しおほせる。成就する。〔魏志、三少帝、高貴鄕公髦紀〕見三其好二書疏文章一、冀可二成濟一、而情性暴戾、日月滋甚。

【成材】120 セイザイ ❶生れつき立派な材。又、材能を成就する。成才。〔莊子、徐無鬼〕天下馬有二成材一。❷宋、鄧祚(11－39630··79)の字。

【成罪】121 セイザイ 十分構成された罪。〔潛夫論、述赦〕聖主有二子愛之情一、而是有二殺害之意一、故誅レ之、況成罪乎。

【成莊】122 セイサウ 周の成王と莊王。〔左氏、昭、二十七〕平王之溫惠共儉、有レ過二成莊一、無レ不レ及焉。

【成喪】123 セイサウ ❶成人の喪をいふ。〔禮、曾子問〕孔子曰、祭二成喪一者必有レ尸、尸必以レ孫。〔注〕人以レ有二子孫一爲二成人一、子不レ殤レ父、義由レ此也。〔疏〕孔子答下祭以二成人之喪一者、必須上有レ尸、以四成人之喪、威儀具備、必須三有レ尸以象二神之威儀一也。〔孫希旦集解〕成喪、成人之喪也。〔禮、喪服小記〕除二成喪一者、其祭也朝服縞冠。〔注〕成、成人也。❷喪のしたくをそなへる。〔禮、喪大記〕五十不レ成レ喪。〔注〕成、猶レ備也、所レ不レ能レ備、謂下不レ致レ毀、不二散送一之屬上也。❸成敗(249)に同じ。〔後漢書、隗囂傳論〕回二成喪一而爲二其議一者、或未レ聞焉。〔注〕成喪、猶二成敗一也。

【成操】124 セイサウ 志を成就すること。〔謝瞻、於二安城一答二靈運一詩〕殉レ業謝二成操一、復レ禮愧二貧樂一。

【成雙】125 セイサウ 二つとなる。對偶となる。轉じて、夫婦となる。〔李商隱、柳枝詩〕畫屛繡步障、物物自成レ雙。〔通俗編、祝誦、成雙〕周禮、嫁レ子娶レ妻入レ幣、純帛無レ過二五兩一、注云、五兩、五端也、必言レ兩者、欲レ得二其配合之名一、史記注引二帝王世紀一、上古嫁娶、以二儷皮一爲レ禮、儷亦取二其偶合一也、今嫁娶、凡事物必取レ成レ雙、蓋古之遺。

【成藏】126 セイザウ 出來上つたものを藏める。〔鬼谷子、持樞〕故人君亦有二天樞一、生養成藏。〔論衡、自然〕陰氣自起、物自成藏。

【成策】127 セイサク 事を成就させるはかりごと。既に成立したはかりごと。成算に同じ。

【成算】128 セイサン 既定の計畫。成功するはかりごと。成就するみこみ。成竹。〔隋書、柳彧傳〕俱稟二成算一、非レ專二己能一。

【成山】129 セイザン 山名。山東省榮成縣の東。海中に突入し、一小半島をなす。古、水軍が朝鮮、或は遼東を攻めるには多く此處より海に出た。唐の蘇定方が百濟を討つにも、成山から海を濟つた。又、成山頭・山東山嘴ともいふ。燈臺がある。〔史記、封禪書〕成山斗二入海一、最居二齊東北隅一。〔史記、秦始皇紀〕(二十八年)乃並二勃海一以東、過二黃腄一、窮二成山一。

【成子】130 セイシ ❶諡號。㋑春秋晉、郤缺(11－39440··7)の諡。㋺春秋晉、趙衰(10－37171··185)の諡。㋩春秋齊、隰朋(11－41889··11)の諡。㋥春秋齊、陳恆(11－41698··245)の諡。❷宋、許奕(10－35298··15)の字。❸ch'êng^{2} tzŭ 時。時期。

【成之】131 セイシ 字號。❶宋、樂韶(6－15399··175)の字。❷宋、鄭褒(11－39647··234)の字。❸宋、杜範(6－14477··218)の字。❹宋、鄧孝甫(11－39630··125)の字。❺宋、李性傳(6－14459··1562)の字。❻宋、劉衍(2－2224··56)の字。❼元、劉玉汝(2－2224··818)の字。❽明、金誠(11－40152··649)の字。❾明、胡友信(9－29400··395)の字。❿明、蔡天祐(9－31818··226)の字。⓫明、蔣昇(9－31820··98)の字。⓬清、顧大信(12－43689··317)の字。

【成市】132 セイシ 人が多く賑かなこと。〔漢書、刑法志〕囹圄成レ市、天下愁怨。

【成私】133 セイシ 自己の地位を立派に完成させる。〔老子、七〕外二其身一而身存、非レ以二其無一レ私邪、故能成二其私一。〔注〕無レ私者、無レ爲二於身一也、身先身存、故曰三能成二其私一。

【成師】134 セイシ ❶軍隊を部署する。轉じて、軍隊をいふ。〔左氏、宣、十二〕且成レ師以出、聞二敵彊一而退、非レ夫也。〔漢書、禮樂志〕詔撫二成師一、武臣承レ德。〔注〕師古曰、成師、言下各置二部校一師出以上レ律也、春秋左氏傳曰、成レ師以出。〔白居易、授二吳少陽淮西節度留後一制〕況闔外重寄、淮右成師。❷春秋、晉の曲沃桓叔(5－14280··257)の名。〔左氏、桓、二〕其弟以二千畝之戰一生、命レ之

曰二成師一。㊂陳、侯安都(1－633‥96)の字。

【成詞】135 ch'êng² tz'ŭ² 訴訟する。

【成齒】136 セイシ 拔けかはつて老後まで殘る齒。永久齒。

【成諟】137 セイシ 清、大名の人。字は伯顧。號は省齋(惺齋)。畫に巧。〔大清畿輔先哲傳、二十一〕・〔清畫家詩史、戊、上〕・〔墨香居畫識、五〕。

【成事】138 セイジ ㊀卒哭の祭をいふ。成は吉祭、卒哭は吉祭に屬するからいふ。〔儀禮、士虞禮記〕三虞、卒哭、他用二剛日一、亦如レ初、曰、哀薦二成事一。〔胡培翬正義〕吳廷華云、哭寢之禮成也。〔禮、檀弓下〕卒哭曰二成事一、是日也、以二吉祭一易二喪祭一、明日祔二於祖父一。〔注〕既虞之後、卒哭而祭、其辭蓋曰、哀薦二成事一、成祭事也、祭以レ吉爲レ成。㊁既に出來上つた事。既に出來てしまつた事。〔左氏、宣、十二〕其作二先君宮一、告二成事一而已。〔會箋〕告二服レ鄭勝レ晉之成事於先君一也。〔商子、愼法〕彼而黨二與人一者、不レ待レ我而有二成事一者也。〔史記、商君傳〕愚者闇二於成事一、知者見二於未萌一。〔淮南子、人閒訓〕是故聖人者、常從二事於無形之外一、而不四留二思盡三慮於成事之內一。㊂既往のことがら。往事に同じ。〔論衡、問孔〕成事顏淵蚤死、孔子謂二之短命一。㊃事をなしとげる。〔韓非子、解老〕不三敢爲二天下先一、則事無レ不レ事、功無レ不レ功、而議必蓋レ世、欲レ無レ處二大官一、其可レ得乎、處二大官一之謂レ爲二成レ事長一、是以故曰、不三敢爲二天下先一、故能爲二成レ事長一。〔史記、高祖紀〕劉季固多二大言一、少二成事一。

〔成事不レ說遂事不レ諫〕139 セイジハトカズスイジハイサメズ 既に出來てしまつた事についてはとやかく言はず、既に成し遂げてしまつたことについては諫めない。出來てしまつた事、やつてしまつた事を後からとやかく議論し、諫めても無駄である。過ぎたことは變改することが出來ないから、將來を注意すべきをいふ。一說に、遂事は出來上らうとしてゐる事をいふ。〔論語、八佾〕成事不レ說、遂事不レ諫、既往不レ咎。〔集解〕包咸曰、事已成、不レ可二復解說一、事已遂、不レ可二復諫止一。〔集注〕遂事、謂下事雖レ未レ成、而勢不レ能レ已者上。

【成州】140 セイシウ 州名。西魏、置く。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府〕成縣、古西戎地、西魏曰二成州一、隋初郡廢、州存、大業初、改レ州爲二漢陽郡一、唐亦曰二成州一。

【成周】141 セイシウ 周代、洛邑の稱。周代の地名。周公既に洛邑を營んで東都とし、又、瀍水の東に卜して下都を作り、之を成周といひ、殷民を之に遷し、敬王に至つて始めて此處に都を遷した。戰國に至り、洛陽と改稱し、漢には洛陽縣を置いた。故城は今、河南省洛陽縣の東北。洛邑(6－17383‥1)を見よ。〔書、洛誥序〕召公既相レ宅、周公往經二營成周一、使來告レ卜、作二洛誥一。〔春秋、昭、二十六〕冬十月、天王入二于成周一。〔呂覽、不廣〕驪土之翟、定二天子于成周一、於レ是天子賜二之南陽之地一。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、周〕成王營二洛邑一、西曰二王城一、今河南府治西偏、東曰二下都一、在二今河南府城東洛水北一、西去二王城一三十餘里、亦謂二之成周一。

【成式】142 セイシキ 先人の定めたおきて。成法。〔書、畢命〕子孫訓二其成式一惟乂。〔傳〕言下後世子孫順二公之成法一、惟以治上。〔後漢書、左雄等傳論〕帷幄容二其謇辭一、擧唇稟二其成式一。〔白居易、除二裴武太府卿一制〕以遵二成式一、無レ使二改易一。

【成相】143 セイシヤウ ㊀材木の運搬などに、衆人の力をそろへるために謠ふ歌。一說に、功を成して相位に在ること。又、相は樂器の名。舂牘をいひ、之を奏するを成相といふ。又一說に、相は治で、太平の治を成すをいふ。〔通雅〕成相、助レ力之歌也、荀子有二成相一章一、相者、助也、擧レ重勸レ力、以申二其邪許噓喩之聲一也、託レ此以諷喩也。〔荀子、成相、注〕以二初發語一名レ篇、襍二論君臣治亂之事一、以自見二其意一、故下云、託二於成相一以喩レ意、漢書藝文志、謂二之成相襍辭一、蓋亦賦之流也、或曰、成、功在レ相、故作二成相三章一、舊第八、今以二是荀卿襍語一、故降在レ下。〔集解〕盧文弨曰、成相之義、非レ謂二成レ功在レ相也、篇內但以二國君之愚闇一爲レ戒耳、禮記、治レ亂以レ相、相乃樂器、所謂舂牘、又古者瞽必有レ相、審二此篇音節一、卽後世彈詞之祖、篇首卽稱下如二瞽無レ相何倀倀上、義已明矣、首句請成レ相、言レ請レ奏二此曲一也、漢藝文志、成相襍辭十一篇、惜不レ傳、大約託二於瞽矇諷誦之詞一、亦古詩之流也、逸周書周祝解亦此體、王引之曰、楊・盧二說、皆非也、楊謂、漢書藝文志謂二之成相襍辭一、案、志所レ載成相襍辭、在二漢人襍賦之末一、非レ謂二荀子之成相篇一也、楊又云、成レ功在レ相、稍爲レ近レ之、然亦非二荀子所謂成相一也、盧以レ相爲二樂器之舂牘一、斯爲レ謬矣、以レ相爲二樂器一、則成相二字、義不レ可レ通、且樂器多矣、何獨擧二舂牘一言レ之乎、若二篇首稱レ如二瞽無レ相、乃指二相レ瞽之人一而言、非二樂器一、亦非二樂曲一也、竊謂、相者、治也、成レ相者、成二此治一也、請成レ相者、請レ言二成レ治之方一也、自二世之殃一以下、乃先言二今之不レ治、然後言二成レ治之方一也、下文云、凡成レ相辨二法方一、又云、請成レ相道二聖王一、又云、請成レ相言二治方一、是成レ相卽成レ治也、後言下託二於成相一以喩上レ意者、成相爲二此篇之總名一、謂下託二此一篇之詞一以喩上レ意、非レ謂レ託二於矇瞽諷誦之詞一也、兪樾曰、盧說是也、惟引二治レ亂以レ相、及瞽必有レ相、以釋二相字一、則皆失レ之、樂器多矣、何獨擧二舂牘一爲レ言、既以爲二樂器一、又以爲二瞽必有レ相、義又兩岐矣、此相字卽舂不レ相之相、禮記曲禮篇、鄰有レ喪、舂不レ相、鄭注曰、相謂二送レ杵聲一、蓋古人於二勞役之事一、必爲二歌謳一、以相勸勉、亦擧二大木一者呼二邪許一之比、其樂曲卽謂二之相一、請成レ相者、請レ成二此曲一也、漢志有二成相襍辭一、足レ徵三古有二此體一、王氏必以二盧說一爲レ謬、何也、先謙案、兪說近レ是、王以二成相一爲レ成レ治、於下漢書之成相襍辭、及本篇云中託二於成相一以喩上レ意、義未レ洽、郝氏讀レ相爲二平聲一、尤非。㊁荀子の篇名。㊂ナラヒ ナリアヒ 姓氏。〔姓林全書〕。

〔成相山〕144 ナリアヒザン 丹後國與謝郡にあつて、天橋立を見おろすに最も絕勝の所。一名、世谷山。

【成章】145 セイシヤウ ㊀あやをなす。文理が成就する。〔易、說卦〕故易六位而成レ章。〔左氏、成、十四〕婉而成レ章、盡而不レ汙。〔論語、公冶長〕斐然成レ章。〔莊子、在宥〕思慮不二自得一、中道不レ成レ章。㊁文章を作りあげる。〔魏志、陳思王植傳〕植年十歲餘、云云、善屬レ文、太祖嘗視二其文一、謂レ植曰、汝倩レ人耶、植跪曰、言出爲レ論、下レ筆成レ章、顧當二面試一、奈何倩レ人耶。〔北史、高閭傳〕閭早孤、少好レ學、博二綜經史一、下レ筆成レ章。㊂成文の法律。㊃字號。㋑後晉、楊彥詢(6－15112‥522)の字。㋺明、裴斐(10－34362‥83)の字。㋩明、李玉(6－14459‥215)の字。㋥清、濮璜(7－18526‥5)の字。㋭清、楊方熾(6－15112‥739)の字。

【成象】146 セイシヤウ ㊀宋、流江の人。詩書を里中に授く。孝子。〔宋史、四百五十六〕・〔宋史新編、一百七十六〕。㊁宋、王著(單父の人)(7－20823‥800)の字。

【成傷】147 セイシヤウ 人を打つて傷を負はせる。〔六部成語、刑部、成傷、注解〕打レ人已致二損傷一也。

【成箱】148 ch'êng² hsiang¹ 箱詰め。

【成上】149 ナリアガリ なりあがる。貧賤の身分から富貴の身分になる。立身出世する。又、その人。

【成主】150 セイシユ 死者の位牌に書いた某某神主といふ文字の、主の字の上の點を初に入れないで置き、後から之に點を加へる時に行ふ儀式。

【成洙】151 セイシユ 明、南和の人。字は懷魯。官は山東益都教諭。〔尙友錄、十二〕。

【成就】152 ジヤウジユ ㊀なしとげる。なしをへる。又、できあがる。成功。〔孝經緯援神契〕天子孝曰レ就、就之爲レ言、成也、天子德被二天下一、澤及二萬物一、始終成就、則其親獲レ安、故曰レ就也。〔史記、呂后紀〕三年方築二長安城一、四年就レ半、五年六年成就。〔漢書、文翁傳〕數歲蜀生皆成就、還歸二文翁一、以爲二右職一。〔越絕書、越絕外傳本事〕成二就其事一。〔白虎通、聖人〕成二就周道一、輔二於幼主一。〔風俗通、皇霸、三王〕成二就王道一、天下熾盛。〔晉書、樂志上〕申者、身也、言二萬物身體皆成就一也。㊁思ひどほりになる。かなふ。とどく。

【成終】153 セイシユウ をはりをなす。〔顏峻、七廟迎神辭〕六舞肅列、九變成レ終。

【成叔】154 セイシユク 字號。㊀晉、牽秀(7－20025‥31)の字。㊁宋、上官凝(1－13‥190)の字。㊂宋、李鳴復(6－14459‥1964)の字。㊃元、歐陽龍生(6－16185‥138)の字。

【成肅】155 セイシユク 諡號。㊀唐、張延賞(4－9812‥822)の諡。㊁金、粘割斡特剌(8－26901‥7)の諡。㊂宋、陳升之(11－41698‥1012)の諡。

【成孰】156 セイジユク 成熟に同じ。〔史記、律書〕天所三以成二孰萬物一也。〔漢書、律歷志上〕商之爲レ言、章

也、物成孰、可二章度一也。〔漢書、王莽傳上〕天下太平、五穀成孰。

【成熟】157（セイジュク） 十分みのる。又、物事の出來あがつた時期に達すること。上達。熟練。〔易林、泰之第十一、小過〕桃李花實、纍纍日息、長大成熟、甘美可レ食、爲二我利福一。〔後漢書、張純傳〕冬者五穀成熟、物備禮成。〔論衡、量知〕爨レ之以レ火、成熟爲レ飯。〔白虎通、五祀〕秋亦萬物成熟。〔風俗通、聲音、商〕物成熟、可二章度一也。〔劉巖夫、與二段校理一書〕始學二箕裘一、迄二今十六一、不レ見二成熟一。

【成春】158 ch'êng² ch'uen¹ 病氣が快復する。

【成遵】159（セイジュン） 元、穰の人。字は誼叔。元統の進士。官は中書左丞。後、人に誣告せられ、杖下に死す。〔元史、一百八十六〕。

【成書】160（セイショ） ㊀出來あがつてゐる書物。〔經解入門、平日讀經課程〕踵二曩代之成書一而後成者、故同一書、古人十年方通者、今人三年可矣。㊁清、滿洲鑲白旗人。姓は穆爾察氏。字は倬雲。號は誤菴。乾隆の進士。官は戶部右侍郎。書室を多藏堂といふ。著に多藏堂集・古詩選がある。〔國朝耆獻類徵、一百五〕。

【成庶】161（セイショ） 唐、王凝（**7**—**20823**‥251）の字。

【成緖】162（セイショ） 物事のいとぐちをなす。又、單にはじめの意。〔陸機、歎逝賦〕幽情發而成レ緖、滯思叩而興レ端。

【成訟】163 ch'êng² sung⁴ 訴訟する。

【成勝】164（セイショウ） 寶劍の名。〔雲笈七籤、梁茅山貞白先生傳〕以二大通初一獻二刀二一、一名二善勝一、一名二成勝一、爲二佳寶一。

【成誦】165（セイショウ） 暗誦出來るまでになる。又、暗誦する。〔楊脩、答二臨淄侯一牋〕成誦在レ心、借二書於手一。〔宋史、文苑、劉恕傳〕恕少穎悟、書過レ目卽成レ誦。〔庾肩吾、賽二漢高廟一詩〕徒然仰成レ誦、終用試レ才難。〔盧世基、應令詩〕臨淄成誦美、河間雅樂陳。

【成色】166（セイショク） 金銀貨幣中に含有する純金銀の量。品位。實質。性質。〔明律、名例、給沒贓物〕其贓罰金銀、竝照二犯人元供成色一、從レ實追徵。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕侵二尅銀水一、刻看二成色一。

『成色金』167 ch'êng² sê⁴ chin¹ まじりもののある金。一割交りを九成色、二割交りを八成色、三割交りを七成色などといふ。

【成心】168（セイシン） ㊀人の天から受けたままの心。又、先入の偏見。〔莊子、齊物論〕夫隨二其成心一而師レ之、誰獨且無レ師乎。〔注〕夫心之足三以制二一身之用一者、謂二之成心一、人自師二其成心一、則人各自有レ師矣、人各自有レ師、故付レ之而自當。〔疏〕夫域情滯著、執二一家之偏見一者、謂二之成心一。〔敬齋古今黈〕謂下人人各自有レ師、雖二愚蒙之人一、亦有二成心一、可中隨而師上レ之也、成心者、呂惠卿所謂、吾所レ受二於天一、而無レ所レ虧者也。㊁心の中に出來上る。〔任昉、王文憲集序〕懸然天得、不レ謀成レ心。㊂ch'êng² hsin¹ 故意に。

【成身】169（セイシン） 身を全うする。自己を完成する。〔呂覽、尊師〕知之盛者、莫レ大二於成一レ身、成レ身莫レ大二於學一。〔注〕成レ身遂爲二君子一以致レ之、故曰莫レ大二於學一。〔孔子家語、大婚解〕夫其行已不レ過二乎物一、謂二之成身一。〔孔子家語、致思〕水且猶可下以二忠信一成レ身親上レ之、而況於レ人乎。

【成瑨】170（セイシン） 後漢、弘農の人。字は幼平。孝廉に擧げられる。官は桓帝の時、南陽太守。〔後漢書、九十六〕。

『成瑨坐嘯』171（セイシンザセウ） 蒙求の標題。後漢の桓帝の時、成瑨が、南陽郡の太守となり、政事を屬吏の岑晊（字は公孝）に委せて、自らはただ坐して嘯いてゐた故事。〔蒙求、下、成瑨坐嘯〕後汝南太守宗資、任二功曹范滂一、南陽太守成瑨、亦委二功曹岑晊一、二郡又爲謠曰、汝南太守范孟博、南陽宗資主二畫諾一、南陽太守岑公孝、弘農成瑨但坐嘯。

【成親】172（セイシン） ㊀親の名を成す。立派な人物となつて、親の名聲をあげること。〔禮、哀公問〕能敬二其身一、則能成二其親一矣、公曰、敢問何謂レ成レ親、孔子對曰、君子也者、人之成レ名也、百姓歸レ之、名謂二之君子之子一、是使三其親爲二君子一也、是爲レ成二其親之名一也已。㊁婚姻すること。〔元典章、戶部、婚姻〕通姦成親斷離。〔宣和遺事、後集〕遂將二奴奴一嫁二與他一、今成レ親六日矣。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕限二你們三日內一、將二鶯鶯一獻出來、與二俺將軍一成レ親、萬事干休。

【成人】173（セイジン） ㊀學德兼備の完全な人物。〔論語、憲問〕子路問二成人一、子曰、若二臧武仲之智、公綽之不欲、卞莊子之勇、冉求之藝一、文レ之以二禮樂一、亦可三以爲二成人一矣。〔集注〕成人、猶レ言二全人一。〔韓詩外傳、三〕使三我爲二成人一者、吾以爲二上賞一。〔荀子、勸學〕能定能應、夫是之謂二成人一。〔管子、樞言〕既智且仁、是謂二成人一。㊁二十歲以上の人。一人前の人。成年。成丁。又、ひととなる。おとなになる。一人前になる。〔詩、大雅、思齊〕肆成人有レ德、小子有レ造。〔集傳〕冠以上爲二成人一。〔禮、冠義〕已冠而字レ之、成人之道也。〔公羊、僖、九〕婦人許嫁、字而笄レ之、死則以二成人之喪一治レ之。〔史記、趙世家〕及三趙武冠爲二成人一。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕女年十三、男年八歲、未レ及二成人一。〔注〕國語曰、晉趙武冠見二韓獻子一、獻子曰、戒レ之、此謂二成人一、鄭玄禮記注曰、女子以二許嫁一爲二成人一。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕逮二其父時一、雖二少年一已自成人。㊂大夫及び士をいふ。〔詩、大雅、思齊、傳〕成人、謂二大夫士一也、小子、謂二其弟子一也。㊃人の全身をいふ。目二成人一を見よ。

『目二成人一』174（セイジンヲメニス） 眼睛の中に人の全身を見ることが出來るもの。千里の馬の相。〔海錄碎事、鳥獸、馬驢〕相馬經、目二成人一者、行二千里一、注二視童子中一人頭足皆見。

『成人教育』175（セイジンケウイク） 男女成人に對する社會教育をいふ。大人教育。

【成仁】176（セイジン） 仁道を成就すること。〔論語、衛靈公〕志士仁人、無二求レ生以害一レ人、有二殺レ身以成一レ仁。〔疏〕若身死而後成レ仁、則志士仁人不レ愛二其身一、有下殺二其身一以成二其仁一者上也。〔宋史、文天祥傳〕天祥臨レ刑、殊從容謂二吏卒一曰、吾事畢矣、南鄉拜而死、云云、年四十七、其衣帶中有レ贊曰、孔曰成レ仁、孟曰取レ義、惟其義盡、所二以仁至一、讀二聖賢書一、所レ學何事、而今而後、庶二幾無一レ愧。

【成衰】177（セイスイ） 盛衰（**8**—**23005**‥113）に同じ。成は盛。〔韓詩外傳、五〕物有二成衰一、不レ得二自若一。

【成遂】178（セイスイ） 事をなしとげる。〔文子、道德〕不レ慈不レ愛、不レ能二成遂一。

【成瑞】179（セイズイ） 清、滿洲正黃旗人。姓は伊爾根覺羅氏。官は廣州副都統。書室を薛荔山莊といふ。〔國朝耆獻類徵、三百九〕。

【成數】180（セイスウ） ㊀完全な數。〔孔穎達、周易正義序〕擧二其成數一言レ之。㊁ch'êng² shu⁴ ㋑整數。㋺百分率。率。割合。㋩多くの數。多くの數になる。

【成世】181（セイセイ） 父の世をつぐこと。〔左氏、哀、十六〕余嘉二乃成一レ世、復二爾祿次一、敬レ之哉。〔注〕繼二父之世一、還居二君之祿次一。

【成性】182（セイセイ） ㊀本來の性を成就、又は全うすること。又、本來具有の完全な本性。成性存存を見よ。〔周禮、春官、大宗伯、以二昏冠之禮一親二成男女一、注〕親二其恩一、成二其性一。〔漢書、董仲舒傳〕王者上謹下於承二天意一以順上レ命也、下務下明二教化一民以成上レ性也。㊁宋、黃繼善（**12**—**47926**‥1066）の字。

『成性存存』183（セイセイソンソン） 萬物をして本來具有の性を成就せしめ、其の生存を完うせしめる。又、本來具有の完全な本性を一瞬の間斷なく大切に保存し續けること。〔易、繫辭上〕成性存存、道義之門。〔疏〕能成二其萬物之性一、使二物生不一レ失二其性一、存二其萬物之存一、使三物得二其存成一也。〔本義〕成性、本成之性也。

【成勢】184（セイセイ） 既に出來上つたいきほひ。〔史記、太史公自序〕無二成勢一、無二常形一。〔後漢書、耿弇傳論〕審料二成勢一、則知二高祖之廟勝一矣。

【成聖】185（セイセイ） ㊀完全な聖人。〔荀子、大略〕爲三賢人以下至二庶民一也、非レ爲二成聖一也。㊁ch'êng² shêng¹ 死ぬ。

【成精】186 ch'êng² ching¹ 妖怪となる。

【成汭】188（セイゼイ） 唐、青州の人。人を殺して或は僧となり、或は盜となり、姓名を郭禹と改む。昭宗の時、荊南留後となつて故の姓名に復す。後、李神福に破られ、江に投じて死す。〔唐書、一百九十〕・〔舊五代史、十七〕。

【成招】189（セイセウ） 白狀する。告白する。〔六部成語、刑部、成招、注解〕招二有供詞一也。

【成霄】190（セイセウ） 後魏の人。淹の子。字は景鸞。官は治書侍御史。〔魏書、七十九〕。

【成積】192（セイセキ） 習慣として出來上つたもの。古いならはし。〔荀子、解蔽〕擧而用レ之、不レ蔽二於成積一也。〔注〕成積、舊習也。

【成績】193（セイセキ） ㊀いさをし。てがら。仕事のできばえ。事業の成功の結果。績は功。〔書、洛誥〕

曰其自レ時中乂、萬邦咸休、惟王有二成績一。〔傳〕如レ此惟王乃有二成功一。〔南史、呉喜傳〕必有二成績一。❷字號。㋑後周、和凝(**2**－**3490**··91)の字。㋺宋、焦繼勳(**7**－**19119**··128)の字。

【成說】194（セイセツ）　❶㋑誓約の言をなす。誓の言葉を交はす。〔詩、邶風、擊鼓〕死生契闊、與レ子成レ說。〔集傳〕成レ說、謂レ成二其誓約之言一。㋺定說。一家言。❷（セイエツ）よろこびをなす。愛情を結ぶ。〔詩、邶風、擊鼓、箋〕從軍之士、與二其伍一約、死也生也、相與處二勤苦之中一、我與レ子成二相說愛之恩一、志在二相存救一也。

【成仙】195（セイセン）　仙人になる。〔伏知道、爲二衡山王一與レ婦書〕人慙二蕭史相遇成レ仙。〔王績、遊仙詩〕蔡經新學レ道、王烈舊成レ仙。

【成錢】196（セイセン）　官の定めによつて造り、厚薄大小に一定の形があつて完全な錢をいふ。磨二錯成錢一を見よ。

〖磨二錯成錢一〗197（セイセンヲマサクス）　といしやすりを用ひて成錢から銅をけづり取ること。〔唐律、雜律、私鑄錢〕若磨二錯成錢一令二薄小一、取レ銅以求レ利者、徒一年。

【成全】198（セイゼン）　❶全くする。成就する。完全。〔史記、蔡澤傳〕夫人之立レ功、豈不レ期二於成全一邪。❷ ch'êng² ch'üan² ㋑助成する。㋺顏を立てる。

【成然】199（セイゼン）　心安いさま。らくらくするさま。〔莊子、大宗師〕成然寐、遽然覺。〔注〕寤寐自若、不下以二死生一累上心。〔釋文〕李云、成然、縣解之貌。〔疏〕成然、是閑放之貌。〔口義〕成、安也、成然寐狀。

【成祖】200（セイソ）　❶明、第三代の王。朱棣(**6**－**14424**··469)を見よ。❷朝鮮、李朝の第七代の王。名は瑈。世宗の第二子。在位十三年。

【成宗】201（セイソウ）　廟號。❶元、第六代の王。鐵木耳(**11**－**40945**··408)を見よ。❷高麗、第六代の王。名は治。戴宗の第二子。在位十六年。❸朝鮮、李朝の第九代の王。名は娎。德宗の第二子。在位二十六年。

【成層】202（セイソウ）　次第に重積すること。

〖成層岩〗203（セイソウガン）　段々に堆積して層をなした岩石。

〖成層圈〗204（セイソウケン）　地球を包む大氣層中、對流圈の上にある層。下限は、極地方では地表から約七キロ、赤道地方で約十七キロで、一般に冬季は高く夏季は低くなる。上限は一說には、七十乃至八十キロで、その上に水素圈があるといはれる。對流圈と異なる點は、構成分子が窒素を主とし、氣溫が上下に變化なく、また晴曇雨雪などの變化が殆ど無い。成帶圈。

〖成層火山〗205（セイソウクワザン）　火山噴出の砂灰の集積によつてなつた山。

【成速】206（セイソク）　はやくなること。〔謝瞻、王撫軍庾西陽集別作詩〕來晨無二定端一、別晷有レ成レ速。〔注〕向曰、言二來時未レ期、離別日影急速一。

【成俗】207（セイゾク）　❶舊來の風俗。既に出來あがつた風俗。舊俗。〔荀子、臣道〕不レ稱二其所レ短、以爲二成俗一。〔注〕言下如レ此而不レ變、若二舊俗一然上也。〔荀子、正論〕百姓以爲二成俗一、萬世不レ能レ易也。〔荀子、正名〕散名之加二於萬物一者、則從二諸夏之成俗一。〔注〕成俗、舊俗方言也。❷立派な風俗を作り上げる。〔禮、學記〕君子如欲二化レ民成レ俗、其必由レ學乎。〔禮、昏義〕天子聽二外治一、后聽二內職一、教順成レ俗、外內和順、國家理治、此之謂二盛德一。〔顏氏家訓、勉學〕非二濟レ世成レ俗之要一也。

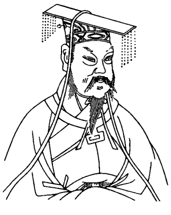
【成遜】208（セイソン）　前涼、張茂(**4**－**9812**··690)の字。

【成泰】209（セイタイ）　清、德宗の時、大南(越)の阮福昭の年號。(1889－1907)

〖成泰帝〗210（セイタイテイ）　安南、阮朝の第十代の王。阮福昭(**11**－**41569**··81)を見よ。

【成套】211　ch'êng² t'ao⁴　一組。

【成湯】212（セイタウ）　殷の開國の君。契の後。姓は子。名は履。一に天乙といふ。始め亳に居る。夏桀の無道を討ち、之を南巢に放つて天下を有ち、商と號す。在位三十年。殷湯王(**6**－**16627**··189)を見よ。〔書、仲虺之誥〕成湯放二桀于南巢一、惟有レ慙レ德。〔書、泰誓中〕天乃佑二命成湯一、降二黜夏命一。〔魏志、毛玠傳〕成湯聖世、野無二生草一。



商王成湯（三才圖會）

【成黨】213（セイタウ）　黨をなす。〔孔子家語、始誅〕其居處足二以撮レ徒成レ黨。

【成道】214（セイダウ）　❶道路を作り上げる。〔漢書、息夫躬傳、自立開レ道、注〕服虔曰、山開自成レ道也。❷道德を成就する。〔大戴禮、盛德〕御レ政以治二天下一者、冢宰之官以成レ道、司徒之官以成レ德。〔法言、脩身〕善二其謀一而後動、成レ道也。〔後漢書、襄楷傳〕其守レ一如レ此、乃能成レ道。❸佛（ジヤウダウ）　さとりをひらく。佛道の眞理を會得する。成佛傳道。〔正宗記〕如來之生也、當二周昭王七年一、其出家也、當二昭王之二十七年一、其成道也、當二昭王三十三年一。

〖成道會〗215（ジヤウダウヱ）　佛釋尊成道の日を以て修する法會。

〖成道忌〗216（ジヤウダウキ）　佛成道會に同じ。

〖成道樹〗217（ジヤウダウジユ）　菩提樹の異名。〔事物異名錄、樹木、菩提樹〕華夷花木攷、沙羅樹、出二西番海中潯州官圃一、一株甚巨、每レ枝生二葉七片一、所謂七葉樹也、其樹詳二於佛書一、維摩詰經、有二菴羅樹一、唐會要云、菩提樹、一名二波羅樹一、卽思惟樹、一名二成道樹一、又名二婆羅樹一、蕃婆娑音同、故互二言之一耳。

【成單】218　ch'êng² tan¹　注文品賣買契約書。定單。成票。これには買進成單と賣出成單との別がある。

〖成單存照〗219　ch'êng² tan¹ ts'uen² chao⁴　成單を作成保存して證據と爲す意。

【成竹】221（セイチク）　前以て心中に立てるもくろみ。十分の見こみ。成算。竹を畫くに先づ出來上つた竹の姿を胸中に想像し、然る後筆を下すからいふ。〔蘇軾、篔簹谷偃竹記〕畫レ竹、必先得二成竹於胷中一、執レ筆熟視、乃見二其所レ欲レ畫者一、急起從レ之、振レ筆直遂、以追二其所レ見、如二兔起鶻落一、少縱則逝矣。

【成軸】222（セイヂク）　法度を制するをいふ。〔通俗編、器用、成軸〕管子宙合篇、多備二規軸一者成レ軸也、夫成レ軸之多也、其處レ大也不レ究、其入レ小也不レ塞、注云、軸以二轉規一、大小須二悉備一、按、今以レ有二成式一爲二成軸一、是也。

【成長】223（セイチヤウ）　そだつて大きくなること。そだつて成熟すること。〔顏氏家訓、教子〕吾見二世間一、無レ教而有レ愛、每不レ能レ然、云云、逮二于成長一、終爲二敗德一。〔韓愈、祭二十二郎一文〕教三吾子與二汝子一、幸二其成長一。

〖成長線〗224（セイチヤウセン）　軟體動物介殼の表面に其の緣邊に竝行してある多數の條線で、介殼成長の順序を示す。

【成錠】225（セイヂヤウ）　大銀をつくる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕分文亦必成レ錠。

【成仲】226（セイチユウ）　元、耶律鑄(**9**－**29008**··30)の字。

【成蟲】227（セイチユウ）　昆蟲が幼蟲から變態生長して、親蟲と同一形態となり、生殖を營み得る形態に至つたもの。完全變態のものでは、卵から幼蟲蛹の時代を經て成蟲となる。幼蟲の對。

【成冢】228（セイチヨウ）　墓をつくりあげる。〔風俗通、十反〕成レ冢立レ祀。

【成丁】229（セイテイ）　成年に達した男子。丁は十六歲又は二十歲に達した男子。丁(**1**－**2**)の字解を見よ。〔北史、隋文帝紀〕(三年)始令、人以二二十一成レ丁。〔六部成語、戶部、成丁、注解〕幼童長至二二十歲一者曰二成丁一。〔福惠全書、教養部、墾荒田〕子弟年十六以上、卽屬二成丁一。

【成帝】230（セイテイ）　諡號。❶前漢、第十代の帝、劉驁(**2**－**2224**··115)を見よ。❷東晉、第三代の帝、司馬衍(**2**－**3257**··224)を見よ。

【成程】231（ナルホド）　肯定の語。まことに。いかにも。

【成超】232（セイテウ）　梁の人。成景儁(333)を見よ。

【成條】233（セイデウ）　❶盛なえだ。〔劉子翬、次二韻茂園獨速歌一詩〕接花成條欲レ屋紅。❷成立した個條。

【成天】234　ch'êng² t'ien¹　終日。

〖成天家〗234′　ch'êng² t'ien¹ chia¹　一日中。

【成典】235（セイテン）　❶成文の法典。❷定まつた儀式。

【成都】236（セイト）　❶府名。唐、置く。古の蜀國。秦漢の蜀郡の地。元は成都路といひ、明は府に復す。清は簡・崇慶・漢の三州及び成都・華陽・雙流・溫江・新繁・金堂・新都・郫・灌・彭・崇寧・新津・什邡の十三縣を管轄す。故治は四川省、成都・華陽の二縣。〔讀史方輿紀要、四川〕成都府、禹貢梁州之域、夏商以後爲二蜀國一、秦滅レ蜀置二蜀

郡二、漢因レ之、武帝兼置二益州一、後漢仍曰二蜀郡二三國漢都二於此一、晉武帝改二蜀郡一爲二成都國一、尋復レ舊、宋齊以後、益州及蜀郡、並治レ此、隋、郡廢州存、煬帝改二益州一爲二蜀郡一、唐又爲二益州一、天寶初、復爲二蜀郡一、至德二載、升二成都府一、幷建二南京一、上元初罷レ京、而府不レ改、五代因レ之、宋太平興國六年、降爲二益州一、端拱初、復曰二成都府一、淳化五年、仍降爲レ州、嘉祐五年復レ故、元曰二成都路一、明曰二成都府一、領二州一縣二十五一、今仍爲二成都府一。〔清史稿、地理志〕四川、成都府、領州三、縣十三、成都・華陽・雙流・溫江・新繁・金堂・新都・郫・灌・彭・崇甯・簡州・崇慶州・新津・漢州・什邡。㊁路名。㋑宋、置く。四川省三臺縣。西川(10－34763‥381)の㊃を見よ。㋺元、置く。今の四川省西川道什邡以南及び永寧道仁壽縣の地。治は四川省成都。㊂縣名。秦、置く。古の蜀山氏の國。戰國の張儀、張若と城を築く。後漢の初、公孫述の據つた所。三國の時、蜀漢、此處に都し、晉の時、成漢の主李雄が此處に據つて成都王といふ。唐の玄宗、蜀に幸し、建てて南京とす。五代の王氏・孟氏皆國都とす。明・清、皆四川省治とす。今、四川省西川道に屬す。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕成都縣、附郭、在二府治西北一、春秋時蜀侯所レ理、秦惠王二十七年、始置二成都縣一、漢末益州治レ此、晉以後因レ之、自レ唐以來、倶爲二州郡治一、編戸二十四里。〔清史稿、地理志〕四川、成都府、縣十三、成都。㊃市名。四川省城及び其の附近の地。岷沱二江の間にあり、全蜀最富の區域。城に內城外城の別があり、內城は子城で清代の旗兵の居た所、故に滿城ともいふ。城の內外に、昭烈帝陵・諸葛武侯祠・杜甫草堂寺・薛濤井等の古蹟がある。㊄郡名。晉、置く。成都王穎の國となす。故城は湖北省監利縣の西北。

【成都江】237 セイトカウ　郫江の異名。〔事物異名錄、坤輿、水〕成都府志、郫江在二郫縣北一、亦名二成都江一。

【成都文類】238 セイトブンルイ　書名。五十卷。宋、程遇孫等編。蜀地の諸碑誌等から詩文を集めたもの。其の目は賦一卷・詩歌十四卷・文三十五卷、之を十一類に分ち、毎類子目を分つ。〔四庫提要、集、總集類〕。

【成土】239 セイド　北方の地の稱。〔淮南子、墬形訓〕何謂二九州一、云云、正北泲州曰二成土一。〔後漢書、張衡傳、越二印州一而愉敖、注〕北方玄洲曰二成土一。

【成東】240 ナルト　上總國の地名。

【成頭】241 ch'êng^2 t'ou　口錢。割前。幾割かを取ること。

【成童】242 セイドウ　年齡のやや長じた者をいふ。㊀十五歲以上の少年。〔禮、內則〕十年出就二外傅一、居二宿於外一、學二書計一、云云、十有三年、學レ樂誦レ詩、舞レ勺、成童舞レ象、學二射御一。〔注〕成童、十五以上。〔後漢書、李固傳〕年始成童、遊二學洛陽一。〔注〕成童、年十五也、禮記曰、十五成童舞レ象也。㊁八歲以上の少年。〔穀梁、昭、十九〕羈二貫成童一、不レ就二師傅一、父之罪也。〔注〕成童、八歲以上。

【成德】243 セイトク　㊀成し遂げた德。完全な德。又、德をなしとげる。〔易、乾〕君子以成レ德爲レ行。〔書、伊訓〕伊尹乃明言二烈祖之成德一、以訓二于王一。〔書、說命中〕允協二于先王成德一。〔左氏、成、十三〕不穀惡三其無二成德一。㊁成人としての道德。〔儀禮、士冠禮〕始加、祝曰、令月吉日、始加二元服一、棄二爾幼志一、順二爾成德一、壽考惟祺、介二爾景福一。〔注〕既冠爲二成德一。〔疏〕案二冠義一、既冠、責以二父子君臣長幼之禮一、皆成人之德。㊂縣名。漢、置く。故城は安徽省壽縣の東南。〔漢書、地理志上〕九江郡、縣十五、成德。㊃明、霍州の人。字は玄升。諡は忠毅。崇禎の進士。官は滋陽令。節に死す。〔明史、二百六十六〕。㊄清、納蘭性德(**8－27264**‥117)の初名。㊅字號。㋑宋、潘愼修(**7－18236**‥181)の字。㋺宋、王公彥(**7－20823**‥1454)の字。

【成德軍】244 セイトクグン　行政區劃の名。唐、置く。もと史朝儀の置いた恒陽節度使。節度使張忠志降り、姓名を李寶臣と賜ひ、其の軍を成德といふ。今の河北省の中部の地。〔讀史方輿紀要、州域形勢、唐〕張忠志爲二成德節度使一、史朝義初以二忠志一爲二恒陽節度使一、治二恒州一、忠志因擧二恒・趙・深・定・易五州一降、賜二姓名李寶臣一、名二其軍一曰二成德一。

【成德公】245 セイトクコウ　五鎭の一、吳山神の封號。〔事物異名錄、坤輿、鎭〕山堂肆考、唐元宗封二東鎭沂山一爲二東安公一、南鎭會稽山爲二永興公一、西鎭吳山爲二成德公一、北鎭醫無閭山爲二廣寧公一、中鎭霍山爲二應聖公一。

【成年】246 セイネン　㊀成人となつた年齡。〔顏氏家訓、養生〕幼少之日、既有二供養之勤一、成立之年、便增二妻孥之累一。㊁心身が完全に發達し、完全な行爲能力を有すると見做される年齡。滿二十歲。

【成年家】247 ch'êng^2 nien^2 chia^1　一年中。

【成年期】248 セイネンキ　二十歲以上二十五歲に至る期間。

【成敗】249 セイハイ セイバイ　事のなることとやぶれること。勝と負。〔列子、力命〕然農有二水旱一、商有二得失一、工有二成敗一、仕有二遇否一、命使レ然也。〔漢書、司馬遷傳〕稽二其成敗一。〔賈誼、過秦論〕然而成敗異レ變、功業相反。〔後漢書、光武紀上〕光武復爲圖二畫成敗一。〔王延壽、魯靈光殿賦〕烈士貞女、賢愚成敗。〔諸葛亮、後出師表〕至二于成敗利鈍一、非三臣之明所二能逆覩一也。〔陸機、豪士賦序〕知二曩勳之可レ矜、暗二成敗之有レ會。

【成敗之機】250 セイバイノキ　かちまけのはづみ。成功するか失敗するかのきつかけ。〔蜀志、諸葛亮傳〕成敗之機、在二於今日一。

【成敗之變】251 セイバイノヘン　成ると敗れるとの變化。〔淮南子、主術訓〕觀二存亡之迹一、見二成敗之變一。

【成敗未決】252 セイバイイマダケッセズ　事の成るか敗れるかはまだきまつてゐない。〔史記、貨殖傳〕關東成敗未レ決、莫二肯與一。

【成敗未可知】253 セイバイイマダシルベカラズ　事の成るか敗れるかはまだわからない。成功するか失敗するかはまだわからない。〔史記、高祖紀〕天下匈匈苦レ戰數歲、成敗未レ可レ知。

【成包】254 ch'êng^2 pao^1　一包になつたもの。

【成伯】255 セイハク　㊀後魏、趙超宗(**10－37171**‥800)の諡。㊁字號。㋑後魏、徐謇(**4－10110**‥120)の字。㋺唐、柳登(**6－14662**‥199)の字。㋩宋、張整(**4－9812**‥462)の字。

【成博】256 セイハク　燧人氏の四佐の一。〔玉海、一百二十、官制〕明由・必育・成博・隕邱、右燧人四佐。〔繹史、太古、開闢原始〕論語摘輔象、燧人四佐、明由曉二升級一、必育受二稅俗一、成博受二古諸一、隕邱受二延嬉一、燧人出レ天、四佐出レ世。

【成麥】257 セイバク　成熟した麥。〔後漢書、安帝紀〕蝗蟲滋生、害及二成麥一。

【成法】258 セイハフ　定められた法則。一定の規則。〔漢書、禮樂志〕業垂二後嗣一、斯成法也。〔沈約、恩倖傳論〕因レ此相沿、遂爲二成法一。

【成版】259 セイハン　活字版に對して、木版の稱。成板。整版。

【成否】260 セイヒ　事の成ると成らぬと。成功と失敗。〔書、舜典、三載考績、疏〕三年一閏天道成、人亦可二以成レ功、故以二三年一考二校其功之成否一也。

【成美】261 セイビ　㊀人をはげまし勸めて美德をなさせる。〔論語、顏淵〕子曰、君子成二人之美一、不レ成二人之惡一、小人反レ是。㊁成しとげ立派にする。〔史記、夏紀〕有下能成二美堯之事一者上、使レ居レ官。

【成美公】262 セイビコウ　烙羊の異名。〔事物異名錄、飮食、諸牲肉〕食譜、烙羊、成美公。

【成糜】263 セイビ　ただれる。〔福惠全書、涖任部、馭衙役〕烏鴉啄食成レ糜。

【成閔】264 セイビン　宋、邢州の人。字は居仁。官は慶遠軍節度使。金人と戰ひ功あり。〔宋史、三百七十〕・〔宋史新編、一百三十二〕・〔南宋書、十五〕。

【成夫】265 セイフ　字號。㊀明、錢用壬(**11－40563**‥440)の字。㊁明、張杞(湖州の人)(**4－9812**‥157)の字。㊂明、潘禋(**7－18236**‥3)の字。㊃清、來蕃(**1－581**‥231)の字。

【成布】266 セイフ　織り成した布。〔淮南子、說山訓〕見レ黂而求二成布一。

【成武】267 セイブ　縣名。漢、置く。明、城武と改む。故城は山東省城武縣。〔漢書、地理志上〕山陽郡、縣二十三、成武。

【成武帝】268 セイブテイ　後燕、第一代の王、慕容垂(**4－11088**‥64)を見よ。

【成武孝侯】269 セイブカウコウ　後漢、劉順(**2－2224**‥374)を見よ。

【成風】270 セイフウ　匠石が郢人の鼻端の堊漫をけづり取るに、斧を振つて風を起し、而も堊を去つて、何等傷つけることの無かつた故事。轉じて、巧な工作、又は人に詩文の添削を乞ふにいふ。郢斧。郢正。〔莊子、徐無鬼〕郢人堊二漫其鼻端一、若二

蠅翼一、使二匠石斲レ之、匠石運レ斤成レ風、聽而斲レ之、盡レ堊而鼻不レ傷、郢人立不レ失レ容。

〖成風之功〗271 セイフウノコウ　普請のできあがること。莊子、徐無鬼篇中の運レ斤成レ風の語に本づく。斧斤の功。成風を見よ。〔平治物語、一、信西信賴不快〕華榱雲のかた、大廈の構へ、成風の功、年を經ずして不日に成りしかども。

【成服】272 セイフク　❶喪服をつける。喪禮に、大斂の後、五服各〻親疎に應じて服すべき喪服に易へることをいふ。〔禮、奔喪〕唯父母之喪、見レ星而行、見レ星而舍、若未レ得レ行、則成レ服而后行。〔禮、奔喪〕於三三哭一、猶括髮袒成レ踊、三日成レ服。❷衣服をつくる。〔魏志、高堂隆傳〕是以帝耕以勸レ農、后桑以成レ服、所下以昭事二上帝一、告虔報施上也。❸立派な服裝。盛服。〔應亨、贈二四王冠一詩〕令月惟吉日、成服加二元首一。

【成復】273 セイフク　葉が幾枚にもなる。

【成佛】274 ジヤウブツ　❶［佛］衆生が發心修行して迷妄を斷破し、眞理を悟つて佛果菩提を成就すること。〔法華經、壽量品〕我成佛已來甚大久遠、壽命無量阿僧祇劫常住不滅。❷往生すること。死ぬこと。

〖成佛得脫〗275 ジヤウブツトクダツ　［佛］成佛、卽ち得脫の意。佛となるは、身心を繫縛して不自由にする禍根を斷絕し、其の受ける所の苦楚を除くものであるからいふ。

【成物】276 セイブツ　❶完全に出來上つた物。〔禮、樂記〕樂著二大始一、而禮居二成物一。❷物事を成就する。〔國語、鄭語〕能聽二協風一、以成レ物樂レ生者也。

【成分】277 セイブン　合はせて一物體をなす分子。或る物を組立てて居るもの。

【成文】278 セイブン　❶既に書きあらはされた文句。又、文章を以て書きあらはされてゐること。〔杜預、春秋左氏傳序〕仲尼因二魯史策書成文一、考二其眞僞一、而志二其典禮一。❷あやをなす。文彩をなす。〔孔叢子、論書〕發二乎中一而見二乎外一、以成レ文者、其唯洪範乎。〔白虎通、情性〕禮者、履也、履レ道成レ文也。❸㋑明、大同山陰の人。弘治の進士。嘉靖中、右副都御史・遼東巡撫に歷任す。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十七〕・〔明史稿、一百七十三〕。㋺清、滿洲鑲黃旗人。姓は鈕祜祿氏。嘉慶の間、湖南の苗賊を攻めて連戰皆勝つ。又維西廳の猓匪を平らぐ。官は騰越鎭總兵。〔國朝耆獻類徵、三百十一〕。❹宋、張澹(**4－9812**‥542)の字。❺ch'êng² wen²　纏まつた金高。多額の金。

〖成文法〗279 セイブンパフ　規則を文章に書きあらはした箇條。不文法(**1－19**‥935)の對。

〖成文律〗280 セイブンリツ　すでに法文となつてゐる規則。成文法。不文律の對。

〖成文的錢〗281 ch'êng² wen² tê ch'ien²　纏まつた金子。

【成平】282 セイヘイ　縣名。漢、置く。侯國。故治は河北省交河縣の東。〔漢書、地理志上〕勃海郡、縣二十六、成平。

【成票】283 ch'êng² p'iao⁴　商品取引契約書の類。

【成篇】284 セイヘン　❶書物の一篇一篇を出來上らせること。〔論衡、正說〕夫經之有レ篇也、猶レ有二章句一、有二章句一也、猶レ有二文字一也、文字有レ意以立レ句、句有レ數以連レ章、章有レ體以成レ篇、篇則章句之大者也。❷詩文を作る。〔唐書、文藝上、王勃傳〕勃屬レ文、初不二精思一、先磨レ墨數升、則酣飮引レ被覆レ面臥、及レ寤、援レ筆成レ篇、不レ易二一字一。〔崔顥、奉三和許給事夜直二簡諸公一詩〕九重初起レ草、五夜卽成レ篇。

【成父】285 セイホ　宋、蔣公順(**9－31820**‥149)の字。

【成甫】286 セイホ　❶宋、葉由庚(**9－31387**‥154)の字。❷元、陳紹大(**11－41698**‥1060)の字。

【成輔】287 セイホ　唐、崔宗之(**4－8178**‥293)の名。

【成封】288 セイホウ　後漢、夏の人。桓郁等と五經の同異を白虎觀に論定す。官は少府。〔後漢書、六十七〕。

【成峯】289 セイホウ　清、金學堅(**11－40152**‥1213)の字。

【成穆】290 セイボク　後周、安審信(**3－3072**‥554)の諡。

〖成穆郭皇后〗291 セイボククワクコウ　宋、郭后(**11－39474**‥92)の諡。

【成本】292 ch'êng² pen³　❶會社銀行設立當時出資した資本金。❷仕入資本。❸原價。

【成務】293 セイム　❶務を成し遂げる。事業をなす。〔易、繫辭上〕夫易、聖人之所三以極レ深而研レ幾也、唯深也、故能通二天下之志一、唯幾也、故能成二天下之務一、云云、子曰、夫易何爲者也、夫易、開レ物成レ務、冒二天下之道一、如レ斯而已者也。〔本義〕開レ物成レ務、謂下使三人卜筮、以知二吉凶一而成中事業上。〔晉書、文帝紀論〕世宗以二叡略一創レ基、太祖以二雄才一成レ務。❷明、湖廣興國の人。字は惟幾。官は貴州按察使。〔興國州志〕。❸第十三代の帝諡。

【成名】294 セイメイ　❶名聲をあげる。〔易、繫辭下〕善不レ積、不レ足二以成一レ名。〔論語、里仁〕君子去レ仁、惡乎成レ名。〔漢書、昭帝紀贊〕各因二其時一以成レ名、大矣哉。〔班固、答賓戲〕處レ身行レ道、輔レ世成レ名。❷一藝にひいでる。又、單に名づける。〔論語、子罕〕達巷黨人曰、大哉孔子、博學而無レ所レ成レ名。〔集解〕鄭玄曰、美下孔子博二學道藝一、不中成二一名一而已上。〔集注〕博學無レ所レ成レ名、蓋美二其學之博一、而惜三其不レ成二一藝之名一也。〔劉寶楠正義〕焦氏循補疏、孔子以三民無二能名一、贊二堯之則一レ天、故門人援二達巷黨人之言一、以明二孔子與レ堯同一、大哉孔子、卽大哉堯之爲レ君、博學無レ所レ成レ名、卽蕩蕩乎民無二能名一也、云云、翟氏灝考異、云云、不レ成二一名一者、言レ非二一技之可一レ名也、皇疏云、孔子廣學、道藝周偏、不レ可二一一而稱一、故云レ無レ所レ成レ名也。❸子供が生れて三月たつてから父親が名をつけること。命名。〔周禮、地官、媒氏〕凡男女自二成名一以上、皆書二年月日名一焉。〔注〕鄭司農云、成名、謂二子生三月父名一レ之。❹立派な名。美名。盛名。〔禮、哀公問〕君子也者、人之成名也。〔疏〕君子也者人之成名也者、言、凡謂二之君子一者、人之成就美名也。〔荀子、非十二子〕成名況二乎諸侯一、莫レ不レ願二以爲一レ臣。〔集解〕兪樾曰、成、與レ盛通、云云、然則成名猶二盛名一也。

【成命】295 セイメイ　❶天から受けた命。既に定まつてゐる命運。〔書、武成〕恭二天成命一、肆予東征、綏二厥士女一。〔書、召誥〕王厥有二成命一、治レ民今休。〔詩、周頌、昊天有成命〕昊天有二成命一、二后受レ之。〔箋〕有二成命一者、言、周自二后稷之生一、而已有二王命一也。〔疏〕言三昊天蒼帝有二此成就之命一。〔集傳〕既有二定命一。〔左氏、宣、十二〕師無二成命一、多備何爲。〔新書、禮容語〕語說三昊天有二成命一。❷既に發布した命令。

【成明】296 セイメイ　清、滿洲鑲藍旗人。姓は葉赫納喇氏。咸同中、粵捻を征し、河南・山西・江蘇等に轉戰す。官は鑲黃旗蒙古副都統。〔國朝耆獻類徵、三百六〕。

【成陽】297 セイヤウ　❶縣名。漢、置く。古、堯が、成陽に遊んで死し、此處に葬られたといふ。山東省濮縣の東南。又、郕陽・城陽に作る。〔史記、秦紀〕昭襄王十七年、城陽君入朝。〔史記、高祖紀〕而遣二沛公一、西略レ地、收二陳王項梁散兵一、乃道レ碭至三成陽與二杠里一。〔漢書、地理志上〕濟陰郡、縣九、成陽。❷漢、置く。侯國の河南省信陽縣の東北。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州、息縣〕成陽城、在二縣西一、漢縣屬二汝南郡一、高帝封二奚意一爲二侯邑一、後省。❸複姓。〔萬姓統譜〕成陽、見二姓苑一。

【成樣】298 ch'êng² yang⁴　體裁を成してゐる。見本と成し得る。

【成藥】299 セイヤク　調合した藥。〔神仙傳、李少君〕少君乃與二成藥一劑幷其方一。

【成勇】300 セイユウ　明、山東樂安の人。字は仁有。天啓の進士。官は崇禎中、南京御史。楊嗣昌を詆つて寧波衞に謫せられ、福王の時、御史に起用されたが赴かずして、僧となる。著に消閒錄・周易發・西銘解がある。〔明史、二百五十八〕・〔萬斯同明史、三百七十〕・〔明史稿、二百四十八〕。

【成裕】301 セイユウ　字號。❶清、高寬(**12－45313**‥231)の字。❷清、李惇(**6－14459**‥642)の字。

【成熊】302 セイユウ　春秋、楚の大夫。郟敖の時、誣ひられて殺さる。〔春秋、昭、十二〕・〔左氏、昭、十二〕。

【成用】303 ch'êng² yung⁴　用に立つ。役に立つ。

【成踊】304 セイヨウ　踊を成す。喪儀の時、哀痛の情を表はすために踊をすること。〔儀禮、士喪禮〕主人哭拜稽顙成レ踊。〔公羊、宣、十八〕哭レ君成レ踊。

【成儡】305 セイライ　成功と失敗。〔墨子、經說上〕謂也不レ必二成濕一。〔閒詁〕荀子不苟篇云、窮則棄而儑、楊注引二方言濕一爲レ釋、韓詩外傳、儑作レ累、洪頤煊謂、荀子之儑、卽說文人部云、儽、垂皃、一曰、嬾解乘覆也、案、洪說甚是、說文人部、又有二儡字一、云二相敗一也、老子儽儽兮其不レ足、以無レ所レ歸、釋文云、儽、一本作レ儡、敗也、欺也、淮南子俶眞訓云、孔墨之弟子、皆以二仁義之術一、教二導於

世一、而不レ免ニ於偏ニ其身一、蓋偏儽聲義並相近、此書之濕當レ作レ濕、荀子之儽當レ作レ儽、經典凡从ニ畾纍一與レ从ニ㬎字一多相掍、濕、卽說文偏・儽之叚字、不ニ必成レ偏、言ニ雖レ使レ爲レ之、而其事之成敗、則未レ可レ必、偏與レ成、義正相對也。

【成勞】306 セイラウ 成功をいふ。勞は功。〔國語、吳語〕今天王既封ニ殖越國一、以明ニ聞天下一、而又刈ニ亡之一、是天王之無ニ成勞一也。〔注〕勞、功也。

【成樂】307 セイラク ❶縣名。漢、置く。今、綏遠省和林格爾縣。又、盛樂に作る。〔漢書、地理志下〕定襄郡、縣十二、成樂。❷明、石首の人。號は龍山。謚は端肅。正德の進士。官は兵部侍郎。白蓮教を征して功あり。〔尙友錄、十一〕。

【成利】308 セイリ ❶立派な利益。〔國語、越語下〕必有三以知ニ天地之恒制一、乃可三以有ニ天下之成利一。❷利益をなす。〔潘岳、上ニ客舍一議〕官無ニ役賦一、而因レ民成レ利。

【成理】309 セイリ ❶成就し治める。〔戰國、秦策〕富貴顯榮、成ニ理萬物一。❷定理をいふ。〔莊子、知北遊〕天地有ニ大美一而不レ言、四時有ニ明法一而不レ議、萬物有ニ成理一而不レ說。〔韓非子、大體〕守ニ成理一、因ニ自然一。

【成立】310 セイリツ ❶なりたつ。ものになる。成就する。又、なりたち。〔後漢書、鄧禹傳〕光武安ニ集河北一、禹進說曰、四方分崩離析、形執可レ見、明公雖レ建ニ藩輔之功一、猶恐無レ所ニ成立一。〔南齊書、竟陵文宣王子良傳〕一春就レ功、便可ニ成立一。❷人となる。成人する。又、成人。〔顏氏家訓、後娶〕皆已成立、而再娶ニ王氏一。〔顏氏家訓、養生〕成立之年、便增ニ妻孥之累一。〔李密、陳情表〕零丁孤苦、至ニ于成立一、既無ニ叔伯一。

〖成立條件〗311 セイリツデウケン 一事件の成立に必要な箇條。

〖成立之難如レ升レ天〗312 セイリツノカタキハテンニノボルガゴトシ 身を立て家を興すことは、天にのぼることのやうに難かしい。〔柳氏家訓〕成立之難如レ升レ天、覆墜之易如レ燎レ毛。

【成略】313 セイリャク 成策(127)に同じ。

【成陵】314 セイリョウ 北周、文帝の陵の名。陝西省富平縣の北。〔文獻通考、王禮考、山陵〕周文帝崩、葬ニ成陵一。

【成例】315 セイレイ 慣例。典則。規程。前例。〔福惠全書、莅任部、革陋規〕陋規者、乃地方歷來之成例、而非ニ自レ我創始者一也。

〖成例相沿〗316 セイレイアヒソフ 前例にしたがひよること。〔支那通史、名字姓氏及世族〕成例相沿、視爲ニ當然一。

【成禮】317 セイレイ ❶禮を備へる。禮を立派に行ふ。〔禮、鄕飮酒義〕啐レ酒、成レ禮也。〔左氏、莊、二十二〕酒以成レ禮、不ニ繼以レ淫、義也、以レ君成レ禮、弗レ納ニ于淫一、仁也。〔孔子家語、好生〕其莊足ニ以成レ禮。〔史記、司馬穰苴傳〕景公與ニ諸大夫一郊迎、勞レ師成レ禮、然後反歸レ寢。❷婚禮をすませる。〔南史、孝義上、公孫僧遠傳〕兄姊未ニ婚嫁一、乃自賣爲レ之成レ禮、名聞ニ郡縣一。

【成烈】318 セイレツ 成就した功業。立派な功績。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕使三永永年代、服ニ我成烈一。

〖成烈王〗319 セイレツワウ 前涼、第三代の王。張茂(**4**－**9812**‥690)を見よ。

【成連】320 セイレン 古のよく琴を鼓した人。伯牙の師。〔太平御覽、樂、琴〕樂府解題曰、水僊操、伯牙學ニ琴於成連先生一、三年不レ成、至ニ於精神寂寞、情之專一、尙未レ能也、成連云、吾師方子春、今在ニ東海中一、能移ニ人情一、乃與ニ伯牙一俱往、至ニ蓬萊山一留宿、謂ニ伯牙一曰、子居習レ之、吾將レ迎レ師、刺レ船而去、旬時不レ返、伯牙近望無レ人、但聞ニ海水洞滑崩澌之聲、山林窅冥、羣鳥悲號一、愴然而歎曰、先生將レ移ニ我情一、乃援レ琴而歌、曲終、成連廻、刺レ船迎レ之而還、伯牙遂爲ニ天下妙一矣。

【成殮】321 chʻêng^{2} lien^{4} 葬式を終る。

【成論】322 セイロン 立派な議論。〔後漢書、馮衍傳〕沮ニ先聖之成論一兮、懇ニ名賢之高風一。

【成和】323 セイワ ❶和合をなす。〔文子、上仁〕積陰不レ生、積陽不レ化、陰陽交接、乃能成レ和。〔南齊書、樂志〕含レ氣感レ和、蒼生欣戴、三靈協レ瑞、惟新皇代。❷完全で和順なこと。成和之修を見よ。❸五代、南平の高繼沖(**12**－**45313**‥1152)の字。

〖成和之修〗324 セイワノシウ 事を成就し、萬物を和合する德を修得すること。一說に、胸中の和氣を完全に修め得ること。又、虧ける所なく逆ふ所ない德を修得すること。成は全、和は順。〔莊子、德充符〕德者成和之修也、德不レ形者、物不レ能レ離也。〔注〕事得ニ以成一、物得ニ以和一、謂ニ之德一也。

【成王】325 セイワウ ❶周、第二代の王。武王の子。名は誦。謚は成。卽位の時、年なほ幼く、周公ために政を攝す。東都を營み、禮樂を興し、制度を立つ。在位三十七年。姬誦(**3**－**6230**‥57)・周公輔ニ成王一(**2**－**3441**‥187)を見よ。〔史記、四〕。❷春秋、楚の十九代の王。楚成王(**6**－**15141**‥169)を見よ。❸渤海國、第五代の王。名は大華璵。文王欽茂の孫。先王元義が弑せられたので卽位し、中興と改元す。同年歿す。❹複姓。〔通志、氏族略、以ニ爵謚一爲レ氏〕成王氏、羋姓、楚成王之後、漢中郎成王弼。

〖成王有レ過則撻ニ伯禽一〗326 セイワウアヤマチアレバスナハチハクキンヲムチウツ 周の成王の傅となつた周公が、成王に過失ある毎に我が子伯禽を笞つて、成王を懲らした故事。〔禮、文王世子〕成王有レ過、則撻ニ伯禽一、所三以示ニ成王世子之道一也。

【仰レ成】327 セイヲアフグ 君主たる人が自ら政をなさず、輔弼の臣のなすままにまかせる。〔書、畢命〕予小子、垂拱仰レ成。〔蔡傳〕今我小子、復何爲哉、垂レ衣拱レ手、以仰ニ其成一而已、康王將下付ニ畢公一以中保釐之寄上。

【求レ成】328 タヒラギヲモトム 和平を求める。〔左氏、隱、元〕惠公之季年、敗ニ宋師於黃一、公立而求レ成焉。

【勒レ成】329 セイヲロクス 成功を石に刻む。〔班固、東都賦〕憲レ章稽レ古、封レ岱勒レ成。〔注〕向曰、勒レ成、謂ニ功成而勒レ石也。

【成開解】330 セイカイカイ 逸周書の篇名。

【成基命】331 セイキメイ 明、大名の人。字は靖之。謚は文穆。萬曆の進士。崇禎の時、禮部尙書・東閣大學士となる。奏疏機宜に中る。〔明史、二百五十一〕・〔萬斯同明史、三百五十六〕・〔明史稿、二百三十五〕・〔明詩綜、六十〕。

【成近默】332 セイキンモク 朝鮮、李朝の昌寧の人。字は聖思。號は果齋。謚は文敬。官は執義參議。〔嘉梧藁略〕。

【成景儁】333 セイケイシュン 梁、范陽の人。字は超。謚は忠烈。父のために仇を報じた。官は北豫州刺史。〔南史、七十四〕。

【成元震】334 セイゲンシン 清、文水の人。字は東權。康熙の武擧人。官は甘肅提督。

【成玄英】335 セイゲンエイ 唐、陝州の人。字は子寶。東海に隱居す。貞觀五年、召されて京師に至り、永徽中、郁州に流さる。著に南華眞經疏がある。〔四庫未收書目提要、二〕。

【成彥雄】336 セイゲンユウ 南唐の人。字は文幹。進士。著に梅嶺集がある。

【成克鞏】337 セイコクキョウ 清の人。基命の子。字は子固。號は青壇。明の崇禎の進士。官は祕書院大學士。晚年、宅中に耄學臺を築いて讀書した。著に倫史編がある。〔清史稿、二百四十四〕・〔碑傳集、七〕。

【成三問】338 セイサンモン 朝鮮、李朝の昌寧の人、字は謹甫、又、訥翁。號は梅竹軒。謚は忠文。官は禮房承旨。〔人物考〕・〔英宗實錄〕。

【成三郞】339 セイサンラウ 唐、漁陽の人。謚は勇。官は左豹韜衞長上果毅。徐敬業を討ち、敗れて唐之奇に殺さる。〔舊唐書、一百八十七上〕。

【成始終】340 セイシジュウ 明、無錫の人。字は敬之。號は澹軒。正統の進士。官は監察御史。土木の變に兵を督して紫荊關を守り、湖廣按察使僉事に擢んでらる。著に澹軒集がある。〔明詩綜、二十〕・〔明詩紀事、乙、十七〕。

【成實宗】341 ジャウジツシュウ [佛]佛教の一派。訶梨跋摩（カリバツマ）の成實論に本づき、萬物はすべて空であり、無であることを悟ることによつて煩惱を解脫することができるといふ教義を研究する宗派。我が國では南都の僧道昭に始まる。

【成實論】342 ジャウジツロン [佛]書名。十六卷。訶梨跋摩撰。姚秦の羅什譯。成實とは修多羅中の實義を成立すといふ意。〔南史、陸厥傳〕斌初爲ニ道人一、博涉ニ經籍一、雅有ニ才辯一、善屬レ文、能唱導而不レ修ニ容儀一、嘗弊衣、於ニ瓦官寺一聽三雲法師講ニ成實論一。

【成昌聚】343 セイシャウシュウ 地名。山東省東平縣の西。新莽の地皇三年、王匡等、赤眉別校董憲と成昌聚に戰つて大敗した。

【成守琮】344 セイシュソウ 朝鮮、李朝の昌寧の人。字は叔玉。士林の禍に遭ひ、仕進の意を絕つ。〔人物考〕。

【成守琛】345 セイシュチン 朝鮮、李朝の昌寧の人。字は仲

玉。號は聽松。諡は文貞。官は禮山縣監。左議政を贈る。〔海東名臣錄〕。

【成趣園】346（セイシユエン） 清、黃均(**12-47926**‥216)の室名。

【成趣軒】347（セイシユケン） 明、徐有貞(**4-10110**‥329)の室名。

【成親王】348（セイシンワウ） 清、永瑆(**6-17088**‥146)の封號。

【成世昌】349（セイセイシヤウ） 朝鮮、李朝の昌寧の人。字は蕃仲。號は遯齋。諡は文莊。官は左議政。〔人物考〕。

【成則毀】350（ナレバスナハチコボタル） 物事の成就は破壞の前提であるといふ意。成毀(40)の❷を見よ。〔莊子、山木〕合則離、成則毀。

【成大心】351（セイタイシン） 春秋、楚の人。得臣の子。字は孫伯。父に次いで令尹となり、穆王に事ふ。〔左氏、文、五・十二〕。

【成桌的】352 ch'êng² chuo¹ tê 一卓子幾圓と定めた料理。

【成廷珪】353（セイテイケイ） 元、揚州の人。字は原常・元章・禮執。學を好んで仕進を求めず、母を奉じて市廛に居る。庭に竹を植ゑ、居を居竹軒といふ。著に居竹軒集がある。〔四庫提要、一百六十八〕。

【成悌元】354（セイテイゲン） 朝鮮、李朝の昌寧の人。字は子敬。號は東州。官は報恩縣監。〔人物考〕。

【成得臣】355（セイトクシン） 春秋、楚の卿。字は子玉。成王の時、陳を伐つて功あり。子文、之を令尹とし、政を與ふ。後、晉兵と城濮に戰ひ、敗れて自殺した。

【成伯璵】356（セイハクヨ） 唐の人。著に尙書斷章・毛詩斷章・毛詩指説がある。〔四庫提要、十五〕。

【成晚徵】357（セイバンチヨウ） 朝鮮、李朝の昌寧の人。字は達卿。號は秋潭。官は內侍教官・王子師傅。〔人物考〕。

【成文濬】358（セイブンシユン） 朝鮮、李朝の人。字は仲深。號は滄浪。官は永同縣監。著に文集・太極辨・洪範義がある。〔成氏文獻志〕。

【成無已】359（セイムイ） 金、聊攝の人。世〻醫を業とす。著に傷寒論注・傷寒明理論・論方がある。〔四庫提要、一百三〕。

【成無玷】360（セイムテン） 宋、武康の人。字は士愨。進士。官は江山令。後、呂頤浩の薦により、永州の守、兼鄂岳安撫使となる。〔萬姓統譜〕。

【成明楫】361（セイメイシフ） 明、曹州の人。號は元洲。萬曆中、鄕に擧げらる。博學にして旁ら太乙六壬三垣等の書に通ず。書室を在阿館といひ、著に在阿館稿がある。〔曹州志〕。

【成容若】362（セイヨウジヤク） 清、納蘭性德(**8-27264**‥112)をいふ。

【成蓉鏡】363（セイヨウキヤウ） 清、寶應の人。字は芙卿。書室を絅思堂といふ。著に周易釋文例・尙書歷譜・禹貢班義述・春秋日至譜・春秋世族譜拾遺・鄭志考證・釋名補證・史漢駢枝・宋史地理志校勘記・絅思堂答問・漢太初考・心巢文錄がある。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十七〕・〔碑傳集補、三十八〕。

【成翊世】364（セイヨクセイ） 後漢、平原の人。字は季明。道術に明通す。官は安帝の時、尙書郞。〔後漢書、八十七〕。

【成何事體】365 ch'êng² hê² shih⁴ t'i³ 甚だ不都合である。

【成吉思汗】366（ジンギスカン） 元の太祖。元の開國の帝。姓は奇渥溫氏。名は鐵木眞。廟號は太祖。世〻蒙古の部長となり、遼・金に屬す。年十三、父に襲いで長となる。雄略あり、用兵神の如く、蔑里乞・韃靼・乃蠻を平らげ、諸部に克ち、宋の開禧二年、斡難河に卽位して帝と稱し、成吉思汗と號す。木華黎を將として、中原を經略し、西遼及び花剌子模を平らげ、西夏を滅ぼす。其の版圖歐亞二州に跨り、武功盛大を極む。金を攻めて道に卒す。在位二十二年。〔元史、一〕。

〔成吉思汗陵〕367（ジンギスカンリヨウ） 陵の名。綏遠省東勝縣の南、鄂爾多斯左翼中旗。地名は埃錦赫洛。四周は皆沙陀部落で、陵を守る官を居陵掌蓋といひ、陵戸五百家あり、號して特爾罕といふ。元太祖陵(**1-1340**‥701)を見よ。

〔成吉思汗實錄〕367′（ジンギスカンジツロク） 那珂通世の著。蒙古語を邦譯したもの。

【成袞扎布】368（チヨンコンチヤブ） 清、外蒙古人。策棱の子。親王に封ぜらる。乾隆中、其の族の反を討つて之を擒にし、用兵多く古法に合す。大將軍の印を掌ること四十年、未だ嘗て一偏卒をも戮することが無かつた。〔清史稿、三百二〕・〔國朝耆獻類徵、二百八十四〕。

【成三破二】369 ch'êng² san¹ p'o⁴ êrh⁴ 家屋の賣買につき、媒介者に與へる手數料の割合。賣主は二分を割き買主は三分を割いて與へる。卽ち媒介者は賣價の五分を手數料として取得する。

【成所作智】370（ジヤウシヨサチ） 佛 法相宗所立如來の四智中の一。眼等の五識を轉じたもの。一切の凡夫二乘の類を利せんがために種々變化の事を成す智。〔唯識論十、百法問答鈔八〕。

【成島筑山】371（ナルシマチクザン） 江戸の人。名は良讓。字は儉卿。通稱は桓吉・桓之助。號は筑山・稼堂・秋樹。嘉永七年三月七日歿す。年五十二。官は幕府儒官。成島東岳の嗣となる。著に後鑑・紫史吟評・南山史・列國譜がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【成島東岳】372（ナルシマトウガク） 江戸の人。名は司直。字は邦之。通稱は邦之助・圖書頭。號は東岳・翠麓。文久二年閏八月二日歿す、年八十五。官は幕府儒官。著に老のくりこと・江戸名園記・改正三河後風土記・川端歌合・玉川紀行・晃山扈從私記・鴻臺三戰記・德川御實紀・みるめのさち・琉球錄話がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【成島柳北】373（ナルシマリウホク） 江戸の人。名は弘。初名は溫。字は保民・叔厲。通稱は甲子太郞。號は柳北・確堂。明治十七年十一月三十日歿す、年四十八。幕府に仕ふ。維新後、朝野新聞社長となる。經學は程朱を宗としたが、獨得の見あり。詩文に巧。著に溫泉紀行・航西日乘・航薇日記・京猫一班・古錢鑑識訓蒙・新橋情譜・柳橋新誌・揚牙兒奇獄・明治新撰泉譜・柳北詩鈔・柳北文鈔がある。

【成嶋錦江】374（ナルシマキンカウ） 陸奥の人。名は鳳卿 信遍。字は歸德・子陽。通稱は道筑。號は錦江・芙蓉道人。寶曆十年九月十九日歿す、年七十二。荻生徂徠の説を奉ず。官は幕府儒官。和歌に巧。著に飛鳥山碑文詩歌・禁子姪俳諧書・絕句解比肩・題苑・春のみふね・芙蓉樓集・みそのの露がある。〔先哲叢談、正、七〕・〔近代名家著述目錄〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【成哲親王】375（セイテツシンワウ） 清、永瑆(**6-17088**‥146)の封諡號。

【成田秋佩】376（ナリタシウハイ） 岡山の人。名は元美。字は美卿。通稱は太郞・太郞兵衞。號は秋佩。博く經史に涉り、又、書畫・劍槍・馬術に巧。維新の際、國事に奔走し、岡山藩參政・岡山藩權大參事に任ず。明治十六年三月二十日歿、年五十三。正五位を贈らる。著に秋佩遺稿・備前略史がある。〔岡山縣人物傳〕。

【成恭夏皇后】377（セイキヨウカクワウゴウ） 宋、夏后(**3-5720**‥90)の諡。

【成恭杜皇后】378（セイキヨウトクワウゴウ） 晉、杜后(**6-14477**‥111)をいふ。

【成肅謝皇后】379（セイシユクシヤクワウゴウ） 宋、謝后(**10-35827**‥79)の諡。

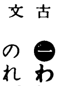
【成則公侯敗則賊子】380（ナレバコウコウヤブルレバゾクシ） 成功すれば公侯となり、敗れれば賊となる。勝てば官軍、負ければ賊軍。〔紅樓夢、二回〕子興道依二儞説一、成則公侯、敗則賊子。

【成也蕭何敗也蕭何】381（ナルモマタセウカヤブルルモマタセウカ） 漢の韓信が高祖に仕へて功名を成すを得たのも蕭何のおかげであり、韓信があざむかれて鐘室で死んだのも蕭何のためであるといふ意。〔容齋續筆、蕭何紿二韓信一〕韓信爲レ人告レ反、呂后欲レ召、恐二其不一レ就、乃與二蕭相國一謀、詐令三人稱二陳豨已破一、紿レ信曰、雖レ病強入賀、信入、卽被レ誅、信之爲二大將軍一、實蕭何所レ薦、今其死也、又出二其謀一、故俚語有二成也蕭何、敗也蕭何之語一。

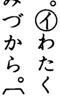
【我】

11545

ガ 〔集韻〕語可切 哿 ㄨㄛˇ wo³ ㄜˇ e³



小篆



古文

❶ **われ**。㋑わたくし。おのれ。みづから。〔説文〕

我、施レ身自謂也、或說、我、頃頓也、从二戈𠄒一、𠄒、古文垂也、一曰、古文殺字。〔廣韻〕我、己稱。〔孟子、盡心上〕萬物皆備二於我一矣。〔注〕我、身也。〔孟子、盡心上〕楊子取レ爲レ我。〔注〕爲レ我、爲レ己也。㋺わがかた。うち。自國。味方。〔春秋、隱、八〕我入レ祊。〔漢書、李廣傳〕虜亦不レ得レ犯レ我。㊇わがきみ。〔後漢書、楊賜傳〕天齊二乎人一、假二我一日一。〔注〕我、君也。❷わが。おのれの。㋑自己に屬することをあらはす辭。〔詩、小雅、甫田〕我田既臧。〔春秋、宣、十〕齊人歸二我濟西田一。㋺親しむことに冠する詞。わが親愛する所のといふ意。〔論語、述而〕竊比二於我老彭一。〔集注〕我、親レ之之辭。❸私意。〔論語、子罕〕毋レ固毋レ我。❹うゑる。餓(12—44168)に通ず。〔說文通訓定聲〕我、叚借爲レ餓。〔莊子、山木〕吾無レ糧、我無レ食。〔釋文〕我、一本作レ餓。❺にはか。俄(1—665)に通ず。〔說文通訓定聲〕我、叚借爲レ俄。〔說文〕我、或說、我、頃頓也。❻古は成(5—11546)・勑(2—2828)・𢦐(5—11564)に作る。〔集韻〕我、古作レ成。〔康熙字典〕我、古文勑・𢦐。❼姓。〔尚友錄〕我、見二風俗通一。〔漢書、藝文志〕我子一篇。〔注〕師古曰、劉向別錄云、爲二墨子之學一。

【我愛】1（ガアイ）佛我に愛著する心。四煩惱の一。他愛(1—370‥1)の對。〔唯識論、四〕我愛者、謂二我貪一、於二所執我一、深生二耽着一、故名二我愛一。

【我菴】2（ガアン）清、左峴(4—8720‥168)の字。

【我意】3（ガイ）❶己が心。〔列子、楊朱〕且若以二治レ國之能一夸レ物、欲下以二說辭一亂二我之心一、榮祿喜中我之意上、不二亦鄙而可一レ憐哉。❷わがままな心。轉じて、がまん。強情。

【我一】4（ガイツ）清、江爲龍(6—17140‥455)の字。

【我家】5（ワガイヘ）自分の家。〔漢書、霍光傳〕今將軍墳墓未レ乾、盡外二我家一。〔世說新語、品藻〕王珣疾臨レ困問二王武岡一曰、世論以二我家領軍一比レ誰、武岡曰、世以比二王北中郎一、東亭轉臥向レ壁嘆曰、人固不レ可二以無一レ年。

〖我家龜龍〗6（ワガイヘノキリユウ）我が子のすぐれてゐるのを龜龍に比して稱した語。〔唐書、崔液傳〕液字潤甫、尤工二五言詩一、湜歎因字呼曰、海子、我家龜龍也。

【我看】7（ガカン）私が見るに。私が考へるに。〔陸游、雜興詩〕我看二浮雲似一レ夢、卻貪二山水間遊一。

【我儀】8（ガギ）わがともがら。儀は匹。我儕。〔詩、鄘風、柏舟〕髧彼兩髦、實維我儀。〔傳〕儀、匹也。〔詩、大雅、烝民〕德輶如レ毛、民鮮二克擧一レ之、我儀圖レ之、惟仲山甫擧レ之。〔箋〕儀、匹也、我與二倫匹一圖レ之、而未レ能レ爲也。

【我疆】9（ガキヤウ）明、孟秋(3—6960‥120)の號。

【我躬】10（ワガミ）我身に同じ。〔詩、小雅、小弁〕我躬不レ閱、遑レ恤二我後一。

【我愚】11（ガグ）清、衞哲治(10—34074‥163)の字。

【我觀】12（ガクワン）自分がみる。わが觀たところ。我見の❷に同じ。〔白居易、春雪詩〕我觀二聖人意一、魯史有二其說一。〔蘇軾、送下歐陽推官赴二華州一監上酒詩〕我觀二文忠公一、四子皆超越。

【我見】13（ガケン）❶自己の意見に執着する謬見。七見の一。〔唯識論、四〕我見者、謂二我執一、於二非我法一、妄計爲レ我、故名二我見一。❷自分が見る。〔法華經、序品〕我見二燈明佛本光瑞一如レ此。❸自分の考。偏狹な意見。

〖我見レ汝亦憐〗14（ワレナンヂヲミルモマタアハレナリ）私が見てさへあなたは可愛い。〔世說新語、賢媛、注〕妒記曰、溫平レ蜀、以二李勢女一爲レ妾、郡主兇妒、不二卽知一レ之、後知、乃拔レ刄往二李所一、因欲レ斫レ之、見二李在レ窗梳レ頭、姿貌端麗、徐徐結レ髮、斂レ手向レ主、神色閑正、辭甚悽惋、主於レ是擲レ刀、前抱レ之曰、阿子、我見レ汝亦憐、何況老奴、遂善レ之。

【我彥】15（ガヒコ）姓氏。〔姓名錄抄〕。

【我齋】16（ガサイ）明、蔡宗兗(9—31818‥208)の號。

〖我齋先生〗16′（ガサイセンセイ）清、徐鄰唐(4—10110‥655)の尊稱。

【我相】17（ガサウ）佛實我の相。自己を有なりとして執すること。又、自己の富貴才學を恃んで他を輕侮すること。〔金剛經〕若菩薩有二我相人相衆生相壽者相一、則非二菩薩一。〔金剛經、注〕迷人恃レ有二財寶學問族姓一、輕二慢一切人一、名二我相一。

【我曹】18（ワガサウ）われら。わがともがら。〔蔡琰、悲憤詩〕要當二以亭レ刃、我曹不レ活レ汝。〔東觀漢記〕張堪有二同心之士三千人一、曰、張君養二我曹一、爲二今日一也。

【我山】19（ガサン）字號。❶明、高松(12—45313‥474)の號。❷明、孫紹祖(3—6987‥465)の字。

【我師】20（ガシ）❶あなた。貴殿。〔紅樓夢、一回〕石頭笑答曰、我師何太癡也。❷清、陳嘉謨(11—41698‥688)の字。

〖我師禽〗21（ガシキン）鳥の名。我師と鳴くから名づける。〔事物紺珠〕我師禽、出二太和山一、良夜高峯深林中、鳴呼二我師一、終夜不レ止。

【我絲】22（ガシ）清、張經(4—9812‥255)の字。

【我你】23 wo^{2} ni^{3} 互に。かれこれ。

【我執】24（ガシフ）佛吾人の身心中に事物を主宰すべき常住不滅の實體ありと執すること。又、我意に偏執なこと。〔俱舍論、二十九〕由二我執力一、諸煩惱生、三有輪廻、無レ容二解脫一。〔俱舍光記、二二〕我執謂二我見一。

【我將】25（ガシヤウ）詩經、周頌、淸廟之什の篇名。周の文王を明堂に祭る樂歌。〔詩、周頌、我將序〕我將、祀二文王於明堂一也。

【我所】26（ガシヨ）佛我所有の略。自身を我とし、自身外の萬物を我が所有とする。〔注維摩經、五〕肇曰、我爲二萬物主一、萬物爲二我所一、生曰、有我之情、自外之諸法、皆以爲二我之所妄一、是對レ我之法。

【我身】27（ワガミ）❶自分の身。〔韓愈、贈二張籍一詩〕我身蹈二丘軻一、爵位不二早綰一。〔白居易、我身詩〕我身何所レ似、似二彼孤生蓬一。❷自己の代名詞。❸親しい目下の者に用ひる對稱代名詞。

【我儘】28（ワガママ）我が心のままに振舞ふこと。ほしいまま。きずゐ。

【我生】29（ガセイ）❶我の行爲。〔易、觀〕六三、觀二我生一、進退。〔疏〕我生、我身所二動出一。〔程傳〕觀二我生一、我之所レ生、謂下動作施爲出二於己一者上。❷自分の生を享けた時代。〔詩、大雅、桑柔〕我生不レ辰、逢二天僤怒一。〔疏〕既不レ得レ歸、故自傷二我之生一也、不レ得二時節一、正逢二天之厚怒一。❸己の生命。我生不レ有二命在一レ天乎を見よ。❹母をいふ。〔後漢書、崔駰傳〕悼二我生之殲夷一。〔注〕我生、謂レ母也。❺清、李延昰(6—14459‥891)の初名。

〖我生不レ有二命在一レ天乎〗30（ワガセイメイノテンニアルアラザランヤ）自分の生命は天命でないことがあらうか。〔史記、宋微子世家〕紂曰、我生不レ有二命在一レ天乎、是何能爲。

【我西】31（ガセイ）明、許文岐(10—35298‥387)の字。

【我瞧】32 wo^{3} ch'iao^{2} 私が見るに。私が考へるに。

【我素】33（ガソ）明、安希范(3—7072‥528)の號。

【我孫】34（アビコ）姓氏。〔姓名錄〕。

〖我孫子〗35（アビコ）❶攝津國の地名。❷下總國の地名。❸姓氏。〔日用重寶記〕。

【我黨】36（ワガタウ）自己のなかま。同志。吾黨。

〖我黨士〗37（ワガタウノシ）自己のなかまの人。同志のもの。吾黨士。

【我堂】38（ガダウ）字號。❶清、何其偉(1—511‥230)の號。❷清、許宏環(10—35298‥266)の號。

【我丈】39（ガヂヤウ）老人を親しみ呼ぶ語。わが老人。〔杜甫、奉二贈李八丈曛判官一詩〕我丈時英特、宗枝神堯後。

【我朝】40（ワガテウ）異朝に對して己が朝廷をいふ。わが朝廷。〔鐵函心史〕韃遣レ使來二我朝一。

【我的】41 wo^{3} tê 我が。我の。私の。

〖我的兒〗42 wo^{3} tê êrh^{2} お前。汝。〔紅樓夢、二十四回〕我的兒、舅舅要有、還不是該的。

〖我的娘〗43 wo^{3} tê niang^{2} 母を親しみ呼ぶ語。おつかさん。〔紅樓夢、二十五回〕我的娘、不憑他去、難道誰還敢把他怎麼樣呢。

【我田】44（ガデン）わが田。〔詩、小雅、甫田〕我田既臧、農夫之慶。〔左氏、襄、十九〕諸侯還レ自二沂上一、盟二于督揚一、曰、大毋レ侵レ小、執二邾悼公一、以二其伐一レ我、故遂次二于泗上一、疆二我田一、取二邾田一、自二漷水一、歸二之于我一。〔孟郊、送二蕭鍊師入一四明山一詩〕降雪爲二我飯一、白雲爲二我田一。

〖我田引水〗45（ガデンインスイ）わが田に水をひき入れる義で、自分の利益となるやうに事をまげて言つ

たり、したりすること。

【我等】46（ワレラ） 自分たち。私ども。〔菩薩本行經〕我等四人、無レ有二罪惡一。

【我人】47（ガニン） ❶我と人。我相の四名の二。〔圓覺經〕一切衆生、從二無始一來、妄想執レ有三我人衆生及與二壽命一、認二四顚倒一爲二實我體一。❷大我に對する小我をいふ。〔白居易、唐東都奉國寺禪德大師照公塔銘序〕漸離二我人相一者日日有焉。❸㋑我。私。㋺婦人が其の夫をいふ。こちのひと。

【我儂】48（ガノウ） 自己をいふ。他人を指して渠儂といふの對。〔湘山野錄、吳越王歌〕你輩見二儂底歡喜一、永在二我儂心子裏一。〔宋裴、江上歌〕我儂一日還到レ驛、儞儂何日到二邕州一。〔通俗編、稱謂、我儂〕按、吳俗、自稱二我儂一、指二他人一亦曰二渠儂一。

【我輩】49（ワガハイ） ❶わがはい。われら。我曹。〔世說新語、品藻〕桓大司馬下レ都、問二眞長一曰、聞二會稽王語奇進一、爾耶、劉曰、極進、然故是第二流中人耳、桓曰、第一流復是誰、劉曰、正是我輩耳。〔孟浩然、與二諸子一登二峴山一詩〕江山留二勝迹一、我輩復登臨。❷われ。自分。

【我輩語】50（ワガハイノゴ） 我輩の言葉。〔世說新語、文學〕興公作二天台賦一成、以示二范榮期一、云卿試擲レ地、要レ作二金石聲一、范曰、恐子之金石、非二宮商中聲一、然每レ至二佳句一、輒云、應二是我輩語一。

【我輩人】51（ワガハイノヒト） 我々のなかま。〔晉書、石苞傳〕見二吏部郎許允一、求レ爲二小縣一、允謂レ苞曰、卿是我輩人、當三相引在二朝廷一、何欲二小縣一乎。

【我輩厚顏】52（ワガハイコウガン） 登第した人の謙辭。〔書言故事、科第類〕登第後謝レ人曰、我輩厚顏。

【我物】53（ワガモノ） 自分の所有物。

【我物顏】54（ワガモノガホ） 自分の所有物の如く扱ふこと。

【我謀】55（ガボウ） 清、陸埜(**11**－**41708**··234)の字。

【我法】56（ガホフ） ❶［佛］同道者に對する語。〔楞嚴經〕佛告二阿難一、當二初發心一、於二我法中一見二何勝相一。❷wo^3 fa^3 自分勝手。

【我每】57 wo^3 men 私たち。我們(59)に同じ。〔元典、陳州糶米〕若是不容咱、我每則一跑。

【我慢】58（ガマン） ❶［佛］我を恃んで自らを高くし、他をあなどること。轉じて、我意をはること。かたいぢ。執拗。剛愎。我執。〔唯識論、四〕我慢者、謂三踞傲恃二所執我一、令二心高擧一、故名二我慢一。〔法華經、方便品〕我慢自矜高、諂曲心不レ實。〔四十二章經〕除二滅我慢難一。❷こらへしのぶこと。たへること。忍耐。

【我們】59 wo^3 men 我等。私共。〔康熙字典〕們、音門、今塡詞家、我們俺們。〔紅樓夢、十九回〕如今我們洞中、果品短少。

【我聞】60（ガモン） ［佛］一切經の初にある語。我の執、他の競を息め、親ら聽問するの誤のないことを證するために置く。我は阿羅。〔注維摩經、一〕什曰、若不レ言レ聞、則我自有レ法、我自有レ法、則情有二所執一、情有二所執一、諍亂必興、若言二我聞一、則我無レ法、則無二所執一、得失是非、歸二於所聞一、我既無レ執、彼亦無レ競、無レ執無レ競、諍何由生、肇曰、出レ經者、明下己親承二聖旨一無中傳聞之謬上也。

【我揚】61（ガヤウ） 明、姜名武(**3**－**6025**··121)の字。

【我欲】62（ガヨク） ❶我欲す。我何々せんと欲す。〔劉琨、扶風歌〕我欲レ竟二此曲一、此曲悲且長。〔陶潛、擬古詩〕我欲レ觀二其人一、晨去越二河關一。❷よくばり。我利。

【我羅】63（ガラ） 城の名。甘肅省平涼縣の北。晉の義熙五年、赫連勃勃は姚興を我羅城に攻めて拔く。〔清一統志〕黃石卽百泉廢縣、我羅城、在二黃石東一、敕奇堡、亦在二府北一。

【我利】64（ガリ） ❶自分に都合がよい。〔說苑、權謀〕我迎レ歲彼背レ歲、彼去我從レ之也、彗星見、彼操二其柄一、我操二其標一、以掃則彼利、以擊則我利。❷自分ばかりの利益。我欲。

【我流】65（ガリウ） 自分勝手のやりかた。自分ひとりで立てた流儀。自己流。自分流儀。

【我貴軒】66（ガキケン） 清、黃虞稷(**12**－**47926**··1048)の室名。

【我御料】67（ワゴリヨ ワゴレウ） 對稱代名詞。おぬし。おまへ。多く婦人に用ひる。〔狂言記、水掛聟〕。

【我兄弟】68 wo^3 hsiung^1 ti 私。僕。

【我自己】69 wo^3 tzŭ^4 chi 私自身。

【我如久】70（ガニク） 琉球の地名。

【我道人】72（ガダウジン） 清、傅眉(**1**－**939**··107)の號。

【我知レ言】73（ワレゲンヲシル） 自分は、他人の言論の是非得失を自分の心に明かに理解してゐる。〔孟子、公孫丑上〕我知レ言、我善養二吾浩然之氣一。

【我獨亡】74（ワレヒトリナシ） 自分だけがない。司馬牛が其の獨り兄弟無きを憂へた語。〔論語、顏淵〕司馬牛憂曰、人皆有二兄弟一、我獨亡。

【我忘レ吾】75（ワレワレヲワスル） 深く思に沈んで己の存在を忘れるをいふ。自分自身を忘れる。〔蘇軾、客位假寐詩〕豈惟主忘レ客、今我亦忘レ吾。〔陸游、詩〕江路伶俜形弔レ影、草庵寂默我忘レ吾。

【委二我弟一】77（ワガオトウトニユダヌ） 萬事を弟にまかせてある。倭王が天を兄とし、日を弟とし、未明に出て政を聽き、日が出ると政務を止めて、日に委ねることをいふ。〔隋書、東夷、倭國傳〕倭王以レ天爲レ兄、以レ日爲レ弟、天未レ明時、出聽レ政、跏趺坐、日出便停二理務一云、委二我弟一。

【獲二我心一】78（ワガココロヲエタリ） 他人の言行が自分の意思と符合して喜ばしく思ふ。〔詩、邶風、綠衣〕絺兮綌兮、淒其以風、我思二古人一、實獲二我心一。

【取レ爲レ我】79（ワガタメニスルヲトル） 己のためにすることを主義として、他人のためには何事もしないこと。〔孟子、盡心上〕孟子曰、楊子取レ爲レ我、拔二一毛一而利二天下一、不レ爲也。

【我爲我堂】80（ガイガダウ） 雛田中清の號。雛田松溪(**11**－**42121**··27)を見よ。

【我一個人】81 wo^3 i^2 kê jen^2 私一人。

【我行我法】82 wo^3 hsing^2 wo^2 fa^3 自分勝手で人の言を用ひぬこと。

【我行其野】83（ガカウキヤ） 詩經、小雅、鴻鴈之什の篇名。周の宣王を刺る詩。〔詩經、小雅、我行其野序〕我行其野、刺二宣王一也。

【我之懷矣】84（ワレノオモヒ） 自分に懷ひ慕ふ所あることをいふ。〔詩、邶風、雄雉〕我之懷矣、自貽二伊阻一。〔左氏、宣、二〕宣氏曰、烏呼、我之懷矣、自貽二伊慼一、其我之謂矣。〔桓靈寶、登二荆山一詩〕我之懷矣、巾駕飛輪。

【我所レ思兮】85（ワガオモフトコロ） 自分の思ひ慕ふところ。〔張衡、四愁詩〕我所レ思兮在二太山一。

【我心蘊結】86（ワガココロウンケツス） 我が心は憂のためにむすぼれてゐる。蘊結は心のむすぼれるさま。〔詩、檜風、素冠〕庶見二素韠一兮、我心蘊結兮、聊與レ子如レ一兮。

【我心如レ秤】87（ワガココロハカリノゴトシ） 心の公平なこと。吾心如レ秤(**2**－**3379**··92)を見よ。〔楊愼、升庵文集、七十一、孔明心如レ秤〕太平御覽、載二孔明語一云、我心如レ秤、不レ能三爲レ人作二低昂一。

【我是凡夫】88（ガゼボンプ） ［佛］我は迷妄の凡夫である。〔文殊五字陀羅尼、頌文〕若起二於一心一、言二我是凡夫一、同謗二三世諸佛一。

【我戰則克】89（ワレタタカヘバスナハチカツ） 道を得る者は戰へば能く勝つをいふ。〔禮、禮器〕孔子曰、我戰則克、祭則受レ福、蓋得二其道一矣。〔蘇軾、范文正公文集序〕我戰則克、祭則受レ福、非二能戰一也、德之見二於怒一者也。

【我馬瘏矣】90（ワガウマヤム） 自分の馬が病む。〔詩、周南、卷耳〕陟二彼砠一矣、我馬瘏矣、我僕痡矣、云何吁矣。〔傳〕瘏、病也、痡、亦病也。

【我武惟揚】91（ワガブコレアガル） 味方の武威が盛になる。〔書、泰誓中〕我武惟揚、侵二于之疆一。〔重野成齋、敕二諭陸海軍人一〕至三我武維揚、耀二其光榮一、朕又當下與二汝等一共中其譽上。

【我黼子佩】92（ワレハホシハオビン） 自分は黼の衣を着、貴女は佩をおびる。黼は斧の繡文ある禮衣、佩は、古、爵位あるものが帶にかけて携へるおびもの。夫婦共に高位高官となることをいふ。〔琴清英〕祝牧與レ妻偕隱、作二琴歌一云、天下有レ道、我黼子佩、天下無レ道、我負子戴。

【遑レ恤二我後一】93（ワガノチヲウレフルニイトマアランヤ） 自分の後の子孫の事を心配する餘裕がない。〔詩、邶風、谷風〕毋レ逝二我梁一、毋レ發二我笱一、我躬不レ閱、遑レ恤二我後一。〔箋〕我身尚不レ能二自容一、何暇レ憂二我後所レ生子孫一也。〔左氏、襄、二十五〕烏呼、詩所謂我躬不レ說、皇レ恤二我後一者、甯子可レ謂レ不レ恤二其後一矣、將可乎哉。

【自レ我作レ古】94（ワレヨリイニシヘヲナス） 古例に拘らず、自ら新例を創め、後人に古例として之に據らせる。〔宋史、禮志二十五〕孝宗、云云、欲レ不レ用二易レ月之制一、云云、曰、自レ我作レ古、何害。

【失二我常與一】95（ワガジヤウヨヲウシナフ） 自分の常に關係あるものをなくする。〔莊子、外物〕鮒魚忿然作レ色、曰、吾失二我常與一、我無レ所レ處。

【助レ我張レ目】96（ワレヲタスケテメヲハラシム） 自分の怒を助長すること。〔曹植、與二吳季重一書〕墨翟不レ好レ妓、何爲過二朝歌一而廻レ車乎、足下好レ妓、而正値二墨氏廻車之縣一、想足下助レ我張レ目也。〔注〕濟曰、足下正値二此縣一、想亦助レ我張レ目怒レ之也、好二妓樂一知レ音也。

【博レ我以レ文】97（ワレヲヒロムルニブンヲモツテス） 詩書を以てその知識を博めるをいふ。文は先王の詩書をいふ。顏淵が孔子の門人敎育の法を嘆美した語。〔論語、子罕〕顏淵喟然歎曰、仰レ之彌高、鑽レ之彌堅、瞻レ之在レ前、忽焉在レ後、夫子循循然善誘レ人、博レ我以レ文、約レ我以レ禮、欲レ罷不レ能、既竭二吾才一、如二有レ所レ立卓爾一、雖レ欲レ從レ之、末レ由也已。

【不二與レ我好一】98（ワレトヨカラズ） 自分と仲がよくない。〔史記、宋微子世家〕其後箕子朝レ周、過二故殷虛一、感二宮室毀壞、生二禾黍一、箕子傷レ之、欲レ哭則不可、欲レ泣爲其近二婦人一、乃作二麥秀之詩一、以歌二詠之一、其詩曰、麥秀漸漸兮、禾黍油油、彼狡僮兮、不二與レ我好一兮所謂狡童者、紂也。

【撫レ我則后】99（ワレヲブスルハスナハチキミ） 我輩を撫育する者は我が君である。〔書、泰誓下〕古人有レ言、曰、撫レ我則后、虐レ我則讎。

【亂二我心曲一】100（ワガシンキヨクヲミダス） 我が心の中が種々の事のためにかき亂される。〔詩、秦風、小戎〕在二其板屋一、亂二我心曲一。〔箋〕心曲、心之委曲也。

【憐レ我憐レ卿】101（ワレヲアハレミケイヲアハレム） 夫婦が互に相愛することをいふ。〔世說新語、惑溺〕王安豐婦、常卿二安豐一、安豐曰、婦人卿レ壻、於レ禮爲二不敬一、後勿二復爾一、婦曰、親レ卿愛レ卿、是以卿レ卿、我不レ卿レ卿、誰當レ卿レ卿、遂恒聽レ之。〔馮小靑、詩〕瘦影自臨秋水照、卿須レ憐レ我我憐レ卿。

【我安適歸矣】102（ワレイヅクニカテキキセン） どこに行つて我が身をおちつけてよいやらわからない。〔史記、伯夷傳〕伯夷叔齊恥レ之、義不レ食二周粟一、隱二於首陽山一、采レ薇而食レ之、及二餓且レ死、作レ歌、其辭曰、登二彼西山一兮、采二其薇一矣、以レ暴易レ暴兮、不レ知二其非一矣、神農虞夏、忽焉沒兮、我安適歸矣、于嗟徂兮、命之衰矣、遂餓二死於首陽山一。

【我自用二我法一】103（ワレミヅカラワガハフヲモチフ） 自分は自分の思ふ通りにやる。〔通俗編、政治、我自用二我法一〕世說、庚子嵩曰、我自用二我法一、卿自用二卿法一。

【我樂多老人】104（ガラクタラウジン） 志賀忍の號。志賀理齋（4－10331・・11）を見よ。

【於レ我如二浮雲一】105（ワレニオイテハフウンノゴトシ） 自分にとつてはうき雲のやうに無關係なものである。〔論語、述而〕不義而富且貴、於レ我如二浮雲一。

【舍レ我其誰也】106（ワレヲオイテソレタレゾヤ） 自分以外に誰があるか。自分を除いて、他に大事を爲すべきもののないことをいふ。自負する語。〔孟子、公孫丑下〕如欲三平二治天下一、當二今之世一、舍レ我其誰也。

【奪二我鳳凰池一】107（ワガホウワウノイケヲウバフ） 晉の荀勖が中書監の官を罷められた時、人に語つた語。鳳凰池は中書省（1－73・・454）の異名。〔晉書、荀勖傳〕勖久在二中書一、專管二機事一、及レ失レ之、甚惘惘悵悵、或有二賀レ之者一、勖曰、奪二我鳳凰池一、諸君賀レ我耶。

【分二我一杯羹一】108（ワレニイツパイノアツモノヲワカテ） 漢の高祖は楚の項羽と滎陽に相對峙して下らなかつた。時に彭越が、梁地に反して楚の糧道を絶つたため、項羽之を患ひ、高祖の父、太公を捕へて、速かに下らねば太公を烹ると言ひ送つた。之に對し高祖が、我と汝とは懷王の前で兄弟の約束をしたのであるから、吾が父は卽ち汝の父である、若し汝の父を烹るなら、自分にもその羹を一杯分け與へよと云つた故事。〔史記、項羽紀〕項王東擊破レ之走二彭越一、漢王則引レ兵渡レ河、復取二成皐一、軍二廣武一、就二敖倉食一、項王已定二東海一來、西與レ漢俱臨二廣武一而軍、相守數月、當二此時一、彭越數反二梁地一、絶二楚糧食一、項羽患レ之、爲二高祖一置二太公其上一、告二漢王一曰、今不二急下一、吾烹二太公一、漢王曰、吾與二項羽一俱北面受二命懷王一、曰、約爲二兄弟一、吾翁卽若翁、必欲レ烹二而翁一、則幸分二我一杯羹一。

【自レ我者當レ如レ是】109（ワレヨリスルモノハマサニカクノゴトクナルベシ） 他人はいざ知らず、自分からする以上はかうするより外はない。〔小學、善行〕其事レ上遇レ人、一以自信、不下擇二利害一爲中趨捨上、其有レ所レ爲、必盡二其方一、曰、爲レ之自レ我者、當レ如レ是、其成與レ否、有二不レ在レ我者一。

【知レ我者其天乎】110（ワレヲシルモノハソレテンカ） 世の人には我を知る者は居ないが、ただ上天だけが能く我を知つてゐるといふ意。孔子が時君の己を知り用ひるものの無いことを歎じ、唯、天を樂しみ命に安んずる意を述べた語。〔論語、憲問〕子曰、莫二我知一也夫、子貢曰、何爲其莫レ知レ子也、子曰、不レ怨レ天、不レ尤レ人、下學而上達、知レ我者其天乎。

【我寄二愁心一與二明月一】111（ワレシウシンヲヨセテメイゲツニアタフ） 遠地に左遷されてゐる友を愁へるわが心を明月に託するといふ意。〔李白、聞三王昌齡左二遷龍標尉一遙有二此寄一詩〕楊花落盡子規啼、聞道龍標過二五溪一、我寄二愁心一與二明月一、隨レ風直到二夜郎西一。

【我心匪レ石不レ可レ轉】112（ワガココロイシニアラズテンズベカラズ） 石は堅くてもころばすことが出來るが、我が心は堅固で動かすことが出來ないといふ意。〔詩、邶風、柏舟〕我心匪レ石、不レ可レ轉也、我心匪レ席、不レ可レ卷也。〔傳〕石雖レ堅尙可レ轉、席雖レ平尙可レ卷。〔箋〕言三己心志堅平、過二於石席一。

【我醉欲レ眠卿可レ去】113（ワレヱヒテネムラントホツスケイサルベシ） 自分は酒に醉つてねむいからあなたはお歸り下さい。〔梁昭明太子、陶靖節傳〕貴賤造レ之者、有レ酒輒設、淵明若先醉、便語レ客、我醉欲レ眠卿可レ去、其眞率如レ此。〔李白、與二幽人一對酌詩〕我醉欲レ眠卿且去、明朝有レ意抱レ琴來。

【我文レ身不レ足レ責レ禮】114（ワレハミニブンスレイヲセムルニタラズ） 自分は身に入れ墨した夷狄であるから、禮を以て責められるに足らない。〔史記、魯周公世家〕吳王夫差彊、伐レ齊至レ繒、徵二百牢於魯一、季康子使三子貢說二吳王及大宰嚭一、以レ禮詘レ之、吳王曰、我文レ身、不レ足レ責レ禮、乃止。

【益二我貨一者損二我神一】115（ワガクワヲマスモノハワガシンヲソンズ） 自分の財貨を增すものは自分の精神を消耗するものである。〔高士傳、嚴遵〕嚴遵字君平、蜀人也、隱居不レ仕、常賣二卜於成都市一、日得二百錢一以自給、卜訖則閉レ肆下レ簾、以レ著レ書爲レ事、揚雄少從レ之遊、屢稱二其德一、李強爲二益州牧一、喜曰、吾得二君平一爲二從事一足矣、雄曰、君可二備レ禮與相見一、其人不レ可レ屈也、王鳳請レ交不レ許、蜀有二富人羅沖者一、問二君平一曰、君何以不レ仕、君平曰、無二以自發一、沖爲二君平一具二車馬衣糧一、君平曰、吾病耳、非レ不レ足也、我有レ餘而子不レ足、奈何以レ不レ足奉レ有レ餘、沖曰、吾有二萬金一、子無二擔石一、乃云レ有レ餘、不二亦謬一乎、君平曰、不レ然、吾前宿二子家一、人定而役未レ息、晝夜汲汲、未二嘗有一レ足、今我以レ卜爲レ業、不レ下レ牀而錢自至、猶餘二數百一、塵埃厚寸、不レ知レ所レ用、此非二我有レ餘而子不一レ足邪、沖大慙、君平嘆曰、益二我貨一者損二我神一、生二我名一者殺二我身一、故不レ仕也、時人服レ之。

【徯二我后一后來其蘇】116（ワガキミヲマツキミキタラバソレソセン） 民が仁者の軍の來るを待ち望み、もし來らば蘇生することを得んと喜ぶ辭。〔孟子、梁惠王下〕誅二其君一而弔二其民一、若二時雨降一、民大悅、書曰、徯二我后一、后來其蘇。

【我項豈頑奴砥石耶】117（ワガカウハアニグワンドノシセキナランヤ） 我がうなじは頑奴の刀の砥石ではない。項は、うなじ。唐の林蘊が劉闢の反を諫めて捕へられ、刑人に刀を以て頸を磨擦された時、之を罵つた語。〔唐書、儒學下、林蘊傳〕林蘊字復夢、劉闢反、云云、蘊遺レ書切諫、闢怒、械二於獄一、且レ殺レ之、云云、陰戒二刑人一、抽レ劍磨二其頸一、以脅二服之一、蘊叱曰、死卽死、我項豈頑奴砥石耶、闢知レ不レ可レ服、捨レ之。

【我今不レ閱皇レ恤二我後一】118（ワレイマイレラレズワガノチヲウレフルニイトマアランヤ） 我が身が容れられないのに、どうして後人の事を心配する暇があらうかの意。閱は容、皇は暇。〔禮、表記〕國風曰、我今不レ閱、皇レ恤二我後一、終身之仁也。〔注〕閱、猶レ容也、皇、暇也、恤、憂也。

【我心自空罪福無レ主】119（ガシンオノヅカラクウニシテザイフクシユナシ） 罪福はもと我が心から生ずるものであるが、心は空で實體なきゆゑ、心から起る罪福も主體なくして空である。故に罪福に迷ふべからずといふこと。〔普賢觀經〕何者是罪、何者是福、我心自空、罪福無レ主、一切法如レ是、觀レ心無レ心、法不レ住二法中一、諸法解脫、滅諦寂靜、如レ是想者、名二大懺悔一。

【我善養二吾浩然之氣一】120（ワレヨクワガカウゼンノキヲヤシナフ） 我は善く浩然として盛大流行する氣を養つてゐる。浩然之氣（6－17479・・45）を見よ。〔孟子、公孫丑上〕我善養二吾浩然之氣一。

【謂二我舅一者吾謂二之甥一】121（ワレヲキウトイフモノハワレコレヲセイトイハン） 自分を呼んでしうといふものに對しては、自分は其の人をむこと呼ぶといふ義。〔爾雅、釋親〕婦之黨爲二婚兄弟一、壻之黨爲二姻兄弟一、嬪婦也、

謂㆓我舅㆒者、吾謂㆓之甥㆒也。

【自㆑我得㆑之自㆑我捐㆑之】122（ワレヨリコレヲエテ ワレヨリコレヲスツ） 己の得たものを己が失ふのであるから恨む所はない。〔史記、魏其武安侯傳〕魏其侯曰、侯自㆑我得㆑之、自㆑我捐㆑之、無㆑所㆑恨。

【自㆑我得㆑之自㆑我失㆑之】123（ワレヨリコレヲエテ ワレヨリコレヲウシナフ） 自㆑我得㆑之自㆑我捐㆑之に同じ。〔通俗編、境遇〕自㆑我得㆑之自㆑我失㆑之、梁書邵陵王綸傳、侯景陷㆑城、高祖嘆云云。

【知㆑我者希則我者貴】124（ワレヲシルモノスクナケレバ スナハチワレタツトシ） 自分を知る者が少ないほど自分が貴いのである。老子が自分の說く無爲自然の道を以て最も貴いものであると述べてゐる語。〔老子、七十〕知㆑我者希、則我者貴、是以聖人、被㆑褐懷㆑玉。

【知㆑我者其惟春秋乎】125（ワレヲシルモノハソレ タダシユンジウカ） 我が心を知るには唯〻此の春秋の書に於てするのみである。孔子が春秋を作り、天子に代つて褒貶の權をほしいままに行つてゐる意を述べた語。〔孟子、滕文公下〕世衰道微、邪說暴行有作、臣弑㆓其君㆒者有㆑之、子弑㆓其父㆒者有㆑之、孔子懼作㆓春秋㆒、春秋、天子之事也、是故孔子曰、知㆑我者其惟春秋乎、罪㆑我者其惟春秋乎。

【立㆓我烝民㆒莫㆑匪㆓爾極㆒】126（ワガジヨウミンヲリフスルハ ナンヂノキヨクニアラザルハナシ） 我が多くの人に粒食せしめて衣食に窮することが無いやうにする者は、汝卽ち后稷の至極の德にほかならない。立は粒に通じ、烝は衆、爾は后稷を指し、極は至極の意。列子では民が堯の無爲の德を讚へた語とする。又、立をタツルハと讀み、生活させてゐるのはと解す。〔詩、周頌、思文〕思文后稷、克配㆓彼天㆒、立㆓我烝民㆒、莫㆑匪㆓爾極㆒。〔箋〕立、當㆑作㆑粒、烝、衆也。〔集傳〕蓋使㆔我烝民得㆓以粒食㆒者、莫㆑非㆓其德之至㆒。〔列子、仲尼〕堯乃微服、游㆓於康衢㆒、聞㆓兒童謠㆒曰、立㆓我蒸民㆒、莫㆑匪㆓爾極㆒、不㆑識不㆑知、順㆓帝之則㆒。〔注〕蒸、衆也、夫能使㆔萬物咸得㆓其極㆒者、不㆑犯㆓其自然之性㆒也、若以㆓識知㆒制㆓物之性㆒、豈順㆓天之道㆒哉。

【我不淫人婦人不淫我婦】127 wo^{3} pu^{4} yin^{2} jen^{2} fu^{4} jen^{2} pu^{4} yin^{2} wo^{3} fu^{4} 我人の妻を姦せずば人も亦我が妻を姦せず。

【投㆑我以㆓木瓜㆒報㆑之以㆓瓊琚㆒】128（ワレニトウズルニモククワヲモツテスレバ コレニムクユルニケイキヨヲモツテセン） 少しの物を贈られたに對して多くの物を返す。長く交遊することを欲する辭。木瓜は木の名、楙木。瓊琚は玉の名。〔詩、衞風、木瓜〕投㆑我以㆓木瓜㆒、報㆑之以㆓瓊琚㆒。〔傳〕木瓜、楙木也、可㆑食之木、瓊、玉之美者、琚、佩玉名。〔集傳〕言、人有㆔贈㆑我以㆓微物㆒、我當㆔報㆑之以㆓重寶㆒、而猶未㆑足㆓以爲㆒㆑報也、但欲㆓其長以爲㆒㆑好、而不㆑忘耳、疑亦男女相贈答之辭、如㆓靜女之類㆒。

【使㆔我有㆓身後名㆒不㆑如㆓卽時一杯酒㆒】129（ワレニシンゴノナアラシムルモ ソクジイツパイノサケニシカズ） 我が歿後、空名の殘るよりは、寧ろ只今一杯の酒を欲する。達人が名利を薄んずる意。〔晉書、文苑、張翰傳〕翰縱任不㆑拘、時人號爲㆓江東步兵㆒、云云、或謂㆑之曰、卿縱適㆓一時㆒、獨不㆑爲㆓身後名㆒耶、答曰、使㆔我有㆓身後名㆒、不㆑如㆓卽時一杯酒㆒。

【我本無㆑心㆑圖㆓富貴㆒誰知富貴逼㆑人來】130（ワレモトフウキヲハカルニココロナシ タレカシランフウキノヒトニセマリテキタルヲ） 自分は元來富貴を得ようとはかる心がなくても富貴の方から自分にせまつてくる。〔通俗編、境遇〕我本無㆑心㆑圖㆓富貴㆒、誰知富貴逼㆑人來、北史楊素傳、帝謂曰、善自勉、勿㆑憂㆑不㆓富貴㆒、素曰、但恐富貴來逼㆑臣、臣無㆑心㆑圖㆓富貴㆒也、按、世傳句云云、全演㆓素語㆒。

【呼㆓我牛也㆒而謂㆓之牛㆒呼㆓我馬也㆒而謂㆓之馬㆒】131（ワレヲウシトヨベバコレヲウシトイヒ ワレヲウマトヨベバコレヲウマトイフ） 人が自分を呼んで牛と稱し馬と稱するも、少しも意に介せず、凡て自然に任せるをいふ。〔莊子、天道〕昔者子呼㆓我牛也㆒、而謂㆓之牛㆒、呼㆓我馬也㆒、而謂㆓之馬㆒、苟有㆓其實㆒、人與㆓之名㆒、而弗㆑受、再受㆓其殃㆒。

【成】11546

ガ

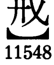
我（**5－11545**）の古字。〔說文〕成、古文我。

【⿰犭戈】11547

ガ

我（**5－11545**）に同じ。〔餘文〕⿰犭戈、同㆑我。

【戒】11548



小篆

カイ 〔集韻〕居拜切 ［卦］ ㄐㄧㄝˋ chieh^{4}

❶いましめる。㋑ふせぐ。そなへる。武器を執つて警備する。〔說文〕戒、警也、从㆓廾戈㆒、持㆑戈以戒㆓不虞㆒。〔易、萃〕君子以除㆓戎器㆒、戒㆓不虞㆒。〔注〕備㆓不虞㆒。〔左氏、襄、三〕不虞之不㆑戒。〔注〕戒、備也。〔荀子、儒效〕勝㆑敵而愈戒。〔注〕戒、備也。㋺まもる。〔周禮、夏官、掌固〕夜三鼜以號戒。〔注〕謂㆓擊㆑鼓行㆑夜戒守㆒也。❷つつしむ。おこたらぬ。悈（**4－10634**）に通ず。〔說文通訓定聲〕戒、叚借爲㆑悈。〔廣韻〕戒、愼也。〔孟子、滕文公下〕往之㆓女家㆒、必敬必戒、無㆑違㆓夫子㆒。〔新書、道術〕思㆑惡勿㆑道、謂㆓之戒㆒。❸**そろへる。そなはる。**〔廣韻〕戒、具也。〔詩、小雅、大田〕既種既戒。❹**つげる。**いましめかたる。誡（**10－35538**）に通ず。〔說文通訓定聲〕戒、叚借爲㆑誡。〔儀禮、士冠禮〕主人戒㆑賓。〔注〕戒、警也、告也。〔儀禮、鄕射禮〕主人戒㆑賓。〔注〕戒、警也、語也。❺**いひつける。**〔儀禮、聘禮〕戒㆓上介㆒亦如㆑之。〔注〕戒、猶㆑命也。〔左氏、宣、十二〕軍政不㆑戒而備。〔注〕戒、勅令。❻**さとす。**〔書、大禹謨〕戒㆑之以㆑休。❼**いましめ。**〔孟子、公孫丑下〕辭曰、聞㆑戒。〔注〕有㆘戒㆓備不虞㆒之心㆖也。❽**ものいみ。ものいみする。**〔禮、禮器〕七日戒。〔注〕戒、散齋也。❾**文體の名。**いましめの文。〔文體明辯、戒〕按、字書云、戒者、警敕之辭、字本作㆑誡、文既有㆑箴、而又有㆑戒、則戒者箴之別名歟。❿**さかひ。**界（**7－21775**）に通ず。〔字彙補〕戒、與㆑界同。〔史記、天官書〕星茀㆓於河戒㆒。〔唐書、天文志〕江河爲㆓南北兩戒㆒。⓫**いたる。**屆（**4－7666**）に通ず。〔詩、商頌、烈祖〕既戒既平。〔傳〕戒、至。〔陳奐傳疏〕節南山箋、屆、至也、屆・戒二字、聲義相通、傳訓爲㆑至者、言㆓神靈之來至㆒也。⓬古は⿸疒戒（**5－11575**）に作る。〔集韻〕戒、古作㆑⿸疒戒。⓭**姓。**〔萬姓統譜〕戒、見㆓姓苑㆒。⓮［佛］身心の過を防禁すること。五戒・十戒。〔大乘義章、一〕言㆓尸羅㆒者、此名㆓淸涼㆒、亦名爲㆑戒。〔涅槃經、三十一〕戒是一切善法梯橙。〔觀經疏記〕三學之中、以㆑戒爲㆑首。⓯［現］斷つ。惡習をやめる。

［解字］ 會意。戈と廾との合字。廾（𠬞）は兩手。兩手をあげて戈を持ち、以て不虞を戒める。いましめる意。その事に戒といひ、心に存するを悈とし、言に發するを誡とし、そなへる兵器を械とする。

【戒菴】1（カイアン） 字號。❶明、靳貴（**12－42728**・・4）の號。❷明、李詡（**6－14459**・・227）の號。❸淸、邵遠平（**11－39343**・・91）の號。

【戒菴漫筆】2（カイアンマンピツ） 書名。八卷。明、李詡撰。朝野の典故、詩文瑣語、諧謔鄙俗の事を記す。〔說郛、續、十九〕・〔常州先哲遺書、八・九冊〕。

【戒菴老人】3（カイアンラウジン） 明、李詡（**6－14459**・・227）の號。

【戒癮】4 chieh^{4} yin^{3} 鴉片などに中毒した者が「毒斷（ドクダチ）」をすること。

【戒煙】5（カイエン） 喫煙をいましめる。又、阿片を吸ふことをいましめる。〔輶軒語、語行〕戒㆔吸㆓食洋煙㆒。

【戒海】7（カイカイ） ［佛］戒律の淸淨なことを海に譬へる。〔止觀、二下〕戒海死屍、宜㆓依㆑律擯治㆒。

【戒香】8（カイカウ） ［佛］堅固に戒を持する人の德名が遠く四方に聞えることを、名香の遠く薰ずるに喩へていふ。〔往生要集、中、注〕常以㆓戒香㆒爲㆓身瓔珞㆒也。

【戒寒】9（カイカン） 防寒の用意をする。〔國語、周語中〕（單子）對曰、夫辰角見而雨畢、天根見而水涸、本見而草木節解、駟見而隕㆑霜、火見而淸風戒㆑寒。

【戒器】10（カイキ） ［佛］戒を受けるに堪へる道具。受戒

者として許さるべきもの。〔梵網經、下〕若一切衆生、初入二三寶海一、以レ信爲レ本、住二在佛家一、以レ戒爲レ本、佛子、始行菩薩、若信男若女中、諸根不具黃門婬男婬女奴婢變化人受得レ戒。

【戒急】11カイキフ ［佛］戒法を嚴にして智慧を研くことを後にする人を戒急の人といひ、成佛の道に急にして智慧を研く人を乘急の人といふので、この乘戒の緩急の程度により、乘急戒緩・戒急乘緩・乘戒俱急・乘戒俱緩の四種が生ずる。乘急戒緩の人は維摩居士、戒急乘緩の人は小乘の比丘、乘戒俱急の人は出家の菩薩の如きもの、乘戒俱緩の人は言ふに足らないものである。〔南本涅槃經、六〕於レ乘緩者、乃名爲レ緩、於レ戒緩者、不二名爲レ緩。〔止觀、四上〕約二此乘戒一四句分別、一、乘戒俱急、二、乘急戒緩、三、戒急乘緩、四、乘戒俱緩。

【戒經】12カイキヤウ ［佛］戒律を說いた經。梵網經・優婆塞戒經など。〔玄義、三下〕戒經云、諸惡莫レ作、諸善奉行、自淨二其意一、是諸佛教。

【戒行】13カイギヤウ ［佛］戒律を守るおこなひ。非を防ぎ惡を止める功能が身中に發現する者、卽ち戒體を發得した者は、能くこの戒體に隨從して、法の如く、身口意の三業を動作する。之を戒行といふ。〔行事鈔、中〕戒行謂三方便修成順二本受體一。〔顏氏家訓、歸心〕兼二修戒行一、留二心誦讀一。〔洛陽伽藍記、四〕戒行眞苦、難レ可二揄揚一。

【戒禁】14カイキン ㊀いましめ。おきて。〔周禮、地官、小司徒〕掌三其政教與二其戒禁一。〔周禮、地官、遂大夫〕掌二其政令戒禁一、聽二其治訟一。㊁［佛］カイゴン 一切の惡を戒めて制止する。戒律禁制。〔俱舍論、十九〕於レ非二因道一、謂二因道一見、一切總說、名二戒禁取一。

【戒謹】15カイキン いましめつつしむ。〔朱熹、白鹿洞書院揭示〕其所二以戒謹而恐懼一者、必有下嚴二於彼一者上矣。

【戒垢】16カイク ［佛］女人をいふ。女人は戒法をけがす原因となるからいふ。〔智度論、三〕佛言、女人爲二戒垢一、女人非二戒垢一、是戒垢因、故女人爲二戒垢一。

【戒懼】17カイク いましめおそれる。用心し心配する。又、そのこと。戒愼恐懼。〔左氏、桓、二〕百官於レ是乎戒懼、而不三敢易二紀律一。〔國語、楚語上〕知二廢興者一而戒懼焉。〔新書、禮容語〕有二三卿五大夫貴一矣、亦可二以戒懼一矣。〔論衡、譏日〕述二前之吉凶一、以相戒懼。

【戒具】18カイグ ㊀祭祀・朝覲・會同・賓客等のときに用ひる必要な器具。〔周禮、天官、小宰〕以レ灋掌二祭祀・朝覲・會同・賓客之戒具、軍旅・田役・喪荒亦如レ是。〔注〕戒具、戒二官有レ事者所一レ當レ共。〔周禮、夏官、祭僕〕有司糾二百官之戒具一。㊁囚人の逃走や暴行などを防ぐに用ひる具。手錠・足枷の類。

【戒火】19カイクワ ㊀火を戒める。火の用心。〔成公綏、戒火文〕余家遭レ火、屋宇焚盡、器用廓然、乃造二於四鄰一、以爲二戒火文一。㊁草の名。べんけいさう。景天の異名。〔本草、景天〕釋名、愼火、戒火、救火、據火、護火、辟火、火母。

〖戒火草〗20カイクワサウ 草の名。愼火。べんけいさう。之を植ゑればよく火を避けるといふ。〔荊楚歲時記〕春分日、民並種二戒火草於屋上一。

【戒環】21 chieh^4 huan^2 指輪。戒指(36)を見よ。

【戒勸】22カイクワン いましめすすめる。〔國語、楚語上〕聳レ善而抑レ惡焉、以戒二勸其心一。

【戒頑】23カイグワン 清、王連瑛(**7－20823**··2186)の字。

【戒嚴】24カイゲン ㊀敵の襲來に對しきびしく警戒する。〔正字通〕嚴、凡彊敵將レ至設レ備曰二戒嚴一、敵退稍弛レ備曰二解嚴一。〔魏志、賈逵傳、注〕魏略曰、太祖欲レ征レ吳、而大霖雨、三軍多不レ願レ行、太祖知二其然一、恐三外有二諫者一、教曰、今孤戒嚴、未レ知レ所レ之、有二諫者一死。〔晉書、輿服志〕袴褶之制、未レ詳レ所レ起、近世凡車駕親戒、中外戒嚴服レ之、服無二定色一。〔唐書、代宗紀〕(廣德元年十月)吐蕃寇二奉天武功一、京師戒嚴。㊁非常時に際し、全國または一地方に兵備を以て行ふ警戒。此の勅令を戒嚴令といふ。

〖戒嚴令〗25カイゲンレイ もと天皇の大權によつて戒嚴を宣告した勅令。戒嚴の㊁を見よ。

【戒鼓】26カイコ つづみを打つていましめる。〔周禮、夏官、大僕〕大喪始崩、戒鼓傳二達于四方一。〔注〕戒鼓、擊レ鼓以警レ衆也。

【戒後】27カイゴ 將來をいましめる。〔崔駰、酒箴〕豐侯沈レ酒、荷レ甖負レ缶、自戮二於世一、圖レ形戒レ後。

【戒護】28カイゴ いましめまもる。戒守。〔鮑照、登二大雷岸一與レ妹書〕汝專自愼、夙夜戒護、勿二我爲一レ念。

【戒口】29 chieh^4 k'ou^3 毒斷ドクダチをする。

【戒告】30カイコク 訓戒と忠告。又、忠告。〔易、泰、不レ戒以孚、疏〕不レ待二戒告一、而自孚信以從レ己也。

【戒言】31カイゴン ［佛］授戒の時、教授師から授かる言句。例へば、殺生戒を受ける時、教授師が「汝形壽を盡くして、能く殺生戒を持するや否や」といふ言句の下に、受戒者は必ず「我能く之を持す」と言上三度で、茲に戒を受ける類。

【戒相】32カイサウ ［佛］戒律を持修する者の言行意があらはれた外相。〔補助儀、上〕戒科總有二四重一、謂二戒法・戒體・戒行・戒相一、云云、戒法者、舍那佛三聚淨戒功德是也、戒體者、師資相傳、作法受得、心中領納法體也、此受持法體、一一行彰、以云二戒行一、其行有二開遮持犯一、名云二戒相一也。

【戒裝】33カイサウ 旅立の用意をいふ。〔顏延之、爲二皇太子一侍レ宴餞二衡陽南平二王一應詔詩〕亦既戒レ裝、皇心載レ遠、夕帳二亭皐一、晨儀二禁苑一。

【戒殺】34カイサツ 殺生を禁斷する。〔瑯嬛記〕薛嵩性慈戒レ殺、卽微細如レ虱、亦不レ害レ之。

【戒三】35カイサン 清、邵遠平(**11－39343**··91)の號。

【戒指】36カイシ ゆびわ。指輪。〔三餘贅筆〕世俗以二金銀一爲レ環、置二婦人指閒一、謂二之戒指一、按、詩注、古者后妃羣妾進御、女史書二其月日一、授レ之以レ環、以進二退之一、生レ子月辰、以二金環一退レ之、當レ御者、以二銀環一進レ之、著二於左手一、既レ御者著二於右手一。

〖戒指兒〗37 chieh^4 chih^3 êrh 指輪。〔紅樓夢、三十一回〕將二三個戒指兒包上一。

【戒師】38カイシ ［佛］戒法を授ける師僧。傳戒師。戒和尙。〔禪苑清規、九、沙彌受戒文〕戒師、誦レ偈執二瓶水一灌レ項。

【戒示】39カイジ いましめを垂れ示す。〔漢書、韋玄成傳〕玄成復作レ詩、自著下復二玷缺一之艱難上、因以戒二示子孫一。

【戒膝】40カイヒザ ［佛］比丘が戒を受ける時の膝つき。卽ち右膝着地の坐法。〔行事鈔、上之三〕若堂內者、至二門限內一、擧レ手呼言、某甲來、彼來已爲捉二衣鉢一、令レ至二僧中一、教禮二僧足一已、至二戒師前一、右膝著レ地合掌。

【戒射】41カイシヤ 古、大射儀の禮として射を行ふ者に、三日以前から齋戒して身を愼ましめること。〔儀禮、大射儀〕宰戒二百官一、云云、射人戒二諸公卿大夫射一、司士戒二士射與二贊者一。

【戒尺】42カイシヤク ［佛］先生僧侶などが弟子を鞭撻する竹板。〔敕脩清規、沙彌得度〕設二戒師座機一、與二住持一分レ手、機上安二香燭手爐戒尺一。

【戒守】43カイシユ 戒めまもること。用心。〔易林、師之第七、損〕晨門戒守、鄭忽失レ家。

【戒珠】44カイシユ ［佛］戒律は潔白なもので人身を莊嚴にするから珠玉に譬へていふ。〔梵網經、下〕戒如二明日月一、亦如二瓔珞珠一。〔梁簡文帝、湘宮寺智蒨法師墓誌銘〕戒珠靡レ缺、忍鎧無レ違。〔唐代宗、密嚴經序〕戒珠在レ握、明鏡入レ懷。〔唐高僧傳、智者傳〕禪師戒珠圓淨、定水淵澄。

〖戒珠寺〗45カイシユジ 寺の名。浙江省紹興縣城內の東北隅。晉の王羲之の故宅。〔名勝志〕在二今浙江紹興縣東北六里一、本爲二王右軍故宅一、右軍捨レ宅爲レ寺、寺有二題扇橋一、嘗在二此臺一老姥所レ持之六角竹扇、人競買レ之。

【戒酒】46 chieh^4 chiu^3 飮酒をひかへること。酒をたつ。酒をやめる。

【戒終】47カイシユウ をはりを全うせんことを戒める。〔漢書、枚皐傳〕皐奏レ賦以戒レ終。

【戒書】48カイシヨ ㊀漢代、皇帝の命令に四あり、その第四を戒書といふ。刺史大守及び邊官を戒敕するもの。誡敕。〔獨斷、上〕其命令、一曰策書、二曰制書、三曰詔書、四曰戒書、云云、戒書、戒勑、刺史太守及三邊營官被レ勑、文曰、有三詔二勑某官一、是爲二戒勑一也、世皆名レ此爲二策書一、失レ之遠矣。㊁自ら戒める書。〔大戴禮、武王踐阼〕王門書レ之、言暢若二恐懼一、退而爲二戒書一。〔注〕託二於物一以自警戒也。

【戒色】49カイシヨク 女色を戒めること。〔論語、季氏〕少之時、血氣未レ定、戒レ之在レ色。

【戒食】50カイシヨク ㊀食事を告げ案內する。〔左氏、襄、十四〕衞獻公戒二孫文子甯惠子食一、皆服而朝、日旰不レ召。〔注〕勑二戒二子一、欲二共宴飮一。〔書言故事、敍擾類〕答二人相招一、云三伏辱二戒食一。㊁chieh^4

shih² 食物をひかへる。禁食する。

【戒屬】51 カイショク いましめる。〔漢書、史丹傳〕臣竊戒屬、毋三涕泣感二傷陛下一。

【戒心】52 カイシン 用心をする。警戒する心。又、非常のいましめ。用心。〔孟子、公孫丑下〕當レ在レ薛也、予有二戒心一、辭曰、聞レ戒、故爲レ兵餽レ之、予何爲不レ受。〔注〕戒、有下戒二備不虞一之心上也、時有二惡人一、欲レ害二孟子一、孟子戒備。〔管子、君臣下〕戒心形二於內一、則容貌動二於外一矣。

【戒身】53 カイシン 身を戒める。〔李尤、錯佩刀銘〕豈爲二麗好一、將レ戒二其身一。

【戒晨】54 カイシン 軍旅中にあつて夜半に鼜を三通して衆を戒めること。通とは、鼜を三百三十三うつをいふ。〔周禮、地官、鼓人、凡軍旅夜鼓レ鼜、注〕夜半三通爲二晨戒一〔校勘記〕戒晨、今注作二晨戒一誤倒。〔孫詒讓正義〕凡擿レ鼓三百三十三椎爲二一通一。

【戒晨鼓】55 カイシンコ 晨昏に城門の開閉をしらせる太鼓。〔水經、灅水注〕其水夾二御路一、南流逕二蓬臺西一、魏神瑞三年、又建二白樓一、樓甚高竦、加二觀榭于其上一、表裏飾以二石粉一、皜曜建素、赭白綺分、故世謂二之白樓一也、後置二大鼓于其上一、晨昏伐以二千椎一、爲二城里諸門啓閉之候一、謂二之戒晨鼓一也。

【戒愼】56 カイシン いましめつつしむ。用心をし氣をつける。〔禮、曲禮上〕故君子戒愼、不レ失二色於人一。〔中庸〕君子戒二愼乎其所一レ不レ睹。〔墨子、天志下〕然且父以戒レ子、兄以戒レ弟曰、戒レ之愼レ之、處二人之國一者、不レ可レ不二戒愼一也。〔漢書、劉向傳〕王公其何以戒愼、民萌何以勸勉。〔風俗通、十反〕申勑屢省、務知二戒愼一。〔范甯、穀梁傳序〕欲下人君戒二愼厥行一、增中脩德政上。

【戒愼之鞀】57 カイシンノタウ 君を戒めるためのふりつづみ。周の武王が之を作り、臣に諫めんと欲するものがあれば之を振つて告げしめた。〔呂覽、自知〕堯有二欲レ諫之鼓一、舜有二誹謗之木一、湯有二司過之士一、武王有二戒愼之鞀一。〔注〕欲レ戒者搖二其鞀一鼓レ之。〔淮南子、主術訓〕湯有二司直之人一、武王立二戒愼之鞀一。

【戒水】58 カイスイ 佛戒は心の熱惱を除いて清涼にするので、これを水に喩へていふ。

【戒石】59 カイセキ 役人のいましめを書いた石。清代は、府縣署の大堂の正中に戒石を立て、南面に「爾俸爾祿、民脂民膏、下民易レ虐、上天難レ欺」の十六字を刻す。〔韻府引、梅堯臣、詩〕嘗聞開元時、令長多賜レ戒、戒石今尙存、世異事不レ背。〔十駕齋養新錄〕宋高宗紹興二年六月癸巳、頒二黃庭堅所レ書太宗御製戒石銘於郡縣一、命二長吏一刻二之庭石一、置二之座右一、以爲二晨夕之戒一、見二繫年要錄一。〔朱象賢、聞見偶錄〕今凡府州縣衙署、於二大堂之前正中一、俱立二一石一、南向刻二公生明三字一、北向刻二爾俸爾祿、民膏民脂、下民易レ虐、上天難レ欺十六字一、官每レ升レ堂、卽對二此石一也、予考二舊典一、此名二戒石一、所レ刻之十六字、乃宋太宗書賜二郡國一、以戒二官吏一、立二石堂前一、欲レ令三時時在レ目不二敢忽忘一之意、先レ是後蜀孟昶、譔二戒官僚二十四句一、至二宋太宗一、表二出四句一、元明以至二國朝一、未レ有二更易一。〔陔餘叢考、戒石銘〕郡縣廳事之南、有レ亭、書二爾俸爾祿、民膏民脂、下民易レ虐、上天難レ欺十六字一、謂二之戒石銘一。

【戒善】60 カイゼン 佛三福の第二。小乘・大乘の戒律。威儀。戒福。〔玄義、十上〕諸經皆明二戒善一。

【戒足】61 カイソク 佛佛道に進趣する要具である戒を、人體の要具である足に譬へていふ。〔行事鈔、上一〕經云、若欲レ生二天等一、必須レ護二戒足一。〔資持記、上一之三〕戒以レ足譬、頗符二發趣之義一。

【戒速】62 カイソク いましめまねく。〔儀禮、公食大夫禮〕大夫相食、親戒速。〔注〕速、召也、先就告レ之、歸具既具、復自召レ之。〔胡培翬正義〕云二速召也一者、詳二鄉飲主人速レ賓下一、云三先就告レ之者、戒也、云二歸具既具、復自召レ之者、速也、親戒而又親速、賓主人相敵之禮如レ是。

【戒體】63 カイタイ 佛授戒の時、持戒者が得る所の恒存的勢力で、防非止惡の作用を現はすもの。〔二人四行論〕是非不レ起、卽戒體清淨、名爲二尸波羅蜜一。

【戒刀】64 カイタウ 佛袈裟を裁縫するに用ひる刀。又、僧侶が身だしなみにもつ小刀。〔僧史略、上〕禪師則蔞笠、及持二澡罐漉囊錫杖戒刀斧子針筒一、此皆爲二道具一也。〔釋氏要覽、中〕僧史略云、戒刀皆是道具、蓋蓄二月頭刀子一、爲二割衣一故。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇、楔子〕戒刀頭近新來鋼蘸、鐵棒上無二半星兒土漬塵緘一。

【戒旦】65 カイタン 夜が明けたことを警告する。朝の用意をする。轉じて、早朝をいふ。〔晉書、文苑、趙至傳〕雞鳴戒レ旦、則飄爾晨征、日薄二西山一、則馬首靡レ託。〔何遜、與二沈助教一同宿二湓口一夜別詩〕我爲二潯陽客一、戒旦乃西游。〔任昉、爲二皇太子一求二一日一人朝一表〕內豎告レ安、姬昌怡レ色、鳴雞戒レ旦、周發冠履。〔南史、齊太祖紀〕公奉辭伐レ罪、戒旦晨征。

【戒壇】66 カイダン ❶山名。河北省宛平縣の西。戒壇あり、構造宏麗で、隋唐の閒から始まるといふ。〔孫國敉、燕都覽遊志〕壇週遭皆列二戒神一、出レ壇而南、至二波離殿前一、遼金碑各一、皆波離尊者行實、有二太古洞一、最勝、列レ炬而入、百乳千螺、皆成二佛像一、山有二極樂・三慧・朝陽・觀音・龐涓等五洞一、山之東南、有二獅子巖一、自レ巖而上十八折、始至二戒壇一、東去二渾河一二十里、兩岸辟立、中通二一徑一、多二林木泉澗之勝一、上爲二極樂峯一。❷佛僧徒に戒法を授ける式壇。戒場。〔事物紀原、道釋科教部、戒壇〕漢魏之僧、雖二剃染一、而戒法未レ備、唯受二三歸一、嘉平正元中、既傳二戒律一、立二大僧羯磨法一、斯蓋比丘立二戒壇一之始也。

【戒壇院】67 カイダンヰン 佛戒壇を設けた寺院。〔元亨釋書〕乃於二大殿西一、構二戒壇院一。

【戒壇廻】68 カイダンメグリ 信州善光寺殿堂緣下の暗所を巡ること。

【戒壇石】69 カイダンセキ 佛多くは「不レ許三葷酒入二山門一」と書いて寺院の門前に建てる石。禪宗又は律宗の寺院に多く建てる。戒壇の前に立てる石であるから戒壇石といふ。一山を盡く戒壇と見る意。

【戒杖】70 カイヂヤウ 山伏等の持つつゑ。錫杖。

【戒定】71 カイヂヤウ 佛戒律を受持して身を制し犯觸しない持戒と、一心に物を考へ一境に念を靜める禪定とをいふ。〔淨心誡觀、上〕一切苦因果財色爲レ本、一切樂因果戒定爲レ本。

【戒定慧】72 カイヂヤウヱ 佛戒は身を防ぎ、定は心の散亂するを靜め、慧は惑を去り理をさとること。戒律と禪定と智慧。此の三法を學んで涅槃に入るので三學といふ。〔翻譯名義集、四〕安法師云、世尊立レ教、法有レ三焉、一者戒律、二者禪定、三者智慧、云云、今謂二防レ非止レ惡曰レ戒、息レ慮靜レ緣曰レ定、破レ惑證レ眞曰レ慧。〔五燈會元〕法要有レ三、曰戒・定・慧、唐宣宗問二弘辨禪師一曰、云何爲レ戒、對曰、防レ非止レ惡謂二之戒一、云何爲レ定、對曰、六根涉レ境、心不レ隨レ緣名レ定、云何爲レ慧、對曰、心境俱空、照覽無レ惑名レ慧。

【戒場】73 カイヂヤウ 佛戒を授受する道場。戒壇は基を立てて壇を作るが、戒場は平地を平かにするのみである。戒壇(66)に同じ。〔釋氏要覽、上〕今言二壇場一非レ一也、壇則出レ地立レ基、場則除レ地令レ平、今有二混稱一、蓋誤。〔行事鈔、通辨羯磨篇〕若レ至二戒場上一。

【戒重】74 カイヂユウ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【戒敕】76 カイチヨク ❶いましめる。注意を與へる。きつと申しつける。氣をつけさせる。戒飭。〔魏志、中山恭王袞傳〕袞憂懼、戒二敕官屬一愈謹。〔北史、蘇綽傳〕每レ至二歲首一、必戒二敕部人一。❷戒書(48)に同じ。誡敕。〔獨斷、上〕戒書、戒勑、刺史太守及三邊營官被レ勑、文曰、有三詔二勑某官一、是爲二戒勑一也、世皆名レ此爲二策書一、失レ之遠矣。〔文體明辯、敕〕漢制天子命令有レ四、其四曰、戒書、卽戒敕也。

【戒飭】77 カイチヨク 戒敕の❶に同じ。〔漢書、楊惲傳〕欲レ令二戒飭一。〔注〕師古曰、飭、與レ敕同。〔韓愈、請レ上二尊號一表〕堯之在レ位、七十餘載、戒飭咨嗟、以致二平治一。〔宋史、史彌遠傳〕戒二飭將士一、固守二封圻一。

【戒牒】78 カイテフ 佛僧尼が戒を受けたしるしの證。度牒。〔三代實錄、四十二〕伏望自レ今已後、受戒之日、省寮威從、共向二戒場一、子細勘二會官符度緣一、卽令二登壇受戒一、便收二取受戒者戒牒一、具注二後紙一、以二其本籍姓名一、省寮相共押署、捺以二省印一、五月以前、下二於僧綱一、僧綱六月一日頒二給受戒者一、嚴二敕有司一、不レ使レ違レ期、若有下持二白紙戒牒一者上、處以二違敕一。

【戒塗】79 カイト 旅行の準備をする。〔晉書、文六王傳評〕未レ及二戒塗一、終二於憤恚一、惜哉。〔任昉、爲二庾杲之一與二劉居士虯一書〕淩雪戒塗、非二滅迹之

郊二。〔周書、文帝紀上〕秣ㇾ馬戒ㇾ途、志不ㇾ俟ㇾ旦。

【戒賭】80 chieh^4 tu^3 賭博をつつしむ。

【戒鬪】81カイトウ 人と鬪爭することを戒める。〔論語、季氏〕及ニ其壯一也、血氣方剛、戒ㇾ之在ㇾ鬪。

【戒德】82カイトク 佛戒律の功德。〔普超三昧經、二〕被ニ戒德鎧一、化ニ度衆生一。

【戒肉】83カイニク 肉食を愼む。〔魏志、管輅傳〕使ニ客節ㇾ酒戒ㇾ肉。

【戒能】84カイノウ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【戒方】85カイハウ 戒尺(42)に同じ。

【戒備】86カイビ 戒め備へること。〔方言、十三〕蔵敕、戒備也。〔國語、晉語三〕日考而習、戒備畢矣。

【戒平】87カイヘイ 清、潘作梅(**7－18236**‥151)の號。

【戒輔】88カイホ いましめたすけるもの。〔新書、容經〕古者聖王、居有ニ法則一、動有ニ文章一、位執ニ戒輔一、鳴ㇾ玉以行。

【戒法】89カイホフ 佛❶佛弟子に授けるいましめ。五戒・八戒・十戒等の制定がある。〔補助儀、上〕戒科總有ニ四重一、謂ニ戒法・戒體・戒行・戒相一云云、戒法者、舍那佛三聚淨戒功德是也、戒體者、師資相傳、作法受得、心中領納法體也、此受持法體、一一行彰、以云ニ戒行一、其行有ニ開遮持犯一、名云ニ戒相一也。❷唐の僧。もと于闐の人。名は尸羅達摩。華語・梵語に通ず。譯に十地經及び廻向輪經がある。〔宋高僧傳、三〕。

【戒名】90カイミヤウ 佛受戒によつて授かる名。もと沙彌戒を受ける時、俗名を捨てて師から賜はる法名をいふのであるが、後世、死後に僧がつける名をいふ。法名。〔百通切紙、三〕・〔啓蒙隨錄、一〕。

【戒文】91カイモン 佛佛教の戒律を記した條文。

【戒聞】92カイモン 清の僧。江蘇華亭の人。字は解三。山水畫に巧で、姜睿と署名す。

【戒臘】93カイラフ 佛出家の受戒以後の歲時。法臘。〔禪苑掛搭章〕維那依ニ戒臘次第一掛搭。

【戒蠟】94カイラフ 佛戒臘に同じ。〔西湖志餘〕戒臈本作ニ戒蠟一、西域番僧結制之日、秤ニ其身一若干觔、卽以ㇾ蠟爲ㇾ身、亦若干觔、解制之日再稱ㇾ之、若身重ニ於蠟一、卽爲ニ得道一、蠟重ニ於身一、則學敗矣。〔疑耀〕僧家言ニ僧臘一者、猶ㇾ言ニ年歲一也、又言ニ戒臘一者、臘當ㇾ作ㇾ蠟、西方結夏時、以ㇾ蠟爲ㇾ人、解夏之後、以ニ蠟人一爲ㇾ驗、輕重不ㇾ差、則爲三念定而無ニ妄想一、故謂ニ之戒蠟一。

【戒力】95カイリキ 佛戒律を持して得た功德力。

【戒律】96カイリツ 佛戒と律とで、佛教上のいましめ。僧尼の守るべき規則。〔事物紀原、道釋科敎部、戒律〕漢靈帝建寧三年、安世高首出ニ義決律二卷一、次有ニ比丘諸禁律一、魏世天竺三藏曇摩迦羅、到ニ許洛一、慨ニ魏境僧無ニ律範一、遂於ニ嘉平中一與ニ曇諦一譯ニ四分羯磨及僧秖戒心圖一、此蓋中國戒律之始也。〔佛國記〕法顯慨ニ律藏殘缺一、於ㇾ是以ニ弘始二年一至ニ天竺一尋ニ求戒律一。〔翻譯名義集、二〕曇摩迦羅、云云、以ニ魏嘉平一至ニ雒陽一立ニ羯磨受法一、中夏戒律始也。

〖戒律宗〗97カイリツシユウ 佛律宗をいふ。

【戒令】98カイレイ いましめの命令。〔周禮、天官、宰夫〕凡邦之弔事、掌三其戒令與ニ其幣器財用一。〔周禮、天官、宮正〕宮正掌ニ王宮之戒令糾禁一。〔禮、燕義〕掌三其戒令與ニ其敎治一。

【戒籙】99カイロク 戒を誌した豫言書。〔正一籙論〕先從ニ戒籙一、然後登眞。

【戒得翁】100カイトクヲウ 宋、劉思尹(**2－2224**‥996)の號。

【戒和尙】101カイヲシヤウ 授戒の和尙。戒師。〔太平記、七〕。

【戒子通錄】102カイシツウロク 書名。八卷。宋、劉淸之撰。庭訓に關するものを錄す。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【戒舟慈棹】103カイシウジタウ 佛の戒律と慈悲とを舟と棹に喩へた語。〔海錄碎事、道釋、經〕若乘ニ戒舟一、鼓以ニ慈棹一、而不ㇾ能下橫截ニ風濤一、達中登彼岸上者、無ニ此理一也。

【戒得居士】104カイトクコジ 岡本保孝の號。岡本況齋(**4－7962**‥65)を見よ。

【戒莫ㇾ如ㇾ豫】105カイハヨニシクハナシ いましめはあらかじめ備へるのに及ぶものはない。〔國語、晉語一〕戒莫ㇾ如ㇾ豫、豫而後給。

【不ㇾ戒視ㇾ成】106イマシメズシテセイヲミル 平素何等いましめ教へる事なく、罪を犯した後から之を責める。論語に說く四惡(虐・暴・賊・有司)の一。〔論語、堯曰〕子張曰、何謂ニ四惡一、子曰、不ㇾ敎而殺、謂ニ之虐一、不ㇾ戒視ㇾ成、謂ニ之暴一、慢ㇾ令致ㇾ期、謂ニ之賊一、猶之與ㇾ人也、出內之吝、謂ニ之有司一。

【戓】11549 カ 〔佩觿集〕各何切 歌

地名。〔佩觿集〕戓、地名。

【⿰几戈】11550 ［一］イ ［二］シツ

［一］矣(**8－23931**)に同じ。〔川篇〕⿰几戈、同ㇾ矣。［二］執(**3－5193**)に同じ。〔川篇〕⿰几戈、同ㇾ執。

【⿹戈彐】11551 サン

義未詳。〔龍龕手鑑〕⿹戈彐、音三。

【⿹戈厶】11552 ワク

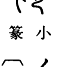
或(**5－11563**)に同じ。〔中華大字典〕⿹戈厶、同ㇾ或、白石神君碑、⿹戈厶祈⿹戈厶報。

【⿹戈幺】11553 ワク

或(**5－11563**)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕或、古今雜劇作ㇾ⿹戈幺。

四畫

【⿰卂戈】11554 クヮ ゲ 〔集韻〕戶瓦切 馬

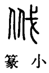


くるぶしをうつ。もと⿰丮戈に作る。〔說文〕⿰丮戈、擊ㇾ踝也、从ニ丮戈一、讀若ㇾ踝。〔康熙字典〕⿰卂戈、本作ㇾ⿰丮戈。〔集韻〕⿰卂戈、說文、擊ㇾ踝也、或作ㇾ⿰丮戈。

【⿰耳戈】11555 クヮク 〔集韻〕古獲切 陌

耳をきる。聝(**9－29100**)に同じ。〔集韻〕聝、說文、軍戰斷ㇾ耳也、亦作ㇾ⿰耳戈。

【㦰】11556 セン 〔集韻〕將廉切 鹽



❶**たつ**。〔說文〕㦰、絕也、从ニ从持ㇾ戈、讀若ㇾ咸、一曰、讀若ニ詩攕攕女手一。❷**さす**。〔廣韻〕㦰、刺也。❸**銳い**。〔廣韻〕㦰、銳意也。❹**すき**。銛(**11－40389**)に通ず。〔說文通訓定聲〕㦰、叚借爲ㇾ銛。〔說文〕㦰、一曰、田器、古文。

解字 會意。戈と从との合字。从は二人。二人が戈を持つて絲を絕つ。故にたつ意。引伸して凡て斷つ意とする。▽（甲骨文）會意。人を並べて戈で斷ち切る意。

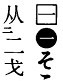
【⿰从戈】11557 セン

㦰(**5－11556**)に同じ。〔字彙〕⿰从戈、同ㇾ㦰。

【⿱羽戈】11558 セン

㦰(**5－11556**)の譌字。〔字彙〕⿱羽戈、㦰字之譌。

【戔】11559



［一］サン ザン 〔集韻〕財干切 寒
［二］サン 〔集韻〕相干切 寒
［三］セン 〔集韻〕將先切 先 ㄐㄧㄢ chien^1
［四］シン 〔字彙補〕宗親切 眞
［五］サン セン 〔集韻〕阻限切 潸
［六］セン 〔集韻〕子淺切 銑
［七］セン ゼン 〔集韻〕在演切 銑
［八］ヘン 〔集韻〕匹見切 霰

［一］❶**そこなふ**。〔說文〕戔、賊也、从ニ二戈一、周書曰、戔戔、巧言也。〔說文通訓定聲〕戔、按、卽殘字之古文。〔廣韻〕戔、傷也。❷**數の多いさま**。**物の積み重つたさま**。〔廣韻〕戔、又戔戔、束帛皃。

〔集韻〕戔、一曰、戔戔、多也。〔易、賁、戔戔、釋文〕在千反、馬云、委積貌、薛虞云、禮之多也。❸**あまり**。殘(**6－16446**)に通ず。〔說文通訓定聲〕戔、叚借爲㆑殘。〔周禮、地官、稾人、掌㆑豢㆓祭祀之犬㆒、注〕雖㆓其潘灡戔餘㆒、不㆑可㆑褻也。〔釋文〕戔、本亦作㆑殘。〔周禮、考工記、鮑人、則是以㆑博爲㆑戔、注〕戔、讀如㆓羊豬戔之戔㆒。❹通じて殘(**6－16506**)に作る。〔集韻〕戔、通作㆑殘。［三］［四］❶**すくない**。［二］**せまい**。戔戔。〔集韻〕戔、狹少意。〔字彙〕戔、淺小之意。〔易、賁〕六五、賁㆓于丘園㆒、束帛戔戔。〔本義〕戔戔、淺少之意。❷**數の多いさま**。［一］の❷に同じ。〔集韻〕戔、戔戔、猥積皃。〔易、賁、戔戔、釋文〕又音牋、黃云、猥積貌。〔白居易、買㆑花詩〕灼灼百朵紅、戔戔五束素。❸**顯らかに見はれるさま**。〔集韻〕戔、戔戔、一曰、顯見皃。〔易、賁、戔戔、釋文〕一云、顯見貌。〔江淹、劉僕射東山集學騷〕石戔戔兮水成㆑文。［五］**つきやぶる**。〔集韻〕戔、擣傷也。［六］❶**すくない**。〔集韻〕戔、少意。❷**そこなふ**。［一］の❶に同じ。〔集韻〕戔、賊也、周書、戔戔巧言。［七］**せまい**。帴(**4－8943**)に同じ。〔集韻〕帴、狹也、或省。［八］**せまい**。〔集韻〕戔、狹少之意、劉昌宗說。

［解字］會意。二つの戈の合字。本義は傷ふ意。殘(**6－16506**)の字と音も義も同じ。今は殘の字が行はれて、戔の字が廢せられた。

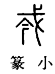
【戓】11560

セン

戩(**5－11637**)に同じ。〔集韻〕戩、或作㆑戓。

【𢦟】11561

カン コン 〔集韻〕枯含切 覃



小篆

❶**ころす**。或は𢦟に作り、通じて戡(**5－11616**)に作る。〔說文〕𢦟、殺也、从㆑戈今聲、商書曰、西伯既𢦟㆑黎。〔段注〕今作㆓戡黎㆒。〔集韻〕𢦟、或从㆑含、古通作㆑戡。❷**たへる**。堪(**3－5266**)の古字。〔漢書、五行志下之上〕王心弗㆑𢦟。〔注〕孟康曰、古堪字。

【戕】11562

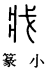
［一］シヤウ ザウ 〔集韻〕慈良切 ㄑㄧㄤˊ ch'iang² 陽

［二］サン ザン 〔集韻〕財干切 寒

［三］シヤウ サウ 〔集韻〕資良切 陽

［四］セイ ジヤウ 〔集韻〕慈盈切 庚

［五］カ 〔廣韻〕古俄切 歌



小篆

［一］［二］❶**ころす**。〔說文〕戕、槍也、从㆑戈爿聲。〔左氏、定、十四〕將㆑戕㆓於余㆒。〔注〕戕、殘殺也。〔公羊、宣、十八〕戕㆓鄫子于鄫㆒者何、殘賊而殺㆑之也。〔穀梁、宣、十八〕邾人戕㆓鄫子于鄫㆒。〔釋文〕戕、猶㆑殺也、賊也。❷**そこなふ**。いためる。〔小爾雅、廣言〕戕、殘也。〔孟子、告子上〕將戕㆓賊杞柳㆒、而後以爲㆓桮棬㆒也。〔注〕戕、猶㆑殘也。❸**他國の臣が自國の君を殺すこと**。春秋の筆法。〔說文〕戕、它國臣來弑㆑君曰㆑戕。〔左氏、宣、十八〕凡自虐㆓其君㆒曰㆑弑、自㆑外曰㆑戕。〔注〕戕者、卒暴之名也。❹**みだれる**。愴(**4－11008**)・搶(**5－12525**)に通ず。〔莊子、在宥、臠卷獊囊、釋文〕獊、崔本作㆑戕、戕囊、猶㆓搶囊㆒也。〔盧文弨校〕今本、獊作㆑愴。［三］❶**くひ**。戕戙。又、牂(**7－19774**)に作る。〔廣韻〕戕、戕舸、亦作㆑牂。〔集韻〕戕、戕戙、橛也。❷**よい**。臧(**9－30083**)に通ず。〔詩、小雅、十月之交〕曰予不㆑戕。〔釋文〕戕、王本作㆑臧、臧、善也。［四］**ころす**。〔集韻〕戕、殺也。［五］**くひ**。舸(**7－19767**)に同じ。〔廣韻〕舸、所㆓以繫㆑舟、戕、陸云、上同。

【戕害】1 シヤウガイ そこなふ。きりころす。殺害。傷害(**1－1029**・・10)に同じ。〔國朝漢學師承記、黃宗羲〕弄㆓國柄㆒、戕㆓害清流㆒。〔福惠全書、刑名部、監禁〕必奸謀欲㆑圖㆓戕害㆒。

【戕虐】2 シヤウギヤク そこなひしひたげる。殘害。〔唐書、逆臣上、史思明傳〕朝清喜㆓田獵㆒、戕虐似㆓思明㆒。

【戕殺】3 シヤウサツ ころす。〔金史、完顏伯嘉傳〕戕㆓殺無辜㆒。

【戕折】4 シヤウセツ にはかに來つて殺す。〔後漢書、盧植傳論〕當㆘植抽㆓白刃嚴閣之下㆒、追㆗帝河津之閒㆖、排㆓戈刃㆒赴戕折、豈先計哉、君子之於㆓忠義㆒、造次必於㆑是、顚沛必於㆑是也。〔注〕戕者、卒暴之名也。

【戕賊】5 シヤウゾク そこなひ殺す。殺害。戕害。〔孟子、告子上〕如將戕㆓賊杞柳㆒、而以爲㆓桮棬㆒、則亦將戕㆓賊人㆒、以爲㆓仁義㆒與。

【戕囊】6 シヤウダウ みだれる。擾亂に同じ。愴囊(**4－11008**・・10)をみよ。〔莊子、在宥〕乃始臠卷獊囊而亂㆓天下㆒也。〔釋文〕獊、崔本作㆑戕、崔云、戕囊、猶㆓搶攘㆒。

【戕戙】7 シヤウトウ くひ。杙。〔廣雅、釋宮〕戕戙、杙也。

【戕敗】8 シヤウハイ 手足や顏にきづをつける。〔書、梓材〕肆亦見㆓厥君事㆒、戕㆓敗人㆒宥。〔蔡傳〕戕敗者、毀㆓傷四肢面目㆒、漢律所謂疻也。

【戕風】9 シヤウフウ 草木をそこなふ風。暴風。〔木華、海賦〕決㆑帆摧㆑橦、戕風起惡。〔注〕翰曰、戕風、暴風也。

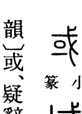
【戕斃】10 ch'iang² pi⁴ 殺す。

【戕戮】11 シヤウリク 殺すこと。殺戮。

【或】11563

［一］コク ワク 〔集韻〕穫北切 ㄏㄨㄛˋ huo⁴ 職

［二］ヨク ヰキ 〔集韻〕越逼切 職



小篆 或體

［一］❶**あるひは**。未定・想像をあらはす助辭。〔集韻〕或、疑辭。〔禮、檀弓下、朝亦如㆑之哀次亦如㆑之、注〕君或於㆑是弔焉。〔疏〕或、是不定之辭。〔墨子、小取〕或也者、不㆑盡也。〔史記、老子傳〕蓋老子百有六十餘歲、或言、二百餘歲。〔注〕正義曰、蓋・或、皆疑辭也。❷**あるひと**。〔論語、爲政〕或謂㆓孔子㆒曰、子奚不㆑爲㆑政。〔鄭注〕人不㆑顯㆓其名㆒、而略稱爲㆑或。❸**あるもの**。**ある事物**。〔史記、信陵君傳〕物有㆑不㆑可㆑忘、或有㆑不㆑可㆑不㆑忘。〔史記、日者傳〕天地曠曠、物之熙熙、或安或危。❹**ある場合**。〔左氏、宣、三〕天或啓㆑之、必將㆑爲㆑君。〔史記、封禪書〕其神或歲不㆑至、或歲數來。❺**あり**。ある。有(**5－14332**)に通ず。〔說文通訓定聲〕或、叚借爲㆑有。〔小爾雅、廣言〕或、有也。〔書、大禹謨〕罔㆑或㆑干㆓予正㆒。〔傳〕或、有也。〔淮南子、說林訓〕人之從㆑事、或㆑時相似。〔注〕或、有也。❻**つねに**。〔老子、四〕或不㆑盈。〔河上注〕或、常也。❼**まどふ**。まよふ。惑(**4－10789**)に通ず。〔說文通訓定聲〕或、叚借爲㆑惑。〔大戴禮、曾子制言〕貧賤吾恐㆓其或失㆒。〔注〕或、猶㆑惑也。〔漢書、霍去病傳〕別從㆓東道㆒、或失㆑道。〔注〕師古曰、或、迷也。❽**うたがふ**。あやしむ。〔易、文言〕或㆑之者疑㆑之也。〔孟子、告子上〕無㆑或㆓乎王之不智㆒。〔注〕或、怪也。❾**ながれ**。水流。𡿧(**4－8697**)に通ず。〔說文通訓定聲〕或、叚借爲㆑𡿧。〔大戴禮、公冠〕遵㆓並大道邪或㆒。〔注〕邪或、當㆑爲㆓邪𡿧㆒、聲字之誤也。❿**また**。又(**2－3115**)に通ず。〔經傳釋詞、三〕或、猶㆑又也、詩賓之初筵曰、既立㆓之

監㆒、或佐㆓之史㆒、言㆔又佐㆓之史㆒也、禮記檀弓曰、父夙之謂㆑何、或敢有㆓他志㆒、以辱㆓君義㆒、晉語、或、作㆑又。⓫**語助詞**。〔經傳釋詞、三〕或、語助也、詩天保曰、如㆓松柏之茂㆒、無㆑不㆓爾或承㆒、言㆑無㆑不㆓爾承㆒也、或語助耳、箋曰、或之言、有也、亦謂㆓語助之有㆒、無㆓意義㆒也。［二］**くに**。とち。國(**3**－**4798**)に通じ、或は域(**3**－**5158**)に作り、古は⿹戈⿱吅一(**5**－**11672**)・䧕(**11**－**41700**)に作る。〔說文〕或、邦也、从㆑口、戈㠯守㆓其一㆒、一、地也、域、或或从㆑土。〔段注〕邑部曰、邦者國也、葢或國在㆓周時㆒、爲㆓古今字㆒、古文祇有㆓或字㆒、既乃復製㆓國字㆒、以㆓凡人各有㆑所㆑守、皆得㆑謂㆓之或㆒、各守㆓其守㆒、不㆑能㆑不㆓相疑㆒、故孔子曰、或㆑之者疑㆑之也、而封建日廣、以爲、凡人所㆑守之或字、未㆑足㆑盡㆑之、乃又加㆑口而爲㆑國、又加㆑心爲㆑惑焉。〔集韻〕或、或从㆑土从㆑自、古作㆓⿹戈⿱吅一・⿰田或㆒。〔康熙字典〕或、古文⿹戈⿱口心。

名乘 モチ。

解字 會意。口と戈と一との合字。口は四方の境界、一は地。戈である地の四境を守る。本義は邦の意。しかるに、或では四境を守るには尙十分でないとして、更に口を加へて國とした。國(**3**－**4798**)の解字を見よ。又、或の古音は有と同じであるから、「あるひは」の意に假借する。（段注・經傳釋詞の說）。

【或菴】1（ワクアン） 淸、王源（大興の人）の字。

【或圍】2（ワクイ） 地名。又、津の名。〔枚乘、七發〕初發㆓乎或圍之津涯㆒。〔注〕善曰、或圍、葢地名也、翰曰、或圍、津名。

【或爽】3 huo^4 shuang^3 閒違ふ。

【或者】4（アルヒハ） 或は。又は。恐らくは云云かも知れない。〔左氏、僖、二十三〕晉公子有㆑三、天其或者將㆑建㆑諸。〔讀書作文譜、文中用字法〕或者、亦擬度之辭。

【或人】5 huo^4 jen^2 あるひと。

【或是】6（アルヒハコレ） 或は。又は。〔韓愈、送㆓張道士㆒序〕或是章奏繁、裁擇未㆑及㆑斯。〔蘇軾、九日次㆓定國韻㆒詩〕封侯起㆓大第㆒、或是君家騶。

【或問】7（ワクモン） あるひとがとふの義で、質問者に答へる體裁に記述する文體。〔四庫提要、經、四書類〕四書或問、三十九卷、宋朱子撰、朱子既作㆓四書章句集注㆒、復以㆓諸家之說、紛錯不㆑一、因設㆓爲問答㆒、明㆘所㆓以去取㆒之意㆖、以成㆓此書㆒。

【或或】8（ワクワク） まどふさま。惑惑。〔史記、賈誼傳〕衆人或或兮、好惡積㆑意。〔注〕集解曰、李奇曰、或㆓或東西㆒也、所㆑好所㆑惡、積㆑之萬億也。

【或惹多】9（ワクジヤクタ） 銀をいふ。梵語。〔正字通〕銀、梵言阿路巴、或惹多、此言㆑銀。

【或早或晚】10 huo^4 tsao^3 huo^4 wan^3 早いか晚いか。おそかれ早かれ。早晚。

【或大或小】11 huo^4 ta^4 huo^4 hsiao^3 大なり小なり。大か小か。

【或躍在㆑淵】12（アルヒハヲドリテフチニアリ） 將に躍らうとして未だ躍らずに淵に居る。〔易、乾〕九四、或躍在㆑淵、无㆑咎。

【或勞㆑心或勞㆑力】13（アルヒハココロヲラウシアルヒハチカラヲラウス） 心を勞する人もあり、力を勞する人もある。〔孟子、滕文公上〕或勞㆑心、或勞㆑力、勞㆑心者治㆑人、勞㆑力者治㆓於人㆒。

【或集㆓眉端㆒或沿㆓眼眶㆒】14（アルヒハビタンニアツマリアルヒハガンキヤウニソフ） 蒼蠅のうるさいことを述べたもので、或は眉のはしに集り、或は目のふちにとまる。〔歐陽脩、憎㆓蒼蠅㆒賦〕或集㆓眉端㆒、或沿㆓眼眶㆒、目欲㆑瞑而復警、臂已痺而猶攘。

【或爲㆓擊㆑賊笏㆒逆豎頭破裂】15（アルヒハゾクヲウツコツトナリギヤクジユトウハレツス） 宋の文天祥の正氣歌の句。唐の反將朱泚が段秀實を召して、帝號を僭稱しようと尋ねた時、秀實が泚に唾して之を罵り、且つ笏で泚の頭を擊つて血を出させたことをいふ。逆豎は逆賊、泚をさしていふ。〔文天祥、正氣歌〕或爲㆓擊㆑賊笏㆒、逆豎頭破裂。

【或爲㆓出師表㆒鬼神泣㆓壯烈㆒】16（アルヒハスイシノヘウトナリキシンサウレツニナク） 宋の文天祥の正氣歌の句。或は正氣が諸葛亮の出師表となつてあらはれ、鬼神も其の壯烈に泣く。鬼神は天神人鬼の意。〔文天祥、正氣歌〕或爲㆓出師表㆒、鬼神泣㆓壯烈㆒。

【或爲㆓渡㆑江楫㆒慷慨呑㆓胡羯㆒】17（アルヒハカウヲワタルカヂトナリカウガイコケツヲノム） 宋の文天祥の正氣歌の句。或は正氣は晉の祖逖が兵を率ゐて江を渡る時、楫を擊つて、北方の蠻族を全滅させることを誓つた詞となつてあらはれ、其の慷慨の氣は胡羯を呑む槩があつた。〔文天祥、正氣歌〕或爲㆓渡㆑江楫㆒、慷慨呑㆓胡羯㆒。

【或爲㆓遼東帽㆒淸操厲㆓氷雪㆒】18（アルヒハレウトウノバウトナリセイサウヒヨウセツヨリハゲシ） 宋の文天祥の正氣歌の句。後漢の管寧が魏の明帝に聘されても出て仕へず、遼東の地で貧に甘んじ黑帽を著けて學に耽つた節操は、氷や雪よりももつと淸らかなものである。遼東は今の滿洲遼寧省遼陽の北の地名。〔魏志、管寧傳〕（族人管）貢說、寧常著㆓皁帽・布襦袴・布裙㆒、隨㆑時單複、出㆓入閨庭㆒云云、故在㆓遼東㆒、所㆑有白布單衣、親薦㆓饌饋㆒、跪拜成㆑禮。〔文天祥、正氣歌〕或爲㆓遼東帽㆒、淸操厲㆓氷雪㆒。

【或守㆓伏見城㆒一身當㆓萬軍㆒】19（アルヒハフシミジヤウヲマモリイツシンバングンニアタル） 藤田東湖の正氣歌の句。或は鳥居元忠は德川氏のために伏見の孤城を守り、一身を以て石田三成方の萬軍に當つて戰死した。〔藤田東湖、和㆓文天祥正氣歌㆒〕或守㆓伏見城㆒、一身當㆓萬軍㆒。

【或殉㆓天目山㆒幽囚不㆑忘㆑君】20（アルヒハテンモクザンニジユンジイウシウキミヲワスレズ） 藤田東湖の正氣歌の句。或は武田勝賴の臣小宮山友信は讒言のため幽閉されてゐたが、君恩を忘れず、主君の最後にかけつけて天目山で難に殉じた。〔藤田東湖、和㆓文天祥正氣歌㆒〕或殉㆓天目山㆒、幽囚不㆑忘㆑君。

【或垂㆓花下㆒潛增㆓墨子之悲㆒】21（アルヒハハナノモトニタレテヒソカニボクシノカナシミヲマス） 大江以言の密雨如㆑散㆑絲序の中の句。細かな春雨が、花の枝に垂れ滴つて、恰も絲を染めた如くなるを見、吾も亦練絲を見て泣いた墨子の悲しみを增す。哭㆑岐泣㆑練(**4**－**7936**‥**64**)を參照。〔大江以言、密雨如㆑散㆑絲序〕或垂㆓花下㆒潛增㆓墨子之悲㆒、時舞㆓鬢閒㆒暗動㆓潘郎之思㆒。

【或逐㆑風不㆑返如㆑振㆓群鶴之毛㆒】22（アルヒハカゼヲオヒテカヘラズグンカクノケヲフルフガゴトシ） 紀長谷雄の春雪賦の中の句。飛雪の紛紛として風を逐ひ行きて返らざるは、多くの鶴が羽毛をうち振る時に、其の白毛が風に隨つて飛び去るのに似てゐる。〔本朝文粹、紀長谷雄、春雪賦〕雪之逢㆑春、深不㆑過㆑尺、一時於㆓山澗㆒、同㆓色於沙磧㆒、凝㆑地而終沒㆓馮蹄㆒、滿㆑庭以封㆓鳥跡㆒、或逐㆑風不㆑返、如㆑振㆓群鶴之毛㆒。

【⿹戈禾】11564 ガ 我(**5**－**11545**)の古字。〔說文長箋〕⿹戈禾、古文我字。

【⿹戊心】11565 カン 感(**4**－**10953**)に同じ。〔字彙補〕⿹戊心、古文感字。

【⿱丷戈】11566 テイ 弟(**4**－**9737**)の古字。〔字彙補〕⿱丷戈、古文弟字。

【⿹戈王】11567 ガ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿹戈王、音我。

【⿹戈才】11568 サイ 哉(**2**－**3596**)の俗字。〔正字通〕哉、俗作㆑⿹戈才非。

五畫

【⿹戈甲】11569 ジユウ 戎(**5**－**11539**)の本字。〔正字通〕⿹戈甲、戎本字。

【⿰子戈】11570 ボウ 矛(**8**－**23846**)の古字。〔玉篇〕⿰子戈、古文矛。

【⿹戈甬】11571 ユウ 勇(**2**－**2360**)に同じ。〔說文〕勇、⿹戈甬、勇或从㆓戈用㆒。

【⿹戊午】11572 セイ 成(**5**－**11544**)の古字。〔說文〕成、⿹戊午、古文成从㆑午。

【戓】11573 カ 〔集韻〕賈我切 ［哿］
❶**舟を繋ぐ杙**。〔集韻〕戓、繋ㇾ舟杙。❷**戮す**。〔會玉篇〕戓、戮也。❸戝(4－9670)の譌字。〔正字通〕戓、戝字之譌。

【戫】11574 セキ 戚(5－11594)に同じ。〔正字通〕戫、同ㇾ戚。

【㦵】11575 カイ 戒(5－11548)の古字。〔集韻〕戒、古作ㇾ㦵。

【戎】11576 カイ 戒(5－11548)の俗字。〔字彙〕戎、俗戒字。

【㦷】11577 シ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕㦷、音思。

【鈛】11578 シ 義未詳。〔龍龕手鑑〕鈛、式志切。

【㦱】11579 ガ 義未詳。〔龍龕手鑑〕㦱、音我。

【㦹】11580 チ ニ 義未詳。〔龍龕手鑑〕㦹、女利切。

【㦲】11581 エツ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕㦲、音越。

【战】11582 セン 戰(5－11667)の俗字。〔中華大字典〕战、戰俗字。

六畫

【𢦷】11583 カク キャク 〔集韻〕各額切 ［陌］
❶**とらへる**。〔集韻〕𢦷、捕也。❷**たたかふ**。〔集韻〕𢦷、鬭也。❸或は斱(5－13550)に作る。〔集韻〕𢦷、或从ㇾ斤。

【牫】11584 チュ 〔集韻〕追輸切 ［虞］
❶**ころす**。〔集韻〕牫、博雅、殺也。❷**戈の名**。〔集韻〕牫、一曰、戈名。

【戙】11585 トウ ヅ 〔廣韻〕徒弄切 ［送］ ㄉㄨㄥˋ tung⁴
❶**船の板木**。〔玉篇〕戙、船板木。❷**船のくひ**。〔廣韻〕戙、船纜所ㇾ繫。❸**船をつなぐくひ**。䑗(4－9673)の譌字。〔正字通〕戙、䑗之譌。

【𢧀】11586 ガウ 截(5－11650)に同じ。〔字彙〕截、同ㇾ𢧀。

【㦸】11587 サン ザン 〔玉篇〕賊安切 ［寒］
多い。〔玉篇〕㦸、多。

【戜】11588 ヨウ ユ 〔字彙補〕余隴切 ［腫］
たけだけしい。あらい。〔字彙補〕戜、猛也。

【烕】11589 メツ 滅(7－18008)の古字。〔篇韻〕烕、古文滅字。

【㦰】11590 セン 〔字彙補〕宗沾切 ［鹽］
❶**すき**。〔字彙補〕㦰、田器。❷**つくす**。〔字彙補〕㦰、盡也。

【𢦿】11591 セウ・ソク 義未詳。〔字彙補〕𢦿、辰條切、音韶、又靑卽切、音戚。

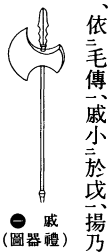
【㦿】11592 コク 義未詳。〔搜眞玉鏡〕㦿、音國。

【㦻】11593 メツ 義未詳。〔龍龕手鑑〕㦻、音滅。

七畫

【戚】11594
㊀セキ シャク 〔集韻〕倉歷切 ［錫］ ㄑㄧ ch'i¹
㊁ショク ソク 〔集韻〕趨玉切 ［沃］ ㄘㄨˋ ts'u⁴
㊂シュク スク 〔集韻〕子六切 ［屋］
㊃ソク ゾク 〔集韻〕昨木切 ［屋］

戚 小篆


戚 ❶ (禮器圖)

㊀❶**をの**。まさかり。鏚(11－40804)に同じ。〔說文〕戚、戉也、从ㇾ戉尗聲。〔段注〕大雅云、干戈戚揚、傳、戚、斧也、揚、鉞也、依㆓毛傳㆒戚小㆓於戉㆒、揚乃得㆓戉名㆒、左傳戚鉞秬鬯、文公受ㇾ之、戚・鉞、亦分㆓二物㆒、許則渾㆓言之㆒耳。〔集韻〕戚、或从㆓金戚㆒。〔釋名、釋兵〕戚、慼也、斧以斬斷、見者皆慼懼。〔詩、大雅、公劉〕干戈戚揚。〔傳〕戚、斧也、揚、鉞也。〔禮、明堂位〕朱干玉戚。〔注〕戚、斧也。〔後漢書、崔寔傳、注〕戚、鉞也。❷**うれへる**。**いたむ**。かなしむ。慽(4－11159)に通ず。〔說文通訓定聲〕戚、叚借爲ㇾ慽。〔詩、小雅、小明〕自貽㆓伊戚㆒。〔傳〕戚、憂也。〔論語、八佾〕喪與㆓其易㆒也、寧戚。〔皇疏〕戚、哀過ㇾ禮也。〔後漢書、皇甫規傳〕臣誠戚ㇾ之。〔注〕戚、憂也。❸**おそれる**。〔國語、呉語〕戚然服ㇾ士。〔注〕戚、猶ㇾ惕也。❹**いきどほる**。〔禮、檀弓下〕慍斯戚。〔注〕戚、憤恚也。❺**ちかづく**。〔集韻〕戚、一曰、近也。〔小爾雅、廣詁〕戚、近也。〔書、金縢〕未ㇾ可㆔以戚㆓我先王㆒。〔傳〕戚、近也。❻**したしむ**。〔孟子、告子上〕戚ㇾ之也。〔注〕戚、親也。〔呂覽、見本〕爲ㇾ政者反㆓民性㆒、然後可㆓以與ㇾ民戚㆒。〔注〕戚、親也。❼**みうち**。親族。族(5－13661)に通ず。〔說文通訓定聲〕戚、叚借爲ㇾ族。〔禮、曲禮上〕兄弟親戚稱㆓其慈㆒也。〔疏〕戚、言㆓族外㆒。〔孟子、萬章下〕有㆓貴戚之卿㆒。〔注〕貴戚之卿、謂㆓內外親族㆒也。❽**ひき**。ひきがへる。鼀(12－48267)・䵴(12－48292)に通ず。〔說文通訓定聲〕戚、叚借爲ㇾ鼀、卽䵴。〔詩、邶風、新臺〕得㆓此戚施㆒。〔傳〕戚施、不ㇾ能ㇾ仰者。〔韓詩章句〕蟾蜍也。❾**地名**。春秋衞の邑。河北省濮陽縣の北。〔左氏、文、元〕公孫敖會㆓晉侯于戚㆒。〔注〕戚、衞邑。❿**武樂の器**。左手に干を、右手に戚をもつ。木で作った斧形のもの。〔禮、樂記〕干戚羽旄、謂㆓之樂㆒。〔注〕戚、斧也。⓫**姓**。〔尚友錄〕戚、東

海啇音、衞大夫食二采於戚一、因氏焉。㊁❶せまる。せばまる。すみやか。促(1−664)に同じ。〔集韻〕促、說文、迫也、或作レ戚。〔周禮、考工記、總目〕不二微至一、無三以爲二戚速一也。〔注〕齊人有二名レ疾爲レ戚者一。〔孔子家語、曲禮子夏問〕周以戚、吾從レ殷。〔注〕戚、促也。❷きめ。すぢ。〔史記、司馬相如傳、躬胝無レ胈、注〕索隱曰、戚、湊理也。㊂せまる。蹙(10−37790)に同じ。〔集韻〕蹙、迫也、或作レ戚。㊃縣名。〔集韻〕戚、縣名、在二東海一。

名乘　イタ。チカ。

【戚愛】1（セキアイ）　ちかづけ親しむ者。親戚・寵愛の者をいふ。〔呂覽、擧難〕且師友也者、公可也、戚愛也者、私安也、以レ私勝レ公、衰國之政也。

〔戚愛習故〕2（セキアイシフコ）　親戚・寵愛・近習・舊故。〔呂覽、求人〕賢主之於二賢者一也、物莫二之妨一、戚愛習故、不二以害一レ之。〔注〕戚、親也。

【戚維】3（セキヰ）　宋の人。同文の長子。字は仲本。官は職方郎中。〔宋史、四百五十七〕・〔宋史新編、一百七十七〕・〔東都事略、四十七〕・〔隆平集、十三〕。

【戚姻】4（セキイン）　婚姻によつて配偶者の一方と他の一方との間に生ずる親族關係。又、其の關係による親戚。〔馮子振、十八公賦〕王家戚姻、主壻舅甥、貴莫二與京一、富不レ可レ名。

【戚援】5（セキエン）　親類の引き。親戚のたすけ。〔南史、文學、顏晃傳〕晃家世單門、旁無二戚援一。

【戚畹】6（セキエン）　天子の母方の親類の居る地域。畹は、田三十畝の地。一說に、田十二畝の地。戚里。轉じて、天子の外戚をいふ。〔宋史、李處耘傳論〕處耘於二創業之始一、功參二締構一、克二荊山一、靖二衡湘一、勢如レ拉レ枯、而志昧在レ和、勳業勿レ究、良可レ惜也、幸聯二戚畹之貴一、秉レ旄繼レ世、抑二造物之報一、嗇レ此而豐レ彼歟。〔長生殿、賄權〕榮誇二帝里一、恩連二戚畹一。

【戚玾】7（セキカフ）　淸、泗州の人。字は後升。優貢より知縣を授けらる。詩に巧。著に笑門詩集がある。〔四庫提要、一百八十五〕。

【戚閈】8（セキカン）　親しい里。閈は里門。〔謝莊、皇太子妃哀策文〕毓二景帝里一、飛二芳戚閈一。

【戚顏】9（セキガン）　憂を帶びた顏。〔陶潛、詠二貧士一詩〕貧富常交戰、道勝無二戚顏一。

【戚誼】10　chʻi^1 i^4　親族。

【戚舊】11（セキキウ）　親戚・故舊をいふ。〔魏書、李栗傳〕唯栗一介遠寄、兼非二戚舊一。〔袁淑、防禦索虜議〕褒升二戚舊之右一。

【戚欣】12（セキキン）　憂へると欣ぶ。慼欣。〔蘇洵、蘇氏族譜〕彼死而生、不レ爲二戚欣一。

【戚串】13　chʻi^1 chʻuan^4　姻戚のこと。親串(10−34918··53)に同じ。

【戚宦】14（セキクワン）　外戚と內廷の宦者。〔後漢書、仲長統傳〕怪異數至、蟲螟食レ稼、水旱爲レ災、此皆戚宦之臣所レ致レ然也。

【戚勳】15（セキクン）　❶明の人。字は世臣。號は曲泉。畫に巧。〔畫史會要〕。❷明、江陰の人。字は伯屏。官は中書舍人。淸兵が江陰を破るや、妻子を縊死させ、其の後自ら火を擧げて焚死した。〔明史、二百七十七〕・〔明史稿、二百五十八〕。

【戚孼】16（セキゲツ）　めかけばらの子ども。〔唐書、劉幽求傳〕頃王室不レ造、中宗厭レ代、戚孼專亂、將レ隕二社稷一。

【戚賢】17（セキケン）　明、全椒の人。字は秀夫。嘉靖の進士。王守仁に師事す。官は吏科給事中。太廟の災に郭勛及び張瓚等を劾奏し、山東布政司都事に謫せらる。〔明史、二百八〕・〔萬斯同明史、二百八十三〕・〔明史稿、一百九十二〕。

【戚縣】18（ソクケン）　縣名。秦、置く。故城は山東省滕縣の南。〔漢書、高帝紀上〕沛公引レ兵之レ薛、秦泗川守壯兵敗二於薛一、走至レ戚。〔漢書、地理志上〕東海郡、縣三十八、戚。

【戚言】19（セキゲン）　憂へいたんでいふ言葉。慼言。〔鬼谷子、權篇〕戚言者權而干レ信、靜言者反而干レ勝。

【戚袞】20（セキコン）　梁、鹽官の人。字は公文。三禮を國子助教劉文紹に受く。十九の時、武帝が周禮禮記義を策するや、高第に對せられ、揚州祭酒從事に除せられた。簡文帝が皇太子であつた時、袞及び諸儒に講論させたが、袞の應答は流るるが如くで、簡文は深く歎賞したといふ。官は敬帝の時に江州刺史、陳に仕へて始興王府錄事參軍。著に禮記義がある。〔陳書、三十三〕・〔南史、七十一〕。

【戚祭】21（セキサイ）　親族の祭。〔管子、輕重己〕祖者所二以功祭一也、非三所二以戚祭一也。

【戚咨】22（セキシ）　はづ。はぢる。〔方言、十〕忸怩、慚歰也、楚郢江湘之閒、或謂二之戚咨一。

【戚施】23（セキシ）　❶ひきがへる。醜惡に喩へる。字解の❽を見よ。〔太平御覽、蟲豸部、蟾蜍、注〕薛君曰、戚施・蟾蜍・蛣蝛、喩二醜惡一。❷せむし。身を伸ばして仰ぎ見ることの出來ぬ病氣。面柔の人・諂諛の人に喩へる。駝背。佝僂。〔詩、邶風、新臺〕燕婉之求、得二此戚施一。〔傳〕戚施、不レ能レ仰者。〔箋〕戚施面柔、下レ人以レ色、故不レ能レ仰也。〔國語、晉語四〕籧篨不レ可レ使レ俯、戚施不レ可レ使レ仰。〔注〕戚施、僂人。〔國語、鄭語〕侏儒戚施、寔御在レ側。〔注〕戚施、優笑之人。〔淮南子、脩務訓〕啳睽哆噅、籧篨戚施。〔注〕戚施、僂也。〔論衡、累害〕戚施彌妬、籧除多レ佞。〔爾雅、釋訓〕戚施、面柔也。〔注〕戚施之疾、不レ能レ仰、面柔之人、常俯似レ之、亦以名云。〔鹽鐵論、非鞅〕淑好之人、戚施之所レ妒也。〔李康、運命論〕籧篨戚施之人、俛二仰尊貴之顏一。〔注〕銑曰、戚施、面柔也。

【戚者】24（セキシヤ）　親戚の者。〔晏子、諫、上〕彼疏者有レ罪、戚者治レ之、賤者有レ罪、貴者治レ之。

【戚紹】25（セキセウ）　元の人。如琥の孫。元に入りて隱居して仕へず、同志の士、貞孝先生と號す。〔宋元學案、七十三〕。

【戚醮】26（セキセウ）　うれへなやむ。〔莊子、盜跖〕財積而無レ用、服膺而不レ舍、滿心戚醮、求レ益而不レ止、可レ謂レ憂矣。〔釋文〕醮、李云、顦顇也。〔疏〕戚醮、煩惱也。

【戚戚】27（セキセキ）　❶親しむさま。〔詩、大雅、行葦〕戚戚兄弟、莫レ遠具爾。〔傳〕戚戚、內相親也。〔箋〕王與二族人一、燕二兄弟之親一、無レ遠無レ近、倶揖而進レ之。〔疏〕戚戚、猶二親親然一。〔曹植、求レ通二親親一表〕退省二諸王一、常有二戚戚具爾之心一。〔注〕善曰、毛詩曰、戚戚兄弟、莫レ遠具爾。❷憂へ懼れるさま。〔論語、述而〕君子坦蕩蕩、小人長戚戚。〔集解〕鄭玄曰、長戚戚、多二憂懼一貌。〔鬼谷子、中經〕或當二拘押成レ罪、或當二戚戚自善一。〔古詩十九首、其三〕極レ宴娛二心意一、戚戚何所レ迫。〔漢書、韋玄成傳〕今我度レ茲、戚戚其懼。〔漢書、揚雄傳上〕不三汲二汲於富貴一、不三戚二戚於貧賤一。〔新序、雜事一〕不レ見二戚戚一也。〔後漢書、明帝紀〕小人長戚戚。〔注〕戚戚、常憂懼也。〔陸機、擬古、擬二靑靑陵上栢一詩〕戚戚多二滯念一、置酒宴二所歡一。❸憂へ悲しむさま。〔韓愈、與二于襄陽一書〕高材多二戚戚之窮一。❹心の動くさま。〔孟子、梁惠王上〕夫子言レ之、於二我心一有二戚戚焉一。〔注〕戚戚然心有レ動也。

〔戚戚顏〕28（セキセキガン）　憂へ悲しむ顏。〔韋應物、移レ疾會三詩客元生與二釋子法朗一因貽二諸祠曹一詩〕對二此嘉樹林一、獨有二戚戚顏一。

〔戚戚然〕29（セキセキゼン）　憂へるさま。〔列子、楊朱〕戚戚然以至二久生一、百年千年萬年、非二吾所謂養一。〔史記、倉公傳〕上膚黃麤、循レ之戚戚然。

〔戚戚查查〕30　chʻi^1 chʻi^1 chʻa^2 chʻa^2　多言のさま。喊喊喳喳。〔紅樓夢、二十七回〕只聽滴翠亭裡邊、戚戚查查有人說話。

【戚然】31（セキゼン）　憂へ悲しむさま。慼然。〔列子、說符〕楊子戚然變レ容、不レ言者移レ時、不レ笑者竟レ日。〔國語、吳語〕戚然服レ士、以司二吾閒一。〔注〕戚、猶レ惕也。〔新書、先醒〕義從二諸侯一、戚戚憂恐。〔後漢書、鍾離意傳〕朕戚然慙懼、思レ獲二嘉應一。

【戚促】32（ソクソク）　心がせばまつてあくせくする。氣が小さい。〔李白、空城雀〕嗷嗷空城雀、身計何戚促。

【戚速】33（ソクソク）　せまつてはやい。急速。戚促。〔周禮、考工記、總目〕不二微至一、無三以爲二戚速一也。〔注〕齊人有二名レ疾爲レ戚者一。

【戚族】34（セキゾク）　みうち。みより。親族。親類。〔劉禹錫、馬嵬行〕軍家誅二戚族一、天子捨二妖姬一。

〔戚族人〕35（セキゾクノヒト）　みうちの人。〔墨子、非儒下〕伯父叔父弟兄庶子其、戚族人五月。

【戚屬】36（セキゾク）　母や妻の身うち。〔新書、六術〕人之戚屬、以レ六爲レ法。〔漢書、王莽傳上〕斥二逐仁賢一、誅二殘戚屬一。〔陸機、歎逝賦〕余年方四十、而懿親戚屬、亡多存寡。

【戚遜】37（セキソン）　明、宣城の人。官は洪武中、兵部主事。後、山東布政使に至る。〔本朝分省人物攷、

三十八〕。

【戚朏】38（セキチウ） やぶれこはれてゐること。〔太玄經、禮〕冠二戚朏一、履二全履一、測曰、戚朏、明レ不レ可レ上也。〔注〕戚朏、以喩レ敗也、冠雖レ敗、宜レ加二之首一、履雖レ全、宜レ踐二之足一。

【戚著】39（セキチヨ） 清、高郵の人。字は白雲。畫に巧。書法に精し。〔國朝畫識、五〕・〔國朝書人輯略、三〕。

【戚寵】40（セキチヨウ） 天子の外戚として、寵愛を被むること。〔呂溫、諸葛武侯廟記〕王莽乃欲下憑二戚寵一造中符命上、脅レ之以レ戚、動レ之以レ神、使二人忘一レ漢終不レ可レ得也。

【戚貌】41（セキバウ） うれはしい顏色。戚容。〔陸機、述思賦〕駭二中心于同氣一、分二戚貌于異方一。

【戚蕃】42（セキハン） 諸王をいふ。親戚と蕃王。〔王儉、褚淵碑文〕屬値二三季在一レ辰、戚蕃內侮一。〔注〕五臣本作レ藩、翰曰、戚藩、謂二諸王一也。

【戚藩】43（セキハン） 諸王をいふ。親戚と蕃王。〔劉琨、勸進表〕社稷時難、則戚藩定二其傾一。〔注〕濟曰、當下取二親戚蕃王之英哲一、以繼中祀宗廟上也。

【戚輔】44（セキホ） 帝室の外戚と輔相。〔北史、序傳〕雖二舊臣戚輔一、莫二能逮一レ之。

【戚揚】45（セキヤウ） をのとまさかり。戚は斧。揚は鉞。皆武器の名。〔詩、大雅、公劉〕弓矢斯張、干戈戚揚、爰方啓レ行。〔傳〕戚、斧也、揚、鉞也。

【戚雄】46（セキユウ） 明、金華の人。字は世英。正德の進士。建陽縣の長官となり、舊學を遷し、學田を置く。尋いで南海の長官に遷り、監察御史に至る。著に婺賢文軌がある。〔本朝分省人物攷、五十三〕。

【戚容】47（セキヨウ） 憂へるかたち。慼容。〔禮、雜記下〕子貢問レ喪、子曰、敬爲レ上、哀次レ之、瘠爲レ下、顏色稱二其情一、戚容稱二其服一。〔蜀志、蔣琬傳〕無二戚容一、又無二喜色一。〔孔子家語、曲禮子夏問〕顏色稱レ情、戚容稱レ服。

【戚里】48（セキリ） 天子の外戚。母方の親類。里は長安の中にあるさとで、漢代には后妃の家の在つた所。戚畹。〔史記、萬石君傳〕萬石君名奮、云云、高祖召二其姊一爲二美人一、以レ奮爲二中涓一、受二書謁一、徙二其家長安中戚里一、以三姊爲二美人一故也。〔注〕索隱曰、小顏云、於レ上有二姻戚一者皆居レ之、故名二其里一爲二戚里一。長安記、戚里在二城內一。〔後漢書、鄭興等傳贊〕覇貴レ知レ止、辭二交戚里一。〔庾信、春賦〕移二戚里一而家富、入二新豐一而酒美。

【戚綸】49（セキリン） 宋の人。同文の次子。字は仲言。太平興國の進士。官は眞宗の時、祕閣校理・右正言・龍圖閣待制。王遵誨に譖せられ、太常少卿を以て南京に分司して卒す。著に集二十卷、及び論思集がある。〔宋史、三百六〕・〔宋史新編、八十四〕・〔東都事略、四十七〕・〔隆平集、十三〕・〔名臣碑傳琬琰集、下、七〕。

【戚學標】50（セキガクヘウ） 清、浙江太平の人。字は翰芳。號は鶴皐（鶴泉）。乾隆の進士。官は涉縣の長官。著に鶴皐文鈔がある。〔清史稿、四百八十七〕・〔清史列傳、六十八〕・〔碑傳集補、三十九〕。

【戚繼光】51（セキケイクワウ） 明、定遠の人、一に蓬萊の人といふ。字は元敬。諡は武毅。登州衞指揮僉事を世襲す。幼くして倜儻、奇氣を負ふ。讀書を好み、經史の大義に通ず。副建總督に陞り、屢〻劇賊を平げ、人、戚家軍と稱す。後、都督同知より、太子太保に累官す。書室を止止堂といふ。著に紀效新書・練兵實記・長子心鈐・莅戎要略・武備新書・止止堂集がある。〔明史、二百十二〕・〔萬斯同明史、三百十九〕・〔明史稿、一百九十六〕。

【戚元佐】52（セキゲンサ） 明、秀水の人。字は希仲。號は中岳。嘉靖の進士。官は尙寶卿。畫に巧。詩文に長ず。著に青藜集・檇李往哲傳がある。〔本朝分省人物攷、四十四〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十四〕。

【戚士鏡】53（セキシキヤウ） 戚人鏡(59)を見よ。

【戚象祖】54（セキシヤウソ） 元の人。紹の子。字は性傳。王元章に師事し、命義に達す。年五十にして東陽學教諭に擧用され、紹興の和靖山院の山長に遷る。年七十にして致仕し、永康に僑居して終る。〔宋元學案、七十三〕。

【戚舜臣】55（セキシユンシン） 宋、楚丘の人。字は世佐。官は虞部郎中。〔尙友錄、二十三〕。

【戚墅堰】56（セキシヨエン） 鎭の名。江蘇省武進縣の東南。滬寧鐵路に沿ふ。商業地。

【戚如圭】57（セキジヨケイ） 宋、金華の人。呂祖謙の弟子。進士。官は嵊縣の尉。〔宋元學案、七十三〕。

【戚如琥】58（セキジヨコ） 宋の人。如圭の從弟。字は少白。門人、貞白先生と私謚した。呂祖謙の弟子。進士。官は袁州の長官。〔宋元學案、七十三〕。

【戚人鏡】59（セキジンキヤウ） 清、錢塘の人。原名は士鏡。字は仲蘭。號は蓉臺・鑑堂。嘉慶の進士。官は司經局洗馬。剛直の士。〔國朝耆獻類徵、一百三十二〕・〔續碑傳集、十八〕。

【戚崇僧】60（セキスウソウ） 元、永康の人。象祖の子。字は仲咸。家學は呂氏より出づ、許謙に從つて道を講ず。居常、一室に默坐し、書數百卷を環らし、其の室に題して朝陽といひ、時人、朝陽先生と稱す。著に春秋纂例原旨・四書儀對・後復古編・昭穆圖・歷代指掌圖がある。〔宋元學案、八十二〕。

【戚逍遙】61（セキセウエウ） 唐の人。南宮の女子。幼くして道を好み、同邑の蒯潯に適嫁し、塵俗の事を爲さず、一室に獨居し、食を絶つて靜想し、後、仙居す。〔全唐詩、三十一〕。

【戚存心】62（セキソンシン） 明、黃巖の人。洪武の進士。行人に擢んでられ、才行を以て稱せられる。陝西布政司參政に陞り、幾くもなく禮部侍郎となる。〔國朝列卿記、四十三〕・〔明名人傳、三十〕。

【戚同文】63（セキドウブン） 宋、楚丘の人。字は同文。宋史には文約に作る。門人の私謚は堅素先生。幼にして孤、孝を以て聞ゆ。五代の喪亂に値ひ、意を祿仕に絶つ。讀書を好み、藏書甚だ多かつた。著に孟諸集がある。〔宋史、四百五十七〕・〔宋史新編、一百七十七〕・〔東都事略、四十七〕・〔隆平集、十三〕・〔宋元學案、三〕。

【戚夫人】64（セキフジン） 漢、高祖の寵姬。定陶の人。趙王如意を生む。高祖にせまつて、趙王如意を太子にしようと計つたが成らず、呂后の怒に觸れ、高祖の薨後、呂后に囚へられて永巷に舂かせられる。夫人、身の不遇を悲しんで舂歌を歌ふ。呂后は此の歌を聞いて大いに怒り、遂に趙王を誅し、夫人の手足を斷ち、眼を去り耳を熏べ、瘖藥を飮ましめ、廁中に置き、號して人彘といつた。〔史記、九〕・〔漢書、九十七〕。

【戚夫人歌】65（セキフジンカ） 漢、高祖の寵姬、戚夫人の作。一に舂歌ともいひ、又、永巷歌ともいふ。呂后に囚へられ、髮を剪られ頸鐵をはめられ、赭衣を着せられて永巷で舂かせられた時に歌つたもの。戚夫人を見よ。〔漢書、外戚上、高祖呂皇后傳〕高祖崩、惠帝立、呂后爲二皇太后一、廼令二永巷一囚二戚夫人一、髡鉗、衣二赭衣一、令レ舂、戚夫人舂且歌曰、子爲レ王、母爲レ虜、終日舂二薄暮一、常與レ死爲レ伍、相離三千里、當二誰使一レ告レ女。

【戚秉肅】66（セキヘイシユク） 元、嘉興の人。號は礪齋。少くして氣節あり、學を程端禮に受く。隱居して仕へず、母に事へて至孝。始豐の徐大章、嘗て其の事を記す。〔宋元學案、八十二〕。

【戚麟祥】67（セキリンシヤウ） 清、德清の人。康熙の進士。官は侍講の學士。河洛の學に通ず。晴雨を祈禱する每に、占驗違はなかつたといふ。後、疾を以て鄕に歸つたが、事に坐して、寧古塔に謫戍され、後、釋されて再び歸鄕した。著に瓶谷筆記がある。〔國朝耆獻類徵、一百二十三〕。

【戚成勳妻】68（セキセイクンノツマ） 清、江津の人。姓は廖氏。明末、張獻忠が蜀に寇するや、成勳變を聞き、倉皇として黔中に竄る。妻廖氏、弱くして從はれず、堅く門を閉ぢ、自ら死を誓ふ。久しくして賊至らず、食、繼がず、宅邊に穀を種ゑ、草を衣て四十餘年を過ぐ。成勳歸り、舊宅已に深箐中に沒するを見、斧斤を持ちて竹木を伐るに、樓上に人ありて、何人なりやといふ。成勳、厲聲して吾は此の家の主人なりといふ。廖氏乃ち、成勳に向つて衣褌を乞ひ、樓より下り、夫婦相見、遂に共に居り、年各〻九十餘にして卒す。〔清史稿、五百十四〕・〔國朝耆獻類徵、媛、五〕。

【戚兪二將】69（セキユニシヤウ） 明の戚繼光と兪大猷との二將。〔中村栗園、練二心膽一論〕戚兪二將、開レ口則必言レ練、良有レ以也。

【[illegible]】11595 （ジヨウ ニユ） 〔集韻〕乳勇切 腫

ほこの屬。〔集韻〕[illegible]、戟屬。

【戫】11596

ユウ

戫(5−11571)に同じ。〔正字通〕戫、同ㇾ戫。

【⿰旱戈】11597

㈠カン　ガン　〔集韻〕侯旰切　翰

㈡カン　〔集韻〕居寒切　寒

小篆　㈠たて。〔說文〕⿰旱戈、盾也、从ㇾ戈旱聲。㈡たて。通じて干(4−9165)に作る。〔集韻〕⿰旱戈、博雅、櫓⿰旱戈、盾也、通作ㇾ干。

【戛】11598

カツ　ケチ　〔集韻〕訖黠切　ㄐㄧㄚˊ chia²　黠

小篆　㊀**ほこ**。〔說文〕戛、戟也、从₂戈百₁、讀若ㇾ棘。〔段注〕西京賦、立ㇾ戈迆ㇾ戛、薛解云、戈、謂₂句孑戟₁也、戛、長矛也、與ㇾ許不ㇾ合。㊁**長いほこ**。〔張衡、東京賦〕立ㇾ戈迤ㇾ戛。〔注〕綜曰、戛、長矛也。㊂**のり**。**つね**。禮式。楷(6−15185)に通ず。〔說文通訓定聲〕戛、叚借爲ㇾ楷。〔爾雅、釋詁〕戛、常也。〔爾雅、釋言〕戛、禮也。〔廣韻〕戛、楷也、常也、禮也。〔書、康誥〕不ㇾ率₂大戛₁。〔傳〕戛、常也。〔疏〕戛、猶₂楷也。㊃**する**。うつ。たたく。きしる。扴(5−11838)に通ず。〔說文通訓定聲〕戛、叚借爲ㇾ扴。〔集韻〕戛、一曰、櫟ㇾ之也。〔書、益稷〕戛₂擊鳴球₁。〔馬注〕戛、櫟也。㊄**ならす**。平らにする。槩(6−15363)に通ず。〔說文通訓定聲〕戛、槩、一聲之轉。〔木華、海賦〕戛₂巖嶅₁。〔注〕善曰、戛、猶ㇾ槩也。㊅**樂器の一**。木鼓。之をすりたたいて衆樂を止める。敔(5−13224)を見よ。〔後漢書、馬融傳〕戛擊鳴球。〔注〕戛、敔也、形如₂伏獸₁、背上有₂二十七刻₁、以₂木長尺₁櫟ㇾ之、所₂以止ㇾ樂。㊆**わら**。むしろ。稭(8−25167)に通ず。〔說文通訓定聲〕戛、叚借爲ㇾ稭。〔漢書、地理志上〕三百里內戛服。〔注〕師古曰、戛、稾也。㊇**物の音**。戛然(7)を見よ。㊈**くひちがふ**。戛戛(3)を見よ。㊉或は拮(5−11990)に作る。(十一)俗に戞・戞(5−11605)に作る。〔正字通〕戛、俗作₂戞・戞₁、非。

名乘　ノリ。ツネ。

解字　會意。百と戈との合字。百は首。首を切り落す戈の意。

【戛雲】1 カツウン　高く上つて雲をうつ。〔白居易、草堂記〕脩柯戛ㇾ雲、低枝拂ㇾ潭。

【戛羹】2 カツカウ　兄の妻をいふ。あによめ。漢の高祖が微賤の時、屢〻嫂の家に行き羹を喫したが、嫂これを厭ひ、高祖が客をつれて行つた時、杓で釜の底をならして羹がなくなつたことを示した故事。〔書言故事、兄弟類、戛羹〕常談謂ㇾ嫂曰₂戛羹₁。〔史記、楚元王世家〕楚元王劉交者、高祖之同母少弟也、字游、高祖兄弟四人、長兄伯、伯蚤卒、始高祖微時、嘗辟ㇾ事、時時與₂賓客₁過₂巨嫂₁食、嫂厭ㇾ叔、叔與ㇾ客來、嫂詳爲₂羹盡₁、櫟ㇾ釜、賓客以ㇾ故去、已而視₂釜中₁尙有ㇾ羹、高祖由ㇾ此怨₂其嫂₁、及₂高祖爲ㇾ帝、封₂昆弟₁、而伯子獨不ㇾ得ㇾ封、太上皇以爲ㇾ言、高祖曰、某非ㇾ忘ㇾ封ㇾ之也、爲₃其母不₂長者₁耳、於ㇾ是乃封₂其子信₁爲₂羹頡侯₁。

【戛戛】3 カツカツ　㊀物の相擊つ音。〔關尹子、一宇〕戛戛乎鬪也、勿勿乎似而非也。㊁齒で嚙む音。〔李邕、鶻賦〕物吻戛戛而雄厲。㊂くひちがふさま。戛戛乎を見よ。

【戛戛乎】4 カツカツコ　くひちがふさま。齟齬するさま。難いさま。〔韓愈、答₂李翊₁書〕惟陳言之務去、戛戛乎其難哉。

【戛擊】5 カツゲキ　樂器を輕くうちならすこと。〔書、益稷〕戛擊鳴球、搏₂拊琴瑟₁以詠。〔傳〕戛擊、柷敔、所₃以作₂止樂₁。〔疏〕戛擊、是作用之名、非₂樂器₁也。故以₂戛擊₁爲₂柷敔₁。樂之初、擊ㇾ柷以作ㇾ之、樂之將ㇾ末、戛ㇾ敔以止ㇾ之、故曰₄所₃以作₂止樂₁。〔蔡傳〕戛擊、考擊也、鳴球、玉磬名也。〔揚雄、長楊賦〕戛₂擊鳴球₁、掉₂八列之舞₁。〔注〕良曰、戛擊、猶₂撫擊₁也。〔後漢書、馬融傳〕戛擊鳴球、載₂於虞謨₁。

【戛瑟】6 カツシツ　瑟をかきならす。〔江淹、四時賦〕是以軫琴情動、戛瑟涕落。〔元稹、華原磬樂府〕鏗金戛瑟徒相雜、投玉敲冰杳然震。

【戛然】7 カツゼン　㊀金石のうち合ふ聲のさま。又、鶴唳の聲のさま。〔蘇軾、後赤壁賦〕戛然長鳴、掠₂予舟₁而西也。〔白居易、畫ㇾ鵰贊〕軒然將ㇾ飛、戛然欲ㇾ鳴。㊁くひちがふさま。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕便鍾₂友愛之情₁、郎君豈得₂戛然₁乎。

【戛服】8 カツフク　稾を貢とし、力役の征に服する。稭服(8−25039・2)を見よ。〔漢書、地理志上〕三百里內ㇾ戛服。

【戜】11599

テツ　デチ　〔集韻〕徒結切　屑

小篆　**するどい**。**又、きる**。〔說文〕戜、利也、一曰、剔也、从ㇾ戈呈聲。

參考　戜(5−11610)は別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似、戜、音耋、利也。戜、古國字。

【⿹戈小】11600

サイ

歲(6−16326)の古字。〔篇海〕⿹戈小、古文歲字。

【⿹戈叔】11601

シユク　〔字彙補〕壯縮切　屋

姓。〔字彙補〕⿹戈叔、姓也、姓氏急就章注、梁四公子⿹戈叔黼。

【⿰金戈】11602

シヤウ

義未詳。〔捜眞玉鏡〕⿰金戈、在良切。

【戝】11603

ゾク

賊(10−36759)に同じ。〔篇海類編〕戝、同ㇾ賊。

八畫

【⿰豕戈】11604

タク　〔集韻〕竹角切　覺

うつ。**又、なげうつ**。豛(5−13240)に同じ。〔集韻〕豛、說文、擊也、一曰、擿也、或从ㇾ戈。

【戞】11605

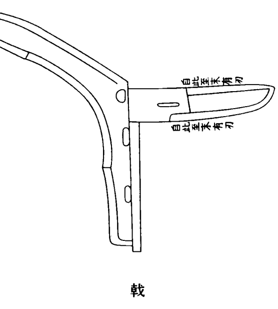
カツ

戛(5−11598)の俗字。〔字彙〕戞、俗戛字。

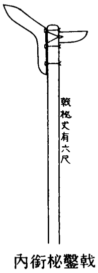
【戟】11606

ケキ　キヤク　慣ゲキ　〔集韻〕訖逆切　ㄐㄧˇ chi³　陌

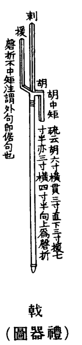
小篆　㊀**ほこ**。柄の先端に横刃を雙出させた武器。單出のものを戈といふ。もと戟(5−11633)に作る。〔說文〕戟、有ㇾ枝兵也、从₂戈幹省₁、周禮、戟長丈六



戟
(考工創物小記)



戟鑿秘衛内
纏縛之圖
(考工創物小記)


刺
援
胡
磬折不中矩注謂外句卽倨句也
胡中矩
疏云胡六寸横貫三寸直下三寸援七寸半亦三寸横四寸半向上爲磬折

戟
(禮器圖)

尺。〔段注〕戟、爲二有レ枝之兵一、則非レ若二戈之平頭一、而亦非二直刃一、似二木枝之衺出一也。〔釋名、釋兵〕戟、格也、旁有二枝格一也。〔中華大字典〕戟、本作レ㦸。〔華嚴經音義、上〕戈形、旁出二一刃一也、戟形、旁出二兩刃一也。〔周禮、考工記、冶氏〕戟廣寸有半寸、內三レ之、胡四レ之、援五レ之。〔注〕今三鋒戟也。㊁**たて**。〔太平御覽、兵部、楯上〕張揖埤蒼曰、戟、盾也。〔說文通訓定聲〕㦸、別義、埤蒼、戟、盾也、按、釋名釋兵、狹而短者曰二孑盾一、車上所レ持者也。㊂**ほこのやうに曲げる**。〔左氏、哀、二十五〕公戟二其手一曰、必斷二而足一。〔注〕抵二徒手一、屈レ肘如二戟形一。〔會箋〕戟之雙枝、一向レ上、一下垂、欲レ打レ人則必立二其手一、手立肘屈、如二戟之援一。㊃**さす**。〔本草、大戟〕釋名、時珍曰、其根辛苦、戟二人咽喉一。〔柳宗元、與二崔饒州一論二石鍾乳一書〕使二人偃蹇壅鬱、戟レ喉癢レ肺。㊄古は屰(**4－7833**)に作る。〔康熙字典〕戟、古文屰。

解字 會意。戈と榦の省文との合字。枝のある兵器。ほこ。

【戟衣】1 ゲキ イ ほこにかぶせ掩つたぬの。〔劉禹錫、同三樂天和二微之深春一詩〕公門吏散後、風擺戟衣斜。〔杜牧、昔事二文皇帝一詩〕雨晴文石滑、風暖戟衣翻。

【戟援】2 ゲキ エン ほこの刃の直くして上に向つたもの。〔周禮、考工記、廬人〕句兵欲レ無レ彈、疏〕其戟有レ援、向レ外爲二磬折一。

【戟轅】3 ゲキ エン 清、楊棨(**6－15112**・・114)の字。

【戟架】4 ゲキ カ ほこをかける具。〔唐書、柳仲郢傳〕初仲郢爲二諫議大夫一、後每レ遷、必烏集二升平第一、庭樹戟架皆滿、五日乃散。

【戟牙】5 ゲキ ガ ほこのさきのきば。〔蘇軾、書二劉君射堂一詩〕手柔弓燥春風後、置レ酒看レ君中二戟牙一。

【戟榦】6 ゲキ カン ほこのえ。〔李賀、謝秀才有レ妾縞練改從二於人一秀才引二留之一不レ得從生感憶座人製レ詩嘲レ謝賀復繼詩〕戟榦橫二龍簴一、刀環依二桂窗一。

【戟戈】7 ゲキ クワ ほこ。戈戟(**5－11530**・・13)に同じ。

【戟戶】8 ゲキ コ ほこで作つたいへ。陣營の喩。〔唐書、任迪簡傳〕身居二戟戶一踰レ月、軍中感二其公一、請三安二臥內一、迪簡乃許。

【戟胡】9 ゲキ コ ほこの柄に入る部分。ほこのかまくび。〔周禮、考工記、冶氏〕戟廣寸有半寸、內三レ之、胡四レ之、援五レ之、倨句中矩、與レ刺重三鋝。〔注〕玄謂、刺者、著二秘直前如レ鐏者一也、戟胡橫貫レ之、胡中矩、則援之外句磬折與。

【戟喉】10 ゲキ コウ 喉に刺激をうける。〔柳宗元、與二崔饒州一論二石鍾乳一書〕使二人偃蹇壅鬱、泄レ火生レ風、戟レ喉癢レ肺。

【戟鉤】11 ゲキ コウ ほこでひきかける。〔左氏、襄、二十三〕欒射レ之、不レ中、又注、則乘二槐本一而覆、或以レ戟鉤レ之、斷レ肘而死。

【戟叉】12 ゲキ サ さすまた。人を捕へる時用ひる武器。〔後漢書、儒林上、楊政傳〕武騎虎賁、云云、旄頭叉以二戟叉一政、傷レ胷、政猶不レ退。

【戟矟】13 ゲキ サク ほこ。戟槊。〔宋史、輿服志二〕太宗淳化二年、詔三諸道州府軍監、奏乞二鼓角戟矟一。

【戟槊】14 ゲキ サク ほこ。戟は三つまたのほこ。槊は一丈八尺ある單枝のほこ。矛槊。〔韓愈、和下杜相公太清宮紀レ事陳レ誠上二李相公一十六韻上詩〕衞レ門羅二戟槊一、圖レ壁雜二龍蛇一。〔王建、和二胡將軍寓直一詩〕進レ狀直穿金戟槊、探レ更先傍玉鉤欄。

【戟支】15 ゲキ シ ほこのえだ。戟枝。〔魏志、呂布傳〕布令下門候于二營門中一、擧中一隻戟上、布言、諸君觀下布射二戟小支一、一發中者、諸君當二解去一、不レ中可二留決鬪一、布擧レ弓射レ戟、正中二小支一、諸將皆驚言、將軍天威也。〔庾信、三月三日華林園馬射賦〕非レ有レ心二于蜓翼一、豈留二情于戟支一。〔劉禹錫、春日退朝詩〕戟枝迎レ日動、閣影助レ松寒。〔皮日休、虎丘寺殿前有二古杉一本一云云詩〕卓犖擲二槍榦一、乂牙束二戟支一。

【戟氅】16 ゲキ シヤウ 儀仗の名。五色の帶の飾の附いた戟。〔三才圖會、儀制四、戟氅圖考〕宋制以レ木爲レ之、在二車輪外一、赤質畫二雲氣一、上綴二飛掌一、垂二五色帶一、帶末有二銅鈴一。

【戟手】17 ゲキ シユ 怒つて人を撃たうとする時、片手を振りあげ、片手の肘を下に屈げて戟のやうに張る。一說に、にぎりこぶしを打ちふる。〔左氏、哀、二十五〕褚師出、公戟二其手一曰、必斷二而足一。〔注〕抵二徒手一、屈レ肘如二戟形一。〔會箋〕戟之雙枝、一向レ上、一下垂、欲レ打レ人、則必立二其手一、手立肘屈、如二戟之援一、蓋中鋒主レ刺、援主レ斷、胡主レ鉤、今成二援形一、故曰レ斷二而足一、此用レ字之巧也。〔張衡、西京賦〕袒裼戟レ手、跬踽盤桓。〔注〕善曰、左傳曰、戟二其手一、翰曰、戟レ手、手如レ戟。

【戟盾】18 ゲキ ジユン ほことたて。盾は楯。〔漢書、李陵傳〕前行持二戟盾一、後行持二弓弩一。

【戟楯】19 ゲキ ジユン ほことたて。戟盾。〔六韜、豹韜、林戰〕弓弩爲レ表、戟楯爲レ裏。〔晉書、羊祜傳〕弓弩戟楯、不レ如二中國一、唯有二水戰一、是其所レ便。

【戟帶】20 ゲキ タイ ほこにつけてある長くひいたおび。〔溫庭筠、夜宴謠〕飄飄戟帶儼相次、二十四枝龍畫竿。

【戟纛】21 ゲキ タウ ほことはた。〔韓愈、魏博節度觀察使沂國公先廟碑銘〕櫜兜戟纛、以長二魏師一。

【戟肘】22 ゲキ チウ 肘を戟のやうに曲げる。〔詩、小雅、斯干、如二矢斯棘一、箋〕棘、戟也、如下人挾二弓矢一戟中其肘上。〔疏〕謂三射者左手弣レ弓、而右手彎レ之、則戟二其肘一、謂二右手之肘一、亦喩二室之外廉隅一也。

【戟弩】23 ゲキ ド ほことおほゆみ。〔尉繚子、兵令上〕坐之兵劒斧、立之兵戟弩。

【戟鋩】24 ゲキ バウ ほこのきつさき。〔左思、吳都賦〕羽毛揚レ蕤、雄戟耀レ鋩。〔裴度、鑄二劍戟一爲二農器一賦〕劍鍔銷、戟鋩露。

【戟斧】25 ゲキ フ ほことをの。〔尉繚子、武議〕身先二戟斧一、陳開百里。

【戟舞】26 ゲキ ブ ほこをとつてまふ舞。〔白虎通、禮樂〕西夷之樂持レ戟舞、助二時煞一也。

【戟吻】27 ゲキ フン 口先がひりりとする。〔兪德鄰、富安田舍詩〕戟吻苦茶連葉煑、膠牙酸酒帶二糟餔一。

【戟門】28 ゲキ モン ㊀ほこで作つた門。〔周禮、天官、掌舍、爲二壇壝宮棘門一、注〕鄭司農云、棘門以レ戟爲レ門。㊁儀仗を門に列ねること。大官の邸、又官署等には、儀仗の武器を門に列ねた。顯貴の家。〔唐書、盧坦傳〕舊制、官階勳俱二三品一、始聽レ立レ戟、後雖レ轉二四品官一、非二貶削者一、戟不レ奪、坦爲二戶部侍郎一、時階二朝議大夫一、勳二護軍一、以三嘗任二宣州刺史一三品、請レ立レ戟許レ之。〔元稹、暮秋詩〕看著牆西日又沈、步廊迴合戟門深。

【戟吏】29 ゲキ リ ほこを持つた役人。〔晉書、輿服志〕次河南尹駕駟、戟吏六人。

【荷レ戟】30 ホコヲニナフ ほこを肩に擔ふ。〔史記、秦始皇紀〕閉レ關據レ阨、荷レ戟而守レ之。〔陸機、豪士賦序〕袨服荷レ戟、立二乎廟門之下一。

【得レ戟刈レ葵】31 ゲキヲエテアフヒヲカル ほこであふひを刈る。用を爲さない喩。〔淮南子、人閒訓〕宮人得レ戟則以刈レ葵、盲者得レ鏡則以蓋レ巵。

【亡レ戟得レ矛】32 ゲキヲウシナツテホコヲウ 戟を失つて代りに矛を得る。結局損のない喩。〔呂覽、離俗〕齊晉相與戰、平阿之餘子、亡レ戟得レ矛、卻而去、不二自快一、謂二路之人一曰、亡レ戟得レ矛、可二以歸一乎、路之人曰、戟亦兵也、矛亦兵也、亡レ兵得レ兵、何爲不レ可二以歸去一。

【𢧢】11606′ ゲキ

𢧢(**5－11606**)の俗字。〔篇海〕𢧢、戟同。

【⿰昔戈】11607 サク

斮(**5－13562**)の古字。〔玉篇〕⿰昔戈、古文斮。

【⿸戶戈】11608 ケイ

棨(**6－14965**)に同じ。〔韻會〕⿸戶戈、與レ棨同。

【⿱𢦏日】11609 シユン

蠢(**10－33797**)の古字。〔字彙補〕⿱𢦏日、古文蠢字。

【⿹戈⿱口王】11610 コク

國(**3－4798**)の古字。〔集韻〕國、古作レ⿹戈⿱口王。

參考 戜(**5－11599**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕戜、音耋、利也。⿹戈⿱口王、古國字。

【𢨒】11611 テイ タイ 〔字彙補〕透帝切 霽

有𢨒氏は、國の名。〔字彙補〕戜、有𢨒氏、國名。

【㦰】11612 カン コン 〔餘文〕口含切 覃

❶ころす。〔餘文〕㦰、殺也。❷戓(5-11561)の譌字。〔康熙字典〕㦰、戓字之譌。

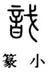
參考 字形、集韻は戓に作る。〔集韻〕戓、或从ㇾ含。

【𢧐】11613 セキ シャク 義未詳。〔搜眞玉鏡〕𢧐、式逆切。

九畫

【𢧵】11614 シュン 蠢(10-33797)に同じ。〔字彙〕𢧵、同ㇾ蠢。

【戠】11615 🈩ショク シキ 〔集韻〕質力切 職 🈔シ 〔集韻〕式吏切 寘


小篆

🈩❶兵器の名。〔說文〕戠、闕、从ㇾ戈从ㇾ音。〔段注〕大徐如ㇾ此、小徐無㆓从ㇾ戈从㆒ㇾ音、有㆘職从ㇾ此、古職字、古之職役、皆執㆓干戈㆒十四字㆖云云、非㆓許語㆒也、其義其音、蓋皆闕矣。〔說文通訓定聲〕戠、按、兵也、从ㇾ戈意省聲。❷はに。埴(3-5188)に通ず。〔說文通訓定聲〕戠、叚借爲ㇾ埴。〔書、禹貢〕厥土赤埴墳、〔釋文〕埴、鄭作ㇾ戠、徐・鄭・王皆讀曰ㇾ熾、昭音試。〔疏〕戠・埴、音義同。❸あつまる。〔易、豫、朋盍簪、釋文〕簪、虞作ㇾ戠、戠、叢合也。🈔❶ねばつち。〔集韻〕戠、黏土。❷埴(3-5188)に同じ。〔集韻〕埴、或作ㇾ戠、亦省。

【戡】11616 🈩カン コン 〔集韻〕枯含切 ㄎㄢ k'an¹ 覃 🈔チン 〔集韻〕陟甚切 寑

小篆

🈩❶さす。〔說文〕戡、刺也、从ㇾ戈甚聲。❷かつ。うつ。ころす。戓(5-11561)に通ず。〔爾雅、釋詁〕戡、克也。〔集韻〕戡、一曰、勝也。〔說文通訓定聲〕戡、叚借爲ㇾ戓。〔書、西伯戡黎序〕作㆓西伯戡黎㆒。〔傳〕戡、亦勝也。〔書、西伯戡黎〕西伯既戡ㇾ黎。〔孫星衍今古文注疏〕戡、說文、作ㇾ戓云、殺也、蓋黎侯無道、殺ㇾ之而不ㇾ取㆓其國㆒、故云ㇾ戓、不ㇾ云ㇾ滅也。❸とる。〔法言、重黎、劉龕㆓南陽㆒、注〕戡、取也。❹堪(3-5266)に通ず。〔書、西伯戡黎〕西伯既戡ㇾ黎。〔爾雅、釋詁、堪勝也、注〕書曰、西伯堪ㇾ黎。❺龕(12-48839)に通ず。〔法言、重黎、劉龕㆓南陽㆒、注〕龕、同ㇾ戡、取也。❻勘(2-2393)に通ず。〔說文通訓定聲〕戡、字亦作ㇾ勘。🈔❶さす。〔韻會〕戡、刺也。❷すこしくきる。〔廣韻〕戡、少斫也。❸或は揕(5-12350)に作る。〔集韻〕戡、或从ㇾ手。

名乘 カツ。

【戡夷】1 カンイ たひらげる。平定する。夷は平。〔曹植、武帝誄〕羣雄戡夷、拯㆓民于下㆒。

【戡定】2 カンテイ 勝ちさだめる。亂をしずめる。平定。鎭定。克平。〔書、康王之誥〕畢協㆓賞罰㆒、戡㆓定厥功㆒。

【戡殄】3 カンテン 敵をほろぼしつくす。みなごろしにして亡ぼす。〔晉書、慕容暐載記〕非㆔唯絕㆓二國鬩㆒、乃是戡殄之要。

【戡難】4 カンナン 國家の危難をたひらげさだめる。戡難功を見よ。

【戡難功】5 カンナンノコウ 亂をしずめたてがら。〔唐書、陸贄傳〕興元戡難功、雖㆓爪牙宣㆒ㇾ力、蓋贊有ㇾ助焉。

【戡暴】6 カンバウ 暴亂をたひらげる。龕暴。

【戡亂】7 カンラン 亂を平定する。〔劉峻、辨命論〕而或者覩㆓湯武之龍躍㆒、謂㆔戡亂在㆓神功㆒、聞㆓孔墨之挺生㆒、謂㆔英睿擅㆓音響㆒。

【戡黎】8 カンレイ 黎に勝つ。黎は、國の名、今の山西省長治縣の西南。殷の末、黎侯が無道であったので、周の文王(西伯)がこれを伐った。書、商書に西伯戡黎篇がある。

【戢】11617 シフ 〔集韻〕側立切 ㄐㄧˋ chi⁴ 緝

小篆

❶兵器をさめる。〔說文〕戢、臧ㇾ兵也、从ㇾ戈咠聲、詩曰、載戢㆓干戈㆒。〔左氏、宣、十二〕載戢㆓干戈㆒。〔注〕戢、藏也。〔左氏、襄、二十四〕兵不ㇾ戢、必取㆓其族㆒。〔注〕戢、藏也。❷をさめる。やむ。やめる。收斂する。〔廣韻〕戢、斂也、止也。〔詩、小雅、鴛鴦〕戢㆓其左翼㆒。〔傳〕戢、斂也。〔漢書、武五子傳贊〕其兵猶ㇾ火也、弗ㇾ戢、必自焚。〔注〕師古曰、戢、斂也。〔南史、虞寄傳〕願將軍少戢㆓雷霆㆒。❸やはらげる。安んずる。咠(2-2759)・濈(7-18450)に通ず。〔說文通訓定聲〕戢、叚借爲ㇾ咠、爲ㇾ濈。〔孟子、梁惠王下〕思㆓戢用光㆒。〔集注〕戢、安集也。❹あつめる。集(11-41974)に通ず。〔說文通訓定聲〕戢、叚借爲ㇾ集。〔爾雅、釋詁〕戢、聚也。〔詩、周頌、時邁〕載戢㆓干戈㆒。〔傳〕戢、聚也。❺さす。插(5-12119)に通ず。〔說文通訓定聲〕戢、叚借爲ㇾ插。〔廣雅、釋詁二〕戢、插也。❻輯(10-38420)に通ず。〔詩、大雅、公劉〕思㆓輯用光㆒。〔孟子、梁惠王下〕詩云、云云、思㆓戢用光㆒。❼姓。〔萬姓統譜〕戢、見㆓姓苑㆒。

【戢孴】1 シフイフ 衆くあつまるさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕芝栭攢羅以戢孴、枝掌杈枒而斜據。

【戢隱】2 シフイン 元、王迪簡(7-20823・・1970)の號。〔注〕善曰、蒼頡篇曰、戢孴、衆貌。

【戢羽】3 シフウ 鳥が羽を收めて飛ばないこと。〔陶潛、歸鳥詩〕翼翼歸鳥、戢㆓羽寒條㆒。

【戢枻】4 シフエイ かいを用ひることをやめる。〔陶潛、庚子歲五月中從ㇾ都還阻㆓風於規林㆒詩〕凱風負㆓我心㆒、戢ㇾ枻守㆓窮湖㆒。

【戢影】5 シフエイ ❶伏しかくれる。影をかくす。戢景。〔傅咸、螢火賦〕當㆓朝陽㆒而戢ㇾ景兮、必宵昧而是征。❷やすむ。休居する。〔李嶠、爲㆓某官等㆒請㆔預㆓陪告廟獻捷㆒表〕收ㇾ拙罷歸、行戢㆓邱園之影㆒。

【戢櫜】6 シフカウ あつめつつむ。武器をあつめ藏して復た用ひぬ。戰爭をやめること。〔詩、周頌、時邁〕載戢㆓干戈㆒、載櫜㆓弓矢㆒。〔傳〕戢、聚、櫜、韜也。〔箋〕王巡守而天下咸服、兵不㆓復用㆒。

【戢載】7 シフサイ 集め收めて載せること。收載。〔班固、竇將軍北征頌〕戢載連㆓百兩㆒、散數累㆓萬億㆒。

【戢戢】8 シフシフ ❶濈濈(7-18450・・1)を見よ。❷あつまりよるさま。〔杜甫、又觀㆓打魚㆒詩〕小魚脫漏不ㇾ可ㇾ記、半死半生猶戢戢。

【戢然】9 シフゼン をさめるさま。〔福惠全書、涖任部、總論〕戢然改ㇾ行回ㇾ心。

【戢尾】10 シフビ 尾をさめて退く。〔福惠全書、涖任部、忍性氣〕彼將㆓斂ㇾ足戢ㇾ尾而退㆒。

【戢武】11 シフブ たたかひをやめる。戢兵。〔唐段志玄碑〕上又追㆓懷功烈㆒、乃詔㆓司存㆒、圖㆓形於戢武閣㆒。

【戢伏】12 シフフク 己が才をさめて世に隱れること。〔李華、盧郎中齋居記〕仁人靜ㇾ土、戢伏自持。

【戢兵】13 シフヘイ 兵をとどめて用ひない。戰爭をやめる。戢戈。〔左氏、隱、四〕夫兵猶ㇾ火也、弗ㇾ戢將㆓自焚㆒也。〔左氏、宣、十二〕夫武、禁ㇾ暴、戢ㇾ

兵、保レ大、定レ功、安レ民、和レ衆、豐レ財者也。〔薛稷、奉四和送三金城公主適二西蕃一詩〕深恩乃戢レ兵。

【戢睦】14（シフボク） をさまりやはらぐ。〔魏志、荀彧傳、注〕使二干戈戢睦、大道流行一。

【戢翼】15（シフヨク） 鳥が羽ををさめて飛ばないこと。轉じて、致仕して歸隱する喩。〔詩、小雅、鴛鴦〕鴛鴦在レ梁、戢二其左翼一。〔箋〕斂二其左翼一、以二右翼一掩レ之。〔陳琳、爲二曹洪一與二世子一書〕夫駼驥垂二耳於坰牧一、鴻雀戢二翼於汙池一、褻レ之者固以爲二園囿之凡鳥、外廐之下乘一也。〔應瑒、侍二五官中郎將建章臺集一詩〕問レ子游二何鄕一、戢レ翼正徘徊。〔劉楨、大暑賦〕獸喘二氣于玄景一、鳥戢二翼于高危一。〔庾信、周宗廟歌、皇夏〕無レ時猶戢レ翼、有レ道故韜レ光。

【戢鱗】16（シフリン） ❶龍が鱗をさめる。轉じて、志を持して時をまつ喩。〔晉書、宣帝紀論〕戢レ鱗潛レ翼、思屬二風雲一。❷魚が靜止すること。〔張率、詠二躍魚一應詔詩〕戢鱗隱二繁藻一、頒首承二綠漪一。

【𢨋】11618 ヤウ 〔集韻〕余章切 陽

❶**ほこ**。〔集韻〕𢨋、戈也。❷**まさかり**。揚（5−12355）に通ず。〔韻會小補〕𢨋、通レ揚、戉也。

【𢧀】11619 ハツ ボチ 〔集韻〕房越切 月

たて。瞂（8−23544）に同じ。〔集韻〕瞂、說文、盾也、或从レ戈。

【戞】11620 タツ テチ 〔廣韻〕陟鎋切 黠

みめよい。〔廣韻〕戞、戞好、出二證俗文一。

【𢧐】11621 セン 義未詳。〔字彙〕𢧐、之鹽切、音占、出二夢感經一。

【戣】11622 ㊀キ ギ 〔集韻〕渠龜切 支 ㄎㄨㄟˊ k'uei² ㊁キ ギ 〔集韻〕求位切 寘

（小篆）

㊀㊁❶**武器の名**。三つかどのほこ。〔說文〕戣、周制、侍臣執レ戣立二於東垂一、兵也、从レ戈癸聲。〔段注〕見二書顧命一、某氏傳曰、戣・瞿、皆戟屬、鄭云、戣・瞿、蓋今三鋒矛、王肅則曰、皆平器之名、許不レ言二何兵一、略同二子雍一也。〔正字通〕戣、三隅戟。〔書、顧命〕一人冕執レ戣。❷或は鍨（11−40638）に作る。〔集韻〕戣、或从レ金。

【𢧜】11623 クワ 鍋（11−40603）に同じ。〔集韻〕鍋、或从レ戈。

【𢧃】11624 サク シャク 〔字彙補〕精客切 陌

衆ををさめとめる。〔字彙補〕𢧃、斂二止衆一也。

【戤】11625 カイ ガイ 〔字彙補〕渠蓋切 泰 ㄍㄞˋ kai⁴

❶**質にする**。かける。〔字彙補〕戤、以レ物相質也。❷現名義をいつはる。

【𢧌】11626 サイ 〔字彙補〕子乃切 賄

人名。〔字彙補〕𢧌、楚人有二以レ此命名者一、如二范无𢧌・能八𢧌一是也。

【𢦾】11627 サイ 歲（6−16326）の俗字。〔字彙補〕𢦾、俗歲字。

【戯】11628 フン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕戯、夫問切。

【𢧢】11629 ベツ 義未詳。〔龍龕手鑑〕𢧢、音滅。

【戥】11630 トウ 〔辭源〕讀如レ等。ㄉㄥˇ têng³

❶**小秤**。〔清會典事例、戶部、關稅〕雍正八年題准、天津關向來收二稅一兩一、加二戥耗一一分八釐一。❷等（8−25992）に同じ。〔辭源〕戥、本作レ等。❸現はかる。計量する。

【戥耗】1（トウカウ） へり。〔福惠全書、陞遷部、查二稅契一〕須レ免二其戥耗一。

【戥子】2（トウシ） 金銀をはかる小秤。大戥は五十兩より百兩まで、小戥は十兩より三十兩までをはかる。等子。〔清會典事例、戶部、關稅〕鳳陽蕪湖兩關平法戥子、均不二畫一一。

【戥秤】3 têng³ ch'êng⁴ 金銀をはかる小秤。戥子に同じ。

【戥星】4 têng³ hsing¹ 戥子のはかりの竿に刻んだ目。

【戥盤】5 têng³ p'an² 戥子のはかりの皿。

【𢧵】11631 ボウ 矛（8−23846）の古字。〔說文〕矛、𢧵、古文矛从レ戈。

【戦】11631′ セン 戰（5−11667）の略字。

十畫

【戧】11632 サウ シヤウ 〔集韻〕初良切 陽 ㄑㄧㄤˊˋ ch'iang¹·⁴

❶創（2−2127）の古字。〔玉篇〕戧、古文創。〔集韻〕刅、說文、傷也、从レ刃从レ一、或作レ創、古作レ戧。❷**器物の上に金屬細工を施す**。戧金（1）を見よ。❸現支へる。つかふ。

【戧金】1（サウキン） 器物の上に金細工をほどこす。まきゑ。鎗金。〔丹鉛總錄〕唐六典、有二十四種金一云云、曰、戧金。〔詩、周頌、載見、鞗革有レ鶬、箋〕鞗革轡首也、鶬、金飾貌。〔王志堅、表異錄、錢幣部〕詩、鞗革有レ鶬、註、金飾貌、今之金工有下名二鶬金一者上、本レ此。

【戧銀】2（サウギン） 器物の上に銀細工をほどこす。戧金を參照せよ。

【戧木】3 ch'iang⁴ mu⁴ 支柱。

【戧戧地】4 ch'iang⁴ ch'iang⁴ tê 針のやうにのびたこと。のつそりと丈の高いこと。〔水滸傳、四回〕看見魯智深腮邊新剃暴長短鬚、戧戧地好滲瀨人。

【𢧶】11633 ゲキ 戟（5−11606）に同じ。〔字彙〕𢧶、同レ戟。

【𢧹】11634 サン 㦽（3−7199）に同じ。〔玉篇〕𢧹、同レ㦽。

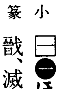
【𢨂】11635 ジョク ノク 〔集韻〕儒欲切 沃

❶**ほこ**。〔玉篇〕𢨂、戟也。❷**かま**。戟の子。或は鎒（5−13332）に作る。〔集韻〕𢨂、博雅、戟其孑謂二之𢨂一、或作レ鎒。

【戨】 11636 カ 〔集韻〕居何切 歌

㊀**くひ**。〔集韻〕戨、博雅、戨戨、杙。㊁或は戓(5-11573)・牁(7-19767)に作り、通じて柯(6-14658)に作る。〔集韻〕戨、或省、亦从レ爿、通作レ柯。

【戩】 11637 ㈠セン 〔集韻〕子淺切 ㄐㄧㄢˇ chien^3 銑 ㈡セン 〔集韻〕子賤切 霰


小篆

㈠㊀**ほろぼす**。**つくす**。〔說文〕戩、滅也、从レ戈晉聲、詩曰、實始戩レ商。〔段注〕滅者、盡也、盡之義兼ニ美惡一、故滅之義亦兼ニ美惡一、凡盡皆得レ云レ滅、亦皆得レ云レ戩也、天保曰、俾ニ爾戩穀一、朱子曰、戩、盡也、穀、善也、此注甚合ニ古義一、爾雅、履・戩・祓、福也、此謂ニ樛木之福履、天保之戩穀、卷阿之祓祿、皆得レ訓レ福、履、本不レ訓レ福、與レ福連レ文、則可レ訓レ福矣、戩・祓、本不レ訓レ福、與ニ穀祿一連レ文、則亦可レ訓レ福矣、皆於ニ兩字一摘ニ一字一、以釋ニ兩字之義一、毛公仍レ之曰、戩、福也、而履、祿也、茀、小也、則不ニ相襲一矣。㊁**ことごとく**。すべて。あげて。みな。〔詩、小雅、天保〕俾ニ爾戩穀一。〔集傳〕戩、盡也。㊂**さいはひ**。〔爾雅、釋詁〕戩、福也。〔詩、小雅、天保、俾ニ爾戩穀一、傳〕戩、福。㊃或は戬(5-11560)に作る。〔集韻〕戩、或作レ戬。㊄翦(9-28752)に通ず。〔說文〕戩、詩曰、實始戩レ商。〔詩、魯頌、閟宮〕實始翦レ商。㈡**さいはひ**。㈠の㊂に同じ。〔集韻〕戩、爾雅、履・戩、福也、孫炎說。

名乘 ユキ。

【戩吉】1 chien^3 chi^2 幸福で多吉な。仕合せ良い。

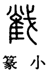
【戩穀】2 センコク ㊀善を盡す。〔詩、小雅、天保〕天保ニ定爾一、俾ニ爾戩穀一。〔集傳〕聞人氏曰、戩、與レ剪同、盡也、穀、善也。㊁福祿。さいはひ。〔詩、小雅、天保、傳〕戩、福、穀、祿。

【戩壽堂所藏殷虛文字】3 センジユダウシヨザウインキヨモジ 書名。一卷。Hardon(哈同)編と題するが、實はHardonの請によつて王國維が整理したもの。劉鶚舊藏の卜辭片、凡そ六百五十片を集めてゐる。獸骨が多く、龜甲は少ないが、鐵雲藏龜にないものが大部分を占め、殷虛文字を研究するためには重要な書物。王國維の考釋を附す。

【𢧐】 11638 チツ

𡙇(3-5996)に同じ。〔正字通〕𢧐、同レ𡙇。

【截】 11639 セツ ゼチ 〔集韻〕昨結切 ㄐㄧㄝˊ chieh^2 屑


小篆

㊀**たつ**。**きる**。㋑たちきる。切斷する。もと𢧵(5-11653)に作る。〔說文〕𢧵、斷也、从レ戈雀聲。〔說文通訓定聲〕𢧵、字亦作レ截。〔中華大字典〕截、本作レ𢧵。〔晉書、石季龍載記〕截レ脛剖レ心。㋺さへぎる。はばむ。〔穆天子傳、四〕截ニ春山一以北。〔注〕截、猶レ阻也。〔李華、弔ニ古戰場一文〕徑截ニ輜重一、橫攻ニ士卒一。㋩わたる。〔郭璞、江賦〕趄レ漲截レ洞。〔注〕良曰、截、直渡也。㊁**ととのへる**。〔詩、商頌、長發〕海外有レ截。〔箋〕截、整齊也。〔漢書、蕭望之傳〕海外有レ截。〔注〕師古曰、截、齊也。㊂**をさめる**。〔詩、大雅、常武〕截ニ彼淮浦一。〔傳〕截、治也。㊃**疫癘**。〔周禮、春官、大宗伯〕以ニ荒禮一哀ニ凶札一。〔注〕札、讀爲レ截、謂ニ疫癘一。㊄**さかんなさま**。**言辭のたくみなさま**。截截(21)を見よ。㊅或は擮(5-12879)に作る。〔集韻〕截、或作レ擮。㊆現段。片。部分。

【截毆】1 セツオウ 相手をさへぎりとめてなぐる。〔六部成語、刑部、截毆、注解〕截ニ住仇人一而打レ之也。

【截開】3 chieh^2 k'ai^1 切る。切りすてる。切開する。

【截角】4 セツカク ㊀角を切る。〔晉書、劉暾傳〕暾轉ニ侍御史一、武庫火、尙書郭彰率ニ百人一、自衞而不レ救レ火、暾正レ色詰レ之、彰怒曰、我能截ニ君角一也、暾勃然謂レ彰曰、君何敢恃レ寵、作レ威作レ福、天子法冠而欲レ截レ角乎、求ニ紙筆一奏レ之、彰伏不ニ敢言一。㊁清代、鹽の販賣に關する正稅以外の手數料。引紙免許狀が不用になつて商人から政府にこれを還納する時、其の一角を截斷する手數料。〔清會典事例、戶部、鹽法〕乾隆四十一年議准、四川鹽引、行ニ銷貴州省之貴陽・安順・平越・都勻・思南・石阡大定・遵義・雲南省之昭通等府州縣、四川之酉陽・石砫・明正・木坪瓦寺・金川・阿日雜谷九姓司等各土司、並黃螂雷皮等處一、該沿道州縣於ニ商運到日一、將ニ部引截角一挂驗、另用ニ鹽道印頒雙聯引根引紙一、照ニ部引字號張數一、逐一塡注、於ニ引根引紙中縫一、大ニ書運鹽斤數一、將ニ引紙一給レ商轉運、將ニ引根一同已經ニ截角部引一、申送ニ鹽道一查覈繳レ部、所レ給引紙、由ニ前途照例一截驗放行、免ニ其繳銷一。〔六部成語、戶部、截角退引、注解〕無用退還之鹽引、應下折ニ斷一角一而呈繳上。

【截嶨】5 セツカク きりたつた石山。〔閻伯興、鹽池賦〕前對ニ條山一、照ニ峯巒之截嶨一、卻隣ニ安邑一、對ニ城樓疑岌一。

【截句】6 セツク ㊀句を絕ち切る。〔宋史、選擧志二〕(紹定)三年臣僚請、學校場屋並禁ニ斷章截句、破ニ壞義理一。㊁詩の一體。五言にも七言にもある。絕句(8-27407‥56)の㊀に同じ。〔詩體明辯、絕句詩〕按、絕句詩原ニ於樂府一、五言如ニ白頭吟・出塞曲・桃葉歌・歡聞歌・長干曲・團扇郎等篇一、七言則如ニ挾瑟歌・烏棲曲等篇一、下及ニ六代一、述作漸繁、唐初穩ニ順聲勢一、定爲ニ絕句一、絕之爲レ言截也、卽ニ律詩一而截レ之也、故凡後兩句對者、是截ニ前四句一、前兩句對者、截ニ後四句一、全篇皆對者、是截ニ中四句一、皆不レ對者、是截ニ首尾四句一、故唐人絕句、皆稱ニ律詩一、大抵以ニ第三句一爲レ主、須下以ニ實事一寓上レ意、則轉換有レ力。

【截曠】7 セツクワウ 截曠銀の略。

【截曠銀】8 セツクワウギン 納稅者からは三十日分を徵し、中央政府へは二十九日分を解送し、每月の一日分を留めて公費に充てること。〔六部成語、戶部、截曠銀、注解〕截、留也、卽留ニ大建曠收之銀一辦レ公也。

【截串】9 セツクワン かきつけ。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕截串之不レ可レ不ニ並設一也。

【截脛】10 セツケイ はぎをきる。〔晉書、石季龍載記上〕截レ脛剖レ心、脯レ腎刳レ孕。

【截缺】11 セツケツ やくのあきまをきめる。〔福惠全書、筮仕部、投供驗到〕二十截レ缺、二十一開レ缺。

【截漕】12 セツサウ 清代、各省からの漕糧を途中でとめること。〔清會典事例、戶部、漕運、截留事例〕康熙三十三年題准、截ニ留武淸・永平等處漕米一、每石收ニ耗米一斗八升三合九勺四抄一、又題准、直隸省永平等處、截ニ留漕糧一、每石耗米、皆以ニ一斗八升三合九勺四抄一作ニ正兌收一。

【截殺】13 chieh^2 sha^1 くひとめる。〔桃花扇、截磯〕誰知馬阮聞信、調了黃得功、在坂磯截殺。

【截止】14 chieh^2 chih^3 とめる。打ち切る。締切る。

【截止期】15 chieh^2 chih^3 ch'i^2 締切期限。

【截耳】16 セツジ 婦人の再嫁せぬこと。梁、衞敬瑜の妻王氏が耳をきつて再嫁せぬことを誓つた故事。〔南史、孝義上、衞敬瑜妻王氏傳〕霸城王整之姊、嫁爲ニ衞敬瑜妻一、年十六而敬瑜亡、父母舅姑咸欲レ嫁レ之、誓而不レ許、乃截レ耳置ニ盤中一爲レ誓、乃止。

【截上】17 chieh^2 shang^4 上の部分を切り捨てる。

【截取】18 セツシユ 清代、各中央官省で資格を詮衡して官吏を選任すること。〔清會典事例、吏部、漢員銓選、內閣漢典籍中書俸滿截取〕乾隆二十八年議准、典籍接ニ算中書之俸一、中書試俸一年、仍接算、俱扣ニ限六年滿後一、按レ俸截取、行ニ文內閣一、

分二別內用外用一、保送引見、請レ旨記レ名、以二主事・同知・分別注冊一、歸二於雙月一、不レ論二何項缺出一、五缺之後、升二用一人一。〔福惠全書、筮仕部、投供驗到〕本月初一日驗レ到、如截二取到レ部人員一。

【截鬚】19（ヒゲキリ） 源氏重代の寶刀。髭切（**12－45399**・・3）に同じ。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕滿仲嘗謂、武臣衞二天子一、不レ可レ無二利刀一、乃召二筑前良治某一、鍛鍊六旬、得二二刀一、曰截鬚、曰膝圓、傳二之子孫一。

【截淸】20 chieh^2 chʻing^1 淸算する。

【截截】21（セツセツ） ㊀ことばの巧なさま。巧に言說するさま。〔書、秦誓〕惟截截善諞言、俾二君子易レ辭一。〔傳〕惟察察便巧、善爲二辨佞之言一。〔蔡傳〕截截、辯給貌。㊁盛んなさま。〔廣雅、釋訓〕截截、盛也。

【截然】22（セツゼン） 區別の明かなさま。きつぱり。はつきり。判然。斷然。決然。〔韓愈、鄆州谿堂詩序〕惟鄆也、截然中居。

【截拏】23 chieh^2 na^2 差し押へる。止める。

【截替】24 chieh^2 tʻi^4 とりかへる。〔水滸傳、十三回〕休教截替周謹、便教楊志替了小將職役。

【截奪】25（セツダツ） 要所に通行人を待ち受けて其の荷物等を掠奪すること。〔六部成語、刑部、截奪、注解〕阻二客于途一而劫二其資一。

【截斷】26（セツダン） たちきる。きりはなす。切斷。〔世說新語、術解〕王丞相令三郭璞試作二一卦一、卦成、郭意色甚惡、云、公有二震厄一、王問、有下可二消伏一理上不、郭曰、命レ駕西出數里、得二一栢樹一截斷、如公長置二牀上常寢處一、災可レ消矣、王從二其語一、數日中、果震、栢粉碎、子弟皆稱レ慶、大將軍云、君乃復委二罪於樹木一。〔白居易、太湖石詩〕削成靑玉片、截斷碧雲根。

【截斷言】27（セツダンゲン） 終止言（**8－27372**・・28ʹ）に同じ。

【截斷衆流】28（セツダンシユウリウ） ［佛］禪宗の語。俗界をたちきること。〔石林詩話〕禪宗論二雲門一有二三種語一、其一爲二隨波逐浪句一、謂下隨レ物應レ機、不上レ主二故常一、其二爲二截斷衆流句一、謂下超二出言外一、非中情識所上レ到、其三爲二函蓋乾坤句一、謂三泯然皆契、無二閒可レ伺、其深淺以レ是爲レ序。

【截住】29（セツヂユウ） 止める。さしとめる。打切る。遮る。〔六部成語、刑部、截毆、注解〕截二住仇人一而打レ之也。

【截敵】30 chieh^2 ti^2 敵を遮りとめる。

【截轍】31（セツテツ） わだちを切る。行くに車を用ひない。〔蜀志、譙周傳〕奇變從橫、出二入無閒一、衝レ波截レ轍、超レ谷越レ山、不レ由二舟楫一而濟二盟津一。

【截頭】32（セツトウ） 釋法顯の所謂紇尸羅國をいふ。〔水經、河水注〕釋法顯所謂紇尸羅國、漢言二截頭一也、佛爲二菩薩一時、以レ頭施レ人、故因名レ國。

【截鐙】33（セツトウ） あぶみをたち切る。別れを惜しむこと。截鐙留鞭を見よ。〔蘇軾、循守臨レ行出二小鬟一復用二前韻一詩〕嶺梅不レ用催二歸騎一、截鐙須レ防二舊所レ臨。

【截鐙留鞭】34（セツトウリウベン） 唐の姚崇が荊州の牧から轉任を命ぜられた時、人民が別れを惜しんであぶみをたち切り、鞭を留めて泣き慕つた故事。〔雲仙雜記、截鐙留鞭〕姚崇牧二荊州一、受レ代日、闔境民泣撫二馬首一、截レ鐙留レ鞭、以表二瞻戀一。

【截肉】35（セツニク） きりみ。又、にくをきる。〔後漢書、獨行、陸續傳〕母嘗截レ肉。

【截破】36（セツパ） きりやぶる。〔謝宗可、雁陣詩〕風馳截破湘烟闊、雲擁斜衝塞月明。

【截敗】37（セツパイ） きりやぶる。〔吳志、太史慈傳〕因爲レ取レ章、慈已先懷レ刀、便截二敗之一。

【截肪】38（セツバウ） きつた脂肪。純白な喩。〔魏文帝、又與二鍾繇一書〕竊見二玉書一稱下美玉、白如二截肪一、黑譬二純漆一、赤擬二雞冠一、黃侔中蒸栗上。

【截髮】39（セツパツ） かみをたち切る。人の母が賓客を招くを喜ぶをいふ。晉、陶侃の母の故事。〔晉書、陶侃傳〕鄱陽孝廉范逵、嘗過二侃一、時倉卒無二以待レ賓、其母乃截レ髮得二雙髲一、以易二酒肴一、樂飲極レ歡。〔書言故事、父母類〕稱二人母喜レ延二賓客一、云二截髮一。

【截布】40 chieh^2 pu^4 布を切る。

【截票】41（セツペウ） 切り取つた書附。〔福惠全書、錢穀部、比較、截票免レ比〕連二一免レ比票、一截票存レ算、一歸農免レ比。

【截票法】42（セツペウハフ） 納稅の領收書を渡す法。串票（**1－80**・・44）・三聯單（**1－12**・・1794）・三聯串票（**1－12**・・1797）を見よ。

【截沒】43（セツボツ） 切りはなして取り收めること。〔北史、魏谷渾傳〕時獻文舅李峻等、初至レ官給二衣服一、洪輒截沒爲二有司所レ糾。

【截面】44 chieh^2 mien^4 切り口。切斷面。

【截攔】45 chieh^2 lan^2 遮る。抑止する。

【截留】46（セツリウ） ㊀差し留める。他の地方に運送すべき官物を當地の需要に因つて引き留める。〔淸會典事例、戶部、漕運、截留事例〕康熙三十三年題准、截二留武淸・永平等處漕米一、每石收二耗米一斗八升三合九勺四抄一、又題准、直隸省永平等處截二留漕糧一、每石耗米、皆以二一斗八升三合九勺四抄一、作二正兌收一。〔六部成語、戶部、截留、注解〕解京之款、中途阻止改解。㊁國司が上納すべき物を割き分けて留めおくこと。〔類聚國史、八十〕延曆十七年十月乙未、奸吏之輩、犯二用官物一、名二公文乘一、不レ憚二憲章一、心挾二貪濁一、競事二截留一。

【截留銀】47（セツリウギン） 他所に用ふべき金を此に留めて急用にあてること。〔六部成語、戶部、截留銀、注解〕應二彼處所レ得之款、截二留於此一、以濟二急用一。

【截路】48 chieh^2 lu^4 路を遮る。

【截短路】49 chieh^2 tuan^3 lu^4 追剝が旅人を要して劫奪すること。

【截下題】50（セツカダイ） 八股文で終りを切り捨てた題。〔讀書作文譜、諸題作法〕單截下題、汪武曹曰、截下題、須下於二題前一取レ勢、逆中籠下意上。

【截趾適履】51（セツシテキリ） 足を截つて履物にあはせる。物のために身をそこなふ。本末輕重を顚倒した愚かなことの喩。履、一に屨に作る。〔後漢書、荀爽傳〕後世之人、好レ福不レ務二其本一、惡レ禍不レ易二其軌一、傳曰、截レ趾適レ屨、孰云二其愚一、何與斯人追レ欲喪レ軀、誠可レ痛也。〔古詩賞析、周詩、鄒子引古語〕截レ趾適レ履、孰云二其愚一、何二與斯人追レ欲喪レ軀。〔蘇軾、顏闔詩〕薄俗徇二世榮一、截レ趾履之適。

【截人歸路】52 chieh^2 jen^2 kuei^1 lu^4 人の歸路を待ち受けて抑止する。退路を遮斷する。

【截鐵斬釘】53 chieh^2 tʻieh^2 chan^3 ting^1 決斷する。

【戫】11640 ヨク ヰキ 〔集韻〕越逼切 ［職］

はやいさま。〔集韻〕戫、疾皃。

【⿹戈兼】11641 ケン 〔集韻〕苦兼切 ［鹽］

ほこ。〔集韻〕⿹戈兼、戈屬。

【⿸厂戚】11642 ケン ゲン 〔字彙補〕何點切 ［琰］

すこやか。〔字彙補〕⿸厂戚、健也。

【⿰朿戒】11643 コク 〔集韻〕訖得切 ［職］

⿰朿戒⿰耒导は、草の生えるさま。〔集韻〕⿰朿戒、⿰朿戒⿰耒导、艸生。

【⿱目戋】11644 ザン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱目戋、音殘。

【⿰杀戈】11645 ケウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰杀戈、結腰切。

【⿷匚⿹戈甲】11646 コク 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿷匚⿹戈甲、音國。

【⿹戈⿱丰日】11647 シユン 蠢（**10－33797**）に同じ。〔字彙補〕⿹戈⿱丰日、同レ蠢。

十一畫

【⿰習戈】11648 シフ 襲（10−34717）の古字。〔玉篇〕⿰習戈、古文襲。

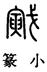
【⿰肅戈】11649 ヨウ ユ 〔集韻〕餘封切 冬

武器。 ⿰肅戈戣。〔廣韻〕⿰肅戈、⿰肅戈戣、兵器。〔集韻〕⿰肅戈、兵器。

【⿰敖戈】11650 ガウ ゴウ 〔集韻〕牛刀切 豪

ほこさき。 或は栽（5−11586）に作る。〔集韻〕⿰敖戈、栽、戟鋒謂二之⿰敖戈一、或省。

【戭】11651 ㈠エン 〔集韻〕以淺切 銑 ㈡イン 〔集韻〕以忍切 ㄧㄣˇ yin³ 軫 ㈢イン 〔集韻〕羊進切 震 ㈣イウ ユ 〔集韻〕以九切 有 ㈤テン デン 〔集韻〕杜兗切 銑


小篆

㈠❶**ながい槍。**〔說文〕戭、長槍也、从レ戈寅聲。❷**人名。**〔廣韻〕戭、又檮戭、八元名。〔左氏、文、十八〕高陽氏有二才子八人一、蒼舒・隤敳・檮戭・大臨・尨降・庭堅・仲容・叔達。㈡❶**長いほこ。**〔集韻〕戭、長戈。❷**姓。**〔萬姓統譜〕戭、見二姓苑一。㈢❶**ほこの類。**〔集韻〕戭、矛屬。❷**人名。**㈠の❷に同じ。敒（5−13356）に通ず。〔左氏、文、十八〕高陽氏有二才子八人一、云云、檮戭。〔釋文〕戭、漢書作レ敒、韋昭已震反。㈣**長いたて。**〔集韻〕戭、長盾。㈤**人名。**㈠の❷に同じ。〔集韻〕戭、闞、人名、檮戭、古才子。

【⿰舂戈】11652 サウ 〔集韻〕朔降切 絳

舟をきずつけぬためのそへ木。 くひ。〔廣韻〕⿰舂戈、捍レ船木也。

【⿹戈雀】11653 セツ 截（4−11639）の本字。〔正字通〕⿹戈雀、截本字。

【⿸虍戈】11654 コ 呼（2−3506）に同じ。〔玉篇〕⿸虍戈、與レ呼同。

【戮】11655 ㈠リク ロク 〔集韻〕力竹切 ㄌㄨˋ lu⁴ 屋 ㈡レウ リウ 〔集韻〕憐蕭切 蕭 ㈢リウ ル 〔正韻〕力救切 宥

小篆

㈠㈡㈢❶**ころす。**㋑生命をたつ。〔說文〕戮、殺也、从レ戈翏聲。〔禮、月令〕豺乃祭レ獸戮レ禽。〔注〕戮、猶レ殺也。㋺死罪にあてる。〔書、甘誓〕不レ用レ命戮二于社一。〔書、湯誓〕予則孥二戮汝一。〔周禮、秋官、掌戮〕斬殺刑戮。〔注〕戮、謂二膊焚辜肆一。❷**屍をさらす。**〔國語、魯語下〕禹殺而戮レ之。〔注〕陳レ尸爲レ戮也。〔國語、晉語九〕殺二其生者一、而戮二其死者一。〔注〕陳レ尸爲レ戮。❸**つみ。**刑罰。〔廣雅、釋詁三〕戮、辠也。〔論語、公冶長〕邦無レ道、免二於刑戮一。〔皇疏〕刑戮、通語耳、亦含二輕重一也。〔史記、武帝紀〕有二顯戮一。〔晉書、衞瓘傳〕得レ執就レ戮。❹**はづかしめる。**はづかしめ。〔廣雅、釋詁三〕戮、辱也。〔左氏、文、六〕夷之蒐、賈季戮二臾駢一。〔會箋〕戮、辱也。〔國語、晉語七〕魏絳戮二寡君之弟一。〔注〕戮、辱也。〔呂覽、情欲〕爲二天下戮一。〔注〕戮、辱也。❺**てあらい。**〔呂覽、貴因〕讒慝勝レ良、命曰レ戮。〔注〕戮、暴也。❻**やむ。**〔爾雅、釋詁〕戮、病也。❼**あはせる。**勠（2−2418）に同じ。〔說文通訓定聲〕戮、叚借爲レ勠。〔集韻〕勠、幷レ力也、或作レ戮。〔字彙〕戮、又幷レ力也。〔國語、吳語〕今伯父曰二戮レ力同レ德。〔注〕戮、幷也。❽古は僇（1−1051）・⿱羽⿰力力（2−2099）・⿰翏攵（3−6670）・翏（9−28700）に作る。〔集韻〕戮、古作二僇・⿱羽⿰力力一。〔康熙字典〕戮、古文⿰翏攵・翏。❾或は剹に作る。〔集韻〕戮、或从レ寸。❿剹（2−2149）に通ず。〔列子、力命〕子產執而戮レ之。〔釋文〕戮、或作レ剹。

參考 熟語は僇（1−1051）を併せ見よ。

【戮殃】1 リクアウ 罪せられるわざはひ。〔論衡、禍虛〕韓非・公子卬、有二陰惡一伏レ罪、人不二聞見一、天獨知レ之、故受二戮殃一。

【戮卿】2 リクケイ 罪のある卿。〔漢書、天文志〕占曰有二戮卿一、一曰有二戮王一。

【戮挫】3 リクザ 罪して殺す。〔謝莊、泰始元年改元大詔〕朝廷忠誠、必加二戮挫一。

【戮殺】4 リクサツ ころす。〔司馬法、嚴位〕若畏太甚、則勿二戮殺一。〔蜀志、先主劉備傳〕今曹操阻レ兵、安忍二戮殺一。

【戮尸】5 リクシ 罪人の尸をさらす。〔國語、晉語九、戮二其死者一、注〕陳レ尸爲レ戮。

【戮死】6 リクシ 刑罰によつて死ぬ。僇死。〔管子、大匡〕莊公抽二劍其懷一曰、云云、均之死也、戮二死於君前一。

【戮屍】7 リクシ 重罪犯人が刑の執行前に死亡した時、其の屍に刑を加へること。〔六部成語、刑部、戮死、注解〕重罪之犯、未レ及レ行レ刑而死、應レ戮二其屍一。

【戮囚】8 lu⁴ ch'iu² 囚人を死刑に處す。

【戮辱】9 リクジョク 刑罰に處せられること。はづかしめ。はぢ。恥辱。又、はづかしめる。凌辱。僇辱。〔韓非子、難言〕然則雖二賢聖一、不レ能下逃二死亡一避中戮辱上者何也。〔戰國、秦策〕故天下以二其君父一爲二戮辱一、憐二臣子一。〔新書、階級〕故有レ賜レ死而無二戮辱一。〔論衡、辯祟〕戮辱懽笑。〔後漢書、皇后上、鄧皇后紀論〕名賢戮辱、便孽黨進。

【戮臣】10 リクシン 罪あるけらい。〔後漢書、天文志下〕太白犯二心前星一、太白犯二輿鬼質星一、有二戮臣一。

【戮人】11 リクジン 罪人。僇人。〔商子、算地〕刑人無二國位一、戮人無二官任一。

【戮笑】12 リクセウ 人にわらはれる。辱めを蒙り物笑ひとなる。ものわらひ。〔公羊、莊、三十二〕公子從二吾言一而飮レ此、則必可三以無レ爲二天下戮笑一、必有レ後二乎魯國一。〔韓詩外傳、十〕湯誅レ之爲二天下戮笑一。〔說苑、指武〕撙辱不レ行、大爲二天下戮笑一。

【戮撻】13 リクタツ 殺すこととむちうつこと。〔嵇康、管蔡論〕戮撻所レ施、必加二於有罪一。

【戮誅】14 lu⁴ chu¹ 誅戮する。

【戮沒】15 リクボツ 殺しほろぼす。〔戰國、燕策〕秦之遇二將軍一、可レ謂レ深矣、父母宗族、皆爲二戮沒一。〔史記、刺客、荊軻傳〕秦之遇二將軍一、可レ謂レ深矣、父母宗族、皆爲二戮沒一。

【戮民】16 リクミン 罪あるたみ。〔莊子、天運〕操レ之則慄、舍レ之則悲、而一無レ所レ鑒、以闚二其所レ不レ休者一、是天之戮民也。〔莊子、徐無鬼〕故有二亡國戮民一無レ已、不レ知レ問レ是也。〔管子、立政〕刑餘戮民、不二敢服レ絻。

【戮滅】17 リクメツ つみしほろぼす。〔國史略、景行天皇〕元惡已戮滅、而草寇猶多。

【戮餘】18 リクヨ 罪戮の餘。〔左氏、襄、二十一〕若棄二書之力一、而思二黶之罪一、臣戮餘也、將レ歸二死於尉氏一、不二敢還一矣。〔注〕罪戮之餘也。

【戮力】19 リクリョク 力をあはせる。一致協力する。又、そのこと。勠力。〔書、湯誥〕聿求二元聖一、與レ

之戮㆑力、以與㆓爾有衆㆒請㆑命。〔疏〕戮㆑力、猶㆓勉力㆒也。〔蔡傳〕戮、當㆑作㆑勠。〔國語、呉語〕今伯父曰㆓戮㆑力同㆑德。〔注〕戮、幷也。〔列子、說符〕請與㆓若等㆒戮㆑力一㆑志、率㆓徒屬㆒、必滅㆓其家㆒爲。〔史記、越世家〕耕㆓乎海畔㆒、苦㆑身戮㆑力、父子治㆑産。〔漢書、高帝紀上〕謝曰、臣與㆓將軍㆒戮㆑力攻㆑秦。〔漢書、鼂錯傳〕比㆑善戮㆑力、以翼㆓天子㆒。〔白虎通、王者不臣〕親與㆓先王㆒戮㆑力共治㆑國、同㆓功於天下㆒。〔後漢書、臧洪傳〕同㆑心戮㆑力、爲㆑國除㆑害。

【戮力壹心】20（リクリヨクイツシン・レウリヨクイツシン）　力をあはせ心を一つにする。戮力一心。戮は、また勠にも作る。〔左氏、昭、二十五〕載書曰、戮㆑力壹㆑心、好惡同㆑之。〔釋文〕戮、音六、又力彫反。〔國語、晉語四〕勠㆑力一㆑心。

【戮力同心】21（リクリヨクドウシン）　力をあはせ心を同じうする。〔國語、齊語〕與㆓諸侯㆒勠㆑力同㆑心、西征攘㆓白翟之地㆒。〔注〕勠、幷也。

【戮王】22（リクワウ）　罪のある王。〔漢書、天文志〕占曰、有㆓戮卿㆒、一曰有㆓戮王㆒。

【加㆑戮】23（リクヲクハフ）　誅罰する。〔謝枋得、卻㆑聘書〕不㆑忍㆑加㆑戮。

【戮恥不㆑足㆓以爲㆑辱】24（リクチモ モッテハヂトナスニタラズ）　はづかしめも、はぢとなすには足りない。〔莊子、秋水〕世之爵祿、不㆑足㆓以爲㆑勸、戮恥不㆑足㆓以爲㆑辱。

【國】11656　クワク　摑（5—12572）の俗字。〔正字通〕國、俗摑字。

【〓】11657　シユン　蠢（10—33797）の古字。〔說文〕蠢、〓、古文蠢从㆑戈。

【〓】11658　シユン　蠢（10—33797）に同じ。〔集韻〕蠢、或作㆑〓。

【〓】11659　ワイ　穢（8—25331）の古字。〔集韻〕穢、古作㆑〓。

【〓】11660　ギ　義未詳。〔字彙補〕〓、音戲。

【〓】11661　ブ　義未詳。〔字彙補〕〓、微撫切、音武。

【〓】11662　キヨ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕〓、音虛。

【〓】11663　ワイ　義未詳。〔龍龕手鑑〕〓、音穢。

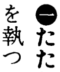
【〓】11664　ザウ　藏（9—32264）に同じ。〔字彙補〕〓、同㆑藏。

【戱】11665　ギ　戲（5—11681）の俗字。〔宋元以來俗字譜〕戲、金瓶梅作㆑戱。

十二畫

【〓】11666　タイ　戴（5—11685）の籒文。〔說文〕戴、〓、籒文戴。

【戰】11667　セン　〔集韻〕之膳切　ㄓㄢˋ chan⁴　霰


小篆

❶たたかふ。㋑うちあふ。兵器を執つてあらそふ。〔說文〕戰、鬥也、从㆑戈單聲。〔孔子家語、困誓〕奮㆑戟將㆓與㆑之戰㆒。㋺せめあふ。いくさをする。〔書、甘誓〕大戰㆓于甘㆒。〔左氏、莊、十一〕皆陳曰㆑戰。〔公羊、莊、十〕戰不㆑言㆑伐。〔注〕合㆑兵血㆑刃曰㆑戰。㋩くみあふ。〔易、坤〕龍戰㆓于野㆒。〔史記、白起傳〕出㆓銳卒㆒自搏戰。㋥きそふ。あらそふ。〔茅亭客語〕酒戰猶能敵㆓百夫㆒。㋭あふ。まじはる。〔小爾雅、廣言〕戰、交也。❷たたかひ。いくさ。あらそひ。〔呂覽、察微〕戰、大機也。〔漢書、鼂錯傳〕戰、危事也。〔後漢書、隗囂傳〕戰者逆德。❸おそれる。をののく。顫（12—43706）に通ず。〔集韻〕戰、一曰、懼慄也。〔說文通訓定聲〕戰、叚借爲㆑顫。〔呂覽、審應〕公子沓相㆑周、申向說㆑之而戰。〔注〕戰、懼也。〔史記、齊悼惠王世家〕因退立股戰。〔漢書、高五王傳〕股戰而慄。〔注〕師古曰、戰、懼之甚也。〔法言、吾子〕見㆑豺而戰。〔注〕戰、悸也。〔佛國記〕遇㆓暴寒起㆒、人皆噤戰。❹そよぐ。ゆれる。〔蘇軾、寶山新開㆑徑詩〕野客歸時山月上、棠梨葉戰暝禽呼。❺はばかる。〔廣雅、釋言〕戰、憚也。❻或は戩（2—4553）に作る。〔集韻〕戰、一曰㆓以㆑戈擊㆑畧、故作㆑戩。❼古は弆（6—16300）に作る。〔集韻〕戰、古作㆑弆。❽姓。〔通志、氏族略〕戰氏、後漢書、戰競爲㆓諫議大夫㆒。〔姓氏尋源〕畢戰之後、又或主㆓戰陳㆒之官、以㆑官爲㆑氏。〔萬姓統譜〕戰、見㆓姓苑㆒。

【戰意】1（センイ）　戰ふこころ。戰はんと欲する意志、又は勇氣。〔史記、孔子世家〕婦人有㆘保㆓西河㆒之志㆖。〔注〕集解曰、王肅曰、婦人恐懼、欲㆑保㆓西河㆒、無㆓戰意㆒也。

【戰威】2（センヰ）　尉繚子の篇名。

【戰友】3（センイウ）　同じ戰爭に從軍する友。又、同一の隊伍に屬する兵士。

【戰雲】4（センウン）　いくさの始まりさうなくもゆき。開戰の模樣。殺伐の氣。〔喩鳧、送㆔武穀之㆓邠寧㆒詩〕山疊戰雲重。〔竹添光鴻、雙殉行〕戰雲壓㆑城城欲㆑壞、腹背受㆑敵我軍敗。

【戰役】5（センエキ）　たたかひのつとめ。戰爭。

【戰介】6（センカイ）　堅く心を守る。戰は耿。〔韓非子、詭使〕戰介之士不㆑得㆑職、而閒居之士尊顯。〔集解〕顧廣圻曰、戰、當㆑作㆑耿。

【戰械】7（センカイ）　戰爭の器械。〔管子、輕重己〕故耕械具、戰械備矣。

【戰翺】8（センカウ）　明の人。正の從子。字は騰霄。父母に至孝。官は冀城訓導。〔萊州府志〕。

【戰壕】9　chan⁴ hao²　戰場の塹壕。

【戰角】10（センカク）　たたかひに吹くつのぶえ。〔杜甫、遣興詩〕天地軍麾滿、山河戰角悲。〔皇甫冉、送㆓袁郎中破㆑賊北歸㆒詩〕萬里長聞隨㆓戰角㆒。

【戰格】11（センカク）　戰の防備に用ひる逆茂木。敵の兵馬の進入をふせぐもの。〔杜甫、潼關吏詩〕連雲列㆓戰格㆒、飛鳥不㆑能㆑踰。〔資治通鑑、唐紀〕〔僖宗、光啓三年〕羅城西南隅守者、焚㆓戰格㆒以應㆓師鐸㆒。〔注〕戰格、列㆑木爲㆑之、漢人謂㆓之笓格㆒、今謂㆓之排杈㆒。

【戰合】12（センガフ）　戰陣の會合。〔尉繚子、踵軍〕爲㆓戰合之表㆒、合㆑表乃起。

【戰汗】13（センカン）　をののいて冷汗が出る。おそれてあせをかくこと。〔柳宗元、上㆓西川武元衡相公㆒謝㆓撫問㆒啓〕輕冒㆓威重㆒、戰汗交深。〔鄭俠、六環助鐘平仲納官詩〕子猶重㆓辭讓㆒、揖拜如㆓戰汗㆒。〔隨手錄〕驚寤戰汗浹㆑體。

【戰酣】14（センカン）　戰爭のたけなはなこと。〔淮南子、覽冥訓〕魯陽公與㆑韓構㆑難、戰酣日暮、援㆑戈而撝㆑之、日爲㆑之反三舍。〔南史、宋武帝紀〕比㆓及臨朐㆒、賊騎交至、帝命㆓兗州刺史劉藩・幷州刺史劉道憐等㆒、陷㆓其陣㆒、日向㆑昃戰猶酣。〔歐陽脩、試院詩〕萬蟻戰酣春晝永、五星明處夜堂深。

【戰艦】15（センカン）　❶いくさぶね。軍艦。兵船。〔晉書、陶侃傳〕侃乃以㆓運船㆒爲㆓戰艦㆒。〔南史、馮道根傳〕道根乘㆓戰艦㆒、斷㆓魏連橋㆒、魏軍敗績。〔白居易、送㆑客春遊㆓嶺南㆒二十韻詩〕戰艦猶驚㆑浪、戎車未㆑息㆑塵。❷軍艦中最も堅牢強大で、すぐれた攻擊力・防禦力を備へ海上武力の骨幹たるもの。戰鬪艦。

【戰氣】16（センキ）　戰の意氣。〔魏志、張遼傳〕戰氣甚奮、太祖壯㆑之。

【戰記】17（センキ）　戰爭の有樣を記したもの。戰爭に關する記錄。軍記。

【戰記物】18 センキモノ　戰記の書物。保元物語・平治物語・源平盛衰記・太平記・平家物語の類をいふ。軍記物。

【戰悸】19 センキ　恐れをののく。〔晉書、禮志下〕臣螻蟻之族、猥承二大禮一、憂懼戰悸。

【戰機】20 センキ　❶戰爭の起る機會。〔李昌符、秋中夜坐詩〕爲應二金門策一、多應レ說二戰機一。❷戰事上の機密。❸交戰の機運。

【戰騎】21 センキ　❶馬に乘つて戰ふ兵士。騎兵。〔六韜、犬韜、戰騎〕武王問二太公一曰、戰騎奈何。〔唐書、太宗諸子、曹王皐傳〕練レ兵峙レ糧、市二回鶻馬一以益二戰騎一。〔李衞公問對、中〕曹公有二戰騎・陷騎・遊騎一。❷六韜、犬韜の篇名。

【戰義】22 センギ　義をきそふ。〔文中子、問易〕文中子曰、云云、王國戰レ義。〔注〕禁二民爲レ非、不二獨任レ智。

【戰蟻】23 センギ　蟻合戰をいふ。〔黃庭堅、次三韻王荆公題二西太一宮壁一詩〕風急啼烏未レ了、雨來戰蟻方酣。

【戰況】24 センキャウ　戰爭のありさま。戰爭の狀況。戰狀。

【戰兢】25 センキョウ　恐れ謹む。戰戰兢兢（101）の略。〔後漢書、皇后上、鄧皇后紀〕恭肅小心、動有二法度一、承二事陰后一、夙夜戰兢。〔唐太宗、賦二尙書一詩〕既承二百王末一、戰兢隨レ歲轉。〔強至、謝二除校勘一啓〕祇荷二寵擢一、不レ任二戰兢一。

【戰兢兢】26 センキョウキョウ　ぶるぶるふるへる。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕戰兢兢、說二甚知音一。

【戰局】27 センキョク　戰爭の局面。戰爭の大勢。

【戰懼】28 センク　ふるへ恐れる。をののきおそれる。〔潘岳、西征賦〕心戰懼以兢悚、如二臨レ深而履レ薄。〔後漢書、酷吏、黃昌傳〕大姓戰懼、皆稱二神明一。

【戰具】29 セング　戰爭の道具。いくさ道具。〔戰國、齊策〕令二於境內一、盡二堞中一爲二戰具一、竟爲二守備一、爲二死士一置レ將、以待二魏氏一。〔吳志、甘寧傳〕吏士心怨、舟船戰具、頓廢不レ脩。

【戰火】30 センクワ　戰爭のために起る火事。兵火。

【戰果】31 センクワ　戰爭或は戰鬪で收得した成果。

【戰禍】32 センクワ　戰爭或は戰鬪に依つて受けるわざはひ。

【戰惶】33 センクワウ　ふるへ恐れる。をののきおそれる。〔晉書、劉元海載記〕顧二茲尫闇一、戰惶靡厝。〔法苑珠林〕遍體戰惶、身毛悉竪。

【戰獲】34 センクワク　戰勝のえもの。俘虜。〔左氏、定、九、得レ用焉曰レ獲、注〕若下麟爲二田獲一、俘爲中戰獲上。

【戰裙】35 chan^{4} ch'üen^{2}　武裝した時、兩腿をまもるもの。

【戰勳】36 センクン　戰のいさを。戰爭の勳功。戰功。〔張說、王公碑銘〕朝盛二勇爵一、家榮二戰勳一。

【戰擊】37 センゲキ　たたかひうつ。はげしくたたかふ。鬪擊。〔劉子新論、閱武〕貔貅戾獸、黃帝教二之戰一、鷹鸇鷙鳥、而羅氏教二之擊一、夫鳥獸無知之性、猶隨二人指授一而能戰擊者、教習之功也。

【戰血】38 センケツ　戰爭によつて流される血。〔杜甫、風疾舟中伏レ枕書レ懷云云詩〕戰血流依レ舊、軍聲動至レ今。〔盧綸、送二顏推官一遊二銀夏一謁二韓大夫一詩〕獵聲雲外響、戰血雨中腥。〔薛逢、涼州詞〕黃河九曲今歸レ漢、塞外縱橫戰血流。

【戰權】39 センケン　尉繚子の篇名。

【戰鼓】40 センコ　戰爭に用ひる太鼓。〔駱賓王、蕩子從軍賦〕隱隱地中鳴二戰鼓一、迢迢天上出二將軍一。〔李白、猛虎行詩〕旌旗繽紛兩河道、戰鼓驚レ山欲二顚倒一。〔蘇軾、寄二劉孝叔一詩〕南山伐レ木作二車軸一、東海取レ鼉漫二戰鼓一。

【雷二戰鼓一】41 センコヲライニス　戰爭に用ひる太鼓を擊つ。〔海錄碎事、武、戰陣〕高貴鄉公、出二雲龍門一、雷二戰鼓一。

【戰後】42 センゴ　戰爭の終つた後。〔張喬、寄レ弟詩〕故里行人戰後疎、青崖萍寄白雲居。

【戰後經營】43 センゴケイエイ　戰爭終結後、國力の疲弊を挽回するために政治・經濟等あらゆる方面に力を注ぐこと。

【戰功】44 センコウ　いくさのてがら。戰爭のてがら。軍功。〔周禮、夏官、司勳〕事功曰レ勞、治功曰レ力、戰功曰レ多。〔後漢書、蓋勳傳〕勳數有二戰功一。

【戰攻】45 センコウ　戰ひせめる。〔六韜、龍韜、奇兵〕不レ知二戰攻之策一、不レ可二以語一レ敵。〔尉繚子、攻權〕故明主戰攻之日、合レ鼓合レ角、節以二兵刃一、不レ求レ勝而勝也。〔戰國、秦策〕明言章理、兵甲愈起、辯言偉服、戰攻不レ息。〔戰國、齊策〕故明主察相、誠欲下以二霸王一爲上志、則戰攻非レ所レ先。〔史記、匈奴傳〕急則人習二戰攻一以侵伐。

【戰國】46 センゴク　❶たたかひのたえまの無いくにぐに。〔戰國、秦策〕頓弱曰、山東戰國有レ六、威不レ掩二於山東一而掩二於母一、臣竊爲二大王一不レ取也。〔管子、霸言〕戰國衆、後擧可二以霸一。〔史記、秦始皇紀贊〕秦離二戰國一而王二天下一。〔史記、蘇秦傳〕凡天下戰國七、燕處レ弱焉。〔漢書、高后紀贊〕孝惠高后之時、海內得レ離二戰國之苦一、君臣俱欲二無爲一。〔揚雄、解嘲〕四分五剖、竝爲二戰國一。❷羣雄割據して相戰つた時代の名。戰國時代（48）を見よ。

【戰國策】47 センゴクサク　書名。漢、劉向編。此の書は舊名を國策と云ひ、又、國事・短長・事語・長書・脩書等の名稱があつた。卷數・篇數は亡缺があるために一致してゐない。漢書藝文志に三十三篇とあり、隋書經籍志に三十二卷劉向錄、二十一卷高誘注とあり、宋史藝文志に高誘注三十三卷、鮑彪注國策十卷とあり、馬端臨の文獻通考には十三卷とある。收むる所の國は、西周・東周・秦・齊・楚・趙・魏・韓・燕・宋・衞・中山の十二國で、その世は周の安王から秦の始皇に終り、その年は春秋に繼ぎ、楚漢の起るに終つてゐる。凡そ二百四十餘年間、戰國の游士が諸國のために策議を陳べた文辭を、國別に集めてゐる。劉向が校定した三十三篇は、西周一篇、東周一篇、秦五篇、齊六篇、楚四篇、趙四篇、魏四篇、韓三篇、燕三篇、宋衞一篇、中山一篇、凡て四百八十六章である。〔四庫提要、史、雜史類〕。

〔參考書〕【戰國策注】三十三卷 漢、高誘注とあるが實は宋、姚宏が高誘注の殘本によつて補つたものである。後、清、黃丕烈はこの本を重校して剡川姚氏本戰國策と名付けた。二卷から四卷、六卷から十卷までは原注である。〔四庫提要、史、雜史類〕。【鮑氏戰國策注】十卷 宋、鮑彪撰。私意を以て前後の順序を換へた處多く、且つ恣に文字を改削してゐる。〔四庫提要、史、雜史類〕。【戰國策校注】十卷 元、吳師道撰。鮑彪注と姚宏注とを參校し、諸書を雜引して證したものである。〔四庫提要、史、雜史類〕。【戰國策談棷】十卷 明、張文爟撰。吳師道の補正本により、唯〻李斯諫レ逐レ客書・楚人以二弱弓一微繳說・頃襄王中山君饗都士大夫の三章を增入し、諸家の評語を采つてゐる。〔四庫提要、史、雜史類存目〕。【戰國策去毒】二卷 清、陸隴其編。戰國策の一書、其の文章の奇は、人の耳目を悅ばしむるに足り、其の機變の巧は、人の心術を壞すに足り、厚く之を味へば大毒有りと爲し、其の得失を指示したもの。〔四庫提要、史、雜史類存目〕。【國策地名考】二十卷 清、程恩澤撰。【戰國策釋地】二卷 清、張琦撰。【戰國紀年】六卷 清、林春溥撰。【戰國策高注補正】九卷 關修齡撰。【戰國策通考】八卷 附錄一卷 戸崎允明撰。【戰國策補正】二卷 安井衡撰。

【戰國時代】48 センゴクジダイ　羣雄割據して相攻伐した時代。❶周の威烈王の二十三年（前四〇三）韓趙魏の三家が晉を分つて起つてから、秦の始皇帝が六國を併せて天下を統一するまで（前二二一）の百八十三年間をいふ。春秋以降に當り、周室衰微し、秦・楚・燕・齊・韓・魏・趙の七國が相爭つたので名ずけられる。❷我が國、應仁の亂以後豐臣秀吉が天下を統一するまでの、百十餘年間をいふ。

【戰國七雄】49 センゴクシチユウ　❶戰國時代の七強國、齊・楚・燕・韓・趙・魏・秦。〔班固、荅賓戲〕曩者王塗蕪穢、周失二其御一、侯伯方レ軌、戰國橫鶩、於レ是七雄虓闞、分二裂諸夏一、龍戰虎爭、游說之徒、風颺電激、並起而救レ之。〔注〕翰曰、七雄、秦・楚・齊・趙・燕・韓・魏也。❷我が國、戰國時代の七雄將。今川義元・武田晴信（信玄）・上杉輝虎（謙信）・北條氏康・毛利元就・織田信長・豐臣秀吉。

【戰骨】50 センコツ　戰場に斃れてゐる人の死骸。戰死者の骨。〔杜甫、前出塞詩〕功名圖二麒麟一、戰骨應二速朽一。〔張籍、關山月詩〕可レ憐萬里關山道、年年戰骨多二秋草一。

【戰債】51 センサイ　戰時公債・賠償金等の如く戰爭に起因する國家の債務。

【戰爭】52 センサウ　たたかふ。たたかひ。いくさ。國家、又は交戰團體が兵器を使用してなす敵對行

爲。〔史記、秦始皇紀〕人人自安樂、無二戰爭之患一、傳二之萬世一。〔後漢書、董卓傳〕更相戰爭。〔蜀志、鄧芝傳〕芝對曰、夫天無二二日一、土無二二王一、云云、君各茂二其德一、臣各盡二其忠一、將提二枹鼓一、則戰爭方始耳。〔事物紀原、戰陣攻守部、戰爭〕呂氏春秋曰、蚩尤作レ兵也、利二其械一、未レ有二蚩尤一時、民固削二林木一以戰、黃帝與二炎帝一戰二於阪泉一、是矣、爲二戰爭一起二於炎黃之際一也。

〖戰爭狀態〗53センサウジヤウタイ　國家が宣戰布告を以て交戰狀態に入つた時をいふ。

【戰艘】54センサウ　いくさぶね。戰艦。〔吳萊、登二岸泊道隆觀一觀有二金人闖海時斫レ柱刀跡一云云詩〕東都昔奔潰、南海紛二戰艘一。

【戰象】55センザウ　戰に用ひる象。鬪象。〔庾信、哀江南賦〕昆陽之戰象走レ林、常山之陣蛇奔レ穴。〔舊唐書、憲宗紀上〕獲二戰象兵械一。〔唐書、南蠻下、眞臘傳〕有二戰象五千一、良者飼以レ肉。

【戰策】56センサク　戰鬪に際し指揮官が採らうとする企圖・方針等をいふ。

【戰士】57センシ　戰爭に出る人。いくさびと。兵士。〔荀子、富國〕其耕者樂レ田、其戰士安レ難。〔韓非子、守道〕戰士出レ死、而願レ爲二賁育一。〔管子、八觀〕良田不レ在二戰士一。〔史記、秦紀〕招二戰士一、明二功賞一。〔漢書、貨殖傳序〕國富厚賂二戰士一、遂報二彊吳一。〔新語、懷慮〕戰士不レ耕、朝士不レ商。「戰記。

【戰史】58センシ　戰爭の事實を記錄した書物。戰紀。

【戰死】59センシ　うちじに。陣沒。戰沒。戰亡。陣歿。〔尉繚子、兵令下〕戰亡二伍人一、及伍人戰死、不レ得二其屍一。〔史記、秦紀〕外勸二戰死之賞罰一。〔漢書、田叔傳〕士卒戰死者數百人。

【戰事】60センジ　戰爭に關する事柄。兵事。〔孫子、九地〕踐レ墨隨レ敵、以決二戰事一。〔史記、齊悼惠王世家〕大王自二高帝一將也、習二戰事一。

【戰時】61センジ　戰爭中。戰爭のある時。〔大日本帝國憲法、第三十一條〕。

〖戰時體制〗62センジタイセイ　戰爭時に於て戰爭に適應するやうに案配された國家の各層の組織。

〖戰時編成〗63センジヘンセイ　戰時に於て陸海空軍がとる平時と異なる兵員、或は部隊の組織。

〖戰時禁制品〗64センジキンセイヒン　公法上又は條約上、戰時交戰國に輸出することを禁止する物品。

〖戰時保險料〗65センジホケンレウ　戰時に於て船舶等にかける保險料をいふ。

〖戰時利得稅〗66センジリトクゼイ　戰時に於ける過大の收益に對する課稅。

【戰舟】67センシウ　いくさぶね。〔事物起原、戰陣攻守部、戰舟〕墨子曰、公輸般自レ魯之レ楚、爲二舟戰之具一、謂二之鉤拒一、此戰舟之始也。

【戰日】68センジツ　戰ひの日。〔孫子、虛實〕不レ知二戰地一、不レ知二戰日一、則左不レ能レ救レ右、右不レ能レ救レ左。〔六韜、犬韜、分合〕其大將先定二戰地戰日一。

【戰車】69センシヤ　㊀戰爭に用ひる車。軍用車。兵車。〔戰國、秦策〕戰車千乘、奮擊百萬、以二秦卒之勇、車騎之多一、以當二諸侯一、譬若下馳二韓盧一而逐中蹇兔上也。〔戰國、韓策〕王聽レ臣、爲レ之儆二四境之內一、選レ師言レ救レ韓、令三戰車滿二道路一。〔六韜、犬韜、戰車〕武王問二太公一曰、戰車奈何。〔管子、山國軌〕國爲二師旅一戰車毆就。〔史記、韓世家〕命二戰車一滿二道路一。〔後漢書、輿服志上〕輕車古之戰車也。㊁六韜、犬韜の篇名。㊂裝甲車。タンク。

【戰射】70センシヤ　戰に弓を射る法。〔史記、吳太伯世家〕以二大夫伯嚭一爲二太宰一、習二戰射一、常以レ報レ越爲レ志。〔史記、伍子胥傳〕以二伯嚭一爲二太宰一、習二戰射一。〔十六國春秋、南涼〕帥二國人一、以習二戰射一。

【戰將】71センシヤウ　戰にのぞんだ大將。戰場にある將軍。〔後漢書、陳俊傳〕俊與二五校一戰二于安次一、下レ馬手接二短兵一、所レ向必破、追奔二十餘里、斬二其渠帥一而還、光武望而歎曰、戰將盡如レ是、豈有レ憂哉。

【戰傷】72センシヤウ　戰役・事變等に當つて戰場で受けた創傷の汎稱。銃創・砲創・爆傷・白兵創・毒瓦斯傷・凍傷・火傷等。

【戰狀】73センジヤウ　戰爭のありさま。戰爭の狀況。〔唐書、王方翼傳〕召見二奉天宮一、賜二食帝前一、帝見三衣有二汗濯處一、問二其故一、具對二熱海苦戰狀一、視二其創一、帝咨嗟久レ之、賜レ賚良厚。

【戰灼】74センシヤク　おそれおどろく。〔白居易、爲二崔相一陳レ情表〕今輒陳露、伏增二戰灼一。

【戰守】75センシユ　進んで戰ふことと退いて守ること。攻守。又、戰つて防禦すること。守戰。〔陸機、辨亡論下〕戰守之道、抑有二前符一、險阻之利、俄然未レ改。〔宋史、曹瑋傳〕華夷山川城郭、險固出入、戰守之要、擧在レ是矣。

【戰術】76センジユツ　戰爭の方法。作戰の術策。戰法。用兵術。軍隊の運用の方術。〔戰國、魏策〕魏太子自將、過二宋外黃一、外黃徐子曰、臣有二百戰百勝之術一、太子能聽レ臣乎。〔陸龜蒙、讀二陰符經一寄二鹿門子一詩〕但學戰勝術、相高甲兵屯。

〖戰術家〗77センジユツカ　戰術に巧な人。

【戰書】78 chan^4 shu^1　戰爭開始の通知書。宣戰布告の書。

【戰處】79センシヨ　戰ふ處。戰つた場處。戰場。〔魏志、三少帝、高貴鄉公髦紀〕癸丑詔曰、云云、其告二征西將軍・安西將軍一、各令下部人於二戰處及水次一、鉤二求屍喪一、收斂藏埋、以慰中存亡上。

【戰悚】80センシヨウ　ふるへおそれる。をののき恐れてすくむ。戰竦。〔晉書、羊祜傳〕夙夜戰悚、以レ榮爲レ憂。

【戰勝】81センシヨウ　戰つて勝つ。戰爭に勝利を得る。かちいくさ。戰捷。〔禮、聘義〕故勇敢強有力者、云云、天下有レ事、則用二之於戰勝一。〔戰國、趙策〕天下之賀二戰勝一者、皆在レ秦矣。〔史記、張儀傳〕雖レ有二戰勝之名一、而有二亡國之實一。〔尉繚子、兵談〕內可二以固守一、外可二以戰勝一。

〖戰勝攻取〗82タタカヘバカチセムレバトル　戰へば勝ち、攻むれば必ず取る。無敵の意。〔戰國、秦策〕(張)唐曰、武安君、戰勝攻取、不レ知二其數一、攻レ城墮レ邑、不レ知二其數一。〔史記、高祖紀〕連二百萬之軍一、戰必勝、攻必取、吾不レ如二韓信一。

〖戰勝易守難〗83タタカヒカツハヤスクカチヲマモルハカタシ　戰爭に勝つは易く、戰勝を持ち續くるは難し。〔吳子、圖國〕吳子曰、凡制レ國治レ軍、必敎レ之以レ禮、勵レ之以レ義、使レ有レ恥也、夫人有レ恥、在レ大足二以戰一、在レ小足二以守一矣、然戰勝易、守レ勝難。

〖戰勝以喪禮處之〗84タタカヒカテバサウレイヲモツテコレニヲル　戰に勝つたならば、祝賀のことをする代りに謹愼して、喪中の禮を以て之を處する。〔老子、三十一〕殺レ人之衆、以二悲哀一泣レ之、戰勝以二喪禮一處レ之。

〖戰勝而將驕卒惰者敗〗85タタカヒカチテシヤウオゴリソツオコタルモノハヤブル　戰爭に勝つて主將傲慢になり、兵卒怠惰なる時は、必ず失敗する。〔史記、項羽紀〕項梁起二東阿一、西比レ至二定陶一、再破二秦軍一、項羽等又斬二李由一、益輕レ秦、有二驕色一、宋義乃諫二項梁一曰、戰勝而將驕、卒惰者敗、今卒少惰矣、秦兵日益、臣爲レ君畏レ之、項梁弗レ聽。

【戰竦】86センシヨウ　ふるへおそれる。をののき恐れてすくむ。戰悚。〔韓非子、初見秦〕弃レ甲負レ弩、戰竦而卻。〔魏志、楊阜傳〕得二吉瑞一猶尙憂懼、況有下災異而不二戰竦一者上哉。

【戰色】87センシヨク　をののき恐れる色。畏れつつしむ顏色。色は顏色。〔論語、鄉黨〕上如レ揖、下如レ授、勃如戰色。〔集解〕鄭玄曰、戰色、敬也。〔疏〕謂三執レ圭行レ聘時、戰二栗其顏色一、敬也。〔集注〕戰色、戰而色懼也。

【戰心】88センシン　たたかふこころ。戰意。〔尉繚子、攻權〕分レ險者無二戰心一、挑レ戰者無二全氣一。〔新書、修政語下〕凡有二戰心一者、必修レ之以レ政、而與レ之以レ義、然後能以勝也。

【戰正】89センセイ　明、高密の人。字は德義。父、大寧に歿するや、往いて骨を求むるも得ず、天を仰いで號泣す。一老人の導きによりて得て歸る。官は鄉薦。〔萊州府志〕。

【戰跡】90センセキ　戰の行はれた跡。

【戰績】91センセキ　戰の成績。戰の結果。

【戰掣】92センセツ　おそれちぢまること。〔畫品〕李煜好二金索書一、唐希雅常效レ之、馳レ車縱レ騎、因二其戰掣之勢一、以寫二竹樹一。

【戰捷】93センセフ　戰つてかつ。又、かちいくさ。戰勝。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕亮在二南中一、所在戰捷、聞三孟獲者爲二夷漢所一レ服、募三生二致之一。

〖戰捷國〗94センセフコク　戰爭に勝つた國。

〖戰捷木〗95センセフボク　木の名。なつめやし。なつじゆろ。からなつめ。しゆろ科の常綠喬木で暖地に生ずる。往時、葉を輪に作つて戰捷を祝したのでいふ。

【戰慴】96センセフ　をののき恐れる。〔晉書、桓溫傳〕當時豫有二位望一者、咸戰慴失レ色。

【戰讋】97 センセフ をののき恐れる。〔梁簡文帝、謝二邵陵王禁錮一啓〕仰負二慈嚴一、心顏戰讋。

【戰船】98 センセン いくさぶね。軍船。〔晉書、文帝紀〕帝將レ伐レ蜀、乃謀レ衆曰、自レ定二壽春一以來、息レ役六年、治レ兵繕レ甲、以擬二一虜一、略計レ取レ吳、作二戰船一通二水道一、當レ用二千餘萬功一、此十萬人、百數十日事也。〔杜甫、寄二賈司馬嚴使君一詩〕無二復雪臺仗一、虛修二水戰船一。〔稗編〕墨子曰、公輸般自レ魯之レ楚、爲二舟戰之具一、謂二之鉤拒一、此戰船之始。〔太白陰經〕水戰之具、始二于伍員製一レ之、以レ船爲レ車、以レ檝爲レ馬。〔六部成語、工部、戰船、注解〕征戰所レ用之師船也。

【戰線】99 センセン 戰爭が行はれる地域。戰場となる區域。戰鬭線。

【戰戰】100 センセン 恐れつつしむさま。又、恐れをののくさま。〔爾雅、釋訓〕戰戰、蹌蹌、動也。〔注〕皆恐動趨步。〔郝懿行義疏〕戰者、釋詁云、懼也、戰蓋顫之假音、玉篇云、顫、動也、是戰當レ作レ顫、假借作レ戰。〔書、仲虺之誥〕小大戰戰、罔レ不レ懼二于非辜一。〔蔡傳〕戰戰、恐懼貌。

【戰戰兢兢】101 センセンキヨウキヨウ 恐れつつしむ。いたくおそれつつしむさま。戰戰はおそれる、兢兢は謹しむ。〔詩、小雅、小旻〕戰戰兢兢、如レ臨二深淵一、如レ履二薄冰一。〔傳〕戰戰、恐也、兢兢、戒也。〔左氏、僖、二十二〕詩曰、戰戰兢兢、如レ臨二深淵一、如レ履二薄冰一。〔論語、泰伯〕曾子有レ疾、召二門弟子一曰、啓二予足一、啓二予手一、詩云、戰戰兢兢、如レ臨二深淵一、如レ履二薄冰一、而今而後、吾知レ免夫、小子。〔孝經、諸侯章〕詩云、戰戰兢兢。〔注〕戰戰、恐懼、兢兢、戒愼。〔國語、楚語下〕其誰敢不三戰戰兢兢以事二百神一。

【戰戰慄慄】102 センセンリツリツ ふるひ恐れる。〔淮南子、人閒訓〕堯戒曰、戰戰慄慄、日愼二一日一、人莫レ蹪二於山一、蹪二於垤一。〔史記、律書〕誤居二正位一、常戰戰慄慄、恐二事之不一レ終。

【戰卒】103 センソツ 兵士。戰士。〔管子、形勢解〕戰卒之衆、不レ過二萬人一。〔商子、算地〕方土百里、出二戰卒萬人一者。〔資治通鑑、漢紀〕（獻帝、建安十三年）今拒二曹公一、深爲レ得レ計、戰卒有レ幾。

【戰櫂】104 センタウ 軍船のかい。〔范成大、次三韻袁起巖許浦按二教水軍一二絶句詩〕戈船戰櫂疾如レ飛。

【戰道】105 センダウ 作戰の術策。戰法。戰術。〔司馬法、仁本〕戰道、不レ違レ時、不レ歷二民病一、所三以愛二吾民一也。

【戰端】106 センタン 戰爭のはじめ。戰爭の發端。開仗。又、たたかひ。

【戰地】107 センチ 戰爭のある土地。又、戰爭のあつた場所。戰場。〔孫子、虛實〕凡先處二戰地一待レ敵者佚、後處二戰地一而趨レ戰者勞。〔六韜、犬韜、分合〕其大將先定二戰地戰日一。〔鹽鐵論、未通〕戎馬不レ足、牸牝入レ陣、故駒犢生二於戰地一。

【戰智】108 センチ 智をきそふ。〔文中子、問易〕強國戰レ兵、霸國戰レ智、王國戰レ義、帝國戰レ德、皇國戰二無爲一。〔注〕不レ戰而屈二人之兵一在レ智。

【戰逐】109 センチク 戰つて相驅逐する。〔史記、平準書〕是時越欲二與レ漢用レ船戰逐一、乃大修二昆明池一、列觀環レ之。

【戰場】110 センヂヤウ ㊀戰爭のある場所。又、戰爭のあつた場所。戰地。合戰場。〔戰國、秦策〕於レ是乃廢レ文任レ武、厚養二死士一、綴レ甲厲レ兵、效二勝於戰場一。〔史記、張儀傳〕梁之地勢、固戰場也。〔後漢書、鄭太傳〕閑二習軍事一、數踐二戰場一。〔魏志、三少帝、高貴鄕公髦紀〕沒二命戰場一。〔唐書、文藝下、李華傳〕著下弔二古戰場一文上。〔杜甫、復愁詩〕昔歸相識少、早已戰場多。㊁試驗場に喩へていふ。〔李山甫、下第獻レ所レ知詩〕十年磨鏃事二鋒鋩一、始逐二朱旗一入二戰場一。

【戰陣】111 センヂン ㊀戰爭のそなへだて。戰法。〔後漢書、安帝紀〕擧下列將子孫明二曉戰陣一、任二將帥一者上。〔後漢書、禮儀志中〕武官肄二兵習戰陣之儀一。〔孔子家語、六本〕戰陣有レ列矣、而勇爲レ本。〔韋昭、博奕論〕求二之於戰陣一、則非二孫吳之倫一也。㊁戰爭の場所。〔庾信、擬連珠〕戰陣勇二於風飈一、謀謨出二乎胷臆一。㊂いくさ。戰爭。〔徐陵、勸二進梁元帝一表〕雲師火帝、非レ無二戰陣之風一。

【戰陳】112 センヂン ㊀いくさのそなへ。戰爭のそなへだて。轉じて、たたかひの方法。戰爭の手段。戰法。〔左氏、成、七〕教二之戰陳一、教レ之叛レ楚。〔吳子、論將〕士習二戰陳一、馬閑二馳逐一。〔史記、蔡澤傳〕一室無二二事一、力レ田稸積、習二戰陳之事一。〔後漢書、劉陶傳〕曉二習戰陳一。㊁敵に對して陣をはつた場所。戰爭の場所。戰場。〔韓非子、和氏〕官行レ法、則浮萌趨二於耕農一、而游士危二於戰陳一。〔漢書、杜欽傳〕戰陳無レ勇、朋友不レ信。㊂いくさ。戰爭。〔後漢書、吳漢傳〕諸將見二戰陳不一レ利、或多惶懼、失二其常度一。

【戰陳無レ勇非レ孝也】113 センヂンニユウナキハカウニアラザルナリ 戰爭で勇敢な行動をなし得ないのは、孝行といはれない。〔禮、祭義〕曾子曰、身也者、父母之遺體也、行二父母之遺體一、敢不レ敬乎、居處不レ莊、非レ孝也、事レ君不レ忠、非レ孝也、涖レ官不レ敬、非レ孝也、朋友不レ信、非レ孝也、戰陳無レ勇、非レ孝也、五者不レ遂、裁及二於親一、敢不レ敬乎。

【戰陳之事不レ厭二詐僞一】114 センヂンノコトニハサギヲイトハズ 戰爭の場合には、いつはりをいとはぬ。〔淮南子、人閒訓〕仁義之事、君子不レ厭二忠信一、戰陳之事、不レ厭二詐僞一。

【戰塵】115 センヂン 戰爭の場所にたつちりほこり。戰爭のさわぎ。

【戰掉】116 センテウ センタウ をののきふるへる。〔韓愈、上二襄陽于相公一書〕莫レ不二戰掉悼慄、眩惑而自失一。

【戰圖】117 セント ㊀戰の行はれる範圍。交戰地帶。〔曹松、己亥歲詩〕澤國江山入二戰圖一、生民何計樂二樵蘇一。㊁たたかひの有樣を描いた畫。戰爭の圖繪。〔舊唐書、張仁愿傳〕戰還畫二戰圖一以奏。

【戰鬭】118 セントウ たたかふ。たたかひ。戰爭。〔品字箋〕持レ戈相向爲レ戰、攘レ臂而前曰レ鬭、語云、勇二于公戰一而怯二于私鬭一。〔左氏、昭、二十五〕哀有二哭泣一、樂有二歌舞一、喜有二施舍一、怒有二戰鬭一。〔戰國、趙策〕告以レ理則不レ可、說以レ義則不レ聽、王非二戰鬭守圉之具一、其將二何以當一レ之。〔呂覽、首時〕選二練士一、習二戰鬭一六年。〔管子、輕重戊〕楚者山東之強國也、其人民習二戰鬭之道一。〔史記、始皇紀〕天下共苦二戰鬭一不レ休。〔漢書、張良傳〕良未三嘗有二戰鬭功一。〔漢書、張延壽傳〕戰鬭方略、山川形勢。〔新序、義勇〕聞二戰鬭之聲一、恐駭而死。〔論衡、解除〕其驅二逐之一、與二戰鬭一無二以異一也。

【戰鬭艦】119 セントウカン 專ら戰鬭を目的とする軍艦で構造裝置とともに雄大堅牢なるもの。戰艦の舊稱。

【戰鬭旗】120 セントウキ 軍艦で戰鬭開始の際、檣頭に掲げる旗。

【戰鬭機】121 セントウキ 軍用飛行機の一。制空權を獲得するため空中戰鬭を主任務とし、友軍の地上部隊或は艦船を掩護し、敵機の襲來を擊攘す。時として敵の地上部隊、或は艦船を攻擊することもある。

【戰鬭力】122 セントウリヨク 戰爭にたへる力。攻擊の實力。

【戰鬭法典】123 セントウハフテン 戰鬭に關する國際法典。

【戰動】124 センドウ ふるへうごく。〔歷代名畫記〕善爲二戰筆之體一、甚有二氣力一、衣服・手足・木葉・川流、莫レ不二戰動一。

【戰德】125 セントク ㊀戰勝者の威德。〔新書、匈奴〕夫惡得レ不三係レ頸頓レ顙、請歸二陛下之義一哉、此謂二戰德一。㊁德をきそふ。戰智(108)を見よ。〔文中子、問易〕文中子曰、云云、帝國戰レ德。

【戰馬】126 センバ 戰爭に用ひる馬。軍馬。〔庾信、見二征客始還遇一レ獵詩〕猶言乘二戰馬一、未レ得レ解二戎衣一。〔陳子昂、和三陸明府贈二將軍重出一レ塞詩〕黃金裝二戰馬一、白羽集二神兵一。〔白行簡、歸二馬華山一詩〕牧レ野功成後、周王戰馬閒。〔六部成語、兵部、戰馬、注解〕預備二戰爭所一レ用之馬。

【戰敗】127 センパイ 戰爭にまける。まけいくさ。〔戰國、魏策〕梁君田侯恐二其至而戰敗一也、悉起レ兵從レ之、大敗二趙氏一。〔史記、陳涉世家〕聞二陳王戰敗一、不レ知二其死生一。

【戰袍】128 センパウ 鎧の上にきる上衣。陣羽織の類。又、戰場で著る衣服。戎衣。軍服。〔本事詩〕開元中頒二賜邊軍纊衣一、製二於宮中一、有二兵士一、於二短袍中一得レ詩、曰、沙場征戍客、寒苦若レ爲レ眠、戰袍經二手作一、知落二阿誰邊一。

【戰堡】129 センパウ とりで。ぢんや。〔蘇轍、詩〕城外羅二戰堡一。

【戰棚】130 センパウ かけはし。長木を城の女牆の上にかけて敵の攻擊の守りにそなへるもの。棧。〔唐書、韓游瓌傳〕大治二戰棚雲橋一。〔墨客揮犀〕邊城守具中有二戰棚一、以二長木一抗二于女墻之上一。

【戰亡】131 センバウ 戰場で死亡する。うちじに。戰死。〔宋書、武帝紀下〕以二時論一擧二戰亡之身一、厚加二復贈一。

【戰伐】132 センバツ たたかひうつ。攻伐。〔吳越春秋、勾踐歸國外傳〕子胥力二於戰伐一、死二於諫議一。〔魏志、辛毗傳〕連年戰伐、而介冑生二蟣蝨一。〔杜甫、閣夜詩〕野哭千家聞二戰伐一、夷歌幾處起二漁樵一。

【戰法】133 センパフ ❶戰爭の方法。兵士の坐作進退などのしかた。戰術。〔周禮、夏官、大司馬〕教二坐作進退一。〔注〕習二戰法一。〔商子、戰法〕凡戰法必本二於政一。〔司馬法、定爵〕踏レ敵制レ地、以レ職命レ之、是謂二戰法一。〔晉書、慕容皝載記〕百工商賈、猶其末耳、宜下量二軍國所レ須、置二其員數一、已外歸二之於農一、教中之戰法上。〔李衞公問對、上〕六步七步、六伐七伐、以教二戰法一。❷商子の篇名。

【戰瘢】134 センパン 戰場で受けた刀疵。〔周亮工、示レ友詩〕戰瘢莫下向二燈前一看上、恐惹二霜華一上二鬢毛一。

【戰備】135 センビ 戰爭のそなへ。戰爭に關する諸種の設備。軍備。〔左氏、哀、十六〕吳人伐レ愼、白公敗レ之、請下以二戰備一獻上、許レ之、遂作レ亂。〔荀子、王霸〕謹二蓄積一、脩二戰備一。〔漢書、酈食其傳〕罷二歷下兵守戰備一、與二食其一日縱レ酒。

【戰筆】136 センピツ 繪を畫くのに、筆勢遒勁で筆をふるはせること。顫筆。〔歷代名畫記〕隋、孫尙子、睦州建德縣尉、師二模顧・陸一、骨氣有レ餘、善爲二戰筆之體一、甚有二氣力一、衣服・手足・木葉・川流、莫レ不二戰動一。〔畫史〕江南周文矩士女面、一如二周昉一、衣紋作二戰筆一。

〖戰筆畫〗137 センピツグワ 筆をふるはし動かして畫く繪畫。隋、孫尙子始めて此の體を創む。〔畫後品〕孫・鄭共師二於張一、鄭則人物・樓臺、當二雄霸伯一、孫則魑魅・魍魎、參レ靈酌レ妙、善爲二戰筆之體一、甚有二氣力一、衣服・手足・木葉・川流、莫レ不二戰動一、唯鬚髮獨爾調利、他人效レ之、終莫二能得一。

【戰夫】138 センプ 兵士。戰卒。〔稱謂錄、兵、戰夫〕關尹子、戰夫習レ馬則健。

【戰怖】139 センプ をののき恐れる。〔魏志、管寧傳〕不レ能三仰答二陛下恩養之福一、云云、夙宵戰怖、無レ地二自厝一。

【戰氛】140 センプン 戰亂の氣。〔郭翼、合溪別業和二顧玉山韻一詩〕雞犬秦人宅、迢迢隔二戰氛一。

【戰兵】141 センペイ 兵力をきそふ。〔文中子、問易〕文中子曰、強國戰レ兵。〔注〕惟恃レ力爾。

【戰敝】142 センペイ 戰につかれる。〔史記、蘇秦傳〕臣聞、越王勾踐戰敝卒三千人、禽二夫差於干遂一。

【戰鼙】143 センペイ 陣太鼓。轉じて、戰爭をいふ。〔宋邕、詩〕纔喜中原息二戰鼙一、又聞天子幸二巴西一。

【戰表】144 chan^4 piao^3 宣戰布告の書。

【戰步】145 センポ 六韜、犬韜の篇名。

【戰蒲】146 センポ 風のためにふるひうごくがま。〔李商隱、子初全溪作詩〕戰蒲知二雁唼一、皺月覺二魚來一。

【戰鋒】147 センポウ 戰のほこさき。戰鬪力。〔漢書、韓信傳〕漢兵遠鬪、窮寇戰鋒不レ可レ當也。

〖戰鋒隊〗148 センポウタイ 唐代の隊伍の名。〔李衞公問對、上〕戰鋒隊步騎相半也。

【戰歿】149 センボツ うちじに。戰爭中に死ぬこと。戰沒。戰死。陣亡。〔後漢書、光武紀上〕驍騎將軍劉植、擊二密賊一戰歿。〔後漢書、張禹傳〕祖父況、云云、爲二常山關長一、會赤眉攻二關城一、況戰歿。〔北史、竇泰傳〕泰父兄戰歿。

【戰庸】150 センヨウ いくさのてがら。庸は功の意。戰功。〔世說新語、方正〕郭淮作二關中都督一、甚得二民情一、亦屢有二戰庸一。

【戰栗】152 センリツ 恐れをののく。又、謹しみ敬ふさま。戰慄。〔論語、八佾〕周人以レ栗、曰、使二民戰栗一。〔集注〕戰栗、恐懼貌。〔公羊、文、二、練主用レ栗、注〕栗、猶二戰栗一、謹敬貌。〔漢書、五行志中之下〕戰栗而塞レ耳、則妄聞之氣、發二於音聲一。〔漢書、劉向傳〕故常戰栗、不二敢諱亡一。

【戰慄】153 センリツ 恐れをののく。戰栗。〔爾雅、釋詁〕戰・慄・震・驚、云云、懼也。〔白虎通、文質〕取二其早朝起栗、戰慄自正一也。〔後漢書、孝明八王、梁節王暢傳〕橫貸二赦臣一、戰慄連月、未二敢自安一。〔羊祜、讓二開府一表〕夙夜戰慄、以レ榮爲レ憂。

【戰略】154 センリヤク 戰爭のはかりごと。合戰のかけひき。作戰計畫。戰術。〔鄭畋、授二武臣邠寧節度使一制〕習二起翦之兵書一、用二關張之戰略一。

【戰力】155 センリヨク 戰の力。戰鬪力。〔後漢書、朱祐等傳論〕降及二秦漢世一、資二戰力一、至三於翼二扶王運一、皆武人屈起。〔唐書、史孝章傳〕(孝章)父憲誠、以二戰力一奮二賓客一、用二挽彊擊劍一相矜。

【戰壘】156 センルイ 戰のとりで。〔魏荔彤、馬陵道詩〕戰壘千秋沙草平、更無三殘戟礙二春耕一。

【挑レ戰】157 タタカヒヲイドム 我より敵に戰をしむける。〔左氏、宣、十二〕趙旃、云云、請レ挑レ戰、弗レ許。

【卜レ戰】158 タタカヒヲボクス 戰の吉凶をうらなふ。〔左氏、昭、十七〕吳伐レ楚、陽匄爲二令尹一、卜レ戰、不吉、司馬子魚曰、我得二上流一、何故不レ吉。〔說苑、權謀〕城濮之戰、文公謂二咎犯一曰、吾卜レ戰而龜熸、我迎レ歲、彼背レ歷、彗星見、彼操二其柄一、我操二其標一。

【戰滎陽】159 センケイヤウ 魏の鼓吹十二曲の一。魏、繆襲の作。漢の鐃歌の一である思悲翁を改作したもの。〔晉書、樂志下〕漢時有二短簫鐃歌之樂一、云云、列二於鼓吹一、多序二戰陣之事一、及二魏受一レ命、改二其十二曲一、使下繆襲爲レ詞、述以二功德一代上レ漢、云云、改二思悲翁一爲二戰滎陽一、言二曹公一也。〔繆襲、戰滎陽〕戰二滎陽一、汴水陂、戎士憤怒、貫レ甲馳、陣未レ成、退二徐榮一、二萬騎、塹壘平、戎馬傷、六軍驚、勢不レ集、衆幾傾、白日沒、時晦冥、顧二中牟一、心屏營、同盟疑、計無レ成、賴二我武皇一、萬國寧。

【戰之器】160 タタカヒノキ 戰爭に用ひる道具。〔左氏、成、十六〕德刑詳義禮信、戰之器也。

【戰城南】161 センジヤウナン 漢の短簫鐃歌十八曲の一。首句の戰城南三字を以て名とした。魏の鼓吹曲には戰城南を改名して定武功といふ。梁の吳均、陳の張正見、唐の盧照鄰・李白・劉駕・貫休等に擬樂府の作品がある。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、漢鐃歌〕古今樂錄曰、漢鼓吹鐃歌十八曲、字多二訛誤一、一曰朱鷺、二曰思悲翁、三曰艾如張、四曰上之回、五曰擁離、六曰戰城南、七曰巫山高、八曰上陵、九曰將進酒、十曰君馬黃、十一曰芳樹、十二曰有所思、十三曰雉子班、十四曰聖人出、十五曰上邪、十六曰臨高臺、十七曰遠如期、十八曰石留、又有二務成・玄雲・黃爵・釣竿一、亦漢曲也、其辭亡、或云、漢鐃歌二十一、無二釣竿一、擁離亦曰二翁離一。〔樂府古題要解〕其詞大略言戰二城南一、死二郭北一、野死不レ得レ葬、爲二烏鳥所一レ食、願爲二忠臣一、朝出攻戰、而莫不レ得レ歸也。〔古樂府、戰城南〕戰二城南一、死二郭北一、野死不レ葬、烏可レ食、爲レ我謂レ烏、且爲二客豪一、野死諒不レ葬、腐肉安能去レ子逃、水深激激、蒲葦冥冥、梟騎戰鬪死、駑馬徘徊鳴、梁築レ室、何以南、梁何北、禾黍而穫、君何食、願爲二忠臣一、安可レ得、思二子良臣一、良臣誠可レ思、朝行出攻、暮不二夜歸一。

【戰必勝】162 タタカヘバカナラズカツ 戰をすればきつと勝つ。民心を得るをいふ。〔孟子、公孫丑下〕君子有レ不レ戰、戰必勝矣。

〖戰必勝攻必取〗163 タタカヘバカナラズカチセムレバカナラズトル 善く兵を用ふるをいふ。〔史記、高祖紀〕連二百萬之軍一、戰必勝、攻必取、吾不レ如二韓信一。〔漢書、高帝紀下〕連二百萬之衆一、戰必勝、攻必取。

【戰武牢】164 センブラウ 唐の鼓吹十二曲の一。唐、柳宗元の作。太宗の師が、王世充を武牢の下にうつたことをうたふ。〔柳宗元、唐鐃歌鼓吹曲、戰武牢并序〕太宗師討二王充一、建德助逆、師奪擊二武牢下一、擒レ之、遂降レ充、爲二戰武牢一、第三、戰二武牢一、動二河朔一、逆之助、圖二掎角一、怒二鷇鬭一、抗二喬嶽一、翹二萌牙一、傲二霜雹一、王謀內定、申二掌握一、鋪施芟夷、二主縛、憚二華戎一、廓二封略一、命二之夢一、卑以斯、歸二有德一、唯先覺。

【戰易守難】165 タタカフハヤスクマモルハカタシ 戰ふはやすく、守るはかたい。戰勝易守勝難(83)を見よ。〔吳子、圖國〕夫人有レ恥、在レ大足二以戰一、在レ小足二以守一矣、然戰勝易、守勝難。

【戰不レ言レ伐】166 タタカヒニハバツトイハズ 武器を合せ、刃に血ぬつて戰つた場合には、伐とはいはない。春秋の筆法。〔公羊、莊、十〕戰不レ言レ伐、圍不レ言レ戰。

【戰不レ逐レ奔】167 タタカヒニハハシルヲオハズ 戰爭の際には、はしり逃げ行く者を逐はない。〔穀梁、隱、五〕伐不レ踰レ時、戰不レ逐レ奔、誅不レ塡レ服。

【非二戰之罪一】168 タタカヒノツミニアラズ 戰爭のしかたが惡いのではない。〔史記、項羽紀〕此天之亡レ我、非二戰之罪一也。

【戰者逆德也】169 タタカヒハギヤクトクナリ 戰爭といふものは德にもとれるものである。〔史記、越世家〕戰者逆德也、爭者事之末也。

【服二戰於民心一】170 タタカヒヲミンシンニフクス 平素能く民を教へて、戰時には民をして能く命令に服せしめる。〔韓非子、心度〕而用レ兵者、服二戰於民心一。

【不レ戰而屈二人之兵一】171 タタカハズシテヒトノヘイヲクツス 戰爭しないで敵の兵を挫き破る。〔孫子、謀攻〕是故百戰百勝、非二善之善者一也、不レ戰而屈二人之兵一、善

之善者也。

【戰如二風發一攻如二河決一】172（タタカヒハカゼノハツスルガゴトク、セムルハカハノケツスルガゴトシ）戰爭は風の發するやうに迅速に、攻擊は河の決するやうに一氣にする。〔三略、上略〕軍讖曰、良將之統レ軍也、恕レ己而治レ人、推レ惠施レ恩、士力日新、戰如二風發一、攻如二河決一。故其衆可レ望而不レ可レ當、可レ下而不レ可レ勝、以レ身先レ人、故其兵爲二天下雄一。

【戱】11668 ギ　戲(5－11681)の俗字。〔正字通〕戱、俗戲字。

【戢】11669 サク　戢(5－11607)の本字。〔正字通〕戢、戢本字。

【戠】11670 シヨク　戢(5－11607)の譌字。〔龍龕手鑑〕戠、戢字之譌。

【戧】11671 ゾウ　矰(8－24017)の俗字。〔正字通〕戧、俗矰字。

【𢨌】11672 ヰキ　域(3－5158)の古字。〔集韻〕域、古作レ𢨌。

【𧮆】11673 ホツ　誖(10－35517)の籀文。〔說文〕誖、籀文誖从二二或一。

【𢨉】11674 キツ　獝(7－20684)に同じ。〔集韻〕獝、或从レ戈。

【𢧵】11675 セウ　詔(12－43276)の古字。〔字彙補〕𢧵、古文詔字。

【𢨃】11676 シユン　蠢(10－33797)に同じ。〔字彙補〕𢨃、同レ蠢。

【𢨋】11677 カク　義未詳。〔搜眞玉鏡〕𢨋、音角。

十三畫

【𢨊】11678 シ　弑(4－9680)の俗字。〔正字通〕𢨊、俗弑字。

【戫】11679 ヰク　〔集韻〕乙六切　屋

小篆

❶あやがある。〔說文〕戫、有二彣彰一也、从レ有𢦏聲。〔段注〕戫、古多段二彧字一爲レ之、彧者、𢦏之隸變、今本論語郁郁乎文哉、古多作二彧彧一。❷或は彧(4－9983)に作り、通じて郁(11－39371)に作る。〔集韻〕戫、或作レ彧、通作レ郁。

【𢨜】11680 バン マン　〔集韻〕亡范切　豏

やいば。〔集韻〕𢨜、刃也。

【戲】11681

㊀キ　〔集韻〕香義切　ㄒㄧˋ hsi4　寘
㊁キ　〔集韻〕驅爲切　支
㊂イ　〔集韻〕於宜切　支
㊃コ　〔集韻〕荒胡切　ㄏㄨ hu1　虞
㊄サ　〔集韻〕桑何切　歌
㊅キ　〔集韻〕吁爲切　支
〔慣〕ゲ・ギ

小篆

㊀❶たはむれる。㋑談笑して興ずる。謔(10－35810)に通ず。〔說文通訓定聲〕戲、叚借爲レ謔。〔禮、坊記〕閨門之內、戲而不レ嘆。〔注〕戲、謂二孺子言笑者一也。㋺あそぶ。〔張衡、東京賦〕渚戲躍魚。〔注〕綜曰、戲、游也。㋩ざれる。たはける。おどけをいふ。〔詩、衞風、淇奧〕善戲謔兮。〔詩、大雅、板〕無二敢戲豫一。〔傳〕戲豫、逸豫也。〔呂覽、重言〕余一人與レ虞戲也。〔注〕戲、不レ誠也。㋥からかふ。〔集韻〕戲、弄也。㋭すまふ。力をくらべる。〔國語、晉語九〕請與レ之戲。〔注〕戲、角レ力也。㋬技を演ずる。〔孔子家語、相魯〕俳優侏儒戲二于前一。❷たはむれ。なぐさみ。あそび。〔魏志、蘇則傳〕以二獵戲一多殺二羣吏一。〔晉書、夏統傳〕卿居二海濱一、能隨二水戲一乎。❸**演技。演劇**。〔史記、孔子世家〕優倡爲レ戲而前。〔漢書、貢禹傳〕詔罷二角抵諸戲一。〔晉書、王戎傳〕於二宣武場一觀レ戲。❹**はた**。はたさしもの。〔說文〕戲、三軍之偏也、从レ戈䖒聲。〔段注〕史漢項羽紀高帝紀皆曰、諸侯罷二戲下一、各就レ國、師古曰、戲、軍之旌旗也。❺**武器の名**。〔說文〕戲、一曰、兵也。〔段注〕一說、謂二兵械之名一也。❻**たたかふ**。〔正字通〕戲、左傳、楚成得臣、與二晉文公一遇曰、請與二君之士一戲、注、戲者兵也、猶レ言二以レ兵相見一也。❼**つきる**。歇(6－16141)に通ず。〔說文通訓定聲〕戲、叚借爲レ歇。〔方言、十〕戲、歇也、楚謂二之戲一。❽**いかる**。〔方言、六〕戲、怒也、齊曰レ戲。❾**かなしむ**。〔廣雅、釋詁〕戲、悲也。❿**ほどこす**。〔廣雅、釋詁三〕戲、施也。⓫**のり。ただしい**。義(9－28504)に通ず。〔說文通訓定聲〕戲、叚借爲レ義、禮含文嘉・風俗通皇覇、皆云、戲、獻也、法也。⓬**山名**。〔國語、魯語上〕幽滅二於戲一。〔注〕戲、戲山、在二西周一。⓭**邑の名**。〔逸周書、世俘解〕呂他命伐二越・戲・方一。〔注〕越・戲・方、紂三邑也。⓮**姓**。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕戲氏、伏羲氏之後也、音義、亦去聲、魏志有二戲志才一、潁川人。㊁❶**かたむく**。〔廣雅、釋詁二〕戲、衺也。〔集韻〕戲、傾側也。〔周禮、春官、喪祝、注〕執レ披備二傾戲一。❷**けはしい**。陒(11－41630)に通ず。〔漢書、杜周傳贊、業因レ勢而抵レ陒、注〕師古曰、一說、陒、讀與レ戲同、戲亦險也。❸**ああ**。嘆辭。或は嚱(2－4579)に作る。〔集韻〕戲、嗚戲、嘆辭、或从レ口。❹犧(7－20209)に通ず。〔說文通訓定聲〕戲、叚借爲レ犧。〔左氏、僖、二十一〕太皞伏戲。〔釋文〕戲、本或作レ犧。㊂**けはしい**。陭(11－41686)に同じ。〔集韻〕陭、說文、上黨陭氏阪、或作レ戲。㊃**息をはく。又、嘆辭**。呼(2－3471)に同じ。乎(1－136)に通ず。〔集韻〕呼、說文、外レ息也、一說、於呼、嘆辭、或作レ戲。〔經傳釋詞、四〕詩文王傳曰、於、歎詞也、一言則曰レ於、下加二一言一、則曰二於乎一、或作二於戲一、或作二烏呼一、其義一也。〔正字通〕戲、刊謬正俗曰、歎辭也、或嘉美或傷悲、末代文士輒爲二體例一、若二哀誄祭文一、即爲二嗚呼一、封拜冊命、即爲二於戲一。〔詩、周頌、烈文〕於戲前王不レ忘。㊄**さかだる**。翡翠で飾つたもの。犧(7－20209)に同じ。〔集韻〕犧、酒尊名、飾以二翡翠一、鄭司農說、或作レ戲。〔周禮、春官、司尊彝〕其朝踐用二兩獻一。〔釋文〕兩獻、本或作レ戲、注、作レ犧、同素何反。㊅**はた**。はたさしもの。麾(12－4789

9)に同じ。〔說文通訓定聲〕戲、叚借爲レ麾。〔集韻〕麾、旗屬、或作レ戲。〔漢書、項籍傳〕戲下騎從者八百餘人。〔注〕師古曰、戲、大將之旗也、漢書通以レ戲爲二旌麾及指麾字一。

【戲衣】1 hsi⁴ i¹ 俳優の衣裳。芝居用の衣裳。

【戲游】2 ギイウ たはむれあそぶ。〔漢書、貢禹傳〕諸官奴婢十萬餘人、戲游亡レ事。

【戲遊】3 ギイウ たはむれあそぶ。〔楚辭、王逸、九思、逢尤〕嚴二載駕一兮出戲遊、周二八極一兮歷二九州一。〔崔國輔、祓禊應制詩〕鴉鷺千官列、魚龍百戲遊。

【戲院】4 hsi⁴ yüan⁴ 演戲場。劇場。

【戲詠】5 ギエイ たはむれの詩歌。〔王羲之、戲詠帖〕得二君戲詠一。

【戲嬰】6 ギエイ 俳優の年若いもの。又、あそびたはむれる子供。〔高啓、戲嬰圖詩〕嬌嬰爭二晚戲一、少婦鬪二春粧一。〔錢選、題二宮姬戲嬰圖一詩〕日長無事宮中樂、閒與二諸姬一伴二戲嬰一。

【戲宴】7 ギエン 喜び遊ぶ宴。〔魏志、三少帝、齊王芳紀〕因從容戲宴、兼省二文書一。

【戲捐】8 hsi⁴ chüan¹ 劇場稅。

【戲園】9 ギエン 劇場。芝居小屋。〔淸會典事例、都察院、五城〕乾隆二十七年奏准、前門外戲園酒館、倍二多於前一。

【戲下】10 キカ 大將旗の在る所。轉じて、大將に直屬する者。はたもと。麾下。旗下。〔史記、淮陰侯傳〕信杖レ劍從レ之居二戲下一。〔注〕集解曰、戲、一作レ麾。〔漢書、高帝紀上〕諸侯罷二戲下一各就レ國。〔漢書、項籍傳〕戲下騎從者、八百餘人。〔注〕師古曰、戲、大將之旗也、漢書通以レ戲爲二旌麾及指麾字一。

【戲界】11 hsi⁴ chieh⁴ 劇界。

【戲考】12 ギカウ 書名。一冊。民國、王大錯撰。戲曲に關する考證をなしたもの。

【戲行】13 ギカウ たはむれのおこなひ。眞面目でない行。〔中論、法象〕身無二戲謔之行一。

【戲客】14 ギカク たはむれの客。〔後漢書、皇甫規傳〕酒徒戲客、皆耳納二邪聲一、口出二諂言一。

【戲樂】15 ギガク ㊀民間に行はれる俗樂。吟叫(2－3330・・25)の㊁を見よ。〔事物紀原、博奕嬉戲部、吟叫〕市人採二其聲調一、間以二詞章一、以爲二戲樂一也、今盛行二於世一、又謂二之吟叫一也。㊁ギラク 戲れたのしむ。〔列子、黃帝〕終日夜以レ此爲二戲樂一、國殆成レ俗。〔管子、四稱〕馳騁無レ度、戲樂笑語。〔漢書、刑法志〕增二講武之禮一、以爲二戲樂一、用相夸視。

【戲狎】16 ギカフ たはむれなれる。ふざけたはむれる。〔史記、循吏、子產傳〕爲レ相一年、豎子不二戲狎一、斑白不二提挈一、僮子不レ犂レ畔。

【戲姦】17 hsi⁴ chien¹ 諧戲に託して婦女を姦すること。調姦。

【戲戲】18 ギギ ㊀峙ち傾くさま。けはしいさま。〔枚乘、七發〕險險戲戲、崩二壞陂池一。〔注〕翰曰、險戲、危貌。㊁hsi⁴ hsi⁴ 笑ひたはむれる。ふざける。

【戲毬】19 ギキウ まりをもてあそぶ。〔夢溪筆談、樂律一〕海州士人李愼言、嘗夢至二一處一、水殿中觀二宮女戲毬一。

【戲脚】20 hsi⁴ chiao³ 役者。俳優。

【戲謔】21 ギギヤク たはむれおどける。ふざける。又、おどけ。じやうだん。詼謔。〔詩、衞風、淇奧〕善戲謔兮、不レ爲レ虐兮。〔後漢書、皇甫規傳〕畜レ貨聚レ馬戲謔。〔謝靈運、齋中讀レ書詩〕懷抱觀二古今一、寢食展二戲謔一。

【戲魚】22 ギギヨ たはむれあそぶうを。遊魚。〔王僧孺、春日寄二鄉友一詩〕戲魚兩相顧、游鳥半藏レ雲。

〔戲魚翁〕23 ギギヨヲウ 宋、劉次莊(2－2224・・1016)の號。

〔戲魚堂〕24 ギギヨダウ 堂の名。江西省新淦縣の東。東山の下。宋の劉次莊の居た處。〔名勝志〕東山有二永壽寺一、宋元祐閒、長沙劉次莊謫二居於此一、自號二戲魚翁一、摹二淳化禁中帖十卷一、刻レ石置二堂中一。

〔戲魚堂帖〕25 ギギヨダウテフ 宋代の臨江帖をいふ。宋の元祐年間、劉次莊が、家藏の淳化帖十卷を臨江で摹刻したもの。〔法帖譜系〕臨江戲魚堂帖、元祐閒、劉次莊以二家藏淳化閣帖一摹刻、除二去卷尾篆字一而增二釋文一。

【戲曲】26 ギキヨク 演劇脚本。淨瑠璃院本。ドラマ等のやうに節譜をつけて芝居に演ずるやうに作つた文章、又は筋書。中國の戲曲は、王侯貴族の娛樂に供した倡優の歌舞、及び滑稽的の言動、及び神を祭る用に供した巫覡の祭祀的歌舞などにその源を發した。巫は殷代からあり、其の歌舞の形態は楚辭の九歌に依つて知ることが出來る。漢代に於ては、倡優の外、宮庭で轂抵・奇伎等の一種の野外劇が盛行し始め、南北朝末期に北朝では、西域文化の輸入と共に、音樂及び歌舞に一新生面が開かれ、北齊の頃より歌舞に現實的社會上の事件を扮演することが起つた。代面・踏搖娘・撥頭の如きが是である。唐代に入つても此等を繼承し、其の他參軍戲といふ滑稽問答を主とする一種の戲劇が起つた。これは問答と歌曲とを交へ、卽ち唱も科白も備へて、幼稚ながら戲曲の體を整へた。唐の玄宗は尤も音樂歌舞を好み、敎坊を置き、立部伎・坐部伎を設け、散樂倡優の伎を奬勵した。宋代に入り、參軍戲は進化して雜劇を生じた。雜劇の組織は豔段(一段)・正雜劇(兩段)・雜份(一段)の三部分四段に分れ、俳優の種別卽ち脚色に至つては末泥・引戲・副淨・副末・裝孤・裝旦・把色の七種がある。南宋の時、北方の金に於ても略ぼ同樣の劇が行はれ、之を院本と稱した。此等は滑稽劇ばかりでなく古今の故事を演じ、略ぼ正劇の域に達した。故に眞正の戲曲の發達は宋金の雜劇・院本を起點としてゐる。元が中原に據るや、大都、卽ち今の北京を中心に一種の新劇が興り、當時之を院本と呼んだが、後に雜劇、或は傳奇と稱した。元初の新戲を創製した者は金末元初の人、關漢卿であると傳へられてゐる。雜劇は一本四折を通例とし、楔子といふ序幕・中幕に類するものを插入する。脚色は著しく增加し、正旦・副末・冲末・外末・小末・淨・副淨・中淨・孤・正旦・貼旦・花旦・搽旦・色旦・外旦・大旦・小旦・老旦・丑で、一劇は四折共に主役一人の獨唱で、正末が主演するものを末本といひ、正旦のものは旦本といふ。一折は音樂の十二宮調中の一調を採り、其の調に屬する小曲を數個排列し、之に科白を加へて成立する。雜劇は每句末に十中八九まで押韻し、一折の間は一韻で到底する。使用韻は中州音といはれ、十九部に分れ、每部、平・上・去三聲に分ち、入聲は失はれて他の三聲に轉入してゐる。雜劇は皆最後に二句或は四句の題目正名といふものがあり、其の末句を以て雜劇の名としてゐる。元が南宋を滅して天下を一統し、北曲も其の勢日に盛に、南曲を壓倒すること殆んど一百年。其の作者も初めは北人だけであつたが、一統後は却つて南人が多く、遂に北曲雜劇の中心は南方に移つた。代表作家として關漢卿・馬致遠・鄭德輝・白仁甫の四家が並稱せられ、或は王實甫・喬吉甫を配して六家といふ。現存の元の雜劇は凡そ百三十種を算するが、其の中の大部分は古今雜劇・元曲選・元明雜劇の三書の中に收められてゐる。南宋滅亡後、其の舊來の南方の雜劇は、戲文或は南戲と改稱されて命脈を保つてゐたが、其の勢は萎靡して振はなかつた。然し北方の雜劇が南方に移入されてから、之に刺戟されて南方の戲曲は改進し、高則誠の琵琶記は、戲文中興の祖となり、之と同時代に拜月亭・荊釵記・白兎記・殺狗記が出て、元の四大家と稱せられた。戲文は雜劇に比して概ね六七倍の長篇で、一段を一齣といひ、雜劇の一折よりは短く、一劇は上下二卷に分れるのが通例で、第一齣は一劇の序詞となし、第二齣以下は唱科白を以て演ずる。其の後、明の成化頃迄は、戲文に著名の作なく、成化・弘治頃より傑作出で、萬曆中は戲文の最盛期であつた。江蘇省吳江に沈璟が出で、蔚然として一派を成した。之に對して江西省臨川の湯顯祖は、玉茗堂四夢の傑作を出し、琵琶以來の第一人者とせられた。其の後、明末淸初にかけて沈璟の流と、湯顯祖の流の二派があり、明の戲文は概して文采が盛であるが、其の中にも本色を主とする派と文辭を修飾する派とあつた。淸初、康熙中にも作者多く出で、中にも洪昇の長生殿、孔尙任の桃花扇が雙璧とせられる。乾隆中の蔣士銓の藏園九種曲には佳作が少なくないが、戲曲は彼を最後として衰運に向ひ、爾後見るべき作品が出なかつた。戲文に用ひられた樂曲は、元より明の中葉にかけて地方によつて派別が生じ、浙江省海鹽から海鹽腔、江西省弋陽から弋陽腔、浙江省餘姚から餘姚腔が起つた。南曲に用ひる樂器は太鼓と拍板が主で、之に笛を加へたが、正德中に江蘇省崑山に魏良

輔が出で、海鹽・弋陽の二腔に本づいて別に一派を作り、樂器も絃樂・管樂を增し、之を崑曲といひ、次第に盛行して他腔を壓倒した。清の乾隆末年より陝西・湖北等の土戲が中央に進出し、崑曲の勢力を侵し、當時、崑曲を雅部といひ、地方の土戲を總括して花部、或は亂彈と呼んだ。花部は時好に投じて次第に隆盛に赴き、陝西より發した西皮調と、湖北より發した二黃調が最も勢力を得、其の後、清末以來、二調は合併して皮黃調と稱し、北京が其の流行の中心となり、或は之を京調ともいひ、現今中國劇の代表物となつたが、其の曲本は鄙俗で文學的價値は低い。而して明代の戲文は、大概崑曲を以て演ぜられたが、現在崑曲は衰微の極に達し、弋陽腔も尙ほ命脈を保つてゐるが殆んど滅亡し顧られない。〔輟耕錄、院本名目〕唐有㆓傳奇㆒、宋有㆓戲曲唱諢詞說㆒、金有㆓院本雜劇㆒、諸公調院本雜劇其實一也。

〔參考書〕【戲曲攷原】一冊民國、王國維撰。【宋元戲曲史】一冊民國、王國維撰。【中國戲曲概論】一冊民國、吳梅撰。

【戲曲的】27 ギキョクテキ　戲曲らしいこと。戲曲風。

【戲曲攷原】28 ギキョクカウゲン　書名。一冊。民國、王國維撰。戲曲の起原に就いて考證す。〔晨風閣叢書、第十三冊〕・〔王忠慤書、第四集、第四冊〕。

【戲具】29 ギグ　㊀遊戲の具。〔通俗編、俳優、戲具〕吳志孫綝傳、敗㆓壞藏中矛戟五千餘枚㆒、以作㆓戲具㆒、潛夫論、或作㆓泥車・瓦狗、諸戲弄之具㆒、以巧㆓詐小兒㆒、皆無㆑益也。㊁hsi^4 chü^4　芝居の道具類。

【戲繪】30 ザレヱ　たはむれにかいた繪。おどけゑ。

【戲皇】31 ギクヮウ　伏羲(1－438‥26)を戲皇といふ。〔風俗通、皇霸〕尙書大傳說、遂人爲㆓遂皇㆒、伏羲爲㆓戲皇㆒、神農爲㆓農皇㆒也。

【戲館】32 ギクヮン　劇場。しばゐ。戲園。〔淸會典事例、兵部、儀式〕近來八旗子弟、往往沾㆓染漢人習氣㆒、於㆓淸語騎射㆒、不㆓肯專心練習㆒、拋㆓荒正業㆒、甚至㆔私去㆓帽頂㆒、在㆑外游蕩、潛赴㆓茶園戲館㆒、飲酒滋㆑事、實爲㆓惡習㆒。

【戲館子】33 hsi^4 kuan^3 tzǔ　劇場。

【戲玩】34 ギグヮン　たはむれもてあそぶ。戲弄。〔韓愈、論㆓佛骨㆒表〕直以㆓年豐人樂㆒、徇㆓人之心㆒、爲㆓京都子庶㆒、設㆓詭異之觀、戲玩之具㆒耳。〔開元天寶遺事〕奉御湯中布以㆓文瑤密石㆒、又縫㆓綿綉㆒爲㆓鳧雁㆒、於㆓水中㆒帝與㆓貴妃㆒施㆓鈒鏤小舟㆒、戲㆓玩於其間㆒。

【戲戟】35 ギゲキ　旗をつけたほこ。〔漢書、匈奴傳〕雜繒千匹、戲戟十。〔注〕師古曰、戲戟、有㆑旗之戟也。

【戲劇】36 ギゲキ　芝居。演劇。〔杜牧、西江懷古詩〕魏帝縫㆑囊眞戲劇、符堅投㆑箠更荒唐。〔蘇軾、送㆔小本禪師赴㆓法雪㆒詩〕山林等憂患、軒冕亦戲劇。〔鄧文原、題㆓開元宮圖㆒詩〕仙人好㆑幻多㆓戲劇㆒、海變㆓桑田㆒蓮變㆑碧。

【戲券】37 hsi^4 ch'üan^4　劇場入場券。

【戲劍】38 ギケン　芝居で用ひる劍。〔沈亞之、宿後自㆓華陽㆒行次㆓昭應㆒寄㆓王直方㆒詩〕川光如㆓戲劍㆒。

【戲言】39 ギゲン　たはむれにいふ言葉。じやうだん。〔論語、陽貨〕子曰、二三子、偃之言是也、前言戲㆑之耳。〔劉寶楠正義〕戲者、爾雅釋詁、戲、謔也、呂覽重言篇注、戲、不㆑誠也。〔漢書、佞幸、董賢傳〕統業至重、天子亡㆓戲言㆒。〔魏書、夏侯道遷傳〕少有㆓志操㆒、年十七、父母爲結㆓婚韋氏㆒、道遷云、欲㆑懷㆓四方之志㆒、不㆑願㆑取㆑婦、家人咸謂㆓戲言㆒、及㆑至㆓婚日㆒、求覓、不㆑知㆑所㆑在。〔張載、東銘〕戲言出㆓於思㆒也、戲動作㆓於謀㆒也。

【戲娛】40 ギゴ　たはむれたのしむ。〔王安石、詩〕憶昔與㆓胡子㆒、戲㆓娛西城幽㆒。

【戲語】41 ギゴ　たはむれの語。〔後漢書、五行志五〕內白㆑事以爲、走卒戲語不㆑可。〔蘇軾、范文正公集敍〕雖㆓弄翰戲語、率然而作㆒、必歸㆓於此㆒。

【戲鴻】42 ギコウ　文字の形の形容。鴻の戲れてゐるやうなものに喩へる。〔法書要錄〕鍾繇書、意氣密麗、若㆓飛鴻戲㆑海、舞鶴遊㆑天。〔蘇軾、冬至日與㆓諸生㆒飲詩〕和㆑詩仍醉墨、戲㆑海亂㆓羣鴻㆒。

【戲鴻堂】43 ギコウダウ　明、董其昌(9－31433‥187)の室名。

【戲鴻堂帖】44 ギコウダウテフ　十六帖。明の董其昌が刻した叢帖。初めは木刻、後、火にやかれ重ねて石に刻した。拓本に二種あり。每集後、董氏自作の長跋あり。〔珊瑚網〕沈弘嘉字叔雅、嘉興人、工㆓篆隸八分㆒、董氏戲鴻堂帖、其手摹勒㆑石也。

【戲耍】45 hsi^4 shua^3　戲れる。からかふ。〔還魂記、幽媾〕堪笑咱說的來如戲耍。

【戲采】46 ギサイ　たはむれに五采の衣を著る。親の心をたのしませること。戲綵(48)に同じ。

【戲責】47 ギサイ　博弈などの戲のために生じた借財。責は債。〔宋書、謝弘微傳〕混女夫殷叡、素好㆓樗蒲㆒、聞㆓弘微不㆑取㆓財物㆒、乃濫㆓奪其妻妹及伯母兩姑之分㆒、以還㆓戲責㆒。

【戲綵】48 ギサイ　戲綵娛㆑親を見よ。〔郭鈺、贈㆓彭將軍㆒詩〕座上衣冠戲綵日、窻前燈花讀書秋。

【戲綵堂】49 ギサイダウ　宋、眞德秀(8－23235‥343)の室名。

【戲綵娛㆑親】50 ギサイオヤヲタノシマシム　親の心をたのしませること。老萊子、年七十にして、身に五色斑爛の衣を着け、親の前で嬰兒の戲をなして親を喜ばせた故事。〔孝子傳〕老萊子至孝、奉㆓二親㆒、行年七十、著㆓五綵褊爛衣㆒、弄㆓雛鳥於親側㆒。〔書言故事、父母類、綵衣〕敍㆓父母俱存者起居㆒、用㆓綵衣婉愉㆒、高士傳、老萊子孝㆓養親㆒、年七十父母猶存、身着㆓五色褊衣㆒、爲㆓嬰兒戲於親前㆒、取㆑食上㆑堂、詐跌臥㆑地、因爲㆓兒啼㆒、欲㆓親之喜㆒。

【戲箱】51 hsi^4 hsiang^1　役者の衣裳箱。

【戲作】52 ギサク　㊀なぐさみにつくる詩文。〔杜甫、戲作寄㆓上漢中王㆒詩〕雲裏不㆑聞雙雁過、掌中貪看一珠新、秋風嫋嫋吹㆓江漢㆒、只在㆓他鄉㆒何處人。〔陸游、冬夜聽㆑雨戲作詩〕遶㆑簷點滴如㆓琴筑㆒、支㆑枕幽齋聽始奇。㊁ゲサク　なぐさみに作る文章や書物。小說や脚本等をいふ。

【戲作者】53 ゲサクシヤ　遊戲的な態度で筆をとる作家。一般に、江戶時代の小說家。又、特に江戶後半期の小說家を指していふ語。

【戲殺】54 ギサツ　角力、其の他の遊戲で過つて人を殺すこと。〔唐律、鬪訟、戲殺傷人〕諸戲殺㆓傷人㆒者、減㆓鬪殺傷㆒二等、雖㆑和以㆑刄、若㆘乘㆑高履㆑危、入㆓水中㆒以㆑故相殺傷者㆖、惟減㆓一等㆒、卽無㆓官應㆑贖而犯者、依㆓過失法㆒收贖。〔六部成語、刑部、戲殺、注解〕無意之戲、因而殺㆑人。

【戲子】55 hsi^4 tzǔ　俳優。役者。

【戲車】56 ギシヤ　㊀車を弄ぶ技。左右から車に飛乘る技。〔史記、建陵侯衞綰傳〕綰以㆓戲車㆒爲㆑郎。〔注〕集解曰、應劭曰、能左右超乘也、索隱曰、案今亦有㆓弄車之戲㆒是也。㊁馬を弄ぶ技。〔漢書、韓延壽傳〕使㆓騎士戲車弄馬盜驂㆒。〔注〕孟康曰、戲車、弄馬之技也。㊂戲を演ずる車。〔張衡、西京賦〕爾乃建㆓戲車㆒、樹㆓修旃㆒。〔注〕翰曰、旃、謂㆑旛也、建㆓於戲車上㆒。

【戲射】57 ギシヤ　弓を射る遊戲。さいだて。〔魏書、孝文五王、京兆王愉傳〕世宗每日華林戲射、衣衫騎從、往來無㆑間。

【戲倡】58 ギシヤウ　わざをぎ。役者。〔鹽鐵論、散不足〕今富者祈㆓名嶽㆒、望㆓山川㆒、椎㆑牛擊㆑鼓、戲倡舞像。

【戲書】59 ギシヨ　ざれがき。興に乘じて書きなぐる。又、樂書。〔齊家寶要〕戲㆓書硯面及几案上㆒、最爲㆓不雅㆒、切宜㆑戒㆑之。

【戲繩】60 ギジヨウ　つなわたり。〔通典、樂、散樂〕高絙伎、蓋今之戲繩者也。

【戲水】61 ギスイ　川の名。陝西省臨潼縣の東。源は驪山。北流して渭水に注ぐ。秦の二世の時、陳涉が周章等を遣して、兵を率ゐて西のかた戲に至らせ、又、項羽が關に入り、進んで戲に至つたのは此處である。西に戲亭あり、周の幽王が死んだ所である。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、臨潼縣〕戲水、源出㆓驪山鴻谷㆒、東經㆓戲亭㆒、北入㆑渭。

【戲笑】62 ギセウ　たはむれ笑ふ。〔列子、黃帝〕商亡開常無㆓慍容㆒、而諸客之技、單憊㆓於戲笑㆒。〔管子、輕重丁〕戲笑超距、終日不㆑歸。〔漢書、黥布傳〕人有㆑聞者、共戲㆓笑之㆒。

【戲媟】63 ギセツ　たはむれなれる。〔唐書、李百藥傳〕太子數戲媟無㆑度、乃作㆓贊道賦㆒以諷。

【戲船】64 ギセン　劇をする船。戲場の代用として劇を演ずる大船。〔消夏雜鈔〕。

【戲戰】65 hsi^4 chan^4　わざと眞劍に戰はぬこと。〔水滸傳、六十四回〕索超親引一支軍馬、出城衝突、吳用見了、便教軍較迎敵戲戰、地若追來、乘勢便退。

【戲錢】66 hsi^1 ch'ien^2　劇場の入場料。

【戲怠】67 ギタイ　たはむれおこたる。〔書、盤庚下〕無㆓戲怠㆒、懋建㆓大命㆒。

【戲臺】68 hsi^4 t'ai^2 舞臺。〔水滸傳、五十一回〕戲臺上、卻做笑樂院本。

【戲啁】69 ギタウ たはむれる。ふざける。じやうだんをいふ。〔蜀志、李譔傳〕體輕脫、好二戲啁一。

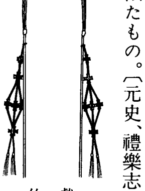
【戲猱】70 ギダウ たはむれあそぶ猿。〔李咸用、早秋遊二山寺一詩〕攀援笑二戲猱一。

【戲單】71 hsi^4 tan^1 演劇の番附。〔紅樓夢、十一回〕尤氏叫挐戲單來、讓鳳姐兒點戲。

〔戲單兒〕72 hsi^4 tan^1 êrh 演劇の番附。

【戲談】73 ギダン たはむれの談話。〔詩、小雅、節南山〕憂心如レ惔、不二敢戲談一。

【戲竹】74 ギチク 音樂を止める時に用ひる竹で、作り方はささらに似たもの。〔元史、禮樂志五〕戲竹、制如レ籈、長二尺餘、上繫二流蘇香囊一、執而偃レ之以止レ樂。


戲竹
（丹陛樂器圖）

【戲場】75 ギヂヤウ 劇場。演藝場。〔事物紀原、博弈嬉戲部、戲場〕通典曰、煬帝大業二年、突厥染干來朝、帝欲レ夸レ之、追二四方散樂一、大集二東都一、自レ是每歲正月、萬國來朝、留至二十五日一、於二端門外一列爲二戲場一。

【戲亭】76 ギテイ 亭の名。陝西省臨潼縣の東北。驪山の下、戲水の西。又、幽王城といふ。周の幽王が犬戎に敗られて殺されたところ。〔後漢書、郡國志一〕新豐、有二戲亭一。〔水經、渭水注〕渭水、又東戲水注レ之、水出二麗山馮公谷一東北流、又北逕二麗戎城東一、春秋晉獻公五年、伐レ之、獲二麗姬于是邑一、麗戎男國也、姬姓秦之麗邑矣、又北右總三川逕二鴻門一東、又北逕二戲亭東一、應劭曰、戲弘農湖縣西界也、地隔二諸縣一、不レ得レ爲二湖縣西一、蘇林曰、戲、邑名、在二新豐東南四十里一、孟康曰、乃水名也、今戲亭是也、昔周幽王悅二褒姒一、姒、不レ笑、王乃擊レ鼓擧レ烽、以徵二諸侯一、諸侯至無レ寇、褒姒乃笑、王甚悅レ之、及二犬戎至一、王又擧レ烽以徵二諸侯一、諸侯不レ至、遂敗二幽王于戲水之上一、身死二于麗山之北一、故國語曰、幽滅者也。

【戲鳥】77 ギテウ 戲れ遊ぶ鳥。〔梁簡文帝、山池詩〕魚遊向レ闇集、戲鳥逗レ楂流。〔王融、後園作迴文詩〕花餘拂二戲鳥一、樹密隱二鳴蟬一。

【戲適】78 ギテキ 心のままにあそびたのしむ。〔南史、王僧虔傳〕父曇首與二兄弟一集會、子孫任二其戲適一。

【戲蝶】79 ギテフ たはむれてゐる蝶。〔盧照鄰、長安古意〕啼花戲蝶千門側、碧樹銀臺萬種色。〔杜甫、江畔獨步尋レ花詩〕留連戲蝶時時舞、自在嬌鶯恰恰啼。

【戲賭】80 ギト たはむれにかけごとをする。〔晉書、謝玄傳〕玄少好佩二紫羅香囊一、安患レ之而不レ欲レ傷二其意一、因戲賭取、卽焚レ之、於レ此遂止。

【戲頭】81 ギトウ 役者の一種。劇中の主人公。たちやく。宋に戲頭といひ、元に末といふ。〔莊嶽委談〕宋雜劇名、惟武林舊事足レ徵、每甲八人者有二戲頭一、有二引戲一、有二次淨一、有二副末一、有二裝旦一、以レ今憶レ之、宋之所謂戲頭、卽生也、引戲卽末也、副末卽外也、次淨卽丑、裝旦卽旦、而元雜劇之末、乃今戲中之生、卽宋所謂戲頭也。

【戲馬】82 ギバ 曲馬。又、馬を弄ぶ。〔晉書、劉邁傳〕曾於二仲堪廳事前一戲馬、以レ矟擬二仲堪一。〔南史、傅弘之傳〕戲馬甚有二姿制一。

〔戲馬臺〕83 ギバダイ 臺の名。❶河南省臨漳縣の西。又閱馬臺といふ。後趙の石虎、築く。閱馬臺(**11−41341**··30)を見よ。❷江蘇省銅山縣の南。楚の項羽築く。晉の義熙中、劉裕、彭城に至り、此處にて大いに羣僚を會し詩を賦す。〔桂苑叢談〕咸通中、李蔚鎭二彭城一、於二戲馬臺一、連二玉鉤斜道一、開二創池沼亭臺一、名レ之曰二賞心一。〔讀史方輿紀要、江南、徐州〕戲馬臺、在二州城南一、高十仞廣數百步、項羽所レ築、劉裕至二彭城一、大會二軍士於此一。❸江蘇省江都縣。〔揚州府志〕戲馬臺、其下有レ路、號二玉鉤斜一、爲下隋葬二宮女一處上。

【戲報】84 hsi^4 pao^4 演劇の番付。

【戲房】85 hsi^4 fang^2 がくや。

【戲法】86 hsi^4 fa^3 魔法。手品。

〔戲法兒〕87 hsi^4 fa^3 êrh 手品。

【戲伴】88 ギハン たはむれあふ友だち。〔白居易、井底引二銀瓶一詩〕笑隨二戲伴一後園中、此時與レ君未二相識一。

【戲判】89 ギハン たはむれの判決。〔鑒誡錄〕王蜀宋開府光嗣、僥忝二樞衞一、紊二亂時政一、所レ爲妖媚、下レ筆縱橫、凡斷二國章一、多爲二戲判一、用二三軍一爲二兒戲一、將二萬機一爲二跪隨一、取二笑四方一、結二怨上下一、以至二一身受レ戮、後主遭レ誅。

【戲班】90 ギハン 俳優の一座。一班は俳優五十六人より成る。卽ち正旦三、正生一、花旦五、總生三、二腳一、二花面一、女旦一、常旦四、馬旦四、婆腳一、掌班一、拉扯一、武生二、小武生五、小生二、外腳一、武軍虎十一、六分五。〔淸會典事例、都察院、五城〕乾隆五十年議准、嗣後城外戲班、除二崑弋兩腔、仍聽二其演唱一外、其秦腔戲班交二步軍統領五城一出示二禁止一。

【戲筆】91 ギヒツ たはむれの筆。ざれがき。〔紅樓夢、三十八回〕詩餘戲筆不レ知レ狂、豈是丹青費二較量一。

【戲婦】92 ギフ 新婚の宵に、朋友親戚などが集つて新婦にからかふこと。〔抱朴子、疾謬〕俗間有二戲婦之法一、於二稠衆之中、親屬之前一、問以二醜言一、責以二慢對一、其爲二鄙黷一、不レ可レ忍レ論。

【戲㑄】93 ギブ たはむれあなどる。㑄は侮の古字。〔漢書、佞幸、淳于長傳〕窮治、長具服、戲二㑄長定宮一。〔注〕師古曰、㑄、古侮字。

【戲侮】94 ギブ たはむれあなどる。〔漢書、佞幸、淳于長傳〕戲二侮許后一、嫚易無レ不レ言。

【戲物】95 ギブツ ❶もてあそぶ物。〔酉陽雜俎、續集、支動〕烏賊魚骨如二通草一、可三以刻爲二戲物一。❷物にたはむれる。〔石抹世勣、紙鳶詩〕果物戲レ人人戲レ物、爲二風乘レ我我乘レ風。

【戲文】96 ギブン ❶劇の一體。雜劇から變化したもの。音樂と科白から成る。又、演劇の筋書をいふ。脚本の文章。〔莊岳委談〕優伶戲文、自三優孟抵二掌孫叔敖一、實始濫觴、漢宦者傳二脂粉一侍レ中、亦後世裝旦之漸。〔沈德符、顧曲雜言〕元曲總只四折、自下北有二西廂一、南有中拜月上、雜劇變爲二戲文一、以至二琵琶一、遂演爲二四十餘折一、幾二十三倍于雜劇一矣。〔周德淸、中原音韻〕南宋都レ杭、吳興與切鄰、故其戲文如二樂昌分鏡等唱念呼吸一、皆如二約韻一。〔葉子奇、草木子〕俳優戲文、始二於王魁一、永嘉人作レ之。❷滑稽文。狂文。

【戲鳳】97 ギホウ 淸代、崑曲の篇名。一名、梅龍鎭。明の風流天子正德帝が微行して梅龍鎭に至り、酒肆の女、李鳳姐を幸することを敍す。

【戲本】98 hsi^4 pen^3 脚本。

〔戲本子〕98' hsi^4 pen^3 tzu 脚本。

【戲慢】99 ギマン たはむれあなどる。〔唐書、權懷恩傳〕馭人安畢羅、爲二高宗所レ寵、見レ帝戲慢不レ恭、懷恩奏レ事適見レ之、退杖四十、帝嗟賞曰、良吏也、擢二萬年令一。

【戲面】100 ギメン 芝居に用ひる假面。〔桂海虞衡志、志器〕戲面、桂林人以レ木刻二人面一、窮二極工巧一、一枚或直二萬餘錢一。

【戲目】101 hsi^4 mu^4 芝居の番附。

【戲問】102 ギモン たはむれに問ふ。〔張說、戲題二草樹一詩〕戲問芭蕉葉、何愁心不レ開。

【戲陽】103 ギヤウ ❶春秋の邑名。初、衞に屬し、後、晉に屬す。故城は河南省內黃縣の北。〔左氏、昭、九〕晉荀盈如レ齊逆レ女、還、六月卒二於戲陽一。❷複姓。〔通志、氏族略、以レ邑爲レ氏〕戲陽、晉邑也、衞有二戲陽速一爲二大夫一、晉有二戲陽扶一爲レ卿。〔萬姓統譜〕戲陽、晉邑、子孫以レ邑爲レ氏。

【戲豫】104 ギヨ あそびたのしむ。おこたりあそぶ。逸豫。〔詩、大雅、板〕敬二天之怒一、無二敢戲豫一。〔傳〕戲豫、逸豫也。〔管子、君臣上〕而戲豫怠傲者、不レ得レ敗也。〔後漢書、蔡邕傳〕詩云、畏二天之怒一、不二敢戲豫一、天戒誠不レ可レ戲也。

【戲弄】105 ギロウ 戲れもてあそぶ。又、なぐさみもの。〔史記、藺相如傳〕大王禮節甚倨、得レ璧傳二之美人一、以戲二弄臣一。〔漢書、司馬遷傳〕固主上所二戲弄一、倡優畜レ之。〔新書、匈奴〕上卽幸拊二胡嬰兒一、擣二遒之一、戲二弄之一。〔後漢書、隗囂傳〕戲二弄神祇一、歌頌禍殃。〔後漢書、方術下、公沙穆傳〕自レ爲二兒童一、不レ好二戲弄一。〔論衡、卜筮〕戲二弄天地一、亦得二兆數一。

【戲樓】106 ギロウ 劇場。〔淸會典事例、都察院、五城〕嗣後如有下呈三請建二設戲樓一者上、俱不レ准レ行。

【戲莊子】107 hsi^4 chuang^1 tzŭ 料理屋で舞臺の設備あるもの。

【戲志才】108 ギシサイ 三國、魏の潁川の人。籌畫に巧。曹操甚だこれを器とす。早く卒した。〔後漢書、

一百〕。

【戲婆子】109 hsi^4 pʻo^2 tzŭ 女優。

【戲螞蟻】110（ギバ）組別けして遊ぶ仲間。〔揚州畫舫錄〕團班之人、蘇州呼爲二戲螞蟻一。

【戲牌子】111 hsi^4 pʻai^2 tzŭ 演劇の藝題を書いたびら。

【戲學彙考】112（ギガクヰカウ）書名。二册。民國、大東書局編刊。

【⿱丵伐】11682 ベツ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱丵伐、音滅。

【⿹戈⿱大馬】11683 ゾク 義未詳。〔五音篇海〕⿹戈⿱大馬、音賊。

十四畫

【戳】11684 タク 〔篇海〕敕角切 ㄔㄨㄛ chʻuo^1 覺。

❶さす。つく。〔篇海〕戳、槍戳也。❷現 ㋑印を捺す。㋺印判。スタンプ。

【戳印】1 chʻuo^1 yin^4 ❶印を捺す。捺印する。❷印章。

【戳記】2 chʻuo^1 chi^4 官府から人民に給付する證明書等の結尾に捺印する印。戳袋(9)を見よ。

【戳紗】3 chʻuo^1 sha^1 ❶紗に刺繡する。❷五彩の刺繡模樣のある紗。

【戳子】4 chʻuo^1 tzŭ 印。印章。認印。

【戳死】5 chʻuo^1 ssŭ^3 つきころす。

【戳傷】6 chʻuo^1 shang^1 突き傷つける。又、刺し傷。

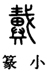
【戳心】7 chʻuo^1 hsin^1 激する。鼓舞する。

【戳錢】8 chʻuo^1 chʻien^2 捺印料。

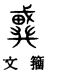
【戳袋】9（タクタイ）米袋の上に捺印すること。〔六部成語、戶部、戳袋、解〕印二蓋戳三記於米袋之上一也。

【戳薄】10 chʻuo^1 po^2 罵る。責める。

【戴】11685 ㈠タイ 〔集韻〕丁代切 ㄉㄞ tai^4 隊 ㈡サイ 〔中華大字典〕作代切 隊



小篆



籀文（本注段）

㈠❶いただく。㋑頭に物をのせる。〔集韻〕戴、載也、戴、一曰、首戴。〔釋名、釋姿容〕戴、載也、載二之於頭一也。〔孟子、梁惠王上〕頒白者不三負二戴於道路一矣。〔孝經援神契〕日抱戴。〔注〕在レ上曰レ戴。㋺おしいただく。あがめる。尊奉する。〔書、大禹謨〕衆非二元后一何戴。〔國語、周語上〕欣戴二武王一。〔注〕戴、奉也。〔國語、晉語五〕然而民不レ能レ戴二其上一久矣。〔注〕戴、奉也。㋩よろこぶ。うける。〔國語、晉語三〕民實戴レ之。〔注〕戴、欣戴也。㋥恩に思ふ。〔吳志、朱桓傳〕士民感二戴之一。〔北史、宇文護傳〕草木有レ心、禽魚感レ澤、況在二人倫一、而不二銘戴一。❷おほふ。〔小爾雅、廣詁〕戴、覆也。❸あふ。あたる。〔爾雅、釋地〕北戴二斗極一爲二空桐一。〔注〕戴、値也。❹感ずる。おもふ。〔淮南子、繆稱訓〕凡行戴レ情。〔注〕戴、心所レ感也。〔舊唐書、韋處厚傳〕天地百神之所二鑒臨一、億兆八紘之所二瞻戴一。❺棺材を結束するひも。〔禮、喪大記〕士戴、前纁後緇。〔疏〕戴、當レ棺束。❻ふえる。もと戴(5－11690)に作る。〔正字通〕戴、本作レ戴。〔說文〕戴、分レ物得二增益一也、从レ異𢦏聲。〔段注〕釋訓曰、蓁蓁・孽孽、戴也、皆謂レ加レ多也。❼なげく。〔淮南子、繆稱訓〕意而不レ戴。〔注〕戴、嗟也。❽或は載(10－38309)に作る。〔爾雅、釋山〕石戴レ土。〔釋文〕戴、本或作レ載。〔集韻〕戴、或作レ載。❾古は戴(5－11666)に作る。〔集韻〕戴、古作レ戴。❿諡。〔逸周書、諡法解〕典禮無レ徭曰レ戴、愛レ民好レ治曰レ戴。⓫姓。〔通志、氏族略〕戴氏、有レ二、國爲二鄭所レ滅、子孫以レ國爲レ氏、又、宋戴公之後、亦爲二戴氏一。⓬國の名。㈡に同じ。〔集韻〕戴、一曰、國名。㈡國の名。周代の一國。子姓。春秋の時、鄭に入る。河南省考城縣の東南。〔春秋、隱、十〕宋人蔡人衞人伐レ戴。〔釋文〕載、音再、字林作レ戴。〔會箋〕公・穀作レ載。〔淸一統志〕鄭取レ戴、改名二穀城一、秦置二菑縣一、東漢改二考城一。邦 いただく。㋑恭しく物を捧げて目より高く上げ、感謝又は尊敬の意を表はす。㋺他に或る事をしてもらふ意の敬語。

解字 形聲會意。異をもととし、𢦏の聲。𢦏は裁の省文、異は分つ。物を分つて增益する。又、𢦏に裁節の意があるから、異と𢦏との合字で會意を兼ねる。いただく。

【戴安】1（タイアン）南唐の人。字は寧叔。諡は忠恭。官は檢校國子祭酒・監察御史・上柱國。〔尙友錄、十八〕。

【戴易】2（タイイ）淸、浙江山陰の人。字は南枝。號は西照頭陀。少くして劉宗周に從學し、徐枋と極めて親交あり、老友と稱す。枋死して貧甚だしく、葬事を經營するに字を賣つて之を給す、故に八分に巧。〔淸史稿、五百六〕・〔國朝耆獻類徵、四百七十八〕・〔國朝先正事略、四十五〕。

【戴焴】3（タイイク）元、婺源の人。字は晉翁。號は瑤山。弟の熠、字は召翁、號は蒼山、及び炯、字は恕翁、號は絜矩と、父に事へて至孝。家に藏書萬卷あり、歷代人臣正邪龜鑑を著はす。時人、三戴といふ。〔尙友錄、十八〕。

【戴雲】4（タイウン）山名。又、佛嶺といふ。福建省德化縣の西北。山頂に池があり、龍潭といふ。閩省の分水嶺。鐵を產す。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、德化縣〕戴雲山、高二聳霄漢一、雄二跨十里一、嘗有二雲氣一覆レ之、巓有レ池、深不レ可レ測、分爲二九派一、下注二九溪一、一曰張巖、二曰盧地水、皆北流、三曰雙芹、四曰馬槽場、五曰上洋、六曰上雲、七曰中興坑水、皆東流、八曰東埔、九曰李山水、皆南流、灌二注縣境一、又西里許、曰二太湖山一、盤踞數里、形勢峻拔、四面崔嵬、上有二奇峯一、羅二列十二山一、巓平廣數丈、內有レ池丈餘、影涵二太虛一、一碧如レ鏡、因名二太湖一、俗曰二龍湖一、又名二青草湖一、山形如レ船、亦名二飛船山一。

【戴英】5（タイエイ）明、宜興の人。字は上愼。崇禎の進士。著に禹門寺志がある。〔四庫提要、七十七〕。

【戴璟】6（タイエイ）明、奉化の人。字は孟光。號は石屛。嘉靖の進士。官は僉都御史。廣東に巡撫す。著に廣東通志初稿・五經會同・羣臣品藻・漢唐通鑑品藻がある。〔蘭臺法鑒錄、十五〕。

【戴纓】7（タイエイ）明、長洲の人。字は淸之（靑之）。山水畫に巧。〔明畫錄、八〕。

【戴說】8（タイエツ）いただきよろこぶ。〔呂覽、愼人〕丈夫女子、振振殷殷、無レ不二戴說一。

【戴淵】9（タイエン）晉、廣陵の人。字は若思。諡は簡。孝廉に擧げられ、官は豫章太守・振威將軍・義軍都督。賊を討つの功を以て、爵秣陵侯を賜はる。王敦、兵を擧げるや、驃騎將軍に進められ、壘を大桁の北に築く。尋いで王師敗績す。敦、素より淵を怨み之を害す。〔世說新語、容止〕。

【戴淵峯穎】10（タイエンホウエイ）蒙求の標題。晉の戴淵の風采が特に目立つて優れてゐた故事。〔世說新語、自新〕戴淵少時遊俠、不レ治二行檢一、嘗在二江淮閒一、攻二掠商旅一、陸機赴レ假還レ洛、輜重甚盛、淵使二少年掠劫一、淵在二岸上一據二胡牀一、指二麾左右一、皆得二其宜一、淵既神姿峯穎、雖レ處二鄙事一、神氣猶異、機於二船屋上一、遙謂レ之曰、卿才如レ此、亦復作レ劫邪、淵便泣涕、投レ劍歸レ機、辭厲非常、機彌重レ之、定レ交。

【戴遠】11（タイエン）淸、新安の人。字は士宏。號は穀齋。吳門に僑寓す。畫に巧。早歲都門に游び、南巡盛典を修するに與かる。〔國朝書畫家筆錄、二〕・〔墨香居畫識、九〕。

【戴檟】12（タイカ）明の人。浩の子。字は育之。號は茂軒。官は連城教諭。著に茂軒稿がある。〔尙友錄、十八〕。

【戴亨】13（タイカウ）宋の人。良齊の從子。字は子元。

丘漸に從學し、人に教ふるに自ら欺く毋れを以て第一義とす。自ら蠢翁と號す。著に太極圖說・人心道心說・近思錄補注・米子詩解・北溪字義辨正がある。〔宋元學案、六十六〕。

【戴浩】14（タイカウ） 明の人。安仲の從孫。字は彥黃。號は默菴。永樂の擧人。官は雷州の守。後、肇昌府に遷る。饑歲に邊儲三萬七千餘石を矯發して賑救し、上疏して自ら劾するも優詔ありて原官に留る。詩及び書畫に巧。著に默菴詩稿がある。〔明史、二百八十二〕・〔萬斯同明史、三百九十〕・〔國朝獻徵錄、九十四〕。

【戴鎬】15（タイカウ） 清、吳興の人。字は芑塘。畫に巧。

【戴豪】16（タイガウ） 明、台州太平の人。字は師文。成化の進士。官は兵部主事・職方郎中。後、廣東右參政に至る。著に贅言錄がある。〔四庫提要、一百九十二〕。

【戴鰲】17（タイガウ） 明の人。櫝の子。字は時鎭。號は靜山。弘治の進士。官は太和知縣。後、潯甸知府。〔國朝獻徵錄、一百二〕・〔本朝分省人物攷、四十八〕。

【戴角】18（タイカク） 角を生やしてゐること。〔史記、律書〕自二含レ血戴レ角之獸一、見レ犯則校。〔孔子家語、執轡〕四足者無二羽翼一、戴角者無二上齒一。

【戴鶡】19（タイカツ） 鶡冠をいただく。鶡は鳥の名。〔張衡、東京賦〕髻髦被レ繡、虎夫戴レ鶡。〔注〕善曰、應劭曰、鶡、鷙鳥也、鬪至レ死乃止、令二武士載一レ之、取レ猛也、司馬彪續漢書曰、虎賁騎皆鶡冠。

【戴干】20（タイカン） 干をいただいたやうな異なつた人相。〔合誠圖〕帝嚳方頤、龐覗珠庭、仳齒戴干。〔注〕覗音周、下目也、元命苞云、帝俈戴干。

【戴瀚】21（タイカン） 清、上元の人。字は巨川。號は雪村・鎭東。雍正の進士。官は侍讀學士。事を以て吳に謫せらる。詩に巧。性、梅を愛す。著に探梅集・雪村詩稿がある。〔國朝耆獻類徵、一百二十五〕・〔詩畫家詩史、丙、上〕。

【戴眼】22（タイガン） 眼球を動かさずに上を見るまなこ。〔素問、診要經絡論〕岐伯曰、太陽之脈、其終也、戴眼・反折・瘈瘲。〔注〕戴眼、謂二睛不一レ轉而仰視一也。

〖戴眼鏡〗23 tai^4 yen^3 ching^4 眼鏡をかける。

【戴己】24（タイキ） 春秋魯、敬姜(**5**－13303・49)の號。

【戴記】25（タイキ） 小戴記をいふ。今の五經中の禮記。禮記(**8**－**24844**・31)を見よ。〔陸倕、石闕銘〕戴記顯二游觀之言一、周史書二樹闕之夢一。〔注〕善曰、禮記戴聖所レ傳、故號二戴記一。

【戴氣】26（タイキ） 太陽の上に環つてゐる赤氣、又は黃氣。〔元稹、辨二日旁瑞氣一狀〕五色慶雲、蓋是小瑞、戴氣抱珥、所謂殊祥。〔注〕有三赤氣橫在二日上一、謂二之戴一、青赤短小在二日旁一、謂二之珥一、微曲向レ日、謂二之抱一、皆瑞徵也。〔宋史、天文志五〕凡黃氣環在二日左右一爲二抱氣一、居二日上一爲二戴氣一、爲二冠氣一、居二日下一爲二承氣一、爲二履氣一、居二日下左右一爲二紐氣一、爲二纓氣一、抱氣則輔臣忠、餘皆爲レ喜爲レ得二地吉一。

【戴逵】27（タイキ） 晉、譙國の人。字は安道。性、高潔。詩文書畫を善くし、鼓琴に巧。武帝の時、累りに徵されたが就かず、高士を以て自ら任ず。〔晉書、九十四〕。

〖戴逵破琴〗28（タイキハキン） 蒙求の標題。晉の戴逵、琴を能くす。武陵王晞、之を聞いて召さしめるに、逵、使者に對して琴を破り、王門の伶人とならずといつた故事。〔晉書、隱逸、戴逵傳〕戴逵、字安道、譙國人也、少博學好二談論一、善屬レ文、能鼓レ琴、工二書畫一、云云、太宰武陵王晞聞二其善鼓一レ琴、使二人召一レ之、逵對二使者一破レ琴曰、戴安道不レ爲二王門伶人一、晞怒乃更引二其兄述一、述聞レ命欣然擁レ琴而往。

【戴熙】29（タイキ） 清、錢塘の人。字は鹿牀。號は醇士・蒓溪・習苦齋・井東居士・松屛・榆菴・攡牀居士。謚は文節。道光の進士。官は兵部右侍郎。咸豐中、洪楊の軍、杭州を陷れるや、熙、絕命の詞を賦し、池に投じて死す。尙書の銜を贈らる。其の畫は神品に入る。著に畫絮・粤雅集がある。〔清史稿、四百五〕・〔清史列傳、四十一〕・〔續碑傳集、五十四〕。

【戴葵】30（タイキ） 明、鄮都の人。著に仙都山志がある。〔四庫提要、七十六〕。

【戴璣】31（タイキ） 清、長泰の人。字は利衡。號は紫杓。順治の進士。官は康熙中、廣西右江道。尋いで致仕して歸る。會〻耿精忠叛し、これを脅かして降さうとしたが屈せず、密室に幽せられ、血、數升を嘔いて死す。〔清史稿、四百九十三〕・〔國朝耆獻類徵、三百四十四〕・〔碑傳集、一百二十〕。

【戴錡】32（タイキ） 清、嘉興の人。字は坤鑒。監生となる。詞に巧。書室を魚計莊といひ、著に魚計莊詞がある。

【戴鱀】33（タイキ） 明の人。鯨の弟。字は時重。號は東石。正德の進士。歷遷して四川僉事に至り、時宰に忤らつて職を奪はれ、家居すること八年、復た、河南僉事に起用され、左都御史となり、四川に巡撫す。著に戴中丞遺集がある。〔國朝獻徵錄、二〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、三十六〕。

【戴羲】34（タイギ） 明の人。字は馭長。官は崇禎中、光祿寺典簿。著に養餘月令がある。〔四庫提要、六十七〕。

【戴丘】35（タイキウ） 南側に道のある丘。〔爾雅、釋丘〕途出二其前一、戴丘。〔注〕道出二丘南一。〔疏〕謂、道過二丘南一、若レ爲二道負戴一、故爲二戴丘一。

【戴筐】36（タイキヤウ） 星の名。其の形が筐に似てゐるので此の名がある。〔漢書、天文志〕斗魁戴筐六星、曰二文昌宮一。〔注〕晉灼曰、似レ筐、故曰二戴筐一。

【戴仰】37（タイギヤウ） いただき仰ぐ。〔後漢書、皇后上、馬皇后紀〕戴二仰陛下一、爲レ天爲レ父。

【戴珙】38（タイキヨウ） 明、澠池の人。字は廷璧。景泰の進士。御史に累遷し、布政使に終る。〔蘭臺法鑒錄、九〕・〔本朝分省人物攷、九十〕。

【戴顒】39（タイギヨウ） ❶南朝宋、譙郡銍の人。逵の子、勃の弟。字は仲若。初め勃と桐廬に隱れ、勃卒するや、吳下に移り住み、莊周の大旨を述べて逍遙論を著し、禮記中庸篇に注す。永初元嘉中、屢〻徵されるも就かず。〔宋書、九十三〕・〔南史、七十五〕。❷明の人。豪の弟。字は師觀。正德の進士。翰林に入り、庶吉士より、兵科給事中に至る。著に倦歌集・筠溪雜稿がある。〔尙友錄、十八〕。

【戴金】40（タイキン） 明、漢陽の人。字は純甫。正德の進士。官は世宗の時、御史。獨立敢言し、黃梅の石金と同じく、朝署の儀表となる。時人、目して楚に二金あり、臺中錚錚といふ。後、官は兵部尙書に至る。書室を三難軒といひ、著に三難軒質正がある。〔國朝獻徵錄、三十九〕・〔蘭臺法鑒錄、十五〕。

【戴欽】41（タイキン） 明、馬平の人。字は時亮。號は鹿原。正德の進士。官は刑部郎中。大禮を諫むるを以て、廷杖されて卒す。著に鹿原存稿がある。〔明史、一百九十二〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、三十五〕。

【戴瑾】42（タイキン） 明、黃岡の人。字は可懷。明末、義兵を聚め、寇を馬鞍山の隘に禦ぐ。賊、之を招けども降らず、薪を積みて焚き、子孫及び勇士三百餘人倶に燼す。〔崇禎忠節錄、十八〕・〔勝朝殉節諸臣錄、十二〕。

【戴栩】43（タイク） 宋の人。溪族の子。字は文子。又、立子。嘉定の進士。官は太學博士。祕書郎に遷り、後、湖南安撫司參議官に至る。葉適に學び、其の要旨を得。著に五經說・諸子辯論・東都要略・浣川集がある。〔宋元學案、五十五〕。

【戴煦】44（タイク） 清、錢塘の人。熙の弟。字は鄂士(諤士)。號は鶴墅。又、仲乙。初名は邦棣。諸生なり。意を進取に絕ち、疇人の學を好み、張福僖・李善蘭の輩と皆與に訂交す。船機圖を著し、又、項名達の象數原始を續成す。咸豐中、洪楊軍、杭州を陷れ、熙、難に殉ずるや、煦も亦、井に投じて殉ず。著に船機圖說・句股和較集成・四元玉鑑細草・對數簡法・廣割圓捷法・外切密率・假數測元等がある。〔清史稿、四百九十八〕・〔清史列傳、七十三〕・〔碑傳集補、三十二〕。

【戴宏】45（タイクワウ） 後漢、剛の人。字は元襄。世、儒宗と稱し、名、東夏に知らる。吳祐其の諷誦の音を聞き、遂に友となる。後、官は酒泉太守。〔後漢書、九十四〕。

【戴璜】46（タイクワウ） 明、新蔡の人。字は宗儀。諸生となり、正德中、流寇に屈せずして害せらる。

【戴冠】47（タイクワン） ❶冠を戴く。〔韓詩外傳、二〕君獨不レ見二夫鷄一乎、首戴レ冠者文也、足傳レ距者武也。❷明、長洲の人。字は章甫。書室を濯纓亭といふ。好古篤學、百家に淹貫す。尙書の王恕、之を雅重し、嘗て時務を問ふ。弘治の初、選貢を以て紹興府訓導を授けられ、後罷め歸る。著に禮記集說辨疑・濯纓亭筆記がある。〔萬斯同明史、三百八十七〕・

〔明史稿、二百六十七〕・〔國朝獻徵錄、八十五〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十六〕。㊂明、信陽の人。一に吉水の人といふ。字は仲鶡。號は邃谷。正德の進士。官は嘉靖の時、山東提學副使。何景明に從つて詩を學ぶ。著に邃谷集がある。〔明史、一百八十九〕・〔萬斯同明史、三百八十八〕・〔明史稿、一百七十三〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、三十三〕。

【戴冠式】48（タイクワンシキ） 西洋諸國の君主が卽位の後、帝王のかんむりをかぶる大典をいふ。卽位式。Coronation

【戴冠郎】49（タイクワンラウ） 雞の異名。〔事物異名錄、禽鳥、雞〕方言、陳楚宋衞之閒、謂レ雞爲二鸊鴟一、徐魯之閒、謂二之秋侯子一、一名二戴冠郎一。

【戴圭】50（タイケイ） 明、鄞の人。字は秉誠。易學に潛心す。時人、野橋先生と稱す。著に易經大旨・四書要略等がある。〔萬斯同明史、三百八十四〕。

【戴奎】51（タイケイ） 明、黃巖の人。字は文祥。詩に巧。元末、錢塘錄事となり、明初、濠に徙り、薦められて齊河主簿となる。著に介軒集がある。〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、十三〕。

【戴惠】52（タイケイ） 明、邢臺の人。字は君澤。官は平陽訓導。〔萬姓統譜〕。

【戴溪】53（タイケイ） 宋、永嘉の人。字は肖望。謚は文端。學者、岷隱先生と稱す。淳熙中、別頭省試第一となり、石鼓書院山長を領す。開禧中、官は太子詹事、兼祕書監。景獻太子命じて易・詩・春秋・論語・孟子・資治通鑑を類し、各〻說を爲して、以て進めしむ。後、官は權工部尙書・龍圖閣學士に至る。著に續呂氏家塾讀詩記・春秋講義・石舜論語問答がある。〔宋史、四百三十四〕・〔宋史新編、一百六十五〕・〔南宋書、四十二〕・〔宋元學案、五十三〕。

【戴經】54（タイケイ） 明、嘉興の人。字は孟常。號は雙湖居士。成化の擧人。官は泰安州知州。著に潯陽餘稿がある。〔尙友錄、十八〕。

【戴雞】55（タイケイ） にはとりを冠にして頭にのせる。〔論衡、率性〕世稱、子路無レ恆之庸人、未レ入二孔門一時、戴レ雞佩レ豚、勇猛無レ禮、聞二誦讀之聲一、搖レ雞奮レ豚、揚二脣吻之音一、聒二賢聖之耳一。

【戴鯨】56（タイケイ） 明の人。鰲の弟。字は時鳴。號は南江。又、南蒼。嘉靖の進士。官は福建左參議。性孝友にして好學、手に書を釋かず。嘗て四明文獻錄を編輯す。著に閩廣集・東白樓稿がある。四庫提要に宋宏之の四明風雅集を增刪すとあつて四明文獻錄は著錄されず。字は時霖、號は南蒼に作る。〔四庫提要、一百九十二〕・〔浙江通志〕。

【戴肩】57（タイケン） 物をいただいたやうな肩。〔劉子新論、命相〕伏羲日角、黃帝龍顏、帝嚳戴肩、顓頊駢骭、堯眉八采、舜目重瞳、禹耳三漏、湯肩二肘、文王四乳、武王駢齒、孔子返宇、顏回重瞳、皐繇鳥喙。

【戴乾】58（タイケン） 三國、魏の丹陽の人。陳羣の薦めにより、曹操に仕へ、後、難に死す。〔三國志、二十六〕。

【戴琥】59（タイコ） 明、浮梁の人。字は廷節。景泰の鄕薦に擧げられ、南京監察御史を授けられ、紹興府の長官に歷任し、惠政あり。嘗て詔を奉じて弭盜安民選將練兵の策を進め、當時稱して名言となす。廣西右參政に擢んでられ、歸を乞ひて卒す。著に太極圖說・編定八陣圖・青峯拾稿がある。〔本朝分省人物攷、五十九〕。

【戴吳】60（タイゴ） 春秋、吳の餘祭をいふ。〔左氏、襄、三十一〕巢隕二諸樊一、閽戕二戴吳一。〔注〕戴吳、餘祭。

【戴護】61（タイゴ） 唐、婺源の人。字は邦衞。黃巢の亂後、盜賊蜂起するや、鄕人を結びて防守す。官は先鋒突將都押衙兵馬使。〔萬姓統譜〕。

【戴興】62（タイコウ） 宋、雍丘の人。勇力の士。官は定武軍節度使。夏州行營都部署に遷る。李繼遷を討つ。咸平の初、知京兆府に至る。〔宋史、二百七十九〕・〔宋史新編、八十〕。

【戴蒼】63（タイサウ） 清、武陵の人。字は葭湄。畫に巧。〔國朝畫識、十三〕。

【戴山】64（タイサン） 山をいただく。〔楚辭、天問〕鼇戴レ山抃、何以安レ之。〔注〕列山傳曰、有二巨靈之鼇一、背負二蓬萊之山一而抃二戲滄海之中一。

【戴珊】65（タイサン） 明、浮梁の人。字は廷珍。謚は恭簡。天順の進士。南畿の學政を督し、官は弘治中、左都御史。〔明史、一百八十三〕。

【戴糝】66（タイサン） 藥草の名。黃耆の異名。わうぎ。〔本草、黃耆〕釋名、黃芪、戴糝、戴椹、芰草、百本、王孫。

【戴子】67（タイシ） 戰國、宋の戴不勝をいふ。一說に、戴驩をいふ。〔荀子、解蔽〕唐鞅蔽二於欲レ權、而逐二載子一。〔集解〕載、讀爲レ戴、戴不勝使二薛居州傅レ王者、見二孟子一、或曰、戴子、戴驩也。

【戴仔】68（タイシ） 宋の人。蒙の子。字は守鏞。孝廉に薦められたが、年四十に近く、場屋を棄去り、力を學に專らにす。〔尙友錄、十八〕。

【戴梓】69（タイシ） 清の人。蒼の子。字は文開。兵法を好む。康熙中、傑書が耿精忠を勦伐し、浙に駐まるや、梓、布衣を以て軍に從つて功あり。事平らぎ、召試せられて侍講を授けられ、衝天礮を造り噶爾丹を征して大捷す。後、怨者に讒せられ、黑龍江に謫戍され、文字を以て自ら給し、自ら耕煙老人と稱す。詩に巧。〔清史稿、五百十〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十〕・〔國朝詩人徵略初編、十三〕。

【戴鷙】70（タイシ） 明の人。鰲の弟。字は時化。號は少山。嘉靖の進士。官は工部主事。出でて徐州の洪水を治め、政績あり。性、仁孝。〔國朝獻徵錄、五十二〕。

【戴就】71（タイシウ） 後漢、上虞の人。字は景成。郡の倉曹掾となる。後、孝廉に擧げられ、光祿主事となる。〔後漢書、一百十一〕。

【戴日】72（タイジツ） 日をいただく。拜日。〔廣東新語〕爾雅言、距二齊州一以南、戴レ日爲二丹穴一、蓋南人最事レ日、以レ日爲二天神之主一、炎州所二司命一、故凡處レ山者、登二羅浮一以賓レ日、處レ海者、臨二扶胥一以浴レ日、所謂戴日之人也。

【戴楫】73（タイシフ） 清、丹徒の人。字は汝舟。號は純甫。諸生なり。咸豐の初、孝廉方正に擧げらる。著に純甫古文鈔がある。

【戴情】74（タイジヤウ） 誠心に感ずる。〔淮南子、繆稱訓〕情繫二於中一、行形二於外一、凡行戴レ情、雖レ過無レ怨、不レ戴二其情一、雖レ忠來レ惡。〔注〕戴、心所レ感也、情、誠也。

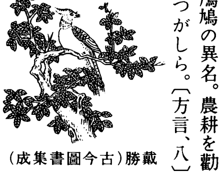
【戴述】75（タイジユツ） 宋、永嘉の人。字は明仲。嘗て程頤に從學し、元符の進士に登る。簿監等の官となるを樂しまず、辭すれども得ず、檄を投じて去り、臨江教授に起用さる。母の喪に居り、倚廬に病む。或る人、內官に遷らんことを請ふも可かず、遂に卒す。〔宋元學案、三十二〕。

【戴峻】76（タイシユン） 清、吳縣の人。字は古巖。畫に巧。一生其の名を題せず。皆、唐六如の名に託す。〔國朝畫識、八〕。

【戴淳】77（タイジユン） 元、錢塘の人。字は厚夫。畫に巧。〔圖繪寶鑑〕。

【戴遵】78（タイジユン） 漢、愼陽の人。字は子高。官は平帝の時、侍御史。王莽簒位の後、疾と稱して家に歸る。施を好み、俠を尙び、食客三百人。時に關東の大豪と稱す。〔後漢書、一百十三〕。

【戴勝】79（タイシヨウ） ㊀鳥の名。鳲鳩の異名。農耕を勸めるといふ鳥。布穀鳥。やつがしら。〔方言、八〕尸鳩、云云、東齊海岱之閒、謂二之戴鵀一、或謂二之戴勝一。〔禮、月令〕（季春之月）戴勝降二于桑一。㊁髮飾をいただく。勝は婦人の髮飾。〔山海經、西山經〕西王母、其狀如レ人、豹尾虎齒而善嘯、蓬髮戴勝。〔注〕勝、玉勝也。〔郝懿行箋疏〕郭云二玉勝一者、蓋以レ玉爲二華勝一也、後漢輿服志云、簪以二瑇瑁一爲二擿端一爲二華勝一。〔漢書、司馬相如傳下〕（大人賦）吾乃今日覩二西王母一、暠然白首、戴レ勝而穴處兮。〔注〕師古曰、勝、婦人首飾也、漢代謂二之華勝一。㊂西王母をいふ。〔山海經、大荒西經〕有レ人、戴勝虎齒、有二豹尾一穴處、名曰二西王母一。〔張衡、思玄賦〕戴勝愸其旣歡兮。〔注〕衡曰、戴勝、謂二西王母一也。



戴勝（古今圖書集成）

【戴埴】80（タイシヨク） 宋、桃源の人。字は仲培。著に鼠璞がある。〔四庫提要、一百十八〕。

【戴進】81（タイシン） 明、錢塘の人。進、一に璡に作る。字は文進。號は靜菴。又、玉泉山人。畫を善くし、名を海內に馳せ、時人、浙畫の第一流と稱す。〔明名人傳、二十八〕・〔明畫錄、二〕。

【戴新】82（タイシン） 明、平度の人。字は景壹。永樂の進士。庶吉士を以て東宮講讀に侍し、雲南右布政に累官す。兩度麓川を征し、皆、督糧の事を佐理して勞績あり。〔本朝分省人物攷、九十八〕。

【戴震】83（タイシン） 清、休寧の人。字は東原。乾隆の擧

人。少くして婺源の江永に從學し、禮經制度名物及び推步天象に精通し、漢儒の傳注及び說文等の書を究め、聲音文字より、訓詁を求め、訓詁より義理を尋ね、實事求是、一家に偏せず。四庫館開けて纂修に充てられ、進士出身を賜はり、庶吉士を授けられる。乾隆四十二年歿、年五十五。著に詩經二南補注・毛鄭詩考正・考工記圖・孟子字義疏證・方言疏證・原善・原象・句股割圜記・策算聲韻考・聲類表・儀禮正誤・爾雅文字考・屈原賦注・九章補圖・古曆考・曆問・水地記・東原文集等がある。校定する所の大戴禮記・水經注は尤も精核である。〔清史稿、四百八十七〕・〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百三十一〕・〔碑傳集、五十〕・〔國朝先正事略、三十五〕。

【戴璡】84 タイシン　戴進(81)を見よ。

【戴縉】85 タイシン　㊀明、南海の人。成化の進士。官は御史。宦官汪直に諂ひ、南京工部尙書となる。直敗れるや、斥けられて民となる。〔明史、三百四〕・〔萬斯同明史、二百二十三〕・〔明史稿、一百四十二〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十四〕。㊁明、蘇州の人。字は冠卿。畫に巧。〔畫史會要〕。

【戴人】86 タイジン　金、張從正(**4―9812**··1187)の號。

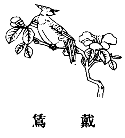
【戴仁】87 タイジン　㊀仁愛の心をいただく。〔禮、儒行〕戴㆑仁而行、抱㆑義而處。㊁明、雲南太和の人。成化中、鎭遠府知となる。自ら無懷先生と號し、家に餘財なし。〔本朝分省人物攷、一百十四〕。

【戴任】88 タイジン　戴鵀(91)に同じ。〔呂覽、季春〕戴任降㆓于桑㆒。〔注〕戴任、戴勝、鴟也。

【戴迅】89 タイジン　宋の人。述の弟。字は幾仲。洛學を學んで其の兄に私淑し、時人、大小戴と稱し、門人、其の文を合して二戴集といふ。別に晉史屬辭といふ。〔宋元學案、三十二〕。

【戴椹】90 タイジン　草の名。黃耆の異名。めどきぐさ。〔本草、黃耆〕釋名、黃芪、戴糝、戴椹、芰草、百本、王孫。〔農政全書、黃耆考〕一名戴糝、一名戴椹、一名獨椹、一名芰草、一名蜀脂。

【戴鵀】91 タイジン　鳥の名。戴勝の異名。きくいただき。〔爾雅、釋鳥〕鵖鴔戴鵀。



戴鵀

（三才圖會）

〔注〕鵀、即、頭上勝、今亦呼爲㆓戴勝㆒。〔方言、八〕尸鳩、云云、自㆑關而東、謂㆓之戴鵀㆒。〔淮南子、時則訓〕鳴鳩奮㆓其羽㆒、戴鵀降㆓于桑㆒。〔魏志、張臶傳〕正始元年、戴鵀之鳥巢㆓臶門陰㆒。

【戴崇】92 タイスウ　漢、沛の人。字は子平。官、九卿に至る。易を張禹に受く。〔前漢書、八十八〕。

【戴星】93 タイセイ　㊀星をそらに戴く。早く家を出で晩く歸るをいふ。〔呂覽、察賢〕宓子賤爲㆓單父宰㆒、彈㆑琴不㆑下㆑堂、而單父治、巫馬期爲㆓單父宰㆒、戴㆑星出、戴㆑星入、而單父亦治。〔蘇軾、寄㆓遲适遠㆔猶子㆒詩〕對㆑牀欲㆑作連夜語、念汝還須㆓戴㆑星起㆒。㊁馬の名。前額に白毛あるもの。〔詩、秦風、車鄰、有㆑馬白顚、疏〕額有㆓白毛㆒、今之戴星馬也。㊂草の名。穀精草の異名。はぜくさ。〔本草、穀精草〕釋名、戴星草、文星草、流星草。㊃魚の名。かねただき。まとうち。〔臨海水土記〕戴星魚、狀如㆓鳶魚㆒、背上有㆓兩白璫㆒、如㆓指大㆒。

【戴星馬】94 ウビタヒノウマ　額の白い馬。兔額馬。戴星の㊁を見よ。〔倭名類聚抄、牛馬部、牛馬體〕戴星馬、和名、宇比多非能无末。

【戴清】95 タイセイ　清、儀徵の人。字は靜齋。嘉慶の貢生。官は訓導。性、典籍に耽る。書室を雙柑草堂といふ。著に四書典故考辨・羣經釋地・雙柑草堂詩文集がある。〔續碑傳集、七十六〕。

【戴聖】96 タイセイ　漢、梁の人。德の從子。字は次君。博士を以て石渠に論ず。官は九江太守。德と倶に、禮を后蒼に受け、時人、小戴と稱す。禮四十六篇を傳へ、之を小戴記といふ。〔前漢書、八十八〕。

【戴泉】97 タイセン　明の人。進の子。字は宗淵。山水畫に巧。〔明畫錄、二〕。

【戴銑】98 タイセン　明、婺源の人。字は寶之。弘治の進士。官は兵科給事中。數〻建白するところあり、南京戶科に遷る。中官高鳳を劾して廷杖され、除名せられて卒す。著に朱子實紀がある。嘉靖中、光祿少卿を追贈せらる。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十八〕・〔明史稿、一百七十三〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十七下〕。

【戴潛】99 タイセン　清の人。笠の孫。字は梅村。畫に巧。

【戴祚】100 タイソ　晉、江東の人。字は延之。劉裕に從つて姚秦を征し、西征記を撰す。

【戴賊】101 タイゾク　賊を頭に戴く。〔日本政記、後醍醐天皇論〕以㆑此當㆓關東一心戴㆑賊之兵㆒。

【戴璹】102 タイタウ　元、浮梁の人。字は仲才。吳迂に從學す。元末、兵を深山に避け、講學を以て事とす。明初、累遷せられたが起たず。時に賦稅の法を定め、浮梁、獨り他邑よりも重く、璹上章して之を言ひ、減ずるを得た。著に東山集がある。〔宋元學案、八十三〕。

【戴胄】103 タイチウ　唐、安陽の人。字は玄胤。諡は忠。隋末に、王世充の簒位の謀を切諫するも納れられず。唐の時、官は尙書左丞・檢校吏部尙書。卒して道國公に追封せらる。〔唐書、九十九〕・〔舊唐書、七十〕。

【戴中】104 タイチユウ　明の人。字は師中。成化の進士。黃梅縣知となり、治績あり、御史に召補され、河南を按撫し、水荒に値ひ、儲を發して賑活すること百萬、老幼、之を德とす。孝宗の初、廣東僉事に擢んでられ、憲副に轉じ、官に卒す。〔蘭臺法鑒錄、十一〕。

【戴澄】105 タイチヨウ　明の人。字は憲清。官は肇慶通判。〔萬姓統譜〕。

【戴天】106 タイテン　天をいただく。天の下に住む。此の世に生存すること。〔禮、曲禮上〕父之讐、弗㆓與共戴㆑天。

【戴瑱】107 タイテン　明の人。字は守溫。少くして孤。母に事へて至孝。

【戴頭】108 タイトウ　頭をいただく。〔唐書、段秀實傳〕郭晞士十七人、入㆑市取㆑酒、刺㆓酒翁㆒、懷㆓釀器㆒、秀實列㆑卒取㆑之、斷㆑首置㆓槊上㆒、云云、一營大譟盡甲、云云、至㆓晞門下㆒、甲者出、秀實笑且入曰、殺㆓一老卒㆒、何甲也、吾戴㆓吾頭㆒來矣。

【戴侗】109 タイドウ　宋の人。仔の弟。字は仲達。淳祐の進士。國子簿より出でて台州の守となる。軍器少監に遷るも赴かず。著に易書四書家說・六書故がある。〔四庫提要、四十一〕。

【戴德】110 タイトク　㊀漢、梁の人。字は延君。從子聖と倶に易を后蒼に受け、世人、德を大戴、聖を小戴と呼ぶ。信都王の太傅となる。禮八十五篇を傳へ、之を大戴記といふ。〔前漢書、八十八〕。㊁明、盱眙の人。洪武の初、湖廣行省參知政事に任ぜられ、武昌を取つて功あり。復た、荆・常・澧・衡・潭・漵・寶慶・襄陽・辰州諸郡の溪蠻に克つ。卒して譙郡伯に封ぜらる。〔皇明開國功臣錄、十五〕・〔造邦賢勳錄略〕。

【戴逯】111 タイトン　晉の人。逵の弟。字は安丘。常に謝玄に從つて征伐し、軍功を以て廣信侯に封ぜられ、位、大司農に至る。〔晉書、七十九〕。

【戴南】112 タイナン　鳥の名。戴勝。鳲鳩(**12―46667**··1)の異名。〔方言、八〕尸鳩、云云、自㆑關而東、謂㆓之戴鵀㆒、東齊海岱之閒、謂㆓之戴南㆒、南、猶㆑鵀也。

【戴望】113 タイバウ　清、德清の人。字は子高。諸生となる。宋翔鳳に從つて尙書今古文の學を治む。性、倨傲。門戶の見を持すること嚴。同治中、金陵書局校勘に任ぜられる。嘗て公羊の義例を取つて、論語注を作る。書室を謫麐堂といふ。又、著に管子校證・顏氏學記・謫麐堂遺集がある。〔清史稿、四百八十八〕・〔清史列傳、六十九〕・〔續碑傳集、七十五〕。

【戴帽】114 tai^4 mao^4　帽子をかぶる。戴帽餳を見よ。

【戴帽魚】115 ヤガラ　魚の名。細長い魚。硬鰭類中のやがら科に屬する。形圓くて細長い。尾鱗の閒から赤い絲狀の物を出す。

【戴帽餳】116 タイバウタウ　帽子をかむつたあめ。柔軟なものをいひ、又、無用のものの喩。〔隋書、循吏、梁彥光傳〕拜㆓趙州刺史㆒、彥光言㆓於上㆒曰、臣前待㆓罪相州㆒、百姓呼爲㆓戴帽餳㆒、臣自分㆓廢黜㆒、無㆓復衣冠之望㆒、不㆑謂天恩復垂㆓收採㆒、請復爲㆓相州㆒、改㆑絃易㆑調、云云、上從㆑之。

【戴白】117 タイハク　頭に白髮を戴くこと。白髮になる。としより。老人。〔漢書、嚴助傳〕天下賴㆓宗廟之靈㆒、方內大寧、戴白之老、不㆑見㆓兵革㆒、民得㆓夫婦相守、父子相保㆒、陛下之德也。〔注〕師古曰、戴白、言㆓白髮在㆑首。〔後漢書、鄧禹傳〕父老童穉、垂髮戴白、滿㆓其車下㆒、莫㆑不㆓感悅㆒。

【戴邈】118 タイバク　晉の人。淵の弟。字は望之。諡は穆。學を好み、漢史に精通す。永嘉中、元帝の征南軍司となる。時に凡百草創、學校も未だ立てられてゐなかつたので、上疏して禮樂を修めんことを請ひ、納れられた。丹陽尹に擢んでら

れるに及び、王敦、逆を作し、淵、害せられるや、邈は坐して官を免ぜられた。敦が誅せられて後、尙書僕射に拜せられた。〔晉書、六十九〕。

【戴槃】119（タイハン） 清、丹徒の人。字は澗鄰。號は銘新。道光の擧人。官は嚴州知。書室を賜禮堂・聽鸝山館といふ。著に賜禮堂集・聽鸝山館文賦詩鈔・宦游紀略がある。

【戴鳻】120（タイハン） 鳥の名。きくいただき。戴勝(79)の異名。〔方言、八〕尸鳩、燕之東北、朝鮮洌水之閒、謂二之鶝鴀一、自レ關而東謂二之戴鵀一、東齊海岱之閒、云云、或謂二之戴鳻一、或謂二之戴勝一。〔箋疏〕爾雅翼、戴勝似二山鵲一而尾短、青色毛冠、俱有レ文、鳻與レ班通、云云、毛冠有レ文、謂二之戴鳻一、其義一也。

【戴憑】121（タイヒョウ） 後漢、平輿の人。字は次仲。京氏易に習ひ、明經に擧げられ、博士に試みられた。官は郎中。後、侍中。建武中、正旦の朝賀に帝、羣臣の能く經を說くものに命じて、更〻相難詰せしめ、義通ぜざる者があれば、席を奪つて通ずる者に益した。この時、憑は遂に五十餘席を重ねたので、京師語つて、解經窮せず戴侍中、といつた。戴憑重席を見よ。〔後漢書、一百九上〕。

【戴憑重席】122（タイヒョウチュウセキ） 蒙求の標題。戴憑を見よ。〔後漢書、儒林上、戴憑傳〕拜二憑虎賁中郎將一、以二侍中一兼二領之一、正旦朝賀、百僚畢會、帝令二群臣能說レ經者、更相難詰一、義有レ不レ通、輒奪二其席一以益二通者一、憑遂重レ坐五十餘席、故京師爲レ之語曰、解經不レ窮戴侍中。

【戴敏】123（タイビン） 宋、天台の人。字は敏才。號は東皐子。詩を以て自適し、試に應じなかつた。〔宋詩鈔〕。

【戴昺】124（タイヘイ） 宋の人。復古の從孫。字は景明。號は東野。嘉定の進士。贛州法曹參軍を授けらる。少くして吟詠に巧。著に東野農歌集がある。〔宋詩鈔〕・〔四庫提要、一百六十三〕。

【戴弁】125（タイベン） 明、浮梁の人。字は士章。鄕薦を領し、教職を以て禮科給事中に擢んでられ、廣西參政に累官す。時に黃蕭養が亂を作すや、弁、賊と遇ひ、之を諭撫し、左布政に陞進した。〔明名人傳、二十八〕・〔本朝分省人物攷、五十九〕。

【戴奉】126（タイホウ） 上にいただく。〔蜀志、法正傳〕密謀協レ規、願二共戴奉一。

【戴封】127（タイホウ） 後漢、剛の人。字は平仲。太學を卒業す。嘗て賊に財物を奪はれた時、賊は縑七匹を餘して逃げ去つたが、それを知つた封は、追ひかけて行つて殘りの縑七匹を賊に與へた。賊は驚いて賢人となし、盡く其の器物を還した。詔して賢良方正直言の士を求めるや公車の徵に應じ、戴封、對策第一となる。官は西華令。永元中、太常に拜せらる。〔後漢書、一百十一〕。

【戴封積薪】128（タイホウセキシン） 蒙求の標題。後漢の戴封、大旱の時、薪を積んで其の上に坐して自ら焚かうとしたが、火起るや大雨卒かに至つた故事。〔後漢書、獨行、戴封傳〕其年大旱、封禱請無レ獲、乃積レ薪坐二其上一、以自焚、火起而大雨暴至、於レ是遠近歎服。

【戴琫】129（タイホウ） 西藏の官名。西藏の管兵の官。四品を戴琫といふ。〔清會典事例、理藩院、設官、西藏官制〕乾隆五十六年諭、西藏戴琫第巴缺出、由二駐藏辦事大臣一、會二同達賴喇嘛一、商議揀選補放。〔清國行政法汎論、藩部、西藏、唐古特官〕戴琫 Tapêng 定額二人、掌二馬廠事項一。

【戴勃】130（タイボツ） 晉の人。逵の子。父の風あり、琴に巧。義熙の初、散騎常侍に徵されたが起たず、弟顒と共に桐廬に留居した。〔宋書、九十三〕。

【戴盆】131（タイボン） 盆を頭上にいただけば、天を望むことが出來ないし、天を望めば盆をいただくことは出來ない。事の兼ねられないことから、一事に專心して他を省みない喩。〔司馬遷、報二任安一書〕僕以爲、戴レ盆何以望レ天、故絕二賓客之知一、亡二室家之業一、日夜思レ竭二其不肖之才力一、務一レ心營レ職、以求二親媚於主上一。〔注〕善曰、言、人戴レ盆、則不レ得レ望レ天、望レ天則不レ得レ戴レ盆、事不レ可二兼施一、言二己方一レ心營レ職、不レ假レ修二人事一也。

【戴盆子】132（タイボンシ） 橋本通の號。橋本香坡(6―15526··67)を見よ。

【戴孟】133（タイマウ） 後漢、明帝の時の人。本姓は燕。名は濟。字は仲微。華山及び武當山に入り、裴君玉佩金璫經を受け、又、石精奎光符を受く。復、太微黃書あり、能く名山を周游す。〔神仙傳、十〕。

【戴蒙】134（タイモウ） 宋、永嘉の人。字は養伯。紹興中、閤門舍人戴勳の牒を用ひ、名を埜と改む。應試して進士となり、麗水尉に遷る。朱熹に武夷に從ひ、再び鳴鶴場連鹽官に遷り、父の死に遇つて歸る。自ら假名の非を思ひ、舊名に復して擧に應じ、再試すれど中らず。御史王穎叔の進言により、詔して初名を以て官に復せらる。〔宋元學案、六十九〕。

【戴目】135（タイモク） 常に遠視して異志あるをいふ。白目を多くして邪視すること。戴眼(22)を見よ。〔說文〕瞯、戴目。〔段注〕戴目乃上視。〔漢書、賈山傳〕使二天下之人、戴レ目而視、傾レ耳而聽一。〔注〕師古曰、戴レ目者、言三常遠視、有二異志一也、傾レ耳而聽、言レ樂二禍亂一也。

【戴埜】136（タイヤ） 戴蒙(134)を見よ。

【戴洋】137（タイヤウ） 晉、長城の人。字は國流。風角を善くし、道術を好み、占候卜數に巧。吳末に臺吏となつたが、吳の亡びるを知り、疾に託して去り、後、祖約に仕へ、尋いで陶侃に依る。〔晉書、九十五〕。

【戴陽】138（タイヤウ） 病が危篤になつて、顏の色が赤くなること。

【戴翼】139（タイヨク） ❶たすけること。〔漢書、董仲舒傳〕欲下則二先王之法一、以戴中翼其世上者甚衆。❷宋、三山の人。字は汝諧。紹定の進士。官は攝南康縣事。〔尙友錄、十八〕。

【戴笠】140（タイリフ） ❶かさをいただく。〔異苑〕山之精、形或如レ人、長九尺、衣レ裘戴レ笠、名曰二金累一。❷常人の服。顯者を乘車といふに對して、微賤者をいふ。〔風土記〕越俗性率樸、初與レ人交、封レ土爲レ壇、祭以二犬雞一、祝曰、君乘レ車、我戴レ笠、他日相逢下レ車揖、君擔レ登、我跨レ馬、他日相逢爲レ君下、言下交不中以二貴賤一而渝上也。〔孔平仲、詩〕萬事倏忽如二疾風一、莫下以二乘車一輕中戴笠上。❸戴曼公(211)を見よ。❹清、吳江の人。字は耘野。明の諸生。國變の後、秀峯山に入り、僧となつたが、後、還俗し、朱家港に隱居し、生徒に教授して終る。〔碑傳集補、三十六〕・〔國朝先正事略、四十七〕。

【戴笠山人】141（タイリフサンジン） 清、王禮(7―20823··1088)の號。

【戴粒】142（タイリフ） 米粒をいただく。轉じて、米粒のやうな小さいものを頭にのせること。〔太平御覽、蟲豸、蟻〕符子曰、東海有レ鼇焉、冠二蓬萊一而浮二游於滄海一、騰躍而上、則千雲之峰、類二邁於羣岳一、沉沒而下、則隱天之丘、潛二嶠於重川一、有二蚳蟻一聞而悅レ之、與二羣蟻一相二要乎海畔一、欲レ觀レ鼇焉、月餘日、鼇潛未レ出、羣蟻將レ反、遇二長風一、激浪崇濤、萬仞海水、沸レ地雷震、羣蟻曰、此將二鼇之作一也、數日風止雷默、海中隱如レ岳、羣蟻曰、彼之冠レ山、何異下我之戴レ粒、逍二遙封壤之巓一、伏中乎窟穴上也。

【戴良】143（タイリヤウ） ❶後漢の人。伯鸞の弟。字は叔鸞。才高遠にして、議論奇を好む。召されたが皆就かず。〔後漢書、一百十三〕。❷元、浦江の人。字は叔能。號は雲林先生・囂囂生。世〻金華の九靈山下に居り、九靈山人と號した。經史・百家・醫卜・釋老等通ぜざるなく、古文を黃溍・柳貫・吳萊に、詩を余闕に學び、至正中、儒學提擧に擢んでられる。元、亡び、四明山に隱居す。明の太祖、之を官せんと欲したが、老疾を以て固辭し、旨に忤らひ自殺した。著に九靈山房集がある。〔宋元學案、八十二〕・〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、三百八十六〕・〔明史稿、二百六十六〕。

【戴綸】144（タイリン） 明、高密の人。仁宗の時、洗馬となり、太子の講讀に侍す。太子卽位するに及び、侍郎に擢んでられる。後、獄に死す。〔明史、一百六十二〕・〔萬斯同明史、二百六〕・〔明史稿、一百四十七〕。

【戴禮】145（タイレイ） ❶漢の人。官は侍御史。後、丹陽東都尉。❷清、江蘇興化の人。字は石屛。號は說周。畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、二〕・〔墨香居畫識、九〕。

【戴璐】146（タイロ） 清、歸安の人。字は敏夫。號は菔塘・石鼓齋・吟梅居士。乾隆の進士。官は太僕寺卿。書室を秋樹山房といふ。著に藤陰雜志・石鼓齋雜志・吳興詩話・秋樹山房詩稿がある。

【戴安道】147（タイアンダウ） 戴逵(27)・戴逵破琴(28)を見よ。

【戴安仲】148（タイアンチュウ） 明、鄞の人。字は仲莊。號は譙

國老人。官は訓導。著に歸田集がある。〔尙友錄、十八〕。

【戴以恆】149（タイイコウ）　清の人。熙の從子。字は用伯。號は醉蘇齋。畫に巧。

【戴有祺】150（タイイウキ）　清、休寧の人。婁縣に徙居す。字は丙章。號は瓏巖・尋樂齋。康熙の進士。修撰を授けられ、知縣に左遷せらる。性、孤介、文は柳宗元に似、詩は林和靖・范石湖を學ぶ。晩年、其の室に題して慵齋といひ、慵齋野老傳を作つて意を寄す。著に尋樂齋詩集がある。

【戴永槐】151（タイエイクワイ）　清、歸安の人。字は庭蔭。號は秋堂・澄翠齋。著に澄翠齋詩稿がある。〔清畫家詩史、丁、下〕。

【戴永植】152（タイエイシヨク）　清、歸安の人。字は于庭。號は農南。雍正の擧人。乾隆中、鴻博に擧げられたが遇せられず、官は龍陽知縣・餘姚教諭。詩文に巧。書室を汀風閣といひ、著に汀風閣集がある。〔碑傳集補、二十一〕。

【戴盈之】153（タイエイシ）　戰國、宋の大夫。一說に、盈之は戴不勝の字。〔孟子、滕文公下〕戴盈之曰、什一、去㆓關市之征㆒、今茲未㆑能、請輕㆑之、以待㆓來年㆒、然後已、何如。〔注〕戴盈之、宋大夫。

【戴嘉猷】154（タイカイウ）　明、績溪の人。字は猷之。嘉靖の進士。官は烏程縣知。政化大いに行はれる。時に歸安に戚賢あり、郡守に萬雲鵬あり、時人、三循吏といふ。〔尙友錄、十八〕。

【戴凱之】155（タイガイシ）　晉、武昌の人。字は慶預。著に竹譜がある。〔四庫提要、一百十五〕。

【戴高帽】156（タイカウバウ）　うぬぼれておだてにのる。〔通俗編、服飾〕好戴㆓高帽㆒、北史、熊安生傳、宗道暉好著㆓高翅帽大屐㆒、州將初臨、輒服以謁見、仰㆑頭擧㆑肘、拜㆓于屐上㆒、自言學士比㆓三公㆒、按、今謂㆘虛自張大冀㆓人譽㆒已者㆖、曰㆔好戴㆓高帽子㆒、蓋因㆓乎此㆒。

【戴咸弼】157（タイカンヒツ）　清、嘉善の人。字は鼇峯（鼇峯）。號は且甌小隱。道光の擧人。官は溫州府教授。著に東甌金石志がある。

【戴顏老】158（タイガンラウ）　宋、饒州の人。字は榮之。初名は松。十歲にして文章を善くし、嘉熙の初、神童科第一に擧げられ、後、免解進士を賜はつたが、年十三にして卒す。〔尙友錄、十八〕。

【戴休顏】159（タイキウガン）　唐、夏州の人。字は休顏。家、世〻尙武、郭子儀引いて大將とし、戰功を以て、咸寧郡王に封ぜられ、朔方節度副使を兼ぬ。朱泚の反に行在に赴き、之を破る。後、官は檢校尙書右僕射。〔舊唐書、一百四十四〕・〔唐書、一百五十六〕。

【戴鏡子】160（tai^4 ching^4 tzŭ）　眼鏡をかける。

【戴均元】161（タイキンゲン）　清の人。第元の弟。字は修原、號は可亭。乾隆の進士。淸廉の士。官は嘉慶の末、文淵閣大學士。後、太子太師を加へられる。〔清史稿、三百四十七〕・〔清史列傳、三十七〕・〔國朝耆獻類徵、三十六〕・〔續碑傳集、二〕・〔國朝先正事略、二十二〕。

【戴鈞衡】162（タイキンカウ）　清、桐城の人。字は存莊。號は蓉洲。道光の擧人。方東樹の弟子。古文に巧。書室を味經山館・香月山房といふ。著に味經山館集がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔清史列傳、七十三〕・〔續碑傳集、七十九〕・〔國朝先正事略、四十三〕。

【戴衢亨】163（タイクカウ）　清の人。第元の子。字は荷之。又、蓮士。諡は文端。乾隆の進士第一。仁宗の時、典禮多く其の手に出で、官は體仁閣大學士。前後樞廷に直すること三十年。〔清史稿、三百四十七〕・〔清史列傳、二十八〕・〔國朝耆獻類徵、三十七〕・〔國朝先正事略、二十二〕。

【戴虞皐】164（タイグカウ）　清、崑山の人。號は遯軒。著に周易闡理がある。〔四庫提要、九〕。

【戴花兒】165（tai^4 hua^1 êrh）　花を簪す。

【戴君恩】166（タイクンオン）　明、澧州の人。字は紫宸。萬曆の進士。官は工部主事。後、都御史・山西巡撫。

【戴啓宗】167（タイケイソウ）　元、上元の人。字は同父。官は龍興路儒學教授。內經諸書を潛究して、盡く其の祕奧を得。著に五運六氣之旨若干卷・脈訣刊誤がある。〔四庫提要、一百四〕。

【戴景文】168（タイケイブン）　明、漢陽の人。字は布敬。官は寧府伴讀。後、世子と合はず、辭し去る。

【戴慶炣】169（タイケイカ）　宋、永嘉の人。字は彥可。淳祐の進士。官は開慶中、同知樞密院事・兼參知政事。〔宋史、四百二十〕・〔宋史新編、一百五十三〕・〔南宋書、五十八〕。

【戴慶祖】170（タイケイソ）　明、溧陽の人。官は太常少卿。土木の難に、節に死し、太常卿を贈られる。〔明史、一百六十七〕・〔萬斯同明史、二百十二〕・〔明史稿、一百五十二〕。

【戴見元】171（タイケンゲン）　清、婁縣の人。字は淩雲。號は雲樵。書畫・詩に巧。著に書窗遺稿がある。

【戴元益】172（タイゲンエキ）　唐、桐廬の人。五世同居し、咸通中、旌表された。〔唐書、一百九十五〕。

【戴原禮】173（タイゲンレイ）　戴思恭（180）を見よ。

【戴鴻慈】174（タイコウジ）　清、南海の人。字は少懷。諡は文誠。光緒の進士。拳匪の變に、扈從して西安に至る。尋いで載澤等と歐洲各國に至つて政治を考察す。官は法部尙書・協辦大學士。〔清史稿、四百四十五〕・〔清史列傳、六十四〕。

【戴三錫】175（タイサンセキ）　清、丹徒の人。字は晉藩。號は羨門。乾隆の進士。官は知縣より四川總督に至る。書を善くす。〔清史稿、三百八十六〕・〔清史列傳、三十五〕・〔國朝耆獻類徵、一百九〕・〔續碑傳集、二十二〕・〔大清畿輔先哲傳、五〕。

【戴士衡】176（タイシカウ）　明、莆田の人。字は章尹。萬曆の進士。官は吏科給事中。建白する所多く、戍に謫せらるること二十餘年。〔明史、二百三十四〕・〔萬斯同明史、三百三十七〕・〔明史稿、二百十七〕。

【戴之邵】177（タイシセウ）　宋、安福の人、字は才美。鹿門山に寓す。紹興中、吳琪に招かれ、忠義軍破虜統制に充てらる。西京に入り、祖宗の諸陵を修葺し、永安軍を創置し、鄭州・密縣を收復した。〔尙友錄、十八〕。

【戴至德】178（タイシトク）　唐の人。胄の子。諡は恭。父子相繼いで相となり、尙書右僕射に遷る。〔舊唐書、七十〕・〔唐書、九十九〕。

【戴思遠】179（タイシエン）　五代、唐の人。初め梁に事へ、末帝の時、邢州節度使を以て、滄州に鎭となり、後、唐の明宗に降り、宣化軍留後・洋州節度使となる。〔舊五代史、六十四〕。

【戴思恭】180（タイシキヨウ）　明、浦江の人。字は原禮。字を以て行はれる。學を朱震亨に受け、一時の名醫となる。洪武中、徵されて御醫となる。著に校補金匱鉤元・證治要訣・證治類方・類證用藥がある。〔明史、二百九十九〕・〔萬斯同明史、三百九十八〕・〔明史稿、二百八十一〕。

【戴思望】181（タイシバウ）　清、休寧の人。字は懷古。詩詞を能くし、書法に巧。畫は元人を宗とす。一藝成る每に自ら矜つて希世の寶とす。性、狷介。潔癖あり、妻死して再び娶らず。扁舟にて二吳兩浙の閒を往返し、佳山水に遇へば留戀して去るに忍びず。〔國朝耆獻類徵、四百二十八〕・〔國朝書畫家筆錄、一〕。

【戴侍中】182（タイジチユウ）　後漢、戴憑（121）をいふ。

【戴時宗】183（タイジソウ）　明、長泰の人。字は宗道。正德の進士。官は吏部主事。武宗南巡するや疏諫して旨に忤らひ、杖罰を受く。文選郞中を歷、出でて鄖襄を撫し、入つて左僉都御史となる。〔國朝列卿記、九十四〕。

【戴章甫】184（タイシヤウホ）　明、江西の人。字は元禮。嘉靖の進士。官は戶部主事。〔尙友錄、十八〕。

【戴叔倫】185（タイシユクリン）　唐、金壇の人。字は幼公。文章を善くす。撫州の刺史となり、均水法を作り、一郡これを便とす。後、容管經略使となる。詩集がある。〔唐書、一百四十三〕。

【戴善甫】186（タイゼンホ）　元、眞定の人。官は浙江省務官。戲曲五種を作る。今、風光好の一曲を存す。〔嘯餘譜〕。

【戴蟬兒】187（タイゼンジ）　鸚鵡（12－47489‥15）の異名。〔幽怪錄〕柳歸舜自㆓江南㆒抵㆓巴陵㆒、爲㆓大風吹㆒至㆓君山下㆒、維㆑舟登㆑岸、見㆔鸚鵡數千、相㆓呼姓字㆒、有㆘名㆓戴蟬兒㆒者㆖、有㆘名㆓阿蘇兒㆒者㆖。

【戴祖啓】188（タイソケイ）　清、休寧の人。字は敬咸。又、東田。號は未堂。乾隆の進士。官は國子監學正。篤く經籍に志し、宋儒を宗とす。陝西巡撫畢沅に延いて關中書院の主とす。從游者甚だ衆し。著に尙書涉傳・春秋測義・史記協異・師華山房文集がある。〔清史列傳、六十七〕・〔國朝耆獻類徵、四百十一〕。

【戴僧靜】189（タイソウセイ）　南齊、會稽永興の人。諡は壯。少くして膽力あり。高帝の時、功を以て、建昌

侯に封ぜられ、淮南太守となり、後、高平太守に徙る。〔南齊書、三十〕・〔南史、四十六〕。

【戴村壩】190 タイソンハ　ゐせきの名。山東省東平縣の東の四汶集。明の永樂九年、宋禮建つ。天順中、知州の潘洪增築す。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、東平州〕戴村、汶水故道所レ經也、永樂九年、用二汶上老人白英策一、築二壩於此一、横亙二五里一、汶水經流、爲二壩所一レ遏、乃直趨二南旺湖一、今謂二之戴村壩一。

【戴泰一】191 タイタイイツ　明の人。永樂の初、隱逸を以て召に應じ、和州の知となり、清白を以て稱せらる。〔本朝分省人物攷、七十五〕。

【戴大有】192 タイダイイウ　清、杭州の人。字は書年。畫を善くす。〔國朝書畫家筆錄、二〕。

【戴大賓】193 タイダイヒン　明、莆田の人。字は賓仲。正德中、廷對第三。編修を授けられる。劉瑾の兄の女、才姿あり、瑾、之に妻さんとす。大賓、佯狂して免るるを得。〔明詩紀事、戊、十〕。

【戴第元】194 タイダイゲン　清、大庾の人。字は正宇。號は篔圃。乾隆の進士。官は太僕寺少卿。弟均元、長子心亨、次子衢亨と相繼いで翰林に入り、時人、西江の四戴と稱す。〔國朝耆獻類徵、九十三〕。

【戴頂兒】195 タイチャウジ　清代、帽子の上に位階を表はすに戴く珠。〔清會典事例、禮部、冠服、皇子福晉冠服〕嘉慶四年諭、向來阿哥等、俱戴二紅絨一結二頂帽一、朝帽係三戴二用紅寶石頂一。

【戴中丞】196 タイチュウジャウ　戴鱀(33)をいふ。

【戴廷槐】197 タイテイクヮイ　明、長泰の人。隆慶の貢生。著に學易擧隅がある。〔四庫提要、七〕。

【戴殿泗】198 タイデンシ　清、浦江の人。號は東珊。嘉慶の進士。官は編修。書室を風希堂といひ、著に風希堂集がある。

【戴東原】199 タイトウゲン　戴震(83)を見よ。

〖戴東原年譜〗199′ タイトウゲンネンプ　書名。民國、魏建功撰。

【戴德彝】200 タイトクイ　明、奉化の人。字は邦倫。謚は毅直。洪武の進士。官は監察御史。直聲朝に震ひ、建文中、左拾遺に遷る。燕師起るや難に死す。〔明史、一百四十一〕・〔萬斯同明史、一百八十六〕・〔明史稿、一百三十二〕・〔明名臣言行錄、七〕。

【戴德孺】201 タイトクジュ　明、臨海の人。字は子良。弘治の進士。官は臨江知府。宸濠の反に王守仁と共に、之を滅ぼす。雲南右布政使となり、舟にて徐州に次し、覆つて死し、光祿寺卿を贈らる。〔明史、二百〕・〔萬斯同明史、二百七十三〕・〔明史稿、一百八十五〕。

【戴敦元】202 タイトンゲン　清、浙江開化の人。字は金溪。謚は簡恪。乾隆の進士。官は刑部尙書。〔清史稿、三百八十〕・〔國朝耆獻類徵、一百八〕・〔續碑傳集、八〕・〔國朝先正事略、二十二〕・〔國朝漢學師承記、四〕・〔清代學者象傳、三〕。

【戴邦棣】203 タイハウテイ　戴煦(44)を見よ。

【戴伯鸞】204 タイハクラン　後漢の人。遵の曾孫。名不詳。性、至孝。母卒するや、廬に居りて粥を啜り、禮に非ざれば行はず。〔後漢書、一百十三〕。

【戴法興】205 タイハフコウ　南朝宋の人。碩子の子。好學能文、頗る古今に通ず。南魯郡太守となり、廢帝の時、越騎校尉に遷り、事を專斷して、閹人華願兒に譖せられ、尋いで死を賜はる。〔宋書、九十四〕・〔南史、七十七〕。

【戴不勝】206 タイフショウ　戰國、宋の臣。〔孟子、滕文公下〕孟子謂二戴不勝一曰、子欲二子之王之善一與、我明告レ子。〔集注〕戴不勝、宋臣也。

【戴復古】207 タイフクコ　宋、天台の人。字は式之。號は石屛・質野翁・充安老人。嘗て陸游の門にのぼり、詩を以て江湖の間に名あり。居る所に石屛山あり、よつて號となす。其の詩精思研刻、宋詩中、清健輕快、自ら一家をなす。著に石屛集六巻がある。〔宋史翼、二十九〕・〔宋詩鈔〕・〔四庫提要、一百六十二〕。

【戴文璧】208 タイブンペキ　元、琅邪の人。字は君章。官は兩浙轉運判官。〔尙友錄、十八〕。

【戴表元】209 タイヘウゲン　元、奉化の人。字は帥初、又、曾伯。號は剡源。宋の咸淳の進士。元初に鄞に寓居し、大德中、信州教授となり、後、婺州に遷る。宋末、文章の萎薾を憫み、慨然として斯文を振起するを以て己れの任とした。著に剡源集がある。〔元史、一百九十〕・〔寧波府志〕。

【戴本孝】210 タイホンカウ　清、休寧の人。號は鷹阿山樵・前休子。山水畫に巧。〔清畫家詩史、乙、上〕。

【戴曼公】211 タイマンコウ　明、杭州の人。名は笠。字は曼公・子辰・則之・耘野。號は荷鋤人、又、天外戴笠人・就菴・天外老人・獨立一閑人。來つて我が長崎に住し、子弟に教授す。詩名大いに著はれ、又、經學は程朱を宗とす。寛文十二年十一月六日歿す、年七十七。著に永陵傳信錄・流寇編年錄・殉國彙編・一峯雙詠・有樵別緖記・就菴獨語・天外老人全集がある。〔先哲叢談、續、一〕。

【戴名世】212 タイメイセイ　清、桐城の人。字は田有。號は褐夫・南山。別號は憂菴。康熙己丑の進士。官は翰林院編修。少年にして才思豔發、尤も心を明一代の史事にとどむ。其の著南山集に明の永曆年號を用ひ、狂妄とせられ、大逆に坐して法に伏す。〔清史稿、四百八十九〕・〔碑傳集補、八〕・〔顏李師承記、六〕。

【戴明說】213 タイメイセツ　清、滄州の人。字は道默。號は巖犖（嚴犖）・定圃。畫を善くし、詩文に巧。明、崇禎の進士。官は兵科都給事中。李自成京師を陷れるや、明說、賊に從ひ、賊遁れて、原籍に逃歸す。順治の初、原官に起用され、戶部右侍郎に累擢せらる。後、官は太僕寺卿。〔清史列傳、七十九〕・〔清畫家詩史、甲、上〕。

【戴明寶】214 タイメイハウ　南朝宋、丹徒の人。孝武帝に寵幸せらる。官は南清河太守。明帝の時、晉陵太守に遷り、納賄に坐して獄に繫がれ、宥されて、昇明の初、太中大夫に拜せらる。〔宋書、九十四〕・〔南史、七十七〕。

【戴陽速】215 タイヤウソク　春秋、衞の大夫。靈公、夫人南子のために宋朝を召して洮に會す。太子蒯聵之を羞ぢ、速に命じて夫人を殺さしむ。夫人に見え、太子三顧すれども、速、進まず。夫人、察知して啼いて走り、蒯聵、我を殺さんとすといふ。公、夫人の手を執つて臺に登り、太子、宋に奔る。〔左氏、定、十四〕。

【戴蘭英】216 タイランエイ　清、嘉興の女子。字は瑤珍。袁氏に嫁し、早く寡となる。著に瑤珍吟草がある。〔清代閨閣詩人徵略、六〕。

【戴良齊】217 タイリヤウセイ　宋、黃巖の人。字は彥肅。嘉熙の進士。官は祕書少監。古文を以て鳴り、尤も性理の學に精通す。著に中說辨妄・通鑑前紀・曾子遺書・論語外書・孔子年譜・世譜・七十子說がある。〔宋元學案、六十六〕。

【戴陵濤】218 タイリヨウタウ　清、江都の女子。字は文淑。蔣曠生に嫁す。著に綠窗草がある。

【戴聯奎】219 タイレンケイ　清、如皋の人。字は紫垣。乾隆の進士。官は道光中、兵部尙書。風節峻整の士。〔續碑傳集、九〕。

【戴氏遺書】220 タイシヰショ　書名。清、戴震撰。孔繼涵・段玉裁編。

【戴盧丁顧】221 タイロテイコ　清の戴震・盧文弨・丁杰・顧廣圻の四人の併稱。共に校勘に精通するを以て著名である。〔經解入門、有二校勘之學一〕國朝以二校勘一名レ家者、惠氏棟・何氏焯・盧氏見曾・全氏祖望・盧氏文弨・錢氏大昕・李氏文藻・戴氏震・王氏念孫・張氏敦仁・丁氏杰・孫氏星衍・阮氏元・顧氏廣圻・趙氏懷玉・鮑氏廷博・袁氏廷檮・吳氏騫諸儒、其最精則稱二戴盧丁顧四人一、所レ校各書、俱屬二善本一。

【戴四方帽子】222 tai^4 ssŭ^4 fang^1 mao^4 tzŭ　かうと云へば必ず其の通りする。

【戴段二王之學】223 タイダンニワウノガク　清の學者、安徽の戴震、及び其の門下の段玉裁と、高郵の王念孫、其の子王引之等の學をいふ。所謂浙西の皖派に屬するもので、其の特長は小學(文字の學)の研究に在り、惠棟一派の漢儒の家法を堅く守つてゐる者と趣を異にし、凡て懷疑的態度から事實を考證し、其の治經の法は、必ず聲音から訓詁に、訓詁から義理に入るを主とした。これ等の四子によつて小學の基礎は確立し、更に俞樾・孫詒讓等によつて繼承された。〔清代學術概論、十二〕戴門後學、名家甚衆、而最能光二大其業一者、莫レ如二金壇段玉裁・高郵王念孫、及念孫子引之一、故世稱二戴段二王一焉、云云、戴段二王之學、其所三以特異二於惠派一者、惠派之治レ經也、如下不レ通二歐語一之人讀中歐書上、視二譯人一爲二神聖一、漢儒則其譯人也、故信二憑之一、不三敢有レ所二出入一、戴派不レ然、對二於譯人一、不二輕信一焉、必求二原文之正確一、然後卽安、惠派所レ得、則斷章零句、援レ古正レ後而已、

戴派毎發二明義例一、則通二諸羣書一、而皆得二其讀一、是故惠派可三名レ之曰二漢學一、戴派則確爲二清學一、而非二漢學一。

十五畫

【⿹戈⿸厂壴】11686　キ　〔廣韻〕許羈切　支

わらひあふ。〔廣韻〕⿹戈⿸厂壴、相笑之皃。

【⿹戈⿱二䖵】11687　セツ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿹戈⿱二䖵、音節。

【⿹戈祭】11688　シ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿹戈祭、音識。

【戴】11690　タイ　戴(5－11685)の本字。〔正字通〕戴、作レ戴。

十六畫

【⿹戈⿱亠異】11691　シ　識(10－35974)に同じ。〔韻會〕⿹戈⿱亠異、與レ識同。

【鹹】11692　キ　〔字彙補〕呼伊切　支

武器の名。〔字彙補〕鹹、兵名。

十七畫

【⿹戈⿱禾䖵】11693　ガ　〔字彙補〕五哥切　歌

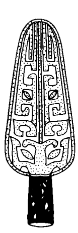
蟲の名。〔字彙補〕⿹戈⿱禾䖵、蟲名。

十八畫

【⿹戈蠢】11694　シュン　蠢(10－33797)に同じ。〔餘文〕⿹戈蠢、同レ蠢。

【戵】11695　ク グ　〔集韻〕權俱切　虞

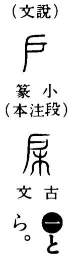
❶**ほこの類。**鑺(11－41073)に同じ。〔廣韻〕戵、戟屬。〔集韻〕鑺、戟屬、或从レ戈。❷通じて瞿(8－23747)に作る。〔正字通〕戵、或省レ戈作レ瞿、書、顧命、一人冕執レ瞿立二西坐一。



古戵（金石索）

戶部

【戶】11696　コ ゴ　〔集韻〕後五切　麌　ㄏㄨˋ hu^{4}



小篆（說文）　小篆（段注本）　古文

❶**と。**とびら。片一方の戶。家の戶。〔說文〕戶、護也、半門曰レ戶、象形、⿸戶木、古文戶从レ木。〔釋名、釋宮室〕戶、護也、所二以謹護閉塞一也。〔一切經音義、十四〕一扇曰レ戶、兩扇曰レ門、又在二於堂室一曰レ戶、在二於宅區域一曰レ門。〔晉書、光逸傳〕將二排レ戶入一。❷**とぐち。**室の出入口。〔詩、豳風、七月〕八月在レ宇、九月在レ戶。❸**かどぐち。**家宅の出入口。〔老子、四十七〕不レ出レ戶知二天下一。❹**物の出入口。**〔長沙耆舊傳〕鼻爲二氣戶一。❺**あな。**〔禮、月令〕蟄蟲咸動、啓レ戶始出。〔疏〕戶、謂レ穴也。❻**へや。**〔易、節〕不レ出二戶庭一。〔崔注〕戶庭、室庭也。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕府吏嘿無レ聲、再拜還入レ戶。❼**いへ。**家屋。家族。〔易、訟〕其邑人三百戶。〔後漢書、禮儀志〕案レ戶比レ民。〔晉書、慕容德載記〕或百室合レ戶、或千丁共レ籍。〔魏書、崔浩傳〕簡二窮下之戶一、於二州郡一就レ穀。〔唐書、食貨志〕天下兩稅、審二等第高下一、三年一定レ戶。❽**ひと。**住民。人民。〔唐書、姚崇傳〕溫戶彊丁。〔劉禹錫、洛中送二崔司業使君扶持赴二唐州一詩〕洛苑魚書至、江村雁戶歸。❾**特定の職業に從事する者。**〔宋史、食貨志下三〕其鬻鹽之地曰二亭場一、民曰二亭戶一、或謂二之竈戶一。❿**とどまる。とめる。**ひきとめる。〔集韻〕戶、一曰、止也。〔小爾雅、廣詁〕戶、止也。〔左氏、宣、十二〕屈蕩戶レ之。〔注〕戶、止也。〔漢書、王嘉傳〕坐下戶二殿門一失上。〔注〕師古曰、戶、止也。⓫**飮酒の程限。**上戶。下戶。〔元稹、春游詩〕酒戶年年減、山行漸漸難。〔白居易、久不レ見二韓侍郎一戲題二四韻一以寄レ之詩〕戶大嫌二甜酒一。〔中華大字典〕按、日本語謂二善飮一曰二上戶一、不二善飮一曰二下戶一、卽此遺意。⓬**あやのあるさま。**昈(5－13795)に通ず。〔揚雄、蜀都賦〕戶豹能黃。〔注〕郭璞方言注、昈、文采貌也、音戶、古字通用。⓭古は⿸戶木(5－11710)・吧(6－16282)に作る。〔集韻〕戶、古从レ木。〔康熙字典〕戶、古文吧。⓮扈(5－11746)に通ず。〔莊子、大宗師〕子桑戶。〔楚辭、九章、涉江〕子桑扈。⓯**姓。**〔萬姓統譜〕戶、見二姓苑一。**邦**❶**とだれ。とかんむり。**漢字字劃上の名。❷**へ。**陸奥國の地名に用ひる語。

名乘　モリ。カド。

解字　象形。門の半分を戶とする。戶があつて門口を守護する。古文は⿸戶木(5－11710)に作る。戶は、木で作るから木に從ふ。

參考　戶、當用漢字ではすべて戸に作る。

【戶尉】1 コヰ　門の右を守護する神。左を門丞といふ。〔月令廣義、十二月令、門神〕道家謂二門神一、左曰二門丞一、右爲二戶尉一。〔通俗編、神鬼〕門神、左曰二門丞一、右曰二戶尉一、蓋本自二道家書一。

【戶牖】2 コイウ　❶戶とまど。いりくち。門戶。牖は壁に明けた窗。〔老子、十一〕鑿二戶牖一以爲レ室。〔淮南子、精神訓〕夫孔竅者、精神之戶牖也。〔韓非子、喩老〕空竅者、神明之戶牖也。〔後漢書、王充傳〕戶牖牆壁、各著二刀筆一、著二論衡八十五篇、二十餘萬言一。❷學術等の流派の一家をなすもの。〔文心雕龍、諸子〕夫自二六國一以前、去レ聖未レ遠、故能越レ世高談、自開二戶牖一、兩漢以後、體勢漫弱。❸地名。河南省東仁縣の東北。漢の陳平の故鄕。〔左氏、哀、十三〕遂囚以還、及二戶牖一。〔注〕戶牖、陳留外黃縣西北東昏城是也。〔史記、陳丞相世家〕陽武戶牖鄕人也。

【不レ出二戶牖一】3 コイウヲイデズ　家から一歩も出ない。〔孔子家語、王言解〕其不レ出二戶牖一而化二天下一。〔吳志、趙達傳〕不レ出二戶牖一以知二天道一。

【戶牖之法坐】4 コイウノハフザ　天子が朝政を聽く處。戶牖の閒に扆をおき天子は之を負うて諸侯に對す。法宮。法駕。〔漢書、梅福傳〕故願壹登二文石之陛一、涉二赤墀之塗一、當二戶牖之法坐一、盡二平生之愚慮一。〔注〕師古曰、戶牖之閒、謂二之扆一、言負レ扆也、法坐、正坐也、聽レ朝之處、猶レ言二法官法駕一也。

【戶閾】5 コヰキ　門の敷居。門のしきみ。〔貢師泰、過二仙霞嶺一詩〕或列若二屛障一、或限若二戶閾一。

【戶逸】6 コイツ　家の中できらくにくらす。〔曾鞏、

祭二歐陽少師一文〕棲置二木索一、里安戸逸。

【戸邑】7 コイフ 戸口、住民をいふ。〔史記、三王世家〕使丁諸侯王封君、得丙推二私恩一、分乙子弟戸邑甲。

【戸衞】8 コエイ 門番。〔漢書、外戚上、許皇后傳〕（淳于）衍夫賞爲二掖庭戸衞一。

【戸捐】9 hu^4 chüan^1 戸數割。戸課。

【戸音】10 コオン 殷の湯王の時の音樂の名。戸は濩、大護。〔揚雄、蜀都賦〕戸音六成、行夏低徊。〔注〕戸、讀若レ濩、濩者、湯之樂。

【戸下】11 コカ ❶戸のほとり。〔後漢書、龐參傳〕自抱二孫兒一、伏二於戸下一。❷まづしい百姓。〔福惠全書、編審部、總論〕鄕閒稍裕者、其田地攬二歸戸下一、每年錢糧、包爲二代納一。

〖戸下人〗12 コゲニン コカジン 奴隷などの賤民。〔清會典事例、戸部、戸口〕凡八旗、在京官員、兵丁閒散、另住二戸下人等一。

〖戸下壯丁〗13 hu^4 hsia^4 chuang^4 ting^1 己の家に雇つた壯丁。

【戸歌】14 コカ 戸毎に謳歌する。〔韓愈、祭二河南張員外一文〕刑官屬郎、引章訐奪、權臣不レ愛、南昌是斡、明條謹獄、氓獠戸歌、用遷二澧浦一、爲レ人受レ瘥。

【戸開】15 コカイ 戸が開く。〔禮、曲禮上〕將レ入レ戸、視必下、入レ戸奉レ扃、云云、戸開亦開、戸闔亦闔、有二後入者一、闔而勿レ遂。

【戸駭】16 コガイ 家ごとに驚く。〔柳宗元、逐二畢方一文〕焚二傷羸老一兮炭二死童孩一、叫號隮突兮戸駭人哀。

【戸闔】17 コカフ ❶戸が閉ぢる。戸閉。〔禮、曲禮上〕將レ入レ戸、視必下、入レ戸奉レ扃、云云、戸開亦開、戸闔亦闔。〔潘岳、哀二永逝一文〕戸闔兮燈滅、夜何時兮復曉。❷とびら。〔唐書、魏徵傳〕戸闔不レ閉、行旅不レ齎レ糧、取二給於道一。

【戸閒】18 コカン とのすきま。〔史記、齊世家〕或見二人足於戸閒一、發視乃襄公、遂弑レ之。〔黃庭內景經、日月飛二行六合閒一、注〕森羅萬象、一如二天地一、戸閒了了然也。

【戸科】19 コクワ 清、都察院の六科の一。財政の事務を監察し、戸部の文書を檢閱す。〔清國行政法汎論、都察院、六科、戸科〕監二察財政事務一、檢二閱戸部文書一。

【戸外】20 コグワイ 戸のそと。家の外。屋外。〔儀禮、士喪禮〕衆婦人、戸外北面。〔禮、曲禮上〕戸外有二二屨一、言聞則入、言不レ聞則不レ入。〔後漢書、彭寵傳〕視二戸外一見二子密一、聽二其語一遂不二敢解一。〔杜甫、紫宸殿退朝口號詩〕戸外昭容紫袖垂、雙瞻御座引二朝儀一。

【戸貫】21 コクワン 民家の戸籍。〔北史、韓麒麟傳〕往年校二比戸貫一、租賦輕少。

【戸關】22 コクワン 清朝の關で戸部に屬してゐるもの。海關以外の內地にある稅關の異名。〔清會典事例、戸部〕凡戸關之屬、二十有六。

【戸曉】23 コゲウ 戸ごとにさとす。〔柳宗元、永州新堂記〕公之居高以望レ遠、豈不レ欲二家撫而戸曉一。

【戸穴】24 コケツ とぐちの穴。〔孟浩然、初年樂城館中臥レ疾懷レ歸詩〕蟄蟲驚二戸穴一、巢鵲眄二庭柯一。

【戸賢】25 コケン 戸ごとに賢明であること。〔道德指歸論〕是以天下背レ本去レ根、嚮レ末歸レ文、博レ學深レ問、家知戸賢。

【戸限】26 コゲン ❶戸のしきみ。門閾。〔晉書、謝安傳〕破二苻堅一驛書至、安方圍レ碁、既罷還レ內、過二戸限一、心喜甚、不レ覺二屐齒之折一。❷物と物との閒。中途。〔宋書、劉瑀傳〕人仕宦、不レ出當レ入、不レ入當レ出、安能長居二戸限上一。

【戸戸】27 ココ どの家もどの家も。いへいへ。家ごと。每家。一戸一戸。〔東京夢華錄、七、駕回儀衞〕綺羅珠翠、戸戸神仙。

【戸口】28 ココウ ❶戸數と人口。家かずと人かず。〔史記、高祖功臣年表論贊〕故大城名都散亡、戸口可二得而數一者、十二三。〔漢書、西域上、罽賓傳〕不レ屬二都護一、戸口勝兵多大國也。〔後漢書、光武紀下〕戸口耗少。❷トグチ 家の出入口。

〖戸口冊〗29 hu^4 k'ou^3 ts'ê^4 戸籍簿。

〖戸口使〗30 ココウシ 官名。徭役をしらべることを掌る。唐の玄宗、宇文融を諸邑の安輯戸口使とし、又、王錯を句當戸口色役使とした。〔唐書、宇文融傳〕乃奏二慕容琦・韋洽、云云等二十九人一、爲二勸農判官一、假二御史一、分按二州縣一、括二正丘畝一、招二徠戸口一而分二業之一、又兼二租地安輯戸口使一、於レ是諸道收二沒戸八十萬一、田亦稱レ是、云云、歲終羨二錢數百萬緡一。

〖戸口增〗31 ココウマス 戸數と人口が增加する。〔元史、選擧志二、銓法上〕凡選二擧守令一、至元八年、詔以二戸口增、田野闢、詞訟簡、盜賊息、賦役均、五事備者一、爲二上選一。

〖戸口減耗〗32 ココウゲンカウ 戸數と人口とがへる。〔唐書、食貨志二〕癘疫水旱、戸口減耗。

〖戸口日繁〗33 ココウヒニシゲシ 人民の戸數と人口とが日日に繁盛となる。〔六部成語、戸部、戸口日繁、注解〕流亡日集、民戸丁口、日臻二繁盛一。

〖脫二漏戸口一〗34 ココウヲダツロウス 戸口をぬかしもらすこと。戸は家を計り數へること。口は人を計り數へること。〔明律、戸律、戸役、脫二漏戸口一〕脫レ戸者十戸、笞四十、每二十戸一加二一等一、罪止二杖八十一、漏レ口者十口、笞二十、每二三十口一加二一等一、罪止二笞四十一。〔六部成語、戸部、脫二漏戸口一、注解〕編二查民閒戸口脫漏一、寫以致二人戸不一レ全。

【戸鉤】35 ココウ 戸のかぎ。〔李益、詣二紅樓院一尋二廣宣一不レ遇留題詩〕隔レ窗愛レ竹無二人問一、遣下向二鄰房一覓中戸鉤上。

【戸座】36 コザヘ 古、神祇官及び齋宮寮の職員。十七才以上の童男を卜定してこれにあてた。〔類聚三代格、一、太政官符、定二準レ犯科一レ祓事〕物忌、戸座、御火炬。〔臨時祭式〕凡戸座、取二七歲已上童男卜食者一充レ之、若及二婚時一、申二辨官一充替。

【戸曹】37 コサウ 官名。民戸を主どる屬官。漢の公府に戸曹掾あり、北齊では功曹・倉曹と同じく參軍となり、唐は諸府に戸曹があり、清では戸部の司員を戸曹といふ。司戸（**2**－**3257**・・81）を見よ。〔後漢書、百官志一〕戸曹主二民戸祠祀農桑一。〔晉書、羊祜傳〕荊州人爲レ祜諱レ名、屋室皆以レ門爲レ稱、改二戸曹一爲二辭曹一焉。〔宋書、百官志上〕戸曹主二民戸祠祀農桑事一。〔文獻通考、職官考、總論郡佐〕司戸參軍、漢魏以下有二戸曹掾一、主二民戸一、北齊以下與二功曹一同、大唐掌二戸口籍帳婚嫁田宅雜徭道路之事一。

〖戸曹尚書〗38 コサウシヤウショ 戸部尚書（104）に同じ。戸部（101）を見よ。〔吳志、孫休傳〕休升二便殿一、謙不レ卽二御坐一、止二東廂一、戸曹尚書前卽二階下一讚奏。

【戸窄】39 コサク 住民戸口が少い。〔宋史、食貨志上六〕鄕寬戸多者、僅得二更休一、鄕狹戸窄者、頻年在レ役。

【戸冊】40 コサツ 人別帳。戸籍簿。〔袁桷、素軒賦〕揭二嘉名于戸冊一兮、振二白首一以莫レ忒。

【戸撒】41 コサツ 土司の名。土司とは、元明以來苗蠻を管するに、土人の世襲者を以てしたもの。雲南省騰衝縣の西南、檳榔江の南。土官は賴氏。明の正統の時、戸撒長官司を授く。〔清會典、戸部〕雲南・貴州、其土司五十、戸撒土司。〔清史稿、地理志〕雲南、永昌府、長官司二、戸撒長官司。

【戸次】42 コヘツギ 姓氏。

【戸耳】43 コジ 門戸の扉につけた大きな鐶。案內を乞ふに、之をたたいて來意を通ずる。〔玉篇〕扃、戸耳也。

【戸車】44 コトグルマ 戸の下につけて、開閉を便ならしめる車。

【戸者】45 コシヤ 門戸を守る人。門番をいふ。〔史記、樊噲傳〕詔二戸者一無レ得レ入二羣臣一。

【戸將】46 コシヤウ 官名。漢、置く。郎中の戸衞を主るもの。戸郎。〔漢書、百官公卿表上〕郎中有二車戸騎三將一。〔注〕左右戸將主二左右戸郎一也。

【戸主】47 コシユ ❶一家のあるじ。家長。〔開元戸令〕諸戸主、皆以二家長一爲レ之。❷戸主權の主體たるもので、家政を總統し、家族に對して扶養の義務を負ふ者。〔舊民法、第七百三十二條〕。

【戸首】48 hu^4 shou^3 組がしら。村里の長。

【戸衆】49 コシユウ 戸口が多い。〔南齊書、良政、沈憲傳〕太祖以二山陰戸衆難一レ治、欲三分爲二兩縣一。

【戸神】50 コシン 戸を主る神。〔禮記、月令、其祀戸、疏〕戸是人之出入、戸則有レ神、云云、此戸神則陽氣在二戸內一之神、故云レ祀二之於戸內陽一也。

【戸人】51 コジン ❶戸主。〔漢書、食貨志上〕農民戸人已受レ田、其家衆男爲二余夫一、亦以レ口受レ田如レ比。❷ヘビト ㋑一戸內の家族。戸口。戸主の對。〔大神宮式〕戸人。㋺封戸（**4**－**7426**・・70）に同じ。

【戸數】52 コスウ 家かず。やかず。〔國語、晉語九〕趙簡子使三尹鐸爲二晉陽一、請曰、以爲二繭絲一乎、抑爲二保鄣一乎、簡子曰、保鄣哉、尹鐸損二其戸數一。〔後漢書、百官志五〕但納二租於侯一、以二戸數一爲レ

限。〔唐書、食貨志二〕參二計戸數一、量二土地沃瘠、物産多少一、爲二二等州一。

【戸樞】53 コスウ 戸のくるる。戸の回轉軸。〔易、繫辭上〕言行君子之樞機、〔疏〕言行君子之樞機者、樞、謂二戸樞一、機、謂二弩牙一。〔呂覽、盡數〕流水不レ腐、戸樞不レ螻動也。〔後漢書、方術下、華佗傳〕譬如二戸樞終不一レ朽也。〔魏志、華佗傳〕譬猶二戸樞不一レ朽是也。

【戸樞不レ蠹】54 コスウハトセズ 開き戸の樞は朝夕動くから蟲が食はぬ。人も常に活動して居れば安全無事であるとの喩。〔雲笈七籤〕流水不レ腐、戸樞不レ蠹、以二其勞動不一レ息也。〔無名氏、天行健賦〕緜緜若レ存、戸樞不レ蠹。

【戸稅】55 コゼイ 家每にわりつけて出させる稅。〔唐書、懿宗紀〕咸通四年七月、云云、免二安南戸稅丁錢二一歲。〔北夢瑣言〕劉虛白嗜レ酒、詩云、知道醉鄉無二戸稅一、任地荒卻下丹田。

【戸鈔】56 コセウ 農民の租稅領收書。〔棠陰比事、中〕尹氏出二積歲所レ收戸鈔一爲レ驗、沆詰レ之曰、若田百頃、戸鈔豈特收レ此乎、始爲レ劵時、嘗問レ鄰乎、其人固多在、可二取爲一レ證、尹氏不レ能レ對、遂伏レ罪。

【戸席】57 コセキ 門戸や坐席。〔左氏、昭、二十七〕門階戸席皆王親也。〔會箋〕戸、內室也、席、當レ在二戸外一。〔史記、吳太伯世家〕門階戸席、皆王僚之親也。〔文心雕龍、銘箴〕成湯盤盂、著二日新之規一、武王戸席、題二必戒之訓一。

【戸籍】58 コセキ ㊀戸數・人口を記した帳簿。人別帳。〔周禮、天官、小宰、三曰聽二閭里一以二版圖一、注〕鄭司農云、版、戸籍。〔周禮、秋官、司民〕掌レ登二萬民之數一、自二生齒一以上書二於版一、〔注〕登、上也、男八月、女七月而生レ齒、版今戸籍也。〔管子、禁藏〕戸籍田結者、所三以知二貧富之不一レ訾也。〔史記、秦始皇紀〕爲二戸籍一相互。〔魏志、崔琰傳〕昨案二戸籍一、可レ得二三十萬衆一、故爲二大州一也。〔唐會要、籍帳〕開元十八年十一月敕、諸戸籍、三年一造。㊁一家に於ける身分關係に關する事項を記載した公文書。

【戸籍法】59 コセキハフ 親族關係・身分登記等の順序方法等を定めた法律。

【戸籍簿】60 コセキボ 戸籍を地番の順序に編綴した帳簿。

【戸籍吏】61 コセキリ 戸籍に關する行政事務を扱ふ吏員で、舊制上の名稱。通例、市町村長がこれに任じ、大都市では區長がこれに任ずる。

【戸籍抄本】61′ コセキセウホン 戸籍の原本から、或る人の身分關係だけを拔出して寫した書類。

【戸籍謄本】62 コセキトウホン 戸籍の原本を謄寫した書類。

【戸籍役場】63 コセキヤクバ 市役所・町村役場又は區役所等、戸籍吏が其の事務を取扱ふところ。

【戸說】64 コセツ 家每に說く。軒並みに告げ知らせること。〔管子、水地〕是以聖人之治二於世一也、不二人告一也、不二戸說一也。〔楚辭、離騷〕衆不レ可二戸說一兮。〔史記、貨殖傳〕雖三戸說以二眇論一、終不レ能レ化。〔淮南子、原道訓〕雖三口辯而戸二說之一、不レ能レ化二一人一。

【戸絕】65 コゼツ 繼嗣の絕えた家。〔宋史、食貨志上一〕或戸絕之家、不レ與レ命レ繼、或經二陳訴一、許以給還、輒假二他名一、支破竟成二乾沒一。

【戸絕有レ女承繼】66 コタエテヂヨアルトキハシヨウケイス 女子は出嫁を本義とし、家財承繼の權利なきを原則とするが、一家斷絕の際に女子があれば、女子が其の家財を承繼する。〔元典章、戸部、家財〕戸絕有レ女承繼。

【戸扇】67 コセン とびら。門扇。〔說文〕扉、戸扇也。〔庾信、鏡賦〕始摺二屛風一、新開二戸扇一。〔司空圖、馮燕歌〕燕依二戸扇一欲二潛逃一、巾在二枕傍一指令レ取。

【戸前】68 マトヘ 藏の入口の戸をたてるところ。〔櫻陰比事〕此の內藏、兩方立ち合はずしては、戸前のあかざる事を、深く感じけるとなり。

【戸贈】69 コソウ 戸ごとに物を贈る。〔中論、虛道〕蓋聞、舜之在二鄕黨一也、非二家饋而戸贈一レ之也、人莫レ不レ稱レ善焉。

【戸側】70 コソク 戸のかたはら。喪主の位置。室の戸の東側で、ここに喪主は南面して立つ。〔左氏、襄、二十三〕孟孫卒、公鉏奉レ羯立二于戸側一。〔注〕戸側、喪主。〔會箋〕在二室戸之東一、南面而立也。

【戸多】71 コタ 戸數が多い。〔宋史、食貨志上六〕役年之法曰、戸多之鄕、以二十二年一、戸少以二九年一而應二差之一。

【戸袋】72 トブクロ 書閒、雨戸を引き入れて、收め置く處。

【戸對】73 コタイ 家が向ひ合ふ。〔江總、春夜山庭詩〕戸對亡憂草、池驚旅浴禽。

【戸大】74 コダイ 大酒の人。ひだりきき。上戸。〔白居易、久不レ見二韓侍郎一戲題二四韻一以寄レ之詩〕戸大嫌二甜酒一、才高笑二小詩一。

【戸大丁多】75 hu^4 ta^4 ting^1 tuo^1 大家族。

【戸長】76 コチヤウ ㊀村の長。里正。村甲。〔宋史、食貨志上五〕以二里正戸長鄕書手課一、督二賦稅一。㊁もと町村の事務を取つた役人。さとをさ。なぬし。里正。今の町村長に當る。

【戸長役場】77 コチヤウヤクバ 戸長の事務を取扱ふ所。町村役場。

【戸帳】78 コチヤウ 戸籍簿。〔事物紀原、治理政體部、戸帳〕武德六年三月令二天下一、戸每歲一造二帳籍一、開元十八年十一月勅、諸戸籍三年一造、此戸口有レ帳之初也。〔宋史、食貨志上二〕諸州歲奏二戸帳一、具載二其丁口一、男夫二十爲レ丁、六十爲レ老。

【戸丁】79 コテイ ㊀義勇兵。各戸にふり分けて壯丁を徵發し、地方の防衞に當らせるもの。民團・商團の類。〔元史、世祖紀二〕括二北京鷹坊等戸丁一爲レ兵、蠲二其賦一、令二趙炳將一レ之。㊁一族中の丁口をいふ。丁口は男女の人數。〔六部成語、戸部、戸丁、注解〕通族中之丁口也。

【戸丁銀】80 コチヤウギン 人口稅。人頭稅。〔皇朝文獻通考、戸口考、戸口總敍〕乾隆元年、奉諭、朕聞、甘省以二糧載丁從前辦理未一レ善、致レ多二偏枯一、見有下民戸丁銀攤二入屯戸一者、九千二百二十五兩上、屯戸輸納惟艱、今應下酌二籌變通之法一、著將レ此多攤二九千餘兩一、暫爲二豁除一、俟中下屆二編審一之時上。

【戸庭】81 コテイ 門戸と庭。家門以內をいふ。門庭。〔易、節〕初九、不レ出二戸庭一、无レ咎。〔郭璞、方言序〕故可下不レ出二戸庭一而坐照中四表上。〔風俗通、愆禮〕不レ出二戸庭一、以レ此爲レ高。〔謝靈運、登二石門最高頂一詩〕長林羅二戸庭一。〔孫魴、甘露寺詩〕最愛僧房好、波光滿二戸庭一。

【戸締】82 トジメ ㊀德川時代、庶人に科した刑、戸を閉ぢて休業せしめ、輕きは二十日、重きは百日に至る。㊁トジマリ 門戸を閉ぢること。

【戸調】83 コテウ 家每に稅として出させる品物。〔魏志、趙儼傳〕都尉李通、急錄二戸調一。〔文獻通考、戸口考〕晉武帝、平レ吳之後、制二戸調之式一、丁男之戸、歲輸二絹三疋、綿三斤一。

【戸帖】84 コテフ 明代、每戸に給して、其の住所姓名、並びに家族の名及び年齡を書して門に揭げしめたもの。今の門札、卽ち門牌の如きもの。〔續文獻通考、戸口考〕十一月詔二戸部一、籍二天下戸口一、置二戸帖一、諭二省臣一曰、民者國之本也、今天下已定、而民數未二覈實一、其命二戸部一籍二天下戸口一、每戸給二戸帖一、於レ是戸部置二戸籍戸帖一、各書二戸之鄕貫丁口名歲一、以二字號一編爲二勘合一、用二半印鈐一記レ籍、藏二於部一、帖給二於民一、仍令下有司歲計二其戸口之登耗一、以聞、著爲上令。

【戸田】85 コデン 戸は家屋、田は田地。卽ち家屋と田地。〔類聚三代格、十九〕諸院・諸宮及諸王臣家、或爭二百姓戸田一、或奪二浮浪財物一。

【戸田執照】86 コデンシツセウ 清代、戸籍謄本と財産目錄とを倂せたやうなものをいふ。

【戸奴】87 コド しもべ。〔唐書、太宗諸子、常山王承乾傳〕使三戸奴數十百人習二音聲學一。

【戸等】88 コトウ 民間每戸の財産を量つて民戸に貧富の等級をつけることで、唐の武德六年に始まる。〔事物紀原、治理政體部、戸等〕武德六年三月令二天下一、戸量二其資産一、定爲二三等一、九年三月二十四日、又爲二九等一、此戸有二等第一之始也、正元四年正月仍令、三年一定爲二常式一、宋朝因レ之爲二五等一。

【戸頭】89 コトウ ㊀一家の主。戸主。〔後漢書、章帝紀〕加二賜河南女子百戸牛酒一、〔注〕姚察云、女子謂二賜レ爵者之妻一、臣賢案、此女子百戸、若レ是戸頭之妻、不レ得二更稱爲一レ戸、此謂二女戸頭一、卽今之女戸也。㊁小作頭。又は組頭の類。〔福惠全書、錢穀部、催徵戸頭總催說〕抑戸頭每甲輪流充當、一任二經承造報一。㊂hu^4 t'ou^2 銀行と取引のある商店が、銀行に設けた口座。又、一般に口座をいふ。戸名。

【戸內】90 コナイ 戸のなか。家の中。〔禮、檀弓上〕小二

斂於戸内二。〔莊子、達生〕戸内之煩壤、雷霆處レ之。

【戸破】91ヘクリ　越中國の地名。

【戸馬】92コバ　宋、元豐年間に、各路の州縣戸の資産を計へ、各戸に馬を養はしめ、兵事あれば調して戰騎に給せしめたもの。〔宋史、兵志六〕嚮者干進之士、説二先帝一以二征伐開拓之策一、故立二保甲戸馬保馬等法一。〔宋史、兵志十二〕戸馬者、慶曆中、嘗詔二河北民戸一以二物力一養レ馬、以備二官買一、熙寧二年、河北察訪使曾孝寬以爲、言二始參考行一レ之、是時諸監既廢、仰給二市馬一、而義勇保甲馬、復從レ官給、朝廷以レ之馬爲レ憂、元豐三年、春以二王拱辰之請一、詔二開封府界京東西河北陝西河東路州縣一戸各計二資産一市レ馬、坊郭家産及二三千緡一、鄉村五千緡、若坊郭鄉村、通及二三千緡以上一者、各養二一馬一、增倍者馬亦如レ之、至二三疋一止、云云、此時西方用レ兵、頗調二戸馬一以給二戰騎一。

【戸棚】93トダナ　三方を圍み、中に棚を構へ、前に戸を設け、器具などを藏するもの。

【戸房】94コバウ　官署の名。❶唐代、戸部に關する事務を掌るところ。〔唐書、百官志〕列二五房於其後一、一曰吏房、二曰樞機房、三曰兵房、四曰戸房、五曰刑禮房、分レ曹以主二衆務一焉。〔宋史、職官志一〕先レ是中書人吏、分掌二五房一、曰、孔目房・吏房・戸房・兵禮房・刑房。❷清代、府廳州縣の民戸を掌る者。〔清會典事例、吏部、書史、經制額缺〕都察院、堂印房經承一人、吏房經承三人、戸房經承三人、禮房經承二人、兵房經承三人、刑房經承四人、工房經承三人、火房經承三人、本房經承二人。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕戸房經下管應二徵解給一、夏税秋糧、云云等項上。

【戸傍】95コバウ　戸のかたはら。入口のあたり。〔迷樓記〕金虬伏二於棟下一、玉獸蹲二於戸傍一。

【戸伯】96コハク　漢代、兵吏五人を一戸として一竈を置き、一伯を置いて掌らしめた。これを戸伯といひ、一に伍伯、又、火伯ともいふ。一竈の主。組頭。〔古今注、輿服〕伍伯、一伍之伯也、五人曰レ伍、五長爲レ伯、故稱二伍伯一、一曰二戸伯一、漢制、兵吏五人、一戸竈、置二一伯一、故戸伯亦曰二火伯一、以爲二一竈之主一也。〔蘇氏演義〕漢制、兵吏五人、一戸一竈、置二一伯一、故云二戸伯一、亦名二火伯一、以爲二一竈之掌一也、漢諸公行、則戸伯率二其伍一以導引。

【戸板】97トイタ　戸を板に代へ用ゐて、物を載せるときの稱。〔曾我扇八景、十番斬屋形歸〕先づ一番に來る手負、誰人なるぞと戸板に乘せ。

【戸版】98コハン　戸籍。戸籍簿。〔唐書、食貨志二〕戸版不レ緝、無二浮游之禁一。〔唐書、盧承慶傳〕帝問二歷代戸版一、承慶敍下夏商至二周隋一、增損曲折上、引據該詳。〔宋史、職官志七〕縣令、云云、凡戸口賦役、錢穀振濟、給納之事、皆掌レ之、以レ時造二戸版及催理二税一。〔宋史、食貨志上二〕戸版訛隱、不レ待レ校而知。

【戸扉】99コヒ　と。とびら。〔宋史、劉錡傳〕又撤二民戸閒扉一、周匝蔽レ之。

【戸賦】100コフ　戸每にわりあて課する税。〔漢書、蕭「望之傳〕戸賦口斂。

【戸部】101コブ　❶官署の名。國家の財政を掌る。周禮の地官大司徒を戸部の濫觴とする説がある。天官の司會の如きも財政會計を掌つた。秦代には治粟內史と云ひ、漢の景帝の時大農令と改め、武帝は大司農と改稱した。魏は度支尚書を置き、軍國の會計を掌らしめ、呉に至つて初めて戸曹と稱した。齊・梁・陳は皆魏にならつて度支尚書を置き、其の下に度支・金部・倉部・起部の四曹を設けて財政を分擔せしめた。隋の開皇三年、改めて民部とし、其の下に度支・民部・金部・倉部があつた。唐は初め隋制に因つたが、神龍以後、戸部に一定し、五代を經て宋の元豐以後戸部は愈〻財政の總滙となつた。明に及んで洪武元年に戸部を設置し、所屬を五科に分ち、同二十三年には所屬を、河南・北平・山東・山西・陝西・浙江・江西・湖廣・廣東・廣西・四川・福建の十二部に分ち、同二十九年更に十二清吏司とし、尋いで十三清吏司に變更した。各清吏司は布政使の財政を管理する外、特定の事務を管理した。清は明制に倣ひ、江南・浙江以下十四清吏司に分つて租税を查覈し、又特別の事務を辨理せしめた。光緒末年には戸部を度支部と改め、民國にては財政部といふ。〔事物紀原、三省綱轄部、戸部〕戸部、周禮地官之掌也、漢置二尚書四人一、一主二財帛委輸一、卽今戸部任矣、呉始有二戸部名一、通典曰、呉孫休卽レ位、戸部尚書讀レ奏是也、周禮司民、掌レ登二萬民之數一、卽戸部任也。〔通典、職官、戸部尚書〕周禮地官大司徒之職、掌三建レ邦之土地之圖、與二其人民之數一、又太宰之屬有二司會一、以二九貢之法一致二邦國之財用一、以二九賦之法一令二田野之財用一、以二九功之法一令二民職之財用一、以二九式之法一均二節邦之財用一、掌二國之官府郊野、縣都之百物財用一、凡在二契書版圖一者之貳、以逆二羣吏之治一、而聽二其會計一、漢置二尚書郎四人一、其一人主二財帛委輸一、至二魏文帝一、置二度支尚書寺一、專掌二軍國支計一、呉有二戸部一、而晉有二度支一、皆主二算計一也、宋齊度支尚書領二度支金部倉部起部四曹一、梁亦有レ之、後魏度支亦掌二支計一、北齊度支統二度支倉部左戸右戸金部戸部六曹一、後周置二大司徒大夫二人一、掌レ承二司徒卿一人一、如下周禮之制、其教以二籍帳之法一贊中計人屬上、有二民部一中二民之衆寡一、隋初有二度支尚書一、則幷二後周民部之職一、開皇三年、改二度支一爲二民部一、統二度支民部金部倉部四曹一、國家修二隋志一、謂二之戸部一、蓋以二廟諱一故也、大唐永徽初、復改二民部一爲二戸部一、廟諱故也、顯慶元年、改二戸部一爲二度支一、龍朔二年、改二度支尚書一爲二司元太常伯一、咸亨元年、復爲二戸部尚書一、初戸部居二禮部之後一、武太后改置二天地四時之官一、以二戸部一爲二地官一、由レ是遂居二禮部前一、神龍元年、復改二地官一爲二戸部一、總二判戸部度支金部倉部事一。〔歷代職官表、戸部、三國〕三國呉志、孫休升二便殿一止二東廂一、戸曹尚書前卽二階下一讀レ奏、謹案、通典引二此文一作二戸部尚書一、而三國志實作二戸曹一、疑通典傳刻之訛也。〔唐六典、戸部〕戸部、掌二天下戸口一。〔唐書、百官志一〕尚書令一人、正二品、掌三典二領百官一、其屬有二六尚書一、一曰吏部、二曰戸部、三曰禮部、四曰兵部、五曰刑部、六曰工部、庶務皆會決焉。〔宋史、職官志三〕戸部、云云、凡官十有三、尚書一人、侍郎二人、郎中員外郎左右曹各二人、度支金部倉部各二人。〔合璧事類〕宋初戸部判部事一人、以二兩制以上一充、凡戸口田産錢穀食貨之政令、皆歸二于三司一、本曹但受二天下之土貢元會一、陳二于庭一而已、元豐改二官制一、罷二三司一、歸二戸部左右曹一、而三司之名始泯矣。〔明史、職官志一〕初洪武元年、置二戸部一、六年設二尚書二人侍郎二人一、分爲二五科一、一科二科三科四科總科、每レ科設二郎中員外郎各一人主事四人一、云云、二十二年、改二總部一爲二民部一、二十三年、又分二四部一、爲二河南北平山東山西陝西浙江江西湖廣廣東廣西四川福建十二部一、部設二郎中員外郎各一人主事二人一、各領二一布政司一戸口錢糧等事、量二其繁簡一、帶管、京畿每二一部內一、仍分二四科一管理。〔清會典事例、戸部〕戸部尚書、滿洲一人、漢一人、左侍郎、滿洲一人、漢一人、右侍郎、滿洲一人、漢一人、掌三天下之地政、與二其版籍一、以贊レ上養二萬民一、凡賦税徵課之則、俸餉頒給之制、倉庫出納之數、川陸轉運之宜、百司以達二於部一、尚書侍郎率二其屬一以定レ儀、大事上レ之、小事則行、以足二邦用一。❷民部省の唐名。〔職原抄〕民部省、當二唐戸部一。❸コベ　姓氏。

【戸部銀行】102コブギンカウ　光緒三十三年設立した國立銀行。資本金四百萬兩、總辦・副總辦・理事・監事があつて事務を分掌す。三十四年大清銀行と改め、業務を擴張し、資本金を一千萬兩とす。〔清史稿、職官志〕度支部、大清銀行、正監督副監督各一人、儲蓄銀行總辦一人、分行總辦二十人、光緒三十三年設二戸部銀行一置二總監督一、秩視二左右丞一、尋更二名正監督一、明年改爲二大清銀行一。

【戸部侍郎】103コブジラウ　❶官名。戸部の次官。〔通典、職官、戸部尚書〕侍郎二人、蓋周官小司徒中大夫、頗同二其任一、後周依二周官一、今侍郎則隋煬帝置二民部侍郎一、大唐因レ之、後改曰二戸部一、龍朔二年、改爲二司元少常伯一、咸亨元年、復爲二戸部侍郎一、他時曹名或改、而官號不レ易、舊制一員、長安四年加二一員一、神龍元年減、二年復加。❷民部大輔の唐名。〔職原抄〕民部省、大輔一人、唐名、戸部侍郎。

【戸部尚書】104コブシヤウシヨ　❶戸部(101)を見よ。❷民部卿の唐名。〔職原抄〕民部省、卿一人、唐名、戸部尚書。

【戸部主事】105コブシユジ　民部録の唐名。〔職原抄〕民部省、録、唐名、戸部主事。

【戸部二妙】106コブニメウ　唐の戸部郎中、韋維は裁判をよくし、戸部員外郎、宋之問は詩を善くし、二妙と稱せられた。〔唐書、韋維傳〕遷二戸部郎中一、善二裁剖一、時員外宋之問善レ詩、故時稱二戸部二

妙一。〔唐詩紀事、宋之問〕韋善心爲二郎中一、善二剖決一、之問善レ詩、時謂二戶部二妙一。

【戶部郎中】107 コフラウチユウ ㊀官名。戶部尙書をたすけて政務に參する官。〔通典、職官、戶部尙書〕郎中二人、漢尙書郎一人、主二戶口墾田一、吳時張溫爲二尙書戶曹郎一、魏有二民曹郎一、晉分爲二左右民曹一、宋齊以下或爲二左民一、或爲二左戶一、後魏有二戶部郎一、北齊有二左右民曹一、例在二戶部郎中篇一、隋初爲二戶部侍郎一、煬帝除二侍字一、隋末改爲二民部郎一、武德初爲二民部郎中一、龍朔二年、改二郎中一爲二大夫一、咸亨元年復レ舊、他時曹名或改、而官號不レ易、戶口籍帳賦役孝義優復蠲免婚姻繼嗣百官衆庶園宅口分永業等、建中三年正月、戶部侍郎判度支杜佑奏、天寶以前、戶部事繁、所二以郎中員外各二人判署一、自二兵興一以後、戶部事簡、度支事繁、唯郎中員外各一人、請回二輟郎中員外各一人一、分二判度支案一、待二天下兵革已息一、卻歸二本曹一、奉レ敕依。㊁民部丞の唐名。〔職原抄〕民部省、丞、唐名、戶部郎中。

【戶部員外郎】108 コフヰングワイラウ ㊀官名。戶部の屬官。郎中の下、主事の上に位す。〔通典、職官、戶部尙書〕員外郎、二人、隋文帝置、煬帝爲二承務郎一、武德三年、復爲二員外郎一。㊁民部少輔の唐名。〔職原抄〕民部省、少輔一人、唐名、同員外郎歟。

【戶屛】109 コヘイ 家の入口にあるかき。〔後漢書、龐參傳〕但以二薤一大本水一盂一、置二戶屛前一、自抱二孫兒一伏二於戶下一。

【戶豹】110 コヘウ もやうある豹。〔揚雄、蜀都賦〕戶豹能黃。〔注〕郭璞方言注、昈、文采貌也、音戶、古字通用。

【戶別】111 コベツ いへごと。每戶。軒別。

【戶別訪問】112 コベツハウモン 家每に訪問すること。一軒一軒訪問する。

【戶辯】113 コベン 家每に說きさとす。軒別に說きあるくこと。〔淮南子、泰族訓〕夷狄之國、重譯而至、非二戶辯而家說一之也、推二其誠心一、施二于天下一而已矣。〔道德指歸論、民不畏死篇〕動以悅レ民、家知戶辯、里有二仁賢一。

【戶牡】114 ボコ 戶ざし。〔廣韻〕扅、扊扅、戶牡、所二以止レ扉。

【戶封】115 コホウ 功臣を封ずるのに其の土地の大小を以てせずして、民戶の多少を以てすること。〔事物紀原、官爵封建部、戶封〕晉書地理志曰、古者有レ分レ土、無レ分レ民、若乃以二戶口一爲二差降一、略二封疆之遠近一、所謂分レ民自レ漢始也、蓋漢艾二亡秦一、大侯不レ過二萬家一、小者五六百戶、則封國之以レ戶、漢其始也。

【戶名】115′ hu⁴ ming² 銀行と取引のある商店が、銀行に設けた口座。又、一般に口座をいふ。戶頭。

【戶銘】116 コメイ 戶口に書きしるしてある銘文。〔大戴禮、武王踐阼〕武王、云云、戶之銘、夫名難レ得而易レ失。

【戶門】117 コモン でいりぐち。かどぐち。〔道德指歸論、出生入死篇〕夫生之於レ形也、神爲二之蒂一、精爲二之根一、營爽爲二宮室一、九竅爲二戶門一。

【戶約】118 コヤク 戶數が少い。〔宋書、志序〕既而民單戶約、不レ可二獨建一、故魏邦而有二韓邑一、齊縣而有二趙民一。

【戶鑰】119 コヤク 鍵。とざし。〔方言、五〕戶鑰、自レ關而東、陳楚之閒、謂二之鍵一、自レ關而西、謂二之鑰一。

【戶喩】120 hu⁴ yü⁴ 家々にさとす。

【戶郎】121 コラウ 漢代の官名。郎中の戶衞を主るもの。〔漢書、百官公卿表上〕郎中有二車戶騎三將一。〔注〕如淳曰、主レ車曰二車郎一、主二戶衞一曰二戶郎一。

【戶律】122 コリツ 戶籍・賦役及び其の他民事に關する規定。漢初は秦の六篇律によつたが蕭何は之に廐律・興律・戶律の三篇を加へて九章律とした。北齊に至つて之に婚事を附し婚戶律と名付けたが、隋の開皇に至つて刑事を修正するに際し、戶は婚の前に在るべきものとして戶婚律とした。唐律は之に因る。明は戶役・田宅・婚姻・倉庫・課程・錢債・市廛を戶律に編入した。淸は之に因る。〔晉書、刑法志〕漢承二秦制一、蕭何定レ律、除二參夷連坐之罪一、增二部主見知之條一、益二事律興廐戶三篇一、合爲二九篇一。〔唐律、戶婚上〕疏義曰、戶婚律、漢蕭何承二秦六篇律一、後加二廐興戶三篇一、爲二九章之律一、迄レ至二後周一、皆名二戶律一、北齊以二婚事一附レ之、名爲二婚戶律一、隋開皇以三戶在二婚前一、改爲二戶婚律一。〔明律、目錄、戶律〕戶役、田宅、婚姻、倉庫、課程、錢債、市廛。〔淸會典事例、目錄、刑部〕戶律戶役、戶律田宅、戶律婚姻、戶律倉庫、戶律課程、戶律錢債、戶律市廛。

【戶橉】123 コリン 出入口のしきゐ。門限。〔淮南子、氾論訓〕枕二戶橉一而臥者、鬼神蹠二其首一。

【戶轔】124 コリン しきゐ。戶橉に同じ。〔淮南子、說林訓〕雖レ欲レ謹レ亡レ馬、不レ發二戶轔一、雖レ欲二豫就レ酒、不レ懷レ蓐。〔注〕轔、戶限也。

【戶靈】125 コレイ でいりぐちの神。〔韓愈、送レ窮文〕門神戶靈、我叱我呵、包レ羞詭隨、志不レ在レ他。

【戶㡘】126 コレン 出入口に懸ける簾。〔急就篇〕承塵戶㡘條績總。〔注〕戶㡘、戶上之幔也、字或作レ簾。

【戶惑】127 トマドヒ ㊀入らんとする部屋、又は家を誤ること。㊁夜中俄かに眼を覺したため、方向に迷ふこと。

【戶婚律】128 ココンリツ 戶は戶籍、婚は婚姻。戶律(122)を見よ。〔隋書、刑法志〕一曰名例、二曰衞禁、三曰職制、四曰戶婚、五曰廐庫、六曰擅興、七曰盜賊、八曰鬭訟、九曰詐僞、十曰雜律、十一曰捕亡、十二曰斷獄。

【戶服レ艾】129 コガイヲフクス 楚國の風俗は、戶ごとに艾を腰に帶び、蘭は惡臭であるとして之を嫌ふ。艾はよもぎ。君が佞臣を近づけて忠臣を遠ざける喩。〔楚辭、離騷〕戶服レ艾以盈レ要兮、謂二幽蘭其不レ可レ佩。〔注〕言楚國戶服二白蒿一、滿二其腰帶一、以爲二芬芳一、反謂幽蘭臭惡、爲レ不レ可レ佩也、以言下君親愛二讒佞一、憎二遠忠直賢良一、而不上レ肯レ近也。

【戶呂町】130 ヘロマチ 陸中國の地名。

【戶耗田蕪】131 コカウデンブ 戶口が減り田地が荒れる。〔日本政記、後土御門天皇論〕是以民賦日倍、橫斂苛征、戶耗田蕪。

【戶崎淡園】132 トザキタンヱン 常陸の人。名は允明。初名は計。字は哲夫・子明。通稱は五郎太夫・淨巖。號は淡園。文化三年十一月歿す、年七十八。平野金華に師事す。官は守山藩儒。致仕後、專ら著述に從事す。經學は終始、徂徠の說を奉ず。著に孝經考・學庸考・漢書解・求古印譜・近體樂府・管子考・經穴辨誤・繫辭傳辨解・後漢書解・國語考・古今助字便覽・莊子考・左傳考・周易愚解・周易繫辭傳詳解・周易古斷・周易約說・史記解・詩經考・書經考・申子考・說苑考・世說解・尺牘彙材・尺牘華實・絕句解弁書・戰國策考・戰國策通考・續樂府・徂徠先生學庸解證・大東古今詩雋・唐詩選箋注・唐詩選箋注餘言・唐聯彙材・淡園詩文集・讀韓非子補・讀荀子補・讀呂氏春秋補・墨子考・孟子考・孟子識補・孟子識餘・老子正訓・老子正訓問義・酈園百菊譜・李嶠詠物詩解・律詩豫樟・列子考・論語徵餘言がある。〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【戶告人曉】133 コゴトニツゲヒトゴトニサトス 家々に告げて步き、人每にときあかす。〔列女傳、節義、梁節姑姊傳〕婦人曰、梁國豈可二戶告人曉一也、被二不義之名一、何面目以見二兄弟國人一哉。

【戶婚田土】134 ココンデンド 戶口・結婚・田地等に關すること。〔淸會典事例、戶部、戶口、漢軍改二歸民籍及外省居住一〕嗣後屯居漢軍旗人、一切戶婚田土事件、俱歸二所レ隸州縣一、一體管理。

【外戶而不レ閉】135 グワイコシテトザサズ 外側から戶を押して閉ぢるだけで、くわんのきをささない。天下太平の象。〔禮、禮運〕是故謀閉而不レ興、盜竊亂賊而不レ作、故外戶而不レ閉、是謂二大同一。

【不レ出レ戶知二天下一】136 コヲイデズシテテンカヲシル 家の內に居て外界の事を知る。ゐながら世間を知る。〔老子、四十七〕不レ出レ戶、以知二天下一、不レ窺レ牖、以見二天道一。

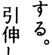
一畫

【戹】11697 アク ヤク 〔集韻〕乙革切 ㄜˋ e⁴ 陌。

小篆

㊀**せまい**。〔說文〕戹、隘也、从レ戶乙聲。〔漢書、王莽傳下〕壺口棰戹。〔注〕師古曰、棰戹、謂下據二險阨一而棰擊上也。㊁**小さい門**。〔正字通〕戹、小門也。

❸なやむ。くるしむ。〔增韻〕戹、困也。〔孟子、盡心下〕君子之戹㆓於陳蔡之閒㆒、無㆓上下之交㆒也。〔史記、季布傳〕兩賢豈相戹哉。❹とぼしい。〔周禮、地官、鄕師〕以㆓歲時㆒巡㆓國及野㆒、而賙㆓萬民之囏戹㆒。〔注〕囏戹、饑乏也。〔後漢書、質帝紀〕賑㆓濟乏戹㆒。❺災難。危難。〔後漢書、陳蕃傳〕況當今之世有㆓三空之戹㆒哉。〔潘岳、馬汧督誄〕竟免㆓虎口之戹㆒。❻或は厄(2-2893)に作る。〔集韻〕戹、或作ㇾ厄。❼通じて阨(11-41559)に作る。〔正字通〕戹、通用ㇾ阨。

解字 會意。戸と乙との合字。せまくるしい意。說文では、戸に從ひ乙の聲として形聲の字とするが、段注には聲の字を衍文とし、乙は乙乙として出で難い意に取るとし、會意とする。▽（金文）象形。軶（くびき）に象る。引伸して、せまい意。

參考 熟語は厄(2-2893)を併せ見よ。

【戹運】1（ヤクウン） 災難に遭ふまはりあはせ。地震・大水・雨雹の類をいふ。〔後漢書、馬融傳〕元年已來、遭㆓値戹運㆒。〔注〕戹運、謂㆓地震大水雨雹之類㆒。

【戹窮】2（ヤクキュウ） わざはひに遭つて苦しむ。厄窮(2-2893··6)・阨窮(11-41559··2)に同じ。

【戹禍】3（ヤククワ） わざはひ。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕彼蒼者何辜、乃遭㆓此戹禍㆒。

【戹困】4（ヤクコン） くるしみ。困難。阨困。〔後漢書、袁紹傳〕陛下聖德、幼沖親遭㆓戹困㆒。

【戹井】5（ヤクセイ） 漢の高祖が災難を逃れた井戸。厄井(2-2893··14)に同じ。

【戹塞】6（ヤクソク） 苦しみふさがる。災難に遭ふ。厄塞(2-2893··15)・阨塞(11-41559··7)に同じ。

【戹難】7（ヤクナン） 危いくるしみ。厄難(2-2893··19)に同じ。

【戹屯歌】8（ヤクチュンカ） 歌の名。後漢、趙岐作。難を北海に逃れて作つたもの。二十三章から成る。〔後漢書、趙岐傳〕岐逃㆓難四方㆒、江淮海岱靡ㇾ所ㇾ不ㇾ歷、自匿㆓姓名㆒、賣㆓餅北海市中㆒、時安丘孫嵩年二十餘、遊ㇾ市見ㇾ岐、察ㇾ非㆓常人㆒、停ㇾ車呼與共載、岐懼失ㇾ色、嵩乃下ㇾ帷、令㆔騎屛㆓行人㆒、云云、遂以俱歸、嵩先入白ㇾ母曰、出行乃得㆓死友㆒、迎入上ㇾ堂、饗ㇾ之極ㇾ歡、藏㆓岐複壁中㆒數年、岐作㆓戹屯歌二十三章㆒、後諸唐死滅、因ㇾ赦乃出。

【戶】11698 コ 〔龍龕手鑑〕音戸

まもる。〔龍龕手鑑〕戶、護也。

二畫

【⿸戸干】11699 コ

戽(5-11711)の俗字。〔字彙〕⿸戸干、俗戽字。

【⿸尸乙】11700 ヤク

厄(2-2893)に同じ。〔川篇〕⿸尸乙、同ㇾ厄。

【⿸戸三】11701 ハク

⿸戸泉(5-11762)に同じ。〔五音篇海〕⿸戸三、同ㇾ⿸戸泉。

【戻】11702 レイ

義未詳。〔川篇〕戻、音例。

三畫

【戺】11703 🈩（シ・ジ） 〔集韻〕上史切 ㄕˋ shih^4 紙

🈔 イ

🈩❶**戸軸を持つ木**。南北に通つたもの。〔爾雅、釋宮〕樞達㆓北方㆒、謂㆓之落時㆒、落時、謂㆓之戺㆒。〔疏〕戸在㆓東南㆒、其持ㇾ樞之木、或達㆓於北方㆒者、名曰㆓落時㆒。〔郝懿行義疏〕落之言絡、連綴之意。〔焦循、羣經宮室圖〕按、明堂太室之東西戸在㆓正中㆒、無ㇾ所ㇾ達㆓北方㆒、此達㆓北方㆒者、蓋夾室之戸向㆓東西㆒而近ㇾ南、故持ㇾ樞之木、達㆓于北方㆒也。❷**堂の隅**。〔書、顧命〕四人綦弁、執ㇾ戈上ㇾ刃、夾㆓兩階戺㆒。〔傳〕堂廉曰ㇾ戺。〔疏〕夾㆓兩階㆒者、夾ㇾ階者二人、立㆓堂下㆒。〔江聲、尙書集注音疏〕夾ㇾ階者二人、一在㆓西階之西㆒、一在㆓阼階之東㆒、當㆓前廉厓下㆒相向、夾ㇾ戺者二人、一立㆓於東南堂隅㆒、一立㆓於西南堂隅㆒、當㆓前廉厓下之兩端㆒、蓋南向、意謂均ㇾ之前廉厓下、而夾ㇾ階者在㆓厓下之前㆒、主㆓於階㆒而夾ㇾ之、故二人相向、夾ㇾ戺者在㆓厓下之兩端㆒、主㆓於戺㆒、必少進㆓於堂隅㆒而夾ㇾ之、若相向則面㆓兩垂之厓㆒、故皆南向。❸**階段の兩側の石**。階段の兩側に具へてふみ石を安定させる石。〔說文通訓定聲〕戺、从ㇾ戸巳聲、說文以爲㆓巸之古文㆒、按各字、云云、字亦作ㇾ⿸戸巳、云云、愚謂此字當ㇾ从ㇾ石、形誤爲ㇾ戸、猶㆓妒之或誤爲ㇾ石也。〔程瑤田、釋宮小記〕戺、謂㆓階之兩旁㆒、自ㇾ堂至㆓庭地㆒、斜安㆓一石㆒、揜㆓階齒㆒而輔ㇾ之、如㆘今樓梯必有㆓兩髀㆒、以安㆗步級㆖、俗謂㆓之樓梯腿㆒也、以ㇾ是經文義言ㇾ之、兩階四戺、故四人執ㇾ戈夾ㇾ之、蓋二人夾㆓於東階之二戺㆒、二人夾㆓於西階之二戺㆒、故謂㆔之夾㆓兩階戺㆒也。❹⿸戸巳(5-11704)に同じ。〔集韻〕⿸戸巳、爾雅、落時、謂㆓之⿸戸巳㆒。一曰、砌也、或書作ㇾ戺。🈔**ひろいあご**。巸(4-8757)の古字。〔說文〕巸、戺、古文巸从ㇾ戸。

【⿸戸巳】11704 シ

戺(5-11703)に同じ。〔字彙〕⿸戸巳、同ㇾ戺。

【⿸戸也】11705 イ

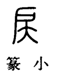
扅(5-11741)に同じ。〔字彙〕⿸戸也、同ㇾ扅。

【⿸戸主】11706 チュー

⿸戸主(5-11725)の譌字。〔正字通〕⿸戸主、⿸戸主字之譌。

【戻】11707 🈩 タイ 〔集韻〕他蓋切 泰

🈔（テイ・タイ） 〔集韻〕大計切 霽


小篆

🈩🈔**輜車の傍のひらき戸**。〔說文〕戻、輜車旁推戸也、从ㇾ戸大聲、讀與ㇾ釱同。

參考 戾(5-11712)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、戻、音代、輜車傍椎。戾、音例、乖戾。〔正字通〕戻、與ㇾ戾別、舊註、輜車旁椎、漏㆓下戸字㆒、推、譌作ㇾ椎。

【戼】11708 バウ

卯(2-2847)の本字。〔正字通〕戼、卯本字。

參考 丣(1-48)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、戼、古卯字、闢ㇾ戸爲ㇾ卯。丣、古酉字、闔ㇾ戸爲ㇾ酉。

【⿸戸乎】11709 イ

義未詳。〔川篇〕⿸戸乎、音衣。

四畫

【⿸戸木】11710 🈩（カン・ケン） 〔集韻〕口減切 豏

🈔 コ

🈩❶**小さい戸**。〔廣韻〕⿸戸木、小戸也。❷**戸**。又、**窓の柱**。槏(6-15321)に同じ。〔集韻〕槏、說文、戸也、一曰、牖邊柱、謂㆓之槏㆒、或作ㇾ⿸戸木。🈔戸(5-11696)の古字。〔說文〕戸、古文戸从ㇾ木。

【戽】11711

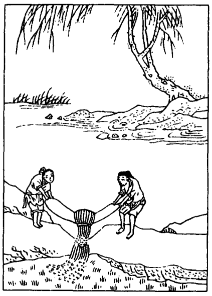
㊀コゴ 〔集韻〕後五切 〖麌〗
㊁コク 〔集韻〕火五切 〖麌〗
㊂コク 〔集韻〕荒故切 〖遇〗 ㄏㄨˋ hu⁴

㊀❶あかくみ。舟の底の浸水をかき出す器。戽斗。滬(7－17658)に同じ。〔廣韻〕戽、戽斗、舟中渫レ水器。〔集韻〕滬、抒レ水器、或作レ戽。❷くむ。水を汲み出す。〔廣韻〕戽、抒也。㊁㊂あかくみ。〔集韻〕戽、戽斗、抒レ水器。

【戽水】1 コスイ 水田の閒で、水車で水を汲むこと。戽水灌田を見よ。

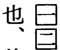
【戽水灌田】2 コスイクワンデン 水車で水をくんで田に灌ぐこと。〔六部成語、戸部、戽水灌田、注解〕用二輪斗一、戽レ水以灌二田地一也。

【戽斗】3 コト ❶舟中で水を渫ふ器。あかくみ。〔廣韻〕戽、戽斗、舟中渫レ水器。❷農夫が水を汲む器。二人で繩を持つて水を汲む。なげつるべ。〔農政全書、水利〕戽斗、挹レ水之器、其制用二笆斗一、兩邊各繫二雙綆一、兩人對立挈レ之、引レ水上レ岸以漑レ田。


戽斗（農政全書）

【戾】11712

㊀レイライ 〔集韻〕郎計切 〖霽〗 ㄌㄧˋ li⁴
㊁リ 〔集韻〕力至切 〖寘〗
㊂レツレチ 〔集韻〕力結切 〖屑〗


小篆

㊀㊁㊂❶まがる。〔說文〕戾、曲也、从三犬出二戸下一、犬出二戸下一爲レ戾者、身曲戾也。〔一切經音義、四〕戾、曲也。❷ねぢる。〔潘岳、射雉賦〕戾レ翳旋レ把。〔注〕爰曰、戾、轉也。❸もとる。そむく。たがふ。〔廣雅、釋詁三〕戾、佷也。〔荀子、榮辱〕猛貪而戾。〔注〕戾、乖背也。〔淮南子、覽冥訓〕擧レ事戾二蒼天一。〔注〕戾、反也。〔漢書、張耳陳餘傳贊、注〕師古曰、戾、違也。❹てあらい。むごい。〔詩、小雅、頍弁序〕暴戾無レ親。〔鄭注〕戾、虐也。〔莊子、天道〕鳌二萬物一而不レ爲レ戾。〔釋文〕戾、暴也。〔荀子、脩身〕勇膽猛戾。〔注〕戾、忿惡也。〔荀子、儒效〕虛二殷國一而天下不レ稱レ戾焉。〔注〕戾、暴也。❺つみ。〔爾雅、釋詁〕戾、辠也。〔詩、大雅、抑〕亦維斯戾。〔傳〕戾、罪也。〔左氏、文、四〕其敢干二大禮一以自取レ戾。〔注〕戾、罪也。❻むさぼる。よくばる。利(2－1932)に通ず。〔說文通訓定聲〕戾、叚借爲レ利。〔禮、大學〕一人貪戾。〔注〕戾之言、利也。〔戰國、秦策〕虎者戾蟲。〔注〕戾、貪也。〔新書、道術〕心兼愛レ人、謂二之仁一、反レ仁爲レ戾。❼やぶる。裂(10－34260)に通ず。〔說文通訓定聲〕戾、叚借爲レ裂。〔淮南子、主術訓〕曲得二其宜一、無レ所二擊戾一。〔注〕戾、破也。❽いたる。〔爾雅、釋詁〕戾、至也。〔詩、小雅、四月〕翰飛戾レ天。〔箋〕戾、至。〔詩、小雅、采菽〕亦是戾矣。〔傳〕戾、至也。❾とまる。〔爾雅、釋詁〕戾、止也。〔詩、小雅、采菽〕亦是戾矣。〔箋〕戾、止也。❿さだまる。〔廣雅、釋詁四〕戾、定也。〔詩、大雅、桑柔〕民之未レ戾。〔傳〕戾、定也。⓫まつ。〔爾雅、釋詁〕戾、待也。⓬くる。〔詩、魯頌、泮水〕魯侯戾止。〔傳〕戾、來。⓭はやい。颲(12－43817)に通ず。〔說文通訓定聲〕戾、叚借爲レ颲。〔潘岳、秋興賦〕勁風戾而吹レ帷。〔注〕善曰、戾、勁疾之貌。⓮かわかす。〔禮、祭義〕風戾而食レ之。〔疏〕戾、乾也。〔釋文〕戾、燥也。⓯したがふ。〔國語、晉語六〕夫以レ果戾レ順行。〔注〕戾、帥也。⓰よい。賴(10－36861)に通ず。〔說文通訓定聲〕戾、叚借爲レ賴。〔廣雅、釋詁一〕戾、善也。⓱古は猷(7－20703)・盭(8－23087)に作る。〔集韻〕戾、古作レ猷。〔康熙字典〕戾、古文盭。〔漢書、張耳陳餘傳贊、後相背之盭也、注〕師古曰、盭、古戾字。⓲俍(1－764)に通ず。〔一切經音義、九〕戾、三蒼作レ俍。⓳諡。〔逸周書、諡法解〕不レ悔二前過一曰レ戾。⓴姓。〔萬姓統譜〕戾、見二姓苑一。〖国〗❶もどす。㋑かへす。㋺吐瀉する。❷もどる。かへる。❸もどし。もどすこと。❹もどり。㋑かへるとき。㋺かへりみち。

〖解字〗會意。戸と犬との合字。犬が戸下を出て、その體の戾曲すること。故に戾乖（そむく）の意となり、調に反する意となる。まがる。もとる。そむく。

〖參考〗戾(5－11707)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕戾、音代、輜車傍椎。戾、音例、乖戾。〔正字通〕戾、與レ戾別、舊註、輜車旁椎、漏二下戸字一、推譌作レ椎。

【戾疫】1 レイエキ 惡疫。癘疫。〔墨子、尙同中〕疾菑戾疫。〔閒詁〕漢書食貨志顏注云、戾、惡氣也、案、戾疫卽兼愛下篇之癘疫、戾癘一聲之轉。

【戾行】2 レイカウ 人に異なる行。〔莊子、讓王〕必不レ賴二高節戾行一、獨樂二其志一。

【戾虐】3 レイギヤク 行にもとり民をしひたげる。〔左氏、昭、二十六〕至二于厲王一、王心戾虐、萬民弗レ忍。

【戾橋】4 モドリバシ ❶京都市一條通堀川にかけてある橋。❷常磐津所作事の一。河竹默阿彌作詞、五世岸澤古式部作曲。新古演劇十種の一。

【戾莎】5 レイサ 細草の名。莎の一種。〔司馬相如、上林賦〕糅以二蘪蕪一、雜以二留夷一、布二結縷一、欑二戾莎一。〔注〕善曰、司馬彪曰、戾莎、莎名也。

【戾止】6 レイシ 來り至る。今は人の來臨の義に用ひる。〔詩、魯頌、泮水〕魯侯戾止、言觀二其旂一。〔傳〕戾、來、止、至也。〔潘岳、籍田賦〕大君戾止、言藉二其農一。〔劉基、條風詩〕倉庚戾止。

【戾手】7 レイシユ 手をねぢる。手をもどす。〔北史、劉昶傳〕或戾レ手齧レ臂、至二於痛傷一。

【戾深】8 レイシン 道にそむいて剛情なこと。〔史記、秦始皇紀〕剛毅戾深、事皆決二於法一。

【戾旋】9 レイセン 逆にめぐる。もどる。又、かへす。〔易林、豐之第五十五、恒〕牽レ羊不レ前、與レ心戾旋。

【戾蟲】10 レイチユウ 虎の異名。暴戾な動物の義。〔戰國、秦策〕管與止レ之曰、虎者戾蟲、人者甘餌、今兩虎爭レ人而鬭、小者必死、大者必傷、子待二傷虎一而刺レ之、則是一擧而兼二兩虎一也。〔注〕戾、貪也。

【戾天】11 レイテン 天に至る。〔詩、大雅、旱麓〕鳶飛戾レ天、魚躍二于淵一。〔箋〕鳶鴟之類、鳥之貪惡者也、飛而至レ天。

【戾夫】12 レイフ 道にもとつた男。〔孔叢子、答問〕聖人之知、云云、立レ教而戾夫弗レ犯、吐レ言而辯士不レ破也。〔司馬相如、難二蜀父老一文〕戾夫爲レ之垂レ涙、況乎上聖、又焉能已。〔注〕翰曰、戾、狠惡人也。

【戾戾】13 レイレイ 急なさま。〔鮑照、從二臨海王上一レ荆初發二新渚一詩〕戾戾旦風遒、嘈嘈晨鼓鳴。〔江淹、雜體、張黃門協苦雨詩〕戾戾颸風擧。〔注〕濟曰、戾、急。

【戾契子】14 レイケイシ 元、貢師泰(10－36665・68)の號。

【戾太子】15 レイタイシ 漢、劉據(2－2224・179)の諡。

【攫レ戾執レ猛】16 レイヲウチマウヲトラフ もとれるをうち、たけきを執へる。壯勇の士をいふ。〔張衡、南都賦〕爾其有二謀臣武將一、皆能攫レ戾執レ猛、破レ堅摧レ剛。〔注〕善曰、蒼頡篇曰、攫、搏也、翰曰、攫レ戾執レ猛、壯勇之人也。

【戻】11713

キフゴフ 〔集韻〕極入切 〖緝〗

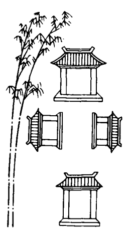
くわんのき。〔廣韻〕戻、戸鍵。〔集韻〕戻、博

雅、戸牡也。

【房】11714 ハウ バウ 〔集韻〕符方切 陽 ㄈㄤˊ fang^{2} ㄆㄤˊ p'ang^{2}

小篆

❶**へや**。㋑つぼね。古、堂の後方に設けた室。大夫以上は兩房、士は一房。〔說文〕房、室在ㇾ旁也、从ㇾ戸方聲。〔段注〕凡堂之內、中爲㆓正室㆒、左右爲ㇾ房、所謂東房・西房也。〔說文通訓定聲〕房、按、堂之後、正中爲ㇾ室、室左右爲㆓東西房㆒、房左右爲㆓東西夾室㆒。〔書、顧命〕在㆓東房㆒。〔傳〕東房、東廂夾室。〔儀禮、公食大夫禮記〕宰夫筵出ㇾ自㆓東房㆒。〔注〕天子諸侯左右房。㋺ゐま。〔廣雅、釋宮〕房、舍也。〔楚辭、宋玉、招魂〕絙㆓洞房㆒些。〔注〕房、室也。㊇ねや。閨室。〔宋書、樂志三〕妾當ㇾ守㆓空房㆒。❷**やどり**。定つた處。〔左氏、昭、十七〕辰不ㇾ集㆓于房㆒。〔注〕房、舍也。❸**すまひ**。居宅。居所。〔國語、晉語四〕乃能攝固、保㆓其土房㆒。〔注〕房、居也。〔溫庭筠、宿㆓白蓋峰寺㆒詩〕山房霜氣晴。❹**いへ**。家屋。〔王建、題㆓詵法師院㆒詩〕秋天盆底新荷色、夜地房前小竹聲。❺**たてもの**。官衙。〔北史、柳慶傳〕君職典㆓文房㆒、宜ㇾ製㆓此表㆒。❻**ほこら**。祠堂。〔後漢書、桓帝紀〕壞㆓郡國諸房祀㆒。〔注〕房、謂㆓祠堂㆒也。〔宋書、毛修之傳〕修之不ㇾ信㆓鬼神㆒、所ㇾ至必焚㆓除房廟㆒。❼**なんど**。



房（三才圖會）

衣類や調度を納めおく部屋。〔呂覽、仲冬〕是謂ㇾ發㆓天地之房㆒。〔注〕房、所㆓以閉藏㆒也。❽**物の會聚するところ**。〔急就篇、二〕秦妙房。〔注〕秦、本地名、後爲㆓國號㆒、因又命ㇾ氏、妙、謂㆓德行高妙㆒也、房、謂㆓德之所ㇾ聚。❾**つつ**。やづつ。えびら。〔左氏、宣、十二〕納㆓諸廚子之房㆒。〔注〕房、箭舍。❿**す**。巢窠。〔淮南子、氾論訓〕蜂房不ㇾ容㆓鵠卵㆒。〔注〕房、巢也。〔左思、蜀都賦〕蜜房郁毓。〔注〕翰曰、蜜房、蜜窠房也。〔班固、終南山賦〕蜜房溜㆓其巓㆒。⓫**ふさ**。花ぶさ。〔陸雲、芙蕖詩〕綠房合㆓青實㆒、金條懸㆓白璆㆒。〔梁簡文帝、採蓮賦〕亂㆓高房㆒而出ㇾ叢。〔柳宗元、柳州山水近ㇾ治可ㇾ遊者記〕其宇下有㆓流石㆒、成形如㆓肺肝㆒、如㆓茄房㆒。⓬**妻妾**。〔晉書、石崇傳〕後房百數、皆曳㆓紈繡㆒珥㆓金翠㆒。⓭**わかれ**。分家。子孫を分列次序する稱。〔唐書、宗室世系表〕武德四年、追㆓封長子㆒曰㆓南陽伯㆒、與㆓姑臧・絳郡・武陽侯三房㆒、號㆓四公子房㆒。⓮**つくゑ**。まないた。〔廣雅、釋器〕房、几也。〔詩、魯頌、閟宮〕籩豆大房。〔傳〕大房、半體之俎也。〔禮、明堂位〕周以㆓房俎㆒。〔注〕房、謂㆓足下跗㆒也、上下兩閒、有ㇾ似㆓於堂房㆒。⓯**星の名**。**そひ**。二十八宿の一。天駟。〔爾雅、釋天〕天駟、房也、大辰、房心尾也。〔注〕龍爲㆓天馬㆒、故房四星謂㆓之天駟㆒、龍星明者以爲㆓時候㆒、故曰㆓大辰㆒。〔疏〕房、一名㆓天駟㆒、天文志曰、房、爲㆓天府㆒曰㆓天駟㆒、國語曰、月在㆓天駟㆒、是也、大辰、房、心尾之總名也、辰、時也、春秋昭十七年、冬有ㇾ星孛㆓於大辰㆒、是也。〔說文通訓定聲〕房、按、東方宿、房四星、直下微曲、卽俗說大人星之鼻口、大火爲ㇾ背、尾爲㆓股膝足㆒也、周語謂㆓之農祥㆒者、周時此星昏中、當㆓今四月㆒、爲㆓農作時㆒、今則當㆓六月㆒矣。〔淮南子、道應訓〕句星在㆓房心之閒㆒。〔注〕房、駟。⓰**鄉試**。明・清、鄉試を房といふ。試を受ける者、各々房に就いて、答案を認めるところから出た語。〔皇朝文獻通考、選擧考三〕房考荒疏者、供㆓外場執事㆒。⓱**つつみ**。堤防。防(**11－41576**)に通ず。〔謝莊、月賦〕徘㆓徊房露㆒。〔注〕善曰、房、與ㇾ防古字通。⓲古は所に作る。〔集韻〕房、古書作ㇾ所。⓳旁(**5－13637**)に通ず。房皇(39)を見よ。⓴**周の國名**。**子爵**。今、河南省遂平縣の西。〔國語、周語上〕昔昭王娶㆓於房㆒、曰㆓房后㆒。〔注〕房、國名。㉑**姓**。〔通志、氏族略、以ㇾ國爲ㇾ氏〕房氏、祁姓、舜封㆓堯子丹朱於房㆒、今蔡州遂平故呉房縣是也、以㆔楚後封㆓呉王夫槩於此㆒、故謂㆓之呉房㆒、丹朱生ㇾ陵、後世國絕、子孫以ㇾ國爲ㇾ氏、又屋引氏、改爲ㇾ房、魏姓也。

邦❶**ばう**。㋑戸。戸口。〔續日本紀、七〕養老元年十一月、一房徭役咸免。㋺大名以下の人に任へて長刀を持つて供をする剃髮の者。❷**ふさ**。絲を集めて一端をしばり一端を散らしたもの。流蘇。總。

解字 說文では形聲とし、戸をもととし、方を聲とする。へや。つぼね。段注は方を旁の省文とし、戸と旁の省文との合字で會意とする。凡そ堂の內、中を正室とし、左右を房とする。房は戸があつて堂に通ずる。

名乘 ノブ。フサ。

【房奧】1 バウアウ 奧向の部屋。おくの座敷。又、物事のおく。〔蔡邕、太傅胡廣碑〕睹㆓皋陶之閫閾㆒、究㆓孔子之房奧㆒。

【房幄】2 バウアク 椒房幃幄の意。後宮をいふ。〔後漢書、竇憲傳論〕夫二三子得ㇾ之、不ㇾ過㆓房幄之閒㆒。〔注〕皆緣㆓椒房幃幄之恩㆒耳。

【房安】3 バウアン 明、汝陽の人。字は子靜。幼にして聽辯。性、剛勁。洪武中、太學生より、工部侍郎に累官す。出でて山東右參政となり、四川に改められ、又、交趾に改めらる。至る所能聲あり。〔國朝獻徵錄、一百三〕・〔國朝列卿記、六十四〕。

【房帷】4 バウヰ 部屋のとばり。〔後漢書、安帝紀論〕然令㆘自㆓房帷㆒、威不㆖逮ㇾ遠。〔潘岳、哀㆓永逝㆒文〕撤㆓房帷㆒兮席㆓庭筵㆒。

【房闈】5 バウヰ 宮中の小門をいふ。〔後漢書、宦者傳序〕帷幄稱ㇾ制令ㇾ下、不ㇾ出㆓房闈之閒㆒。〔鹽鐵論、取下〕從㆓容房闈之閒㆒。

【房郵】6 バウイウ 己の支配所。〔福惠全書、筮仕部、發諭單〕附㆓提塘㆒報㆓房郵㆒去。

【房牖】7 バウイウ へやのまど。〔後漢書、循吏、仇覽傳〕與㆓先生㆒同㆓郡壤㆒、鄰㆓房牖㆒。

【房院】8 fang^{2} yüan^{4} 住居。住所。

【房宇】9 バウウ いへ。宇はのき。〔魏書、鄭道昭傳〕敦營㆓學館㆒、房宇既修。〔唐書、王珙傳〕湫祠龍置㆓房宇㆒。

【房掖】10 バウエキ 宮室と宮庭。〔後漢書、陳蕃傳〕宮女積㆓於房掖㆒、國用盡㆓于羅紈㆒。

【房悅】11 バウエツ 後魏の人。亮の弟。字は季欣。官は高陽・廣川・南清河三郡の太守。後、太中大夫。〔魏書、七十二〕。

【房宴】12 バウエン 房中の樂しみ。房燕。〔唐書、后妃上、楊貴妃傳〕太眞得ㇾ幸、善㆓歌舞㆒、邃㆓曉音律㆒、且智算警穎、迎ㇾ意輒悟、帝大悅、遂專㆓房宴㆒、宮中號㆓娘子㆒、儀體與㆓皇后㆒等。

【房捐】13 fang^{2} chüan^{1} 家屋稅。

【房掩】14 バウエン へやをとぢる。〔韓維、遊㆓城南雙塔寺㆒詩〕房掩僧獨禪、庭喧鴉正哺。

【房淵】15 バウエン 淵の名。河北省獻縣の北。〔太平寰宇記〕九州記、樂壽縣有㆓房淵㆒、其淵一日再長再滅、不ㇾ失㆓其度㆒。

【房燕】16 バウエン 房中のたのしみ。房宴。〔漢書、外戚上、霍皇后傳〕上亦寵ㇾ之、顓㆓房燕㆒。

【房檐】17 fang^{2} yen^{2} のき。

【房簷】18 fang^{2} yen^{2} 家ののき。ひさし。

【房苑】19 バウエン 藥草の名。ぼたんばうふう。防葵(**11－41576‥25**)の異名。〔本草、防葵〕釋名、房

苑、利蓋、利茹。

【房園】20 バウエン　すまひとその。〔宋史、食貨志下一〕以二天下戸口人丁税賦場務坑治河渡房園之類一。

【房屋】21 バウヲク　いへ。家屋。建物。〔紅樓夢、三回〕黛玉度其房屋院宇、必是榮府中之花園、隔斷過來的。〔福惠全書、莅任部、詳文贅說〕須三房屋安置、使二其所レ至如レ歸。

【房下】22 fang^2 hsia^4　めかけ。妾。又、妻の謙稱。

【房考】23 バウカウ　明・清時代、鄕試會試の試驗官をいふ。〔明史、選擧志二〕初兩京房考、亦皆取二教職一、至レ是命各加二科部官一員一。〔淸史稿、選擧志〕文科、康雍閒、順天房考停レ用京員、止用二直隸科甲知縣一。〔六部成語、禮部、房考、注解〕卽同考官也、例派二十八員一、各居二一房一、分レ卷評閱、故有二此稱一。

【房暠】24 バウカウ　五代晉、長安の人。後唐の樞密使。官は晉の高祖の時、左驍衞大將軍。〔舊五代史、九十六〕。

【房皥】25 バウカウ　元、臨汾の人。字は希白。號は白雲子。詩に巧。著に白雲集がある。

【房客】26 fang^2 k‘ê^4　借家人。

〖房客錢〗27 fang^2 k‘ê^4 ch‘ien^2　やどちん。宿泊料。〔水滸傳、五十三回〕各分行李在背上、算還了房客錢、離了客店。

【房樂】28 バウガク　房中の音樂。〔顏延之、宋文帝元后哀策文〕壺政穆宣、房樂韻理。〔注〕濟曰、儀禮有二房中樂一。

【房閤】29 バウカフ　おくむきの出入口。〔南齊書、鬱林王紀〕帝在二壽昌殿一、聞二外有レ變、使レ閉二內殿諸房閤一。〔南史、廢帝東昏侯紀〕諸房閤已閉。

【房間】30 バウカン　部屋。室。〔淸會典事例、戸部、雜賦〕其坐落城內、有二地隨地糧銀房閒一、亦仍在レ縣過レ稅。

【房嵒】31 バウガン　明、涓縣の人。官は宣德の閒、鄒縣の令。任にあること二十餘年。〔明史、二百八十一〕。

【房祺】32 バウキ　元、臨汾の人。河中大同兩路教授となり、潞州判官に終る。自ら橫汾隱者と稱す。著に橫汾集がある。又、河汾諸老詩集を輯む。〔四庫提要、一百八十八〕。

【房葵】33 バウキ　藥草の名。附葵（**11－41576**··25）に同じ。梨蓋。〔博物志〕房葵似二狼毒一。〔太平御覽、藥部十、房葵〕本草經曰、房葵、一名犁蓋。

【房魏】34 バウギ　唐の房玄齡と魏徵とをいふ。〔杜甫、折檻行〕嗚呼房魏不二復見一、秦王學士時難レ羨。〔李庾、西都賦〕房魏作レ弼、英鄂執レ律。〔陸游、感懷詩〕巍巍貞觀治、房魏出二河汾一。

【房御】35 バウギョ　宮人の部屋。〔後漢書、殤帝紀〕宮人歲增、房御彌廣。

【房金】36 fang^2 chin^1　閒代。宿屋の宿料。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕房金按月任意多少。

【房科】37 バウクワ　㊀官公衙の事務室。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕于二各房科一、擇二老成諳練者若干名一、四季輪充。㊁したやく。〔福惠全書、刑名部、問擬〕卷冊則發二該衙門房科一、備レ照。

【房外】38 バウグワイ　㊀へやの外。〔左氏、定、六〕孟孫立二于房外一。㊁ふさの外。〔齊民要術、五、槃果蓏菜茹非二中國物一者、檳榔〕檳榔、大者三圍、高者九丈、葉聚二樹端一、房生二葉下一、華秀二房中一、子結二房外一。

【房皇】39 バウクワウ　ゆきつもどりつすること。方皇。〔史記、禮書〕於二是中一焉、房皇周浹。〔注〕索隱曰、房音旁、旁皇、猶二徘徊一也、周浹、猶二周匝一、言徘徊周浹、委曲得二禮之序一、動不レ失レ中、則是聖人之行也。

【房官】40 バウクワン　㊀清代、鄕試會試の試驗官。房師。房考。〔淸史稿、選擧志〕文科、康熙五十四年令、不レ同レ省房官二人、同閱互相覺察、用二三十六人一、未レ幾卽罷。㊁門跡に仕へる俗僧をいふ。髮を剃り、僧衣を著し、腰刀を佩び、肉食妻帶す。坊官。〔山槐記〕治承二年正月十四日、房官持レ之勸レ酒。

【房琯】41 バウクワン　唐、河南の人。融の子。字は次律。初、陸渾山中に隱居す。官は玄宗の時、吏部尙書・同平章事。冊を靈武に奉じて肅宗に見え、機務に參す。刑部尙書を以て終る。〔舊唐書、一百十一〕・〔唐書、一百三十九〕・〔琅琊代醉編、十六〕。

【房寬】42 バウクワン　明、陳州の人。官は洪武中、濟寧左衞指揮。封は思恩侯。〔明史、一百四十五〕・〔萬斯同明史、一百九十〕・〔明史稿、一百三十四〕。

【房關】43 バウクワン　室を閉ぢる。〔劉得仁、弔二草堂禪師一詩〕杖履疑二師在一、房關四壁蛩。

【房君】44 バウクン　秦の蔡賜をいふ。房邑君に爵せられたからいふ。〔史記、陳涉世家〕陳王徵二國之豪傑一與計、以二上蔡人房君蔡賜一爲二上柱國一。〔注〕集解曰、駰案、漢書音義曰、房君、官號也、姓蔡、名賜、瓚曰、房邑君也。〔史記、張耳陳餘傳〕陳王大怒、欲下盡族二武臣等家一而發レ兵擊上趙、陳王相國房君諫曰、秦未レ亡而誅二武臣等家一、此又生二一秦一也。

【房契】45 fang^2 ch‘i^4　家屋證券。家屋所有券。

【房啓】46 バウケイ　唐の人。琯の孫。王叔文に附す。官は桂管觀察使。事に坐して虔州長史に貶せられる。〔唐書、一百三十九〕。

【房喬】47 バウケウ　唐の人。房玄齡（154）を見よ。

【房堅】48 バウケン　後魏の人。靈賓の從弟。字は千秋。謚は懿。少くして才名あり。官は司空參議。〔魏書、四十三〕。

【房縣】49 バウケン　縣名。㊀漢、置く。今、滿洲遼寧省盤山縣の境。〔漢書、地理志下〕遼東郡、縣十八、房。㊁明、置く。本の房陵縣。今、湖北省襄陽縣の西。唐の武后、中宗を此に禁錮す。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府、房縣〕明洪武八年、改レ州爲レ縣、屬二襄陽府一。

【房戸】50 バウコ　㊀部屋の出入口。〔儀禮、士冠禮〕尊二于房戸之前一。〔禮、鄕飮酒義〕尊二于房戸之閒一。〔史記、呂后紀論贊〕政不レ出二房戸一、天下晏然。〔白虎通、封禪〕賓連生二於房戸一。㊁ fang^2 hu^4　借家人。

【房湖】51 バウコ　湖の名。四川省廣漢縣治の西南。房公湖（157）に同じ。〔明一統志〕房湖、在二漢州治一、南唐房琯爲二刺史一所レ鑿。

【房后】52 バウコウ　周、昭王の后の稱。〔國語、周語上〕昔昭王娶二于房一、曰二房后一、實有二爽德一、協二於丹朱一、丹朱馮レ身以儀レ之、生二穆王一焉。

【房艙】53 fang^2 ts‘ang^1　船室。

【房山】54 バウザン　㊀山名。㋑河北省平山縣の西北。又、西山ともいふ。王母山。〔後漢書、章帝紀〕（元和三年）幸レ趙、云云、祠二房山於靈壽一。〔元和志〕一名二王母山一、漢武帝於二山上一立レ祠、今王母觀是也。㋺河北省房山縣の大房山をいふ。㋩湖北省房縣の西。〔元和志〕山西南有二石室一似レ房、因名。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府、房縣〕房山、縣西南三十里、四面有二石室一如レ房、縣以レ此名。㊁縣名。㋑漢、置く。侯國。山東省濰縣の西南。〔漢書、地理志上〕琅玡郡、縣、五十一、房山。㋺隋、置く。唐、平山と改む。河北省平山縣。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、平山縣〕隋開皇十六年、析二置房山縣一、屬二恒州一。㋩元、置く。河北省良鄕縣の西。縣境の西北は有名な石炭の產地。山南煤、北山煤等著る。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、涿州、房山縣〕元、至元二十七年、改爲二房山縣一、屬二涿州一。〔淸史稿、地理志〕直隸、順天府、縣十九、房山。

〖房山石經〗55 バウザンセキケイ　佛典石經の一。房山は河北省平山縣の西北。其の刻經は隋の靜琬法師に始まり、其の徒、導公・儀公・暹公・法公相踵ぎ、遼の通理大師に至るも猶廢せず、二千三百餘石の多きに及び、之を七つの洞穴の中に納め、石欞を以て之を隔て、鐵を溶灌して保護してゐる。

〖房山鐵路〗56 バウザンテツロ　京漢鐵道の支線。河北省琉璃河より周口店に至る。

〖房山老人〗57 バウザンラウジン　元、高克恭（**12－45313**··1175）の號。

【房產】58 バウサン　家屋敷。家と田地。家屋。不動產。〔福惠全書、刑名部、逃人、起解〕須レ要下有二身家房產一之正身僉解上。

【房子】59 バウシ　㊀縣名。㋑漢、置く。河北省高邑縣の西南。〔史記、趙世家〕敬侯十年、與二中山一戰二於房子一。〔漢書、地理志上〕常山郡、縣十八、房子。〔後漢書、光武紀上〕（更始二年）光武擊二新市・眞定・元氏・防子一、皆下レ之。〔注〕防、與レ房同、古字通用。㋺隋、置く。河北省臨城縣の西南。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、趙州、高邑縣〕漢置二房子縣一、云云、北齊廢、隋開皇六年復置、仍屬二趙州一。㊁ fang^2 tzŭ　㋑へや。すまひ。家屋。㋺蜂の巢。

〖房子緜〗60 バウシメン　房子縣から產する綿。〔左思、魏都賦〕緜纊房子、縑總淸河。〔注〕劉曰、又房子、出二御緜一。

【房司】61 バウシ　役所の事務を取扱ふ人。役人。〔琵琶記、義倉賑濟〕叵レ耐廳前祗候、叵レ耐司房典

令、把レ我千様淩持、將レ我萬般督弁。

【房祀】62 バウシ 祠堂をいふ。〔後漢書、桓帝紀〕丁巳壞二郡國諸房祀一。〔注〕房、謂二祠堂一也。〔後漢書、欒巴傳〕悉毀二壞房祀一、翦二理姦誣一。

【房師】63 バウシ 清代、科擧の試驗官。房官(40)に同じ。

【房駟】64 バウシ 房星。字解の⑮を見よ。〔爾雅、釋天〕天駟、房也。〔范仲淹、天驥呈レ才賦〕厥生也、足レ比二乎房駟之異一、其來也、寧憚二乎渥洼之遠一。

【房事】65 バウジ ねやのこと。閨房中の事。閨中の祕事。交合。〔王綸、明醫雜著、濁〕心動二於慾一、腎傷二於色一、或強二忍房事一、或多服二淫方一、敗精流溢、乃爲二白濁一。

【房慈】66 バウジ 藥草の名。房苑。防葵(**11－41576**‥25)に同じ。〔駢雅、釋草〕房慈、防葵也。

【房州】67 バウシウ ❶州名。隋、置く。治は竹山。今の湖北省竹山縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府、竹山縣〕隋開皇十八年改曰二房州一。❷安房國の略稱。

【房式】68 バウシキ ❶唐の人。琯の族孫。謚は傾。進士。官は河南の尹。王承宗を討つにあたり、餉車四千乘を索められたが、歳凶で人勞せるを以て、建言して調發に任ぜず、詔して可とせられる。官は宣歙觀察使。〔舊唐書、一百十一〕・〔唐書、一百三十九〕。❷fang² shih⁴ 家屋の構造。

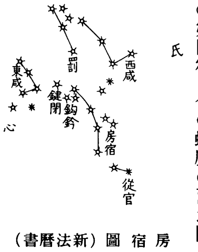
【房室】69 バウシツ へや。ま。〔禮、月令〕(仲冬之月)命二奄尹一、申二宮令一、審二門閭一、謹二房室一、必重閉、省二婦事一、毋レ得レ淫。〔呂覽、仲春紀〕有下不レ戒二其容止一者上、〔注〕以二雷電一合二房室一者、生レ子必有二瘖躄通精狂癡之疾一。〔後漢書、翟酺傳〕遂起二太學一、更開二拓房室一。〔論衡、四諱〕江北乳子、不レ出二房室一。〔曹植、美女篇〕盛年處二房室一、中夜起長歎。

【房舍】70 バウシヤ へやといへ。又、家屋。住居。〔淨住子、淨行法門、出三界外樂門〕得二自然宮殿、七寶房舍一、早得二成佛一。〔福惠全書、蒞任部、親査閲〕何處有二居民房舍一。

【房省】71 バウシヤウ 宮殿役所をいふ。〔南齊書、禮志上〕古則張レ幕、今也房省、宗廟旅幕、可三變爲二棟宇一。

【房廠】72 fang² ch'ang³ 家屋工場をいふ。

【房宿】73 バウシユク 星宿の名。二十八宿の一。そひぼし。蒼龍七宿の第四宿。今の蠍座の西北隅に當る。房星。Iclarkrau〔丹元子、步天歌〕房、四星直上主二明堂一、鍵閉一星斜向レ上、鉤鈐兩箇近二其旁一、罰有二三星一直二鍵上一、兩咸夾レ罰似二房狀一、房下一星號爲レ日、從官兩星日下出。〔晉書、天文志上〕房四星爲二明堂一、天子布政之宮也。〔宋史、天文志三〕漢永元銅儀、唐開元游儀、房五宿度、舊去レ極百八度、今百十度半、景祐測驗房距二南第二星一、去レ極百十五度、在二赤道外二十三度一、乾象新書在二赤道外二十四度一。



房宿圖（新法暦書）

【房術】74 バウジユツ 性交術。房中術(101)を見よ。

【房勝】75 バウシヨウ 明、景陵の人。初、陳友諒に從つて來歸す。官は通州衞指揮僉事。明成祖の時、爵は富昌伯。〔明史、一百四十六〕・〔萬斯同明史、一百九十〕・〔明史稿、一百三十四〕。

【房鍾】76 バウシヨウ 吳の地名。安徽省潁州府。〔左氏、昭、六〕吳人敗二其師於房鍾一。〔會箋〕房鍾、在二今安徽潁州府蒙城縣境一。

【房烝】77 バウジヨウ 半ば切つた肉を房にのせたもの。房は足の下に更に跗を附けた俎。房俎(88)を見よ。〔國語、周語中〕王公立飫、則有二房烝一。〔注〕王天子、公諸侯也、禮之立成者爲レ飫、房大俎也、詩云、籩豆大房、謂下半解二其體一、升中之房上也。

【房植】78 バウシヨク ❶室の直木。〔淮南子、本經訓〕夏屋宮駕、縣聯房植。〔注〕房、室也、植、戸植也。〔黃佐乾、淸宮賦〕其中則縣縣房植、耽耽層覆。❷後漢、甘陵の人。字は伯武。桓帝の時、河南尹となり、名、當朝に著はる。同郡の周福と隙あり、二家の賓客、相譏揣し、是より甘陵に南北部あり、黨人の議此より始まる。官は司空。〔後漢書、九十七〕。

【房心】79 バウシン 二十八宿の二。房宿と心宿。〔淮南子、道應訓〕昔吾見三句星在二房心之閒一。〔雲笈七籤〕房心爲二天子之宮一。

【房津】80 バウシン 道家の語。〔黃庭內景經〕三眞扶胥共房津、五斗煥明是七元。

【房主】81 バウズ ❶一房の主人。坊主(**3－4924**‥22)の❶に同じ。〔和漢三才圖會、八十一、家宅類、房〕按、凡佛寺曰レ堂曰レ院曰レ房者、以比二王者宮殿一、以二其主一稱二房主一、今呼二平僧及剃髮俗一、亦爲二房主一者非也。❷fang² chu³ 家主。おほや。房東。

【房生】82 バウセイ 群つてふさをなして生じる。〔詩、秦風、晨風〕山有二苞櫟一。〔疏〕陸機疏云、云云、河內人謂二木蓼一爲レ櫟、椒櫟之屬也、其子房生、爲二梂木一、蓼子亦房生。

【房星】83 バウセイ 二十八宿の一。そひぼし。東南に在る星。車馬を司るといふ。天駟。房駟。房宿(73)を見よ。〔晉書、天文志七〕房四星、云云、亦曰二天駟一、爲二天馬一、主二車駕一、房星明、則王者明。〔雲笈七籤〕丁從官陰神也、房星神主レ之。

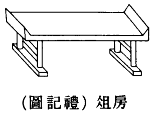
【房精】84 バウセイ 馬の異名。〔事物異名錄、獸畜、馬〕孫氏瑞應圖、馬爲二房星之精一。

【房稅】85 fang² shuei¹ 家屋稅。房捐(13)を見よ。

【房脊】86 fang² chi³ 屋根の棟。

【房錢】87 バウセン 借家の料金。やちん。〔宋史、食貨志下一〕不レ賜二宮觀等房錢田土之類一。〔周密、浩然齋雅談〕小小園林矮矮屋、一日房錢一貫足。

【房俎】88 バウソ 脚に跗ある俎。臺のある俎。〔詩、魯頌、閟宮〕籩豆大房。〔傳〕大房、半體之俎也。〔箋〕大房玉飾俎也。〔禮、明堂位〕俎、有虞氏以レ梡、夏后氏以レ嶡、殷以レ椇、周以二房俎一。〔注〕房、謂二足下跗一也、上下兩閒、有レ似二於堂房一。〔疏〕其制、足閒有レ橫、下有レ跗、似二乎堂後有一レ房然。〔後漢書、馬融傳〕山罍常滿、房俎無レ空。



房俎（禮記圖）

【房租】89 fang² tsu⁴ 店賃。家賃。房賃。

【房總】90 バウソウ 安房・上總・下總の三國の稱。

【房族】91 fang² tsu² 家主の親戚。

【房柁】92 fang² t'uo² 梁。うつばり。

【房道】93 バウダウ 房星の軌道。〔南齊書、天文志上〕永明六年十二月乙酉、月犯二太微西蕃南頭第一星一、庚寅月行二房道中一、無レ所レ犯。

【房闥】94 バウタツ 宮中の部屋。闥は宮中の小門。〔漢書、循吏傳序〕高后女主不レ出二房闥一、而天下晏然。〔新語、無爲〕設二房闥一備二廄庫一。〔後漢書、宦者傳序〕非二復掖廷永巷之職、閨牖房闥之任一也。〔陸機、弔二魏武帝一文〕婉二孌房闥之內一、綢二繆家人之務一。

【房地】95 バウチ ❶宋代、戸部尙書の掌つた職務。租稅土貢等の事務をいふ。〔宋史、職官志三〕曰、房地、掌二諸州樓店務房廊課利、僧道免丁錢、及土貢獻物一。❷家屋のある土地。宅地。〔淸會典事例、戸部、雜賦〕又定、直隸省房地稅契銀三萬一千五百二十三兩三錢二分八釐。

【房長】96 バウチヤウ ❶一族の長。〔齊家寶要〕罪坐二房長一。❷婢妾の年老いて衰退した者。房老。〔表異錄〕婢妾年久而衰退者謂二之房長一、亦曰二房老一。〔負暄雜錄〕婢妾年久、而位高者、謂二之房長一。

【房頂】97 fang² ting³ 屋根。屋上。

【房中】98 バウチユウ ❶へやのなか。室內。〔禮、明堂位〕君卷冕立二于阼一、夫人副禕立二于房中一。〔疏〕房則東南之室也。〔戰國、趙策〕公甫文伯官二於魯一、病死、婦人爲レ之自二殺於房中一者二八。〔史記、封禪書〕其梁巫祠二天地天社天水房中堂上之屬一。❷閨房の中。男女の交りをいふ。房中術を見よ。〔神仙傳、彭祖〕有二所レ傷者數種一、而獨戒二於房中一、豈不レ謬哉。〔抱朴子、釋滯〕房中之法十餘家、或以補二救傷損一、或以攻二治衆病一、或以採レ陰益レ陽、或以增レ年延レ壽、其大要、在二於還精補腦之一事一耳。〔唐書、藝文志三〕葛氏房中祕術一卷。

〔房中歌〕99 バウチユウカ 詞章の名。凡て十七章。漢の高祖の姬、唐山夫人の作。高祖の嗜好により楚聲で歌ひ、上は君王の盛德を頌し、下は臣民の和樂を述べて神に祈つたもの。其の始は唯〻口に吟誦しただけであつたが、惠帝の二年、樂府令夏侯寬、簫管を備へて音律に合せ、更に名づけて安世樂といひ、世傳へて安世房中歌といふ。宋の劉敞は、もと十二章のものが誤つて十七章となつたのであると疑ひ、樂府集には、浚則師德の四句を上章に合して十六章とし、馬端

臨は、都荔逐芳の十句を一章とし、棣華以下八句を一章、美芳以下八句を一章とし、詩體明辯には、詞に重複あり、義の或は通じ難いのは傳寫の誤とし、劉履が刪次を加へて七解としたものを妥當として擧げ、異說が多い。房中樂の❷を見よ。

【房中樂】100 バウチユウノガク ❶后夫人の諷頌する音樂。絃歌して鐘磬を用ひぬもの。〔儀禮、燕禮〕吾子無二自辱一焉、有二房中之樂一。〔注〕弦二歌周南召南之詩一、而不レ用二鐘磬之節一也、謂二之房中一者、后夫人之所三諷誦以事二其君子一。〔詩考〕自二關雎一至二芣苢一、后妃房中之樂。〔漢書、禮樂志〕周有二房中樂一至レ秦、名曰二壽人一。❷郊廟歌辭の名。漢の高祖の時、唐山夫人の作つた樂。房中歌を見よ。〔漢安世房中歌〕大考備矣、休德昭清、高張二四縣一、樂充二宮廷一、芬樹羽林、雲景杳冥、金支秀華、庶施翠旌、七始葉始、肅倡二和聲一、神來冥族、庶幾是聽。〔樂府詩集、郊廟歌辭、漢安世房中歌〕通典曰、周有二房中之樂一、歌二后妃之德一、秦始皇二十六年、改曰二壽人一、漢書禮樂志曰、漢房中祠樂、高祖唐山夫人所レ作、凡樂樂二其所レ生、禮不レ忘二其本一、高祖樂二楚聲一、故房中樂楚聲也、孝惠二年、使三樂府令夏侯寬備二其簫管一、更二名安世樂一、宋書樂志曰、魏文帝黃初二年、議者以、房中歌二后妃之德一、所下以風二天下一正中夫婦上、乃改爲二正始之樂一、明帝太和初、繆襲奏、魏國初建、王粲所レ作登歌安世詩、專以レ思詠二神靈一、及說二神靈鑒享之意一、後省、讀二漢安世詩一、無レ有下二南風二化天下一之言上、又改曰二享神歌一。❸バウチユウラク 舞樂の名。〔續教訓抄、黃鐘調〕安城樂、新樂、中曲、又作二安世樂一、一名、房中樂。❹バウチユウノタノシミ 男女交りの快樂。陰陽相和の樂。

【房中術】101 バウチユウジユツ 道家延命法の一。房中郤病の法で、性交の禁忌と四時の藥物等を述ぶ。男女交接、陰陽交媾の術をいふ。漢書の藝文志の房中八家に、容成陰道・務成子陰道・黃帝三王養陽方・三家內房有子方等の書がある。後、更に種子方藥を爲すものをいふ。又、簡稱して房術ともいふ。〔漢書、藝文志〕容成陰道二十六卷・務成子陰道三十六卷・堯舜陰道二十三卷・湯盤陰道二十卷・天老雜子陰道二十五卷・天一陰道二十四卷・黃帝三王養陽方二十卷・三家內房有子方十七卷、右房中八家百八十六卷、房中者、情性之極、至道之際、是以聖王制二外樂一、以禁二內情一、而爲二之節文一、傳曰、先王之作レ樂、所三以節二百事一也、樂而有レ節、則和平壽考、及レ迷者弗レ顧、以生レ疾而隕二性命一。〔抱朴子、極言〕抱朴子答曰、不レ得二金丹一、但服二草木之藥一、及修二小術一者、可三以延レ年遲レ死耳、不レ得レ仙也、或但知レ服二草藥一、而不レ知二還年之要術一、則終無二久生之理一也、或不レ曉下帶二神符一、行中禁戒上、思二身神一、守二眞一、則正可レ令二內疾不レ起、風濕不レ犯耳、若卒有二惡鬼強邪、山精水毒害一レ之、則便死也。〔博物志、方士〕左慈修二房中之術一、可二以終レ命。〔輟耕錄、房中術〕今人以二邪僻不經之術一、如二運氣逆流采戰之類一、曰二房中術一、按レ史周有二房中樂一、唐山夫人所レ作、武帝時有二房中歌一、又云、房中者、情性之極、至道之際、是以聖王制二外樂一、以禁二內情一、而爲二之節文一、樂而有レ節、則和平壽考、及二迷者一弗レ顧、以生レ疾而殞二性命一、禮記曾子問、衆主人卿大夫士房中皆哭、注、房中、婦人也、然房中之謂、豈取二此一書一與。〔瑯邪代醉編、房中〕武帝召二東方朔一問レ道、朔曰、陛下當二自知一。

【房中丹】102 fang^{2} chung^{1} tan 淫慾を催す藥。

【房中僞器】103 fang^{2} chung^{1} wei^{2} chʻi^{4} 陰莖又は女陰の形に作つたもの。はりかた。

【房中之事】104 バウチユウノコト 部屋の中のこと。〔孔叢子、答問〕牀第之私、房中之事。

【房中弱水】105 バウチユウジヤクスイ 溺の異名。小便。〔事物異名錄、形貌、溺〕清異錄、溺曰二房中弱水一、見二於道書一。

【房仲】106 バウチユウ 清、沈心(**6－17189**‥219)の字。

【房賃】107 バウチン やちん。部屋代。〔宋史、食貨志上二〕孝宗受レ禪、赦二凡官司債負房賃租賦和買役錢、及坊場河渡等錢一、自二紹興三十年一以前並除レ之。

【房兆】108 バウテウ 隋代の人。本姓は屋引氏。剛毅にして、武略あり、行軍總管を以て胡を擊つ。位は柱國。官は徐州總管。〔隋書、五十三〕・〔北史、七十三〕。

【房殿】109 バウデン ごてん。宮殿。〔沈約、湘州枳園寺剎下石記〕其始則芳枳樹籬、故名因レ事立、雖二房殿嚴整一、而瓊剎未レ樹。

【房杜】110 バウト 唐の房玄齡と杜如晦。皆唐の名相。如晦は斷に長じ、玄齡は謀を善くする、故に後世、良宰相の義に用ひる。〔唐書、杜如晦傳〕時天下新定、臺閣制度、憲物容典、率二二人討裁一、每レ議二事帝所一、玄齡必曰下非二如晦一莫上籌レ之、及二如晦至一、率用二玄齡策一、蓋如晦長二於斷一、而玄齡善レ謀、兩人深相知、故能同レ心濟レ謀、以佐二佑帝一、當世語二良相一、必曰二房杜一云。

【房杜姚宋】111 バウトエウソウ 唐の名臣。房玄齡(字は喬齡)・杜如晦(字は克明)・姚崇(字は元之)・宋璟(字は廣平)の四人の稱。房・杜は唐の太宗の宰相、姚・宋は玄宗の宰相。〔唐書、姚崇宋璟傳贊〕唐史臣稱、崇善應レ變以成二天下之務一、璟善守レ文以持二天下之正一、二人道不レ同、同二歸于治一、此天所三以佐レ唐使二中興一、云云、唐三百年、輔弼者不レ爲レ少、獨前稱二房杜一、後稱二姚宋一、何哉、君臣之遇合、蓋難矣夫。

【房杜不レ言レ功】112 バウトコウヲイハズ 唐の房玄齡・杜如晦は宰相となつて天下を治めたが、何等その功績を言はなかつたといふ故事。轉じて、功を誇らず謙虛なことをいふ。〔唐書、房杜傳贊〕帝定二禍亂一、而房杜不レ言レ功。〔捫蝨新話、唐史稱二房杜不一レ言レ功〕唐史稱二房杜不一レ言レ功、予謂此乃庸人鄙夫、持レ祿固レ位者、得二以藉一レ口也、爲二人臣一而不レ言レ功、將何言乎、堯之於レ舜也、曰底レ可レ績、舜之於レ禹也、曰時乃功、舜禹未三嘗不二以レ功言一也、稷有二播種之功一、契有二數敎之功一、皐陶之功在二於明刑一、后夔之功在二于典樂一、伊尹以二伐レ夏救一レ民爲レ功、周公以二制レ禮作一レ樂爲レ功、此數君子、亦未三嘗不二以レ功言一也、下至二蕭曹丙魏一、皆非二無レ功者一、豈房杜獨無レ可レ言、而得レ稱二賢相一乎、且爲レ相與レ用レ兵異、故子房無二智名一無二勇功一者、兵以レ密爲レ機故也、今史之稱二二人一也、既曰二玄齡善謀、如晦能斷矣一、又曰乙求下其所二以致一レ之之蹟上、殆不甲可レ見、豈謀斷非二其所レ致之蹟一乎、若夫世之庸人鄙夫、阿レ意求レ合、日復二一日一、歲復二一歲一、不レ聞二施設一、將下與二草木一共盡上、此孔子所謂斗筲之徒、何足レ算者也、而猥以藉二口輔相一、彌縫藏二諸用不一レ知、其誰欺乎。

【房圖】113 バウト 草の名。桔梗の異名。〔本草、桔梗〕釋名、時珍曰、吳普本草、一名利如、一名符扈、一名房圖。

【房東】114 バウトウ ❶室の東。〔詩傳大全〕視二豆籩鉶於房東一。❷ fang^{2} tung^{1} 家主。房主。

【房內】115 バウナイ ❶部屋の內。〔漢書、郊祀志下〕夏有レ芝生二甘泉殿房內中一。〔拾遺記、八、吳〕吳主趙夫人、云云、內外視レ之、飄飄如二煙氣輕動一、而房內自涼。❷寢閒の中。閨房之中。〔素問、厥論〕此人必數醉若飽以入レ房。〔注〕醉飽入二房內一亡二精氣一。❸男女の交りをいふ。房事。〔庭訓往來、十一月〕房內過度。

【房內術】116 バウナイジユツ 房中術(101)に同じ。〔魏志、華佗傳、注〕左慈善修二房內之術一。

【房楠】117 バウナン 明、益都の人。字は國柱。萬曆の進士。官は貴州按察使。中傷を被りて中陽牧に降され、楊漣の薦めにより、戶部郞に擢んでられ、後、陝西參議に陞る。權貴に阿附せず、再黜せらる。〔蘭臺法鑒錄、十七〕。

【房牌】118 バウハイ 下役。〔福惠全書、郵政部、總論〕單騎馳往、見二所レ弔之房牌一、血流被レ面、偏身傷腫。

【房望】119 バウバウ 家がら。家格。〔唐書、高儉傳〕然每レ姓第二其房望一、雖二一姓中一高下縣隔、李義府爲レ子求レ婚不レ得、始奏レ禁焉。

【房箙】120 バウフク やづつ。えびら。〔唐書、王毛仲傳〕毛仲爲二明悟一、景龍中、王還二長安一、二人常負二房箙一以從。

【房分】121 バウブン 同族中の各分家。〔魏書、太武五王、廣陽王深傳〕其往世房分、留二居京一者、得二上品通官一、在レ鎭者便爲二清途所一レ隔。

【房豹】122 バウヘウ 北齊の人。法壽の曾孫。字は仲翰。官は樂陵太守。北齊亡び、歸隱して家に終る。〔北齊書、四十六〕・〔北史、三十九〕。

【房廟】123 バウベウ やしろ。ほこら。〔宋書、毛脩之傳〕脩之不レ信二鬼神一、所レ至必焚二除房廟一。

【房謨】124 バウボ 北齊、洛陽の人。字は敬放。謚は文惠。爾朱榮に應ぜずして執へられ、後、赦さる。神武帝入洛するや、丞相右長史に徵され、官は晉州刺史に至る。〔北史、五十五〕。

【房鳳】125 バウ ホウ 漢、不其の人。字は子元。乙科に及第して、太史掌故となり、五官中郎將に遷る。穀梁春秋に明通す。劉歆が左氏春秋の立つ可きを白すや、鳳、之を許し、歆の移書して太常博士を責讓するや、出されて九江太守となり、青州牧に終る。〔前漢書、八十八〕。

【房木】126 バウ ボク 木の名。こぶし。辛夷の異名。〔本草、辛夷〕釋名、辛雉、候桃、房木、木筆、迎春。

【房墨】127 バウ ボク 科擧試驗の文章をいふ。〔桃花扇、逮社〕這左邊一行小字、是壬午癸未房墨合刪。

【房門】128 バウ モン へやのいりぐち。〔李羣玉、龍安寺佳人阿最歌〕門路穿二茶焙一、房門映二竹煙一。

【房揚】129 バウ ヤウ 漢の人。王莽の司徒王尋の士。莽、尋をして兵を將ゐて雒陽に屯せしむ。既に發して、其の黃鉞を喪ふ。揚、狂直、自ら劾して去る。莽、揚を擊殺す。〔前漢書、九十九下〕。

【房融】130 バウ ユウ 唐、洛陽の人。官は武后の時、正諫大夫同鳳閣鸞臺平章事。神龍の初、高州に貶死す。嘗て天竺の沙門、般剌・密帝等と共に首楞嚴經を譯す。〔唐詩紀事、十二〕・〔全唐詩、四〕。

【房老】131 バウ ラウ 婢妾の老衰したもの。房長。〔表異錄〕婢妾年久而衰退者、謂二之房長一、亦曰二房老一。〔拾遺記、九、晉時事〕石季倫愛婢、名二翔風一、云云、翔風最以二文辭一擅レ愛、云云、及二翔風年三十一、云云、即退二翔風一爲二房老一、使レ主二羣少一。

【房勞】132 fang² lao² 房事過勞。

【房廊】133 バウ ラウ ❶へやと、らうか。〔梁元帝、遊二七山寺一賦〕映二檐牖一而交加、繞二房廊一而郁毓。〔宋昱、題二石窟寺一詩〕檐牖籠二朱旭一、房廊挹二翠微一。❷店をいふ。〔蘇軾、論二積欠一狀〕城市房廊所二以日空一也。

【房亮】134 バウ リヤウ 後魏、清河の人。字は景高。太和中、秀才に擧げらる。清廉の士。官は平原太守から東荊州刺史に遷り、後、光祿大夫となる。〔魏書、七十二〕・〔北史、四十五〕。

【房梁】135 fang² liang² 梁。うつばり。

【房陵】136 バウ リヨウ 縣名。漢、置く。今、湖北省、房縣の地。〔史記、秦始皇紀〕遷二蜀四千餘家一家二房陵一。〔漢書、地理志上〕漢中郡、縣十二、房陵。〔潘岳、閒居賦〕周文弱枝之棗、房陵朱仲之李。

〖房陵粉水〗137 バウリヨウ フンスイ 房陵にある泉の名。〔荊州記〕築陽縣粉水、源出二房陵一、取二其水一爲レ粉、鮮潔異二於餘衣一。〔海錄碎事、地、水泉〕地理志、房陵有二清泉一、土人以爲レ粉則膏澤、方貢二京師一、因名二房陵粉水一。

【房檁】138 fang² lin³ 梁の上の桁。

【房累】139 バウ ルイ 家屬。眷屬。〔南史、梁宗室上、蕭正德傳〕今當二有レ汝以遠一、無レ令二房累自隨一。

【房靈】140 バウ レイ 房宿の神。〔徐陵、河東康簡王墓誌〕王資二神昴緯一、託二曜房靈一、體斯孝烈、不レ由二師保一。

【房奩】141 バウ レン 嫁入道具。〔宋史、職官志四〕嫁娶房奩、分二析財產一、酌二厚薄多寡一、而訂二其議一。〔水滸傳、二十四回〕那箇大戶以レ是記二恨於心一、卻倒賠二此房奩一。

【房露】142 バウ ロ 古曲の名。防露。〔謝莊、月賦〕徘二徊房露一、惆二悵陽阿一。〔注〕善曰、房露、蓋古曲也。

【房櫳】143 バウ ロウ ❶れんじまど。窗櫺。〔漢書、外戚上、班倢伃傳〕廣室陰兮帷幄暗、房櫳虛兮風泠泠。〔注〕師古曰、櫳、疏檻也。〔左思、吳都賦〕房櫳對レ櫎、連閣相經。❷室をいふ。〔張協、雜詩〕房櫳無二行跡一、庭草萋以綠。〔注〕翰曰、櫳亦房之通稱。

【房遺愛】144 バウ ヰアイ 唐の人。玄齡の次子。高陽公主に尙す。官は高宗の時、房州刺史。公主と謀反し、並びに誅せらる。〔唐書、九十六〕。

【房遺直】145 バウ ヰチヨク 唐の人。玄齡の子。汴州刺史。弟遺愛の謀反に坐し、銅陵尉に貶せらる。〔舊唐書、六十六〕・〔唐書、九十六〕。

【房應賢】146 バウ オウケン 朝鮮李朝、南陽の人。字は俊夫。號は沙溪。詩書を誦し、名利に淡し。〔人物考〕。

【房可壯】147 バウ カサウ 清、益都の人。明、萬曆の進士。御史を授けられ、魏忠賢に忤ひて貶黜さる。崇禎の初、原官に起補さる。順治の初、清に仕へて、左都御史に累官す。〔清史列傳、七十九〕。

【房架子】148 fang² chia⁴ tzŭ 家屋の骨組。

【房暉遠】149 バウ キエン 隋、眞定の人。字は崇儒。三禮春秋三傳詩書周易に通じ、兼ねて圖緯を善くし、五經庫と稱せらる。官は開皇の初、國子博士。〔隋書、七十五〕・〔北史、八十二〕。

【房恭懿】150 バウ キヨウイ 隋の人。謨の子。字は愼言。官は北齊の平恩令・濟陰守。隋の海州刺史。〔隋書、七十三〕・〔北史、五十五〕。

【房景遠】151 バウ ケイエン 後魏の人。景光の弟。字は叔遐。然諾を重んじ施與を好む。益州の刺史傅豎眼、昭武府功參軍に召すも、母老いたるを以て應ぜず。〔魏書、四十三〕。

【房景先】152 バウ ケイセン 後魏の人。景伯の弟。字は光冑。諡は文。幼にして孤貧、師に從ふ資なく、其の母自ら毛詩曲禮を授く。晝は樵蘇し、夜は經史を誦し、太和中、太學博士となる。時に太常の劉芳、侍中の崔光、皆其の精博に歎じ、奏して著作佐郞を兼ねしめ、國史を編修す。官は步兵校尉・尙書郞・齊州中正。著に五經疑問がある。〔魏書、四十三〕。

【房景伯】153 バウ ケイハク 後魏の人。愛の子。字は長暉〔長輝〕。孝子。平賊の功あり。官は司空長史。〔魏書、四十三〕・〔北史、三十九〕。

【房玄齡】154 バウ ゲンレイ 唐、臨淄の人。彥謙の子。字は喬。舊唐書には、房喬、字は玄齡に作る。諡は文昭。幼にして警敏、典籍に博綜し、文を善くし、兼ねて草隸に巧。開皇中、天下混一するや、皆隋祚、方に永からんといふも、玄齡、其の亡、待つべしといふ。年十八にして進士に擧げられ、羽騎尉を授けられる。太宗秦王たりし時、渭北を徇ふや、策を持して軍門に謁し、一見舊知の如し。行軍記室參に署せられ、臨淄侯に封ぜられ、征伐に從はざるなく、人物を收めて幕府に致す。大宗卽位し、官は左僕射。爵は梁國公。相位に居ること十五年、司空に進められたるも固辭す。杜如晦と共に朝政を執り、房謀杜斷と稱せられる。嘗て勅を奉じて晉書一百三十卷を撰す。又、房玄齡撰と題する管子注あり。〔舊唐書、六十六〕・〔唐書、九十六〕。

〖房玄齡妻〗155 バウゲンレイ ノツマ 唐の人。姓は盧氏。玄齡微なりし時、病みて死なんとし、吾、病革らば、君年少、寡居すべからず、善く後人に事へよと諭せしところ、盧氏、帷中に入り、一目を剔つて他心無きを明らかにす。玄齡病愈え、終身これを禮す。〔唐書、二百五〕。

【房彥謙】156 バウ ゲンケン 隋の人。法壽の玄孫。字は孝沖。諡は定。五經に通じ、草隸に巧。官は北齊の齊州主簿。隋の司隸刺史。唐の時、徐州都督を追贈せらる。〔隋書、六十六〕・〔北史、三十九〕〔琅琊代醉編、二十一〕。

【房公湖】157 バウコウ コ 湖の名。四川省廣漢縣治の西南。唐の房琯、刺史たりし時鑿つ。宋の熙寧中、開墾して田とす。今、廢れ塞がる。一名、西湖。〔方輿勝覽〕又名二西湖一。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、漢州〕房公湖、在二州治一、南唐房琯所レ鑿、亦謂二之西湖一、凡數百畝、稱爲二佳勝一、宋熙甯閒、奏二墾爲レ田、今廢塞、又湧泉在二州東三十五里一、周廣三百餘丈、有二灌溉之利一。

【房公池】158 バウコウ チ 池の名。南唐の房琯が掘った池。卽ち房公湖をいふ。〔杜甫、得二房公池鵝一詩〕房相西亭鵝一羣、眠レ沙泛レ浦白二於雲一。〔杜甫、答二楊梓州一詩〕悶到二房公池水頭一、坐逢二楊子鎭東州一。

【房三益】159 バウ サンエキ 後魏の人。崇吉の從弟。字は敬安。官は兗州左軍府司馬、後、左將軍。〔魏書、四十三〕。

【房士達】160 バウ シタツ 後魏の人。三益の子。諡は武。鄉人劉蒼生等の亂を平ぐ。官は濟南太守。〔魏書、四十三〕。

【房孺復】161 バウ ジユフク 唐の人。琯の子。文を善くす。初、韓滉の府に辟され、後、容州刺史に至る。〔舊唐書、一百十一〕・〔唐書、一百三十九〕。

【房叔安】162 バウ シユクアン 南齊、清河の人。字は子仁。官は宋の明帝の時、王玄邈の長史。齊の高帝の時、前將軍。〔南史、十六〕。

【房如式】163 バウ ジヨシヨク 明、益都の人。字は憲甫。隆慶の進士。官は陝西按察使。河南參政に左遷せらる。〔蘭臺法鑒錄、十九〕。

【房崇吉】164 バウ スウキツ 後魏の人。法壽の從弟。驍勇。官は宋の青州刺史沈文秀の中兵參軍。魏の歸安縣令。〔魏書、四十三〕。

【房千里】165 バウ センリ 唐、河南の人。字は鵠擧。太和の進士。幼にして才學あり、意を聲色に恣にす。端州別駕に遷り、高州刺史に陞る。心を政治に留め、大いに民情を得。〔唐詩紀事、五十二〕・〔全唐詩、十九〕。

【房村口】166 バウソンコウ 地名。福建省建甌縣の南。房村溪水が建溪に入る口に當る。險要の地。〔讀史方輿紀要、福建、延平府、南平縣〕房村口、府北五十里、與二建甯府一接レ界、自二建甯一而下者、至レ此爲二水陸會一、集二之道傍一、山臨レ溪據レ險、而守足レ爲二府境之保障一、由レ此而南則支徑旁通、難二於控禦一矣、口蓋府北之鎖鑰也、今亦見二建甯府黄孫寨一。

【房知溫】167 バウチヲン 五代唐、瑕丘の人。字は伯玉。莊宗、姓名を李紹英と賜はる。官は泰寧節度使。爵は東平王。〔五代史、四十六〕・〔舊五代史、九十一〕。

【房帖兒】168 fang^2 t'ieh^3 êrh 貸家札。

【房天樂】169 バウテンガク 後魏、清河の人。滑稽多智。官は青州別駕。後、刺史沈文秀の長史。慕容白曜を拒ぎ、敗れて執へられる。〔魏書、六十一〕。

【房伯玉】170 バウハクギョク 後魏の人。法壽の從弟。果敢にして將略あり。初、蕭鸞の南陽太守。後、孝文に歸して官は馮翊相。〔魏書、四十三〕。

【房法壽】171 バウハフジュ 後魏、清河繹幕の人。小名は烏頭。謚は敬。王玄邈の司馬となり、後、慕容白曜に歸す。官は平遠將軍。爵は壯武侯。〔魏書、四十三〕・〔北史、三十九〕。

【房飯錢】172 fang^2 fan^4 ch'ien^2 宿泊料。

【房三分瘴】173 fang^2 san^1 fen^1 chang^4 毎日早朝に茶を飲むこと。湖北房縣地方の習慣。

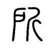
【房倒屋塌】174 fang^2 tao^3 wu^1 t'a^1 家が倒れる。

【房謀杜斷】175 バウボウトダン 唐の房玄齡の謀と杜如晦の斷。〔舊唐書、房玄齡杜如晦傳論〕世傳、太宗嘗與二文昭一圖レ事、則曰、非二如晦一莫二能籌一レ之、及二如晦至一焉、竟從二玄齡之策一也、蓋房知三杜之能斷二大事一、杜知三房之善建二嘉謀一也。

【房鱗屋櫛】176 fang^2 lin^2 wu^1 chieh^2 家屋櫛比。

【所】11715

シヨ ソ 〔集韻〕爽阻切 語 ㄙㄨㄛˇ suo^3


小篆

❶ところ。處(9－32697)に通ず。〔說文通訓定聲〕所、段借爲レ處。㋑ゐどころ。居處。〔廣雅、釋詁二〕所、尻也。〔集韻〕所、一曰、處也。〔一切經音義、二〕所、處也。〔詩、鄭風、大叔于田〕獻二于公所一。㋺とち。ばしよ。境域。〔呂覽、達鬱〕必於二無レ人之所一。〔注〕所、處也。㋩くらゐ。地位。位置。〔左氏、襄、二十三〕不レ患レ無レ所。〔注〕所、位處。〔左氏、昭、二十〕入復二而所一。〔注〕所、所レ居官。〔論語、爲政〕譬如下北辰居二其所一而衆星共上レ之也。〔皇疏〕所、猶レ地也。㋥ばあひ。境遇。〔左氏、桓、九〕非二歎所一也。㋭もとゐ。基礎。〔書、召誥〕王敬作レ所。㋬ことわり。道理。〔禮、哀公問〕求レ得當レ欲、不レ以二其所一。〔注〕所、猶レ道也。㋣たより。利便。當然。〔易、繫辭下〕交易而退、各得二其所一。㋠はからひ。處置。〔左氏、隱、元〕不レ如三早爲二之所一。㋷官衙。役所。〔元史、食貨志二〕立二益都課稅所一。㋦場所を數へる單位。〔班固、成都賦〕離宮別館三十六所。❷をる。處(9－32697)に同じ。〔書、無逸〕君子所二其無逸一。〔鄭注〕所、猶レ處也。❸ばかり。ほど。不定の辭。〔禮、檀弓下、其高可レ隱也、注〕謂二高四尺所一。〔疏〕所、是不定之辭。〔漢書、張良傳〕父去里所、復還。〔漢書、疏廣傳〕問三金餘尚有二幾所一。〔漢書、原涉傳〕涉居二谷口一半歲所。❹つきる。〔廣雅、釋詁一〕所、盡也。❺ところ。ところの。指事の詞。〔經傳釋詞、九〕所者、指事之詞、若下視二其所一レ以、觀二其所一レ由之屬上是也、常語也。〔孟子、離婁下〕問下其所二與飲食一者上。〔韓愈、送三李愿歸二盤谷一序〕大丈夫之遇二知於天子一、用二力於當世一者之所レ爲也。❻もし。〔書、牧誓〕爾所弗レ勖、其于二爾躬一有レ戮。〔鄭注〕所、言レ且也。〔左氏、僖、二十四〕所不下與二舅氏一同上レ心者、有レ如二白水一。〔左氏、宣、十〕所有二玉帛之使者一、則告、不レ然、則否。〔論語、雍也〕夫子矢レ之曰、予所否者、天厭レ之、天厭レ之。❼べし。〔經傳釋詞、九〕所、猶レ可也、莊子知北游篇曰、人倫雖レ難、所二以相齒一、言レ可二以相齒一也、史記淮陰侯傳曰、非レ信無下所二與計一レ事者上、言レ無下可二與計一レ事者上也、漢書所作レ可、是其證矣。❽せられる。られる。受身の助辭。〔史記、高祖紀〕所レ殺蛇、白帝之子、殺者赤帝之子。❾木をきる音。鋸の音。〔說文〕所、伐レ木聲也、从レ斤戶聲、詩曰、伐木所所。〔段注〕小雅伐木文、首章、伐木丁丁、傳曰、伐レ木聲、次章、伐木許許、傳曰、許許、柹兒、此許許作二所所一者、聲相似、云云、今按、丁丁者斧斤聲、所所則鋸聲也。❿語助辭。〔古書虛字集釋〕所、語助也、禮記、檀弓篇、君無レ所レ辱レ命。⓫古は[illegible](5－11723)に作る。〔集韻〕所、古作レ[illegible]。⓬姓。〔正字通〕所、姓、漢武帝近臣所忠。〔萬姓統譜〕所平原、所所、斫レ木聲也、古有二虞衡主レ伐レ木之官一、聞レ聲以爲レ氏。⓭現すつかり。まるで。全然。邦ところ、神佛。貴人を數へる單位。

名乘 ノブ。

【所以】1 シヨイ ユエン ❶ゆゑん。わけ。方法。〔大學〕孝者所二以事一レ君也。〔中庸〕博厚所二以載一レ物也。〔論語、里仁〕不レ患レ無レ位、患三所二以立一。〔孟子、公孫丑上〕非四所三以內二交於孺子之父母一也。〔荀子、脩身〕禮者所二以正一レ身也。❷sou^2 i^3 故に。だから。

【所以然】2 シヨイ ゼン わけ。次第。原由。〔關尹子、五鑑〕所二以思一レ之者、是意非レ心、不レ知三所二以然一而然。〔近思錄、道體〕凡物有二本末一、不レ可下分二本末一爲中兩段事上、洒掃應對是其然、必有三所二以然一。

【所以了】3 suo^2 i^3 la ❶それ故に。❷さうです。然り。尤もです。

【所爲】4 シヨ ヰ ❶なすところ。しわざ。しごと。所作。〔易、繫辭上〕子曰、知二變化之道一者、其知二神之所一レ爲乎。〔莊子、漁父〕世俗之所レ爲也。〔漢書、董仲舒傳〕春者天之所レ爲也。〔李白、大鵬賦〕吾亦不レ測二其神怪一、而若レ此、蓋乃造化之所レ爲。❷いふところ。所謂に同じ。〔續文法章論、上〕所爲、與二所謂一無二甚異一、原二其故一而進推之辭。〔呂覽、恃君〕凡吾所爲爲レ此者、所三以明二君臣之義一也。

【所謂】5 イハ ユル いふところ。普通にさう言つてゐる。いはれ。〔大學〕所謂誠二其意一者、毋二自欺一也。〔論語、先進〕所謂大臣者、以レ道事レ君、不可則止。〔孟子、梁惠王下〕所謂故國者、非レ謂下有二喬木一之謂上也。〔司馬相如、難二蜀父老一文〕鄙人固陋、不レ識二所謂一。〔注〕向曰、所謂、所說也。

【所由】6 シヨ イウ ❶よるところ。其の事の由つて來るところ。〔論語、爲政〕子曰、視二其所一レ以、觀二其所一レ由、察二其所一レ安、人焉廋哉、人焉廋哉。〔南史、陸杲傳〕何不下付二所由一呈聞上。〔司馬相如、封禪文〕然無二異端一、愼二所由於前一、謹二遺教於後一耳。❷州縣の官吏。地方の小役人。所由官を見よ。〔唐書、崔咸傳〕丞相乃許二所由官囁嚅耳語一。〔稱謂錄、知州、所由〕案、所由、謂二郡官一也。

【所由官】7 シヨイウ クワン 唐代、府縣官をいふ。事は必ず其の手を經由する義。〔資治通鑑、唐紀〕〔敬宗寶曆二年〕丞相不レ應レ許二所由官呫囁耳語一。〔注〕京尹任煩劇、故唐人謂二府縣官一爲二所由官一、項安世家說曰、今坊市公人、謂二之所由一。〔資治通鑑、唐紀、穆宗、長慶二年、注〕事必經二由其手一、故謂二之所由一。

【所有】8 シヨ イウ ❶我物としてもつ。占領してゐる。又、もちもの。〔孟子、公孫丑下〕古之爲レ市者、以二其所一レ有、易二其所一レ無者一。〔史記、孔子世家、

注〕集解曰、王肅曰、各以二其方面所レ有之財賄一而來貢。〔蘇軾、前赤壁賦〕苟非二吾之所一レ有、雖二一毫一而莫レ取。❷あらゆる。ありとある。すべての。〔國朝漢學師承記、汪元亮〕所レ有著述、於二疾作時一皆投二諸火一。〔古事記、上〕於二葦原中國一所レ有宇都志伎青人草之落二苦瀨一而患惚時可レ助告。

【所有權】9（ショイウケン）物權の一。法律上自由に其の物を使用・收益・處分し得る權利。

【所有主】10（ショイウシユ）其の物を所有する人。

【所有物】11（ショイウブツ）其の人の所有する物。所有權を有するもの。

【所員】12（ショヰン）何々所と名づける研究所などに勤める人。

【所依】13（ショエ）よりどころ。たよる所。安んずる場所。〔晉書、樂志下〕願得二黃浦一衆所レ依。〔揚雄、甘泉賦〕徠二祇郊禋一神所レ依兮。

【所要】14（ショエウ）いる。いりよう。又、いるだけの。必要の。

【所緣】15（ショエン）❶よるところ。〔淮南子、說林訓〕城成二於土一、木直二於下一、非レ有レ事焉、所緣使レ然。❷ゆかり。たより。しるべ。〔源平盛衰記、二十五、小督局事〕今一度、君の御言傳もや承ると思ひ、所緣ありて、是に此程侍りつれども云々。

【所緣緣】16（ショエンネン）〖佛〗四緣の一。心法が所緣の境に對して起る上に立つ緣で、心法獨り起らず、必ず所知の境に攀緣して起ることは羸弱の人の杖によつて起つが如くなるをいふ。〔智度論、三十二〕。

【所翁】17（ショヲウ）宋、陳容(11－41698‥575)の號。

【所荷】18（ショカ）責任。職責。〔潘岳、河陽縣作詩〕豈敢陋二微官一、但恐レ忝二所荷一。〔注〕濟曰、豈敢以二此官一爲二微小一、但恐レ辱二負荷之任一也。

【所向】19（ショカウ）むかふところ。方向。〔晉書、張華傳〕華見レ劍穿レ屋而飛、莫レ知レ所レ向。〔南史、薛安都傳〕率二步騎一居レ前、所レ向剋捷。〔李白、留二別廣陵諸公一詩〕寸心無二疑事一、所レ向非二徒然一。〔杜甫、房兵曹胡馬詩〕所レ向無二空闊一、眞堪レ托二死生一。

【所好】20（ショカウ）このみ。このむところ。〔大學〕其所レ令反二其所一レ好、而民不レ從。〔張衡、西京賦〕所レ好生二毛羽一。

【所學】21（ショガク）まなんだこと。學問すること。又、學問。〔孟子、梁惠王下〕姑舍二女所一レ學、而從レ我。〔唐書、陸贄傳〕下不レ負レ所レ學。

【所轄】22（ショカツ）其の管轄すること。管轄範圍。轄は主管。所管。

【所感】23（ショカン）心に感じ思ふこと。〔列女傳、母儀、周室三母傳〕妊レ子之時、必愼レ所レ感、感二於善一則善、感二於惡一則惡。〔釋氏通鑑〕深仁遠洽、四夷貢獻、天威所レ感、無レ假二于人一。

【所期】24（ショキ）心に待ちうけること。期待すること。豫期。〔南史、王錫傳〕他日謂レ昇曰、一日見二二賢一、實副二所期一。〔南史、蔡約傳〕今用レ卿爲二近蕃上佐一、想副二我所期一。

【所歸】25（ショキ）歸着すること。歸依するところ。〔老子、二十〕儽儽兮若レ無レ所レ歸。〔莊子、齊物論〕不レ知二其所一レ歸。〔劉得仁、宿二僧院一詩〕禪寂無二塵地一、焚レ香話二所歸一。

【所行】26（ショギヤウ）おこなひ。しわざ。〔法苑珠林〕所行惡事。

【所居】27（ショキヨ）住宅。〔劉長卿、過二鄭山人所居一詩〕寂寂孤鶯啼二杏園一、寥寥一犬吠二桃源一。〔剪燈新話、水宮慶會錄〕至正甲申歲、潮州士人余善文、於二所居一白晝閑坐。

【所欽】28（ショキン）❶心に敬ひ望むこと。〔李嶠、劉侍讀見レ和二山邸十篇一重申二此贈一詩〕丘壑信多レ美、煙霞得二所欽一。❷尊び敬ふ人。㋑弟をいふ。〔嵇康、贈二秀才入一レ軍詩〕感悟馳レ情、思二我所欽一。㋺兄をいふ。〔陸機、贈二從兄車騎一詩〕寤寐靡二安豫一、願言思二所欽一。〔注〕良曰、欽、敬也、所敬、謂レ兄也。㋩友をいふ。〔陸機、贈二馮文羆一詩〕慷慨爲レ誰感、願言懷二所欽一。〔注〕濟曰、欽、敬也、懷二所欽一、則思二文羆一。

【所化】29（ショクワ）❶化すること。〔列子、黃帝〕物之造二乎不形一、止二乎無一レ所レ化。❷〖佛〗（ケショ）僧家にて弟子の稱。教化を受ける者の義。能化(9－29454‥12)の對。〔法華經〕如レ是等大華光佛所化。〔維摩經、佛國品〕菩薩隨二所化衆生一而取二佛土一。❸ばけもの。化したもの。〔井筒業平河內通、一〕。

【所化寮】30（ショケレウ）〖佛〗寺院で弟子の居るところ。

【所懷】31（ショクワイ）心に思ふこと。考へ。所思。〔莊子、在宥〕大人之教、若二形之於一レ影、聲之於レ響、有レ問而應レ之、盡二其所懷一。〔魏氏春秋〕阮籍作二蘇門先生論一、以寄二所懷一。〔袁宏、三國名臣序贊〕故復撰二序所懷一、以爲二之讚一云。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕盡レ言非二報章一、聊用布二所懷一。〔注〕良曰、聊且布二懷抱之所一レ有也。

【所管】32（ショクワン）とりしまり。とりしまること。すべあつかひ。又、其の範圍。所轄。〔唐律、斷獄、疏議〕稱二直牒一者、謂レ不レ緣二所管上司一。

【所歡】33（ショクワン）己のなじみの人。私にしたしむ人。〔韻府引、古樂府〕風吹窗簾動、疑是所歡來。〔古樂府、西門行〕飲二醇酒一炙二肥牛一、請二呼心所一レ歡、可三用解二愁憂一。〔劉楨、贈二五官中郞將一詩〕涕泣灑二衣裳一、能不レ懷二所歡一。

【所觀】34（ショクワン）〖佛〗觀じたこと。觀じたところ。〔榮華物語、玉臺〕。

【所願】35（ショグワン）願ひのすぢ。ねがひ。〔陶潛、閑情賦〕攷二所願而必違一、徒契契以苦レ心。〔宋書、樂志三〕遂二我所願一、以レ茲自寧。〔法華經、普賢勸發品〕普賢、若於二欲世一授二持讀三誦是經典一者、是人不三復貪二着衣食臥具飲食資生之物一、所レ願不レ虛、亦於二現世一得二其福報一。

【所願成就】36（ショグワンジヤウジユ）願の成就すること。〔正法念經〕所願成就。

【所敬】37（ショケイ）明、王就學(7－20823‥1619)の字。

【所狹】38（トコロセ）場所の狹いこと。窮窟なこと。氣のつまること。

【所業】39（ショゲフ）しわざ。業務とすることがら。所爲。所作。〔陶潛、雜詩〕代耕本非レ望、所業在二田桑一。〔許棠、將レ歸二江南一留二別友人一詩〕連春不レ得レ意、所業已疑レ非。

【所見】40（ショケン）❶みること。又、見えること。〔晉書、嵇康傳〕何所レ聞而來、何所レ見而去。〔蘇轍、上二樞密韓太尉一書〕所レ見不レ過二數百里之閒一。❷みこみ。かんがへ。考案。意見。〔漢書、嚴彭祖傳〕各持二所見一。

【所見之世】41（ショケンノヨ）見て知つてゐる世。公羊學で、春秋十二公の中、昭公・定公・哀公の時代を己と父との時の事と云つて、これを所見之世といひ、文公・宣公・成公・襄公の時代を王父の時の事と云つて、所聞之世といひ、隱公・桓公・莊公・閔公・僖公の時代を、曾祖高祖の時の事と云つて、所傳聞之世といふ。三世(1－12‥973)の❷を見よ。〔公羊、隱公第一、疏〕据レ哀錄レ隱、兼二及昭・定一、己與レ父時事、爲二所見之世一、文・宣・成・襄、王父時事、謂二之所聞之世一也、隱・桓・莊・閔・僖、曾祖・高祖時事、謂二之所傳聞之世一也。

【所見不レ逮二所聞一】42（ショケンハショブンニオヨバズ）見ることは聞くことに及ばない。見ると聞くとは大違ひ。〔唐書、文藝上崔信明傳〕鄭世翼、云云、遇二信明江中一、謂曰、聞、公有二楓落吳江冷一、願見二其餘一、信明欣然、多出二衆篇一、翼覽未レ終曰、所見不レ逮二所聞一、投二諸水一、引レ舟去。

【所建】43（ショケン）明、顧大猷(12－43689‥314)の字。

【所顯】44（トコロアラハシ）平安朝時代、結婚の披露。伉儷。露顯。

【所驗】45（ショケン）しるし。ききめ。效果。〔韓非子、南面〕主道者、使下人臣必有二言之責一、又有中不レ言之責上、言無二端末一、辯無二所驗一者、此言之責也。

【所怙】46（ショコ）親をいふ。たのむところの義。不レ省二所怙一を見よ。

【不レ省二所怙一】47（ショコヲセイセズ）親の顏を知らない。一說に、母を失つたこと。又一說に、父母の墓にお參りせぬこと。怙恃(4－10454‥5)を見よ。〔韓愈、祭二十二郞一文〕嗚呼、吾少孤、及レ長、不レ省二所怙一、惟兄嫂是依。

【所後】48（ショゴ）のちとなるもの。あとつぎ。〔儀禮、喪服傳〕爲二所後一者之祖父母、妻、妻之父母、昆弟、昆弟之子、若レ子。〔注〕若レ子者、爲二所レ爲後之親一、如二親子一。

【所後之親】49（ショゴノシン）養子が養父を指していふ。〔淸律、戶律、戶役、立嫡子違法〕若義男女壻、爲二所後之親一喜悅者、聽三其相爲二依倚一。

【所後父母】50（ショゴフボ）養子から養父母を指す語。所後は養子。〔明律、集解、名例、服制〕爲二人後一者、爲二所後父母一。

【所作】51（ショサ）〖佛〗❶身口意の三業を能作となすに對して、其の發動造作を所作といふ。なすこと。しわざ。〔無量壽經、上〕亦無二所作一、亦無二所有一。〔新婆娑論〕欲レ有レ所レ作、皆先思惟。❷からだのこなし。手ぶり・身ぶりなどのしかた。又、をど

りまひの類。

【所作事】52 シヨサゴト 歌舞伎の舞臺で演ぜられる舞踊及び舞踊劇の總稱。をどり。ふりごと。〔歌舞伎事始、四〕。

【所載】53 シヨサイ 記載されること。〔弘道館記述義、上〕神代雖レ邈矣、古典所レ載、彰明較著、不二復容一レ疑。

【所在】54 シヨザイ ❶到るところ。そこここ。此所彼所。所所。〔後漢書、陳蕃傳〕致レ令二赤子爲一レ害、豈非二所在貪虐使一二其然一乎。〔歐陽建、臨終詩〕所在可二游盤一。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕所在戰捷聞。❷其のある所。ありか。すみか。〔禮、儒行、哀公命レ席、注〕所レ在如レ主。〔左氏、定、五〕聞二王所在一、而後從レ王。〔史記、信陵君傳〕公子聞下趙有二處士毛公一、藏二於博徒一、薛公藏中於賣漿家上、公子欲レ見二兩人一、兩人自匿、不三肯見二公子一、公子聞二所在一、乃閒步往從二此兩人一、游甚歡。❸場所。處。處所。〔朱子全書、論語〕如人要下向二箇所在一去上、便是志到二得那所在一了、方始能立。❹身分。しわざ。❺所在がないとは、身の在るべき所を求め得ないで、落ちつきがないこと。手もちぶさた。

【所在官員】55 シヨザイクワンヰン 其の地方の官吏。〔六部成語、吏部、所在官員、注解〕在二遠處一說二此處地方官一、曰二所在官員一。

【所相】56 シヨサウ 文法で受身をあらはす語をいふ。

【所藏】57 シヨザウ わが物として藏めおくこと。〔孔安國、尚書序〕於二壁中一得二先人所レ藏古文虞夏商周之書、及傳論語孝經一。

【所子】58 シヨシ 養子。同姓の子を養子としたもの。〔漢書、宣帝紀〕封二賀所レ子弟子侍中中郎將彭祖一爲二陽都侯一。〔注〕師古曰、所子者、謂下養二弟子一以爲上レ子。

【所止】59 シヨシ ❶止まり居ること。〔詩、周頌、玄鳥〕邦畿千里、維民所レ止。〔老子、二十〕飂兮似レ無レ所レ止。〔孔子家語、弟子行〕毎位改變、未レ知レ所レ止。❷清、顧樞(**12**－43689··115)の字。

【所司】60 シヨシ ❶つかさどるところ。〔後漢書、桓帝紀〕各明守レ所レ司、將レ觀二厥後一。❷長官。〔唐書、明皇紀〕依二卿來請一、定付二所司一。❸武官の職名。足利時代の侍所の次官。室町時代には、長官たる別當を置かず、所司を以て之に代へた。❹僧侶の職名。上座・寺主・都維那の稱。〔二中歷、四〕三綱謂二之所司一。

【所司代】61 シヨシダイ ❶室町時代、侍所の所司の代理として、其の家人が事を取り扱つたときの稱。所司の名代。〔庭訓往來、八月〕管領・執事・奉公人・檢斷・所司代。❷織田氏から始まつた官。京都に在つて、宮中一切の事務を取扱ふ役。京都所司代。

【所思】62 シヨシ ❶おもふこと。おもひ。所懷。〔古樂府、傷歌行〕感レ物懷二所思一、泣涕忽霑レ裳。〔宋之問、下山歌〕下二嵩山一兮多二所思一、攜二佳人一兮步遲遲。〔羅隱、梅華詩〕欲レ寄二所思一無二好信一、爲レ君惆悵又黃昏。❷思慕する人。〔楚辭、九歌、山鬼〕折二芳馨一兮遺二所思一。〔注〕所思、謂下清潔之士、若二屈原一者上也。〔集注〕所思、指二人之悅レ己、而己欲レ媚レ之者一也。〔李頎、奉三送五叔入レ京兼寄二綦毋三一詩〕欲レ望二黃山道一、無レ由レ見二所思一。

【所識】63 シヨシキ 平生知りあひの人。しりびと。相識。〔禮、檀弓上〕所レ識、其兄弟不二同居一者、皆弔。

【所衆】64 トコロノシユウ 古、藏人所に屬し、種々の雜役に服したもの。〔職原抄〕藏人所、所衆、六位侍可レ然之輩補レ之。

【所充】65 トコロアテ 殿上人等を諸所の別當等に充て定め、其の行事を分擔させること。〔禁祕抄、中、殿上人〕補二所所別當一事、殿人所充外、公卿侍臣補レ之。

【所從】66 シヨジユウ ❶心の向ふところ。思ひのまま。〔李正辭、賦三得白雲起二封中一詩〕豈學二無心一出、東西任二所從一。〔吳筠、遊二廬山五老峰一詩〕自然符二幽情一、瀟灑愜二所從一。❷suo^3 ts'ung^2 由來。原因。❸附き從ふ者。家來。

【所所】67 シヨシヨ ❶伐木の聲。〔說文〕所、伐木聲也、詩曰、伐木所所。〔急就篇、所不侵、注〕所所、斫レ木聲也。❷ところどころ。處處。〔字類抄〕往往、ところどころ、處處同。

【所親】68 シヨシン ❶懇意にしてゐる人。〔史記、魏世家〕李克曰、居視二其所レ親。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕所レ親一何篤、步レ趾慰二我身一。〔宋書、劉湛傳〕上嘗謂二所親一曰、劉班初自レ西還。〔杜甫、自レ京奔二赴鳳翔一喜レ違二行在所一詩〕所親驚二老瘦一、辛苦賊中來。❷旁系の親戚。〔唐律、名例、疏議〕所親、謂三旁親非二祖父母父母及子孫一。

【所生】69 シヨセイ ❶父母。生みの親。〔詩、小雅、小宛〕夙興夜寐、無レ忝二爾所生一。〔疏〕故當二早起夜臥行一レ之、無レ辱二汝所生之父祖一已。〔集傳〕各求レ無レ辱二於父母一而已。〔孝經、士章〕無レ忝二爾所生一。〔注〕所生、謂二父母一也。〔後漢書、列女、程文矩妻傳〕四子以三母非二所生一、憎毀日積。〔陶潛、庚子歲五月中從レ都還阻二風於規林一詩〕久游戀二所生一、如何淹在レ茲。〔注〕所生、謂二父母一也。❷生じたもの。生みの子。〔吳越春秋、夫差內傳〕吳王聞レ之、索然作レ怒乃曰、吾天之所レ生、神之所レ使。

【所性】70 シヨセイ 宋、時少章(**5**－13890··464)の號。

【所誠】71 シヨセイ まごころ。懇誠の情。〔謝瞻、答二靈運一詩〕忽獲二愁霖唱一、懷レ勞奏二所誠一。

【所染】72 シヨセン ❶染まること。〔張喬、寄二山僧一詩〕大道本來無二所染一、白雲那得レ有二心期一。❷墨子の篇名。

【所詮】73 シヨセン ［佛］詮は顯の意。經文で義理を顯はすとき、經文を能詮といひ、義理を所詮といふ。轉じて、つまる所。結句。畢竟などの意に用ひる。〔四教儀、一〕教是能詮、理是所詮。〔法苑義林章〕所レ說法者、所詮義也、名句字者、能詮文也。

【所撰】74 シヨセン 撰述したもの。〔國史略、醍醐天皇〕五年、御書所預紀貫之、上三奉レ敕所レ撰古今和歌集一。

【所瞻】75 シヨセン 仰ぎ見るもの。〔詩、大雅、桑柔〕維此惠君、民之所レ瞻。

【所屬】76 シヨゾク つき從ふこと。隷屬。附屬。〔漢書、王莽傳中〕皆隨二所屬之公一保二其災害一。

【所存】77 シヨゾン ❶存するところ。ある所。〔何承天、答二宋居士一書〕末技所レ存。❷心に思ふこと。〔方孝孺、戇窩記〕思下博交二海內之士一、以觀中其所上レ存。❸考へ。見込。〔平治物語、二、六波羅合戰〕御曹司も、定めて御所存あつてぞおはすらん。

【所待】78 シヨタイ たのみとするもの。〔莊子、逍遙遊〕猶有二所レ待者一也。〔莊子、大宗師〕其所レ待者、特未レ定也。

【所帶】79 シヨタイ 俗に世帶に作る。❶身におびるもの、卽ち領土、又は財產。身代。❷一家のくらし。生計。又、いへ。一家。〔生玉心中、上〕。

【所帶崩】80 シヨタイクヅレ 一旦立てた所帶を解き、家族と離れて孤獨で世を渡ること。

【所帶道具】81 シヨタイダウグ 一家の生計に必要な家具類。〔百姓傳記〕。

【所替】82 トコロガヘ ところを移す。古、大名などの封土を移しかへられること。國替。移封。

【所體】83 シヨタイ ❶物體をいふ。〔墨子、大取〕於二所體之中一而權二輕重一、之謂レ權。❷シヨテイ 身なり。なりふり。樣子。〔曾根崎心中〕しよてい崩をれ、ああ恥づかしい。

【所當】84 シヨタウ ❶相當すること。適當。〔平家物語、二、教訓〕所當の罪科、被レ行ぬる上は云云。❷古、官に雜物を納めること。また納める物。賦稅。〔東寺百合古文書、四十六〕右能登口一箇年所當料、檢納如レ件。

【所治】85 シヨチ 己の治める地。〔曹植、與二吳季重一書〕想還二所治一、復申二詠之一也。

【所知】86 シヨチ ❶學問によつて知つた道理。〔漢書、董仲舒傳〕行二其所一レ知、則光大矣。❷知りあひの人。〔儀禮、既夕禮〕所レ知則賵而不レ奠。〔注〕所知、通問相知也。〔胡培翬正義〕檀弓曰、朋友、吾哭二諸寢門之外一、所知、吾哭二諸野一、是所知與二朋友一殊、此不レ言二朋友一、而但言二所知一、則亦包二朋友一在レ內。❸知行。所領。所治(85)に同じ。〔東鑑、三十二〕暦仁元年九月九日、可レ充二行官仕忠勞之輩、幷所知替一。❹上から貰ふ祿。扶持。所領。

【所知障】87 シヨチシヤウ ［佛］二障の一。一切貪瞋痴等の諸惑は愚痴迷闇にして、諸法の事相及び實性を了知せず、卽ち事相實性を了知すべき菩提の妙智を障る用あり。此の妙智を障る愚痴迷闇を名づけて知障、或ひは所知障といふ。〔唯識論九〕所知障者、謂執二遍計所執實法一、薩迦耶見而爲二上首一、見疑無明愛恚慢等、覆二所知境無顚倒性一、能障二菩提一名二所知障一。

【所知入】88 シヨチイリ 大名の所知を受けて、始めて入國すること。國入。入部。〔義經記、四〕。

【所持】89 シヨヂ 物を携へる。所有する。〔杜甫、送三殿中楊監赴レ蜀見二相公一詩〕綱紀正所レ持。

【所長】90 シヨチヤウ ❶長ずる點。とくい。おはこ。〔任

昉、王文憲集序〕未三嘗顯二其所長一。〔注〕向曰、不レ說二己長一也。❷何何所のかしら。一所の長官。

【所中】91 シヨチユウ 淸、費誓(10－36717‥54)の字。

【所忠】92 シヨチユウ 漢の人。武帝の幸臣。官は諫議大夫。〔前漢書、四十六〕。

【所寵】93 シヨチヨウ 寵幸するもの。〔國史略、高野天皇〕太子言、道鏡之罪、當二極刑一矣、然先帝所レ寵不レ忍レ誅レ之。

【所天】94 シヨテン 天として尊ぶもの。自分があがめうやまふ人。❶君をいふ。〔後漢書、梁竦傳〕乃敢昧死、自陳二所天一。〔注〕臣以レ君爲レ天、故云二所天一。〔呉志、孫皎傳〕但當下輸二効力命一、以報中所天上。〔南史、江淹傳〕剖レ心摩レ踵、以報二所天一。❷父をいふ。〔晉武帝、答三羣臣請二易服復膳一詔〕何必一旦便易二此情於所天一。❸夫をいふ。〔潘岳、寡婦賦序〕少喪二父母一、適レ人而所天又殞。〔注〕善曰、喪服傳曰、父者子之天、夫者婦之天、蔡伯喈女賦曰、當二三春之嘉月一、將三言歸二於所天一。〔李白、去婦詞〕十五許二嫁君一、二十移二所天一。❹友が高貴な身分である場合に指していふ。〔呉質、答二魏太子一牋〕伏惟所天優二游典籍之場一、休二息篇章之囿一。〔注〕向曰、所天、謂レ君、屬二太子一也。

【所傳】95 シヨデン 文書、又は口碑で後世に傳へる。所傳聞之世を見よ。

〖所傳聞之世〗96 シヨデンブンノヨ 傳へ聞いて知るところの世。所見之世(41)を見よ。〔公羊、隱公第一、疏〕隱・桓・莊・閔・僖、曾祖・高祖時事、謂下之所二傳聞一之世上也。

【所疼】97 suo³ t'eng² 氣の毒。かはいさう。〔紅樓夢、三回〕因說我這些兒女、所疼者獨有儞母。

【所動】98 シヨドウ 文法用語。受身。受動。所相(56)に同じ。

【所得】99 シヨトク ❶うるもの。〔左氏、襄、十九〕取二其所得一、以作二彝器一、銘二其功烈一、以示二子孫一。〔漢書、貨殖、程鄭傳〕所得自倍。〔智度論、一〕入二佛法寶山一、都無二所得一。〔元好問、贈二羅友卿一詩〕莫レ怪門前可レ羅レ雀、詩家所得是淸貧。❷我が所有となるもの。いりだか。收入。得分。

〖所得顏〗100 トコロエガホ 得意のかほつき。したりがほ。

〖所得稅〗101 シヨトクゼイ 直接國稅の一。一箇年に得るところの收入を標準として取り立てる稅金。

【所南】102 シヨナン 宋、鄭思肖(11－39647‥417)の字。

【所念】103 シヨネン おもふところ。おもひ。〔列子、黃帝〕横二心之所レ念、横二口之所レ言。

【所犯】104 シヨハン 侵犯する。惡事をする。をかす。〔晉書、天文志上〕文昌六星、云云、月五星入二太微一、軌レ道吉、其所レ犯、中坐成レ刑。

【所病】105 シヨビヤウ 病氣を治する。療病。〔史記、扁鵲傳〕人之所病、病疾多、而醫之所病、病道少。〔注〕集解曰、所病、猶二療病一也。

【所部】106 シヨブ 其の管轄範圍に屬すること。くみした。〔漢書、何並傳〕並下レ車、求下勇猛曉二文法一吏且十人上云云、各有二所部一。

〖所部兵〗107 シヨブノヘイ 部下の兵。〔十八史略、唐、玄宗〕祿山遂反、發二所部兵及奚・契丹一。

【所拂】108 トコロバラヒ 德川時代、其の居住地から追放した刑罰。〔御定書百箇條、御仕置仕形〕。

【所聞】109 シヨブン 己のきくところ。〔商子、更法〕夫常人安二於故習一、學者溺二於所聞一。〔漢書、劉向傳〕誠見二陰陽不レ調、不二敢不レ通二所聞一。

〖所聞之世〗110 シヨブンノヨ 聞いて知る所の世。所見世(41)を見よ。

【所柄】111 トコロガラ 其の土地の風習。場所柄。〔源氏物語、五、若紫〕すずろなる人も所から物あはれなり。

【所嬖】112 シヨヘイ 寵臣。氣に入りの臣。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一〕年壯氣盛、緒信二所嬖一。〔注〕銑曰、順二信所レ寵之臣一也。

【所輔】113 シヨホ 後漢、平原の人。縣の小吏となり、安帝の時、縣令に代りて、賊に刺殺さる。〔後漢書、百十一〕。

【所望】114 シヨマウ 欲すること。願ひ。又、このみ。のぞみ。〔資治通鑑、漢紀〕(獻帝、建安十三年)瑜曰、云云、儻能屈レ威、誠副二其所レ望。〔白居易、與二濟法師一書〕所望所望、佛以二無上大慧一、觀二一切衆生一。〔杜陽雜編〕祿位茅土、皆非レ所レ望。

【所務】115 シヨム 武家時代、田租以外の雜稅の稱。〔東鑑、四十四〕建長六年四月二十九日、西國庄公地頭等所務事、有二其沙汰一、是本地頭所務者、可レ依二往昔之由緒一故。

【所用】116 シヨヨウ ❶もちひること。〔韓愈、與二于襄陽一書〕卷舒不レ隨二乎時一、文武惟其所レ用。〔佛本行經〕任二王所用一。❷入用。所要。〔水滸傳、四回〕一應所用、弟子自當二准備一。❸用事。用件。❹使用(1－573‥75)に同じ。

【所勞】117 シヨラウ ❶いたはること。〔左氏、僖、十二〕詩曰、愷悌君子、神所レ勞矣。❷つかれ。わづらひ。平素勞せる所に因っておこる義。病氣。〔古今著聞集、十八〕。

【所領】118 シヨリヤウ 占領する。領する。又其の土地。領分。領地。〔北魏書、甄琛傳〕邊外小縣所領、不レ過二百戶一。

【得レ所】119 トコロヲウ 適宜の位置を得る。〔易、繫辭下〕交易而退、各得二其所一。〔漢書、成帝紀〕君道得則草木昆蟲、咸得二其所一。〔後漢書、劉平傳〕獄無二繫囚一、人自以得レ所。〔班固、西都賦〕粲乎隱隱、各得二其所一。〔韓愈、秋懷詩〕適レ時各得レ所、松柏不二必貴一。〔詩、魏風、碩鼠〕樂土樂土、爰得二我所一。

【所羅門】120 ソロモン Solomonの音譯。❶國王の名。イスラエル國王。西紀前九三七年歿。聰明で才藝に富み、在位の時文學を奬勵し、工商を振興した。歿後國は二つに分れた。❷群島の名。大洋洲。山岳性の小島群よりなり、火山島が多い。近海から眞珠を產する。

【所安遺集】121 シヨアンヰシフ 書名。一卷。元、陳泰撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【戼】11716

バウ メウ 〔字彙補〕莫飽切 [巧]

開いた戸。又、戸を開く。〔字彙補〕戼、闢レ戸也。

【⿸戸又】11717

キヨ 義未詳。〔川篇〕⿸戸又、香於切。

【⿸戸巴】11718

イ 扅(5－11741)に同じ。〔篇海類編〕⿸戸巴、同レ扅。

【⿸戸厶】11719

シユウ 義未詳。〔五音篇海〕⿸戸厶、之戎切。

【⿸戸乙】11720

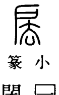
ヨク 義未詳。〔川篇〕⿸戸乙、音抑。

五畫

【⿸戸去】11721

［一］キヨ コ 〔集韻〕丘據切 [御]

［二］カフ ガフ 〔集韻〕轄臘切 [合]


小篆

［一］**とぢる**。戸をさす。〔說文〕⿸戸去、閉也、从レ戸劫省聲。〔集韻〕⿸戸去、閉也。［二］❶**とぢる**。通じて闔(11－41452)に作る。［一］に同じ。〔集韻〕⿸戸去、閉也、通作レ闔。❷**姓**。〔集韻〕⿸戸去、姓也。

【⿸戸立】11722

キヨ ⿸尸立(4－7664)の譌字。〔正字通〕⿸戸立、⿸尸立字之譌。

【⿸戸且】11723

シヨ 所(5－11715)の古字。〔集韻〕所、古作レ⿸戸且。

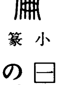
【扁】11724

［一］ヘン 〔集韻〕補典切 [銑] ㄅㄧㄢˇ pien³

［二］ヒン ビン 〔集韻〕婢忍切 [軫]

［三］ハン ホン 〔集韻〕孚袁切 [元]

［四］ヘン 〔集韻〕卑眠切 [先] ㄆㄧㄢ p'ien¹


小篆

［一］❶**門戸上に書きしるしたもの**。〔說文〕扁、署也、从二戸冊一、戸

冊者、署㆓門戸㆒之文也。〔段注〕署㆓門戸㆒者、秦書八體、六曰、署書、蕭子良云、署書、漢高六年、蕭何所㆑定、以題㆓蒼龍白虎二闕㆒。❷四里、三百家の稱。〔鶡冠子、王鈇〕五家爲㆑伍、十伍爲㆑里、四里爲㆑扁。❸がく。堂顏。〔宋史、吳皇后傳〕夢至㆓一亭㆒、扁曰㆓侍康㆒。〔舒頔、適耕堂詩〕適耕大篆楣扁存、挂㆑經扶㆑耒窮㆓朝昏㆒。❹ひらたい。〔集韻〕扁、一曰、不㆑圓皃。〔字彙〕扁、器之不㆑圓者曰㆑扁。〔後漢書、東夷傳〕辰韓生㆑兒、欲㆓其頭扁㆒、押㆑之以㆑石。❺石をふむさま。〔詩、小雅、白華〕有㆓扁斯石㆒、履㆑之卑兮。〔傳〕扁扁、乘㆑石貌、王乘㆑車蹈㆑石。❻ひくいさま。〔詩、小雅、白華、有㆓扁斯石㆒、集傳〕扁、卑貌。❼短い角材。楄(6－15097)に通ず。〔何晏、景福殿賦、奚有㆓禁楄㆒、注〕善曰、楄、陽馬之短桷也、扁、與㆑楄同。〔張說、祭㆓陸冀州㆒文〕高扁已陷、連櫨復焚。❽病の名。身體の一部不自由なもの。㾫(7－22324)に通ず。〔說文通訓定聲〕扁、叚借爲㆑㾫。〔太平御覽、人事、形體〕尙書大傳曰、扁者、枯也。❾わける。わきまへる。辨(10－38657)・辯(10－38677)に通ず。〔說文通訓定聲〕扁、叚借爲㆑辨。〔荀子、脩身〕扁善之度。〔注〕扁、讀爲㆑辯。❿よろこぶさま。〔孟子、離婁下、施施從㆑外來、注〕施施猶㆓扁扁㆒、喜悅之貌。⓫姓。〔集韻〕扁、亦姓。〔萬姓統譜〕扁、渤海、又望出㆓南陽㆒。［二］姓。或は鶣(12－47127)に作る。〔集韻〕扁、扁鵲、古之良醫、或作㆑鶣。［三］❶數多い。〔集韻〕扁、番也、莊子、扁然。❷あまねし。おほい。徧(4－10174)に通ず。〔莊子、知北游〕扁然而萬物自㆑古以固存。〔疏〕扁然、偏生之貌也。［四］❶まるいさま。〔集韻〕扁、圜皃。❷ひとつ。かたよる。そばだつ。ちひさい。古は𡱝(4－7762)に作り、偏(1－848)に通ず。〔說文通訓定聲〕扁、叚借爲㆑偏。〔廣韻〕扁、小舟也。〔漢書、貨殖傳〕迺乘㆓扁舟㆒。〔注〕孟康曰、特舟也。〔集韻〕扁、峙也、古作㆑𡱝。❸はやいさま。〔漢書、揚雄傳上〕鮮扁陸離。〔注〕師古曰、鮮扁、輕疾貌。❹あむ。編(8－27665)に通ず。〔說文通訓定聲〕扁、叚借爲㆑編。〔莊子、盜跖〕扁㆓虎須㆒。〔釋文〕扁、本或作㆑編。❺劍の名。扁諸。〔集韻〕扁、扁諸、劍名、吳王以葬。

解字 會意。戸と冊との合字。門戸に署する文。門札・戸籍簿の類。今の扁題・扁額の扁の類。

【扁鴨】1 pien^3 ya^1 鶩の肉を醬油にひたし、火で乾して扁平としたもの。

【扁額】2 ヘンガク がく。室內門戸等に揭げる書畫。橫額。〔程史〕吳山有㆓伍員祠㆒、瞰㆓圜闤㆒、都人敬㆓事之㆒、有㆓富民㆒、捐㆑貲爲㆓扁額㆒、金碧甚侈。〔書言故事、拾遺類〕牌榜、曰㆓扁額㆒。

【扁蟢】3 ヘンキ あしたかぐも。壁錢蟲の異名。壁鏡。〔事物異名錄、昆蟲、壁蟢〕山堂肆考、壁錢蟲似㆓蜘蛛㆒、而身扁、作㆓白幕㆒如㆑錢、著㆓壁閒㆒、俗呼爲㆓壁蟹㆒、其抱㆑子隔㆑幕而伏、生㆑子百數、坼㆑幕而出、一名扁蟢、一名壁鏡。

【扁巾】4 ヘンキン 頭巾の一種。〔桃花扇、傳歌〕蘇崑生扁巾褶子上。

【扁菓】5 pien^2 kuo^3 瓜の種子。

【扁廣】6 ヘンクワウ 幅。ひろさ。〔史記、扁鵲倉公傳、正義〕脾重二斤三兩、扁廣三寸、長五寸。

【扁枯】7 ヘンコ 半身不隨をいふ。偏枯(1－848・・60)の❶に同じ。〔尙書大傳、略說〕其跳者踦也、扁者枯也。〔注〕言㆔湯體半小象㆓扁枯㆒。

【扁穀】8 pien^2 ku^3 かうぞ。

【扁倉】9 ヘンサウ 扁鵲と倉公。共に春秋戰國時代の名醫。倉扁。〔史記、扁鵲倉公傳贊〕扁鵲以㆓其伎㆒見㆑殃、倉公乃匿㆑迹、自隱而當㆑刑。

【扁山】10 ヘンザン 山名。湖南省岳陽縣の西南。水經注の編山。上に啞女塔がある。

【扁舟】11 ヘンシウ ささやかなふね。こぶね。小舟。一葦。扁舟浮㆓五湖㆒を見よ。〔張若虛、春江花月夜〕誰家今夜扁舟子、何處相思明月樓。〔蘇軾、前赤壁賦〕駕㆓一葉之扁舟㆒、擧㆓匏樽㆒以相屬。〔戴叔倫、江上別㆓張勸㆒詩〕今日扁舟別、俱爲㆓滄海人㆒。〔朱熹、水口行㆑舟詩〕昨夜扁舟雨㆓一簑㆒、滿江風浪夜如何。

【扁舟浮㆓五湖㆒】12 ヘンシウゴコニウカブ 春秋、越の范蠡が句踐のもとを去って勇退高蹈したことをいふ。〔史記、貨殖傳〕范蠡既雪㆓會稽之恥㆒、云云、乃乘㆓扁舟㆒浮㆓於江湖㆒。〔吳越春秋、句踐伐吳外傳〕范蠡云云、乃乘㆓扁舟㆒出㆓三江㆒入㆓五湖㆒。〔楚國先賢傳〕句踐滅㆑吳、謂㆓范蠡㆒曰、吾將㆓與㆑子分㆑國有㆑之、蠡曰、君行㆑令、臣行㆑意、乃乘㆓扁舟㆒泛㆓五湖㆒、終不㆑返。〔書言故事、地理類〕隱者用㆓扁舟五湖㆒。

【扁舟一櫂歸㆓何處㆒】13 ヘンシウイツタウイヅコニカカヘル 小舟の春江を行くを詠じたもの。〔蘇軾、書㆓李世南所㆑畫秋景㆒詩〕野水參差落㆓漲痕㆒、疏林欹倒出㆓霜根㆒、扁舟一櫂歸㆓何處㆒、家在㆓江南黃葉村㆒。

【扁蝨】14 ヘンシツ 蟲の一種。だに。交蚤。〔事物異名錄、昆蟲、蝨〕山堂肆考、身扁而臭、不㆑能㆑跳、善嚙㆑人者、又名㆓交蚤㆒、又名㆓扁蝨㆒。

【扁鵲】15 ヘンジャク 戰國、鄭の人。姓は秦。名は越人。名醫。盧に家し、盧醫といはる。長桑君より其の術を受けた。秦の太醫令、李醯、其の技をねたみ人をして之を刺殺せしむ。著に難經がある。〔史記、一百五〕。

【扁鵲鈴】16 ヘンジャクレイ 椒(6－15029)の異名。〔淸異錄、藥、扁鵲鈴〕椒、又名㆓扁鵲銘㆒、蜀產者上、葉屬㆑木故青、皮本㆑火故赤、花應㆑土故黃、膜兆㆑金故白、子符㆑水故黑、五行全足、草中大丹、服餌家重㆑之。

【扁鵲起虢】17 ヘンジャクキクワク 蒙求の標題。古の名醫扁鵲が虢の太子の死したるを蘇らせた故事。〔史記、扁鵲傳〕扁鵲過㆑虢、虢太子死、云云、扁鵲乃使㆔弟子子陽厲㆑鍼砥㆑石、以取㆓外三陽五會㆒、有㆑閒、太子蘇、乃使㆘子豹爲㆓五分之熨㆒、以㆓八減之齊和㆒煑㆑之、以更熨㆗兩脇下㆖、太子起坐、更適㆓陰陽㆒、但服㆑湯二旬而復㆑故、故天下盡以㆓扁鵲㆒爲㆔能生㆓死人㆒。

【扁鵲倉公傳】18 ヘンジャクサウコウデン 史記列傳の一。史記(2－3249・・31)の❷を見よ。〔史記、太史公自序〕扁鵲言㆑醫、爲㆓方者宗㆒、守㆑數精明、後世修序、弗㆑能㆑易也、而倉公可㆑謂㆑近㆑之矣、作㆓扁鵲倉公列傳㆒第四十五。

【扁鵲不㆑能㆑肉㆓白骨㆒】19 ヘンジャクモハクコツニニクスルアタハズ 扁鵲の如き名醫も、死人を生かすことは出來ない。忠臣も亡國を維持する能はざる喩。〔鹽鐵論、非鞅〕扁鵲不㆑能㆑肉㆓白骨㆒、微箕不㆑能㆑存㆓亡國㆒也。

【扁鵲神應鍼灸玉龍經】20 ヘンジャクシンオウシンキウギョクリョウケイ 書名。一卷。元、王國端撰。專ら鍼灸の法を論ず。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【扁緒】21 ヘンショ ひらうちひも。くみひも。〔說文〕條、扁緒也。

【扁諸】22 ヘンショ 劍の名。又、其の飾り。偏諸。〔吳越春秋、夫差內傳〕皆文犀長盾、扁諸之劍。〔注〕闔廬既鑄成㆓干將莫耶二劍㆒、餘鑄得㆓三千㆒、並號㆓扁諸之劍㆒。〔越絕書、外傳記吳地傳〕闔廬冢在㆓閶門外㆒、名㆓虎丘㆒、云云、玉鳧之流、扁諸之劍三千云云在焉。

【扁食】23 ヘンショク 米の粉で作った餠の類をいふ。水餃鍋貼の屬。北方の俗語。〔王譽昌、崇禎宮詞、注〕翊坤宮近侍劉某、善治㆓扁食㆒、進御者必其手造。

【扁簪】24 pien^3 tsʻan^1 ひらたい簪。

【扁青】25 ヘンセイ 青色の岩繪具の一種。石青。〔本草、扁青〕集解、別錄曰、扁青生㆓朱厓山谷武都朱提㆒、采無㆑時、弘景曰、朱提音殊匙、在㆓南海中㆒、仙經俗方都無㆓用者㆒、時珍曰、蘇恭言、卽綠青者非也、今之石青是矣、繪畫家用㆑之、其色青翠不㆑渝、俗呼爲㆓大青㆒、楚蜀諸處亦有㆑之、而今貨㆓石青㆒者、有㆓天青大青西夷回回青佛頭青㆒、種種不㆑同、而回青尤貴、本草所㆑載、扁青・層青・碧青・白青皆其類耳。

【扁前】26 ヘンゼン 蟲の名。あぶの類。〔本草、蜚蝱〕附錄、扁前、別錄、有名未用曰、味甘有㆑毒、主㆓鼠瘻癃閉㆒、利㆓水道㆒、生㆓山陵中㆒、狀如㆓牛蝱㆒、赤翼、五月八月採㆑之。

【扁善】27 ヘンゼン すべて善い。あまねく善い。〔荀子、脩身〕扁善之度、以治㆑氣養㆑生、則後㆓彭祖㆒。〔注〕

扁、讀爲レ辨、韓詩外傳曰、君子有二辨善之度一。

【扁善齋】28（ヘンゼンサイ） 淸、鄧嘉緝(**11－39630**‥124)の號。

【扁然】29（ヘンゼン） あまねく生ずるさま。〔莊子、知北游〕扁然而萬物自レ古以固存。〔疏〕扁然、偏生之貌也。

【扁桃】30（ヘンタウ） 李の一種。はだんきやう。巴旦杏。あめんどう。葡萄牙語 Amendoa。實は綠色を帶び、種子がひらたい。匾桃(**2－2689**‥3)に同じ。〔本草一家言、三〕巴旦杏、出二于本草一、番藥也、漢土和邦共無レ之、一名扁桃、其實酢不レ堪レ食、其核扁大、去レ核用レ仁。

【扁桃腺】31（ヘンタウセン） 前後の口蓋弓の間の三角形凹窩にある膜。口腔の奥の左右に一つ宛ある桃の形した淋巴腺。

【扁担】32 pien^3 tan 天平棒。荷ひ棒。

【扁担戲】33 pien^3 tan hsi^4 人形芝居。

【扁擔】34 pien^3 tan 天秤棒をいふ。

【扁擔夾汛】35（ヘンタンケフシン） 守備、都司などの汛官の管轄する地方の名。㊀江西省九江縣の東北。㊁湖南省湘陰縣の西湘江の西岸。

【扁竹】36（ヘンチク） 植物の一種。にはやなぎ。黃疸、霍亂及び腹痛に効がある。萹蓄(**9－31358**‥4)を見よ。〔本草、萹蓄〕釋名、扁竹、扁辨、扁蔓、粉節草、道生草、主治二浸淫疥瘙疽痔一、殺二三蟲一、療二女子陰蝕一、煑レ汁飮二小兒一療二蚘蟲一有レ驗、治二霍亂黃疸一、利二小便一、小兒魃病。

【扁筑】37（ヘンチク） 庭柳。にはやなぎ。黃疸又は霍亂腹病に效がある。扁竹に同じ。〔本草、萹蓄〕釋名、時珍曰、許愼說文作二扁筑一、與レ竹同レ音。

【扁蟲】38（ヘンチユウ） 扁蟲類を見よ。

【扁蟲類】39（ヘンチユウルイ） 蠕形動物の一。體は長扁平形で柔軟、體內には眞の體腔と稱すべきものなく、又、概ね肛門を有しない。其の多くは寄生生活をなす。移動は體面に生ずる纖毛若しくは吸盤などの作用による。多くは雌雄異體にして卵生し、生長中に變態するものと變態せぬものとある。さなだむし、かうがいびる、じすとま等の類。

【扁的】40 pien^3 tê 平たいもの。

【扁豆】41（ヘントウ） 豆の一種。いんげん。ふぢまめの類。藊豆。〔本草、藊豆〕釋名、沿籬豆、蛾眉豆、時珍曰、藊本作レ扁、莢形扁也、集解、時珍曰、扁豆、二月下レ種、蔓生延纏、葉大如レ杯、團而有レ尖、其花狀如二小蛾一、有二翅尾形一、其莢凡十餘樣。〔紅樓夢、四十一回〕這裡也有二扁豆架子一。

【扁特】42（ヘントク） 毒草の名。扁毒に同じ。

【扁毒】43（ヘンドク） 毒草の一種。葉は淺綠で光澤があり、花は黃・綠・白・淡紫等の數色がある。牛扁。〔本草、牛扁〕釋名、扁特、扁毒、集解、別錄曰、牛扁生二桂陽川谷一、弘景曰、今人不二復識レ此、恭曰、此藥似二菫草石龍芮一、輩根如二秦艽一、而細生二平澤下地一、田野人名爲二牛扁一、療二牛蝨一甚效、太常名二扁特一、或名二扁毒一。

【扁方】44 pien^3 fang^1 簪。かんざし。頭の飾具。

【扁旁】45（ヘンバウ） 漢字のへんとつくり。偏傍(**1－848**‥158)に同じ。

【扁柏】46（ヘンハク） 常綠喬木。高さ十餘丈、柏類中の最も普通なもの。其の實は柏子仁といひ、藥用とする。側柏。ひのき。このでがしは。すぎびやくしん。〔直省志書、曹縣〕物產柏有二數種一、扁柏・檜柏・刺柏・滋柏之不レ同、惟扁柏可レ種、木堅而細、最難二長大一。

【扁府】47（ヘンプ） 藥草の名。やぶそてつ。萹苻(**9－31358**‥6)に同じ。

【扁平】48（ヘンペイ） ひらたい。匾平。

【扁平足】49（ヘンペイソク） 足の穹窿部、卽ち土蹈まずが消失して、足蹠の平坦となつたもの。

【扁表】50（ヘンペウ） ふだをかけてあらはす。〔後漢書、百官志五〕爲二民法式一者、皆扁二表其門一、以興二善行一。

【扁扁】51（ヘンペン） 喜悅のさま。〔孟子、離婁下、施施從レ外來、注〕施施、猶二扁扁一、喜悅之貌。〔焦循正義〕詩小雅巷伯、緝緝翩翩、釋文云、翩字又作レ扁、張華鷦鷯賦云、翩翩然有二以自樂一也、施之義爲レ衺、偏之義亦爲レ衺、施施猶二扁扁一、卽猶二偏偏一、以二轉注一爲二假借一也、漢書敍傳云、魏其翩翩、師古注亦云、翩翩、自喜貌。

【扁扁伏伏】52 pien^2 pien^3 fu^2 fu^2 浙江湖州地方の風習。婚禮の際、新婦が壻の門に到らざる前、床上床下に袱一枚、天平棒一箇を備へること。是れは新婦に舅姑を畏れしめる意を示したものといふ。

【扁辨】53（ヘンベン） にはやなぎ。萹蓄(**9－31358**‥4)の異名。扁竹(36)を見よ。〔本草、萹蓄〕釋名、扁竹、扁辨、扁蔓、粉節草、道生草。

【扁蒲】54（ヘンボ） 夕顏の異名。壺盧(**3－5662**‥85)の㊀に同じ。

【扁蔓】55（ヘンマン） にはやなぎ。萹蓄の異名。〔本草、萹蓄〕釋名、扁竹、扁辨、扁蔓。

【扁螺】56（ヘンラ） 蜆の異名。〔隋書、文學、劉臻傳〕好噉レ蜆、以三音同二父諱一、呼爲二扁螺一。

【扁口魚】57 pien^2 k'ou^3 yü^2 魚の名。かれひ。鰈。

【⿸戸主】11725

チユ 〔集韻〕丑注切 遇

あける。閨(**11－41261**)に同じ。〔集韻〕閨、直開也、或从レ戸。

【扂】11726

㈠テン デン 〔集韻〕徒點切 琰

㈡テン デン 〔集韻〕徒念切 豔

㈠**くわんのき**。とざし。或は扉に作る。〔集韻〕扂、戸牡也、或作レ扉。㈡**くわんのき**。㈠に同じ。〔集韻〕扂、所二以止一レ動也。

【扂楔】1（テンセツ） 扂はくわんのき。とざし。楔は門の兩旁の長闑。ほうだて。ほこだち。〔韓愈、進學解〕先生曰、吁子來前、夫大木爲レ杗、細木爲レ桷、欂櫨侏儒、椳闑扂楔、各得二其宜一。〔注〕扂、亭點切、門關牡、楔、音屑、門兩傍木。

【⿸戸乜】11727

イ

扅(**5－11741**)の俗字。〔正字通〕⿸戸乜、俗扅字。

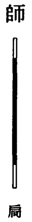
【扃】11728

㈠ケイ キヤウ 〔集韻〕涓熒切 ㄐㄩㄥ chiung^1 靑

㈡ケイ キヤウ 〔集韻〕犬迥切 ㄐㄩㄥˇ chiung^3 迥

扃 小篆

㈠㊀**くわんのき**。とざし。〔說文〕扃、外閉之關也、从レ戸同聲。〔禮、曲禮上〕入レ戸奉レ扃。〔漢書、外戚下、班倢伃傳〕應門閉兮禁闥扃。〔注〕師古曰、扃、短關也。㊁**ぢやう**。〔禮、曲禮上〕奉レ扃。〔釋文〕扃、門扇上鐶鈕。㊂**とびら**。戸口。門戸。〔孔稚珪、北山移文〕雖三情投二于魏闕一、或假二步于山扃一。〔皇甫松、大隱賦〕於レ是掩二蓬扃一閉二茅屋一。㊃**とぢる**。とざす。〔顏延之、陽給事誄〕金柝夜擊、和門晝扃。㊄**ひきこもる**。〔呂覽、君守〕中欲レ不レ出、謂二之扃一。㊅**車上の橫木**。兵車にそなへて旗戟を樹てる橫木。〔左氏、宣、十二〕楚人惎レ之、脫レ扃。〔注〕扃、車上兵闌。〔服注〕扃、橫木交二輪閒一、一曰、車前橫木。〔張衡、西京賦〕旗不レ脫レ扃。〔注〕綜曰、扃、關也、謂下建二旗車上一、有三關二制之一、令上レ不二動搖一、曰レ扃。㊆**つる**。鼎の耳にさしわたして鼎を提げる橫木。鼏(**12－48317**)に通ず。〔集韻〕扃、一曰、鼎扃。〔說文通訓定聲〕扃、叚借爲レ鼏。〔周禮、考工記、匠人〕廟門容二大扃七个一、闈門容二小扃參个一。〔注〕大扃、牛鼎之扃、長三尺、小扃、膷鼎之扃、長二尺。〔儀禮、公食大夫禮〕設二扃鼏一。〔注〕扃、鼎扛、所二以擧一レ之也。㊇古は⿸广同(**4－9288**)に作り、或は⿵門同(**11－41285**)に作る。〔集韻〕扃、古作レ⿸广同、或作レ⿵門同。㈢**あきらか**。烱(**7－18956**)に通ず。〔集韻〕扃、扃扃、



扃

（圖器禮）

明察也。〔說文通訓定聲〕扃、叚借爲レ炯。〔左氏、襄、五〕我心扃扃。〔注〕扃扃、明察也。

参考 扄(5-11737)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、扃、音駉、門鐶鈕。扄、音賞、戸耳也。

【扃牖】1（ケイイウ） くわんのきとまど。門をいふ。〔劉伶、酒德頌〕日月爲二扃牖一、八荒爲二庭衢一。〔注〕銑曰、扃牖、門也。

【扃禁】2（ケイキン） 禁中。宮中。〔江淹、詣二建平王一上書〕何嘗不下局二影凝嚴一、側中身扃禁上者乎。〔注〕濟曰、扃禁、宮闕之閒。

【扃關】3（ケイクワン） 門戸をとざす横木。くわんのき。〔白居易、遊二悟眞寺一詩〕龕閒長丈餘、門戸無二扃關一。

【扃扃】4（ケイケイ） 明らかに察するさま。炯炯。〔左氏、襄、五〕詩曰、周道挺挺、我心扃扃。〔注〕扃扃、明察也。

【扃鐍】5（ケイケツ） 箱に懸ける鍵。又、鍵をかける。又、くわんのきとかけがね。戸じまり。〔莊子、胠篋〕必攝二緘縢一、固二扃鐍一、此世俗之所謂知也。〔釋文〕扃、古縈反、崔李云、關也、鐍、古穴反、李云、紐也、崔云、環舌也。〔疏〕扃、關鈕也、鐍、鎖鑰也。〔白居易、除二周懷義豐州刺史天德軍使一制〕掎二角諸軍一、扃二鐍右地一。〔剪燈新話、申陽洞記〕一夕風雨晦冥、失二女所在一、門牕戸闥、扃鐍如レ故。

【扃絹】6（ケイケン） わなにかけて捕へる。扃羂。〔周禮、秋官、冥氏〕掌レ設二弧張一。〔注〕所三以扃二絹禽獸一。

【扃鍵】7（ケイケン） くわんのき。戸じまり。〔唐書、后妃上、趙皇后傳〕扃鍵牢謹。〔姚震、官門誤不レ下レ鍵判〕扃鍵空施二隄防一靡レ寄。

【扃戸】8（ケイコ） 戸をたてる。戸をしめる。〔李白、贈二淸漳明府姪聿一詩〕牛羊散二阡陌一、夜寢不レ扃レ戸。

【扃鎖】9（ケイサ） とじまり。ぢやうまへ。〔酉陽雜俎、語資〕寧王常獵二于鄠縣界一、搜レ林忽見二草中一櫃一、扃鎖甚固。〔白居易、和二微之詩二十三首一和レ知レ非詩〕思苦膏火前、憂深扃鎖祕。

【扃堂】10（ケイダウ） 戸締りをした家。〔唐書、東夷、高麗傳〕人喜レ學、至二窮里廝家一、亦相矜勉、衢側悉構二嚴屋一、號二扃堂一、子弟未レ婚者、曹處誦レ經習レ射。

【扃扉】11（ケイヒ） 戸を閉ぢる。とびらをしめる。〔張衡、遇二天大象一賦〕方卷レ舌以幽居、且扃レ扉而絕レ駟。

【扃閉】12（ケイヘイ） 戸をたててとざす。〔北夢瑣言〕乃扃二閉此廳一、終身不レ處。

【扃鼏】13（ケイベキ） 扃は鼎を提げる横木。鼏は鼎の覆ひ。〔儀禮、士冠禮〕設二扃鼏一。〔疏〕云レ設二扃鼏一者、以レ茅覆レ鼎、長則束二其本一、短則編二其中一、案、冬官匠人、廟門容二大扃七个一、注云、大扃、牛鼎之扃、長三尺。

【扃冪】14（ケイベキ） 扃鼏に同じ。〔儀禮、少牢饋食禮〕卒脀皆設二扃鼏一、〔校勘記〕鼏、毛本作レ冪。

【扃鑰】15（ケイヤク） 門戸のしまり。〔唐書、元德秀傳〕乃定レ居不レ爲二墻垣扃鑰一、家無二僕妾一。〔李嶠、上二雍州高長史一書〕宮垣扃鑰。〔宋史、賈黃中傳〕扃鑰甚固。

【扃和】16（ケイワ） 吉祥を閉ざす。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕八頌扃レ和、六祈輟レ滲。〔注〕扃、關閉也、和、吉祥也。

【⿸戸由】11729 テン 届(4-7668)に同じ。〔正字通〕⿸戸由、音義同二尸部届一。

【⿸戸卯】11730 キヤク 〔龍龕手鑑〕音脚

⿸戸卯城は、趙の邑の名。〔字彙補〕⿸戸卯、⿸戸卯城、趙地名。〔戰國、秦策〕秦子異人質二于趙一、處二于⿸戸卯城一。

【⿸戸干】11731 チヨ 〔五音篇海〕音杼

と。戸。〔五音篇海〕⿸戸干、戸。

【⿸戸句】11732 キヨク 局(4-7653)に同じ。〔川篇〕⿸戸句、同レ局。

【⿸戸从】11733 レイ 義未詳。〔五音篇海〕⿸戸从、音例。

【戾】11734 レイ 戻(5-11712)に同じ。〔龍龕手鑑〕戾、同レ戻。

【⿸戸冉】11735 ケン 義未詳。〔川篇〕⿸戸冉、古典切。

【⿸戸丙】11736 ケン 義未詳。〔川篇〕⿸戸丙、音肩。

六畫

【扄】11737 シヤウ 〔玉篇〕書掌切 養

門戸の扉につけた大きな鐶。案内を乞ふ者は之をたたいて來意を通ずる。〔玉篇〕扄、戸耳也。

参考 扄(5-11728)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、扃、音駉、門鐶鈕。扄、音賞、戸耳也。

【⿸戸合】11738 カフ ⿸戸盍(5-11758)に同じ。〔集韻〕⿸戸合、或作レ⿸戸盍。

【⿸戸艮】11739 カン ゲン 〔集韻〕下簡切 潸

しきみ。⿵門艮(11-41306)に同じ。〔集韻〕⿵門艮、閾也、或作レ⿸戸艮。

【⿸戸耳】11740 シヨ ⿸戸且(5-11723)の譌字。〔正字通〕⿸戸耳、⿸戸且字之譌。

【扅】11741 イ 〔集韻〕余支切 ㄧˊ i² 支

扊扅は、くわんのき。戸ざし。或は⿸戸电(5-11727)に作る。〔廣韻〕扅、扊扅、戸扃也。〔集韻〕扅、門關謂二之扊扅一、或作レ⿸戸电。

【扆】11742

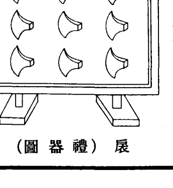
㊀イ（エ） 〔集韻〕隱豈切 ㄧˇ i³ 尾

㊁イ 〔正韻〕隱綺切 紙

㊂イ（エ） 〔集韻〕於希切 微

小篆

㊀㊁㊂❶**ついたて**。屏風。戸牖の間にたてる屏風。絳質、高さ八尺、斧形をぬひとりする。〔說文〕扆、戸牖之閒也、从レ戸衣聲。〔段注〕凡室、戸東牖西、戸牖之中閒、是曰レ扆。〔爾雅、釋宮〕牖戸之閒、謂二之扆一。〔注〕扆、窗東戸西也。〔釋名、釋牀帳〕扆、依也、在レ後所二依倚一也。〔華嚴經音義、上〕天子施二扆於戸牖一、以爲二障蔽一也。〔書、顧命〕設二黼扆綴衣一。〔傳〕扆、屏風。〔荀子、儒效〕負レ扆而坐。〔注〕戸牖之閒、謂二之扆一。〔論衡、書虛〕戸牖之閒曰レ扆、南面之坐位也。〔張衡、東京賦〕負二斧扆一。〔注〕綜曰、扆、屏風、樹二之坐後一也。❷**おくふかい**。隱(11-41891)に通ず。〔說文通訓定聲〕扆、叚借爲レ隱。〔一切經音義、十四〕奧門曰レ扆。❸**かくれる**。**かくす**。匸(2-2672)に通ず。〔說文通訓定聲〕扆、叚借爲レ匸。〔廣雅、釋詁四〕扆、藏也。❹通じて依(1-607)に作る。〔集韻〕


扆（禮器圖）

扆、通作レ依。〔漢書、徐樂傳〕南面背レ依、注〕師古曰、依、讀曰レ扆。❺衣（10－34091）に通ず。〔書、顧命〕黼扆。〔石經尙書殘碑〕黼衣。❻**姓**。〔萬姓統譜〕扆、見二姓苑一。〔解州志〕扆昭、長樂里人、永樂庚子科擧人。

【扆帷】1イヰ　屛帷の內。帷幄の中。〔沈炯、爲二王僧辯等一勸二進梁元帝一第二表〕莫レ不下定二算扆帷一、決中勝千里上。

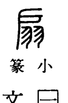
【扆雲】2イウン　雲を衡立とする。〔大戴禮、五帝德〕黃帝黼黻衣、大帶黼裳、乘レ龍扆レ雲、以順二天地之紀、幽明之故、死生之說、存亡之難一。

【扆座】3イザ　天子の御座をいふ。天子が諸侯を見るとき扆を後に立てて南面するからいふ。玉座。負扆（10－36660··4）を見よ。〔徐陵、又爲二梁貞陽侯一答二王太尉一書〕未レ有下居稱二扆座一、行日中乘輿上。〔東軒筆錄〕一日奏事畢、方欲二開陳一、眞宗聖體、似三不和遽離二扆座一。

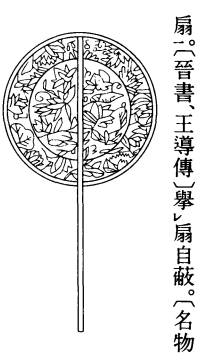
【負レ扆】4イヲオフ　王者が屛風を背にして南面すること。〔荀子、儒行〕履二天子之籍一、負レ扆而坐。〔論衡、書虛〕負レ扆南面、而朝二諸侯一。

【扇】
11743

🈩セン　〔集韻〕式戰切　霰　ㄕㄢˋ　shan¹·⁴
🈔セン　〔集韻〕尸連切　先


小篆

🈩❶**とびら**。**あみど**。竹の戶。〔說文〕扇、扉也、从二戶羽一。〔禮、月令〕乃修二闔扇一。〔注〕用レ木曰レ闔、用二竹葦一曰レ扇。〔呂覽、知接〕蓋以二揚門之扇一。〔注〕扇、屛也。❷**うちは**。あふぎ。團扇。〔方言、五〕扇、自レ關而東、謂二之箑一、自レ關而西、謂二之扇一。〔晉書、王導傳〕擧レ扇自蔽。〔名物六帖、五、扇〕今所謂團扇也、摺扇稱レ扇、則亦甚晚、始二于明之中葉一。❸**かざし**。おほひ。儀仗に用ひる日除け。〔宋史、儀衞志一〕古者扇翣、皆編二次雉羽或尾一爲レ之。❹**ふきん**。手巾の類。〔潘岳、射雉賦〕候二扇擧一而淸叫。〔注〕爰曰、扇、布也、形如二手巾一。❺**あふる**。力をそへる。おだてる。煽（7－19272）に通ず。〔集韻〕扇、一曰、動也、助也。〔詩、小雅、十月之交、豔妻煽方處、集傳〕煽、音扇。〔方言、十二〕扇、助也。〔魏志、梁習傳〕更相扇動。❻**おこる**。〔梁書、武帝紀〕雲雷方扇。❼**さかん**。〔漢書、谷永傳〕閻妻驕扇、日以不レ臧。〔注〕師古曰、扇、熾也。〔梁書、謝擧傳論〕逮二乎江左一、此道彌扇。❽**はやい**。〔廣雅、釋詁一〕扇、疾也。❾**去勢した馬**。騸（12－44937）に通ず。扇馬（55）を見よ。❿**姓**。〔萬姓統譜〕扇、見二姓苑一。🈔**あふぐ**。〔廣韻〕扇、扇涼。〔集韻〕扇、搖レ翣也。〔東觀漢紀〕暑月則扇レ枕、寒則身溫二枕席一。〔束晳、補亡詩〕四時遞謝、八風代扇。


（三才圖會）扇

解字　會意。戶と羽との合字。羽は翼。戶が翼のやうに動く。故にあふいで風を起す用具にいふ。木を用ひたものを闔といひ、竹葦を用ひたものを扇といふ。

【扇誘】1センイウ　人をそそのかす。煽誘。〔南史、王藻傳〕更相扇誘。〔白居易、與二昭義節度親事將士等一書〕或被二外人扇誘一、令二衆意憂疑一。

【扇引】2アフギビキ　扇子を拇指と食指で挾んで引きあふ一種の遊戲。〔佐夜中山集〕扇引や、紙の力のあらむほど。

【扇影】3センエイ　扇のかげ。〔李嶠、雪詩〕逐レ舞花光動、臨レ歌扇影飄。〔杜甫、至日遣レ興奉二寄北省舊閣老兩院故人一詩〕麒麟不レ動爐煙上、孔雀徐開扇影還。

【扇影衣香】4センエイイカウ　扇子のかげと衣のにほひ。貴婦人などの會合を形容して云ふ語。

【扇搖】5センエウ　あふいで動かす。あふり動かす。おだてる。煽搖。〔姚合、謝下秦校書與二無可上人一見上訪詩〕窗豁山侵レ座、扇搖風下松。〔司空圖、偶書詩〕自有三池荷作二扇搖一、不レ關三風動二愛芭蕉一。〔蘇軾、再上二皇帝一書〕更相扇搖。〔蘇軾、司馬溫公行狀〕或扇二搖機事之重一。

【扇暍】6センエツ　暑熱に苦しむをあふぎさます。〔淮南子、人閒訓〕武王蔭二暍人於樾下一、左擁而右扇レ之、而天下懷二其德一。〔梁簡文帝、大法頌〕解レ網放レ禽、穿レ泉掩レ胔、起二泣辜之澤一、行二扇暍之慈一。

【扇掩】7センエン　扇子で掩ふ。〔張昌宗、太平公主山亭侍レ宴詩〕扇掩將雛曲、釵承墮馬鬟。

【扇恩】8センオン　扇で送る風のめぐみ。〔劉禹錫、早秋雨後寄二樂天一詩〕簟涼扇恩薄、室靜琴恩深。

【扇架】9　shan⁴ chia⁴　扇かけ。

【扇蓋】10センガイ　かざし。きぬがさ。儀仗に用ひる日除け。〔唐書、賈餗傳〕大和九年上巳、詔二百官一會二曲江一、故事尹自レ門步入揖二御史一、餗自矜大、不レ徹二扇蓋一騎而入。

【扇赫】11センカク　火勢の盛なさま。煽赫。〔列子、黃帝〕藉芿燔レ林、扇赫百里。〔柳宗元、放二鷓胡一詞〕羽毛摧折觸二籠籞一、煙火煽赫驚二庖廚一。

【扇匣】12センカフ　扇子を入れるはこ。扇子ばこ。〔陳子良、新成安樂宮詩〕拂レ塵開二扇匣一、卷レ帳却薰籠。

【扇合】13センガフ　❶團扇が閉ぢる。〔唐書、儀衞志上〕皇帝步出二西序門一、索レ扇扇合。〔宋史、禮志十八〕奏二乾安之樂殿上一、扇合、禮直官太常博士、引二禮儀使一導、皇帝出降レ輦。❷アフギアハセ　中古に行はれた一種の遊戲。互に扇子に詩歌を認め、左右から合はせて勝負を爭ふもの。〔中右記〕寬治三年八月二十三日、大后於二宇治一有二女房扇合一、其綱朝臣、予講師。

【扇汗】14センカン　馬のくつわの兩傍につけて馬の口をはさむ鐵具。くつわかがみ。鑣。排沫。〔詩、衞風、碩人〕朱幩鑣鑣、〔釋文〕鑣、馬銜外鐵也、一名二扇汗一、又曰二排沫一。

【扇眼】15センガン　扇子のかなめ。〔近古史談、織篇〕了伯聽二平語一、宗高立二馬於兩軍屬目之中一、而射二扇眼乎海波數百步之外一。

【扇驅】16センク　扇子ではらふ。〔唐語林〕玄宗謂二宰相一曰、裴光庭性好惡、如三扇二驅蚊蚋一焉。

【扇形】17センケイ　數學用語。二直線と一截圓孤線とで圍んだ形。圜心角形。

【扇結】18センケツ　おだてあふつて結束する。〔後漢書、陳蕃傳〕近習之權、復相扇結。

【扇篋】19　shan⁴ chʻieh⁴　あふぎばこ。扇子匣。

【扇股】20　shan⁴ ku³　扇の親骨。扇股子。扇股兒。

【扇後】21センゴ　扇のうしろ。〔薛稷、夜宴二安樂公主新宅一詩〕坐中香氣排レ花出、扇後歌聲逐レ酒來。

【扇工】22　shan⁴ kung¹　扇子をつくる職人。

【扇谷】23アフギガヤツ　❶相模國鎌倉の地名。❷姓氏。〔姓林全書〕。

【扇轂】24センコク　あふぎのかなめ。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕宗高一發斷二扇轂一、扇翻而墮。

【扇骨】25センコツ　扇のほね。扇骨子。扇骨木を見よ。

【扇骨子】26　shan⁴ ku³ tzŭ　扇の骨。

【扇骨木】27センコツボク　薔薇科。かなめもち屬の常綠灌木。其の木は堅く、扇骨とすることが出來る。幹の高さ丈餘。葉は革質、長楕圓形又は楕圓形で鋸齒があり、嫩葉は赤みを帶ぶ。花は複總狀花序をなして枝端に生じ、白色、夏の初めに開く。我が國、暖地の山地に自生するけれども、又生垣としても栽培せられる。あかめもち。あかめがし。かなめ。かなめがし。要冬靑。〔和漢三才圖會、喬木類、扇骨木〕按、扇骨木、高二三丈、葉似二海石榴葉一而狹、小有二細鋸齒一、面滑、四月開二小白花一、結二細子一作レ簇、八九月赤熟、其木最堅硬、堪レ爲二扇骨一、故名。

【扇箑】28センサフ　あふぎ。うちは。扇子。〔方言、五〕自レ關而東謂二之箑一、自レ關而西謂二之扇一。〔揮麈後錄〕令下人有二物外之興一、而忘中扇箑之勞上。

【扇繖】29センサン　儀仗に用ひる長柄の團扇ときぬがさ。〔南史、梁宗室下、蕭泰傳〕泰至レ州、便偏發二人丁一、使レ擔二腰輿・扇繖等物一。

【扇檈】30　shan⁴ shuan¹　扇のかなめ。扇轂。

【扇子】31センシ　❶うちは。團扇。字解の❷を見よ。〔中華古今注〕把二雲母小扇子一、靸蹲鳳頭履一、以侍從。〔開元天寶遺事、龍皮扇〕王元寶、家有二一皮扇子一、製作甚質。❷センス　あふぎ。〔裝束集成、二、夏扇〕高倉家傳云、末廣・中啓、夏の分は、皆、夏

の扇子といふ。

【扇子峽】32 センシケフ　湖北省宜昌縣の西。〔陸游、入蜀記〕扇子峽、重山相掩、政如二屛風扇一、疑以レ此得レ名。

【扇子仙】33 センシセン　芭蕉の葉の異稱。〔清異錄、草、扇子仙〕南海城中蘇氏園、幽勝第一、廣主嘗與二幸姬李蟾妃一微行至レ此、憩二酌綠蕉林一、廣主命レ筆大二書蕉葉一曰二扇子仙一、蘇氏于二廣主草宴之所一起二扇子亭一。

【扇市】34 センシ　端午の前二日に開く市をいふ。〔秦中歲時記〕端午前兩日、東市謂二之扇市一、車馬特盛。〔成都古今記〕正月燈市、二月花市、三月蠶市、四月錦市、五月扇市、六月香市、七月七寶市、八月桂市、九月藥市、十月酒市、十一月梅市、十二月桃符市。

【扇紙】35 アフギガミ　あふぎに張る紙。扇の地紙。〔山槐記〕應保元年九月七日、藏人賴保、持二來塗骨十骨、扇紙十枚一與レ予。

【扇肆】36 センシ　扇子を賣る店。扇子店。〔桃源手聽〕東坡爲二錢塘縣一、時民有下訴二扇肆負錢二萬一者上、逮レ至則曰、天久雨且寒、有レ扇莫レ售、非レ不二敢償一也。

【扇車】37 センシヤ　米ともみとをわけるに用ひる具。たうみ。唐箕。〔急就篇、三、碓磑扇隤舂簸揚、注〕扇、扇車也、隤、扇車之道也。

【扇匠】38 shan⁴ chiang⁴　扇子をつくる職人。扇工。

【扇梢】39 shan⁴ shan¹　あふぎの要。扇眼。

【扇翣】40 センセフ　儀仗に用ひる長柄の團扇。塵を避け日を蔽ふもの。俗に掌扇といふ。〔古今注、輿服〕周制以爲、王后夫人之車服輿車有レ翣、卽緝二雉羽一爲二扇翣一、以障二翳風塵一也。〔宋史、儀衞志一〕古者扇翣、皆編二次雉羽一、或尾爲レ之、故於レ文從レ羽、唐開元改爲二孔雀一。

【扇仙】41 センセン　芭蕉をいふ。扇子仙(33)を見よ。

【扇染】42 アフギゾメ　染模樣の名。扇形又は種々の形の中に、花鳥人物などを染出したもの。

【扇搋】43 センタ　佛男根の不具の者。或は五種不男中の生不男の名とし、或は法不男と犍不男との二種の名とし、或は五種不男の總名とする。黃門。〔慧琳音義〕扇搋、敕加反、此名二黃門一、其類有レ五。〔俱舍光記、三〕扇搋、唯無レ根、無レ根有レ二、一本性扇搋、二損壞扇搋。〔玄應音義、二十三〕搋、音勅佳切、扇搋、半擇迦、謂二本來男根不レ滿、亦不レ能レ生レ子。

【扇袋】44 shan⁴ tai⁴　扇子袋。

【扇蕩】45 センタウ　あふぎうごかす。そそのかしみだす。扇動。煽動。〔宋書、武帝紀中〕扇二蕩王畿一。〔傅亮、策加二宋公九錫一文〕附二麗協黨一、扇二蕩王畿一。

【扇枕】46 センチン　まくらをあふぐ。孝子の行ひをいふ。〔張說、岳州別三姚司馬紹之制許二歸侍一詩〕天從二扇レ枕願一、人遂二倚レ門情一。

【扇枕溫被】47 センチンヲンピ　夏は枕をあふぎ、冬は寢床を溫める。親孝行をいふ。〔東觀漢紀〕黃香至孝、暑月則扇レ枕、寒則身溫二枕席一。〔晉書、孝友、王延傳〕延事レ親色養、夏則扇二枕席一、冬則以レ身溫レ被。

【扇對】48 センツイ　詩の對句法。第一句を以て第三句に對し、第二句を第四句に對せしめたもの。隔句對。詩經、小雅、采薇の昔我往矣、楊柳依依、今我來思、雨雪霏霏の類。〔滄浪詩話〕有二扇對一、又謂二之隔句對一、如二鄭都官、昔年共照松溪影、松折碑荒僧已無、今日還思錦城事、雪消花謝夢何如一、是也、蓋以二第一句一對二第三句一、第二句對二第四句一。〔陔餘叢考、扇對法〕白氏金針有下四句作二一對一者上、凡詩四句以二第一句一對二第三句一、第二句對二第四句一、謂二之扇對一、然不下自二白香山一始上也、小雅昔我往矣、楊柳依依四句、已肇二其端一、曹子建云、昔我初遷、朱華未レ希、今我旋止、素雪云飛、云云、又有下律詩以二四句一作レ對者上、亦香山詩、如下新篇日日成、不三是愛二聲名一、舊句時時改、無レ妨レ悅二性情一、又有下酬二劉主簿一詩上云、我隨二鵷鷺一入二烟雲一、謬上二丹墀一爲二近臣一、君同二鸞鳳一棲二荆棘一、猶著二青袍一作二選人一、此又五七律之扇對。

【扇墜】49 センツイ　あふぎのしづ。扇につけるおもり。扇のねつけ。香墜・玉墜・珀墜の類。〔夷堅志〕宋高宗有二摺疊扇一、以二玉孩兒一爲二扇墜一。〔剪燈新話、渭塘奇遇記〕生解二水晶雙魚扇墜一酬レ之。〔五雜組、物部四〕扇之有レ墜、唐前未レ聞、宋高宗宴二大臣一、見三張循王扇有二玉孩兒墜子一、則當時有レ之矣。

【扇釘】50 shan⁴ ting¹　あふぎのかなめ。

【扇店】51 センテン　あふぎを賣る店。〔幽怪錄〕景定間、清河坊扇店、有二一道人一、求レ補レ扇、店主乃與二一新扇一。

【扇簟】52 センテン　あふぎとたかむしろ。〔南齊書、竟陵文宣王子良傳〕子良曰、禹泣レ辜表レ仁、菲食旌レ約、服二翫果粽一、足二以致レ誠、使三歲獻二扇簟一而已。

【扇頭】53 セントウ　あふぎのさき。〔元好問、題二劉才卿湖石扇頭一詩〕扇頭喚起西園夢、好似熙春閣下看。〔馬祖常、秋懷詩〕人憐二紈縞一裁二衣袂一、誰借二蒲葵一翦二扇頭一。〔趙元、大暑詩〕不レ到二廣寒冰雪窟一、扇頭能有二幾多風一。

【扇動】54 センドウ　あふいで物を動かす。おだてる。又、おだて。教唆。煽動。〔後漢書、楊震傳〕更相扇動、傾二搖朝廷一。〔魏志、梁習傳〕更相扇動、往往基跱。〔蜀志、許靖傳〕扇二動羣逆一。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕互相扇動、距二捍中國一。

【扇馬】55 センバ　去勢した馬。騸馬。〔五代史、唐臣十二、郭崇韜傳〕當三盡二去宦官一、至二於扇馬一、亦不レ可レ騎。

【扇庖】56 センパウ　くりやをあふいで涼しくする。堯の時、庖廚に萐莆が生じて暑熱を拂つた故事。〔說文〕萐、萐莆、瑞草也、堯時生二於庖廚一、扇レ暑而涼。〔黃庭堅、瑞芝亭記〕上世蓋有二屈軼指レ佞、萐莆扇レ庖、蓂莢紀レ曆、嶰竹生レ律。

【扇發】57 センパツ　あふりおこる。〔曹植、告咎文〕至レ若二炎旱赫羲、颷風扇發一、嘉卉已萎、良木已拔一。

【扇板】58 センバン　㊀あふぎの地紙。〔幽怪錄〕有二一道人一、求レ補レ扇、店主乃與二一新扇一、道人感レ之、題二詩扇板一。㊁扇形の板。〔神山傳、王遠〕題二宮門扇板四百餘字一、皆說二方來之事一。

【扇扉】59 センピ　とびら。てふつがひの装置のあるとびら。〔水經、濕餘水注〕有二石室三層一、其戶牖・扇扉、悉石也。

【扇夫】60 センプ　あふぎを持つ役夫。〔稱謂錄、各役、扇夫〕賦役全書、各縣有二此名目一。

【扇舞】61 センプ　晉の舞の名。〔柘枝譜〕漢則巴渝舞・女舞、晉則白紵舞・幡舞・扇舞、唐則霓裳舞・柘枝舞、態曲調、各有レ攸レ勝。

【扇風】62 センプウ　㊀風をあふり起す。又、風にあふられる。〔孫綽、望海賦〕華組依レ波而錦披、翠綸扇レ風而繡擧。㊁あふがれておこる風。又、あふり起る風。〔崔國輔、七夕詩〕扇風生二玉漏一、置水寫二銀河一。〔周賀、再過二王軺原居一納レ涼詩〕扇風調二病葉一、溝水隔二殘雲一。〔方干、淺井詩〕夜入二明河一星似レ少、曙搖二澄碧一扇風翻。

【扇風機】63 センプウキ　小さい電動機に扇をつけ、電流作用で回轉し、風を起させる機械。電氣扇。

【扇拂】64 センフツ　うちはと拂子。〔埤雅〕孔雀尾有二金翠一、五年而後成、人採二其尾一以飾二扇拂一。

【扇柄】65 センペイ　團扇の柄。〔宋書、五行志一〕舊爲二羽扇柄一、刻レ木象二其骨形一、羽用レ十、取二全數一也。

【扇面】66 センメン　㊀あふぎ。扇子。〔晉書、周顗傳〕敦素憚レ顗、每レ見レ顗、輒面熱、雖二復冬月一、扇面手不レ得レ休。㊁あふぎの地紙。

【扇面兒】67 shan⁴ mien⁴ êrh　あふぎの紙。

【扇門】68 shan⁴ men²　二枚の扉のある門。戶のついた門。

【扇揚】69 センヤウ　あふりあげる。煽揚。〔吳志、張溫傳〕扇二揚異國一。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一〕劉備相扇揚、事結釁連。〔柳宗元、國子司業陽城遺愛碣〕昔公之來、仁風扇揚。

【扇筤】70 センラウ　儀仗に用ひるきぬがさ。曲つた柄で繡のある車蓋。〔宋史、儀衞志二〕自今車駕出、以二閤門祗候、幷內臣各二員一、分二駕頭右左扇筤、後編欄一。〔夢溪筆談、故事一〕正衙法座、香木爲レ之、加二金飾四足墮角一、其前小偃織藤冒レ之、每二車駕出幸一、則使二老內臣馬上抱レ之、曰二駕頭一、輦後曲蓋謂二之筤一、兩扇夾レ心、通謂二之扇筤一、皆繡、亦有二銷金者一、卽古之華蓋也。

【扇流】71 アフギナガシ　㊀扇を水に流して興ずる遊戲。〔雍州府志、九〕扇流、在二大井川一、中古高貴遊覽時、浮二金銀扇於斯川一而遺レ興、倭俗以二金銀箔一飾二扇面一。㊁水流の形の上に、扇形を散らしたものを繪に書いたもの。織模樣・染模樣などにもいふ。㊂謠曲の曲名。

【扇力】72 センリョク　あふぎ吹く力。〔高啓、晚憩二靈鷲院池上一詩〕風後扇力輕、煙中爐氣和。

【扇烈】73 センレツ　烈火をあふぐ。さかんではげしいこと。火に油をそそいだやうな勢をいふ。烈盛。〔漢書、敍傳下〕勝廣熛起、梁籍扇レ烈、赫赫炎炎、遂焚二咸陽一。〔注〕師古曰、飛火曰レ熛、扇、熾也、

烈、猛、言㆓陳勝初起而項羽烈盛㆒也。

【扇籠】74（センロウ） せいろう。蒸籠。〔水滸傳、二十四回〕從㆓明日㆒爲㆑始、只做㆓五扇籠㆒出去賣。

【扇惑】75（センワク） おだてまよはす。扇動誘惑。〔郭璞、皇孫生請㆓布澤㆒疏〕百姓困擾、甘㆑亂者多、小人愚嶮、共相扇惑。

〔扇惑鼓動〕76（センワクコドウ） おだてあげて人をまどはす。扇で煽るやうにして人を惑はし、鼓をうつやうにして人心を動亂させること。〔王守仁、客座私祝〕冥頑無恥、扇惑鼓動。

【扇畫店】77 shan⁴ hua⁴ tien⁴ 扇や畫を賣る店。

【扇絲縧】78 shan⁴ ssŭ¹ t'ao¹ 平打紐。

【扇套子】79 shan⁴ t'ao⁴ tzŭ せんすばこ。〔紅樓夢、三十二回〕前兒我聽見把我做的扇套子、拏著和人家比、賭氣又鉸了。

【扇套兒】80 shan⁴ t'ao⁴ êrh 扇子を入れる袋。

【扇肘兒】81 shan⁴ chou³ êrh 扇のかなめ。

【扇天卜】82（センテンボク） 正月、五姓の少女を一緒に臥させ、箕を以て之をあふぎ、夢現の間に樣々の動作をさせて音樂・文字・手藝等の上達を祈る行事。〔琅邪代醉編、七夕〕七夕乞巧、其來已久、續博物志、山東風俗、正月、取㆓五姓女年十餘歲㆒、共臥㆓一榻㆒、覆㆑之以㆑衾、以㆑箕扇㆑之、良久如㆓夢寐㆒、或欲㆘刺㆓文繡㆒事㆓筆硯㆒理㆗管絃㆖、俄頃乃寤、謂㆓之扇天卜㆒、以乞㆑巧、是正月亦有㆓乞巧事㆒、然不㆑如㆓七夕瓜果陳列、穿㆑針美㆑絲、爲㆑有㆓風致㆒。

【扇拍子】83（アフギビヤウシ） 謠曲などで、扇子を拍つて取る拍子。

【扇絡子】84 shan⁴ lao⁴ tzŭ あふぎを入れる袋。「扇套兒。

【扇邊框兒】85 shan⁴ pien¹ k'uang⁴ êrh あふぎの親骨。

【擧㆑扇一撝】86（アフギヲアゲテヒトタビフルフ） 傲慢のさま。梁の蕭子顯が賓客に接して言を交へず、唯、扇子を擧げて一たび揮ふだけであつた故事。〔南史、齊高帝諸子上、蕭子顯傳〕頗負㆓才氣㆒及㆑掌㆑選、見㆓九流賓客㆒、不㆓與交㆒㆑言、但擧㆑扇一撝而已、衣冠竊恨。

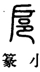
【扇】11743′ セン 扇(5－11743)に同じ。

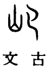
【屋】11744 ヲ ウ 〔字彙補〕烏古切 麌 いへ。〔篇韻〕屋、屋舍也。

【居】11745 カフ ゴフ 〔集韻〕渴合切 合 とぢる。或は庴(4－9303)に作る。〔集韻〕居、說文、閉也、或作㆑庴。

七畫

【扈】11746 コ ゴ 〔集韻〕後五切 麌 ㄏㄨˋ hu⁴


小篆


古文

❶大きい。俁(1－662)に通ず。〔說文通訓定聲〕扈、叚借爲㆑俁。〔司馬相如、上林賦〕扈從橫行。〔注〕善曰、晉灼曰、扈、大也。❷ひろい。〔爾雅、釋山〕卑而大扈。〔注〕扈、廣貌。〔淮南子、要略〕儲與扈治。〔注〕扈治、廣大也。❸ゆるい。〔周禮、考工記、弓人〕弓而羽䋿、〔注〕羽讀爲㆑扈、扈、緩也。❹はびこる。ひろがる。〔一切經音義、十二〕扈、跋扈也。❺つきそふ。後につきそふ。〔字彙〕扈、尾也、後從曰㆑扈。〔封氏聞見記、鹵簿〕百官從㆑駕、謂㆓之扈從㆒、扈從、蓋臣下侍㆓從至尊㆒、各供㆑所㆑職。❻まもる。護(10－36048)に通ず。〔說文通訓定聲〕扈、或曰、護之借字。❼やとふ。又、しもべ。けらい。うまかひ。雇(11－41976)に通ず。〔說文通訓定聲〕扈、叚借爲㆑雇。〔廣雅、釋詁一〕扈、使也。〔公羊、宣、十二〕斷役扈養。〔注〕養㆑馬者曰㆑扈。❽かうむる。おびる。被(10－34222)に通ず。〔說文通訓定聲〕扈、叚借爲㆑被、被・扈雙聲。〔楚辭、離騷〕扈㆔江離與㆓辟芷㆒兮。〔注〕扈、被也、楚人名㆑被爲㆑扈。〔左思、吳都賦〕扈㆓帶鮫函㆒。❾鳥の名。〔詩、小雅、小宛〕交交桑扈。❿とどめる。〔小爾雅、廣詁〕扈、止也。〔左氏、昭、十七〕扈㆑民無㆑淫者也。〔注〕扈、止也。⓫えり。簄。魞。竹を連ねて海中に立てる漁具。滬(7－18072)に通ず。〔輿地志〕扈業者、濱海漁捕之名、插㆑竹列㆓於海中㆒、以㆑繩編㆑之、向㆑岸張㆓兩翼㆒、潮上卽沒、潮落卽出、魚隨㆑潮礙㆑竹不㆑得㆑出、名㆑之曰㆑扈。⓬鮮明なさま。盛なさま。美しいさま。扈扈(6)の❷を見よ。⓭古は岵(4－7880)に作る。〔集韻〕扈、古作㆑岵。⓮或は䳁に作る。〔集韻〕扈、或作㆑䳁。⓯ひくくて大きい山。⿰山扈(4－8427)に通ず。〔爾雅、釋山、卑而大⿰山扈、釋文〕⿰山扈、或作㆑扈。⓰戶(5－11696)・鄠(11－39611)に通ず。〔說文通訓定聲〕扈、叚借爲㆑戶。〔書、甘誓〕有扈氏。〔史記、夏紀〕有戶氏。〔漢書、地理志〕有鄠氏。⓱葫(9－31443)に通ず。扈魯(27)を見よ。⓲夏の時の國名。又、有扈といふ。今の陝西省鄠縣。〔說文〕扈、夏后同姓所㆑封、戰㆓於甘㆒者、在㆑鄠、有㆓扈谷甘亭㆒、从㆑邑戶聲。〔書、甘誓序〕有扈。〔釋文〕扈、國名。〔左氏、昭、元〕夏有㆓觀扈㆒。〔帝王世紀〕扈、至㆑秦改爲㆑鄠。⓳地名。春秋鄭の地。今の河南省原武縣の西。〔春秋、莊、二十三〕公會㆓齊侯㆒盟㆓于扈㆒。〔春秋、文、七〕會㆓諸侯晉大夫㆒盟㆓于扈㆒。〔注〕扈、鄭地、滎陽縣西北有㆓扈亭㆒。⓴姓。〔史記、夏紀贊〕太史公曰、禹爲㆓姒姓㆒、其後分封用㆑國爲㆑姓、有扈氏。〔通志、氏族略、以㆑國爲㆑氏〕扈氏、姒姓、夏時諸侯也、夏爲㆑扈、商爲㆓崇扈㆒、秦改爲㆑鄠、今永興鄠縣北一十里有㆓故扈城㆒、國亡、子孫以㆑國爲㆑氏、又有㆓扈地干氏㆒、改爲㆑扈、此魏姓也。

【扈雲】1（コウン） 漢の人。官は車騎將軍。王莽が攝に居た時、雲は、符命に巴郡に石牛ありといひ、莽、迎へて之を受けた。〔前漢書、九十九上〕。

【扈衞】2（コエイ） つきそひまもる。〔吳萊、樓光遠家觀㆓宋綬景德鹵簿圖㆒詩〕啓肱龍虎動、扈衞鴛鷺簉。

【扈駕】3（コガ） のりものに從行する。天子の御輦のお供をすること。又、おとも。おつきの人。扈蹕。〔鄭嵎、津陽門詩〕五王扈㆑駕夾城路、傳聲校獵渭水湄。〔陸游、詩〕九天淸蹕響㆓春雷㆒、百萬貔貅扈㆑駕回。

【扈閣】4（コカク） 羣臣が從ひ侍する御殿。〔春秋緯保乾圖〕黃帝坐㆓于扈閣㆒、鳳皇銜㆑書至㆓帝前㆒。

【扈業】5（コゲフ） やなで魚をとる業。〔庶物異名疏〕吳都記、江濱漁者、插㆑竹、繩編㆑之、以取㆑魚、謂㆓之扈業㆒、亦槎頭蟹斷之類。

【扈扈】6（ココ） ❶ひろいさま。心の廣いさま。〔禮、檀弓上〕南宮縚之妻之姑之喪、夫子誨㆑之髽、曰、爾毋㆓從從爾㆒、爾毋㆓扈扈爾㆒。〔注〕扈扈、謂㆓大廣㆒。爾、語助。〔孔子家語、曲禮子貢問〕爾毋㆓從從爾㆒、毋㆓扈扈爾㆒。❷鮮明なさま。光彩のあるさま。〔司馬相如、上林賦〕煌煌扈扈、照㆓曜鉅野㆒。〔注〕翰曰、煌煌扈扈、鮮明貌。〔馮衍、顯志賦〕光扈扈而煬燿兮、紛郁郁而暢美。〔注〕扈扈、光采盛也。❸うつくしいさま。〔詩、邶風、簡兮、碩人俁俁、釋文〕俁俁、韓詩作㆓扈扈㆒、云㆓美貌㆒。

【扈載】7（コサイ） 五代、周の北燕の人。字は仲熙。太祖初年の進士。官は知制誥。〔五代史、三十一〕・〔舊五代史、一百三十一〕。

【扈從】9（コシヨウ コジユウ） 天子に隨行すること。又、そのもの。御供。供奉。〔司馬相如、上林賦〕扈從橫行、出㆓乎四校之中㆒。〔封氏聞見記、鹵簿〕百官從㆑駕謂㆓之扈從㆒、蓋臣下侍㆓從至尊㆒、各供㆑所㆑職、猶㆓僕御扈養以從㆒㆑上、故謂㆓之扈從㆒耳。〔宋之

問、扈㆓從登封㆒途中作詩〕扈從良可㆑賦、終乏㆓掞天材㆒。〔蘇軾、策略五〕左傳、少皞氏以㆑鳥名㆑官、有㆓行扈㆒扈從之語、蓋本㆓於此㆒。

〔扈從的〕10 hu^{4} ts'ung^{2} tê 從者。隨行者。

〔扈從人〕11 コジュウニン 警衞の從者をいふ。〔東職記聞〕撰㆓累代諸士二三男之壯勇者㆒、而被㆑令㆔警衞御床机前後㆒也、號云㆓扈從人㆒也。

〔扈從西巡日錄〕12 コジュウセイジュンニチロク 書名。一卷。淸、高士奇撰。康熙癸酉の年に聖祖仁皇帝が五臺に西巡したとき、士奇が扈從して聞見したことを述べたもの。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【扈生】13 コセイ 南朝宋、尹長生(**4－7631**‥134)の一名。

【扈遷】14 コセン 明、元氏の人。擧人から鳳翔府知となる。政務寬簡、大體を識る。憂を以て任を去つた時、郡民が闕に詣つて其の留任を請ひ、秩滿つるに及び、又、其の留任を請うたので、遂に其の俸を增し、府事を治めること凡そ三十餘年にして致仕した。〔本朝分省人物攷、七〕・〔明史槀、一百二〕。

【扈膳】15 コゼン 貴人や尊者に隨つて食事をすること。侍食。陪食。〔雞肋編〕蔡京記曰、皇帝至㆓鳴鑾堂㆒、臣頓首退㆓西廡㆒、視㆓扈膳㆒、上爲擧㆑筯、歡笑如㆓家人㆒。

【扈帶】16 コタイ おびる。佩帶する。〔左思、吳都賦〕扈㆓帶鮫函㆒、扶㆓揄屬鏤㆒。〔注〕劉曰、離騷曰、扈㆓江離㆒、楚人謂㆑被爲㆑扈。

【扈鐸】17 コタク 元、蘭陽の人。孝子。〔元史、一百九十七〕。

【扈輒】17′ コテフ 漢の人。梁王彭越の將。梁王が高帝に責讓せられ、自ら往いて謝せんとした時、輒が梁王に、始め往かず、讓められて後往くが、必ず禽となるであらう、兵を發して反するがよいと諫めた。梁王は反せよとの言には從はなかつたが、病と稱して漢に行くことを中止した。後、梁の太僕が罪を得て漢に走り、王と輒と反を謀ると告げたので、漢の高祖は遂に使を遣して梁王を捕へた。〔前漢書、三十四〕。

【扈班】18 コハン 筆架の異名。〔事物異名錄、文具、筆架〕致虛閣雜俎、王羲之有㆓巧石筆架㆒、名㆓扈班㆒。

【扈蹕】19 コヒツ 天子の行幸におともする。蹕は行幸の道路の警戒。扈駕。〔五代史、雜傳二十八、李茂貞傳〕扈㆑蹕東歸。〔蘇頲、奉㆔和初春幸㆓太平公主南莊㆒應制詩〕今朝扈㆑蹕平陽館、不㆑羨㆔乘㆓槎雲漢邊㆒。〔宋史、孝宗紀一〕高宗因亦欲㆔帝偏識㆓諸將㆒、十二月遂扈㆑蹕如㆓金陵㆒。

【扈蒙】20 コモウ 宋、安次の人。字は日用。五代、晉の天福の進士。周の知制誥。時に從弟載が翰林學士となり、兄弟共に內外制を掌つたので、時人は二扈と號した。宋には史館修撰となり、五代史・文苑英華の編纂に預り、又、古今本草を詳定し、著に鰲山集がある。〔宋史、二百六十九〕・〔宋史新編、七十五〕・〔東都事略、三十〕・〔隆平集、十三〕。

【扈冶】21 コヤ 廣く大きい。〔淮南子、要略〕原㆓道之心㆒、合㆓三王之風㆒、以儲㆓與扈㆔冶玄眇之中㆒。〔注〕扈冶、廣大也。

【扈養】22 コヤウ ともびと。從者。扈は馬を養ふ者、養は炊烹する者。馬丁と料理人。〔公羊、宣、十二〕廝役扈養、死者數百人。〔注〕養㆑馬者曰㆑扈、炊烹曰㆑養。〔陳立義疏〕扈者、惠棟云、閔元年僕人鄧扈樂、卽圉人犖、圉人卽養㆑馬者也、蓋扈・圉同部字、圉正字、扈叚借也、扈爲㆓隨從服役㆒之稱、故廣雅訓㆑扈爲㆑使、亦不㆔必專爲㆓養㆑馬者㆒也、養者、漢書兒寬傳、嘗爲㆓弟子都養㆒、師古曰、養、主㆑給㆓烹炊㆒者也、蓋飲食所㆓以養㆑人、故烹炊者名㆑養、其實亦役使通稱、故廣雅亦訓爲㆑使、對㆓言之㆒則扈・養各別耳。

【扈倫】23 コリン 國の名。金の後裔が建てた。又、呼倫に作る。滿洲吉林省松花江以西、遼寧省遼河以東の地。烏拉・哈達・葉赫・輝發の四部に分れ、扈倫四部といふ。明の末、滿洲(淸の太祖)に滅された。〔淸史稿、地理志〕吉林、古肅愼國之域。〔注〕明初、努兒干都司地、領㆓衞百八十四、所二十㆒、後爲㆓長白山三部、扈倫四部㆒、所㆑屬輝發・烏拉・葉赫、兼有㆓哈達北境及東海部地㆒。

【扈累】24 コルイ 後漢、京兆の人。字は伯重。初平中、青牛先生に隨つて其の術を得た。〔萬姓統譜〕。

【扈隷】25 コレイ しもべ。〔鮑照、侍郎報滿辭㆑閤疏〕操㆑勒負㆑羈、班㆓榮扈隷㆒。

【扈輦】26 コレン 天子の御車に從ひゆく。扈蹕。扈駕。〔賈至、詠㆓馮昭儀當㆑熊詩〕平明出㆓金屋㆒、扈㆑輦上林中。

【扈魯】27 コロ ふくべ。葫蘆。〔漢書、司馬相如傳上、蓮藕觚盧、注〕張晏曰、觚盧、扈魯也。

【扈樓】28 コロウ 大きなたかどの。〔墨子、備城門〕若㆓城場㆒皆爲㆓扈樓㆒。〔閒詁〕畢云、禮記檀弓云、毋㆓扈扈㆒、陸德明音義云、音戶、廣也、大也。

【扈彥珂】29 コゲンカ 宋、鴈門の人。初、王建立に事ふ。五代の漢の高祖は、鎭國軍節度使に擢んでた。後、宋の顯德中、官は太師に至る。〔宋史、二百五十四〕・〔宋史新編、六十七〕。

【扈再興】30 コサイコウ 宋、淮の人。字は叔起。膂力があり、金人を拒ぐ。官は神勁統制。〔宋史、四百三〕・〔宋史新編、一百五十〕・〔南宋書、五十二〕。

【扈爾漢】31 コールカン 淸、滿洲正白旗人。姓は佟佳氏。太祖の時、東海窩集部に從征し、瑚葉路を征し、瑚爾哈路を征し、烏剌を征して皆功があり、又、安費揚古と偕に東海薩哈連部を征し、直ちに黑龍江に至り、進んで江北を取る。又、明の總兵、劉綎・賀世賢等の軍を敗る。封は一等大臣。爵は三等子。〔淸史稿、二百二十一〕・〔淸史列傳、四〕・〔國朝耆獻類徵、四百六十一〕・〔碑傳集、三〕。

【扈世達】32 コセイタツ 宋の人。再興の子。名將。官は都統制。〔宋史、四百二〕。

【扈地干】33 コチカン 複姓。〔通志、氏族略、代北三字姓〕扈地干氏、改爲㆓干氏㆒。

【⿸戶古】11747 コ 辜(**10－38636**)の古字。〔玉篇〕⿸戶古、古文辜。

【⿸戶⿱亼凵】11748 カフ 義未詳。〔五音篇海〕⿸戶⿱亼凵、口答切。

【⿸戶正】11749 カフ 義未詳。〔川篇〕⿸戶正、苦合切。

八畫

【扉】11750 ヒ 〔集韻〕匪微切 ㄈㄟ fei 微

小篆

❶**とびら**。〔說文〕扉、戶扇也、从㆑戶非聲。〔段注〕釋宮曰、闔、謂㆓之扉門㆒、闔、門扇也、然則門・戶一也。〔左氏、襄、二十八〕子尾抽㆑桷、擊㆑扉三。❷**いへ**。**すまひ**。〔白居易、酬㆓舒員外㆒詩〕欲㆘去㆓公門㆒歸㆗野扉㆖。

參考 屝(**4－7738**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕屝、音費、草履。扉、音非、門扉。

【扉扃】1 ヒケイ 門戶をいふ。扃扉(**5－11728**‥11)を見よ。

【扉戶】2 ヒコ とびら。〔水經、灅水注〕二陵之南、有㆓永固堂㆒、堂之四周隅雉、列㆓榭階・欄檻及扉戶・梁壁㆒、椽瓦悉文石也。

【扉樞】3 ヒスウ とびらのくるる。〔爾雅、釋宮、樞謂㆓之椳㆒、注〕門戶扉樞。

【扊】11751 エン 〔集韻〕以冉切 ㄧㄢˇ yen^{3} 琰

❶**くわんのき**。くわんぬき。戶ざし。扊扅。〔集韻〕扊、關謂㆓之扊扅㆒。❷通じて剡(**2－2059**)に作る。〔廣韻〕扊、扊扅、戶牡所㆓以止㆑扉、或作㆓剡移㆒。

【扊扅】1 エンイ くわんのき。戶ざし。〔廣韻〕扅、扊扅、戶牡、所㆓以止㆑扉。〔駢雅、釋宮〕扊扅、門閂也。〔陸游、舍北行飯詩〕晚來嬾復呼㆓童子㆒、自掩㆓柴門上扊扅㆒。

【扊扅歌】2 エンイカ 百里奚が秦の相となり、其の妻が詠じた歌。炊㆓扊扅㆒を見よ。〔黃庭堅、次㆓韻王

稚川客舍㆒詩〕慈母毎㆑占烏鵲喜、閨人應㆑賦㆓扊扅歌㆒。

〔扊扅豆〕3（エンイトウ）ふぢまめ。扁豆。〔趙宧光、說文長箋〕扁豆、一名扊扅豆。

〔炊㆓扊扅㆒〕4（エンイヲタク）家が貧しいので關牡を薪とする。扊扅は、くわんのき。〔北堂書鈔、二十八〕風俗通曰、百里奚爲㆓秦相㆒、堂上作㆑樂、所㆑賃澣婦、自言㆑知㆑音、呼㆑之、搏㆑髀援㆑琴撫㆑絃而歌者三、其一曰、百里奚、五羊皮、憶㆓別時㆒、烹㆓伏雌㆒、炊㆓扊扅㆒、今日富貴、忘㆓我爲㆒、其二曰、百里奚、初娶㆑我時、五羊皮、臨㆑當㆓別時㆒、烹㆓乳雞㆒、今適富貴、忘㆓我爲㆒、其三曰、百里奚、百里奚、母已死、葬㆓南谿㆒、墳以㆑瓦、覆以㆑柴、舂㆓黃藜㆒、搤㆓伏雞㆒、西入㆑秦、五羖皮、今日富貴、捐㆓我爲㆒、問㆑之乃其故妻、還爲㆓夫婦㆒也。

〔扊扅佳人〕5（エンイカジン）貧乏人の妻をいふ。炊㆓扊扅㆒を見よう。〔琵琶記、官媒議㆑婚〕奈㆓扊扅佳人、實難㆓存活㆒。

【⿸戸夌】 11752 レイ ライ 〔字彙補〕力計切 霽

正しくない。〔字彙補〕⿸戸夌、不㆑正也。

【⿸戸皮】 11753 ヒ 〔字彙補〕補美切 紙

やぶる。こぼつ。〔字彙補〕⿸戸皮、毀也。

【⿸戸虍】 11754 キョ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿸戸虍、音虛。

九畫

【⿸戸臿】 11755 サフ セフ 〔字彙〕所甲切 洽

うすい。〔字彙〕⿸戸臿、薄扂也。

【⿰目戸】 11756 レイ 義未詳。〔川篇〕⿰目戸、音靈。

十畫

【⿰戸犬】 11757 レイ 戾（**5－11712**）に同じ。〔海篇〕⿰戸犬、與㆑戾同。

【⿸戸盍】 11758 カフ 〔集韻〕克盍切 合

しめる。戸をとざす。〔集韻〕⿸戸盍、閉㆑戸也。

【⿸戸臣】 11759 レイ 靈（**12－42532**）の古字。〔字彙補〕⿸戸臣、古文靈字。

【⿸戸司】 11760 シ 義未詳。〔五音篇海〕⿸戸司、音寺。

十一畫

【⿸戸𦣝】 11761 レイ ⿸戸臣（**5－11759**）に同じ。〔龍龕手鑑〕⿸戸𦣝、同㆑⿸戸臣。

【⿸戸⿱辛朩】 11762 ハク 義未詳。〔篇海〕⿸戸⿱辛朩、音伯。

十二畫

【媥】 11763 ヘン 義未詳。〔川篇〕媥、音編。

十三畫

【⿸戸孨】 11764 サン 〔字彙〕數還切 删

くわんのき。くわんぬき。戸ざし。〔字彙〕⿸戸孨、門關也。

十四畫

【⿸戸⿰口辛】 11765 サク 義未詳。〔五音篇海〕⿸戸⿰口辛、音作。

【⿸戸頎】 11766 キ 義未詳。〔川篇〕⿸戸頎、音祈。

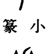
十七畫

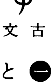
【⿸戸鬼】 11767 タン デン 〔字彙〕丈陷切 陷

やねのむね。〔字彙〕⿸戸鬼、屋上也。

手部

【手】 11768 シウ シユ 〔集韻〕始九切 有 ㄕㄡˇ shou3


小篆


古文

❶**て。**㋑てさき。五指とたなごころ。〔說文〕手、拳也、象形。〔段注〕今人舒㆑之爲㆑手、卷㆑之爲㆑拳、其實一也。〔詩、邶風、擊鼓〕執㆓子之手㆒、與㆑子偕老。㋺たなごころ。〔左氏、隱、元〕仲子生而有㆔文在㆓其手㆒。〔唐書、褚遂良傳〕唾㆑手可㆑取。㋩ゆび。〔大學〕十手所㆑指。㋥うで。肩さきから指さきまでの總稱。〔禮、玉藻〕手容恭。〔後漢書、公孫述傳〕拱手自服。㋭わざ。伎倆。〔法書要錄、一〕心有㆓疏密㆒、手有㆓巧拙㆒。㋬たすけ。ちから。しわざ。行爲。〔書、伊訓〕假㆓手于我有命㆒。〔左氏、隱、十一〕假㆓手于我寡君㆒。㋣ひと。人士。〔後漢書、章帝紀〕務盡㆓地力㆒、勿㆑令㆑游㆑手。〔南史、陸厥傳〕有㆑似㆓異手之作㆒。〔北史、崔舒傳〕季舒好㆑醫、銳意研精、遂爲㆓名手㆒、多㆑所㆓全濟㆒。〔唐書、孝友、陸南金傳〕父死㆓凶手㆒、歷㆓二十年㆒、不㆑克㆑報。〔蔡洪、圍棋賦〕命㆓班倕之妙手㆒、制㆓朝陽之柔木㆒。㋠あつかひ。處置。〔南史、孔琳之傳〕勞㆓煩於商販之手㆒。㋷てしほ。保育。〔荀子、哀公〕生㆓于深宮之中㆒、長㆓于婦人之手㆒。㋦ふでのあと。筆跡。〔漢書、郊祀志上〕天子識㆓其手㆒。〔注〕師古曰、手、謂㆓所㆑書手跡㆒。㋸調子。曲節。〔後漢書、邊讓傳〕煩手超㆓北里㆒。〔王臺卿、咏㆑箏詩〕促調移㆓輕柱㆒、亂手度㆓繁絃㆒。㋾權能。權限。〔左氏、襄、二十五〕陳知㆓其罪㆒、授㆓手于我㆒。〔後漢書、明帝紀〕權門請託、殘吏放㆑手。〔吳志、甘寧傳〕手下百餘人。〔晉書、甘卓傳〕勢在㆓人手㆒。〔宋史、蘇頌傳〕每㆑發㆑斂、高下皆出㆓吏手㆒。❷**てにする。**にぎる。もつ。〔公羊、莊、十三〕曹子手㆑劍而從㆑之。〔注〕手㆑劍、持㆓拔劍㆒。❸**てづからする。てづから。**〔後漢書、隗囂傳〕帝報以㆓手書㆒。〔王先謙集解〕惠棟曰、手、猶㆑親也、漢詔令、皆人主自親㆓其文㆒。❹**てうちにする。**からてでうつ。〔司馬相如、上林賦〕手㆓熊羆㆒。❺**とる。**〔詩、小雅、賓之初筵〕賓

載手㆑仇。〔傳〕手、取也。❻からめる。束縛する。〔法言、問神〕聖人以㆑不㆑手爲㆓聖人㆒。〔注〕手者、桎梏之屬。❼古は丞（1－158）に作る。〔集韻〕手、古作㆑丞。邦て。㋑ひと。「働き手、行き手、新手（アラテ）。」㋺部下。配下。「手の者。」㋩文字。「手ならひ。」㋥文字を書くこと。〔日本書紀、持統紀〕書博士（テノハカセ）。㋭手段。方法。計略。㋬手數。世話。「手がかる。」㋣てぶり。舞の所作。㋠調子。「閒（アヒ）の手。」㋷交際。關係。「手を切る。」㋦方向。「上手、下手、行く手。」㋸いきほひ。「火の手。」㋾きず。創傷。「深手、手負ひ。」㋻器具等の手に持つ所。把手（トッテ）。㋕蔓を絡ませるために立てた竹や木。㋵幕の乳（チ）を通して懸け渡す綱。㋟値（アタヒ）の約。(甲)代金。「酒手（サカテ）。」(乙)江戸時代の雜稅の一。山手・河手など。㋹接頭語。(甲)手で作つた意を表はす。「手製。」(乙)手先で扱ふ意や手頃の意を表はす。「手斧。」(丙)語調を強める。「手荒い、手短かに話す。」㋞接尾語。(甲)數詞に添へて用ひる。(天)矢二筋を一組として數へるにいふ。「矢一手。」(地)圍碁で石を置く度數、將棋で駒を動かす度數を數へるにいふ。(乙)品質・種類などを表はす。「高麗手、晩手（オクテ）。」

解字　象形。手の形に象る。說文に手は拳なりとし、拳の下には手なりとしてゐる。指を卷けば拳、舒べれば手となる。その實は一つであるから、互に訓じたのである。

【手押】1 shou³ ya²　❶つめ印。拇印。❷かきはん。花押。

【手遊】2（テアソビ）　❶手でもてあそぶこと。てすさび。てなぐさみ。❷玩具。おもちや。❸ばくち。賭博。

【手引】3（テビキ）　案内すること。又、指導すること。

【手印】4（シュイン）　❶手の形の跡。手を染めて押した印。〔酉陽雜俎、諾皐記上〕南天竺國娑陁婆恨王、有㆓宿願㆒、毎年所㆑賦細緤、並重疊積㆑之、手染㆓鬱金㆒、柘㆓于緤上㆒、千萬重、手印悉透。❷拇印をいふ。つめいん。手模。〔通俗編、身體、手印〕按、細民或不㆑知㆑書、惟印㆓手指文㆒以取㆑信、元人雜劇所謂離書手印、是也。❸かきはん。花押。〔吾妻鏡、六〕供料所、以㆓備後國太田庄㆒加㆓御手印㆒。❹佛指で結ぶ印。〔陀羅尼集經、二〕誦㆑呪有㆓身印等種種印法㆒、若作㆓手印㆒、誦㆓諸呪法㆒、易㆑得㆑成㆑驗。

【手淫】5（シュイン）　おのれの手で生殖器を摩擦して快を取ること。かはつるみ。せんずり。私淫。獨淫。自瀆行爲。

【手鹽】6（テシホ）　❶てづから世話すること。手にかけること。❷手鹽皿の略。

〖手鹽皿〗7（テシホザラ）　小さく淺い皿。もと不淨をはらふ意で、之に鹽を盛つて膳部に添へたからいふ。

【手援】8（シュエン）　手でたすける。手援㆓天下㆒を見よ。

〖手援㆓天下㆒〗9（テモテテンカヲタスク）　天下を援けるには道を以てすべきであるに、一人の溺れた者を援けると同樣に考へて、手を以て之を援けようとするのは、方法を誤つてゐるといふ意。〔孟子、離婁上〕天下溺援㆑之以㆑道、嫂溺援㆑之以㆑手、子欲㆔手援㆓天下㆒乎。

【手下】10（シュカ）　❶てした。てさき。部下。組下。部屬。配下。〔吳志、太史慈傳、注〕江表傳曰、先君手下兵、數千餘人、盡在㆓公路許㆒。〔吳志、甘寧傳〕權特賜㆓米酒衆殽㆒、寧乃料賜㆓手下百餘人食㆒。❷（テシタ）己が使ふものども。こぶん。配下。部下。

【手械】11（シュカイ）　罪人の手にはめて自由を束縛する道具。てかせ。てかし。手枷。〔隋書、刑法志〕寒庶人准㆓決鞭杖㆒、囚並著㆑械、徒並著㆑鎖、不㆑計㆓階品㆒、死罪將㆑決、乘㆓露車㆒、著㆓三械㆒加㆓壺手㆒、至㆑市脫㆓手械及壺手㆒焉。

【手巧】12（シュカウ）　❶手先がたくみ。又、手先のわざ。〔韓非子、定法〕夫匠者手巧也、而醫者齊㆑藥也、而以㆓斬首之功㆒爲㆑之、則不㆑當㆓其能㆒。❷ shou² ch'iao³　手の器用なこと。

【手交】13（シュカウ）　手づからわたす。手渡す。

【手向】14（タムケ）　❶神佛などに幣帛・供物を奉ること。〔萬葉集、四〕周防なる、磐國山を越えむ日は、手向よくせよ、荒きその道。❷旅立つ人に贈る餞別。〔源氏物語、四、夕顏〕女房の下らむにとて、たむけ、心ことにせさせ給ふ。

〖手向山〗15（タムケヤマ）　大和國奈良市若草山の北に鄰り、東大寺境內に連る山。手向山八幡宮が鎭座する。〔和漢三才圖會、日本大和〕手向山、在㆓若草山之邊㆒、云云、素性法師於㆑是詠㆑歌、據㆓此歌㆒稱㆓手向山㆒。

【手高】16 shou³ kao¹　手の器用なこと。

【手絞】17（シュカウ）　手づからしめ殺す。自分で頸を絞めて殺す。〔韓非子、難、三〕鄭子產、晨出過㆓東匠之閭㆒、聞㆓婦人之哭㆒、撫㆓其御之手㆒、而聽㆑之有㆑閒、遣㆑吏執而問㆑之、則手㆓絞其夫㆒者也。

【手綱】18（タヅナ）　馬のくつわにつけて、乘る人が手にとる綱。〔吉槐記〕乾元二年正月十四日、八幡御幸、檢非違使別當、黑鞍用㆓轡鈴㆒、紺布手綱。

【手銬】19 shou³ k'ao⁴　罪囚などに嵌める手枷。手錠。

【手格】20（シュカク）　てうちにする。空手で格鬭してとらへる。〔史記、殷紀〕材力過㆑人、手㆓格猛獸㆒。〔司馬相如、子虛賦〕手㆓格此獸㆒。

【手額】21（シュガク）　手を額に當てる。以㆑手加㆑額（353）を見よ。

【手匣】22（テバコ）　手廻りの小さき調度などを入れる箱。手箱。〔類聚名物考、調度、七〕てばこ、これは手具足を入る故いふなり。

【手合】23（テアハセ）　❶相手となつて勝負を試みること。てあひ。❷初めて勝負を爭ふこと。〔源平盛衰記、二十、石橋合戰事〕今日の軍の先陣仕て、彼等二人が閒に組め、源氏の軍の手合せ。❸賣買の契約を結ぶこと。❹談合すること。❺（テアヒ）仲閒。連中。相手の倒語。〔浮世床、初編上〕これ主人、咄家とはどうしたものだ、落話をする手あひさ。❻しな。たぐひ。❼てごころ。ておぼえ。❽てごろな相手。❾勝負を試みること。てあはせ。

【手函】24 shou³ han²　手翰（29）に同じ。

【手柬】25（シュカン）　御手紙。手翰。

【手閒】26（テマ）　❶費す時閒。事を爲すに要する時閒。〔狂言紀、宗論〕廿日・三十日、手閒も取れうも知れぬ程に。❷手閒仕事の略。❸手閒賃の略。〔好色二代男、八〕小判三兩、守本尊の手閒。

〖手閒賃〗27（テマチン）　仕事に費した手閒に對して得る賃金。勞働の報酬。手閒代。〔吉野都女楠、二〕八百年の手閒賃でも、中中買はるるものかいの。

〖手閒仕事〗28（テマシゴト）　❶手閒のかかる仕事。❷手閒賃を得てする仕事。❸工作の總費用を定めず、手閒のかかり次第に賃金を取つて爲す仕事。請負仕事（10－35640‥84）の對。

【手翰】29（シュカン）　手づからしたためたてがみ。書狀。書牘。手簡。手札。〔韓愈、再與㆓鄂州柳中丞㆒書〕眷㆓惠手翰還答㆒、益增㆓欣悚㆒。

【手簡】30（シュカン）　手紙に用ひる紙。又、手づからしたためた手紙。手翰。〔老學庵筆記、三〕元豐中、王荊公居㆓半山㆒、好㆑觀㆓佛書㆒、每以㆓故金漆版㆒書㆓藏經名㆒、遣㆑人就㆓蔣山寺㆒取㆑之、人士因有㆘用㆓金漆版㆒代㆓書帖㆒、與㆓朋儕㆒往來者㆖、已而苦㆓其露泄㆒、遂有㆘作㆓兩版相合㆒、以㆓片紙㆒封㆓其際㆒者㆖、久㆑之其製漸精、或又以㆓縑囊㆒盛而封㆑之、南人謂㆓之簡版㆒、北人謂㆓之牌子㆒、後又通謂㆓之簡版或簡牌子㆒、淳熙末、還㆑朝則朝士乃以㆓小紙高四五寸闊尺餘㆒相往來、謂㆓之手簡㆒、簡版幾廢、市中遂無㆓賣者㆒、而紙肆作㆓手簡㆒賣㆑之甚售。

〖手簡紙〗31（シュカンシ）　手紙を書くに用ひる紙。用箋。書簡箋。書簡用箋。手簡を見よ。

【手眼】32 shou² yen³　手段。計略。

〖手眼靈活〗33 shou² yen³ ling² huo²　敏活な。

【手記】34（シュキ）　❶手づからしるす。手書。〔後漢書、公孫述傳〕帝下㆓詔喩㆒、述曰、詔書手記、不㆑可㆓數得㆒。〔蔡襄、回㆓瀛州府㆒啓〕惟神交之留念、煩㆓手記㆒以相先。〔朱熹、知南康軍石君墓誌銘〕聞㆓人之善㆒、必手記而心慕㆑之。❷指環・腕環の類をいふ。手につけたしるしの意。后妃・羣妾が御に當つた時には環を手につけたからいふ。〔詩、邶風、靜女、貽㆓我彤管㆒傳〕古者后夫人、必有㆓女史彤管之法㆒、史不㆑記㆑過、其罪殺㆑之、后妃羣妾、以㆑禮御㆓於君所㆒、女史書㆓其日月㆒、授㆑之以㆑環、以進㆓退之㆒、生㆑子月辰、則以㆓金環㆒退㆑

之、當レ御者、以二銀環一進レ之、著二于左手一、既御著二于右手一、事無二大小一、記以成レ法。〔賢奕編、閒鈔上〕古者后妃羣妾、進二御于君所一、當レ御者以二銀環一進レ之、娠則以二金環一退レ之、進者著二右手一、退者著二左手一、卽今之戒指、又云二手記一。

【手伎】34′ギシュ　手技に同じ。

【手技】35ギシュ　❶手でするわざ。手工。手藝。技と伎とは通用。〔漢書、張安世傳〕家童七百人、皆有二手技一作レ事。〔通俗編、藝術、手技〕按、荀子禮論、持レ手而食者、不レ立二宗廟一、注云、持二其手一而謀レ食、謂二農工一、卽手技之說也。❷音樂を奏することをいふ。〔夢粱雜錄〕手伎有二弄斗・打硬・藏人・藏劍・喫針等事一。〔通俗編、藝術、手技〕又伶人雜弄、世亦謂二之手伎一、晏元獻有二曲榭回廊手伎喧句一。

【手戲】36ギシュ　小手先の藝當。手品。〔傅玄、正都賦〕手戲絕倒、凌レ虛寄レ身、跳レ丸擲レ掘、飛レ劍舞レ輪。

【手仇】37キシュウ　てづから酒を酌むこと。仇は、酒を酌むこと。〔詩、小雅、賓之初筵〕賓載手仇、室人入又。〔傳〕手、取也。〔箋〕仇、讀曰レ斞、云云、賓手挹レ酒、室人復酌爲レ加レ爵。

【手詰】38テヅメ　きびしくつめよせること。猶豫せずに責めること。手詰の勝負、手詰の談判など。

【手膙】39 shou³ chiang⁴　手のたこ。

【手腳】40シュキャク　❶手と足。てあし。〔太平廣記〕韋莊幼時、嘗在二華州下邽縣一僑居、多與二鄰巷諸兒一會戲、後逢二李氏兄弟一作レ詩曰、巡レ街趁レ蝶衣裳破、上レ屋探レ雛手腳輕、今日相逢俱老大、憂レ家憂レ國盡公卿。❷shou² chiao³ ㋑擧動。動作。㋺奸計。不正手段。㋩手足となつて働く者。

〖手腳子大〗41 shou³ chiao³ tzŭ ta⁴　奢る。

【手玉】42テダマ　❶昔、手の飾につけた玉。足につけるを足玉といふ。〔日本書紀、仁德紀〕四十年三月、敕二雄鯽等一、莫レ取二皇女所レ賚之足玉・手玉一。❷數箇の玉を兩手で投げあげて受け取る技藝。又、玉取・刀玉・品玉等、種々の品にもいふ。手玉に取るとは、人を捕へて投げやり、又は人を自由にあやつるをいふ。〔鶴岡放生會職人歌合、十番、田樂〕玉章を手玉に寄せて突きやらむ。❸女兒の玩具。布の囊に小豆・米などを入れて作る。おてだま。

【手巾】43シュキン　❶てぬぐひ。手ふき。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕手巾掩レ口啼。〔世說新語、文學〕謝鎭西少時、聞二殷浩能淸言一、故往造レ之、云云、殷、云云、爲レ謝作二數百語一、云云、辭條豐蔚、云云、謝注レ神傾レ意、不レ覺流汗交レ面、殷徐語二左右一、取二手巾一與二謝郎一拭レ面。〔資治通鑑、梁紀〕（敬帝、紹泰元年）以二手巾一絞レ稜。〔注〕今人盥洗、以レ布拭レ手、長七八尺、謂二之手巾一。〔事物紀原、舟車帷幄部、手巾〕禮、浴用二二巾一、上絺下綌、雖二上下異一レ用、而無二異名一、此三代之制也、漢王莽之斥二逐王閎一也、閎伏泣、元后親以二手巾一拭レ之、於レ是始見二手巾之目一、其事雖レ出二於三代一、而制レ名當レ自二漢世一也。❷淸代、忠孝帶をいふ。忠孝帶（4－10353‥19）を見よ。❸shou³ chin¹ はんかち。手帕。英語handkerchiefの譯。

〖手巾魚〗44シュキンギョ　金魚の一種。〔正字通〕魚、金魚、吉安有下一身具二五色一者上、名二手巾魚一。

【手金】45テキン　手附金（234）に同じ。

【手筋】46テスヂ　❶てのひらにあらはれたすぢ。てのあや。❷手跡の巧拙の性。又、書の巧拙の遺傳的血統。❸てだて。手段。方法。〔春花五大力〕其儀に付いて、拙者方に手筋もござれば。❹取引所用語。賣手又は買手の種類。

【手緊】47 shou² chin³　❶手許不如意な。❷吝嗇な。

【手貨】48シュクワ　大工をいふ。手民。〔淸異錄、人事、手民〕木匠總號二運斤之藝一、又曰二手民・手貨一。

【手快】49シュクワイ　手の技がすぐれてゐる。上手なこと。快は快刀の快の如き意。〔世說新語、汰侈〕（王）君夫有レ牛、名二八百里駮一、常瑩二其蹄角一、王武子語二君夫一、我射不レ如レ卿、今指賭二卿牛一、以二千萬一對レ之、君夫既恃二手快一、且謂、駿物無レ有二殺理一、便相然可、令二武子先射一、武子一起便破レ的。

【手畫】50シュグワ　❶手づからゑがく。〔謝承、後漢書〕臧旻遷二匈奴中郞將一、討レ賊有レ功、還見二太尉一、問二其西域諸國土地風俗、人物種類一、旻悉レ口陳、且手畫二地形一、太尉歎曰、設班固作二西域傳一、又何以加レ此。❷指に墨を塗つて畫をゑがくこと。唐の張璪の故事。〔歷代名畫記〕張璪、字文通、吳郡人、云云、尤工二樹石山水一、自撰二繪境一篇一、言二畫之要訣一、初畢庶子宏擅二名於代一、一見驚二歎之一、異下其唯用二禿毫一、或以レ手摸中絹素上、因問二璪所レ受、璪曰、外師二造化一、中得二心源一、畢宏於レ是閣レ筆。

【手活】51テイケ　❶自ら草木の花を花瓶にいけること。❷側仕として抱へ置くこと。又、其の者。〔淀鯉出世瀧德、上〕能の脇師を手いけにして。❸藝娼妓などを落籍して妻妾とすること。手生。

【手筈】52テハズ　事を行ふ順序。手順。てくばり。てつづき。〔冥途飛脚、上〕今日迄とどかぬ故、大事の御用の手はずが違ふ。

【手滑】53シュクワツ　手がすべる。しくじる。失策する。〔通俗編、身體、手滑〕唐書、武宗欲レ誅二楊嗣復一、李玨・杜景見二李德裕一曰、天子年少、不レ宜二手滑一、夢溪筆談、范希文謂二同列一曰、諸公勸二人主法外一、殺二近臣一、一時雖レ快レ意、他日手滑、雖二吾輩一未二敢保一。

【手卷】54シュクワン　卷物。横幅の長卷。手で展閱するに便であるからいふ。

【手管】55シュクワン　❶ふで。〔福惠全書、禀啓附、候二文宗某一〕燦二萬花于手管一、紅飛二杏苑之奇香一。❷テクダ　㋑計略にかけて相手を我に應ぜしめる手段。人をたらすてだて。てれん。てくら。てくろ。〔二代男〕玆に口傳は、頭からいやと云はせぬ手管あり。㋺まをとこ。閒夫。

【手鐶】56 shou³ huan²　罪人の手にはめる鐵製の鐶。

【手玩】57テマモリ　おもちや。〔新六帖、六〕道のべの芝生のつばなぬきためて、うなゐ子どもが手守りにせん。

【手形】58テガタ　❶文字を書けぬ者が、己の手指の形を紙に押して印とするもの。❷證據とする書きもの。證文。證券。〔永代藏、一〕世上に金銀の取り遣りには、預り手形に請判、慥に何時なりとも御用次第と相定め。❸一定の時期に一定の場所で一定の金額を支拂ひ、又は他人をして支拂はしめることを記載した有價證券。爲替手形・約束手形・小切手の三種がある。❹馬の鞍橋の前輪の左右側面に二箇所づつ續けて圓くゑぐつた所。騎馬の時、手を掛けるに便するもの。〔保元物語、二、待賢門軍事〕惡源太これを見給ひて、手形をつけて乘れやと宣ひければ、打物拔いてつぶつぶと、手形を切つてぞ乘りたりける。❺牛車の前後の入口の左右にある木。〔平家物語、八、猫閒事〕木曾、手がたにむずと取着て。

〖手形拂〗59テガタバラヒ　現金を用ひず手形を振出して支拂ひすること。

【手啓】60シュケイ　書翰文などに用ひる語。手づから申し上げる。手書の書翰。〔蘇軾、與二謝民師推官一尺牘〕謹奉二手啓一。

【手頃】61テゴロ　己の手や力に適當なこと。ころあひ。〔狂言記、柿山伏〕これに幸ひ手頃な石がある、是をうたう。

【手輕】62テガル　輕便。簡略。簡易。

〖手輕的〗62′ shou³ ch'ing¹ tê　手柔かに。

【手磬】63シュケイ　僧の用ひる法器。引磬（4－9699‥32）に同じ。手に捧げ桴（バチ）を以て鳴らすもの。日本の禪林では之を鈴（リン）といふ。〔象器箋、十八〕。

【手頸】64テクビ　❶腕と掌とのつがひめ。うでくび。たたむき。❷腕のさき。手の端。

【手藝】65シュゲイ　❶てづから植ゑる。手蓺。手植。〔唐書、崔湜傳〕兄弟廬レ墓、手藝二松柏一。❷てわざ。手工。〔柳宗元、梓人傳〕彼將下捨二其手藝一、專中其心智上。

〖手藝人〗66 shou³ i⁴ jen²　職人。手細工師。

【手教】67 shou³ chiao⁴　書翰用語。御手紙。貴翰。目上の人の手紙にいふ。

【手戟】68シュゲキ　てぼこ。片手で使用する小さいほこ。〔釋名、釋兵〕手戟、手所二持擿一之戟也。〔後漢書、呂布傳〕嘗小失二卓意一、卓拔二手戟一擲レ之。〔魏志、呂布傳〕拔二手戟一擲レ布。〔倭名類聚抄、調度部、征戰具〕釋名云、手戟曰レ矛、人所レ持也。〔注〕天保古。

【手抉】69タジリ　上古の土器。土を丸め、中を指先で抉り、窪みをつけた粗末な土器。〔日本書紀、神武紀〕乃以二此埴一、造二作八十平瓮天手抉、八十枚嚴瓮一。

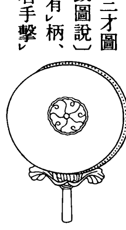
【手結】70テツガヒ　騎射で二人づつ組合つて射るこ

と。手番。〔西宮記、正月〕兵部手結事。

【手狹】71 テゼマ　場所の狹いこと。仕事に對し場所がせまいこと。

【手懸】72 テガカリ　❶手をかける所。❷着手の便宜。探索の端緒。てづる。❸テカケ　そばめ。妾。手にかけて愛するものの意。

【手鼓】73 シュコ　鼓の名。扁平で小さく、柄がある。歌ふ者が左手に之を執り右手で擊つ。〔三才圖會、器用三、手鼓圖說〕其制匾而小、亦有レ柄、今歌者左手執而右手擊レ之。



手鼓（三才圖會）

【手後】74 テオクレ　手當のおくれたこと。機會の過ぎ去つたこと。

【手語】75 シュゴ　❶琴の音をいふ。琴を手で彈じて或る想念を表はすからいふ。〔韻府引、古樂府〕手語出二朱絃一、心聲寄二丹府一。〔注〕彈レ琴謂二之手語一。〔李白、春日行〕佳人當レ窓弄二白日一、絃將二手語一彈二鳴箏一。❷手まねで話す。〔唐朱揆敍小志〕生謁二一品一、問二其妾一、與レ之手語。❸shou³ yü　手を種々の形に變化して字母の形狀を代表し、以て聾啞に物事を教へる方法。

【手工】76 シュコウ　手でするわざ。手藝。手技。又、其の事に巧な人。〔吳志、三嗣主、孫休傳〕謂先レ是科二郡上手工千餘人一、送二建業一。

【手扣】77 shou³ k'ou⁴　手取金。

【手肱】78 タナヒヂ　ひぢをいふ。手の肱の意。〔祈年祭祝詞〕手肱に水沫畫垂り、向股に泥畫寄せて。

【手骨】79 shou² ku³　上肢骨の一。

【手困】80 shou³ k'uen⁴　金に困る。手乏(258)に同じ。

【手痕】81 シュコン　手のあと。又、手で書きのこしたもの。手跡。筆跡。〔蘇軾、王維吳道子畫詩〕何處訪二吳畫一、普門與二開元一、開元有二東塔一、摩詰留二手痕一、吾觀二畫品中一、莫レ如二二子尊一。

〖手痕碑〗82 シュコンヒ　碑の名。唐の崇徽公主が回紇の可汗に降嫁し、途中、汾州に於て、其の手形を殘したもの。〔李山甫、陰地關崇徽公主手跡詩〕一拓二纖痕一更不レ收、翠微蒼蘚幾經レ秋。〔注〕大曆四年、回紇請レ婚、崇徽公主降二可汗一、道二汾州一、以二手掌一托二石壁一、遂有二手痕一、今靈石有二崇徽公主手痕碑一。〔廣川書跋〕崇徽公主手痕碑、蓋唐僕固懷恩女、沒二入後宮一、封爲二崇徽公主一、下二降回鶻可汗一、道二汾上一、托二掌石壁一、遂以傳レ後、豈怨憤之氣、盤二結于中一不レ得レ發、遇二金石一而開者耶。

【手銼】83 shou³ ts'uo⁴　爪を磨くやすり。

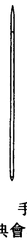
【手際】84 テギハ　❶できばえ。しあがり。❷うでまへ。手腕。技倆。

【手爪】85 シュサウ　手のつめ。轉じて、指先。〔後漢書、文苑下、趙壹傳〕糒脯出二乎車軨一、鍼石運二乎手爪一。〔南史、梁長沙宣武王懿子業傳〕以レ鉗拔二手爪一。

【手草】86 タグサ　手に持つて遊ぶもの。歌舞する時に手に執り持つもの。〔古事記、上〕手二草結天香山之小竹葉一。〔舊事本紀、二〕以二天香山之小竹葉一爲二手草一、手持二著レ鐸之矛一。

【手搔】87 シュサウ　手細工をいふ。搔は、指頭、又は爪末で搔きけづること。屨縷などを作るをいふ。〔管子、輕重甲〕手搔之功、唐園之利、故有二十倍之利一。〔纂詁〕搔、手爬也、謂レ制二屨縷一。

【手槍】88 シュサウ　❶てやり。短かい槍。長さ三尺四寸七分。〔淸會典圖、武備〕手槍、通長三尺四寸七分、刃長五寸七分、上銳、柄長二尺九寸、圍一寸七分、攢竹、裏樺皮、末骨鐓。❷shou³ ch'iang¹　拳銃。ピストル。



手槍（清會典圖）

【手鎗】89 shou³ ch'iang¹　ピストル。短銃。❷テヤリ　手槍に同じ。

【手繰】90 テグリ タグリ　❶絲などを手で繰りとること。❷仕事などのくりあはせ。

【手冊】91 シュサツ　❶持ち步いて事を筆記する小さいちやうめん。手帳。〔備遺錄〕欲レ考二諸圖籍一、齊泰出二袖中手冊一以講、自レ是益承二眷遇一。❷shou³ tsê　手帳。轉じてハンドブツク、便覽。

【手札】92 シュサツ　❶手づからしたためた手紙。手書。手簡。手翰。〔杜甫、暮秋遣レ興呈二蘇侍御一詩〕道州手札適復至、紙長要二自三過讀一、盈レ把那須二滄海珠一、入レ懷本倚二崑山玉一。〔白居易、與二楊虞卿一書〕雖二手札一二往來一、亦不レ過下問二道途一報中健否上而已。〔宋史、錢若水傳〕北邊未レ寧、內出二手札一、訪二若水一以レ策、若水陳二備邊之要一。❷テフダ　なふだ。名刺。

【手殺】93 シュサツ　手づから殺す。〔魏志、鍾會傳〕手殺二五六人一。

【手鑽】94 shou³ tsuan⁴　大錐。ボート錐。

【手子】95 タナスヱ　手のさき。指のさき。〔倭名類聚抄、形體部、手足類、手子〕遊仙窟云、手子、師說二太奈須惠一。

【手此】96 shou² tz'ŭ³　手づから此の書信を認める。

【手示】97 shou³ shih⁴　❶手紙。書面。特に目上の人の手紙。御直筆の意。❷手式(126)に同じ。

【手刺】98 シュシ　自身で書いた名刺。〔朱熹、跋二度正家藏伊川先生帖後一文〕手刺謁謝、爲レ禮亦恭。〔老學菴筆記、三〕士丈夫交謁二祖宗一、時用二門狀一、後結牒右件如二前謹一、牒若二今公文一、後以爲レ煩而去レ之、元豐後、又盛行二手刺一、前不レ具レ銜、止云二某謹上謁某官某月日結銜姓名一、刺或云レ狀、亦或不二結銜一、止書二郡名一、然皆手書、蘇黃鼂張諸公皆然、今猶有二臧レ之者一、後又止行二門狀一、或不レ能三一一作二門狀一、則但留二語閽人一、云二某官來見一、而苦二于閽人匿而不レ告、紹興初、乃用二牓子直書銜及姓名一、至レ今不レ廢。

【手指】99 シュシ　手の指。〔漢書、貨殖、巴寡婦清傳〕童手指千。

〖手指頭〗100 shou³ chih² t'ou　手の指。

【手紙】101 テガミ　❶ふみ。信書。書狀。書簡。❷shou² chih³　鼻汁又は大便を拭ふに用ひる紙。

〖手紙使〗102 テガミツカヒ　❶手紙を届ける使者。❷手紙で用事を辨ずること。

【手飼】103 テガヒ　自ら飼ふこと。手下などとして飼養すること。又、其の飼養されるもの。〔夫木抄、十七〕すみなるる、手がひのをしや、これならん、たちゐるむれに、たたぬつがひは。

【手自】104 シュジ　手みづから。てづから。又、てづからする。〔南史、劉苞傳〕手自編緝。〔王安石、書二湖陰先生壁一詩〕茆簷長掃靜無レ苔、花木成レ畦手自栽。〔蘇軾、試院煎レ茶歌〕君不レ見昔時李生好レ客手自煎。

【手兒】106 shou³ êrh　手をいふ。〔紅樓夢、二十八回〕寶釵聽說、笑着、搖手兒說、我不知道。

〖手兒舞〗107 テコマヒ　手古舞(317)に同じ。

【手執】108 シュシツ　手で執る。手に持つ。〔顏氏家訓、雜藝〕不レ許二目觀手執一。

【手實】109 シュジツ　唐代、里正が每年の末、戶主をして戶主・戶口の姓名・年齡及び其の田宅の數等を記して提出させた申告書。戶籍及び計帳は之に本づいて作る。手實法を見よ。〔賦役令、雇役丁條、集解〕唐令云、收二手實一之際、作二九等定簿一。

〖手實法〗110 シュジツハフ　手實の作成・提出並に提出された手實を基礎として民政に必要な官の帳簿を作ることに關する法。唐に始まり、宋にも行はれた。宋には熙寧年間、先づ官に於て物價を定め、庶民をして其の所有の資產の價格を申告させ、其の多寡によつて公課負擔の基礎とした。〔文獻通考、職役考〕（熙寧七年）參知政事呂惠卿獻レ議曰、免レ役出レ錢、或未レ均、出二於簿法之不善一、按レ戶令二手實一者、令三人戶具二其丁口田宅之實一也、云云、謂宜下倣二手實之意一、使丙人戶自占乙家業甲、若有二刊匿一、即用下隱二寄產業一賞レ告之法上、庶得二其實一、於レ是遂行二手實法一。

〖手實簿法〗111 シュジツボハフ　手實法に同じ。〔蘇轍、乞三誅二竄呂惠卿一狀〕其後亦建二手實簿法一。

【手習】112 シュシフ　❶手で練習する。主として習字にいふ。又、手づから練習する。〔論衡、程才〕文吏幼、則筆墨手習、而行無二篇章之誦一、不レ聞二仁義之語一。❷テナラヒ　㋑文字を書くことを練習すること。習字。㋺轉じて、學問・修業・稽古。

【手車】113 テグルマ　❶㋑輪があつて、人の力で曳いてゆく屋形車。㋺自分用に備へておく人力車。㋩二人で手をさしちがへに組み、其の上に人を乘せ行く遊戲。❷shou³ ch'ê¹　手で推す小車。一輪車。小車。

【手寫】114 シュシャ　手づからかきうつす。〔顏氏家訓、勉學〕乞二丐客刺書翰紙末一、手二寫一本一。

【手掌】115 シュシャウ　手のひら。たなごころ。〔說苑、政理〕言下治二天下一如レ運二諸手掌一然上。

【手箱】116 テバコ　手まはりの小さい調度などを入れる小箱。手匣。

【手上】117 シュジャウ　❶手づからたてまつる。自ら書いて差上る。❷タカミ　刀の柄。〔古事記、上〕次集二御刀之手上一血、自二手俣一漏出。

【手狀】118シュジャウ　唐の武后の時、被告人に眞實を白狀させて作つた自白狀。〔大學衍義補、愼二刑憲一、戒二濫縱之失一〕武后謂二侍臣一曰、頃者周興・來俊臣、按レ獄多連二引朝臣一、云二其謀反一、中閒疑レ有二不實一、使二近臣就レ獄引問一、得二其手狀一、皆自承服、朕不二獄爲レ疑、自二興・俊臣死一、不二復聞一レ有二反者一、然則前死者、不レ有レ冤耶。

【手術】119シュジュツ　外科的器械を用ひて身體の患部に行ふ處置。

【手楯】120テダテ　手にもつ楯。狹く長く、手に持つに便利なやうに作る。持ち楯。〔扶桑略記、二十五〕天慶三年二月十四日、擒二得雜物、手楯三百枚一。

【手書】121シュショ　手づからかく。又、手づから書いたもの。自書。手記。手札。〔史記、封禪書〕天子識二其手書一、問二其人一。〔漢書、薛宣傳〕故密以二手書一相曉、欲三君自圖二進退一、可三復伸二眉於後一。〔後漢書、來歙傳〕以二手書一暢レ意。〔後漢書、隗囂傳〕帝報以二手書一。〔王先謙集解〕惠棟曰、手猶レ親也、漢詔令皆人主自親二其文一。〔風俗通、十反〕手書密上。

【手秤】122 shou³ ch'êng⁴　張家口に行はれる秤の一種で、其の一斤は我が邦の約百五十三匁に相當する。

【手鬆】123 shou³ sung¹　㊀手元金のまはりがよい。㊁金遣ひが荒い。放蕩する。

【手鐘】124 shou³ chung¹　呼鈴。

【手繩】125タナハ テナハ　㊀馬をつなぐ繩。さしなは。㊁幕の乳チを通してはりわたす繩。㊂鵜飼が鵜につけて使ふ繩。

【手式】126 shou³ shih⁴　手眞似する。手眞似。

【手拭】127テヌグヒ　手や身體をふくに用ひる巾。手巾。手帨。

【手燭】128シュショク　㊀手に持つあかり。ぼんぼり。てしよく。手照燭。〔周禮、天官、閽人〕設二門燎一、注、燎地燭也、疏〕燭在レ地曰レ燎、云云、對三人手爇者爲二手燭一、故云二地燭一也。㊁テショク 火をともした蠟燭を立てて手に携へる道具。持つための柄がある。

【手織】129シュショク　手づから織る。又、手で織る。ており。〔于濆、苦辛吟〕窗下拋レ梭女、手織身無レ衣。

【手職】130テショク　㊀身に覺えある職業。㊁手先でする職業。

【手心】131テゴコロ　㊀手加減。斟酌。㊁タナゴコロ てのひら。掌。㊂shou³ hsin¹　たなごころ。てのひら。

【手振】132テフリ　㊀ともびと。從者。〔宇津保物語、祭使〕御馬どもひきたて、手ふりども立ちなみたり。㊁取引所で、會員又は取引員の代理人として、市場で手を振り、賣買取引に從事する人。又、其のこと。㊂せり市などで、手を振りながら値段を呼んで買手を促すこと。又、其の人。㊃テブリ 手を振るさま。手を振る樣子。〔顯季集〕霞たつくらまの山のうす櫻、手ぶりをしてな、をりぞわづらふ。㊄手に何も持たぬこと。から手。手ぶらと同意。〔織留、一〕手振りにて江戸に下だり、云云、初めて懷爐といふ物を仕出し。

【手刃】133シュジン　手づからころすこと。〔後漢書、董卓傳〕汜怒欲二手刃一レ彪。〔蜀志、費褘傳〕爲二循手刃所一レ害。

【手水】134テウヅ　㊀手や顏をあらふ水。㊁手や顏を洗ふこと。㊂廁を憚つていふ語。轉じて、大小便をいふ。

〖手水盥〗135テウヅタラヒ　手水を盛る盥。

〖手水鉢〗136テウヅバチ　手洗水をたたへて置く鉢。

【手垂】137テダレ　手馴れて熟練なこと。伎倆のすぐれたこと。上手。手利。

【手數】138テスウ テカズ　㊀それに施すべき手段の數。㊁手續の簡單でないこと。㊂特に其の事、又は他人のために盡力すること。

〖手數料〗139テスウレウ　㊀手數に對する報酬。㊁國家又は公共團體が、特に私人のためにする行爲の報酬として、又は營造物を使用せしめる報酬として、其の者から徵收する料金。

【手勢】140シュセイ　㊀てぶり。又、意志を表明するための手眞似。手勢令を見よ。〔魏書、柳諧傳〕善鼓レ琴、以二新聲手勢一、京師士子、翕然從學。㊁テゼイ 手づから率ゐてゐる兵。手兵。〔太平記、三、主上御夢事〕されども、未名ある武士、手勢百騎とも、二百騎とも打たせたる大名は、一人も不レ參。

【手勢令】141シュセイレイ　手を擧げて勝負をきめる遊戲。たとへば自分が手を擧げて狐を意味する形を表はした時、相手が手を擧げて獵犬を意味する形を表はせば、狐が負ける類。我が國のけん。〔五代史、漢臣、史弘肇傳〕弘肇會二飮章第一、酒酣爲二手勢令一、弘肇不レ能レ爲、客省使閻晉卿坐次二弘肇一、屢教レ之、蘇逢吉戲曰、坐有二姓閻人一、何憂二罰爵一、弘肇妻閻氏、酒家倡、以爲レ譏レ己、大怒、以二醜語一詬二逢吉一。〔六研齋筆記〕唐皇甫松手勢酒令、五指皆有二名目一、大指名二蹲鴟一、中指名二玉柱一、食指名二鉤棘一、無名指名二潛虬一、小指名二奇兵一、掌名二虎膺一、指節名二私根一、通二五指一名二五峯一。

【手製】142シュセイ テセイ　手づから製する。又、手づから作つた物。てづくり。自製。

【手抄】143シュセウ　手づから書きぬく。自ら寫し取る。又、自ら寫し取つた物。てうつし。手鈔。〔山谷題跋附錄、題下錄二清和尙書一後上與二王周彥一〕故手抄遺レ之。

【手鈔】144シュセウ　手抄に同じ。〔唐書、柳仲郢傳〕仲郢嘗手二鈔六經一。〔國朝漢學師承記、朱笥河先生〕手鈔默誦、鷄鳴不レ已。

【手詔】145シュセウ　天子御直筆のみことのり。宸筆の敕書。手敕。〔後漢書、光武十三、東平憲王蒼傳〕手詔賜レ蒼曰、骨肉天性、誠不下以二遠近一爲中親疏上。〔後漢書、蓋勳傳〕勳雖レ在レ外、每二軍國密事一、帝常手詔問レ之、數加二賞賜一、甚見二親信一。〔趙昇、朝野類要〕手詔、或非二常典一、或是篤意、及不レ用二四六句一者也。

【手撓】146シュゼウ　手が動く。手が擧がる。撓は、たわむ・まがる、臂から曲がつて手が上に擧がる意。〔莊子、天地〕手撓顧指。〔釋文〕手撓、而小反、司馬云、動也、一云、謂レ指二麾四方一也。

【手迹】147シュセキ　自ら書いた筆跡。ふでのあと。筆跡。手跡。手蹟。手筆。〔後漢書、循吏傳序〕其以二手迹一賜二方國一者、皆一札十行、細書成レ文。〔馬融、與二竇伯向一書〕孟陵奴來、賜レ書、見二手迹一、歡喜何量。〔顏氏家訓、慕賢〕吾雅愛二其手迹一。

【手跡】148シュセキ　手迹に同じ。又、仕事の仕上がり。仕事をした後の樣子。〔後漢書、列女、曹世叔妻傳〕晚寢早作、勿レ憚二夙夜一、執務私事、不レ辭二劇易一、所レ作必成、手跡整理、是謂二執勤一也。

【手切】149テギレ　㊀相互の關係を絕つこと。交を絕つこと。〔甲陽軍鑑、十一下、品第三十七〕一兩年の間に、手ぎれをせんと被レ仰。㊁談判の破裂。

〖手切金〗150テギレキン　從來の關係を絕つために與へる金。

【手拙】151テヅツ　うでまへのにぶいこと。不器用。手利(272)の對。〔紫式部日記〕一といふ文字をも書きわたし侍らず、いとてづつにて、あさましく侍り。

【手摺】152シュセフ　㊀屬吏が公事を上申するために用ひる書類。折紙の控帳。〔桃花扇、閒話〕好好、下官寫有二手摺一、明日取出奉送罷。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕照レ式造二手摺一、謂二之長單一。㊁テスリ 欄干。

【手占】153テウラ　手の筋をみて吉凶を占ふこと。〔狂言記、居杭〕おお其の時分であらう、まづ手占を置いて見ませう。

【手洗】154テアラヒ　湯水などで手を洗ふこと。

〖手洗鉢〗154'テアラヒバチ　手をあらふに備へて置く鉢。

【手戰】155シュセン　㊀てづから戰ふ。自ら戰ふ。〔淮南子、兵略訓〕傷レ敵者衆、而手戰者寡矣。〔論衡、定賢〕狗身得レ禽、功歸二於人一、羣臣手戰、其猶レ狗也。〔魏志、夏侯淵傳、注〕子午之役、云云、霸手二戰鹿角閒一。㊁手がをののく。手顫。〔白居易、晝竹歌〕蕭郎蕭郎老可レ惜、手戰眼昏頭雪色。

【手顫】156シュセン　手がふるへる。手戰。〔物類相感志〕醉中飮二冷水一手顫。

【手前】157テマヘ　㊀對稱代名詞。こなた。こちら。㊁自稱代名詞。私。自分。〔浮世風呂、二編、下〕すべて手前の子に理をつけては濟みません。

〖手前味噌〗157'テマヘミソ　㊀自分で自分のことをほめること。自慢。㊁自分で味噌をつけること。自分から失敗の種を蒔くこと。

【手素】158 shou³ su⁴　貧乏な。

【手疏】159シュソ　自ら筆を執つて條陳する。又、其の書。〔宋史、趙普傳〕久未レ班レ師、普手疏諫レ之。

【手足】160シュソク　㊀てとあし。てあし。手脚。〔禮、仲尼燕居〕若無レ禮、則手足無レ所レ錯。〔孟子、離婁下〕君之視レ臣如二手足一、則臣視レ君如二腹心一。〔漢書、田儋傳〕田假・田角・田閒、於二楚趙一非二手足戚一。〔孔子家語、王言解〕如三手足之於二腹心一。〔曹

冏、六代論〕復得レ措二其手足一哉。❷兄弟をいふ。手足之愛を見よ。〔後漢書、袁譚傳〕兄弟者、左右手也。〔梁書、高祖三王、邵陵王綸傳〕時元帝圍二河東王譽於長沙一、云云、乃與二世祖書一曰、豈可二手足肱支、自相屠害一。〔李華、弔二古戰場一文〕誰無二兄弟一、如レ足如レ手。

【啓二手足一】161 シユソクヲヒラク　曾子が平生戒愼して父母の遺體なる我が身を毀傷することを懼れてゐたが、死に臨み、門弟子に命じて衾を開いて己の手足を視させ、之に毀傷の痕跡の無いことを確めさせ、やつと生涯之を無事に保持することができたと言つた故事。轉じて、死をいふ。〔論語、泰伯〕曾子有レ疾、召二門弟子一曰、啓二予足一、啓二予手一、詩云、戰戰兢兢、如レ臨二深淵一、如レ履二薄冰一、而今而後、吾知レ免夫、小子。〔集注〕啓、開也。曾子平日以爲、身體受二於父母一、不二敢毀傷一、故於レ此使下弟子開二其衾一而視上レ之、云云、至二於將レ死、而後知二其得レ免二於毀傷一也。〔兩般秋雨菴隨筆〕人死曰レ卒、又曰レ啓二手足一、獨孤及獨孤公夫人韋氏墓誌、啓二手足一之日、長幼號咷、權德輿杜岐公誌銘、十一月辛亥、啓二手足於京師安仁里一、梁肅皇甫縣尉誌銘、啓二手足於嘉興縣私第一、宋李宗諤石保吉碑、啓二手足於豐義坊之私第一。

【手足異レ處】162 シユソクトコロヲコトニス　手と足と在る場所を異にする。手足が散らばる。身體を二つに斬られることをいふ。〔史記、孔子世家〕有司加レ法焉、手足異レ處。〔越絶書、越絶内傳陳成恆〕手足異レ處、四支布陳。

【手足之愛】163 シユソクノアイ　兄弟の愛。〔白孔六帖〕骨肉之恩、手足之愛。

【手足之情】164 シユソクノジヤウ　兄弟の情。〔蘇轍、爲二兄軾下レ獄上書〕臣竊哀二其志一、不レ勝二手足之情一。

【手足弟兄】166 shou³ tsu² ti⁴ hsiung　兄弟のやうに結合する。一致する間柄。

【手足胼胝】167 シユソクヘンチス　手足にひびやあかぎれができる。一說に、たこができる。〔呂覽、愼人〕其未レ遇レ時也、以二其徒屬一、掘二地財一、取二水利一、編二蒲葦一、結二罘網一、手足胼胝、不レ居。

【無レ所レ措二手足一】168 シユソクヲオクトコロナシ　危くて手足を安んじ置くことができない。法官が公平を失して刑罰宜しきを得ず、民が危疑して心を安んずる能はざるをいふ。〔論語、子路〕刑罰不レ中、則民無レ所レ措二手足一。〔孔叢子、對魏王〕以二法重一、無レ所レ措二手足一也。〔資治通鑑、周紀〕〔威烈王、二十三年〕名不レ正、則無レ所レ措二手足一。

【若三手足之扞二頭目一】169 シユソクノトウモクヲフセグガゴトシ　手足が頭や目を護るが如くである。臣下が心を盡して君をまもることをいふ。〔漢書、刑法志〕仁人在レ上、爲二下所レ卬、猶三子弟之衞二父兄一、若三手足之扞二頭目一、何可レ當也。

【手捉】170 シユソク　手でつかむ。〔吳融、沃焦山賦〕胎化卵育、手捉足馳。

【手續】171 テツヅキ　事を行ふ順序・方法。程序。

【手續法】172 テツヅキハフ　實體法の運用上の手續、殊に權利の實質的内容を實現するについて、國家機關が關與する方法・形式を規定した法律。訴訟法・戶籍法・選擧法の類。形式法。

【手打】173 テウチ　❶兩の掌を打ち鳴らすこと。㋑神拜の時、敬つて行ふもの。拍手。㋺喜び樂しんで行ふもの。〔古事記、下〕一言主大神、手打受二其捧物一。㋩取引の契約が成立した時、其のしるしに揃へて行ふもの。轉じて、契約の成立をいふ。㋥爭が和解した時、其のしるしに揃つて行ふもの。轉じて、和解の成立をいふ。〔名義抄〕抃、てうち。㋭思ひ當つて然りと云ふ時に打つもの。❷空手で打ち殺すこと。❸目下の者を手づから斬ること。手討。❹うどんやそばを機械にかけずに手で打つて作ること。

【手袋】174 テブクロ　❶防寒のために手にはめる袋。❷shou³ tai⁴ 手提袋。

【手替】175 テガハリ　❶かはつて仕事をすること。又、其の人。手代。❷體裁のかはること。

【手代】176 テダイ　❶他人に代つて事を爲すこと。又、其の人。代理。手替。❷德川時代、郡代・代官・奉行等の下にあつて庶務に從事した人。〔折焚柴記、中〕・〔吏徵、下〕小普請方手代四十五人。❸商家で番頭と丁稚との間の使用人。〔善庵隨筆、一〕大賈の重立つた手代を番頭と云ふ。❹テシロ てがはり。

【手套】177 shou³ t'ao⁴ てぶくろ。手袋。

【手套兒】177′ shou³ t'ao⁴ êrh 手套に同じ。

【手討】178 テウチ　❶手搏（219）に同じ。❷主君が自ら臣下などを斬ること。

【手當】179 テアテ　❶豫め其の用に備へること。準備。用意。〔天正記、秀吉馳二向柴田軍配二〕❷報酬として與へること。又、其の金錢。資給。〔吏徵別錄、下、川船改役〕天明八年戊申三月二十四日、爲二御手當一。❸基本的な給料のほかに與へる金錢。❹心づけ。❺てだて。方法。手段。處置。❻めしとり。捕縛。❼テアタリ 手にふれること。又、其の感覺。❽てぢか。てもと。❾てがかり。

【手澤】180 シユタク　器物に附着した手のよごれ。轉じて、先人の手に觸れた遺品をいふ。〔禮、玉藻〕父沒而不レ能レ讀二父之書一、手澤存焉爾、母沒而杯圈不レ能レ飮焉、口澤之氣存焉爾。〔疏〕謂下其書有二父平生所レ持手之潤澤存在上焉、故不レ忍レ讀也。〔顏氏家訓、文章〕愴二手澤之遺一。

【手澤本】181 シユタクボン　生前愛讀した書。故人遺愛の書。

【手答】182 シユタフ　手づから返事をしたためる。自ら返書を書く。〔晉書、陶侃傳〕遠近書疏、莫レ不二手答一、筆翰如レ流、未二嘗壅滯一。

【手探】183 テサグリ　手さきでさぐり求める。摸索。〔源氏、六、末摘花〕手さぐりのたどたどしきに、あやしうこころえぬこともあるにや。

【手段】184 シユダン　❶事を處置する方法。てだて。しかた。てだん。〔吳萊、嶺南宜濛子解渴水歌〕酒客心情辟二酒兵一、茶僧手段侵二茶品一。〔謝上蔡語錄〕邵堯夫嘗有レ詩云、當年志氣欲レ横レ秋、此人在二風塵時節一、便是偏霸手段。〔元好問、三鄉雜詩〕五鳳樓頭無二手段一、碧鷄坊外有二家風一。❷shou³ tuan⁴ 技術。技能。

【手談】185 シユダン　❶碁を圍むこと。圍碁。相對して無言で意を通ずるからいふ。〔世說新語、巧藝〕王中郎以、圍棋是坐隱、支公以二圍棊一爲二手談一。〔顏氏家訓、雜藝〕圍棊有二手談・坐隱之目一、頗爲二雅戲一。〔事物紀原、博弈嬉戲部、手談〕今人目二圍碁一爲二手談一者、云云、雖三說有二小同異一、然疑晉以來語也。❷shou³ t'an² カルタをすること。

【手杻】186 シユチウ　罪人の兩手に嵌めるかせ。木で造り、長さ一尺六寸、厚さ一尺。てかせ。〔福惠全書、刑名部、監禁〕有下以二手杻一撞二犯人胸額一、柙板痛二打脚底一之惡上。〔六部成語、刑部、手杻、注解〕匣レ手之具也。

【手長】187 シユチヤウ　❶手が長い。〔闇寬、溫湯御毬賦〕捎レ虛而訝二人手長一、攢レ角而疑二馬身小一。❷shou³ ch'ang² 卑劣なことをする。

【手帳】188 テチヤウ　小形の帳面。手びかへ用の小さい帳面。

【手頂】189 シユチヤウ　手のひら。〔蘇軾、司馬溫公神道碑〕炷二薌於手頂一、以送二公葬一者、凡百餘人。

【手杖】190 shou³ chang⁴ ステツキ。

【手錠】191 テヂヤウ　❶刑具の一。二つの鐵環からなり、罪人の兩手にはめて自由を奪ふ具。てがね。❷德川時代、庶人に科した刑。罪人の兩手を鐵環でつかねておく。手鐵。〔舊記拾要集、二〕手錠のもの改之儀。

【手中】192 シユチユウ　てのなか。てのうち。其の手。〔漢書、酷吏、嚴延年傳〕秦成二于手中一。〔楊巨源、折楊柳詩〕惟有二春風最相惜一、殷勤更向二手中一吹。〔孟郊、遊子吟〕慈母手中線、遊子身上衣。

【手中無レ錢】193 シユチユウゼニナシ　手の中に錢を持たない。〔通俗編、貨財、手中無レ錢〕論衡量知篇、手中無レ錢、之レ市使、貨主問曰、錢何在、曰、無レ錢、貨主必不レ與也、夫胸中無レ學、猶二手中無レ錢也、庾信演連珠、嘗用二此二語一。

【手重】194 テオモ　重大なることにいふ。

【手敕】195 シユチヨク　天子直筆のみことのり。手詔。〔宋書、謝弘微傳〕弘微臨レ終、語二左右一曰、有二一封書一、須二劉領軍至一、可レ于レ前燒レ之、愼勿レ開也、書皆是太祖手敕。

【手枕】196 テマクラ タマクラ　腕を枕とすること。

【手定】197 シユテイ　手づから定める。〔經學歷史、經學開闢時代〕皆經二孔子手定一、而後列二於經一也。

【手掇】198 シユテツ　手づからひろひとる。自らえらぶ。〔梁簡文帝、昭明太子集序〕躬刊手掇。

【手鐵】199 テガネ　德川幕府の制に、庶人の閏刑の名。鐵環二箇を連合したので、兩手を束ね、鎖をおろしておく。手錠。

【手帖】200 シユテフ　❶手づから書いた書類。〔廣川書跋〕虞世南手帖、論二儒學一、不レ使二一日失一レ業、恐三

子弟墜二其家聲一。㊁shau^2 tʻieh^3 手本。㊂（テテフ）手帳(188)に同じ。

【手弩】201（シュド） 小さい石弓。〔三代實錄、三十九〕元慶五年四月二十五日、手弩百具。

【手筒】202 shou^3 tʻung^2 マッフ(muff)。手籠。

【手頭】203（シュトウ） ㊀手の先。手の中。在二手頭一を見よ。㊁shou^3 tʻou 手許。ふところ工合をいふ。

【手頭巧】204 shou^3 tʻou chʻiao^3 手さきの器用なこと。

【手頭兒】205 shou^3 tʻou êrh 手許。

【在二手頭一】206（シュトウニアリ） 手の先に在る。指で持つてゐる。手の中にある。〔通俗編、身體、在二手頭一〕魚玄機詩、欲下將二香匣一收藏卻上、且惜時吟「在二手頭一。

【手牘】207 shou^3 tu^2 手紙。書翰。

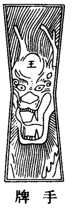
【手入】208（テイレ） ㊀破損の部分を修理すること。なほし。つくろひ。〔狂言記、萩大名〕此の中は手入れも致さぬによつて。㊁品物や庭などを世話して整へること。㊂手をつけること。著手。㊃犯罪の捜査や犯人の檢擧のため現場に踏込むこと。

【手粘】209 shou^3 nien^2 手癖が惡い。盜癖がある。

【手拜】210（シュハイ） 禮の名。手を地に著け、頭を其の上に載せる禮拜。〔禮、少儀〕婦人吉事、雖レ有二君賜一肅拜、爲レ尸坐、則不二手拜一肅拜。〔注〕手拜、手至レ地也。

【手背】211（シュハイ） 手の甲。手面。〔宋史、仁宗紀三〕(慶曆二年二月)乙未、詔二河北彊壯一刺二手背一爲二義勇軍一。

【手配】212（テクバリ テハイ） 分據して準備にかかること。人を要所要所にくばること。部署。又、準備すること。準備。〔島津本太平記、八、摩耶城合戰〕勢の手配をも爲さず、我れ先にとぞ寄せたりける。


手牌（武備志）

【手牌】213（シュハイ） ㊀囚人の姓名を記した木のかきつけ。〔桃花扇、會獄〕淨扮二獄官一、執二手牌一、校尉四人、點レ燈提レ繩急上。㊁木製の楯。手楯。白楊木或は輕松木等の輕く堅い木で作る。〔武備志、牌、手牌圖說〕手牌宜下用二白楊木或輕松木一爲上レ之、取二其輕而堅一也、每面長五尺七寸、闊一尺、上下兩頭、比二中間一闊二三四分、俱小尺。

【手焙】214（テアブリ） 手をあぶるに用ひる小形の火鉢。〔茶道筌蹄、五、著用類〕。

【手牓】215（シュバウ） 手づから書いたかきつけ。〔元史、良吏二、林興祖傳〕興祖以二手牓一諭レ之。

【手帕】216（シュハク） はんけちの類。又、ふくさ。手巾。明代、官界で相餽遺するに用ひた。〔紅樓夢、十九回〕用二手帕一托著送二與寶玉一。

【手帕子】217（シュハクシ） 手帕に同じ。〔鑑戒錄〕天復初、車駕幸二石門一、宮人楊舞頭進レ裛淚二手帕子一、奉レ宣加二楚國夫人一。

【手帕姊妹】218（シュハクシマイ） 妓女が相契つて姊妹となること。〔板橋雜記〕南京舊院、有二色藝俱優者一、或二十三十姓、結爲二手帕姊妹一。〔桃花扇、訪翠〕相公不レ知下這院中名妓、結爲二手帕姊妹一、就像二香火兄弟一一般上。

【手搏】219（シュハク） ㊀てうちにする。空手でうちとる。〔孔叢子、荅問〕骨騰肉飛、手二搏鵰獸一。〔揚雄、長楊賦序〕以レ網爲二周阹一、縱二禽獸其中一、令下胡人手二搏之一自取中其獲上。㊁手でうち合ふ。又、其の技術。今の柔道・拳鬪の類。〔正字通〕搏、兩人交擊、角二勝負一也、五代史、唐莊宗與二存賢一手搏。

【以二手搏一得二狀元一】220（シュハクヲモツテジヤウゲンヲウ） 手搏(武藝)を以て進士試驗の第一等を得る。〔宋史、王嗣宗傳〕初嗣宗就二試講武殿一、搏二趙昌言帽一、擢二首科一、故放及レ之。

【手摸】221（シュバク） 手でさぐる。又、手さぐり。〔魏志、華陀傳〕使二人手摸知一レ所レ在、在レ左則男、在レ右則女。

【手法】222（シュハフ） 一般に藝術製作の場合に作者の用ひる仕方・やり方・技巧等をいふ。轉じて、手練・技能等をいふ。

【手板】223（シュハン） 位階ある人の束帶の時に持つ板。君前に在つて事を記す用とする。古は笏といひ、晉・宋以後は手板といふ。しやく。手版。〔晉書、溫嶠傳〕嶠因僞醉、以二手板一擊二鳳幘一墜。〔晉書、謝安傳〕坦之流汗沾レ衣、倒二執手板一。〔唐會要、輿服、笏〕笏、周制也、云云、晉・宋以來、謂二之手板一。〔名義考〕徐廣車服儀制曰、笏、卽手板也、漢・魏以來、皆執二手板一、有レ事則插二於紳間一、故曰二縉紳一。〔白居易、郡齋暇日憶二廬山草堂一兼寄二二林僧社二三十韻詩〕手板支爲レ枕、頭巾閣在レ牆。〔文獻通考、王禮考〕笏、晉・宋以來、謂二之手板一。

【手版】224（シュハン） 手板に同じ。〔周禮、天官、序官、司書、疏〕古有二簡策一以記レ事、若在二君前一以レ笏記レ事、後代用レ簿、簿、今手版。

【手番】225（テツガヒ） ㊀騎射・射禮・賭射（ノリユミ）などの式日に先だつて行ふ演習。射手を左右に組み分けて爭はせる。〔三代實錄、四十五〕騎射手番之時。㊁手都合(326)に同じ。〔菅原傳授手習鑑〕うまいてつがひ。「見よ。

【手臂】226（シュヒ） かひな。腕。若三手臂之扞二頭目一を

【若三手臂之扞二頭目一】227（シュヒノトウモクヲフセグガゴトシ） 恰もかひなが頭や目を護るが如くである。下の者が上の者を護るをいふ。若三手足之扞二頭目一(169)に同じ。〔荀子、議兵〕臣之於レ君也、下之於レ上也、若二子之事一レ父、弟之事レ兄、若下手臂之扞二頭目一、而覆中胷腹上也。

【手尾】228 shou^2 wei^3 着手してまだ終らない。

【手畢】229（シュヒツ） 手づからしたためた手紙。手簡。手筆。畢は筆の意。〔山谷題跋〕子京別紙多云、伏奉二手畢一、南人謂レ畢爲レ筆、因效レ之。

【手筆】230（シュヒツ） ㊀手づから書いた筆跡。手づから書いた手紙。手書。〔後漢書、申屠蟠傳〕前幕府初開、至レ如二先生一、特加二殊禮一、優而不レ名、申以二手筆一。〔後漢書、文苑、趙壹傳〕壹報曰、云云、仁君忽二一匹夫一、於レ德何損、而遠辱二手筆一、追レ路相尋、誠足レ愧也。〔魏志、楊阜傳〕手筆詔答。㊁文章を作る。又、文章。〔陸雲、與二兄平原一書〕今送二君苗登レ臺賦一、爲二佳手筆一。〔南史、陸瓊傳〕諸官符及諸大手筆並中敕付レ瓊。〔南史、徐陵傳〕文宣之時、國家有二大手筆一、必命レ陵草レ之。㊂文章家。記者。〔唐書、蘇頲傳〕後與二張說一以二文章一顯、稱望略等、故時號二燕許大手筆一。

【手品】231（テジナ） ㊀手のさま。手つき。〔冥途飛脚〕拳の手品の手も解く。㊁變幻の技術。奇術。てづま。㊂人を惑はせる手段。人目をごまかす工夫。〔謠曲、碁〕手品をいざや定めん。

【手付】232（シュフ） 手づから渡す。又、手渡し。〔北史、周武帝紀〕必自執レ盃勸レ酒、或手二付賜物一。

【手斧】233（テウナ） 大工道具の一。平鑿（ヒラノミ）を大きくしたやうな身に直角に柄を附けた斧。材木を斧で荒削りした後に、之を平にするに用ひる。テウナ(チヨウナ)はテヲノの轉音。

【手附】234（テツケ） 賣買・請負等の契約の際、其の履行の保證として當事者の一方から相手方に交付する金錢。手附金。

【手負】235（テオヒ） ㊀戰つて手傷をうけること。又、其の者。㊁損失。

【手舞】236（シュブ） 徒手で舞ふ舞。〔周禮、春官、樂師、有二人舞一注〕鄭司農云、云云、人舞者、手舞、云云、玄謂、云云、人舞、無レ所レ執、以二手袖一爲二威儀一。

【手舞足蹈】237（テマヒアシフム） 非常に喜ばしいこと。不レ知二手之舞足之蹈一(370)を見よ。〔紅樓夢、四十一〕當下劉姥姥、聽二見這般音樂一、且又有二了酒一、越發喜的手舞足蹈起來。

【手風】239（テブリ） ならはし。風習。風俗。〔萬葉集、五〕あまざかる、鄙に五年住ひつつ、都のてぶり忘らえにけり。

【手風琴】240（テフウキン） 樂器の名。兩手で伸縮して鳴らすもの。アコーデオン(accordion)。

【手復】241 shou^3 fu^4 手づから返事する。

【手覆】242 shou^3 fu^4 手づから返事する。自書して返事する。返書。

【手文】243（シュブン） 手のひらにあるすぢ。手理。文は模樣。〔周禮、考工記、弓人〕合灂若二背手文一。〔後漢書、公孫述傳〕又自言、手文有レ奇。

【手兵】244（シュヘイ） 手づから率ゐてゐる兵。手勢。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕畠山重忠以二手兵一繼渡。

【手並】245（テナミ） うでまへ。てぎは。伎倆。〔義經記、八〕あづまのかなたのやつばらに、手なみの程をみせてくれうず。

【手柄】246（テガラ） ㊀いさをし。功績。〔太平記、八、山崎合戰〕河野と陶山が手柄の程、いとど名高くなりにけり。㊁うでまへ。手並。〔平治物語、二、義朝敗北事〕留めむと思はば、寄れや、手柄の程見せむ。

【手瓶】247（テガメ） 把手（テトツ）のある瓶。

【手表】248 shou^2 piao^3 腕時計。

【手錶】249 shou² piao³ 手表に同じ。

【手癖】250 テクセ 手のくせ。手の習癖。轉じて、盜みをする惡習についていふ語。

【手胼】251 シュヘン 手にあかぎれがきれる。〔顧況、上古詩〕襏襫鋤犁、手胼足胝。

【手抃】252 シュベン 手をうつこと。〔裴度、二氣合㆓景星㆒賦〕手抃目駭兮、載賡㆓歌於大寶㆒。

【手拇】253 シュボ おやゆび。拇手。〔國語、楚語上〕至㆓于手拇毛脉㆒。

【手摹】254 シュボ 手模に同じ。

【手模】255 シュボ ㊀手づから模寫する。又、手づからした模寫。〔韓愈、畫記〕噫、余之手模也。㊁shou³ mu² 手形。拇印。

【手木】256 テギ 昔、捕手の持つた鐵製の短い棒。十手。鐵尺。鐵挺。

【手墨】257 シュボク 手づから書いた書。〔唐書、李彦芳傳〕太和中、爲㆓鳳翔司錄參軍㆒、家故藏㆓高祖太宗賜㆑靖詔書數函㆒、上㆑之、云云、皆太宗手墨、文宗愛㆑之不㆑廢㆑手。

【手乏】258 shou³ fa² 金に窮する。手許不如意。

【手本】259 シュホン ㊀下級官吏が上官に見える時、又、門生が初めて座師に見える時に差し出す名刺。折本の形をしてゐる。〔通俗編、儀節、手本〕五石瓠、官司移會用、六扣白柬、謂㆓之手本㆒、萬曆間、士夫刺亦用㆓六扣㆒、然稱㆓名帖㆒、後以㆓青殼㆒粘㆓前後葉㆒、而綿紙六扣、稱㆓手本㆒、爲㆘下官見㆓上官㆒所㆖㆑投、其門生初見㆓座師㆒、則用㆓紅綾殼㆒、爲㆓手本㆒、亦始㆓萬曆末年㆒。〔燕子箋、入幕〕作㆘見末叩首拿㆓手本㆒見介㆖。〔福惠全書、筮仕部、畫憑領憑〕具㆓脚色手本互結供狀、京官印結㆒。㊁テホン ㋑手習のかたとなるべき文字を書いた本。習字帖。臨本。〔源氏、梅枝〕手本多くつどへたりし中に、中宮の母御息所の、心に入れず走り書いたまへりし。㋺倣つて作るべき基となるもの。先例。模範。〔太平記、十、高時并一門以下於㆓東勝寺㆒自害事〕早早御自害候へ、高重先きを仕りて、手本に見せ進らせ候はん。

【手蔓】260 テヅル 手繰つて行つて或る物に達する蔓の意。てがかり。たより。つて。手段。方便。

【手鏝】261 シュマン こてを手に持つ。左官を業とするにいふ。鏝は壁をぬるこて。〔韓愈、圬者王承福傳〕手㆑鏝衣食、餘㆓三十年㆒。

【手民】262 シュミン ㊀大工をいふ。手貨。〔清異錄、人事、手民〕木匠總號㆓運斤之藝㆒、又曰㆓手民・手貨㆒。㊁shou³ min² 彫刻師・活版職工などをいふ。

【手命】263 シュメイ 手づから書いたてがみ。命は上から下す文書。〔吳質、答㆓魏太子㆒牋〕奉㆓讀手命㆒。〔注〕向曰、手命、謂㆓太子與㆑質書㆒也。

【手明】264 テアキ 仕事のないこと。用事のないこと。暇であること。又、其の人。〔大友興廢記、方方御手遣〕義鎭公、からめてを手明に仰せつけられ。

【手紋】265 シュモン 手のすぢ。手理。〔神相全編、許負相手篇〕手紋亂剉、合㆘有㆓福祿㆒永無㆗災害㆖。

【手諭】266 シュユ shou³ yü⁴ ㊀手づから書きしたためた諭告。㊁書翰文用語。御手紙。貴書。

【手輿】267 タゴシ 手でもたげて行く輿。肩で擔ぐ肩輿と別つ。其の高さは腰に至る。主上が鳳輦に乘り給はぬ時、又、中宮などでお用ひになる。腰輿。〔和名抄〕腰輿、太古之。

【手容】268 シュヨウ 手の作法。〔禮、玉藻〕足容重、手容「恭。

【手踊】269 テヲドリ ㊀手に何も持たずに踊る踊。扇其の他のものを持たぬ場合にいふ。㊁歌舞伎の本式の踊に對して、見世物や寄席の高座などで、流行歌などを踊る踊。

【手絡】270 テガラ 婦人が丸髷などの根もとにかける裝飾のきれ。

【手落】271 テオチ おちど。てぬけ。しおち。手段の不十分なこと。

【手利】272 テキキ 手のきくこと。腕まへのすぐれてゐること。手わざの巧なこと。又、其の人。巧手。〔永代藏、一〕優れて都の手利ありて。

【手理】273 シュリ てのひらにあるすぢ。てのすぢ。手の紋。手文。〔韓非子、詭使〕卜筮視㆓手理㆒。〔漢書、王莽傳中〕尋㆓手理㆒、有㆓天子㆒。

【手裏】274 シュリ 手のうち。手の中。手裡。〔王建、宮詞〕天子下㆑簾親考試、宮人手裏過㆓茶湯㆒。〔白居易、白羽扇詩〕引秋生㆓手裏㆒、藏月入㆓懷中㆒。

『手裏劍』275 シュリケン 手に持つて敵に投げうつ小さい劍。鋧。〔渡邊幸庵對話〕竹村武藏、子は與右衞門と云にけり、父に不㆑劣、劍術の名人、手裏劍の上手也。

『手裏充足』276 shou² li³ ch'ung¹ tsu² 金が十分にある。

【手力】277 シュリョク ㊀自分の手のはたらき。〔魏志、常林傳、注〕林少單貧、雖㆑貧自㆑非㆓手力㆒、不㆑取㆓之于人㆒。㊁僕從。〔郭湜、高力士傳〕九月十三日至㆓巫州㆒、隨身・手力、不㆑越㆓十人㆒、所㆑餘衣糧、纔至㆓數月㆒。

【手令】278 シュレイ 手づから書いた命令。〔南史、沈攸之傳〕割㆑之得㆓太后手令㆒、曰、國家之事、一以委㆑「公。

【手鐐】279 shou³ liao² 手錠。

【手裂】280 シュレツ 手で引き裂く。〔日本政記、一條天皇〕關白道長入㆓臥內㆒、覩而惡㆑之、手裂㆑之云。

【手練】281 シュレン 手ぎはがよく熟練したこと。又、其の人。てだれ。巧手。〔八笑人、二編上〕兼ねて手練の扇が山だ。

【手爐】282 シュロ 手あぶりの火鉢。てあぶり。手焙。〔採蘭雜志〕馮小憐有㆓手爐㆒、曰㆓辟邪㆒、足鑪曰㆓鳧藻㆒、皆以㆑飾得㆑名。

【手籠】283 shou³ lung² ㊀マツフ。(muff)手筒。㊁テカゴ 手に提げるやうに造つた小さい籠。〔五人女、四〕松露・土筆を手籠に入れて、世を渡る業とて賣り來れり。

【手泐】284 shou³ lê⁴ 手づから書く。手書。

【手錄】285 シュロク 手づから寫す。又、手づから寫したもの。〔揮麈前錄、四、王知府自跋〕覽而大喜、手錄而識㆓于後㆒。

【手腕】286 シュワン ㊀うで。てくび。〔後漢書、方術下、郭玉傳〕仍試令㆘嬖臣美手腕者、與㆓女子㆒雜㆗處帷中㆖。〔晉書、藝術、淳于智傳〕乃以㆑朱書㆓手腕㆒。㊁うでまへ。はたらき。伎倆。

『手腕家』287 シュワンカ うでまへのある人。伎倆のすぐれた人。

【握㆑手】288 テヲニギル 親しみを示すために手を握り合ふこと。〔史記、廉頗藺相如傳〕燕王私握㆓臣手㆒曰、願結㆑友。〔史記、滑稽傳〕握㆑手無㆑罰、目眙不㆑禁。

【下㆑手】289 テヲクダス 手を著ける。自ら事をすること。〔通俗編、身體、下手〕傳燈錄、慧藏對㆓馬祖㆒曰、若教㆓某甲自射㆒、直是無㆓下㆑手處㆒、又僧問、天地還可㆓雕琢㆒也、無、靈默曰、汝試下㆑手看、揮麈錄、碑工李仲寧、太守使㆑劖㆓黨籍姓名㆒、曰、不㆑忍㆑下㆑手。

【假㆑手】290 テヲカル 人の手をかりる。人の助けをかりる。〔書、伊訓〕天假㆓手于我有命㆒、造㆑攻自㆓鳴條㆒。

【交㆑手】291 テヲマジフ 手をつなぐ。交りを結ぶ。〔南史、李安人傳〕相㆑之曰、君後當㆘大富貴與㆓天子㆒交㆑手共戲㆖。〔北史、齊宗室、琅邪王儼傳〕光曰、小兒輩弄㆑兵、與交㆑手、卽亂。

【額㆑手】292 テヲヒタヒニス てをかざして望見する。以㆑手加㆑額(353)を見よ。〔秋月胤永、戰後述懷〕恩賜赦書應㆑非㆑遠、幾回額㆑手望㆓京城㆒。

【拱㆑手】293 テヲコマヌク 兩手をこまぬく。兩手、或は兩腕を組む。㊀人を敬ふ禮。〔禮、曲禮上〕遭㆓先生于道㆒、趨而進、正立拱㆑手。㊁何事もなさないこと。何の力も盡さないこと。無爲。又、深く考に沈むさま。〔戰國、秦策〕大王拱㆑手以須㆓天下徧隨而伏㆒。〔後漢書、公孫述傳〕天水・隴西・拱㆑手自服。

【攜㆑手】294 テヲタヅサヘル 相手の手を取る。一緒に連れだつ。〔李陵、與㆓蘇武㆒詩〕攜㆑手上㆓河梁㆒、遊子暮何之。

【失㆑手】295 テヲウシナフ しくじる。失策。〔方干、題㆑贈㆓李校書㆒詩〕名場失㆑手一年年、月桂嘗聞到㆓手邊㆒。

【信㆑手】296 テニマカス 手の動くままにまかせる。〔白居易、琵琶行〕低㆑眉信㆑手續續彈、說盡心中無㆑限事。

【隨㆑手】297 テニシタガフ 手の動くにつれて。手が動くやいなや。直ちにといふ意。〔史記、淮陰侯傳〕〔鍾離〕昧曰、云云、吾今日死、公隨㆑手亡矣。〔後漢書、方術、華佗傳〕操積㆓苦頭風眩㆒、佗針、隨㆑手而差。

【藉㆑手】298 テヲカル 他人の手を借りる。人の力を借りる。假手。〔左氏、昭、十六〕宣子私覲㆓於子產㆒、以㆓玉與㆑馬、曰、子命㆑起、舍㆓夫玉㆒、是賜㆓我玉㆒、而免㆓吾死㆒也、敢不㆓藉㆑手以拜㆒。

【束㆑手】299 テヲツカヌ 手をたばねる。手だしをしない。手を下さない。抵抗しない。歸順する。〔史記、春申君傳〕父子老弱、係㆑脰束㆑手、爲㆓羣虜㆒者、相㆓

及于路一。〔後漢書、隗囂傳〕詔告レ囂曰、若束レ手自詣、父子相見、保レ無レ他也。〔晉書、杜預傳〕指二授羣帥一、徑進二秣陵一、所レ過城邑、莫レ不レ束レ手。

【束レ手無レ措】300（テヲツカネテオクナシ） 手出しができない。〔通俗編、身體、束レ手無レ措〕癸辛雜志、東元嘉知二泰州一、禁醋甚嚴、有下大二書于都門一者上、曰、束レ手無レ措。

【唾レ手】301（テニツバス） 掌に唾をつける。重い物を持ち上げる時などにするので、轉じて、勇氣を起して事に著手するをいふ。唾レ手可レ決を見よ。〔唐書、褚遂良傳〕翔膺雲輣、唾レ手可レ取。

〔唾レ手可レ決】302（テニツバシテケツスベシ） 手に唾して起てば直ちに決する。容易に勝負をつけ得ること。一本、捶レ掌而決に作る。〔後漢書、公孫瓚傳〕瓚曰我昔驅二畔胡於塞表一掃二黃巾於孟津一當二此之時一謂天下指麾可レ定、注〕九州春秋曰、瓚曰、始天下兵起、我謂、唾レ掌而決。〔通俗編、身體、唾レ手可レ決〕唐書、隱太子建成傳、利兵鑿レ之、唾レ手可レ決。

【斷レ手】303（テヲタツ） ❶事が濟むことをいふ。てぎれ。〔通俗編、身體、斷手〕唐書、高祖勅云、使至、知元堂已成、不レ知諸作早晚得レ斷レ手否、杜甫、題二江外草堂一詩、經營上元始、斷レ手寶應年、按、凡營造畢レ工謂二之斷手一。❷關係を絕つ。

【著レ手】304（テヲツク） 手を下す。事を爲しはじめること。下レ手。〔晉書、杜預傳〕譬如二破竹數節之後、皆迎レ刃而解一、無二復著レ手處一也。

〔著レ手成レ春】305（テヲツクレバハルトナル） 良醫をほめることば。一度手がさはれば、忽ち快癒すること。〔司空圖詩品〕俯拾卽是、不レ取二諸隣一、俱道適往、著レ手成レ春。

【動レ手】306（テヲウゴカス） 手をうごかす。轉じて、物を取る意。〔通俗編、身體、動手〕全唐詩話、商則任二廩邱尉一、性廉、而令丞皆貪、一日宴會、令丞皆舞而動レ手、尉則回レ身而已、令問レ之、曰、長官與二贊府一皆動レ手、尉更動レ手、百姓何容レ活耶、人皆大笑。

【入レ手】307（テニイル） 己の有に歸すること。〔白居易、聞二新蟬一贈二劉二十八一詩〕白髮生レ頭速、青雲入レ手遲。〔創業起居注〕此既入レ手、餘復何論。

【反レ手】308（テヲカヘス） 事の極めて易きをいふ。〔孟子、公孫丑上〕以レ齊王、由レ反レ手也。〔注〕其易若レ反レ手耳。

【拊レ手】309（テヲウツ） 手をかるくたたく。〔史記、孟嘗君傳〕孟嘗君乃拊レ手而謝レ之。

【分レ手】310（テヲワカツ） 人に別れる。〔江淹、別賦〕造分レ手而銜レ涙、咸寂莫而傷レ神。

【斂レ手】311（テヲヲサム） 手をひっこめる。てだしをしない。おそれつつしむこと。〔後漢書、鮑永傳〕貴戚宜三斂レ手以避二二鮑一。

【手丫巴】312 shou³ ya¹ pa 手の指の股。

〔手丫巴兒】312′ shou³ ya¹ pa êrh 手の指の股。

【手握レ汗】313（テニアセヲニギル） 握りしめた掌に思はず汗が出る。甚だしく危險な光景や事件の成り行きなどを見聞し、恐れあやうんで我知らず身のひきしまるやうな場合。〔投甕雜筆〕元史、憲宗召二趙璧一問曰、天下何如而治、對曰、請先誅二近侍尤不善者一、憲宗不レ悅、璧退、世祖曰、秀才汝渾身都是膽耶、我亦爲レ汝握二兩把汗一也。

【手影戲】314（シユエイギ） 燈によって手の影を白幕などに映し、色々の姿態をあらはす遊戲。影人形。〔夷堅志〕華亭縣普照寺僧惠明、嘗遇二手影戲一、有レ人請二之占頌一、卽把レ筆云、三尺生綃作二戲臺一、全憑二十指一逞二詼諧一、有二時明月燈窗下一、一笑還從二掌握一來。

【手荷物】315（テニモツ） 手に提げ得る程の荷物の意。❶身邊に携帶する荷物。❷旅行の際、出發驛で到着驛までの輸送を依賴する荷物。

【手花部】316（テキブ） 大隅國の地名。

【手古舞】317（テコマヒ） ❶祭禮等の餘興に、踊屋臺でする一種の簡略なをどり。❷祭禮に藝妓が鐵棒をひき、神輿の前驅をすること。手古舞姿を見よ。❸手足の所を失ふばかりに忙しいこと。てんてこまひ。

〔手古舞姿】317′（テコマヒスガタ） 手古舞をする藝妓のいでたちをいふ。男髷を結ひ、伊勢袴・手甲・脚絆・足袋・草鞋を着け、右肌をぬぎ、花笠を背に掛け、鐵棒を左手に突き、牡丹の花を畫いた黑骨の扇を右手に持つ。扇を煽ぎながら木遣歌を歌ひ、神輿の先驅をする。江戸時代に始まり、今に殘る。

【手細工】318（テザイク） 手でする細工。てわざ。

【手想骨】319（テサウコツ） 手の骨。〔還魂記、冥判〕筆管兒、是手想骨、脚想骨。

【手師學】320（テシヲマナビ） 北海道北見國の地名。

【手弱女】321（タワヤメ　タヲヤメ） たをやかな女。なよなよとした姿の女。しとやかな女。たをやかは、しなやかなさま・しとやかなさま。丈夫(**1－11**・・30)の對。〔古事記、上〕我所レ生之子、得二手弱女一。

【手眞似】322（テマネ） 手でまねすること。手で物事の狀をまねて、人に示すこと。

【手鏇兒】323 shou³ hsüan⁴ êrh 手を洗ふ金盥。

【手束弓】324（タツカユミ） 握りを太く卷いた弓。〔萬葉集、十九〕手束弓手に取持ちて、朝狩に、君は立たしぬ、棚倉の野に。

【手鐲錶】325 shou³ chuo² piao³ 腕時計。

【手都合】326（テツガフ） 仕事の都合。手番（テツガヒ）の轉。

【手底下】327 shou³ ti³ hsia⁴ 手許。

【手提箱】328 shou³ tʻi² hsiang¹ 手提鞄。

【手提袋】329 shou³ tʻi² tai⁴ 手袋(174)に同じ。

【手登根】330（テトクン） 琉球國の地名。

【手突矢】331（テツキヤ） 弓を用ひないで手で投げつける矢。

【手拍子】332（テビヤウシ） 歌舞に手を拍って取る拍子。〔謠曲、柏崎〕手拍子、人に囃させて、扇おっとり、鳴るは瀧の水。

【手不流】333 shou³ pu⁴ liu² 手が出ないで上衣の袖を怨む。得手勝手で人を怨む喩。賴襖袖。

【手縫兒】334 shou³ fêng⁴ êrh 指の股のすき。

【手脖子】335 shou³ po² tzŭ 手頸。

【手末調】336（タナスヱノミツギ） 古、みつぎにする布帛の類。女の手末で作つたものであるからいふ。〔古事記、中〕初令レ貢二男弓端之調、女手末之調一。

【手榴彈】337（シユリウダン　テリウダン） 兵器の名。近接した敵に投擲し、殺傷するに用ふる爆彈。

【手鎦子】338 shou³ liu² tzŭ 指輪。

【反二覆手一】339（テヲハンプクス） 手をかへす。事の甚だ容易な喩。反掌。〔漢書、陸賈傳〕卽越殺レ王降レ漢、如三反二覆手一耳。〔注〕師古曰、言二其易一。

【手握二王爵一】340（テニワウシヤクヲニギル） 擅横な臣下が王の與へるべき爵位を自由にして人を進退すること。與奪の權を擅にすること。〔後漢書、宦者傳序〕手握二王爵一、口含二天憲一。

【手揮目送】341（シユキモクソウ） 手で琴をひき、目でみ送る。今、語言又は文字の意義の雙關するものをいふ。〔嵇康、贈二秀才入レ軍詩〕目二送歸鴻一、手二揮五絃一。

【手口之澤】342（シユコウノタク） 器物についた手と口とのよごれ。〔顏氏家訓、風操〕禮經、父之遺書、母之杯圈、感二其手口之澤一、不レ忍二讀用一。

【手推脚勾】343 shou³ tʻuei¹ chiao³ kou¹ 手で推し足でひっかける。相撲の手。

【手束索餅】344（タツカ） 古の一種の食品。麥粉と米の粉とをねって繩のやうにねぢたもの。索餅（ムギナハ）の類。〔箋註倭名類聚抄、飮食部、飯餅類〕手束索餅、多都賀。

【手到病除】345 shou³ tao⁴ ping⁴ chʻu² 一度手が身體にさはると病が治る。良醫をほめることば。著レ手成レ春。

【手島堵庵】346（テジマトアン） 京都の人。名は信・喬房。字は應元。通稱は近江屋源右衞門・嘉右衞門。號は堵庵・東郭。天明六年二月九日歿す、年六十九。石田梅巖に師事し、心學者としては石門の第二世。初、京都富小路三條街の商賈。後、五樂舍を立てて教授す。著に朝倉新話・朝倉語錄・安樂問辨・爲學玉箒・爲學玉箒後編・女冥加解・學庸解・要艸・會輔・絜矩(大學傳十章解)・講義旨趣・坐談隨筆・至誠一貫之圖・洙泗緊要・商人夜話草(蓋岳先生著)・子孫繁昌記・身體柱立(周防由房著、手島先生附錄)・子弟訓(蓋岳先生著)・樞要(忠孝二字解)・前訓・大極圖說解・町人身體直し・塵とり(蓋岳先生著)・知心辨疑・徒然草解・手島先生事跡(門人有山統記)・答問雜話・東郭先生集・眠さまし・臍隱居(岡田鷺光著、手島先生附錄)・目無し用心抄・明德和贊・問爲學・理學津梁(一名、新實語教首書)・論孟解・我つゐがある。〔近代名家著述目錄〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【手鐲脚鐐】347 shou³ chuo² chiao³ liao² 手鎖足鎖。

【手提像匣】348 shou³ tʻi² hsiang⁴ hsia² 手提

寫眞機。

【手提二萬鈞一】349（テニバンキンヲヒツサグ） 手に萬斤もある重い物を提げる。〔新論、大質〕手提二萬鈞一、而後多力見焉、處レ難踐レ患、而後貞勇出焉。

【手忙脚亂】350（テイソガハシクアシミダル） 手足をめちやくちやに動かすこと。急いだり慌てたりして、めちやくちやな動作をすること。大急ぎで事をすること。又、多忙に立ちまはること。〔朱子全書、學〕至レ如レ讀レ易、亦當三遵二用程子之言一、爻繫辭自有二先後一、今亦何所二切迫一、而手忙脚亂、一至二於此一耶。〔朱子文集、答二蔡季通一書〕過二伯諫一、見レ收二公濟書一、大段手忙脚亂也。〔五燈會元〕僧問、大悲和尚如何是大悲境中人、曰、手忙脚亂。〔通俗編、身體、手忙脚亂〕楊誠齋、觀二蛛絲一詩、忽有三一蚊觸二蛛網一、手忙脚亂便星奔。

【手不レ釋レ卷】351（テクワンヲステズ） 書卷を手から離さない。學問を勤めて倦まないこと。〔吳志、呂蒙傳、注〕江表傳曰、光武當二兵馬之務一、手不レ釋レ卷、孟德亦自謂、老而好レ學、卿何獨不二自勉勗一耶。〔通俗編、文學、手不レ釋レ卷〕華陽博議、馬懷素・呂思禮・于休烈・李磎、仕宦不レ釋レ卷、劉昺・魯肅・崔林・辛術、軍旅不レ釋レ卷、劉寶・王起・趙逸・崔元翰、耄耋不レ釋レ卷、司馬光童穉不レ釋レ卷、裴皞亂離不レ釋レ卷、皇甫謐・裴漢、疾病不レ釋レ卷。

【手拉手兒】352 shou³ la¹ shou³ êrh 手に手を引いて互に相助けること。

【以レ手加レ額】353（テヲモツテヒタヒニクハフ） 喜び望むさま。擧レ手加レ額(357)に同じ。〔宋史、司馬光傳〕居二洛陽一十五年、天下以爲二眞宰相一、田夫野老、皆號爲二司馬相公一、云云、赴レ闕、衞士望見、皆以レ手加レ額曰、此司馬相公也、所レ至民、遮レ路聚觀、馬至不レ得レ行、曰、公無レ歸レ洛、留相二天子一、活二百姓一。

【搖レ手觸レ禁】354（テヲウゴカセバキンニフル） 手を動かせば法令に抵觸する。ちよつと動作をすると、それが一々禁令を犯すことになる。法令の煩苛な喩。〔漢書、食貨志下〕民搖レ手觸レ禁、不レ得二耕桑一、繇役煩劇。

【加二手其頸一】355（テヲソノクビニクハフ） 手を頸にあてる。困つた樣子をいふ。〔岡鹿門、尊攘記事補遺〕貞吉加二手其頸一。

【擧レ手可レ采】356（テヲアグレバトルベシ） 手をあげさへすれば取ることができる。事の甚だ容易なこと。〔蜀志、許慈傳〕皆指レ掌畫レ地、擧レ手可レ采。

【擧レ手加レ額】357（テヲアゲテヒタヒニクハフ） 兩手を組んでひたひにつける。喜悅の心を表はす禮。〔六部成語、擧レ手加レ額、注解〕拱レ手與レ額相齊、乃古人喜悅之禮、今空有二其說一無下行二此禮一者上。

【擧レ手叩レ額】358（テヲアゲテヒタヒヲタタク） 手を擧げひたひに置く。謝禮の心を表現する形式の一。〔慈恩傳〕仍請二說法一、法師因誨以三十善、愛二養物命一及二波羅密多解脫之業一、乃擧レ手叩レ額、歡喜信受。

【炙レ手可レ熱】359（テヲアブレバネツスベシ） 手をそれにかざしてあぶればやけどをする。權勢が甚だ盛で近より難いことの喩。〔唐書、崔鉉傳〕鉉、字台碩、宣宗初、進二尚書左僕射一、鉉所レ善者、鄭魯・楊紹復・段瓌・薛蒙、頗參二議論一、時語曰、鄭・楊・段・薛、炙レ手可レ熱、欲レ得二命通一、魯・紹・瓌・蒙。〔杜甫、麗人行〕炙レ手可レ熱勢絕倫、愼莫二近前一丞相嗔。〔書言故事、身體說類〕權貴勢焰、炙レ手可レ熱。

【垂レ手過レ膝】360（テヲタルレバヒザヲスグ） 兩手を下に垂れると膝よりも下までゆく。手が長いことをいひ、一種の異相である。〔蜀志、先主劉備傳〕先主身長七尺五寸、垂レ手下レ膝、顧自見二其耳一。〔晉書、劉曜載記〕曜身長九尺三寸、垂レ手過レ膝、生而眉白、目有二赤光一、鬚髯不レ過二百餘根一、而皆長五尺。〔周書、文帝紀上〕身長八尺、云云、垂レ手過レ膝。〔五代史、南漢世家〕(劉龑)身長七尺、垂レ手過レ膝。

【洗レ手奉レ職】361（テヲアラツテシヨクヲホウズ） 私曲を行ふことなく職に務めること。公事に關して淸廉潔白なことをいふ。〔韓愈、中散大夫少府監胡良公墓神道碑〕薦レ公爲二監察御史一、主三饋二給渭橋以東軍一、洗レ手奉レ職、不下以二一錢一假上人。

【得レ手應レ心】362（テニエテココロニオウズ） 事物の調子・具合などの良否を、手の動かし具合や手ざわりなどの感じで知り、それが滿足すべき狀態か否かを心で判斷する意。口では說明できないが體驗によつて養はれた勘を以て知ること。〔莊子、天道〕斲レ輪徐則甘而不レ固、疾則苦而不レ入、不レ徐不レ疾、得二之於手一、而應二於心一、口不レ能レ言、有レ數存三焉於二其閒一。

【捧レ手不レ拜】363（テヲササゲテハイセズ） 手を捧げたのみで拜禮を行はぬ。傲慢なこと。〔魏書、穆紹傳〕爾朱榮遣レ人徵レ之、紹以爲、必死、哭辭二家廟一、及三往見二榮於邙山一、捧レ手不レ拜、榮亦矯レ意禮レ之。

【手使的東西】364 shou² shih³ tê tung¹ hsi 手廻りの道具。手荷物。

【手持不沙汰】365（テモチブサタ） 爲すべき事がなくてつれづれなこと。爲すべき事がなく、間のわるいこと。〔凱陣八島、四〕面目なさうに判官は、むづむづと起直り、しをしをとしておはせしは、手持無沙汰に見えにけり。

【擧レ手捫二星辰一】366（テヲアグレバセイシンヲナデン） 手を伸べれば星に屆くかと思はれる。居る所の高い喩。捫は、撫で持つ・さぐる・ひねる。〔侯鯖錄〕黃梅縣峰頂寺、李白題レ詩云、夜宿峰頂寺、擧レ手捫二星辰一、不二敢高聲語一、恐驚二天上人一。

【伸レ手不レ見レ掌】367（テヲノバスモタナゴコロヲミズ） 手を伸べても自分の掌紋すら見えない。眞暗闇。〔通俗編、身體、伸レ手不レ見レ掌〕五燈會元、僧問二金山穎一、如何是和尚家風、曰、伸レ手不レ見レ掌。

【持レ手而食者】368（テヲタノミテシヨクスルモノ） 農工の如く自己の勞働によつて生活する者をいふ。〔荀子、禮論〕持レ手而食者、不レ得レ立二宗廟一。〔注〕持二其手一而食、謂二農工食一レ力也。〔增注〕今按、持當レ作レ恃。

【翻レ手作レ雲覆レ手雨】369（テヲヒルガヘセバクモトナリテヲクツガヘセバアメトナル） 掌を仰向ければ雲となり、掌を下向ければ雨となる。雲雨の如く須臾にして變る意で、人情の輕薄で反覆常無い喩。〔杜甫、貧交行〕翻レ手作レ雲覆レ手雨、紛紛輕薄何須レ數、君不レ見管鮑貧時交、此道今人棄如レ土。

【不レ知二手之舞足之蹈一】370（テノマヒアシノフムヲシラズ） 手が舞ひ足が蹈み踊るのを本人が自覺しない。喜びの餘り覺えず小をどりをすること。〔詩、周南、關雎序〕永二歌之一不レ足、不レ知二手之舞レ之、足之蹈一レ之也。〔禮、樂記〕歌之爲レ言也、長二言之一也、說レ之故言レ之、言レ之不レ足、故長二言之一、長二言之一不レ足、故嗟二嘆之一、嗟二歎之一不レ足、故不レ知二手之舞レ之、足之蹈一レ之也。〔孟子、離婁上〕不レ知二足之蹈レ之、手之舞一レ之。

【才】11769

🈩サイ ザイ 〔集韻〕牆來切 ㄘㄞˊ ts'ai² 灰

🈔サイ 〔集韻〕作代切 隊

小篆

🈩㊀**め**。めばえ。〔說文〕才、艸木之初也、從二丨上貫一レ一、將レ生二枝葉一也、一、地也。〔段注〕一、謂二上畫一、將レ生二枝葉一、謂二下畫一。㊁**もと**。**又、基本**。**はじめ**。はじめて。〔說文通訓定聲〕才、引申爲二本始之義一。〔正字通〕才、天地人爲二三才一。〔後漢書、張衡傳〕三才理通。〔注〕三才、天地人。〔後漢書、馬融傳〕五才之用。〔注〕五才、金木水火土也。〔晉書、夏侯湛傳〕才生レ魄。㊂**たち**。先天的に有する素質・能力。天賦。稟性。〔集韻〕才、一曰、能也、質也。〔說文通訓定聲〕才、凡才能字、當レ作レ材、材質字、當レ作レ才。〔孟子、告子上〕爲二不善一、非二才之罪一也。㊃**はたらき**。うでまへ。ちから。力量。伎倆。智慧。〔詩、魯頌、駉〕思二馬斯才一。〔傳〕才、多材也。〔論語、子罕〕既竭二吾才一。〔皇疏〕才、才力也〔淮南子、主術訓〕任二人之才一。〔注〕才、智也。〔孔子家語、弟子解〕宰予有二口才一。㊄**才能のある人**。すぐれた人。〔禮、文王世子〕取レ賢斂レ才焉。〔孟子、離婁下〕才也養二不才一。〔注〕才、謂下人之有二俊才一者上。〔列子、仲尼〕東里多レ才。〔釋文〕才、有二治能一而參二國政一者。〔白居易、琵琶行序〕嘗學二琵琶於穆曹二善才一。㊅**わづか**。わづかに。纔(8−28070)に通ず。又、通じて財(10−36664)に作る。〔說文通訓定聲〕才、引申爲二僅暫之義一。〔正字通〕才、與レ纔通。〔漢書、李廣利傳〕士財有二數千一。〔注〕師古曰、財、與レ才同。〔晉書、謝混傳〕才小富貴、便豫二人家事一。㊆**はかる**。はかり定める。裁(10−

34258）に通ず。〔正字通〕才、與レ裁通。〔戰國、趙策〕今有二城市之邑七十一、願拜二納之於王一、惟王才レ之。❽淸の制度に於て、人物を擧用する時の標準、四格の一。〔淸會典、吏部〕凡京察、堂官察二其屬之職一、而註考焉、云云、乃定以二四格一、云云、二曰、才。〔注〕有レ長、有レ平。❾通じて材（6－14463）に作る。〔集韻〕才、通作レ材。❿哉（2－3596）に通ず。〔說文、才、段注〕釋詁曰、初・哉、始也、哉、卽才、云云、凡才・材・裁・纔字、以二同音一通用。⓫姓。〔萬姓統譜〕才俊、昌黎人、宣德中任二高郵州判官一。邦❶さい。㋑ますめの稱。勺の十分の一。㋺材木の長さ。一寸角、長さ一間のもの。㋩容積の單位。一立方尺。㊁年齒をいふとき、歲のあて字として用ひる。❷ざえ。又、材の字を當てる。㋑學問。特に漢學にいふ。㋺藝能。伎能。二はじめ。〔集韻〕才、始也。

名乘 モチ。カタ。

解字 指事。亅はすすむで、草木の莖が上出することを示す。上の一は地で、下の短かい一は枝葉が生ぜんとしてまだ出ないで地下にあるを示す。故に本義は草木の初の意で、枝葉が悉くここに寓してゐる。人が生れる初にも萬善が具はつてゐるから、人の能を才といふのは、そのたくはへてゐるものをいふ。はじめ・もと・もちまへ等の意。材・財・裁・纔の字など同音通用。▽ （甲骨文）象形。川の氾濫を堰止めるせきの形に象る。

參考 熟語は材（6－14463）を併せ見よ。

【才猷】1 サイイウ　才幹があり、心の働きのすぐれてゐること。猷は、はかる・はかりごと。〔唐書、高儉竇威傳贊〕高竇雖レ緣二外戚姻家一、然自以二才猷一結二天子一。〔福惠全書、保甲部、選保甲長〕取二乎年力精健、才猷邁レ衆者一充レ之。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕技勇超優、才猷敏練者。

【才穎】2 サイエイ　才智が非常にすぐれてゐること。才捷。〔晉書、潘岳傳〕岳少以二才穎一見レ稱。

【才媛】3 サイエン　才のある女。主として學問詩文に長ずる女にいふ。閨秀。

【才翁】4 サイヲウ　字號。❶宋、黎明（12－47994‥77）の字。❷宋、王英孫（7－20823‥1184）の字。

【才江】5 サイカウ　唐、李洞（6－14459‥636）の字。

【才行】6 サイカウ　才智と品行。材行。〔荀子、王制〕才行反レ時者、死無レ赦。〔後漢書、列女傳序〕才行尤高秀者、不三必專在二一操一而已。

【才高】7 サイカウ　才智がすぐれてゐること。〔論衡、案書〕讖書云、董仲舒亂二我書一、蓋孔子言也、讀レ之者、或爲、亂二我書一者、煩二亂孔子之書一也、或以爲、亂者、理也、理二孔子之書一也、云云、夫言三煩二亂孔子之書一、才高之語也、其言レ理二孔子之書一、亦知レ奇之言也。

〖才高意廣〗8 サイタカケレバイヒロシ　才智がすぐれてゐると、考へ欲する所が廣大である。〔唐音癸籤〕太白非二從レ人爲レ亂者一、云云、大抵才高意廣、如二孔北海之徒一。

〖才高八斗〗9 ts'ai² kao¹ pa⁴ tou³ 大才をいふ。大能。

【才客】10 サイカク　❶才能のある人。〔盧照鄰、秋霖賦〕東國儒生、西都才客。❷酴醾（11－39867‥4）の異名。にごり酒。〔西溪叢語〕酴醾爲二才客一。

【才格】11 サイカク　才能の程度。又、すぐれた才能。〔杜甫、壯遊詩〕吾觀鴟夷子、才格出二尋常一。〔石介、三豪詩〕才格自レ天來、詞華非二學能一。

【才覺】12 サイカク　❶學力。〔神皇正統記、後醍醐天皇〕和漢の才覺の足らぬにぞありけむ。❷才の働き。氣轉。〔七十一番歌合〕二首ながら鯉をよめる、才覺なきに似たり。❸工夫すること。工夫。くめん。計畫。算段。かんがへ。〔狂言記、鱸包丁〕方方さいかく致して、淀一番の鯉を求めまして。

〖才覺者〗13 サイカクシヤ　氣轉のきく人。

【才學】14 サイガク　才氣と學問。〔後漢書、應奉傳〕皆有二才學一。〔後漢書、王充傳〕謝夷吾上書、薦二充才學一。〔應璩、百一詩〕用レ等稱二才學一。「よ。

〖才學識〗15 サイガクシキ　才と學と識。才學識三長を見

〖才學識三長〗16 サイガクシキノサンチヤウ　才氣・學問・見識の三つに秀れてゐること。立派な歷史を書くには、此れが必要であるといはれる。〔唐書、劉知幾傳〕禮部尙書鄭惟忠嘗問、自レ古文士多、史才少何耶、對曰、史有二三長一、才學識、世罕レ兼レ之、故史者少。

【才幹】17 サイカン　はたらき。うでまへ。能力。材幹。〔後漢書、公孫述傳〕程烏・李育、以レ有二才幹一皆擢二用之一。〔蜀志、李嚴傳〕以二才幹一稱。〔顏氏家訓、涉務〕江南冠帶有二才幹一者、擢爲二令僕以下一。

〖才幹之士〗18 サイカンノシ　才能があつて大事に堪へる人。〔韓愈、送三水陸運使韓侍御歸二治所一序〕宜下選二才幹之士一往換上レ之。

【才氣】19 サイキ　すぐれたはたらき。才智。又、才知の現はれるやうす。〔史記、項羽紀〕籍長八尺、力能扛レ鼎、才氣過レ人。〔吳志、濮陽典傳評〕諸葛恪才氣幹略、邦人所レ稱。

【才器】20 サイキ　才智と器量。又、才智のある人。材器。〔後漢書、郭鎭傳〕子峻太傅、以二才器一稱。〔魏書、祖瑩傳〕此子才器、非二諸生所一レ及。〔晉書、華譚傳〕周浚引爲二從事一、愛二其才器一。

【才技】21 サイギ　才智と技量。はたらき。うでまへ。才藝。材技。才伎。〔阮籍、獼猴賦〕多二才伎一其爲レ何、固受レ垢而貌侵。

〖才技長上〗22 サイギチヤウジヤウ　才能技量のあるものが、官職役義を非番なしにつとめること。長とは、とこしなへと訓じて、常住のこと。上とは、番にあがることで、直の字と同意。長上（11－41100‥393）の❷を見よ。〔伊藤長胤、制度通、才技長上事〕。

【才義】23 サイギ　才と義。才能のあるものと行の正しいもの。〔任昉、王文憲集序〕宏覽二載籍一、博游二才義一。

【才具】24 サイグ　才能と器量。能力技量。才器。〔魏志、明帝紀、注〕世語曰、云云、（劉）曄曰、秦始皇・漢孝武之儔、才具微不レ及耳。〔晉書、張華傳〕鍾會才具有レ限、而太祖誇獎太過。

【才華】25 サイクワ　はなやかに外にあらはれた才智をいふ。又、すぐれた才智。〔顏氏家訓、文章〕自レ昔天子而有二才華一者。〔江淹、知己賦〕旣含二道潤一、亦發二才華一。〔張說、五君詠〕李公實神敏、才華乃天授。〔白居易、和二新樓北園一、云云、鄭侍御判官・周劉二從事皆先歸一詩〕主人旣賢豪、賓客皆才華也。

【才寬】27 サイクワン　明、遷安の人。字は汝栗。諡は襄愍。成化の進士。官は工部尙書。陝西三邊の軍務を總制し、寇を擊つて死す。〔萬斯同明史、二百五十二〕・〔明史稿、一百七十二〕・〔國朝獻徵錄、五十七〕・〔本朝分省人物攷、三〕。

【才觀】28 サイクワン　才華（25）に同じ。〔魏志、劉曄傳〕〔蜀將孟〕達有二容止才觀一、文帝甚器二愛之一。

【才卿】29 サイケイ　字號。❶宋、高士林（12－45313‥1181）の字。❷宋、陳文蔚（11－41698‥1229）の字。❸金、龐鑄（12－48824‥23）の字。❹元、劉肅（2－2224‥359）の字。❺明、龍遇奇（12－48818‥665）の字。

【才慧】30 サイケイ　才能と智慧。才智。又、才があつてかしこい。〔新論、崇學〕人能務レ學、鑽二練其性一、則才慧發矣。〔晉書、列女、段豐妻慕容氏傳〕段豐妻慕容氏、德之女也、有二才慧一、善二書史一、能二鼓琴一。

【才埶】31 サイゲイ　才智と技藝。才藝。材藝。〔後漢書、趙岐傳〕岐少明レ經、有二才埶一。〔後漢書、列女、陰瑜妻傳〕聰敏有二才埶一。「滋殖、才藝多方。

【才藝】32 サイゲイ　才埶に同じ。〔列子、周穆王〕萬物

〖才藝卓絕〗33 サイゲイタクゼツ　才藝がすぐれてゐる。〔新論、思順〕人雖二才藝卓絕一、不レ能二悖レ理成一レ行、逆二人道一也。

【才傑】34 サイケツ　才智のすぐれた人。俊傑。英傑。人傑。〔高適、觀二陳十六史興碑一詩〕此地多二精靈一、有レ時生二才傑一。〔杜甫、上三韋左相一詩〕才傑俱登用、愚蒙但隱淪。

【才業】35 サイゲフ　才智と學業。〔蘇軾、贈二同年王中甫一詩〕如レ君才業眞堪レ用、顧我衰遲不レ足レ論。

【才賢】36 サイケン　才智ある賢者。才彥。〔史記、日者傳〕才賢不レ爲、是不忠也。〔袁淑、傚二曹子建樂府白馬篇一〕八方湊二才賢一。

【才元】37 サイゲン　宋、李大臨（6－14459‥1667）の字。

【才彥】38 サイゲン　❶才の秀でた者。〔北史、魏獻文六王、魏彭城王勰傳〕好レ儒學レ禮致二才彥一。〔沈約、奉二和竟陵王郡縣名一詩〕西都富二軒冕一、南宮溢二才彥一。❷宋、張卲（4－9812‥467）の字。

【才悟】39 サイゴ　才があつて物わかりのよいこと。〔南史、謝靈運傳〕阿連才悟如レ此。

【才語】40 サイゴ　普通の言ひ方をせず、相手に才智を以て判斷させるやうな言ひ方で表現した語。學識を引用して無學者に分らないやうな言ひ方をした語。〔南史、彭城王義康傳〕袁淑嘗詣二義康一、義康問二其年一、答曰、鄧仲華拜レ袞之歲、義康曰、身不レ識也、淑又曰、陸機入レ洛之年、義康曰、身不レ讀レ書、君無レ爲下作二才語一見向上。

【才藻】41 サイサウ　才智と文藻。詩歌・文章の思想の豐かなこと。〔魏志、阮籍傳〕才藻豔逸。〔宋書、王誕傳〕少有二才藻一。

〖才藻富贍〗42 サイサウフセン　詩歌・文章の才能のゆたかなこと。巧に文章を作ること。〔北史、魏孝文帝紀〕帝、云云、才藻富贍、好爲二文章一。

【才藏】43 サイザウ　❶正月に萬歲の太夫の連レツを勸める男をいふ。太夫の歌につれて小鼓を打ちながら滑稽な技を演ずる。〔俚言集覽、才藏〕萬歲の伴を云ふ、又、轉じて、人のあどうつを才藏と云ふ。❷人の言葉に調子を合せて相槌をうつ者を卑しめていふ。❶を見よ。

【才策】44 サイサク　才智と策略。〔魏志、劉放傳評〕才策謀略。

【才士】45 サイシ　才智のある人。才學の士。はたらきのある人。材士。〔莊子、盜跖〕今先生世之才士也。〔後漢書、馮衍傳論〕才士負レ能而遺レ行。〔陸機、文賦序〕余每觀二才士之所一レ作。〔顏氏家訓、勉學〕有二一才士一。

【才子】46 サイシ　❶はたらきのある人。知能のすぐれた人。才士。才物。〔左氏、文、十八〕昔高陽氏、有二才子八人一、云云、天下之民、謂二之八愷一、高辛氏有二才子八人一、云云、天下之民、謂二之八元一。〔後漢書、楊震傳贊〕脩雖二才子一、渝二我淳則一。〔潘岳、西征賦〕賈生洛陽之才子。〔唐書、元稹傳〕宮中呼爲二元才子一。❷金聖嘆が批評を加へた才子書にならつて後人が擇んだ十種の小說。（一才子）三國志・（二才子）鐵中王・（三才子）繡毬花・（四才子）平山冷燕・（五才子）水滸傳、（六才子）西廂記・（七才子）琵琶記・（八才子）・（九才子）・（十才子）鍾馗傳。❸氣がきいて拔け目のない人。じよさいの無い人。

〖才子書〗46′ サイシシヨ　離騷・南華・史記・杜詩・西廂記・水滸傳をいふ。〔廖燕、金聖歎先生傳〕所レ評離騷・南華・史記・杜詩・西廂・水滸、以二次序一定爲二六才子書一、俱出二手眼一。

【才思】47 サイシ　才智のすぐれたかんがへ。又、才智と心ばえ。才情。〔南史、褚裕之傳〕仲寶少孤貧、篤志好レ學、有二才思一。

【才秀】48 サイシウ　才智がひいでてゐること。〔吳志、吳主孫權傳〕雖二各才秀明達一、然皆祿祚不レ終。〔晉書、張天錫傳〕觀二朝榮一、則敬二才秀之士一。

【才識】49 サイシキ　才智と識見。〔宋史、劉摯傳〕摯曰、人才難レ得、能否不レ一、性忠實而才識有レ餘、上也、才識不レ逮而忠實有レ餘、次也。

【才質】50 サイシツ　天禀の才能。もちまへ。うまれつき。材質。〔晉書、賈充傳〕充女才質令淑。

【才將】51 サイシヤウ　才智に富む大將。〔唐書、朱宣傳〕全忠之攻レ宣、凡十興レ師、四敗績、宣才將、皆盡。

【才章】52 サイシヤウ　すぐれた才智。才華。章は、あや、うつくしい意。〔後漢書、仲長統傳〕友人東海繆襲、常稱二統才章、足レ繼二西京董・賈・劉・楊一。

【才情】53 サイジヨウ　才思(47)に同じ。〔世說新語、賞譽〕許玄度送レ母始出レ都、人問二劉尹一、玄度定稱レ所レ聞不、劉曰、才情過二於所一レ聞。

【才取】54 サイトリ　賣買の周旋をして口錢を取ること。又、其の人。牙儈。牙保。牙儈取（スアヒトリ）の約といふ。

【才叔】55 サイシユク　字號。❶宋、張庭堅(**4**－**9812**‥1390)の字。❷宋、王廣淵(**7**－**20823**‥1353)の字。❸元、李守賢(**6**－**14459**‥1414)の字。❹清、管樂(**8**－**26162**‥17)の字。

【才淑】56 サイシユク　才智があり、且つ心身の美しいこと。又、其の人。〔晉書、王璿傳〕刺史燕國徐邈有レ女、才淑、擇レ夫未レ嫁。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕進思二才淑一、傍綜二圖史一。

【才術】57 サイジユツ　はたらきとわざ。才智と學藝。〔後漢書、班固傳〕固自以二二世才術一、位不レ過レ郎。

【才俊】58 サイシユン　才智のすぐれた人。才雋。〔杜牧、烏江亭詩〕江東子弟多二才俊一、卷土重來未レ可レ知。

【才雋】59 サイシユン　才智が衆人にすぐれる。又、其の人。才俊。〔晉書、嵇康傳〕君性烈而才雋、其能免乎。

【才色】60 サイシヨク　すぐれた才と美くしい容貌。〔後漢書、皇后下、閻皇后紀〕后有二才色一。〔晉書、阮籍傳〕兵家女有二才色一、未レ嫁而死。

【才臣】61 サイシン　才能のある臣。材臣。〔韓非子、十過〕張孟談曰、夫董閼于、簡主之才臣也。〔韓愈、唐故江西觀察使韋公墓誌銘〕遂號爲二才臣一。

【才人】62 サイジン　❶才のある人。才子。材人(**6**－**14463**‥22)の❶に同じ。❷漢代の女官の名。又、晉の武帝の時以後、宋・金に至る迄之を置く。〔史記、淮南厲王長傳〕令二故美人・才人得レ幸者十人從居一。〔漢書、翼奉傳〕臣又聞、未央・建章・甘泉宮才人、各以レ百數、皆不レ得二天性一。〔事物紀原、嬪御命婦部、才人〕南史曰、晉武帝采二漢魏之制一、三夫人外有二才人一、又云、晉武所レ置、而通典內命職、漢有二才人一、則疑漢置。

【才盡】63 サイジン　才能が衰へ盡きる。江淹が若くして文學の譽があつたが、晚年に及び才思が微退して佳句の無かつたことから、世人が江淹を才盡とよんだ故事。江淹(**6**－**17140**‥26)を見よ。

【才數】64 サイスウ　才智とはかりごと。才略。〔魏志、鍾會傳〕及レ壯、有二才數技藝一、而博學精二練名理一。

【才性】65 サイセイ　❶才能と生れつきの素質・性質。材性。〔荀子、脩身〕彼人之才性之相懸也、豈若三跛鼈與二六驥一足一哉。❷こころばえ。性質。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕可二知道一引二導俺鶯鶯一、據二相貌一憑二才性一。

【才勢】66 サイセイ　才能と權勢。〔唐書、封倫傳〕(楊)素負二才勢一、多レ所レ淩レ籍。

【才劭】67 サイセウ　才智がすぐれてゐる。劭は美。才多(72)を見よ。

【才絕】68 サイゼツ　才智の甚だすぐれてゐること。〔晉書、顧愷之傳〕俗傳、愷之有二三絕一、才絕・畫絕・癡絕。

【才捷】69 サイセフ　才智がすぐれてゐる。捷は、さとい・すばやい。〔蜀志、法正傳〕妹才捷剛猛、有二諸兄之風一。

【才譾】70 サイセン　才が劣つてゐる。才劣。譾は淺の意。〔史記、李斯傳〕能薄而才譾。〔注〕索隱曰、劉氏、音將淺反、則譾亦淺義。

【才全】71 サイゼン　才が完全である。才の十分なこと。〔莊子、德充符〕是必才全、而德不レ形者也。

【才多】72 サイタ　才能が勝れてゐる。はたらきのあること。〔淮南王安、離騷敍〕智彌盛者其言博、才益多者其識遠。〔注〕多、一作レ劭。

【才濤】73 サイタウ　才能が波濤のやうである。すぐれた才能をいふ。〔福惠全書、稟啓附、候二川撫劉公一〕撑レ霄品岳、撼レ海才濤。

【才短】74 サイタン　才能が足らない。はたらきがにぶい。ちゑが少い。〔世說新語、識鑒〕伯仁爲レ人、志大而才短、名重而識闇、好乘二人之弊一、此非二自全之道一。〔韓愈、示レ爽詩〕才短難二自力一、懼終莫二洗湔一。

【才地】75 サイチ　才能と地位。才智といへがら。〔晉書、王恭傳〕少有二美譽一、清操過レ人、自負二才地高華一、恆有二宰輔之望一。〔晉書、鄭默傳〕默寬沖博愛、謙虛溫謹、不下以二才地一矜上物。

【才智】76 サイチ　才氣と智慧。心のはたらき。善く物ごとに處する力。材智。〔漢書、匡衡傳〕匡衡材智有レ餘。〔後漢書、傅燮傳〕汝有二才智一、勉レ之。

【才仲】77 サイチユウ　字號。❶宋、任誼(**1**－**416**‥40)の字。❷宋、趙相(**10**－**37171**‥200)の字。❸宋、王行之(**7**－**20823**‥1254)の字。❹宋、王世英(**7**－**20823**‥1750)の字。

【才女】78 サイヂヨ　才智のすぐれた婦人。

【才槌】79 サイヅチ　木で造つた小さい槌。さいこづち。木椎。柊楑。

〖才槌頭〗80 サイヅチアタマ　前頭と後頭とが突出て奧行の長い頭。形が才槌に似てゐるからいふ。

【才調】81 サイテウ　才智の調子。才智の程度。〔晉書、王接傳論〕王接才調秀出、見レ賞二知音一。〔隋書、許善心傳〕陵大奇レ之、謂レ人曰、才調極高、此神童也。〔李商隱、賈生詩〕宣室求レ賢訪二逐臣一、賈生才調更無レ倫。

〖才調集〗82 サイテウシフ　書名。十卷。五代蜀、韋縠編。每卷一百首づつ、古律・雜歌詩、凡て一千首を載せてゐる。獨り杜甫の詩がないのは、高古な杜詩が此の書の體例と合はないからである。〔四庫提要、集、總集類〕・〔四部叢刊、一九三一―二冊〕。〖參考書〗【才調集補注】十卷　清、殷元勳箋、宋邦綏補。

【才哲】83 サイテツ　ちゑが有つて事理にあかるいこと。〔白居易、再授二賓客分司一詩〕伊予再塵忝、內愧

非二才哲一。

【才度】84 サイド　はたらき。きりやう。才能度量。〔魏志、曹休傳〕(子)肇有二當世才度一。

【才童】85 サイドウ　才智のすぐれた童子。〔三輔決錄〕扶風朱勃、年十二、時號二才童一。

【才德】86 サイトク　才智と德行。材德。〔列子、力命〕不レ過レ言二才德之差一。〔儲光羲、陸著作挽歌詩〕英英有二君子一、才德滿二中州一。〔資治通鑑、周紀〕(威烈王、二十三年)才德全盡謂二之聖人一、才德兼亡謂二之愚人一。

【才難】87 サイナン　❶人材は得難い。〔論語、泰伯〕孔子曰、才難、不二其然一乎、唐虞之際、於レ斯爲レ盛、有二婦人一焉、九人而已。〔集解〕孔安國曰、人才難レ得、豈不レ然乎。〔劉寶楠正義〕才難者、古語、廣雅釋詁、才、道也、古之所謂才、皆言二人有レ德能治レ事者一也、云云、後之論者、離レ德而言レ才、固非、卽以二有德一爲二有才一、亦非也。❷才智を有することがむつかしい。〔蘇軾、賈誼論〕非二才之難一、所二以自用一者實難、惜乎、賈生王者之佐、而不レ能レ用二其才一也。

【才能】88 サイノウ　才智と能力。思慮の才と運用の力。材能。〔管子、八觀〕權重之人、不レ論二才能一、而得二尊位一。〔史記、佞幸傳〕此兩人非レ有二才能一、徒以二婉佞一貴幸。〔後漢書、班固傳上〕達學洽聞、才能絕レ倫。〔魏志、杜恕傳〕樂安・廉昭以二才能一拔擢、頗好レ言レ事。〔孔子家語、王言解〕選二才能一。

【才倍】89 サイバイ　才智が常人に倍する。〔白居易、策林三十、審官〕才雖レ倍、無レ益二於理一矣。

【才望】90 サイバウ　才能と人望。〔晉書、陸機傳〕負二其才望一、志レ匡二世難一。

〔才望高雅〕91 サイバウカウガ　才望が高くみやびやかなこと。〔舊唐書、陸象先傳〕陸景初、才望高雅、非二常流所一レ及。

【才貌】92 サイバウ　才能と容貌。〔後漢書、竇章傳〕章女年十二、能屬レ文、以二才貌一選入二掖庭一。

【才髦】93 サイバウ　才の秀でた者。〔白孔六帖〕李季卿在レ朝、薦二進才髦一。

【才伯】94 サイハク　明、黃佐(**12**―**47926**・・390)の字。

【才伐】95 サイバツ　才能と門閥。伐は閥。〔北史、文苑、王胄傳〕從二征遼東一、進授二朝散大夫一、胄性疏率不レ倫、自恃二才伐一、鬱二鬱於官一、每負レ氣陵傲、忽二略時人一、爲二諸葛穎所一レ嫉、屢譖二之於帝一、帝愛二其才一而不レ罪。

【才美】96 サイビ　❶才能の美しさ。〔論語、泰伯〕如有二周公之才之美一、使二驕且吝一、其餘不レ足レ觀也已矣。❷字號。㋑宋、戴之邵(**5**―**11685**・・177)の字。㋺金、趙楠(**10**―**37171**・・303)の字。

【才筆】97 サイヒツ　詩文を作る秀れた才能。文才。又、秀れた文章。〔南史、謝朓傳〕朓好レ獎二人才一、會稽孔顗粗有二才筆一、未レ爲二時知一、孔珪嘗令下草二讓表一以示上レ朓、朓嗟吟良久、手自折レ簡寫レ之、謂レ珪曰、此子聲名未レ立、應二共獎成一、無レ惜二齒牙餘論一、其好レ善如レ此。〔北史、裴延儁傳〕延儁少孤、事二後母一以レ孝聞、涉二獵墳史一、頗有二才筆一。

【才品】98 サイヒン　才能と品性。才氣と氣品。〔福惠全書、筮仕部、拜レ客宴會〕不三特藉二申欵接一、亦使二之得一レ瞻二才品一。

【才敏】99 サイビン　才智があつてさとい。〔蜀志、諸葛亮傳〕蜀人追二思亮一、咸愛二其才敏一。

【才物】99′ サイブツ　才能のある人物。才智のある人。才子。

【才分】100 サイブン　才智あるうまれつき。又、天賦の才能。〔魏志、楊俊傳〕俊雖三竝論二文帝・臨菑才分所一レ長、不二適有一レ所二據當一、然稱二臨菑猶美一、文帝常以恨レ之。

【才辯】101 サイベン　才氣とたくみな辯口。〔後漢書、文苑下、禰衡傳〕少有二才辯一、而氣尙二剛傲一、好レ矯レ時慢レ物。〔蜀志、伊籍傳〕吳孫權聞二其才辯一。

【才甫】102 サイホ　字號。❶宋、梁子美(**6**―**14825**・・258)の字。❷金、張中彥(**4**―**9812**・・1355)の字。❸清、劉大櫆(**2**―**2224**・・1158)の字。

【才民】103 サイミン　兵卒をいふ。太平御覽には士民に作る。〔呂覽、論威〕故古之至兵、才民未レ合、而威已諭矣、敵已服矣。

【才名】104 サイメイ　才能があるといふ評判。〔魏志、賈詡傳〕植才名方盛、各有二黨與一。〔隋書、薛道衡傳〕才名益著。〔杜甫、戲簡二鄭廣文一兼呈二蘇司業一詩〕才名三十年、坐客寒無レ氈。

【才明】105 サイメイ　才智の明敏なこと。〔後漢書、皇后下、何皇后紀〕王美人、云云、聰敏有二才明一。

【才茂】106 サイモ　才智が多い。才智が秀れてゐる。〔論衡、效力〕不レ知二萬牒之人、胷中之才茂一、迷惑者也。

【才勇】107 サイユウ　才智と勇氣。才情と勇力。〔王粲、鸚賦〕惟茲鸚之爲レ鳥、信才勇而勁武。〔孔稚圭、爲二王敬則一讓二司空一表〕故李通豪贍、以二親寵一登レ司、王基才勇、與二聲華一入レ選。〔六部成語、兵部、才勇兼優、注解〕才情勇力、二者皆有レ餘。

【才雄】108 サイユウ　才氣のすぐれた者。〔後漢書、竇融傳〕悃悃安豐、亦稱二才雄一。

【才老】109 サイラウ　宋、吳棫(**2**―**3365**・・394)の字。

【才郎】110 サイラウ　❶をつと。夫。〔琵琶記、南浦囑別〕聞道、才郎遊二上苑一、又添二離別歎一。❷tʻsai^2 lang^2

【才理】111 サイリ　才智があり道理に通ずること。〔吳志、王蕃・樓玄・賀邵・韋曜・華覈傳評〕樓玄淸白節操、才理條暢。

【才流】112 サイリウ　才智が水の流れるやうにとどこほることなく働くこと。又、才智ある者の仲間。才智のある人。〔晉書、謝萬傳〕謝萬才流經通、處二廊廟一參二諷議一、故是後來一器、而今屈二其邁往之義一、以俯順二荒餘一。〔北史、劉懋傳論〕懋才流識學、見レ重二于世一。

【才良】113 サイリヤウ　才智がすぐれてゐる。〔千字文〕男「效才良。

【才量】114 サイリヤウ　才智と度量。〔晉書、忠義、辛恭靖傳〕少有二器幹一、才量過レ人。〔金史、忠義三、姬汝作傳〕平日以二才量一稱。

【才略】115 サイリヤク　才智があつてよくはかりごとを立てること。材略。〔後漢書、臧洪傳〕臧洪海內奇士、才略智數、不レ比二於超一矣。〔後漢書、鄭太傳〕少有二才略一。〔晉書、明帝紀〕性至孝、有二文武才略一、欽レ賢愛レ客、雅好二文辭一。〔人物志、流業〕膽力絕レ衆、材略過レ人、是謂二驍雄一。

〔才略卓拔〕116 サイリヤクタクバツ　才略がぬけでてすぐれてゐる。卓絕。〔林鶴梁、東湖遺稿序〕學識高邁、才略卓拔。

【才力】117 サイリヨク　才智と力量。又、思慮のはたらきの運用。材力。〔曹植、求二自試一表〕志或鬱結、欲レ逞二才力一。〔晉書、長沙王乂傳〕乂身長七尺五寸、開朗果斷、才力絕レ人、虛レ心下レ士。〔鮑照、蕪城賦〕才力雄富。〔白居易、和二微之一詩、和二我年一詩〕及レ遭二榮遇來一、乃覺二才力羸一。

【才劣】118 サイレツ　才能が劣つてゐる。〔潘岳、閑居賦〕退求レ己而自省、信用薄而才劣。〔李翰、三名臣論〕才優而功微、運合才劣。

【官レ才】119 サイヲクワンニス　才能のある者を官に任ずる。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕官レ才任レ賢。

【試レ才】120 サイヲココロミル　才能をためす。〔後漢書、左雄傳論〕自二左雄任一レ事、限レ年試レ才。

【得レ才】121 サイヲウ　人材を得る。〔晉書、山簡傳〕欲レ令三朝臣各擧二所一レ知、以廣二得レ才之路一、上疏曰、臣以爲、自レ古興替、實在二官人一、苟得二其才一、則無二物不一レ理。〔唐書、韋陟傳〕張九齡引爲二舍人一、與二孫逖・梁涉一竝司二書命一、時號レ得レ才。

【任レ才】122 サイニマカス　才能にまかせる。才能のあるのにまかせて。〔岡本監輔、松下聯璧〕然晉作任レ才不羈。

【才鬼記】123 サイキキ　小說の名。一卷。唐、鄭蕡撰。神鬼に關する話を輯錄し、盧充・王敬伯・長孫紹祖・劉諷・獨孤穆・崔煒・孟氏・李章武・竇玉・曾季衡・韋氏子・酒徒鮑生・錢起の十三篇に分けてゐる。〔龍威祕書、第三十一冊〕・〔晉唐小說、神怪類〕。

【才須レ學】124 サイハガクニマツ　才智は學問をまつて始めて得られるものである。〔諸葛亮、誡レ子書〕夫學須レ靜也、才須レ學也。

【才兼二文武一】125 サイブンブヲカヌ　文武の才を兼ね備へてゐること。〔後漢書、盧植傳〕選三植才兼二文武一、拜二九江太守一。〔吳志、朱據傳〕以爲、據才兼二文武一、可二以繼一レ之。

【才如二史遷一】126 サイシセンノゴトシ　才能が司馬遷のやうである。〔後漢書、孔融傳〕寃如二巷伯一、才如二史遷一。

【才疏意廣】127 サイソナルニイヒロシ　才智がおほまかでありながら、其の志が廣く大きいこと。〔後漢書、孔融傳〕融負二其高氣一、志在レ靖レ難、而才疏意廣、迄無二成功一。

【才儲八斗】128 tsʻai^2 chʻu^2 pa^4 tou^3　大才・大能の形容。

【才不勝任】129 tsʻai^2 pu^4 shêng^1 jen^4　才能が

劣つて任務にたへない。

【有ㇾ才無ㇾ命】130（サイアルモメイナシ）　才能がありながら運命にめぐまれない。〔杜甫、寄㆓狄明府博濟㆒詩〕比看伯叔四十人、有ㇾ才無ㇾ命百寮底。

【沿ㇾ才授ㇾ職】131（サイニヨツテショクヲサヅク）　才能によつて職をさづける。〔王融、永明十一年策㆓秀才㆒文〕必待㆓天爵具脩、人紀咸事㆒、然後沿ㇾ才授ㇾ職、揆ㇾ務分ㇾ司。〔注〕職、五臣作ㇾ位。

【恃ㇾ才傲ㇾ物】132（サイヲタノミテモノニオゴル）　才能のあることをたのみほこる。〔摭言〕蕭穎士恃ㇾ才傲ㇾ物、嘗攜㆓酒郊野㆒、風雨暴至、有㆓紫衣老父避㆒ㇾ雨、穎士頗肆侮、逡巡雨霽、車馬卒至、老人上ㇾ馬呵殿而去、曰、吏部王尚書也。

【露ㇾ才揚ㇾ己】133（サイヲアラハシオノレヲアグ）　自己の才能を發揮し、名前を揚げようとする。〔班固、離騷序〕屈原露ㇾ才揚ㇾ己、競㆓乎危國羣小之閒㆒、以離㆓讒賊㆒。〔楚辭、離騷章句〕論者以爲㆘露ㇾ才揚ㇾ己、怨㆗刺其上㆖、強非㆓其人㆒、殆失㆓厥中㆒矣。〔陳書、江總傳〕豈降ㇾ志而辱ㇾ身、不㆓露ㇾ才而揚ㇾ己。

【才有ㇾ餘而識不ㇾ足】134（サイアマリアレドモシキタラズ）　才智は十分あるけれども識見が足らない。〔蘇軾、賈誼論〕嗚呼、賈生志大而量小、才有ㇾ餘而識不ㇾ足也。

【扌】11770　シュ　手の別體。てへん。文字の左傍に沿つて用ひ、獨立しては用ひない。〔康熙字典、檢字〕凡从ㇾ扌者、屬㆓手部㆒。

一畫

【扎】11771　㊀サツ セチ　〔集韻〕側八切　ㄓㄚ　cha$^{1\cdot2\cdot3}$　黠　㊁アツ エチ　〔集韻〕乙黠切　黠

㊀❶**ぬく**。〔集韻〕扎、拔也。❷**音のさま**。扎扎(9)を見よ。❸**構へる**。〔水滸傳、二回〕如今山上、添㆓了一夥強盜人㆒、扎㆓下一箇山塞㆒。❹**ふだ**。札(**6－14422**)の俗字。〔玉篇〕扎、俗札字。❺紮(**8－27341**)に通ず。〔正字通〕紮、通作ㇾ扎。❻現㋑袖をまくる。㋺刺す。貫く。㋩鍼を打つ。㋩切り拔く。㋭植木を插す。又、根が付く。㊁**ぬく**。揠(**5－12363**)に同じ。〔集韻〕揠、說文、拔也、或作ㇾ扎。

【扎營】1 cha^1 ying^2　野營する。陣所を構へること。

【扎緊】2 cha^1 chin^3　しつかりとしめる。

【扎花】3 cha^1 hua^1　造花細工をする。又、模樣を刺繡する。

〖扎花兒〗4 cha^1 hua êrh　扎花に同じ。

【扎揭】5（サツケツ）　鬼神の名。〔黃香、九宮賦〕走㆓扎揭㆒而獠㆓桔梗㆒。〔注〕鬼神名。

【扎鼓】6（サツコ）　鼓の一種。元代の宴樂器。杖鼓に似て小さく、左手に持つて右手で擊つ。〔元史、禮樂志五〕扎鼓、制如㆓杖鼓㆒而小、左持而右擊ㇾ之。

【扎掙】7 cha^2 chêng　我慢する。〔紅樓夢、十一回〕今日這樣的日子、再也不肯不扎掙著上來。

【扎鎗】8 cha^1 ch'iang^1　やり。

【扎扎】9（サツサツ）　布を織る音の形容。〔白居易、新樂府、繚綾詩〕絲細繰多女手疼、扎扎千聲不ㇾ盈ㇾ尺。

【扎煞】10 cha^1 sha　突き出す。擴げる。挓抄。

【扎實】11 cha^1 shih^2　丈夫な。強い。

【扎傷】12 cha^1 shang^1　突き傷。又、突き傷ける。

【扎手】13 cha^1 shou^3　❶手を刺す。❷手に餘る。もてあます。

〖扎手舞脚〗14 cha^1 shou^2 wu^2 chiao^3　手を突き出し脚で跳る。

【扎心】15 cha^1 hsin^1　❶胸を刺しゑぐる。❷殘念な。

【扎進】16 cha^1 chin^4　刺し込む。

【扎鍼】17 cha^1 chên^1　鍼を打つ。

【扎蹭】18 cha^1 ts'êng^4　辛うじて取り付く。〔燕子箋、謀緝〕倘託庇一朝扎蹭、便來世犬馬。

【扎掂】19 cha^1 tien^1　用意する。準備して集める。〔水滸傳、八十三回〕傳令教番兵扎掂已了、來日出密雲縣與宋江交鋒。

【扎入】20 cha^1 ju^4　突き通す。貫く。

【扎破】21 cha^1 p'o^4　刺し破る。つき破る。

【扎縛】22 cha^1 fu^2　縛つて組みたてる。紮縛。〔水滸傳、三十三回〕去土地大王廟前、紮縛起一坐小鰲山。

【扎踩匠】23 cha^2 ts'ai^3 chiang^4　足場掛の人夫。

【扎耳朵】24 cha^1 êrh^3 tuo　❶耳を刺し貫く。❷聽くに堪へぬ話を聽く。

【扎白的】25 cha^1 pai^2 tê　青白い。

【扎猛子】26 cha^1 mêng^3 tzŭ　❶水中にもぐる。❷深入りする。耽る。

【扎蒙子】27 cha^1 mêng^3 tzŭ　水中にもぐる。

【扎喇達】28（サツラツタツ）　清代、武官の名。步軍校をいふ。滿洲語の音譯。

【扎爛了】29 cha^1 lan^4 liao^3　細かに刺し貫く。

【扎克塔爾】30（チヤコタール）　清、滿洲鑲黃旗人。姓は張氏。もと金川番部の人。誠阿桂に番部に入る捷徑を獻じて其の成功を助け、推薦されて護軍都領となる。川楚の役に從つて常に勝つたので、軍中の人が之を敬畏して苗張と呼んだ。〔清史稿、三百五十四〕・〔國朝耆獻類徵、三百五〕。

【扎拉挑綉】31 cha^1 la^1 t'iao^3 hsiu^4　扎は模樣をさす、拉は縫目を止める、挑はかたを置く、綉はぬひとりをする。

【扎喇叭的】32 cha^1 la^3 pa tê　米を入れた袋に竹筒を突込んで米を盜む者。

【毛】11772　シツ　失(**3－5844**)の本字。〔正字通〕毛、失本字。

【手乚】11773　ケキ キヤク　〔字彙〕訖逆切　陌

❶**うける**。〔字彙〕手乚、受也。❷**もつ**。扎(**1－74**)に同じ。〔正字通〕手乚、同ㇾ扎、持也。

二畫

【扌丩】11774　㊀キウ ク　〔集韻〕口周切　尤　㊁キウ ク　〔集韻〕居虯切　尤

㊀**とらへる**。收(**5－13110**)の古字。〔集韻〕收、說文、捕也、一曰、夏冠名、古作ㇾ扌丩。㊁**くくる**。摎(**5－12564**)に同じ。〔集韻〕摎、束也、或从ㇾ丩。

【扌丂】11775　㊀キウ ク　〔集韻〕許九切　有　㊁カウ

㊀荕扌丂は、つとめる。〔集韻〕扌丂、荕扌丂、力也。㊁巧(**4－8721**)の古字。〔集韻〕巧、古作ㇾ扌丂。

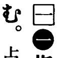
【扏】11776　キウ グ　〔集韻〕渠尤切　尤

❶**ゆるやか**。〔廣韻〕扏、緩也。❷**ゆるくもつ**。〔集韻〕扏、扏扏、緩持也。❸**固くない**。〔集韻〕扏、一曰、不ㇾ固。❹通じて仇(**1－355**)に作る。〔廣雅、釋訓〕扏扏、緩也。〔疏證〕扏扏、通作㆓仇仇㆒。

【扌凵】11777　㊀カン コン　〔集韻〕口犯切　豏　㊁キウ グ　〔篇海〕渠虯切　尤

㊀㊁❶**とる**。〔集韻〕扌凵、取也。❷**すくふ**。**うける**。〔廣韻〕扌凵、以ㇾ手扌凵ㇾ物。

【扐】11778　㊀ロク　〔集韻〕歷德切　職　㊁リヨク リキ　〔集韻〕六直切　職


小篆

㊀❶**指の間**。**又、指の間にはさむ**。占易に於て、筮竹を數へるとき、餘つたものを左手の無名指と小指との間にはさむこと。〔說文〕扐、易筮、再

扐而後卦、从㆑手力聲。〔易、繫辭上〕歸㆓奇于扐㆒以象㆑閏、五歲再閏、故再扐而後卦。〔釋文〕扐、馬云、指閒也、荀柔之云、別也。〔本義〕扐、勒㆓於左手中三指之兩閒㆒也。〔丁壽昌、讀易會通〕注疏不㆑解㆓扐字㆒、釋文引㆓馬融㆒云、扐、指閒也、荀柔之云、別也、義並同。❷あまり。〔玉篇〕扐、凡數之餘、謂㆓之扐㆒。❸通じて艻(9－30643)に作る。〔集韻〕扐、通作㆑艻。㈡❶しばる。〔集韻〕扐、縛也、關中語。❷地名。〔漢書、高五王傳〕濟南王辟光、以㆓扐侯㆒立。〔注〕服虔曰、扐、音勒、平原縣也。

【扑】
11779

㈠ホク　〔集韻〕普木切　屋　ㄆㄨ-　pʻu^1

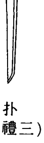
㈡ハク　〔集韻〕匹角切　覺

㈢ホウ フ　〔集韻〕匹候切　宥

㈣ヒョク ヒキ　〔集韻〕拍逼切　職

[慣]ボク

㈠❶かるくうつ。攴(5－13108)に同じ。〔集韻〕攴、說文、小擊也、或作㆑扑。❷うつ。撲(5－12755)に通ず。〔說文通訓定聲〕攴、亦作㆑扑、叚借爲㆑撲。〔史記、刺客、荊軻傳〕舉㆑筑扑㆓秦皇帝㆒。〔注〕索隱曰、扑、擊也。❸むち。むちうつ。〔書、舜典〕扑爲㆓教刑㆒。〔傳〕扑、榎・楚也。〔疏〕榎・楚二物、以扑㆓撻犯㆑禮者㆒。〔周禮、地官、司市〕大刑扑罰。〔注〕扑、撻也。〔左氏、文、十八〕歜以㆑扑抶㆑職。〔注〕扑、箠也。❹たふす。たふれる。仆(1－354)に通ず。〔說文通訓定聲〕攴、亦作㆑朴、叚借爲㆑仆。〔史記、周紀〕秦破㆓韓魏㆒扑㆓師武㆒。〔注〕集解曰、扑、一作㆑仆。㈡うつ。摷(5－12930)に同じ。〔集韻〕摷、博雅、擊也、或作㆑扑。㈢❶うつ。〔集韻〕扑、擊也。❷たたく。〔類篇〕扑、扣也。㈣うつ音。揊(5－12334)に同じ。〔集韻〕揊、擊聲、或作㆑扑。


扑
(圖禮三)

【扑牛】1 ボクギウ　牛をうちころす。〔法言、淵騫〕扛㆑鼎扑㆑牛。

【扑擊】2 ボクゲキ　うつ。〔呂覽、安死〕扑擊遏奪。

【扑虎】3 pʻu^1 hu^3　武劇で數人が相互に蹴り合ふ所作事をいふ。

【扑殺】4 ボクサツ　うち殺す。撲殺(5－12755・・12)に同じ。

【扑撻】5 ボクタツ　むちうつ。鞭撻。笞撻。〔儀禮、鄉射禮〕射者有㆑過則撻㆑之、注〕扑㆓撻於中庭㆒而已。

【扑罰】6 ボクバツ　周官司士の掌る市刑の一。むちうつ罰。〔周禮、地官、司市〕市刑、小刑憲罰、中刑徇罰、大刑扑罰。〔注〕扑、撻也。

【扑滅】7 ボクメツ　うちほろぼす。撲滅(5－12755・・43)に同じ。

【扒】
11780

㈠ハイ　〔集韻〕布怪切　卦　ㄅㄚ-　pa^1

㈡ハツ ハチ　〔集韻〕布拔切　黠　ㄆㄚˊ　pʻa^2

㈢ヘツ ヘチ　〔集韻〕筆別切　屑

㈠❶ぬく。ぬきとる。通じて拜(5－11969)に作る。〔集韻〕扒、拔也、通作㆑拜。〔元包經〕拔㆑屵扒㆑氏、傳曰、轉㆑石伐㆑木也。〔王應麟、詩攷〕勿㆑剪勿㆑扒、亦作㆑拜。[現]㋑あばく。發掘する。㋺引き止める。㋩脫ぐ。㋥取り出す。㋭よぢのぼる。㈡❶うつ。〔集韻〕扒、擊也。❷やぶる。わる。〔集韻〕扒、破也。❸破れる音。〔廣韻〕扒、破聲。❹或は掰(5－12141)に作る。〔集韻〕扒、或作㆑掰。㈢❶さく。〔廣雅、釋言〕扒、擘也。❷わける。さばく。掰(5－12141)に同じ。〔集韻〕扒、剖分也、或作㆑掰。

【扒下】1 pa^1 hsia^4　❶睡ることをいふ。滿洲の方言。❷着物などを脫ぎすてる。

【扒糕】2 pʻa^2 kao^1　北京で常食的に作る一種の蕎麥粉餅の名。

【扒桿】3 ハイカン　流の早い河川に用ひる舟の名。〔廣陽雜記〕錢塘江中之舟、類㆓湘中之扒桿㆒、大抵灘行、皆此類也。

【扒灰】4 ハイクワイ　親子で一人の妻を共にすること。又、親が子の妻を姦すること。汙媳の隱語。媳は膝と音通で、灰の上を膝行すれば膝が汙れるからいふ。〔快雪堂漫錄〕俗呼㆓聚麀㆒爲㆓扒灰㆒。〔常談叢錄〕俗以㆘淫㆓于子婦㆒者㆖爲㆓扒灰㆒、蓋爲㆓汙媳之隱語㆒、膝媳音同、扒㆓行灰上㆒、則膝汙也。

【扒手】5 pʻa^2 shou^3　小盜人。竊盜。掏摸。

【扒船】6 pa^1 chʻuan^2　廣東・廣西地方の水師の用ひる小舟。

【扒脫】7 pa^1 tʻuo^1　剝ぎ取る。

【扒攤】8 pa^1 tʻan^1　賭博で錢を出し合ふこと。

【扒皮】9 pa^1 pʻi^2　皮を剝ぐ。

【扒拉】10 pa^1 la　❶㋑算盤を彈く。㋺おしのける。❷pʻa^2 la　飯をかきこむ。

〖扒拉大山〗11 ハイラツタイサン　山名。雲南省騰衝縣の邊境、恩梅開江の東に在り、滇緬の分水嶺。

【扒犂】12 pa^1 li^2　滿洲黑龍江で行はれる雪橇の一種。

【扒衣裳】13 pa^1 i^1 shang　無理に衣物を剝ぎ取る。着物を摑み取る。

【扒頭兒】14 pa^1 tʻou^2 êrh　手がかり。

【扒房子】15 pa^1 fang^2 tzŭ　家屋を壞す。

【打】
11781

㈠テイ チャウ　〔集韻〕都挺切　迥

㈡テイ チャウ　〔廣韻〕德冷切　梗

㈢タ　〔六書故〕都假切　馬　ㄉㄚˊˇ　ta$^{2\cdot3}$

[慣]ダ

小篆

㈠㈡㈢❶うつ。撻(5－12774)に同じ。〔說文新附〕打、擊也、从㆑手丁聲。〔新附考〕卽朾之俗字。〔廣雅、釋詁三〕打、擊也。〔廣雅、釋言〕打、棓也。㋑たたく。㋺たたきだす。〔一切經音義、三〕撞出曰㆑打。㋩せめる。攻擊する。〔北史、張彝傳〕以㆓瓦石㆒擊㆓打公門㆒。〔南史、侯景傳〕打㆑賀援㆑景。❷ける。鞠をける。〔蹴鞠譜〕每㆑人兩踢名㆓打二㆒、曳開大踢名㆓白打㆒。❸或る動作を爲す意を表はす。名詞の上に附く時は動詞となり、動詞の上に附く時は輕い接頭語的なものとなる。〔通俗編、語辭、打〕歸田錄、造㆓舟車㆒者曰㆓打船・打車㆒。〔項氏家說〕打、俗助語、每與㆓本辭㆒相反、其於㆓打字㆒用㆑之尤多、凡打疊・打聽・打量・打睡、無㆓非㆑打者㆒。〔字詁〕凡起而作㆓其事㆒、皆謂㆓之打㆒耳。〔李商隱雜纂、惡不久〕臟濫官打㆓罵公人㆒。〔宋史、兵志〕拜行打量。❹より。から。〔元曲、殺狗勸夫〕我打㆓這背基裏㆒去、也略避㆓些風雪㆒。❺および。と。〔俗呼小錄〕俗牽連之辭、如指㆓其人㆒至㆓其人物及某物㆒、皆曰㆑打、丁晉公詩所謂、赤洪崖打㆓白洪崖㆒。❻ひきあはせる。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕仍打㆓日報㆒存查。❼碁の手法の名。切ること。〔圍棋義例、詮釋〕打、擊也、謂㆑擊㆓其節㆒曰㆑打。❽姓。〔萬姓統譜〕打、見㆓姓苑㆒。❾[現]㋑取る。㋺なす。言ふ。書く。數へる。㋩買ふ。借りる。㋥加へる。足す。㋭顏を合はせる。㋬相談をする。[邦]❶うち。㋑動詞に冠して、意を強め、又は音調を整へる接頭語。「うちなびく・うち見る」。㋺名詞の下について、其の所作をあらはす。「耳うち・舌う

ち。」㊁うつ。㋑打って火を出す。㋺釘や棒などを打ちつける。打ちこむ。㋩著ける。掲げる。貼りつける。「額をうつ・紙の裏をうつ・鍬形うつた兜。」㋥墨繩を使ふ。〔萬葉集、十一〕飛驒人の打つ墨繩の。㋭強い感動を與へる。「心を打つ。」㋬砧で打って光澤を出す。㋣投げつける。㋠指摘する。攻撃する。「非のうち所が無い。」㋷伐る。伐り採る。㋦針などをさし入れる。「まち針をうつ。」㋸うちかけて縛る。「繩をうつ。」㋾はなつ。發射する。「大砲をうつ。」㋻綿弓ではじく。「綿をうつ。」㋕騎馬で行く。㋵假に構へ設ける。「さじきをうつ。」㋟しめきる。閉ぢる。「木戸をうつ。」㋹つくる。製作する。「金箔をうつ・そばをうつ・刀をうつ。」〔國町沙汰〕近江が打ちし紫檀の三味線。㋞組み合はせる。「紐をうつ。」㋡まく。散布する。「水をうつ・網をうつ。」㋧土地をはかる。檢地する。「土地をうつ。」㋤圍碁・雙六・博弈などをする。㋶耕す。鋤きかへす。「田をうつ。」㋰わたす。與へる。「手金をうつ・纏頭（ハナ）をうつ。」㋒興行する。施行する。「芝居をうつ。」㋼馳引をして或る方策を行ふ。「新しい手をうつ・逃げをうつ。」㋨或る動作をする。「もんどりうつ。」㋔電報を發信する。「電報をうつ。」㊂ダース。英語dozenの略音字。十二個一組。

參考 朾(6－14440)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕打、打擊。朾、音汀、門棖。

【打呃】1 ta3 ê4 おくびをする。

【打衣】2 ウチギヌ 古、婦人の正裝に、五衣の最も上に着る袿（ウチギ）。紅の綾の打物で製する。〔女官飾抄〕うちぎぬの事。紅の綾をうちて、云云、又、單の上に打衣を重ねることもあり。

【打衣糧】3 ダイリャウ 兵士に衣糧を給することをいふ。〔歸田錄、二〕兵士給二衣糧一、曰二打衣糧一。

【打圍】4 ダヰ ㊀狩獵をする。田獵。狩の時に禽獸を圍んで捕へることからいふ。〔陸游、春殘詩〕倦レ游自笑摧頽甚、誰記飛鷹醉打圍。㊁ta3 wei2 碁を鬪はす。

【打印】5 ダイン ㊀印を押す。捺印。〔福惠全書、錢穀部、催徵、革二官銀匠一〕侵二尅打印一、雖二小錠一亦要二戳錢一。〔通俗編、語辭、打〕蘆浦筆記、世言二打字一尙多、不レ止二歐陽公所レ云也、左藏有二打套局諸庫一、支レ酒謂二之打發一、印二文書一謂二之打印一、結レ算謂二之打算一、裝飾謂二之打扮一、請レ酒謂二之打酒一、席レ地而睡謂二之打鋪一、收拾爲二打疊一、又曰二打迸一、畚築之間有二打號一、行路有二打包・打轎一、雜劇有二打諢一、僧道有二打供一、又有二打睡・打嚏・打話・打點・打合・打聽一、至二于打麪・打餅・打百索・打絛・打簾・打薦・打席・打籬笆一、街市戲語有二打砌・打調之類一、能改齋漫錄以下釋文取二偏旁一證上レ之、謂下打字从レ手从レ丁、蓋以レ手當二其事一者上也、此說得レ之矣。㊁ta3 yin4 印子錢、卽ち、月々なしくづした借金を返濟する。

【打印子】6 ta3 yin4 tzŭ 印子錢を借りる。

【打噎】7 ta3 yeh1 しやつくりする。

【打越】8 ウチコシ ㊀短歌・連歌等で、病と稱して嫌ふ一種の體。〔庭訓往來、二月〕和歌者、云云、未レ窮二長歌・短歌・旋頭・混本・折句・沓冠・風情・輪廻・傍題・打越・落題之體一。㊁酒宴の席等で順序に依らず、名指して盃をさすこと。〔東海道名所記〕酒のみて、つけざしにあづかれば、せめて打越なりとも給はらんと。㊂姓氏。

【打下】9 ta3 hsia4 ㊀毆打する。打下馬威を見よ。㊁下痢する。

【打下手的】10 ta3 hsia4 shou3 tê 手傳をする者。做下手的(1－861‥40)に同じ。

【打下馬威】11 ダカバヰ 棍棒で馬を毆打すること。〔福惠全書、郵政部、總論〕執二所レ携巴棍一而毒二毆之一、名曰二打下馬威一。

【打架】12 ダカ 爭ふ。喧嘩する。なぐりあひをする。〔紅樓夢、十回〕誰知二他們昨兒學房裡打架一。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕禁二打架一。

【打價】13 ta3 chia4 ㊀掛値をいふ。㊁値切る。

【打開】14 ダカイ ㊀うちやぶる。きりひらく。㊁ta3 k'ai1 ㋑ひらく。開ける。㋺荷造りを解く。

【打夯】15 ta3 hang1 地固めする。打⿰石夅。

【打行】16 ダカウ 無賴不良の徒の一團で、民間に爭ひ事などが起きた時、口をきいたり、護衞に任じたりして報酬を得る者。打降(19)を見よ。〔亦巢偶記〕打行、聞、興二於萬曆間一、至二崇禎時一尤盛、有二上中下三等一、皆有二頭目一、人家有二鬭毆或訟事對簿一、欲二用以爲レ衞、則先囑二頭目一、頃之齊集、以二銀錢一付二頭目一散レ之、頭目另有二謝儀一、散二銀錢一復有二扣頭一、如二牙僧一然、故曰レ行也、淸初吏胥稱爲二打降一。

【打更】17 ta3 ching1 物を打鳴らしなどして、夜をいましめてまはる。夜廻り。

【打更的】18 ダカウテキ 夜廻り番。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕是一夥打レ更的、在二氏家門樓下一、烘レ火吃レ烟。

【打降】19 ダカウ ㊀打行(16)に同じ。〔消夏閑記〕康熙年間、男子聯レ姻、如貧不レ能レ娶者、邀二同原媒一、糾二集打降一、徑入二女家一搶親、其女必壻親扶上レ轎、仍以二鼓樂一迎レ歸成レ親、又許訟者、兩造各有二生員一具公呈、聽審之日、又各有二打降一保護、故曰二打降之降乃行一、非レ降也、善二拳勇一者爲レ首、少年無賴屬二其部下一、聞レ呼卽至、如二開行一般一、故謂二之打行一、今則功令森嚴、此風不レ興矣。㊁打架(12)に同じ。〔郝懿行、證俗文〕俗謂二手械鬭一爲二打降一、降、下也、打レ之使二降服一也、方語不レ同、字音遂變、或讀爲二打架一、蓋降聲之轉也。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕忤二伊兇于一盻一、輙爲三攢毆而折二股肱一、號稱二太歲一、名曰二打降一。

【打耗】20 ダカウ 毎年十二月、鬼神の祟を避けるため、人家に鼓を設けて晝夜亂打し、正月の半ばに至つて止める行事。湖州の俗。鬼やらひ。〔演繁露〕湖州土俗、歲十二月、人家多設レ鼓亂二撾之一、晝夜不レ定、至二來年正月半一乃止、相傳云、此名二打耗一、打耗云者、言三驚二去鬼祟一也。

【打⿰石夅】21 ta3 hang1 地を打ち固める。

【打腔】22 ta3 ch'iang1 一致する。同意する。

【打稿】23 ダカウ ㊀草稿を作る。原稿を作る。〔江南志書、江寧縣〕今預レ事曰二打疊一、探レ事探レ人曰二打聽一、先計較曰二打量一、臥曰二打睡一、買レ物曰二打米・打肉一、治二食具一曰二打粁一、張レ蓋曰二打傘一、屬レ文起レ草曰二打稿一。㊁ta2 kao3 兔や角と思案すること。

【打攪】24 ta2 chiao3 邪魔する。攪き廻はす。〔元曲、伍員吹簫〕不知是那裏來的一箇大漢、常來打攪。

【打號】25 ta3 hao4 ㊀一齊に音頭を取ること。㊁記號をつける。「こと。

【打號兒】26 ta3 hao4 êrh 一齊に音頭を取る

【打號頭】27 ta3 hao4 t'ou 打號に同じ。

【打熬】28 ta3 ao2 煎じつめる。〔水許傳、二回〕每日只是打熬氣力。

【打眼】29 ta2 yen3 ㊀ながめる。㊁見間違ふ。買ひかぶる。㊂孔をあける。打拔く。

【打起】30 ダキ ㊀ふるひおこす。たたきおこす。〔唐無名氏、伊州歌〕打二起黃鶯兒一、莫レ教二枝上啼一、啼時驚二妾夢一、不レ得レ到二遼西一。㊁ta2 ch'i3 ひきおこす。おしあげる。まきあげる。〔紅樓夢、六回〕小丫頭打起了猩紅毡簾。

【打鬼】31 ダキ 雍和宮及び喇嘛寺で行ふ追儺式。喇嘛僧等が諸天神將に扮して、邪鬼を驅逐する行事。鬼やらひ。打鬼日を見よ。〔天咫偶聞〕十三日、試鐙、黃寺打鬼。〔北京指南、禮俗〕德勝門外黑寺、自二二十三一至二二十五日一打鬼。

【打鬼日】32 ダキジツ 雍和宮及び喇嘛寺で行ふ追儺式の日。黃寺では正月十三日或は十五日、黑寺では同二十三日から二十五日まで、雍和宮では三十日に行ひ、淸代には、當日、散秩大臣を臨ませた。〔燕京歲時記、打鬼〕本西域佛法、並非二怪異一、卽古者九門觀儺之遺風、亦所三以禳二除不祥一也、每レ至二打鬼一、各喇嘛僧等、扮二演諸天神將一、以驅二逐邪魔一、都人觀者甚衆、有二萬家空レ巷之風一、朝廷重二佛法一、特遣二一散秩大臣一以臨レ之、亦聖人朝服阼階之命意、打鬼日期、黃寺在二十五日一、黑寺在二二十三日一、雍和宮在二三十日一。

【打毬】33 ダキウ ㊀數人が一團となり、兩團が相對抗し、毬を蹴つて勝負を爭ふ遊戲。蹴鞠。〔荊楚

歲時記〕寒食、打毬・鞦韆・施鉤之戲。〔注〕按、劉向別錄云、蹴鞠、黃帝所レ造、本二兵勢一也、或云、起二於戰國一。按、鞠與レ毬同、古人蹋蹴以爲レ戲也。〔封氏聞見記、打毬〕打毬、古之蹙鞠也、漢書藝文志、蹙鞠二十五篇、顏注云、鞠以レ韋爲レ之、實以レ物、蹙蹋爲レ戲、蹙鞠陳レ力之事、故附二于兵法一、蹙、音子六反、鞠、音鉅六反、近俗聲訛、蹋踘爲レ毬、字亦從而變焉、非レ古也。〔李商隱雜纂、惡模樣〕打毬墜レ馬。❷中古、我が國に傳來し、唐人の裝束をし、騎馬で曲杖を以て毬を打つ遊戲。武德殿の騎射の後に行はれた。〔西宮記、五月〕六日幸二武德殿一云云、打毬者四十人、列二殿前一再拜。❸江戸時代の遊戲の一。數人が紅白二組に分れ、騎馬で長い柄の杖を持ち、場中の紅白の毬を抄つて毬を早く馬場の一方に設けた毬門に投げ入れることを爭ふ。

【打毬杖】34 ダキウツエ　打毬の時、馬上から地上の毬をすくひとり、毬門に投入するに用ひる具。長い柄の先に小さい網が取り付けてある。

【打毬樂】35 ダキウラク　雅樂の名。舞曲。打球樂にも作る。黃鐘調に奏する時はチヤウギヤウラクと訓ず。唐樂、太食調に屬し、節會の馬藝に奏する。〔樂家錄、二十八、中華曲〕太食調、打毬樂。

【打球】36 ダキフ　❶野球やテニスなどで、うつた球をいふ。❷ta^3 chʻiu^2　球投げ遊をする。球突きをする。

〖打球兒〗37 ta^3 chʻiu^2 êrh　打球に同じ。

【打急】38 ダキフ　いそいで。至急。〔通俗編、行事、打急〕趙汝鐩詩、聞師遊レ岳去、打急訪二高岑一。

【打給】39 ダキフ　佛給與を爲すこと。特に禪門に於て大衆に粥飯等を供給することをいふ。

【打躬】40 ta^3 kung^1　敬禮すること。〔還魂記、寇閒〕末打躬送介。

【打魚】41 ダギヨ　網で魚をとること。〔花蕊夫人、宮詞〕隔レ花催喚打魚人。〔杜甫、又觀二打魚一詩〕蒼江魚子淸晨集、設レ網提レ綱萬魚急。〔歸田錄、二〕網レ魚曰二打魚一。

〖打魚船〗42 ta^2 yü^2 chʻuan^2　網で魚を捕る船。〔水滸傳〕兩隻打魚船。

〖打魚的〗43 ta^3 yü^2 tê　魚を捕る人。漁夫。

〖打魚殺家〗44 ダギヨサツカ　二簧劇の一。宋代、梁山伯の寨主を宋江に委ねた阮小五の事を脚色したもの。又、慶頂珠・討魚稅ともいふ。

【打漁】45 ダギヨ　打魚に同じ。

【打恭】46 ダキヨウ　上半身を曲げて敬禮すること。丁寧に敬禮すること。打躬。打禮。〔長生殿、收京〕四將打恭介。〔福惠全書、保甲部、訓練伍壯〕排班打恭迎接。

【打金】47 ウチガネ　小銃の火門上に裝置したはじきがね。引金を引けば落ちて雷管をはじき發火させる。

【打緊】48 ダキン　最も大切。緊要。必要。〔元典章、工部船隻〕海道裏官糧、交運將二大都裏一來的、最打緊的句當。

【打火】49 ダクワ　❶燧石（ヒウチイシ）で火を打ち出す。火をたくこと。轉じて、食事をいふ。〔水滸傳、二回〕你母子二位、敢未二打火一。❷（ウチビ）燧石でうつて出す火。きりび。

【打伙】50 ta^2 huo^3　組合を組織する。仲間になる。

〖打伙食〗51 ta^2 huo^3 shih　多人數が同食すること。

【打卦】52 ta^3 kua^4　占ひをする。

【打掛】53 ウチカケ　❶古、節會などの儀式に着用した武官の禮服。兩袖がなく、胸と背とに打ちかけて、袍の上に着る。うちかけよろひ。裲襠。〔倭名類聚抄、裝束部、衣服類〕裲襠、唐韻云、襠、兩襠、衣名也、其一當レ胸、其一當レ背也。〔注〕宇知加介。❷道行く時、衣服の上に着るもの。道服の類。後の羽織。〔幸若、高館、鈴木三郎重家〕草鞋脫ぎ捨て、上に着たる打かけぬいで、ふはと捨て。❸武家の婦人の禮服。表着の上に打掛けて着る小袖。略して「かけ」ともいふ。

【打壞】54 ダクワイ　うちこはす。〔南史、王僧虔傳〕僧達奪取打壞、亦復不レ惜。

【打幌】55 ta^2 huang^3　ふらふらする。

【打完】56 ta^3 wan^2　❶債務者が債務を完濟したこと。❷債權者が債權を全部回收したこと。

【打橋】57 ウチハシ　廊下又は緣側などの閒に必要に應じて假に架ける木橋。

【打擊】58 ダゲキ　❶うつ。たたく。〔抱朴子、登涉〕巖石無レ故自墮落、打擊煞レ人。❷損害。いたで。ショック。❸ta^3 chi^1　挫折する。

【打穴】59 イタノ　美濃國の地名。

【打結】60 ta^3 chieh^2　❶むすぶ。❷結末をつける。❸棋を終つて石を數へる。

〖打結子〗61 ta^3 chien^2 tzŭ　結び目を作る。

【打劫】62 ta^3 chieh^2　追剝ぎすること。奪ひ取ること。盜賊の語。

【打欠】63 ta^3 chʻien^4　あくびする。

【打肩】64 ウチカタ　俄に肩が充血して劇痛を感じ、心氣が促迫して卒倒・氣絕する病氣。早打肩。早肩。

【打拳】65 ダケン　❶こぶしで打ちたたく。〔鶴林玉露、人、論事任事〕蓋已爲二侍從臺諫一、則能攻二宰相之失一、已爲二宰相一、則能受二侍從臺諫之攻一、此正無レ意無レ我、人己一視之道、實賢人君子之盛德、亦國家之美事也、豈有レ己則能攻レ人、而人則不レ欲レ攻二其攻一已哉、諺云、喫レ拳何似二打レ拳時一、此言雖レ鄙、實爲二至論一。❷柔術の類。打拳脚を見よ。〔福惠全書、刑名部、人命上、審鞫〕與二某人一打拳頑耍、而悞中二某人某處一殞レ命。

〖打拳脚〗66 ta^3 chʻüan^2 chiao^3　拳で打ち、脚で蹴る武藝。柔術の類。

【打圈】67 ta^3 chʻüan^1　取り卷く。輪を作る。圓を畫く。

【打襉】68 ダケン　布帛の廣さを蹙めて襞をつくること。〔說文通訓定聲〕襞、按、蹙二布帛之廣一而摺二疊之一、蘇俗所謂打襉也。

【打呼】69 ta^3 hu^1　いびきをかく。

〖打呼嚕〗69′ ta^3 hu^1 lu　打呼に同じ。

【打鼓】70 ダコ　大鼓をうちならす。〔杜甫、十二月一日詩〕負レ鹽出レ井此溪女、打レ鼓發レ船何郡郞。〔張憲、觀二走馬一歌〕天恩剪下五色雲、打レ鼓歸來汗如レ雪。

〖打鼓罵曹〗71 ダコバサウ　西皮劇の一種。三國時代の彌衡・曹操・張遼・孔融等の事を仕組んだもの。

〖打鼓兒挑子〗72 ta^2 ku^3 êrh tʻiao^3 tzŭ　鼓を打ちながら街を步いて古物を賣買する商人。

【打箍】73 ta^3 ku^1　桶類にたがをかける。桶を組立てる。

【打工】74 ta^3 kʻung^1　仕事をやめる。工事を打ち切る。

【打狗】75 タカオ ターク　臺灣の地名。高雄。

〖打狗詩〗76 ダコウシ　卑俗な詩。打油詩（309）を見よ。

【打哄】77 ta^3 hung^1　打鬨（80）に同じ。

【打鉤】78 ウチカギ　古、水戰などで敵船をひつかけるに用ひたかぎ。〔源平盛衰記、三十三、水島軍事〕敵の船を打かぎにて搔き寄せ。

【打彄】79 ダコウ　鉤を隱して其の所を言ひ中てる遊戲。〔酉陽雜俎、藝絕〕山人石旻、猶妙二打彄一、與二張又新兄弟一善、暇夜會レ客、因試二其意一、彄注二之一必中、張遂寘二鉤於巾襞中一、旻曰、盡張二空拳一左、有レ頃、眼鉤在二張君幞頭左翅中一、其妙如レ此、旻後居二揚州一、成式因識レ之、曾祈二其術一、石謂二成式一曰、可下先畫二人首數十一、遣中胡越上、異辨則相授、疑二其見レ欺、竟不レ及レ畫。

【打鬨】80 ダコウ　❶さわぐ。打哄。〔通俗編、交際、打鬨〕朱子語錄、居肆亦有レ不レ成レ事、如二閒坐打鬨過レ日底一、按、元人陳摶高臥曲云、乾打哄、亦用二哄字一。❷ta^3 hung^4　からかふ。

【打穀】81 ta^2 ku^3　穀を打つ。稻穗から籾を打ち落す。

【打根】82 ウチネ　昔の武器の一種。手裏劍に似て太く短く、手で敵に投げつける。手矢。

【打棍】83 ダコン　大きな毬を棍棒で打つ遊び。〔李紳、拜二三川守一詩序〕里巷比多二惡少一、皆免レ帽散レ衣、聚爲二羣鬭一、或差肩追繞擊二大毬一、里言謂二之打棍一、諸論士庶苦レ之。

【打滾】84 ta^2 kuen^3　❶ころぶ。轉がる。❷馬などを散步のために引き廻はすこと。

【打諢】85 ダコン　滑稽な言を以て戲弄すること。ふざける。諧謔・洒落。〔遼史、伶官、羅衣輕傳〕太子笑曰、打諢底不二是黃幡綽一、羅衣輕應レ聲曰、行兵底亦不レ是。〔都城紀勝〕副末色打諢。〔通俗編、言笑、打諢〕道山淸話、劉貢父言、每レ見二介甫字說一、便待打諢。

【打沙】86 ダサ　附着してゐる砂土をはらひ落すこと。鑄型から出した錢を砂土の中に入れて凝定

させ、之を取出して砂土をはらひ落すこと。更にそれを磨くこと。〔六部成語、戸部、打沙、注解〕入レ沙凝定之後、將ニ所レ粘沙土一打去、又磨レ之令レ光、曰ニ打沙磨光一。

【打差】87 ta^3 chʻai^1 差役をいふ。〔長生殿、偵報〕兎一月打差去罷。

【打詐】88 ta^3 cha^4 言ひがかりをつけて人を苦しめること。不法に拘禁すること。〔燕子箋、僞緝〕纔見得我們不是打詐。

【打坐】89（ダザ）❶佛教で結跏趺坐して心を入定せしめること。坐禪。打座。〔長生殿、覓魂〕俺自打坐出レ神去也。❷すわる。打は助辭。〔文天祥、遣興詩〕莫レ笑道人空打坐、英雄收斂便神仙。

〖打坐坡〗90 ta^3 tso^4 pʻo^1 犬羊等の進まないのを無理に引つ張つて行くこと。又、いくら引き立てても進歩しないこと。

【打采】91 ta^2 tsʻai^3 纏頭（ハナ）を投げる。〔桃花扇、訪翠〕小生忍不住、要打采了。

【打柴】92 ta^3 chʻai^2 薪を伐りとる。

【打彩】93 ta^2 tsʻai^3 富籤を引く。福引をする。

【打碎】94（ダサイ）うちくだく。細かにする。〔晉書、謝石傳〕童謠云、誰謂ニ爾堅一石打碎。

【打吵】95 ta^2 chʻao^3 さわぎたてる。

【打灶】96 ta^3 tsao^4 竈をつくる。

【打草】97 ta^2 tsʻao^3 草を苅りとる。打草驚蛇を見よ。

〖打草稿〗98 ta^2 tsʻao^2 kao^3 草稿を作る。

〖打草穀〗99（ダサウコク）遼代、專ら伐木・轉材などの任にあたる兵。〔遼史、兵衞志上〕其打草穀家丁、各衣レ甲持レ兵。

〖打草驚蛇〗100（ダサウキヤウダ）❶草をたたいて蛇を驚かす。他人に懲らすべき點があると、それを見て己の戒とすること。又、一人を懲らしめて他人を戒めること。〔酉陽雜俎〕王魯爲ニ當塗令一、頗以ニ資產一爲レ務、會部民連狀訴ニ主簿貪賄一、魯判曰、汝雖ニ打草一、吾已驚レ蛇。〔西廂記、草橋店夢ニ鶯鶯一雜劇〕疾忙趕上者、打草驚蛇。❷ta^2 tsʻao^3 ching^1 shê^2 事を爲すに粗漏なため、早く相手に嗅ぎつけられ、用心せられること。又、事を爲すに密でないため、相手に防禦を講ぜられたり、逆襲されたりすること。

【打掃】101（ダサウ）❶掃除する。〔紅樓夢、三回〕倆們趕レ早打ニ掃兩間下房一。〔福惠全書、蒞任部、發各告示〕每日打掃潔淨、陳ニ設坐椅一。❷ta^2 sao^3 ありつたけ賣り拂ふ。

〖打掃錢〗102 ta^2 sao^3 chʻien^2 家を借り受ける時、掃除代として家主に與へる金。家賃一箇月分を以て充てる。

【打搶】103 ta^2 chʻiang^3 強奪する。掠める。

【打造】104（ダザウ）作る。製造する。したてる。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕船隻打造修理、是何年限。

【打殺】105（ダサツ）❶打ち殺す。〔無名氏、讀曲歌〕打ニ殺長鳴雞一、彈ニ去鳥柏鳥一。〔廣雜纂、快心〕浪賴人天打殺。❷我慢する。〔琵琶記、感格墳成〕痲衣裏來難ニ打煞一。

【打煞】106（ダサツ）打殺に同じ。

【打參】107（ダサン）打坐(89)に同じ。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕知他怎生喚ニ做打參一。

【打傘】108（ダサン）傘をさす。〔歸田錄、二〕從者執レ傘、曰ニ打傘一。

【打算】109（ダサン）❶かんぢやうをする。計算する。計畫を立てる。又、みこみをつける。計算を立てる。〔通俗編、行事、打算〕錢塘遺事、賈似道忌ニ害一時任レ事閫臣一、行ニ打算法一以汙レ之、向士璧守レ潭、費用委ニ浙西閫一打算、趙葵守レ淮、則委ニ建康閫一打算、江淮廣帥、皆受ニ監錢之苦一。〔李漁、凰求鳳傳奇〕只因ニ打算不レ來、所ニ以不ニ肯胡行亂走一。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕與ニ一年徵收錢糧一通盤打算。❷㋑ta^3 suan^4 考へ。目論見。企。㋺思ふ。考へる。㋩たばかる。

〖打算的〗110（ダサンテキ）物事をするのに、損得を考へて取りかかること。勘定高いこと。

〖打算盤〗111 ta^3 suan^4 pʻan ❶算盤をはじく。算盤で計算する。❷儉約する。

【打撒】112（ウチマキ）❶陰陽師などが、惡神よけのために撒きちらす米。〔大殿祭祝詞、屋船豐宇氣姬命、注〕今世產屋以ニ辟木・束稻一、置ニ於戸邊一、乃以レ米散ニ屋中一之類也。〔紫式部日記、中宮御產所〕頂にはうちまきの、雪のやうに降りかかり。❷神拜の時、神前に撒く米。散米。散供。❸米の女房詞。

【打子】113 ta^3 tzŭ 碁石。

【打死】114（ダシ）打ち殺す。叩き殺す。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕爲ニ某事一、某人打ニ死某人一。

【打枝】115（ウチエダ）打置(203)に同じ。

【打紙】116（ウチガミ）❶木槌でたたき、滑かにして光澤を出した紙。❷ta^2 chih^3 香奠。葬式の時に燒く紙の料として贈る金。

【打試】117（ダシ）手を擧げて眼の見えるか見えぬかを試みること。〔歸田錄、二〕擧レ手試ニ眼之昏明一、曰ニ打試一。

【打嘴】118 ta^2 tsuei^3 前にいつた事と後にいつた事と符合しないこと。法螺をふいて繿縷を出す。

【打二一】119（ダジ）蹴踘の戲に於て、毬を人每に二度蹴る仕方。〔事物異名錄、玩戲、蹴踘〕蹴踘譜、每レ人兩踢、名ニ打二一一、曳開大踢名ニ白打一。

【打就】120 ta^3 chiu^4 置く。〔紅樓夢、十七回〕一面說話、一面都在廊外抱廈下、打就的榻上坐了。

【打車】121（ダシヤ）車を製造する。又、其の人。〔通俗編、語辭、打〕歸田錄、造ニ舟車一者曰ニ打船・打車一。

【打匠】122 ta^3 chiang^4 喧嘩をして人を打つ人。

【打掌】123 ta^2 chang^3 ❶拍手する。❷衣服の破れに當て繼ぎする。

【打傷】124（ダシヤウ）❶傷を負はせる。〔六部成語、刑部、打傷、注解〕打レ人節骨折斷也。❷（ウチキズ）打つてできたきず。打撲傷。

【打槳】125（ダシヤウ）櫓櫂を使ふ。船を漕ぐ。又、漕ぐ槳。槳は、かい。〔羅隱、將レ入レ關行次ニ湘陰一詩〕打槳天連晴水白、燒田雲隔夜山紅。〔趙奕、西湖竹枝詞〕湖頭日日水生レ波、兩兩吳娃打レ槳過。

【打墻】126（ダシヤウ）❶瓦の聚る所に居る怪物をいふ。〔通俗編、神鬼、鬼打墻〕易林、衆鬼瓦聚、中有ニ大怪一、按、俗云ニ打墻一因ニ瓦聚一文小變。❷ta^3 chʻiang 塀を造る。垣を築く。隔てのしきりを作る。

【打上】127（ウチアゲ）❶筒から打ちあげる花火。❷興行物などの終へること。

【打手】128（ダシユ）❶腕力が強く、相手を攻擊する技に長じてゐる者をいふ。〔明史、兵志三〕其不レ隸ニ軍籍一者、所在多有、云云、而嵩及盧氏・靈寶・永寧、並多ニ礦兵一、曰ニ角腦一、又曰ニ打手一。〔魏禧、兵跡〕四方行レ教者、技藝悉精、並諸殺法、名曰ニ打手一、如ニ廣州・新會諸處一者、勇侔ニ於狼一、故嘗雜ニ於狼一而稱レ雄焉。❷討手の兵。〔明史、沈希儀傳〕其酋楊留者、無レ所レ歸、率ニ黨千餘人一、詣ニ賓州一、應レ募爲ニ打手一。

〖打手式〗129 ta^2 shou^3 shih^4 手眞似で話す。

〖打手勢〗130 ta^2 shou^3 shih^4 手を以て形容する。手眞似する。〔還魂記、魂遊〕丑打手勢介。

【打酒】131 ta^2 chiu^3 ❶酒席を襲ふ。打酒座を見よ。❷酒を買ふ。酒を酌む。打印(5)を見よ。

〖打酒座〗132（ダシユザ）宋代、下等の妓女が招かれずに酒席に入り來つて隨意に唄ひ、若干の錢を貰つて去ること。又、綽酒座・禮客・劄客ともいふ。〔東京夢華錄、二、飲食果子〕又有ニ下等妓女一、不レ呼自來ニ筵前一歌唱、臨レ時以ニ些ニ小錢物一贈レ之而去、謂ニ之劄客一、亦謂ニ之打酒坐一。〔夢粱錄、分茶酒店〕有ニ一等下賤妓女一、不レ呼自來ニ筵前一、祗應ニ臨時一、以ニ些ニ少錢一會レ贈レ之、名ニ打酒座一、又名ニ禮客一。

【打趣】133 ta^3 chʻü^4 からかふ。けなす。なぶる。〔紅樓夢、二十一回〕你不打趣他。

【打出】134（ウチデ）❶作つたばかりのもの。新作。❷（ウチダシ）㋑武具の名。指物（サシモノ）の一種。㋺模樣などを裏から打つて表へ出すに用ひる型。㋩芝居・相撲などの終ること。うちどめ。〔戲場新話〕一番太鼓は緣より打ちはじめ、うちだしの太鼓は緣にて打ちとめるなり。

〖打出濱〗135（ウチデノハマ）近江國滋賀郡の地名。

〖打出來〗136 ta^3 chʻu^1 lai 見積る。

〖打出小槌〗137（ウチデノコヅチ）衣服・飲食など何でも心任せに打出すといふ槌。〔平家物語、六、祇園女御〕手に持てるものは、聞こゆる打出の小槌なるべし。

〖打出太刀〗138（ウチデノタチ）❶金銀を打延べて飾つた太刀。〔舊今昔物語、二十五、第五語〕手太き弓の、革所所卷たるを以て、打出の太刀帶て。❷新作の太刀。打出の❶を見よ。

【打春】139（ダシユン）❶立春の前日に府縣官が迎春牛

を役所の前に置き、次の日、紅綠の鞭を以て之を鞭つ儀式。牛をして田を耕さしめる意であるといひ、又、寒氣を送る意であるともいふ。〔晁沖之、立春詩〕自慚白髮嘲二吾老一、不レ上二譙樓一看二打春一。〔燕京歲時記、打春〕打春、卽立春。在二正月一者居レ多、立春先一日、順天府官員、至二東直門外一里春場一迎レ春、立春日、禮部呈二進春山寶座一、順天府呈二進春牛圖一、禮畢回レ署、引二春牛一而擊レ之、曰二打春一。是日、富家多食二春餠一、婦女等多買二蘿蔔一而食レ之、曰二咬春一。謂レ可三以卻二春困一也。❷ta^{3} chʻuen^{1} 季冬の頃、田舍人が其の年の豐年を祈るため、小鑼を持つて口に吉語を唱へながら各戶に錢を求めて廻ること。南京地方の行事。

【打晙】140 ta^{3} chün^{4} 見廻はす。〔還魂記、懽撓〕你便打晙、有甚著科。

【打盹】141 ta^{2} tuen^{3} 居睡りする。〔桃花扇、鬧榭〕俺們三個陪著打盹麽。

【打憷】142 ta^{3} chʻu^{4} 怖れる。氣おくれする。

【打緒】143 絲を組合せてつくつた紐。打紐。

【打松】144 松明の異名。〔源氏物語、二十七、篝火〕打松、おどろおどろしからぬ程におきて。

【打勝】145 ta^{3} shêng^{4} 打ちかつ。

〘打勝仗〙146 ta^{3} shêng^{4} chang^{4} 戰に勝つ。勝戰。

【打鐘】147 鐘をうちならす。〔北齊白鳧謠〕道人聞レ之、夜打レ鐘。

【打食】148 ta^{3} shih^{2} 鳥が餌をひろふ。

【打臣】149 英語 dozen の音譯。ダース。

【打針】150 ta^{3} chên^{1} 注射。

【打診】151 醫師が指頭又は打診器で患者の胸部などをたたき、其の音によつて病を診察する術。

〘打診器〙152 打診の時、患部にあてて、其の音響をきくに用ひる器械。

【打水】153 ❶水を汲む。汲水。〔歸田錄、二〕汲水曰二打水一。❷夏季などに塵埃をしづめ、涼氣をとるなどの目的で、地上に撒きちらす水。〔本朝若風俗〕庭に一叢の萩咲きて、晝は露にもあらぬに、うち水の葉末にとまりしを。

〘打水的〙154 ta^{2} shuei^{3} tê 水汲みの人足や排水夫などをいふ。

〘打水漂兒〙155 ta^{2} shuei^{3} pʻiao^{1} êrh 石を投げて水を切る。

【打睡】156 ねむること。打は接頭語。打稿(23)を見よ。〔韻府引、王中立、詩〕華山宮殿白雲中、不レ見當年打睡翁。

【打牲】157 いけにへを捕へる。獵をする。北部地方の語。〔皇朝文獻通考、輿地考、盛京〕管二理打牲戶屬一。

〘打牲人〙158 ta^{3} shêng^{1} jen^{2} 狩人。獵師。

〘打牲的〙159 ta^{3} shêng^{1} tê 狩人。獵師。

【打消】160 うち消すこと。否定すること。打は接頭語。

【打銷】161 ta^{3} hsiao^{1} 取り消す。打ち消す。

【打醮】162 ta^{3} chiao^{4} 祈禱する。道士が經を讀むこと。道士が人のために冥福を祈ること。醮は、神を祭る・壇を設けて祈禱する。打は接頭語。

【打責】163 ta^{3} tsê^{2} 拷問の一。罪人の臀部を竹杖で打つこと。

【打折】164 ta^{3} chê^{2} 割引。割引する。

〘打折扣〙165 ta^{3} chê^{2} kʻou^{4} 打折に同じ。

【打尖】166 ta^{3} chien^{1} 旅行の途中で食事する。又、中途で休息する。〔紅樓夢、十五回〕請他去打尖。

【打扦】167 ta^{3} chʻien^{1} ❶關所を守る兵や役人が、その關所を通過する貨物に扦子を插入して內容を調べることを俗にいふ。❷禮法の一。一方の膝を屈して手をたれて行ふ禮。打跧。打千。

【打扇】168 ta^{3} shan^{4} ばたばたあふぐ。打扇子を見よ。

〘打扇子〙169 北京の城隍神が出巡する際に、其の供をしてあふぎ行く人をいふ。〔燕京歲時記、城隍出巡〕四月二十二、宛平縣城隍出巡、五月初一日、大興縣城隍出巡、出巡之時、皆以二八人一肩レ輿、舁二藤像一而行、有下捨身爲二馬僮一者上、有下捨身爲二打船一者上。

【打閃】170 ta^{2} shan^{3} ひらめく。

【打船】171 船を造る。又、其の人。〔歸田錄、二〕造二舟車一者、曰二打船・打車一。

【打跧】172 ta^{3} chʻuan^{2} 滿洲人が片膝を屈して行ふ禮法。打扦(167)の❷を見よ。

【打戰】173 ta^{3} chan^{4} ❶戰鬪する。❷戰慄する。

〘打戰戰〙173′ ta^{3} chan^{4} chan^{4} 慄へる。おののく。

〘打戰表〙174 ta^{3} chan^{4} piao^{3} 戰爭を挑む書。宣戰狀の類。

【打錢】175 賭博の一種。錢を擲つてする戲。〔趙光遠、咏レ手詩〕慢籠二綵筆一閒書レ字、斜指二瑤階一笑打レ錢。〔文同、鄧隱老木寒牛詩〕羸牛日晚已噍レ草、稚子天寒猶打レ錢。

【打鬃】176 ta^{3} tsung^{1} 鬣を切る。

【打岔】177 ta^{3} chʻa^{4} ❶話がくひちがふ。❷口をはさむ。

【打胎】178 ta^{3} tʻai^{1} 墮胎する。

〘打胎藥〙179 ta^{3} tʻai^{1} yao^{4} 墮胎藥。

【打退】180 ta^{3} tʻuei^{4} もどす。かへす。

【打對】181 ta^{3} tuei^{4} 問ひあはせる。

〘打對光〙182 ta^{3} tuei^{4} kuang^{1} 二人の言葉をつきあはせる。

〘打對當〙183 ta^{3} tuei^{4} tang^{1} 競爭をする。

〘打對印兒〙184 ta^{3} tuei^{4} yin^{4} êrh 紙幣・手形などの眞僞を見分けること。

【打刀】185 ❶刺す刀に對して、鍔をつけて敵を打ち斬るに便利にした刀をいふ。つばがたな。㋑片手で用ひるもの。長さ一尺餘。〔齋宮寮式〕打刀子二枚、刀子十一枚。㋺後世、長く作つて、單にかたなともいふ。長さ二尺八九寸を限りとした。〔幸若、高館〕二尺ばかりなる打刀を十文字にさすままに。❷ta^{3} tao^{1} 刀を造る。

【打到】186 ta^{3} tao^{4} 報告する。又、訴へる。告訴する。

【打倒】187 うちたふす。

【打當】188 ❶官の使者が通過する土地の者に財貨を與へること。〔宋史、外國六、高昌國傳〕凡二日至二都囉囉族一、漢使過者、遺以二財貨一、謂二之打當一。❷ta^{3} tang^{1} ㋑整理する。打疊。〔元曲、趙氏孤兒〕早把手脚兒十分打當。㋺みはる。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕且將這盼行雲眼睛兒打當。

【打稻】189 いねを苅り入れる。〔陸游、詩〕打レ稻家家趁二晚晴一。

【打攩】190 米を斛に盛つて木板で平にすること。〔六部成語、戶部、打攩、注解〕以レ米盛二滿斛一、而用二木板一刮レ之使レ平、曰二打攩一。

【打道】191 ta^{3} tao^{4} 道路の人拂ひをする。道を清める。

〘打道還宮〙192 ta^{3} tao^{4} huan^{2} kung^{1} ❶道をはらひ宮中に還御になる。❷歸る。引き返す。

【打鬧】193 ta^{3} nao^{4} 騷ぐ。鬪爭する。

【打宅】194 姓氏。〔日用重寶記〕。

【打戳】195 小印を押捺すること。戳は小印。〔願體集〕銀色低假、不肖之徒、造作愈巧、非二銀匠識認一、不レ能二辨別一、所三以州縣徵二收錢糧一、設二立銀匠數家一、在二於公署左右一、令三其錘二剪估色一、眞紋則打戳赴納、不レ足則下レ爐傾銷、誠爲二民便一。

【打担】196 ta^{3} tan^{1} はかりにかける。

【打探】197 ta^{3} tʻan^{4} 問ひ合はせる。尋ねる。さぐる。

〘打探子〙198 ta^{3} tʻan^{4} tzŭ 探りを入れる。

【打單】199 ta^{3} tan^{1} ゆする。恐喝する。

〘打單銀〙200 ta^{3} tan^{1} yin^{2} 掠奪を免れるために賊匪に貢ぐ金。

【打斷】201 ta^{3} tuan^{4} 斷つ。打ち割る。

〘打斷念頭〙202 ta^{3} tuan^{4} nien^{4} tʻou あきらめる。

【打置】203 衣服の上に置いておもしとするもの。打枝。〔娵入記〕うちおきとて、かねにて作り、花形など透かしたるものなり、云云、廣蓋の着物の上のおそひのためなり。

【打丟】204 ta^{3} tiu^{1} 失ふ。

【打紐】205 打緒(143)に同じ。

【打打】206 ❶物を續けざまに打つ音響にいふ。丁丁。〔自身坊〕鰐口ちやうちやうと打ちて。❷ta^{2} ta^{3} 算盤を彈く。

〘打打發止〙207 刀などを互に打ちあふ音にいふ。丁丁發止。

【打賬】208 ta^{3} chang^{4} 帳消しにする。

【打聽】209 ta^3 tʻing^4 ❶聽く。尋ねる。ききこむ。打は接頭語。字解の❸を見よ。❷探偵する。打稿(23)を見よ。〔紅樓夢、十九回〕前去打聽、一時小耗回報。❸訪問する。〔元曲、曲江地〕你去那出殯處跟尋、起喪處訪問、下棺處打聽。

【打仗】210 ta^3 chang^4 なぐりあふ。爭ふ。戰ふ。又、戰爭。〔清會典事例、兵部、綠營處分例、外海巡防〕非二出兵打仗機不レ容レ緩者可レ比。

【打場】211 ta^2 chʻang^3 脫穀するために打つこと。

【打擲】212（チヤウチヤク） 人をうちたたく。ぶつ。なぐる。毆打。〔出曜經〕遇二惡人打擲一。

【打住】213 ta^3 chu^4 やめさせる。又、打ち切る。

【打底】214（ダテイ） 下部から。下部から初める。打は、より・から。〔通俗編、品目、打頭打底〕湯垕畫論、畫有二十三科一、山水打レ頭、界畫打レ底。

【打釘】215 ta^3 ting^1 白晝妓樓に遊ぶ。開舖。

【打嚏】216 ta^3 tʻi^4 くさめする。打印(5)を見よ。

〖打嚏噴〗217 ta^3 tʻi^4 fen 打嚏に同じ。

〖打嚏有二人說一〗218（ダテイ）（トクアリ）（ヒトノ） くさめをするときは人がうはさをしてゐる。〔通俗編、言笑、打嚏有二人說一〕詩、願言則嚏、傳曰、願猶レ思也、蓋他人思レ我、我則嚏レ之也、箋曰、今俗人嚏則曰、人道レ我、此古之遺語也。

【打弔】219（ダテウ） うちかける。〔福惠全書、刑名部、問擬〕廷標以二扁担一打二弔世偉之杈一。

【打跳】220（ダテウ） とびあるく。はねあがる。〔通俗編、武功、打跳〕諸葛亮心書、弄レ刀者傷レ手、打跳者傷レ足。

【打跌】221 ta^3 tieh^2 つまづくこと。

【打揲】222（ダテフ） 打疊(224)に同じ。〔能改齋漫錄、事始、打揲〕打揲字、趙參政槩聞見錄云、須下當打二揲先往一排辦上、東坡與二潘彥明一書云、雪堂如要二偃息一、且與打揲相伴、皆使二揲字一、今俗只使二疊字一何耶。

【打貼】223 ta^3 tʻieh^1 錢を費して官吏を買收すること。〔還魂記、冥判〕鐵院判白虎臨官、一樣價打貼刑名催伍作。

【打疊】224（ダテフ） 事を預めする。整理する。處置する。打揲。打は接頭語。打稿(23)を見よ。〔韓偓、偶見詩〕打二疊紅箋一書二恨字一。〔鶴林玉露、憂樂〕吾輩學レ道、須三是打疊教二心下快活一。〔朱子全書、學、靜〕所謂靜坐、只是打二疊得心下一無レ事、則道理始出。

【打典】225 ta^2 tien^3 賄賂を行使する。

【打點】226（ダテン） ❶調べる。用意する。整頓する。〔燕子箋、拾箋〕煩二雲娘一替レ我打點打點。〔紅樓夢、七十七回〕已我纔他衣裳各物、打點下了。❷運動する。取り入る。賄賂をつかふ。〔福惠全書、刑名部、詞訟、勸レ民息レ訟〕訟端旣興、則運二用筆鋒一、播二弄詭計一、代爲二打點一、愚者落レ局傾レ財。〔六部成語、吏部、打點使レ費、注解〕如應レ行二補缺一之官、以二銀錢一送二給吏部一、書辨求二其照應一、指三望補二一好缺一之類(打點、行レ賄之別名)。

【打殿】227（ウチドノ） 絹帛を砧で打つて光澤を出すことを行ふところ。絹帛の打物を作るところ。〔源氏物語、二十二、玉蔓〕ここかしこのうちとのより參る物ども御覽じくらべて。

【打電】228（ダデン） 電報を發信する。

【打賭】229 ta^2 tu^3 賭をする。

【打頭】230（ダトウ） ❶頭をうつ。〔蘇軾、戲二子由一詩〕常時低レ頭誦二經史一、忽然欠伸屋打レ頭。❷第一。最初。又、第一に。最初に。〔明一統志、論氣候〕凡春有二二十四番花信風一、梅花風打頭、楝花風打末。❸上部から。上部から初める。打底(214)を見よ。❹ta^3 tou^2 初めから。❺（テイトウ） 臺灣語。魚の名。くち。いしもち。石首魚。

〖打頭兒〗231 ta^3 tʻou^2 êrh ❶頭を打つ。❷第一に。又、最初から。

〖打頭風〗232（ダトウフウ） 向ひ風。逆風。〔通俗編、天文、打頭風〕杜甫詩、風急打二船頭一、元稹詩、船泊打頭風、按、打字舊在二梗韻一讀若レ頂、今語仍然、五代史補、吳越王初入朝、上賜二寶馬一、馬出二禁中一、驕行却走、王顧二左右一曰、此豈遇二打頭風一耶。

【打動】233 ta^3 tung^4 動かす。攪亂する。

【打肉】234 ta^3 jou^4 肉を買ふ。打稿(23)を見よ。

【打入】235（ウチイリ） ❶攻め入ること。襲擊。❷ta^3 ju^4 入る。進み入る。

【打黏】236（ダネン） 糊で紙を貼ること。〔歸田錄、二〕以レ糊黏レ紙、曰二打黏一。

【打巴】237 ta^3 pa^1 打つ。

【打把】238 ta^2 pa^3 銃殺すること。廣東方言。

〖打把式〗239 ta^2 pa^3 shih^4 打把勢に同じ。❶力業をする。❷力業をして人に錢を求めること。❸朋友の許に金錢を借りまはること。

〖打把勢〗240 ta^2 pa^3 shih^4 打把式に同じ。

【打派】241 ta^3 pʻai^4 つかはす。派遣する。

【打破】242（ダハ） うちやぶる。ぶちこはす。〔楊萬里、春夜無レ睡思慮紛紛詩〕不レ堪萬慮攪二中腸一、打二破愁城一入二醉鄉一。

【打靶】244 ta^2 pa^3 標的射擊をする。靶は、射擊の時に樹てる的。

【打馬】245（ダバ） 一種の勝負戲。彈碁の類。〔李淸照、打馬賦〕打馬爰興、樗蒲遂廢。

【打罵】246（ダバ） ののしる。罵倒する。〔李商隱雜纂、惡不及〕臟濫官打二罵公人一。

【打敗】247（ダハイ） まける。やぶれる。〔通俗編、武功、打敗〕北史邵護傳、相將至二唐河北一、被二定州官軍打敗一。

〖打敗仗〗248 ta^3 pai^4 chang^4 負けいくさをする。戰に負ける。

【打牌】249 ta^3 pʻai^2 骨牌遊（カルタアソビ）をする。

【打包】250（ダハウ） ❶行脚僧の三衣(大衣・七條・五條)の袈裟を入れたふろしき包。又、其の包を負つた僧。打包僧を見よ。〔韻府引、陳師道、詩〕打包隨處野僧如。❷ta^3 pao^1 ㋑包む。㋺荷造りする。

〖打包僧〗251（ダハウソウ） 打包を負つてゐる僧侶。〔陳造、葫蘆格詩〕仍煩二析塵語一、遠寄二打包僧一。〔陸游、故山詩〕挈レ榼人沽二村市酒一、打包僧趁二寺樓鐘一。

【打放】252 ta^3 fang^4 釋放する。

【打砲】253 ta^3 pʻao^4 興行主が役者に兩三日試演せしめ、景氣を看て包銀を定めること。

【打拼】254（ダハウ） 整理する。打疊。〔朱子全書、論語、雍也〕其餘若有二千頭萬緒一、是這一番一齊打拼掃斷了。

【打鮑】255（ウチアハビ） 鮑の肉を打ちのばしてつくり、後世の熨斗鮑と同じに用ひたもの。うすあはび。のしあはび。〔平治物語、三、賴朝遠流事〕打鮑といふものなり、云云、それ食べよと仰せらる。

【打礮】256（ダハウ） 俳優が始めて出演すること。〔梨園佳話〕童伶學レ戲、人生最苦、謂二之作科一、三月登レ臺、謂二之打礮一、六年畢レ業、謂二之出師一。

【打怕】257 ta^3 pʻa^4 しかられる。〔紅樓夢、四回〕他是被拐子打怕了的。

【打發】258（ダハツ） ❶わたす。酒を支給する。打印(5)を見よ。〔福惠全書、筮仕部、待接役〕如空批來迎、仍打二發批迴一。〔長生殿、疑讖〕包レ酒來的、打發個不レ了。❷ta^3 fa^1 ㋑遣はす。派遣する。差し立てる。㋺暇をやる。解雇する。

【打麥】259（ダバク） ❶麥をかり入れる。又、麥をうつ。〔陸游、禽言、打レ麥作レ飯詩〕老翁老尙健、打レ麥持作レ飯。❷兒童が掌を擊ち合ふ遊戲。〔事物紀原、博弈嬉戲部、打麥〕唐書、武元衡之將レ遇レ害也、京師童謠曰、打レ麥三三三、今俗兒戲有二打麥一、鼓レ掌作二打レ麥聲一後、必三二拍之一、抑緣レ此也。

【打拔】260（ダバツ） 小兒の遊戲の一種。棒を用ひて、棗核狀の木片を打ち、其の遠近を以て勝負を爭ふ。〔帝城景物略〕二月二日、小兒以二木二寸一、製レ如二棗核一、置レ地而棒レ之、一擊令レ起、隨二一擊一令レ遠、以レ近爲レ負、曰二打拔一、古所謂擊壤者耶。

【打板】261 ta^2 pan^3 板を打ちならす。

〖打板子〗262 ta^2 pan^3 tzŭ 罪人を竹で叩くこと。笞刑。

【打飯】263（ダハン） 飯を送る。又、飯を食ふ。〔歸田錄、二〕役夫餉レ飯曰二打飯一。

〖打飯圍〗264 ta^3 fan^4 wei^2 朋友や知人の所などに宿泊して無錢旅行をすること。食ひまはり。

【打幡】265 ta^3 fan^1 葬式の時、銘旗を持つこと。死者の子が之を持つ。

【打盤】266（ダバン） うづをまく。水流がうづまいて激しいこと。〔沈遼、侯灘詩〕江流激激過二侯灘一、更上二山腰一看二打盤一。

【打比】267 ta^2 pi^3 比喩を取る。

【打碑】268（ダヒ） 碑文を石摺りにする。〔韻府引、張耒、詩〕時有二遊人打レ碑賣一。

【打靡】269（ウチナビク） ❶髮・柳・草にかけて用ひる枕詞。

❷春は柳・若草などのなびいて面白い頃であるから、春にかけていふ。

【打氷】270 ta³ ping¹ 氷を採取する。寒中に氷を取つて氷室に入れること。

【打付】271ウチツケ むきだし。露骨。端的。〔貫之集〕吹く風になびく尾花をうちつけに、招く袖かとたのみけるかな。

〖打付書〗272ウチツケガキ ❶なぐりがき。走りがき。❷手紙の初めに時候見舞などの文を略して、直ちに用事を書き出すこと。〔大館常興書札抄〕進㆑之候とも何とも不㆑書して、名字官許、何がし殿と書をば、打付書といふなり。

〖打付心〗273ウチツケゴコロ 俄に思ひ立つた考。突然の考。

【打附】274ウチツケ 打付に同じ。

【打敷】275ウチシキ ❶古、用ひた布帛の敷物。〔宇津保物語、俊蔭〕御座装はすうちしき・褥、皆新らしくせられたり。❷佛壇の前の机の花立・香爐などの敷物。多くは死者の衣服で製する。〔鷹筑波集、二〕摺箔の小袖を見ては物思ひ妻のためとて縫へる打しき。

【打歩】276ウチブ ❶兩替用語。表面上の價格は同じで、實質上の價値の違ふ通貨の間の差。❷送金人が實際に銀行に拂込んだ金額と爲替手形の額面との差。

【打覆】277ウチオホヒ 土居の上を覆うた簡單な屋根。

【打物】278ウチモノ ❶敵を切る太刀・刀類の武器。〔源平盛衰記、二十九、源氏軍配分事〕弓矢取りても打物取りても。❷打ち鍛へて作る金物。鑄物(11－40972‥33)の對。〔用明天皇職人鑑〕相槌も打ちに打物、もとは燒刃の燒物なれば。❸絹帛を槌で打ち、光澤を生ぜしめたもの。〔榮花物語、三十一、殿上花見〕織物・うちもの・繡物など。❹手で打つ樂器。鼓の類。〔新儀式〕承香殿西簾下、不㆑立㆑鼓所、打物皆有㆓其間㆒。❺乾菓子。みぢんこに砂糖を加へ、型に打ち込んで作つたもの。

〖打物師〗279ウチモノシ 刃物を作る職人。

【打分】280ウチワケ 圍碁に於て、勝負の度數の互に同じなこと。

【打扮】281ダフン 種々の裝飾をして形貌を變へること。扮裝する。化粧をする。又、扮裝。いでたち。〔正字通〕扮、逋患切、班去聲、今俗以㆓裝飾㆒爲㆓打扮㆒、演劇者飾㆓其面㆒、謂㆓之扮戲㆒。〔通俗編、婦女、打扮〕中原雅音、俗以㆓粧飾㆒爲㆓打扮㆒也、黃公紹詩、十分打扮是杭州、何應龍詩、尋常打扮最相宜。

【打粉】282ウチコ 刀劍などをとぎ、又は手入をする時に、刀身にふりかけて用ひる粉末。とのこ。

【打聞】283ウチギキ ❶聞くこと。❷聞いたままを書きつけること。又、其のもの。聞書。

【打平】284ダヘイ 打扁(291)に同じ。

【打併】285ダヘイ 洗ひ落す。すつかり捨てる。〔楊萬里、曉起探㆑梅詩〕打㆓併人間名利心㆒、萬山佳處一溪深。〔通俗編、行事、打併〕朱子答㆓呂子約㆒書、請打㆓併了此㆒、却須㆑有㆓會心處㆒。

【打拼】285′ダヘイ 整理する。洗ひ落す。打疊。〔朱子全書、論語、雍也〕其餘若有㆓千頭萬緒㆒、是這一番齊打拼掃斷了。

【打⿰米并】286ダヘイ 食具を治めること。打稿(23)を見よ。

【打米】287 ta² mi³ ❶米を買ふ。打稿(23)を見よ。❷㋑兵丁が扶持米を倉に受け取りに行くこと。㋺米の籾をとる。米を搗く。

〖打米車〗288 ta² mi³ ch'ê¹ 米搗車。

【打票】289 ta³ p'iao⁴ 切符を買ふ。

【打標】290ダヘウ 表彰すること。〔通俗編、俳優、打標〕馬令南唐書、每㆓端午㆒競渡、官給㆓綵段㆒、俾㆔兩兩較㆓其遲速㆒、勝者加以㆓銀椀㆒、謂㆓之打標㆒。

【打扁】291 ta² pien³ うつて平らかにする。ひしやげる。〔桃花扇、鬨丁〕儒冠打扁、歸家應自焚筆硯。

【打木】292ウチギ 酒を搾るに用ひる道具。

【打撲】293ダボク うつ。たたく。鈍性の外力を身體に加へること。

〖打撲傷〗294ダボクシヤウ 打撲によつて生じたきず。うちみ。

【打本】295 ta² pen³ 元金を返濟する。

【打磨】296 ta² mo² ❶とぎみがく。❷石臼で穀物を挽くこと。

【打網】297 ta² wang³ 網をうつ。投網をいふ。

〖打網球〗298 ta² wang³ ch'iu² ローンテニスの競技をすること。

【打幕】299ウチマク 幔幕に似て上に横に一布を張り、下は縫はずに置く幕。

【打末】300 ta³ mo⁴ 最後。最後に。打頭(230)の❷を見よ。

【打鳴】301 ta³ ming² 鷄の鳴くこと。

【打綿】302ウチワタ くりわたを、綿弓で打ちわけたもの。又、うちかへしのふるわた。

【打門】303ダモン 門をたたく。〔盧仝、走㆑筆謝㆔孟諫議寄㆓新茶㆒詩〕日高丈五睡正濃、軍將打㆑門驚㆓周公㆒。〔方岳、簡㆓徐宰㆒詩〕山深未㆑識新官姓、但說無㆓人夜打㆑門。

〖打門路〗304 ta³ men² lu⁴ 賄賂等の方法を用ひて人に取り入る。

【打樣】305 ta³ yang⁴ 製圖をする。又、見本を書く。雛形をつくる。

【打藥】306 ta³ yao⁴ 下痢劑。

【打油】307 ta³ yu² 油を買ふ。

〖打油火〗308ダユクワ 南方の巫が病魔をはらふ法の一種で、油を釜に熱して沸き立たせた時出る綠の陰火を用ひて行ふ。〔廣陽雜記〕又聞、南巫有㆓打油火法㆒、熱㆓油於釜㆒、百沸而沃㆑之以㆑水、綠火騰上、巫以㆑袖收㆑之、至㆓病人見㆑魔之所㆒、啓㆓其袖㆒而數放㆑之、碧燄滿㆑空、物遭㆑之而不㆑然也、此所謂陰火矣、惜無㆓從見㆑之。

〖打油詩〗309ダユシ 極めて俚俗な詩。俗語などを混入して笑ひ草とした詩。唐人、張打油の詩。打狗詩。〔通俗編、文學、打油詩〕南部新書、有㆓胡釘鉸・張打油二人㆒、皆能爲㆑詩、升菴外集、載㆓張打油雪詩㆒、卽俚俗所㆑傳、黃狗身上白、白狗身上腫也、故今又謂㆓之打狗詩㆒。〔張打油、雪詩〕江上一籠統、井上黑窟籠、黃狗身上白、白狗身上腫。

【打鑼】310ダラ どらを打ちならすこと。〔西湖志餘〕一人專打㆑鑼、一人扑㆑之。

【打雷】311 ta³ lei² 雷が鳴る。

【打擂】312ダライ 相撲などの技を戰はすこと。又、相撲。武伎。打擂臺を見よ。

〖打擂臺〗313ダライダイ 相撲等をするために設ける臺。競技場。勝者には賞金を與へる。〔夢粱錄、角觝〕角觝者、相撲之異名也、又謂㆓之爭交㆒云云、若論㆓護國寺南高峰露臺爭交㆒、須㆑擇㆓諸道州郡膂力高強、天下無㆑對者㆒、方可㆑奪㆓其賞㆒、如㆓頭賞㆒者、旗帳盃綵段錦襖官會馬匹而已、頃于㆓景定年間㆒賈秋壑秉㆑政時、曾有㆓溫州子韓福者㆒、勝得㆓頭賞㆒、曾補㆓軍佐之職㆒。〔元曲、黑旋風〕那泰安山神州廟、有㆓一等打擂臺㆒、賭本事的要㆓與㆑人廝打㆒、你見㆓他山棚上擺著許多利物㆒、只怕你忍不㆑過、就要㆓廝打起來㆒也不㆑見㆑得。

【打撈】314ダラウ 鈎又は網で海底にあるものを取ること。〔淸會典事例、戶部、錢法、辦銅鉛考成〕乾隆十五年奏准、雲南貴州兩省、沈㆓失銅鉛㆒、定㆓限一年㆒撈獲、如撈不㆑足㆑數、著㆓落運官㆒賠補、所㆑沈銅鉛、一年限外、如居民撈獲、報㆓明地方官㆒、照㆓廠例㆒給㆑價收買、不㆑許㆓私賣㆒、至㆓限內㆒有㆓升遷事故㆒、仍留㆔沈銅處所㆓打撈㆒、俟㆓事竣㆒分別赴回籍、至㆓沈溺銅鉛㆒、仍令㆓地方官協同打撈㆒。

〖打撈魚〗315 ta³ lao¹ yü² 網で魚を漁る。

【打落】316 ta³ lao⁴ ❶下ろす。❷打ち落す。❸ひやかす。

【打拉】317ダラツ 打ちひしぐこと。〔梅堯臣、次韻奉㆔和永叔謝王尚書惠㆓牡丹㆒詩〕舊品既著新品增、偏惡妬芽須㆓打拉㆒。

〖打拉池〗318タラツチ 地名。甘肅省海原縣の西北。

【打亂】319ウチミダレ 打亂箱。❶婦人が結髮又は就寢の時、かもじなど盛るに用ひるもの。❷沐浴の時など、手巾・化粧道具などを入れおく箱。❸淺い蓋のない箱で、懷中する物を入れおく器。みだれ箱。

【打蘭】320ドラム 英米に行はれる量の名。英語 dram の音譯。

【打留】321ウチドメ ❶をはり。❷興行物などの終結をつげること。

【打立】322ウチタテ ❶古、衝立をいふ。❷ta³ li⁴ 創める。

【打栗】323ウチグリ 蒸して甘味をつけたかちぐり。

【打量】324ダリヤウ ❶はかりしらべる。考へはかる。打は接頭語。打稿(23)を見よ。〔宋史、兵志四〕但有㆓爭訟侵冒之處㆒、幷行㆓打量㆒。❷土地を測量する。打は接頭語。〔歸田錄、二〕以㆓丈尺㆒量㆑地、曰㆓打量㆒。❸ta³ liang⁴ ㋑計算する。㋺相談する。

【打糧】325 ta^3 liang^2　㊀糧食を求める。㊁盗賊が財物を掠取ること。

【打寮】326ダレウ　山猺の小屋。〔溪蠻叢笑〕山猺、穴居野處、雖三有レ屋以庇二風雨一、不レ過二剪毛叉木一而已、名曰二打寮一。

【打獵】327 ta^3 lieh^4　獵をする。

【打籠】328 ta^3 lung^2　竹で造つた鳥籠の一。籠上に機があり、鳥が一たび止れば直ちに中に入るしかけとなつてゐるもの。

【打話】329 ta^3 hua^4　對面して話す。問答する。〔三朝北盟會編〕金人至城下、呼請官員打話。〔還魂記、禦淮〕外衆唱合前上、淨衆上打話單戰介。

【打橫】330 ta^3 hêng^2　腰掛を卓子の前に置いて坐すること。普通は卓子の兩側に置く。

〖打橫兒〗331 ta^3 hêng^2 êrh　滿洲人の敬禮法。直立不動の姿勢をする。

【打埃塵】332ダアイヂン　煤掃ひ。年末の大掃除。〔清嘉錄〕臘將レ殘、擇下憲書宜レ掃二舍宇一日上、去二庭戸塵穢一、或有下在二二十三日・二十四日及二十七日一者上、俗呼二打埃塵一。

【打遊匪】333 ta^3 yu^2 fei^3　放浪の惡黨。匪徒。

【打一下】334 ta^3 i^2 hsia^4　一つ叩く。一度打つ。

【打一躬】335 ta^3 i^4 kung^1　腰を屈めて挨拶する。

【打一頓】336 ta^3 i^2 tuen^4　一と打ち打つ。

【打影子】337 ta^2 ying^3 tzŭ　怖れる。氣おくれする。

【打家賊】338 ta^3 chia^1 tsei^2　竊盜。〔還魂記、駭變〕小姐呵、你道他、爲什麼向金蓋銀墻做打家賊。

【打解業】339ウチトケワザ　「なしわざ」。なれなれしいしうち。みだら

【打解事】340ウチトケゴト　打解業に同じ。

【打解文】341ウチトケブミ　隔てなく事情をあからさまに述べた手紙。

【打交待】342 ta^3 chiao^1 tai^4　㊀交際する。㊁事を共にする。北京方言。

【打交道】343 ta^3 chiao^1 tao^4　相手になる。折り合ふ。交道。

【打高興】344 ta^3 kao^1 hsing^4　人の興をさます。

【打嗝兒】345 ta^3 kê^2 êrh　しやつくりをする。

【打哈哈】346 ta^3 ha^1 ha　笑ふ。戲談をいふ。

【打哈息】347 ta^3 ha^1 hsi　あくびをする。

【打罕坡】348ダカンハ　地名。貴州省關嶺縣の北。もと達安坡といふ。夷名は打罕。崎嶇險峻である。

【打旱路】349 ta^3 han^4 lu^4　陸路を行く。

【打閒的】350 ta^3 hsien^2 tê　乞食。

【打牛坪】351ダギウヘイ　地名。雲南省永平縣の北。三國、蜀の諸葛亮が土人に牛耕を教へた所であるから名づけたと傳へる。

【打疙瘩】352 ta^3 kê^1 ta　㊀結び目を結ぶ。㊁腫物に繃帶する。

【打鄉談】353 ta^3 hsiang^1 tʻan^2　田舍言葉で話す。

【打糨子】354 ta^3 chiang^4 tzŭ　糊をつくる。

【打觔斗】355 ta^3 ken^1 tou　打筋斗に同じ。

【打筋斗】356ダキントウ　㊀其の身を顚覆旋轉して藝をすること。もんどり打つ。〔韻府引、朱熹、詩〕只麼虛空打筋斗、思君辜負百年身。〔通俗編、俳優、打筋斗〕樂府雜錄、尋橦跳丸旋槃觔斗悉屬二鼓架部一、崔令欽坊記、漢武時、于二天津橋一設二帳殿一、酺三日、教坊一小兒、筋斗絕倫、朱子詩、只麼虛空打筋斗、思君辜負百年身、又語錄、說二斆學半一云、前後語皆平正、不レ應レ得三中閒翻二一个筋斗一、言鯖、伎人以レ頭委レ地而翻斗跳過、且四面旋轉如レ毬、謂二之金斗一、相傳趙簡子殺二中山王一、命二廚人一翻二金斗一以擊レ之、已見二此二字一、按、金斗自是酒器、與二筋斗一何相涉耶、李氏疑耀云、孫與吾韻會定正、于二跟字注一云、脚跟也、又跟頭戲倒レ頭爲レ跟也、觔斗二字當レ從二跟頭一、今作二筋斗兩字一皆誤、此說甚似レ有レ理。㊁ta^3 chin^1 tou　失敗する。しくじる。

【打花格】357ダクワカク　詩賦の格調の名。〔螢雪叢說〕陳尹賦三文帝前二席賈生一、內有二打花格一云、金蓮燭煥、煌煌漢天子之儀、玉漏聲沈、纚纚洛陽人之語。

【打花兒】358 ta^3 hua^1 êrh　噓をいふ。

【打過堂】359 ta^3 kuo^4 tʻang^2　溢れ流れる。

【打夥兒】360 ta^2 huo^3 êrh　集まる。組合ふ。仲間になる。

【打回來】361 ta^3 huei^2 lai　戻す。返す。返る。

【打灰堆】362ダクワイタイ　宋代、吳中の風俗で、除夜、鷄鳴を合圖に婢女が棒をもつて糞堆を擊つこと。又、今蘇州地方で除夜鷄鳴の頃、灰積を打つて其の年の利を祈ること。打如願。〔范成大、臘月村田樂府序〕余歸二石湖一往二來田家一、得二歲暮十事一、採二其語一各賦二一詩一、以識二土風一、號二村田樂府一云云、其十打灰堆詞、除夜將レ曉、雞且レ鳴、婢獲二持杖一擊二糞壤一致レ詞以祈二利市一、謂二之打灰堆一。〔江南志書、嘉定縣〕除夜、鷄鳴持レ杖、擊二灰積一致レ詞以獻二利市一、謂二之打灰堆一。

【打匯票】363 ta^3 huei^4 pʻiao^4　爲替手形を振り出す。爲替を組む。

【打滑㒓】364 ta^3 hua^2 tʻa^4　㊀行いてつまづくさま。㊁事が紛糾した場合、そつと身をひき、責任を負はぬこと。

【打官司】365ダクワンシ　訴へる。訴訟を起す。〔通俗編、政治、打官司〕元人抱粧盒曲有二此三字一。

【打官話】366 ta^3 kuan^1 hua^4　㊀官話をはなす。㊁官途に關する話をする。又、役人のやうに四角張つた話をする者。

【打群架】367 ta^3 chʻün^2 chia^4　多勢で喧嘩する。

【打狐人】368ダコジン　狐附き。狐憑病。〔清異錄、肢體、十樣佛〕世有二十樣佛一、皆禿首者也、一僧、二尼、三老翁、四小兒、五優伶、六角抵、七泗漁漢、八打狐人、九禿瘡、十酒禿。

【打個蹬】369 ta^3 kê têng^1　馬の步みを停める。

【打虎跳】370ダコテウ　腰を引いて跳躍する戲。虎跳。〔通俗編、俳優、虎跳〕按、今以二引レ腰跳擲一曰二打虎跳一。

【打扣兒】371 ta^3 kʻou^4 êrh　結び目をつくる。

【打喳喳】372 ta^3 chʻa^1 chʻa　ささやく。

【打齋飯】373ダサイハン　僧が門戸に沿つて食を索めること。托鉢。〔夷堅志〕將下打二回齋飯一歸上レ家。

【打雙陸】374 ta^3 shuang^1 liu^4　雙六をする。

【打雜的】375 ta^3 tsa^2 tê　召使。苦力。

【打攢盤】376ダサンバン　牢屋の守役どもが群つて罪人をたたくこと。〔福惠全書、刑名部、監禁〕與二衆牢頭一羣來帮毆、名曰二打攢盤一。

【打獅子】377 ta^3 shih^1 tzŭ　正月の燈節に二人が紙製の獅子皮を冠り、一人が傑士の粧ひをして戰ひながら踊ること。河南の俗。

【打字機】378 ta^3 tzu^4 chi^1　印字機。タイプライター。

【打耳喳】379 ta^2 êrh^3 chʻa^1　耳の側でささやく。打喳喳。

【打秋風】380 ta^3 chʻiu^1 fêng^1　權貴に謁見を求めて取り入る者をいふ。奴僕などが僅かの物を主人に呈し、多くの頂戴物をすること。打抽豐。〔暖姝由筆〕今人干謁者、謂二之打秋風一。〔野獲編〕都城俗事對偶、以二打秋風一對二撞太歲一。

【打鞦韆】381 ta^3 chʻiu^1 chʻien^1　ぶらんこに乘る。ぶらんこ遊び。

【打執事】382 ta^3 chih^2 shih^4　葬式・婚禮等の行列に儀仗を持つ者。

【打鞝子】383 ta^2 chang^3 tzŭ　剃刀で剃り込む。剃刀をすべらせて傷つける。

【打主意】384 ta^3 chu^2 i　思案をきめる。意見を定める。

【打首飾】385 ta^2 shou^3 shih^4　婦人の頭飾を打つて造る。

【打粥的】386 ta^3 chou^1 tê　粥廠からたき出す粥をもらふ貧民。

【打書本】387 ta^3 shu^1 pen^3　書物を開く。

【打如願】388ダジョグワン　打灰堆(362)に同じ。〔范成大、打灰堆詞〕除夜將レ闌曉星爛、糞掃堆頭打如願。

【打舒身】389 ta^3 shu^1 shen^1　背伸びする。

【打心裏】390 ta^3 hsin^1 li^3　心から。本氣で。

【打垂髮】391ウチタレガミ　婦人・少女などの結ばずに垂れた髮。〔拾遺集、夏〕ほととぎすをちかへりなけうなゐごがうちたれ髮のさみだれの空。

【打哨兒】392 ta^3 shao^4 êrh　口笛を吹く。

【打照面】393 ta^3 chao^4 mien^4　面と向つて見かはすこと。〔長生殿、禊游〕淨・副淨作打照面、淨回馬急下。

【打赤脚】394 ta^2 chʻih^2 chiao^3　はだしになる。

【打千兒】395 ta^3 chʻien^1 êrh　片足を跪いてする敬禮法。

【打占相】396ダセンシヤウ　唐代の語。酒令をいふ。酒令は飲酒の遊戲で、一人が號令して、飲者に皆其の

號令を聽かしめ、違ふ者を罰するもの。瞻相。〔盧氏雜說〕擧子某乙與二樂妓茂英一相識、及下乙到二江外一謁中節使上、英爲二酒糺一、諧戲頗洽、一日告辭、帥開レ筵送別、因暗留二絶句一與レ糺曰、少插二花枝一少下レ籌、須レ防三女伴妬二風流一、坐中若打占相令、除二卻尙書一莫二點頭一、因設レ舞遺レ詩、帥覽レ之、卽令三人送二付擧子一。

【打穿兒】397 ta^{3} chʻuan^{1} êrh くぐり抜ける。

【打旋羅】398（ダセンラ） 廻り燈籠。靑傘の上に竹架を附け、小燈籠を結び、鼓聲に應じて轉走させる。〔東京夢華錄〕焦鎚以二竹架子一出二靑傘上一、裝二綴梅紅縷金小燈籠子一、架子前後、亦設二燈籠一、敲敲應拍、團團轉走、謂二之打旋羅一。

【打漩兒】399 ta^{3} hsüan^{2} êrh 渦をまく。

【打箭鑪】400（ダセンロ） 廳の名。淸、置く。西康省康定縣。三國、蜀の諸葛亮が南征し、郭達を遣して爐を置いて箭を打つた所と傳ふ。大雪山の高所に據り、大渡河・鴉龍江の閒に位す。西藏より蜀に入る第一の要道にあたり、盛な商業地。〔淸史稿、地理志〕四川、康定府、雍正七年、云云、置二打箭鑪廳一、仍隸二雅州府一。

【打顫兒】401 ta^{3} chan^{4} êrh ふるへる。

【打前失】402 ta^{3} chʻien^{2} shih^{1} 馬がつまづく。前足を挫折する。

【打簇戲】403（ダゾクギ） 山西の風俗で、正月十五日に行ふ遊戲の名。勝つた者には賞として帛を與へる。〔海錄碎事、地、風俗〕魏氏舊俗、以二正月十五日夜一、爲二打簇戲一、能中者賞レ帛。

【打大板】404 ta^{3} ta^{4} pan^{3} 年節などに歌を唄ひながら物を貰ひあるく者。北京に居る上級な乞食。

【打太刀】405（ウチダチ） 太刀打に用ひる刀。又、太刀打をすること。

【打帶子】406 ta^{3} tai^{4} tzŭ 帶を編む。

【打躉兒】407 ta^{2} tuen^{3} êrh 一度に多く買ひ込む。

【打套局】408（ダタウキヨク） 宋代、官署の名。太府卿に屬し、市舶・香藥・雜物を揀選する事を掌る。〔文獻通考、職官考、太府卿〕宋太府寺判寺事一人、云云、編估局・打套局二局係三揀二選市舶・香藥・雜物一。

【打躺下】409 ta^{2} tʻang^{3} hsia^{4} 擊ち仆す。擊ち据ゑる。

【打盪兒】410 ta^{3} tang^{4} êrh 罫を引く。

【打彈子】411 ta^{3} tan^{4} tzu 球突き。

【打地脚】412 ta^{3} ti^{4} chiao^{3} 敷地を定める。基地をこしらへる。

【打地鋪】413 ta^{3} ti^{4} pʻu^{1} 土閒へ寢臺を設ける。

【打抽搭】414 ta^{3} chʻou^{1} ta 啜り泣く。

【打抽風】415 ta^{3} chʻou^{1} fêng^{1} 無心する。打秋風(380)に同じ。

【打抽豐】416（ダチウホウ） ㊀拷問の一種。牢屋の役人が他の罪人を唆かし、大勢で犯人をたたきはづかしめること。〔福惠全書、刑名部、監禁〕成レ羣凌辱、名曰二打抽豐一。㊁ta^{3} chʻou^{1} fêng^{1} 奴僕などが僅かの物を主人に呈して多くの物を貰ふこと。〔紅樓夢、三十九回〕忽見、上回來打抽豐的那劉姥姥、和板兒又來了。

【打茶圍】417 ta^{3} chʻa^{2} wei^{2} 妓樓・藝者屋へ茶を飲みに行くこと。ひやかし。〔北京指南、食宿遊覽、妓館〕客入妓家、品茗爲打茶圍。

【打沖河】418（ダチユウガ） 川の名。四川省鹽源縣の東北。もと一小河。鴉礱江に注ぐ。故に鴉礱江下流をも打沖河といふ。蠻名は黑惠江。又、納夷江ともいふ。〔讀史方輿紀要、四川、鹽井衞軍民指揮使司〕打沖河、衞東北百八十里、自二吐蕃界一流經二打沖河中左所一、南流經二此下一、流至二會川衞境一合二金沙江一、志云、打沖河兩山壁立、水勢洶湧、狼牙相距、舟楫不レ通、有二索橋一、横亙四十二丈、邊陲之天險也。

〖打沖河所〗419（ダチユウカシヨ） 千戶所の名。明、洪武中、置く。四川省鹽源縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、鹽井衞軍民指揮使司〕打沖河守禦中左千戶所、衞東北百六十里、元建昌路瀘州地也、洪武中置二一所一、今分爲レ五、倶屬二建昌衞一。〔邊防考〕唐爲二沙野城一、元爲二建昌路瀘州之地一、國初立二守禦千戶所一、今分爲レ五、中左所土千戶姓剌、右所土千戶姓八、前所土千戶姓阿、後所土千戶姓卜。

【打通關】420 ta^{3} tʻung^{1} kuan^{1} 一人が衆人に對して、順次に拳を打ち、負けたものが次々に退くこと。

【打通兒】421 ta^{3} tʻung^{1} êrh 戰ふこと。爭ふこと。北京方言。

【打鐵匠】422 ta^{2} tʻieh^{3} chiang^{4} 鍛冶屋。鐵工。

【打鐵的】423 ta^{2} tʻieh^{3} tê 打鐵匠に同じ。

【打天鐘】424（ダテンシヨウ） 口中の左方で鳴らす齒の音。〔雲笈七籤〕叩レ齒之相、左相叩名曰二打天鐘一、右相叩名曰二搥天磬一、中央上下相叩名曰二鳴天鼓一。

【打圖書】425 ta^{3} tʻu^{2} shu 判を捺す。

【打東西】426 ta^{3} tung^{1} hsi 編物をする。

【打燈虎】427（ダトウコ） 正月燈節に燈籠に書いた謎判じをすること。〔燕京雜記〕上元設二燈謎一、猜中以レ物酬レ之、俗謂二之打燈虎一、語甚典博、上自二經文一、下及二詞曲一、非二學問淵深者一弗レ中。

〖打燈虎兒〗428 ta^{3} têng^{1} hu^{3} êrh 打燈虎に同じ。

【打燈謎】429 ta^{3} têng^{1} mi^{2} 打燈虎に同じ。

【打燈籠】430 ta^{3} têng^{1} lung^{2} 提灯をつけて行く。

【打忑忐】431 ta^{3} tʻê^{4} tʻan^{3} 戰慄する。ふるへる。

【打方旋】432 ta^{3} fang^{1} hsüan^{2} 身を轉じて後もどりすること。〔還魂記、尋夢〕打方旋再得俄延。

【打飽嗝】433 ta^{2} pao^{3} kê^{2} しやつくりする。げつぷする。

〖打飽嗝兒〗434 ta^{2} pao^{3} kê^{2} êrh あくびする。

【打毷氉】435（ダバウサウ） 試驗に落第して、酒を飲んで煩悶をはらすこと。〔唐國史補、下〕得レ第謂二之前進士一、互相推敬、謂二之先輩一、倶捷謂二之同年一、云云、既捷列二書其姓名於慈恩寺塔一、謂二之題名一、云云、不レ捷而醉飽、謂二之打毷氉一。

【打不開】436 ta^{3} pu kʻai^{1} ㊀開けられない。㊁晴れない。㊂戰つて止めない。

【打片瓦】437 ta^{3} pʻien^{4} wa^{3} 傍から合槌を打つ。

【打片片】437′ ta^{3} pʻien^{4} pʻien^{4} 拍手すること。湖北地方の方言。

【打邊鼓】438 ta^{3} pien^{1} ku^{3} そばからめぐみ助ける。乞食がその同類をいふ隱語。

【打辮子】439 ta^{3} pien^{4} tzŭ 辮髮を組む。

【打捕戶】440（ダホコ） 獵戶をいふ。〔明律、刑律、人命、窩弓殺傷人〕凡打捕戶於二深山曠野猛獸往來去處一、穿二作阬穽一、及安二置窩弓一、不レ立二望竿及抹眉小索一者、笞四十、以致レ傷レ人者、減二鬭毆傷二等一、因而致レ死者、杖一百、徒三年、追二埋葬銀一十兩一。

【打補靪】441（ダホテイ） つぎをあてて繕らふ。〔說文〕靪、補二履下一也。〔段注〕今俗謂二補綴一曰二打補靪一、當レ作二此字一。

【打鋪蓋】442 ta^{3} pʻu^{1} kai 夜具を敷きかける。寢床の準備をする。

【打棒球】443 ta^{3} pang^{4} chʻiu^{2} 野球。ベースボール競技。

【打饛薹】444（ダボウトウ） つかれきつた人の足許の定らないさま。〔通俗編、狀貌、饛薹〕按、今謂二困倦人步立不レ定、曰二打饛薹一。

【打麻線】445 ta^{3} ma^{2} hsien^{4} 麻絲をつむぐ。

【打麻煩】446 ta^{3} ma^{2} fan 面倒になる。事が紛糾する。

【打問訊】447 ta^{3} wen^{4} hsün 僧侶が合掌すること。

【打夜狐】448（ダヤコ） 打野狐・打夜胡に同じ。〔通雅、諺原〕唐敬宗自捕二狐狸一、謂二之打夜狐一、今民稱二跳鬼一、曰二打夜狐一、訛爲二野狐一。

【打夜胡】449（ダヤコ） 臘月に貧者が十數人宛一團となり、神鬼の裝ひをし、門每に厄拂ひをして錢を乞ふこと。打夜狐。打野胡。打野狐。〔夢粱錄、十二月〕自レ入二此月一、街市有二貧乞者二三五人爲二一隊一、裝二神鬼・判官・鍾馗・小妹等形一、敲レ鑼擊レ鼓、沿レ門乞レ錢、俗呼爲二打夜胡一、亦驅儺之意也。〔東京夢華錄、十、十二月〕自レ入二此月一、卽有二貧者二三數人爲レ一、火裝婦人神鬼、敲レ鑼擊レ鼓、巡レ門乞レ錢、俗呼爲二打夜胡一、亦驅レ祟之道也。

【打野狐】450（ダヤコ） 打夜胡に同じ。野雲戲。〔事物異名錄、玩戲、儺戲〕雲麓漫鈔、歲將レ除、都人相率爲レ儺、俚語謂二之打野狐一、亦呼二野雲戲一、夢粱錄謂二之打夜狐一。

【打野胡】451（ダヤコ） 打夜胡に同じ。〔雲麓漫鈔〕歲將レ除、鄕人相率爲レ儺、俚語謂二之打野胡一。

【打夜作】452 ta^{3} yeh^{4} tsuo^{4} 夜業をする。

【打野盤】453 ta^{2} yeh^{3} pʻan^{2} 野宿する。露營する。

【打來回】454 ta^{3} lai^{2} huei^{2} 往復する。

【打烙印】455 ta^{3} lao^{4} yin^{4} 烙印を捺す。燒印を捺す。

【打龍袍】456（ダリョウハウ） 西皮劇の一種。宋の仁宗が包拯の努力によつて生母李后を知ることを脚色した劇。

【打冷驚】457 ta^{2} lêng^{3} ching^{1} ❶不意に。俄に。突然。❷身ぶるひする。

【打趔趄】458 ta^{3} lieh^{4} ch'ieh つまづく。よろめく。

【打連布】459 ta^{3} lien^{2} pu^{4} 綾木綿。雲齋織木綿。

【打路棍】460 ta^{3} lu^{4} kuen^{4} 寺院の緣日の藝當の名。一人は趙匡胤に、一人は鄭思に扮し、五六人の伴をつれ、棍棒を手にして各種の樂器を奏して演ずる藝。五虎棍(**1**－**257**・・325)に同じ。

【打攏子】461 ta^{2} lung^{3} tzŭ 強盜。

【打磕絆兒】462 ta^{3} k'e^{1} pan^{4} êrh 倒れる。

【打杠子的】463 ta^{3} kang^{4} tzŭ tê 強盜。

【打旗子的】464 ta^{3} ch'i^{2} tzŭ tê 最も下級な俳優で、舞臺で旗を持つもの。

【打響尺的】465 ta^{2} hsiang^{2} ch'ih^{3} tê 葬式の時、棺前に立つて棒を打ちたたき先導をする男。

【打個盹兒】466 ta^{3} kê tuen^{3} êrh 居睡りする。

【打個沉兒】467 ta^{3} kê ch'ên^{2} êrh しばらくしてから。

【打個底子】468 ta^{3} kê ti^{3} tzŭ 文案をつくる。

【打個賭兒】469 ta^{3} kê tu^{3} êrh 賭けをする。

【打箇磨陀】470 ta^{3} kê mo^{1} tê 廻轉すること。身を轉じて後戻りする。〔還魂記、慈戒〕尙兀自裏打個磨陀、女兒家甚做作、星辰高猶自可。

【打雜兒的】471 ta^{3} tsa^{2} êrh tê 雜役人夫。人足。

【打成一片】472（タジヤウイツペン） 佛 一切の情量・計較を去つて千差萬別の事物を一にすること。〔永平淸規、上〕若使㆓彼猿馬一日一退歩返照㆒、自然打成一片。〔無門關、第一則評〕久久純純熟、自然內外打成一片、如㆓啞子得㆑夢、只許㆓自知㆒。〔碧巖種電鈔、二〕不㆑立㆓一塵一法㆒、合㆓平等之域㆒、謂㆓之打成一片㆒。

【打裏陽城】473（ダジヤウヤウジヤウ） 北京で正月の燈節に放つ煙火の一種。〔燕京歲時記、燈節〕花炮棚子製造、各色烟火、競㆑巧爭㆑奇、有㆓盒子花盆・烟火杆子・線穿牡丹・水澆蓮・金盤落月・葡萄架・旂火二踢腳・飛天十响・五鬼鬧判兒・八角子炮・打裏陽城・匣炮・天地燈等名目㆒、富室豪門、爭相購買、銀花火樹、光彩點㆑人、車馬喧闐、笙歌聒㆑耳。

【打信稿兒】474 ta^{3} hsin^{4} kao^{3} êrh 手紙の草稿を書く。

【打通鐵路】475（ダツウテツロ） 鐵道の名。滿洲遼寧省の通遼から新立屯を經て打虎山に至り、連山灣（葫蘆島）に出る。

【打定主意】476 ta^{3} ting^{4} chu^{2} i 意見を定める。

【打得通的】477 ta^{3} tê t'ung^{1} tê 貫徹出來ること。又、それの出來る人。〔曾文正公文集〕不㆓特習字㆒、凡事皆有㆓極困極難之時㆒、打得通的、便是好漢。

【打篤磨槎】478（ダトクマサ） 混みあふこと。〔宣和遺事、前集〕又沒㆓支分㆒猶然、遞滯打篤磨槎來。

【打抱不平】479 ta^{3} pao^{4} pu^{4} p'ing^{2} 不平を抱く。

【打不起來】480 ta^{3} pu ch'i^{3} lai 戰を始められない。喧嘩がやりだせない。

【打不過他】481 ta^{3} pu kuo^{4} t'a^{1} 彼には叶はない。

【打牙油嘴兒】482 ta^{3} ya^{2} yu^{2} tsuei^{3} êrh むだ口をきく。

【打糖鑼兒的】483 ta^{3} t'ang^{2} luo^{2} êrh tê 子供の玩具及び駄菓子を賣る賣子。

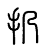
【打筆墨戰爭】484 ta^{2} pi^{3} mo^{4} chan^{4} chêng^{1} 筆先の戰爭。文章で論戰すること。

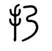
【打老鼠傷玉器】485 ta^{2} lao^{3} shu shang^{1} yü^{4} ch'i^{4} 鼠を打つて器物を傷つける。投㆑鼠忌㆑器(**12**－**48390**・・102)に同じ。

【扔】11782

㊀ ジョウ ニョウ 〔集韻〕如蒸切 ㄖㄥ jêng$^{1·3}$ 蒸

㊁ ジョウ ニョウ 〔集韻〕如證切 徑


小篆（說文）


小篆（段注本）

㊀㊁❶**よる。つく。ふれる。**〔說文〕扔、捆也、从㆑手乃聲。〔說文通訓定聲〕扔、按、以㆑手攖㆑之也。〔老子、三十八〕則攘㆑臂而扔㆑之。〔釋文〕扔、因也、字林云、就也。❷**ひく。**〔廣雅、釋詁一〕扔、引也。〔廣韻〕扔、強牽引也。〔老子、三十八、釋文〕扔、引㆑之也。❸**せめる。**〔老子、三十八、釋文〕扔、數也。❹**たづねる。**〔老子、三十八、釋文〕 扔、原也。❺**くだく。**〔後漢書、馬融傳〕竄伏扔㆑輪。〔注〕扔、摧也。❻或は⿰扌戎(**5**－**12003**)・戎(**5**－**11539**)に作る。〔集韻〕扔、或作㆑⿰扌戎、亦省。❼現 ㋑擲つ。㋺捨てる。

【扔下】1 jêng^{1} hsia 棄てる。打ち棄てる。抛る。

【扔棄】2 jêng^{1} ch'i^{4} 投げ棄てる。

【扒】11783

シン 〔龍龕手鑑〕所臻切 眞

より取る。〔龍龕手鑑〕扒、從㆑上擇取㆑物也。

【払】11784

㊀ ハン ホン 〔川篇〕方犯切 豏

㊁ フツ

㊀**とる。**〔川篇〕払、取也。㊁拂(**5**－**11936**)の略字。

【⿰手刂】11785

カツ ケチ 〔五音篇海〕苦瞎切 黠

たくみ。〔五音篇海〕⿰手刂、巧⿰手刂也。

【扠】11786

サ

扠(**5**－**11804**)の譌字。〔字彙補〕扠、扠字之譌。

【扨】11787

ボク 〔龍龕手鑑〕音木

桑の木。〔龍龕手鑑〕扨、桑也。

【扖】11788

字國

はめる。又、しぼる。

三畫

【⿰扌寸】11789

ソン

刌(**2**－**1870**)に同じ。〔集韻〕刌、或作㆑⿰扌寸。

【⿰扌巾】11790

㊀ キン コン 〔集韻〕居欣切 問

㊁ キン 〔集韻〕居銀切 眞

㊂ キン 〔集韻〕居覲切 震

㊀㊁㊂❶**おほふ。**ふきんをかける。〔集韻〕⿰扌巾、以㆑巾覆㆑物也。❷**ふきん。**〔字彙〕⿰扌巾、一曰、覆巾。

【⿰扌弋】11791

ショク

拭(**5**－**11989**)の譌字。〔正字通〕⿰扌弋、拭字之譌。

【扗】11792

ザイ

在(**3**－**4881**)の本字。〔正字通〕扗、在本字。

【托】11793

タク 〔集韻〕闥各切 ㄊㄨㄛ t'uo^{1} 藥

❶**手で物を推す。**拓 (**5**－**11958**)に同じ。

〔集韻〕拓、手推レ物也、或作レ托。❷うけ。うけ臺。茶托。〔資暇錄、茶托子〕蜀崔寧之女、以三茶盃無レ襯、病二其熨一レ指、取二楪子一承レ之。❸おす。〔玉篇〕托、推也。❹たのむ。まかせる。たよる。かこつける。託（10－35243）に通ず。〔紀效新書〕一手托レ銃、一手點レ火。❺［現］英國の長さの名。二碼の長さ。五尺九寸二分強。英語 fathcin の音略字。

［參考］熟語は託（10－35243）をも見よ。

【托葉】1 葉柄の基部から生ずる一對の小葉片。副葉。

【托俄】2 t‘uo^1 ê^2 人形使ひ。大きな人形を使ふ者。

【托襟】3 t‘uo^1 chin^1 滿洲婦人が襟首につける刺繡の飾。托領（37）に同じ。

【托偶】4 t‘uo^1 ou^3 北京で行はれた人形芝居。

【托孤】5 孤子をあづかり養育すること。託孤（10－35243・・13）に同じ。

【托故】6 事故にかこつける。〔宋史、禮志二十六〕侍御史張太經奏、云云、乞下自今如遇二行香一日、有二稱レ疾托レ故不レ赴者一、從二本臺一彈奏上、云云、從レ之。〔福惠全書、涖任部、戒躁怒〕莊村多托レ故繞避、不レ爲二引視一。

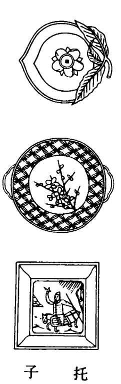
【托口】7 砦の名。宋、置く。湖南省黔陽縣の西南の渠水の右。〔讀史方輿紀要、湖廣、辰州府、沅州、黔陽縣〕托口、當二九牙諸蠻之衝一、宋置二托口寨于此一、今爲二戍守處一。

【托腮】8 t‘uo^1 sai^1 ほほづゑをつく。兩手で腮を支へる。

【托腮頰】9 t‘uo^1 sai^1 chia^2 頰杖をつく。

【托槍】10 t‘uo^1 ch‘iang^1 擔へ銃といふ號令。

【托子】11 茶臺。茶托。託子。〔通俗編、器用、茶托子〕資暇錄、蜀崔寧之女、以三茶盃無レ襯、病二其熨一レ指、取二楪子一承レ之、既啜而盃傾、乃以レ蠟環レ楪夾二其盃一、遂定、卽命レ匠以二漆環一代レ蠟、進二于蜀相一、相奇レ之、名爲二茶托子一、云云、演繁露、古者彝有レ舟、爵有レ坫、卽今俗稱二臺盞一之類也、然臺盞亦始二于盞托一、托始二于唐崔寧女一、前世未レ有也、按、此則唐造二托子一、本以承二茶杯一、至レ宋則酒盞亦用レ托矣、暖姝由筆云、酒盤一名護衣盤者、是明朝創造、前代無レ有、豈實錄耶。〔齊東野語、十九、有レ喪不レ擧二茶託一〕凡居レ喪者、擧レ茶不レ用レ託、雖レ曰二俗禮一、然莫レ曉二其義一、或謂、託必有レ朱、故有レ所レ嫌而然、要必有レ所レ據、宋景文雜記云、夏侍中薨二於京師一、子安期、他日至二館中一、同舍謁見、擧二茶託一如二平日一、衆頗訝レ之、又平園思陵記載、阜陵居二高宗喪一、宣坐賜レ茶、亦不レ用レ託、始知、此事流傳已久矣。


托子（三才圖會）

【托辭】12 かこつける。ことよせてことはる。託辭（10－35243・・21）の❶に同じ。

【托疾】13 やまひにかこつける。託疾（10－35243・・23）に同じ。

【托銃】14 銃をささへる。〔紀效新書〕一手托レ銃、一手點レ火。

【托出】15 t‘uo^1 ch‘u^1 物を載せて出す。〔水滸傳、四回〕行童托出茶來。

【托處】16 身をよせてをる。託處（10－35243・・26）に同じ。

【托身】17 己が身をよせる。託身。〔孔平仲、西行詩〕乾坤是處托身安。

【托津】18 清、滿洲鑲黃旗人。諡は文定。筆帖式から軍機章京に充てらる。官は嘉慶中、東閣大學士。戶部の事務を管理した。三朝に歷事し、官に在ること五十餘年。林清を擒にし、滑縣の教匪李文成の餘黨を平らげ、皆、功があった。〔清史稿、三百四十七〕・〔清史列傳、三十三〕・〔國朝耆獻類徵、三十七〕。

【托生】19 t‘uo^1 shêng^1 生れかはる。靈が生物の身體にやどつて再び此世に生れ出ること。

【托足】20 ❶足を托する。棲み止ること。身を容れる處があること。❷t‘uo^1 tsu^2 餬口の道「を得る。

【托臺】21 t‘uo^1 t‘ai^2 茶臺。茶托。

【托地】22 t‘uo^1 ti^4 どつと。ぱつと。すばやいさま。〔水滸傳、五回〕那大王爬出房門、奔到門前、摸著空馬、樹上拆枝柳條、托地跳在馬背上。

【托中】23 t‘uo^1 chung^1 媒介人に依賴する。

【托兆】24 t‘uo^1 chao^4 事の起る前兆。蟲が知らせる。

【托買】25 t‘uo^1 mai^3 人に賴んで購ふ。買物を依賴する。托購。

【托鉢】26 ［佛］❶僧尼が經文を誦しながら、鉢を持つて米錢を乞ひ歩くこと。〔續傳燈錄、惟正禪師章〕聞二托鉢乞食一、未レ聞二安生以享一。〔袁桷、贈二瑛上人住洞林一詩〕托二鉢千巖裏一、松花凍未レ開。❷寺院で、粥飯の時に、鉢を擎げて僧堂に赴くをいふ。〔聯燈會要、雪峯章〕師在二德山一作二飯頭一、一日飯遲、師曬二飯巾一次、見三德山托鉢至二法堂前一、師云、這老漢、鐘未レ鳴、鐘未レ響、托鉢向二甚麼處一去、山便歸二方丈一。

【托跋】27 北魏の姓。拓跋（5－11958・・14）を見よ。

【托板】28 t‘uo^1 pan^3 架。かけだな。

【托盤】29 t‘uo^1 p‘an^2 盆。茶托。〔康熙字典〕托、宋曰二托子一、今曰二托盤一。

【托庇】30 t‘uo^1 pi^4 おかげさまでの意。

【托付】31 t‘uo^1 fu たのむ。囑託する。

【托福】32 t‘uo^1 fu^2 おかげさまでの意。

【托病】33 t‘uo^1 ping^4 病氣にかこつける。病氣を口實とする。託病（10－35243・・51）に同じ。

【托夢】34 t‘uo^1 mêng^4 夢見せ。

【托羅】35 國の名。朝鮮海中の濟州島。耽羅（9－29024・・42）に同じ。〔清異錄、衣服、蒸黃透繡襖子〕明宗天資恭儉、嘗因二苦寒一、左右進二蒸黃透繡襖子一、不二肯服一、索二托羅氈襖一衣レ之。

【托賴】36 t‘uo^1 lai^4 ❶たよる。❷おかげさま「で。

【托領】37 t‘uo^1 ling^3 滿洲婦人が襟首につける刺繡の飾。

【托運單】39 t‘uo^1 yün^4 tan^1 托送書。

【托克蘇】40 縣名。民國、置く。もと庫車縣の西南境。新疆省輪臺縣の西北。

【托克遜】41 設治局の名。新疆省吐乾德縣の東南。俗に九臺といふ。天山南北路の交通の要區。境內を托克遜河が流れる。

【托克托】42 ❶縣名。民國、置く。綏遠省歸綏縣の西南。大黑河が黃河に入る所。古の雲中城の所。〔清史稿、地理志〕山西、托克托直隸廳。❷元の人。脫脫（9－29539・・102）の❷を見よ。

【托胎蟲】43 蟲の名。なめくじの異名。〔本草、蛞蝓〕釋名、陵蠡、蚹蝸、土蝸、托胎蟲、鼻涕蟲、蜒蚰螺。

【托泥布】44 t‘uo^1 ni^2 pu^4 支那馬車の胴の下部を被ふ泥除けの布。

【托辣斯】45 信用。信用貸。信託。英語 trust の音譯。

【托利多】46 Toledo の音譯。托勒多。❶スペインの舊都。マドリードの西南にある都邑。❷アメリカ合衆國、エリー湖の西岸の都邑。

【托列斯】47 海峽の名。オーストラリヤ洲、クインスランド州のヨーク岬とパプア島との間の海峽。Torres の音譯。

【托魯斯】48 山脈の名。地中海岸に沿ふ褶曲山脈。Taurus の音譯。

【托勒多】49 Toledo の音譯。托利多に作る。❶西班牙中部の都會。トレド州の首府。❷米國オハイオ州の都會。

【托情弄縴】50 t‘uo^1 ch‘ing^2 nung^4 ch‘ien^4 人の情にたよる。地位を得んとして手蔓を求める。

【托木斯克】51 シベリア西部の都會。Tomsk の音譯。

【托克茲達坂】52 山名。新疆省の南部。巴顏哈喇山脈の東に延びたもの。漢譯すれば冷嶺。又、馬哥博羅に作る。東北に延びて阿勒騰塔格山となる。

【托波兒斯克】53 ソヴイエート、ウラル地方の都會。Tobolsk の音譯。

【扨】11794 バウ モウ 〔集韻〕武道切 ［皓］

もつ。〔集韻〕扨、持也。

【扙】 11795

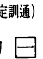
チヤウ ヂヤウ 〔集韻〕雉兩切 養

やぶる。 そこなふ。きずつける。〔集韻〕扙、傷也。

【扚】 11797

㈠テウ 〔集韻〕丁了切 篠
㈡テキ チヤク 〔集韻〕丁歷切 錫
㈢シヤク 〔集韻〕職略切 藥
㈣ヤク アク 〔集韻〕乙卻切 藥
㈤レキ リヤク 〔集韻〕狼狄切 錫

小篆


小篆（聲定訓通）

㈠**はやくうつ。**〔說文〕扚、疾擊也、从レ手勺聲。〔段注〕疾速擊レ之也。㈡❶**うつ。**〔集韻〕扚、擊也。❷**ひく。**〔集韻〕扚、引也。〔史記、天官書〕扚レ雲。〔注〕索隱曰、扚、引也。❸**つめる。つねる。** 手で抓る。〔字彙〕扚、手掐。㈢**横合からうつ。**〔集韻〕扚、旁擊。㈣**手の指のふしの處にあるすぢ。**〔集韻〕扚、手指節文。㈤**おさへる。**〔集韻〕扚、按也。

【扛】 11798

㈠カウ 〔集韻〕古雙切 江 ㄎㄤˊ k'ang^2
㈡カウ 〔集韻〕居郎切 陽 ㄍㄤ kang^1
㈢カウ 〔集韻〕虎項切 講

小篆

㈠❶**あげる。** さしあげる。もちあげる。〔說文〕扛、横關對擧也、从レ手工聲。〔段注〕以レ木横二持門戶一曰レ關、凡大物而兩手對二擧之一曰レ扛、項羽力能扛レ鼎、謂下鼎有レ鼏、以レ木横二貫鼎耳一、而擧中其兩耑上也、卽無二横木一而兩手擧レ之、亦曰レ扛、卽兩人以二横木一對二擧一物一、亦曰レ扛。〔史記、項羽紀〕力能扛レ鼎。〔注〕集解曰、扛、擧也。❷**かつぐ。**〔後漢書、方術、費長房傳〕令二十人扛一レ之、猶不レ擧。〔注〕說文曰、兩人對擧爲レ扛、音江。㈡**あげる。** 掆(**5－12240**)に同じ。〔集韻〕掆、擧也、或作レ扛。㈢**になふ。** 摃(**5－12701**)に同じ。〔集韻〕摃、山東謂二擔荷一曰レ摃、或作レ扛。

【扛擧】1 カウキヨ　もちあげる。かかへあげる。

【扛轎】2 k'ang^2 chiao^4　轎をかつぐ。扛轎夫を見よ。

〔扛轎夫〕3 コウケウフ　轎をかつぐ人夫。〔六部成語、戶部、扛轎夫役錢糧、注解〕抬レ轎之夫役食料也。

【扛子】4 k'ang^2 tzŭ　藝當の名。左右に木架を立て、中間に一の横梁を架し、其の上で技を演ずる。

【扛石】5 コウセキ　石をさしあげる。〔淸國行政法汎論、武官、武科〕武科目石則、曰、默寫兵書也、曰、弓箭步騎也、曰、舞刀也、曰、扛石也。

【扛抬】6 k'ang^2 t'ai^2　天秤棒で擔ぐ。

【扛鼎】7 カウテイ　❶鼎を持ち上げる。力の極めて強いこと。〔吳子、料敵〕力輕扛レ鼎。〔史記、項羽紀〕籍長八尺餘、力能扛レ鼎。〔漢書、淮南厲王長傳〕厲王有二材力一、力扛レ鼎。〔法言、淵騫〕扛レ鼎扑レ牛。〔王融、三月三日曲水詩序〕扛鼎揭旗之士。❷筆力の強いこと。〔韓愈、病中贈二張十八一詩〕龍文百斛鼎、筆力可二獨扛一。

〔扛鼎雄〕8 カウテイノユウ　鼎を持ちあげる程の力の人。楚の項羽をいふ。〔蘇軾、安期生詩〕難レ堪二踞レ牀洗一、寧挹扛レ鼎雄。

【扛頭】9 k'ang^2 t'ou^2　つけあがる。增長する。

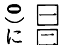
【扛幇】10 k'ang^2 pang^1　協同すること。〔燕子箋、僞緝〕扛幇作鬨誰許儞口兒强。

【扛夫】11 k'ang^2 fu^1　駕籠をかつぐ人夫。轎夫。〔拍案驚奇〕傭了幾箇扛夫、抬出去殯葬了。

【扛力】12 k'ang^2 li^4　苦力が貨物を運搬する賃金。

【扜】 11799

㈠ウ 〔集韻〕邕俱切 虞
㈡ク 〔集韻〕匈于切 虞


小篆

㈠㈡❶**さしまねく。** 扝(**5－11800**)に同じ。〔正字通〕扜、六書統作レ扝。〔說文〕扝、指麾也、从レ手亏聲。❷**もつ。**〔玉篇〕扜、持也。❸**ひく。** 弙(**4－9716**)に通ず。〔說文通訓定聲〕扜、叚借爲レ弙。〔山海經、大荒南經〕有レ人方扜レ弓射二黃蛇一。〔注〕扜、挽也、音紆。

【扜罙】1 ビウ　漢代西域の國名。〔史記、大宛傳〕東則扜罙于窴。〔注〕索隱曰、扜罙、國名也。

【扜彌】2 ビウ　漢代西域三十六國の一。今、新疆省于闐縣。史記に扜罙(扞に作るは誤り)、後漢書に拘彌、佛國記に拘睒彌、大唐西域記に憍賞彌、唐書に俱密に作る。其の王城は扜彌城といひ、又、寧彌城・建德力城に作る。〔水經、河水注〕南河又東北逕二扜彌國一、北下入二精絕國一。

〔扜彌城〕3 ウビジヤウ　扜彌國のみやこ。〔漢書、西域上、扜彌國傳〕扜彌國王、治二扜彌城一、去二長安一九千二百八十里。

【扜泥城】4 ウデイジヤウ　樓蘭國のみやこ。〔漢書、西域上、鄯善國傳〕鄯善國、本名樓蘭、王治二扜泥城一。

【扜零城】5 ウレイジヤウ　小宛國のみやこ。〔漢書、西域上、小宛國傳〕小宛國王、治二扜零城一。

【扝】 11800

ウ

扜(**5－11799**)に同じ。〔正字通〕扜、六書統作レ扝。

【扝】 11801

㈠コ ク 〔集韻〕空胡切 虞
㈡ヲ ウ 〔集韻〕汪胡切 虞

㈠**あげる。**〔方言、十二〕扝、揚也。〔注〕謂二播揚一也。㈡**ひく。**〔集韻〕扝、引也。

參考　正字通には扜(**5－11799**)に同じとし、扝(**5－11800**)に作るを正しいとしてゐる。〔正字通〕扝、同レ扜、當レ作レ扝、舊本作レ扜、非。

【扞】 11802

㈠カン ガン 〔集韻〕侯旰切 翰 ㄏㄢˋ han^4
㈡カン 〔集韻〕古旱切 旱

小篆

㈠❶**ふせぐ。**〔說文〕扞、忮也、从レ手干聲。〔段注〕忮、當レ作レ枝。〔呂覽、恃君〕肌膚不レ足三以扞二寒暑一。〔注〕扞、禦也。〔漢書、刑法志〕若三手足之扞二頭目一也。〔注〕師古曰、扞、禦レ難也。❷**こばむ。** ささへる。もとる。〔漢書、董仲舒傳〕抵冒殊扞。〔注〕師古曰、扞、距也。❸**まもる。**〔集韻〕扞、一曰、衞也。〔書、文侯之命〕汝多修二扞我于艱一。〔左氏、文、六〕親師扞レ之。〔注〕扞、衞也。❹**おほふ。**〔左氏、成、十二〕此公侯之所三以扞二城其民一也。〔注〕扞、蔽也。〔荀子、彊國〕白刃扞二乎胷一。〔注〕扞、蔽也。❺**おほひ。**〔漢書、陳餘傳〕請以二南皮一爲二扞蔽一。〔注〕師古曰、扞蔽、猶レ言二藩屛一也。❻**こて。** うでよろひ。兩の腕を被ふ鎧。釬(**11－40182**)に通ず。〔說文通訓定聲〕扞、叚借爲レ釬。〔廣雅、釋器〕扞、韝也。〔漢書、酷吏、尹賞傳〕被二鎧扞一持二刀兵一。〔注〕師古曰、扞、臂衣也。❼**ゆがけ。**〔韓非子、說林〕羿執レ鞅持レ扞。〔集解〕扞、謂レ韝也。❽**いしづき。** 矛鐏。〔戰國、趙策〕豫讓刃二其扞一。❾**とどむ。** ⿰旱攴(**5－13204**)に通ず。〔說文通訓定聲〕扞、叚借爲レ⿰旱攴、云云、書、文侯之命、汝多修二扞我于艱一。❿**おかす。** ふれる。干(**4－9165**)に通ず。〔說文通訓定聲〕扞、叚借爲レ干。〔史記、游俠傳〕雖三時扞二當世之文罔一。〔注〕索隱曰、扞、卽捍也、違二扞當代之法網一、謂レ犯二法禁一也。⓫**はやる。**

あれうま。駻（12－44767）に通ず。〔說文通訓定聲〕扞、段借爲レ駻。〔孔子家語、致思〕凛凛焉若レ持二朽索之扞馬一。〔注〕扞馬、突馬也。⓬ひく。はる。援（5－12407）に通ず。〔說文通訓定聲〕扞、段借爲レ援。〔呂覽、壅塞〕因扞レ弓而射レ之。〔注〕扞、引也。〔淮南子、原道訓〕射者扞二烏號之弓一、彎二綦衞之箭一。〔注〕扞、張也。⓭或は捍（5－12143）・忓（1－381）に作る。〔集韻〕扞、或作二捍・忓一。［二］**手で物を伸ばす**。擀（5－12780）に同じ。〔集韻〕擀、以レ手伸レ物、或省。

［參考］熟語は捍（5－12143）を併せ見よ。

【扞衞】1 カンエイ ふせぎまもる。〔爾雅、釋言〕干、扞也。〔注〕相扞衞。〔後漢書、董卓傳〕令三呂布等扞二衞前後一。〔後漢書、袁紹傳〕身自扞衞、送到二斥丘一。〔吳志、呂蒙傳〕權爲二張遼等所一レ襲、蒙與二淩統一以レ死扞衞。

【扞格】2 カンカク 拒み合ふ。互にふせいで入れない。かたく拒んでよせつけないさま。〔禮、學記〕發然後禁、則扞格而不レ勝。〔注〕扞格、堅不レ可レ入之貌。〔疏〕扞、謂二拒扞一也、格、謂二堅強一、若三情欲既發、而後乃禁教、則扞二格於教一、教レ之不二復入一也。〔孫希旦、集解〕孔氏曰、扞、謂二拒扞一也、格、謂二堅強一、譬如二地凍則堅難一レ入、情欲既發而後禁教、則扞拒堅強、教レ之不二復入一也。〔管子、國蓄〕夫國之君不二相中一、擧レ兵而相攻、必以爲二扞格蔽圉之用一。

【扞弓】3 カンキユウ 弓をひく。〔太平御覽、兵、弓〕尸子曰、鴻鵠在レ上、扞レ弓鞟レ弩待レ之。〔韓非子、說林下〕弱子扞レ弓、慈母入レ室閉レ戶。〔集解〕扞弓、引レ弓也。〔呂覽、貴卒〕管仲扞レ弓、射二公子小白一中レ鉤。〔呂覽、壅塞〕扞レ弓而射レ之。〔注〕扞、引也。

【扞拒】4 カンキヨ ふせぎこばむ。さからひふせぐ。〔漢書、丙吉傳〕扞二拒大難一、不レ避二嚴刑峻法一。

【扞圉】5 カンギヨ まもりふせぐ。〔福惠全書、涖任部、禀帖贅說〕能同レ心扞圉。

【扞禦】6 カンギヨ まもりふせぐ。捍禦。〔左氏、僖、二十四〕扞二禦侮一者、莫レ如レ親レ親、故以レ親屛レ周。〔左氏、襄、二十六〕扞二禦北狄一。〔後漢書、光武紀下〕求三扞二禦北虜一。

【扞禁】7 han^4 chin^4 禁止する。

【扞火】8 カンクワ 火をふせぐ。〔後漢書、郅惲傳〕遷二長沙太守一、先レ是長沙有二孝子古初一、遭二父喪一未レ葬、隣人失レ火、初匍二匐柩上一、以レ身扞レ火、火爲レ之滅。

【扞關】9 カンクワン 關の名。❶湖北省長陽縣の西。方輿紀要は楚關といふ。〔史記、楚世家〕肅王四年、蜀伐レ楚、取二茲方一、於レ是楚爲二扞關一以拒レ之。❷四川省奉節縣の東赤甲山。捍關（5－12143‥5）を見よ。〔輿地廣記〕魚復縣有二古扞關一。

【扞弦】10 カンゲン ゆがけをいふ。〔王融、四子講德論〕其耒耜則弓矢牽馬、播種則扞弦掌拊。〔注〕善曰、禮記曰、左佩二決扞一、鄭玄曰、扞、拾也、言所二以拾一レ弦也、翰曰、扞弦掌拊、用レ之蔽二手以持レ弓者一也。

【扞護】11 カンゴ ふせぎまもる。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕其子孫據以扞二護王室一也。

【扞將】12 カンシヤウ 守禦の將。〔後漢書、南匈奴傳論〕猛夫扞將、莫レ不三頓レ足攘レ手、爭言二衞霍之事一。

【扞城】13 カンジヤウ ふせぎ守る。楯と城郭とでふせぎ守る。〔左氏、成、十二〕此公侯之所三以扞二城其民一也。〔注〕扞、蔽也。〔會箋〕扞卽干楯、不レ可二解爲一レ蔽、城、城郭也、干城二者、皆所三以扞二蔽其民一。〔後漢書、龐參傳〕抑亦扞城有二虓虎之助一。〔晉書、桓彝等傳論〕外有二扞城之用一、裏無二末大之嫌一。

【扞手】14 han^4 shou^3 稅關などで貨物を量り調べる係員。

【扞制】15 カンセイ ふせぎとどめる。〔漫叟詩話〕江漢有レ許、以扞二制泛濫一。

【扞殂】16 カンソ 擊ち殺す。殂は死。〔管子、山至數〕扞殂者、去三其都秩與二其縣秩一。〔纂詁〕扞敭同、擊也、殂、死也。

【扞擯】17 カンテン あげる。〔廣雅、釋詁四〕扞・擯・對、「揚也。

【扞難】18 カンナン 難を防ぐ。〔風俗通、祀典〕扞レ難守レ固。〔魏志、楊阜傳〕君存無二扞難之功一、君亡無二死節之效一。

【扞馬】19 カンバ 元氣のよい馬。悍馬。〔孔子家語、致思〕凛凛焉、若レ持二朽索之扞馬一。〔注〕扞馬、突馬也。

【扞撫】20 カンブ 守りなでる。〔後漢書、班勇傳〕今置二校尉一、以扞二撫西域一。

【扞蔽】21 カンペイ 禦ぎおほふ。又、おほひ。藩屛。〔韓非子、存韓〕韓事レ秦三十餘年、出則爲二扞蔽一、入則爲二蓆薦一。〔史記、田敬仲完世家〕趙之於二齊楚一、扞蔽也。〔漢書、陳餘傳〕以二南皮一爲二扞蔽一。

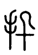
【扞麪】22 カンメン うどんをのばす。〔新方言、釋器〕研麪謂二之扞麪一。

【扞子手】23 han^4 tzŭ^2 shou^3 稅關などで貨物を量り調べる係員。

【扟】11803

シン 〔集韻〕疏臻切 ［眞］

小篆（說文）


小篆（段注本）

❶**くみとる**。〔說文〕扟、从レ上挹取也、从レ手卂聲、讀若レ莘。❷**えらびとる**。〔廣韻〕扟、從レ上擇二取物一也。❸**へらす**。**はぐ**。損（5－12459）に通ず。〔說文通訓定聲〕扟、段借爲レ損。〔廣雅、釋詁二〕捨・扟、減也。〔元包經〕損扟且勞、傳曰、扟且勞、剝レ之也。

【扠】11804

［一］サ シヤ 〔集韻〕初加切 ［麻］ ㄔㄚ ch'a^1

［二］サイ シヤイ 〔集韻〕初佳切 ［佳］

［三］タイ テイ 〔集韻〕攄佳切 ［佳］

［一］❶**はさみ取る**。叉（2－3116）に通ず。〔字彙〕扠、挾取也。〔正字通〕扠、通作レ叉。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕饞扠飽二活臠一。❷**やす**。水中の魚をさし捕へる漁具。魚扠。通じて杈（6－14451）に作る。〔正字通〕扠、或借用レ杈。〔周禮、天官、鼈人〕以レ時籍二魚鼈龜蜃凡貍物一。〔注〕以レ扠刺二泥中一搏二取之一。〔校勘記〕宋本・嘉靖本・閩・監・毛本、扠作レ杈。❸**うつ**。〔集韻〕杈、打也。❹**そろはぬさま**。扠枒（2）を見よ。［二］**うつ**。〔集韻〕扠、打也。［三］**たたく**。拳で打つ。或は搋（5－12457）に作る。〔廣韻〕扠、以レ拳加レ人、亦作レ搋。〔集韻〕扠、以レ拳加レ物、或作レ搋。［邦］**さて**。發語のことば。

【扠腰】1 ch'a^1 yao^1 腰の上に手をあてる。

【扠枒】2 サガ 參差のさま。そろはないさま。叉牙。〔王延壽、魯靈光殿賦〕芝栭攢羅以戢孴枝掌、扠枒而斜據。〔注〕善曰、說文曰、扠枒、參差之貌。

【扠手】3 ch'a^1 shou^3 手をこまぬく。

【扠門】4 ch'a^1 men^2 門の戸をさす。

【扡】11805

［一］チ 〔集韻〕丑豸切 ［紙］

［二］タイ ダイ 〔集韻〕丈蟹切 ［蟹］

［三］タ ダ 〔集韻〕待可切 ［哿］

［四］タ 〔集韻〕湯何切 ［歌］

［五］タ 〔集韻〕他佐切 ［箇］

［六］イ 〔廣韻〕移爾切 ［紙］

［七］イ 〔集韻〕余支切 ［支］

［八］シ ジ 〔集韻〕是義切 ［寘］ ㄕ shih^4

［一］［二］**さく**。木理にしたがつてさきわる。〔集韻〕扡、析也。〔詩、小雅、小弁〕析レ薪扡矣。〔傳〕析レ薪者隨二其理一。〔箋〕扡、謂レ觀二其理一也。〔釋文〕扡、勅氏反、又宅買反。［三］❶**ひく**。拕（5－11960）に同じ。❷**さく**。［一］に同じ。〔詩、小雅、小弁〕析レ薪扡矣。〔顧炎武、詩本音〕扡、古音徒可反、後人誤入二四紙韻一。［四］［五］**ひく**。拕（5－11960）に同じ。〔集韻〕拕、說文、曳也、或作レ拖、亦省。〔禮、少儀〕扡二諸幦一。〔論

語、鄕黨、加二朝服一拕レ紳、校勘記〕唐石經、拕作レ扡、釋文出二扡字一云、本或作レ扡、按、說文引二朝服袉一レ紳、扡・拕卽手部拕字、許所レ據作レ袉、是假二借袉一爲レ拕也、此在下引二經說假借一之例上、聞二諸段玉裁一云。［六］❶くはへる。〔廣韻〕扡、加也。❷はなれる。〔廣韻〕扡、又離也。❸或は拸(5－12008)に作る。〔廣韻〕扡、或作レ拸。［七］うつる。迻(11－38833)に同じ。〔集韻〕迻、說文、遷徙也、或作レ扡。［八］ひく。〔集韻〕扡、牽也。

【扢】11806

［一］コツ コチ 〔集韻〕古忽切 ㄍㄨˇ ku^{3} 月。
［二］キツ コチ 〔集韻〕居乙切 ㄒㄧˋ hsi^{4} 物。
［三］キツ コチ 〔集韻〕許訖切 物。
［四］ケツ ケチ 〔集韻〕九傑切 屑。

［一］❶こする。みがく。〔漢書、禮樂志〕扢二嘉壇一椒蘭芳。〔注〕孟康曰、扢、摩也。〔左思、吳都賦〕挂扢而爲二創痏一。〔注〕善曰、扢、摩也。❷ぬぐふ。〔淮南子、要略〕濡不レ給レ扢。〔注〕扢、拭也。［二］❶こする。［一］の❶に同じ。〔廣韻〕扢、摩也。❷うつ。〔集韻〕扢、擊也。［三］❶奮ひたつて舞ふさま。〔集韻〕扢、奮舞皃。〔莊子、讓王〕子路扢然執レ干而舞。〔釋文〕扢、李云、奮舞貌。❷よろこぶさま。〔集韻〕扢、一曰、喜皃。〔莊子、讓王、釋文〕扢、司馬云、喜貌。［四］ぬく。ひきぬく。〔集韻〕扢、拔也。〔集韻〕扢、拔引也。

【扢扎】1 ku^{3} cha^{1} 相磨するさま。〔西廂記、張君瑞害相思雜劇〕到邦裏、扢扎幫便到地。

【扢察】2 ku^{3} ch'a^{2} かちやんと音がする。

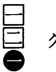
【扢然】3 コツゼン 奮ひたつて舞ふさま。又、よろこぶさま。〔莊子、讓王〕子路扢然執レ干而舞。〔釋文〕扢、李云、奮舞貌、司馬云、喜貌。

【扢搭地】4 ku^{3} ta^{1} te きりりとする。眉をきりつと寄せること。緊る意。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇〕扢搭地把雙眉鎖納合。

【扢喇察】5 ku^{2} la^{3} ch'a^{2} やつとこさ。困難をしのぶ聲。〔還魂記、索元〕扢喇察龜兒爬上天。

【扣】11807

［一］コウ ク 〔集韻〕去厚切 ㄎㄡˋ k'ou^{4} 有。
［二］コウ ク 〔集韻〕丘候切 宥。


小篆

［一］［二］❶ひかへる。㋑馬を引きすすめる。〔說文〕扣、牽レ馬也、从レ手口聲。〔廣雅、釋詁三〕扣、持也。〔疏證〕扣者、牽二持之一也。〔左氏、襄、十八〕太子與二郭榮一扣レ馬。〔呂覽、愛士〕扣二繆公之左驂一。〔注〕扣、持也。〔淮南子、氾論訓〕扣二繆公之驂一。〔注〕扣、猶レ牽也。㋺刀のつかに手をかける。〔曹植、酒賦〕扣レ劍清歌。❷たたく。敂(5－13156)・叩(2－3238)に通ず。〔說文通訓定聲〕扣、段借爲レ敂。〔正字通〕叩、俗以レ叩爲レ扣。〔荀子、法行〕扣レ之、其聲清揚而遠聞。〔晉書、張華傳〕扣レ之則鳴。❸うつ。〔列子、湯問〕扣レ石墾レ壤。〔釋文〕扣、擊也。❹あげる。〔一切經音義、九〕扣、擧也。❺かがめる。しりぞける。跔(10－37466)に通ず。〔說文通訓定聲〕扣、段借爲レ跔。〔張協、七命〕扣二跋幽叢一。〔注〕善曰、扣跋、或謂二卻伏一也。❻さしひく。扣除(30)を見よ。❼ひかへめにする。〔新方言、釋言〕今人謂二度量多少弗一レ令レ過レ剤爲レ扣。❽［現］㋑さしとめる。とめておく。㋺ぼたん。ぼたんを掛ける。㋩結びめ。結びめをつくる。㋥をさ。筬。㋭數詞の單位を表はす接尾語。

【扣押】1 k'ou^{4} ya^{1} 官で物品に對して沒收、又は證據とするために差押保管を行ふことをいふ。

【扣下】2 k'ou^{4} hsia^{4} 差押へる。

【扣項】3 k'ou^{4} hsiang^{4} 割引額。

【扣額】4 コウガク ぬかづく。扣頭。叩額。〔元史、孝友二、王子弘傳〕見レ醫卽遍禱二諸神一、扣レ額成レ瘡。

【扣銀】5 コウギン 清代、各省から中央政府へ發送すべき銀のうちから其の費用として幾分を扣除する銀兩。〔六部成語、戶部、扣銀、注解〕應レ行二扣留停發一之款、曰二扣銀一。

【扣關】6 コウクワン 關所の門をたたく。邊境を訪ひ來つて申し入れすること。叩關。敂關。〔後漢書、西域傳序〕西域內附日久、區區東望扣レ關者數矣。

【扣扃】7 コウケイ 扉をたたく。〔鹽鐵論、復古〕未レ遑二扣扃之義一。

【扣弦】8 コウゲン つめびき。指で弦を鼓し鳴らす。〔樂府雜錄〕貞元中、王芬・曹保、保子善才、其孫曹鋼、皆襲二所藝一、次有二裴興奴一、與レ鋼同レ時、曹運二善撥一、若二風雨一、而不レ事二扣弦一。

【扣舷】9 コウゲン ふなばたをたたく。又、其の音。叩舷。〔蘇軾、前赤壁賦〕於レ是飮レ酒樂甚、扣レ舷而歌レ之。

【扣減】10 コウゲン 差し引く。〔福惠全書、庶政部、申飭鋪遞〕非三扣減止給二其半一、卽兌欠以聽二其追一。

【扣叩】11 コウコウ たたくこと。叩叩(2－3238・・12)の❶に同じ。

【扣剋】12 コウコク へづりとる。一定の經費中から當局者が其の一部分を掠取すること。〔清會典事例、戶部、田賦、催科禁令〕乾隆六年諭、朕向來聞二得廣東徵收糧米、需索扣剋、其屬一レ累レ民、特於二乾隆四年六月一頒二發諭旨一、令三該督撫悉レ心稽查、嚴行二禁革一。〔福惠全書、郵政部、總理〕無二絲毫染レ指扣剋一。

【扣閽】13 コウコン 宮門をたたく。役所をたづねる。叩閽。〔資治通鑑、漢紀〕羣小遠矣、誠心至矣、彼將二扣レ閽而自售一。

【扣算】14 コウサン 差し引く。割引する。〔清會典事例、吏部、漢員陞補〕乾隆三十八年議准、陝西安西府、改爲二安西直隸州知州一、淵泉縣裁汰、乃作二邊俸一陞轉論俸、扣二算日期一。〔福惠全書、錢穀部、解給、立解支庫簿〕解支一次、扣算開寫一次、折レ封一次、連レ前結總一次、名曰二解支庫簿一。

【扣子】15 k'ou^{4} tzŭ ボタン。

【扣資】16 コウシ 清代、官吏の詮考には、資格によつて補官の先後をきめ、假を請ふ者には、補官の期を緩くしておくこと。〔清會典事例、吏部、處分例〕。

【扣兒】17 k'ou^{4} êrh 結び目。

【扣縐】18 k'ou^{4} chou^{4} 縮緬。

【扣鐘】19 コウシヨウ 鐘をうつこと。〔唐書、宦者上、高力士傳〕力士宴二公卿一、一扣レ鐘納二禮錢十萬一。〔胡宿、天街曉望詩〕長樂才聞一扣鐘、百官初謁未央宮。

【扣心】20 コウシン 心をうつ。胸をうつ。叩心(2－3238・・17)に同じ。

【扣水】21 k'ou^{4} shuei^{3} 割引。減じた差。

【扣制】22 コウセイ ひきとめる。おさへとどめる。牽制。制肘。控制(5－12283・・22)に同じ。

【扣折】23 コウセツ 扣除する。差し引く。割引する。扣算。扣抵。〔清會典事例、戶部、俸餉〕扣二折重利一之弊、可二不レ禁自止一。

【扣選】24 コウセン 官吏を選用するとき成例に從はない者を扣除すること。〔福惠全書、筮仕部、投供驗レ到〕如一卯不レ到、卽行二扣選一。

【扣錢】25 k'ou^{4} ch'ien^{2} 値引する。割引する。

【扣帶】26 k'ou^{4} tai^{4} ❶帶を結ぶ。❷帶皮止。帶皮のびぢやう。鉸具。

【扣刀】27 コウタウ 刀を少し鞘からぬくこと。〔資治通鑑、宋紀〕(文帝、元嘉二十二年)(范)曄等謀下以二其日一作上レ亂、許曜侍レ帝、扣レ刀目レ曄、曄不二敢仰視一。〔注〕拔レ刀微出レ削爲二扣刀一。

【扣鈕】28 k'ou^{4} niu^{3} ボタンをかける。

【扣住】29 コウヂユウ 引き止める。押へつける。〔福惠全書、蒞任部、清查之法〕各項支給、俱于二前官離レ任日一扣住、不レ得二過領一。

【扣除】30 コウヂヨ 引きさる。差し引く。とりのける。〔清會典、吏部、漢員銓選、扣除別補〕雍正六年

論、扣二除別補人員一、爾部於二每月選之前一、將二該員應否一、令二其一體掣籤之處、具奏請レ旨。〔福惠全書、涖任部、查交代〕照二赦免月日分數一扣除、不レ得二過支一。

【扣抵】31 コウテイ 差し引く。〔清會典事例、戶部、田賦、追賠拖欠〕嘉慶七年奏准、估計在京一切抵項變價房屋、無レ論二住房鋪面一、悉按二樑數分別等等一作レ價扣抵。〔福惠全書、庶政部、額外雜辨〕從二應レ納大糧一扣抵。

【扣頭】32 コウトウ ❶ぬかづく。頭をうつ。頭を以て地をたたく。叩頭。〔論衡、儒增〕有二扣レ頭而死者一、未レ有下使二頭破首碎一者上也。❷k'ou^4 t'ou 割引。

【扣馬】33 コウバ 馬をとどめる。叩馬（**2－3238··25**）に同じ。

【扣撥】34 k'ou^4 po^1 差引いて支拂ふ。

【扣跋】35 コウバツ 排擊する。〔張協、七命〕口齩二霜刃一、足撥二飛鋒一、甂レ林蹶レ石、扣二跋幽叢一。〔注〕善曰、扣跋、或謂二卻伏一也、向曰、扣跋、擊排也。

【扣扉】36 コウヒ 門を叩いて訪れる。叩扉。〔梁元帝、秋興賦〕聽二夜籤之響レ殿、聞二懸魚之扣レ扉。

【扣付】37 k'ou^4 fu^4 割引して渡す。

【扣布】38 k'ou^4 pu^4 手織木綿。筘布。

【扣邊】39 コウヘン 邊境を訪ふ。叩關。〔宋史、程琳傳〕夏人亦相告毋レ捕二漢民一、久レ之以二五百戶一驅二牛羊一、扣レ邊請レ降。

【扣俸】40 コウホウ 給料の中より差引く。〔清會典事例、戶部、田賦、究追虧空〕如原辨官、離任後力難二獨完一、而將來仍可二補官扣俸一者、將二原追銀兩一著二落本員及該官上司一、各半分賠。

【扣門】41 コウモン 門をたたく。人を訪問する。叩門。〔淮南子、齊俗訓〕扣レ門求レ水、莫二弗レ與者一、所二饒足一也。

【扣問】42 コウモン たづね問ふ。叩問。質問。〔魏了翁、跋二楊司理德輔之父紀問辯曆一〕吾鄉楊君爲二問辯曆一、以質二諸師一、此最得二爲學之要一、後世初學、哆然自是恥二于扣問一者、視レ此亦可二以少警一矣。

【扣用】43 k'ou^4 yung^4 口錢。

【扣利】44 コウリ 金を貸す場合、先づ一箇月の利子を扣除すること。〔六部成語、戶部、扣利、注解〕利、息也、官款發レ商生息、先行三扣二留月利一。

【扣留】45 コウリウ ❶ひかへとどめる。〔清會典、吏部、漢員銓選〕無レ論二請補之員一、查二照京員之例一、概不レ准二其扣留一。❷k'ou^4 liu^2 差押へる。拘留する。

【扣輪】46 コウリン 車の輪をたたく。叩輪。

【扣角歌】47 コウカクカ 歌の名。甯戚が牛の角を扣いて歌つたといふ。〔三齊略記〕甯戚飯二牛車下一、扣レ角歌曰、南山粲、白石爛、生不レ逢二堯與レ舜禪一。

【扣成色】48 k'ou^4 ch'eng^2 sê^4 銀塊をその純分の價で兩替すること。

【扣款分潤】49 k'ou^4 k'uan^3 fen^1 juen^4 官金をかすり取り私囊を肥やす。

【扣追缺租】50 k'ou^4 chuei^1 ch'üeh^1 tsu^1 租稅の帶納や不足分を追徵すること。

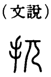
【抏】11808

㊀ ゴツ ゴチ 〔集韻〕五忽切 月

㊁ ゲツ グヮチ 〔集韻〕魚厥切 月

㊂ グヮツ グヮチ 〔集韻〕五活切 曷

小篆（說文）


小篆（段注本）

㊀㊁㊂ ❶うごく。うごかす。〔說文〕抏、動也、从レ手兀聲。〔詩、小雅、正月〕天之抏レ我。〔傳〕抏、動也。〔箋〕天以二風雨一動二搖我一。❷ゆる。ゆれる。〔周禮、考工記、輪人〕則是以大抏。〔注〕抏、搖動貌。〔史記、司馬相如傳〕抏二紫莖一。〔注〕集解曰、抏、搖也。❸おちつかない。〔方言、九〕僞謂二之抏一、抏、不レ安也。❹さわぐ。〔龍龕手鑑〕抏、騷動也。❺卼（**2－2868**）・仉（**1－389**）・杌（**6－14457**）に同じ。〔說文通訓定聲〕抏、字亦作レ卼、作レ仉、作レ杌。❻姓。〔萬姓統譜〕抏、楚擣抏之後。

【⿰扌弓】11809 イン 引（**4－9699**）の古字。〔集韻〕引、古作レ⿰扌弓。

【抓】11810 シヤウ 〔集韻〕止兩切 養 うつ。〔集韻〕抓、批擊也。

參考 類篇は抓と抓を合一してゐる。〔康熙字典〕類篇、合二抓抓一爲レ一。

【⿰扌才】11811 ハウ 〔篇海〕音棒 うつ。〔篇海〕⿰扌才、打也。

【扥】11812 トン 〔篇海〕音頓 ❶うごく。〔篇海〕扥、動也。❷扽（**5－11850**）に同じ。〔佩觿集〕扽、亦作レ扥。

【扟】11813 シン 〔集韻〕思晉切 震 ふるふ。〔集韻〕扟、振也。

【扦】11814 セン ㄑㄧㄢ ch'ien^1 ❶攑（**5－12652**）の俗字。〔正字通〕攑、俗作レ扦。❷金屬、竹木等にて作つた細長いもので、一端がとがつてゐて、物を通したり、垢をとつたりするもの。❸拳術の手法の一。半ば拳をかためて、人の上部をうつ法。

【扦手】1 ch'ien^1 shou^3 稅關の陸あげ貨物監視人。

【扦子手】2 ch'ien^1 tzŭ^2 shou^3 稅關の陸上貨物監視人。

【⿰扌夬】11815 カイ 〔川篇〕火大切 泰 さぐる。〔川篇〕⿰扌夬、摸也。

【⿰扌刃】11816 ジン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰扌刃、音刃。

【⿰扌下】11817 カ 義未詳。〔字彙補〕⿰扌下、音下。

【⿰扌厶】11818 タ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰扌厶、音陁。

【⿰扌毛】11819 タク・トン 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰扌毛、音託、又音頓。

【托】11820 バウ 義未詳。〔川篇〕托、音萌。

【⿰扌幺】11821 イ 義未詳。〔奚韻〕⿰扌幺、音夷。

【⿱夅手】11822 カイ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱夅手、音瀣。

【执】11823 シフ 執（**3－5192**）の俗字。〔宋元以來俗字譜〕執、列女傳作レ执。

【扨】11824 國字 さて。扠（**5－11804**）に同じ。〔和漢三才圖會、藝才、倭字〕扨、俗用二發語一、近二于然字一、又用二偖字一、偖、音奢、裂也。

四畫

【扨】 11825

㊀ソツ ソチ 〔集韻〕蒼沒切 月

㊁セツ セチ 〔集韻〕千結切 屑

㊀**する**。〔集韻〕扨、字林、摩也。㊁**みがく**。〔集韻〕扨、博雅、磨也。

【扭】 11826

㊀ヂウ ニユ 〔集韻〕女久切 有 ㄋㄧㄡˇ niu^{3}

㊁チウ チユ 〔集韻〕陟救切 宥

㊀❶**ねぢまはすさま**。〔廣韻〕扭、扭手轉皃。❷**おさへる**。ひねる。ねぢる。〔集韻〕扭、案也。❸**しばる**。つかねる。拘引する。〔正字通〕扭、手縛也、今俗謂ㇾ揪爲ㇾ扭。㊁**もむ**。〔集韻〕扭、按也。

【扭腰】1 niu^{3} yao^{1} 腰がひきつる。腰の筋がちがふ。

【扭毆】2 niu^{3} ou^{1} ねぢ倒して毆ぐる。喧嘩する。

【扭解】3 niu^{2} chieh^{3} 拘引する。扭送。

【扭乾】4 niu^{3} kan^{1} 絞り乾かす。

【扭脚】5 niu^{2} chiao^{3} 脚を挫く。

【扭筋】6 niu^{3} chin^{1} すぢちがへ。傷挫。轉筋。

【扭獲】7 niu^{3} huo^{4} 拿捕して拘引する。

【扭臉】8 niu^{2} lien^{3} 顏をふる。首をまはす。

【扭控】9 niu^{3} k'ung^{4} 引捕へて告訴する。

【扭鎖】10 niu^{2} suo^{3} 錠前をひねる。

【扭子】11 niu^{3} tzŭ 栓拔。

〖扭子眼兒〗12 niu^{3} tzŭ yen^{3} êrh 眼の黑玉が飛び出して白くなつたもの。

【扭揪】13 niu^{3} chiu^{1} つかみあふ。組打。

【扭手】14 niu^{2} shou^{3} 手をくじく。

【扭摔】15 niu^{3} shuai^{1} 取組んではふり投げる。

【扭送】16 niu^{3} sung^{4} 拘引する。扭解。

【扭打】17 niu^{2} ta^{3} 引張つてなぐる。つかみなぐる。

【扭斷】18 niu^{3} tuan^{4} ねぢり切る。

【扭住】19 niu^{3} chu^{4} ねぢ伏せて捕へる。

【扭捏】20 niu^{3} nieh^{1} もぢもぢする。せかせかする。婦人がことさらにあまえる態度。〔西廂記〕扭捏著身子兒百般做作、來往向人前、賣弄俊俏。

【扭轉】21 niu^{2} chuan^{3} ❶ねぢまはす。まはす。❷變へる。轉換する。

【扭稟】22 niu^{2} ping^{3} 引捕へて告訴する。扭控。〔福惠全書、涖任部、出堂規〕把門人役不ㇾ行㆓扭稟㆒並究。〔福惠全書、刑名部、雜犯〕許㆓本人卽刻扭稟㆒。

【扭別】23 niu^{3} pieh^{2} 片意地な。剛情な。

【扭一扭】24 niu^{3} i^{1} niu^{3} ❶ねぢれ。ねぢる。❷ひねつた。ひとねぢりする。

【扭扭捏捏】25 niu^{2} niu^{3} nieh^{1} nieh^{1} 婦人が身をふりながら步く樣子。又、ぶつぶついふこと。〔紅樓夢、二十七回〕難爲儞說的齊全、別像他們扭扭捏捏蚊子似的。

【⿰扌卆】 11827

ソツ 捽(**6－12225**)の俗字。〔正字通〕⿰扌卆、俗捽字。

【扢】 11828

㊀カイ 〔集韻〕居代切 隊

㊁ゲツ ゲチ 〔集韻〕語訖切 月

㊂コツ ゴチ 〔集韻〕胡骨切 月

㊃ケツ ケチ 〔集韻〕吉屑切 屑

㊀❶**みがく**。〔廣雅、釋詁三〕扢、磨也。〔集韻〕扢、磨也。❷**とる**。〔集韻〕扢、取也。㊁**うつ**。〔集韻〕扢、擊也。㊂㊃**こする**。〔集韻〕扢、摩也。

【扮】 11829

カツ 扴(**5－11838**)の譌字。〔正字通〕扮、扴字之譌。

參考 扮(**5－11830**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕扮、同ㇾ扴。扮、音憤、握也。

【扮】 11830

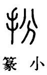
㊀フン ブン 〔集韻〕父吻切 吻

㊁フン 〔集韻〕方文切 文

㊂ハン ヘン 〔集韻〕博幻切 諫 ㄅㄢˋ pan^{4}

㊃クヮイ ケ 〔集韻〕虎買切 蟹

慣フン



小篆

㊀㊁❶**にぎる**。〔說文〕扮、握也、从ㇾ手分聲、讀若ㇾ粉。❷**あはせる**。〔集韻〕扮、幷也。〔太玄經、太玄數〕地則虛㆔以扮㆓天之十八㆒也。〔注〕扮、幷也。❸**うごく**。奮(**3－6012**)に通ず。〔說文通訓定聲〕扮、叚借爲ㇾ奮。〔廣雅、釋詁一〕扮、動也。〔疏證〕扮、亦奮也。❹**かざる**。こなをかける。粉(**8－26872**)に通ず。〔說文通訓定聲〕扮、叚借爲ㇾ粉、今俗用爲㆓優人妝扮字㆒。〔史記、貨殖傳、胃脯簡微耳、注〕索隱曰、晉灼云、末㆓椒薑㆒扮ㇾ之。❺或は捴(**5－12211**)に作る。〔集韻〕扮、或作ㇾ捴。㊂❶**にぎる**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕扮、握也。❷**かざる**。〔廣韻〕扮、打扮。〔六書故〕扮、今俗以㆓裝飾㆒爲㆓打扮㆒。❸**よそほふ**。裝束する。その人に模擬する。扮戲(2)を見よ。〔桃花扇、逃難〕丑扮㆓鄭安娘㆒、披髮走上。㊃**みだす**。〔集韻〕扮、亂也。

參考 扮(**5－11829**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕扮、同ㇾ扴、扮、音憤、握也。

【扮演】1 pan^{4} yen^{3} 扮裝する。衣裝をつけて劇を演ずる。扮戲。

【扮戲】2 フンギ しばゐのいでたち。役者が扮裝すること。又、芝居。演劇。〔兼燭譚〕今俗以㆓裝飾㆒爲㆓打扮㆒、演劇者飾㆓其面㆒、謂㆓之扮戲㆒。

〖扮戲子〗3 フンギシ 種々の衣裳を着けて、各種の人物に擬するもの。俳優。〔傳習錄、上〕若只是那些儀節、求㆓得是當㆒、便謂㆓至善㆒、卽如㆓今扮戲子㆒、扮㆓得許多溫凊奉養的儀節㆒是當、亦可ㇾ謂㆓之至善㆒矣、愛於㆓是日㆒又有ㇾ省。

【扮會】4 フンクヮイ みなりをつくりあふ。〔福惠全書、典禮部、迎春〕令㆘各行裝㆓演臺閣㆒娼嫚扮會㆖之類、殊屬㆓多事㆒。

【扮裝】5 フンサウ ❶よそほふ。いでたつ。姿をつくる。又、よそほひ。いでたち。❷俳優が舞臺にでるときのいでたち。

【扮像】6 pan^{4} hsiang^{4} 扮裝に同じ。

【扮作】7 pan^{4} tsuo^{4} 扮裝する。いでたつ。

【扮飾】8 フンシヨク よそほひかざる。粉飾(**8－26872・45**)に同じ。

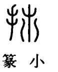
【抙】 11831

フン 扮(**5－11830**)の譌字。〔正字通〕抙、扮字之譌。

【⿰扌朩】 11832

㊀ハツ ハチ 〔集韻〕普活切 曷

㊁ハツ バチ 〔集韻〕蒲撥切 曷



小篆

㊀❶**ふく**。ぬぐふ。〔說文〕⿰扌朩、⿰扌堇也、从ㇾ手朩聲。〔段注〕今人用㆓拂拭字㆒、當ㇾ作ㇾ此。❷**うつ**。〔集韻〕⿰扌朩、一曰、擊也。〔淮南子、說林訓〕游者以ㇾ足蹶、以ㇾ手⿰扌朩。㊁❶**おす**。〔集韻〕⿰扌朩、推也。❷

抪掮は、おもふままにふるまふ。〔集韻〕抪、一曰、抪掮、自任無㆑憚也。

【扯】11833　［一］タ　［二］シャ　ㄔㄜˇ　chʻê^3

［一］ひく。ひきとめる。扡（5－11805）の俗字。〔字彙〕扯、俗扡字。〔宋史、杜紘傳〕夏使欲㆑有㆑所㆓陳乞㆒、紘連扯㆑之。〔陔餘叢考、扯〕俗云㆓以㆑手牽㆑物曰㆑扯、然經書無㆓此字。［二］さく。ひらく。撦（5－12728）の俗字。〔正韻箋〕扯、本作㆑撦。〔正字通〕扯、俗撦字。

【扯下】1 chʻê^3 hsia^4　引き卸す。引つ張り下げる。

【扯開】2 chʻê^3 kʻai^1　引つかきあける。引開ける。引分ける。

【扯毀】3 chʻê^2 huei^3　引つ張り毀す。

【扯謊】4 chʻê^2 huang^3　虚言をいふ。

【扯挂】5 chʻê^3 kua^4　引き上げる。

【扯碎】6 chʻê^3 suei^4　こなごなに壞す。

【扯算】7 chʻê^3 suan^4　合算する。

【扯上】8 chʻê^3 shang^4　引き揚げる。

【扯手】9 chʻê^2 shou^3　❶手綱。❷手に手をとる。

【扯淡】10 chʻê^3 tan^4　でたらめをいふ。氣まぐれなことをいふ。〔西湖志餘〕杭人言㆓胡說㆒曰㆓扯淡㆒。〔燕子箋、拾箋〕這扯淡的相思症轉添。

【扯談】11 chʻê^3 tʻan^2　扯淡に同じ。

【扯破】12 chʻê^3 pʻo^4　裂く。

【扯平】13 chʻê^3 pʻing^2　平均する。

【扯票】14 chʻê^3 pʻiao^4　人を殺害する。馬賊の語。

【扯篷】15 chʻê^3 pʻêng^2　帆をかける。

【扯拉】16 chʻê^3 la^1　❶虚言をいふ。❷引く。牽く。

【扯鈴】17 chʻê^3 ling^2　❶遊戲の具。唐獨樂の類で、兩筒軸に連り、繩でひき廻せば、音を出す。❷舞臺で胡弓の一種をいふ。

【扯裂】18 シャレツ　引き裂く。〔日本外史、德川氏前期、豐臣氏中〕取㆓冊書㆒扯㆓裂之㆒。

【扯舌頭】19 chʻê^3 shê^2 tʻou　多言する。虚言をつく。

【扯不動】20 chʻê^3 pu tung^4　❶碎き得ない。❷引張ることが出來ない。

【扯風扇】21 chʻê^3 fêng^1 shan^4　扇子を煽ぐ。

【扰】11834　イウ ウ　〔玉篇〕于救切　有

❶さいはひ。〔玉篇〕扰、福也。❷うごく。〔字彙〕扰、動也。

【扱】11835

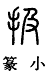
［一］サフ セフ　〔集韻〕測洽切　洽　ㄒㄧ hsi^1　ㄔㄚˋ chʻa^4

［二］シフ　〔集韻〕測入切　緝

［三］セフ　〔集韻〕七接切　葉

［四］キフ コフ　〔集韻〕乞及切　緝

［五］ギフ ゴフ　〔集韻〕逆及切　緝


小篆

［一］❶をさめる。收斂する。〔說文〕扱、收也、从㆑手及聲。〔禮、曲禮上〕以㆑箕自鄉而扱㆑之。〔注〕謂㆓收㆑糞時㆒也。〔釋文〕扱、斂也。❷とる。〔方言、十三〕扱、擭也。〔廣雅、釋詁一〕扱、取也。〔廣韻〕扱、取也、獲也。❸ひく。〔廣雅、釋詁二〕扱、引也。〔廣韻〕扱、引也。❹あげる。〔廣韻〕扱、擧也。❺はさむ。さす。插（5－12346）に通ず。〔說文通訓定聲〕扱、叚借爲㆑插。〔廣雅、釋詁二〕扱、插也。〔疏證〕插・扱、古通用。〔禮、喪大記〕徒跣扱㆑衽。❻およぶ。とどく。つく。〔儀禮、士昏禮〕婦拜扱㆑地。〔注〕扱㆑地、手至㆑地也、婦人扱㆑地、猶㆓男子稽首㆒。〔釋文〕扱㆑地、初洽反。❼或は接（5－12280）に作る。〔集韻〕扱、或作㆑接。〔周禮、地官、廩人〕共㆓其接盛㆒。〔注〕接、讀爲㆓一扱再祭之扱㆒。❽つまむ。とる。趿（10－37407）に通ず。〔爾雅、釋器〕扱㆑衽謂㆓之襭㆒。〔說文〕趿、爾雅曰、趿謂㆓之擷㆒。❾捷（5－12216）に通ず。〔禮、內則、注〕搢、猶㆑扱也。〔釋文〕扱、本或作㆑捷。［二］とる。［一］の❷に同じ。〔集韻〕扱、取也。［三］❶さしはさむ。或は插（5－12346）に作る。〔集韻〕扱、搢也、或作㆑插。❷をさめる。［一］の❶に同じ。〔集韻〕扱、收也。［四］❶およぶ。及（2－3118）に通ず。〔說文通訓定聲〕扱、叚借爲㆑及。〔集韻〕扱、手至㆑地、儀禮、婦拜扱㆑地、劉昌宗說。❷をさめる。［一］の❶に同じ。〔集韻〕扱、斂持也、禮、以㆑箕自向而扱㆑之。❸ひく。［一］の❸に同じ。〔集韻〕扱、引也。［五］およぶ。［一］の❻に同じ。〔集韻〕扱、拜手至㆑地也。［邦］❶あつかふ。あつかひ。❷こく。しごく。

【扱衽】1 サフジン　衣の前のすそを帶にはさむ。〔爾雅、釋器〕扱㆑衽謂㆓之襭㆒。〔注〕扱㆓衣上衽於帶㆒。〔釋文〕扱、楚洽反。〔禮、曲禮下〕苞屨、扱㆑衽、厭冠、不㆑入㆓公門㆒。〔疏〕扱㆑衽者、親始死、孝子徒跣扱㆓上衽㆒也。〔李康、運命論〕扱㆑衽而登㆓鍾山藍田之上㆒、則夜光璠璵之珍可㆑觀矣。〔注〕善曰、廣雅曰、扱、插也。

【扱排】2 キフハイ　をさめはらふ。〔管子、弟子職〕聚㆓於戶內㆒、坐扱㆓排之㆒。〔纂詁〕扱、收也、排、擠也。

【扱免】3 サフメン　裾をはさみ肩をぬぐ。〔管子、四時〕三政曰、令㆔禁㆑扇去㆑笠、毋㆓扱免㆒。〔纂詁〕禁㆓扱㆑衽免袒㆒。

【扱綸】4 サフリン　釣絲をひくこと。〔說苑、政理〕夫扱㆑綸錯㆑餌、迎而吸㆑之者陽橋也。

【拎】11836

［一］ケン ゲン　〔集韻〕其淹切　鹽

［二］キン ゴン　〔集韻〕渠金切　侵

［三］キン ゴン　〔集韻〕巨禁切　沁

［一］❶わざ。〔方言、十三〕拎、業也。〔注〕謂㆓基業㆒也。❷仕事に專心なこと。甾拎。〔集韻〕拎、博雅、甾拎、專㆓職業㆒也。❸しるす。〔玉篇〕拎、記也。❹とる。〔字彙〕拎、把也。［二］かたくもつ。捦（5－12183）に同じ。〔集韻〕捦、說文、急持㆓衣衿㆒也、或从㆑今。［三］とらへる。擒（5－12816）に同じ。〔集韻〕拎、捉也、或从㆑禽。

【扳】11837

［一］ハン　〔集韻〕逋還切　刪　ㄅㄢ pan^1

［二］ハン　〔集韻〕普患切　諫　ㄆㄢ pʻan^1

［一］［二］❶ひく。〔廣雅、釋言〕扳、援也。〔一切經音義、九〕扳、引也。〔集韻〕扳、挽也。〔公羊、隱、元〕諸大夫扳㆑隱而立㆑之。〔注〕扳、引也。〔謝靈運、還㆓舊園㆒作見㆓顏范二中書㆒詩〕質弱易㆓扳纏㆒。〔注〕善曰、扳纏、猶㆓牽引㆒也。〔曾鞏、東軒小飲詩〕欲㆑罷更起相牽扳。❷よぢる。攀（5－12926）に通ず。〔禮、喪大記、二手承㆑衾而哭、注〕欲㆓攀援㆒。〔釋文〕扳、本又作㆑攀。

【扳援】1 ハンエン　ひくこと。ひきたすける。〔史記、灌夫傳、與㆓長孺㆒共㆓一老禿翁㆒何爲㆓首鼠兩端㆒、注〕集解曰、漢書音義曰、禿老翁、言㆔嬰無㆓官位扳援㆒也。〔韓愈、答㆓崔立之㆒書〕扳㆓援古昔㆒、辭義高遠。〔蘇軾、無㆑沮㆑善文〕使㆔天下皆得㆓踴躍自奮扳援而來㆒。

【扳價】2 ハンカ　價格をひきあげる。〔通俗編、雜字、

扳〕按、俗言二扳價・扳罾一用レ此。

【扳害】3 ハンガイ 民の害になることをいひかける。〔福惠全書、莅任部、稟帖贅說〕禁二其扳レ害矣。

【扳咬】4 ハンカウ いひかける。〔福惠全書、刑名部、人命上、總論〕扳咬呼號。

【扳胸】5 ハンキヨウ 馬のむながひ。〔福惠全書、郵政部、喂養〕將二扳胸及後鞦一搭起、令二馬汗毛鬆爽一。

【扳殘】6 ハンザン もぎとる。〔琵琶記、牛氏規レ奴〕香徑裡扳二殘柳眼一、雕闌畔折二損花容一。

【扳指】7 ハンシ 象牙或は玉を以て爲つたもので、右手の大指に着けて弦を鉤するに用ひる。韘。搬指。班指。〔詩、衞風、芄蘭、童子佩レ韘、集傳〕韘、決也、以二象骨一爲レ之、着二右手大指一、所二以鉤レ弦闓一レ體。

【扳罾】8 ハンソウ 四つ手網を引き上げる。扳罾法を見よ。〔三才圖會、器用五〕扳罾圖、坐罾圖、提罾圖。

【扳罾法】9 ハンソウハフ 筆法の名。食指で筆管の上を推すもの。漁人が扳罾するに似るからいふ。〔春雨雜述〕用レ筆有二扳罾法一、食指推レ上、甚正而奇健、擫管法、撮二聚管端一、草書便、提筆法、提二掣其筆一、署書宜、此執筆之功也。

【扳罾守店】10 pan^1 tsêng^1 shou^3 tien^4 四つ手網をあげる時のやうに注意して店番する。

【扳蕩】11 ハンタウ 亂れること。板蕩(6－14518‥50)に同じ。〔曾鞏、移二滄州一過レ闕上レ殿劄子〕宇內扳蕩。

【扳著】12 ハンチヤク ひつかかる。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕不レ能二扳著一、則是別人弔起者。

【扳纏】13 ハンテン つきまとふ。轉じて、病氣をいふ。〔謝靈運、還二舊園一作、見二顏・范二中書一詩〕感深操不レ固、質弱易二扳纏一。

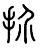
【扳累】14 ハンルキ いひかけのなんぎ。〔福惠全書、刑名部、欵犯〕免レ爲二扳累一、便爲二萬幸一。

【扳連】15 ハンレン 牽制する。〔諸葛亮、與二兄謹一書〕今使下前軍斫二治此道一、以向中陳倉上、足下以扳二連賊勢一、使上不レ得二分レ兵東行一者也。

【扳聯】16 ハンレン 扳連に同じ。〔孫樵、罵僮志〕親朋扳聯。

【扴】11838

カツ ケチ 〔集韻〕訖黠切 ［黠］


小篆

❶する。けづる。〔說文〕扴、刮也、从レ手介聲。〔廣韻〕扴、揩二扴物一也。❷物の音。〔韓愈・孟郊、征蜀聯句〕室晏絲曉扴。〔注〕機杼揩扴聲。

【扲】11839

ヲ 於(5－13628)の俗字。〔字彙〕扲、俗於字。

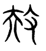
【扶】11840

［一］フブ 〔集韻〕馮無切 ㄈㄨˊ fu^2 ［虞］

［二］フ 〔集韻〕風無切 ［虞］

［三］ブホ 〔集韻〕蓬逋切 ［虞］

小篆


古文

［一］❶たすける。〔說文〕扶、左也、从レ手夫聲。〔集韻〕扶、說文、左也、一曰、相也。〔論語、季氏〕顚而不レ扶。〔戰國、宋策〕若扶レ梁伐レ趙。〔注〕扶、助也。❷まもる。〔方言、十三〕扶、護也。❸ささへる。〔荀子、勸學〕蓬生二麻中一、不レ扶而直。❹つく。〔釋名、釋言語〕扶、傅也、傅二近之一也。❺よる。〔國語、晉語四〕侏儒扶レ盧。〔注〕扶、緣也。❻そふ。かたはら。〔淮南子、人閒訓〕去二高木一而巢二扶枝一。〔注〕扶、旁也。❼よぢる。〔淮南子、原道訓〕扶搖抮抱、羊角而上。〔注〕扶、攀也。❽おこる。〔淮南子、覽冥訓〕扶搖而登レ之。〔注〕扶搖、發動也。❾をさめる。〔淮南子、本經訓〕扶撥以爲レ正。〔注〕扶、治也。❿婦人の拜禮の稱。兩袖を胸のところに斂めて上下する禮。〔釋名、釋姿容〕拜、於二婦人一爲レ扶、自二抽扶一而上下也。〔疏證〕肅拜者、頫首正立、斂二兩袖於胷前一、而低二昂之一、故曰二抽扶而上下一。⓫くみひも。〔後漢書、輿服志〕四系爲二一扶一。⓬草の名。芙(9－30694)に通ず。〔爾雅、釋草、荷、芙渠、釋文〕芙、本作レ扶。⓭風の名。颫(12－43774)に通ず。〔爾雅、釋天〕扶搖謂二之猋一。〔釋文〕扶、字林作レ颫。⓮古は枝(5－13125)に作る。〔集韻〕扶、古从レ支。⓯姓。〔姓氏急就篇〕扶氏、漢廷尉扶嘉、高祖以四嘉志在三扶二翼漢室一、賜二姓扶氏一。〔尙友錄〕扶、京兆羽音、乞扶氏、又望出二河南一。［二］四指をならべた長さ。膚(9－29829)に通ず。〔集韻〕扶、側手曰レ扶、春秋傳、扶寸而合、通作レ膚。〔禮、投壺〕籌、室中五扶、堂上七扶、庭中九扶。〔注〕鋪二四指一曰レ扶、一指案レ寸、春秋傳曰、膚寸而合。〔應璩、與二從弟君苗君胄一書〕扶寸肴脩味踰二文丈一。〔注〕李善曰、尙書大傳曰、扶寸而合、不レ崇レ朝而雨二天下一、鄭玄曰、四指爲レ扶、扶音膚、張銑曰、厚四指曰レ膚。〔公羊、僖、三十一〕膚寸而合。［三］❶とどまる。とどこほる。〔漢書、天文志〕晷長爲レ潦、短爲レ旱、奢爲レ扶。〔注〕晉灼曰、扶、附也。❷はらばふ。匍(2－2527)に同じ。〔集韻〕匍、說文、手行也、或作レ扶。〔左氏、昭、二十一〕扶伏而擊レ之。〔釋文〕扶服、本作二匍匐一。〔揚雄、長楊賦〕扶服蛾伏。〔注〕善曰、扶服、與二匍匐一音義同。

名乘 スケ。モト。

【扶移】1 フイ 樹の名。江南の山谷に生ず。大いさ十數圍。葉は風無くして動く。ふいのやなぎ。白楊。唐棣。夫移。〔本草、扶移〕釋名、移楊、唐棣、高飛、獨搖、集解、藏器曰、扶移木生二江南山谷一、樹大十數圍、無レ風葉動、花反而後合、詩云、唐棣之華、偏其反而、是也、時珍曰、移楊與二白楊一是同類、二種、今南人通呼爲二白楊一、故俚人有二白楊葉有レ風掣無レ風掣之語一。

【扶育】2 フイク たすけそだてる。〔魏志、王朗傳〕先王芟二除寇賊一、扶二育孤弱一。

【扶雲】3 フウン 淸、孫雲鵬(3－6987‥329)の字。

【扶幼】4 フエウ 麟の夏鳴をいふ。〔初學記、獸部、麟〕何法盛徵祥記、云云、牡曰レ麒、牝曰レ麟、云云、夏鳴曰二扶幼一、秋鳴曰二養綏一。

【扶搖】5 フエウ ❶神木の名。東海に生ずといふ。〔莊子、在宥〕雲將東遊、過二扶搖之枝一、而適遭二鴻蒙一。〔釋文〕李云、扶搖、神木也、生二東海一。❷旋風。つむじかぜ。飆風。扶搖の二字を反切すれば飆ヘウ卽ち暴風となる。〔爾雅、釋天〕扶搖謂二之猋一。〔注〕暴風從レ下上也。〔疏〕李巡曰、扶搖、暴風從レ下升上、故曰レ猋、猋、上也、孫炎曰、廻風從レ下上曰レ猋。〔莊子、逍遙遊〕鵬之徙二於南冥一也、水擊三千里、摶二扶搖一而上者九萬里。〔疏〕扶搖、旋風也。〔淮南子、原道訓〕扶搖抮抱、羊角而上。〔注〕扶、攀也、搖、動也、云云、扶搖、如二羊角一、轉如二曲縈一行而上也。〔江淹、雜體、孫廷尉雜述詩〕思乘二扶搖翰一、卓然陵レ風矯。〔注〕翰曰、扶搖、風之名也。❸勢よくうごきおこる。〔淮南子、覽冥訓〕陰陽交爭、降二扶風一、雜二凍雨一、扶搖而登レ之。〔注〕扶搖、發動也。

【扶搖子】6 フエウシ 字號。❶宋、陳摶(11－41698‥461)の號。❷毛利裴の號。毛利壺邱(6－16772‥232)を見よ。

【扶搖風】7 フエウフウ つむじ風。扶搖の❷を見よ。

【扶搖直上九萬里】8 フエウチヨクジヤウキウマンリ 旋風にのり勢はげしく上昇する。出世の速かな喩。〔李白、上二李邕一詩〕大鵬一日同レ風起、扶搖直上九萬里、假令風歇時下來、猶能簸二卻滄溟水一、時人見二我指殊一レ調、聞二余大言一皆冷笑、宣父猶能畏二後生一、丈夫未レ可レ輕二年少一。

【扶掖】9 フエキ たすける。力をそへる。扶助。〔漢書、王莽傳下〕羣臣扶二掖莽一。〔魏武帝、又上書讓レ封〕遠錄二先臣扶掖之節一。

【扶於】10 フヲ 枝の分布するさま。扶疎。〔史記、司馬相如傳〕垂條扶於、落英幡纚。〔注〕集解曰、郭璞曰、扶於、猶二扶疏一也。

【扶雅】11 フガ 淸、陳善(錢塘の人)(11－41698‥42

2)の字。　「室名。

〔扶雅堂〕12 フガダウ 清、毛宗文(6−16772‥304)の

【扶行】13 フカウ たすけてゆく。〔杜甫、秋日夔府詠懷一百韻詩〕喚起搔頭急、扶行幾屐穿。〔元稹、醉醒詩〕積善坊中前度飲、謝レ家諸婢笑扶行。

【扶扞】14 フカン たすけまもる。〔呉志、凌統傳〕陷レ圍扶二扞權一出。

【扶危】15 フキ あやふきをたすける。〔後漢書、李通傳〕破レ家爲レ國、忘レ身奉レ主、有二扶危存亡之義一。〔蜀志、許靖傳〕扶レ危持レ傾。

【扶起】16 フキ ㊀たすけおこす。だき起す。〔舊唐書、裴冕傳〕冕時已衰瘵、受命之際、蹈舞絶倒、戴趨而扶起、代爲二謝詞一。〔白居易、長恨歌〕侍兒扶起嬌無レ力、始是新承二恩澤一時。〔白居易、與二元九一書〕不レ量二才力一、欲三扶二起之一。㊁fu² ch'i³ もちあげる。

【扶淇】17 フキ 川の名。山東省諸城縣の西。〔水經、濰水注〕又北、左合二扶淇之水一、水出二西南常山一、東北流注レ濰。

【扶箕】18 フキ 占の一種。扶乩(31)に同じ。〔夷堅志〕紫姑、仙之名、唐乃稍見レ之、世但以レ箕插レ筆、使二兩人扶一レ之、或書二字於沙中一。

【扶義】19 フギ 義によつて相助ける。杖義。〔史記、太史公自序〕項氏遂亂レ漢、乃扶レ義征伐。〔漢書、高帝紀上〕願與二沛公一西入レ關、懷王諸老將皆曰、項羽爲レ人慓悍禍賊、云云、所レ過無レ不二殘滅一、云云、不レ如下更遣二長者一扶レ義而西、告中諭秦父兄上。〔注〕師古曰、扶、助也、以レ義相助也、扶字或作レ杖、杖亦倚任之意。〔唐書、竇建德傳〕能仗レ順扶レ義、安二四方一也。

【扶曦】20 フギ 清、馬元馭(12−44572‥767)の字。

【扶救】21 フキウ たすける。たすけ。輔助。〔魏書、禮志一〕是以晉室銜二扶救之仁一。

【扶給】22 フキフ たすけ給する。給扶。

【扶筐】23 フキヤウ 星の名。〔星經〕扶筐七星、在二天柱東一、主二桑蠶之事一。

【扶渠】24 フキヨ 蓮。扶蕖。〔説文〕蓮、扶渠之實也。〔詩、鄭風、山有扶蘇、隰有二荷華一傳〕荷華、扶渠也。

【扶擧】25 フキヨ たすけて肩にのせる。扶輿。扶舁。〔淮南子、覽冥訓〕傷二弓弩矛戟矢石之創一者、扶二擧於路一。

【扶筇】26 フキヨウ つゑにもたれる。〔朱熹、又和二秀野二首詩〕覓レ句休レ教長閉レ戸、出レ門聊得レ試二扶筇一。

【扶筋】27 フキン 藥草の名。狗脊。〔本草、狗脊〕釋名、強膂、扶筋、百枝、狗青、時珍曰、強膂扶筋、以レ功名也。

【扶臥】28 フグワ たすけて寐させる。〔漢書、游俠、陳遵傳〕暮因畱宿、爲二侍婢扶臥一。

【扶光】29 フクワウ ㊀扶桑の光り。日の光り。〔謝莊、月賦〕擅二扶光於東沼一。〔注〕善曰、扶光、扶桑之光也、翰曰、扶桑、日出處。〔謝瞻、九日從二宋公戲馬臺集一、送二孔令一詩〕扶光迫二西汜一、歡二餘宴有レ窮。㊁明、汪休日(6−17154‥201)の字。

【扶歡】30 フクワン 縣名。㊀唐、置く。貴州省思南縣の西南。〔讀史方輿紀要、貴州、思南府、蠻夷長官司、思王廢縣〕扶歡廢縣、志云、唐貞觀十六年、開二山洞一、置二扶歡縣一、屬二秦州一、以三縣東有二扶歡山一而名、卽此。㊁宋、置く。四川省綦江縣の南。

【扶乩】31 フケイ 占の一種。術士が廟内又は自家の淨室に神像を安置し、香机・乩筆・砂盤を備へ、屋梁から繩に吊した弓を下げ、それに乩筆をつないで砂盤上に垂下し、兩人で弓の兩端を扶持し、信者は、扶乩者から香を受け取り、之を焚いて叩拜し諸神の符籙を燒く。其の煙が炎上すると、忽ち神が乩筆に憑つて之を動かし、砂盤上に文字樣のものを書く。扶乩者は之に依つて事の吉凶適否を判斷する。扶箕。扶亂。扶鸞。〔天祿識餘〕元末、河南輝縣百泉書院、有二山長某一、嘗集客坐中一扶乩者術甚神、衆共肅二禮之一、使レ探二神響一、焚呪方半神已至、衆請レ名、乃判二一詩一曰、相逢何必更知レ名、九里山前殺氣横、不レ及淇泉數竿竹、風波靜處過二平生一、衆矍然曰、神淮陰侯耶、曰然、賡酬良久、始引去。

【扶傾】32 フケイ かたむいたのをたすけおこす。〔揚雄、甘泉賦〕抗二浮柱之飛榱一兮、神莫莫而扶レ傾。〔千字文〕濟レ弱扶レ傾。〔韓偓、贈二呉顚尊師一詩〕一手擬レ扶レ傾。

【扶溪】33 フケイ 地名。廣東省仁化縣の東北の紫嶺の下。〔讀史方輿紀要、廣東、韶州府、仁化縣〕扶溪鎭、在二縣東北五十里紫嶺下一、有二巡司一、接二江南安府界一、洪武七年設。

【扶攜】34 フケイ 老をたすけ幼をたづさへる。扶老(1 35)を見よ。〔韓詩外傳、五〕夫人性善、非下得二明王聖主扶攜一、内レ之以上道、則不レ成二君子一。〔孟郊、獻二襄陽于大夫一詩〕還耕竟二原野一、歸老相扶攜。〔葉夢得、懷二西山一詩〕所レ欲面勢好、老種通二扶攜一。

【扶揑】35 フケイ なれあひこしらへる。揑は捏と同じ。〔福惠全書、郵政部、査倒斃〕中間並無二扶揑情弊一。

【扶挈】36 フケツ 老をたすけ幼をたづさへる。扶持。〔蘇軾、再過二超然臺一贈二太守霍翔一詩〕扶二挈老幼一相遮攀。

【扶夾】37 フケフ たすけて世話する。扶挾。〔漢書、蔡義傳〕常兩吏扶夾、乃能行。

【扶挾】38 フケフ たすけて世話をする。手つだひ助ける。〔後漢書、祭祀志上、松上疏爭レ之、注〕兩從者扶挾、前人相牽。

【扶孤】39 フコ 孤兒をたすける。〔日本政記、正親町天皇論〕此輩或建二復仇之功一、或得二扶孤之名一耳。

【扶護】40 フゴ たすけまもる。〔顏延之、赭白馬賦〕所下以崇二衞威神一、扶中護警蹕上。

【扶工】41 フコウ かひぞへ役。〔稱謂錄、贊禮、扶工〕禮仲尼燕居、譬猶二瞽之無レ相歟、疏、相謂二扶工一。

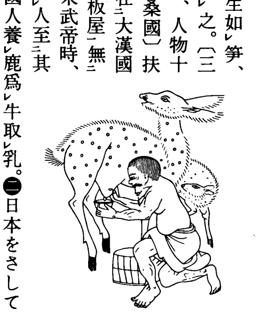
【扶溝】42 フコウ 縣名。漢、置く。今、河南省鄢陵縣の東。縣城は賈魯河の西岸。〔漢書、地理志下〕淮陽國、縣九、扶溝。〔讀史方輿紀要、河南、開封府〕扶溝縣、漢舊縣、屬二淮陽國一、以三小扶亭有二洧水之溝一因名、光武封二朱鮪一爲二侯邑一、改屬二陳留郡一、晉省、後魏復置、東魏屬二許昌郡一、隋屬二許州一、唐初於レ縣置二北陳州一、尋廢、以レ縣屬二洧州一、貞觀初、仍屬二許州一、五代梁改二今屬一。〔清史稿、地理志〕河南、陳州府、縣七、扶溝。

【扶左】43 フサ たすける。扶助。〔説文〕扶、左也。

【扶桑】44 フサウ ㊀東海中にある神木。兩樹同根、生じて相依倚するから扶といふ。日の出る所といはれる。〔山海經、海外東經〕湯谷上有二扶桑一、十日所レ浴、在二黑齒北一、居二水中一、有二大木一、九日居二下枝一、一日居二上枝一。〔郝懿行、箋疏〕扶當レ爲レ榑、説文云、榑桑、神木、日所レ出也。〔楚辭、離騷〕飮二余馬於咸池一兮、摠二余轡乎扶桑一。〔淮南子、天文訓〕日出二于暘谷一、浴二于咸池一、拂二于扶桑一、是謂二晨明一。〔後漢書、張衡傳〕夕余宿二乎扶桑一。〔注〕扶桑、日所レ出、在二湯谷中一、其桑相扶而生。〔左思、呉都賦〕經二扶桑之中林一、包二暘谷之滂沛一。〔注〕翰曰、扶桑暘谷、皆日出之所。〔海内十洲記〕扶桑在二碧海之中一、地方萬里、云云、地多二林木一、葉皆如レ桑、又有レ椹、長者數千丈、大二千餘圍、樹兩兩同根偶生、相依倚、是以名二扶桑一。㊁樹の名。桐に似、扶桑國人はよく之を食ふといふ。扶桑國の㊀を見よ。㊂樹の名。南方に産す。葉は桑に似て稍〻小。花に紅・黃・白の三色有り、紅のものが尤も貴い。ぼさつばな。りうきうむくげ。朱槿。佛桑。〔本草、扶桑〕釋名、佛桑、朱槿、赤槿、日及、集解、時珍曰、扶桑產二南方一、乃木槿別種、其枝柯柔弱、葉深綠微澀如レ桑、其花有二紅黃白三色一、紅者尤貴、呼爲二朱槿一、嵇含草木狀云、朱槿一名赤槿、一名日及、出二高凉郡一、花莖葉皆如レ桑、其葉光而厚、木高四五尺、而枝葉婆娑、其花深紅色五出、大如二蜀葵一、重敷柔澤、有二蕊一條一、長如二花葉一、上綴二金屑一、日光所レ爍、疑若三焰生二一叢之上一、日開二數百朶一、朝開暮落、自二五月一始、至二中冬一乃歇、插レ樹卽活。㊃東方にある國の名。扶桑國の㊀を見よ。㊄日本を指していふ。扶桑樹は四國の伊豫にあつたといふ。〔王維、送三祕書晁監還二日本一詩〕鄉國扶桑外、主人孤島中。〔夜航詩話〕古所謂扶桑樹者、蓋在二伊豫海濱一、洪荒時物云、按レ史、景行天皇西巡時、履二僵臥巨木一、度レ未レ僵之時、當二朝日一則隱二杵島山一、及二夕日一則覆二阿蘇山一者、理或然也、故西土之人稱二扶桑國一者、指二築紫地方一也、王維送二晁監一、鄉國扶桑外、主人孤島中、韋莊送二僧敬龍一、扶桑已在二渺茫中一、家在二扶桑東更東一、言下日本去二扶桑一更遠上也。㊅清、孫承恩(3−6987‥450)の字。

〔扶桑國〕45 フサウコク ㊀東方にある國の名。扶桑樹を多く産し、國人之を食ふといふ。日本をさすともいふ。〔南史、夷貊傳下〕扶桑、云云、在二中國之東一、其土多二扶桑木一、故以爲レ名、扶桑葉似レ

桐、初生如ㇾ箏、國人食ㇾ之。〔三才圖會、人物十三、扶桑國〕扶桑國、在二大漢國東一、作二板屋一無二城郭一、宋武帝時、罽賓有ㇾ人至二其國一、其國人養ㇾ鹿爲ㇾ牛取ㇾ乳。❷日本をさしていふ。〔王冕、送三頤上人歸二日本一詩〕上人住近二扶桑國一、我家亦在二蓬萊丘一。


扶桑國（三才圖會）

【扶桑集】46（フサウシフ） 書名。十二卷。紀齊名撰。詩集。今、十卷を佚す。現存の卷七は哀傷部・隱逸部・贈答部・懷舊部の七十四首を載せ、卷九は卷首が缺けて部門は不明であるが、毛詩・孝經・論語・史記・蒙求・詠史・勸學・及第・落第・筆の十目について武部をあげ、弓の目を出して一詩を掲げてゐる。

【扶桑略記】47（フサウリヤクキ） 書名。三十卷。比叡山功德院の僧、皇圓撰。神武天皇より堀河天皇の寛治八年三月に至るまでの編年體の歷史書。一名、扶桑記・扶桑集。〔國史大系〕・〔史籍集覽〕・〔古典叢書〕・〔皇學叢書〕。

【扶桑隱逸傳】48（フサウインイツデン） 書名。三卷。元政撰。寛文四年、刊。我が國上古より當時に至るまでの隱遁者の小傳を集めたもの。すべて漢文で記してゐる。

【扶桑五山記】49（フサウゴザンキ） 書名。五卷。撰者未詳。我が國の禪寺五山等のことを記載したもの。

【扶桑拾葉集】50（フサウシフエフシフ） 書名。三十卷。德川光圀編。和文の序跋・物語・紀行・賀文・悼辭、其の他贈答文等、凡て三百二編を集め、作者一百有餘人を收む。

【扶薩】51（フサツ） 佛菩薩（9－31205・・1）の❶に同じ。〔一切經音義、三〕開大梵云、扶薩又作二扶薛一、或言二菩薩一。

【扶贊】52（フサン） たすける。翼贊。〔魏志、劉放傳〕然時因二羣臣諫諍一、扶二贊其義一。〔宋書、徐羨之傳〕或忠規遠謀、扶二贊洪業一。

【扶山】53（フザン） 山名。一名、陶公山。廣東省瓊山縣の東南。〔廣東通志〕山左有二五嶺一、遞相擁護、故名二扶山一、昔有二陶公一開ㇾ之、故又名二陶公山一。

【扶枝】54（フシ） 幹から出たかたへのえだ。旁枝。〔淮南子、人間訓〕去二高木一而巢二扶枝一。〔注〕扶、旁也。

【扶二】55（フジ） 清、蔣宏道（9－31820・・136）の字。

【扶侍】56（フジ） たすけ侍る。〔賈子新書、匈奴〕婦人先二後扶三侍之一者、固十餘人。〔後漢書、劉平傳〕平扶二侍其母一、奔走逃ㇾ難。

【扶州】57（フシウ） 州名。❶北周、置く。今、四川省松潘縣治。〔讀史方輿紀要、四川〕松潘衞、古氐羌地、秦漢時、亦爲二羌戎地一、後周置二龍涸郡一、兼置二扶州一。❷隋、置く。治は尙安。甘肅省文縣の西北。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、階州、文縣〕同昌城、云云、隋開皇七年、改置二扶州一、治二尙安縣一。❸唐代、渤海、置く。今、缺く。吉林省の境。

【扶疾】58（フシツ） 病氣をしひておす。又、やまひを介抱する。扶病。〔論衡、問孔〕猶二杖之扶ㇾ疾也。〔晉書、羊祜傳〕扶ㇾ疾引見。〔劉長卿、行營酬二呂侍御一云云詩〕受ㇾ辭瞻二左鉞一、扶ㇾ疾往二前旌一。

【扶車】59（フシヤ） 車に賴つて漸く立つ年頃。幼孩。〔韻府引、蘇轍、詩〕歸心每欲二自投劾一、孺子漸長能扶車。

【扶牀】60（フシヤウ） 牀に賴つて漸く立つ年頃。幼孩。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕新婦初來時、小姑始扶牀、今日被二驅遣一、小姑如二我長一。〔韓愈、河南府法曹參軍盧府君夫人苗氏墓誌銘〕累累外孫、有ㇾ攜有ㇾ嬰、扶ㇾ牀坐ㇾ膝、嬉戲讙爭。〔元稹、答二友封一詩〕扶牀小女君先識、應ㇾ爲三些些似二外翁一。

【扶將】61（フシヤウ） たすけもつ。たすけ合ふ。扶持（9○）の❶に同じ。〔春秋繁露、深察名號〕弗二扶將一則顚陷猖狂、安能善。〔漢書、外戚上、孝景王皇后傳〕家人驚恐、女逃匿、扶將出拜。〔魏志、華陀傳〕（嚴）昕卒頭眩墮ㇾ車、人扶將還、載歸ㇾ家。〔木蘭辭〕爺孃聞二女來一、出ㇾ郭相扶將。

【扶傷】62（フシヤウ） 負傷者をたすける。〔後漢書、劉陶傳〕合ㇾ散扶ㇾ傷、克成二帝業一。〔柳宗元、封建論〕奔命扶ㇾ傷而不ㇾ暇。

【扶弱】63（フジヤク） よわい者をたすける。〔越絕書、越絕外傳本事〕抑ㇾ彊扶ㇾ弱。〔漢書、刑法志〕夫法令者、所三以抑ㇾ暴扶ㇾ弱、欲二其難ㇾ犯而易一ㇾ避也。〔後漢書、耿純傳〕抑ㇾ強扶ㇾ弱、令行禁止。

【扶手】64 fu² shou³ ❶助手。手傳ひ。❷欄杆。手摺。

【扶手兒】65 fu² shou³ êrh てすり。欄杆。

【扶樹】66（フジユ） たすけ立てる。扶植。〔韓愈、上二兵部李侍郎一書〕謹獻二舊文一卷一、扶二樹教道一、有ㇾ所二明白一。〔白居易、庾承宣可二尙書右丞一制〕會ㇾ政決ㇾ要、扶二樹理本一。〔宋濂、龍淵義塾記〕宜三扶樹而振二發之一。

【扶胥】67（フシヨ） ❶樹の名。扶蘇。〔詩、鄭風、山有扶蘇、傳〕扶蘇、扶胥、小木也。❷車の別名。〔六韜、虎韜、軍用〕矛戟扶胥、云云、大扶胥、三十六乘。❸道家の語。〔黃庭內景經〕三眞扶胥是房津、五斗煥剛是七元。〔陶弘景、萃陽頌〕重離儻或似、七元乃扶胥。❹地名。廣東省番禺縣の東南。〔韓愈、南海神廟碑〕今在二廣州治之東南、海道八十里、扶胥之口、黃木之灣一。〔韓愈、贈二別元十八協律一詩〕乘ㇾ潮簸二扶胥一、近ㇾ岸指二一髮一。

【扶𤴢】68（フシヨ） 散りしくさま。〔太玄經、𤴢〕陽氣彊ㇾ內而弱ㇾ外、物咸扶𤴢而進二乎大一。〔注〕行屬二于金一、謂二之𤴢一者、陽氣在ㇾ內而天、陰氣在ㇾ外、萬物扶𤴢而上、故謂二之𤴢一、𤴢初一日入二危宿一七度。

【扶諸】69（フシヨ） 獸の名。白鹿に似て四角。〔山海經、中山經〕敷岸山有ㇾ獸焉、其狀如二白鹿一而四角、名曰二扶諸一。

【扶助】70（フジヨ） たすける。力をそへる。〔漢書、酷吏、嚴延年傳〕其治務在下摧二折豪強一、扶中助貧弱上。〔白虎通、誅伐〕扶二助微氣一、成二萬物一也。〔後漢書、李通傳〕建二造大策一、扶二助神靈一。

【扶丞】71（フジヨウ） たすける。扶助。〔漢書、佞幸、淳于長傳〕會大將軍王鳳病、長侍ㇾ病、晨夜扶二丞左右一、甚有二甥舅之恩一。

【扶植】72（フシヨク） たすけ立てる。しつかりとたてる。又、植ゑつける。扶樹。〔謝枋得、初到二建寧一賦詩〕雪中松柏愈青青、扶二植綱常一在二此行一。

【扶身】73（フシン） 水泳の上手なもの。〔管子、輕重甲〕桓公終北擧二事於孤竹離枝一、越人果至、隱二曲菑一以ㇾ水齊、管子有二扶身之士五萬人一、以待二戰於典菑一、大敗二越人一。〔纂詁〕扶、讀爲ㇾ浮。

【扶進】74（フシン） たすけすすめる。〔後漢書、章帝紀〕此皆所下以扶二進微學一、尊中廣道蓺上也。

【扶櫬】75（フシン） 死者の柩棺を護送して行くこと。〔杜甫、別二蔡十四著作一行〕扶ㇾ櫬歸二咸秦一、巴道此相逢。

【扶衰】76（フスイ） 衰へた者をたすける。〔漢書、食貨志下〕扶ㇾ衰養ㇾ疾。

【扶寸】77（フスン） 古の尺度の名。扶は手の指を四本竝べた長さ。寸は指一本。わづかな距離の喩。又、膚寸（9－29829・・20）に作る。〔禮、投壺〕籌二室中一五扶、堂上七扶、庫中九扶。〔注〕鋪二四指一曰ㇾ扶。〔韓非子、揚權〕上失二扶寸一、下得二尋常一。〔注〕鋪二四指一曰ㇾ扶。〔應璩、與二從弟君苗君胄一書〕扶寸肴脩、味踰二方丈一。〔注〕銑曰、厚四指曰ㇾ扶。

【扶世】78（フセイ） 世の中をたすける。〔漢書、武帝紀〕扶ㇾ世導ㇾ民。

【扶正】79（フセイ） ❶まつすぐにする。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕以二三木一扶正。❷ fu² chêng⁴ 妾が本妻になる。妾を本妻にする。

【扶政】80（フセイ） 政をたすける。〔漢書、蕭望之傳〕亡以扶ㇾ政、帥二先百僚一。

【扶接】81（フセツ） 助けちかづく。〔白虎通、三綱六紀〕夫婦者何謂也、夫者扶也、以ㇾ道扶接也、婦者服也、以ㇾ禮屈服。〔宋書、五行志一〕謝靈運有二逸才一、每二出入一、自扶接者常數人。

【扶疎】82（フソ） 木の枝の四方にひろがるさま。扶疏。〔爾雅、釋木、如ㇾ槐曰ㇾ茂、注〕言二扶疎茂盛一。〔漢書、武五子傳〕是以支葉扶疎、異姓不ㇾ得ㇾ間也。〔司馬相如、上林賦〕垂條扶疎。〔注〕善曰、說文曰、扶疎、四布也、呂氏春秋曰、樹肥無ㇾ使二扶疎一。〔王褒、洞簫賦〕標敷紛以扶疎。〔揚雄、解嘲〕枝葉扶疎。〔注〕善曰、說文曰、扶疎、四布也。

【扶疏】83（フソ） ❶木の枝の四方にひろがるさま。扶疏。〔韓非子、揚權〕木枝扶疏、將ㇾ塞二公閭一。❷舞ふさま。〔淮南子、脩務訓〕援二豐條一、舞二扶疏一。❸佛（フシヨ） 本書を助成する注釋書。❹（フシヨ） 涅槃經の異名。涅槃は法華を扶疏する義疏であるからいふ。〔止觀義例〕所ㇾ用義旨、以二法華一爲二宗骨一、以二智論一爲二指南一、以二大經一爲二扶疏一、以二大品一爲二觀法一。

【扶疏軒】84（フソケン） 元、王惲（7－20823・・49）の室名。

【扶蘇】85（フソ） ❶樹の名。扶胥。〔詩、鄭風、山有扶蘇〕

山有二扶蘇一、隰有二荷華一。〔傳〕扶蘇、扶胥、小木也。〔陳奐傳疏〕釋文本傳文、木上無二小字一云云、呂覽及漢書司馬相如・劉向・揚雄傳、枚乘七發、許氏說文、皆謂二扶疏一爲二大木一、許氏扶作レ枎、古疏・胥・蘇通用。❷戰車の上につけて矢をふせぐ蔽。扶胥。〔周禮、夏官、司戈盾、設二藩盾一注〕藩盾、盾可二以藩衞一者、如二今之扶蘇一與。〔孫詒讓正義〕云下如二今之扶蘇一與上者、六韜軍用篇、有二武衞大扶胥三十六乘、武翼大櫓矛戟扶胥七十二具、提翼小櫓扶胥一百四十六具、大黃參弩大扶胥三十六乘、大扶胥衝車三十六乘、矛戟扶胥輕車一百六十乘一、舊注云、扶胥、車上之蔽、惠士奇云、蘇與レ胥古文通、故扶蘇一作二扶胥一、蓋秦漢間語、周之蕃盾也。❸秦、始皇の長子。始皇が諸生を坑にするや、扶蘇之を諫む。始皇怒り、蒙恬の軍を監せしむ。始皇が崩ずるや、趙高詔を矯めて死を賜はる。〔史記、六〕。

【扶戴】86 フタイ　たすけいただく。自負すること。〔顏氏家訓、誡兵〕構扇反覆、線橫說誘、不レ知二存亡一、強相扶戴、此皆陷レ身滅レ族之本也。

【扶臺】87 フダイ　齊の桓公の臺の名。〔管子、臣乘馬〕今君立二扶臺一、五衢之衆皆作。

【扶踏】88 フタフ　手をとり扶けてあゆむ。〔顧況、公子行〕入レ門不レ肯二自升レ堂、美人扶踏金階月。

【扶摶】89 フタン　大空にのぼってはばたきする。〔薩都剌、山中懷レ友詩〕高林容二偃蹇一、衆翼避二扶摶一。〔柳貫、載酒堂詩〕咄哉愷悌神所レ勞、雲路矯レ首看二扶摶一。

【扶持】90 フヂ　❶たすけもつ。助け合ふ。扶護。扶助。扶將。〔禮、內則〕(婦)云云、以適二父母舅姑之所一、及レ所、下レ氣怡レ聲、云云、出入則或先或後、而敬扶二持之一。〔孟子、滕文公上〕守望相助、疾病相扶持、則百姓親睦。〔注〕扶二持其羸弱一、救二其困急一。〔焦循正義〕漢書食貨志引作二疾病相救一、以二救字一代二扶持一、方言云、扶、護也、護亦救也、荀子榮辱篇云、以相持養、注云、持養、保養也、扶・持二字義同、人有二疾病一、則羸弱困急、保二養之一卽救二護之一矣。〔荀子、王霸〕擽然扶二持心國一、且若レ是其固也。〔管子、形勢解〕道者扶二持衆物一、使レ得三生育而各終二其性命一者也。〔史記、外戚世家〕女亡二匿內中牀下一、扶持出レ門、令二拜謁一。〔漢書、董仲舒傳〕自レ非二大亡レ道之世一者、天盡欲三扶持而全二安之一。❷神農の樂の名。〔廣雅、釋樂〕扶持、樂名。〔孝經緯援神契〕神農樂名二扶持一、亦曰二下謀一。❸チフ　米で給與する祿。祿米。〔營中御日記、三〕寛永三年五月五日、月俸七百五十人扶持被レ下。

【扶持方】91 フチカタ　扶持米の祿を受ける者。又、其の祿。又、扶持に關すること。〔甲陽軍鑑、十二〕御藏前衆之內にて、五騎は駿州むきの代官衆御扶持方、萬のために御供也。

【扶持米】92 フチマイ　德川時代、諸侯の小身等が給與を受けた俸米。〔安土日記〕諸卒之人數に隨つて、御扶持米信州ふかしにて渡し被レ下。

【扶持誘掖】93 フチイウエキ　たすけみちびく。

【扶竹】94 フチク　❶節高く、中のみちた竹。邛竹。〔山海經、中山經〕龜山、其上多二黃金一、其下多二青雄黃一、多二扶竹一。〔注〕高節實中、中杖也、名二之扶老竹一。❷竹のならび生じたもの。二股竹。〔丹鉛總錄、花木類〕武林山西舊有二雙竹院一、中所レ產脩篁嫩篠、皆對抽並胤、王子敬竹譜所謂扶竹、譬猶三海上之桑、兩兩相比、謂二之扶桑一也、扶竹之筍、名曰二合歡一。

【扶杖】95 フヂヤウ　つゑにたよる。〔史記、萬石君傳〕(萬石君)卒、長子郞中令建、哭泣哀思、扶レ杖乃能行。〔漢書、賈山傳〕扶レ杖而往聽レ之。〔宋史、儒林七、眞德秀傳〕百歲老人、亦扶レ杖而出、城中歡聲動レ地。

【扶櫄】96 フチユン　草の名。〔管子、地員〕莖葉如二扶櫄一。〔纂詁〕扶櫄、亦草名。

【扶揑】97 フデツ　こしらへごと。〔福惠全書、刑名部、監禁〕是實並無二扶揑一。

【扶都】98 フト　商の湯王の母。主癸の妃。〔帝王世紀〕。

【扶桶】99 fu^{2} t'ung^{3}　分娩の時、產婦を支へ抱くこと。

【扶同】100 フドウ　なれあひ。一致。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、起賍〕扶同隱庇、甘レ罪結狀。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕無二隱漏扶同混報一。

【扶南】101 フナン　❶國の名。扶は又、夫に作る。始王を混塡といひ、漢時最も盛で、眞臘、頓遜の諸邦が皆屬す。唐代、眞臘に幷せらる。故地は今の泰國の東部の地。〔晉書、南蠻、扶南國傳〕扶南西去二林邑一三千餘里、在二海大灣中一、其境廣袤三千里。❷郡名。唐、置く。今、廣西省扶南縣の東。〔讀史方輿紀要、廣西、南寧府〕新寧州、古蠻峒地、唐貞觀十二年、清平公李宏節、招撫降附、開二置籠州一、天寶初、曰二扶南郡一。❸縣名。民國、置く。廣西省崇善縣の東北。左江の東南岸。❹清、方世擧(**5－13620・・561**)の字。

【扶南蔗】102 フナンシヨ　扶南の地に產する甘蔗。〔吳均、食移檄〕扶南甘蔗、一丈三節、白日炙レ之、便銷二清風一、吹レ之卽折。

【扶南之鰐魚】103 フナンノガクギヨ　扶南國で、罪人をかませて、其の罪の有無を確めたといふわに。〔梁書、諸夷、扶南國傳〕城溝中養二鰐魚一、門外圈二猛獸一、有レ罪者輒以餵二猛獸及鰐魚一、魚獸不レ食爲二無罪一、三日乃放レ之。〔搜神記、二〕(扶南王范尋)又養二鰐魚十頭一、若犯レ罪者投二與鰐魚一、不レ噬乃赦レ之、無レ罪者皆不レ噬。〔本朝文粹、二、三善清行、意見十二條、請三依レ舊增二置判事員一事〕不レ待二扶南之鰐魚一。

【扶抱】104 フハウ　たすけいだく。扶擁。

【扶拔】105 フバツ　獸の名。麒麟に似て角がない。符拔。〔後漢書、章帝紀〕月氏國遣レ使獻二扶拔師子一。〔注〕扶拔、似レ麟無レ角。〔王先謙集解〕惠棟引二郭義恭廣志一曰、符拔如レ麟、黑皮有二麟甲一、甲可二以辟レ惡也、汪文臺曰、初學記引二續漢書一作二符拔一。

【扶板】106 フハン　椅子のひぢあての板。

【扶微】107 フビ　微力の者をたすける。〔白虎通、五行〕扶レ微助レ衰、歷二成其道一。〔劉歆、移レ書讓二太常博士一〕將下以輔レ弱扶レ微、與二二三君子一、比レ意同上レ力。

【扶扶】108 フフ　小兒の幼いさま。〔太玄經、礥〕赤子扶扶、元貞有レ終。〔注〕扶扶、幼小之貌也。

【扶風】109 フフウ　❶疾風。〔淮南子、覽冥訓〕陰陽交爭、降二扶風一、雜二凍雨一、扶搖而登レ之。〔注〕扶風、疾風也。❷郡名。㋑三國魏、置く。漢、右扶風の地。內史右の地を治とす。今、陝西省咸陽縣の東。後漢、槐里を治とす。今、陝西省興平縣の東南。晉、治を池陽に移す。今、陝西省涇陽縣の西北。後魏、好畤を治とす。今、陝西省乾縣。隋、西魏の岐州を改めて扶風郡といふ。今、陝西省鳳翔縣の南。唐、又岐州と改め、後、扶風郡とす。〔讀史方輿紀要、陝西〕鳳翔府、禹貢雍州地、周曰二岐州一、春秋時爲二秦地一、始皇幷二天下一、爲二內史地一、漢初爲二雍國一、二年、更名二中地郡一、九年、復爲二內史一、景帝二年、分爲二主爵中尉一、六年、更名二都尉一、武帝太初元年、改爲二右扶風一、後漢因レ之、三國魏爲二扶風郡一、晉因レ之、惠帝初改曰二秦國一、後魏置二平秦郡一、尋又置二岐州一、西魏改レ郡曰二岐陽一、而州如レ故、隋開皇三年、郡廢、大業初、改レ州爲二扶風郡一、唐仍曰二岐州一、天寶初、亦曰二扶風郡一、至德初、改爲二鳳翔郡一、明年、又升爲レ府。〔清史稿、地理志〕陝西、鳳翔府、縣七、扶風。㋺六朝の宋の時、かりに置く。故治は湖北省穀城縣の東。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府、穀城縣〕筑陽城、劉宋大明中改屬二扶風僑郡一、齊因レ之。㋩南齊、置く。今、缺く。四川省の境。㊁後魏、置く。今、缺く。安徽省の境。❸縣名。南齊、置く。今、缺く。四川省縣省岐山縣の東。漳水の北岸。〔讀史方輿紀要、陝西、鳳翔府〕扶風縣、漢爲二美陽縣地一、云云、貞觀初、改曰二扶風一、屬二岐州一。

【扶風帳】110 フフウチヤウ　學舍の意。後漢、扶風の馬融が帷を下して弟子を敎へた故事。〔後漢書、馬融傳〕馬融字季長、扶風茂陵人也、云云、常坐二高堂一、施二絳紗帳一、前授二生徒一、後列二女樂一。〔還魂記、寇閒〕他後堂曾設二扶風帳一。

【扶風豪士歌】111 フフウガウシカ　歌辭の名。唐、李白作。安祿山反して京師を陷れた時作る。〔李白、扶風豪士歌〕洛陽三月飛二胡沙一、洛陽城中人怨嗟、天津流水波赤血、白骨相撐如二亂麻一、我亦東奔向二吳國一、浮雲四塞道路賒、東方日出啼二早鴉一、城門人開掃二落花一、梧桐楊柳拂二金井一、來醉扶風豪士家、扶風豪士天下奇、意氣相傾山可レ移、作レ人不レ倚將軍勢、飲酒豈顧二尙書期一、雕盤綺食會二衆客一、吳歌趙舞香風吹、原嘗春陵六國時、開レ心寫レ意君所レ知、堂中各有二三千士一、明日報レ恩知是誰、撫二長劍一、一揚レ眉、清水白石何離離、脫二吾

帽一、向レ君笑、飮二君酒一、爲レ君吟、張良未下逐二赤松一去上、橋邊黃石知二我心一。

【扶伏】112ホフク　はらばふ。扶服。匍匐(**2－2527**‥2)の㊀に同じ。〔左氏、昭、二十一〕射レ之折レ股、扶伏而擊レ之、折レ軫。〔釋文〕扶伏、本或作二匍匐一、同。〔會箋〕扶伏、匍匐同。

【扶服】113ホフク　はらばふ。手足幷び行く意。匍匐(**2－2527**‥2)の㊀に同じ。㊀急遽の甚しいさま。〔禮、檀弓下〕凡民有レ喪、扶服救レ之。〔釋文〕扶服、本又作二匍匐一、音同。㊁恐縮するさま。〔漢書、霍去病傳〕中孺扶服叩頭。〔揚雄、解嘲〕范雎魏之亡命也、折レ脅拉レ骼、免二於徽索一、翕レ肩蹈レ背、扶服入レ橐。

【扶匐】114ホフク　はらばふ。扶服。匍匐。〔南齊書、王敬則傳〕扶二匐道路一。

【扶病】115フヘイ フビヤウ　やまひを介抱する。又、病をしておす。扶疾。〔劉禹錫、送二裴處士應二制擧一詩〕爲レ君扶レ病到二方山一。〔李士瞻、牙笏詩〕扶レ病朝二明主一、臨レ軒問二老臣一。

【扶保】116 fu^{2} pao^{3}　保護する。

【扶輔】117フホ　たすける。〔風俗通、過譽〕何有下上欺二天子一、云云、扶二輔耄亂一、政自レ己出上。

【扶木】118フボク　㊀神木の名。東海にあり、日の出る所といふ。扶桑。榑木。〔山海經、大荒東經〕大荒之中、有レ山、名曰二孽搖頵羝一、上有二扶木一、柱三百里、其葉如レ芥。〔淮南子、墬形訓〕扶木在二陽州一、日之所レ曊。〔注〕扶木、扶桑也、陽州、東方也。〔傅玄、大寒賦〕扶木憔二悴於湯谷一。〔陶潛、讀二山海經一詩〕逍二遙蕪皐上一、杳然望二扶木一。㊁東方にある國の名。扶桑。〔呂覽、爲欲〕北至二大夏一、南至二北戶一、西至二三危一、東至二扶木一、不二敢亂一矣。

〖扶木朝暾〗119フボクテウトン　扶桑の木の上に朝日が昇る。〔隋書、音樂志下〕扶木上二朝暾一、嵫山沈二暮景一。

【扶摩】120フマ　助けみがく。〔唐書、白居易傳〕湔剔扶摩、多見二聽可一。

【扶孟】121フマウ　淸、黃生(**12－47296**‥542)の字。

【扶猛】122フマウ　北周、上甲黃土の人。字は宗略。其の種落、白獸蠻と號す。梁に仕へて官は南洛北司二州刺史。魏廢帝の初、衆を率ゐて周の文帝に降る。官は開府儀同三司。封は臨江縣公。〔周書、四十四〕・〔北史、六十六〕。

【扶陽】123フヤウ　縣名。㊀漢、置く。もと侯國。江蘇省蕭縣の西南。〔漢書、地理志上〕沛郡、縣三十七、扶陽。㊁晉末、かりに置く。安徽省無爲縣の西北。㊂南齊、置く。今、缺く。安徽省の境。㊃隋、置く。貴州省思南縣の西北。㊄南朝梁、置く。湖南省新寧縣の東北。

〖扶陽侯〗124フヤウコウ　漢、韋賢(**12－43108**‥45)の封號。

【扶養】125フヤウ　たすけやしなふ。力を添へ育てる。又、貧弱者に生活の道を與へること。〔列女傳、母儀、魏芒慈母傳頌〕芒卯之妻五子、後母慈惠仁義、扶二養假子一。

【扶揄】126フユ　㊀劍の名。〔左思、吳都賦〕扈二帶鮫函一、扶揄屬鏤。〔佩文韻府注〕按、扶揄屬鏤、皆劍名。㊁あげる。拔き投げる。〔左思、吳都賦〕扶二揄屬鏤一。〔注〕五臣作二拔投一、劉曰、秦零陵令上書曰、荆軻挾二匕首一卒刺、陛下以二神武一扶二揄長劍一以自救、謂レ此也。

【扶予】127フヨ　山名。河南省泌陽縣の西北。〔水經、潕水注〕山海經曰、朝歌之山、潕水出焉、東南流注二于滎一、經書二扶予一者、其山之異名乎。

【扶舁】128フヨ　たすけかつぐ。扶輿(130)の㊃に同じ。〔韓愈、去歲自二刑部侍郎一云云詩〕扶舁沿レ路衆知レ難。〔福惠全書、刑名部、問擬〕使二所レ傷果重一、必扶舁而歸。

【扶餘】129フヨ　㊀國の名。又、鳧臾・夫餘に作る。古、黃海・平安二道の地から、遼東に住居した民族の建てたもの。高句麗・百濟の二國も此の民族によつて建てられ、今、朝鮮民族の大部分をなす。性は強勇で、寇掠を好まず、弓矢力矛を武器とし、六畜を以て官に名づけ、刑罰嚴峻、誅滅された者の家人を奴隸とし、飮食には俎豆を用ひ、臘月に天を祭り、軍事に牛を殺して天を祭る。兄死すれば嫂を妻とし、殉死を行ふ。初、滿洲の吉林地方に占居していたが、鮮卑に逐はれて南方に移つた。解夫漱其王の時、解慕漱之を避けて加葉原に東扶餘國を立て、子なくして、金蛙を得て繼がしめ、其の子朱蒙、卒本扶餘に居り、高句麗の始祖となり、其の孫、太武神王の時、東扶餘を略有した。扶餘本部は、後漢、光武帝の建武二十五年、始めて漢に通じ、爾來每歲使聘を通じ、安帝の永寧元年、夫台は嗣子尉仇台を遣はして濊王の印綬を與へられ、其の主力は、漸く今の開原地方に移つた。尋いで高句麗の太祖王が、馬韓・濊貊の兵を率ゐて漢の玄菟郡を襲ふや、夫台、漢の州郡と力を協せて之を擊退す。獻帝の時、遼東に屬せん事を請ひ、魏・晉の際、切りに使聘を通じたが、慕容廆に破られて、其の王依盧は死し、子弟は走つて沃沮の地を保つ。高句麗の文咨王四年に至り、之に降り、扶餘の名全く滅ぶ。夫餘(**3－5835**‥72)の㊀を見よ。〔通典、邊防、東夷、夫餘〕在二長城之北一、去二玄菟一千里、南與二高句麗一、東與二挹婁一、西與二鮮卑一接。㊁縣名。㋑遼、置く。滿洲遼寧省開原縣の地。〔讀史方輿紀要、直隸附考、兀良哈〕廢懷州、遼志廢歸誠州、太宗德光行帳牧二放於此一、後葬二於西山一、曰二懷陵一、因置二懷州奉陵軍一、其附郭縣曰二扶餘一、本勃海扶餘縣俘戶也。㋺民國、置く。滿洲吉林省、農安縣の北。松花江の右岸に當り、交通の要地。㊂複姓。夫餘(**3－5835**‥72)の㊁に同じ。

【扶輿】130フヨ　㊀佳氣のさま。〔韻會〕輿、扶輿、佳氣貌。〔韓愈、送二廖道士一序〕氣之所レ窮、盛而不レ過、必蜿蟺扶輿、磅礴而鬱積。㊁つむじかぜ。旋風。扶搖。〔楚辭、王褒、九懷、昭世〕登二羊角一兮扶輿一、浮雲漠兮自娛。〔注〕輿、一作レ與。㊂乘り物を扶ける。乘輿を舁ぎ扈從する。〔史記、司馬相如傳〕蜚レ纖垂レ髾、扶レ輿猗靡。〔注〕正義曰、扶二其車輿一而猗靡。㊃輿にのせて介抱する。乘物に扶けられる。〔韓詩外傳、十〕諸扶レ輿而來者、皆平復如レ故。〔史記、匈奴傳〕戰而扶二輿死者一、盡得二死者家財一。〔後漢書、宋均傳〕均自扶レ輿詣レ闕謝レ恩。

【扶擁】131フヨウ　たすけいだく。〔蘇軾、次二前韻一再送二周正孺一詩〕遙知句谿路、老稚相扶擁。

【扶翼】132フヨク　㊀たすける。扶助。〔莊子、則陽〕史鰌奉御而進、所レ搏幣而扶翼。〔後漢書、順帝紀〕近臣建レ策、左右扶翼。〔魏志、臧洪傳〕今王室衰弱、無二扶翼之意一。〔晉書、孫惠傳〕抗二辭金門一、則蹇諤之言顯、扶二翼皇家一、則匡主之功著。㊁おほひかくす。〔莊子、則陽、釋文〕司馬云、謂二公及レ浴女相扶翼自隱一也、此殊二郭義一。

【扶來】133フライ　扶徠に同じ。〔通典、樂、歷代沿革上〕伏羲樂曰二扶來一、亦曰二立本一。

【扶徠】134フライ　伏羲氏の樂歌の名。鳳來歌をいふ。〔路史、太昊伏戲氏紀〕長離徠翔、爰作二荒樂一、歌二扶徠一、詠二網罟一、以鎭二天下之人一。〔注〕扶徠歌、卽鳳來歌、扶鳳來犂、音相同爾。

【扶老】135フラウ　㊀としよりをたすける。〔戰國、齊策〕孟嘗君就二國於薛一、未レ至二百里一、民扶レ老攜レ幼、迎二君道中一。〔史記、周紀〕豳人擧レ國、扶レ老攜レ弱。〔陶潛、歸去來辭〕策扶レ老以流憩、時矯レ首而遐觀。〔注〕善曰、易林曰、鳩杖扶レ老、衣二食百口一。㊁竹の名。轉じて、其の竹で作つた杖。扶老竹・扶老杖を見よ。〔駢雅、釋草〕扶老、小竹也。㊂鳥の名。禿鶖の異名。〔古今注、鳥獸〕扶老、禿秋也、狀如レ鶴而大、大者頭高八尺、好與レ人鬭、好啖レ蛇。〔本草、鵚鶖〕釋名、扶老、鶩鷔、時珍曰、凡鳥至レ秋毛脫禿、此鳥頭禿如二秋毨一、又如二老人頭童及扶杖之狀一、故得二諸名一、說文作二禿鶮一。

【扶老竹】136フラウチク　竹の名。節高く、中實してゐて杖とするによい。扶竹。筇竹。〔山海經、中山經〕龜山、多二扶竹一。〔注〕扶老、筇竹也、高節實中中レ杖、名二之扶老竹一。〔陶潛、歸去來辭、策扶レ老、箋解〕楊升庵外集卷五十、龜山多二扶竹一、注、邛竹也、高節實中、中レ扶也、名二之扶老竹一、陶潛歸去來辭、策扶レ老以流憩、卽此杖也。

【扶老杖】137フラウヂヤウ　㊀老人の杖。〔漢書、孔光傳〕賜二太師靈壽杖一。〔注〕孟康曰、扶老杖。〔古雋考略〕老人所レ持杖、曰二扶老一。㊁木の名。靈壽木の異名。〔本草、靈壽木〕釋名、扶老杖。

【扶老藤】138フラウトウ　後漢の蔡順は、母に事へて至孝、井の桔槔が朽ちても、方位が母の生年に當るので憂へて敢て治めなかつたところ、藤が俄に生じて之にまとひつき、堅固になつたといふ故事。〔後漢書、周磐傳、同郡蔡順字君仲亦以二至孝一稱、注〕汝南先賢傳曰、蔡順事レ母至孝、井桔槔朽、在二母生年上一、而順憂不二敢理一レ之、俄而有二扶老藤一、生繞レ之、遂堅固焉。

【扶樂】139 フラク 縣名。㊀隋、置く。後漢の侯國。故城は河南省太康縣の西北。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、扶溝縣〕扶樂城、光武封㆓劉隆㆒爲㆓扶樂鄉侯㆒卽此、隋開皇中、置㆓扶樂縣㆒屬㆓陳州㆒、唐貞觀初、廢。㊁晉、置く。今、缺く。安南の境。

【扶欄】140 フラン 山道などに人の攀ぢやすいやうに作つた手すり。〔蔡襄、牡丹賦〕槁壤潛㆑春、扶欄向㆑夕。

【扶鸞】141 フラン 占の一種。扶乩(31)に同じ。〔六部成語、刑部、扶鸞禱聖、注解〕巫者寫㆓字於沙盤之中㆒、假㆓託神聖下降㆒、曰㆓扶鸞㆒。

【扶犂】142 フリ 扶徠(134)に同じ。〔路史、炎帝神農氏紀〕耕桑得㆑利、乃命㆓邢天㆒作㆓扶犂之樂㆒、制㆓豐年之詠㆒。〔注〕扶犂、一作㆓扶徠㆒、卽伏羲之鳳來、來犂古同音。

【扶柳】143 フリウ 縣名。漢、置く。戰國の時、中山の邑。河北省冀縣の西南。俗に訛つて蒲笠城といふ。〔戰國、趙策〕趙攻㆓中山㆒、取㆓扶柳㆒。〔漢書、地理志下〕信都國、縣十七、扶柳。〔水經、濁漳水〕東北過㆓扶柳縣北㆒。〔注〕縣有㆓扶澤㆒、澤中多㆑柳、故曰㆓扶柳㆒也。

【扶畱】144 フリウ 藤の異名。扶橊。〔左思、吳都賦〕石帆水松、東風扶畱。〔注〕劉曰、扶畱、藤也、緣㆑木而生、味辛可㆑食。

【扶橊】145 フリウ 扶畱に同じ。〔廣韻〕橊、扶橊、藤名、緣㆑木生、其味辛可㆑食、花實似㆓蒟醬㆒。〔集韻〕橊、扶橊、藤、緣㆑木而生、其味辛可㆑食。

【扶立】146 フリツ たすけたてる。〔晉書、藝術、幸靈傳〕兩人夾扶以立。

【扶苓】147 フレイ 縣名。晉、置く。今、安南の境。

【扶荔】148 フレイ 漢代、宮殿の名。上林苑中にあり。武帝が南越を破つて、得た所の荔枝を植ゑたから名づく。〔三輔黃圖、三、甘泉宮〕漢武帝元鼎六年、破㆓南越㆒、起㆓扶荔宮㆒、以植㆓所㆑得奇草異木㆒。〔三齊要略〕扶荔宮在㆓上林苑中㆒、漢武帝元鼎六年、破㆓南越㆒、起以植㆓所㆑得奇花異草㆒。

〖扶荔堂〗149 フレイダウ 清、丁澎(1−2‥166)の室名。

【扶輦】150 フレン てぐるまをかく。〔管子、輕重丁〕男女當㆑壯、扶㆑輦推㆑輿、相㆓觀樹下㆒、戲笑超距。

【扶路】151 フロ 道路で人に扶助される。〔蘇軾、吉祥寺賞㆓牡丹㆒詩〕醉歸扶㆑路人應㆑笑、十里珠簾半上㆑鉤。

【扶盧】152 フロ ㊀矛戟の柄によつて行ふ遊戲。輕業。〔國語、晉語四〕侏儒扶盧。〔注〕扶、緣也、盧、矛戟之柲、緣㆑之以爲㆑戲。㊁山名。廣東省四會縣の東。〔廣州記〕扶盧山在㆓四會㆒、高入㆓雲霄㆒、世傳山上有㆑池、每甲戌日、聞㆓鼓角笙簫之聲㆒。

【扶婁】153 フロウ 國の名。國人、婆猴伎といふ。變化の術を善くするといふ。〔拾遺記、二、周〕成王七年、南陲之南、有㆓扶婁之國㆒、其人善能機巧變化、易㆑形改㆑服、大則興㆑雲起㆑霧、小則入㆓於纖毫之中㆒、綴㆓金玉毛羽㆒爲㆓衣裳㆒、吐㆑雲噴㆑火、鼓腹則如㆓雷霆之聲㆒、或化爲㆓犀象獅子龍蛇火鳥之狀㆒、或變爲㆓虎兕㆒、口中生㆑人、備㆓百戲之樂㆒、宛轉屈㆓曲於指掌閒㆒、人形或長數分、或復數寸、云云、樂府皆傳㆓此伎㆒、云云、俗謂㆓之婆猴伎㆒、則扶婁之音、訛替至㆑今。

【扶克儉】154 フコクケン 明、光山の人。字は共之。諡は忠毅。萬曆の進士。官は庶吉士より、御史、山東巡按。天啓中、刑部右侍郎。〔明史、二百二十二〕。

【扶省掌】155 フシヤウシヤウ 中古、中務・式部・治部・民部・兵部・大藏の諸省の屬官。儀式を習ひ、省掌の闕を補ふことを掌る。〔式部省式、上〕凡中務・治部・民部・兵部・大藏・彈正等、省臺正員之外、扶省臺掌、以㆓入色者㆒各置㆓二人㆒、令㆑習㆓儀式㆒、云云、若正員有㆑闕、以㆓扶省掌㆒補㆑之。

【扶頭酒】156 フトウシユ 醉ひやすいさけ。〔白居易、早飮㆓湖州酒㆒寄㆓崔使君㆒詩〕一榼扶頭酒、泓澄瀉㆓玉壺㆒。〔王禹偁、廻㆓襄陽㆒云云因題㆓紙尾㆒詩〕扶頭酒好無㆑辭㆑醉、縮項魚多且㆑放㆑饞。

【扶芳藤】157 フハウトウ 藤の一種。一名、滂藤。吳郡に產す。〔本草、扶芳藤〕釋名、滂藤、集解、藏器曰、生㆓吳郡㆒、藤苗小時如㆓絡石㆒、蔓㆓延樹木㆒、山人取㆓楓樹上者㆒用、亦如㆓桑上寄生之意㆒、忌㆘采㆓冢墓閒㆒者㆖、隋朝稠禪師作㆓青飮㆒、進㆓煬帝㆒止㆑渴者、卽此。

【扶平侯】158 フヘイコウ 漢、王崇(7−20823‥650)の封號。

【扶琴退兵】159 フキンタイヘイ 西皮劇の一種。一名、空城計。諸葛孔明と司馬懿の故事を脚色したもの。

【扶頭卯酒】160 fu^2 t'ou^2 mao^2 chiu^3 朝のむあま酒。又、朝の迎へざけ。〔桃花扇、卻奩〕請老爺、同到洞房、喚他出來、好飮扶頭卯酒。

【扶靈還籍】161 fu^2 ling^2 huan^2 chi^2 靈柩を奉じて故鄉に歸る。

【不㆑扶而直】162 タスケズシテナホシ 支へないでも自ら眞直なこと。土地の風俗・環境などの力の大きいことをいふ。〔荀子、勸學〕蓬生㆓麻中㆒、不㆑扶而直。〔集解〕王念孫曰、此下有㆓白沙在㆑涅、與㆑之俱黑二句㆒、而今本脫㆑之。

【⿰扌犬】11841 ケン 〔篇海〕火犬切 銑

のばす。〔篇海〕⿰扌犬、拱也。

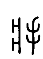
【扷】11842 アウ オウ 〔集韻〕於到切 號

はかる。〔集韻〕扷、量也。

【扸】11843 セキ シヤク 〔玉篇〕星曆切 錫

㊀**わける**。**わかれる**。析(6−14538)に同じ。〔玉篇〕扸、俗析字。〔太玄經、玄攡〕常變錯、故百事扸。〔注〕謂㆓百事分扸㆒。㊁**をる**。〔元包經〕輿之扸、傳曰、輿之扸、車之脫也。〔注〕輿車扸散。

【⿰爿手】11844 シヤウ サウ 〔集韻〕資良切 陽


小篆

㊀**たすける**。〔說文〕⿰爿手、扶也、从㆑手爿聲。㊁或は摪(5−12615)に作る。㊂通じて將(4−7438)に作る。〔說文通訓定聲〕⿰爿手、古詩好事相扶將、以㆑將爲㆑之、經傳皆以㆑將爲㆑之。〔集韻〕⿰爿手、或作㆑摪。〔集韻〕⿰爿手、通作㆑將。㊃⿰爿又(7−19760)に通ず。〔康熙字典〕⿰爿手、六書故作㆑⿰爿又。

【批】11845

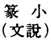
［一］ヘイ ハイ 〔集韻〕篇迷切 齊 ㄆㄧ p'i^1

［二］ヒ 〔韻會〕普弭切 紙

［三］ヘツ ベチ 〔集韻〕蒲結切 屑

［四］ヒ ビ 〔集韻〕頻脂切 支

小篆（說文）


小篆（段注本）

［一］［二］［三］㊀**うつ**。手でうつ。もと⿰扌毘(5−12485)に作る。〔康熙字典〕批、集韻、本作㆑⿰扌毘。〔說文〕⿰扌毘、反手擊也、从㆑手毘聲。〔段注〕俗作㆑批。〔廣雅、釋詁三〕批、擊也。〔左氏、莊、十二〕宋萬遇㆓仇牧于門㆒、批而殺㆑之。〔釋文〕批、字林云、擊也。〔嵇康、琴賦〕心閑手敏、觸批如㆑志。〔注〕善曰、說文曰、批、手擊也。㊁**おす**。〔洪範五行傳〕則會㆓批之六沴㆒。〔注〕批、推也。㊂**ふれる**。〔史記、刺客、荊軻傳〕欲㆑批㆓其逆鱗㆒哉。〔注〕索隱曰、批、謂㆔觸㆓擊之㆒。㊃**あらためる**。ただす。〔漢書、王莽傳中〕函谷批難。〔注〕師古曰、批、謂㆔糾㆓閉之㆒也。〔明律、戶律、課程、鹽法〕若客鹽越㆓過批驗所㆒者。㊄**たすける**。〔集韻〕批、助也。㊅**しめす**。しるしをうつ。〔唐書、李藩傳〕制敕有㆓不㆑便者㆒、黃紙後批㆑之、帝以爲㆑有㆓宰相器㆒。㊆**しなさだめ**。評する。〔樂郊私語〕楊廉夫選㆓諸詞人吳越兩山亭題詠㆒、嘉禾能㆑詩者、人人執㆓金繒㆒、乞㆔楊留選㆓其詩㆒、楊運筆批選、止取㆓鮑恂・張翼・顧文華・金炯四首㆒。㊇**評語**。〔米芾、

書史〕王獻之日寒帖、有㆓唐氏雜印㆒、後有㆓兩行謝安批㆒。❾**表奏の末尾に記される敕答**。〔谷響集〕帝皇詔答、謂㆓之批㆒者、批㆓之所㆑上表奏尾㆒也。❿**伺書の末に記した指令**。〔訓蒙字會〕上司以㆓公事㆒題㆓于下司㆒文尾曰㆑批。〔淸國行政法汎論、官廳監督形式、批〕批、謂㆓朱墨批㆒也、猶㆓吾邦對伺及申請認可之指令㆒也、有㆓君主親發㆑之者㆒、有㆓上級官廳發㆑之者㆒、君主用㆓朱書㆒、故又曰㆓硃批㆒。⓫**おしのける。ひらく**。排(**5－12256**)に通ず。〔說文通訓定聲〕批、叚借爲㆑排。〔史記、灌夫傳〕引㆓繩批㆔根生平慕㆑之後棄㆑之者㆓。〔注〕索隱曰、批者、排也。〔史記、孫子傳〕批㆑亢擣㆑虛。〔注〕索隱曰、按、批者、相排批也。⓬**ころがす**。〔廣雅、釋詁四〕批、轉也。〔廣韻〕批、轉也。⓭**そぐ**。剕(**2－2027**)に通ず。〔韻會〕批、與㆑剕通、削也。〔杜甫、房兵曹胡馬詩〕竹批雙耳峻、風入四蹄輕。⓮**相連なる**。相次ぐ。〔新方言、釋言〕今人謂㆓物相次比㆒、或事有㆓先後第次㆒曰㆓一批一批㆒、本坒字也。⓯現㋑賣捌く。批發。㋺貨物又は物品のまとまつた數量をあらはす語。㋩卸賣する。おろす。㋥約定する。㋭注文する。四**樂器の名**。批把。琵琶。琵(**7－21080**)に同じ。〔集韻〕琵、琵琶、胡樂、胡人馬上所㆑鼓、推㆓手前㆒曰㆑批、引㆓手後㆒曰㆑把、或从㆑手。〔風俗通、聲音、批把〕批把、近世樂家所㆑作、以㆑手批把、因以爲㆑名。

【批允】1 ヒイン さしづしてゆるす。〔福惠全書、蒞任部、設㆓內外號簿㆒〕上司批允、照㆓批語㆒塡注。〔福惠全書、刑名部、問擬〕俟㆓批允㆒發落。

【批閱】2 ヒエツ しらべる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕已刻批閱。

【批價】3 p‘i^{1} chia^{4} おろしね。卸値。

【批開】4 p‘i^{1} k‘ai^{1} 指令に曰く。

【批亢】5 ヒカウ お互に排擊し抗拒し合ふこと。一說に、敵の要害の處を排擊する。亢は咽喉。〔史記、孫子傳〕批㆑亢擣㆑虛、形格勢禁、則自爲解耳。〔注〕索隱曰、按、批者相排批也、言㆓敵人相亢拒㆒也。〔劉基、病虐詩〕主客相批亢、乾坤爲搖動。

【批行】6 ヒカウ 許可を得て施行する。〔六部成語、戶部、批行、注解〕奉㆓上官批示㆒准行也。

【批講】7 p‘i^{1} chiang^{3} 講說する。

【批割】8 ヒカツ うちわる。打傷。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕批割不㆑愈、性命隨㆑之。

【批扞】9 ヒカン 排擊しそこなひもとる。批捍。〔墨子、脩身〕批扞之聲、無㆑出㆓之口㆒。〔閒詁〕廣雅釋詁云、批、擊也、易林睽之賁云、批捍之言、我心不㆑快、批扞卽批捍也、畢云、說文云、扞、忮也。

【批捍】10 ヒカン 批扞に同じ。

【批議】11 p‘i^{1} i^{4} 批評又は非難すること。

【批貨】12 p‘i^{1} huo^{4} 商品を注文する。

【批回】13 p‘i^{1} huei^{2} 上官の官署から下級の官署へ許否の命令を回附すること。詮議して回答する。〔桃花扇、歸山〕請一邊候、待俺批回該司、速行釋放便了。

【批迴】14 ヒクワイ 批回に同じ。〔福惠全書、蒞任部、淸査之法〕其起解之數、與㆓會計㆒合則對㆓批迴㆒。〔六部成語、戶部、批迴、注解〕上官之意、批㆓於公文之尾㆒、令㆓屬官知㆑之。

【批館】15 p‘i^{1} kuan^{3} 私人の經營の郵便取扱所。信局(**1－707・・48**)に同じ。

【批傾】16 ヒケイ 排斥する。〔賈子新書、淮難〕皇帝之令、則批傾而不㆑行。

【批耆】17 ヒゲキ 骨をたたく。嚴しくしらべる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕批㆑耆導㆑窾。

【批頰】18 ヒケフ ❶掌を以て人の頰をうつこと。〔唐書、藩鎭淄青橫海、李正己傳〕李正己批㆓其頰㆒、回紇矢液流離、衆軍哄然笑。〔宋史、呂夷簡傳〕批㆓其頰㆒、誤傷㆓帝頸㆒。〔牛希濟、刑論〕或捽㆓其首㆒、或批㆓其頰㆒。❷鳥の名。鵯頰。〔盧延讓、冬夜詩〕樹上諮諏批頰鳥。〔琅琊代醉編、批頰鳥〕批頰、蓋鳥名、但不㆑詳㆑爲㆓何形狀㆒耳、或曰、卽鵯鶋也、催㆑明之鳥、一名夏鷄、俗名㆓隔隥鷄㆒。

【批語】19 ヒゴ 批評のことば。批判決定の語。〔福惠全書、蒞任部、設㆓內外號簿㆒〕上司批允、照㆓批語㆒塡注。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕原告被証姓名批語。

【批購】20 p‘i^{1} kou^{4} 注文購入する。仕入れする。

【批根】21 ヘツコン 排し退けて交らない。〔史記、灌夫傳〕亦欲㆜倚㆓灌夫㆒引㆚繩批㆛根生平慕㆑之後棄㆑之者㆙。〔注〕索隱曰、案、劉氏云、二人相倚事、如㆓合㆑繩共相依引㆒也、批、音步結反、批者、排也、漢書作㆓排根㆒、小顏云、謂㆘人生平慕㆓嬰夫㆒、後見㆓其失㆑職、而頗弛慢、如㆑此者共排㆓退之㆒、不㆗復與交㆖也、譬如㆔相對挽㆑繩而根㆓括之㆒也。

【批削】22 p‘i^{1} hsiao^{1} 校正する。

【批殺】23 ヒサツ うちころす。〔左氏、莊、十二〕宋萬遇㆓仇牧于門㆒、批而殺㆑之。

【批抵】24 ヒシ うつ。排擊する。〔後漢書、寇榮傳〕臣兄弟獨以㆓無辜㆒、爲㆓專權之臣所㆑見㆓批抵㆒。

【批詞】25 ヒシ 意見又は批判を書き入れたもの。〔福惠全書、刑名部、詞訟、審㆑訟〕原批詞不㆑可㆑動㆑筆、審畢並詳㆓申繳㆒。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕奉㆓上司批詞㆒、審畢照㆑例畫㆑供。

【批示】26 ヒジ ❶さしづする。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕憲慈鑒有批示以便㆓遵行㆒。❷p‘i^{1} shih^{4} 許す。指令。

【批出】27 ヒシュツ ❶許可して出す。〔歸田錄、二〕治平二年八月三日大雨、一夕都城水深數尺、上降㆑詔責㆑躬求㆓直言㆒、學士草詔有㆘大臣惕㆓思天變㆒之語㆖、上夜批出云、淫雨爲㆑災、專戒㆓不德㆒、遽令㆔除㆓去大臣思㆑變之言㆒、上之恭㆑己畏㆑天、自勵如㆑此。❷p‘i ch‘u 土地などを貸出す。

【批准】28 ヒジュン ❶批は臣下から上る所の表奏の終に、天子自ら答勅を書せられること。准は準の俗字、許す意。〔谷響集〕客曰、御批、或云㆓勅批㆒、批字意如何、答、凡署㆓于書尾㆒、謂㆓之批㆒也、批本作㆑𢪛、說文云、反手擊也、帝皇詔答、謂㆓之批㆒者、批㆓之所㆑上表奏尾㆒也。❷さしづ。許可。〔福惠全書、郵政部、稽査徒犯〕如具呈請㆑假、歸㆑里省㆑親名色、無㆓批准令㆑回之例㆒。〔福惠全書、編審部、首改前弊〕俟㆓本縣批准發㆑房、各爲㆓改正㆒。❸條約文を其當事國の主權者が承認する方式。

〖批准交換〗29 ヒジュンカウクワン 批准を經た條約を、當事國が互に取りかはすこと。

〖批准在案〗30 p‘i^{1} chuen^{3} tsai^{4} an^{4} 許可を受けてゐる。案は机。在案は手許にあるといふ意。

〖批准立案〗31 p‘i^{1} chuen^{3} li^{4} an^{4} 認定する。

【批書】32 ヒショ ❶浙江地方で、死者の生れ年、家族の事情などを一紙に書き認めて、陰陽師の占ひを求め、之れを門外に貼ること。〔嘉興府志〕喪禮始卒、以㆓六輪經㆒辨㆓生肖所㆑忌曰㆓批書㆒、男免女髽、遷㆓尸於中堂㆒、殮用㆓綿及帛㆒、殮畢設㆓明旌㆒、賓始弔奠、每㆑七作㆓佛事㆒、七七謝㆑孝、衰服拜㆓其門㆒、將㆑葬裂㆑帛告㆑期、拜㆓請題主㆒、姻友至㆓墓所㆒、薦㆓祭具方相冥器銘旌㆒、梵音仙吹、交雜流響、葬後三日、子孫至㆑墓曰㆓覆墓㆒、或遇㆓節屆㆒、盛用㆓佛事㆒者、十有㆓六七㆒。❷p‘i shu 書籍を批評する。

【批審】33 ヒシン さしづしてしらべる。〔福惠全書、刑名部、詞訟、審㆑訟〕若奉㆓上批審㆒詞狀、將㆓原詞㆒發㆓承行㆒、抄謄送閱。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕奉㆓某衙門批審㆒、曾否詳覆批示。

【批正】34 ヒセイ 批評して訂正する。

【批銷】35 p‘i^{1} hsiao^{1} 添削する。取消す。

【批折】36 ヒセツ ❶うちくじく。〔史記、蔡澤傳〕治㆑亂彊㆑兵、批㆑患折㆑難。❷p‘i^{1} chê^{2} 卸仕入をする。

【批答】37 ヒタフ 文體の名。天子が手批して答へるもの、制詔の一體。唐の玄宗が初めて翰林待詔を置き、四方の表疏批答を掌らしめ、宋に至り、君主が百官の奏事を可否するを批答と稱した。官府が其の所屬の稟啓を可否するを批といふ。〔唐書、百官志一〕玄宗初置㆓翰林待詔㆒、以㆓張說・陸堅・張九齡等㆒爲㆑之、掌㆓四方表疏、批答、應和文章㆒。〔朝野類要〕執政以上有㆓章奏請㆒、則降㆓批答㆒、以下則降㆑詔。〔文體明辯、批答〕按、吳訥云、批答者、天子采㆓臣下章疏之意㆒而答㆑之也、古者君臣都兪吁咈、皆口陳面命之詞、後世乃有㆓書疏㆒、而答㆑之者、遂用㆓制詞㆒、若㆔漢人答㆓報璽書㆒是已、至㆑唐始有㆓批答之名㆒、以謂㆓天子手批而答㆑之

也、其後學士入レ院、試二制詔批答共三篇一、則求二代言之人一、而詞華漸繁矣、蓋自下唐太宗答二劉洎一之後上、未レ有下不レ假二手於詞臣一者上、今取二諸集所レ載批答一、擇二其工者一列レ之、而散文四六、仍分爲二古俗二體一云。

【批單】38 p'i¹ tan¹ 貨物賣買取極の約定書。賣買契約書。

【批地】39 p'i¹ ti⁴ 土地を賃貸する。

【批敕】40 ヒチヨク 制敕に對して是非の決斷を記し示すこと。〔羅隱、送二李右丞分司一詩〕在レ省曾批敕、中臺肯避レ權。〔樓鑰、送三張定叟鎭二襄陽一詩〕直上二銀臺一尤振レ職、李藩氣概時批敕。

【批飭】41 p'i¹ ch'ih⁴ 認可する。

【批定】42 p'i¹ ting⁴ 注文する。賣買の約定をする。

〖批定成單〗43 p'i¹ ting⁴ ch'êng² tan¹ 賣買契約書。批單。

【批條】44 p'i¹ t'iao² 附箋。

【批帖】45 ヒテフ 指令書。證明書。契約書。〔明律、兵律、關律、詐冒給路引〕官豪勢要之人、囑二託軍民衙門一、擅給二批帖一。〔六部成語、戸部、批帖、注解〕各項憑帖、由レ官批二調於後尾一者。

【批點】46 ヒテン 詩文等を評論して、其の妙所要所などを示すため、朱墨などを以て點を附けること。〔四庫提要、經、禮類存目〕批點檀弓二卷、舊本題二宋謝枋得撰一。〔書林清話、刻書有二圈點一之始〕謝枋得文章軌範七卷目錄後、有二門人王淵濟跋一、謂此集惟送二孟東野一序・前赤壁賦、係二先生親筆批點一、其他篇僅有二圈點一而無二批注一、若二歸去來辭・出師表一、并圈點亦無レ之。

〖批點壞〗47 p'i¹ tien³ huai⁴ けなしつける。けちをつける。〔燕子箋、寫像〕果然明妃重畫、怎肯學毛延壽、批點壞上陽花。

【批難】48 ヒナン 事の非なる處を撃ちただすこと。〔漢書、王莽傳中〕女作二五威左關將軍一、函谷批レ難、掌二威于左一。〔注〕師古曰、批、謂三糾二閉之一也。

【批把】49 ヒハ ❶手を前に推すことと後に引くこと。絃をかきならすこと。❷を見よ。❷ヒハ 樂器の名。琵琶(7－21080‥1)の❶に同じ。〔風俗通、聲音、批把〕謹按、此近世樂家所レ作、不レ知レ誰也、以レ手批把、因以爲レ名、長三尺五寸、法三天地人與二五行一、四絃象二四時一。

【批碼】50 p'i¹ ma³ 公估局で馬蹄銀の純良なものに附與する證明書。批瑪。

【批買】51 p'i¹ mai³ 注文して買ふ。

〖批買賣〗52 p'i¹ mai³ mai 將來一定の時期に受渡しする條件で、商品の賣買契約をすること。先物約定。

【批賣】53 p'i¹ mai⁴ 卸賣する。

【批駁】54 p'i¹ po² ❶事の是非をうちただす。❷民間からの請願に許可を與へないこと。詮議して却下する。

【批發】55 p'i¹ fa¹ ❶卸賣する。卸賣販賣。❷商品賣上帳。❸指令を下す。命令する。〔福惠全書、刑名部、問擬〕候批發發落。

【批反】56 ヒハン 卑者が尊者に書を上る時、尊者が其の末尾の餘白に批語を記すこと。批狀・批答の類。〔補筆談、異事〕前世風俗、卑者致二書於所一レ尊、尊者但批二紙尾一答レ之曰レ反、故人謂二之批反一、如二官司批狀詔書批答之類一、故紙尾多作二敬空字一、自謂不二敢抗敵一、但空二紙尾一以待二批反一耳。

【批判】57 ヒハン ❶宰相が臣下の奏狀に意見を加へること。〔揮麈後錄〕琙之批判。〔資治通鑑、唐紀、玄宗開元二十四年張九齡批曰、注〕批、判也、今人謂二之批判一。❷p'i¹ pan⁴ 是非をわかち定める。

【批費】58 p'i¹ fei⁴ 證明書の手數料。

【批評】59 ヒヒヤウ 物事の是非善惡を論じて品をつけること。しなさだめ。品評。

〖批評家〗60 ヒヒヤウカ 批評する人。又、批評に長じた人。

〖批評眼〗61 ヒヒヤウガン 批評の眼識。批評上の見方。

【批票】62 p'i¹ p'iao⁴ 貨物賣買取極の約定書。

【批本】63 ヒホン 清代、天子が朱筆を加へて六科に賜はる書。〔清會典、內閣〕得レ旨則批本、乃發二於六科一。〔注〕毎日進本、或照擬、或另降二諭旨一、或於二原籤內一奉二硃筆一改定、及二雙籤三籤四籤一、奉二旨應一レ用二何籤一、由二批本處翰林中書等一、批二寫清字一、漢學士批二寫漢字一、皆以二朱書一、清漢字批寫後、爲二紅本一、六科給事中赴レ閣恭領、隨傳二鈔於各衙門一。

〖批本處〗64 ヒホンシヨ 官署の名。清代、翰林・內閣侍讀等が帝王の指令案などを清書校正する處。〔清會典、內閣〕由二批本處、翰林中書等一批二寫清字一。〔清國行政法汎論、內閣、批本處〕專掌下授二受批本一之事上。

【批抹】65 ヒマツ うちけす。〔傳燈錄〕薄批二明月一、細抹二清風一。

【批明】66 ヒメイ さしづがきをする。意見を書き入れる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕批下明不レ合二某式一不上レ准。

〖批明價目〗67 p'i¹ ming² chia⁴ mu⁴ 價格を表明する。

【批面】68 p'i¹ mien⁴ かほをうつ。

【批約】69 p'i¹ yüeh¹ 約定書。契約書。

【批落】70 ヒラク ❶批文を入手する。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕上司批落、速確檢審妥招解報。❷p'i¹ luo⁴ 試驗の答案を試驗官が批評を加へて落第とすること。

【批拉】71 ヒラフ うちひしぐ。〔北齊書、昭帝紀〕角力批拉。

【批鱗】72 ヒリン 逆鱗にふれる。〔史記、刺客、荆軻傳〕奈何以二見レ陵之怨一、欲レ批二其逆鱗一哉。

【批令】73 p'i¹ ling⁴ ❶下からの願出を許可する。❷民國で大總統が各官署の申請に裁答する公文。❸民國で陸海軍大元帥が軍事に關する陳述請願に裁答する公文。

【批驗所】74 ヒケンシヨ 政府專賣物の發賣免許鑑札を檢査する官署。〔明律、戸律、課程、鹽法〕凡起二運官鹽一、毎引二二百觔爲二一袋一、帶二耗五觔一、經二過批驗所一、依レ數掣二秤盤一。

【批郤導窾】75 ヒゲキダウクワン 牛を料理するに、よく間隙をうち、骨節の空處を通ること。事に處するによく肯綮に當る喩。〔莊子、養生主〕批二大郤一、導二大窾一。〔疏〕閒郤交際之處、用レ刀而批二戾之一、令二其筋骨各相離異一、窾、空也、骨節空處。

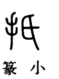
【批月抹風】76 ヒゲツマツプウ 俗界を離れて自然に優遊すること。吟風弄月。〔傳燈錄〕薄批二明月一、細抹二清風一。

【批紅判白】77 ヒコウハンパク 移花接木の術の甚だ巧妙なことをいふ。〔洛陽名園記、李氏仁豐園〕今洛陽良工巧匠、批紅判白、接以二它木一、與二造化一爭レ妙。

【抵】
11846

㈠シ 〔集韻〕掌氏切 紙

㈡キ ギ 〔集韻〕翹移切 支


小篆

㈠❶**うつ**。よこあひからうつ。〔說文〕抵、側擊也、从レ手氏聲。〔後漢書、寇榮傳〕爲二專權之臣所一レ見二批抵一。〔注〕抵、側擊也。❷**うちこはす**。〔漢書、杜周傳贊〕業、因レ勢而抵陒。〔注〕師古曰、因二事形勢一而擊二毀之一也。❸**おさへつける**。〔揚雄、解嘲〕抵二穰侯一而代レ之。〔注〕銑曰、抵、扼也。❹**なげる**。擿(5－12922)に通ず。〔說文通訓定聲〕抵、叚借爲レ擿。〔後漢書、黃瓊傳〕抵二金玉於沙礫一。〔注〕抵、投也。❺**やむ**。うれへる。疷(7－22062)に通ず。〔說文通訓定聲〕抵、叚借爲レ疷。〔管子、國蓄〕前有二萬乘之國一、後有二千乘之國一、謂二之抵國一。❻**うける**。**あたる**。楮(6－15275)に通ず。〔說文通訓定聲〕抵、叚借爲レ楮。〔戰國、中山策〕臣抵レ罪。〔注〕抵、當也。❼或は扺(5－11921)・觝(10－35051)・批(5－11949)に作る。〔集韻〕抵、說文、側擊也、或作二扺・觝・批一。㈡**ゆびきり**。〔集韻〕抵、擬レ手期剋。

名乘 ヤス。

參考 抵と扺と字形が近似してゐるので、集韻が之を合して以後、同字とする說が多い。九經字樣などは扺音止、抵音邸として混用してゐない。說文段注には、字今多譌作レ抵、音義皆殊といつて居るが、又、國策、夏無且以二藥嚢一提二荆軻一、史記、薄太后以二冒絮一提二文帝一、提皆抵之叚

借字也といつて、抵の音にテイが古く用ひられてゐるのを認めてゐる。今、俄に別ち難い。抵(5－11921)の字解を見よ。

【扺國】1 シコク　前後から大國にはさまれて憂の去らない國。一本、抵國に作る。大國に抵觸される國。〔管子、國蓄〕前有㆓萬乘之國㆒、而後有㆓千乘之國㆒、謂㆓之扺國㆒。

【扺掌】2 シシヤウ　手をうつ。拍手。抵掌(5－11921：42)に同じ。

【扻】 11847

㈠シ　〔集韻〕側吏切　[寘]

㈡セツ セチ　〔集韻〕子結切　[屑]

㈢シツ シチ　〔集韻〕側瑟切　[質]

㈣カン コン　〔集韻〕苦感切　ㄎㄢˇ k'an^3　[感]

㈤ソン　〔集韻〕鎖本切　[阮]

㈠㈡**くしけづる**。髮を治める。〔集韻〕扻、治㆑髮也。〔莊子、庚桑楚〕簡㆑髮而扻、數㆑米而炊。㈢**くし**。櫛(6－15817)に同じ。〔集韻〕櫛、說文、梳比之總名也、或作㆑扻。㈣**うつ**。たたく。韄(8－25834)に同じ。〔集韻〕韄、擊也、或作㆑扻。㈤**へる**。損(5－12459)に同じ。〔集韻〕損、說文、減也、古作㆑扻。

【扼】 11848

アク ヤク　〔集韻〕乙革切　ㄜˋ ê^4　[陌]

❶**とる**。**もつ**。搹(5－12528)に同じ。〔集韻〕搹、說文、把也、或作㆑扼。〔廣雅、釋詁一〕扼、取也。❷**おさへつける**。〔正韻〕扼、抑也。〔漢書、李陵傳〕力扼㆑虎。〔注〕師古曰、扼、謂㆔捉㆓持之㆒也。❸**くびき**。軛(10－38207)に通ず。〔正韻〕扼、與㆑軛通。〔莊子、馬蹄〕加㆑之以㆓衡扼㆒。〔疏〕扼、叉㆓馬頸㆒木也。❹搤(5－12497)に通ず。〔正字通〕扼、或作㆑扼、與㆑搤通。

【扼要】1 ヤクエウ　❶要處を占據すること。〔唐書、高崇文傳〕鹿頭山南距㆓成都㆒百五十里、扼㆓二川之要㆒。❷かなめ。おさへどころ。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕有㆓扼要控制之司㆒。

【扼吭】2 ヤクカウ　❶のどをおさへる。轉じて、急所をおさへる。〔晏殊、蜩蛙賦〕雖㆓多口以連獲㆒、終扼吭而弗㆑制。❷氣が喉に逆ふ。憤氣のこみ上げること。〔陸游、南唐書、劉仁贍傳〕世宗復親征、云云、朱元・朱仁・裕孫璘皆降㆑周、仁贍聞㆑之、扼吭憤歎。

【扼據】3 ヤクキヨ　要害に據ること。〔樊衡、破㆓契丹㆒露布〕扼㆓據峻嶺㆒、聚㆑徒嘯㆑侶。

【扼襟】4 ヤクキン　えりもとをおさへる。急所をおさへる。〔周邦彥、汴都賦〕扼㆑襟控㆑咽、屏㆓藩表裏㆒。

【扼括】5 ヤククワツ　しつかりとしめくくる。

【扼擊】6 ヤクゲキ　おさへうつ。〔漢書、郊祀志下〕燕齊之間、方士瞋㆑目扼擊。

【扼險】7 ヤクケン　險要の地をおさへる。〔宋史、馮拯傳〕備邊之要、不㆔扼㆑險以制㆓敵之衝㆒、未㆑易㆑勝也。

【扼鍵】8 ヤクケン　急所をおさへる。

【扼虎】9 ヤクコ　とらをとりひしぐ。力の極めて強い喩。〔漢書、李陵傳〕力扼㆑虎、射命中。〔注〕師古曰、扼、謂㆔捉㆓持之㆒也。〔曹植、孟冬篇〕頓㆑熊扼㆑虎、蹴㆑豹搏㆑貙。

【扼喉】10 ヤクコウ　のどをおさへつける。急所を押さへて死命を制する。咽喉を占め守る。〔魏志、荀彧傳〕畫㆑地而守㆑之、扼㆓其喉㆒而不㆑得㆑進。〔晉書、宣帝紀〕扼㆓其喉㆒而摏㆓其心㆒。〔盧照鄰、窮魚賦〕撫㆑背扼㆑喉、動搖不㆑可㆓騰躍㆒。〔楊浚、廣武懷古詩〕扼喉兵易㆑守。

【扼守】11 ê^4 shou^3　要害に據つて守る。

【扼取】12 ヤクシユ　おさへ取る。

【扼塞】13 ヤクソク　おさへふさぐ。

【扼拏】14 ê^4 na^2　おさへとらへる。

【扼昧】15 ヤクマイ　暗中にしめころす。〔韓非子、備內〕唯母爲㆑后而子爲㆑主、則令無㆑不㆑行、禁無㆑不㆑止、男女之樂、不㆑減㆓於先君㆒、而擅㆓萬乘㆒不㆑疑、此鴆毒扼昧之所㆓以用㆒也。〔注〕扼昧、謂㆓暗中絞縊㆒也。

【扼領】16 ヤクリヤウ　扼襟(4)に同じ。

【扼腕】17 ヤクワン　うでをおさへる。又、いきごんで腕を組み締める。搤腕。〔戰國、燕策〕樊於期偏袒扼腕而進曰、此臣日夜切㆑齒拊㆑心也、乃今得㆑聞㆑教、遂自刎。〔注〕勇者奮厲、必以㆓左手㆒扼㆓右腕㆒也。〔韓非子、守道〕人臣垂㆓拱於金城之內㆒、而無㆓扼腕聚脣嗟唶之禍㆒。〔商子、君臣〕瞋㆑目扼㆑腕、而語㆑勇者得、垂㆓衣裳㆒而談說者得。〔左思、蜀都賦〕劇談戲論、扼㆑腕抵㆑掌。

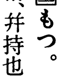
【扼阻要塞】18 ê^4 tsu^3 yao^4 sai^4　要害の地に據つて防ぐ。

【抩】 11849

㈠タン　〔集韻〕他甘切　[覃]

㈡ダン ナン　〔集韻〕那含切　[覃]

㈢ゼン ネン　〔集韻〕如占切　[鹽]



小篆

㈠㈡㈢**もつ**。あはせもつ。〔說文〕抩、并持也、从㆑手冄聲。〔廣雅、釋詁三〕抩、持也。

【扽】 11850

トン　〔集韻〕都困切　[願]

❶**ひく**。〔廣雅、釋詁一〕扽、引也。❷**うごく**。**うごかす**。〔廣韻〕扽、撼扽。❸**こする**。〔集韻〕扽、一曰、摩也。❹或は攱(5－13127)に作る。〔集韻〕扽、或从㆑攴。

【找】 11851

㈠クワ ゲ　〔集韻〕胡瓜切　[麻]

㈡サウ　〔正韻〕音爪　ㄓㄠˇ chao^3

㈠**さをさす**。划(2－1893)に同じ。〔集韻〕划、舟進㆑竿謂㆓之划㆒、或从㆑手。㈡❶**不足を補ふ**。〔正韻〕划、補㆑不㆑足曰㆑找。❷**たづねる**。〔中華大字典〕找、凡尋㆓覓人物㆒曰㆑找。❸現㋑さがす。もとめる。㋺釣錢を出す。㋩訪れる。訪問する。㋥誤寫する。

【找價】1 chao^3 chia^4　値段をまとめる。

【找項】2 chao^3 hsiang^4　釣錢。

【找給】3 サウキフ　經費不足の場合に之を補ふこと。〔六部成語、戶部、找給、注解〕前發之款不㆑足、找補以給㆑之也。

【找給銀】4 サウキフギン　經費の不足を補ふ金。〔六部成語、戶部、找給銀、注解〕找、補也、辨㆑公所㆑領之項不㆑足、報㆑部請㆓補行給發㆒也。

【找回】5 chao^3 huei^2　❶取りかへす。❷釣錢を取る。

【找換】6 chao^3 huan^4　兩替する。

【找還】7 chao^3 huan^2　釣錢をわたす。

【找錯】8 chao^3 tsu'o^4　あらをさがす。

【找錯縫】9 chao^3 tsu'o^4 fêng^1　あらをさがす。他人の過失を拾ふ。缺點を搜す。

【找死】10 chao^2 ssŭ^3　死を求める。

【找字】11 chao^3 tzŭ^4　字をさがす。字を引く。

【找事】12 chao^3 shih^4　❶職を求める。口をさがす。❷餘計な事をする。

【找人】13 chao^3 jen^2　❶人をさがす。人を尋ねる。❷人を訪ふ。

【找尋】14 chao^3 hsün^2　尋ねる。搜索する。

【找齊】15 chao^3 ch'i^2　まとめる。

【找錢】16 chao^3 ch'ien^2　❶釣錢。❷釣錢を出す。❸おつりをとる。

【找兌】17 サウダ　前に發兌した不足を補ふため更に發兌すること。〔六部成語、戶部、找兌、注解〕前兌不㆑足、找補兌足之意。

【找妥】18 chao^2 t'uo^3　さがしあてる。

【找場】19 chao^2 ch'ang^3　怒を人に移す。當りちらす。やつあたり。

【找着】20 chao^3 chao^2　さがしあてる。尋ねあてる。

【找頭】21 chao^3 t'ou^2　釣錢。

【找頭向】22 chao^3 t'ou^2 hsiang^4　就職口をさがす。

【找付】23 chao^3 fu^4　❶差額。❷割增。

【找偏】24 chao^3 pien^4 偏く尋ねる。

【找補】25 サウホ 補足する。補充する。〔淸會典事例、戶部、漕運一〕分撥找補、遞相論轉。〔六部成語注解〕前發之款不㆑足、找補以給㆑之。

【找餷兒】26 chao^3 chʻa^2 êrh 人の過失を咎め立てる。

【找出來】27 chao^3 chʻu^1 lai 尋ね出す。搜し出す。

【找不著】28 chao^3 pu chao^2 搜し出されない。

【找票子】29 chao^3 pʻiao^4 tzŭ 手形を換へる。切手を還す。

【找面兒】30 chao^3 mien^4 êrh 恥辱を雪ぐ。

【找門親】31 chao^3 men^2 chʻin^1 緣付先を搜す。

【找落兒】32 chao^3 luo^4 êrh 始末をつける。

【找氣兒生】33 chao^3 chʻi^4 êrh shêng^1 閑にまかせて色々の事を考へ腹を立てる。

【找路逃跑】34 chao^3 lu^4 tʻao^2 pʻao^3 路を求めて逃げる。

【承】
11852

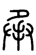
[一] シヨウ ジヨウ 〔集韻〕辰陵切 ㄔㄥˊ chʻêng^2 [蒸]

[二] セイ ジヤウ 〔正韻〕時征切 [庚]

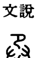
[三] チヨウ ヂヨウ 〔集韻〕持陵切 [蒸]

[四] シヨウ 〔集韻〕蒸之上聲 [迥]

[五] シヨウ 〔集韻〕諸應切 [徑]



小篆（說文）



小篆（段注本）

[一][二]❶うける。㋑ささげる。〔說文〕承、奉也、受也、从㆓手卩廾㆒。〔書、多方〕不㆒㆑克㆔靈承㆓于旅㆒。〔傳〕言㆓桀不㆒㆑能㆔善奉㆓於人衆㆒。〔左氏、襄、二十五〕承㆑飮而進獻。〔注〕承㆑飮、奉㆑觴。㋺うけたまはる。うけ聽く。〔左氏、成、十六〕承㆓寡君之命㆒以請。〔注〕承、奉也。㋩うけまもる。〔國語、晉語七〕敢不㆑承㆑業。〔注〕承、奉也。㋥つかへる。〔禮、坊記〕承㆓一人㆒焉以爲㆑尸。〔注〕承、猶㆑事也。㋭むかへる。迎へ取る。〔莊子、大宗師〕若㆑不㆑足而不㆑承。〔釋文〕承、迎也。㋬受け納れる。うけひく。〔易、歸妹〕女承㆑筐无㆑實。〔虞注〕自㆑下受㆑上稱㆑承。〔禮、玉藻〕士於㆓大夫㆒不㆑承㆑賀。〔注〕承、猶㆑受也。〔禮、禮運〕是謂㆑承㆓天之祜㆒。〔國語、齊語〕余敢承㆓天子之命㆒。〔注〕承、受也。㋣したがふ。したがひ守る。〔禮、孔子閒居〕弟子敢不㆑承乎。㋠いただく。あふぐ。〔易、艮〕乃順㆓承天㆒。㋷つぐ。〔詩、秦風、權輿〕于嗟乎、不㆑承㆓權輿㆒。〔傳〕承、繼也。〔孟子、藤文公下〕丕承哉。〔注〕承、纘。〔楚辭、宋玉、招魂〕朱明承㆑夜兮。〔注〕承、續也。〔國語、晉語三〕虢射爲㆑右以承㆑公。〔注〕承、次也。㋦つたへる。〔儀禮、少牢饋食禮〕承㆓致多福㆒無㆑疆㆓于女孝孫㆒。〔注〕承、猶㆑傳也。㋸めとる。〔漢書、王吉傳〕諸侯則國人承㆓翁主㆒。〔注〕師古曰、國人娶㆓諸侯女㆒、曰㆑承㆓翁主㆒。㋾絕句の名稱の一。承句(49)を見よ。❷うけ。うけるだい。〔太平御覽、居處、質礎〕尙書大傳曰、大夫有㆓石材㆒、庶人有㆓石承㆒。❸あしかけ。ふみだい。〔方言、五、榻前几、江沔之閒曰㆑桯、注〕桯、今江東呼爲㆑承。❹次第。順序。〔左氏、昭、十三〕子產爭㆑承。〔注〕承、貢賦之次。❺たすけ。たすける。丞(1-40)に通ず。〔說文通訓定聲〕承、叚借爲㆑丞。〔左氏、哀、十八〕請㆑承。〔注〕承、佐也。〔呂覽、貴信〕莊公左搏㆓桓公㆒、右抽㆑劍以自承。〔注〕承、佐也。❻しのぐ。乘(1-154)に通ず。〔說文通訓定聲〕承、叚借爲㆑乘、詩閟宮、則莫㆓我敢承㆒、按、加陵也、傳、止也、疑懲字之訓。❼或は𢍏(4-9604)・𢪱(5-11973)・氶(6-17086)に作る。〔集韻〕承、或作㆓𢍏・𢪱・氶㆒。❽姓。〔通志、氏族略、以㆑邑爲㆑氏〕承氏、衞大夫承成之後、見㆓世本㆒、望出㆓千乘㆒。[三]❶とめる。こらす。こりる。懲(4-11424)に通ず。〔說文通訓定聲〕承、叚借爲㆑懲。〔詩、魯頌、閟宮〕則莫㆓我敢承㆒。〔傳〕承、止也。〔陳奐傳疏〕承與㆑懲亦聲同。〔左氏、哀、四〕諸大夫恐㆓其又遷㆒也承。〔注〕承、音懲、蓋楚言。〔疏〕懲㆓創往年之遷㆒、恐㆓其更復遷徙㆒、承・懲音近、蓋是楚人之言、聲轉而字異耳。❷縣名。〔集韻〕承、漢縣名、在㆓東海㆒。[四]すくふ。あげる。拼(5-11879)・拯(5-11991)に同じ。〔集韻〕拼、說文、上擧也、或作㆑承。〔易、艮〕不㆑承㆓其隨㆒。〔釋文〕承、擧也。〔列子、黃帝〕使㆓弟子並㆑流而承㆒㆑之。〔釋文〕出㆑溺爲㆑承、諸家直作㆑拯。[五]❶承鄕は、漢の侯國。或は氶(6-17086)に作る。〔集韻〕承、承鄕、漢侯國名、或作㆑氶。❷おくる。贈(10-36929)に通ず。〔說文通訓定聲〕承、叚借爲㆑贈。〔禮、文王世子〕至㆓于賵賻承含㆒、皆有㆑正焉。〔注〕承、讀爲㆑贈、聲之誤也。[邦]うけたまはる。聞くの敬語。

[名乘] ツギ。ヨシ。ツグ。ウケ。

[解字] 會意。手と卩と𠬞との合字。ささげる・受ける意。卩は符節・瑞節の節で、君主から授けられた者の證據物。𠬞は兩手で謹んで物をささげる。よつて謹んで物をささげ、又は受ける意。說文には奉の字と互訓してゐるので、その意が明かである。

▽ （金文） 會意。卩（かがまる人）を兩手で捧げる意。

【承安】1 シヨウアン ❶平安な天下を承けつぐ。〔論衡、自然〕舜禹承㆑安繼㆑治、任㆑賢使㆑能、恭㆑己無㆑爲、而天下治、舜禹承㆓堯之安㆒、堯則㆑天而行。❷年號。㋑南宋甯宗の代、金章宗（完顏璟）の時。(1196-1200) ㋺ジヨウアン 第八十代高倉天皇の御時。(1171-1175)

【承安體】2 シヨウアンタイ 明の寧王權の定めた樂府十五體の一。〔任訥散曲概論、太和正音譜〕承安體、華觀偉麗、過㆓於佚樂㆒、承安、金章宗正朔。

【承安寶貨】3 シヨウアンハウクワ 貨幣の名。金の承安中に鑄造した銀貨。一兩より十兩に至る五等に分つ。承安二年に始まり五年に罷む。猶、承安寶貨は中國に於ける法定銀鑄貨の濫觴を爲してゐる。〔金史、章宗紀二〕（承安二年十二月）己卯、始鑄㆓承安寶貨㆒。〔金史、食貨志三〕承安二年十月、宰臣奏、舊立㆓交鈔法㆒、凡以㆑舊易㆑新者、每貫取㆓工墨錢十五文㆒、至㆓大定二十三年㆒、不㆑拘㆓貫例㆒、每張收㆓八文㆒、既無㆑益㆓於官㆒、亦妨㆓鈔法㆒、宜㆑從㆓舊制㆒、便若以㆑鈔買㆓鹽引㆒、每貫權㆓作一貫五十文㆒、庶㆑得㆓多售㆒、上曰、工墨錢貫可㆑令㆑收㆓十二文㆒、買㆓鹽引㆒者、每貫可㆔權㆓作一貫一百文㆒、時交鈔所㆑出數多、民間成㆓貫例㆒者、艱㆓於流轉㆒、詔以㆓西北二京遼東路㆒、從㆑宜給㆓小鈔㆒、且許㆘於㆓官庫㆒換㆑錢、與㆓它路㆒通行㆖、十二月尙書省議、謂時所㆑給官兵俸、及邊戍軍、須㆘皆以㆓銀鈔㆒相兼㆖、舊例銀每鋌五十兩、其直百貫、民間或有㆘截㆓鑿之㆒者㆖、其價亦隨㆓低昂㆒、遂改鑄㆑銀、名㆓承安寶貨㆒、一兩至㆓十兩㆒分㆓五等㆒、每兩折錢二貫、公私同見㆓錢用㆒、仍定㆓銷鑄㆒、及接㆓受稽留罪賞格㆒云云、五年十二月、宰臣奏、比以㆓軍儲調發支出交鈔數多㆒、遂鑄㆓寶貨㆒與㆑錢兼用、以代㆓鈔本㆒、蓋權時之制、非㆓經久之法㆒、遂罷㆓承安寶貨㆒。

【承菴】4 シヨウアン 明、牛惟炳(7-19922‥311)の字。

【承衣】5 シヨウイ 女官の名。〔稱謂錄、列官古稱、承衣〕隋書后妃傳、又有㆓承衣刀人㆒、皆趨㆓侍左右㆒、並無㆓員數㆒、視㆓六品以下㆒、時有㆓增置㆒。

【承意】6 シヨウイ ❶人の意をうける。〔書、說命、后克聖、臣不㆑命其承、傳〕君能受㆑諫、則臣不㆑待㆑命、其承㆑意而諫㆑之。〔莊子、外物〕承㆑意不㆑彼。❷先方の氣に入るやうに機嫌をとる。迎合。〔史記、孟荀傳〕承㆑意觀㆑色爲㆑務。〔史記、汲黯傳〕天子置㆓公卿輔弼之臣㆒、寧令㆔從諛承意陷㆓主於不義㆒乎。

【承委】7 シヨウヰ 申付けを引受ける。委任命令を承ける。〔明律、職制、官員赴任過限、纂注〕故卽

下文阻風被盜等項之故第㆓節、兼㆓內外官㆒、謂㆘原任改除及承㆓委權署㆒者㆖。

【承祐】8 シヨウイウ 字號。❶唐、趙嘏（**10－37171··51**）の字。❷五代漢、隱帝（**11－41891··139**）の名。

【承允】9 chʻêng^2 yün^3 ゆるす。うけがふ。承引。

【承引】10 シヨウイン うけひく。承知する。〔魏書、刑罰志〕或拷不㆓承引㆒、依㆑證而科、或有㆓私嫌㆒、強逼成㆑罪。〔唐律、斷獄、訊㆑囚察㆓辭理㆒〕若贓狀露驗、理不㆑可㆑疑、雖㆑不㆓承引㆒、卽據㆑狀斷㆑之。

【承印】11 シヨウイン ❶印を持つこと。〔福惠全書、蒞任部、到㆓衙門㆒〕直印吏承㆑印前導、門子捧㆓匙匣印牌各鑰㆒隨進交㆓內衙㆒。❷chʻêng^2 yin^1 印刷の注文を引受ける。引受けて印刷する。

【承胤】12 シヨウイン 晉、劉胤（**2－2224··21**）の字。

【承飮】13 シヨウイン 酒を杯に盛る。〔左氏、成、十六〕使㆓行人執㆑榼承㆑飮造㆓于子重㆒。〔注〕承、奉也。〔會箋〕承、貯也、今通用㆓盛字㆒。〔左氏、襄、二十五〕再拜稽首、承㆑飮而進獻。

【承雲】14 シヨウウン ❶黃帝の樂章の名。〔列子、周穆王〕奏㆓承雲・六瑩・九韶・晨露㆒以樂㆑之。〔注〕承雲、黃帝樂。〔楚辭、遠遊〕張㆓咸池㆒奏㆓承雲㆒兮、二女御㆓九韶歌㆒。〔淮南子、齊俗訓〕咸池承雲九韶六英、人之所㆑樂也。❷衣の領。〔女紅餘志〕。

【承運】15 シヨウウン ❶前王の業をうけつぐこと。〔晉書、樂志下〕景皇、承㆓運纂㆔隆洪緒㆒。〔孫楚、爲㆓石仲容㆒與㆓孫皓㆒書〕太祖承㆑運、神武應㆑期。❷運送を引受ける。

【承裔】16 シヨウエイ 金、完顏白撒（**3－7079··127**）の名。

【承影】17 シヨウエイ ❶劍の名。〔列子、湯問〕孔周曰、吾有㆓三劍㆒云云、二曰承影、將㆑旦昧爽之交、日夕昏明之際、北面而察㆑之、淡淡焉若㆑有㆓物存㆒、莫㆑識㆓其狀㆒、其所㆑觸也、竊竊然有㆑聲、經㆑物而物不㆑疾也。❷かげをうける。〔許敬宗、唐幷州都督鄂國公尉遲恭碑〕蛟分承㆑影、鴈落忘㆑歸。

【承衞】18 シヨウエイ したがひまもる。〔史記、漢興以來諸侯年表贊〕故廣彊㆓庶孽㆒、以鎭㆓撫四海㆒、用承㆓衞天子㆒也。

【承淵】19 シヨウエン 三國吳、丁奉（**1－2··187**）の字。

【承應】20 シヨウオウ ❶御用を待つ。〔長生殿、舞盤〕高力士、傳㆓旨李龜年㆒、押㆓梨園子弟㆒上㆑殿承應。❷受持ち勤める。〔福惠全書、編審部、編審餘論〕一切縣官承應。❸第百十代後光明天皇の年號。（1652－1655）〔菅原知長勘文〕晉書、律歷志曰、陶唐則分命㆓羲和㆒、虞舜則因㆓循堯法㆒、及㆓夏殷承㆑運、周氏應㆑期、正朔既殊、創法斯異。

【承恩】21 シヨウオン ❶君の寵恩を受ける。〔史記、佞幸傳、索隱述贊〕冠㆑鵕入侍、傅㆑粉承㆑恩。〔晉書、劉弘等傳贊〕和季承㆑恩建㆑旟南服。〔杜甫、丹青引〕開元之中常引見、承㆑恩數上南薰殿。❷漢の宮館の名。〔漢書、霍光傳〕築㆓神道㆒、北臨㆓昭靈㆒、南出㆓承恩㆒。〔注〕服虔曰、昭靈・承恩、皆館名也、文穎曰、承恩、宣平侯冢園也。

〖承恩公〗22 シヨウオンコウ 天子の外戚に賜はる爵名。〔皇朝文獻通考、封建考、異性封爵〕至㆓於宗室外戚㆒則倣㆓古之恩澤侯之例㆒、命爲㆓奉恩侯、或承恩公㆒以昭㆓寵錫㆒。

【承遠】23 シヨウヲン 唐の高僧。蓮宗の第三祖。衡山に居て布教す。代宗、其の居を般舟道場といひ、其の寺額を彌陀寺といふ。〔蓮宗九祖傳略〕。

【承家】24 シヨウカ 家をうけつぐ。〔易、師〕開㆑國承㆑家、小人勿㆑用。

【承賀】25 シヨウガ 賀をうける。〔禮、玉藻〕下大夫於㆓上大夫㆒承㆑賀。〔注〕承、猶㆑受也。

【承行】26 シヨウカウ ❶上の命をうけておこなふ。〔明律、戶律、倉庫、攬納稅糧〕不㆑行㆓追取批迴㆒者、官住㆓俸承行㆒。❷係の下役人。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕將㆓原詞㆒發㆓承行㆒、抄謄送閱、原批詞不㆑可㆑動㆑筆。

〖承行書辦〗27 シヨウカウシヨベン 上官の命を受けて行文事件を辨理する役人。〔六部成語、吏部、承行書辦、注解〕承㆓上官之命㆒、辦㆓理行文事件㆒之書吏。

【承康】28 シヨウカウ 東晉時代、五胡十六國の一なる後涼の呂光の年號。年次は不明。〔歷代建元考〕。

【承膏】29 シヨウカウ 草の名。薇銜の異名。〔本草、薇銜〕釋名、麋銜、鹿銜、吳風草、無心、無顚、承膏、承機。

【承學】30 シヨウガク 學問を承け傳へる。承け傳へ學ぶ。〔國朝漢學師承記、顧炎武〕於㆑是承學之士、知㆓習古經義㆒矣。

【承嶽】31 シヨウガク 陳、陳嶽（**11－41698··145**）の字。

【承含】32 ソウガン 喪に贈る珠玉の類をいふ。承は贈の誤。贈含。〔禮、文王世子〕至㆓于賵賻承含㆒皆有㆑正焉。〔注〕承、讀爲㆑贈、聲之誤也。〔釋文〕賵賻唅襚、皆贈㆑喪之物也、車馬曰㆑賵、布帛曰㆑賻、珠玉曰㆑唅、衣服曰㆑襚、捴謂㆓之贈㆒、贈猶㆑送也。

【承顏】33 シヨウガン ❶他人の顏色を見てさからはないやうにする。〔吳志、王蕃傳〕蕃體氣高亮、不㆑能㆓承㆑顏順㆑指。〔晉書、孝友傳序〕柔㆑色承㆑顏、怡怡盡㆑樂。❷接見する。面會が出來る。〔漢書、雋不疑傳〕今乃承㆑顏接㆑辭。

【承基】34 シヨウキ ❶基業をうける。〔張衡、西京賦〕高祖創㆑業、繼㆑體承㆑基。〔袁宏、三國名臣序贊〕然則三五迭隆、歷㆑世承㆑基。❷隋、王胄（**7－20823··786**）の字。

【承寄】35 chʻêng^2 chi^4 御送付を受ける。

【承機】36 シヨウキ 薇銜の異名。承膏（29）を見よ。

【承徽】37 シヨウキ 梁の時の女官の名。〔文獻通考、帝系考〕梁武定令制、婕妤容華充華承徽列榮爲㆓五職㆒。

【承久】38 シヨウキウ ❶承け繼ぎ久しい。〔詩緯〕周起㆑自㆓后稷㆒、歷世相承久。❷ジヨウキウ 第八十四代、順德天皇・第八十五代、仲恭天皇の年號。（1219－1222）

〖承久役〗39 ジヨウキウノエキ 承久三年、後鳥羽上皇が執權北條義時追討の院宣を下された時、東海道を西上した泰時が勢多・宇治川に戰つて官軍を破つた事變。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕與㆓建保・承久二役㆒奚擇。

【承休】40 シヨウキウ ❶善美をうける。〔史記、封禪書〕今鼎至㆓甘泉㆒、光潤龍變、承㆑休無㆑疆。❷漢代、侯國の名。潁川郡に屬す。元帝、周を立てた後、周子南君姬延年を封じて周の承休侯と爲し、國を此に置く。故城は河南省臨安縣治。〔漢書、地理志上〕潁川郡、周承休。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、汝州〕承休廢縣、在㆓今州治子城東㆒、本曰㆓周承休城㆒、漢武帝元封三年、封㆓姬嘉㆒爲㆓周子南君㆒、以奉㆓周祀㆒邑㆓於此㆒、元帝永元五年、更置㆓周承休侯國㆒、屬㆓潁川郡㆒。❸字號。㋑晉、郭荀（**11－39474··21**）の字。㋺明、丁茂桂（**1－2··306**）の字。

【承吉】41 シヨウキツ 字號。❶唐、張祜（**4－9812··296**）の字。❷明、王從善（**7－20823··1667**）の字。

【承泣】42 シヨウキフ 人體經穴の名。目の下七分の處。〔靈樞經、經脉篇、胃足陽明之脉、注〕分寸歌、胃之經兮足陽明、承泣目下七分尋。

【承匡】43 シヨウキヤウ 地名。春秋、宋の地。今、河南省睢縣の西。〔春秋、文、十一〕叔仲彭生會㆓晉郤缺于承匡㆒。〔杜注〕承匡、宋地、在㆓陳留襄邑縣西㆒。〔戰國、齊策〕犀首以㆑梁與㆑齊戰㆓於承匡㆒而不㆑勝。〔後漢書、郡國志三〕襄邑有㆓承匡城㆒。

【承宮】44 シヨウキユウ 後漢、姑幕の人。字は少子。永平中、博士となる。後、官は侍中祭酒。〔尚友錄、十二〕。

【承虛】45 シヨウキヨ 虛に乘ずる。虛につけこむ。〔風俗通、怪神〕邪氣承㆑虛、故速㆓咎證㆒。

【承共】46 シヨウキヨウ うけつつしむ。共は恭。〔國語、吳語〕昔者楚人爲㆓不道㆒、不㆔承㆓共王事㆒、以遠㆓我一二兄弟之國㆒。

【承筋】47 シヨウキン 經穴の名。〔靈樞經、經脉篇、膀胱足太陽之脉、注〕分寸歌、承筋腳跟上七寸、穴在㆓腨腸之中央㆒。

【承鈞】48 シヨウキン 北漢、劉鈞（**2－2224··187**）の初名。

【承句】49 シヨウク 絕句の詩の第二句。第一句卽ち起句の意をうけて敷衍する句。〔范德機、詩法〕作詩有㆓四法㆒、起要㆓平直㆒、承要㆓舂容㆒、轉要㆓變化㆒、合要㆓淵永㆒。

【承化】50 シヨウクワ 縣名。❶唐、置く。安南の北境。❷民國、置く。新疆省布爾津縣の東。もと阿爾泰辦事大臣の駐地。其の地に西域の名刹承化寺（丞化寺）があるので名づけらる。地は阿爾泰山の南。縣城は額爾齊斯河の上流。蘇聯の邊界に接近す。

【承華】51 シヨウクワ ❶太子の宮門。轉じて、太子の宮をいふ。〔陸機、贈㆔馮文羆遷㆓斥丘令㆒詩〕閶闔既闢、承華再建。〔注〕善曰、陸機洛陽記曰、太子宮在㆓太宮東薄室門外㆒、中有㆓承華門㆒。〔江淹、雜體詩、陸平原羇宦〕契㆓闊承華內㆒、綢繆踰㆓歲年㆒。〔注〕翰曰、承華、太子門名。〔南史、王瑒傳〕父沖、

嘗爲レ瑒辭二領中庶子一、文帝顧レ沖曰、所三以久留二瑒於承華一、正欲レ使三太子微有二瑒風法一耳。㊁漢代、太僕に屬する廐の名。〔漢書、百官公卿表上〕太僕、云云、龍馬・閑駒・槖泉・騊駼・承華五監長丞。〔後漢書、順帝紀〕始置二承華廐一。〔注〕東觀記曰、時以二遠近獻馬衆多一、云云、始置二承華廐令一。〔張衡、東京賦〕駙二承華之蒲梢一。〔注〕綜曰、承華、廐名也。

【承華殿】52 ショウクワデン 宮殿の名。〔北史、僭僞附庸、慕容熙傳〕又爲二妻苻氏一鑿二曲光海・淸涼池一、云云、又爲二其妻一起二承華殿一。〔李頎、王母歌〕武皇齋戒承華殿、端拱須臾王母見。

【承誨】53 ショウクワイ をしへをうける。〔孔叢子、連叢子〕幸今承レ誨、請遂改レ之。

【承光】54 ショウクワウ ㊀漢代の臺名。〔漢書、王莽傳下〕建章承光包陽。〔張衡、西京賦〕枍詣承光、睽罛庨豁。〔注〕銑曰、枍詣、承光、並臺名。㊁經穴の名。〔靈樞經、經脉篇、膀胱足太陽之脉、注〕上額循二攢竹一過二神庭一、歷二曲差五處承光通天一、自二通天一斜行、左右交二於頂上之百會穴一、分寸歌、五處髮上一寸是、承光髮上二寸半。㊂年號。㋑晉代、五胡十六國の一、夏（大夏）の赫連昌の時。（425－428）㋺北齊の幼主、高恒の時。（577）

【承光殿】55 ショウクワウデン 宮殿の名。〔魏志、文帝紀、注〕帝置酒設レ樂、引二見于承光殿一。〔梁元帝、針穴名詩〕車轉承光殿、步上通天臺。

【承管】56 ショウクワン 引き受ける。〔福惠全書、筮仕部、募二家丁一〕載下明籍貫人氏並來歷不明、投二充賣三身旗下一、公私過犯等情上、俱係二中保一面承管一、與二本主一無レ涉。

【承歡】57 ショウクワン ㊀歡心を得る。御機嫌をとる。〔楚辭、九章、哀郢〕外承レ歡之汋約兮。〔注〕言、佞人承二君歡顏一好二其諂言一、令二之汋約然一也。㊁君主又は父母のよろこびの心をうけたすける。〔白居易、長恨歌〕承レ歡侍レ宴無二閑暇一、春從二春遊一夜專レ夜。

【承懽】57′ ショウクワン 承歡に同じ。〔李賀、屛風曲〕酒甒綰帶新承レ懽。

【承君】58 ショウクン 宋、田晝（7－21723・・211）の字。

【承訓】59 ショウクン うけしたがふ。うけをしへる。〔逸周書、武順解〕卒不レ力無二以承訓一。〔注〕訓、謂レ先二後辟一也、承、謂三奉二行後令一也。

【承惠】60 ショウケイ ㊀淸、黎世序（12－47994・・111）の初名。㊁ch'êng^2 huei^4 御送付を受ける。賜はる。

【承慶】61 ショウケイ 金、完顏琮（3－7079・・35）の本名。

【承繼】62 ショウケイ ㊀うけつぐ。前代のことを引きつぐ。次々へ傳へ繼ぐ。繼承。承襲。〔孟子、萬章上〕啓賢、能敬承二繼禹之道一。〔白虎通、禮樂〕天子承繼、萬物當レ知二其數一。〔後漢書、百官志一〕漢之初興、承二繼大亂一、兵不レ及レ戢、法度草創、略依二秦制一。㊁他人の子を己の後繼とすること。他人の後繼となること。あととり。繼嗣。〔晉書、賀循傳〕殷之盤庚、不レ序二陽甲一、漢之光武、不レ繼二成帝一、別立二廟寢一使二臣下祭レ之、此前代之明典、而承繼之著義也。〔淸律、戶律、戶役、立嫡子違法附例〕無レ子者、許レ令二同宗昭穆相當之姪承繼一。

【承繼人】63 ch'êng^2 chi^4 jen^2 他人の權利義務をうけつぐ人。

【承迎】64 ショウゲイ うけ迎へる。〔徐陵、諫二仁山深法師罷レ道書〕俯仰承迎、未レ閑レ合レ度。〔資治通鑑、唐紀〕（昭宗、天復三年）臣光曰、伺二候顏色一、承二迎志趣一。

【承教】65 ショウケウ ㊀をしへを受ける。〔孟子、梁惠王上〕寡人願安承レ教。〔史記、樂毅傳〕自以爲奉レ命承レ教、可二幸無レ罪。㊁ch'êng^2 chiao^4 御指教を受け有りがたい。

【承檄】66 ショウゲキ 檄文をうける。〔晉書、顧衆傳〕衆以二承レ檄奮レ義、推二功於謨一。〔晉書、慕容德載記〕諸郡皆承レ檄降二於德一。

【承業】67 ショウゲフ ㊀仕事をうけつぐ。父祖の業をうけつぐ。〔漢紀、孝元紀論中〕荀悅曰、後世承レ業、襲而不レ革。〔孔戣、爲二崔大夫一賀レ冊二皇太子一狀〕陛下積レ德承レ業、光二有天下一。㊁字號。㋑陳、賀德基（10－36725・・149）の字。㋺陳、陳胤（11－41698・・19）の字。㋩隋、樂運（6－15399・・23）の字。㊂ch'êng^2 yeh^4 財產をうけつぐ。

【承縣】68 ショウケン 縣名。㊀漢、置く。山東省嶧縣の西北。〔漢書、地理志上〕東海郡、縣三十八、承。㊁南朝宋、置く。今、江蘇省武進縣。

【承元】69 ジョウゲン 第八十三代、土御門天皇の年號。（1207－1211）

【承玄】70 ショウゲン 南北朝時代五胡十六國の一、北涼の武宣王。〔沮渠蒙遜〕の年號。（428－431）

【承源】71 ショウゲン 陳、陳深（11－41698・・376）の字。

【承湖】72 ショウコ 明、陸士仁（11－41708・・328）の號。

【承五】73 ショウゴ 淸、周安節（2－3441・・529）の字。

【承工】74 ch'êng^2 kung^1 工事を引受ける。工事を請負ふ。

【承公】75 ショウコウ 字號。㊀晉、孫統（3－6987・・235）の字。㊁宋、胡世將（9－29400・・520）の字。

【承候】76 ショウコウ 御機嫌をうかがふ。〔魏書、楊播傳〕承二候安否一。〔魏書、尒朱榮傳〕求レ官者皆詣レ榮承候。

【承鞚】77 ショウコウ くつわの手綱を受けるあな。今は手綱の兩はしの稱。みづき。みづつき。〔辨色立成〕承鞚、一云二七寸一。

【承墾】78 ch'êng^2 k'en^3 拂下をうけ開墾する。

【承差】79 ショウサ 總督巡撫鹽政の下に使はれる小吏。〔明律、職制、濫設官吏〕若二吏典知印承差祗候、禁二子弓兵人等額外濫充者一、杖一百。〔長生殿、驛備〕怕的是公吏承差、嚇的是徒犯驛卒。〔淸會典、吏部〕外吏之別四、一曰書吏、二曰承差、三曰典吏、四曰攢典、皆選二於民一而充レ之。〔注〕總督巡撫於二書吏之外一、復設二承差一。〔六部成語、吏部、承差、注解〕承辦差務之委員。〔淸國行政法汎論、文官仕途種類、吏胥之特別遷秩〕督撫鹽政之下、置二書吏一外、尙有下稱二承差一者上。

【承哉】80 ショウサイ 淸、趙維烈（10－37171・・399）の字。

【承催】81 ショウサイ 上命を承けて租稅を催促して徵收すること。〔六部成語、戶部、承催、注解〕承二催辦徵之事一。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕承二催各欠一、未レ得二暫離一。

【承載】82 ショウサイ ㊀うけのせる。〔詩、大雅、緜、縮レ版以載、疏〕以レ繩縮二束其板一、板滿築訖、則升二下於上一、以相承載。㊁ch'êng^2 tsai^4 抑制する。我慢する。

【承造】83 ショウザウ 製作方を引受ける。請負つて作る。〔淸會典事例、戶部、漕運〕應レ行二修造一者一百九十隻、照レ案交二江西各幫一承造。

【承纘】84 ショウサン うけつぐ。纘承。〔韻府引、盧亘、詩〕悠悠三百年、篇翰孰承纘。

【承山】85 ショウザン 經穴の名。〔靈樞經、經脉篇、膀胱足太陽之脉、注〕分寸歌、承山腨下分肉間、外踝七寸上飛揚。

【承之】86 ショウシ 字號。㊀宋、魏紹（12－45872・・100）の字。㊁宋、薛紹（9－32123・・87）の字。㊂宋、趙鼎臣（10－37171・・799）の字。㊃元、王正貞（7－20823・・1775）の字。㊄明、聶賢（9－29179・・7）の字。

【承旨】87 ショウシ ㊀仰せをうけたまはる。〔後漢書、竇憲傳〕由レ是朝臣震懾、望レ風承レ旨。㊁淸代、主務官廳が上旨を承けて、之を其の下司、又は地方官廳等に傳出し、遵行させることをいふ。〔皇朝政治學問答〕承レ旨、是承二順此旨一、而傳出令二人遵行一也。㊂官名。㋑翰林院の屬。唐の憲宗、始めて翰林學士承旨を置き、學士中、年高く望重き者を以て之に充つ。文章を撰集し、經籍を校理し、月末には內に進課し、年末には外に考最することを掌る。宋・元、之に因る。〔舊唐書、職官志二〕考課之法、云云、有二二十七最一、云云、其十一曰二承旨一、敷奏吐納明敏爲二宣納之最一。〔唐書、百官志二〕凡承旨、撰二集文章一、校二理經籍一、月終則進二課于內一、歲終則考二最于外一。〔歐陽脩、湖州長史蘇君墓誌銘〕太宗時、承二旨翰林一爲二學士一。〔事物紀原、法從淸望部、承旨〕職林曰、至德以後翰林置二學士六人一、內年深德重者一人爲二承旨一、所三以獨承二密命一故也、此疑承旨之始也、而唐百官志曰、元和中翰林學士以二院長一人一、別承二勅旨一、或密受二顧命一、爲二學士承旨一、職林又謂、德宗正元已後、承旨多至二宰相一、疑唐志爲レ誤。㋺樞密院の屬。五代、樞密院承旨、副承旨を置き、諸衞の將軍を以て之に充つ。宋、亦之に因り、都承旨を增置す。旨命を承宣し、院務を通領し、若し便殿に侍立すれば禁衞兵を閱試し、校すれば事に隨つて敷奏し、得る所の旨を承けて有司に授け、又、主事以下の功過及び遷補の事を檢察することを掌る。〔舊五代史、晉高祖紀五〕密院承旨、宜三改爲二承宣一。〔宋史、職官志二〕都承旨、副都承旨、掌下承二宣旨命一、通二領院務一、若便殿侍立、閱二試禁

衞兵一、校則隨レ事敷奏、承二所レ得旨一、以授二有司一、蕃國入見、亦如レ之、檢中察主事以下功過及遷補之事上、都承旨舊用二院吏一遞遷、熙寧三年、始以二東上閤門使李評一爲レ之、又以二皇城使李綬一爲二之副一。〔文獻通考、職官考、都副承旨〕五代有二承旨副承旨一、以二諸衞將軍一充。

【承志】88 ショウシ ㊀他人の氣に入るやうにうけ迎へる。承意。〔禮、祭義〕先レ意承レ志。〔劉孝綽、司空安成王碑〕卜商有レ問、是謂二色難一、承レ志望レ顏、在レ公斯易。㊁他人の志をうけつぐ。〔書、武成〕大統未レ集、予小子其承二厥志一。〔韓詩外傳、十〕孔子曰、太伯獨見、王季獨知、伯見二父志一、季知二父心一、故太王太伯王季、可レ謂二見レ始知レ終而能承レ志矣。

【承祀】89 ショウシ うけついでまつる。轉じて、家を繼ぐことにもいふ。〔漢書、韋玄成傳〕世世承祀、傳二之無窮一。

【承嗣】90 ショウシ ㊀うけつぐ。代々の意。〔左氏、昭、二十〕承嗣大夫、強易二其賄一。〔注〕承嗣大夫、世レ位者也。〔墨子、尙賢上〕故士者所三以爲二輔相承嗣一也。㊁あととり。冢子。〔大戴禮、曾子立事〕使レ弟猶レ使二承嗣一也。〔注〕承嗣、謂二家子一也。〔蔡邕、太傅祠堂碑銘〕子子孫孫、承嗣無疆。㊂三國吳、滕胤(7－18036··3)の字。

【承仕】91 ショウジ ㊀承仕法師に同じ。〔東鑑、二〕治承六年十二月七日、宮寺承仕、法師榮光。㊁古、剃髮して、仙洞、又は攝家などの雜役を勤めた者。㊂室町幕府の職名。規式の時、殿中の裝飾を掌る。

〔承仕法師〕92 ショウジホフシ 僧の役名。堂舍・佛具などを掌り、法事等の雜役に從事するもの。〔古事談、三〕惠心僧都の承仕法師、奉レ花之間、俄悶絕死去畢。

【承示】93 ch'êng² shih⁴ 指示を受ける。

【承事】94 ショウジ ㊀したがひつかへる。よくつかへたてまつる。〔禮、仲尼燕居〕百官莫三敢不二承事一矣。〔國語、魯語下〕大夫有二貳車一、備二承事一也。〔漢書、郊祀志下〕蓋聞、王者承二事天地一、交二接泰一一、尊莫レ著二於祭祀一。〔後漢書、竇融傳〕守レ節不レ回、承二事本朝一。㊁事をたすける。〔禮、檀弓下〕寡君承レ事。〔疏〕弔爲レ助レ事、故雖二君之尊一、亦稱レ承レ事也。

【承收】95 ch'êng² shou¹ 受取る。受入れる。

【承修】96 ショウシウ 修繕を引受ける。敷設を引受ける。〔六部成語、工部、承修、注解〕承辦修理也。

【承襲】97 ショウシフ うけつぐ。〔後漢書、質帝紀〕承二襲統業一。〔庾信、請二功臣襲封一表〕臣謂、生有二其勞一、死非二王事一、雖レ在二支庶一、並聽二承襲一。〔宣和書譜〕承二襲太宗之學一。

〔承襲人〕98 ショウシフジン 後嗣。相續人。承繼者。〔明律、職制、官員襲廕、條例〕各處土官襲替、其通事人等、及各處逃流軍囚客人、撥二置土官一、親族不レ該、承襲之人爭レ襲、刦奪讐有者、俱問發二歲邊烟瘴地面一充レ軍。

【承舍】99 ショウシャ 地方官廳の吏員。〔福惠全書、莅任部、詳文贅說〕供二皇華往來及承舍賫奏一。

【承謝】100 ch'êng² hsieh⁴ うけてお禮をする。〔水滸傳、八十回〕乘著船、高聲說道、承謝送船到泊。

【承藉】101 ショウシャ うけよる。父祖又は他の勢力にたよる。承籍。〔隋書、長孫晟傳〕得下尙二公主一、承中藉威靈上。〔劇談錄〕洛中有二豪貴子弟一、承二藉勳蔭一。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏〕然若承二藉名族一、不レ如三吾起二人奴一也。

【承裳】102 ショウシャウ 淸、席上錦(4－8926··77)の字。

【承漿】103 ショウシャウ 口の下をいふ。〔釋名、釋形體〕口下曰二承漿一、承二水漿一也。〔王先謙疏證補〕按、皇甫謐鍼灸甲經、承漿一名二天池一、在二頤前脣之下一、足陽明任脈之會、御覽引二鍼灸經一、承漿一名二懸漿一。

〔承漿地閣〕104 ショウシャウチカク 相術家の語。口の下をいふ。流年運氣(6－17431··1)を見よ。

【承守】105 ショウシュ うけつぎ守る。〔左氏、襄、二十八〕穆叔曰、伯有無レ戾二於鄭一、鄭必有二大咎一、敬民之主也、而棄レ之、何以承守。〔注〕言無下以承二先祖一守中其家上也。

【承種】106 ショウシュ ㊀田をかりて耕作すること。受持って田を作る。〔福惠全書、莅任部、稟帖贅說〕至三戶逃地荒、無二人承種一、惟有二本甲戶頭之包賠一。㊁ch'êng² chung⁴ 請負はせて耕作させる。

【承受】107 ショウジュ ㊀うける。うけつぐ。〔左氏、隱、八〕寡君聞レ命矣、敢不三承二受君之明德一。〔白虎通、情性〕禮義者有二分理一、膓之大小相承受也。〔孔子家語、五帝德〕承二受大命一。㊁官名。唐代、三省・樞密院及び學士院を除く他の百司庶府に悉く內侍の官を置き、之を承受と稱す。〔老學庵筆記、三〕宣和中百司庶府、悉有二內侍官一爲二承受一、實專二其事一、長貳皆取レ決焉、梁師成爲二祕書省承受一、坐二於長貳之上一、所レ不レ置二承受一者、三省密院學士院而已。㊂ch'êng² shou⁴ 引受ける。

〔承受石〕108 ショウジュセキ 筑水にあった石の名。〔水經、沔水注〕筑水東南流逕二筑陽縣一、水中有二孤石挺出一、其下澄潭、時有レ見レ此、石根如二竹根一、而黃色、見者多凶、相與號爲二承受石一、所未レ詳也。

【承授】109 ショウジュ うけることとさづけること。〔國朝漢學師承記、序〕可レ知二漢世儒林家法之承授一。

【承從】110 ショウジュウ 旨を受けてしたがふ。さからはないで從ふ。〔呂覽、禁塞〕凡救守者、太上以レ說、其次以レ兵、以レ說則承從多羣。〔管子、侈靡〕故緣二地之利一、承二從天之指一。

【承肅】111 ショウシュク 陳、陳莊(11－41698··268)の字。

【承述】112 ショウジュツ 先代の事をうけ行ふ。

【承准】113 ch'êng² chun³ 受取る。

【承順】114 ショウジュン うけしたがふ。命令に從ひ服する。〔禮、樂記〕理發二諸外一、而民莫レ不二承順一。〔淮南子、要略〕使下人有二以仰レ天承順一、而不上レ亂二其常一者也。〔史記、秦始皇紀〕宇縣之中、承二順聖意一。〔漢書、韋玄成傳〕欽若稽レ古、承二順天心一。〔後漢書、劉焉傳〕張魯以二璋闇懦一、不二復承順一。

【承詢】115 ch'êng² hsün² きかれる。御尋をうけ「る。

【承緒】116 ショウショ 事業のつづきを受けつぐ。承統。〔晉書、安平獻王孚傳〕陛下承レ緒、遠人率貢。

【承序】117 ショウジョ 順序をうけつぐ。〔國語、楚語上〕百事倚相、將二奔走承序一。〔漢書、王子侯表序〕後嗣承序、以廣レ親。〔崔羣、冊二太子一禮畢赦文〕以レ言承序、所レ感則深、永惟二國本一、爲レ慶滋大。

【承承】118 ショウショウ 子孫がつぎつぎにうけつたへる。〔韓愈、平二淮西一碑〕聖子神孫、繼二繼承三承於千萬年一、敬戒不レ怠。

【承囑】119 ch'êng² chu³ 依賴をうける。

【承水】120 ショウスイ 川の名。㊀河南省鄭縣の南。〔山海經、中山經〕承水出二于其(太山)陰一、而東北流注二于沒一。〔水經、渠注〕白溝水注レ之、水有二二源一、北水出二密之梅山東南一、而東逕二靖城南一、與二南水一合、南水出二太山西北一、流至二靖城南一、左注二北水一、卽承水也、山海經曰、承水出二太山之陰一、東北流注二于役水一者也、世謂二之靖澗水一。㊁今、湖南省の烝水。烝水(7－19019··22)を見よ。

【承衰】121 ショウスイ 衰へた世をうけつぐ。〔漢書、刑法志〕聖王承レ衰撥レ亂。〔白虎通、三教〕承レ衰救レ弊。

【承正】122 ショウセイ 天子の正朔を受ける。天子に歸順すること。正は正月で、歲の始。轉じて、曆數の義。〔晉書、摯虞傳〕窮髮反景、承レ正受レ朔、龍馬騤騤、風二于華陽一。

【承制】123 ショウセイ みことのりをうける。仰せを承る。〔晉書、宣帝紀〕承レ制刻レ印、多レ所二假授一。〔南史、侯瑱傳〕承レ制以レ瑱爲二侍中江州刺史一。〔五代史、楚馬希範世家〕天福四年、加二希範天冊一、上將軍、開レ府承レ制、如二殷故事一。

【承政】124 ショウセイ ㊀官名。淸初、各部の長官をいふ。滿・蒙・漢各〻一人を置く。後改めて尙書とした。〔淸會典事例、吏部、官制、吏部〕天聰五年、置二吏部一、以二貝勒一人一領レ之、設二承政一人一、參政八人、蒙古承政一人、漢承政一人、啓心郎一人、筆帖式無二定員一。〔淸會典事例、吏部、官制、吏部〕順治元年、停二貝勒總理部務一、改二承政一爲二尙書一、參政爲二侍郎一、理事官爲二郎中一、副理事官爲二員外郎一、額哲庫爲二主事一、初置增減不レ一、各部同。㊁ch'êng² ch'êng³ 官署の名。民國、各省都督府に置く。淸末各部の承宣廳にならひ、上命を受けて下に宣布することを掌る。

【承聖】125 ショウセイ 南朝、梁元帝(蕭繹)の年號。(552－555)

【承招】126 ショウセウ 自白する。白狀する。〔福惠全書、刑名部、欵犯〕不レ肯二承招一、必須下以二夾棍一嚇上レ之。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕但不二承招一、卽用二夾棍一。

【承擾】127 ch'êng^2 jao^3 御馳走にあづかる。御馳走を謝する辭。

【承接】128（シヨウセツ） ㊀前を承け後に接ぐ。うけつぐ。うけついでつながる。〔羅隱、投二宣武鄭尙書一二十韻詩〕雁影相承接、龍圖共終始。㊁人の意を承けて其の接待をする。〔後漢書、皇后上、章皇后紀〕后性敏給、傾レ心承接、稱譽日聞。㊂文章法の名。上文を承けて下文を起し、或は上文を承けて其の意を明かにすること。〔馬氏文通、虛字、承接連字〕承接連字者、所下以承二接上下之文一、而概中施於句讀之中上也。㊂ch'êng^2 chieh^1 引受ける。請合ふ。注文引受方を取りつぐ。

【承睫】130（シヨウセフ） ㊀涙がまつげにたまる。涙がながれる。〔史記、孟嘗君傳、索隱述贊〕如何承睫、薛縣徒存。〔陸機、豪士賦序、孟嘗遭二雍門一而泣琴之感以末、注〕善曰、桓子新論曰、雍門周以レ琴見二孟嘗君一、孟嘗君曰、先生鼓レ琴、亦能令二文悲一乎、對曰、臣竊爲二足下一有レ所レ悲、千秋萬歲後、墳墓生二荊棘一、游童牧豎、躑二躅其足一、而歌二其上一、曰、孟嘗君之尊貴亦猶若レ是乎、於レ是孟嘗喟然太息、涕承レ睫而未レ下、雍門周引レ琴而鼓レ之、徐動二宮徵一揮二角羽一、初終而成レ曲、孟嘗君遂歔欷而就レ之、是琴之感以末也。㊁首をたれて仰ぎみないこと。〔後漢書、酷吏、陽球傳〕鴻都文學樂松江覽等、云云、俛レ眉承レ睫徼レ進、明時或獻二賦一篇一、或鳥篆盈レ簡、而位升二郎中一。

【承先】131（シヨウセン） 字號。㊀三國吳、樓玄(**6－15430**‥30)の字。㊁北周、蔡祐(**9－31818**‥3)の字。

【承宣】132（シヨウセン） ㊀うけのべる。〔漢書、匡衡傳〕繼體之君、心存三于承二宣先王之德一。㊁官名。㋑五代、樞密院承旨を改め稱す。承旨(87)の㊁を見よ。㋺宋、節度留後を改め置く。明、承宣布政使と稱し、淸は布政使と稱す。一省の政を掌り、朝廷に德澤禁令があれば、之を承けて下に宣播することを掌る。代々、一方守土官の首長となる。〔宋史、職官志六〕承宣使無二定員一、舊名節度觀察留後、政和七年詔、觀察留後、乃五季藩鎭官、以レ所二親信一留充、後務之稱、不レ可二循用一、可三冠以二軍名一、改爲二承宣使一、唐有二留後一、五代因レ之、宋初、留後觀察皆不レ得二本州刺史一、大中祥符七年、令三有司檢二討故事一、始復二帶之一。〔明史、職官志四〕承宣布政使司、左右布政使各一人、云云、布政使掌二一省之政一、朝廷有二德澤禁令一、承流宣播。

【承前】133（シヨウゼン） 前文をうけつぐこと。又、前からのつづき。又、以前。從前。〔資治通鑑、唐紀〕（玄宗、開元二十九年）制、承前諸州饑饉、皆待レ奏報。

【承禪】134（シヨウゼン） ゆづりをうける。帝位を讓られて繼ぐ。〔陸雲、晉豫章內史夏府君誄〕拔レ圖承レ禪、襲二化軒唐一。

【承祖】135（シヨウソ） 字號。㊀晉、孔祗(**3－6933**‥118)の字。㊁宋、藍繼宗(**9－32258**‥99)の字。

【承祚】136（シヨウソ） 晉、陳壽(**11－41698**‥337)の字。

【承租】137 ch'êng^2 tsu^1 不動產の借入使用を引受ける。

〖承租人〗138 ch'êng^2 tsu^1 jen^2 家屋土地などの借受人。

【承宗】139（シヨウソウ） 三國蜀、王嗣(**7－20823**‥466)の字。

【承續】140（シヨウゾク） うけつぐ。〔後漢書、順帝紀〕陛下踐祚、奉二遵鴻緒一、爲二郊廟主一、承二續祖宗無窮之烈一。

【承題】141（シヨウダイ） 八股文の形式の一。破題の意を承けて斷設するもので、短きは三四句、長きは五六句に至る。〔日知錄、科擧、試文格式〕下申二其意一作二四五句一、謂二之承題一。

【承當】142（シヨウタウ） ㊀あたる。あてはまる。〔佩文韻府引詩話〕東坡云、暗香疏影句、杏與二桃李一、安敢承當。㊁になひ持つ。引き受ける。擔任。〔朱子全書、性理、氣質之性〕既有二天命一、須三是有二此氣一、方能承二當得此理一、若無二此氣一、則此理如何頓放。

【承道】143（シヨウダウ） 北宋の仁宗の時代、西夏の毅宗（李諒祚）の年號、福聖承道の略稱。又一に福聖とも略稱す。（1053－1056）

【承澤】144（シヨウタク） ㊀恩澤をうける。〔淮南子、脩務訓〕絕國殊俗、僻遠幽閒之處、不レ能二被レ德承レ澤。㊁寶石で飾つた扇。寶扇。〔尤射〕報以二承澤二一。〔注〕寶扇也。

【承諾】145（シヨウダク） うべなふ。承知。

【承答】146（シヨウタフ） 意をうけて其れに答へる。〔曹植、求レ通二親親一表〕承二答聖問一、拾二遺左右一。

【承知】147（シヨウチ） ㊀知遇を承ける。恩寵を蒙る。〔韻府引、蘇易簡、詩〕小子最承レ知、同輩尋改レ觀。㊁しる。心得る。知得する。〔蜀志、費詩傳〕承二知消息一、慨然永歎。㊂うけひく。うべなふ。承諾。㊃納得する。勘辨する。認容する。

【承値】148（シヨウチ） 當直する。伺候する。〔長生殿、窺浴〕派到二溫泉殿中一承値。〔琵琶記、琴訴二荷池一〕承二値書房一。

【承胄】149（シヨウチウ） 唐、李嗣眞(**6－14459**‥1340)の字。

【承聽】150（シヨウチヤウ） うけがひ從ふ。言ふ所に從ふ。〔禮、樂記〕德煇動二於內一、而民莫レ不二承聽一。

【承仲】151（シヨウチユウ） 宋、傅烈(**1－939**‥135)の字。

【承注】152（シヨウチユウ） 水を承けて之を注ぐ。〔陸倕、新漏刻銘〕靈虬承注、陰蟲吐噏。

【承重】153（シヨウヂユウ） 祭祀を奉ずる重い責任を承ける。又、其の人。㊀小宗の出身者が大宗の家を繼いだ場合。〔儀禮、喪服〕爲二人後一者、傳曰、何以三年也、承レ重者、必以二尊服一服レ之、何如而可レ爲二之後一、何如而可三以爲二人後一、支子可也。㊁父を早く亡くした者が祖父の相續人となつた場合をいふ。この時は祖父母に對し、父母に對すると同樣の關係を生じ、三年の喪に服する。〔儀禮、喪服、適孫傳曰何以期也不三敢降二其適一也有二適子一者無二適孫一孫婦亦如レ之、疏〕若然長子爲レ父斬、父亦爲レ斬、適孫承レ重爲レ祖斬、祖爲レ之期。〔穀梁、昭、二十三、尹氏立二王子朝一、疏〕繼無レ承レ重、宜三擇立二其次一。〔稱謂錄、長孫、承重孫〕朱子家禮有喪主注、謂三死者長子無、則長孫承レ重者、專奉二飮奠一。㊂一般に人のあとを相續することをもいふ。〔通俗編、倫常、承重孫〕按、晉書禮志云、陳留王奉、魏氏所レ承者重、不レ得レ服二其私親一、五代史晉家人傳論亦云、爲二人後一者所レ承重、則承レ重之言、不三獨專二于祖孫一。

【承寵】154（シヨウチヨウ） 君の寵愛を受ける。めぐみを受ける。〔後漢書、袁安等傳贊〕惟德不レ忘、延世承レ寵。〔王昌齡、春宮曲〕平陽歌舞新承レ寵、簾外春寒賜二錦袍一。〔王貞白、芍藥詩〕芍藥承二春寵一、何曾羨二牡丹一。

【承塵】155（シヨウヂン） ㊀ごみやちりの落ちないやうに座所の上に設けるもの。ごみよけ。もと天子が野に出られた時、其の座所にはつた幕。後世、二階の床下の天井をいふ。天花板。〔釋名、釋牀帳〕承塵施二於上一、承二塵土一也。〔通雅、宮室〕常居上有二承塵一、今曰二仰塵一。〔禮、檀弓上〕君於レ士有レ賜レ帟。〔注〕帟、幕之小者、所二以承レ塵。〔後漢書、獨行、雷義傳〕義嘗濟二人死罪一、罪者後以二金二斤一謝レ之、義不レ受レ金、主伺二義不在一、默投二金於承塵上一。〔三輔決錄〕有レ鳩從二承塵上一、飛下二几前一。㊁鴨居の上又は敷居の下に橫にわたす木。なげし。長押。〔許渾、經二故丁補闕郊居一詩〕鵩上二承塵一纔一日、鶴歸二華表一已千年。

【承祧】156（シヨウテウ） 祖宗に奉祀すること。又、其の奉祀するもの。祧は周室の不遷の廟。〔沈約、立太子詔〕自二昔哲后一、降及二近代一、莫レ不二立レ儲樹レ嫡、守レ器承レ祧。〔韓愈、順宗實錄、三〕付レ爾以二承祧之重一、勵レ爾以二主鬯之勤一。

【承天】158（シヨウテン） ㊀天をいただく。天命を奉承する。〔易、坤〕至哉坤元、萬物資生、乃順承レ天。〔後漢書、郎顗傳〕求レ賢者、上以承レ天、下以爲レ人。㊁宮城の南面中央の門。〔唐令〕開元七年、承天等門爲二宮城門一。〔唐六典、工部、郎中員外郎、注〕神龍元年、改曰二承天門一。〔憲宗實錄〕命二工部尙書白圭董、造二承天門一。㊂唐代の舞の一。〔稱謂錄、舞、承天〕唐書、舞者二十人、分二四部一、一、景雲舞、二、慶善舞、三、破陳舞、四、承天舞。㊃山名。山西省平定縣の東。㊄府の名。明の興獻王、安陸に封ぜられ、子の世宗入つて大統を繼ぎ、安陸を改めて承天府と爲す。二州・五縣を領す。湖北省鐘祥縣治。〔讀史方輿紀要、湖廣〕安陸府、云云、明洪武九年、降爲レ州、嘉靖十年、以二潛邸在レ州、升爲二承天府一、領二州二縣五一。㊅字號。㋑五代吳、楊渥(**6－15112**‥2)の字。㋺大橋順の號。大橋訥菴(**3－5831**‥662)を見よ。㊆淸、倪象占(**1－792**‥52)の初名。

〖承天后〗159（シヨウテンコウ） 西遼の人。仁宗の妹。姓は耶律、名は普速完。仁宗歿せし時、子幼、遺詔して制を稱して國事を行ひ、崇福と改元し、承天太后と號す。後、駙馬蕭朵魯不の弟朴古只沙里と通じ、駙馬を出して之を殺す。駙馬の父斡里

刺、兵を率ゐて宮を圍み、后及び朴古只沙里を射殺す。在位十四年。

【承天寺】160 ショウテンジ 寺の名。❶湖北省江陵縣の西北。晉の永和中、建つ。〔荊州府志、江陵縣〕承天寺、在ニ府治西北一、晉永和中建、明洪武中置ニ僧綱司於內一、按、寺爲ニ晉侍中羅君章宅一、羅因三宅有ニ雙蘭生一、遂舍爲レ寺、後湘獻王建ニ摩利殿一、宋宣和中、蔡京禁ニ世俗用ニ天聖等字一、改ニ承天寺一爲ニ能仁寺一、有ニ古舍利七、唐畫羅漢十六一、有ニ大鐵鑊一。❷湖北省黃岡縣の南。宋の蘇軾に夜遊ニ承天寺一記の文がある。〔黃州府志、黃岡縣〕承天寺、古寺在ニ大雲寺前一、今廢、卽東坡乘レ月訪ニ張懷民一處、又與ニ陳季常一書云、臨皐雖レ有下一室可ニ憩從一者上、但西日可レ畏、承天極相近、門前一大舸亦可レ居。

【承天命】161 ショウテンメイ 樂府、鼓吹曲辭、吳鼓吹曲の一。吳、韋昭作。盛德の君が上にあり、王化の盛なことを謳歌したもの。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、吳鼓吹曲、承天命〕古今樂錄曰、承天命者、言下上以ニ聖德一踐レ位、道化至盛上也、當ニ漢芳樹一。〔韋昭、承天命〕承ニ天命一、於昭ニ聖德一、三精垂レ象、符靈表レ德、巨石立、九穗植、龍金ニ其鱗一、烏赤ニ其色一、輿人歌、億夫歎息、超龍升、龍ニ帝服一、窮ニ淳懿一、體ニ玄嘿一、夙興臨レ朝、勞謙日昃、易簡以崇レ仁、放ニ遠讒與レ慝、擧ニ賢才一、親ニ近有德一、均ニ田疇一、茂ニ稼穡一、審ニ法令一、定ニ品式一、考ニ功能一、明ニ黜陟一、人思ニ自盡一、唯心與レ力、家國治、王道直、思ニ我帝皇一、壽萬億、長保ニ天祿一、祚無レ極。

【承天皇帝】162 ショウテンクワウテイ 唐、李倓(**6－14459**・・568)の謚。

【承天大寶】163 ショウテンタイハウ 唐の玄宗、璽書を改めて寶書といひ、傳國の璽を改めて承天大寶といふ。〔唐書、玄宗紀〕(天寶十載正月)己亥、改ニ傳國寶一、爲ニ承天大寶一。

【承天皇太后】164 ショウテンクワウタイコウ 遼の五代景宗の皇后。聖宗の母、姓は耶律、諱は綽。幼より聰慧、景宗が崩ずるに及び幼主(後の聖宗)を擁して大政を攝る。太祖の皇后應天皇后と共に契丹史上の二大女傑とよばれた。澶淵の戰には聖宗と共に親ら戎車を御し三軍を指揮し、統和二十七年崩じた。

【承佃】165 ショウデン 土地の開墾使用を引受ける。承佃戶を見よ。

【承佃戶】166 ショウデンコ 小作人。〔大學衍義補、固ニ邦本一、蕃ニ民之生一〕其爲レ人耕佃者、則曰ニ承佃戶一。

【承傳】167 ショウデン うけつたへる。前者の爲した通りに受けつたへる。〔舊唐書、職官志三〕大凡祭祀朝會、在位者拜跪之節、皆贊導レ之、贊者承傳焉。〔宋史、禮志十五〕典儀曰、再拜、贊者承傳皆再拜。

【承統】168 ショウトウ 血すぢを受けつぐ。系統を繼ぐ。帝位を嗣ぐ。世をつぐ。〔漢書、公孫卜兒傳贊〕孝宣承レ統、纂ニ修洪業一。〔後漢書、殤帝紀〕皇帝幼冲承ニ統鴻業一。

【承鐙】169 シヤウトウ あぶみうけ。〔福惠全書、郵政部、購馬〕銀鞍高、承鐙肉厚。

【承德】170 ショウトク ❶德澤を被る。〔書、周官〕六服羣辟、罔レ不レ承レ德。〔漢書、禮樂志〕詔撫ニ成師一、武臣承レ德。❷府名。清、置く。平泉州及び灤平・豐寧・隆化の三縣を管轄す。今、熱河省承德市。〔清史稿、地理志〕直隸、承德府、領ニ州一、縣三一、灤平、平泉州、豐寧、隆化。❸縣名。㋑清、置く。滿洲遼寧省瀋陽縣。〔清史稿、地理志〕奉天、奉天府、縣八、承德。㋺民國、置く。滿洲熱河省の省會。清代、避暑山莊を建つ。熱河の勝地。商業地。❹ジョウトク 第七十三代堀河天皇の年號。(1097－1099)

【承德郎】171 ショウトクラウ 官名。金、置く。文職正七品の封階とす。元、正六品に升す。〔元史、百官志七〕文散官、四十二、云云、奉直大夫、奉訓大夫、以上從五品、承德郎、承直郎、以上正六品。

【承篤】172 ショウトク 清、梁允植(**6－14825**・・208)の字。

【承任】173 ch'êng^{2} jen^{4} 引受け。任務を引受ける。

【承認】174 ショウニン ❶承知して認諾する。みとめゆるす。認可。〔諧史〕誤斷ニ此獄一、宜乎其不ニ承認一也。❷ch'êng^{2} jen^{4} ㋑引受ける。㋺白狀する。

【承買】175 ch'êng^{2} mai^{3} 買入れを引受る。

【承賣】176 ch'êng^{2} mai^{4} 賣渡しを引受ける。

【承包】177 ch'êng^{2} pao^{1} 請負ふ。

【承芳】178 ショウハウ 字號。❶明、楊繼宗(**6－15112**・・512)の字。❷清、李紹(**6－14459**・・509)の字。

【承望】179 ショウバウ ❶うかがひ知る。〔後漢書、鮑永傳〕承ニ望風旨一、規欲レ害レ永。❷希望する。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕誰承望這卽卽世世老婆婆、著ニ鶯鶯一做ニ妹妹一拜ニ哥哥一。

【承伯】180 ショウハク 三國蜀、馬齊(**12－44572**・・352)の字。

【承乏】181 ショウバフ 人員の缺乏を受けて補ふ。適材のあるまで、自分が其の職に就く義で、官に任ずることをいふ謙遜の辭。〔左氏、成、二〕攝レ官承レ乏。〔注〕言、欲下以ニ己不敏一攝ニ承空乏一、從レ君俱還上也。〔晉書、桓溫傳〕攝レ官承レ乏。〔唐書、百官志三〕闕則殿中承レ乏。

【承範】182 ショウハン 唐、李道宗(**6－14459**・・1684)の字。

【承盤】183 ショウバン 酒だるをのせる臺。〔事物原始〕盤琖、周官司尊彝之職曰六彝、下皆有レ舟、鄭司農曰、舟乃樽下臺、若ニ今之承盤一。

【承弼】184 ショウヒツ 承順してたすける。〔書、冏命〕以旦夕承ニ弼厥辟一、出入起居、罔レ有レ不レ欽。〔徐陵、太極殿銘〕肅肅卿士、邕邕承弼。

【承稟】185 ショウヒン うける。命令を受け上に從ふ。〔後漢書、吳漢傳〕躬裨將虜掠、不ニ相承稟一。〔魏書、郭祚傳〕祚承レ稟注疏、特成ニ勤劇一。

【承擯】186 ショウヒン 上擯の承副。聘禮に、卿は上擯となつて賓を迎接し、大夫は承擯となつて之をたすける。〔禮、聘義〕卿爲ニ上賓一、大夫爲ニ承擯一。〔疏〕主レ國之卿、爲ニ上擯一、接ニ迎於賓一、大夫爲ニ承擯一者、承ニ副上擯一也。

【承扶】187 ショウフ 人體の經穴の名。〔靈樞經、脉篇、膀胱 太太陽之脉、注〕分寸歌、又從ニ臀下陰文一取、承扶居ニ於陷中主一。

【承附】188 ショウフ 迎へうけて服從すること。〔後漢書、王允傳〕允嬌レ情屈レ意、每相承附、卓亦推レ心不レ生ニ乖疑一。

【承風】189 ショウフウ 教化をうける。〔漢書、王莽傳上〕於レ是小大鄕和、承レ風從レ化、外則王公列侯、內則帷幄侍御、翕然同レ時、各竭レ所レ有。〔孔子家語、好生〕舜之爲レ君也、其政好レ生而惡レ殺、云云、是以四海承レ風。

【承服】190 ショウフク 聞き入れてしたがふ。納得する。承伏。又、罪人が其の罪におちること。〔諧史〕送レ獄鞠勘、及略不ニ承服一。

【承福】191 ショウフク ❶幸福をうける。〔漢書、宣帝紀〕海內承レ福。〔陸機、七徵〕圖畫神仙、延レ祐承レ福、懸闥高達、長廊廻屬。❷日輪の下に黃氣の現はれる瑞祥。〔晉書、天文志中〕日下有ニ黃氣一、三重若レ抱、名曰ニ承福一、人主有レ吉、喜且得レ地。

【承平】192 ショウヘイ ❶太平をつぎ受ける。太平が永くつづくこと。〔漢書、食貨志〕今累世承平、豪富吏民、訾數鉅萬。〔蜀志、秦宓傳〕此乃承平之翔步、非ニ亂世之急務一也。〔潘岳、關中詩〕夫豈無レ謀、戎士承平。❷年號。㋑北魏(元魏)南安王(余)の時。(452) ㋺ジョウヘイ 第六十一代朱雀天皇の御時。(931－938)

【承平之世】192′ ショウヘイノヨ 太平の世。〔顏氏家訓、涉務〕承平之世、不レ知レ有ニ喪亂之禍一。

【承敝】193 ショウヘイ 承弊に同じ。〔史記、高祖紀〕漢興、承レ敝易レ變。〔史記、太史公自序〕禮樂損益、律歷改易、兵權・山川・鬼神・天人之際、承レ敝通レ變作ニ八書一。〔漢書、循吏、黃霸傳〕漢家承レ敝通レ變。〔後漢書、光武紀上〕聖人承レ敝而起。

【承弊】194 ショウヘイ 國家疲弊の餘を引き受ける。衰へた世を繼ぐ。承敝。〔白虎通、三教〕或曰、三教改易、夏后氏始、高宗亦承レ弊、所ニ以不レ改レ教何、明ニ子無レ改ニ父之道一也。〔魏志、文帝紀、注〕六國力戰、強秦承レ弊。

【承辦】195 ショウベン 請負ふ。引受けてする。〔唐書、李嶠傳〕非ニ州縣承辦一不レ能レ濟、是名雖レ不レ稅、而實稅レ之。〔紅樓夢、三十三〕學生好遵レ諭承辦。

【承父】196 ショウホ 明、王叔承(**7－20823**・・1670)の字。

【承保】197 ショウホ ショウハウ ❶うけつぎたもつ。〔書、洛誥〕承ニ保乃文祖受命民、越乃光烈考武王一。〔漢書、禮樂志〕惟德之臧、建レ侯之常、承ニ保天休一、令問不レ忘。❷ジョウホウ 第七十二代白河天皇の年號。(1074－1077)

【承輔】198 ショウホ ❶上の意を承けて輔佐をする。〔書、冏命、旦夕承ニ弼厥辟一、傳〕旦夕承ニ輔其君一。〔史記、淮南衡山傳贊〕不レ務下遵ニ蕃臣職一以承中輔天子上、而專挾ニ邪僻之計一。❷宰相の稱。〔韓愈、魏

博節度觀察使沂國公先廟碑銘〕訖二其外庸一、可レ作二承輔一。〔宋史、孫洙傳〕出レ語皆成レ章、云云、士大夫共以二承輔一期レ之。

【承募】199 ch'êng^{1} mu^{4} 募集を引受ける。

【承奉】200 シヨウホウ ❶人の意をうけ事へる。承順奉仕する。〔後漢書、和帝紀〕二千石曾不二承奉一。〔晉書、慕容超載記〕入則盡レ歡承奉、出則傾レ身下レ士。❷官名。隋、文帝、置く。吏部の屬、八郎の一。文散官。〔通典、職官、文散官〕通議郎、隋置二散官一、隋文帝於二吏部一、別置二朝議・通議・朝請・朝散・給事・承奉・儒林・文林等八郎一。

【承捧】201 シヨウホウ 大切にささげもつ。〔易、歸妹、承二虛筐一也、疏〕今之無レ實、正是承二捧虛筐一。

【承孟】202 シヨウマウ 明、鄭學醇(**11**－**39647**‥327)の字。

【承命】203 シヨウメイ 命令をうけたまはる。〔左氏、昭、六〕既不レ承レ命、敢忘二大惠一。〔國語、周語中〕敬所二以承レ命也。

【承明】204 シヨウメイ ❶漢代、宮殿の名。未央宮内にある。承明殿。〔漢書、翼奉傳〕獨有二前殿曲臺漸臺宣室溫室承明一耳。❷廬の名。承明廬を見よ。〔班固、西都賦〕又有二承明金馬著作之庭一、大雅宏達。〔注〕善曰、張晏曰、承明廬在二石渠門外一。❸路寢をいふ。おもてざしきの名。〔說苑、脩文〕天子之寢奈何、云云、曰、左右之路寢、謂二之承明一、何也、曰、承二乎明堂之後一者也。〔梁元帝、去二丹陽尹荊州一詩〕驂駕乘二馹馬一、謁レ帝朝二承明一。❹亭の名。〔陸機、於二承明一作與二士龍一詩〕南歸憩二永安一、北邁頓二承明一。〔注〕銑曰、永安・承明、皆亭名。❺宮門の名。承明門を見よ。〔謝朓、齊敬皇后哀策文〕望二承明一而不レ入兮。〔注〕善曰、陸機洛陽記曰、承明門、後宮出入之門。❻北魏(元魏)の高祖孝文帝(拓跋宏)の年號。(476) ❼字號。㋑三國魏、范粲(**9**－**30834**‥39)の字。㋺三國吳、潘濬(**7**－**18236**‥51)の字。

〖承明池〗205 シヨウメイチ 翰林の異名。〔琵琶記、丹陛陳レ情〕出二入承明池一。

〖承明殿〗206 シヨウメイデン 漢代、宮殿の名。未央宮内にあり、著述する所。〔漢書、成帝紀〕博士行二飲酒禮一、有二雉蜚一集二于庭一、歷レ階升レ堂、而雊後集二諸府一、又集二承明殿一。〔三輔黃圖、三、未央宮〕未央宮、有二承明殿一、著述之所也。

〖承明門〗207 シヨウメイモン ❶宮門の名。後宮に出入するところ。〔洛陽記〕承明門、後宮出入之門、吾常怪二陳思王詩云レ謁二帝承明廬一、問二張公一、公云、魏文帝作二建始殿一、朝會皆由二承明門一。❷舊皇居紫宸殿の正面、建禮門内の門。〔內裏式、上、上卯日獻二御杖一式〕開二承明門一、先共北面立二門內檀下一。

〖承明廬〗208 シヨウメイロ 廬の名。漢代、侍從の臣の居る處。石渠閣外にある。廬は宿直所。〔漢書、嚴助傳〕於レ是拜爲二會稽太守一、數年不二聞問一、賜レ書曰、制二詔會稽太守一、君厭二承明之廬一。〔注〕張晏曰、承明廬、在二石渠閣外一、直宿所レ止曰レ廬。〔曹植、贈二白馬王彪一詩〕謁二帝承明廬一、逝將レ歸二舊疆一。〔應璩、百一詩〕問レ我何功德、三入二承明廬一。

〖承明門院〗209 シヨウメイモンヰン 源在子をいふ。後鳥羽天皇の宮人。

【承問】210 ch'êng^{2} wen^{4} 御尋ねを蒙り有難く思ふ。

【承夜】211 シヤウヤ 草の名。地錦の異名。〔本草、地錦〕釋名、地朕、地噤、夜光、承夜。

【承陽】212 シヨウヤウ 縣名。漢、置く。故城は湖南省衡陽縣の西。〔漢書、地理志下〕長沙國、縣十三、承陽。〔讀史方輿紀要、湖廣、衡州府、衡陽縣〕承陽城、漢縣、後漢曰二烝陽一、屬二零陵郡一。

【承裕】213 シヨウユウ 明、李昆(**6**－**14459**‥343)の字。

【承翼】214 シヨウヨク たすける。〔莊子、秋水〕兼二懷萬物一、其孰承翼。

【承落】215 シヨウラク 軒の雨だれを承けて導き下すために設けたとひ。承霤。晴落。漏覓。〔席上腐談〕古之承霤、以レ木爲レ之、用レ行レ水、卽今之承落。

【承攬】216 シヨウラン ❶請負ふ。引きうける。〔明律、職制、濫設官吏、纂注〕當該官吏指典選者、濫充就二吏役一等項、本人言結攬交結而承攬也。〔福惠全書、保甲部、漁埠編保〕或承二攬往來客商一者。❷ch'êng^{2} lan^{3} 請負證文。

【承吏】217 シヨウリ 長吏に奉承する下吏。〔管子、問〕官承吏無二田餼一、而徒理レ事者幾何人。〔纂詁〕承、讀如二承儐之承一、承吏、下吏、謂下奉二承長吏一者上。〔北史、庾業延傳〕鄰舊有二園池一、時果初熟、承吏送レ之、業延不レ受。

【承流】218 シヨウリウ ❶ながれを承ける。風を被る。〔史記、三王世家〕百蠻之君、靡レ不レ鄉レ風、承レ流稱レ意。〔漢書、禮樂志〕聽者無レ不二虛レ己竦レ神、說而承レ流。〔後漢書、文苑上、杜篤傳〕太宗承レ流、守レ之以レ文。〔崔駰、河南尹箴〕風化攸レ興、萬國承レ流。❷山名。安徽省涇縣の南。〔讀史方輿紀要、江南、寧國府、涇縣〕承流山、縣南四十里、有二羣峯廻環一、聳秀甲二於一邑一、自二承流一而南、峯岫盤旋百有餘里、如二城壘一然、東連二旌德一、西接二太平一、谿谷幽深、最爲二嘉勝一。

【承霤】219 シヨウリウ 檐下の雨受。あまうけ。承落。〔禮、檀弓上、池視二重霤一、注〕承霤、以レ木爲レ之、用レ行レ水。〔疏〕重霤者、屋承霤也、以レ木爲レ之、承二於屋霤一、入二此木中一、又從二木中一而霤二於地一、故謂二此木一爲二重霤一也。

【承領】220 シヨウリヤウ ❶うけとる。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕護二解銀兩一、承二領牌票一。❷ch'êng^{2} ling^{3} うけたまはる。

【承糧】221 シヨウリヤウ お上の命をうけてねんぐをだすことをいふ。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕然猶以二額外沙灘一、指爲二承糧熟地一。

【承略】222 シヨウリヤク 北周、楊荐(**6**－**15112**‥257)の字。

【承麟】223 シヨウリン 金、末帝の名。完顏承麟(**3**－**7079**‥94)を見よ。

【承淚】224 シヨウルイ 落ちる淚をうける。承淚壺を見よ。

〖承淚壺〗225 シヨウルイコ 淚を承ける壺。〔拾遺記、七、魏〕文帝所レ愛美人、姓薛、名靈芸、云云、靈芸聞レ別二父母一、歔欷累日、淚下霑レ衣、至二升レ車就レ路時一、以二玉唾壺一承レ淚、壺則紅色、既發二常山一、及レ至二京師一、壺中淚凝如レ血。

【承齡】226 シヨウレイ 清、滿洲鑲黃旗人。姓は裕瑚魯氏。字は子久。號は淨業漁人。道光の進士。官は貴州按察使。書室を大小雅堂といふ。著に大小雅堂集がある。

【承曆】228 シヨウレキ ❶曆を承ける。正朔を承繼する。皇統を承ける。〔維城典訓〕聖人者以二懿德一永承レ曆、崇高則レ天、博厚儀レ地。❷シヨウリヤク 第七十二代白河天皇の年號。(1077－1081)

【承烈】229 シヨウレツ 字號。❶南齊、明僧紹(**5**－**13805**‥665)の字。❷唐、王紹宗(**7**－**20823**‥1799)の字。

【承露】230 シヨウロ ❶幘巾。〔方言、四〕覆結、謂二之幘巾一、或謂二承露一。〔廣雅、釋器〕承露、幘巾覇結也。❷天露をうける。〔班固、西都賦〕抗二仙掌一以承レ露、擢二雙立之金莖一。〔潘岳、西征賦〕擢二仙掌一以承レ露、干二雲漢一而上至。❸承露盤をいふ。〔史記、武帝紀〕其後則又作二柏梁銅柱・承露仙人掌之屬一矣。〔曹植、又贈二丁儀王粲一詩〕員厥出二浮雲一、承露槩二泰清一。〔注〕濟曰、承露盤、以承レ露者。

〖承露池〗231 シヨウロチ 漢代、上林苑にあつた池の名。〔三秦記〕漢上林苑、有二承露池一。

〖承露囊〗232 シヨウロナウ 天露をうけるふくろ。〔唐會要、節日〕開元十七年八月五日、云云、士庶以レ絲結二承露囊一、更相問遺。

〖承露盤〗233 シヨウロバン 漢の武帝が建章宮に設けた銅製の盤の名。〔漢書、郊祀志上〕其後又作二柏梁銅柱・承露仙人掌之屬一矣。〔三輔故事〕漢武帝以レ銅作二承露盤一、高二十丈、大十圍、上有二仙人掌一、承レ露和二玉屑一、飮レ之以求レ仙。

【承和】234 シヨウワ 年號。❶南北朝時代、五胡十六國の一なる北涼の哀王(沮渠牧犍、卽ち茂虔)の年號永和の一稱。(433－439) ❷ジヨウワ 第五十四代仁明天皇の年號。(834－848)

【承滙】235 ch'êng^{2} huei^{4} 爲替送金を受ける。

【承晏墨】236 シヨウアンボク 墨の名。〔晁冲之、以二承晏墨一贈二僧法一一詩〕江南墨官有二諸奚一、老超尙不レ如二廷珪一、後來承晏復秀出、喧然父子名相齊。

【承役地】237 シヨウエキチ 便利を供與する土地。

【承香殿】238 シヨウキヤウデン 宮殿の名。舊皇居內、仁壽殿の後、常寧殿の前にあつて南面す。〔日本紀略〕天慶三年十月七日、於二承香殿一有二菊花宴一、賦レ詩詠レ歌。

【承啓堂】239 シヨウケイダウ 明、錢薇(**11**－**40563**‥183)の室名。

【承祭官】240 シヨウサイクワン 壇・廟・祠等の祭祀に派遣される主任の祭官。〔清國行政法汎論、盛京五部、

禮部〕經二太常寺一、奉請欽二奉祭官一。

【承盞盤】241 ch'êng² chan³ p'an² をしき。盃盤。

【承進司】242 シヨウシン 官名。宋代、通進司を改めていふ。〔稱謂錄、通政司、承進司〕齊東野語、本朝章憲太后之父諱、又改二通進司一爲二承進司一。

【承審員】243 ch'êng² shên⁴ yüan² 法院を設けてない地方で、人民の刑訴訟のことを司る官。

【承詔堂】244 シヨウセウダウ 宋、葉夢得(**9－31387**··271)の室名。

【承遞法】245 シヨウテイハフ 文章法の名。上句の尾を取つて下句の首とし、順次に蟬脫して遞下するもの。又、聯語・遞句・首尾聯接法ともいふ。

【承天秀】246 シヨウテンシウ 明、江陰の人。字は鍾之。正德の擧人。官は南陽同知。〔江陰縣志〕。

【承鐙肉】247 シヨウトウニク 馬の横腹のあぶみの當る部分。あぶみずり。〔倭名類聚抄、牛馬部、牛馬體、承鐙肉〕李緒相馬經云、承鐙肉欲レ垂、俗云二阿布彌須利一。

【承發房】248 シヨウハツバウ 官名。清、置く。文書の往復を掌るところ。〔清國行政法汎論、地方官廳、胥吏〕有二承發房・抄稿房一、一則掌二文書往復一、一則掌二文書保管一。

【承發吏】249 シヨウハツリ ❶清代、州縣衙門又は武衙門で往來文書の受付發送を司る吏。〔清會典事例、吏部、書吏、經制額缺〕南廳承發供事八人、北廳承發供事八人。❷ch'êng² fa¹ li⁴ 區地方裁判所で文書の發送を司る吏。

【承務郞】250 シヨウムラウ 官名。❶隋代、郞官の一。郞中を改め稱す。〔隋書、百官志下〕又每レ減二一郞一置二承務郞一人一、同二員外郞之職一。〔稱謂錄、員外郞古稱、承務郞〕隋唐之尙書承務郞、卽今員外郞也、見二叩鉢齋官職攷一。❷宋代、校書正字將作監簿を改稱していふ。〔玉海、官制、官名、元豐新定官制〕校書正字將作監簿爲二承務郞一。

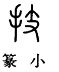
【承筐書塾】251 シヨウキヤウシヨジユク 清、何焯(**1－511**··100)の室名。

【承票差役】252 シヨウヘウサヤク かきつけをうけとるやくにん。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕凡承票差役、俱于二某日一該承行。

【汞】11853 シヨウ 承(**5－11852**)の俗字。〔正字通〕汞、俗承字。

【扨】11854 イン 引(**4－9699**)に同じ。〔韻會〕扨、引古作レ扨。〔正字通〕扨、俗引字。

【技】11855 ㊀ギ キ 〔集韻〕巨綺切 紙 ㊁ギ キ 〔字彙〕奇寄切 ㄐㄧˋ chi⁴ 寘 ㊂ギ キ 〔集韻〕翹移切 支



小篆

㊀㊁❶**たくみ**。〔說文〕技、巧也、从レ手支聲。❷**わざ**。はたらき。〔廣韻〕技、藝也。〔書、秦誓〕斷斷猗無二他技一、其心休休焉、其如レ有レ容。〔傳〕雖レ無二他技藝一、其心休休焉。〔荀子、勸學〕梧鼠五技而窮。〔注〕技、才能也。❸**ちから**。〔荀子、議兵〕齊人隆二技擊一。〔注〕技、材力也、齊人以二勇力一擊二斬敵一者、號爲二技擊一。❹**方術**。〔字彙〕技、方術也。〔後漢書、桓譚傳、伎數之人、注〕伎、謂二方伎一、醫方之家也。❺**工人**。〔荀子、富國〕故百技所レ成、所三以養二一人一也。〔注〕技、工也。❻**わざをぎ**。〔梁昭明太子、七契〕邊隴才童、邯鄲妙技。❼**ただしくない**。〔莊子、在宥〕是相二於技一也。〔釋文〕技、其綺反、李音岐、崔同、云レ不レ端也。❽通じて伎(**1－436**)に作る。〔集韻〕技、通作レ伎。㊂**ただしくない**。㊀の❼に同じ。〔集韻〕技、不レ端也。

名乘 アヤ。

參考 技(**5－11856**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕技、音扑、打也。技、技藝。

【技巧】1 ギカウ ❶細工。たくみな手わざ。農事に對する工藝。伎巧。〔韓非子、外儲說左上〕不レ得レ施二其技巧一、故屋壞弓折。〔六韜、文韜、上賢〕七害者、云云、六曰、爲二雕文刻鏤技巧華飾一、而傷二農事一、王者必禁。〔商子、外內〕末事不レ禁、則技巧之人利。〔鬼谷子、捭闔〕校二其技巧短長一。〔注〕技巧、謂二百工之役一也。〔史記、貨殖傳〕太公勸二其女功一、極二技巧一。〔說苑、反質〕上不レ禁二技巧一、則國貧民侈。❷武技をいふ。劍術・射法・蹴鞠の類。〔漢書、藝文志〕技巧者、習二手足一、便二器械一、積二機關一、以立二攻守之勝一者也。

【技樂】2 ギガク 樂器をあやつるもの。わざをぎの類。〔賈子新書、春秋〕楚王欲レ淫二鄒君一、乃遺二之技樂美女四人一。

【技監】3 ギカン 官名。舊制で技師の上にあつて技術に關する一切の事務を監督するもの。

【技窮】4 ギキハマル 方法がゆきつまる。やりかたがなくなる。〔續通鑑綱目、十四〕金人技窮矣。

【技係】5 ギケイ 技術の爲に心の繫がれること。又、小技術を事とする人。〔莊子、應帝王〕老聃曰、是於二聖人一也、胥易技係、勞レ形怵レ心者也。〔疏〕技術工巧、神慮劬勞、故形容變改、係累、故心靈怵惕也。〔集釋〕技係、若二王制凡執レ技以事レ上者、不レ貳レ事、不レ移レ官、謂レ爲二技所レ繫也。

【技埶】6 ギゲイ 技藝に同じ。〔張衡、思玄賦〕辯二貞亮一以爲レ鞶兮、雜二技埶一以爲レ珩。

【技藝】7 ギゲイ てわざ。技術。〔戰國、趙策〕異敏技藝之所レ試也、遠方之所二觀赴一也。〔荀子、君道〕其於二百官之事、技藝之人一也、不レ與レ之爭レ能、而致三善用二其功一。〔管子、任法〕奇術技藝之人、莫下敢高言孟行、以過二其情一、以遇中其主上矣。〔商子、農戰〕要靡事二商賈一、爲二技藝一。

【技擊】8 ギゲキ ❶擊刺の術。擊劍。又、武技に長ずるもの。〔荀子、議兵〕齊人隆二技擊一。〔注〕技、材力也、齊人以二勇力一擊二斬敵一者、號爲二技擊一。〔漢書、刑法志〕齊愍以二技擊一彊、魏惠以二武卒一奮、秦昭以二銳士一勝。〔注〕孟康曰、兵家之技巧、技巧者、習二手足一、便二器械一、積二機關一、以立二攻守之勝一。〔唐書、宗室、淮陽壯王道玄傳〕睢陽壯王道玄、性謹厚習二技擊一、然進止都雅。❷ch'i⁴ chi¹ 拳法、卽ち柔術。

【技工】9 ギコウ 技巧に同じ。

【技佐】10 ギサ 官名。技士に次ぐもの。

【技士】11 ギシ 官名。技正(17)の副。

【技師】12 ギシ 舊制で專門の技術を以て奉職する官吏、又は會社員の資格。技師を分けて農業技師・工業技師・鑛業技師の三種とする。一定の資格があつて、登記を經る。

【技手】13 ギシユ 舊制で技師の下に屬する下役。師・手の音がまぎらはしい故、俗にギテと呼ぶ。

【技術】14 ギジユツ ❶てわざ。方術。藝術。〔史記、貨殖傳〕醫方諸食二技術一之人、焦レ神極レ能、爲レ重レ糈也。〔漢書、藝文志〕漢興有二倉公一、今其技術晻昧。〔晉書、張亢傳〕亢才藻不レ及二二昆一、亦有二屬綴一、又解二音樂技術一。❷男子を翻弄する手練。〔列女傳、孼嬖、陳女夏姬傳〕其狀美好無レ匹、內挾二技術一。❸㋑理論を實際に應用する手段。㋺自然を人間生活に都合のよいやうに改變加工する手段。

【技術家】15 ギジユツカ 技術を業とする人。又、技術に長けた人。

【技術隊】16 ギジユツタイ 舊軍制で工兵隊・鐵道隊・電信隊の總稱。

【技正】17 ギセイ 官名。技師。民國、中央各部及び各省に置く。技術の事務を掌る。專門の智識、特別の技能ある者を之に任じた。其の下に技士と技佐とを並び設けた。

【技道】18 ギダウ 技術。方術。藝術。醫道。〔蜀志、郤正傳、注〕淮南子曰、楚將子發、好求二技道之士一。〔馮璧、送二醫者一詩〕技道精微仍遠引、就非二輕擧一亦幾仙。

【技能】19 ギノウ はたらき。うでまへ。才能。伎能。〔韓非子、功名〕明君之所二以立レ功成レ名者四、一曰天時、二曰人心、三曰技能、四曰勢位。〔管子、形勢解〕度二量其力一、審二其技能一。〔韓愈、送二高閑上人一序〕浮屠人善レ幻多二技能一。

【技癢】20 ギヤウ 技藝を懷いて施すこと能はず、他人の行ふを見て、心中もどかしく感ずること。伎癢。技痒。〔通俗編、藝術、技癢〕風俗通、高漸離變二姓名一、傭二保于人一、聞二堂上擊レ筑、技癢不レ

能レ無レ出レ言。〔梁簡文帝、答二湘東王一書〕有レ慚二技癢一、更同二故態一。〔嬾眞子、五〕技癢者、謂下人有二技藝一、不レ能二自忍一、如中人之癢上也。〔書言故事、評論類〕有レ能欲レ逞曰二技癢一。

【技癢錄】21 ギヤウロク 書名。二卷。南部彝著。漢文の隨筆で、中國の經史・詩文等から會心の事項を引いて、所見を加へ、又は自己の感想を述ぶ。醫道に關するものが多い。

〔不レ堪二技癢一〕22 ギヤウニタヘズ 技癢に堪へない。技癢を見よ。

【技勇】23 ギユウ 技術と勇氣。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕技勇超優、才猷敏練者。

【技用】24 ギヨウ 技術。てわざ。〔司馬法、天子之義〕上使レ民不レ得二其義一、云云、技用不レ得二其利一。

【技倆】25 ギリヤウ うでまへ。はたらき。伎倆(1−436‥23)に同じ。〔日本政記、正親町天皇〕輝虎遺二書信長一曰、云云、未レ識二北人技倆一耳。

【技和】26 ギワ 雜劇の幕切れ。〔都城紀勝〕瓦舍衆伎雜扮、或名二雜旺一、又名二紐元子一、又名二技和一、乃雜劇之散段。

【施レ技】27 ギヲホドコス わざをほどこす。〔海錄碎事、鳥獸、漁釣〕玄洲因二水勢一而施レ技。

【尙レ技而賤レ車】28 ギヲタフトビテクルマヲイヤシム 技藝を尙んで、車服を賞賜するに吝でない。〔禮、坊記〕貴レ人而賤レ祿、則民興レ讓、尙レ技而賤レ車、則民興レ藝。〔注〕言、人君貴二尙賢者能者一、而不レ吝三於班レ祿賜二車服一、則讓道興。

【技】11856

ハク 〔集韻〕匹角切 覺

❶うつ。擈(5−12930)に同じ。〔集韻〕擈、博雅、擊也。或作レ技。❷つゑ。攴(5−13061)の俗字。〔正字通〕技、俗攴字。

參考 技(5−11855)は別字。〔字彙、辨似、二字相以〕技、音扑、打也。技、技藝。

【拌】11857

一 ハウ バウ 〔集韻〕部項切 講
二 ホウ ブ 〔集韻〕符容切 冬
三 ホウ ブ 〔集韻〕撫勇切 腫

一❶うつ。〔集韻〕拌、打也。❷むすぶ。すくふ。〔字彙〕拌、掬也。二ささげる。捀(5−12120)に同じ。〔集韻〕捀、奉也、或省。三むすぶ。捧(5−12189)に同じ。〔集韻〕捧、掬也、或作レ拌。

【抗】11858

一 エン 〔集韻〕以轉切 銑
二 ヰ ユイ 〔集韻〕愈水切 紙
三 セン 〔集韻〕粗兗切 銑
四 エン 〔集韻〕兪絹切 霰
五 エイ 〔集韻〕兪芮切 霽

一❶うごく。揣抗。〔廣雅、釋詁一〕揣・抗、動也。〔疏證〕揣抗者、揣音喘、抗音弋選反、釋訓云、揣抗、搖捎也、揣抗之轉爲二喘耎一、莊子胠篋篇、喘耎之蟲、崔譔注云、動蟲也、荀子勸學篇、端而言、蝡而動、臣道篇、作二喘而言、臑而動一、喘耎・端蝡・喘臑、古字通用、皆謂二動貌一也。〔集韻〕抗、動也。❷はかる。〔集韻〕抗、揣也。❸或は挽(5−12393)に作る。〔集韻〕抗、或从レ兗。二❶はかる。一の❷に同じ。〔集韻〕抗、揣也。❷うごく。一の❶に同じ。〔集韻〕抗、動也。三はかる。一の❷に同じ。〔集韻〕抗、揣也。四うごく。一の❶に同じ。〔集韻〕抗、動也、老子、揣而抗レ之。五うごく。一の❶に同じ。或は挩(5−12083)に作る。〔集韻〕抗、博雅、動也、或从レ兌。

【抂】11859

キヤウ グワウ 〔集韻〕渠王切 陽

❶みだれるさま。抂攘。〔集韻〕抂、抂攘、亂皃。❷狂(5−11859)の譌字。〔正字通〕抂、狂字之譌。

【抃】11860

一 ヘン ベン 〔集韻〕皮變切 霰 ㄅㄧㄢˋ pien^4
二 ハン ホン 〔集韻〕方煩切 元

一❶手をうつ。拍手して調子をとる。拚(5−11966)に同じ。〔集韻〕拚、說文、拊レ手也、或从レ卞。〔呂覽、古樂〕帝嚳乃令二人抃一。〔注〕兩手相擊曰レ抃。〔晉書、后妃上、左貴嬪傳〕坤神抃儛。❷手でうつ。〔張衡、思玄賦〕鼇雖レ抃而不レ傾。〔注〕衡曰、抃、手搏也。❸はげしい。畚(11−39827)に通ず。〔說文通訓定聲〕拚亦作レ抃、叚借爲レ畚、荀子王制、抃急禁悍、按、嚴厲疾惡之意。二まふさま。又、相從ふさま。犿(7−20279)に同じ。〔集韻〕犿、連犿、宛轉皃、一曰、相從皃、或作レ抃。

【抃悅】1 ベンエツ 手をうってよろこぶ。〔鮑照、征北世子誕育上疏〕凡在二氓隷一、莫レ不二抃悅一。〔盧肇、漢隄詩〕來視二襄人一、噢咻提挈、不レ日不レ月、咍乎抃悅。

【抃賀】2 ベンガ よろこびいはふ。欣抃慶賀。〔王禹偁、南郊大禮詩〕抃賀歡呼動二四溟一。

【抃牛】3 ベンギウ 牛を手うちにする。勇氣のある喩。〔法言、淵騫〕秦悼武・烏獲・任鄙、扛レ鼎抃レ牛。

【抃會】4 ベンクワイ 會合して手をうつてよろこび合ふ。〔白居易、與二劉蘇州一書〕又覆二視書中一、有二攘レ臂痛レ拳之戲一、笑與抃會、甚樂甚樂。

【抃愜】5 ベンケフ よろこび滿足すること。〔宋祁、賀三呂相公兼二樞密一啓〕多方抃愜。

【抃射】6 ベンシヤ 手をうつて舞ひ、弓を射て勝負すること。〔左思、吳都賦〕翹レ關扛レ鼎、抃射壺博。

【抃掌】7 ベンシヤウ 抃手に同じ。

【抃手】8 ベンシユ 手をうつてよろこぶ。〔鮑照、謝三永安令解二禁止一啓〕洗レ膽明レ目、抃二手太平一。

【抃笑】9 ベンセウ 手をうつてわらふ。〔文心雕龍、諧讔〕豈爲二童稚之戲謔、搏レ髀而抃笑一哉。

【抃舞】10 ベンブ 手をうつてよろこびまふ。抃踊。〔列子、湯問〕一里老幼、喜躍抃舞、弗レ能二自禁一。〔魏志、文帝紀、注〕能言之倫、莫レ不二抃舞一。〔晉書、樂志下〕神龜抃舞、背負二靈嶽一。〔潘岳、藉田賦〕莫レ不下抃二舞乎康衢一、謳中吟乎聖世上。

【抃躍】11 ベンヤク 抃踊に同じ。〔江淹、蕭驃騎讓二太尉增封一第二表〕雖レ蹈二疵戾一、猶深抃躍。〔李嶠、爲二納言姚璹等一賀レ雪表〕抃躍之情、實百恒品。〔韓愈、爲二宰相一賀二白龜一狀〕臣等謬列二台衡一、親觀二嘉瑞一、無レ任二抃躍之至一。

【抃踊】12 ベンヨウ 手をうつてよろこびをどる。歡欣踴躍。〔南史、宋高祖武帝紀〕億兆抃踊、傾佇惟新。

【抃瓦盇珠】13 ベングワカフシユ 瓦のかけらや小石を投げて遊ぶ子供の遊戲。盇は、くだけこはれる。〔酉陽雜俎、恠術〕寺中大齋會、人衆數千、術士忽曰、余有二一伎一、可レ代二抃瓦盇珠之懽一也。

【抃風儛潤】14 ベンプウブジユン 燕が風に乘じて飛び、商羊(鳥の名)が雨に舞ふこと。契合の喩。雲從レ龍風從レ虎と同意。〔宋書、孔覬傳〕故得二抃レ風儛潤、憑附彌レ年。

【托】11861

バウ モウ 〔集韻〕莫報切 號

えらぶ。毛(6−16772)に同じ。〔集韻〕毛、擇也、或从レ手。

【抋】11862

シヨウ 忪(4−10369)の譌字。〔正字通〕抋、忪字之譌。

【抄】11863

㈠サウ セウ 〔集韻〕初交切 ㄔㄠ‑ ch'ao¹ 肴
㈡サウ セウ 〔集韻〕楚絞切 巧
㈢サウ セウ 〔集韻〕楚教切 效
㈣サ 〔集韻〕桑何切 歌

㈠❶**かすめる**。鈔(**11－40227**)に同じ。〔集韻〕鈔、說文、叉取也、或作レ抄。〔類篇〕抄、掠也。〔後漢書、郭伋傳〕匈奴數抄二郡界一。〔魏志、太祖紀、注〕抄二略諸郡一。❷**すくひとる**。〔正字通〕抄、以レ匕抄二取粒物一也。〔杜甫、與二鄠縣源大少府一宴二渼陂一詩〕飯抄雲子白、爪嚼水精寒。〔朝野僉載〕以レ匙抄レ之、須臾卽竭。❸**うつす**。文書をうつしとる。〔增韻〕抄、謄寫也。〔晉書、紀瞻傳〕好二讀書一、或手自抄寫。〔唐書、柳仲郢傳〕仲郢嘗手二抄六經一。❹**ぬきがきする**。**又、ぬきがき**。〔類篇〕抄、寫錄之目也。〔南史、王僧孺傳〕百家譜集抄十五卷・東南賦集抄十卷。❺**すく**。紙をすき造る。〔天工開物、中、殺青、造二竹紙一〕凡抄紙槽。❻**容量の單位**。一勺の十分の一。〔孫子、算經〕六粟爲二一圭一、十圭爲二一撮一、十撮爲二一抄一、十抄爲二一勺一、十勺爲二一合一。❼**姓**。〔萬姓統譜〕抄思、歸善人、永樂擧人。❽現㋑つかむ。執る。㋺差し押へる。㋩つたふ。廊下などをつたつて行く。㋥升の千分の一。㈡**かすめる**。〔集韻〕抄、掠也。㈢❶**かすめとる**。〔集韻〕抄、略取也。❷或は鈔(**11－40227**)・勦(**2－2426**)・剿(**2－2165**)に作る。〔集韻〕抄、或从レ金、亦作二勦・剿一。㈣**する**。もむ。挱(**5－12095**)に同じ。〔集韻〕抄、摩抄也、亦省。邦**解釋書**。注釋書。〔吾園隨筆、後編、一〕本邦古書、名二某抄一者甚多、余嘗怪レ之、偶閱二麒麟抄一、有レ言曰、抄者、私義也、聖人之釋曰レ經、菩薩之作曰レ抄、抄非二謄寫之義一、又非二略取之義一、蓋僧家著述、以レ此爲レ名、而俗人倣レ之也、本朝世諺俗諺則曰、抄者、略也、注釋之書、力省二繁文一以示二大意一、故謂二之抄一。

【抄案】1 ch'ao¹ an⁴ 事件の證據を書き留める。書留めた公案。

【抄音】2 ch'ao¹ yin¹ 音を寫す。

【抄家】3 ch'ao¹ chia⁴ 家產を沒收する。

【抄解】4 セウカイ 詩文などを拔出して解釋すること。又、其のもの。

【抄交】5 ch'ao¹ chiao¹ ❶書き寫して交付する。❷生繭買入後一切の費用を繭行で請負ふ方法をいふ。江蘇省嵊縣地方の方言。

【抄稿】6 ch'ao¹ kao³ 原稿を淨寫する。

【抄局】7 ch'ao¹ chü² 賭博場を檢擧する。

【抄化】8 セウクワ 勸化する。〔琵琶記、乞丐尋レ夫〕沿途抄化將去。〔福惠全書、庶政部、禁二婦女燒レ香一〕不レ許下擅入二人家一抄化上、穩婆除二收生一外、不レ許二托レ故重來一。

【抄擊】9 セウゲキ おそひうつ。〔後漢書、鮮卑傳〕出レ塞抄二擊鮮卑一、大斬獲而還。

【抄件】10 ch'ao¹ chien⁴ 文書の寫。謄本。

【抄莊】11 ch'ao¹ chuang¹ 卸賣店。

【抄搶】12 セウサウ 奪ふ。掠奪する。〔福惠全書、刑名部、人命上、禁二抄搶一〕原無下許二屍親統レ衆抄搶一之例上。〔六部成語、刑部、抄搶、注解〕抄掠搶奪也。〔六部成語、兵部、抄搶、注解〕強賊惡兵、闖二入民舍一、把二民人財物一、盡數搶奪去了。

【抄錯】13 ch'ao¹ tsu'o⁴ 寫し誤る。

【抄扎】14 ch'ao¹ cha¹ とりあげる。沒收する。〔水滸傳、二十二回〕犯罪責、輕則刺配遠惡軍州、重則抄扎家產、結果了殘生性命。

【抄撮】15 セウサツ ❶一すくひ。一つまみ。ごく僅かな喩。〔劉子新論、從化〕鈞石雖レ平、不レ能レ無二抄撮之較一。❷抄本。〔劉向別錄〕鐸椒作二抄撮八卷一、授二虞卿一、虞卿作二抄撮九卷一、授二荀卿一。〔薛季宣、貴游行〕抄撮語麗文雕レ蟲、繪爲レ繡句欺二南宮一。

【抄示】16 ch'ao¹ shih⁴ 書き寫した告示。

【抄思】17 シセウ 元、乃蠻部の人。又、答祿と號す。金と戰つて捷ち、萬戶を受け、潁を鎭す。〔元史、一百二十一〕。

【抄紙】18 ch'ao¹ chih³ 紙をすく。抄紙槽を見よ。

【抄紙槽】19 セウシサウ 紙漉ふね。紙をすく槽。〔天工開物、中、殺青、造二竹紙一〕凡抄紙槽、上合二方斗一、尺寸濶狹、槽視レ簾、簾視レ紙。

【抄紙作】20 ch'ao¹ chih³ tsuo⁴ 紙すき工場。

【抄紙作坊】21 ch'ao¹ chih³ tsuo⁴ fang² 抄紙作に同じ。

【抄兒】22 セウジ 元、陽武の人。姓は別速氏。太祖に從つて、戰功をたて、金を征し、陣中に歿した。〔元史、一百二十三〕。

【抄集】23 セウシフ 書きぬいて寄せあつめる。又、其の書類。抄聚。〔魏志、武帝紀、注〕抄二集諸家兵法一。

【抄襲】24 ch'ao¹ hsi² ❶敵の備へないのに乘じてひそかに攻め入る。❷古人の詩文を剽竊して己の作とする。

【抄寫】25 セウシャ ❶ぬきがきする。鈔寫。抄錄。〔事文類聚〕梁袁峻抄寫、日課五十紙。❷ch'ao¹ hsieh³ 寫し取る。

【抄狀】26 ch'ao¹ chuang⁴ 證文をうつす。

【抄手】27 ch'ao¹ shou³ ❶腕を組む。❷着手する。❸手ぬくめ。マツフ。muff

【抄出】28 セウシュツ ぬきだす。〔明律、吏律、職制、選用軍職、纂注〕如遇二員缺一、本衙門必須下具レ本奏聞、抄二出兵部推補一、取二自上裁一選用上、不レ得二專擅一也。

【抄胥】29 ch'ao¹ hsü¹ かきやく。書記。鈔胥。

【抄書】30 セウショ 書物をぬきがきする。又、其の書物。〔南史、王筠傳〕其自序云、余好二抄書一、老而彌篤、雖二偶見瞥觀一、皆卽疏記。

【抄竊】31 セウセツ かすめぬすむ。鈔竊。〔長生殿、偵報〕魆地裏思二抄竊一。

【抄摺】32 ch'ao¹ chê² 奏上文の寫。

【抄盜】33 セウタウ かすめぬすむ。鈔盜。〔後漢書、烏桓傳〕皆自亡畔、還爲二抄盜一。

【抄道】34 ch'ao¹ tao⁴ 近道。

【抄敓】35 セウタツ かすめうばふ。抄奪。〔南齊書、張敬兒傳〕百姓旣相抄敓。

【抄奪】36 セウダツ かすめうばふ。鈔奪。〔後漢書、劉虞傳〕瓚數抄二奪之一、積不レ能レ禁。

【抄單】37 セウタン 書付をうつす。〔福惠全書、刑名部、詞訟、批閱〕內衙管二詞狀一人、抄レ單發二該吏一、幷二准過詞狀一卽日寫レ示、入二僉套一送僉。

【抄呈】38 ch'ao¹ ch'êng² 文書の寫を上級官廳へ呈出する。

【抄掇】39 セウテツ うつしとる。ぬきがきする。抄寫。鈔掇。〔南史、陸杲傳〕罩與二羣臣一、並抄掇區分者數歲。

【抄佔】40 ch'ao¹ chan⁴ 沒收する。

【抄電】41 ch'ao¹ tien⁴ 查閱に供するために寫を提出する。

【抄賭】42 ch'ao¹ tu³ 賭博場を檢擧する。抄局(7)に同じ。

【抄謄】43 セウトウ うつす。〔福惠全書、莅任部、馭衙役〕稿案之抄謄亦錯。

【抄謄送閱】44 セウトウソウエツ うつして檢閱に差送る。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕抄謄送閱。

【抄讀】45 セウドク ぬきよみすること。〔王炎、答二黃一翁一詩〕力レ學追二古人一、經史費二抄讀一。

【抄暴】46 セウバウ むりにかすめる。鈔暴。〔後漢書、西羌傳〕更相抄暴、以レ力爲レ雄。

【抄白】47 ch'ao¹ pai² 文章のうつし。〔水滸傳、七十九回〕高大尉先討抄白、備照觀看。

【抄發】48 ch'ao¹ fa¹ 文書の寫を下級官廳へ發送する。寫を交付する。

【抄辦】49 ch'ao¹ pan⁴ 檢擧する。取押へる。

【抄捕】50 ch'ao¹ pu³ つかむ。取押へる。

【抄奉】51 ch'ao¹ fêng⁴ 書き寫して送る。

【抄沒】52 セウボツ 財產を官に沒收する。〔明律、倉庫、隱瞞入二官家屋一〕凡抄二沒人口財產一、除三謀反、謀叛及姦黨係在二十惡一、依レ律抄沒、其餘有下犯レ律不二該載一者上、妻子財產、不レ在二抄沒入官之限一、違者依レ故入二人流罪一論。

【抄本】53 セウホン ❶或る書からぬきだすこと。又、其のもの。鈔本。抄本書を見よ。❷法令の發布を知らす方法。公文の要領を摘寫して報道するもの。〔清國行政法汎論、成文法之公布〕公文之宣布、除二京報一外、別有二二種方法一、一曰抄本、一曰

長本、抄本者、係㆓官文書手寫㆒、卽爲㆓半官半私之事業㆒。㊁ch'ao¹ pen 寫した本。寫本。

〔抄本書〕54（セウホンショ） ㊀拔き書きした書。〔巖棲幽事〕抄本書如㆓古帖㆒、不㆓必全帙㆒、皆是斷璧殘珪。㊁抄本(53)の㊁に同じ。

【抄物】55（セウモチ・セウモツ） ㊀全卷中の所々を書き拔いて拵へた本。㊁寫した本。寫本。㊂室町時代、漢籍の國字解をいふ。

【抄譯】56（セウヤク） 原文の所々をぬいて飜譯すること。又、其のもの。

【抄掠】57（セウリヤク） 抄略に同じ。〔後漢書、宋意傳〕正鮮卑侵㆓伐匈奴㆒、是利㆓其抄掠㆒。

【抄略】58（セウリヤク） かすめとる。暴力を以て奪ふ。鈔略。掠奪。抄掠。〔魏志、武帝紀、注〕破㆓太原・河內㆒、抄㆓略諸郡㆒、爲㆑寇。

【抄錄】59（セウロク） ぬきがきする。〔王筠、自序〕子史諸集皆一編、未㆓嘗倩㆑人假㆑手、並躬自抄錄、大小百餘卷。

【抄近兒】60 ch'ao¹ chin⁴ êrh 近道をする。

【抄錢用】61 ch'ao¹ ch'ien² yung⁴ 金を遣ひ込む。金を費消する。

【抄總說】62 ch'ao¹ tsung³ shuo¹ 手短かにいふ。かいつまんでいふ。

【抄着走】63 ch'ao¹ chê tsou³ 近道をする。

【抄不來】64 ch'ao¹ pu lai² うつされない。拔き書きが出來ない。

【抄封租】65 ch'ao¹ fêng¹ tsu¹ 人民の財産權のうち租權を沒收すること。

【抄着近走】66 ch'ao¹ chê chin⁴ tsou³ 近道をする。

【抴】11864

㈠セツ・セチ 〔集韻〕子列切 屑

㈡シツ・シチ 〔集韻〕子悉切 質

㈢サフ 〔玉篇〕阻合切 合

㈠つむ。〔集韻〕抴、摘也。㈡つむ。或は擮(5-12823)に作る。〔集韻〕抴、摘也、或作㆑擮。㈢ひつさげる。俗に拽(5-11924)に作る。〔玉篇〕抴、挈也、俗作㆑拽。

【抅】11865

コウ 拘(5-11963)の俗字。〔正字通〕抅、俗拘字。

【抙】11866

㈠ハウ 〔集韻〕撫兩切 養

㈡ハウ・ヒヤウ 〔集韻〕晡橫切 庚

㈠ほのか。似る。仿(1-420)に同じ。〔集韻〕仿、說文、相似也、或作㆑抙。㈡ひく。搒(5-12474)に同じ。〔集韻〕搒、相牽也、或作㆑抙。

【抙拂】1（ハウフツ） ほのか。さもにたり。拂抙。髣髴。仿佛。彷彿。〔儀禮、既夕禮、執㆓功布㆒入升㆑自㆓西階㆒、注〕爲㆑有㆑所㆓抙拂㆒也。

【𢪃】11867

㈠クワ・ケ 〔集韻〕呼瓜切 麻

㈡クワ 〔集韻〕呼肥切 歌

㈢タ・ダ 〔集韻〕徒禾切 歌

㈠㈡㈢さく。〔集韻〕𢪃、撝也。

【抆】11868

㈠ブン・モン 〔集韻〕武粉切 吻

㈡ブン・モン 〔集韻〕文運切 問 ㄨㄣˇ wen³

㈠㊀ぬぐふ。ふく。〔廣雅、釋詁二〕抆、拭也。〔集韻〕抆、拭也。〔王褒、洞簫賦〕擊㆑涕抆㆑淚。〔注〕善曰、廣雅曰、抆、亦拭。㊁こする。みがく。〔字彙〕抆、又摩也。〔漢書、朱博傳〕抆拭用㆑禁。〔注〕師古曰、抆拭、摩也。〔唐書、李勉傳〕抆㆓飾器用車服㆒。㊂ふせぐ。こばむ。〔集韻〕抆、一曰、拒也。㊃或は捪(5-12317)に作る。〔集韻〕抆、或从㆑昬。㈡ぬぐふ。㈠の㊀に同じ。〔集韻〕抆、拭也。

【抆拭】1（ブンショク） こすりふく。〔爾雅、釋詁、抿拭刷淸也、注〕振訊抆拭埽刷、皆所㆔以爲㆓絜淸㆒。〔漢書、朱博傳〕馮翊欲㆘洒㆓鄕恥㆒抆拭用㆖禁。〔注〕師古曰、抆拭、摩也。

【抆淚】2（ブンルイ） 淚をぬぐふ。〔楚辭、九章、悲回風〕孤子唫而抆㆑淚。〔補注〕抆、音吻、拭也。〔王褒、洞簫賦〕故聞㆓其悲聲㆒、則莫㆑不㆓愴然累欷、擊㆑涕抆㆑淚。〔注〕善曰、廣雅曰、抆、亦拭也。

【抆】11869

ブン 抆(5-11868)に同じ。〔字彙補〕抆、與㆑抆同。

【抇】11870

コツ 抇(5-11871)の譌字。〔正字通〕抇、抇字之譌。

【抇】11871

㈠コツ・ゴチ 〔集韻〕胡骨切 月

㈡コツ・コチ 〔集韻〕呼骨切 月

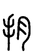
㈢ケツ・グワチ 〔韻會〕其月切 月

㈠㈡㈢㊀ほる。〔廣雅、釋言〕抇、掘也。〔荀子、堯問〕深抇㆑之而得㆓甘泉㆒焉。〔注〕抇、掘也。㊁うがつ。〔廣雅、釋詁三〕抇、穿也。㊂あばく。〔呂覽、安死〕不㆑可㆑不㆑抇。〔注〕抇、發也。㊃さく。〔廣雅、釋詁二〕抇、裂也。㊄ころがす。物をひき動かす。〔集韻〕抇、一曰、牽動。〔柳宗元、愚溪對〕掎㆓抇泥淖㆒。㊅みだす。滑(7-18032)に通ず。〔集韻〕滑、亂也、或作㆑抇。〔呂覽、本生〕人之性壽、物者抇㆑之、故不㆑得㆑壽。〔注〕抇、亂也。㊆掘(5-12264)の古字。〔列子、說符〕俄而抇㆓其谷㆒。〔注〕抇、古掘字。㊇搰(5-12511)に通ず。〔正字通〕抇、與㆑搰通。

【抈】11872

㈠ゲツ・グワチ 〔集韻〕魚厥切 月

㈡グワツ・グワチ 〔集韻〕五活切 曷



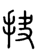
小篆

㈠㈡㊀をる。をれる。くじく。〔說文〕抈、斲也、从㆑手月聲。〔太玄經、羨〕車軸折、其衡抈。㊁うごく。うごかす。扤(5-11808)に通ず。〔說文通訓定聲〕抈、叚借爲㆑扤。〔國語、晉語二〕其置㆑本也、固矣、故不㆑可㆑抈也。〔注〕抈、動也。

【抉】11873

㈠エツ・エチ 〔集韻〕娟悅切 屑 ㄐㄩㄝˊ chüeh²

㈡ケツ・ケチ 〔集韻〕古決切 屑



小篆

㈠㈡㊀ゑぐる。〔說文〕抉、挑也、从㆑手夬聲。〔集韻〕抉、剔也。〔史記、伍子胥傳〕而抉㆓吾眼㆒。〔注〕索隱曰、抉、亦決也。㊁あばく。〔唐書、李揆傳〕構㆓抉過失㆒。㊂ほる。うがつ。窔(8-25434)に通ず。〔說文通訓定聲〕抉、叚借爲㆑窔。〔廣雅、釋詁三〕抉、穿也。〔左氏、襄、十〕郰人紇抉㆑之以出㆓門者㆒。〔疏〕抉、撅也。㊃ゆがけ。矢を挾み弦を持つために、右手の巨指につける具。夬(3-5836)に通ず。〔說文通訓定聲〕抉、叚借爲㆑夬。〔周禮、夏官、繕人〕矰弋抉拾。〔注〕抉、挾㆑矢時、所㆓以持㆑弦飾也、著㆓右手巨指㆒。㊄觖(10-35018)に通ず。〔漢書、孫寶傳〕故欲㆔擿觖以揚㆓我惡㆒。〔注〕師古曰、觖、與㆑抉同。㊅或は刔(2-1897)に作る。〔集韻〕抉、或从㆑刀。

【抉奧】1（ケツアウ） おくふかいところをあばき出す。〔國朝漢學師承記、紀昀〕其評論抉㆑奧闡㆑幽。

【抉開】2（ケツカイ） くじりあける。〔白居易、和㆓微之㆒詩

二十三首、和ニ晨霞一〕抉ニ開生盲眼一、擺ニ去煩惱塵一。

【抉眼】3 ケツガン 眼をゑぐり出す。抉目。〔戰國、韓策〕因自面皮抉レ眼屠腸、遂以死。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕吳子胥之抉レ眼兮、王子比干之橫廢。

【抉毀】4 chüeh² huei³ くじりやぶる。

【抉關】5 ケツクワン くわんのきを引きぬく。力のつよい喩。〔唐書、李國臣傳〕力能抉レ關、以ニ折衝一從ニ收魚海五城一、遷ニ中郎將一。

【抉弦】6 chüeh² hsien² 弓の弦を張る。

【抉拾】7 ケツシフ ゆがけとゆごて。決拾(6-17174··50)に同じ。〔周禮、夏官、繕人〕繕人、掌ニ王之用ニ弓弩矢箙矰弋抉拾一。〔注〕鄭司農云、抉者所ニ以縱レ弦也、拾者所ニ以引レ弦也、詩云、抉拾既次、詩家說或謂、抉謂ニ引レ弦彄一也、拾謂ニ韝扞一也、玄謂、抉、挾レ矢時、所三以持ニ弦飾一也、著ニ右手巨指一、拾謂ニ韝扞一、著ニ左臂裏一以レ韋爲レ之。

【抉出】8 chüeh² ch'u¹ くじりいだす。

【抉剔】9 ケツテキ ゑぐりだす。剔抉。〔蘇軾、寄ニ劉孝叔一詩〕爾來手實降ニ新書一、抉ニ剔根株一窮ニ脉縷一。

【抉摘】10 ケツテキ かくれたものをかかげ出す。精義をさぐり出す。〔陸龜蒙、甫里先生傳〕就中樂ニ春秋一、抉ニ摘微旨一。〔范椁、觀ニ許尊府遺墨一詩〕紛茫蜀令九霄神、抉摘郢州千首淫。〔朱子語類〕康節之學、抉ニ摘窈微一。

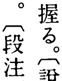
【抉目】11 ケツモク 目をゑぐり出す。抉眼。〔唐書、酷吏、來俊臣傳〕爭抉レ目擿レ肝、醢ニ其肉一。〔劉基、感懷詩〕子胥竭ニ忠諫一、抉レ目爲ニ夫差一。

【把】11874

㊀ ハ へ 〔集韻〕補下切 ㄅㄚˇ pa³·⁴ 馬

㊁ ハ べ 〔集韻〕蒲巴切 麻

㊂ ハ へ 〔正字通〕必賀切 禡


小篆

㊀❶**にぎる**。片手で握る。〔說文〕把、握也、从レ手巴聲。〔段注〕把、握也、以ニ一手一把レ之也。〔戰國、燕策〕左手把ニ其袖一。〔淮南子、繆稱訓〕無レ把ニ之枝一。〔注〕把、握也。❷**にぎり**。㋑隻手の五指と掌でかこみもつ程の大きさ。〔孟子、告子上〕拱把之桐梓。〔注〕把、以ニ一手一把レ之也。㋺とつて。つか。え。器物の把持するところ。〔史記、孟嘗君傳〕馮先生甚貧、猶有ニ一劍一耳、〔注〕集解曰、其劍把無ニ物可レ裝、以ニ小繩一纏レ之也。〔潘岳、射雉賦〕戾レ翳旋レ把。〔注〕向曰、把、柄也。❸**つか**。弓矢の長さを計るに、指四本並列の長さ。〔射經、利器、注〕十把之箭。❹**たば**。〔詩、小雅、大田、彼有ニ遺秉一、疏〕彼處有ニ遺餘之秉把一。〔杜甫、園官送レ菜詩〕清晨送ニ菜把一。〔楊萬里、南雄驛外計堂詩〕二月山城無ニ菜把一。❺**とる**。もつ。〔廣雅、釋詁三〕把、持也。〔漢書、張敞傳〕把ニ其宿負一。〔注〕師古曰、把、執持也。❻**とつて**。もつて。助詞のでに當る。〔韓愈、嘲ニ少年一詩〕直把レ春賞レ酒、都將レ命乞レ花。〔杜荀鶴、賀下顧雲與ニ子弟一奏レ官敕下時年三歲上詩〕戲把ニ藍袍一包ニ果子一、嬌將ニ竹笏一惱ニ先生一。❼**はうき**。くまで。物をかきよせ、又はかきならす具。〔釋名、釋用器〕把、播也、所三以播ニ除物一也。〔王繪、夜歸卽事詩〕繁星箏ニ村門一、爛漫如ニ箒把一。❽**云云せられる**。〔元曲、殺狗勸夫〕這明明是天賜ニ我兩個橫財一、不三取ニ了他的一、倒把ニ別人取了去一。❾現㋑守る。看る。㋺近よる。接近する。㋩占領する。㋥刀・扇などを數へる數詞に附ける語。㋭揚子江流域地方で、給と同意に用ひられる。與へる。たす。やる。㊁❶**かく**。爬(7-19662)に通ず。〔集韻〕爬、搔也、或从レ手。〔漢書、貢禹傳〕農夫捽レ草把レ土。〔風俗通、聲音、批把〕以レ手批把。❷**樂器の名**。批把。琵琶。琶(7-21081)に通ず。撥で彈く意。〔風俗通、聲音、批把〕謹按、此近世樂家所レ作、以レ手批把、因以爲レ名。❸**姓**。〔正字通〕把、又姓、本巴氏、東樓公之後、後漢靈帝時、巴康避ニ董卓難一、改ニ姓把一、西魏涼州刺史把秀、明把安。㊂❶**ゆづか**。弓の中央の手に執る所。弝(4-9734)に通ず。〔正字通〕把、弓弝之屬、手所レ握處爲レ把、別作レ弝。〔禮、曲禮上、左手承レ弣、注〕弣、把中也。〔釋文〕把、音霸。❷**刀のつか**。〔唐韻〕把、刀把。

【把握】1 ハアク ❶にぎる。又、ひとにぎり程の僅かな量。又、せまい範圍。〔國語、楚語下〕烝嘗不レ過ニ把握一。〔注〕握、長不レ出レ把者。〔淮南子、原道訓〕行而不レ可レ得ニ窮極一也、微而不レ可レ得ニ把握一也。〔王褒、四子講德論〕處ニ把握一而却ニ寥廓一。〔注〕向曰、把握、言ニ把握之狹一也。❷手を攜へる。手を握りあふ。〔子華子、神氣〕今世之人、其平居把握、附耳呫呫、相爲ニ然約一、而自保ニ其固一。❸pa³ wo⁴ ㋑みこみ。據所。㋺自由に處置する。

【把挹】2 pa³ i⁴ ❶とる。把も挹もとる意。❷「握手する。

【把穩】3 ハヲン 堅固に保持する。〔資治通鑑、晉紀、陛下將牢太過耳、注〕將牢、謂三先自固而不ニ妄動一也、猶ニ今人言ニ把穩一。

【把合】4 pa³ hoê² 把持する。

【把戲】5 ハギ 力業をし、又は刀をつかひ猿を舞はす藝を演ずる者。大道藝人。又、やりくりの意。〔元史、祭祀志六〕祥和署掌ニ雜把戲一、男女一百五十人。〔燕子箋、謀緝〕弄ニ出許多把戲一在ニ裏頭一。

〖把戲匠〗6 pa³ hsi⁴ chiang⁴ 輕業師。

【把琴】7 ハキン 琴をとる。〔任華、寄ニ杜拾遺一詩〕閑常把レ琴弄、悶卽攜レ樽起。

【把火】8 ハクワ 燈火をもつ。〔晉書、天文志上〕今試使下一人把ニ大炬火一、夜半行中於平地上、去レ人十里、火光滅矣。〔溫庭筠、夜看ニ牡丹一詩〕高低深淺一闌紅、把レ火殷勤遶ニ露叢一。

【把卷】9 ハクワン 手に本をひろげ持つ。〔杜荀鶴、入レ關因別ニ舍弟一詩〕莫レ愁寒族無ニ人薦一、但願春官把レ卷看。

【把關】10 pa³ kuan¹ 關所などの番頭。守衛頭。

【把玩】11 ハグワン 手にとつてもてあそぶ。把弄。〔陳琳、爲ニ曹洪一與ニ魏文帝一書〕讀レ之喜笑、把玩無レ厭。〔益部方物記、錦被堆贊〕花跗ニ芬侈一、叢剌ニ干梗一、不レ可ニ把玩一、艷以奸整。

【把兄】12 pa³ hsiung¹ 兄弟の盟を結んだ兄。義「兄。

〖把兄弟〗13 pa³ hsiung¹ ti⁴ 義兄弟の契を結んで兄弟となつたもの。

〖把兄把弟〗14 pa³ hsiung¹ pa³ ti⁴ 兄弟分の契りをした者。義兄弟。

【把晤】15 pa³ wu⁴ 互に手を執つて親しく語る。面會する。

【把笏】16 ハコツ 笏をもつこと。古、職事官にのみ限られたが、養老二年、散事官に及び、同三年、神祇官の宮主に許され、天平神護以後、神職にも及ぼさる。〔大神宮諸雜事記、一〕天平神護二年七月十一日格云、右大臣宣、奉レ敕天照坐伊勢皇大神宮禰宜、自今以後、應レ令レ把レ笏也者。

【把細】17 pa³ hsi⁴ 念を入れる。

【把搔】18 ハサウ かく。把は爬。〔嵇康、與ニ山巨源一絕交書〕性復多レ蝨、把搔無レ已。

【把作】19 pa³ tsuo⁴ 工人頭。親方。組頭。

【把撮】20 ハサツ かきあつめる。〔韻府引、應瑒、詩〕貧子語ニ窮兒一、無三錢可ニ把撮一。

【把琖】21 ハサン 酒杯をとる。把酒。把盞。

【把盞】22 ハサン ❶杯をとる。把酒。把琖。〔琵琶記、春宴ニ杏園一〕左右看レ酒來、待ニ下官把レ盞。❷南夷の風習で、酒を飲む場合、先づ之を酌んで祭ること。祭酒。〔升庵外集〕南中夷人有ニ酋長一、羣夷有レ酒、必先酌レ之、謂ニ之把盞一、亦猶ニ中國之祭酒一也。

【把⿰角戔】23 ハサン 把盞・把琖に同じ。〔韓愈、祭ニ張員外一文〕把レ⿰角戔相飮。

【把醆】23′ ハサン 把盞・把⿰角戔に同じ。〔羅隱、雪中懷ニ友人一詩〕所レ思誰把レ醆、端坐恨レ無レ航。

【把子】24 シハ ❶まと。〔射經〕的箭候、世俗通呼爲ニ把子一。❷pa³ tzŭ ㋑熊手。㋺力業・力技の練習。㋩駱駝十頭を一把子といふ。

【把師】25 pa³ shih¹ 把勢(34)の❷に同じ。

【把兒】26 pa^4 êrh ㊀柄。手。㊁一把兒は一にぎり。㊂高坏のいとぞこ。

【把袖】27 ハシウ そでをとる。〔史記、刺客、荊軻傳〕左手把二其袖一、右手揕二其匈一。

【把式】28 pa^3 shih^4 把勢(34)㊁に同じ。

【把手】29 ハシユ ㊀手を握る。親しみを表はす意。〔說苑、善說〕楚大夫莊辛過而說レ之、遂造託而拜謁起立曰、能願把二君之手一其可乎、襄成君忿作レ色而不レ言。〔夏侯湛、夏侯稱二夏侯榮一敍〕太祖把二其手一喜曰、我得レ汝矣。㊁pa^4 shou^3 器物のとつて。斧などの柄。ハンドル。

【把守】30 ハシユ 守る。守備する。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕把二守大門一。

【把酒】31 ハシユ ㊀酒杯をとる。把琖。把盞。〔孟浩然、過二故人莊一詩〕開レ筵面二場圃一、把レ酒話二桑麻一。㊁把盞(22)の㊁に同じ。〔丹鉛總錄〕南夷有二酋長一、羣夷有レ酒、必先酌レ之、謂二之把酒一。

【把色】32 ハシヨク 宋劇脚色の一。曲破・斷送を吹くもの。囃方。〔夢粱錄、妓樂〕先吹二曲破斷送一、謂二之把色一。

【把刃】33 ハジン やいばを握る。〔論衡、論死〕凡人與レ物所二以能害一レ人者、手臂把刃、爪牙堅利之故也。

【把勢】34 ハセイ ㊀虛勢を張る。勢を見せつける。轉じて、故無くして人の財物を索め取ること。又、人に餽贈を求めるをいふ。もと滿洲に於ける鷹狩り獵者の名に出づ。〔梁同書、直語補證〕俗以レ無レ所二憑籍一而妄自炫赫者、謂二之瞎打把勢一、按、把勢、本遼以東打鷹者名目、兼二衙門行杖一、率以二流人子弟及奴僕一爲レ之、見二林佶遼金備考一。㊁pa^3 shih^4 職人を呼ぶ稱呼。把師。把式。

【把總】35 ハソウ 官名。明、永樂中、三大營を設け、把總・把司等を置き、功臣を以て充てた。清代に至り、武官の末級となり、位は千總に次ぐ。〔清會典事例、兵部、綠營處分例〕千總・把總・初參住レ俸、二參降二一級一留レ任、三參降二一級一仍留レ任、四參降二一級一調用。

【把捉】36 ハソク ㊀とらへる。しつかりつかむ。〔韓愈、論二變鹽法事宜一狀〕優二恤糧料一、嚴加二把捉一、如有二漏失私糴等一、竝準レ條處分。〔齊己、靈松歌〕老鱗枯節相把捉、踉蹌立在二青崖前一。㊁堅く執り守つてみださない。〔葛長庚、鶴林問道篇〕古者入レ道、以レ調レ心爲レ要、以レ精レ思爲レ妙、精レ思則是存レ念也、調レ心則是把捉也。〔吳澄、敬銘〕把二捉于中一、精神心術、檢二束於外一、形骸肌骨。

【把舵】37 pa^3 tuo^4 舵を把る。

【把刀】38 ハタウ ㊀短い刀。小柄の類。〔後漢書、應奉傳、拜二從事中郎一注〕謝承書曰、云云、朝廷以下奉昔守二南土一威名播越上云云、賜二奉錢十萬駮犀方具劍金錯把刀劍革帶各一一。〔張協、把刀銘〕奕奕名金、昆吾遺璞、裁爲二把刀一、利亞二切玉一。㊁pa^3 tao^1 刀を持つ。

【把堂】39 ハダウ 廣間の係。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕把堂皂隸二名、站二立堂下左右一。

【把持】40 ハチ ㊀手に物をとりもつ。取りあつかふ。專ら一手に執り持つ。專にする。〔論衡、藝增〕竹木之杖、皆能扶レ病、竹杖之力、弱劣不レ及レ木、或操二竹杖一、皆謂レ不レ勁、莫レ謂三手空無二把持一。〔白虎通、號〕霸、猶二迫也、把也一、迫二脅諸侯一、把二持其政一。〔風俗通、皇霸、五霸〕或曰、霸者把也、駮也、言下把二持天子政令一、糾中率同盟上也。〔吳志、諸葛瑾傳〕自レ古至レ今、安有下四五人把二持刑柄一、而不レ離二刺轉相蹄齧一者上也。〔通俗編、行事、把持〕五代史宦者傳論、待二人主信レ己、然後懼以二禍福一、而把二持之一、人主之勢日孤、則懼レ禍之心日切、而把持者日益牢。㊁pa^3 ch'ih^2 ㋑買ひ占める。利益を獨占する。㋺支へる。持ちこたへる。

【把持行市】41 ハヂカウシ 己の強勢を恃んで他人を抑壓し賣買の利を獨占すること。〔明律、戶律、市廛、把持行市〕凡買二賣諸物一、兩不二和同一、而把二持行市一、專取二其利一。

【把持詐害】42 ハヂサガイ 地方の公權を專制して良民を欺き苦しめること。〔六部成語、刑部、把持詐害、注解〕把二持地方公事一、而欺二詐苦三害良民一也。

【把杖】43 ハヂヤウ 杖をとる。〔論衡、順鼓〕操レ刀把レ杖以擊レ之。

【把著】44 pa^3 chuo^2 ㊀しがみつく。㊁雲南で船を左方に轉ずることをいふ。

【把住】45 ハヂユウ 以前に經驗した事柄を永く意識の中にたもち、隨時之を再現し得る心の作用。英語 retention の譯。

【把弟】46 pa^3 ti^4 義弟。把兄に對する語。

【把定】47 ハテイ うけもちをきめて警護する。〔福惠全書、蒞任部、親查閱〕皂隸把二定兩角門一。

【把姪】48 pa^3 chih^2 把兄弟の子。

【把土】49 ハド 手で土を搔く。〔後漢書、獨行、戴就傳〕以二大鍼一刺二指爪中一、使二以把レ土、爪悉墮落。

【把東】50 pa^3 tung^1 スマトラの地名。パーダン。Padan の音譯。

【把頭】51 pa^3 t'ou^2 かしら。親方。

【把臂】52 ハヒ ㊀ひぢをとる。互に親しみあふにいふ。〔後漢書、呂布傳〕相待甚厚、臨レ別把レ臂言誓。〔劉峻、廣絕交論〕自二昔把レ臂之英、金蘭之友一、曾無二羊舌下レ泣之仁一。㊁とつて。把鼻に同じ。〔高則誠、琵琶記〕這般說謊沒二把臂一。

【把鼻】53 ハビ 取り柄。つか。把柄。根據。緣由。〔後山詩話〕蘇長公有三甚意頭求二富貴一、沒三此二把鼻使二姦邪一、有意頭、沒把鼻、皆俗語也。

【把風】54 ハフウ しらせる。匪賊などが、立番して官兵などの來たことを知らせる。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、失事〕其盜把レ風有レ人、攔二大門一有レ人。

【把柄】55 ハヘイ 把手。又、つかを握る。又、證據の意。〔紅樓夢、二十一〕這是我一生的把柄了。〔新方言、釋器〕詩小雅傳、秉、把也、古以レ秉爲レ柄、故今謂レ柄爲二把柄一、或直言レ把。

【把袂】56 ハベイ そでをとる。親しく接見するにいふ。握手。〔梁元帝、與二蕭挹一書〕何時把レ袂、共披二心腹一。〔何遜、贈二江長史一別詩〕餞道出二郊坰一、把レ袂臨二洲渚一。〔張說、會二諸友一詩序〕喜且把二袂舊筵一、解二帶餘日一。

【把邊】57 ハヘン 山名。雲南省順寧縣の南。兩山對峙して門の如く、中に一徑を通じ、極めて險隘で、山巓に把邊關がある。〔讀史方輿紀要、雲南、順寧府〕把邊山、城南四十三里、上有二把邊關一、兩山對立如レ門、一徑中通、崎嶇扼塞、實稱二險隘一。

【把麻】58 ハマ 通事舍人が詔を讀む場合、其の句讀を誤らせないやうに、低聲で之を助けること。〔名義考〕唐六典、通事舍人宣レ詔、多不レ知レ書、至二宣讀一輒失二句讀一、故用二拾遺圈句一、低聲以助レ之、謂二之把麻一。

【把門】59 ハモン 門を守る。門衞。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕把門皂隸、請二鑰匙一開二宅門一。

【把與】60 pa^2 yü^3 與へる。

【把耒】61 ハライ すきをとる。〔敬宇文集、三、忠益說〕把レ耒而耕者、農夫之忠二益於邦國一也。

【把攋】62 ハライ すてさる。

【把弄】63 ハロウ てにとつてもてあそぶ。〔韻府引、陸游、詩〕明年卽八十、日月難二把弄一。

【把腕】64 ハワン 腕をとる。親しみを示す。〔吳志、太史慈傳〕策曰、子義舍レ我、當二復與レ誰、餞二送昌門一、把レ腕別曰、何時能還。

【把菊亭】65 ハキクテイ 宋、張鎡(**4－9812··361**)の室名。

【把胡魯】66 ハコロ 金の人。宣宗の時、諫議大夫より參知政事に累遷。西北の兵を禦ぎ、平章政事に陞る。〔金史、一百八〕。

【把截處】67 ハセツシヨ 關所番小屋。〔剪燈餘話、何思明遊二酆都一錄〕又半日方有レ路、始出二余袋中一、押過二一所一、若二把截處一。

【把列而】68 バーレル 英國の量目の名。barrel の音譯。

【盈レ把之木】69 ハニミツルキ 一にぎりの木。小木をいふ。〔韓詩外傳、五〕盈レ把之木、無二合拱之枝一。

【把匝剌瓦爾密】70 バツアツワールミ 元の人。世祖の第五子雲南王忽哥赤の裔。梁王。明の傅友德に攻められ縊死す。〔明史、一百二十四〕。

【⿰扌心】11875

シン　捴(**5－12538**)に同じ。〔集韻〕捴、或从レ心。

【抌】11876

㈠チン　〔集韻〕陟甚切　［寢］
㈡シン ジン　〔集韻〕食荏切　［寢］
㈢ユ　〔集韻〕勇主切　［麌］
㈣タン トン　〔集韻〕都感切　［感］

小篆

［一］❶**深くうつ**。〔說文〕抌、突擊也、从㆑手冘聲、讀若㆓告言不㆑正曰㆒抌。〔段注〕深淺字、許作㆑突。❷**うつ**。〔集韻〕抌、一說、楚謂㆑搏曰㆑抌。❸或は⿰甚攴(5−13289)に作る。〔集韻〕抌、或作㆑⿰甚攴。［二］**おす**。〔方言、十〕抌、推也。［三］**さす**。〔廣雅、釋詁一〕抌、刺也。〔集韻〕抌、刺也。［四］❶**うつ**。［一］に同じ。〔集韻〕抌、擊也。❷**さす**。［三］に同じ。〔集韻〕抌、刺也。❸或は⿰冘支(5−13138)に作る。〔集韻〕抌、或从㆑支。

參考　諸書（集韻・周禮等）の音義、抌を抭に譌るものがある。〔康熙字典〕抌、按說文、舀、或从㆑手从㆑宂作㆑抭、非㆑抌也、諸書音義、譌㆑抌爲㆑抭、不㆑合㆓說文本訓㆒者、今俱考正。

【⿰扌牙】 11877

［一］ゲガ　〔集韻〕牛加切　麻
［二］ゲガ　〔集韻〕魚駕切　禡
［三］ケカ　〔集韻〕丘加切　麻

［一］**正しくないさま**。ゆがむ。扠⿰扌牙。〔集韻〕⿰扌牙、扠⿰扌牙、不㆑正。［二］**ひく**。研(8−24067)に同じ。〔集韻〕研、碾也、或从㆑手。［三］❶**とめる**。とどまる。〔類篇〕⿰扌牙、扼也。❷**とる**。つまむ。〔字彙〕⿰扌牙、捋也。❸**あげる**。ふせぐ。〔字彙〕⿰扌牙、抗也。❹**おさへる**。抲(5−11918)に同じ。〔集韻〕抲、扼也、或作㆑⿰扌牙。

【⿰扌旡】 11878

キ　摡(5−12597)に同じ。〔集韻〕摡、或作㆑⿰扌旡。

參考　抚(5−11897)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕⿰扌旡、同㆑摡。抚、同㆑撫。

【抍】 11879

［一］シヨウ　〔集韻〕蒸之上聲　ㄓㄥˇ chêng^{3}　迥
［二］シヨウ　〔集韻〕諸仍切　蒸
［三］ジヨウ　〔集韻〕常證切　徑

小篆（說文）

或體

［一］［二］［三］❶**あげる**。〔說文繫傳〕抍、上擧也、从㆑手升聲、易曰、抍㆑馬壯吉。❷**ぬく**。**すくふ**。水中からひきあげる。〔方言、十三〕抍、拔也、出㆑休爲㆑抍。❸**とる**。〔廣雅、釋詁三〕抍、取也。❹**をさめる**。〔廣雅、釋詁三〕抍、收也。❺**すくふ**。たすける。にぎはす。救恤する。〔廣韻〕拯、救也、助也、抍・撜、並上同。〔周禮、天官、職幣、注、振、猶㆑升也、疏〕以㆑財與㆑之、謂㆓之抍㆒。❻或は承(5−11852)・撜(5−12715)・拯(5−11991)・丞(1−40)に作る。〔集韻〕抍、或作㆓承・撜・拯・丞㆒。〔易、明夷、用拯㆑馬壯吉、釋文〕拯、子夏傳作㆑抍。

參考　段注本には拯に改む。拯(5−11991)を見よ。

【抎】 11880

［一］ウン　〔集韻〕羽粉切　吻
［二］キン　〔集韻〕羽敏切　軫

小篆

［一］❶**うしなふ**。〔說文〕抎、有㆑所㆑失也、从㆑手云聲、春秋傳曰、抎、子辱矣。〔段注〕成公二年左傳、石稷謂㆓孫良夫㆒曰、子、國卿也、隕、子辱矣、許所㆑據作㆑抎、正謂㆑失也。〔戰國、齊策〕寡人愚陋、守㆓齊國㆒、唯恐㆔失㆓抎之㆒。❷**音聲がおこる**。〔字彙〕抎、聲也、揚子、鐘鼓不㆑抎。［二］**おちる**。**おとす**。隕(11−41785)に同じ。〔說文通訓定聲〕抎、段借爲㆑隕。〔集韻〕隕、說文、從㆑高下也、或作㆑抎。〔戰國、楚策〕折㆓清風㆒而抎矣。〔呂覽、音初〕昭王抎㆓于漢中㆒。〔注〕抎、墜、音曰㆓顚隕之隕㆒。

【抎失】1 ウンシツ　うしなふ。〔墨子、天志下〕國家滅亡、抎㆓失社稷㆒。〔閒詁〕畢云、說文云、抎、有㆑所㆑失也、春秋傳曰、抎、子辱矣。

【抏】 11881

［一］グワン　〔集韻〕吾官切　寒
［二］グワン　〔集韻〕五換切　翰

［一］❶**くじく**。〔廣韻〕抏、挫也。〔漢書、司馬相如傳上〕抏㆓士卒之精㆒。〔注〕師古曰、抏、挫也。❷**へらす**。**へる**。すりつくす。〔字彙〕抏、耗也。〔史記、平準書〕百姓抏弊、以巧㆑法。〔注〕索隱曰、按、抏者、耗也。〔漢書、吾邱壽王傳〕海內抏獘。〔注〕師古曰、抏、訛盡也。❸**もむ**。さする。〔史記、扁鵲傳〕案抏毒熨。❹**けづる**。园(3−4714)に同じ。〔集韻〕园、圓削也、莊子、园而幾㆑向㆑方、或作㆑抏。［二］**もてあそぶ**。翫(9−28766)に同じ。又、玩(7−20872)に通ず。〔集韻〕翫、說文、習猒也、或作㆑抏。〔荀子、王霸〕縣樂奢泰、游抏之脩。〔注〕抏、與㆑玩同。

【抏獘】1 グワンヘイ　抏弊に同じ。〔漢書、吾丘壽王傳〕海內抏獘、巧詐並生。〔注〕師古曰、抏、訛盡也。

【抏弊】2 グワンヘイ　消耗する。貧しく疲弊する。つひえやぶれる。〔史記、平準書〕百姓抏弊、以巧㆑法。〔注〕索隱曰、按、抏者、耗也、消耗之名、言㆔百姓貧弊、故行㆓巧詆之法㆒也。〔鹽鐵論、大論〕今欲㆘以㆓敦朴之時㆒治㆗抏弊之民㆖。

【抐】 11882

［一］ドツ　ノチ　〔集韻〕奴骨切　月
［二］ドン　ノン　〔集韻〕奴困切　願
［三］ダフ　ナフ　〔集韻〕諾荅切　合
［四］ズイ　ニ　〔集韻〕而睡切　寘
［五］ゼイ　ネイ　〔集韻〕儒稅切　霽
［六］チフ　ニフ　〔集韻〕昵立切　緝

［一］［二］**そめる**。つける。ひたす。〔廣雅、釋言〕抐、擩也。〔集韻〕抐、搵抐、擩也。〔集韻〕抐、字林、搵抐、沒也。〔字彙〕抐、按㆓物水中㆒也。［三］**うつ**。⿰扌納(5−12518)に同じ。〔集韻〕⿰扌納、打也、或省。［四］**いれる**。〔集韻〕抐、內也。［五］**つかむ**。〔集韻〕抐、捽也。［六］**とめる**。おさへる。挹抐。〔集韻〕抐、挹抐、中制也。

【抑】 11883

ヨク　オク　〔集韻〕乙力切　職　一ˋ i^{4}

小篆

俗體

❶**おす**。印をおす。もと𢑏(2−2851)に作る。〔正字通〕𢑏、抑本字。〔說文〕𢑏、按也、从㆓反印㆒、抑、俗从㆑手。〔段注〕按者下也、用㆑印必向㆑下按㆑之、故字从㆓反印㆒、引㆓伸之㆒爲㆓凡按偁㆒。〔淮南子、齊俗訓〕若㆓璽之抑㆑埴、正與㆑之正、傾與㆑之傾。❷**おさへる**。㋑おさへつける。〔楚辭、九章、懷沙〕抑㆑心而自強。〔注〕抑、按也。〔史記、屈原傳〕俛詘以自抑。㋺かがめる。まげる。〔國語、晉語九〕叔魚抑㆓邢侯㆒。〔注〕抑、枉也。〔史記、叔孫通傳〕皆伏抑㆑首。〔注〕集解曰、如淳曰、抑、屈也。㋩くだす。へらす。〔字彙〕抑、損也。〔國語、楚語上〕而爲㆑之聳㆑善而抑㆑惡焉。〔注〕抑、貶也。㋥しりぞける。〔後漢書、班固傳〕不㆓激詭㆒、不㆓抑抗㆒。〔注〕抑、退也。㋭とめる。ふさぐ。〔史記、河渠書〕禹抑㆓鴻

水二。〔注〕索隱曰、抑者、遏也、塞也。㋬しづめる。〔方言、十三〕抑、安也。㋣をさめる。〔孟子、滕文公上〕昔者禹抑二洪水一。〔注〕抑、治也。㋠せまる。〔字彙〕抑、逼也。㋷おしすすめる。〔禮、學記〕強而不レ抑。〔注〕抑、猶レ推也。㊂**ふさがる**。こもる。むすぼれる。〔楚辭、九章、惜誦〕情沈抑而不レ達兮。㊃**しづむ**。〔淮南子、本經訓〕民之滅抑天隱。〔注〕抑、沒也。㊄**美しいさま**。〔詩、齊風、猗嗟〕抑若揚兮。〔傳〕抑、美色。㊅**そもそも**。㋑さて。更端の助辭。〔左氏、宣、十二〕抑人亦有レ言、曰、云云。㋺あるひは。おもふに。疑念の助辭。〔左氏、昭、八〕抑臣又聞レ之。〔注〕抑、疑辭。〔漢書、敍傳上〕其抑者從橫之事、復起二於今一乎。㋩それともまた。乃至は。〔字彙〕抑、亦然之辭。〔論語、學而〕求レ之與、抑與レ之與。㋥しかるに。しかも。反語の助辭。〔字彙〕抑、反語辭。〔孟子、梁惠王上〕抑王興二甲兵一、危二士臣一、構二怨於諸侯一、然後快二於心一與。〔韓愈、送二孟東野一序〕三子者之鳴、信善鳴也、抑不レ知、天將下和二其聲一而使上レ鳴二國家之盛一邪。㋭すなわち。〔古書虛字集釋〕抑、猶レ則也、左傳莊六年、若不レ從二三臣一、抑社稷實不二血食一、而君焉取レ餘。㋬ここに。〔古書虛字集釋〕抑、猶レ於レ是也、詩、大叔于田篇、抑磬控忌、抑縱送忌。㋣發語の助辭。ああ。〔古書虛字集釋〕抑、發語詞也。〔詩、小雅、十月之交〕抑此皇文。〔箋〕抑之言噫、噫是皇父、疾而呼レ之。〔釋文〕抑、辭也。〔左氏、昭、十三〕抑齊人不レ盟、若レ之何。㊆**こまやか。又、つつしむ**。抑抑(62)を見よ。㊇**詩經、大雅、蕩之什の篇名**。衞の武公、厲王を刺り、亦以て自ら警めた詩。〔詩、大雅、抑序〕抑、衞武公刺二厲王一、亦以自警也。㊈**或は抑に作る**。〔集韻〕抑、或从レ手、隷作レ抑。㊉**通じて懿(4－11501)に作る**。〔國語、楚語上〕於レ是非二懿戒一以自儆也、注〕昭謂、懿、詩大雅抑之篇也、懿、讀曰レ抑。

名乘 アキラ。

解字 印の字(會意)をうら反した形。おす・おさへる意。印を用ふるには、必ず下向きにしておすから、印の字をうら反して義をとる。後、俗に手扁を加へた。印の字の音の入聲であることから、そもそもなどの意に假借するが、おさへる(按)意を含んでゐる。

參考 抑、一本抑に作る。〔集韻〕抑・抑・抑、說文、按也、从二反印一、或从レ手、隷作レ抑。〔考正〕注抑、宋本及類篇竝作レ抑、與二正文一同。

【抑噫】1（ヨクアイ） 心氣がふさがってのびない。〔孟郊・韓愈、雨中寄二孟刑部幾道一聯句〕商聽饒二清聳一、悶懷空抑噫。

【抑惡】2（ヨクアク） 惡をくだす。惡をおさへる。〔國語、楚語上〕教二之春秋一、而爲レ之聳レ善而抑レ惡焉、以戒二勸其心一。〔注〕抑、貶也。〔白虎通、攻黜〕王者所二以勉レ賢抑レ惡、重レ民之至也。

【抑遏】3（ヨクアツ） おさへとどめる。抑制。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一書〕抑二遏劉馥一、相厚益隆。〔蘇洵、上二歐陽內翰一書〕抑遏蔽掩、不レ使二自露一。〔陳造、夜雪詩〕宿雲忽披靡、義馭與抑遏。

【抑閼】4（ヨクアツ） 抑遏に同じ。〔蔡襄、士伸知己賦〕嘷決辨以旁肆、愚抑閼而箝レ聲。

【抑壓】5（ヨクアツ） おさへつける。人の行動を抑制する。〔唐書、李德裕傳〕否則抑壓以退、仲尼之徒有レ是乎。

【抑按】6（ヨクアン） おさへる。〔嵇康、琴賦〕或徘徊顧慕、擁鬱抑按。〔梁簡文帝、箏賦〕陸離抑按、磊落縱橫。〔遯齋閒覽〕登レ薪舉レ火、以レ杖抑按、焚レ之而退。

【抑案】7（ヨクアン） 抑按に同じ。〔史記、三王世家〕(燕王)旦、云云、欲レ發レ兵、事發覺、當レ誅、昭帝緣レ恩寬忍、抑案不レ揚。〔蔡邕、琴賦〕指掌反覆、抑案藏摧。

【抑菴】8（ヨクアン） 字號。㊀明、王直(7－20823‥806)の號。㊁清、呉鼎(2－3365‥202)の號。

〖抑菴集〗9（ヨクアンシフ） 書名。十三卷。後集三十七卷。明、王直撰。抑菴集は朝に在つて作る所。後集は田に歸つて作る所。〔四庫提要、集、別集類〕。

【抑畏】10（ヨクヰ） 抑損して恐れつつしむ。〔書、無逸〕維我周太王王季、克自抑畏。〔傳〕言三皆能以レ義自抑、畏二敬天命一。〔韓儀、成汭上谷郡王制〕蘊二雄特之標一、中能抑畏、抱二介潔之操一、外富二通明一。〔蘇轍、爲二兄軾下レ獄上書〕竊恃二天地包含之恩一、不二自抑畏一。

【抑鬱】11（ヨクウツ） おさへられて心がのびのびしないこと。〔漢書、司馬遷傳〕動而見レ尤、欲レ益反損、是以抑鬱而無二誰語一。〔卓文君、司馬相如誄〕長夜思レ君兮形影孤、步二中庭一兮霜草枯、雁鳴哀哀兮吾將二安如一、仰レ天太息兮抑鬱不レ舒、訴二此悽惻一兮疇忍聽レ予、泉穴可レ從兮願殞二其軀一。

【抑抎】12（ヨクウン） おさへおとす。〔賈子新書、匈奴〕故牽二其耳一、牽二其目一、牽二其口一、牽二其腹一、四者已牽、又引二其心一、安得レ不二來下一、胡抑抎也、此謂二五餌一。

【抑亦】13（ソモソモマタ） 詞を轉ずるとき用ひる辭。〔論語、子路〕抑亦可二以爲レ次矣。〔孟子、滕文公下〕仲子所レ居之室、伯夷之所レ築與、抑亦盜跖之所レ築與。

【抑猒】14（ヨクエフ） おさへつける。〔漢書、馮奉世傳〕奉世圖レ難忘レ死、信二命殊俗一、威功白著、爲二世使表一、獨抑猒而不レ揚、非下聖主所二以塞レ疑厲レ節之意上也。〔漢書、劉向傳〕抑猒遂退、卒不二克明一。

【抑園】15（ヨクエン） 清、李方膺(6－14459‥1844)の號。

【抑遠】16（ヨクエン） おさへ遠ざける。〔漢書、谷永傳〕抑二遠驕妬之寵一。

【抑下】17（ヨクカ） 下を抑へる。〔魏志、程曉傳〕至二於崇レ上抑レ下、顯二分明例一、其致一也。〔蜀志、姜維傳〕凡人之談、常譽レ成毀レ敗、扶レ高抑レ下。

【抑價】18 i^4 chia^4 價格を減ずる。

【抑抗】19（ヨクカウ） しりぞけることとすすめること。退進。〔後漢書、班固傳論〕不二激詭一、不二抑抗一。〔注〕抑、退也、抗、進也。

【抑耗】20（ヨクカウ） おさへへらす。〔柳宗元、種樹郭橐駝傳〕不三抑二耗其實一而已。

【抑割】21（ヨクカツ） おさへへらす。〔魏志、陳羣傳〕願陛下抑二割無レ益有レ損之事一。〔晉書、孝友、桑虞傳〕年十四、喪レ父毀瘠過レ禮、云云、其姊諭レ之曰、云云、滅レ性不レ孝、宜二自抑割一。〔南史、齊高帝諸子下、武陵昭王曄傳〕高帝敕二武帝一曰、三昧至性如レ此、恐不レ濟レ汝、可下與二共住一、每抑中割之上。

【抑奸】22（ヨクカン） わるものをおさへる。〔孔子家語、致思〕溫而斷、可二以抑レ姦。

【抑強】23（ヨクキヤウ） 強くわがままな者をおさへつける。抑彊。〔唐書、張亮傳〕亮爲レ政、云云、抑レ強恤レ弱、所レ至有レ績。

【抑彊】24（ヨクキヤウ） 抑強。〔越絕書、越絕外傳本事〕抑レ彊扶レ弱、絕レ惡反二之於善一。〔漢書、刑法志〕政在二抑レ彊扶一レ弱、朝無二威福之臣一、邑無二豪桀之俠一。〔魏志、王脩傳〕爲レ治抑レ彊扶レ弱、明二賞罰一、百姓稱レ之。

【抑屈】25（ヨククツ） おさへしりぞける。〔後漢書、彭寵傳〕其妻素剛、不レ堪二抑屈一、固勸無レ受レ召。〔論衡、自紀〕不レ爲二上所一レ知、貶黜抑屈、不レ恚二下位一。

【抑挫】26（ヨクザ） おさへくじく。〔三略、上略〕招二舉奸枉一、抑二挫仁賢一。〔魏志、倉慈傳〕抑二挫權右一、撫二恤貧羸一。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一〕非三周瑜水軍所二能抑挫一也。

【抑齋】27（ヨクサイ） 字號。㊀明、鄭閻(11－39647‥30)の號。㊁明、王直(7－20823‥806)の號。

【抑搔】28（ヨクサウ） 按摩をし癢を搔く。孝子の父母舅姑に事へるさま。〔禮、內則〕以適二父母舅姑之所一、云云、問二衣燠寒一、疾痛苛癢、而敬抑二搔之一。〔注〕抑、按、搔、摩也。

【抑削】29（ヨクサク） おさへけづる。〔陳子昂、申二宗人一寬レ獄書〕呉起事レ楚、抑二削庶族一、以尊二楚君一。

【抑之】30（ヨクシ） 字號。㊀明、袁洪愈(10－34152‥195)の字。㊁明、蕭近高(9－32012‥330)の字。㊂明、饒仲(12－44400‥30)の字。㊃明、錢士升(11－40563 325)の字。㊄明、張鋭(4－9812‥53)

の字。❻明、郎侁(11－39431‥57)の字。❼明、劉憲寵(2－2224‥873)の字。❽明、陸愈(11－41708‥236)の字。❾明、汪俊(6－17154‥72)の字。

【抑止】31 ヨクシ おさへとどめる。抑停。〔揚雄、長楊賦〕抑二止絲竹宴衍之樂一。〔後漢書、楊賜傳〕斷二絶尺一一、抑二止槃游一。

【抑志】32 ヨクシ こころざしを抑へる。〔楚辭、離騷〕屈レ心而抑レ志兮、忍レ尤而攘レ詬。〔楚辭、遠游〕氾容與而遐擧兮、聊抑レ志而自弭。〔劉敞、離憂賦〕卒撫レ心以抑レ志兮、諒投レ艱以遺レ大。

【抑情】33 ヨクジヤウ 情慾をおさへる。〔班昭、東征賦〕酌二罇酒一㠯弛レ念兮、喟抑レ情而自非。〔嵇康、養生論〕或抑レ情忍レ欲、割二棄榮願一。〔蜀志、姜維傳〕抑レ情自割。

【抑首】34 ヨクシユ ❶首を屈してさげる。俯首。〔晏子、諫、下〕晏子抑首而不レ對。〔戰國、韓策〕公仲且三抑首而不レ朝、公叔且三以レ國南合二於楚一。〔漢書、叔孫通傳〕諸侍二坐殿上一、皆伏抑首。〔注〕師古曰、抑、屈也、謂下依二禮法一、不中敢平坐而視上。❷首をおさへる。〔大戴禮、曾子疾病〕曾子疾病、曾元抑レ首、曾華抱レ足。

【抑崇】35 ヨクスウ 宋、高閌(12－45313‥112)の字。

【抑制】36 ヨクセイ おさへとどめる。おさへつける。抑遏。〔說苑、權謀〕宜二以レ時抑制、無レ使レ至二於亡一。〔晉書、桓伊傳〕(謝)安惡二其爲レ人、每抑二制之一。

【抑折】37 ヨクセツ おさへくじく。〔日本政記、後花園天皇〕義教寵二貞村一、每レ事抑二折滿祐一。

【抑絶】38 ヨクゼツ おさへたつ。〔漢書、翟方進傳〕宜三抑二絶其原一。〔後漢書、隗囂傳〕前計抑絶、後策不レ從。〔吳志、孫霸傳〕省二奪備衞一、抑二絶賓客一。

【抑塞】39 ヨクソク ❶おさへてふさぎとめる。〔元稹、胡旋女〕傾レ天側レ地用二君力一、抑塞周遮恐二君見一。〔劉基、贈二周宗道一詩〕螻蟻有二微忱一、抑塞無レ由レ揚。❷おさへられて心がむすぼれる。沈淪鬱悶。〔杜甫、短歌行贈二王郎司直一〕王郎酒酣拔レ劍斫レ地歌二莫哀一、我能拔二爾抑塞磊落之奇才一。〔注〕杜不遇、故謂二抑塞一。❸屛け棄てて用ひない。〔南史、謝方明傳〕守宰不レ明、與奪乖謬、人事不レ至、必被二抑塞一。

【抑損】40 ヨクソン ❶へらす。減退させる。〔漢書、谷永傳〕抑二損椒房玉堂之盛寵一。❷抑へ損ずる。慢心をおさへおとす。しをらしくする。抑退。〔晏子、雜、上〕其後夫自抑損。〔漢書、諸侯王表〕景遭二七國之難一、抑二損諸侯一、減二黜其官一。〔後漢書、蔡邕傳〕人自抑損以塞二咎戒一、則天道虧レ滿、鬼神福レ謙矣。

【抑退】41 ヨクタイ ❶おさへてしりぞかせる。〔後漢書、儒林上、宋登傳〕數上二封事一、抑二退權臣一。〔顏氏家訓、風操〕其爲レ人、多被二抑退一。〔舊唐書、后妃上、長孫皇后傳〕漢明德馬皇后、以爲、不レ能三抑二退外戚一、令二其當レ朝貴盛一。❷抑損に同じ。〔魏志、武帝紀〕秉二國之鈞一、正レ色處レ中、纖毫之惡、靡レ不二抑退一。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕纖毫之惡、靡レ不二抑退一。

【抑堂】42 ヨクダウ 字號。❶明、蘇繼歐(9－32427‥230)の字。❷清、伊福納(1－432‥178)の字。

【抑奪】43 ヨクダツ おさへて奪ひとる。〔漢書、王莽傳中〕莽卽レ眞尤備二大臣一、抑二奪下權一。〔後漢書、竇武傳〕抑二奪宦官欺レ國之封一。

【抑斷】44 ヨクダン おさへたつ。〔後漢書、申屠剛傳〕張二設重法一、抑二斷誹謗一。

【抑絀】45 ヨクチユツ おさへしりぞける。〔漢紀、孝成紀論〕荀悅曰、云云、董仲舒推二崇孔氏一、抑二絀百家一。〔魏志、夏侯玄傳〕玄以二爽抑絀一、內不レ得レ意。

【抑黜】46 ヨクチユツ おさへしりぞける。〔漢書、李尋傳〕是時哀帝初立、成帝外家王氏、未二甚抑黜一。〔後漢書、儒林下、楊仁傳〕以下寬二和仁賢一、抑中黜驕戚上爲レ先。〔宋書、沈懷文傳〕孝建以來、抑二黜諸弟一。

【抑沈】47 ヨクチン ふさがりしづむ。とどまり落ちる。〔曹植、種葛篇〕恩紀曠不レ接、我情遂抑沈。

【抑定】48 ヨクテイ おさへ定める。〔新語、愼微〕雕二琢文邪一、抑二定狐疑一。〔後漢書、班固傳下〕虔鞏勞謙、兢兢業業、貶成抑定、不三敢論二制作一。

【抑亭】49 ヨクテイ 清、李鍾僑(6－14459‥1500)の號。

【抑糴】50 ヨクテキ 宋代、政府の力で無理に低價で米を買ひ上げたこと。〔宋史、食貨志上三〕元符以後、有二低價抑糴之弊一、詔禁二止之一。

【抑認】51 ヨクニン 強ひてみとめさす。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕保レ無レ有下賄脫可レ用、與二抑認不レ堪者上乎。

【抑配】52 ヨクハイ 宋代以後、利息をとる爲、政府が無理に人民に金をかしつけ、又人民にわりつけて金を出さしめ、或は夫役に從はしめたこと。〔宋史、神宗紀二〕詔二諸路一、散二青苗錢一、禁二抑配一。〔金史、世宗紀上〕詔二諸州縣一、和レ糴毋レ得三抑二配百姓一。

【抑買】53 ヨクバイ むりやりに買ふ。〔文獻通考、市糴考、均輸市易和買〕舶至抽解和賣入レ官外、違レ法抑買、許二蕃商越訴計贓一坐レ罪。

【抑暴】54 ヨクバウ 亂暴なものをおさへる。〔漢書、刑法志〕夫法令者、所二以抑レ暴扶レ弱、欲二其難レ犯而易レ避也。

【抑卑】55 ヨクヒ 抑損して卑下すること。〔荀子、彊國〕無レ僇二乎族黨一、而抑二卑其後世一。〔注〕後世亦抑損卑下、無二以光榮一也。

【抑美】56 ヨクビ 明、黄彦士(12－47926‥1081)の字。

【抑武】57 ヨクブ 武をおさへとどめる。〔李尤、錯佩刀銘〕抑レ武揚レ文。

【抑貶】58 ヨクヘン おさへしりぞける。けなしおとす。〔漢書、師丹傳〕抑二貶尊號一。

【抑沒】59 ヨクボツ おさへかくす。〔後漢書、殤帝紀贊〕抑二沒祥符一、登二顯時德一。

【抑民】60 i min 民衆を抑壓する。

【抑揚】61 ヨクヤウ おさへることとあげること。あげさげ。又、あがりさがり。❶鳴物の調子の高低。〔成公綏、嘯賦〕響抑揚而潛轉、氣衝鬱而熛起。❷文勢の起伏。〔柳宗元、答二韋中立一論二師道一書〕抑レ之欲二其奧一、揚レ之欲二其明一。〔文章軌範、將字集小序〕有二抑揚一、有二頓挫一。❸けなすこととほめること。毀譽褒貶。〔魏書、甄琛傳〕外相抑揚、內實附會也。❹世のありさまにしたがふこと。時勢につれること。浮沈。〔漢書、藝文志〕然惑者既失二精微一、而辟者又隨レ時抑揚、違二離道本一。❺手のあげさげ。〔新書、容經〕手有二抑揚一、各尊二其紀一。

【抑抑】62 ヨクヨク つつしむ。愼密なこと。〔爾雅、釋訓〕抑抑、密也。〔詩、小雅、賓之初筵〕其未レ醉止、威儀抑抑。〔傳〕抑抑、愼密也。〔班固、兩都賦、辟雍詩〕抑抑威儀、孝友光明。〔陸機、漢高祖功臣頌〕抑抑陸生、知二言之貫一。〔注〕善曰、毛詩曰、抑抑威儀、維德之隅。

【抑減】63 ヨクゲン せきとめてはげしい波を起す。〔淮南子、本經訓〕抑減怒瀨、以揚二激波一。〔注〕抑、止也、減、怒水也、瀨、急流也、而抑二止之一、故激揚之波起也。

【抑畱】64 ヨクリウ 強いてひきとどめる。〔宋史、外國六、于闐國傳〕有司憚二於供賚一、抑二畱邊方一。

【抑樓】65 ヨクロウ 中井會縮の號。中井磧果(1－73‥909)を見よ。

【抑勒】66 ヨクロク おさへつける。勒は馬の進退を制するくつばみ。抑制。〔淸會典事例、吏部、除授〕有下抑二勒捐助一、及以レ少報レ多者上。〔福惠全書、刑名部、姦情、總論〕縱容抑勒、無レ恥之甚者也。

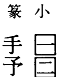
【抑枉】67 ヨクワウ おさへまげる。〔唐書、后妃上、則天皇后武氏傳〕乃治二銅匭一爲二一室一、云云、署西曰二申冤一、受二抑枉所レ欲レ言、北曰二通玄一、受二讖步祕策一。〔唐書、柳宗元傳〕剛柔弛張兮、出二入經綸一、登能抑枉兮、白黑濁清。

【抒】11884

［一］ショ ジョ 〔集韻〕上與切 ㄕㄨˇ shǔ 語

［二］チョ ヂョ 〔集韻〕丈呂切 語

［慣］ジョ


小篆

［一］［二］❶**くむ**。〔說文〕抒、挹也、从レ手予聲。〔段注〕凡挹レ彼注レ茲曰レ抒。〔一切經音義、九〕抒、汲出謂二之抒一。〔詩、大雅、生民、或舂或揄、傳〕揄、抒レ臼也。〔釋文〕抒、蒼頡篇云、取出也。〔管子、禁藏〕抒レ井易レ水。❷**とる**。〔一切經音義、十九〕抒、蒼頡篇云、取也。❸**のぞく**。〔一切經音義、十九〕抒、蒼頡篇云、除也。❹**もらす**。**のべる**。〔廣韻〕抒、渫レ水、俗作レ汿。〔楚辭、九章、惜誦〕發レ憤以抒レ情。〔注〕抒、渫也。〔漢書、劉向傳〕一抒二愚意一。〔注〕師古曰、抒、謂二引而泄一レ之也。❺**ゆるむ**。**のびる**。とける。紓(8－27276)に通ず。〔說文通訓定

聲〕抒、叚借爲レ紓。〔左氏、文、六〕難必抒矣。〔謝偃、聽歌賦〕聞レ之者意悅而情抒。

【抒意】1（ジョイ）　こころをのべる。思つてゐることをもらしのべる。〔墨子、小取〕以レ名擧レ實、以レ辭抒レ意。〔閒詁〕漢書劉向傳、一抒二愚意一、顏注云、抒、謂二引而泄一レ之也。〔册府元龜〕鄒子曰、辯者別二族類一、使レ不二相害一、序二異端一、使レ不二相亂一、抒レ意通レ指、明二其所一レ謂、使二人與知一焉、不二務相迷一也。

【抒懷】2（ジョクヮイ）　淸、汪師韓(**6－17154**・・248)の字。

【抒溷】3（ジョコン）　厠の穢物をくみとる。〔淮南子、說山訓〕以二潔白一爲二汙辱一、譬猶二沐浴而抒レ溷、薰燧而負一レ彘。

【抒藻】4（ジョサウ）　淸、王高詞(**7－20823**・・1261)の字。

【抒厠】5（ジョシ）　厠の穢物をとる。又、こやしくみ。〔資治通鑑綱目〕至二抒厠行丐之人一。〔開元占經、外官占〕甘氏讚曰、天溷伏作、抒二厠糞土一。

【抒情】6（ジョジャウ）　おもひをのべる。敍事・敍景に對す。敍情。舒情。〔後漢書、殤帝紀〕掖庭宮人、皆爲二庶人一、以抒二幽隔鬱滯之情一。

【抒情歌】7（ジョジャウカ）　自分の感情をのべうたつた歌。

【抒情詩】8（ジョジャウシ）　己が感情を主題として述べあらはした詩。敍情詩。敍景詩(**5－13205**・・11)・敍事詩(**5－13205**・・17)等の對。

【抒情的】9（ジョジャウテキ）　自分の感情を主としてのべること。敍事・敍景に對していふ。

【抒情文】10（ジョジャウブン）　作者自身の感動や情緒を主觀的に述べた文。

【抒洩】11（ジョセツ）　のべもらす。抒泄。〔釋名、釋典藝〕敍、抒也、抒二洩其實一、宣二見之一也。

【抓】

11885

[一]サウ（セウ）　〔集韻〕側絞切　[巧]

[二]サウ（セウ）　〔集韻〕莊交切　[肴]　ㄓㄨㄚ　chua^1

[三]サウ（セウ）　〔集韻〕阻教切　[效]

[一][二][三]❶**かく**。〔廣雅、釋詁二〕抓、搔也。❷**つまむ**。つかむ。〔枚乘、上書諫二吳王一〕手可二擢而抓一。〔注〕善曰、廣雅曰、搔、抓也。❸**つめる**。つねる。〔廣韻〕抓、爪刺也。❹**さく**。〔廣雅、釋詁二〕抓、裂也。❺[現]さがす。

【抓鬮】1 chua^1 chiu^1　鬮をひく。

【抓局】2 chua^1 chü^2　賭博狩りをする。

【抓空】3 chua^1 kʻung^1　無用の事をする。

【抓彩】4 chua^1 tsʻai^3　福引懸賞などの籤を引く。

【抓周】5（サウシウ）　赤子の生後一年目に、いろいろの玩具を盤上に置いて、自由にとらせて、その性を判斷する法。試兒(**10－35415**・・33)を見よ。

【抓手】6（サウシユ）　拳術手法の一。順抓・拗抓の分がある。

【抓取】7 chua^1 chʻü^3　擇ぶ。

【抓人】8 chua^1 jen^2　人を捕へる。

【抓尋】9 chua^1 hsün^2　搜す。尋ねる。

【抓賊】10 chua^1 tsei^2　賊を捕へる。

【抓住】11 chua^1 chu^4　攫む。捕へる。

【抓頭】12 chua^1 tʻou^2　頭をかく。

【抓破】13 chua^1 pʻo^4　爬き破る。つかみ破る。

【抓癢】14 chua^1 yang^3　痒い所を搔く。

【抓裂】15 chua^1 lieh^4　攫み裂く。引つ裂く。

【抓一把】16 chua^1 i^4 pa^3　手一ぱいに握る。一つかみにする。又、一握り。

【抓藥材】17 chua^1 yao^4 tsʻai^2　藥を求める。

【抔】

11886

[一]ホウ（ブ）　〔集韻〕蒲侯切　[尤]　ㄆㄡˊ　pʻou^2

[二]ハイ　〔集韻〕鋪枚切　[灰]

[一]❶**あつめる**。かきあつめる。捊(**5－12139**)に同じ。〔集韻〕捊、說文、引取也、或从レ不。❷**すくふ**。掌にすくひとる。〔廣韻〕抔、手掬レ物也。〔禮、禮運〕汙尊而抔飮。〔注〕抔飮、手掬レ之也。❸**すくひ**。掌にのせる程の量。〔漢書、張釋之傳〕愚民取二長陵一抔土一。〔注〕師古曰、抔、謂二手掬一レ之、云云、今學者讀爲二杯勺之杯一、非也。[二]**すくふ**。[一]の❷に同じ。〔集韻〕抔、手掬也。[邦]**など**。なんどとも讀み、等に同じく用ひ、例示の意を表はす。〔和漢三才圖會、藝才、倭字〕抔、倭訓代二用等字義一、未レ知レ據也。

[參考]　杯(**6－14497**)は別字。〔寄彙、醒誤〕抔、音裒、手掬レ之也、杯、酒器。

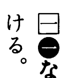
【抔飮】1（ホウイン）　手で掬つてのむ。むすぶ。〔禮、禮運〕汙尊而抔飮。〔注〕抔飮、手掬レ之也。

【抔土】2（ホウド）　❶一つかみの土。〔史記、張釋之傳〕釋之免レ冠頓首謝曰、法如レ是足也、且罪等、然以二逆順一爲レ差、今盜二宗廟器一而族レ之、有レ如三萬分之一、假令愚民取二長陵一抔土一、陛下何以加二其法一乎。〔注〕索隱曰、案、禮運曰、汙尊而抔飮、鄭氏云、抔、手二掬之一、字從レ手。〔漢書、張釋之傳、注〕師古曰、抔、音步矦反、謂三手二掬之一也、其字從レ手、不レ忍レ言二毀徹一、故止云レ取レ土耳、今學者讀レ抔爲二杯勺之杯一、非也、抔非レ應レ盛レ土之物一也。〔元好問、移居詩〕得損不二相償一、抔土塡二巨壑一。❷陵墓をいふ。長陵一抔土の語からいふ。❶を見よ。❸土をすくふ。〔唐書、袁恕己傳〕憤懣抔レ土以食、爪甲盡。

【抔土未レ乾】3（ホウドイマダカハカズ）　陵墓の土が未だ乾かない。先帝を葬つて未だ間の無いこと。一本、抔土を坏土に作る。〔駱賓王、代二李敬業一以二武后臨一レ朝移二諸郡縣一檄〕一抔之土未レ乾、六尺之孤安在。

【投】

11887


小篆

[一]トウ（ヅ）　〔集韻〕徒侯切　[尤]　ㄊㄡˊ　tʻou^2

[二]トウ（ヅ）　〔集韻〕大透切　[宥]

[一]❶**なげる**。なげやる。なげつける。〔說文〕投、擿也、从レ手殳聲。〔禮、曲禮上〕勿三投二與狗骨一。〔疏〕投、致也。〔左氏、昭、五〕受二其書一而投レ之。〔注〕投、擲也。〔左思、吳都賦〕投レ石。〔注〕劉曰、投レ石、擧レ石以投擿也。❷**なげだす**。はなす。〔莊子、知北游〕嚗然投レ杖而起。〔釋文〕投、本亦作レ放。❸**すてる**。はなちやる。〔小爾雅、廣言〕投、棄也。〔左氏、文、十八〕投二諸四裔一。〔注〕投、棄也。〔戰國、秦策〕扁鵲怒而投二其石一。〔注〕投、棄也。〔楚辭、天問〕投二之於冰上一。〔注〕投、棄也。❹**さしおく**。やめる。〔魏徵、述懷詩〕投レ筆事二戎軒一。❺**しづめる**。身を投げる。〔呂覽、離俗〕自投二於蒼領之淵一。〔注〕投、猶レ沈也。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作序〕乃投レ水而死。❻**おくる**。贈與する。〔正字通〕投、贈也。〔詩、衞風、木瓜〕投レ我以二木瓜一。〔王令、答二束徽之索一レ詩詩〕勉爲二瓦礫投一、幸有二金珠報一。❼**おろす**。〔廣雅、釋地〕投、種也。〔疏證〕謂レ投二種於土中一也、氾勝之書云、夜半漬二麥種一、向レ晨速投レ之。❽**いれる**。〔增韻〕投、納也。〔禮、樂記〕投二殷之後於宋一。〔唐書、百官志二〕靑甌曰二延恩一、在レ東、告二養レ人勸レ農之事一者投レ之。❾**おほふ**。〔詩、小雅、小弁〕相二彼投レ兔。〔箋〕投、掩。❿**あふ**。かなふ。あたる。〔集韻〕投、一曰、合也。〔穀梁、昭、八、馬候レ蹄、注〕發足相應、遲速相投。〔楚辭、大招〕投二詩賦一只。〔注〕投、合也。〔後漢書、楊震傳〕天投レ蜺。〔注〕投、應也。⓫**くみする**。加はる。味方になる。〔史記、淮陰侯傳〕信足下右投則漢王勝、左投則項王勝。⓬**むかふ**。ゆく。〔孔稚珪、北山移文〕雖三情投二於魏闕一、或假二步於山扃一。〔蘇軾、喜レ雪詩〕曷不三走投二陳孟公一、有レ酒醉レ君仍飽レ德。⓭**たよる**。寄託する。〔南史、王懿傳〕有二遠來相投者一、莫レ不二竭レ

力營瞻一。⓮とまる。宿泊する。〔李白、淮陰書懷詩〕暝投淮陰宿。〔戴良、宿二高密一詩〕客路信悠悠、荒城許二暫投一。⓯ふるふ。〔左氏、宣、十四〕投レ袂而起。〔注〕投、振也。〔莊子、漁父、被レ髮揄レ袂、釋文〕揄、李音投、投、揮也。〔後漢書、皇甫嵩朱雋傳論〕斯誠葉公投レ袂之幾。〔注〕投レ袂、奮レ袂也。⓰矢を壺になげ入れる古代の遊戲の一。投壺。〔禮、少儀〕侍レ投則擁レ矢。〔注〕投、投壺也。⓱さいを投げる。博弈。〔列子、說符、樓上博者射二明瓊一、注〕凡戲爭能取レ中、皆曰レ射、亦曰レ投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不レ觀二夫博者一乎、或欲二大投一、或欲二分功一。〔注〕集解曰、投、投レ瓊也。⓲古は投(5－12062)に作る。〔集韻〕投、古作レ投。⓳揄(5－12302)に通ず。〔莊子、漁父、釋文〕揄、李音投。⓴姓。〔通志、氏族略、平聲〕投氏、漢有二光祿投調一、或言、其先周郇伯、因下桓王伐レ鄭投二先驅一以策上、其後氏焉、無二是理一也。🈔❶とまる。逗(11－38887)に通ず。〔說文通訓定聲〕投、叚借爲レ逗。〔集韻〕逗、說文、止也、或作レ投。〔杜甫、憶二錦水居止一詩〕遠投二錦水波一。❷いたる。〔後漢書、任光傳〕投レ暮入二堂陽界一。〔注〕投、至也。❸重ねてかもした酒。酘(11－39797)に通ず。〔集韻〕酘、字林、重醞也、通作レ投。〔梁簡文帝、烏棲曲〕宣城投泊今行熟。〔蘇軾、酒經〕酒之始萌也、甚烈而微苦、蓋二投而後平也。❹讀切り。讀(10－36088)に通ず。〔正字通〕投、與二句讀之讀一同。〔馬融、長笛賦〕聆二曲引一者、觀二法于節奏一、察二度于句投一。〔注〕善曰、說文曰、逗、止也、投、與レ逗古字通、音豆、投、句之所レ止也。

名乘 ユキ。

【投案】1 t'ou^{2} an^{4} 事件に關係する。事件のために出頭する。

【投影】2 （トウエイ） ❶物のうつりやどつたかげ。❷物體を或一定點から見た形の平面圖。

【投影畫】3 （トウヱイグワ） 或る物體を投影法によつて畫いた形。卽ち物體の投影を畫いたもの。投影圖。

【投影線】4 （トウヱイセン） 直線の投影によつてあらはれた線。

【投影法】5 （トウヱイハフ） 物體を或る一定點から見た形の平面圖をゑがく方法。

【投影面】6 （トウヱイメン） 投影すべき平面。卽ち投影法で圖形をかき表はす平面。

【投淵】7 （トウエン） ❶身を淵に投ずること。みなげ。投身。〔莊子、讓王〕自投二淸泠之淵一。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕洗レ耳投レ淵、以振二玄邈之風一。❷淵の名。〔呂覽、本味〕常山之北、投淵之上、有二百果一焉。

【投緣】8 t'ou^{2} yüan^{2} ❶仲がよい。氣が合ふ。❷交情を結ぶ。

【投下】9 （トウカ） なげおろす。〔漢書、揚雄傳贊〕雄恐レ不レ能二自免一、廼從二閣上一自投下、幾死。

【投下分撥】10 （トウカフンハツ） 元代、或る部員を擧げて地方官廳に從して其の部下とすること。〔元典章、吏部、投下〕各投下分撥、到二路府州縣一、達魯花赤人員、須レ要下選二用正蒙古人員一、充中各處達魯花赤上。

【投河】11 （トウカ） ❶河になげ入れる。〔晉書、藝術、曇霍傳〕投二之于河一。〔異苑〕晉明帝時、獻レ馬者、夢二河神請一レ之、及レ至與二帝夢一同、遂投レ河以奉レ神。❷河に投身する。身投げする。〔後漢書、何進傳〕手劍斬二數人一、餘皆投レ河而死。

【投劾】12 （トウガイ） 自ら其の罪狀をせめた文を投じて官をやめること。退官。辭職。〔後漢書、周黃徐姜申屠傳序〕投劾而去。〔注〕案レ罪曰レ劾、自投二其劾狀一而去也。〔後漢書、孔融傳〕融卽奪レ謁還レ府、投劾而去。〔蘇軾、春菜詩〕明年投劾徑須レ歸、莫レ待二齒搖幷髮脫一。

【投交】13 t'ou^{2} chiao^{1} 渡す。差し出す。投收。

【投考】14 t'ou^{2} k'ao^{3} 試驗を受ける。受驗。

【投行】15 （トウカウ） 赴く。往く。〔淸會典事例、兵部、綠營處分例〕洋商投行買貨。

【投降】16 （トウカウ） 敵方に赴きくだる。降參。

【投香】17 （トウカウ） ❶晉の吳隱之が郡守を罷めて北に還る途中、舟がここに至るや狂風が大いに起つた。役人として淸正であつた彼はただ篋中に沈香一斤があつたので、これを水に投じたところ、風が頓にやんだといふ故事。〔晉書、良吏、吳隱之傳〕其妻劉氏齎二沈香一斤一、隱之見レ之、遂投二於湖亭之水一。〔李商隱、爲二尙書渤海公一擧レ人自代狀〕隱之淸節、無レ愧二于投香一。❷浦の名。晉の吳隱之が沈香を投げたところ。廣東省番禺縣の西北。洲上に西華寺があり、內に吳隱之の祠がある。投香浦。沈香洲。沈香(6－17189··71)の❺を見よ。〔太平寰宇記〕吳隱之罷レ郡見二妻篋中沈香一斤一、遂投二石門內水中一、後人謂二之沈香浦一、亦曰二投香浦一。

【投效】18 t'ou^{2} hsiao^{4} 誠をいたして、自ら力を效さんと請ひねがふこと。衷心より志願する。

【投稿】19 （トウカウ） 新聞・雜誌などへ自發的に原稿を送ること。寄稿。投書。

【投靠】20 （トウカウ） 行つて賴る。豪貴の家に奔つて身をまかせる。又、貧窮にせまり、奴婢となる。〔日知錄、世風、奴僕〕太祖數二涼國公藍玉之罪一亦曰、家奴至二于數百一、今日江南士大夫、多有二此風一、一登二仕籍一、此輩競來二門下一、謂二之投靠一、多者亦至二千人一、而其用レ事之人、則主人之起居食息以至二于出處語默一、無二一不レ受二其節制一、有下甘二于毀名束節一、而不レ顧者上、奴者主レ之、主者奴レ之、嗟乎此六逆之所二由來一矣。

【投角】21 （トウカク） 角をふるつてつきかかる。〔老子、五十〕兕無レ所レ投二其角一。

【投閣】22 （トウカク） 閣上から身を投げる。〔漢書、揚雄傳贊〕惟寂寞、自投レ閣、爰淸靜、作二符命一。〔范浚、讀二揚子雲傳一詩〕草玄欲レ作後人計、投レ閣自迷身不レ利。

【投轄】23 （トウカツ） 客をねんごろに留める喩。轄は車のくさび。漢の陳遵が酒を嗜み、客が集まつて大飲する每に其の車轄を取つて井中に投じ、急用があつても歸らせなかつた故事。〔漢書、游俠、陳遵傳〕遵嗜レ酒、每大飮、賓客滿レ堂、輒關レ門、取二客車轄一投二井中一、雖レ有レ急、終不レ得レ去。〔駱賓王、帝京篇〕陸賈分レ金將二燕喜一、陳遵投レ轄正留レ賓。〔書言故事、延接類〕謝二欵留一云三重蒙二投轄一。

【投轄館】24 （トウカツクワン） 明、杜文煥(6－14477··384)の室名。

【投轄錄】25 （トウカツロク） 書名。一卷。宋、王明淸撰。奇聞異事を集めたもの。客聞くを樂しみ投轄を待たずして自ら留るから投轄錄といふ。〔四庫提要、子、小說家類〕・〔說郛、第二十七冊〕。

【投閤】26 （トウカフ） 投閣(22)に同じ。〔後漢書、何進傳〕太后投レ閤得レ免。

【投合】27 （トウガフ） 相合ふ。又、相合はせる。音聲又は人の心意氣などについていふ。〔班固、答賓戲、啾二發投曲感耳之聲一、注〕善曰、投曲、投二合歌曲一也。〔重野成齋、象山碑〕投合亦非二一日一也。

【投竿】29 （トウカン） ❶釣竿をたれる。意を官途に絕つこと。〔莊子、外物〕任公子、爲二大鉤巨緇一、五十犗以爲レ餌、蹲二乎會稽一、投二竿東海一。〔嵆康、酒會詩〕放レ櫂投レ竿、優游卒レ歲。❷釣竿を投げ棄てる。㋑官途に就かうと意志すること。〔應璩、與二從弟君苗君胄一書〕昔伊尹輟レ耕、郅惲投レ竿。〔宋書、文獻江夏王義恭傳〕投レ竿釋レ褐、翻然來儀。㋺釣れないで、がつかりして釣竿を投げ棄てる。〔李白、大鵬賦〕莫レ不二投レ竿失レ鏃仰レ之長吁一。

【投閑】30 （トウカン） 閑地に就く。〔韓愈、進學解〕動而得レ謗、名亦隨レ之、投レ閑置レ散、乃分之宜。

【投間】31 （トウカン） 間隙に乘ずること。〔後漢書、延篤傳〕百家衆氏、投レ間而作。〔注〕投二射間隙一、而翫二百氏一也。

【投翰】32 （トウカン） 筆をなげおく。〔劉楨、公讌詩〕投レ翰長歎息、綺麗不レ可レ忘。〔傅亮、感物賦〕喟投レ翰以增レ情。

【投艱】33 （トウカン） なやみを與へること。〔書、大誥〕投二艱于朕身一。〔傳〕投二此艱難於我身一。

【投寄】34 （トウキ） おくる。おくりよせる。〔元稹、上二令狐相公詩一啓〕律詩以相投寄。

【投幾】35 （トウキ） 機會に乘ずる。つけこむ。投機。〔唐書、張公謹傳贊〕投幾之會、間不レ容レ燧。

【投棄】36（トウキ）なげすてる。〔揚雄、逐貧賦〕汝在二六極一、投棄荒遐。〔任昉、王文憲集序〕毀二發舊塋一、投二棄棺柩一。〔沈佺期、峽山寺賦序〕予投二棄南裔一、承レ恩北歸。〔方干、王將軍詩〕保二寧帝業一青萍在、投二棄儒書一絳帳空。〔蘇軾、石鼓詩〕投二弃俎豆一陳二鞭杻一。

【投旗】37（トウキ）清代、漢人が滿洲旗人の仲間入りすることをいふ。〔皇朝文獻通考、刑考〕順治二年、嚴二人民犯レ罪投レ旗之禁一、奉レ旨凡各省人民、有乙既經レ犯レ罪、欲下圖二倖免一投中充旗下上者甲、嗣後得レ實仍坐レ罪。

【投機】38（トウキ）❶蟲の名。蟋蟀の異名。〔埤雅〕促織、一名投機。❷佛大悟徹底して佛祖の心機に合すること。〔李嶠、宣州大雲寺碑〕奔レ嗜騁レ欲、壓二五濁一而輪廻、躡レ弈投レ機、入二三途一而鼎沸。❸機會につけこむ意。㋑得失の不確實な利益を得ようとしてする射倖的行爲。やま。㋺市價の變動を豫期して、其の差益を得るために行ふ賣買行爲。❹t'ou² chi¹ ㋑かけひき。㋺氣が合ふ。氣に入る。

【投機業】39（トウキゲフ）冒險的業務。やましごと。

【投機心】40（トウキシン）機に投じて一攫千金の利を圖らうとする心。やまき。

【投機取引】41（トウキトリヒキ）相場の變動によつて生ずる差益を得ることを目的とする商取引。現物の受渡の件はない。

【投歸】43（トウキ）かへる。〔朱熹、題二嚢山寺一詩〕行役倦二脩途一、投歸聊一憩。

【投供】44（トウキヨウ）清代、候選の官が吏部に至り履歴書等の文書を呈出して詮衡を待つをいふ。〔清會典事例、吏部、漢員銓選〕康熙二年定、人文到レ部、每月初一日投供。〔六部成語、吏部、投供、注解〕此員將レ得二選缺一、則吏部召レ之來署、令下其書二寫履歷單一紙一、呈交上、以憑二查校一。

【投曲】45（トウキヨク）歌曲によく合ふこと。〔漢書、敍傳上〕夫啾二發投曲感耳之聲一、合二之律度一。〔班固、答賓戲〕夫啾二發投曲感耳之聲一、合二之律度一。〔注〕善曰、投曲、投二合歌曲一也。

【投金】46（トウキン）金をなげすてる。〔呉越春秋、闔閭內傳〕乃投二金水中一而去。〔後漢書、獨行、雷義傳〕投二金於承塵一。

【投金瀨】47（トウキンライ）川の名。江蘇省溧陽の溧水。呉子胥が金を投じたところ。〔建康志〕溧水、一名二瀨水一、東流爲二永陽江一、江上有レ渚曰二瀨渚一、卽子胥乞レ食投レ金處、東流爲二瀨溪一、入二長蕩湖一。

【投化】48（トウクワ）德化を慕つて歸附する。歸化。〔魏書、穆亮傳〕萬戶投化。〔日本政記、欽明天皇〕檢二秦漢及諸蕃投化者七千餘戶一、編二貫諸國一。

【投戈】49（トウクワ）戰をやめる。休兵。偃武。〔後漢書、樊準傳〕投レ戈講レ藝、息レ馬論レ道。〔蜀志、姜維傳〕投レ戈放レ甲。〔晉書、袁瓌傳〕廢レ鞍覽レ卷、投レ戈吟詠。〔舊唐書、李光顏傳〕皆解レ甲投レ戈請レ命。

【投火】50（トウクワ）火中に入る。火中に入れる。〔新論、類感〕抱レ薪投レ火、燥者先燃。〔崔嘏、授二崔璹等給事中等一制〕玉在レ涅而不レ緇、金投レ火而彌勁。

【投瓜】51（トウクワ）瓜を投げる。瓜を贈る。轉じて、わづかなものを贈る。〔詩、衞風、木瓜〕投レ我以二木瓜一、報レ之以二瓊琚一。〔集傳〕言、人有三贈レ我以二微物一。〔陸龜蒙、江南秋懷寄二華陽山人一詩〕種レ豆悲二楊惲一、投レ瓜憶二衞旆一。

【投果】52（トウクワ）くだものをなげ與へる。晉の潘岳が少時彈を挾んで洛陽道に出れば、婦人の之に遇ふ者、皆果を投げ車に滿ちたといふ故事。〔晉書、潘岳傳〕少時常挾レ彈出二洛陽道一、婦人遇レ之者、皆連レ手縈擾、投レ之以レ果、遂滿レ車而歸。

【投貨】53 t'ou² huo⁴ 船が航海中遭難した時、貨物を海に投げすてて船體を輕くすること。

【投回】54（トウクワイ）旗人が罪を犯して逃亡した時、最初の一回は旗籍に復歸することを聽すこと。

【投掛】55（トウクワイ）ひつかかる。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕須レ看二柯枝投掛一。

【投荒】56（トウクワウ）遠く竄逐されること。〔唐書、藝文志二〕房千里投荒雜錄一卷。〔柳宗元、別二舍弟宗一一詩〕一身去レ國六千里、萬死投レ荒十二年。

【投簧】57 t'ou² huang³ 意氣投合する。

【投軍】58 t'ou² chün¹ 身を軍籍に入れること。又、軍隊に加はること。

【投契】59 t'ou² ch'i⁴ 交を結ぶ。懇意になる。

【投瓊】60（トウケイ）❶骰子（サイ）を投げる。〔史記、蔡澤傳〕君獨不レ觀二夫博者一乎、或欲二大投一、或欲二分功一。〔注〕集解曰、班固奕指曰、博縣二於投一、不二必在レ行、駰謂、投、投レ瓊也。〔程大昌、攟蒲經略〕古惟斲レ木爲レ子、一具凡五子、故名二五木一、後世轉而用レ石、用レ玉、用レ象、用レ骨、故列子謂二之投瓊一、律文謂二之出玖一。〔范成大、上元紀二呉中節物一俳諧體三十二韻詩〕燈市蚤投レ瓊。❷瓊を贈る。〔庾信、將レ命至レ鄴酬二祖正員一詩〕投レ瓊實有レ慰、報レ李更無レ蹊。

【投蜺】61（トウゲイ）にじを現はす。〔蘇軾、自笑詩〕醉筆得二天全一、宛宛天投レ蜺。

【投繳】62（トウケウ）かへしをさめる。〔福惠全書、保甲部、保甲稽查〕如有レ不レ遵二投繳一、該承查出稟究。

【投戟】63（トウゲキ）ほこを投げすてる。〔公羊、成、二〕晉郤克投レ戟逡巡。

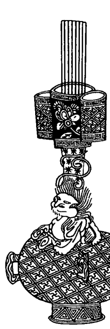
【投隙】64（トウゲキ）すきまに乘ずる。なかたがひに乘ずる。〔列子、說符〕投レ隙抵レ時、應レ事無レ方。〔唐書、酷吏傳序〕鑿レ空投レ隙、相矜以殘。

【投俠】65（トウケフ）古、百戲の一。刀の刄くぐり。投鋏。〔列子、說符〕又有二蘭子又能燕戲者一。〔注〕如二今之絕倒投俠者一。

【投鋏】66（トウケフ）投俠に同じ。鋏は刄。〔通俗編、俳優、投狹〕抱朴子云、踰レ鋒投レ鋏。

【投見】67（トウケン）書面をさしだして面會する。〔福惠全書、筮仕部、待接役〕或有二至レ京投見一。

【投繯】68（トウケン）首をくくつて死ぬこと。〔品字箋〕繯、環也、以レ索爲レ繯而自縊、謂二之投繯一、罪人當レ決而受レ絞、謂二之繯頭一。〔唐書、長孫无忌傳〕敬宗令下大理正袁公瑜・御史宋之順等卽二黔州一暴訊上、无忌投レ繯卒。〔長生殿、冥追〕不レ料六軍變亂、立逼二投繯一。


投壺
（三才圖會）

【投壺】69（トウコ）❶古禮の一。宴會の席で、一つのつぼに賓主が矢をなげ入れ勝負をして賓客を樂しませる座興で、勝つた者が負けた者に酒を飮ませる。〔禮、投壺〕投壺之禮、主人奉レ矢、司射奉レ中、使二人執レ壺、主人請曰、某有二枉矢哨壺一、請以樂レ賓、云云、壺頸脩七寸、腹脩五寸、口徑二寸半、容二斗五升一、壺中實二小豆一焉、爲二其矢之躍而出一也、壺去レ席二矢半、矢以二柘若棘一、毋レ去二其皮一。〔左氏、昭、十二〕晉侯以二齊侯一宴、中行穆子相、投壺。〔大戴禮、投壺〕投壺之禮、主人奉レ矢、司射奉レ中、使二人執レ壺。〔史記、滑稽、淳于髡傳〕男女雜坐、行酒稽留、六博投壺、相引爲レ曹。〔後漢書、祭遵傳〕遵爲二將軍一、取レ士皆用二儒術一、對レ酒設レ樂、必雅歌投壺。〔事物紀原、博弈嬉戲部、投壺〕西京雜記云、漢武時、郭舍人善二投壺一、以レ竹爲レ矢、不レ用レ棘也、古之投壺、取レ中不レ求レ還、郭則激レ矢令レ還、謂二之驍一、言レ如下博之立二碁於北車中一爲中驍傑上也、今投壺之用二竹矢一、爲二激還一爲レ驍、自二郭舍人一始也。❷篇名。㋑禮記の篇名。〔禮、投壺、疏〕案、鄭目錄云、名曰二投壺一者、以下其記中主人與レ客燕飮、講二論才藝一之禮上、此於二別錄一屬二吉禮一、亦實曲禮之正篇、是投壺與レ射爲レ類、此於二五禮一皆屬二嘉禮一也、或云、宜レ屬二賓禮一。㋺大戴禮の篇名。❸複姓。〔萬姓統譜〕投壺、中行穆子相、晉侯投壺、而生レ子因以爲レ姓。

【投控】70（トウコウ）官吏たるべき資格あるものが、選用に應ずる場合、吏部に資格證明書を差出すこと。〔清國行政法汎論、吏部銓選〕凡欲レ應レ選者、先赴二吏部一、提下出爲二候選者一之證明書上、云云、其證明書、先二于掣籤之期一、前月一日、呈二之吏部一、謂二之投控一。

【投缿】71（トウコウ）投書する。缿は投書を受ける器。〔史記、酷吏、楊僕傳〕吏苛察、盜賊惡少年投レ缿、購二告言姦一。〔注〕索隱曰、缿、受二投書一之器。

【投鉤】72（トウコウ）❶くじをひく。鉤は鬮に同じ。〔荀子、君道〕探レ籌投レ鉤者、所二以爲一レ公也。〔集解〕郝懿行曰、投レ鉤、未レ知二其審一、古有二藏彄一、今有二拈鬮一、疑皆非レ是、愼子曰、投レ鉤以分レ財、投レ策以分レ馬。〔愼子、威德〕投レ鉤以分レ財、投レ策以分レ馬。〔洪武正韻〕鉤、與レ鬮同、投鉤、猶レ云二拈鬮一。〔後漢書、儒林下、甄宇傳、注〕東觀記曰、云云、時博士祭酒議欲二殺レ羊分一レ肉、又欲二投鉤一、宇復恥レ之。❷つりばりを投げる。〔傅毅、七激〕

投レ鉤必獲、控レ弦加レ雙。

【投缿】73トウコウ 投書する。投缿に同じ。〔漢書、酷吏、王溫舒傳〕吏苛察、淫惡少年投レ缿、購告二言姦一。〔注〕師古曰、缿、所三以受二投書一也。

【投獄】74トウゴク 下獄(1-14・・162)に同じ。

【投笏】75トウコツ しやくをなげすてる。やくをやめるにいふ。退官。致仕。辭職。挂冠。〔韻府引、章懋、詩〕投レ笏遠辭丹鳳闕。

【投梭】76トウサ ❶情事を挑まれてはねつけること。ひぢでつぱう。晉の謝鯤(字は幼輿)が鄰家高氏の美女に挑んだ時、女が梭を投げつけて鯤の前齒二枚を折つた故事。〔晉書、謝鯤傳〕鄰家高氏女有二美色一、鯤嘗挑レ之、女投レ梭、折二其兩齒一、時人爲二之語一曰、任達不レ已、幼輿折レ齒。❷はたを織ることをやめる。〔王周、采桑女詩〕採レ桑知二蠶飢一、投レ梭惜二夜遲一。❸速かにうごく梭。轉じて、速かに動く喩。〔蘇軾、百步洪詩〕長洪斗落生二跳波一、輕舟南下如二投梭一。

【投槍】77トウナゲヤリ 敵になげつける槍。槍の短いもの。

【投策】78トウサク つえをなげすてる。〔張協、七命〕陽烏爲レ之頓レ羽、夸父爲レ之投レ策。

【投竄】79トウザン 流し者にする。投は棄、竄は放。〔晉書、庾亮傳〕亮明日又泥首謝レ罪、乞二骸骨一、欲三闔レ門投二竄山海一。〔蘇舜欽、夏熱晝寢感詠詩〕賓朋四散逐、投竄向二僻藩一。〔國史略、一條天皇〕今帥公以二相門后族一、投二竄遠裔一。

【投子】80トウシ 博弈に用ひるさい。象牙や獸骨で造る。正立方體で六面、一二三四五六の數を分刻する。投。骰子。〔史記、范睢蔡澤傳〕君獨不レ觀二夫博者一乎、或欲二大投一、或欲レ分レ功、注〕集解曰、投、投子也。〔事物紀原、博弈嬉戲部、投子〕續事始曰、陳思王曹子建制二雙陸一、置二投子二一、唐末有二葉子戲一、不レ知二誰遂加至レ六、按、烏曹始置二六博一、老子置二樗蒲一、李氏資暇、引三蔡澤說二范睢一云、博者欲二大投一、裴駰注、謂二投、投子一、乃投擲之義、謂二樗蒲五木一、然則蒲皆有二投子一耳、故曹植所レ造從レ么至レ六、謂二之投子一、取二投擲義一云、嘉話錄曰、大和已後、博戲家謂二重四一爲二堂印一、言二重四一則投子猶レ二也、六隻蓋起二近代一、大和文宗時年號、今按、唐李賀州部撰二葉子格一、世有二其書一、則六隻當レ自レ部矣、潘氏紀聞譚、自二投子一以飾二四朱一者、因下明皇與二貴妃一采戰、將レ北唯重四可二轉レ敗爲レ勝、上擲而連呼レ之、宛轉良久、而成二重四一、上大悅、命二高力士一賜中四緋上也。

【投止】81トウシ 立ちよつて足をとめる。やどる。とまる。投宿する。〔後漢書、黨錮、張儉傳〕儉得二亡命一、困迫遁走、望レ門投止。

【投矢】82トウナゲヤ 敵になげつける矢。

【投死】83トウシ 死をいたす。身を投げ出す。〔後漢書、光武紀上〕蕭王推二赤心一、置二人腹中一、安得レ不レ投レ死乎。〔注〕投死、猶レ言二致死一。〔資治通鑑、漢紀、淮陽王更始二年、注〕賢曰、投死、猶レ言二致死一、余謂、投、託也、託以レ死也。

【投至】84トウシ 到る。投も亦至る意。投至得ともいふ。〔漢宮秋、二折〕投二至兩處一凝レ眸盼得一鴈橫レ秋。

【投刺】85トウシ ❶名刺を差出す。面會をもとめるにいふ。〔梁書、處士、諸葛璩傳〕未三嘗投二刺邦宰一。〔北齊書、楊愔傳〕遂投二刺轅門一、便蒙二引見一。〔韓愈、上二考功崔虞部一書〕欲レ事二干謁一、則患下不レ能二小書一、困中於投刺上。❷名刺を投げ棄てる。面會を止めるにいふ。又、世上との關係を絕つこと。〔梁武帝、孝思賦序〕先君體有レ不レ安、晝則輟レ食、夜則廢レ寢、方寸煩亂、容レ身無レ所、便投レ刺解レ職、以遵二歸路一。

【投詞】86トウシ 訴へがきをさしだす。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕又有二投詞者一。

【投資】87トウシ 資本を投ずる。もとでをおろす。資本金を事業のために使用する。

【投收】88トウシウ さしだす。〔福惠全書、筮仕部、辭朝〕吏部投收、隨二各官一入二左掖門一。

【投射】89トウシヤ ❶機に乘じて利を得ること。〔資治通鑑、晉紀〕(元帝、太興元年)是爲下謹レ身奉レ法者失レ分、僥倖投射者得上レ官。〔注〕投射、謂二投レ機而射一レ利也。❷音、又は光などの波動が、一の物質内を通過して他の物質との境界面に到著すること。入射。

【投射角】90トウシヤカク 物理學の用語。投射線と投射點に立てた法線とのなす角。入射角。

【投射線】91トウシヤセン 物理學の用語。波動が一物質から他物質に向つて進む方向の線。

【投射點】92トウシヤテン 物理學の用語。投射線が第二物質に到達する點。

【投情】93 t'ou² ch'ing² 友達緣者にたよる。

【投手】94トウシユ 野球用語。ピッチャーをいふ。

【投首】95トウシユ ❶くびを投げる。〔宋史、曹瑋傳〕夏人聞レ之、卽斬二叛者一、投二其首境上一。❷自訴する。自首する。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕是我相投首。〔六部成語補遺、刑部、投首、注解〕言、犯罪者不レ待二人告發、或官拘拿一、卽自行赴二官衙一、投到自首也。

【投酒】96トウシユ ふたたびかもしたさけ。酘酒。醞酒。投泊。〔梁簡文帝、烏棲曲〕宣城投泊今行熟。

【投充】97トウジユウ ❶清代、旗人でないものが滿洲朝廷に忠誠を盡すべきを誓ひ、特に旗籍に編入されることをいふ。〔清會典事例、戶部、戶口〕八年諭、投充人有二生レ事擾レ民者一、本主及該佐領、如知レ情皆連坐。❷自ら進んで當る。〔長生殿、驛備〕儞是投二充女工一的麼。

【投宿】98トウシユク やどにつくこと。泊る。宿泊。〔漢書、東方朔傳〕中休更レ衣、投二宿諸宮一。〔楚辭、劉向、九歎、逢紛〕平明發二兮蒼梧一、夕投二宿兮石城一。〔揚雄、蜀都賦〕羅車百乘、期會投宿。

【投出】99トウシユツ 降參してくる。〔國朝漢學師承記、王蘭泉〕相繼投出。

【投順】100トウジユン 降參すること。〔桃花扇、鬧話〕那些投二順闖賊一、不忠不義的姓名。

【投書】101トウシヨ ❶文章をなげこむ。〔史記、屈原賈生傳〕過二湘水一、投レ書以弔二屈原一。〔漢書、趙廣漢傳〕及レ得二投書一、削二其主名一、而託以爲二豪桀大姓子弟所一レ言。〔魏志、涼茂傳〕時有二投書誹謗者一。❷澗の名。山東省泰安縣の泰山の上。宋の胡瑗が孫復・石介と泰山に學を講じ、終夜寢ねず、家からの便を得るも平安の二字あるを見れば、直ちに澗中に投じて復た讀まず。人、其處に名づけて投書澗といひ、澗西に講學堂を建てた。〔濟南府志〕投書澗、在二凌雲峯下一、以三胡安定投二家書於此一。❸新聞・雜誌などに掲載するために草稿を送ること。又、其の草稿。投稿。

【投心】102トウシン 心をなげこむ。まことを盡す。〔魏志、毌丘儉傳〕欽亦感戴、投レ心無レ貳。〔潘岳、楊荊州誄〕投二心外朝一、策レ名委レ身。

【投身】103トウシン 身を水に投ずること。みなげ。入水。〔吳越春秋、闔閭內傳〕吾何面目、以視二天下之士一、言訖、遂投二身於江一。〔後漢書、朱穆傳論〕又專諸荊卿之感激、侯生豫子之投身。

【投信】104 t'ou² hsin⁴ 郵便を差出す。

【投進】105トウシン 差し出す。〔宣和遺事、後集〕實封投進。〔福惠全書、蒞任部、發各告示〕許下擊レ梆從二轉斗內一投進上。

【投診】106 t'ou² chen³ 診察をうける。來診。

【投親】107 t'ou² ch'in¹ ❶親戚に身を寄せる。❷親戚を尋ねる。

【投簪】108トウシン トウサン 冠をとめる笄を投げすてる。官を辭するにいふ。致仕。〔摯虞、徵士胡昭贊〕投レ簪卷レ帶、韜レ聲匿レ迹。〔左思、招隱詩〕躊躇足力煩、聊欲レ投二吾簪一。〔注〕善曰、蒼頡篇曰、簪、笄也、所二以持一レ冠也、翰曰、欲下投二棄冠簪一而隱中於此中上。〔孔稚珪、北山移文〕昔聞投レ簪逸二海岸一、今見解レ蘭縛二塵纓一。〔注〕翰曰、投、棄也、謂三疏廣棄レ官、而歸二東海一也。

【投刃】109トウジン やいばを投げすてる。持つてゐたはものを置く。釋刀。〔孫綽、遊二天台山一賦〕投レ刃皆虛、目レ牛無レ全。

【投水】110トウスイ ❶水中に投ずる。身投げする。〔後漢書、宋弘傳〕行至二渭橋一、自投二於水一。〔孔子家語、致思〕遂投レ水而死。❷水中に入れる。〔淮南子、道應訓〕若以レ水投レ水何如。〔李康、運命論〕其言也、如二以レ石投一レ水、莫二之逆一也。〔陸倕、石闕銘序〕計如レ投レ水、思若レ轉レ規。〔注〕向曰、張良之策、如二以レ石投一レ水、莫二之逆一也。〔舊唐書、劉幽求傳〕義以臨レ事、精能貫レ日、忠以成レ謀、用若レ投レ水。

【投井】111トウセイ 井中に投げ込む。又、井中に身を投ずる。〔漢書、游俠、陳遵傳〕賓客滿レ堂、輒關レ門、取二客車轄一、投二井中一、雖レ有レ急、終不レ得レ去。〔晉書、郭璞傳〕此婢復爲レ符投二于井中一、數千赤衣人皆反縛、一一自投二于井一。〔神仙傳、葛玄〕又能取二數十錢一、使三人散二投井中一。

【投生】112 t'ou² shêng¹ 生計を營む。生活の途

を求める。

【投誠】113 トウセイ 誠心を投げ出す。又、誠心を以て歸服すること。〔王昌齡、武陵開元觀二黃鍊師院一詩〕暫因二問俗一到二眞境一、便欲三投レ誠依二道源一。〔六部成語、兵部、投誠、注解〕誠心誠意的前來投降。

【投稅】114 トウゼイ 稅をはらふ。〔輟耕錄、奴婢〕國初平二定諸國一日、以レ俘到二男女一、匹配爲二夫婦一、而所レ生子孫、永爲二奴婢一、又有下曰二紅契買到一者上、則其元主轉二賣於人一、立レ券投レ稅者是也。

【投鞘】115 ナゲザヤ 毛皮などで造つた槍の鞘の末を長くし、持つ時、後の方に折れ垂れるやうにしたもの。〔近松、薩摩歌、諸國槍印〕。扠また四國の御大名、熊の皮の投鞘は讚州高松。

【投石】116 トウセキ ❶いしをなげつける。〔漢書、甘延壽傳〕投石拔距、絕二於等倫一。〔注〕應劭曰、投石、以レ石投レ人也。〔左思、吳都賦〕袒裼徒搏、拔距投石之部。❷いしになげつける。〔漢書、刑法志〕以レ桀詐レ堯、若二卵投一レ石。〔淮南子、主術訓〕猶二以レ卵投レ石、以レ火投一レ水。

〘投石超距〙117 トウセキテウキヨ 石をなげて遠くに達せしめる。又、其の競爭。一說に、超距は跳躍。又、其の競爭。〔史記、王翦傳〕王翦使三人問二軍中一戲乎、對曰、方投石超距。〔注〕集解曰、徐廣曰、超、一作レ拔、駰案、漢書云、甘延壽投石拔距、絕二於等倫一、張晏曰、范蠡兵法、飛石重十二斤、爲二機發一、行三百步、延壽有レ力、能以レ手投レ之、拔距、超距也、索隱曰、超距、猶二跳躍一也。

【投跡】118 トウセキ ❶人のあとにならふ。〔揚雄、解嘲〕欲レ談者卷レ舌而同レ聲、欲レ步者擬レ足而投レ跡。〔注〕翰曰、投跡、謂下觀二事變一而隨行上レ之。〔鍾會、移レ蜀檄〕投二跡微子之蹤一、錯二身陳平之軌一。❷身を投げる。〔陸機、演連珠〕義貴二於身一、故臨レ川有二投レ跡之哀一。〔注〕向曰、投レ川之士、死而可レ哀者、輕レ身徇レ義也。

【投藉】119 トウセキ なげうちふみつける。〔荀子、王霸〕日欲下司レ閒而相與投二藉之一去中逐之上。〔注〕投、擿也、藉、踐也、一作三投二錯之一。

【投節】120 ナゲブシ ❶俗曲をうたふ時の投げ出すやうな節。❷元祿の頃、京都に流行し、尋いで三都に行はれた一種の俗曲。詞は小說家箕山の作と傳ふ。

【投川】121 トウセン 川になげすてる。〔張協、七命〕簞醪投レ川、可レ使二三軍告一レ捷。

【投箭】122 トウセン 飛行機から敵軍に投下する鐵製の箭。世界大戰の際、フランス軍がドイツ軍に對して使用したのに始まる。

【投錢】123 トウセン ❶錢をなげる。〔神仙傳、葛玄〕又能以二數十錢一使三人散二投井中一、玄徐徐以レ器於レ上呼二錢出一、於レ是一一飛從二井中一出、悉入二器中一。❷錢を與へる。〔李紳、聞二里謠一效二古歌一〕春日遲遲驅二五馬一、留レ犢投レ錢以爲レ謝。

〘投錢戲〙124 トウセンギ 錢うちの一種。地上に穴を掘り、錢を打込む小兒の遊戲。穴一。胡投。意錢。

【投籖】125 トウセン 籖をなげうつ。〔陳書、世祖紀〕必投二籖于堦石之上一。

【投厝】126 トウソ すておく。又、處置すること。〔蜀志、姜維傳〕咸以二姜維投厝、無レ所、身死宗滅一、以レ是貶削、不二復料擿一。〔晉書、王濬傳〕伏讀二嚴詔一、驚怖悚慄、不レ知二軀命當一レ所二投厝一、豈惟老臣、獨懷二戰灼一、三軍上下、咸盡喪レ氣。

【投鼠】127 トウソ 鼠に物を投げつける。〔漢書、賈誼傳〕里諺曰、欲レ投レ鼠而忌レ器、此善諭也、鼠近二於器一、尚憚不レ投、恐レ傷二其器一、況於二貴臣之近一レ主乎。

〘投鼠恐レ器〙128 トウソキヲオソル 鼠に投げつけて擊ち殺さうとしても、傍に器物があつて、之を傷はんことを恐れる。近習の奸を除かうとして、君を傷ふを恐れる喩。投鼠を見よ。

【投贈】129 トウソウ 物をおくる。〔祖詠、酬二汴州李別駕贈一詩〕所レ愧能投贈、淸言益潤レ身。〔王安石、答二劉季孫一詩〕愧君綠綺虛投贈、更覺貧家報二乏金一。

【投足】130 トウソク ❶足をなげだす。〔淮南子、覽冥訓〕馬爲二整齊而斂諧一、投レ足調均、勞逸若レ一。〔張華、鷦鷯賦〕動レ翼而逸、投レ足而安。❷僅かの骨折にいふ。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕蓋一擧手一投足之勞也。

【投胎】131 トウタイ 此の世に生れかはつて出る。〔紅樓夢、一回〕投胎之處。

【投體】132 トウタイ ［佛］體を投げ出して拜する。下拜。五體投地。五輪投地。〔李華、東都聖善寺無畏三藏碑〕僧有二達摩鞠多一、掌二定門之祕鑰一、佩二如來之密印一、顏如二四十許一、實八百年也、和尚投二體兩足一、奉爲二本師一。〔梁肅、藥師琉璃光如來畫像讚〕自レ外入者、惑疑亂怖、投體膜拜、而不レ知二其紛繪一也。

【投到】133 トウタウ 願書を差出す。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕及二投到聽レ審發落一。

【投托】134 tʻou^2 tʻuo^1 信じて賴み入る。

【投託】135 tʻou^2 tʻuo^1 投托に同じ。

【投地】136 トウチ 地上に投げすてる。地上に身を投げ出してひれふす。〔漢書、外戚下、孝成昭皇后傳〕自投レ地啼泣不レ肯レ食。〔南史、文學、卞彬傳〕脫レ幘投レ地、云云、拂レ衣而去。〔周書、趙剛傳〕抽レ刀投レ地。

【投杼】137 トウチヨ はたのひをなげる。曾參の母、子を信ずること深く、其の機を織つてゐた時、曾參、人を殺すと告げる者があつたが信じなかつた。しかし、告者三人に及んで遂に杼を投じて走つたといふ故事。君主が讒言を信ずる譬。〔戰國、秦策〕費人有下與二曾子一同二名族一者而殺上レ人、人告二曾子母一曰、曾參殺レ人、曾子之母曰、吾子不レ殺レ人、織自若、有レ頃焉、人又曰、曾參殺レ人、其母尚織自若也、頃レ之一人又告レ之曰、曾參殺レ人、其母懼、投レ杼踰レ牆而走、夫以三曾參之賢、與二母之信一也、而三人疑レ之、則慈母不レ能レ信也。〔史記、甘茂傳〕昔曾參之處レ費、魯人有下與二曾參一同二姓名一者上、殺レ人、人告二其母一曰、曾參殺レ人、其母織自若也、頃レ之、一人又告レ之曰、曾參殺レ人、其母尚織自若也、頃又一人告レ之曰、曾參殺レ人、其母投レ杼下レ機、踰レ牆而走。〔後漢書、黃瓊傳〕曾子大孝、慈母投レ杼、伯奇至賢、終二於流放一。

〘投杼疑〙138 トウチヨノウタガヒ 謹愼の人も讒にあふこと數度に及べば、他の疑ひを招くに至る喩。又、たび重なれば遂に讒言を信ずるに至る喩。投杼を見よ。〔沈佺期、枉繫詩〕吾憐曾家子、昔有二投杼疑一。

〘投杼之怒〙139 トウチヨノイカリ 投杼疑に同じ。〔後漢書、寇榮傳〕令下陛下忽二慈母之仁一、發中投杼之怒上。

【投沈】140 トウチン なげ沈める。〔漢書、王尊傳〕躬率二吏民一、投二沈白馬一、祀二水神河伯一。

【投呈】141 tʻou^2 chʻêng^2 差し出す。提出する。

【投遞】142 トウテイ わたす。手渡しする。配達する。差し出す。〔淸會典事例、吏部、漢員銓選〕光緒元年、定候補候選人文到レ部、取二具印結一、並同選互結、應レ名投遞。〔福惠全書、淸丈部、具結狀〕合レ行下自具二結狀一投遞上。〔福惠全書、敎養部、禮耆德〕開二列所レ行事實一具結投遞。

〘投遞親供〙143 トウテイシンキヨウ 淸代、候選の官が其の選を待つため、自ら吏部に出頭して、其の存在を認めしめること。投供(44)を見よ。

【投擲】144 トウテキ なげうつ。拋擲。投擿。〔韓愈、岳陽樓別二竇司直一詩〕中盤進二橙栗一、投擲傾二脯醬一。

【投撤】145 トウテツ なげすてる。〔賈子新書、君道〕令下殷之民投二撤桎梏一、而流中之於河上。

【投牒】146 トウテフ かきつけをさしだす。〔福惠全書、典禮部、賓興考試〕專試二文詞一、皆投レ牒自進。

【投店】147 tʻou^2 tien^4 投宿する。

【投傳】148 トウデン 官符をすてる。官をすてるにいふ。〔後漢書、陳蕃傳〕以二諫爭不一レ合、投レ傳而去。〔注〕傳、謂レ符也。〔魏志、劉廙傳〕廙兄望之、有レ名二於世一、荊州牧劉表辟爲二從事一、云云、以二正諫不一レ合、投レ傳告歸。

【投兔】149 トウト 逐はれて人の懷に飛び込む兔。〔詩、小雅、小弁〕相二彼投兔一、尚有レ先レ之。〔集傳〕投、云云、相二彼被レ逐而投一レ人之兔一。

【投匿】150 トウトク 密に匿名の文書を投じて人の祕密を告發すること。〔唐律、鬬訟、釋文〕隱二投文牒一、密二告人罪一、謂二之投匿名書一。

【投認】151 トウニン 證據たるべきものをみとどける。〔福惠全書、錢穀部、催徵、革二官銀匠一〕然而投レ認討レ保有レ費、糧房差役有レ費、以及二賃房日食硝煤夥計一有レ費。

【投拜】152 トウハイ ❶地に身を投げて拜禮する。〔宣和遺事、後集〕責令二投拜一。❷tʻou^2 pai^4 其の門下に入る。

【投賣】153 ナゲウリ 投げ棄てるやうに安くして賣ること。捨賣。

【投報】154 トウハウ 他人の贈物に對して返禮をすること。男女互に戀情を通ずるにいふ。又、恩義に

報いるにいふ。〔詩、衞風、木瓜〕投㆑我以㆓木瓜㆒、報㆑之以㆓瓊瑤㆒、匪㆑報也、永以爲㆑好也。〔集傳〕言人有㆔贈㆑我以㆓微物㆒、我當㆔報㆑之以㆓重寶㆒、而猶未㆑足㆓以爲㆒㆑報也、但欲㆓其長以爲㆑好而不㆒㆑忘耳、疑亦男女相贈答之辭、如㆓靜女之類㆒。〔宋書、謝莊傳〕雖㆔志在㆓投報㆒、其路無㆑由。

【投泊】154′（トウハク） 投酒(96)を見よ。

【投晩】155（トウバン） 夕方になる。又、夕方。投暮。〔南史、文學、何思澄傳〕毎宿昔作㆓名一束㆒、曉便命㆑駕、朝賢無㆑不㆓悉狎㆒、云云、投㆑晩還㆑家、所㆑賫名必盡。

【投畀】156（トウヒ） 投げ與へる。〔潘岳、關中詩〕投㆓畀朔土㆒。〔剪燈餘話、泰山御史傳〕合㆑在㆓獄卒之投畀㆒。

【投飛】157（トウヒ） 野球用語。打者の打上げたボールが投手の守備範圍にあること。ピツチヤーフライ。

【投筆】158（トウヒツ） 筆を置く。筆をなげうつ。特に、軍事に從ふために學問・文事を棄てる意に用ひる。擲筆。〔魏徵、述懷詩〕中原還逐㆑鹿、投㆑筆事㆓戎軒㆒。〔劉希夷、從軍行〕平生懷㆑仗㆑劍、慷慨卽投㆑筆。〔燕子箋、入幕〕投㆑筆佩㆓干將㆒。

〖投筆齋〗159（トウヒツサイ） 清、褚菊書(**10－34457**··40)の號。

〖投筆集〗160（トウヒツシフ） 書名。前後すべて百篇。清、錢謙益撰。鄭成功の義擧に感奮し、杜甫の秋興詩に和して作る。當時、忌諱されて禁に遭ひ、僅に寫本で傳はり、清末、始めて刊行せられた。

【投稟】161（トウヒン） 請願書を差出す。〔福惠全書、刑名、詞訟、審訟〕如原訴投稟、倶收㆓內衙㆒。

【投斧】162（トウフ） ❶斧を投げ棄てる。〔法言、學行〕良捨㆓其策㆒、般投㆓其斧㆒。❷志を立てて學に就くこと。後漢の文黨が斧を高木の上に投じてトし、やがて長安に行つて學んだ故事。〔北堂書抄、九十七、投㆑斧受㆑經、注〕文黨、字翁仲、未㆑學之時、與㆑人倶入㆓叢木㆒、謂㆓侶人㆒曰、吾欲㆓遠學㆒、先試投㆓斧高木上㆒、斧當㆑掛、乃仰投㆑之、斧果上掛、因之㆓長安㆒受㆑經。〔顏氏家訓、勉學〕古人勤㆑學、有㆓握㆑錐投㆑斧照㆑雪聚㆒㆑螢、鋤則帶㆑經、牧則編㆑簡、亦爲㆓勤篤㆒。〔梁簡文帝、求㆓寧國臨城二公入㆒㆑學表〕下㆑帷投㆑斧、昔人以爲㆓精力㆒。

【投附】163（トウフ） 歸順する。〔宋史、蠻夷四、西南諸夷傳〕亦西蜀邊地、所部十州、云云、曰㆓投附州㆒。

【投佛】164（トウブツ） 佛像をなげすてる。〔弘道館記述義、上〕天皇亦能英斷、屢投㆓佛於水火㆒。

【投分】165（トウブン） 氣が合ふ。仲が好い。契合。〔潘岳、金谷集作詩〕投分寄㆓石友㆒、白首同㆑所㆑歸。〔注〕善曰、阮禹爲㆓魏武㆒與㆓劉備㆒書曰、披㆑懷解㆑帶、投㆑分記㆑意、分、猶㆑志也。〔千字文〕交友投分、切磨箴規。〔周書、史寧傳〕寧乃見㆑昇、申以㆓投分之言㆒、微託㆓思歸之意㆒。

【投文】166（トウブン） ❶文章を贈る。〔舊唐書、韓愈傳〕愈擧㆓進士㆒、投㆓文於公卿閒㆒。❷なげぶみ。投書。願人の書面。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕先爲㆓放告㆒、後收㆓投文㆒。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕其餘日止收㆓投文㆒。

【投斃】167（トウヘイ） 死につくこと。投死。〔後漢書、應劭傳〕朝恩在㆑寬、幸至㆓冬獄㆒、而初・軍愚狷、妄自投斃。

【投袂】168（トウベイ） たもとを振り拂ふ。勢よく立ちあがるさま。奮起するさま。〔左氏、宣、十四〕楚子聞㆑之、投㆑袂而起。〔注〕投、振也、袂、袖也。〔後漢書、朱浮傳〕昔楚宋列國倶爲㆓諸侯㆒、莊王以㆔宋執㆓其使㆒、遂有㆓投㆑被之師㆒。〔江淹、爲㆓蕭驃騎㆒發㆓徐州三五㆒教〕吾任先㆓貴近㆒、義兼㆓常慨㆒、挺㆑刃投㆑袂、信見㆓其時㆒。

【投票】169（トウヘウ） 札を函などの中になげこむ。選擧又は採決等の際、各人が自分の欲する人名又は意志を札に記して一定の場所にさし出すこと。いれふだ。入札。

〖投票函〗170（トウヘウバコ） 投票用紙を入れるはこ。

〖投票紙〗171（トウヘウシ） 投票に用ひる紙。

〖投票者〗172（トウヘウシヤ） 投票する人。

【投標】173 t'ou^{2} piao^{1} 入札する。

【投錨】174（トウベウ） いかりをなげおろす。船をつける。碇泊する。ふなどまりする。又、其のこと。

【投鞭】175（トウベン） むちを投げ入れる。〔晉書、苻堅載記下〕苻堅曰、云云、以㆓吾之衆旅㆒、投㆓鞭於江㆒、足㆑斷㆓其流㆒。

〖投鞭斷流〗176（トウベンダンリウ） 鞭を投げ入れて川を埋めて流れぬやうにすること。川を渡る兵士の多いこと。投鞭を見よ。

【投保】177 t'ou^{2} pao^{3} 保險に加入する。保險をつける。

【投暮】178（トウボ） 夕方になる。又、日ぐれ時。夕方。投晩。〔後漢書、任光傳〕世祖遂與㆓光等㆒、投暮入㆓堂陽界㆒。〔注〕投、至也。〔魏志、李孚傳、注〕著㆓平上幘㆒、將㆓三騎㆒、投暮詣㆓鄴下㆒。

【投木】179（ナゲキ） 植ゑないでなげだしておく木。

【投奔】180（トウホン） ❶受け持ち。〔紅樓夢、十四回〕衆人領了去、也都有㆓了投奔㆒。❷かけ込む。四方に奔走して一身を賴むこと。投兎(149)を見よ。

【投迸】181（トウホン） たよる。投奔。〔琵琶記、路途勞頓〕我這裏誰投迸。

【投網】182（トウマウ） ❶あみを投げ込む。〔潘岳、西征賦〕徒觀㆓其鼓㆑枻迴㆑輪、灑㆑鉤投㆒㆑網。❷（トアミ） 捕魚に用ひる一種の網。投げれば圓錐狀をなして水面を蔽ひ、網の下に附けた錘で沈むやうに作つたもの。撒網。唐網。〔雅筵醉狂集〕とあみの、目にかかれとは、晒らさぬも、夕日にしるき蜑の家數。

【投命】183（トウメイ） 生命をなげすてる。〔後漢書、仲長統傳〕財賂自營、犯㆑法不㆑坐、刺客死士爲㆑之投㆑命。〔潘岳、西征賦〕臨㆑危而智勇奮、投㆑命而高節亮。〔顏延之、陽給事誄序〕投㆑命徇㆑節、在㆑危無㆑撓。

【投門】184 t'ou^{2} men^{2} 入門する。弟子入りをする。

〖投門子〗185 t'ou^{2} men^{2} tzŭ 權勢ある人に出入して利益を得んとするもの。

〖投門路〗186 t'ou^{2} men^{2} lu^{4} 役所などに入つて職に就く。職業に入る。

【投藥】187（トウヤク） 藥を處法して患者に與へること。

【投籥】188（トウヤク） 錠をおろす。かぎをかける。〔戰國、趙策〕齊湣王將㆑之㆑魯、夷維子執㆑策而從、謂㆓魯人㆒曰、子將㆔何以待㆓吾君㆒、魯人曰、吾將㆘以㆓十太牢㆒待㆗子之君㆖、夷維子曰、子安取㆑禮而來待㆓吾君㆒、彼吾君者、天子也、天子巡狩、諸侯辟㆑舍、納㆓筦鍵㆒、攝㆑衽抱㆑几、視㆓膳於堂下㆒、天子已食、退而聽㆑朝也、魯人投㆓其籥㆒、不㆓果納㆒。

【投與】189（トウヨ） なげあたへる。〔後漢書、獨行、王忳傳〕女子曰、無㆑衣不㆓敢進㆒、忳便投㆑衣與㆑之。

【投用】190（トウヨウ） 召抱へられる。〔福惠全書、筮仕部、募家丁〕親㆓寫投用文契㆒。

【投羅】191（トウラ） あみの中に入る。〔曹植、野田黃雀行〕不㆑見㆓籬閒雀㆒、見㆓鷂自投㆒㆑羅。

【投老】192（トウラウ） ❶老年に至る。〔後漢書、循吏、仇覽傳〕母守㆑寡養㆑孤、苦㆑身投㆑老。〔蘇軾、送㆔范景仁游㆓洛中㆒詩〕投㆑老身彌健、登㆑山意未㆑闌。❷年老いて辭職すること。告老。〔王羲之、安西帖〕實望㆓投老得㆒㆑盡㆓田里骨肉之歡㆒。〔蘇軾、別㆓黃州㆒詩〕投㆓老江湖㆒終不㆑失、來時莫㆑遣㆓故人非㆒。

【投醪】193（トウラウ） 部下をねぎらふ喩。古の良將が一樽の酒を川に流し衆士に飲ましめて恩惠を施した故事。〔蜀志、先主傳、注〕習鑿齒曰、先主雖㆓顚沛險難㆒、而信義愈明、勢偪事危、而言不㆑失㆑道、觀㆘其所㆔以結㆓物情㆒者㆖、豈徒投㆑醪撫㆑寒、含㆑蓼問㆑疾而已哉。〔晉書、劉弘傳〕投㆑醪當㆘與㆓三軍㆒同㆗其薄厚㆖。〔張協、七命〕簞醪投㆑川可㆑使㆓三軍告㆒㆑捷。〔注〕善曰、黃石公記、昔良將之用㆑兵也、人有㆑饋㆓一簞之醪㆒、投㆑河令㆓迎㆑流而飲㆒㆑之、夫一簞之醪、不㆑味㆓一河㆒、而三軍思㆓爲致㆒㆑死者、以㆓滋味及㆒㆑之也。

【投卵】194（トウラン） 卵をなげる。〔晉書、石崇傳〕苟有㆑所㆑惡、易㆓於投㆒㆑卵。

【投綸】195（トウリン） 釣絲を垂れる。〔列子、湯問〕投㆑綸沈㆑鉤。

【投礫】196（トウレキ） ❶つぶてをなげる。〔蘇軾、觀臺詩〕須㆑防㆓戲童子㆒、投㆑礫犯㆓清泠㆒。❷つぶて。

【投路】197 t'ou^{2} lu^{4} 投奔(180)の❷に同じ。

【投溷中】198（トウコンチユウ） 戲曲の篇名。清、桂馥作。後四聲猿の一。李長吉の遺稿を其の表兄が生前の恨によつて之を厠中に棄てた事を演じたもの。

【投主人】199 t'ou^{2} chu^{3} jen 主人を持つ。

【投摔死】200 t'ou^{2} shuai^{1} ssŭ^{3} 投げ飛ばされて死ぬ。

【投扇興】201（トウセンキヨウ） 臺上に銀杏の葉の形をしたものを樹て、其の臺から數尺隔たつた所に坐し、披いた扇を投げて之を落し、其の落方によつて得點の多少を定める遊戲。安永年間に起つたといふ。〔半日閑話、十二〕。

【投島田】202（ナゲシマダ） 髮の結方。根をさげてあだつぽく結つた島田髷。さげしまだ。〔嬉遊笑覽一、下、容議〕なげ島田とは、なげ首などのなげの意に

て、これは後へ倒るる形を云ふ。

【投釣甁】203 ナゲツルベ　口の兩端に各〻一本の繩をつけ、二人で一本づつを持ち、水中に投入して水を汲上げるもの。溝をさらひ、又は田に水を灌ぐ時などに用ひる。〔和漢三才圖會、五十七、水類〕戽斗、俗云、奈介豆流倍。

【投頭巾】204 ナゲヅキン　四角な袋の如く縫ひ、餘つた部分を後方に垂れる頭巾。〔嬉遊笑覽、二、上服飾〕佐夜中山集に、心ひとつになげ頭巾着て、いへばえに、いはれぬふりよ、ばか踊、とあれば、踊に多く用ひしと見ゆ。

【投伐褐】205 トウバツカツ　古、善く馬の胸脅を相した人。〔呂覽、觀表〕古之善相レ馬者、云云、投伐褐相二胷脅一。

【投込寺】206 ナゲコミデラ　昔、死者を特別に設けた墓穴に埋めないで、かねて設けおいた共同の大穴に投入れて葬つた寺。道路の倒死人などを穴に入れることをなげこみといふ。

【投工學藝】207 t'ou² kung¹ hsüeh² i⁴　丁稚奉公する。投工はまた技師に作る。

【投人所好】208 t'ou² jen² suo³ hao⁴　人の好に投ずる。

【投桃報李】209 トウタウハウリ　桃の贈物に對して李を贈ること。朋友閒の贈答をいふ。又、我、德を爲せば人が之を法とする喩。〔詩、大雅、抑〕投レ我以レ桃、報レ之以レ李。〔疏〕人有下投二擲我一以レ桃者上、我必報レ之以レ李、善往則善來、無二物不一レ報。〔集傳〕又言、爲レ德而人法レ之、猶二投レ桃報一レ李之必然一也。

【投撫之賊】210 トウブノゾク　投降し又は招撫された賊。〔六部成語、兵部、投無之賊、注解〕或是前來投降、或是受二了招無一之賊。

【抗】

【抖】11888　トウ　ツ　〔集韻〕當口切　ㄉㄡˇ tou³　有　慣ト

㊀ふるふ。あげる。抖擻。〔集韻〕抖、抖擻、擧二索物一也。㊁現 突然。

【抖去】1 トウキヨ　ふるひのける。〔福惠全書、郵政部、喂養〕先將二草中塵土一抖去。

【抖灰】2 tou³ huei¹　衣服などをふるつてほこりをすてる。〔紅樓夢、十五回〕鳳姐洗了手、換衣服抖灰。

【抖擻】3 トウソウ　㊀梵語頭陀 dhuta の譯。ふりはらふ。あげはらふ。振りおとす。衣食住の貪着をはらひ落すをいふ。よすてびと、僧侶の意ともなる。斗藪。〔廣韻〕擻、抖擻、擧也。〔王炎、夜半聞レ雨詩〕抖二擻胸中三斗塵一、強欲二哦吟一無二好語一。〔白居易、驃國樂〕花鬘抖擻龍蛇動、曲終王子啓二聖人一。〔法苑珠林、一百〕西云二頭陀一、此云二抖擻一、能行二此法一、卽能抖二擻煩惱一、去二離貪着一、如三衣抖擻能去二塵垢一、是故從レ譬爲レ名。〔青藤山人路史〕頭陀、梵語也、元是杜多二字轉音爲二頭陀一、華言抖擻也。㊁奮發する意。振ひ起す。〔韻府引、孫集賢、詩〕也須二抖擻一老精神。

【抖擻行脚】4 トウソウアンギヤ　僧侶が諸國を修業してあるくこと。身を雲水にまかせて漫遊すること。

【抖藪】5 トウソウ　もとめる。あげもとめる。〔方言、六〕鋪頒、索也、東齊曰二鋪頒一、猶三秦晉言二抖藪一也。〔注〕謂二抖藪一擧二索物一也。

【抖膽】6 tou² tan³　勇氣を振ひ起す。

【抖亂】7 トウラン　とりみだれる。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕將二欵項一抖亂、多方掩飾。

【抖攬】8 tou² lan³　獨占する。

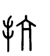
【抖晾】9 tou³ liang⁴　衣服などを乾して風を入れる。

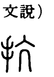
【抖摟】10 tou³ lou¹　㊀病氣になる。健康に害ある。㊁拂ふ。振ふ。㊂破壞する。

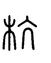
【抖空竹】11 トウクウチク　空中に飛ばして廻す獨樂。〔朝市叢載〕抖空竹、每レ逢二廟集一以レ繩抖響拋二起數丈之高一、仍以レ繩承接、演二習各樣身段一。

【抖抖的】12 tou² tou³ tê　震へる。

【抗】11889　🈩カウ　〔集韻〕口浪切　ㄎㄤˋ k'ang⁴　漾　🈔カウ　〔集韻〕居郎切　陽


小篆（說文）


小篆（段注本）


或體

🈩㊀ふせぐ。こばむ。〔說文〕抗、扞也、从レ手亢聲。〔儀禮、既夕禮〕抗木、横三縮二。〔注〕抗、禦也。〔荀子、臣道〕能抗二君之命一。〔注〕抗、拒也。㊁すくふ。たすける。〔國語、晉語四〕未レ報二楚惠一而抗レ宋。〔注〕抗、救也。〔晉書、王濬傳〕夏口武昌、無二相支抗一。㊂あげる。になふ。〔詩、小雅、賓之初筵〕大侯既抗。〔傳〕抗、擧也。〔新方言、釋言〕淮南謂、以レ肩任レ物、曰レ抗。〔儀禮、既夕禮〕甸人抗レ重。〔注〕抗、擧也。〔禮、喪大記〕抗レ衾而浴。〔釋文〕抗、擧也。〔揚雄、羽獵賦〕抗レ手稱レ臣。㊃はる。〔廣雅、釋詁一〕抗、張也。㊄かける。〔方言、七〕抗、縣也、自二山之東西一曰レ抗。㊅すすめる。〔後漢書、班固傳〕不二激詭一、不二抑抗一。〔注〕抗、進也。㊆あたる。はりあふ。匹敵する。敵對する。伉（1－431）に通ず。〔增韻〕抗、抵也、敵也。〔列子、黃帝〕以レ道與レ世抗。〔史記、陸賈傳〕與二天子一抗衡。〔注〕索隱曰、案、崔浩云、抗、對也。〔史記、貨殖傳〕無レ不二分レ庭與レ之抗禮一。㊇たかい。きはまる。亢（1－288）に通ず。〔說文通訓定聲〕抗、叚借爲レ亢。〔淮南子、說山訓〕自沉二于淵一而溺者、不レ可二以爲一レ抗。〔注〕抗、高也。〔馬融、長笛賦〕蓋滯抗絕。〔注〕善曰、抗、極也。㊈わたる。杭（5－13626）に通ず。〔說文通訓定聲〕抗、叚借爲レ杭。〔廣雅、釋詁二〕抗、渡也。〔淮南子、說山訓〕百人浮抗。㊉をさめる。かくす。〔周禮、夏官、服不氏〕賓客之事則抗レ皮。〔注〕鄭司農云、謂、賓客來朝、聘二布皮帛一者、服不氏主三擧二藏之一。〔通俗編、雜字〕抗、按、今猶謂レ藏レ物爲レ抗。⑪葬具の一。寢棺の周圍の土のくづれをささへるわく。〔荀子、禮論〕抗二折其須一。〔注〕抗、所二以禦一レ土、折、所二以承一レ抗。⑫諡。〔逸周書、諡法解〕逆レ天虐レ民曰レ抗。⑬姓。〔通志、氏族略、去聲〕抗氏、望出二丹陽一、後漢泰山都尉抗徐、世居二丹陽一。🈔あげる。掆（5－12240）に同じ。〔集韻〕掆、擧也、或作レ抗。

【抗違】1 k'ang⁴ wei²　反抗して命に從はない。

【抗越】2 カウエツ　高く揚がる。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕大不二抗越一、細不二幽散一。

【抗延】3 カウエン　こばんでのばす。〔福惠全書、錢穀部、比較〕蓋以二抗延一爲二故智一。

【抗臆】4 カウオク　むねをあげる。〔柳宗元、弔二萇弘一文〕盜驪折レ足兮、罷駑抗レ臆。

【抗音】5 カウオン　聲をはりあげる。抗聲。〔吳志、留贊傳、注〕吳書曰、云云、贊爲レ將、臨レ敵必先披レ髮叫レ天、因抗レ音而歌、左右應レ之、云云、戰無レ不レ克。

【抗開】6 カウカイ　むりにあける。〔福惠全書、刑名部、問擬〕孟廷標抗二開一門一抬進去。

【抗行】7 カウカウ　㊀行ひを氣高くすること。高行。〔楚辭、九章、哀郢〕彼堯舜之抗行兮、瞭二杳杳一其薄レ天。〔注〕聖迹顯著、高無レ顚也。〔漢書、敍傳上〕夷抗二行於首陽一、惠降二志於辱仕一。〔後漢書、文苑下、禰衡傳〕任座抗行、史魚厲節、殆無二以過一也。〔班固、答賓戲〕伯夷抗二行於首陽一、柳惠降レ志而辱仕。〔魏文帝、連珠〕蓋聞、琴瑟高張則哀彈發、節士抗行則榮名至。〔顏延之、陶徵士誄序〕巢高之抗行、夷皓之峻節。㊁相上下するをいふ。同等であること。〔法書要錄〕王右軍自論レ書、吾書比二之鍾張一、當二抗行或謂一レ過レ之。

【抗衡】8 カウカウ　相むかつてはりあふ。雙方相讓らず對抗する。衡は車のくびき。兩車が道で出遇つて相避けない意にとる。亢衡。〔史記、陸賈傳〕欲下以二區區之越一、與二天子一抗衡、爲中敵國上、禍且レ及レ身矣。〔注〕索隱曰、案、崔浩云、抗、對也、衡、車軛上橫木、抗衡、言三兩衡相對拒、率不二相避下一也。〔蜀志、諸葛亮傳〕以二吳越之衆一、與二中

國一抗衡。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕及下其抗二衡上國一、與レ晉爭上レ長、都城屠二於句踐一。

【抗顏】9 カウガン たかぶつたかほ。強顏。〔蘇軾、上二劉侍讀一書〕抗顏高議、自以無レ前。〔袁桷、次二韻伯庸畫松十韻一詩〕抗顏躬蹇蹇、蒙頂髮星星。

【抗顏爲レ師】9' カウガンシトナル たかぶつた顏をして、師儒と稱するをいふ。〔柳宗元、答二韋中立一論二師道一書〕今之世不レ聞レ有レ師、有輒譁二笑之一、以爲二狂人一。獨韓愈奮不レ顧二流俗一、犯二笑侮一收二召後學一、作二師說一、因抗顏而爲レ師。

【抗起】10 カウキ たかくおこす。〔福惠全書、稟啓附、侯二川撫劉公一〕不下爲二醫巫閭一、曷抗二起幽燕之宇一、勁爭嵂崒上。

【抗議】11 カウギ 反對の意見をいひ張る。〔後漢書、樂恢何敞傳論〕大臣方忠、袁任二二公、正レ色立レ朝、樂何之徒、抗二議柱下一。〔忠經、忠諫〕夫諫始二於順辭一、中二於抗議一、終二於死節一。

【抗逆】12 kʻang⁴ ni⁴ 反抗する。

【抗拒】13 カウキヨ はりあひふせぐ。〔顏氏家訓、慕賢〕遂得三百餘日抗二拒兇逆一。〔南齊書、張融傳〕融玄義無二師法一、而神解過レ人、白黑談論、鮮二能抗拒一。

【抗拒不レ承】14 カウキヨシテウケズ はりあひふせいで承服しない。〔蘇轍、爲二兄軾下一レ獄上書〕兄軾所レ犯、若顯有二文字一、必不二敢抗拒不レ承、以重得レ罪。

【抗禦】15 カウギヨ 抵抗しふせぐ。〔晉書、邵續李矩等傳論〕招二集義勇一、抗二禦仇讎一。

【抗極】16 カウキヨク きはまる。〔漢書、五行志下之上〕用レ兵彌烈、其象將下以二兵革一抗極、成レ功而還自害上也。〔千字文〕省二躬譏誡一、寵增抗極。

【抗官】17 kʻang⁴ kuan¹ 政府へ反抗する。官署に反抗する。

【抗玩】18 カウグワン こばむ癖。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕總因二抗玩成一レ風。

【抗頑】19 カウグワン つよくこばむ。〔福惠全書、錢穀部、比較〕花戶抗頑立拿追比、全完方釋。

【抗剄】20 カウケイ 首をあげて切る。〔賈子新書、宗首〕已乃墮二骨肉之屬一、而抗二剄之一。

【抗矯】21 カウケウ 事にさからつて自ら高しとする。〔劉琨、勸進表〕願陛下存二舜禹至公之情一、狹二巢由抗矯之節一、以二社稷一爲レ務、不下以二小行一爲上レ先。

【抗欠】22 カウケン 自分の勢を恃み抵抗して租稅の徵收に應じない。〔淸會典事例、戶部、田賦〕其佃戶自二二十九年一抗欠租項不レ交者。

【抗言】23 カウゲン はりあつて議論する。對手にさからつて言ひ張る。抗論。抗辯。〔北史、盧辯傳〕辯抗言酬答、守レ節不レ撓。

【抗告】24 カウコク 裁判所の判決に服せず、其の上級の裁判所に上告するうつたへ。

【抗債】25 kʻang⁴ chai⁴ 抵抗して債務を履行しない。

【抗爭】26 カウサウ あらそひ。又、あらそふ。反抗する。

【抗莊】27 カウサウ 四通八達の大道。康莊（**4－9376・・72**）の❶に同じ。又、繁華な街。〔管子、輕重丁〕決二瓁洛之水一、通二之抗莊之閒一。〔纂詁〕抗莊、齊國蕃盛之邑。〔事物異名錄、郡邑、路〕管子抗莊若二鴈翅一、按、抗莊、卽康莊也。

【抗髒】28 カウサウ きつくまつ直なさま。〔後漢書、文苑下、趙壹傳〕伊優北堂上、抗髒倚二門邊一。〔注〕抗髒、高亢婞直之貌也、佞媚者見レ親、故昇レ堂、婞直者見レ棄、故倚レ門。

【抗策】29 カウサク 鞭をふりあげる。馬を驅る。馬を走らせる。〔曹植、洛神賦〕攬二騑轡一以抗レ策。〔儲光義、終南幽居云云詩〕抗レ策還二南山一、水木自相親。

【抗志】30 カウシ ❶志を高尙にする。又、はりあふこころざし。〔六韜、文韜、上賢〕士有下抗レ志高レ節、以爲二氣勢一、外交二諸侯一、不レ重二其主一者上、傷二王之威一。〔孔叢子、抗志〕曾申謂二子思一曰、屈レ己以伸レ道乎、抗レ志以貧賤乎。〔後漢書、仲長統傳〕抗二志山栖一、游二心海左一。〔晉書、隱逸、夏統傳〕有二大禹之遺風、太伯之義讓、嚴遵之抗志、黃公之高節一。〔陳壽、贊二劉子初一〕抗レ志存レ義、味二覽典文一。❷孔叢子の篇名。

【抗辭】31 カウジ 言辭を高尙にする。氣高いことば。又、抗言(23)に同じ。〔漢書、揚雄傳下〕今吾子乃抗レ辭幽レ說、閎レ意眇レ指。〔風俗通、窮通〕抗レ辭以拒二其侮一。

【抗質】32 カウシツ 人にさからふ氣質。きかぬ氣。〔後漢書、耿恭傳論〕曹子抗二質於柯盟一、相如申二威于河表一。

【抗章】33 カウシヤウ 文書を上に奉る。上書。〔倦游錄〕歐陽在二蔡州一、屢抗章乞二致仕一。

【抗手】34 カウシユ 手をあげる。又、手をあげて禮をすること。〔孔叢子、儒服〕文節流涕交レ頤、子高徒抗手而已。〔漢書、揚雄傳上〕抗レ手稱レ臣。〔孔子家語、致思〕子路抗レ手而對曰、夫子何選焉。〔曹植、七啓〕形不レ抗レ手、骨不レ隱レ拳。

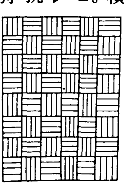
【抗首】35 カウシユ くびをあげる。〔漢書、朱雲傳〕登レ堂抗レ首而請。

【抗徐】36 カウジヨ 後漢、丹陽の人。又、杭徐に作る。字は伯徐。泰山の賊を破る。爵は東鄕侯。官は長沙太守。〔後漢書、六十八〕。

【抗心】37 カウシン 心を高尙にする。〔嵇康、幽憤詩〕抗レ心希レ古、任二其所一レ尙。

【抗聲】38 カウセイ 聲をはりあげる。抗音。〔北史、李義深傳〕幼廉抗レ聲曰、李幼廉結髮從レ宦、誓不二曲レ意求一レ人。〔柳宗元、答問〕左右抗レ聲。

【抗席】39 カウセキ 葬具の名。墓穴の上をおほうて塵を禦ぐしきもの。折橫（**5－11890・・53**）を見よ。〔儀禮、既夕禮〕抗木、橫三縮二、加二抗席三一。〔注〕席、所二以禦一レ塵。〔胡培翬正義〕抗木不レ言レ加、明二別陳一レ之、抗席次二抗木後一、而云レ加、則是加二於抗木之上一也、下云レ加レ茵、則又加二於席上一也、云云、敖氏云、每席之長、亦與レ壙齊、吳氏紱云、抗木在レ上、卽椁之蓋也、一縱一橫、以掩レ壙、取二固密一也、抗席、其用二葦若萑一歟、廣輪與二抗木一齊、必三重取二周疊一也、注云、席所二以禦一レ塵者、賈疏云、抗木在レ上、故云レ禦レ土、抗席在レ下、隔二抗木一、慮レ有二塵鄉一レ下、故云レ禦レ塵、今案、抗之言禦、以二其禦一レ土禦一レ塵、故木曰二抗木一、席曰二抗席一也。


抗席
（三禮圖）

【抗迹】40 カウセキ 行ひの極めて氣高いこと。〔楚辭、九章、悲回風〕望二大河之洲渚一兮、悲二申徒之抗迹一。

【抗折】41 カウセツ 葬具の名。抗は壙上をおほうて塵の落ちるのを禦ぐもの。折は抗を承けるたな。抗席及び折橫（**5－11890・・53**）を見よ。〔荀子、禮論〕抗折其須以象二槾茨番閼一也。〔注〕士喪禮、陳二明器於乘車之西一、折橫覆レ之、云云、鄭云、折猶レ庋也、云云、縮者三、橫者五、無レ簀、窆事畢、加二之壙上一、以承二抗席一、抗、禦也、所三以禦二止土一者、云云、抗所二以禦一レ土、折所二以承一レ抗、皆不レ使二外物侵一レ內、有レ象二於槾茨藩閼一也。

【抗節】42 カウセツ 節操を高くする。みさをが有つて屈しない。操守が固く、意を曲げない。〔漢書、朱雲傳〕抗節不レ附二顯等一、而與レ雲相結。〔漢書、賈誼傳〕一豫讓也、反レ君事レ讎、行若二狗彘一、已而抗レ節致レ忠、行出二乎烈士一、人主使レ然也。〔風俗通、過譽〕去病外戚末屬、一切武夫、尙能抗節洪毅、而規二世家純儒一、何獨負哉。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕抗レ節玉立、誓不二降辱一。〔成公綏、嘯賦〕將下登二箕山一以抗レ節、浮二滄海一以遊上レ志。

【抗絕】43 カウゼツ きはまりたえる。〔馬融、長笛賦〕藎滯抗絕、中息更裝。〔注〕善曰、喪服子夏傳曰、抗、極也。

【抗戰】44 カウセン 敵對して戰ふ。互にはりあひ戰ふ。

【抗然】45 カウゼン 意氣の高いさま。〔呂覽、愼人〕孔子烈然返レ琴而絃、子路抗然執レ干而舞。

【抗疏】46 カウソ 意見を書いた書を上に奉る。抗表。〔揚雄、解嘲〕獨可三抗疏、時道二是非一。〔潘岳、馬汧督誄序〕大將軍屢抗二其疏一。

【抗訴】47 カウソ はりあひ訴へる。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕朝光與二諸將一、連署抗訴。

【抗賊】48 カウゾク 賊をふせぐ。〔北史、節義、楊善會傳〕能抗レ賊者、唯善會而已。

【抗奪】49 カウダツ 反對をとなへて其の論を奪ふ。〔後漢書、黃瓊傳〕及二後居一レ職、達二練官曹爭議一、朝堂莫二能抗奪一。

【抗直】50 カウチヨク きつくまつすぐなこと。強硬で正直なこと。〔史記、魯仲連鄒陽傳贊〕鄒陽辭雖二不遜一、然其比レ物連レ類有レ足レ悲者、亦可レ謂二抗直不一レ撓矣。〔漢書、陳萬年傳〕抗直數言レ事。〔北史、柳慶傳〕天性抗直、無レ所二回避一。〔封氏聞見記、抗直〕崔祐甫爲二中書舍人一、時宰相常衮當レ國、百寮仰止、祐甫每見二執政一論レ事、未二嘗降屈一。

【抗隊】51 カウツイ あがるとおちると。〔禮、樂記〕故歌者上如レ抗、下如レ隊。〔孫希旦集解〕方氏愨曰、抗、言二聲之發揚一、隊、言二聲之重濁一。

【抗抵】52 カウテイ てむかひ。はりあひ。抵抗（**5－11921・・13**）の❶に同じ。

【抗敵】53（カウテキ） あたりむかふ。對抗する。敵對する。はりあふ。〔魏書、薛謹傳〕結士抗敵、甚有ニ威惠一。

【抗敵罪】54（カウテキザイ） 交戰中の外國と通じて我が國に抗敵する罪。

【抗納】55 k'ang4 na4 上納を拒絕する。

【抗避】56（カウヒ） こばみさける。〔淸會典事例、戶部、漕運〕不ㇾ得ニ藉ㇾ詞抗避一。

【抗憤】58（カウフン） はりあひいきどほる。〔後漢書、逸民傳序〕至ニ乃抗憤而不ㇾ顧、多失ニ其中行一。〔潘岳、西征賦〕奬抗憤、以ニ卮酒一咀ニ彘肩一以激揚。

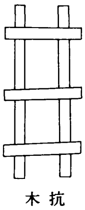
【抗兵】59（カウヘイ） 兵をあげる。〔老子、六十九〕故抗ㇾ兵相加、哀者勝矣。〔注〕抗、擧也。

【抗表】60（カウヘウ） 意見を書いた書を上に奉る。上表。上疏。〔舊唐書、房玄齡傳〕遂抗表諫曰、云云。

【抗辯】61（カウベン） ❶互に論辯すること。抗論。❷裁判上の抗辯で、防訴抗辯・證據抗辯・本案抗辯等がある。

【抗辯權】62（カウベンケン） 抗辯をする權利。

【抗木】63（カウボク） 葬具の名。壙上にわたして土をふせぎとどめる木のたな。抗席(39)・折橫(5—11890・・53)を見よ。〔儀禮、既夕禮〕抗木橫三縮二。〔注〕抗、禦也、所ニ以禦ニ止土一者。


抗木（圖禮三）

【抗邁】64（カウマイ） すぐれてあがる。群に傑出する。〔晉書、王湛傳〕濟才氣抗邁。

【抗命】65（カウメイ） 命令をこばむ。命令に違ふ。〔荀子、臣道〕有丁能抗ニ君之命一、竊ニ君之重一、云云、功伐足丙以成乙國之大利甲。

【抗颺】66（カウヤウ） 盛にあげる。〔蜀志、馬超傳〕是以委任授ㇾ君、抗ニ颺虓虎一、兼ニ董萬里一、求ニ民之瘼一。

【抗諭】67 k'ang4 yü4 諭示に反抗する。

【抗糧】68（カウリヤウ） 抵抗して租稅を納めない。抗欠(22)に同じ。〔六部成語、戶部、抗糧、注解〕抗、抵拒也、民人於下應ㇾ交ニ錢糧一之時上、抗ニ拒官府一、不ㇾ肯ニ交納一也。〔福惠全書、筮仕部、供狀式〕無ニ抗糧假冒等弊一。

【抗稜】69（カウリヨウ） 稜威をあげる。〔班固、東都賦〕瞰ニ四裔一而抗ㇾ稜。

【抗力】70（カウリヨク） 力をあげる。〔班固、答賓戲〕烏獲抗ニ力於千鈞一。

【抗厲】71（カウレイ） はげしく反抗する。屈しないでたけだけしい。〔後漢書、竇融傳〕將軍其抗ニ厲威武一以應ニ會期一。〔後漢書、黃瓊傳〕性抗厲有ニ明略一。〔後漢書、獨行、趙苞傳〕抗厲威嚴、名振ニ邊俗一。

【抗禮】72（カウレイ） 彼我同等の交際。對等の禮。亢禮。〔史記、劉敬傳〕豈嘗聞下外孫敢與ニ大父一抗禮者上哉。〔漢書、貨殖傳〕子貢結駟連騎束帛之幣、以聘ニ享諸侯一、所ㇾ至國君無ㇾ不ニ分ㇾ庭與ㇾ之抗禮一。〔後漢書、袁紹傳〕士無ニ貴賤一、與ㇾ之抗禮。〔任昉、王文憲集序〕公年始弱冠、年勢不ㇾ侔、公與ㇾ之抗ㇾ禮、因贈ニ粲詩一。〔注〕向曰、抗、平也。

【抗論】73（カウロン） 直言して屈しない。はりあつて議論する。〔後漢書、陳蕃傳論〕桓靈之世、若ニ陳蕃之徒一、咸能樹ニ立風聲一、抗ニ論惛俗一。〔後漢書、文苑下、趙壹傳〕下則抗ニ論當世一、消ニ弭時灾一。〔魏志、杜恕傳〕搤腕抗論。〔晉書、孫盛傳〕殷浩擅ニ名一時一、與抗論者、惟盛而已。

【抗希堂】74（カウキダウ） 淸、方苞(5—13620・・390)の室名。

【抗臉兒】75 k'ang4 lien3 êrh 傲慢な。

【抗刀布】76 k'ang4 tao1 pu4 剃刀を磨ぐ皮。

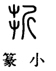
【抗塵走俗】77（カウヂンソウゾク） 俗世に奔走する。世俗に用ひられるにいふ。〔孔稚珪、北山移文〕焚ニ芰製一而裂ニ荷衣一、抗ニ塵容一而走ニ俗狀一。〔注〕濟曰、擧ニ聘塵俗之容狀一、抗、擧、走、聘也。〔顧瑛、餞ニ謝子蘭一詩〕抗塵走俗山澤容。

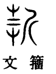
【折】11890

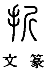
🈩 セツ セチ 〔集韻〕之列切 屑 ㄓㄜˊ chê1·2

🈔 セイ 〔集韻〕征例切 霽 ㄕㄜˊ shê2

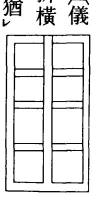
🈪 テイ ダイ 〔集韻〕田黎切 齊


小篆


籀文


篆文

🈩🈔 ❶たつ。㋑草木をたちきる。もと斲(5—13553)に作り、籀文は斲(5—13588)に作る。〔說文〕斲、斷也、从ニ斤斷ㇾ艸、譚長說、斲、籀文斲、从ニ艸在ニ仌中一、仌寒、故折、折、篆文斲从ㇾ手。〔中華大字典〕折、本作ㇾ斲。〔詩、鄭風、將仲子〕無ㇾ折ニ我樹杞一。〔傳〕折、言ニ傷害一也。〔漢書、五行志下之上〕傷ニ草木一曰ㇾ折。㋺たちわる。〔儀禮、少牢饋食禮〕其俎折ニ一膚一。〔注〕折者、擇ニ取牢正體一、餘骨折分用ㇾ之。〔儀禮、特牲饋食禮〕設ニ折俎一。〔注〕凡節解者皆曰ニ折俎一。〔禮、少儀〕以ニ牛左肩臂臑一折ニ九箇一。〔注〕折、斷ニ分之一也。㋩たちきる。〔易、豐〕折ニ其右肱一。〔逸周書、克殷解〕折縣ニ諸太白一。〔注〕折、絕ニ其首一。〔漢書、鄒陽傳〕漢亦折ニ西河一而下。〔注〕師古曰、折、截也。❷さだめる。判斷する。〔易、豐〕君子以折ㇾ獄致ㇾ刑。〔釋文〕折、斷也。〔史記、孔子世家論贊〕言ニ六藝一者、折ニ中於夫子一。〔注〕索隱曰、折、斷也。〔漢書、貢禹傳〕微ニ孔子之言一、亡ㇾ所ニ折中一。❸やぶる。こぼつ。〔正字通〕折、毀棄也。〔漢書、高帝紀〕此兩家常折ㇾ券棄ㇾ責。〔注〕師古曰、故折ニ毀之一、棄ニ其所ㇾ負。❹くじく。〔史記、項羽紀〕輕折ニ辱秦士卒一。〔漢書、蒯通傳〕折北不ㇾ救。〔注〕師古曰、折、挫也。❺をる。かがめる。まげる。〔廣韻〕折、斷而猶連也。〔集韻〕折、拗折也。〔左氏、定、十三〕三折ㇾ肱知ㇾ爲ニ良醫一。〔後漢書、郭泰傳〕故折ニ巾一角一。❻をれる。㋑くだける。中絕する。〔左氏、昭、十一〕末大必折。〔淮南子、覽冥訓〕天柱折、地維缺。㋺まがる。〔淮南子、覽冥訓〕河九折注ニ於海一。〔注〕折、曲也。㋩かがむ。〔戰國、西周策〕周必折而入ニ於韓一。〔注〕折、屈也。❼なじる。そしる。〔正字通〕折、直指ニ人過失一曰ㇾ折。〔史記、呂后紀〕面折廷爭。〔後漢書、李育傳〕更相非折。〔注〕折、難也。❽くだす。〔廣雅、釋詁一〕折、下也。❾さしひく。へる。へらす。割引。〔荀子、脩身〕良賈不下爲ニ折閱一不上ㇾ市。〔注〕折、損也。〔魏書、食貨志〕不ㇾ可ㇾ縣ニ生減折一。〔通俗編、貨財、折〕按、今商賈以ㇾ虧ニ其本價一爲ㇾ折。❿つぐなふ。〔文獻通考、市糴考〕量ニ折稅錢一、使ㇾ納ニ斗解一。⓫てらしあはせる。比例させる。割算を行ふ。〔棠陰比事〕紐折得ニ元數一。⓬わかじに。夭死。〔正字通〕折、早卒。〔書、洪範〕一曰、凶・短・折。〔傳〕折、未ニ三十一。〔洪範五行傳〕其極凶短折。〔注〕未ㇾ婚曰ㇾ折。⓭死ぬ。〔禮、祭法〕萬物死皆曰ㇾ折。⓮土を方形に盛りあげた祭壇。〔正字通〕折、封ㇾ土爲ニ方壇一曰ㇾ折。〔禮、祭法〕燔ニ柴於泰壇一、祭ㇾ天也、瘞ニ埋於泰折一、祭ㇾ地也。〔注〕壇・折、封ㇾ土爲ニ祭處一也。〔漢書、郊祀志〕瘞ニ薶於太折一祭ㇾ地也。〔注〕師古曰、折、曲也、言ニ方澤之形、四曲折一也。⓯葬具の一。木を矩形に連互して牀のやうにし、上に席を加へる具。壙に橫たへわたして、其の上に席を加へる具。たな。〔儀禮、既夕禮〕折橫覆ㇾ之。〔注〕折、猶ㇾ庪也、方鑿連ㇾ木爲ㇾ之、蓋如ㇾ牀而縮者三、橫者五、無ㇾ簀、窆事畢、加ニ之壙上一、以承ニ抗席一。〔禮、雜記上〕而后折入。〔注〕折、承席也。〔釋文〕折、形如ㇾ牀無ㇾ足也。⓰あきらかなさま。哲(5—13953)に通ず。〔說文通訓定聲〕折、叚借爲ㇾ哲。〔管子、內業〕折折乎如ㇾ在ニ於側一。〔注〕折折、明貌。⓱ふさぐ。とめる。窒(8—25493)に通ず。〔說文通訓定聲〕折、叚借爲ㇾ窒。〔孔子家語、賢君〕忠


折（圖禮三）

士折㆑口。〔注〕折㆑口、杜㆑口。⓰**地名**。〔春秋、桓、十二〕柔會㆓宋公陳侯蔡叔㆒盟㆓于折㆒。〔會箋〕折、魯地、水經注、濰水東北逕㆓箕縣故城㆒、又西、折泉水注㆑之、水出㆓折泉縣北松山㆒、東南流逕㆓折泉縣東㆒、又東南逕㆓仲固山東北㆒、流入㆓於濰㆒。⓳**姓**。〔通志、氏族略、入聲〕折氏、望出㆓西河㆒、宋爲㆓大姓㆒、世守㆓麟州㆒。⓴［現］㋑步合。割。掛。㋺ひきあてる。抵當。［三］**やすらかなさま**。〔集韻〕折、折折、安舒皃。〔禮、檀弓上〕吉事欲㆓其折折爾㆒。〔注〕折折、安舒貌。［邦］❶**をり**。㋑時期。機會。㋺菓子箱の類。❷**をれ**。斷片。をり離した一きれ。

［解字］ 會意。小篆では、斤と屮(艸・草)との合字。斤はをの。をので草をたちきる義。をる・曲げてたちきる意。篆文では斲の省文と手との合字になつてゐるが、これは唐以後妄りに改めたのである。今の手と斤との合字とするのは、隸字である。籀文は斲に作り、艸が仌(凍)の中に在り、凍れば寒いから、折れる義とする。〔說文〕折、篆文斲从㆑手。〔段注〕按、此唐後人所㆓妄增㆒、斤斷㆑草、小篆文也、艸在㆓仌中㆒、籀文也、從㆑手從㆑斤、隸字也。

【折頞】1 セツアツ 鼻莖（はなばしら）の低いこと。〔揚雄、解嘲〕蔡澤山東之匹夫也、顉頤折頞、涕唾流沫。〔注〕良曰、折頞、謂㆑無㆓鼻莖隴㆒也。〔後漢書、周燮傳〕燮生而欽頤折頞、醜狀駭㆑人。

【折頤】2 セツイ おとがひをさくこと。〔戰國、秦策〕夫韓魏父子兄弟、接㆑踵而死㆓於秦㆒者百世矣、本國殘、社稷壞、宗廟隳、刳㆑腹折㆑頤、首身分離、暴㆓骨草澤㆒。

【折威】3 セツキ 亢南の七星をいふ。斬殺を主る。〔晉書、天文志上〕亢南七星曰㆓折威㆒、主㆓斬殺㆒。

【折右】4 セツイウ 右肱を折る。事の成らない喩。〔易、豐〕九三、豐㆓其沛㆒、日中見㆑沫、折㆓其右肱㆒、无㆑咎、云云、折㆓其右㆒、終不㆑可㆑用也。〔崔駰、司徒箴〕豐㆓其折右㆒、而鼎覆㆓其餗㆒。

【折羽】5 セツウ ❶羽を折る。〔張籍、別鶴詩〕空㆑巢在㆓松頂㆒、折㆑羽落㆓江泥㆒。❷ハヲリ 雙六の類。雙方十二個の駒を用ひ、竹筒に入れた二つの采を振り出して采の目の數を取り合ひ、多く取つた方を勝とするもの。

【折銳】6 セツエイ 銳をくじくこと。〔楚辭、劉向、九歎、愍命〕折㆑銳摧㆑矜、凝氾濫兮。

【折腰】7 セツエウ ❶こしを折つて働く。〔白居易、醻㆓楊九弘貞長安病中見㆑寄詩〕伏㆑枕君寂寂、折㆑腰我營營。❷腰を屈して人を拜する。人に屈し下ること。〔晉書、隱逸、陶潛傳〕陶潛歎曰、吾不㆘能爲㆓五斗米㆒折㆑腰、拳拳事㆗鄉里小人㆖邪。〔李白、夢遊天姥吟〕安能摧㆑眉折㆑腰事㆓權貴㆒、使㆓我不㆑得㆑開㆓心顏㆒。❸腰の曲つてゐるからだ。〔列女傳、辯通、齊鍾離春傳〕折腰出胸、皮膚若㆑漆。

〖折腰句〗8 セツエウク 詩體の一。七言句は通例四三に分れるが、上三下四・上五下二・上二下五に分れるものをいふ。

〖折腰步〗9 セツエウホ 婦人の媚態を作る步き方。少しく腰を折つて步む。足が弱くて、體に任へないさまをあらはす。〔後漢書、梁冀傳〕梁冀爲㆓大將軍㆒、其妻孫壽封㆓襄城君㆒、加㆓賜赤紱㆒、比㆓長公主㆒、壽色美、善爲㆓妖態㆒、作㆓愁眉・嗁粧・墮馬髻・折腰步・齲齒笑㆒、以爲㆓媚惑㆒、生鉗忌能制㆓御冀㆒、冀甚寵憚㆑之、及㆓冀敗㆒自殺。〔注〕風俗通曰、折腰步者、足不㆑任㆑體。

〖折腰吏〗10 セツエウリ 節を屈し祿に惑ふ俗吏。〔白居易、早熱詩〕忽思公府內、青衫折腰吏。〔佩文韻府引、王達景仰撮書〕劉毅領㆓荊州㆒、辟㆓宗炳㆒爲㆓主簿㆒、不㆑就曰、吾棲㆑丘飮㆑谷三十年、豈可㆑作㆓王門折腰吏㆒耶。

【折易】11 セツエキ 辟易する。折は辟の誤。〔吳越春秋、吳太伯傳〕牛馬過者、折易而避㆑之。〔注〕折、疑當㆑作㆑辟。

【折閱】12 セツエツ 損をして賣る。〔荀子、脩身〕良賈不㆘爲㆓折閱㆒不㆖市。〔注〕折、損也、閱、賣也、謂㆑損㆘所㆓閱賣㆒之物價㆖也。〔集解〕盧文弨曰、案、史記積㆑日曰㆑閱、此當㆑謂㆘計㆓數歲月之所㆑得、有㆗折損㆖耳。〔易林、咸之第三十一、蠱〕市賈折閱。

【折葉】13 セツエフ 折れた草木の葉。〔易林、師之第七、蒙〕折葉蔽㆑目、不㆑見㆓稚叔㆒。

【折煙】14 セツエン 俗塵を離脫した生活をいふ。〔皮日休、聞㆔開元寺開㆓筝園㆒寄㆓章上人㆒詩〕折㆑煙束㆑露如㆓相遺㆒、何胤明朝不㆑茹㆑葷。

【折價】15 セツカ ❶正金に引換へる。〔淸會典事例、戶部、蠲恤、賑飢〕乾隆十一年覆准、上下兩江地方被㆑災、銀米兼賑、災輕州縣、每㆓米一石㆒、折㆓銀一兩㆒、其被㆑災較重之上江宿州等六州縣、下江邳州等十州縣、加㆑賑月分折價散給、每㆓米一石㆒、加㆓增二錢㆒。❷chê^2 chia^4 代價をまける。又、まけさせること。

【折介】16 ヲリスケ 武家の最も卑しい奉公人。折助。〔浮世風呂〕慾垢と梵惱と、洗ひ清めて淨湯を浴びれば、旦那さまも、折助も、孰れか孰れやら一般裸體。

〖折介根性〗17 ヲリスケコンジヤウ 奉公人根性。勞を厭ふ根性。又、下劣な根性。

【折開】18 セツカイ ひらいてみる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕方行㆓折開㆒查不㆑合㆓狀式㆒者。

【折蓋】19 セツガイ きぬがさを折る。又、折れた車蓋。〔古今注、輿服〕曲蓋、太公所㆑作也、武王伐㆑紂、大風折㆑蓋、太公因㆓折蓋之形㆒而制㆓曲蓋㆒焉。

【折交】20 セツカウ 割合を以て支拂ふ。〔淸會典、兵部〕罪㆓其折交者㆒。〔注〕官兵領㆓用馬駝㆒、有㆔私賣㆓紅單㆒、至㆓回㆑京時㆒不㆑交㆓馬駝㆒、以㆓銀兩㆒折交。

【折行】21 セツカウ まがり行く。〔周禮、考工記、匠人、磬折以㆓參伍㆒、注〕直行三、折行五。

【折耗】22 セツカウ ❶へる。へらす。めり。〔後漢書、馮緄傳〕前後所㆑遣將帥、宦者輒陷以㆔折㆓耗軍資㆒、往往抵㆑罪。〔淸會典事例、戶部、錢法〕山西省商人前赴㆓江南湖北㆒、採㆓買銅斤㆒、每㆓一萬斤㆒、帶㆓買餘銅一千斤㆒、以補㆓水陸程途折耗㆒、如有㆓多餘㆒、仍作㆓正銅㆒交收。〔福惠全書、錢穀部、漕項收兌、糧米派兌〕米既零星折耗。❷公差。貨幣鑄造によつて生ずる分量の減耗。〔淸會典事例、戶部、錢法〕除㆓去磨鏇折耗三分㆒。

【折膠】23 セツカウ 秋の季節。秋氣至れば、膠が折れ易くなるからいふ。此の節には膠が固まり、弓弩が強くなる。〔漢書、鼂錯傳〕欲㆑立㆑威者、始㆓於折膠㆒。〔注〕蘇林曰、秋氣至、膠可㆑折、弓弩可㆑用、匈奴常以爲㆑候而出㆑軍。

【折衡】24 セツカウ はかりを折つて用ひない。〔莊子、胠篋〕掊㆑斗折㆑衡而民不㆑爭。

【折角】25 セツカク ❶つのををる。〔易林、復之第十四、坤〕覬㆑利危㆑躬、折㆑角摧㆑頸。❷高慢の鼻をひしぐ。人の傲慢を挫く。朱雲が五鹿の充宗と易を論じて、屢〻充宗を言ひこめたから、時人評して、朱雲の強力、能く鹿の角を折りぬと洒落れた故事。〔漢書、朱雲傳〕五鹿嶽嶽、朱雲折㆓其角㆒。〔周邦彥、汴都賦〕注河之辯、折角之口。❸頭巾の角を折る。郭泰が雨に遇うて頭巾の一角が折れた故事。〔後漢書、郭太傳〕身長八尺、容貌魁偉、褒衣、博帶、周㆓遊郡國㆒、嘗於㆓陳梁閒㆒行遇㆑雨、巾一角墊、時人乃故折㆓巾一角㆒、以爲㆓林宗巾㆒、其見㆑慕皆如㆑此。❹骨折る。力を盡す。〔昨日は今日の物語〕或人、十二三なる子を寵愛して、常に謠を教へけるが、せつかく習へ、やがて十月十三日になるぞ、百はたご食ひに連れて行かうぞ。❺努力の效のないときにいふ。

〖折角如意〗26 セツカクニヨイ 角の毀れた如意。如意は多く玉で作る。〔世說新語、排調上〕庾征西大擧征㆑胡、既成㆑行、止鎭㆓襄陽㆒、殷豫章與㆑書、送㆓一折角如意㆒、以調㆑之、庾答書曰、得㆑所㆑致、雖㆓是敗物㆒、猶欲㆓理而用㆑之。

【折割】27 セツカツ 肢體又は手足等を折りさくこと。〔六部成語、刑部、折㆓割人㆒、注解〕折㆓斷人之肢體㆒、或割㆓出手足耳鼻㆒也。

【折合】28 chê^2 hê^2 ❶換算する。計算する。❷ヲリアヒ 互の間のなかあひ。又、兩者の和合すること。

〖折合價格〗29 chê^2 hê^2 chia^4 kê^2 換算價格。

【折乾】30 セツカン ❶さかて。たるだい。禮物のかはりに出す金。〔名山藏〕例外索㆓折乾錢㆒。〔福惠全書、典禮部、迎春〕至㆓折乾、官吏分㆑肥、更爲㆑無㆑恥。❷現金を以て物に代へて人に贈ること。〔淸會典事例、戶部、漕運、總漕職掌〕如有㆘官吏折乾盜賣、及胥吏需㆓索官丁㆒、並漕蠹倉棍把㆓持兌運事務㆒、與㆗沿途文武官員催趲不㆑力、違㆓誤漕務㆒者㆖、卽行㆓分別㆒糾參。❸割引。〔福惠全書、錢穀部、漕項、倉收陋弊〕倉糧代買上納、銀則折乾。

【折幹】30′セツカン ❶せぼねを折る。〔論衡、變動〕范睢爲二須賈所一レ讒、魏齊僇レ之、折レ幹摺レ脅。

【折檻】31セツカン ❶強く諫めること。漢の孝成帝、朱雲の強諫を怒り、之を朝廷から引き出さうとした時、朱雲が殿の手すりにつかまつたため其の檻が折れた故事。〔漢書、朱雲傳〕至二成帝時一、丞相故安昌侯張禹、以二帝師一位二特進一甚尊重、雲上書求レ見、公卿在レ前、雲曰、今朝廷大臣、上不レ能レ匡レ主、下亡二以益一レ民、皆尸位素餐、云云、臣願賜二尚方斬馬劍一、斷二佞臣一人一、以厲二其餘一、上問、誰也、對曰、安昌侯張禹、上大怒曰、小臣居レ下訕レ上、廷二辱師傅一、罪死不レ赦、御史將レ雲下、雲攀二殿檻一、檻折、雲呼曰、臣得下從二龍逢比干一、遊中於地下上足矣、未レ知二聖朝何如一耳、云云、及二後當一レ治レ檻、上曰、勿レ易、因而輯レ之、以旌二直臣一、雲自レ是之後不二復仕一。〔王先謙補注〕容齋隨筆、至レ今宮殿正中一閒橫檻、獨不レ施二欄楯一、謂二之折檻一、自レ漢以來、相傳如レ此。❷きびしく責め叱ること。〔海人藻芥、下〕自二年少一常に加二折檻一、令二近習一者、などか心に不レ違者も無からん。

【折簡】32セツカン ❶全紙を二つ切りにして認めた短い手紙。簡は竹の札、昔、紙に代用したもの。〔後漢書、儒林傳論〕狼二狽折札之命一、〔注〕札、簡也、折レ簡而召、言レ不レ勞二重命一也。〔魏志、王淩傳、注〕淩知レ見レ外、乃遙謂二太傅一曰、卿直以二折簡一召レ我、我當敢不レ至耶。〔晉書、宣帝紀〕淩若有レ罪、公當二折簡召一レ淩、何苦自來耶、帝曰、以三君非二折簡之客一故耳。〔通俗編、文學、折簡〕丹鉛錄、折簡者、折軍之簡、言二禮輕一也。❷官吏を任免する時の書札。策書。〔唐律、名例〕揮二折簡於髦彦一。

【折愧】33セツキ くじきはづかしめる。〔後漢書、馬援傳〕季孟嘗折二愧子陽一、而不レ受二其爵一。〔注〕愧、猶レ辱也。

【投毀】34セツキ やぶりこはす。〔新書、傅職〕折毀「喪傷。

【折櫃】35ヲリビツ 薄板を曲げて作つたひつ。菓子折などの類。〔源氏物語、一、桐壺〕其日の御前のをりひつ、云云。

【折舊】36 chê² chiu⁴ 不動產の老舊なものに對して、評價價格の引下げを行ふこと。

【折訖】37セツキツ 二つの物を換算し終ること。〔元典章、十八〕至元六年十月、中書省據二御史臺一呈、山北東西道按察司申據、北京路張裕爲三折二訖官糧一。

【折給】38セツキフ 切り換へて支給する。取りかへて支拂ふ。〔淸會典、兵部〕凡給レ馬、有二全給一、有二折給一。〔淸會典事例、戶部、蠲恤、賑飢〕乾隆十二年論、山東今年被レ水之齊河等州縣成レ災加レ賑、有下因二倉糧不一レ敷二銀穀兼賑一者上、定レ例每二穀一石一、折二銀五錢一、但思二東省今年被一レ災、非二尋常可一レ比、現在糧價高昂、照レ例折價、恐不レ敷二購賣一、所レ有加レ賑口糧、著加二恩於每石五錢一之外、增二銀一錢一折給、俾三窮黎得二資接濟一。

【折脚】39セツキャク 足を折る。〔南史、朱修之傳〕牛奔墜レ車折レ脚。

【折脚鐺】40セツキャクサウ 足のまがつたなべ。〔蘇軾、送二柳宜歸一詩〕折脚鐺邊煨二淡粥一、曲枝桑下飮二離杯一。〔朱松、答二倂安江師送一レ米詩〕念二師折脚鐺一、五合未二省餘一。

【折拒】41セツキョ きびしく拒絕する。峻拒。〔唐書、長孫无忌傳〕許敬宗數勸レ之、无忌厲色折拒。

【折銀】42セツギン 銀に換算する。銀に兩替する。〔淸會典事例、戶部、俸餉〕每石折銀一兩八錢。

【折句】43セツク ❶詩句は五・七言共に下より三字目を腰といひ、五言は上二下三、七言は上四下三を正法とし、之に反するものを折句といふ。❷ヲリク 和歌の一體で、題の詞の五文字の假名を、每句の首、又は尾に置きて詠むもの。〔奧儀抄、上の上〕和歌六體云云、折句歌、五字あることを、每句のかみにおくなり。❸俳諧で、判者より上の一句を出だして、下の二句を附けさせるもの。〔俳論、二〕後世、前句付の外に、折句といへる名目あり、其樣を聞けば、一句の上、五文字を、判者のかたより出し、中七文字、下五文字を作者より繼せいふなるよし。

【折藕】44セツグウ 莖の折れた蓮をいふ。〔庾信、詠二畫屛風一詩〕殘絲繞二折藕一、芰葉映二低蓮一。

【折屈】45ヲレカガミ ❶身體の關節。❷たちゐ。坐作進退。作法。をりかがみ。

【折掘】46セツクツ 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕折掘氏、南涼錄、禿髮傉檀、立二折掘氏一爲二皇后一。

【折花】47セツクワ 花を手折ること。〔荊州記〕折レ花逢二驛使一、寄與隴頭人。〔蘇軾、送三范景仁遊二洛中一詩〕折レ花斑竹寺、弄レ水石樓灘。

【折貨】48セツクワ 損失。〔淮南子、齊俗訓〕工無二苦事一、商無二折貨一。

【折過】49 chê² kuo⁴ 差し引き勘定すること。〔水滸傳、五十回〕把殺祝龍祝彪的功勞折過了。

【折回】50 chê² huei² 途中から引きかへす。

【折晦】51セツクワイ 挫きくらます。〔易林訟之第六、旅〕藏二匿淵底一、折晦爲レ咎。

【折壞】52セツクワイ くちこはれる。〔晉書、束晳傳〕汲郡人不準、盜二發魏襄王墓一、云云、得二竹書數十車一、云云、大凡七十五篇、七篇簡書折壞、不レ識二名題一。

【折橫】53セツクワウ 葬具の名。壙上に渡して席を承けるたな。折は最も下で棺飾に接し、上に抗席を加へ、更に其の上に抗木を加へる。字解一の⓯を見よ。〔儀禮、既夕禮〕陳二明器于乘車之西一、折橫覆レ之。〔注〕折、猶レ庪也、方鑿連レ木爲レ之、蓋如レ牀而縮者三、橫者五、無レ簀、窆事畢、加二之壙上一、以承二抗席一、橫二陳之一者、爲三苞筲以下絣二於其北一、便也、覆レ之、見二善面一也。〔胡培翬正義〕王氏士讓云、首陳レ之者、爲下其在二棺飾之上一、最親中於棺上、今案、棺入レ壙後、加二折於上一、席在二折上一、而抗木又在二席上一、自レ折至レ茵、非二明器一、而與二明器一類陳者、以三其皆爲二入レ壙之物一也。

【折馘】54セツクワク 耳をきること。斬馘。一說に、殺して耳をきること。〔左氏、宣、十二〕攝政曰、吾聞、致レ師者、右入レ壘折馘、執レ俘而還。〔注〕折馘、斷耳。〔會箋〕折、猶二短折之折一、謂レ死也、死、猶レ殺也、易離上九折首、亦謂レ殺二渠魁一也、折馘、謂二殺而截一レ耳也。

【折關】55セツクワン 關塞を挫く。關を破る。〔史記、李將軍傳〕嘗從レ行、有レ所三衝陷折關及格二猛獸一。

【折契】56セツケイ 折券(65)に同じ。〔漢書、五行志下之上〕或夜折レ關、或踰レ牆入。〔任昉、奏二彈劉整一文〕何其不レ能レ折二契鐘庾一、而襜帷交質。

【折計】57セツケイ 銀を以て米に換へ、錢を以て絹に換へる類。〔大學衍義補、制二國用一、市糴之令〕其後之弊、且至下與二夏稅一並輸、而民家營運生生之具、悉從二折計一、而爲中民無窮之害上。

【折桂】58セツケイ 桂の枝ををり取る。唐以來、科擧の試に及第することをいふ。晉の郤詵が及第を桂林の一枝、崑山の片玉に比した故事。〔溫庭筠、春日將レ欲二東歸一寄二新及第苗紳先輩一詩〕猶喜故人先折レ桂、自憐羈客尙飄蓬。〔避暑錄話、四〕世以二登科一爲二折桂一、此謂郤詵對二策東堂一、自云二桂林一枝一也、自レ唐以來用レ之。

【折桂人】59セツケイノヒト 科擧の試驗に及第した人をいふ。〔劉得仁、鶯出レ谷詩〕稍類二冲天鶴一、多隨二折桂人一。

【折桂令】59′セツケイレイ 曲牌の名。其の句法は增損が出來る。普通は五十六字。其の別體の蟾宮曲といふものは、多きは七十三字に至る。〔詞譜〕元人小令、不レ拘二親字一者、莫レ過二此詞一。〔作詞十法疏證〕按、折桂令別名有レ七、折桂回・蟾宮曲・蟾宮引・步蟾宮・廣寒秋・秋風第一枝・天香第一枝、白賁作一體十二句者、連二親墊一共有二百字一、遂名二百字折桂令一、北詞廣正譜將二蟾宮曲之名一專屬二某種別體一、在二元人一實與二折桂令一一名混用也。

【折笄】60セツケイ かうがいを折る。春秋、晉の武子が范文子の無禮を怒つて杖で其の笄を折つた故事。〔國語、晉語五〕范文子莫退二於朝一、武子曰、何莫也、對曰、有三秦客廋二辭於朝一、大夫莫二之能對一也、吾知レ三焉、武子怒曰、大夫非レ不レ能也、讓二父兄一也、爾童子何知、而三掩二人於朝一、吾不レ在晉國亡無レ日矣、擊レ之以レ杖折二委笄一。〔徐陵、謝四兒報三坐レ事付二治中一啓〕老臣過庭之訓、多謝二古賢一、折笄之杖、有レ愧二前達一。

【折頸】61セツケイ くびをる。〔韓非子、五蠹〕兔走觸レ株、折レ頸而死。

【折屐】62セツゲキ あしだの齒が折れる。喜びの情を矯め鎭めた晉の謝安の故事。〔晉書、謝安傳〕謝玄破二苻堅一、驛書至、安方對レ客圍レ棋、看レ書既竟、了無二喜色一、云云、既罷還レ內、過二戶限一、心喜甚不レ覺二屐齒之折一、其矯レ情鎭レ物如レ此。〔貢奎、登二齊山一詩〕拔レ叢得二小徑一、往來遭二折屐一。

【折戟】63 セツゲキ 折れた戟。〔杜牧、赤壁詩〕折戟沈レ沙鐵半銷、自將二磨洗一認二前朝一。

【折脅】64 セツケフ わきばらの骨を折る。〔韓非子、難言〕宰予不レ免二於田常一、范睢折二脅於魏一。〔揚雄、解嘲〕范睢魏之亡命也、折レ脅拉レ髂。

【折券】65 セツケン 借用證書をやぶる。返濟を責めない。〔史記、高祖紀〕歲竟、此兩家常折レ券棄レ責。〔漢書、高祖紀上〕歲竟、此兩家折レ券棄レ負。〔注〕師古曰、以二簡牘一爲二契券一、既不二徵索一、故折二毀之一、棄二其所レ負。

【折減】66 セツゲン へらす。ひきへらす。減少する。〔後漢書、黄瓊傳〕雖レ無二大異一、而言行所レ守、亦無レ所レ缺、而毀謗布流、應レ時折減者、豈非二觀聽望深、聲名太盛一乎。〔魏志、高堂隆傳〕又將吏奉祿、稍見二折減一、方二之於昔一、五分居レ一。

【折戶】67 ヲリド 蝶番があつて折りたたむやうに造つた戶。其の左右二枚なるを諸折戶、一枚なるを片折戶といふ。〔東鑑、脫漏〕鰭板中門、幷織戶可レ被レ立之由、有二其沙汰一。

【折股】68 セツコ ❶股ををる。〔左氏、哀、十七〕踰二于北方一而隊、折レ股。❷chê² ku³ 株式契約を破棄する。

【折口】69 セツコウ 口をとぢる。〔孔子家語、賢君〕佞臣諂諛、窺二導其心一、忠士折レ口、逃レ罪不レ言。〔注〕折口、杜レ口。

【折扣】70 chê² k'ou⁴ 割引。割引する。差引する。扣折。

【折肱】71 セツコウ ひぢををる。非常な苦勞をする、又はにがい經驗を嘗めるにいふ。〔左氏、定、十三〕齊高彊曰、三折レ肱、知レ爲二良醫一。

【折鉤】72 セツコウ 折れた鉤。鉤は鋒の曲つた所。〔史記、楚世家〕楚國折鉤之喙、足三以爲二九鼎一。〔注〕正義曰、凡戟有レ鉤、喙、鉤口之尖也、言三楚國戟之鉤口尖有レ折者、足二以爲レ鼎。

【折獄】73 セツゴク 訴訟をさばく。うつたへを判決する。治獄。折訟。〔易、賁〕象曰、山下有レ火賁、君子以明二庶政一、无二敢折獄一。〔書、呂刑〕非二佞折レ獄、惟良折レ獄。〔傳〕非三口才可二以斷レ獄、惟平良可二以斷レ獄。〔論語、顔淵〕片言可三以折レ獄者、其由也與。〔集注〕折、斷也。〔孔叢子、刑論〕折レ獄無レ倫、以レ意爲レ限。

〔折獄龜鑑〕74 セツゴクキカン 書名。八卷。宋、鄭克撰。和凝の疑獄集を補正したもの。〔四庫提要、子、法家類〕。

【折骨】75 セツコツ 骨を折る。身體を勞する。〔左氏、哀、二〕蒯聵不二敢自佚一、備レ持矛焉、敢告、無レ絕レ筋、無レ折レ骨、無二面傷一、以集二大事一、無レ作二三祖羞一。〔荀子、脩身〕夫驥一日千里、駑馬十駕、則亦及レ之矣、將下以窮二無窮一、逐中無極上與、其折レ骨絕レ筋、終身不レ可二以相及一也。

【折根】76 セツコン 草の名。連翹の異名。〔駢雅、釋草〕折根、連翹也。

【折痕】77 chê² hen² 物のをりめ。

【折挫】78 セツザ くじける。又、くじく。〔韓非子、八說〕是以拔二千丈之都一、敗二十萬之衆一、死傷者軍之乘、甲兵折挫、士卒死傷、而賀二戰勝得レ地者、出二其小害一、計二其大利一也。〔後漢書、竇融傳〕外則折二挫羌胡一、內則百姓蒙レ福。

【折罪】79 chê² tsuei⁴ 罪をつぐなふ。

【折搶】80 セツサウ 舟が逆風にあひ、横斜めに風をうけて進むこと。〔稗勺〕江船遇二逆風一、揚レ帆側行、謂二之折搶一。

【折漕】81 セツサウ 南方から北京に運漕する年貢米を金に替へて送ること。〔清會典事例、戶部、漕運〕三十三年題准、漕糧耗米、例應下徵二收本色一給上レ軍、如有二私自改徵折色者一、各該督撫題參、照二私折漕糧例一議處。

【折箏】82 ヲリゴト 折りたたむやうにした琴。〔方丈記〕傍に箏・琵琶、おのおの一張をたつ、いはゆるをり箏・つぎ琵琶これなり。

【折像】83 セツザウ 後漢、廣漢雒の人。又、折象・析像に作る。字は伯式。京氏易及び黄老に通ず。〔後漢書、一百十二上〕。

【折札】84 セツサツ 折簡(32)に同じ。〔後漢書、儒林傳論〕猶下鞠二躬昏主之下一、狼中狽折札之命上。〔注〕札、簡也、折レ簡而召、言レ不レ勞二重命一。

【折煞】85 chê² sha¹ 壽命を縮める。折壽(105)に同じ。

【折產】86 セツサン 財產の分配。財產を分配する。〔清國行政法汎論、授與榮典權、旌表〕累世同居、古來清國之風、最以二兄弟折レ產、爲二背德之甚者一。

【折算】87 chê² suan⁴ ❶換算する。❷割引して算へる。❸損する。

【折死】89 chê² ssŭ³ わかじに。早世。折煞。

【折枝】90 セツシ ❶手のすぢをもみさすること。枝は肢。〔孟子、梁惠王上〕爲二長者一折枝。〔注〕折枝、按摩、折二手節一解二罷枝一也。〔四書逸箋〕折枝、陸氏善經謂レ折二草樹枝一、集注從レ之、與レ爲二長者一意殊不レ屬、趙氏注、按摩折二手節一、解二罷枝一也、亦費レ力、陸筠云、枝・肢古通用、謂下磬二折腰肢一揖上也。〔後漢書、張皓王龔傳論〕其利甚博、而人莫二之先一、豈同下折二枝於長者一、以不中爲爲上難乎。〔劉峻、廣絕交論〕皆爲匍匐逶迤、折枝舐レ痔。〔注〕翰曰、折枝、按二摩手足一也。❷花をたをる。又、をりえだ。又、其れを畫く畫法。〔孟子、梁惠王上、折枝、集注〕以二長者之命一、折二草木之枝一。〔焦循正義〕音義引陸善經云、折枝、折二草樹枝一。〔韓偓、已涼詩〕碧闌干外繡簾垂、猩血屛風畫二折枝一。〔宣和畫譜〕徐熙有二寫生折枝花一。〔圖繪寶鑑、宋〕趙昌、字昌之、善畫二花果一、云云、作二折枝一有二生意一。❸腰をまげる。拜すること。枝は、肢に通じ、腰肢の意。〔孟子、梁惠王上、折枝、焦循正義〕趙氏佑溫故錄云、文獻通考載二陸筠解一爲三磬二折腰肢一、蓋猶二今拜揖一也。❹旅行を見送りする。送別。折柳(216)を見よ。

【折紙】91 ヲリガミ ❶横に二つに折つた紙。公式の文書。又、目錄若しくは鑑定書などに用ひるもの。〔東鑑、三十四〕仁治二年九月三日、申二勳功賞一事、折紙給預候畢。❷書畫・刀劍・器物の鑑定書。❸鑑定書のついた道具。〔雍州府志、七、磨刀〕凡價黃金五枚以上稱二折紙一。❹一定の資格を得たもの。

〔折紙附〕92 ヲリガミツキ 器物等に鑑定書のついたもの。

【折翅】93 セツシ はねを折る。〔鹽鐵論、西域〕折レ翅傷レ翼。

【折齒】94 セツシ ❶齒を折る。〔左氏、哀、六〕鮑子曰、女忘下君之爲二孺子牛一而折中其齒上乎。〔史記、鄒陽傳〕范睢摺二脅折三齒於魏一。〔唐律、鬬訟、鬬毆折齒毀耳鼻〕諸鬬二毆人一、折レ齒、毀二缺耳鼻一、眇二一目一、折二手足指一。❷よはひををる。夭折する。〔剪燈餘話、田洙遇二薛濤一聯句記〕雨意雲情肯輕許、縱然折レ齒將如何。

【折辭】95 セツジ 人のことばをくじく。〔大戴禮、曾子立事〕不レ唱二流言一、不レ折レ辭。

【折收】96 chê² shou¹ 割引して受取る。

【折膝】97 セツシツ ❶ひざを折りまげる。又、かがむ。伏す。〔後押小路內府抄、折膝〕參議座下折レ膝申、至二納言一不レ折レ膝、於二御前一者皆折レ之。❷屈伏する。屈從する。〔甲陽軍鑑〕。

【折牀】98 セツシヤウ こしかけを折りこはす。人の多く集ることにいふ。〔余靖、羅漢隱記〕四方之來、折レ牀而不レ拒。

〔折牀會〕99 セツシヤウエ こしかけを折りこはすほど多くの人の集るをいふ。〔五燈會元〕如會禪師初謁二徑山一、後參二大寂一、學徒既衆、僧堂牀榻、爲レ之陷折、時稱二折牀會一也。

【折傷】100 セツシヤウ ❶をりくじく。又、をれきずつく。くじけいたむ。〔荀子、非相〕曲得レ所レ謂焉、然而不二折傷一。〔注〕言、談說委曲、皆得二其意之所レ謂、然而不三折二傷其道一也。〔漢書、劉輔傳〕見下陛下進二用輔一亟、而折二傷之一暴上。❷わかじに。夭折。

〔折傷醫〕101 chê² shang¹ i¹ 骨接醫者。

【折讓】102 セツジヤウ くじきせめる。〔後漢書、吳祐傳論〕吳季英視レ人畏レ傷、發レ言忝忝似二夫儒者一、而懷憤激揚、折二讓權枉一、又何壯也。

【折取】103 セツシユ 摘み取る。折は硩で挑摘するをいふ。〔管子、地數〕然則與三折二取之一遠矣。〔纂詁〕折、讀爲レ硩、硩音徹、挑摘也。

【折首】104 セツシユ 首を折斷すること。〔易、離〕上九、王用出征、有レ嘉、折レ首、獲匪二其醜一、无レ咎。〔疏〕故有二嘉美之功一、所二斷罪一人之首、獲得匪二其醜類一、乃得レ无レ咎也。〔吳志、諸葛恪傳〕詩美二執訊一、易嘉二折首一。

【折壽】105 chê² shou⁴ 壽命を縮める。俗に親が子を拜すれば子の壽命が縮まるといふ。

【折出】106 セツシユツ ひきかへし。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕何難二折出拘償一。

【折笋】107 セツジユン 笋の一種。一名、接笋。福建省南平縣高山上に產す。泉中に浸し置けば、一晚で白色となり味が甚だ佳美となる。〔延平府志〕。

【折訟】108 セツシヨウ うつたへを判決する。折獄。〔北

史、楊椿傳〕後爲二中部法曹一、折訟公正。

【折証】109 chê² chêng⁴ 爭ふ。口論する。

【折衝】110 セッショウ ㊀敵の衝き來るをくじく。敵と對抗してひけを取らない。敵とかけひきして我が體面を全くする。轉じて、國際上の談判、又は外國使臣との談判をいふ。〔戰國、齊策〕此臣之所謂比二之堂上一、禽二將戶內一、拔二城於尊俎之閒一、折二衝席上一者也。〔呂覽、召類〕孔子聞レ之曰、夫脩二之於廟堂之上一、而折二衝乎千里之外一者、其司城子罕之謂乎。〔晏子、雜、上〕仲尼聞、夫不レ出二於尊俎之閒一、而知二千里之外一、夫晏子之謂也、可レ謂二折衝一矣。〔漢書、王尊傳〕誠國家爪牙之吏、折衝之臣。〔淮南子、說山訓〕國有二賢君一、折二衝萬里一。〔後漢書、賈復傳〕賈督有下折二衝千里一之威上。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕幕府奉二漢威靈一、折二衝宇宙一。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕虎臣武將、折二衝萬里一。〔蘇洵、送二石昌言使一レ北引〕折二衝于口舌之閒一。㊁官名。隋の大業九年、禁衞軍に折衝果毅諸郎將官を置き、驍果を統領せしむ。唐の貞觀十年、隋に倣つて折衝果毅郎將の名を置き、統軍を改めて折衝都尉と稱し、全國に折衝府を置き、糟米介冑等を貯へて武事に備へ、人民を徵發して府兵に充て、每歲、衞士帳を兵部に上つて、徵發に應ずることを掌る。〔通典、職官、武官、折衝府〕隋初、左右衞・左右武衞・左右武侯、各領二軍坊鄉團一以統二戎卒一、開皇中、置二驃騎將軍府一、每府置二驃騎車騎二將軍一、大業三年、改二驃騎府一爲二鷹揚府一、改二驃騎將軍一爲二鷹揚郎將一、改二車騎將軍一爲二鷹揚副郎將一、九年、別置二折衝果毅、及武勇雄武等郎將官一、以統二領驍果一、大唐武德初、猶有二驃騎府及驃騎車騎將軍之制一、武德七年、乃改二驃騎一爲二統軍一、車騎爲二別將一、貞觀十年、復採二隋折衝果毅郎將之名一、改二統軍一爲二折衝都尉一、別將爲二果毅都尉一、其府多因二其地一、各自爲レ名、無二鷹揚之號一、凡五百七十四府、分二置於諸州一、而名隸二諸衞及東宮率府一、各領二兵滿一千二百人一爲二上府一、千人爲二中府一、八百人爲二下府一、每府置二折衝都尉一人・左右果毅都尉各一人・別將一人・長史一人・兵曹一人・校尉六人一、凡府在二赤縣一爲二赤府一、在二畿縣一爲二畿府一、衞士以二三百人一爲レ團、團有二校尉一、五十人爲レ隊、隊有レ正、十人爲レ火、火有レ備、六馱馬驢米糧介冑戎器鍋幕貯二之府庫一、以備二武事一、每歲十一月以二衞士帳一上二於兵部一、以候二徵發一、天下衞士向二六十萬人一、天寶八年五月、停二折衝府一、十一年八月、改二諸衞士一爲二武士一。

【折衝禦侮】111 セッショウギョブ 敵の突き來るを打ち摧いて、我を侮る心を禦ぎ止めて懼れしめる。〔詩、大雅、緜、予曰有二禦侮一、傳〕武臣折レ衝曰二禦侮一。〔疏〕能折二止敵人之衝突一者。〔胡銓、上二高宗一封事〕有レ如二虜騎長驅一、尙能折レ衝禦レ侮邪。

【折衝之臣】112 セッショウノシン 敵の衝き來るをくじく忠勇の臣。〔漢書、王尊傳〕誠國家爪牙之吏、折衝之臣。〔顏氏家訓、慕賢〕齊朝折衝之臣、無レ罪被レ誅、將士解體、周人始有二呑齊之志一。

【折衝都尉】113 セッショウトヰ 官名。折衝の㊁を見よ。

【折證】114 セッショウ 證據立てる。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕恁兩箇今夜親折證。〔元曲、黑旋風〕再不下和二他親一折證上、我只是呑レ聲忍レ氣、匿レ跡潛レ形。

【折色】115 セッショク ㊀明代、祿米のかはりに他の物を渡すこと。本色(**6**−**14421**‥174)の對。〔明會典、戶部〕凡官員俸給、有二本色一、有二折色一。㊁清代、南方から北京へ運漕する年貢米を金錢に替へて徵收すること。〔清會典事例、戶部、漕運〕三十三年題准、漕糧耗米、例應下徵二收本色一給上軍、如有二私自改徵折色者一、各該督撫題參、照二私折漕糧例一議處。㊂chê² sê⁴ 銀子交換のため、衡量の際、銀性劣等のものは其の交換步合を減ずるをいふ。

【折色銀】116 セッショクギン 徵收すべき實米が不足の時、銀に代へて納付させる類。〔六部成語、戶部、折色銀、注解〕應レ徵之實米、不レ足則亦按レ色折レ銀納レ之。

【折贖】117 セッショク 輕い犯罪者に對し、金銀を以て其の刑を贖はせること。〔清會典、刑部〕又題准文武官員有レ犯、除二眞正死罪一外餘罪、俱准二折贖一、衙蠹犯罪者、不レ准二折贖一。〔福惠全書、刑名部、問擬〕有二的決折贖幷贖鍰有力稍力收贖贖罪之不レ同。

【折辱】118 セツジョク くじけ屈する。くじきはづかしめる。輕蔑する義。摧辱。挫辱。〔史記、項羽紀〕及三秦軍降二諸侯一、諸侯吏卒乘レ勝多奴虜使レ之、輕二折辱秦吏卒一。〔後漢書、龐參傳〕有司以下良不二先聞奏一、輒折中辱宰相上、坐繫二詔獄一。

【折棰】119 セッスイ むちを折る。〔後漢書、鄧禹傳〕敕曰、赤眉無レ穀、自當レ來レ東、吾折レ棰笞レ之、非二諸將憂一也。

【折聲】120 セッセイ 聲をひそめる。〔新書、容經〕屛レ氣折レ聲、軍旅之言也。

【折稅】121 セッゼイ 物品を以て稅金に代納すること。〔文獻通考、市糴考、常平義倉租稅〕量二折稅錢一、使レ納二斗斛一。

【折消】122 セッショウ くじきけす。〔漢書、佞幸、董賢傳〕將軍位尊任重、既不レ能三明レ威立レ義、折二消未萌一。

【折席】123 chê² hsi² 席をわかつ。轉じて、わかれること。いとまごひすること。〔水滸傳、八十回〕再設筵宴送行、擡出金銀綵段之類、約數千金、專送大尉、爲折席之禮。

【折脊】124 セッセキ せぼねを折る。〔論衡、効力〕力不レ任二彊引一、則有二變惡折脊之禍一。

【折墌】125 セッセキ 城の名。西魏築く。隋末、薛擧が據つたので薛擧城ともいふ。甘肅省涇川縣の東北。〔元和志〕西魏涇州刺史乙費貴所レ築、隋末薛擧屯二據此城一、亦名二薛擧城一。

【折節】126 セッセツ ㊀みさををまげる。意志をまげる。意地をすてる。誇をすてる。〔戰國、秦策〕主折レ節以下二其臣一、臣推レ體以下二死士一。〔管子、霸言〕折レ節事レ彊以避レ罪、小國之形也。〔史記、張儀傳〕乃使下勇士至レ宋、借二宋之符一、北罵中齊王上。齊王大怒、折レ節而下レ秦。〔史記、郭解傳〕及二解年長一、更折レ節爲レ儉、以レ德報レ怨、厚施而薄望。〔後漢書、段熲傳〕少便二習弓馬一、尙二遊俠一、輕二財賄一、長乃折レ節好二古學一。〔魏志、袁紹傳〕紹有二姿貌威容一、能折レ節下レ士。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕魏略曰、(徐)庶、先名福、云云、少好二任俠擊劍一、中平末、嘗爲レ人報レ讎、云云、折レ節學問、始詣二精舍一。〔吳質、答二東阿王一書〕深蒙二薛公折レ節之禮一。〔北齊書、魏收傳〕遂折レ節讀レ書、夏月坐二板床一。㊁ヲリフシ ㋑場合場合。機會。をりから。〔源氏、花宴〕中宮のかくておはするを、をりふしごとに安からずおぼせど。㋺時季。季節。〔貫之集〕やみ起きて、今日か明日かと待つ程の、をりふし知るは淚なりけり。

【折泉】127 セッセン 縣名。漢、置く。もと侯國。今、山東省諸城縣の西南。〔漢書、地理志上〕琅邪郡、縣五十一、折泉。

【折洗】128 chê² hsi³ 分けてあらひすすぐ。各部分を取り離して洗ふ。

【折扇】129 chê² shan⁴ 扇子。摺扇(**5**−**12647**‥20)に同じ。

【折旋】130 セッセン まがりめぐる。曲行周旋すること。〔韓詩外傳、一〕行步中レ規、折旋中レ矩。〔說苑、辨物〕行步中レ規、折旋中レ矩。〔李衞公問對、中〕左右折旋趍步金鼓、各有二其節一。

【折箭】131 セッセン ㊀箭を折る。同心協和の大切なことを敎へる喩。後魏の時、吐谷渾阿豺が母弟慕利延をして先づ一箭を折らしめ、次いで十九箭を折らしめ、其の折ることのできないことによつて敎を說いた故事。又、元の祖、朵奔蔑兒干の妻阿闌豁阿も、五子をして箭を折らしめて、同心協和を說いた。〔魏書、吐谷渾傳〕阿豺有二子二十人一、緯代長子也、阿豺又謂曰、汝等各奉二吾一隻箭一、折二之地下一、俄而命二母弟慕利延一曰、汝取二一隻箭一折レ之、慕利延折レ之、又曰、汝取二十九隻箭一折レ之、延不レ能レ折、阿豺曰、汝曹知否、單者易レ折、衆則難レ摧、戮レ力一レ心、然後社稷可レ固。〔元祕史〕元之祖先朵奔篾兒干之妻阿闌豁阿、生二五子一、春日煑二臘羊一、召二五子一列坐、各與二一箭一使レ折レ之、皆斷、又合二五箭一爲二一束一、使二五人遞折一レ之、皆不レ能レ斷、因訓レ之、汝五人皆我腹所レ生、恰如二五箭一、然單則易レ折、同心協和、則人無レ奈二之何一。㊁誓の證となすにいふ。〔桯史〕王師始渡レ淮、李汝翼以二騎師一、郭倬以レ池、田俊邁以レ濠、分二三軍一並趨二符離一、虜人覆二諸山下一、使レ謂二汝翼一曰、田俊邁守レ濠、實啓二釁端一、執以歸レ我、我全二汝師一、虜既得二俊邁一、折レ箭爲レ誓。

【折線】132 セッセン 數學用語。方向を異にする別々の直線がつづいて成した線。曲線・直線に對していふ。

【折錢】133 セッセン ㊀錢筮法の一。單拆重交(**2**−**3993**‥336)を見よ。㊁割引する。〔漢書、食貨志下〕爲二物

上中下之賈一、各自用爲二其市平一、毋レ拘二它所一、眾民賣二買五穀布帛絲緜之物一、周二於民用一而不レ讎者、均官有三以考二檢厭實一、用二其本賈一取レ之、毋レ令二折錢一。〔注〕師古曰、賈、讀曰レ價。❸chê² ch'ien² 物品を金錢に替へる。

【折還】134（セツセン） ❶まがりめぐる。折旋（130）に同じ。〔禮、玉藻〕周還中レ規、折還中レ矩。〔釋文〕還、音旋、本亦作レ旋。❷chê² huan² ㋑差し引いて返金する。㋺借金の引當てに物品を以て返還すること。

【折俎】135（セツソ） 牛羊等の牲の體を折解し、俎に載せて客に供するをいふ。〔儀禮、士冠禮〕有二乾肉折俎一。〔注〕乾肉、牲體之脯也、折二其體一以爲レ俎。〔禮、少儀〕有二折俎一不レ坐。〔左氏、宣、十六〕晉侯使三士會平二王室一、定王享レ之、原襄公相レ禮、殽烝、武子私問二其故一、王聞レ之、召二武子一曰、季氏、而弗レ聞乎、王享有二體薦一、宴有二折俎一、公當レ享、卿當レ宴、王室之禮也。〔注〕享則半解二其體一而薦レ之、體解節折、升二之於俎一、物皆可レ食、所三以示二慈惠一也。〔疏〕體解節折、升二之於俎一、卽殽烝是也。〔書言故事、饌食類〕折食曰二折俎一。

【折租】136（セツソ） 代用品で年貢を納めること。〔唐書、張廷珪傳〕雖二水旱一、得二以レ蠶折一レ租。

【折菱】137（セツソウ） むちを折る。〔方言、二〕慈母之怒レ子也、雖二折レ菱笞一レ之、其惠存焉。

【折足】138（セツソク） 鼎の足を折る。知は小にして謀は大、力は薄くして任は重く、それに堪へないで屈辱を受ける喩。〔易、鼎〕九四、鼎折レ足、覆二公餗一。〔疏〕鼎折レ足、覆二公餗一者、云云、既承且施、非二己所一レ堪、故曰二鼎折一レ足、鼎足既折、則覆二公餗一也、渥沾濡之貌也、既覆二公餗一、體則渥霑也、施二之於人一、知小而謀大、力薄而任重、如レ此必受二其至辱一、災及二其身一也。〔漢書、敍傳上〕遇二折レ足之凶一、伏二鈇鉞之誅一。〔後漢書、謝弼傳〕必有二折レ足覆レ餗之凶一、可下因二災異一並加中罷黜上。〔注〕易曰、鼎折レ足覆二公餗一、鼎以喩二三公一、餗、鼎實也、折レ足覆レ餗、言レ不レ勝二其任一。〔資治通鑑、漢紀〕〔靈帝、建寧二年〕今之四公、唯司空劉寵斷斷守レ善、餘皆素餐致レ寇之人、必有二折レ足覆レ餗之凶一。

〖折足鐺〗139（セツソクサウ） 脚のまがつたなべ。折脚鐺。〔蘇軾、贈二月長老一詩〕子有二折足鐺一、中容二五合陳一。

〖折足之憂〗140（セツソクノウレヒ） 知小に任大で、事を壞る憂。折足を見よ。〔新論、均任〕德小而任大、謂二之濫一也、德大任小、謂二之降一也、與二其失一也、寧降無レ濫、是以君子、量レ才而授レ任、量レ任而授レ爵、則君無二虛授一、臣無二虛任一、故無二負山之累、折足之憂一也。

【折息】141 chê² hsi² 利息。

【折損】142（セツソン） くじき損する。〔徐璣、梅坡詩〕横斜直似二安排一得、古怪多因二折損一來。

【折多】143（セツタ） 山名。川邊特別區域康定縣の西。一名、藥山。

【折兌】144（セツダ） ❶賣拂つて他物に易へること。物品交換。〔宋史、食貨志下三〕陝西鹽鈔出、多二虛鈔一、而鹽益輕、以レ鈔折二兌糧草一。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕陝西糧草不レ許二折兌一、朝廷既有二著令一。❷chê² tui⁴ 小賣する。細かにして出す。

【折刀】145（セツタウ） 折れた刀。〔柏如亭、大刀魚詩〕折刀百萬沈レ沙去、一夜東風盡作レ魚。

【折撓】146（セツタウ） をれまがる。たわむ。よわりくじける。曲撓。屈撓。枉撓。〔毛詩草木鳥獸疏、注〕草木必凌挫折撓。

【折道】147（セツダウ） 道をまがつて行く。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕至二馬頭鎭一少憩、遂折道而東。

【折丹】148（セツタン） 神人の名。〔山海經、大荒東經〕大荒之中有レ山、名曰二鞠陵于天、東極離瞀一、日月所レ出、名曰二折丹一。〔注〕折丹、神人。

〖折丹桂〗149（セツタンケイ） 詞牌の名。步蟾宮（**6－16284**・133）を見よ。〔詞譜〕送二人應レ擧之作、取二詞中仙籍桂香浮句意一爲レ名、與下步蟾宮別名二折丹桂一者上不レ同。

【折短】150（セツタン） わかじに。夭死。〔韓詩外傳、三〕太平之時、無二瘖癃跛眇尫蹇侏儒折短一。

【折斷】151（セツダン） 折り絶つ。〔李白、宣城送二劉副使入一レ秦詩〕無レ令三長相思、折二斷綠楊枝一。

【折竹】152（セツチク） 折れた竹。雪が積つて折れた竹。〔杜荀鶴、雪詩〕江湖不レ見飛禽影、巖谷時聞折竹聲。〔白居易、夜雪詩〕夜深知二雪重一、時聞折竹聲。〔梅堯臣、對レ雪憶三往歲錢塘西湖訪二林逋一詩〕折竹壓レ籬曾礙レ過、却穿二松下一到二茅廬一。

【折衄】153（セツヂク） くじけ敗れる。敗衄。〔釋名、釋言語〕辱、衄也、言二折衄一也。〔後漢書、段熲傳〕臣兵累見二折衄一。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕傷夷折衄。

【折賬】154 chê² chang⁴ 帳消する。

【折杖】155（セツヂヤウ） ❶杖を折る。〔晉書、苻登載記〕登聞レ之、喜曰、姚興小兒、吾將二折レ杖以笞一レ之。❷杖刑を輕減すること。宋の太祖の建隆四年、折杖の制を定めた。〔事物紀原、律令刑罰部、折杖〕宋朝會要曰、建隆四年三月、張昭請、加役流、脊杖二十、配役三年、流三千里、脊杖二十、二千五百里、脊杖十八、二千里、脊杖十七、並役一年、徒三年、脊杖二十、二年半十八、二年十七、一年半十五、一年十三、杖一百臀杖二十、九十十八、八十十七、七十十五、六十十三、笞五十杖十、四十三十八下、二十十七下、舊據二獄官令一用レ杖、受レ杖者皆背臀腿〔公受、殿庭決者、皆背受、至レ是始折レ杖、又徒流皆背受二笞杖一者、皆臀受也、孫奭律音又曰、舊制應レ決二杖笞一者、皆依レ數決レ之、宋朝建隆四年、始有二折杖之制一。〔大學衍義補、愼二刑憲一、制二刑獄之具二〕宋太祖、定二折杖之制一、凡流刑四、加役流、脊杖二十、配役三年、流三千里、脊杖二十、二千五百里、脊杖十八、二千里、脊杖十七、竝配役一年、凡徒刑五、徒三年、脊杖二十、徒二年半、脊杖十八、二年、脊杖十七、一年半、脊杖十五、一年、脊杖十三、凡杖刑五、杖一百、臀杖二十、九十、臀杖十八、八十、臀杖十七、七十、臀杖十五、六十、臀杖十三、凡笞刑五、笞五十、臀杖十下、四十、三十、臀杖八下、二十臀杖七下、常行官杖長三尺五寸、大頭闊不レ過二二寸一、厚及小頭徑不レ得レ過二九分一、徒流笞通用二常行杖一、徒罪決而不レ役。〔福惠全書、刑名部、問擬〕老幼廢疾工役樂戶婦人無レ力者折杖。

〖折杖法〗156（セツヂヤウハフ） 從來の杖數を輕減する法律。折杖を見よ。〔曾鞏、太祖皇帝總敍〕太祖立二折杖法一。

【折中】157（セツチユウ） ❶獄を斷ずるに輕重其の宜しきを得る。又、彼れと此れとを加減して程よくする。折衷。〔管子、小匡〕決レ獄折レ中、不レ殺二無辜一、不レ誣二無罪一。〔纂詁〕斷レ獄曰レ折、中、輕重得レ中也。〔楚辭、九章、惜誦〕令二五帝一以折中兮、戒二六神一與嚮服。〔補注〕安均云、折、斷也、中、當也、言レ欲下折二斷其物一而用レ之、與レ度相中當上、故言二折中一也。〔史記、孔子世家贊〕中國言二六藝一者、折二中於夫子一。〔注〕索隱曰、王師叔云、折中、正也、宋均云、折、斷也、中、當也、言レ欲下折二斷其物一而用レ之與レ度相中當上也。〔漢書、貢禹傳〕四海之內、天下之君、微二孔子之言一、亡レ所二折中一。〔注〕師古曰、折、斷也、非二孔子之言一則無二以爲レ中也。❷chê² chung¹ 平均する。

【折衷】158（セツチユウ） 折中の❶に同じ。〔揚雄、反離騷〕吾馳二江潭之汎溢一兮、將三折二衷乎重華一。〔論衡、自紀〕上自二黃唐一、下臻二秦漢一而來、折衷以二聖道一。〔顏氏家訓、音辭〕考二覈古今一、爲二之折衷一。

〖折衷制〗159（セツチユウセイ） 一方に偏らないで、兩方の意を兼ね採る制度。

〖折衷說〗160（セツチユウセツ） 折衷した說。

〖折衷學派〗161（セツチユウガクハ） 江戶時代、程朱・陽明・古義・古文辭等の諸學派の外に立つて、學派を別たず、其の長を採り短を捨て、或は淸朝考證學の影響を受けて考證を主とした一派。榊原篁洲に緒を發し、片山兼山に興り、井上金蛾に至つて最も盛になつた。山本北山・龜田鵬齋・大田錦城・皆川淇園・猪飼敬所・狩谷棭齋等之に屬す。又、折衷考證學派といふ。〔先哲叢談、後編二〕篁洲在二當時一既不レ好三區二別學流一、故每レ講レ經用三漢魏傳註與二宋明疏釋一、訓詁則據二馬鄭之舊說一、義理則依二程朱之心性一、近時所謂折衷學者、胚二胎於此一。

【折徵】162（セツチヨウ） 物品を貢ぐ代りに金錢を納めること。〔淸會典事例、戶部、漕運〕山東省屆內州縣、冬兌冬開、或糧多收未レ足レ數、或車少趕運不レ及、准二其水次就レ近買レ米墊兌一、仍飭二趕緊徵完一、不レ得三延至二交代時一、將二漕尾一作レ抵、尤不レ得下藉二墊兌一爲レ名、概行中折徵上、如査有二勒令全折之弊一、卽由二該撫一奏參懲辦。

【折折】163（テイテイ） ❶安舒のさま。折折爾を見よ。❷（セツセツ）あきらかなさま。〔管子、內業〕折折乎如レ在二於

側㆒。〔注〕折折、明貌、言㆓心明察若㆑在㆓其側㆒。〔纂詁〕折、提通、折折、安舒貌。❸（ヲリヲリ）をりふし。ときどき。往往。

〖折折爾〗164（テイテイジ）　安舒のさま。〔禮、檀弓上〕喪事欲㆓其縱縱爾㆒、吉事欲㆓其折折爾㆒。〔注〕折折、安舒貌、詩云、好人提提、折、大兮反。

【折釘】165（ヲリクギ・ヲレクギ）　❶釘の頭を曲げたもの。❷折れた釘。

【折鼎】166（セツテイ）　かなへの足を折る。三公が知淺くして重任に勝へない喩。鼎は三公の喩。折足(138)を見よ。〔後漢書、竇融傳贊〕雖㆓則折㆑鼎、王靈以宣。

【折茗】167（セツテウ）　折れた茗。危い所。茗は濕地に生ずる草の名。〔陳琳、檄㆓吳將校部曲㆒文〕忽㆓朝陽之安㆒、甘㆓折茗之末㆒。〔注〕濟曰、暗㆔上鳴㆓高岡之安㆒、樂㆑巢㆓葦茗之危㆒。

【折糴】168（セツテキ）　青苗のうちに稅を定め、稅錢を量折して斛斗を以て納めしめること。和糴(**2－3490**‥298)を見よ。〔白居易、論㆓和糴㆒狀〕右臣伏見、有司以㆓今年豐熟㆒、請㆑令㆓畿內及諸處和糴㆒、令㆘收㆓賤穀㆒以利㆗農人㆖、以㆓臣所㆑觀、有㆑害無㆑利、云云、必不㆑得㆑已、則不㆑如㆓折糴㆒、折糴者、折㆓青苗㆒稅㆑錢使㆑納㆓斛斗㆒、免㆑令㆓賤糶㆒、別納㆓見錢㆒、在㆓於農人㆒、亦甚爲㆑利。

【折跌】169（セツテツ）　人體を損傷すること。〔唐律、鬭訟、毆人折跌支體瞎目〕諸鬭毆、折㆓跌人支體㆒、及瞎㆓其一目㆒者、徒三年。

【折稌】170（セツト）　細かに稻米を折いて飯とすること。稌はもちいね。〔禮、內則〕折稌犬羹兎羹。〔孫希旦集解〕細㆓折稻米㆒爲㆑飯。

【折棟】171（セツトウ）　挫けた家のむね。〔任昉、爲㆓府僚㆒勸㆓進梁公㆒牋〕折棟崩榱、壓焉自及。

【折頭】172（セツトウ）　頭をはねる。割引。〔長生殿、驛備〕送㆓分例㆒、落㆓下些㆔折頭㆒、造㆓鎖算㆒、開㆓除些㆔馬匹㆒。

〖折頭巾〗173（ヲリヅキン）　多くの襞目をつくつた頭巾。

【折騰】174 chê² t'êng²　❶苦悶する。❷減す。潰す。浪費する。

【折納】175（セツナフ）　❶稅物の濫惡なために其の價を割引すること。〔唐書、食貨志二〕度支以㆓稅物㆒頒㆓諸司㆒、皆增㆓本價㆒爲㆓虛估㆒給㆑之、而繆以㆓濫惡㆒督㆓州縣㆒剝㆑價、謂㆓之折納㆒。〔宋史、蔡洸傳〕所㆑輸丁絹依㆓和買之直㆒、計㆑尺折納、人給㆓一鈔㆒。❷納稅物を他の物に換算して納めること。〔明律、戶律、倉庫、鈔法〕若諸人將㆓寶鈔㆒赴㆓倉場庫務㆒、折㆓納諸色課程㆒、中㆓買鹽貨㆒、及各衙門起㆓解贓罰㆒、須㆑要㆘於㆓鈔背㆒用㆓使姓名㆒、私記以憑㆗稽考㆖。

【折賣】176 chê² mai³　❶切賣。小賣。❷品物を金にかへる。折變(199)に同じ。

【折房】177（セツバウ）　いへをこはす。〔福惠全書、保甲部、建築柵濠〕不㆑可㆔襍以㆓汙濊及折房倒壁之屑㆒。

【折拔】178（セツバツ）　くじき引きぬく。〔漢書、外戚下、許皇后傳〕揚㆓裂帷席㆒、折㆓拔樹木㆒。

【折罰】179（セツバツ）　罰をうける。〔長生殿、埋玉〕薄命應㆓折罰㆒、望吾皇急切拋㆑奴罷、只一句傷心話。

【折乏】180（セツバフ）　くじけとぼしくなる。〔論衡、效力〕谷子雲・唐子高、章奏百上、筆有㆓餘力㆒、極言不㆑諱、文不㆓折乏㆒、非㆓夫才知之人㆒不㆑能㆑爲也。

【折半】181（セツパン）　二つに分ける。〔楊太眞外傳、下〕取㆓金釵鈿合㆒、折㆓其半㆒、授㆓使者㆒。

【折盤】182（セツバン）　舞ふさま。〔張衡、南都賦〕結㆓九秋之增傷㆒、怨㆓西荆之折盤㆒。〔注〕善曰、折盤、舞貌。

【折鼻】183（セツビ）　まがつた鼻。〔張衡、西京賦〕其中則有㆓黿鼉巨鼈㆒、云云、大口折鼻、詭類殊種。

【折臂】184（セツピ）　❶臂を折る。〔五代史、雜三十九、楊光遠傳〕病㆑禿折㆑臂。❷臂を曲げる。〔孔叢子、居衞〕或折臂望視、或禿骭背僂。

〖折臂翁〗184′（セツピヲウ）　唐の白居易の新樂府二十首の一。正しくは新豐折臂翁といふ。若い時に徵兵を避けて臂を折つた新豐の老人のことを歌つたもので、邊功を重んずることを戒めた詩である。〔白氏長慶集、卷三、諷諭三〕。

〖折臂三公〗185（セツピサンコウ）　晉の羊祜が相者の豫言通り、馬から墮ちて臂を折り、後、三公の位に至つた故事。〔晉書、羊祜傳〕有㆓善相㆑墓者㆒、言、祜祖墓所有㆓帝王氣㆒、若鑿㆑之、則無㆑後、祜遂鑿㆑之、相者見曰、猶出㆓折臂三公㆒、而祜竟墮㆑馬折㆑臂、位至㆑公而無㆑子。

〖折臂太守〗186（セツピタイシユ）　梁の劉之遴が夢の告げの通り、臂を折つて郡の太守となつた故事。〔梁書、劉之遴傳〕劉之遴、字思貞、云云、初之遴在㆓荆府㆒、嘗寄㆓居南郡廨㆒、忽夢、前太守袁彖謂曰、卿後當㆘爲㆓折臂太守㆒、卽居㆗此中㆖、之遴後果損㆑臂、遂臨㆓此郡㆒。

【折符】187（セツプ）　符信を毀折する。〔孫子、九地〕夷㆑關折㆑符。

【折敷】188（ヲシキ）　片木（へぎ）作りの角盆で、飯器を載せる臺。

【折風】189（セツプウ）　冠の名。後漢の時、高句麗の小加主簿の著けたもので弁に似てゐる。〔後漢書、東夷、高句麗傳〕大加主簿皆著㆑幘、如㆓冠幘㆒而無㆑後、其小加著㆓折風㆒、形如㆑弁。

【折伏】190（セツプク）　❶敵をくじき從はせる。❷佛（シヤクブク）佛說を說き聞かせて惡人惡法をくじきふせること。破邪。折伏攝受を見よ。

〖折伏攝受〗191（シヤクブクセフジユ）　惡人を折伏し善人を攝受すること。此の二門は佛道の大綱である。〔勝鬘經〕我得㆑力時、於㆓彼處㆒見㆓此衆生㆒、應㆓折伏㆒者而折㆓伏之㆒、應㆓攝受㆒者而攝㆓受之㆒、何以故、以㆓折伏攝受㆒、故令㆓法久住㆒。

【折服】192（セツプク）　服從する。くじき從はせる。〔經學歷史、經學復盛時代〕後以㆔宋孝宗崩、寧宗應㆑受㆑重、而無㆓明據㆒、未㆑能㆔折㆓服異議㆒。

【折福】193 chê² fu²　惡德の事をなし我が身に來るべき幸福を逐ひはらふ。

【折分】194（セツブン）　二つに分つ。又、單にわかつこと。

【折柄】195（ヲリカラ）　ちやうど其の時。〔源氏、帚木〕萬のことに、などかはさてもと覺ゆるをりから、時時思ひわかぬばかりの心にて。

【折票】196 chê² p'iao⁴　❶信用貸。貸借融通。必要の場合は何時でも返濟を要求する約定で、外國銀行から中國錢莊に資金の融通をなす方法。chop loan　❷信用貸の貸借勘定決算の時、借主から發行する手形。

【折返】198（ヲリカヘシ）　をりかへす。又、ひつかへしてすぐに。書簡の返答を引返して、すぐに送ること。

【折變】199（セツペン）　價値を換算すること。財產を賣拂つて金錢に替へる。折賣。〔宋史、宗室四、善俊傳〕移㆓江西轉運副使㆒、云云、又奏、和買已是白科、從而折變、益加㆓糜費㆒。

【折蒲】200（セツポ）　晉の王育が少時孤貧にして學に入るを得ず、蒲を折つて書を學んだ故事。〔晉書、忠義、王育傳〕育少孤貧、爲㆓人傭㆒牧㆑羊、每㆑過㆓小學㆒、必歔欷流涕、時有㆑暇卽折㆑蒲學㆑書、云云、同郡許子章、敏達之士也、聞而嘉㆑之、云云、使㆓與㆑子同學㆒、遂博通㆓經史㆒。

【折俸】201（セツポウ）　官吏の俸給を半減して給すること。又、官吏の俸給を他物に換へて支給すること。〔事物紀原、官爵封建部、折俸〕宋朝會要曰、唐正元四年、定㆓百官月俸㆒、僖昭之亂、國用窘闕、天祐中、止給㆓其半㆒、後唐同光初、孔謙以㆓軍儲不㆑充、百官俸錢數多㆒、而折㆑之、非㆘實請減㆓半數㆒、而支㆗實錢㆖、是後所㆑支半實俸復從㆓虛折㆒、宋朝約㆓後唐所㆑定、其非㆓兼㆑職者㆒、皆一分實錢二分折支、景德罷㆑兵之後、始詔、俸當㆑給㆓他物㆒者、京師每㆓一千㆒給㆓實錢六百㆒、在㆑外四百、則今折㆑俸之始也。

【折鋒】202（セツポウ）　文字を書く場合、用筆法の一。〔姜虁、續書譜〕下筆之初、有㆓搭鋒者㆒、有㆓折鋒者㆒、其一字之體定㆓於初下筆㆒、凡作㆑字、第一字多是折鋒、第二三字承㆓上筆勢㆒、多是搭鋒、若㆓一字之間㆒、右邊多是折鋒、應㆓其左㆒故也。

【折謀】203（セツボウ）　謀がくじける。計略のあてがちがふ。術策が運らされない。手が出されない。〔魏志、徐奕傳〕汲黯在㆑朝、淮南爲㆑之折㆑謀。

【折木】204（セツボク）　樹木を折る。〔韓詩外傳、六〕破㆑竹折㆑木、震㆓驚天下㆒、而不㆑能㆑使㆓聾者卒有㆑聞。

【折北】205（セツボク）　戰爭に負けて逃れる。〔漢書、蒯通傳〕漢王、云云、一日數戰、亡㆓尺寸之功㆒、折北不㆑救。〔注〕師古曰、折、挫也、北、奔也。

【折本】206（セツポン）　❶清代、天子が乾清門に御して政を聽く時、學士の奉る進本。〔淸會典、內閣〕御門聽㆑政、則進㆓折本㆒。〔注〕部本進呈後、有㆘未㆑奉㆓諭旨㆒折本發下者㆖、按㆑日收儲、積至㆓一件或十二件㆒、得㆑旨御門聽㆑政、屆㆑期、皇帝御㆓乾清門㆒升㆑座、各部奏事畢、侍讀學士二人詣奏㆓案前㆒、奉㆓各部奏函㆒以退、學士一人奉㆓折本函㆒、恭設㆓於案㆒、啓㆑函依㆑序啓奏、大學士承旨訖、另繕㆑籤隨㆑本呈進。❷（ヲリホン）綴ぢないで、をり疊んで作

つた書冊。此の中、普通の折本と旋風葉とがあり、後者は折本の前後の表紙を一枚で作り、中味の折紙の部分をつまめば、全體が旋風のやうに開かれるからいふ。又、方冊。摺帖。摺葉。摺本。〔貞丈雜記、十六〕卷物は、よむ時、くりひろげて便り惡き故、折本、とぢ本にするなり。❸ chê² pen³ 資本を損する。

【折本錢】207 chê² pen³ ch'ien² 資本を損する。折本に同じ。

【折磨】208 セツマ 虐待する。いぢめる。〔白居易、春晚詠レ懷贈二皇甫朗之一詩〕多中更被二愁牽引一、少裏兼遭二病折磨一。

【折民】209 セツミン 民の邪妄をくじく。刑を以て民に臨むこと。〔書、呂刑〕伯夷降レ典、折レ民惟刑。〔蔡傳〕折二民之邪妄一。〔孔叢子、刑論〕書曰、伯夷降レ典、折レ民維刑、謂二先禮以教レ之、然後維以レ刑折レ之也。

【折目】210 オリメ ヲレメ ❶物の折つた所。❷坐作進退の行儀。〔雪女五枚羽子板〕馬鹿慇懃の頑侍、卷舌の諸禮、折目正しき正月詞。

【折揚】211 セツヤウ 波をあげないこと。〔越絶書、越絶外傳記寶劍〕於レ是楚王聞レ之、引二泰阿之劍一、登レ城而麾レ之、三軍破敗、士卒迷惑、流血千里、猛獸歐レ瞻、江水折揚、晉鄭之頭畢白。

【折瘍】212 セツヤウ つまづいて骨をくじくこと。〔周禮、天官、瘍醫〕掌二腫瘍・潰瘍・金瘍・折瘍之祝藥・劀殺之齊一。〔注〕折瘍、踠跌者。〔義疏〕王安石曰、折瘍、折骨也。

【折翼】213 セツヨク つばさをくじく。〔漢書、息夫躬傳〕發レ忠忘レ身、自繞レ罔兮、寃レ頸折レ翼、庸得レ往レ人兮。

【折拉】214 セツラフ 折りくじく。折摺。〔揚雄、解嘲〕范雎以二折摺一而危二穰侯一。〔注〕摺、五臣作レ拉、善曰、晉灼曰、摺、古拉字也、良曰、魏齊笞二擊范雎一、折レ脅拉レ齒。

【折摺】215 セツラフ 折拉に同じ。

【折柳】216 セツリウ ❶柳の枝を折る。〔詩、齊風、東方未明〕折レ柳樊レ圃、狂夫瞿瞿。❷送別することにいふ。漢代、長安の人が客を送つて霸橋に至り、柳の枝を折つて別れた故事。〔羅鄴、途中寄二友人一詩〕秋庭悵望別レ君初、折レ柳分レ襟十載餘。〔三輔黃圖、六、橋〕霸橋在二長安東一、跨レ水作レ橋、漢人送レ客、至二此橋一、折レ柳贈レ別。❸樂府、横吹曲の名。折楊柳(244)を見よ。〔李白、春夜洛城聞レ笛詩〕誰家玉笛暗飛レ聲、散入二春風一滿二洛城一、此夜曲中聞二折柳一、何人不レ起二故園情一。〔注〕横吹二十八曲中有二折楊柳一、古樂府曰、宋書五行志曰、晉太康末、京洛爲二折楊柳之歌一、其曲有二兵革苦辛之辭一。

【折婁】217 セツル 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕折婁氏、本鮮卑、隨レ魏南徙。

【折蓮】218 セツレン 莖の折れたはす。〔庾信、和三炅法師遊二昆明池一詩〕碎珠縈二斷菊一、殘絲繞二折蓮一。

【折箓】219 セツロク 折簡(32)に同じ。〔管子、輕重丁〕州通之師執二折箓一曰、君且レ使二使者一。〔纂詁〕箓、當レ爲レ篆、折篆、猶二折簡一也。

【折惟昌】220 セツヰシヤウ 宋の人。御卿の子。洛苑使となる。咸昌中、趙保吉及び言泥族を破り、黃砦を抜き、興州刺史に遷る。〔宋史、二百五十三〕・〔宋史新編、六十七〕・〔東都事略、二十八〕。

【折惟忠】221 セツヰチユウ 宋の人。惟昌の弟。字は藎臣。惟昌に繼いで六宅使となり、雲麾將軍を拜す。天聖中、契丹が夏國と兵を境上に會するや、麾下を率ゐて之に備へ、患無きを得た。〔宋史、二百五十三〕・〔宋史新編、六十七〕・〔東都事略、二十八〕。

【折一半】222 chê² i² pan⁴ 折半する。半分分けにする。

【折詠草】223 セツエイサウ 二つ折りの紙に認めた詠草。

【折轅車】224 セツエンシヤ 轅の折れた車。後漢の張堪が儉約をした故事。〔後漢書、張堪傳〕張堪、字君游、南陽宛人也、云云、年十六受二業長安一、志美行厲、諸儒號曰二聖童一、世祖、云云、卽レ位、云云、拜二蜀郡太守一、云云、拜二漁陽太守一、捕二擊姦猾一、賞罰必信、吏民皆樂レ爲レ用、云云、公孫述破時、珍寶山積、捲握之物、足レ富二十世一、而堪去レ職之日、乘二折轅車一、布被囊而已、帝聞良久歎息。

【折可適】225 セツカテキ 宋の人。克行の從子。少時、殿侍に補せらる。屢〻夏人を破り、成州團練使に至り、ついで淮康軍節度使を拜す。〔宋史、二百五十三〕・〔宋史新編、六十七〕・〔東都事略、一百四〕。

【折可與】226 セツカヨ 宋、雲中の人。徽宗の時、官は崞縣守。金人と戰ひ、執へられて死す。〔宋史、四百四十八〕・〔南宋書、二十六〕。

【折御勳】227 セツギヨクン 宋の人。德扆の子。字は世隆。尋いで泰寧軍節度使に遷る。太平興國中、卒す。〔宋史、二百五十三〕・〔宋史新編、六十七〕・〔東都事略、二十八〕・〔隆平集、十七〕。

【折御卿】228 セツギヨケイ 宋の人。御勳の弟。河東を征して岢嵐軍を擊破し、淳化中、永安軍節度使を拜命す。契丹の兵入寇するや、之を子河汊に破る。歲餘、其の病むを知り、契丹復た來寇し、御卿力疾出戰して卒す。〔宋史、二百五十三〕・〔宋史新編、六十七〕・〔東都事略、二十八〕・〔隆平集、十七〕。

【折掛垣】229 ヲリカケガキ 生へたままの竹を適當の所から折曲げて編みからげた垣。〔菅家後集〕山里のをりかけがきの梅の花、いかなる人の見じといふらん。

【折繼世】230 セツケイセイ 宋の人。繼祖の弟。延州東路巡檢を授けられ、夏人を破つて忠州刺史となり、果州團練使を以て終る。〔宋史、二百五十三〕。

【折繼祖】231 セツケイソ 宋の人。繼閔の弟。字は應之。知府州事を嗣ぎ、成州團練使に累轉。戰功あり、解州防禦使に至る。〔宋史、二百五十三〕・〔宋史新編、六十七〕・〔東都事略、二十八〕。

【折繼閔】232 セツケイビン 宋の人。惟忠の子。字は廣孝。州事を嗣ぐ。慶曆中、元昊を拒ぐ。尋いで普州刺史に遷り、皇祐中、卒す。〔宋史、二百五十三〕・〔宋史新編、六十七〕・〔東都事略、二十八〕。

【折見草】233 ヲリミグサ 心の異稱。

【折彥質】234 セツゲンシツ 宋の人。可適の子。字は仲古。號は葆眞居士。紹興中、官は簽書樞密院事。著に葆眞居士集がある。〔宋史、二百五十三〕・〔宋史新編、六十七〕。

【折克行】235 セツコクカウ 宋の人。繼閔の子。字は遵道。夏人、環慶に寇するや、之を破り、知府州事に拔擢さる。邊に在ること三十年。羌人、折家父と呼ぶ。後、秦州觀察使に至る。〔宋史、二百五十三〕・〔宋史新編、六十七〕・〔東都事略、二十八〕。

【折釵股】236 セツサイコ 筆法の名。曲折に圓みがあつて力のこもつたもの。〔姜夔、讀書譜〕折釵股者、欲二其曲折圓而有レ力。〔陸游、醉中作二行草數紙一詩〕堂堂筆陣從二天下一、氣壓二唐人折釵股一。

【折二錢】237 セツジセン 宋代の貨幣。二文錢をいふ。〔宋史、食貨志下二〕陝西轉運副使、皮公弼奏、自レ行二當二錢一、銅費相二當盜鑄一衰息、請以二舊銅鉛一盡鑄、詔聽レ之、自レ是折二錢、遂行二於天下一。

【折上巾】238 セツジヤウキン 冠の一種。上部の一角を折つた冠。〔後漢書、梁冀傳〕亦改二易輿服之制一、作二平上軿車、埤幘狹冠、折上巾、擁身扇、狐尾單衣一。〔注〕蓋折二其巾之上角一也。

【折手本】239 ヲリデホン 習字などの折本仕立の手本。

【折從阮】240 セツジユウゲン 後周、雲中の人。字は可久。唐の莊宗、五代晉の出帝、漢の高祖に仕ふ。後、周の太祖に仕へ、宣義保義靜難三鎭に徙る。〔舊五代史、一百二十五〕・〔五代史、五十〕。

【折帶皴】241 セツタイシユン 南畫の畫石の皴法。石理の裂痕を側筆で描くもので、元の倪雲林が其の師關仝の皴法の短を捨てて創始したもの。

【折德扆】242 セツトクイ 宋の人。從阮の子。雲中の大族。父子倶に節度を領し、五代後周、顯德中、師を率ゐて下河市鎭を攻む。宋初、沙谷砦及び太原軍を擊敗した。〔宋史、二百五十三〕・〔宋史新編、六十七〕・〔東都事略、二十八〕・〔隆平集、十七〕。

【折帛錢】243 セツパクセン 宋代、稅金の一。紬絹に課したもの。〔宋史、高宗紀上〕丙戌、減二江浙諸州折帛錢一。

【折楊柳】244 セツヤウリウ 樂府の名。❶漢、横吹曲の一。梁の元帝・柳惲・劉邈、陳の後主・徐陵・江總等に歌辭がある。故鄉を出る時、柳枝を折つて別情を歌つたもの。梁の鼓角横吹曲折楊柳、晉の太康末、京洛に行はれた折楊柳之歌、古樂府の小折楊柳、相和大曲の折楊柳行、淸商四曲の月節折楊柳歌十三曲はこれと別である。〔樂府詩集、横吹曲辭、漢横吹曲、折楊柳〕唐書樂志曰、梁樂府有二胡吹歌一云、上レ馬不レ捉レ鞭、反拗二楊柳枝一、下レ馬吹二横笛一、愁殺行客兒、此歌辭元出二北國一、卽鼓角横吹曲折楊柳是也、宋書五行志曰、晉

太康末、京洛爲㆓折楊柳之歌㆒、其曲有㆓兵革苦辛之辭㆒、按、古樂府又有㆓小折楊柳㆒、相和大曲有㆓折楊柳行㆒、淸商四曲有㆓月節折楊柳歌十三曲㆒、與㆑此不㆑同。〔梁元帝、折楊柳〕山高巫峽長、垂柳復垂楊、同㆑心且同折、故人懷㆓故鄕㆒、山似㆓蓮花豔㆒、流如㆓明月光㆒、寒夜猿聲徹、遊子淚霑㆑裳。〔江總、折楊柳〕萬里音塵絕、千條楊柳結、不㆑悟倡園花、遙同㆓羌嶺雪㆒、春心自浩蕩、春樹聊攀折、共此依依情、無㆑奈㆓年年別㆒。㊁横吹曲辭、梁鼓角横吹曲の一。㊀を見よ。〔樂府詩集、横吹曲辭、梁鼓角横吹曲序〕古今樂錄曰、梁鼓角横吹曲有㆓企喩琅琊王鉅鹿公主紫騮馬黃淡思地驅樂雀勞利慕容垂隴頭流水等歌三十六曲㆒云云、又有㆓隔谷地驅樂紫騮馬折楊柳幽州馬客吟慕客家自魯企由谷隴頭魏高陽王樂人等歌二十七曲㆒。〔古樂府、折楊柳歌〕上㆑馬不㆑捉㆑鞭、反折㆓楊柳枝㆒、蹀㆑座吹㆓長笛㆒、愁殺行客兒。㊂晉の太康の末、京洛で歌はれたもの。始めに兵革苦辛、終に禽獲斬截の詞がある。〔宋書、五行志二〕太康末、京洛始爲㆓折楊柳之歌㆒、其曲始有㆓兵革苦辛之詞㆒、終以㆓禽獲斬截之事㆒、是時三楊貴盛而族滅、太后廢黜而幽死。㊃相和歌辭、瑟調曲の一。魏の文帝、晉の陸機、宋の謝靈運に歌辭がある。〔樂府詩集、相和歌辭、瑟調曲、折楊柳行〕古今樂錄曰、王僧虔技錄云、折楊柳行歌、文帝西山古默默二篇今不㆑歌。〔古樂府、折楊柳行〕默默施行違、厥罰隨㆑事來、末喜殺㆓龍逢㆒、桀放㆓於鳴條㆒、祖伊言不㆑用、紂頭懸㆓白旄㆒、指㆑鹿用爲㆑馬、胡亥以喪㆑軀、夫差臨㆓命絕㆒、乃云負㆓子胥㆒、戎王納㆓女樂㆒、以亡㆓其由余㆒、璧馬禍及㆑虢、二國俱爲㆑墟、三夫成㆓市虎㆒、慈母投㆑杼趣、卞和之刖㆑足、接輿歸㆓草廬㆒。

【折烏帽子】245 ヲリエボシ　頂を折つたゑぼし。〔東鑑、二十一〕建曆三年五月二日、改㆓折烏帽子於立烏帽子㆒、裝束水干、參㆓幕府㆒給。〔和漢三才圖會、二十九、冠帽類、折烏帽子〕相傳曰、侍從以上左折、其紐以㆑絲、四位以下右折而用㆓紙撚紐㆒。

【折梔子巖】246 セツキシガン　巖の名。四川省忠縣の東。〔蜀輶日記〕折梔子巖、腳如㆓敗甕㆒、舟行避㆑之、反漩入不㆑得㆑脫而尾折、歲壞㆑船無數。

【折楊皇荂】247 セツヤウクワウクワ　古の歌曲の名。〔莊子、天地〕大聲不㆑入㆓於里耳㆒、折楊皇荂、則嗑然而笑。〔釋文〕大聲、司馬云、謂㆓咸池六英之樂㆒也、折楊皇荂、皆古歌曲也。〔疏〕折楊皇華、蓋古之俗中小曲也。

【抙】11891 キヨウ ク　〔集韻〕古勇切 [腫]

ささげる。廾(**4**－**9583**)に同じ。〔集韻〕廾、抙、說文、竦㆑手也、揚雄說、廾从㆓兩手㆒。

【抙】11892 ホウ　捊(**5**－**12139**)に同じ。〔篇海〕抙、與㆑捊同。

【拏】11893 ヨ　舁(**9**－**30188**)に同じ。〔集韻〕舁、或作㆑拏。

【抵】11894 テイ　抵(**5**－**11921**)に同じ。〔海篇〕抵、同㆑抵。

【扫】11895 キ ギ　〔字彙補〕其記切 [寘]

いむ。〔字彙補〕扫、諱也。

【抓】11896 ハク　撲(**5**－**12861**)の俗字。〔篇海〕抓、俗撲字。

【抚】11897 ブ　撫(**5**－**12743**)の俗字。〔篇海〕抚、俗撫字。

[參考] 抚(**5**－**11878**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕抚、同㆑概。抚、同㆑撫。

【扼】11898 ド　義未詳。〔川篇〕扼、奴古切、音妒。

【抃】11899 エイ　義未詳。〔篇海〕抃、音曳。

【抲】11900 イウ　義未詳。〔海篇〕抲、音酉。

【抛】11901 ハウ　拋(**5**－**11948**)の俗字。〔中華大字典〕抛、拋俗字。

【拔】11901′ バツ　拔(**5**－**11959**)の略字。

【拗】11902 アウ　拋(**5**－**11948**)の俗字。〔中華大字典〕拗、拋俗字。

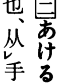
【択】11902′ タク　擇(**5**－**12796**)の略字。

五畫

【柄】11903 ヘイ ヒヤウ　〔集韻〕補永切 [梗]

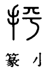
もつ。或は柄(**6**－**14603**)・棅(**6**－**14915**)に作り、通じて秉(**8**－**24932**)に作る。〔集韻〕柄、持也、或作㆓柄・棅㆒、通作㆑秉。

【択】11904
[一] シ　〔集韻〕掌氏切 [紙]
[二] キ　〔集韻〕遺爾切 [紙]
[三] サイ セ　〔集韻〕仄蟹切 [蟹]


小篆

[一][二]**あける。**ひらく。〔說文〕抧、開也、从㆑手只聲、讀若㆓抵㆑掌之抵㆒。[三]**うつ。**たたく。〔集韻〕抧、擊也。

【抨】11905
[一] ハウ ヒヤウ　〔集韻〕披耕切　ㄆㄥ p'êng¹ [庚]
[二] ヘイ ビヤウ　〔集韻〕蒲兵切 [庚]


小篆

[一][二]㊀**はじく。**しりぞける。〔說文〕抨、彈也、从㆑手平聲。〔段注〕玄應曰、抨、彈㆓繩墨㆒也、按、孟康漢書注曰、引㆑繩以抨彈。〔唐書、陽嶠傳〕其意不㆑樂㆓彈㆓抨事㆒。〔李賀、猛虎吟〕強弩莫㆑抨。㊁**したがふ。**弁(**4**－**9175**)に通ず。〔說文通訓定聲〕抨、叚借爲㆑弁。〔爾雅、釋詁〕抨、從也。㊂**しむ。せしむ。**させる。使役の助辭。㩻(**4**－**10271**)に通ず。〔爾雅、釋詁〕抨、使也。〔說文通訓定聲〕抨、叚借爲㆑㩻。〔漢書、揚雄傳上〕抨㆓雄鴆以作㆑媒兮。〔注〕師古曰、抨、使也。〔張衡、思玄賦〕抨㆓巫咸以占㆑夢兮。〔注〕銑曰、抨、使也。㊃拼(**5**－**12012**)に同じ。〔一切經音義、十二〕拼、古文抨、同。㊄伻(**1**－**484**)に通ず。〔爾雅、釋詁、釋文〕抨、字又作㆑伻。

【抨劾】1 ハウガイ　罪をしらべあげる。抨彈。〔劉克莊、謝㆓李殿院㆒啓〕其抨劾也、霜威之凌厲、其吹噓也、春意之發生。

【抨擊】2 ハウゲキ　彈劾する。罪をならす。

【抨彈】3 ハウダン　罪をしらべあげる。抨劾に同じ。〔容齋四筆、唐御史遷轉定限〕唐世臺官、雖㆓職在㆓抨彈㆒、然進退從違、皆出㆓宰相㆒。

【抻】11906 ゼン　抻(**5**－**11849**)の俗字。〔正字通〕抻、俗抻字。

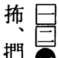
【挺】11907 シヨ　揟(**5**－**12362**)に同じ。〔集韻〕揟、或作㆑挺。

【抪】

11908

［一］フホ 〔集韻〕滂模切 虞

［二］フホ 〔集韻〕博故切 遇



小篆

［一］［二］㊀もつ。さぐりもつ。〔說文〕抪、捫持也、从レ手布聲。〔段注〕謂二捫按而持レ之也。〔集韻〕抪、持也。㊁しく。のべる。敷（5－13359）に通ず。〔說文通訓定聲〕抪、叚借爲レ敷。〔廣雅、釋詁三〕抪、布也。〔一切經音義、十六〕抪、敷也、謂三敷二舒之一也。㊂ちる。ひろがる。溥（7－17957）に通ず。〔說文通訓定聲〕抪、叚借爲レ溥。〔漢書、中山靖王勝傳〕塵埃抪覆。〔注〕師古曰、抪、亦布散也。㊃うつ。搏（5－12466）に通ず。〔說文通訓定聲〕抪、叚借爲レ搏。〔廣雅、釋詁三〕抪、搏也。

【抪種】1 pu^4 chung^3 種を蒔く。

【抪擺】2 pu^4 pai^3 置きならべる。布き竝べる。

【抪覆】3 フホ 布散しておほふこと。〔漢書、中山靖王勝傳〕塵埃抪覆、昧不レ見二泰山一。〔注〕師古曰、抪、亦布散也。

【抪偏】4 フヘン あまねくしく。〔漢書、王莽傳中〕詩國十五、抪二偏九州一。

【披】

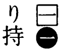
11909

［一］ヒ 〔集韻〕攀糜切 ㄆㄧ pʻi^1 支

［二］ヒ 〔集韻〕普靡切 ㄆㄟ pʻei^1 紙

［三］ヒ 〔集韻〕彼義切 寘

［四］ハヘ 〔正韻〕普駕切 禡



小篆

［一］㊀そへもつ。かたはらから執り持つこと。〔說文〕披、從レ旁持曰レ披、从レ手皮聲。㊁わける。さく。〔集韻〕披、一曰、分也。〔左氏、成、十八〕披二其地一。〔注〕披、猶レ分也。〔左氏、昭、五〕又披二其邑一。〔注〕披、析也。㊂ひらく。〔集韻〕披、一曰、開也。〔嵇康、琴賦〕披二重壤一以誕載兮。〔注〕善曰、披、開也。㊃ひもとく。〔韓愈、進學解〕手不レ停レ披二於百家之編一。㊄あばく。〔漢書、薛宣傳〕披二抉其閨門一而殺レ之。〔注〕師古曰、披、發也。㊅はる。〔廣雅、釋詁一〕披、張也。㊆とく。〔淮南子、齊俗訓〕披二斷撥檖一。〔注〕披、解也。㊇きる。つける。かうむる。著衣する。被（10－34222）に通ず。〔正字通〕被、通作レ披。〔唐書、朱桃椎傳〕披レ裘曳レ索。〔白居易、故衫詩〕闇淡緋衫稱二老身一、半披半曳出二朱門一。㊈なびく。ふす。〔韓愈、峋嶁碑詩〕科斗拳身薤倒披。［二］㊀さく。さける。〔集韻〕披、裂也。〔史記、范雎傳〕木實繁者、披二其木一。〔史記、灌夫傳〕枝大二於木一、脛大二於股一、不レ折必披。㊁［一］の㊇に同じ。［三］㊀ひつぎなは。棺の傾くのをふせぐため左右から引き持つ紐。〔釋名、釋喪制〕兩旁引レ之曰レ披、披、擺也、各於二一旁一引二擺之一、備二傾倚一也。〔周禮、夏官、司士〕執レ披。〔注〕鄭司農云、披者、扶二持棺險一者也、天子旁十二、諸侯旁八、大夫六、士四。〔禮、檀弓上〕設レ披、周也。〔注〕披、柩行夾二引棺一者。㊁ちる。〔方言、六〕披、散也。〔集韻〕披、散也。㊂姓。〔通志、氏族略〕漢有二牂牱太守披條一。［四］ひらく。〔正韻〕披、開也。

［名乘］ヒラ。

【披衣】1 ヒイ ㊀衣を着ること。被衣（10－34222‥この㊀に同じ。〔韋應物、寄二馮著一詩〕披衣出二茅屋一、盥漱臨二清渠一。㊁堯の時の隱士。被衣。〔淮南子、俶眞訓〕故許由・方回・善卷・披衣、得レ達二其道一。〔注〕方回・善卷・披衣、皆堯時隱士。

【披帷】2 ヒヰ とばりをひらく。〔史記、項羽紀〕樊噲遂入、披レ帷西嚮立、瞋レ目視二項王一。

【披雲】3 ヒウン ㊀雲をひらく。障害を除き去る意。〔中論、審大臣〕文王遇二姜太公於渭水邊一、云云、文王之識也、灼然若二披レ雲而見一レ日、霍然若二開レ霧而觀一レ天、斯豈假二之於衆人一哉。〔晉書、樂廣傳〕尙書令衞瓘、朝之耆舊、逮下與二魏正始中諸名士一談論上、見レ廣而奇レ之曰、云云、曰、此人之水鏡、見レ之瑩然、若下披二雲霧一而覩中青天上也。㊁清、陸宇熀（11－41708‥258）の字。

〖披雲子〗5 ヒウンシ 元、宋德方（3－7078‥384）の號。

〖披雲眞人〗6 ヒウンシンジン 元、宋德方（3－7078‥384）の號。

【披閱】7 ヒエツ ひらきしらべる。本や書類をひらいて善く目をとほす。披覽。〔舊唐書、段成式傳〕祕閣書籍、披閱皆遍。

【披開】8 ヒカイ ひらく。〔舒元輿、牡丹賦〕淑色披開、照曜酷烈。

【披香】9 ヒカウ 漢の宮殿の名。長安に在る。〔班固、西都賦〕披香・發越、蕙林・蕙草。〔注〕善曰、漢宮闕名曰、長安有二合歡殿・披香殿・鴛鸞殿・飛翔殿一、餘亦皆殿名。〔張衡、西京賦〕蘭林・披香、鳳皇・鴛鸞。〔注〕善曰、長安有二合歡殿・披香殿・鴛鸞殿一。〔庾信、春賦〕宜春苑中春已歸、披香殿裏作二春衣一。〔沈約、昭君辭〕朝發二披香殿一、夕濟二汾河陰一。

【披講】10 ヒカウ 詩歌の會等で其の作つた詩歌のかきものを開いて讀みあげるをいふ。又、其の人。

【披覈】11 ヒカク ひらきしらべる。〔國朝漢學師承記、朱筍河〕凡館書稿本、披覈辨析、苦二往復之煩一。

【披褐】12 ヒカツ 賤者の衣服を着ること。被褐（10－34222‥8）に同じ。〔孔子家語、三恕〕披レ褐而懷レ玉。〔顏氏家訓、勉學〕披レ褐而喪レ珠。

【披甲】13 ヒカフ 鎧を着る。又、其の者。被甲（10－34222‥10）に同じ。〔北史、張定和傳〕定和不レ披レ甲、挺レ身登レ山、中二流矢一而斃。〔汪元量、杭州雜二和林石田一詩〕壯士披二金甲一、佳人弄二玉簫一。

【披肝】14 ヒカン 肝臟を開く。心をうちあける。〔魏志、杜恕傳〕感二知己一而披二肝膽一、徇二聲名一而立レ節。〔司馬光、體要疏〕雖二訪問所レ不レ及、猶將三披レ肝瀝レ膽、以效二其區區之忠一。

【披緘】15 ヒカン 封緘を開いてみること。〔蕭穎士、重答二李清河一書〕亦既披緘、慰慘交集。

【披究】16 ヒキウ 推しきはめること。〔魏書、禮志一〕臣等承レ旨披二究往說一、各有二其理一。

【披裘】17 ヒキウ かは衣を着ること。被裘（10－34222‥11）に同じ。〔新序、雜事五〕披レ裘帶レ索。〔論衡、書虛〕有二披レ裘而薪一者。

〖披裘公〗18 ヒキウコウ 古の隱士の名。〔高士傳、上〕披裘公者吳人也、延陵季子出游、見三道中有二遺金一、顧而覩レ公曰、取二彼金一。公投レ鎌瞋レ目拂レ手而言曰、何子處レ之高而視レ人之卑、暑月披レ裘而負レ薪、豈取レ金者哉。

【披郤】19 ヒキャク ひらきしりぞく。〔南史、柳世隆傳〕衆皆披郤。

【披錦】20 ヒキン にしきをひらく。にしきを着る。美しいことの形容。〔世說新語、文學〕孫興公云、潘文爛若レ披レ錦、無二處不一レ善。

【披襟】21 ヒキン 披衿。㊀衣のえりをひらく。〔宋玉、風賦〕楚襄王游二於蘭臺之宮一、宋玉・景差侍、有二風颯然而至一、王乃披レ襟而當レ之曰、快哉此風、寡人所下與二庶人一共上者邪。㊁心をうちあける。披懷。〔王僧孺、臨海伏府君集序〕與レ君道合神遇、投レ分披レ衿。

【披掛】22 ヒクワイ 掛け著ける。つける。〔水滸傳、三回〕史進和二三箇頭領一全身披掛、鎗架上各人跨二了腰刀一。

【披褂】23 pʻi^1 kua^4 禮服を着る。

【披懷】24 ヒクワイ 胸を打明ける。腹藏なく言ふ。披襟。〔陸機、辯亡論下〕披レ懷虛レ己、以納二謨士之算一。

【披荒】25 ヒクワウ 荒地をひらく。荒地を開墾する。〔太平廣記〕披レ荒立レ舍、便聞二絃管之聲一。

【披卷】26 ヒクワン ヒケン 書物をひらき見る。〔宋書、孝武帝王皇后傳〕至二於夜一步レ月而弄レ琴、晝拱レ袂而披レ卷、一生之內與レ此長乖。〔唐太宗、帝京篇〕披レ卷覽二前蹤一、撫レ躬尋二既往一。

【披款】27 ヒクワン 心の誠をうちあける。〔晉書、姚興載記下〕故重蘭披レ款。

【披翫】28 ヒグワン ひらいて鑑賞する。〔南史、宗室及諸王上、宋長沙景王道憐傳〕使三善畫者、圖二其出

行鹵簿羽儀一、常自披翫。

【披經】29 ヒケイ 經書をひらき見る。〔顧雲、上二庾員外一啓〕披レ經閲レ史、無レ怠二于光陰一。

【披抉】30 ヒケツ ❶ひらきゑぐる。かきわける。〔蘇軾、復次二放魚前韻一答二趙承議陳教授一詩〕披二抉泥沙一收二細碎一。❷隠れてゐることをあばき出す。人の祕密を發く。〔漢書、薛宣傳〕披二抉其閨門一而殺レ之。〔注〕師古曰、披、發也、抉、挑也。

【披決】31 ヒケツ ひらきさくこと。〔急就篇、三、鈒戟鈹鎔釰鐔鋏、注〕鈹、大刀也、刃端可二以披決一、因取レ名云。

【披見】32 ヒケン 文書などをひらき見る。〔平家物語、四、南都牒狀〕南都の大衆、此の狀を披見して。

【披肩】33 ヒケン ❶肩を蔽ふ。衣服を着ること。〔杜荀鶴、空閑二公遞以二禪律一相鄙因而解レ之詩〕念珠在レ手隳二禪衲一、禪衲披レ肩懷二念珠一。❷清代、大禮服の肩掛。〔清稗類鈔〕披肩爲下文武大小品官衣二大禮服一時所上レ用、加二於項一覆二於肩一、形如レ菱、上繡レ蟒、八旗命婦亦有レ之。

【披軒】34 ヒケン 金、鄺權（**11－39753**・・8）の號。

【披檢】35 ヒケン 書物などをひらいてしらべる。〔北史、文苑、李文博傳〕披二檢書史一。

【披紅】36 ヒコウ 婦人のうちかけ。披帛(75)に同じ。〔天香樓偶得〕古今注云、女人披帛、古無二其制一、開元中詔令三世婦及寶林御女等尋常要二參侍一、令レ披レ帛、至レ今然矣、按、世俗婚娶不レ論二男婦一、皆披二絳帛一。

【披沙】37 ヒサ ❶沙をよりわける。〔唐書、南蠻上、南詔傳〕長川諸山、往往有レ金、或披レ沙得レ之。〔李嶠、金詩〕向日披レ沙淨、含風振レ鐸鳴。〔方干、路入二金州江中一作詩〕知是從來貢金處、江邊牧豎亦披レ沙。〔蘇轍、試院唱酬十一首、戲呈二試官一詩〕翦レ燭看レ書良寂寞、披レ沙見レ玉忽喧譁。❷唐、李咸用（**6－14459**・・968）の號。

【披蓑】38 ヒサ 蓑をきる。みのをまとふ。被蓑（**10－34222**・・27）に同じ。〔山海經、西山經〕三危之山有レ獸焉、其狀如レ牛、白身四角、其毫如レ披レ蓑、其名曰二獓狃一。〔崔道融、田上詩〕雨足高田白、披蓑半夜耕。〔范成大、有レ懷二石湖舊隱一詩〕冷雲著レ地塘蒲晚、誰爲披蓑煖釣磯。

〖披蓑衣〗39 $p'i^1$ suo^1 i^1 女を娼妓に賣つて、その金で生活を營むもの。

【披掃】40 ヒサウ ひらきはらふ。〔後漢書、皇甫規傳〕梁太后臨レ朝、規擧二賢良方正一、對策曰、其常侍尤無狀者、亟便黜遣、披二掃凶黨一、收二入財賄一、以塞二痛怨一、以答二天誡一。

【披藻】41 ヒサウ 文章を書く。又、書かれた文章。〔福惠全書、稟啓附、候二許刑館一〕宮錦爲レ心、披藻昭回二雲漢色一。

【披散】42 ヒサン かきみだれる。わかれ散る。〔宋書、宗慤傳〕慤年十四、挺レ身拒レ賊、賊十餘人皆披散、不レ得レ入レ室。

【披煔】43 ヒサン 杉の異名。〔南方草木狀〕杉、一名、披煔、合浦東二百里有二杉一樹一、漢安帝、永初元年、落レ葉、隨レ風飄入二洛陽城一、其葉大二常杉一數十倍、術士廉盛曰、合浦東杉葉也、此休徵、當レ出二王者一、帝遣二使驗一レ之、信然。

【披緇】45 ヒシ 墨染の衣を着て僧となること。緇は黑色の帛。被緇（**10－34222**・・32）に同じ。〔高啓、答二衍師見一レ贈詩〕披レ緇別二家人一。

【披猖】46 ヒシヤウ 狓猖。❶さけやぶれるさま。〔北齊書、王晞傳〕萬一披猖、求レ退無レ地。❷くるひ躁ぐさま。〔韓愈、此日足レ可レ惜一首贈二張籍一詩〕紛紛百家起、詭怪相披猖。

【披情】47 ヒジヤウ 心をひらく。披懷。〔謝靈運、山居賦〕陵二名山一而屢憩、過二巖室一而披レ情。

【披攘】48 ヒジヤウ ひらきはらふ。草莽を開き國土を平げる。〔魏志、陳思王植傳〕朱旗所レ拂、九土披攘。〔曹植、漢高帝贊〕朱旗既抗、九野披攘。

【披書】49 ヒシヨ 書物をひらき見る。〔徐陵、廣州刺史歐陽頠德政碑〕得二性于橘洲之間一、披二書于杏壇之上一。〔王泠然、夜光篇〕未レ得二貴遊同秉一レ燭、惟將二半影一借披レ書。

【披心】50 ヒシン ❶まごころをひらく。誠を推す。〔晉書、慕容垂載記〕啗レ血斷レ金、披レ心相付。❷心を充分に用ひる。〔錢起、瑪瑙杯歌〕瑤溪碧岸生二奇寶一、剖質披心出二文藻一。

【披針】51 ヒシン ひらはり。長さ二寸、幅二三分許の、もろはの扁平な針。外科治療に用ひる。刃針。披鍼。〔外科正宗〕披針、古多用二馬啣鐵一爲レ之、此性軟不二鋒利一、用レ之多難レ入レ肉、今以二鋼鐵一選下善二火候一工上造レ之、長二寸、闊二分半、圓梗扁身、劍背鋒尖、兩邊芒利、用レ之藏レ之、不レ覺レ入レ肉、深淺自不レ難也。

【披榛】52 ヒシン 茂つてゐる草木をきりひらく。〔陸機、漢高祖功臣頌〕脫レ跡違レ難、披レ榛來洎。〔注〕銑曰、榛、草木叢生也。

【披泄】53 ヒセツ ひらきもらす。鬱憤をはらす。〔資治通鑑、唐紀〕（僖宗、光啓三年）得三以具陳用二之姦惡一、披二泄積憤一。〔注〕披、開也、分也、決レ壅爲レ泄。

【披涉】54 ヒセフ 書をひもどきみる。〔抱朴子、金丹〕余考二覽養性之書一、鳩二集久視之方一、曾所二披涉一、篇卷以レ千計矣。

【披宣】55 ヒセン ひらいて讀む。〔琵琶記、丹陛陳レ情〕有二何文表一、在レ此披宣。

【披素】56 ヒソ ❶白いものをひらく。〔陸機、瓜賦〕或攄レ文而抱レ綠、或披レ素而懷レ丹。❷心をひらく。〔徐陵、荅二李顒之一書〕披レ素淸レ顏、但覺二形穢一。

【披對】57 ヒタイ 襟をひらいて相對する。〔駱賓王、靈隱寺詩〕夙齡尙二遐異一、披對滌二煩囂一。

【披戴】58 ヒタイ 氅衣を着て星冠を戴く。道士となることをいふ。〔書言故事、道教類〕初爲二道士一、披二氅衣一、戴二星冠一、曰二披戴一。

【披磔】59 ヒタク ひらきさく。〔周禮、春官、大宗伯〕以二疈辜一祭二四方百物一。〔注〕故書、疈爲レ罷、云云、罷レ辜、披二磔牲一以祭、若二今時磔レ狗祭以止一レ風。

【披闥】60 ヒタツ 門扉をひらく。排闥。〔陸機、漢高祖功臣頌〕總二于鴻門一、披二闥帝宇一。

【披膽】61 ヒタン 心をひらく。又、まごころをうちあける。〔漢書、路溫舒傳〕披二肝膽一決二大計一。〔上官儀、請二朝覲一表〕披レ膽祈レ恩、特蒙二鑒許一。〔韋應物、送二李十四山人東遊一詩〕聖朝有二遺逸一、披レ膽謁二至尊一。

【披斷】62 ヒダン 解いてたちきる。〔淮南子、齊俗訓〕或爲二棺槨一、或爲二柱梁一、披斷撥檖。〔注〕披、解也。

【披帙】63 ヒチツ 書帙をひらいて見る。〔薛元起、上二皇太子一牋〕披レ帙横レ經、克勤無レ怠。

【披陳】64 ヒチン 事情を披瀝開陳する。〔唐律、鬭訟、邀車駕、疏議〕車駕行幸、在レ路邀レ駕申訴、及於二衛闕之下一、撾レ鼓以求二上聞一、及上表披二陳身事一、此三等如有レ不レ實者、各合二杖八十一。

【披圖】65 ヒト 圖をひらいて見る。〔梁宣帝、遊二七山寺一賦〕披レ圖悟二于禹心一。〔庾信、三月三日華林園馬射賦序〕舜以二甲子之朝一、披レ圖而巡レ洛。

【披亭】66 ヒテイ 清、易宏（**5－13814**・・54）の號。

【披剃】67 ヒテイ 僧衣を着し頭髮を剃り落す。初めて出家し僧となること。披緇剃髮。〔棠陰比事〕披剃幾年。

〖披剃冠簪〗68 ヒテイクワンシン 僧となり道士となること。〔六部成語、刑部、披剃冠簪、注解〕披二袈裟一剃レ髮以爲二和尚一、戴二高冠一以レ簪綰レ髮、作二爲道士一也。

【披覿】69 ヒテキ ひらき見る。〔隋書、文學、王貞傳〕未レ獲二披覿一、良深佇遲。

【披展】70 ヒテン ひらきのべる。拔き見ること。〔魏徵、爲二李密一檄二滎陽守郇王慶一文〕早挹二芳猷一、未レ諧二披展一、甚爲二翹佇一、興レ寢增レ勞。

【披頭】71 ヒトウ 冠をかぶらぬこと。〔剪燈新話、三山福地志〕或握二刀劍一、或執二椎鑿一、披レ頭露レ體、勢甚凶惡。

〖披頭散髮〗72 $p'i^1$ $t'ou^2$ san^2 fa^3 頭髮をかきみだす。亂髮になる。披散。

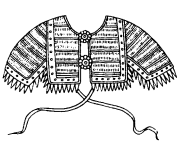
【披讀】73 ヒドク ひらいてよむ。本を讀む。繙讀。〔南史、張纘傳〕纘好レ學、兄緬有二書萬餘卷一、晝夜披讀、殆不レ輟レ手。〔北史、胡叟傳〕學不二師授一、披二讀羣籍一、再二閱於目一、皆誦焉。

【披衲】74 ヒナフ 僧衣を着る。〔南史、劉訏傳〕訏嘗著二穀皮巾一、披二衲衣一、每遊二山澤一、輒留連忘レ返。

【披帛】75 ヒハク 婦人のうちかけ。上着類。秦代より用ひられた。〔事林廣記〕三代無レ帔、秦時有二披帛一、以二縑帛一爲レ之、漢卽以レ羅、晉制絳暈帔子、霞帔名始二於晉一矣。〔天香樓偶得〕古今注云、女人披帛、古無二其制一、開元中、詔令三世婦及寶林御女等、尋常要二參侍一、令二披帛一、至レ今然矣、按、世俗婚娶不レ論二男婦一、皆披二絳帛一。

【披膊】76 ヒハク 甲の上部、肩膊を護るもの。皮で鐵葉を綴つて作る。〔桂海虞衡志、器志、甲冑〕蠻

甲惟大理國最工、甲冑皆用二象皮一、胷背各一大片、如二龜殼一堅厚、與レ鐵等、又聯二綴小皮片一爲二披膊、護項之屬一、製如二中國鐵甲葉一。



披膊（武備志）

【披髮】77 ヒハツ 頭髮をふりみだす。被髮(**10－34222**··61)に同じ。〔孔平仲、陰山七騎詩〕當時披髮祭二于野一。〔桃花扇、逃難〕寇白門・鄭妥娘、披髮走上。

【披繙】78 ヒハン 書物をひらいてよむ。〔吉田松陰、士規七則〕披二繙冊子一、嘉言如レ林、躍躍迫レ人、顧人不レ讀、卽讀不レ行。

【披披】79 ヒヒ ❶長いさま。被被。〔楚辭、九歌、大司命〕靈衣兮披披。〔注〕披披、長貌、一作レ被。〔楚辭、劉向、九歎、怨思〕服二雲衣之披披一。〔注〕披披、長貌也。〔潘岳、寡婦賦〕瞻二靈衣之披披一。〔注〕善曰、楚辭曰、靈衣兮披披。❷動くさま。〔潘岳、寡婦賦、注〕良曰、披披、動皃。❸髮の亂れたさま。〔楚辭、劉向、九歎、思古〕髮披披以鬤鬤兮。〔注〕披披鬤鬤、解亂貌也。

【披靡】80 ビヒ ❶草木が風に吹かれてなびくさま。〔司馬相如、上林賦〕應レ風披靡、吐レ芳揚レ烈。〔注〕向曰、披靡、謂二從レ風傾倒之貌一。❷ひらきなびく。なびきしたがふ。震ひ伏すさま。〔史記、項羽紀〕於レ是羽大呼馳下、漢軍皆披靡。〔後漢書、銚期傳〕衆皆披靡。〔魏志、張遼傳〕人馬皆披靡、無二敢當者一。

【披布】81 ヒフ ひらきしく。〔漢書、文三王、濟川王傳〕以二內亂之惡一、披二布宣三揚於天下一。

【披敷】82 ヒフ ちりしく。〔王延壽、魯靈光殿賦〕發レ秀吐レ榮、菡萏披敷。〔注〕銑曰、披、散、敷、布也。

【披風】83 p'ei¹ feng¹ ❶清代、婦人の禮服用の外套の名。❷幌のやうなもの。

【披服】84 ヒフク きものを着る。又、着物。被服。〔北史、李公緒傳〕露髻披服、略無二少長之禮一。

【披腹】85 ヒフク 心をひらく。誠を推す。〔史記、淮陰侯傳〕披二腹心一、輸二肝膽一。〔漢書、鄒陽傳〕披二心腹一見二情素一。

【披拂】86 ヒフツ ❶おしひらきはらふ。草木の葉が風に動きなびく。又、草などを排すること。霏拂。〔王褒、責二髯奴一文〕因レ風披拂、隨レ風飄飄。〔謝靈運、石壁精舍還二湖中一詩〕披拂趨二南徑一、愉悅偃二東扉一。〔韓愈、秋懷詩〕秋風一披拂。❷あふる。動かす。〔莊子、天運〕孰噓二吸是一、孰居二無事一而披二拂是一。〔疏〕披拂、猶二扇動一也。

【披簿】87 ヒボ ちやうぼをひらく。〔北史、李遷哲傳〕或忘二其年名一者、披レ簿以審レ之。

【披麻】88 ヒマ 繪畫の法。麻の葉が開いたやうに石のしわを畫くこと。又、其のしわ。〔龔半仙、畫訣〕皴法名色甚多、惟披麻・豆瓣・小斧劈爲二正經一、其餘卷雲・牛毛・鐵線・鬼面・解索、皆旁門外道耳、大斧劈是北派、戴文進・吳小僊・蔣三松多用レ之、吳人皆謂不レ入二賞鑒一、刺梨皴、卽豆瓣皴、范寬雨點皴、李將軍小斧劈皴、李唐大斧劈皴、巨然短筆麻筆皴、米元暉拖泥帶水皴、先以二水筆一皴、後卻用二墨筆一。〔徵古畫傳〕披麻皴、一名麻皮、其派出二于王右丞一、至二于董巨一爲二專門一、大痴仲圭皆畫レ之、則南宗第一義也。〔徵古畫傳〕小斧劈、此法祖二述李將軍一、王右丞用レ之間二披麻一、後關仝・李唐皆由レ之、又有二大斧劈一、馬・夏之所二由變一、遂爲二北畫一。〔芥子園畫傳〕學者必須三潛レ心畢レ智、先攻二某一家皴一、至二所レ學既成、心手相應一、然後可下以雜採旁收、自出二鑪治一、陶二鑄諸家一、自成中一家上、後則貴二於渾忘一、而先實貴三於不レ雜、約略計レ之、披麻皴・亂麻皴・芝麻皴・大斧皴・小斧皴・雲頭皴・雨點皴・彈渦皴・荷葉皴・礬頭皴・骷髏皴・鬼皮皴・解索皴・亂柴皴・牛毛皴・馬牙皴、更有下披麻而雜二雨點一、荷葉而攪二斧劈一者上、至下某皴創レ自二某人一、某人師中法於某上、余已具載二於山石兮圖之上一、茲不レ贅。

〔披麻皴〕89 ヒマシユン 披麻を見よ。

【披蔴】90 pi¹ ma² 喪服を着る。

【披霧】91 ヒム 霧を開く。障害を除き去る喩。〔南史、孔休源傳〕觀二天披レ霧、驗二之今日一。〔蕭綸、贈言賦〕似二臨レ潭而對レ鏡、若二披レ霧而覩レ天。

【披面】92 ヒメン 面をさく。〔列女傳、續列女傳、聶政姉傳〕因自披二其面一、抉二其目一、自屠剔而死。

【披緜】93 ヒメン 肥えて脂の多い黃雀。黃雀(**12－47926**··462)を見よ。〔蘇軾、送二牛尾狸一與二徐使君一詩〕通印子魚猶二帶骨一、披緜黃雀漫多レ脂。〔提要錄〕黃雀鮓、謂二之披緜鮓一、以二其肥一也。〔書言故事、禽獸比喩類〕黃雀曰二披綿一。

【披揚】94 ヒヤウ ひらきあがる。〔枚乘、七發〕澥汩潺湲、披揚流灑。

【披覽】95 ヒラン ひらいて見る。披見。〔北史、周明帝紀〕性好二典墳一、披二覽聖賢餘論一。

【披離】96 ヒリ ❶ばらばらになる。ちりぢりになる。四分五裂する。支離。〔宋玉、風賦〕至二其將レ衰也、被麗披離。〔注〕善曰、被麗披離、四散之皃也。〔漢書、揚雄傳上〕紛被麗其亡レ鄂。〔注〕師古曰、被麗、又音、披離。❷枝葉の散り亂れるさま。〔吳均、共二賦韻一詠二庭中桐一詩〕華暉實掩映、細葉能披離。

【披楞】97 p'i¹ lêng² 英國の別稱。ごるか人が英國を稱していふ。不列顚の異譯。〔魏源、聖武記〕。

【披瀝】98 ヒレキ ひらきそそぐ。心の中を少しも隱さずうちあける。〔上官儀、盧岐州請二致仕一表〕披二瀝丹愚一、諒非二矯飾一。

【披露】99 ヒロ ❶ひらきあらはす。さらけ出す。あばく。〔後漢書、蔡邕傳〕宜下披二露失得一、指中陳政要上。❷發覺する。〔柳宗元、零陵三亭記〕宿蠹藏奸、披二露首服一。❸心の中をうちあける。披瀝。〔後漢書、郎顗傳〕臣生二長草野一、不レ曉二禁忌一、披二露肝膽一、書不レ撰レ言。〔蜀志、法正傳〕披二露腹心一。❹ヒロウ 廣く人に知らせる。公に發表する。ひろめる。又、ひろめ。文書を取次いで見せること。轉じて、口傳へに人に告げること。〔明月記〕寬喜三年七月二十二日、雖レ疑、當時祕而不二披露一。

【披露會】100 ヒロウクワイ 結婚・出生などを披露するための會。

【披露狀】101 ヒロウジヤウ 貴人へ直ちに奉らず、其の家人へ狀を附けて主人へ披露を賴む書狀。〔和簡禮經、上、書留之詞上所充所脇付次第輕重〕書留此等之趣宜レ預二御披露一候、此外有二輕重一上所、恐惶謹言、充所、家司名、右披露狀也。

【披亞諾】102 p'i¹ ya³ nuo⁴ Piano の音譯。ピアノ。鋼琴。

【披草辮】103 p'i¹ ts'ao³ pien⁴ 平にした麥藁眞田。

【披邪西】104 ヒジヤセイ 紫寶石の名。披霞。碧霞璽。砒碬。〔博物要覽〕。

【披草平辮】105 p'i¹ ts'ao³ p'ing² pien⁴ 平にした麥藁眞田。

【披星帶月】106 p'i¹ hsing¹ tai⁴ yüeh⁴ 夜間道中する。

【抬】

11910

㊀チ 〔集韻〕超之切 支

㊁タイ ㄊㄞˊ t'ai²

㊀うつ。笞(**8－25921**)に同じ。〔集韻〕笞、說文、擊也、或从レ手。㊁**あげる**。かつぐ。になふ。擡(**5－12851**)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕擡、通俗小說作レ抬。

【抬櫃】1 タイキ ひつをかかへなほす。〔福惠全書、錢穀部、比較〕抬レ櫃收レ糧。

【抬去】2 タイキヨ かかへられてゆく。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贄說〕際明抬二去沂州界內一、無レ可二踪跡一。

【抬擧】3 t'ai² chü³ ひき立てる。推薦する。持ち上げる。

【抬寫】4 タイシヤ 抬頭して書く。擡寫。〔淸國行政法汎論、皇室、敬稱〕若臣民或僭二用之一、或不三肯抬二寫之一、均皆處罰。

【抬投】5 タイトウ かける。かかげる。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕次抬二投文牌一。

【抬頭】6 タイトウ ❶頭をもちあげる。❷文の行を特に換へる。

【抬領】7 タイリヤウ かかへだして懸ける。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕先抬二領文牌一。

【抗】

11911

㊀エウ 〔集韻〕以紹切 篠

㊁イウ ユ 〔集韻〕夷周切 尤

㊂ユ 〔集韻〕容朱切 虞

㊃タウ トウ 〔集韻〕他刀切 豪

［一］［二］［三］❶**臼から物をくみ出す**。舀(9-30183)に同じ。〔集韻〕舀、說文、抒㆑臼也、或作㆑⿰扌冗。〔周禮、地官、序官〕舂人、女舂⿰扌冗二人。❷或は⿰臼冗(9-30197)・揄(5-12320)に作る。〔集韻〕⿰扌冗、抒㆑臼、或作㆓舀・⿰臼冗・揄㆒。［四］**物をのばす器**。挑(5-12055)に同じ。〔集韻〕挑、抒㆑物之器、或作㆑⿰扌冗。

［參考］❶諸書、⿰扌冗を抌(5-11876)に譌る。〔康熙字典〕⿰扌冗、按㆓說文㆒篆形註語甚明、諸書惟廣韻之篠韻收㆑⿰扌冗、他俱譌作㆑抌、字彙沿㆑譌、正字通辨㆑之、又捨㆑⿰扌冗从㆑抌、均與㆓說文㆒不㆑合、今考正。❷⿰扌穴(5-11912)は別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似。⿰扌冗、同㆑舀。⿰扌穴、音穴。⿰扌穴、揘擊也。

【⿰扌穴】 11912

［一］ケツ ゲツ 〔集韻〕胡決切 屑
［二］イツ イチ 〔集韻〕越筆切 質
［三］ウツ ウチ 〔集韻〕王勿切 物

［一］**うつ**。〔集韻〕⿰扌穴、⿰扌穴揘、擊也。［二］**なげる**。［三］**なげうつ**。⿰扌胃(5-12333)に同じ。〔集韻〕⿰扌胃、擲也、或从㆑穴。

［參考］⿰扌冗(5-11911)は別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似。⿰扌冗、同㆑舀。⿰扌穴、音穴。⿰扌穴、揘擊也。

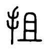
【抮】 11913

［一］シン 〔集韻〕止忍切 軫
［二］ケン 〔集韻〕呼典切 銑
［三］テン デン 〔集韻〕徒典切 銑
［四］デン ネン 〔集韻〕乃殄切 銑

［一］❶**もとる**。**もどす**。**ねぢれる**。〔集韻〕抮、了戾也。〔淮南子、原道訓〕扶搖抮抱、羊角而上。〔注〕抮抱、引戾也。〔淮南子、原道訓〕耳聽㆓滔朗奇麗激抮之音㆒。〔注〕抮、轉也。❷**つく**。固著する。〔淮南子、精神訓〕雖㆓天地覆育㆒、亦不㆓與㆑之抮抱㆒矣。〔注〕抮抱、猶㆓持著㆒也。［二］**そむく**。或は攝(5-12869)に作る。〔集韻〕抮、偝也、或作㆑攝。［三］［四］**そむく**。〔廣雅、釋詁二〕抮、偝也。

【担】 11914

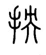
［一］サ シヤ 〔集韻〕莊加切 麻
［二］シヤ 〔集韻〕淺野切 馬
［三］シヤ ジヤ 〔集韻〕似也切 馬


小篆

［一］❶**とる**。くみとる。〔說文〕担、挹也、从㆑手且聲、讀若㆓樝棃之樝㆒。〔方言、十〕担、取也、南楚之間、凡取㆓物溝泥中㆒、謂㆓之担㆒。❷古は粗(4-9002)に作る。〔集韻〕担、古作㆑粗。❸摣(5-12601)・⿰虘又(2-3195)に通ず。〔正字通〕担、別作㆓摣・⿰虘又㆒、義通。［二］［三］**とる**。〔集韻〕担、取也。

【抰】 11915

［一］ヤウ アウ 〔集韻〕倚兩切 養
［二］アウ 〔集韻〕於郎切 陽


小篆

［一］❶**むながいでうつ**。〔說文〕抰、㠯㆓車鞅㆒擊也、从㆑手央聲。❷柍(6-14615)の譌字。〔左思、魏都賦〕暉鑒㆓抰振㆒。〔注〕翰曰、抰振、屋內也。〔揚雄、甘泉賦〕日月纔經㆓於柍桭㆒。〔注〕善曰、服虔曰、柍、中央也。［二］**うつ**。〔集韻〕抰、打也。

【抰振】1 アウシン 屋內をいふ。柍桭の譌。〔左思、魏都賦〕旅楹閒列、暉鑒㆓抰振㆒。〔注〕翰曰、抰振、屋內也。

【⿰扌瓜】 11916

［一］クワ ケ 〔集韻〕姑華切 麻
［二］ヱワ 〔集韻〕烏瓜切 麻

［一］❶**ひく**。〔集韻〕⿰扌瓜、引也。❷**うつ**。〔集韻〕⿰扌瓜、擊也。［二］**ひく**。［一］の❶に同じ。〔集韻〕⿰扌瓜、博雅、引也。

【抱】 11917

［一］ハウ ボウ 〔集韻〕薄晧切 晧
［二］ハウ ボウ 〔字彙〕薄報切 ㄅㄠˋ pao^{4} 號
［三］ハウ ベウ 〔集韻〕蒲交切 肴
［四］ホウ ブ 〔集韻〕蒲侯切 尤
［五］フウ ブ 〔集韻〕房尤切 尤
［六］ハウ ヘウ 〔集韻〕披交切 肴
［七］ギヨク 〔淮南子注〕抱讀岐嶷之嶷。

［一］［二］❶**いだく**。褱(10-34172)に同じ。〔集韻〕褱、說文、褢也、或作㆑抱。㋑だく。やすんずる。かかへる。ふところにする。〔釋名、釋姿容〕抱、保也、相親保也。〔後漢書、班超傳〕互抱㆓馬脚㆒不㆑得㆑行。〔南史、袁昂傳〕乳媼攜抱、匿㆓於廬山㆒。㋺つつむ。かこむ。〔獨孤及、題㆓思禪寺上方㆒詩〕鬱律衆山抱、空濛花雨零。㋩とる。もつ。〔廣韻〕抱、持也。〔戰國、秦策〕是抱㆓空質㆒也。〔注〕抱、持也。㋥さしはさむ。〔增韻〕抱、挾也。㋭まもる。〔禮、儒行〕抱㆑義而處。〔老子、二十二〕是以聖人、抱㆑一爲㆓天下式㆒。〔河上公注〕抱㆓守法式㆒也。㋬ささげる。奉戴する。〔呂覽、下賢〕周公抱㆓少主㆒而成㆑之。〔注〕抱、奉也。㋣雲氣が太陽を環狀にとりかこむ。〔漢書、天文志〕抱珥虹蜺。〔注〕如淳曰、在㆑旁如㆓半環㆒、向㆑日爲㆑抱。❷**ふところ**。〔後漢書、陳忠傳〕父母與㆑子、同氣異息、一體而分、三年乃免㆓于懷抱㆒。❸**こころ**。おもひ。胸懷。意中。〔宋書、范曄傳〕區區丹抱、不㆑負㆓夙心㆒。〔梁武帝、與㆓何胤㆒勅〕申㆓其宿抱㆒耳。〔張友正、歙州披雲亭記〕廓㆓虛懷㆒而攄㆓曠抱㆒矣。❹**雞が卵をかへす**。孚(3-6948)に通ず。〔說文通訓定聲〕抱、叚借爲㆑孚。〔方言、八〕北燕朝鮮洌水之閒、謂㆓伏雞㆒曰㆑抱。〔錢繹箋疏〕抱、廣韻作㆑菢云、雞伏㆑卵、伏雞猶㆑言㆓抱雞㆒、抱伏、語之轉也。❺**ならぶ**。〔方言、二〕抱、耦也。❻**姓**。〔萬姓統譜〕抱、漢末時、杞康避㆓董卓難㆒、改㆓姓抱㆒。❼［現］生む。［三］**くみとる**。掊(5-12244)に同じ。〔集韻〕掊、引取也、或从㆑包。［四］［五］**かきあつめる**。捊(5-12139)に同じ。〔集韻〕捊、說文、引取也、或从㆑包。［六］**すてる**。拋(5-11901)に同じ。〔集韻〕拋、棄也、或作㆑抱。〔史記、三代世表〕姜嫄生㆓后稷㆒云云、抱㆓之山中㆒。［七］**もとる**。もどす。めぐらす。〔淮南子、本經訓〕菱杼紾抱。〔注〕抱、轉也。〔淮南子、原道訓〕扶搖抮抱、羊角而上。〔注〕抮抱、引戾也。［邦］❶**かかへる**。家來にする。やとひ入れる。❷**かかへ**。家來、やとひ。

［名乘］モチ。

【抱痾】1 アハウ 病にかかる。〔朱熹、游㆓石馬㆒分㆑韻得㆓出字㆒詩〕抱㆑痾守㆓窮廬㆒、閉㆑戶常罕㆑出。

【抱一】2 ハウイツ ❶一をいだき守る。道をたもち守る。〔老子、十〕載㆓營魄㆒抱㆑一、能無㆑離乎。〔老子、二十二〕聖人抱㆑一爲㆓天下式㆒。〔河上公注〕抱㆓守法式㆒也。〔莊子、庚桑楚〕老子曰、衞生之經、能抱㆑一乎。〔疏〕守㆑眞不㆑二也。❷字號。㋑宋、張永

德(**4－9812**‥809)の字。㋺清、張培(**4－9812**‥597)の字。　「號。

【抱一翁】3 ハウイツヲウ 元、項昕(**12－43343**‥10)の號。

【抱一子】4 ハウイツシ 字號。㊀宋、延壽(**4－9569**‥107)の號。㊁宋、陳顯微(**11－41698**‥821)の號。

【抱一廬】5 ハウイツロ 明、王問(**7－20823**‥1017)の室名。

【抱景】6 ハウエイ 自己の影をいだき居る。獨りぼっち。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕廓抱レ景而獨倚兮、超永思二乎故鄕一。〔注〕獨抱二形景一而立。〔王微、雜詩〕箕箒留二江介一、良人處二雁門一、朱火獨照レ人、抱レ景自愁怨。

【抱腰】7 ハウエウ ㊀腰をいだく。人の行かんとするを止める。〔十六國春秋、後燕錄〕慕容寶將二十餘騎一奔遝、西王農將二出迎一、左右抱二其腰一、止レ之曰、宜二小澄淸一、不レ可二便出一。〔徐陵、長相思詩〕念君今不レ見、誰爲抱レ腰看。㊁pao⁴ yao¹ 產婦の腰をいだいてお產をたすけること。〔水滸傳、二十四回〕王婆笑道、老身爲頭是做媒、又會做牙婆、也會抱腰。

【抱怨】8 ハウエン 怨む。怨を持つ。〔晉書、劉毅傳〕諸受レ枉者、抱レ怨積レ直、獨不レ蒙二天地無私之德一。〔駱賓王、疇昔篇〕鄒衍銜レ悲衝二燕獄一、李斯抱レ怨拘二秦格一。〔范仲淹、再奏辨二滕宗諒二張亢一疏〕當須下察二此物情一、知中其難苦上、豈可レ使二獄吏爲レ功而勞臣抱レ怨。

【抱翁】9 ハウヲウ 清、張式(**4－9812**‥433)の字。

【抱甕】10 ハウヲウ かめをいだきもつ。拙陋に安んずる喩。〔莊子、天地〕子貢南遊二於楚一、反二於晉一、過二漢陰一、見二一丈人、方將レ爲二圃畦一、鑿レ隧而入レ井、抱レ甕而出灌、搰搰然用レ力甚多、而見レ功寡。

【抱甕客】11 ハウヲウカク 清、惲壽平(**4－10857**‥12)の號。　「名。

【抱甕軒】12 ハウヲウケン 明、焦竑(**7－19119**‥26)の室

【抱甕堂】13 ハウヲウダウ 宋、劉延世(**2－2224**‥713)の室名。　「217)の號。

【抱甕丈人】14 ハウヲウヂヤウジン 清、顧有孝(**12－43689**‥

【抱廈】15 ハウカ 母家の前に取卷くやうな風に建てられた建物。〔紅樓夢、六十七回〕只見抱廈裡外迴廊上許多了環老婆站著。〔淸會典事例、工部、營房、各省營房〕光緖二年、盛京興京新設二馬步隊營房二所一、大門各三間、大廳各三間、抱廈各一座、火藥軍器庫各三間、住房各八所、各四十八間、圍牆長一百十六丈四尺。

【抱廈廳】16 pao⁴ sha⁴ tʻing¹ つぎたし室。かけだし室。〔紅樓夢、三回〕南邊是倒座、三間小小的抱廈廳、北邊立著一個粉油大影壁。

【抱牙】17 ハウガ 草の名。狼牙の異名。〔本草、狼牙〕釋名、牙子、狼齒、狼子、犬牙、抱牙、支蘭。弘景曰、其牙似二獸之齒牙一、故有二諸名一。

【抱慤】18 ハウカク まことの心をいだく。〔張衡、東京賦〕民去來而反レ本、咸懷レ忠而抱レ慤。〔注〕良曰、慤、實也。

【抱合】19 ハウガフ ㊀だきあふ。抱圍。㊁異種類の物が物質上の變化なくして結合するをいふ。

【抱合語】19′ ハウガフゴ 合抱語ともいふ。句中の動詞と目的格の名詞と互に合抱してゐる。メキシコ語の類。incorporating language の譯語。

【抱憾】20 pao⁴ han⁴ 遺憾に思ふ。相すまない。

【抱愧】21 ハウキ はづかしく思ふ。〔唐書、房玄齡傳〕今天下事無レ不レ得、惟討二高麗一未レ止、上含レ怒意決、羣臣莫二敢諫一、吾而不レ言、抱レ愧沒レ地矣。

【抱義】22 ハウギ 正義の志をいだく。〔禮、儒行〕戴レ仁而行、抱レ義而處。

【抱玉】23 ハウギヨク ㊀玉をかかへもつ。〔新論、崇學〕山抱レ玉而草木潤焉、川貯レ珠而岸不レ枯焉。㊁心に智德をいだきもつてゐる喩。〔後漢書、文苑下、酈炎傳〕抱レ玉乘二龍驥一、不レ逢二樂與一レ和。

【抱嶷】24 ハウギヨク 後魏、安定石唐の人。字は道德。直谷に居る。自ら其の先姓は杞といふ。幼にして罪を以て沒せられて宮に入りて刑を受け、遂に宮人となる。爵は安定公。抗直の士。官は殿中侍御尙書。〔魏書、九十四〕・〔北史、九十二〕。

【抱衾】25 ハウキン ㊀夜中、君に侍御するために衾を抱く。〔詩、召南、小星、抱二衾與一レ裯、疏〕諸侯取二九女一云云、夫人御後之夜、則次御者抱レ衾而往。㊁閨門の閒。〔長生殿、獻髮〕生性嬌癡、多二習慣一、未レ免三嫌疑生二抱衾一。

【抱琴】26 ハウキン 琴を抱きもつ。〔李白、山中對酌詩〕我醉欲レ眠君且去、明朝有レ意抱レ琴來。〔韓愈、上巳日燕二太學一聽二彈琴一詩序〕有二一儒生一、魁然其形、抱レ琴而來、歷階以升。

【抱琴居士】27 ハウキンコジ 明、胡文煥(**9－29400**‥610)の號。

【抱釁】28 ハウキン 罪をいだく。〔曹植、上二責レ躬應レ詔詩一表〕臣自二抱レ釁歸一レ蕃、刻レ肌刻レ骨。〔注〕向曰、釁、罪也。

【抱屈】29 pao⁴ chʻü¹ 怨を抱く。不平不滿を持つ。屈辱を受ける。殘念。

【抱火】30 ハウクワ 火をいだく。〔新書、數寧〕抱レ火措二之積薪之下一。

【抱臥】31 ハウグワ いだいてふす。〔國史略、後鳥羽天皇〕義經妾靜生二男于鎌倉一、賴朝使二人殺一レ之、靜抱臥大慟、遂奪刺レ之、逐レ靜還レ京。

【抱懷】32 ハウクワイ いだく。心に思ふこと。又、こころざし。かんがへ。抱負。懷抱。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一書〕抱懷數年、未レ得レ散レ意。

【抱關】33 ハウクワン 門番。守門。〔史記、信陵君傳〕嬴乃夷門抱レ關者也。〔漢書、蕭望之傳〕不二肯錄錄、反抱レ關爲一。〔後漢書、張晧王龔傳論〕晨門有二抱關之夫一、柱下無二朱文之軫一也。〔論衡、齊世〕傴者抱關、侏儒俳優。

【抱關卒】34 ハウクワンノソツ 門の出入・開閉を掌る賤役の者。〔蘇軾、日日出二東門一詩〕城門抱關卒、笑レ我此何求。

【抱關擊柝】35 ハウクワンゲキタク 卑賤の吏。抱關は門番。擊柝は木を擊つて夜を警める者。夜警。一說に、關門の木をうつこと。關は木を以て橫に門戶を持するもの、卽ち、くわんぬき。〔孟子、萬章下〕辭レ尊居レ卑、辭レ富居レ貧、惡乎宜乎、抱關擊柝。〔注〕辭二尊富一者、安所レ宜乎、宜レ居二抱關擊柝監門之職一也、柝、門關之木也、擊、椎レ之也、或曰、柝、行レ夜所レ擊木也。〔疏〕抱關擊柝之職、乃監門守禦之吏也、擊柝者、所下以擊二關門之木一、以警中寇上也。〔荀子、榮辱〕抱關擊柝、而不二自以爲一レ寡。〔注〕抱關、門卒也、擊柝、擊レ木所二以警一レ夜者。〔鹽鐵論、錯幣〕抱關擊柝、皆有二常秩一。〔韓愈、爭臣論〕若二抱關擊柝一者可也。

【抱關之怨】36 ハウクワンノウラミ 昇進することが出來ないで賤職にあるうらみ。〔范曄、後漢書二十八將傳論〕朝有二世及之私一、下多二抱關之怨一。

【抱經】37 ハウケイ ㊀經書をいだく。〔後漢書、卓茂傳〕變二名姓一、抱二經書一隱二避林藪一。㊁清、盧文弨(**8－23050**‥289)の號。

【抱經齋】38 ハウケイサイ 清、徐嘉炎(**4－10110**‥349)の號。

【抱經堂】39 ハウケイダウ 清の盧文弨の廳事の名。文弨、校勘の學に精しく、抱經堂彙刻書十五種がある。〔國朝漢學師承記、盧文弨〕盧文弨、字紹弓、號磯漁、又號二檠齋一、晚更二號弓父一、抱經其堂顏也。

【抱經堂叢書】40 ハウケイダウソウシヨ 叢書の名。清、盧文弨編。此の書は自ら校正した古書及び自他の著を集めて分刻したもので、四十八冊本、六十冊本、三十五冊本の三種あり、內容に小異あり。今四十八冊本の目を次に示す。第一—十冊、經典釋文三十卷(唐、陸德明)、第十一・十二冊、經典釋文攷證三十卷(清、盧文弨)、第十三—十五冊、儀禮注疏詳校十七卷(清、盧文弨)、第十六・十七冊、新書十卷(漢、賈誼)、第十八・十九冊、春秋繁露十七卷附一卷(漢、董仲舒)、第二十—二十三冊、荀子二十卷(周、荀卿)、第二十四・二十五冊、白虎通四卷補一卷(漢、班固)、白虎通義攷一卷(清、莊述祖)、白虎通闕文一卷(清、莊述祖)、第二十六・二十七冊、逸周書十卷附一卷補一卷(晉、孔晁)、第二十八冊、輶軒使者絕代語釋別國方言十三卷補一卷(漢、揚雄)。第二十九冊、獨斷二卷(漢、蔡邕)、西京雜記二卷(漢、劉歆)、第三十—三十二冊、顏氏家訓七卷附四卷補一卷(北齊、顏之推)、三水小牘二卷(唐、皇甫枚)、第三十三—四十一冊、群書拾補不分卷(清、盧文弨編)、第四十二冊、鍾山札記四卷(清、盧文弨)、第四十三—四十八冊、抱經堂文集三十四卷(清、盧文弨)。

【抱經樓藏書志】40′ ハウケイロウザウシヨシ 書名。六十四卷。清、沈德壽の藏書目。

【抱轎】41 ハウケウ 結婚の日、嫁が轎に乘る時に嫁の親族中の最年長者が乘らせることをいふ。

【抱月】42 ハウゲツ 月をいだく。〔夏侯湛、禊賦〕朝春挺レ葩、夕霞抱レ月。〔王融、琵琶詩〕抱月如可レ明、

懷風殊復淸。〔源乾曜、拜相制〕虛懷同二於抱月一。

【抱歉】43ハウケン　あきたらない。遺憾に思ふ。恐縮する。〔翰墨全書、活套門、具書式、近別瞻仰式〕但奉レ候未レ能、殊爲二抱歉一。〔注〕歉恨不レ出也、言三心恨異二于常事一也。

【抱鼓】44ハウコ　太鼓をいだく。又、その樣子をすること。〔韓詩外傳、二〕立則磬折、拱則抱鼓。〔說苑、修文〕立則磬折、拱則抱鼓。

【抱告】45ハウコク　淸代、女や官吏が代理をやつて訴訟を差出すこと。〔福惠全書、刑名部、詞訟、立二狀式一〕抱告。〔六部成語、刑部、抱告、注解〕遣二族屬家丁一、代爲レ告レ官也。

〖抱告人〗46ハウコクニン　訴訟の代理人。〔福惠全書、刑名部、詞訟、立二狀式一〕抱告某人。

【抱恨】47ハウコン　うらみをいだく。抱怨。〔漢書、王嘉傳〕死者不二抱レ恨而入一レ地、生者不二銜レ怨而受一レ罪。〔嵆康、贈二秀才入一レ軍詩〕乘レ流遠遁、抱二恨山阿一。〔陶潛、停雲詞〕願言不レ獲、抱レ恨如何。

【抱齋】48ハウサイ　淸、李齡壽(6－14459‥2006)の號。

【抱罪】49ハウザイ　罪をいだく。又、人に對して心中安からず思ふ。恐縮する。〔後漢書、蔡邕傳〕或有二抱レ罪懷レ瑕、與レ下同レ疾、綱網弛縱、莫二相擧察一。

【抱槍】50ハウサウ　蜮の異名。〔本草、溪鬼蟲〕釋名、射工、射影、水弩、抱槍、含沙、短狐、水狐。

【抱撮】51ハウサツ　かかへつかむ。〔顧況、李供奉彈二箜篌一歌〕起坐可レ憐能抱撮、大指調レ絃中指撥。

【抱山】52ハウザン　字號。㊀淸、張雲鶴(4－9812‥795)の號。㊁淸、楊寶彝(6－15112‥746)の號。

〖抱山草堂〗53ハウザンサウダウ　淸、楊寶彝(6－15112‥746)の室名。

【抱槧】54ハウザン　著作をいふ。槧は文字を書くに用ひる札。〔劉克莊、送二居厚弟堂稟一詩〕吾灾因二抱槧一、子皆在二埋輪一。

〖抱槧書生〗55ハウザンシヨセイ　界尺(7－21775‥18)の別名。界尺は文房具の名で、筆に添へて罫線を引くに用ひるもの。〔文房圖贊〕黎司直、名合、字志齊、又名仝、字季方、號二抱槧書生一。

【抱子】56ハウシ　㊀子供を抱く。〔詩、大雅、抑〕借曰レ未レ知、亦既抱レ子。〔王粲、七哀詩〕路有二饑婦人一、抱レ子棄二草閒一。㊁pao⁴ tzŭ³　養子。

【抱之】57ハウシ　淸、陳經(11－41698‥210)の字。

【抱志】58ハウシ　すぐれた志を抱く。〔晉書、慕容暐載記〕抱レ志未レ申之傑。

【抱珥】59ハウジ　日の旁の氣。〔漢書、天文志〕抱珥虹蜺。〔注〕孟康曰、皆日旁氣也、云云、抱、氣向レ日也、珥、形點レ黑也、如淳曰、凡氣在二日上一爲レ冠爲レ戴、在レ旁直對爲レ珥、在レ旁如二半環一向レ日爲レ抱。

【抱膝】60ハウシツ　ひざをかかへる、對手がなくひとりぼつちのさま。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕(亮)每二晨夜一從容、常抱レ膝長嘯。〔劉琨、扶風歌〕慷慨窮林中、抱レ膝獨摧藏。〔白居易、邯鄲至二除夜一思レ家詩〕邯鄲驛裏逢二冬至一、抱レ膝燈前影對レ身。

〖抱膝廬〗61ハウシツロ　淸、劉宗泗(2－2224‥1142)の室名。

【抱者】62ハウシヤ　子を抱くもの。〔柴野栗山、進學喩〕都人士女、相將行レ香、輿者・騎者・步者・負者・抱者、絡繹載レ路。

【抱樹】63ハウジユ　樹をいだく。〔班固、幽通賦〕養流睇而猿號兮。〔注〕善曰、淮南子曰、楚有二白猨一、王自射レ之、則搏レ矢而顧、使二養由基射一レ之、始調レ弓矯レ矢、未レ發、而猨抱レ樹號矣。〔晉書、王祥傳〕祥性至孝、云云、有二丹柰結一レ實、母命守レ之、每二風雨一、祥輒抱レ樹而泣。

【抱承】64 pao⁴ ch'êng²　ひきうけ代理する。

【抱鐘】65ハウシヨウ　鐘をいだきもつ。〔尸子、治天下〕孔子曰、若二鄭簡公之好一レ樂、雖二抱レ鐘而朝一、可也。

【抱蜀】66ハウシヨク　祠器を抱き持つ。位に備はる。蜀はまつりのうつは。〔新方言、釋言〕抱レ蜀、謂レ抱レ一也。〔管子、形執〕上無レ事而民自試、抱レ蜀不レ言、而廟堂既修。〔房注〕抱、持也、蜀、祠器也、君レ人者但抱二祠器一、以レ身率レ道、雖二復靜然不一レ言、廟堂之政、既以修理矣。〔管子、形執解〕所謂抱蜀者、祠器也、故曰、抱レ蜀不レ言、而廟堂既修。

【抱眞】67ハウシン　眞理をいだきもつ。〔參同契〕懷レ玄抱レ眞、體服二九鼎一。

〖抱眞子〗68ハウシンシ　明、李孔修(6－14459‥1214)の號。

〖抱眞堂〗69ハウシンダウ　淸、宋徵璧(3－7078‥369)の室名。

【抱神】70ハウシン　精神をかたくとりまもること。〔莊子、在宥〕無レ視無レ聽、抱レ神以靜。

【抱薪】71ハウシン　たきぎをいだく。抱レ薪救レ火。〔鬼谷子、摩篇〕抱レ薪趨レ火。〔淮南子、覽冥訓〕抱レ薪而救レ火、鑿レ竇而止レ水。

【抱石】72ハウセキ　石をいだく。〔韓詩外傳、一〕申徒狄、云云、抱レ石而沈二於河一。

〖抱石魚〗73ハウセキギヨ　魚の名。かくつぶ。

【抱素】74ハウソ　㊀飾りけのない眞性を保つ。抱樸。〔漢書、禮樂志〕兆民反レ本、抱レ素懷レ樸。㊁抱元、錢霖(11－40563‥230)の名。

【抱村】75ハウソン　淸、梅沖(6－14830‥189)の字。

【抱孫】76ハウソン　字號。㊀淸、周彥曾(2－3441‥649)の字。㊁淸、盧見曾(8－23050‥209)の字。

【抱道】77ハウダウ　心に正道をいだく。〔魏志、王烈傳〕抱レ道懷レ貞。

【抱蛋】78 pao⁴ tan⁴　雞が卵を抱いて暖めかへす。

【抱媿】79ハウタン　ならぶ。〔方言、二〕抱媿、耦也、荊吳江湖之閒曰二抱媿一。〔注〕追萬切。

【抱擔】80ハウタン　だきかかへる。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕抱二擔身上一、將レ屍微微倒二側之一。

【抱持】81ハウヂ　いだきもつ。〔漢書、王莽傳下〕猶抱二持符命威斗一。〔風俗通、十反〕子平因前抱持曰。〔顏氏家訓、兄弟〕二弟爭共抱持。

【抱冲】82ハウチユウ　淸、顧之逵(12－43689‥272)の字。

〖抱冲齋〗83ハウチユウサイ　淸、斌良(5－13468‥4)の號。

【抱柱】84ハウチユウ　信を守る。尾生が女と約して柱を抱いて死んだ故事。〔莊子、盜跖〕尾生與二女子一期二於梁下一、女子不レ來、水至不レ去、抱二梁柱一而死。〔韓偓、倚醉詩〕抱レ柱立時風細細、遶レ廊行處思騰騰。

〖抱柱信〗85ハウチユウノシン　小さい信義を固く守つてかへぬこと。尾生信。抱柱を見よ。〔古詩〕安得二抱柱信一、皎日以爲レ期。〔李白、長干行〕常存二抱柱信一、豈上望夫臺。

【抱住】86ハウヂユウ　だき止める。〔仕學大乘〕母胡氏、妻蔡氏抱二住之一。〔淸會典事例、刑部、刑律賊盜、強盜〕嘉慶四年諭、此案趙興文聽三從商密行竊二崔玉占家一、商密擕レ贓逃跑、趙興文被二崔玉占追趕抱住一、情急圖レ脫、遂拔二佩刀一將二崔玉占一連扎、脫レ身逃走。

【抱痛】87ハウツウ　いたみをいだく。かなしむこと。〔江淹、詣二建平王一上書〕下官抱二痛圓門一、含二憤獄戶一、一物之微、有二足レ悲者一。

〖抱痛西河〗88ハウツウセイカ　子を喪ひて悲しむこと。孔子の弟子の子夏が、西河にゐて教授し、其の子を喪ひ、悲しんで失明した故事。〔史記、仲尼弟子列傳〕孔子沒、子夏居二西河一教授、爲二魏文侯師一、其子死、哭レ之失レ明。

【抱呈】89 pao⁴ ch'êng²　代理者が訴訟狀を差出す。

【抱天】90ハウテン　天をいだく。〔莊子、盜跖〕夫士之爲レ行、抱二其天一乎。

【抱德】91ハウトク　德をいだきもつ。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕抱レ德肥遯、揚二淸渭波一。

【抱牘】92ハウトク　文牘を捧げ守る。〔黃庭堅、僧景宣相訪寄二法王航禪師一詩〕抱牘稍退鳧鶩行。

【抱犢】93ハウトク　山名。㊀河北省獲鹿縣の西。一名、萆山。四面險絕にして頂に二泉がある。〔太平寰宇記〕獲鹿縣有二萆山一、今名二抱犢山一、韓信伐レ趙、使下輕騎二千人持二赤幟一從二閒道一萆レ山而望上、後遂呼爲二萆山一、後魏葛榮之亂、百姓抱レ犢而上、故以爲レ名、上有レ石刻二抱犢福地四字一。㊁河南省盧氏縣の東南。又、抱犢寨といふ。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、盧氏縣、塔山〕抱犢山、在二縣東南九十里一、亦名二抱犢寨一、四周險絕、頂夷可レ耕、昔人多避二兵其上一。㊂山東省嶧縣の北。又、抱犢崮・君山・豹子谷ともいふ。〔魏書、地形志中〕蘭有二抱犢山一。〔元和志〕昔有二遯隱者一、抱二一犢一、於二其上一墾種、故以爲レ名。㊃山西省壺關縣の東南。〔太平寰宇記〕道書福地記云、抱犢山、高七十丈、有二石城一高十丈、方一里、南有レ草名二玉枝一、冬生レ花、高五六尺、味頗甘、取二其葉末一服レ之、二三日不レ飢。

〖抱犢山房〗94ハウトクサンバウ　淸、嵆永仁(4－8272‥12)の室名。

〖抱犢山房集〗95ハウトクサンバウシフ　書名。六卷。淸、嵆永仁撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【抱璞】96ハウハク 璞玉をいだく。轉じて、美質をもつてゐること。〔韓非子、和氏〕和乃抱二其璞一而哭二於楚山之下一、三日三夜、涙盡而繼レ之以レ血。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕和抱レ璞而泣血兮、安得二良工一而剖レ之。〔後漢書、蔡邕傳〕抱レ璞而優遊。〔後漢書、儒林下、謝該傳〕良才抱レ璞而逃。

【抱璞山人】97ハウハクサンジン 清、方琛(5－13620‥389)の號。

【抱病】98ハウビヤウ 病氣であること。抱恙。抱痾。〔沈佺期、初達二驩州一詩〕夜則忍レ飢臥、朝則抱レ病走。

【抱冰】99ハウヒヨウ ㊀氷をいだく。刻苦勉厲すること。〔吳越春秋、句踐歸國外傳〕目臥則攻レ之以レ蓼、足寒則漬レ之以レ水、冬常抱レ冰、夏還握レ火、愁レ心苦レ志、懸二膽於戶一、出入嘗レ之。〔元稹、冬白紵〕共笑越王窮惴惴、夜夜抱レ冰寒不レ睡。㊁清、張之洞(4－9812‥1102)の別號。

【抱冰堂】100ハウヒヨウダウ 堂の名。湖北省武昌縣城の內にある。清代、張之洞、湖北省の督辦たること十九年、光緒の末に昇任して京に入る。因て鄂軍、生祠を建て、其の私號抱冰を以て其の額に題し、民國の初、改めて祠堂とした。

【抱冰公事】101ハウヒヨウコウジ 公事に對して非常に清廉なこと。〔清異錄、官志〕蒙州立山縣丞晁覺民自二中原一避レ兵南來、因仕二霸朝一、食料衣服、皆市二於隣邑一、一吏專主レ之、既回、物多二毫末一、皆置二諸獄一、當二其役一者、曰、又管二抱冰公事一也。

【抱布】102ハウフ ぬのをいだく。誘惑する。抱レ布貿レ絲(303)を見よ。〔沈約、奏二彈王源一文〕以二彼之行媒一、同二之抱レ布。

【抱負】103ハウフ ㊀いだくことと背におふこと。かかへたりおぶつたりする。〔漢書、外戚下、趙皇后傳〕世無二周公抱負之輔一。〔後漢書、儒林傳序〕四方學士、多懷二挾圖書一、遁二逃林藪一、自レ是莫レ不下抱二負墳策一、雲中會京師上。〔蘇軾、贈二上天竺辯才師一詩〕四歲不レ知レ行、抱負煩二背腹一。㊁心に懷く志望。自らゆるす志。力に對する自信。

【抱風】104ハウフウ 風をいだく。効のない喩。〔鹽鐵論、遵道〕文繁二於春華一、無レ効二於抱レ風。

【抱腹】105ハウフク ㊀腹掛け。兜肚。〔釋名、釋衣服〕抱腹、上下有レ帶、抱二裹其腹一、上無レ襠者也。㊁北漢、郭無爲(11－39474‥414)の別號。〔五代史、東漢劉承鈞世家〕承鈞以二抱腹山人郭無爲一參二議國政一、無爲、棣州人。㊂大いに笑ふこと。捧腹の誤用。捧腹(5－12189‥32)を見よ。

【抱腹山人】106ハウフクサンジン 北漢、郭無爲(11－39474‥414)の號。

【抱腹絕倒】107ハウフクゼツタウ 殆んど堪へ難いほど笑ふこと。捧腹絕倒の誤用。捧腹(5－12189‥32)を見よ。

【抱哺】108ハウホ いだきはぐくむ。〔賈子新書、時變〕抱二哺其子一、與レ公併踞、婦姑不二相說一。

【抱木】109ハウボク ㊀木をいだく。〔莊子、盜跖〕抱レ木而死。〔張華、勵志詩〕養由矯レ矢、獸號二于林一。〔注〕向曰、楚王游二於林中一、猨緣レ木、射レ之不レ中、命二養由一射レ之、矯レ矢、猨抱レ木而號也。㊁水松といふ香木の根に附いて生ずるもの。履につける。〔南方草木狀、木類、抱香履〕抱木、生二于水松之旁一、若二寄生一然、極柔弱、不レ勝二刀鋸一、乘レ濕時刳而爲レ履、易如レ削レ瓜、云云、履雖二猥大一、而輕者若二通脫木一、云云、泰康六年、扶南貢二百雙一、帝深歎異、然哂二其制作之陋一、但置二諸外府一、以備二方物一而已。〔北戶錄〕抱木屧、產二水中一、葉細如レ檜、其身堅類レ柏、惟根軟、不レ還二刀鋸一、今潮州多刳レ之以爲レ屧。

【抱木茯神】110ハウボクフクシン 藥の名。茯苓の根を抱く者を茯神と名づけ、また之を抱木茯神といふ。其の中心の木を神木といひ、また藥用とする。〔本草、茯苓〕釋名、宗奭曰、多年樵斫之松、根之氣味、抑鬱未レ絕、精英未レ淪、其精氣盛者、發二泄於外一、結爲二茯苓一、故不三抱レ根離二其本體一、有二零之義一也、津氣不レ盛、止能附二結本根一、既不レ離レ本、故曰二茯神一。

【抱朴】111ハウボク 抱樸に同じ。

【抱朴子】112ハウボクシ 書名。八卷。晉、葛洪撰。抱朴子は其の號であるから、書に名づけた。其の自序に、內篇二十卷、外篇五十卷といふ。隋志・舊唐志共に內篇を道家、外篇を雜家に入れてゐる。內篇は神仙・吐納・符籙・尅治の術を論じ、純然たる道家の言であり、外篇は時世の得失、人事の可否を論じ大旨は黃老を主とす。文章多くは排偶の體をなし、詞旨は辨博で頗る名理がある。今本の目次は、(內篇二十篇)暢玄・論僊・對俗・金丹・至理・微旨・塞難・釋滯・道意・明本・僊藥・辯問・極言・勤求・雜應・黃白・登涉・地眞・遐覽・祛惑・附別旨。(外篇五十二篇)嘉遁・逸民・勗學・崇教・君道・臣節・良規・時難・官理・務正・貴賢・任能・欽士・用刑・審擧・交際・備闕・擢才・任命・名實・清鑒・行品・弼訟・酒誡・疾謬・譏惑・刺驕・百里・接疏・鈞世・省煩・尙博・漢過・吳失・守塉・安貧・仁明・博喩・廣譬・辭義・循本・應嘲・喩蔽・百家・文行・正郭・彈禰・詰鮑・知止・窮達・重言・自敍。なほ清の嚴可均に校勘記二卷佚文二卷がある。〔四庫提要、子、道家類〕。

【抱朴遺叟】113ハウボクヰソウ 明、楊維楨(6－15112‥412)の號。

【抱朴居士】114ハウボクコジ 唐、伍洪(1－435‥14)の號。

【抱樸】115ハウボク ㊀其の本來の眞性を守つて物欲に煩はされないこと。抱素。〔老子、十九〕見レ素抱レ樸、少レ私寡レ欲。㊁木の皮をいだく。〔王褒、洞簫賦〕秋蜩不レ食、抱レ樸而長吟兮。〔注〕善曰、蒼頡篇曰、朴、木皮也。

【抱養】116ハウヤウ ㊀だきかかへてそだてる。〔漢書、外戚下、傅昭儀傳〕太子小而傳太后抱二養之一。㊁pao^4 yang^3 養子にする。

【抱翼】117ハウヨク 清、王時翔(7－20823‥1611)の字。

【抱耒】118ハウライ すきをもつ。〔陸游、視二東皐一歸詩〕抱レ耒新湖葑、燒レ畬古廟壖。

【抱令】119ハウレイ 命令をまもる。〔顏氏家訓、勉學〕抱レ令守レ律。

【抱曆】120ハウレキ 葬送の際、棺をおろす綍をひくものの名簿をもつこと。〔周禮、地官、遂師〕及レ窆抱曆。〔注〕玄謂、曆者、適歷執レ綍者名也。

【抱弄】121ハウロウ 抱き戲れる。〔白居易、與二元九一書〕僕始生六七月時、乳母抱二弄於書屏下一。

【抱攏】122 pao^4 lung^3 人の惡事をかくまふ。

【抱窩】123 pao^4 wo^1 雞が巢につく。卵をあたためる。

【抱委屈】124 pao^4 wei^3 chʻü^1 殘念に思ふ。不平をいだく。

【抱香履】125ハウカウリ 抱木で作つた履。抱木(109)の㊁を見よ。〔南越筆記〕粵中婢媵、多著二紅皮木屐一、士大夫亦皆尙レ屐、沐浴乘レ涼時、散足著レ之、名レ之曰二散屐一、散屐潮州所レ製拕皮爲レ雅、或以二抱木一爲レ之、抱木附二水松根一而生、香而柔韌、可レ作レ履、曰二抱香履一、潮人刳レ之爲レ屧、輕薄而軟、是曰二潮屐一、或以二黃桑苦楝一亦良。

【抱官囚】126ハウクワンシウ 官吏となつて自由のきかぬもの。祿位に貪戀する者。〔黃庭堅、四休居士詩〕富貴何時潤二髑髏一、守錢奴與二抱官囚一。〔顧瑛、詩〕三年盡レ忠歸、身作二抱官囚一。

【抱罐兒】127 pao^4 kuan^4 êrh 葬式の時に棺の後にあつて食物を入れた罐を持つて行くこと。死者の長子の妻が之を持つ。

【抱猴兒】128 pao^4 hou^2 êrh 北京人の賞美するまくはうりの一種。

【抱沙鍋】129 pao^4 sha^1 kuo^1 土鍋を抱く。乞食する。

【抱粧盒】130ハウシヤウカフ 元曲選百種中の一。正しい名は金水橋陳琳抱粧盒。宋の眞宗の劉后が太子を害せんと謀つたことを演ず。

【抱節君】131ハウセツクン ㊀竹の異名。〔蘇軾、此君亭詩〕寄レ語庵前抱節君、與レ君到處合二相親一。㊁暑い時、牀席の間において手足を休息させる竹籠。〔楊維楨、竹夫人傳〕夫人竹氏、云云、自號二抱節君一、其先爲二孤竹君之子一。

【抱娘蒿】132ハウヂヤウカウ 草の名。䕲蒿の異名。〔本草、䕲蒿〕釋名、莪蒿、蘿蒿、抱娘蒿。

【抱桐軒】133ハウドウケン 清、顧陳垿(12－43689‥328)の室名。

【抱不平】134 pao^4 pu^4 pʻing^2 不平を抱く。弱きを扶け、強きを抑へる考で、自分以外の事に就いて腹を立てること。

【抱佛脚】135ハウブツキヤク 俗に平生準備をしないで、事に臨んでこれを爲すものを譏る語。〔孟郊、讀經詩〕垂老抱二佛腳一、教三妻讀二黃經一。〔中山詩話〕王丞相喜二諧謔一、一日論二沙門道一、因曰、投レ老欲レ依レ僧、客遽對曰、急則抱二佛腳一、王曰、投レ老欲レ依レ僧、是古詞一句、客曰、急則抱二佛腳一、是俗諺全語、上去レ投、下去レ腳、豈不二的對一也。〔張誼、

宦遊紀聞、抱佛免罪〕雲南之南一番國、其俗尙二釋教一、有二犯レ罪應レ誅者一、國主捕レ之、其人恐、急奔二往某寺中一、抱二佛腳一悔過、願四髡髮爲レ僧、不三敢蹈二前非一、主許レ之、竟貰二其罪一、云云、俗諺云、閒時不二燒香一、急來抱二佛腳一、蓋本二諸此一。

【抱碧齋】136（ハウヘキサイ） 清、儲國鈞(**1－1284**‥82)の號。

【抱母井】137（ハウボセイ） 鹽井の名。雲南省景谷縣。清の雍正二年に開く。

【抱壘室】138（ハウライシツ） 清、吳雲(**2－3365**‥15)の室名。

【抱老壽】139（ハウラウジュ） 後魏の人。嶷の從弟。性、凡薄。御史王顯に劾せらる。〔魏書、九十四〕。

【抱遺老人】140（ハウヰラウジン） 元、楊維楨(**6－15112**‥417)の號。

【抱殘守缺】141（ハウザンシュケツ） 書物などの僅かに殘り、缺けてゐるものを大切に抱き守る。〔國朝漢學師承記、顧炎武〕豈若二抱殘守缺之俗儒、尋章摘句之世士一也。

【抱殘老人】142（ハウザンラウジン） 民國、羅振玉(**9－28397**‥366)の號。

【抱守老人】143（ハウシュラウジン） 清、黃丕烈(**12－47926**‥1296)の號。

【抱雪居士】144（ハウセツコジ） 藥草の名。香附子の異名。〔輟耕錄、藥譜〕侯寧極戲造二藥譜一、云云、抱雪居士、香附子。

【抱頭鼠竄】145 pao^{4} t‘ou^{2} shu^{3} ts‘uan^{4} 頭をおさへてこそこそと逃げる。

【抱頭痛哭】146 pao^{4} t‘ou^{2} t‘ung^{4} k‘u^{1} 頭をかかへて大聲に泣く。

【抱獨老人】147（ハウドクラウジン） 明、王履(**7－20823**‥1058)の號。

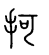
【抱母雞壺】148 pao^{4} mu^{3} chi^{1} hu^{2} 焜爐の一種。上に錫製の碗あり、下に錫製の壺あり、其の中に熱湯を入れて碗中の肴をして暖氣を保たせる器。

【抱】11917′

ハウ 抱(**5－11917**)に同じ。

【抲】11918

㈠カ 〔集韻〕虎何切 ［歌］
㈡ダ ナ 〔集韻〕女加切 ［麻］
㈢カ ケ 〔集韻〕丘加切 ［麻］
㈣カ ガ 〔集韻〕下可切 ［哿］
㈤タ ダ 〔集韻〕待可切 ［哿］


小篆

㈠**さしづする**。〔說文〕抲、抲撝也、从レ手可聲、周書曰、盡執抲。〔段注〕酒誥文、今尙書、抲作レ拘、字之誤也、云云、謂三指撝以歸二於周一也。㈡**とらへる**。からめとる。〔集韻〕抲、搦也。㈢❶**にぎる**。〔集韻〕抲、扼也。❷或は搚(**5－12367**)・㧓(**5－11877**)に作る。〔集韻〕抲、或作二搚・㧓一。㈣**になふ**。荷(**9－31000**)に同じ。〔集韻〕荷、博雅、儋也、或作二何・抲一、亦省。㈤**になふ**。㈣に同じ。〔集韻〕抲、擔也。

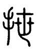
【抳】11919

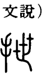
㈠ヂ ニ 〔集韻〕女履切 ［紙］
㈡デイ ナイ 〔集韻〕乃禮切 ［薺］
㈢ヂツ ニチ 〔字彙〕尼質切 ［質］
㈣ヂ ニ 〔集韻〕女夷切 ［支］

㈠❶**とまる**。とめる。〔廣雅、釋詁三〕抳、止也。❷**ゆびさす**。〔集韻〕抳、手指レ物也。㈡㈢**とまる**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕抳、博雅、止也。㈣**とぐ**。みがく。〔集韻〕抳、研也。

【抴】11920

㈠エイ 〔集韻〕以制切 ［霽］
㈡エツ エチ 〔集韻〕羊列切 ［屑］
㈢セツ ゼチ 〔集韻〕食列切 ［屑］


小篆（說文）

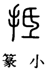

小篆（段注本）

㈠㈡❶**ひく**。〔說文〕抴、捈也、从レ手世聲。〔廣韻〕抴、引也。〔荀子、非相〕接レ人則用レ抴。〔注〕抴、牽引也。❷**かぢ**。枻(**6－14592**)に通ず。〔說文、抴、段注〕抴、俗字作レ枻、非。〔楚辭、九歌、湘君〕桂櫂兮蘭抴。〔注〕抴、船旁板也。❸**もる**。**もらす**。〔釋名、釋言語〕抴、泄也、發泄二出之一也。❹**かぞへる**。〔廣韻〕抴、數也。❺或は拽(**5－12013**)に作る。〔集韻〕抴、或从レ曳。㈢**かぞへもつ**。揲(**5－12403**)に同じ。〔集韻〕揲、說文、閱持也、或作レ抴。

［參考］ 熟語は拽(**5－12013**)を見よ。

【抵】11921

㈠テイ タイ 〔集韻〕典禮切 ［薺］ ㄉㄧˊˇ ti$^{2\cdot3}$
㈡タイ ダイ 〔集韻〕直皆切 ［佳］
㈢シ 〔集韻〕掌氏切 ［紙］


小篆

㈠❶**おす**。おしのける。或は搋(**5－12246**)に作る。〔說文〕抵、擠也、从レ手氏聲。〔廣雅、釋詁三〕抵、推也。〔集韻〕抵、或作レ搋。❷**こばむ**。〔漢書、文三王、梁懷王揖傳〕抵讕置レ辭。〔注〕師古曰、抵、距也。〔漢書、酷吏、田延年傳〕延年抵曰、無レ有二是事一。〔注〕師古曰、抵、拒諱也。❸**ふれる**。牴(**7－19988**)に通ず。〔說文通訓定聲〕抵、叚借爲レ牴。〔廣雅、釋言〕抵、觸也。〔漢書、武帝紀〕作二角抵戲一。〔注〕師古曰、抵、相抵觸也。❹**いたる**。底(**4－9262**)に通ず。〔廣雅、釋詁一〕抵、至也。〔史記、秦始皇紀〕抵二九原一。〔注〕正義曰、抵、至也。〔漢書、李陵傳〕抵二山谷中一。〔注〕師古曰、抵、至也。❺**つく**。附屬する。〔史記、天官書〕抵二營室一。〔注〕索隱曰、抵、屬也。❻**たよる**。主とたのみ歸趨する。邸(**11－39347**)に通ず。〔說文通訓定聲〕抵、叚借爲レ邸。〔呂覽、無義〕抵二公孫與一。〔注〕抵、主也。〔史記、項羽紀〕抵二櫟陽獄掾司馬欣一。〔注〕索隱曰、抵、歸也、劉伯莊曰、相憑託也。〔史記、張耳陳餘傳〕去抵二父客一。〔注〕集解曰、抵、歸也。❼**あたる**。楮(**6－15275**)に通ず。〔說文通訓定聲〕抵、叚借爲レ楮。〔小爾雅、廣言〕抵、當也。〔史記、高帝紀〕傷レ人及盜抵レ罪。〔注〕集解曰、抵、當也。❽**なげうつ**。擿(**5－12922**)に通ず。〔說文通訓定聲〕抵、叚借爲レ擿。〔後漢書、禰衡傳〕因レ毀以抵レ地。〔注〕抵、擲也。❾**あざむく**。詆(**10－35356**)に通ず。〔說文通訓定聲〕抵、叚借爲レ詆。〔後漢書、劉隆傳〕抵言下於二長陽街上一得上レ之。〔注〕抵、欺也。❿**もと**。柢(**6－14640**)に通ず。〔說文通訓定聲〕抵、叚借爲レ柢。〔周禮、地官、泉府〕買者各從二其抵一。〔注〕鄭司農云、抵、故買也、玄謂、抵、實柢字。〔漢書、司馬相如傳〕犧二雙觡共抵之獸一。〔注〕服虔曰、抵、本也。⓫**矛の柄**。〔方言、十二〕抵、刺也。〔注〕抵、柲、皆矛戟之穫也。〔鬼谷子、抵巇、注〕抵、擊實也。⓬**あふ**。〔方言、一〕抵、會也、雍梁之間曰レ抵、秦晉亦曰レ抵。⓭**梁のささへ柱**。〔裴駰、史記集解序〕或有二抵捂一。〔注〕索隱曰、按、今屋梁上斜柱是也、云云、下觸謂二之抵一。⓮［現

㋑はりあふ。㋺支へる。🈔おす。🈩の❶に同じ。〔集韻〕抵、擠也。🈪うつ。抵(5－11846)に同じ。〔集韻〕抵、說文、側擊也、或作レ抵。〔漢書、朱博傳〕奮レ髯抵レ几。〔注〕師古曰、抵、擊也、音紙。

名乘 ユキ。ヤス。アツ。

【抵鴉】1 テイア 安南で人を運ぶ籠の一種。〔陳孚、安南卽事詩〕抵鴉身偃豕、羅我背拳狐。〔自注〕其舁人用二布一匹、長丈餘、以レ繩挈二圓木上一、大竹貫レ繩、兩人舁レ之、人側二其中一、若レ擧二羊豕一然、名曰二抵鴉一、象背上施二鞍轡一几座、名曰二羅我一、人坐二其上一、拳屈如レ狐。

【抵押】2 ti^3 ya^1 抵當に入れる。質入する。

【抵押權】3 ti^3 ya^1 chʻüan^2 物權の一。財產差押の權利。

【抵押品】4 ti^3 ya^1 pʻin^3 擔保。

〔抵押貨物〕5 ti^3 ya^1 huo^4 wu^4 抵當に入れた貨物。

〔抵押借票〕6 ti^3 ya^1 chieh^4 pʻiao^4 抵當付借用證。抵借票(47)に同じ。

〔抵押透支〕7 ti^3 ya^1 tʻou^4 chih^3 擔保付當座預金の貸付。

〔抵押背書〕8 ti^3 ya^1 pei^4 shu^1 手形の質入裏書。

〔抵押貨物字據〕9 ti^3 ya^1 huo^4 wu^4 tzŭ^4 chü^3 貨物の質入證書。

【抵價】10 ti^3 chia^4 價を差引いて勘定する。

【抵瑕】11 テイカ 他人の短所を指摘する。〔柳宗元、答問〕蹇淺窄僻、跳浮嚄唶、抵レ瑕陷レ厄。

【抵交】12 テイカウ 抵當として交付する。〔淸會典事例、戶部、田賦、追賠拕欠〕如估價與二契價一相等、及比二契價一較多者、均按二估價一抵交。

【抵抗】13 テイカウ ❶はりあふ。てむかふ。たてをつく。❷堪へる。持ちこたへる。又、反對にはたらく。❸物理學上の名詞。Resistance 兩物體が互に作用する力。又、導體が電流の通過を拒ぐ性質。

【抵港】14 ti^2 kang^3 港に到着する。入港する。

【抵項】15 テイカウ 官に納むべき租銀等を納めぬ時、その賠償として財產を沒收すること。〔淸會典事例、戶部、田賦、追賠拕欠〕嘉慶七年奏准、估計在京一切抵項變價房屋無レ論二住房鋪面一、悉按二檩數分別等第一、作レ價扣抵。

【抵扞】16 テイカン こばみふせぐ。〔鹽鐵論、未通〕租賦不レ入、抵二扞縣官一。

【抵几】17 シキ つくゑをうつこと。〔漢書、朱博傳〕博奮レ髯抵レ几。〔注〕師古曰、抵、擊也、音紙。

【抵陒】18 シキ 擊ち毀つ。又、くづれる處を擊つ。〔漢書、杜周傳贊〕業因レ勢而抵陒。〔注〕師古曰、抵、擊也、陒、毀也、言下因二事形勢一擊中陒之上也、陒音詭、一說、陒、讀與レ戲同、音許宜反、戲亦險也、言レ擊二其危險之處一、鬼谷有二抵戲篇一也。〔王先謙補注〕陒、垝之或體、說文、垝、毀垣也、抵陒、謂下因二其毀一而擊上レ之。

【抵巇】19 シキ ❶すきまをうつ。間隙に乘ずる。機會を利用する。〔韓愈、釋言〕奔走乘レ機、抵巇以要二權利一。〔陸龜蒙、襲美先輩以下龜蒙所レ獻五百言既蒙レ見レ和復示二榮唱一至二於千字一提獎之重蔑上有二稱實一再抒二鄙懷一用伸二酬謝一詩〕立レ本以致レ詰、驅レ宏來二抵巇一。❷鬼谷子(12－45758··54)の篇名。

【抵欺】20 テイギ あざむく。〔周禮、春官、典瑞〕四圭有レ邸、〔注〕鄭司農云、邸、讀爲二抵欺之抵一。〔後漢書、劉隆傳〕抵言下於二長陽街上一得上之。〔注〕抵、欺也。

【抵疑】21 テイギ 文章の名。晉、夏侯湛の作。〔晉書、夏侯湛傳〕少爲二太尉掾一、泰始中、擧二賢良對策一、中レ第拜二郎中一、累年不レ調、乃作二抵疑一以自庸。〔夏侯湛、抵疑〕當路子、有下疑二夏侯湛一者上而謂レ之曰、吾聞、有二其才一而不レ遇者時也、有二其時一而不レ遇者命也。

【抵禦】22 ti^3 yü^4 抵抗する。防禦する。

【抵禁】23 テイキン いましめををかす。おきてを犯す。〔漢書、匡衡傳〕陛下躬二聖德一、開二太平之路一、閔二愚吏民觸レ法抵レ禁、比年大赦。

【抵換】24 テイクワン 交換する。引換へる。とりかへる。すりかへる。〔明律、戶律、倉庫、私借錢糧〕若將二自己物件一、抵二換官物一者、罪亦如レ之。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕以レ惡易レ美、是爲二抵換一。

【抵款】25 ti^2 kʻuan^3 抵當を入れて金を借りる。

【抵還】26 ti^3 huan^2 つぐなひかへす。返濟する。抵付。抵償。

【抵業】27 テイゲフ 受託物の損害を賠償するに足る財產。抵業人戶を見よ。

〔抵業人戶〕28 テイゲフジンコ 受託物の損害を賠償するに足る財產を有するもの。〔明律、戶律、市廛、私充牙行埠頭〕凡城市鄉村諸色牙行及船埠頭、竝選下有二抵業一人戶上充應。

【抵言】29 テイゲン あざむきいふ。〔後漢書、劉隆傳〕抵言下於二長壽街上一得上之。〔注〕抵、欺也。

【抵捂】30 テイゴ ふれさかふ。くひちがふ。牴牾。〔裴駰、史記集解序〕分二散數家之事一、甚多二疏略一、或有二抵捂一。〔注〕索隱曰、抵者、觸也、捂、亦斜相抵觸之名、按、今屋梁上斜柱是也、斜觸謂二之捂一、下觸謂二之抵一、抵捂、言二其參差一也。

【抵梧】31 テイゴ ふれさかふ。くひちがふ。抵觸。牴牾。〔漢書、司馬遷傳贊〕甚多二疏略一、或有二抵梧一。〔注〕如淳曰、梧、讀曰レ迕、相觸迕也、師古曰、抵、觸也、梧、相支拄不レ安也。

【抵戇】32 テイコウ 才智がにぶくつよいさま。〔駢雅、釋訓上〕抵戇、抗竦也。〔王延壽、王孫賦〕姿僭傔而抵戇。〔注〕抵、一作レ揔。

【抵國】33 テイコク 前後から大國にはさまれて抑へられてゐる小國。憂の去らない國。一本、抵國に作る。〔管子、國畜〕前有二萬乘之國一、而後有二千乘之國一、謂二之抵國一。〔纂詁〕抵、觸也、前有二萬乘之國一、動侵二伐其前一、如二獸角觸レ人、故名二小國在レ後者一爲二抵國一。

【抵債】34 テイサイ ❶借財の抵當に書き入れること。❷ti^3 chai^4 借金をつぐなふ。抵賬。

【抵罪】35 テイザイ 罪の輕重にしたがつて相當の刑にあてる。〔戰國、趙策〕奢嘗抵レ罪居レ燕、燕以レ奢爲二上谷守一。〔史記、高祖紀〕傷レ人及盜抵レ罪。〔注〕集解曰、應劭曰、抵、至也、又當也、除二秦酷政一、但至二於罪一也。〔後漢書、五行志一〕下レ獄抵レ罪。〔風俗通、正失〕斬レ首上レ功、誤二差數級一、下二之吏一、尚竟抵レ罪。

【抵死】36 テイシ ❶死に至る。又、死罪に當てる。〔漢書、文帝紀〕細民之愚、無レ知レ抵レ死。❷ti^2 ssŭ^3 あくまでも。

〔抵死不作繭〕37 ti^2 ssŭ^3 pu^2 tsuo^4 chien^3 終身懷孕しない婦人。

【抵至】38 ti^3 chih^4 到着する。

【抵徙】39 テイシ 手を擬して剋つことを期す。〔集韻〕徙、一說、抵徙、擬レ手期レ剋也。

【抵售】40 ti^3 shou^4 動產又は不動產を抵當とし、或は販賣すること。

【抵質】41 ti^3 chih^4 抵當にすること。抵押。

【抵掌】42 シシヤウ たなごころをうつ。はなしながら手をうつ。盛に談ずるさま。抵掌。〔史記、滑稽、優孟傳〕爲二孫叔敖衣冠一、抵レ掌談語。〔注〕集解曰、張載曰、談說之容則也。〔後漢書、隗囂傳〕人人抵レ掌。〔注〕說文云、抵、側擊也。〔左思、蜀都賦〕劇談戲論、扼レ腕抵レ掌。〔注〕翰曰、抵、擊也。〔劉峻、廣絕交論〕遇二一才一、則揚レ眉抵レ掌。〔注〕向曰、抵レ掌、側レ手擊レ掌也。

〔抵掌而談〕43 シシヤウシテダンズ 手をうちながらはなしをする。〔戰國、秦策〕見二說趙王於華屋之下一、抵レ掌而談、趙王大悅。〔注〕抵・抵通、諸氏反、抵レ掌而談、謂二以レ掌指畫而談一也。

【抵償】44 テイシヤウ 償つて義務を果す。つぐなひかへす。賠償する。〔淸會典事例、戶部、田賦、追賠拕欠〕能完二兩年分數一者、將二本身一釋放、家產仍封守在レ官、能完二一年分數一者、暫免二其變產一治レ罪、儻三限均不レ能レ完、卽將二財產一籍沒、變賣抵償。〔福惠全書、刑名部、人命上、禁抄搶〕自有二官法一、究治抵償。

【抵城】45 ti^3 chʻêng^2 城下にいたる。町につく。

【抵借】46 ti^3 chieh^4 抵當を入れて金を借りる。

〔抵借票〕47 ti^3 chieh^4 pʻiao^4 抵當付借用證。

【抵充】48 テイジユウ あててまにあはす。〔福惠全書、錢穀部、解給〕有二公用抵充一。

【抵觸】49 テイシヨク ふれる。ふれをかす。すれあふ。つきあたる。又、さしさはり。衝突抵牾。牴觸。觝觸。〔周禮、地官、封人、注〕楅衡所二以令一レ不レ得三抵二觸人一。〔漢書、揚雄傳上〕亶觀二夫票禽之紲隃、犀兕之抵觸一、云云。〔論衡、辯崇〕抵二觸縣官一。〔蘇洵、諫論上〕抵二觸忌諱一。

【抵針】50 ti^3 chen^1 指ぬき。

【抵制】51 ti^3 chih^4 ボイコット。不買同盟。

【抵銷】52テイセウ ❶官吏の功罪相同じ場合に、その功と罪とを相殺するをいふ。但し公罪に限る。〔清會典、處分例附例〕私罪罰俸者、皆實罰、降級調用者皆實降、雖レ有二紀錄一レ加レ級、不レ准二抵銷一。〔六部成語注解〕功過相同、准二其互相抵銷一。❷ti³ hsiao¹ ㋑減刑する。㋺二人が相互に債務を差引き棒引きにする。相殺する。

【抵選】53テイセン 其の官職に補用すべき人員のない場合に他の官職の升任すべき者を以て其の官職にあてること。〔清會典、吏部、抵撰附例〕遇二滿字堂主事都察院都事二項一、例不レ選二廕生一、卽以レ應レ升抵選、其散館庶吉士、到二班無一レ人、亦以レ應レ升抵選。

【抵兌】54テイダ ひきかへる。〔福惠全書、陞遷部、淸二錢糧一〕少則代賠、多則抵二兌別役一。

【抵滯】55テイタイ こばみとどこほる。〔白居易、微之重誇二州居一其落句有二西州羅刹之誚一因嘲二茲石一聊以寄レ懷詩〕誰知太守心相似、抵滯堅頑兩有レ餘。

【抵頽】56シタイ くづれるものをうつ。〔後漢書、皇甫嵩傳〕赫然奮發、因レ危抵レ頽。〔注〕抵、音紙、擊也。

【抵到】57 ti³ tao⁴ いたる。到着する。

【抵搪】58テイタウ てむかふ。抵抗(13)に同じ。〔長生殿、哭像〕我當時若肯將レ身去抵搪、未三必他直犯二君王一。

【抵當】59テイタウ ❶ひきあて。かた。擔保。一說に、いざといふ場合の豫備にするもので、底當の義とする。底當は器物のそこ。〔丹鉛錄〕抵當、猶レ言二豫備一也。❷てむかふ。抵抗。〔桃花扇、撫兵〕明日順レ流東去、料知沒二人抵當一。〔朱子全書、學、立心處事〕恐二事變之來一、抵當不レ去也。❸抵當權の目的物。

【抵當丸】60テイタウグワン 抵當湯を丸として更に煎じて服用する。效力抵當湯より弱い。抵當湯を見よ。〔傷寒論、辨太陽病脉證幷治中〕抵當丸方、水蛭・䖟蟲・桃人・大黃、右四味杵分爲二四丸一、以二水一升一煑。

【抵當權】61テイタウケン 物權の一。債務者又は第三者が占有したまま、債務の擔保に供した不動産につき、債權者が他の債權者に先だつて辨濟を受くべき權利。

【抵當湯】62テイタウ 漢方藥の一。水蛭・䖟蟲・桃仁・大黃の四味からなり、瘀血を下す作用がある。〔傷寒論、辨太陽病脉證幷治中〕太陽病、六七日表證仍在、云云、下血乃愈、所二以然一者、以二太陽隨一レ經、瘀熱在レ裏故也、抵當湯主レ之、抵當湯方、水蛭・䖟蟲・桃人・大黃。

【抵當物】63テイタウブツ 擔保にするもの。抵當の物件。

【抵當設定者】64テイタウセツテイシヤ 債權者に對し、抵當を提供したもの。

【抵擋】65 ti² tang³ 防ぎ止める。支へ止める。抵抗する。

【抵攩】66 ti² tʻang³ 抵抗する。防止する。

【低地】67テイチ 地になげうつ。〔後漢書、文苑下、禰衡傳〕因毀以抵レ地。〔注〕抵、擲也。

【抵賬】68 ti³ chang⁴ 決算する。抵當。

【抵敵】69テイテキ ❶あたる。はむかふ。抵抗。〔蘇舜欽、和菱磎石歌〕自嗟才力本衰弱、安敢抵敵爲二之文一。❷ti³ ti² 敵を迎へうつ。敵を防ぐ。

【抵擲】70テイテキ なげうつ。投擲。〔左思、嬌女詩〕萍實驟抵擲。

【抵突】71テイトツ つきあたる。唐突。〔後漢書、臧宮傳〕中國憂二其抵突一。〔吳志、諸葛恪傳〕升レ山赴レ險、抵二突叢棘一。

【抵破】72テイハ うちこはす。うちやぶる。〔後漢書、劉玄傳〕起抵二破書案一。

【抵排】73テイハイ おしのける。抵抗し排斥する。觝排。

【抵冒】74テイバウ さからひをかす。又、刑律を觸犯する。〔周禮、秋官、司約、治二神之約一爲レ上、注〕治者、理三其相二抵冒上下之差一也。〔漢書、禮樂志〕習俗薄惡、民人抵冒。〔注〕師古曰、抵、忤也、冒、犯也、言、無二廉恥一不二畏懼一也。〔後漢書、西南夷、白馬氏傳〕勇戇抵冒、貪レ貨死レ利。

【抵法】75テイハフ 法にふれる。法にさはる。〔漢書、杜延年傳〕或抵二其罪法一。〔羯鼓錄〕宋沇有二音律之學一、德宗召至二宣徽一、張レ樂使レ觀レ焉、沇指二一琵琶一曰、此人大逆戕忍、不日間兼卽抵レ法、不レ宜レ在二至尊前一。

【抵犯】76テイハン さからひをかす。〔論衡、辯崇〕皆畏懼信向、不二敢抵犯一。

【抵柲】77テイヒ さす。〔方言、十二〕抵柲、刺也。

【抵付】78 ti³ fu⁴ ❶抵當にする。❷償還する。

【抵埠】79 ti³ fu⁴ 入港する。港に着く。

【抵命】80 ti² ming⁴ 身代りに立つ。命を贖ふ。

【抵賴】81テイライ 承認せぬ。虛言を言ひ張る。罪を犯して承認せず詐言を以て抗言すること。抵讕。〔說文、讕、段注〕按、抵讕、猶三今俗語云二抵賴一也。

【抵讕】82テイラン 虛言を言ひ張る。拒みさへぎる。抵賴。〔說文〕讕、抵讕也。〔漢書、文三王、梁懷王揖傳〕陽病抵讕置レ辭驕嫚。〔注〕師古曰、抵、拒也、讕、誣讕也。〔新方言、釋言〕今謂下自食二前言一自隱中前事上爲二抵讕一、讕、今轉如レ賴。

【抵里】83 ti² li³ 鄉里に歸る。

【抵代稅】84 ti³ tai⁴ shuei⁴ 各國の商人が中國に輸出輸入する貨物に對して、內地關稅及び釐金稅免除の便法として、海關で徵收する稅。子口半稅(**3―6930**・・322)に同じ。

【抵不上】85 ti² pu shang⁴ 數不足で抵抗出來ない。

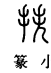
【抵不住】86 ti² pu chu⁴ 支へきれない。負擔し得ない。匹敵することが出來ない。

【抵息銀兩】87 ti³ hsi² yin² liang³ 質店で流質品を處分し元金及利子の決濟をする時、納付すべき一種の所得稅。

【抵放押款】88 ti³ fang⁴ ya¹ kʻuan³ 擔保付貸出。

【抶】11922

チツ　チチ　〔集韻〕敕栗切　彳ˋ chʻih⁴　質


小篆

むちうつ。〔說文〕抶、笞擊也、从レ手失聲。〔集韻〕抶、擊也、莊子、抶二其背一。〔左氏、文、十〕抶二其僕一以徇。〔左氏、文、十八〕歜以レ朴抶レ職。〔注〕抶、擊也。

【抷】11923

ヒ　〔集韻〕攀悲切　支

ひらく。〔集韻〕抷、披也。

【抸】11924

サフ　ソフ　〔集韻〕作荅切　合

❶**もつ**。挾(**5―12118**)に同じ。〔集韻〕挾、持也、或作レ抸。❷**ひつさげる**。扱(**5―11864**)に同じ。〔玉篇〕扱、挈也、俗作レ抸。

【抙】11925

ケウ　枵(**6―14585**)の譌字。〔正字通〕抙、枵字之譌。

【抹】11926

㊀バツ　マチ　〔集韻〕莫葛切　ㄇㄛˇ、ˋ　mo³·⁴　曷

㊁バツ　マチ　〔康熙字典〕勿發切　月

慣マツ

㊀㊁❶**する**。**なでる**。〔廣韻〕抹、抹摋、摩也。〔李紳、悲二善才一詩〕轉レ腕攏レ絃促二揮抹一。〔葛長庚、琵琶行〕手撫二琵琶一意嗚咽、挑攏撚抹緩復急。❷**はく**。ぬる。〔增韻〕抹、塗抹也、亂曰レ塗、長曰レ抹。〔杜陽雜編〕或有二詞理乖謬者一、卽濃筆抹レ之。〔羅虬、比紅兒詩〕一抹濃紅傍レ臉斜。〔黃庚、春日西園晚步詩〕斜陽紅盡處、一抹莫山橫。❸**化粧する**。〔麻九疇、紅梅詩〕淡抹濃妝得二自由一。❹**をさめる**。〔蘇軾、春菜詩〕菌陳甘菊不レ負レ渠、膾縷堆レ盤纖手抹。❺**けす**。はらふ。〔集韻〕抹、字林、抹摋、滅也。❻**すぎる**。通過する。〔宣和畫譜〕躡レ景追レ電、一抹千里。〔蘇軾、宿二野人舍一詩〕溪上青

山三百疊、快馬輕衫來一抹。〔元好問、贈二張彥遠一詩〕惆悵流年如二電抹一。❼**こな。こなにする**。末（6－14420）に通ず。〔傳燈錄〕薄二批明月一、細二抹清風一。❽〖現〗切る。切り捨てる。

【抹靨】1（マツエフ）馬の面上に病あるもの。〔琵琶記、春宴二杏園一〕一千三百個漏蹄、二千七百個抹靨。

【抹香】2（マツカウ）〖佛〗沈檀を擣いて粉抹としたもの。搭像に撒布する。今は樒の葉と皮とを乾かして細末にした香。主として佛前の燒香に用ひる。〔法華經、提婆品〕悉以二雜華抹香一供二養七寶妙塔一。

【抹香鯨】3（マツカウクヂラ）鯨の一種。眞甲鯨。

【抹香臭】4（マツカウクサシ）抹香のかをりがする。佛くさい。僧侶じみたことなどにいふ。〔俚言集覽〕末香臭、佛めきたるを云。

【抹糕】5 mo^{3} kao^{1} ぐたぐたにとろけた餅。

【抹角】6 mo^{4} chiao^{3} 曲りかど。

【抹額】7（マツガク）❶布を以て額を括る。俗に鉢卷をいふ。抹頭。〔唐書、婁師德傳〕乃自奮戴二紅抹額一來應レ詔。〔事物紀原、戎容兵械部、抹額〕二儀實錄曰、禹娶二塗山一之夕、大風雷電、中有二甲卒千人一、其不レ被レ甲者、以二紅綃帕一抹二其頭額一云、海神來朝、禹問レ之、對曰、此武士之首服也、秦始皇至二海上一有レ神朝、皆抹レ額、緋衫大口袴、侍衞自レ此抹レ額、遂爲二軍容之服一。❷（モガウ）冠の一。細纓の冠の磯（ソイ）に紅帛を鉢卷にしたもの。下級の武官などがかぶる。〔新野問答〕末額、俗云、鉢卷なり、緋の絹を以て冠の磯際を引きまとひて後にむすぶ。

【抹顏】8（マツガン）複姓。〔金史、國語解〕抹顏曰レ孟。

【抹去】9 mo^{3} ch'ü^{4} 取り消す。抹殺する。拭ひ去る。

【抹胸】10（マツキョウ）むねあて。腹掛。

【抹灰】11 mo^{4} huei^{1} 胡粉を塗る。石灰を塗る。

【抹頸】12 mo^{2} kêng^{3} 頸を斬る。

【抹殺】13（マツサツ／マツサイ）消して無くする。ぬりけす。殺は助字。抹撥。末殺。〔沈明臣、胡少保誄〕抹二殺鴻鉅一、指二索纖薄一。

【抹煞】14 mo^{3} sha^{1} 抹殺する。

【抹撥】15（マツサツ／マツサイ）けす。はらふ。抹殺。〔集韻〕撥、一曰、抹撥、掃滅也。〔韓愈、貞曜先生墓誌〕唯其大翫二於詞一、而與レ世抹撥。〔注〕抹撥、掃滅也。

【抹子】16 mo^{4} tzŭ こて。鏝。

【抹死】17 mo^{2} ssŭ^{3} 首を切って自殺する。

【抹字】18 mo^{3} tzŭ^{4} 字を消す。

【抹銷】19 mo^{3} hsiao^{1} 塗りけす。取消す。

【抹兌】20 mo^{3} tuei^{4} 差引きする。割引する。

【抹對】21 mo^{3} tui^{4} 差引きする。抹兌。

【抹茶】22（マツチャ／マツサ）石臼でひいて細末にした茶。こちゃ。ひきちゃ。〔運歩色葉集〕抹茶。

【抹頭】23（マツトウ）額部を包む巾。抹額（7）を見よ。

【抹撚】24（マツネン）複姓。〔金史、抹撚史扢搭傳〕抹撚史扢搭、臨潢路人也。

【抹撚盡忠】25（マツネンジンチュウ）金、上京路猛安の人。本名は彖多。大定の進士。官は尚書右丞行省西京。〔金史、一百一〕。

【抹撚史扢搭】26（マツネンシコツタフ）金、臨潢路の人。好んで長槍を用ふ。軍中長槍副統と稱せられ、官は驍騎將中軍副統。泰和中、和州を攻めて戰死した。〔金史、九十三〕。

【抹媚】27（マツビ）❶しらばくれてすます。〔長生殿、復召〕兩下裏抹媚誰知。❷ゆかしくやさしいさま。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕他害的有二些抹媚一、我遭著沒二三思一。

【抹媚癡】28（マツビチ）化粧狂をいふ。〔還魂記、診祟〕咱做的弄レ影團レ風抹媚癡。

【抹布】29（マツフ）ふきん。雜巾。〔菽園雜記〕民間俗諱、各處有レ之、而吳中爲レ甚、如下舟行諱レ住諱レ翻、以レ箸爲二快兒一、幡布爲中抹布上。

【抹粉】30 mo^{2} fen^{3} 白粉をぬる。

【抹藥】31 mo^{3} yao^{4} 藥をぬりつける。

【抹倫】32（マツリン）馬をいふ。蒙古語。〔剪燈餘話、至正妓人行〕抹倫晴鞠二綉鞍一乘。

【抹淚】33 mo^{3} lei^{4} 涙をぬぐふ。

【抹零】34 mo^{3} ling^{2} 端數をきりすてる。

【抹厲】35（マツレイ）草花の名。茉莉花の異名。茉莉（**9－30841・・1**）を見よ。〔丹鉛錄〕洛陽名園記云、遠方奇卉如二紫蘭抹厲一、按、卽茉莉也。

【抹麗】36（マツレイ）茉莉花の異名。茉莉（**9－30841・・1**）を見よ。〔陸以鍼、鴛湖櫂歌〕買將二抹麗一釵頭插、卻喜郎從二乍浦一來。〔注〕茉莉、一名抹麗、航海來多聚二乍浦一。

【抹糊瞪】37 mo^{3} hu^{2} têng 愚の骨頂。大馬鹿な。

【抹桌子】38 ma^{1} chuo^{1} tzŭ テーブルを拭く。

【抹脖子】39 mo^{3} po^{3} tzŭ 首を切る。

【抹一臉黑】40 mo^{3} i^{4} lien^{3} hei^{1} 顏中眞黑に墨を塗る。

【抹下臉來】41 mo^{3} hsia lien^{3} lai 可笑しい時などにふと眞面目になること。

【抹兀搭兒】42（モウタール）元の人。肖乃台の子。兩淮の地を略し、江を渡りて鄂州を攻め、阿蘭答兒を渾都海に追ふ。北征に從つて李壇と戰ひ皆功あり、提擧本投下諸色匠戶達魯花赤を授けられた。〔元史、一百二十〕・〔新元史、一百三十〕。

【抹眉小索】43（マツビセウサク）人の眉の高さ程の索で、猛獸を取る陷穽を設けた所に立てて人の注意を促すもの。〔明律、刑律、人命窩弓殺傷人〕凡打捕戶、於二深山曠野猛獸往來去處一、穿二作阬穽一、及安二置窩弓一、不レ立二望竿及抹眉小索一者、笞四十、以致レ傷レ人者、減二鬭毆傷一二等、因而致レ死者杖一百、徒二三年一、追二埋葬銀一十兩一。

【抹面無情】44 mo^{3} nien^{4} wu^{2} ch'ing^{2} 顏をそむけてつれなくする。待遇が冷酷で無情なこと。

【抹】11927

〖一〗バイ／マイ　〔集韻〕莫佩切　〖隊〗

〖二〗バイ／マイ　〔集韻〕莫貝切　〖泰〗

〖一〗〖二〗**さぐる**。〔集韻〕抹、摸也。

【抻】11928

〖一〗シン　〔集韻〕試刃切　〖震〗

〖二〗チン　〔集韻〕癡鄰切　〖眞〗

〖一〗**のべる。のばす**。〔集韻〕抻、展也、抻レ物長也。〖二〗**のばす。又、ひきもどす**。伸（**1－481**）に同じ。〔集韻〕伸、申也、引戾也、或作レ抻。

【押】11929

〖一〗アフ／エフ　〔集韻〕乙甲切　ㄧㄚ ya$^{1 \cdot 2}$　〖洽〗

〖二〗カフ／ケフ　〔集韻〕古狎切　〖洽〗

〖一〗❶**かきはん**。文書の證として自己の名を一定の字形に自書したもの。初めは其の文字は眞體を用ひたが、後には草體を用ひることになつた。花押。〔韻會〕押、說文、署也、从レ手甲聲、徐曰、今人言、文字押署、是也。〔宋史、高宗紀〕必先書レ押而後報行。〔東觀餘論〕唐人一書中云、文皇令二羣臣一上奏、任二用眞草一、惟名不レ得レ草、後人遂以二草名一爲二花押一、韋陟五朶雲、是也。❷**おす**。㋑おしつける。〔晉書、東夷、辰韓傳〕辰韓人初生レ子、便以レ石押二其頭一使レ扁。㋺おさへる。〔集韻〕押、按也。〔左思、吳都賦〕拉押摧藏。㋩詩賦で句脚に韻を用ひる。押韻。〔韻會〕押、又用レ韻曰二押言一、押者、壓也。〔滄浪詩話、詩評〕平韻可二重押一。㋥壓（**3－5557**）に通ず。〔正字通〕押、與レ壓通、韓愈遊二太平公主山莊一詩、故將臺榭押二城闉一。❸**とりしまる**。〔集韻〕押、管拘也。〔唐書、百官志二〕朝會、云云、監察御史二人押班。〔唐書、李泌傳〕分レ司押レ事。❹**おさへ**。簾額。〔徐陵、玉臺新詠序〕珠簾以二玳瑁一爲レ押。〔李商隱、燈詩〕影隨二簾押一轉。❺**印章**。印臺。〔宋史、輿服志六〕天禧元年十二月、云云、並金押玉鈕、製作精妙。❻〖現〗㋑差押へる。押收する。㋺抵當に入れる。㋩質屋。〖二〗❶**たすける**。たすけ。〔廣雅、釋詁四〕押、輔也。〔疏證〕孟子公孫丑篇、相與輔二相之一、丁公著本、相作レ押、音甲。〔集韻〕押、輔也。❷**くる**。しめる。〔增韻〕押、檢束也。〔性理大全〕制二其情欲一、使四之有三

以檢押相率而趨㆓于善㆒也。❸のり。規範。〔漢書、揚雄傳下〕蠢迪㆓檢押㆒。〔注〕師古曰、檢押、猶㆓隱括㆒也、言㆔動由㆓檢押㆒也。❹をり。とらへる。柙(6－14628)に通ず。〔仲長統、昌言〕拱㆓押天人㆒。〔注〕拱、執也、押、檻也。❺よる。なれる。狎(7－20329)に通ず。〔漢書、息夫躬傳〕羽檄重迹而押至。〔注〕師古曰、押至、言㆓相因而至㆒也、押音、狎習之狎。❻押籬(82)を見よ。［邦］❶おす。強力を以て無理におしつける。押し借り。❷おし。無理に我意を通さうとすること。押が太い。

【押印】1（アフイン）印を押すこと。

【押韻】2（アフヰン）❶詩に韻を用ひるをいふ。〔捫蝨新話〕韓退之詩出謂㆓押韻之文㆒耳、然自有㆓一種風韻㆒。〔詩評〕倒押韻如㆘韓愈碧流滴瓏玲、光景何鮮新、杏花兩株能白紅、及用㆓慨慷莽鹵㆒之類㆖甚多。❷書名。十卷。宋、張孟撰。〔宋史、藝文志一〕。

【押羽】3（オシバ）鳥の羽のねもとにある極めて柔くて短い毛。

【押運】4（アフウン）監督して運送する。護送する。〔清會典、吏部〕糧則漕運總督、分㆔其治㆓於糧儲道㆒、道分㆔其治㆓於押運官㆒以治㆑運。〔六部成語、戶部、押運、注解〕押㆓送漕運㆒之官也。

【押葉】5（オシバ）草木の葉・花を標本に造るために、紙の間に挾んで水分を取つたもの。腊葉。

【押宴】6（アフエン）管理の役をおいてする鄭重なさかもり。又、宴席を管理する。管燕。〔宋史、歐陽脩傳〕脩遷㆓翰林學士㆒、使㆓契丹㆒、其主命㆓貴臣四人㆒押宴曰、此非㆓常制㆒、以㆓卿名重㆒故爾。

【押價】7 ya^1 chia^4 押地の價格。抵當價格。

【押衙】8（アフガ）官名。天子の護衞兵の長。衙は儀仗侍衞の義。〔舊唐書、睿宗諸子、惠文太子範傳〕我金吾、天子押衙、死生隨㆑之、安能自脫。〔五代史、漢高祖紀〕高祖留㆓守北京㆒、以㆓知遠㆒爲㆓押衙㆒。

【押解】9（アフカイ）罪人を護送する。押送する。〔清會典事例、吏部、書吏、承充〕題參革究、押解回籍。〔六部成語、戶部、押解、注解〕押、管押也、管理解送。

〖押解差〗10 ya^1 chieh^3 ch'ai^1 囚徒を護送する役。護送係。

【押角】11（アフカク）唐代、四人の大臣が事を計るに一榻の四隅に腰掛けたことをいふ。〔容齋隨筆、典章輕廢〕唐兩省官上㆑事、宰臣送上、四相共坐㆓一榻㆒、各据㆓一隅㆒、謂㆓之押角㆒。

【押期】12 ya^1 ch'i^2 質入期限。

【押櫃】13 ya^1 kuei^4 商家徒弟の身元保證金。

【押脚】14 ya^1 chiao^3 重要な電報の末尾に添へる暗號文字でこれは發信者を示す。

【押局】15 ya^1 chü^2 質屋の別名。押鋪。

【押貨】16 ya^1 huo^4 商品を抵當に入れる。

【押回】17（アフクワイ）警護してかへらす。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕著㆓地方㆒押回、就㆓于本處㆒示㆑衆。

【押掛】18（オシカケ）❶おしかける。〔浮世床、二、下〕なんぞおいしい物がござりますなら、押しかけのお客に參ります。❷馬具の一。馬の頭・胸及び尾より鞍にかける組緒。面繫・胸繫・尻繫の三繫をいふ。

【押匯】19 ya^1 huei^4 荷爲替。商業用語。

【押繪】20（オシヱ）人物・花鳥・禽獸等の形を厚紙で作り、之に綿を少しふくめ、物に貼付けて作つた繪。

【押黃】21（アフクワウ）古の引黃。唐代、天子の敕書は黃紙を用ひた。既に敕を降して更改することがあれば、乃ち黃紙で帖す、之を帖黃といひ、又、押黃といふ。宋代は、奏狀や劄子は皆白紙を用ひた。意の盡さない所があれば、其の要處を揭げ、黃紙で、後に別書した、これも帖黃といふ。帖黃。〔唐國史補、下〕黃敕既行下、有㆓小異同㆒、曰㆓帖黃㆒、一作㆓押黃㆒。〔石林燕語、三〕唐制、降㆑敕有㆑所㆓更改㆒以㆑紙貼㆑之、謂㆓之貼黃㆒、蓋、敕書用㆓黃紙㆒、則貼者亦黃紙也。

【押款】22 ya^1 k'uan^3 ❶擔保付貸附。❷擔保付の金。

〖押款合同〗23 ya^1 k'uan^3 hê^2 t'ung^2 擔保付借貸金の契約書。

【押型】24（オシガタ）版木の上に紙を當て、蠟墨で版木の模樣を刷りとつたもの。

【押繳】25 ya^1 chiao^3 贓品を返納するまで拘禁する。押追(60)に同じ。

【押血】26（アフケツ）血判の血。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏下〕已而誓書出、押血模糊。

【押券】27（アフケン）署名した文書。〔韓非子、外儲說右下〕王將㆑聽㆑之矣、田嬰令㆔官具㆓押券斗石參升之計㆒、王自聽㆑計、計不㆑勝㆑聽、罷、食後復坐、不㆓復暮食㆒矣。〔集解〕此押券、卽右券木押。

【押權】28 ya^1 ch'üan^2 抵當權。

【押伍】29（アフゴ）軍用語。軍隊の出陣、行軍等の時に、その後に居つて、逃走、離隊等の兵を法によつて處罰するもの。

【押差】30（アフサ）❶年貢取立のために派遣された役人。〔福惠全書、錢穀部、漕項、米色刁難〕以致㆓押差保歇乘機講㆑兌。❷ya^1 ch'ai^1 罪人を護送する役人。

【押坐】31 ya^1 tsuo^4 拘留する。監禁する。

【押產】32 ya^1 ch'an^3 財產を差押へる。財產を抵當に入れる。

【押司】33 ya^1 ssŭ^1 官名。宋代の縣吏のやうな小役人をいふ。

【押紙】34（オシガミ）主意などを認めて、文書に張付けた別紙。つけがみ。附箋。〔古今著聞集、十一〕後白河院御時、云云、こまかに御覽じて、僻事ある處處に押紙をして、その誤を御自筆にて記しつけて。

【押字】35（アフジ）❶かきはんの文字。名乘の字を一種の草體に略して書いて印とするもの。花押。華押。又、花押する。〔東觀餘論〕唐人一書中云、文皇令㆓羣臣㆒、上奏、任㆓用眞草㆒、惟名不㆑得㆑草、後人遂以㆓草名㆒爲㆓花押㆒、韋陟五朶雲、是也、魏晉以來書法、至㆑梁御府藏㆑之、皆是朱異・唐懷充・沈熾文・姚懷珍等、題㆓名于首尾紙縫間㆒、故或謂㆓之押縫㆒、或謂㆓之押尾㆒、祇是書㆑名耳、後人花押、乃以㆑草記㆓其自書㆒、故謂㆓押字㆒、沿㆓襲此㆒耳。〔癸辛雜識〕古人押字、謂㆓之花押印㆒、是用㆓名字㆒稍花㆑之、如㆓韋陟五朶雲㆒、是也。〔程史〕押字之制、世以爲㆑起㆓于唐韋陟五朶雲㆒、而不㆑知㆓晉已有㆑之。〔歸田錄〕今俗謂㆓草書名㆒爲㆓押字㆒也。〔日知錄、雜事、押字〕集古錄、有㆓五代時帝王將相等署字一卷㆒、所謂署字者、皆草㆓書其名㆒、今俗謂㆓之畫押㆒、不㆑知㆑始㆓於何代㆒、岳珂古冢盆杅記、言得㆓晉永寧元年甓㆒、有㆓匠者姓名㆒、下有㆔文如㆓押字㆒、則晉已有㆑之、然不㆑可㆑考。❷詩の押韻をいふ。〔梁溪漫志〕荆公・東坡・魯直、押韻最工、而東坡尤精㆓于次韻㆒、如㆑作㆓梅詩・雪詩㆒、押㆓暾字・叉字㆒特工。

【押收】36（アフシウ）官吏が職權を以て人民の財產をさしおさへて官に取り上げるをいふ。沒收。

【押質】37 ya^1 chih^4 擔保。抵當。押當。

【押車】38 ya^1 ch'ê^1 車を管理する。

【押上】39（オシアゲ）おしあげる。

〖押上戶〗39′（オシアゲド）上に押しあげて鉤又は棧などで留めておくやうに作つてある戶。

〖押上喞筒〗40（オシアゲポンプ）筒の側面に上に向いた管を出し、活栓をあげる時吸上げられた水を、活栓の力で側面の管に進入させ、高く押上げられるやうに造つてある喞筒。

【押手】41（オシテ）❶しるしとして押すもの。手形印・燒印等をいふ。〔仁和大嘗會の歌〕神代より天の於志弖の動きなきしるしに立てし岩屋山かも。❷射術で左の手をいふ。ゆんで。❸琴を彈く時、左手で絃をおすこと。又、その手。〔源氏、紅梅〕琵琶はおしでしづやかなるを、よきにするものなるに。

【押出】42（アフシユツ）警護。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕原差押出、卽日掛㆑牌候㆑審。

【押署】43（アフシヨ）印をおし名を書く。署名捺印。〔韻會〕押、置也、今人言㆓文字押署㆒是也。

【押赤】44（アフセキ）城の名。雲南省羅次縣の東南。〔元史、兀良合台傳〕攻㆓云云羅部㆒。進至㆓烏蠻所㆑都押赤城㆒、城際㆑滇池、三面皆水、既險且堅。

【押船】45 ya^1 ch'uan^2 船舶を管理する。

【押租】46 ya^1 tsu^1 借家の敷金。

【押送】47（アフソウ）囚人などを或る官衙より他の官衙に護送すること。〔清會典事例、刑部、刑律捕亡、主守不㆑覺㆑失㆑囚〕儻有㆓疏虞㆒、該撫題參斥革、其尋常解犯、仍照㆑例選㆑差押送。

【押帶】48 ya^1 tai^4 召連れて護送する。

【押貸】49（アフタイ）おしがし。〔福惠全書、雜課部、當稅〕押㆓貸米穀糧食㆒者。

【押到】50 ya^{1} tao^{4} 引致する。拘引する。

【押當】51 ya^{1} tang^{4} 抵當にする。質入する。

【押纛】52（アフタウ） 纛を押し立てる旗手。〔金史、儀衞志上〕天眷法駕人數、云云、押纛二人。

【押揭】53（アフタフ） 重なるさま。〔集韻〕揭、押揭、重接兒。

【押攤】54 ya^{1} t‘an^{1} 骰子を振る。

【押地】55 ya^{1} ti^{4} 土地を擔保とする。又、其の金融方法。

【押賬】56 ya^{1} chang^{4} 借金の抵當。

【押注】57 ya^{1} chu^{4} 裏書する。

【押住】58 ya^{1} chu^{4} 差押へる。

【押陣】59 ya^{1} chen^{4} あとおさへ。あとおさへする。押後陣。

【押追】60（アフツイ） 拘禁の上、贓品を返還させる。贓品を返納するまで拘禁する。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕戸頭具禀拘責押追。

【押丁】61 ya^{1} ting^{1} 刑務所の最下級の役人。

【押抵】62 ya^{1} ti^{3} 抵當にする。質入する。押質。

【押典】63 ya^{1} tien^{3} 抵當にする。押當。

【押鮎】64（オシアユ） 塩漬した鮎。古、正月元旦の儀式に用ひたもの。〔西宮記、一、正月元旦、供御藥〕押鮎一盤。

【押冬】65 ya^{1} tung^{1} 冬を越す。冬籠する。

【押頭】66（アフトウ） ❶書籍の題簽をいふ。〔正字通〕題、又書籤、隋唐藏書、皆金題玉躞、題、押頭也、猶二今書面籤題一。❷ya^{1} t‘ou^{2} 抵當品。

【押捺】67（アフナツ） 印を押すこと。捺印。〔韻會〕捺、乃曷切、手重按也。

【押入】68（オシイレ） ❶財物などを入れて置く戸棚。❷（オシイリ） 人家に押入つて財物を強奪するもの。強盜。〔傾城反魂香、上〕夜盜、押入り手引か。

【押賣】69（オシウリ） 強ひて賣りつけること。強賣。〔俳度曲〕藪入に押賣するぞふくさ帶。

【押房】70 ya^{1} fang^{2} 家屋を抵當にする。

【押發】71 ya^{1} fa^{1} 罪人を護送する。押解。

【押板】72 ya^{1} pan^{3} ❶商家徒弟の身元保證金。押櫃に同じ。❷（オシイタ）㋑書院の床の間。〔曾我物語、十〕おしいたには、古今、萬葉を初めとして、源氏、伊勢物語に至るまで、數の冊子を積みおき。㋺單に物を押しつけるに用ひる板。

【押班】73（アフハン） ❶百官の著席する位次のことをとりあつかふ。〔唐書、百官志三〕朝會、云云、監察御史二人押班。〔唐國史補、下〕御史故事、大朝會、則監察押班。〔李洞、題二劉相公茅亭一詩〕野色迷二亭曉一、龍墀待二押班一。❷官名。宋代の初、内中高品班院に屬す。或は檢校官の兼職としたが、淳化以後、初めて崇班以上を以て之に充てた。〔事物紀原、環衞中貴部、押班〕國初有二内中高品一、班院有二押班一、後隨レ省改二易其名號一、宋朝會要曰、初押班無二他職一、或加二檢校官一、淳化後、始以二崇班以上一充、此押班之始也。

【押尾】74（アフビ） 法書の紙の繼目に印などの代りに花押のやうに書いたもの。後世の花押の起源となる。〔東觀餘論〕魏晉以來書法、至レ梁御府藏レ之、皆是朱異・唐懷充・沈熾文・姚懷珍等、題二名于首尾紙縫間一、故或謂二之押縫一、或謂二之押尾一、祇是書レ名耳、後人花押、乃以レ草記二其自書一、故謂二押字一沿二襲此一耳。

【押附】75（オシツケ） ❶押しつける。強制する。❷鎧の背の最上部で綿がみに連る板。押附板。

〔押附板〕75′（オシツケイタ） 鎧の後肩に當る板。〔盛衰記、三十〕己は手塚が郎黨にや、餘すまじと云ふままに、鎧の押附の板をつかまへ。

【押票】76 ya^{1} p‘iao^{4} ❶荷爲替手形。❷檢察官が被告を拘束すること。❸粮食係が暫らく粮票に書込まないこと。

【押保】77（アフホ） いましめまもる。警護。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕將二任姓父子一收レ監、高某等押保。

【押舖】78 ya^{1} p‘u^{4} 官許を經てゐない小さい質屋。小押。

【押封】79 ya^{1} fêng^{1} 沒收する。差押へる。

【押縫】80（アフホウ） 紙の合せ目、又は紙の接ぎ目に署名捺印すること。押尾(74)を見よ。

【押名】81 ya^{2} ming^{2} 署名する。

【押籬】82（カフリ） かべ。〔廣韻〕押、押籬、壁也。

【押領】83（アフリヤウ） ❶まもる。護衞(**10－36048‥3**)に同じ。〔薛調、劉無雙傳〕汝易二衣服一、押二領此物一。❷兵卒を監督統率すること。〔續日本紀、二十二〕天平寶字三年十一月、國別差二發二千已下兵一、擇二國精幹者一人一押領、速相救援。❸威力を以て他人の土地・財物等を奪取すること。橫領。〔東鑑、二〕治承六年六月五日、武藏國舊領等、停二止直光之押領一。

〔押領使〕84（アフリヤウシ） ❶王朝時代に諸國の亂暴者を鎭撫するため派遣せられた役人。多くは國司の兼任であつた。〔三代實錄、陽成〕元慶二年七月十日、遣二上野押使權大掾南淵秋鄕等一率二上野國見到兵六百餘一、屯二秋田河南一。❷疱瘡の腫物の異名。〔東鑑、三十二〕將軍家依二御疱瘡餘氣一、御股御膝腫物、號二押領使一二十四箇處、令レ出給。

【押籠】85（オシコメ） ❶おしこめる。❷德川時代、刑罰の一。禁錮。蟄居。〔御定書百箇條〕一、押込、他出不レ爲レ仕、戸を建寄置。

【押匣子】86 ya^{1} hsia^{2} tzŭ 滿洲の奉天地方で婚禮輿入れの時、他の禮品の外廻り書を詰めた匣と嫁の年齡一年一兩づつの割合で、銀を詰めた匣と二箇を携へること。

【押荒銀】87 ya^{1} huang^{1} yin^{2} 土地開墾者が上納する地代。

【押畫號】88 ya^{2} hua^{1} hao^{4} 花押する。署名する。

【押乾稞】89 ya^{1} ch‘ien^{2} k‘ê^{1} 四川省東部の貸借慣習の一。穀物で利息の支拂を約定するもの。

【押後陣】90 ya^{1} hou^{4} chen^{4} あとおさへする。

【押後兵】91（アフゴヘイ） 軍の後の壓への兵。〔紀效新書〕押後兵二十五名、各用二長短器一。

【押歲錢】92 ya^{1} suei^{4} ch‘ien^{2} お年玉。御歲暮。

【押箱錢】93 ya^{1} hsiang^{1} ch‘ien^{2} 婚禮の時長持に入れて行く持參金。

【押日子】94 ya^{2} jih^{4} tzŭ 日付を書き込む。

【押身子】95 ya^{1} shen^{1} tzu 人質になる。

【押小路】96（オシコウヂ） 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【押切判】97（オシキリバン） 割判。契印。〔知行所申渡條目〕庭帳之とぢめには、後人弁云云、五人組、内外に急度押切判可レ仕候。

【押他作】98 ya^{1} t‘a^{1} tsuo^{4} 無理やりにさせる。

【押佃所】99 ya^{1} tien^{4} suo^{3} 小作料未納の小作人を處罰するために設けられた留置場。

【押年魚】100（オシアユ） 鮎を塩漬にしたもの。〔土佐日記〕芋も荒布も齒固もなし、ただおしあゆの口をのみぞ吸ふ。

【押不蘆】101（アフフロ） 草の名。〔本草、坐拏草〕附錄、押不蘆、時珍曰、按、周密癸辛雜志云、漢北回回地方有レ草、名二押不蘆一。

【押標金】102 ya^{1} piao^{1} chin^{1} 入札保證金。

【押明方】103（オシアケガタ） 夜のあけがた。〔源氏物語、榊〕おしあけがたの月影に、法師ばらの閼伽奉る。

【押問答】104（オシモンダフ） 互に意見を主張して讓らぬこと。互に問答して論じあふこと。

【押案追比】105 ya^{1} an^{4} chuei^{1} pi^{3} 贓品を返納するまで拘禁する。押追(60)に同じ。

【押寨夫人】106 ya^{1} chai^{4} fu^{1} jen^{2} 匪徒の妻。

【押用銀兩】107 ya^{1} yung^{4} yin^{1} liang^{3} 商品を抵當として金を借用するをいふ。

【押六地兒】108 ya^{1} liu^{4} ti^{4} êrh 賭博の名。

【抽】11930

㈠ チウ（チユ） 〔集韻〕丑鳩切 尤 ㄔㄡ ch‘ou^{1}

㈡ チウ（ヂユ） 〔集韻〕陳留切 尤

㈠㈡❶**ひく。ぬく。**㋑ひきぬく。㨨(**5－12699**)に同じ。〔集韻〕㨨、說文、引也、或从レ由。〔莊子、天地〕挈レ水若レ抽。〔釋文〕抽、李云、引也。㋺ぬきだす。〔廣雅、釋詁三〕抽、拔也。〔左氏、宣、十二〕抽二矢菆一。〔注〕抽、擢也。㋩のぞく。さる。〔詩、小雅、楚茨〕言抽二其棘一。〔傳〕抽、除也。〔儀禮、喪服傳〕抽二其半一。〔注〕抽、猶レ去也。❷**ぬきんでる。**ぬきでる。ひいでる。〔束皙、補亡詩〕木以レ秋零、草以レ春抽。❸**だす。**いだす。でる。〔詩、鄭風、牆有茨〕不レ可レ讀也、傳、讀抽也、箋〕抽、猶レ出也。〔太玄經、玄攡〕抽二不抽之緒一。〔注〕抽、出也。❹**さく。**やぶる。〔左氏、昭、六〕不レ抽レ屋。〔服注〕抽、裂也。❺**をさめる。**取り入れる。〔太玄經、玄瑩〕羣綸抽レ緒。〔注〕

抽、猶レ收也。❻をさめる。よくする。〔太玄經、玄瑩〕抽、理也。❼にぎる。〔淮南子、齊俗訓〕必有二穿レ窬拊レ楗抽レ箕踰レ備之姦一。〔注〕抽、握也。❽よむ。〔方言、十三〕抽、讀也。〔詩、鄘風、牆有茨〕不レ可レ讀也、〔傳〕讀、抽也。❾きづく。築(**8－26298**)に通ず。〔說文通訓定聲〕擂、叚借爲レ築。〔詩、小雅、斯干〕椓レ之橐橐、〔箋〕椓、謂二擂土一也。❿紬(**8－27338**)に通ず。〔漢書、谷永傳〕燕見二紬繹一、〔注〕師古曰、紬、讀曰レ抽。〔宋玉、高唐賦〕紬二大絃一、〔注〕善曰、紬、引也、音抽。⓫盩(**8－23060**)に通ず。〔呂覽、節喪〕涉レ血盩レ肝以求レ之、〔注〕盩、古抽字。⓬うつ。〔元曲〕如今把二嫩皮膚一去受二粗棍兒抽一。⓭［現］㋑する。すふ。㋺ちぢむ。㊇全部の中に就いて其の若干を取る義。

【抽引】1（チウイン） ひきだす。〔釋名、釋采帛〕紬、抽也、抽二引絲端一出二細緒一也。〔淮南子、要略〕雖レ未三能抽二引玄妙之中一、才繁然足二以觀二終始一矣。

【抽噎】2 ch‘ou¹ yeh¹ しやくり泣きする。

【抽捐】3（チウエン） 税を取立てる。又、寄附金を集める。〔清會典事例、戸部、釐税、直省釐局〕咸豐六年奏准、盛京兵餉支絀、現令下店商於二買貨之家一、照二所レ買價値一、每二東錢百千一、抽二捐東錢一千一、每二糧十石一、捐二東錢一千一、不レ及者以レ次遞減上、兩月以來、辦理已有二成效一、請飭二吉林一體一照辦。

【抽烟】4 ch‘ou¹ yen¹ 喫咽する。烟草を吸ふ。

【抽演】5（チウエン） 演繹する。〔潘尼、釋奠頌〕抽二演微言一、啓二發道眞一。

【抽芽】6（チウガ） 草木が芽をぬき出す。又、ぬきでた芽。〔茶苑總錄〕嫩葉抽レ芽。

【抽解】7（チウカイ） ❶租税を取り立てる。〔大學衍義補、制二國用一、市糴之令〕熙寧創二立市舶一、以通二貨物一、舊法抽解、有二定數一、而取レ之不レ苛、納税寬二其期一、而使二之待レ價、懷レ遠之意、實寓焉。❷ ch‘ou¹ chieh³ 便所へ行く。兩便に行く。

【抽攷】8 ch‘ou¹ k‘ao³ 選拔する。

【抽殺】9 ch‘ou¹ yao² 三月十七日の娘媽會に其の供物を各戸に分配して廻る行事。廣東地方の風習。

【抽割】10（チウカツ） さきわる。さいてぬき出す。〔後漢書、方術下、華佗傳〕抽二割積聚一。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕哀慕抽割、震二動于厥心一。

【抽匣】11（チウカフ） ひきだし。抽斗。〔權德輿、奉二和張僕射朝天行一詩〕見二公抽匣百鍊光、試欲レ磨レ鉛諒無レ助。〔李紳、憶レ過二潤州一詩〕弓犯二控弦一招二武旅一、劍當二抽匣一問二狂夫一。

【抽閒】12 ch‘ou¹ hsien² 暇を繰合す。閑暇を見出す。

【抽氣】13 ch‘ou¹ ch‘i⁴ ❶喘ぐ。❷空氣を拔く。

〖抽氣機〗14 ch‘ou¹ ch‘i⁴ chi¹ 空氣ポンプ。

【抽筋】15 ch‘ou¹ chin¹ 筋が引きつる。痙攣。

〖抽筋扒骨〗16 ch‘ou¹ chin¹ pa¹ ku³ 筋骨を勞する。

【抽空】17 ch‘ou¹ k‘ung¹ 暇をこしらへる。暇をぬすんで。

〖抽空兒〗18 ch‘ou¹ k‘ung¹ êrh 餘暇をつくる。時間を繰合せる。抽閒。

【抽課】19（チウクワ） 清代、課税物の幾分を抽出し、之を税物として徵收すること。〔清會典事例、戸部、雜賦、銅鐵錫鉛礦課〕廣西省恭城縣屬山斗岡銅礦、每二百斤一、抽二課十五斤一。

【抽換】20（チウクワン） 拔き換へる。すりかへる。〔清會典事例、戸部、漕運、隨漕席木板竹〕嘉慶二十三年、又奏准、湖廣、江西等省、每年隨レ漕辦二解十分本色松板一、帶レ運到レ通、派二儲京通各倉一、以爲二鋪墊廒座之用一、定爲二十六年抽換一次一。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕抽換之弊可レ免矣。

【抽還】21 ch‘ou¹ huan² 抽籤で償還する。

【抽脅】22（チウケフ） あばらのすぢを引きぬく。〔漢書、刑法志〕增二加肉刑一、大辟有二鑿顚・抽脅・鑊亨之刑一。〔列女傳、辯通、齊太倉女傳〕抽脅者笞、刖足者鉗。

【抽劍】23（チウケン） 劍をぬく。〔左氏、襄、十八〕大子抽レ劍斷レ鞅。〔左氏、昭、二十七〕抽レ劍刺レ王。

【抽繭】24（チウケン） 繭の絲をぬき出す。〔陸倕、新漏刻銘〕微若二抽繭一、逝如二激電一。

【抽工】25 ch‘ou¹ kung¹ 暇を繰合す。抽閒。抽空。

【抽沙】26（チウサ） 土地がよく崩れて沙が外にぬけ出る所をいふ。〔東軒筆錄〕麟州距河外、云云、其地善崩、俗謂二之抽沙一。

【抽查】27 ch‘ou¹ ch‘a² 拔き取つて檢査する。

【抽裁】28（チウサイ） ぬき出して取除く。〔六部成語、兵部、抽裁、注解〕從二大隊兵中一、抽二出幾分一、作二爲裁撤之數一。

【抽子】29 ch‘ou¹ tzŭ 巾着形の財布。

【抽矢】30（チウシ） 矢をぬきとる。〔左氏、哀、十一〕抽レ矢策二其馬一。〔孟子、離婁下〕抽レ矢叩レ輪、去二其金一、發二乘矢一而後反。〔唐書、忠義中、張巡傳〕抽レ矢回二射佛寺浮圖一。

【抽思】31（チウシ） 楚辭九章の篇名。

【抽絲】32（チウシ） 絲をつむぐ。絲を繰る。〔陸倕、新漏刻銘〕微若レ抽レ繭、〔注〕向曰、言二水下之微、如二繭之抽レ絲。

【抽收】33（チウシウ） 徵收する。〔清會典事例、戸部、釐税、直省釐局〕咸豐八年諭、嗣後豫省釐捐、著專收二水煙藥材茶葉三大宗一、其餘如二紬布皮貨等一、一概不二必抽收一、並將二陝州荆子關等局、及沿河各卡委員丁役等一、悉行二裁撤一、其抽釐事務、卽歸二該各地方官一經理、試行二一年一、如果實有二成效一、准下俟二軍務完竣後一停止上。

【抽象】34（チウシヤウ） 箇々の具象に共通してゐる性質を抽出し、之を統括して一つの新しい觀念とする心のはたらき。abstraction 具象(**2－1473··37**)、又、具體(**2－1473··70**)の對。

〖抽象的〗35（チウシヤウテキ） 共通性を抽出して、之を統括したもの。具體的(**2－1473··73**)の對。

〖抽象美〗36（チウシヤウビ） 抽象的に類別した美。卽ち、その種類に共通な美的觀念。

〖抽象名詞〗37（チウシヤウメイシ） 箇々の具象からひきだした性質をあらはす名詞。例へば美・惡・黑・白・忍耐・勉強等の類。

【抽奬】38（チウシヤウ） 多數の中からぬき出してほめる。拔擢して賞用する。抽賞。〔呂溫、代二鄭南海一謝上表〕曾未レ踰レ年、忽蒙二抽奬一。

【抽賞】39（チウシヤウ） 多數の中からぬき出してほめること。抽奬に同じ。

【抽殳】40（チウシユ） ほこをぬく。〔左氏、昭、二十一〕張匄抽レ殳而下。〔注〕殳、長丈二尺、在二車邊一。

【抽取】41 ch‘ou¹ ch‘ü³ 拔き取る。

【抽出】42（チウシユツ） 拔きだす。ひきだす。

〖抽出應份〗43 ch‘ou¹ ch‘u¹ ying⁴ fen⁴ 一定の財產中より抽出して自分の所有となる。

【抽筍】44（チウジユン） ❶筍をひきぬく。〔謝靈運、孝感賦〕孟積レ雪而抽レ筍、王斲レ氷以鱠レ鮮。❷筍が發生すること。〔韓愈、南山詩〕或亂若二抽筍一、或嵲若二注炙一。〔歐陽脩、滄浪亭詩〕新篁抽筍添二夏影一。

【抽緒】45（チウシヨ） いとぐちを收める。〔太玄經、玄瑩〕羣倫抽レ緒。〔注〕抽、猶レ收也。

【抽稱】46（チウシヨウ） えりだしてはかりにかける。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕或連稱、或抽稱。

【抽心】47（チウシン） ❶誠心をあらはす。〔後漢書、文苑傳贊〕抽レ心呈レ貌、非レ彫非レ蔚。❷草のしんがぬけ出る。〔孔平仲、馬上口占詩〕凍條桑破レ眼、燒地草抽レ心。

〖抽心舍〗48（チウシンシヤ） 狹長式の家屋。細長い建物。前後兩廳の閒に在つて、連絡を爲すもの。今の穿堂のやうなもの。唐代、常參の官でなければ、抽心舍を用ひることはできなかつた。〔稽古定制、唐制〕一、凡王公以下屋舍、不レ得レ施二重栱藻井一、三品以上堂舍、不レ得レ過二五間九架廈兩頭一、門屋不レ得レ過二三間五架一、五品以上堂舍、不レ得レ過二五間七架廈兩頭一、門屋不レ得レ過二三間兩架一、仍通作二烏門一、六品七品以下堂舍、不レ得レ過二三間五架一、門屋不レ得レ過二一間兩架一、非二常參官一不レ得下造二抽心舍一施中懸魚瓦獸乳梁裝飾上、其祖父舍宅門廕子孫、雖レ廕盡聽下依二舊居一住上、王公以下、及庶人第宅、皆不レ得下造二樓閣一臨中人家上、庶人所レ造房舍、不レ得レ過二三間四架一、不レ得三輒施二裝飾一。

【抽身】49（チウシン） 身を引いて去る。身を脫する。〔蘇軾、李頎秀才善畫レ山以二兩軸一見レ寄仍有レ詩次レ韻答レ之詩〕詩句對レ君難レ出レ手、雲泉勸レ我早抽レ身。

【抽進】50（チウシン） 衆人の中から拔擢する。〔南史、顏延之傳〕延之昔坐レ事屏斥、後蒙二抽進一。

【抽簪】51（チウシン） ❶かんざしをぬく。〔淮南子、說林訓〕抽レ簪招レ燐。❷官を辭す。簪は冠を髮にとめるもの。仕官するものは必ず髮を束ね、冠

を整ふ。故に抽簪は官を辭することをいふ。〔張協、詠史詩〕抽㆑簪解㆓朝衣㆒、散㆑髮歸㆓海隅㆒。〔注〕銑曰、簪、冠簪也、凡束髮爲㆓從官㆒、散髮爲㆓罷官㆒。〔南史、庾子輿傳〕父卒、云云、服闋、云云、仍布衣蔬食、志㆑守㆓墳墓㆒、叔該謂曰、汝若固㆑志、吾亦抽簪、於㆑是始仕。〔庾信、小園賦〕試偃㆓息于茂林㆒、迺久羨㆓于抽簪㆒。〔沈約、應㆑詔樂遊苑餞㆓呂僧珍㆒詩〕將㆔陪告㆓成禮㆒、待㆑此未㆑抽㆑簪。

【抽水】52 chʻou^1 shuei^3 ❶水を吸上げる。❷頭をはねる。割前をとる。抽分(83)に同じ。

〖抽水器〗53 chʻou^1 shuei^3 chʻi^4 唧筒をいふ。

〖抽水機〗54 chʻou^1 shuei^3 chi^1 唧筒をいふ。

〖抽水馬桶〗55 chʻou^1 shuei^2 ma^2 tʻang^3 水掃便所。

【抽掣】56 チウセイ うちたたく。〔還魂記、聞喜〕正高弔起猛桃條細抽掣、被㆓官裏人㆒搶去遊街歇。

【抽稅】57 チウゼイ 稅金を取る。〔江表志〕漸高云、雨怕㆑抽㆑稅、不㆓敢入㆑城。

【抽梢】58 チウセウ たかくぬき出てゐるこずゑ。〔杜甫、送㆔韋郎司直歸㆓成都㆒詩〕爲問南溪竹、抽梢合㆑過㆑牆。

【抽線】59 チウセン 絲を引き出す。絲を拔く。〔韓偓、詠手詩〕腕白膚紅玉筍芽、調㆑琴抽㆑線露尖斜。

【抽籤】60 チウセン 神佛を祈つて鬮を引いて吉凶を判斷する。又、くじをひく。くじびき。〔幸蜀記〕王衍禱㆓張惡子廟㆒、抽㆑籤得㆓逆㆑天者殃四字㆒。

【抽打】61 chʻou^1 ta^3 ❶拂ふ。❷打つ。ひつぱたく。

【抽替】62 チウタイ 箱の引出し。抽斗。〔癸辛雜識〕李仁甫爲㆓長編㆒、作㆓木廚十二枚㆒、每㆑廚作㆓抽替匣十二枚㆒、每㆑替以㆓甲子㆒誌㆑之。

【抽刀】63 チウタウ 刀を拔く。〔北史、齊文宣帝紀〕神武嘗令㆔諸子各理㆓亂絲㆒、帝獨抽㆑刀斬㆑之曰、亂者須㆑斬、神武以爲㆑然。〔李白、宣州謝脁樓餞㆓別校書叔雲㆒詩〕抽㆑刀斷㆑水水更流、擧㆑杯銷㆑愁愁復愁。

【抽導】64 チウダウ ひきだしみちびく。〔晉書、戴邈傳〕皆所㆘以抽㆓導幽滯㆒、啓㆗廣才思㆖。

【抽擢】65 チウタク えり拔く。衆中よりぬきだして用ひる。拔擢。抽拔。〔急就篇〕抽擢推擧白黑分。〔韓愈、上㆓宰相㆒書、後十九日復上書〕時宰相薦聞、尚有㆘自㆓布衣㆒蒙㆓抽擢㆒者㆖。

【抽單】66 チウタン 佛禪僧が寺を離れて去ること。己が單位を抽き取る意。起單(**10－37048‥136**)を見よ。〔禪林象器箋、叢軌門〕起單亦曰㆓抽單㆒、抽㆓下單位㆒也。

【抽腸】67 チウチヤウ 腸をぬく。はらわたをぬき出す。又、誠心を盡すこと。〔劉峻、廣絕交論〕摩㆑頂至㆑踵、隳㆑膽抽㆑腸。〔注〕濟曰、抽、拔也、言㆑盡㆑心也。〔顏氏家訓、敎子〕竟以㆓言語不㆑擇、爲㆓周逖㆒抽㆑腸釁㆑鼓云。

【抽丈】68 チウヂヤウ えりだしてけんざを入れる。〔福惠全書、淸丈部、總論〕不㆑過㆔略爲㆓抽丈㆒已耳。

【抽除】69 chʻou^1 chʻu^2 除く。棄てる。

【抽丁】70 chʻou^1 ting^1 壯丁を徵發する。

【抽屜】71 chʻou^1 tʻi 箱のひきだし。

〖抽屜桌〗72 chʻou^1 tʻi chuo^1 引出し付のテーブル。

【抽調】73 チウテウ えりぬいてしらべる。〔福惠全書、郵政部、腰站〕在㆓本驛各夫各下㆒、均勻抽調。

【抽斗】74 チウト ひきだし。斗は總てますの形したものにいふ。抽匣(11)に同じ。

【抽頭】75 チウトウ ❶頭をはねる。上前をはねる。割前を取る。手數料。〔牧猪閒話〕。❷chʻou^1 tʻou 引出し。

【抽讀】76 チウドク ぬきよみ。多くの書物の中から或る部分を拔き取つてよむ。〔李頻、過㆓嵩陰隱者㆒詩〕架書抽讀亂、庭果摘嘗稀。

【抽剝】77 chʻou^1 po^1 無暗に稅を取り立てる。

【抽發】78 chʻou^1 fa^1 軍隊を分遣する。

【抽撥】79 チウハツ 引き出す。募集する。〔淸會典事例、戶部、漕運、轉輪薊易〕所㆑需汎兵、於㆓附近各營㆒抽撥。

【抽拔】80 チウバツ ひきぬく。えらびぬく。多數の中からひきぬく。抽擢。擢拔。〔後漢書、黨錮、范滂傳〕顯㆓薦異節㆒、抽㆓拔幽陋㆒。〔吳志、陸遜傳〕乞㆔普加㆓覆載抽拔之恩㆒。

【抽筆】81 チウヒツ 書法、乀を謂ふ。夫・木等の乀である。〔翰林密論〕。

【抽瘋】82 chʻou^1 fêng^1 引きつける。又、痙攣の起る病氣。

【抽分】83 チウブン ❶商品に對する一種の稅。商品を拔き取つて上納するもの。釐金稅。〔譚宗浚、希古堂文集〕李鴻賓、性愎而貪、洋商容阿華虧帑累累、鴻賓使㆓諸洋商設㆑法彌㆑補、有㆘以㆓抽分之說㆒進者㆖、鴻賓遽允㆑之。〔自注〕卽近年之抽釐。〔淸會典事例、工部、關稅、盛京木稅〕乾隆五十年奏准、渾河稅口、徵㆓收陸運木板㆒、照㆓依水運抽分之例㆒、每㆓十五塊㆒抽分一塊、以備㆓工程應用㆒。❷chʻou^1 fen^4 頭をはねる。割前をとる。抽頭(75)に同じ。

〖抽分廠〗84 チウブンシヤウ 明代に置かれた徵稅署。

【抽簿】85 チウボ 帳面の紙をぬきとる。〔福惠全書、錢穀部、比較〕或抽㆑簿逃㆑卯。

【抽豐】86 チウホウ 奴僕などが僅かの物を主人に呈し多くの頂戴物をすること。又、旅人が旅費に窮し慈善家より寄附を仰ぐこと。打秋風。打抽豐。〔通俗編、貨財、抽豐〕七修類稿、米芾札中有㆓抽豐二字㆒、卽世云秋風之義、蓋彼處豐稔往抽㆓分之㆒耳。〔福惠全書、涖任部、發各告示〕其見訪抽豐、自應㆑絕㆑跡。

【抽揚】87 チウヤウ ぬき出しあげる。〔謝脁、拜㆓中軍記室㆒辭㆓隨王㆒牋〕褒㆓采一介㆒、抽㆓揚小善㆒。

【抽釐】88 チウリ 釐金稅を取る。〔淸會典事例、戶部、釐稅、直省釐局〕咸豐九年奏准、山東省在㆓登・萊・靑三府屬海口㆒、擧㆓辦抽釐㆒。〔六部成語、注解〕從前祇有㆓關稅㆒、咸同以來中國多㆑亂、軍餉不㆑足、乃各處設㆑卡、抽㆓收商貨釐金㆒以濟㆑之也。

【抽列】89 チウレツ ぬきならべる。〔論衡、超奇〕或抽㆓列古今㆒、紀㆓著行事㆒。

【抽裂】90 チウレツ ひきさく。又、ひきさける。〔魏武帝、善哉行〕其窮如㆓抽裂㆒、自以思㆓所怙㆒。〔晉書、愍帝紀〕又詔㆓琅邪王㆒曰、云云、枕戈煩冤、肝心抽裂。〔魏書、島夷子業傳〕遂刳㆓剔支體㆒、抽㆓裂心藏㆒。

【抽鼻子】91 chʻou^1 pi^2 tzŭ 鼻汁をすする。

【抽冷子】92 chʻou^1 lêng^3 tzŭ 俄に。突然に。不意に。

【抽起腿來】93 chʻou^1 chʻi tʻuei^3 lai 脚を縮める。

【抽燬書目】94 チウキシヨモク 書名。一卷。淸、乾隆の時、紀昀等奉敕撰。四庫全書提要を作るや、其の存目書を各省の藏書家に發還するに當り、明代以後各書の中に詞義違礙のものがあり、銷燬を行ふべき書一百四十六部、謬妄偏駁な各條を抽出して燬却すべき書一百八十一部を出し、各〻其の書目を作る。前者は銷燬書目一卷で、首に原奏二篇有り、惠潮兵紀四本より思勉齋集二本に至る一百四十六部を載せ、後者は卽ち抽燬書目で、宗聖志五本より蠙衣生晉草二本に至るまで、一百八十一部を載せる。〔淸史稿、藝文志〕。

【抽驗絲條】95 chʻou^1 yen^4 ssu^1 tʻiao^2 輸出向きの生絲を梱每に幾分かを拔取り檢査すること。

【抽抽噎噎】96 chʻou^1 chʻou^1 yeh^1 yeh^1 わづかに物いふさま。〔紅樓夢、三十四回〕半日方抽抽噎噎的說道。

【抾】
11931

㈠キヨ コ 〔集韻〕丘於切 魚

㈡ケフ コフ 〔集韻〕訖業切 葉

㈢キ 〔集韻〕丘其切 支

㈣ケフ コフ 〔集韻〕气法切 洽

㈠❶**とる**。もつ。くみとる。〔漢書、揚雄傳上〕抾㆓靈蠵㆒。〔注〕師古曰、抾、挹取也。❷**ささげる**。〔集韻〕抾、一曰、捧也。〔揚雄、羽獵賦〕抾㆓靈蠵㆒。〔注〕善曰、韋昭曰、抾、捧也。❸**もちさる**。〔方言、六〕抾摸、去也、齊趙之總語也、抾摸、猶㆑言㆓持去㆒也。〔廣雅、釋詁一〕抾、去也。㈡❶**もつ**。或は拗(**5－12110**)に作る。〔集韻〕抾、持也、或作㆑拗。❷**おびやかす**。劫(**2－2316**)に通ず。〔後漢書、馬融傳〕抾㆓封豨㆒。〔注〕抾、音劫、古字通。㈢㈣**くむ**。〔集韻〕抾、兩手挹也。〔集韻〕抾、挹也。

【抿】 11932 ビン ミン 〔集韻〕眉貧切 ［眞］ ㄇㄧㄣˇ min^3

❶**なでる**。捪(**5－12317**)に同じ。〔集韻〕捪、說文、撫也、一曰、摹也、或省。❷**ぬぐふ**。抆(**5－11868**)に通ず。抿泣(1)を見よ。❸**口をすぼめる**。〔紅樓夢、八回〕只抿㆓著嘴㆒笑。

【抿泣】^{1}（ビンキフ） 涙をぬぐふ。〔呂覽、長見〕吳起曰、竊觀㆓公之意㆒、視㆑釋㆓天下㆒若㆑釋㆑躧、今去㆓西河㆒而泣何也、吳起抿泣而應㆑之。〔畢沅校〕抿、與㆑抆同。

【抿頭】^{2} min^3 t'ou^2 頭髮をなでつける。

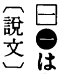
【抿嘴笑】^{3} min^3 tsuei^3 hsiao^4 口をすぼめて笑ふ。

【拔】 11933 クヮイ ケ 〔集韻〕古壞切 ［卦］ **みだす**。〔集韻〕拔、擾也。

【⿰扌兄】 11934 シュク 祝(**6－14667**)の譌字。〔正字通〕⿰扌兄、祝字之譌。

【拁】 11935 カ 枷(**6－14587**)の譌字。〔康熙字典〕拁、枷字之譌。

【拂】 11936 ［一］フツ フチ 〔集韻〕敷勿切 ［物］ ㄈㄨˊ fu^2 ［二］ヒツ ヒチ 〔集韻〕普密切 ［質］ ㄅㄧˋ pi^4 ［三］ヒ 〔集韻〕方未切 ［未］ ［唐］ホツ



小篆

［一］❶**はらふ**。㋑うつ。なげうつ。〔說文〕拂、過擊也、从㆑手弗聲。〔徐鍇注〕擊而過㆑之也。〔說文通訓定聲〕隨擊隨過、蘇俗語謂㆓之拍㆒也、與㆑拭略同。〔廣雅、釋言〕拂、搏也。〔楚辭、離騷〕折㆓若木㆒以拂㆑日兮。〔注〕拂、擊也。㋺さる。〔廣雅、釋詁二〕拂、去也。〔太玄經、從〕拂㆓其惡㆒。〔注〕拂、去也。㋩のぞく。〔廣雅、釋詁三〕拂、除也。〔太玄經、玄攡〕拂㆓其所㆑有㆑餘。〔注〕拂、除也。㋥ふるふ。〔禮、內則〕拂㆑髦。〔注〕拂㆑髦、振㆓去塵㆒著㆑之。㋭ぬぐふ。〔儀禮、士昏禮〕主人拂㆑几。〔注〕拂、拭也。〔禮、曲禮上〕進㆑几者拂㆑之。〔楚辭、大招〕長袂拂㆑面。〔注〕拂、拭也。㋬すぎる。かすめる。ふれる。〔李白、淸平調〕春風拂㆑檻露華濃。㋣はなつ。〔淮南子、齊俗訓〕拂㆓於四達之衢㆒。〔注〕拂、放也。㋠たつ。〔國語、吳語〕無㆑拂㆓吾慮㆒。〔注〕拂、絕也。㋷かかげる。〔國語、晉語八〕拂㆑衣從㆑之。〔注〕拂、褰也。❷**はたきの類**。ほつす。〔南史、陳顯達傳〕麈尾蠅拂、是王謝家許。❸**からさを**。〔漢書、王莽傳中〕必躬載㆑拂。〔注〕師古曰、拂、所㆔以擊㆓治禾㆒者也、今謂㆓之連枷㆒。〔瑯琊代醉編、拂〕周公瓘曰、今農家打㆑稻之連耞、古之所謂拂也。❹**もとる**。**たがふ**。咈(**2－3486**)・弗(**4－9708**)に通ず。〔說文通訓定聲〕拂、叚借爲㆑咈、實爲㆑弗。〔詩、大雅、皇矣〕四方以無㆑拂。〔箋〕拂、猶㆑佹也。〔大學〕是謂㆑拂㆓人之性㆒。〔淮南子、主術訓〕豈能拂㆓道理之數㆒。〔注〕拂、戾也。〔史記、韓非傳〕大忠無㆑所㆓拂辭㆒。〔注〕索隱曰、卽不㆔拂㆓悟於君㆒也。〔漢書、王莽傳上〕拂㆑世矯㆑俗。〔注〕師古曰、拂、違也。❺**さからふ**。〔正韻〕拂、逆也。〔漢書、東方朔傳〕拂㆓於耳㆒。❻**ためる**。なほす。〔正韻〕拂、矯也。❼**ねぢる**。たがへる。又、きる。〔禮、曲禮上〕獻㆑鳥者拂㆓其首㆒。〔漢書、王莽傳上〕其先至者則拂㆓其頸㆒。〔注〕師古曰、拂、戾也。〔王先謙補注〕王念孫曰、顏說望㆑文生㆑義、非㆓其本指㆒也、拂讀爲㆑刜、刜、斫也、謂㆔以㆑劍斫㆓其頸㆒也。❽**おほふ**。せまる。いたる。茀(**9－30831**)に通ず。〔說文通訓定聲〕拂、叚借爲㆑茀。〔楚辭、離騷〕折㆓若木㆒以拂㆑日兮。〔注〕拂、一云、蔽也。〔楚辭、招魂〕蒻阿拂㆑壁。〔注〕拂、薄也。〔張衡、東京賦〕雲旗拂㆑霓。〔注〕綜曰、拂、至也。❾**ぬく**。ぬきとる。拔(**5－11959**)に通ず。〔說文通訓定聲〕拂、叚借爲㆑拔。〔方言、三〕拂、拔也。❿**すぎる**。〔大戴禮、夏小正〕拂㆓桐芑㆒。〔淮南子、天文訓〕拂㆓于扶桑㆒。〔注〕拂、猶㆑過、一曰、至。⓫**ちらす**。費(**10－36717**)に通ず。〔禮、中庸、費而隱、釋文〕費、本又作㆑拂。⓬佛(**1－517**)に通ず。〔禮、曲禮上〕拂㆓其首㆒。〔釋文〕拂、本又作㆑佛。⓭**いかる**。けしきばむ。怫(**4－10486**)・艴(**9－30606**)に通ず。〔荀子、性惡〕兄弟相拂奪矣。〔集解〕盧文弨曰、拂奪、宋本作㆓怫奪㆒、案、說文色部、艴、愠怒色也、此拂字、疑艴之叚音。⓮［現］㋑蔑視する。㋺反對する。［二］❶**風の動くさま**。拂汩(2)を見よ。❷**たすける**。弼(**4－9826**)に同じ。〔說文通訓定聲〕拂、叚借爲㆑弼。〔集韻〕弻、說文、輔也、隸作㆑弼、或作㆑拂。〔一切經音義、十四〕拂、扶也。〔廣雅、釋詁四〕拂、輔也。〔荀子、臣道〕功伐足㆔以成㆓國之大利㆒、謂㆓之拂㆒。〔注〕拂、讀爲㆑弼。〔漢書、葢寬饒傳〕匡㆓拂天子㆒。［三］❶**にかよふ**。或は佛(**1－517**)に作り、通じて髴(**12－45414**)に作る。〔集韻〕拂、彷拂、形似也、或作㆑佛、通作㆑髴。〔儀禮、既夕禮記、商祝免祖執㆓功布㆒、注〕爲㆑有㆑所㆓拂扐㆒也。〔釋文〕拂扐、本又作㆓仿佛㆒。❷**うつ**。攢(**5－12740**)に通ず。〔集韻〕攢、楚謂㆓搏擊㆒曰㆑攢、或省。〔道藏、馮夫人詩〕神英乃高拂。［邦］**はらふ**。㋑代價を渡す。支拂。㋺災厄をはらひ除く。厄拂。

【拂衣】^{1}（フツイ） ❶もすそをかかげる。奮ひ起つさま。〔左氏、襄、二十六〕拂㆑衣從㆑之。〔注〕拂㆑衣、褰㆑裳也。〔會箋〕奮㆑腕就㆑之、故振㆓拂其衣㆒。〔國語、晉語八〕拂㆑衣從㆑之。〔注〕拂、褰也。〔漢書、楊惲傳〕拂㆑衣而喜、奮㆑褎低昂。❷ころものちりをはらふ。〔殷仲文、罪釁解㆓尙書㆒表〕退不㆑能㆘辭㆓粟首陽㆒、拂㆑衣高謝㆖。❸隱者に歸するをいふ。〔晉書、郄超傳〕性好聞㆓人棲遁㆒、有㆓能辭㆑榮拂㆑衣者㆒、超爲㆑之起㆓屋宇㆒、作㆓器服㆒、畜㆓僕豎㆒、費㆓百金㆒而不㆑吝。〔謝靈運、述㆓祖德㆒詩〕高揖㆓七州外㆒、拂㆓衣五湖裏㆒。〔注〕良曰、言㆘辭㆓七州之命㆒、隱㆗於五湖㆖。❹決然として去るさま。〔後漢書、楊彪傳〕孔融魯國男子、明日便當㆓拂㆑衣去㆒、不㆓復朝㆒矣。

【拂汩】^{2}（ヒツイツ） 風にゆれるさま。〔集韻〕拂、拂汩、風動皃。〔揚雄、甘泉賦〕帷弸彋其拂汩兮、稍暗暗而靚深。〔注〕善曰、拂汩、鼓動之貌。

【拂鬱】^{3}（フツウツ） 安んじないさま。憤懣するさま。弗鬱。怫鬱。沸鬱。〔易林、比之第八、咸〕杜㆑口結㆑舌、心中怫鬱、去㆑菑患生、莫㆑所㆓寃告㆒。

【拂燕】^{4}（フツエン） 掛軸の上方から垂れる二條の紙帛。ふうたい。風帶。驚燕。〔諫言長語〕畫軸二紙條、名曰㆓拂燕㆒。

【拂几】^{5}（フツキ） 机をはらふ。〔儀禮、士昏禮〕主人拂㆑几授㆑校。〔注〕拂、拭也。

【拂逆】^{6}（フツギャク） もとりさからふ。〔言志錄〕凡所㆑遭患難・變故・屈辱・讒謗・拂逆之事。

【拂去】^{7}（フツキョ） はらひさる。掃除する。〔禮、曲禮上、進㆓几杖㆒者拂㆑之、注〕尊者所㆓馮依㆒、拂㆓去塵㆒敬。〔疏〕進㆓几杖㆒者拂㆑之、謂㆔拂㆓去塵埃㆒、爲㆑當㆓馮執㆒故也。

【拂巾】^{8}（フツキン） づきんをはらふ。〔後漢書、左雄等傳論〕處士鄙生、忘㆓其拘儒㆒、拂巾衽褐、以企㆓旗車之招㆒矣。

【拂經】9フツケイ　つねにもとる。常道にたがふ。〔易、頤〕六二、顚頤拂經、于レ丘頤、征凶。

【拂霓】10フツゲイ　にじを摩する。にじに至りとどく。〔張衡、東京賦〕龍輅充レ庭、雲旗拂レ霓。〔注〕綜曰、拂、至也。

〖拂霓裳〗11フツゲイシヤウ　❶詞牌の名。唐の教坊曲名。〔宋史、樂志十五〕女弟子隊凡一百五十三人、云云、五曰二拂霓裳隊一。❷曲牌の名。南曲にて、小石調正曲に入る。

【拂曉】12フツゲウ　夜のあけがた。あかつき。拂旦。拂曙(23)に同じ。〔運步色葉集〕拂曉。

【拂乎】13フツコ　もとるさま。〔荀子、賦〕拂乎其欲二禮義之大行一也。〔注〕拂、違也。

【拂忤】14フツゴ　もとりさからふ。〔韓非子、說難〕大意無レ所二拂忤一、辭言無レ所二繫縻一、然後極騁二智辯一焉。

【拂士】15ヒツシ　必ずしも君の意に從はず正道を以て君を輔ける士。輔弼の賢士。拂は弼と通ず。〔孟子、告子下〕入則無二法家拂士一、出則無二敵國外患一者、國恆亡。〔集注〕拂士、輔弼之賢士也。

【拂紙】16ハラヒガミ　婦人の髮を櫛けづり、櫛についた毛を入れる紙。

【拂耳】17フツジ　忠言の耳に逆らふこと。〔韓非子、安危〕聖人之救二危國一也、以レ忠拂レ耳、刺レ骨、故小痛在レ體、而長利在レ身、拂レ耳、故小逆在レ心而久福在レ國。〔漢書、東方朔傳〕夫談有下悖二於目一、拂二於耳一、謬二於心一、而便二於身一者上、或有下說二於目一、順二於耳一、快二於心一、而毀二於行一者上。

【拂辭】18フツジ　さからひ諫める。〔史記、韓非傳〕大忠無レ所二拂辭一。〔注〕索隱曰、君初不レ從、則且退止、待二君之悅一、而又幾諫、卽不三拂二悟於君一也。

【拂袖】19フツシウ　❶袖をはらふ。〔梁元帝、元圃牛渚磯碑〕畫船向レ浦、錦纜牽レ磯、花飛拂レ袖、荷香入レ衣。〔李中、送二圓上人歸二廬山一詩〕蓮宮舊隱塵埃外、策レ杖臨レ風拂レ袖還。〔貢奎、望二廬山一詩〕千帆萬柁過未レ已、誰肯拂レ袖同寂寥。❷決然として去るさま。〔宋史、劉沆傳〕強レ沆以レ酒、沆霑醉拂レ袖起。

【拂手】20フツシユ　手をうつ。〔論衡、書虛〕瞋レ目拂レ手。

【拂麈】21フツシユ　拂子(27)に同じ。

【拂鬚】22フツシユ　ひげのちりやよごれをはらふ。上官にこびへつらふ義。〔宋史、寇準傳〕初丁謂出二準門一至二參政一、事レ準甚謹、嘗會二食中書一、羹汙二準鬚一、起徐拂レ之、準笑曰、參政、國之大臣、乃爲二官長一拂レ鬚耶、謂甚愧レ之。

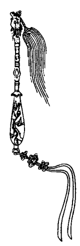
【拂曙】23フツシヨ　夜の明け方。拂曉。〔庾信、對レ燭賦〕蓮帳寒檠窓拂曙。〔儲光羲、野次喜レ雪詩〕拂曙闢二行宮一、寒皐野望通。〔王維、扶南曲歌詞〕拂曙朝二前殿一、玉墀多二珮聲一。

【拂拭】24フツシヨク　❶けがれをはらひ去る。ふきさうぢをする。〔列女傳、辯通、齊鍾離春傳〕於レ是乃拂二拭短褐一、自詣二宣王一。〔南史、殷景仁傳〕景仁便拂二拭衣冠一。〔韓愈、毛穎傳〕上將レ有二任使一、拂二拭之一。〔白居易、感レ鏡詩〕今朝一拂拭、自照二顦顇容一。❷器物を使用するには必ず拂拭する故、寵用されることの謙辭として用ふ。〔劉長卿、雜詠八首、古劍詩〕儻遇二拂拭恩一。〔李白、駕去二溫泉宮一後贈二楊山人一詩〕一朝君王垂二拂拭一。

【拂臣】25ヒツシン　輔弼の臣。拂士。〔韓詩外傳、八〕諫臣五人、輔臣五人、拂臣六人。

【拂晨】26フツシン　夜の明け方。〔白居易、東南行一百韻云云詩〕承レ明連レ夜直、建レ禮拂レ晨趨。

【拂子】27ホツス　佛はぐまの長毛を束ね柄をつけた佛具。もと蠅等を攘ふために僧の持つたもの。麈尾。拂麈。僧麈。〔釋氏要覽、中、道具、拂子〕律云、比丘患二草蟲一、佛聽レ作二拂子一。〔和漢三才圖會、神祭佛器〕拂子、禪僧所レ重、如有二得道者一、師授二與之拂子一、以爲二法門之規模一矣、今多用二氂毛一作。



拂子
（三才圖會）

〖拂子介〗28ホツスカヒ　海綿動物の一科。ほつすがひ・ふたなしほつすがひ・ばていかいめん等はこれに屬す。

〖拂子貝〗29ホツスガヒ　海綿動物の一。體は圓形又は楕圓形。光澤美麗、長い玻璃質の細條があり、これを海底に插入して生息する。海拂子。

【拂樞】30フツスウ　星の名。〔晉書、天文志中〕河圖云、辰星散爲二枉矢・破女・拂樞・滅寶・繞綎・驚理・大奮祀一、黑彗。

【拂世】31フツセイ　世間にもとる。〔史記、李斯傳〕拂レ世摩レ俗、而廢二其所レ惡、立二其所レ欲。

【拂性】32フツセイ　人の天性にもとる。性にそむく。〔大學〕好二人之所レ惡、惡二人之所レ好、是謂レ拂二人之性一、菑必逮二夫身一。

【拂席】33フツセキ　席をはらふ。〔戰國、燕策〕太子跪而逢迎、却行爲レ道、跪而拂レ席。

【拂切】34ハラヒキリ　太刀を横ざまに拂つて切りつける。〔曾呂利物語、一〕相傳の來國光を以て拂ひ切りにぞしたりける。

【拂然】35フツゼン　いかるさま。怫然。艴然。〔大戴禮、文王官人〕怒色拂然以侮、欲色嘔然以偸。

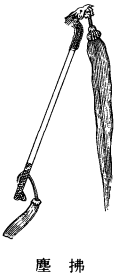
【拂奪】36フツダツ　道にもとり奪ふ。〔荀子、性惡〕假レ之、人有二兄弟資レ財而分者一、且下順二情性一、好レ利而欲上レ得、若レ是則兄弟相拂奪矣。〔注〕拂、違戾也。

【拂旦】37フツタン　夜明け方。よあけ。黎明。拂曉。拂曙。〔沈佺期、人日重宴二大明宮一賜二綵縷人勝一應制詩〕拂旦雞鳴仙衞陳、憑高龍首帝城春。

【拂地】38フツチ　❶地にもとり逆らふ。〔六韜、犬韜、戰車〕殷草横レ畝、犯二歷浚澤一者、車之拂地也。❷地を拂ふ。物事の跡方もない喩。〔顏氏家訓、書證〕風角書曰、庶人風者、拂レ地揚レ塵。〔梁元帝、綠柳詩〕長條垂拂レ地、輕花上逐レ風轉レ削。〔戴叔倫、奉下酬二盧端公飮後贈二諸公一見レ示之作上詩〕風吹二楊柳一漸拂レ地、日映二樓臺一欲レ下レ山。

【拂除】39フツヂヨ　はらひのぞく。〔太平御覽、時序部十五、三月三日〕韓詩曰、注、云云、招レ魂續レ魄、拂二除不祥一也。

【拂塵】40フツヂン　❶塵をはらふ。〔杜牧、殘春獨來二南亭一寄二張祜一詩〕仲蔚欲レ知何處在、苦二吟林下一拂二詩塵一。❷ちりはらひ。拂子。〔品字箋〕世以二拂塵一謂二之担塵一。〔清會典圖、輿衞、拂塵〕拂塵、用二朱氂一、長二尺、結二於木柄一、柄長二尺一寸二分、圍一寸五分七釐、通レ髹以レ金、上飾鏤二金龍首二寸五分一、銜二小金環一以綴レ拂、下飾鏤二金龍尾三寸三分一、末屬二金鐶一、垂二朱綬一。❸清、唐才常(**2**－**3709**‥413)の號。



拂塵
（清會典圖）

〖拂塵掃葉之室〗41フツヂンサウエフノシツ　清、勞權(**2**－**2410**‥43)の室名。

【拂底】42フツテイ　底をはらふ。いれものの中がからになる。轉じて、一物も無いこと。皆無。又、轉じて、甚だ少い。殘り少い。乏しい。〔庭訓往來、七月〕薄紙依二拂底一、所レ用二反故一也。

【拂撤】43フツテツ　除きさる。はらひすてる。〔張衡、南都賦〕蘇蔱紫薑、拂二撤羶腥一。

【拂天】44フツテン　そらを掃ふ。天を摩する。非常に高いさまをいふ。摩天。〔王粲、三輔論〕建二拂天之旌一、鳴二振地之鼓一。〔班固、東都賦〕羽旄掃レ霓、旌旗拂レ天。

【拂難】45フツナン　人情にもとつてなし難いこと。〔韓非子、外儲說左上〕言而拂難堅确非レ功也。

【拂㧍】46フツハウ　にかよふ。髣髴(**12**－**45371**‥4)の❶に同じ。一說に、はらひ去る。〔儀禮、既夕禮記〕商祝免祖執二功布一、〔注〕執レ之以接レ神、爲レ有二所レ拂㧍一也。〔釋文〕拂㧍、本又作二仿佛一。〔疏〕拂㧍、猶レ言二拂拭一、云云、謂三拂二㧍去凶邪之氣一也。

【拂髦】47フツバウ　垂髮の塵を拂ふ。〔禮、內則〕子事二父母一、雞初鳴、咸盥漱、櫛、縰、笄、總、拂レ髦、冠緌纓、端韠紳。

【拂拂】48ヒツヒツ　風の動くさま。〔吳融、秋色詩〕染不レ成レ乾畫未レ消、霏霏拂拂又迢迢。〔李賀、七月樂詞〕曉風何拂拂、北斗光闌干。

〖拂拂嬌〗49ヒツヒツケウ　五代、唐の同光の頃流行した彩色のある帛裙。〔淸異錄、衣服〕同光年、上因二暇日晚霽一登二興平閣一、見二霞彩可一レ入、命二染院一作二霞樣紗一、作二千摺裙一、分二賜宮嬪一、是後民間尙レ之、競爲二彩裙一、號二拂拂嬌一。

【拂舞】50フツブ　雜舞の名。もと吳の地方に行はれた舞の一種。拂子を以て舞器とする。舊說に、周禮の帗舞の遺意といふ。然し、其の聲、必ずしも吳歌のみでなく、其の起源は未だ詳かでない。晉書の樂志に拂舞の歌詩白鳩等五首を載せる。〔文章辨體〕出レ自二江左一、舊云吳舞、吳納謂、卽周禮帗舞之遺意。〔樂府詩集、舞曲歌辭、雜舞、晉拂舞歌詩〕晉書樂志曰、拂舞出レ自二江左一、舊云、吳舞也、晉曲五篇、一曰白鳩、二曰濟濟、三曰獨

祿、四曰碣石、五曰淮南王、齊多刪二舊辭一、而因二其曲名一、古今樂錄曰、梁拂舞歌、竝用二晉辭一、樂府解題曰、讀二其辭一、除二白鳩一曲一、餘竝非二吳歌一、未レ知レ所レ起也。〔晉拂舞歌、白鳩篇〕翩翩白鳩、載飛載鳴、懷二我君德一、來集二君庭一、白雀呈レ瑞、素羽明鮮、翔レ庭舞レ翼、以應二仁乾一、交交鳴鳩、或丹或黃、樂二君惠一、振羽來翔、東壁餘光、魚在二江湖一、惠而不レ費、敬二我微軀一、策二我良駟一、習二我驅馳一、與レ君周旋、樂レ道亡レ餘、我心虛靜、我志霑濡、彈レ琴鼓レ瑟、聊以自娛、凌レ雲登レ臺、浮遊太清、扳レ龍附レ鳳、日望身輕。

【拂輔】51 ヒツ ホ たすけ。拂は弼。〔管子、四稱〕近君爲レ拂、遠君爲レ輔。〔纂詁〕拂、弼也。

【拂霧】52 フツ ム 霧をはらふ。〔謝朓、酬二王晉安一詩〕拂レ霧朝二青閣一、日旰坐二彤闈一。〔盧思道、贈三別司馬幼之二南聘一詩〕拂レ霧揚二龍節一、乘レ風遡二鳥旌一。〔沈佺期、安樂公主入移二新宅一詩〕錦帳迎レ風轉、瓊筵拂レ霧開。

【拂面】53 フツ メン 顏をはらふ。〔楚辭、大招〕長袂拂レ面、善留レ客只。〔何遜、七召〕步想象以頓レ足、腕蹁蹮而拂レ面。〔李白、白紵辭〕且吟二白紵一停二綠水一、長袖拂レ面爲レ君起。

【拂亂】54 フツ ラン もとりみだる。〔孟子、告子下〕天將レ降二大任於是人一也、必先苦二其心志一、勞二其筋骨一、餓二其體膚一、空二乏其身一、行拂二亂其所一レ爲。

【拂慮】55 フツ リヨ 心づかひをむだにする。注意をはらはない。〔國語、吳語〕無レ拂二吾慮一。〔注〕拂、絕也。

【拂菻】56 フツ リン 東羅馬帝國をいふ。元史譯文證補によれば、もと東羅馬帝國の首都、君士担丁諾潑凝 Constantinople の省文、潑凝の急讀音潑林の音轉といふ。〔唐書、西域下、拂菻傳〕拂菻、古大秦也、居二西海上一、一曰二海西國一云云、東南接二波斯一、地方萬里、城四百。〔讀史方輿紀要、陝西附考〕拂菻、東南至二滅力沙一、北至レ海、皆四十程、西至レ海三十程、東自二大石及于闐回紇一、乃抵二中國一、古犂軒國也、亦曰二黎軒一、東漢爲二大秦國一、延熹八年、其王安敦遣レ使來獻、唐爲二拂菻國一、杜佑曰、居二西海上一、亦名二海西國一、去二京師一四萬里、北直二突厥可薩部一、西瀕レ海、東南接二波斯一、唐龍朔三年、爲二大石所一レ破、宋白曰、其地在二安息烏戈之西一、隔二大海一、宋元豐四年、其王遣レ使來貢、元祐中、復至、明洪武四年詔、遣二其國故民揑古倫一齎レ詔諭レ之、尋遣レ使來朝、幷貢二方物一。

【拂菻狗】57 フツリン ク 狗の一種。チン。〔唐書、西域上、高昌傳〕武德初、伯雅死、子文泰立、遣レ使來告、高祖命二使者一臨弔、後五年獻レ狗、高六寸、長尺、能曳レ馬銜レ燭云、出二拂菻國一、中國始有二拂菻狗一。

【拂戾】58 フツ レイ ❶もとる。さからふ。たがふ。怫戾。乖戾。背戾。悖戾。〔禮、大學〕違レ之俾レ不レ通、〔注〕拂二戾賢人所一レ爲、使二功不一レ通二于君一也。〔馬融、長笛賦〕牢刺拂戾、諸賁之氣也。❷ ハラヒモドシ 金錢を其の納主に返戾すること。

【拂廬】59 フツ ロ 吐蕃の帳幕の名。〔舊唐書、吐蕃傳上〕其國都城、號爲二邏些城一、屋皆平頭、高者至二數十尺一、貴人處二於大氈帳一、名爲二拂廬一。〔杜甫、送三楊判官使二西蕃一詩〕草肥蕃馬健、雪重拂廬乾。〔事物紀原、舟車帷幄部、拂廬〕唐書、吐蕃處二於大氈帳一、名二拂廬一、高宗永徽五年獻レ之、高五丈、廣袤各二二十七步、其後豪貴稍以二青絹布一爲レ之、其始以レ拂二於穹廬一爲レ號也、宋朝每二大宴犒一亦設二於殿庭一、曰二拂廬亭一、此蓋其始也。

【拂雲祠】60 フツウン シ 地名。もと拂雲堆といふ。中受降城を此處に建つ。綏遠省烏喇特旗の西北。〔唐明皇實錄〕堆上有レ祠、突厥將二入寇一、必先祠、祭レ酹求レ福、因牧レ馬料レ兵、候二冰合一渡レ河。〔讀史方輿紀要、陝西、榆林鎭〕拂雲堆、卽中受降城也、唐志、朔方軍、與二突厥一以レ河爲レ界、北厓有二拂雲祠一、突厥入犯、必先謁禱、景龍二年、時突厥悉レ兵西擊、突騎施、張仁愿請三乘レ虛取二漠南地一、於二河北一築二三受降城一、絕二其南寇路一、因以二拂雲一爲二中城一、元和九年、置二關於此一、十二年高霞寓爲二振武節度使一、吐蕃攻二鹽豐二州一、霞寓以二兵五千一、屯二拂雲堆一、寇引去、是也。

【拂水巖】61 フツスイ ガン 石橋の名。江蘇省常熟縣の虞山の錦峯の西南。

【拂涅部】62 フツデツ ブ 部落の名。勿吉七部の一。今の滿洲吉林省寧安縣の北方一帶の地。〔吉林通志〕今寧古塔城西南八十里古城、俗呼二東京城一、亦曰二佛訥和城一、卽明佛訥和衛地。〔滿洲源流考〕滿語謂二羣處之羣一曰二佛寧一、與二佛涅一音同、當時命名應レ取レ此。

【拂人性的】63 fu^{2} jen^{2} hsing^{4} tê ねぢけてゐる。片意地な。

【拂水山莊】64 フツスイ サンサウ 清、錢謙益(**11－40563‥29**)の室名。

【拂勝則社稷固】65 ヒツカテバスナハチシヤシヨクカタシ 拂士の勢がまされば國家は安固であるといふ意。拂士(15)を見よ。〔越絕書、越絕請糴內傳〕拂勝則社稷固、諫勝則社稷危。

【㧕】11937 リウ ル 〔集韻〕力九切 有

とる。〔集韻〕㧕、捫也。

【拃】11938 ㊀サン ㊁セン 〔集韻〕阻版切 潸 ㄓㄚˇ cha^{3} ㊂サツ

㊀さぐる。〔集韻〕拃、摸也。㊁❶拶(**5－12004**)の俗字。〔正字通〕作、俗拶字。❷しぼる。〔唐書、西域上、摩揭陀傳〕太宗遣レ使、取二熬糖法一、詔二揚州一上二諸蔗一、拃レ瀋如二其劑一。❸現㋑拇指と食指とを擴げて長さをはかる。㋺小麥粉をこねる。

【拃掙著】1 cha^{2} chêng chê がまんする。扎掙著。

【抯】11939 シヤウ サウ 〔集韻〕思將切 陽

およぶ。〔集韻〕抯、及也。

【拄】11940 チユ 〔集韻〕冢庾切 麌 ㄓㄨˇ chu^{3}

❶あげる。〔禮、喪大記〕既葬、拄レ楣。〔疏〕謂二在レ墓拄レ楣、稍擧以納二日光一。❷ささへる。〔集韻〕拄、掌也。〔正韻〕拄、掌也、支也。〔戰國、齊策〕脩劍拄レ頤。❸こばむ。又、そしる。〔漢書、朱雲傳〕連拄二五鹿君一。〔注〕師古曰、拄、刺也、距也。❹ゆびさす。〔廣韻〕拄、從レ旁指。〔傳燈錄〕使二當レ心一拄一。❺通じて柱(**6－14660**)に作る。〔爾雅、釋草〕柱夫搖車。〔釋文〕柱、本或作レ拄。〔集韻〕拄、通作レ柱。

【拄頤】1 チユ イ おとがひをささへる。〔戰國、齊策〕大冠若レ箕、脩劍拄レ頤。

【拄枴】2 chu^{3} kuai^{3} 杖をつく。拄杖。

【拄頰】3 チユ ケフ ほほづゑをつく。兩手で頰をささへる。〔晉書、王徽之傳〕沖嘗謂二徽之一曰、卿在レ府日久、比當二相料理一、徽之初不二酬答一、直高視以二手版一拄レ頰云、西山朝來、致レ有二爽氣一耳。〔韓偓、雨中詩〕鳥濕更梳レ翎、人愁方拄レ頰。

【拄笏】4 チユ コツ 笏でほほづゑをつく。手版を以て頰をささへる。〔貢奎、題二虞少監小像一詩〕拄レ笏曾招レ爽、投レ簪每懼レ盈。

【拄棍】5 chu^{3} kuen^{4} ささへる棒。老人用の杖。

【拄置】6 チユ チ ささへおく。〔漢書、西域下、車師後城長國傳〕車師後王姑句、以道當レ爲二拄置一、心不レ便也。〔注〕師古曰、拄者、支拄也、言、有レ所二置立一、而支二拄於己一、故心不レ便也。

【拄杖】7 チユ ヂヤウ ❶杖をつく。扶杖。〔魏武帝、陌上桑〕食二芝英一飮二醴泉一、拄二杖桂枝一、佩二秋蘭一。〔魏略〕乃託レ病拄レ杖。〔酉陽雜俎、物異〕有レ神來降、自稱二白頭公一、所レ拄杖、光照二一室一。〔陸游、遊二山西村一詩〕從レ今若許二閑乘一レ月、拄レ杖無レ時夜叩レ門。❷杖をいふ。拐杖。〔蘇軾、常州太平寺法華院薝蔔亭醉題詩〕何似東坡鐵拄杖、一時驚起野狐禪。〔幻影傳〕拄杖何在、可レ擊レ之。

【拄夫】8 チユ フ 草の名。柱夫(**6－14660‥37**)に同じ。〔爾雅、釋草〕柱夫、搖車。〔釋文〕柱、本或作レ拄同。

【担】 11941 ㊀タン 〔集韻〕黨旱切 旱 ㄉㄢˋ tan$^{1\cdot 4}$
㊁ケツ ケチ 〔集韻〕丘傑切 屑

㊀❶はらふ。〔玉篇〕担、拂也。❷うつ。笡(8-25941)に同じ。〔廣雅、釋詁三〕担、擊也。〔集韻〕笡、博雅、擊也、或从レ手。❸になふ。擔(5-12828)の俗字。〔通俗編、雜字、担〕按、俗以レ此通ニ擔負之擔一、謬。㊁❶あげる。あがる。揭(5-12389)に同じ。〔集韻〕揭、擧也、或作レ担。〔楚辭、遠遊〕意恣睢以担撟。〔集注〕担撟、軒擧也。邦擔(5-12828)の略字。

【担撟】1（ケツケウ） あぐ。又、あがる。〔楚辭、遠遊〕欲レ度レ世以忘レ歸兮、意恣睢以担撟。〔集注〕担撟、軒擧也。

【担任】2（タンニン） 任務を引き受けること。うけもち。擔任。

【扼】 11942 ヤク 扼(5-11848)・搹(5-12528)に同じ。〔說文〕搹、把也、从レ手鬲聲、扼、搹或从レ戹。〔段注〕扼、今隷變作レ扼。

【拆】 11943 ㊀タク チャク 〔集韻〕恥格切 陌 ㄔㄞ ch'ai^1
㊁セキ シャク 〔集韻〕昌石切 陌 ㄔㄜˋ ch'ê^4

㊀❶さく。坼(3-5246)・坼(3-5006)の譌字。〔集韻〕坼、說文、裂也、亦作レ拆。〔易、解〕百果草木皆甲坼、〔校勘記〕石經・岳本・錢本、坼、作レ坼、是也、閩・監・毛本、作レ拆、非。〔詩、大雅、生民〕不レ拆不レ副。〔校勘記〕小本同、閩本・明監本・毛本同、唐石經・相臺本、拆作レ坼、案、坼字是也、作レ拆者、形近之譌。❷現㋑そこなふ。こはす。㋺分解する。㊁うつ。〔集韻〕拆、擊也。

【拆引】1（タクイン） 總商より、各商に分つた鹽引。鹽引は、鹽商に販賣を許す鑑札。〔六部成語、戸部、拆引、注解〕由ニ總商一拆ニ分於各商一之鹽引也。

【拆閱】2（タクエツ） 披見する。開いて讀む。〔淸會典事例、兵部、武科、武會試〕乾隆二十六年、覆准、不レ假ニ書吏之手一、俟ニ受卷彌封後一、始行ニ拆閱一。

【拆開】3（タクカイ） ❶開く。開封する。〔福惠全書、錢穀部、拆貯、拆封〕須下逐レ封對ニ簿號一、不レ少方拆開總兌上。❷ch'ai^1 k'ai^1 取りはづす。

【拆號】4（タクガウ） 試驗の合格者の答案を番號によつてしらべること。〔六部成語、禮部、拆號、注解〕閱文取レ中之後、定レ期各按ニ號數一拆ニ閱試卷一、彌封將ニ中式姓名一塡ニ寫於榜上一、謂ニ之拆號一。

【拆毀】5（タクキ） 取り毀す。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄、囚應禁而不禁〕康熙四十五年覆准、問刑衙門設ニ有監獄一、將ニ倉鋪所レ店盡行ニ拆毀一、除ニ重犯羈鑑一外、其干ニ連輕罪人犯一、卽令ニ保候審理一。

【拆訖】6（タクキツ） ひらきをはる。硃判の文字。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕于ニ月日下一硃ニ判拆訖二字一。

【拆銀】7（タクギン） 米とひきかへる銀。〔福惠全書、錢穀部、解給〕寫ニ某某月日拆銀若干一。

【拆伙】8 ch'ai^1 huo^3 共同事業を解散する。

【拆壞】9 ch'ai^1 huai^4 細かに摧く。

【拆驗】10 ch'ai^1 yen^4 解き開いて檢査する。

【拆股】11 ch'ai^1 ku^3 合資組織の出資者が自己の持株を持つて脫退する場合、經營を存續する側から脫退者を拆股といふ。

【拆搶】12 ch'ai^1 ch'iang^3 家を毀して掠奪する。

【拆裝】13 ch'ai^1 ch'uang^1 分解して積み入れる。

【拆造】14（タクザウ） 戰船を解體して修造すること。〔淸會典事例、工部、船政〕安徽省水驛、額ニ設四十二船一、乾隆二年議准、三年小修、五年大修、十年拆造、同安驛紅船一、小修工料銀十五兩、大修三十兩、拆造七十兩、槳船一、小修工料銀十兩、大修二十兩、拆造五十兩。

【拆散】15 ch'ai^1 san^4 壞る。破る。

【拆字】16（タクジ） 占卜の一種。文字を偏旁冠脚などに分解し、其の意味によつて事の吉凶を卜ふ法。松を十八公と言ひ、貨泉を白水眞人と呼ぶ類。漢書王莽傳に、「劉之爲レ字卯金刀也」といふに始まるといふが、左傳には「止レ戈爲レ武」「皿蟲爲レ蠱」と分析を行つてゐる。又、鄭樵の通志藝文略に相字書と著錄してゐるのは、拆字のことである。通俗編、卷二十八、識餘部、拆字の條に拆字の例を列擧する。測字。〔二老堂雜志、四、謝石拆字〕謝石善拆レ字、徽宗嘗書ニ朝字一、密遣ニ人試レ之、石卽呼ニ萬歲一云云、徽宗嘗特補ニ承信郎一。〔玉堂雜記〕謝石善ニ拆字一、有ニ士人一戲以ニ乃字一爲レ問、石曰、及字不レ成、君終身不ニ及第一。〔陔餘叢考、測字〕少時見ニ一拆字者一、一人踉來、問ニ其父之病一、隨レ手拈ニ得一字一、術者曰、一者生字之盡、死字之初也、汝父殆不レ起矣、問汝父生年云レ何、其子曰、丁丑、生屬レ牛、術者曰、然則爾父不レ死、牛加ニ一畫一則生字矣、其驗否不レ可レ知、然思致自佳、按此術不レ知レ起ニ於何時一、後漢書、公孫述夢有レ人告レ之曰、八厶子系、十二爲レ期、述以爲ニ公孫當レ貴之兆一、遂稱レ帝、蔡茂傳、茂夢坐ニ大殿一、上有ニ三禾一、茂取レ之得ニ其中穗一、又失、郭賀曰、於レ字禾失爲レ秩、雖レ曰レ失レ之、乃所ニ以得ロ祿也、此後世測字之權輿、然未レ有ニ專以レ此爲レ術者一、近見ニ王棠知新錄一、引下宋謝石以ニ拆字一擅上名、然此術實不下自ニ謝石一始上、北夢瑣言、玉局觀老道士崔無斁有ニ算術一、楊德輝欲レ赴、妖人李鬲擧レ事以叩レ崔、令ニ畫レ地作ロ字、德輝書ニ北千二字一、崔以レ千插ニ入北字內一曰、去、卽乖角、楊遂不レ赴、則此術唐末已有レ之、宋時則謂ニ之相字一、謝石事見ニ寓簡及夷堅志一、石字潤夫宣和間人、善相レ字、求ニ相者一隨意書ニ一字一、卽就ニ其字一、離拆而言ニ休咎一、無レ不ニ奇中一、徽宗聞レ之、因書ニ一朝字一、使ニ中貴特往試ロ之、潤夫見レ字、卽曰、非ニ觀察所ロ書也、據ニ朝字一離レ之、爲ニ十月十日一、非ニ此月此日所レ生之人一乎、中貴大驚、馳奏、召至レ宮賞レ之、石又爲ニ錢元素一相ニ一請字一、以卜ニ其得ロ官、曰、其監察御史乎、請字言責未レ全也、已而果然、宋稗史建炎間、車駕初至ニ杭州一、有ニ周生一善相レ字、執政者偶書ニ一杭字一示レ之、周曰、懼有ニ警報一、乃拆ニ其字一、右一點配ニ木上一卽爲ニ兀朮一、未レ幾果聞ニ兀朮南侵一、又秦檜・趙鼎方不レ協、各欲ニ引退一、皆密書ニ一退字一示レ之、周曰、趙必去、秦必留、日者君象、趙書ニ退字一、人去レ日遠、秦書ニ人字一密ニ附日下一、日字左筆下連、而人字左筆斜貫レ之、其兆固矣、果驗、張九萬以ニ拆字一著レ名、秦檜召レ之至、偶持ニ一扇柄一、就レ地一畫問レ之、九萬曰、相公當レ加ニ官爵一、檜曰、我丞相爵國公、更何加、九萬曰、土上一畫、非レ王而何、其後果封ニ申王一、此皆術之見ニ於記載一者。

【拆字詩】17（タクジシ） 句中の字を分析して作る詩。〔陔餘叢考、拆字詩〕南宋人苕溪集有ニ拆字詩一首一、日月明ニ朝昏一、山風嵐自起、石皮破仍堅、古木枯不レ死、可人何當レ來、意若レ重ニ千里一、永言詠ニ黃鶴一、志士心未レ已。

【拆字令】18（タクジレイ） 酒宴の時に文字を偏旁などに分けて遊ぶことをつかさどる人。〔南部煙花記〕隋煬帝嘗會飮、爲ニ拆字令一、左右取ニ離合之意一、謂ニ杳娘一曰、我取ニ杳字一爲ニ十八日一、宮婢羅羅侍立、分ニ羅字一爲ニ四維一。

【拆卸】19 ch'ai^1 hsieh^4 家屋などを毀して解きおろす。

【拆書】20（タクショ） ❶書物をひらいてよむ。〔司空圖、上ニ陌梯寺一懷ニ舊僧一詩〕縱有レ人相問、林間懶レ拆レ書。❷ch'ai^1 shu^1 手紙の封をきる。開封する。

【拆信】21 ch'ai^1 hsin^4 手紙の封をきる。

【拆梢】22 ch'ai^1 shao^1 人を胡麻化す。又、ぼろい仕事。上海の方言。

【拆洗】23 ch'ai^1 hsi^3 分解して洗ふ。

【拆穿】24 ch'ai^1 ch'uan^1 ❶說き明かす。❷遮ぎるものを打ち開いてよく通ずるやうにする。

【拆蔟】25（タクソウ） かひこのすをわかつ。〔陸游、詩〕戶戶吳蠶拆蔟時。

【拆息】26 ch'ai^1 hsi^2 利子。利息。銀拆。

【拆損】27（タクソン） ひらきいためる。〔福惠全書、刑名部、逃人、遞解〕不レ可下連ニ內封一拆損上。

【拆糖】28 ch'ai^1 t'ang^2 原產地から直輸送の砂糖。

【拆斷】29 ch'ai^1 tuan^4 破り裂く。

【拆貯】30（タクチョ） あらためてくらいれする。〔福惠全

書、錢穀部、總論〕比較、拆貯、解給。

【拆掉】31 ch'ai¹ tiao⁴ 取り毀す。

【拆配】32 ch'ai¹ p'ei⁴ 人から取つて他の人に與へる。

【拆賣】33 ch'ai¹ mai⁴ 解賣する。

【拆房】34 ch'ai¹ fang² 家屋を取毀す。

【拆白】35 ch'ai¹ pai² 詐欺する。ペテンにかける。拆白黨を見よ。

【拆白黨】36 ch'ai¹ pai² tang³ 人の財産を騙取するもの。富貴の人の装をなし、婦女子をだまして金錢を捲き上げることを業とするもの。上海の俗語。

【拆封】37（タクフウ）❶封を開く。開封する。〔周鼎、詩〕故舊書來喜拆レ封。❷封印をひらく。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕夫糧每限摘比之後、方可レ拆レ封。

【拆封刀】38（タクフウタウ） 封を切るに用ひる刀。〔合璧事類〕拆封刀子起ニ於郭汾陽書吏一、舊但用ニ刀之小者一、所レ收文帖既繁、刀刃銷折、不レ殘ニ寸餘一、乃鈷以應レ急、較ニ愈於全時一、漸出ニ新意一、因削レ木加ニ拆刀之上一、汾陽喜ニ其用レ心曰、眞郭子儀之部吏、後傳用レ之、益妙ニ其制一。

【拆平】39 ch'ai¹ p'ing² 取り除く。破壞する。

【拆票】40 ch'ai¹ p'iao⁴ ❶信用貸。貸借融通。必要の場合は何時にても返還を要求する約定にて外國銀行より中國錢莊に資金を融通する方法。❷同上の貸借勘定結算の時に借主より發行する手形。

【拆裂】41（タクレツ） さけわれる。又、さきわる。坼裂。〔張融、海賦〕縱撞則八紘摧隤、鼓怒則九紐拆裂。〔柳宗元、囚山賦〕其下拆裂而爲レ壕。

【拆戶簿】42 ch'ai¹ hu⁴ pu⁴ 上海で錢業の同業者間の票款互拆に充てる清賬。

【拆頭店】43 ch'ai¹ t'ou² tien⁴ 小賣業を營むと共に附近への小卸を兼ねる物産商のあるものに對する稱。

【拇】

11944

㊀ボウ モ 〔集韻〕莫後切 有 ㄇㄨˇ mu³

㊁ボ モ 〔正韻〕莫補切 麌

小篆

㊀㊁❶**おやゆび**。おほゆび。〔說文〕拇、將指也、从レ手母聲。〔徐鍇注〕所謂將指者、爲ニ諸指之率一也。〔說文通訓定聲〕手足大指皆曰レ拇、易咸、咸ニ其拇一、虞注、足大指也、解、解而拇、王肅注、手大指也。〔莊子、駢拇〕駢拇枝指出ニ乎性一哉。〔釋文〕拇、足大指也。〔楚辭、宋玉、招魂〕敦脄血拇。〔注〕拇、手拇指也。❷或は胟(9－29397)に作る。〔集韻〕拇、或从レ肉。

【拇印】1（ボイン） 印章の代用としておやゆびのさきをおしたもの。つめばん。つめいん。

【拇指】2（ボシ） おやゆび。大指。拒指。將指。巨擘。擘指。〔易、咸、初六〕咸ニ其拇一、〔疏〕初六、所レ感淺末、則譬如ニ拇指一、指雖ニ小動一、未レ移ニ其足一。〔南方草木狀、草類、甘蕉〕此有ニ三種一、子大如ニ拇指一。

【拇趾】3 mu² chih³ 足の親指。

【拇戰】4（ボセン） 拳を打つ。搳拳。又、じやんけん。〔國朝漢學師承記、朱筠河〕拇ニ戰分曹一、雜以ニ諧笑一。

【拇陣】5（ボヂン） 拳を打つ。拇戰。〔趙翼、九日陶然亭同人小集詩〕騷壇盟敢操ニ牛耳一、拇陣轟如レ戰ニ虎牢一。〔桃花扇、賺將〕任ニ譁拳叫采一、三家拇陣排。

【拇動】6（ボドウ） 手足の大指までもうごく。元氣の盛大なこと。〔管子、小問〕滲然豐滿而手足拇動者、兵甲之色也。

【拈】

11945

㊀デン ネン 〔集韻〕奴兼切 鹽 ㄋㄧㄢˊˇ nien²·³

㊁セン 〔集韻〕職琰切 琰

慣ネン

小篆

㊀㊁**つまむ**。指にてとる。〔說文〕拈、挃也、从レ手占聲。〔釋名、釋姿容〕拈、黏也、兩指翕レ之、黏著不レ放也。〔玉篇〕拈、指取也。〔廣雅、釋詁三〕拈、持也。〔列子、湯問、汝何蚩而三招レ予、注〕招、一本作レ拈、指取レ物也。〔杜甫、韋偃畫馬詩〕戲拈ニ禿筆一掃ニ驊騮一。

【拈香】1（ネンカウ） ❶香をつまみくべて燒く。燒香。〔祖庭事苑〕釋氏之作ニ佛事一、未下嘗不中以ニ拈香一爲上先。〔備用清規、達磨忌〕住持擧ニ拈香佛事一。〔西廂記、張君瑞鬧ニ道場一雜劇〕這齋供道場都完備了、十五日請ニ夫人小姐一拈レ香。❷拈香文の略稱。〔絕海錄、上〕前關白殿下藤公大衍居士、諱日拈香。

【拈香文】2（ネンカウブン） 佛禪宗で拈香の後、朗讀する追悼文をいふ。

【拈鬮】3 nien² chiu¹ 鬮をひく。抽籤する。

【拈花】4（ネンゲ） ❶佛花をつまむ。拈華に同じ。

【拈華】5（ネンゲ） ❶佛花をつまむ。拈華微笑を見よ。❷清、蔣維勤(9－31820‥111)の號。

【拈華微笑】6（ネンゲミセウ） ❶佛釋迦が靈鷲山で說法した時、大梵天王より受けた金波羅華を拈つて衆に示したところ、衆人は其の意を解さなかつたが、ただ迦葉だけが獨り微笑したといふ。これは其の意を悟つたもので、以心傳心の妙處である。よつて釋迦は之に佛教の眞理を授けたとの故事。拈花微笑。〔宗門統要〕世尊在ニ靈山會上一、拈レ華示レ衆、是時衆皆寂然、惟迦葉尊者破顏微笑、世尊云、吾有ニ正法眼藏、涅槃妙心、實相無相、微妙法門、不立文字、教外別傳一、付ニ囑摩訶迦葉一。❷nien² hua¹ wei³ hsiao⁴ 婦人の容貌。

【拈出】7（ネンシユツ） つまみ出す。ひねり出す。又、字句を案出する。〔王廷珪、憶ニ馨鴻一孫一詩〕字稍堪ニ拈出一、翁今喜レ有レ餘。

【拈書】8 nien² shu¹ ❶本を繰る。❷（ヒネリブミ）㋑數枚の短冊又は紙に、夫々或事を記し、之を別に拈つて鬮とし、採りとつて占ふもの。もみくじ。㋺卷いて其の端を拈つた手紙。

【拈攙】9（ネンセン） 手で物をはかる。〔集韻〕攙、拈攙、手稱レ物。

【拈題】10 nien² t'i² 題を考へる。題を撰擇する。

【拈提】11（ネンテイ） 佛禪林の說法で、其の結末に古則を拈起して法座を終へるのを拈提結座といふ。轉じて、つまみひつさげる。揭げ示す。又、說き聞かせる。拈提古則の略。

【拈筆】12（ネンピツ） 筆を手にとること。〔杜甫、題ニ壁上韋偃畫一レ馬詩〕戲拈ニ禿筆一拂ニ驊騮一。〔蘇軾、十二月二十八日蒙レ恩云云復用ニ前韻一詩〕卻對ニ酒杯一渾似レ夢、試拈ニ詩筆一已如レ神。〔唐庚、醉眠詩〕夢中頻得レ句、拈レ筆又忘レ筌。〔董其昌、倣ニ李營丘寒山圖一詩〕拈レ筆經營輞口居、心知ニ餘習一未ニ全除一。

【拈周試晬】13（ネンシウシサイ） 小兒の生後滿一箇年の日に金銀・七寶・玩具・文房・書籍・經卷・秤尺刀剪・升斗等を小兒の摑み取るに委せ、其の取つた品の種類で、小兒の將來の職業を卜する行事。杭州地方の語。〔夢粱錄、育子〕至ニ來歲一得レ周、名曰ニ周晬一、其家羅ニ列錦席于中堂一、燒香炳燭、頓果兒飲食、及ニ父祖誥敕、金銀・七寶・玩具・文房・書籍・道釋經卷・秤尺刀剪・升斗等子、綵段花朵、官楮錢陌、女工針線、應レ用物件、幷兒戲物一、卻置得レ周、小兒于ニ中座一、觀ニ其先拈者何物一、以爲ニ佳讖一、謂ニ之拈周試晬一、其日諸親饋送、開レ筵以待ニ親朋一。

【拉】

11946

ラフ 〔集韻〕落合切 合 ㄌㄚ la¹·²·³

慣ラツ・ラ

小篆

❶**くじく**。ひしぐ。やぶる。〔說文〕拉、摧也、从レ手立聲。〔廣韻〕拉、折也、敗也、摧也。〔史記、齊世家〕因拉ニ殺魯桓公一。〔漢書、鄒陽傳〕范雎拉ニ脅折ニ齒於魏一。〔左思、吳都賦〕拉捭摧藏。〔注〕善曰、拉、頓折也。❷**ひく**。ひきつれる。同行する。〔正韻〕拉、招也、諺言邀レ人同行曰レ拉。〔正字通〕拉、俗邀レ人同行曰レ拉。〔諸葛亮、黃陵廟記〕於レ是情好日密、相拉總レ師。❸**風の聲**。〔揚雄、羽獵賦〕猋拉雷厲。〔注〕善曰、拉、風聲也。❹或は擠(5－12483)・拹(5－12009)・搚(5－12731)・摺(5－1264

7)に作る。〔集韻〕拉、或作二擠・拹・搶・摺一。㊄現㋑ひく。牽く。挽く。㋺をさめる。收穫する。㋩ながびかせる。ぐずぐずする。

【拉運】1 la^1 yün^4 運搬する。

〔拉運動〕1' la^1 yün^4 tung^4 權勢におもねって運動する。

【拉拽】2 la^1 chuai^4 引く。力をいれて引く。引張る。

【拉開】3 la^1 k‘ai^1 引き開く。

【拉骼】4（ラフカク）こしぼねをひしぐ。〔揚雄、解嘲〕折レ脇拉レ骼、免二於黴索一。〔注〕翰曰、骼、腰骨也。

【拉哈】5（ハラ）滿洲の地名。舊稱拉哈站。黑龍江省訥河縣の西南、嫩江の東方に位する。

【拉起】6 la^1 ch‘i^3 ひき起す。〔桃花扇、拒媒〕末拉起介。

【拉休】7（ラフキウ）土司の名。青海省の南境。牧地は瀾滄江の上游、雜楚河の支流の子曲河の南北。玉樹土司二十五族の一。もとの西蕃四十族の阿拉克什の二族の合したもの。

【拉朽】8（ラフキウ）くちたものをくだく。物事の容易な喩。〔晉書、甘卓傳〕將軍之擧二武昌一、若三摧レ枯拉レ朽、何所二顧慮一乎。〔舊唐書、突厥傳上〕我因而襲二擊其衆一、勢同レ拉レ朽。〔宋史、曹彬傳〕彬曰、以二國家兵甲精銳一、翦二太原之孤壘一、如二摧レ枯拉レ朽爾。

【拉客】9 la^1 k‘ê^4 客を引く。

【拉弓】10 la^1 kung^1 弓をひく。

【拉鋸】11 la^1 chü^4 鋸で挽く。

【拉空】12 la^1 k‘ung^1 借金を負ふ。缺損する。借財する。

【拉火】13 la^1 huo^3 曳火信管。

【拉過】14（ラフクワ）ひきつれ。〔福惠全書、刑名部、問擬〕國相拉二過陳連一、拿二著棒棰一就打。

【拉壞】15 la^1 huai^4 引つ張つてこはす。

【拉聒】16 la^1 kua^1 ささやく。耳元でこそこそと話す。

【拉撅】17（ラフケツ）ねだりこむ。〔福惠全書、刑名部、逃人、拉撅〕逃人拉撅、乃有二等無賴旗人一。

【拉脅】18（ラフケフ）わきばらをくじく。〔漢書、鄒陽傳〕范雎拉二脅折三齒於魏一。

【拉縴】19 la^1 ch‘ien^4 ㊀船の綱を引く。㊁手引する。周旋する。媒介する。

【拉枯】20（ラフコ）枯木をる。事の易い喩。拉朽。〔晉書、劉元海載記〕鼓行而摧二亂晉一、猶レ拉レ枯耳。

【拉貢】21（ラフコウ）地名。西康省昌都縣の西南。恩達縣の東北。子楚河に近く、往來の要道に當る。

【拉忽】22 la^3 hu 等閑にする。不注意な。拉疲。拉遢。

【拉抓】23 la^1 chua^1 ひきとらへる。

【拉殺】24（ラフサツ）手で拉ぢ殺す。〔左氏、桓、十八、夏四月丙子、享レ公、使二公子彭生乘一レ公、公薨二于車一、注〕上レ車曰レ乘、彭生多力、拉二公幹一而殺レ之。〔史記、齊太公世家〕齊襄公與二魯君一飲醉レ之、使三力士彭生抱二上魯君車一、因拉二殺魯桓公一。

【拉颯】25（ラフサツ）むさ苦しいさま。〔晉書、五行志中〕太元末、京江謠云、黃雌鷄、莫レ作二雄父啼一、一旦去二毛衣一、衣被拉颯栖。〔元好問、遊二龍山一詩〕惡木拉颯棲、直幹比二指稠一。〔通俗編、狀貌、拉颯〕拉颯、言二穢雜一也。

【拉撮】26（ラッサツ）つまみとる。〔李陽冰、與二李夫人一書〕其意在二古篆一、於二蟲魚鳥獸一得二屈伸飛動之理一、於二骨角齒牙一得二拉撮咀嚼之勢一。

【拉薩】27（ラッサ）地名。西藏の首府。衞部の首邑を兼ねる。雅魯藏布江の北岸。海拔一萬一千九百尺。人口五萬餘。唐代、吐蕃の國都で、邏娑といひ、又、邏些、拉撒、喇薩とも作る。喇薩は聖地の意。市の西に布達拉寺がある。〔皇朝文獻通考、輿地考〕拉薩城、在二打箭爐西北三千四百八十里一、卽唐吐蕃建牙之所、今爲二達賴喇嘛所一レ居。〔清史稿、地理志〕西藏、致二英兵一入二拉薩一。

【拉雜】28（ラフザツ）㊀まぜる。よせあつめる。〔古樂府、有所思〕君有二他心一、拉雜摧二燒之一。㊁しまりなくてだらしないこと。〔吳下方言考〕。

〔拉雜談〕29 la^1 tsa^2 t‘an^2 種々雜多な話。

〔拉雜變〕30（ラフザツヘン）よせあつめの文章。司馬相如の賦を摸倣し、氣取つて作つた文章をいふ。〔蘇軾、書二拉雜變一〕司馬長卿賦、飄飄有二凌雲氣一、近時學者作二拉雜變一、便自謂二長卿一、長卿不レ嗔、恐三覽者渴睡落レ牀、難二以凌レ雲耳。

【拉司】31 la^1 ssu^1 英國の衡量の名。last の音譯。

【拉屎】32 la^1 shih^3 大便する。

【拉絲】33 la^1 ssu^1 ぐずぐずする。躊躇する。

【拉齒】34（ラフシ）齒をくじき折る。〔梁簡文帝、七勵〕范雎折レ脇、豫讓拉レ齒、禮竭二中心一、報深二國士一。

【拉兒】35 la^1 êrh^2 子供を連れて行く。

【拉楸】36 la^1 ch‘iu^1 五加(ウコギ)の屬。

【拉瑟】37（ラフシツ）風の吹く聲。〔蘇軾、偶於二龍井辯才處一得二歙硯一甚奇作二小詩一〕午窗睡起人初靜、時聽西風拉瑟聲。〔王惲、德壽殿玉方池研詩〕紛紛落墨騰蚊霧、淅淅秋風拉瑟聲。

【拉扯】38 la^1 ch‘ê^3 ㊀引く。曳く。㊁取引。

【拉車】39 la^1 ch‘ê^1 車を挽く。

【拉者】40（ラージヤ）印度貴族、或は地主の稱號。Rajah, Raja

【拉上】41（ラフジヤウ）あげあしをとる。〔紅樓夢、十九回〕凡我說二一句一、儞就拉二上這麼一些三。

〔拉上補下〕42 la^1 shang^4 pu^3 hsia^4 其の間。中間。

【拉手】43 la^1 shou^3 ㊀手を引く。㊁握手する。

【拉錫】44（ラフセキ）清、蒙古正白旗人。姓は圖伯特氏。康熙中、舒蘭と偕に河源を窮む。雍正中、正白旗滿洲都統となる。事を以て官を奪はれ、旋つて復職して卒す。〔清史稿、二百八十九〕・〔清史列傳、十三〕・〔國朝耆獻類徵、二百八十三〕。

【拉倒】45 la^1 tao^3 ㊀曳き倒す。㊁止める。中止する。

〔拉倒散鬨〕46 la^1 tao^2 san^3 hung^4 止める。

【拉㧺】47（ラフタフ）鳥が飛ぶさま。〔傅毅、舞賦〕鶤鷄燕居、拉㧺鵠驚。〔注〕善曰、拉㧺、飛皃、良曰、拉㧺、擧レ翅皃。

【拉答】48（ラフタフ）散漫でしまりのないこと。〔晉書、文苑、王沈傳〕拉答者有二沈重之譽一、嗛閃者有レ得二清剿之聲一。

【拉搭】49（ラフタフ）拉答に同じ。〔琵琶記、春宴二杏園一〕餓老鴟全然拉搭、雁翅板片片彫零。

【拉遢】50 la^2 t‘a 不注意な。拉忽(22)に同じ。

【拉地】51 la^1 ti^4 地所の賣買を周旋する。

【拉致】52（ラッチ）ひきつれる。

【拉賬】53 la^1 chang^4 借金をいつまでも滯らす。借り倒す。

【拉丁】54（ラテン）種族の名。臘丁。羅甸。Latin の音譯。

〔拉丁化〕55 la^1 ting^1 hua^4 ラテン化。ラテン化運動ともいはれ、一九三一年ごろからソヴエート同盟を中心にして發展した中國語ローマ字化運動をさす。現在、日常文、文學作品その他廣範圍に用ひられてゐる。

〔拉丁語〕56（ラテンゴ）羅甸語。古のラテン民族の語。今は學術語としてのみ用ひられる。

【拉典】57（ラテン）種族の名。拉丁。羅典。

【拉童】58 la^1 t‘ung^2 子供を連て行く。拉兒(35)に同じ。

【拉捭】59（ラフハイ）くじき、なげうつ。〔左思、吳都賦〕莫レ不二衂レ銳挫レ鋩、拉捭摧藏一。〔注〕善曰、捭、兩手擊也、向曰、捭、擲也。

【拉房】60 la^1 fang^2 家屋の賣買を周旋する。

【拉伯】61（ラップ）北歐のラプランドに居住する種族。Lapps の音譯。

〔拉伯瀾〕62（ラプランド）歐羅巴北部の北方。Lapland の音譯。

【拉拔】63 la^1 pa^2 引立てる。ひいきにする。

【拉疲】64 la^1 p‘i^2 不注意な。拉忽(22)に同じ。

【拉夫】65 la^1 fu^1 人夫を徵發する。戰時に勞働者等を強制して軍夫とすること。

【拉舖】66 la^1 p‘u^1 男女交構することをいふ。〔北京指南、食宿遊覽、花界特別用語〕拉舖、男女交構曰二拉舖一。

【拉篷】67 la^1 p‘êng^2 帆を捲上げる。

〔拉篷扯縴〕68 la^1 p‘êng^2 ch‘ê^3 ch‘ien^4 いろいろ無駄な世話をやく。

【拉磨】69 la^1 mo^4 挽臼をひく。

【拉網】70 la^1 wang^3 蜘蛛があみを張る。

【拉擸】71（ラフラフ）木がくじけさける聲。〔左思、吳都賦〕拉擸電硠、崩レ巒弛レ岑。〔注〕濟曰、拉擸、木摧傷之聲。

【拉里】72（ラフリ）地名。西康省嘉黎縣。地は西・前藏の間に位し、三十九族の番人の居る所。〔清史稿、地理志〕西藏、拉里、在二前藏東五百九十里、察木

多西六百六十里一。

【拉林】73（ラフリン） ❶山名。滿洲吉林省額穆縣の北。一名、蘭陵嶺。❷川の名。二源あり、倶に源は滿洲吉林省額穆縣の北の拉林山。北を霍林河といふ。金史は活論に作り、又、胡倫とも作る。南を舒蘭河といふ。水道提綱は音蘭に作る。合して西北に流る。松花江に注ぐ。拉林は滿洲語で爽快の意。遼史は喇离に作り、金史には落黎・烈鄰・淶流に作る。其の上流を今又、蘭林といふ。〔清史稿、地理志〕吉林、新城府。〔注〕拉林流二其東一、川原廣衍、水陸輻輳。❸城の名。吉林省雙城縣東南に在る。清、乾隆の閒、副都統を此の地に置く。拉林河に因つて名づけた。〔皇朝文獻通考、輿地考〕拉林、在二吉林烏拉城東北三百六十里一。

【拉攏】74 la^{1} lung ❶交はる。親密にする。❷枝葉に亘る話をする。

【拉溫那】75（ラヴエンナ） 地名。イタリア北部の都會。アドリア海に面す。Ravenna の音譯。

【拉哥斯】76（ラゴス） 地名。アフリカ洲、英領ニジエリアの首府。Lagos の音譯。

【拉合爾】77（ラホール） 地名。インドのインダス河上流のパンジヤブ地方の中心都會。Lahore の音譯。

【拉哈達】78（ラフカフタツ） 清、滿洲鑲黃旗人。姓は鈕祜祿氏。康熙中、鑲黃旗滿洲都統となる。次いで鎭東將軍を授けられ、兗州に駐防す。耿精忠の反に浙江福建に轉戰して軍功があつた。〔清史稿、二百六十〕・〔清史列傳、九〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十八〕。

【拉結實】79 la^{1} chieh^{1} shih しつかりと引く。

【拉鎖子】80 la^{1} suo^{3} tzŭ 着物又は靴などに布の裂けぬやうに四つどめをすること。

【拉常兒】81 la^{1} ch'ang^{2} êrh 常に。いつまでも。

【拉主顧】82 la^{1} chu^{3} ku 華客を自分の方へ引きつける。

【拉舌頭】83 la^{1} shê^{2} t'ou 讒言する。誹謗する。

【拉前場】84（ラフゼンヂヤウ） 演劇で次の芝居をひき出す務をするつまらぬ役者。〔梨園佳話〕學者十人、成者未二必有レ五、劇詞滿レ腹、無三利二用之一、不レ得レ已乃甘下於作二配角一、充中兵卒上、謂二之擋下把一、否則爲レ人執レ役、謂二之潤場一、料二量後臺一、謂二之看衣箱一、前臺奔走、謂二之拉前場一、伶人至レ此、一生已矣。

【拉楚河】85（ラツガ） 河の名。瀾滄(**7－18722‥5**)の別稱。

【拉多加】86（ラドガ） 湖の名。ソヴエート聯邦西北部にあり、ヨーロツパ洲最大の湖。Ladogaの音譯。

【拉大畫】87 la^{1} ta^{4} hua^{4} のぞき眼鏡。

【拉替身】88 la^{1} t'i^{4} shen^{1} 亡靈が人に祟つて殺すこと。

【拉躺下】89 la^{1} t'ang^{3} hsia 引き下ろす。損をして店をたたむ。

【拉短兒】90 la^{1} tuan^{3} êrh 一時滯在する。

【拉得了】91 la^{1} tê liao^{3} 引つ張ることが出來る。

【拉巴斯】92（ラパス） 地名。❶南アメリカ洲、ボリヴイアの首府。❷メキシコ、カリホルニア半島南部の都邑。La Paz の音譯。

【拉買賣】93 la^{1} mai^{3} mai 車を曳いて行商すること。

【拉不出】94 la^{1} pu ch'u^{1} ❶引き出されない。❷虛言。

【拉不動】95 la^{1} pu tung^{4} 曳き動かすことが出來ない。

【拉不了】96 la^{1} pu liao^{3} 曳くことが出來ない。

【拉布敦】97（ラツフトン） 清、滿洲正黃旗人。姓は陳鄂氏。諡は壯果。準噶爾を征し、乾隆の時、左都御史となる。爵は二等子を授けられた。〔清史稿、三百十八〕・〔清史列傳、十九〕・〔國朝耆獻類徵、三百四十八〕・〔碑傳集、一百二十一〕・〔國朝先正事略、十九〕。

【拉風箱】98 la^{1} fêng^{1} hsiang^{1} 鞴を動かす。

【拉胡琴兒】99 la^{1} hu^{1} ch'in êrh 胡琴を引く。

【拉着拽着】100 la^{1} chê chuai^{4} chê 無理やりに引張る。

【拉巴拉他】101（ラプラータ） La Plata の音譯。❶アルゼンチンの港市。❷南米の大河。

【拉布剌達】102（ラブラドル） カナダ東部の大半島。Labrador の音譯。

【拉駱駝的】103 la^{1} luo^{4} t'uo tê 駱駝を曳いて諸方を廻る醫者。南方中國の語。駱駝には旅具を載せる。

【拉拉扯扯】104 la^{1} la^{1} ch'ê^{2} ch'ê^{3} なんのかんのと。〔紅樓夢、三十一回〕晴雯道、怪熱的、拉拉扯扯作什麽。

【拉得下臉來】105 la^{1} tê hsia^{4} lien^{3} lai 氣の毒に思はない。耻づかしく思はない。

【拉不下臉來】106 la^{1} pu hsia^{4} lien^{3} lai 氣の毒に思ふ。耻づかしく思ふ。面目ない。

【拉布庫克住喇嘛】107（ラブククチユウラマ） 西番土司四十族の一。青海の南境。西寧府志の喇嘛拉布庫克族。〔清會典、戶部〕青海辨事大臣屬二土司三十有九一。〔注〕拉布土司。

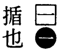
【拊】
11947

㈠フ 〔集韻〕斐父切 ㄈㄨˇ fu^{3} 麌

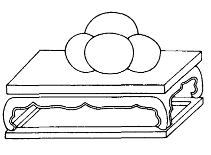
㈡フ 〔集韻〕方遇切 遇

㈢フ ホウ 〔集韻〕彼口切 有

㈣フ 〔集韻〕風無切 虞


小篆

㈠❶**なでる**。さする。〔說文〕拊、揗也、从レ手付聲。〔詩、小雅、蓼莪〕拊レ我畜レ我。〔左氏、宣、十二〕王巡二三軍一、拊而勉レ之。〔注〕拊、撫、慰二勉之一也。〔孔子家語、曲禮子夏問〕無レ拊レ膺。〔注〕拊、猶レ撫也。❷**うつ**。たたく。かるくうつ。〔說文、拊、段注〕堯典曰、擊レ石拊レ石、拊、輕、擊、重。〔廣雅、釋詁三〕拊、擊也。〔書、舜典〕予擊レ石拊レ石。〔傳〕拊、亦擊也。〔左氏、襄、二十五〕公拊レ楹而歌。〔釋文〕拊、拍也。〔管子、禁藏〕毋レ拊レ卵。〔注〕拊、謂三擊二剝之一也。〔漢書、吳王濞傳〕因拊二其背一。〔注〕師古曰、一曰、拊、輕擊レ之。❸**にぎり**。**つか**。〔禮、少儀〕削授レ拊。〔注〕拊、謂レ把。〔禮、少儀〕弓則以二左手一、屈レ韣執レ拊。❹**樂器の名**。形は小鼓に似て、皮で作り、中に糠をいれたもの。奏樂の初めにうつて拍子をとる。〔周禮、春官、大師〕擊レ拊。〔注〕拊、形如レ鼓、以レ韋爲レ之、著レ之以レ糠。〔禮、樂記、治レ亂以レ相、注〕拊者、以レ韋爲レ表、裝レ之以レ糠、糠一名レ相。❺**もとめる**。〔廣雅、釋詁、三〕拊、求也。❻**はやい**。趴(**10－37371**)に通ず。〔說文通訓定聲〕拊、段借爲レ趴。〔方言、十二〕拊、疾也。❼撫(**5－12743**)に通ず。〔說文、段注〕揗者摩也、古作二拊揗一、今作二撫循一、古今字也。〔爾雅、釋訓〕辟、拊心也。〔釋文〕拊、本亦作レ撫。❽附(**11－41606**)に通ず。〔馬融、長笛賦〕拊譟踊躍。〔注〕拊、五臣作レ附。㈡**つける**。或は搏(**5－12198**)に作り、通じて傅(**1－939**)に作る。〔集韻〕拊、以レ手著レ物也、或作レ搏、通作レ傅。㈢**衣の上からうつ**。捬(**5－12374**)に同じ。〔集韻〕捬、說文、衣上攴也、或作レ拊。㈣**人名**。〔集韻〕拊、闕、人名、漢有二張山拊一。〔漢書、藝文志〕泰始黃帝扁鵲俞拊方。〔講疏〕史記曰、上古之時、醫有二俞拊一。


拊 圖（禮器圖）

【拊愛】1（フアイ） なで愛する。附愛。〔戰國、齊策〕今君有二區區之薛一、不三拊愛子二其民一、因而賈二利之一。

【拊育】2（フイク） なでそだてる。撫育(**5－12743‥8**)に同じ。〔魏志、王基傳〕上疏求三云云、以報二叔父拊育之德一。〔吳志、妃嬪、孫和何姬傳〕遂拊二育皓及其三弟一。

【拊膈】3（フカク） 樂器の名。拊鞷に同じ。〔荀子、禮論〕尙二拊之膈一。〔集解〕郝懿行曰、樂論篇以三拊鞷與二鞉柷椌楬一相儷、則皆樂器名也、拊者以レ韋

爲レ之、實以レ糠、膈、彼作レ鞷、其字從レ革、䊪疑亦拊之類。〔史記、禮書〕縣二一鍾一、尚二拊膈一。

【拊鞷】4フカク　樂器の名。韋で作り之に糠を入れて樂を節するもの。字解[一]❹を見よ。〔荀子、樂論〕鞉柷拊鞷椌楬似二萬物一。〔集解〕郝懿行曰、拊鞷、禮論篇作二拊膈一、其義當レ同、云云、皆樂器名。

【拊樂】5フガク　音樂をうちならす。〔墨子、非樂上〕虧二奪民衣食之財一、以拊レ樂、如レ此多也。〔閒詁〕廣雅釋詁云、拊、擊也、書舜典、予擊レ石拊レ石、僞孔傳云、拊、亦擊也。

【拊胸】6フキョウ　むねをうつ。拊心。〔北齊書、王晞傳〕妻終不レ言、晞以レ手拊レ胸而退。

【拊琴】7 fu³ ch'in²　琴をならす。撫琴。

【拊楗】8フケン　くわんのき(門)をうちとる。盜みをするをいふ。〔淮南子、齊俗訓〕有二曾參孝己之美一、而生二盜跖莊蹻之邪一、故有二大路龍旂、羽蓋垂緌、結レ駟連レ騎、則必有二穿レ窬拊レ楗抽レ箕踰レ備之姦一。〔集解〕楗、謂二戶牡一也、拊楗、謂三搏二取戶楗一也。

【拊劍】9フケン　劍をなでる。撫劍。〔曹植、雜詩〕拊レ劍西南望、思欲レ赴二太山一。

【拊鍵】10フケン　くわんのき(門)をうちとる。盜みをすること。拊楗(8)に同じ。〔法言、重黎〕賢者司レ禮、小人司レ巇、況拊レ鍵乎。

【拊絃】11フゲン　琴瑟などをしらべること。撫絃。〔嵇康、琴賦〕拊レ絃安歌、新聲代起。

【拊鼓】12フコ　鼓をうつ。〔禮、樂記〕弦匏笙簧、會守拊レ鼓。〔楚辭、九歌、東皇太一〕揚レ抱兮拊レ鼓、疏二緩節一兮安歌。

【拊嗟】14フサ　手をうつて嗟嘆すること。〔嵇康、琴賦〕拊嗟累讃、間不レ容レ息。〔注〕向曰、拊迫自嗟、累二讃其美一。

【拊譟】15フサウ　手をうつてさわぐ。鳧藻。〔馬融、長笛賦〕鴟視狼顧、拊譟踊躍。

【拊掌】16フシヤウ　掌をうつ。喜びを表はすさま。撫掌。〔後漢書、方術下、左慈傳〕以二竹竿一餌二釣於盤中一、須臾引二一鱸魚一出、操大拊レ掌笑。

【拊手】17フシユ　手をうつ。喜びを表はすさま。〔史記、趙世家〕拊レ手且歌。〔史記、孟嘗君傳〕乃拊レ手而謝レ之。〔魏志、武帝紀〕但說二京都舊故一、拊レ手歡笑。〔資治通鑑、魏紀〕(明帝、太和二年)昔先帝敗二軍於楚一、當二此時一、曹操拊レ手、謂二天下已定一。〔注〕拊レ手、乘レ快之意、發二見於外一者也。

【拊巡】18フジユン　てなづけめぐる。撫愛し巡廻する。撫巡。〔顏延之、陽給事誄〕勉慰二痍傷一、拊二巡饑渴一。

【拊循】19フジユン　なで安んずる。慰撫する。撫循。〔荀子、富國〕拊二循之一、唲二嘔之一。〔注〕拊、與レ撫同、拊循、慰二悅之一。〔史記、晉世家〕子反收二餘兵一、拊循欲二復戰一。〔史記、司馬穰苴傳〕士卒次舍、井竈飮食、問レ疾醫藥、身自拊二循之一。〔漢書、淮南厲王劉長傳〕拊二循百姓一。〔新書、匈奴〕拊循而後、得レ入レ官。〔淮南子、泰族訓〕拊二循其所レ有、而滌二蕩之一。

【拊心】20フシン　むねをうつ。悲しむさま。又、憤るさま。拊膺。撫心。〔儀禮、士喪禮〕婦人拊レ心不レ哭。〔列子、說符〕其妻望レ之而拊レ心。〔呂覽、觀世〕子列子入、其妻望而拊レ心。

【拊石】21フセキ　磬をうつ。石は磬。〔書、益稷〕擊レ石拊レ石、百獸率舞。〔蔡傳〕石、磬也。〔列子、黃帝〕擊レ石拊レ石、百獸率舞。

【拊背】22フハイ　肩をうつ。又、肩をなでる。〔漢書、吳王濞傳〕因拊二其肩一。〔注〕師古曰、拊、摩二循之一也、一曰、拊、輕二擊之一。〔漢書、外戚上、孝武衞皇后傳〕拊二其肩一曰、行矣。〔注〕師古曰、拊、謂三摩二循之一也。

〖拊背扼喉〗23フハイヤクコウ　背をうちのどをおさへる。要地に據る喩。〔唐書、循吏、薛大鼎傳〕高祖兵興、謁二見龍門一、因說下帝絕二龍門一、軍二永豐倉一、就レ食、傳二檄遠近一、據二天府一、示二豪傑一、爲中拊背扼喉計上。

【拊搏】24フハク　樂器の名。韋で作り、糠をみたし、小鼓の形をした樂器。撫拍。〔禮、明堂位〕拊搏・玉磬・指擊・大琴・大瑟・中琴・小瑟、四代之樂器也。〔注〕拊搏、以レ韋爲レ之、充レ之以レ糠、形如二小鼓一。〔大戴禮、禮三本〕縣二一磬一而尙二拊搏一。

【拊髀】25フヒ　ももをうつ。勇み奮ふさま。喜び勇むさま。又、悲憤慷慨のさま。撫髀。〔漢書、馮唐傳〕乃拊レ髀曰、嗟乎吾獨不レ得二廉頗李牧爲レ將、豈憂二匈奴一哉。〔後漢書、酷吏、陽球傳〕球嘗拊レ髀發レ憤曰、若陽球作二司隸一、此曹子安得レ容乎。〔莊子、在宥〕鴻蒙方將拊レ髀、雀躍而遊。〔疏〕拊、拍也。

【拊缶】26フフ　缶をうつ。缶は、ほとぎで、酒を入れる器。秦人は、樂器に代用した。撫缶。〔漢書、楊惲傳〕酒後耳熱、卬レ天拊レ缶而呼二烏烏一。〔注〕應劭曰、缶、瓦器也、秦人擊レ之以節レ歌、師古曰、缶、卽今之盆類也。

【拊拂】27フフツ　うちはらふ。〔郭璞、江賦〕揮弄灑レ珠、拊二拂瀑沫一。

【拊勉】28フベン　なでてつとめる。〔左氏、宣、十二〕師人多寒、王巡二三軍一、拊而勉レ之。〔注〕拊撫、慰二勉之一。

【拊膺】29フヨウ　胸を撫でる。くやしがるさま。又、勇むさま。拊心(20)に同じ。撫膺。〔列子、湯問〕飛衞高蹈拊レ膺曰、汝得レ之矣。〔孔子家語、曲禮子夏問〕無二揮涕一無二拊膺一。〔李商隱、哭二劉司戶蕡一詩〕江闊唯迴レ首、天高但拊レ膺。〔阮籍、詠懷詩〕臨レ觴拊レ膺、對レ食忘レ餐。〔陸機、梁甫吟〕哀吟梁父巓、慷慨獨拊レ膺。

【拊翼】30フヨク　はばたきすること。勇んで起き上るさま。〔漢書、敍傳下〕張陳之交、游如二父子一、攜レ手遯レ秦、拊レ翼俱起。〔注〕師古曰、拊翼、以レ雞爲レ喩、言下知レ將レ旦、則鼓二擊其翼一而鳴上也。

【抛】
11948

小篆

[一]ハウ ヘウ　〔集韻〕披交切　ㄆㄠ　p'ao¹　看

[二]ハウ ヘウ　〔集韻〕披敎切　效

[一]❶**なげうつ**。㋑すてる。投げすてる。投げ出す。〔說文新附〕抛、棄也、从レ手尥聲。〔後漢書、安成孝侯賜傳〕同抛二財產一。㋺なげる。なげつける。〔廣韻〕抛、抛擲。〔指月錄〕偶抛二瓦礫一。❷**うつ**。〔廣雅、釋詁三〕抛、擊也。❸或は摽(**5**－12651)・轂(**5**－13361)・抱(**5**－11917)に作る。〔集韻〕抛、或作二摽・轂・抱一。[二]❶**なげうつ**。[一]の❸に同じ。〔集韻〕抛、擲也。❷**戰車の一**。投石の用に供す。抛車。〔廣韻〕抛、抛車。〔唐書、高麗傳〕列二抛車一、飛二大石一。

【抛家】1 p'ao¹ chia¹　我家を去る。

〖抛家髻〗2ハウカケイ　婦人の髻の名。〔唐書、五行志二〕唐末京都婦人梳レ髮、以二兩鬢一抱レ面、狀如二椎髻一、時謂二之抛家髻一。〔桃花扇、傳歌〕匆匆挽二箇抛家髻一。

〖抛家失業〗3 p'ao¹ chia¹ shih¹ yeh⁴　破産する。

【抛棄】4ハウキ　なげすてる。ふりすてる。抛擲。法律上、權利を放ちすてて行使しないことなど。

【抛毬】5ハウキウ　毬を投げる。抛毬樂を見よ。

〖抛毬樂〗6ハウキウガク　曲調の名。酒宴中、毬を投げて唱ふ樂曲。〔唐音癸籤〕抛毬樂、酒筵中抛レ毬爲レ令、其所レ唱之詞也、宋史樂志、女弟子舞隊、三曰抛毬樂。〔詞譜〕此調三十字者、始二於劉禹錫詞一、四十字者、始二於馮延己詞一、因下詞有中且莫レ思二歸去一句上、或名二莫思歸一、然皆五七言小律詩體、至二宋柳永一、則借二舊曲名一、別倚二新聲一、始有二兩段一百八十七字體一、樂章集注林鍾商調與二唐詞小令體製一、迴然各別。〔李謹言、水殿抛毬曲〕朝來自覺承レ恩最、笑倩傍人認二繡毬一。〔劉禹錫、抛毬樂詞〕五綵繡團圓、登レ君瑇瑁筵、最宜紅燭下、偏稱落花前、上客如二先起一、應須レ贈二一船一、春早見二花枝一、朝朝恨二發遲一、及レ看二花落一後、卻憶未レ開時、幸有二抛毬樂一、一杯君莫レ辭。

【抛球】7ハウキウ　毬を投げる。抛毬(5)に同じ。

【抛卻】8ハウキャク　なげうつ。うちすてる。放卻。抛擲(24)に同じ。〔耳目記〕甲仗總抛卻、騎猪正南竄。〔任士林、春牧圖詩〕老翁曲レ膝睡亦著、蓬頭不レ記笠抛卻。〔宋樹穀、盆梅詩〕抛二却西溪千樹雪一、瓦盆三尺看二梅花一。

【抛去】9ハウキョ　なげうちさらしめること。〔方干、牡丹詩〕醉眼若爲二抛去一得、狂心更擬折來看。

【抛空】10 p'ao¹ k'ung¹　代物が無くて先づ物を買ふこと。空相場をする。

〖抛空頭〗11 p'ao¹ k'ung¹ t'ou　抛空に同じ。

【拋荒】12 ハウクワウ なげやりにする。あれはてる。〔清會典事例、戶部、田賦、畿輔官兵莊田〕道光十六年、又覆准、其水衝沙壓之地、仍招レ佃酌量議レ租報レ部、毋レ任二拋荒一。〔福惠全書、涖任部、馭衙役〕田地拋荒、正賦節年拖欠。

【拋散】14 p'ao¹ san³ ❶消費する。❷分散する。

【拋車】15 ハウシヤ 古、軍中で投石の用に供した車。霹靂車。〔南史、黃法𣰰傳〕於レ是爲二拋車及步艦一。〔唐書、東夷、高麗傳〕（李）勣列二拋車一飛二大石一、過二三百步一、所レ當輒潰。

【拋射】16 ハウシヤ なげやる。なげとばす。

〖拋射線〗17 ハウシヤセン 圓錐曲線の一。拋物線（30）に同じ。

【拋捨】18 p'ao¹ shê³ 投げ棄てる。

【拋石】19 ハウセキ 石をなげること。〔獨異志〕唐滄景節度李同捷叛、王智興帥二徐泗兵一、討二於棣州一、同捷遣二一能言者一、披二短褐一、坐二於城上戰棚一、罵二智興一、云云、有二一卒一曰、此可三用拋レ石擊二去其首一、云云、乃具拋二發一石一、正二中其首一、隨レ石迸落。

【拋堶】20 ハウタ 宋代に行はれた遊戲。瓦石などを飛ばして遊ぶもの。〔丹鉛總錄〕宋世寒食有二拋堶之戲一、兒飛二瓦石一爲レ戲、若二今之打瓦一也、按、此戲或云、起二於堯民之擊壤一。

【拋趓】21 ハウタ 回避してしらぬふりをする。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕爭奈母親側坐、成二拋趓一、咫尺間如二間闊一。

【拋躱】22 ハウタ 放置して用ひぬこと。〔還魂記、拾畫〕斷煙中見水閣摧殘、畫船拋躱。

【拋除】23 p'ao¹ ch'u² 引き去る。割引く。

【拋擲】24 ハウテキ なげうつ。なげやる。なげやりにする。顧みぬ。構はぬ。〔劉禹錫、和二僕射牛相公春日閒坐見レ懷詩〕東洛池臺怨二拋擲一、移文非レ久會應レ成。〔白居易、酬二別周從事一詩〕洛下田園久拋擲、吳中酒歌莫二留連一。〔白居易、木蓮樹生二巴峽山谷閒一云云詩〕幾度欲レ移移不レ得、天教三拋擲在二深山一。

〖拋擲線〗25 ハウテキセン 圓錐曲線の一。拋物線（30）に同じ。

【拋廢】26 ハウハイ うちすてにする。〔福惠全書、教養部、墾荒田〕人民流散、漸致二拋廢一。

【拋盤】27 p'ao¹ p'an² 圓盤を投げる。

【拋費】28 p'ao¹ fei⁴ 浪費する。

【拋物】29 ハウブツ 物をなげとばす。

〖拋物線〗30 ハウブツセン 圓錐曲線の一。平面上の一定點と一定直線とから、等距離の諸點を連結した曲線。物を斜に拋つ時、其の物が地球の引力に感じて曲がり畫く曲線。英語 parabola の譯。

〖拋物面〗31 ハウブツメン 拋物線をなした切口の曲面。

【拋錨】32 p'ao¹ mao² 投錨する。

【拋撇】33 p'ao¹ p'ieh¹ ふりすてる。投げ捨てる。

【拋別】34 ハウベツ なげやりにして顧みないこと。〔燕子箋、寫像〕這幾日小弟在二寓中一、有二些小恙一、不四曾時常來看三得老兄與二雲娘一拋別拋別。

【拋網】35 ハウマウ 網を打つ。〔何景明、打魚歌〕小船取レ速不レ取レ多、往來拋レ網如レ擲レ梭。

【拋與】36 ハウヨ 投げ與へる。〔日本政記、崇德天皇論〕觀下其異日見二源賴朝一、贈二之寶玩一、而出レ門拋中與兒童上。

【拋令】37 ハウレイ 滑稽問答の類。〔言行錄〕丁晉公與二楊大年一拋令、大年云、有レ酒如レ線、遇レ鍼則見、晉公云、有レ餅如レ月、遇レ食則缺。

【拋雲車】38 ハウウンシヤ 風の名。〔海錄碎事、天、風〕國史補、暴風之候、有二拋雲車一。

【拋青春】39 ハウセイシユン 酒の名。唐人は酒の名にみな春の字を附ける。〔韓愈、感春詩〕百年未レ滿不レ得レ死、且可三勤買二拋青春一。

【拋甎引玉】40 ハウセンインギヨク 瓦を投げすてて玉を引く。人に和韻を請ふ時の謙辭。唐の趙嘏が吳に行つた時、常建は趙嘏が必ず靈巖寺に遊ぶであろうと豫想し、先づ靈巖寺に至つて二句を題すると、嘏は寺に遊ぶに及んで、果して之を續成した。時人は建を評して拋甎引玉といつた。〔通俗編、服飾、拋磚引玉〕傳燈錄、趙州稔謂下大衆有二解レ問者一出來上、一僧便出禮拜、稔曰、此來拋磚引玉、却引二得箇墼子一。〔盧綸、臥病寓居云云寄二馮生一幷贈二喬尊師一詩〕倚レ玉翻成レ難、投レ磚敢望レ詶。

【拋頭露面】41 p'ao¹ t'ou² lou⁴ mien⁴ ❶人前に顏をさらける。❷恥を忍んで。

【批】11949

㊀シ 〔集韻〕蔣氏切 紙

㊁シ ジ 〔集韻〕才支切 支

㊂セイ サイ 〔集韻〕子禮切 薺

小篆

㊀❶つかむ。〔說文〕批、捽也、从レ手此聲。〔張衡、西京賦〕摣二髴猬一、批二窳狻一。〔注〕翰曰、髴猬・窳狻、皆猛獸名、摣・批、搏撮貌。❷ひく。〔一切經音義、三〕批、通俗文、掣挽曰レ批。❸うつ。抵（5－11846）に同じ。〔廣韻〕批、拳加レ人也。〔集韻〕抵、說文、側擊也、或作レ批。㊁㊂❶つかむ。にぎりつぶす。㊀の❶に同じ。〔集韻〕批、博雅、捽也。〔集韻〕批、捽滅也。❷殺す。〔廣韻〕批、殺也。

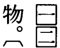
【掔】11950

㊀シ ジ 〔集韻〕疾智切 寘

㊁キ ギ 〔集韻〕奇寄切 寘

㊂ヒ 〔集韻〕平義切 寘

㊃サイ ジヤ 〔集韻〕鉏佳切 佳


小篆

㊀㊁㊂㊃❶つむ。又、積みあげた物。〔說文〕掔、積也、从レ手此聲、詩曰、助レ我擧レ掔。❷頰をなでる。〔說文〕掔、一曰、摵二頰旁一也。❸或は柴（6－14664）に作る。〔集韻〕掔、或作レ柴。〔詩、小雅、車攻〕助レ我擧レ柴。〔釋文〕柴、說文作レ掔。❹うつ。批（5－11845）に通ず。〔說文通訓定聲〕掔、按、批・掔疑同字、詩之擧掔、猶二擧批一也。

【拌】11951

㊀ハン 〔集韻〕鋪官切 寒

㊁ハン バン 〔集韻〕部滿切 旱 ㄅㄢˋ pan⁴

㊂ハン 〔集韻〕普半切 翰 ㄆㄢˋ p'an⁴

㊀㊁㊂❶すてる。〔方言、十〕拌、棄也、楚凡揮二棄物一、謂二之拌一。〔廣雅、釋詁一〕拌、棄也。❷わる。さく。われる。さける。判（2－1923）に通ず。〔集韻〕判、說文、分也、通作レ拌。〔呂覽、古樂〕瞽叟拌二五絃之瑟一。〔注〕拌、分。〔呂覽、論威〕以レ木擊レ木則拌。〔注〕拌、柝。〔史記、龜策傳〕鑴レ石拌レ蚌。〔注〕索隱曰、拌、割。❸播（5－12747）・半（2－2707）に通ず。〔廣雅、釋詁一、拌棄也、疏證〕播與レ拌古聲相近、士虞禮、尸飯、播二餘于篚一、古文播爲レ半、半、古拌字。❹かきまぜる。あへる。調合する。〔遵生八牋、黃梅湯〕隨意拌勻。❺俗に拚（5－12116）に作る。〔集韻〕拌、俗作レ拚、非レ是。

【拌勻】1 ハンイン むらなくかきまぜる。〔遵生八牋、黃梅湯〕肥大黃梅蒸熟、去レ核淨肉、一斤炒鹽、三錢乾薑末、一錢半乾紫蘇、二兩甘草檀香末、隨意拌勻、置二磁器中一曬レ之。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕拌勻再剉、務相和合。

【拌菜】2 p'an⁴ ts'ai⁴ 虀物。

【拌財】3 p'an⁴ ts'ai² 財產を拋つ。

【拌嘴】4 pan⁴ tsuei³ 互に罵り合ふ。口論する。

【拌水】5 pan⁴ shuei³ 水をかきまぜる。

【拌石】6 p'an⁴ shih² 石を投げる。

【拌入】7 ハンニフ かきまぜる。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕以二老韭菜汁一拌入。

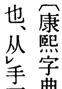
【拌蚌】8 ハンバウ はまぐりをわつて珠を取る。〔史記、龜策傳〕鑴レ石拌レ蚌、傳賣二于市一、聖人得レ之、乃爲二大寶一。

【拌命】9 p'an⁴ ming⁴ 生命を拋つ。命を惜まぬ。

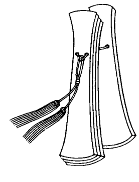
【拌雞絲】10 pan⁴ chi¹ ssŭ¹ 雞肉を水で煮て、絲のやうに切つたもの。

【拍】 11952

㊀ハク ヒャク 〔集韻〕匹陌切 ㄆㄛˋ p'o^{4} 陌。
㊁ハク 〔集韻〕伯各切 ㄆㄞ p'ai^{1} 藥。
慣ヒャウ


小篆

㊀❶うつ。たたく。㋑なでる。愛する。もと㧕(5—11999)に作る。〔康熙字典〕拍、說文、本作レ㧕。〔說文〕㧕、拊也、从レ手百聲。〔王注〕郭注二釋訓一曰、撫掩、猶二撫拍一、謂二慰恤一也、與二許君一意合、拍、卽俗㧕字、至二於釋名一曰、拍、搏也、手搏二其上一也、則與三尙書搏二拊琴瑟一同義、非三許君㧕掾拍拊四字類聚之意一也。〔後漢書、趙壹傳〕撫二拍豪強一。〔注〕撫拍、相親狎也。㋺手をうちならす。〔韓非子、功名〕一手獨拍、雖レ疾無レ聲。〔葛長庚、凝翠詩〕凭レ檻拍レ掌呼。㋩手でたたく。〔釋名、釋姿容〕拍、搏也、以レ手搏二其上一也。〔廣雅、釋詁三〕拍、擊也。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕擧レ手拍二馬鞍一。㋥きたへる。〔莊子、天下〕椎拍輐斷。〔注〕椎拍、謂三鍊二治之一也。❷ひやうし。はやし。曲調。樂節。〔唐書、王維傳〕客有下以レ按二樂圖一示者上、無二題識一、維曰、此霓裳第三疊最初拍也、客未レ然、引レ工按レ曲、乃信。〔益州草木記〕雅州出二虞美人草一、有レ爲二虞美人曲一、則應レ拍而舞、他曲否。〔方干、海石榴詩〕舞蝶似下隨二歌拍一轉上。❸ひやうし木。音調をととのへる木版。〔張羽、席上聽二歌妓一詩〕淺按二紅芽拍一、輕和二寶鈿箏一。〔淸會典圖、樂器、拍〕拍、慶隆舞樂用者、紫檀版四、東二其三一、以レ一拍レ之、中長一尺一寸一分五釐、邊長一尺五分一釐、上闊二寸二釐、中闊一寸六分七釐、下闊二寸四分三釐、厚三分五釐、面上一片剡爲レ脊、厚四分、近レ上橫穿二二孔一、聯以二黃絨紃一、番部合奏用者版三。❹兵器の名。車上又は船上に具へて、城牆船材などをつきやぶるもの。今の衝擊の類。又、弩の如く發射もした。〔陳書、侯安都傳〕放レ拍碎二其樓雉一。〔陳書、黃法氍傳〕爲二拍車及步艦一、豎レ拍以逼二歷陽一。〔陳書、韋昭達傳〕裝レ艫造レ拍、以臨二賊柵一。〔陳書、侯瑱傳〕中レ江而進、發レ拍中二于賊艦一。❺搏(5—12466)に通ず。〔周禮、考工記、總目、搏埴之工、注〕搏之言、拍也。❻現㋑出す。㋺誘拐する。㋩打電する。㋥撮影する。㊁肩胛骨。髆(12—45241)・膊(9—29782)に通ず。〔集韻〕髆、說文、肩甲也、或作レ拍。〔說文通訓定聲〕㧕、亦作レ拍、叚借爲レ膊。〔周禮、天官、醢人〕饋食之豆、其實豚拍。〔注〕鄭大夫・杜子春、皆以レ拍爲レ膊。


拍
（圖典會淸）

邦かしは。柏(6—14617)の誤訓。

名乘 ヒラ。

【拍案】1 ハクアン 卓子をたたく。激するさま。

〔拍案驚奇〕2 ハクアンキャウキ 書名。三十六卷。凌濛初編。小說の編集。三言に倣つて作る。一卷每に一種の物語を記述し、唐・宋代名六種、元代四種、明代二十種がある。

【拍音】3 p'ai^{1} yin^{1} 振動の數略〻相同じい音波が合して聲を成す時、一強一弱の聲を聞くもの。拍節。Beat の音譯。

【拍牙】4 p'ai^{1} ya^{2} しわをよせつまみ立てた樣にしてそこだけ高くなつて居る仕立て方。〔紅樓夢、三回〕只見一個穿紅綾襖、青緞拍牙背心。

【拍㐺】5 ハクキ 音節のこみ合ふ處。〔長生殿、製譜〕拍㐺怎下。

【拍歸】6 p'ai^{1} kuei^{1} 競賣で品物をせり落すこと。

【拍去】7 p'ai^{1} ch'ü^{4} 誘惑する。

【拍花】8 ハククワ 匪徒が痲醉藥を用ひて子供を誘拐するをいふ。〔朝市叢載〕拍花擾害遍二京城一、藥末迷レ人任レ意行、多少兒童藏二戶內一、可レ憐教館衆先生。

〔拍花子〕9 p'ai^{1} hua^{1} tzŭ かどはかし。誘拐者。又、拍花的ともいふ。

〔拍花的〕10 p'ai^{1} hua^{1} tê 誘拐者。

【拍節】10′ ハクセツ 音樂の周期的律動。樂曲のリズムの根底に存する音の波動。

〔拍節器〕10″ ハクセツキ 時間を規則正しく區劃するための器械。音樂のメトロノームの類。

【拍像】11 p'ai^{1} hsiang^{4} 撮影する。寫眞をとる。拍照。

【拍子】12 ヒャクシ ヒャウシ ❶音樂で樂曲演奏進行の遲速。又、等一な各小節が一定の強音部、弱音部をもつて連續反覆されるもの。❷音曲の調子を調へ助けるこゑ。❸ほど。ころあひ。又、とたん、はずみ。機會。

〔拍子事〕13 ヒャウシゴト ❶歌舞音曲に伴ふ太鼓・鼓・笛・三味線などの總稱。又、それを奏すこと。❷時のはずみで起る事。〔若風俗、五〕よろづの拍子事。

〔拍子拔〕14 ヒャウシヌケ はりあひのないこと。まぬけてゐること。〔蕪村句集〕里入や知る人に逢ふ拍子拔。

〔拍子譜〕15 ヒャウシフ 拍子を明記した樂譜。〔歌舞品目、六〕拍子譜、同レ上、文字鮮而以二拍子一知レ之故乎。

〔拍子木〕16 ヒャウシギ 長方形に削つた二箇の木で、相打つてならすもの。柝木。〔大友興廢記〕拍子木をたたき、驅引きの下知に勝利有り。

【拍實】17 ハクジツ しかとかためる。〔福惠全書、保甲部、建築柵濠〕宜二用レ力拍實一。

【拍車】18 ハクシャ 衝車。裝甲車の類。〔陳書、黃法氍傳〕太建五年、大擧北伐、都督吳明徹出二秦郡一、以二法氍一爲二都督一、出二歷陽一、云云、大破二齊軍一、盡獲二人馬器械一、於レ是乃爲二拍車及步艦一、豎レ拍以逼二歷陽一、歷陽人窘蹙乞レ降。

【拍掌】19 ハクシャウ てのひらをうつ。拍手。〔葛長庚、凝翠詩〕凭レ欄拍レ掌呼、天外鶴來一。

【拍手】20 ハクシュ ❶手をうつ。手をたたく。鼓をうちならす。拍掌。鼓掌。拊掌。〔晉書、藝術、索紞傳〕黃平問レ紞曰、我昨夜夢、舍中馬舞、數十人向レ馬拍レ手、此何祥也、紞曰、馬者火也、舞爲二火起一、向レ馬拍レ手、救レ火人也、平未レ歸而火作。〔李白、襄陽歌〕襄陽小兒齊拍手、攔レ街爭唱白銅鞮。❷p'ai^{1} shou^{3} 手で拍子をとる。❸カシハデ 神拜の時、手を拍つこと。柏手。〔謠曲、逆矛〕拍手響く山の雲霧。

〔拍手喝采〕21 ハクシュカツサイ 演說などの妙所を贊するために、拍手してはやしたてること。

【拍序】22 ハクジョ 舞曲の時、拍子を取る順序。〔白居易、霓裳羽衣歌〕中序擘騞初入レ拍、秋竹竿裂春冰拆。〔自注〕霓裳初散序六遍無レ拍、故不レ舞、中序始有レ拍、亦名二拍序一。

【拍照】23 p'ai^{1} chao^{4} 撮影する。寫眞をとる。

【拍然】24 ハクゼン 手をうつをいふ。〔新序、刺奢〕桀拍然而作、啞然而笑。〔韓詩外傳、二〕桀拍然而抃、嗑然而笑。

【拍打】25 p'ai^{1} ta^{3} 擊つ。たたく。

【拍刀】26 ハクタウ ❶もろはの刀。長い兩刃の刀。〔唐書、杜闞稜傳〕善用二兩刃刀一、其長及レ丈、名曰二拍刀一、一揮殺二數人一。〔湧幢小品〕刀兩刃者曰二拍刀一、起二于隋闞稜一。❷甚だ長い佩刀。〔大雲山房雜記〕西域傳、婼羌作二服刀一、劉德曰、服刀、拍髀也、蓋此刀甚長、懸二服之一則拍至レ髀耳、五代時拍刀、卽此。

【拍彈】27 ハクダン 色々の身ぶりをして歌をうたふ遊戲。〔杜陽雜編〕李可及善囀二喉舌一、於二天子前一弄レ眼作二頭腦一、連レ聲著レ詞、唱二雜聲曲一、須臾則百數不レ休、是時京城不レ調二少年相效一、謂二之拍彈一。

【拍張】28 ハクチャウ 手をうつて拍子をとること。胡の遊戲。〔正字通〕拍、拍張、手搏捽、胡之戲也。〔南史、王敬則傳〕使二於高麗一、與二其國女子一私

通、因不レ肯レ還、被二收錄一然後反、善二拍張一、補二刀戟左右一、宋前廢帝使二敬則跳刀一、高出二白虎幢一五六尺、接無レ不レ中、仍撫レ髀拍張、甚爲二儇捷一。

【拍定】29 p'ai^{1} ting^{4} せり賣の品をせりおとす。

〔拍定人〕30 p'ai^{1} ting^{4} jen^{2} 競賣物をせり落した人。

【拍電】31 p'ai^{1} tien^{4} 電報をうつ。打電する。

【拍馬】32 p'ai^{1} ma^{3} ❶馬をたたく。❷人の御機嫌を取る。媚びる。

〔拍馬屁〕33 p'ai^{1} ma^{3} p'i^{4} 諛ふ。おべつかをいふ。拍馬。

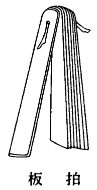
【拍賣】34 p'ai^{1} mai^{4} せりうり。競賣。

〔拍賣莊〕35 p'ai^{1} mai^{4} chuang^{1} せり賣問屋。

〔拍賣程序〕36 p'ai^{1} mai^{4} ch'êng^{2} hsü^{4} 競賣順序。

【拍報】37 p'ai^{1} pao^{4} 電報をうつ。打電する。

【拍拍】38 ハクハク ばたばたとうつさま。鳥の羽音などにいふ。〔韓愈、病鴟詩〕青泥揜二兩翅一、拍拍不レ得レ離。〔蘇軾、會者十人云云遊二桓山一得二澤字一詩〕春風在二流水一、鳧雁先拍拍。


拍板（三才圖會）

【拍板】39 ハクハン びんざさら。拍子を取るために打ち鳴らす板。扁平な板二一枚乃至十餘枚を重ね、革紐で其の一端を連ね、手に持って音樂の拍子をとるもの。又、堅木三片を用ひ、其の二を束ね、一片を以て之を拍ち、以て樂を節するもの。〔通典、樂典、木六、拍板〕拍板、長闊如レ手、重十餘枚、以レ韋連レ之、擊以代レ抃。〔事物紀原、樂舞聲歌部、拍板〕樂府雜錄曰、明皇令三黃幡綽撰二拍板譜一、綽曰、但有二耳道一、則不レ失二其節奏一、通典、有レ擊以代レ抃、抃、擊節也、因二其聲一以節レ舞、拍板蓋出二於擊節一也、又晉魏之代有二宋識一、善二擊節一、然以レ板拍レ之、而代二擊節一、是則拍板之始也、鄴城舊事曰、華林園、齊武成時、穿レ池爲二北海一、中有二密作堂一、以レ舡爲レ脚、作二木人七、一拍板一、則此器已見二於北齊一矣。〔書言故事、樂技類、樂句〕拍板曰二樂句一、唐韓愈皇甫湜一代龍門、牛僧儒攜二所業一謁レ之、其首篇說レ樂、韓見レ題、卽掩レ卷、問曰、且以二拍板一爲二甚麼一、僧儒曰、樂句、二公大稱賞。〔注〕人拍レ板、句拍レ之、八音奏動、皆趕、拍板方得レ和、叶二於音聲一、曲調之中、且有二長短急緩一、奏レ樂者、隨而就レ之、故曰二樂句一。〔陳暘、樂書〕九部樂有二拍板一、韓文公目爲二樂句一。〔元史、禮樂志五〕拍板制、以レ木爲レ板、以レ繩聯レ之。

【拍髀】40 ハクヒ ❶股をうちたたく。〔後漢書、張奐傳〕拍レ髀仰レ天而笑。❷佩刀の名。〔釋名、釋兵〕短刀曰二拍髀一、帶時拍二髀旁一也、又曰二露拍一、言二露見一也。〔大雲山房雜記〕西域傳、婼羌作二服刀一、劉德曰、服刀、拍髀也、蓋此刀甚長、懸二服之一則拍至レ髀耳、五代時拍刀、卽此。

【拍浮】41 ハクフ 水およぎ。游泳。浮拍。泅水。〔世說新語、任誕〕畢茂世云、一手持二蟹螯一、一手持二酒桮一、拍二浮酒池中一、便足レ了二一生一。〔樂善錄〕少年恃二其善拍浮一、解レ衣赴レ水。〔方夔、木犀詩〕蒼蒼珠樹俯二寒流一、析木津頭戲二拍浮一。

【拍撲】42 ハクボク 物にあたる音。〔通俗編、聲音、拍撲〕符載、畋獲レ虎頌序、敲叩拍撲、芟殺策𥗢、按、拍撲當二是攉𢸸之借一。

【拍門】43 p'ai^{1} men^{2} 門をたたく。訪門する。

【拍浪】44 ハクラウ なみたつこと。〔福惠全書、雜課部、蘆課〕兩厓拍浪驚濤。

【拍毽兒】45 p'ai^{1} chien^{4} êrh 脚で羽を蹴って遊ぶ遊戲。

【拍紹阿】46 バジヤワ 地名。印度、西北邊省の首府。白沙瓦。Pashawar の音譯。

【拍東兒】47 p'ai^{1} tung^{1} êrh ❶賭事をする。❷手を打ちならす。

【拍巴掌】48 p'ai^{1} pa^{1} chang 拍手する。手を鳴らす。

〔拍巴掌兒〕49 p'ai^{1} pa^{1} chang êrh 手拍子を打つ。

【拍白的】50 p'ai^{1} pai^{2} tê 人の子女を誘拐することを業とする者。拍花的。

【拍托里科】51 ポルトリコ 島の名。北アメリカ洲、西印度羣島中の一島。Porto Rico, Puerto Rico の音譯。

【拍項最低額】52 p'ai^{1} hsiang^{4} tsuei^{4} ti^{1} ê^{2} 競賣入札最低價額。

【拎】11953

レイ リヤウ 〔集韻〕郎丁切 青

❶かける。さげる。或は擰(5－12818)・攦(5－13057)に作る。〔玉篇〕拎、手懸二捻物一也。〔六書故〕拎、縣持也。〔集韻〕拎、懸二捻物一也、或从レ零、从レ靈。

【拏】11954

ダ ナ 〔集韻〕女加切 ㄋㄚˊ na^{2} 麻

小篆

❶とる。もつ。〔段注本說文〕拏、持也、从レ手奴聲。〔王筠、說文解字釋例〕此紛拏之拏也、典籍多作レ拏。❷しひる。〔說文〕拏、一曰、誣也。〔方言、十〕㘓哰・嗹嘍、拏也、拏、揚州會稽之語也。❸つかむ。とらへる。〔正字通〕拏、攫執也。〔馬融、長笛賦〕挼拏捘臧。〔注〕善曰、拏、索持也。〔張衡、西京賦〕熊虎升而拏攫。〔注〕善曰、拏攫、相搏持也。❹もむ。まぜる。〔宋玉、招魂〕稻粢穱レ麥、拏二黃粱一些。〔文選注〕逸曰、拏、糅也。❺罪人を捕縛する。拿(5－12015)に通ず。〔正字通〕拏、拘二捕罪人一曰レ拏、俗作レ拿。

參考 ❶說文繫傳・廣韻・集韻等は、拏、牽引也としてゐる。今、段注・通訓定聲に從ふ。〔說文、挐、段注〕按、各本篆作レ拏、解作二奴聲一、別有二挐篆一、解云、持也、从レ手如聲、女加切、二篆形體互譌、今正。❷熟語は拿(5－12015)を併せ見よ。

【拏雲】1 ダウン 雲をつかみとる。志氣の遠大な喩。〔李賀、致酒行〕少年心事當レ拏レ雲。

〔拏雲握霧〕2 ダウンアクム 雲霧を握み取る。手練手管の意。〔宣和遺事、前集下〕兩隻手偏會二拏レ雲握レ霧。

〔拏雲攫石〕3 ダウンクワクセキ 雲をつかみ石をつかむ。樹木の姿態のなまめかしい喩。〔揚州畫舫錄〕廳前多二古樹一、有二拏雲攫石之勢一。

【拏究】4 ダキウ 捕へて究問する。捕縛して訊問する。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄、獄囚衣糧〕如有二姦徒一揑レ名入レ監舞弊、卽據レ實分別拏究參處、其盜犯妻子家口、均不レ許下放二入監門一探視上、違者妻子家口枷號兩月責四十板、婦女照レ例收贖、提牢司獄等官吏參處。

【拏攫】5 ダクワク つかみ合ふ。〔揚雄、羽獵賦〕亶觀二夫剽禽之紲隃、犀兕之抵觸、熊羆之拏攫、虎豹之凌遽一。〔張衡、西京賦〕熊虎升而拏攫、猨狖超而高援。〔注〕善曰、拏攫、相搏持也。〔法書要錄〕若レ擒二虎豹一、有二強梁拏攫之形一。

【拏獲】6 ダクワク 捕へる。捕獲する。拿獲。〔淸會典事例、刑部、刑律補亡、應補人追補罪人〕旣經二拏獲一、屬二提督管轄一者、限二卽日一送二該管營一。

【拏捕】7 ダホ 捕へる。拿捕(5－12015・・23)に同じ。

【拏閭】8 ダリヨ 國の名。〔淮南子、墬形訓〕樂民拏閭、在二昆侖弱水之洲一。

【拏訛頭】9 ダクワトウ 他人の惡事をあばいて、脅迫して金をとるもの。〔日知錄、訛〕泰昌元年八月、御史張撥言、京師奸宄叢集、游手成レ羣、有下謂二之把棍一者上、有下謂二之拏訛頭一者上。〔注〕偵二知一人作レ奸、則尾二隨其後一、陷二人於罪一、從而嚇二詐金錢一、謂二之拏訛頭一。〔陔餘叢考、拏訛頭〕伺二人作レ奸、從而嚇二詐取財一、俗謂二之拏訛頭一。

【拐】11955

クワイ ゲ 慣カイ 〔廣韻〕求蟹切 ㄍㄨㄞˇ kuai^{3} 蟹

❶手・足・枝など物の分れ出たもの。〔廣韻〕拐、手腳之物枝也。❷かたる。かどはかす。たぶらかす。ひっかける。〔字彙〕拐、拐騙。〔政刑大觀〕拐騙犯姦。❸つゑ。拐杖。柺(6－14584)に通ず。〔正字通〕柺、本作レ杖、俗謂二之拐一。❹現㋑まがる。㋺損する。

【拐案】1 kuai^{3} an^{4} 誘拐事件。

【拐引】2カイイン　かどはかし。僞計・誘惑等の手段で人を他所に連れ行くこと。

【拐角】3 kuai² chiao³　曲りかど。

【拐角兒】4 kuai² chiao³ êrh　曲りかど。

【拐去】5 kuai³ ch'ü⁴　かどはかす。誘拐する。

【拐款】6 kuai² k'uan³　金をもちにげする。

【拐子】7 kuai³ tzŭ　人を欺きかどはかす惡徒。かたり。ひとかどはかし。誘拐者。人拐。拐子手。〔紅樓夢、四回〕這拐子先已得了我家的銀子。

【拐子手】8 kuai³ tzŭ shou³　誘拐を業とする者。人攫ひ。

【拐子馬】9カイシバ　三人を一くみとし、繩を以て其の馬三匹を連ねて敵に向はしめるをいふ。元の兀朮が軍中で用ひた。〔宋史、兵飛傳〕初兀朮有二勁軍一、皆重鎧、貫以二韋索一、三人爲レ聯、號二拐子馬一、官軍不レ能レ當、是役也、以二萬五千騎一來、飛戒二步卒一以二麻步刀一入レ陣、勿二仰視一、第斫二馬足一、拐子馬相連、一馬仆、二馬不レ能レ行、官軍奮擊、遂大敗レ之。〔陔餘叢考、拐子馬不レ始二於女眞一〕宋史謂、金人善用二拐子馬一、三馬相連、一馬仆、二馬不レ能レ行、皆女眞爲レ之、號二長勝軍一、戰酷然後用レ之、兀朮攻二順昌一有二鐵浮圖一、兵皆重鎧戴二鐵兜一、牟三人爲レ伍、貫以二韋索一、毎レ進二一步一、用二拒馬一擁レ之、按、晉載記、穆帝時燕慕容恪擊二魏主冉閔一、擇二鮮卑善レ射者五千人一、以二鐵鎖一連二其馬一、爲二方陣一而前、遂破レ閔、則古時已有二爲レ之者一。

【拐兒】10カイジ　❶かたり。ひとかどはかし。拐子(7)に同じ。〔黃允交、雜纂三續〕暗歡喜、拐兒賺二癡人一得レ手。❷隋、李鐵拐(6－14459‥1794)の小字。

【拐人】11 kuai³ jen²　かたり。ひとかどはかし。拐子(7)に同じ。

【拐仙】12カイセン　淸、李淸冕(6－14459‥1569)の稱。

【拐帶】13カイタイ　人をかどはかして賣る。又、かたつて物をもちにげる。〔新方言、釋言〕至下略二賣人一者、稱爲中拐帶上。〔明律、刑律、詐欺、官私取材〕若昌二認及誆三賺局四騙拐五帶人財物一者、亦計レ贓准二竊盜一論、免レ刺。

【拐杖】14カイヂヤウ　つゑ。字解の❸を見よ。

【拐賣】15 kuai³ mai⁴　かどはかして賣る。

【拐犯】16 kuai³ fan⁴　人浚ひ。誘拐者。

【拐販】17 kuai³ fan⁴　子女を拐かして賣ること。

【拐騙】18カイヘン　婦女財寶などをかたり取る。〔政刑大觀〕拐騙犯姦。〔桃花扇、逃難〕想也乘レ機拐騙、四散逃走了。〔六部成語、刑部、拐騙、注解〕拐、携也、以二好言一騙二人子女一出レ門、遂挈レ之逃走也。

【拐過去】19 kuai³ kuo⁴ ch'ü　廻り道して行く。

【拐回來】20 kuai³ huei² lai　歸る。戻り來る。

【拐躺下】21 kuai² t'ang³ hsia　ひつかけ倒す。

【拐彎兒】22 kuai³ wan¹ êrh　角を廻る。又、曲り角。

【拐拐灣灣的】23 kuai³ kuai wan¹ wan¹ tê　道路がくねりくねつてゐること。

【拐灣抹角兒】24 kuai³ wan¹ mo⁴ chiao³ êrh　街の角を曲る。

【拐八角兒的親戚】25 kuai³ pa⁴ chiao³ êrh tê ch'in¹ ch'i　重りあつてゐる縁續きの親類。縁遠い親戚。

【拑】
11956

㊀ケン ゲン　〔集韻〕其淹切　鹽　ㄑㄧㄢˊ　ch'ien²

㊁ケン コン　〔集韻〕扱范切　嫌

㊂慣カン

小篆

㊀㊁❶**はさむ**。夾持。〔說文〕拑、脅持也、从レ手甘聲。〔段注〕謂二脅制而持一レ之也。〔說文通訓定聲〕拑、以レ手曰レ拑、以二竹箝一拑曰レ箝、以二鐵鉆一拑曰レ鉗。〔公羊、宣、十五〕拑レ馬而秣レ之。〔注〕拑者、以レ木銜二其口一。〔鬼谷子、飛箝〕可二箝而從一、可二箝而橫一、〔注〕拑、謂二牽持緘束、令一レ不レ得レ脫也。❷**つぐむ**。口を閉ぢてものいはぬ。〔漢書、五行志中上〕臣畏レ刑而拑レ口。〔注〕師古曰、拑、箝也。❸或は鈙(5－13129)に作る。〔集韻〕拑、或作レ鈙。❹鉗(11－40306)・箝(8－26152)に通ず。〔正字通〕拑・鉗・箝通。〔後漢書、單超傳〕上下鉗レ口。〔注〕拑、與レ鉗古字通用。

【拑口】1カンコウ　默して言はぬこと。又、言論の自由を束縛すること。箝口。鉗口。緘口。〔史記、秦始皇紀贊〕故使二天下之士、傾レ耳而聽、重レ足而立、拑レ口而不一レ言。〔漢書、五行志中之上〕臣畏レ刑而拑レ口。〔漢書、鼂錯傳〕且臣恐、天下之士拑レ口、不二敢復言一矣。〔楊脩、答二臨淄侯一牋〕弟子拑レ口、市人拱レ手者、賢聖卓犖、固所三以殊二絕凡庸一也。

【拑者】2カンシヤ　口をとざして語らぬもの。〔說苑、尊賢〕哀公問二於孔子一曰、人何若而可レ取也、孔子對曰、毋レ取二拑者一、毋レ取二健者一、毋レ取二口銳者一。

【拑制】3カンセイ　しめつけること。鉗制(11－40306‥16)に同じ。

【拑住】4 ch'ien² chu⁴　はさみとる。

【拑馬】5カンバ　馬の口に木を含ませる。箝馬。鉗馬。〔公羊、宣、十五〕圍者拑レ馬而秣レ之、使二肥者應一レ客。〔注〕拑者、以レ木銜二其口一、不レ欲レ令レ食レ粟、示レ有二畜積一。

【拑秣】6カンマツ　木を馬の口中に含ませ、まぐさを食はせぬこと。〔顏延之、陽給事誄〕馬實拑秣。〔注〕向曰、以レ木橫二口中一、不レ使レ食曰レ拑レ秣也。

【拑勒】7カンロク　馬にくつわをくはへさせること。〔後漢書、崔寔傳〕自二數世一以來、政多二恩貸一、馭委二其轡一、馬駘二其銜一、四牡橫奔、皇路險傾、方將下拑二勒鞬輈一以救上レ之、豈暇下鳴二和鑾一、淸中節奏上哉。

【拒】
11957

㊀キヨ ゴ　〔集韻〕臼許切　語　ㄐㄩˋ　chü⁴

㊁ク　〔集韻〕果羽切　麌

㊀❶**こばむ**。**ふせぐ**。〔集韻〕拒、捍也。〔增韻〕拒、禦也。〔論語、子張〕其不可者拒レ之。〔荀子、君道〕內以固レ城、外以拒レ難。❷**あたる**。敵對する。〔玉篇〕拒、抵也。〔南齊書、張融傳〕高談鮮二能抗拒一。❸**たがふ**。〔集韻〕拒、違也。❹**俎足の中央の橫木**。距(10－37481)に通ず。〔儀禮、少牢饋食禮〕長皆及二俎拒一。〔注〕拒、讀爲二介距之距一。〔疏〕案、左氏傳昭二十五年云、季郈之雞鬬、季氏介二其雞一、郈氏爲二之金距一、今鄭君合取而云二介距之距一也、引レ此者、彼距在二雞足一爲レ距、此俎距在レ俎爲レ橫也。〔淮南子、本經訓、戴角出距之獸、注〕距、讀爲二拒守之拒一。㊁**方形**。方陣。矩(8－23947)に通ず。〔集韻〕拒、方陣也、史記、攻二其前拒一、裴駰說。〔左氏、桓、五〕爲二左拒一。〔注〕拒、方陳。〔左氏、宣、十二〕將二右拒卒一。〔釋文〕拒、本亦作レ矩。〔淮南子、齊俗訓〕拘罷拒折之容。〔注〕拒折、方也。

【拒違】1キヨヰ　ふせぎたがふ。距違。〔任昉、爲二齊明皇帝一作レ相讓二宣城郡公一第一表〕拒二違於玉几之側一。

【拒闉】2キヨイン　そなへ。敵を防禦するための備へ。〔唐書、宗室、江夏王道宗傳〕乃築二拒闉一、攻二安市城一。

【拒艾】3キヨガイ　川の名。山東省膠縣の南。今、洋河といふ。膠州灣に注ぐ。〔水經、膠水注〕斯乃拒艾水也、水出二縣西南拒艾山一、卽齊記所謂黔艾山也、東北流經二柜縣故城西一、王莽之祓同也、世謂二之王城一、又謂二是水一爲二洋水一矣、云云、東入レ海。

【拒抗】4キヨカウ　こばみさからふ。反抗する。〔蘇轍、爲二兄軾下レ獄上書〕兄軾所レ犯、若顯有二文字一、必不二敢拒抗不一レ承、以重得レ罪。

【拒格】5キヨカク　こばみさからふ。〔易林、乾之第一、萃〕任劣力薄、孱駑恐怯、如二蝟見一レ鵲、不二敢拒格一。

【拒扞】6キヨカン　拒捍(7)に同じ。

【拒捍】7キヨカン　ふせぐ。こばむ。〔蜀志、先主劉備傳、注〕率二精兵一、拒二扞先主於涪一、爲二先主所一レ破。〔唐律、捕亡、罪人持仗拒捍〕諸捕二罪人一、而罪人持レ仗拒捍、其捕者格二殺之一、逃走逐而殺、若迫

窘而自殺者、皆勿レ論。

【拒諫】8キョカン いさめをこばむ。距諫。〔荀子、成相〕拒レ諫飾レ非、愚而上レ同。〔後漢書、申屠剛傳〕拒レ諫者塞。〔魏志、高堂隆傳〕知足二以拒一レ諫。

【拒禦】9キョギョ ふせぎまもる。〔李衞公問對、中〕謂二之左右拒一、言二拒禦一而已、非レ取二出レ奇勝一也。

【拒霜】10キョサウ 木芙蓉(**6－14415**‥551)の異名。秋冬の間に花が咲くからいふ。〔本草、木芙蓉〕釋名、地芙蓉、木蓮、華木、枇木、拒霜。

〖拒霜花〗11キョサウクワ 木芙蓉の異名。〔益部方物記〕添色拒霜花生二彭漢蜀州一、花常多葉、始開白色、明日稍紅、又明日則若二桃花一然。〔蘇軾、和二陳述古拒霜花一詩〕千株掃作一番黃、只有二芙蓉獨自芳一、喚作二拒霜一知未レ稱、細思却是最宜レ霜。

【拒止】12キョシ こばみとめる。防ぎとめる。くひ止める。拒絕して止める。阻止。

【拒射】13キョシャ ふせぎ射る。〔魏書、娥清傳〕拒二射官軍一、清等因誅二數千家一。

【拒守】14キョシュ ふせぎまもること。〔六韜、虎韜、軍用〕三軍拒守。

【拒石】15キョセキ 清、陸繁弨(**11－41708**‥414)の字。

【拒折】16クセツ 四角のもの。〔淮南子、齊俗訓〕拘罷拒折之容。〔注〕拘罷、圜也、拒折、方也。

【拒絕】17キョゼツ こばみたつ。いなむ。はねつける。ことわる。又、其のこと。拒否。距絕。阻絕。〔後漢書、陳敬王羨傳〕後袁術求二糧於陳一、而俊拒二絕之一。〔後漢書、陳寵傳〕謝二遣門人一、拒二絕知友一、唯在二公家一而已。

〖拒絕證書〗18キョゼツショウショ 手形などの所持人が支拂又は引受を受けることが出來ない場合に、其の事實を證明するために、公證人又は執達吏に請求して作成する證書。

【拒戰】19キョセン ふせぎたたかふ。距戰。〔蜀志、張飛傳〕飛呵レ顏曰、大軍至、何以不レ降而敢拒戰。〔晉書、明帝紀〕李驤等寇二寧州一、刺史王遜遣二將姚岳一、拒二戰於堂狼一、大破レ之。

【拒簽】20 chü^{4} ch'ien^{1} 調印をこばむ。

【拒阻】21 chü^{4} tsu^{3} 防ぎ止める。

【拒塞】22キョソク せきとめる。ふせぐ。距塞。

【拒敵】23キョテキ ❶敵をふせぐ。〔莊子、盜跖〕跖之爲レ人也、心如二涌泉一、意如二飄風一、強足二以拒一レ敵、辯足二以飾一レ非。〔春秋繁露、服制像〕夫執二介冑一而後能拒レ敵者、故非二聖人之所一レ貴也。〔吳越春秋、闔閭內傳〕出レ之有レ神、服レ之有レ威、可二以折衝拒一レ敵。〔魏志、文帝紀〕帝聞二備兵東下、與レ權交戰、樹レ柵連レ營七百餘里一、謂二羣臣一曰、備不レ曉レ兵、豈有下七百里營可二以拒一レ敵者上乎。❷官軍に抵抗する。〔六部成語、刑部、拒敵、注解〕官軍來捕レ盜、以レ刀抗拒也。

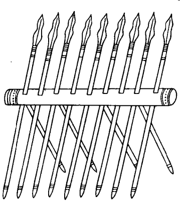
【拒冬】24キョトウ 草の名。續隨子(**8－28037**‥88)の異名。〔本草、續隨子〕釋名、千金子、千兩金、菩薩豆、拒冬、聯步。

【拒鬭】25キョトウ 防ぎ戰ふ。〔魏書、封勅文傳〕勅文先嚴二兵於壍外一、拒鬭從レ夜至レ旦。

【拒難】26キョナン 亂をふせぐ。距難。

【拒馬】27キョバ ❶こまよけ。やらい。叉欄。〔佛祖統記〕叉欄亦名二拒馬一。❷川の名。古の淶水。又、渠水といふ。晉の劉琨が石勒を此に拒ぐ、故に名づけられた。水經注は巨馬に作る。源は河北省淶源縣。淶水縣の北に至り、二派に分れる。下流は白溝河といひ、大清河に注ぐ。〔讀史方輿紀要、直隸、大川〕易水、拒馬河卽淶水、漢志所レ云、東入レ淶者也、自レ是易水兼有二白溝拒馬河之名一。

〖拒馬槍〗28キョバサウ 軍事に用ひる防守の具。鎗を横木に貫き、一種の柵形をなしたもの。要害の處に置いて、敵騎の進擊を禦ぐもの。〔宋史、郭諮傳〕康定西征、諮上二戰略一、獻二拒馬槍陣法一。〔宋史、吳璘傳〕凡陣以二拒馬一爲レ限、鐵鉤相連、俟二其傷一則更代レ之。


拒馬鎗（武備志）

〖拒馬叉子〗29キョバサシ 貴人の門外に設けるこまよけ。〔李誡、營造法式〕梐枑、行馬也、今謂二之拒馬叉子一。

【拒否】30キョヒ こばむ。いなむ。拒絕。

【拒斧】31キョフ 蟲の名。かまきり。〔本草、螳螂桑螵蛸〕釋名、蟷螂、刀螂、拒斧、不過、齕肬、其子房名二螵蛸一。

【拒風】32キョフウ 高麗の冠の名。〔海錄碎事、衣冠服用、冠冕〕南齊永明中、高麗使至、服二窮袴一、冠二拒風一、曰、此古之遺像也。

【拒閉】33キョヘイ こばんで門をとざして內へ入れないこと。〔漢書、宣帝紀〕吉拒閉、使者不レ得レ入。

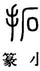
【拒捕】34キョホ 召捕に抵抗する。〔明律、刑律、罪人拒捕〕凡犯レ罪逃走、拒レ捕者、各於二本罪上一、加二二等一、罪止二杖一百、流三千里一。〔六部成語訂正、刑部、拒捕、注解〕盜賊犯人被二官捕拿一、抗拒不レ服也。

【拒命】35キョメイ 命令をこばむこと。〔五代史、漢臣、史弘肇傳〕高祖建二號于太原一、代州王暉拒レ命、弘肇攻破レ之。

【拒門木】36キョモンボク 門のくわんぬきをいふ。〔名義考〕老子善閉無二關楗一、而不レ可レ開、關、卽今門櫎楗、爲二關之入牝處一、總曰二拒門木一。

【拓】11958

㊀セキ シヤク 〔集韻〕之石切 ㄓˊ chih^{2} 陌。
㊁タク 〔集韻〕闥各切 ㄊㄨㄛˋ t'uo^{4} 藥。 ㄊㄚˋ t'a^{4}


小篆

㊀❶**ひろふ**。〔說文〕拓、拾也、陳宋語、从レ手石聲、摭、拓或从レ庶。❷**をる**。〔後漢書、張衡傳〕拓二若華一而躊躇。〔注〕拓、猶レ折也。❸或は摭(**5－12624**)に作り、古は擿(**5－12578**)に作る。〔集韻〕拓、或从レ庶、古作レ擿。㊁❶**うける**。〔廣韻〕拓、手承レ物。❷**おす**。或は擆(**5－12956**)・托(**5－11793**)に作る。〔集韻〕拓、手推レ物也、或作二擆・托一。〔李山甫、陰地關崇徽公主手跡詩〕一拓二纖痕一更不レ收。〔注〕公主降二可汗一、道二汾州一、以二手掌一托二石壁一、遂有二手痕一。❸**いしずり**。拓本(107)を見よ。❹**あげる**。〔列子、說符〕能拓二國門之關一。〔注〕拓、擧也。❺**ひらく**。**ひろげる**。庇(**4－9352**)に通ず。〔說文通訓定聲〕拓、叚借爲レ庇。〔漢書、揚雄傳上〕拓レ迹開レ統。〔注〕應劭曰、拓、廣也。〔後漢書、竇憲傳〕恢二拓境宇一。〔注〕拓、開也。❻**おほきい**。碩(**8－24338**)に通ず。〔說文通訓定聲〕拓、叚借爲レ碩。〔廣雅、釋詁一〕拓、大也。❼**不遇**。拓落(108)を見よ。 邦**つぶて**。土佐國の地名。

【拓開】1タクカイ ひらく。開拓。〔揚雄、甘泉賦〕卹レ胤錫レ羨、拓レ迹開レ統。〔注〕善曰、拓、開也。

【拓境】2タクキャウ 邦土をひろげひらく。〔後漢書、傅燮傳〕世宗拓レ境、制二置四郡一。〔魏志、傅嘏傳〕兼レ土拓レ境、闢レ地千里。

【拓疆】3タクキャウ 拓境に同じ。

【拓關】4タククワン 關門をもちあげる。〔列子、說符〕孔子之勁、能拓二國門之關一、而不レ肯以レ力聞一。〔注〕拓、擧也、孔力能擧二門關一、而力名不レ聞者不レ用二其力一也。

【拓修】5タクシウ 屋敷跡などをひらいて、建物を造ること。〔日本外史、德川氏前記、織田氏上〕信長宣三言屠二界浦一、浦人號哭乞レ哀、乃使レ上二贖金二萬貫一、就二二條武衞陣故址一、拓二修幕府一。

【拓殖】6タクショク 地をひらいて、民を殖すること。開墾と殖民。拓地殖民。

【拓世】7タクセイ 業を創める。世をひらく。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕拓レ世貽レ統、固二萬葉一而爲レ量者也。〔注〕濟曰、拓、廣也。

【拓跡】8タクセキ あとをひらく。拓世。〔魏志、高堂隆傳〕夫拓レ跡垂レ統、必俟二聖明一。

【拓地】9タクチ 土地をひらく。一國の領土を擴張する。開地。〔後漢書、張步傳〕拓レ地寖廣、兵甲日盛。〔唐書、吐蕃傳贊〕玄宗有二逸德一、而拓レ地太大、務二遠功一、忽二近虞一。

【拓定】10タクテイ ひらき定める。〔魏志、三少帝、陳留王奐傳〕爰發二四方一、拓二定庸蜀一。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕濟二師洪河一、拓二定四州一。

【拓提】11タクテイ 佛寺をいふ。後人、拓を招に作り、今は招提といふ。〔增輝記〕招提者、梵言二拓鬭

提奢、唐言二四方僧物一、後人傳寫以レ拓爲レ招、又省二鬭奢二字一、止稱二招提一、卽今十方住持寺院是也。〔唐言故事、釋教類〕寺曰二拓提蘭若一。

【拓都】12 t'uo' tu' 總體の。全體の。total の音譯。

【拓土】13 タクド 土地をひらく。〔左思、吳都賦〕拓レ土畫レ疆、卓犖兼幷。

【拓跋】14 タクバツ ㊀鮮卑種の一部族。西曆二世紀頃興安嶺方面を原住地とし牧畜を營んでゐたが、三世紀には山西省の北方に土著し、三百八十六年には五胡の一要素となり山西省に侵入して魏の國を立てた。托跋。託跋。索頭部。㊁複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕拓跋氏、後魏書云、黃帝子昌意之後、受二封北土一、黃帝土德王、北人以レ土爲レ拓、后受爲レ跋、號二拓后跋氏一、後從レ省爲二拓跋一、孝文帝遷二都洛陽一、改爲二元氏一、唐開元後、有二右監門大將軍西平公靜邊州都督拓跋守寂一亦北蕃也、孫乾暉銀州刺史、姪澄峴任二銀州刺史一。

〖拓跋謂〗15 タクバツキ 後魏の人。烈帝の子。寬雅にして將略あり。常に道武帝の征討に從ふ。官は武衞將軍。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

〖拓跋郁〗16 タクバツイク 後魏の人。桓帝の後。諡は簡。爵は順陽公。文成帝が崩じた時、乙渾の專權を忌み、之を誅さんとし、渾に殺さる。順陽王を追贈せられた。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

〖拓跋雲〗17 タクバツウン 後魏の人。景穆帝の子。諡は康。任城王に封ぜらる。廉謹の士。官は雍州の刺史。〔魏書、十九〕・〔北史、十七〕。

〖拓跋曜〗18 タクバツエウ 後魏の人。道武帝の子。武藝、人に絕す。天興中、河南王に封ぜらる。年二十二にして卒す。〔魏書、十六〕・〔北史、十六〕。

〖拓跋悅〗19 タクバツエツ 後魏の人。虔の子。逆を謀つて死を賜はる。〔魏書、十九〕・〔北史、十八〕。

〖拓跋顗〗20 タクバツガイ 後魏の人。昭成帝の孫。爵は蒲城侯。官は平盧太守。元易干を殺す。〔魏書、十五〕・〔北史、十七〕。

〖拓跋恪〗21 タクバツカク 後魏の宣武帝。元恪(1－1340··90)を見よ。

〖拓跋幹〗22 タクバツカン 後魏の人。纂の弟。諡は昭。嘗て雙鴟を射たので、軍中、射鴟都將と呼んだ。爵は新蔡公。文成帝の時、都官尙書となる。〔魏書、十五〕。

〖拓跋翰〗23 タクバツカン ㊀後魏の人。昭成帝の子。諡は明。武功多く、道武帝の時、秦王を追贈せられた。〔魏書、十五〕。㊁後魏の人。太武帝の子。太平眞君中、秦王に封ぜらる。官は侍中・中軍大將軍。後、東平王に改め封ぜらる。太武帝が崩ずるや、諸大臣、翰を立てんと議す。中常侍宗愛、翰と協はず、太后の令を矯め、南安王余を立て、遂に翰を殺した。〔魏書、十八〕・〔北史、十五〕。

〖拓跋熙〗24 タクバツキ 後魏の人。道武帝の子。天興中、封は陽平王。軍功多し。泰常中、卒す。〔魏書、十六〕・〔北史、十六〕。

〖拓跋儀〗25 タクバツギ 後魏の人。翰の子。軍功多く、中山を平げ、入つて丞相となる。後、宜都公穆崇と亂を謀り、死を賜はる。〔魏書、十五〕・〔北史、十五〕。

〖拓跋魏〗26 タクバツギ 北朝の魏、卽ち北魏。又、後魏・元魏ともいふ。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕子厚、諱宗元、七世祖慶、爲二拓跋魏侍中一。

〖拓跋休〗27 タクバツキウ 後魏の人。景穆帝の子。諡は靖。皇興中、安定王に封ぜらる。少くして聰慧。決斷にとみ、名聲あり。蠕蠕が塞を犯すや、出でて使持節征北大將軍・撫冥鎭大將となり、みづから將士に先だち、虜を擊退す。官は太傅・大司馬となつた。〔魏書、十九〕。

〖拓跋恭〗28 タクバツキヨウ 後魏の節閔帝。廣陵王歾の子。名は恭。字は修業。諡は節閔。初、廣陵王を襲爵し、儀同三司に除せられたが、元叉が權を擅にしたので、瘖疾に託して立たず。孝莊帝が崩ずるや、爾朱世隆は、長廣王曄が分屬疏遠なるを以て、迎へて帝を立てた。帝、頗る雅量あり。後、高歡が爾朱氏を討つて洛に入り、帝を廢して孝武帝を立てたが、次いで弑せらる。史家之を前廢帝と稱す。在位一年。年號は普泰。〔魏書、十一〕・〔北史、五〕。

〖拓跋欽〗29 タクバツキン 西魏の廢帝。元欽(1－1340··145)を見よ。

〖拓跋詡〗30 タクバツク 後魏の孝明帝。元詡(1－1340··149)を見よ。

〖拓跋宏〗31 タクバツクワウ 後魏の孝文帝。元宏(1－1340··155)を見よ。

〖拓跋晃〗32 タクバツクワウ 後魏の景穆帝。太武帝の長子。名は晃。文成帝の時、景穆帝と追尊せられた。廟號は恭宗。幼にして明慧強識。長ずるに及んで經史の大義に通じ、軍國の事を述べて多く用ひられた。太武帝が梁州を征するや、晃に詔して太子を以て國を監せしむ。正平中、東宮に卒す。〔魏書、四下〕・〔北史、二〕。

〖拓跋廓〗33 タクバツクワク 西魏の恭帝。元廓(1－1340··158)を見よ。

〖拓跋珪〗34 タクバツケイ 後魏の道武帝。昭成帝の嫡孫。名は珪。諡は道武。廟號は太祖。代が滅んだ時、尙ほ幼く、母の賀氏は帝を携へて劉庫仁に因つた。庫仁の子顯が立つに及んで、帝を殺さんとす。帝因つて賀蘭部に奔り、更に其の舅に依る。既にして諸部の大人たちは帝を推して代王とす。晉の太元十一年になつて、國號を改めて魏と稱し、帝位に卽き、平城に都す。劉顯・劉衞辰の諸部落を討平し、燕を伐ち、中山を圍み、慕容寶を破り、武功頗る盛。在位二十三年。子、淸河王紹に弑せらる。紀元四、登國・皇始・天興・天賜。〔魏書、二〕・〔北史、一〕。

〖拓跋虔〗35 タクバツケン 後魏の人。顗の弟。諡は桓。武力絕倫。登國の初、陳留公となり、後、慕容垂と戰つて死す。陳留王を追贈せられた。〔魏書、十五〕・〔北史、十五〕。

〖拓跋健〗36 タクバツケン 後魏の人。明元帝の子。諡は莊。封は泰常中、永昌王。太武帝に從つて蠕蠕を征した。〔魏書、十七〕・〔北史、十六〕。

〖拓跋孤〗37 タクバツコ 後魏の人。平文帝の第四子。封は高涼王。志略あり。烈帝が崩ずるに臨み、昭成を迎へて立てんことを顧命した。群臣、共に孤を推したが孤、可かず、昭成卽位し、國の半分を分つて之に與へた。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

〖拓跋觚〗38 タクバツコ 後魏の人。儀の弟。諡は愍。慕容垂に使したところ、垂が觚を止めて賂を求めた。觚は左右數十騎を率ゐ、其の衞將を殺して走り歸り、慕容寶に執へられ、中山に歸つた。垂は之を待遇すること愈〻厚かつた。觚、心を學業に留め、經書數十萬言を誦讀し、垂の國人、皆之を重んじた。後、慕容普驎に殺さる。道武帝、中山を平げ、觚を改葬し、秦王を追贈した。〔魏書、十五〕。

〖拓跋弘〗39 タクバツコウ 後魏の獻文帝。文成帝の長子。名は弘。諡は獻文。廟號は顯祖。初めて立つた時、丞相乙渾が謀反し、馮太后が密かに之を誅せんと謀り、遂に朝に臨んで政を聽く。皇興の初、帝、政を親しくし、宋の淮北四州及び豫・淮西・東徐・兗・靑等の州を取つた。在位六年にして位を太子宏に傳へ、自ら太上皇と稱す。後五年にして馮太后に酖殺さる。紀元二、天安・皇興。〔魏書、六〕・〔北史、二〕。

〖拓跋纂〗40 タクバツサン 後魏の人。儀の子。諡は簡。爵を王に進めらる。官は內大將軍。〔魏書、十五〕・〔北史、十六〕。

〖拓跋嗣〗41 タクバツシ 後魏の明元帝。道武帝の長子。名は嗣。諡は明元。廟號は太宗。晉の義熙五年、拓跋紹を誅して位に卽く。賢を簡び能を任じ、內和外輯。柔然を擊つて走らせ、長城を築き、赤城より五元に至ること二千餘里の閒に戍衞を置いた。子の燾を立てて太子とし、國を監せしむ。奚斤に命じて宋を伐たしめ、靑兗司豫の諸郡を下し、虎牢を拔く。帝は儒生を禮愛し、好んで史傳を覽、新集三十篇を撰した。在位十五年にして崩じた。紀元三、永興・神瑞・泰常。〔魏書、三〕・〔北史、一〕。

〖拓跋修〗42 タクバツシウ 後魏の孝武帝。元修(1－1340··271)を見よ。

〖拓跋綽〗43 タクバツシヤク 後魏の平帝。章帝の少弟。名は綽。諡は平。帝は雄武にして智略あり、威德復た擧がる。在位七年にして崩じた。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

〖拓跋俊〗44 タクバツシユン 後魏の人。明元帝の子。泰常中、新興王に封ぜられたが、悖心あり、死を賜はる。〔魏書、十七〕・〔北史、十六〕。

〖拓跋濬〗45 タクバツシユン 後魏の文成帝。景穆帝の長

子。名は濬。諡は文成。廟號は高宗。初、宦官の宗愛が弑逆し、南安王余を立て、復た之を殺す。帝は源賀・劉尼等に迎立せられたが、時に太武帝、兵を用ひること久しく、國内虚耗してゐたので、帝は民と休息し、威を養ひ德を布き、中外を懷輯した。在位十四年にして崩じた。年號は、興安・興光・太安・和平。〔魏書、五〕・〔北史、二〕。

【拓跋順】46 タクバツジュン　後魏の人。昭成帝の孫。登國の初、爵は南安公。後、道武帝の時、王に進める。官、司隸校尉。〔魏書、十五〕・〔北史、十五〕。

【拓跋遵】47 タクバツジュン　後魏の人。昭成帝の孫。中山を討平した功により、尚書左僕射を拜す。封は常山王。天賜中、禮を太原公主に失し、死を賜はつた。〔魏書、十五〕・〔北史、十五〕。

【拓跋寔】48 タクバツショク　後魏の宗室。什翼犍の太子。建國三十四年春、長孫斤が反し、拔刃して什翼犍に向つた。寔は之と挌鬪して負傷し、其の夏薨じた。後諡して獻明皇帝といふ。後魏の太祖道武帝珪は寔の子。〔魏書、一〕。

【拓跋瑞】49 タクバツズイ　後魏の人。禎の子。字は天賜。官は太中大夫。〔魏書、十五〕。

【拓跋齊】50 タクバツセイ　後魏の人。烈帝の玄孫。諡は敬。赫連昌の征伐に、身を以て太武を蔽捍した。官は内都大官。爵は河閒公。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【拓跋釗】51 タクバツセウ　後魏の臨洮王。孝文帝の孫。臨洮王寶暉の世子。名は釗。胡太后が孝明帝を弑するや、帝を迎へて卽位せしめたが、爾朱榮、兵を晉陽に擧げ、長樂王子攸を立て、太后及び帝を河に沈めた。在位一月。年號は武泰。〔魏書、二十二〕。

【拓跋紹】52 タクバツセウ　後魏の人。道武帝の子。天興中、清河王に封ぜられ、後、明元帝の時、死を賜はつた。〔魏書、十六〕・〔北史、十六〕。

【拓跋胥】53 タクバツセウ　後魏の人。熙の第二子、渾の子。諡は安。直言の士。官は左光祿大夫。〔魏書、十六〕。

【拓跋素】54 タクバツソ　後魏の人。遵の子。諡は康。官は内都大官。務めて租稅を寬にし、文成帝之を善とした。〔魏書、十五〕。

【拓跋他】55 タクバツタ　後魏の人。熙の子。諡は靖。陽平王を襲ぐ。白龔・蠕蠕・劉義隆を征す。官は司徒。淮南王に改封さる。〔魏書、十六〕・〔北史、十六〕。

【拓跋頽】56 タクバツタイ　後魏の人。昭帝の後。爵は望都侯。道武帝に隨つて、中原を平ぐ。太武の時、蠕蠕に使す。爵を公に進められた。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【拓跋燾】57 タクバツタウ　後魏の太武帝。明元帝の長子。名は燾。諡は太武。廟號は世祖。宋の文帝の元嘉元年に立ち、自ら將として柔然を擊つて之を走らせ、夏の地を幷せ、北燕の馮弘を滅し、北涼を伐ち、沮渠牧犍を降し、又、鄯惡を降し、西域に通じた。宋を侵したが、盱眙を攻めて克たなかつた。帝、聰明雄斷にして淸儉率素。敵に臨んで常に士卒と甘苦を同じくしたために、向ふところ敵がなかつた。刑賞を嚴にし、大臣と雖も法を侵せば寬假せず。在位二十八年、宦官宗愛に弑せられた。年號は、始光・神應・延和・太延・太平眞君・正平。〔魏書、四〕・〔北史、二〕。

【拓跋譚】58 タクバツタン　後魏の人。太武帝の子。諡は宣。封は臨淮王。劉義隆の軍を破る。〔魏書、十八〕・〔北史、十六〕。

【拓跋提】59 タクバツテイ　後魏の人。曜の子。諡は成。太武の時、武昌王となり、曹僕渾を討平した。官は統萬鎭都大將。〔魏書、十八〕・〔北史、十六〕。

【拓跋楨】60 タクバツテイ　後魏の人。景穆帝の子。諡は惠。皇興中、南安王に封ぜらる。性忠謹。官は雍州刺史。〔魏書、十九〕・〔北史、十八〕。

【拓跋禎】61 タクバツテイ　後魏の人。幹の子。諡は簡。諸方の語に通じ、征戰の功があつた。孝文の初、爵沛郡公を賜はる。後、南豫州の刺史に拜せられた。〔魏書、十五〕。

【拓跋敦】62 タクバツトン　後魏の人。平文帝の曾孫。中山を征す。官は明元の時、中都大官。太武の時、河西公に進爵した。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【拓跋範】63 タクバツハン　後魏の人。明元帝の子。泰常中、樂安王に封ぜられ、太武の時、都督五州諸軍事に拜せられた。〔魏書、十七〕。

【拓跋丕】64 タクバツヒ　後魏の人。明元帝の子。諡は戾。泰常中、樂平王に封ぜられ、官は車騎大將軍。河西高平諸軍事を督し、南秦王楊南當を伐つて後、劉潔の事に坐し、憂を以て卒した。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【拓跋弗】65 タクバツフツ　後魏の思帝。文帝の少子。名は弗。諡は思。聰哲にして大度あり、諸父兄に重んぜらる。政は簡寬を崇び、百姓懷き服す。國を享けること一年にして崩じた。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋毛】66 タクバツマウ　後魏の始祖、成帝。姓は拓跋氏。名は毛。諡は成。聰明にして武略あり、遠近に推さる。國を統べること三十六、大姓九十九、威北方に振ひ、盡く率服した。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋余】67 タクバツヨ　後魏の人。太武帝の子。諡は隱。封は南安王。太武帝が暴に崩ずるや、中常侍宗愛が皇太后の令を矯めて之を迎立し、後、愛に殺された。〔魏書、十八〕。

【拓跋朗】68 タクバツラウ　後魏の後廢帝。元朗(1－1340··591)を見よ。

【拓跋呂】69 タクバツリョ　後魏の人。道武帝の族弟。太武帝に從つて涼州を平げて功あり。封は江夏公。位は外都大官。江夏王を追贈せられた。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【拓跋隣】70 タクバツリン　後魏の獻帝。宣帝の後。名は鄰立。諡は獻。時に神人があり、此の國の土は荒遐で都邑を建てるに足らぬ、他に徙るがよいといふ。帝時に既に衰老。乃ち位を子に授けた。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋崙】71 タクバツロン　後魏の人。顗の子。諡は定。劉康祖を斬る。官は文成帝の時、秦州刺史。爵は隴西公。〔魏書、十五〕。

【拓跋猗㐌】72 タクバツイイ　後魏の桓帝。文帝の長子。名は猗㐌。諡は桓。英傑にして魁岸。昭帝既に國を分つて三部とし、帝をして一部を以て代郡の參合陂の北に居らしめた。嘗つて沙漠を渡りて西略し、降すもの二十餘國。劉淵の反に晉來りて師を乞ふや、帝數〻淵の兵を敗つた。凡そ部を統べること十一年にして崩ず。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋猗盧】73 タクバツイロ　後魏の穆帝。桓帝の弟。名は猗盧。諡は穆。昭帝既に國を分つて三部とし、帝をして一部を以て定襄の盛樂故城に居らしめた。帝、天姿英特にして、勇略人に過ぐ。昭帝が崩ずるや、遂に三部を總攝して一とした。晉の懷帝、帝を大單于に進め、代公に封ず。刑を明らかにし、法を峻くし、威嚴もて衆を服し、晉を助けて劉聰を討破し、愍帝の時、代王に進められた。在位九年。長子六修を討ちて利あらざるにより、民閒に微服して遂に崩ず。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋意烈】74 タクバツイレツ　後魏の人。昭成帝の孫。道武帝、中山を征するや、妻子を棄てて井陘に迎へた。中原を平げるに及んで戰勳あり、爵は西平公。官は廣平太守。時に和跋、鄴行臺となる。意烈、帝の屬を以て、跋の下に居るを恥ぢ、鄴を襲はんと謀り、發覺して死を賜はつた。〔魏書、十五〕。

【拓跋鬱律】75 タクバツウツリツ　後魏の平文帝。思帝の子。名は鬱律。諡は平文。天興の初、太祖と追尊した。嗣いで代王となる。資質雄壯で甚だ威略あり、西、烏孫の故地を兼ね、東、勿吉以西を呑み、控弦百萬あり。晉の元帝が使を遣して爵服を加崇したが、之を拒絕し、文を治め、武を講じ、南夏を呑むの意あり。在位五年にして桓帝の后に害せられた。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋翳槐】76 タクバツエイクワイ　後魏の烈帝。平文帝の長子。名は翳槐。諡は烈。嗣いで代王となる。後趙の石氏と通和し、前後在位八年にして崩じた。拓跋紇那(83)を見よ。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋賀傉】77 タクバツガジョク　後魏の惠帝。桓帝の仲子。諡は惠。代王となる。平文帝の五年を元年とし、政事を親らしなかつたが、太后、朝に臨み、四年にして始めて親政した。都を東木根山に徙す。在位五年。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋紇羅】78 タクバツキツラ　後魏の人。神元帝の曾孫。道武帝に征戰に從ひ、功を立て、爵上谷公を賜はる。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【拓跋詰汾】79（タクバツキツフン） 後魏の聖武帝。獻帝の子。名は詰汾。謚は聖武。獻帝に南移を命ぜらる。初、出でて匈奴の故地に居り、天女と會して力微を生んだ。故に「詰汾皇帝婦家なく、力微皇帝舅家なし。」の諺がある。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋窟咄】80（タクバツクツトツ） 後魏の人。昭成帝の子。昭成の崩後、苻洛が逼つて長安に徙したが、窟咄は逃れて慕容永の下に新興太守となり、後、衞辰に殺された。〔魏書、十五〕・〔北史、十五〕。

【拓跋羯兒】81（タクバツケツジ） 後魏の人。曜の子。禿髮・保周・蠕蠕を征す。官は征西大將軍。〔魏書、十六〕。

【拓跋庫汗】82（タクバツコカン） 後魏の人。意烈の從孫。官は獻文の時、殿中給事。封は陽豐公。〔魏書、十五〕。

【拓跋紇那】83（タクバツコツナ） 後魏の煬帝。惠帝の弟。名は紇那。謚は煬。嗣いで代王となる。立つて三年、石虎が來寇するや、之を禦いで利を失ひ、大寧に遷る。時に烈帝、舅の賀蘭部に居る。帝は使を遣して之を求めたが、部帥肯ぜず、帝、之を撃ち、敗れて還る。尋いで出でて宇文部に居る。賀蘭及び諸部は共に烈帝を立てたが、後七年、更に帝を奉ず。已にして石虎復た人を遣して烈帝を納れ、帝、復た出でて慕容部に居る。前後在位八年にして卒す。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋子攸】84（タクバツシイウ） 後魏の人。元子攸（**1－1340**‥668）を見よ。

【拓跋子推】85（タクバツシスイ） 後魏の人。景穆帝の子。封は京兆王。官は中都大官。孝文帝の時、青州刺史に拜せらる。〔魏書、十九〕・〔北史、十七〕。

【拓跋悉鹿】86（タクバツシツロク） 後魏の章帝。神元帝の子。名は悉鹿。謚は章。諸部離叛し、國內紛擾し、國を饗けること九年にして崩じた。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋壽樂】87（タクバツジユガク） 後魏の人。章帝の後。封は長樂王。官は太宰。長孫渴侯と權を爭ひ、並に法に伏した。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【拓跋寔君】88（タクバツシヨククン） 後魏の人。昭成帝の庶長子。性、暗愚不仁。苻堅に執へられ、長安西市に車ざきにせられた。〔魏書、十五〕。

【拓跋推寅】89（タクバツスイイン） 後魏の宣帝。成帝の後。名は推寅。謚は宣。南のかた大澤に遷る。更に南徙を謀つたが、未だ果さずして崩じた。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋善見】90（タクバツゼンケン） 後魏の孝靜帝。元善見（**1－1340**‥697）を見よ。

【拓跋素延】91（タクバツソエン） 後魏の人。桓帝の後。官は幽州刺史。爵は曲陽侯。奢侈度に過ぎ、死を賜はる。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【拓跋天賜】92（タクバツテンシ） 後魏の人。景穆帝の子。謚は靈。爵は汝陰王。鎭南大將軍に拜せられ、勅勒を征し、後、懷朔鎭大將となる。貪殘に坐して官爵を削られた。〔魏書、十九〕・〔北史、十七〕。

【拓跋寶炬】93（タクバツハウキヨ） 西魏の文帝。元寶炬（**1－1340**‥720）を見よ。

【拓跋比干】94（タクバツヒカン） 後魏の人。道武帝の族弟。爵は吉陽男。官は南道都將。戰歿した。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【拓跋伏羅】95（タクバツフクラ） 後魏の人。太武帝の子。眞君中、晉王に封ぜらる。官は車騎大將軍。吐谷渾を征し功を立てた。〔魏書、十八〕。

【拓跋平原】96（タクバツヘイゲン） 後魏の人。曜の孫。謚は簡。蠕蠕を征し、妖人劉擧を斬る。官は鎭南將軍・齊州刺史。〔魏書、十六〕・〔北史、十六〕。

【拓跋磨渾】97（タクバツマコン） 後魏の疏族。拓跋紹の叛に、明元を救つた。爵は長沙公。官は定州刺史。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【拓跋目辰】98（タクバツモクシン） 後魏の人。桓帝の後。孝文の時、爵は宜都郡王。官は雍州刺史。罪があり、法に伏した。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【拓跋六修】99（タクバツリクシウ） 後魏の人。穆帝の子。性、兇悖。帝の少子比延を殺す。桓帝の子普根は之を聞き、六修を攻め滅した。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【拓跋力微】100（タクバツリヨクビ） 後魏の神元帝。聖武帝の子。名は力微。謚は神元。道武帝の時、始祖と追尊した。帝、雄傑の度あり、沒鹿回部を併呑し、兵力甚だ強く、定襄の盛樂に遷る。誠を推し眞に任じ、遠近共に歸仰したが、離間の策にかかり、太子沙漠汗を殺す。又、烏丸王の離間策によつて諸大人が散走し、尋いで崩じた。在位五十八年、年一百四歲。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋祿官】101（タクバツロククワン） 後魏の昭帝。神元帝の子。名は祿官。謚は昭。國を分けて三部とし、自ら一部を以て東に居る。其の地は、上谷の北、濡源の西に在り、東は宇文部に接す。神元以來、百姓乂安、財畜富實。在位十三年。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋可悉陵】102（タクバツカシツリヨウ） 後魏の人。素の長子。性、驍勇、太武帝に從つて涼州を平ぐ。爵は曁陽子。官は中軍都將。〔魏書、十五〕。

【拓跋沙漠汗】103（タクバツサバクカン） 後魏の文帝。神元帝の子。追謚は文。景元中、神元帝が曹魏と和親したので帝は國太子にて洛陽に留る。晉の武帝の時、父の老いたるを以て乞うて歸る。諸大人晉の賂を受けて帝を讒し、因つて矯めて害す。帝、英姿瓌偉。晉に在るの日、英俊が多く之に歸した。〔魏書、一〕。

【拓跋什翼犍】104（タクバツシフヨクケン） 後魏の昭成帝。名は什翼犍。謚は昭成。道武帝の時、高祖と追尊した。烈帝に繼いで代王となり、都を雲中の盛樂に移し、能く祖業を修め、始めて百官を制した。又、師を興して外國を征伐し、劉衞辰を撃つて走らせ、東は穢貊から、西は破落那に至り、南は陰山に至り、北は沙漠に至るまで皆歸附したが、後、苻堅に幷せられた。在位三十九年。年號は建國。〔魏書、一〕・〔北史、一〕。

【拓跋小新成】105（タクバツセウシンセイ） 後魏の人。景穆帝の子。謚は惠。庫莫奚を討つ。和平中、爵は濟陰王。後、官は外都大官。〔魏書、十九〕・〔北史、十七〕。

【拓邊】106（タクヘン） 邊地を開く。〔舊唐書、李可擧傳〕常遣㆑拓㆑邊。

【拓本】107（タクホン） 古碑等を摹印すること。又、古碑等を摹印したもの。唐代には打本、又は搨本といひ、宋には拓本といふ。〔法帖譜系〕臨江戲魚堂帖、元祐間、劉次莊以㆓家藏淳化閣帖十卷㆒、摹㆓刻堂上㆒、往年拓本猶有㆓典刑㆒、所㆑拓者、字多㆓刓鈌㆒、亦有㆓補換新刻者㆒矣。〔樓鑰、跋㆓汪季路所㆑藏修禊序㆒詩〕焚㆑膏繼㆓短晷㆒、拓㆑本手不㆑停、疊㆑紙至㆓三四㆒、肥瘠遂異㆑形。〔楊升庵集〕愼得㆓石鼓文拓本於先師李文正公㆒。

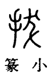
【拓落】108（タクラク） ❶不遇をいふ。官の通達しないこと。しりぞけられること。〔揚雄、解嘲〕何爲官之拓落也。〔注〕善曰、拓落、猶㆓遼落㆒、不㆓諧偶㆒也。濟曰、拓落、猶㆓排擯㆒也。❷廣大なさま。〔左思、魏都賦〕或櫎朗而拓落。〔注〕翰曰、拓落、寛廣貌。❸とりとめのないさま。しまりのないさま。落拓。〔訂譌雜錄〕俗倒㆑拈曰㆓落拓㆒、用爲㆓放蕩失㆑檢之意㆒、非。

【拓裏】109（タクリ） 五代の高郁の井戸。〔舊五代史、世襲、希範傳、注〕郁貪而且僭、常以㆓所㆑居之井不㆓甚清澈㆒、思㆕所㆔以澄㆓汰之㆒、乃用㆓銀葉㆒護㆓其四方㆒、自㆓內外㆒皆然、謂㆓之拓裏㆒。

【拓務省】110（タクムシヤウ） 舊內閣の一省。拓務大臣の管轄に屬し、朝鮮總督府・臺灣總督府・樺太廳・關東廳・南洋廳に關する事務及び植民に關する事務等を掌つた。昭和四年創設。昭和十七年大東亞省の開設と共に之に編入。

【拓湖居士】111（タクココジ） 明、何良俊（**1－511**‥377）の號。

【拔】 11959


小篆

一	ハツ バチ	〔集韻〕蒲八切	ㄅㄚˊ pa^2	黠
二	ハツ バチ	〔集韻〕蒲撥切		曷
三	ハイ バイ	〔集韻〕蒲蓋切		泰
四	ハイ バイ	〔集韻〕蒲昧切		隊
五	ハツ ボチ	〔集韻〕房越切		月
六	ヘツ ヘチ	〔集韻〕筆別切		屑
慣	バツ			

一❶**ぬく**。㋑ひきぬく。ぬきだす。〔說文〕拔、擢也、从㆑手犮聲。〔小爾雅、廣物〕拔㆑根曰㆑擢。〔方言、三〕擢、拔也、自㆑關而西、或曰㆑拔、或曰㆑擢。〔廣

雅、釋詁、一〕拔、出也。〔易、泰〕拔二茅茹一以二其彙一。㋺ひく。ひきあげる。〔一切經音義、三〕拔、引也。〔晉書、胡母輔之傳〕甄二拔人物一。〔韓愈、送三溫處士赴二河陽軍一序〕朝取二一人一焉、拔二其尤一。㋩のぞく。〔廣雅、釋詁三〕拔、除也。㋥つくす。〔爾雅、釋詁〕拔、盡也。㋭うつす。かへる。〔易、乾〕確乎其不レ可レ拔。〔釋文〕拔、鄭玄云、移也。㋬せめおとす。城市を攻陷する。〔戰國、秦策〕拔二宜陽一。〔注〕拔、得也。〔戰國、秦策〕拔二燕酸棗一。〔注〕拔、取也。〔呂覽、愼行〕圍二朱方一拔レ之。〔注〕拔、覆二取之一曰レ拔。〔漢書、高帝紀〕攻レ碭三日拔レ之。〔注〕師古曰、拔者、克二城邑一而取レ之、言レ若下拔二樹木一幷得中其根本上也。❷ぬける。㋑ぬけおちる。〔史記、武帝紀〕乃悉持二龍髯一、龍髯拔。〔素問、五常政大論〕其變振拉摧拔。〔注〕拔、謂レ出レ本也。㋺ぬきんでる。特出する。〔增韻〕拔、挺也。〔南史、江總傳〕神采英拔。〔劉禹錫、華山歌〕俄然神功就、峻拔在二寥廓一。㋩傾き倒れる。〔史記、樂書〕奮疾而不レ拔也。〔注〕正義曰、拔、傾側也。❸たすける。弼(**4－9825**)に通ず。〔說文通訓定聲〕拔、叚借爲レ弼。〔廣雅、釋詁四〕拔、輔也。❹[現]ゑがく。描寫する。[二]❶とる。もつ。〔集韻〕拔、把也。〔莊子、達生〕操二拔篲一以侍二門庭一。〔釋文〕拔、李云、把也。❷めぐる。〔集韻〕拔、回也。❸はやい。すみやか。にはか。犮(**2－2758**)に通ず。〔說文通訓定聲〕拔、叚借爲レ犮。〔禮、少儀〕毋二拔來一、毋二報往一。〔注〕拔・報、皆疾也。〔史記、黥布傳〕拔興之暴。〔注〕索隱曰、拔、疾也。〔後漢書、寇恂傳〕邯鄲拔起。〔注〕拔、猝也。❹やどる。草舍する。废(**4－9277**)に通ず。〔說文通訓定聲〕拔、叚借爲レ废。〔左氏、僖、十五〕反首拔舍從レ之。〔注〕拔、草。〔漢書、禮樂志〕拔二蘭堂一。〔注〕師古曰、拔、舍止也。〔漢書、刑法志〕夏、拔舍以苗。〔注〕師古曰、拔舍、草止。❺やはず。矢括。〔詩、秦風、駟驖〕舍レ拔則獲。〔傳〕拔、矢末也。〔箋〕拔、括也。❻ちる。拔撥(28)を見よ。❼弓のまがるさま。拔剌(101)を見よ。❽地名。山東省郯縣の北。〔春秋、定、三〕盟二于拔一。❾跋(**10－37446**)に通ず。〔廣韻〕拔、虜複姓有二拓跋氏一、跋、亦作レ拔、或說自云二拓レ天而生、拔レ地而長一、遂以氏焉。[三]**枝葉が茂るさま**。或は柭(**6－14495**)に作る。〔集韻〕拔、木生二柯葉一皃、或作レ柭。〔詩、大雅、緜〕柞棫拔矣。〔疏〕柞棫之木、拔然生二柯葉一矣。〔詩、大雅、皇矣〕柞棫斯拔。〔疏〕柞棫拔然而枝葉茂盛。[四]❶**枝葉が茂るさま**。[三]に同じ。❷**はらひとる**。〔集韻〕拔、拂取也。[五]**草の名**。やぶがらし。〔爾雅、釋草〕拔、龍葛。〔集韻〕拔、艸名、龍葛也。[六]**ならす**。たがやす。〔集韻〕拔、晉俗謂三平レ地除二坌臭一曰レ拔。

【拔秧】1 バツアウ 苗を拔き取る。〔楊萬里、詩〕田夫拋レ秧田婦接、小兒拔レ秧大兒插。

【拔尤】2 バツイウ すぐれた者を選拔する。〔韓愈、送三溫處士赴二河陽軍一序〕東都雖三信多二才士一、朝取二一人一焉、拔二其尤一、暮取二一人一焉、拔二其尤一。〔陳造、次二韻張丞一詩〕誦賦久嗟無二此作一、薦レ賢端合拔二其尤一。

【拔暈】3 バツウン 日のかさをぬき取る意。唐の懿宗が鄆王を以て卽位した時の豫言。〔舊唐書、懿宗紀〕宣宗制二泰邊陲樂曲一、詞有二海晏咸通之句一、又大中末、京城小兒疊レ布漬レ水、紐レ之向レ日、謂二之拔暈一、帝果以二鄆王一卽二大位一、以二咸通一爲二年號一。

【拔營】4 pa² ying² 陣地を進める。

【拔河】5 バツカ つなひきの遊戲。拖鉤。牽鉤。拉繩。〔唐書、中宗紀〕景龍三年、二月己丑、及二皇后一幸二玄武門一、觀二宮女拔河一、爲二宮市一以嬉。〔舊唐書、薛存誠傳〕父勝能レ文、嘗作二拔河賦一。〔景龍文館記〕中宗幸二梨園一、命二侍臣一爲二拔河之戲一、以二大麻絙兩頭一、繫二十餘小索一、每索數人執レ之以挽、力弱爲レ輸。〔封氏聞見記、拔河〕拔河、古謂二之牽鉤一、襄漢風俗、常以二正月望月一爲レ之、相傳、楚將伐レ吳、以爲二教戰一、梁簡文臨二雍部一、禁レ之而不レ能レ絕、古用二篾纜一、今民則用二大麻絙長四五十丈一、兩頭分二繫小索數百條一、挂二于前一、分二二朋一、兩相齊挽、當二大絙之中一、立二大旗一爲レ界、震鼓叫噪、使二相牽引一、以二卻者一爲レ勝、就者爲レ輸、名曰二拔河一、中宗時、曾以二淸明日一、御二梨園毬場一、命二侍臣一爲二拔河之戲一、時宰相二駙馬爲二東朋一、三宰相五將軍爲二西朋一、東朋貴人多、西朋奏レ勝不レ平、請二重定一、不レ爲レ改、西方竟輸、僕射韋巨源・少師唐休璟、年老、隨レ絙而踣、久不レ能レ興、上大笑、左右扶起、玄宗數御レ樓設二此戲一、挽者至二千餘人一、喧呼動レ地、蕃客士庶、觀者莫レ不二震駭一、進士河東薛勝爲二拔河賦一、其辭甚美、時人競傳レ之。

【拔價】6 pa² chia⁴ 土地質入後の典價の追加額。

【拔解】7 バツカイ 唐代、士を取る法の一。外府で試驗をせずに官吏の候補者を中央に推薦すること。〔國史補〕京兆府考而升者、謂二之等第一、外府不レ試而貢者、謂二之拔解一。〔隨園隨筆〕外府不レ試而貢者、曰二拔解一、見二國史補一、大抵卽免解也。

【拔薤】8 バツカイ 豪強の者を誅鋤する喩。後漢の龐參が漢陽太守となり、任棠を訪ねた時、棠は無言で薤一本と水一盂とを戶屛の前に置き、自らは孫を抱いて戶下に伏した。そこで參は、水は吾の淸廉を欲し、薤を拔くは吾をして強宗を擊たしめんことを欲し、兒を抱いて戶に當るは吾をして門を開いて孤を恤ましめんことを欲するのであると判じた故事。〔後漢書、龐參傳〕爲二漢陽太守一、郡人任棠、有二奇節一、隱居教授、參到先候レ之、棠不二與言一、但以二薤一大本、水一盂一、置二戶屛前一、自抱二孫兒一、伏二於戶下一、主簿白以爲レ倨、參思二其微意一、良久曰、棠是欲レ曉二太守一也、水者、欲二吾清一、拔二大本薤一者、欲三吾擊二強宗一、抱レ兒當レ戶、欲三吾開レ門恤レ孤也。〔吳融、和二峽州馮使君題レ所レ居詩一〕三年拔レ薤成二仁政一、一日誅レ茅葺二所居一。

【拔幹】9 バツカン 幹をぬきんでる。多くの中からぬけ出る。拔群。〔魏志、鍾會傳評〕王淩風節格尙、毋丘儉才識拔幹。

【拔起】10 バツキ にはかにおこる。拔は疾。〔漢書、項籍傳贊〕羽非レ有二尺寸一、乘レ勢拔二起隴畝之中一。〔注〕晉灼曰、拔、音卒拔之拔。鄧展曰、疾起也。〔後漢書、宗室四王三侯、齊武王縯傳論〕大丈夫之鼓動拔起、其志致蓋遠矣。

【拔去】11 pa² ch'ü⁴ ぬきとる。「を除き去る。

[拔去一丁]12 pa² ch'ü⁴ i⁴ ting¹ 有害な物

【拔距】13 バツキヨ 人が連なり坐して堅く地に據つてゐるのをぬき取る遊戲。防禦を侵して捕へる意。距は拒。一說に、物を跳び越すこと。超距。超輸。〔漢書、甘延壽傳〕投石拔距、絕二於等倫一。〔注〕應劭曰、拔距、卽下超二踰羽林亭樓一是也。師古曰、拔距者、有レ人連レ坐相把、據レ地距以爲レ堅、而能拔二取之一、言下其有二手挈之力一、超中踰亭樓上云云、今人猶有二拔爪之戲一、蓋拔距之遺法。〔左思、吳都賦〕袒裼徒搏、拔距投石之部。〔注〕善曰、拔距、謂三兩人以レ手相案、能拔二引之一也。

【拔擧】14 バツキヨ ぬきあげる。ぬきんで擧げ用ひる。〔莊子、天地〕官施而不レ失二其宜一、拔擧而不レ失二其能一。

【拔棘】15 バツキヨク ほこをぬく。〔左氏、隱、十一〕子都拔レ棘、以逐レ之。〔注〕棘、戟也。

【拔驅】16 ヌケガケ 戰陣などで人知れず出でて先がけするをいふ。轉じて、一般に他を出しぬいて事をすること。〔太平記、三〕矢合せ可レ有と定めたりける其前の日、高橋又四郎、拔懸して、獨り高名に備へんとや思ひけん。

【拔還】17 pa² huan² くづし拂ひ。何回にも分けて拂ふこと。

【拔羣】18 バツグン 群を拔く。多くの中からぬけ出てえらいこと。秀で擢んでること。傑出。出羣。逸羣。〔宋書、王華傳〕才實拔レ羣。〔梁書、劉顯傳〕聽

明特達、出㆑類拔㆑羣。〔顏氏家訓、勉學〕拔㆑羣出㆑類。

【拔戟】19 バツゲキ　ほこをぬく。又、拔いたほこ。〔左氏、襄、十〕右拔㆑戟以成㆓一隊㆒。〔荀子、彊國〕拔戟加㆓乎首㆒、則十指不㆑辭㆑斷。〔魏志、張遼傳〕拔㆑戟斫㆑几。

【拔擊】20 ヌキウチ　刀の鞘を拂ふと同時に斬りかけること。拔打(64)に同じ。

【拔搴】21 バツケン　ぬき取ること。〔楚辭、東方朔、七諫〕亂曰、云云、拔㆓搴玄芝㆒兮、列㆓樹芋荷㆒。

【拔劍】22 バツケン　劍をぬく。劍を鞘から拔きはなつ。又、拔いた劍。〔戰國、韓策〕嚴遂政議直指、擧㆓韓傀之過㆒、韓傀以㆑之叱㆓之於朝㆒、嚴遂拔㆑劍趁㆑之。〔呂覽、忠廉〕今汝、拔㆑劍則不㆑能㆑擧㆑臂、上㆑車則不㆑能㆑登㆑軾。〔孔子家語、好生〕拔㆑劍而舞㆑之。

【拔扈】23 バツコ　のさばりはびこる。勇壯のさま。跋扈(10－37446・4)に同じ。〔張衡、西京賦〕緹衣韎韐、睢盱拔扈。〔注〕五臣作㆑跋、善曰、毛詩鄭注曰、拔、與㆑跋古字通、銑曰、跋扈、勇壯之貌。

【拔貢】24 バツコウ　清代に十二年每に、各省が、其の管下の學校の學生の中で、學行共に優れた者を中央に推薦すること。又、其の推薦を受けた者。拔貢生。〔淸會典、禮部〕凡生員食餼久者、各以㆓其歲之額㆒而貢㆓於大學㆒、曰㆓歲貢㆒、有㆓恩詔㆒則加㆑貢㆑焉、曰㆓恩貢㆒、學官擧㆓其生員之優者㆒、三歲、學政會㆓巡撫㆒試而貢㆑之、曰㆓優貢㆒、十有二歲、乃各拔㆓其學之尤者㆒而貢㆑之、曰㆓拔貢㆒。〔淸會典事例、禮部、學校、拔貢事宜〕順治元年諭、首擧㆓選貢㆒、掄㆓才盛典㆒、准㆘先行㆓歲考㆒、補㆓足廩生㆒以拔㆗其尤㆖、順天府特貢㆓六人㆒、每府學貢㆓二人㆒、州縣學各貢㆓一人㆒、其考試盤費、官爲㆓資給㆒、如有㆔拔㆓萃奇才㆒、特疏薦擧、云云、康熙十年題准、直省各學、於㆓現考一二等生員內㆒、遴㆓選文行兼優者㆒、考㆓充拔貢㆒、入㆑監肄㆑業。〔六部成語、禮部、拔貢、注解〕貢生有㆓五種㆒、恩・拔・副・優・歲、是也、皇恩欽賜者、曰㆓恩貢㆒、從㆓秀才中㆒選㆓其文學拔萃者㆒、作㆓爲貢生㆒、曰㆓拔貢㆒、廩生年老、而準作㆓貢生㆒者、曰㆓歲貢㆒、鄉試中㆓式副榜㆒、準作㆓貢生㆒、曰㆓副貢㆒、從㆓秀才中㆒、擧㆓其品行可㆑靠者㆒、準作㆓貢生㆒、曰㆓優貢㆒。

【拔興】25 バツコウ　にはかに興る。とく興起する。拔は疾。〔史記、黥布傳贊〕身被㆓刑法㆒、何其拔興之暴也。〔注〕索隱曰、拔、疾也。

【拔差】26 ヌキサシ　拔き取ることと差込むこと。〔室町千疊敷、一〕其の胸にひつしと當たつて、拔き差しなるまい。

【拔爪】27 バツサウ　遊戲の一種。拔距の遺法であるといふ。拔距(13)を見よ。

【拔撥】28 バツサツ　はなれちる。分れちる。分散する。〔王褒、洞簫賦〕或雜遝以聚斂兮、或拔撥以奮棄。〔注〕善曰、拔撥、分散也。

【拔山】29 バツザン　山をぬき取る。強大な力、氣力の勇猛な喩。〔漢書、劉向傳〕去㆑佞則如㆑拔㆑山。〔陸機、弔㆓魏武帝㆒文〕力盪㆑海而拔㆑山。〔唐書、選擧志上〕下至㆓軍謀將略、翹關拔山、絕藝奇伎㆒、莫㆑不㆓兼受㆒。

【拔山寺】30 バツザンジ　寺の名。四川省忠縣の西。

【拔山雄】31 バツザンノユウ　山をもぬき取る程の強大な氣力を有する英雄。〔唐玄宗、巡省途次上黨舊宮賦詩〕長懷㆓問鼎氣㆒、夙負㆓拔山雄㆒。

【拔山力】32 バツザンノチカラ　山をもぬきとる程の力。偉大な力。〔李白、擬恨賦〕拔山力盡、蓋世心違。

【拔山蓋世】33 バツザンガイセイ　山をもぬき取り、一世を支配する。勇壯な氣象の形容に用ひる。〔史記、項羽紀〕於㆑是項王乃悲歌忼慨、自爲㆑詩曰、力拔㆑山兮氣蓋㆑世、時不㆑利兮騅不㆑逝、騅不㆑逝兮可㆓奈何㆒、虞兮虞兮奈㆑若何。

【拔徙】34 バツシ　ひきぬいてうつす。〔魏志、郭淮傳〕按㆓撫柔氏三千餘落㆒、拔徙以實㆓關中㆒。

【拔絲】35 pa² ssŭ¹　❶針金細工。❷ バツシ　手術をした切口を縫ひ合せた絲をぬきとること。❸ ヌキイト　古着などから拔き取つた絲。

【拔幟】36 バツシ　幟をぬき取る。〔史記、淮陰侯傳〕信與㆓張耳㆒、云云、擊㆑趙、選㆓輕騎二千人㆒、人持㆓一赤幟㆒、云云、誡曰、趙見㆓我走㆒、必空㆑壁逐㆑我、若疾入㆓趙壁㆒、拔㆓趙幟㆒、立㆓漢赤幟㆒。

【拔識】37 バツシキ　多くの中から見出しみとめる。〔子華子、晏子〕中行文子之在㆑位也、拔㆓識俊良㆒、振㆓其淹滯㆒。

【拔舍】38 バツシャ　のじゆく。野宿。茇舍。〔左氏、僖、十五〕秦獲㆓晉侯㆒以歸、晉大夫反首拔舍從㆑之。〔注〕反首、亂㆓頭髮㆒反下垂也、拔、草、舍、止。〔漢書、刑法志〕夏、拔舍以苗。〔注〕師古曰、拔舍、草止、不㆑妨㆑農也。〔集解〕王先謙曰、拔、當㆑爲㆑茇。

【拔寫】39 ヌキウツシ　書物の處々を寫すこと。拔書。

【拔城】40 pa² ch'êng²　城を陷れる。

【拔手】41 ヌキテ　兩手をかはるがはる水上に拔き出して進む泳法。〔源氏十二段、長生島臺、一〕水の連れ行く岩を飛越え、波に打乘り流れに慕ひ、拔手を切つて追つかけ給へば。

【拔取】42 バツシユ　❶ぬき取る。又、毛を拔き、血を取る。〔國語、楚語下〕先王之祀也、云云、毛以示㆑物、血以告㆑殺、接㆑誠拔取、以獻㆑具、爲㆓齊敬㆒也。〔注〕拔㆑毛取㆑血、獻㆓其備物㆒也。❷pa² ch'ü³　拔擢する。

【拔授】43 バツジユ　ひきあげてさづける。拔擢して官を授ける。〔曹植、求㆑通㆓親親㆒表〕及㆑觀㆔陛下之所㆓拔授㆒。

【拔樹】44 バツジユ　樹をぬく。又、樹を拔かれる。〔晏子、不合經術者〕孔子拔㆑樹削㆑跡、不㆓自以爲㆒㆑辱。〔風俗通、窮通〕夫子逐㆓於魯㆒、削㆓迹於衞㆒、拔㆓樹於宋㆒。

【拔出】45 バツシユツ　❶ぬけでる。他よりも甚だすぐれてゐること。拔群。〔後漢書、荀彧傳〕昔介子推有㆑言、竊㆓人之財㆒、猶謂㆓之盜㆒、況君奇謨拔出、興亡所㆑係、可㆓專有㆒㆑之邪。❷多くの中からひきぬくこと。〔莊子、天地〕必服㆓恭儉㆒、拔㆓出公忠之屬㆒、而無㆓阿私㆒。❸ ヌキデ　中古、相撲の節會の翌日、前日の相撲の中の優等の者を選拔し、或は勝敗の明かでなかつた者に、天子の御前で更めて相撲を取らせたこと。〔江家次第〕相撲拔出、裏書云、昨日相撲人中、拔㆓出之㆒、令㆑取㆓相撲㆒也。

【拔出司】46 ヌキデノツカサ　平安時代の相撲司に同じといふ。〔續日本紀、八〕養老三年七月、初置㆓拔出司㆒。

【拔出綿】47 ヌキデワタ　蒲團又は古着などから拔き取つた綿。拔綿。〔小町踊〕降る雪や、雲の衣のぬきで綿。

【拔書】48 ヌキガキ　他書から拔きだして其の要點を書きとること。鈔錄。抄書。

【拔拯】49 バツジヨウ　助けすくふ。〔魏志、劉放傳〕惟公能拔㆓拯危亂㆒、翼㆓戴天子㆒。

【拔身】50 バツシン　❶身を脫する。〔晉書、周虓傳〕孝武帝詔曰、虓厲志貞亮、無㆑愧㆓古烈㆒、未㆑及㆑拔㆑身、奄㆓隕厥命㆒、甄㆓表義節㆒、國之典也。❷ ヌキミ　鞘から拔き放した刃。白刃。露刃。〔百合若大臣野守鏡、四〕拔身の槍を閃かす。

【拔進】51 バツシン　ぬきんですすめる。衆人中から拔擢してすすめのぼせる。〔漢書、李尋傳〕閉㆓絕私路㆒、拔㆓進英儁㆒。〔論衡、狀留〕身雖㆓拔進㆒、利心搖動。〔吳志、孫亮傳評〕拔㆓進良才㆒。

【拔親】52 バツシン　親の喪中に妻をめとること。〔日知錄、喪娶、集釋〕楊氏曰、今人有㆘乘㆓新喪㆒而娶者㆖、謂㆓之拔親㆒、或云㆓白親㆒。

【拔水】53 pa² shuei³　水を引く。水を出す。

【拔萃】54 バツスイ　❶多くの中から特にぬけ出る。群聚中から傑出する。拔羣。〔孟子、公孫丑上〕出㆓於其類㆒、拔㆓乎其萃㆒。〔後漢書、蔡邕傳〕曾不㆑能㆓拔㆑萃出㆑羣、揚㆑芳飛㆒㆑文。〔蜀志、蔣琬傳〕出㆑類拔㆑萃。❷唐代、選人の期未だ滿たない者が、判三條を試驗せられ、其の及第者が官を授けられることをいふ。淸代には拔貢(24)を一に拔萃と稱した。〔唐書、選擧志下〕選未㆑滿而試㆓文三篇㆒、謂㆓之宏辭㆒、試㆓判三條㆒、謂㆓之拔萃㆒、中者卽授㆑官。❸書中の要所を拔き出すこと。又、さうして作つたもの。抄錄。

【拔萃團】55 バツスイダン　麝香の異名。〔淸異錄、藥〕侯寧極藥譜、拔萃團、麝香。

【拔萃帖】56 バツスイテフ　新聞・雜誌などの切拔を貼つて置く帳簿。

【拔穗】57 ヌキホ　❶穗をぬき取る。又、拔き取つた穗。❷大嘗祭の時、悠紀、主基の齋田の稻の穗を拔き取ること。又、その穗。〔建久三年皇太神宮年中行事、九月〕十四日、拔穗神事、早旦、一禰宜衣冠を着、當鄉大少の刀禰等を相具、御常供田に參向し、御稻穗を奉㆑拔、云云。

【拔篲】58 バツセイ　篲をいふ。〔莊子、達生〕開之操㆓拔篲㆒、以侍㆓門庭㆒。〔疏〕拔篲、篲掃也。

【拔迹】59 バツセキ　他よりも前方に進んでゐること。衆に拔んで出て高い地位に在ること。〔陸機、謝㆓

平原內史一表〕振レ景拔レ迹、顧二邈同列一。〔注〕濟曰、言下振二其光景一、拔レ迹越上衆。

【拔選】60（バツセン） 多くの中から拔きえらぶ。〔唐書、陸贄傳〕勞二神於拔選一、端二拱於委任一。

【拔薦】61（バツセン） 多數の中から拔き出して推薦すること。

【拔足】62（ヌキアシ） 歩むに足音をさせまいと、拔くやうに足をあげること。踏地。鷺步。躡足。〔今昔物語、二十七〕公忠の辨、中橋より密かに拔足に登りて。

【拔俗】63（バツゾク） 通常の人より高くぬけでる。凡俗の上に拔け出る。超俗。冠羣。拔羣。〔後漢書、仲長統傳〕至人能變、達士拔レ俗、乘レ雲無レ轡、騁レ風無レ足。〔孔稚珪、北山移文〕夫以、耿介拔レ俗之標、瀟灑出レ塵之想。

【拔打】64（ヌキウチ） 刀を拔く手のままに切付けること。拔擊。〔平治物語、二〕鬢切を以つて拔き打ちに、しとど打たれければ。

【拔袋】65 pa^{2} tai^{4} 小兒の健康・成長を祈るため、之を神佛の弟子とし、成年に達した時、弟子の證たる過寄袋を除き取るをいふ。江蘇省蘇州地方の風習。

【拔隊】66 pa^{2} tuei^{4} 軍隊が前進する。

【拔提】67（バツダイ） 佛河の名。阿恃多跋提河の略。中印度の拘尸那揭羅國を流れ、釋迦は其の西岸で入滅したと傳へられる。〔西域記、六〕阿恃多伐底河、唐言二无勝一、云云、舊云二阿利羅跋提河一、訛也、云云、西岸不レ遠、至二娑羅林一、其樹類レ槲、而皮青白、葉甚光潤、四樹特高、如來寂滅之所也。

【拔刀】68（バツタウ） 刀を拔きはなす。又、拔きはなした刀。〔後漢書、列女、許升妻傳〕賊拔レ刀追レ之。〔吳志、吳主孫權傳、注〕江表傳曰、(谷)利拔レ刀向二施工一曰、云云。

〖拔刀隊〗69（バツタウタイ） 白刃を提げて、敵陣に斬り込む部隊。

【拔宅】70（バツタク） 家をぬく。拔宅飛昇を見よ。〔宋无、許山人詩〕仙詔未レ頒遲レ拔レ宅、家貧猶戀一溪桃。

〖拔宅飛昇〗71（バツタクヒシヨウ） 仙人になつて家ごと天に昇ることをいふ。〔太淸記〕許眞君拔レ宅上昇、惟車轂錦帷墮二故宅一。

【拔脫】72（バツダツ） ぬき取る。〔李商隱、驕兒詩〕凝走弄二香奩一、拔脫金屈戌。

【拔地】73（バツチ） 地上に高くぬけ出る。〔吳融、赴レ闕次留獻二荊南成相公一三十韻詩〕拔レ地孤峯秀、當レ天一鶚雄。

〖拔地倚天〗74（バツチイテン） 地上に高くぬけ出て天にとどく。詩文などのすぐれて雄大なことを評していふ。〔錦字箋〕孫樵云、玉川月蝕詩、退之進學解、莫レ不二拔地倚天一、句句欲レ活、讀レ之如下赤手搏二長蛇一、不レ施二控勒一騎中生馬上。

【拔軸】75（バツヂク） 土中の沙を拔き取り、代りに炭末を以て固めること。拔轉。〔東軒筆錄〕古有二拔軸法一、謂下掘去抽レ沙、而實以二炭末一墐上土、卽其上可二以築レ城、城亦不二復崩一。

【拔擢】76（バツテキ・バツタク） 拔き出す。ひきあげる。〔漢書、孔光傳〕今復拔擢、備二內朝臣一。〔揚雄、劇秦美新〕蒙二鷹擧拔擢一、常拔二擢倫比一。〔後漢書、岑彭傳〕思レ有二以報一レ恩。〔論衡、自紀〕拔擢越レ次。〔魏志、杜恕傳〕以二才能一拔擢。〔顏氏家訓、雜藝〕以二能書一拔擢者多矣。

【拔轉】77（バツテン） 地を固め築く法。拔軸を見よ。〔宋史、呂公弼傳〕麟州無レ井、唯沙泉在二城外一、欲二拓レ城包一レ之、而土善陷、云云、公弼用二其僚鄧子喬計一、倣二古拔轉法一、去二其沙一、實以二末炭一、墐二土於其上一、板築立、遂包二泉於中一。

【拔都】78（バツト） ❶勇をいふ。蒙古語。元代には、美號として臣下の勇者に賜與した。拔都魯。巴圖魯。〔元史、趙阿哥潘傳〕帝駐二釣魚山一、合二州守將一王堅夜來斫レ營、阿哥潘率二壯士一逆戰、手殺二數十百人一、云云、帝喜曰、有レ臣如レ此、朕復何憂、賜二黃金五十兩一、名曰二拔都一。〔虞集、平章政事張公誌銘〕是家爲二國家一踣金蹙宋盡二死力一者三世矣、漢人之賜二號拔都一者、惟眞定史天澤與二其家一耳。〔稱謂錄、勇、拔都〕說鈴、池北偶談、元時漢人賜二號拔都一、惟史天澤・張宏範、見二輟耕錄一、漢言レ勇也、亦曰二拔都魯一、案、此拔都、其卽今之巴圖魯乎。❷（バツ） 元の人。朮赤の子。朮赤の封を嗣ぐ。太宗の時、兵を西域に用ひ、欽察及び俄羅斯を平げ、進んで波蘭・匈牙利を攻め、歐人大いに恐る。太宗の卒するに會し、師を還して帳を窩瓦河畔の薩萊に設け、鄂畢以西及び俄羅斯を統轄し、阿勒垣斡爾朵と號し、世、金頂汗・金帳汗と稱した。〔元史、百十七〕。

〖拔都兒〗79（バトール） 元の人。阿速氏。李璮を伐ち、濟南を圍む。官は後衞親軍副都指揮使。〔元史、一百三十二〕。

【拔豆】80（バツトウ） 隋、李衍(**6－14459**··79)の字。

【拔頭】81（バトウ・バツトウ） 舞樂の曲。西域の人が虎に傷つけられ、其の子が復讐のために虎を殺した事を演ずるものといふ。髮頭。撥頭(**5－12727**··55)に同じ。〔樂家錄、中華曲〕乞食調、拔頭、波止字、一本、拔、作レ髮、亦作レ撥、一名、宗妃樂。

【拔毒】82 pa^{2} tu^{2} 毒を除く。

【拔茅】83（バツバウ） ちがやをぬく。〔易、泰〕初九、拔レ茅茹以二其彙一、征吉。

〖拔茅連茹〗84（バツバウレンジヨ） 賢者が其の同類を引き進めるをいふ。〔易、泰、初九拔レ茅茹以二其彙一、本義〕三陽在レ下、相連而進、拔レ茅連レ茹之象。

【拔白】85 pa^{2} pai^{2} 夜が明けかかる。〔長生殿、絮閣〕一夜無眠亂愁攪、未拔白潛蹤來到。

【拔拔】86（バツバツ） 複姓。〔魏書、官氏志〕獻帝、云云、次兄爲二拔拔氏一、後改爲二長孫氏一。

【拔付】87 pa^{2} fu^{4} 數回に分けて支拂ふ。

【拔拂】88（バツフツ） はらひのける。〔韓非子、難、二〕戰而不レ勝、則國亡兵弱、身死名息、拔二拂今日之死一不レ及、安暇レ待二萬世之利一。

【拔錨】89（バツベウ） いかりをあげる。船が出ること。船出。解纜。出帆。

【拔蒲】90（バツホ） 樂府西曲の歌名。二首あるが作者は不明。〔樂府詩集、淸商曲辭、西曲歌、拔蒲〕古今樂錄曰、拔蒲、倚歌也。〔張祜、拔蒲歌〕拔レ蒲來、領レ郎鏡湖邊、郎心在二何處一、莫下趁二新蓮一去上、拔二得無心蒲一、問レ郎看好無。

【拔木】91（バツボク） 木をぬく。〔漢書、五行志下之上〕厥災、風雨、霧風拔レ木亂二五穀一。

【拔本】92（バツポン） ❶根を拔く。拔本塞源を見よ。〔國語、晉語二〕已自拔二其本一矣、何以能久。❷pa^{2} pen^{3} 儲けた金で元金をすつかり返濟すること。❸（ヌキホン） 拔萃したものを綴つた冊子。

〖拔本塞源〗93（バツポンソクゲン） もとを拔き去り、みなもとをふさいで通ぜしめぬこと。本は木の根、源は水源をいふ。本原を棄て改めて處置すること。〔左氏、昭、九〕伯父若裂レ冠毀レ冕、拔レ本塞レ源、專棄二謀主一、雖二戎狄一其何有二余一人一。〔晉書、文苑、李充傳〕政異徵レ辭、拔レ本塞レ源。

〖拔本塞源論〗94（バツポンソクゲンロン） 明の王陽明が、其の大精神を述べた論文。聖人の本心は天地萬物を以て一體とし、天下の人を視るのに外內遠近なく、人心が有我の私、物欲の蔽に隔てられ、大なる者が小に、通ずる者が塞つてゐるのを憂へて、天地萬物一體の仁を推して天下に教へ、私に克ち 蔽を去つて、心體の同然に復らしめることを述べ、之に次いで、聖教の大端は堯舜禹授受の精一執中の義と、舜が契に命じた五教の目に外ならずとし、進んで古今修學の法の相異つてゐることをいつて時學の弊を痛斥してゐる。〔傳習錄、中〕。

【拔毛】95（バツマウ） 毛を拔く。〔孟子、盡心上〕楊子取レ爲レ我、拔二一毛一而利二天下一、不レ爲也。

【拔綿】96（ヌキワタ） 蒲團又は古着などから拔き取つた古綿。ぬきでわた。

【拔也】97（バツヤ） 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕拔也氏、與二斛律一同祖、爲二拔也部一、因氏焉。

【拔用】98（バツヨウ） 拔きんでもちひる。〔漢書、杜欽傳〕朱博果見二拔用一、業由レ是徵、復爲二太常一。〔後漢書、朱暉傳〕有レ所二拔用一、皆厲行士。

【拔來】99（バツライ） すみやかに來る。拔來報往を見よ。

〖拔來報往〗100（バツライハウワウ） 速かに來り、速かに往く。拔・報、共に疾。來往の輕忽なこと。〔禮、少儀〕毋二拔來一、毋二報往一。〔注〕報、讀爲二赴疾之赴一、拔・赴、皆疾也。〔疏〕拔・赴、皆速疾之意。

【拔剌】101（バツラツ） ❶弓をひくさま。〔張衡、思玄賦〕彎二威弧之拔剌一兮、射二嶓冢之封狼一。〔注〕衡曰、拔剌、彎レ弓貌。❷鳥の聲の形容。〔岑參、至二大梁一却二寄匡城主人一詩〕仲秋蕭條景、拔剌飛二鵝鶬一。

【拔略】102（バツリヤク） 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕拔略氏、後魏官氏志、拔略改爲二蘇氏一。

【拔力】103 pa^{2} li^{4} 有らん限りの力を盡す。

【拔隣】104（バツリン） 山名。綏遠省鄂爾多斯の界。〔魏書、世祖太武帝紀〕(始光四年)西討二赫連昌一、辛

已濟二君子津一、次二拔隣山一、築二城舍一。

【拔和】105バツワ　宋代雜劇の演目。雜扮(11－42122・・190′)に同じ。

【拔曳固】106バツエイコ　種族の名。拔野古(112)に同じ。

【拔草風】107 pa² ts'ao³ fêng¹　梅雨過ぎに吹く風。江蘇省蘇州地方の語。

【拔悉蜜】108バツシツミツ　種族の名。一に拔悉彌に作る。古、弊剌國と稱す。キルギス族の北、現在のシベリアのトムスクの地に居り、民族は雄健で射獵に長じた。唐の貞觀中、始めて入朝したが、後、回紇のために併合せられた。〔唐書、回鶻下、拔悉蜜傳〕拔悉蜜、貞觀二十三年、始來朝。

【拔前茅】109 pa² ch'ien² mao²　試驗に優等の成績を取ること。

【拔達嶺】110バツタツレイ　山名。新疆省天山の穆雜爾特嶺。烏什の北。一名、冰嶺。

【拔釘錢】111バツテイセン　五代の趙在禮が宋州に在つて民を苦しめたので、其の罷め去つた時、宋州の人が喜んで眼中の釘を拔き去つたやうだといふ。既にして再び詔を受けて職に居るや、口率錢一千を課し、自ら拔釘錢と名づけた。〔五代史、雜三十四、趙在禮傳〕在禮在二宋州一、人尤苦レ之、已而罷去、宋人喜而相謂曰、眼中拔レ釘、豈不レ樂哉、既而復受レ詔居レ職、乃籍二管內口率錢一千一、自號二拔釘錢一。

【拔野古】112バツヤコ　種族の名。又、地名。敕勒諸部の一。一に拔曳固に作る。東韃靼に鄰りした。〔五代史、唐莊宗紀論〕太宗破二西突厥一、云云、拔野古爲二幽陵都督府一。

【拔蘭鹿】113バツランロク　鹿の一種。〔冊府元龜〕貞觀二十一年三月、薛延陀獻二拔蘭鹿一、鬣毛而牛角、大如レ麏。

【拔里菫】114バツリキン　遼、耶律瑤質(9－29008・・45)の字。

【拔列蘭】115バツレツラン　複姓。〔通志、氏族略、代北三字姓〕拔列蘭氏、改爲二梁氏一。

【拔角脫距】116バツカクダツキヨ　角を拔き取り、距を拔き取る。敵の利器を奪ひ取る喩。角は獸の角、距は雞のけづめ。〔韓愈、元和聖德詩〕或拔二其角一、或脫二其距一、長驅洋洋、無レ有二齟齬一。

【拔胡將軍】117バツコシヤウグン　漢代の將軍の名號。〔史記、衞將軍驃騎傳〕元封四年、以二太中大夫一爲二拔胡將軍一。

【拔舌地獄】118バツゼツヂゴク　佛舌を拔かれるといふ地獄。無慈悲で讒謗毀辱惡口離亂した者が死後に墮ちる所として傳へられる地獄。〔法苑珠林〕言無二慈愛一、讒謗毀辱、惡口離亂、死即當レ墮二拔舌烊銅犂耕地獄一。

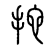
【拔拉塞爾諸島】119パラセルシヨタウ　西沙島ともいふ。廣東省南海南島の東南部に散在する群島。paracel の音譯。

【拕】11960

タ　t'o¹　拖(5－11961)に同じ。〔集韻〕拕、或作レ拖。

【拖】11961

［一］タ　〔集韻〕湯何切　歌
ㄊㄨㄛ　t'uo¹
［二］タ　〔集韻〕他佐切　箇
［三］タ ダ　〔集韻〕待可切　哿
［四］イ　〔集韻〕演爾切　紙


小篆

［一］［二］［三］❶ひく。拕(5－11960)・扡(5－11805)に同じ。〔說文〕拕、曳也、从レ手它聲。〔說文通訓定聲〕拕、字亦作レ扡、作レ拖。〔集韻〕拕、說文、曳也、或作レ拖、亦省。〔廣雅、釋詁一〕拕、引也。〔論語、鄕黨〕加二朝服一拖レ紳。〔皇疏〕拖、猶レ牽也。〔漢書、揚雄傳上〕拕二蒼豨一。〔注〕師古曰、拕、曳也。❷はなつ。ゆるめる。〔淮南子、齊俗訓〕縱レ體拖レ髮。〔注〕拖、縱也。❸うばふ。〔淮南子、人閒訓〕遇レ盜、云云、拖二其衣被一。〔注〕拖、奪也。❹なげる。〔禮、少儀〕拖二諸幣一。〔疏〕拖、猶レ擲也。❺くははる。くはへる。佗(1－513)に通ず。〔說文通訓定聲〕拕、叚借爲レ佗、易、訟、鄭本、終朝三拕レ之、注、三加レ之也、漢書、司馬相如傳、宛虹拖二於楯軒一、注、申二加于上一也。［四］さく。くだく。搋(5－12457)に同じ。〔集韻〕搋、析也、或作レ拖。

【拖鞋】1 t'uo¹ hsieh²　スリッパ。

【拖曳】2タエイ　ひく。〔魏志、方技、華佗傳、注〕犬不レ能レ行、復令二步人拖曳一。

【拖延】3タエン　延引する。猶豫する。〔淸會典事例、戶部、田賦、畿輔官兵莊田二〕道光二十七年定、如實係レ無二力完繳一、並非二故意拖延一、准下由二該官參佐領一查明報上部。

【拖缺】4 t'uo¹ ch'üeh¹　滯納する。

【拖欠】5タケン　とどこほる。遲滯する。ながく借りて返さぬ。財用の不足を放置する。〔蘇軾、論二積欠一狀〕轉運司窘二於財用一、例不下肯放上レ稅、縱放亦不レ盡レ實、云云、所三以逐縣例、皆拖二欠兩稅一。〔六部成語、戶部、拖欠、注解〕拖、延也、延宕未レ交二所レ欠之項一也。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕有二拖欠一、有二帶徵一。

【拖鉤】6タコウ　綱引き。拔河(5－11959・・5)に同じ。〔荊楚歲時記〕拖鉤之戲、以レ緶作二篾纜一相罥、綿亘數里、鳴レ鼓牽レ之。〔張說、觀二拔河俗戲一應制詩〕今歲好二拖鉤一、橫レ街敞二御樓一。

【拖紫】7タシ　むらさきの印綬を服する。高官となる。出世する。〔揚雄、解嘲〕紆レ青拖レ紫、朱二丹其轂一。〔注〕良曰、拖、服也、轂、車轂也、青・紫、並貴者服飾也。〔晉書、儒林傳序〕紆レ青拖レ紫、服レ冕乘レ軒。

【拖舟】8タシウ　舟をひく。

【拖床】9 t'uo¹ ch'uang²　北支那に行はれる橇の一種。

【拖紳】10タシン　おほおびをひく。〔論語、鄕黨〕疾、君視レ之、東首、加二朝服一拖レ紳、君命召、不レ俟レ駕行矣。

【拖進】11タシン　ひきすすむ。ひきずる。〔水滸傳、二十四回〕把二西門慶袖子一、一拖拖二進房裏一。

【拖船】12タセン　❶船を曳く。又、曳船。〔李白、丁都護歌〕吳牛喘レ月時、拖レ船一何苦。❶ t'uo¹ ch'uan²　氷の上を走る橇。冰牀(2－1612・・87)の❸に同じ。

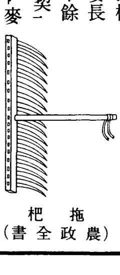
【拖帶】13タタイ　引いて連れてゆく。引つぱつてゆく。〔行船章程〕輪船拖二帶他船一而行。

【拖沓】14タタフ　ひきのばす。〔福惠全書、錢穀部、比較〕必致三拖二沓開春一。

【拖泥】15ダデイ　佛不潔なこと。拖泥帶水を見よ。

【拖泥帶水】16ダデイタイスイ　佛拖泥は泥をひく、帶水は水を帶びる。泥水をかぶること。禪門で彼是と言句を口にすることを斥けていふ詞。和泥合水。〔碧巖錄、第二則、垂示〕道二箇佛字一、拖レ泥帶レ水、道二箇禪字一、滿面慚惶。〔通俗編、地理、拖泥帶水〕嚴滄浪詩話、語貴二脫灑一、不レ可二拖レ泥帶レ水、楊萬里竹枝詞、知二儂笠漏芒鞋破一、須レ遣二拖レ泥帶レ水來一、五燈會元、慧暉曰、雲門尋常乾爆爆、地到二這裏一也、解二拖泥帶水一。

【拖杷】17タハ　農具の名。麥を集めるに用ひるもの。〔農政全書、拖杷圖說〕拖杷、耬レ麥長杷也、首列二二十餘齒一、短木柄、以二批契一繼レ腰曳レ之、嘗見下麥野爲二風雨所一レ損、而莖穗交亂、不上レ能レ盡二鏺一、故制二此具一、腰後縱橫耬レ之、仍手握二柄鐮一、芟二其遺餘一、所レ得穗隨擁二積之一、有二杷畢一功、得二麥十餘斛一。


拖杷（農政全書）

【拖髮】18タハツ　髮をふりみだす。又、みだれがみ。〔淮南子、齊俗訓〕胡貉匈奴之國、縱レ體拖レ髮、箕倨反言。

【拖翻】19タハン　なぐる。〔琵琶記、義倉賑濟〕拚三一個拖翻吃二大棒一。

【拖疲】20 t'uo¹ p'i²　のろい。拉疲(5－11946・・64)に同じ。

【拖米】21 t'uo¹ mi³　米を運ぶ。

【拖雷】22ツラヰ　元の人。太祖の第四子。屢〻兵を率ゐて金を攻め、宋を侵す。太宗に從つて河南諸郡を收定し、大勳功を著はす。其の子の憲宗が位に卽いて、英武皇帝と追諡し、廟號は睿宗。至元中、景襄皇帝と改諡した。〔元史、一百十五〕。

【拖拉】23 t'uo¹ la¹　連累する。連坐する。

【拖領】24 t'uo¹ ling³ かたあて。肩當。

【拖輪】25 t'uo¹ luen² 曳船用の機船。拖船。

【拖累】26 タルイ 連累する。連坐する。拖拉。〔六部成語、刑部、拖累、注解〕因二連累一無罪之人前來也。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕動輙拖二累多人一。

【拖沙魚】27 タサギヨ 魚の名。比目魚の異名。かれひ。〔嶺表錄異〕比目魚、南人謂二之鞋底魚一、江淮謂二之拖沙魚一。

【拖箱的】28 t'uo¹ hsiang¹ tê 箱を擔ぐもの。

【拖綉毬】29 タシウキウ 紅いぬひとりした毬を擲つて、數騎で追逐して射る戲。〔東京夢華錄、七、駕登二寶津樓一諸軍呈二百戲一〕駕登二寶津樓一、諸軍百戲、呈二於樓下一云云、次有三馬上抱二紅綉之毬一、繫以二紅綿索一、擲二下於地上一、數騎追逐射レ之、左曰二仰手射一、右曰二合手射一、謂二之拖綉毬一。

【拖地錦】30 タチノニシキ 長裙。媒人に禮として贈るもの。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕不レ圖二你甚白璧黃金一、則要二你滿頭花拖地錦一。

【拖腸鼠】31 タチヤウソ 一月に三度その腸を吐き易へる鼠。唐鼠。〔王禹偁、謫居感レ事詩〕兀兀拖腸鼠、悠悠曳尾龜。

【拖白練】32 タハクレン 鳥の名。練鵲(**8－27689**・・45)の異名。〔本草、練鵲〕集解、時珍曰、其尾鴿長白毛如二練帶一者、是也、禽經云、冠鳥性勇、纓鳥性樂、帶鳥性仁、張華云、帶鳥、練鵲之類是也、今俗呼爲二拖白練一。

【拖沙喇哈番】33 タサラカバン 滿洲の爵名。〔淸會典事例、兵部、官制、舊設武職品級〕順治八年定、一等奇尼哈番、稱爲二鑾儀衞都指揮使一、正一品、二等精奇尼哈番、稱爲二鑾儀衞都指揮同知一、從一品、一等阿思哈尼哈番、再一拖沙喇哈番、稱爲二外衞都指揮使一。〔淸會典事例、兵部、官制、舊設武職品級〕乾隆元年奏准、封爵之制、云云、國朝定制、公侯伯之下、未レ立二子男之爵一、別列二五等世職一、以視二古法一、尤爲二隆備一、但未レ定二漢文名稱一、今敬擬精奇尼哈番一等者、漢文稱爲二一等子一、云云、拖沙喇哈番、漢文稱爲二雲騎尉一。

【拗】
11962

[一] アウ エウ 〔集韻〕於絞切 ㄠˇ ao³ 巧

[二] アウ エウ 〔韻會〕於敎切 一ㄠˋ yao⁴ 效

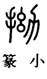
ㄠˋ ao⁴

ㄋ一ㄡˋ niu⁴

[三] アウ エウ 〔集韻〕於交切 肴

[四] ヰク 〔集韻〕乙六切 ㄩˋ yü⁴ 屋

[五] イウ ウ 〔集韻〕於糾切 有


小篆

[一] **くじく**。をる。或は挍(**5－1241**5)に作る。〔說文新附〕拗、手拉也、从レ手幼聲。〔集韻〕拗、拉也、或作レ挍。〔增韻〕拗、折也。〔尉繚子、制談〕拗レ矢折レ矛。

[二][三] ❶**もとる**。**ねぢける**。すねる。心がひがむ。〔集韻〕拗、戾也。〔韻學大成〕拗、心戾也。〔朱子語類〕王臨川、天資亦有二拗強處一。❷**ねぢる**。〔唐時升、六言詩〕風拗二藤枝一脫レ樹、雨餘二柳絮一爲レ萍。❸**たがふ**。〔元稹、哭二女樊一詩〕和レ蠻歌字拗、學レ妓舞腰輕。[四][五] **おさへる**。〔集韻〕拗、抑也。〔班固、西都賦〕蹂二躪其十二三一、乃拗レ怒而少息。〔注〕銑曰、拗、抑也、善曰、拗、猶レ抑也。

【拗音】1 エウオン ヤ・ワの二行の音が他の音と合して生ずる熟音。ちや・しゆ・きよ・くわの類。直音の對。〔悉曇三密抄、中・二〕。

【拗氣】2 niu⁴ ch'i⁴ 剛情。片意地。すねる。

【拗強】3 アウキヤウ ねぢけもとつて剛情なこと。〔朱子語類〕王臨川、天資亦有二拗強處一。

【拗花】4 アウクワ 花を折る。〔輟耕錄、拗花〕南方或謂レ折レ花爲レ拗レ花、唐元微之詩、試問酒旗歌板地、今朝誰是拗レ花人、亦古樂府、拗折楊柳枝。

【拗頸】5 niu⁴ ching³ 剛情。拗氣(2)に同じ。

【拗口】6 yao⁴ k'ou³ すらすらと言へない。

【拗口令】7 yao⁴ k'ou³ ling⁴ 早口ことば。

【拗碎】8 ao³ suei⁴ 粉碎する。粉微塵にする。

【拗齋】9 エウサイ 淸、張克嶷(**4－9812**・・1048)の號。

【拗子】10 niu⁴ tzŭ ❶頑固者。剛情者。❷執拗な子供。

【拗矢】11 アウシ やを折る。又、折れた矢。折矢。〔尉繚子、制談〕將已鼓、而士卒相囂、拗レ矢、折レ矛、抱レ戟。

【拗執】12 niu⁴ chih² ひねくれる。ねぢける。拗性。

【拗衆】13 ao³ chung⁴ 多數の人をくじく。

【拗性】14 niu⁴ hsing⁴ 剛情。片意地。ひねくれた性質。

【拗折】15 アウセツ をる。をれる。〔輟耕錄、拗花〕南方或謂二折花一、云云、又古樂府、拗折楊柳枝。

【拗體】16 アウタイ 詩の一體。近體詩の聲律・常格によらず、平仄に諧はぬものをいふ。絕句では第一・二の句に平起の式を用ひ、第三・四の句に仄起の式を用ひたもの。又、第一・二の句に仄起の式を用ひ、第三・四の句に平起の式を用ひたもの。絕句・律詩の變格の一體で、唐の杜甫の詩に最も多い。三體詩に拗體の部がある。〔文章辯體、辨詩〕大抵律詩、拘二於定體一、固弗レ若二古體之高遠一、然對偶音律、亦文辭之不レ可レ廢者、故學レ之者當下以二子美一爲上レ宗、其命辭用レ事、聯對聲律、須丙取下溫厚和平、不レ失二六義之正一者上、爲乙矜式甲、若二換句拗體、粗豪險怪一者、斯皆律體之變、非二學者所一レ先也。〔秋圃擷餘、論詩〕如三四詩之有二變風變雅一、便是離騷遠祖、子美七言律之有二拗體一、其猶變風變雅乎。〔陔餘叢考、拗體七律〕拗體七律、如二鄭縣亭子澗之濱、獨立縹緲之飛樓之類一、杜少陵集最多、乃專用二古體一、不レ諧二平仄一、中唐以後、則李商隱・趙嘏輩、創爲二一種一、以二第三第五字平仄一互易、云云、至二元遺山一、又創二一種一、拗在二第五六字一。

【拗體詩】17 アウタイノシ 拗體を見よ。

【拗斷】18 ao³ tuan⁴ 二つに折る。

【拗張】19 niu⁴ chang¹ 剛情。拗氣(2)に同じ。

【拗怒】20 アウド いかりをおさへる。怒を抑制する。〔班固、西都賦〕蹂二躪其十二三一、乃拗レ怒而少息。〔注〕善曰、拗、猶レ抑也。

【拗彆】21 ao⁴ pieh 執拗で不從順。

【拗辯】22 ao⁴ pien 反駁する。口答する。抗辯する。

【拗捩】23 ao⁴ lieh⁴ ねぢける。

【拗攏】24 アウロウ かずとり。飲酒の數量を數へる酒籌の別名。〔庶物異名疏〕拗攏、籌也、酒律也。

【拗項橋】25 アウカウケウ 橋の名。尙書省の東南隅にある橋。侍御史や殿中の諸郎が此に至れば必ず頸をねぢまげて南宮を望むからいふ。〔因話錄〕尙書省東南隅道衢有二小橋一、相承目爲二拗項橋一、言三侍御史及殿中諸郎久次者、至レ此必拗レ項而望二南宮一也。

【拗句格】26 アウクカク 拗體(16)に同じ。〔野客叢談〕禁臠云、魯直有二換字對句法一、如レ曰二只今滿座且樽酒、後夜此堂空月明一、前レ此未レ有二此體一、自二魯直一變レ之、苕溪漁隱曰、此體出二老杜一、如下龍光蕙葉與多レ碧、點二綴桃花一舒中小紅上、今俗謂二之拗句格一、余謂、此體非レ出二老杜一、王摩詰、雨中草色綠堪レ染、水上桃花紅欲レ燃、張說、山接二夏雲一險、臺留二春日一遲、此亦拗句格也。

【拗句法】27 アウクハフ 近體詩の變格で、各句が相粘せぬものをいふ。一に不粘法、又は失粘格といふ。例へば前半は平起式の平仄法を用ひ、後半は仄起式の平仄法を用ひるもの、又は其の反對の如きをいふ。拗體(16)を見よ。

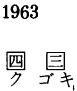
【拗字法】28 アウジハフ 近體詩の押字法の一。平仄式の法則に反するものをいふ。例へば轉句の下三字の○●●を●○●とする孤平、又は轉句の第五字平と結句の第五字仄とを轉換するもの、又は下三聯、又は全體に近體平仄式に反するもの等をいふ。

【拗相公】29 アウシヤウコウ つむじ曲りの宰相。宋の王安石をいふ。其の人となりが剛愎で、人の言に從はなかつたので、世人がかう呼んだ。〔通俗編、故事、拗相公〕香祖筆記・警世通言、有二拗相公一篇一、述下王安石罷レ相歸二金陵一事上、極快二人意一、乃因下盧多遜謫二嶺南一事上、而稍附二益之一耳。

【拘】

11963

［一］ク　〔集韻〕恭于切　［虞］　ㄐㄩ　chü^1
［二］コウ ク　〔集韻〕居侯切　［尤］
［三］キョ ゴ　〔正韻〕求於切　［魚］
［四］ク　〔集韻〕果羽切　［麌］
［五］ク　〔集韻〕俱遇切　［遇］
［六］キョク コク　〔集韻〕拘玉切　［沃］
［慣］コウ


小篆

［一］❶**とめる**。おさへる。〔説文〕拘、止也、从二手句一、句亦聲。❷**とらへる**。**とらはれる**。**とらはれ**。〔廣韻〕拘、執也。〔易、隨〕拘二係之一。〔左氏、僖、三十三〕武夫力而拘二諸原一。〔月令廣記〕弛レ獄出レ拘。❸**かぎる**。〔後漢書、王霸傳〕無レ拘二郡界一。〔注〕拘、猶レ限也。❹**へだてる**。〔廣雅、釋詁一〕拘、隔也。❺**ただす**。とりしまる。〔淮南子、氾論訓〕賢者立レ禮、而不肖者拘焉。〔注〕拘、猶レ檢也。❻**かかはる**。なづむ。〔莊子、秋水〕井鼃不レ可三以語二於海一者、拘二於虛一也。〔漢書、司馬遷傳〕使二人拘而多一レ畏。〔注〕師古曰、拘、曲礙也。❼**つる**。ひきつる。〔素問、至眞要大論〕筋肉拘苛。〔注〕拘、急也。❽**せまい**。〔後漢書、左周黃傳論〕忘二其拘儒一。〔注〕拘儒、猶二編狹一也。❾**かがむ**。まがる。跔(**10**－37466)に通ず。〔莊子、逍遙游、不龜手之藥、注〕能令三手不二拘坼一。〔釋文〕拘、依レ字宜レ作レ跔。❿或は佝(**1**－520)・句(**2**－3234)・㧓(**5**－12630)に作る。〔集韻〕拘、或作二佝・句・㧓一。⓫軥(**10**－38236)に通ず。〔荀子、榮辱〕軥錄疾力、注〕軥、與レ拘同。［二］❶**かかへる**。〔禮、曲禮上〕以レ袂拘而退。〔注〕以レ袂擁二帚之前一、埽而卻二行之一。❷**とる**。〔禮、曲禮上〕自レ下拘レ之。〔注〕自レ下拘レ之、由二僕手下一取レ之也。❸**あつめる**。〔集韻〕拘、拘摟、聚也。❹**まげる**。まがる。句(**2**－3234)に通ず。〔説文通訓定聲〕拘、叚借爲レ句。〔荀子、哀公〕古之王者、有二務而拘領者一。〔注〕拘、與レ句同、曲領也。［三］**とめる**。〔正韻〕拘、止也。［四］**川の名**。拘澗。〔集韻〕拘、拘澗、水名、東南至二邯鄲一入二白渠一。［五］**のびない**。〔集韻〕拘、拘挐、不レ展。［六］**ささへもつ**。挶(**5**－12102)に同じ。〔集韻〕挶、説文、戟持也、或作レ拘。

［解字］　會意形聲。手と句とを合はせ、句は又聲。手で曲げ止める意。

【拘押】1　chü^1　ya^1　拘禁する。拘留する。

【拘案】2　chü^1　an^4　拘引する。拘留する。

〖拘案訊究〗3　chü^1　an^4　ksün^2　chiu^4　引致して訊問する。

【拘游】4（コウイウ）　引きかかりうかぶ。人の力を借りて出世することの喩。〔後漢書、馬援傳〕男兒溺死、何傷而拘游哉。〔注〕游、浮也。

【拘引】5（コウイン）　❶とらへて連れて行く。又、ひきよせる。勾引。❷豫審判事が、訊問のために其の人を裁判所に出頭させること。

〖拘引鬼〗6　chü^1　yin^2　kuei^3　亡靈を連れて來る。惡黨が惡黨を連れて來る。

〖拘引壞〗7　chü^1　yin^3　huai^4　引き寄せて惡くする。

〖拘引狀〗8（コウインジャウ）　豫審判事が人を拘引するために發する令狀。

【拘纓】9（コウエイ）　國の名。〔山海經、海外北經〕拘纓之國、云云、一手把レ纓、一曰、利纓之國。

【拘役】10　chü^1　i^4　一日以上二箇月間まで拘留して勞役に服せしめること。

【拘介】11（コウカイ）　清廉潔白を以て自ら守ること。耿介。〔晉書、王沈傳〕將恐三拘介之士、或憚レ賞而不レ言、貪賕之人、將二慕レ利而妄擧一。

【拘解】12　chü^1　chieh^3　つかまへる。拘引する。拘案(2)に同じ。

【拘閡】13（コウガイ）　かかはりさまたげる。拘礙に同じ。〔後漢書、虞詡傳〕寬二假轡策一、勿レ令レ有レ所二拘閡一而已。〔注〕閡、與レ礙同。

【拘礙】14（コウガイ）　かかはりさまたげる。〔白居易、祭レ弟文〕豈幽冥道殊、莫レ有二拘礙一。

【拘權】15（コウカク）　官營專賣する。〔宣和遺事、前集〕天下立二茶場一、拘二權茶貨一。

【拘學】16（コウガク）　學問にかかはつて融通の利かぬこと。〔史記、游俠傳贊〕今拘レ學、或抱二咫尺之義一、久孤二於世一。

【拘忌】17（コウキ）　❶氣にかけて遠慮する。頓著する。いみはばかる。〔魏志、王昶傳〕東平劉公幹、云云、然性行不レ均、少レ所二拘忌一。〔晉書、蔡克傳〕服飾詭異、無レ所二拘忌一。❷ものいみ。〔唐書、食貨志三〕文宗曰、苟利二於人一、陰陽拘忌、非二朕所レ顧也。〔李衛公問對、下〕以二陰陽拘忌一、失二於事宜一。〔琅琊代醉編、拘忌〕今之仕人、率多二拘忌一、凡營造・婚葬・往來、必選レ日卜レ時、少有二違礙一、則以爲二不吉一、坐客言笑、偶有レ犯レ所レ諱、輒終身讐レ之。

【拘耆】18（コウキ）　鳥の名。聲は好いが形は醜いといはれている。〔法苑珠林〕昔有レ鳥、名二拘耆一、遊在二叢林一、梁言二赤嘴鳥一也。

〖拘耆羅〗19（クキラ）　［佛］kokila の音譯。拘枳羅・倶伎羅・鳩那羅・鳩夷羅・具史羅・拘尸羅等とも書き、好聲鳥・美音鳥・好眼鳥・鵶鷗と譯す。印度に產する黑色の杜鵑。聲は好いが形は醜い。我が國では一般にほととぎすを指す。〔玄應音義、十〕拘耆羅、或作二拘翅羅一、梵音轉也、譯云二好聲鳥一、此鳥聲好而形醜、從レ聲爲レ名也。

【拘究】20（コウキウ）　拘留して審問する。拘訊。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕未レ便下以二抗延一拘究上。

【拘虛】21（コウキョ）　居所にとらはれる。見聞の狹い喩。虛は居。〔莊子、秋水〕井鼃不レ可三以語二於海一者、拘二於虛一也。〔崔注〕拘二于井中之空一也。〔釋文〕虛、本亦作レ墟。〔集解〕廣雅、墟、居也、文選西征賦注引聲類曰、墟、故所レ居也、云云、言二拘レ所レ居、不レ知二海之大一也。

〖拘虛館〗22（コウキョクワン）　明、陳沂(**11**－41698・・139)の室名。

【拘墟】23（コウキョ）　見聞の狹い喩。拘虛に同じ。

【拘局】24（コウキョク）　かかはりちぢまる。融通がきかない。局促。〔人物志、體別〕普博周給、弘在二覆裕一、失在二溷濁一、清介廉潔、節在二儉固一、失在二拘局一。

【拘禁】25（コウキン）　とらへて外へ出さぬこと。召しとつてとぢこめること。身體を拘束して監禁すること。拘引監禁。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、盜賊家口〕其妻不二必拘禁一。

【拘緊】26　chü^1　chin^3　抑制する。束縛する。

【拘擒】27（コウキン）　とらへる。〔揮麈後錄〕曾有二拘擒一。

【拘謹】28（コウキン）　小心謹直な。偏屈な。〔福惠全書、刑名部、監禁〕不三必過爲二拘謹一。

【拘獲】29　chü^1　huo^4　捕獲する。拘引する。

【拘喚】30（コウクワン）　よびだす。〔福惠全書、刑名部、欵犯〕拘二喚被害一。

【拘管】31（コウクワン）　制御する。拘束する。監督する。〔孔平仲、荊林館詩〕千枝萬葉誰拘管、攪作秋風一片聲。

〖拘管不住〗32　chü^1　kuan^3　pu　chu^4　監督することが出來ない。

【拘係】33（コウケイ）　とらへる。しばる。〔易、隨〕上六、拘二係之一、乃從維レ之。〔漢書、敍傳下〕被二之拘係一、乃成二患害一。

【拘繫】34（コウケイ）　とらへてつなぐ。とらへて縛つて置くこと。拘束。拘鎖。〔書、蔡仲之命、囚二蔡叔于郭鄰一、疏〕王下拘中繫當二刑殺一者上。〔淮南子、要略〕拘二繫牽三連之物一、而不二與レ世推移一也。〔後漢書、五行志一〕九族拘繫。〔吳志、韋曜傳〕拘二繫史官一、使二聖趣不一レ敍。

【拘絜】35（コウケツ）　自ら拘束して其の身を潔くすること。又、その人。隱逸の人。〔後漢書、仲長統傳〕得三拘絜而失二才能一、非二立レ功之實一也。〔注〕拘絜、謂下自拘束而絜二其身一者上、卽隱逸之人也。

【拘狹】36（コウケフ）　屈曲してゐて狹い。〔郭熙、山水訓〕水山之陰晴、遠望可レ盡、而近者拘狹、不レ能レ得二明晦隱見之迹一。

【拘脅】37（コウケフ）　とらへておびやかす。〔荀子、君道〕則是拘脅蔽塞之端也。

【拘倦】38（コウケン）　窮屈でうるさいこと。〔宣和遺事、前集下〕厭二皇宮拘倦一、誤至二於此一一歡。

【拘拳】39（コウケン）　かかはり屈する。〔張九成、秋興詩〕我生本閒放、胡爲レ此拘拳。

【拘牽】40 コウケン ❶かかりあひ。係累。又、かかはる。なづむ。〔漢書、元帝紀〕煩二擾虖苛吏一、拘二牽乎微文一、不レ得三永終二性命一。❷ひきとめられる。〔李山甫、寄二梁判官一詩〕星郎雅是道中侶、六藝拘牽在二隗臺一。

【拘檢】41 コウケン ただしひきしめる。自分の身をただしひきしめる。〔後漢書、左雄傳〕虛誕者獲レ譽、拘檢者離レ毀。

【拘拘】42 コウコウ ❶まがつてのびないさま。〔莊子、大宗師〕嗟乎、夫造物者、將三以レ予爲二此拘拘一也。〔疏〕拘拘、攣縮不レ申之貌也。〔淮南子、精神訓〕偉哉造化者、其以レ我爲二此拘拘一邪。〔注〕拘拘、言二體拘攣一也。❷物事にかかはるさま。〔陸龜蒙、蠹化篇〕力力拘拘、其翎未レ舒。〔吳澄、送三人遊二武昌一詩〕丈夫落落志二四海一、俗士拘拘守二一途一。

【拘魂】43 chü^1 huen^2 魂を奪ひ取る。

【拘鎖】44 コウサ 拘留してくさりでつなぐ。〔宋史、刑法志二〕法無二拘鎖之條一。

【拘催】45 コウサイ とらへる。〔福惠全書、保甲部、總論〕査報拘催、不レ煩二牌票一。

【拘刷】46 コウサツ 悉く拘引する。〔宣和遺事、前集下〕拘二刷船隻一、揭二起黃旗一。

【拘殺】47 コウサツ とらへころす。〔元史、廉希賢傳〕拘二殺使者一。

【拘士】48 コウシ 物事に拘泥して融通のきかぬ人。〔廣瀨淡窓、放言詩〕仁義有二定名一、時勢無二定理一、講レ名不レ知レ時、所三以爲二拘士一。

【拘止】50 コウシ とらへとどめる。〔管子、輕重甲〕使下姦涂不レ可二獨行一、遺財不上レ可二拘止一。〔纂詁〕諸本、拘作レ包、今從二古本一。

【拘囚】51 コウシウ とらはれる。又、とらはれた人。囚人。〔韓愈、和三歸工部送二僧約一詩〕早知皆是自拘囚、不レ學因循到二白頭一。

【拘收】52 コウシウ とらへをさめる。とらへる。〔蘇軾、諫レ買二浙燈一狀〕無二拘收督迫之嚴一。

【拘質】53 コウシツ めしとる。拘執。〔後漢書、袁紹傳〕外稱二陪衞一、內以拘質。

【拘執】54 コウシフ ❶めしとる。又、とらへられる。〔左氏、文、十五、書曰二單伯至レ自レ齊、注〕單伯爲レ魯拘執、既免而不レ廢レ禮。〔史記、李斯傳〕李斯拘執束縛、居二囹圄中一。〔漢書、宣帝紀〕拘二執囹圄一。〔後漢書、儒林下、包咸傳〕遂見二拘執一十餘日。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕又操持二部曲精兵七百一、圍二守宮闕一、外託二宿衞一、內實拘執。〔注〕向曰、拘、止、執、持也。❷chü^1 chih^4 固執する。頑固な。

【拘守】55 コウシユ ❶かたくまもる。又、墨守する。〔荀子、脩身〕端愨誠信、拘守而詳。〔注〕拘守、謂三守而勿レ失也。〔陸機、謝二平原內史一表〕拘二守常憲一、當二便道之官一。❷とらへて自由にさせない。〔北史、于栗磾傳〕鎭人遂執二縛景及其妻一、拘二守別室一。

【拘儒】56 コウジユ 融通のきかない儒者。偏狹な學者。〔鹽鐵論、復古〕故未レ遑二扣レ扃之義一、而錄二拘儒之論一。〔後漢書、左雄等傳論〕處士鄙生、忘二其拘儒一。〔注〕拘儒、猶二褊狹一也。〔論衡、須頌〕故曰二拘儒一。〔詁經精舍文集、五經正義得失論、胡敬〕孔氏義疏、非乙若下後儒說無二師承一、而以二己意一、創爲者上比甲、夫守二一先生之言一、而無二敢是非一者、古謂二之拘儒一、然與三其失二之妄一也、寧失二之拘一、以レ拘、則于二前儒之說一、尚多レ可レ考焉。

【拘覼】57 コウシヨ 緻密でないこと。〔說文〕覼、拘覼、未二致密一也。

【拘審】58 コウシン とらへてぎんみする。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贊說〕卑職正行二拘審一。

【拘訊】59 コウジン 拘引して取調べる。拘究。〔福惠全書、蒞任部、忍性氣〕令三里長開二報欠戶一拘二訊之一。〔福惠全書、刑名部、逃人、煙戶造報〕有則報レ官、親自拘訊。

【拘世】60 コウセイ 世俗にかかはる。〔商子、更法〕拘レ世以議、寡人不二之疑一矣。

【拘制】61 コウセイ とらへて自由にさせぬ。〔後漢書、光武紀下〕拘制不レ還、以二賣人法一從レ事。

【拘齊】62 コウセイ 悉く拘引する。〔福惠全書、刑名部、欸犯〕一面拘二齊原告被証一、逐欸研訊。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕詞訟人犯、拘齊掛レ審後、該承行。

【拘責】63 コウセキ よび出してとひただす。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕拘責押追。

【拘送】64 コウソウ とらへて送る。〔韓愈、月蝕效二玉川子作一詩〕弊蛙拘二送主府官一、帝箸下レ腹嘗二其皤一。

【拘束】65 コウソク ❶とらへしばる。自由を奪ふこと。〔賈誼、鵩鳥賦〕愚士繫レ俗兮窘若二囚拘一、〔注〕良曰、愚者繫二縛俗累一、困如二囚人之拘束一。❷官職・道德、其の他の事に束縛せられて自由を得ないこと。〔任昉、答二何徵君一詩〕散誕羈鞿外、拘束名教裏。〔北史、儒林上、馮偉傳〕王知二其不レ願二拘束一、以レ禮發遣。〔元稹、酬二樂天一詩〕官家事拘束、安得二攜レ手期一。❸束縛せられたやうに、のんびりした樣子のないこと。ごちごちに固くなつてゐる樣子をいふ。〔晉書、王獻之傳〕獻之雖レ有二父風一、殊非二新巧一、觀二其字勢一、疎瘦如二隆冬枯樹一、覽二其筆蹤一、拘束若二嚴家之餓隸一。

【拘俗】66 コウゾク 世俗の風にひかれる。俗情にとらへられる。〔史記、鄒陽傳〕此二國豈拘二于俗一、牽二于世一、繫二阿偏之辭一哉。〔唐書、柳渾傳〕眞拘レ俗之人哉。

【拘拿】67 chü^1 na^2 捕へる。拿捕する。

【拘梛】68 コウダ 花の名。〔桂海虞衡志、志花〕拘梛花、葉瘦長、略似二楊柳一、夏開二淡紅花一、一朶數十蕚。

【拘愞】69 コウダ 物にこだはつて氣の弱いこと。〔人物志、七繆〕心小志小者、拘愞之人也。

【拘對】70 コウタイ すなほに答へぬこと。〔後漢書、魯恭傳〕因以二盛夏一徵二召農人一、拘對考驗、連滯無レ已。

【拘儜】71 コウダウ 拘束せられて弱る。又、拘束。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕始知樂二名教一、何用苦二拘儜一。

【拘坼】72 コウタク まがることと開くこと。〔莊子、逍遙遊〕宋人有下善爲二不龜手之藥一者上、〔注〕其藥能令三手不二拘坼一。

【拘致】73 コウチ とらへてつれて來る。拘引。引致。〔後漢書、虞詡傳〕內以拘致、防二其邪計一。

【拘置】74 コウチ 法律用語。人の身體を拘束して一定の場所にとめておくこと。

【拘置所】75 コウチシヨ 未決者を拘禁收容する所。

【拘縶】76 コウチフ とらへつなぐ。〔南史、江革傳〕時祖晅、同被二拘縶一。

【拘女】78 コウヂヨ 閉ぢこめて外に出さない女。天子の後宮の女などをいふ。〔墨子、辭過〕宮無二拘女一、故天下無二寡夫一、內無二拘女一、外無二寡夫一、故天下之民衆。〔曹耀湘箋〕拘女者、女在二宮中一若二拘囚一也。

【拘挐】79 コウヂヨ ❶のびないこと。〔集韻〕拘、拘挐、不レ展。❷コウダ とらへる。〔福惠全書、錢穀部、催徵、革二保歇圖差一〕拘挐欠戶、另票遣差。

【拘定】80 コウテイ 限り定める。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕不レ宜三拘二定日期一。

【拘提】81 コウテイ とらへひきよせる。〔福惠全書、刑名部、問擬〕當レ蒙下拘二提一干犯証一到上レ官。

【拘泥】82 コウデイ 物事にかかはりなづむこと。固著して變通を知らぬこと。轉じて、固執する。頑固な。杓子定規。〔程史〕剪剪拘泥、不レ得二卽決一。〔朱子全書、易、訟〕若如二文王・孔子之說一、則縱橫曲直、反覆相生、無レ所レ不レ可、要在三看得二活絡一、無レ所二拘泥一、則無レ不レ通耳。〔福惠全書、蒞任部、清號件〕未レ可レ過二于拘泥一也。

【拘纏】83 コウテン からみまきつく。まとひつく。〔杜甫、寄二題江外草堂一詩〕尙念四小松、蔓草易二拘纏一。

【拘傳】84 chü^1 ch'uan^2 拘引する。拘案。

【拘迫】85 コウハク とらへせまる。きびしく拘束する。又、きびしく拘束せられる。拘偪。〔後漢書、第五倫傳〕素性駑怯、位尊爵重、拘二迫大義一、思二自策厲一。

【拘縛】86 コウバク とらへしばる。又、そのこと。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏中〕降虜爲三韓相所二摘發一、皆就二拘縛一。

【拘板】87 chü^1 pan^3 魯鈍な。馬鹿な。

【拘絆】88 コウハン とらへしばる。又、しばられて自由にならぬ。心が引かれる。〔白居易、與二楊虞卿一書〕吏職拘絆、相見甚稀。〔羅隱、題二袁溪張逸人所レ居詩〕若使二浮名拘絆得一、世間何處有二男兒一。

【拘罷】89 コウヒ まるい。〔淮南子、齊俗訓〕無二皮弁搢笏之服、拘罷拒折之容一。〔注〕拘罷、圜也。

【拘彌】90 コウビ 漢代の西域の國名。また扜彌國といふ。新疆省于闐縣克勒底雅以東の地。〔後漢書、順帝紀〕(永建四年)拘彌國、遣レ使貢獻。〔後漢書、西域、拘彌傳〕拘彌國、居二寧彌城一。

【拘縻】91 コウビ かかはりつながる。拘束。束縛。〔德洪、過二醴陵驛一詩〕此生一寄耳、夢幻相拘縻。

【拘偪】92 コウヒヨク とらへせまる。拘束してせまる。拘迫。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕布二告天下一、咸使レ知三聖朝有二拘偪之難一。〔注〕濟曰、使下天下知中天子爲三操所二拘偪一之難上。

【拘赴】93 chü¹ fu⁴ 拘引する。拘案。
【拘文】94コウブン 文字にこだはる。法律規則に拘泥する。〔崔寔、政論〕俗人拘レ文牽レ古、不レ達二權制一。
【拘票】95 chü¹ pʻiao⁴ 拘引狀。提票。
【拘哺】96コウホ 子を抱いて乳を飲ませる。〔漢書、賈誼傳〕拘二哺其子一、與レ公併倨。〔注〕師古曰、哺、飮也、言二婦抱レ子而哺一レ之。
【拘補】97コウホ 捕へてつぐのはせる。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕俟二拘補後一將レ簿點銷訖。
【拘木】98コウボク まがつてゐる木。枸木。〔後漢書、鄧訓傳、考量隱括、注〕孫卿子曰、拘木必待二隱括蒸揉一、然後直也、拘、音鉤、謂二曲者一也。
【拘民】99コウミン 罪によつて拘囚せられた民。〔管子、禁藏〕發二五正一、赦二薄罪一、出二拘民一、解二仇讎一、所下以建二時功一、施中生穀上也。〔纂詁〕拘民、罪囚也。
【拘問】100コウモン よび出して吟味する。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕開レ單記明、硃筆點過、以便二拘問一。
【拘厄】101コウヤク 拘といふ災厄。自由を束縛されてゐること。籠城などをいふ。〔說苑、復恩〕趙襄子見レ圍二於晉陽一、云云、襄子曰、吾在二拘厄之中一、不レ失二臣主之禮一。
【拘鑰】102コウヤク かぎをひきあげる。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕自二某把總到一レ汎、拘レ鑰存レ營。
【拘翼】103コウヨク 佛帝釋をいふ。〔慧琳音義、十二〕拘翼、梵語也、天帝釋名也。
【拘羅】104コウラ 草の名。苦茗（**9－30797**··219）をいふ。〔駢雅、釋草〕拘羅、苦茗也。〔太平御覽、百卉部、皐蘆〕南越志曰、龍川縣有二皐蘆草一、葉似レ茗味苦澁、土人以爲レ飮、今南海謂爲二過羅一、或曰二拘羅一。
【拘欄】105コウラン ㊀てすり。句闌。勾闌。欄杆。〔古今注、上、都邑〕拘欄、云云、槐樹悉爲二扶レ老拘欄一。㊁芝居小屋をいふ。〔水滸傳、五十一回〕如今見在二拘欄裏一說二唱諸般品調一。
【拘留】106コウリウ ㊀とらへてとめおく。勾留。〔漢書、匈奴傳贊〕單于亦輒拘二留漢使一、以相報復。〔後漢書、光武紀下〕欲レ去者、恣聽レ之、敢拘留者、比二青・徐二州一。〔魏志、袁渙傳〕遂復爲三布所二拘留一。㊁法律用語。一日以上三十日未滿の範圍で犯人を留置場に拘置すること。
【拘留狀】107コウリウジャウ 法律用語。豫審判事が刑事被告人を拘留するために發する令狀。
【拘留所】108コウリウジョ 拘留に處した者を拘置する所。
【拘領】109コウリヤウ まるえり。質素なえり。句領。〔荀子、哀公〕孔子對曰、古之王者、有二務而拘領者一矣、其政好レ生而惡レ殺焉。〔注〕拘、與レ句同、曲領也、言下雖二冠衣拙朴一、而行中仁政上也、尙書大傳曰、古之人、衣上有二冒而句領者一、鄭康成注云、云云、冒、覆レ項也、句領、繞レ頸也、禮正服、方領也。
【拘略】110コウリヤク とらへかすめる。〔後漢書、天文志下〕皆爲三賊所二拘略一。
【拘纍】111コウルイ とりこにする。〔韓愈、與二少室李拾遺一書〕若二干紀之姦、不レ戰而拘纍、云云一。
【拘囹】112コウレイ ひとやにとらはれる。〔韓愈、答二張徹一詩〕下レ險疑レ墮レ井、守レ官類レ拘レ囹。
【拘禮】113コウレイ 禮儀にかかはる。禮儀を墨守して臨機應變に出來ないこと。〔商子、更法〕拘レ禮之人、不レ足二與言一レ事、制レ法之人、不レ足二與論一レ變。
【拘戀】114コウレン かかはり思ふ。強く心を引かれる。〔孫楚、笑賦〕以レ得レ意爲二至樂一、不三拘二戀乎凡流一。
【拘攣】115コウレン ㊀かかはりひきつけられる。物事にひかれてこだはる。〔鄒陽、於レ獄上レ書自明〕何則以下其能越二拘攣之語一、馳二域外之議一、獨觀中於昭曠之道上也。〔注〕向曰、拘攣、淺近。〔揚雄、太玄賦〕蕩然肆レ志、不二拘攣一兮。〔後漢書、曹褒傳〕羣寮拘攣、難二與圖一レ始。〔注〕拘攣、猶二拘束一也。〔潘岳、西征賦〕陋二吾人之拘攣一、飄萍浮而蓬轉。㊁手足などが引きつること。〔莊子、大宗師、夫造物者又將三以レ予爲二此拘拘一也、釋文〕司馬云、拘拘、體拘攣也。㊂chü¹ lüan² ㋑手足の引きつる病。㋺寒さで手足がかじかむ。
【拘錄】116コウロク ㊀とらへつなぐ。錄は、檢束すること。拘係。〔晉書、溫嶠傳〕拘二錄人士一、自免無レ路。㊁つつしみつとめる。ひきしめる。劬錄。〔荀子、君道〕原愨拘錄、計數纖嗇。〔集解〕盧文弨曰、榮辱篇作二軥錄一、注謂、軥與レ拘同、蓋據二此文一、然吏材非下僅取二愿愨檢束一而已上、必將レ取二其勤勞趨一レ事者一、則作二劬錄一義長。〔後漢書、五行志三、劉歆傳以爲二介蟲之孼一、注〕東觀書曰、云云、〔杜林〕上疏曰、云云、雜俗旦夕拘錄。
【拘幽操】117コウイウサウ 琴曲歌辭の名。周の文王が羑里にとらはれて作つたもの。〔樂府詩集、琴曲歌辭、拘幽操〕一曰、文王哀二羑里一、琴操曰、拘幽操、文王拘二於羑里一而作也。〔周文王、拘幽操〕殷道溷溷浸濁煩兮、朱紫相合不二別分一兮、迷二亂聲色一信二讒言一兮、炎炎之虐使二我愆一兮、幽二閉牢穽一由二其言一兮、遘二我四人一憂動勤兮。
【拘娑羅】118コウサラ 北印度にあつた國の名。憍薩羅・居薩羅とも書く。
【拘尸羅】119クシラ ㊀佛拘耆羅（19）に同じ。㊁姓氏。〔姓氏家系大字典〕。
【拘睒彌】120コウシャンビー 中印度に在つた國の名。又、古都名。憍賞彌・憍閃毘・倶舍彌とも書く。
【拘盧舍】121クルシャ 佛梵語。里程の名。倶盧舍。〔毗曇論〕四肘爲二一弓一、五百弓爲二一拘盧舍一、今之二里也、八拘盧舍爲二一由旬一、今十六里也。
【拘那羅陀】122クナラダ 陳の高僧。西天竺優禪尼國の人。譯名は眞諦。梁の太淸中に來り、武帝は之を寶雲殿に供養した。光太年間に卒す。譯に攝大乘論・廣義法門經・唯識論等がある。〔續高僧傳、一〕。
【拘尸那揭羅】123クシナガラ 佛中印度に在つた都城の名。梵語 kuśinagara の音譯。其の位置に就いては異說がある。一說に、ガンジス河の北ガンダク河の流域に位するゴラクプルの東三十五哩の地點にあるカシアーであるといひ、一說に、ネパール國に在り、小ラープテイーとガンダク河との合流點がこれであるといふ。佛陀涅槃の地は拘尸那揭羅の北なる沙羅林。

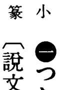
【抋】
11964

🈩ヘツ ベチ 〔集韻〕必結切 屑
🈔ヒ ビ 〔集韻〕毗至切 寘
🈪ヒツ ヒチ 〔集韻〕僻吉切 質

🈩㊀**ねぢる**。或は捌（**5－12141**）に作る。〔集韻〕抋、捩也、或作レ捌。㊁**おす**。おしうつ。🈪の㊁を見よ。〔方言、十〕抋、推也、南楚凡相推搏曰レ抋。〔列子、黃帝〕攩抋挨抌。〔注〕蒲結反、方言、凡推搏曰レ抋。㊂**うちたふす**。〔張衡、西京賦〕徒搏之所二撞抋一。〔注〕濟曰、謂二撞而抋倒一。🈔**たはむれて擊つ**。〔集韻〕抋、戲擊也、列子、攩抋挨抌。🈪㊀**さす**。〔集韻〕抋、搏雅、刺也。㊁**うつ**。おしうつ。🈩の㊁を見よ。〔集韻〕抋、擊也。〔列子、黃帝〕攩抋挨抌。〔注〕抋、云云、又扶畢反、推擊也。

【拙】
11965

セツ セチ 〔集韻〕朱劣切 屑 ㄓㄨㄛ chuo¹·²


小篆

㊀**つたない**。㋑たくみでない。〔說文〕拙、不レ巧也、从レ手出聲。〔段注〕不レ能レ爲二技巧一也。〔老子、四十五〕大巧若レ拙。㋺にぶい。おろか。〔楚辭、離騷〕理弱而媒拙兮。〔注〕拙、鈍也。〔陶潛、歸二園田居一詩〕守レ拙歸二園田一。㋩運が惡い。不遇である。〔杜甫、北征詩〕益歎二身世拙一。㋥おとる。〔陸龜蒙、酒尊詩〕黃金卽爲レ侈、白石又太拙。㋭やくにたたぬ。用をなさない。〔釋名、釋言語〕拙、屈也、使二物否屈不一レ爲レ用也。〔墨子、貴義〕不レ利二於人一、謂二之拙一。〔史記、范雎傳〕鐵劍利而倡優拙。㊁**自謙の辭**。〔類書纂要、人道部〕拙荊、自稱レ妻曰二拙荊一。㊂古は䂸（**8－23950**）に作る。〔集韻〕拙、古作レ䂸。邦**つたない**。㋑いくぢがない。㋺情ない。悲しい。
【拙惡】1セツアク つたなくて劣る。拙劣。〔韓偓、朝退書レ懷詩〕粉壁不レ題新拙惡、小屛惟錄古篇章。
【拙菴】2セツアン 字號。㊀宋、郭咸（**11－39474**··35）の號。㊁宋、趙磻老（**10－37171**··847）の號。㊂元、王士元（**7－20823**··1507）の字。㊃淸、周召（**2**

－3441‥316)の號。❺清、王咸(7－20823‥165)の號。

〖拙庵老人〗3 セツアンラウジン 明、杜殼(6－14477‥42′)の號。

【拙醫】4 セツイ 下手な醫師。技術の拙劣な醫師。〔韻府引、本草〕俗無二良醫一、枉死者半、拙醫療レ病、不レ如レ不レ療。

【拙詠】5 セツエイ ❶つたない吟詠。下手な詩歌。❷自作の詩歌などをいふ謙辭。

【拙園】6 セツエン 清、楊知新(6－15112‥688)の字。

【拙翁】7 セツヲウ 字號。❶清、劉芳喆(2－2224‥1258)の號。❷齋藤正謙の號。齋藤拙堂(12－48565‥121)を見よ。❸本多忠統の號。本多猗蘭(6－14421‥371)を見よ。

〖拙翁先生〗8 セツヲウセンセイ 元、黎獻(12－47994‥22)の尊稱。

【拙騃】9 セツガイ つたなくしておろか。愚劣なこと。とるに足らぬこと。騃拙。

【拙巧】10 セツカウ 拙いことと巧なこと。巧拙。〔王禎、蠶族詩〕南北習俗久不レ同、彼此更須レ論二拙巧一。

【拙行】11 セツカウ 博弈をなす場合に、出來ないと僞はること。〔資治通鑑、宋紀〕(文帝、元嘉二十二年)數與レ曄博、故爲二拙行一、以レ物輸レ之。〔注〕凡博弈、以二計數一誘レ人、謂二之行一、拙行者、僞爲レ不レ能也。

【拙艱】12 セツカン 拙劣でことを爲すに苦しむこと。又、其の人。不利の艱難。〔潘岳、閑居賦〕有レ道吾不レ仕、無レ道吾不レ愚、何巧智之不レ足、拙艱之有レ能也。

【拙眼】13 セツガン 劣つた眼識。〔陸游、雜興詩〕觀レ人如レ觀レ玉、拙眼喜二譏評一。

【拙起】14 セツキ 初は極めて平凡に起して、後を立派に言ひ取つた詩の、起りの句をいふ。

【拙鳩】15 セツキウ はとをいふ。鳩は巢を營むに拙いからいふ。拙鳥。〔禽經〕拙者莫レ如レ鳩、巧者莫レ如レ鵲。〔李羣玉、洞庭驛樓雪夜讌集奉レ贈二前湘州張員外一詩〕賤子迹未レ安、謀レ身拙如レ鳩。〔馬臻、詩〕瘦竹勝レ巢笑二拙鳩一、倚レ闌閒爲二晩風愁一。

【拙御】16 セツギョ 下手な御者。〔抱朴子、外篇、官理〕良駿敗二於拙御一、智士躓二於闇世一。

【拙魚】17 セツギョ 魚の名。嘉魚を蜀人がいふ語。〔益州記〕嘉魚、生二丙穴一、蜀人謂二之拙魚一、魚從二石孔一隨レ泉出、大五六尺。

【拙宦】18 セツクワン 仕宦につたない。役人としての出世の術が下手なこと。又、低い官職。不遇な地位。〔宋之問、酬二李丹徒見レ贈之作詩〕以三予慚二拙宦一、期三子遇二良媒一。〔白居易、寄二同病者一詩〕四十官七品、拙宦非レ由レ他。

【拙計】19 セツケイ つたないはかりごと。拙策。〔杜甫、詠懷詩〕多憂汙二桃源一、拙計泥二銅柱一。〔晁補之、視レ田五首贈二八弟無斁一詩〕拙計安足レ爲、朝往而莫旋。

【拙荊】20 セツケイ 己が妻を謙遜していふ。拙妻。荊妻。〔水滸傳、七回〕恰纔與二拙荊一、一同來間二壁嶽廟裏一、還香願。〔古今類書纂要、人道部〕自稱レ妻曰二拙荊一、又曰二荊房・荊妻・山妻・老妻・敝房・房下一。

【拙業】21 セツゲフ 氣のきかぬしごと。〔史記、貨殖傳〕田農拙業也、云云、賣漿小業也。

【拙見】22 chuo^2 chien^4 拙劣な見識。愚見。

〖拙見識〗22′ chuo^2 chien^4 shih^4 愚な見識。

【拙軒】23 セツケン 字號。❶宋、張侃(4－9812‥140)の號。❷金、王寂(7－20823‥680)の號。

〖拙軒集〗24 セツケンシフ 書名。六卷。金、王寂撰。其の目は賦・五七言古詩共一卷、七言律詩・五言排律共一卷、五六七言律詩・五六七言絕句・逸句共一卷、詞一卷、表記牒一卷、序・帖・啓・書後・祭文・行狀・墓誌銘・哀詞共一卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

【拙吾】25 セツゴ 清、尤怡(4－7543‥1)の號。

【拙工】26 セツコウ 腕前の劣つた職人。下手な大工。〔孟子、盡心上〕大匠不下爲二拙工一改中廢繩墨上。〔史記、扁鵲倉公傳〕拙工有二一不一レ習。

【拙妻】27 セツサイ 自己の妻の謙稱。山妻。荊妻。愚妻。拙荊。〔李白、題二嵩山逸人元丹丘山居一詩〕拙妻好二乘鸞一、嬌女愛二飛鶴一。

【拙齋】28 セツサイ ❶字號。㋑宋、林之奇(6－14551‥337)の號。㋺清、朱奇齡(6－14424‥705)の號。㋩清、杜厚(6－14477‥113)の號。㋥清、李遠(6－14459‥88)の號。㋭矢野義通の號。矢野拙齋(8－23929‥93)を見よ。㋬大塚靜の號。大塚觀瀾(3－5831‥2587)を見よ。㋣青山延于の號。青山雲龍(12－42564‥237)を見よ。❷宋、王過(7－20823‥282)の尊稱。

〖拙齋先生〗29 セツサイセンセイ 宋、張忠恕(4－9812‥1366)の尊稱。

〖拙齋文集〗30 セツサイブンシフ 書名。二十卷。宋、林之奇撰。記問二卷、詩一卷、雜文十七卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

【拙巢】31 セツサウ 賴惟寬の號。賴春水(10－36861‥38)を見よ。

【拙嘴】32 chuo^1 tsuei^3 口不調法。

〖拙嘴笨腮〗32′ chuo^1 tsuei^3 pen^4 sai^1 話しべた。

【拙修】33 セツシウ ❶自分の劣つてゐることをかへりみて修業すること。〔詩人玉屑〕高適、五十始爲レ詩、爲二少陵所一レ推、老蘇、三十始讀レ書、爲二歐公所一レ許、功深力到、無二早晩一也、聖賢之學亦然矣、東坡詩云、貧家淨掃レ地、貧女巧梳レ頭、下士晩聞レ道、聊以レ拙自修、朱文公每借二此句一作二話頭一、接二引窮鄕晩學之士一。❷字號。㋑明、蕭命官(9－32012‥525)の字。㋺清、嵇璜(4－8272‥7)の號。㋩清、陳謨(11－41698‥555)の號。

〖拙修主人〗34 セツシウシュジン 松下純儉の號。松下柳浪(6－14516‥44)を見よ。

〖拙修老人〗35 セツシウラウジン 清、吳廷棟(2－3365‥795)の號。

【拙疾】36 セツシツ 拙宦と疾病。拙宦(18)を見よ。〔謝靈運、過二始寧墅一詩〕拙疾相倚薄、還得二靜者便一。〔注〕善曰、拙、謂二拙宦一也。

【拙者】37 セツシャ ❶知識や能力の劣つてゐる人。事を爲すにつたない人。〔管子、形勢〕巧者有レ餘、而拙者不レ足。〔史記、貨殖傳〕拙者不レ足。〔潘岳、閑居賦〕抑亦拙者之效也。❷自分をいふ謙稱。

【拙射】38 セツシャ 弓を射ることの下手な者。〔孟子、盡心上〕羿不下爲二拙射一變中其彀率上。

【拙匠】39 セツシャウ 下手な大工。〔韓非子、用人〕使下中主守二法術一、拙匠守中規矩尺寸上、則萬不レ失矣。

【拙將】40 セツシャウ 能力の劣つてゐる大將。〔六韜、犬韜、戰車〕拙將之所二以見レ擒、明將之所二以能避一也。

【拙掌】41 セツシャウ つたない手。拙劣なる筆蹟。〔榮華物語、疑〕勵二拙掌一而馳二筆迹一。

【拙手】42 セツシュ へた。拙劣な腕前。〔晉無名氏、安東平〕微物雖レ輕、拙手所レ作、餘有二三尺一、爲レ郎別厝。

【拙誠】43 セツセイ 言動の表現はつたないが、まごころのあること。〔韓非子、說林上〕巧詐不レ如二拙誠一、樂羊以レ有レ功見レ疑、秦西巴以レ有レ罪益信。〔說苑、談叢〕巧僞不レ如二拙誠一。〔顏氏家訓、名實〕巧僞不レ如二拙誠一。

〖拙誠堂〗44 セツセイダウ 岡本保孝の號。岡本況齋(4－7962‥65)を見よ。

【拙石】45 セツセキ 清、安致遠(3－7072‥568)の字。

【拙跡】46 セツセキ つたないわざ。下手なやりかた。〔唐書、吳兢傳〕文人・巧工、自謂二己長一、若使二達者大匠詆訶商略一、則蕪詞拙跡見矣。

【拙說】47 セツセツ たくみでない言說。又、つたなく說く。下手に言ふ。〔李康、運命論〕非下張良之拙二說於陳項一、而巧中言於沛公上也。

【拙叟】48 セツソウ 清、黎恂(12－47994‥43)の號。

【拙僧】49 セツソウ 僧侶が自分をいふ謙稱。愚僧。拙衲。貧道。

【拙速】50 セツソク つたないがはやいこと。不備な點はあるが速かに事をはこぶこと。しごとは下手でも出來の早いこと。〔孫子、作戰〕兵聞二拙速一、未レ睹二巧之久一也。〔晉書、宗室、閔王承傳〕兵聞二拙速一、未レ觀二工遲一。〔任昉、奉三答勅示二七夕詩一啓〕拙速雖レ效、蚩鄙已彰。

【拙存】51 セツソン 字號。❶元、趙吉甫(10－37171‥466)の號。❷清、徐釚(4－10110‥80)の號。❸清、徐德泰(4－10110‥599)の字。❹清、劉錫嘏(2－2224‥1132)の號。

〖拙存堂〗52 セツソンダウ 室名。❶明、冒起宗(2－1538‥89)の室名。❷清、蔣衡(9－31820‥17)の室名。

〖拙存居士〗53 セツソンコジ 清、程邦憲(8－25081‥27「6)の號。

【拙滯】54 chuo^1 chih^4 愚鈍な。

【拙惷】55 セツタウ おろかなこと。愚鈍。惷愚。〔白居易、詠レ拙詩〕我性拙且惷、我命薄且屯。

【拙堂】56 セツダウ 齋藤正謙の號。齋藤拙堂(12－4856

5‥121)を見よ。

【拙堂文集】57セツダウブンシフ 書名。齋藤拙堂撰。記・書・序以下、雜に至る二十一門に分け、三百四十三篇を收む。

【拙堂文話】58セツダウブンワ 書名。十六卷。齋藤拙堂撰。我が國に於ける漢文の淵源沿革を敍し、秦漢唐宋諸家の文體を論じ、時流の文章上の通弊を指摘して、其の準據すべき軌範を指示したもの。

【拙鳥】60セツテウ 鳩の異名。鳩は巣を作ることが拙く、鵲の巣を占領して之に居るといふ。〔詩、召南、鵲巣〕維鵲有レ巣維鳩居レ之、〔集傳〕鵲・鳩、皆鳥名、鵲善爲レ巣、其巣最爲二完固一、鳩性拙、不レ能レ爲レ巣、或有下居二鵲之成巣一者上。〔禽經、鳲鳩〕鳩、拙而安、鳩、鳲鳩也、方言云、蜀謂二之拙鳥一、不レ善レ營レ巣、取二鳥巣一居レ之、雖レ拙而安處也、雄呼晴、雌鳴陰。

【拙訥】61セツトツ 辯説のつたないこと。〔謝靈運、初去レ郡詩〕伊余秉二微尚一、拙訥謝二浮名一。

【拙薄】62セツバク つたなくうすい。才能・運命の劣つてゐること。弱いこと。〔何遜、臨行公車詩〕道勝多增レ榮、拙薄終難レ化。〔李白、答下從弟幼成過二西園一見上レ贈詩〕拙薄謝二明時一、棲閑居二故園一。

【拙筆】63セツヒツ ❶粗末なふで。〔南史、王僧虔傳〕常用二拙筆一書、以レ此見レ容。〔白孔六帖〕李繁下レ獄、從レ吏求二拙筆一、著二家傳一。〔東觀餘論〕字無二鋒穎一、若二拙筆書一。❷つたない筆跡。へたな文字。又、自分の書いた文字の謙稱。〔尹程、觀二秋水一賦〕遂有レ感二于莊篇一、託二微言于拙筆一。

【拙夫】64セツプ つまらぬ夫。又、自分の夫の謙稱。〔水滸傳、二十四回〕自レ古道、駿馬卻馱二癡漢一走、美妻嘗伴二拙夫一眠。

【拙婦】65セツプ 自分の妻の謙稱。愚妻。〔黃庭堅、詩〕林中鵓鴣啼、苦遭拙婦罵。

【拙謀】66セツボウ はかりごとをめぐらすことにつたない。又、はかりごとを立てることが下手である。又、つたないはかりごと。まづい計略。拙計。〔書、盤庚上〕予亦拙レ謀、作二乃逸一。〔孔叢子、論勢〕天下拙謀、無レ過二此者一。〔韓愈・孟郊、納涼聯句〕直道敗二邪徑一、拙謀傷二巧詠一。

【拙朴】67セツボク かざりけが無く世事にうといこと。拙樸。〔齊己、山中答レ人詩〕故人憐二拙朴一、時復寄二空林一。

【拙樸】68セツボク 極めてかざりのないこと。きちのままなこと。拙朴。〔南史、儒林、崔靈恩傳〕性拙樸、無二風采一、及三解二析經理一、甚有二精致一。

【拙笨】69セツホン chuo^{1} pen^{4} ❶愚鈍。❷下手。まづい。

【拙昧】70セツマイ 心つたなくおろか。〔暢當、天柱隱所重答二江州應物一詩〕拙昧難レ容レ世、貧寒別有レ情。

【拙目】71セツモク 物を見ることのへたなまなこ。愚人をいふ。拙眼。〔陸機、文賦〕雖三濬發二於巧心一、或受二嗤於拙目一。

【拙餘】72セツヨ 清、張慶燾(**4**—**9812**‥982)の字。

【拙老】73セツラウ 老人の謙稱。

【拙老人】74セツラウジン 清、蔣衡(**9**—**31820**‥17)の號。

【拙劣】75セツレツ つたなくおとる。下手。劣薄。〔白居易、渭邨退居寄二禮部崔侍郎翰林錢舍人一一百韻詩〕拙劣才何用、龍鍾分自當。

【拙惑】76セツワク おろかでまどふこと。〔夏侯湛、抵疑〕抑非二一二三公蔽レ賢也、實吾子之拙惑也。

【藏レ拙】77セツヲザウス つたないことをかくす。下手な作品をかくす。〔世説新語補、輕詆下〕徐常侍聘レ齊、時魏收文學、北朝之秀、收錄二其文集一以示レ徐、令レ傳二之江左一、徐速濟レ江沈レ之曰、吾爲二魏公一藏レ拙。

【守レ拙】78セツヲマモル 自らの世渡りにつたないことに安んじて、利巧に立廻らうとしないこと。〔陶潛、歸二園田居一詩〕開レ荒南野際、守レ拙歸二園田一。

【拙宜園】79セツギエン 清、黃燮清(**12**—**47926**‥1198)の室名。

【拙骨羊】80セツコツヤウ やまいもの大きいもの。最大なものを天公掌といひ、次を拙骨羊といふ。〔事物異名錄、蔬穀、山藥〕清異錄、淇薯藥、稱二最大者一號二天公掌一、次者號二拙骨羊一。

【拙守齋】81セツシュサイ 清、李超孫(**6**—**14459**‥1790)の號。

【拙政園】82セツセイエン ❶園の名。江蘇省呉縣城內の婁齊二門の閒。明の嘉靖の時、御史の王獻臣が、大弘寺の遺址に因つてつくる。文徵明に拙政園圖記、呉偉業に拙政園山茶記がある。阮葵生茶餘客話に見ゆ。❷清、徐燦(**4**—**10110**‥142)の室名。

【拙尊園】83セツソンエン 清、黎庶昌(**12**—**47994**‥106)の室名。

【拙道人】84セツダウジン 清、嚴衍(**2**—**4589**‥14)の號。

【拙經逸叟】85セツケイイツソウ 清、黃廷鑑(**12**—**47926**‥1258)の號。

【拙貝羅香】86セツバイラカウ 安息香の異名。〔本草、安息香〕釋名、時珍曰、此香辟レ惡安二息諸邪一、故名、或云、安息、國名也、梵書謂二之拙貝羅香一。

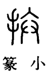
【拚】
11966

［一］ヘン ベン 〔集韻〕皮變切 ㄆㄢˉˋ pʻan$^{1\cdot4}$ ［霰］

［二］フン 〔集韻〕方問切 ㄈㄣˋ fen^{4} ［問］

［三］フン 〔集韻〕方文切 ［文］

［四］ハン ホン 〔集韻〕孚袁切 ㄈㄢˉ fan^{1} ［元］



小篆

［一］❶**手をうつ**。〔説文〕拚、拊レ手也、从レ手弁聲。〔段注〕拊、揗也、拍拊也。❷**うちあふ**。兩人が相うつ。〔左思、呉都賦〕拚射壺博。❸或は抃(**5**—**11860**)に作る。〔集韻〕拚、或从レ卞。❹［現］㋑我慢する。㋺綴りあはせる。㋩なじみになる。［二］［三］**はく**。はらふ。すてる。叁(**3**—**4995**)に通ず。〔説文通訓定聲〕拚、叚借爲レ叁。〔集韻〕叁、説文、掃除也、或作レ拚。〔儀禮、聘禮〕既拚以俟矣。〔注〕拚、謂二灑埽一也。〔禮、少儀〕掃二席前一曰レ拚。［四］**ひるがへる**。**とぶ**。とぶさま。翻(**9**—**28814**)に通ず。〔集韻〕翻、博雅、翻翻、飛也、亦作レ拚。〔詩、周頌、小毖〕拚飛維鳥。〔箋〕猶三鷦之翻飛爲二大鳥一也。〔集傳〕拚、飛貌。〔陳奐傳疏〕拚、疑當レ作レ翻、文選陸機贈二馮文熊一詩・劉琨答二盧諶一詩注、引二毛詩一皆作レ翻、又謝瞻張子房詩注、引二薛君章句一、翻、飛皃一、是其證。

【拚棄】1 pʻan^{4} chʻi^{4} すてる。

【拚箕】2 fen^{4} chi^{1} ちりとり。糞箕。掃除道具。

【拚去】3 pʻan^{4} chʻü^{4} すてる。捨て去る。なげすてる。

【拚財】4 pʻan^{4} tʻsai^{2} 財を顧みない。浪費する。

【拚除】5フンヂヨ 掃除すること。〔禮、少儀〕掃二席前一曰レ拚。〔疏〕拚、是除レ穢。

【拚鬭】6 pʻan^{4} tou^{4} 仲裁する。

【拚飛】7ハンピ ひるがへりとぶ。翻飛。〔詩、周頌、小毖〕肇允彼桃蟲、拚飛維鳥。〔集傳〕拚、飛貌。

【拚命】8 pʻan^{4} ming^{4} 決死。一所懸命。

【拼】
11967

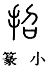
ヘン 拚(**5**—**11966**)の本字。〔康熙字典〕拚、説文、拚本字。

【招】
11968

［一］セウ 〔集韻〕之遙切 ㄓㄠˉ chao^{1} ［蕭］

［二］セウ ゼウ 〔集韻〕時饒切 ［蕭］

［三］ケウ ゲウ 〔集韻〕祁堯切 ［蕭］



小篆

［一］❶**まねく**。㋑さしまねく。〔説文〕招、手評也、从レ手召聲。〔楚辭、招魂序、注〕招者、召也、以レ手曰レ招、以レ言曰レ召。㋺よぶ。よびよせる。きたす。〔廣雅、釋詁二〕招、呼也。〔廣雅、釋言〕招、來也。〔書、大禹謨〕滿招レ損。〔書、説命下〕旁招二俊乂一。〔楚辭、九章、惜誦〕有二招レ禍之道一。〔注〕招、召也。㋩もとめる。〔漢書、刑法志〕將三招レ權而爲二亂首一矣。〔注〕孟康曰、招、求也。㊁いたす。〔呂覽、本生〕命レ之曰二招レ蹷之機一。〔注〕招、至也。〔畢沅新校正〕案、此注全不レ諳二文義一而妄説、蓋招

致也。㊁ふるふ。〔素問、六節藏象論〕狗蒙招尤。〔注〕招、謂レ掉也。㊂あらはす。あきらかにする。昭(5－13855)に通ず。〔說文通訓定聲〕招、叚借爲レ昭。〔張衡、東京賦〕招二有道於側陋一。〔注〕綜曰、招、明也。㊃ほだす。つなぐ。紹(8－27361)に通ず。〔說文通訓定聲〕招、叚借爲レ紹。〔孟子、盡心下〕又從而招レ之。〔注〕招、罥也。㊄あづち。まと。的(8－22692)に通ず。〔說文通訓定聲〕招、叚借爲レ的。〔呂覽、別類〕射レ招者、欲二其中レ小也。〔注〕招、埻藝也。〔呂覽、本生〕共射二其一招一。〔注〕招、埻的也。㊅姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕招氏、晉步招之後、漢有二大鴻臚招猛一。㊆[現]㋑白狀する。㋺傳染する。㋩ふりかける。㋥交際する。

[二]樂の名。舜の樂。韶(12－43276)に同じ。〔漢書、禮樂志〕舜作レ招。〔注〕師古曰、招、讀曰レ韶。[三]㊀あげる。撟(5－12719)に通ず。〔說文通訓定聲〕招、叚借爲レ撟。㋑もちあげる。上にあげる。〔列子、說符〕孔子之勁、能招二國門之關一。〔淮南子、主術訓〕操二其觚一招二其末一。〔注〕招、擧也。㋺あげて人に示す。〔集韻〕招、擧也、漢書、以招二人過一。〔國語、周語下〕好盡レ言、以招二人過一。〔注〕招、擧也。〔莊子、駢拇〕自下虞氏招二仁義一以撓中天下上。㊁あがる。たかい。翹(9－28808)に通ず。〔說文通訓定聲〕招、叚借爲レ翹。〔漢書、禮樂志〕諸族樂人、兼二雲招一。〔注〕師古曰、招、讀與レ翹同。〔繁陽令楊君碑〕三公並招。

[名乘] アキ。アキラ。

【招殃】1 セウアウ わざわひをまねく。招禍(48)に同じ。

【招安】2 セウアン ㊀惡事を行ふ者を招き降して安らかに暮せるやうにしてやること。〔雞肋編〕宋建炎後、民間語云、欲レ得レ官、殺レ人放レ火、受二招安一。㊁罪をゆるされる。又、恩赦を公布する。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕兀的那小妮子、眼見得受二了招安一了也。〔水滸傳、三十二回〕異日不レ死受二了招安一、那時卻來尋二訪哥哥一未レ遲。

【招慰】3 セウヰ まねきなぐさめる。歸順させて安んずる。招撫。〔後漢書、班超傳〕今可二遣レ使招慰、與共合レ力。

【招尤】4 セウイウ ㊀とがをまねく。〔韓愈、感二一鳥一賦〕雖二家到而戶說一、祇以招レ尤而速レ累。㊁めまひ。たちくらみ。〔素問、五藏生成篇〕徇蒙招尤。

【招誘】5 セウイウ まねきいざなふ。よびよせる。〔漢書、王莽傳中〕到二塞下一招誘。〔後漢書、質帝紀〕交阯刺史夏方、招誘降レ之。〔晉書、江統傳〕或招誘安撫、以爲二己用一。

【招憂】6 セウイウ うれひをまねく。〔法言、脩身〕言輕招レ憂、行輕則招レ辜、貌輕招レ辱。

【招引】7 セウイン ㊀まねきひく。よびよせる。招延。〔宋書、謝莊傳〕欲レ令三招二引才望一。〔北齊書、韓軌傳〕好レ酒誕縱、招二引賓客一、一席之費、動至二萬錢一。㊁chao¹ yin³ 利を以て誘ふ。

【招飲】8 セウイン 人をまねいて酒を飲む。又、酒宴に招く。招宴。〔吳錫麒、江孟卿招二飲淨香園一詩〕樹自清蒼水自流、湘簾無三復上二銀鉤一。

【招隱】9 セウイン ㊀隱逸の賢士をまねきよぶ。〔楚辭、招隱士序、注〕昔淮南王安、博雅好レ古、招二懷天下俊偉之士一、自二八公之徒一、咸慕二其德一、而歸二其仁一。〔高適、留二別鄭三韋九兼洛下諸公一詩〕幸逢二明盛一多レ招レ隱、高山大澤徵求盡。㊁隱者を求め尋ねる。隱者を訪ふ。招隱詩を見よ。〔駱賓王、玄上人林泉詩〕聞君招レ隱地、髣髴武陵春。㊂山名。江蘇省鎭江縣の南。招隱寺がある。〔元和志〕獸窟山、一名二招隱山一、卽隱士戴顒所レ居。〔太平寰宇記〕梁昭明太子、嘗讀二書於此一、因名二招隱一。

【招隱士】10 セウインシ 楚辭の篇名。淮南小山王の作。〔楚辭、招隱士序〕招隱士者、淮南小山之所レ作也、昔淮南王安、博雅好レ古、招二懷天下俊偉之士一、自二八公之徒一、咸慕二其德一而歸二其仁一、各竭二才智一、著二作篇章一、分二造辭賦一、以レ類相從、故或稱二小山一、或稱二大山一、其義猶三詩有二小雅・大雅一也、小山之徒、閔二傷屈原一、又怪二其文一昇レ天乘レ雲、役二使百神一、似レ若二仙者一、雖二身沈沒一名德顯聞、與三隱二處山澤一無レ異、故作二招隱士之賦一、以章二其志一也。

【招隱詩】11 セウインシ 詩篇の名。隱者を求め尋ねる意を述ぶ。晉の張華・左思・陸機・閭丘沖・王康琚等に歌辭がある。〔左思、招隱詩、注〕良曰、思二苦天下溷濁一、故將招二尋隱者一、欲二以退不レ仕。〔左思、招隱詩〕杖レ策招二隱士一、荒塗橫二古今一、巖穴無二結構一、丘中有二鳴琴一、白雲停二陰岡一、丹葩曜二陽林一、石泉漱二瓊瑤一、纖鱗或浮沈、非二必絲與レ竹、山水有二清音一、何事待二嘯歌一、灌木自悲吟、秋菊兼二糇糧一、幽蘭閒二重襟一、躊躇足力煩、聊欲レ投二吾簪一。

【招隱樓】12 セウインロウ 明、陳介夫(11－41698‥691)の室名。

【招要】13 セウエウ 招いて來らしめる。よびむかへる。招邀。〔謝惠連、泛レ湖歸出二樓中一翫レ月詩〕輟レ策共騈レ筵、竝レ坐相招要。〔趙冬曦、陪二燕公一遊二灉湖上寺一詩〕江外多二山水一、招要步レ馬來。〔杜甫、贈二特進汝陽王一詩〕招要恩屢至、崇重力難レ勝。

【招搖】14 セウエウ ㊀さまよふさま。ぶらぶら歩くさま。又、そのこと。逍遙(11－38873‥2)の㊀に同じ。〔管子、埶〕索而不レ得、求二之招搖之下一。〔纂詁〕招搖、與二逍遙一同、下、猶レ中也、索二天下一而不レ得、求二之逍遙不レ迫之中一、不レ宜二急遽一也。〔司馬相如、上林賦〕招搖乎儴佯。〔注〕善曰、司馬彪曰、招搖、逍遙也、良曰、招搖・儴佯、行遊貌。〔史記、孔子世家〕招二搖市一過レ之。〔注〕集解曰、徐廣曰、招搖、翺翔也。〔揚雄、甘泉賦〕徘徊招搖靈棲遲兮。〔注〕善曰、招搖、猶二彷徨一也。㊁のびうごくさま。背伸びをして身體を搖れ動かすさま。〔漢書、禮樂志〕體招搖若二永望一。〔注〕師古曰、招搖、申動之貌。㊂㋑星の名。北斗の第七星、搖光の別名。斗柄、卽ちをざす星。〔禮、曲禮上〕招搖在レ上、急二繕其怒一。〔注〕招搖星、在二北斗杓端一。〔疏〕春秋運斗樞云、北斗七星、云云、第七搖光、云云、案、此搖光則招搖也。〔淮南子、時則訓〕招搖指レ寅。〔注〕招搖、斗建。〔揚雄、反離騷〕招搖紀二于周正一。〔後漢書、張衡傳〕倚二招搖・攝提一以低回劉流兮。〔注〕招搖・攝提、星名也。㋺邊兵をつかさどる星。〔星經、上〕招搖星、在二梗河北一、主二邊兵一。〔史記、天官書〕杓端有二兩星一、一內爲レ矛、招搖、一外爲レ盾、天鋒。㊃軍旗の名。招搖星を畫く。〔漢書、禮樂志〕招搖靈旗九夷賓將。〔注〕師古曰、畫二招搖於旗一、以征伐、故稱二靈旗一。〔吳子、治兵〕招搖在レ上。㊄神の名。〔揚雄、甘泉賦〕徘徊招搖靈棲遲兮。〔注〕向曰、招搖、神名。㊅山名。招搖之桂を見よ。〔山海經、南山經〕南山經之首曰二䧿山一、其首曰二招搖之山一、臨二西海之上一、多レ桂、多二金玉一。㊆名を飾る。いひふらす。〔福惠全書、刑名部、欽犯〕令三奸黨四出招二搖聲勢一。㊇受取る。〔福惠全書、淸丈部、禁需擾〕不レ得下指二稱名色一、科二斂銀錢一、招中搖賄賂上。㊈chao¹ yao² ㋑えらぶる。威張る。㋺目に立つ。目を引く。

【招搖之桂】15 セウエウノカツラ 招搖山のかつら。美味なものといふ。招搖の㊅を見よ。〔呂覽、本味〕招搖之桂、越駱之菌。〔注〕招搖、山名、在二桂陽一。

【招搖撞騙】16 chao¹ yao² chuang⁴ p'ien⁴ 他人の權勢を假りて財物を騙取すること。

【招擔】17 セウエウ 星の名。〔漢書、天文志〕杓端有二兩星一、一內爲レ矛、招擔。

【招繇】18 セウエウ 神の名。〔漢書、揚雄傳上〕招繇泰壹。〔注〕張晏曰、招繇・泰壹、皆神名也。

【招邀】19 セウエウ まねきむかへる。邀は迎。招要。〔李白、寄二上吳王一詩〕洒二掃黃金臺一、招二邀靑雲客一。〔儲光義、蘇十三瞻登二玉泉寺峰一入二寺中一見レ贈作詩〕遡聽多二時友一、招邀及二浮賤一。〔白居易、唐故虢州刺史贈禮部尙書崔公墓誌銘序〕勸二誨子弟一、招二邀賓朋一。

【招悅】20 セウエツ まねきよろこばせる。〔陳琳、爲二袁紹一上二漢帝一書〕貪二結外援一、招二悅英豪一。

【招延】21 セウエン まねきひく。招き入れる。募集する。招引。〔荀子、議兵〕招近募選。〔注〕近、當レ爲レ延、傳寫誤耳、招延、謂三引二致之一。〔史記、梁孝王世家〕招二延四方豪傑一。〔漢書、梁孝王傳〕招二延四方豪桀一。〔吳志、吳主孫權傳〕招二延俊秀一。

【招宴】22 セウエン 宴會にまねく。又、人を招待して開く宴會。

【招怨】23 セウエン うらみをまねく。人に怨まれる原因を作る。〔潘尼、安身論〕知好伐レ之招レ怨也。

【招遠】24 セウエン 縣名。㊀後魏、置く。今、缺く。江蘇省東海縣の境。㊁唐、置く。山西省沁源縣の西。㊂金、置く。山東省掖縣の東北。龍口の南、界河の上流。〔讀史方輿紀要、山東、登州府〕招遠縣、本掖縣地、唐爲ニ掖縣之羅峯鎭一、宋因レ之、金天會中、劉豫置ニ招遠縣一屬ニ萊州一。〔淸史稿、地理志〕山東、登州府、縣九、招遠。

【招架】25 セウカ 防ぐ。抵抗する。身構へる。相手をする。〔長生殿、進果〕將レ身去招架。〔桃花扇、拜壇〕拉ニ開強弩一招架。

【招解】26 セウカイ 淸代、各州縣の死刑犯は、別に口供を書して省城に差出すをいふ。〔淸會典、刑部、刑律斷獄〕以上三十四條、倶於ニ犯案招解到レ省時一、卽留ニ禁省監一、其餘服制、緣レ坐ニ姦竊拐騙尋常鬪毆共毆及婦女老幼之犯一、易ニ於防範一者、倶仍於ニ招解後一發ニ回各州縣牢一固監候。〔六部成語、刑部、招解、注解〕將下已有ニ供招一之罪犯上、解ニ送上官一覆審也。

【招考】27 chao¹ k'ao³ ㊀入學試驗をする。試驗して入學させる。㊁受驗者を募集する。

【招行】28 セウカウ 行を高くする。招はあげる意。〔淮南子、齊俗訓〕崇レ死以害レ生、久レ喪以招レ行。

【招降】29 セウカウ まねきくだす。敵をさとして降參させる。〔史記、李將軍傳〕虜急擊招ニ降陵一。〔後漢書、段熲傳〕所ニ招降一四千人。

【招梗】30 セウカウ さいはひをまねき、あしきをふせぎはらふ。吉を招き凶を禦ぐ。〔周禮、天官、女祝〕掌ニ以レ時招梗禬禳之事一、以除ニ疾殃一。〔注〕鄭大夫讀レ梗爲レ亢、謂ニ招レ善而亢レ惡去レ之、杜子春讀レ梗爲レ更、玄謂、梗禦レ未レ至也。〔疏〕云レ招者、招ニ取善祥一、梗者、禦ニ悍惡之未レ至。

【招合】31 セウガフ まねき合はせる。〔後漢書、孔融傳〕見ニ王室不レ靜、而招ニ合徒衆一。〔魏志、張繡傳〕遂招ニ合少年一爲ニ邑中豪傑一。〔吳志、甘寧傳〕好ニ游俠一、招ニ合輕薄少年一爲ニ之渠帥一、羣聚相隨。

【招看】32 セウカン 白狀のききとりがき。〔福惠全書、陞遷部、弔ニ案卷一〕前後審取口供招看及牌票、應レ存者存、應レ刪者刪。

【招眼】33 セウガン 供述書の眼目。〔福惠全書、刑名部、問擬〕全憑ニ招眼一用ニ不合云云一。

【招揮】34 セウキ さしまねく。招麾に同じ。

【招毀】35 セウキ そしりをまねく。招譏。〔李康、運命論〕以ニ仲尼之行一也、而招ニ毀於叔孫一。

【招麾】36 セウキ さしまねく。よびよせる。招致する。指麾。〔荀子、成相〕武王誅レ之、呂尙招麾、殷民懷。〔注〕招麾、指揮也。

【招譏】37 セウキ そしりをまねく。〔柳宗元、代ニ廣南節度使一謝ニ出鎭一表〕伐檀與レ議、負レ乘招レ譏。

【招祇】38 セウギ 神をまねく。昭王と東甌の獻じた二女とをまつった故事。〔拾遺記、二、周〕東甌獻ニ二女一、及三昭王淪ニ於漢水一、二女與レ王乘レ舟、夾ニ擁王身一、同溺ニ於水一、故今江漢之人、到レ今思レ之、立ニ祠於江湄一、猶見下王與ニ二女一乘レ舟戲中於水際上、至ニ暮春上巳之日一、禊集ニ祠閒一、或以ニ時鮮甘味一採ニ蘭杜一、包裹以沈ニ水中一云云、號曰ニ招祇之祠一。

【招擬】39 セウギ まねきよせる。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕候下具ニ招擬一起解上。

【招議】40 セウギ ㊀申立て。陳述。〔福惠全書、刑名部、問擬〕前招議之內、各犯贓贖。㊁chao¹ i⁴ 物議を引き起す。

【招求】41 セウキウ まねきもとめる。招きよせる。〔晉書、姚興載記下〕吾應レ天明レ命、跨ニ據中原一、自ニ流沙一已東、淮漢已北、未下嘗不中傾レ己招求、冀上匡ニ不逮一。

【招咎】42 セウキウ わざはひをまねく。〔張說、獄箴〕虐則招レ咎、寬則納レ慶。

【招客】43 セウキヤク 客を招く。又、招いた賓客。〔創業起居注〕帝雖レ知ニ其微細一、亦待ニ接之一以招レ客。〔白居易、自詠詩〕欲レ逢ニ假日一先招レ客、正對レ衙時亦望レ山。

【招擧】44 セウキヨ 招いてあげ用ひる。〔三略、上略〕招ニ擧奸枉一、抑ニ挫仁賢一。

【招供】45 chao¹ kung¹ 犯人の白狀書を上役に提出すること。招報。

【招具】46 セウグ 死者の靈魂を招く道具。〔楚辭、宋玉、招魂〕招具該備、永嘯呼些。〔注〕言下撰ニ設甘美招魂之具一、靡上不ニ畢備一。

【招過】47 セウクワ あやまちをかぞへあげる。〔國語、周語下〕好盡レ言以招ニ人過一。〔注〕招、擧也。〔韓愈、爭臣論〕惡下爲ニ人臣一招ニ其君之過一、而以爲レ名者上。

【招禍】48 セウクワ 禍をまねく。召禍。〔楚辭、九章、惜誦〕疾レ親レ君而無レ他兮、有ニ招禍之道一也。〔論衡、言毒〕勇夫招レ禍、辨口致レ殃。

【招會】49 セウクワイ よびあつめる。招集。〔後漢書、李固傳〕招ニ會羣儒一、引ニ問失得一。〔論衡、道虛〕淮南王學レ道、招ニ會天下有道之人一。

【招懷】50 セウクワイ 招いてなつける。まねきやすんずる。〔楚辭、招隱士序、注〕昔淮南王安、博雅好レ古、招ニ懷天下俊偉之士一。〔後漢書、李忠傳〕忠到レ郡、招懷降附、其不レ服者、悉誅レ之。

【招喚】51 セウクワン まねきよぶ。よびまねく。よびよせる。召喚。〔冊府元龜〕敗散軍士、有下潛ニ竄山谷閒一者上、竝令ニ招喚不レ得ニ輒傷害一。

【招還】52 セウクワン よびかへす。召還。〔後漢書、虞詡傳〕占ニ相地埶一、築ニ營壁一二百八十所、招ニ還流亡一、假ニ賑貧人一。

【招關】53 セウクワン 關門をあげる。招は擧の意。〔左思、吳都賦〕翹レ關扛レ鼎。〔注〕善曰、列子曰、孔子勁能招ニ國門之關一、而不ニ肯以レ力聞一。招與レ翹同。

【招憩】54 セウケイ 呼んで休息させること。〔司空圖、詩式、悲慨〕大風捲レ水、林木爲レ摧、意苦若レ死、招憩不レ來、百歲如レ流、富貴冷レ灰。

【招攜】55 セウケイ ㊀相携へて出る。さそひあつて一緒につれだつて行く。〔謝惠連、擣衣詩〕美人戒ニ裳服一、端飾相招攜。㊁招き寄せる。〔蘇軾、上ニ神宗皇帝一書〕使下裴寬等二十九人、竝攝ニ御史一、分ニ行天下一、招ニ攜戶口一、檢中責漏田上。㊂そむき去つたものを招く。二心をいだく者を招き撫でる。攜は離の意。〔左氏、僖、七〕臣聞レ之、招レ攜以レ禮、懷レ遠以レ德。〔注〕攜、離也。〔資治通鑑、唐紀〕〔武則天、聖歷元年〕且賊務ニ招攜一、秋毫不レ犯。〔注〕言除レ賊務在三招ニ撫攜貳一、秋毫無レ所レ犯也。

【招迎】56 セウゲイ まねきむかへる。よびむかへる。〔後漢書、鄧晨傳〕招ニ迎新野主魂一、與レ晨合ニ葬於北芒一。〔謝靈運、山居賦〕冀ニ浮丘之誘接一、望ニ安期之招迎一。

【招蹷】57 セウケツ 門內に至る。蹷は門內の位をいふ。〔呂覽、本生〕出則以レ車、入則以レ輦、務以自佚、命レ之曰ニ招蹷之機一。〔注〕招、至也、蹷機、門內之位也、乘レ輦于ニ宮中一遊翔至ニ於蹷機一、故曰ニ務以自佚一也。

【招賢】58 セウケン 賢人を招き求める。〔戰國、燕策〕（昭王）卽レ位、卑レ身厚レ幣、以招ニ賢者一。

〖招賢獸〗59 セウケンジウ 獸の名。獅子に似、國に賢良があればこの獸があらはれるといふ。〔潛確類書〕招賢獸出ニ摩伽國一、形如ニ獅子一、不レ觸レ人、若國有ニ賢良一則出。

【招權】60 セウケン 權力をもとめて自己をほこりかがやかす。召權。〔漢書、刑法志〕政衰聽怠、則延平將三招レ權而爲ニ亂首一矣。〔注〕蘇林曰、招音翹、翹、擧也、猶ニ賣弄一也、孟康曰、招、求也、招ニ致權一著レ己也、師古曰、孟說是也。〔漢書、季布傳〕辯士曹丘生、數招權、顧ニ金錢一。〔注〕孟康曰、招、求也、以ニ金錢一事ニ權貴一而求、得ニ其形勢一以自炫燿也。

〖招權納賄〗61 chao¹ ch'üan² na⁴ huei⁴ 賄賂を貪る大官の行爲。

【招顯】62 セウケン まねいてあらはす。〔漢書、元帝紀〕延ニ登賢俊一、招ニ顯側陋一。

【招呼】63 セウコ ㊀招きよぶ。召呼。〔書、立政、籲レ俊尊ニ上帝一、疏〕招ニ呼賢俊之人一、與共立ニ於朝一。〔詩、小雅、鹿鳴、呦呦鹿鳴食ニ野之苹一、傳〕鹿得レ苹、呦呦然鳴而相呼、懇誠發ニ乎中一、以興下嘉ニ樂賓客一、當上有ニ懇誠相招呼以成レ禮也。〔後漢書、孔融傳〕招ニ呼元惡一。〔蘇軾、新釀ニ桂酒一詩〕招ニ呼明月一到ニ芳樽一。㊁chao¹ hu ㋑世話する。挨拶する。接待する。應待する。㋺喧嘩する。㋩馳す。㋥打ち當てる。㋭はたらく。仕事する。㋬通り一片の交際。㋣えらぶ。

【招股】64 chao¹ ku³ 株式を募集する。出資者を募集する。

〖招股簡章〗65 chao¹ ku² chien³ chang¹ 株式「募集規則。

【招雇】66 セウコ 呼びよせてやとふ。雇入れる。〔宋史、食貨志上六〕或仍レ舊用レ錢招雇。

【招後】67 セウゴ 供述書のすゑのところ。〔福惠全

書、刑名部、問擬〕于二招後一結二出所レ値銀數一計レ贓定レ罪。

【招護】68 chao^{1} hu^{4} 手を持つて扶ける。

【招工】69 chao^{1} kung^{1} 勞働者を募集する。

【招魂】70 セウコン ❶死者の魂を招き返す。古、人が死ぬと人をして屋に升らしめて之を招く。たまよばひ。復。〔儀禮、士喪禮〕復者一人、以二爵弁服一簪二裳于衣左一、左何レ之扱二領于帶一、升レ自二前東榮一、中レ屋北面、招以レ衣、曰、皐某復、三。〔注〕復者、有司招レ魂復レ魄也。〔疏〕朝服、平生所レ服、冀二精神識レ之而來反依一。❷生者の魂を招く。〔楚辭、招魂序、注〕招魂者、宋玉之所レ作也、招者召也、以レ手曰レ招、以レ言曰レ召、魂者身之精也、宋玉憐下哀屈原忠而斥棄、愁二懣山澤一、魂魄放佚、厥命將上レ落、故作二招魂一、欲下以復二其精神一、延中其年壽上。〔史記、屈原傳贊〕余讀二離騷・天問・招魂・哀郢一、悲二其志一。〔太平御覽、妖異部、魂魄〕韓詩外傳曰、云云、鄭國之俗、二月上巳之日、於二兩水上一招魂、祓二除不祥一也。〔杜甫、彭衙行〕煖湯濯二我足一、翦紙招二我魂一。❸楚辭の篇名。宋玉の作。

〖招魂祭〗71 セウコンサイ 死者の魂を祭る儀式。〔本朝世紀〕久安三年四月二日乙未、於二內膳一被レ行二招魂祭一。

〖招魂葬〗72 セウコンサウ 死者の魂を招いて葬る。死者の屍の得られぬとき、空しく衣飾を具へて之を葬るをいふ。〔後漢書、鄧晨傳〕晨初娶二光武姊元一、云云、兵起、云云、遇レ害、云云、光武卽位、云云、帝又感三悼姊沒二於亂兵一、追封謚レ元、爲二新野節義長公主一、云云、二十五年(晨)卒、詔遣二中謁者一、備二公主官屬禮儀一、招二迎新野主魂一、與レ晨合二葬於北芒一、乘輿與二中宮一、親臨レ喪送レ葬。〔張籍、征婦怨詩〕萬里無三人收二白骨一、家家城下招レ魂葬。

〖招魂社〗73 セウコンシヤ 明治維新前後の國難及び其の後の戰役・事變に斃れた殉難戰歿者の靈を祀つた神社。明治初年京都及各府縣に創建され、京都の招魂社は、後、東京九段坂上に遷されて、明治十二年六月靖國神社と改稱せられ別格官幣社に列せられた。

〖招魂旛〗74 セウコンハン 死者の魂を招くはた。〔雲麓漫鈔〕柩之有レ旗、禮曰、死者不レ可レ別レ已、故以二其旗一識レ之、古人施二於柩前一、今人多用レ竹懸二出於屋一、陰陽家從而傅二會之一、以爲、死者魂悠揚入二於太空一、認レ此以歸、如下浙東溫台以至二江東諸郡一、兼採二釋氏之論一、易而爲レ旛、植二巨木一高入中雲表上。

〖招魂幅〗75 chao^{1} huen^{2} fu^{2} 南京で死者の胸に細い絹絲一條を懸けることをいふ。

〖招魂看戲〗76 chao^{1} huen^{2} k‘an^{4} hsi^{4} 死者を入棺した夕に施餓鬼を行ひ紙轎・紙船・紙馬を鎭守廟に持つて行く事。江蘇省高郵地方の風習。

【招墾】77 セウコン 移民を募つて開墾する。〔淸會典事例、吏部、除授〕官員捐二墾荒地一議敍、乾隆三十年定、本省文武官員、捐二給牛種招墾荒地十頃、捐銀一百兩一者、准二其紀錄一一次。

【招災】78 chao^{1} tsai^{1} 自ら災害を招く。

〖招災惹禍〗79 chao^{1} tsai^{1} jê^{3} huo^{4} 災を招き禍をひき起す。

【招罪】80 chao^{1} tsuei^{4} ❶罪をまねく。❷罪を白狀する。

【招簣】81 セウサク 死人に湯灌を使はせる牀。〔淮南子、說山訓〕死而棄二其招簣一、不レ怨二人取一レ之。〔注〕招簣、死者浴二牀上一之衻楄也。

【招冊】82 chao^{1} t‘sê^{4} 罪人の白狀した罪狀を書いたもの。供述書類。

【招子】83 セウシ ❶人を尋ねる廣告札。迷子札。〔燕子箋、誤認〕尋二姐姐一不レ見時、作速寫二下招子一、沿途黏貼。❷chao^{1} tzŭ 招待狀。招帖(147)に同じ。

〖招子牌〗84 chao^{1} tzŭ p‘ai^{2} 人を尋ねる廣告札。

【招刺】85 セウシ まねきえらびとる。〔宋史、高宗紀五〕又命招二刺三千人一、賜二名必勝軍一。

【招指】86 セウシ 招きゆびさす。福を求め禍を排する式。〔漢書、息夫躬傳〕躬邑人河內掾賈惠往過レ躬、教以二祝レ盜方一、以二桑東南指枝一爲レ匕、畫二北斗七星其上一、躬夜自被レ髮立二中庭一、向二北斗一持レ匕、招指祝レ盜。〔注〕師古曰、或招或指、所二以求一レ福排レ禍也。〔楚辭、劉向、九歎、遠逝〕徵二九神於回極一兮、建二虹采一以招指。〔注〕招指、指麾也。

【招紙】87 chao^{1} chih^{3} 商品のレツテル。

【招兒】88 セウジ ❶看板。〔水滸傳、二十六回〕那婆子取二了招兒一、收二拾了門戶一、從二後門一走過來。❷chao^{1} êrh 方法。手段。

【招收】89 セウシウ 製鹽場の名。廣東省潮陽縣の大柵村。海鹽を產す。

【招質】90 セウシツ 矢おもて。質は、まと。〔戰國、魏策〕今我構二難於秦一、兵爲二招質一、國處二削危之形一、非レ得レ計也。

【招拾】91 セウシフ ひろひあつめる。召し出してあげ用ひる。〔何遜、七召〕六府孔修、百司盡畢、搜二求儒雅一、招二拾遺逸一。

【招集】92 セウシフ まねきあつめる。よびあつめる。招會。召集。〔漢書、韋賢傳〕又招二集天下賢俊一。〔後漢書、馬援傳〕招二集豪傑一、曉二誘羌戎一。〔魏志、高柔傳〕宜三先招二集三輔一。

〖招集狀〗93 セウシフジヤウ 人をまねき集めるために發する書狀。

【招緝】94 セウシフ まねきあつめる。招輯。〔五代史、南平世家〕兵火之後、井邑凋零、(高)季興招緝綏撫、人士歸レ之。

【招輯】95 セウシフ まねきあつめる。招緝。〔漢書、敍傳上〕招二輯英俊一。〔宋史、田京傳〕京能招二輯流民一、爲レ之給レ田、除二稅租一。

【招商】96 セウシヤウ 商人をあつめる。〔淸會典事例、戶部、蠲恤、販運〕光緒三年奏准、福建省被水飢民、全賴二運米賑濟一、現已招商販運。

〖招商局〗97 セウシヤウキヨク 中國の大汽船會社の名。淸朝の同治十一年創設す。光緒年間、株式組織に改め、商事會社となつたが、尙ほ官廳の監督を受けた。

〖招商集股〗98 chao^{1} shang^{1} chi^{2} ku^{3} 半官半民の事業創設のため、商人から株を募ること。

〖招商承辦〗99 chao^{1} shang^{1} ch‘êng^{2} pien^{4} 官から希望商人をして請負はせること。

〖招商承領〗100 chao^{1} shang^{1} ch‘êng^{2} ling^{3} 官から商人に拂下げを行ふこと。

【招上】101 chao^{1} shang 白狀すること。〔琵琶記、義倉賑濟〕快招上來。

【招狀】102 セウジヤウ ❶口述書。〔宣和遺事、前集下〕取二了招狀一、送レ獄推勘。〔琵琶記、義倉賑濟〕你快二招狀一。〔福惠全書、刑名部、問擬〕招狀又以二口供一爲レ主。❷招待狀(135)の略。

【招惹】103 chao^{1} jê^{3} 怒らせる。激せしめる。けしかける。手を出す。そそのかす。〔紅樓夢、二十一回〕他便沒事走三淌去招惹、惹得賈璉似餓鼠一般。

【招手】104 chao^{1} shou^{3} 手で招く。さしまねく。

【招聚】105 セウシユウ まねきあつめる。招集。〔史記、武安侯田蚡傳〕魏其・灌夫、日夜招二聚天下豪傑壯士一、與論議。〔後漢書、隗囂傳〕囂亡歸二天水一、復招二聚其衆一、據二故地一。

【招出】106 chao^{1} ch‘u^{1} 申出る。自白する。白狀する。

【招書】107 セウシヨ 口供の聽取書を認める役人。裁判所の書記のやうなもの。〔福惠全書、刑名部、詞訟、審訟〕堂左側招書一人、聽二寫口供一。

【招承】108 chao^{1} ch‘êng^{2} 白狀する。承認する。

【招稱】109 chao^{1} ch‘êng^{1} 囚人の口述書。

【招辱】110 セウジヨク はづかしめをまねく。〔大戴禮、勸學〕言有レ召レ禍、行有レ招レ辱、君子愼二其所一レ立焉。〔法言、脩身〕言輕招レ憂、云云、貌輕招レ辱。

【招進】111 セウシン 招き進める。〔漢書、刑法志〕招二進張湯・趙禹之屬一、條二定法令一。

【招親】112 chao^{1} ch‘in^{1} 緣組を求める。婿をとる。

【招人】113 セウジン 人を招く。招客(43)に同じ。

【招尋】114 セウジン ❶まねく。〔皇甫冉、送二陸潛夫茅山尋一レ友詩〕誰作二招尋侶一、淸齋宿二紫陽一。❷おとづれる。〔駱賓王、夏日遊二山家一同二夏少府一詩〕返照下二層岑一、物外狎二招尋一。

【招數】115 chao^{1} shu^{4} 方法。手段。

【招世】116 セウセイ 忠良をすすめ、人物を招致すること。招世士を見よ。

〖招世士〗117 セウセイノシ 忠良をすすめ、人物を招致する人。一說に、世に招搖する士。〔莊子、徐無鬼〕招世之士興レ朝、中民之士榮レ官。〔疏〕推二薦忠良一、招二致人物一之士、可三以興二於朝廷一也。〔莊子因〕招世、招二搖於世一、以自見也。

【招生】118 chao^{1} shêng^{1} 學生を募集する。

【招婿】119 chao^{1} hsü^{4} 娘のむこを取る。

【招請】120 セウセイ セウジヤウ 人を招きもてなす。まねきむかへる。招待する。〔魏志、張範傳〕袁術備レ禮招請、範稱レ疾不レ往。〔韓愈、送二靈師一詩〕鄰州競二

招請一、書札何翩翩。

【招贊】121 chao^1 chuei^4 養子する。

【招召】122 セウセウ 人をまねく。手でまねくを招といひ、言でまねくを召といふ。〔楚辭、招魂序、注〕招者、召也、以レ手曰レ招、以レ言曰レ召。

【招招】123 セウセウ 手をあげて呼ぶさま。又、聲をあげて呼ぶさま。〔詩、邶風、匏有苦葉〕招招舟子、人渉卬否。〔傳〕招招、號召之貌。〔釋文〕招招、王逸云、以レ手曰レ招、以レ言曰レ召、韓詩云、招招、聲也。〔謝朓、始之二宣城郡一詩〕招招漾二輕楫一、行行趨二巖趾一。

【招箾】124 セウセウ 帝舜の樂。大韶。〔史記、呉太伯世家〕見レ舞二招箾一曰、德至矣哉、大矣。〔注〕集解曰、服虔曰、有虞氏之樂、大韶也。

【招說】125 chao^1 shuo^1 白狀する。〔水滸傳、四十回〕你如今只好好招說、這封書那裏得來。

【招颭】126 セウセン 風になびくこと。〔長生殿、舞盤〕花枝招颭柳枝揚、鳳影高騫鸞影翔。

【招箭】127 セウセン 的のそばに立つてゐて矢が中つたかどうかを見る人。〔宋史、禮志十七〕苑中皆有二射棚一、畫二暈的一、射則用二招箭班三十人一、服二緋紫繡衣一、帕レ首、分二立左右一、以唱二中否一。〔元史、刑法志四、殺傷〕諸軍士習レ射、招箭者不レ謹、致二被レ傷而死一、射者不レ坐。

【招選】128 セウセン まねきえらぶ。〔史記、衞將軍驃騎傳贊〕願將軍觀三古名將所二招選一、擇二賢者一勉レ之哉。〔漢書、劉向傳〕招二選名儒俊材一。〔漢書、公孫弘傳贊〕亦講二論六藝一、招二選茂異一。

【招租】129 chao^1 tsu^1 家屋を貸し出す。

【招足】130 chao^1 tsu^2 募集濟となる。募集して定額に充てる。

【招速】131 セウソク まねく。速も、まねく。〔呉志、周瑜傳〕至下縱二情欲一、招中速罪辟上。

【招尊】132 セウソン まねき用ひてたつとぶ。招聘して優待する。〔史記、平準書〕招二尊方正賢良文學之士一。

【招待】133 セウタイ 招いてまちうける。人をまねいてもてなす。招請。

〖招待券〗134 セウタイケン 人を招く標として渡す切符。

〖招待狀〗135 セウジヤウタイ 人を招くために發する書狀。

【招提】136 セウダイ 佛拓鬪提舍。梵音 Caturdeśa の譯。四方僧侶の集まり住する處。てら。寺院。伽藍。道場。拓提。〔玄應音義、十六〕招提、譯云二四方一也、招此言レ四、提此言レ方、謂二四方僧一也、一云、招提者訛也、正言二拓鬪提舍一、此云二四方一、譯人去レ鬪去レ奢、拓經誤作レ招、以二拓招相似一、遂有二斯誤一也。〔翻譯名義集、七〕後魏太武始光二年、造二伽藍一、創二立招提之名一。〔杜甫、遊二龍門奉先寺一詩〕已從二招提遊一、更宿二招提境一。〔注〕師曰、釋氏書、招提菩薩、皆古佛號、故寺謂二之招提一、或名二伽藍一、或名二道場一、其實一也。〔孟浩然、夜泊二廬江一聞三故人在二東林寺一以レ詩寄レ之詩〕聞君尋二寂樂一、清夜宿二招提一。

〖招提客〗137 セウタイカク 僧をいふ。〔高適、贈二杜二拾遺一詩〕傳道招提客、詩書自討論。

【招討】138 セウタウ 降者を招き撫で、叛者を討ち征する。招討使を見よ。

〖招討使〗139 セウタウシ 官名。叛者を討伐し、降者を招き撫することを掌る武官。唐宋皆嘗て招討使を置き、遼金元も亦都招討司・招討司・副招討司等の官を置く。明はただ土司に招討司あり、清初、呉三桂嘗て招討大元帥となる。〔事物紀原、節鉞師漕部、招討〕唐百官志曰、招討使掌二征伐一、兵罷則省、云、天寶末置二招討都統之名一、始二於此一、事始云、開元十七年、宰相奏置二招討使一、天寶十五載以二來瑱一爲二穎川太守一、兼二招討使一、職林曰、正元時置、注又云、德宗建中年、以二馬燧一爲二魏博招討使一、舊唐志曰、正元末置用二兵權一、兵罷則停也。〔續通志、職官略、明官制、招討司〕明置二招討使一人、副招討一人、吏目一人一、臣等謹按、宋制招討使、亦以二大臣一充レ之、有二征討一則置、金招討使、掌下招二懷降附一征中討攜貳上、元招討使、則多置二於沿邊諸要地一、明則略倣二元制一、而爲二土官武職一、品秩職守、皆與二宋金一異也。

〖招討司使〗140 セウタウシシ 官名。招討使に同じ。〔金史、百官志三〕招討司使一員、正三品、副招討使二員、從四品、招二懷降附一、征二討攜離一。

【招瞪】141 chao^1 têng^4 人にうらまれる。お目玉を食ふ。

【招單】142 chao^1 tan^1 引札。廣告びらの類をいふ。

【招致】143 セウチ まねき來らしむ。まねきよせる。招來。召致。〔荀子、君道〕縣二貴爵重賞一以招二致之一。〔史記、孟嘗君傳贊〕孟嘗君招二致天下任俠姦人一、入二薛中一、蓋六萬餘家矣。〔漢書、儒林、申公傳〕然已招致、卽以爲二大中大夫一、舍二魯邸一。〔後漢書、馬融傳〕招二致休慶一。〔論衡、量知〕人無二道學一、仕二宦朝廷一、其不レ能二招致一也、猶二喪人服一レ麤、不レ能レ招レ吉也。

【招杼】144 セウチヨ 水を汲み出して救ふ。〔淮南子、兵略訓〕同レ舟而濟二於江一、卒遇二風波一、百族之子、捷捽招二杼船一、若二左右手一。

【招定】145 chao^1 ting^4 たしかに白狀する。

【招潮】146 セウテウ 蟹の類。殼の白いもの。〔嶺表錄異記、招潮〕招潮亦彭蜞之屬、殼帶二白色一、海畔多レ潮、潮欲レ來皆出レ坎、擧レ螯如レ望、故俗呼二招潮一也。〔太平御覽、鱗介部、招潮〕臨海異物志曰、招潮小如二彭蜞一、殼白、依二潮長一、背坎外向、擧レ螯、不レ失二常期一、俗言レ招二潮水一也。

【招帖】147 chao^1 tʻieh^3 ❶招待狀。❷張札。廣告のびら。ポスター。

【招貼】148 chao^1 tʻieh^1 廣告で壁の上に貼られるもの。壁の上に貼つた廣告。

【招佃】149 chao^1 tien^4 小作人を募集する。

【招展】150 chao^1 chan^3 ひらめく。ゆらゆらする。

【招動】151 セウドウ さしまねく。〔福惠全書、保甲部、訓練伍壯〕青白兩旗招動、左右兩軍、向前合圍。

【招內】152 セウナイ 供述書の中。〔六部成語、刑部、招內、注解〕供詞之內也。

【招納】153 セウナフ よびよせる。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、劉楨詩〕廣川無二逆流一、招納厠二羣英一。

〖招納信寶〗154 セウナフシンパウ 貨幣の名。宋の劉光世が敵の衆を招き納れるとき、信とするために鑄たもの。〔宋史、劉光世傳〕完顏昌屯二承楚一、光世知四其衆思レ歸、欲三攜二貳之一、乃鑄二金銀銅錢一、文曰、招納信寶、獲レ敵不レ殺、令下持二錢文一示中其徒上、有二欲レ歸者一、扣レ江執レ錢爲レ信、歸者不レ絶。

【招入】155 chao^1 ju^4 招く。

〖招入婚〗156 chao^1 ju^4 huen^1 男子が女家に入る婚姻。臺灣に多く行はれる。これに二種あつて、家女が生家に留まつて夫を迎へるものを招壻婚といひ、寡婦が前夫の家に留まつて後夫を迎へるものを招夫婚といふ。

【招認】157 chao^1 jen^4 白狀する。承認する。

【招罵】158 chao^1 ma^4 罵られる。

【招牌】159 セウハイ かんばん。〔莊子、駢拇、自下虞氏招二仁義一以撓上天下一也、天下莫レ不三奔二命於仁義一、林希逸鬳齋口義〕招、猶三今人言二招牌一也。〔燕子箋、誤畫〕門掛二招牌利市一、家傳二裱背生涯一。

〖招牌子〗160 chao^1 pʻai^2 tzŭ 引札。廣告ビラ。

【招賠】161 chao^1 pʻei^2 自白した上賠償する。

【招報】162 chao^1 pao^4 罪人の白狀書を上役に提出すること。

【招寶】163 セウハウ 山名。浙江省鎭海縣の東北。もと候濤山といふ。諸番入貢する時、此に停船するから改めて名づけた。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、定海縣〕招寶山、本名候濤山、以三諸番入貢、停二舶於此一、因改二今名一、南臨港口、屹然聳峙、極爲二要害一、舊設二臺堠於此一、今改設二城堡一、其東南峙二一小山一、高僅尋丈、名二昌國山一、潮汐至レ此分流、舟行可レ達二昌國一、因名、與二招寶一並峙者、爲二巾子山一、山形卓立、如二巾幘一、潮水出二入二山一、爲二之障一、宋德祐二年、元兵至二臨安一、宋籍レ地降二元張世傑一、去二之定海一、元遣二卞彪一、說二世傑一、降二世傑一、磔二之於巾子山一、是也。

【招房】164 セウバウ ❶白狀書をかく役人。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕招房卽將二口供一呈レ堂判レ日。❷chao^1 fang ㋑裁判所の書記。㋺接待係。

【招盤】165 chao^1 pʻan^2 讓り渡す。破產する。

【招弭】166 セウビ 祭の名。招は福を招き、弭は凶禍を安んずること。〔周禮、春官、男巫〕春招弭以除二疾病一。〔注〕招、招レ福也、杜子春讀レ弭、如二彌レ兵之彌一、玄謂、弭、讀爲二敉字之誤一也、敉、安也、安二凶禍一也、招敉、皆有二祀衍之禮一。

【招賓】167 セウヒン 賓客をまねく。〔林景熙、賓月堂賦〕主人擧レ手招レ賓、賓已在二西山之西一。

【招父】168 セウフ 春秋梁の人。官は太卜。晉の惠公が梁に在つた時、梁伯は之に梁嬴を妻はしたが、孕んで期を過ぎた。招父、其の子と共に之を卜す。其の子は一男一女を生まんといひ、招父は男は人臣となり、女は人妾とならんといふ。よ

つて男を圉、女を妾と名づけたが、圉が秦に質となるや、妾は宦女となつた。〔左氏、僖、十七〕。

【招附】169 セウフ 招きなでやすんずる。まねき寄せて從はせる。〔宋史、曹克明傳〕所レ向力戰、屢敗二蠻軍一、是時朝廷意在二招附一。

【招武】170 セウブ 舜の舞樂。韶舞。〔春秋繁露、三代改制質文〕樂宜レ親二招武一。

【招舞】171 セウブ 舜の舞樂。韶舞(**12－43276**・・31)に同じ。〔漢書、禮樂志〕文始舞者、曰、本舜招舞也。

【招撫】172 セウブ 人民をまねきやすんずる。來りしたがはせる。歸順させる。〔後漢書、西域傳〕千餘人屯二伊吾一、以招二撫之一。〔六部成語、兵部、招撫、注解〕招二降賊衆一、按二撫來投之人一。

〔招撫使〕173 セウブシ 官名。邊境を説諭して歸順させる官。〔唐書、武宗紀〕(會昌二年)九月、劉沔爲二回鶻南面招撫使一、幽州盧龍軍節度使張仲武爲二東面招撫使一。〔宋史、職官志七〕招撫使不二常置一、建安初、李綱秉レ政、以二張所一爲二河北招撫使一。

【招風】174 セウフウ ㊀風を招く。〔陸機、羽扇賦〕安二其應レ物也、誠二其招レ風也。〔張舜民、紈扇詩〕紈扇本招レ風、曾將二熱時一用、秋來挂二壁上一、卻被二風吹動一。㊁chao^1 fêng^1 ㋑人を壓迫する。㋺横行する。

〔招風旗〕175 セウフウキ 船の上につけた風向を占ふ旗。〔墨畬錢鏄〕江河閒大小舟、或於二檣上一、或於二尾後舵樓上一、立二一小竿一、竿上揭二小旗一、以占二每日風色一、謂二之招風旗一。

〔招風惹草〕176 chao^1 fêng^1 jê^2 ts'ao^3 風を招き草を惹く。事をおこす喩。〔紅樓夢、三十四回〕偏怎麽不怨寶玉外頭招風惹草的那個樣子。

【招伏】177 chao^1 fu^4 白狀のこと。〔琵琶記、義倉賑濟〕今與短狀招伏。

【招復】178 セウフク よびかへす。又、魂をよびかへす。招魂復魂の意。〔後漢書、趙咨傳〕招復含斂之禮。〔注〕招復、謂二招レ魂復レ魄也。

【招福】179 セウフク 幸福をまねく。〔陸機、豪士賦序〕身危由二於勢過而不レ知レ去、勢以求レ安、禍積起二於寵盛而不レ知レ辭レ寵以招レ福。〔北史、崔光傳〕災異之見、皆所三以示二吉凶一、明君覩レ之而懼、乃能招レ福。

【招兵】180 セウヘイ 兵士をよびまねく。〔溫庭皓、觀二山燈一獻二徐尙書一詩〕焚書翻見レ字、擧レ燧不レ招レ兵。

〔招兵聚將〕181 chao^1 ping^1 chü^4 chiang^4 戰爭の準備をする。

【招聘】182 セウヘイ 禮を厚くしてまねきよぶ。鄭重に召しかかへる。〔新序、雜事五〕於レ是乃招二聘四方之士一。〔後漢書、岑彭傳〕招二聘隱逸一。〔梁書、武帝紀下〕上以レ時招聘。

【招票】183 chao^1 p'iao^4 投票を勸誘する。投票運動。

【招標】184 chao^1 piao^1 投票を勸誘する。投票運動。

【招辟】185 セウヘキ まねきめす。政府が賢人に官職を授けるために召しだすこと。辟は召。召辟。〔蔡邕、陳太丘碑文〕前後招辟、使二人曉喩一。

【招捕】186 セウホ とらへる。めしとらへる。〔宋史、周仁美傳〕屯二鎭定一時州有二七命一卒聚盜剽爲レ患、王超委二仁美一招捕、仁美選二勇敢卒一詐二亡命一趣二賊所一、得二其要領一、卽自往論以二禍福一、賊悉降。〔宋史、呂祉傳〕爲二荊湖提刑一、祉旣至、招捕有レ方、踰レ年盜平、進二直祕閣一。

〔招捕總錄〕187 セウホソウロク 書名。一卷。撰者未詳。元代の招捕の事を記したもの。〔四庫未收書目提要、五〕。

【招募】188 セウボ まねきつのる。又、其のつのられた兵士。召集。召募。〔後漢書、光武紀上〕選二練武衞一、招二募猛士一、旌旗輜重、千里不レ絕。〔風俗通、正失〕招二募方伎怪迂之人一。

【招木】189 セウボク 喬木。大きな木。〔墨子、親士〕招木近伐。〔閒詁〕畢云、招、與レ喬音相近。

【招末】190 セウマツ 末をあげる。〔淮南子、主術訓〕操二其觚一、招二其末一、則庸人能以制レ勝。〔注〕招、擧也。

【招名】191 セウメイ 名をもとめる。名譽をまねく。〔列子、楊朱〕矯二情性一以招レ名。

【招命】192 セウメイ まねき命ずること。〔李尤、良弓銘〕鄉射載レ禮、招命在レ詩、妙稱二顏高一、巧發二晉師一。

【招目】193 chao^1 mu^4 外題。芝居の外題看板。

【招諭】194 セウユ よびよせてさとす。召諭。招喩。〔魏志、劉放傳〕放善爲二書檄一、三祖詔命、有レ所二招諭一、多二放所レ爲。〔北史、魏道武帝紀〕招二喩之一、云云、曜レ兵揚レ威。

【招勇】195 chao^1 yung^3 義勇兵を募る。

【招雍】196 セウヨウ 音樂の名。舜を賓客とし、禹を主人とする音樂。〔太平御覽、樂部、歌〕尙書大傳曰、維五祀、奏二鍾石一論二人聲一、及二乃鳥獸一、咸變二於前一、秋養二耆老一、而春食二孤子一、乃浡然招樂興二於大麓之野一、報レ事還歸二二年一、諟然乃作二大唐之歌一、歌者三年、昭然乃知三乎王世明有二不レ世之義一、招爲二賓客一、而雍爲二主人一、始奏二肆夏一、納以二孝成一、舜爲二賓客一、而禹爲二主人一、樂正進贊曰、尙考二大室之義一、唐爲二虞賓一、至レ今衍二於四海一。〔注〕招雍皆樂章名也、賓入奏レ招、主人入奏レ雍也。

【招來】197 セウライ 招いて來させる。人を招きすすめて己に至らしめる。〔史記、大宛傳〕自二其西大夏之屬一、皆可三招來而爲二外臣一。〔漢書、王莽傳下〕瓜寧殤男幾以招二來其餘一。〔後漢書、公孫瓚傳〕專爲二邪媚一、招二來不軌一。

【招徠】198 セウライ 招いて來させる。招來に同じ。〔漢書、食貨志下〕嚴助・朱買臣等、招二徠東甌一。〔漢書、公孫弘傳〕招二徠四方之士一。

【招擥】199 セウラン まねきいれる。招攬。〔吳志、孫亮傳評、注〕孫盛引陸機辨亡論曰、弱冠秀發、招二擥遺老一、與レ之述レ業。

【招攬】200 セウラン まねきいれる。ひきうける。まねいて其の心をひきよせる。〔陸機、辨亡論上〕長沙桓王、逸才命世、弱冠秀發、招二攬遺老一、與レ之述レ業。〔注〕翰曰、招攬、謂二收集一也。

【招涼】201 セウリヤウ すずしさをひく。招涼珠を見よ。

〔招涼珠〕202 セウリヤウシユ 珠の名。これを持てば盛暑でも體自ら輕涼となるといふ。〔拾遺記、四、燕昭王〕時有二黑鳥白頭一、集二王之所一、銜二洞光之珠一、云云、燕昭王常懷二此珠一、當二隆暑之月一、體自輕涼、號曰二銷暑招涼之珠一也。

【招旅】203 セウリヨ 旅人をまねく。〔高啓、夜投二西寺一詩〕非レ無二招旅館一、禪寂願相依。

【招領】204 chao^1 ling^3 ㊀引取る。㊁拂下をする。

【招諫匭】205 セウカンキ 臣下の諫言を求めるために設ける投書箱。〔宋史、高錫傳〕錫徒步詣二招諫匭一上書、請二擇レ賢任レ官。

【招嫌物】206 chao^1 hsien^2 wu^4 大嫌ひのもの。

【招山翁】207 セウザンヲウ 宋、劉儗(**2－2224**・・166)の號。

【招子庸】208 セウシヨウ 清、南海の人。字は銘山。嘉靖の擧人。官は濰縣の知。著に粵謳一卷がある。

【招道人】209 セウダウジン 清、嚴衍(**2－4589**・・14)の號。

【招女婿】210 chao^1 nü^3 hsü^4 娘のむこをとる。招婿。

【招物議】211 chao^1 wu^4 i^4 物議を惹き起す。

【招花惹草】212 chao^1 hua^1 jê^2 ts'ao^3 誘惑する。

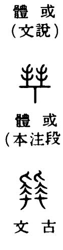
【招蜂惹草】213 chao^1 fêng^1 jê^2 ts'ao^3 誘惑する。

【招拉筆洞】214 セウラフヒツドウ 山名。西藏拉薩の西南。山上に塔・寺あり、梵宇清幽にして西藏中の景勝の地。〔清史稿、地理志〕西藏、曰察木多、曰拉里。〔注〕城西南巴則山、西招拉筆洞山。

【招耕帶借字】215 セウカウタイシヤクジ 質入證書をいふ。契字(**3－5917**・・28)を見よ。

【拜】11969

ハイ 〔集韻〕布怪切 卦 ㄅㄞˋ pai^4



小篆　或體(説文)　或體(段注本)　古文

㊀**をがむ**。少し上體をまげ、胸前にくみあはせた手まで首を下げる。もと𢷎(**5－12856**)に作る。〔説文〕𢷎、首至レ手也、从二手𠦪一。〔段注〕拜之名、生二於空首一、故許言二首至レ手、周禮之空首、他經謂二之拜手一。〔康熙字典〕拜、本作レ𢷎一、𢪱、揚雄説、𢷎从二兩手下一。〔禮、郊特牲〕拜、服也。〔荀子、大略〕平衡曰レ拜。〔注〕平衡、謂下磬二折頭一與レ腰如中衡之平上。〔王先謙集解〕郝懿行曰、拜者必跪、拜手、頭至レ手也、不レ至レ地、故曰二平衡一。㊁**敬容の總稱**。〔説文通訓定聲〕拜、九拜無レ不レ用レ手、故以レ拜統レ之。〔周禮、春官、大祝〕辨二九拜之儀一、一曰、稽首、二曰、頓首、三曰、空首、四曰、振動、五曰、吉拜、六曰、凶拜、七曰、奇拜、八曰、褒拜、九曰、肅

拜。㊂**感謝する**。謝意を表はす。〔呂覽、分職〕明日不レ拜二樂一已者。〔注〕拜、謝也。㊃**さづける**。官を賜はる。〔史記、淮陰侯傳〕至レ拜二大將一、乃信也。〔後漢書、左雄傳〕拜除如レ流。㊄**うける**。たまはる。〔北史、王晞傳〕拜二恩私第一。〔王十朋、續賦柑詩〕嘉拜親開合、珍藏淨洗甌。㊅**いたる**。まうでる。訪問。〔韓愈・孟郊、雨中寄二孟幾道一聯句〕秋潦淹二轍迹一、高居限二參拜一。㊆**ぬく**。拔（**5－11959**）に通ず。〔說文通訓定聲〕拜、叚借爲レ拔。〔詩、召南、甘棠〕勿レ翦勿レ拜。〔箋〕拜之言、拔也。㊇**かがめる**。たわめる。〔詩、召南、甘棠、勿レ翦勿レ拜、集傳〕拜、屈。㊈古は𢪽（**4－7868**）・捹（**5－12435**）・𢫧（**6－16756**）・𢷎（**6－16765**）・撓（**5－12762**）に作る。〔集韻〕𢱭、揚雄說、拜从二兩手下一、古作二𢪽・捹・𢫧一。〔康熙字典〕拜、古文𢷎・撓。㊉**草の名**。〔爾雅、釋草〕拜、蔏藋。〔注〕似レ藜。⑪**姓**。〔萬姓統譜〕拜見二姓苑一、今直隸山陽縣有二拜氏一。〖邦〗書翰文、又は談話の時などに敬意を示すために或語の上に添へる。拜見。拜借。

〖解字〗會意。手と𠦪との合字。周禮には九拜の禮があるが、九拜は皆頭が手に至るから、その字は手に從ふ。𠦪は形聲の字で疾い意。人に遲れぬやうに急ぎ出て禮拜し敬意を致す意。ぬかづく。をがむ。說文の或體は揚雄の說で、兩手と下との會意であるとする。

【拜位】1 ハイヰ ㊀官を授けられる。〔易林、漸之第五十三、解〕邀二於嘉國一、拜レ位逢レ時。㊁君主などが祭祀を執行する時つく位置。〔清會典事例、禮部、大祀〕三十七年諭、朕御レ極以來、夙夜孜孜惟以二敬天報本一爲レ念、毎レ屆二郊壇大祀一、必躬親昭レ事、用展二誠悃一、三十七年於茲、未二敢稍懈一、向來詣レ壇行レ禮日、由レ降レ輦進至二拜位一、以迄二薦獻禮成一、中閒履蹈升降、儀節最爲二繁重一。

【拜友】2 pai^4 yu^3 友達を訪問する。

【拜揖】3 ハイイフ ㊀拜禮と揖禮。〔後漢書、董卓傳〕長安百官迎路拜揖。〔唐書、隱逸、王績傳〕性簡放、不レ喜二拜揖一。㊁兩手を上下し、又兩手を推して胸につける禮。〔通俗編、儀節、拜揖〕漢書汲黯傳、見二田蚡一、未二嘗拜一揖レ之、按、此當レ謂二其不レ拜僅揖一也、今有下以二拜揖一爲二一事一者上、乃俚俗之訛、而宋方回已以入レ詩云、幼兒初拜揖、癡女僅梳妝。

【拜謁】4 ハイエツ つつしんでまみえる。目上の人に面會することに用ひる語。〔史記、文帝紀〕代王馳至二渭橋一、羣臣拜謁稱レ臣。〔史記、扁鵲倉公傳〕未四嘗得三拜二謁於レ前也。〔漢書、王商傳〕丞相商坐二未央廷中一、單于前拜二謁商一。〔說苑、善說〕遂造託而拜謁。〔論衡、亂龍〕拜謁起立。

【拜延】5 ハイエン 元、河西の人。戰功あり。官は恒遠將軍。金虎符を賜はる。〔元史、一百三十三〕。

【拜恩】6 ハイオン めぐみをかたじけなくうける。〔北史、王晞傳〕受二爵天朝一、拜二恩私第一。

【拜家】7 pai^4 chia^1 里歸り。

〖拜家慶〗8 ハイカケイ 親と別れて復歸れば、唐の人之を拜家慶といふ。〔孟浩然、夕次二蔡陽館一詩〕明朝拜二家慶一、須レ著二老萊衣一。〔事物異名錄、人事、遠回〕敎器之詩話、唐人與レ親別而復歸、謂二之拜家慶一。

【拜嘉】9 ハイカ 善しとせらるるを有りがたく思ふ。〔左氏、襄、四〕鹿鳴、君所三以嘉二寡君一也、敢不レ拜レ嘉。〔注〕晉以二叔孫一爲二嘉賓一、故歌二鹿鳴之詩一。〔疏〕叔孫以レ晉歌二此篇一者、以三己爲二嘉賓一、故拜二受之一也。〔柳宗元、同下劉二十八院長述レ舊言レ懷感レ時書レ事奉二寄澧州張員外使君一五十二韻之作上云云詩〕憲府初收レ跡、丹墀共拜レ嘉。〔書言故事、餽送類〕受二人惠一曰、敢不レ拜レ嘉。

【拜賀】10 ハイガ ㊀貴人に對していはひごとのよろこびを述べること。よろこびを申し上げること。〔漢書、韓信傳〕韓信再拜賀曰、唯。㊁任官・敍位に當って御禮を申しのべること。〔東鑑、二十三〕建保六年十二月二十一日、將軍家爲二大臣拜賀一、明年正月、依レ可レ有三御二參鶴岳宮一。

【拜降】11 ハイカウ 元、北庭の人。謚は貞惠。美鬚髯あり、世祖之を黑髯使臣と呼ぶ。官は浙東廉訪副使。〔元史、一百三十一〕。

【拜客】12 ハイカク ㊀客を拜する。〔李賀、申胡子觱篥歌幷序〕歌成、左右人合譟相唱、朔客大喜、擎レ觴起立、命二花娘一出レ幕徘徊拜レ客。㊁pai^4 k'o^4 人を訪問する。

【拜閣】13 ハイカク 壻入りすること。拜門。〔段成式、婚雜儀注〕北朝昏禮、壻拜閣日、嫁親婦女畢集、各以レ杖打レ婿、爲二戲樂一、至レ有二大委頓一。

【拜匣】14 ハイカフ 文箱。手紙又は贈物などを納れて送る箱。〔黃宗羲、思舊錄〕沈壽國、字治先、戊寅余至二宛上一、治先發二吾拜匣一、以二五十金一置二其中一。

【拜顏】15 ハイガン まみえる。お目にかかる。對面の敬語。又、其のこと。拜眉。拜面。拜芝。〔醒睡笑、八〕人拜顏を遂げ言上するやう。

【拜起】16 ハイキ 拜してたつ。〔後漢書、朱浮傳〕行步拜起何以爲レ容。〔應璩、與二廣川長岑文瑜一書〕拜二起靈壇一、勤亦至矣。

【拜跪】17 ハイキ かがんでひざまづく。ひざまづいて禮拜する。跪拜。〔十六國春秋〕爾拜爾跪、而不レ祇レ命、斯小臣之罪矣。

【拜拱】18 ハイキョウ 兩手をこまぬいて禮をする。〔朱松、至節日建州會二詹士元一詩〕深藏斷二還往一、衰病脫二拜拱一。

【拜金】19 ハイキン 金錢を崇拜する。金錢を絕對無上のものとあがめ拜すること。

〖拜金宗〗20 ハイキンシユウ 拜金のともがら。拜金の徒。

【拜覲】21 ハイキン まみえ拜する。〔晉書、溫嶠傳〕入輔二朝政一、闕二拜覲之禮一。

【拜具】22 ハイグ ㊀神佛禮拜の際用ひる道具。〔水滸傳、四回〕一面在二寺裡一做二僧鞋・僧衣・僧帽・袈裟・拜具一、一兩日都已完備。㊁謹んでつぶさに申し陳べる。手紙の末尾にかく語。敬具。

【拜會】23 pai^4 huei^4 訪問する。

【拜官】24 ハイクワン 官に就くこと。官に就くとき、君前に拜するからいふ。〔夢溪筆談、故事一〕唐制、丞郎拜レ官、卽二籠門一謝、今三司副使已上拜レ官、則拜二舞于階上一、百官拜二于階下一而不二舞踏一、此亦籠門故事也。

【拜啓】25 ハイケイ 謹んで申し上げる。手紙の首にかく語。啓は陳述。拜白。肅啓。謹啓。拜呈。

【拜經】26 ハイケイ ㊀臧榮緖が孔子の生日に五經の書を拜したこと。〔南齊書、臧榮緖傳〕榮緖惇愛二五經一、謂レ人曰、昔呂尙奉二丹書一、武王致レ齋降レ位、李釋敎誡、並有二禮敬之儀一、因甄二明至道一、乃著二拜五經序論一、常以二宣尼生庚子日一、陳二五經一拜レ之。㊁清、臧庸（**9－30083**・・63）の字。

〖拜經齋〗27 ハイケイサイ 清、鄭旼（**11－39647**・・244）の號。

〖拜經堂〗28 ハイケイダウ 清、臧庸の廳事の名。庸の著に拜經日記及び文集がある。臧琳・臧庸の二人が著はした書を合刻して拜經堂叢刻といふ。

〖拜經樓〗29 ハイケイロウ 清の嘉慶の閒、海寧の吳騫の藏書樓の名。騫は愚谷叢書五種、海昌麗四種、雜刊四種を刊行し、總て拜經樓叢書と名づけた。其の子壽照の集めた藏書には騫の手跋がある。拜經樓題跋記といふ。

〖拜經日記〗30 ハイケイニッキ 書名。八卷。清、臧庸撰。〔皇清經解、第二百九十・二百九十一冊〕。

〖拜經文集〗31 ハイケイブンシフ 書名。一卷。清、臧庸撰。〔皇清經解、第二百九十二冊〕。

〖拜經老人〗32 ハイケイラウジン 清、吳榮光（**2－3365**・・44）の號。

〖拜經堂叢書〗33 ハイケイダウソウショ 叢書の名。清、臧在東編。其の目は拜經日記十二卷・經義雜記三十卷・盧氏禮記解詁一卷・華嚴音義三卷・詩經小學四卷・宋本爾雅三卷・漢書音義三卷・三禮目錄一卷・鄭氏六藝論一卷・月令章句二卷・拜經文集六卷・尙書集解一百二十卷。

〖拜經樓詩話〗34 ハイケイロウシワ 書名。四卷。清、吳騫撰。〔藝海珠塵、第五十八冊〕・〔拜經樓叢書、第五冊〕。

〖拜經樓叢書〗35 ハイケイロウソウショ 書名。二十八卷。清、吳騫編。其の目は、第一冊、詩譜補亡後訂一卷（清、吳騫）、第二冊、陶靖節先生詩四卷・附錄一卷（宋、湯漢）、第三冊、謝宣城集五卷（宋、樓炤）、第四冊、讒書五卷（清、吳騫）、第五冊、國山碑考一卷（清、吳騫）、拜經樓詩話四卷（清、吳騫）、第六・七冊、桃溪客語五卷（清、吳騫）、第八冊、陽羨名陶錄二卷（清、吳騫）。

〖拜經樓藏書題跋記〗36 ハイケイロウザウショダイバツキ 書名。五卷、附錄一卷。清、吳壽暘撰。〔校經山房叢書、第二十三・二十四冊〕。

【拜慶】37 ハイケイ 拜家慶(8)の略。〔皇甫冉、送三李萬州赴二饒州一詩〕前程觀二拜慶一、舊館惜二招攜一。

【拜迎】38 ハイゲイ 禮拜してむかへる。うやうやしくむかへる。〔禮、玉藻〕士於二大夫一、不二敢拜迎一、而拜送。〔禮、聘義〕君親拜二迎於大門之內一、而廟受。

【拜教】39 ハイケウ 教を受けることを敬つていふ。〔國語、魯語下〕叔孫穆子聘二於晉一、云云、皇皇者華、君教二使臣一曰、每懷靡レ及、諏謀度詢、必咨二於周一、敢不二拜教一。

【拜訣】40 ハイケツ 拜謁してお別れを申上げること。〔森田節齋、小楠公髻塚碑〕拜二訣後醍醐帝陵一、入二如意輪寺一。

【拜月】41 ハイゲツ 月を禮拜する。〔漢書、匈奴傳上〕單于朝出レ營、拜二日之始生一、夕拜レ月、其坐長左而北向。

【拜月亭】42 ハイゲツテイ 元代戲曲の篇名。關漢卿の作。閨怨佳人拜月亭の略。六十種曲本には幽閨記と名づく。其の筋は、蒙古が金を侵し、都人避難の際、尙書王鎭の夫人は娘瑞蘭と、秀才蔣世隆は妹瑞蓮と走り、途中、母子兄妹相失ひ、瑞蘭は蔣世隆に瑞蓮は尙書夫人に逢つて共に逃る。世隆が病み、瑞蘭が介抱して旅舍に滯在中、瑞蘭の父、偶〻此所を過ぎ、其の非禮を責め、娘を連れ去る。既にして瑞蘭は瑞蓮と閨中に居り、世隆を想つて忘れることができない。一夜月を拜して再會を祈る。瑞蓮其の意中の人の名を問へば卽ち其の兄である。後、世隆と瑞蘭、世隆の親友陀滿興福と瑞蓮の二組の結婚式が同時に擧げられるといふ筋。〔王季烈螾廬曲談〕藝苑巵言曰、琵琶記之下、拜月亭、是元人施君美撰、亦佳。

【拜見】43 ハイケン ❶貴人にまみえる。お目どほりをする。拜謁。〔史記、封禪書〕敬拜見焉。〔神仙傳、王遠〕乃詣レ門叩頭、求二乞拜見一。❷謹んで見る。觀ることの敬語。〔漢書、郊祀志上〕天始以二寶鼎神策一授二皇帝一、朔而又朔、終而復始、皇帝敬拜見焉。

〔拜見過〕44 ハイケンクワ あいさつする。〔紅樓夢、三回〕黛玉一一拜見過。

〔拜見錢〕45 ハイケンセン 下級官吏が始めて上官に謁見する時にさしだす金錢。〔草木子、雜俎篇〕元朝末年、官貪吏汚、始因二蒙色目人、罔然不レ知三廉恥之爲二何物一、其問レ人討レ錢、各有二名目一、所屬始參曰二拜見錢一、無レ事白要曰二撒花錢一、逢レ節曰二追節錢一、生辰曰二生日錢一、管レ事而索曰二常例錢一、送迎曰二人情錢一、勾追曰二賫發錢一、論訴曰二公事錢一、覓二得錢一多曰二得手一、除二得州美一曰二好地分一、補二得職近一曰二好窠窟一、漫不レ知三忠君愛國之爲二何事一也。

〔拜見銀兩〕46 pai^{4} chien^{4} yin^{2} liang^{3} 下級官吏が始めて上官に謁見する時にさしだす金錢。拜見錢に同じ。

【拜愿】47 ハイゲン 五月十三日に自家より城隍廟まで祈りを捧げて、父母妻子又は自己の疾病のために拜禮をしながら行くこと。〔通俗編、神鬼、拜愿〕宣府志市人于二五月十三日一、爲二父母妻子或己身疾病一、具二香紙牲醴于城隍廟一拜禱、自二其家門一、且行且拜、至レ廟乃止、謂二之拜愿一、今各處皆沿二其風一。

【拜候】48 ハイコウ うかがひ拜する。訪問する。〔孟郊、立德新居詩〕拂二拭貧士席一、拜二候丞相轅一。

【拜哭】49 ハイコク 禮拜し、哭泣する。〔晉書、郤詵傳〕乃於二所レ住堂北壁外一假葬、開レ戶朝夕拜哭。

【拜懇】50 pai^{4} k'en^{3} 懇願する。お願ひ致します。拜托(97)に同じ。

【拜埽】51 ハイサウ 敬んで祖先父母の墓を掃除する。墓詣で。墓參。拜掃。〔北史、薛孝通傳〕孝通博學有二儁才一、蕭寶夤征二關中一、引參二驃騎大將軍府事一、禮遇甚隆、及二寶夤將レ有二異志一、孝通悟二其萌一、託以二拜埽一求レ歸。〔柳宗元、寄二許京兆孟容一書〕近世禮重二拜埽一、今已闕者四年矣、每レ遇二寒食一、則北向長號、以レ首頓レ地。〔事物紀原、歲時風俗部、拜埽〕後漢光武紀云、建武十年八月、幸二長安一有レ事二十一陵一、蓋躬祭二於墓一也、卽今上レ墳拜埽、蓋起二於此一。

【拜察】52 ハイサツ ❶山名。又、白岔・奔盞といふ。蒙古語の神の意。熱河省經棚縣の境。陰山山脈の東に延びたもの。❷推察の敬語。

〔拜察默拖喇哈番〕53 ハイサツモクイラカフバン 清代、監察御史の滿洲名。〔稱謂錄、監察御史、拜察默拖喇哈番〕皇朝通攷、監察御史、滿字稱爲二拜察默拖喇哈番一、漢字稱爲二監察御史一、俱作二正七品一。

【拜仕】55 ハイシ 年禮の拜賀。〔庭訓往來〕正月、卽可レ促二拜仕一之處、自他故障、不慮之至也。

【拜芝】56 ハイシ まみえる。芝は芝眉。人の顏色をいふ敬稱。拜顏。拜眉。

【拜師】57 pai^{4} shih^{1} ❶先生にお目にかかる。❷師と仰ぐ。拜門。「大夫拜レ賜而退。

【拜賜】58 ハイシ たまものをいただく。〔禮、玉藻〕

〔拜賜之師〕59 ハイシノシ 秦の將、孟明が晉と戰つて敗れ捕虜となつたが、許されて歸り、この不名譽を許して下されるならば、三年後には必ず賞を賜るやうな戰功（晉を伐つて報いる意）を立てるといつたが、彭衙の戰に再び敗れたので、晉人は嘲つて拜賜の師といつた故事。再敗の兵を嘲る語。〔左氏、僖、三十三〕先軫朝、問二秦囚一、公曰、夫人請レ之、吾舍レ之矣、先軫怒曰、武夫力而拘二諸原一、婦人暫而免二諸國一、墮二軍實一而長二寇讐一、亡無レ日矣、不レ顧而唾、公使二陽處父追レ之、及二諸河一、則在二舟中一矣、釋二左驂一、以二公命一贈二孟明一、孟明稽首曰、君之惠、不下以二纍臣一釁上レ鼓、使三歸就二戮于秦一、寡君之以爲レ戮、死且不レ朽、若從二君惠一而免レ之、三年、將レ拜二君賜一、秦伯素服郊次、鄕レ師而哭曰、孤違二蹇叔一、以辱二二三子一、孤之罪也、不レ替二孟明一、孤之過也、大夫何罪、且吾不下以二一眚一掩中大德上。〔左氏、文、二〕春、秦孟明視帥レ師伐レ晉、以報二殽之役一、二月、晉侯禦レ之、先且居將二中軍一、趙衰佐レ之、王官無地御レ戎、狐鞫居爲レ右、甲子、及二秦師一戰二于彭衙一、秦師敗績、晉人謂二秦拜賜之師一。〔注〕以三孟明言二三年將レ拜二君賜一、故嗤レ之。

【拜時】60 ハイジ 結婚の時、先づ舅姑を拜し、其の後再び迎娶を正式に行ふこと。一時假に取敢へず結婚の禮を行ふをいふ。〔通典、禮、嘉、拜時婦三日婦輕重議〕按二禮經一、婚嫁無二拜時三日之文一、自二後漢魏晉一以來、或爲二拜時之婦一、或爲二三日之婚一、魏王肅・鍾毓・毓弟會・陳羣・羣子泰、咸以二拜時一得レ比二於三日一、晉武帝謂二山濤一曰、拜二於舅姑一、可レ准二廟見一、三日同レ牢、允稱レ在レ塗、濤曰、愚論、已拜二舅姑一、重二於三日一、所レ擧者但不二三月一耳、張華謂、拜時之婦、盡二恭於舅姑一、三日之婚、成二吉於夫氏一、准二於古義一、可レ爲二成婦一、已拜二舅姑一、卽是廟見、常侍江應元等謂、已拜二舅姑一、其義同二於在一レ塗、或曰、夫失レ時之女、許レ不レ備レ禮、蓋急二嫁娶一之道也、三日之婦、亦務二時之婚一矣、雖二同レ牢而食、同レ衾而寢一、此曲室衽席之情義耳、豈合二古人亡則奠菜、存則盥饋一、而婦道成哉、且未二廟見一之婦、死則反葬、女氏之黨、以レ此推レ之、貴二其成婦一、不レ係二成妻一、明下拜二舅姑一爲レ重、接レ夫爲上レ輕、所二以然一者、先配而後祖、陳鍼子曰、是不レ爲二夫婦一、誣二其祖一矣、非レ禮也、此春秋明義、拜時重二於三日一之徵也、議曰、有二夫婦一而後有二父子一、有二父子一而後有二君臣一、則婚姻王化所レ先、人倫之本、拜時之婦、禮經不レ載、自二東漢魏晉一及二於東晉一、咸有二此事一、按二其儀一、或時屬二艱虞一、歲遇二良吉一、急二於嫁娶一、權爲二此制一、以二紗縠一幪二女氏之首一、而夫氏發レ之、因拜二舅姑一、便成二婦道一、六禮悉捨、合巹復乖、隳二政教之大方一、成二容易之弊法一、王肅・鍾毓・陳羣・山濤・張華・蔡謨、皆當時知レ禮達識者、何謂レ不レ非レ之邪、豈時俗久行、因循且便、或彼衆我寡、議論莫二從者一乎、宋齊以後、斯制遂息、後之君子無レ愧二前賢一。

【拜辭】61 ハイジ ❶お暇乞をする。わかれ去る敬語。〔南史、王弘傳〕弘時尙居レ喪、獨道側拜辭、攀レ車涕泣、論者稱焉。❷恭しく謝絕する。じたいする。ことわることの謙讓語。

〔拜辭年〕62 pai^{4} t'zŭ^{2} nien^{2} 歲暮の禮。

【拜謝】63 ハイシャ 敬んで禮を述べる。恭しく禮をのべること。〔韓非子、外儲說左下〕其讎以爲、且幸釋レ己也、乃因往拜謝。〔史記、項羽紀〕項王曰、壯士、賜二之巵酒一、則與二斗巵酒一、噲拜謝、起立而飮レ之。〔史記、日者傳〕厚求二拜謝一、以私二於己一。

【拜相】64 ハイシャウ 宰相に任ぜられること。〔郤埽編〕韓康公王荆公之拜レ相也、王岐公爲二翰林學士一。

【拜章】65 ハイシャウ ❶官職を授けられた時に奉るおうけ書。〔梁書、蕭子雲傳〕年十二、齊建武四年、封二新浦縣侯一、自製二拜章一、便有二文彩一。❷つとめをあらはし慰勞されたのを有難く思ふ。〔國語、魯語下〕四牡、君之所三以章二使臣之勤一也、敢不二拜章一。〔注〕章、著也、言、臣奉レ命勞二勤於外一、述二敍其情一、以歌二樂之一、所三以著二其勤勞一也。

【拜城】66 ハイジャウ 縣名。清、置く。新疆省溫宿縣の東北。縣境に銅を產し、渭干河が其の境を流れてゐる。

【拜爵】67 ハイシャク 爵位をあたへる。〔史記、平準書〕於レ是募下民能輸及轉二粟於邊一者上拜レ爵、爵得レ至二大庶長一。

【拜手】68 ハイシユ 人を敬し、頭を下げて手のあたりに至るをいふ。〔書、太甲中〕王拜手稽首曰。〔書、益稷〕皋陶拜手稽首、颺言曰。〔蔡傳〕拜手稽首者、首至レ手也。〔公羊、宣、六〕趙盾逡巡北面、再拜稽首。〔注〕頭至レ地曰二稽首一、頭至レ手曰二拜手一。〔列子、仲尼〕顏回北面拜手曰。〔蘇軾、司馬溫公神道碑〕拜手稽首。

【拜首】69 ハイシユ 拜して頭が手のあたりに至るをいふ。九拜の一。空手。〔東坡志林、祭祀、記朝斗〕謹拜首稽首、而記二其事一。

【拜受】70 ハイジユ 人より贈られた物を拜して受ける。うやうやしくうけいただく。〔禮、玉藻〕大夫親賜レ士、士拜受、又拜二於其室一。〔論語、鄉黨〕康子饋レ藥、拜而受レ之、曰、丘未レ達、不二敢嘗一。〔史記、吳王濞傳〕諭二吳王一、使三拜二受詔一。

【拜授】71 ハイジユ 官をさづける。又、官につかせる。〔漢書、翟方進傳〕卽二軍中一拜授。

【拜壽】72 ハイジユ 人の誕生日を祝賀する。〔六部成語、吏部、拜壽行賀、注解〕屬員若遇二上官生日一、前往叩拜、或上司有二喜事一、前往慶賀、均干二例禁一。

【拜春】73 ハイシユン 年頭のよろこびをのべる。年賀。〔淸嘉錄、一、正月、拜春〕立春日爲二春朝一、士庶交相慶賀、謂二之拜春一。

【拜承】74 ハイショウ うけたまはる。恭しく承る。敬承。

【拜誦】75 ハイショウ 人の文書を讀むにいふ敬語。拜讀。

【拜親】76 ハイシン 友人の親を我が親のやうに拜する親しい友。又、友人の父母に拜謁する。〔晉書、荀崧傳〕父頵羽林右監安陵鄉侯、與二王濟・何劭一爲二拜親之友一。〔梁書、到洽傳〕樂安任昉有二知レ人之鑒一、與二洽兄沼漑一並善、嘗訪二洽於田舍一、見レ之、歎曰、此子日下無雙、遂申二拜親之禮一。

【拜親友】77 ハイシンイウ 義兄弟をいふ。〔稱謂錄、同譜、拜親友〕白帖載、荀顗王濟、何劭爲二拜親友一、殆如二今所謂盟兄弟一乎。

【拜神】78 ハイジン 神に禮すること。〔李賀、章和二年中詩〕拜レ神得レ壽獻二天子一。〔宋史、樂志八〕氈案朝レ帝、竹宮拜レ神。

【拜趨】79 ハイスウ ❶貴人の前に進み出ることの敬語。〔薩都剌、溪行中秋翫レ月詩〕鯉鯽鮮大如二江鱸一、奉レ觴酌レ酒前拜趨。❷他人に對して其の家に行くことをいふ敬語。御うかがひ。參上。

【拜趨身】80 ハイスウシン 諸家に年賀廻禮をして步く者。〔伊藤東涯、早春漫書詩〕歲晚吾非二奔走人一、春回不二是拜趨身一。

【拜請】81 ハイセイ ❶拜し請ふ。〔荀子、富國〕直將三巧繁拜請、而畏二事之一、則不レ足二以持レ國安レ身。〔呂覽、介立〕脆弱者拜請以避レ死。❷ハイシヤウ 謹んで請待する。〔庭訓往來、九月〕拜二請貴寺長老一、定二中當日唱導師一度候。

【拜詔】82 ハイセウ 謹んでみことのりをうける。〔北齊書、循吏、宋世良傳〕世良才識閑明、尤善二治術一、在レ郡未レ幾、聲問甚高、云云、後齊天保中、大赦、郡先無二一囚一、羣吏拜レ詔而已。

【拜石】83 ハイセキ ❶祿をうける。〔庾肩吾、謝二湘東王賚レ米啓〕不レ待二候沙一同二新渝之再熟一、無レ勞拜レ石均二逡倉之重滿一。❷石を拜する。宋の米芾が禮服をつけて巨石を拜したこと。〔宋史、文苑六、米芾傳〕無爲州治有二巨石一、狀奇醜、芾見大喜曰、此足レ當二吾拜一、具二衣冠一拜レ之、呼レ之爲レ兄。〔蘇米談史〕米芾好レ奇、知二無爲軍一、見二立石一頗奇、喜曰、此足三以當二吾拜一、命取二袍笏一、揖而拜レ之、每呼曰二石丈一。❸清、錢元章（**11**－**40563**··299）の號。

【拜石山房】84 ハイセキサンバウ 清、顧翰（**12**－**43689**··41）の室名。

【拜石丈人】85 ハイセキヂヤウジン 宋の米芾をいふ。〔石林燕語、十〕米芾詼譎好レ奇、云云、知二無爲軍一、初入二州廨一、見二立石頗奇一、喜曰、此足三以當二吾拜一、遂命二左右一取二袍笏一拜レ之、每呼曰二石丈一、言レ事者聞而論レ之、朝廷亦傳以爲レ笑。

【拜節】86 ハイセツ ❶正月の祝賀をいふ。〔夢粱錄、正月〕正月朔日、細民男女、亦皆鮮衣往來拜節。❷陝西地方の俗で、正月二日に親屬が麪食豚肉を以て相贈ること。〔陝西志書、富平縣〕每族遡二宗祖數世一者、共爲二畫像一、名曰二神軸一、元日子孫會拜禮訖、醵金會側歡二飲之一、曰二節坐一、二日各親黨以二麪食豚肉一相贈、曰二拜節一。

【拜節蘭】87 ホフサイラン 草の名。らん科の宿根草で、暖地に生じ、早春、綠色總狀の花を綴る。

【拜泉】88 ハイセン 縣名。清、置く。滿洲、黑龍江省龍江縣の東。雙陽河の北岸に瀕す。清初、依克明安旗の地。縣境は平坦にして物產豐富である。〔清史稿、地理志〕黑龍江、海倫府、縣二、拜泉縣。

【拜錢】89 pai^4 chʻien^2 ❶結婚の翌日、新夫婦が父母の所へ挨拶に來た時に、父母から祝儀として與へる金。見面錢。❷花嫁が式後客に煙草を詰めてやり、客から賀して若干の錢を出すものをいふ。奉天地方の語。

【拜祖】90 pai^4 tsu^3 ❶祖先を拜する。❷新婦が嫁して第三日に祖先の墓に詣で禮拜すること。

【拜疏】91 ハイソ 上表文をたてまつること。上疏。〔韓愈、赴二江陵一途中云云詩〕拜レ疏移二閤門一、爲レ忠寧自謀。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕將三拜疏願二以レ柳易レ播。

【拜訴】92 ハイソ 恭しく訴へる。〔日本政記、村上天皇〕顯忠每夜出レ庭拜訴。

【拜送】93 ハイソウ 恭しく見送る。謹んで見送る。見送るの敬語。〔禮、曲禮上〕君言至、則主人出拜二君言之辱一、使者歸、則必拜二送于門外一。〔禮、玉藻〕士於二大夫一、不二敢拜迎一而拜送。〔戰國、燕策〕燕王拜二送于庭一、使三使以聞二大王一、唯大王命レ之。

【拜臺】94 pai^4 tʻai^2 碑の臺石。

【拜禱】95 ハイタウ をがみいのる。〔宋史、列女、呂仲洙女傳〕父得レ疾瀕レ殆、女焚レ香祝レ天、請二以レ身代一、云云、女弟細良、亦相從拜禱。

【拜堂】96 ハイダウ ❶婚禮に新婦が宅に入つて舅姑に見えることをいふ。〔王建、失釵怨詩〕我家新婦宜二拜堂一。〔通俗編、儀節〕兩新人宅レ堂參拜、謂二之拜堂一、唐人有二此言一也、王建失釵怨、雙杯行酒六親喜、我家新婦宜二拜堂一。〔陔餘叢考、拜堂〕新婚之三日、婦見二舅姑一、俗名二拜堂一、按、封氏聞見記、近代婚嫁、有二障車下婿卻扇及拜堂之儀一、今上詔二有司一約二古禮一、今儀太子少師顏眞卿、中書舍人于邵等奏、障車下婿卻扇、並請レ依二古禮一、見二舅姑於堂上一、薦二棗栗服脩一、無二拜堂之儀一、今上謂二德宗一也、是拜堂之名、由來已久、但眞卿等所レ定、棗栗服脩見二舅姑一、卽今俗所謂拜堂也、乃又云レ無二拜堂之儀一、豈唐時所謂拜堂者、別是一禮耶。❷(佛)僧侶が大寺の住職となつて其の寺院に入る時に行ふ禮。佛教の式の一つである。〔醍醐寺雜事記、九〕醍醐座主御拜堂式。❸pai^4 tʻang^2 ㋑婚禮の翌日親戚を招待すること。江蘇省儀徵地方の語。㋺花嫁が男家の花燭の前に至つて、天地を三拜すること。浙江省海寧地方の語。

【拜托】97 pai^4 tʻuo^1 お賴みする。お願ひ致します。

【拜桌】98 pai^4 chuo^1 碑の臺石。拜臺。

【拜擢】99 ハイタク ハイテキ 官にぬき用ひられる。官に任じ擧げ用ひる。〔後漢書、蔡邕傳〕其未レ及者、亦復隨レ輩、皆見二拜擢一。

【拜答】100 ハイタフ 謹んでこたへる。〔唐書、太宗諸子、常山王承乾傳〕諫者拜答不レ暇。

【拜茶】101 pai^4 chʻa^2 茶をすすめる。お茶をめしあがれ。〔水滸傳、三回〕官人請坐拜茶。

【拜聽】102 ハイチヤウ 謹んできく。聽くの敬語。

【拜冲】103 pai^4 chʻung^1 頓首の意。書翰文の終などに慣用する語。

【拜住】104 ハイチユウ ❶元の人。謚は忠獻。英宗の時、中書左丞相に拜せられ、後、鐵失に殺さる。〔元史、一百三十六〕。❷元、康里の人。字は聞善。官は太子司經。明兵が至るや、井に投じて死す。〔元史、一百九十六〕。

【拜除】105 ハイチヨ 官を拜命する。前官を除いて、新官を拜すること。〔後漢書、第五倫傳〕刺史太守以下、拜二除京師一、及道出二洛陽一者、宜二皆召見一、因可下博問二四方一、兼以觀中察其人上。

【拜塵】106 ハイヂン 車塵をみて拜する。❶貴人に阿り事へること。晉の石崇が賈謐に諂ひ事へて其の車塵を拜した故事。〔晉書、石崇傳〕復拜二衞尉一、與二潘岳一諂二事賈謐一、謐與レ之親善、號曰二二十四友一、廣城君每レ出、崇降二車路左一、望レ塵而拜、斯卑佞如レ此。〔晉書、潘岳傳論〕挾レ彈盈レ果、拜レ塵趨レ貴、云云、斯才也而有二斯行一也。〔劉禹錫、望

賦〕不レ作二渭濱垂レ釣臣一、羞レ爲二洛陽拜塵友一。㊁pai^4 ch'en^2 賢者を尊ぶ。

【拜呈】107（ハイテイ）㊀物を贈ることの敬語。謹みて進呈する。進上。進呈。呈上。〔增補下學集、態藝〕拜呈。㊁謹んで申し上げる。拜啓(25)に同じ。

【拜帖】108（ハイテフ）㊀卷物を見る敬語。〔戴表元、題二范文正公黃素小楷昌黎伯夷頌一云云詩〕請君焚香盥レ手拜二此帖一、歸洗二人間兒女癡一。㊁pai^4 t'ieh^3 名刺。特に訪問用の名刺をいふ。

【拜帖盒】109 pai^4 t'ieh^3 hê^2 名刺入。

〘拜帖木兒〙110（ハイチムール）元、崔彧(**4－8178**‥5)の小字。

【拜天】111（ハイテン）天を拜する。〔唐書、西域下、大食國傳〕使者來曰、國人止拜レ天、見レ王無レ拜也、有司切責乃拜。〔遼史、聖宗紀四〕十二月庚辰、獵二儒州東川一、拜レ天。〔金史、太祖紀〕五月庚午朔、避二暑于近郊一、甲戌拜レ天射レ柳、故事、五月五日、七月十五日、九月九日、拜レ天射レ柳、歲以爲レ常。

〘拜天地〙112 pai^4 t'ien^1 ti^4 婚禮の時、新郎新婦が共に天地を拜する行事。

【拜展】113 pai^4 chan^3 謹んで申し上げる。拜啓(25)に同じ。

【拜墊】114 pai^4 tien^4 禮拜の時、膝に敷く敷物。

【拜殿】115（ハイデン）神社で拜禮を行ふ殿舍。〔八篇類纂〕洪武三年、壇北建二祭殿拜殿一。

【拜斗】116（ハイト）㊀北斗星を拜すること。禮斗。〔東坡志林、祭祀、記朝斗〕紹聖二年五月望日、敬造二眞一法酒一成、請二羅浮道士鄧守安一、拜二奠北斗眞君一。㊁道家で陰曆九月一日より九日まで北斗星を拜むこと。㊂pai^4 tou^3 六月一日より六日の閒廟內に黃色の燭を焚くこと。浙江省杭州地方の風習。

【拜冬】117（ハイトウ）冬至の日の賀禮。〔清嘉錄、十一月、拜冬〕至日爲二冬至一、朝士大夫家、拜二賀尊長一、又交相出謁、細民男女、亦必更二鮮衣一以揖、謂二之拜冬一。

【拜讀】118（ハイドク）謹んで讀む。讀むの敬語。拜誦。〔運步色葉集〕拜讀。

【拜納】119（ハイナフ）㊀謹んでをさめる。奉納。〔戰國、趙策〕今有二城市之邑七十一、願拜二納之於王一、惟王才レ之。㊁㋑謹んでうける。おうけする。㋺もとへをさめるの敬語。おかへしする。

【拜任】120（ハイニン）官職に任ぜられること。又、任命を受けること。〔朝野羣載、六〕請レ被下以二正六位上行少史伊伎宿禰致政一、拜中任少祐闕事上。

【拜年】121（ハイネン）新年を拜賀する。新年の挨拶をする。年賀。〔熙朝樂事〕正月元旦、夙興盥嗽、啖二黍糕一、謂二年年糕一、家長少畢拜、姻友投レ箋、互拜謂二拜年一。〔燕子箋、購倖〕有レ心來拜レ年、端午也不レ遲。

〘拜年帖〙122 pai^4 nien^2 t'ieh^3 年賀用の名刺。

〘拜年拜到三月三〙123 pai^4 nien^2 pai^4 tao^4 san^1 yüeh^4 san^1 年賀の挨拶は三月の節句までは差支へないといふ諺。

【拜拜】124 pai^4 pai 婦人や子供が手を振つて挨拶すること。

【拜牌】125（ハイハイ）清代、慶典朝賀には外省の官員が、皆萬壽宮に赴き、龍牌の前で禮を行ふこと。〔清會典、禮部〕凡各省官、三大節則拜二龍牌一而慶賀。

【拜訪】126 pai^4 fang^3 訪問する。拜候。

【拜望】127 pai^4 wang^4 お目にかかる。敬意を表する。

【拜白】128（ハイハク）謹んで申し上げる。拜啓。啓白。謹啓。手紙の語。

【拜披】129（ハイヒ）書狀等をひらくことの敬語。つつしんでひらきよむ。〔書言字考節用集、八、言辭門〕拜披。はいひ。

【拜眉】130（ハイビ）會ふことの敬語。拜顏(15)に同じ。

【拜俯】131（ハイフ）をがみうつむく。〔潘尼、釋奠頌序〕我后乃躬二拜俯之勤一、資二在三之義一。〔韓愈、元和聖德詩〕正月元日、初見二宗祖一、躬執二百禮一、登降拜俯。

【拜俛】132（ハイフ）首を垂れて禮をする。おじぎする。〔唐書、禮樂志一〕自レ漢以來、史官所レ記、事物名數、降登揖讓、拜俛伏興之節、皆有司之事爾。

【拜舞】133（ハイブ）拜禮の舞踏。禮を述べ、いさみよろこんで舞ふ。敍位・任官又は祿を賜はつた時などに謝する禮。〔杜甫、韋諷錄事宅觀二曹將軍畫馬圖一引〕盤賜二將軍一拜舞歸、輕紈細綺相追飛。〔燕子箋、授畫〕紫禁朝レ天拜舞同、玉樓金殿曉光中。〔侍中羣要〕拜舞、先再拜、若有レ官者、笏置二右手下地上一、起再拜、次乍レ立垂レ袖左右左、次臥左右左、次乍レ居小揖、次乍レ立再拜、次乍レ立揖。

【拜風】134（ハイフウ）海豚（いるか）の異名。〔本草、海魚〕集解、藏器曰、海豚生二海中一、候二風潮一出沒、形如レ豚、云云、時珍曰、其狀大如二數百斤豬形一、色青黑、如二鮎魚一、有二兩乳一、有二雌雄一類レ人、數枚同行、一浮一沒、謂二之拜風一、其骨硬、其肉肥、不レ中レ食。

【拜伏】135（ハイフク）ふしをがむ。をがみふす。ひれふす。〔風俗通、愆禮〕且晏平仲、稱二善與レ人交一、豈徒拜伏而已哉。〔北史、齊孝昭帝紀〕帝唯啼泣拜伏、竟無レ所レ言。

【拜服】136 pai^4 fu^2 うやまひ服す。

【拜復】137（ハイフク）謹んでお答へ申し上げる。こたへるの敬語。手紙の用語。復啓。

【拜覆】138（ハイフク）謹んでお答へ申し上げる。拜復。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕妾前來拜覆、省可二裏心頭怒一。

【拜佛】139（ハイブツ）佛像を禮拜する。〔國史略、聖武天皇〕行二幸東大寺一拜レ佛、自稱二三寶奴一。

【拜墳】140（ハイフン）はかまゐり。拜墓。拜掃。〔程氏遺書〕拜墳則十月一日、感二霜露一也、亦稱二饗墳一。

【拜表】141（ハイヘウ）君主又は官府に表を上ること。上奏する。上表。〔曹植、上二責レ躬應レ詔詩一表〕謹拜表、幷獻二詩二篇一。〔李密、陳情表〕臣不レ勝二犬馬怖懼之情一、謹拜表以聞。〔劉禹錫、洛下初冬拜レ表有レ懷上二京故人一詩〕鳳樓南面控二三條一、拜表郎官早渡レ橋。

〘拜表輒行〙142（ハイヘウシテスナハチユク）上書を差出して其の命令の下ることを待たずに出發する。〔晉書、宣五王、新野莊王歆傳〕公荷二蕃屏之任一、居二推轂之重一、拜レ表輒行、有二何不可一。

【拜廟】143（ハイベウ）廟を參拜する。社寺へ參詣する。〔顏延之、拜二陵廟一作詩〕周德恭二明祀一、漢道尊二光靈一。

【拜別】144（ハイベツ）暇乞する。お別れする。〔項斯、留二別張水部籍一詩〕省中重拜別、兼領寄レ人書。

【拜母】145（ハイボ）母を拜す。〔後漢書、袁閎傳〕乃築二土室一、云云、不レ爲レ戶、云云、旦於二室中一、東向拜レ母。〔吳志、張昭傳〕升レ堂拜レ母。

【拜墓】146（ハイボ）はかまゐり。墓參。展墓。〔梁書、呂僧珍傳〕表求レ拜レ墓、高祖欲レ榮レ之。

【拜捧】147（ハイホウ）ぬかづいて兩手をささげて受ける。恭しく受けとる。拜受。〔曾鞏、北歸詩〕拜二捧恩書一喜滿レ顏、馬蹄遙望二斗杓一還。

【拜命】148（ハイメイ）㊀辱けないおことばを謝す。〔左氏、莊、十一〕對曰、孤實不レ敬、天降二之災一、又以爲二君憂一、拜二命之辱一。〔注〕謝レ辱二厚命一。㊁おほせをうけたまはる。命を承る。〔岑參、送二顏平原一詩〕吾兄鎭二河朔一、拜レ命宣二皇猷一。㊂官職に任ぜられる。拜官。〔南史、歐陽頠傳〕乃授二武州刺史一、尋授二郢州一、欲レ令レ出レ嶺、蕭勃留レ之、不レ獲二拜命一。

【拜盟】149 pai^4 mêng^2 兄弟の契を結んだ人。

【拜面】150（ハイメン）面會することの敬語。拜顏。拜眉。〔運步色葉集〕拜面。

【拜門】151（ハイモン）㊀門に至りて拜謝する。〔孟子、滕文公下〕大夫有レ賜二於士一、不レ得レ受二於其家一、則往拜二其門一。〔元史、趙孟頫傳〕先往拜二其門一、而後入レ院。㊁結婚後、始めて夫が妻の生家に行くこと。壻入り。回門。轉馬。〔暖姝由筆〕今人娶レ婦之明日、壻率レ妻具レ禮、同至二妻家一、拜禮、名二拜門一、亦曰二回門一、又名二轉馬一、若有二鄉地遠者一、或壻獨行有レ之、或擇二別日一有レ之、春秋宣五年、齊高固及二子叔姬一來、傳曰、此以二高固皆來反レ馬非レ禮、蓋轉馬卽反馬也。〔夢粱錄、嫁娶〕兩新人於二三日或七朝九日一、往二女家一行二拜門禮一。㊂新官吏が着任した時、公署の儀門に向つて拜し畢つて始めて入ること。㊃後進者が先輩の德望ある者に對して、其の門下生ではないが、弟子の列に居るを甘んずるをいふ。〔直語補證〕徐幹中論、譴交篇云、有三榮二名於朝一、而稱二門生於富貴之家一者、是今拜門生之始。

【拜颺】152（ハイヤウ）拜禮して宣言する。〔書、益稷〕皐陶拜手稽首颺言曰、念哉。〔傳〕大言而疾曰レ颺。

【拜容】153（ハイヨウ）おたまやで祖先の容像を拜すること。〔遼史、禮志一、吉儀〕告廟謁廟、皆曰二拜容一。

【拜覽】154（ハイラン）謹んで見る。覽るの敬語。拜見。〔增補下學集、下一、態藝〕拜覽。

【拜領】155（ハイリヤウ）㊀禮物を受ける。〔類書纂要、人事部一〕拜領、拜而受二人之禮一曰二拜領一。㊁貴人又

は君主から品物を賜はること。頂戴。拜戴。〔源平盛衰記、十六、三位入道藝事〕賴政は、左の袂を擁げて、畏まつて是れを拜領す。

【拜禮】156 ハイレイ ❶おじぎをする。又、其の敬禮。禮拜。〔儀禮、聘禮〕明日賓拜二禮於朝一。〔史記、孔子世家〕將二往拜禮一。❷pai^4 li^3 結納の式に男家より結納を持つて行つた婦人と里方の婦人と互に挨拶の禮があり、其の時年下の者に禮物を送るをいふ。

【拜奧禮】157 ハイアウレイ 皇后を納れるとき、族中の尊者一人が奧に當つて坐して其の禮を掌り、初めて后を送る者が、拜して敬を致すをいふ。〔遼史、國語解〕拜奧禮、凡納レ后、卽族中選二尊者一人一當レ奧而坐、以主二其禮一、謂二之奧姑一、送レ后者拜而致レ敬、故云二拜奧禮一。

【拜違後】158 pai^4 wei^2 hou^4 別後。

【拜下風】159 pai^4 hsia^4 fêng^1 人の下に從ふ。

【拜江豬】160 ハイカウチョ 江豚(6－17140・・342)の異名。〔事物異名錄、水族、江豚〕山堂肆考、江豚俗呼二拜江豬一。

【拜喜神】161 pai^4 hsi^3 shen^2 上元の夜、親戚相集まつて祖先の畫像を拜禮すること。江蘇省蘇州地方の風習。

【拜火教】162 ハイクワケウ 火を神としてをがむ宗教。ペルシヤ、及び印度の古代宗教には火神を崇拜したものが多い。中國では唐代に行はれたゾロアスタ教、卽ち祆教がある。マツダ教。祆教(8－24638・・1)を見よ。

【拜稽首】163 ハイケイシュ 人を敬し、頭を下げて手に至り、又地に至ること。拜手稽首。〔書、舜典〕禹拜稽首。〔傳〕稽首、首至レ地。〔日知錄、雜事、拜稽首〕古人席レ地而坐、引レ身而起則爲二長跪一、首至レ手則爲二拜手一、手至レ地則爲レ拜、首至レ地則爲二稽首一、此禮之等也、君父之尊必用二稽首一、拜而後稽首、此禮之漸也、必以二稽首一終、此禮之成也、今大明會典曰、後一拜叩頭成レ禮、此古之遺意也。

【拜衮歲】164 ハイコンノトシ 二十四歲をいふ。後漢の鄧禹が二十四歲で大司徒に拜せられ、侯に封ぜられた故事。〔南史、宋宗室及諸王上、彭城王義康傳〕義康性好二吏職一云云、素無二術學一、待二文義一者甚薄、袁淑嘗詣二義康一、義康問二其年一、答曰、鄧仲華拜レ衮之歲、義康曰、身不レ識也。

【拜唐阿】165 ハイタウア 清代、皇帝行幸のとき順路を檢分し先驅をするもの。〔清會典事例、宗人府、職制、扈從〕皇子本有二太監諸達哈哈殊色拜唐阿一、可二以隨入伺候一。

【拜達兒】166 バイダル Baidar 元初、蒙古の王族。察合台の第三子。第五代察合台汗阿魯忽の父。拔都の麾下に屬して、西征の軍に加はり、露西亞の地を荒掠し、進んで匈牙利に入る。拔都の諸軍と匈牙利の地を荒す事三年にして歸國した。或は又其の戰中戰死したともいふが、其の後の消息は全く不明。〔新元史、一百七〕。

【拜把子】167 pai^4 pa^3 tzŭ 兄弟の盟をする。拜盟(149)に同じ。

【拜靶子】168 pai^4 pa^3 tzŭ 兄弟分の盟を結んだ人。父祖三代の名貼を交換して義兄弟の盟を爲すこと。

【拜物教】169 ハイブツケウ 庶物を神としてをがみまつる宗教。呪物崇拜。Fetchism

【拜萬壽】170 pai^4 wan^4 shou^4 天長節を祝ふ。

【拜利市】171 pai^4 li^4 shih^4 十二月に一般民衆が神を敬すること。浙江省湖州地方の風習。

【拜狸奴】172 pai^4 li^3 nu^2 僧侶を罵る語。

【拜達里克】173 ハイタツリコク 地名。外蒙古の賽音諾顏右末旗。

【拜竹詩龕】174 ハイチクシガン 清、馮登府(12－44579・・275)の室名。

【拜里厄司】175 パイリーアス ピレウス 地名。ギリシヤの重要港。アテネの外港。Peiraeus, Piraeus の音譯。

【拜延八都魯】176 ハイヤンパトロ 元の人。幼にして太祖に事へ、名を都魯と賜はる。宋兵を敗り蒙古奧魯を授けらる。〔元史、一百二十三〕。

【拜塔里克河】177 ハイタフリコクカ 川の名。もと貝德勒克河に作る。外蒙古三音諾顏部の北境。三水源がある。皆杭愛山脈の庫庫嶺の南麓。察漢泊に注ぐ。〔清史稿、地理志〕外蒙古、賽音諾顏部、右翼右後旗。〔注〕以レ功晉二郡王一、世二襲佐領二一牧地一、當二拜塔里克源北札克額泌山一、拜塔里克舊作二貝德勒克一。

【拜他拉布勒哈番】178 ハイタラフフレツカフバン 清代、滿洲の爵名。乾隆の時改めて騎都尉とした。〔清會典事例、兵部、官制、舊設武職品級〕舊設漢人世襲武職、順治八年定、云云、拜他喇布勒哈番、再一拖沙喇哈番、稱爲二外衞指揮僉事一、正四品、拜他喇布勒哈番、稱爲二外衞指揮副僉事一、從四品。〔清會典事例、兵部、官制、舊設武職品級〕乾隆元年奏准、封爵之制、成周以來、列レ爵惟五、云云、國朝定レ制、公侯伯之下、未レ立二子男之爵一、別列二五等世職一以視二古法一、尤爲二隆備一、但未レ定二漢文名稱一、今敬擬二精奇尼哈番一等者一、漢文稱爲二一等子一、云云、拜他拉布勒哈番、漢文稱爲二騎都尉一。

【拜】11969′ ハイ 拜(5－11969)の略字。

【拏】11970 ワン 捥(5－12181)に同じ。〔字彙〕拏、同レ捥。

【⿰扌朮】11971 ハツ ⿰扌巿(5－11832)の本字。〔正字通〕⿰扌朮、⿰扌巿本字。

【扷】11972 ハツ 拔(5－11959)に同じ。〔韻會〕扷、與レ拔同。

【⿱氶手】11973 シヨウ 承(5－11852)に同じ。〔集韻〕承、或作レ⿱氶手。

【⿰扌匈】11974 ダウ 撓(5－12698)に同じ。〔集韻〕撓、或作レ⿰扌匈。

【⿰丬手】11975 シヤウ 將(4－7438)の古字。〔說文長箋〕⿰丬手、古將字。

【⿰扌皿】11976 チヤウ 〔字彙補〕知亮切 漾 **ととのつてみだれない。**〔字彙補〕⿰扌皿、整而不レ亂也。

【⿱古手】11977 コ 辜(10－38636)に同じ。〔字彙補〕⿱古手、與レ辜同。

【⿱玄手】11978 ケン 牽(7－20025)に同じ。〔字彙補〕⿱玄手、與レ牽同。

【⿰扌永】11979 カツ ケチ 〔川篇〕古黠切 黠 **指がつきる。**〔川篇〕⿰扌永、指盡也。

【⿰扌永】11980 音義未詳 ⿰扌烝に同じ。〔字彙補〕⿰扌永、同レ⿰扌烝。

【⿰扌外】11981 ジヨウ 義未詳。〔篇海〕⿰扌外、音蒸。

【⿰扌丘】11982 テイ 抵(5－11921)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰扌丘、同レ抵。

【⿰扌犬】11983 セツ セチ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰扌犬、子列切。

【拟】11984 ギ 擬(5－12870)の俗字。〔辭海〕拟、擬俗字。

【拠】11985 キヨ 據(5－12839)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕據、古今雜劇・三國志平話・太平樂府・嶺南逸事、作レ拠。

【拡】11985′ クヮク　擴（5－12895）の略字。

六畫

【拪】11986 ㊀セン〔集韻〕親然切 先　㊁イ〔集韻〕余支切 支

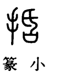
㊀うつる。遷（11－39123）に同じ。〔集韻〕遷、說文、登也、隷作㆑遷、古作㆑拪。㊁うつる。迻（11－38833）に同じ。〔集韻〕迻、說文、遷徙也、或作㆑拪。

【拪塋】1 セン エイ　改め葬むる。〔金石綜例〕拪塋者、因㆓舊塋不㆑吉而拪葬也。

【拫】11987 ㊀コン ゴン〔集韻〕胡恩切 元　㊁コン ゴン〔集韻〕下懇切 阮　㊂コン ゴン〔集韻〕胡艮切 願

㊀❶ひく。〔廣雅、釋詁一〕拫、引也。〔廣韻〕拫、急引。〔玉篇〕拫、輓也。❷おしのける。〔唐書、裴度傳〕爲㆓姦憸㆒拫抑。〔唐書、崔威傳〕力拫㆓卻之㆒。❸或は艮（9－30596）・掀（5－12230）に作る。〔集韻〕拫、或作㆓艮・掀㆒。㊁㊂ひく。㊀の❶に同じ。〔集韻〕拫、牽也。〔集韻〕拫、引也。

【括】11988 クヮツ クヮチ〔集韻〕古活切 曷　ㄍㄨㄚ kua¹　ㄎㄨㄛˋ k'uo⁴


小篆

❶くくる。㋑たばねる。もと捪（5－12126）に作る。〔說文〕捪、絜也、从㆑手昏聲。〔康熙字典〕括、說文、本作㆑捪。〔禮、檀弓上〕袒括髮。〔莊子、寓言〕向也括而今也被髮。〔釋文〕括、司馬云、謂㆓括髮㆒也。㋺むすぶ。〔易、坤〕六四、括㆑囊。〔釋文〕括、結也。㋩つつむ。まとめる。〔增韻〕括、包括也。〔北史、魏太武五王傳〕總㆓括古今㆒。㋥をさめる。收容する。〔北史、孫搴傳〕時大括㆑人爲㆓軍士㆒。㋭もりいれる。〔賈誼、過秦論〕有㆘席㆓卷天下㆒、包㆓舉宇內㆒、囊㆓括四海㆒之意㆖。〔注〕良曰、括、盛也、猶㆓囊盛而結㆒㆑之。㋬もとめる。さがす。たづねる。〔陶弘景、本草序〕苞㆓綜諸經㆒、研括煩省。㋣とりしまる。ただす。〔集韻〕括、一曰、檢也。〔唐書、食貨志一〕鑄㆑錢括㆑苗。㋠ひきしめる。法度にしたがふ。〔法言、脩身〕其爲㆑外也肅括。〔注〕括、法也。❷くくり。〔夢溪筆談、樂律一〕橫括、疑所謂旋蟲也。❸のり。〔廣雅、釋詁一〕括、灋也。❹はかる。〔蔡邕、郭有道碑文〕隱括足㆓以矯㆒㆑時。〔注〕善曰、括、猶㆑量也。❺やはず。栝（6－14706）・筈（8－25990）に通ず。〔說文通訓定聲〕括、叚借爲㆑栝。〔集韻〕筈、箭末曰㆑筈、或作㆑括。〔書、太甲上〕若㆘虞㆓機張㆒、往省㆓括于度㆒、則釋㆖。〔疏〕括、謂㆓矢末㆒。〔張衡、西京賦〕尋㆑景追㆑括。❻はぐ。つがへる。〔淮南子、人閒訓〕一鼓民被㆑甲括㆑矢。❼いたる。あつまる。佸（1－564）に通ず。〔說文通訓定聲〕括、叚借爲㆑佸。〔廣雅、釋詁二〕括、至也。〔詩、王風、君子于役〕日之夕矣、羊牛下括。〔傳〕括、至也。〔陳奐傳疏〕下括、猶㆓下來㆒、括與㆑佸、義相近。〔詩、小雅、車舝〕德音來括。〔傳〕括、會也。〔釋文〕括、本亦作㆑佸。〔陳奐傳疏〕君子于役傳、佸、會也、括與㆑佸同義。❽おこる。适（11－38844）に通ず。〔說文通訓定聲〕括、叚借爲㆑适。〔易、繫辭下〕動而不㆑括。〔虞注〕括、作也。❾とぢる。ふさぐ。𠯑（2－3345）に通ず。〔方言、十二〕括、閉也。〔廣雅、釋詁三〕括、塞也。❿髺（12－45439）・鬠（12－45597）に通ず。〔一切經音義、十二〕括、古文、髺・鬠、二形。⓫擓（5－12825）に通ず。〔說文通訓定聲〕括、字亦作㆑擓。

【括菴】1 クヮツ アン　清、陶季（11－41705‥38）の號。

【括羽】2 クヮツ ウ　やはずと鳥羽とをつけて矢を作る。學を修め智をみがいて有用の材となる喩。括而羽㆑之（27）を見よ。〔北史、儒林傳序〕貴遊之輩、飾以㆓明經㆒、可㆑謂㆔稽山竹箭、加㆓之括羽㆒、俯拾㆓青紫㆒、斷可㆑知焉。〔梁簡文帝、徵君何先生墓誌〕括羽儒囿、舟輿席珍。〔王僧孺、爲㆓蕭監利㆒求㆓入學㆒啓〕樸斲成㆓于丹雘㆒、篠蕩資㆓於括羽㆒。

【括香】3 クヮツ カウ　とばりで花を護る。括春（12）に同じ。〔雲仙雜記、惜春御史〕穆宗毎㆓宮中花開㆒、則以㆓重頂帳㆒蒙㆓蔽欄檻㆒、置㆓惜春御史㆒掌㆑之、號曰㆓括香㆒。

【括號】4 k'uo⁴ hao⁴　括線・括弧の類。

【括結】5 クヮツ ケツ　すべくくる。むすぶ。〔易、坤、六四括囊、注〕括結否閉、賢人乃隱。

【括弧】6 クヮツ コ　數字又は文章の前後に挿んで、他との區別を明らかにするために用ひる記號。（ ）・〔 〕・《 》・「 」・『 』・【 】の類。

【括蒼】7 クヮツ サウ　❶山名。浙江省仙居縣の東南。隋書地理志に括蒼縣に括蒼山、唐書地理志に麗水縣に括蒼山ありといふ。仙居縣の東南に在るものが主峯。括はもと栝に作り、欟木をいふ。山に此の木が多いから名づけられたが、後、訛して括に作る。又、眞隱山・天鼻山・蒼嶺ともいふ。〔神仙傳、王遠〕常在㆓崑崙山㆒、往㆓來羅浮・括蒼等山㆒。〔唐六典、尙書、戶部〕江南道、其名山有㆓括蒼㆒。〔讀史方輿紀要、浙江、名山〕括蒼山在㆓台州府西南四十里、處州府縉雲縣東南百里㆒、山連㆓二郡之境㆒、唐六典、江南道名㆑山曰㆓括蒼㆒、西接㆓縉雲㆒、東跨㆓仙居㆒、南控㆓臨海㆒、吳錄云、括蒼山、登㆑之俯㆓視雷雨㆒、有㆓棠溪・赤溪・官溪三水㆒、分流環㆓遶其下㆒、四面石壁可㆑容㆓數千人㆒、亦曰㆓蒼嶺㆒、唐天寶中改㆓名眞隱山㆒、蓋南境之大山也。❷縣名。隋、置く。唐、麗水と改む。浙江省麗水縣の東南。〔讀史方輿紀要、浙江、處州府、麗水縣〕附郭、本漢回浦縣地、隋析置㆓括蒼縣㆒爲㆓處州治㆒、是後皆爲㆓州郡治㆒、唐大歷十四年改㆓今名㆒。

【括撮】8 クヮツ サツ　つまみとる。〔盧照鄰、五悲文〕蹇產推聯、支離括撮。

【括子】9 クヮツ シ　齊の臣の名。〔淮南子、人閒訓〕括子以報㆓於牛子㆒。

【括耳】10 クヮツ ジ　耳にあつまる。かまびすしいこと。〔韓非子、顯學〕千歲萬歲之聲括㆑耳、而一日之壽、無㆑徵㆓於人㆒、此人所㆔以簡㆓巫祝㆒也。

【括州】11 クヮツ シウ　州名。隋、置く。浙江省麗水縣の東南、括蒼山の麓。〔讀史方輿紀要、浙江〕處州府、禹貢揚州地、隋開皇九年、平㆑陳廢㆑郡改置㆓處州㆒、十二年改曰㆓括州㆒、大業初又改爲㆓永嘉郡㆒、唐復曰㆓括州㆒。

【括春】12 クヮツ シユン　とばりで花を護ること。〔玉塵集〕穆宗宮中花開、則以㆓重頂帳㆒蒙㆓蔽欄檻㆒、置㆓惜春御史㆒掌㆑之、號曰㆓括春㆒。〔雲仙雜記〕作㆓括香㆒。

【括柱】13 クヮツ チユウ　柱にくくる。〔逸周書、文傳解〕括㆓柱茅茨㆒、爲㆑愛㆑費。

【括糴】14 クヮツ テキ　民間の穀物をくくり收めて、民に必要な量を殘し、其の餘は盡く官に買入れること。宋の元符元年、始めて之を行ふ。〔宋史、食貨志上三〕其曰㆓括糴㆒、元符元年、涇原經略使章楶、請並邊糴買、豫榜㆓諭民㆒、毋㆑得㆘與㆓公家㆒爭㆖㆑糴、即官儲有㆑之、括㆓索贏糧之家量㆒、存㆓其所㆑用、盡糴入㆑官。

【括帖】15 クヮツ テフ　唐代、科擧に經中の數語を帖出して士を試驗した試驗法をいふ。帖括（4－8849‥5）を見よ。〔臧晉叔、元曲選序〕或謂、元取㆑士有㆓塡詞科㆒、若㆓今括帖㆒。

【括囊】16 クワツナウ ❶囊の口を括るやうに口を閉ぢて言を出さぬこと。口を噤む。默する。〔易、坤〕六四、括囊无レ咎无レ譽。〔疏〕括、結也、囊所ニ以貯レ物、以譬ニ心藏レ知也、閉ニ其知ー而不レ用、故曰ニ括囊ー。〔荀子、非相〕故易曰、括囊無レ咎無レ譽、腐儒之謂也。〔後漢書、楊賜傳〕括囊避レ咎。〔耶律楚材、和ニ張敏之ー詩〕避レ禍宜レ緘レ口、當レ言肯ニ括囊ー。❷くくりまとめる。包羅。〔賈公彥、序周禮廢興〕玄以爲、括ニ囊大典ー、網ニ羅衆家ー。

【括寧】17 クワツネイ 字號。❶遼、蕭韓家奴(9−32012‥540)の字。❷遼、蕭討古(9−32012‥463)の字。

【括買】18 クワツバイ 宋代、官馬支配の等級の一。券馬(2−1966‥7)を見よ。

【括髮】19 クワツパツ 麻で頭髮を束ねること。古、喪禮の一。髻髮。〔儀禮、聘禮〕出祖、括レ髮、入レ門右、卽レ位踊。〔禮、檀弓上〕袒且投ニ其冠ー、括髮。〔禮、喪服小記〕斬衰、括レ髮以レ麻、爲レ母括髮以レ麻。〔左氏、宣、十八〕既復命、袒括レ髮、卽レ位哭、三踊而出。〔漢書、王嘉傳〕罪惡雖レ著、大臣括レ髮關レ械、裸レ躬就レ笞、非四所三以重レ國褒ニ宗廟ー也。

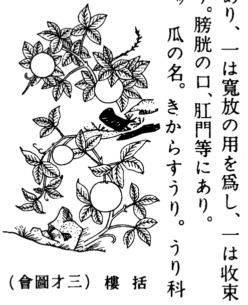
【括蔽】20 クワツペイ 矢じりが深く入ること。〔史記、蘇秦傳〕遠者括蔽洞レ胷、近者鏑弇レ心。〔考證〕括、當レ作レ銛、鏃之似レ鈹、云云、洞不下與ニ下弇字ー對上、疑衍ニ其一字ー、鏑亦矢鋒也、策、作ニ遠者達レ胸、近者掩レ心、掩・弇同、遠近、謂ニ矢之所レ及也。

【括苗】21 クワツベウ 青田を檢し收穫を豫想して貢賦を納めしめること。括は、とりしまる意。〔唐書、食貨志二〕鑄錢、括苗、榷利、借商。

【括約】22 クワツヤク くくりしめる。しかと纏める。

〔括約筋〕23 クワツヤクキン 生理學で環狀の筋の名。兩種の纖維あり、一は寬放の用を爲し、一は收束の用を爲す。膀胱の口、肛門等にあり。

【括樓】24 クワツロウ 瓜の名。きからすうり。うり科の宿根草で、夏、花を開き、秋、黃色の實を結ぶ。栝樓。



括樓 (三才圖會)

【括胎蟲】25 クワツタイチユウ なめくぢの異名。

【括地志】26 クワツチシ 書名。五百五十卷、序略五卷。唐、貞觀十二年、魏王泰が著作郞蕭德言・祕書郞顧胤等に命じて撰せしめ、四年を經て成る。今佚す。清、孫星衍、史傳中から其の逸文を輯めて八卷としたのが今本である。其の第一卷は序略、以下七卷は州によつて排列し、終に補遺を附す。〔岱南閣叢書〕・〔正覺樓叢刻〕・〔漢學堂叢書〕・〔槐廬叢書、第六・七冊〕。

【括而羽レ之】27 クワツシテコレニウス やはずをつけ鳥羽をつけて矢を作る。學を修め智をみがき、有用の材となる喩。括羽(2)を見よ。〔孔子家語、子路初見〕子路曰、南山有レ竹、不レ揉自直、斬而用レ之、達ニ于犀革ー、以レ此言レ之、何學之有、孔子曰、括而羽レ之、鏃而礪レ之、其入レ之不ニ亦深ー乎。

【括地象圖】28 クワツチシヤウヅ 古代、禹が得たといはれる地理書。久しく佚してゐたが、清の孫穀が殘遺を掇輯して古微書に收めた。〔尙書緯刑德放〕禹長ニ于地理ー、水泉九州、得ニ括地象圖ー、故堯以爲ニ司空ー。

【拭】11989

シヨク シキ 〔集韻〕設職切 ㄕˋ shih⁴ 職

❶ぬぐふ。ふく。きよめる。〔爾雅、釋詁〕拭、清也。〔六書故〕拭、以レ巾拭ニ垢濡ー也。〔儀禮、聘禮〕賈人北面、坐拭レ圭。〔注〕拭、清也。〔漢書、張敞傳〕天下莫レ不ニ拭レ目傾レ耳、觀レ化聽レ風。❷或は帓(4−8869)に作る。〔集韻〕拭、或从レ巾。

【拭劍】1 シヨクケン 劍をぬぐひきよめる。〔國史略、安德天皇〕命爲ニ前鋒ー、進斬ニ一將ー、而未レ及レ拭レ劍、馬逸與レ衆相失。

【拭眥】2 シヨクシ まなじりをぬぐふ。〔列子、湯問〕方レ晝拭レ眥。

【拭淨】3 shih⁴ ching⁴ ふききよめる。拭清。

【拭清】4 シヨクセイ ぬぐひきよめる。又、惡弊を除去する。〔爾雅、釋詁〕拭、清也。

【拭素】5 シヨクソ 白いものをぬぐふ。〔淮南子、說山訓〕以レ涅拭レ素。

【拭掉】6 shih⁴ tiao⁴ 拭き落す。拭ひ去る。

【拭拂】7 シヨクフツ ぬぐひはらふ。拂拭。

【拭面】8 シヨクメン 顏をふく。〔公羊、哀、十四〕反レ袂拭レ面、涕沾レ袍。〔論衡、指瑞〕反レ袂拭レ面。〔杜預、春秋左氏傳序〕至三於反レ袂拭レ面、稱ニ吾道窮ー、亦無レ取焉。

【拭目】9 シヨクモク めをぬぐふ。一段の注意を加へて見ること。〔漢書、張敞傳〕今天子以ニ盛年ー初卽レ位、天下莫レ不ニ拭レ目傾レ耳、觀レ化聽レ風。〔注〕言丁改ニ易視聽ー、欲丙急聞乙見善政化甲也。〔後漢書、黃瓊傳〕天下拭レ目。〔楊脩、答ニ臨淄侯ー牋〕駭視而拭レ目。〔宋史、司馬光傳〕光知ニ陳州ー、過レ闕、留爲ニ門下侍郞ー、云云、是時天下之民、引レ領拭レ目、以觀ニ新政ー。

【拭淚】10 シヨクルイ なみだをぬぐふ。抆淚。〔梁昭明太子、擬古詩〕窺レ紅對レ鏡斂ニ雙眉ー、含レ愁拭レ淚坐相思。〔劉孝威、奉ニ和湘東王應令春宵ー詩〕迴レ釵挂ニ反環ー、拭レ淚繩ニ春線ー。

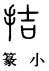
【拭掃除】11 フキサウヂ 室內を掃き、雜巾掛けをすること。

【拮】11990

㊀ケツ ケチ 〔集韻〕吉屑切 ㄐㄧㄝˊ chieh² 屑

㊁キツ キチ 〔集韻〕激質切 質

㊂カツ ケチ 〔集韻〕訖黠切 黠



小篆

㊀❶はたらく。手も口も共にうごかす。〔說文〕拮、口手共有レ所レ作也、从レ手吉聲、詩曰、予手拮据。〔段注〕豳風予手拮据、傳曰、拮据、撠挶也、手病口病、故能免ニ於大鳥之難ー、韓詩曰、口足爲レ事曰ニ拮据ー、韓之足、卽毛之手也、許蓋合ニ毛韓ー爲ニ此訓ー。❷あげる。揭(5−12389)に同じ。〔集韻〕揭、擧也、或作レ拮。㊁はたらく。㊀の❶に同じ。〔集韻〕拮、拮据、手病、詩余手拮据。㊂❶する。せまる。戛(5−11598)に同じ。〔集韻〕戛、說文、戟也、一曰、轢レ之也、或作レ拮。〔戰國、秦策〕句踐終拮而殺レ之。〔注〕拮・戛同、轢也、蓋逼レ之。❷㊀の❶に同じ。〔集韻〕拮、拮据、口手營作也。

【拮隔】1 キツカク 桔隔に同じ。桔隔(6−14777‥4)を見よ。

【拮据】2 キツキヨ ❶手と口と共にうごかすこと。忙しく働くさま。〔詩、豳風、鴟鴞〕予手拮据。〔傳〕拮据、撠挶也。〔疏〕撠挶、謂下以ニ手爪ー挶中持草上也。〔陳奐傳疏〕玉篇云、拮据、手病也、戟挶者、卽手病之謂、戟、俗作レ撠。〔集傳〕拮据、手口共作之貌。❷難儀する。又、財政が窘迫する。裕かでない生活をする。〔桃花扇、卻奩〕卻也拮据作レ客。

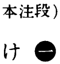
〔拮据黽勉〕3 キツキヨビンベン はたらきつめること。黽勉(12−48257‥4)を見よ。

【拮抗筋】4 キツカウキン 生理學上、互に反對動作をする筋肉。

【拯】11991

シヨウ 〔集韻〕蒸之上聲 ㄓㄥˇ chêng³ 迥

慣ジヨウ



小篆(段注本)

❶すくふ。すくひあげる。たすける。〔說文〕拯、上擧也、出レ休爲レ拯、从レ手丞聲、易曰、拯、馬壯、吉。〔段注〕各本篆作レ抍、解、無ニ出レ休爲レ拯四字ー、丞聲作ニ升聲ー、拯馬作ニ抍馬ー、今皆正、易明夷釋文曰、丞音拯救之拯、說文云、擧也、子夏作レ抍、字林云、抍上擧、音承、然則說文作レ拯、字林作レ抍、在ニ呂時ー爲ニ古今字ー、陸引無ニ上字ー、而李注羽獵賦引有レ之、李注謝靈運擬鄴中集詩・曹植七啓・潘勖九錫文・傅亮修ニ張良廟ー教・王巾頭陁寺碑、皆引ニ說文出レ溺爲レ拯、是古本確有ニ此四字ー、方言曰、躪・抍、拔也、出レ休爲レ抍、出レ火爲レ躪、方言之書字多經ニ轉寫ー、改作レ抍、卽以ニ今字ー

改二古字一之一。〔易、渙〕用拯、馬壯、吉。〔釋文〕拯、馬云、擧也、王肅云、拔也、伏曼容云、濟也。〔左氏、宣、十二〕目二於眢井一而拯レ之。〔注〕出レ溺爲レ拯也。〔孟子、梁惠王下〕民以爲レ將レ拯二己於水火之中一也。〔注〕拯、濟也。〔淮南子、氾論訓〕則捽二其髮一而拯。〔注〕拯、升也。❷**とる**。〔易、艮〕不レ拯二其隨一。〔虞注〕拯、取也。❸**うける**。〔易、明夷〕用拯、馬壯。〔釋文〕拯、鄭云、承也。❹拼(**5－11879**)に同じ。〔說文通訓定聲〕拯、按、當レ爲二拼之或體一。〔集韻〕拼、或作レ拯。〔易、渙、釋文〕拯、子夏傳作レ拼。

參考 繋傳本等は拼(**5－11879**)に作る。今段注本と共に兩存する。〔說文、拯、段注〕拯、各本作レ拼、今正。

【拯饑】1（ジョウキ） うゑをすくふ。〔論衡、感虛〕田出レ穀以拯レ饑。

【拯救】2（ジョウキウ） たすけすくふ。救濟する。救恤。〔蜀志、郤正傳〕此誠聖賢拯救之秋、烈士樹レ功之會也。〔宋書、孝義、嚴世期傳〕馳往拯救、分レ食解レ衣。

【拯活】3（ジョウクワツ） すくひたすける。〔福惠全書、荒政部、總論〕拯二活京東饑民五十餘萬一之成效也。

【拯濟】4（ジョウサイ） たすけすくふ。〔宋史、隱逸上、戚同文傳〕人有二喪者一、力拯二濟之一。

【拯之】5（ジョウシ） 金、郭文振(**11－39474‥407**)の字。

【拯恤】6（ジョウジュツ） すくひめぐむ。〔晉書、武帝紀〕百姓失レ業、云云、宜三時拯恤、救二其彫困一。

【拯贖】7（ジョウショク） すくひあがなふ。〔蘇武、報二李陵一書〕幸賴二聖明一、遠垂二拯贖一。

【拯世】8（ジョウセイ） 世をすくふ。〔崔寔、政論〕濟レ時拯レ世之術、豈必體レ堯蹈レ舜、然後乃治哉。

【拯贍】9（ジョウセン） すくひにぎはす。〔吳志、是儀傳〕拯二贍貧困一、家無二儲畜一。〔北史、魏宣武紀〕以二六鎭大饑一、開レ倉拯贍。

【拯道】10（ジョウダウ） 道を學ぶことに志して念々止まないこと。齋の一種。〔雲笈七籤〕本相經曰、齋有二二種一、一則拯道、二則濟度、拯道者、謂下發二心學レ道、從レ初至レ終、念念持レ齋、心心不上レ退。

【拯擢】11（ジョウテキ） 救ひあげる。〔吳志、薛綜傳〕拯二擢泥汗一、釋二放巾褐一。

【拯溺】12（ジョウデキ） 水に溺れるを救ふ。〔呂覽、察微〕子路拯二溺者一、其人拜レ之以レ牛、子路受レ之、孔子曰、魯人必拯二溺者一矣。〔淮南子、說林訓〕拯レ溺而授二之石一。〔論衡、自紀〕救レ火拯レ溺。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕拯レ溺無レ待二於規行一。

【拯難】13（ジョウナン） 難儀をすくふ。〔魏志、文帝紀〕賴二武王神武一、拯二茲難于四方一。〔北齊書、王晞傳〕拯二難匡輔、方俟二聖哲一。

【拯撫】14（ジョウブ） すくひいたはる。〔晉書、桓尹傳〕尹隨レ宜拯撫、百姓賴焉。

【拯弊】15（ジョウヘイ） 衰へたるをすくふ。〔陸雲、晉故豫章內史夏府君誄〕齊レ俗拯レ弊、民靡レ不レ嘉。〔北史、爾朱榮傳論〕遂有二匡頹拯弊之志一。

【拯亂】16（ジョウラン） 亂をすくふ。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕龕世拯亂之情。

【抳】11992

ヂン ニン 〔集韻〕尼凜切 寑

❶**からめる**。〔集韻〕抳、搦也。❷**弓を調へる**。抳搦。〔集韻〕抳、一曰、抳搦、調レ弓皃。❸**ゆる**。ゆりうごかす。〔字彙〕抳、一曰、搖也。

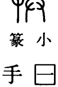
【孩】11993

㊀ カイ ガイ 〔集韻〕下改切 賄
㊁ キ ケ 〔集韻〕許既切 未
㊂ カイ ガイ 〔集韻〕戶代切 隊
㊃ ヰ 〔集韻〕于貴切 未

㊀❶**うごく**。〔集韻〕孩、動也。❷**へる**。〔集韻〕孩、減也。㊁㊂**うごく**。うごきゆれるさま。〔集韻〕孩、動搖皃。〔集韻〕孩、廣雅、動也。㊃❶**うごく**。㊀❶に同じ。〔集韻〕孩、博雅、動也。❷**になふ**。〔集韻〕孩、一曰、擔也。

【拱】11994

㊀ キョウ ク 〔集韻〕古勇切 ㄍㄨㄥˇ kung³ 腫
㊁ キョウ ク 〔集韻〕居用切 宋
㊂ キク ゴク 〔集韻〕渠竹切 屋
㊃ キョウ ク 〔集韻〕居容切 冬
慣 コウ


小篆

㊀㊁❶**こまぬく**。㋑禮の一。兩手を胸前でかさねあはせる。男子は吉時には左を前にし、凶時には右を前にする。婦人は男子と吉凶を反對にする。〔說文〕拱、斂レ手也、从レ手共聲。〔段注〕古有二九拜之禮一、皆必拱手至レ地、立時、敬則拱レ手。〔說文通訓定聲〕拱、謂レ沓二其手一、右手在レ內、左手在レ外、男之吉拜尙レ左、女之吉拜尙レ右、凶拜反レ是、九拜必皆拱レ手。〔禮、檀弓上〕孔子與二門人一立、拱而尙レ右、二三子亦皆尙レ右、孔子曰、二三子之嗜レ學也、我則有二姉之喪一故也、二三子皆尙レ左。〔論語、微子〕子路拱而立。〔皇疏〕拱、沓手也。㋺手を束ねて事をなさないさま。〔書、武成〕垂拱而天下治。❷**うやうやしい**。〔詩、衞風、氓、隰則有レ泮、箋〕淇與レ隰皆有二厓岸一、代自拱持。〔釋文〕拱、本又作レ共。❸**とる**。収(**2－3126**)に通ず。〔說文通訓定聲〕拱、叚借爲レ収。〔爾雅、釋詁〕拱、執也。〔國語、吳語〕擁レ鐸拱レ稽。〔注〕拱、執也。❹**かかへる**。兩腕でだく。〔左氏、僖、三十二〕爾墓之木拱矣。〔注〕合レ手曰レ拱。〔淮南子、繆稱訓〕交拱之木。〔注〕拱、抱也。❺**兩手で握る。又、その大きさ**。〔說文、拱、段注〕拱、尙書大傳注曰、兩手搤レ之曰レ拱、然則桑穀一暮大拱、孟子拱把之桐梓、皆非二沓レ手之拱一、拱之小者也。〔孟子、告子上〕拱把之桐梓。〔注〕拱、合二兩手一也。〔集注〕拱、兩手所レ圍也、把、一手所レ握也。〔呂覽、制樂〕成湯之時、有レ穀生二於庭一、昏而生、比レ旦其大拱。〔注〕滿二兩手一曰レ拱。❻**めぐる**。とりまく。〔傅玄、晉鼙舞歌明君篇〕衆星拱二北辰一。〔白居易、姚成節右神策將軍知軍事制〕環拱之職。❼**かたい**。鞏(**12－42819**)に通ず。〔廣雅、釋詁二〕拱、固也。〔疏證〕爾雅、鞏、固也、鞏與レ拱通。❽或は共(**2－1458**)に作る。〔集韻〕拱、或省。〔論語、爲政〕而衆星共レ之也、集注〕共、音拱、又作レ拱。❾**姓**。〔萬姓統譜〕拱、見二姓苑一、拱北、和順人、景泰進士。㊂**のり**。〔廣雅、釋詁一〕拱、瀀也。㊃**大きい璧**。珙(**7－20945**)に通ず。〔集韻〕珙、大璧也、春秋傳、與二我其珙璧一、徐邈讀、或作レ拱。

名乘 トル。アツ。

【拱已】1（キョウスルノミ） 手を束ね爲すこと無くして天下が治まる。〔漢書、高后紀贊〕惠帝拱已。〔注〕師古曰、垂拱而治。

【拱挹】2（キョウイフ） 拱揖に同じ。〔荀子、議兵〕拱挹指麾、而彊暴之國、莫レ不二趨使一。

【拱揖】3（キョウイフ） 兩手をこまぬき、之を或は上下し或は左右し、或は推引してゐしやくする。拱挹。拱揖指揮を見よ。〔淮南子、兵略訓〕拱揖指撝、而天下嚮應。〔陸機、辨亡論上〕拱二揖羣后一。〔宋史、呂端傳〕肅然拱揖。

〔拱揖指揮】4（キョウイフシキ） 手をこまぬいてゐしやくしさしづする。〔荀子、富國〕拱揖指揮、而強暴之國、莫レ不二趨使一。

【拱押】5（キョウカフ） とらへおしこめる。檢束する。〔後

漢書、仲長統傳〕網二羅遺漏一、拱二押天人一。〔注〕拱、執也、押、檻也、押、音下甲反。

【拱極】6（キョウキョク） ❶北極星に向ふ。拱辰（14）に同じ。〔論語、爲政〕子曰、爲レ政以レ德、譬如下北辰居二其所一、而衆星共上之也。〔集注〕共、音拱、亦作レ拱、北辰、北極、天之樞也。❷城の名。河北省宛平縣の西、盧溝橋の東。明の崇禎の間、築く。❸字號。㋑明、高斗南（**12**－**45313**‥1290）の字。㋺清、慕天顏（**4**－**11088**‥90）の字。

【拱化】7（キョウクワ） 北宋（仁宗・英宗）の時、西夏の毅宗（李諒祚）の年號。（1063－1067）

【拱稽】8（キョウケイ） 兵數兵器の帳簿を執り掌る。〔國語、呉語〕擁鐸拱レ稽。〔注〕拱、執也、云云、鄭後司農以爲、稽二計兵名籍一也。

【拱護】9（キョウゴ） 擁護する。取り卷き護る。〔宋史、岳飛傳〕仍益レ兵守レ淮、拱二護腹心一。

【拱候】10（キョウコウ） 恭しくまつ。〔桃花扇、劫寶〕愚兄在レ此、拱候多時了。

【拱州】11（キョウシウ） ❶唐、置く。四川省舊龍安府境。❷宋、置く。金改めて睢州といふ。河南省睢縣の西。〔讀史方輿紀要、河南〕睢州、春秋時宋陳二國地、宋屬二開封府一、崇寧四年升二拱州一、建爲二東輔一、大觀中廢、政和四年復置、金改二睢州一。

【拱手】12（キョウシユ） ❶兩手を胸前でかさね合せて行ふ禮。吉事には男は左、女は右を前にする。凶事には之に反する。〔禮、曲禮上〕遭二先生于道一、趨而進、正立拱レ手。〔疏〕拱レ手、見レ師而起レ敬、故疾趨而進就レ之也。〔管子、霸形〕拱手而問曰。❷手を束ねて、何事もせぬこと。〔戰國、秦策〕王一善レ楚、而關内二萬乘之主一、注二地於齊一、齊之右壤、可二拱レ手而取一也。〔史記、秦始皇紀〕秦人拱レ手而取二西河之外一。

【拱樹】13（キョウジユ） 兩手をもつて圍む程の大きさの木。〔陶弘景、許長史舊館壇碑〕拱樹霜摧、脩庭草委。〔陳子昂、爲レ人陳レ情表〕宿草成刊、拱樹荒涼。

【拱辰】14（キョウシン） ❶衆星が北辰に向ふことで、四方の民が天子の德化に歸するをいふ。拱極。〔論語、爲政〕子曰、爲レ政以レ德、譬如下北辰居二其所一、而衆星共上之也。〔集注〕共、音拱、亦作レ拱、北辰、北極、天之樞也、居二其所一、不レ動也、共、向也、言、衆星四面旋繞而歸二向之一也、爲レ政以レ德、則無レ爲而天下歸レ之、其象如レ此。〔宋史、外國三、高麗傳〕載推二柔遠之恩一、式奬二拱辰之志一。❷宋、楚昭輔（**6**－**15141**‥171）の字。

【拱辰管】15（キョウシンクワン） 樂器の名。〔宋史、文苑一、和峴傳〕其執持之狀、如二拱揖然一、請レ目、曰二拱辰管一。

【拱宸】16（キョウシン） ❶城の名。新疆省霍爾果斯縣城。❷明、石星（**8**－**24024**‥458）の字。

【拱宸橋】17（キョウシンケウ） 橋の名。浙江省杭縣の北、武林門外。橋は明の夏時正が倡募して建てた。運河の上に跨る。後、淸の雍正の時重建した。〔杭州府志〕拱宸橋、明末商人夏木江施二銀三千一倡募建、尋圮、今惟橋址石尙存。

【拱宸堂】18（キョウシンダウ） 明、孫樓（**3**－**6987**‥306）の室名。

【拱鼠】19（キョウソ） いたちの一種。人を見ればこまぬき立つやうにするから名づく。禮鼠。〔關尹子、三極〕師二拱鼠一制レ禮、師二戰蟻一置レ兵。〔異苑〕拱鼠、形如二常鼠一、行二田野中一、見レ人卽拱レ手而立、秦川有レ之。

【拱南】20（キョウナン） 明、鄭景曜（**11**－**39647**‥354）の「名。

【拱把】21（キョウハ） 兩手で握ることと片手で握ること、又、其の太さ。拱把桐梓を見よ。〔莊子、人閒世〕宋有二荊氏者一、宜二楸・柏・桑一、其拱把而上者、求二狙猴之杙一者斬レ之。〔疏〕兩手曰レ拱、一手曰レ把。〔後漢書、崔駰傳〕伐二尋抱一不二爲レ之稀一、蓺二拱把一不二爲レ之數一。〔注〕兩手曰レ拱。

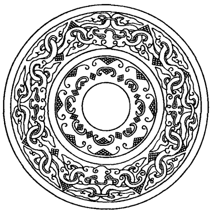
【拱把桐梓】22（キョウハドウシ） 拱把の太さの桐梓。桐梓は二木の名。〔孟子、告子上〕拱把之桐梓、人苟欲レ生レ之、皆知下所二以養一レ之者上。〔集注〕拱、兩手所レ圍也、把、一手所レ握也、桐梓、二木名。

【拱抱】23（キョウハウ） 兩腕でいだく。拱抱之梁を見よ。

【拱抱之梁】24（キョウハウノリヤウ） 兩腕で抱く程あるはり。〔顏氏家訓、名實〕拱抱之梁、每沈二溺於川谷一者、何哉。

【拱仆】25（キョウフ） だきたふす。相撲の一術。〔和漢三才圖會、嬉戲類、相撲〕行司凡有二四十八術一、而今分二數品一也。拱二仆之一、捩二轉之一、掖レ之、攢レ之者、力勝也。

【拱璧】26（キョウヘキ） 兩手で抱へるほどの大きな璧。〔老子、六十二〕故立二天子一、置二三公一、雖レ有三拱璧以先二駟馬一、不レ如三坐進二此道一。〔左氏、襄、二十八〕求二崔杼之尸一、將レ戮レ之不レ得、云云、旣崔氏之臣曰、與二我其拱璧一、吾獻二其柩一、于レ是得レ之。〔注〕崔氏大璧。〔疏〕拱、謂レ合二兩手一也、此璧、兩手拱二抱之一、故謂二大璧一。



拱 璧 （古玉圖）

【拱別】27（キョウベツ） 拱揖してわかれる。〔福惠全書、教養部、學規〕衆各拱別。

【拱北】28（キョウホク） ❶衆星が北辰にむかふこと。拱辰（14）に同じ。〔戴叔倫、贈二徐山人一詩〕針自指レ南天窅窅、星猶拱レ北夜漫漫。❷淸代、海關の名。廣東省香山縣に在り、三角江口に屬す。江海關（**6**－**17140**‥44）を見よ。❸橋の名。江西省宜興縣の西南。拱北橋水の上に架す。

【拱木】29（キョウボク） ❶ひとかかへもある木。大木。〔左思、魏都賦〕僝二拱木於林衡一、授二全模於梓匠一。❷墓に植ゑた木をいふ。〔左氏、僖、三十二〕公使レ謂レ之曰、爾何知、中壽、爾墓之木拱矣。〔江淹、恨賦〕蔓草縈レ骨、拱木斂レ魂。〔李商隱、過二姚孝子廬一偶書詩〕拱木臨二周道一、荒廬積二古苔一。

【拱木不レ生レ危】30（キョウボクハアヤフキニシヤウゼズ） 大木は高い險崖には生えてをらない。良臣が危難の境に生を全くせぬ喩。〔國語、晉語八〕拱木不レ生レ危、松柏不レ生レ埤。〔注〕拱木、大木也、危、高險也、埤、下濕也、以言三文子不二久存一也。

【拱嘿】31（キョウモク） 拱默に同じ。〔魏志、杜畿傳〕尸祿以爲レ高、拱嘿以爲レ智。

【拱默】32（キョウモク） 手を束ねて何事もせずに默つてゐること。〔漢書、鮑宣傳〕以二拱默尸祿一爲レ智。〔王先謙補注〕胡注、拱默、拱レ手而默然不レ言也。〔後漢書、袁譚傳〕拱默以聽二執事之圖一。〔資治通鑑、漢紀〕（順帝、永建元年）臣見、方今公卿以下、類多二拱默一。〔注〕拱默、言三拱レ手而默無二一言一。

【拱和居士】33（キョウワコジ） 明、曹志（**5**－**14297**‥102）の號。

【拲】
11995

小篆 或體

［一］キョウ ク 〔集韻〕古勇切 ［腫］

［二］キョク コク 〔集韻〕拘玉切 ［沃］

［三］キク 〔集韻〕居六切 ［屋］

［一］［二］［三］❶**てかせ**。てぢやう。兩手を木にくくり結ぶ。〔說文〕拲、兩手共同レ械也、从レ手共聲、周禮曰、上罪梏拲而桎。〔周禮、秋官、掌囚〕上罪梏拲而桎。〔注〕拲者、兩手共二一木一也。❷或は桊（**6**－**14733**）に作る。〔集韻〕拲、或作レ桊。❸拱（**5**－**11994**）に通ず。〔說文通訓定聲〕拲、周禮云云、司農注、兩手共二一木一也、按、如二拜之拱一レ手、故曰レ拱、拱・拲、實同字。

【拳】
11996

小篆

［一］ケン ゲン 〔集韻〕逵員切 ㄑㄩㄢˊ ch'üan^2 ［先］

［二］ケン クヮン 〔集韻〕苦遠切 ［阮］

［三］ケン クヮン 〔集韻〕己袁切 ［元］

［一］❶**こぶし**。にぎりこぶし。〔說文〕拳、手也、从レ手弃（关）聲。〔玉篇〕拳、屈手也。〔晉書、劉伶傳〕攘レ袂奮レ拳。❷**にぎる**。こぶしをかためる。〔正字通〕拳、握レ手謂二之拳一。〔顏氏家訓、勉學〕手不レ得レ拳、膝不レ得レ屈。❸**ちから**。〔詩、小雅、巧言〕無レ拳無レ勇。〔傳〕拳、力也。〔國語、齊語〕有下拳勇股肱之力、秀二出於衆一者上。〔注〕大勇爲レ拳。❹**うつ**。たたく。〔傳燈錄〕拳レ頭也不レ識。❺**拳法**。中國固有の體術の名。〔武備志、陣練制、練、教藝、拳〕。〔紀效新書、手足編、拳法解〕拳要三身

法活便、手法便利、腳法輕固、進退得ㇾ宜、腿可二飛騰一。㊅けん。遊戲の一。〔六研齋筆記、四〕俗飲以二手指一屈伸相搏、謂二之豁拳一、又名二豁指頭一、蓋以ㇾ目遙覘ㇾ人、爲二己伸縮之數一、隱機鬭捷、余甚厭ㇾ之。㊆奉持のさま。大切にささげもつ。拳拳。〔集韻〕拳、拳拳、奉持皃。〔禮、中庸〕拳拳服膺。〔注〕拳拳、奉持之貌。㊇憂へるさま。〔集韻〕拳、一曰、拳拳、憂也。㊈いつくしむさま。眷（8－23311）に通ず。〔說文通訓定聲〕拳、叚借爲ㇾ眷。〔廣雅、釋訓〕拳拳、愛也。〔集韻〕拳、一曰、愛也。㊉つとめるさま。〔後漢書、明帝紀〕重ㇾ逆二此縣之拳拳一、〔注〕拳拳、猶二勤勤一也。⑪まく。まがる。かがむ。卷（2－2860）に通ず。〔說文通訓定聲〕拳、叚借爲ㇾ卷。〔莊子、人閒世〕夫仰而視二其細枝一、則拳曲而不ㇾ可三以爲二棟梁一。〔莊子、人閒世〕擎跽曲拳、人臣之禮也。⑫古は捲（5－12294）・攉（5－13003）に作る。〔康熙字典〕拳、古文捲・攉。⑬權（6－15926）に通ず。〔左氏、莊、十九〕鬻拳。〔後漢書、孔融傳〕鬻權。〔左思、吳都賦〕覽二將帥之拳勇一。〔注〕善曰、拳、與ㇾ權同。⑭姓。〔通氏、氏族略、以ㇾ名爲ㇾ氏〕拳氏、芊姓、楚鬻拳之後、衞有二大夫拳彌一。[二]**奉持のさま。**拳拳。〔集韻〕拳、拳拳、奉持皃。[三]**ちから。**[一]㊁に同じ。〔集韻〕拳、力也。〔詩、小雅、巧言〕無ㇾ拳無ㇾ勇、〔釋文〕拳、音權、徐又己袁反。

[解字] 形聲。說文は、手をもととし龹（卷）の聲として形聲字とする。にぎりこぶし。一說に、會意で、手と卷との合字とする。手を張るを掌とし、手を卷くを拳とする。形聲とするのは、龹を拳の本字とし、手に從ひ、拳の省文とする。

【拳握】1 ケンアク にぎりこぶし。僅かなことの喩。〔徐陵、東陽雙林寺傳大士碑〕其外人所ㇾ見者、拳握之內、或吐二異香一。〔陸游、嘉陽官舍奇石云云詩〕散二落支床一壓二酒槽一、大或專車小拳握。

【拳毆】2 ケンオウ 拳打（26）に同じ。

【拳下】3 コブシサガリ 長い物を持つ場合に、手許は低く先端は高くなる持ち方。

【拳奇】4 ケンキ 權謀機略をいふ。權奇。〔還魂記、延師〕須抖擻、要二拳奇一。

【拳脚】5 ch'üan² chiao³ 柔術の一種。拳術と脚蹴術。

【拳曲】6 ケンキョク かがまって拳のやうなさま。〔莊子、人閒世〕夫仰而視二其細枝一、則拳曲而不ㇾ可三以爲二棟梁一。〔釋文〕拳、本亦作ㇾ卷。

【拳跼】7 ケンキョク かがまって不自由なさま。〔李白、答二王十二寒夜獨酌有ㇾ懷詩〕驊騮拳跼不ㇾ能ㇾ食、蹇驢得ㇾ志鳴二春風一。

【拳回】8 ケンマハシ 昔、拳相撲の時に手にかけた甲がけ。

【拳拳】9 ケンケン ㊀ささげもつさま。拳拳服膺を見よ。㊁いつくしむ。〔廣雅、釋訓〕拳拳、愛也。〔列女傳、母儀、魏芒慈母傳〕雖ㇾ不二吾愛一、拳拳若ㇾ親。㊂つつしむ。ねんごろ。〔漢書、司馬遷傳〕拳拳之忠。〔注〕師古曰、忠謹之貌。〔漢書、貢禹傳〕臣禹不ㇾ勝二拳拳一、不三敢不ㇾ盡二愚心一。〔韓愈、閔己賦〕久拳拳其何故。㊃つとめる。〔後漢書、皇后上、馬皇后紀〕違二慈母之拳拳一乎。〔注〕拳拳、猶二勤勤一也。

〖拳拳服膺〗10 ケンケンフクヨウ 拳拳は捧持のさま、服膺は心胸の閒に著けて能く守ること。〔禮、中庸〕得二一善一、則拳拳服膺而弗ㇾ失ㇾ之矣。〔注〕拳拳、奉持之貌。〔釋文〕拳、音權、又起阮反、徐羌權反。〔章句〕拳拳、奉持之貌、服、猶ㇾ著也、膺、胸也。

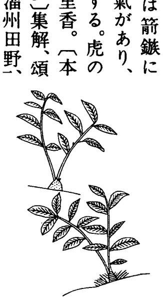
【拳固】11 ゲンコ ㊀にぎりこぶし。拳骨。拳握。㊁コブシガタメ 犬追物を催す前にする飲酒。

【拳骨】12 ゲンコツ にぎりこぶし。拳固。

【拳菜】13 ケンサイ わらびの異名。初出の時、小兒の拳に似るからいふ。蕨。〔爾雅、釋草、蕨虌、義疏〕按、今蕨菜全似二貫衆一而差小、初出如二小兒拳一、故名二拳菜一、其莖紫色、故名二紫蕨一。〔說文通訓定聲〕蕨、初生如二蒜苗一、無ㇾ葉、耑似二鼈腳一、亦似二小兒拳一、故曰二拳菜一、紫黑色、瀹爲ㇾ茹、滑美。

【拳槍】14 ch'üan² ch'iang¹ 拳銃。ピストル。

【拳參】15 ケンサン 多年生草の一種。山野に生じ、其の葉の形は箭鏃に似て香氣があり、香料にする。虎の毛。百里香。〔本草、拳參〕集解、頌曰、生二淄州田野一、葉如二羊蹄一、根似二海蝦一、黑色、土人五月采ㇾ之。



拳參（三才圖會）

【拳師】16 ch'üan² shih¹ 拳法の師匠。

【拳時】17 ケンジ 清、程大中（8－25081・・249）の字。

【拳上】18 コブシアガリ 長い物を持つ場合に、手許を高く先端を下げた持ち方。

【拳酒】19 ケンザケ 拳の勝負によつて飲む酒。拳に負けて飲む酒。

【拳銃】20 ケンジュウ 短銃。ピストル。

【拳術】21 ケンジュツ 徒手で相手をうちたふす術。中國國技の一。我國の柔術に類してゐる。

【拳石】22 ケンセキ こぶしほどの小さな石。〔資治通鑑、唐紀〕何異下睹二拳石一而輕中泰山上乎。

〖拳石堂〗23 ケンセキダウ 清、達禮（11－39011・・127）の室名。

【拳捷】25 ケンセフ こぶしをすばやくうごかす。〔後漢書、呂布傳〕卓拔二手戟一擲ㇾ之、布拳捷得ㇾ免。

【拳打】26 ケンダ こぶしでうつ。〔南史、齊武帝諸子、魚復侯子響傳〕每二入朝一、輒忿拳二打車壁一。

〖拳打脚踢〗27 ch'üan² ta³ chiao³ t'i¹ 打つやら蹴るやら。

【拳大】28 ケンダイ 拳ほどの大きさ。〔神仙傳、壺公〕酒器如二拳許大一、飲ㇾ之、至ㇾ暮不ㇾ竭。〔竹坡詩話〕書如二拳許大一、字畫飛動、可下與二瘞鶴銘離堆記一爭上雄。

【拳端】29 コブシバナ 神社建築などで、ひぢ木のやうに彫刻した柱の向側の頭貫の小口。

【拳頭】30 ケントウ こぶし。拳握。拳頭腳尖を見よ。

〖拳頭腳尖〗31 ch'üan² t'ou² chiao³ chien¹ こぶしとつまさき。轉じて、なぐつたり、けつたりすること。〔水滸傳、五回〕我卻不隄防、揭起張子摸一摸喫那廝揪住一頓、拳頭腳尖打得、一身傷損。

【拳鬭】32 ケントウ 運動競技の一。規定のリング（試合場）にて、一人のレフエリー、二人のジヤッジ立合の下に、グラブをはめた二人が攻擊防禦し、打倒・技倒・判定に依る勝負を爭ふ術。競技者は體重に依り八階級に區別され、同階級同士で鬭ふを原則とす。ボクシング。英語 boxing の譯。

【拳馬】33 ケンバ 物の量を言ひ中てる賭けあそびの一種。俗にいふナンコの類。〔通俗編、器用、籌馬〕今俗猜枚之物、謂二之拳馬一、賭博者以ㇾ物衡ㇾ錢、謂二之馬子一、交易者以ㇾ銅爲ㇾ法衡二銀輕重一、謂二之法馬一、皆屬二計數之意一。

【拳法】34 ケンパフ こぶしで打ち合ふ技。柔術の類。やはら。白打法。〔北史、齊神武紀〕元子幹攘ㇾ臂擊ㇾ之、謂ㇾ騰曰、語二爾高王一、元家兒拳正如ㇾ此。〔紀效新書、手足篇、拳法解〕拳法、似下無ㇾ預二於大戰一之技上、然活二動手足一、慣二勤肢體一、爲二初學之基一。

【拳匪】35 ケンピ 白蓮會の支派。又、義和團といふ。拳棒を練習することを事としたから名づく。我が明治三十一年山東地方に蜂起し、天津居留地を襲ひ、北京の各國公使館を圍む。各國、聯合軍を組織し之を鎭定した。團匪。義和團（9－28504・・287）を見よ。〔清史稿、德宗紀〕光緒二十六年甲子、云云、拳匪起二山東一、號二義和拳一、會假二仇教一爲ㇾ名、劫殺相尋、蔓延滋害。

【拳彌】36 ケンビ 春秋、衞の大夫。衞公輒に信愛せられた。後、褚師比等と亂を作し、衞公は宋に出奔した。〔左氏、哀、二十五〕。

【拳棒】37 ケンボウ 拳術と操棒法。又、武技の總稱。〔福惠全書、刑名部、詞訟、禁二打架一〕近日吳越州邑、有二等無賴少年一、幷糾二合紳衿不肖子弟一、焚ㇾ香歃ㇾ血、公請二教師一、學二習拳棒一、兩臂刺二綉花紋一、身服二齊腰短甲一、狐羣狗黨出二入茶坊酒肆一、蜂游蝶舞、顚二狂紅粉青樓一。

【拳毛】38 ch'üan² mao² 毛むくぢやら。〔長生殿、合圍〕這一員莽兀喇拳毛高鼻。

〖拳毛騧〗39 ケンマウクワ 唐の太宗の騎つた名馬の名。〔金石錄〕太宗六馬、云云、其一曰二拳毛騧一、平二龍黑闥一時所ㇾ乘。〔杜甫、韋諷錄事宅觀二曹將軍畫馬圖一引〕昔日太宗拳毛騧、近時郭家獅子花。

【拳猛】40 ケンマウ 力あつて猛々しいこと。〔顏延之、陽給事誄〕拳猛沈毅、溫敏肅良。

【拳勇】41 ケンユウ ❶勇ましく力のつよいこと。又、其の人。〔詩、小雅、巧言〕無レ拳無レ勇、職爲二亂階一。〔傳〕拳、力也。〔國語、齊語〕於二子之郷一、有下拳勇股肱之力、秀二出於衆一者上。〔注〕大勇爲レ拳。〔管子、小匡〕有下拳勇股肱之力、秀二出於衆一者上、有則以告。❷拳法。〔小知錄〕拳勇有二内外家之稱一、外家起二於少林一、以レ搏レ人爲レ主、人亦得而乘レ之、内家則以レ靜制レ動、犯者應レ手卽仆、蓋傳レ自二宋之張三丰一。

【拳螺】42 ケンラ 榮螺の異名。さざえ。

【拳栗】43 ケンリツ こぶしのやうに大きなくり。〔孔平仲、夢錫楊節之孫昌齡見レ過小飲詩〕拳栗自二東越一、殷榴從二上都一。

【拳攣】44 ケンレン こひ慕ふさま。こがれるさま。眷戀。攣は戀。〔柳宗元、閔生賦〕仰矜レ危而俯慄兮、弭二日夜之拳攣一。〔石介、乙亥冬作二百八十二言一相勉詩〕胸中拳攣蟠二蛟螭一。〔方鳳、游二金華三洞一詩〕遡レ流束レ炬照二徒步一、肩背擦レ石行拳攣。

【拳腕】45 ケンワン こぶしとうで。腕力。〔顏氏家訓、誡兵〕但微行險服、逞二弄拳腕一。

【揮レ拳】46 コブシヲフルフ こぶしをふるふ。腕力をふるふ。〔書評〕歐陽詢書、若二草裏蛇驚、雲間電發一、若二金剛之瞋レ目、力士之揮レ拳。

【振レ拳】47 コブシヲフルフ 揮レ拳に同じ。〔王延壽、夢賦〕乃揮レ手振レ拳、電發電舒。

【拳相撲】48 ケンズマウ 相撲に眞似て拳を鬪はす遊戲。席上に四本柱を立て、拳者東西に分れて鬪ふ。行司・呼出・大關其の他すべて相撲に準ずる。寛永年間、中國人が長崎で傳へたもので、呼ぶ聲の數字は、皆中國音である。

【拳夫人】49 ケンフジン 漢の武帝の鉤弋夫人をいふ。夫人が帝に召された時、兩手は皆握つて開かなかつた。帝自ら之を開いたところ、其の手が卽時に伸びたといふ。〔漢書、外戚上、鉤弋趙倢伃傳〕武帝巡狩過二河間一、望氣者言、此有二奇女一、天子亟使二使召レ之、既至、女兩手皆拳、上自披レ之、手卽時伸、由レ是得レ幸、號曰二拳夫人一。

【掏】 11997 ダウ

掏(**5－11974**)の譌字。〔正字通〕掏、掏字之譌。

【拪】 11998 セン

遷(**11－39123**)の古字。〔玉篇〕拪、古文遷。

【挀】 11999 ハク

拍(**5－11952**)に同じ。〔字彙〕挀、與レ拍同。

【拴】 12000 セン 〔集韻〕逡縁切 ㄕㄨㄢ 先 shuan^1

❶**えらぶ**。〔集韻〕拴、揀也。❷**つなぐ**。結ぶ。縛る。〔薩都剌、詩〕靜夜拴レ心隱。❸通じて詮(**10－35435**)・銓(**11－40378**)に作る。〔集韻〕拴、通作二詮・銓一。

【拴繫】1 センケイ つなぐ。

【拴捆】2 shuan^1 k'uen^3 結び付ける。くくる。

【拴兒】3 shuan^1 êrh くわんぬき。門をとざす横の棒。

【拴車】4 shuan^1 ch'ê^1 車を繫ぐ。

【拴上】5 shuan^1 shang^4 結びつける。縛る。

【拴手】6 センシユ 拳術手法の一。左手を右邊から斜にあげ、右手を左手の肘の下から右にむかつて拴出して敵をせめる法。

【拴住】7 shuan^1 chu^4 繫ぎとめる。結び付ける。

【拴通】8 センツウ なれあひ。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕有下棍蠧拴二通市虎一、恐二嚇郷愚一、索二詐魚肉一者上。

【拴馬】9 センバ ❶官兵に分給する官馬。〔清會典事例、兵部、馬政〕再拴馬二千四百匹、餘馬六百匹。❷shuan^1 ma^3 馬をつなぐ。

〖拴馬椿〗10 shuan^1 ma^3 chuang^1 馬を繫ぐ石又は木。

【拴養】11 センヤウ 繫ぎ養ふ。〔清會典事例、兵部、馬政〕撥二出馬三千匹一、分二給八旗各營一拴養。

【拴娃娃】12 shuan^1 wa^2 wa 人形をつなぐ。娘娘拴娃娃は娘娘廟へ人形をつないで、子供を得るやうに祈ること。轉じて、むだのこと。徒勞。

【拴扣兒】13 shuan^1 k'ou^4 êrh 結び目を作る。

【拴繩子】14 shuan^1 shêng^2 tzŭ 繩を結びつける。

【拴不下】15 shuan^1 pu hsia^4 縛られない。

【拴束衣甲】16 shuan^1 shu^4 i^4 chia^3 具足を着る。

【拴不住心】17 shuan^1 pu chu^4 hsin^1 心が定まらない。心が落着かない。

【拵】 12001 ㈠ソン ゾン 〔集韻〕徂尊切 元 ㈡ソン ゾン 〔集韻〕徂悶切 願

㈠**よる**。〔集韻〕拵、据也。㈡**さす**。さしはさむ。〔集韻〕拵、插也。邦❶**こしらへる**。**こしらへ**。〔和漢三才圖會、藝才、倭字〕拵、倭訓拵與レ調同、義有二少異一、拵、新作成之義、調、和合整飾之義、故用二拵字一別レ之乎、蓋拵、音存、据也、義不二相當一。❷**かこひ**。肥後國の地名。

【拵事】1 コシラヘゴト 虚構した事實。

【拵書】2 コシラヘブミ にせ手紙。

【拵物】3 コシラヘモノ 眞物に擬して製作したもの。僞物。

【㧕】 12002 シウ シユ 〔集韻〕止酉切 有

❶**とる**。もつ。〔集韻〕㧕、執也。❷**もつ**。搊(**5－12453**)に同じ。〔集韻〕搊、持也、或从レ州。

【㧦】 12003 ㈠ジユウ ニユ 〔集韻〕而融切 東 ㈡ジヨウ ニユ 〔集韻〕乳勇切 腫 ㈢ジヨウ ニユ 〔集韻〕戎用切 宋 ㈣ジヨウ ニヨウ 〔集韻〕如蒸切 蒸

㈠❶**たすける**。〔集韻〕㧦、爾雅、相也。❷**おす**。〔廣雅、釋詁三〕㧦、推也。❸通じて戎(**5－11539**)に作る。〔集韻〕㧦、通作レ戎。㈡❶**たすける**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕㧦、相也。❷**こばむ**。ふせぐ。〔韻會〕㧦、拒也。㈢**おす**。〔集韻〕㧦、推也。㈣**よる**。**又**、**ひく**。扔(**5－11782**)に同じ。〔集韻〕扔、說文、因也、一曰、引也、或作レ㧦。

【拶】 12004 サツ サチ 〔集韻〕子末切 ㄗㄢˇ 曷 tsan^3

❶**せまる**。〔集韻〕拶、逼也。〔韓愈、雪詩〕漰騰相排拶、龍鳳交橫飛。❷**刑具**。拶指を見よ。❸**せめる**。碁の手法の名。〔圍棊義例、詮釋〕拶、逼也、以レ子促而逼レ之曰レ拶。

【拶子】1 サツシ 婦人の犯罪者の指に施す棒。指枷。〔六部成語注解〕婦人之夾棍也、夾棍用二於足一、此用二於手一。

【拶指】2 サツシ 酷刑の一。五本の小木を編んで之を罪人の手指の間にはさみ、引きしめる拷問法。〔正字通〕拶、刑具、莊子、罪人交レ臂歷レ指、注、卽今背剪拶指也。

【拶掉】3 サツテウ 絃を彈くことの出來ぬやうに指枷をはめること。〔桃花扇、拒媒〕明日拏去拶二掉你指頭一。

【㧺】 12005 カウ コウ 〔集韻〕呼高切 豪

田の草をのぞきさる。 薅(9-32085)に同じ。〔集韻〕薅、説文、拔二去田草一也、或作レ𢫭。

【拷】12006

カウ
コウ　〔集韻〕苦浩切　ㄎㄠˇ　kʻao^3　皓
慣ガウ

❶**うつ。たたく。**〔玉篇〕拷、打也。❷**かすめる。**〔集韻〕拷、掠也。

【拷鞫】1 ガウキク 拷問(12)に同じ。〔唐律、斷獄、拷囚不レ得レ過二三度一、疏議〕依二獄官令一、拷レ囚毎レ訊相去二十日、若拷未レ畢、更移二他司一、仍須二拷鞫一、卽通二計前訊一、以充二三度一。

【拷供】2 カウキヨウ せめて白狀させる。〔福惠全書、刑名部、逃人、拿獲〕拷二供旗色主名、並所レ逃月日、便問二窩家一。

【拷決】3 ガウケツ 打つて白狀させる。〔明律、斷獄、婦人犯罪〕若婦人懷孕犯レ罪應二拷決一者、依レ上保管、皆待二產後一百日一拷決。

【拷鼓】4 kʻao^2 ku^3 太鼓を叩く。

【拷殺】5 カウサツ せめころす。〔福惠全書、形名部、賊盜上、審盜〕便拷殺教二他何處供起一。

【拷囚】6 ガウシウ 囚人を拷問する。〔唐律、斷獄、拷囚不レ得レ過二三度一〕諸拷レ囚、不レ得レ過二三度一、數總不レ得レ過二二百一、杖罪以下、不レ得レ過二所レ犯之數一、拷滿不レ承、取レ保放レ之。

【拷訊】7 ガウジン 拷問(12)に同じ。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄〕凡應二八議一之人、及年七十以上、十五以下、若癈疾者、並不レ合二拷訊一、皆據二衆證一定レ罪。

【拷責】8 ガウセキ 拷問詰責のこと。考責(9-28843・・101)に同じ。

【拷打】9 カウダ 打つ。ひどく打ちのめす。拷問する。〔六部成語、刑部、拷打、注解〕打二主人一以拷三問其財藏在二何處一也。

【拷綢】10 kʻao^2 chʻou^2 夏の衣料。又、薯莨綢と名づく。閩、廣地方に產し、風透しよく、又、水に強い。

【拷認】11 ガウニン 拷問によつて罪を認める。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、遴捕役〕毋下因二疑似一以二拷認一蒙中其冤上。

【拷問】12 ガウモン 白狀させるためにきびしく責めたづねる。又、苦痛を與へて白狀をせまること。拷責。拷掠。考問。〔中右記、康和四年八月十九日〕或權禰宜淸高信置解職被二拷問一。

【拷掠】13 ガウリヤク 考掠。拷問に同じ。〔唐律、斷獄、拷レ囚不レ得レ過二三度一〕若拷過二三度一、及杖外以二他法一拷掠者、杖一百、杖數過者、反二坐所レ剩、以レ故致レ死者、徒二年。〔黃允文雜纂、不レ忍レ聞〕酷吏拷掠聲。

【拷燎】14 カウレウ うつたりやいたりしてくるしめる。〔福惠全書、教養部、總論〕囹圄等二于刦盜之拷燎一。

【捐】12007

エン

捐(5-12150)の俗字。〔正字通〕捐、俗捐字。

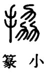
【拸】12008

㊀チ　〔集韻〕丑豸切　紙
㊁イ　〔集韻〕演爾切　紙
㊂ヂチ　〔集韻〕陳知切　支
㊃タ　〔中華大字典〕湯何切　歌
㊄イ　〔集韻〕余支切　支
㊅タ　〔集韻〕他可切　哿
㊆シヤ　〔集韻〕齒者切　馬

㊀❶**さく。** 搋(5-12457)に同じ。〔集韻〕搋、析也、或作レ拸。❷**うつ。**〔字彙〕拸、拍也。❸**ひく。**〔字彙〕拸、拽也。❹**すてる。** さる。〔莊子、庚桑楚〕介者拸レ畫。〔注〕拸而棄レ之。〔疏〕拸、去也。〔釋文〕拸、敕紙反、又音他、又與紙反。❺**うつる。はなれる。** 移(8-25045)に同じ。〔莊子、庚桑楚〕介者拸レ畫。〔釋文〕拸、本亦作レ移、一云、移、離也。㊁❶**さく。** 搋(5-12457)に同じ。㊀の❶に同じ。〔集韻〕搋、析也、或作レ拸。❷**くはへる。**〔玉篇〕拸、加也。❸**すてる。** ㊀の❹を見よ。㊂**さく。**〔集韻〕拸、析也、莊子、介者拸レ畫。㊃**すてる。** ㊀の❹を見よ。㊄㊅**くはへる。**〔廣雅、釋詁二〕拸、加也。㊆**大きいさま。** 哆(2-3590)に同じ。〔集韻〕哆、大皃、或作レ拸。

【拸畫】1 チクワ 容貌を飾らないこと。又一說に、法度に拘らないこと。拸は去る。又、移に作り、離れる意。〔莊子、庚桑楚〕介者拸レ畫外二非譽一也。〔注〕畫、所三以飾二容貌一也、刖者之貌既以虧殘、則不下復以二好醜一在上レ懷、故拸而棄レ之。〔釋文〕拸、敕紙反、又音他、又與紙反、本亦作レ移、司馬云、畫飾レ容之具、無レ足故不二復愛一レ之、一云、移、離也、崔云、移レ畫不レ拘二法度一也。〔疏〕拸、去也、畫、裝也。

【協】12009


小篆

㊀ケフ
コフ　〔集韻〕迄業切　葉
㊁ラフ　〔集韻〕落合切　合

㊀❶**やぶる。**〔說文〕協、摺也、从レ手劦聲。❷**くじく。**〔說文〕協、一曰、拉也。❸或は搚(5-12483)・擒(5-12731)に作る。〔集韻〕協、或从レ脅、从レ翕。㊁**くじく。** 拉(5-11946)に同じ。〔集韻〕拉、說文、摧也、或作レ協。

【捒】12010

㊀サク
シヤク　〔集韻〕色責切　陌
㊁サク　〔集韻〕測角切　覺

㊀❶**えらびとる。**〔集韻〕捒、擇也。〔佩觿集〕捒、擇二取物一也。❷**むち。**〔玉篇〕捒、馬箠也。〔字彙〕捒、馬箠也。❸**たすける。** 搽(5-12744)に同じ。〔集韻〕搽、扶也、或省。㊁**さしとる。** 擉(5-12799)に同じ。〔集韻〕擉、刺二取鼈蜃一也、或作レ捒。

参考 ㊀の❶、玉篇・廣韻、捒に作る。今姑く集韻に從ふ。〔集韻考正〕竦、案、此與二下文痳捒一、廣韻竝从レ束。

【拻】12011

クワイ　〔集韻〕呼回切　灰

相うつ。 㧓(10-36341)に同じ。〔集韻〕㧓、相擊也、或作レ拻。

【拼】12012

ハウ

拼(5-12236)の俗字。〔正字通〕拼、俗拼字。

【拽】12013

㊀エイ　〔集韻〕以制切　霽
㊁エツ
エチ　〔集韻〕羊列切　ㄧㄝˋ　yeh^4　屑
㊂セイ
ゼイ　〔集韻〕時制切　ㄓㄨㄞˋ　chuai$^{1 \cdot 4}$　霽

㊀㊁❶**ひく。ひきずる。** 抴(5-11920)に同じ。〔集韻〕拽、說文、捈也、或从レ曳。❷現投げる。(chuai^4)　㊂**ひく。**〔集韻〕拽、拖也、山東語。

【拽笻】1 エイキヨウ つゑをひく。散步をいふ。曳笻(5-14284・・8)に同じ。

【拽身】2 エイシン 身をひくこと。卽ち退官の時などに用ひる。〔朱子語類〕康節凡事纔覺レ難、便拽レ身退。

【拽白】3 エイハク 急流の後、其の水の將に澄まんとする處をいふ。明灘。〔宋史、河渠志一〕水猛驟移、其將レ澄處、望レ之明白、謂二之拽白一、亦謂二之明灘一。

【拽剌】4（エイラツ） 遼の官名。軍制に旗鼓拽剌司・千拽剌司等あり、其の部の役使に任ず。拽剌は走卒の意。〔遼史、百官志二〕拽剌軍詳穩司、走卒謂㆓之拽剌㆒。〔遼史、國語解〕旗鼓拽剌、拽剌、官名、軍制有㆓剌司㆒、此則掌㆓旗鼓㆒者也。

【拽拉】5 chuai^4 la^1 曳く。引つ張る。

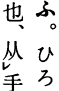
【拾】

12014

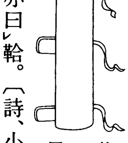
㊀ シフ ジフ 〔集韻〕寔入切 ㄕˊ shih^2 緝。

㊁ ケフ ゲフ 〔集韻〕極葉切 葉。

㊂ セフ ゼフ 〔集韻〕實攝切 ㄕㄜˋ shê^4 葉。



小篆



拾 圖 （三才圖會）

㊀ ❶**ひろふ**。ひろひとる。〔說文〕拾、掇也、从㆑手合聲。〔匡謬正俗、三〕拾者、猶㆑言㆓一一拾取㆒。〔史記、孔子世家〕塗不㆑拾㆑遺。❷**をさめる**。あつめる。〔廣韻〕拾、斂也。❸**ゆごて**。射韝。韐（**12**－**42805**）に通ず。〔集韻〕拾、一曰、射韝。〔說文通訓定聲〕拾、叚借爲㆑韐、韐、扞㆑心之革、故扞㆑臂之革亦曰㆑韐。〔詩、小雅、車攻〕決拾既佽。〔傳〕拾、遂也。〔周禮、夏官、繕人〕矰弋抉拾。〔注〕拾、所㆓以引㆑弦也。〔儀禮、鄉射禮、袒決遂、注〕遂、射韝也、以㆑韋爲㆑之、所㆓以遂㆑弦者也、其非㆓射時㆒則謂㆓之拾㆒、拾、斂也、所㆓以蔽㆑膚斂㆑衣也。〔禮、曲禮下〕以纓㆓拾矢㆒。❹**數の名**。十（**2**－**2695**）に通ず。官文書證書類に改變を防ぐために借用する。〔正字通〕拾、今官文書防㆓僞竄㆒借爲㆓數目字㆒。❺**さや**。⿰木合（**6**－**14690**）に通ず。〔集韻〕拾、一曰、劍削。〔說文通訓定聲〕拾、叚借爲㆑⿰木合。❻**發聲の辭**。甚（**7**－**21648**）・什（**1**－**348**）に同じ。拾沒（34）を見よ。❼**姓**。〔萬姓統譜〕拾、見㆓姓苑㆒。㊁ **たがひに**。かはるがはる。こもごも。迨（**11**－**38835**）に通ず。〔說文通訓定聲〕拾、叚借爲㆑迨。〔儀禮、士喪禮記〕男女拾踊三。〔注〕拾、更也。〔禮、投壺〕左右告㆓矢具㆒、請㆓拾投㆒。〔注〕拾、更也。〔疏〕賓主更迭而投也。㊂ **のぼる**。わたる。陟（**11**－**41659**）・涉（**6**－**17530**）に通ず。〔說文通訓定聲〕拾、叚借爲㆑陟。〔集韻〕拾、躡足、升也。〔禮、曲禮上〕拾㆑級聚㆑足、連步以上。〔注〕拾、當㆑爲㆑涉、聲之誤也。

名乘 トヲ。

【拾遺】1（シフヰ） 人の取り殘したものをひろひ取る。❶おとし物をひろふ。〔史記、孔子世家〕塗不㆑拾㆑遺。❷古記錄に漏れてゐることを書き載せる。〔史記、太史公自序〕略以拾㆑遺補㆑蓺。❸君主が氣附かない過失を見附ける。〔史記、汲黯傳〕願出㆓入禁闥㆒、補㆑過拾㆑遺。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕又不㆑能㆔拾㆑遺補㆑缺、招㆑賢進㆑能、顯㆓巖穴之士㆒。〔注〕向曰、拾㆓國家遺失之事㆒。〔後漢書、循吏、王渙傳〕拾㆑遺補㆑闕。❹たやすい喩。容易な喩。〔漢書、梅福傳〕是以擧㆑秦如㆓鴻毛㆒、取㆑楚若㆑拾㆑遺。〔論衡、齊世〕取㆓天下㆒若㆑拾㆑遺。❺官名。唐・宋の諫官の一。則天武后の垂拱元年、左右補闕二人、左右拾遺二人を置き、常に君側にあつて朝政の闕を補ひ、遺を拾ひ、天子の過失を諫めることを掌らしめた。宋代には左右正言と改めたが、南渡以後、舊稱に復して、專ら諫正に任ぜしめた。元以後廢した。〔唐書、百官志二〕左補闕六人、從七品上、左拾遺六人、從八品上、掌㆓供奉諷諫㆒。〔文獻通考、職官考、拾遺補闕〕補闕拾遺、武太后垂拱中、置㆓補闕拾遺二官㆒、以掌㆓供奉諷諫㆒、天授二年、各增置通㆑前爲㆓五員㆒云云、宋端拱初、改㆓左右補闕㆒爲㆓左右司諫㆒、左右拾遺爲㆓左右正言㆒、云云、淳熙十五年、兵部侍郎林栗奏言、諫諍之官尚有㆓闕員㆒、居㆓其位㆒者、往往分㆓行御史之職㆒、至㆔於箴㆓規闕失㆒寂無㆑聞焉、願依㆓唐制㆒置㆓拾遺補闕左右各一員㆒、事掌㆓諫諍㆒、不㆑許㆓糾彈㆒、從㆑之。

【拾遺記】2（シフヰキ） 書名。十卷。前秦、王嘉撰。王嘉は方士で五穀を食はず、美衣を着けず、世人と交游せず、東陽谷に隱れて、崖穴を鑿つて住む。此の書はもと伏羲から晉代に至るまで、十九卷二百二十篇あり。後、戰亂を經て殘闕したものを梁の蕭綺が補綴して十卷となし、別に所論を著けて錄と名付けた。これが今本である。凡て三十篇、庖犧・神農・黃帝・少昊・高陽・高辛・唐堯・虞舜・夏・殷・周・周穆王・魯僖公・周靈王・燕昭王・秦始皇・前漢（上、下）・後漢・魏・吳・蜀・晉時事・崑崙山・蓬萊山・方丈山・瀛州山・員嶠山・岱輿山・昆吾山・洞庭山に分かつ。每篇原文を列し、首に綺の序を冠し後に錄を附してゐる。〔四庫提要、子、小說家類〕・〔百子全書、六十五・六十六冊〕・〔漢魏叢書、六十五冊〕・〔稗海、二冊〕・〔古今逸史、六冊〕。

【拾遺錄】3（シフヰロク） 書名。一卷。明、胡爌撰。訓詁を雜考したもの。原本は兵火に散佚し、其の子孫が殘稿を掇拾して書を成したから、拾遺といふ。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【拾遺之臣】4（シフヰノシン） 君主の氣づかない過失などをひろひあげて諫める臣。〔漢書、谷永傳〕以㆓愚朽之材㆒、爲㆓太中大夫㆒、備㆓拾遺之臣㆒。

【拾雅】5（シフガ） 書名。二十卷。清、夏味堂撰。爾雅、廣雅の說明の足らないところを補つたもの。初、六卷あり、その弟紀堂、追加して二十卷とした。

【拾芥】6（シフカイ） あくたを拾ふ。取り得ることが易いこと。〔漢書、夏侯勝傳〕士病㆑不㆑明㆓經術㆒、經術苟明、其取㆓青紫㆒如㆔俛拾㆓地芥㆒耳。〔注〕師古曰、地芥、謂㆘草芥之橫㆓在地上㆒者㆖、俛而拾㆑之、言㆓其易而必得㆒也、青紫、卿大夫之服也。〔應璩、答㆓韓文憲㆒書〕規㆓富貴之榮㆒、取㆓金紫之爵㆒、是夏侯勝拾芥之謂也。

【拾級】7（セフキフ） 階段を登る。拾は陟。〔禮、曲禮上〕拾㆑級聚㆑足、連步以上。〔注〕拾、當㆑爲㆑陟、聲之誤也、級、等也。

【拾金】8（シフキン） 人の置き忘れた金をひろふ。金をひろふ。〔南史、甄法崇傳〕披㆓羊裘㆒而負㆑薪、豈拾㆓遺金㆒者邪、卒還㆑金。

【拾金不昧】9 shih^2 chin^1 pu^2 mei^4 金を拾つてごまかさない。正直なこと。

【拾菜】10（シフサイ） 摘み草。〔秦中歲時記〕二月二日、曲江拾㆑菜、士民遊極盛。

【拾紫】11（シフシ） 官位に着くこと。紫は紫色の印綬。〔駱賓王、夏日遊㆓德州㆒贈㆓高四㆒詩〕談㆑玄明㆓毀璧㆒、拾㆑紫陋㆓籯金㆒。〔顧雲、投㆓刑部趙郎中㆒啓〕偶斅㆓殺青㆒、因思㆓拾紫㆒。

【拾收】12（シフシウ） ひろひをさめる。又、亂れたものを集め正して舊の形にをさめる。拾摭。收拾（**5**－**13110**・・107）の❶に同じ。

【拾室】13（シフシツ） 刀の鞘。⿰木合室（**6**－**14690**・・1）に同じ。

【拾執】14 shih^2 chih^2 排列する。

【拾取】15（シフシユ） ひろひとる。拾摭。〔匡謬正俗、三〕拾者猶㆑言㆓一一拾取㆒。〔杜牧、罪言〕遂折㆓天下之脊㆒、復得㆑趙、因拾㆓取諸國㆒。

【拾薪】16（シフシン） たきぎをひろふ。〔後漢書、承宮傳〕爲㆓諸生㆒拾㆑薪、執㆑苦數年、勤學不㆑倦。

【拾瀋】17（シフシン） 汁を拾ふ。準備がなくては事が成らない喩。瀋は汁。〔左氏、哀、三〕無㆑備而官辦者、猶㆑拾㆑瀋也。〔注〕瀋、汁也、言、不㆑備而責㆑辦、不㆑可㆑得也。

【拾翠】18（シフスイ） 春の郊外に遊んで摘み草すること。〔江總、爲㆓陳六宮㆒謝表〕洛川拾翠、仙處無雙。〔杜甫、秋興詩〕佳人拾㆑翠春相問、仙侶同㆑舟晚更移。〔梅妃傳〕憶㆓拾㆑翠之舊遊㆒。〔還魂記、尋夢〕佳人拾㆑翠春亭遠。

【拾翠洲】19（シフスイシウ） 地名。廣東省治の西南三十支里に在り、古、津亭の在つた所。〔陸龜蒙、奉㆕和襲美送㆔李明府之㆓任南海㆒詩〕居人愛近沈珠浦、候吏多來拾翠洲。

【拾翠人】20（シフスイジン） 春遊する人。〔還魂記、鬧殤〕怕等㆓得個拾翠人來㆒把㆓畫粉㆒銷。

【拾翠踏青】21（シフスイタフセイ） 春日山野に散策すること。〔畫繼〕高麗扇有㆑用㆑紙、而以㆓琴光竹㆒爲㆑柄、所㆑畫多作㆓士女乘車跨馬、踏青拾翠之狀㆒。

【拾穗】22（シフスイ） 田家で收穫するとき遺した禾穗を

拾ふこと。落ち穗拾ひ。〔列子、天瑞〕林類年且㆓百歲㆒、云云、拾㆓遺穗於故畦㆒、並歌並進、云云、子貢逆㆓之壠端㆒、面㆑之而歎曰、先生曾不㆑悔乎、而行歌拾㆑穗、林類行不㆑留、歌不㆑輟。

【拾靑】23 シフセイ 官位に着く。靑は靑色の印綬。拾芥(6)を見よ。〔駱賓王、秋日送㆓尹大赴㆑京詩序〕尹大官、三冬道暢、指㆓蘭臺㆒而拾㆑靑、薛六郎、四海情深、飛㆓桂樽㆒而擧㆑白。〔薛逢、鄰相反行〕涉書獵史無㆓早暮㆒、坐期㆓朱紫㆒如㆑拾㆑靑。

【拾笑】24 shih^2 hsiao^4 傍でもらひ笑ひする。

【拾摭】25 シフセキ ひろひとる。拾掇。〔袁淑、常山王九錫文〕拾㆓摭遺餘㆒、咨口所㆑便。

【拾唾】26 シフダ 他人の唾を拾ふ。他人の意見を借りる。拾㆓人涕唾㆒(1－344‥620)を見よ。〔元好問、自題㆓中州集後㆒詩〕北人不㆑拾㆓江西唾㆒、未㆑要㆔曾郎借㆓齒牙㆒。

【拾塵】27 シフヂン 塵を拾ひ取る。孔子が陳蔡の閒に圍まれた時、顏淵が飯中の塵を拾ふを見て、米を竊み食ひしたものと誤解した故事。〔呂覽、任數〕孔子窮㆓乎陳蔡之閒㆒、云云、顏回索㆑米、得而爨㆑之、幾熟、孔子望見、顏回攫㆓其甑中㆒而食㆑之、選閒食熟、謁㆓孔子㆒而進㆑食、孔子佯爲㆑不㆑見㆑之、孔子起曰、今者夢見㆓先君㆒、食潔而後饋、顏回對曰、不可、嚮者煤炱入㆓甑中㆒、棄㆑食不祥、回攫而飯㆑之、孔子歎曰、所㆑信者目也、而目猶不㆑可㆑信、所㆑恃者心也、而心猶不㆑足㆑恃。〔論衡、知實〕顏淵炊㆑飯、塵落㆓甑中㆒、欲㆑置㆑之則不㆑淸、投㆑地則棄㆑飯、掇而食㆑之、孔子望見、以爲㆑竊㆑食。〔李白、雪㆑讒詩〕拾㆑塵掇㆑蜂、疑㆑聖猜㆑賢。

【拾掇】28 シフテツ ❶ひろひとる。拾收(12)に同じ。〔陸龜蒙、杞菊賦序〕及㆓夏五月㆒、枝葉老梗、氣味苦澀、云云、拾掇不㆑已。〔王令、原蝗詩〕寒禽冬饑啄㆑地食、拾㆓掇穀種㆒無㆓餘遺㆒。❷shih^2 tuo ㋑なほす。修理する。㋺片付ける。整理する。

【拾投】29 シフトウ かはるがはるなげる。〔禮、投壺〕左右告㆓矢具㆒、請㆓拾投㆒。〔注〕拾、更也。〔疏〕賓主更迭而投也。

【拾得】30 シフトク ❶ひろひとる。ひろふ。〔錄異記、七〕會稽進士李眺、偶拾㆓得小石㆒、靑黑平正、溫滑可㆑翫、用爲㆓書鎭㆒焉。〔王建、宮詞〕衆中遺㆓却金釵子㆒、拾得從㆑他要㆑贖㆑羅。〔陸游、懷舊詩〕誰向㆓豪端㆒收拾得、李將軍畫㆓少陵詩㆒。❷ジットク 唐の貞觀中の僧。もと孤兒。天台山國淸寺の僧、豐干に拾ひ養はる、故に拾得といふ。寒山と交る。狀、顚狂に類す。閭丘胤、台州に知となり、寺に入つて寒山・拾得を見るや、二人臂を連ねて走り出づ。胤、之を追うて寒巖に至り、謁問するに及び、縮んで巖穴中に入る。其の遺物を尋ね、林閒並びに村墅の屋壁で詩三百餘篇を得、土地堂壁にて拾得の偈詞を得たといふ。寒山拾得(3－7239‥159)を見よ。〔高僧傳〕。❸黃山谷の子の名。〔蘇軾、贈㆓山谷子㆒詩〕黃家小兒名㆓拾得㆒、眉如㆓長松㆒眼如㆑漆。

【拾讀】31 ヒロヒヨミ 文章中の主要な點、或は自己の讀み得る所などをぬきよみすること。

【拾發】32 シフハツ かはるがはる矢を射ること。〔儀禮、鄕射禮〕上射既發、挾㆓弓矢㆒而后下射射、拾發、以將㆓乘矢㆒、獲者坐而獲。

【拾潘】33 シフハン 拾瀋(17)に同じ。〔呂覽、驕恣〕輕㆑物則無㆑備。〔注〕傳曰、無㆑備而官、猶㆑拾㆑潘也、此之謂也。

【拾沒】34 shih^2 mo 何かと問ふこと。什麽。〔集韻〕沒、不㆑知而問、曰㆓拾沒㆒。

【拾翻】35 shih^1 fan ごたごたになる。

【拾踊】36 シフヨウ かはるがはる踊る。踊は死を悲しんで行ふ跳躍の法。〔禮、喪大記〕弔者襲㆑裘、加㆑武帶經、與㆓主人㆒拾踊。〔禮、奔喪〕與㆓主人㆒拾踊。〔注〕拾、更也、主人與㆑之更踊、賓㆓客之㆒。

【拾櫨】37 シフロ 木の名。よく鬼邪を祓ふといふ。〔古今注、問答釋義〕程雅問、拾櫨木一名無患者、昔有㆓神巫㆒、名曰㆓寶眊㆒、能符㆓劾百鬼㆒、得㆑鬼、則以㆑此爲㆑棒殺㆑之。〔廣博物志〕石榴之實醉㆓三尸㆒、拾櫨之木厭㆑邪。

【拾繡鞋】38 シフシウアイ 二簧劇の一。明の總兵唐寅が其の妻の鞋を家庭教師の室で拾つたことから嫉妬するが、結局其の疑惑を釋くといふ筋。又、三疑計といふ。

【拾赤子】39 シフセキシ 乳兒を賣買するもの。乳兒を僅少の金をつけて貰ひ、これを欲する人に賣る。〔蘭州瑣語〕有㆘呼㆓拾赤子㆒者㆖、貧民子衆、卽付㆓小貲㆒予㆑之、乃出㆑門又呼賣㆓赤子㆒、欲㆑子者復以㆑財易㆑之。

【拾糞的】40 shih^2 fen^4 tê 街上の人糞馬糞を掃除する男。

【拾漏子】41 shih^2 lou^4 tzŭ 人の錯誤又は缺點を拾ふ。

【拾黃金】42 シフワウゴン 西皮二簧劇の一。范陶といふ乞食が雪の降る街上に黃金一錠を拾ひ、俄成金になるといふ滑稽劇。又、財迷傳・化子拾金といふ。

【拾香草堂】43 シフカウサウダウ 淸、溫曰鑑(7－17968‥256)の室名。

【拾人牙慧】44 shih^2 jen^2 ya^2 huei^4 他人の議論のまねをする。

【拾帶重還】45 シフタイヂユウクワン 拾つて持つて行つて返す。

【拾不起來】46 shih^2 pu chʻi^3 lai 拾はれない。

【拾錦雜要兒】47 shih^2 chin^3 tsa^2 shua^3 êrh 講談・手品・こはいろなどを一緒に演ずる。

【拿】12015 ダ ナ ㄋㄚˊ na^2

❶もつ。とる。とらへる。挐(5－11954)の俗字。〔正字通〕拿、俗挐字。❷現云云を以て、云云で。

參考 熟語は挐(5－11954)を倂せ見よ。

【拿押】1 na^2 ya^1 捕へて拘禁する。

【拿翁】2 ナヲウ ナポレオンの宛字。Napoleon. フランスの皇帝。那破崙。那波烈翁。

【拿下】3 na^2 hsia^4 ❶下げる。❷おろす。❸つかまへる。

【拿開】4 na^2 kʻai 橫の方へのける。

【拿解】5 na^2 chieh^3 捕へて護送する。〔福惠全書、保甲部、漁埠編保〕或卽行㆓拿解㆒、審確。

【拿究】6 na^2 chiu^4 捕へてとりしらべる。〔福惠全書、蒞任部、發各告示〕許卽首報以憑拿究。

【拿去】7 na^2 chʻü 持去る。

〘拿去罷〙8 na^2 chʻü pa 持つて行け。

【拿獲】9 ダクワク 罪人などを捕へること。〔福惠全書、保甲部、功罪賞罰〕巡路捕壯、拿㆓獲盜賊逃人㆒。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、盜賊家口〕強盜在㆓本地㆒拿獲、其妻不㆓必拘禁㆒。

【拿差】10 na^2 chʻa^4 持ち違へる。

【拿私】11 na^2 ssŭ^1 密輸入犯を檢擧する。

【拿車】12 na^2 chʻê^1 車輛を徵發する。

【拿手】13 na^2 shou^3 ❶手を握る。手を握つて約束する。❷權柄。❸老練。❹得意な。おはこ。十八番。❺見込み。

【拿人】14 na^2 jen^2 人を捕へる。

【拿錢】15 na^2 chʻien^2 錢を持出す。

【拿送】16 na^2 sung^4 捕へて護送する。

【拿賊】17 na^2 tsei^2 賊をとらへる。

【拿茶】18 na^2 chʻa^2 葬式の時、朋友知人が棺の通行する沿道に茶を備へて會葬の遺族にふるまふこと。

〘拿茶當酒〙19 na^2 chʻa^2 tang^1 chiu^3 茶を酒の代りに飲む。

【拿住】20 na^2 chu^4 ❶捕へる。❷持つ。

【拿追】21 ダツイ とらへる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕拿㆓追家屬㆒。

【拿揑】22 na^2 nieh 人の足元を見てつけこむ。脅迫する。わざと謹直なふりをする。

【拿捕】23 ダホ とらへる。つかまへる。捕捉。捕獲。拿獲。

【拿問】24 ダモン とらへて訊問する。〔六部成語、吏部、拿問、注解〕官員所㆑犯之罪重大、則於㆓革職後㆒、拿來審問定擬。

【拿來】25 na^2 lai 持ち來る。

【拿雲手】26 ダウンシユ くもを捕へる手。〔琵琶記、祝髮買葬〕從㆑空伸㆓出拿雲手㆒、提起天羅地網人。

【拿銀子】27 na^2 yin^2 tzŭ 金を持ち出す。金を出させる。

【拿訛頭】28 na^2 ê^2 tʻou 人の惡事を見付けて金錢をゆすること。挐訛頭(5－11954‥9)に同じ。

【拿事人】29 na^2 shih^4 jen^2 世話をする人。

【拿破崙】30（ナポレオン） ナポレオン。拿翁。

〖拿破崙法典〗31（ナポレオンハフテン） 西暦紀元一八〇三年、ナポレオン第一世の編纂した法律。現在歐洲諸國成文法の基礎をなす。

【拿不起】32 na^2 pu chʻi^3 持ち上げられない。

【拿不着】33 na^2 pu chao^2 捕へられない。

【拿不住】34 na^2 pu chu^4 ❶持つて居られない。❷諒解出來ない。

【拿不動】35 na^2 pu tung^4 重くて持てない。

【拿不了】36 na^2 pu liao^3 取り盡されない。持ちきれない。

【拿鍋調竈】37 na^2 kuo^1 tiao^4 tsao^4 炊事。

【拿酸捏糖】38 na^2 suan^4 nieh^1 tʻang^2 拿糖做醋に同じ。

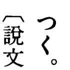
【拿糖做醋】39 na^2 tʻang^2 tsuo^4 tsʻu^4 ぐずぐず事をする。ぐずぐずして人をじらす。

【拿東拿西】40 na^2 tung^1 na^2 hsi^1 次々に取る。

【拿東補西】41 na^2 tung^1 pu^3 hsi^1 これを以て彼を補ふ。やりくりすること。

【⿰扌因】12016

イン 〔集韻〕伊眞切 眞


小篆

つく。よる。因(**3**−**4693**)に通ず。〔說文〕⿰扌因、就也、从レ手因聲。〔段注〕⿰扌因、與レ因音義同、今則因行而⿰扌因廢矣。〔集韻〕因、說文、就也、一曰、仍也、或作レ⿰扌因。

【掔】12017

ワン 掔(**5**−**12364**)・掔(**5**−**12293**)の譌字。〔正字通〕掔、掔・掔二字之譌省。

【⿰扌𠂢】12018

ハク ヒャク 〔集韻〕博厄切 陌

さく。〔集韻〕⿰扌𠂢、博雅、裂也。〔淮南子、主術訓〕夫人之所下以莫レ振二玉石一而振中瓜瓠上者何也。

【持】12019

チ ヂ 〔集韻〕澄之切 支 chʻih^2

小篆

❶**もつ**。㋑にぎる。〔說文〕持、握也、从レ手寺聲。〔釋名、釋姿容〕持、跱也、跱二之於手中一也。〔禮、射義〕持二弓矢一審固。㋺とる。〔廣韻〕持、執持。〔史記、商君傳論贊〕挾二持浮說一。㋩たづさへる。〔史記、李斯傳〕齎二持金玉一。❷**たもつ**。かばふ。〔荀子、榮辱〕以相持養。〔注〕持養、保養也。❸**うる**。身につける。所有する。〔呂覽、至忠〕將下以忠二於君王之身一而持中千歲之壽上。〔注〕持、猶レ得也。❹**まもる**。〔國語、越語下〕有レ持レ盈。〔注〕持、守也。〔呂覽、愼大〕持レ之其難者也。〔注〕持、猶レ守。❺**たすける**。〔荀子、禮論〕所二以持レ平奉レ吉也。〔注〕持、扶助也。〔張衡、東京賦〕西朝顚覆而莫レ持。〔注〕綜曰、持、扶也。❻**ささへる**。もちこらへる。〔中庸〕治レ亂持レ危。〔漢書、東方朔傳〕曠日持久、積二數十年一。〔後漢書、第五倫傳〕持レ滿。〔注〕持レ滿、不レ發也。❼**もちあふ**。均衡がみだれない。狀勢に變化がない。〔左氏、昭、元〕子與二子家一持レ之。〔疏〕持、持二其兩端一、無レ所二取與一、奕棊謂レ不レ能二相害一爲レ持、意亦同二於此一也。❽**とりしまる**。身をたもつ。みだれぬ。〔後漢書、馬援傳〕堅自持。❾**いぢめる**。壓迫する。〔史記、酷吏、寧成傳〕持二吏長短一。❿**さだめる**。〔荀子、正名〕猶下引二繩墨一以持中曲直上。〔注〕持、制也。⓫**せき**。碁の手法の名。〔圍棋義例、詮釋〕持、和也、兩棋相圍、而皆不レ死不レ活曰レ持、有二兩棋皆無レ眼者一、有二兩棋各有レ刲者、各一眼活者一、有下彼棋兩段各一眼、而我棋一段無レ眼閒二其中一而俱活者上、蓋取二其鷸蚌相持之義一、故曰レ持。⓬**たのむ**。恃(**4**−**10521**)に通ず。〔左氏、昭、十九〕持二其世一而已。〔釋文〕持、本或作二恃怙之恃一、非也。⓭**姓**。〔萬姓統譜〕持、見二姓苑一。邦❶**もつ**。負擔する。❷**もち**。もちぶん。

名乘 ヨシ。

【持握】1（ヂアク） 手にもちにぎる。〔梅堯臣、湯珙秘校遺二沈水管筆一枝一詩〕久從二海上一厭二持握一、乞下與二阮籍一書中途窮上。

【持意】2 chʻih^2 i^4 自己の意見を固執する。

【持盈】3（ヂエイ） ❶十分の地位を保つて失はない。みちてあふれぬ程度をたもつ。持滿。〔老子、九〕持而盈レ之、不レ如二其已一。〔河上公注〕盈、滿也、已、止也、持レ滿必傾、不レ如レ止也。〔淮南子、道應訓〕孔子觀二桓公之廟一、有レ器焉、云云、曰、善哉持レ盈者乎。〔國語、吳語〕用能援持レ盈以沒。〔國語、越語下〕夫國家之事、有レ持レ盈、有レ定レ傾、有レ節レ事。〔注〕持、守也、盈、滿也。〔宋史、蘇易簡傳〕願陛下持レ盈守レ成、愼レ終如レ始。❷唐、玉眞公主(**7**−**20821**・・454)の字。

〖持盈之業〗4（ヂエイノゲフ） 出來上つた事を維持する業。〔詩、大雅、鳧鷖序〕鳧鷖守レ成也、太平之君子、能持レ盈守レ成、神祇祖考、安二樂之一也。

〖持盈保泰〗5（ヂエイホタイ） 滿を持し、且つ大いにゆたかな地位を保つて失はぬこと。富貴に居て驕らない喩。〔抱朴子、外篇、行品〕每居レ卑而推レ功、雖レ處レ泰而滋恭者。〔晉書、樂志下〕攬二英雄一保二持盈一。

【持要】6（ヂエウ） 宋、沈樞(**6**−**17189**・・239)の字。

【持掩】7（ヂエン） 掩を持す。掩は博弈の一、ぜにうち、意錢。〔後漢書、王符傳〕或以二游博持掩一爲レ事。〔注〕掩、謂二意錢一也。

【持家】8（ヂカ） ❶家業を保つ。〔王昶、戒二兄子一書〕覽二往事之成敗一、察二將來之吉凶一、未レ有下干レ名要レ利、欲而不レ厭、而能保レ身持レ家、永全中福祿上者也。❷chʻih^2 chia^1 家政を始末する。

【持戒】9（ヂカイ） 佛 佛教の五惡(偸盜・邪淫・妄語・殺生・飮酒)のいましめをまもること。〔法華經、譬喩品〕持戒清潔、如二淨明珠一。〔高適、同下羣公宿二開善寺一贈中陳十六所居上詩〕談レ空忘二外物一、持レ戒破二諸邪一。

〖持戒見性〗10（ヂカイケンシヤウ） 佛 佛の教戒を固く守り、もろもろの妄念を去つて眞の佛性を見窮める。〔白居易、唐江州興果律大德湊公塔碣銘序〕如來滅後、後五百歲、有二持戒見性者一。

【持行】11（ヂカウ） 佛道を修行すること。〔南史、孝義上、吳達之傳〕廬江、云云、何幼璵、末好二佛法一、剪落長齋、持行精苦。

【持更】12（ヂカウ） 夜廻り番人。夜を五更に分つて、一更づつ交替に宿直せしめ、鼓を擊つて衆を警めるをいふ。〔資治通鑑、唐紀〕(懿宗、咸通九年)賊夜使二婦人持レ更。〔注〕夜有二五更一、使下人各直二一更一、擊レ鼓以警上レ衆、謂二之持更一、顏之推曰、一更二更三更四更皆以レ五爲レ節、西都賦云、衞以二嚴更之署一、所二以爾一者、假令正月建寅、斗柄夕則指レ寅、晝則指レ午、自レ寅至レ午、凡歷二五辰一、冬夏之月、雖二復長短一、然辰閒遼闊、盈不レ至レ六、縮不レ至レ四、進退常在二五者之閒一、更、歷也、經也、故曰二五更一。

【持衡】13（ヂカウ） ❶はかりざををもつ。〔唐書、李石傳〕天下之勢、猶レ持レ衡然、此首重則彼尾輕矣。❷天下の平衡を持するもの。大臣をいふ。持鈞。〔岑參、奉三和相公發二益昌一詩〕暫到二蜀城一應レ計レ日、須レ知明主待二持衡一。❸人才を評量する。〔杜甫、上三韋左相二二十韻詩〕持衡畱二藻鑑一、聽レ履上二星辰一。❹科擧の試驗の主査官。〔朱休、駕幸二宣輝門一觀二試擧人一賦〕帝載惟貞、垂レ範作レ程、有レ典有レ則、惟一惟精、重席表二其彰レ善、持衡所二以貴レ平、便便有司、能奉レ法而宣レ令、高高在位、更責レ實以循レ名、觀レ賢謂レ何、務二於愼擇一。

【持螯】14（ヂガウ） 蟹の前足の肉を持つ。美食をつくすこと。〔晉書、畢卓傳〕卓嘗謂レ人曰、得レ酒滿二數百斛船一、四時甘味置二兩頭一、右手持二酒杯一、左手持二蟹螯一、拍二浮酒船中一、便足レ了二一生一矣。〔汪元

量、長沙詩〕傍レ岸買レ魚兼問レ米、登レ樓呼レ酒更持レ螯。

【持合】15 モチアハセ ㊀持ちあはせること。ありあはせ。〔狂言記、雷〕不圖、雲間を蹈外いて此所へ落ちたによつて、何も持合せがない。㊁モチアヒ ㋑助けあふこと。㋺取引所の語。相場が一定の小範圍を上下するに留まり、上放れも下放れもしないこと。

【持函】16 ch'ih² han² 手紙を持つ。

【持己】17 ヂキ 己を持する。己の身を處置する。〔皇朝史略、寒夜脫二御衣一〕持レ己嚴恪、人難レ盡レ言、故朕常溫二顏色一、以來二諫者一。

【持棊】18 ヂキ ㊀碁石を持つ。碁を打つ。〔應瑒、奕勢〕持レ棊相守、莫二敢先動一。㊁ジゴ 棊を圍んで勝負のないこと。ぢご。我が國で又帀とも書く。

【持議】19 ヂギ 己の議論を執り守る。持說。〔史記、張釋之傳〕見二釋之持議平一。〔宋史、苗授傳〕授遇レ事、持レ議不二苟合一。

【持久】20 ヂキウ ひさしきを持する。長くもちこたへる。〔孔叢子、答問〕持久歷遠、遏レ姦勸レ善。〔東方朔、答二客難一〕曠日持久、積二數十年一。〔後漢書、袁紹傳〕宜三徐持久、曠以二日月一。〔班昭、女誡、敬愼〕夫敬非レ它、持久之謂也。〔諸葛亮、後出師表〕欲下以二一州之地一、與レ賊持久上。

【持久戰】21 ヂキウセン 決戰を避けて時間の餘裕を得るを目的とする戰鬪。

【持久之計】22 ヂキウノケイ 戰爭して勝負を速決せず、城に立てこもり、又は包圍して永く持ちこたへて敵を弱らせる兵略。〔蜀志、法正傳〕下可下以固二守要害一、爲中持久之計上。〔資治通鑑、晉紀〕(孝武帝、太元八年)君懸軍深入、而置レ陳逼レ水、此乃持久之計、非下欲二速戰一者上也。

【持經】23 ヂキヤウ しばらくも身を離さない經文。〔源氏物語、紅葉賀〕人のみかどまでおもほしやれる、御后詞のかねてもとほほゑまれて、持經のやうにひろげて見居給へり。

【持經者】24 ヂキヤウジヤ 常に法華經を持つて、之を讀む者。經は汎く通ずる名であるが、當時の人は多く法華經を受持したから、法華經をさす。〔宇治拾遺、十二〕叡實と云ふ持經者なん、わらはやみはよく行ひおとし給ふと申人ありければ、この持經者に行はせんとて。

【持躬】25 ch'ih² kung¹ 身を持する。一身の操行。

【持鈞】26 ヂキン 天下の平均を掌り持つもの。大臣執政をいふ。持衡。〔漢宮秋、第二折〕調二和鼎鼐一理二陰陽一、秉レ軸持レ鈞政事堂。

【持翫】27 ヂグワン 手にもてあそぶ。持玩。〔白居易、郡齋暇日云云詩〕魚中獲二瑰寶一、持翫何磊砢。〔王氏談錄〕王洙性尤愛レ墨、持玩不レ厭。〔鄭俠、謝二太守一答二詩萊州一詩〕未レ聞百萬師、戈鋋日持玩。

【持卿】28 ヂケイ 明、程良籌(8－25081‥299)の字。

【持傾】29 ヂケイ 傾けるを持ちこたへる。〔蜀志、許靖傳〕扶レ危持レ傾、爲二國柱石一。

【持敬】30 ヂケイ 敬愛の心を持つ。〔宋史、鄭清之傳〕進二十龜元吉箴一、一持敬。

【持戟】31 ヂゲキ ほこをもつ、又、其のもの。もののふ。兵士。軍人。〔孟子、公孫丑下〕子之持戟之士、一日而三失レ伍、則去レ之否乎。〔戰國、秦策〕楚地方五千里、持戟百萬。〔史記、平原君傳〕今楚地方五千里、持戟百萬、此霸王之資也。〔漢書、高帝紀下〕持戟百萬、秦得二百二一焉。

【持軒】32 ヂケン 五井守任の號。五井持軒(1－257‥1227)を見よ。

【持劍】33 ヂケン つるぎをもつ。〔史記、項羽紀〕籍持レ劍居レ外待。〔說苑、貴德〕子路持レ劍。

【持謙】34 ヂケン 謙遜の心を持つこと。〔李虞仲、授二李讓夷職方員外郎充職一制〕果揚二溫雅之稱一、宜レ獲二持謙之效一。

【持權】35 ヂケン 權力を持つこと。〔路史、循蜚紀〕鉅靈氏握二大衆一、持二化權一。

【持驗】36 ヂケン 効能を有する。効驗がある。

【持虎】37 ヂコ ㊀虎の皮を以て作つた弓袋。武士が持つもの。〔荀子、禮論〕寢兕・持虎、云云、所二以養レ威也。〔注〕持虎、謂下以二虎皮一爲二弓衣一、武士執持者上也。㊁猛獸の皮で作つた車の飾。〔史記、禮書〕寢兕・持虎。〔注〕索隱曰、持虎者、以二猛獸皮文一、飾二倚較及伏軾一、故云二持虎一。

【持後】38 ヂゴ 後を持する。人に先んじないこと。〔列子、說符〕子知レ持レ後、則可レ言レ持レ身。

【持口】39 モチグチ うけもちの場所。〔愚耳舊聽記〕方の持口へ鐵砲の藥を渡さんとて。

【持厚】40 ヂコウ とりまもることがてあついこと。〔韓詩外傳、六〕如レ是則持厚者進、而佞諂者止。

【持國】41 ヂコク ㊀字號。㋑宋、韓維(12－43159‥4)の字。㋺明、余懋衡(1－515‥126)の字。㋩清、陳治(11－41698‥463)の號。㊁佛持國天の略。

【持國天】42 ヂコクテン 佛四天王の一。又、治國天といふ。須彌東方の守護神、左手は臂を伸べて垂れ、右手は臂を屈めて前に向け、掌中に寶珠を持つ。善を賞し惡を罰し、能く國土を護持するから此の名がある。持國天王。

【持衰】43 ヂサイ 齋戒すること。持齋(45)を見よ。〔後漢書、東夷、倭國傳〕行來渡レ海、令下一人不二櫛沐一、不レ食レ肉、不上レ近二婦人一、名曰二持衰一、若在二塗吉利一、則雇以二財物一、如病疾遭レ害、以爲二持衰不一レ謹、便共殺レ之。

【持載】44 ヂサイ たもちのせる。〔中庸〕辟如下天地之無レ不二持載一、無上レ不二覆幬一。

【持齋】45 ヂサイ ㊀佛ものいみを持し守る。佛の戒律を守つて蔬食する。〔釋氏要覽〕齋起世因本經云、烏脯沙陀、隋言二增長一、受二持齋法一、增二長善根一、故佛教以二過中不食一名レ齋。〔唐高僧傳〕持齋布施。㊁宋、鄭可學(11－39647‥311)の號。

【持齋日】46 ヂサイビ 佛精進日。忌日。

【持操】47 ヂサウ みさをを守る。〔謝靈運、登二池上樓一詩〕持レ操豈獨古、無レ悶徵在レ今。〔顏氏家訓、文章〕故忽二於持操一、果二於進取一。

【持參】48 ヂサン もつてくること。又、其の品物。〔永承四年內裏歌合、殿上記〕左方參入、舁二文臺一持二參御前一。

【持參金】49 ヂサンキン 結婚の際、里方から緣先に持つて行く金。

【持之】50 ヂシ 宋、童大定(8－25775‥122)の字。

【持志】51 ヂシ 宋、薛寘(9－32123‥65)の字。

【持刺】52 ヂシ 戟を持つ。獨りでたたかふ。〔史記、貨殖傳〕怯二於衆鬭一、勇二於持刺一。

【持字】53 ヂジ 佛金剛拳菩薩の種子、𑖪𑖽鑁字をいふ。𑖪𑖽字は金剛界の智法身の種子で、能く一切の祕密を總持するから、其の菩薩を拳といひ、其の種子を持といふ。〔瑜祇經〕金剛密持尊、持字發二光明一。

【持執】54 ヂシツ とること。もつこと。〔爾雅、釋詁、秉拱執也、疏〕皆持執也。

【持檝】55 ヂシフ かいを持つ。〔列仙傳〕趙簡子擊レ楚、津吏醉臥不レ能レ渡、簡子欲レ殺レ之、津吏女子持レ檝而前曰、妾願以二鄙軀一易二父之命一、簡子將レ渡、少二一人一、乃備レ員持レ檝、中流發二激櫂之歌一、簡子說以爲二夫人一。

【持呪】56 ヂジユ 呪を持する。呪はまじなひの語。〔盧綸、送下恒操上人歸二江外一覲省上詩〕持レ咒過二龍廟一、翻レ經化二海人一。〔張籍、贈二海東僧一詩〕與レ醫收二海藻一、持レ咒取二龍魚一。

【持循】57 ヂジユン 遵ひ行ふ。〔漢書、賈誼傳〕此業壹定、世世常安、而後有レ所二持循一矣。〔新書、俗激〕此業一定、世世常安、後有レ所二持循一矣。〔朱熹、白鹿洞書院揭示〕夫規矩禁防之具、豈待二他人設一レ之、而後有レ所二持循一哉。

【持鉏】58 ヂジヨ 鋤を持つ。持鋤。〔漢書、孫寶傳〕但持レ鉏自治レ園。〔後漢書、獨行、李善傳〕乃脫二朝服一、持レ鉏去レ草。

【持勝】59 ジシヨウ ㊀めでたい雲をいふ。〔廣雅、釋天〕持勝、祥氣。〔駢雅、釋天〕持勝、慶雲也。㊁優勝の勢を保持する。〔列子、說符〕故善持レ勝者、以レ彊爲レ弱。

【持證】60 ヂシヨウ 佛佛の尊い道を永く保つこと。〔法苑珠林〕支道支行法有二二種一、一持教法、持證法、持教者、相續不レ滅、能令二世俗正法久住一、若持證者、相續不レ滅、能令二勝義正法久住一。

【持身】61 ヂシン 自分の身を處置すること。身もち。〔列子、說符〕子列子學二於壺丘子林一、壺丘子林曰、子知レ持レ後、則可レ言レ持レ身矣。

【持樞】62 ヂスウ 運轉の樞機を持して物を制すること。〔鬼谷子、本經陰符〕持レ樞、謂二春生夏長秋收冬藏一、天之正也。

【持是】63 チセ 姓氏。

【持正】64 ヂセイ ㊀ただしい道をとり守る。かたよらないこと。〔晉書、王渾傳〕三人齊レ位、足二相持正一。〔唐書、武元衡傳〕李吉甫李絳數爭二事帝前一、不レ叶、元衡獨持レ正無レ所二違附一、帝稱二其長者一。㊁字號。㋑唐、皇甫湜(8－22701‥227)の字。㋺

宋、韓存中(12−43159・・344)の字。㋩宋、蔡確(9−31818・・29)の字。㋥宋、謝湜(10−35827・・125)の字。㋭宋、沈思(6−17189・・176)の字。㋬宋、宋湜(3−7078・・138)の字。㋣宋、張昭遠(4−9812・・1259)の字。㋠宋、李評(6−14459・・685)の字。㋷宋、路昌衡(10−37524・・125)の字。

〔持正先生〕65 ヂセイセンセイ 宋、施德操(5−13629・・178)の尊稱。

【持生】66 ヂセイ 生を保つ。養生する。〔嵇康、養生論〕世皆知㆓笑悼㆒、謂㆔之不㆓善持㆑生也。

【持政】67 ヂセイ まつりごとをとる。〔漢書、劉歆傳〕哀帝崩、王莽持㆑政。

【持照】68 chʻih^{2} chao^{4} 護照を持參する。護照は通行證。旅行券。

【持接】69 ヂセツ 人と相持して接對すること。一說に、夫にかしづくこと、持は侍。〔管子、戒〕中婦諸子曰、自㆔妾之身、不㆓爲㆑人持接㆒也、未㆔嘗得㆓人之布織㆒也。〔纂詁〕持、當㆑爲㆑侍、侍接謂㆑事㆑夫。

【持說】70 ヂセツ 說を持する。固く自說を守つて曲げないこと。又、其の一定の言論をいふ。持論。持議。

【持節】71 ヂセツ ❶天子から賜はつた節を持つこと。古の使者は必ず之をもつて信とした。〔史記、絳侯周勃世家〕於㆑是上乃使㆔使持㆑節詔㆓將軍㆒。〔漢書、高后紀〕章已殺㆑產、帝令㆓謁者持㆑節勞㆑章。〔漢書、蘇武傳〕杖㆓漢節㆒牧㆑羊、臥起操持、節旄盡落。〔韓愈、送㆓殷員外㆒序〕丞相其選㆓宗室四品一人㆒、持㆑節往賜㆓君長㆒。❷節操をとり守る。

〔持節使〕72 ヂセツノシ 天子から節を賜はつて出る使者。持節副使を見よ。

〔持節副使〕73 ヂセツフクシ 持節使の副使。〔史記、大宛、大夏傳〕多㆓持節副使㆒、道可㆑使㆔使遺㆓之他旁國㆒。

〔持節從中都官〕74 ヂセツジユウチユウトクワン 官名。漢の武帝の征和四年、初めて置く。周官の司隸に當る。徒屬千二百人あり、京師の警察事務を掌る。中都官は京師の諸官府。〔漢書、百官公卿表上〕司隸校尉、周官、武帝征和四年初置㆓持節從中都官㆒、徒千二百人、捕㆓巫蠱㆒督㆓大姦猾㆒、後罷㆓其兵㆒。〔注〕師古曰、中都官、京師諸官府也。

【持素】75 ヂソ 肉食を斷つて素食すること。精進。持素人を見よ。

〔持素人〕76 ヂソノヒト 道士をいふ。〔還魂記、祕議〕世外有㆑情持素人。

【持僧】77 ヂソウ 昔、宮中で天子のために祈禱などした僧侶。護持僧。〔元亨釋書、二十六〕國家皇子、或自㆓胎孕㆒、或潛藩、咸以㆓沙門神異者㆒祝㆑祚、及㆓龍飛㆒受㆓大賞㆒、號曰㆓御持僧㆒。

【持贈】78 ヂソウ もつて行つておくる。手わたしに進上する。〔歐陽脩、乞㆑藥有㆑感呈㆓梅聖兪㆒詩〕謂此吾家物、問誰持贈㆑公。

【持體】79 ヂタイ 體を取り扱ふ。手足を正すこと。〔儀禮、既夕禮〕御者四人、皆坐持㆑體。

【持地】80 ヂチ 佛持地菩薩の略。

〔持地菩薩〕81 ヂヂボサツ 佛地藏法門眷屬の九菩薩の一。大慈大悲、よく衆生を攝持することが、大地の能く一切を持する如くであるからいふ。〔觀佛三昧海經、六〕父王白㆑佛、佛母摩耶生㆓忉利天㆒、佛今光明神通具足、云何爲㆑母說㆑法、佛告㆓大王㆒、如來當㆘如㆓轉輪聖王足行之法㆒從㆓閻浮提㆒上㆓忉利天㆒、問㆓訊檀越㆒爲說㆗妙法㆖、爾時會中有㆓菩薩摩訶薩㆒、名曰㆓持地㆒、卽從㆑座起入㆓首楞嚴三昧㆒、三昧力故從㆓金輪際㆒、金剛爲㆑輪、金剛爲㆑根、金剛爲㆑花、花花相次出㆓閻浮提㆒、時四龍王難陀・跋難陀・阿耨達多・娑伽羅王等、各持㆓七寶㆒指㆓持地所㆒、奉㆓上七寶㆒、爲㆓佛世尊㆒作㆓三道寶階㆒、左白銀、右頗梨、中黃金、從㆓閻浮提金剛地際㆒上㆓忉利宮㆒。

【持質】82 ヂチ 姦徒が人質を取つて財物を強請すること。刧質。〔魏志、夏侯惇傳〕乃著㆑令、自㆑今已後、有㆓持㆑質者㆒、皆當㆓幷擊㆒、勿㆑顧㆑質、由㆑是刧㆑質者遂絕。〔晉書、刑法志〕科有㆓持質㆒、皆非㆓盜事㆒、故分以爲㆓刧略律㆒。

【持籌】83 ヂチウ かずとりを持つこと。又、くじを持つこと。〔漢書、王嘉傳〕百姓訛言、持籌相驚。〔注〕師古曰、言行㆓西王母籌㆒也。〔枚乘、七發〕孔老覽觀、孟子籌㆑之、注〕五臣作㆓孟子持㆑籌而筭㆑之。

【持仗】84 ヂヂヤウ 兇器を所持する。〔唐律、賊盜、強盜〕其持㆑仗者、雖㆑不㆑得㆑財、流㆓二千里㆒。

〔持仗拒捍〕85 ヂヂヤウキヨカン 犯人が兇器を以て捕吏に抵抗すること。この場合は捕吏が其の犯人を格殺してもその罪を論じない。〔唐律、捕亡、罪人持仗拒捍〕諸捕㆓罪人㆒、而罪人持㆑仗拒捍、其捕者格㆓殺之㆒、逃走逐而殺、若迫窘而自殺者、皆勿㆑論。

【持仕】86 chʻih^{2} chu^{4} 持つ。しかと持つ。

【持重】87 ヂチヨウ ❶おもきを持す。おもおもしくする。大事をとる。〔史記、韓長孺傳〕張羽力戰、安國持㆑重、以㆑故吳不㆑能㆑過㆑梁。〔魏志、王朗傳〕宜㆑選㆓持重之將㆒。〔舊唐書、李晟傳〕每㆑將㆓合戰㆒、必自異衣錦裘、繡帽前行、親自指導、懷光望見惡㆑之、乃謂㆑晟曰、將帥當㆓持重㆒、豈宜㆓自表飾以啗㆑賊也。❷正道を守る。〔後漢書、任隗傳〕獨與㆓司徒袁安㆒、同㆑心畢㆑力、持㆑重處㆑正、鯁言直議、無㆑所㆓回隱㆒。〔注〕持㆑重、謂㆑守㆑正也。❸宗廟祭祀の重任にあたる人をいふ。承重(5−11852・・153)を見よ。〔儀禮、喪服傳〕持㆓重於大宗㆒者、降㆓其小宗㆒也。〔胡培翬正義〕持㆑重、謂㆔主㆓持宗廟祭祀之重㆒、卽前傳所謂受㆑重也。〔史記、魏其侯竇嬰傳〕魏其者、沾沾自喜耳、多㆑易、難㆓以爲㆑相持㆑重、遂不㆑用。

【持摘】88 ヂテキ 手にもつ。手先に執る。〔釋名、釋兵〕手戟、手所㆓持摘㆒之戟也。

【持帖】89 chʻih^{2} tʻieh^{3} 名刺を持參する。

【持統】90 ヂトウ ❶王統をまもりたもつ。〔淵鑑類函、帝王、帝功一〕薛瑩漢紀曰、明帝自在㆓儲宮㆒而聰允之德著矣、及㆑臨㆓萬幾㆒、以㆑身率㆑禮、恭奉㆓遺業㆒以貫㆑之、雖㆓夏啓周成㆒、繼㆑體持㆑統、無㆓以加㆑焉、是以海內乂安、四夷賓服、斷獄希少、有㆓治平之風㆒。〔宋書、藏燾傳〕議者又以四府君神主、宜㆔永同㆓於殷祫㆒、臣又以爲、不㆑然、傳所謂毀廟之主陳㆓乎太祖㆒、謂㆓太祖以下先君之主㆒也、故白虎通云、禘祫祭㆓遷廟㆒者、以㆘其繼㆓君之體㆒、持㆓其統㆒而不㆖㆑絕也、豈如㆓四府君㆒在㆓太祖之前㆒乎、非㆓繼統之主㆒。❷第四十一代の帝諡。

【持念】91 ヂネン 佛正法を心に持して忘れぬこと。

【持鉢】92 ヂハツ 佛僧侶の城市に乞食すること。托鉢。

【持法】93 ヂハフ 法を守る。法に遵ふ。〔漢書、循吏、黃霸傳〕會㆓宣宗卽位㆒、在㆓民閒㆒、時知㆔百姓苦㆓吏急㆒也、聞㆓霸持法平㆒、召以爲㆓廷尉正㆒。〔張衡、週天大象賦〕郎將司㆓戟於丹陛㆒、郎位含㆓香於紫宸㆒、乃寄㆑屛以持㆑法、控㆓端門之內闈㆒。〔唐書、李勣傳〕無㆓私貯㆒、然持㆑法嚴、故人爲㆓之用㆒。

【持筆】94 ヂヒツ 筆をもつ。書くことにいふ。〔魏志、陳思王植傳、注〕又嘗親見㆓執事㆒、握㆑牘持㆑筆、有㆑所㆓造作㆒。

【持病】95 ヂビヤウ ❶永くわづらつて治らない病氣。痼疾。宿痾。〔明月記〕持病相發、常如㆓絕入㆒、非㆓出仕之身㆒。❷わるい性格。わるい根性。

【持憑】96 ヂヒヨウ 證據書類を携へる。持つて來て證據とする。

【持夫】97 モチブ 荷物を持つ人夫。〔拾玉集〕奈良よりと、きこゆる瓜を大和路や、いかでもちぶにすこしゆるさん。

【持腐】98 モチグサレ 所有しながら使用し得ないこと。

【持服】99 ヂフク 喪に服する。俗に守孝といふに同じ。〔魏書、石文德傳〕縣令黃宣、在㆑任喪亡、宣單貧無㆓期親㆒、文德祖父苗以㆓家財㆒殯葬、持服三年、奉㆓養宣妻㆒二十餘載。〔淸會典事例、禮部、喪禮〕乾隆二年諭、在京八旗文武各官、遇㆑有㆓親喪㆒、例於㆓持服百日之後㆒、卽入㆑署辦㆑事、原以㆓旗員人少㆒。

【持複】100 ヂフク 二刀を使ふこと。〔魏文帝、典論自敍〕余少曉㆓持複㆒、自謂無㆑對、俗名㆓雙戟㆒、爲㆓坐鐵室鑲楯㆒、爲㆓蔽木戶㆒、後從㆓陳國袁敏㆒學以㆓單攻複㆒、每爲㆑若㆑神、對家不㆑知㆑所㆑出。

【持佛】101 ヂブツ 自分の居間にすゑ、又は身につけて常に信仰する佛。〔源氏、若紫〕此西おもてにしも持佛すゑ奉りて行ふ尼なりけり。

〔持佛堂〕101′ ヂブツダウ 持佛を安置する堂。〔狹衣、三、中〕入道の官は、御持佛だうの妻戶押しあけさせたまひて。

【持平】102 ヂヘイ 公平で偏らない。〔漢書、杜延年傳〕論議持平、合㆓和朝廷㆒。

【持票】103 chʻih^{2} pʻiao^{4} 手形を持參する。

【持滿】104 ヂマン 滿を持す。❶弓を十分にひきしぼる。〔史記、周勃世家〕彀㆓弓弩㆒持㆑滿。〔漢書、周亞夫傳〕彀㆓弓弩㆒持㆑滿。〔注〕師古曰、彀、張也。

〔王先謙補注〕周壽昌曰、弓弩上絃爲レ彀、持レ滿則力挽使レ滿、持レ滿不レ發、亦軍容也。〔漢書、夏侯嬰傳〕嬰固徐行、弩皆持レ滿外鄉。❷丁度一ぱいの所でもちこたへる。盈ちて溢れぬ程度を保つ。盈滿。〔史記、越世家〕持レ滿者與レ天。〔荀子、宥坐〕子路曰、敢問、持レ滿有レ道乎。〔淮南子、氾論訓〕周公可レ謂二能持一レ滿矣。〔孔子家語、六本〕天道成而必變、凡持レ滿而能久者、未二嘗有一也。〔嵇康、答レ難二養生一論〕在レ上何得レ不レ驕、持レ滿何得レ不レ溢。〔梁簡文帝、蒙二華林園戒一詩〕居レ高常慮レ缺、持レ滿每憂レ盈。〔蘇軾、稼說送二張琥一〕流二於既溢之餘一、而發二於持滿之末一。

【持名】105 ヂミヤウ 佛 阿彌陀佛の名を受持すること。念佛の人を持名行者といふ。〔觀無量壽經〕汝好持二是語一、持二是語一者、卽是持二無量壽佛名一。

〔持名稱者〕105′ ヂミヤウショウジヤ 佛 胎藏界釋迦院の一尊耶輸多羅の譯名。此の明妃は凡そ來り求める者あらば必ず施與する。〔大日經、一〕明妃住二其側一、號二持名稱者一。

【持明】106 ヂミヤウ 佛 梵語、陀羅尼 Dharani。持と譯す。明とは眞言の異名。眞言を受持すること。〔演密鈔、一〕明者明呪、眞言之別稱、梵語、尾尼也、此譯云レ明、破レ闇爲レ義、亦持亦明、持卽是明。〔大日經疏、九〕持明者梵云二陀羅尼一、持明謂三總二持一切明門明行一。

〔持明院〕107 ヂミヤウヰン 佛❶胎藏界十三大院の第五、不動尊等の五尊を安置す。亦五大院といふ。❷寺の名。京都市上京區安樂小路町に在り、もと藤原基頼の邸宅であつたが、後深草天皇御讓位の後、仙洞とした。天皇の皇統を持明院派、又は持明院流といふは之に依る。

〔持明藏〕108 ヂミヤウザウ 佛 持明の法藏。一切眞言陀羅尼の經典をいふ。〔演密鈔、一〕今旦取二府庫一名レ之爲レ藏、由下如二世間國大庫藏卽能蘊二攝種種雜寶一、出納取與賑濟無上レ窮、持明藏亦爾、蘊二攝佛秘密法義一、利樂無レ盡、故以爲二明藏一。

〔持明仙〕109 ヂミヤウセン 佛 陀羅尼を誦持し、或は藥力を以て通力を成就した仙人。〔大日經疏、六〕持明仙者、是餘藥力等所レ成、悉地持明仙者、皆是專依二咒術一得二悉地一人。

【持養】110 ヂヤウ ❶たもちやしなふ。〔文子、守弱〕是故聖人、持二養其神一、和二弱其氣一、平二夷其形一、而與レ道浮沈。〔荀子、勸學〕除二其害者一、以持二養之一。〔墨子、尙賢中〕將二養其萬民一。〔閒詁〕兪云、將、當レ作レ持。〔越絶書、越絶吳內傳〕生二長五穀一、持二養萬物一。❷うけしたがふ。將順。〔呂覽、長見〕申侯伯善持二養吾意一、吾所レ欲、則先レ我爲レ之。

【持約】111 ヂヤク 宋、顏博文（**12**－**43591**・・187）の字。

【持藥】112 ヂヤク 持續して用ひるくすり。用心のために平生斷えず用ひる藥。〔浮世風呂〕延壽丹と申すねり藥を持藥にたべます。

【持容】113 ヂヨウ 禮容をとりまもる。〔呂覽、謹聽〕說者持レ容而不レ極。

【持牢】114 ヂラウ とりまもることがかたい。〔淮南子、泰族訓〕故勇者可レ令二進鬬一、而不レ可レ令二持牢一。〔資治通鑑、漢紀〕（獻帝、建安四年）監軍之計、在二於持牢一。〔注〕持牢、猶三今南人言二把穩一也。

【持律】115 ヂリツ 佛 佛の戒を固く守ること。〔寶積經、八十二〕誰是持レ律、誰持二阿含一。

【持梁】116 ヂリヤウ 米飯を盛つた器を持つ。持梁齒肥を見よ。

〔持梁齒肥〕117 ヂリヤウシヒ 米飯を持つて肥肉を食べる。御馳走を食べること。〔史記、蔡澤傳〕（蔡澤）謂二其御者一曰、吾持レ梁刺二齒肥一、躍レ馬疾驅。〔注〕索隱曰、持梁、謂下作二梁米飯一、而持二其器一以食上也、刺二齒肥一、當レ爲レ齧レ肥、謂レ食二肥肉一也。

【持領】118 ヂリヤウ おほもとをとりまもる。〔論衡、程材〕擧レ綱持レ領、事無レ不レ定。

【持祿】119 ヂロク 徒らに官位に居つて俸祿を受けること。素餐。〔史記、秦始皇紀〕始皇天性剛戾自用、天下畏レ罪持レ祿、莫二敢盡一レ忠。〔北史、魏長賢傳〕大臣持レ祿而莫レ諫、小臣畏レ罪而不レ言。

〔持祿養交〕120 ヂロクヤウカウ 權貴の人と交つて祿位を保持すること。養交とは、自分の事へてゐる君と交際ある人の機嫌をそこなはぬやう努力すること。〔晏子、問、下〕士者持レ祿、游者養レ交。〔荀子、臣道〕不レ卹二君之榮辱一、不レ卹二國之臧否一、偸合苟容、以持レ祿養レ交而已耳、謂二之國賊一。〔注〕養レ交、謂下養二其與レ君交接之人一、不中忤犯使上レ怒也。〔通俗編、仕進、持祿養交〕管子明法篇、小臣持レ祿養レ交、不二以レ官爲一レ事、故失二其能一。

【持論】121 ヂロン 固く議論を執り守る。又、もとから堅持してゐる議論。〔漢書、嚴助傳〕朔皐不レ根二持論一、上頗俳優畜レ之。〔注〕師古曰、論議委隨、不レ能レ持レ正、如三樹木之無二根柢一也。〔漢書、儒林、孟喜傳〕持論巧慧、易家不レ能レ難。〔風俗通、正失〕朔口諧倡辨、不レ能二持論一。〔任昉、王文憲集序〕持レ論從容、未三嘗言二人所一レ短。

【持雅堂】122 ヂガダウ 清、汪棣（**6**－**17154**・・110）の室名。

【持金剛】123 ヂコンガウ 佛 金剛部の菩薩の名。不壞の智力をあらはし、獨鈷三鈷五鈷等の金剛杵を執持する。執金剛。〔大日經疏、一〕梵云二伐折羅陀羅一、此伐折羅卽是金剛杵、陀羅是執持義、故舊譯云二執金剛一、今謂二持金剛一、此宗密意、伐折羅是如來金剛智印。

【持心經】124 ヂシンキヤウ 佛 持心梵天所問經（132）の略。

【持世經】125 ヂセキヤウ 佛 書名。四卷。秦、羅什譯。持世菩薩の請問に依つて大乘の法門を說く。又、佛說法印品經といふ。〔宇帙、十〕。

【持靜齋】126 ヂセイサイ 清、丁日昌（**1**－**2**・・265）の號。

【持鬘天】127 ヂマンテン 佛 華鬘を持つてゐる天衆。胎藏界曼荼羅、外金剛院の一位を占む。〔祕藏記、下〕持鬘天、白肉色、持レ華。〔大補注、五〕若部有二衆生一、施二香華鬘一、必生二此天一、於二其胸前一、天悅意華自然爲レ鬘、故號二彼天一爲二持鬘一耳。

【持戈之士】128 ヂクワノシ ほこを持つた士。〔管子、輕重甲〕持戈之士、顧不レ見レ親。

【持蛇夫座】129 ヂダフザ 星座の名。一名、蛇夫座。蛇遣座（ヘビツカヒザ）の中國名。蠍座の北に在り、赤道にまたがるV字形の星座。

【持至尸逐單于】130 チチシチユゼンウ 後漢、南匈奴羌渠單于の子。名は於扶羅。中平年間に立つ。國人に父を殺され自ら漢朝に訟ふ。會〻靈帝崩じ天下亂る。國に歸らんとして容れられず。河東に止り、立つて七年にして卒す。〔後漢書、一百十九〕。

【持世陀羅尼經】131 ヂセダラニキヤウ 佛 書名。一卷。唐、玄奘譯。佛建礫迦林に在つて、妙月長者のために佛の說いたもの。雨寶陀羅尼經及大乘聖吉祥持世陀羅尼經と同本。〔成帙、八〕。

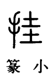
【持心梵天所問經】132 ヂシンボンテンシヨモンキヤウ 佛 書名。四卷。西晉、竺法護譯。思益梵天所問經の異譯。〔宇帙、二〕。

【挂】12020

㊀ クワイ ケ 〔集韻〕古賣切 卦 ㄍㄨㄚˋ kua⁴

㊁ ケイ ケ 〔集韻〕涓畦切 齊

慣 ケイ・クワ


小篆

㊀❶かぎりわける。わかつ。〔說文〕挂、畫也、从レ手圭聲。〔段注〕畫、葉本作レ宣、李文仲字鑑亦作レ宣、六書故云、唐本作レ縣。〔莊子、漁父〕以挂二功名一。〔釋文〕挂、音卦、別也。❷かける。㋑かかげる。つるす。〔玉篇〕挂、懸也。〔集韻〕挂、一曰、懸也。〔儀禮、少牢饋食禮〕挂二於季指一。㋺かかづらはす。及ぼす。〔漢書、嚴安傳〕秦禍北構二於胡一、南挂二於越一。㋩かうむる。きる。つける。〔王維、葛巾詩〕早朝方暫挂、晚沐更來簪。❸かかる。㋑宙にある。〔韓愈、西山詩〕新月迎レ宵挂、晴雲到レ晚留。㋺まつはる。からむ。〔元好問、山居雜詩〕瘦竹藤斜挂、叢花草亂生。㋩さがる。垂れ下る。〔何遜、渡連圻詩〕魚游若レ擁レ劍、猿挂似レ懸レ瓜。㋥ふれる。さはる。ひつかかる。〔穀梁、昭、八〕御轚者不レ得レ入、注〕轚挂則不レ得レ入レ門。〔釋文〕挂、礙也。〔曹植、責レ躬詩〕擧挂二時網一、動亂二國經一。㋭かかづらふ。〔張說、方秀川與二劉文一同宿詩〕寰中病二羈挂一、方外嫌二縱誕一。㋬かかげられる。〔白居易、舟中示二舍弟一詩〕雲展帆高挂、飈馳棹迅征。㋣わたる。〔李白、上皇西巡詩〕錦水東流繞二錦城一、

星橋北挂象二天星一。❹とまる。とめる。〔廣雅、釋詁三〕挂、止也。❺衣裳。〔潘岳、悼亡詩〕流芳未レ及レ歇、遺挂猶在レ壁。❻かり。かけ。物を借りて返さず、買つて代をはらはぬこと。〔玉堂雜事〕典二挂人財物一。❼さまたげる。絓（8－27552）に同じ。〔說文通訓定聲〕挂、段借爲レ絓。〔集韻〕絓、礙也、亦作レ挂。❽通じて卦（2－2798）に作る。〔儀禮、少牢饋食禮、實二于左袂一、挂二于季指一、注〕古文挂作レ卦。❾通じて掛（5－12267）に作る。〔說文通訓定聲〕挂、字亦作レ掛。〔集韻〕挂、通作レ掛。[二]❶わかつ。〔集韻〕挂、別也。〔莊子、漁父〕好經二大事一、變更易レ常、以挂二功名一、謂二之叨一。〔釋文〕挂、音卦、別也、又音圭。❷かけとる。ひつかける。〔集韻〕挂、一曰、中レ鉤取レ物。

[參考] 熟語は掛（5－12267）を併せ見よ。

【挂衣】1 ケイイ 衣裳。又、みの。簑。雨衣。〔江爲、江行詩〕何時洞庭上、春雨滿二挂衣一。

【挂意】2 ケイイ 注意する。氣づかふ。懸念。掛意。〔蘇軾、與二故人一書〕洗眼藥、揩牙藥、得レ之甚幸、切望二挂意一。

【挂閡】3 ケイガイ 觸れ礙げる。罣礙。絓閡。〔世說新語、排調〕王文度在二西州一、與二林法師一講、韓孫諸人並在レ坐、林公理每欲二小屈一、孫興公曰、法師今日、如下著二敝絮一在中荊棘中上、觸レ地挂閡。

【挂孝】4 kua^4 hsiao^4 喪事のあつた家の門口に麻又は紙錢をかけて記號とすること。又、白布を身にかけ纏ふこと。喪服を着る。掛孝。

【掛號】5 kua^4 hao^4 番號を登記する。書留。

〖挂號郵件〗6 kua^4 hao^4 yu^2 chien^4 書留郵便。掛號郵件。

〖挂號執據〗7 kua^4 hao^4 chih^2 chü^4 書留郵便の領收書。

【挂懷】8 ケイクワイ おもひをのこす。心にかける。〔韓愈、送二靈師一詩〕靈師不二挂懷一、冒涉道轉延。

【挂冠】9 ケイクワン 制服の衣冠を脫いで柱などに掛けること。官を去り職を辭することにいふ。後漢の逢萌が王莽に事へることを欲せず、冠を東都の城門に掛け、家屬を連れて遼東に逃れたといふ故事にもとづく。挂冕。挂綬。〔後漢書、逸民、逢萌傳〕逢萌、字子慶、北海都昌人也、云云、時王莽殺二其子宇一、萌謂二友人一曰、三綱絕矣、不レ去禍將レ及レ人、卽解レ冠挂二東都城門一、歸、將二家屬一浮レ海客二於遼東一。〔崔信明、送二金竟陵入レ蜀詩〕西上君飛レ蓋、東歸我挂レ冠。〔岑參、與二高適薛據一同登二慈恩寺浮圖一詩〕誓將三挂レ冠去、覺道資二無窮一。

【挂罥】10 ケイケン かかること。〔木華、海賦〕挂二罥於岑嶅之峰一。〔注〕善曰、聲類曰、罥、係也。

【挂戶】11 ケイコ 戶をかかげる。又、戶にかかる。〔蘇軾、江月詩〕玉鉤還挂レ戶、江練卻明レ樓。〔蘇軾、紫團參寄二王定國一詩〕淸宵月挂レ戶、半夜珠落レ井。

【挂口】12 ケイコウ 口にする。言及する。〔蘇軾、送三劉邠倅二海陵一詩〕君不レ見阮嗣宗、臧否不レ挂レ口。

【挂扢】13 ケイコツ ふれすれる。〔左思、吳都賦〕所下以挂扢而爲二創痏一、衝踤而斷中筋骨上。〔注〕善曰、廣雅曰、扢、摩也。

【挂齒】14 ケイシ 齒牙にかける。とりあげていふ。論議する。〔史記、叔孫通傳〕此特羣盜鼠竊狗盜耳、何足レ置二齒牙閒一。〔陸游、送三子龍赴二吉州掾一詩〕汝但問二起居一、餘事勿レ挂レ齒。

【挂車】15 ケイシヤ 山名。安徽省桐城縣の西。掛車（5－12267・・47）の❶に同じ。

【挂錫】16 クワイシヤク 錫杖をかける。僧の一處に留まることをいふ。掛錫。飛錫（12－44000・・180）の對。〔岑參、昭公院雙橙詩〕南庭黃竹爾不レ敵、借問何時堪二挂錫一。

【挂綬】17 ケイジユ 印綬を官署內に掛け置く。官を退くこと。挂冠。〔元稹、歸田詩〕陶君三十七、挂レ綬出二都門一。

【挂心】18 ケイシン 心にかける。關心する。懸念。〔沈君攸、詩〕翩翩桂水不レ忍レ度、懸レ目挂レ心思レ越レ路。

【挂席】19 ケイセキ むしろをかける。帆をあげること。挂帆。掛席。〔謝靈運、游二赤石一進二帆海一詩〕揚レ帆采二石華一、挂レ席拾二海月一。〔孟浩然、尋二張五一詩〕挂レ席樵風便、開レ軒琴月孤。

【挂錢】20 ケイセン 錢をかける。宋の查道が道傍の棗を食べて、其の代價を其の棗の木にかけた故事。〔宋史、查道傳〕嘗出按レ部、路側有二佳棗一、從者摘以獻、道卽計レ直、挂二錢於樹一而去。

【挂搭】21 ケイタフ 僧の寺などにとどまること。挂も搭も共に懸ける義。僧侶が衣鉢、袋を僧堂の鉤に懸ける意。掛搭（5－12267・・64）・挂單（23）に同じ。

【挂榻】22 ケイタフ 榻を懸けて置いて、賢者を禮する時に用ひる。陳蕃下レ榻（11－41698・・514）を見よ。〔徐陵、在二北齊一與二宗室一書〕邦君佇レ德、寧無二挂榻之思一、州將欽レ風、應レ有二題車之命一。

【挂單】23 ケイタン 僧侶が行脚して投宿すること。〔劉克莊、詩〕僧借二虛堂一竟挂單。

【挂膽】24 ケイタン 膽をかける。〔徐陵、勸進梁元帝表〕既挂二膽於西州一、方燃二臍於東市一。

【挂賬】25 kua^4 chang^4 借りを拂はない。かけ借りする。又、掛賣。掛賬。

【挂念】26 kua^4 nien^4 念頭に留めること。懸念。掛念。〔水滸傳、八回〕儞但放心去、不要挂念。

【挂榜】27 ケイバウ たてふだ。かけふだ。掛榜。〔李元陽、遊二花甸一記〕東岡壁立如二桂榜一。

【挂帆】28 ケイハン ほをあげる。挂席。掛帆。〔南史、鄧琬傳〕與二子勛一書、欲三沿レ流挂レ帆、直取二白下一。〔杜甫、雨詩〕挂レ帆遠色外、驚浪滿二吳楚一。

【挂瓢】29 ケイヘウ 瓢をかける。許由が瓢を木の枝にかけたところが、風のために音がしてうるさいので、之を取り棄てた故事。〔逸士傳〕許由手捧レ水飮、人遺二一瓢一、飮訖挂二木上一、風吹有レ聲、由以爲レ煩、去レ之。〔錢起、謁二許由廟一詩〕松上挂レ瓢枝幾變、石閒洗レ耳水空流。

【挂冕】30 ケイベン かんむりを官署內にかけ置く。官を退くこと。挂冠。〔祖鴻勳、與二陽休之一書〕是以東都有二挂冕之臣一、南國見二捐情之士一。

【挂名】31 ケイメイ ❶名を記す。名を掲げる。掛名。揭名（5－12389・・44）に同じ。〔湘山野錄、下〕（石）曼卿閒語二（秘）演一曰、繁臺寺閣、虛爽可レ愛、久不二一登一、云云、（曼卿）濡二巨筆一以題云、石延年曼卿、同二空門詩友老演一登レ此、生拜叩曰、塵賤之人、幸獲二陪侍一、乞挂二一名一。❷其の地位に居つて其の責に任ぜぬをいふ。〔蘇軾、次二韻范純父涵星硯月石風林屛一詩〕上書挂名豈待レ我、獨立自可レ當二雷霆一。

【挂綠】32 ケイリヨク 最も佳い茘枝。廣東省增城縣に產す。〔陳鼎、茘枝譜〕共殼上赤如二丹砂一、下綠如二澄波一、故名。

【挂漏】33 ケイロウ もれること。挂は登記、此を記して彼を漏らす意。挂一漏萬（42）の略。〔周伯琦、自二順寧府一歷二坳兒嶺一云云晚宿二雷家驛一詩〕紀勝猶挂漏、觀レ風能宣レ旬。

【挂月峯】34 ケイゲツホウ 峯の名。河北省薊縣の西北、盤山の最高處。峯の頂に定光佛舍利塔、峯下に摩天石がある。

【挂頰亭】35 ケイケフテイ 元、楊維楨（6－15112・・417）の室名。「名。

【挂蓑亭】36 ケイサテイ 元、富恕（3－7230・・105）の室名。

【挂星查】37 ケイセイサ 堯の時、西海に現れたいかだの名。星の如く光を發したからいふ。〔拾遺記、一、唐堯〕堯登レ位三十年、有三巨查浮二於西海一、查上有レ光、夜明晝滅、海人望二其光一、乍大乍小、若二星月之出入一矣、云云、名曰二貫月查一、亦謂二挂星查一。

【挂鐙錢】38 ケイトウセン 清代、戶部寶泉局で鑄た錢の名。〔鮑康、大錢圖錄〕戶部寶泉局、歲十二月、例精鑄制錢若干緡呈進、謂二之挂鐙錢一、又有二同治通寶大錢一、幕文篆書曰二長命富貴一、或楷書曰二天下太平一、亦寶泉局鑄、歲暮與二挂鐙錢一同進。

【挂牌兒】39 ケイハイジ 清代、北京の茶店で音樂唱歌の類を學ぶ都會の子弟をいふ。〔都城紀勝〕京師賣茶樓、有三都人子弟會聚、習二學樂器或唱叫之類一、謂二之挂牌兒一。

【挂龍雨】40 ケイリヨウノアメ 旋風を帶びた暴雨。〔通俗編、天文、挂龍雨〕雪浪齋日記、洪覺範詩、已收雯掛龍雨、忽起千岩攧鷂風、挂龍雨攧鷂風皆方言、古今人未二嘗道一、按、岑羲、亦有二西山一餉挂龍雨句一。

【挂龍崖】41 ケイリヨウガイ 名勝の名。河南省伊陽縣の西南。〔文翔鳳、挂龍崖遊記〕志稱二龍崖夜雨一、爲二八景之一一、蓋有三危石懸二空際一、云、昔曾挂龍奇甚、對崖爲二窗子巖一、人就レ之若レ聞二雨滴聲一、故曰二夜

雨一者、况之辭也。

【挂一漏萬】42 （ケイイツロウバン） 一をしるして萬を漏らす。〔韓愈、南山詩〕團レ辭試提挈、挂レ一念二萬漏一。〔注〕孫曰、又、恐二掛レ一漏レ萬也。

【⿰扌聿】12021
ロツ ロチ 〔集韻〕勒沒切 月

つかむ。とる。〔集韻〕⿰扌聿、捽也、捋也。

【⿰扌朱】12022
🈩シュ 〔玉篇〕止臾切 眞
🈔シュ 〔玉篇〕章遇切 遇

🈩🈔とめる。とまる。〔字彙〕⿰扌朱、止也。

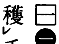
【⿰扌杀】12023
🈩サツ セチ 〔集韻〕初轄切 黠
🈔サツ サチ 〔集韻〕麤括切 曷

🈩うつ。〔集韻〕⿰扌杀、摶也。🈔うつ。擭⿰扌杀。〔集韻〕⿰扌杀、擭⿰扌杀、摶也、徐邈說。

【⿰扌肉】12024
ヂク ニク 〔集韻〕女六切 屋

のびない。搐⿰扌肉。〔集韻〕⿰扌肉、搐⿰扌肉、不レ伸。

【挃】12025
🈩チツ チチ 〔集韻〕陟栗切 質
🈔テツ デチ 〔集韻〕徒結切 屑


小篆

🈩❶禾をかるおと。〔說文〕挃、穫レ禾聲也、从レ手至聲、詩曰、穫レ之挃挃。〔詩、周頌、良耜〕穫レ之挃挃。〔傳〕挃挃、穫聲也。❷さす。〔廣雅、釋詁一〕挃、刺也。❸つく。⿰扌室(5-12375)に通ず。〔集韻〕⿰扌室、擣也、通作レ挃。〔淮南子、兵略訓〕五指之更彈、不レ若二捲手之一挃一。〔注〕挃、擣也。❹或は秷(8-25035)・⿰禾窒(8-25259)に作る。〔集韻〕挃、或从レ禾、从レ窒。🈔なげる。⿰扌窒(5-12604)に同じ。〔集韻〕⿰扌窒、博雅、擿也、或省。

【⿰扌充】12026
シユウ シユ 〔字彙〕充仲切 送

とぶ。〔字彙〕⿰扌充、跳也。

【⿰扌先】12027
セン 〔集韻〕蘇典切 銑

捵⿰扌先は、ひねる。〔集韻〕⿰扌先、捵⿰扌先、手捻レ物。

【⿰扌亙】12028
コウ

揯(5-12396)に同じ。〔集韻〕⿰扌亙、揯或省。

【挄】12029
クヮク

撗(6-15789)に同じ。〔字彙〕挄、與レ撗同。

【挆】12030
🈩タ 〔集韻〕都果切 哿 ㄉㄨㄛˇ tuo^{3}
🈔タ 〔集韻〕都唾切 箇

🈩❶ゆれる。又、はかる。揣(5-12371)に同じ。〔集韻〕揣、搖也、一說、度レ高曰レ揣、或从レ朶。🈔❶帆をおろす。〔廣韻〕挆、落レ帆。❷はかる。⿰女朵(3-6260)に同じ。〔集韻〕⿰女朵、量也、或从レ手。❸現 ひろふ。

【挆數】1 tuo^{2} shu^{3} 暗算する。
【挆忖】2 tuo^{2} ts'uen^{3} おしはかる。
【挆窮的】3 tuo^{3} ch'iung^{2} tê 紙屑拾ひ。

【⿰扌呆】12031
タ

挆(5-12030)に同じ。〔字彙〕⿰扌呆、同レ挆。

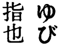
【⿰扌伏】12032
ホク ボク 〔集韻〕鼻墨切 職

うつ。〔集韻〕⿰扌伏、擊也。

【⿰扌旬】12033
🈩クヮウ 〔集韻〕呼宏切 庚
🈔ケン 〔集韻〕翾縣切 霰 ㄒㄩㄢˋ hsüan^{4}

🈩❶ふるふ。揈(5-12329)に同じ。〔集韻〕揈、揮也、或从レ旬。❷うつおと。〔字彙〕⿰扌旬、擊聲。🈔うつ。或は揈(5-12329)に作る。〔集韻〕⿰扌旬、博雅、擊也、或从レ訇。

【指】12034
シ 〔集韻〕軫視切 紙 ㄓˉˊˇ chih$^{1 \cdot 2 \cdot 3}$


小篆

❶ゆび。㋑手のゆび。〔說文〕指、手指也、从レ手旨聲。〔儀禮、大射儀〕右巨指鉤レ弦。〔注〕右巨指、右手大擘。〔孟子、告子上〕今有二無名之指、屈而不レ信。〔注〕無名之指、手之第四指也。〔莊子、齊物論〕天地一指也、萬物一馬也。〔注〕指、手指也。㋺足のゆび。〔說文、指、王注〕言レ手者、以レ手統レ足也。〔北史、李幼廉傳〕碎卿等諸人、作二得李長史一脚指一不。㋩或は脂(9-29463)に作る。〔集韻〕指、或从レ肉。❷さす。ゆびさす。㋑しめす。〔爾雅、釋言〕指、示也。〔廣雅、釋言〕指、斥也。〔禮、玉藻〕凡有三指二畫於君前一用レ笏。〔楚辭、離騷〕指二九天一以爲レ正兮。〔漢書、王嘉傳〕千人所レ指、無レ病而死。㋺定める。〔易、繫辭上〕辭也者、各指二其所レ之。〔史記、孔子世家〕以二其策一指レ之。㋩かぞへる。〔後漢書、蔡邕傳〕披二露得失一、指二陳政要一。㋥さしづする。〔禮、曲禮上〕六十曰レ耆指使。㋭むかふ。〔史記、天官書〕直斗柄所レ指、以建二時節一。㋬まっすぐ立つ。ひたのぼる。〔呂覽、必己〕目裂鬢指。〔注〕指、直。❸かたる。〔廣雅、釋詁二〕指、語也。❹かく。〔淮南子、脩務訓〕攄書明指以示レ之。〔注〕指、書也。❺ゆく。おもむく。歸する。〔淮南子、原道訓〕趨舍指湊。〔注〕指、所レ之也、指湊、猶レ言二行止一也。❻むね。恉(4-10532)に通ず。〔說文通訓定聲〕指、叚借爲レ恉。㋑こころ。こころばせ。〔管子、侈靡〕承二從天之指一。〔注〕指、意也。㋺おもむき。〔孟子、盡心下〕言近而指遠者、善言也。〔荀子、王霸〕明二一指一。〔注〕指、指歸也。㋩こころざし。〔呂覽、行論〕布衣行二此指於國中一。〔注〕指、志也。㋥わけ。ことわり。〔漢書、河閒獻王德傳〕文約指明。〔注〕師古曰、指、謂二義之所レ趨、若二人以レ手指レ物也。❼うまい。旨(5-13738)に通ず。〔荀子、大略〕詩曰、物其指矣。〔注〕指、與レ旨同、旨、美也。❽現㋑人口。㋺たよる。あてにする。

名乘 ムネ。

【指意】1 （シイ） むね。こころ。趣意。主旨。旨意。〔管子、宙合〕此言二指意要レ功之謂一也。〔史記、孟荀卿傳〕因發明序二其指意一。〔漢書、藝文志〕撮二其指意一、錄而奏レ之。〔王褒、四子講德論〕文侯諭二其指意一。
【指引】2 （シイン） 導く。をしへる。〔長生殿、進果〕多二謝客官指引一。
【指印】3 （シイン） ❶指のあと。指紋。〔青瑣高議〕明皇時有下獻二牡丹一者上、貴妃匀面、口脂在レ手、偶印二

于花上、詔于仙春舘栽、來歲花開、上有指印紅迹、帝名爲一捻紅。㊁佛拇印の類をいふ。〔行事鈔、中上〕諸書指印遺使。〔行事抄資持記〕言指印者、舊云、手墨印紙、以表其意。

【指雲】4（シウン） 明、吳會(2－3365‥125)の字。

【指要】5（シエウ） 重要なむね。要旨。〔晉書、王承傳〕言理辨物、但明其指要、而不飾文辭、有識者服其約而能通。〔北齊書、邢邵傳〕晚年尤以五經章句爲意、窮其指要。〔北史、陸旭傳〕旭性雅澹、好易緯候之學、撰五星要決及兩儀眞圖、頗得其指要。

【指筵】6（サシムシロ） 昔、貴人が著座する時に用ひた上疊の稱。疊の上に更に重ねたもので、表裏を同じくし、裏の方を下の床にさしつけて處々を綴ぢつける。〔中右記〕嘉承元年十一月七日、今日春日祭使出立、云云、寢殿母屋三間、幷、西南庇、令敷指筵。

【指猿】7（シエン） 動物の名。擬猴類。ゆびざる。

【指遠】8（ムネトホシ） 內容が深遠なこと。字解の㊆を見よ。〔孟子、盡心下〕言近而指遠者、善言也、守約而施博者善道也。

【指瑕】9（シカ） きずを指摘する。難癖をつける。あらを拾ふ。〔唐書、文藝上、王勃傳〕九歲、得顏師古注漢書、讀之作指瑕、以擿其失。〔韓愈、喜侯喜至贈張籍張徹詩〕繽紛指瑕疵、拒捍阻城塹。

【指綱】10（サシヅナ） 馬をつなぐ繩。差繩。

【指甲】11（シカフ） 指の爪。〔癸辛雜識、續集上〕鳳仙花紅者用葉、擣碎入明礬少許、先洗淨指甲、然後以此付甲上、用片帛纏定、連染三五次、其色若胭脂、洗滌不去。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕十指、十指甲。

〔指甲花〕12（シカフクワ） ㊀鳳仙花(12－46671‥113)の異名。指甲を染めるに用ひるからいふ。〔本草、鳳仙〕釋名、急性子、旱珍珠、金鳳花、小桃紅、夾竹桃、海蒳・染指甲草、菊婢、時珍曰、其花頭翅尾足俱翹翹然如鳳狀、故以名之、女人采其花及葉包染指甲、其實狀如小桃、老則迸裂、故有指甲・急性・小桃諸名。㊁木犀に似た草の名。其の花は鳳仙花と同じく指甲を染めるに用ひる。〔本草、茉莉〕附錄、指甲花、有黃白二色、夏月開香、似木犀、可染指甲、過于鳳仙花。㊂西域に產する花種。樹の高さ五六尺、枝條は柔弱、葉は嫩榆に似、花は細白。はまもつこう。〔南方草木狀〕指甲花、其樹高五六尺、枝條柔弱、葉如嫩榆。〔北戶錄〕指甲花、細白、絕芳香、番人重之、未詳其名。

〔指甲套〕13 chih¹ chia t'ao⁴ つめ覆ひ。中國人の樂隱居などで爪を大切にする者が用ひる。

〔染指甲〕14（シカフヲソム） 指の爪をそめる。〔通俗編、身體、染指甲〕李玉英秋日採鳳仙花染指甲于月中調弦、或比之落花流水。

【指姦】15（シカン） 姦通罪を犯したと指稱すること。指姦には事實の場合と虛構の場合とあり、虛構の場合は誣告罪を構成す。〔明律、犯姦、姦部民妻女、條例〕凡軍職及應襲舍人犯姦、除姦所捕獲、及刁姦坐擬姦罪者官革職與舍人、俱發本衞、隨舍餘食糧差操、其指姦及非姦所捕獲者、俱照常發落。

〔指姦有孕〕16（シカンイウヨウ） 姦通によつて懷妊したと指稱すること。〔元典章、刑部、指姦、指姦有孕例〕本婦身懷有孕、聞得係與陶種一叔姐夫李陛通姦、云云、既非姦所捕獲、所指姦夫累問不招。

【指閒】17（シカン） 指と指との閒。〔根本通明、周易復古、三十六變筮法、筮儀〕掛者、懸而不用也、非挾指閒之謂也。

【指諫】18（シカン） 五諫の一。指し示していさめる。〔白虎通、諫諍〕人懷五常、故有五諫、謂諷諫・順諫・窺諫・指諫・伯諫。

【指揮】19（シキ） ㊀さしづする。下知する。指は指示。揮は手使。指麾。〔荀子、富國〕拱揖指揮、而強暴之國、莫不趨使。〔史記、淮陰侯傳〕雖有舜禹之智、嘿而不言、不如瘖聾之指揮也。〔新序、雜事四〕先王之所以拱揖指揮、而四海賓者、誠德之至、已形於外。〔杜甫、行次昭陵詩〕指揮安率土、盪滌撫洪鑪。㊁官名。唐の中葉の後、都指揮使の官を置く。もと方鎭の軍校の名。遼が宣武軍を起してから、其の鎭兵を以て舊號に仍つて在京馬步軍都指揮使を置き、五代及び宋は、皆此の名を沿用して遂に禁衞の官とした。元代、親軍諸衞も亦之を置く。明代は內外諸衞に指揮使を置くの外、都指揮使司を置いて一省の軍務最高機關とし、淸代ではただ北京に兵馬司指揮を置き、城內の治安を掌らしめた。都指揮使(11－39509‥242)を見よ。〔文獻通考、職官考、殿前司〕都指揮使、副都指揮使、都虞候使、副都虞候、掌殿前諸班直・及步騎諸指揮之名籍、及訓練之政。

〔指揮官〕20（シキクワン） 軍隊を指揮する長官。

〔指揮棍〕21 chih³ huei¹ kuen⁴ 巡查の警棒。

〔指揮使〕22（シキシ） 官名。指揮(19)の㊁を見よ。

〔指揮刀〕23（シキタウ） 軍の將校が兵を指揮するために用ふる刀。

【指撝】24（シキ） 指麾に同じ。撝は麾。〔易、謙、撝謙、注〕指撝皆謙、不違則也。〔後漢書、皇甫嵩傳〕指撝足以震風雲。〔注〕撝、卽麾字、古通用。

【指麾】25（シキ） さしまねく。げちする。さしづする。指揮。〔荀子、議兵〕拱挹指麾、而彊暴之國、莫不趨使。〔荀子、成相〕呂尙招麾、殷民懷。〔注〕招麾、指揮。〔韓非子、外儲說右下〕操鞭箠指麾而趣使人、則制萬夫。〔史記、淮陰侯傳〕雖有舜禹之智、吟而不言、不如瘖聾之指麾也。〔淮南子、原道訓〕口不設言、手不指麾。〔漢書、陳平傳〕天下指麾卽定矣。〔孫楚、爲石仲容與孫皓書〕謀力雲合、指麾風從。

【指歸】26（シキ） おもむき歸する。指意の歸する所。模範として從ふこと。〔蜀志、秦宓傳〕仲尼嚴平會聚衆書、以成春秋指歸之文。〔晉書、束晳傳〕初太康二年、汲郡人、云云、得竹書數十車、云云、多燼簡斷札、云云、武帝以其書付祕書、校綴次第、尋考指歸、而以今文寫之。〔王僧虔、誡子書〕汝曾未窺其題目、未辨其指揮、而終日自欺欺人、人不受汝欺也。〔郭璞、爾雅序〕夫爾雅者所以通詁訓之指歸。〔疏〕言、此書所以通暢古今之言、訓道百物之貌、使人知其指意歸鄉也、若言初哉首基者、其指歸在始也、若言番番矯矯者、其指歸在勇也。〔顏氏家訓、勉學〕問一言、輙酬數百、責其指歸、或無要會。〔劉知幾、上蕭至忠論史書〕古者、刊定一史、纂成一家、體統各殊、指歸咸別、夫尙書之敎也、以疏通知遠爲主、春秋以懲惡勸善爲先。〔孫奭、孟子正義序〕丁氏則稍識指歸。

【指擬】27（シギ） 指し示してなぞらへはかる。〔資治通鑑、唐紀〕(高祖、武德九年)臣光曰、彼中明肅代之傳繼、得非有所指擬、以爲口實乎。

【指給】28 chih² chi³ 指し示してやる。敎へる。

【指誆】29（シキヤウ） だますこと。誆は誑。〔福惠全書、刑名部、欵犯〕說事指誆、勢焰驚人、權柄在手。

【指擧】30（シキヨ） 指し示してあげる。〔新書、俗激〕天下之大、指擧之而激、俗流失、世壞敗矣。

【指囷】31（シキン） 米ぐらを指す。吳の魯肅が米ぐらを指示して米を周瑜に與へた故事。後、朋友が資を以て助け合ふにいふ。〔吳志、魯肅傳〕周瑜爲居巢長、將數百人、故過候肅、幷求資糧、肅家有兩囷米各三千斛、肅乃指一囷與周瑜、瑜益知其奇也。

【指貨】32（シクワ） 物の値段をさだめる。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、起贓〕指貨當銀。

【指畫】33（シクワク） ㊀指で線を引いてかぎる。手指でゑがいて懇に示しをしへる。〔禮、玉藻〕凡有指畫於君前、用笏。〔墨子、明鬼下〕有勇力之人推哆大戲、生列兕虎、指畫殺人。〔後漢書、馬援傳〕聚米爲山谷、指畫形勢。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕其經承子厚口講指畫、爲文詞者、悉有法度可觀。㊁（シグワ） 指先に墨をつけてゑがく。唐の張璪に創まる。〔歷代名畫記、十〕張璪字文通、吳郡人、初相國劉晏知之、相國王縉奏檢校祠部員外郞、鹽鐵判官、坐事貶衡州司馬、移忠州司馬、尤工樹石山水、自撰繪境一篇、言畫之要訣、初畢庶子宏擅名於代、一見驚歎之、異其唯用禿毫、或以手摸絹素、因問璪所受、璪曰、外師造化、中得心源。

【指月】34（シグワツ） 佛指を敎に譬へ、月を法に比していふ。〔楞嚴經、二〕如人以手指月示人、彼人因指、當應看月、若復觀指、以月爲體、此人豈亡失月體、亦亡其指。

〔指月錄〕35（シグワツロク） 佛書名。三十二卷。明、瞿汝稷撰。佛祖及び諸宗の語を集めたもの。本名は

水月齋指月錄。

【指貫】36（ユビヌキ） ㊀裁縫の時、針を押すため、指にはめる具。㊁（サシヌキ） 指貫袴の略。

〔指貫袴〕37（サシヌキノハカマ） ㊀裾廻りに組緒を刺し通して、穿く時は緒をしぼつて、踝の上で括る袴。昔布で製し、狩衣の下に着る。又、狩袴ともいふ。〔名義抄、衣部〕。㊁中古以後、五位以上の人が狩衣直衣の下に穿く袴。綾織物で製する。〔西宮記、臨時八〕指貫王者以下、衆人可レ用也、古時有レ制、臣下不レ用、近代五位已上、昇殿六位、皆用レ之。

【指環】38（シクヮン） ㊀ゆびわ。〔南史、夷貊上、海南諸國、阿羅單國傳〕元嘉七年遣レ使、獻二金剛指環一。〔宋史、外國五、三佛齊國傳〕貢二云云、水晶指環一。㊁古、后妃羣妾が御に當る時に用ひたもの。〔五經要義〕后妃羣妾以レ禮御二於君所一、女史書二其日一授以レ環、以示二進退之法一、生子月娠則以二金環一退レ之、當レ御者則以二銀環一進レ之、著二於左手一、既御、著二於右手一。〔事物紀原、衣裘帶服部、指環〕春秋繁露曰、紂刑二鬼侯一、取二其指環一、五經要義曰、古者后妃羣妾御二於君一、所レ當レ御者、以二銀環一進レ之、娠則以二金環一退レ之、進者著二右手一、退者著二左手一、今有二指環一、此之遺事也、本二三代之制一者也。

【指教】39（シケウ） 指し示して教へる。教導する。〔日本政記、順德天皇論〕蓋指下教其復二父仇一之便上。

【指橋】40（シケウ） 風に隨つて從ひ靡くこと。〔漢書、司馬相如傳下、大人賦〕掉指橋以偃蹇兮、又猗抳以招搖。〔注〕張揖曰、指橋、隨レ風指靡也。

【指呼】41（シコ） ゆびさしよぶ。さしづし命ずる。〔宋史、蕭注傳〕親信之人、皆可二指呼而使一。〔劉子翬、劉兼道獵詩〕劉侯好レ獵親馳逐、指二呼雙犬一如二奴僕一。

【指袴】42（サシコ） 無紋の平絹で仕立てた小袴。指貫（サシヌキ）の小袴の意。

【指顧】43（シコ） ゆびさしかへりみる。轉じて、距離の近いさま。又、少時のさま。〔漢書、律歷志上〕指顧取レ象。〔班固、東都賦〕指顧倏忽、獲車已實。〔注〕翰曰、指顧、指麾廻顧也。〔傅毅、舞賦〕指顧應レ聲、羅衣從レ風。〔唐書、李晟傳〕日成每二與レ賊戰一、必錦裘繡帽自表、指二顧陣前一。〔王勃、龍懷寺碑〕起二雷霆于指顧一。〔白居易、大巧若レ拙賦〕取捨資二乎指顧一、物莫二能爭一。〔王安石、祭二歐陽文忠公一文〕及二夫發レ謀決レ策、從容指顧、立二定大計一。

【指語】44（シゴ） ゆびさして語る。〔韓愈、張中丞傳後敍〕船上人、猶指以相語。〔日本外史、新田氏正記、新田氏〕敵相指語。

【指弘】45（イヒホ） 姓氏。

【指控】46 chih^3 k'ung^4 人を指定して告訴する。

【指告】47（シコク） さしつげる。〔書、微子〕今爾無三指二告予顚隮一、若レ之何其。〔傳〕汝無二指レ意告レ我。

【指骨】48（シコツ） 指の骨。〔西京雜記、一〕戚姬以二百鍊金一爲二彄環一、照二見指骨一。

【指婚】49（シコン） ㊀清代、皇族子女の婚嫁をいふ。皇帝の指定によるからいふ。〔清會典事例、宗人府〕二十七年諭、王公一切事務、俱係二宗人府承辦一、伊等之女、指婚請封自應下咨二宗人府一查覈、轉行二禮部一照例辦理上、今各由二本家一報レ部。〔清國行政法汎論、皇族指婚〕指婚謂三皇帝勅旨、命二婚嫁於其近支子女一也。㊁指腹婚。指腹爲レ婚（13[7)を見よ。

【指痕】50（シコン） ゆびのあと。

【指爪】51（シサウ） 指のつめ。〔後漢書、獨行、戴就傳〕以二大鍼一刺二指爪中一。〔唐書、文藝下、李賀傳〕李賀七歲能二辭章一云云、通眉長二指爪一。

【指贜】52 chih^3 tsang^4 贜品をつきとめる。

【指參】53 chih^3 ts'an^1 名を指定して彈劾する。

【指支】54（シシ） 手足。四肢。〔唐書、藩鎭傳序〕首尾指支、幾不レ能二相運掉一也。

【指矢】55（サシヤ） ㊀矢の一種。根を木で作った炙箆。㊁矢數を多く射ること。又、其の矢。差矢。

【指使】56（シシ） ㊀ゆびでさしづして人をつかふこと。〔禮、曲禮上〕六十曰レ耆、指使。〔疏〕六十耳順、不レ得レ執レ事、但指レ事使レ人也。〔戰國、燕策〕馮レ几據レ杖、眄視指使、則厮役之人至。〔柳宗元、梓人傳〕吾指使而羣工役焉。㊁指揮官。〔宣和遺事、前集下〕差二著楊志、云云、十二人爲二指使一。

【指視】57（シシ） 指さしてみる。又、指さし示す。〔漢書、張良傳〕召二戚夫人一指視曰。〔漢書、張釋之傳〕愼夫人從レ上指視。

【指示】58（シジ） ゆびさししめす。しめし教へる。〔史記、蕭相國世家〕發蹤指二示獸處一者人也。〔史記、張釋之傳〕上指二示愼夫人新豐道一曰、此走二邯鄲一道也。〔新序、善謀下〕召二戚夫人一、指二示四人者一曰。

〔指示代名詞〕59（シジダイメイシ） 文法で事物をゆびさししめすことば。其・此・彼などの類。

【指事】60（シジ） 漢字の六書の一。又、象事・處事ともいふ。數量方向等の如き、形を模することの出來ぬ抽象的概念を示すために作つた符號的文字。例へば一線の上方に一點を畫して𠄞(上)とし、下方に一點を畫して𠄟(下)とし、或は一線を以て一、二線を以て二を表はし、或は木の上に一を加へて末とし、下に一を加へて本とする類。六書(**2**-**1453**··331)の㊀を見よ。〔許愼、說文解字敍〕指事者、視而可レ識、察而見レ意、𠄞・𠄟是也。〔徐鍇注〕無二形可レ載、有二勢可レ見、則爲二指事一、上下之別、起二於互對一、有レ下而上、上名所二以立一、有レ上而下、下名所二以生一、無二定物一也、故立レ一而上下引レ之、以見二指歸一。〔晉書、衞恆傳〕字有二六義一、一曰、指事、上・下是也。

【指日】61（シジツ） ㊀日をさしまねく。〔韻府引、韓非子〕虞公與レ夏戰、日欲レ落、公以レ劍指レ日、日爲退不レ落。㊁日を期して。日を限つて。不日。近日。〔曹植、應詔詩〕弭レ節長鶩、指レ日遄征。〔潘岳、關中詩〕命二彼上谷一、指レ日遄逝。〔韓愈、送二進士劉師服東歸一詩〕還家雖二闕短一、指日親晨餐。

〔指日高陞〕62 chih^3 jih^4 kao^1 shêng^1 日ならず御昇進。官吏などへの祝賀の祠。

〔指日告罄〕63 chih^3 jih^4 kao^1 ch'ing^4 日ならずして盡きる。

【指省】64（シシヤウ） 己の希望する官省を指定すること。指省分發を見よ。

〔指省分發〕65（シシヤウブンパツ） 清代、候補官が例規金を納めて自己の希望する省を指定して任用を願ひ、分派任用せられること。〔清會典事例、吏部、除授〕例不二引見一者、扣二除給レ照、統俟二捐案一奏准、呈驗指省執照、並將二所レ指之省有無、各項違礙一、詳細聲明後、附入二下月一辦理、其由二勞績保擧分發省分一、續經二報捐指省一者、一律照レ此辦理。

【指掌】66（シシヤウ） ㊀掌を指す。㋑見易く知り易い喩。〔禮、仲尼燕居〕治レ國其如レ指二諸掌一而已乎。〔注〕治レ國指二諸掌一、言レ易レ知也。〔論語、八佾〕知二其說一者之於二天下一也、其如レ示二諸斯一乎、指二其掌一。〔集注〕指二其掌一、弟子記三夫子言二此而自指二其掌一、言二其明且易一也。㋺事の爲し易い喩。〔晉書、文帝紀〕帝笑曰、取レ蜀如レ指レ掌。㊁てのひら。〔抱朴子、外篇、君道〕文則琳琅墮二於筆端一、武則鉤銘摧二於指掌一。

【指尺】67（シシヤク） 尺度の名。中指の中節を一寸として作つた尺度。圭璧などを測るに用ひる。〔家禮〕深衣裁用二白細布一、度用二指尺一。〔注〕中指中節爲レ寸。〔山堂考索〕指尺之與二黍尺一、一也、黍有二巨細一、故尺有二長短一、先儒以二黍之巨者一、積而爲レ寸、則於二膚指一不レ合、於レ是有二指黍二尺之辯一、謂下圭璧之用屬二指尺一、冠冕尊彝之用屬中黍尺上、豈其然乎。

指尺（三禮圖）

【指狩】68（サシカリ） 袴の一種。指貫に似て、僧侶の著用するもの。〔法體裝束抄〕指狩事、白薄墨、地綾色、又平絹。

【指首】69（シシユ） さしうつたへる。〔福惠全書、刑名部、欸犯〕有二匿名砌欸一、指二首某人一。

【指趣】70（シシユ） むね。おもむき。旨意。旨趣。〔論衡、案書〕雖レ不二盡見一、指趣可レ知。〔晉書、儒林、徐邈傳〕開二釋文義一、標二明指趣一。〔周書、李遠傳〕幼有二器局一、志度恢然、云云、及レ長涉二獵書傳一、略知二指趣一而已。〔顏氏家訓、涉務〕但當三皆曉二指趣一。〔大學章句〕凡傳十章、前四章、統二論綱領指趣一。

【指授】71（シジユ） さし示してをしへさづける。〔白虎通、三教〕立二三教一以相指授。〔蜀志、彭羕傳〕宣二傳軍事一、指二授諸將一。〔晉書、文帝紀〕奇畫指授、制二勝千里一。

【指宿】72（イブスキ） 薩摩國の地名。

【指書】73（シシヨ） 指頭に墨を浸して字を書くこと。〔嬾眞子〕溫公私第在二縣宇之西北一、諸處榜額皆公染指書、其法以二第一指尖一抵二第一指頭一、指頭微曲、染レ墨書レ之。

【指疽】74（シシヨ） 指に生ずる惡性の腫物。〔醫按、代指〕故指腫熱結聚成レ膿、甚則爪甲脫落、此病類二

於指疽一。

【指証】75（シ シヨウ）しようこ。指證。〔福惠全書、涖任部、査交代〕錢糧因レ公動用、實有二指証一者、云云。

【指稱】76（シ シヨウ）ゆびさしとなへる。難題をしかける。〔福惠全書、錢穀部、漕項、倉收陋弊〕指二稱米色雜碎一、措勒不レ收。

【指縱】77（シ シヨウ）さし示してはなつ。指示發縱。〔史記、蕭相國世家〕發縱指二示獸處一者人也。〔後漢書、荀彧傳〕貴二指縱之功一、薄二搏獲之賞一。

【指證】78（シ シヨウ）指示して證據とする。證據をあげる。〔新書、耳痺〕割二白馬一而爲レ犧、指二九天一而爲レ證。〔抱朴子、外篇、刺驕〕世閒或有下少無二清白一之操上業、長以買レ官而富貴、或亦其所レ知足二以自飾一也、其黨與足二以相引一也、而無行之子、便指以爲レ證曰、彼縱情恣慾而不レ妨二其赫奕一矣、此敕レ身履レ道而不レ免二於貧賤一矣。

【指食】79（シ シヨク）貪欲を以て誘ふこと。〔說苑、脩文〕雉者不レ可二指食籠狎而服一レ之、故士以レ雉爲レ贄。

【指辰】80（シ シン）時日を限る。指日。〔晉書、石勒載記上〕彭祖可二指レ辰而定一。

【指針】81（シ シン）磁石のはり。磁針。又、磁針は常に北を指ざして方角を示すから、しるべ・てびき等の意にいふ。指導。指南。指南鍼(123)を見よ。

【指瑞】82（シ ズイ）論衡の篇名。

【指數】83（シ スウ）❶ゆびさしかぞへる。〔蘇轍、黃州快哉亭記〕漁父樵父之舍、皆可二指數一。❷數學用語。或る數の冪又は乘根を示すために、其の右肩に附記する數字又は文字。❸物價・賃銀の變動の目印となる一定の數字。

【指趣】84（シ スウ）おもむき。指趣。〔論衡、自紀〕言姦辭簡、指趣妙遠。

【指笑】85（シ セウ）指して笑ふ。〔鄭谷、自貽詩〕頭角俊髦應二指笑一、權門蹤跡獨差池。

【指斥】86（シ セキ）❶さす。ゆびさす。なざす。〔獨斷、上〕陛下者、陛、階也、所二由升一レ堂也、天子必有二近臣一、執レ兵陳二於陛側一、以戒二不虞一、謂二之陛下一、羣臣與二天子一言、不三敢指二斥天子一、故呼下在二陛下一者上而告レ之。〔風俗通、正失〕繹繹者無レ所二指斥一也。❷しりぞける。排斥する。〔摭言〕指二斥貴倖一、不レ顧二忌諱一。

【指射】87（シ セキ）官職を指名して願ひ出ること。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕許二之先レ次指射一、以酬二其勞一。

【指切】88（シ セツ）指摘して切論する。〔歐陽脩、徂徠石先生墓誌銘〕指二切當世賢愚善惡一。

【指節】89（シ セツ）指のふし。〔醫按、手指節發〕手指節結レ毒、臂赤腫痛、又名二病繭一、又名二蛇節疔一、又名二疔節天蛇一、又名二病蛇節一、治法、與二天蛇頭一大同小異。

【指先】90（ユビ サキ）指のさき。指尖。

【指尖】91（シ セン）指のさき。指頭。〔摭言〕但知報道金釵落、髣髴還應レ露二指尖一。

【指奏】92（シ ソウ）指示する趣旨。〔淮南子、要略〕指奏卷異、各有レ爲レ語。〔新書、道德說〕形體之位分數度、各有二極量指奏一矣。

【指湊】93（シ ソウ）行止をいふ。指は行く、湊は止る。〔淮南子、原道訓〕凡人中壽七十歲、然而趨舍指湊、日以月悔也、以至二於死一。〔注〕指、所レ之也、湊、所レ合也、指湊、猶レ言二行止一也。

【指嗾】94（シ ソウ）さしづしてそそのかす。けしかける。教唆。俗に使嗾に作る。〔蘇軾、石鼓歌〕東征二徐虜一闞二虓虎一、北伐二犬戎一隨二指嗾一。

【指屬】95（シ ソク）指さし屬する。〔新序、雜事五〕使二之遙見而指屬一。

【指樽】96（サシ ダル）酒を入れて神に供へ、又、人などに贈る器具。

【指多】97（シツ タ）佛心をいふ。〔梵語雜名〕心、指多。

【指道】98（シ ダウ）をしへみちびく。〔漢書、路溫舒傳〕吏治者利二其然一、則指道以明レ之。

【指導】99（シ ダウ）指道に同じ。

〔指導原理〕100（シダウ ゲンリ）指し示して導くもととなる理論。

【指達】101（シ タツ）旨意が通ずること。〔顏延之、陶徵士誄序〕學非レ稱レ師、文取二指達一。

【指搭】102（シ タフ）裁縫の時、指にはめる具。指貫。〔說文〕搭、縫指搭也。〔段注〕謂、以レ鍼紩レ衣之人、恐三鍼之契二其指一、以レ韋爲レ箍、韜二於指一以藉レ之也。〔說文通訓定聲〕縫指搭以レ革爲レ之、其以レ金者爲レ鍇、今蘇俗謂二之鍼裏一。〔玉篇〕响、指搭也。

【指端】103（シ タン）ゆびさき。指頭。〔束皙、餅賦〕麵彌離二于指端一、手縈迴而交錯。

【指彈】104（シ ダン）❶曲げた指を急に伸ばして物をはじくこと。つまはじき。〔陸機、日出東南隅行〕馥馥芳袖揮、冷冷纖指彈。❷僅かな時間。一彈指(1－1‥2449)を見よ。〔劉克莊、詩〕已過光陰指一彈。❸つまはじきして嫌ふ。指し示して彈劾する。擯斥。

【指値】105（サシ ネ）賣買註文の時、値段を指定すること。

【指陳】106（シ チン）さし示し述べ立てる。說き示す。〔後漢書、蔡邕傳〕宜下披二露失得一、指中陳政要上。

【指定】107（シ テイ）❶さし定めること。〔淸會典、吏部、漢員遴選〕有下奉レ旨指二定何部行走一者上。〔淸國行政法汎論、文官任命形式、題調〕又已畢二引見一、在二指定省垣一、專待二補缺之日一、所謂指定者、或有下由二吏部掣籤一、定二其省分一者上、或有下納二金若干一、從二本人情願一定二其省分一者上、謂二之指定分發一。❷行政官廳が法令の範圍に於て、或事實を調査し、之に特定の資格を與へること。

【指摘】108（シ テキ）❶彼此とさし示すこと。又、誤謬を指して之を摘發すること。〔蜀志、孟光傳〕光之指二摘痛癢一、多如二是類一。〔抱朴子、崇教〕品藻妓妾之妍蚩、指二摘衣服之鄙野一。〔北史、王劭傳〕指二摘經史謬誤一、爲二讀書記三十卷一。❷指でつみとる。えらび用ひる。〔文心雕龍、奏啓〕張衡指二摘於史職一、蔡邕銓二列於朝儀一。❸ゆびで搔く。指擿に同じ。

【指適】109（シ テキ）むねに中る。〔陸機、文賦〕或文繁理富、而意不二指適一。〔注〕良曰、適、中也、謂二文意不レ中二於所一レ指之事一。

【指擿】110（シ テキ）❶ゆびで搔く。〔列子、黃帝〕斫撻無二傷痛一、指擿無二痟癢一。〔注〕擿、音倜、搔也。❷彼此とさし示す。指摘(108)の❶に同じ。〔吳志、陸凱傳〕然愛下其指二擿皓事一、足上レ爲二後戒一。〔唐書、吳湊傳〕湊叩レ鞍一視、凡指擿盡中二其弊一。

【指玷】111（シ テン）きずを指し示す。指點に同じ。〔抱朴子、疾謬〕入二他堂室一、觀二人婦女一、指二玷脩短一、評二論美醜一。

【指添】112（サシ ゾヘ）刀にそへてさす短刀。わきざし。

【指點】113（シ テン）❶一々ゆびさし示すこと。點をうつやうであるからいふ。〔抱朴子、正郭〕碩儒俊士、未二或指點一、而吾生獨評二其短一。〔杜甫、少年行〕指二點銀瓶一索レ酒嘗。〔邵長衡、夜游二孤山一記〕學士指點語レ余曰、宋賈似道後樂園廢址、在二今葛嶺一。❷ゆびさし擧げて非議の的とする。〔白居易、東南行一百韻云云詩〕時遭二人指點一、數被二鬼揶揄一。〔福惠全書、涖任部、到衙門〕該吏逐一指點。

【指肚】114 chih^{3} tu^{4} 指のはら。

【指圖】115（サシ ヅ）いひつけて行はしめること。命令又は指揮。

〔指圖證券〕116（サシヅ シヨウケン）證書を以て一定の債權額を表示し、指圖人又は債權者に支拂ふべき旨を記載した證券。

【指頭】117（シ トウ）ゆびさき。指端。〔瘡瘍全書、訓疽〕訓疽者、肺經受レ熱、發二於兩手五指頭上一、七八日不レ瀉必死、四日可レ刺、如發二黑癰一不二甚過一レ節、猶可レ治也。

〔指頭畫〕117′（シトウ グワ）指に墨をつけて画く繪畫。指書(73)を見よ。

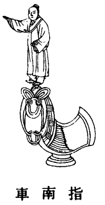
〔指頭尖〕118 chih^{2} t‘ou chien^{1} 指さき。

〔指頭疔〕119 chih^{2} t‘ou ting^{1} 指の腫物。瘭疽の類。

【指南】120（シ ナン）指南車が方角を知らせるやうに、人を教へみちびくこと。みちびき。てびき。教導。指針。〔張衡、東京賦〕幸見三指二南於吾子一。〔蜀志、許靖傳〕足下當三以爲二指南一。〔李商隱、獻二集賢相公一啓〕爲二百代之指南一。〔書言故事、評論類〕謝二人指教一、仰荷二指南一。

〔指南舟〕121（シナン シウ）指南針を設けた舟。〔宋書、禮志五〕晉代又有二指南舟一。

〔指南車〕122（シナン シヤ）方角を指し示す機械を設けた車。車の上に木彫の人形を置き、其の手が常に南方を指さす樣に作つたものといふ。後世の羅針盤の類。黃帝が蚩尤と戰つた時に作つたといひ、又、周公が始めて作つたともいふ。〔古今注、輿服〕大駕指南車、起下黃帝與二蚩尤一戰中於涿鹿之野上、蚩尤作二大霧一、兵士皆迷、於レ是作二指南車一、以示二四方一、遂擒二蚩尤一、而卽二帝位一、故後常建焉、舊說、周公所レ作也、周公治致二太平一、越裳氏重譯來貢、白雉一、黑雉一、象牙一、使者迷二其歸路一、周公錫以二文錦二疋、軿車五乘一、皆爲二司南之制一、使二越裳氏載レ


指南車（三才圖會）

之以南一、縁二扶南林邑海際一、朞年而至二其國一、云云、車灋具在二尙方故事一、漢末喪亂、其灋中絶、馬先生紹而作焉、今指南車、馬先生之遺灋也。〔宋書、禮志五〕指南車、云云、其始周公所レ作、以送二荒外遠使一、其制如二鼓車一、設二木人於車上一、擧レ手指レ南、車雖二回轉一、所レ指不レ移。〔宋史、輿服志一〕指南車、一曰二司南軍一、赤質、兩箱畫二青龍白虎一、四面畫二花鳥重臺句闌鏤拱一、四角垂二香囊一、上有二仙人一、車雖レ轉而手常南指、云云、仁宗天聖五年、工部郎中燕肅、始造二指南車一、肅上奏曰、黃帝與二蚩尤一戰二於涿鹿之野一、蚩尤起二大霧一、軍士不レ知レ所レ向、帝遂作二指南車一、周成王時、越裳氏重譯來獻、使者惑失レ道、周公賜二軿車一以指レ南、其後法俱亡、漢張衡、魏馬鈞繼作レ之、屬二世亂離一、其器不レ存、宋武帝平二長安一、嘗爲二此車一、而制不レ精、祖沖之亦復造レ之、後魏太武帝使二郭善明造一、彌年不レ就、命二扶風馬岳一造、垂レ成而爲二善明一鴆死、其法遂絶。

〔指南鍼〕123 シナンシン 常に南北の方向を指す針。磁針。羅針盤。〔補筆談、藥議〕以二磁石一磨二針鋒一、則銳處常指レ南、亦有二指レ北者一、恐石性亦不レ同、如二夏至鹿角解、冬至麋角解、南北相反一、理應レ有レ異、未二深考一耳。〔三柳軒雜識〕陰陽家爲三磁石引鍼定二南北一、每有二子午丙壬之理一、按、本州沽義磁石磨二鍼鋒一、則能指レ南、然嘗偏レ東不二全南一也、其注取二新纊中獨縷一、以二半芥子蠟一綴二於鍼腰一、無レ風所垂レ之、卽鍼嘗指レ南、以レ鍼積二貫燈心一浮二水上一、亦指レ南。

〔指南番〕124 シナンバン 昔、幕府又は大名などに仕へて、武藝の指南を勤めた役。

【指難】125 シナン 佛 支那(**5**－**1306**・・114)に同じ。

【指任】126 chih^3 jen^4 指名任命する。

【指派】127 シハ 指名派遣する。指定任命する。

【指望】128 chih^3 wang^4 希望する。目的とする。見込。

【指駁】129 chih^3 po^2 指定して異議を申し立てる。指摘して反駁する。

【指撥】130 シハツ ㊀指でかきならすこと。又、つめびき。〔琵琶錄〕樂人廉郊、於二池上一彈二蕤賓調一、忽有二一片方鐵一躍出、有識者謂、是蕤賓鐵也、蓋是指撥精妙、律呂相應耳。〔顧況、李供奉彈二箜篌一歌〕起坐可レ憐能抱撮、大指調レ絃中指撥。〔元稹、琵琶歌〕自後流傳指撥衰、崑崙善才徒爾爲。㊁chih^3 po^1 指定して支出する。指定支拂。

【指法】131 シハフ 樂器を奏する時の指の動かした。〔熊朋來、瑟賦〕觀二其指法一、則秦箏多撮、琵琶多摻、箜篌多擘、柳琴多擊。

【指臂】132 シヒ 指と臂。又、指となり臂となつてたすける。〔杜牧、授二裴休禮部尙書一制〕宰相佐二天子一、公卿助二宰相一、股肱指臂、任同二一身一。

【指付】133 シフ 人を指定して事を付託する。〔韓愈、司徒兼侍中中書令贈太尉許國公神道碑銘〕指付必堪二其事一。〔六部成語、兵部、得レ收二指臂之效一、注解〕上官使二令這個屬員一、合レ心應レ手、如二臂使一レ指、一樣的工效。

【指武】134 シブ 說苑の篇名。

【指諷】135 シフウ 人をさしてそしること。〔張說、酬二崔光祿一啓〕戲謔而逢二規戒一、指諷而見二師表一。

【指腹】136 シフク 腹中の兒を指し示す。指腹爲レ婚を見よ。

〔指腹爲レ婚〕137 シフクシテコンヲナス 腹中の胎兒を指して結婚の約束をすること。〔魏書、王寶興傳〕寶興母及盧遐妻俱孕、(崔)浩謂曰、汝等將來所レ生、皆我之自出、可二指レ腹爲レ親。〔金志〕金人舊俗、多指腹爲二婚姻一、既長雖二貴賤殊隔一、亦不レ可レ渝。〔陔餘叢考、指腹爲レ婚〕南史韋放傳、放與二張率一皆有二側室懷孕一、因指レ腹爲二婚姻一、其後各產二男女一、而率亡、放乃以レ子娶二率女一、以レ女適二率子一、北史、崔浩女爲二尙書盧遐妻一、浩弟恬女爲二王慧龍妻一、二女俱有レ孕、浩謂曰、汝等將來所レ生、皆我之自出、可二指レ腹爲レ親、及二慧龍子寶興將レ娶二盧女一、浩爲撰レ儀、躬至監視、謂二諸客一曰、此家禮事、宜レ盡二其美一。

〔指腹裁襟〕138 シフクサイキン 胎內にある中から約束した許嫁。指腹爲レ婚に同じ。〔還魂記、硬拷〕便是指腹裁襟一些沒レ有、何曾得レ有二個女壻一校。

〔指腹之盟〕139 シフクノチカヒ 指腹之約に同じ。〔龍圖公案〕當時與二彼父一既有二同窻之雅一、又有二指腹之盟一、又云、妾父與二夏侍郎一同僚、先年指レ腹爲レ親、受二金釵一對一爲レ聘。

〔指腹之約〕140 シフクノヤク 腹中の胎兒を指して結婚の約束をすること。後漢の光武帝が、賈復の婦の孕めるを聞いて我が子と結婚せしめようと言つた故事。〔後漢書、賈復傳〕又北與二五校一戰二於眞定一、大破レ之、復傷創甚、光武大驚曰、我所三以不レ令二賈復別將一者、爲二甚輕レ敵也、果然、失二吾名將一、聞二其婦有レ孕、生レ女邪、我子娶レ之、生レ男邪、我女嫁レ之、不レ令三其憂二妻子一也。〔剪燈餘話、賈雲華魂記〕母氏與レ彼、有二指腹之約一。

〔指腹連姻〕141 シフクレンイン 親友同志で、雙方とも其の妻が姙娠した時は、兒が未だ胎內にある間から夫婦の約束をすること。換鐘。指腹爲レ婚(137)に同じ。

【指物】142 サシモノ ㊀昔、鎧の背の受筒に差した小旗。背旗。㊁指しあはせて組み造つた器具。机・箱・椅子の類。又、其の器具を作る工事。〔雍州府志、七、土產門〕倭俗、以レ板造レ器、總謂レ指、造レ之家號二指物屋一。

〔指物論〕143 シブツロン ㊀公孫龍の唱へた議論の一。認識と對象とについて論じたもの。一に、指は認識、物は對象といふ。〔公孫龍子、指物論〕物莫レ非レ指、而指非レ指。〔注〕物我殊レ能、莫レ非二相指一、故曰二物莫レ非レ指、相指者相是非也、彼此相推、是非混一、歸二於無指一、故曰二兩指非レ指。㊁公孫龍子の篇名。

【指分】144 シフン 清代、各省の長官が知事試驗に合格した知事を指定して、其の省に分派を請ひ任用すること。指省分發(65)を見よ。〔六部成語、補遺、吏部、指分、注解〕內外各官、或分二發何省一、或分二發何衙門一、向由二吏部掣籤一而定、自二捐納行一而捐レ銀者、遂可下任意指二定何省・何衙門一而分中發之上。

【指標】145 シヘウ ㊀數學用語。對數の整數の部分の稱。㊁目當てとなるしるし。指示する標識。

【指保】146 イヒヲ ㊀姓氏。〔和爾雅〕。㊁イセロ 姓氏。〔姓林全書〕。

【指拇】147 シボ おやゆび。ゆび。手指。

【指縫】148 シホウ 指の股。指叉。〔景岳全書、指縫流血〕有二人指縫流血不レ止、有下蟲如二蜉蝣之小一鑽出上、少頃卽能飛去、此證二乃濕熱生レ蟲也、然何故生レ蟲而能飛耶、蓋不レ止二濕熱一、而又帶二風邪一也。

【指名】149 シメイ 誰某と明かに其の人の名をさしていふこと。なざす。又、なざし。〔史記、項羽紀〕陳嬰母謂レ嬰曰、云云、不レ如レ有レ所レ屬、事成猶得二封侯一、事敗易二以亡一、非三世所二指名一也。〔魏志、田疇傳〕稱官奉使爲三衆所二指名一。

〔指名撞騙〕150 chih^3 ming^2 chuang^4 p'ien^4 人の名をかりてたぶらかすこと。

〔指名點呼〕151 シメイテンコ ㊀多人數のものに對して、其の姓名を順次に呼び上げて點檢すること。㊁一種の遊戲。數名圓座を作り、一人が某甲の方を指して某乙と呼べば、呼ばれた者が、直にあとをついて又然く呼ぶ。呼ばれて後をつぐことが出來ず、指されて後をついだものを負とする。

【指明】152 シメイ 指し示して明かにする。指導。〔陸機、漢高祖功臣頌〕指二明周漢一、銓レ時論レ道。〔淸會典、吏部、漢員遴選〕奉レ旨指下明以二何衙門一補用上。

【指迷】153 シメイ 迷を指し示す。指南する。〔歐陽脩、再和二聖兪見レ答詩〕嗟哉我豈敢知レ子、論レ詩賴レ子初指レ迷。

【指目】154 シモク 人がゆびさして見る。人めをひく。〔史記、陳涉世家〕旦日、卒中往往語、皆指二目陳勝一。〔漢書、陳勝傳〕卒中往往指二目勝・廣一。

【指紋】155 シモン ゆびの腹にある渦卷狀、又は彎曲形のすぢ。指文。

【指約】156 シヤク むねがたやすくて簡略なこと。〔史記、太史公自序〕指約而易レ操、事少而功多。

【指略】157 シリヤク おもむき。〔漢書、董仲舒傳〕明二其指略一、切磋究レ之。

【指輪】158 ユビワ 指環(38)に同じ。

【指令】159 シレイ ㊀さしづ。命令。㊁官廳などに願書・伺書等を差出した場合に、官廳が差支なしと認める所の行政行爲。

【指路】160 シロ 路を指す。路におもむく。〔李商隱、祭二楊郎中一文〕姸若二春輝一、烈如二冬凛一、燕石知レ愧、齊竽自審、咸指レ路以光銷、盡登レ門而聲寢。

【指論】161 シロン 例をあげて論ずること。又、論議のむね。〔魏志、文帝紀、注〕諸卿指論、未レ若二孤自料之審一也。

【希レ指】162 ムネヲコヒネガフ 人の氣に合ふやうに勉める。迎合する。希旨。指は旨。〔漢書、外戚下、傅昭傳〕

高昌侯董宏希レ指。

【屈レ指】163（ユビヲクツス） ゆび折り數へる。僂指。〔李商隱、太尉衞公會昌一品制集序〕躡レ足以謀二屈レ指而定一。

【染レ指】164（ユビヲソム） 指を染めひたす。指に著ける。〔左氏、宣、四〕子公怒、染二指於鼎一、嘗レ之而出。〔書言故事、餔啜類〕嘗得二其味一曰、已嘗染レ指。

【墮レ指】165（ユビヲオトス） 寒氣が嚴しくて指を落すこと。〔漢書、高帝紀下〕七年冬十月、上自將擊二韓王信於銅鞮一、斬二其將一、信亡二走匈奴一、與二其將曼丘臣王黃一共立二故趙後趙利一爲レ王、收二信散兵一、與二匈奴一共距レ漢、上從二晉陽一連戰、乘レ勝逐レ北、至二樓煩一、會二大寒一、士卒墮レ指者什二二三一、遂至二平城一、爲二匈奴所一レ圍七日、用二陳平祕計一得レ出。

【僂レ指】166（ユビヲカガム） ゆびをまげて數へる。屈指。〔荀子、儒效〕難レ有二聖人之知一、未レ能レ僂レ指也。

【指香亭】167（シカウテイ） 淸、洪尋(**6－17402**‥115)の室名。

【指極星】168（シキヨクセイ） 星の名。引星ともいひ、北斗七星中の天樞・天璇の二星をいふ。二星を結ぶ線を約五倍延長した點に北極星をみだし得るからこの名がある。

【指件字】169 chih^3 chien^4 tzŭ^4 冠詞。

【指星木】170（シセイボク） 星を指す木。〔洞冥記〕漢武帝見二彗星一、東方朔折二指星之木一授レ帝、指レ之星尋沒。

【指測レ河】171（ユビカハヲハカル） 小を以て大を測ること。其の量を知らないことの甚だしい喩。〔荀子、勸學〕不レ道二禮憲一、以二詩書一爲レ之、譬レ之猶二以レ指測レ河也、以レ戈舂レ黍也、以レ錐飡レ壺也、不レ可二以得一レ之矣。〔抱朴子、論仙〕所謂以レ指測レ海、指極而云二水盡一者也。

【指斗紋】172 chih^2 tou^3 wen^2 指頭の紋。

【指佞草】173（シネイサウ） 昔、堯帝の庭に生じたといふ草の名。佞人が朝廷に入ると、屈して其の人を指す。屈軼草。〔博物志、異草木〕堯帝有三屈軼草生二於庭一、佞人入朝、則屈而指レ之、一名二指佞草一。〔晉書、束皙傳〕朝養二觸邪之獸一、庭有二指佞之草一。〔王禹偁、酬二种放徵君一詩〕多慙二指佞草一、虛効二傾心藿一。

【指木履】174（サシボクリ） 木で作ったはきもの。〔和漢三才圖會、履襪類、屐〕屐、今通曰二木履一、有二數種一、以二欅檜一作、嵌二二堅木一爲レ齒、名二之指木履一、深泥中著レ之。

【指官撞騙】175 chih^3 kuan^1 chuang^4 p'ien^4 官吏と詐稱し、又は官名を借りてたぶらかすこと。

【指雞罵狗】176 chih^3 chi^1 ma^4 kou^3 他事にことよせて人を罵る。あてこする。

【指桑說槐】177 chih^3 sang^1 shuo^1 huai^2 桑を指して槐といふ。人を馬鹿にすること。

【指桑罵槐】178 chih^3 sang^2 ma^4 huai^2 他事にかこつけてあてこする。

【指手畫脚】179 chih^2 shou^3 hua^4 chiao^3 手や足で種々の様子をする。手まね足まねで話す。

【指大二於臂一】180（ユビヒヂヨリダイナリ） 指がひぢより大きい。末が本よりも大きい喩。〔戰國、秦策〕臣未丁嘗聞丙指大二於臂一、臂大乙於股甲、若有レ此則病必甚矣。

【指地借錢】181（シチシャクセン） 土地を擔保として金を借りる。〔淸會典事例、戶部、田賦、畿輔官兵莊田〕向來旗民交產、例禁綦嚴、無レ如二日久弊生一、或指レ地借レ錢、或支二使長租一、顯避二交易之名一、陰行二典賣之實一。

【指天誓日】182 chih^3 t'ien^1 shih^4 jih^4 天地神明に誓つて。

【指東劃西】183（シトウクワクサイ） 議論が末に走ること。曖昧な話をする。〔傳燈錄〕義忠謂二大顚一、不レ用二指東劃西一。

【指東擊西】184 chih^3 tung^1 chi^1 hsi^1 詐計を用ひる。

【指東說西】185 chih^3 tung^1 shuo^1 hsi^1 うまく取り入る。巧に持ち込む。

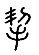
【指不勝屈】186 chih^3 pu^4 shêng^1 ch'ü^1 指を屈するに勝へない。非常に數が多い意。

【指風捉影】187 chih^3 fêng^1 chuo^1 ying^3 たより無い。つかまへどころがない。

【使レ指使レ臂】188（ユビヲツカヒヒヂヲツカフ） 身が臂を使ひ、臂が指を使ふやうに、自由自在に物を使ふ喩。〔漢書、賈誼傳〕令三海內之勢、如二身之使レ臂、臂之使レ指、莫レ不二制從一。

【惜レ指失レ掌】189（ユビヲヲシミテタナゴコロヲウシナフ） 指を失ふを惜しんで掌までも失ふ。僅かな物ををしんで大事をあやまる喩。〔侍兒小名錄〕宋阿恢有レ妓、曰二張耀華一、美而有レ寵、阮佃夫見悅レ之、頻求二于恢一、不レ可レ得、佃夫怒曰、惜レ指失レ掌、遂諷二有司一、以二公事一彈レ恢坐免。

【挈】12035

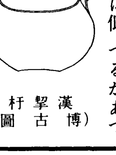

小篆

一 ケツ ケチ 〔集韻〕詰結切 屑
く一せ` ch'ien^4
二 ケイ 〔集韻〕詰計切 霽
三 カツ ケチ 〔集韻〕訖黠切 黠
四 セイ 〔集韻〕尺制切 霽
慣 ケイ

一❶**さげる。ひつさげる。**㋑手にさげる。通じて絜(**8－27419**)に作る。〔說文〕挈、縣持也、从レ手㓞聲。〔集韻〕絜、縣持也、通作レ絜。〔詩、齊風、東方未明序〕挈壺氏、〔箋〕挈壺氏、掌二漏刻一者。〔疏〕挈壺者、懸繫之名。〔周禮、夏官、挈壺氏〕掌三挈レ壺以令二軍井一。〔禮、王制〕班白者不二提挈一。㋺ともなふ。たづさへる。〔廣雅、釋詁四〕挈、提也。〔公羊、襄、二十七〕挈二其妻子一。〔注〕挈、猶レ提也。㋩とる。もつ。〔莊子、在宥〕挈レ汝適、復二之撓撓一。〔釋文〕挈、廣雅云、持也。〔漢書、韓信傳〕信挈二其手一。〔注〕師古曰、挈、謂三執二提之一。㊁あげる。かぞへたてる。〔荀子、議兵〕掎契司詐、〔注〕契、與レ挈同、掎挈、猶レ言二掎摭一也。㋭こぞる。〔荀子、王霸〕挈レ國以呼二禮義一、而無二以害一レ之。〔注〕挈、提擧也。㋬すべる。くくる。〔釋名、釋姿容〕挈、結也、結、束也、束二持之一也。〔荀子、勸學〕若レ挈二裘領一。〔注〕挈、擧也。〔莊子、大宗師〕以挈二天地一。〔釋文〕挈、司馬云、要也。㋣たすける。〔漢書、張耳陳餘傳〕左提右挈。〔注〕師古曰、言二相扶持一也。❷**つたへる。**しめす。〔穀梁、襄、十一〕挈二國之辭一也。〔疏〕挈、猶レ傳也。❸**なす。**ととのへる。〔莊子、大宗師〕以挈二天地一。〔釋文〕挈、崔云、成也。〔荀子、不苟〕君子挈二其辨一、而同等者合矣。❹**急なさま。**挈挈(7)を見よ。二❶**かく。たつ。**〔史記、司馬相如傳〕挈二三神之驩一、缺二王道之儀一。〔注〕集解曰、駰案、韋昭曰、挈、缺也。〔漢書注〕應劭曰、挈、絕也。❷**きざむ。**きずつける。栔(**6－14691**)・契(**3－5917**)に通ず。〔說文通訓定聲〕挈、叚借爲レ栔。〔集韻〕挈、鍥也、通作レ契。〔詩、大雅、文王有聲、維龜正レ之、箋〕必挈二灼龜一而卜レ之。〔釋文〕挈、本又作レ契。〔漢書、敍傳上〕且筭二祀于挈龜一。〔注〕師古曰、挈、刻也。❸**しるし。**かきもの。又、てがた。契(**3－5917**)に通ず。〔說文通訓定聲〕挈、叚借爲レ契。〔漢書、溝洫志〕今內史稻田租挈、重不レ與二郡同一。〔注〕師古曰、租挈、收二田租一之約分也、挈、音苦計反。〔漢書、張湯傳〕廷尉挈令。〔注〕師古曰、契、獄書之要也。❹**さとい。**〔莊子、庚桑楚〕其妾之挈然仁者遠レ之。〔釋文〕挈、向云、知也。三❶**ひとり。**介(**1－359**)に通ず。或は絜(**8－27419**)に作る。〔集韻〕挈、博雅、獨也、或作レ絜。〔方言、六〕挈、特也、秦曰レ挈。〔廣雅、釋詁三〕挈、獨也。〔疏證〕挈、亦介也、語之轉耳。❷**草の名。**菰(**9－31763**)に同じ。〔集韻〕菰、菝菰、艸名、亦作レ挈。〔禮、月令、王瓜生、注〕萆挈也。四**牛の角の一方があふむく。**觢(**10－35066**)に同じ。〔集韻〕觢、說文、一角仰也、或从レ手。

【挈菴】1（ケイアン） 淸、孫烱(**3－6987**‥91)の字。

【挈杆】2（ケツウ） 瓶の一種。形は罌に似、つるがあつて提げるに便なもの。〔博古圖〕漢挈杆、形如レ罌、純素無レ紊、連貫以提梁、便二于將挈一也。


漢挈杆（博古圖）

【挈皐】3 ケツカウ 井戸のはねつるべ。はねぎ。〔漢書、郊祀志上〕通二權火一、〔注〕張晏曰、權火、烽火也、狀若二井挈皐一也。〔揚雄、甘泉賦〕燎薰皇天皐搖泰壹、〔注〕善曰、如淳曰、皐、挈皐也、積二柴於挈皐頭一、置二牲玉於其上一、擧而燒レ之、欲レ近レ天也。

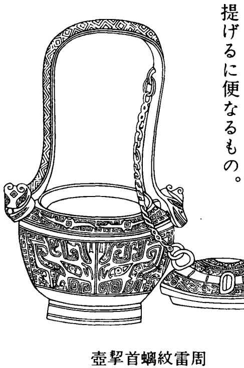
【挈起】4 ケツキ 手で持ちあげる。

【挈龜】5 ケイキ 龜甲に刻みをつける。又、燒いて卜ふため甲を刻んだかめ。挈は、きざむ。契龜。〔詩、大雅、文王有聲〕維龜正レ之、〔箋〕必挈二灼龜一而卜レ之。〔釋文〕挈、本又作レ契。〔漢書、敍傳上〕但算二祀于挈龜一。

【挈榼】6 ケツケイ 木の名。繫迷。〔詩疏廣要〕檀木、皮正青滑澤、與二繫迷一相似、繫迷、一名二挈榼一。

【挈挈】7 ケツケツ 急切のさま。〔太玄經、干〕葙鍵挈挈。〔司馬光集注〕挈挈、急切貌。〔柳宗元、荅二韋中立一論二師道一書〕居二長安一、炊不レ暇レ熟、又挈挈而東、如レ是者數矣。

【挈壺】8 ケツコ ❶挈壺氏の略。挈壺は、壺を携へる義。〔詩、齊風、東方未明序〕挈壺氏不レ能レ掌二其職一焉。〔箋〕挈壺氏、掌二漏刻一者。〔潘岳、藉田賦〕挈壺掌二升降之節一。〔注〕良曰、挈壺氏、掌二刻漏一、軍行卽從レ之。〔王融、三月三日曲水詩序〕挈壺宣夜、辨二氣朔於靈臺一。〔注〕善曰、周禮夏官曰、挈壺氏、掌レ懸レ壺。❷壺の名。つるがあって提げるに便なるもの。



周雷紋蝸首挈壺
（博古圖）

【挈壺氏】9 ケツコシ 周官の名。夏官の屬。軍旅に井戸・屋舍・兵糧の處を知らしめ、又漏刻を掌る。唐以後、挈壺正の官あり、專ら時を掌り、清に至る。〔周禮、夏官、挈壺氏〕掌下挈レ壺以令二軍井一、挈レ轡以令レ舍、挈レ畚以令上レ糧、凡軍事縣レ壺以序二聚㰌一、凡喪縣レ壺以代哭者、皆以二水火一守レ之、分以二日夜一、及レ冬則以レ火爨二鼎水一而沸レ之、而沃レ之。〔唐書、百官志二〕五官挈壺正二人、正八品上、云云、掌レ知二漏刻一。〔歷代職官表、欽天監、國朝官制〕漏刻科五官挈壺正、滿洲蒙古各一人、漢人二人。

〔挈壺正〕10 ケツコセイ 官名。挈壺氏を見よ。

【挈貳】11 ケイジ にじの異名。雌虹。〔爾雅、釋天〕蜺爲二挈貳一。〔注〕蜺、雌虹也、云云、挈貳、其別名。〔釋文〕挈、本或作レ契。

【挈然】12 ケイゼン 知るさま。さといさま。〔莊子、庚桑楚〕其妾之挈然、仁者遠レ之。〔釋文〕挈、向云、知也。

【挈帶】13 ケツタイ 帶をもつ。〔杜甫、村雨詩〕挈帶看二朱紱一、開箱覩二黑裘一。

【挈儔】14 ケツチウ 仲間を導き連れる。同類を伴ふ。〔韓愈、送レ窮文〕攜レ朋挈レ儔、去レ故就レ新。

【挈囊】15 ケツナウ 文書を掌る官の持つ袋。〔梁書、處士、劉杳傳〕周捨又問レ杳、尚書官著二紫荷橐一、相傳云二挈囊一、竟何所レ出、杳答曰、張安世傳曰、持レ橐簪レ筆、事二孝武帝一數十年、韋昭張晏注並云、橐、囊也、近臣簪レ筆、以待二顧問一。

【挈轡】16 ケツヒ たづなをさげもつ。〔周禮、夏官、挈壺氏〕掌下挈レ壺以令二軍井一、挈レ轡以令レ舍、挈レ畚以令上レ糧。

【挈瓶】17 ケツペイ 挈缾(19)に同じ。〔陸機、文賦〕患二挈瓶之屢空一、病二昌言之難一レ屬。〔注〕濟曰、挈瓶、小器也。〔李嶠、爲二左丞宗楚客一謝二知政事一表〕遂以二挈瓶一、謬膺二和鼎一。〔白居易、君子不レ器賦〕哂二挈瓶之固守一、何器量之差殊。

〔挈瓶智〕18 ケツペイノチ 挈缾智(20)に同じ。〔戰國、趙策〕靳缾曰、人有レ言、挈瓶之智、不レ失二守器一。〔魏志、田豫傳〕挈瓶之智、守不レ假レ器。

【挈缾】19 ケツペイ 手で持つ小さい瓶。又、瓶を手に持つ。轉じて、小さい意。挈缾智を見よ。

〔挈缾智〕20 ケツペイノチ 小さい瓶で水を汲むほどの智。小智をいふ。〔左氏、昭、七〕人有レ言、雖レ有二挈缾之知一、守不レ假レ器、禮也。〔注〕挈レ缾汲者、喩二小智一也。〔張衡、東京賦〕且夫挈缾之智、守不レ假レ器。〔注〕綜曰、言、挈缾之小智耳、尚不二妄以假一レ人也。

【挈畚】21 ケツポン もつこをたづさへる。畚は、もつこ。〔周禮、夏官、挈壺氏〕挈レ畚以令レ糧。

【挈領】22 ケツリヤウ えりをとる。❶要所をとること。〔荀子、勸學〕若レ挈二裘領一、詘二五指一而頓レ之、順者不レ可レ勝レ數也。〔集解〕王念孫曰、言下挈二裘領一者、詘二五指一而引レ之、則全裘之毛皆順上也。❷剄を刎ねること。〔戰國、秦策〕臣戰、載レ主契レ國、以與レ王約、必無レ患矣、若有二敗レ之者一、請挈レ領、然而臣有レ患也。〔鮑彪注〕言レ欲レ請レ誅、持二其項一、以受二鐵鉞一。〔正解〕挈レ領、猶レ刎レ頸也。

【挈令】23 ケイレイ 板に刻した條文。〔說文〕紩、樂浪挈令。〔段注〕漢張湯傳有二廷尉挈令一、韋昭曰、在二板挈一也、後漢應劭傳作二廷尉板令一、史記又作二絜令一、漢燕王旦傳又有二光祿挈令一、挈、當レ作レ契、契、刻也。〔漢書、張湯傳〕上所レ是、受而著二讞法・廷尉挈令一、揚二主之明一。〔注〕韋昭曰、在二板挈一也、師古曰、挈二獄訟之要一也。

【〓】
12036

キウ 扏(**5－11776**)の古字。〔玉篇〕〓、古文扏。

【〓】
12037

㈠ ハイ バイ 〔集韻〕蒲蓋切 泰

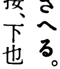
㈡ ハイ バイ 〔集韻〕蒲昧切 隊

㈠**はねる**。〔集韻〕〓、撥也。㈡**もとる**。〔集韻〕〓、轉戾。

【按】
12038

㈠ アン 〔集韻〕於旰切 ㄢˋ an⁴ 翰

㈡ アツ アチ 〔集韻〕阿葛切 曷



小篆

㈠❶**おさへる**。㋑おしくだす。〔說文〕按、下也、从レ手安聲。〔段注〕以レ手抑レ之使レ下也。〔爾雅、釋詁〕按、止也。〔詩、大雅、皇矣〕以按二徂旅一。〔傳〕按、止也。㋩ひかへる。〔字彙〕按、控也。〔史記、絳侯世家〕天子乃按レ轡而行。㋥制する。〔管子、霸言〕按レ彊助レ弱。〔注〕按、抑也。❷**なでる**。手をかける。〔正字通〕按、撫也。〔史記、平原君傳〕毛遂按レ劍、歷階而上。❸**うつ**。かなでる。〔宋玉、招魂〕陳レ鐘按レ鼓。〔注〕良曰、按、猶レ擊也。❹**安んずる**。〔宋書、周朗傳〕按レ絃拭レ徽。安(**3－7072**)に通ず。〔說文通訓定聲〕按、叚借爲レ安。〔史記、白起傳〕趙軍二長平一、以按二據上黨之民一。❺**もむ**。さする。〔素問、異法方宜論〕其治導引按蹻。〔注〕按、謂二抑按皮肉一。〔素問、金匱眞言論〕故冬不二按蹻一。〔注〕按、謂二按摩一。❻**脈をとる**。〔漢書、王嘉傳〕內侍按レ脈。〔注〕師古曰、按、謂二切診一也。❼**しらべる**。㋑罪をとふ。〔字彙〕按、驗也。〔漢書、薛宣傳〕遣吏考按。〔漢書、趙廣漢傳〕收按致レ法。〔漢書、酷吏、義縱傳〕捕二按太后外孫脩成子中一。㋺たづねる。〔南史、王僧孺傳〕位宦高卑、皆可二依按一。〔唐書、第五琦傳〕討二按故事一。㋩かんがへる。はかる。〔字彙〕按、考也。〔字海〕按、凝議也。〔漢書、賈誼傳〕按二之當今之務一。❽**とりしまる**。みまはる。巡察する。尋行する。〔字彙〕按、察行也。〔史記、衞將軍驃騎傳〕按二榆谿舊塞一。〔注〕集解曰、汝淳曰、按、行也、或曰、按、尋也。❾**せめる**。しりぞける。〔正韻〕按、劾也。〔後漢書、橋玄傳〕窮二按其姦一。〔南史、顏竣傳〕不レ加二推按一。❿**ならべる**。次第する。ならぶ。〔禮、月令〕陳二祭器一、按二度程一。〔楚辭、宋玉、招魂〕陳レ鐘按レ鼓。〔注〕按、徐也。〔漢書、高帝紀上〕吏民皆按堵如レ故。〔注〕應劭曰、按、按二次第一也。〔漢書、揚雄傳上〕各按二行伍一。〔注〕師古曰、按、依也。〔司馬相如、子虛賦〕車按レ行、騎就レ隊。〔注〕善曰、應劭曰、

按、次第也。⓫乃ち。然るのち。發語の助辭。〔戰國、趙策〕秦按攻レ魏。〔荀子、富國〕我獨按起而制レ之。〔注〕或曰、按、然後也。⓬案（6－14762）に通ず。〔正字通〕案、考也、通作レ按。〔史記、扁鵲傳、案杌毒熨、注〕索隱曰、案杌、亦謂下按摩而玩二弄身體一使上調也。⓭姓。〔萬姓統譜〕按、見二姓苑一。⓮[現]㋑守る。㋺云云に依り。云云通り。云云に照し。云云に從ひ。云云に應じ。云云に準じ。㋩立てる。㋥調ふ。㋭適應する。[二]❶おす。〔集韻〕按、捺也。❷とどめる。遏（11－39004）に通ず。〔說文通訓定聲〕按、叚借爲レ遏。〔詩、大雅、皇矣〕以按二徂旅一。〔傳〕按、止也。〔釋文〕按、本又作レ遏。

【按院】1 アンヰン　各省の首府にある按察使の役所をいふ。

【按歌】2 アンカ　調子をとつて歌ふこと。〔拾遺記、三、周穆王〕撫レ節按歌、萬靈皆聚。

【按劾】3 アンガイ　按察彈劾すること。〔續文獻通考、職官考〕按察使、掌二一省刑名按劾之事一。

【按行】4 アンカウ　❶行列を順序だてる。案行。〔司馬相如、子虛賦〕將レ息二獠者一、擊二靈鼓一、起二烽燧一、車按レ行、騎就レ隊。〔注〕翰曰、車、兵車也、言下車騎各案二次第一以爲中行隊上。❷しらべる。案行（6－14762‥6）に同じ。

【按講】5 アンカウ　書を講說せんとする前に講義の練習をすること。講義の下調べ。〔續資治通鑑綱目〕當二講夕前一、按二講其說一。

【按號】6 アンガウ　ばんづけどほり。〔福惠全書、筮仕部、起程〕就レ道時以便二按レ號派レ人押行一。

【按額】7 アンガク　たかをしらべる。〔國朝漢學師承記、武億〕每歲按レ額徵レ之。

【按合】8 アンガフ　考へて種々調合すること。〔神仙傳、陳永伯〕陳永伯者、南陽人也、得二淮南王七星散方一、試按合服レ之、二十一日、忽然不レ知レ所レ在。

【按季】9 an^4 chi^4　季節季節に。四季每に。

【按期】10 an^4 chʻi^2　期限通りに。期日を考へて。

【按彊】11 アンキヤウ　強いものを抑へる。〔管子、霸言〕按レ彊助レ弱。〔纂詁〕按、抑也。

【按據】12 アンキヨ　安んじ據る。其の地におちつかせる。〔史記、白起傳〕趙軍二長平一、以按二據上黨之民一。〔注〕索隱曰、謂下屯二兵長平一、以據中援上黨上。

【按蹻】13 アンケウ　按摩導引をいふ。蹻はす早く手足を擧動するの意。〔素問、金匱眞言論〕故冬不二按蹻一、春不二鼽衄一。〔注〕按、謂二按摩一、蹻、謂レ如三蹻捷者之擧二動手足一、是所謂導引也。

【按決】14 アンケツ　吟味して決めること。〔唐書、杜佑傳〕佑有レ所二按決一。

【按月】15 アンゲツ　月每に。月々に。每月。〔陔餘叢考、按月分俸〕南史阮長之傳、宋以前、郡邑官田祿以二芒種一爲レ斷、芒種前去レ官者、則一年祿悉歸二後人一、至二元嘉末一、始改二此科一、計レ月分レ祿、是按レ月分俸、自二宋元嘉末一始也。

〖按月付〗16 an^4 yüeh^4 fu^4　月々に支拂ふこと。月賦。

【按劍】17 アンケン　劍をなでる。かたなのつかに手をかけること。案劍。〔史記、平原君傳〕毛遂按レ劍、歷階而上。〔魏志、李通傳〕通按レ劍以叱レ之。

【按檢】18 アンケン　しらべて證據だてること。案驗（6－14762‥21）に同じ。

【按驗】19 アンケン　調べて證據立てる。調查證明。案驗。〔漢書、江充傳〕收二繫其父兄一、按驗皆棄市。

【按絃】20 アンゲン　琴の緒を擊つ。琴を彈くこと。かなでる。〔宋書、周朗傳〕按レ絃拭レ徽。

【按鼓】21 アンコ　鼓を打つ。〔宋玉、招魂〕敶レ鐘按レ鼓。〔注〕良曰、按、猶レ擊也。

【按語】22 アンゴ　彼によつて此を證する語。考證の語。案語。又、略して按ともいふ。

【按獄】23 アンゴク　訟獄をしらべる。罪人を取り調べる。按治。〔唐書、王鉷傳〕擢二累戶部郎中一、數按レ獄。〔唐書、徐有功傳〕與二皇甫文備一同按レ獄、誣三有功縱二逆黨一。

【按殺】24 アンサツ　罪狀を調べて殺す。〔吳志、潘濬傳〕濬按二殺之一、一郡震竦。

【按察】25 アンサツ　❶稽へ調べる。しらべ明かにする。〔後漢書、百官志、尉、大縣二人、小縣一人、注〕按二察姦宄一。❷アゼチ　內侍以上の女官で、御讓位の後も引き續いて其の院に奉仕する者をいふ。〔禁祕御抄階梯、下、女房〕召名、按察、大進、少進。

〖按察使〗26 アンサツシ　❶官名。唐の景雲二年、巡察使を改めて按察使と稱し、道每に各一人を置き、十道按察使と稱す。天下を分巡して所部州縣官吏の善惡を察し、風俗政敎を訪察して、奏聞することを掌る。開元二十二年、採訪處置使と改め、所部の大郡を統治せしむ。是より漸く一道民政の官となる。乾元元年、更に觀察處置使と改む。安祿山の亂を經て、觀察使が兵を領して其の地に據るに及び、方鎭の禍の源となる。宋に按察あり、諸路轉運使の兼官とし、每歲、州縣官吏の能否を具申するを掌る。遼に按察諸道刑獄使あり、時に詔を以て朝臣に命じ、諸道に發遣す。此れ、按察使が刑官となつた始である。元には提刑按察使・肅政廉訪司と稱し、明には提刑按察使司を建て、按察使を以て一省內の司法長官となす。清、之に因る。清末に至つて提法使と爲し、民國、廢す。〔文獻通考、職官考〕景雲二年、置二十道按察使一、各道一人、開元二年、改曰二十道按察採訪處置使一、二十年、曰二採訪處置使一、分二十五道一、天寶末、又兼二黜陟使一。〔續文獻通考、職官考〕遼南面有二按察諸道刑獄使一、有二分決諸道刑獄使一、官不二常設一、有レ詔則選二才望官一充レ之、金按察使本二提刑司一、云云、元初、立二提刑按察司一、云云、明設二按察司一、卽視察之職。〔淸會典事例、吏部、官制、各省按察使司〕國初、直隸不レ設二臬司一、設二大名巡道一、兼二河南按察使銜一、云云、其餘各省皆設二提刑按察使司一、按察使各一人、副使・僉事、各因レ事設立、所レ屬經歷・知事・照磨・檢校・司獄、因レ時裁設無二定員一。❷アゼチ　古の官名。又、あんさつし・あぜつし・あぜしといふ。唐名は都護。地方官の政績をしらべ、民情を視察する職。養老年中、始めて置く。畿內、及び西海道には此の職なく、寶龜の頃から專ら陸奧・出羽にのみ置かれ、陸奧守・鎭守將軍をして兼ねしめたが、後には廢れて名義のみ大中納言の兼ねるところとなつた。〔續日本紀、八〕養老三年七月、始置二按察使一。〔運步色葉集〕按察使、唐名都護。

〖按察使署〗27 アンサツシシヨ　領事裁判所。

【按止】28 アンシ　おさへとどめる。抑止する。〔詩、大雅、皇矣、以按二徂旅一、傳〕按、止也。

【按司】29 アンジ アンズ　琉球の舊官名。地方官で、王子の次、親方の上に位す。舊官職が廢されてから士族となる。沖繩であじといふ。

【按刺】30 アンシ　しらべえらぶ。〔宋史、職官志七〕非才不レ勝レ任、則按刺易置可也。

【按視】31 アンシ　しらべみる。〔釋名、釋言語〕識、幟也、有三章幟可二按視一也。

【按試】32 アンシ　はかりためす。

【按次】33 an^4 tʻzŭ^4　順序を逐つて。次第に。

【按日】34 an^4 jih^4　其の日其の日に。日每に。

【按出】35 アンシユツ　金、徒單鎰（4－10121‥68）の本名。

【按針】36 アンシン　❶磁石の針を按じかんがへて、船の進路を定める人。水先案內。❷英人。本名ウヰリアム・アダムス。東印度會社の遠征艦隊に加はり、リフデ號の安針となつて東洋に航す。慶長五年、家康に謁し、外事係となる。邦人の女を娶り、三浦姓を名のり、二子を儲く。元和六年五月十六日、平戶に死す。年五十五。

〖按針手〗37 アンシンシユ　按針の❶に同じ。

【按成】38 an^4 chʻêng^2　按分に。

【按制】39 an^4 chih^4　おさへとどめる。按止。

【按照】40 アンセウ　照す。準ずる。準據する。〔淸會典事例、戶部、鹽法、貴州〕如三購引鹽一張、或用二鹽本銀一百兩一、卽將下應二徵稅一羨截中釐各項上、按二照定章一、如レ數加入、合爲二一百數十兩一、發二商船一售。

【按籍】41 アンセキ　帳面をしらべる。〔福惠全書、蒞任部、設內外號簿〕亟欲二查閱一、何以按レ籍而卽得。

【按說】42 an^4 shuo^1　とはいへ。さはいへ。〔平。

【按節】43 アンセツ　馬足を節する。徐行するさま。案節（6－14762‥46）を見よ。〔漢書、五行志下之下〕按レ節徐行。〔注〕服虔曰、謂二行遲一。

【按選】44 アンセン　しらべえらぶ。〔風俗通、愆禮〕凡所二按選一、豈得下復爲二君臣一者上耶。

【按倒】45 an^4 tao^3　押し倒す。

【按攤】46 アンタン　元の人。海北海南宣慰使となり、威

望あり。生黎王高等の二十四洞、皆貢税を送らんことを願ふ。〔新元史、一百三十三〕。

【按治】47（アンチ） 罪をしらべをさめる。案治。〔唐書、兵志〕訟二茂宗所レ奪田一事下二御史一按治、悉予レ民。

【按値】48 an^4 chih^2 價に從つて。價格に準じて。

【按著】49 an^4 chê 照して。依つて。

【按懲】50（アンチョウ） 調べてこらす。〔福惠全書、刑名部、問擬〕各宜二按懲一。

【按定】51（アンテイ） きめる。〔福惠全書、蒞任部、發各告示〕要下按二定時刻一分明、直至中黎明攢點上。

【按程】52（アンテイ） ほどあひをかんがへる。〔福惠全書、蒞任部、發各告示〕始法既定、而按レ程課レ效、則游刄有レ餘矣。

【按店】53 an^4 tien^4 質屋をいふ。

【按堵】54（アンド） 居處に安んずる。安んじ居る。安堵。〔漢書、高帝紀上〕吏民皆按堵如レ故。〔注〕應劭曰、按、按二次第一、堵、牆堵也、師古曰、言レ不二遷動一也。

【按牘】55（アントク） とりしらべを要する書類。又、手紙。案牘。〔白居易、徵二稅稅一畢題二郡南亭一詩〕按牘既簡少、池館亦清閑。

【按納】56 an^4 na^4 勘忍する。耐へる。

【按派】57（アンパ） わりつける。〔福惠全書、編審部、攢造審册〕其糧丁一例按派。

【按排】58（アンパイ） 程よく物事の順を定めならべる。適宜にかげんをする。鹽梅。安排(3−7072··409)の❷に同じ。

【按拍】59（アンパク） 拍子をとること。〔花蘂夫人、宮詞〕旋炙銀笙先二按拍一、海棠花下合二梁州一。〔張憲、周昉横笛圖詩〕春嬌二滿眼一情脉脉、喚二起紅桃一親按拍。

【按法】60 an^4 fa^3 法律に照らすこと。案法(6−14762··65)に同じ。

【按班】61（アンパン） ❶滿洲語。大臣をいふ。尙書を阿里哈按班といひ、侍郎を阿思哈尼按班といふの類。諳版(10−35736··15)を見よ。❷班次を按ずる。〔清會典事例、吏部、除授〕扣レ限按レ班銓選。〔福惠全書、筮仕部、待接役〕次日按レ班分二別犒勞酒飯賞銀一。

〖按班章京〗62（アンパンシヤウケイ） 清代、總兵官をいふ。〔稱謂錄、總兵、按班章京〕皇朝通攷、天聰八年定、一等總兵官爲二一等按班章京一、二等總兵官爲二二等按班章京一、三等總兵官爲二三等按班章京一。

【按轡】63（アンピ） たづなをひかへる。〔史記、絳侯世家〕天子乃按レ轡徐行。〔漢書、周勃傳〕天子乃按レ轡徐行。

【按部】64（アンブ） 支配を廻はる。部署を考へる。案部(6−14762··67)に同じ。

【按撫】65（アンブ） なでなつける。案撫。〔魏志、郭淮傳〕按二撫柔氏三千餘落一。

【按舞】66（アンブ） 舞を舞ふこと。〔張昱、唐天寶宮詞〕霓裳按舞長生殿、擊碎梧桐夜未央。

【按腹】67（アンプク） 腹をなでさする。按摩の一法。

【按覆】68（アンプク） 調べ明かにする。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣序〕後參二京兆軍事一、按覆校巡。

【按分】69（アンブン） 按分比例の略。

〖按分比例〗70（アンブンヒレイ） 與へられた數を、與へられた割合に比例するやうに分配する算法。比例配分。

【按兵】71（アンペイ） 軍を引き止めて出發しない。進軍をさしひかへる。〔戰國、齊策〕然則是君自爲レ燕東レ兵、爲レ燕取レ地也、故爲レ君計者、不レ如二按レ兵勿一レ出。〔呂覽、召類〕趙簡子按レ兵而不レ動、凡謀者疑也。

【按扁】72 an^4 pien^1 壓してひらたくする。

【按舖】73（アンポ） 質屋。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕每年額徵伍兩、今增二十兩一、按舖彙解。

【按簿】74（アンボ） 名簿をしらべる。〔日本外史、源氏前記、平氏序〕按レ簿差遣。

【按本】75（アンポン） 根本を調べる。〔蜀志、尹默傳〕咸略誦述、不二復按一レ本。

【按摩】76（アンマ） ❶もと、仙家導引の術。後世は、醫家が手で身體をもんで病を療する技をいふ。案摩。〔孟子、梁惠王上、爲二長者一折レ枝、注〕折レ枝、按摩折二手節一、解二罷枝一也。〔素問、血氣形志論〕經絡不レ通、病生二於不仁一、治レ之以二按摩醪藥一。〔注〕夫按摩者、所下以開二通閉塞一、導中引陰陽上。〔漢書、藝文志〕黃帝岐伯按摩十卷。〔演繁露〕醫有二按摩法一、按者、以レ手捏二捺病處一也、摩者、挼二搓之一也。❷盲者をいふ。按摩を業とする者が多いからいふ。

〖按摩工〗77（アンマコウ） 按摩師。案摩工。〔稱謂錄、醫士、案摩工〕唐六典、案摩傳士一人、從九品下、案摩師四人、案摩工十六人、案摩生十五人。

〖按摩師〗78（アンマシ） 唐の官名。太醫署の屬。傷折を療することを掌る。古、我が國にも典藥寮にこの官を置く。〔唐書、百官志三〕太醫署、掌二醫療之法一、其屬有レ四、一曰醫師、二曰鍼師、三曰按摩師、四曰呪禁師、皆教以二博士一、考試登用、如二國子監一。〔令義解、職員〕典藥寮、按摩師二人、掌レ療二諸傷折一。

〖按摩取〗79（アンマトリ） 按摩を業とする人。

〖按摩生〗80（アンマセイ） 按摩師の生員。按摩工を見よ。

〖按摩博士〗81（アンマハカセ） 官名。唐、置く。太醫署の屬。導引の法を教へることを掌る。〔唐書、百官志三〕按摩博士一人、按摩師四人、並從九品下、掌下教二導引之法一以除レ疾、損傷折跌者正上レ之。

【按磨】82（アンマ） 按摩(76)に同じ。〔北史、恩幸、趙邕傳〕邕以二少年一端謹、出二入其家一、頗給二按磨奔走之役一。

【按脈】83（アンミャク） 醫者が病人のみやくをとつて診察すること。切脈。診脈。察脈。〔素問、陰陽應象大論〕善診者、察レ色按レ脈、先別二陰陽一。

【按名】84（アンメイ） 名聲の虛實を考へる。〔陸贄、奏議〕按レ名責レ實者、選吏之權量也。

【按問】85（アンモン） 罪をしらべたづねる。案問。〔漢書、王商傳〕商部屬按問。〔宋史、王欽若傳〕就レ第按問、欽若惶恐伏レ罪。

【按鷹】86（アンヨウ） 鷹を試みる。〔五代史、唐臣、安重誨傳〕夏州李仁福進二白鷹一、重誨却レ之、云云、明帝陰遣二人取レ之以入一、佗日按二鷹于西郊一、戒二左右一無レ使二重誨知一也。〔宣和畫譜〕有二展子虔按鷹圖一。

【按抑】87（アンヨク） おさへる。抑按。〔蘇舜欽、演化琴德素高云云詩〕按抑不レ知二聲在一レ指、指自不レ知二心所一レ起。〔蘇軾、聽レ琴詩〕至平無二按抑一。

【按理】88（アンリ） ❶しらべをさめる。案理(6−14762··77)に同じ。❷an^1 li^3 理の當然によつて。

【按律】89（アンリツ） 掟を考へる。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕按レ律宜二照レ年追納、田沒入レ官、計レ畝論レ罪。

【按例】90 an^4 li^4 法令に照して。慣例に據つて。〔福惠全書、雜課部、漁課〕多寡按レ例可也。

【按曆】91（アンレキ） こよみをしらべる。考曆。案曆。〔後漢書、律曆志上〕案レ曆而候レ之。

【按論】92（アンロン） しらべ論ずる。〔漢書、陳萬年傳〕擧奏按論、畏レ咸皆失レ氣。

【按札兒】93（アンチャル） 元の人。拓跋氏。太祖の時、金を拒いで功を立つ。〔元史、一百二十二〕。

【按楚虎】94（アンソコ） 川の名。今、滿洲吉林省阿城縣の東北。海溝河の東二里許りの阿什河は、按楚虎の音の轉じたものである。金の上京は、按楚虎の西にあつた。

【按竺邇】95（アンチユール） 元の人。雍古氏。謚は、武宣。官は征行大元帥。〔元史、一百二十一〕・〔新元史、一百四十九〕。

【按不住】96 an^4 pu chu^4 耐へきれない。おさへ切れない。〔長生殿、哭像〕按不住悽惶叫一聲妃子。

【按引配鹽】97 an^4 yin^3 pʻei^4 yen^2 鑑札に照して鹽を分配すること。

【按價增稅】98（アンカゾウゼイ） 地代の昂騰價格は所有者個人の獨占すべきものでなく、政府は地價を按じて增稅すべきであるといふこと。〔孫文、地權平均辦法〕。

【按股均分】99 an^4 ku^3 chün^1 fen^1 持株に應じて平等に分配すること。

【按股繳足】100 an^4 ku^2 chiao^3 tsu^2 株金拂込。

【按數查收】101 an^4 shu^4 chʻa^2 shou^1 數を調べて受け取る。勘定して受領する。

【按步就班】102 an^4 pu^4 chiu^4 pan^1 事を爲すには順序を逐つて進むべきであるといふこと。

【⿱夅手】12039

タク 搩(5−12504)に同じ。〔集韻〕⿱夅手、搩或省。

【⿰扌行】12040

エン ⿰扌衍(5−12397)の譌字。〔正字通〕⿰扌行、⿰扌衍字之譌。

【挊】12041 ロウ 弄(4-9596)の俗字。〔正字通〕挊、俗弄字。邦はたらく。家業をはげむ。

【㧪】12042 ㊀キ 〔集韻〕古委切 紙 ㊁ギ 〔集韻〕魚鬼切 尾
㊀やぶりすてる。〔集韻〕㧪、毀撤也。㊁かける。〔集韻〕㧪、懸也。

【扲】12043 キン 〔集韻〕丘甚切 寢
物をもつ。〔集韻〕扲、持レ物。

【拆】12044 タク ❶摘(5-12322)の譌字。〔正字通〕拆、摘字之譌。❷姓。〔萬姓統譜〕拆、見二直音一。

【挋】12045 ㊀シン 〔集韻〕之刃切 震 ㊁キン 〔集韻〕居覲切 震 ㊂キン コン 〔集韻〕居焮切 問

小篆

㊀❶たす。支給する。〔說文〕挋、給也、从レ手臣聲。〔王注〕挋、與レ振通、大司徒曰二振窮一、俗借レ振、廣韻、賑、贍也、給也。〔段注〕給者相足也。❷たばねる。約束する。〔說文〕挋、一曰、約也。❸ぬぐふ。きよめる。ふく。〔爾雅、釋詁〕挋、清也。〔郝懿行義疏〕士喪禮云、挋用レ巾、鄭注、挋、晞也、清也、古文挋皆作レ振、曲禮云、振二書端一書於君前一、有レ誅、鄭注、振、去レ塵也、去レ塵卽潔清之意。〔集韻〕挋、一曰、拭也。〔禮、喪大記〕挋用二浴衣一〔注〕挋、拭也。❹かわかす。水氣を拭ひとる。〔儀禮、士喪禮〕挋用レ巾。〔注〕挋、晞也、清也。㊁㊂ぬぐふ。搵(5-12606)に同じ。〔集韻〕搵、說文、拭也、或作レ挋。

【挀】12046 ㊀ジ ニ 〔玉篇〕日之切 支 ㊁ゼン ネン 〔集韻〕而宣切 先 ㊂ズイ ニ 〔集韻〕儒隹切 支 ㊃ボ
㊀ひく。〔玉篇〕挀、挐也。㊁ささへる。〔集韻〕挀、博雅、拄也。㊂ひたす。擩(5-12866)に同じ。〔集韻〕擩、搵也、或作レ挀。㊃もつ。抪(5-11908)に同じ。〔正字通〕挀、抪字之譌。

【挌】12047 ㊀カク キャク 〔集韻〕各額切 陌 ㄍㄜˊ kê² ㊁ラク 〔集韻〕歷各切 藥 ㊂カク 〔集韻〕曷各切 藥

小篆

㊀❶うつ。〔說文〕挌、擊也、从レ手各聲。〔段注〕凡今用格鬥字、當レ作レ之。❷たたかふ。〔廣韻〕挌、鬭也。❸とめる。〔廣韻〕挌、止也。❹ただす。〔廣韻〕挌、正也。❺あげる。〔玉篇〕挌、擧也。❻かたい。土に水氣がなくなる。垎(3-5033)に通ず。〔說文通訓定聲〕挌、段借爲レ垎。〔管子、地員〕乾而不レ挌。〔注〕挌、堅禦也。❼或は敆(5-13172)に作る。〔集韻〕挌、或作レ敆。㊁うつ。或は擽(5-12919)に作る。〔集韻〕挌、擊也、或从レ樂。㊂ひく。拫挌。〔集韻〕挌、拫挌、牽引也。

【挌殺】1 カクサツ うちころす。格殺。

【挌鬭】2 カクトウ つかみあふ。くみうちする。格鬭。〔漢紀、孝武紀六〕主人公挌鬭死。

【⿱次手】12048 シ 〔集韻〕千咨切 支
ひく。〔集韻〕⿱次手、挐也。

【⿱巩手】12049 キョウ ク 〔集韻〕古勇切 腫

小篆（段注本）

❶だく。かかへる。⿱巩手(5-12177)に同じ。〔正字通〕⿱巩手、本作レ⿱巩手。〔說文〕⿱巩手、攡也、从レ手巩聲。〔廣韻〕⿱巩手、抱持。❷巩(4-8727)に同じ。〔集韻〕巩、說文、褱也、或从レ手。❸畫法の一種。指の爪及び細針を用ひて紙上に人物・花木・山水を畫く法。〔香祖筆記、上〕鈕玉樵云、有二王秋山者一、工爲二⿱巩手畫一、凡人物樓臺山水花木、皆于二紙上一用二指甲及細鍼一⿱巩手出、設色濃淡、布境淺深、一法二古名畫一、按、⿱巩手當レ作レ巩、音築、字書、以レ手⿱巩手レ物也。

【挍】12050 ㊀カウ ケウ 〔集韻〕居效切 效 ㄐㄧㄠˋ chiao⁴ ㊁カウ ケウ 〔集韻〕居肴切 肴 ㊂カウ ケウ 〔集韻〕吉巧切 巧
㊀❶はかる。くらべる。〔廣雅、釋詁一〕挍、度也。〔正字通〕挍、角也、比也。❷むくいる。〔集韻〕挍、報也。❸校(6-14713)に通ず。〔正字通〕挍、語犯而不レ挍、今文从レ木、明避二御諱一、校、省作レ挍、郭恕先謂、校尉之校、不レ當レ用二比挍之挍一。〔禮、學記〕中年考校、校勘記〕毛本、校、作レ挍、按、毛本作レ挍、避レ所レ諱、全書皆然。㊁㊂❶みだす。〔集韻〕挍、亂也。❷いきどほる。〔集韻〕挍、一曰、憤意。

【挎】12051 ㊀コ ク 〔集韻〕空胡切 虞 ㊁コウ ク 〔集韻〕墟侯切 尤
㊀❶もつ。〔集韻〕挎、持也。〔儀禮、鄉飲酒禮〕挎レ越内レ弦。〔注〕挎、持也。❷きる。ゑぐる。刳(2-1956)に通ず。〔易、繫辭下〕挎レ木爲レ舟。〔九家注〕挎、除也。〔釋文〕挎、本又作レ刳。㊁かかげる。摳(5-12638)に同じ。〔集韻〕摳、說文、繑也、一曰、摳レ衣升レ堂、或作レ挎。

【挏】12052 ㊀トウ ヅウ 〔集韻〕杜孔切 董 ㄊㄨㄥˊ tʻung² ㊁トウ ヅウ 〔集韻〕徒東切 東 ㊂トウ ヅウ 〔韻會〕徒弄切 送

小篆

㊀㊁㊂❶おす。ひく。ひきよせる。〔說文〕挏、推引也、从レ手同聲。〔段注〕謂二推レ之使レ前也。〔淮南子、俶眞訓〕撣二掞挺三挏世之風俗一。〔注〕挺挏、猶二上下一也、以求二利便一也。❷うごかす。うごく。〔玉篇〕挏、動也。❸なげおとす。〔新方言、釋言〕福州謂二自レ上擲レ下曰レ挏。❹官名。挏馬。〔說文〕挏、漢有二挏馬官一、作二馬酒一。

【挏治】1 チトウ ふりうごかしてととのへる。挏馬

を見よ。

【挏馬】2 トウバ 官名。漢の太僕の屬に中太僕の官があり、皇太后の輿馬を掌る。武帝の太初元年に至り、挏馬と改め、乳馬の汁を取つて之を挏治するを掌る。〔漢書、百官公卿表上〕中太僕、掌㆓皇太后輿馬㆒、不㆓常置㆒也、武帝太初元年、更名㆓家馬㆒爲㆓挏馬㆒。〔注〕應劭曰、主㆓乳馬㆒、取㆓其汁㆒挏㆓治之㆒、味酢可㆑飮、因以名㆑官也、如淳曰、主㆓乳馬㆒、以㆓韋革㆒爲㆓夾兜㆒、受㆓數斗㆒、盛㆓馬乳㆒、挏㆓取其上肥㆒、因名曰㆓挏馬㆒。

【挏馬酒】3 トウバシュ 馬の乳で造つた酒。挏馬を見よ。〔漢書、禮樂志〕給㆓大官挏馬酒㆒。〔注〕李奇曰、以㆓馬乳㆒爲㆑酒、撞挏乃成也、師古曰、馬酪味如㆑酒、而飮㆑之亦可㆑醉、故呼㆓馬酒㆒也。

【捍】 12053

ソク 〔集韻〕租毒切 [沃]

わせをかりいれる。〔集韻〕捍、收㆓早熟禾㆒曰㆑捍。

[參考] 捍(**5－12143**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕捍、音足、收㆓早熟禾㆒。捍、音旱、捍衞。

【挐】 12054

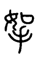
[一] ヂョ ニョ 〔集韻〕女居切 [魚]

[二] ダ ナ 〔集韻〕女加切 ㄋㄚˊ na^{2} [麻]

[三] ヂョ ニョ 〔集韻〕尼據切 [御]

[四] ダ ナ 〔集韻〕乃嫁切 [禡]

[五] ジョ ニョ 〔集韻〕人余切 [魚]


小篆

[一][二]❶**ひく。**〔段注本、說文〕挐、牽引也、从㆑手如聲。〔說文釋例〕紛挐之挐、典籍多作㆑挐。〔漢書、揚雄傳上〕熊羆之挐攫。〔注〕師古曰、挐、牽引也。❷**ながびく。**〔漢書、嚴安傳〕禍挐而不㆑解。〔注〕師古曰、挐、相連引也、音女居反。❸**みだれる。**〔淮南子、本經訓〕芒繁紛挐。〔左思、吳都賦〕攢柯挐莖。〔注〕善曰、許愼淮南子注曰、挐、亂也。❹**まぜる。**雜揉する。〔楚辭、宋玉、招魂〕挐㆓黃粱㆒些。〔注〕挐、糅也。❺**とる。つかむ。**拏(**5－11954**)に通ず。〔說文通訓定聲〕挐、叚借爲㆑拏。〔張衡、西京賦〕熊虎升而挐攫。〔注〕善曰、挐攫、相搏持也。❻**人名。**茹(**9－30921**)に通ず。〔公羊、僖元〕獲㆓莒挐㆒。〔釋文〕挐、一本作㆑茹。❼**姓。**〔正字通〕挐、姓。〔戰國、衞策〕所㆑用者、緤錯挐薄也。[三]**のびない。**拘挐。〔集韻〕挐、拘挐、不㆑展。[四]**みだれる。**〔集韻〕挐、亂也。[五]**もつ。**〔集韻〕挐、說文、持也。

[名乘] モト。モチ。

[參考] [一]の場合、說文繫傳は、挐、持也とする。今、廣韻・集韻・段注・通訓定聲に從ふ。〔說文、拏持也、从㆑手奴聲、段注〕各本、篆作㆑挐、解作㆓如聲㆒、此與㆘前文訓㆓牽引㆒之挐㆖互譌也、今正。〔說文通訓定聲〕挐、與㆓从㆑奴之拏㆒別、今本說解、挐拏二篆互譌、茲訂正。

【挐音】1 ヂョオン 水の亂れる音。〔莊子、漁父〕待㆓水波定㆒、不㆑聞㆓挐音㆒、而後敢乘。

【挐攫】2 ダクワク つかみあふこと。挐攫。〔張衡、西京賦〕熊虎升而挐攫。〔注〕善曰、挐攫、相搏持也。銑曰、致㆓熊虎猨狖之屬㆒、皆相㆓搏持於山上㆒。〔漢書、揚雄傳上〕熊羆之挐攫。〔注〕師古曰、挐、牽引也、攫、搏㆓持之㆒也。

【挐莖】3 ヂョケイ ヂョキヤウ 入り亂れたくき。〔左思、吳都賦〕攢柯挐莖、重葩掩葉。〔注〕善曰、許愼淮南子注曰、挐、亂也。

【挐首】4 ヂョシュ 毛髮が亂れて梳らぬ頭。〔淮南子、覽冥訓〕美人挐首墨面而不㆑容。〔注〕挐首、亂頭也、草與㆑髮幷編爲㆓挐首㆒、不㆑修㆓容飾㆒也。

【挐訪】5 na^{2} fang^{3} 探訪してつかまへる。〔桃花扇、逮社〕朝廷正在挐訪。

【挐薄】6 ヂョハク 戰國、衞の人。嗣君の幸臣。後、殷順且に逐はる。〔戰國、衞策〕。

【挐來】7 na^{2} lai もつてくる。〔紅樓夢、八回〕不過挐來預備着。

【挐戮】8 ダリク つかみころす。〔北史、邢昕傳〕若聖教含容、不㆑加㆓挐戮㆒、使㆘父子罪不㆓相及㆒、惡止㆗於其身㆖、則宜㆑投㆓之四裔㆒。

【挑】 12055

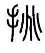
[一] テウ 〔集韻〕他彫切 ㄊㄧㄠˊ tʻiao$^{1\cdot2}$ [蕭]

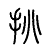
[二] テウ デウ 〔集韻〕田聊切 [蕭]

[三] テウ デウ 〔集韻〕徒了切 ㄊㄧㄠˇ tʻiao^{3} [篠]

[四] タウ トウ 〔集韻〕他刀切 ㄊㄠ tʻao^{1} [豪]

[五] テウ デウ 〔集韻〕徒弔切 [嘯]


小篆（說文）


小篆（段注本）

[一]❶**みだす。みだれる。**〔說文〕挑、撓也、从㆑手兆聲。〔段注〕撓者擾也、挑者謂㆔撥㆓動之㆒、左傳云㆑挑㆑戰、是也。〔莊子、大宗師〕撓挑無㆑極。❷**はねる。**〔中華大字典〕挑、引撥也。〔白居易、琵琶行〕輕攏慢撚撥復挑。❸**いどむ。**挑撥する。いざなふ。〔正字通〕挑、又撥也、誘也、司馬相如傳、遇㆓卓文君㆒以㆓琴心㆒挑㆑之。❹**かかげる。**かきあげる。〔白居易、長恨歌〕孤燈挑盡未㆑成㆑眠。❺**になふ。**〔增韻〕挑、杖荷也、俗謂㆓肩荷㆒曰㆑挑。〔陸游、自題㆓傳神㆒詩〕擔挑雙草屩。❻**取る。**あげる。えらぶ。よぶ。〔增韻〕挑、又取也、今揀㆓選人物㆒、亦曰㆑挑。〔新方言、釋言〕今人謂㆓簡擇㆒曰㆑挑、本是洮字。〔列子、楊朱、矯㆓情性㆒以招㆑名、釋文〕挑、謂㆓招呼㆒也。〔後漢書、陳龜傳〕挑㆓取功譽㆒。〔注〕挑取、猶㆓獨取㆒也、獨取㆓其名㆒、如㆓挑戰之義㆒。❼**さらふ。**ぬすむ。〔通州志〕官銀挑濬。❽**うつ。**敲(**5－13383**)に通ず。〔說文通訓定聲〕挑、叚借爲㆑敲。〔說文〕挑、一曰、摷也。❾**うがつ。**くじる。ゑぐる。銚(**11－40387**)・斛(**5－13518**)に通ず。〔說文通訓定聲〕挑、叚借爲㆑銚。〔廣雅、釋詁三〕挑、穿也。〔疏證〕說文、斛、突也、突、與㆑銚同義。〔一切經音義、一〕挑、抉也。〔異苑〕陶侃左手有㆑文、達㆓中指上橫節㆒便止、侃以㆑鍼挑令㆑徹。❿**すくふ。すくひとる。**〔儀禮、有司徹〕二手執㆓挑匕枋㆒以挹㆑湆。〔注〕挑、謂㆓之歃㆒。〔正字通〕挑、器名、儀禮、有司徹、執㆓挑匕㆒。⓫**さじ。**⓬**かるい。**てうすい。恌(**1－569**)に通ず。〔說文通訓定聲〕挑、叚借爲㆑恌。〔廣雅、釋詁二〕挑、俠也。⓭**せまる。**むさぼる。ないがしろにする。〔荀子、彊國〕其服不㆑挑。〔說文〕挑、國語曰、郤至挑㆑天。⓮**きじの羽。**翟(**9－28727**)に通ず。挑文(63)を見よ。[二]❶**めぐる。**撓挑。〔集韻〕挑、撓挑、宛轉也。❷**みだす。**〔集韻〕挑、一曰、攪也。❸或は㨟(**5－12258**)に作る。〔集韻〕挑、或作㆑㨟。[三]❶**いどむ。**ひく。誂(**10－35469**)に通ず。〔列子、楊朱〕媒而挑㆑之。〔釋文〕挑、謂㆓招呼㆒也、說文作㆑誂、相誘也、大了反。〔戰國、秦策〕楚人有㆓兩妻者㆒、人誂㆓其長者㆒、〔補〕後語作㆑挑、徒了反。〔史記、司馬相如傳〕而以㆓琴心㆒挑㆑之。〔注〕索隱曰、挑、嬈也。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕橫挑㆓彊胡㆒。〔注〕善曰、臣瓚曰、挑、挑㆑敵求㆑戰也、古謂㆓之致師㆒。❷**はやい。**趒(**10－37137**)に通ず。〔說文通訓定聲〕挑、又叚借爲㆑趒。〔廣雅、釋詁一〕挑、疾也。❸**もてあそぶ。**〔集韻〕挑、一曰、弄也。〔宋史、劉宰傳〕輕挑㆓兵端㆒、爲㆓國深害㆒。[四]

❶**往來のさま**。身のかるいさま。〔集韻〕挑、挑達、相見皃、一曰、往來皃。〔詩、鄭風、子衿〕挑兮達兮。〔傳〕挑達、往來相見貌。〔毛詩後箋〕觀㆓正義㆒云、故知㆔挑達爲㆓往來貌㆒、可㆑識㆔傳本無㆓相見二字㆒、釋文、挑達、往來見貌、無㆓相字㆒、此必陸氏本作㆓往來皃㆒、傳寫誤㆑皃爲㆑見、淺人復於㆓見下㆒加㆓皃字㆒耳。〔集傳〕挑、輕儇跳躍之貌。❷或は⿰彳兆(**4**−**10083**)・佻(**1**−**569**)に作る。〔集韻〕挑、或从㆑彳、从㆑人。❸**物をのばす器**。或は抗(**5**−**11911**)に作る。〔集韻〕挑、抒㆑物之器、或作㆑抗。五❶**ゆる**。掉(**5**−**12243**)に同じ。〔集韻〕掉、說文、搖也、或从㆑兆。❷**ふるふ**。ふりまはす。〔韻會〕挑、振也。❸**ふるへる**。〔增韻〕挑、顫也。

【挑穵】1（テウアツ）掘り浚ふ。うがつ。〔淸會典事例、工部、營房、各省營房〕道光二十五年、奉天府金州建㆓蓋礮房十間、礮臺九座㆒、排㆑釘木椿八十一根、添㆓置煙墩二十七座㆒、復州挑㆓穵戰壕長一千八十丈㆒、添㆓置煙墩七座㆒。

【挑挖】2（テウアツ）挑穵に同じ。〔字彙補〕挖、挑挖也。〔福惠全書、保甲部、建築柵濠〕龍脈來處不㆑可㆓挑挖㆒。

【挑引】3（テウイン）ひく。おびき出す。誘惑する。

【挑搖】4（テウエウ）ゆすぶる。そそのかしうごかす。挑動。

【挑河】5 t'iao^1 hê^2 河を掘る。河を浚ふ。

【挑架】6 t'iao^1 chia^4 足場。足代。

【挑開】7 t'iao^3 k'ai^1 ❶腫物などをつき破る。❷下水・溝などを掘り浚ふ。

【挑眼】8 t'iao^1 yen^3 人の過をとがめる。

【挑戲】9 t'iao^3 his^4 ❶人の情をそそる。誘惑する。❷ふざける。からかふ。調戲。

【挑筋】10（テウキン）筋をゑぐりとる。割勢。挑筋教を見よ。

【挑筋教】11（テウキンケウ）河南開封の靑回回教をいふ。猶太人、マタイが創めた初、一賜樂業教といふ。猶太教で、最初の教神をアダムとし、後漢の明帝の時、中國に入る。此の教派では割禮を行ふから名づける。〔天方典禮釋要解〕祝虎院祝㆓乎德寺㆒、俗謂㆓挑筋教㆒也。

【挑花】12（テウクワ）縫模樣する。刺繡。〔秦韜玉、織錦婦詩〕挑花日日覓㆓新奇㆒、有㆑鏡何曾及㆓畫眉㆒。

【挑刮】13（テウクワツ）ゑぐりとる。〔陸龜蒙、奉㆓酬襲美先輩吳中苦雨㆒一百韻詩〕何大不㆓包羅㆒、何微不㆓挑刮㆒。

【挑缺】14 t'iao^1 ch'üeh^1 人を選んで輔佐する。

【挑肩】15 t'iao^1 chien^1 荷物をかつぐ人足。

【挑建】16 t'iao^3 chien^4 建を修理すること。建は、車の軸木が車の心に當る所に差し込んだ鐵條。

【挑撿】17 t'iao^1 chien^3 選ぶ。挑揀(67)に同じ。

【挑唆】18（テウサ）そそのかす。おだてる。教唆。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕官吏少有㆑拂㆑意、挑㆓唆無賴㆒叩㆑閽。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕或別有㆓挑唆㆒、無㆑如㆓息㆑氣讓㆑人、便宜自在㆒。

【挑菜】19（テウサイ）野菜を取る。挑菜節を見よ。

【挑菜節】20（テウサイセツ）二月二日をいふ。〔張耒、二月二日挑菜節大雨不㆑能㆑出詩〕久將㆓菘芥㆒芼㆓南羹㆒、佳節泥深人未㆑行、想見故園蔬甲好、一畦春水轉㆓轤轂㆒。

【挑子】21 t'iao^1 tzŭ ❶荷を擔ぐ者。荷擔ぎ。❷擔ぐ荷物。一荷。

【挑莿】22 t'iao^1 tz'ŭ^4 とげをほじり出す。

【挑事】23 t'iao^3 shih^4 事を引きおこす。事を仕出かす。

【挑兒】24 t'iao^1 êrh ❶荷物。❷えりぎらひ。えりごのみ。

【挑情】25 t'iao^3 ch'ing^2 人の情をそそる。ふざける。挑發する。誘惑する。

【挑取】26（テウシユ）❶獨りいどみとる。〔後漢書、陳龜傳〕沮㆓毀國威㆒、挑㆓取功譽㆒。〔注〕挑取、猶㆓獨取㆒也、獨取㆓其名㆒、如㆓挑戰之義㆒。❷擇び取る。〔淸會典事例、宗人府、授官〕乾隆三十年、奉㆑旨挑㆓取八旗十五善射人等㆒。

【挑水】27 t'iao^1 shuei^3 水をになふ。水を汲む。

【挑水的】28 t'iao^1 shuei^3 tê 水をかついで賣り歩く者。

【挑水壩】29（テウスイハ）水勢を分つために設けた堰。〔六部成語、工部、挑水壩、注解〕挑㆓分水勢㆒之大壩也。

【挑斥】30 t'iao^1 ch'ih^4 非難する。排斥する。譴責する。

【挑截】31（テウセツ）かかげ切る。〔馬融、長笛賦〕匍匐伐取、挑㆓截本末㆒。

【挑扇】32 t'iao^3 shan^4 一枚もの。掛物。

【挑淺】33（テウセン）河底を掘つて深くすること。〔六部成語、工部、挑淺、注解〕河道淤泥、挑而深㆑之也。

【挑戰】34（テウセン）戰を挑むこと。我から敵に向つて戰を求めること。〔左氏、宣、十二〕趙旃求㆑卿未㆑得、云云、請㆑挑㆑戰、弗㆑許。〔國語、晉語三〕公令㆓韓簡挑㆑戰。〔史記、項羽紀〕願與㆓漢王㆒挑㆑戰決㆓雌雄㆒。〔史記、越世家〕使㆘死子挑㆑戰、三行至㆓吳陳㆒、呼而自剄㆖。

【挑選】35（テウセン）擇ぶ。選擇する。〔淸會典事例、八旗都統、兵制〕五十二年奏准、由㆓吉林伯都訥阿爾楚喀打牲烏拉滿洲餘丁內㆒挑㆓選三百名㆒、移㆓紮三姓地方㆒。〔福惠全書、郵政部、撥馬〕宜㆘將㆓本驛馬共若干內中、挑㆗選執堪㆓官坐㆒若干、云云㆖。

【挑選貨品】36 t'iao^1 hsüan^3 huo^4 p'in^3 商品の品質を選擇すること。

【挑打】37 t'iao^1 ta^3 二流どころの錢莊。

【挑刀】38（テウタウ）刀を振りまはす。〔晉書、張昌傳〕挑㆑刀走㆑戟、其鋒不㆑可㆑當。〔資治通鑑、晉紀〕〔惠帝、太安二年〕絳頭毛面、挑㆑刀走㆑戟、其鋒不㆑可㆑當。〔注〕挑㆑刀、舞㆑刀也。

【挑踼】39 t'iao^1 t'ang^3 つまづく。

【挑擇】40 t'iao^1 tsê^2 えらぶ。

【挑達】41（タウタツ）❶往來相見ゆるさま。又、恣に跳り戲れるさま。おちつきが無くてわがままなさま。輕佻放恣。〔詩、鄭風、子衿〕挑兮達兮、在㆓城闕㆒兮。〔傳〕挑達、往來相見貌。〔集傳〕挑、輕儇跳躍之貌、達、放恣也。❷（テウタツ）恣に跳りたはむれる。男子の勢の勃起して萎えぬこと。〔輟耕錄、狎娼遭毒〕姑蘇鄭君輔、放浪不羈、爲㆓漕府小吏㆒時、督㆑運至㆓直沽㆒、狎㆓遊羣娼㆒、挑達太甚、殊弗㆑堪㆑之、或有㆑進㆓藥於鄭㆒、曰、此助㆑陽奇劑也、鄭試傳㆑之、數日後、陰器消縮若㆓閹宦㆒、然竟以㆑此終㆓其身㆒、漫書爲㆓後人戒㆒。

【挑担】42（テウタン）擔ぎ棒で物を擔ふこと。挑擔。

【挑擔】43（テウタン）❶姊妹の夫をいふ。〔仁恕堂筆記〕甘州人謂㆓姊妹之夫㆒曰㆓挑擔㆒。❷荷物をになふ。挑担。挑擔駄載を見よ。〔還魂記、僕偵〕淨郭駝挑擔上。

【挑擔的】44 t'iao^1 tan^4 tê 荷ふ人。荷擔人夫。

【挑擔駄載】45（テウタンダサイ）挑擔は荷を擔ふ者。駄載は荷を馬に載せること。〔明律、戶律、課程、鹽法〕挑擔駄載者、杖八十、徒二年。

【挑灯】46（テウチン）提灯(**5**−**12344**··**115**)に同じ。〔貞丈雜記、八、調度〕挑灯は京都將軍の代、末つかたより用始しなるべし。

【挑撓】47（テウテウ）書法の一。字形の偏つたものに對して、其の均勢を保つために傍脚などをはねあげること。〔歐陽詢、書法、挑撓〕字之形勢有㆘須㆓挑撓㆒者㆖、如㆓戈弋武丸氣之類㆒、又如㆓獻勵散斷之字㆒、左邊既多、須㆑得㆓右邊撓㆑之、如㆓省炙之類㆒、上偏者、須㆘得㆓下撓㆑之使㆗相稱㆖乃善。

【挑剔】48（テウテキ）❶さがし出す。ゑぐる。〔五燈會元〕僧問㆓郢州洞泉山禪師㆒、如何是相傳底事、師曰、龍吐㆓長江水㆒、魚吞㆓無盡漚㆒、曰、請㆓挑剔㆒、師曰、擂鼓轉㆓船頭㆒、棹穿波裏月。❷かける。かかげる。〔瑯琊代醉編〕挑㆓剔燈火㆒。❸書道の筆法の一。はねる。〔續書譜〕挑剔者、字之步履、欲㆓其沈實㆒。❹t'iao^1 t'i^1 ㋑人の過を咎め立てる。㋺取り除ける。㋩えりぎらひする。

【挑敵】49（テウテキ）敵に挑む。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕橫挑㆓彊胡㆒。〔注〕善曰、臣瓚曰、挑、挑㆑敵求㆑戰也。

【挑擲】50（テウテキ）車などをまはすこと。〔梅堯臣、和㆓孫端叟蠶具㆒十五首、紡車詩〕蠶月必紡績、絲車必挑擲。

【挑天】51（テウテン）天をないがしろにする。又、天の功をぬすむ。挑は佻。佻天。〔說文〕挑、國語曰、郤至挑㆑天。〔段注〕周語、單襄公語、韋本作㆓佻天㆒、注云、佻、偸也、今按、佻㆓天之功㆒以爲㆓己力㆒。

【挑土】52 t'iao^1 t'u^3 漢字の土偏。

【挑燈】53（テウトウ）❶ともしびをかかげる。火をかきたてる。〔岑參、邯鄲客舍歌〕邯鄲女兒夜沽㆑酒、對㆑客挑㆑燈誇數㆑錢。〔司空圖、修史亭詩〕誰料平生臂㆑鷹手、挑燈自送㆓佛前錢㆒。〔白居易、夏夜宿直詩〕寂默挑㆑燈坐、沈吟踏㆑月行。❷（テウチン）提灯

（5－12344・・115）の別字。

【挑燈劇】54（テウトウゲキ） 戲曲の名。明、來集之撰。小青の事を演ずる。小青（4－7473・・757）を見よ。〔讀牡丹亭詩〕冷雨幽窗不㆑可㆑聽、挑燈閒看㆓牡丹亭㆒、人閒更有㆑癡㆓於我㆒、不㆓獨傷心是小青㆒。

【挑動】55（テウドウ） そそのかしうごかす。いどんで人の心を興奮させる。〔漢書、司馬相如傳上〕以㆓琴心㆒挑㆑之、注〕師古曰、寄㆓心於琴聲㆒、以挑㆓動之㆒也。

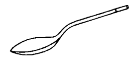
【挑買】56（テウバイ） 買ひとる。〔福惠全書、郵政部、購馬〕雖㆓住在㆑口八旗挑買㆒、然尚有㆓遺珠㆒。

【挑賣】57 t'iao^1 mai^4 荷をかついで物を賣りまはる。擔ぎ賣り。

【挑發】58（テウハツ） いどみおだてる。

【挑撥】59（テウハツ） ❶かかげあげる。しかける。挑發。〔後村詩話、詠燈〕李烈祖爲㆓徐溫養子㆒、年九歲、詠㆑燈詩、主人若也勤㆓挑撥㆒、敢向㆓尊前㆒不㆑盡㆑心、徐不㆓復常兒待㆒㆑之。❷t'iao^3 po^1 人の過を咎める。

【挑匕】60（テウヒ） 食器の名。さじ。〔儀禮、有司徹〕二手執㆓挑匕枋㆒以挹㆑湆。〔禮書、四十九、匕部〕舊圖云、挑匕漆㆓柄末乃淺升中㆒皆朱、柄葉長短廣狹、與㆓疏勺㆒同。



挑　匕（名物圖）

【挑費】61 t'iao^3 fei^4 ❶生活費。❷運搬料。

【挑夫】62 t'iao^1 fu^1 勞働者。人夫。

【挑文】63（テウブン） きじの羽の模樣。挑は翟（9－28727）に通ず。又、桃文に作る。〔韓非子、外儲說右下〕延陵卓子乘㆓蒼龍挑文之乘㆒、鉤飾在㆑前、錯錣在㆑後、馬欲㆑進則鉤飾禁㆑之、欲㆑退則錯錣貫㆑之、馬因旁出。〔集解〕兪樾曰、挑、當㆓讀爲㆒㆑翟、下文一曰、延陵卓子乘㆘蒼龍與㆓翟文㆒之乘㆖、注云、馬有㆓翟之文㆒是也、挑、從㆓兆聲㆒、與㆓翟聲㆒相近、故翟通作㆑挑、先愼曰、兪說是、御覽七百四十六、引㆑挑作㆑桃、拾補作㆑桃、盧文弨以㆓挑字㆒爲㆑譌、非也、挑桃並翟之假借。

【挑兵】64 t'iao^1 ping^1 兵を選ぶ。兵に選ばれる。徵兵にあたる。

【挑補】65（テウホ） えらびおぎなふ。〔淸會典事例、宗人府、授官〕毋㆘庸調㆓補京缺㆒、挑㆗補侍衞㆖。

【挑揚】66 t'iao^1 yang^2 もてあそぶ。なぐさめる。

【挑揀】67 t'iao^1 chien^3 擇ぶ。よる。

【挑脚的】68 t'iao^1 chiao^3 tê 人足。沖仕。輕子。

【挑秀女】69（テウシウヂヨ） 淸代、宮妃とすべき滿洲婦人を選び採ること。〔淸會典事例、宗人府、天潢宗派、婚嫁〕嘉慶六年奉旨、朕綜㆓理庶務㆒、皆率㆓由舊章㆒、從㆚前皇考高宗純皇帝、每次挑㆓選八旗秀女㆒時、派㆓王等於聖祖仁皇帝㆒派㆓衍二十四近支宗室內㆒、查㆘明應㆑進㆓綠頭牌㆒者㆖指配㆙、今朕挑㆓選秀女㆒、自應㆔遵㆓照此例㆒。

【挑織術】70（テウシヨクジユツ） 女子の刺繡の一つ。各種の花紋などを布面に刺繡する方法。

【挑手旁】71 t'iao^1 shou^3 pang^4 漢字の手偏。

【挑出來】72 t'iao^1 ch'u lai 選び出す。えり出す。より出す。

【挑生鬼】73 t'iao^1 shêng^1 kuei^3 鬼畜のやうな人。

【挑大烟】74 t'iao^1 ta^4 yen^1 小賣店から阿片を買ひ入れる。

【挑不出】75 t'iao^1 pu ch'u^1 選び出せない。

【挑不是】76 t'iao^1 pu^2 shih^4 缺點を搜す。

【挑不動】77 t'iao^1 pu tung^4 荷ひきれない。擔ぎきれない。

【挑好道歹】78 t'iao^1 hao^3 tao^4 tai^3 えりごのみをする。

【挑五挖六】79 t'iao^1 wu^3 wa^1 liu^4 挑五挑六に同じ。

【挑五挑六】80 t'iao^1 wu^3 t'iao^1 liu^4 人の過を咎め立てする。

【挑三攉四】81 t'iao^3 san^1 huo^4 ssŭ^4 人を煽動する。おだて唆かす。

【挑三揀四】82 t'iao^1 san^1 chien^3 ssŭ^4 えりごのみをする。

【挑字眼兒】83 t'iao^1 tzŭ^4 yen^3 êrh 文字の錯誤をしらべる。字句の缺點を拾ふ。

【挑著樣兒】84 t'iao^1 chê yang^4 êrh 見本を選擇する。雛形を選り出す。

【挑八股繩】85 t'iao^1 pa^1 ku^3 shêng^2 荷を擔いで賣り步く行商人。前後に四本の繩でつるした荷をかつぐからいふ。

【挑八根繫】86 t'iao^1 pa^1 ken^1 chi^4 荷をかついで行く行商人。

【挑肥撿瘦】87 t'iao^1 fei^2 chien^3 shou^2 えりごのみをする。

【挑不起來】88 t'iao^1 pu ch'i^3 lai 擔がれない。荷はれない。

【挑剜描轃】89（テウワンベウソウ） 切斷した紙幣を集めて眞物の如く轃合修理した紙幣。〔明律、戶律、鈔法〕若有㆘不㆑行㆓用㆑心辨驗㆒、收㆓受僞鈔及挑剜描轃鈔貫㆒在㆗內者、經㆑手之人、杖一百、倍㆓償所納鈔貫㆒。

【挑鼻子挑眼】90 t'iao^1 pi^2 tzŭ t'iao^1 yen^3 人の過を咎め立てする。

【挒】12056

（レツ レチ）〔集韻〕力櫱切 屑

❶かかげる。〔廣韻〕挒、埤蒼云、搩也。❷ねぢる。〔集韻〕挒、捩也。

【𢪔】12057

（ハイ） 拜（5－11969）の本字。〔正字通〕𢪔、拜本字。

【扼】12058

㊀（グワ）〔集韻〕五果切 哿　㊁（ダ ナ）〔集韻〕努果切 哿

㊀㊁つむ。捰扼。〔集韻〕扼、捰扼、摘也、趙魏之閒謂㆑摘爲㆓捰扼㆒。

【𢪃】12059

（キヨウ グ）〔集韻〕渠容切 冬

❶兩手をあげてとる。〔集韻〕𢪃、擧㆓兩手㆒取曰㆑𢪃。❷拲（5－12177）の變體。〔康熙字典〕𢪃、按、卽拲字變體。

【挓】12060

（タ）〔集韻〕陟加切 麻 ㄓㄚ cha^1

挓抄は、ひらくさま。〔集韻〕挓、挓抄、開皃。

【𢭏】12061

（ゴ） 捂（5－12124）に同じ。〔集韻〕捂、或作㆑𢭏。

【𢪊】12062

（トウ） 投（5－11887）の古字。〔集韻〕投、古作㆑𢪊。

【𢯻】12063

（サウ ソウ）〔五音篇海〕蘇遭切 豪

曲折してよぢのぼる。〔五音篇海〕𢯻、曲折而攀援也。

【抾】12064

（デフ ネフ）〔字彙補〕尼輒切 葉

とる。〔字彙補〕抾、採也。

【挔】12065

（リヨ） 旅（5－13644）に同じ。〔篇海〕挔、與㆑旅同。

【挕】12066

（テフ）〔篇海〕丁叶切 葉

❶うつ。〔篇海〕挕、打也。❷もつ。攝（5－13010）の俗字。〔康熙字典〕挕、俗借爲㆓攝字㆒。

【𢪏】12067

（サウ） 搔（5－12477）に同じ。〔篇海〕𢪏、同㆑搔。

【⿰扌伊】12068 ヨク 抑(5－11883)に同じ。〔篇海〕⿰扌伊、同ㇾ抑。

【⿰扌臼】12069 コツ コチ 〔篇海〕呼骨切 [月]

たかいさま。〔篇海〕⿰扌臼、高貌。

【挖】12070 アツ アチ 〔字彙補〕烏括切 [曷] ㄨㄚ wa$^{1\cdot2}$

❶あばく。うがつ。〔字彙補〕挖、挑挖也。❷[現]深い。空しい。

[参考] 此の字は穵(8－25407)に通ず。穵は黠韻なれば、これも亦黠韻なるべし。〔康熙字典〕挖、按穵字入㆓黠韻㆒如㆑手義同、當㆑从㆓烏八切㆒。

【挖行】1 wa^1 hsing^2 袍子の袖先の折り疊んだところ。

【挖窖】2 wa^1 chiao^4 穴に埋めた財を掘り取る。

【挖苦】3 wa^1 k'u^3 人を冷笑する。挖窟に同じ。

【挖掘】4 wa^1 chüeh^2 掘る。

【挖窟】5 wa^1 k'u^1 ❶なぶる。ひやかす。嘲弄する。皮肉をいふ。❷穴を掘る。

〘挖窟窿〙6 wa^1 k'u^1 lung 穴を掘る。

【挖礦】7 wa^1 kung^3 礦山を發掘する。

【挖刳】8 wa^1 k'u^1 あらをさがす。

【挖刻】9 wa^1 k'ê^1 ❶ゑぐる。剔り出す。❷吝嗇な。

【挖耳】10 wa^1 êrh^3 ❶耳をほじる。❷耳搔き。

【挖井】11 wa^1 ching^3 井戸を掘る。

【挖塚】12 wa^1 chung^3 墓地を發掘する。

【挖洞】13 wa^1 tung^4 穴を掘る。

【挖煤】14 wa^1 mei^2 石炭を採掘する。

【挖費】15 wa^1 fei^4 地位を得るために賄賂などを費すこと。

【挖補】16 wa^1 pu^3 くりぬいて修繕する。繼ぎ張りする。切り張りする。

【挖眼睛】17 wa^1 yen^3 ching 眼を抉り出す。

【挖門子】18 wa^1 men^2 tzu 賄賂等の方法を用ひて人に取り入る。

【挖濠築墻】19 wa^1 hao^2 chu^2 ch'iang^2 壕をほり壁を築く。

【挖眼剖心】20 wa^1 yen^3 p'ou^1 hsin^1 目をほじくり胸をさく。

【挖空心思】21 wa^1 k'ung^1 hsin^1 ssŭ^1 いろいろと考へぬく。

【挖心兒的】22 wa^1 hsin^1 êrh tê 眞中のくぼんだ。

【挖肉補創】23 wa^1 jou^4 pu^3 ch'uang^1 肉をゑぐつて傷を補ふ。貧者が負債をして一時脱れをする喩。

【⿰扌⿱卜日】12071 シ 指(5－12034)の古字。〔九經字樣〕⿰扌⿱卜日、古文指字。

【⿰扌⿱乂云】12072 セン 〔篇海〕音先

もつ。〔篇海〕⿰扌⿱乂云、持也。

【挗】12073 ケツ 抉(5－11873)に同じ。〔篇海〕挗、同ㇾ抉。

【⿰扌扛】12074 コウ 〔篇海〕音紅

蟲がとぶ。〔篇海〕⿰扌扛、蟲飛。

【⿰扌夅】12075 カウ ガウ 〔篇海〕下江切 [江]

帆を張らない。〔篇海〕⿰扌夅、篗帆也。

【⿰扌卆】12076 ソツ ゾチ 〔龍龕手鑑〕昨沒切 [月]

とる。〔龍龕手鑑〕⿰扌卆、捽也。

【⿰承丁】12077 テイ チヤウ 〔字彙補〕他定切 [徑]

うける。〔字彙補〕⿰承丁、承也。

【㧯】12078 ラウ ロウ 〔字彙補〕落好切 [皓]

拷㧯灣は、地名。〔字彙補〕㧯、拷㧯灣、豐縣地名、出㆓河防一覽㆒。

【巹】12079 キン 〔正韻〕古忍切 [軫]

身の承けるところを謹む。〔正韻〕巹、謹㆓身所㆒ㇾ承也。

【⿰扌⺕】12080 シウ 搊(5－12453)に同じ。〔篇海類編〕⿰扌⺕、同ㇾ搊。

【挘】12081 [國字] むしる。むしりとる。つかんでちぎりはなす。毟る。

【挙】12081′ キヨ 擧(5－12863)の略字。

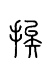
七畫

【挨】12082

[一]アイ 〔集韻〕倚駭切 [蟹] ㄞ ai$^{1\cdot2}$

[二]アイ 〔集韻〕倚亥切 [賄]

[三]アイ 〔集韻〕英皆切 [佳]


小篆

[一][二]❶うつ。背をうつ。〔說文〕挨、擊ㇾ背也、从ㇾ手矣聲。〔廣雅、釋詁三〕挨、擊也。〔廣韻〕挨、打也。❷おす。おし進める。〔正字通〕挨、強進曰ㇾ挨。〔列子、黃帝〕攩拯挨抌。〔釋文〕挨、推也。❸おしのける。〔六書故〕挨、旁排也。❹せまる。ちかづく。順次に。〔正字通〕挨、今俗、凡物相近、謂㆓之挨㆒。[三]おす。又、うつ。捱(5－12418)に同じ。〔集韻〕捱、推也、擊也、或作ㇾ挨。[現]㋑傍に。㋺密接する。㋩逐ふ。㋥うける。被る。㋭每に。(以上、上平)。㋬云云に在る。(以上、下平)。

【挨挨】1 ai^1 ai 徐々に。

〘挨挨擠擠〙2 ai^1 ai chi^2 chi^3 群衆が混雜する形容。

【挨越】3 アイ エツ 自分だけ出過ぎること。〔燕子箋、開試〕點名各歸㆓號房㆒、不ㇾ許㆓挨越㆒。

【挨延】4 ai^1 yen^2 ぐづぐづする。苟且にする。

【挨餓】5 ai^1 ê^4 餓ゑる。飢餓に迫る。

【挨號】6 アイ ガウ 順々の番號。〔福惠全書、郵政部、撥馬〕俟ㇾ有㆓緊要大差官長㆒、挨號輪流、派出應付。

【挨氣】7 ai^1 ch'i^4 自ら煩悶を求めること。滿洲奉天地方の方言。

【挨及】8 エヂプト 埃及。Egypt の音譯。

【挨肩】9 ai^1 chien^1 協力する。

〘挨肩擦膀〙10 ai^1 chien^1 ts'a^1 pang^3 羣衆が雜沓する。

【挨戶】11 アイ コ 戶每に。一戶每に。挨門。〔福惠全書、刑名部、逃人、部文行提〕挨戶嚴查、或幷㆓四鄉㆒嚴查。

【挨靠】12 ai^1 k'ao^4 ❶たよる。依賴する。❷接近する。近寄る。

【挨坐】13 アイ ザ 押しあつて坐る。ならび坐る。〔曾鞏、分寧縣雲峯院記〕長少挨㆓坐里閭㆒、相講語以㆓法律㆒。

【挨催】14 アイ サイ 順次にとりたてる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕設㆓滾單㆒、令㆓其逐ㇾ戶挨催㆒。

【挨造】15 アイ ザウ 順々にかきだす。〔福惠全書、保甲

部、造保甲册〕挨㆓造本保之後㆒。

【挨拶】16（アイサツ） ❶おし進む。前に在るものを推し除けて進み出る。羣衆が推し合つて前に出る。〔葛長庚、鶴林問道篇〕昔者天子登㆓封泰山㆒、其時士庶挨拶、獨召㆓一縣尉㆒行㆑轎而前。❷禪家の語。門下の僧に推問答して、其の悟道知見の深淺を試みること。〔碧巖集、第二十三則〕一言一句、云云、一挨一拶、要㆑見㆓其深淺㆒。❸消息の往來。書翰の往復應答の詞。〔下學集序〕南去雁札、北來鯉緘、酬答富㆑辭、挨拶得㆑便。❹うけこたへ。返答。應答。❺答禮。返禮。報酬。

【挨拶狀】17（アイサツジヤウ） 社交的儀禮を主とした書翰文。

【挨拶切】18（アイサツキル） ❶今後は挨拶しない。關係を絶つ。❷（アイサツギレ） 俳諧の發句の切字の一種。

【挨拶人】19（アイサツニン） ❶會釋に出る人。❷仲裁人。

【挨次】20（アイジ） 順繰りに。順々に。順次に。〔清會典事例、兵部、職制〕與㆓各項儘先人員㆒、挨次序補。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕逐名挨次、將㆑狀展開。〔鹽谷青山、沖島廻游記〕游者挨次投㆑水。

【挨宿】21（アイシユク） 明の成祖が永樂二年の進士中から二十八人を選んで二十八宿に應ぜしめた時、周忱は自ら選に與からんことを陳べて許された。時人、之を挨宿といふ。〔明外史、周忱傳〕忱永樂二年進士、選㆓庶吉士㆒、明年、成祖擇㆓其中二十八人㆒、進㆓學文淵閣㆒、應㆓二十八宿㆒、忱自陳㆓少年㆒乞㆑預、帝嘉㆓其有㆑志許㆑之、時人謂㆓之挨宿㆒。

【挨順】22（アイジユン） 順々に。〔福惠全書、涖任部、酬答書札〕置㆑簿挨順謄錄、以便㆓查看㆒。

【挨星】23（アイセイ） 術數家の語。胎養・長生・沐浴・冠帶・臨官・帝・旺・衰・病・死・墓・絶を十二宮の方位とし、更に九星といつて、貪狼・巨門・祿存・文曲・廉貞・武曲・破軍に分配すること。養生を貪狼と爲し、絶胎を祿存と爲すの類。之に依つて一生の運命より日常普通事に至る迄の判斷をする。〔協紀辨方書〕。

【挨擠】24（アイセイ） 多人數こみ合ふ。〔燕子箋、入闈〕兩傍挨擠閙㆓冬烘㆒、中間一溜沙堤空。

【挨選】25（アイセン） 本班中より前後の順序を調べて官吏を選用すること。〔六部成語、吏部、挨選、注解〕在㆓本班中㆒、依㆓著前後的次序㆒選用。

【挨打】26 ai^{1} ta^{3} 打たれる。

【挨拿】27（アイダ） 戸毎に調査して犯人を逮捕すること。〔六部成語、刑部、挨拿、注解〕挨㆑門查㆓問罪犯之行踪㆒、而擒㆑之也。

【挨著】28 ai^{1} chê 接近して。

【挨註】29（アイチユウ） 順次にかきいれる。〔福惠全書、錢穀部、解給〕各解項挨註完。

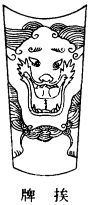
【挨抌】30（アイチン） おしのける。〔列子、黃帝〕攩拯挨抌、亡㆑所㆑不㆑爲。

【挨登】31（アイトウ） かきのせる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕按㆑日挨登如㆓流水之盈㆑科漸進㆒也。

【挨罵】32 ai^{1} ma^{4} 罵りを受ける。

【挨背】33 ai^{1} pei^{4} 背後と背後とがたがひに接する。

【挨牌】34（アイハイ） 清代に用ひた綠營用の牌の名。〔清會典圖、武備、挨牌圖說〕挨牌、削木、長六尺四寸、上爲㆓仰月形㆒、闊二尺四寸、下闊一尺八寸、通髹黃、繪㆓虎頭雙爪㆒、背髹朱、穿㆑帶挽㆑之。



挨牌
（清會典圖）

【挨保】35 ai^{1} pao^{3} 連名で保證する。

【挨班】36（アイハン） 班の順序を逐ふ。組の順に。〔福惠全書、郵政部、撥馬〕挨班差撥、則各夫所㆑養之馬、勞逸適均。

【挨晚】37 ai^{1} wan^{3} 夕方。

【挨編】38（アイヘン） 保甲を編成するには單面街と合面街とに分けて編成する。前者は片側の順序によつて編成し、之を挨編といふ。後者は兩側を向ひ合せて編成し、之を對編といふ。〔福惠全書、保甲部、保甲之制〕一鄉之中、大而鎭集、小而莊村、或千家數百家、以及㆓數十家㆒、倶按㆓各街巷之橫直長短㆒、單面街挨編、合面街對編。

【挨補】39（アイホ） 補充する。〔清會典事例、吏部、漢員升補〕仍照㆓考取注冊名次㆒挨補。

【挨門】40 ai^{1} men^{2} 戸毎に。戸別に。挨拿（27）を見よ。

【挨癢】41（アイヤウ） かゆいところをこする。〔菊坡叢話〕見㆓野牛就㆑木挨癢㆒。

【挨蘭】42（アイラン） 舞ふ。〔眞臘風土記〕八月則挨蘭、挨蘭者、舞也、點差伎樂、毎日就㆓國宮內㆒挨蘭。

【挨輪】43（アイリン） 順々にまはる。〔福惠全書、郵政部、撥馬〕馬按㆑號挨輪。

【挨氷嘯】44（アイヒヨウセウ） 鱠殘魚（**9－29937‥8**）の異名。〔事物異名錄、水族、鱠殘魚〕養魚經、鱠殘魚狀如㆓銀魚㆒而大、冬月帶㆑子者、謂㆓之挨氷嘯㆒。

【挨里溫】45（エリヴアン） 地名。ソヴエート・ロシア、アルメニア共和國の首都。Erivan の音譯。

【挨里西】46（エリス） 群島の名。大洋洲ギルバート諸島の東南にある群島。Ellice の音譯。

【挨一挨兒】47 ai^{1} i^{4} ai^{1} êrh 逐つて。

【挨爾斯倫】48（エルゼルム） 地名。トルコの一州。又、その首邑の名。Erzerum の音譯。

【挨墻靠壁】49 ai^{1} ch'iang^{2} k'ao^{4} pi^{4} 壁に倚りかかる。

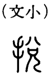
【挨名補用】50 ai^{1} ming^{2} pu^{3} yung^{4} 氏名順で官吏を任用すること。

【挨佛勒斯】51（エヴエレスト） 山名。ヒマラヤ山脈の主峯。Everest の音譯。

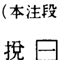
【挨着大樹有柴燒】52 ai^{1} chê ta^{4} shu^{4} yu^{3} ch'ai^{2} shao^{1} 大木に倚れば焚くべき薪にはこまらない。寄らば大樹の蔭といふ諺。

【挨金似金挨玉似玉】53 ai^{1} chin^{1} ssŭ^{4} chin^{1} ai^{1} yü^{4} ssŭ^{4} yü^{4} 金に近ければ金に似、玉に近ければ玉に似る。朱に交れば赤くなるの諺。

【挩】 12083



小篆（小文）



小篆（段注本）

㈠タツ タチ 〔集韻〕他括切 曷。
㈡セイ 〔集韻〕輸芮切 霽
㈢エイ 〔集韻〕兪芮切 霽

㈠❶**とく**。〔說文〕挩、解挩也、从㆑手兌聲。❷**のぞく**。はらふ。〔廣韻〕挩、除也。❸**のこす**。わすれる。〔廣韻〕挩、遺也。❹**あやまる**。〔廣韻〕挩、誤也。❺**うつ**。梲（**6－14885**）に通ず。〔說文通訓定聲〕挩、叚借爲㆑梲。〔集韻〕挩、捶也。〔穀梁、宣、十八〕戕、猶㆑殘也、挩殺也。〔注〕挩、謂㆓捶打㆒。〔校勘記〕石經初刻、挩作㆑梲、後改從㆑手、非也、梲殺、謂㆓以㆑杖殺㆒之、後漢書禰衡傳、手持㆓三尺梲杖㆒、是也。❻脫（**9－29539**）・稅（**8－25070**）・說（**10－35556**）に通ず。〔說文通訓定聲〕挩、經傳以㆑脫以㆑稅以㆑說。㈡**ぬぐふ**。〔集韻〕挩、拭也。〔儀禮、鄉飮酒禮〕坐挩㆑手、遂祭㆑酒。㈢**うごかす**。扤（**5－11858**）に同じ。〔集韻〕扤、博雅、動也、或从㆑兌。

名乘 アキラ。

【挩殺】1（タツサツ） うちころす。〔穀梁、宣、十八〕戕、猶㆑殘也、挩殺也。〔注〕挩、謂㆓捶打㆒。

【挪】 12084

ダ ナ 〔集韻〕囊何切 歌。 ㄋㄨㄛˊ nuo^{2}

❶**もむ**。〔集韻〕挪、搓挪也。❷**移す**。流用する。挪移（1）を見よ。❸挼（**5－12109**）に通ず。〔正字通〕挪、俗挼字。❹現㋑よける。さける。㋺取除ける。

【挪移】1（イダ） ❶流用する。遣り繰りする。〔六部成語、戸部、挪移、注解〕如㆑此項、應㆑作㆓某項使用㆒、而擅自改爲㆓別項之用㆒、則曰㆓挪移㆒。〔清會典事例、刑部、戸律倉庫〕挪㆓移出納㆒。❷ nuo^{2} i^{2} 動く。移る。流用する。

【挪移銀】2（ダイギン） 或る項に用ひる金を他に流用すること。〔六部成語、戸部、挪移銀、注解〕將㆘應㆑用㆓於此㆒之欵㆖、移而用㆓於彼㆒、謂㆓之挪移銀㆒。

【挪威】3（ノールウエー） スカンヂナヴイヤ半島の西及び北部を占むる王國。諾威。那威。Norway の音譯。

【挪開】4 nuo^{2} k'ai^{1} 除く。おしのける。移動する。

【挪款】5 nuo^{2} k'uan^{3} 流用金。

【挪抄】6（サダ） すりもむ。摩挲。〔吳澄、餞㆓王講師㆒詩〕青眼兩熠燿、白髮各挪抄。

【挪撮】7ダサツ 移して集める。〔六部成語、戸部、挪撮、注解〕撮、集也、從㆓各款中㆒挪移以集㆑事也。

【挪借】8ダシヤク たてかへる。借す。〔清會典事例、戸部、鹽法〕需索挪借。

【挪到】9 nuo^2 tao^4 移轉する。

【挪墊】10ダテン 國庫に納むべき銀が完備してゐない時、他項の銀で補足すること。〔六部成語、戸部、挪墊、注解〕此項未㆑完、暫移㆓他項㆒墊㆓補解㆑部之款㆒也。〔清會典事例、刑部、戸律倉庫、挪㆓移出納㆒〕一凡虧空之案、審出㆓民欠、挪㆓墊是實㆒。

【挪轉】11 nuo^2 chuan^3 遷す。

【挪動】12 nuo^2 tung^4 移る。

【挪撥】13 nuo^2 po^1 流用支出する。

【挪補】14 nuo^2 pu^3 流用して補塡する。融通して埋める。

【挪揄】15ダユ ❶邪揄(**11－39319··98**)に同じ。❷官吏が自分の便宜のために財政を翫弄すること。

【挪用】16ダヨウ 流用する。たてかへる。〔清會典事例、刑部、戸律倉庫、挪㆓移出納㆒〕捏㆓稱軍需挪用㆒者、仍照㆑律治㆑罪追賠。

【挪窩】17 nuo^2 wo^1 巣を遷す。住處を替へる。

【挪得開】18 nuo^2 tê k'ai^1 移動出來る。

【挪不開】19 nuo^2 pu k'ai^1 除きされない。除けられない。動かされない。

【扼】12085

グワ 扼(**5－12058**)の譌字。〔康熙字典〕扼、扼字之譌。

【⿰扌㐬】12086

ソ 梳(**6－14886**)の俗字。〔字彙〕⿰扌㐬、同㆑梳、俗字。

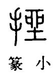
【挫】12087

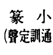
[一]サ 〔集韻〕祖臥切 [箇] ㄘㄨㄛˋ ts'uo^4

[二]サ シヤ 〔集韻〕祖加切 [麻]

[三]サ 〔集韻〕臧戈切 [歌]

[慣]ザ


小篆


小篆(聲定訓通)

[一][二]❶**くじく。くじける。** 剉(**2－1999**)に通ず。〔說文通訓定聲〕挫、叚借爲㆑剉。㋑折る。折れる。⿰扌垔(**5－12551**)に同じ。〔說文〕⿰扌垔、摧也、从㆑手垔聲。〔段注〕此亦上文摧、一曰、折也之義。〔正字通〕挫、說文篆作㆑⿰扌垔。〔周禮、考工記、輪人〕外不㆑廉而內不㆑挫。〔注〕挫、折也。〔淮南子、時則訓〕銳而不㆑挫。〔注〕挫、折也。〔後漢書、班固傳上〕脫㆑角挫㆑脰。㋺とりひしぐ。こぼつ。〔戰國、秦策〕挫㆓我於內㆒。〔注〕挫、毀也。〔史記、屈原傳〕兵挫地削、亡㆓其六郡㆒。㋩はづかしめる。〔孟子、公孫丑上〕思㆘以㆓一毫㆒挫㆗於人㆖。〔淮南子、說山訓〕爲㆓其挫㆒㆑廉也。〔注〕挫、辱也。㋥そこなふ。いためる。〔荀子、解蔽〕蚊虻之聲聞則挫㆓其精㆒。〔注〕挫、損也。㋭おさへつける。まげる。屈伏する。〔漢書、陳湯傳〕久挫㆓於刀筆之前㆒。〔注〕師古曰、挫、屈折也。㋬きる。きずつける。〔韻會〕剉、說文、折傷也、或作㆑挫。❷**からめる。**〔老子、二十九〕或挫或隳。〔釋文〕挫、搦也。❸**とる。** とらへる。〔楚辭、宋玉、招魂〕挫㆑糟凍飲。〔注〕挫、捉也。❹**とまる。** とめる。坐(**3－4931**)に通ず。〔說文通訓定聲〕挫、叚借爲㆑坐。〔春秋考異郵〕清明者精芒挫收也。〔注〕挫、猶㆑止也。❺**おさへる。**〔莊子、人間世〕挫㆑鍼治㆑繲。〔釋文〕挫、徐子臥反、崔云、案也。❻[現]失敗する。[三]**おさへる。** [一]の❺に同じ。〔集韻〕挫、案也、莊子、挫㆑鍼治㆑繲。

【挫銳】1ザエイ 銳氣をくじく。〔老子、五十六〕挫㆓其銳㆒、解㆓其紛㆒。〔孫子、作戰〕鈍㆑兵挫㆑銳。

【挫氣】2ザキ 元氣がくじけること。剉氣。〔尉繚子、兵敎下〕日暮路遠、還有㆓剉氣㆒。

【挫強】3ザキヤウ 強きをくじくこと。〔戰國、齊策〕伐不㆓爲㆑人挫㆒㆑強。

【挫過】4 ts'uo^4 kuo^4 とりはづす。〔水滸傳、七十二回〕宋江黑地裏說道、今番挫過、後次難逢。

【挫後】5 ts'uo^4 hou^4 後から壓しつける。追ひつめられる。

【挫骨】6ザコツ 骨をくじく。

【挫摧】7ザサイ くじける。

【挫志】8ザシ 志を挫くこと。〔莊子、天地〕不㆓以㆑物挫㆒㆑志、之謂㆑完。〔黃庭堅、宋完字說〕泰伯虞仲、不㆘以㆓天下㆒挫㆖志。

【挫失】9 ts'uo^4 shih^1 挫折する。失敗する。

【挫傷】10ザシヤウ くじけきずつく。くじけやぶれる。〔淮南子、原道訓〕秋風下㆑霜、倒生挫傷。〔後漢書、皇甫規傳〕每㆑有㆓征戰㆒、鮮㆑不㆓挫傷㆒。

【挫縮】11ザシユク くじけてちぢむ。〔陳琳、爲㆓袁紹㆒檄㆓豫州㆒文〕使㆘鋒芒挫㆓縮厥圖㆒不㆖㆑果。

【挫辱】12ザジヨク くじけ屈する。又、くじきはづかしめる。屈辱。〔韓非子、亡徵〕挫㆓辱大臣㆒、而狎㆓其身㆒、刑㆓戮小民㆒、而逆㆓其使㆒、懷㆑怒思㆑恥、而專習則賊生、賊生者可㆑亡也。〔呂覽、離俗〕年六十而無㆑所㆓挫辱㆒。〔後漢書、杜林傳〕夫人情挫辱、則義節之風損。

【挫針】13ザシン 挫鍼に同じ。

【挫鍼】14ザシン はりをおさへさす。衣を縫ふこと。挫鍼治繲を見よ。

【挫鍼治繲】15ザシンチカイ 衣を縫ふことと衣を洗ふこと。〔莊子、人間世〕挫鍼治繲、足㆓以餬㆒㆑口。〔釋文〕司馬云、挫鍼、縫㆑衣也、治繲、浣㆑衣也。

【挫折】16ザセツ くじきをる。くじけをれる。失敗すること。頓挫。挫衄。挫頓。剉折。〔鹽鐵論、誅秦〕控弦之民、旃裘之長、莫㆑不㆓沮㆑膽挫折遠遁㆒。〔後漢書、馮異傳〕北地營保按㆑兵觀望、今偏城獲㆑全、虜兵挫折。〔元史、蓋苗傳〕雖㆑經㆓剉折㆒、無㆓少回撓㆒。

【挫衄】17ザヂク 挫折してやぶれまける。衄は又、衂に作る。〔孫子、作戰、鈍㆑兵挫㆑銳、攻㆑城則力屈、注〕杜牧曰、言、與㆑敵相持、久而後勝、則甲兵鈍弊、銳氣挫衄、攻㆑城則人力殫盡屈折也。〔吳越春秋、夫差內傳〕欲㆘以㆓妖孼㆒挫㆗衄吾師㆖、賴㆑天降㆑哀、齊師受㆑服。〔風俗通、皇霸、六國〕且有㆓彊兵良謀㆒、雜襲繼㆑踵、每輒挫衄、亦足㆓以祛㆑蔽啓㆒㆑蒙矣。〔晉書、宣帝紀〕亮再出㆓祁山㆒、一攻㆓陳倉㆒、挫衄而反。〔南史、羊侃傳〕一旦失㆑利、門隘橋小、必大致㆓挫衄㆒。

【挫敵】18ザテキ 敵をくじく。〔魏志、郭淮傳〕欲㆓依㆑水爲㆑陳以拒㆒㆑之、淮曰、此示㆑弱、而不㆑足㆑挫㆑敵。

【挫頓】19ザトン くじきやぶる。くじけやぶれる。頓は敗。〔荀子、王制〕彼將日日挫㆓頓竭㆔之於仇敵㆒。〔易林、比之第八、旣濟〕齟齬挫頓、枯槁腐蠹。

【挫鈍】20ザドン くじけにぶる。〔元史、孝友二、張紹祖傳〕賊怒以㆑戈擊㆑之、戈應㆑手挫鈍。

【挫鋩】21ザバウ ほこさきをくじく。〔左思、吳都賦〕莫㆑不㆓衄㆑銳挫㆑鋩、拉捭摧藏㆒。〔注〕向曰、莫㆑不㆕衄挫鋒鋩、拉㆓擲折㆔挫之㆒也。

【挫鋒】22ザホウ ほこさきをくじく。〔陸機、辨亡論上〕二邦之將、喪㆑氣挫㆑鋒。

【挫北】23ザホク くじけてにげる。挫敗。北は敗。〔杜牧、戰論〕兵非㆑脆也、穀非㆑殫也、而戰必挫北、是曰㆑不㆑循㆓其道㆒也。

【挫磨】24 ts'uo^4 mo^2 強ひる。強ひて餘儀なくさせる。

【挫抑】25ザヨク くじけかがまる。又、くじきおさへる。摧抑。〔後漢書、史弼傳〕弼爲㆑政、特挫㆓抑彊豪㆒、其小民有㆑罪、多㆑所㆓容貸㆒。〔韓愈、詠㆑雪贈㆓張籍㆒詩〕松篁遭㆓挫抑㆒、糞壤獲㆓饒培㆒。

【挫戮】26ザリク くじきころす。〔南齊書、竟陵文宣王子良傳〕如㆑聞、南師未㆑能㆓挫戮㆒、百姓齊民、積年塗炭、疽食侵淫、邊虞方重。

【挫力】27ザリヨク 力を挫く。〔張楚金、樓下觀㆓繩伎㆒賦〕絲桐發而沮㆑勢、丸劍調而挫㆑力。

【挫角媒人】28ザカクバイジン 骰子(**12－45127··3**)の異名。〔清異錄、君道、彩局兒〕開元中、後宮繁衆、侍㆓御寢㆒者、難㆓于取捨㆒、爲㆓彩局兒㆒、以定㆑之、集㆓宮嬪㆒用㆓骰子㆒擲、最勝一人、乃得㆑專㆑夜、宦璫私號㆓骰子㆒爲㆓挫角媒人㆒。

【⿰扌宋】12088

サン 〔集韻〕桑感切 [感]

うごく。うごかす。撼抹。〔集韻〕抹、撼抹、搖也。

【捊】12089

ホツ ボチ　〔集韻〕薄沒切　月

ぬく。〔集韻〕捊、拔也。

【捊拔】1 ホツバツ　ぬく。〔淮南子、覽冥訓〕捊二拔其根一、蕪二棄其本一。

【挭】12090

カウ キヤウ　〔集韻〕古杏切　梗

❶みだす。みだれる。もと搜(5-12325)に作る。〔集韻〕搜、攪也、或作レ挭。〔正韻〕挭、撓也。❷あらまし。挭槩(1)を見よ。梗(6-14849)に通ず。〔正字通〕挭、與レ梗音同、義別、俗混爲レ一、非。

【挭槩】1 カウガイ　大略。〔廣韻〕挭、挭槩、大略。

【挮】12091

🈩テイ タイ　〔集韻〕土禮切　薺

🈔テイ タイ　〔集韻〕他計切　霽

🈩なみだをぬぐふ。或は𪖐(12-48531)に作る。〔集韻〕挮、去レ涕也、或从レ鼻。🈔ぬぐふ。〔集韻〕挮、物拭也。

【𢬵】12092

🈩タイ デ　〔集韻〕柱買切　蟹

🈔ハイ ハ　〔字彙〕普擺切　ㄆㄞ pai^1　蟹

🈩さす。さしとる。〔集韻〕𢬵、擿レ物也。🈔❶開く。わる。〔字彙〕𢬵、分開也。❷現 のけものにする。

【𢬵開】1 pai^1 k'ai^1　割る。分ける。

【𢬵開揉碎】2 pai^1 k'ai^1 jou^2 suei^4　こまかに分ける。くり返し説明する。

【𢬵交情】3 pai^1 chiao^1 ch'ing　絶交する。

【𢬵文兒】4 pai^1 wen^2 êrh　わざとまちがへる。

【振】12093

小篆

🈩シン　〔集韻〕之刃切　ㄓㄣ chen^4　震

🈔シン　〔集韻〕之人切　眞

🈪シン　〔集韻〕止忍切　軫

🈩❶すくふ。にぎはす。〔說文〕振、擧二救之一也、从レ手辰聲。〔易、蠱〕振レ民。〔釋文〕振、濟也。〔禮、月令〕振二乏絕一。〔注〕振、猶レ救也。〔國語、魯語上〕陷而不レ振。〔注〕振、救也。〔漢書、劉德傳〕則以振二昆弟一。〔注〕師古曰、振、擧二救之一。❷ふるふ。ふるへる。ふるはす。㋑うごく。動かす。〔說文〕振、一曰、奮也。〔段注〕此義則與レ震略同。〔禮、月令〕蟄蟲始振。〔注〕振、動也。〔馬融、長笛賦〕寒熊振レ頷。㋺いかる。〔素問、氣交變大論〕其變振撥。〔注〕振、怒也。㋩おそれる。をののく。〔史記、五帝紀〕振二驚朕衆一。〔史記、刺客、荊軻傳〕燕王振怖。㋥うちふる。はらふ。一端を執って揮掉する。〔禮、曲禮下〕振二書端一書二於君前一、有レ誅。〔注〕振、去レ塵也。〔左思、詠史詩〕振二衣千仞岡一。㋭あげる。〔孟子、萬章下〕金聲而玉二振之一也。〔注〕振、揚也。〔荀子、王制〕明振二毫末一。〔注〕振、擧也。㋬おこす。〔國語、晉語七〕振二廢淹一。〔注〕振、起也。㋣ひらく。〔左氏、文、十六〕振レ廩同食。〔注〕振、發也。㋠うつ。〔荀子、王霸〕若レ振レ槁然。〔注〕振、擊也。㋷ぬく。〔孔子家語、六本〕弗レ可レ振也。〔注〕振、拔也。㋦ちらせる。〔逸周書、克殷解〕乃命二南宮忽一、振二鹿臺之財一。〔注〕振、散レ之以惠施也。❸さく。〔廣韻〕振、裂也。❹ととのへる。整(5-13394)に通ず。〔說文通訓定聲〕振、叚借爲レ整。〔左氏、隱、五〕入而振旅。〔注〕振、整也。〔史記、五帝紀〕乃修レ德振レ兵。〔注〕正義曰、振、整也。❺ただす。正(6-16255)に通ず。〔說文通訓定聲〕振、叚借爲レ正。〔管子、小問〕以振二其淫一。〔注〕振、正也。❻しらべる。〔周禮、天官、職幣〕振二掌事者之餘財一。〔注〕振、檢也。❼をさめる。收納する。笵(8-25874)・軫(10-38243)に通ず。〔說文通訓定聲〕振、叚借爲レ笵、爲レ軫。〔周禮、天官、職幣〕振二掌事者之餘財一。〔注〕振、猶レ抍也。〔禮、中庸〕振二河海一而不レ洩。〔注〕振、猶レ收也。❽すてる。はらふ。糞(8-27102)に通ず。〔說文通訓定聲〕振、叚借爲レ糞。〔左氏、昭、十八〕振二除火災一。〔注〕振、棄也。❾通ずる。疏開する。〔史記、司馬相如傳〕振レ谿通レ谷。〔注〕索隱曰、郭璞曰、振、猶レ灑也。❿ふるひたつ。はやめる。奮(3-6012)・迅(11-38727)に通ず。〔說文通訓定聲〕振、叚借爲レ奮爲レ迅。〔說文〕振、一曰、奮也。〔爾雅、釋言〕振、訊也。〔注〕振者、奮迅也。〔詩、周頌、振鷺〕振鷺于飛。⓫ふるい。いにしへ。塵(3-5388)に通ず。〔爾雅、釋言〕振、古也。〔義疏〕振者、聲近レ塵、塵、久也。〔詩、周頌、載芟〕振古如レ茲。〔箋〕振、亦古也。⓬より。から。〔詩、周頌、載芟〕振レ古如レ茲。〔傳〕振、自也。⓭とまる。やめる。〔莊子、齊物論〕振二于無竟一。〔釋文〕振、止也。⓮群る。むれとぶさま。〔詩、周頌、振鷺〕振鷺于飛。〔集傳〕振、羣飛貌。⓯震(12-42300)に通ず。〔易、恒〕振恒。〔釋文〕振、張、作レ震。⓰賑(10-36785)に通ず。〔匡謬正俗、七〕今人之作二文書一者、以三其事涉二貨財一、輒改レ振爲レ賑。⓱娠(3-6322)に通ず。〔方言、三〕燕齊之間、養レ馬者謂二之娠一、官婢女廝謂二之振一。〔注〕女廝婦人給使者亦名レ娠。〔疏證〕徐堅初學記引二方言一、燕齊之間、養レ馬者及奴婢女廝皆謂二之娠一。⓲姓。〔萬姓統譜〕振、見二姓苑一。🈔❶さかん。〔集韻〕振、振振、盛也。❷ふるふ。〔集韻〕振、振振、奮也。❸あつい。〔集韻〕振、振振、厚也。🈪ひとへ。通じて袗(10-34194)・縝(8-27775)に作る。〔集韻〕振、襌也、通作二袗・縝一。〔禮、玉藻〕振絺綌不レ入二公門一。〔注〕振、讀爲レ袗。邦❶ふる。㋑配りつける。わりあてる。㋺遷坐する。昇きうつす。㋩嫌ふ。嫌って相手にしない。㋥失ふ。捨てる。㋭爲替又は手形を發行する。㋬煎じて出す。❷ふり。㋑振袖(73)の略。㋺建物又は据付物の傾き加減。㋩動作。擧動。おこなひ。身振(10-38034・・67)の略。㋥すがた。やうす。なり。㋭僞って其の風を見せ掛けること。見ぬ振・聞く振。㋬品物を擔ひ、又は振りさげ、聲を立てながら路を賣り行くこと。ふりうりの略。㋣しつけ。習慣。家のふりなど。㋠時日の經過を示す語。又、程度を示す語。久し振等の義。㋷刀劍を數へる語。㋦無褌のこと。㋸芝居で音樂に伴なふ所作。㋾女物の着物の袖附から下のあいた部分。

名乘 ノブ。

【振安】1（シンアン） 金、韓鐸(**12－43159‥167**)の字。

【振菴】2（シンアン） 清、汪士鐸(**6－17154‥236**)の字。

【振衣】3（シンイ） ㊀衣を振ふ。衣のけがれをはらふ。〔楚辭、漁父〕新浴者必振レ衣。〔注〕祛二土穢一也。㊁世塵を脱し、志を高尚にすること。〔左思、詠史詩〕振レ衣千仞岡、濯レ足萬里流。〔注〕向曰、振レ衣濯レ足、欲レ去二世塵一也。〔潘岳、西征賦〕爾乃端レ策拂レ茵、彈レ冠振レ衣。〔注〕銑曰、整二衣冠一將レ還也。㊂出でて仕へようとすること。〔後漢書、李固傳〕是以巖穴幽人智術之士、彈レ冠振レ衣、樂欲レ爲レ用、四海欣然、歸二服聖德一。

【振威】4（シンヰ） ㊀勢威を振ふ。〔史記、秦始皇紀〕上以振二威天下一。㊁清、錢棨(**11－40563‥71**)の字。

【振威將軍】5（シンヰシヤウグン） 官名。清、置く。武職從一品の封階。〔稱謂錄、都統、振威將軍〕乾隆五十一年、復改定、正一品封二建威將軍一、從一品封二振威將軍一。

【振畏】6（シンヰ） ふるひおそれる。〔戰國、燕策〕燕王誠振畏、慕二大王之威一、不三敢興レ兵以拒二大王一。〔論衡、恢國〕皇帝振畏。

【振維】7（シンヰ） 天維をととのへる。〔張衡、西京賦〕爾乃振二天維一衍二地絡一。〔注〕綜曰、振、整理也。

【振逸】8（シンイツ） 音律の振動がすぐれてゐること。〔張融、問律自序〕然其傳レ音振逸、鳴節竦韻。

【振淫】9（シンイン） 淫邪の風を正し改める。〔管子、小問〕隨レ之以レ刑、敬レ之以二禮樂一、以振二其淫一。〔注〕振、正也。

【振宇】10（シンウ） 清、黃震(**12－47926‥523**)の字。

【振羽】11（シンウ） ㊀はねをふりうごかす。〔詩、豳風、七月〕五月斯螽動レ股、六月莎鷄振レ羽。㊁樂章の名。〔禮、仲尼燕居〕和鸞中二采齊一、客出以レ雍、徹以二振羽一。〔注〕采齊・雍・振羽、皆樂章也。〔疏〕振羽、卽振鷺詩、亦樂章名也、言三禮畢徹レ器之時歌二振鷺一也。

【振纓】12（シンエイ） ㊀冠の紐をふるふ。官に仕へること。〔晉書、周馥傳〕馥振二纓中朝一、素有二俊彥之稱一。〔沈炯、祭二梁吳郡袁府君一文〕明德世彥、振二纓王室一。㊁冠の紐を洗ふ。隱遁すること。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕臨レ世濯レ足、希レ古振レ纓。〔注〕良曰、臨レ世而隱、如二古之漁父濯レ足振レ纓也、言隨二時清濁一、以隱二於俗一也。振、亦濯也。希、望也。濯、洗也。

【振耀】13（シンエウ） ふるひかがやく。〔揚雄、羽獵賦〕昭光振耀、響忽如レ神。〔注〕向曰、言二揖攘之禮、光明振耀、其疾如一レ神也。

【振掖】14（シンエキ） すくひたすける。〔宋史、歐陽脩傳〕篤二於朋友一、生則振二掖之一、死則調二護其家一。

【振遠】15（シンエン） ㊀德化を遠方に振ひ起す。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕輶車朱軒、懷荒振遠之使、論二德于外一。〔注〕銑曰、言下使臣能來二遠荒之國一、以爲二王臣一、振中起王化於遠方之人上也。㊁字號。㋑明、孫鏜(東勝の人)(**3－6987‥211**)の字。㋺清、王宏(**7－20823‥292**)の字。

【振崖】16（シンガイ） 崖をととのへる。〔司馬相如、上林賦〕磐石振レ崖、嶔巖倚傾。〔注〕善曰、李奇曰、振、整也。翰曰、以二磐石一整二渠岸一也。

【振駭】17（シンガイ） ㊀ふるひおどろく。〔王粲、羽獵賦〕禽獸振駭、魂亡氣奪。㊁浪の湧きあがること。〔晉書、隱逸、夏統傳〕於レ是風波振駭、雲霧杳冥。

【振行】18（シンカウ） 唐代、考功度支の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕考功度支爲二振行一。

【振槁】19（シンカウ） 枯葉をふるひうつ。〔荀子、王霸〕及二以燕趙起而攻一レ之、若レ振レ槁然。〔注〕振、擊也、槁、枯葉也、言下云云、若レ擊二枯葉一之易上也。

【振綱】20（シンカウ） ㊀おほづなをひきしめる。〔法苑珠珠〕振レ綱持レ綱、萬目開張。㊁綱紀を肅正する。〔福惠全書、蒞任部、査交代〕所謂振レ綱挈レ領。

【振毫】21（シンガウ） ㊀筆をふるふ。書くこと。振豪。〔宋書、周朗傳〕整レ笏振レ豪、已議二於帷筵之上一。㊁細小のことをいふ。〔淮南子、兵略訓〕宇中六合、振毫之末、莫レ不二順比一。

【振翮】22（シンカク） はねを振ふ。勢を振ふさま。〔宋書、周朗傳〕朗報レ書曰、云云、豈可レ欲下以二殞海之鬐一、望二鼓鰓於豎鱗之肆一、墜風之羽、覬上振二翮於軒羲之閒一。

【振甲】23（シンカフ） ㊀清、于成龍(**1－252‥124**)の字。㊁清、楊振(**6－15112‥227**)の初名。

【振感】24（シンカン） 感應すること。〔論衡、感虛〕二子懷精、故兩主振感。

【振頷】25（シンカン） おとがひをうごかす。口を動かす。〔馬融、長笛賦〕寒熊振レ頷、特麚昏髟。〔注〕濟曰、振レ頷皆動レ口也。

【振奇】26（シンキ） 擧動の非凡なこと。〔文中子、天地〕或問二揚雄・張衡一、子曰、古之振奇人也。

【振氣】27（シンキ） 氣をふるふ。香氣をふるふ。〔宋玉、風賦〕邸二華葉一而振レ氣、徘二徊於桂椒之閒一。

【振起】28（シンキ） ふるひおこる。又、ふるひおこす。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕益宜下振二起道義之德一。〔袁宏、三國名臣序贊〕振二起清風一、以敦中流遯之敝上。

【振飢】29（シンキ） うゑた民をにぎはす。賑飢。

【振揮】30（シンキ） 振作(64)に同じ。

【振捄】31（シンキウ） 振救に同じ。捄は救(**5－13221**)の古字。〔漢書、魏相傳〕賴二明詔振捄一、乃得レ蒙二更生一。〔注〕師古曰、捄、古救字。

【振救】32（シンキウ） にぎはしすくふ。施しめぐむ。振德。振濟。振卹。振施。振賚。賑救。〔左氏、昭、二十六〕且爲下後人之迷敗傾覆、溺二入于難一、則振中救之上。〔會箋〕振、亦救也。〔國語、周語下〕量二資幣一、權二輕重一、以振二救民一。〔注〕振、拯也。〔史記、秦始皇紀〕振二救黔首一。〔漢書、元帝紀〕開二府庫一振救。〔後漢書、百官志五〕勸二民農桑一、振二救乏絕一。

【振響】33（シンキヤウ） ふるひひびく。〔孫綽、遊二天台山一賦〕法鼓琅以振レ響、衆香馥以揚レ煙。〔南齊書、劉祥傳〕振二響天地一。

【振穹】34（シンキユウ） 振窮に同じ。〔逸周書、糴匡解〕刑罰不レ修、舍用振レ穹。〔注〕舍用常以振レ民也。

【振窮】35（シンキユウ） まづしい者を賑はし助ける。貧民を救助する。賑窮。振貧。〔周禮、地官、大司徒〕以二保息六一養二萬民一、云云、三曰、振窮。〔注〕振窮、拼二捄天民之窮者一也、窮者有レ四、曰レ矜、曰レ寡、曰レ孤、曰レ獨。〔疏〕此四者、天民之窮而無レ告者也、皆有二常餼一、故曰二振窮一。〔左氏、昭、十四〕分レ貧振レ窮、長二孤幼一、養二老疾一。〔戰國、齊策〕內收二百姓一、循二撫其心一、振レ窮補二不足一、布二德於民一、外懷二戎翟天下之賢士一、陰結二諸侯之雄俊豪英一。〔鬼谷子、中經〕振レ窮趨レ急。〔漢書、游俠傳序〕振レ窮周レ急。〔魏志、張邈傳〕振レ窮救レ急。

【振擧】36（シンキヨ） 振起(28)に同じ。〔令狐楚、河陽節度使謝上表〕力欲レ輯レ綏、曷由振擧。〔十八史略、宋、孝宗〕選二任大臣一、振二擧綱維一。

【振恭】37（シンキヨウ） 明、兪欽(**1－1437‥20**)の字。

【振矜】38（シンキヨウ） 大いにほこるさま。震矜。〔陸機、五等諸侯論〕一朝振矜、遠國先叛。〔注〕善曰、公羊傳曰、葵丘之會、齊桓公震而矜レ之、叛者九國、震レ之者何、猶レ曰二振然一也、矜レ之者何、猶レ莫レ若レ我也、何休曰、震矜、色自美之貌也、向曰、振矜、謂二自美一也。

【振恐】39（シンキヨウ） ふるひ恐れる。又、ふるひ恐れしめる。〔韓詩外傳、七〕威動二天地一、振二恐海內一。〔戰國、燕策〕荊軻奉二樊於期頭函一、而秦武陽奉二地圖匣一、以レ次進至二陛下一、秦武陽色變振恐、羣臣怪レ之。〔史記、叔孫通傳〕莫レ不二振恐肅敬一。

【振玉】40（シンギヨク） ㊀玉をふるふ。美音の喩。〔後漢書、樊準傳〕鄧太后臨レ朝、儒學陵替、準上疏曰、云云、每二讌會一、則論難衎衎、共求二政化一、詳覽二羣言一、響如レ振レ玉。〔注〕孟子曰、金聲而玉二振之一也。〔文心雕龍、聲律〕聲轉二於吻一、玲玲如二振玉一、辭靡二於耳一、纍纍如レ貫レ珠矣。㊁字號。㋑明、黨威(**12－48132‥2**)の字。㋺明、陸燦(**11－41708‥121**)の字。

【振欽】41（シンキン） ふるひいかる。〔太玄經、衆〕次四虎虓振欽、豹勝二其私一、否。〔注〕振欽、盛怒貌也。

【振懼】42（シンク） ふるひおそれる。〔戰國、秦策〕今秦破二趙軍於長平一、不下遂以レ時乘二其振懼一而滅上之。〔論衡、感類〕聞二雷雨之變一、安能不二振懼一乎。

【振冠】43（シンクワン） かんむりをふるふ。世塵を脱して隱棲すること。〔曹植、王仲宣誄〕振二冠南嶽一、濯二纓清川一。

【振惠】44（シンケイ） 人をすくひめぐむ。〔晉書、宗室、新蔡王騰傳〕性儉嗇、無レ所二振惠一。

【振景】45（シンケイ） かげをふるふ。〔陸機、謝二平原內史一表〕振レ景拔レ迹。

【振卿】46（シンケイ） 字號。㊀明、何鏜(**1－511‥149**)の字。㊁明、龐嵩(**12－48824‥26**)の字。

【振敬】47（シンケイ） つつしむ。〔史記、夏紀〕日嚴振二敬六德一、亮レ采有レ國。

【振谿】48（シンケイ） 谿にそそぐ。〔史記、司馬相如傳〕振レ谿通レ谷、蹇二產溝瀆一。〔注〕索隱曰、郭璞曰、振、猶レ灑也。

【振驚】49（シンケイ） ふるはせおどろかす。きもをつぶさせる。震驚。〔史記、五帝紀〕舜曰、龍、朕畏三忌讒說殄僞、振二驚朕衆一。〔淮南子、兵略訓〕擧錯得失、莫レ不二振驚一。

【振激】50（シンゲキ） ふるひ激する。〔蔡邕、篆勢〕揚波振激、鷹跱鳥震。

【振潔】51（シンケツ） 潔白な風を振興する。〔梁壽、論三呂大防乞二以レ早罷一疏〕士大夫化レ之、皆磨礪振潔、以二節操一相高。

【振業】52（シンゲフ） 業をおこす。〔漢書、武帝紀〕存下問鰥寡廢疾、無二以自振業一者上、貸二與之一。

【振軒】53（シンケン） 清、張樹聲(**4**−**9812**··1184)の字。

【振拳】54（シンケン） こぶしをふりまはす。〔王延壽、夢賦〕揮レ手振レ拳、雷發電舒。

【振古】55（シンコ） 昔より。いにしへ。振は、又り。又、古。〔詩、周頌、載芟〕匪二今斯今一、振古如レ茲。〔傳〕振、自也。〔箋〕振、亦古也。〔集傳〕振、極也。〔陳奐傳疏〕振古卽自古、自古猶二自昔一也。〔左思、魏都賦〕兆二朕振古一、萠二祇疇昔一。〔注〕向曰、振古・疇昔、皆往古也。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕天倫之愛、振古莫レ儔。

【振孤】56（シンコ） 孤獨のものをすくふ。〔史記、齊太公世家〕振レ孤問レ疾。

【振鼓】57（フリツヅミ） ❶舞樂用の樂器。周圍に小球のついた絲をつけて柄を設けたもの。柄を取つて振れば、絲端の球は自ら鼓面を打つて鳴る。〔西大寺資財帳、樂器衣服〕振鼓二柄。❷振鼓の形に似せて作つた玩具。でんでんだいこ。

【振公】58（シンコウ） 字號。❶清、李麟(咸陽の人)(**6**−**14459**··806)の字。❷清、李麟友(嘉興の人)(**6**−**14459**··2004)の字。

【振興】59（シンコウ） ふるひおこす。盛にする。又、ふるひおこる。盛になる。振作。

【振困】60（シンコン） 振窮(35)に同じ。〔管子、入國〕入レ國四旬、五行二九惠之教一、云云、八曰、振レ困。

【振祭】61（シンサイ） 九祭の一。食前に食神をまつる祭。肝を取つて鹽にひたし、鹽を振ひ落して行ふ。〔周禮、春官、大祝〕辨二九祭一、云云、五曰振祭、六曰擩祭。〔注〕鄭司農云、至二祭之末一、禮殺之後、但擩二肝鹽中一、振レ之擬レ之、若二祭狀一弗レ祭、謂二之振祭一、云云、玄謂、九祭皆謂二祭レ食者一、云云、振祭・擩祭本同、不レ食者、擩則祭レ之、將レ食者、既擩必振、乃祭也。〔疏〕云二將レ食者、既擩必振、乃祭也一者、特牲少牢、皆有下主人獻レ尸、賓長以レ肝從、尸右取レ肝擩二于鹽一、振祭嚌レ之、加中于葅豆上、是謂二振祭一。〔儀禮、士昏禮〕贊以レ肝從、皆振祭嚌レ肝、皆實二于葅豆一。〔胡培翬正義〕振祭者、執而振二動之一以爲レ祭也、此亦以レ肝擩二於鹽一乃振祭、肝從之法、小牢禮備レ之矣、呉氏廷華云、擩レ鹽過レ多、振而去レ之、祭而嚌レ之、後或言レ加、或言レ實、其義一耳。

【振濟】62（シンサイ） にぎはしすくふ。濟は救。賑濟。振救。〔魏志、楊俊傳〕俊振二濟貧乏一、通二共有無一。

【振藻】63（シンサウ） 文章を立派に書く。〔曹植、與二楊德祖一書〕偉長擅二名於青土一、公幹振二藻於海隅一。〔注〕向曰、藻、文也。

【振作】64（シンサク） ふるひおこす。ふるひおこる。振興。作は興起。〔張說、東都酺宴詩序〕是日六樂振作、萬舞苒弱。〔福惠全書、涖任部、馭衙役〕振作鼓舞、以レ化導レ之、可也。

【振索】65（シンサク） ふるひつくす。〔參同契〕洗二濯羽翮一、振二索宿塵一。

【振刷】66（シンサツ） ふるひ拂ふ。これまでの惡いことをすつかり改めて新しくすること。刷新。革新。振作。〔宋史、馬天驥傳〕周世宗當二天下四分五裂之餘一、一念振刷、猶能轉レ弱爲レ強。〔蘇轍、北狄論〕振刷磨淬、自不二屈服一。

【振子】67（シンシ） ❶童男童女をいふ。侲子(**1**−**641**··1)に同じ。〔史記、淮南王安傳〕令名男子若振女、注〕集解曰、徐廣曰、西京賦曰、振子萬童、駰案、薛綜曰、振子、童男女。❷唐、程務挺(**8**−**25081**··290)の名。❸（フリコ）下振（サゲフリ）線の端におもりをつけてつるしおき、左右に運動させるもの。

【振之】68（シンシ） 字號。❶宋、張叔振(**4**−**9812**··1190)の字。❷金、孫鐸(**3**−**6987**··212)の字。❸明、晏鐸(**5**−**13914**··50)の字。❹明、呉振(**2**−**3365**··246)の字。❺明、錢鐸(**11**−**40563**··150)の字。❻明、唐鐸(**2**−**3709**··94)の字。❼明、田鐸(**7**−**21723**··204)の字。❽明、李之藻(**6**−**14459**··1297)の字。❾明、魯鐸(**12**−**46013**··94)の字。❿明、王國訓(**7**−**20823**··1481)の字。⓫明、王中立(呉縣の人)(**7**−**20823**··1910)の字。⓬清、潘鐸(**7**−**18236**··69)の號。

【振施】69（シンシ） 賑はし施す。〔漢書、游俠、原涉傳〕專以下振二施貧窮一、赴中人之急上爲レ務。〔魏志、溫恢傳〕振二施宗族一。

【振事】70（フリゴト） 舞又は舞を主として行ふ演劇。

【振璽】71（シンジ） 明、黃公輔(**12**−**47926**··1090)の字。

【振州】72（シンシウ） 州名。唐、置く。宋、崖州と改む。故城は廣東省崖縣の南。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府〕崖州、漢珠崖郡地、後漢屬二合浦郡一、蕭梁亦屬二珠崖郡一、隋屬二崖州一、大業中、置二臨振郡一、唐武德五年、置二振州一、天寶初、曰二延德郡一、又改爲二甯遠郡一、乾元初、復爲二振州一、宋改爲二崖州一。

【振袖】73（シンシウ） ❶袖をふる。〔阮籍、大人先生傳〕振レ袖而撫レ裳。❷（フリソデ）袖の長さが普通よりも長く、脇の下を縫はないもの。德川時代には元服以前の男女が着用した。ふり。

【振錫】74（シンシャク） 僧侶がめぐりあるくこと。行脚の時、錫杖をふりうごかすからいふ。〔高僧傳〕佛若多羅、專二精十誦律部一、僞秦弘始中、振レ錫入レ關。〔庾肩吾、八關齋夜賦二四城門一更作四首、北城沙門詩〕既有二神通力一、振錫遠乘レ煙。

【振主】75（シンシュ） 刑罰を以て群臣を威震する君主。震主。〔管子、七臣七主〕振主、喜怒無レ度、嚴誅無レ赦。〔注〕動二發威嚴一、謂二之振一也。

【振衆】76（シンシュウ） 多くの人をうごかす。〔陸雲、張二侯頌序〕威略足二以振一レ衆。

【振肅】77（シンシュク） ふるひおそれてつつしむ。又、ふるひおこして嚴肅にする。〔晉書、溫嶠傳〕庾敳有二重名一、而頗聚斂、嶠擧二奏之一、京都振肅。〔北史、齊神武帝紀〕機略嚴明、事無二疑滯一、於レ是朝野振肅。

【振出】78（フリダシ） ❶振つて物を出す。❷中に物を入れ、細い穴から振出す器具。❸爲替又は手形の發行。❹藥を袋に入れ、湯に浸して藥氣をだす。又、其の藥。❺雙六の采をふりはじめる場所。

〔振出人〕79（フリダシニン） 爲替又は手形をふりだす人。

【振卹】80（シンジュツ） すくひめぐむ。賑恤。〔後漢書、种暠傳〕父爲二定陶令一、有二財三千萬一、父卒、暠悉以賑二卹宗族及邑里之貧者一。〔南史、梁宗室上、呉平侯景傳〕會二年荒一、計レ口振卹。〔顏延之、陽給事誄序〕振二卹遺孤一。

【振恤】81（シンジュツ） 振卹に同じ。〔呂覽、懷寵〕求二其孤寡一、振二恤之一。〔呉志、賀邵傳〕振二恤窮乏一。〔文獻通考、國用考、振恤〕周禮遺人、掌二邦之委積一、以待二施惠一、鄉里之委積、以恤二民之囏阨一、關之委積、以養二老孤一、郊里之委積、以待二賓客一、野鄙之委積、以待二羈旅一、縣都之委積、以待二凶荒一。

【振書】82（シンショ） 書物をふるつて塵を拂ふ。〔禮、曲禮下〕振二書端三書於君前一、有レ誅。〔注〕振、去レ塵也。

【振振】83（シンシン） ❶盛大なさま。〔左氏、僖、五〕均服振振、取二虢之旂一。〔注〕振振、盛貌。〔漢書、五行志中之上〕袀服振振。〔顏延之、宋郊祀歌〕遙興遠駕、曜曜振振。〔潘岳、閑居賦〕服振振以齊玄。❷仁愛の厚いさま。〔詩、周南、螽斯〕宜二爾子孫一、振振兮。〔傳〕振振、仁厚也。〔詩、周南、麟之趾〕麟之趾、振振公子。〔後漢書、章帝八王傳贊〕振振子孫、或秀或苗。❸信義の厚いさま。〔詩、召南、殷其靁〕振振君子、歸哉歸哉。〔傳〕振振、信厚也。❹羣り飛ぶさま。〔詩、周頌、振鷺〕振鷺于飛、于二彼西雝一。〔傳〕振振、羣飛貌。〔詩、魯頌、有駜〕振振鷺、鷺于下。〔傳〕振振、羣飛貌。❺思ひあがつて得意なさま。亢陽のさま。〔公羊、僖、九〕震レ之者何、猶レ曰二振振然一。〔注〕亢陽之貌。❻衆友の盛なさま。〔呂覽、愼人〕丈夫女子、振振殷殷、無レ不二戴說一。〔注〕振振殷殷、衆友之盛。❼（アリアリ）玩具の一種。槌の形をした杖に、彩絲を絡つたもの。古、正月の遊戲等に之を用ひて木製の毬をうつ。❽的の一種。圓物に類し、徑三四寸。❾大刀の柄の下緒のおもりの金物。❿ぶるぶるとふるへをののくさま。ぶるぶる。

【振迅】84（シンジン） ふるひたつて勢のはげしいさま。すみやか。〔鮑照、飛白書勢銘〕差池燕起、振迅鴻歸。

【振水】85（シンスイ） 水をふるひうごかす。波だてる。〔論衡、變虛〕猶二魚鼓而振一レ水也。

【振世】86（シンセイ） 世の中を震動する。震世。〔孔子

家語、三恕〕勇力振㆑世、守㆑之以㆑怯。

【振生】87シンセイ　清、蔣衡(**9－31820**‥17)の原名。

【振整】88シンセイ　ととのへる。〔宋祁、再賜㆓杜衍㆒讓㆓恩命㆒不㆑允批答〕濟㆑水無㆑益、治㆑絲愈棼、圖㆑所㆓振整㆒、未㆑知㆓厥序㆒。

【振聲】89シンセイ　字號。㊀明、邵銅(**11－39343**‥55)の字。㊁清、高遐昌(**12－45313**‥1064)の字。㊂清、李炳(**6－14459**‥722)の字。㊃清、王蘭生(**7－20823**‥2163)の字。

【振攝】90シンセツ　ふるひととのへる。

【振慴】91シンセフ　ふるひおそれる。振懾。〔戰國、燕策〕北蠻夷之鄙人、未㆔嘗見㆓天子㆒、故振慴、願大王少假㆓借之㆒。〔鹽鐵論、周秦〕賁育之勇、莫㆑不㆓振慴悚慄㆒。

【振懾】92シンセフ　ふるひおそれる。〔抱朴子、行品〕被㆓抑枉㆒而自誣㆑事、無㆑苦而振懾者、怯人也。〔謝靈運、述㆓祖德㆒詩〕萬邦咸振懾、橫流賴㆓君子㆒。〔注〕善曰、懾、懼也。

【振千】93シンセン　清、袁仁林(**10－34152**‥222)の字。

【振宣】94シンセン　ふるひのべて明かにする。〔柳宗元、與㆓邕州李域中丞㆒論㆓陸卓㆒啓〕振㆓宣幽光㆒。

【振贍】95シンセン　にぎはしすくふ。振救。振恤。賑贍。〔漢書、谷永傳〕振㆓贍困乏㆒。〔論衡、恢國〕轉穀振贍、民不㆓乏饑㆒。〔蜀志、許靖傳〕靖收恤親理、經紀振贍、出㆓於仁厚㆒。

【振蘇】96シンソ　蘇生して動きだすこと。〔淮南子、時則訓〕蟄蟲始振蘇。〔集解〕振動蘇生也。

【振宗】97シンソウ　明、汪鏜(**6－17154**‥98)の字。

【振粟】98シンゾク　窮民に五穀をにぎはす。賑粟に同じ。

【振替】99フリカヘ　㊀彼方のものを、此方のものとすること。㊁振替貯金の略。

〔振替貯金〕100フリカヘチョキン　爲替の一種で、正しくは郵便振替貯金といひ、貯金と金錢受拂との二種の目的を達する方法である。卽ち加入者の所有する口座に對する拂込、口座からの拂出、及び口座閒の振替の三法によつて、加入者同志、又は加入者と不加入者閒に債務を辨濟する方法である。

【振貸】101シンタイ　賑はし貸す。賑貸(**10－36785**‥18)に同じ。〔漢書、文帝紀〕其議㆕所㆔以振㆓貸之㆒。〔漢書、食貨志上〕振㆓貸窮乏㆒。

【振滯】102シンタイ　隱れ沈んで居る人物をすくふ。〔國語、晉語四〕救㆑乏振㆑滯。〔注〕振、拯也、拯㆓淹滯之士㆒。

【振滔】103シンタウ　動かしはびこらせる。〔淮南子、本經訓〕共工振㆓滔洪水㆒。

【振蕩】104シンタウ　㊀ふるひうごく。〔淮南子、原道訓〕靡濫振蕩、與㆓天地㆒鴻洞。〔王儉、褚淵碑文〕滄波振蕩。㊁度がすぎてほしいままなこと。〔後漢書、蔡邕傳〕狂淫振蕩、乃亂㆓其情㆒。

【振盪】105シンタウ　ふりうごかす。盪は動。振動。〔左思、吳都賦〕振㆓盪汪流㆒、雷㆓抃重淵㆒。〔注〕良曰、振盪、動也。

【振鐸】107シンタク　すずをふり鳴らす。教令の主となること。鐸は、古、教令を宣する時に振つた大鈴。〔周禮、夏官、大司馬〕司馬振㆑鐸、羣吏作㆑旗。〔注〕振㆑鐸以作㆑衆。〔淮南子、時則訓〕振㆑鐸以令㆓於兆民㆒。

【振旦】108シンタン　印度等に於て支那本部及び之に接する地方を指す語。支那といふはこれより來るとの說がある。〔玄應音義、四〕振旦或言㆓眞丹㆒、並非㆓正音㆒、應㆑言㆓支那㆒、此云㆓漢國㆒也。

【振張】109シンチヤウ　威力をふるひ張るさま。

【振狆】110シンチユウ　宋、王綱(**7－20823**‥144)の字。

【振女】111シンヂヨ　童女をいふ。侲女。〔史記、淮南王安傳〕以㆔令名男子、若振女、與㆓百工之事㆒、卽得㆑之矣。〔注〕集解曰、徐廣曰、西京賦曰、振子萬童、駰案、薛綜曰、振子、童男女。

【振除】112シンヂヨ　はらひのぞく。すてのぞく。振は棄の意。〔左氏、昭、十八〕祓㆓禳於四方㆒、振㆓除火災㆒。〔注〕振、弃也。

【振廷】113シンテイ　明、劉最(**2－2224**‥292)の字。

【振掉】114シンテウ　ふるひうごく。振動。〔淨住子、三界內苦門〕心驚氣迫、筋骨緩縱、口燥脣焦、四肢振掉、抽㆓拔五藏㆒、由㆑此夭㆑命。〔潘尼、鱉賦〕翩銜㆑釣以振掉、吁駭㆑人而可㆑惡。

【振剔】115シンテキ　はらひのける。〔福惠全書、庶政部、訪㆓拿蠹棍㆒〕不㆕大有㆔以振㆓剔之㆒、則奸惡無㆑所㆓儆戢㆒、而良懦愈致㆓欺淩㆒。

【振躡】116シンデフ　あげることとふむこと。〔徐陵、織婦詩〕振躡開㆓交縷㆒、停㆑梭續㆓斷絲㆒。

【振天】117シンテン　聲が天にふるひ響く。音聲又は名聲が甚だ盛大なこと。

〔振天府〕118シンテンフ　明治天皇の叡慮によつて宮城內に建造せられ、明治二十七八年戰役及び臺灣の役の戰利品を藏めた所。

【振怒】119シンド　ふるひ怒る。大いに怒る。震怒。〔北史、李彪傳〕沖又表曰、語理未㆑盡、彪便振怒。

【振董】120シントウ　かしはで。振動の㊀を見よ。

【振動】121シンドウ　㊀九拜の一。兩手を相擊つ拜禮。かしはで。〔周禮、春官、大祝〕辨㆓九𢷤㆒、云云、四曰振動。〔注〕鄭大夫云、動、讀爲㆑董、書亦或爲㆑董、振董、以㆓兩手㆒相擊也、云云、玄謂、振動、戰栗變動之拜。㊁ふるひうごく。ゆれる。又、ふるひうごかす。又、ふるひうごかすこと。振掉。振盪。〔左氏、襄、四〕戎狄事㆑晉、四鄰振動、諸侯威懷。〔戰國、燕策〕先王擧㆑國而委㆓將軍㆒、將軍爲㆑燕破㆑齊、報㆓先王之讎㆒、天下莫㆑不㆓振動㆒。〔莊子、山木〕振動悼慄。〔荀子、正論〕振動從服。〔史記、留侯世家〕天下振動。㊂物體が一定の路を上下前後に往復する運動。

【振德】122シントク　にぎはしめぐむ。德は惠施。〔孟子、滕文公上〕勞㆑之、來㆑之、匡㆑之、直㆑之、輔㆑之、翼㆑之、使㆔自㆓得之㆒、又從而振㆓德之㆒。〔注〕加㆓德惠㆒也。

【振南】123シンナン　清、魚翼(**12－45956**‥275)の字。

【振播】124シンパ　ふるひしく。〔梅堯臣、詩〕驚嗟豈無㆑意、振播還有㆑因。

【振暴】124′シンバク　振揚して暴露する。〔史記、張儀傳贊〕振㆓暴其短㆒、以扶㆓其說㆒。

【振發】125シンパツ　いかりふるふ。〔素問、氣交變大論〕其變振發。

【振撥】126シンパツ　そりかへる。〔寒山、詩〕欹斜有㆓蹇餅㆒、振撥無㆓簪笏㆒。

【振拔】127シンバツ　勵む。振ふ。ふるひぬく。〔漢書、敍傳上〕奮㆓翼鱗㆒、振㆓拔洿塗㆒、跨㆓騰風雲㆒。〔後漢書、黨錮、李膺傳論〕李膺振㆓拔汙險之中㆒。〔柳宗元、劍門銘〕振㆓拔根柢㆒。

【振萬】128シンバン　萬を舞はす。萬は文武二舞の總名。〔左氏、莊、二十八〕楚令尹子元、欲㆑蠱㆓文夫人㆒、爲㆓館於其宮側㆒、而振㆑萬焉。〔注〕振、動也、萬、舞也。〔會箋〕振、飛貌、猶㆑云㆑舞、振㆑萬者、蓋欲㆑使㆓夫人出而觀㆒㆑之也、詩毛傳以㆓干羽㆒爲㆓萬舞㆒、是萬者文武二舞之總名。〔宋史、樂志十三〕振㆑萬方明㆑德、疾徐咸可㆑觀。

【振飛】129シンピ　清、程佃(**8－25081**‥110)の字。

【振臂】130シンピ　臂をふるふ。發奮のさま。〔李陵、答㆓蘇武㆒書〕陵振㆑臂一呼、創病皆起。〔唐書、魏徵傳〕始魏公起㆓叛徒㆒、振㆑臂大呼、衆數十萬。

〔振臂一呼〕131シンピイツコ　臂を振つて一呼する。つとめて自ら奮起すること。〔李陵、答㆓蘇武㆒書〕振臂一呼、創病皆起。

【振美】132シンビ　美をふるふ。〔漢書、律歷志上〕振㆓美於辰㆒、已㆓盛於巳㆒、咢㆓布於午㆒。

【振筆】133シンピツ　勢よく筆をふるつて勢よく書く。〔廣川書跋〕張長史時振㆑筆大呼、以發㆓其鬱怒不平之氣㆒。

【振貧】134シンヒン　貧者をすくひにぎはす。振窮。賑貧。〔史記、越世家〕振㆑貧弔㆑死。〔漢書、食貨志下〕虛㆓郡國倉廩㆒、以振㆑貧。

【振夫】135シンプ　明、張紹登(**4－9812**‥1261)の字。

【振怖】136シンプ　ふるひおそれる。をののく。〔史記、刺客、荊軻傳〕燕王誠振㆓怖大王之威㆒。

【振武】137シンプ　武威を振ふ。〔國語、晉語六〕成而後振㆓武于外㆒。

〔振武軍〕138シンプグン　行政區劃の名。唐の乾元の初、朔方節度を分けて振武軍節度を置き、關內道に屬す。今、陝西省綏德以北及び綏遠南部の地。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、唐〕振武、治㆓單于都護府㆒、初、振武軍屬㆓朔方節度㆒、乾元初、分置㆓振武節度㆒、兼領㆓鎭北及麟勝二州㆒、尋復屬㆓朔方㆒、大歷末、又分㆓朔方㆒置、兼領㆓綏銀麟勝、及東中二受降城振武鎭北等州軍㆒、中和以後、屬㆓於河東㆒。

〔振武將軍〕139シンプシヤウグン　清代、武官の封典。〔淸會典事例、兵部、官制、舊設武職品級〕謹案、康熙雍正年閒、又有㆓靖寇・安遠・奉命・平逆・平寇・建武・討逆・寧遠・靖邊・定邊・綏遠・振武將軍等名㆒、均以㆓王貝勒貝子公、及都統親信大臣㆒兼充、品級俱從㆓其原職㆒。

【振舞】140フルマヒ　㊀しわざ。擧動。㊁もてなし。馳走。

【振撫】141（シンブ） 救ひなぐさめる。なでやすんずる。〔晉書、天文志上〕西二星、曰二陰德・陽德一、主二周急振撫一。

【振風】142（シンプウ） 疾風をいふ。震風(12－42300‥92)に同じ。〔陸機、贈二尚書郎顧彥先一詩〕玄雲拖二朱閣一、振風薄二綺疏一。〔江淹、詣二建平王一上書〕庶女告レ天、振風襲二於齊臺一。

【振伏】143（シンプク） ふるひをののいて伏すること。〔北史、崔浩傳〕百姓見レ之、望レ塵振伏。

【振幅】144（シンプク） 振動物體の靜止の位置より、運動の終端に至るまでの距離。

【振復】145（シンプク） 復興する。勢を奮ひ返す。〔晉書、祖逖傳〕逖以二社稷傾覆一、常懷二振復之志一。

【振拂】146（シンフツ） ふるひはらふ。〔湘山野錄〕取二一小策一振拂。

【振憤】147（シンプン） ふるひいきどほる。〔韓詩外傳、十〕振憤者、不レ可二勝數一。

【振奮】148（シンプン） ふるひ勇む。〔韋應物、廣陵行〕翕習英豪集、振奮士卒驍。

【振文】149（シンブン） 宋、徐鐸(4－10110‥212)の字。

【振平】150（シンペイ） 明、陰秉衡(11－41691‥361)の字。

【振兵】151（シンペイ） 兵威をさかんにすること。〔史記、五帝紀〕修レ德振レ兵。

【振米】152（シンベイ） 賑恤用の米。賑米に同じ。

【振袂】153（シンペイ） 袂をふるふ。〔儀禮、聘禮〕卒振レ袂、中攝レ之、進西鄕。

【振別】154（フウレベツ） 北海道千島の郡名。

【振甫】155（シンポ） 字號。❶宋、馮興宗(12－44579‥214)の字。❷清、楊慶麟(6－15112‥508)の字。

【振民】157（シンミン） ❶人民をすくふ。〔易、蠱〕象曰、山下有レ風蠱、君子以振レ民育レ德。〔注〕蠱者、有レ事而待レ能之時也、故君子以濟レ民養レ德也。〔陸機、漢高祖功臣頌〕拔レ奇夷レ難、邁レ德振レ民。❷宋、徐鐸(4－10110‥212)の字。

【振命】158（シンメイ） 人命をすくふ。〔漢書、游俠、郭解傳〕既已振二人之命一。

【振揚】159（シンヤウ） 盛にふるひあがる。ふるひあげる。〔漢書、王莽傳上〕盱レ衡厲レ色、振二揚武怒一。〔晉書、謝琰傳〕宜下振二揚仁風一、開中其自新之路上。

【振容】160（シンヨウ） 棺の飾り。青黃の繒の長さ一丈餘りのものを幡のやうにし、雉を畫き、池の下にかけて飾りとするもの。〔禮、喪大記〕飾レ棺、君龍帷、三池、振容、黼荒。〔疏〕振、動也、容、飾也、謂以二絞繒一爲レ之、長丈餘、如レ幡、畫二幡上一爲レ雉、縣二於池下一、爲二容飾一、車行則幡動、故曰二振容一。

【振踊】161（シンヨウ） ふるひをどる。〔潘岳、射雉賦〕意淰躍以振踊。

【振翼】162（シンヨク） つばさをふるふ。〔孔融、薦二禰衡一表〕振二翼雲漢一。〔魏志、管寧傳〕振二翼遐裔一、翻然來翔。

【振賚】163（シンライ） にぎははし賜ふ。〔北史、袁翻傳〕翻上表、請下爲二西軍死亡將士一擧レ哀、存而還者、并加中振賚上。

【振落】164（シンラク） ふるひおちる。〔張華、勵志詩〕涼風振落、熠燿宵流。

【振拉】165（シンラツ） ふるひくじく。〔素問、五常政大論〕其變振拉摧拔。〔注〕振、謂二振怒一、拉、謂二中折一。

【振亂】166（シンラン） 呂氏春秋、孟秋紀の篇名。

【振理】167（シンリ） すくひをさめる。〔楚辭、東方朔、七諫、初放〕悠悠蒼天兮、莫二我振理一。〔注〕振、救也。

【振慄】168（シンリツ） ふるひをののく。〔史記、司馬穰苴傳〕於レ是遂斬二莊賈一、以徇二三軍一、三軍之士皆振慄。

【振旅】169（シンリヨ） 兵をととのへて還ること。〔書、大禹謨〕禹拜二昌言一曰、兪、班レ師振レ旅。〔傳〕兵入曰二振旅一、言レ整レ衆。〔詩、小雅、采芑〕振旅闐闐。〔箋〕振、猶レ止也、旅、衆也、春秋傳曰、出曰二治兵一、入曰二振旅一、其禮一也。〔周禮、夏官、大司馬〕中春教二振旅一。〔注〕春習二振旅一、兵入收レ衆專二於農一。〔左氏、隱、五〕三年而治兵、入而振旅。〔注〕入曰二振旅一、治兵禮畢、整レ衆而還也。〔左氏、僖、二十八〕秋七月丙辰、振旅、愷以入二于晉一。〔公羊、莊、八〕出曰二祠兵一、入曰二振旅一、其禮一也。〔國語、吳語〕反レ行吾振旅焉。〔漢書、陳湯傳〕萬里振旅。〔司馬法、仁本〕諸侯春振旅。

【振廩】170（シンリン） 倉をひらいて米穀を出すこと。振はひらく。〔左氏、文、十六〕自レ廬以往、振レ廩同レ食。〔注〕振、發也、廩、倉也。

【振鱗】171（シンリン） 鱗を振ふ。〔史記、司馬相如傳〕揵レ鰭擢レ尾、振レ鱗奮レ翼。

【振鈴】172（シンレイ） [佛]諸尊を招き、又は喜びを表はすために、すずをふり鳴らすこと。〔法苑珠林〕振鈴告言、宣二示一切一。

【振厲】173（シンレイ） いきほひがはげしい。きびしく強い。又、勇み奮ふ。奮振。奮迅。〔高力士傳〕九月十九日、霜風振厲、朝見之時、皆有二寒色一。〔范鎭、大報レ天賦〕威振厲、氣勃鬱。

【振勵】174（シンレイ） 振厲に同じ。〔掾曹名臣錄〕安仁嚴飭、軍伍益自振勵、敵兵不二敢侵一レ境。

【振鷺】175（シンロ） ❶鷺が群り飛ぶのをいふ。轉じて、潔白の賢者をいふ。鷺は潔白で威儀の正しい鳥。〔詩、周頌、振鷺〕振鷺于飛、于二彼西雝一。〔傳〕振、羣飛貌、鷺、白鳥也。〔箋〕白鳥集二于西雝之澤一、言三所レ集得二其處一也、興者、喩下杞宋之君、有二絜白之德一、來助二祭於周之廟一、得中禮之宜上也、其至止亦有二此容一、言二威儀之善如レ鷺然一。〔集傳〕此二王之後、來助レ祭之詩、言鷺飛二于西雝之水一、而我客來助レ祭者、其容貌脩整、亦如二鷺之潔白一也。〔曹植、七啓〕捎二鷫鷞一拂二振鷺一。〔韓愈、燕喜亭記〕瀑曰二振鷺之瀑一。❷詩經、周頌、臣工之什の篇名。夏・殷二王の後の杞・宋の人が、周に來て其の祭を助けるを詠じたもの。〔詩、周頌、振鷺序〕振鷺、二王之後、來助レ祭也。❸清、程庭鷺の一名。❹大草公明の號。大草振鷺(3－5831‥86)を見よ。

【振鷺充レ庭】176（シンロテイニミツ） 潔白の士が朝廷に充滿すること。振鷺の❶を見よ。〔揚雄、劇秦美新〕振鷺之聲充レ庭、鴻鸞之黨漸レ階。〔注〕銑曰、振鷺鴻鸞、皆喩二賢人一也。〔後漢書、蔡邕傳〕鴻漸盈レ階、振鷺充レ庭。〔注〕詩曰、振振鷺、鷺于下、注云、鷺、白鳥也、喩三潔白之士羣二集君之朝一也。〔任昉、爲二蕭揚州一作薦レ士表〕白駒空レ谷、振鷺在レ庭。〔注〕翰曰、振、衆也、鷺、白鳥也、以喩二絜白之士一、在レ庭、謂レ在二王庭一。

【振腕】177（シンワン） 腕を振ふ。〔劇談錄〕振レ腕瞋レ目、詈無レ所レ憚。

【振假名】178（フリガナ） 漢字の側に記して、其の音又は其の訓を示す假名。傍訓。

【振雅堂】179（シンガダウ） 清、柯崇樸(6－14658‥48)の室名。

【振奇人】180（シンキジン） 言行のすぐれた人。〔文中子、天地〕或問二揚雄・張衡一、子曰、古之振奇人也、其思苦、其言艱。

【振綺堂】181（シンキダウ） 清、乾隆嘉慶年間、浙江省錢塘縣の汪憲の藏書堂。

【振時計】182（フリドケイ） 振子の振動によつて、針が廻るやうに作つた掛時計、又は置時計。

【振分髮】183（フリワケガミ） 古、八歲頃までの小兒が髮の末を肩に比べて切り、頂より左右にかき分けて垂れたもの。はなちがみ。

【捏】12094

[一]タウ　ヂヤウ　〔集韻〕除庚切　[庚]

[二]テイ　ヂヤウ　〔集韻〕馳貞切　[庚]

[一][二]❶えらぶ。〔廣雅、釋詁一〕捏、擇也。❷あげる。〔集韻〕捏、一曰、擧也。

【挱】12095

[一]サ　〔集韻〕桑何切　ㄙㄨㄛ suo¹　[歌]

[二]サ　シヤ　〔集韻〕師加切　[麻]

[一]❶もむ。さする。〔集韻〕挱、摩挱也。〔韓愈、石鼓歌〕誰復著レ手更摩挱。❷或は抄(5－11863)に作る。〔集韻〕挱、亦省。❸或は挲(5－12096)に作り、通じて獻(7－20783)・沙(6－17212)・莎(9－31040)に作る。〔集韻〕挱、或書作レ挲、通作二獻・沙一。〔禮、郊特牲〕汁獻。〔注〕獻、讀當レ爲レ莎、云云、摩莎泲レ之、出二其香汁一、因謂二之汁莎一。[二]開くさま。挓挱。〔集韻〕挱、挓挱、開皃。

【挲】12096

サ　[慣]シヤ　挱(5－12095)に同じ。〔字彙〕挲、同レ挱。

【挲婆】1 バシャ 娑婆（3－6294‥3）に同じ。挲は沙（6－17212）に同じく、娑（3－6294）に通ず。〔白居易、唐撫州景雲寺故律大德上弘和尚石塔碑銘〕挲婆男女由レ我得度者、萬五千七十二人。

【挱】12097 サ 抄（5－12095）の譌字。〔正字通〕挱、抄字之譌。

【挳】12098 カウ 摼（5－12650）に同じ。〔集韻〕摼、或作レ挳。

【挴】12099 バイ マイ 〔集韻〕母罪切 賄

❶**むさぼる**。〔方言、十三〕挴、貪也。〔楚辭、天問〕穆王巧挴、夫何周流。〔注〕挴、貪也。❷**はぢる**。〔方言、二〕挴、愧也、晉曰レ挴。〔集韻〕挴、慙也。

【⿰扌我】12100 ㈠ガ 〔集韻〕語可切 哿 ㈡ガ 〔集韻〕牛河切 歌

㈠**もむ**。〔集韻〕⿰扌我、搓也。

【挵】12101 ロウ ル 〔集韻〕盧貢切 送

もてあそぶ。弄（4－9596）に同じ。〔集韻〕弄、說文、玩也、或从レ手。

【挶】12102 キョク コク 〔集韻〕拘玉切 沃

小篆

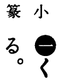
❶**ささへもつ**。**ほほづゑ**。〔說文〕挶、軟持也、从レ手局聲。〔段注〕鴟鴞傳曰、拮据、軟持也、謂下有レ所二操作一、曲二其肘一如レ軟而持上之也。❷**ふご**。**もつこ**。土をはこぶ具。梮（6－15018）に通ず。〔說文通訓定聲〕挶、叚借爲レ梮。〔左氏、襄、九〕陳二畚挶一、具二綆缶一。〔注〕挶、土轝。❸或は拘（5－11963）に作る。〔集韻〕挶、或作レ拘。

【挷】12103 ハウ 搒（5－12474）の俗字。〔正字通〕挷、俗搒字。

【挸】12104 ケン 〔集韻〕吉典切 銑

ぬぐふ。或は攋（5－13020）に作る。〔集韻〕挸、博雅、拭也、或作レ攋。

【挹】12105 イフ 〔集韻〕乙及切 ㄧˋ i^4 緝


小篆

❶**くむ**。或は揖（5－12351）に作る。〔說文〕挹、抒也、从レ手邑聲。〔集韻〕挹、或作レ揖。〔華嚴經音義、上〕凡以レ器斟二酌於水一、謂二之挹一。〔詩、小雅、大東〕維北有レ斗、不レ可三以挹二酒漿一。〔詩、大雅、洞酌〕洞酌二彼行潦一、挹レ彼注レ茲。〔荀子、宥坐〕弟子挹レ水而注レ之。〔注〕挹、酌也。❷**とる**。ひく。〔辭海〕挹、挹取也。〔郭璞、遊仙詩〕左挹二浮丘袖一、右拍二洪崖肩一。❸**おさへる**。しりぞく。謙退する。抑（5－11883）に通ず。〔說文通訓定聲〕挹、叚借爲レ抑。〔正字通〕挹、與レ抑通。〔荀子、宥坐〕此所謂挹而損レ之之道也。〔注〕挹、亦退也。〔朱浮、爲二幽州牧一與二彭寵一書〕俠遊謙讓、屢有二降挹之言一。〔注〕善曰、蒼頡篇曰、挹、損也。❹**こまぬく**。揖（5－12351）に通ず。〔正字通〕挹、與レ揖通。〔荀子、議兵〕拱挹指麾。〔集解〕王念孫曰、拱挹指麾、盧依二當國篇一、改レ挹爲レ揖、案、揖與レ挹通。❺**すすめる**。推重する。〔唐書、李頻傳〕大加二獎挹一。

【挹掬】1 イフキク 手ですくふ。又、くむ。〔蘇軾、焦千之求二惠山泉一詩〕豈如二泉上僧一、盥灑自挹掬。

【挹酌】2 イフシヤク くむこと。〔潘岳、密陵侯司空鄭袤誄〕所下以挹二酌洪流一、含中咀英芳上者、猶下旱苗之仰二膏雨一、湛露之晞中朝陽上也。

【挹水】3 イフスイ 水をくむ。〔戰國、齊策〕挹二水於河一、而取二火於燧一也。〔荀子、宥坐〕弟子挹レ水而注レ之。〔注〕挹、酌。

【挹前】4 クムサキ 姓氏。

【挹損】5 イフソン ❶おさへてへりくだる。損挹。抑損。〔荀子、宥坐〕此所謂挹而損レ之之道也。〔注〕挹、亦退也、挹而損レ之、猶レ言二損レ之又損一。〔漢書、杜鄴傳贊〕欽欲三挹二損鳳權一、而鄴附二會音商一。〔魏志、后妃、甄皇后傳、注〕后寵愈隆、而彌自挹損。❷穀數を減ずるのをいふ。〔管子、輕重乙〕皆案二囷窌一而不レ能二挹損一焉。〔纂詁〕挹損、謂レ減二穀數一。

【挹退】6 イフタイ へりくだる。〔傅亮、與二沈林子一書〕足下雖レ存二挹退一、豈得三獨爲二君子一耶。

【挹抐】7 イフヂフ 制に中るさま。又、手に執るさま。〔王褒、洞簫賦〕膠緻理比、挹抐擫擶。〔注〕善曰、挹抐擫擶、言レ中レ制也、翰曰、挹抐擪捻、手執之貌。

【挹注】8 イフチュウ ❶くみそそぐ。〔詩、大雅、洞酌〕挹二彼注一レ茲、可二以餴一レ饎。〔疏〕挹二彼大器之水一、注二之此小器之中一。〔陳傅良、哭二呂伯恭郎中一舟行寄二諸友一詩〕挹注隘二溟渤一、扶攜薄二穹昊一。❷ i^4 chu^4 金錢を融通する。

【挹彼】9 イフヒ かしこからくみとること。〔詩、大雅、洞酌〕挹レ彼注レ茲、可二以餴一レ饎。

【挹甫】10 イフホ 清、顏宗儀（12－43591‥172）の字。

【挹婁】11 イフロウ ❶國名。漢以前の肅愼。今の滿洲吉林省寧安縣の東北より混同江一帶に至るの地。〔晉書、東夷傳〕肅愼氏、一名挹婁、在二不咸山北一、云云、東濱二大海一、西接二寇漫汗國一、北極二弱水一、其土界廣袤數千里。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考〕挹婁、卽肅愼種、亦靺鞨之異名也、杜佑曰、國在二不咸山北、夫餘東北千餘里一、濱二大海一、南與二北沃沮一接、不レ知二其北所一レ極、廣袤數千里、人衆雖レ少而多二勇力一、處二山險一、善射、又其國東北有レ山出レ石、利二於鐵一、取爲レ砮、弓長四尺、矢用レ楛長尺八寸、所謂肅愼氏之楛矢石砮也。❷縣名。金、置く。滿洲遼寧省鐵嶺縣の南の懿路店。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、鐵嶺衞〕挹婁城、本挹婁地、遼志、漢樂浪郡、漢冥縣地、渤海置二興州一、領二盛吉蒜山鐵山三縣一、遼廢、尋復置二興州興中軍一、治二常安縣一、金州廢、大定二十九年、改爲二挹婁縣一、屬二瀋州一、元縣廢、今爲二懿路所一。

【挹婁貂】12 イフロウテウ 挹婁國から出る貂。〔魏志、東夷、挹婁傳〕出二赤玉好貂一、今所謂挹婁貂是也。

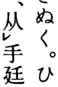
【挹奎樓】13 イフケイロウ 清、林雲銘（6－14551‥269）の室名。

【挹爽亭】14 イフサウテイ 清、徐夔（4－10110‥77）の室名。

【挹青軒】15 イフセイケン 清、華浣芳（9－31214‥487）の室名。

【挹清閣】16 イフセイカク 清、蔣季錫（9－31820‥131）の室名。

【挺】12106 ㈠テイ チヤウ 〔集韻〕待鼎切 ㄊㄧㄥˇ t'ing^3 迥 ㈡タウ チヤウ 〔集韻〕丈梗切 梗


小篆

㈠❶**ぬく**。ひきぬく。ひきだす。〔說文〕挺、拔也、从レ手廷聲。〔國語、吳語〕挺レ鈹搢レ鐸。〔注〕挺、拔也。〔戰國、魏策〕挺レ劍而起。〔漢書、師丹傳〕以挺二力田議一。〔注〕師古曰、挺、引拔也。❷**ぬける**。ぬけでる。〔史記、陳涉世家〕尉劍挺。〔注〕集解曰、挺、猶レ脫也。〔張衡、舞賦〕珠簪挺兮緇髮亂。❸**ぬきんでる**。特出する。すぐれる。〔晉書、宣帝紀論〕以二天挺之資一、應レ期受レ命。〔任昉、奏二彈曹景宗一文〕伏

惟聖武英挺。〔注〕向曰、挺、拔也。㊃そびえる。〔左思、蜀都賦〕結㆓根比景之陰㆒、列㆓挺衡山之陽㆒。〔孫綽、遊㆓天台山㆒賦〕台嶽之所㆓奇挺㆒、實神明之所㆓扶持㆒、云云、八桂森挺以淩㆑霜。㊄でる。だす。〔廣雅、釋詁一〕挺、出也。〔左思、蜀都賦〕旁挺㆓龍目㆒、側生㆓荔枝㆒。〔徐陵、與㆓王僧辯㆒書〕豐華將㆑興、特挺㆓應揚之佐㆒。〔漢中志〕異人並挺。㊅はえる。うむ。生ずる。〔呂覽、仲冬紀〕荔挺出。〔注〕挺、生出也。〔後漢書、楊賜傳〕華嶽所㆑挺。〔注〕挺、生也。㊆さしだす。つきだす。〔宋史、韓世忠傳〕挺㆑戈而前。㊇さきにする。さきになる。先登を切る。〔漢書、劉屈氂傳〕挺㆑身逃。〔說苑、談叢〕猿得㆑木而挺。㊈すぐ。なほい。梃(6-14827)に通ず。〔說文通訓定聲〕挺、叚借爲㆑梃。〔集韻〕挺、直也。〔周禮、考工記、弓人〕於㆓挺臂中㆒有㆑柎焉。〔注〕挺、直也。㊉もつ。まつすぐに持つ。〔集韻〕挺、一曰、直持也。〔康熙字典〕挺、又直持也。⑪**まつすぐな物品を數へるに用ひる接尾語**。脡(9-29518)に通ず。〔儀禮、鄉飲酒禮〕薦㆓脯五挺㆒。〔校勘記〕釋文云、挺、本亦作㆑脡、同。〔南史、沈攸之傳〕賜㆓攸之燭十挺㆒。〔韓愈、藍田縣丞廳壁記〕鉅竹千挺、儼立若㆓相持㆒。⑫**はしる**。〔李華、弔㆓古戰場㆒文〕獸挺亡㆑羣。⑬**うごかす**。〔呂覽、忠廉〕不㆑足㆔以挺㆓其心㆒矣。〔注〕挺、猶㆑動也。⑭**あげる**。ひきあげる。〔淮南子、俶眞訓〕撢掞挺挏。〔注〕挺挏、猶㆓上下㆒也。⑮**ゆるめる**。とく。緩(8-27667)に通ず。〔說文通訓定聲〕挺、叚借爲㆑緩。〔禮、月令〕挺㆓重囚㆒。〔注〕挺、猶㆑寬也。〔呂覽、仲夏紀〕挺㆓重囚㆒。〔注〕挺、緩也。〔後漢書、臧宮傳〕宜㆓小挺緩令㆑得㆓逃亡㆒。〔注〕挺、解也。⑯**とく**。解放する。〔後漢書、陳燮傳〕賊得㆓寬挺㆒。〔注〕挺、解也。⑰**草の名**。莛(9-31060)に通ず。〔說文通訓定聲〕挺、叚借爲㆑莛、禮記月令、荔挺出、按、荔之用在㆑莖、故名㆓荔莛㆒。⑱**かずとり**。算竹。筳(8-26078)に通ず。〔說文通訓定聲〕挺、叚借爲㆑筳。〔後漢書、方術傳序〕挺專。〔注〕挺專、折㆑竹卜也、楚辭曰、索㆔瓊茅以㆓筳專㆒。⑲**縣名**。〔集韻〕挺、一曰、縣名、在㆓膠東㆒。⑳[現]㋑固くなる。こはばる。㋺甚だ。🈔**なほい**。**すぐ**。〔集韻〕挺、直也。

[名乘] ナホ。タダ。モチ。

[參考] 梃(6-14827)・挻(5-12107)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕挺・梃、二字俱汀上聲、挺直也、超拔也、从㆑手。梃、杖也、从㆑木。〔康熙字典、辨似、二字相似〕挺、丁上聲、直也。挻、音羶、取也。

【挺荷】1 テイカ 高くひいでた蓮。〔杜陽雜編〕池中有㆓挺荷㆒。

【挺解】2 テイカイ 動きとける。崩れとける。〔枚乘、七發〕雖㆑有㆓金石之堅㆒、猶將㆓銷鑠而挺解㆒也。〔注〕銑曰、挺、動也。

【挺硬】3 tʻing^3 ying^4 こはばつて固い。

【挺確】4 テイカク 極めてたしかなこと。〔唐書、張薦傳〕入對挺確、德宗納㆑之。

【挺僵】5 tʻing^3 chiang^1 烈しく。

【挺胸】6 tʻing^3 hsiung^1 胸を張り擴げて眞直ぐになる。

『挺胸凸肚』7 tʻing^3 hsiung^1 tieh^2 tu^4 胸と腹をつき出す。傲慢な態度をする。

【挺銀】8 チヤウギン 丁銀(1-2‥44)に同じ。

【挺冠】9 テイクワン ぬきんですぐれる。〔全唐詩話、二、錢起〕高仲武云、詩格清奇、理致清淡、粤從㆓登第㆒、挺㆓冠詞林㆒。

【挺緩】10 テイクワン ときゆるめる。ゆるめる。挺は解、又、寬。〔後漢書、臧宮傳〕宜㆓小挺緩令㆑得㆓逃亡㆒。〔注〕挺、解也。

【挺刑】11 tʻing^3 hsing^2 拷問に屈しない。

【挺傑】12 テイケツ 秀ですぐれる。又、其の人。挺秀。挺拔。挺特。〔晉書、涼武昭王李暠傳〕大兄英姿挺傑、有㆓雄霸之風㆒。

【挺劍】13 テイケン 劍をぬく。〔戰國、魏策〕唐且曰、云云、若士必怒、伏㆑屍二人、流㆑血五步、天下縞素、今日是也、挺㆑劍而起。〔正解〕挺、拔也。

【挺縣】14 テイケン 縣名。漢、置く。故城は山東省萊陽縣の南。〔漢書、地理志下〕膠東國、縣八、挺。〔讀史方輿紀要、山東、登州府、萊陽縣〕挺城、縣南七里、漢置㆓挺縣㆒、屬㆓膠東國㆒、後漢屬㆓北海國㆒、晉屬㆓長廣郡㆒、劉宋及後魏因㆑之、後齊縣廢。

【挺叉】15 テイサ やすをぬく。〔潘岳、西征賦〕投㆑罔垂㆑餌、出入挺㆑叉。〔注〕挺、拔也、叉、取㆑魚叉也。

【挺坐】16 tʻing^3 tsuo^4 眞直に腰掛ける。

【挺齋】17 テイサイ 元、周德清(2-3441‥811)の字。

【挺爭】18 テイサウ 身をぬきんでてあらそふ。我さきにと爭ふ。〔徐陵、與㆓齊尙書僕射楊遵彥㆒書〕昔魏氏將㆑亡、羣凶挺爭。

【挺槍】19 テイサウ やりを突き出す。〔唐書、秦瓊傳〕躍㆑馬挺㆑槍、刺㆓於萬衆中㆒。

【挺之】20 テイシ 宋、李之才(6-14459‥1296)の字。

【挺秀】21 テイシウ ぬきんですぐれる。特秀。〔晉書、王承傳論〕英姿挺秀、籍㆓甚一時㆒。

【挺出】22 テイシユツ ぬき出る。秀でる。すぐれる。傑出。〔蜀志、呂凱傳〕英才挺出。〔杜甫、奉㆓贈韋左丞丈二十二韻詩㆒〕自謂頗挺出、立登㆓要路津㆒。

【挺舒】23 テイジヨ ぬきんでてのびる。〔福惠全書、教養部、植桑榆〕茂盛者、枝幹挺舒。

【挺心】24 テイシン 心を動かす。〔呂覽、忠廉〕不㆑足㆔以挺㆓其心㆒。

【挺臣】25 テイシン 宋、宇文紹節(3-7067‥84)の字。

【挺身】26 テイシン ㊀身を引いて去る。僅に身を以て免れる。〔漢書、五行志中之上〕挺㆑身、獨與㆓小人㆒晨夜相隨。〔注〕師古曰、挺、引也。〔漢書、劉屈氂傳〕挺㆑身逃、亡㆓其印綬㆒。〔通俗編、身體、挺身〕按、世俗以㆓挺身㆒爲㆓勇往之辭㆒、據㆓諸文㆒、乃適相反、惟三國志注、龐娥親挺㆑身奮㆑手、拔㆓李壽刀㆒、有㆓勇往象㆒、然其勇在㆓奮㆑手拔㆑刀而挺㆑身、仍只作㆓引㆑身解㆒、蓋引㆑身而進、引㆑身而退、同一引也。〔注〕挺、引也。㊁身をぬきんでる。奮つて前に出る。奮起する。衆に先だつて奮然と國難に當るにいふ。〔魏志、龐淯傳、注〕皇甫謐列女傳曰、云云、壽護㆑刀瞋㆑目大呼、跳梁而起、娥親迺挺㆑身奮㆑手、左抵㆓其額㆒、右椿㆓其喉㆒、反覆盤旋、應㆑手而倒、遂拔㆓其刀㆒、以截㆓壽頭㆒。〔蜀志、郤正傳〕挺㆑身取㆑命。〔蘇軾、留侯論〕拔㆑劍而起、挺㆑身而鬭。〔梅田雲濱、訣別詩〕妻臥㆓病床㆒兒泣㆑飢、挺㆑身直欲㆑當㆓戎夷㆒、今朝死別與㆓生別㆒、唯有㆓皇天后土知㆒。

【挺進】27 テイシン 單身、衆にぬきいでて進む。

『挺進隊』28 テイシンタイ 特殊任務を帶び、遠く本隊からぬき出でて前進する部隊。

【挺刃】29 テイジン やいばをぬく。〔孔子家語、致思〕挺㆑刃交㆑兵。

【挺穟】30 テイスイ 高く伸びた草の莖。〔潘岳、射雉賦〕瞻㆓挺穟之傾掉㆒、意淰躍以振踊。〔注〕翰曰、挺穟、草莖也。

【挺生】31 テイセイ ㊀生ずる。ぬきんでる。又、傑出した人。〔後漢書、西域傳論〕靈聖之所㆓降集㆒、賢懿之所㆓挺生㆒。〔左思、蜀都賦〕王褒暐曄而秀發、揚雄含㆑章而挺生。〔劉峻、辨命論〕聞㆓孔墨之挺生㆒、謂㆔英睿擅㆓奇響㆒。〔注〕銑曰、以㆔孔子・墨翟有㆓道德挺生㆒、謂㆘其英智自擅㆓其聲㆒、亦非㆗千年五百之運命㆖也。㊁字號。㋑清、周拔(2-3441‥421)の號。㋺清、駱鍾麟(12-44734‥26)の字。

【挺節】32 テイセツ 節操を堅持する。〔唐書、文藝上、杜甫傳論〕數嘗㆓寇亂㆒、挺㆑節無㆑所㆑汙。

【挺專】33 テイセン 占筮の一。竹を折つてするうらなひ。專筳。筳篿。〔後漢書、方術傳序〕日者挺專・須臾・孤虛之術。〔注〕挺專、折㆑竹卜也。

【挺戰】34 テイセン 眞先になつてたたかふ。〔南史、宗越傳〕單身挺戰、衆莫㆓能當㆒。

【挺前】35 テイゼン 挺進(27)に同じ。

【挺然】36 テイゼン ぬきでるさま。なみなみからかけ離れるさま。すぐれ秀でるさま。〔蘇洵、養才〕必挺然出㆓於衆人之上㆒。

〔挺然不羣〕37（テイゼンフグン） 抜き出て衆人の中にはゐない。一羣の人々から遙に抜き出てすぐれたこと。〔晉書、劉毅傳〕毅方正亮直、挺然不㆑羣。

【挺撞】38 t'ing³ chuang⁴ 言葉が不遜なこと。又、衝突する。〔長生殿、權閧〕出言挺撞、好生可恨。

【挺撻】39 t'ing³ t'a⁴ 拷問に屈しない。挺刑(1)に同じ。

【挺直】40（テイチヨク） 眞直にぬきでる。〔班固、丞相安國侯王陵銘〕明明丞相、天賦挺直。〔隋書、禮儀志七〕五經異義曰、天子笏曰㆑珽、挺直無㆑所㆑屈也。

【挺挺】41（テイテイ） 正しいさま。まつすぐなさま。〔左氏、襄、五〕詩曰、周道挺挺、我心扃扃。〔注〕挺挺、正直也。〔唐書、魏謩傳贊〕謩之議論、挺挺有㆓祖風烈㆒。

【挺挏】42（テイトウ） かきまはす。ふりうごかす。〔淮南子、俶眞訓〕撢㆓掞挺㆔挏世之風俗㆒。〔注〕挺挏、猶㆓上下㆒也、以求㆓便利㆒也。〔顏氏家訓、勉學〕捶挏乃成、二字竝從㆑手、捶挏、謂㆕撞㆓擣挺㆔挏之㆒。

【挺特】43（テイトク） 特に衆にぬきんでる。〔後漢書、方術上、謝夷吾傳〕英資挺特、奇偉秀出。〔唐書、忠義上、吳保安傳〕氣挺特不㆑俗。

〔挺特奮發〕44（テイトクフンパツ） 特に衆に先んじてふるひ起つ。〔近思錄、治體〕不㆑能㆔挺特奮發以革㆓其弊㆒也。

【挺拔】45（テイバツ） ぬきんでる。挺秀。〔木華、海賦〕狀如㆓天輪膠戾而激轉㆒、又似㆓地軸挺拔而爭迴㆒。〔杜甫、奉㆓贈太常張卿垍㆒詩〕友于皆挺拔、公望各端倪。〔宋史、沈遼傳〕幼挺拔不㆑羣。

【挺鈹】46（テイヒ） 挺劍(13)に同じ。鈹は一種の劍。〔國語、吳語〕被㆑甲帶㆑劍、挺㆑鈹搢㆑鐸。〔注〕挺、拔也。

【挺立】47（テイリツ） ぬきんでたつ。衆に秀れること。挺秀。挺特。〔南史、徐孝嗣傳〕幼而挺立。

【挻】12107

㊀セン 〔集韻〕尸連切 先
㊁テン 〔集韻〕抽延切 先
㊂エン 〔集韻〕夷然切 先

小篆

㊀❶ながくする。のばす。〔說文〕挻、長也、从㆓手延㆒、延亦聲。❷やはらげる。うちこねる。〔老子、十一〕挻㆑埴以爲㆑器。〔釋文〕挻、河上云、和也、云云、聲類云、柔也。❸ゆるくする。ゆるめる。綖(8-27965)に通ず。〔說文通訓定聲〕挻、叚借爲㆑綖。〔廣雅、釋詁二〕挻、緩也。❹ひく。〔增韻〕挻、引也。〔唐書、盧鈞傳〕相挻爲㆑亂。❺とる。うばふ。簒(8-26330)に通ず。〔說文通訓定聲〕挻、轉注爲㆑簒。〔方言、一〕攓・摭・挻、取也、自㆑關而西、秦晉之閒、凡取㆑物而逆、謂㆓之簒㆒、楚部或謂㆓之挻㆒。〔漢書、賈誼傳〕主上有㆑敗、則因而挻㆑之矣。〔王先謙補注〕沈欽韓曰、廣雅、挻、取也。㊁❶ながくする。㊀の❶に同じ。〔集韻〕挻、博雅、長也。❷とる。㊀の❺に同じ。〔集韻〕挻、一曰、逆取㆑物。㊂❶とる。㊀の❺に同じ。〔集韻〕挻、取也。❷あまねし。〔集韻〕挻、周也。

解字 會意形聲。手と延との合字。延は亦聲で、形聲。手で引きのばす意。延長の意として種々に轉義する。

参考 挺(**5-12106**)・梃(**6-14827**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕挺・梃二字俱汀上聲、挺、直也、超拔也、从㆑手。梃、杖也、从㆑木。〔康熙字典、辨似、二字相似〕挺、丁上聲、直也。挻、音羶、取也。

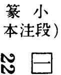
【挻埴】1（センシヨク） 粘土をのばす。粘土をうつ。〔老子、十一〕挻㆑埴以爲㆑器。〔荀子、性惡〕陶人埏㆑埴而爲㆑器。〔注〕埏、擊也。

【括】12108

ホウ 掊(**5-12244**)の譌字。〔正字通〕括、掊字之譌。

【挼】12109

㊀ダ ナ 〔集韻〕奴禾切 ㄋㄨㄛˊ nuo² ㄖㄨㄛˊ juo² 歌
㊁ダイ ナイ 〔集韻〕奴回切 灰
㊂ズイ ニ 〔集韻〕儒隹切 支
㊃ダ ナ 〔集韻〕奴臥切 箇
㊄キ 〔集韻〕翾規切 支
㊅スイ 〔集韻〕宣隹切 支
㊆キ 〔集韻〕呼恚切 寘
㊇スイ 〔集韻〕思累切 寘
㊈サイ スイ 〔集韻〕蘇回切 灰
㊉ラ 〔集韻〕盧臥切 箇


小篆（段注本）

㊀㊁㊂❶おしおとす。捼(**5-12223**)に同じ。〔說文〕挼、摧也、从㆑手妥聲、一曰、兩手相切摩也。〔段注〕摧、各本作㆑推、今依㆓玉篇・韻會・文選注・云云㆒正、摧者擠也、云云、各本作㆓委聲㆒、今正。〔集韻〕捼、或作㆑挼。❷おさへる。くじく。〔馬融、長笛賦〕挼拏捘搣。〔注〕善曰、說文曰、挼、摧也。㊃おす。㊀に同じ。〔集韻〕挼、推也。㊄㊅**食物を祭ること**。**挼祭**。**又**、**ちぬること**。隋(**11-41751**)・捼(**5-12223**)に同じ。挼祭(3)を見よ。〔集韻〕隋、祭㆑食也、一曰、釁薦㆑血、或作㆑捼。〔集韻〕挼、祭㆑食也、或作㆑捼。㊆㊇**食物を祭ること**。隋(**11-41751**)に同じ。挼祭(3)を見よ。〔集韻〕隋、尸祭㆓黍稷肝背㆒也、或作㆑挼。㊈❶うつ。〔集韻〕挼、擊也。❷おす。㊀に同じ。〔集韻〕挼、推也。㊉をさめる。捰(**5-12206**)に同じ。〔集韻〕捰、理也、或作㆑挼。

参考 說文繫傳本等は捼(**5-12223**)に作る。今、段注本の挼に改めるをも併せ採り、姑くこれを兩存する。

【挼挲】1（ダサ） こする。もむ。摩挲。挼搓。〔楊萬里、凍蠅詩〕隔㆑窗偶見負暄蠅、雙脚挼挲弄㆓曉晴㆒。

【挼搓】2（ダサ） こする。もむ。挼挲。〔演繁露〕挼者、以㆑手捏㆓捺病處㆒也、摩者、挼㆓搓之㆒也。

【挼祭】3（キサイ） 尸が、神餘の食物を食べる前に、其の食物を祭る祭。墮祭(**3-5481**‥8)・隋祭(**11-41751**‥9)・綏祭(**8-27501**‥19)に同じ。〔儀禮、特牲饋食禮〕祝命挼祭。〔注〕挼祭、祭㆓神食㆒也、士虞禮古文曰、祝命㆓佐食㆒墮祭、周禮曰、既祭則藏㆓其墮㆒、墮與㆑挼讀同耳、今文改㆑挼皆爲㆑綏。〔胡培翬正義〕禮經釋例云、凡尸未㆑食前之祭、謂㆓之墮祭㆒、又謂㆓之挼祭㆒、云云、云㆘挼祭祭㆓神食㆒也㆖者、鄉者設㆑饌厭㆓飫神㆒、今尸將㆑食㆓神餘㆒、故祭㆑之、鄭注㆓少牢㆒云、將㆑食㆓神餘㆒、尊㆑之而祭㆑之、是也。

【挼穗】4（ズイスイ） 稻穗をもむ。穗を兩手でもんで穀粒を取ること。〔唐書、劉晏傳〕甸農挼㆑穗以輸。〔劉子翬、諭㆑俗詩〕稻畦裛連㆑顚、挼㆑穗給㆓朝飫㆒。

【挼拏】5（ダイダ） おさへつかむ。〔馬融、長笛賦〕挼拏捘搣、遞相乘邅。〔注〕善曰、說文曰、挼、摧也、奴迴切、蒼頡篇曰、拏、捽也、引也、奴家切。

【挼攋】6（ダラン） 字號。❶遼、奚回离保(**3-5930**‥61)の字。❷遼、蕭奪剌(**9-32012**‥471)の字。❸遼、蕭蒲離不(**9-32012**‥559)の字。

【拗】12110

ケフ 抾(**5-11931**)に同じ。〔集韻〕抾、或作㆑拗。

【挽】12111

㊀バン マン 〔集韻〕武遠切 ㄨㄢˇ wan³ 阮
㊁ベン メン 〔集韻〕美辨切 銑

㊀❶ひく。輓(**10-38337**)に同じ。〔集韻〕輓、說文、引㆑之也、或从㆑手。〔小爾雅、廣詁〕挽、引也。〔一切經音義、十四〕挽、古文

作レ輓、同。〔禮、王制、五十不レ從二力政一、疏〕力政、挽引築作之事。〔杜甫、前出塞詩〕挽レ弓當レ挽レ強。❷［現］張る。㈡ひく。㈠に同じ。〔集韻〕挽、引也。［邦］ひく。㋑鋸で材をきり割く。㋺ろくろや鉋で器物を造る。

【挽引】1 バンイン ひく。重い物などをひくこと。〔禮、王制、五十不レ從二力政一、疏〕力政、挽引築作之事。

【挽歌】2 バンカ ❶葬式のときに柩を載せた車を引く者が謠ふ歌。葬を送る歌。もと齊の田横の門人の薤露・蒿里二章に起る。一說に、漢の武帝の役人が勞苦して歌聲の哀切であつたのに始まる。又、一說に、殯を啓いて將に窆せんとする時の歌に起る。今、其の詞は傳はらない。輓歌。〔古今注、音樂〕薤露・蒿里、並喪歌也、云云、至二孝武時一、李延年乃分爲二二曲一、薤露送二王公貴人一、蒿里送二士大夫庶人一、使二挽レ柩者歌一レ之、世呼爲二挽歌一。〔世說新語、任誕〕張驎酒後挽歌甚悽苦、桓車騎曰、卿非二田橫門人一、何乃頓爾至致。〔注〕譙子法訓云、有レ喪而歌者、云云、蓋高帝召二齊田橫一、至二于尸鄉亭一、自刎奉レ首、從者挽至二於宮一、不二敢哭一而不レ勝レ哀、故爲レ歌以寄二哀音一云云、按、莊子曰、紼謳所レ生、必於二斥苦一、司馬彪注曰、云云、引レ紼所三以有二謳歌一者、爲三人有二用レ力不一レ齊、故促二急之一也。〔北史、盧思道傳〕文宣帝崩、當朝文士、各作二挽歌十首一。〔通典、禮、凶、喪制、挽歌〕魯哀公十一年、吳子伐レ齊、將レ戰、齊將公孫夏、命二其徒一歌二虞殯一、漢高帝時、齊王田橫自殺、其故吏不二敢哭泣一、但隨レ柩敍レ哀、而後代相承以爲二挽歌一、蓋因二於古一也、晉成帝咸康七年、有司聞奏、依レ舊選二公卿以下六品子弟六十人一爲二挽郎一、詔又停レ之、摯虞云、漢魏故事、大喪及大臣之喪、執レ紼者挽歌、新禮以爲、挽歌出二於漢武帝役人歌一、勞聲辭哀切、遂以爲二送レ終之禮一、雖二音典摧愴一、非二經典所一レ制、不レ宜二以レ歌爲一レ名、按、挽歌、傳稱二君子作一レ歌、惟以告レ哀、以レ歌爲レ名、亦無レ所レ嫌、宜下定二新禮一如上レ舊。〔太平御覽、禮儀、挽歌〕纂文曰、薤露、今人挽歌。〔初學記、禮部下、挽歌〕干寶搜神記曰、挽歌者、喪家之樂、執レ紼者相和之聲也、挽歌詞有二薤露・蒿里二章一、出二田橫門人一、橫自殺、門人傷レ之、悲歌、言、人如二薤上露一、易二晞滅一也、亦謂、人死精魂歸二於蒿里一、故有二二章一、至二李延年一、乃分爲二二曲一、薤露送二王公貴人一、蒿里送二士大夫庶人一、使二挽者歌一レ之。〔事物紀原、吉凶典制部、挽歌〕譙周法訓曰、挽歌起レ自二田橫一、通典曰、漢高帝時、齊王田橫自殺、故吏不二敢哭泣一、但隨レ柩敍レ哀、後代相承以爲二挽歌一、按、漢初橫死、門人爲二薤露・蒿里之歌一、蓋從者以寄レ哀耳、武帝時、李延年分爲レ二、薤露送二王公貴人一、蒿里送二大夫庶士一、蓋二歌之起、始レ自レ橫也、摯虞新禮議曰、挽歌出二於漢武帝一、役人勞苦、歌聲哀切、遂以送レ終、非二古制一者、誤矣、左傳哀公十一年、會レ吳伐レ齊、將レ戰、公孫夏命二其徒一歌二虞殯一、杜預注云、送レ葬歌曲、哀レ死也、孔穎達疏曰、虞殯謂二啓レ殯將レ虞之歌一、今謂二之挽歌一、莊子曰、紼謳於レ所レ生、必於二斥苦一、司馬彪注曰、紼、引レ柩索、謳、挽歌、斥、疏緩、苦、急促、言引レ紼謳者、爲用二人力一、以二挽レ柩者所一レ歌、故曰二挽歌一、馮鑑謂、起二於虞殯一也、然則其周人之制乎。〔書言故事、祭奠類〕挽歌、是挽レ柩者歌。❷死者を哀悼する詩歌。

【挽柩】3 バンキウ ひつぎを曳く。挽歌を見よ。〔金史、耶律安禮傳〕天眷初、從二元帥於山西一、母喪不レ克二歸葬一、主帥憐レ之、賻禮甚厚、安禮冒二大暑一、挽レ柩行千餘里、哀毀骨立、行路嗟歎。

【挽救】4 wan^3 chiu^4 救つて挽回する。

【挽強】5 バンキヤウ 強い弓を引く。〔五代史、晉臣二十九、景延廣傳〕父建善レ射、嘗教二延廣一曰、射不レ入レ鐵、不レ如レ不レ發、由レ是延廣以二挽強一見レ稱。〔老學庵筆記、五〕姚福進者、兕麟之祖也、德順軍人、以レ挽レ強名二於秦隴閒一、至レ今西人謂二其族一爲二姚硬弓家一。

【挽回】6 バンクワイ もとにひきもどす。回復。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕輕報則事難二挽回一。

【挽髻】7 バンケイ 髻を結ぶ。〔女紅餘志〕挽レ髻別無二首飾一。

【挽牽】8 バンケン ひく。ひつぱる。〔唐書、逆臣上、安祿山傳〕晚益肥、腹緩及レ膝、奮二兩肩一若二挽牽者一、乃能行。

【挽士】9 バンシ 柩をひく人。挽詞を見よ。

【挽詞】10 バンシ 挽歌(2)に同じ。〔唐書、十一宗諸子、承天皇帝倓傳〕(李)泌爲二挽詞二解一、追二述倓志一、命二挽士一唱。

【挽詩】11 バンシ 死者を哀悼する詩。挽歌。〔書言字考節用集、八、言辭門〕挽詩、又謂二之衷些一、蓋据二楚辭宋玉賦一。

【挽修】12 バンシウ 堤防に危險を生じたとき大急ぎで修理して挽回を圖ること。〔六部成語、工部、挽修、注解〕河工將レ出二危險一、赶緊修理、以圖二挽回一也。

【挽袖】13 バンシウ ❶袖をひく。〔蘇軾、送三周朝議守二漢州一詩〕召還當レ有レ詔、挽レ袖謝二隣里一。❷wan^3 hsiu^4 女の衣の袖の端に布を繼ぎ足して折り返したもの。

【挽車】14 バンシヤ 輓車(10－38337・・9)に同じ。

【挽上】15 バンジヤウ ひきあげる。〔齊藤拙堂、下二岐蘇川一記〕視二上レ流船併レ力挽上者一、難易懸絕。

【挽正】16 バンセイ ひいてただす。〔福惠全書、教養部、生童課試〕一以挽二正士風一。

【挽扶】17 wan^3 fu^2 扶助する。たすける。

【挽滿】18 バンマン 強い弓を引く。挽強。〔後漢書、梁冀傳〕性嗜レ酒、能挽レ滿彈レ棊。〔注〕挽レ滿、猶レ引レ強也。

【挽郎】19 バンラウ 車をひく人。車をひく係。〔南史、何求傳〕求、元嘉末、爲二文帝挽郎一。

【挽留】20 wan^3 liu^2 引き留める。

【挽摟】21 バンル ひく。摟も、ひく意。〔蘇軾、壬寅二月有レ詔云云以記下凡所二經歷一者上寄二子由一詩〕入レ谷驚二蒙密一、登レ坡費二挽摟一。

【挽裂】22 バンレツ ひきさく。〔莊子、天運〕彼必齕齧挽裂、盡去而後慊。

【挽輦】23 バンレン 輦をひく。輓輦。〔遼史、馬得臣傳〕唐太宗侍二太上皇一宴罷則挽レ輦至二內殿一。

【挽舟卒】24 バンシウソツ 舟を挽く人夫。〔稱謂錄、船、挽舟卒〕宋史食貨志、江汴之舟、混轉無レ辨、挽舟卒有二終身不レ還レ家者一。

【⿰扌何】12112 カ 荷(9－31000)に同じ。〔集韻〕荷、或从レ手。

【⿰扌身】12113 カウ キヤウ 〔集韻〕丘耕切 ［庚］

❶**琴を置く音**。或は揁(**5－12316**)に作り、通じて鏗(**11－40801**)に作る。〔集韻〕⿰扌身、琴聲、論語、⿰扌身爾捨レ琴而作、或作レ揁、通作レ鏗。❷**ひきのばす**。〔同文擧要〕⿰扌身、引申也。

【⿰扌秃】12114 トク 〔集韻〕他谷切 ［屋］

杖でさしめす。〔集韻〕⿰扌秃、杖指也。

【⿰扌丮】12115 ㈠テフ 〔集韻〕的協切 ［葉］ ㈡デフ ネフ 〔集韻〕昵輒切 ［葉］

小篆

㈠㈡❶**つまむ**。〔說文〕⿰扌丮、拈也、从レ手丮聲。❷**固く持つ**。〔六書故〕⿰扌丮者、攝レ之固也。

【⿰扌⿱大廾】12116 ㈠ハン ホン 〔集韻〕孚袁切 ［元］ ㈡ハン 〔集韻〕鋪官切 ［寒］

㈠**とぶさま**。翻(**9－28814**)に同じ。〔集韻〕翻、博雅、翻翻、飛也、或从レ飛、亦作レ⿰扌⿱大廾。㈡**すてる**。拌(**5－11951**)の俗字。〔集韻〕拌、方言、楚人凡揮二棄物一謂二之拌一、俗作レ⿰扌⿱大廾、非レ是。〔字彙〕⿰扌⿱大廾、俗拌字。〔歷代小小史、高齋漫錄〕能自⿰扌⿱大廾レ命者、能殺レ人也。

【⿰扌𠬶】12117 シン 〔集韻〕子鴆切 ［沁］

うつ。或は⿰𠬶攴(**5－13271**)に作る。〔集韻〕

挰、擊也、或从レ攴。

【挾】12118

㊀ケフ ゲフ 〔集韻〕檄頰切 ㄐㄧㄚ chia¹·² ㄒㄧㄝ hsieh² 葉。
㊁セフ 〔集韻〕卽協切 葉。
㊂サフ セフ 〔集韻〕子洽切 洽。
㊃サフ 〔集韻〕作荅切 合。
㊄カフ ケフ 〔集韻〕訖洽切 洽。

小篆

㊀❶はさむ。㋑わきにはさむ。〔說文〕挾、俾持也、从レ手夾聲。〔釋名、釋姿容〕挾、夾也、在レ傍也。〔國語、齊語〕挾二其槍刈耨鎛一。〔注〕在レ掖曰レ挾。㋺指の間にはさむ。〔儀禮、鄕射禮〕兼挾二乘矢一。〔釋文〕挾、劉音協。㋩はさみとる。物と物との間にはさみおさへる。〔五代史、盧文紀傳〕以レ笏挾レ之、首得二文紀一。㋥おびる。〔王粲、登樓賦〕挾二清漳之通浦一兮。〔注〕善曰、挾、猶レ帶也。㋭かかへる。身につける。〔左氏、宣、十二〕三軍之士、皆如レ挾レ纊。㋬擁する。味方にする。〔蜀志、諸葛亮傳〕挾二天子一以令二諸侯一。㋣もつ。〔廣韻〕挾、持也。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕懷二芬香一而挾レ蕙。〔注〕挾、持也。〔楚辭、劉向、九歎、愍命〕挾二人箏一而彈レ緯。〔注〕挾、持也。㋠中にする。〔荀子、正論〕天子出、諸侯持レ輪挾レ輿。〔注〕在二輿左右一。㋷あふ。〔國語、晉語一〕兆挾以銜レ骨。〔注〕挾、猶レ會也。㋦藏する。かくす。〔爾雅、釋言〕挾、藏也。〔疏〕謂三隱二藏物一也、秦有二挾書之律一。〔廣韻〕挾、藏也。〔漢書、惠帝紀〕除二挾書律一。〔注〕應劭曰、挾、藏也。㋸おもふ。胸に持つ。〔廣韻〕挾、懷也。〔蜀志、郤正傳〕或挾レ邪以干レ榮。㋾たのむ。おごる。〔孟子、萬章下〕不レ挾レ長、不レ挾レ貴。〔集注〕挾者、兼有而恃レ之之稱。❷はし。物をはさみとる具。〔管子、弟子職〕右執二挾匕一。〔注〕挾、猶レ箸也。❸ほほ。頰(12－43496)に通ず。〔說文通訓定聲〕挾、叚借爲レ頰。❹まもる。たすける。夾(3－5867)に通ず。〔說文通訓定聲〕挾、叚借爲レ夾。〔廣雅、釋詁四〕挾、護也、輔也。〔廣韻〕挾、護也。〔集韻〕挾、一曰、輔也。❺やぶれる。挾斯(41)を見よ。❻或は接(5－12280)に作る。〔集韻〕挾、或作レ接。❼或は俠(1－706)に作る。〔漢書、叔孫通傳〕殿下郎中俠レ陛。〔注〕師古曰、俠、與レ挾同。㊁❶もつ。とる。〔集韻〕挾、持也、詩、既挾二我矢一。❷ゆきわたる。とほる。あまねし。浹(6－17506)に通ず。〔詩、大雅、大明〕使レ不レ挾二四方一。〔傳〕挾、達也。〔周禮、天官、大宰〕挾日而斂レ之。〔注〕從レ甲至レ甲、謂二之挾日一、凡十日。〔釋文〕挾、子協反、字又作レ浹、同。〔荀子、王霸〕政令以挾。〔注〕挾、讀爲レ浹、洽也。❸さす。つがへる。插(5－12346)に通ず。〔說文通訓定聲〕挾、叚借爲レ插。〔儀禮、鄕射禮〕兼挾二乘矢一。〔注〕古文、挾皆作レ接。〔釋文〕挾、一音子協反。㊂もつ。㊁の❶に同じ。〔集韻〕挾、持也。㊃❶もつ。或は扱(5－11924)に作る。〔集韻〕挾、持也、或作レ扱。❷めぐる。帀(4－8773)に通ず。〔說文通訓定聲〕挾、叚借爲レ帀。〔周禮、天官、太宰〕挾日而斂レ之。〔釋文〕挾、于本作レ帀、子合反。㊄もつ。夾(3－5867)に同じ。〔集韻〕夾、說文、持也、或从レ手。

名乘 モチ。

【挾惡】1 ケフアク よこしまな心をいだく。〔新語、術事〕懷レ德者、應以レ福、挾レ惡者、報以レ凶。

【挾依】2 ケフイ 挾持してそれによる。〔淮南子、俶眞訓〕挾二依於跂躍之術一。

【挾介】3 ケフカイ はさまる。夾介(3－5867··5)に同じ。

【挾肴】4 ハサミザカナ 箸で挾んで客に配る肴。とりざかな。

【挾格】5 ケフカク 規格を持する。規則に本づいてする。〔唐書、崔鄲傳〕每レ擬レ吏親挾レ格。

【挾洽】6 セフカフ あまねくうるほす。浹洽(6－17506··2)の❶に同じ。〔荀子、儒效〕曷謂レ神、曰、盡レ善挾洽、之謂レ神。〔注〕挾、讀爲レ浹、浹、周洽也。

【挾姦】7 ケフカン 姦人を擁する。姦人を味方にする。〔漢書、孔光傳〕嘉傾覆巧僞、挾レ姦以罔レ上、崇レ黨以蔽レ朝、傷レ善以肆レ意。

【挾貴】8 ケフキ 尊貴をたのむ。自己の尊貴な身分を恃みにする。〔孟子、萬章下〕不レ挾レ長、不レ挾レ貴。〔集注〕挾者、兼有而恃レ之之稱。〔孟子、盡心上〕挾レ貴而問、挾レ賢而問。

【挾妓】9 chia² chi⁴ 藝者を連れる。

【挾義】10 ケフギ ❶正しい道を心にいだく。〔韓詩外傳、八〕天老對曰、夫鳳象、鴻前麟後、蛇頸而魚尾、龍文而龜身、燕頷而鷄喙、戴レ德負レ仁、抱レ中挾レ義。❷正しい道に依據する。正義を恃みとする。〔後漢書、劉盆子傳〕不レ如下立二宗室一挾レ義誅伐上。

【挾仇】11 ケフキウ うらみをもつ。うらみをいだく。挾恨。〔宋史、姚祐傳〕挾レ仇要レ君。

【挾求】12 chia² ch'iu² 恃む所があつて求めること。又、無理推しに求めること。

【挾弓】13 ケフキユウ 弓をたばさむ。〔公羊、定、四〕伍子胥誅二乎楚一、挾レ弓而去レ楚。

【挾琴】14 ケフキン 琴を抱へ携へる。〔列子、湯問〕雖二師曠之清角、鄒衍之吹律一、亡二以加一レ之、彼將三挾レ琴執レ管而從二子之後一耳。〔江總、病婦行〕窈窕懷レ貞室、風流挾レ琴婦。

【挾火】15 ケフクワ 螢火(10－33434··6)の異名。〔本草、螢火〕釋名、夜光・燿燿・卽炤・夜炤・景天・救火・據火・挾火・宵燭・丹鳥。

【挾纊】16 ケフクワウ わたを身につける。身の暖いこと。〔左氏、宣、十二〕蘇子伐レ蕭、申公巫臣曰、師人多寒、王巡二三軍一、拊而勉レ之、三軍之士、皆如レ挾レ纊。〔注〕纊、緜也、言二說以忘一レ寒也。〔書言故事、感佩類〕感二人恩意一、如二挾レ纊之溫一。

【挾纊之恩】17 ケフクワウノオン 君の厚い恩惠。挾纊を見よ。〔白居易、臘日謝二恩賜口蠟一狀〕挾纊之恩所レ勉、和則體舒。

【挾經】18 ケフケイ 書籍を脇ばさむ。書物を持つ。〔國語、吳語〕建レ旌提レ鼓、挾レ經秉レ枹。〔注〕在レ掖曰レ挾、經、兵書也。

【挾蕙】19 ケフケイ 蕙を懷持する。豐かな學問・品格のあること。蕙は香草、蘭の屬。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕懷二芬香一而挾レ蕙兮、佩二江蘺之菲菲一。〔注〕挾、持。

【挾擊】20 ケフゲキ はさみうつ。夾擊(3－5867··13)に同じ。

【挾月】21 ケフゲツ 月をいだく。月光に照されること。又、月を眺めること。挾は、共に在る意。〔宋史、樂志九〕軫レ風挾レ月、車驅凌レ雲。

【挾嫌】22 hsieh² hsien² 怨を持つ。

【挾賢】23 ケフケン 才能の秀れてゐることをたのむ。賢才を鼻にかける。〔孟子、盡心上〕挾レ貴而問、挾レ賢而問、挾レ長而問、挾レ有二勳勞一而問、挾レ故而問。〔注〕挾、接也、接二己之貴勢一、接三己之有二賢才一、接二己長老一、接三己嘗有二功勞之恩一、接三己與レ師有二故舊之好一、凡恃二此五者一而以學問。

【挾故】24 ケフコ 古くからの近づきであるといふことをたのみにする。舊故のよしみを鼻にかける。挾賢を見よ。

【挾功】25 ケフコウ いさををたのみほこる。〔風俗通、過譽〕何有レ挾レ功。〔陸機、豪士賦序〕挾レ功震レ主、自レ古所レ難。

【挾攻】26 ケフコウ はさみうつ。夾攻(3－5867··16)に同じ。

【挾告】27 chia² kao⁴ 告訴する。訴へ出る。

【挾恨】28 ケフコン 恨をいだく。〔魏書、毛脩之傳〕承祚之評レ亮、乃有二故義過美之譽一、案二其迹一也、不レ爲レ負レ之、非三挾二恨之一矣。

【挾詐】29 ケフサ 詐を設ける。〔史記、白起傳〕挾レ詐

而盡坑二殺之一。

【挾才】30（ケフサイ） 才能を持つ。〔資治通鑑、周紀〕（威烈王二十三年）臣光曰、云云、君子挾レ才以爲レ善、小人挾レ才以爲レ惡。

【挾箱】31（ハサミバコ） ❶昔、衣服を納め、棒を通して、僕に擔はせた箱。❷挾箱風の略。

〔挾箱風〕32（ハサミバコカゼ） 耳・頤下の腺の腫れる病氣。

【挾藏】33（ケフザウ） しまひ藏する。〔墨子、號令〕有乙匿不レ言下人所二挾藏一在中禁中上者甲斷。

【挾削】34（ケフサク） けづり取る。侵し取ること。夾削。挾は、夾に通じ、兼併する意。〔墨子、非攻中〕東者越人挾二削其壤地一、西者齊人兼而有レ之。

【挾策】35（ケフサク） 竹簡をわきばさむ。記錄用の札を持つ。筆錄用の簿冊を持つ。又、書籍を持つ。挾筴。〔土井贅牙、匹夫不レ可レ奪レ志論〕我亦挾レ策以從レ之。

【挾筴】36（ケフサク） 挾策に同じ。〔莊子、駢拇〕臧與レ穀二人、相與牧レ羊、而俱亡二其羊一、問二臧奚事一、則挾レ筴讀レ書、問二穀奚事一、則博塞以遊。〔釋文〕筴、又作レ策、李云、竹簡也、古以寫書、長二尺四寸。

【挾算】37（ケフサン） ❶卷物の間などにはさみおく竹。❷chia² suan⁴ 強制的に計算する。

【挾山】38（ケフザン） 山を脇にかかへる。不可能のこと。挾レ山超レ海（4−7869‥1240）を見よ。〔後漢書、王暢傳〕有二折枝之易一、而無二挾山之難一。

【挾子】39（ケフシ） 子をいだく。子をつれる。〔杜甫、暮春詩〕暮春鴛鷺立二洲渚一、挾レ子翻飛還二一叢一。〔李賀、夜來樂〕南軒漢轉簾影疎、桐林啞啞挾レ子烏。

【挾矢】40（ケフシ） 矢をたばさむ。又、矢をつがへる。〔詩、小雅、吉日〕既張二我弓一、既挾二我矢一。

【挾斯】41（ケフシ） 衣服や器物などの、よごれやぶれてゐるさま。〔方言、三〕南楚、凡人貧、衣被二醜弊一、謂二之須捷一、云云、或謂二之挾斯一、器物弊、亦謂二之挾斯一。〔戴震疏證〕釋言、斯、離也、挾斯、應下是接二會其綻裂一者上、挾亦作レ俠、廣雅、俠斯、敗也。

【挾資】42（ケフシ） もとでをもつ。資本のあることを恃む。〔福惠全書、蒞任部、定買辦〕或挾レ資冀レ獲二錙銖一。

【挾侍】43（ケフジ） 左右にはべる。夾侍。俠侍（1−706‥17）に同じ。

【挾日】44（セフジツ） 十日間をいふ。浹旬。〔周禮、天官、大宰〕挾日而斂レ之。〔注〕從レ甲至レ甲、謂二之挾日一、凡十日。〔釋文〕挾、字又作レ浹、同、于本作レ帀。

【挾射】45（ケフシャ） はさみいる。夾射。

【挾邪】46（ケフジャ） よこしまな心をいだく。挾惡。〔張衡、西京賦〕挾レ邪作レ蠱。

【挾尺】47（ケフシャク） 馬のむねの廣さが一尺以上あることをいふ。又、其の馬の稱。〔齊民要術、養牛馬驢騾〕相馬、膺下欲レ廣、一尺以上、名曰二挾尺一、能久走。〔梁書、張率傳〕河南國獻二舞馬一、率賦レ之曰、云云、挾尺懸鑿之辨、附蟬伏兔之別、十形五觀之姿、三毛八肉之勢、臣何得而稱レ焉。

【挾術】48（ケフジュツ） 策略をいだきもつ。〔魏志、鍾會傳〕會挾レ術難レ保、不レ可二專任一。〔蘇軾、孔子從二先進一論〕懷レ詐挾レ術、以欺二其君一也。

【挾旬】49（セフジュン） 十日間をいふ。挾日。浹旬（6−17506‥8）に同じ。

【挾書】50（ケフショ） 書籍を持つ。書籍を藏する。〔漢書、董仲舒傳〕重禁二文學一、不レ得レ挾レ書。

〔挾書律〕51（ケフショリツ） 秦始皇の三十四年、李斯の言を用ひて、民間に醫藥・卜筮以外の書を藏することを禁じた法令。漢の惠帝の四年に至り、始めてこの禁を除く。〔史記、秦始皇紀〕三十四年、云云、丞相李斯曰、五帝不二相復一、三代不二相襲一、各以治、非二其相反一、時變異也、今陛下創二大業一、建二萬世之功一、固非二愚儒所一レ知、且越言乃三代之事、何足レ法也、異時諸侯竝爭、厚招二游學一、今天下已定、法令出レ一、百姓當レ家、則力二農工一、士則學二習法令辟禁一、今諸生不レ師レ今而學レ古、以非二當世一、惑二亂黔首一、丞相臣斯昧死言、古者天下散亂、莫二之能一一、是以諸侯竝作、語皆道レ古以害レ今、飾二虛言一以亂レ實、人善三其所二私學一、以非三上之所二建立一、今皇帝幷二有天下一、別二黑白一而定レ一、尊二私學一而相與非二法教一、人聞二令下一、則各以二其學一議レ之、入則心非、出則巷議、夸レ主以爲レ名、異レ取以爲レ高、率二羣下一以造レ謗、如レ此弗レ禁、則主勢降二乎上一、黨與成二乎下一、禁レ之便、臣請、史官非二秦記一皆燒レ之、非二博士官所一レ職、天下敢有下藏二詩書百家語一者上、悉詣二守尉一雜燒レ之、有三敢偶二語詩書一、弃市、以レ古非レ今者、族、吏見知不レ擧者、與同レ罪、令下三十日、不レ燒、黥爲二城旦一、所レ不レ去者、醫藥卜筮種樹之書、若欲レ有レ學二法令一、以レ吏爲レ師、制曰、可。〔漢書、惠帝紀〕（四年十月）三日甲子、皇帝冠、赦二天下一、省下法令妨二吏民一者上、除二挾書律一。〔注〕應劭曰、挾、藏也、張晏曰、秦律、敢有二挾レ書者一族。〔劉歆、移レ書讓二太常博士一文〕陵夷至二于暴秦一、焚二經書一殺二儒士一、設二挾書之法一、行二是レ古之罪一、道術由レ此遂滅、漢興、去二聖帝明王一遐遠、仲尼之道又絕、法度無レ所二因襲一、時獨有二一叔孫通一、略定二禮儀一、天下唯有二易卜一、未レ有二他書一、至二於孝惠之世一、乃除二挾書之律一。〔注〕善曰、漢書曰、秦燔レ書、而易爲二筮卜事一、傳者不レ絕、漢書曰、孝惠四年、除二挾書律一。〔唐書、傅奕傳〕始皇爲二挾書律一。〔韓愈、與二孟尚書一書〕其後始除二挾書之律一。

【挾鐘】52（ケフショウ） 夾鐘（3−5867‥57）に同じ。

【挾震】53（ケフシン） 挾持しておびやかす。〔墨子、尙賢中〕今王公大人、欲下王二天下一、正中諸侯上、夫無二德義一、將何以哉、其說將三必挾二震威彊一。

【挾制】54（ケフセイ） おさへつける。壓迫する。掣肘する。〔六部成語、刑部、挾制窘辱、注解〕挾以二勢力一、窘迫困二辱之一也。〔福惠全書、刑名部、逃人、賣身旗下〕奴僕背レ主投レ旗、挾二制主人一。

【挾勢】55（ケフセイ） 勢威をたのむ。〔唐書、柳仲郢傳〕挾レ勢肆貪、前帥不レ能レ制。

【挾箭】56（ケフセン） 挾矢（40）に同じ。〔陸游、詩〕醉來挾レ箭西郊去、極目寒蕪雉兔驕。

【挾帶】57（ケフタイ） ❶いだく。〔梅堯臣、詩〕挾二帶歲月一深、冒二犯風霜一冷。❷chia¹ tai⁴ 脇の下にかいこむ。祕密にそつと携へる。

【挾知】58（ケフチ） 自己の智をかくす。知つてゐて知らないふりをすること。〔韓非子、內儲說上〕主之所レ用也七術、云云、六曰、挾レ知而問。〔集解〕下文、知作二智字一、同。〔翼毳〕挾、孟子挾レ貴而問之挾、懷也、藏也、心懷二藏己所レ知之事一、爲レ不レ知而問也。〔韓非子、內儲說上〕挾レ智而問、則不智者至、深智二一物一、衆隱皆變。〔集解〕趙用賢曰、言下挾二己之智一而問、云云、衆隱皆變爲上レ顯也、云云、顧廣圻曰、智、讀爲レ知。〔韓非子、內儲說上〕韓昭侯握レ爪、而佯亡二一爪一、求レ之甚急、左右因割二其爪一而效レ之、昭侯以察二左右之臣不一レ誠。

【挾持】59（ケフヂ） ❶たばさみもつ。〔漢書、蕭望之傳〕露索去二刀兵一、兩吏挾持。〔吳志、甘寧傳〕挾二持弓弩一。❷もつてゐる。又、心に抱いてゐる。懷抱。〔史記、商君傳贊〕以二帝王術一、挾二持浮說一。〔蘇軾、留侯論〕此其所二挾持一者甚大、而其志甚遠也。

【挾輈】60（ケフチウ） ながえをわきばさむ。轅を持つて車をひくこと。〔左氏、隱、十一〕公孫閼與二潁考叔一爭レ車、潁考叔挾レ輈以走、子都拔レ棘以逐レ之。〔注〕輈、車轅也。〔會箋〕方言云、楚・衞謂レ轅爲レ輈。〔孔叢子、嘉言〕今齊君失レ之已久矣、子雖レ欲下挾二其輈一而扶中其輪上、良弗レ及也。〔虞世基、講武賦〕亦有二投レ石扛一レ鼎、超乘挾レ輈。

【挾竹】61（ハサミダケ） 昔、二枚の板に衣袴などを締めて竹で挾み、僕に擔はせたもの。

【挾長】62（ケフチャウ） 年の多いことをたのみにする。年長を鼻にかける。挾貴（8）・挾賢（23）を見よ。

【挾扶】63（ケフフ） 兩方から支へ持つ。〔晉書、幸靈傳〕顧謂レ猗曰、扶二夫人一令レ起、云云、於レ是兩人挾扶以立。

【挾輔】64（ケフホ） かかへたすける。輔佐する。夾輔。〔後漢書、劉陶傳〕宜下還二本朝一、挾中輔王室上。

【挾扼】65（ケフヤク） はさんでおさへつける。夾扼。

【挾領】66（ケフリャウ） たばさみもつ。

【挾和】67（ケフワ） 無理に和睦させる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕若果挾和、不レ准具レ息。

【挾劍豆】68（ケフケントウ） なたまめの別名。〔正字通〕刀豆、酉陽雜俎謂二之挾劍豆一、以三莢形似二劍脊一三稜一也。〔本草、刀豆〕釋名、時珍曰、以二莢形一命名也、案、段成式酉陽雜俎云、樂浪有二挾劍豆一、莢生橫斜、如二人挾一レ劍、卽此豆也。〔拾遺記、六、前漢下〕樂浪之東、有二背明國一、云云、有二挾劍豆一、其莢形似二人挾一レ劍、橫斜而生。〔酉陽雜俎、廣動植、草篇〕挾劍豆、樂浪東有二融澤之中生一、豆莢形、似二人挾一レ劍、橫斜而生。

【挾瑟歌】69（ケフシツカ） 詩篇の名。北齊、魏收作。〔魏收、挾瑟歌〕春風宛轉入二曲房一、兼送小苑百花香、白馬金鞍去未レ返、紅妝玉筋下成レ行。

【挾將棋】70（ハサミシャウギ） 盤の双方に駒を九つづつ眞直

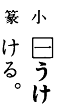
に配列し、互に左右前後に動かし、味方の二つの駒の中間に敵の駒を挾み得たら其の駒をとり、早く駒を取られ盡した方を負とする將棋。

【挿】 12119

サフ 插(5－12346)の俗字。〔字彙〕挿、俗插字。

【捀】 12120

㊀ホウ フ 〔集韻〕敷容切 冬
㊁ホウ ブ 〔集韻〕符容切 冬
㊂ホウ ブ 〔集韻〕房用切 宋


小篆

㊀**うける**。兩手を高く擧げて受ける。〔說文〕捀、奉也、从㆑手夆聲。〔段注〕奉者、承也。㊁❶**うける**。㊀に同じ。〔集韻〕捀、奉也。❷**わける**。兩手に分けて數へる。〔集韻〕捀、孫伷曰、兩手分而數。❸或は拝(5－11857)・捧(5－12189)に作り、通じて⿰扌逢(5－12576)に作る。〔集韻〕捀、或省、亦作㆑捧、通作㆑⿰扌逢。㊂❶**うける**。㊀に同じ。〔集韻〕捀、奉也。❷**わける**。㊁の❷に同じ。〔集韻〕捀、一曰、分而數也。

【捀子】 1 ホウシ 樵夫の異稱。〔事物異名錄、品術、樵夫〕捀子、宣室志、僧契虛遇㆓捀子㆒、導遊㆓稚川仙府㆒、按、捀子、樵人也。

【⿰扌㕯】 12121

ダン ナン 〔集韻〕奴紺切 勘

魚が食ふさま。〔集韻〕⿰扌㕯、魚食皃。

【⿰扌吞】 12122

トン 〔集韻〕佗恨切 願

のべる。〔集韻〕⿰扌吞、搌也。

【捁】 12123

㊀カウ ケウ 〔集韻〕吉巧切 巧
㊁コク 〔集韻〕枯沃切 沃

㊀**みだす**。攪(5－13041)に同じ。〔集韻〕攪、說文、亂也、引㆔詩祇攪㆓我心㆒、或作㆑捁。〔後漢書、馬融傳〕散㆓毛族㆒捁㆓羽羣㆒、〔注〕案、字書、捁從㆑手、卽古文攪字、謂㆓攪擾㆒也。㊁**うつ**。〔集韻〕捁、打也。

【捂】 12124

ゴ 〔集韻〕五故切 遇

❶**ふれる**。さはる。抵觸する。もとる。〔集韻〕捂、斜相抵觸也。〔雷浚、說文外編〕說文無㆓捂字㆒、依㆑義當㆑作㆑啎、說文午部、啎、逆也、本从㆑午、轉誤作㆑才。〔史記、項羽紀〕莫㆓敢枝捂㆒。〔漢書、司馬遷傳贊〕或有㆓抵捂㆒。❷**むかふ**。**むきあふ**。〔儀禮、既夕禮〕若無㆑器、則捂受㆑之。〔疏〕捂、卽逆也。❸**ささへる**。〔正字通〕捂、斜拄也、搘啎也。❹或は⿰扌吳(5－12061)に作る。〔集韻〕捂、或从㆑吳。

【捃】 12125

クン 〔集韻〕倶運切 問 ㄐㄩㄣˋ chün⁴

❶**ひろふ**。ひろひとる。攈(5－12949)に同じ。〔集韻〕攈、說文、拾也、或从㆑君。〔史記、十二諸侯年表序〕往往捃㆓摭春秋之文㆒以著㆑書。❷攈(5－12949)・攟(5－13023)に通ず。〔正字通〕捃、攈・攟・捃、古通。

【捃華】 1 クンクワ 精要のところを采取する。〔李延壽、上㆓南北史㆒表〕除㆓其冗長㆒、捃㆓其菁華㆒。

【捃菜】 2 クンサイ 菜をとる。つみなをする。〔說苑、至公〕使㆓王子革・王子靈共捃㆑菜。

【捃採】 3 クンサイ ひろひとる。拾取。捃摭。〔北史、周世宗紀〕捃㆓採衆書㆒。

【捃載】 4 クンサイ ひろつてのせる。攟載。

【捃拾】 5 クンシフ ❶ひろひとる。〔後漢書、獨行、范冉傳〕推㆓鹿車㆒、載㆓妻子㆒、捃拾自資。〔蘇味道、始背㆓洛城㆒秋郊矚目奉㆓懷臺中諸侍御㆒詩〕野童來捃拾、田叟去謳吟。❷さがしあつめる。搜拾。〔沈約、修㆓定樂書㆒疏〕按、漢初典章滅絕、諸儒捃㆓拾溝渠牆壁之閒㆒、捊㆓片簡遺文㆒、與㆓禮事㆒相關者、卽編次以爲㆓禮記㆒。

【捃集】 6 クンシフ ひろひあつめる。

【捃摭】 7 クンセキ ひろひとる。又、他人の落度をひろふこと。捃は一に攈・攟に作る。攈摭。攟摭。〔史記、十二諸侯年表序〕及㆑如㆓荀卿・孟子・公孫固・韓非之徒㆒、各往往捃㆓摭春秋之文㆒以著㆑書。〔漢書、藝文志〕武帝時、軍政楊僕、捃㆓摭遺逸㆒、紀㆓奏兵錄㆒、猶未㆑能㆑備。

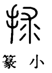
【捃稚迦】 8 クンチカ 佛 瓶。千手觀音の四十手中の軍持手に持つてゐる瓶の義で、比丘の頭陀修行中に要する十八物の一。君遲。君持。軍持。捃稺迦。kundikaの音譯。〔玄應音義、九〕軍持、正言㆓捃稚迦㆒、此譯云㆑瓶也。〔事物異名錄、器用、瓶〕庶物異名疏、西域記曰、捃稚迦、卽澡瓶也。

【⿰扌𠯑】 12126

クワツ 括(5－11988)の本字。〔正字通〕⿰扌𠯑、括本字。

【捄】 12127

㊀ク 〔集韻〕恭于切 虞
㊁キウ グ 〔集韻〕渠尤切 尤
㊂キウ ク 〔集韻〕居尤切 尤
㊃キウ ク 〔集韻〕居又切 宥 ㄐㄧㄡˋ chiu⁴


小篆

㊀**もる**。土をふごの中にもりいれる。一說に、かきあつめる。〔說文〕捄、盛㆓土於梩中㆒也、从㆑手求聲、一曰、捊也、詩曰、捄㆑之陾陾。〔桂注〕大雅緜文、傳曰、捄、虆也、箋云、捄、捊也、築㆑牆者捊㆓聚壤土㆒、盛㆑之以㆑虆、而投㆓諸版中㆒。〔說文通訓定聲〕此字但當㆑訓㆑捊、手引㆑物使㆑聚也、盛㆑土、專釋㆓緜詩㆒耳。㊁㊂❶**もる**。㊀に同じ。〔集韻〕捄、盛㆓土虆中㆒。❷**長いさま**。〔集韻〕捄、長皃。〔詩、小雅、大東〕有㆓捄棘匕㆒。〔傳〕捄、長貌。❸**わかれるさま**。ふたまたのさま。觩(10－35006)に通ず。〔說文通訓定聲〕捄、叚借爲㆑觩、詩良耜、有㆓捄其角㆒、箋、角貌、大東、有㆓捄棘匕㆒、傳、長貌、按、岐貌、云云、天畢、傳、畢貌、按、畢、一柄兩岐、亦似㆑角也。❹**のり**。かた。軌(10－38176)に通ず。〔說文通訓定聲〕捄、叚借爲㆑軌。〔廣雅、釋詁一〕拱・捄、灋也。❺**ふさ**。果實の房。房をなしてゐる果實。莍(9－31039)に通ず。〔說文通訓定聲〕捄、叚借爲㆑莍。〔爾雅、釋木〕椒樧醜莍、〔注〕莍、萸子聚生成㆑房貌。〔疏〕莍者、實之房也、椒樧之類、實皆有㆓莍彙㆒自裹、李巡曰、云云、皆有㆑房、故曰㆑莍、莍實也。〔詩、唐風、椒聊〕椒聊之實蕃衍盈㆑升、〔箋〕一捄之實、蕃衍滿㆑升。〔疏〕捄、謂㆓椒之房裹㆑實者㆒也、云云、李巡曰、云云、皆有㆑房、故曰㆑捄、捄實也。㊃**すくふ**。**とめる**。⿰言求(10－35518)に同じ。又、救(5－13221)に通ず。〔說文通訓定聲〕捄、叚借爲㆑救。〔集韻〕⿰言求、說文、止也、或从㆑攴、从㆑手。〔禮、大學〕雖㆑有㆓善者㆒、亦無㆓如㆑之何㆒矣、〔注〕不㆑能㆑捄㆑之。〔釋文〕捄、本亦作㆑救。〔漢書、董仲舒傳〕將㆓以捄㆑溢扶㆑衰。〔注〕師古曰、捄、古救字。〔漢書、谷永傳〕存㆓卹振㆔捄困乏之人㆒。〔注〕師古曰、捄、古救字也。

名乘 ナカ。

【捄敗】1（キウハイ） やぶれるのをすくふ。又、やぶれたものを救ふ。〔新書、過秦下〕其捄レ敗、非也。

【挑】12128

テウ

挑（5－12055）の俗字。〔正字通〕挑、俗挑字。

【掓】12129

カウ

掓（5－12005）の譌字。〔正字通〕掓、掓字之譌。

【捅】12130

㊀トウ ツ 〔集韻〕吐孔切 ㄊㄨㄥˇ t'ung^3 董

㊁ソウ ス 〔集韻〕損動切 ㄊㄨㄥˇ t'ung^3 董

㊀❶すすむ。でる。〔集韻〕捅、進レ前也。❷ひく。〔集韻〕捅、引也。❸現㋑穿つ。つきあける。㋺突く。つつく。㋩おこす。もちあげる。㊁うつ。又、ひく。敲（5－13207）に同じ。〔集韻〕敲、擊也、引也、或从レ手。

【捅球】1 t'ung^3 ch'iu^2 たまつき。

【捅破】2 t'ung^3 p'o^4 突き破る。つつき破る。

【捆】12131

㊀コン 〔集韻〕苦本切 ㄎㄨㄣˇ k'uen^3 阮

㊁コン ゴン 〔集韻〕胡昆切 元

㊀❶ととのへる。〔集韻〕捆、齊等也。〔孟子、滕文公上〕捆レ屨織レ席。❷たたく。うつ。〔孟子、滕文公上〕捆レ屨織レ席以爲レ食。〔注〕捆、猶二叩椓一也。〔釋文〕椓、擊也。❸とる。〔玉篇〕捆、取也。❹おる。〔玉篇〕捆、織也。❺くむ。〔玉篇〕捆、纂組也。❻のべる。〔玉篇〕捆、抒也。❼現くくる。縛る。結ぶ。綑（8－27506）に通ず。㊁おす。摑（5－12475）に同じ。〔集韻〕摑、手推レ之也、或从レ困。

【捆屨】1（コンク） わらぐつをしめたたいて堅くする。〔孟子、滕文公上〕皆衣レ褐、捆レ屨織レ席以爲レ食。〔注〕捆、猶二叩椓一也。

【捆上】2 k'uen^3 shang^4 くくる。しばる。

【捆致】3（コンチ） 結び近づく。仲よくすること。致は、招く、又、緻密。捆逼(7)を見よ。〔詩、大雅、既醉、室家之壼、箋〕壼之言捆也、云云、室家先相捆致、已乃及二於天下一。

【捆住】4 k'uen^3 chu^4 結びくくる。

【捆綁】5 k'uen^2 pang^3 しばる。

【捆縛】6（コンバク） しばる。〔國朝漢學師承記、紀昀〕是年奏、婦女猝遭二強暴一、捆縛受レ汚、不レ屈見レ戕者、例無二旌表一。

【捆逼】7（コンヒョク） 結び近づく。團結する。仲よくすること。捆致(3)を見よ。〔詩、大雅、既醉、室家之壼、疏〕箋以、云云、壼之言捆、云云、室家先以相捆逼而密緻、言二其相親一。

【扌毌】12132

ダフ

毌（3－4712）に同じ。〔集韻〕毌、或从レ手

【扌函】12133

トン ドン 〔集韻〕杜本切 阮

おす。〔集韻〕扌函、推也。

【捇】12134

小篆

㊀クワク 〔集韻〕霍虢切 陌

㊁カク キャク 〔集韻〕郝格切 陌

㊂セキ シャク 〔集韻〕七迹切 陌

㊃テキ チャク 〔集韻〕丑亦切 陌

㊀さく。或は扌赫（5－12873）に作る。〔說文〕捇、裂也、从レ手赤聲。〔集韻〕捇、或从レ赫。㊁掘る。〔集韻〕捇、掘レ土謂二之捇一。㊂はねのける。赤（10－36993）に通ず。〔集韻〕赤、除撥也、周禮赤犮氏、或从レ手。〔周禮、秋官、序官、赤犮氏、注〕赤犮、猶レ言二捇拔一也、主レ除二蟲豸自埋者一。㊃㊂に同じ。〔集韻〕捇、捇拔、發擿也。

【捈】12135

小篆

㊀ト ヅ 〔集韻〕同都切 虞

㊁ト ツ 〔集韻〕通都切 虞

㊂ヤ 〔集韻〕余遮切 麻

㊃チョ 〔集韻〕抽居切 魚

㊄タ ダ 〔集韻〕直加切 麻

㊀㊁❶ひく。横に引く。〔說文〕捈、臥引也、从レ手余聲。〔段注〕謂二横而引一レ之也。〔集韻〕捈、博雅、引也。〔法言、問神〕捈二中心之所一レ欲、通二諸人之嚍嚍一者、莫レ如レ言。❷くむ。くみとる。〔廣雅、釋詁二〕捈、抒也。❸するどい。〔廣雅、釋詁四〕捈、銳也。㊂くむ。通じて斜（5－13509）に作る。〔集韻〕捈、抒也、通作レ斜。㊃のべる。攄（5－12932）に同じ。〔集韻〕攄、博雅、舒也、或作レ捈。㊄なげうつ。〔集韻〕捈、擲也。

【捉】12136

小篆

サク 慣ソク 〔集韻〕側角切 ㄓㄨㄛ chuo^1 覺

❶とる。もつ。にぎる。つかむ。かたくもつ。〔說文〕捉、搤也、从レ手足聲、一曰、握也。〔釋名、釋姿容〕捉、促也、使二相促及一也。〔廣雅、釋詁三〕捉、持也。〔漢書、王褒傳〕周公躬二吐捉之勞一。〔注〕師古曰、一飯三吐レ食、一沐三捉レ髮。〔世說新語、賢媛〕捉レ裙停レ之。❷とらへる。からめとる。〔廣韻〕捉、捉搦也。〔增韻〕捉、捕也。〔唐懿宗、登二寶位一赦書〕捕捉未レ獲。

【捉妖】1 chuo^1 yao^1 妖怪を捕へる。

【捉驛】2（ソクエキ） 州縣の富人で、官命を受けて郵遞をあつかふ者。〔唐書、劉晏傳〕初州縣取二富人一、督二漕輓一、謂二之船頭一、主二郵遞一、謂二之捉驛一。

【捉姦】3 chuo^1 chien^1 姦通の現場を見つける。

【捉戲】4（ソクギ） 捉迷藏(32)を見よ。

【捉裾】5（ソクキョ） すそをつかむ。すそをとらへる。〔世說新語、賢媛〕許便回入レ內、既見レ婦、卽欲レ出、婦料三其此出無二復入理一、便捉レ裾停レ之。

【捉獲】6 chuo^1 huo^4 捕へる。

【捉活】7 chuo^1 huo^2 生捕る。〔水滸傳、三十一回〕早是張大哥、這幾時分付道、只要捉活的、因此我們只拿撓鉤套索。

【捉雞】8（ソクケイ） 雞をとらへる。御馳走することの隱語。〔西湖志餘〕每三太上遊二幸官家一、必有二進勸一、一日、太上奉二憲聖一幸二東園一閱レ市、而光宗偶忘レ之、太上左右、陰颺二雞數十一、故使下捉レ之不上レ獲、乃相與大呼曰、今日捉レ雞不レ着、蓋臨安以二傒レ人飲食一爲レ捉レ雞、以レ此激二太上怒一、太上陽不レ聞、而玉色微變。

【捉月】9（ソクゲツ） ❶月をとらへる。水底に寫った月をとらへる意。唐の李白は酒に醉つて江中の月を捉へようとし、遂に溺死したといふ。〔摭言〕唐李白遊二采石江一、因レ醉入二江中一、捉レ月而死。〔容齋隨筆、李太白〕世俗多言、李太白在二當塗采石一、因レ醉泛二舟於江一、見二月影一俯而取レ之、遂溺死、故其地有二捉月臺一、予按、李陽冰作二太白草堂集序一云、陽冰試二絃歌於當塗一、公疾亟、草藁萬卷、手集未レ修、枕上授レ簡俾レ爲レ序、又李華作二太白墓誌一、亦云、賦二臨終歌一而卒、乃知俗傳良不レ足レ信、蓋與乙謂下杜子美因レ食二白酒牛炙一而死上者甲同也。〔畫繼〕喬仲常有二李白捉レ月圖一。❷亭の名。安徽省當塗縣の采石山。李白が此の地に遊んで傲然自得し、傍に人無きが如く、醉つて江中の月を捉へようとして溺死したといふ傳說に因んで名づけた。〔明一統志〕捉月亭在二采石山一、世傳、李白過二采石一、在二水中一捉レ月、後人以名レ亭。

【捉撮】10（ソクサツ） つまみとる。〔梅堯臣、答二張子卿

秀才一詩〕蟲魚儻無レ施、捉撮不二乖繆一。

【捉手】11（ソクシュ） 手を握り合ふ。握手。〔蜀志、趙雲傳、注〕雲別傳曰、雲以二兄喪一、辭レ瓚暫歸、先主知二其不一レ反、捉レ手而別、雲辭曰、終不レ背レ德也。

【捉取】12（ソクシュ） とらへとる。〔任昉、奏二彈劉整一文〕苟奴登時欲二捉取一。

【捉生】13（ソクセイ） 生捕る。敵をとらへること。又、捕虜。捉活。捉生將を見よ。

【捉生將】14（ソクセイシヤウ） 捕虜を率ゐる大將。〔唐書、李愬傳〕禽二驍將丁士良一、異二其才一不レ殺、署二捉生將一。

【捉辱】15（ソクジヨク） とらへてはづかしめる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕捉二辱妻子一。

【捉錢】16（ソクセン） 政府が資金を人民に貸付けて利息を取る法。唐代に盛に行はれた。〔唐書、食貨志五〕于レ是祠祭蕃夷賜宴別設、皆長安萬年人吏主辦、二一縣置二本錢一配納レ質積レ戶、收レ息以供レ費、諸使二捉錢一者、給レ牒免二徭役一、有レ罪、府縣不二敢劾治一、民間有レ不レ取二本錢一、立二虛契一、子孫相承爲レ之。〔唐書、食貨志五〕初捉錢者、私增二公廨一、本以防二耗失一、而富人乘以爲レ姦、可レ督者私レ之、外以レ逋二官錢一迫二蹙閭里一、民不レ堪二其擾一。

【捉賊】17 chuo^1 tsei^2 賊を捕へる。

【捉拏】18 chuo^1 na^2 捕へる。

【捉刀】19（ソクタウ） ❶刀をにぎる。刀を執る。❷人の代理をすること、又は代筆すること等の喩。魏の武帝が、匈奴の使者を引見するに當つて崔季珪に代らせ、自分は刀を執つて側に立つてゐた故事に本づく。〔世說新語、容止〕魏武將レ見二匈奴使一、自以、形陋、不レ足三以雄二遠國一、使二崔季珪代一、帝自捉レ刀立二牀頭一。既畢、令二間諜問一曰、魏王何如、云云、使答曰、魏王雅望非レ常、然牀頭捉レ刀人、此乃英雄也。〔稱謂錄、頂替、捉刀人〕案、世稱二代作レ文者一、爲二捉刀一、以下作者非二正身一、乃捉レ刀人替爲上レ之也、後遂以二捉刀一爲三替身非二正身一矣、今觀二此事一、則知三捉レ刀人、正爲二正身一、相習稱レ之、而失二其考一耳。

【捉刀人】20（ソクタウノヒト） 魏の武帝をいふ。捉刀の❷を見よ。〔劉子翬、建康感レ吳詩〕龍翔大耳兒、虎視捉刀人。

【捉搦】21（ソクヂヤク） ❶からめ捕へる。〔舊唐書、代宗紀〕禁二鈿作珠翠等一、委二所司一切加二捉搦一。〔唐書、韓琬傳〕夫捉搦者、法也、法設而滋章、滋章則盜賊多矣。❷樂府、橫吹曲辭、梁鼓角橫吹曲の一。凡て四曲。皆男女の瑣事を述ぶ。〔樂府詩集、橫吹曲辭、梁鼓角橫吹曲序〕是時樂府胡吹舊曲、有二大白淨皇太子小白淨皇太子雍臺擒臺胡遵利瓶女淳于王捉搦東平劉生單迪歷魯爽半和企喻比敦胡廣來十四曲一。〔捉搦歌〕粟穀難レ舂付二石臼一、弊衣難レ護付二巧婦一、男兒千凶飽二人手一、老女不レ嫁只生レ口、誰家女子能行步、反著二裌襌一後レ裙、露天生二男女一、共二一處一、願得三兩箇成二翁嫗一、萃陰山頭百丈井、下有二流水一徹レ骨冷、可レ憐女子能照レ影、不レ見二其餘一見二斜領一、黃桑柘屐蒲子履、中央有レ系兩頭繫、小時憐レ母大憐レ婿、何不三早嫁論二家計一。

【捉住】22 chuo^1 chu^4 捕へる。つかまへる。

【捉髮】23（ソクハツ） 髮をにぎる。手入れをするために解いてゐる髮をにぎつて起つこと。急いで事をすること。又、慌てて事をすること。握髮。〔左氏、僖、二十八〕衞侯先レ期入、甯子先、長牂守レ門以爲レ使也、與レ之乘而入、公子歂犬華仲前驅、叔武將レ沐、聞二君至一喜、捉レ髮走出、前驅射而殺レ之。〔淮南子、氾論訓〕當二此之時一、一饋而十起、一沐而三捉レ髮、以勞二天下之民一。

【捉臂】24（ソクヒ） 腕をとらへる。〔世說新語補、德行上〕巨卿見二仲山一、驚捉レ臂曰、子非二孔仲山一耶、吾昔與レ子俱曳二長裾一、遊二息太學一。

【捉鼻】25（ソクビ） 鼻をつまむ。心に屑しとしない意を示す動作。〔世說新語、排調〕初謝安在二東山一居二布衣一時、兄弟已有二富貴者一、翕二集家門一、傾二動人物一、劉夫人戲謂レ安曰、大丈夫不レ當レ如レ此乎、謝乃捉レ鼻曰、但恐レ不レ免耳。

【捉筆】26（ソクヒツ） ふでをもつ。筆をとる。把筆。〔唐書、楊師道傳〕捉レ筆賦レ詩。〔唐書、劉瑑傳〕雖二捉レ筆遽成一、辭皆允切。

【捉捕】27（ソクホ） とらへる。つかまへる。捕捉。〔元稹、捉捕歌〕捉捕復捉捕、莫レ捉二狐與一レ兔。

【捉脈】28（ソクミヤク） 地を相して龍脈を尋ねもとめること。〔地理正宗〕陶侃、字仕衡、作二捉脈賦一。

【捉弄】29（ソクロウ） なぶる。〔紅樓夢、二十八回〕別レ算レ我、這竟是捉二弄我一呢。

【捉事人】30（ソクジノヒト） 捕り手をいふ。〔宣和遺事、前集下〕捉事人王平、到二五花營前村一。

【捉放曹】31（ソクハウサウ） 西皮二簧劇の一。一名、中牟縣・陳宮計。後漢の董卓が帝位を窺つたので、曹操が之を憤慨した事を演じたもの。

【捉迷藏】32（ソクメイザウ） 布で目かくしをし、摸索して人を捉へる遊戲。〔致虛閣雜俎〕明皇與二玉眞一恒於二皎月下一、以二錦帕一裹レ目、在二方丈內一相捉戲、謂二之捉迷藏一。〔元稹、雜憶詩〕憶得雙文朧月下、小樓前後捉迷藏。

【押】12137

ハイ

捭(5―12201)の俗字。〔字彙〕押、俗捭字。

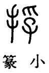
【捬】12138

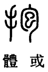
ホ

拊(5―11908)の譌字。〔正字通〕捬、拊字之譌。

【捊】12139

㊀ホウ ブ 〔集韻〕蒲侯切 尤
㊁フウ ブ 〔集韻〕房尤切 尤
㊂ホウ フ 〔集韻〕普溝切 尤
㊃フウ フ 〔集韻〕方鳩切 尤
㊄ハウ ベウ 〔集韻〕蒲交切 肴
㊅フ 〔集韻〕芳無切 虞

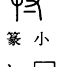

小篆


或體

㊀㊁❶かきあつめる。或體は抱(5―11917)・抔(5―11886)に作る。〔說文〕捊、引堅也、从レ手孚聲、詩曰、原隰捊矣。〔段注〕堅、各本字作レ取、今正、云云、引堅者、引使レ聚也、云云、大雅、捄レ之陾陾、云云、箋云、捄、捊也、云云、築レ墻者捊二聚壤土一、云云、此引堅之正義、云云、常棣、原隰裒矣、傳云、裒、聚也、此重聚不二重引一、故不レ言レ引、但言レ聚也、裒者捊之俗。〔集韻〕捊、說文、引取也、或从レ包、从レ不。❷たがやす。〔禮、禮運、人情以爲レ田、注〕田、人所二捊治一也。〔疏〕謂二以レ手捊聚一、卽耕種耘鋤也。㊂くむ。くみとる。〔集韻〕捊、掬也。㊃かきあつめる。古は⿰扌廡(5―12901)に作る。〔集韻〕捊、引取也、古作レ⿰扌廡。㊄かきあつめる。掊(5―12244)に同じ。〔集韻〕掊、引取也、或从レ孚。㊅うつ。〔集韻〕捊、擊也。

【捋】12140

㊀ラツ ラチ 〔集韻〕盧活切 曷 ㄌㄜˋ lê^4 ㄌㄨㄛ˙ˇ luo$^{1\cdot3}$ ㄌㄩˇ lü^3 ㄌㄩㄝˇ lüeh^3
㊁レツ レチ 〔集韻〕龍輟切 屑


小篆

㊀㊁❶とる。つみとる。つまみとる。〔說文〕捋、取易也、从レ手寽聲。〔廣韻〕捋、手捋也、取也。〔集韻〕捋、采也。〔詩、周南、芣苢〕薄言捋レ之。〔傳〕捋、取也。❷する。〔爾雅、釋蟲〕強醜、捋。〔注〕捋、以レ腳自摩捋。❸なでる。〔潘岳、笙賦〕郁捋劫捂。〔注〕善曰、郁捋、口循レ孔貌。❹或は寽(4―7416)に作る。〔廣韻〕捋、或作レ寽。❺現㋑けづる。そぐ。㋺まくる。邦らち。埒(3―5123)の誤用。

【捋采】1（ラツサイ） とる。〔詩、大雅、桑柔〕捋二采其劉一、瘼二此下民一。

【捋掌】2 luo^1 chang^3 手をこする。

【捋鬚】3（ラツシユ） ひげをなでる。❶自分のひげを撫でる。意氣揚々たる態度。〔馬祖常、贈二陳衆仲

秀才一顥雲辭詩〕南陌紫塵十丈高、捋レ鬚買レ酒意氣豪。❷他人のひげを撫でる。親愛の情を示す。〔古樂府〕摩ニ捋郎鬚一、看ニ郎顏色一。〔吳志、朱桓傳、注〕桓奉レ觴曰、臣當ニ遠去一、願一捋ニ陛下鬚一、無レ所ニ復恨一、權憑レ几前レ席、桓進捋レ鬚曰、臣今日眞可レ謂レ捋ニ虎鬚一也、權大笑。〔晉書、桓伊傳〕好利險詖之徒、以ニ安功名盛極一、而構ニ會之一、嫌隙遂成、帝召レ伊飮讌、安侍坐、云云、伊便撫レ箏而歌ニ怨詩一曰、云云、聲節慷慨、安泣下沾レ衿、乃越レ席就レ之、捋ニ其鬚一曰、使君於レ此不レ凡、帝甚有ニ愧色一。〔北齊書、李元忠傳〕武帝將レ納レ后、卽高祖之長女也、詔ニ元忠與ニ尙書令元羅一致娉、于ニ晉陽一高祖每於ニ宴席一論ニ敍舊事一云云、因捋ニ高祖鬚一而大笑、高祖亦悉ニ其雅意一、深相嘉重。❸捋ニ虎鬚一は、危險を冒す喩。捋ニ虎鬚一(9－32675・・100)を見よ。

【捋鬚錢】4 ラッシュセン 南唐の張崇が廬州で人民を苦しめて徵收した錢。〔江南餘載〕。

【捋奶】5 luo^1 nai^3 乳をしぼる。

【捋乳】6 ラツニュウ 乳をしぼる。〔水經、河水注〕小夫人卽以ニ兩手一捋レ乳。

【捋牛奶】7 luo^1 niu^2 nai^3 牛乳をしぼる。

【捋管兒】8 luo^1 kuan^3 êrh 手淫。

【捌】12141

〘一〙ハツ ハチ 〔集韻〕布拔切 ㄅㄚ pa^1 〘黠〙

〘二〙ヘツ ヘチ 〔集韻〕筆別切 〘屑〙

小篆

〘一〙❶えぶり。さらへ。禾穀をかきあつめる農具。齒の無い杷。杁(6－14427)に同じ。〔說文新附〕捌、方言云、無レ齒杷、从レ手別聲。〔急就篇〕擭穫秉把插捌杷。〔注〕無レ齒曰レ捌、有レ齒曰レ杷、皆所ニ以推引聚ニ禾穀一也。〔廣韻〕杁、無レ齒杷也、捌、上同。❷やぶる。又、うつ。扒(5－11780)に同じ。〔集韻〕扒、破也、擊也、或作レ捌。❸おのれ。我。羌人の語。〔萬姓統譜〕捌、羌人以レ己爲レ捌。〘二〙❶さばく。とく。わける。扒(5－11780)に同じ。〔集韻〕扒、剖分也、或作レ捌。〔淮南子、說林訓〕解レ捽者、不レ在ニ於捌レ格、在ニ於批レ伉。❷ねぢる。抝(5－11964)に同じ。〔集韻〕抝、捩也、或作レ捌。〘邦〙❶さばく。さばき。㋑亂れたものを正しくする。㋺理非を分別する。裁判する。㋩商品を賣りかたづける。㊁自由にあつかふ。❷さばける。㋑わだかまりが無くなる。㋺商品が賣れ行く。㋩世慣れがする。頑固でなくなる。

〘參考〙公文書・證書等で、改竄を避けるために八に代用する。〔正字通〕扒、官府文書紀レ數、借爲ニ八字一。

【捌格】1 ハッカク たたかひをさばく。格はたたかひ。〔淮南子、說林訓〕晉陽處父、伐レ楚以救レ江、故解レ捽者、不レ在ニ於捌レ格、在ニ於批レ伉。

【捌髮】2 サバキガミ 解きちらした髮。ちらしがみ。

【⿰扌戒】12142

カイ ガイ 〔集韻〕下介切 〘卦〙

❶もつ。とる。〔集韻〕⿰扌戒、持也。❷械(6－14882)に通ず。〔莊子、天地、有レ械而已、釋文〕械、字林作レ⿰扌戒。

【捍】12143

〘一〙カン ガン 〔集韻〕侯旰切 ㄏㄢˋ han^4 〘翰〙

〘二〙カン ゲン 〔集韻〕下赧切 〘潸〙

〘三〙クヮン ゲン 〔集韻〕戶版切 〘潸〙

〘一〙❶ふせぐ。まもる。扞(5－11802)に同じ。〔集韻〕扞、說文、忮也、一曰、衞也、或作レ捍。〔禮、祭法〕能捍ニ大患一則祀レ之。❷ゆごて。弓を射る時、弦のはじき當るのを防ぐため、左臂にはめる具。〔禮、內則〕右佩ニ玦捍一。〔注〕捍、謂レ拾也、言レ可ニ以捍レ弦也。❸たけしい。はげしい。あらい。〔史記、貨殖傳〕民雕捍少レ慮。〔注〕索隱曰、言レ如ニ雕性之捷捍一也。❹堅いさま。〔管子、地員〕五浮之狀、捍然如レ米。〔注〕捍、堅貌。〘二〙とどまる。〔集韻〕捍、止也。〘三〙うごく。捍摌(7)を見よ。

〘名乘〙モリ。

〘參考〙❶捍(5－12053)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕捍、音足、收ニ早熟禾一、捍、音旱、捍衞。❷熟語は扞(5－11802)を併せ見よ。

【捍衞】1 カンエイ ふせぎまもる。扞衞(5－11802・・1)に同じ。

【捍格】2 カンカク ふせぎはばむ。扞格(5－11802・・2)に同じ。

【捍禦】3 カンギョ ふせぐ。扞禦。〔列子、楊朱〕人者爪牙不レ足ニ以供ニ守衞一、肌膚不レ足ニ以自捍禦一。〔後漢書、逸民、逢萌傳〕以ニ兵弩一捍禦。〔六部成語、兵部、捍禦、注解〕敵禦之意。

【捍患】4 カンクヮン わざはひを防ぎまもる。〔禮、祭法〕能禦ニ大菑一則祀レ之、能捍ニ大患一則祀レ之。

【捍關】5 カンクヮン 地名。四川省奉節縣の東、赤甲山。扞關。〔水經、夷水注〕昔廩君浮ニ土舟于夷水一、據ニ捍關一而王レ巴、是以法孝直有レ言、魚復・捍關、臨レ江據レ水、寔益州禍福之門。

【捍護】6 カンゴ ふせぎまもる。扞護。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕義家經ニ略東北一、捍ニ護其民一、前後十有五年。

【捍摌】7 クヮンサン うごく。〔集韻〕捍、捍摌、搖動。

【捍刃】8 カンジン 刃物をふせぐ。〔國朝漢學師承記、紀昀〕捍レ刃捐レ生、其志與ニ抗レ節被レ殺者一無レ異。

【捍然】9 カンゼン 堅いさま。〔管子、地員〕五浮之狀、捍然如レ米。〔注〕捍、堅貌。

【捍塞】10 カンソク ふせぎふさぐ。防止する。〔魏書、常景傳〕山中險路之處、悉令ニ捍塞一。

【捍敵】11 カンテキ 敵をふせぐ。〔新書、階級〕守衞捍レ敵之臣、誠死ニ城郭封境一。

【捍撥】12 カンバツ 琵琶の撥先に金銀象牙などをはめた、撥をまもる飾。〔唐書、禮樂志十一〕高麗伎、云云、琵琶、以ニ蛇皮一爲レ槽、厚寸餘、有ニ鱗甲一、楸木爲レ面、象牙爲ニ捍撥一、畫ニ國王形一。〔張籍、宮詞〕黃金捍撥紫檀槽、絃索初張調更高。〔蘇軾、諫レ買ニ浙燈一狀〕琵琶捍撥。〔海錄碎事、音樂、琵琶〕金捍撥在ニ琵琶面上一當レ弦、或以レ金塗爲レ飾、所ニ以捍ニ護其撥一也。

【捍餠】13 han^4 ping^3 武劇に於て、橫に轉がり廻る所作をいふ。

【捍邊】14 カンペン 國境を防ぎ守る。〔魏書、薛虎子傳〕且耕且守、不レ妨レ捍レ邊。

【捍海堰】15 カンカイエン 堰の名。❶江蘇省鹽城縣の東門外。南は通泰に至り、北は山陽に接す。唐の李承が建て、宋の范仲淹が重修す。故に又、范公隄ともいふ。〔讀史方輿紀要、江南揚州府、高郵州、興化縣、丁溪閘〕捍海堰、在ニ縣東一、上接ニ鹽城一、下至ニ海門一、卽唐李承所レ創、宋范仲淹所レ修也。❷江蘇省東海縣。隋の開皇の時、築く。〔太平寰宇記〕西捍海堰、在ニ東海縣北三里一、東捍海堰、在ニ東海縣東北三里一、皆隋開皇時所レ築。

【捍海塘】16 カンカイタウ 塘の名。❶江蘇省寶山縣から、海岸に沿うて浙江省海鹽縣の澉浦に至る。〔唐書、地理志五〕鹽官、云云、有ニ捍海塘一、隄長百二十四里、開元元年、重築。❷浙江省杭縣の境。五代の錢鏐、築く。〔臨安志〕江挾ニ海潮一、爲ニ杭人患一、錢鏐廣ニ杭州城一、始建ニ候潮通江門一、潮水衝激、版築不レ成、因命ニ强弩數百一以射ニ潮頭一、既而潮水漸向ニ西陵一、乃積レ石植レ木、爲レ塘捍レ之、城基始定。

【⿰扌⿱𠂉疋】12144

セン 旋(5－13656)の俗字。〔字彙〕⿰扌⿱𠂉疋、俗旋字。

【⿰扌亨】12145

ハウ ヒヤウ 〔集韻〕披庚切 〘庚〙

うつ。〔集韻〕⿰扌亨、打也。

【捸】 12146

ケイ 㨙(5‐12446)に同じ。〔集韻〕㨙、或作㆑捸。

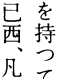
【捽】 12147

ラウ ロウ 〔字彙〕郎刀切 ［豪］

㊀**とぢる**。〔字彙〕捽、閉也。㊁**はづす**。かけてあるものをはづす。

【捎】 12148

［一］サウ セウ 〔集韻〕師交切 ㄕㄠ shao¹ ［肴］
［二］サウ セウ 〔集韻〕山巧切 ［巧］
［三］サウ セウ 〔集韻〕所教切 ㄕㄠˋ shao⁴ ［效］
［四］セウ 〔集韻〕思邀切 ［蕭］


小篆

［一］㊀**とる**。物の上部を持つてとる。〔說文〕捎、自㆑關已西、凡取㆓物之上㆒者爲㆓撟捎㆒、从㆑手肖聲。〔段注〕取㆓物之上㆒、謂㆑取㆓物之顚㆒也、捎之言、梢也。〔增韻〕捎、取也。㊁**えらぶ**。〔廣雅、釋詁一〕捎、擇也。㊂**はらふ**。ふれる。〔揚雄、羽獵賦〕曳㆓捎㆑星之旃㆒。〔注〕向曰、捎、拂也。〔柳宗元、晉問〕耳搖㆓層雲㆒、腹捎㆓衆木㆒。㊃**かすめる**。かする。〔增韻〕捎、掠也。〔杜甫、重過㆓何氏㆒詩〕花安鶯捎㆑蝶、溪喧獺趁㆑魚。㊄**かる**。きりはらふ。〔廣韻〕捎、亦芟也。〔史記、龜策傳〕以㆑夜捎㆓菟絲㆒去㆑之。〔曹植、野田黃雀行〕拔㆑劍捎㆓羅網㆒、黃雀得㆓飛飛㆒。㊅**ころす**。箾(8‐26232)に通ず。〔說文通訓定聲〕捎、叚借爲㆑箾。〔張衡、東京賦〕捎㆓魑魅㆒。〔注〕薛曰、捎、殺也。㊆蒲捎は、良馬の名。〔廣韻〕捎、蒲捎、良馬名。㊇梢(6‐14866)に通ず。〔漢書、天文志〕捎雲精白者。〔左思、吳都賦〕梢雲無㆓以踰㆒。〔注〕劉曰、漢書天文志曰、見㆓梢雲㆒。㊈［現］㋑送り届ける。寄せる。㋺まきぞへにする。累を及ぼす。［二］**うつ**。数(5‐13311)に同じ。〔集韻〕数、擊也、或作㆑捎。［三］㊀**うつ**。〔集韻〕捎、攴也。㊁［現］㋑雨が落ちる。㋺うかがふ。［四］㊀**のぞく**。消(6‐17529)に通ず。〔說文通訓定聲〕捎、叚借爲㆑消。〔周禮、考工記、輪人〕以㆓其圍之防㆒捎㆓其藪㆒。〔注〕捎、除也。㊁**うごく**。趙(10‐37171)に通ず。〔說文通訓定聲〕捎、叚借爲㆑趙。〔廣雅、釋詁一〕捎、動也。〔集韻〕捎、博雅、揣抗、遙捎也。

【捎雲】1 セウウン 高い雲。梢雲に同じ。字解［一］の㊇及び梢雲(6‐14866・1)を見よ。〔漢書、天文志〕捎雲精白者、其將捍、其士怯。

【捎毬】2 セウキウ 毬をうつ。〔張祜、觀㆓宋州田大夫打毬㆒詩〕白馬頓㆓紅纓㆒、捎㆑毬紫袖輕。

【捎殺】3 セウサツ うつ。殺は強めの助字。〔宋玉、風賦〕蹷㆑石伐㆑木、捎㆓殺林莽㆒。〔注〕濟曰、捎、擊也、言㆔風聲如㆑雷、急而交錯、頓㆓擊木石林莽㆒。

【捎手】4 shao¹ shou³ 腕を組む。

【捎信】5 shao¹ hsin⁴ 手紙を送り届ける。

【捎星】6 セウセイ 星をはらふ。高く聳えてゐる形容。〔揚雄、羽獵賦〕立㆓歷天之旗㆒、曳㆓捎星之旃㆒。〔注〕善曰、捎、拂也、向曰、言㆔旗旃之高、歷㆓拂於天星㆒也。

【捎帶】7 shao¹ tai⁴ 携帶する。

【捎𥲤子】8 セウソクシ みみかき。〔篇海〕捎、捎𥲤子、除㆓耳中垢㆒者。

【捎書帶信】9 shao¹ shu¹ tai⁴ hsin⁴ 手紙を送り届ける。捎信。

【捏】 12149

デツ ネチ 〔集韻〕乃結切 ㄋㄧㄝ nieh¹ ［屑］
慣ネツ

㊀**おさへる**。おす。〔字林〕捏、捺也。㊁**とらへる**。〔集韻〕捏、搦也。㊂**こねる**。ひねりあつめる。〔增韻〕捏、捻聚也。㊃**にぎる**。〔海物異名記〕壯夫極力捏㆑之不㆑死。㊄［現］㋑無いことを有るやうにいふ。たくらむ。㋺つまむ。［邦］**こねる**。でつちる。ねやす。㋑土や粉に水をまぜて練る。㋺色々に言ひ試みる。色々に爲し試みる。こねまはす。「理窟をこねる。」㋩無理なことを言ふ。「駄々をこねる。」

［參考］熟語は揑(5‐12345)を併せ見よ。

【捏褐】1 ネツカツ 犬をいふ。遼の語。〔遼史、禮志六、嘉儀下〕八月八日、國俗屠㆓白犬於寢帳前㆒、七步瘞㆑之、露㆓其喙㆒、後七日、中秋移㆓寢帳於其上㆒、國語謂㆓之捏褐耐㆒、捏褐、犬也、耐、首也。

【捏控】2 ネツコウ 誣告する。〔淸會典事例、戶部、漕運、僉選運軍〕雍正二十三年奏准、富戶紳宦、徑行報僉、敢有㆓捏控狡辯㆒、按㆑律治㆑罪。

【捏造】3 ネツザウ 土などをこねて物の形をこしらへること。轉じて、根も葉も無いことをつくりなすこと。無根の事實を構成すること。〔淸會典事例、吏部、處分例、捏造鈔報〕康熙五十三年議准、各省報房、在㆑京探㆓聽事件㆒、任意捏㆓造言語㆒、錄報、係官革職。

【捏詞】4 ネツシ 根も葉もない言葉。〔淸會典事例、兵部、綠營處分例、外海巡防〕若該督撫並不㆓留心察訪㆒、輒據㆓該鎭等捏詞稟報㆒、抉㆑同徇㆑隱、亦必一併治㆑罪。〔淸會典事例、刑部、刑律訴訟、誣告〕康熙二十二年議准、凡惡棍包㆓攬詞訟㆒、串㆓通官役㆒捏詞誣告者、審㆑實、從㆑重治㆑罪。

【捏稱】5 ネツショウ いいかげんのことを捏造して言ふこと。〔淸會典事例、戶部、戶口、旗人撫㆓養嗣子㆒〕儻有㆓同宗可㆑繼、捏㆔稱並無㆓族人㆒、混㆓繼異姓㆒者、按㆑律治㆑罪。

【捏飾】6 ネツショク 無いことを有るやうにして飾ること。〔國朝漢學師承記、王蘭泉先生〕方理草率捏飾、落㆓其職㆒。

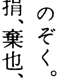
【捏報】7 ネツハウ よりどころのない報告。〔淸會典事例、兵部、綠營處分例、外海巡防〕若所㆑報之日、各海口船隻均未㆑被㆑風、或船內並無㆓官兵受㆑困、或止㆓兵丁受㆑困、官員並未㆑在㆑船、顯係㆔捏㆓報情形㆒、看守之官員革職、兵丁革退、嚴審治㆑罪、捏報之員、一併革職。

【捏骨地】8 ネツコツチ ひざまづく。契丹の語。〔正字通、跪〕契丹言㆓捏骨地㆒者、卽跪也。

【捏絲戧金五彩】9 ネツシサウキンゴサイ きんまきゑ。金は、沈金彫のやうに金を飾つたもので、極めて結構なものを意味する。〔紅樓夢、四十回〕只見幾個婆子手裡、都捧㆓著一色捏絲戧金五彩大盒子㆒走來。

【捐】 12150

［一］エン 〔集韻〕余專切 ㄐㄩㄢ chüan¹ ［先］
［二］ケン 〔說文、段注〕居專切 ［先］


小篆

［一］［二］㊀**すてる**。のぞく。やめる。はらふ。〔說文〕捐、棄也、从㆑手肙聲。〔段注〕按、俗音居專切。〔字彙〕捐、除去也。〔說文通訓定聲〕捐、糞㆓除薉汚㆒、謂㆓之捐㆒。〔穀梁、宣、十八〕捐㆑殯。〔注〕捐、棄也。〔列子、說符〕生相憐、死相捐。〔史記、吳起傳〕捐㆓不急之官㆒。〔漢書、灌夫傳〕自㆑我得㆑之、自㆑我捐㆑之。〔張衡、東京賦〕捐㆓衰色㆒。〔韓愈、進學解〕貪㆑多務㆑得、細大不㆑捐。㊁**あたへる**。貸與する。寄附する。獻ずる。〔漢書、貨殖傳〕出㆓捐千金㆒。㊂**死體を路旁に遺棄する**。〔釋名、釋喪制〕不㆑得㆑停㆑尸曰㆑捐、捐㆓於地邊㆒者也。〔漢書、食貨志上〕國亡㆓捐瘠㆒者。〔注〕孟康曰、捐、骨不㆑埋者。㊃**金を納れて官を買ふ**。捐納(50)を見よ。㊄**稅**。捐局(8)を見よ。㊅**おとろへる**。とぼしい。まづしい。〔漢書、食貨志上〕國亡㆓捐瘠㆒者。〔注〕孟康曰、或曰、捐、謂㆔民有㆓飢相棄

捐者一、或謂二貧乞者一爲レ捐。❼**車輪の外圍**。車環。圓(3−4819)に通ず。〔說文通訓定聲〕捐、叚借爲レ圓。〔爾雅、釋器〕環謂二之捐一。〔注〕著レ車衆環。〔郝懿行義疏〕捐、與レ冐同、冐、空也、環中空以貫レ轡、故謂二之捐一。

【捐怨】1 エンエン うらみをすてる。〔戰國、燕策〕今以二寡人無レ罪、君豈怨レ之乎、願君捐レ怨、追二惟先王一、復以教二寡人一。

【捐階】2 エンカイ 梯を取り去る。〔孟子、萬章上〕父母使二舜完レ廩、捐レ階、瞽瞍焚レ廩。〔集注〕捐、去也、階、梯也。

【捐項】3 エンカウ 官を買ふための上納金。〔清會典事例、吏部、處分例〕各督撫遇レ有下侵二呑捐項一之員上、自行二查明一參奏。

【捐監】4 エンカン 金錢を納れて監生となること。明の代宗の景泰中、各府州縣學生に對して、財物を納入すれば國子監監生と爲ることを准したのに始まる。〔黃瑜、雙槐歲鈔〕景泰改元、詔以二邊圉孔棘一、凡生員納レ粟上レ馬者、許レ入レ監、限二千人一而止。

【捐弃】5 エンキ 捐棄に同じ。〔管子、立政〕正道捐弃、而邪事日長。〔曹冏、六代論〕譬猶下芟二刈股肱一、獨任二胷腹一、浮二舟江海一、捐中弃楫櫂上。

【捐棄】6 エンキ すてる。〔楚辭、王褒、九懷、株昭〕瓦礫進寶兮、捐二棄隨和一。〔後漢書、鄭均傳〕爲レ吏坐レ臧、終身捐棄。〔蔡邕、讓二高陽鄉侯一章〕無レ狀取レ罪、捐二棄朔野一、蒙レ恩徙還、退伏二畎畝一。〔魏志、臧洪傳〕捐二棄紙筆一。〔韓愈、祭二馬僕射一文〕誓莫二捐棄一。

【捐給】7 chüan^1 kei^3 義捐する。寄附する。捐墾(20)を見よ。

【捐局】8 エンキョク 清代、捐納の事務を專管する特設の機關。其の中央に在るを在京捐局といひ、地方に在るを在外捐局といふ。〔清會典事例、吏部、漢員升補〕在京捐局報レ捐。

【捐金】9 エンキン 金をすてる。〔後漢書、列女、樂羊子妻傳〕乃捐二金于野一、而遠尋レ師學。〔班固、東都賦〕捐二金於山一、沈二珠於淵一。

【捐銀】10 chüan^1 yin^2 金を寄附する。醵金。捐墾(20)を見よ。

【捐駒】11 エンク 駒を寄附する。役人が任を去るに當り、私有物を官に寄附すること。王遜が自分の馬の生んだ駒を官に寄附した故事。〔任昉、王文憲集序〕三年、解二丹陽尹一、領二太子少傳一、餘悉如レ故、挂レ服捐レ駒、前良取レ則。〔注〕翰曰、王遜爲二上洛太守一、家有二私馬一、生レ駒、留以付レ郡、謂二所レ產故也一。

【捐軀】12 エンク 身をすてる。いのちを落す。死ぬ。〔越絕書、越絕外傳枕中〕欲三捐レ軀出レ死、以報二吳仇一。〔魏志、陳思王植傳〕夫憂レ國忘レ家、捐レ軀濟レ難、忠臣之志也。〔晉書、郗鑒傳〕捐二軀九泉一、不レ足二以報一。〔清會典事例、八旗都統、兵制〕拔二甲兵四百十名一、臨レ陣捐レ軀。

【捐灰】13 エンクヮイ 灰をすてる。秦の商鞅が灰を道にすてた者を處罰した故事。〔潘岳、西征賦〕寄二苛制於捐レ灰。〔注〕善曰、史記曰、云云、商君之法、刑下棄二灰於道一者上。

【捐官】14 エンクヮン 政府に金を納めて官職又は虛銜を買ふこと。又、さうして得た官職。捐納官。捐納(50)を見よ。〔清會典事例、吏部、除授〕四十年議准、報二捐官生一。

【捐款】15 エンクヮン 寄附金。義捐金。又、一種の稅金。〔清會典事例、戶部、釐稅、直省釐局〕同治二年奏准、浙江省絲斤一項、定爲二先捐後售一、凡鄉絲到レ行銷賣、先由二行戶扣繳捐款一、塡二給捐票一。

【捐館】16 エンクヮン 住んでゐたやかたをすてる。貴人の死をいふ。〔戰國、趙策〕今奉陽君捐二館舍一。〔史記、范雎傳〕君卒然捐二館舍一。〔書言故事、凶事類、捐館〕死曰二捐館一、蘇秦傳、奉陽君捐二館舍一。

【捐玦】17 エンケツ たまをすてる。捐佩。玦は、腰にさげる玉、腰さげの玉。〔楚辭、九歌、湘君〕捐二余玦兮江中一、遺二余佩兮醴浦一。〔謝脁、和二隨王殿下一詩〕肅景懷二辰豫一、捐玦剪二山楊一。〔沈約、湘夫人樂府〕捐レ玦置二澧浦一、解レ佩寄二中州一。

【捐穀】18 エンコク 穀物を寄附する。〔清會典事例、吏部、除授〕捐穀三四百石、銀三四百兩、據レ實奏請。

【捐恨】19 エンコン うらみをすてる。捐怨(1)に同じ。

【捐墾】20 エンコン 自費で開墾すること。〔清會典事例、吏部、除授〕官員捐二墾荒地一議敍、乾隆三十年定、本省文武官員捐二給牛種一、捐二墾荒地十頃一、捐二銀一百兩一者、准二其記錄一一次。

【捐栽】21 エンサイ 清代、文武官員・監生、及び私人が、義擧的に樹木の栽培をすること。〔清會典事例、吏部、除授〕捐二栽蘆葦樹木一議敍、乾隆三十七年定、江南蓄レ水諸湖、豫東二省、黃河兩岸月格等隄內外、以及二沮洳坑塘等處一、栽二種蘆葦一、准二其議敍一。

【捐濟】22 エンサイ 義捐して助ける。〔清會典事例、戶部、釐稅、禁例〕咸豐五年諭、云云、江南省捐釐濟餉、雷以誠創二議於前一、文煜接二辦於後一。

【捐冊】23 エンサツ 寄附金簿。〔清會典事例、吏部、除授、捐納候選〕仍令下該員取二具同鄉六品以上京官印結一、具呈倒上部、呈二驗執照一、查與二捐冊一相符、即予二注冊銓選一。

【捐殘】24 エンザン 殘忍な行爲をすてて用ひないこと。〔漢書、李廣傳〕報レ忿除レ害、捐レ殘去レ殺。

【捐資】25 エンシ 金を義捐する。醵金する。捐輸(69)を見よ。〔福惠全書、清丈部、禁需擾〕捐レ資刊板。

〘捐資興學〙26 エンシコウガク 私有の財を投じて學校を設立するか、又は教育機關を援助する等のことをいふ。

【捐修】27 エンシウ 清代、小工事を地方官の自費を以てさせたこと。〔清會典事例、工部、城垣〕康熙元年題准、捐二修城垣一、務照二舊式一堅築、取レ結報レ部。

【捐失】28 エンシツ すてる。うしなふ。〔揚雄、豫州箴〕靡レ哲靡レ聖、捐二失其正一。〔後漢書、列女、樂羊子妻傳〕今若斷二斯織一也、則捐二失成功一、稽二廢時月一。

【捐舍】29 エンシャ 人の死ぬことにいふ。捐館(16)を見よ。

【捐助】30 エンジョ すくふ。たすける。義捐して助ける。〔清會典事例、吏部、除授〕有下抑二勒捐助一及以レ少報レ多者上。〔福惠全書、保甲部、獎擧善惡〕宜三爲レ之捐助養贍、以成二其志一。

〘捐助田〙31 エンジョデン 金持が或る田地の收入を義捐して官の經費を助ける其の田をいふ。〔六部成語、戶部、捐助田、注解〕富民捐助、充二官經費一之田也。

〘捐助章程〙32 chüan^1 chu^4 chang^1 ch'êng^2 寄附定款。

【捐升】33 エンショウ 清代、成規上、後日陞進すべき職官に就いた官吏が捐納を申請すること。〔清會典事例、吏部、除授〕四十七年奏准、現任各官、援レ例捐升、未レ經二銓選一、緣レ事降革、續經三捐二復原官一、其捐升之項、不レ准二隨帶一。

【捐職】34 エンショク 官職を買ふ。又、捐納によつて得た官職。捐納(50)を見よ。

【捐身】35 エンシン 身をすてる。〔蜀志、法正傳〕捐二身於外一、不二敢反レ命。

【捐賑】36 エンシン 義捐して助ける。捐賑銀を見よ。

〘捐賑銀〙37 エンシンギン 義捐金。救恤金。寄附金の類。〔清會典事例、戶部、蠲恤、勸輸〕順治十年覆准、士民捐助賑米五十石、或銀百兩者、地方官給レ扁旌獎。

【捐生】38 エンセイ いのちをすてる。捐命。〔潘岳、寡婦賦〕感二三良之殉レ秦兮、甘捐レ生而自引。

【捐勢】39 エンセイ いきほひをすてる。〔莊子、山木〕削レ迹捐レ勢、不レ爲二功名一。

【捐稅】40 chüan^1 shuei^4 稅金。

【捐照】41 エンセウ ❶徵收書。❷營業免許狀。

【捐瘠】42 エンセキ 棄てられて飢ゑやせ衰へる。一說に、肉が腐るのを瘠といひ、死體が道に棄てられるのを捐といふ。又、貧しくて人に食を乞ふのを捐といふ。〔漢書、食貨志七〕堯禹有二九年之水一、湯有二七年之旱一、而國亡二捐瘠一者、以二蓄積多而備先具一也。〔注〕孟康曰、肉腐爲レ瘠、捐、骨不レ埋者、或曰、捐、謂三民有二饑相棄捐者一、或謂二貧乞者一爲レ捐、蘇林曰、瘠音漬、師古曰、瘠、瘦病也、言レ無二相棄捐而瘦病者一耳、不レ當二音漬一也、貧乞之釋、尤疏僻焉。

【捐錢】43 エンセン 金を寄附する。醵金する。又、其の金。〔清會典事例、戶部、蠲恤、勸輸〕勸捐糧食、自二數百石一至二數千石一不レ等、勸捐銀錢、自二三四千串一至二萬餘串一不レ等。

【捐積】44 エンセキ 凶年の用意米。饑饉に對する貯蓄。

〔福惠全書、錢穀部、催徵〕近來常平捐積。

【捐薦】45（エンセン） しきものから下りること。へりくだるさま。〔漢書、東方朔傳〕於レ是呉王懼然易レ容、捐レ薦去レ几。〔注〕師古曰、捐二薦席一而去二馮几一、自貶損也。

【捐俗】46（エンゾク） 俗をすてる。俗世からはなれる。〔莊子、山木〕吾願君去レ國捐レ俗、與レ道相輔而行。

【捐道】47（エンダウ） 道をすてる。〔莊子、大宗師〕是之謂下不二以レ心捐レ道、不中以レ人助上天。

【捐提】48 chüan¹ t'i² 寄附金を出す。義捐する。

【捐毒】49（エンドク） 漢代、西域の國名。東は疏勒に通じ、西は休循に通じ、西北は大宛に通じ、北は烏孫に接す。葱嶺間の小國。一説に、天竺をいふ。〔漢書、西域、捐毒國傳〕捐毒國王、治二衍敦谷一。〔通志、地理略〕天竺卽捐毒也。

【捐納】50（エンナフ） 金穀を上納して官を得る。捐官のために金を上納する。捐納出身を見よ。〔清國行政法汎論、文官仕途種類、捐納〕捐納者、謂下士庶納二銀錢一得中實職及虛銜上也、由レ是得レ官、卽爲二捐官一。

【捐納官】51（エンナフクワン） 捐官に同じ。〔清會典事例、吏部、除授〕捐納官員、如有下短二歎捐三數正項銀兩一之員上、應三扣二除掣籤一。

〔捐納房〕52（エンナフバウ） 清代、捐局の京師にあるものをいふ。戶部の管轄に屬す。在京捐房。〔清史稿、選擧志七〕捐事、戶部捐納房主レ之。

〔捐納出身〕53（エンナフシユツシン） 捐納によつて身を起した官吏。〔清會典事例、吏部、除授〕道光五年定、捐納出身、由レ議敍二分部一。

【捐背】54（エンパイ） すてそむく。〔潘岳、寡婦賦〕榮華曄其始茂兮、良人忽以捐背。

【捐珮】55（エンパイ） 珮玉をすてる。捐玦。〔顏延之、祭二屈原一文〕訪二懷沙之淵一、得二捐珮之浦一。

【捐廢】56（エンパイ） すてて用ひない。〔蔡琰、悲憤詩〕流離成二鄙賤一、常恐二復捐廢一。

【捐放】57（エンパウ） すてる。おひはらふ。〔孔叢子、儒服〕昔君子之於二酒食一、有二率嘗之義一、無二捐放之道一。〔蜀志、法正傳〕今國事已危、禍害在レ速、雖三捐二放於外一、言足二憎尤一。

【捐忘】58（エンバウ） すててわすれる。〔阮籍、詠懷詩〕吹噓誰以益、江湖相捐忘。

【捐班】59（エンパン） 捐納によつて得た官職。捐官。捐職。〔清會典事例、吏部、除授〕注二銷捐班一。〔清會典事例、內務府、升除〕捐班補班補用一次。〔六部成語、吏部、捐班、注解〕用二銀子一捐二候補一者。

〔捐班出身〕60（エンパンシユツシン） 捐納により身を起した官吏。捐納出身(53)に同じ。

【捐備】61 chüan¹ pei⁴ 稅金を取り立てて事に備へる。

【捐復】62（エンプク） 罪によつて免官となつた者が、捐納して原官に復すること。捐復降革留任・捐復降革離任・降革加五捐復・捐復原銜・捐復原資の五種類がある。捐升(33)を見よ。〔清會典事例、吏部、處分例〕凡內外降調・革職人員、除二翰詹・科道・藩臬以上一外、如有下情二願捐復一者上、在レ部具呈。

【捐票】63（エンペウ） ㊀釐金稅の領收證。〔清會典事例、戶部、釐稅、直省釐局〕同治二年奏准、浙江省絲斤一項、定爲二先捐後售一、凡鄉絲到レ行銷賣、先由二行戶扣繳捐款一、塡二給捐票一。㊁chüan¹ p'iao⁴ 稅票。

【捐募】64（エンボ） 義捐金を募る。〔福惠全書、庶政部、平二治道塗一〕淺狹則建二造橋梁一、酌二其大小一而爲レ之捐募。

【捐俸】65（エンポウ） 俸給を官に上納する。〔福惠全書、雜課部、積穀〕州縣捐二俸若干一、爲二紳衿富民倡一。

【捐命】66（エンメイ） いのちをすてる。捐生。隕命。〔漢書、諸葛豐傳〕常願レ捐二一旦之命一。〔風俗通、過譽〕輕レ威捐レ命。

【捐免】67（エンメン） 清代、官吏が當然經由すべき特定の事項を捐納によつて免除されること。捐免試用・捐免期滿・捐免實授試俸及歷俸滿年限・捐免赴部引見・捐免赴部投供・捐免赴部驗看・捐免遠省等の種類がある。〔清會典事例、吏部、除授〕捐三免坐レ選分二發原省他省一。

【捐悶】68（エンモン） 數學の法。〔數術記遺〕世人言、三不レ能レ比レ兩、乃云三捐悶與二四維一。〔注〕捐悶、乃奇兩之術。

【捐輸】69（エンユ） 寄附する。〔清會典事例、吏部、除授〕乾隆二十年議准、士民捐二輸社倉稻粟一、捐至二十石以上一、捐資修レ城、銀十兩以上、給以二花紅一。

【捐例】70（エンレイ） 資財を官に入れる事例。捐官の規定。〔清會典事例、吏部、除授〕遇レ有三開二捐事例一、准下其照二捐職人員之例一、一體報捐上。〔清史稿、選擧志七〕向因三各捐例人多、難二於銓選一、降レ旨停止。

【捐弄】71 chüan¹ lung⁴ 人民の金を巻きあげる。

【捐花樣】72（エンクワヤウ） 捐納者に官を授ける順序を定めた目錄。

【捐封典】73（エンホウテン） 清代、捐納によつて、一品以下從九品に至る品級を給與されること。

【捐翎支】74（エンレイシ） 清代、捐納によつて花翎藍翎、卽ち孔雀の羽飾りのある冠を給與されること。

【捐積監穀】75（エンセキカンコク） 清代、凶年には富民に米穀を捐納させて貧民を賑救すること。〔六部成語注解〕荒年開捐、富民納レ穀、准下作二國子監生一、積二其所レ納以賑中貧民上。

【捐榜出身】76（エンバウシユツシン） 捐官により身を起した官吏。捐納出身。

【捐加級紀錄】77（エンカキフキロク） 清代、文武官員及び候補候選人員が、金銀の捐納によつて、官等級を加へて官吏簿に登錄すること。

【⿰扌豆】12151

［一］トウ ヅ 〔集韻〕大透切 ［宥］

［二］タン 〔集韻〕覩緩切 ［旱］

［一］**四すくひ**。〔集韻〕⿰扌豆、四匊曰レ⿰扌豆。［二］**みじかい**。短(8−23978)に同じ。〔集韻〕短、説文、有レ所二長短一、以レ矢爲レ正、或从レ手。

【⿰扌忌】12152

キ 〔海篇〕音忌

いむ。〔海篇〕⿰扌忌、諱也。

【捑】12153

シヨク ジキ 〔集韻〕實側切 ［職］

㊀**うつ**。〔集韻〕捑、支也。㊁⿰扌則(5−12321)に同じ。〔集韻〕⿰扌則、打也、通作レ捑。

【捒】12154

［一］シヨウ シユ 〔集韻〕筍勇切 ［腫］

［二］シヨ ソ 〔集韻〕所據切 ［御］

［三］シユ ス 〔集韻〕雙遇切 ［遇］

［四］シヨク ソク 〔集韻〕輸玉切 ［沃］

［五］ソウ ス 〔集韻〕先侯切 ［尤］

［一］**つつしむ**。**又、あげる**。竦(8−25776)に同じ。〔集韻〕竦、説文、敬也、从レ立从レ束、自申束也、一曰、上也、或从レ手。［二］［三］**よそほふ**。〔集韻〕捒、裝也。［四］**しばる**。束(6−14480)に同じ。〔集韻〕束、説文、縛也、或从レ手。［五］**とる**。擻(5−12580)に同じ。〔集韻〕擻、摟擻、取也、或省。

【捓】12155

［一］ヤ ㄧㄝ yeh¹·² 〔集韻〕余遮切 ［麻］

［二］ヨ 〔集韻〕羊諸切 ［魚］

［一］**もてあそぶ**。からかふ。あざける。捓揄。擨(5−12865)に同じ。通じて邪(11−39319)に作る。〔集韻〕擨、擨歈、擧レ手相弄、亦作レ捓、通作レ邪。〔後漢書、王霸傳〕擧レ手邪二揄之一。〔注〕邪、亦作レ捓。［二］**のこり**。胥捓。〔集韻〕捓、胥捓、殘餘也。

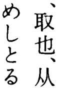
【捓揄】1（ヤユ） もてあそぶ。からかふ。擨歈。邪揄。〔集韻〕擨、擨歈、擧レ手相弄、或省、亦作レ捓。〔後漢書、王霸傳〕市人皆大笑、擧レ手邪二揄之一。〔注〕邪、亦作レ捓。〔世説新語、任誕〕羅友作二荊州從事一、〔注〕晉陽秋曰、友、字它仁、云云、後在二桓溫府一、

以二家貧一乞レ祿、溫雖下以二才學一遇上レ之、而謂三其誕肆非二治レ民之才一、許而不レ用、後同府人有二得レ郡者一、溫爲レ席起レ別、友至尤晚、問レ之、友答曰、民性飲レ酒嗜レ味、昨奉二教旨一、乃是首旦出レ門、於二中路一逢二一鬼一、大見二揶揄一云、我只見三汝送二人作レ郡、何以不レ見三人送二汝作レ郡、民始怖終慚、回還以解、不レ覺成二淹緩之罪一、溫雖レ笑二其滑稽一、而心頗愧焉、後以爲二襄陽太守一。〔白居易、東南行一百韻詩〕時遭二客苔難一、數被二鬼揶揄一。

【捔】 12156　［一］カク〔集韻〕訖岳切 ［覺］　［二］サク ザク〔集韻〕仕角切 ［覺］

［一］❶**つのとる**。角をつかんで獸をおさへる。通じて角（**10－35003**）に作る。〔廣雅、釋言〕捔、掎也。〔集韻〕捔、博雅、掎也、通作レ角。❷**うやうやしい**。〔廣雅、釋言〕捔、恭也。［二］❶**さす**。さしとほす。〔集韻〕捔、刺也。〔張衡、西京賦〕叉簇之所二攙捔一。〔注〕綜曰、攙捔、貫二刺之一也。❷**うすぐらい**。〔淮南子、說林訓〕曆燭捔、膏燭澤也。〔注〕捔、昧也。❸或は稓（**8－23875**）・擨（**5－12628**）・簎（**8－26457**）に作る。〔集韻〕捔、或作二稓・擨・簎一。❹又、觕（**10－35026**）に作る。〔廣韻〕捔、攙捔、亦作レ觕。

【捕】 12157　［一］ホ ブ〔集韻〕蒲故切 ㄅㄨˇˋ pu³·⁴ ［遇］　［二］フ〔集韻〕芳遇切 ［遇］


小篆

［一］❶**とる**。〔說文〕捕、取也、从レ手甫聲。❷**とらへる**。めしとる。〔急就篇、注〕捕、收掩也。〔增韻〕捕、擒捉也。〔詳校篇海〕捕、逐也。〔字彙〕捕、逮者、其人在而直追取レ之、捕者、其人亡當二討捕レ之。〔漢書、灌夫傳〕遣レ吏分レ曹逐捕。❸**もとめる**。〔周髀算經、上〕捕レ影而視レ之。〔注〕捕、猶レ索也。❹或は搏（**5－12466**）に作る。〔集韻〕捕、或作レ搏。〔莊子、秋水〕捕レ鼠不レ如二狸狌一。〔釋文〕捕、本又作レ搏。❺**姓**。〔萬姓統譜〕捕、漢捕巡、廣宗人。❻［現］巡査。［二］**うつ**。**とらへる**。搏（**5－12466**）に通ず。〔廣雅、釋言〕捕、搏也。〔公羊、桓、四〕三曰充二君之庖一。〔注〕因以捕二禽獸一。〔釋文〕捕、本又作レ搏。

【捕押】1 pu³ ya¹　捕搏して拘禁する。

【捕按】2（ホアン）　とらへてしらべる。捕案。〔漢書、酷吏、義縱傳〕以三捕二按太后外孫修成子中一、上以爲レ能、遷爲二河內都尉一。

【捕案】3（ホアン）　とらへしらべる。捕按。〔史記、義縱傳〕捕二案太后外孫修成君子仲一。

【捕尉】4（ホイ）　罪人をとらへる役人。〔福惠全書、保甲部、清查界址〕宜三票委二捕尉一。

【捕景】5（ホケイ）　光をとらへる。とらへどころのない喩。捕影に同じ。〔漢書、郊祀志下〕求レ之盪盪、如二係レ風捕レ景、終不レ可レ得。〔淮南子、說林訓〕捕景之說、不レ形二於心一。〔陸機、演連珠〕重レ光發レ藻、尋レ虛捕レ景。

【捕影】6（ボエイ）　光をとらへる。とらへどころのないことの喩。〔劉孝綽、謝二高祖一啟〕捕レ影繫レ風、終無二効答一。〔水經、贛水注〕有二二崖一、號曰二大蕭・小蕭一、言下蕭史所二遊萃一處上也、雷次宗云、此乃繫レ風捕レ影之論、據二實本一所レ未レ辯、聊記二奇聞一、以廣二井魚之聽一矣。〔蘇軾、與二謝民師推官一書〕求レ物之妙、如二繫レ風捕レ影、能使三是物了二然於心一者、蓋千萬人而不二一遇一也。

【捕援】7（ホエン）　とらへて引く。とらへてつれてくる。〔管子、四稱〕遷二損善士一、捕二援貨人一。

【捕衙】8（ホガ）　罪人をとらへる役所。警察署。捕廳。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕捕衙病故中文。

【捕格】9（ホカク）　とらへる。〔漢書、張敞傳〕敞傳吏、皆捕格斷レ頭。

【捕鞠】10（ホキク）　とらへてとりしらべる。〔漢書、酷吏、義縱傳〕縱壹切捕鞠。〔注〕孟康曰、一切皆捕レ之也、云云、師古曰、鞠、窮也、謂二窮治一也。

【捕鞫】11（ホキク）　捕鞠に同じ。

【捕魚】12（ホギョ）　魚をとらへる。〔淮南子、人間訓〕晉公子重耳過レ曹、曹君欲レ見二其駢脇一、使二之袒而捕レ魚。〔後漢書、董卓傳〕於二所レ度水中一、僞立レ隄以爲レ捕レ魚、而潛從二隄下一過レ軍。〔吳志、孫皓傳、注〕司馬自能結レ網、手以捕レ魚。〔陶潛、桃花源記〕武陵人、捕レ魚爲レ業。

【捕魚兒海】13（ブユイールハイ）　❶湖の名。滿洲黑龍江省呼倫縣の西南の貝爾湖。〔讀史方輿紀要、直隸、附考、兀良哈〕捕魚兒海、在二慶州西北一。❷地名。滿洲熱河省經棚縣の西北。元史の答兒腦兒。今名は達里泊・達爾海子・魚兒濼。

【捕快】14（ホクワイ）　罪人をとらへることを職とする人。とりて。役卒。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、失事〕速遣二馬步捕快一。

【捕蝗】15（ホクワウ）　蝗をとらへる。〔漢書、平帝紀〕遣二使者一捕レ蝗、民捕レ蝗詣レ吏、以二石㪷一受レ錢。

【捕蝗考】16（ホクワウカウ）　書名。一卷。清、陳芳生撰。捕蝗のことを記す。〔四庫提要、史、政書類〕。

【捕獲】17（ホクワク）　❶ぶんどる。いけどる。〔梅堯臣、聞二進士販レ茶詩〕津頭吏卒雖二捕獲一、官司直惜二儒衣裳一。❷戰時に於て、敵國の船舶、又は中立國の中立違反の船舶に對して停止・臨檢・搜索を行ひ、拿捕すること。捕獲審檢所の檢定を受けて處分を確定する。

【捕獲審檢所】18（ホクワクシンケンジョ）　戰時に設け、拿捕品に就いて、其の正當の手續を經たか否かを審查檢定するところ。

【捕繫】19（ホケイ）　とらへつなぐ。捕縛して獄に繫ぐ。〔史記、淮南王安傳〕數捕繫而榜二笞建一。〔漢書、杜延年傳〕捕二繫豪強一、郡中清靜。

【捕鯨】20（ホゲイ）　くぢらをとらへる。〔齋藤拙堂、捕鯨說〕玉井生自二南紀一來、盛談二熊野捕鯨事一。

【捕擊】23（ホゲキ）　とらへうつ。〔漢書、游俠、萬章傳〕河平中、王尊爲二京兆尹一、捕二擊豪俠一、殺二章及箭張回一。〔後漢書、張堪傳〕拜二漁陽太守一、捕二擊姦猾一、賞罰必信、吏民皆樂レ爲レ用。

【捕限】24（ホゲン）　應捕人が犯罪者を追捕すべき期限。〔明律、刑律、捕亡、盜賊捕限〕若經二隔二十日以上一、告レ官者、不レ拘二捕限一、捕二殺レ人賊一、與二捕強盜一限同。

【捕狗】25 pu² kou³　豿をいふ。湖南地方の語。

【捕告】26（ホコク）　罪人をとらへることと、罪人があると申告すること。〔墨子、號令〕左右知不二捕告一、皆與同レ罪。

【捕差】27（ホサ）　罪人をとらへる人。〔淸會典事例、刑部、刑律捕亡、應捕人追二捕罪人一〕若本官不レ行二嚴查責究一、反以二該捕差緝外出一爲レ辭、代爲二申請免比一。

【捕蚤】28（ホサウ）　のみをとらへる。〔淮南子、原道訓〕夫釋二大道一而任二小數一、無四以異三於使二蟹捕レ鼠、蟾蠩捕レ蚤。

【捕索】29（ホサク）　さがしとらへる。〔鹽鐵論、散不足〕吏捕索掣頓。

【捕壯】30（ホサウ）　罪人をとらへることを職とする人。とりて。捕手。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕或捕壯拿獲、于二某年月日一申二報某衙門一、有無批示。

【捕殺】31（ホサツ）　とらへてころす。〔漢書、匈奴傳上〕捕二殺吏卒一。

【捕斬】32（ホザン）　とらへてきる。〔漢書、文帝紀〕朱虛侯章、首先捕二斬產一。〔漢書、匈奴傳上〕行捕二斬首虜一、凡萬九千級。

【捕竄】33（ホザン）　とらへて流罪に處する。

【捕執】34（ホシツ）　とらへる。〔尉繚子、兵令下〕父母妻子弗二捕執一。

【捕手】35（ホシユ）　❶野球用語。キヤッチヤーをいふ。❷（トリテ トツテ）罪人をめしとる役人。

【捕取】36（ホシユ）　とらへとる。〔風俗通、正失〕前將募レ民、捕二取武吏一、以除二賦課一。

【捕書】37（ホショ）　逮捕狀。〔福惠全書、刑名部、監禁〕直宿刑書與二捕書一。

【捕繩】38（ホジョウ）　犯罪者をしばるなは。

【捕生】39（ホセイ）　生物をとらへる。殺生。〔五代史、梁太祖紀〕乾化二年、降二死罪已下囚一、罷二役徒一、禁二屠及捕レ生。

【捕鼠】40（ホソ）　鼠をとらへる。〔淮南子、原道訓〕夫釋二大道一而任二小數一、無四以異三於使二蟹捕レ鼠、蟾蠩捕レ蚤。

【捕送】41 ホソウ とらへて護送する。〔國史略、鳥羽天皇〕永久五年、有レ僧、詐稱二源義親一、依二越後人平永基一、敕捕二送之一。

【捕捉】42 ホソク めしとる。とらへる。〔唐懿宗、卽位赦文〕其餘人戶所レ欠錢物、如身家已亡歿、或在二貧窮一、家業蕩盡、無レ可二徵納一、竝逃竄、捕捉未レ獲、囚繫妻男攤徵保人等、如レ此之類、虛挂二簿書一、終無二塡納之日一、宜二竝放免一。

【捕拏】43 ホダ とらへる。拿捕。〔淸會典、刑部〕鄰境州縣、遇レ移關一到、亦協力捕拏。

【捕拿】44 pu³ na² とらへる。拿捕。捕獲。拿は拏の俗字。

【捕討】45 ホタウ とらへころす。捕誅。〔後漢書、楊賜傳〕今若下二州郡一捕討、恐更騷擾、速成二其患一。

【捕逃】46 ホタウ 捕亡(57)に同じ。〔淸會典事例、兵部、八旗處分例、捕逃〕乾隆三十八年諭、設二立卡倫一、原爲三緝二捕逃人一、近年以來、各處逃人甚多而拏獲者甚少。

【捕盜】47 ホタウ 盜賊をとらへる。〔周禮政要、巡察〕周制、以二司虣・司稽一治レ市、以二脩閭氏一治二國中一、以二野廬氏一治レ野、其職皆以下修レ道捕レ盜警二游惰一比中追胥上爲レ重。

【捕盜同知】48 ホタウドウチ 盜賊をとらへる役人。〔六部成語、刑部、捕盜同知、注解〕專管三捕二拿盜匪一之同知官也。

〖捕盜巡簡〗49 ホタウジュンカン 捕手の役人。

【捕治】50 ホチ 罪人をとらへてしらべる。〔史記、杜周傳〕捕二治桑弘羊・衞皇后昆弟子一。〔漢書、趙廣漢傳〕廣漢使二吏捕治具服一。

【捕聽】51 pu³ t'ing¹ 警察署。

【捕誅】52 ホチユウ とらへてころす。〔漢書、王莽傳下〕捕二誅盜賊一。

【捕鳥】53 ホテウ 鳥をとらへる。〔禮、王制、設二罻羅一疏〕說文云、罻、捕レ鳥網也。

【捕殄】54 ホテン とらへつくす。捕縛して根絕する。〔漢書、王莽傳下〕捕二殄盜賊一。

【捕頭】55 pu³ t'ou² 捕手の長。

【捕得】56 ホトク とらへてわが物とする。〔後漢書、百官志二、上林苑令、注〕捕二得其獸一、送二太官一。

【捕亡】57 ホバウ にげた者をとらへる。罪人をとらへる。逮捕。〔史記、吳王濞傳〕佗郡國吏、欲三來捕二亡人一者、訟共禁弗レ予。

〖捕亡律〗58 ホバウリツ 唐律十二篇の一。罪人をとらへる法律。戰國魏の李悝の法經六篇中の捕法に起り、秦の商鞅が捕律と改め、後魏に至つて捕亡律といひ、北齊は之に斷獄を倂せて捕斷律といひ、後周に逃捕律と改め、隋に及んで復た捕亡律と稱し、唐は之に因る。後、明は之を刑律篇に編入し、淸も之に因る。〔唐書、刑法志〕律之爲レ書、因二隋之舊一爲二十有二一、第一曰名例、二曰衞禁、三曰職制、四曰戶婚、五曰廐庫、六曰擅興、七曰賊盜、八曰鬭訟、九曰詐僞、十曰雜律、十一曰捕亡、十二曰斷獄。〔唐律、捕亡、疏議〕捕亡律者、魏文侯之時、李悝制二法經六篇一、捕法第四、至二後魏一名二捕亡律一、北齊名二捕斷律一、後周名二逃捕律一、隋復名二捕亡律一、然此篇以三上質二定刑名一、若有二逃亡一、恐二其滋蔓一、故須繫以寘二疏網一、故次二雜律之下一。

【捕房】59 pu³ fang² 各地の外國租界に設けた警察署。

【捕搏】60 ホハク とらへ擊つ。犯罪者をとらへること。〔漢書、朱博傳〕少時、給二事縣一爲二亭長一、好二客・少年一、捕搏敢行。〔注〕師古曰、好二賓客及少年一、而追捕擊搏、無レ所レ避也。

【捕縛】60′ ホバク とらへしばる。犯罪者などを捕へてしばること。

【捕班】61 pu³ pan¹ 捕方役人。捕吏。

【捕夫】62 ホフ 捕吏(71)に同じ。

【捕風】63 ホフウ 風をとらへる。とらへ所のないことの喩。捕影(6)に同じ。〔韋應物、難言詩〕持レ索捕レ風幾時得、將レ刀斫レ水幾時斷。〔福惠全書、刑名部、問疑〕茫然捕レ風。

〖捕風捉影〗64 ホフウソクエイ とりとめがない。つかまへ所がない。係風捕景。〔福惠全書、刑名部、欵犯〕取二捕レ風捉レ影之事一。

【捕物】65 トリモノ ❶罪人を召捕ること。❷召捕るべき犯罪者。

〖捕物拳法〗66 トリモノケンパフ 人と組み打ちして勝負を決する法。白打。

【捕票】67 ホヘウ 法院が犯人を逮捕する時に發する逮捕狀。

【捕務】68 pu³ wu⁴ 警察事務。

【捕滅】69 pu³ mieh⁴ 鎭める。抑へる。平らげる。治める。

【捕役】70 ホヤク 盜賊をとらへる役人。〔淸會典事例、刑部、刑律捕亡、應捕人追二捕罪人一〕若本無二搶犯徇庇等弊一、而捕役賄縱、捏二稱被レ劫者、將二捕役一照二誣告律一治レ罪。〔六部成語、刑部、捕役、注解〕捕二拿盜匪一之官役也。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、總論〕緝レ盜之事、又必在二于捕役一。

【捕吏】71 ホリ 罪人をとらへる役人。とりて。とりかた。

【捕律】72 ホリツ 罪人逮捕に關する法律。秦の商鞅が戰國魏の李悝の法經六編中の捕法を改めて捕律とした。捕亡律(58)を見よ。

【捕虜】73 ホリヨ とりこ。とらはれびと。俘虜。〔史記、衞靑傳〕漢軍佐校捕虜言、單于未レ昏而去。〔漢書、匈奴傳上〕漢兵追レ之、斬首捕虜九千人。〔後漢書、王霸傳〕吾吏士心恐、而捕虜與レ五相恃。

【捕獵】74 ホレフ 狩りとる。〔遼史、道宗紀二〕(咸雍六年)辛酉禁二漢人捕獵一。

【捕論】75 ホロン とらへて罪の輕重を決する。〔史記、呂后紀〕其羣臣或竊饋、輒捕二論之一。〔史記、叔孫通傳〕郡守尉今捕論、何足レ憂。

【捕司房】76 ホシバウ 番人小屋。〔宣和遺事、後集〕至二燕京北門一、宿二捕司房一。

【捕首法】77 ホシュハフ 共犯の一人が他の一人を捕へて自首したときは、自首全免若くは輕減の法を準用すること。〔唐律、名例、犯罪共亡、諸犯レ罪共亡輕罪能捕二重罪一疏議〕輕者殺而來首、亦同二捕首法一。

【捕醉仙】78 ホスイセン おきあがりこぼし。不倒翁。勸酒胡。〔酒譜〕酒令有二捕醉仙者一、爲二偶人一、轉レ之以指二席者一。

【捕攝人】79 pu³ shê⁴ jen² 追捕人。

【捕蟬令】80 ホセンレイ 蟬をとらへる命令。宋の守約が號令を嚴にした故事。〔石林燕語〕宋守約爲二殿帥一、令二軍校捕レ蟬、有二鳴者一重笞レ之、神宗以爲レ過、守約曰、軍中號令爲レ先、臣當二承平一、無三以信二其號令一、故寓二於捕レ蟬爾。

【捕斷律】81 ホダンリツ 南北朝の齊律十二篇の一。捕亡と斷獄とに關する法律。捕亡律(58)を見よ。〔隋書、刑法志〕河淸三年、尙書令趙郡王叡等奏二上齊律十二篇一、一曰名例、二曰禁衞、三曰婚戶、四曰擅興、五曰違制、六曰詐僞、七曰鬭訟、八曰賊盜、九曰捕斷、十曰毀損、十一曰廐牧、十二曰雜。

【捕蟲葉】82 pu³ ch'ung² yeh⁴ 植物學用語。狸藻などの葉のやうに一種變體の葉で、よく蟲類を捕へて其の體を溶解し、養料となす葉。

【捕蠅菌】83 pu³ ying² chün⁴ 植物の名。菌類の一種。極めて猛毒を有し、蠅などが棲止すると、ただちに死ぬ。故に此の名がある。

【捕蛇者說】84 ホダシヤセツ 文章の名。宋、柳宗元作。苛酷な租稅を免れるために毒蛇を捕へて朝廷に獻じ、屢〻生命の危險を犯しながら、而も稅を取られるよりは幸福であると述べる將氏の言を記し、苛酷な稅が如何に人民を害するかを說き、以て爲政者を戒めたもの。唐柳先生集の十六卷にある。

【捖】
12158

[一] クワン グワン 〔集韻〕胡官切 寒
[二] クワン グワン 〔集韻〕戶管切 旱
[三] クワン 〔集韻〕苦緩切 旱
[四] クワツ ケチ 〔集韻〕古刹切 黠

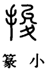
[一]**けづる**。する。〔廣韻〕捖、揳刮摩也。〔集韻〕捖、捖摩、工治レ玉也。[二]❶**うつ**。〔集韻〕捖、擊也。❷**する**。[一]に同じ。〔集韻〕捖、摩也。[三]**うつ**。[二]の❶に同じ。〔集韻〕捖、擊也。[四]**かきとる**。**又**、**する**。刮(**2**－**1943**)に通ず。〔集韻〕刮、說文、掊把也、一曰、摩切、或作レ捖。〔周禮、考工記、總目〕刮摩之工五。〔注〕故書、刮作レ捖、鄭司農云、捖摩之工、謂二玉工一也。〔釋文〕捖、音

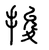
刮、一音完。

【扷】12159 サフ セフ 〔篇海〕初洽切 洽
するどい。〔篇海〕扷、利也。

【捗】12160
㈠ ブホ 〔集韻〕蒲故切 遇
㈡ ブホ 〔集韻〕蓬逋切 虞
㈢ チヨク チキ 〔集韻〕竹力切 職
㈠をさめる。捗攎。〔集韻〕捗、捗攎、收斂也。㈡をさめる。〔集韻〕荹、荹攎、收二亂艸一也、或从レ手。㈢うつ。〔集韻〕捗、打也。邦はかどる。はかがゆく。

【捘】12161
㈠ ソン 〔集韻〕祖寸切 願
㈡ シユン 〔集韻〕七倫切 眞
㈢ サイ スイ 〔集韻〕祖回切 灰
㈣ スイ 〔集韻〕津垂切 支
㈤ サイ スイ 〔集韻〕祖猥切 賄
㈥ サイ スイ 〔集韻〕祖對切 隊


小篆（說文）


小篆（段注本）

㈠㈡❶おす。〔說文〕捘、推也、从レ手夋聲、春秋傳曰、捘二衛侯之手一。〔段注〕定八年左傳曰、將レ歃、涉佗捘二衛侯之手一、及レ捥、此謂下衛侯欲二先歃一、涉佗執二其手一卻レ之、由二指掌一逆推及中於捥上也、杜云二血及レ捥、非。〔集韻〕捘、一曰、推也。〔馬融、長笛賦〕挼挐捘臧、遞相乘邅。❷おさへる。〔廣雅、釋詁三〕捘、按也。〔博雅音〕捘、又子寸。㈢㈣㈤おさへる。㈠の❷に同じ。〔集韻〕捘、博雅、按也。㈥おす。或は捽(5－12225)に作る。〔集韻〕捘、推也、或作レ捽。

【捘臧】1 サイザウ 推したり抑へたりする。〔馬融、長笛賦〕挼挐捘臧、遞相乘邅。〔注〕善曰、說文曰、捘、推也、臧、猶レ抑也、向曰、挼挐捘臧、遞相乘邅、謂二聲相擊連會合貌一。

【𢭏】12162
㈠ チウ チユ 〔集韻〕丑鳩切 尤
㈡ シユク 〔集韻〕式竹切 屋
㈠ひく。搊(5－12699)に同じ。〔集韻〕搊、說文、引也、或从レ秀。㈡ひく。〔集韻〕𢭏、引也。

【㧯】12163 ソウ 揔(5－12596)の本字。〔正字通〕㧯、揔本字。

【𢫦】12164 カウ 〔篇海〕古康切 陽
あげる。〔篇海〕𢫦、擧也。

【𢭆】12165 サフ 插(5－12346)に同じ。〔海篇〕𢭆、同レ插。

【捭】12166 エイ 〔篇海〕音裔
ひく。〔篇海〕捭、牽引也。

【𢱢】12167 エウ 搖(5－12479)に同じ。〔篇海〕𢱢、同レ搖、見二釋典一。

【挈】12168 ケツ 挈(5－12035)に同じ。〔篇海〕挈、同レ挈。

【𢲅】12169 エウ 搖(5－12479)に同じ。〔篇海〕𢲅、同レ搖。

【揣】12170 ズイ 揣(5－12371)の古字。〔集韻〕揣、古作レ揣。

【捚】12171 サイ 〔篇海〕莊皆切 佳
ささげる。〔篇海〕捚、掌擊也。

【捛】12172 リヨ 〔龍龕手鑑〕音呂
とも。〔龍龕手鑑〕捛、師捛也。

【𢮇】12173 ヘン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕𢮇、音辨。

【𢪄】12174 音義未詳 瓬に同じ。〔搜眞玉鏡〕𢪄、同レ瓬。

【𢮢】12175 シン 義未詳。〔龍龕手鑑〕𢮢、音新。

【𢯎】12176 カク 義未詳。〔龍龕手鑑〕𢯎、音角。

【𢬵】12177 キヨウ 拲(5－12049)の本字。〔正字通〕𢬵、本作レ拲。

【𢯲】12178 サツ 拶(5－12004)の本字。〔正字通〕拶、本作レ𢯲。

【𢯭】12179 サウ ソウ 〔莊子、釋文〕素報反 豪
かく。搔(5－12477)に同じ。〔莊子、徐無鬼〕委蛇攫𢯭、釋文〕𢯭、本又作レ搔、素報反、徐本作レ𢯭。

【捜】12179′ ソウ 搜(5－12486)の略字。

八畫

【𢭐】12180 トク 〔集韻〕惕得切 職
❶うつ。〔廣韻〕𢭐、打也。〔集韻〕𢭐、擊也。❷おす。〔集韻〕𢭐、挨也。

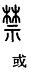
【捥】12181
㈠ ワン 〔集韻〕烏貫切 翰
㈡ ワン 〔集韻〕烏丸切 寒
㈢ ワン 〔集韻〕鄔管切 旱
㈣ ウツ ウチ 〔集韻〕紆勿切 物
㈠うで。かひな。腕(9－29631)・掔(5－12364)に同じ。〔廣韻〕腕、手腕、掔、上同、腕、亦同。〔集韻〕掔、說文、手掔也、或作レ捥。〔史記、封禪書〕海上燕齊之閒、莫レ不丁搤レ捥而自言丙有二禁方一能乙神僊甲矣。㈡ねぢる。或は𢫬(5－11970)に作る。〔集韻〕捥、捩也、或作レ𢫬。㈢とる。〔集韻〕捥、取也。㈣ねぢる。𢷾(5－13060)に同じ。〔集韻〕

攐、拗戾也、或从レ宛。

【⿱宛手】 12182 ワン 捥(5－12181)・⿱夗手(5－11970)に同じ。〔字彙補〕⿱宛手、與二捥・⿱夗手一同。

【捦】 12183 キン ゴン 〔集韻〕渠金切 侵

小篆

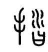

或體

❶**かたくとる**。にぎる。もつ。とらへる。或は㩒(5－12784)に作る。〔說文〕捦、急持二衣裣一也、从レ手金聲、㩒、捦或从レ禁。〔段注〕按、此解五字、當レ作下急持也、一曰、持二衣裣一也、九字上、乃合、必轉寫有二譌奪一矣。〔廣雅、釋詁三〕捦、持也。〔一切經音義、十一〕捦、三蒼云、捦、手捉レ物也。❷或は㩒(5－12784)・擒(5－12816)・扲(5－11836)に作る。〔集韻〕捦、或从レ禁、从レ禽、从レ今。〔一切經音義、十一〕捦、今皆作レ擒也。❸通じて禽(8－24893)に作る。〔集韻〕捦、通作レ禽。〔說文、捦、段注〕古叚借作レ禽。

【⿰扌於】 12184 ㊀ヨ オ 〔集韻〕歐許切 語 ㊁ヨ オ 〔集韻〕依據切 御

㊀㊁**うつ**。〔集韻〕⿰扌於、廣雅、⿰扌於拍、擊也。〔集韻〕⿰扌於、擊也。

【⿰扌沓】 12185 ㊀タフ ドフ 〔集韻〕達合切 合 ㊁タフ トフ 〔集韻〕託合切 合


小篆

㊀❶**ゆびぬき**。ゆびおほひ。〔說文〕⿰扌沓、縫指⿰扌沓也、从レ手沓聲、讀若レ眔。〔段注〕謂下以レ鍼紩レ衣之人、恐三鍼之契二其指一、用レ韋爲レ箍、韜二於指一、以藉上之也、射韝亦謂二之臂⿰扌沓一。❷**かはぶくろ**。〔說文〕⿰扌沓、一曰、韋韜。〔集韻〕⿰扌沓、一曰、韜也。❸或は韜(12－43161)に作る。〔集韻〕⿰扌沓、或从レ韋。㊁❶**おほふ**。〔集韻〕⿰扌沓、冒也。❷**さぐる**。〔集韻〕⿰扌沓、一曰、摹也。❸或は搨(5－12503)・搭(5－12508)に作る。〔集韻〕⿰扌沓、或作二搨・搭一。

【⿰扌豖】 12186 ㊀タク 〔集韻〕竹角切 覺 ㊁ソク 〔集韻〕作木切 屋 ㊂トク 〔集韻〕都木切 屋

㊀❶**木をさす**。木をうがつ。〔玉篇〕⿰扌豖、刺レ木也。❷**おす**。〔廣韻〕⿰扌豖、推也。❸**うつ**。**又、なげうつ**。⿰豖攵(5－13240)に同じ。〔集韻〕⿰豖攵、說文、擊也、一曰、擿也、或从レ手。㊁**ゑる**。ほる。〔方言、二〕⿰扌豖、鐫也。㊂**物をうつおと**。⿰豖殳(10－36366)に同じ。〔集韻〕⿰豖殳、擊聲、或从レ手。

【⿰扌表】 12187 ヘウ 〔集韻〕彼廟切 嘯

わけあたへる。俵(1－730)に同じ。〔集韻〕俵、分與也、或从レ手。

【⿰扌弦】 12188 ケン ゲン 〔集韻〕胡千切 先

縣名。〔集韻〕⿰扌弦、縣名、在二東萊一。

【捧】 12189 ㊀ホウ フ 〔集韻〕撫勇切 ㄆㄥˇ p'êng^3 腫 ㊁ホウ ブ 〔集韻〕父勇切 腫 ㊂ホウ ブ 〔集韻〕符容切 冬

㊀㊁❶**兩手で持つ**。**ささげる**。〔釋名、釋姿容〕捧、逢也、兩手相逢以執レ之也。㋑ささげる。〔穆天子傳、六〕捧レ饋而哭。〔注〕捧、兩手持也。㋺もちあげる。〔潘岳、射雉賦〕捧二黃閒一以密彀。〔注〕爰曰、捧、擧也。㋩くむ。すくふ。或は拝(5－11857)・奉(3－5894)に作る。〔集韻〕捧、掬也、或作二拝・奉一。㋥うける。奉(3－5894)に同じ。〔集韻〕奉、說文、承也、或作レ捧。❷**あげる**。捧手(13)を見よ。❸現㋑援助する。㋺諂ふ。㋩人を贔屓にする。㊂**ささげる**。⿰扌奉(5－12120)に同じ。〔集韻〕⿰扌奉、奉也、亦作レ捧。〔說文通訓定聲〕⿰扌奉、字亦作レ捧。

名乘 モチ。タカ。

【捧頤】 1 ホウイ 頰杖をつく。〔蘇軾、次二韻王庭老退居見レ寄詩〕何時得レ見織織玉、右手持レ杯左捧レ頤。

【捧角】 2 p'êng^2 chiao^3 役者を贔屓にする。

〖捧角家〗 3 p'êng^2 chiao^3 chia^1 役者の贔屓客。劇通。

【捧饋】 4 ホウキ そなへものをささげもつ。〔穆天子傳、六〕捧レ饋而哭。〔注〕捧、兩手持也。

【捧具】 5 ホウグ 奉具(3－5894‥32)に同じ。

【捧檄】 6 ホウゲキ 任官のよび出し狀をささげもつ。官職に就くこと。〔後漢書、劉平等傳序〕廬江毛義、少節、家貧、以二孝行一稱、南陽人張奉、慕二其名一往候レ之、坐定而府檄適至、以レ義守令、義奉レ檄入、喜動二顏色一、奉者志尚士也、心賤レ之、自恨レ來、固辭而去、及二義母死一、去レ官行レ服、云云、公車徵遂不レ至、張奉嘆曰、賢者固不レ可レ測、往日之喜、乃爲レ親屈也。〔王勃、福會寺碑〕高人捧レ檄、功爲二銅墨之先一。〔駱賓王、渡二瓜步一詩〕捧レ檄辭二幽徑一、鳴レ根下二貴洲一。〔伍喬、送三江少府授二延陵一詩〕東レ書西上謁二明主一、捧レ檄南歸奉二老親一。

【捧硯】 7 ホウケン 硯をささげ持つ。〔摭遺〕李白遊二華陰縣一、乘レ驢過二縣門一、宰怒、白乞レ供レ狀、曰、曾用二龍巾一拭レ吐、御手調レ羹、力士脫レ靴、貴妃捧レ硯、天子殿前、尙容レ走レ馬、華陰縣裏、不レ得レ乘レ驢。〔湘山野錄〕祕演引二一納粟牛監簿一、與二石曼卿一同遊二繁臺寺閣一、曼卿醉題云、石延年曼卿同二空門詩友老演一登レ此、生拜扣曰、乞挂二一名一、石握レ筆沈慮、題云、牛某捧レ硯、永叔後以レ詩戲曰、捧レ硯得二全牛一。

【捧劍】 8 ホウケン 劍をささげ持つ。〔王維、奉下和聖製與二太子諸王一三月三日龍池春禊上應制詩〕金人來捧レ劍、畫鷁去迴レ舟。〔日本政記、順德天皇〕義時奉レ劍、從及二祠門一。

【捧日】 9 ホウジツ 太陽をささげ持つ。皇帝を翊戴すること。日は帝王の喩。〔魏志、程昱傳、注〕昱少時常夢下上二泰山一兩手捧上日、昱私異レ之。〔南史、陳武帝紀〕天開數丈、有二四人朱衣捧レ日而至一。〔庾信、周大將軍崔訦神道碑〕恩深捧レ日。〔錢起、闕下贈二裴舍人一詩〕陽和不レ散二窮途恨一、霄漢常懸二捧レ日心一。

【捧觴】 10 ホウシヤウ 酒杯をささげる。〔吳子、圖國〕文侯身自布レ席、夫人捧レ觴。

【捧上】 11 ホウジヤウ 捧呈(27)に同じ。

【捧爵】 12 ホウシヤク ❶酒盃を兩手でささげる。爵は、さかづき。❷皇帝が神を拜する時、臣下から爵杯を捧遞すること。

【捧手】 13 ホウシユ 手を擧げる。兩手を組んで擧げ、拱手の禮をすること。〔班固、東都賦〕慄然意下、捧レ手欲レ辭。〔注〕善曰、孔子三朝記曰、孔子受レ業而有レ疑、捧レ手問レ之、不レ當避レ席。

【捧銃】 14 ササゲツツ 銃をささげ持つこと。軍人が小銃を捧げて敬意を表はす禮式。

【捧承】 15 ホウシヨウ ささげうける。〔高僧傳〕忽有二一人一、捧二承其足一。

【捧誦】 16 p'êng^3 sung^4 拜讀する。

【捧心】 17 ホウシン 胸をかかへる。悲しむさま。〔癸辛雜識〕左右垂レ手、大小轉攧、捧レ心回レ頭、舞レ頭

舞㆑尾者、是亦前所㆑未㆑聞。〔燕子箋、寫像〕捧㆑心長是自憐。

〘捧心傚㆓西子㆒〙18（ホウシンセイシニナラフ） 表面だけ人眞似をすること。西施が胸の痛みのために兩手で胸をかかへて顏を顰めたのを見た醜婦が之を美しいとし、同樣に胸をかかへて顏を顰めた故事。西施（**10－34763**··284）をみよ。〔莊子、天運〕西施病㆑心而矉㆓其里㆒、其里之醜人見而美㆑之、歸亦捧㆑心而矉㆓其里㆒、其里之富人見㆑之、堅閉㆑門而不㆑出、貧人見㆑之、挈㆓妻子㆒而去㆑之走、彼知㆑美㆑矉、而不㆑知㆔矉之所㆓以美㆒。〔韻語陽秋〕黃魯直詩云、世有㆓捧心學㆒、取㆑笑如㆓東施㆒、太平寰宇記、載㆓西施事㆒云、施其姓也、是時有㆓東施家・西施家㆒。

【捧水】19 p'êng^2 shuei^3 水を手ですくふ。

〘捧水飮〙20 p'êng^2 shuei^2 yin^3 兩手に水を持ち上げて飮むこと。

【捧足】21（ホウソク） 足をささげ持つ。〔神仙傳〕蘇仙公、漢文帝時得㆑道、紫雲捧㆑足、羣鶴翺翔、遂昇㆓雲漢㆒而去。〔攝養枕中方〕騰㆓躡烟霞㆒、綵雲捧㆑足。

【捧托】22 p'êng^3 t'uo^1 兩手でささげ持つ。

【捧持】23（ホウヂ） ささげもつ。恭しく兩手でさしあげもつ。〔杜牧、贈㆓杜秋娘㆒詩〕畫堂授㆓傅姆㆒、天人親捧持。〔菅原道眞、重陽後一日詩〕恩賜御衣今在㆑此、捧持每日拜㆓餘香㆒。

【捧場】24 p'êng^3 ch'ang^2 助勢する。聲援する。贔屓にする。

〘捧場架勢〙25 p'êng^3 ch'ang^2 chia^4 shih^4 傍から勢をつける。聲援する。

【捧住】26 p'êng^3 chu^4 しかとささげ持つ。

【捧呈】27（ホウテイ） 長者に物を獻ずること。

【捧定】28 p'êng^3 ting^4 兩手でささげる。

【捧奠】29（ホウテン） ささげそなへる。〔唐書、柳宗元傳〕每㆓春秋時饗㆒、孑立捧奠。

【捧讀】30（ホウドク） ささげよむ。兩手でさしあげて恭しく讀む。拜讀。〔柳宗元、謝㆓襄陽李夷簡尙書委曲撫問㆒啓〕過蒙㆓存問㆒、捧讀喜懼、浪然涕流、慶幸之深、出㆑自㆓望外㆒。

【捧負】31（ホウフ） かかへたりおうたりする。扶ける。扶持。提攜。〔李華、弔㆓古戰場㆒文〕提攜捧負、畏㆓其不㆑壽。

【捧腹】32（ホウフク） 手で腹を抱へる。大いに笑ふさま。俗に抱腹に作るは非。〔史記、日者傳〕司馬季主、捧㆑腹而大笑。〔柳宗元、送㆔邠寧獨孤書記赴㆓辟命㆒序〕曳㆓裙戎幕之下㆒、專弄㆓文墨㆒、爲㆓壯夫捧腹㆒。

〘捧腹絕倒〙33（ホウフクゼツタウ） 腹をかかへ、息ができないやうになつて倒れる。殆んど堪へ難いまでに大いに笑ふこと。〔五代史、晉家人、出帝皇后馮氏傳〕左右皆失笑、帝亦自絕倒。

【捧物】34（ササゲモノ） 獻上物。

【捧擁】35（ホウヨウ） かかへる。兩手で大切にいだき持つ。大切にしてまもる。〔杜甫、山寺詩〕使君騎㆓紫馬㆒、捧擁從㆑西來。

【捧擥】36（ホウラン） ささげ持つ。〔管子、弟子職〕飯必捧擥、羹不㆑以㆑手。〔纂詁〕擥、撮持也。

【捧着力】37 p'êng^3 chê li^4 力をこめてささげ持つ。

【捧筆奴】38（ホウヒツド） 奴の名。〔海錄碎事、道釋、怪異〕誇郎見㆓封平仲㆒、叱㆓一小童㆒、曰㆓捧筆奴㆒、又見㆓姓王人㆒、曰㆓淮指㆒、一妓曰㆓石崇妓仙娥娘㆒、名稱亞㆓於綠珠㆒、二人皆鬼也。

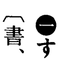
【捧匜沃盥】39（ホウイヨククワン） 匜をささげ水を注いで手を洗はせる。匜は水を注ぐに用ひる器。〔左氏、僖、二十三〕奉㆑匜沃盥、既而揮㆑之。〔注〕匜、沃盥器也。

【捧茶捧菓】40 p'êng^3 ch'a^2 p'êng^2 kuo^3 茶を出したり菓子を出したり。〔紅樓夢、三回〕熙鳳親爲捧茶捧菓。

【挐】12190 リ 〔集韻〕良脂切 支

もつ。とる。〔集韻〕挐、手持㆑物。

【捨】12191 シャ 〔集韻〕始野切 ㄕㄜˇ shê^3 馬


小篆

㊀**すてる。**㋑おこたる。やめる。〔書、湯誓〕舍㆓吾穡事㆒、〔釋文〕捨、廢也。〔宋書、殷淳傳〕愛㆓好文義㆒、未㆓嘗違㆑捨㆒。㋺てばなす。〔說文〕捨、釋也、从㆑手舍聲。〔鄭谷、自適詩〕浮蟻滿㆑杯難㆓實捨㆒。㋩さる。しりぞける。〔字彙〕捨、去也。〔荀子、不苟〕欲惡取舍之權、見㆓其可㆑欲也。㋥かへりみない。〔韓愈、示㆑爽詩〕座中悉親故、誰肯捨㆑汝眠。㋭ほどこす。神佛のために金品を施與する。〔隋煬帝、寶臺經藏願文〕捨㆓撤淨財㆒、豈可㆓稱計㆒。㊁**おく。**さしおく。ゆるす。〔廣雅、釋詁四〕捨、置也。〔逸周書、玉佩解、施舍在㆓平心㆒、注〕捨、謂㆑赦㆑罪。㊂或は舍（**9－30278**）に作る。〔集韻〕捨、或省。㊃**姓。**〔江陰縣志〕捨敬、洪武五年、任㆓稅課大使㆒。㊄佛 心が常に平かで執着がない意。〔俱舍論、四〕心平等性、無警覺性、說名爲㆑捨。〔大乘義章、二〕內心平等、名㆑之爲㆑捨。〔大乘義章、十二〕亡㆑懷稱㆑捨。

【捨衣】1（ステゴロモ） 捨てる程のやぶれ衣。

【捨恩】2（シャオン） 恩惠を施さない。又、受けた恩惠をすてて顧みないこと。〔論衡、非韓〕夫治㆑人不㆑能㆑捨㆑恩、治㆑國不㆑能㆑廢㆑德、治㆑物不㆑能㆑去㆑春。

【捨講】3（シャカウ） 訪問客を待たせて置いて講學すること。後漢の光武帝が嘗て長安に學び、朱祐の宅に過ぎつた時、祐が帝を待たせておいて、講じ終つてから談話したが、帝が卽位してから、祐の第に幸し、戲れに、講書のために我を待たせないでもらへるかと言つた故事。〔後漢書、朱祐傳〕祐初學㆓長安㆒、帝往候㆑之、祐不㆓時相勞苦㆒、而先升㆓講舍㆒、後車駕幸㆓其第㆒、帝因笑曰、主人得㆑無㆓捨㆑我講㆒乎。〔任昉、爲㆓范尙書㆒讓㆓吏部封侯㆒第一表〕忘㆓捨講之尤㆒、存㆓諸公之費㆒。〔注〕善曰、東觀漢記曰、初光武學㆓長安㆒、時過㆓朱祐宅㆒、祐留㆑上待、講竟乃談話、及㆓帝登㆑位、駕幸㆓祐第㆒、問曰、得㆑無㆓去㆑我講㆒乎、祐曰、不㆑敢。

【捨棄】4 shê^3 ch'i^4 すてる。抛棄する。

【捨臉】5 shê^2 lien^3 厚顏。鐵面皮。

【捨札】6（ステフダ） 罪人の罪狀を記して其の刑場にかかげる札。

【捨殺】7（ステゴロシ） 人の死にかかつてゐるのを見殺しにすること。

【捨盞】8（シャサン） 酒杯をすておく。〔齋藤拙堂、月瀨紀勝〕衆驚喜欲㆑狂、捨㆑盞走出。

【捨子】9（ステゴ） すてられた小兒。棄子。棄兒。

【捨施】10（シャシ シャセ） ほどこすこと。ほどこし。古、權門・勢家・寺社等に對する贈與をいふ。寄進。〔田令〕凡官人百姓竝不㆑得㆘將㆓田宅園地㆒、捨施及賣易與等㆖。

【捨詞】11（ステコトバ） すてぜりふ。かへりがけに言ひ放つ惡口。

【捨兒】12（ステゴ） 捨子（9）に同じ。

【捨舟】13（ステブネ） 捨小舟（36）に同じ。

【捨受】14（シャジュ） 佛 領納の外境を受といひ、外境中、非順非違の境を領納し、苦樂の感を俱に捨て去ることを捨受といふ。

【捨壽】15（シャジュ） 尼が卒することをいふ。〔兩般秋雨盦隨筆〕尼卒曰㆓捨壽㆒、見㆓唐濟度寺尼法願誌銘㆒。

【捨書】16（ステガキ） ㊀むだがき。㊁捨札（6）に同じ。

【捨心】17（シャシン） 佛 一切を棄てて執着しないこと。〔仁王經、下〕修㆓四無量㆒、慈無量心、悲無量心、喜無量心、捨無量心。

【捨身】18（シャシン） 佛 ㊀命をすてる。一身を捨てる。死。〔僧尼令〕凡僧尼不㆑得㆓焚㆑身捨㆑身。〔觀無量壽經〕捨㆑身、他世必生㆓淨國㆒。〔義疏〕舊釋㆓捨身㆒、謂㆓自放爲㆑奴、捨㆑命爲㆑人取㆑死、今云㆓捨身・捨命㆒、皆是死也、但建㆑意異耳、若投㆓身餓虎㆒、本在㆑捨㆑身、若義士見㆑色授㆑命、意在㆑捨㆑命、捨㆑財謂㆓身外之物㆒。㊁俗界を出離して佛門に入ること。〔梁書、武帝紀下〕（大通元年）三月辛未、輿駕幸㆓同泰寺㆒捨身、甲戌、還㆑官。〔王祺雜纂、重難〕許㆓捨身修㆑寺。

〘捨身崖〙19（シャシンガイ） 泰山に在る崖の名。〔山樵暇語〕泰山有㆓捨身崖㆒、歲有㆔男婦往㆑焉、以㆑身投㆓於崖下㆒、謂㆓之捨身㆒、太傅王世昌越有㆑詩云、捨身崖下深難㆑測、每怪輕㆑生世上人、我亦有㆑身偏自重、捨時除㆔是爲㆓君親㆒。

〘捨身行〙20（シャシンギヤウ） 佛 報恩のために臂を燒き身

を焚き、或は布施のために肉を割き身を棄てること。

【捨身飼虎】21 シャシンシコ 佛 自分の身を棄てて虎を養ふ。摩訶薩埵の故事。〔賢愚經、摩訶薩埵以身施虎緣品〕過去世有二一國王一、名二大車一、有二三子一、幼子曰二摩訶薩埵一、於二山林中一見下一虎產二七子一、逼中於饑渴上、生二大悲心一、欲レ捨二此穢身一、獨入二林中一、至二餓虎處一、脫レ衣臥、虎不二敢食一、自レ高投レ地、又爲二神護一未レ傷、乃以二乾竹一刺レ頸出レ血、餓虎見レ血、卽舐レ血食レ肉盡、王子卽今釋迦牟尼也、以二此功德一超二越十一劫一。

【捨生】22 シャセイ 生命を棄てる。舍生。〔盧諶、覽古詩〕捨レ生豈不レ易、處レ死誠獨難。

【捨奶】23 shê^{2} nai^{3} 乳ばなれ。

【捨直】24 ステネ 捨賣のねだん。

【捨撤】25 シャテツ ほどこす。ほどこしをする。〔隋煬帝、寶臺經藏願文〕捨二撤淨財一、豈可二稱計一。

【捨得】26 shê^{3} tê 惜まない。かまはない。

【捨賣】27 ステウリ 物をすてるやうに安くうる。なげうり。

【捨筏】28 シャバツ 佛 筏を棄てる。涅槃の岸に到れば正法も猶棄つべきをいふ。筏は正法の喩。〔釋門歸敬儀、中〕經有二捨筏之喩一。

【捨鉢】29 ステバチ やけ。自暴自棄。

【捨物】30 ステモノ ❶役立たない品物。❷道路等に捨て置かれた物。

【捨本】31 shê^{2} pen^{3} ❶根本を疎かにする。❷資本をする。❸商賣に失敗する。

【捨葯】32 シャヤク 藥をただでやる。

【捨緣豆】33 シャエントウ 四月八日に、慈善家が青黃豆數升を煮て、佛號を唱へながら市人に施し散ずること。〔燕京歲時記、捨緣豆〕四月八日、都人之好レ善者、取二青黃豆數升一、宣二佛號一而拈レ之、拈畢煮熟、散二之市人一、謂二之捨緣豆一、預結二來世緣一也、謹按、日下舊聞考、京師僧人念二佛號一者、輒以レ豆記二其數一、至二四月八日佛誕生之辰一、煮レ豆微撒、以レ鹽邀二人于路一、請レ食レ之、以爲二結緣一、今尙沿二其舊一也。

【捨下的】34 shê^{3} hsia^{4} tê 寄進すること。

【捨假名】35 ステガナ 漢文を和讀するために、字の右旁にそへる假名。送假名。

【捨小舟】36 ステヲブネ 乘りすてた小さい舟。捨舟。

【捨茶棚】37 shê^{3} chʻa^{2} pʻêng^{2} もと北京城外四十支里の地に在つた施茶所。

【捨着命】38 shê^{3} chê ming^{4} 命がけで。一所懸命で。

【捨不得】39 shê^{3} pu tê^{2} 忍ばれない。手離すことができない。

【捨不了】40 shê^{3} pu liao^{3} 捨不得に同じ。

【捨扶持】41 ステブチ ❶武家時代、由緒ある家の老・幼・婦女・癈疾者等を救助するために給した扶持米。❷無用の者に與へる扶持米。

【捨命的】42 shê^{3} ming^{4} tê 命の限り。

【捨家棄欲】43 シャケキヨク 佛 妻子眷屬をすて五欲をすてる。出家すること。〔無量壽經、下〕其上輩者、捨レ家棄レ欲、而作二沙門一。

【捨己從人】44 shê^{2} chi^{3} tsʻang^{2} jen^{2} 自己を沒却して人に從ふ。

【捨】12191′

シャ 捨(5－12191)に同じ。

【捩】12192

㊀レイ ライ 〔廣韻〕郎計切 霽
㊁レツ レチ 〔集韻〕力結切 屑 ㄌㄧㄝˋ lieh^{4}

㊀**ばち**。琵琶の弦をはじく具。或は棙(6－14939)に作る。〔廣韻〕捩、琵琶撥也。〔康熙字典〕捩、或作レ棙。〔梁簡文帝、內人晝眠詩〕插レ捩擧二琵琶一。㊁❶**ねぢる**。もぢる。ひねる。もとらせる。或は攦(5－13036)に作る。〔集韻〕捩、拗也、或作レ攦。〔增韻〕捩、紾也。〔韓愈、送レ窮文〕捩レ手覆レ羹。〔王安石、彭蠡詩〕東西捩レ柁萬舟回。❷**くじく**。〔詳校篇海〕捩、折也。〔陸龜蒙、引泉詩〕淩レ風捩二桂柁一。❸**もとる**。まがる。曲折する。〔杜甫、大食刀歌〕鬼物撇捩辭二坑壕一。邦❶**ねぢ**。螺旋。❷**もぢる**。もぢつて言ふ。他の語の口調に似せていふ。❸**もぢり**。或る語を他の語にもぢつて言ふこと。語呂の類。

【捩花】1 ネヂバナ 捩摺草(7)の異名。

【捩子】2 ネヂコ ❶螺旋。❷ひきかけて捩るやうに作つた一種の武器。

【捩手】3 レツシユ 手をねぢる。〔韓愈、送レ窮文〕捩レ手覆レ羹、轉レ喉觸レ諱。

【捩首】4 ネヂクビ 戰場などでねぢ切つて取つた首。

【捩柁】5 レツダ かぢをねぢる。かぢを廻して舟を轉ずる。〔杜甫、清明詩〕金鐙下レ山紅粉晚、牙檣捩レ柁青樓遠。〔蘇轍、入峽詩〕捩レ柁破レ濆旋、畏下與二亂石一遭上。

【捩摺衣】6 モヂズリゴロモ 忍捩摺（シノブモヂズリ）をした衣。

【捩摺草】7 モヂズリグサ 草の名。蘭科に屬し、葉は稻の苗に似、春の頃、穗狀淡紅色の花を開く。捩花。綬草。

【⿰扌⿸戸木】12193

カン ケン 〔玉篇〕口減切 豏

おちつかない。〔玉篇〕⿰扌⿸戸木、不レ安。

【⿰扌固】12194

コ 棝(8－25103)に同じ。〔集韻〕棝、棝陽、縣名、或从レ手。

【捪】12195

ビン 捪(5－12317)に同じ。〔正字通〕捪、同レ捪。

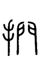
【⿰扌忽】12196

コツ コチ 〔集韻〕呼骨切 月

❶**うつ**。〔方言、十〕南楚相推搏曰レ⿰扌必、或曰レ⿰扌忽。〔廣雅、釋詁三〕⿰扌忽、擊也。❷**はらふ**。ふるふ。〔集韻〕⿰扌忽、一曰、去レ塵也。

【捫】12197

ボン モン 〔集韻〕謨奔切 元 ㄇㄣˊ men^{2}


小篆

❶**なでる**。さする。さぐる。〔說文〕捫、撫持也、从レ手門聲、詩曰、莫レ捫二朕舌一。〔段注〕撫、安也、一曰、揗也、謂二安揗而持一レ之也。〔素問、擧痛論〕捫而可レ得柰何。〔注〕捫、摸也、以レ手循摸也。〔素問、離合眞邪論〕必先捫而循レ之。〔注〕捫循、謂二手摸一。〔史記、高祖紀〕乃捫レ足。〔注〕索隱曰、捫、摸也。❷**とる**。もつ。つかむ。〔說文、捫撫持也、桂注〕捫持、謂三手把二執物一也。〔詩、大雅、抑〕莫レ捫二朕舌一。〔傳〕捫、持也。❸**ひねる**。〔晉書、苻堅載記下〕捫レ蝨而言、旁若レ無レ人。

【捫紗】1 men^{2} sha^{1} 紗で蔽ふこと。

【捫蝨】2 モンシツ しらみをひねる。轉じて、無頓著の意。蝨は一に虱に作る。晉の王猛が、人の前を憚らずに、着物の蝨を捫りながら當世の事を談じた故事。〔晉書、苻堅載記下〕桓溫入レ關、(王)猛被レ褐而詣レ之、一面談二當世之事一、捫レ蝨而言、旁若レ無レ人。

【捫蝨軒】3 モンシツケン 宋、石延年(8－24024··890)の室名。

【捫蝨新話】4 モンシツシンワ 書名。十五卷。宋、陳善撰。經類二十五條・史類六條・子類五條・讀書類四條・解義類二條・文章類十五條・文才類十二條・詩類三十六條・詩文類六條・詩詞類一條・詩四六類一條・詞曲類二條・書畫類五條・識類三條・聖賢類五條・異端類一條・儒釋類一條・老氏類一條・佛氏類九條・佛老類一條・神仙類二條・學校類二條・用人類一條・設官類一條・立法類一條・人才類三條・人事類五條・事機類一條・功過類三條・見識類五條・權變類二條・知己類一條・結交類一條・朋黨類一條・忠義類一條・姦佞類三條・戲謔類一條・人倫之變類三條・風鑒類一條・誅殺類一條・夢寢類二條・變化類一條・死生類二條・鬼神類一條・花木類・蟲魚類・山川類各一條・拾

遺類五條の四十八類に分け、經史詩文を攷論し、兼ねて雜事に及ぶ。佛法を主とし、王安石を宗とするため、元祐の諸家を詆ること甚だしく、殊に三蘇を駁するものが多い。〔四庫提要、子、雜家類存目〕。

【捫循】5（モンジュン） 手でさぐる。〔素問、離合眞邪論、必先捫而循㆑之、注〕捫循、謂㆓手摸㆒。

【捫心】6（モンシン） 胸を撫でる。手を胸に置く。〔顏之推、詩〕鏡中不㆓相識㆒、捫㆑心徒自憐。〔李白、白田馬上聞㆑鶯詩〕驅㆑馬又前去、捫㆑心空自悲。

【捫舌】7（モンゼツ） ❶舌をおさへる。ものを言はせない。又、ものを言はない。〔詩、大雅、抑〕莫㆑捫㆓朕舌㆒、言不㆑可㆑逝矣。〔傳〕捫、持也。〔劉榮嗣、有㆑感詩〕捫㆑舌藏㆑身消㆓永日㆒、隨㆑心曝㆑背倚㆓前簷㆒。❷mén² shé² 舌を捲く。

【捫然】8（モンゼン） 無爲のさま。自分の身體を撫でさすつてゐるだけで積極的に事を行はうとしないさま。〔賈子新書、威不信〕德可㆓遠施㆒、威可㆓遠加㆒、舟車所㆑至、可㆑使㆑如㆑志、而特捫然、數百里而威令不㆑信、可㆑爲㆓流涕㆒者此也。

【捫足】9（モンソク） 足をさぐる。〔史記、高祖紀〕漢王傷㆑胸、乃捫㆑足曰、虜中㆓吾指㆒。〔注〕索隱曰、捫、摸也。

【捫搎】10 mên² suen¹ さぐる。摸索。

【捫著】11（モンチャク） ごたごた。悶著。紛爭。

【捫住】12 mên² chu⁴ なでさする。ひねる。

【捫天】13（モンテン） 天をなでる。天をつかむ。〔楚辭、九章、悲回風〕邃儵忽而捫㆑天。〔補注〕捫、撫也。〔後漢書、皇后上、和熹鄧皇后紀〕后嘗夢捫㆑天、蕩蕩正青、若㆑有㆓鐘乳狀㆒、乃仰嗽飮㆑之。

【捫頭】14（モントウ） 頭をなでる。〔惠洪、蘇子平汪履道試㆓李潘墨㆒詩〕我非㆓南陽㆒不㆓能辨㆒、以㆑手捫㆑頭空嘆息。

【捫摸】15（モンバク） ❶つかむ。とる。〔釋名、釋宮室〕在㆑外爲㆔人所㆓捫摸㆒也。❷さぐる。〔搜神記、三〕喬元爲㆓司徒長史㆒、五月末、于㆓中門㆒臥、夜半後、見㆔東壁正白、如㆓開㆑門明㆒、呼㆓左右㆒、左右莫㆑見、因起自往、手捫㆓摸之㆒、壁自如㆑故、還㆑床復見。

【捫腹】16（モンプク） 腹を撫でる。〔白居易、飽食閑坐詩〕捫㆑腹起盥漱、下㆑階振㆓衣裳㆒。〔蘇軾、寓㆓居定惠院之東㆒雜花滿㆑山有㆓海棠一株㆒土人不㆑知㆑貴也詩〕先生食飽無㆓一事㆒、散步逍遙自捫㆑腹。

【捫腹齋】17（モンプクサイ） 清、張宗松(**4－9812**‥1294)の號。

【捫蘿】18（モンラ） つたをつかみもつ。〔范雲、送㆓沈記室㆒夜別詩〕捫㆑蘿正憶㆑我、折㆑桂方思㆑君。〔宋之問、靈隱寺詩〕捫㆑蘿登㆑塔遠、刳㆑木取㆑泉遙。〔孟浩然、宿㆓天台桐柏觀㆒詩〕捫㆑蘿亦踐㆑苔、輟㆑棹恣㆓探討㆒。

【捫骨相】19（モンコツサウ） 手で骨相をさぐり見る。唐の貞元の末に、相骨山人が目が無く、手で骨相をさぐつて貴賤を知つた故事。〔太平廣記〕唐貞元末、相骨山人無㆑目、逢㆑人以㆑手捫㆑之、必知㆓貴賤㆒。

【捫膝軒】20（モンシツケン） 清、許箕(**10－35298**‥43)の室名。

【捫膝居士】21（モンシツコジ） 宋、喩汝礪(**2－3979**‥22)の號。靖康の難に、金人が僞楚を立てんことを議するや、膝をさすつて其の屈すべからざるを論じた人。〔宋史列傳補遺〕喩汝礪、陵陽人、擧㆓進士㆒、歷㆓官尙書郞㆒、靖康之難、金人議㆑立㆓僞楚㆒、汝礪自捫㆓其膝㆒曰、此膝豈可㆑屈哉、卽日挂㆓冠神武門㆒、自號㆓捫膝居士㆒。

【捫膝先生】22（モンシツセンセイ） 宋、喩汝礪(**2－3979**‥22)の尊稱。捫膝居士を見よ。

【捬】
12198

㊀フ 〔集韻〕匪父切 麌
㊁フ 〔集韻〕方遇切 遇
㊂ホウ フ 〔集韻〕彼口切 有

㊀❶**なでる**。撫(**5－12743**)に同じ。〔漢書、趙充國傳〕選㆓擇良吏㆒、捬循和輯。〔注〕師古曰、捬、古撫字。❷**ふせぐ**。〔集韻〕捬、捍也。㊁**手を物につける**。拊(**5－11947**)に同じ。〔集韻〕拊、以㆑手著㆑物也、或作㆑捬。㊂捬擻は、ふるふ。〔集韻〕捬、捬擻、振也。

【⿰扌畀】
12199

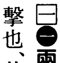
ヒ 〔集韻〕必至切 寘

あたへる。畀(**7－21748**)に同じ。〔方言、十三〕⿰扌畀、予也。〔集韻〕畀、說文、相付與㆑之、約在㆓閣上㆒也、或作㆑⿰扌畀。

参考 捭(**5－12200**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕⿰扌畀、同㆑畀。捭、拜上聲、擲也。

【捭】
12200

㊀ハイ ハ 〔集韻〕補買切 ㄅㄞˇ pai³ 蟹
㊁ヘイ ハイ 〔集韻〕普米切 薺
㊂ハク ヒャク 〔韻會〕博厄切 陌


小篆

㊀❶**兩手でうつ**。〔說文〕捭、兩手擊也、从㆑手卑聲。〔段注〕謂㆓左右兩手橫開旁擊㆒也。〔左思、吳都賦〕拉捭摧藏。〔注〕善曰、捭、兩手擊也。❷**なげうつ**。〔康熙字典、辨似〕捭、拜上聲、擲也。❸**ひらく**。〔鬼谷子、捭闔〕捭㆑之者料㆓其情㆒也、闔㆑之者結㆓其誠㆒也。㊁**こぼつ**。⿰卑攴(**5－13241**)に同じ。〔集韻〕⿰卑攴、說文、毀也、或从㆑手。㊂**さく**。擘(**5－12835**)に通ず。〔禮、禮運〕燔㆑黍捭㆑豚。〔釋文〕捭、又作㆑擘。

参考 ⿰扌畀(**5－12199**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕⿰扌畀、同㆑畀。捭、拜上聲、擲也。

【捭闔】1（ハイカフ） ❶開と閉。開合。〔鬼谷子、捭闔〕捭闔者天地之道、捭闔者以變㆓動陰陽㆒、四時開閉、以化㆓萬物㆒、縱橫反出、反覆反忤、必由㆑此矣。❷鬼谷子の篇名。言を人に進めるには、或は語り或は默し、反覆して其の情を探るべきをいふ。

【⿰扌⿱田干】
12201

ハイ

捭(**5－12200**)に同じ。〔字彙〕⿰扌⿱田干、同㆑捭。

【挴】
12202

バイ マイ 〔集韻〕母亥切 賄

むさぼる。〔集韻〕挴、貪也。

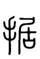
【⿰扌⿱从龰】
12203

サウ

摐(**5－12566**)に同じ。〔廣韻〕摐、⿰扌⿱从龰、同。

【据】
12204

㊀キョ コ 〔集韻〕斤於切 ㄐㄩ chü¹ 魚
㊁キョ コ 〔集韻〕居御切 ㄐㄩˋ chü⁴ 御


小篆

㊀❶**はたらくさま**。經營するさま。〔說文〕据、戟挶也、从㆑手居聲。〔詩、豳風、鴟鴞〕予手拮据。〔傳〕拮据、撠挶也。〔釋文〕口足爲㆑事曰㆓拮据㆒。㊁❶**はたらく**。〔集韻〕据、拮据、手病。❷**よる**。據(**5－12839**)に通ず。〔說文、段注〕公羊注段㆑据爲㆑據。〔公羊、隱、元、曷爲先言㆑王而後言㆓正月㆒、注〕据㆓下秋七月天王、先言㆑月而後言㆑王。〔漢書、酷吏傳贊〕据㆑法守㆑正。❸**おごる**。不遜。倨(**1－790**)に通ず。〔說文通訓定聲〕据、段借爲㆑倨。〔史記、司馬相如傳〕据以驕驁。〔注〕索隱曰、据、直項也。邦**するゑる**。㋑おきするゑる。すゑおく。㋺神佛に物を供へる。供物をあげる。㋩灸を灼く。

【据腰】1（スヱゴシ） 腰を或る位置にすゑて居ること。又、其の腰つき。

【据傲】2（キョガウ） たかぶりあなどる。倨傲。〔呂覽、懷寵〕子之在㆑上無道、据傲荒怠、貪戾虐㆑衆。〔注〕据、當㆓與㆑倨通㆒。

【据臥】3（キョグワ） おごりふせる。適意のさま。倨臥。〔論衡、順鼓〕雖㆓運氣無妄㆒、欲㆑令㆔人君高㆑枕据臥、以俟㆓其時㆒。

【据膳】4（スヱゼン） ❶食膳を人の前に据ゑおくこと。❷勞しないで他の供給を得ること。❸女の方

から男に挑みかかること。

【据置】5 スエオキ ㊀其の儘にして置くこと。㊁公債・預金などの元金を償還又は支拂をしないこと。

【据法】6 キョハフ 掟による。據法（5－12839‥33）に同じ。

【据物】7 スエモノ ㊀裝飾のためにすゑおくもの。置物。㊁昔、土壇に罪人の死骸を置いて、刀劍の切れ味をためしたこと。又、其の物。㊂据物宿の私娼。定まつた宿で賣淫し、他出して出合はしない。

〖据物宿〗8 スエモノヤド 專屬の私娼を置いた宿。〔好色一代女、六〕据物宿に行きて分けの勤めも恥づかし。

【据慢】9 キョマン おごりあなどる。倨慢。〔戰國、齊策〕易傳不㆑云乎、居㆓上位㆒、未㆑得㆓其實㆒、以喜㆓其爲㆑名者、必以㆓驕奢㆒爲㆑行据慢驕奢、則凶必從㆑之。

【据籠】10 スエコ すゑて置くかご。置籠。

【据風呂】11 スエフロ 大きな桶に竈をすゑつけ、之に湯を沸かして入浴に供するもの。すゑふろ。

【捯】12205

タウ

擣（5－12853）に同じ。〔集韻〕擣、或作㆑捯。

【捰】12206

［一］ワ 〔集韻〕鄔果切 ［哿］

［二］ラ 〔集韻〕盧臥切 ［箇］

［一］つまむ。捰扼。〔集韻〕捰、捰扼、摘也。［二］をさめる。或は挼（5－12109）に作る。〔集韻〕捰、理也、或作㆑挼。

【捱】12207

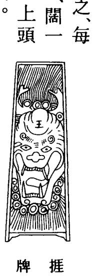
ガイ ゲ 〔集韻〕宜佳切 ㄞˊ ai^2 ［佳］

㊀ふせぐ。こばむ。〔集韻〕捱、拒也。㊁のびる。ゆるむ。ゆるめる。〔字彙〕捱、延捱。〔正字通〕捱、俗謂㆓延緩㆒曰㆑捱。㊂［現］うける。られる。挨（5－12082）に通ず。

【捱過】1 ガイクヮ ひきすごす。〔福惠全書、錢穀部、比較〕意謂捱㆓過此卯㆒、便是下手接㆑比。

【捱到】2 ガイタウ ゆつくりいたる。〔長生殿、獻飯〕慢慢的捱㆓到蜀中㆒。

【捱牌】3 ガイハイ 盾の名。〔武備志、牌〕捱牌、亦用㆓白楊木㆒爲㆑之、每面長五尺、闊一尺五寸、上頭比㆑下略小。



捱牌（武備志）

【捱不過】4 ai^2 pu kuo^4 しのびきれない。のばされない。〔長生殿、得信〕倒捱不過人間半月秋。

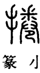
【捲】12208

［一］ケン ゲン 〔集韻〕逵員切 ㄐㄩㄢˇ chüan^3 ［先］

［二］ケン 〔集韻〕古轉切 ［銑］

［三］ケン 〔集韻〕古倦切 ［霰］

［四］ケン クヮン 〔集韻〕苦遠切 ［阮］



小篆

［一］㊀まく。をさめる。收斂する。〔說文〕捲、一曰、捲收也。〔段注〕即今人所㆑用舒卷字也。〔集韻〕捲、一曰、收也。〔戰國、秦策〕桑戶捲樞之士。〔注〕捲㆓揉桑條㆒、假以爲㆑樞。〔剪燈餘話、芙蓉屛記〕席㆓捲其所㆑有。㊁をさめる。正す。〔廣雅、釋詁三〕捲、治也。㊂氣力。〔說文〕捲、气埶也、从㆑手卷聲、國語曰、有㆓捲勇㆒。㊃こぶし。にぎり。拳（5－11996）に通ず。〔說文通訓定聲〕捲、叚借爲㆑拳。〔史記、孫子傳〕解㆓雜亂紛糾㆒者、不㆑控㆑捲。〔注〕索隱曰、捲、卽拳也。〔後漢書、張堪傳〕捲握之物。〔注〕捲握、猶㆓掌握㆒也。㊄つとめる。劵（2－2330）に通ず。〔說文通訓定聲〕捲、叚借爲㆑劵。〔莊子、讓王〕捲捲乎后之爲㆑人、葆力之士也。〔釋文〕捲捲、音權、郭音眷、用㆑力貌。［二］をさめる。まきをさめる。通じて卷（2－2860）に作る。〔集韻〕捲、斂也、通作㆑卷。［三］㊀つとめる。［一］の㊄を見よ。㊁西捲は、縣名。或は棬（6－14969）に作る。〔集韻〕捲、西捲、縣名、或从㆑木。［四］㊀うつ。〔集韻〕捲、摶也。㊁［二］に同じ。

【捲握】1 ケンアク 手の內に卷き込みにぎる。手に握る。掌握。又、にぎりこぶし。〔淮南子、要略〕捲握而不㆑散也。〔傅咸、扇賦〕心取㆓快于捲握㆒、尙何希㆓乎北林㆒。

〖捲握物〗2 ケンアクブツ 珠玉の類。〔後漢書、張堪傳〕珍寶山積、捲握之物、足㆑富㆓十世㆒。〔注〕捲握、猶㆓掌握㆒也、謂㆓珠玉之類㆒也。

【捲烟】3 ケンエン 卷煙草。〔周禮政要、攷工〕凡大而造㆑舟鑄㆑礮、小而繅㆑絲織㆑布、紡㆑紗製㆑罽、以及㆓洋火・洋紙・捲烟・礶貨之屬㆒、一一精究而仿㆓製之㆒。

【捲荷】4 ケンカ 蓮の卷いてゐる葉。卷荷。〔韓偓、野塘詩〕卷荷忽被㆓微風觸㆒、瀉下淸香露一杯。

【捲角】5 chüan^2 chiao^3 紙の隅を折返す。

【捲甲】6 ケンカフ 甲冑を脫して身輕になること。卷甲。

【捲起】7 ケンキ ㊀まきあげる。卷起（2－2860‥9）を見よ。㊁chüan^2 ch'i^3 まき始める。

【捲畫】8 chüan^3 hua^4 畫をまく。

【捲結】9 ケンケツ まきむすぶ。〔釋名、釋天〕暈、捲也、氣在㆑外捲㆓結之㆒也、日月俱然。

【捲捲】10 ケンケン 力を用ひて勞するさま。捲捲乎・捲然を見よ。

〖捲捲乎〗11 ケンケンコ 力を用ひて勞するさま。〔莊子、讓王〕捲捲乎后之爲㆑人、葆力之士也。〔釋文〕捲捲、用㆑力貌。

〖捲捲然〗12 ケンケンゼン 捲捲乎に同じ。〔淮南子、人閒訓〕今倦倦然守㆓一節㆒推㆓一行㆒。

【捲紗】13 ケンサ 紗（うすぎぬ）をまきあげる。卷紗。〔蘇軾、寓㆓居定惠院之東㆒雜花滿㆑山有㆓海棠一枝㆒云云詩〕朱唇得㆑酒暈生㆑臉、翠袖卷㆑紗紅映㆑肉。

【捲收】14 ケンシウ まきをさめる。卷收。〔說文〕捲、气埶也、从㆑手卷聲、國語曰、有㆓捲勇㆒、一曰、捲收也。

【捲袖】15 chüan^3 hsiu^4 袖をまくり上げる。

【捲裳】16 ケンシヤウ もすそをかかげる。褰裳（10－37741‥22）に同じ。

【捲尺】17 マキジヤク ものさしの一種。布や皮を以て帶のやうに作り、自由に卷舒することができ、地面の測量などに用ひる。俗に皮帶尺ともいふ。卷尺。

【捲手】18 ケンシユ にぎりこぶし。〔淮南子、兵略訓〕五指之更彈、不㆑若㆓捲手之一挃㆒。

【捲舒】19 chüan^3 shu^1 卷くことと伸ばしひろげること。卷舒。

【捲席】20 ケンセキ むしろをまく。〔崔珏、岳陽樓晚望詩〕樓上北風斜捲㆑席、湖中西日倒銜㆑山。

【捲線】21 ケンセン 螺旋狀にまいた絕緣體。

【捲堂】22 ケンダウ ㊀堂內の者殘らず。全堂。又、全堂が課業を止めること。〔癸辛雜識〕三學捲堂伏㆑闕上書。㊁chüan^3 t'ang^2 寺院中の僧侶が同盟罷業すること。

【捲土】23 ケンド 土をまく。砂塵を卷き起す。轉じて、勢のはげしいこと

〖捲土重來〗24 ケンドヂュウライ ケンドチョウライ 砂塵を卷き起す勢で再び來る。一旦衰へた勢力をもりかへす。卷土重來（2－2860‥102）に同じ。〔杜牧、題㆓烏江亭㆒詩〕江東子弟多㆓才俊㆒、卷土重來未㆑可㆑知。

【捲桶】25 ケントウ 桶の一種。檜の薄板で作つたもの。まげをけ。〔和漢三才圖會、庖廚具、桶〕捲桶、和介平計、捲㆓檜薄板㆒作㆑之、不㆑用㆑箍、以㆓樺皮㆒縫㆑之。

【捲髮】26 ケンパツ 縮れがみ。〔北史、王世充傳〕王世充、字行滿、本西域胡人也、云云、捲髮豺聲、沈猜多㆓詭詐㆒。

【捲伴】27 ケンバン 他人の妻女を強奪して己の妻とし、平氣で生活すること。〔桂海虞衡志、雜志〕捲伴、南州法度疏略、婚姻不㆑正、村落強暴、竊㆓人妻女㆒以逃、轉㆓移他所㆒、安居自若、謂㆓之倦伴㆒、言㆔捲以爲㆓伴侶㆒也。

【捲棚】28 ケンボウ 白洲の緣先。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕放告時、官坐㆓捲棚㆒。

【捲毛】29 chüan^3 mao^2 縮れ毛。

【捲勇】30 ケンユウ 大なる勇氣。卷勇。〔國語、齊語〕桓

公又問焉曰、於二子之鄉一、有下卷勇股肱之力、秀二出於衆一者上、有則以告。〔注〕大勇爲レ捲。

【捲了】31 chüan² liao³ まきあげる。とりあげる。〔紅樓夢、二回〕他意欲捲了兩家的銀子。

【捲簾】32ケンレン すだれをまく。〔王勃、滕王閣詩〕珠簾暮捲西山雨。

【捲簾格】33 chüan² lien² kê² 正月の燈節に行はれる燈謎中の隱句で、逆さに讀むもの。燈謎(7-19402・・76)を見よ。

〔捲簾子〕34 chüan³ lien² tzŭ 簾をまく。

【捲露】35ケンロ 朝早く田畑の作物に置いてゐる露。轉じて、農夫が早く田畑を見廻ることをいふ。

【捲心菜】36 chüan³ hsin¹ tsʻai⁴ 甘藍の變種。

【捲舌韻】37ケンゼツヰン 發音の際に、舌尖を捲き起すやうにして發音するもので、注音符號のルにあたるもの。

【捲地皮】38ケンチヒ 官吏が貪婪で人民から租稅を捲き上げること。王知訓が宣州に帥となり、嘗て入覲して宴を賜はつた。因つて伶人が戲れて綠衣の鬼を作り、之を宣州の土地に擬し、王が貪婪で入覲するに宣州の地皮をも併せ持つて來たといつた故事。〔盧仝、客謝レ井詩〕揚州惡百姓、疑三我卷二地皮一。〔山堂肆考〕王知訓帥二宣州一、性貪婪、因二入覲賜一レ宴、伶人戲作二綠衣大面如一レ鬼、或問、何爲者、答曰、吾宣州土地也、問、何故來レ此、曰、王知訓入覲、和二地皮一捲來、故得レ至レ此。

【捲圖峯】39ケントホウ 峯の名。浙江省樂清縣雁蕩山の獨秀峯の北。

【捲攤子】40 chüan³ tʻan¹ tzŭ 露店をたたんで片附ける。店を仕舞ふ。

【捲鋪蓋】41 chüan³ pʻu¹ kai ❶蒲團を捲く。❷止める。廢する。

【捲螺風】42ツジカゼ 急に螺旋狀に吹き來る風。つむじかぜ。

【捲腦折角】43ケンナウセツカク 上部を捲いたり、隅を折つたりすること。〔趙孟頫、文〕善觀レ書者、澄レ神端レ慮、淨レ几焚レ香、勿レ捲レ腦、勿レ折レ角、勿二以レ爪侵一、勿二以レ唾揭一、勿二以作レ枕、勿二以夾レ刺。

【捸】12209 ヘイ 抦(5-11903)に同じ。〔集韻〕抦、或作レ捸。

【捳】12210 ガク 〔集韻〕逆角切 覺 はじく。〔集韻〕捳、抨也。

【⿰扌忿】12211 フン 扮(5-11830)に同じ。〔集韻〕扮、或作レ⿰扌忿。

【捴】12212 ソウ 揔(5-12596)に同じ。〔字彙〕捴、同レ揔。

【⿰扌⿸厂兆】12213 セウ 〔集韻〕千遙切 蕭 高い。陗⿰扌⿸厂兆。〔集韻〕⿰扌⿸厂兆、廣雅、陗⿰扌⿸厂兆、高也。

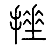
【捵】12214 ㊀テン 〔集韻〕他典切 銑 ㄔㄣˇ chʻen¹ ㊁チン 〔集韻〕丑忍切 軫 ㊂デン ネン 〔集韻〕乃殄切 銑

㊀㊁のばす。〔集韻〕捵、手伸レ物也。㊂とる。又、ふむ。撚(5-12713)に同じ。〔集韻〕撚、說文、執也、一曰、蹂也、或从レ典。

【捵麪】1 chʻen¹ mien⁴ 手で引きのばした麪。切麪の對。

【捵練】2 chʻen¹ lien 難題をふつかけて人を困らせる。

【捶】12215 ㊀スイ 〔集韻〕主蘂切 紙 ㄔㄨㄟˊ chʻuei² ㊁タ 〔集韻〕都果切 哿


小篆

㊀❶うつ。杖でたたく。挃(5-12758)に同じ。〔正字通〕捶、本作レ挃。〔說文〕挃、㠯レ杖擊也、从レ手坙聲。〔廣雅、釋詁三〕捶、擊也。〔孟子、梁惠王上〕可レ使三制レ梃以撻二秦楚之堅甲利兵一矣、〔注〕作レ杖以捶二敵國堅甲利兵一。〔荀子、正論〕捶笞臏腳。〔注〕捶・笞、皆杖擊也。〔後漢書、文苑、杜篤傳〕捶二驅氏・僰一。〔注〕捶、擊也。❷つく。うすづく。〔廣雅、釋詁四〕捶、舂也。〔禮、內則〕捶反二側之一。〔注〕捶、擣レ之也。❸むち。箠(8-26158)に通ず。〔說文通訓定聲〕捶、叚借爲レ箠。〔莊子、至樂〕撽以二馬捶一。〔釋文〕捶、馬杖也。❹鑛石を吹分ける具。錘(11-40547)に通ず。〔說文通訓定聲〕捶、叚借爲レ錘。〔莊子、大宗師〕皆在二鑪捶之閒一耳。〔釋文〕捶、本又作レ錘、李云、錘、鴟頭頞口、句レ鐵以吹レ火也。❺或は棰(6-14978)に作る。〔集韻〕捶、說文、以レ杖擊也、或从レ木。㊁❶はかる。敁捶。或は敠(5-13290)に作る。〔集韻〕捶、敁二捶物輕重一也、或作レ敠。〔莊子、知北遊〕大馬之捶レ鉤者、年八十矣、而不レ失二豪芒一。〔釋文〕捶、郭音、丁果反、徐、之累反、李、之睡反、云云、司馬・郭云、捶者、玷二捶鉤之輕重一、而不レ失二豪芒一也。❷うつ。きたへる。〔莊子、知北遊〕大馬之捶レ鉤者、年八十矣、而不レ失二豪芒一。〔釋文〕或說云、江東三魏之閒、人皆謂レ鍛爲レ捶、音字亦同。〔淮南子、道應訓〕捶レ鉤。〔注〕捶、都果反、鍛レ銀擊也。

【捶扼】1スイアク 要害に立て籠って擊つこと。〔漢書、王莽傳中〕壺口捶レ扼、尉二陸于後一。〔注〕師古曰、捶扼、謂下據二險阨一而捶擊上也。

【捶丸】2スイグワン 古の遊戲。木でたまを作り、杖で擊つ。今のゴルフのやうなもの。〔丸經序〕捶丸、古戰國之遺策也、宋徽宗・金章宗、皆愛二捶丸一。

【捶擊】3スイゲキ むちうつ。捶撻。〔漢書、陳餘傳〕榜笞數千、〔注〕師古曰、謂三捶二擊之一也。〔晉書、愍懷太子傳〕或有二犯忤者一、手自捶二擊之一。

【捶揳】4スイケツ 捶擊に同じ。

【捶鉤】5スイコウ タコウ おびがねをきたへる。〔莊子、知北遊〕大馬之捶レ鉤者、年八十矣、而不レ失二豪芒一。〔疏〕捶、打鍛也、鉤、腰帶也。〔釋文〕捶、郭音、丁果反、徐、之累反、李、之睡反。〔淮南子、道應訓〕大司馬捶レ鉤者、年八十矣、而不レ失二鉤芒一。

【捶策】6スイサク 馬の鞭。箠策。〔韓非子、姦劫弑臣〕無二捶策之威、銜橛之備一、雖二造父一不レ能二以服レ馬。

【捶殺】7スイサツ むちうちころす。叩き殺す。〔北史、酷吏、王文同傳〕召二郡官人一、小有二遲違一者、輒覆二面于地一而捶二殺之一。

【捶楚】8スイソ 罪人をうつむち。しもと。棰楚。〔晉書、劉隗傳〕捶楚之下、無レ求不レ得、囚人畏痛、飾レ辭應レ之。〔顏氏家訓、涉務〕惜レ行二捶楚一、所三以處二於清名一。〔杜甫、送二高三十五書記一詩〕脫レ身簿尉中、始與捶楚辭。〔韓愈、八月十五夜贈二張功曹一詩〕判司卑官不レ堪レ說、未レ免三捶二楚塵埃閒一。

【捶打】9スイダ むちうつ。捶撻。〔南史、孝義上、劉渢傳〕奴婢輩捶二打之一。

【捶撻】10スイタツ むちうつ。鞭撻。笞撻。捶打。〔晉書、樂志下〕嫂捶二撻婢一過苦。〔顏氏家訓、教子〕捶撻至レ死而無レ威、忿怒日隆而增レ怨。

【捶笞】11スイチ むちうつ。〔荀子、富國〕威強足三以捶二笞之一。〔注〕捶・笞、皆杖擊也。〔越絕書、越絕平王內傳〕捶二笞平王之墓一。

【捶⿰土余】12スイヂヨ 土をつき固め表面を奇麗にする。一說に、捶⿰土余は捶涂トタ（つき固めて塗る）の誤といふ。〔墨子、節葬下〕必捶二⿰土余差通一。〔閒詁〕畢云、捶、當レ爲レ埵、說文云、堅レ土也、⿰土余、當レ爲レ涂、說文・玉篇無二⿰土余字一、言二築涂使レ堅、詒讓案、云云、則捶亦有二堅築之義一、⿰土余・除聲義亦通、謂レ除レ道也。

【捶馬】13スイバ 馬をむちうつ。〔左思、魏都賦〕憑レ軾捶レ馬、袖幕紛半。

【捶罵】14スイバ むちうってののしる。〔魏書、乞伏保傳〕性嚴肅、捶罵切至。〔惠洪、初到二鹿門上莊一

詩〕暮歸逢㆓醉人㆒、往往遭㆓捶罵㆒。

【捶拊】15 スイフ　むち。箠策。

【捶糞】16 スイフン　あくたをむちうつ。歐明は青洪君の婢の如願を得、願ふ所が如願の力で皆かなつて富人となつた。其の後、如願を愛せず、或る正月の歲朝に朝早く如願を起したが起きなかつたので、之を捶たうとすると、去年の塵芥を集めた塚の上に逃れ、其處から見えなくなつた。明は如願が其の塚の中に居ると思ひ、杖を以て塵芥をうち、汝、我を富まさばまた打たじといつたといふ故事。元日に去年の塵芥を集めた所へ行き、之を捶つて「富ましめよ」と言ふ後世の風習は之に本づく。〔事物紀原、歲時風俗部、捶糞〕錄異傳曰、歐明遇㆓彭澤青洪君㆒、君有㆑婢、名㆓如願㆒、君使㆑隨㆑明、明意有㆑所㆑願、如願輒得㆑之、成㆓富人㆒、後不㆔復愛㆓如願㆒、正月歲朝、鷄初鳴、呼㆑之不㆓即起㆒、欲㆑捶㆑之、願走㆓糞上㆒、乃故歲掃除所㆑聚者、由㆑此逃去、明謂、在㆓積壤中㆒、以㆑杖捶㆑糞使㆑出、知㆑不㆑可㆑得、因曰、汝我富不㆓復捶㆑汝也、今人元日鷄鳴時、輒往㆓積壤閒㆒捶㆑之云、使㆓人富㆒、蓋起㆑自㆓歐明㆒也、今京東之俗猶然。

【捶表】17 スイヘウ　標識として立てた柱。郵表。〔墨子、襍守〕守㆑表三人、更立㆓捶表㆒而望。〔閒詁〕捶表、兪謂、卽郵表、是也。

【捶扑】18 スイボク　むちうつ。捶楚。捶撻。〔魏志、何夔傳、注〕加㆓其捶扑之罰㆒、肅以㆓小懲之戒㆒。

【捶撲】19 スイボク　むちうつ。叩く。捶扑。〔後漢書、申屠剛傳〕捶㆓撲牽㆔曳於前㆒。〔後漢書、左雄傳〕加以㆓捶撲㆒。

【捶布石】20 ch'uei² pu⁴ shih²　糊を付けた布を置き、槌で打つて光澤を出すために用ひる方形の石。きぬた。布打ち。砧。

【捷】
12216

㊀ セフ ゼフ　〔集韻〕疾葉切　ㄐㄧㄝˊ chieh²　葉

㊁ サフ セフ　〔集韻〕測洽切　洽

小篆

㊀❶ぶんどる。又、ぶんどり。戰利品。俘虜。〔說文〕捷、獵也、軍獲得也、从㆑手疌聲、春秋傳曰、齊人來獻㆓戎捷㆒。〔春秋、莊、三十一〕齊侯來獻㆓戎捷㆒。〔杜注〕捷、獲也。〔公羊、莊、三十一、注〕戰所㆑獲物曰㆑捷。〔穀梁、莊、三十一〕軍得曰㆑捷。〔淮南子、泰族訓〕非㆑不㆑捷也。〔注〕捷、軍之所㆑獲曰㆑捷。❷かつ。〔爾雅、釋詁〕捷、勝也。〔詩、小雅、采薇〕一月三捷。〔傳〕捷、勝也。〔左氏、莊、八〕捷、吾以㆑女爲㆓夫人㆒。〔注〕捷、克也。❸かち。かちいくさ。〔宋書、夷蠻傳評〕泉浦之捷、威震㆓滄溟㆒。❹なる。〔小爾雅、廣詁〕捷、成也。❺すみやか。はやい。倢(1－784)に通ず。〔說文通訓定聲〕捷、叚借爲㆑倢。〔小爾雅、廣詁〕捷、速也。〔集韻〕捷、一曰、亟也。〔呂覽、貴卒〕可㆑謂㆑捷矣。〔荀子、君子〕事業捷成。〔注〕捷、疾也。❻はやみちをとる。ちかまはりをする。〔左氏、成、五〕重人曰、待㆑我、不㆑如㆓捷之速㆒也。〔注〕捷、邪出也。〔疏〕楚辭謂㆔邪行㆓小道㆒爲㆓捷徑㆒、是捷爲㆓邪出㆒。〔國語、晉語五〕不㆑如㆓捷而行㆒。〔注〕旁出爲㆑捷。❼さとい。すばしこい。〔廣雅、釋詁一〕捷、慧也。❽口がしこい。諓(10－35588)に通ず。〔正字通〕捷、儇利貌、小雅、捷捷幡幡、謀欲㆓諓言㆒、通作㆑諓。❾そしる。或は倢(1－784)・唼(2－3780)に作る。〔集韻〕捷、捷捷、譖言也、或从㆑人、亦作㆑唼。❿さす。〔集韻〕捷、插也。⓫およぶ。つづく。接(5－12280)に通ず。〔說文通訓定聲〕捷、叚借爲㆑接。〔小爾雅、廣詁〕捷、及也。〔莊子、人閒世〕必將㆓乘㆑人而鬭㆒、其捷。〔釋文〕捷、引續也。〔漢書、揚雄傳上〕豈駕鵝之能捷。〔注〕晉灼曰、捷、及也。⓬重量の一單位。一兩と二兩との中間の重さ。三十六銖。〔小爾雅、衡〕二十四銖曰㆑兩、兩有半曰㆑捷、倍㆑捷曰㆑擧。⓭やしなふ。濈(7－18450)に通ず。〔說文通訓定聲〕捷、叚借爲㆑濈。〔呂覽、論威〕捷㆓于肌理㆒。〔注〕捷、養也。⓮車がととのふ。輯(10－38420)に通ず。〔說文通訓定聲〕捷、叚借爲㆑輯。〔左氏、昭、八〕齊公子捷(字子車)。〔左氏、昭、二十四〕齊子淵捷(字子車)。⓯姓。〔尙友錄〕捷、曹姓、邾公子捷之後。㊁さす。さしはさむ。さしこむ。插(5－12346)に同じ。〔集韻〕插、說文、刺㆑肉也、或作㆑捷。〔儀禮、士冠禮〕捷㆑柶興。〔釋文〕捷、本又作㆑插。〔曹植、七啓〕捷㆓忘歸之矢㆒。

名乘　トシ。カツ。

【捷銳】1 セフエイ　すばやくするどい。〔竇臮、述書賦〕茂遠捷銳、足㆓以自給㆒。

【捷音】2 セフオン　戰勝や及第などのしらせ。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕側㆓耳捷音㆒、與有㆓榮耀㆒。〔六部成語、兵部、捷音、注解〕得㆑勝之信報。

【捷巧】3 セフカウ　すばやく巧み。すばしこい。又、すばしこさ。〔淮南子、主術訓〕不㆑可㆔責以㆓捷巧㆒。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕置㆓猨狖於櫺檻㆒兮、夫何以責㆓其捷巧㆒。

【捷黠】4 セフカツ　すばやくさかしい。敏慧。〔儀禮、大射儀、參見㆓鵠於干㆒、注〕正鵠皆鳥之捷黠者。

【捷悍】5 セフカン　すばしこくたけだけしい。〔蜀志、張嶷傳〕渠剛猛捷悍、爲㆔諸種深所㆓畏憚㆒。

【捷譏】6 セフキ　戲劇脚色の名。蓋し宋代雜劇脚色中の引戲の別名であらう。呂洞賓の雜劇中に見える。

【捷急】7 セフキフ　すばやい。口はしこい。〔後漢書、韋彪傳〕宜㆘鑒㆓嗇夫捷急之對㆒、深思㆗絳侯木訥之功㆖。〔注〕張釋之曰、夫絳侯・東陽侯言㆑事、曾不㆑能㆑出㆑口、豈效㆓此嗇夫喋喋利口捷急㆒哉。

【捷給】8 セフキフ　すばやく供給する意。口はしこい。應對がすばやいこと。利口。〔管子、大匡〕管仲曰、隰朋、聰明捷給、可㆑令㆑爲㆓東國㆒。〔史記、張釋之傳〕豈效㆓此嗇夫喋喋、利口捷給㆒哉。〔新書、保傳〕博聞彊記、捷給而善對者。

【捷擧】9 セフキョ　すばやく行ふ。〔韓非子、有度〕上智捷擧中㆑事、必以㆓先王之法㆒爲㆑比。

【捷快】10 chieh² k'uai⁴　すばやい。輕捷。

【捷獲】11 セフクワク　❶分捕品。〔公羊、莊、三十一、齊侯來獻㆓戎捷㆒、注〕戰所㆑獲物曰㆑捷。❷早く手に入れる。〔福惠全書、雜課部、新墾〕原爲㆓功名㆒希㆓圖捷獲㆒。

【捷卿】12 セフケイ　唐、劉迅(2－2224‥406)の字。

【捷勁】13 セフケイ　すばやくてつよい。〔北史、眞臘國傳〕悉拳髮垂㆑耳、性氣捷勁。

【捷徑】14 セフケイ　❶ちかみち。捷路。間道。〔楚辭、離騷〕夫唯捷徑以窘步。〔注〕捷、疾也、徑、邪道也。〔曹昭、東征賦〕遵㆓通衢之大道㆒兮、求㆓捷徑㆒欲㆑從㆑誰。〔後漢書、張衡傳〕捷徑邪至、我不㆑忍㆓以投㆑步、干進苟容、我不㆑忍㆓以歙㆑肩。❷必ずしも正道に從はない手近な方法。唐の盧藏用が進士に擧げられたが官を得ず、京師に近い終南山に隱れ、仙術を修めてゐたら、召されて官を授けられた。後日、司馬承禎が山に還らうとした時、藏用が終南山を指して、彼處には景色の佳い所が多いと言つたら、承禎が、私は彼處は仕宦の捷徑だと思つてゐると言つたので、藏用は恥ぢ入つた。終南捷徑。〔唐書、盧藏用傳〕司馬承禎、嘗召至㆓闕下㆒、將㆑還㆑山、藏用指㆓終南㆒曰、此中大有㆓嘉處㆒、承禎徐曰、以㆑僕視㆑之、仕宦之捷徑耳、藏用慙。

【捷健】15 セフケン　すばしこくつよい。〔鹽鐵論、刺權〕田獵出入、畢弋捷健。

【捷悟】16 セフゴ　世說新語の篇名。

【捷口】17 セフコウ　すばしこい口。〔吳志、陸凱傳〕非求㆓顏色㆒而取㆓好服㆒、捷口容悅者㆖也。

【捷才】18 chieh² ts'ai²　すばしこい才能。機智。頓智。〔紅樓夢、十八回〕我素乏捷才、不長於吟咏。

【捷子】19 セフシ　戰國、齊の人。史記は接子に作る。漢書藝文志、道家に捷子二篇がある。〔前漢書、三十〕。　「矢」。

【捷矢】20 セフシ　速い矢。〔莊子、徐無鬼〕敏給搏㆓捷

【捷鷙】21 セフシ　すばやくてあらあらしいこと。〔唐書、回鶻傳上〕請易二回紇一曰二回鶻一、言二捷鷙猶レ鶻然一。

【捷疾】22 セフシツ　すばやい。捷敏。〔史記、殷紀〕帝紂資辨捷疾、聞見甚敏。〔六韜、犬韜、武騎士〕壯健捷疾、超二絶倫等一。〔論衡、程材〕聰慧捷疾者、隨レ時變化。

〖捷疾鬼〗23 セフシツキ　❶宋の呉幵と莫儔とをいふ。〔靖康傳信錄〕金人欲下廢二趙氏一、立中張邦昌上、令二呉幵・莫儔、傳二道意旨一、往返數四、京師人謂二之捷疾鬼一。❷［佛］夜叉をいふ。道家にも此の神がある。〔慧苑音義、下〕夜叉、此云二祠祭鬼一、謂下俗間祠祭以求二恩福一者上也、舊翻二捷疾鬼一也。〔釋氏稽古略〕阿育王、碎二七寶末一、送二八萬四千塔一、命二耶舍尊者一、舒レ指放二光八萬四千道一、令下捷疾鬼各隨二一光盡處一安中置一塔上。

【捷書】24 セフシヨ　戰勝の報告書。帛に書いて旗竿の先につけた戰勝の報告書。〔杜甫、洗兵行〕中興諸將收二山東一、捷書夜報清晝同。〔王維、從軍辭〕旄頭夜落捷書飛、來奏二軍門一着二賜衣一。〔岑參、獻二封大夫一破二播仙一凱歌〕漢將承レ恩西破レ戎、捷書先奏未央宮。

【捷勝】25 セフシヨウ　地名。廣東省海豐縣の南東。

【捷成】26 セフセイ　すみやかに成る。〔荀子、君子〕長幼有レ序、則事業捷成、而有レ所レ休。〔注〕捷、速也。

【捷捷】27 セフセフ　❶擧動の輕くすばやいさま。捷疾。〔詩、大雅、烝民〕征夫捷捷、每懷靡レ及。〔傳〕捷捷、言レ樂レ事也。〔疏〕捷捷者、擧動敏疾之貌。❷すばしこく立回るさま。〔孔子家語、五儀解〕哀公問二於孔子一曰、請問二取レ人之法一、孔子對曰、事任二於官一、無レ取二捷捷一、無レ取二鉗鉗一、無レ取二啍啍一、捷捷、貪也、鉗鉗、亂也、啍啍、誕也。❸多辯の聲のさま。緝緝。〔詩、小雅、巷伯〕捷捷幡幡、謀欲二譖言一。〔傳〕捷捷、猶二緝緝一也。〔集傳〕捷捷、儇利貌。

【捷懾】28 セフセフ　心せはしくすること。心配し急ぐこと。〔後漢書、文苑下、趙壹傳〕捷懾逐レ物、日富月昌。〔注〕捷、疾也、懾、懼也、急懼逐レ物、則致二富昌一。

【捷先】29 セフセン　速かに先んずる。〔呂覽、論威〕凡兵欲二急疾捷先一。

【捷足】30 セフソク　はやあし。疾足。捷足先得を見よ。

〖捷足先登〗31 chieh² tsu² hsien¹ têng¹　早い者勝ち。良い地位や品などは先鞭を着けた人のものになる。捷足先得。

〖捷足先得〗32 セフソクセントク　敏捷な者が先づ利益を得る。〔史記、淮陰侯傳〕蒯通曰、云云、秦失二其鹿一、天下共逐レ之、於レ是高材捷足者、先得焉。

【捷速】33 セフソク　すばやい。さとい。捷疾。〔魏志、張燕傳〕燕剽捍捷速過レ人、故軍中號曰二飛燕一。〔南史、謝莊傳〕其捷速若レ此。

【捷捽】34 セフソツ　速かにつかむ。疾く物を取ること。〔淮南子、兵略訓〕同レ舟而濟二於江一、卒遇二風波一、百族之子、捷捽招二杼船一、若二左右手一。〔注〕捷、疾取也。

【捷對】35 セフタイ　應對のすみやかなこと。〔呉志、虞翻傳、注〕以二捷對一見レ異。

【捷猱】36 セフダウ　すばやいましら。猱は猴。〔甘澤謠〕飛走若二捷猱登一レ木、無レ有二蹶失一。

【捷剟】37 セフテツ　黄帝の臣の名。〔淮南子、人閒訓〕黄帝亡二其玄珠一、使二離朱・捷剟索一レ之、而弗レ能レ得レ之也、於レ是使二忽怳一、而後能得レ之。〔注〕離朱、明目、捷剟、疾利搏、善拾二於物一、二人皆黄帝臣也。

【捷得】38 セフトク　速かに會得する。〔宋史、周南傳〕從二葉適一講レ學、頓悟捷得。

【捷報】39 セフハウ　勝つたしらせ。戰勝のしらせ。〔澠水燕談錄、二〕及二捷報至一、上喜謂二莊敏一曰、嶺表平殄、皆卿之力也。

〖捷報處〗40 セフハウシヨ　官署の名。清、置く。兵部に屬し、各省から來た緊急の奏章を受領し、又、密諭・速諭を送達することを掌る。〔清會典、兵部〕捷報處、掌下接二馳奏之摺一、而遞中於宮門上。〔注〕郎中・員外郎・主事・筆帖式、無二定員一、由二堂官一酌委、各省由レ驛馳奏之摺、均至二捷報處一、由二司官一遞交二奏事處一入奏。

【捷敏】41 セフビン　さとい。すばやい。敏捷。〔韓非子、難言〕捷敏辯給、繁二於文采一、則見三以二爲史一。〔漢書、儒林、瑕丘江公傳〕高才捷敏。〔新序、雜事二〕聰明捷敏、人美之才也。

【捷武】42 セフブ　すばやくたくみ。捷巧。〔王褒、洞簫賦〕狀若二捷武超騰踰曳、迅漂巧一兮。〔注〕善曰、捷武、言二捷巧一。

【捷聞】43 セフブン　戰勝のしらせ。捷報。〔日本外史、德川氏正記、德川氏三〕途得二捷聞一、遂至二長湫一。

【捷便】44 chieh² pien⁴　便利な。敏捷な。

【捷步】45 セフホ　すみやかにあゆむ。〔後漢書、蔡邕傳論〕捷二步深林一、尙苦レ不レ密。〔後漢書、方術上、任文公傳〕惟文公大小負レ糧、捷步悉得二完免一。

【捷獵】46 セフレフ　❶相接するさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕捷獵鱗集、支離分赴。〔注〕善曰、捷獵、相接貌。❷高く顯はれるさま。〔左思、呉都賦〕抗二神龍之華殿一、施二榮楯而捷獵一。〔注〕善曰、捷獵、高顯貌。❸ふぞろひのさま。參差。〔王褒、洞簫賦〕鄰菌繚糾、羅鱗捷獵。〔注〕善曰、捷獵、參差也。

【捷路】47 セフロ　ちかみち。捷徑。〔薛逢、上二中書李舍人一啓〕念三以レ迷レ方指二其捷路一。

【捷旌旗】48 セフセイキ　勝つたしるしの旗。よいしらせのしるし。〔長生殿、賄權〕眼望二捷旌旗一、耳聽二好消息一。

【捷南宮】49 セフナンキユウ　科擧時代の會試に於て、禮部の試驗に及第することをいふ。

【捷利者】50 セフリシヤ　最も近道で、最も利益のあるもの。〔賴山陽、孟子論〕天下之捷利者、孰有レ如二孟子一哉。

【捷克斯拉佛克】51 チエツコスロヴアキヤ　もとの中部歐羅巴の共和國。Czechoslovakia の音譯。

【捸】12217　トツ　トチ　〔集韻〕他骨切　［月］

なめらか。〔集韻〕捸、滑利也。

【捹】12218　ホン　ボン　〔集韻〕蒲悶切　［願］

手のみだれるさま。〔集韻〕捹、手亂皃。

【⿰扌軋】12219　アツ　エチ　〔字彙〕乙黠切　［黠］

❶**おす。**〔字彙〕⿰扌軋、手捺也。❷扎(**5－11771**)に同じ。〔正字通〕⿰扌軋、扎同。

【⿰扌承】12220　シヨウ

拯(**5－11991**)に同じ。〔韻會〕⿰扌承、同レ拯。

【捺】12221　［一］ダツ　ナチ　〔集韻〕乃曷切　［曷］　ㄋㄚˋ　na⁴　［二］ダツ　ナチ　〔正韻〕乃八切　［黠］　［慣］ナツ

［一］［二］❶**おす。**おさへつける。〔廣韻〕捺、手按。〔集韻〕捺、手重按也。❷**かすめる。**〔集韻〕捺、字林、捺、搦捎也。❸**書法の一。**古の磔。斜線を右下に書き下げること。〔書法離鉤、八磔〕＼也、捺也、波也、右下爲レ磔、云云、俗云レ捺、捺之祖二磔法一也。❹**おさへる。**棋法の一。〔圍棋義例、詮釋〕捺、按也、以レ子按二其頭一曰レ捺、自レ上而按レ下也。❺［現］捕へる。

［名乘］トシ。

【捺押】1 ナツアフ　印などをおすこと。押捺。

【捺印】2 ナツイン　印を押す。又、印をおしたあとかた。印形。印影。〔太政官式〕凡請印文書初入之日、外記細加二檢察一、明日捺印。

【捺擱】3 na⁴ kê¹　おさへつける。

【捺氣】4 na⁴ ch'i⁴　氣をおちつける。氣を鎭める。

【捺眷】5 ナツケン　穀物の善くみのること。〔韓琦、觀レ稼詩〕便晴惟恐二禾生一耳、將レ熟偏宜二穀捺眷一。〔韓琦、觀二稼回比園一席上詩〕嘗酒管絃先レ社集、捺眷禾黍極レ雲齊。

【捺瑟】6 ナツシツ　樂器の名。拍子木のこと。〔合璧事類〕拍板、一名捺瑟。

【捺染】7 ナツセン　織物または絲等に染料・糊等を使用して模様を染出す法。直接捺染・防染・拔染・型附侵染等の種類がある。なせん。型染。型附。

【捺鉢】8 ナツハチ 遼國の都をいふ。一定の場所はなく、四時の氣候によつて處を易へた。〔遼史、營衞志〕遼國盡有二大漢浸包長城之境一、因レ宜爲レ治、秋冬違レ寒、春夏避レ暑、隨二水草一就二畋漁一、歲以爲レ常、四時各有二行在之所一、謂二之捺鉢一、春捺鉢曰二鴨子河濼一云云、夏捺鉢無二常所一、多在二吐兒山一云云、秋捺鉢曰二伏虎林一云云、冬捺鉢曰二廣平淀一。〔文昌雜錄〕契丹謂二住坐處一曰二捺鉢一、四時皆然、如二春捺鉢之類一是也、捺、一作レ納。〔朱有燉、宮詞〕捺鉢北來天氣冷、只宜三栽二種牡丹花一。

【捺落】9 ナラク 佛地獄をいふ。奈落。捺落迦を見よ。〔翻譯名義集、地獄〕捺落迦、或那落迦、此云二不可樂一、亦云二苦具一、亦云二苦器一、此標二依報一也。

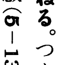
【捺落迦】10 ナラカ 佛地獄をいふ。naraka の音譯。〔婆沙論、一七二〕有說、捺落名レ人、迦名爲レ惡、惡人生二彼處一、故名二捺落迦一、有說、落迦名二可樂一、捺是不義、彼處不レ可レ樂、故云二捺落迦一。〔唯識述記、五末〕捺落迦者、此云二苦器一、受レ罪處也。

【捺底子】11 na⁴ ti³ tzŭ 靴の底を縫付ける。

【捺羅陀】12 ナラダ 佛印度の最北部の近くにあつた古國の名。今のダレール。陀歷・達麗羅・達剌陀・陀羅陀等とも書く。

【捻】12222

㊀デフ ネフ 〔集韻〕諾叶切 ㄋㄧㄝ 葉 nieh¹
㊁デツ ネチ 〔集韻〕乃結切 屑
㊂デン ネン 〔正字通〕拈平聲 ㄋㄧㄢˇ nien³


小篆

㊀❶ひねる。つまむ。とる。おす。通じて敜(5-13244)に作る。〔說文新附〕捻、指捻也、从レ手念聲。〔新附考〕捻、卽敜之一體、一切經音義卷六、捻レ箭、注云、又作レ敜、謂下以二手指一捻持上。〔集韻〕捻、捏也、通作レ敜。〔晉書、五行志〕五恭鎭二京口一、百姓謠云、昔年食二白飯一、今年食二麥麩一、天公誅二讁汝一、教三汝捻二嚨喉一、捻二嚨喉一、氣不レ通、死之祥也。〔梁簡文帝、箏賦〕照二瓊環一而俯捻、度二王瓜一而徐牽。〔杜牧、杜秋娘詩〕閒捻二柴簫一吹。〔裴說、寄二邊衣一詩〕愁捻二銀針一信二手縫一。〔事物異名錄、花卉部、牡丹〕楊家紅・一捻紅、靑瑣高議、仙春館有二楊家紅一、貴妃匀面、口脂在レ手、印二於花上一、來歲花開、有二指印紅迹一、故名二一捻紅一。❷現もぐ。もぎとる。ちぎる。㊁おさへる。或は敜(5-13244)に作る。〔集韻〕捻、按也、或从レ攴。㊂❶ひねる。つまむ。拈(5-11945)に同じ。〔杜甫、游二何將軍山林一詩〕盡捻二書籍一賣、來問二爾東家一。〔注〕捻、正作レ拈。❷撚(5-12713)に通ず。〔淸史稿、曾國藩傳〕捻匪者、云云、捻レ紙然レ脂、故謂二之捻一。〔朱孔彰、曾文正公別傳〕撚匪者、云云、撚レ紙然レ脂、故謂二之撚一。❸現よる。もむ。

【捻香】1 ネンカウ 香をつまむ。〔法苑珠林〕十方諸佛、手捻レ香付二彼爐中一。

【捻紅】1′ ネンコウ 揚貴妃の口紅によつて出來たといふ牡丹。字解㊀の❶を見よ。

【捻花】2 nieh¹ hua¹ 花を摘み取る。

【捻管】3 ネンクワン 筆管をつまみ持つ。筆を持つ。〔翰林要訣、執筆法〕大指與二中三指一捻二管頭一書レ之、側二立案左一、書二長幅釣字一。

【捻竅】4 ネンケウ 穴を押へる。〔文子、上德〕使二倡吹一レ竽、使二工捻一レ竅、雖レ中レ節、不レ可レ使レ決。

【捻子】5 nien³ tzŭ 捻匪(13)・撚匪(5-12713··11)に同じ。

【捻絲】6 nien³ ssŭ¹ 絹絲を撚り出す。

【捻兒】7 nien³ êrh 花火の口火。

【捻手】8 nieh¹ shou³ 指彈する。

【捻出】9 ネンシュツ ひねりだす。拈出。

【捻線】10 nien³ hsien⁴ 絲をよる。

【捻賊】11 ネンゾク 淸の咸豐年間に起つた匪賊。捻匪(13)を見よ。

【捻頭】12 ネントウ 干菓子の一種。ねぢ菓子の類。〔正字通〕粔、云云、粔籹、蜜二和米麪一煎二作之一、冬春成者、可レ留二數月一、寒食禁烟時用也、葛洪、肘後方名二捻頭一、捻二其頭一也。

【捻匪】13 ネンピ 淸の嘉慶年間、山東・江蘇・安徽三省の境界で鄕民が神を迎へ賽會をする時に、紙燭卽ち油紙捻を燃して龍戲をする風習があつたが、咸豐年間、此等の者が黨を結んで北部數省を擾掠した。これを捻子又は捻匪といふ。其の首魁の張洛型は、洪・楊の軍と聲氣を通じ、尋いで東西兩股に分れ、東捻は河北より山東を擾し、西捻は陝西を擾す。後、李鴻章に平定せられた。捻子(5)・撚匪(5-12713··11)に同じ。〔淸史稿、曾國藩傳〕捻匪者、始二於山東一、游民相聚、其後剽二掠光固・潁亳・淮徐之閒一、捻レ紙、然レ脂、故謂二之捻一、有二衆數十萬、馬數萬一、蹂二躪數千里一、分合不レ常。〔朱孔彰、李文忠公別傳〕曾文正奉レ命馳二赴山東一、勦二辦捻匪一。

【捻鼻】14 ネンビ 鼻をつまむ。屑くないさま。〔世說新語、容止〕謝車騎道二謝公一、遊肆復無二乃高唱一、但恭坐捻レ鼻顧睞、便自有下寢二處山澤閒一儀上。

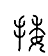
【捻文】15 ヒネリブミ ❶數枚の短冊、又はその他の細長い紙に、事を記し、捻つて鬮とし、これを探つて占ふこと。もみくじ。❷立文(8-25721··220)の❷に同じ。〔置土產〕捻文に、五兩ばかり持ち添へ。

【捻把兒】16 nien³ pa⁴ êrh ❶把手。❷時計の龍頭。

【捻不起來】17 nieh¹ pu ch'i³ lai 摘み取れない。ねぢられない。

【捼】12223

㊀ダ ナ 〔集韻〕奴禾切 ㄋㄨㄛˊ 歌 nuo²
㊁ダイ ナイ 〔集韻〕奴回切 灰
㊂ズイ 〔集韻〕儒隹切 支
㊃ゼン ネン 〔集韻〕而宣切 先
㊄ワ クヮ 〔集韻〕烏禾切 歌
㊅ヰ 〔集韻〕鄔毀切 紙
㊆ジャ ニャ 〔集韻〕儒邪切 麻


小篆（說文）

㊀㊁㊂おす。もむ。する。或は挼(5-12109)・撋(5-12683)に作る。〔說文繫傳〕捼、推也、從レ手委聲、一曰、兩手相切摩也。〔集韻〕捼、說文、推也、一曰、兩手相切摩也、或作二挼・撋一。〔集韻〕挼、兩手相切摩、或从レ妥。〔集韻〕撋、擩也、或从レ委。〔新方言、釋言〕今謂二按摩一曰レ捼。〔韓愈、雪詩〕紛紛碎如レ捼。〔韓愈、讀二東方朔雜事一詩〕兩手自相捼。㊃する。撋(5-12683)に同じ。〔集韻〕撋、煩撋、猶二挼莎一也、或作レ捼。㊄まきつける。〔集韻〕捼、手縈也。㊅なでる。〔集韻〕捼、捫也。㊆もむ。〔集韻〕捼、揉也、關中語。

參考 說文繫傳本に捼とあるを、段注本は挼に改めてゐる。今姑く之を兩存する。

【捼抄】1 ダサ 捼莎に同じ。〔字略〕[illegible]捼、猶二捼抄一也。

【捼莎】2 ダサ 手でもむこと。〔玉篇〕莎、素和切、捼莎也。〔詩、周南、葛覃、薄汙二我私一、箋、煩煩二撋之一、〔釋文〕阮孝緖字略云、煩撋、猶二捼莎一也、捼、音奴禾切。〔禮、曲禮上、共レ飯不レ澤レ手、注〕澤、謂二挼莎一也。〔疏〕古之禮、飯不レ用レ箸、但用レ手、既與レ人共レ飯、手宜二挈淨一、不レ得下臨レ食始捼二莎手一乃食上、恐レ爲二人穢一也。

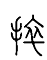
【捼莏】3 ダサ 捼莎に同じ。〔廣韻〕捼、捼莎、說文曰、摧也、一曰、兩手相切摩也。

【掛】12224

カツ ケチ 〔海篇〕丘瞎切 黠

❶かかげる。〔海篇〕掛、拔著也。❷拮(5-11990)の俗字。〔正字通〕掛、俗拮字。

【捽】12225 ㊀ソツ ソチ 〔集韻〕昨沒切 ㄗㄨˊ tsu² 月
㊁シュツ ジュチ 〔集韻〕昨律切 ㄗㄨㄛˊ tsuo² 質
㊂サイ スイ 〔集韻〕祖對切 隊


小篆 ㊀㊁❶**つかむ。とる。**㋑頭髮をつかむ。〔說文〕捽、持二頭髮一也、从レ手卒聲。〔荀子、正論〕詈侮捽搏。〔注〕捽、持レ頭也。〔戰國、楚策〕吾將三深入二吳軍一、若扑二一人一、若捽二一人一。〔注〕捽、持二頭髮一也。〔漢書、賈誼傳〕上不レ使二人捽抑而刑一レ之也。〔注〕師古曰、捽、持二頭髮一也。㋺ぬく。ぬきとる。〔漢書、貢禹傳〕農夫父子、捽レ屮把レ土。〔注〕師古曰、捽、拔取也。❷**むかひあふ。**あたる。〔國語、晉語一〕戎夏交捽。〔注〕捽、交對也。〔莊子、列禦寇〕齊人之井飲者、相捽也。❸**する。**卹（**2－2862**）に同じ。〔集韻〕卹、卹勿、摩也、或作レ捽。❹**草の中を行く音。**捽擦（6）を見よ。㊂**おす。**捘（**5－12161**）に同じ。〔集韻〕捘、推也、或作レ捽。

【捽引】1 ソツイン 髮をつかんで引きずる。〔孔子家語、五刑解〕君不レ使三人捽引而刑二殺之一也。

【捽抴】2 ソツエイ 髮をつかんでひく。〔說文〕臾、束縛捽抴爲レ臾。〔段注〕捽、持二頭髮一也、抴、捈也、捈、臥引也、束縛而牽二引之一也。

【捽胡】3 ソツコ 首すぢをつかむ。〔漢書、金日磾傳〕日磾捽レ胡投二何羅殿下一。〔注〕孟康曰、捽レ胡、若二今相僻臥輪之類一也、晉灼曰、胡、頸也、捽二其頸一而投二殿下一也。〔唐詩紀事、段成式〕光風亭夜宴、妓有二醉毆者一、溫飛卿曰、若狀レ此、便可下以二疻面一對中捽胡上、成式乃曰、捽レ胡雲彩落、疻レ面月痕消。

【捽屮】4 ソツサウ 草を捋り取る。草を引き拔く。〔漢書、貢禹傳〕捽レ屮把レ土、手足胼胝。〔注〕師古曰、捽、拔取也、屮、古草字也。

【捽草】5 ソツサウ 捽屮に同じ。

【捽擦】6 ソツサツ 草の中を行く音。〔集韻〕捽、捽擦、行レ艸聲。

【捽茹】7 ソツジョ 拔いて來た野菜。茹は蔬。〔法言、修身〕闇闇在レ上、簞瓢捽茹、亦山雌也。

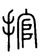
【捽搏】8 ソツハク 頭髮をつかみ、手でうつ。〔荀子、正論〕詈侮捽搏、捶笞臏腳。〔注〕捽、持レ頭也、搏、手擊也。〔漢書、王尊傳〕捽二搏其頰一。

【捽髮】9 ソツハツ 髮を摑む。〔淮南子、氾論訓〕溺則捽二其髮一而拯。

【捽拔】10 ソツバツ ぬきとる。〔漢書、貢禹傳、捽レ屮、注〕師古曰、捽、拔取也。

【捽抑】11 ソツヨク 頭髮をつかんでおさへる。〔漢書、賈誼傳〕上不レ使二人捽抑而刑一レ之也。〔注〕師古曰、捽、持二頭髮一也、抑、謂レ按レ之也。

【捾】12226 ㊀ワツ ワチ 〔集韻〕烏括切 曷
㊁ワツ ヱチ 〔集韻〕烏八切 黠
㊂カツ ゲチ 〔集韻〕下瞎切 黠
㊃ワン ヱン 〔集韻〕鄔版切 潸

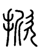

小篆 ㊀❶**取出す。**〔說文〕捾、搯捾也、从レ手官聲。〔段注〕義與レ抉略同、今人剜字當レ作レ此。❷**ひく。**〔說文〕捾、一曰、援也。㊁**ゑぐる。**〔集韻〕捾、抉也。㊂**かく。**けづりそぐ。搳（**5－12517**）に同じ。〔集韻〕搳、說文、擖也、或作レ捾。㊃**とる。**〔集韻〕捾、取也。

【捿】12227 セイ 栖（**6－14963**）・棲（**6－14980**）に同じ。〔正字通〕捿、棲・栖通、从レ棲爲レ正。

【⿰扌穹】12228 キュウ ク 〔集韻〕去仲切 送
おす。〔集韻〕⿰扌穹、捺也。

【⿰扌虎】12229 クワク 〔集韻〕郭獲切 陌
うつ。或は⿰虎攴（**5－13172**）に作る。〔玉篇〕⿰扌虎、批⿰扌虎也。〔集韻〕⿰扌虎、打也、或作レ⿰虎攴。

【掀】12230 ㊀ケン コン 〔集韻〕虛言切 ㄒㄧㄢ hsien¹ 元
㊁キン コン 〔集韻〕許斤切 文
㊂キツ コチ 〔集韻〕許訖切 物
㊃コン ゴン 〔集韻〕胡恩切 元
㊄キン コン 〔集韻〕丘近切 問


小篆 ㊀㊁㊂❶**かかげる。**あげる。〔說文〕掀、擧出也、从レ手欣聲、春秋傳曰、掀レ公出二於淖一。〔桂注〕成十六年左傳文、杜注、掀、擧也。〔廣韻〕掀、以レ手高擧。❷**たかいさま。**掀掀（6）を見よ。❸[現]㋑はねる。㋺開く。㋩翻す。㊃**ひく。**拫（**5－11987**）に同じ。〔集韻〕拫、博雅、拫攎、引也、或作レ掀。〔左氏、成、十六〕掀レ公出二於淖一。〔釋文〕一曰、掀、引也、胡拫反。㊄❶**あげる。**㊀の❶に同じ。〔集韻〕掀、擧出也。❷**ひく。**㊃に同じ。〔集韻〕掀、一曰、引也。

【掀案】1 キンアン つくゑをはねのける。〔福惠全書、蒞任部、忍性氣〕輒欲二掀レ案撻一レ之。

【掀開】2 hsien¹ k'ai¹ あげる。開く。

【掀起】3 hsien¹ ch'i³ まくれ上がる。持ち上がる。

〖掀起來〗4 hsien¹ ch'i lai 持ち上げる。かかげる。まくり上げる。

【掀炬】5 キンキョ 炬火をかかげる。〔愛日樓文集〕遂造レ棧、掀レ炬觀レ之、但見二一片大玉簾一而已。

【掀掀】6 キンキン 高く聳えるさま。高くもたげるさま。〔韓愈、和二侯協律詠一レ笋詩〕戈矛頭戢戢、蛇虺首掀掀。

【掀豗】7 キンクワイ かまびすしい聲。〔蘇軾、送三蔡冠卿知二饒州一詩〕吾觀二蔡子與レ人遊一、掀豗笑語無レ不レ可。

【掀轟】8 キングワウ 上に高く響きとどろく。聲の大きいこと。風雨の聲。〔陸龜蒙・皮日休、開元寺樓看雨聯句〕海上風雨來、掀轟雜二飛電一。

【掀啓】9 hsien¹ ch'i³ あげる。ひらく。

【掀揭】10 キンケイ かかげる。〔沐璘、臨安荔枝詩〕翠葆霞焜煌、錦握風掀揭。

【掀擊】11 キンゲキ 高くあげうつ。〔後耳目志〕李端叔評二東坡文一云、如二風雷雨雹之驟作、奔騰洶湧之掀擊一。

【掀射】12 キンシャ 腕を高くかかげて弓を射ること。〔曾鞏、寄二王介卿一詩〕城顚睨二江浪一、蛟怪助二掀射一。

【掀腫】13 キンショウ ふくれあがる。〔淸異錄、妖、活玉巢〕一日復作、左腮掀腫、遂張レ口、臥意似二瞢騰一。

【掀髯】14 キンゼン 笑つて口鬚の動くさま。〔蘇軾、次二韻劉景文見レ寄詩〕細看落墨皆松瘦、想見掀髯正鶴孤。

【掀倒】15 キンタウ 高く差し上げて拋げ出す。〔洞山語錄〕坐二斷主人公一不レ落二第二見一、北院出レ衆云、須レ知有二一人一不レ可レ伴、師曰、猶第二見、院便掀二倒禪牀一。

【掀擢】16 キンテキ あげぬきんでて用ひること。登用。〔杜牧、上二河陽李尙書一書〕聖主掀二擢豪俊一、考二校古今一。

【掀天】17 キンテン 天にあがりひるがへる。掀翻。〔白居易、風雨晚泊詩〕青苔撲レ地連二春雨一、白浪掀レ天盡日風。

【掀顚】18 hsien¹ tien¹ ことさらに高く掲げる。

故意にほめる。

【掀播】19 キンハ　あがる。〔吳萊、王滹南太山石室詩〕我將レ呼二巨鰲一、滄海欲二掀播一。

【掀簸】20 キンハ　あふりあがる。あふりあげる。翻簸。〔韓愈、瀧吏詩〕颶風有レ時作、掀簸眞差レ事。〔蘇軾、病中大雪數日云云詩〕風颷助二凝冽一、幃帳困二掀簸一。

【掀帽】21 hsien^1 mao^4　帽子を脱ぐ。冠り物をとりのける。

【掀發】22 hsien^1 fa^1　打ち合ふ。〔紅樓夢、二一回〕必致博擊掀發後始盡。

【掀翻】23 キンハン　あがりひるがへる。〔指月錄〕大地掀翻無二覓處一。

【掀被】24 hsien^1 pei^4　夜具をまくる。

【掀舞】25 キンブ　まひあがる。〔朱熹、百丈山六詠、瀑布詩〕空質麗二晴暉一、龍鸞共掀舞。〔揭傒斯、歸舟詩〕波浪爭掀舞、艱難久自知。

【掀涌】26 キンヨウ　高く湧きあがる。〔惠洪、詩〕舌根有二滄海一、潮辯自掀涌。

【揎】12231

🈩チ ヂ　〔集韻〕直吏切　寘
🈔チ ヂ　〔集韻〕丈里切　紙
🈪ショク ジキ　〔廣韻〕常職切　職

🈩**なげる**。〔集韻〕揎、投也。🈔**もつ**。〔集韻〕揎、持也。🈪**つゑつく**。〔廣韻〕揎、拄レ杖曰レ揎。

【捒】12232

トウ ツ　〔集韻〕覩動切　董

うつ。〔集韻〕捒、擊也。

【捒撓】1 トウダウ　うつてみだす。〔戰國、魏策〕夫使二士卒不レ崩、直而不レ倚、捒撓而不レ避者、此吳起餘教也。

【振】12233

タウ チヤウ　〔集韻〕除庚切　庚

ふる。ふれる。殼(**6－16687**)に同じ。〔廣韻〕振、振觸。〔集韻〕殼、博雅、揬也、或从レ長。

【揨】12234

🈩タイ ツイ　〔集韻〕都猥切　賄
🈔タウ チヤウ　〔集韻〕除耕切　庚

🈩**おす**。〔集韻〕揨、排也。🈔**つく**。朾(**6－14440**)に同じ。〔集韻〕朾、說文、橦也、或作レ揨。

【掂】12235

テン　〔字彙〕丁廉切　鹽　ㄉㄧㄢ tien^1

はかる。手で物の重さをはかる。〔字彙〕掂、手量掂也。

【掂挆】1 tien^1 tuo^4　手で物の重さをはかる。

【掂掇】2 tien^1 tuo^4　こまかに考へる。

【掂量】3 tien^1 liang^2　掂挆(1)に同じ。

【掂斤量】4 tien^1 chin^1 liang^4　❶手加減で物の輕重をはかる。❷人物を試驗する。

【掂斤播兩】5 tien^1 chin^1 po^4 liang^3　手を上げ下げして目方を量る。優劣をはかりくらべる。〔西廂記〕儘著你說短論長、一任待掂斤播兩。

【拼】12236

🈩ハウ ヒヤウ　〔集韻〕悲萌切　庚　ㄆㄧㄣ p'in^1
🈔ヘイ ヒヤウ　〔集韻〕卑正切　敬

🈩❶**したがへる**。つかふ。せしめる。させる。或は抨(**5－11905**)・伻(**1－484**)・迸(**11－38929**)に作り、古は平(**4－9167**)・苹(**9－30823**)に作る。〔爾雅、釋詁〕拼、從也。〔釋文〕拼、以レ利使レ人也。〔集韻〕拼、或作二抨・伻・迸一、古作二平・苹一。❷**はじく**。⿰弓幷(**4－9807**)に通ず。〔集韻〕⿰弓幷、彈也、通作レ拼。🈔**のぞく**。摒(**5－12575**)に同じ。〔集韻〕摒、博雅、除也、或从レ幷。

【拼音】1 ハウオン　聲母と韻母とを合して一字音をなすこと。中國では、拼音の法は反切に始まり、現在の國音字母による音の表現法の如きはその法による。

【掃】12237

🈩サウ ソウ　〔集韻〕蘇老切　皓　ㄙㄠ sao$^{3\cdot4}$
🈔サウ ソウ　〔集韻〕先到切　號

🈩🈔❶**はく**。**はらふ**。㋑さうぢする。けがれをはらふ。埽(**3－5202**)に同じ。〔集韻〕埽、拚除也、或作レ掃。〔詩、豳風、東山〕洒二埽穹室一。〔箋〕埽、除也。〔周禮、天官、閽人〕掌レ埽二門庭一。〔正字通〕掃、除レ穢也。〔晉書、成恭杜皇后傳〕陵中唯絜掃而已。㋺すてる。〔集韻〕埽、說文、弃也、或从レ手。〔字彙〕掃、弃也。〔南史、王亮傳〕屛居閉掃、不レ通二賓客一。㋩のぞく。〔張衡、東京賦〕掃二項軍於垓下一。〔注〕綜曰、掃、除也。㋥のこらずあげる。〔漢書、黥布傳〕大王宜下掃二淮南之衆一、日夜會中戰彭城下上。㋭なくする。〔張衡、東京賦〕掃二朝霞一。〔注〕綜曰、掃、滅也。㋬征討する。〔梁簡文帝、與二魏南荊州刺史李志一書〕皇師外掃、天鉞四臨。㋣とる。おとす。〔劉希夷、代二秦女一贈二行人一詩〕楊葉未レ能レ攀、梅花待二君掃一。㋠かすめる。すぎる。〔梁書、武帝紀〕電激風掃。〔李白、大獵賦〕千騎颷掃、萬乘雷奔。㋷はく。する。なする。〔杜甫、虢國夫人詩〕卻嫌脂粉涴二顏色一、淡掃二蛾眉一朝二至尊一。〔權德輿、玉臺體詩〕雙眉燈花掃、不レ待二鏡臺前一。㋦ふるふ。書く。〔王令、夢レ蝗詩〕發爲二疾蝗詩一、憤掃二百筆禿一。㋸ことわる。謝辭する。〔孟浩然、襄陽公宅飮詩〕座非二陳子驚一、門還二魏公一掃。❷騷(**12－44935**)に通ず。〔史記、李斯傳〕由二竈上騷除一。〔注〕索隱曰、言、秦欲レ幷二天下一、若三炊婦掃二除竈上之不淨一、不レ足レ爲レ難也。

名乘　ノブ。

【掃夷】1 サウイ　はらひ平げる。〔後漢書、袁紹傳上〕掃二夷凶逆一。

【掃屋】2 sao^3 wu^1　年末に家屋の掃除をすること。掃房。

【掃疥】3 サウカイ　臨安地方の風習で、立冬の日に各種の香草菊花等を湯に入れて浴すること。疥癬類に罹らないといふ。〔熙朝樂事〕立冬日、以二各邑香草及菊花金銀花一煎湯沐浴、謂二之掃疥一。

【掃海】4 サウカイ　海中に敷設、又は沈沒された危險物をとりはらふこと。

【掃街】5 サウガイ　西湖附近の寺で、夜間に小燈をつけ、落し物を拾ひ歩く人をいふ。〔西湖志餘〕西湖諸寺、惟二三竺燈最盛、夜闌燈罷、有二小燈照レ路拾レ遺者一、謂二之掃街一、遺レ鈿墮レ珥、往往得レ之。

【掃溉】6 サウガイ　掃除して水を灌溉する。〔韓愈、藍田縣丞廳壁記〕水㶁㶁循レ除鳴、斯立痛掃溉、對二樹二松一、日哦二其閒一。

【掃興】7 サウキヨウ　興を醒す。面白くない。不興。〔遊覽志餘〕杭人有下諱二本語一、而巧爲二俏語一者上、如下有二謀未一レ成、曰二掃興一、無言默坐曰中出神上。

【掃灰】8 sao^3 huei^1　灰を掃ふ。

【掃徑】9 サウケイ　路を掃除する。〔白居易、營二閑事一詩〕澆レ畦引二泉脈一、掃レ徑避二蘭芽一。〔錢棻、雪賦〕雖レ掃レ徑其何傷。〔蘇軾、次二韻趙景貺春思一且懷二吳越山水一詩〕明朝遊二北渚一、急掃二黃葉徑一。

【掃逕】10 サウケイ みちをはききよめる。賓客を迎へる意。〔書言故事、延接類〕待賓至、云掃逕以俟、杜詩、掃逕望三益。

【掃擊】11 サウゲキ はらひうつ。うちはらふ。

【掃洒】12 サウサイ 掃灑(15)に同じ。〔後漢書、趙孝傳〕有長者客、掃洒待之。〔注〕洒、與灑通。

【掃濟】13 サウサイ のぞきほろぼす。〔傅亮、策加宋公九錫文〕百年榛穢、一朝掃濟。

【掃祭】14 sao^3 chi^4 墓詣り。

【掃灑】15 サウサイ はいて水をそそぐ。掃洒。掃除。〔禮、曲禮下〕納女於天子、曰備百姓、於國君、曰備酒漿、於大夫、曰備掃灑。〔越絶書、越絶外傳記寶劍〕雨師掃灑、雷公擊橐。〔白虎通、嫁娶〕故禮曰、納女於諸侯、曰備掃灑。

【掃刷】16 サウサツ はらふ。掃除。掃拭。〔爾雅、釋詁、拒拭刷清也、注〕振訊・拔拭・掃刷、皆所以爲潔清。

【掃司】17 カモリツカサ 掃部寮(62)を見よ。〔職原抄〕掃司、尙掃一人、典掃一人、女嬬十人。

【掃帚】18 サウシウ ㊀ははき。はうき。掃箒。〔書苑〕取掃帚沾泥汁書壁。〔農政全書、帚圖考〕一則束篠爲之、擁掃庭院、制則叢長、謂之掃帚。㊁箒草。一名、地膚。陰痿の利尿に效がある。〔本草、地膚〕集解、恭曰、田野人名爲地麥草、北人名涎衣草、葉細莖赤、出熟田中、苗極弱不能勝擧、今云堪爲掃帚、恐未之識也。

【掃帚星】19 sao^3 ch'u hsing^1 はうきぼし。彗星。

【掃愁】20 サウシウ 憂をはらふ。〔李後主、中酒詩〕莫言滋味惡、一盞掃寒愁。

【掃愁帚】21 サウシウシウ 酒をいふ。胸中の愁悶を掃ふ箒の意。愁ひの玉ばうき。〔蘇軾、洞庭春色詩〕應呼釣詩鉤、亦號掃愁帚。

【掃箒】22 サウシウ 掃帚(18)に同じ。〔南齊書、劉休傳〕於宅後開小店、使王氏親賣掃箒。〔南史、劉休傳〕宅後開小店、使王氏親賣皁莢掃箒。

【掃箒星】23 sao^3 ch'u hsing^1 彗星。掃帚星に同じ。

【掃射】24 サウシヤ 軍用語。敵を斃し掃ふために、機關銃などの先を廣角度の範圍に動かしながら射擊すること。薙射。

【掃守】25 モリ ㊀姓氏。㊁カモリ 姓氏。〔姓名錄抄〕。㊂カニモリ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證九〕。

【掃拭】26 サウシヨク はらひぬぐふ。拂拭。掃除。埽拭。〔李白、題金陵王處士水亭詩〕埽拭青玉簟、爲余置金尊。

【掃彗】27 サウスイ はうき。掃帚。〔爾雅、釋天、彗星爲欃槍、注〕亦謂之孛、言其形孛孛似掃彗。

【掃數】28 sao^3 shu^4 全部の勘定を綺麗にする。

【掃星】29 サウセイ はうきぼし。彗星。〔晉書、天文志中〕彗星所謂掃星也。

【掃清】30 サウセイ はき清める。〔後漢書、劉陶傳〕摧破姦黨、掃清萬里。〔陸機、辨亡論上〕遂掃清宗祊。〔李白、留別賈舍人至詩〕長嘯萬里風、掃清胸中憂。

【掃雪】31 サウセツ 獸の名。貂の屬。貂の出入に前導を爲し、雪を掃除するから名づく。〔豐暇筆談〕掃雪似貂而小、長不及五六寸、毛短而勻、腹正白、雖非珍品、然頗輕暖、西北口外、凡有貂之地、必有掃雪、貂之出入、以掃雪爲前導、經過處皆無殘雪、故名掃雪云。

【掃截】32 サウセツ はらひ去り、たちきること。〔晉書、樂志下〕茨草穢堂階、掃截不得生。

【掃軓】33 サウセン 車の迹をなくする。人事を絶つをいふ。埽軓。〔後漢書、黨錮、杜密傳〕閉門埽軓、無所干及。〔注〕軓、車迹也、言絶人事。

【掃蕩】34 サウタウ はらひのぞく。〔晉書、劉琨傳〕庶以克復聖主、掃蕩仇恥。〔李白、酬裴侍御對雨感時見贈詩〕楚邦有壯士、鄢郢翻掃蕩。

【掃盪】35 サウタウ はらひあらふ。平定すること。〔謝靈運、擬魏太子鄴中集詩〕雲騎亂漢南、宛郢皆掃盪。〔注〕向曰、掃盪、猶平定也。

【掃榻】36 サウタフ ㊀腰かけの塵を拂ひ清める。〔陸游、夜宿鵲鳴山詩〕苔黏石磴捫蘿上、燈耿雲房掃榻眠。〔葛長庚、懶翁齋賦〕雨送添硯之水、竹供掃榻之風。㊁腰かけをかすめる。㊂客を歡迎する意。〔陸游、寄題徐載叔秀才東莊詩〕南臺中丞掃榻見、北門學生倒屣迎。

【掃榻以待】37 サウタフモツテマツ 席を清めてお待ち申す意。書翰文などに用ひる句。

【掃地】38 サウチ ㊀地をはらふ。つちの上をはき清める。〔孔子家語、致思〕使弟子掃地。〔清暑筆談〕暇日過僧寺入淨室、見僧掃地。㊁すわる場所をはき清める。座を掃除する。〔唐國史補、下〕韋應物立性高傑、鮮食寡欲、所坐焚香掃地而坐。㊂きれいに無くなる。影もとめない。〔揚雄、羽獵賦〕軍驚師駭、刮野掃地。〔注〕善曰、言殺獲皆盡、野地似乎掃刮也。〔漢書、魏豹傳贊〕秦滅六國、而上古遺烈掃地盡矣。〔唐書、祝欽明傳〕是擧五經掃地矣。〔書言故事、評論類〕言人倒敗、曰掃地。

【掃地夫】39 サウチフ 掃除人夫。〔稱謂錄、各役、掃地夫〕王建宮詞、宮人拍手笑相呼、不識階前掃地夫。

【掃廳】40 サウチヤウ 役所を掃ひ清める。〔唐詩紀事、牛僧孺〕僧孺登第、與同輩登政事堂、宰相曰、掃廳奉候。

【掃除】41 サウヂヨ サウヂ はらひ去る。はき清める。さうぢ。掃拭。掃清。掃灑。〔周禮、夏官、隷僕〕掌五寢之掃除、糞洒之事。〔管子、小匡〕吾恐宗廟之不掃除。〔韓非子、難、三〕使宗廟不掃除、社稷不血食。〔史記、信陵君傳〕趙王掃除自迎。〔史記、日者傳〕卜筮者掃除設坐。〔蜀志、先主劉備傳〕掃除寇難、靖匡王室。〔漢書、董仲舒傳〕聖王之繼亂世也、掃除其迹、而悉去之。

【掃除屋】42 サウヂヤ しもさうぢをする人。肥取。

【掃除之隸】43 サウヂヨノレイ 掃除人夫。賤役をいふ。〔司馬遷、報任少卿書〕爲掃除之隸、在闒茸之中。

【掃塵】44 サウヂン ㊀ちりをはらふ。轉じて、亂を治めること。埽塵。〔淮南子、原道訓〕雨師灑道、風伯掃塵。〔李陵、答蘇武書〕滅跡掃塵、斬其梟師。㊁sao^3 ch'en^2 年末の煤拂。

【掃定】45 サウテイ 賊を平定する。〔南史、宋高祖紀〕掃定荆楚。

【掃庭】46 サウテイ 庭をはらふ。庭の掃除。〔李頻、夏日過友人檀溪別業詩〕沙月邀開戶、岩風助掃庭。〔曹松、與胡汾坐月期貫休上人不至詩〕掃庭秋漏滴、接話貴忘眠。

【掃滌】47 サウデキ はらひきよめる。滌は、水をそそぐこと。掃除。掃洒。〔南史、宋高祖紀〕百年榛穢、一朝掃滌。

【掃殄】48 サウテン はらひつくすこと。殄は盡・絶。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕京師大捷、殆致掃殄者、非因公之策邪。

【掃難】49 サウナン 難をはらひ除く。〔南齊書、和帝紀贊〕和帝晚隆、掃難清宮、達機覩運、高頌永終。

【掃把】50 sao^3 pa^4 はうき。箒。

【掃亡】51 サウバウ はらひほろぼす。

【掃房】52 sao^3 fang^2 家屋を掃除する。

【掃尾】53 サウビ 鳥の、風に吹かれてゐる尾。〔剪燈餘話、連理樹記〕颸颸掃尾儀朝陽。

【掃眉】54 サウビ 眉毛を畫く。掃眉才子を見よ。

【掃眉才子】55 サウビサイシ 唐の才妓薛濤をいふ。薛濤が晚年浣花溪に屛居してゐた時、胡曾（一說、王建）が詩を贈つて稱した語。後、轉じて、女子の文才ある者をいふ。〔胡曾、贈薛濤詩〕掃眉才子知多少、管領春風總不如。〔雲溪友議〕薛濤、字宏度、成都樂妓也、有姿色、工詩、翰常辟爲女校書、韋南康寵之、贈詩云、萬里橋邊女校書、枇杷花下閉門居、掃眉才子知多少、管領春風總不如。

【掃部】56 カモン ㊀掃部寮の略。㊁姓氏。又、地名。㊂カンベ 姓氏。

【掃部司】56′ カムモリノツカサ 掃部寮を見よ。

【掃部允】57 カモンノジヨウ 掃部寮の屬官。大・少あり。唐名は洒掃丞。〔職原抄〕掃部寮、允、大少、唐名、洒掃丞。

【掃部助】58 カモンノスケ 掃部寮の屬官。唐名は洒掃少尹。〔職原抄〕掃部寮、助、唐名、洒掃少尹。

【掃部屬】59 カモンノサクワン 掃部寮の屬官。太・少あり。唐名は洒掃史。〔職原抄〕掃部寮、屬、大少、唐名、洒掃史。

【掃部田】60 カニモリ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證四〕。

【掃部頭】61 カモンノカミ 掃部寮の長官。唐名は洒掃尹・守宮令。〔職原抄〕掃部寮、頭一人、唐名、洒掃尹、守宮令。

【掃部寮】62 カモンレウ カムモリノツカサ 中古の官署の名。掃部司・掃部といふ。大寶令に、內掃部司・掃司・掃

部司の三あり、共に宮中の鋪設・洒掃等を掌る。各〻其の管轄と職掌との範圍を異にし、內掃部司は宮內省に屬して天皇の御事のみに奉仕し、掃司は後宮の職員で後宮の御事のみに奉仕し、掃部司は大藏省に屬して其の外の事に當り、後、內掃部司と掃部司とは合して掃部寮となる。內掃部司及び掃部司には、正・佑・令史・掃部・使部、掃部には、尙掃・典掃・女孺、掃部寮には、頭・助・允・屬等が置かれ、又、齋宮寮十二司にも掃部司が置かれた。かにもりのつかさ。かむもりづかさ。かもりづかさ。唐名は洒掃署。〔職原抄〕掃部寮、唐名、洒掃署。〔和名抄、五〕掃部寮、加牟毛里乃豆加佐。

【掃拚】63（サウフン） はらひきよめる。〔儀禮、有司徹、掃堂、注〕汎掃曰㆑掃、掃㆓席前㆒曰㆑拚。〔梅堯臣、秦州王學士寄㆓車螯蛤蜊㆒詩〕妻孥喜食㆑之、婢妾困㆓掃拚㆒。

【掃墳】64 sao^3 fen^2 墓參する。展墓。掃墓。

【掃平】65 sao^3 p'ing^2 討ちはらふ。討ち平げる。

【掃墓】66（サウボ） 墓參りする。墓を祭る。掃墳。展墓。〔宋史、唐恪傳〕以㆓延康殿學士㆒知㆓潭州㆒、請㆘往㆓錢塘㆒掃㆑墓、然後之㆖官、遂改㆓杭州㆒。〔清通禮〕歲寒食及霜降節、拜㆓掃壙塋㆒、届㆑期素服詣㆑墓、具㆘酒饌及芟㆓剪草木㆒之器㆖、周㆓眡封樹㆒、剪㆓除荊草㆒、故稱㆓掃墓㆒。

【掃墓假】67（サウボカ） 四月清明頃の墓參のための休暇。

【掃滅】68（サウメツ） はらひほろぼす。盜賊や害物などを除去し盡す。掃殄。掃滅。〔後漢書、段熲傳〕欲㆓必掃滅㆒。〔後漢書、何進傳〕誅㆓先帝左右㆒、掃㆓滅我曹㆒。〔魏志、三少帝、陳留王奐紀〕東西並進、掃㆓滅巴蜀㆒也。〔蘇軾、上清詞〕歙砉掃滅而無㆑蹤。〔元好問、答㆓劉雲卿㆒詩〕溫柔與㆓敦厚㆒、掃滅不㆓復留㆒。

【掃門】69（サウモン） 門をはききよめる。人に面會を求めること。〔書言故事、謁見類〕求㆑見人曰、欲㆑效㆓掃門㆒、魏勃欲㆑見㆓齊相曹參㆒、貧無㆓以通㆒、乃嘗早起掃㆓齊相舍人門㆒、舍人恠而問㆑之、曰、願㆑見㆓相君㆒無㆑因、故爲㆑子掃、於㆑是舍人引見、參以爲㆓舍人㆒。〔王維、重訓㆓苑郎中㆒詩〕仙郎有㆑意憐㆓同舍㆒、丞相無㆑私斷㆓掃門㆒。

【如㆑掃】70（ハラフガゴトシ） はらつたやうに何一つ殘らない。〔湘山野錄、下〕遙望㆓碧天㆒淨如㆑掃。

【掃雲帚】71（サウウンシウ） 竹の一種。〔筍譜、拂雲箒〕竹出㆓廬山㆒、莖大如㆑指、竹杪細葉、密翠如㆑帚、彼人採爲㆓方物㆒贈㆑人、人謂㆓之掃雲帚㆒。

【掃葉樓】72（サウエフロウ） 樓の名。江蘇省江寧縣の淸涼山の南。明の遺老龔賢の居た處。今、其の址は僧院となる。

【掃乾淨】73 sao^3 kan^1 ching 淸淨に掃除する。掃除し淸める。

【掃市舞】74（サウシブ） 曲調の名。唐の楊虞卿が善く此の詞を歌ふ。又、宋の潘閬が信州に謫せられた時、戲に之を作る。

【掃晴娘】75（サウセイヂヤウ） 天氣が晴れるまじなひに、紙で人形を作り、箒を持たせて簷につるすもの。てるてるばうず　天氣坊主。〔陔餘叢考、掃晴娘〕吳俗、久雨後、閨閣中有㆔剪㆑紙爲㆓女形㆒、手持㆓一帚㆒、懸㆓簷下㆒以祈㆑晴、謂㆓之掃晴娘㆒、按、元初、李俊民有㆓掃晴婦詩㆒、卷㆑袖搴㆑裳手持㆑帚、挂向㆓陰空㆒便搖㆑手、其形可㆓想見㆒也。〔燕京歲時記、掃晴娘〕六月、乃大雨時行之際、凡遇㆓連陰不㆑止者㆒、則閨中兒女、剪㆑紙爲㆑人、懸㆓於門左㆒、謂㆓之掃晴娘㆒。

【掃泥米】76（サウデイマイ） はきよせ米。〔程俱、卽事戲作詩〕挾㆑帚掃㆑泥待㆑作㆑粥。〔自注〕門外掃㆓禾遺粒㆒、謂㆓之掃泥米㆒。

【掃雷艦】77 sao^3 lei^2 chien^4 掃海艇。

【掃葉居士】78（サウエフコジ） 淸、練貞吉（8－27689··91）の號。

【掃葉山房】79（サウエフサンバウ） 淸、席鑑（4－8926··9）の室名。

【掃垢山房】80（サウコウサンバウ） 淸、黃文暘（12－47926··1312）の室名。

【掃落葉齋】81（サウラクエフサイ） 淸、時銘（5－13890··402）の號。

【掃落葉僧】82（サウラクエフソウ） 淸、龔賢（12－48837··20）の號。

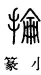
【掃】12237′

サウ　掃（5－12237）に同じ。

【掄】12238

［一］ロン　〔集韻〕盧昆切　［元］　ㄌㄨㄣ luen$^{1\cdot2}$

［二］リン　〔集韻〕龍春切　［眞］


小篆

［一］［二］❶えらぶ。〔說文〕掄、擇也、从㆑手侖聲。〔周禮、地官、山虞〕凡邦工入㆓山林㆒、掄㆑材不㆑禁。〔注〕掄、猶㆑擇也。〔國語、晉語八〕君掄㆘賢人之後有㆓常位於國㆒者㆖而立㆑之。❷つらぬく。倫（1－793）に通ず。〔說文通訓定聲〕掄、段借爲㆑倫。〔廣雅、釋言〕掄、貫也。❸［現］ふりまはす。

【掄圓】1 luen^1 yüan^2 圓くふりまはす。水車のやうにふりまはす。

【掄開】2 luen^1 k'ai^1 ふりまはす。

【掄元】3 luen^2 yüan^2 ❶一番で試驗に合格する。❷うまく爲しとげる。

【掄才】4（ロンサイ） 才能を選擇する。人材を擇ぶ。人を試驗する掄材。

【掄材】5（ロンサイ） ❶良材をえらびとる。〔詩、商頌、殷武〕陟㆓彼景山㆒。〔箋〕升㆓景山㆒掄㆓材木㆒。〔周禮、地官、山虞〕凡邦工入㆓山林㆒而掄㆑材不㆑禁。❷人才をえらぶ。〔唐書、忠義下、劉迺傳〕文部始掄㆑材、終授㆑位。

【掄取】6（ロンシユ） えらびとる。〔燕子箋、開試〕掄㆓取眞才㆒、中㆓榜元㆒。

【掄選】7（ロンセン） えらびとる。〔宋史、張齊賢傳〕太宗擢㆓進士㆒、欲㆑置㆓齊賢高弟㆒、有司偶失㆓掄選㆒、上不㆑悅。〔九國志〕雍容欵接、掄選有㆑序。

【掄刀】8 luen^1 tao^1 刀をふりまはす。

【掄擇】9（ロンタク） えらぶ。〔歐陽詹、答㆓韓十八駑驥吟㆒〕班爾圖㆓永安㆒、掄擇期㆓精專㆒。

【掅】12239

［一］セイ　シヤウ　〔集韻〕千定切　［徑］

［二］セイ　シヤウ　〔集韻〕七正切　［敬］

［一］❶とる。つかむ。〔廣雅、釋詁三〕掅、捽也。❷もつ。〔集韻〕掅、博雅、持也。［二］❶とる。［一］の❶に同じ。〔集韻〕掅、捽也。❷やとふ。倩（1－791）に通ず。〔正字通〕掅、六書統、假㆓人力㆒曰㆑掅、與㆑倩通。

【掆】12240

［一］カウ　〔集韻〕居郎切　［陽］

［二］カウ　〔集韻〕居浪切　［漾］

［一］❶あげる。さしあげる。〔集韻〕掆、擧也。〔匡謬正俗、六〕剛扛、或問曰、吳楚之俗、謂㆓相對擧㆑物爲㆑剛、有㆓舊語㆒否、答曰、扛、擧也、音江、云云、彼俗音訛、故謂㆑扛爲㆑剛耳、既不㆑知㆓其義㆒、乃有㆘造㆓掆字㆒者㆖、固爲㆓穿鑿㆒也。〔唐書、儀衞志上〕掆鼓金鉦。❷或は抗（5－11889）・扛（5－11798）に作る。〔集韻〕掆、或作㆓抗・扛㆒。［二］かつぐ。捎掆。〔集韻〕掆、字林、捎掆、舁也。

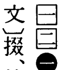
【掆鼓】1（カウコ） ❶樂器の名。小さな鼓で、鼓上に蓋のあるもの。掆鼓。〔唐書、儀衞志上〕次掆鼓金鉦。❷曲の名。〔文獻通考、樂考〕律書樂圖云、掆鼓、一曲十牒。〔文獻通考、樂考、革之屬〕隋大駕鼓吹有㆓掆鼓㆒、長三尺、云云、大業中、煬帝燕享用㆑之、唐開元禮義曰、錐曰、掆鼓小鼓也、按㆑圖、鼓上有㆑蓋。

【掇】12241

［一］タツ　タチ　〔集韻〕都括切　［曷］　ㄉㄨㄛ tuo^4

［二］テツ　テチ　〔集韻〕株劣切　［屑］

［三］セツ　セチ　〔集韻〕朱劣切　［屑］


小篆

［一］［二］❶ひろふ。ひろひとる。〔說文〕掇、拾取也、从㆑手叕聲。〔易、

訟〕患至レ掇也。〔疏〕若三手拾二掇物一然。〔詩、周南、芣苢〕薄言掇レ之。〔傳〕掇、拾也。〔莊子、達生〕承レ蜩猶レ掇レ之也。〔釋文〕掇、拾也。㊁**えらびとる。**よりとる。〔漢書、董仲舒傳〕掇下其切二當世一施二朝廷一者上。〔注〕師古曰、掇、采拾也。〔白居易、與二元九一書〕博搜精掇、編而次レ之。㊂**けづる。**剟（**2**―**2055**）に通ず。〔說文通訓定聲〕掇、叚借爲レ剟。〔史記、張儀傳〕秦得四燒二掇焚三杅君之國一。〔注〕索隱曰、謂二焚燒而侵掠一也。〔漢書、王嘉傳〕掇二去宋弘一。〔注〕師古曰、掇、讀曰レ掇、掇、削也。㊃**さす。**〔史記、張耳陳餘傳〕吏治榜笞、數千刺剟、注〕索隱曰、案、掇、亦刺也。㊄**やめる。**輟（**10**―**38374**）に通ず。〔說文通訓定聲〕掇、叚借爲レ輟。〔左思、魏都賦〕剞劂罔レ掇。㊅**みじかい。**窶（**3**―**6805**）に通ず。〔說文通訓定聲〕掇、叚借爲レ窶。〔莊子、秋水〕掇而不レ跂。〔注〕掇、猶レ短也。㊆**むち。馬のむち。**〔史記、張儀傳〕秦得四燒二掇焚三杅君之國一。〔評林〕楊愼曰、掇、馬箠也。㊇**姓。**〔萬姓統譜〕掇、見二姓苑一。㊈現㋑つくろふ。修理する。㋺捧げる。㋩臨時に借りる。㋥掠める。🈪**みじかい。**剟（**2**―**3200**）に同じ。〔集韻〕剟、覽剟、短皃、或作レ掇。

【掇遺】1 テツキ 先人の遺事をひろひとる。〔文獻通考、經籍考〕聖宋掇遺一卷、晁氏曰、皇朝歐陽靖撰、記下國初至二仁宗一君臣美事上、以備二史闕一。

【掇芥】2 テツカイ あくたをひろふ。〔論衡、亂龍〕頓牟掇レ芥、磁石引レ針。

【掇去】3 テツキヨ けづりさる。削去。〔漢書、王嘉傳〕掇二去宋弘一、更言因二董賢一以聞。〔注〕師古曰、掇、讀曰レ剟、掇、削也、削二去其名一也。

【掇擷】4 テツケツ ひろひとる。〔吳澄、秋闈分韻詩〕披條索二其華一、掇擷紛瑣碎。

【掇拾】5 テツシフ ひろひとる。採り集める。拾掇。采掇。〔韓愈、鄆州谿堂詩序〕承二死亡之後、掇拾之餘一。〔宋史、歐陽脩傳〕凡周漢以降、金石遺文、斷編殘簡、一切掇拾、研二稽異同一、云云、謂二之集古錄一。

【掇取】6 テツシユ 拾ひ取る。〔蘇洵、上二韓昭文一論二山陵一書〕掇二取厚葬之名一而遺レ之。

【掇薪】7 テツシン 薪を拾ひ取る。〔唐書、元結傳〕每灌レ畦掇レ薪。〔唐書、宗室、李戡傳〕大寒掇レ薪自炙。

【掇石】8 テツセキ 武科の試驗に、巨石を持擧げさせて其の力量をためすこと。〔六部成語、兵部、掇石、注解〕武鄉會試、皆令レ擧二巨石一、以試二其力量一。

【掇提】9 tuo⁴ tʻi² 抱いてゆする。子供をあやす。

【掇皮】10 テツピ 皮をつまみとる。〔世說親語、排調〕范啓與二郗嘉賓書一曰、子敬擧體無二饒縱一、掇皮無二餘潤一。

【掇蜂】11 テツホウ 蜂をつまみとる。轉じて、後妻が事を構へて子をおとしいれること。周の尹吉甫の後妻が毒蜂を自分の衣に綴り、子の伯奇にこれを取らしめ、伯奇我を牽くと大呼して尹吉甫に讒言した故事。〔太平御覽、蟲豸部、蜂〕列女傳曰、尹吉甫子伯奇至孝、事二後母一、母取レ蜂去レ毒、繫二於衣上一、伯奇前欲レ去レ之、母便大呼曰、伯奇牽レ我、吉甫見疑レ之、伯奇自死。〔琴操〕尹吉甫子伯奇母亡、後妻譖レ之、取二毒蜂一綴二衣領一、令二伯奇掇一レ之、吉甫怒、放二伯奇於野一。〔五雜俎、物部一〕蜜蜂螫レ人、芒入二人肉一、不レ可二復出一、蜂亦尋死、傳言、尹吉甫後妻、取レ蜂去レ毒、繫二衣上一、以誘二伯奇一、卽此也。

【掇賺】12 テツレン だましとる。〔水滸傳、六十回〕他兩箇與レ我何仇、卻來掇賺。

【掇弄】13 tuo⁴ nung⁴ ㊀いぢくりまはす。㊁ながめる。

【掇摝】14 テツロク 拾つて振り動かす。〔論衡、驗符〕卽共掇摝、各得レ滿レ手。

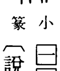
【掇錄】15 テツロク 拾ひしるす。〔魏志、高堂隆傳〕下有二怨歎一、掇錄授レ能。

【掇旗灘】16 テツキタン 灘の名。四川省納溪縣の北。掇旗の名は、諸葛武侯が旗を樹てたからと傳ふ。

【掇月舟】17 テツゲツシウ 舟の名。〔海錄碎事、服用、舟〕龍虬池有二掇月舟一、洞冥記。

【掇而不レ跂】18 トレドモツマダテズ 眼前に取るべきものがあつても、足をあげて強ひてこれをとらうとはしない。時の必ず去るを知る喩。〔莊子、秋水〕遙而不レ悶、掇而不レ跂。〔釋文〕說文、掇、拾取也、易疏、患至掇也、若三手拾二掇物一然、言三近而可二綴取一也。

【授】12242


小篆

🈩シウ ジユ 〔集韻〕是酉切 有

🈔シウ ジユ 〔集韻〕承呪切 宥 ㄕㄡˋ shou⁴

🈩🈔㊀**さづける。**㋑てわたす。〔說文〕授、予也、从二手受一、受亦聲。〔段注〕手付レ之、令二其受一也、故从二手受一。〔禮、曲禮上〕男女不二親授一。㋺わたす。交付する。〔周禮、地官、鄰長〕則從而授レ之。〔注〕授、猶レ付也。㋩あたへる。たまふ。〔張衡、東京賦〕授レ鉞四七。〔注〕綜曰、授、與也。㋥あてがふ。ゆだねる。〔史記、孔子世家〕授レ之以レ政。㋭つたへる。教へる。〔史記、仲尼弟子傳〕子夏居二西河一、教授爲二魏文侯師一。〔後漢書、包咸傳〕立二精舍一講授。㋬任命する。敍官する。〔吳志、賀邵傳〕近寤二今日謬授之失一。㋣かぞへてわたす。〔左氏、僖、二十八〕獻レ俘授レ馘。〔注〕授、數也。㋠かへす。〔國語、晉語四〕子犯授二公子載璧一。〔注〕授、還也。㊁**さづかる。**交附される。〔晉書、左思傳〕以レ能擢、授二殿中侍御史一。㊂**さづかり。**さづけ。たまもの。〔宋書、王鎭惡傳〕勉建二大功一、勿レ孤二此授一。㊃**うける。**受（**2**―**3159**）に通ず。〔說文通訓定聲〕授、叚借爲レ受。〔周禮、天官、典婦功〕凡授二嬪婦功一。〔注〕授、當レ爲レ受、聲之誤也。〔周禮、天官、司儀〕登再拜授レ幣。〔注〕授、當レ爲レ受。㊄或は穐（**8**―**25304**）・穐に作る。〔集韻〕授、亦作レ穐、唐武后改作レ穐。㊅**姓。**〔正字通〕授、姓、漢授異衆。〔萬姓統譜〕授、漢授异衆丹陽人。

解字 會意形聲。手と受とを合はせ、受は又聲。受はうけ渡す意。

【授衣】1 ジユイ ㊀衣を授ける。轉じて、九月の異名。ながつき。九月に冬衣を授けるからいふ。〔詩、豳風、七月〕七月流火、九月授レ衣。〔傳〕九月霜始降、婦功成、可三以授二冬衣一矣。〔張協、七命〕若乃白商素節、月既授レ衣。〔注〕善曰、毛詩曰、九月授レ衣。〔杜甫、雨四首、其三〕多病久加レ飯、衰容新授レ衣。㊁清、陳章（**11**―**41698**‥319）の字。

【授衣假】2 ジユイカ 九月の休暇。〔唐書、選擧志上〕太學生補二國子學一、每歲九月、有二授衣假一。〔張籍、和二左司元郎中秋居一詩〕初當二授衣假一、無三吏挽二門鈴一。

【授衣節】3 ジユイセツ 佛陰曆九月をいふ。〔鏡堂圓禪師、建仁錄〕人間九月授衣時、破綻禪和猶レ未レ知。

【授位】4 ジユヰ 位を授ける。〔春秋、桓、四、天王使二宰渠伯糾來聘一、杜注〕王官之宰、當二以レ材授一レ位。〔吳越春秋、吳王壽夢傳〕餘昧立、四年卒、欲レ授二位季札一。〔國史略、桓武天皇〕唐使孫興進等來聘、授レ位賜レ物。

【授一】5 ジユイツ 明、萬經（**9**―**31339**‥105）の字。

【授鉞】6 ジユエツ 鉞を授ける。又、鉞を授かる。將軍たる命を拜すること。〔張衡、東京賦〕授二鉞四七一、共工是除。〔注〕綜曰、六韜曰、凡國有レ難、君召レ將以授二斧鉞一。〔吳志、陸抗傳〕紂作二淫虐一、而周武授レ鉞。

【授戒】7 ジユカイ 佛新たに佛門に入る人に、師が五戒・十戒・大小乘戒等の戒律を授けること。〔傳法灌頂三摩耶戒幸聞記〕。

【授甲】8 ジユカフ 武器を與へる。〔左氏、昭、八〕聞、彊氏授レ甲將レ攻レ子。

【授記】9 ジユキ 佛或る因緣により、將來必ず菩提の果を得べきを說き、人をしてこれを心に期せ

しめること。〔輟耕錄、陶氏二譜〕君年八十一、隻眼或方、夢㆔勝力菩薩授㆓菩薩記㆒。〔岑勛、多寶塔碑〕純如之心、當㆓後佛之授記㆒。

【授玉】10ジュギョク　圭玉を授ける。官職に任ずること。〔曹植、責㆑躬詩〕光光大使、我榮我華、剖㆑符授㆑玉、王爵是加。〔注〕善曰、喩㆓巴蜀㆒檄曰、剖㆑符而封、折㆑珪而爵。

【授經】11ジュケイ　㊀經書を教へ授けること。〔漢書、孔光傳〕霸亦治㆓尙書㆒、云云、宣帝時爲㆓大中大夫㆒、以㆑選授㆓皇太子經㆒。〔唐書、選擧志上〕太宗卽㆑位、益崇㆓儒術㆒、云云、雖㆓七營飛騎㆒、亦置㆑生遣㆓博士爲授㆑經。㊁臺の名。陝西省盩厔縣。老子が經を說いた處といふ。〔太平寰宇記〕授經臺在㆓盩厔㆒、關尹喜逢㆓老耼㆒、說㆓道德經㆒處。

〔授經堂〕12ジュケイダウ　清、武億(**6**－**16273**‥34)の室名。

〔授經圖〕13ジュケイヅ　書名。二十卷。明、朱睦㮮撰。經書を傳へた宗派について論ず。易・書・詩・禮・春秋に分け、每經、授經の世系・諸儒の列傳・諸儒の著述・歷代の經解・名目・卷數を分敍す。就中、易は復古を先とし、書は今文を首とす。作者一千四百二十六人、經解二千五百三十九種、二萬七千二百八十九卷あり、錄する處は、周漢から明に及ぶ。〔四庫提要、史、目錄類〕・〔惜陰軒叢書、第二冊〕。

【授館】14ジュクワン　賓客のために館舍を準備する。人に宿泊所をあてがふこと。〔國語、周語中〕膳宰不㆑致㆑餼、司里不㆑授㆑館。

【授業】15ジュゲフ　㊀學問をさづける。學を教へる。〔漢書、董仲舒傳〕弟子傳以㆓久次㆒相授業、或莫㆑見㆓其面㆒。〔韓愈、師說〕師者所㆓以傳㆑道授㆑業解㆑惑也。㊁生活の道を授ける。生產の方法を立ててやる。授產。

〔授業篇〕16ジュゲフヘン　書名。原本二十卷、刊本十卷。江村綬撰。學問授業の要旨、修學讀書の方法を詳論したもの。其の目は、幼學・習句讀・學書・讀書三則・訓點・吳音漢音・四聲五音・韻鏡反切・唐音・敎授・講經・講釋三則・書生之學・講談・歷史學・諸史學・作文七則・詩學十四則・壽賀・寄題詩文・地名三則・和習・姓氏・名字號・稱呼・著書藏書・闕疑。

〔授業料〕17ジュゲフレウ　學業を習ふものから出す報酬。月酬。

【授權】18ジュケン　一定の資格。權利・權限などを特定人に附與すること。代理權を授けること。

〔授權代理〕19ジュケンダイリ　授權行爲に因つて代理權を發生する代理をいふ。

【授侯】20ジュコウ　淸、李淸時(**6**－**14459**‥1565′)の字。

【授祭】21ジュサイ　賓客に授けて肺を祭る。〔周禮、春官、肆師〕饗食授祭、與㆓祝侯㆒禳㆓于畺及郊㆒。〔注〕授㆑賓祭㆑肺。

【授產】22ジュサン　生活の爲に作業を授ける。

〔授產金〕23ジュサンキン　授產の資本として貸す金。

〔授產所〕24ジュサンジョ　仕事を教へ、又は爲さしめて、生活を立てさせる場所。

【授餐】25ジュサン　人に食をあたへる。授粲。〔詩、鄭風、緇衣〕適㆓子之館㆒兮、還予授㆓子之粲㆒兮。〔傳〕粲、餐也。〔箋〕我則設㆑餐以授㆑之、愛㆑之欲㆔飮㆓食之㆒。

【授之】26ジュシ　字號。㊀宋、蹇序辰(**10**－**37741**‥53)の字。㊁宋、苗授(**9**－**30781**‥19)の字。㊂元、宋杞(**3**－**7078**‥45)の字。㊃淸、馮經(**12**－**44579**‥60)の字。

【授指】27ジュシ　むねを授ける。〔任昉、王文憲集序〕宣㆑威授㆑指、寔寄㆓宏略㆒。

【授紫】28ジュシ　淸、吳慶孫(**2**－**3365**‥529)の字。

【授時】29ジュジ　㊀時を授け示す。農時を示す。後世、曆書を頒行するをいふ。〔書、堯典〕曆㆓象日月星辰㆒、敬授㆓人時㆒。〔傳〕敬記㆓天時㆒以授㆑人也。〔蔡傳〕人時、謂㆓耕穫之候㆒。㊁鹽鐵論(**12**－**47579**‥141)の篇名。

〔授時圖〕30ジュジヅ　圖の名。民に耕桑の時を示すもの。〔月令廣義〕農器圖譜云、授時圖、示㆓民耕桑時候㆒之圖也。

〔授時曆〕31ジュジレキ　曆の名。元代、農民に四時八節二十四氣などの時を教へるために作られた曆。〔元史、曆志一〕十三年、平㆑宋、遂詔㆓前中書左丞許衡・太子贊善王恂・都水少監郭守敬㆒、與㆓南北日官陳鼎臣、云云等㆒、參㆓考累代曆法㆒、復測㆓候日月星辰消息運行之變㆒、參㆓同別異㆒、酌㆓取中數㆒、以爲㆓曆本㆒、十七年冬至曆成、詔賜㆑名曰㆓授時曆㆒。

〔授時通考〕32ジュジツウカウ　書名。七十八卷。淸、高宗乾隆二年敕撰。農事を述ぶ。天時・土宜・穀種・功作・勸課・蓄聚・農餘・蠶桑の八門に分つ。〔四庫提要、子、農家類〕。

【授室】33ジュシツ　婦に室を與へること。轉じて、妻を娶るにいふ。〔禮、郊特牲〕舅姑降㆑自㆓西階㆒、婦降㆑自㆓阼階㆒、授㆓之室㆒也。〔疏〕是示㆓授室與㆑婦之義㆒也。〔孫希旦集解〕授㆓之室㆒者、西階爲㆓客階㆒、阼階爲㆓主階㆒、舅姑自由㆓客階㆒降、使㆘婦由㆓主階㆒降㆖、明以㆓室事㆒授㆑之、而使㆑爲㆓家主㆒也。

【授賞】34ジュシヤウ　褒賞を與へる。〔公羊、隱、三、世卿非㆑禮也、注〕明君案㆓見勞㆒授㆑賞、則衆譽不㆑能㆑進㆓無功㆒、案㆓見惡㆒行㆑誅、則衆讒不㆑能㆑退㆓無罪㆒。〔魏書、獻文六王下、彭城王勰傳〕別當授㆑賞。

【授爵】35ジュシャク　㊀さかづきを與へる。〔儀禮、士相見禮〕然後授㆓虛爵㆒。㊁爵位を授けて華族に列すること。〔後漢書、劉玄傳〕延㆓英俊㆒、因㆑才授㆑爵、以匡㆓王國㆒。〔新論、均任〕量㆑任而授㆑爵。

【授手】36ジュシュ　手を授ける。轉じて、抵抗せず、囚奴となつて降服すること。〔左氏、襄、二十五〕陳知㆓其罪㆒、授㆓手于我㆒。〔會箋〕執㆑兵禦㆑敵、其用在㆑手、今陳人不㆓敢抗㆒、自纍以待㆓鄭師㆒、故云㆑授㆓手于我㆒。

【授首】37ジュシュ　己の首を人にあたへる。殺されること。罪人が戮せられる。〔孔子家語、正論解〕知㆓其罪㆒、授㆓首於我㆒。〔諸葛亮、後出師表〕擧㆑兵北征、夏侯授㆑首。〔晉書、樂志上〕鯨鯢皆授㆑首、北土永淸夷。〔潘勛、冊㆓魏公㆒文〕蘄陽之役、橋蕤授㆑首。

【授受】38ジュジュ　さづけることとうけること。うけわたし。やりとり。〔禮、祭統〕夫婦相授受、不㆔相㆓襲處㆒、酢必易㆑爵。〔孟子、離婁上〕淳于髡曰、男女授受不㆑親禮與。〔後漢書、朱祐景丹等傳論〕王道既衰、降及㆓霸德㆒、猶能授受惟庸、勳賢皆序。〔朱熹、中庸章句序〕而其授受之際、丁寧告戒、不㆑過㆑如㆑此。

〔授受大典〕39ジュジュノタイテン　太上皇帝が位を嗣皇帝に傳へる禮。讓位の大禮。〔淸會典、禮部〕授受大典、嘉慶元年元旦、行㆓授受大典之禮㆒、是日鑾儀衞設㆓仁宗睿皇帝拜褥於太和殿檻內正中㆒、內閣禮部鴻臚寺、設㆓寶案於殿內正中㆒、內務府設㆓香几二㆒於御座左右㆒、詔案表案、龍亭香亭、鹵簿樂懸、陳設如㆑儀。

【授職】40ジュショク　官職を授ける。〔南齊書、武帝紀〕各擧㆑所㆑知、隨㆑才授㆑職。〔國史略、白河天皇〕任㆑官授㆑職、不㆑遵㆓舊典㆒。

【授綏】41ジュスイ　とつてのひもを與へる。〔禮、少儀〕君子升下則授㆑綏、始乘則式。

【授鉦】42ジュセイ　鉦を授ける。〔張衡、東京賦〕次㆑和樹㆑表、司㆑鐸授㆑鉦。

【授精】43ジュセイ　雄體の精子を雌體に授けること。雌體の方面からは受精と言はれる。受精(**2**－**3159**‥96)を見よ。

【授田】44ジュデン　官から民の丁年の者に田を班け授けること。夏殷周の授田の制度は、夫〻貢法、助法、徹法と異なるが、其の田を授けることは一で、唯、田の多少が時代によつて異なつてゐる。尋いで秦に至つて授田の制は廢され、其の後、北魏・北齊・北周の時亦行はれたが、唐の天寶以後に至つて法令が弛壞し、各自に田地を買つて私有となり、遂に授田の制は行はれなくなつた。〔唐書、食貨志一〕授㆑田減㆓寬鄕之半㆒。〔宋全節、造㆓帳籍㆒判〕量㆑地出㆑稅、據㆑丁授㆑田。

【授乳】45ジュニュウ　乳を飮ませる。

【授任】46ジュニン　さづけ任ずる。〔蜀志、諸葛亮傳〕授㆑任無㆑方。

【授能】47ジュノウ　才能ある者に官職を授ける。〔莊子、庚桑楚〕且夫尊㆑賢授㆑能。〔魏志、高堂隆傳〕下有㆓怨歎㆒、掇錄授㆑能。

【授方】48ジュハウ　百事の宜しき方法を授けること。方とは百事の宜しきをいふ。〔左氏、閔、二〕敬㆑教勸㆑學、授㆑方任㆑能。〔注〕方、百事之宜也。

【授兵】49ジュヘイ　古、兵器を宗廟の內に藏し、征伐の事ある每に必ず先づ祭告して後、これを軍士に授けたこと。〔周禮、夏官、司兵〕掌㆓五兵五盾㆒、各辨㆔其物與㆓其等㆒、以待㆓軍事㆒、及㆑授㆑兵從㆓司馬之灋㆒以頒㆑之。〔左氏、隱、十一〕鄭伯將㆑伐㆑許、五月甲辰、授㆓兵於大宮㆒。〔會箋〕周禮司甲司

兵、當二出レ軍時一、皆頒レ自二司馬一、名曰二授兵一、及二其還レ軍、則仍收二之官一、名曰二受兵一、凡弓矢戈楯皆如レ之、是兵器甲仗車馬皆出レ自レ上矣。〔左氏、昭、十八〕子產授レ兵登レ陴。

【授命】50（ジュメイ） 生命をすてる。生命をなげ出して盡力する。致命。捐軀。〔論語、憲問〕見レ利思レ義、見レ危授レ命。〔集注〕授命、言下不レ愛二其生一、持以與上人也。〔曹植、責レ躬詩〕危レ軀授レ命、知レ足免レ戾。

【授與】51（ジュヨ） さづけあたへる。わたしあたへる。〔論衡、初稟〕朋友彼我、無レ有二授與之義一。

【授饔】52（ジュヨウ） 熟肉を與へる。〔張衡、西京賦〕方レ駕授レ饔、升レ觴擧レ燧。〔注〕善曰、杜預左氏傳注曰、熟曰レ饔、銑曰、饔、熟肉也。

【授刀衞】53（ジュタウヱ） 近衞府の前稱。〔續日本紀、二十二〕天平寶字三年十二月甲午、置二授刀衞一。〔國史略、淳仁天皇〕置二授刀衞一。

【授刀寮】54（ジュタウレウ） 授刀舍人寮の略稱。〔萬葉集、六〕散二禁於授刀寮一。

【授香書屋】55（ジュカウショヲク） 清、王圖炳（**7**－20823‥1977）の室名。

【授山草堂】56（ジュザンサウダウ） 清、丘開來（**1**－33‥133）の室名。

【授書隨筆】57（ジュショズイヒツ） 書名。一卷。清、閻若璩撰、黃宗羲の尙書についての質問に對して、答へたところを記したもの。

【授刀舍人寮】58（ジュタウトネリレウ） 古、官署の名。天皇親衞の舍人を掌る所。一名、授刀寮。元明天皇の朝、始めてこれを置き、稱德天皇の朝、改めて近衞府となした。

【掉】

12243

㊀テウ デウ 〔集韻〕徒弔切 嘯 ㄉㄧㄠˋ tiao⁴

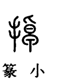
㊁テウ デウ 〔集韻〕徒了切 篠

㊂ダウ ネウ 〔集韻〕女教切 效

㊃ダク ニャク 〔集韻〕昵角切 覺

㊄ダク ナク 〔字彙〕奴各切 藥。

慣 タウ


小篆

㊀㊁㊂㊃ ❶**ふる。ふるふ。**うごかす。大きくゆする。〔說文〕掉、搖也、从レ手卓聲、春秋傳曰、尾大不レ掉。〔段注〕左傳昭十一年文、掉者、搖之過也、搖者、掉之不レ及也、許渾二言之一。〔國語、楚語上〕大能掉レ小。〔注〕掉、作也。〔漢書、蒯通傳〕伏レ軾掉二三寸之舌一。〔揚雄、長楊賦〕掉二八列之舞一。〔注〕善曰、賈逵國語注曰、掉、搖也。❷**ふるへる。**ゆれる。うごく。〔素問、至眞要大論〕筋骨掉肱。〔注〕掉、謂二肉中動一也。〔潘岳、射雉賦〕瞻二挺穟之傾掉一。〔注〕翰曰、掉、動也。❸**ただす。**ととのへる。〔集韻〕掉、一曰、正也。〔左氏、宣、十二〕掉レ鞅而還。〔注〕掉、正也。〔釋文〕掉、徒弔反、徐乃較反。❹**ふなざを。さをさす。**棹（**6**－14992）に通ず。〔說文通訓定聲〕掉、轉注、所二以進レ船具也、字亦變作レ棹。❺**かけなげる。**踔（**10**－37617）に通ず。〔說文通訓定聲〕掉、叚借爲レ踔。〔司馬相如、上林賦〕捷二垂條一、掉二希閒一。〔注〕善曰、郭璞曰、掉、懸擿也。❻或は挑（**5**－12055）に作る。〔集韻〕掉、或从レ兆。❼現㋑交換する。㋺落す。㋩すませる。㊄**もつ。**とる。〔字彙〕掉、持也。

【掉鞅】1（テウアウ） ❶むながいをゆりうごかして正しくする。暇あるさま。〔左氏、宣、十二〕欒伯曰、吾聞、致レ師者、左射以レ菆、代レ御執レ轡、御下、兩レ馬、掉レ鞅而還。〔注〕掉、正也、示二閒暇一。❷從容として筆を執るさま。筆を自由に振ふさま。〔柳宗元、送二苑論登第後歸觀一詩序〕觀下其掉二鞅于術藝之場一、遊中刃乎文翰之林上云云、左右圜視、朋儕拱レ手、甚可レ壯也。〔柳宗元、王氏伯仲唱和詩序〕士大夫掉二鞅於文囿一者、咸不レ得二攀而倫レ之。

【掉羽】2（テウウ） 文の舞。翟羽（**9**－28727‥1）を見よ。〔淮南子、原道訓〕目觀二掉羽武象之樂一。〔注〕掉羽、羽舞。〔淮南子、本經訓〕掉羽武象、不レ知レ樂也。

【掉下】3 tiao⁴ hsia⁴ 落ちる。ふり落す。

【掉價】4 tiao⁴ chia⁴ 價格の下がること。

【掉牙】5 tiao⁴ ya² 齒が拔ける。

【掉陷】6 tiao⁴ hsien⁴ おち入る。

【掉花】7（テウクワ） 農具をいふ。〔餘冬序錄〕吳人謂二之連耞一、楚人謂二之掉花一。

【掉換】8（テウクワン） ❶交換する。とりかへる。轉換する。〔淸會典事例、刑部、刑律、賊盜、白晝搶奪〕甲賊遂取下自己與二行客一衣囊上、給付查看、暗將二假包一、掉二換眞銀一、付二還行客一先行、及レ至二查出假包一、而各賊已先後遁逸。❷乘りかへる。

【掉磬】9（テウケイ） ❶相激して急躁の言をなすこと。急いで埒もなく話すこと。〔禮、內則〕毋三敢敵二耦於冢婦一、〔注〕雖レ有二勤勞一、不二敢掉磬一。〔疏〕崔氏云、北海人謂三相二激之事一爲二掉磬一也。❷あばき告げる。〔禮、內則、毋三敢敵二耦於冢婦一、疏〕隱義云、齊人以二相絞訐一爲二掉磬一。

【掉魂】10 tiao⁴ huen² 考慮を失ふ。非常に驚く。

【掉柴】11（テウサイ） 薪を切つて杖とし、手足を擊つこと。〔宋史、刑法志二〕或斷レ薪爲レ杖、掊二擊手足一、名曰二掉柴一。

【掉搶】12（テウサウ） 船頭。舟夫。掉艙。〔升庵外集〕吳楚謂二帆上風一曰レ搶、謂下借二左右一使中向前上也、楊都賦、艇子搶風、榜人逸浪、今舟人曰二掉搶一、是也、或作レ艙、又作レ槍。

【掉車】13 tiao⁴ ch'ê¹ 車をとりかへる。

【掉手】14 tiao⁴ shou³ 手を持ちかへる。

【掉色】15 tiao⁴ sê⁴ 色が落ちる。色が褪める。

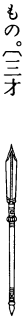
【掉捎】16（テウセウ） うごかし振はす。〔淮南子、俶眞訓〕搖二消掉三捎仁義禮樂一。

【掉撨】17（テウセウ） 掉捎に同じ。〔廣雅、釋訓〕掉撨、振訊也。

【掉舌】18（テウゼツ） ❶舌をふるつて辯論する。口說を逞しくする。又、游說をいふ。〔史記、淮陰侯傳〕且酈生一士、伏レ軾掉二三寸舌一、下二齊七十城一。〔唐書、柏耆傳〕時王承宗以二常山一叛、朝廷厭レ兵、耆杖レ策詣二淮西行營一、謁二裴度一言、願得二天子一節一、馳入レ鎭、可三掉レ舌下レ之。〔元稹、巴蛇詩〕掉レ舌翻二紅焰一、盤レ身蹙二白花一。〔羅隱、酬二丘光庭一詩〕道殷合レ眼拜二九列一、張濬掉レ舌升二三台一。〔書言故事、身體說類〕游說曰二掉舌一。❷tiao⁴ shê² 喋々と語る。

【掉胎】19 tiao⁴ t'ai¹ 墮胎。

【掉刀】20（テウタウ） 刀の一種。劍首は兩刃で、上が闊くて下が狹いもの。〔三才圖會、器用〕掉刀、刃首上闊、長柄施レ鐏、鋸刀、刃前銳後斜闊、長柄施レ鐏。


掉刀（武備志）

【掉轉】21 tiao⁴ chuan³ ふりまはす。

【掉頭】22（テウトウ） ❶頭をふる。事柄を否定するさま。〔莊子、在宥〕鴻蒙拊レ髀、雀躍掉レ頭曰、吾弗レ知。〔杜甫、送三孔巢父謝レ病歸二遊江東一兼呈二李白一詩〕巢父棹レ頭不レ肯レ住、東將三入レ海隨二烟霧一。❷tiao⁴ t'ou² 首を斷ること。

【掉頭不顧】23 tiao⁴ t'ou² pu² ku⁴ 顏を背けて顧みない。

【掉包】24 tiao⁴ pao¹ 僞物又は下等品を、眞物又は上等品と交換すること。密かにすりかへる。

【掉包兒】25 tiao⁴ pao¹ êrh 故意に財布を道に遺失し、人がこれを拾ふのを待つて、言ひがかりをつけて金を捲上げる賊。

【掉皮】26 tiao⁴ p'i² いつはる。欺詐。〔新方言、釋言〕謂二欺詐一爲二掉皮一、卽傜陂也。

【掉臂】27（テウヒ） ❶臂をふるつて顧みないで去ること。〔史記、孟嘗君傳〕日暮之後、過二市朝一者、掉レ臂而不レ顧。〔注〕索隱曰、言二日暮物盡一、故掉レ臂而不レ顧也。〔韓愈、赴二江陵一途中寄二贈王二十補闕・云云・三學士一詩〕持レ男易二斗粟一、掉レ臂莫二肯酬一。❷救援をしないこと。〔六部成語、兵部、掉臂、注解〕唾レ手不レ顧、卽不二肯救援一之意。❸臂を奮つて起つ。腕捲りする。臂を突張る。〔司空圖、力疾山下吳邨看二杏花一詩〕掉レ臂只將二詩

酒㆓敵、不㆑勞金鼓助㆓橫行㆒。❹游行自在のさま。〔邵雍、龍門道中作詩〕三十年來掉臂行。

【掉尾】28（テウビ・タウビ）❶尾をふるふ。〔國語、楚語上〕不㆑能㆑掉㆓其尾㆒。〔司馬相如、上林賦〕揵㆑鰭掉㆑尾、振㆑鱗奮㆑翼。〔曹植、七啓〕假㆓靈龜㆒以托喩、寧掉㆓尾於塗中㆒。❷最後の活動の勢よいこと。又文章の結尾が力あるにもいふ。

【掉尾法】29（タウビハフ）文章法の一。文章の末尾に一句又は數句を敍し、此によつて全體が皆動き、千鈞を曳くの力あらしめること。

【掉鞭】30（テウベン）むちをふるふ。〔李白、幽州胡馬客歌詩〕雙雙掉㆑鞭行、遊獵向㆓樓蘭㆒。〔花蘂夫人、宮詞〕聞得殿前調㆓御馬㆒、掉㆑鞭橫過小紅樓。

【掉栗】31（テウリツ）掉慄に同じ。〔新序、雜事二〕襄王大懼、形體掉栗曰、謹受㆑令。

【掉慄】32（テウリツ）ふるひをののく。戰慄。〔新序、雜事五〕恐懼而掉慄、危視而蹟行。

【掉歪】33 tiao^4 wai^1 からかふ。調弄する。戲れる。

【掉過兒】34 tiao^4 kuo^4 êrh ひつくりかへして。反對に。

【掉書袋】35（テウショタイ）平常の言語に、一々皆書史を引いて話すといつたやうな博洽を矜る人間を譏つていふ。南唐の彭利用が、家人・稚子・奴隸に對して話す時にも、必ず書史に據つた故事。〔南唐書、彭利用傳〕彭利用對㆓家人稚子㆒、下逮㆓奴隸㆒、言必據㆓書史㆒、斷㆑章破㆑句、以代㆓常談㆒、俗謂㆓之掉書袋㆒。

【掉梢眉】36 tiao^4 shao^1 mei^2 婦人の、末の太い眉。すゑぶとまゆ。〔紅樓夢、第三回〕兩灣柳葉掉梢眉。

【掉過臉來】37 tiao^4 kuo^4 lien^3 lai 顏を背ける。又、面目を失ふ。

【掊】12244

㊀ ホウ ブ 〔集韻〕蒲侯切 尤 ㄆㄡˊ p'ou^2

㊁ フウ ブ 〔集韻〕房尤切 尤

㊂ ハウ ベウ 〔集韻〕蒲交切 肴

㊃ ホウ フ 〔集韻〕彼口切 有 ㄆㄡˇ p'ou^3

㊄ フ 〔集韻〕芳遇切 遇

㊅ ホク ボク 〔集韻〕鼻墨切 職

㊆ ハイ バイ 〔集韻〕蒲枚切 灰

小篆

㊀㊁㊂❶かく。搔きとる。〔說文〕掊、杷也、从㆑手音聲。〔段注〕掊者、五指杷㆑之、如㆓杷之杷㆑物也。〔漢書、郊祀志上〕掊視得㆑鼎。〔注〕師古曰、掊、謂㆓手杷㆑土也。❷くみとる。〔說文〕掊、今鹽官入㆑水取㆑鹽爲㆑掊。〔集韻〕掊、引取也。❸あつめをさめる。むさぼりとる。〔詩、大雅、蕩〕曾是掊克。〔釋文〕掊克、聚斂也。❹ふかい。ひどい。〔方言、十三〕掊、深也。〔孟子、告子下〕掊克在㆑位。〔音義〕掊、深也。❺ほこる。おごる。たかぶる。[illegible](2-4564)に通ず。〔說文通訓定聲〕掊、叚借爲㆑[illegible]、自大也、詩釋文云㆓聚斂㆒、則謂㆓借爲㆑桴、桴・掊、雙聲。〔詩、大雅、蕩〕曾是掊克。〔傳〕掊克、自伐而好㆑勝㆑人也。〔疏〕掊、卽倍也、倍者不㆓自量度㆒、謂㆔己兼㆓倍於人㆒、而自矜伐。❻へらす。へす。裒(10-34299)に通ず。〔廣雅、釋詁二〕掊、減也。〔疏證〕謙象傳云、君子以裒㆑多益㆑寡。❼或は捊(5-12139)・抱(5-11917)に作る。〔集韻〕掊、或从㆑孚、从㆑包。❽刨(2-1929)・抔(5-11886)に通ず。〔說文通訓定聲〕掊、字亦作㆑刨作㆑抔。㊃❶うつ。〔集韻〕掊、擊也。❷さく。わる。剖(2-2034)に通ず。〔說文通訓定聲〕掊、叚借爲㆑剖。〔莊子、胠篋〕掊㆑斗折㆑衡。〔莊子、逍遙遊〕吾爲㆓其無用㆒而掊㆑之。〔釋文〕掊、司馬云、擊破也。㊄㊅たふす。たふれる。踣(10-37649)・仆(1-354)に通ず。〔集韻〕仆、說文、頓也、一曰、僵也、或作㆑掊。〔集韻〕踣、說文、僵也、引㆓春秋傳晉人踣㆑之、亦作㆑掊。〔史記、呂后紀〕皆掊㆑兵而去。㊆❶かつ。〔集韻〕掊、克也。❷姓。〔史記、袁盎傳〕乃之掊生所㆒問㆑占。

【掊攟】1（ホウクン）かきあつめてひろふ。掊捃。〔唐書、外戚、李脩傳〕帝以㆓浙西富饒㆒、欲㆔掊㆓攟遺利㆒。

【掊擊】2（ホウゲキ）うつ。うたれる。打擊。攻擊。〔莊子、人閒世〕故不㆑終㆓其天年㆒、而中道夭、自掊㆓擊於世俗㆒者也。〔後漢書、百官志、都官從事、注〕博物記曰、中興以來、都官從事、多出㆓之河內㆒、掊㆓擊貴戚㆒。

【掊克】3（ホウコク）自らほこつて、人に勝つことを好む。一說に、好んで苛税を課して聚斂し、能く人を害ふこと。〔詩、大雅、蕩〕曾是彊禦、曾是掊克、曾是在㆑位、曾是在㆑服。〔傳〕掊克、自伐而好㆑勝㆑人也。〔釋文〕掊克、聚斂也。〔疏〕掊卽倍也、倍者不㆓自量度㆒、謂㆔己兼㆓倍於人㆒、而自矜伐、克者勝也、己實不㆑能恥㆓於受㆑屈、意在㆓陵㆑物必勝㆒而已。〔集傳〕掊克、聚斂之臣也。〔孟子、告子下〕掊克在㆑位、則有㆑讓。〔集注〕掊克、聚斂也。〔說苑、脩文〕遺㆑老失㆑賢、掊克在㆑位。

【掊視】4（ホウシ）土を掘つて見る。〔漢書、郊祀志上〕掊視得㆑鼎。〔注〕師古曰、掊、謂㆓手杷㆑土也。

【掊生】5（ハイセイ）秦の人。賢士。占術を善くす。〔史記、一百一〕。

【掊摘】6（ホウテキ）あつめひろふ。掊摘。〔文心雕龍、正緯〕今經㆑正緯㆑奇、掊㆓摘千里㆒、其僞一矣。

【掊斗】7（ホウト）ますを剖き破る。〔莊子、胠篋〕掊㆑斗折㆑衡而民不㆑爭。

【掊土】8（ホウド）一つかみの土。抔土(5-11886··2)の❶に同じ。〔論衡、調時〕河決㆓千里㆒、塞以㆓一掊之土㆒。

【掊斂】9（ホウレン）人民から無理に税をとること。掊克(3)に同じ。〔唐書、嚴武傳〕峻掊亟斂、閭里爲㆑空。〔唐書、王播傳〕播掊斂不㆑少、衰民皆怨㆑之。〔宋史、高宗紀八〕掊㆓斂軍士㆒。

【掊】12245

ハウ バウ 〔字彙〕步項切 講

すき。[illegible](9-28935)に通ず。〔字彙〕掊、耜屬。〔康熙字典〕掊、集韻作㆑[illegible]。

【掋】12246

㊀ テイ タイ 〔集韻〕典禮切 薺

㊁ テイ タイ 〔集韻〕丁計切 霽

㊀おす。抵(5-11921)に同じ。〔集韻〕抵、說文、擠也、或作㆑掋。㊁なげうつ。〔集韻〕掋、擿也。

【㨁】12247

タウ チヤウ 〔集韻〕中莖切 庚

ひく。〔集韻〕㨁、引也。

【掌】12248

シヤウ 〔集韻〕止兩切 養 ㄓㄤˇ chang^3

小篆

❶たなごころ。てのひら。〔說文〕掌、手中也、从㆑手尙聲。〔釋名、釋形體〕掌言㆑可㆓以排掌㆒也。〔中庸〕治㆑國其如㆑示㆓諸掌㆒乎。〔論語、八佾〕指㆓其掌㆒。〔魏書、路思令傳〕得㆓其人㆒也、六合唾㆑掌可㆑淸。❷動物の足のうら。〔孟子、告子上〕熊掌亦我所㆑欲也。〔注〕熊掌、熊蹯也。❸うでまへ。〔梁簡文帝、吳興㆓楚王神廟㆒碑〕翠石勒文、事偕㆓神掌㆒。❹うつ。たたく。てのひらでたたく。〔揚雄、羽獵賦〕掌㆓

疾藜㆒。〔注〕善曰、掌、擊ㇾ之也。❺**つかさどる**。〔小爾雅、廣言〕掌、主也。〔周禮、天官、冢宰〕帥㆓其屬㆒而掌㆓邦治㆒。〔注〕掌、主也。〔孟子、滕文公上〕舜使㆓益掌ㇾ火。〔注〕掌、主也。〔國語、晉語七〕使ㇾ掌㆓公族大夫㆒。〔注〕掌、主也。❻**ただす**。〔周禮、春官、家宗人〕掌㆓家禮㆒。〔注〕掌、亦正也。❼**ささげる**。〔詩、小雅、北山〕或王事鞅掌。〔箋〕掌、謂㆔捧㆓持之㆒也。❽**さは**。いけ。たまり。障（**11－41821**）に通ず。〔說文通訓定聲〕掌、叚借爲ㇾ障。〔釋名、釋水〕水泆出所ㇾ爲ㇾ澤曰ㇾ掌、停處如㆓手掌中㆒也、今兗州人謂ㇾ澤曰ㇾ掌也。❾**壁立した山峰**。〔喩坦之、寄㆓華陰姚少府㆒詩〕峻掌光浮ㇾ日、危蓮影入ㇾ池。❿**姓**。〔通志、氏族略、以ㇾ族爲ㇾ氏〕掌氏、魯大夫黨士之後、以㆓音掌㆒故從㆓音文㆒、望出㆓琅邪燉煌㆒。⓫現蹄鐵。

名乘 ナカ。

【掌鞅】1（シヤウアウ） いそがしく骨折ること。鞅掌（**12－42784‥4**）に同じ。

【掌握】2（シヤウアク） 手ににぎる。手に入れる。又、手のうち。ひとにぎり。〔列子、湯問〕正㆓度乎胷臆之中㆒、而執㆓箾乎掌握之間㆒。〔史記、陸賈傳〕爲㆓社稷計㆒、在㆓兩君掌握㆒耳。〔漢書、張敞傳〕海內之命、斷㆓于掌握㆒。〔淮南子、精神訓〕登㆓太皇㆒、馮㆓太一㆒、玩㆓天地于掌握之中㆒。

【掌醫】3（シヤウイ） 官名。唐、置く。藥を掌る。〔唐書、百官志二〕掌醫二人、掌㆓方藥・優藥㆒。

【掌印】4（シヤウイン） 官府の印を掌る。又、其の官職。〔舊唐書、職官志三〕凡六尙書物出納文簿皆印㆓署之㆒、司記掌ㇾ印、凡宮內諸司簿書出入目錄、審而付行焉。〔淸會典事例、中書科〕乾隆十四年、增㆓設滿洲中書一員㆒、裁㆓漢中書四員㆒、定爲㆓滿洲中書二員㆒、推㆓資俸深者一員㆒爲㆓掌印㆒、漢中書四員、推㆓資俸深者一員㆒爲㆓掌科㆒、稽㆓察科事㆒。

〖掌印給事中〗5（シヤウインキフジチユウ） 六科給事中の長官。〔淸會典事例、都察院、六科〕雍正元年奉旨、掌印給事中、責任緊要、交㆓都察院㆒公同揀選保奏。

【掌幼】6（シヤウエウ） 官名。幼兒を掌る。〔管子、入國〕凡國都皆有㆓掌幼㆒。

【掌筵】7（シヤウエン） 官名。唐、置く。座席を掌る。〔唐書、百官志二〕掌筵三人、掌㆓幄帟・牀褥・几案・輿繖・汎掃・鋪設㆒。

【掌園】8（シヤウエン） 官名。唐、置く。園藝を掌る。〔唐書、百官志二〕掌園三人、掌㆓種植・蔬果㆒。

【掌訝】9（シヤウガ） 周官の名。秋官の屬。賓客を迎へ勞ふことを掌る。〔周禮、秋官、掌訝〕掌㆓邦國之等籍㆒以待㆓賓客㆒、若將ㇾ有㆓國賓客至㆒、則戒㆓官脩委積㆒、與ㇾ士逆㆓賓于疆㆒、爲㆓前疆㆒而入。

【掌交】10（シヤウカウ） 周官の名。秋官の屬。節と幣とを持して國內を巡視し、王の意を傳へることを掌る。〔周禮、秋官、掌交〕掌㆘以㆓節與ㇾ幣巡㆓邦國之諸侯及其萬民之所ㇾ聚者、道㆗王之德意志慮㆖、使㆘咸知㆓王之好惡㆒辟㆗行之㆖。

【掌號】11（シヤウガウ） 號令をかける。〔長生殿、合圍〕鼓吹掌號科。

【掌葛】12（シヤウカツ） 周官の名。地官の屬。葛草の屬を徵することを掌る。〔周禮、地官、掌葛〕掌㆔以ㇾ時徵㆓絺綌之材于山農㆒。

【掌記】13（シヤウキ） ❶記載を司る。〔後漢書、百官志二〕太史令一人六百石、本注曰、云云、凡國有㆓瑞應灾異㆒、掌ㇾ記ㇾ之。❷唐代の內官。〔唐書、百官志二〕掌記二人、正八品、二十四掌皆如ㇾ之。❸箋奏を掌るもの。書記（**5－14294‥51**）に同じ。〔賈島、送㆓張校書季霞㆒詩〕掌記試㆓校書㆒、未ㇾ稱㆓高詞華㆒。〔郎士元、送㆓李敖湖南書記㆒詩〕憐指才與㆓阮家㆒同、掌記能資亞相雄。❹修史館の職員。羣籍に就いて事實を分纂校錄し、兼ねて圖書を管し、又出納・往復、及び館內の雜務を掌る判任官。一等より八等まである。〔明治十年一月修史館職制〕掌記。

【掌櫃】14 chang^{3} kuei^{4} 商店で一切の事務を總攬する者。支配人。

〖掌櫃的〗15 chang^{3} kuei^{4} tê 支配人。番頭。

【掌伎】16（シヤウギ） 伎樂を掌る。掌技。〔孔融、薦㆓禰衡㆒表〕激楚陽阿、至妙之容、掌伎者之所ㇾ貪。〔注〕向曰、言舞㆓此曲㆒妙爲㆓容態㆒者、主㆓伎樂㆒之人、所㆓以貪愛㆒也。

【掌儀】17（シヤウギ） 朝儀を掌る官。〔蘇洵、任相〕掌儀之官、名而呼ㇾ之。

〖掌儀司〗18（シヤウギシ） 官名。清、內務府に屬し、朝儀を掌る。〔淸國行政法汎論、內務府〕掌儀司、郎中二人、員外郎八人、主事一人、委署主事一人。

【掌畜】19（シヤウキク） 周官の名。夏官の屬。鳥を養つて蕃息させることを掌る。〔周禮、夏官、掌畜〕掌㆕養ㇾ鳥而阜㆓蕃教㆔擾之㆒。

〖掌畜令丞〗20（シヤウキクレイジヨウ） 官名。秦、置く。主爵中尉の屬官。〔漢書、百官公卿表上〕主爵中尉、秦官、云云、屬官有㆓掌畜令丞㆒。

【掌疆】21（シヤウキヤウ） 周官の名。夏官の屬。國の疆界を掌る。〔周禮、夏官、序官、掌疆〕中士八人、史四人、胥十有六人、徒百六十人。〔疏〕在ㇾ此者、按其職闕、雖ㇾ未ㇾ知㆓其事㆒、蓋掌ㇾ守㆓疆界㆒、亦是禁戒之事、故在ㇾ此也。

【掌客】22（シヤウカク） 周官の名。秋官の屬。賓客に供給する牲牢及び飮食の等數を掌る。〔周禮、秋官、掌客〕掌㆔四方賓客之牢禮・餼獻・飮食之等數與㆓其政治㆒。

〖掌客使〗23（シヤウキヤクシ） 古、大饗の時、尊者の迎へに出て、其の先驅などを勤めた使。〔江家次第、二大臣家大饗〕主人著㆓親王玉座㆒、遣㆓掌客使㆒。

【掌火】24（シヤウクワ） 火を掌る。〔孟子、滕文公上〕舜使㆓益掌ㇾ火。

【掌管】25 chang^{2} kuan^{3} つかさどる。世話する。

【掌醢】26（シヤウケイ） 官名。唐、置く。膳食を掌る。〔舊唐書、職官志三〕掌醢之屬、修㆓其儲備㆒、謹㆓其出納㆒。

【掌教】27 chang^{3} chiao^{4} 教育を管理する。教師。

【掌頰】29 chang^{3} chia^{2} 掌で頰を打つこと。

【掌憲】30（シヤウケン） 都御史の異稱。〔稱謂錄、都御史古稱、掌憲〕案、都御史亦稱㆓掌憲㆒。

【掌權】31 chang^{3} chʻüan^{2} 權力を掌握する。

【掌嚴】32（シヤウゲン） 官名。唐、置く。身體の裝飾品を掌る。〔唐書、百官志二〕掌嚴三人、掌㆓首飾・衣服・巾櫛・膏沐・服玩・仗衞㆒。

【掌固】33（シヤウコ） ❶周官の名。夏官の屬。城郭・溝池・樹渠を修めることを掌る。〔周禮、夏官、掌固〕掌ㇾ修㆓城郭溝池、樹渠之固㆒。❷官掌（クワンジヤウ）の唐名。〔伊呂波字類〕太政官、官掌、掌固、左右。

【掌故】34（シヤウコ） ❶國家の故實慣例。一國の典章制度。〔史記、龜策傳〕孝文・孝景、因㆓襲掌故㆒、未ㇾ遑㆓講試㆒。❷官名。漢、置く。太常の屬官。禮樂の故實等を掌る。〔漢書、劉歆傳〕至㆓孝文皇帝㆒、始使㆘掌故朝錯、從㆓伏生㆒受㆗尙書㆖。〔古雋考略〕掌故、掌㆓禮樂之故事㆒者。〔司馬相如、封禪文〕宜㆘命㆓掌故㆒、悉奏㆓其儀㆒而覽㆖焉。〔注〕善曰、漢書音義曰、掌故、太史官屬、主㆓故事㆒者也。〔東方朔、答㆓客難㆒〕使㆔蘇秦・張儀與ㇾ僕竝生㆓於今之世㆒、曾不ㇾ得㆓掌故㆒、安敢望㆓侍郎㆒乎。〔注〕善曰、應劭漢書注曰、掌故、百石吏、主㆓故事㆒者。

【掌孤】35（シヤウコ） 官名。孤を養ひ掌る。〔管子、入國〕凡國都皆有㆓掌孤㆒。

【掌股】36（シヤウコ） 手足をいふ。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕原被俱收㆓掌股㆒。

【掌寇】37（シヤウコウ） 刑罰・盜賊等のことを掌る役。又、其の人。〔後漢書、陳寵傳〕（寵）祖父咸、云云、及㆓莽簒位㆒、召ㇾ咸以爲㆓掌寇大夫㆒、謝ㇾ病不㆓肯應㆒。

【掌國】38（シヤウゴク） 官掌の唐名。〔職原抄〕官掌四人、唐名掌國。

【掌骨】39 chang^{2} ku^{3} 掌の骨。

【掌藏】40（シヤウザウ） ❶官名。唐、置く。財貨を掌る。〔唐書、百官志二〕掌藏三人、掌㆓財貨・珠寶・縑綵㆒。❷藏司の屬官。くらのじよう。〔後宮職員令〕藏司、掌藏四人、掌㆘出㆓納綵帛・賞賜㆒之事㆖。〔職原抄〕藏司、掌藏四人。

【掌察】41（シヤウサツ） 周官の名。秋官の屬。國內を督察することを掌る。〔周禮、秋官、序官〕掌察、四方中士八人、史四人、徒十有六人。〔疏〕蓋督㆓察邦國之事㆒、云云、但官闕、不ㇾ可㆓強言㆒也。

【掌贊】42（シヤウサン） 諸司の雜役。雜役をする小吏。〔唐書、百官志二〕司贊・典贊・掌贊各二人。

【掌子】43（シヤウシ） 周官の名。秋官の屬。王の世子の家事を掌る。〔周禮、秋官、閩隸〕掌㆕役ㇾ畜養ㇾ鳥、阜㆓蕃教㆔擾之㆒、掌子則取ㇾ隸焉。〔注〕玄謂、掌子者、王立㆓世子㆒、置ㇾ臣使ㇾ掌㆓其家事㆒、而以㆓閩

隷㆒役㆑之。

【掌指】44（シヤウシ）　たなごころとゆび。手をいふ。〔遼史、地理志二〕駐蹕山、云云、俗稱㆓手山㆒、山巓平石之上、有㆓掌指之狀㆒。

【掌次】45（シヤウジ）　周官の名。天官の屬。王の祭祀・朝覲・軍旅等に、幕を張り席を設けることを掌る。〔周禮、天官、掌次〕掌㆓王次之灋㆒、以待㆓張事㆒、王大㆓旅上帝㆒、則張㆓氈案㆒、設㆓皇邸㆒。

【掌侍】46（シヤウジ）　❶内侍司の屬官。ないしのじよう。〔後宮職員令〕内侍司、掌侍四人、掌同㆓典侍㆒、唯不㆑得㆓奏請宣傳㆒。❷宮中の女官。明治二年十月十二日、勾當掌侍・二掌侍・三掌侍・新掌侍の四人を置き、同四年七月二十四日、此の區別を廢す。〔明治職官沿革表、一、職官部上〕明治二年、掌侍。

【掌囚】47（シヤウシウ）　周官の名。秋官の屬。盗賊の難を守ることを掌る。〔周禮、秋官、掌囚〕掌㆑守㆓盗賊㆒。

【掌執】48（シヤウシツ）　にぎりもつ。掌る。〔西溪叢語〕掌㆓執金革㆒、以禦㆓非常㆒。

【掌舍】49（シヤウシヤ）　周官の名。天官の屬。王の會同の舍を掌る。〔周禮、天官、掌舍〕掌㆓王之會同之舍㆒、云云、凡舍事則掌㆑之。〔潘岳、藉田賦〕封人壝㆑宮、掌舍設㆑枑。

【掌車】50（シヤウシヤ）　明治四十一年一月以前、宮内省主馬寮に置いた准判任官。〔明治二十二年七月宮内省達第十號宮内省官制、第四十條、十二號〕掌車。

【掌上】51（シヤウジヤウ）　手のひらの上。〔沈佺期、送㆔金城公主適㆓西番㆒應制詩〕玉就歌中怨、珠辭掌上恩。〔王昌齡、箜篌引〕爲㆑君掌上施㆓權謀㆒。

〔掌上珠〕52（シヤウジヤウノシユ）　人の愛女をいふ。掌中珠、掌珠(59)を見よ。

〔掌上舞〕53（シヤウジヤウブ）　身なりのごく輕い舞。〔飛燕外傳〕漢趙飛燕、能作㆓掌上舞㆒。〔南史、羊侃傳〕時人咸推能㆓掌上儛㆒。

〔掌上明珠〕54（シヤウジヤウノメイシユ）　掌上の玉。愛女をいふ。掌上珠。

〔運㆓於掌上㆒〕55（シヤウジヤウニメグラス）　手中に取扱ふ。容易に自分の思ふ通りにする。〔孟子、公孫丑上〕治㆓天下㆒、可㆑運㆓之掌上㆒。

【掌狀】56（シヤウジヤウ）　手の指を開いたかたち。

〔掌狀脈〕57（シヤウジヤウミヤク）　掌狀をした脈。

〔掌狀複葉〕58（シヤウジヤウフクエフ）　數葉が分列して、掌を開いた樣な形をした葉。

【掌珠】59（シヤウシユ）　珍貴のもの。子供又は婦女を愛して掌中の珠に喩へていふ。掌中珠(78)を見よ。〔白居易、哭㆓崔兒㆒詩〕掌珠一顆兒三歲、鬢雪千莖文六旬。〔書言故事、子孫類〕賀㆑生㆑子用、榮捧㆓掌珠㆒。〔精註雅俗故事讀本、上、祖孫父子〕國器掌珠、悉是稱㆓人之子㆒。

【掌書】60（シヤウシヨ）　官名。唐、置く。文書を掌る。〔唐書、百官志二〕掌書三人、掌㆓符契・經籍・宣傳・啓奏・教學・稟賜・紙筆㆒。

〔掌書記〕61（シヤウシヨキ）　官名。唐、置く。文書を掌る。元帥府及び節度使の屬官。〔唐書、鄭從讜傳〕前進士劉崇魯推官・左拾遺李渥掌書記・長安尉崔澤支使、皆一時選。〔五代史、雜四十二、李珽傳〕成汭之鎭㆓荊州㆒、辟㆓掌書記㆒。〔資治通鑑、唐紀〕（玄宗、天寶十載）掌書記高尙。〔注〕掌書記、位判官下、古記室參軍之任。〔稱謂錄、通判、掌書記〕小學善行篇、張文節公爲㆑相、自奉如㆓河陽掌書記時㆒、注、掌書記、府佐貳之官、宋時位㆓通判之下㆒。

【掌仍】62（シヤウジヨウ）　淸、彭元瑞(**4－10003··145**)の字。

【掌食】63（シヤウシヨク）　官名。唐、置く。飲食を掌る。〔唐書、百官志二〕掌食三人、掌㆓膳羞・酒醴・燈燭・薪炭・器皿㆒。

【掌心】64（シヤウシン）　てのうち。たなごころの中心。〔顏氏家訓、勉學〕帝握㆑拳代㆑痛、爪入㆓掌心㆒。

〔掌心雷〕65（シヤウシンライ）　明の顧太眞が、旆衣道人から授かつた呪法の一。能く雨暘を指揮し、風雷を叱咤するといふ。掌中で行ふもの。掌中雷。〔溫州府志〕明顧太眞遇㆓旆衣道人㆒、授㆓掌心雷法㆒、能指㆓揮雨暘㆒、叱㆓咤風雷㆒。

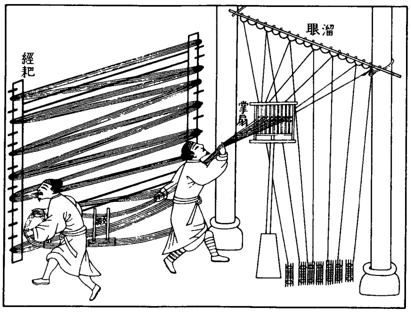
【掌蜃】66（シヤウシン）　周官の名。地官の屬。蜃灰を施したり、蜃甲で器を飾つたり、はまぐりの屬を掌る。〔周禮、地官、掌蜃〕掌㆘斂㆓互物蜃物㆒、以共㆗闉壙之蜃㆖、祭祀共㆓蜃器之蜃㆒、共㆓白盛之蜃㆒。〔注〕互物、蚌蛤之屬。

【掌正】67（シヤウセイ）　官名。唐、置く。文書の出入、錠の管理、及び司法のことを掌る。〔唐書、百官志二〕掌正三人、從八品、九掌皆如㆑之、掌㆓文書出入管鑰糺察推罰㆒。

【掌跡】68（シヤウセキ）　手のひらのあと。〔韻府引、述異記〕河神巨靈擘開㆑之、以通㆓河流㆒、其掌跡猶在焉。

【掌節】69（シヤウセツ）　周官の名。地官の屬。符節を掌る。〔周禮、地官、掌節〕掌㆘守㆓邦節㆒而辨㆓其用㆒、以輔㆗王命㆖。〔注〕邦節者、珍圭・牙璋・穀圭・琬圭・琰圭也。

【掌扇】70（シヤウセン）　❶儀仗に用ひる長柄の團扇。障扇。〔演繁露〕今人呼㆓乘輿所㆑用扇㆒爲㆓掌扇㆒、殊無㆑義、蓋障扇之譌也、江夏王義恭爲㆓宋孝武所㆑忌、奏㆘革㆓諸侯㆒制度㆖、障扇不㆑得㆑用㆓雉尾㆒、是也。❷機杼の具の名。〔天工開物、經具〕凡絲既籰之後、牽㆑經就織、以㆓直竹竿㆒穿㆓眼三十餘㆒、透㆓過篾圈㆒、名曰㆓溜眼㆒、竿橫㆓架柱上㆒、絲從㆑圈透㆓過掌扇㆒、然後纏㆓繞經耙之上㆒。



溜眼掌扇　（天工開物）

【掌膳】71（シヤウゼン）　膳司の屬官。かしはでのじよう。〔職原抄〕膳司、掌膳四人。

【掌大】72（シヤウダイ）　手のひら程のおほきさ。〔吳涵虛、上昇歌〕我向㆓大羅㆒觀㆓世界㆒、世界卽如㆓指掌大㆒。

【掌炭】73（シヤウタン）　周官の名。地官の屬。炭灰の徵令を掌る。〔周禮、地官、掌炭〕掌㆓灰物炭物之徵令㆒。

【掌鑄】74（シヤウチウ）　鑄錢を掌る官。〔六部成語、戶部、掌鑄、注解〕掌㆓管鑄錢㆒之員也。

【掌中】75（シヤウチユウ）　手のうち。わが所有。又、手の中に扱ふこと。

〔掌中芥〕76（シヤウチユウカイ）　仙草の名。其の實を掌中に置いて息を吹きかけると芽を出し、これを食へば地上を離れて空中に立つことが出來るといふ。〔洞冥記〕有㆓掌中芥㆒、葉如㆓松子㆒、取㆓其子㆒置㆓掌中㆒、吹㆑之而生、一吹長一尺、至㆓三尺㆒而止、然後可㆑移㆓於地上㆒、若不㆑經㆓掌中吹㆒者、則不㆑生也、食㆑之能空中孤立、足不㆑躡㆑地、亦名㆓躡空草㆒。

〔掌中果〕77（シヤウチユウノクワ）　掌の中の果物。轉じて、大切なものの喩。〔陸游、懷江公民表詩〕九州看如㆓掌中果㆒、天不㆓遺爲㆒吁可㆑惜。

〔掌中珠〕78（シヤウチユウノタマ）　手中の玉。掌珠。❶愛する妻をいふ。〔傅玄、短歌行〕昔君視㆑我、如㆓掌中珠㆒、何意一朝、棄㆓我溝渠㆒。❷愛する兒女をいふ。〔杜甫、戲作寄㆓上漢中王㆒詩〕雲裏不㆑聞雙鴈過、掌中貪見一珠新。

〔掌中雷〕79（シヤウチユウライ）　掌心雷(65)を見よ。〔龔定盦集〕掌中雷者、神寶君說洞神下乘法、所㆑爲役令之事。

〔入㆓掌中㆒〕80（シヤウチユウニイル）　先方の事情が已に明かに知了されること。又、我が掌上に歸したこと。〔資治通鑑綱目〕裕曰、兵已過㆑險、士有㆓必死之志㆒、餘糧棲㆑畝、人無㆓匱乏之憂㆒、虜已入㆓吾掌中㆒矣。

【掌蹄】81（シヤウテイ）　手のひらとひづめ。〔鹽鐵論、散不足〕煩尾掌蹄。

【掌天】82（シヤウテン）　山名。四川省劍閣縣の東南。晉の大安元年、都護衛博と李特と戰つた處。

【掌典】83（シヤウテン）　❶つかさどる。〔舊唐書、職官志三〕太子内官、云云、女史流外三品、掌㆓典文簿㆒而執行焉。❷明治四年八月四日、神祇官に置いた奏任、又は判任の職員。祭事・神饌を掌り、大・中・少の三等に分ける。〔宮内省官制第三十五條〕掌典。

〔掌典長〕84（シヤウテンチヤウ）　掌典部の長官。〔宮内省官制、第三十五條〕掌典長。

〔掌典部〕85（シヤウテンブ）　式部職の一部。祭事を掌る所。掌典長・掌典次長・掌典・内掌典・掌典補の職員を置く。〔宮内省官制、第三十四條〕掌典部。

【掌徒】86（シヤウト）　徒御を掌る官。〔曹植、應㆑詔詩〕

命㆓彼掌徒㆒、肅㆓我征旅㆒。〔注〕向曰、掌徒、掌㆓徒御㆒也。

【掌茶】87（シヤウト） 周官の名。地官の屬。にがなをあつめて喪事に供することを掌る。〔周禮、地官、掌茶〕掌㆔以㆑時聚㆑茶以共㆓喪事㆒。

【掌統】88（シヤウトウ） つかさどりすべる。主宰する。〔魏志、王基傳評〕王基學行堅白、皆掌㆓統方任㆒。〔唐書、百官志四上〕將軍各三人、從三品、掌㆓統北衙禁兵㆒。

【掌燈】89（シヤウトウ） ❶官名。唐、置く。門閣の燈燭を掌る。〔唐書、百官志二〕司燈・典燈・掌燈各二人、掌㆓門閣燈燭㆒。❷夕方。〔紅樓夢、四十回〕商議之間、早又掌燈一夕無㆑話。❸宮中の節會の時、主殿司が脂燭と土器とを持つて坐に居ること。

【掌把】90 chang^3 pa^4 手のうち。たなごころ。

【掌霸】91（シヤウハ） 霸權を掌握する。霸者となる。

【掌媒】92（シヤウバイ） 官名。媒妁を掌る。〔管子、入國〕凡國都皆有㆓掌媒㆒。

【掌窌】93（シヤウハウ） 官名。倉廩を掌る。〔荀子、議兵〕若㆑是則必發㆓夫掌窌之粟㆒以食㆑之。〔注〕地藏曰㆑窌、掌窌、主㆓食稟㆒之官。

【掌房】94 chang^3 fang^2 役所の會計室。

【掌判】95（シヤウハン） 結婚の相談を引受ける。男女の媒妁をする。判は半。〔周禮、地官、媒氏〕掌㆓萬民之判㆒。〔注〕判、半也、得㆑耦爲㆑合、主㆘合㆓其半㆒成㆗夫婦㆖也。〔書言故事、媒妁類〕媒曰㆓掌判㆒。

【掌班】96 chang^3 pan^1 妓樓の番頭。又、俳優仲間の支配頭。

【掌盤】97 chang^3 pʻan^2 盜人の頭。

【掌蹯】98（シヤウハン） 獸の足のうら。〔爾雅、釋獸、貍・狐・貒・貈・醜其足蹯、注〕皆有㆓掌蹯㆒。〔疏〕說文云、蹯、掌也、此四獸之類、皆有㆓掌蹯㆒。

【掌皮】99（シヤウヒ） 周官の名。天官の屬。皮革のことを掌る。〔周禮、天官、掌皮〕掌㆓秋斂㆑皮、冬斂㆑革、春獻㆒㆑之。

【掌弣】100（シヤウフ） 弓を手に握る。〔王褒、四子講德論〕播種則扞弦掌弣。〔注〕善曰、鄭玄禮記注曰、弣、弓把也。

【掌武】101（シヤウブ） 唐代、太尉の異稱。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以㆓它名㆒標㆓牓官稱㆒、今漫疏㆓於此㆒、以示㆘子姪之未㆑能㆓盡知㆒者㆖、太尉爲㆓掌武㆒、司徒爲㆓五教㆒。

【掌祓】102（シヤウフツ） 官名。はらひを掌る。〔劉孝威、三日侍㆓皇太子曲水宴㆒詩〕掌祓開㆓神籞㆒、司馬動㆓鑾鑣㆒。

【掌文】103（シヤウブン） ❶手のすぢ。手のあや。〔後漢書、公孫述傳〕會有㆑龍出㆓其府殿中㆒、夜有㆓光耀㆒、述以爲㆓符瑞㆒、因刻㆓其掌文㆒、曰㆓公孫帝㆒。〔庾信、成王刻㆓桐葉㆒封㆑虞贊〕帝刻㆓桐葉㆒、天書㆓掌文㆒。〔神相全編、十、論手〕掌心文章。❷文章を掌る。又、其の官。〔雲仙雜記、一、黑松使者〕凡世人有㆑文者、其墨上皆有㆓龍賓十二㆒、上神㆑之、乃以㆑墨分㆓賜掌文官㆒。

【掌平】104（シヤウヘイ） 清、吳世賢(**2**－3365・・697)の號。

【掌病】105（シヤウヘイ） 官名。疾病を掌る。〔管子、入國〕凡國都皆有㆓掌病㆒。

【掌縫】106（シヤウホウ） 官名。唐、置く。裁縫を掌る。〔唐書、百官志二〕掌縫三人、掌㆓裁紉・織績㆒。

【堂㝱】107（シヤウボウ） 官名。夢を掌る。〔楚辭、宋玉、招魂〕巫陽對曰掌㝱。〔注〕巫陽對㆓天帝㆒曰、言㆔招㆑魂者、本掌㆑㝱之官所㆓職主㆒也。〔集注〕㝱、一作㆑夢。

【掌紋】108 chang^3 wen^2 掌中の紋。

【掌雷】109（シヤウライ） 清、傅維鱗(**1**－939・・142)の字。

【掌老】110（シヤウラウ） 官名。老人を養ふことを掌る。〔管子、入國〕凡國都皆有㆓掌老㆒。

【掌理】111 chang^2 li^3 掌る。管理する。取扱ふ。

【掌戮】112（シヤウリク） 周官の名。秋官の屬。斬罪刑罰等のことを掌る。〔周禮、秋官、掌戮〕掌㆘斬㆓殺賊㆒諜而搏㆖之。

【掌令】113（シヤウレイ） 政令法令等を掌る。〔周禮、地官、稍人〕掌㆑令㆓丘乘之政令㆒。

【掌曆】114（シヤウレキ） 曆を掌る。〔大戴禮、五帝德〕羲和掌㆑曆、敬授㆓民時㆒。

【掌漏】115（シヤウロウ） 昔の時計番。〔陳後主、七夕宴㆓宣猷堂㆒云云詩〕蘊仙此還異、掌漏翻非㆑役。

【運㆑掌】116（タナゴコロニメグラス） 掌上に物を動かす。事の成し易い喩。〔孟子、公孫丑上〕治㆓天下㆒、可㆑運㆓之掌上㆒。〔東方朔、答㆓客難㆒〕動發擧㆑事、猶㆑運㆓之掌㆒。

【指㆑掌】117（シヤウヲサス） 掌を指し示す。事が明白で容易な喩。指掌(**5**－12034・・66)の❶を見よ。〔論語、八佾〕其如㆑示㆓諸斯㆒乎、指㆓其掌㆒。

【抵㆑掌】118（シヤウヲウツ） 手をうつ。抵掌(**5**－11846・・2)を見よ。〔史記、滑稽、優孟傳〕抵㆑掌談語。〔後漢書、隗囂傳〕人人抵㆑掌、欲㆑爲㆓不善之計㆒。〔左思、蜀都賦〕劇談戲論、扼㆑腕抵㆑掌。

【抵㆑掌而談】119（シヤウヲウチテダンズ） 手を打つて面白く談話する。〔戰國、秦策〕說㆓趙王於華屋之下㆒、抵㆑掌而談。

【反㆑掌】120（シヤウヲカヘス） 手をうらがへす。甚だたやすい喩。又、急にかはる喩。〔漢書、枚乘傳〕變㆑所㆑欲爲、易㆓於反㆑掌、安㆓於泰山㆒。〔陸龜蒙、江湖散人歌〕冰霜襦袴易㆑反㆑掌、白面諸郎殊不㆑知。〔李益、輕薄篇〕死生容易如㆑反㆑掌、得意失意由㆓一言㆒。

【掌案的】121 chang^3 an^4 tê 書吏。〔還魂記、冥判〕天上消災、叫掌案的。

【掌禹錫】122（シヤウウシヤク） 宋、郾城の人。字は唐卿。進士。英宗の時、官は尙書工部侍郞。皇祐方域圖志・地理新書・校正類篇・神農本草の編纂に預る。著に郡國手鑑・周易集解がある。〔宋史、二百九十四〕・〔宋史新編、九十一〕。

【掌腰糕】123 chang^3 yao^1 kao^1 二月二日に、隔年、糕を油で揚げて食ふこと。蘇州地方の行事。

【掌起橋】124（シヤウキケウ） 鎭の名。浙江省慈谿縣の北。海鹽を產す。

【掌貨賄】125（シヤウクワワイ） 周官の名。秋官の屬。貨賄を督察することを掌る。〔周禮、秋官、序官〕掌貨賄、下士十有六人、史四人、徒三十有二人。〔疏〕掌㆓邦國所㆑致貨賄㆒、但官闕、不㆑可㆓強言㆒也。

【掌作的】126 chang^3 tsuo^4 tê 工事の棟梁。親方。頭取。

【掌璽官】127（シヤウジクワン） 官名。天子の御印璽を掌る。今の內大臣。

【掌染草】128（シヤウセンサウ） 周官の名。地官の屬。染草を掌る。〔周禮、地官、掌染草〕掌㆘以㆓春秋㆒斂㆓染草之物㆒、以㆓權量㆒受㆑之、以待㆑時頒㆖之。

【掌鞭的】129 chang^3 pien^1 tê 馭者。

【掌冶署】130（シヤウヤシヨ） 官署の名。隋、置く。唐に至つて治署と改む。冶金を掌る。〔通典、職官、諸卿下、內侍省〕隋有㆓掌冶署㆒。

【掌養疾】131（シヤウヤウシツ） 官名。病人を掌る。〔管子、入國〕凡國都皆有㆓掌養疾㆒。

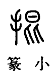
【掌院學士】132（シヤウヰンガクシ） 翰林院の長官。〔清會典、翰林院〕翰林院、掌院學士、滿洲一人、漢一人、掌㆘論㆓撰文史㆒之事㆖、率在㆓院之列㆒而勵㆓其學行㆒、以備㆓任使㆒、以充㆓侍從㆒。

【掌關防處】133（シヤウクワンバウシヨ） 清代、內務府に屬し、宮殿の裝飾掃除等を掌る役所。〔清國行政法汎論、內務府、御膳供奉事務〕府屬有㆓掌關防處㆒、專掌㆓宮殿裝飾灑掃等事㆒。

【掌篇小說】134（シヤウヘンセウセツ） 佛語、コントの譯語。短篇小說の意。通常の短篇小說と異なり、獨立の組立と強い印象、機智と狙ひとを持つた小說形態の一種。

【掍】12249

コン 〔集韻〕古本切 阮



小篆

❶**あはせる**。同じくする。まぜる。混(**7**－17694)に同じ。〔說文〕掍、同也、从㆑手昆聲。〔方言、三〕掍、同也、宋衞之閒、或曰㆑掍。〔班固、西都賦〕掍㆓建章㆒而連㆓外屬㆒。〔注〕善曰、方言曰、掍、同也、音義與㆑混同。〔王褒、洞簫賦〕帶以㆓象牙㆒、掍㆓其會合㆒。〔注〕濟曰、飾㆓之象牙㆒、同㆓於會合之處㆒。❷棍(**6**－14924)に通ず。〔說文通訓定聲〕掍、字亦作㆑棍。❸**しばる**。緄(**8**－27597)・梱(**8**－25073)に通ず。〔說文通訓定聲〕掍、叚借爲㆑緄、爲㆑梱。❹或は𣬝(**6**－16763)に作る。〔集韻〕掍、或从㆑同。

【掎】12250

㊀キ 〔集韻〕擧綺切 紙 ㄐㄧˇ chi^3

㊁キ 〔集韻〕居宜切 支

㊂キ 〔集韻〕卿義切 寘

㊃カ 〔正字通〕居何切 歌

㊄イ 〔集韻〕隱綺切 紙

掎 小篆 一二三四**ひく**。㋑あしをひく。片足をひく。〔說文〕掎、偏引也、从レ手奇聲。〔左氏、襄、十四〕晉人角レ之、諸戎掎レ之。〔注〕掎レ之、掎二其足一也。〔漢書、敍傳上〕昔秦失二其鹿一、劉季逐而掎レ之。〔注〕師古曰、掎、偏二持其足一也。〔後漢書、班固傳上〕掎、弦不二再控一。〔注〕說文曰、掎、偏引也。㋺後方からひきとめる。〔國語、魯語下〕掎止二晏萊一焉。〔注〕從レ後曰レ掎。〔漢書、息夫躬傳〕躬掎レ祿曰。〔注〕師古曰、掎、從レ後引レ之也。〔後漢書、崔寔傳〕故言レ事者、雖レ合二聖德一、輒見二掎奪一。〔注〕國語曰、從レ後牽曰レ掎。㋩發する。〔班固、西都賦〕機不二虛掎一。〔注〕良曰、機、弩牙也、掎、發也。㋥ひきぬく。〔木華、海賦〕掎二拔五嶽一。〔注〕善曰、掎、引也。㋭たぐる。ひきよせる。〔詩、小雅、小弁〕伐レ木掎矣。〔疏〕是畏二木倒一而掎レ之、掎者倚也、謂三以レ物倚二其巓峯一也。〔音學五書、詩本音〕掎、古音居何反、後人誤入二四紙音一。五**正しくない**。ゆがむ。⿰扌旖(**5—12874**)に同じ。掎匜(1)を見よ。

【掎匜】1 イイ 正しくない。ゆがむ。〔集韻〕⿰扌旖、⿰扌旖匜、不レ正也、或省。

【掎角】2 キカク 前後相應じて敵に當ること。鹿を捕へるのに、後から足をひくを掎といひ、前から角をとるを角といふ。〔左氏、襄、十四〕譬如レ捕レ鹿、晉人角レ之、諸戎掎レ之。〔注〕掎二其足一也。〔疏〕角レ之、謂レ執二其角一也、掎レ之、言レ戾二其足一也。〔會箋〕角レ之掎レ之、文相對、然晉人先執二其角一止レ之、而諸戎自レ後牽レ足、與レ晉仆レ之也。〔魏志、三少帝、陳留王奐紀〕吳寇屯二逼永安一、遣二荊豫諸軍一、掎角赴救。〔吳志、陸遜傳〕掎二角此寇一、正在二今日一。〔蜀志、蔣琬傳〕須二吳舉動一、東西掎角、以乘二其釁一。〔李衞公問對、上〕漢兵唯強弩掎角、此正兵歟。〔白居易、除二閻巨源一充二邠寧節度使一制〕況乎掎二角諸軍一、金二湯中夏一。

【掎角勢】3 キカクノイキホヒ 一人は鹿の脚をとり、一人は鹿の角をとる。前後から相應じて敵に當る態勢。〔北史、爾朱榮傳〕啓二北人一爲二河內諸州一、欲レ爲二掎角勢一。

【掎契】4 キケツ 一つ一つ拾ひあげて摘發する。掎挈(5)・掎摭(9)に同じ。〔荀子、議兵〕掎契司詐、權謀傾覆、未レ免二盜兵一也。〔注〕契、讀爲レ挈、挈、持也、掎挈、猶レ言二掎摭一也。

【掎挈】5 キケツ 一つ一つ拾ひあげて摘發する。前から引いたり、後から引いたり。掎契・掎摭(9)に同じ。〔荀子、富國〕有掎挈伺詐、權謀傾覆、以相顚倒、以靡二敝之一。〔注〕掎二摭其事一、挈二擧其過一。〔久保愛增注〕蓋、掎者自レ後引レ之也、挈者在レ前提レ之也。

【掎汩】6 キコツ ひきみだす。〔柳宗元、愚溪對〕秦有レ水、掎二汩泥淖一、撓二混沙礫一。

【掎止】7 キシ 後から引き止める。〔國語、魯語下〕掎二止晏萊一焉。〔注〕從レ後曰レ掎、止、獲也。

【掎掣】8 キセイ ひきとどめる。制御する。〔唐書、祝欽明傳〕時左僕射韋巨源助レ后掎二掣帝一。

【掎摭】9 キセキ 一つ一つ拾ひあげる。ひきよせて收める。〔曹植、與二楊德祖一書〕詆二訶文章一、掎二摭利病一。〔注〕銑曰、掎、偏、摭、拾也。〔詩品〕辨二彰清濁一、掎二摭病利一。〔韓愈、石鼓歌〕孔子西行不レ到レ秦、掎二摭星宿一遺二羲娥一。

【掎奪】10 キダツ ひきのける。〔後漢書、崔寔傳〕故言レ事者、雖レ合二聖德一、輒見二掎奪一。〔注〕國語曰、從レ後牽曰レ掎。

【掎拔】11 キバツ ぬきとる。ひきとる。〔木華、海賦〕掎二拔五嶽一、竭二涸九州一。〔注〕善曰、掎、引也、廣雅曰、拔、出也。

【掏】 12251 タウ ドウ 〔集韻〕徒刀切 ㄊㄠ- 豪 t'ao^1

㊀**えらぶ**。〔廣韻〕掏、掏擇。〔集韻〕掏、擇也。㊁**くむ**。とる。〔集韻〕掏、抒也。㊂**とりだす**。**又、くむ**。搯(**5—12510**)に同じ。〔集韻〕搯、摍也、一曰、抒也、或作レ掏。㊃**手さぐりで物を取る**。掏摸(5)を見よ。

【掏溝】1 t'ao^1 kou^1 溝渠を浚ふ。

【掏兒】2 タウジ スリ 往來又は盛場などで、人に摩り寄って其の懷中品・携帶物などを掠めとる者。掏摸。

【掏井】3 t'ao^1 ching^3 井戸を浚ふ。

【掏錢】4 t'ao^1 ch'ien^2 財布・懷中などから錢を取り出す。

【掏摸】5 タウボ スリ 手さぐりで他の物を盜み取る。又、其の人。すり。ちぼ。きんちやくきり。掏兒(2)に同じ。〔元典章、刑部、諸盜〕捉二獲到掏摸鈔賊人王合住・齊丑臉一、於二木塔寺前一掏二摸訖賣麵事主一鈔二五錢一。〔琵琶記、拐兒紿誤〕自家脫二空行徑一、掏二摸生涯一。〔六部成語、刑部、掏摸、注解〕穿窬之盜也。

【掏腰包】6 t'ao^1 yao^1 pao^1 自腹をきる。散財すること。

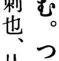
【掏耳朵】7 t'ao^1 êrh^3 tuo 耳を掃除する。

【掏出來】8 t'ao^1 ch'u lai 取出す。引出す。

【⿰扌彔】 12252 ロク

摝(**5—12593**)に同じ。〔集韻〕摝、或作レ⿰扌彔。

【掐】 12253 カフ ケフ 〔集韻〕乞洽切 ㄑㄧㄚ- 洽 ch'ia^1

小篆 ㊀**つまむ**。**つねる**。〔說文新附〕掐、爪刺也、从レ手臽聲。〔玉篇〕掐、爪按曰レ掐。〔晉書、郭舒傳〕掐レ鼻灸二眉頭一。〔北史、齊孝昭帝紀〕帝以レ爪掐二手心一、血流出レ袖。㊁插(**5—12346**)に通ず。〔說文新附考〕掐、疑插之俗字、說文、插訓レ刺レ肉、玉篇・廣韻、插並訓レ刺レ人、又廣韻、掐・插、同在二洽韻一、是音義形並近矣。㊂**たたく**。〔國語、魯語下〕無レ掐レ膺。〔注〕掐、叩也。〔馬融、長笛賦〕掐レ膺擗摽。〔注〕善曰、國語曰、無レ掐レ膺、韋昭曰、掐、叩也、翰曰、掐、叩、膺、胸也。㊃現 指を折り曲げる。

參考 搯(**5—12510**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕掐、音恰、爪刺。搯、音滔。

【掐去】1 ch'ia^1 ch'ü^4 捕へる。摑む。

【掐花】2 ch'ia^1 hua^1 花を摘み採る。

【掐算】3 ch'ia^1 suan^4 指折りかぞへる。

【掐死】4 ch'ia^1 ssŭ^3 絞殺する。又、犬猫などが咬み殺すこと。

【掐指】5 ch'ia^1 chih^2 指を曲げる。指折る。

【掐摘】6 カフテキ 爪でかきとる。つみとる。〔顏氏家訓、風操〕吳郡陸襄父閑被レ刑、終身布衣、蔬飯雖二薑菜一、有二切割一、皆不レ忍レ食、居家唯以二掐摘一供レ廚。

【掐毒】7 カフドク 唐代、侍御史の俗稱。〔封氏聞見記、風憲〕侍御史謂二之掐毒一、言レ如三蜂蠆去二其芒刺一也。

【掐鼻】8 カフビ 鼻をつまむ。掐レ鼻灸二眉頭一(**12—48498··69**)を見よ。〔晉書、郭舒傳〕王敦曰、平子以二卿病レ狂、故掐レ鼻灸二眉頭一、舊疾復發耶。

【掐膺】9 カフヨウ 胸を叩く。胸をつまむ。憂のさま。〔國語、魯語下〕無レ掐レ膺、無レ憂レ容。〔馬融、長笛賦〕靁歎頹息、掐レ膺擗摽。〔注〕翰曰、掐、叩、膺、胸也。

【掐尖子】10 ch'ia^1 chien^1 tzŭ 困らせる。人の話を壓迫する。

【掐尖出色】11 ch'ia^1 chien^1 ch'u^1 sê^4 優れてゐる。卓越してゐる。出色な。

【掐住嗓子】12 ch'ia^1 chu^4 sang^3 tzŭ 咽喉をしめる。咽喉を抑へしめる。

【掐頭去尾】13 ch'ia^1 t'ou^2 ch'ü^4 wei^3 頭と尾とを取除ける。不必要な所を除き去る。

【掑】 12254 ギ キ 〔集韻〕渠之切 支

つよい。扲掑。或は⿱其手(**5—12255**)に作る。〔集韻〕掑、扲掑、堅勇也、或書作レ⿱其手。

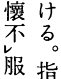
【掱】12255

キ 拱（**5―12254**）に同じ。〔集韻〕拱、或書作レ掱。

【排】12256

㊀ハイ バイ 〔集韻〕蒲皆切 佳 ㄆㄞˊ p'ai²·³

㊁ハイ バイ 〔集韻〕歩拜切 卦


小篆

㊀❶**おす**。㋑おしのける。〔說文〕排、擠也、从レ手非聲。〔揚雄、羽獵賦〕探レ巖排レ碕。〔何遜、擬輕薄篇〕肩排冥不レ息。㋺おしひらく。〔廣雅、釋詁三〕排、推也。〔禮、少儀〕排二闔說一屨於戶內一者、一人而已矣。〔疏〕排、推二門扇一也。㋩しりぞける。指斥する。〔後漢書、賈逵傳〕諸儒內懷不レ服、相與排レ之。〔注〕排、擯却也。㋥はらふ。のぞく。〔史記、魯仲連傳〕爲レ人排レ患釋レ難。〔劉考儀、歎別賦〕憂試排而不レ卻。㋭疏通する。〔孟子、滕文公上〕決二汝漢一、排二淮泗一。〔集注〕決・排、皆去二其壅塞一也。❷**せまる**。さしせまる。〔後漢書、竇融傳〕囂勢排迮、不レ得二進退一。〔注〕排迮、謂二蹙迫一也。❸**ためる**。〔荀子、性惡〕然而不レ得二排檄一、則不レ能二自正一。〔注〕排檄、輔二正弓弩一之器。❹**土を盛りふさぐ**。〔孟子、滕文公上〕決二汝漢一、排二淮泗一。〔注〕排、壅也。❺**つつみ**。隄防。〔水經、淮水注〕修二防排一以正二水路一。❻**たて**。干盾。〔後漢書、袁紹傳〕蒙レ楯而行、〔注〕楯、今之旁排也。〔炙轂子錄〕馬軍用二朱漆排一。❼**ならぶ**。ならべる。輩（**7―20061**）に通ず。〔說文通訓定聲〕排、叚借爲レ輩、按、今排偶字當レ作二輩耦一。〔字彙〕排、列也。〔沈約、注二制旨連珠一表〕連珠者、蓋謂三辭句連續、互相發明、若二珠之結排一也。〔白居易、春題二湖上一詩〕松排二山面一千重翠。〔元稹、上レ詩啓〕往往戲排二舊韻一、別創二新調一。〔李商隱雜纂、惱人〕暑月排レ筵久坐。❽**ならび**。縱列。〔紀效新書〕二人一排。❾**兄弟の次序**。排行(17)を見よ。❿〘現〙㋑演ずる。㋺順序。㋩いかだ。一小筏。㋥乘り馴らす。排馬など。㋭軍制。一小隊を一排とする。三棚から成り、三排を以て一隊を結成する。㋬金箔を打ちのべる。

㊁❶**強く突く**。排揩(13)を見よ。❷**ふいご**。韛（**12―43198**）に通ず。〔正字通〕排、與二橐韛鞴一通。〔後漢書、杜詩傳〕造二作水排一、鑄爲二農器一。〔注〕冶鑄者爲レ排以吹レ炭、今激レ水以鼓レ之。

【排軋】1 ハイアツ おしあひすれあふ。〔范成大、長安閘詩〕摧摧勢排軋、洶洶聲喧豗。

【排斡】2 ハイアツ おしめぐらす。〔韓愈、南山詩〕力雖二能排斡一、雷電怯二呵詬一。

【排鞍】3 ハイアン くらをのせる。〔福惠全書、郵政部、相良馬〕排鞍肉厚穩二金鞍一。

【排印】4 p'ai² yin⁴ 活字で印刷する。植字して印刷する。

【排雲】5 ハイウン 雲を押し分ける。〔郭璞、游仙詩〕神仙排レ雲出、但見金銀臺。〔謝朓、賽二敬亭山廟一喜レ雨詩〕排レ雲接二虬蓋一、蔽レ日下二霓裳一。〔王僧孺、爲二韋雍州一致仕表〕排レ雲矯レ漢、飛レ捧待レ翼。

【排筵】6 ハイエン むしろをならべる。〔李商隱雜纂、惱人〕暑月排レ筵久坐。

【排演】7 p'ai² yen³ 芝居を演ずる。劇を仕組む。

【排下】8 ハイカ 下を排しのける。〔莊子、在宥〕人心排レ下而進レ上。

【排牙】9 ハイガ 牙を排列する。ならんでゐるきば。排牙石を見よ。

〖排牙石〗10 ハイガセキ 石の名。其の形が排牙のさまをなすから名づく。排衙石に同じ。〔太平寰宇記〕排牙石、在二高郵州之神居山一、石齒齒如二排牙一、人數レ之、自レ始之レ終、其數必增、自レ終而始、其增愈甚、竟無下能知二其數之的一者上。

【排衙】11 ハイガ 官署の長官が儀仗を整へ、僚屬が順々に參謁すること。〔學中故事〕天街兩畔槐號二槐衙一、曲江多二楊柳一、號二柳衙一、謂下成二行列一如中排衙上。〔元稹、紀懷詩〕疎足二良甘一レ分、排衙苦未レ曾。〔白居易、雨雪放レ朝因懷二微之一詩〕不レ知雨雪江陵府、今日排衙得レ免無。

〖排衙石〗12 ハイガセキ 石の名。其の形が排衙のさまをなすから名づく。〔雲谷雜記〕艮嶽倚レ石排レ空、周環曲折、有二蜀道之難一、躋攀至二介亭一、此最高二於諸山一、前列巨石、凡三丈許、號二排衙石一。

【排揩】13 ハイカイ 強く突く。〔集韻〕排、排揩、強突。

【排開】14 p'ai² k'ai¹ ❶並べる。陳列する。❷ひろげる。

【排解】15 p'ai² chieh³ ❶仲裁する。とりなす。いざこざを解く。〔紅樓夢、四十六回〕與我排解排解。❷說明する。❸陳列する。

【排劾】16 ハイガイ 排斥して罪をしらべること。〔唐書、杜希全傳〕疑レ逼レ己、遂排二劾之一。

【排行】17 ハイカウ ❶列をなしてならぶ。〔陳與義、臘梅詩〕排行立二曉晴一。❷一族を尊卑によって祖父行・父行・兄弟行・子行等に、各行を長幼の順によって排列した數をいふ。特に兄弟についていふ。古はこれを示すに、或は伯仲叔季等の文を用ひて、伯某・仲某などと呼び、或は文字の偏旁によってこれを分つ。劉琦・劉琮・應璩・應瑒等の類。後世は一又は大等の字を用ひて長を示し、順次に某二・某三などと呼ぶ。輩行（**10―38398‥1**）を見よ。〔日知錄、雜論、排行〕兄弟二名而用二其一字一者、世謂二之排行一、如二德宗・德文、義符・義眞一之類、起レ自二晉末一、漢人所レ未レ有也、水經注、昔北平侯王譚、不レ同二王莽之政一、子興生二五子一、竝避レ亂隱居、光武卽二帝位一、封爲二五侯一、元才北平侯、益才安喜侯、顯才蒲陰侯、仲才新市侯、季才唐侯是、後人追譔妄說、東漢人二名者亦少、單名以二偏旁一爲二排行一、始見二於劉琦・劉琮一、此後應璩・應瑒、衞瓘・衞玠之流踵レ之而出矣、今人兄弟行次稱レ一爲レ大、不レ知レ始レ自二何時一、漢淮南厲王常謂二上大兄一、孝文帝行非二第一一也。〔朱舜水文集〕中國有二從兄弟・再從・三從・族兄弟、宗族衆盛者、恐二上下無レ別、故用二一二字一以排レ之、謂二之排行一、故曰二行幾一、自レ一至レ百、或有二百外者一。〔釋親考、附輩行說〕禮大傳云、其夫屬二乎父道一者、妻皆母道也、其夫屬二乎子道一者、妻皆婦道也、疏、道、猶二行列一也、漢書有二大父行之稱一、後世稱レ行、蓋此意也、禮家有二異位重行之說一、異位者、祖父行與二父行一、父行與二己行一、其位不レ同、重行者、凡一門之中、羣昭羣穆、子姓兄弟、長幼相次、其行重複、異位豎也、重行橫也、梁武陵王紀、聞三侯景陷二臺城一、湘東王將レ討レ之、謂二僚佐一曰、七官文士、豈能匡濟、胡三省曰、湘東於二兄弟次一第一七、故呼爲二七官一、剪燈新話、同郡有二趙氏子一者、第六、注、第六、姓兄弟之行也、唐德宗呼二陸

〔釋親考、輩行說〕

祖父行	凡己祖父之兄弟、及從父兄弟、再從兄弟、三從兄弟、若干人、男女各自爲レ行、以二長幼一爲レ敍	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十 自レ是已下隨レ數起數
父行	凡己父之兄弟、及從父兄弟、再從兄弟、三從兄弟、若干人、男女各自爲レ行、以二長幼一爲レ敍	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十 自レ是已下隨レ數起數
兄弟行	凡己之兄弟、及從父兄弟、再從兄弟、三從兄弟、若干人、男女各自爲レ行、以二長幼一爲レ敍	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十 自レ是已下隨レ數起數
子行	凡己子之兄弟、及從父兄弟、再從兄弟、三從兄弟、若干人、男女各自爲レ行、以二長幼一爲レ敍	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十 自レ是已下隨レ數起數

贊二不レ名、而以二兄弟之行一呼レ之曰二陸九一、又曰、此皆六娘子之所二種植一也、注、六娘、稱二姊妹之行一也、或曰、趙子於二姓兄弟行一在二第六一、敬二其妻一、疑亦稱二六娘一也、如三元二魏三十六歐陽九等一、皆然、蓋稱二兄弟一者、不三必限二親兄弟一、凡再從三從皆泛稱二兄弟一、而推二年最長者一爲レ一、隨二其齒一而數レ之也。

【排奡】18（ハイガウ） 詩文の調子が勢強く盛なこと。矯健。奡は強。〔韓愈、薦レ士詩〕横空盤二硬語一、妥帖力排奡。

【排閣】19（ハイカク） 宮中の小門をおしひらく。〔後漢書、獨行、彭脩傳〕脩排レ閣直入。〔晉書、宣帝紀〕到便直排レ閣入視二吾面一。

【排甲】20（ハイカフ） 小隊の長。一排の長。〔六部成語、戶部、總甲、注解〕各大村鎭、毎二村地一分二數甲數十百家一、毎甲之中又分二某鄕某排一、一排之中有二排甲一、稽二察一鄕之中一。

【排闔】21（ハイカフ） 門を開く。〔禮、少儀〕排レ闔說二屨於戶內一者、一人而已矣。

【排刊】22 p'ai² k'an¹ 活版を印刷すること。

【排扞】23（ハイカン） しりぞけふせぐ。〔淮南子、原道訓〕遭レ變應レ卒、排レ患扞レ難。

【排陷】24（ハイカン） おしのけておとしいれる。排擠。〔漢書、賈捐之傳贊〕亦何排陷之恨哉。〔後漢書、陳蕃傳〕遂排二陷忠良一、共相阿媚。〔吳志、顧雍傳〕排二陷無辜一。

【排閒】25（ハイカン） おしのけへだてる。〔後漢書、馮衍傳上〕護等懼レ之、卽共排閒、衍遂不レ得レ入。

【排危】26（ハイキ） 危險をおしのける。危險ををかす。〔南史、梁高祖武帝紀上〕排レ危冒レ險、剛柔遞用。

【排忌】27（ハイキ） いみしりぞける。〔五代史、漢臣、楊邠傳〕內相排忌。

【排幾】28 p'ai² chi³ 兄弟中の何番目ですかの意味に用ひる。多く藝者などに用ひる語。

【排毀】29（ハイキ） しりぞけそしる。〔拾遺記、九、晉時事〕及二翔鳳年三十一、妙年者爭嫉レ之、或云、胡女不レ可レ爲レ羣、競相排毀。

【排戲】30 p'ai² hsi⁴ 芝居をする。

【排球】31（ハイキウ） 網を挾み、手で球を叩き合ひ、敵地に落せば勝となる球技の一種。バレーボール。

【排卻】32（ハイキヤク） おしりぞける。擯卻（**5‐12880**‥4）に同じ。〔參同契〕排二卻衆陰邪一、然後立二正陽一。

【排虛】33（ハイキヨ） そらをおしわける。排空。〔淮南子、原道訓〕鳥排レ虛而飛。〔盧諶、答二魏子悌一詩〕愧二彼排虛翮一。

【排句】34（ハイク） 修辭學上の語。句と句との字數を相排比するもので、その字數は必ずしも同數とは限らないが、互に連排して語法相同じい數句をなすもの。例へば禮、曲禮の道德仁義、非レ禮不レ成、教訓正俗、非レ禮不レ備、分爭辨訟、非レ禮不レ決、君臣上下、父子兄弟、非レ禮不レ定、宦學事師、非レ禮不レ親、班朝治軍、涖レ官行レ法、非レ禮威嚴不レ行、禱祠祭祀、供二給鬼神一非レ禮不レ誠不レ莊、の如し。

【排空】35（ハイクウ） そらをおしわける。排虛。〔何遜、贈二韋記室黯別一詩〕無レ因生二羽翰一、千里暫排レ空。〔魏澹、巢鵲詩〕早晚時應レ至、輕擧一排レ空。〔白居易、長恨歌〕排レ空馭レ氣奔如レ電。

【排偶】36（ハイグウ） つれあひ。配偶。字解一㊆を見よ。

【排貨】37 p'ai² huo⁴ 他人・他國の品を排斥して用ひないこと。ボイコット。

【排外】38（ハイグワイ） 他人又は外國人を排斥する。

〖排外心〗39（ハイグワイシン） 利害・感情等から、他人や外國の勢力を排ける心。排他心。

〖排外主義〗40（ハイグワイシユギ） 外國の人や物を何でもすべて排斥する主義。

【排患】41（ハイクワン） 憂をおしのける。〔史記、魯仲連傳〕爲レ人排レ患釋レ難、解二紛亂一而無レ取也。

【排檄】42（ハイケイ） 弓のまがりを矯め直す具。ゆだめ。〔荀子、性惡〕繁弱鉅黍、古之良弓也、然而不レ得二排檄一、則不レ能二自正一。〔注〕排檄、輔二正弓弩一之器。〔說苑、建本〕烏號之弓雖レ良、不レ得二排檄一、不レ能二自任一。

【排教】43（ハイケウ） 道教中の一派。符籙で人の病を治めたり、妖を除いたりするもので、湖南、長沙、湘潭等の地方に盛に行はれた。

【排擊】44（ハイゲキ） しりぞけうつ。排斥駁擊する。〔賈子新書、制不定〕所二排擊一、所二剝割一、皆衆理也。〔南史、宋宗室及諸王下、晉平刺王休祐傳〕休祐素勇壯有二氣力一、奮二拳左右一、排擊莫レ得レ近。

【排遣】45（ハイケン） おしやる。おしのける。〔杜牧、上二宰相一啓〕況于二其心一、豈易二排遣一。〔朱子全書、學、立心處事〕若大段排遣不レ去、只思三古人所レ遭患難、有二大不レ可レ堪者一、持以自比、則亦可二以少安一矣。

【排戶】46（ハイコ） ㊀戶を排しのける。〔晉書、光逸傳〕逸將二排レ戶入一、守者不レ聽。㊁稅をいふ。蜀の語。〔薛能、邊城作詩〕管レ排二蠻戶一遠、出レ箐鳥巢孤。〔注〕蜀人謂レ稅爲二排戶一。

【排骨】47（ハイコツ） ㊀瘦せて骨があらはれる。〔王阮、代二胡倉一進二聖德惠民一詩〕氣藹胸排レ骨、神昏眼露レ圈。㊁p'ai² ku³ あばらぼね。肋骨。

【排困】48（ハイコン） おしのけくるしめる。〔鹽鐵論、本議〕排二困市井一、坊二塞利門一、而民猶爲レ非也。

【排根】49（ハイコン） ひつぱりだししりぞける。〔漢書、灌夫傳〕及二竇嬰失レ勢、亦欲四倚レ夫引二繩排三根生平慕レ之後棄者一。〔注〕孟康曰、根者根格、引レ繩以彈、排二擯根三格之一也、師古曰、孟說近レ之、云云、言嬰與レ夫共相提挈、有下人生平慕二嬰夫一、後見二其失一レ職、而頗慢弛上、如レ此者共排二退之一、不二復與交一、譬如三相對挽レ繩而根二格之一也。

【排沙】50（ハイサ） 沙をおしのける。〔世說新語、文學〕孫興公云、潘文爛若レ披レ錦、無二處不一レ善、陸文若二排レ沙簡一レ金、往往見レ寶。

【排槍】51 p'ai² ch'iang¹ 一齊射擊。

【排迮】52（ハイサク） 蹙り迫る。〔後漢書、竇融傳〕囂勢排迮、不レ得二進退一、此必破也。〔注〕排迮、謂二蹙迫一也。

【排摋】53（ハイサツ） おしせまる。〔韓愈、辛卯年雪詩〕崩騰相排摋、龍鳳交橫飛。〔蘇軾、攓雲篇〕龍移相排摋。

【排插】54 p'ai² ch'a¹ 室と室とのしきり。

【排山】55（ハイサン） 山を推しのける。勢の盛な喩。〔晉書、禿髮傉檀載記傳〕呂氏以二排山之勢一、王有二西夏一。

【排纂】56（ハイサン） ならべあつめる。〔國朝漢學師承記、卷一〕乾隆元年、詔二儒臣一排二纂聖祖日講禮記解義一。

【排訾】57（ハイシ） 排斥しそしる。〔呂覽、懷寵〕訾二醜先王一、排二訾舊典一。

【排二】58 p'ai² êrh⁴ 次男。二番息子。排三は三男。以下これに準ず。排行（17）を見よ。

【排字】59（ハイジ） ㊀字を並べる。〔海岳名言〕海岳以二書學博士一召對、上問二本朝以レ書名レ世者凡數人一、海岳各以二其人一對曰、蔡京不レ得レ筆、蔡卞得レ筆而乏二逸韻一、蔡襄勒レ字、沈遼排レ字、黃庭堅描レ字、蘇軾畫レ字、上復問、卿書如何、對曰、臣書刷レ字。㊁p'ai² tzŭ⁴ 活字を植ゑる。活字を組む。

〖排字人〗60 p'ai² tzŭ⁴ jen² 活版の植字工。

〖排字本〗61 p'ai² tzŭ¹ pen³ 活字本。鉛字本。

【排車】62 p'ai² ch'ê¹ 車をならべる。

【排釋】63（ハイシヤク） 双方の心がとける。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕便可三兩爲二排釋一。

【排樹】64（ハイジユ） 木をおしのける。〔梁簡文帝、登二烽火樓一詩〕聳樓排レ樹出、却堞帶レ江淸。

【排熟】65 p'ai² shou² 馬を乘り馴らす。

【排出】66（ハイシユツ） 外におしだす。排泄（80）に同じ。

【排沮】67（ハイシヨ） さまたげはばむ。〔宋史、曾從龍傳〕排二沮正論一、陳二其罪一。〔薛蕙、從軍行〕賞格多二排沮一、謗書仍負累。

【排進】68（ハイシン） おしのけすすめる。

【排水】69（ハイスイ） ㊀水を吐きだす。水を流れ去らせる。又、みづはき。㊁水をおしのける。船艦などを水に浮べる時、其の重みのために水がおしのけられる現象。其の排水量の多少によつて船の噸數を量る。

〖排水器〗70（ハイスイキ） 排水に用ひる器械。

〖排水量〗71（ハイスイリヤウ） 船體がおしのける水の分量。

〖排水噸數〗72（ハイスイトンスウ） 海中に於ける船體の排水量によつて量る噸數。

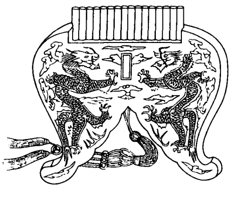
【排推】73（ハイスイ） おしひらくこと。〔晉書、范汪傳〕皆當二魚貫而行、排推而進一。

【排擠】74（ハイセイ） しりぞけおしおとす。排斥。〔史記、酷吏、張湯傳〕已而湯爲二廷尉一、治二淮南獄一、排二擠莊助一。〔漢書、杜周傳〕阿二黨所レ厚、排二擠英俊一。〔夏侯湛、浮萍賦〕似二孤臣之介立一、隨二排擠之所一レ往。

【排哨】75（ハイセウ） 駐屯の際、軍の最前方又は側面にあつて、警戒の責に任ずるもの。

【排簫】76（ハイセウ） 樂器の名。簫。竹をならべて作る。十六管あり、陰陽各々八の中央の凹んだ櫝を作り、之に管を載せる。雲簫。〔朱子語錄〕今之簫管

乃是古之笛、雲簫方是古之簫、雲簫者、排簫也。〔元史、禮樂志二〕簫編レ竹爲レ之、每架十六管、云云、亦號二排簫一。



排　簫　（大清會典圖）

【排斥】77 ハイセキ おしのける。しりぞける。擯斥。〔後漢書、宦者傳序〕雖三時有二忠公一、竟見二排斥一。〔陸游、南唐書〕宋齊丘忌二其名一、頗排二斥之一。〔捫蝨新話、詩類、韓退之詩〕詩語皆排斥。

【排席】78 p‘ai^{2} hsi^{2} 坐席を設けること。

【排折】79 ハイセツ おしのけくじく。〔漢書、趙充國傳〕排二折羌虜一。

【排泄】80 ハイセツ ❶内部から外部にもらしだすをいふ。❷動物體が其の榮養を終へた殘餘の不用物質を體外に出すをいふ。

〖排泄器〗81 ハイセツキ 排泄を掌る器官。腎臟、尿管など。

〖排泄作用〗82 ハイセツサヨウ 動物體の排泄を營むはたらき。

【排絶】83 ハイゼツ しりぞけたつ。〔風憲忠告、糾彈〕小人雖レ有二小過一、當三力排二絶之一。

【排穿】84 ハイセン おしわけてひらく。〔皮日休、魯望昨以二五百言一見レ貽云云詩〕厥祀四百餘、作者如二排穿一。

【排船】85 ハイセン 船を並べる。〔劉克莊、詩〕燈遠村民多點塔、擔輕津吏易レ排レ船。

【排揎】86 p‘ai^{2} hsüan^{1} しかられる。小言。

【排膳】87 ハイゼン 膳をならべる。〔長生殿、復召〕後宮傳催、排膳伺候。

【排奏】88 ハイソウ 上奏して排斥する。〔後漢書、周榮傳〕排二奏竇氏一。

【排隊】89 p‘ai^{2} tuei^{4} 隊を組む。

【排大】90 p‘ai^{2} ta^{4} 長男。總領。

【排當】91 ハイタウ 宮中の宴會で、先づ一切の準備をすること。〔古杭記〕宮中飲宴名二排當一。〔武衍、宮詞〕聖主憂勤排當少。〔天啓宮詞〕次第排當進二牝驪一、懽呼萬壽卻二生陽一。

【排闥】92 ハイタツ とびらをおしひらく。闥は小門。〔史記、樊噲傳〕噲乃排レ闥直入、大臣隨レ之。〔漢書、樊噲傳〕高帝嘗病、惡レ見レ人、臥二禁中一、詔二戶者一無レ得レ入二羣臣一、云云、噲乃排レ闥直入。〔王先謙補注〕廣雅釋詁、排、推也、謂二推レ門直入一。

【排單】93 ハイタン 公文書を地方へ遞送する時、其の通過驛で、行程時間、發着の時刻等を書き入れて證明するために添へる附貼箋。〔清會典事例、兵部、郵政、郵遞〕嘉慶十五年奏准、軍機處發二交文一、各省州縣驛站接レ遞時、將三限行里數、接到日時、及有二無擦損拆動之處一、於二排單內一注明。

【排置】94 ハイチ 順序を立てて並べおく。行儀よく据ゑおく。〔宋史、兵志二〕接續排置。〔梅堯臣、詩〕排二置屋角邊一。

【排逐】95 ハイチク おしのける。しりぞけおふ。〔柳宗元、上二大理崔大卿一應二制擧一啓〕不二我知一者、遂排逐而委レ之。〔宋史、劉敞傳〕中書乃排逐。

【排長】96 p‘ai^{2} chang^{3} 陸軍官制、一排の長で、我が國の中隊長に當る。

【排張】97 p‘ai^{2} chang^{1} 筏。

【排場】98 p‘ai^{2} ch‘ang ❶安排。工合。〔紅樓夢、二回〕其日用排場、又不能將就省儉。❷整へる。整頓する。〔紅樓夢、二十回〕儞媽媽再要認眞排場他。❸舞臺をいふ。〔桃花扇、先聲〕也拉上排場。❹身分。〔元曲、謝天香〕量妾身則是箇妓女排場、相公是當代名儒。❺劇の仕組み。又、演劇者の動作。❻みせかけ。ていさい。

【排除】99 ハイヂョ はらひのける。排拂(123)に同じ。

【排直】100 ハイチョク ならべただす。〔柳宗元、弔二萇弘一文〕嵩高坼陊兮、擧レ手排直。

【排陣】101 p‘ai^{2} chen^{4} 陣立をする。整列する。

【排墜】102 ハイツイ 除きおとす。〔吳志、賀邵傳〕干二弄朝威一、盜二竊榮利一、而忠良排墜、信臣被害。

【排抵】103 ハイテイ おしのけうつ。〔後漢書、桓譚傳〕熹非二毀俗儒一、由レ是多見二排抵一、不レ能レ取二媚於左右一。

【排詆】104 ハイテイ しりぞけそしる。詆排(10－35356··20)に同じ。〔北史、元諧傳〕性剛愎好二排詆一。

【排調】105 ハイテウ 世說新語の篇名。

【排點】106 ハイテン 文字の下にならべてうつ點。無・照・點・然等の灬の樣なもの。〔李淳、大字結構法〕排點之點須レ用二變更一、否則爲二布棊之形一、如二無・照・點・然等字一是。

【排突】107 ハイトツ おしのけつきあたる。〔南史、裴之禮傳〕武帝設二無遮會一、儛象驚、排二突陛衛一。

【排囊】108 ハイナウ ふいご。冶橐。〔後漢書、楊璇傳〕乃特制二馬車數十乘一、以二排囊一盛二石灰於車上一。〔注〕排囊、卽今囊袋也。

【排難】109 ハイナン 難儀を排しひらく。〔論衡、答佞〕儀秦排難之人也。〔人物志、英雄〕雄以二其力一服レ衆、以二其勇一排レ難。〔新論、適才〕至二于適レ理排レ難、其一揆也。

【排日】110 ハイニチ 外國人が日本國の勢力・貨物及び日本人民の權益財產を排斥すること。

【排入】111 ハイニフ さまたげる者をおしのけて入る。〔晉書、輿服志〕裂レ裳苞レ楯、戴以爲レ冠、排二入羽營一。〔晉書、王徽之傳〕因下レ馬排二入車中一。

【排年】112 ハイネン 輪番に交代して當つた年番。現年。〔福惠全書、錢穀部、比較、摘二拿頑戶一〕查二各里甲花戶納銀之完欠一、止憑二三比單一、其一里長排年分限比單、其二甲長經催分限比單、其三各甲花戶分限比單、此三單、分則以レ之查レ比、合則以レ之考レ數、法甚便也。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕十甲輪充値年當レ差者、謂二之排年一。

【排馬】113 ハイバ ❶馬をならべる。排馬牒を見よ。❷p‘ai^{2} ma^{3} 馬をのりならす。

〖排馬牒〗114 ハイバテフ 官用で驛馬に乘るための證明書。起馬牌。〔表異錄〕排馬牒、如二起馬牌一也。

【排媢】115 ハイバウ ねたみしりぞける。〔唐書、裴延齡傳〕帝以爲二排媢一、愈益厚二延齡一。

【排版】116 p‘ai^{2} pan^{3} 活字を組む。

【排班】117 ハイハン 組々が順序によつて整列すること。〔國史補〕宰相有二服假或問レ疾、百僚就レ第、有司設レ幕次二排班一。

【排比】118 ハイヒ 順序よくならべる。〔白居易、六年春贈二分司東都諸公一詩〕花教二鶯點撿一、柳付レ風排比。

【排儐】119 ハイヒン おしのけしりぞける。排擯に同じ。〔漢書、主父偃傳〕諸儒生相與排儐、不レ容二於齊一。

【排擯】120 ハイヒン おしのけしりぞける。排斥。擯斥。〔史記、主父偃傳〕齊諸儒生、相與排擯、不レ容二於齊一。〔漢書、劉向傳〕排二擯宗室一。〔論衡、命祿〕排擯不レ用。

【排布】121 ハイフ ならべつらねる。しきならべる。

【排風】122 ハイフウ ❶風を排し分ける。疾いさま。❷草の名。白英の異名。〔本草、白英〕釋名、穀菜、白草、白幕、排風、子名二鬼目一。

【排拂】123 ハイフツ おしのけはらふ。のけ去る。排除。〔陳書、傅縡傳〕何必排二拂異家一。

【排佛】124 ハイブツ 佛法をおししりぞける。

〖排佛棄釋〗125 ハイブツキシャク 佛教を排けること。佛教を排し釋迦を棄てる。中國にては、三武(北魏、太武帝・北周、武帝・唐、武宗)の排佛棄釋のことあり、我が國にては、德川時代末期に神・儒兩統によつてこの論が喧傳された。

【排兵】126 p‘ai^{2} ping^{1} 兵士を整列する。

〖排兵布陣〗127 p‘ai^{2} ping^{1} pu^{4} chen^{4} 兵をくばり、陣を布く。

【排辦】128 ハイベン ならべ處理する。取扱ふ。排辦禮信所を見よ。

〖排辦禮信所〗129 ハイベンレイシンジョ 國信所の舊名。宋代、契丹との交涉事務を掌る。〔事物紀原、庫務職局部、國信所〕又曰、國信所掌二契丹使介交聘之事一、景德初、遣二內臣一、排二辦禮信一、四年改、初雄州用レ兵之際、每二密事一、擇レ吏主レ之、號二機宜司一、及二契丹請レ和、改曰二國信司一、又景德四年八月、帝謂二近臣一曰、契丹使副到レ闕、見辭及館接件支賜例物、幷朝廷遣使合レ行之事、並有二規制一行レ之、以二二年一已成二定例一、可下特置二管勾往來國信所一司上、舊止云二排辦禮信所一、至レ是立レ局置レ印也。

【排扑】130 p‘ai^{2} p‘u^{1} おしのけたふす。推しころばす。

【排沫】131 ハイマツ 馬具の一。くつわの外鐵。扇汗。〔詩、衞風、碩人、朱幩鑣鑣、釋文〕鑣、馬銜外鐵也、一名扇汗、又曰二排沫一。〔庶物異名疏〕鑣者、銜二兩傍之鐵一、今之排沫是也。

【排滿】132 ハイマン 滿洲朝廷を排斥すること。清末革命當時の語。排滿興漢を見よ。〔清代學術概論、二十六〕啓超旣日倡二革命排滿共和之論一、而其師康有爲深不レ謂レ然、屢責二備之一、兩年間、函札數萬言、啓超亦不レ慊二於當時革命家之所一レ爲、懲レ

羹而吹レ虀、持論稍變矣。

【排滿興漢】133 ハイマンコウカン 滿洲朝廷を斥けて漢人の政府を興す。清末革命當時に一部漢人の主張した語。

【排霧】134 ハイム 霧を押し分ける。〔曹植、游仙詩〕意欲レ奮二六翮一、排レ霧淩二紫虛一。〔鮑照、芙蓉賦〕排二積霧一而揚レ芬、鏡二洞泉一而含レ綠。

【排門】135 ハイモン ❶門をおしあける。〔何遜、七召〕於レ是整容投レ刺、屣履排レ門。〔金史、陳規傳〕頓次則排レ門擇レ屋。❷p'ai² men² 一軒每に。門每に。

【排門的】136 p'ai² men² tê 門前の人。〔還魂記、索元〕排門的問刻期宣。

【排門粉壁】137 ハイモンフンペキ 民間各戸の人丁・姓名・職業を白粉で壁に書き、稽察に便にすること。〔六部成語、戸部、排門粉壁十家編爲二一甲一互相保識、注解〕每二十家一爲二一甲一、使下其互相擔保、認二明來歷一、各以二其家之人丁姓名事業一、用二白粉一書レ壁、一望而知上也。

【排悶】138 ハイモン ふさいだ氣をはらひ去る。氣ばらし。うさはらし。遣悶。排遣。〔杜甫、江亭詩〕故林歸未レ得、排悶強裁レ詩。〔黃庭堅、次韻答二斌老一詩〕排レ悶有二新詩一、忘レ蹄出二兔徑一。〔陸游、春日詩〕排悶與レ兒聯二小句一、破閑留レ客戰二枯棋一。

【排抑】139 ハイヨク おさへとどめる。〔溫子昇、爲二廣陽王淵一上書言二邊事一〕但以二嫉臣之故一、便欲二望レ風排抑一。

【排攔】140 ハイラン 布帛等のへり。〔宋史、儀衞志六〕鹵簿旗皆錯采爲レ之、排攔以二黃紫赤三色一。

【排里】141 ハイリ ねんばん。年番。一年交替に番に當ること。〔福惠全書、錢穀部、催徵、三連串票〕然花戸有レ執而排里臨レ限、無レ憑二查截一。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕小民排里、難レ登二巨室之門一。

【排立】142 ハイリツ ならべたてる。〔西湖志餘〕儀仗排立、並免二放從一。

【排律】143 ハイリツ 詩の一體。五言又は七言の對句を六句以上偶數に排列したもの。其の平仄は四句一粘に由つてこれを排し、平起と仄起とあり。平仄式は律・絕と同じい。發句と落句とを除く外は皆對偶を用ひ、布置序あり、首尾貫通するを要す。一・二を起聯、三・四を頷聯、五・六を頸聯、七・八を腹聯、九・十を後聯、十一・十二を尾聯といふ。十二句以上のものは腹聯に在つて開展する。古は長律と呼んだが、元の楊士弘が唐音を編した時始めて排律の目をおき、明の高廷禮の唐詩品彙も亦これによる。唐詩選も亦この名を襲用し、後遂に一般に世に通用するに至る。排は排行の義。一說に、排闥の義とする。律詩八句で作者の意を十分に盡くせない時、更に一二聯、若しくは數聯を補つて、其の意を全くする。然しながら唐代、試場で士を課するには、多く五言六韻十二句を用ひた。故に詩家はこれを以て正體とする。其の七言のものは作者甚だ稀である。〔文體明辯、排律詩〕按、排律原二於顏・謝諸人一、梁陳以還、儷句尤切、唐興始專二此體一、而有二排律之名一、不下以二鍛鍊一爲上レ工、而以二布置有レ序、首尾通貫一爲レ尚。〔唐詩選、五言排律、楊炯、送二劉校書從レ軍詩〕天將下二三宮一、星門列二五戎一、坐謀資二廟略一、飛檄佇二文雄一、赤土流星劍、烏號明月弓、秋陰生二蜀道一、殺氣繞二湟中一、風雨何年別、琴樽此日同、離亭不レ可レ望、溝水自西東。

【排列】144 ハイレツ 順序よくならべつらねる。〔盧炳、白蓮詞〕西國夫人空裏墜二圓盆一、亭亭排列。

【排雅克】145 p'ai² ya³ k'ê⁴ 露國の量名。pajak 又、派及克に作る。

【排起來】146 p'ai² ch'i lai 列べる。安置する。

【排氣機】147 ハイキキ 空氣を拔き去る器械。抽氣筒。排氣鐘。空氣ポンプ。

【排氣鐘】148 ハイキショウ 器物中の空氣を排除するに用ひるもの。空氣ポンプ。

【排草香】149 ハイサウカウ 香草の名。嶺南に產す。川みどり。〔本草、排草香〕集解、時珍曰、排草香出二交趾一、今嶺南亦或蒔レ之、草根也白色、狀如二細柳根一、人多僞雜レ之、案、范成大桂海志云、排草香、狀如二白茅香一、芬烈如二麝香一、人亦用以合レ香、諸香無二及レ之者一。

【排子車】150 p'ai³ tzŭ ch'ê¹ 手押し車。

【排中律】151 ハイチユウリツ 同一物に就いて、肯定・否定孰れにもつかない中間のものを排する原理。不容間位律に同じ。

【排爲二玉筍一】152 ハイシテギヨクジユントナル 玉の竹の子をならべたやうである。雪が山に積つたさま。〔齋藤拙堂、雪喩〕其封レ嶺也、排爲二玉筍一。

【排打扣市】153 ハイタコウシ 地名。湖南省永綏縣の南。

【排韻增廣事類氏族大全】154 ハイヰンゾウクワウジルイシゾクタイゼン 書名。十卷。增補一卷。撰者未詳。姓を韻別して、各姓の事實を見易くし、列女・神仙の傳をも加ふ。正編は唐代に始つて宋代に至るまで、增補一卷は明代の傳を集む。共に崇禎中、張天如が考訂を加ふ。〔四庫提要、子、類書類〕。

【掓】
12257

🈩シユク 〔集韻〕式竹切 屋

🈔チク 〔集韻〕張六切 屋

🈩ひろふ。叔（2－3154）に同じ。〔集韻〕叔、說文、拾也、或从レ手。🈔ひろふ。🈩に同じ。〔集韻〕掓、拾也。

【掚】
12258

🈩テウ デウ 〔集韻〕直紹切 篠

🈔テウ デウ 〔集韻〕田聊切 蕭

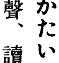
🈩❶さす。〔集韻〕掚、刺也、詩其鎛斯掚。❷或は趙（10－37235）に作り、通じて趙（10－37171）に作る。〔集韻〕掚、或作レ趙、通作レ趙。🈔めぐる。みだす。挑（5－12055）に同じ。〔集韻〕挑、撓挑、宛轉也、一曰、攪也、或作レ掚。

【掔】
12259

🈩カン ケン 〔集韻〕丘閑切 刪

🈔ケン 〔集韻〕輕煙切 先

🈪ケン 〔正韻〕詰戰切 霰


小篆

🈩🈔❶かたい。〔說文〕掔、固也、从レ手臤聲、讀若二詩赤舄掔掔一。〔爾雅、釋詁〕掔、固也。❷あつい。〔爾雅、釋詁〕掔、厚也。〔郝懿行義疏〕掔、固也、又訓レ厚者、掔之爲レ言堅也、又言レ腆也、腆訓二豐滿一、堅訓二密緻一、皆有二厚意一、故訓レ厚矣。❸うつ。摼（5－12650）に通ず。〔說文通訓定聲〕掔、叚借爲レ摼。〔廣雅、釋詁三〕掔、擊也。〔集韻〕掔、擊也。❹ひく。牽（7－20025）に通ず。〔說文、掔固也、段注〕掔、叚借爲二牽字一。〔集韻〕掔、牽也。〔莊子、徐無鬼〕掔二好惡一。〔釋文〕掔、牽也、崔云、引去也、司馬云、牽也。〔史記、鄭世家〕鄭襄公肉袒掔レ羊以迎。❺もつ。とる。〔廣韻〕掔、持也。🈪ひく。〔正韻〕掔、挽也、引也。

【掔緯】1 カンヰ かたくむすぶ。〔墨子、迎敵祠〕令二命昏緯レ狗纂レ馬掔緯一。

【掔掔】2 カンカン 丈夫なさま。堅固なさま。〔說文〕掔、固也、从レ手臤聲、讀若二詩赤舄掔掔一。〔段注〕掔掔、當下依二豳風一作中几几上、傳曰、几几、絇貌。〔長箋〕掔掔句、似二逸詩一。

【掔羊】3 ケンヤウ ひつじをひく。〔史記、鄭世家〕鄭襄公肉袒掔レ羊以迎。

【捘】
12260

🈩リヨウ 〔集韻〕里孕切 徑

🈔リヨウ 〔集韻〕閭承切 蒸

🈪ロウ 〔集韻〕盧登切 蒸

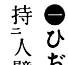
小篆

🈩❶馬をとめる。〔說文〕捘、止レ馬也、从レ手夌聲。❷或は勑（2－2369）に作る。〔集韻〕捘、或作レ勑。🈔馬をとめる。🈩の❶に同じ。〔集韻〕捘、止レ馬也。🈪とめる。〔集韻〕捘、博雅、止也。

【掉】
12261

タイ 搥（5－12498）に同じ。〔集韻〕搥、或作レ掉。

【掖】12262 エキ ヤク 〔集韻〕夷益切 陌。 ㄧˋ i^4 ㄧㄝˋ yeh$^{1\cdot4}$


小篆

❶ひぢをとる。〔說文〕掖、以ㇾ手持㆓人臂㆒也、从ㇾ手夜聲。〔左氏、僖、二十五〕掖以赴ㇾ外殺ㇾ之。〔疏〕掖、持ㇾ臂也、謂㆘執㆓持其臂㆒、投㆗之城外㆖也。❷わきばさむ。〔後漢書、張衡傳〕斐豹以ㇾ斃ㇾ國燔ㇾ書、禮至以ㇾ掖ㇾ國作ㇾ銘。〔注〕掖、謂㆔挾ㇾ之而投㆓於城外㆒也。❸たすける。〔詩、陳風、衡門序〕誘㆓掖其君㆒。〔釋文〕掖、扶持也。❹わき。わきのした。腋（9－29615）に通ず。〔說文通訓定聲〕掖、叚借爲ㇾ腋。〔說文〕掖、一曰、臂下也。〔禮、深衣、袼之高下、注〕袼、衣袂當ㇾ掖之縫。〔釋文〕掖、本又作ㇾ腋。〔史記、商君傳〕千羊之皮、不ㇾ如㆓一狐之掖㆒。❺宮門のかたはらにある小門。〔集韻〕掖、一曰、門旁小門也。〔漢書、成帝紀〕闌㆓入尙方掖門㆒。〔注〕師古曰、掖門、在㆓兩傍㆒言ㇾ如㆓人臂掖㆒也。❻後宮。〔史記、呂后紀論贊〕正㆓軒掖㆒。〔後漢書、竇憲傳〕侍㆓宮掖㆒。〔張衡、東京賦〕歷㆓掖庭㆒。〔注〕綜曰、掖庭、今官主㆓後宮㆒。❼宮庭。御所。禁裏。〔沈佺期、和㆓岑尙書㆒詩〕御柳垂㆓仙掖㆒。❽やつくち。衣服のわきの下。裓（10－34355）に通ず。〔說文通訓定聲〕掖、字亦作ㇾ裓。〔禮、儒行〕衣㆓逢掖之衣㆒。〔注〕大掖之衣、大袂襌衣也。❾通じて液（7－17586）に作る。〔集韻〕掖、通作ㇾ液。❿縣名。夜（3－5763）に通ず。掖縣(6)を見よ。⓫姓。〔集韻〕掖、亦姓。⓬現 捲き上げる。かかげる。

【掖闈】1（エキヰ） 王宮の門。又、王宮のうち。宮掖。禁闈。〔盧藏用、太子少傅蘇瓌神道碑〕東西掖闈、備㆓忠讜之美㆒。

【掖誘】2（エキイウ） 助けみちびく。誘掖（10－35525・4）に同じ。

【掖垣】3（エキエン） ❶天子の宮殿の傍にある垣。轉じて、宮廷。御所。〔劉楨、贈㆓徐幹㆒詩〕誰謂相去遠、隔㆓此西掖垣㆒。〔董思恭、詠ㇾ星詩〕歷歷東井舍、昭昭右掖垣。〔白居易、獨派郁守㆓本官知制誥㆒制〕掖垣近職。〔王禹偁、芍藥詩〕曾與㆓掖垣㆒留㆓故事㆒、又來㆓淮海㆒件㆓詞臣㆒。〔書言故事、三省類、西掖〕中書稱㆓西掖㆒、劉公幹詩、誰謂相去遠、隔㆓此西掖垣㆒。〔注〕掖、與㆓肘掖之掖㆒同、宮傍舍曰ㇾ掖、云云、殿旁垣曰㆓掖垣㆒、皆取㆓肘掖之義㆒。❷唐代、中書門下の兩省をいふ。掖省(8)を見よ。〔唐書、權德輿傳〕德與知㆓制誥㆒、獨直㆓兩省㆒云云、乃上書言㆓左右掖垣㆒、承㆓天子詔命㆒、奉行詳覆、各有ㇾ攸ㇾ司。

【掖階】4（エキカイ） 古、宮殿にあつた御橋・段階のわきに添うて設けた段階。〔江家次第、二〕正月、若無㆓掖階㆒者、自㆓對東西階㆒昇。

【掖起】5 yeh^4 ch'i^3 捲き上げる。まくりあげる。

【掖縣】6（エキケン） 縣名。漢、置く。山東省平度縣の北。西北、萊州灣に瀕し、海運の便あり。〔讀史方輿紀要、山東、萊州府〕掖縣、戰國時、齊夜邑、襄王益封㆓田單於夜邑萬戸㆒、又魯仲連謂㆔田單將軍有㆓夜邑之奉㆒、是也、漢置㆓掖縣㆒、東萊郡治焉、後漢移ㇾ郡治㆓黃縣㆒、又封㆓歐陽歙㆒爲㆓夜侯㆒、卽掖也、晉復爲㆓郡治㆒、劉宋又移ㇾ郡治㆓曲城縣㆒、後魏以㆓後州郡㆒皆治ㇾ此。〔淸史稿、地理志〕山東、萊州府、縣三、掖。

【掖殺】7（エキサツ） こわきに抱へてしめ殺す。一說に、抱へて運び行き、何等かの手段で殺すこと。〔左氏、僖、二十五〕禮至自以爲ㇾ銘曰、余掖㆓殺國子㆒、莫㆓余敢止㆒。

【掖省】8（エキシヤウ） 唐代、門下・中書の兩省が禁中の左右掖に在つたので之を掖省といふ。禁省。禁署。〔唐書、劉祥道傳〕且掖省崇峻、王言祕密。

【掖廷】9（エキテイ） 王宮のわきにしつらへた殿舍。宮女の居る所。掖庭に同じ。〔漢書、杜延年傳〕時宣帝養㆓於掖廷㆒、號㆓皇曾孫㆒。〔後漢書、桓帝紀〕北宮掖廷中德陽殿、及左掖門火。

【掖庭】10（エキテイ） ❶王宮のわきにしつらへた殿舍。宮女の居る所。後宮。奧御殿。永巷。〔漢書、百官公卿表上〕更㆓名云云、永巷㆒爲㆓掖庭㆒。〔漢書、禮樂志〕內有㆓掖庭才人㆒。〔後漢書、竇武傳〕長女選入㆓掖庭㆒。〔謝朓、和㆓王主簿怨情㆒詩〕掖庭聘㆓絕國㆒。❷官名。宮人の官。〔漢書、宣帝紀〕後有ㇾ詔㆓掖庭㆒養視。〔注〕應劭曰、掖庭、宮人之官、有㆓令丞㆒、宦者爲ㇾ之。

【掖庭令】11（エキテイレイ） 官名。❶漢、置く。宮人の事を掌る。〔稱謂錄、太監古稱、掖庭令〕漢書注、掖庭、宮人之官、有㆓令丞㆒、宦者爲ㇾ之。❷縫殿頭の唐名。

【掖庭宮人】12（エキテイノキユウジン） 掖庭に居る宮女。〔漢書、哀帝紀〕掖庭宮人年三十以下、出嫁ㇾ之。

【掖門】13（エキモン） 宮城の正門の左右の小門。〔史記、天官書〕中端門、門左右掖門。〔漢書、高后紀〕入㆓未央宮掖門㆒。〔注〕師古曰、非㆓正門㆒而左㆓兩旁㆒、若㆓人之臂掖㆒也。〔漢書、成帝紀〕闌㆓入尙方掖門㆒。〔注〕師古曰、掖門、在㆓兩傍㆒、言ㇾ如㆓人臂掖㆒也。

【挜】12263 ㈠ア 〔集韻〕倚下切 馬。 ㈡ア 〔集韻〕倚可切 哿。 ㈢ア 〔字彙〕衣駕切 禡。 ㄧㄚˋ ya^4

㈠㈡❶ゆれる。うごく。挜搖(5)を見よ。❷とる。〔篇海〕挜、取也。㈢人に物をしひてあたへる。〔字彙〕挜、強與㆓人物㆒也。

【挜緊】1（アキン） しまる。〔福惠全書、庶政部、河隄歲修〕用ㇾ手搖磨、針孔挜緊、水可㆓良久不ㇾ消。

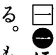
【挜賈】2（アコ） 強ひて人に賣る。〔十國春秋、南唐盧絳傳〕又持㆓權貨㆒、挜㆓賈於山中㆒。

【挜把】3 ya^4 pa 持つこと。〔琵琶記、幾言諫父〕不想道、相挜把。

【挜擺】4 ya^4 pai^3 握り持つ。

【挜搖】5（アラ） 動く。ゆるぐ。〔集韻〕挜、挜搖、搖也。

【掘】12264 ㈠クツ グチ 〔集韻〕渠勿切 物。 ㈡ケツ グワチ 〔集韻〕其月切 月。 ㈢コツ ゴチ 〔集韻〕胡骨切 月。 ㈣セツ 慣クツ ㄐㄩㄝˊ chüeh^2


小篆

㈠❶ほる。㋑うがつ。ほりさげる。もと掘に作り、或は堀（3－5205）に作る。〔說文〕掘、搰也、从ㇾ手屈聲。〔正字通〕掘、本作ㇾ堀。〔廣雅、釋詁三〕掘、穿也。〔集韻〕掘、或从ㇾ土。〔儀禮、既夕禮記〕掘ㇾ坎南順。㋺ほりおこす。あばく。〔左氏、哀、二十六〕掘㆓褚師定子之墓㆒。㋩ほりだす。〔北史、茹皓傳〕採㆓掘北芒及南山佳石㆒。㋥ならす。〔淮南子、墬形訓〕掘㆓昆侖虛㆒以下ㇾ地。〔注〕掘、猶ㇾ平也。❷ほれる。くぼむ。へこむ。おちる。〔晉書、慕容廆載記〕山陵毀掘。❸ぬきんでるさま。崛（4－8185）に通ず。〔揚雄、甘泉賦〕洪臺崛其獨出兮。〔注〕崛、善本作ㇾ掘、銑曰、應劭曰、崛、特貌也。❹つきる。きはまる。屈（4－7669）に通ず。〔說文通訓定聲〕掘、叚借爲ㇾ屈。〔老子、五〕虛而不ㇾ掘、動而愈出。〔釋文〕河上本作ㇾ屈、屈、竭也、顧作ㇾ掘云、掘、猶ㇾ竭也。〔太玄經、文〕掘ㇾ變極ㇾ物。〔注〕掘、盡也。❺はげる。掘筆(35)を見よ。❻あな。堀（3－5205）に通ず。〔說文通訓定聲〕掘、叚借爲ㇾ堀。〔詩、曹風、蜉蝣〕蜉蝣掘閱。〔傳〕掘閱、容閱也。㈡❶うがつ。〔集韻〕掘、穿也。〔易、繫辭下〕掘ㇾ地爲ㇾ臼。❷あな。〔戰國、秦策〕且夫蘇秦、特窮巷掘門、桑戶棬樞之士耳。〔注〕補曰、掘、卽窟古字。❸動かぬさま。〔莊子、田子方〕先生形

體、掘若二槁木一。❹或は闕(11－41456)・撅(5－12676)に作り、又、搰(5－12759)に書す。〔集韻〕掘、或作二闕・撅一、亦書作レ搰。〔説文通訓定聲〕掘、左氏僖二十五、闕二地下冰一而牀焉、以レ闕爲レ之。[三]❶うがつ。[二]の❶に同じ。〔集韻〕掘、穿也。❷あげる。〔集韻〕掘、揚也。[四]つたない。拙(5－11965)に通ず。〔史記、貨殖傳〕田農掘レ業。〔注〕集解曰、古拙字、亦作レ掘。

[参考] 熟語は堀(3－5205)を併せ見よ。

【掘挖】1 chüeh² wa¹ 掘り穿つ。發掘する。

【掘閲】2（クツエツ） 土を掘ってぬけ出る。君臣が朝夕に衣服を易へる喩。一説に、土堀中に身を容れること。小人が位に在って偸合する喩。掘はあな、閲は容、いれる。又、一説に、地を掘って出た時にすがたのうつくしいさま。閲は悅懌。〔詩、曹風、蜉蝣〕蜉蝣掘閲、麻衣如レ雪。〔傳〕掘閲、容閲也。〔箋〕掘閲、掘レ地解閲、謂二其始生時一也、以二解閲一喩三君臣朝夕變二易衣服一也。〔疏〕此蟲土裏化生、閲者、悅懌之意、掘閲者、言二其掘レ地而出、形容鮮閲一也。〔傳疏〕説文、堀、突也、引レ詩作レ堀、小箋云、各本作レ掘、非、突、謂二地突一、猶二土堀一也、云云、谷風、我躬不レ閲、傳、閲、容也、連言曰二容閲一、容閲猶二容躬一、言下浮游居二土堀中一、能自容上レ躬、是謂二之堀閲一、以喩二小人在レ位、偸合苟容一也。

【掘開】3 chüeh² kʻai¹ 掘りひらく。發掘する。

【掘港】4（クツカウ） 鎭の名。江蘇省如皋縣の東南。附近に海鹽を產する。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、泰州、如皋縣〕掘港、西通二運鹽河一、東抵レ海、掘港營レ堡、并置二巡司於此一、志云、掘港營距レ洋五十里、三面環レ海、其北接二於美舍寨一、寨在二東臺場海口一、又南至二石港寨一、寨在二掘港西南六十里一、接二通州界一。

【掘窖】5（クツカウ） 穴倉を掘る。埋藏物を掘りあてる。〔仇池筆記〕江南人好作二盤游鮓、脯膾炙一、埋在二飯中一、諺曰、掘レ得窖、云云、穎老詩云、掘二窖盤中一。

【掘割】6（ホリワリ） 土地を掘り開いて水を通ずること。又、其のもの。堀割。

【掘坎】7（クツカン） 穴を掘る。土を掘る。〔儀禮、既夕禮記〕掘レ坎南順。

【掘起】8（クツキ） 特にぬき出て起る。崛起(4－8185··2)に同じ。

【掘強】9（クツキヤウ） 威を振ふ。強梁。屈強。掘彊。〔後漢書、盧芳傳論〕然猶以附二假宗室一、能掘二強歲月之間一。〔注〕掘強、謂二強梁一也。〔丘遲、與二陳伯之一書〕唯北狄野心、掘二強沙塞之間一、欲レ延二歲月之命一耳。〔注〕翰曰、掘強、猶二強梁一也。

【掘彊】10（クツキヤウ） 威を振ふ。屈彊。掘強に同じ。〔晉書、禮志下〕三苗掘二彊於江海一。

【掘据】11（クツキヨ） 草の名。藺茹の異名。ねあざみ。〔本草、藺茹〕釋名、離婁、掘据、白者名二草藺茹一。

【掘金】12（クツキン） かねを地からほり出す。〔述異記、上〕洞庭山有レ宮、云云、吳孫權時、令二人掘レ金、金化爲レ牛。

【掘窟】13（クツクツ） 穴をほる。掘穴。〔史記、張湯傳〕湯掘レ窟、得二盜鼠及餘肉一。

【掘貫】14（ホリヌキ） 掘りぬく。掘りぬき井。

【掘熏】15（クツクン） 掘つたりくすべたりすること。〔漢書、張湯傳〕湯掘熏得二鼠及餘肉一。

【掘撬】16（クツケウ） ほりあける。〔福惠全書、刑名部、監禁〕恐易二于掘撬一。

【掘穴】17（クツケツ） 穴をほる。又、ほつたあな。〔墨子、節用中〕掘レ穴深不レ通二於泉一。〔淮南子、主術訓〕民無下掘穴狹廬、所二以托一レ身者上、明主弗レ樂也。

【掘闕】18（クツケツ） 地を掘る。〔管子、山權數〕北郭有二掘闕得レ龜者一。

【掘藏】19（クツザウ） ❶冢を發いて伏藏を得る。穴倉を發掘する。人が埋め貯へた財物を掘り出す。〔淮南子、人閒訓〕掘レ藏之家必有レ殃。〔注〕掘藏、謂下發レ冢得二伏藏一、無レ功受上レ財。❷移轉の時に家運を開くためのまじなひ。飯米の下に猪の臟物を置いて共に煮、宅に入った時、婢に箸で掘り出させること。〔通俗編、貨財、掘藏〕採蘭雜志、吳俗遷レ居、預作二飯米一、下置二猪臟一、共煮レ之、及レ進レ宅、使二婢以レ箸掘一レ之、名曰二掘藏一、臨レ掘向レ竇祝曰、自レ入二是宅一、大小維康、掘レ藏致レ富、福祿無レ彊。❸ chüeh² tsʻang² 家に埋藏する。

掛レ甲樊噲排突一。

〖掘藏物〗20 chüeh² tsʻang² wu⁴ ほりだしもの。

【掘鑿】21（クツサク） ほりうがつ。掘穿(27)に同じ。

【掘室】22（クツシツ） ❶地をほつて作った室。堀室。窟室。〔左氏、昭、二十七〕光伏二甲於掘室一而享レ王。❷室を掘る。〔淮南子、説山訓〕壞レ塘以取レ龜、發レ屋而求レ狸、掘レ室而求レ鼠、割レ脣而治レ齲、桀跖之徒、君子不レ與。

【掘出】23（ホリダス） ほりだすこと。

〖掘出物〗24（ホリダシモノ） ❶ほり出した物。❷思ひがけなく得た善い品物。

【掘井】25（クツセイ） 井戸をほる。〔孟子、盡心上〕有レ爲者、辟若レ掘レ井。

【掘燒】26（クツセウ） ほりかへして燒く。〔史記、南越王尉佗傳〕盡誅二佗宗族一、掘二燒先人冢一。〔漢書、陸賈傳〕掘二燒君主先人冢墓一、夷二種宗族一。

【掘穿】27（クツセン） ほりうがつ。掘鑿。

【掘鼠】28（クツソ） ねずみをほる。掘窟(13)を見よ。〔魏志、臧洪傳〕初尚掘レ鼠煮二筋角一。

【掘地】29（クツチ） 地を掘る。〔易、繫辭下〕掘レ地爲レ臼。〔左氏、僖、二十五、宵坎レ血加レ書、注〕掘レ地爲レ坎。

【掘冢】30（クツチヨウ） つかをほる。墓穴を掘る。〔史記、郭解傳〕鑄レ錢掘レ冢。〔漢書、地理志下〕起則椎剽掘レ冢。

【掘突】31（クツトツ） 周、鄭武公の名。

【掘發】32（クツハツ） ほりあばく。〔魏志、崔琰傳〕時士卒橫暴、掘二發丘壠一。

【掘拔】33（ホリヌキ） 掘拔井戸を見よ。

〖掘拔井戸〗34（ホリヌキヰド） 土地を深く不透水層に達するまで掘り下げて、地下水を湧出させる樣にした井戸。略して掘拔ともいふ。〔和漢三才圖會、水類、井〕有二掘拔井一、隨二土地一、淺深不レ定。

【掘筆】35（クツヒツ） 禿げて使用に堪へぬ筆。禿筆。〔東觀餘論〕朱方鶴銘陶貞白書、左二焦山下一、石頑難レ刊、且爲二水泐一、故字無二鋒穎一、若二掘筆書一。〔白孔六帖〕李繁下レ獄、從レ吏求二掘筆一、著二家傳一。〔得樹樓雜鈔〕放翁詩、作レ字用二掘筆一、掘猶レ云レ禿也。

【掘墓】36（クツボ） はかをほる。〔左氏、哀、二十六〕掘二褚子定子之墓一、焚二之于平莊之上一。〔論衡、死僞〕改葬之恨、孰三與掘レ墓盜二財物一也。

【掘門】37（クツモン） 垣を鑿って爲つた門。〔戰國、秦策〕且夫蘇秦、特窮巷掘門、桑戶棬樞之士耳。〔正解〕鮑彪曰、掘門、鑿レ垣爲レ門。

【掘足類】38（クツソクルイ） 動物の類名。軟體動物に屬し、管狀の介殼を有す。まるつのがひ、つのがひ等これに屬す。

【掘頭船】39（クツトウセン） 舳が高く上った船。〔幽明錄〕陽羨小吏吳龕、乘二掘頭船一、溪獲二五色浮石一、乃變爲レ女、自稱二河伯女一。

〖掘建小屋〗40（ホツタテゴヤ） 土臺を据ゑずに土地を掘つて柱を建てた粗末な小屋。

【掙】12265

[一]（サウ シヤウ） 〔集韻〕初耕切 [庚]

[二]（サウ シヤウ） 〔字彙〕側迸切 [敬] ㄓㄥˋ chêng⁴

[一]❶さす。〔廣雅、釋詁一〕掙、刺也。❷ささへる。〔正字通〕掙、俗謂二支拄一曰レ掙。[二]❶とりひしぐ。〔字彙〕掙、掙刲也。❷[現]㋑儲ける。稼ぐ。㋺もがく。努力する。㋩離れる。開放される。

【掙家】1 chêng⁴ chia¹ 生活を支へる。

〖掙家立業〗2 chêng⁴ chia¹ li⁴ yeh⁴ 一家の生計を安定する。家を持ち生業に就く。

【掙牙】3 chêng⁴ ya² 齒の間にはさまる。

【掙開】4 chêng⁴ kʻai¹ 振りはなす。離し割く。

【掙挫】5 chêng¹ tsʻuo⁴ ❶よろめく。❷辛苦をしのぶ。〔還魂記、懽撓〕冥途掙挫、要死卻心兒無那。❸こばむ。〔福惠全書、刑名部、姦情、強姦〕先猶掙挫、喊叫不從。

【掙作】6 chêng¹ tsuo⁴ 心を強く振ひ作す。勉強。〔還魂記、婚走〕姑姑俺強掙作軟咍咍。

【掙扎】7 chêng¹ cha² ❶我慢する。つとめる。〔水滸傳、四回〕卻待掙扎。❷もがく。

【掙揣】8 chêng¹ chʻuai³ つとめてとる。〔西廂記、張君瑞害相思雜劇〕你掙揣咱。

【掙出】9 chêng^1 ch'u^1 つとめ奮つて出る。〔還魂記、婚走〕又掙出這煙花界。

【掙錢】10 chêng^1 ch'ien^2 錢儲けをする。金を儲ける。

【掙脫】11（サウダツ） 振切つて逃げる。もがき逃れる。〔福惠全書、刑名部、姦情、強姦〕不レ能二掙脫一之情。

【掙斷】12 chêng^1 tuan^4 振り切る。離れて自由になる。

【掙得】13 chêng^4 tê^2 かせぎだす。

【掙命】14 chêng^4 ming^4 生死の境にもがき苦しむ。命がけ。

【掙來】15 chêng^4 lai 得る。儲ける。

【掙不開】16 chêng^1 pu k'ai^1 開き得ない。

【掙吃掙穿】17 chêng^4 ch'ih^1 chêng^4 ch'uan^1 働いて衣食する。衣食の費をかせぐ。

【掚】12266

［一］リャウ 〔集韻〕里養切 ［養］

［二］リャウ 〔集韻〕力讓切 ［漾］

［一］［二］❶かざる。〔集韻〕掚、整飾也、春秋傳曰、御下掚レ馬。❷兩(1－1436)に通ず。〔周禮、夏官、環人、注〕春秋傳曰、云云、御下掚レ馬。〔左氏、宣、十二〕御下兩レ馬、〔釋文〕兩、徐云、或作レ掚、云云、飾也。

【掛】12267

［一］クワイ ケ 〔集韻〕古賣切 ［卦］ ㄍㄨㄚˋ kua^4

［二］カイ ケ 〔集韻〕古買切 ［蟹］

［慣］クワ

❶かける。かかげる。ひつかける。〔易、繫辭上〕掛レ一以象レ三。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕自掛二東南枝一。〔唐書、李密傳〕以二蒲韉一乘レ牛、掛二漢書一帙角上一、行且讀レ之。❷とる。わけとる。〔集韻〕掛、別也。❸通じて卦(2－2798)に作る。〔易、繫辭上〕再扐而後掛。〔釋文〕掛、京本作レ卦。❹挂(5－12020)に同じ。〔集韻〕挂、說文、畫也、一曰、懸也、通作レ掛。❺［現］㋑登記する。㋺寄港する。㋩牽く。繫ぐ。［二］わける。〔集韻〕掛、別也。［邦］❶かける。㋑注ぐ。㋺放つ。㋩及ぼす。㋥費やす。㋭祈願をする。㋬乘算をなす。㋣仕向ける。㋠試みる。㋷始める。㋦錠をおろす。㋸心にとめる。㋾秤で目方をはかる。㋻よせもたす。㋕あはす。もたれでくはさす。❷かかる。㋑よる。㋺たよる。たのむ。㋩うつ。せめる。㋥其處に至る。㋭仕向を受ける。㋬着手する。㋣始まる。㋠留まる。㋷かうむる。かぶさる。㋦及ぶ。㋸つひえる。❸かかり。㋑かかりあひ。關係。㋺ぢんだて。配陣。㋩うけもち。擔任。㋥かまへ。構造。㋭いりよう。費用。㋬かかりもの。賦稅。㋣てはじめ。著手。㋠蹴鞠の場。❹かけ。㋑うちかけ。㋺かけそば。㋩しめはじめる帶の一方。㋥金錢の授受を後日として物品を賣買すること。㋭かけね。㋬脚で行ふ相撲の手。㋣或る語に添へて動作の中途の意をあらはす接尾語。やりかけ。しかけ。❺がけ。接尾語。㋑著けたままの意をあらはす。「たすきがけ」。㋺投げだす意をあらはす。「いのちがけ」。㋩ついでの意をあらはす。「かへりがけ」。㋥割合、歩合をあらはす。「定價の三がけ」。㋭倍數の意をあらはす。「三つがけ」。

［參考］熟語は挂(5－12020)を併せ見よ。

【掛意】1（クワイイ） 氣遣ふ。氣に掛ける。配慮する。心配する。挂意。〔唐書、同昌公主傳〕公主薨、上日夕惴心掛意。

【掛一】2（クワイイツ） 一事をかかげ示す。〔馬建忠、馬氏文通序〕掛レ一漏レ萬、知レ所レ不レ免。

【掛引】3（カケヒキ） ❶戰機を見て軍兵を進退させること。❷商賣・談判等に、機會を見て利益の有るやう處置をすること。

【掛印】4（クワイイン） 總大將の印を掛ける。總師になる。掛帥。掛印將軍を見よ。

〖掛印將軍〗5（クワイインシャウグン） 明代、各省各鎭の鎭守總兵・副總兵は、三等眞署都督及び公侯伯を以て任じ、若し大征討があれば諸號將軍、或は大將軍・副將軍の印を掛け、兵を總べて征伐に從ふ。事終れば印を官に返す。これを掛印將軍といふ。〔明史、職官志五〕凡總兵・副總兵、率以二公侯伯都督一充レ之、其總レ兵掛レ印稱二將軍一者、雲南曰二征南將軍一、大同曰二征西前將軍一、湖廣曰二平蠻將軍一、兩廣曰二征蠻將軍一、遼東曰二征虜前將軍一、宣府曰二鎭朔將軍一、甘肅曰二平羌將軍一、寧夏曰二征西將軍一、交阯曰二副將軍一、延綏曰二鎭西將軍一。〔續文獻通考、職官考、諸路將官〕明、凡總兵・副總兵、率以二公侯伯都督一充レ之、其總レ兵掛レ印稱二將軍一者、雲南曰二征南將軍一、大同曰二征西前將軍一、湖廣曰二平蠻將軍一、兩廣曰二征蠻將軍一、遼東曰二征虜前將軍一、宣府曰二鎭朔將軍一、甘肅曰二平羌將軍一、寧夏曰二征西將軍一、交阯曰二副將軍一、延綏曰二鎭西將軍一。

【掛孝】6 kua^4 hsiao^4 喪服を着る。挂孝。

【掛香】7（カケガウ） ❶絹袋に包んで室內に掛けて置く香。❷香具一切を入れて、室內に掛けて置く袋。香嚢。

【掛號】8 kua^4 hao^4 ❶番號を登記する。申込みする。〔六部成語、戶部、掛號、注解〕登二記其次序番號於冊上一也。〔福惠全書、蒞任部、酬答書札〕置簿掛號。❷屆出る。❸書留める。❹書留郵便。

〖掛號郵件〗9 kua^4 hao^4 yu^2 chien^4 書留郵便。

〖掛號資費〗10 kua^4 hao^4 tzŭ^1 fei^4 書留料金。

〖掛號信件〗11 kua^4 hao^4 hsin^4 chien^4 書留郵便物。

【掛甲】12（クワイカフ） 甲冑をつける。〔米芾、評二四十家書一〕顏眞卿如二項羽一掛レ甲樊噲排突。

〖掛甲錢〗13（クワイカフセン） 軍を發する時に士卒に賜はる金をいふ。〔五代史、雜四十、李守貞傳〕其始發レ軍也、有二賜賚一、曰二掛甲錢一、及レ班レ師、又加二賞勞一、曰二卸甲錢一、出入之費、常不レ下二三十萬一、由レ此晉之公私重困。

【掛合】14（カケアヒ） はなしあひ。談合。交涉。

〖掛合臺詞〗15（カケアヒゼリフ） 演劇で役者が各〻一句づつ陳べる臺詞。

【掛竿】16（カケザヲ） 手拭などを掛ける竿。椸竿。

【掛乞】17（カケゴヒ） かけとり。借金取り。

【掛金】18（カケキン） 一定の額に達するまで幾回かに割りあてて、積立若しくはなしくづしにする金。掛錢。

〖掛金燈〗19（クワイキントウ） 藥草の名。酸漿の異名。姑娘菜。燈籠兒。〔農政全書、姑娘菜考〕俗名二燈籠兒一、又名二掛金燈一、本草名二酸漿一、一名醋漿、生二荆楚川澤及人家田園中一、今處處有レ之、苗高一尺餘、苗似二水莨一而小、葉似二天茄兒葉一窄小、又似二人莧葉一、頗大而尖、開二白花一、結レ房如レ嚢、似二野西瓜一、蒴形如二撮口布袋一。

【掛火】20 kua^4 huo^3 ❶羞ぢて氣をいらだつ。羞ぢて怒る。❷氣乘りする。

【掛花】21 kua^4 hua^1 立派に着飾る。

〖掛花瓶〗22（カケクワビン） 壁柱などに掛けて用ひる花瓶。かけばないけ。懸壁瓶。

【掛畫】23（クワイグワ） ❶畫を懸ける。〔薩都剌、題二雲山圖一詩〕看レ山愛レ竹了二公事一、焚レ香掛レ畫似二神仙一。❷めかす。立派に裝ふ。

【掛懷】24 kua^4 huai^2 氣にかける。心配する。

【掛繪】25（カケヱ） 掛物(84)に同じ。

【掛冠】26（クワイクワン） 官で制定した冠をかけてかぶらないこと。辭職することをいふ。挂冠(5－12020‥9)に同じ。

【掛勁】27 kua^4 ching^4 せき込む。氣をいらだてる。

【掛橋】28（カケハシ） ❶崖などに木材をかけ渡して造つた路。棧道。❷なかだち。媒介。

【掛欠】29 kua^4 ch'ien^4 ❶拂殘りの延滯金。❷掛にする。借りにする。

【掛牽】30 kua^4 ch'ien^1 氣にかかる。心に思ふ。

【掛劍】31（クヮイケン） ❶劍をかける。延陵の季子が徐君の墓に劍を掛けた故事。其の地は安徽省舊泗州治の北一百二十支里といふ。〔史記、吳太伯世家〕季札之初使、北過二徐君一、徐君好二季札劍一、口弗二敢言一、季札心知レ之、爲レ使二上國一未レ獻、還至レ徐、徐君已死、於レ是乃解二其寶劍一、繫二之徐君冢樹一而去、從者曰、徐君已死、尚誰予乎、季子曰、不レ然、始吾心已許レ之、豈以レ死倍二吾心一哉。❷松の名。晉の許遜が此に劍を掛けたから名づく。〔名山記〕壽松在二建昌縣北冷水觀一、一名掛劍松、古老相傳、許遜曾掛二劍於此一。

【掛減】32（カケベリ） 秤に掛けるに就いて量の減ること。

【掛誤】33 kua^4 wu^4 厄介。連累。

【掛紅】34 kua^4 hung^2 ❶祝ひ事のある時に紅綵を掛け連ねること。❷樂隊が慶事を送迎すること。

【掛鉤】35（クヮイコウ） ❶つりばりをかける。〔陸龜蒙、新夏東郊閑泛有レ懷二襲美一詩〕蒹葭鷺起波搖レ笠、村落蠶眠樹掛レ鉤。❷つりばりにかかる。〔蘇軾、夜夢詩〕怛然悸寤心不レ舒、起坐有レ如二掛レ鉤魚一。

【掛轂】36（クヮイコク） 車轂が擊ち合ふこと。雜沓のさま。轂は、車のこしき。〔太平御覽、車部、轂〕桓譚新論曰、楚之郢都、車掛レ轂、民摩レ肩、市路相交、號爲二朝衣新而暮衣弊一。

【掛鎖】37 kua^4 suo^3 錠前。

【掛彩】38 kua^4 tsʻai^3 ❶祝賀の意を表はすために五色の布片を掛け連ねること。掛紅。❷血まみれになる形容。

【掛算】39（カケザン） 乘法をいふ。

【掛矢】40（カケヤ） 巨大な槌。

【掛詞】41（カケコトバ） 發音が同じで、一様の意味のある詞。例へば、みのをはりさへ定めなき（美濃尾張と身の終り）の如き類。懸詞。

【掛齒】42（クヮイシ） 齒牙にかける。挂齒(**5**－12020··14)に同じ。

【掛字】43（カケジ） 床の間にかける書幅。軸物。掛物(84)を見よ。

『掛字掛』44（カケジカケ） 掛物の紐を折釘に掛ける爲に用ひる具。

【掛失】45 kua^4 shih^1 紛失屆。紛失廣告。挂失。

『掛失止付』46 kua^4 shih^1 chih^3 fu^4 無効手形であることを掲示して支拂を停止するをいふ。

【掛車】47（クヮイシャ） ❶山名。安徽省桐城縣の西。山下に掛車鎭あり、舒城(**9**－30300··36)に通ず。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府、桐城縣〕掛車嶺、縣西四十里、卽朱桓所謂硤石・掛車、兩道皆險隘者也、志云、上有二掛車石一、漢都二長安一、江淮往來、此爲二要路一、九域志、桐城縣有二掛車鎭一、以二掛車嶺一而名。❷kua^4 chʻê^1 ㋑滑車。㋺列車等を連結する。

【掛上】48 kua^4 shang 引つかける。掛ける。

【掛錫】49（クヮイシャク） 佛錫杖をかける。巡行の僧がしばらく止り住すること。挂錫。飛錫(**12**－44000··180)の對。〔釋氏要覽、下、掛錫〕今僧止所レ住處、名二掛錫一者、凡西天比丘、行必持二錫杖一、持レ錫有二二十五威儀一、凡至二室中一、不レ得レ著レ地、必掛二於壁牙上一、故云二掛錫一。

【掛取】50（カケトリ） 借金取り。掛乞(17)に同じ。

【掛綬】51（クヮイジュ） 官印の綬を官署内にかける。官を辭すること。挂綬(**5**－12020··17)に同じ。

【掛鋤】52 kua^4 chʻu^2 農期がすんで、農夫が雇主の下を辭すること。

【掛鐘】53 kua^4 chung^1 掛時計。柱時計。

【掛繩】54（クヮイジョウ） ❶繩をかける。泉の流れるさま。〔李賀、老夫採玉歌〕斜山柏風雨如レ嘯、泉脚掛レ繩青裊裊。❷（カケナハ） ㋑野馬を捕へるに用ひる繩。おひなは。さしなは。㋺引板を引き鳴らす繩。なるこなは。

【掛心】55 kua^4 hsin^1 氣にかかる。氣にかける。挂心(**5**－12020··18)に同じ。

【掛審】56（クヮイシン） しらすのふだをかける。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕詞訟人犯拘齊掛レ審、後該承行。

【掛帥】57 kua^4 shuai^4 將帥になる。總大將になる。掛印。

【掛聲】58（カケゴヱ） ❶歌をうたふ時、曲節を示すに發する聲。❷車を推し、綱を曳くなど、數人が力を一時に出す時に發する聲。

【掛席】59（クヮイセキ） 帆をあげる。舟に蓆帆を立てる。挂席(**5**－12020··19)に同じ。

【掛線】60 kua^4 hsien^4 つなぐ。電話交換手が線をつなぐこと。

【掛錢】61（カケセン） ❶掛金(18)に同じ。❷kua^4 chʻien^2 正月に紙で錢の形を切つて門前に掛けるもの。

【掛帶】62（カケオビ） 古、女の裝飾に用ひた帶。裳に附屬したもの。

【掛替】63（カケガヘ） 入用の時に備へる豫備品。かはり。

【掛搭】64（クヮタ） 佛僧が寺などに留まること。行脚僧が荷物を卸し、衣鉢袋を僧堂の單位の鉤に掛けるからいふ。掛褡。挂搭。〔禪林象器箋、叢軌門〕初入二叢林一者、掛二衣鉢袋於僧堂單位鉤一也、故凡住持、容二行脚人依住一、曰レ許二掛搭一。

【掛褡】65（クヮタ） 佛僧が寺などに留まること。掛搭。〔類篇〕僧人投レ寺寄寓、謂二之掛褡一、褡、衣敝也。〔葛長庚、詩〕未二相識一前來掛褡、知堂嫌二我身襤褸一。

【掛稻】66（カケイネ） 乾かすために掛けた稻。

【掛單】67（クヮイタン） 佛行脚僧が寺などに留まること。挂單(**5**－12020··23)に同じ。〔劉克莊、詩〕僧借二虛堂一竟掛單。〔精註雅俗故事讀本、下、釋道鬼神〕飛レ錫掛レ單、謂二僧人之行止一、導引胎息、謂二道士之修持一。

【掛直】68（カケネ） 掛値に同じ。

【掛値】69（カケネ） ❶實價より高い價。❷實際にすぎたこと。

【掛軸】70（クヮイヂク） 書畫のかけもの。掛物。〔思陵書畫記〕唐五代皇朝等名畫掛軸。

【掛賬】71 kua^4 chang^4 掛賣。又、借り倒す。

【掛燈】72 kua^4 têng^1 提燈をつるす。

【掛念】73 kua^4 nien^4 氣にかける。心配する。掛心。掛牽。掛慮。挂念(**5**－12020··26)に同じ。

【掛牌】74（クヮイハイ） ❶札を掲げる。〔輟耕錄、掛牌延客〕江右胡存齋參政能折レ節下レ士、云云、苟不レ出日、卽於二門首一掛二一牌一云、胡存齋在レ家。❷kua^4 pʻai^2 ㋑任官の辭令が出る。㋺公布された相場。

『掛牌兒』75（クヮイハイジ） 音樂歌謠をなす者。〔稱謂錄、歌、掛牌兒〕都城紀勝、京師賣茶樓、有下都人子弟會聚、習二學樂器一或唱叫之類上、謂二之掛牌兒一。

【掛賣】76（カケウリ） 代金を一時貸して賣ること。

【掛望】77 kua^4 wang^4 希望をかける。望みを囑する。

【掛榜】78 kua^4 pang^3 たてふだ。挂榜(**5**－12020··27)に同じ。制札。掛け札。

【掛發】79（クヮイハツ） 登記濟の項を支給する。〔六部成語、戶部、掛發、注解〕已經二掛號一之公項、卽日發給也。

【掛帆】80 kua^4 fan^2 帆をあげる。出帆する。出發する。挂帆(**5**－12020··28)に同じ。

【掛盤】81（カケバン） 食器を載せる臺。古は盤と脚と別別であつたが、後には造りづけの四脚となる。

【掛批】82（クヮイヒ） 批文中に名を書きのせる。〔六部成語、戶部、掛批、注解〕上憲批文中、已登二其名一也。

【掛幅】83 kua^4 fu^4 掛物。

【掛物】84（カケモノ） ❶書畫を軸に卷くやうに表裝して、床閒・壁などに掛けて見るもの。掛軸。挂幅。軸。竪に長いものをたてたもの。横に長いものをよこものといふ。又、書は掛字・書幅、畫は掛畫・畫軸・畫幅といふ。❷こほりがけ。又、ひがけにした干菓子。

【掛表】85 kua^4 piao^3 掛時計。

【掛瓢】86（クヮイヘウ） ひさごをかける。かけたひさご。〔逸士傳〕許由手捧レ水飮、人遺二一瓢一、飮訖掛二木上一、風吹有レ聲、由以爲レ煩去レ之。〔錢起、謁二許由廟一詩〕松上掛レ瓢枝幾變、石閒洗レ耳水空流。

【掛名】87 kua^4 ming^2 名を記入する。名を登記する。挂名(**5**－12020··31)の❶に同じ。

【掛麪】88 kua^4 mien^4 素麪。

【掛絡】89（クヮラ） 佛小さい袈裟の名。兩肩を通して胸閒に掛ける小さい方形のもの。又掛落・掛羅に作り、單に掛子・絡子ともいふ。〔釋氏要覽、上、法衣〕絡子、或呼二掛子一、蓋此先輩僧創レ之、後僧効レ之、又亡二衣名一、見二掛絡在レ身、故因レ之稱也、今南方禪僧、一切作務皆服。

【掛流】90（カケナガシ） 一度使用しただけで捨てること。

【掛慮】91 kua^4 lü^4 氣にかける。心配する。

【掛綠】92（クヮイリョク） 役人となる。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕有二青年掛レ綠而政理茫然一。

【掛累】93 kua⁴ lei⁴ 厄介をかける。心配をかける。連累。掛誤。

【掛漏】94 kua⁴ lou⁴ 遺漏。缺漏。記載漏れ。書き落し。挂漏(5—12020・・33)に同じ。

【掛樓】95 kua⁴ lou² バルコニー。露臺。

【掛衣裳】96 kua⁴ i¹ shang ❶衣裳をかける。❷衣桁。

【掛貨舖】97 kua⁴ huo⁴ pʻu⁴ 古物商。

【掛幌子】98 kua⁴ huang³ tzŭ ❶看板をかける。❷商賣をはじめる。

【掛彩子】99 kua⁴ tsʻai³ tzŭ 祝賀の時門戸に紅色の絹布を纏ふこと。掛紅。

【掛失票】100 kua⁴ shih¹ pʻiao⁴ 紛失した手形の無效を銀行に屆出る。

【掛代金】101（カケダイキン） 掛賣の代金。

【掛塔燈】102（クワイタフトウ） 張乖崖が增した十三夜の燈をいふ。〔翰墨大全〕張乖崖帥レ蜀、增二十三夜燈一、謂二之掛塔燈一。

【掛茶屋】103（カケヂャヤ） 路傍に設けて小憩に供する茶屋。よしず茶屋。

【掛帳子】104 kua⁴ chang⁴ tzŭ 幌をかける。とばりをかける。

【掛得扁】105 kua⁴ tê² pien³ 機織蟲。

【掛不住】106 kua⁴ pu chu⁴ ❶掛けられない。❷大いに恥ぢる。

【掛屏兒】107 kua⁴ pʻing² êrh ❶ガラス張にした掛物。又、額の類。❷四幅對。

【掛瓶兒】108 kua⁴ pʻing² êrh 掛花瓶。

【掛爐舖】109 kua⁴ lu² pʻu⁴ 豚・鵞を燒いて賣る店。

【掛點零兒】110 kua⁴ tien³ ling² êrh 餘り。

【挩】 12268

㈠ゲイ 〔集韻〕吾禮切 齊
㈡ゲイ 〔集韻〕研計切 霽
㈢ダイ ネ 〔集韻〕尼佳切 佳
㈣ゲツ ゲチ 〔正韻〕魚列切 屑

㈠❶**したがはない**。〔廣韻〕挩、不レ從也。❷**なぞらへる**。〔廣雅、釋詁四〕挩、擬也。〔集韻〕挩、擬也。〔漢書、揚雄傳下〕故有二首・衡・錯・測・攡・瑩・數・文・挩・圖・告十一篇一。〔太玄經、玄挩、注〕挩、擬也。㈡❶**にぎる**。**又、つる**。手の筋が急にしまる。〔集韻〕挩、捉也。〔莊子、庚桑楚〕終日握而手不レ挩。〔釋文〕挩、廣雅云、促也。❷**寄る**。〔莊子、庚桑楚、不レ挩、釋文〕崔云、挩、寄也。㈢**からめる**。〔集韻〕挩、搦也。㈣❶**こねる**。〔正韻〕挩、捻聚也。❷**姓**。〔奇姓通〕挩、明挩大倫、奉レ詔往諭二佛林國一。

【掝】 12269

㈠コク ワク 〔正韻〕獲北切 職
㈡クワク 〔集韻〕忽麥切 陌
㈢キョク コク 〔集韻〕忽域切 職

㈠**くらい**。惑(4—10789)に通ず。掝掝。〔荀子、不苟〕其誰能以二己之潐潐一、受二人之掝掝一者哉。〔注〕掝掝、惛也。掝、當レ爲レ惑。㈡**さく**。やぶる。或は⿰扌畫(5—12703)に作る。〔廣雅、釋詁二〕掝、裂也。〔集韻〕掝、或从レ畫。㈢**さくこゑ**。〔集韻〕掝、裂聲。

【掞】 12270

㈠エン 〔集韻〕以贍切 豔
㈡セン 〔集韻〕舒贍切 ㄕㄢˋ shan⁴ 豔
㈢エン 〔集韻〕以冉切 琰

㈠❶**のべる**。或は⿰扌焱(5—12749)に作る。〔集韻〕掞、掞舒也、或从レ焱。❷**かがやかす**。かがやく。炎(7—18910)に通ず。〔漢書、禮樂志〕長麗前掞レ光耀レ明。〔注〕晉灼曰、掞、卽光炎字也。〔左思、蜀都賦〕摛レ藻掞二天庭一。㈡❶**のべる**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕掞、舒也。❷**はやくうごく**。〔集韻〕掞、一曰、疾動也。❸或は⿰扌閃(5—12454)に作る。〔集韻〕掞、或从レ閃。㈢**そぐ**。するどくする。するどい。剡(2—2059)に同じ。〔集韻〕剡、說文、銳利也、或从レ手。〔易、繫辭下、剡レ木爲レ楫、釋文〕掞、本亦作レ剡。〔淮南子、俶眞訓〕撢二掞挺一挏二世之風俗一。〔注〕掞、利也。〔馬融、長笛賦〕剸掞度擬。〔注〕善曰、掞、與レ剡音義通。

【掞光】1（エンクワウ） 光をかがやかす。〔漢書、禮樂志〕長麗前掞レ光耀レ明。〔注〕晉灼曰、掞、卽光炎字也。

【掞齋】2（エンサイ） 淸、王貽燕(7—20823・・1126)の號。

【掞藻】3（エンサウ） 詞藻を舒べ發する。人の文辭が典麗なのをいふ。摛藻。〔柳顧言、奉三和晚日楊子江一應教詩〕掞藻麗二繁星一、高論光二朝日一。〔蕭穎士、贈二韋司業一書〕今朝野之際、文場至廣、掞藻飛聲、森然林植。

【掞張】4（エンチャウ） 文辭を飾り立てて誇大にいふこと。〔蜀志、鄧芝傳〕權與レ亮書曰、丁宏掞張。〔注〕孫權蓋謂三丁宏之言多二浮艷一也。

【掞麗】5（エンレイ） 文辭が典麗なのをいふ。掞藻。〔唐書、后妃上、上官昭容傳〕自二通天一以來、內掌二詔命一、掞麗可レ觀。

【掞天才】6（エンテンノサイ） 天庭に輝く才。大に文才が有る喩。〔左思、蜀都賦〕幽思絢二道德一、摛レ藻掞二天庭一。〔宋之問、扈二從登封一途中作詩〕扈從良可レ賦、終乏二掞天材一。

【⿰扌芮】 12271

㈠ゼイ ネイ 〔集韻〕儒稅切 霽
㈡チ ニ 〔廣韻〕女恚切 寘
㈢ヂャウ ニャウ 〔字彙〕女恙切 漾

㈠**えらびとる**。〔集韻〕⿰扌芮、扟也。㈡❶**いれる**。〔廣韻〕⿰扌芮、內也。❷**姓**。〔廣韻〕⿰扌芮、又姓。㈢**姓**。〔字彙〕⿰扌芮、姓也。

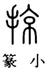
【掟】 12272

㈠タウ チャウ 〔集韻〕張梗切 梗
㈡テイ ヂャウ 〔廣韻〕徒徑切 徑

㈠**はる**。〔玉篇〕掟、揮張也。〔集韻〕掟、張也。㈡**おきて**。**ぢやう**。さだめ。〔廣韻〕掟、天掟、出二道書一。〔和漢三才圖會、藝文、倭字〕掟、禁制條目敎令謂二之掟一、蓋掟、音定、道書所謂天掟相當。

【掠】 12273

㈠リャク 〔集韻〕力灼切 ㄌㄩㄝˋ lüeh⁴ 藥
㈡リャウ 〔集韻〕力讓切 漾


小篆

㈠㈡❶**かすめる**。㋑うばひとる。〔說文新附〕掠、奪取也、从レ手京聲、本音亮、唐韻或作レ擽。〔廣韻〕掠、抄掠、劫二人財物一。〔左氏、昭、二十〕輸二掠其聚一。〔注〕掠、奪取也。㋺かすめすぎる。〔增韻〕掠、拂過也。〔韓愈、戲題二牡丹一詩〕雙燕無レ機還拂掠、遊蜂多レ思正經營。〔蘇軾、後赤壁賦〕掠二予舟一而西也。❷**書法の一**。左下に拂撥する線を書くこと。長撇。〔柳宗元、論書〕掠、左出而鋒欲レ輕。❸**はらふ**。きる。〔穆天子傳、五〕命二虞人一掠レ林。〔注〕掠、謂三剗二伐之一。〔成彥雄、柳枝詞〕誰把二金刀一掠レ林。❹**むちうつ**。杖でたたく。罪人を捶笞してせめしらべる。擽(5—12919)

に通ず。〔廣韻〕掠、笞也、治也。〔集韻〕掠、搒也。〔釋名、釋喪制〕槌而死曰レ掠、掠、狼也、用レ威大暴、如二豺狼一也。〔一切經音義、九〕蒼頡篇、掠、問也、謂二搒捶治レ人也。〔禮、月令〕毋二肆掠一。〔注〕掠、謂二捶治人一。〔釋文〕掠、拷捶。〔唐書、嚴郢傳〕楚掠慘棘、鍛二成其罪一。㊄或は剠(**2－2058**)に作る。〔集韻〕掠、或从レ刀。〔一切經音義、二〕掠、聲類作レ剠、同。

名乘　クラ。

【掠雨】1 リャクウ　ふり注ぐあめ。〔長生殿、雨夢〕冷風掠雨戰二長宵一。

【掠考】2 リャクカウ　むちうちしらべる。罪人を拷問する。〔後漢書、章帝紀〕自二往者大獄一已來、掠考多レ酷。〔後漢書、霍諝傳〕洛陽詔獄、掠考困極。

【掠鄕】3 リャクキャウ　戰ひに、敵の鄕を掠め取ること。〔孫子、軍爭〕掠レ鄕分レ衆。

【掠劫】4 リャクケフ　かすめおびやかす。〔世說新語、自新〕陸機、赴レ假還レ洛、輜重甚盛、(戴)淵使二少年掠劫一。

【掠殺】5 リャクサツ　むちうちころす。〔後漢書、黨錮傳序〕送二槐里獄一、掠二殺之一。

【掠子】6 リャクシ　髮を整へる具。けすぢたて。篦。〔名義考〕篦亦以整レ髮、卽今掠子。

【掠賞】7 リャクシャウ　掠奪と賞賜。〔韓愈、司徒兼侍中中書令贈太尉許國公神道碑銘〕承二五亂之後、掠賞之餘一、且斂且給。

【掠取】8 リャクシュ　かすめとる。〔六韜、豹韜、烏雲澤兵〕三軍無レ所二掠取一、牛馬無レ所二芻牧一。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕掠二取金寶一。

【掠食】9 lüeh^4 shih^2　食物を奪ひとる。

【掠水】10 リャクスイ　水にふれる。みづの上をかすめて過ぎる。〔杜牧、寄二澧州張舍人笛一詩〕樓中威鳳傾レ冠聽、沙上驚鴻掠レ水分。〔吳融、燕雛詩〕掠水身猶重、隈風力尙微。

【掠抄】11 リャクセウ　かすめとる。抄掠(**5－11863・・57**)に同じ。

【掠盜】12 リャクタウ　かすめぬすむ。剽掠。〔孔子家語、正論解〕子產卒、子太叔爲レ政、不レ忍レ猛而寬、鄭國多二掠盜一。〔北史、袁翻傳〕唯以二掠盜一爲レ資。

【掠奪】13 リャクダツ　かすめうばふ。むりどりする。掠劫。鹵掠。奪掠。〔後漢書、董卓傳〕宮女皆爲三傕兵所二掠奪一。〔申鑒、政體〕暴迫而取レ之、謂二之掠奪一。

〔掠奪農法〕14 リャクダツノウハフ　無施肥耕作のこと。肥料を施すことなく、耕地の榮養分が吸收し盡されるまで農作をなし、地力を枯渇せしむること。

〔掠奪植民地〕15 リャクダツショクミンチ　政治的、軍事的行動に因つて利益を收得せんとする植民地。

【掠地】16 リャクチ　㊀土地を掠め取る。〔余靖、明箴〕鼠無レ牙兮穿レ墉、蝸有レ角兮掠レ地。〔陸游、雨詩〕掠地俄成箭鏃飛。㊁地にふれる。地上をかすめる。〔方干、送三朱二十赴二漣水一詩〕鸞凰取レ便多加レ此、掠レ地斜飛上二太虛一。〔蘇轍、次二韻王適新燕一詩〕似レ嫌春早無二人見一、故待二簾開一掠レ地飛。

【掠治】17 リャクチ　笞うちをさめる。むちうつてせめしらべる。〔史記、張湯傳〕劾レ鼠掠治。〔漢書、陳萬年傳〕下レ獄掠治。

【掠笞】18 リャクチ　笞うつてせめしらべる。〔史記、張儀傳〕已而楚相亡レ璧、門下意二張儀一、云云、共執二張儀一、掠笞數百、不レ服、醳レ之。〔漢書、夏侯嬰傳〕掠笞數百、終脫二高祖一。

【掠提】19 lüeh^4 tʻi^2　暴力でつかみ取る。

【掠得】20 リャクトク　かすめとる。掠抄(11)に同じ。

【掠賣】21 リャクバイ　かどはかし賣る。略賣。〔論衡、吉驗〕竇太后弟、名曰二廣國一、年四五歲、家貧爲三人所二掠賣一。

【掠美】22 リャクビ　他人の美をかすめ取つて己の美となすこと。〔左氏、昭、十四〕己惡而掠レ美爲レ昏。

【掠服】23 リャクフク　むちうつて服從させること。〔新序、節士〕掠二服無罪一。

【掠焚】24 リャクフン　物をかすめ家をやく。焚掠(**7－19100・・59**)に同じ。

【掠理】25 リャクリ　むちうちをさめる。罪人を獄に入れてむちうち責める。掠治。〔後漢書、獨行、戴就傳〕桼何誣二枉忠良一、強相掠理。

【掠立】26 リャクリツ　むちうちせめて罪に服せしめる。無實の罪名を立てること。〔漢書、谷永傳〕多繫二無辜一、掠立迫恐。〔注〕師古曰、掠笞服レ之、立二其罪名一。

【掠略】27 リャクリャク　かすめとる。略掠に同じ。

【掠鹵】28 リャクロ　かすめうばふ。鹵は擄に同じ。かすめること。〔史記、高祖紀〕諸所レ過、毋レ得二掠鹵一、秦人憙。〔注〕集解曰、鹵、與レ虜同。〔史記、韓長孺傳〕行掠鹵、徒見二畜牧於野一。〔漢書、咸宣傳〕小羣以レ百數、掠二鹵鄕里一者、不レ可二稱數一。

【採】

12274　サイ　〔集韻〕此宰切　ㄘㄞˇ　tsʻai^3　賄

㊀**とる**。つみとる。あつめる。えらぶ。采(**11－40116**)に同じ。〔集韻〕采、說文、採取也、或从レ手。〔史記、循吏、孫叔敖傳〕秋冬則勸レ民山採。〔後漢書、周興傳〕屬レ文著レ辭、有レ可二觀採一。〔南史、梁武帝紀〕博採二英異一。〔北史、周世祖紀〕捃二採衆書一。㊁**をさめる**。〔北史、齊後主皇后穆氏傳〕更不レ採二輕霄一。㊂**きこり**。つまぎひろひ。〔後漢書、翟酺傳〕太學辟雍、云云、頃者頹廢、至レ爲二園採芻牧之處一。

【採挹】1 サイイフ　くみとる。〔水經、河水注〕民有二姓劉名墮者一、宿二擅工釀一、採二挹河流一、醞二成芳酎一、懸食同二枯枝之年一、排二于桑落之辰一、故酒得二其名一矣、然香醑之色、淸白若二滫漿一焉、別調氛氳、不二與レ佗同一、蘭薰麝越、自成二馨逸一、方土之貢選最佳酌矣。

【採荷】2 サイカ　はちすをとる。採荷調を見よ。

〔採荷調〕3 サイカテウ　詩篇の名。梁、江從簡作。荷を詠じて何敬容を刺つたもの。采荷調。〔梁書、江革傳〕子從簡、少有二文情一、年十七、作二採荷詞一。〔南史、江德藻傳〕德藻弟從簡、少有二文情一、年十七、作二采荷調一以刺二何敬容一、爲二當時所一レ賞。〔兒世說〕江從簡、小時有二文情一、作二採荷調一以刺二何敬容一、曰、欲レ持レ荷作レ柱、荷弱不レ勝レ梁、欲レ持レ荷作レ鏡、荷暗本無レ光、敬容不レ覺、唯歎二其工一。

【採求】4 サイキウ　さぐりもとめる。もとめて採る。〔後漢書、儒林傳序〕採二求闕文一、補二綴漏逸一。

【採去】5 tsʻai^3 chʻü^4　つまみとる。とり去る。〔桃花扇、罵筵〕罵的是那箇、快快採去。

【採莒】6 サイキョ　いもをとる。〔陶潛、詠二貧士一詩〕芻藁有二常溫一、採レ莒足二朝飧一。

【採掘】7 サイクツ　地を穿つて鑛石等をほり出すこと。〔北史、恩幸、茹皓傳〕爲二山於天泉池西一、採二掘北芒及南山佳石一。

【採花】8 サイクワ　㊀花を摘む。採華に同じ。㊁tsʻai^3 hua^1　強姦する。強淫する。

【採華】9 サイクワ　花を摘む。〔崔駰、達旨〕彼採二其華一、我收二其實一。〔宋之問、江南曲〕採レ花驚二曙鳥一、摘レ葉餧二春蠶一。

【採光】10 サイクワウ　ひかりを取る。あかりを入れる。又、あかりとり。

【採鑛】11 サイクワウ　あらがねを掘り取る。鑛物を採掘する。

【採獲】12 サイクワク　とり入れる。〔後漢書、班彪傳〕若二遷之著作一、採二獲古今一、貫二穿經傳一。〔唐書、儒學下、元澹傳〕採獲刊綴爲二五十篇一。

【採官】13 tsʻai^3 kuan^1　耳をいふ。觀相者の語。

【採決】14 サイケツ　とりきめる。議長が議案に對する可否を議場で問うて決定すること。

【採擷】15 サイケツ　つみ取る。衣の袵を揭げて、帶に插み、物を入れる。一に采擷に作る。〔謝朓、同詠二坐上所レ見物一得レ席詩〕遇レ君時採擷、王座奉二金巵一。〔宋之問、秋蓮賦〕芳心未レ成、採擷都盡。

【採工】16 サイコウ　かねほり。礦夫。〔天工開物〕採工篝レ燈逐レ徑。

【採購】17 tsʻai^3 kou^4　物資の地方買付を行ふをいふ。

【採草】18 サイサウ　草を採取する。〔論衡、超奇〕採レ草以和二方藥一。

【採桑】19 サイサウ　㊀くわを摘む。〔續列女傳、陳辯女傳〕辯女者、陳國採桑之女也。㊁樂府西曲歌の名。〔樂府詩集、近代曲辭、採桑〕樂苑曰、採桑羽調曲、又有二楊下採桑一、按、採桑本淸商西曲也。

〔張祜、採桑〕自レ古多二征戰一、由來尙二甲兵一、長驅千里去、一擧兩番平、按レ劒從二沙漠一、歌謠滿二帝京一、寄二言天下一、將須レ立二武功名一。

〖採桑度〗20 サイサウド 樂府西曲歌の名。一に採桑といふ。〔樂府詩集、淸商曲辭、西曲歌、採桑度〕採桑度、一曰二採桑一、唐書樂志曰、採桑因二三洲曲一而生二此聲苑一也、採桑度、梁時作、水經曰、河水過二屈縣西南一、爲二採桑津一、春秋僖公八年、晉里克敗二狄于採桑一、是也、梁簡文帝烏棲曲曰、採桑渡頭礙二黃河一、郞今欲レ渡畏二風波一、古今樂錄曰、採桑度、舊舞十六人、梁八人、卽非二梁時作一矣。

【採察】21 サイサツ 事情を察してとり用ひる。〔後漢書、襄楷傳〕三公上レ書乞レ哀、瓆等不レ見二採察一。〔蜀志、張嶷傳〕願深採察。

【採詩】22 サイシ 詩をとりあつめる。采詩(11−40116··35)を見よ。

【採試】23 tsʻai^3 shih^4 試掘する。

【採售】24 tsʻai^3 shou^4 取り聚めて賣る。小賣する。

【採拾】25 サイシフ ㊀とりひろふ。取り集める。採摭。採集。〔晉書、謝尙傳〕鎭二壽陽一、尙於レ是採二拾樂人一。㊁薪を採り木實を拾ふ。賤しい生活をすること。〔後漢書、江革傳〕少失レ父、獨與レ母居、遭二天下亂、盜賊並起一、革負レ母逃レ難、備經二阻險一、常採拾以爲レ養。

【採集】26 サイシフ とりあつめる。采集(11−40116··40)に同じ。

【採緝】27 サイシフ とりあつめる。采緝(11−40116··41)に同じ。〔宋史、楊徽之傳〕採二緝前代文字一、類爲二文苑英華一。

【採斫】28 サイシャク てにとつてきる。〔癸辛雜識〕望レ靑採斫、鞭笞追逮。〔柳宗元、行路難詩〕虞衡斤斧羅二千山一、工命採斫杙與レ椽。

【採取】29 サイシユ とる。もとめをさめる。〔後漢書、馬嚴傳〕垂レ頭塞レ耳、採二取財賂一。

【採珠】30 サイシユ 水に入つて眞珠を取る。〔晉書、陶璜傳〕合浦郡、土地磽确、無レ有二田農一、百姓唯以二採珠一爲レ業。〔施肩吾、鳥夷行〕黑皮年少學レ採珠、手把二生犀一照二鹹水一。

〖採珠行〗31 サイシユカウ 樂府の名。唐、元稹作。〔元稹、採珠行〕海波無レ底珠沈レ海、採レ珠之人判レ死採、萬人判レ死一得レ珠、斛量買レ婢人何在、年年採レ珠珠避レ人、今年採レ珠由二海神一、海神採レ珠珠盡死、死盡二明珠一空二海水一、珠爲二海物一海屬レ神、神今自採何況人。

〖採珠子〗32 tsʻai^3 chu^1 tzŭ 乳を撫でること。虎撑者といふ祈禱者の語。

【採證】33 tsʻai^3 cheng^4 採掘認可證。

【採薪】34 サイシン 薪をとること。采薪(11−40116··54)に同じ。

〖採薪之憂〗35 サイシンノウレヘ 疾病に罹つて居ることを謙遜していふ。采薪之憂(11−40116··55)に同じ。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕奈至二河中府普救寺一、忽値二採薪之憂一。

【採生】36 サイセイ 人を殺して精魂を取ること。〔明都穆都公談纂〕湖廣岳州有二殺レ人者一、謂二之採生一、遇二閏月一五六成レ群、以二長竹竿一挑二小筐籃一、竿上有レ鈎、用以鈎レ人、雖二親識一遇レ之不レ免、僧或婦人尤善。

〖採生折割〗36′ サイセイセツカツ 人の生膽や肢體をとり、術を以て藥として賣ること。〔明律、刑律、人命、採生折割人〕凡採二生折三割人一者、凌遲處レ死。〔注〕採二生折三割人一、是一事、謂下取二生人耳目臟腑之類一、而折中割其肢體上也。

【採淸】37 サイセイ 汚れを去つて淸くする。〔荀子、王制〕脩二採淸一易二道路一。〔注〕脩二其採淸之事一、採謂三採二去其穢一、淸謂レ使二之淸潔一、皆謂レ除二道路穢惡一也。〔王先謙集解〕兪樾曰、採、乃埰字之誤、方言曰、塚、秦晉之閒謂二之埰一、是也、淸者、說文、广部、廁、淸也、急就篇、屛廁淸溷糞土壤、云云、蓋墟墓之閒、淸溷之處、皆穢惡所二積聚一、故必以レ時修二治之一也。

【採召】38 サイセウ 召し寄せて選びとる。採用する。〔宋書、文帝紀〕幷下二魯郡一、修二復學舍一、採二召生徒一。

【採樵】39 サイセウ たきぎをとる。〔左氏、昭、六〕禁二芻牧採樵一。

〖採樵耕種〗40 サイセウカウシユ 官有の山や田で、ひそかに木を伐り耕稼すること。〔六部成語、刑部、採樵、耕種、注解〕於二官山官田一、私行二伐木耕稼一也。

【採摭】41 サイセキ 拾ひ取る。捃摭。采摭。〔孔安國、尙書序〕博考二經籍一、採二摭羣言一。〔邢昺、孝經正義序〕採二摭菁英一。

【採折】42 サイセツ をりとること。〔丁六娘、十索〕逢レ桑欲二採折一。

【採綜】43 サイソウ えらびすべる。〔風俗通、皇霸〕俗儒新生、不レ可二採綜一。

【採帶】44 サイタイ とつて身につけること。〔拾遺記、九、晉時事〕宮人採二帶其莖一、香氣歷レ日不レ歇。

【採琢】45 サイタク とつてみがく。〔晉書、戴邈傳〕荊璞發二採琢之榮一。

【採擇】46 サイタク とりえらぶ。多くの中からえり取つて用ひる。〔後漢書、班固傳上〕採二擇狂夫之言一、不レ逆二負薪之議一。〔吳志、吳主孫權傳〕寧得三以レ人廢レ言、而不二採擇一乎。

【採蓄】47 サイチク とりたくはへる。つみたくはへる。〔易林〕黃鳥採蓄、旣稼不レ答。

【採茶】48 サイチヤ 茶を摘む。採茶歌を見よ。

〖採茶歌〗49 サイチヤカ 茶摘み唄。〔沙喜亭、日本雜詠詩〕採茶歌唱學二唐人一。

【採聽】50 サイチヤウ 意見を採用する。〔歐陽脩、論レ修レ河第三狀〕臣前已具言二河利害一甚詳、而未レ蒙二採聽一。

【採定】51 tsʻai^3 ting^4 選定する。

【採摘】52 サイテキ 指さきでつまみとる。つみとる。〔陳叔達、詠レ菊詩〕但令レ逢二採摘一、寧辭二獨晚榮一。〔李益、竹溪詩〕採摘愧二芳鮮一、奉レ君歲暮節。〔皇甫曾、送二陸羽一詩〕採摘知二深處一、煙霞羨二獨行一。

【採掇】53 サイテツ とる。ひろひとる。〔論衡、卜筮〕採掇行レ事。〔宋書、孝義、徐耕傳〕氓黎飢餒、採掇存レ命。

【採點】54 サイテン 成績の優劣によつて點數を與へること。試驗の答案に點數をつける。

【採銅】55 サイドウ 地を掘つて銅をとる。〔漢書、食貨志下〕貢禹言、鑄レ錢采レ銅、一歲十萬。〔唐書、食貨志四〕歲採二銅二十六萬六千斤一。

【採納】56 サイナフ 意見をとり用ひる。受け入れる。〔後漢書、郞顗傳〕宜下採二納良臣一、以助中聖化上。

【採買】57 サイバイ 選んで買ふ。仕入れる。〔六部成語、戶部、採買、注解〕採、選也、應レ交漕米、或折レ價徵收、由レ官採買解運。

【採訪】58 サイハウ 採訪する。事柄を擇び尋ねる。取調べる。〔晉書、干寶傳〕寶撰二搜神記一、因作レ序曰、若使三採二訪近世之事一、苟有二虛錯一、願與二先賢前儒一分二其譏謗一。〔樂史、綠珠傳〕晉石崇爲二交趾採訪使一、以二眞珠三斛一致レ之。〔宋史、太祖紀三〕〔開寶九年〕遣下司勳員外郞和峴、往二江南路一採訪上。

〖採訪使〗59 サイハウシ 官名。正名は採訪處置使。唐の中宗、始めて十道巡察使を置き、睿宗の時、按察使と改め、玄宗の開元二十二年、採訪處置使と改む。天下を十五道に分け、每道一人を置き、州縣の官人の善惡を訪察し、三年に一度これを奏せしむ。後、大小の政務を掌り、又、節度使の兼ねる所となつてからは一道の軍民兩政を兼ね掌るに至る。乾元元年、觀察處置使と改む。〔唐書、田弘正傳〕承レ嗣時、正寢華顯、弘正避不二敢居一、更就二採訪使堂一聽レ事。〔通典、職官〕開元二十五年、命二諸道採訪使一、考二課善績一、三年一奏。

【採剝】60 サイハク はぎとる。〔蘇軾、李氏山房藏書記〕採二剝其華實一、而咀二嚼其膏味一。

【採伐】61 サイバツ 材木をきり出す。伐採(1−439··16)に同じ。

【採辦】62 サイベン ㊀買取る。購入する。仕入れる。〔淸會典事例、戶部、錢法〕晉省開鑪鼓鑄、銅斤宜二設レ法採辦一、源源接濟、以資二民用一。㊁選ぶ。

【採捕】63 サイホ とる。とらへる。〔梁武帝、禁二止私利一詔〕水陸採捕、及以二樵蘇一、遂致二細民措レ手無レ所。〔舊唐書、玄宗紀上〕〔開元三年二月〕禁三斷天下採二捕鯉魚一。

【採木】64 サイボク 木材を買取る。〔北史、隋煬帝紀〕往二江南一採レ木、造二龍舟鳳艒黃龍赤艦樓船等數萬艘一。〔六部成語、工部、採木、注解〕採二辦木料一也。

【採問】65 サイモン ききとること。たづねあるいてとること。〔後漢書、羊續傳〕觀二歷縣邑一、採二問風謠一。

【採藥】66 サイヤク 藥草をつみとる。采藥。〔越絕書、

越絕外傳記吳地傳〕古人所レ採レ藥也。〔後漢書、逸民、龐公傳〕登二鹿門山一、因採レ藥不レ反。〔論衡、四諱〕入レ吳采レ藥。〔晉書、嵆康傳〕康嘗採レ藥游二山澤一。〔賈島、尋二隱者一不レ遇詩〕松下問二童子一、言師採レ藥去、只在二此山中一、雲深不レ知レ處。

【採藥船】67サイヤクセン　徐福が不老不死の藥を採らうとして童男童女を載せた船。〔栗本鋤雲、詠二閣龍一詩〕愧殺秦皇採藥船。

【採藥吏化】68サイヤクリクワ　鳥の名。きつつき。斲木。琢木。きつつきは雷公の採藥吏が化したものと傳へるからいふ。〔爾雅翼、斲木〕其飛好極深遠、故相傳以爲二雷公採藥吏所一レ化。

【採用】69サイヨウ　とり用ひる。人をとりたててつかふこと。登用。擧用。采用(11－40116··116)に同じ。

【採覽】70サイラン　とつてみる。〔福惠全書、筮仕部、四六啓式〕備二執事採覽之一助一云。

【採掠】71サイリヤク　財をかすめ取る。〔晉書、石勒載記〕採掠無レ所レ獲、軍中大飢、士衆相食。

【採菱】72サイリヨウ　❶古曲の名。〔左思、吳都賦〕或踰三淥水而二採菱一。〔注〕銑曰、淥水・採菱、皆古曲名。❷菱をとるうた。〔郭璞、江賦〕詠二採菱一以叩レ舷。

【採菱歌】73サイリヨウカ　樂府清商曲辭、江南弄の名。宋の鮑照作。〔鮑照、採菱歌〕騖レ舲馳二桂浦一、息レ棹偃二椒潭一、簫弄澄二湘北一、菱歌清二漢南一。

【採菱曲】74サイリヨウキヨク　樂府清商曲辭の名。梁の武帝が西曲を改めて作る。江南弄七曲の一。詞中に採菱の語あることから名づける。梁の武帝・簡文帝・陸罩・費昶・江淹・江洪・徐勉などの歌辭がある。〔樂府詩集、清商曲辭、江南弄〕古今樂錄曰、梁天監十一年冬、武帝改二西曲一、製二江南上雲樂十四曲、江南弄七曲一、一曰、江南弄、二曰、龍笛曲、三曰、採蓮曲、四曰、鳳笛曲、五曰、採菱曲、六曰、遊女曲、七曰、朝雲曲、又沈約作二四曲一、一曰、趙瑟曲、二曰、秦箏曲、三曰、陽春曲、四曰、朝雲曲、亦謂二之江南弄一云。〔樂府詩集、清商曲、江南弄、採菱曲〕古今樂錄曰、採菱曲和云、菱歌女、解レ佩戲二江陽一。〔梁武帝、採菱曲〕江南稚女珠腕繩、金翠搖レ首紅顏興、桂棹容與歌二采菱一、歌二采菱一、心未レ怡、翳二羅袖一、望レ所レ思。

【採蓮】75サイレン　❶樂府清商曲辭の名。採蓮曲。梁、武帝作。江南弄七曲の一。詞中、多く男女相思の態度を述ぶ。其の曲は、漢代の采蓮の事を賦した江南曲に本づくといふ。梁の簡文帝・元帝・昭明太子・劉孝威・朱超・沈君攸・吳均、陳の後主、隋の盧思道・殷英童などに歌辭がある。採菱曲を見よ。〔樂府詩集、清商曲辭、江南弄、採蓮曲〕古今樂錄曰、採蓮曲和云、採蓮渚、窈窕舞二佳人一。〔梁武帝、採蓮曲、和レ云三採蓮渚窈窕舞二佳人一〕遊二戲五湖一採レ蓮歸、發レ花田葉芳襲レ衣、爲レ君儂歌世所レ希、世所レ希有レ如レ玉、江南弄採蓮曲。❷舞の名。蓮花を執つて舞ふ。〔宋史、樂志十七〕弟子隊、云云、六曰二採蓮隊一、衣二紅羅一、生色綽子繫二暈裙一、戴二雲鬟髻一、乘二綵船一、執二蓮花一。

【採錄】76サイロク　とりあげしるすこと。

【採香徑】77サイカウケイ　小路の名。❶江蘇省吳縣の西南の香山。〔太平寰宇記〕香山、在二縣西南五十里一、吳王遣二美人一採二香於此一、山以爲レ名、故有二採香徑一。❷江蘇省江陰縣の東の香山。〔輿地紀勝〕香山、吳王遣二美人一採二香於此一、因名、上有二採香徑一。

【採香戶】78サイカウコ　香を採る家。〔香譜〕述異記曰、南海郡有二採香戶一。

【採芹錄】70サイキンロク　書名。四卷。明、徐三重撰。政治・教育・人物についての評論を載す。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【採芝操】80サイシサウ　樂府、琴曲歌辭の名。樂府詩集に引く古今樂錄によれば、四皓(東園公・甪里先生・綺里季・夏黃公)が、漢の高祖に聘せられて應ぜず、天を仰ぎ歎じてこの歌を作るといひ、樂府詩集解題に引く唐の崔鴻の言、並びに晉の皇甫謐の高士傳の說によれば、四皓が秦の虐政を見てこの歌を作つたといふ。皇甫謐の高士傳に載せる歌辭は、樂府詩集に載せる所と少しく異なる。高士傳の歌辭と殆ど同一のものは、樂府詩集においては崔鴻の四皓歌として掲げてゐるが、民國の丁福保は、樂府詩集において崔鴻作とする四皓歌をも、四皓の作であるとして、全漢詩の部に掲げてゐる。〔樂府詩集、琴曲歌辭、採芝操〕琴集曰、採芝操、四皓所レ作也、古今樂錄曰、商山四皓隱居、高祖聘レ之、四皓不レ甘、仰レ天歎而作レ歌、按漢書曰、四皓皆八十餘、鬚眉皓白、故謂二之四皓一、卽東園公・綺里季・夏黃公・甪里先生也、崔鴻曰、四皓爲二秦博士一、遭三世暗昧坑二黜儒術一、於レ是退而作二此歌一、亦謂二之四皓歌一、二說不レ同、未レ知二孰是一。〔四皓、採芝操〕皓天嗟嗟、深谷逶迤、樹木莫莫、高山崔嵬、巖居穴處、以爲二幄茵一、曄曄紫芝、可二以療一レ飢、唐虞往矣、吾當二安歸一。〔高士傳卷上、四皓〕四皓者、皆河內軹人也、或在レ汲、一曰、東園公、二曰、甪里先生、三曰、綺里季、四曰、夏黃公、皆修レ道潔レ己、非レ義不レ動、秦始皇時見二秦虐政一、乃退入二藍田一而作レ歌曰、莫莫高山、深谷逶迤、曄曄紫芝、可二以療一レ飢、唐虞世遠、吾將何歸、駟馬高蓋、其憂甚大、富貴之畏レ人、不レ如二貧賤之肆一レ志、乃共入二商雒隱地肺山一、以待二天下定一、及二秦敗一、漢高聞而徵レ之不レ至、深自匿二終南山一、不レ能レ屈レ己。

【採芝生】81サイシセイ　清、蔣敬(9－31820··38)の號。

【採銅川】82サイドウセン　川の名。陝西省鄜縣の西北。洛河に注ぐ。〔元一統志〕有二一石窟一、中出二石脂一、就レ窟可二灌成一レ燭、一枝敵二蠟燭之三一、至元七年、封扃不レ採。

【採薇操】83サイビサウ　樂府、琴曲歌辭の名。武王が殷に勝つや、伯夷・叔齊、恥ぢて周の粟を食はず、首陽山に隱れ、薇を採つて食ひ、この歌を作るといふ。〔樂府詩集、琴曲歌辭、採薇操〕琴集曰、採薇操、伯夷所レ作也、史記曰、武王克レ殷、伯夷・叔齊恥レ之、不レ食二周粟一、隱二于首陽山一、採レ薇而食レ之、乃作レ歌、因傳以爲レ操、樂府解題曰、採薇操亦曰二晨遊高擧一。〔伯夷、採薇操〕登二彼高山一、言採二其薇一、以レ亂易レ暴、不レ知二其非一、神農虞夏、忽焉沒兮、我適安歸。〔史記、伯夷傳〕登二彼西山一兮、采二其薇一矣、以レ暴易レ暴兮、不レ知二其非一矣、神農虞夏、忽焉沒兮、我安適歸矣、于嗟徂兮、命之衰矣。

【㨆】12275

㊀リン　〔集韻〕力錦切　寑

㊁ラン　〔集韻〕盧感切　感

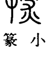
㊀㊁❶ころす。〔方言、一〕㨆、殺也、晉魏河內之北、謂レ㨆爲レ殘。❷うつ。〔方言、一〕㨆、殺也。〔注〕今關西人呼レ打爲レ㨆。〔集韻〕㨆、一曰、打也。

【探】12276

㊀タン　トン　〔集韻〕他含切　ㄊㄢˋ　tʻan¹·⁴　覃

㊁タン　トン　〔集韻〕他紺切　勘

㊂セン　ゼン　〔集韻〕時占切　鹽



小篆

㊀㊁❶さぐる。㋑さぐりとる。もと揬に作る。〔正字通〕探、本作レ揬。〔說文〕揬、遠取レ之也、从レ手罙聲。〔說文通訓定聲〕探、按、遠取猶二探取一也。〔爾雅、釋詁〕探、取也。〔注〕探者、摸取也。〔易、繫辭上〕探レ賾索レ隱。〔虞注〕探、取也。〔後漢書、劉盆子傳〕後探得レ符。㋺こころみる。〔爾雅、釋言〕探、試也。〔注〕刺探、嘗試。〔郝懿行義疏〕刺探、猶二伺探一也、故軍中閒諜用以探二取敵情一、謂二之探子一、然則探之言、覘也、試之言、伺也。㋩うかがふ。〔增韻〕探、伺也。〔穀梁、隱、元年〕已探二先君之邪志一。〔王令、寄二洪興權一詩〕時時相鉤探、稍稍互酬對。㋥きはめる。〔漢書、淮南王安傳〕深探二其獄一。〔注〕張晏曰、探、窮二其根源一。〔沈遼、鈷鉧潭詩〕水深日波瀾、此理亦易レ探。㋭とる。もつ。〔淮南子、詮言訓〕必探レ籌而定レ分。〔注〕探レ籌、捉レ籌也。㋬たづねる。遊覽する。〔朱松、送二沈昌時一詩〕歸路春深風日美、件レ誰操レ筆賦二幽探一。❷或は撢(5－12724)に作る。〔集韻〕探、或作レ撢。〔周禮、夏官、撢人、注〕撢、與レ探同。❸貪

(10－36680)に通ず。〔後漢書、郭躬傳論、捨レ狀㠯貪レ情、注〕貪、與レ探同也。㊂とる。撏(5－12691)に同じ。〔集韻〕撏、取也、或作レ探。

【探意】1（タンイ） 人の意中をさぐる。〔漢書、王嘉傳〕聖王斷レ獄、必先原レ心定レ罪、探レ意立レ情。〔魏書、禮志〕傳記雖レ一、而探レ意乖舛。

【探友】2 t'an^4 yu^3 友をたづねる。友人を訪問する。

【探幽】3（タンイウ） 幽遠の所をさぐる。奥をしらべる。〔越絶書、越絶外傳記策考〕探レ幽索レ隱。〔晉書、潘尼傳〕探レ幽窮レ賾、溫レ故知レ新。

【探員】4 t'an^4 yüan^2 探偵。

【探韻】5（タンヰン） 詩を作るに際して、韻字をさぐりとること。〔西宮記、九〕九日宴、王卿屬レ文者探レ韻、幄下文人、次第探レ之。

【探閱】6（タンエツ） さぐりけみする。〔李羣玉、別二尹鍊師一詩〕洞宮四百日、玉籍恣二探閱一。

【探看】7（タンカン） さぐりみる。〔李商隱、無題詩〕蓬山此去無二多路一、青鳥殷勤爲二探看一。

【探監】8 t'an^4 chien^1 刑務所で面會する。

【探勘】9 t'an^4 k'an^4 調査する。測量する。

【探奇】10（タンキ） 奇を探る。奇景をたづねる。〔王維、藍田山石門精舍詩〕探レ奇不レ覺レ遠、因以緣二源窮一。〔曾鞏、寄二鄆州邵資政一詩〕泝レ險飛二游艇一、探レ奇漾二釣緡一。

【探窺】11 t'an^4 k'uei^1 ひそかに様子をさぐる。

【探騎】12（タンキ） 敵狀を探偵する騎兵。〔張籍、關山月曲〕軍中探騎暮出レ城、伏兵暗處低二旌戟一。〔曹松、送二左協律京西從事一詩〕時平無二探騎一、秋靜見二盤鵰一。

【探求】13（タンキウ） さぐりもとめる。〔魏志、劉放傳、注〕(孫)資別傳曰、既以示明、且於二探求一爲レ廣。

【探究】14（タンキウ） さぐりきはめる。探討。〔元行沖、釋疑〕志存二探究一、靡レ所二咨謀一。〔蘇軾、寄二周安孺茶一詩〕高人固多レ暇、探究亦頗熟。

【探鬮】15（タンキウ） ❶暗中に物を取つて勝負をきめる遊戲。〔投壺新格〕世傳投壺格圖、皆以二奇雋難レ得者一爲レ右、亦投瓊探鬮之類耳。❷t'an^4 chiu^1 くじをひく。拈鬮。探籌。

【探窮】16（タンキユウ） さぐりきはめる。

【探魚】17（タンギヨ） 河豚の異名。〔事物異名錄、水族、河豚〕通雅、䲅・鮐・鮭、皆今之河豚、亦曰二烏狼一、一曰二探魚一、黃者黃䲅。

【探花】18（タンクワ） ❶はなをさぐる。花の名所をたづねる。〔皮日休、奉二和魯望春雨卽事一次韻詩〕野客正閑移竹遠、幽人多病探花稀。❷科擧時代、廷試に第三番目に及第した人をいふ。唐代において、進士たちは、曲江の西にあつた杏園において宴遊するのが常であつたが、新に及第した進士の杏園の初會を探花宴といひ、その時には合格者中の最年少者二人を選んで探花使とし、諸處の名園を偏遊させ、名花を採らせた。探花の名はこれより起る。宋初においてもこの風習は行はれ、いづれもこの探花使に選ばれた者を探花といひ、特に廷試第三名の及第者に限ることはなかつた。始めて廷試第三の人を探花と稱した時代は明かでないが、宋の南渡後は既にその稱が行はれてゐたらしい。〔陔餘叢考、狀元榜眼探花〕探花之稱、唐時曲江宴、本以二榜中最年少者一爲レ之、秦中記、探花宴以二少俊二人一爲二探花使一、遍遊二名園一、若他人先得二名花一、則二人被レ罰、宋初猶然、云云、非二必三世皆第三名及第一也、戴埴鼠璞云、本朝故事、吳旦榜二馮拯一爲二探花一、太宗賜レ詩曰、二三千客裏成レ事、七十四人中少年、蔡寬夫詩話亦但言、期集所レ擇少年爲二探花一、而今獨以稱二鼎魁一、不レ知二何義一、戴埴係二宋末人一、而其說如レ此、則宋南渡後、固以二第三人一爲二探花一矣。〔清國行政法汎論、文官仕途種類、科目〕一甲第一名曰二狀元一、云云、第二名曰二榜眼一、第三名曰二探花一。

【探花宴】19（タンクワエン） 唐代に、進士が杏園に宴するのをいふ。杏園は、曲江の西にあつた園の名。探花の❷を見よ。〔摭言〕唐進士杏園初會、謂二之探花宴一、擇二少俊二人一爲二探花使一、偏遊二名園一、若他人先折二得花一、二人皆受レ罰。

【探花紅】20（タンクワコウ） 茘枝の名。福建省興化の烏石山に產す。〔陳鼎、茘枝譜〕。

【探花使】21（タンクワノツカヒ） ❶唐代、進士が初めて杏園に宴するのを探花宴と稱し、少俊者二人を選んで探花使となし、諸處の名園に花を採らしめた。若し他人が先んじて花を折れば、少俊者は罰せられた。又、探花郞ともいふ。探花の❷を見よ。❷鳥の名。桐花鳳。〔瑯嬛記〕桐花鳳小二於玄鳥一、春暮來集二桐花一、一名二收香倒掛一、又名二探花使一。

【探花郞】22（タンクワラウ） 探花の❷に同じ。〔稱謂錄、探花、探花郞〕魏泰東軒筆記、云云、又選二年最少者二人一、爲二探花使一、賦レ詩、世謂二之探花郞一。

【探鑛】23 t'an^4 kung^3 鑛山試掘。

【探觀】24（タンクワン） さぐりみる。〔後漢書、和帝紀〕探二觀舊典一、復收二鹽鐵一。

【探丸】25（タングワン） ❶遊俠の徒が彈弓の丸をさぐり取つて、その丸の赤黑白の別に從つて、それぞれ武吏を殺し文吏を殺し、治喪を主る役を受持つたこと。〔漢書、尹賞傳〕閭里少年羣輩殺レ吏、受レ賕報レ讎、相與探丸爲レ彈、得二赤丸一者所二武吏一、黑丸者斫二文吏一、白者主二治喪一。〔注〕師古曰、爲二彈丸一作二赤黑白三色一、共探二取之一也。〔盧照鄰、長安古意〕挾レ彈飛レ鷹杜陵北、探レ丸借レ客渭橋西。❷t'an^4 wan^2 投票用の小球。

【探抉】26（タンケツ） さがしあばく。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕爲二太常主簿一、搜二逖疑互一、探二抉遯隱一。

【探險】27（タンケン） 危險な所をさぐる。探檢に同じ。〔釋鸞、贈二李粲秀才一詩〕隴西輝冊眞才子、搜レ奇探レ險無二倫比一。

【探檢】28（タンケン） さぐりしらべる。危險を冒して見とどける。探險。英語 Exploration の譯。

【探原】29（タンゲン） 源をさぐる。〔陸游、詩〕橫レ策意未レ厭、褰レ裳探二其原一。〔張九成、辛未閏四月卽事詩〕相レ馬須レ相レ骨、探レ水須レ探レ原。

【探候】30（タンコウ） さがしうかがふ。〔魏志、杜恕傳、注〕遣レ人探候、修二設曲敬一。

【探鉤】31（タンコウ） くじを引く。〔新論、去情〕使二信士分一レ財、不レ如二投レ策探一レ鉤、使二廉士守一レ藏、不レ如二關鑰全一レ封。

【探查】32（タンサ） さぐりしらべる。

【探采】33（タンサイ） さぐりとる。〔隋書、經籍志一〕司馬談父子、世居二太史一、探二采前代一、斷レ自二軒皇一、逮二於孝武一、有二史記一百三十篇一。

【探草】34（タンサウ） 探竿影草(104)を見よ。

【探喪】35 t'an^4 sang^1 死亡の悔みに行く。

【探搜】36（タンサウ） さぐる。さがす。搜探(5－12486‥30)に同じ。

【探索】37（タンサク） ❶さぐりもとめる。探賾を見よ。❷t'an^4 suo^3 探險。探險する。

【探賾】38（タンサク） 隱れて明らかでないものを搜りもとめること。賾は、深くかくれて見えぬもの。〔易、繫辭上〕探レ賾索レ隱、鉤レ深致レ遠、以定二天下之吉凶一。〔疏〕探、謂二闚探求取一、賾、謂二幽深難一レ見。〔後漢書、胡廣傳〕探レ賾窮レ理。〔吳志、虞翻傳〕探レ賾窮レ通。〔孔穎達、春秋正義序〕探レ賾鉤レ深、未レ能レ致レ遠。

【探察】39（タンサツ） さぐりはかる。〔論衡、實知〕追二觀上古一、探二察來世一。

【探子】40 t'an^4 tzŭ 斥候。閒諜。軍事探偵。

【探伺】41（タンシ） さぐりうかがふ。窃かに探り聞く。〔清會典事例、禮部、貢擧、殿試〕二十四年諭、殿試朝考、應レ行二與考一之貢士進士等、例不レ准下在二紫禁城內一住宿上、其無二職事一人員、於二是日一更不レ應下至二太和門左右掖門一探伺上、嗣後著二直班護軍統領、及稽查御史一、嚴行二查察一、如有二違レ令者一、據レ實糾參。

【探使】42（タンシ） 樣子をさぐりに行つた使者。探偵。〔杜牧、過二華淸宮一絕句詩〕新豐綠樹起二黃埃一、數騎漁陽探使回。

【探刺】43（タンシ） さぐつてそしる。〔後漢書、皇后下、閻皇后紀〕互作二威福一、探二刺禁省一、更爲二唱和一。

【探試】44 t'an^4 shih^4 さぐり試みる。

【探悉】45 t'an^4 hsi^1 探り調べて知りつくす。

【探賞】46（タンシヤウ） 勝景をさぐり賞する。〔梅堯臣、和三綺翁遊二齊山寺一次二其韻一詩〕在昔探賞猶可レ數、深景秀句今得レ傳。

【探取】47（タンシユ） 規定より餘分にとること。〔資治通鑑、晉紀〕(惠帝、元康九年)東宮月俸錢五十萬、太子常探二取二月一、用レ之猶不レ足。〔注〕探取、預取也。

【探春】48（タンシユン） 春の景色をさぐる。〔鄭谷、巴江詩〕朝醉暮醉雪開霽、一枝兩枝梅探レ春。〔開元天寶遺事、天寶下、探春〕都人士女、每レ至二正月半後一、各乘レ車跨レ馬、供二帳於園圃或郊野中一、爲二探

春之宴一。

【探春花】49 t'an^4 ch'uen^1 hua^1 植物の名。早春花を開き、芳香を發す。

【探春令】50 タンシユンレイ 詞牌の名。〔詞譜〕此調、宋人俱詠二初春風景一、或詠二梅花一、故名二探春一、韓淲詞有二景龍燈火昇平世句一、名二景龍燈一。〔能改齋漫錄〕徽宗天才甚高、詩文之外、尤工二長短句一、嘗爲二探春令一、簾旌微動、峭寒天氣。

【探春之遊】51 タンシユンノアソビ 春の景色をさぐつて郊外に遊ぶこと。〔開元天寶遺事、天寶下、鬬花〕長安王士安、春時鬬レ花戴插、以二奇花多者一爲レ勝、皆用二千金一市二名花一、植二於庭苑中一、以備二春時之鬬一。

【探詢】52 t'an^4 hsün^2 さぐり問ふ。問ひ合せる。

【探勝】53 タンシヨウ 山水の勝景をさぐりあるく。〔韓愈、送二惠師一詩〕日攜二青雲客一、探レ勝窮二崖濱一。

【探心】54 タンシン 心臟をさぐる。〔列子、湯問〕剖レ胷探レ心。

【探信】55 t'an^4 hsin^4 情況をさぐる。消息を尋ねる。

【探眞】56 タンシン 自然の妙理をもとめる。〔唐書、藝文志三〕老子探眞經一卷。

【探審】57 タンシン さぐりしらべる。

【探親】58 タンシン 親をたづねる。〔淸會典事例、八旗都統、戶口〕適百甯卽於二是日一投回、咨送到レ部、百甯出レ城探親。

【探訊】59 タンジン さぐりたづねる。探尋に同じ。

【探尋】60 タンジン さがしたづねる。〔法書要錄〕探二尋源流一、志逸肥遁。

【探水】61 t'an^4 shuei^3 水の深さをさぐる。

【探先】62 t'an^4 hsien^1 前から。事の起らぬさきに。

【探撰】63 タンセン しらべえらぶ。〔後漢書、班固傳上〕故探二撰前記一、綴二集所レ聞、以爲二漢書一。

【探前】64 t'an^4 ch'ien^2 探先に同じ。

【探綜】65 タンソウ 探究してすべ知る。〔吴志、韋曜傳〕雖レ老不レ倦、探二綜墳典一、溫レ故知レ新。

【探測】66 タンソク さぐりはかる。〔高啓、劍池詩〕中間得二深泉一、深測費二脩綆一。

【探卒】67 タンソツ 斥候。〔桃花扇、和戰〕探卒上。

【探題】68 タンダイ ❶詩歌の會などで、題を探つて分け取ること。〔王建、送二韋處士老舅一詩〕賦レ字詠二新泉一、探レ題得二幽石一。〔名目抄〕探題、內宴重陽宴等時、取二作文題一事也、天台宗有二此名目一、其事太相違。❷佛法會等に衆僧の論議すべき論題を選び、論議終るや、其の論旨の可否を評定する役。〔釋家官班記〕。❸官名。鎌倉時代遠國の重要な地に置き、其の地方を管轄せしめたもの。六波羅探題〔京都〕・中國探題〔長門〕・筑紫探題〔筑前〕・奥州探題〔陸奧〕など。〔大和事始、一、官位門〕。

【探討】69 タンタウ さぐりたづねる。探究。探尋。〔沈佺期、辛丑歲十月上幸二長安一時扈從出二西嶽一作詩〕陰壑已永閟、雲竇絕二探討一。〔孟浩然、題二鹿門山一詩〕探討意未レ窮、廻艫夕陽晚。

【探湯】70 タンタウ ❶沸騰した湯の中に手を入れること。〔列子、湯問〕一兒曰、日初出、滄滄涼涼、及二其日中一、如レ探レ湯。❷人が熱湯に觸れれば手を退けることの速かなことから、惡事を見てこれを去ることのすみやかな喩に用ひる。〔論語、季氏〕見二不善一如レ探レ湯。〔集解〕孔安國曰、探レ湯、喩レ去二惡疾一也。〔疏〕見二不善一如レ探レ湯者、人之探二試熱湯一、其去レ之必速、以喩下見二惡事一去レ之疾上也。〔後漢書、范滂傳〕仲尼之言、見レ善如レ不レ及、見レ惡如レ探レ湯。❸クカダチ 我が國の上世に於て、事の是非正邪を判別するために神に盟はしめ、手で熱湯の中を探らしめたこと。手を傷はぬのを正とし、傷ふを邪とす。この遺法は、後に湯起請となる。探湯瓮を見よ。〔日本書紀、應神紀〕九年夏四月、天皇則推三問武內宿禰與二甘美內宿禰一云云、令下請二神祇一探湯上。

【探湯瓮】71 クカベ 探湯の時に用ひる釜。〔日本書紀、允恭紀〕四年九月、一氏蕃息、更爲二萬姓一、難レ知二其實一、故諸氏姓人等、沐浴齊戒、各爲二盟神探湯一、云云、坐二探湯瓮一而引二諸人一令レ赴、云云、赴レ釜探レ湯、則得レ實者自全、不レ得レ實者皆傷。〔注〕盟レ神探レ湯、此云二區訶陀智一、或埿納レ釜煮沸、攘レ手探二湯泥一。

【探端】72 タンタン 事のはじめをさぐる。〔禮、中庸、君子之道淡而不レ厭、注〕探レ端知レ緒也。

【探知】73 タンチ 祕密の事などを探り知ること。〔韓非子、難言〕激レ意親近、探二知人情一、則見以爲二僭而不一レ讓。〔漢書、藝文志〕又以探二知五星日月之會、凶阨之患、吉隆之喜一。〔後漢書、儒林上、楊倫傳〕探二知密事一。〔李衞公問對、上〕探二知蓋蘇文一。

【探抽】74 タンチウ さぐりぬき出す。〔後漢書、方術傳序〕皆所下以探二抽冥賾一、參中驗人區上。

【探籌】75 タンチウ くじをさぐる。くじをひく。〔荀子、君道〕探レ籌投レ鉤者、所二以爲レ公也。〔淮南子、詮言訓〕必探レ籌而定レ分。〔後漢書、胡廣傳〕順帝欲レ立二皇后一、而貴人有二寵者四人一、莫レ知レ所レ建、議レ欲下探レ籌以二神定一選上。〔風俗通、正失〕殊無レ有二金篋玉牒探籌之事一。

【探聽】76 t'an^4 t'ing^1 探偵する。探りを入れる。

【探偵】77 タンテイ ❶窃に事情をさぐる。❷しのびもの。まはしもの。❸窃に罪人又は罪狀をさぐる。又、その人。

【探偵掛】78 タンテイガカリ 探偵の事に當る人。

【探偵吏】79 タンテイリ 探偵掛の警吏。

【探偵物】80 タンテイモノ 犯罪事件の探偵を脚色した小說、又は狂言、若しくは講談等。

【探條】81 t'an^4 t'iao^2 手紙。

【探擿】82 タンテキ さぐりあばく。〔魏志、和洽傳、注〕其探二擿僞行一、抑二損虛名一。

【探頭】83 タントウ 頭を出す。又、ぬきんでる。〔趙抃、出二鴈蕩一回二望常雲峰一詩〕高峰亦似レ多二情思一、百里依然一探頭。〔桃花扇、設朝〕阮大鋮探頭瞧介。

【探頭縮腦】84 t'an^4 t'ou^2 suo^1 nao^3 恐れて頭を引き込め、あたりを見まはすさま。探頭探腦に同じ。

【探頭探腦】85 t'an^4 t'ou^2 t'an^4 nao^3 恐れて頭を引き込めあたりを見まはすさま。探頭縮腦に同じ。〔水滸傳、二回〕只見一箇人探頭探腦。

【探囊】86 タンナウ ❶囊の中の物をさがす。〔黃庭堅、李少監惠レ硯詩〕探レ囊贈レ硯頗宜レ墨、近出二黃山一非二遠求一。❷竊盜する喩。〔莊子、胠篋〕將下爲二胠レ篋探レ囊、發レ匱之盜一而爲中守備上。〔李商隱、送二劉五經一詩〕詩書資二破冢一、法制困二探囊一。❸事の容易な喩。〔五代史、南唐世家〕李穀曰、中國用レ吾爲レ相、取二江南一如レ探二囊中物一爾。

【探囊取物】87 t'an^4 nang^2 ch'ü^3 wu^4 事の極めて易い喩。探囊の❸を見よ。

【探馬】88 タンバ 探偵の騎兵。〔杜荀鶴、塞上詩〕戍樓三號火、探馬一條塵。

【探馬赤】89 タンバセキ 元、禿立不帶の人。至元中、建都を征し、これを梅子嶺に敗る。官は蒙古漢軍萬戶兼崇慶府達魏花赤。〔元史、一百三十二〕・〔新元史、一百六十四〕。

【探馬赤軍】90 タンバセキグン 元代、奴隸的賤民から成る兵役。〔元史、兵志二〕二十一年、樞密院奏、以二五投下探馬赤軍一、俱屬二之東宮一、復置二官屬一如レ舊。

【探梅】91 タンバイ 梅花をたづね賞する。〔陸游、詩〕兒言山圃當レ收レ栗、僧約溪橋共探レ梅。

【探報】92 タンハウ とほみしてとどける。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕宜下諭二地方一探報上。

【探訪】93 タンバウ さぐりきく。又、特に新聞記事の材料をさがし出す。又、其の者。たねとり。

【探望】94 タンバウ ❶見舞ふ。問ひ合せる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕有二隨來之子弟、探望之親友一。❷物見する。

【探併】95 タンヘイ 傾銷（1－1038・・80）を見よ。

【探兵】96 タンペイ 武器をさぐる。〔韓愈・李正封、晚秋郾城夜會聯句〕倉空戰卒飢、月黑探兵錯。

【探病】97 t'an^4 ping^4 病氣を見舞ふ。

【探歷】98 タンレキ 名所をさぐりめぐる。あまねくさぐる。〔駱賓王、同二辛簿簡一仰酬二思玄上人林泉一詩〕林泉恣二探歷一、風景暫徘徊。

【探海燈】99 タンカイトウ 軍艦・要塞などに備へ付け、夜中、海上を照して敵艦の來襲などを防ぐに用ひるあかり。サーチライト。探照燈。

【探寒窰】100 タンカンエウ 西皮劇の一。唐の宰相王允の女に關する人情話を仕組んだもの。又、母名會といふ。

【探官繭】101 タンクワンケン 唐・宋時代、正月七日又は十五日に麵繭を造り、餡中に官品を記した札を入れ、各〻これを探り取つて將來の官位の高下を占ふあそび。〔歲時雜記〕人日、京師貴家造二探官繭一、餡中置二紙籤一、或削レ木書二官品一、人自探取以卜二異時官品高下一。〔開元天寶遺事、天寶下、探

官〕都中每レ至二正月十五日一、造二麵繭一、以二官位帖子一卜二官位高下一、或賭二筵宴一、以爲二戲咲一。

【探照燈】102 タンセウトウ　サーチライト、遠距離の海面や空中を照らす特種な反射鏡。

【探卵患】103 タンランノウレヘ　親鳥の留守のまに巣からたまごを取られる心配。轉じて、自己の據り所を襲はれる虞れ。內幕を見拔かれる恐れ。〔北史、齊孝昭帝紀〕鷙鳥捨レ巢、必有二探卵之患一。

【探竿影草】104 タンカンエウサウ　佛臨濟四喝の一。探竿とは、鵜の羽を編んで水中を探り、魚を一處に集めて網でとること。影草とは、草を水中に浮べ、魚を其の影に集めて網でこれを採ること。善知識が巧に僧を修行させる喩。〔臨濟錄〕師問レ僧、云云、有レ時一喝、如二探竿影草一。〔人天眼目注〕探竿、魚者具也、束二鵜羽一、插二竿頭一、探二水中一、聚二羣魚於一處一、然後以レ網漉之謂也、影草者、刈レ草浸二水中一、則羣魚潛レ影、然後以レ網漉レ之、皆是漁者聚レ魚之方便也、善知識於レ學者、亦復如レ是。

【探口話兒】105 t'an^4 k'ou^3 hua^4 êrh　人の口振りで其の意をさとること。

【探出頭來】106 t'an^4 ch'u t'ou^2 lai　頭を出して外を見る。

【探探口氣】107 t'an^4 t'an^4 k'ou^3 ch'i^4　口振りを探る。話の樣子に探りを入れる。

【探養媳婦】108 t'an^4 yang^3 hsi^2 fu^4　人の娘を幼少の時にもらひうけ、成長の後息子にめあはして妻としたものをいふ。童養媳婦兒(**8－25775**··133)に同じ。

【探驪得珠】109 タンリトクシュ　危險を犯して大利を得る喩。又、文章が能く要領を扼してゐる喩。

【掣】12277

㊀セイ　〔集韻〕尺制切

㊁セツ　〔集韻〕尺列切

㊂セチ　ㄔㄜˋ　ch'ê^4

㊀❶**ひく**。㋑ひかへる。おさへる。自由を拘抑する。〔爾雅、釋訓〕甹夆、掣曳也。〔釋名、釋姿容〕掣、制也、制二頓之一使レ順レ己也。〔詩、大雅、抑、匪二手攜レ之、箋〕非三但以レ手攜二掣之一。〔釋文〕掣、拽也。〔潘岳、西征賦〕掣レ三牽レ兩。〔注〕善曰、字書曰、掣、牽也。㋺ぬく。ひきとる。〔一切經音義、六〕字林、掣、拔也。〔晉書、王獻之傳〕七八歲時學レ書、羲之密從レ後掣二其筆一、不レ得。㋩ひきのばす。〔郝經、閑閑畫像詩〕大儒巖廊筆如レ椽、六鼇一掣三山連。〔羅玘、題二陳工部畫一詩〕千載風神一揮掣。㋥のびる。長くひく。〔梁簡文帝、金玘賦〕星流電掣。〔唐書、潘辰傳〕其勢奔掣、其聲錚鏦。〔元稹、馬射賦〕揮レ弓電掣、激レ矢風追。〔郭鈺、贈二劉子倫一詩〕蒼隼秋高影孤掣。❷**おさへられる**。拘抑される。〔易、睽〕見二輿曳一、其牛掣、其人天且劓。〔注〕其手掣者、滯隔所レ在、不レ獲レ進也。❸**なびくさま**。掣掣(16)を見よ。❹或は⿸广掣(**5－12625**)・摯(**5－12632**)に作る。〔爾雅、釋訓、釋文〕掣、本或作レ⿸广掣。〔集韻〕掣、或作二⿸广掣・摯一。❺觢(**10－35066**)に同じ。㊁**ひく**。瘈(**7－22380**)に通ず。〔集韻〕觢、通作レ掣。〔集韻〕掣、挽也。〔爾雅、釋訓〕甹夆、掣曳也。〔釋文〕掣、本或作レ⿸广掣。

【掣曳】1 セイエイ　ひきとめる。妨げる。〔爾雅、釋訓〕甹夆、掣曳也。〔注〕謂二牽拕一。〔疏〕孫炎曰、謂三相掣曳入二於惡一也。

【掣搖】2 セイエウ　ひきゆるがす。〔呂覽、具備〕掣二搖其肘一。

【掣閱】3 セイエツ　よみしらべる。〔福惠全書、涖任部、馭衙役〕自行二掣閱一。

【掣鹽】4 セイエン　出來上つた鹽の檢査所。〔六部成語、戶部、掣鹽、注解〕掣成之鹽、某場應レ歸二某商一、領二售掣簽一以定レ之、官設二監掣同知一以領二其事一。

【掣御】5 セイギヨ　おさへつけて我が思ふままに使ふこと。制御(**2－1961**··22)に同じ。

【掣回】6 セイクワイ　とりかへし。〔福惠全書、涖任部、查交代〕將二原領一掣回、不レ准二開銷一。

【掣獲】7 セイクワク　うけとりをとりかへる。〔福惠全書、錢穀部、解給〕批有下不二按レ限掣獲一者上乎。

【掣繳】8 セイケウ　批文をかへしをさむ。〔福惠全書、雜課部、當稅〕按レ限掣繳。

【掣牽】9 セイケン　おさへひく。〔潘岳、西征賦〕掣レ三牽レ兩。〔注〕善曰、字書曰、掣、牽也。

【掣驗】10 セイケン　鹽務用語。險要の地に番所を設け、不正商人を牽制して其の荷物を檢査すること。〔六部成語、訂正、戶部、掣驗、注解〕因レ恐三鹽商暗中多販過二於額數一、故特設二關卡委員一、隨レ時於二鹽商所レ販者一、從レ中隨レ手掣出、過秤以查二驗之一、其委員亦卽名二掣驗委員一。

【掣摯】11 セイシ　鹽の一袋を取つて檢査すること。〔六部成語、戶部、掣摯、注解〕摯、取也、任便取二鹽一袋一而查二驗之一也。

【掣袖】12 セイシウ　人のそでをひくこと。自由に行動させない意。掣肘。

【掣取】13 セイシユ　抽き取る。〔福惠全書、錢穀部、解給〕塡二註解給月日數目、批領已未掣取一。

【掣所】14 セイシヨ　檢査の場所。〔福惠全書、庶政部、嚴緝二私販一〕竈丁不レ賣二餘鹽一、掣所嚴查二夾帶一、則私鹽不レ得レ出レ場。

【掣縱】15 セイシヨウ　のびてほしいままなこと。〔潛夫論、忠貴〕哺乳太多、則必掣縱而生レ癇、貴富太盛、則必驕佚而生レ過。

【掣掣】16 セイセイ　風にまかせるさま。〔木華、海賦〕或掣二掣洩三洩于裸人國一、或汎二汎悠三悠於黑齒之邦一。〔注〕善曰、掣掣洩洩、任レ風之貌。

【掣簽】17 セイセン　くじをひく。掣籤に同じ。〔六部成語、吏部、掣簽、注解〕分二發各省一、及分二派各衙門一、候補學習之員、皆吏部掣簽而定。

【掣顫】18 セイセン　ひきつりふるへる。〔黎民表、詩〕轉運應レ知二骨有レ神、摯顫尤工老來筆。

【掣籤】19 セイセン　くじをひく。明の萬曆中、孫丕揚が宰相となつた時、官吏の請託を防ぐため、候補官を各省・各衙門に分發するに、抽籤によつて其の順序を定めるのを法とし、これを掣籤と稱した。淸も亦此の法を用ひた。〔明史、孫丕揚傳〕二十二年、拜二吏部尙書一、丕揚挺勁不撓、百僚無二敢以レ私干者一、獨患二中貴請謁一、乃創爲二掣籤法一、大選急選、悉聽二其人一自掣、請寄無レ所レ容、一時選人、盛稱レ無レ私、然銓政自レ是一大變矣。〔通俗編、仕進、掣籤〕按探籌卽掣籤、古今語殊耳。

【掣斷】20 セイダン　ひききる。〔張養浩、寄二王繼學諸友一詩〕麒麟掣斷黃金鎖。〔楊維楨、滾馬圖詩〕濕雲乍洗烏龍池、金牽掣斷愁欲レ飛。

【掣肘】21 セイチウ　他人のひぢを傍からひく。干渉して自由を妨げることをいふ。〔呂覽、具備〕宓子賤治二亶父一、恐下魯君之聽二說人一、而令中己不上レ得レ行二其術一也、將レ辭而行請二近吏二人於魯君一、與レ之、俱至二於亶父邑一、吏皆朝二宓子賤一、令二吏二人書一、吏方將レ書、宓子賤從レ旁時掣二搖其肘一。〔孔子家語、屈節解〕宓子戒二其邑吏一、令二二吏書一、方レ書、輒掣二其肘一。〔唐書、陸贄傳〕不レ宜三掣二肘於內一也。〔書言故事、身體說類〕爲二事所一牽奪、曰二掣肘一。

【掣電】22 セイデン　電を引く。❶疾い喩。〔杜甫、高都護驄馬行〕長安壯兒不二敢騎一、走過掣電傾レ城知。〔李商隱、賽二舜廟一文〕憑レ離掣レ電、跨レ巽揚レ風。❷短い時の喩。光陰が過ぎて留らぬに喩ふ。〔蘇軾、將レ至レ筠先寄二遲适遠三猶子一詩〕我爲二乃翁一留十日、掣電一歡何足レ恃。

【掣動】23 ch'ê^4 tung^4　動搖する。攪亂する。

【掣頓】24 セイトン　とどこほりつまづく。ひかへ制する。〔鹽鐵論、散不足〕吏捕索掣頓、不レ以二道理一。〔後漢書、五行志一〕吏卒掣頓。〔魏志、夏侯玄傳〕因レ公掣頓、民之困弊、咎生二於此一。

【掣臂】25 セイヒ　ひぢをひきおさへる。掣肘(21)に同じ。〔宣和畫譜〕掣レ臂者數四。

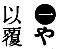
【掣筆】26 セイヒツ　手をかけて筆をひきおさへる。〔晉書、王獻之傳〕七八歲時學レ書、羲之密從レ後掣二其筆一不レ得、歎曰、此兒後當三復有二大名一。

〔**掣筆郎**〕26′ セイヒツラウ　名筆家。王獻之の故事。〔蘇軾、贈二王覲一詩〕何人生得寧馨子、今夜初逢掣筆郎。

【掣鯨堂】27 セイゲイダウ　淸、費錫璜(**10－36717**··95)の室名。

【揤】12278 セイ 揧(5－12277)に同じ。〔字彙〕揤、同㆑揧。

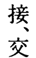
【掤】12279 ヒョウ 〔集韻〕悲陵切 ［蒸］


小篆

❶やづつのふた。〔説文〕掤、所㆓以覆㆒㆑矢也、从㆑手朋聲、詩曰、抑釋㆑掤忌。〔詩、鄭風、大叔于田〕抑釋㆑掤忌。〔傳〕掤、所㆓以覆㆒㆑矢。〔釋文〕掤、櫝丸蓋也。〔北堂書鈔、百二十六〕掤、所㆓以覆㆒㆑矢也、謂㆓箭筒蓋㆒。❷通じて氷(6－17087)に作る。〔集韻〕掤、通作㆑氷。

【接】12280

［一］セフ 〔集韻〕卽渉切 ㄐㄧㄝ chieh¹ ［葉］
［二］サフ セフ 〔集韻〕測洽切 ［洽］
［三］ケフ ゲフ 〔集韻〕檄頰切 ［葉］
［慣］セツ


小篆

［一］❶まじはる。まじへる。〔説文〕接、交也、从㆑手妾聲。〔禮、表記〕君子之接如㆑水。〔注〕接、或爲㆑交。〔呂覽、懷寵〕兵不㆑接㆑刃。〔注〕接、交。〔淮南子、原道訓〕知與㆑物接、而好憎生矣。〔注〕接、交也。❷あふ。あはせる。もてなす。〔廣雅、釋詁二〕接、合也。〔儀禮、喪服傳〕以㆑時接㆓見乎天子㆒。〔注〕接、猶㆑會也。〔國語、呉語〕兩君偃㆑兵接㆑好。〔注〕接、合也。❸つく。ちかづく。ちかづける。〔儀禮、聘禮〕賓立接㆓西塾㆒。〔注〕接、猶㆑近也。❹つづく。つづける。〔儀禮、聘禮〕接聞㆑命。〔注〕接、猶㆑續也。〔楚辭、九章、哀郢〕憂與㆑愁其相接。〔注〕接、續也。〔淮南子、精神訓〕聖人食足㆓以接㆒㆑氣。〔注〕接、續也。❺つらなる。つらねる。〔增韻〕接、連也。〔禮、曲禮上〕堂上接㆑武。❻ふれる。みる。きく。聞見する。體驗する。〔淮南子、氾論訓〕目無㆓以接㆒㆑物也。〔注〕接、見也。❼こたへる。應對する。倢(1－784)に通ず。〔説文通訓定聲〕接、段借爲㆑倢。〔大戴禮、文王官人〕取㆓接給而廣中者㆒。〔注〕接給、謂㆔應㆑所㆑問而對㆓。❽うける。〔字彙〕接、承也。〔史記、平準書〕漢興、接㆓秦之弊㆒。❾近づいて射る。激擊。〔曹植、白馬篇〕仰手接㆓飛猱㆒。〔注〕善曰、凡物飛、迎前射㆑之曰㆑接。❿とる。もつ。〔廣雅、釋詁三〕接、持也。⓫すみやか。はやい。疌(7－21997)・翜(9－28716)に通ず。〔説文通訓定聲〕接、段借爲㆑疌爲㆑翜。〔爾雅、釋詁〕接、捷也。〔荀子、大略〕先㆑事慮㆑事、謂㆓之接㆒。〔注〕接、讀爲㆑捷。〔淮南子、本經訓〕接經歷遠。〔注〕接、疾也。⓬ゆきわたる。あまねし。帀(4－8773)に通ず。〔説文通訓定聲〕接、段借爲㆑帀。〔小爾雅、廣詁〕接、達也。〔廣雅、釋詁二〕接、徧也。⓭草の名。萎(9－31204)に通ず。〔説文通訓定聲〕接、段借爲㆑萎。〔詩、周南、關雎、參差荇菜、傳〕荇、接余也。〔釋文〕接余、本或作㆓萎茶㆒、非。⓮受け取る。接卷(39)・接收(67)を見よ。⓯つぎ木。椄(6－15008)に通ず。〔説文〕椄、續㆑木也。〔段注〕椄之言、接也、今接行而椄廢。⓰或は攕(5－12815)に作る。〔集韻〕接、或作㆑攕。⓱姓。〔通志、氏族略〕接氏、三輔決錄有㆓接子㆒。⓲［現］㋑受け出す。㋺とりあげる。㋩から。より。㋥縛手。［二］❶をさむ。扱(5－11835)に同じ。〔集韻〕扱、説文、收也、或作㆑接。❷さす。さしこむ。さしはさむ。臿(9－30180)に通ず。〔説文通訓定聲〕接、段借爲㆑臿。〔周禮、地官、廩人〕大祭祀則共㆓其接盛㆒。〔注〕接、讀爲㆓一扱再祭之扱㆒。❸かざし。棺飾。翣(9－28739)に通ず。〔説文通訓定聲〕接、段借爲㆑翣。〔周禮、天官、縫人、衣翣柳之材、注〕古書、翣、作㆑接。

［三］はさみもつ。又、たすける。挾(5－12118)に同じ。〔説文通訓定聲〕接、段借爲㆑挾。〔廣雅、釋詁三〕接、持也。〔集韻〕挾、説文、俾持也、一曰、輔也、或作㆑接。

［名乘］ツグ。モチ。ツラ。

【接意】1 セツイ 人の心にかなふやうにする。〔曹植、出婦賦〕承㆓顔色㆒以接㆑意、恐㆓疎賤㆒而不㆑親。〔曹植、酒賦〕王孫公子、遊俠翺翔、將㆔承㆑芬以接㆑意、會㆓陵雲於朱堂㆒。

【接位】2 chieh¹ wei⁴ 位を繼ぐ。

【接引】3 セフイン セツイン ❶ひきよせてちかづける。ちかづけ引見する。〔宋書、張敷傳〕少有㆓盛名㆒、高祖見而愛㆑之、以爲㆓世子中軍參軍㆒、數見㆓接引㆒。〔南史、宋宗室及諸王上、彭城王義康傳〕府門每旦、常有㆓數百乘車㆒、雖㆓復位卑人微㆒、皆被㆓接引㆒。〔北史、韋敻傳〕敻又雅好㆓名義㆒、虛㆑襟善誘、雖㆓耕夫牧豎㆒、有㆓一介可㆑稱者㆒、皆接㆓引之㆒。〔參同契集解〕朱靈根囑㆓皇甫履道㆒、接㆓引後學㆒、不㆑得㆓幽棲㆒。❷［佛］人を接取して引導する。〔觀無量壽經〕以㆓此寶手㆒、接㆓引衆生㆒。

【接印】4 chieh¹ yin⁴ 事務の引渡を受ける。事務を引繼ぐ。

【接茵】5 セツイン しきものを接する。共に居ること。〔晉書、夏侯湛傳〕與㆓潘岳㆒友善、每㆓行止㆒同㆑輿接㆑茵、京都謂㆓之連璧㆒。

【接閲】6 chieh¹ yüeh⁴ 手紙を受取つて讀む。

【接延】7 セツエン 人を引き入れてもてなす。〔舊唐書、裴度傳〕乃請㆘於㆓私居㆒接㆗延賓客㆖。

【接遠】8 セツエン 未だきざさないさきに知る。遠きを知る。〔呂覽、知接〕智者其所㆓能接遠㆒也。〔注〕智者達㆓於明見未㆑萌之前㆒、故曰㆓接遠㆒。

【接應】9 セツオウ 兵粮軍器を間斷なく續け送つて助けること。應援する。〔十八史略、五代、唐〕攻戰連年、接應不㆑乏、皆承業力。

『接應兵』10 chieh¹ ying⁴ ping¹ 應援隊。掩護隊。

【接屋】11 セツヲク のきなみに。どの家も。〔新論、從化〕堯舜之人、可㆓比家而封㆒、桀紂之人、可㆓接屋而誅㆒。

【接下】12 セツカ ❶下に接する。下民にのぞむ。〔書、太甲中〕奉㆑先思㆑孝、接㆑下思㆑恭。〔北史、齊文宣帝紀〕於㆑是帝推㆑誠接㆑下。〔五代史、唐臣、史匡翰傳〕匡翰爲㆑將、沈毅有㆑謀、而接㆑下以㆑禮、與㆓部曲㆒語、未㆓嘗不㆒㆑名。❷もすそ。下裳。〔方言、四〕繞袊謂㆓之帬㆒。〔注〕俗人呼㆓接下㆒、江東通言㆓下裳㆒。

【接駕】13 セツガ 天子を迎へること。〔宣和遺事、前集下〕笙簫細樂、都安㆓排接駕㆒。

【接界】14 セツカイ 境界を連ねる。さかひがつづく。接境。接壤。〔戰國、齊策〕且夫韓魏之所㆓以畏㆒㆑秦者、以㆓與㆑秦接㆒㆑界也。〔史記、秦紀〕楚魏與㆑秦接㆑界。〔論衡、詰術〕民間之宅、與㆓鄉亭㆒比屋相屬、接界相連。

【接好】15 セツカウ よしみをまじへる。和睦する。〔國語、呉語〕兩君偃㆑兵接㆑好。〔注〕接、合也。

【接腔】16 chieh¹ ch'iang¹ 調子を合はせる。合唱する。

【接角】17 セツカク 平面上で三直線が一點に會するとき、中線が各外線となす二角の相互の稱。

【接客】18 セツカク ❶客に應接する。客をもてなす。〔宋書、王惠傳〕惠被㆑召卽拜、未㆓嘗接㆒㆑客。❷妓女が客引する。〔桃花扇、逃難〕回㆓到院中㆒、預㆓備接客㆒。

【接洽】19 chieh¹ hsia² ❶商議する。協定する。相談する。懇談する。❷引き繼ぐ。

【接狎】20 セツカフ 近づきなれる。〔漢書、外戚上、李夫人傳〕驩接狎以离別兮、宵寤夢之芒芒。

【接合】21 セツガフ つながりあつて一つになる。くつつく。又、つぎあはせる。〔阮籍、通易論〕周流接合、萬物既終。

『接合語』22 セツガフゴ 黏著語(12－48007‥26′)を見よ。

【接詥】23セツガフ　つぎ合はせる。相談する。接治。〔人物志、接識〕取同レ體也、則接詥而相得。

【接閈】24セツカン　邑里を接する。閈は里門。轉じて、むらざと。〔任昉、爲二范尙書一讓二吏部封侯一第一表〕接二閈白水一、列二宅舊豐一。

【接軌】25 chieh¹ kuei³　鐵道線路の接續。

【接給】26セツキフ　問はれるままに答へる。〔大戴禮、保傅〕接給而善對者、謂二之承一。〔注〕接給、謂二應レ所レ問而給一也。〔大戴禮、文王官人〕取二接給而廣中者一。〔注〕接給、謂二應レ所レ問而對一。

【接境】27セツキヤウ　境界を接する。接界。〔史記、晉世家〕成王曰、楚遠更數國、乃至レ晉、秦晉接レ境、秦君賢、子其勉行。〔論衡、說日〕鄰國接レ境。

【接脚】28セツキヤク　㊀跡を接する。後をつぐ。接脚夫を見よ。㊁chieh¹ chiao³　踏台にする。

【接脚壻】29セツキヤクセイ　壻が死んだ時、更に壻を迎へるをいふ。又、其の壻。〔癸辛雜志〕徐元杰爲二林喬一伐レ柯、一豪家爲二接脚壻一。〔稱謂錄、女之夫、接脚壻〕接脚壻者、其前夫沒、後更招二一壻一之謂。

【接脚夫】30セツキヤクフ　二度目に迎へた壻。入夫。〔居家必用〕接脚夫、謂下以二異姓一繼二寡婦一者上。

【接脚夫人】31セツキヤクフジン　繼妻をいふ。唐の宰相白敏中が、其の妻に戲れて言つた語。〔通俗篇、婦女、接脚夫人〕玉泉子、唐相白敏中始娶、已朱紫矣、嘗戲二其妻一曰二接脚夫人一。

【接馭】32セツギヨ　人に接し人を使ふこと。〔南史、后妃下、梁武丁貴嬪傳〕貴嬪性仁恕、及レ居レ宮、接馭自下、皆得二其歡心一。

【接昕】33セフキン　漢の人。著書十篇あり。王應麟は漢書藝文志の捷子を以てその著の一にあてる。〔三輔決錄〕。

【接近】34セツキン　ちかづく。ちかよる。〔呂覽、知接〕智者其所二能接レ遠也、愚者其所二能接レ近也。〔注〕愚者蔽二於明一、禍至而不レ知、故曰二接近一。〔後漢書、西域傳〕帝以下車師六國、接二近北虜一、爲中西域蔽扞上云云。〔向秀、思レ舊賦序〕余與二嵇康・呂安一、居止接近、其人竝有二不羈之才一。

【接近聯合】35セツキンレンガフ　接近又は同時に起つた表象は、互に想起せしめる傾向があることをいふ。

【接遇】36セツグウ　もてなしあしらふ。〔史記、屈原傳〕入則與レ王圖二議國事一、以出二號令一、出則接二遇賓客一、應二對諸侯一。〔新書、道術〕接遇愼レ容、謂二之恭一。

【接回】37 chieh¹ huei²　とりもどす。

【接會】38セツクワイ　㊀近づき會合する。ちかづきふれる。〔論衡、本性〕不レ忍、仁之氣也、卑謙辭讓、性之發也、有二與接會一、故惻隱卑謙、形出二於外一。㊁男女の交接をいふ。〔論衡、奇怪〕今堯・高祖之母、不二以レ道接會一、何故二帝賢聖、與二褒姒一異乎。

【接卷】39セツクワン　受驗者が答案用紙を受取る。〔清會典事例、禮部、貢擧〕每於二接卷後一、私用二紫筆一描改模糊。

【接換】40セツクワン　㊀つぎ木。〔花鏡〕凡木之必須二接換一、實有二至理一存焉。〔燕居筆記〕接換妙、惟在二時之暄融一。㊁chieh¹ huan⁴　交代する。

【接管】41セツクワン　取扱ひ方の引繼ぎを受ける。引受けて取扱ふ。〔福惠全書、涖任部、稟帖贅說〕在二接管者、經レ收續解一。

【接管人】42 chieh¹ kuan³ jen²　前任官から管理事務を引接ぐ人。新任官。

【接歡】43セツクワン　歡樂を交へる。〔曹植、洛神賦〕無二良媒以接レ歡兮、托二微波一而通レ辭。

【接徑】44セツケイ　みちが連なること。〔楚辭、大招〕接徑千里、出若レ雲只。

【接頸】45セツケイ　くびを接する。事を共にする喩。〔呂覽、順民〕接レ頸交レ臂。

【接見】46セツケン　人をひき入れて面會する。引見。延見。〔儀禮、喪服傳〕諸侯之大夫、以レ時接二見乎天子一。〔注〕接、猶レ會也。〔左氏、昭、四、爾未レ際、注〕際、接也、孟未下與二諸大夫一相接見上。〔白虎通、嫁娶〕以レ時接見也。

【接見應對】47セツケンオウタイ　對面してうけこたへすること。接應。接對。

【接語】48 chieh¹ yü³　暗示の語。

【接轂】49セツコク　こしきを接する。車が近く相連なるのをいふ。雜沓のさま。〔漢書、游俠、萬章傳〕與二中書令石顯一相善、亦得二顯權力一、門車常接レ轂。

【接骨】50セツコツ　㊀にはとこ。接骨木を見よ。〔急就篇、續斷、注〕續斷、一名接骨、卽今所レ呼續骨木也。〔本草、續斷〕釋名、接骨。㊁手足のほねの折れ損じたものをつぎあはせること。ほねつぎ。〔本草、續斷〕釋名、時珍曰、續斷・屬折・接骨、皆以レ功命レ名也。

【接骨草】51セツコツサウ　草の名。ゐのこづち。〔本草、蒴藋〕釋名、接骨草。

【接骨匠】52 chieh¹ ku³ chiang⁴　ほねつぎ師。接骨醫。

【接骨木】53セツコツボク　㊀樹の名。にはとこ。山野に自生する灌木。葉は對生で臭氣が強く、四月ごろ小白花を著ける。接骨に效があるといふ。〔本草、接骨木〕釋名、續骨木、木蒴藋、頌曰、接骨以レ功而名、花葉都類二蒴藋・陸英・水芹輩一。㊁ニハトコ　下野國の地名。

【接骨眼兒】54 chieh¹ ku² yen³ êrh　處。機會。はずみ。

【接祭】55セツサイ　相ついで祭る。〔禮、曾子問〕曾子問曰、當レ祭而日食、大廟火、其祭也如レ之何。孔子曰、接祭而已矣。

【接濟】56セツサイ　救濟する。供給救濟する。〔清會典事例、戶部、錢法〕晉省開鑪鼓鑄、銅斤宜二設レ法探辦一、源源接濟、以資二民用一。

【接濟車】57 chieh¹ chi⁴ ch'ê¹　救護車。輜重車。

【接濟隊】58 chieh¹ chi⁴ tuei⁴　軍中に於ける必需品を供給する隊。輜重隊。

【接灶】59セツサウ　接竈に同じ。

【接竈】60セツサウ　元旦、五更に竈前に香燭を供へて竈神を迎へること。接灶。〔直隸志書、平谷縣〕元旦、五更初起、竈前先具二香燭一、謂二之接竈一。

【接煞】61セツサツ　陰陽家の說で、死人の魂を迎へること。〔通俗編、儀節、接煞〕按、近世惟北方避レ煞、南方反レ之、乃曰二接煞一、陰陽家以二人死年月日之干支一、推二算其離魂之日數一、自二九日一至二十八日一、謂下死之後、如二其日數一而魂來復上、于レ是計レ日、用二巫祝一以招レ之。

【接三】62 chieh¹ san¹　人の死後第三日をいふ。此の日、門前で樂を奏し、車馬、人形等を紙で造つて排列し、僧道を請じて讀經する。夜に入れば、僧道及び親戚朋友は喪主を擁し、大街に至つて之を燒き棄てる。之を送三といふ。

【接算】63セツサン　つづけて數へる。〔清會典事例、吏部、除授〕其歸レ班選用者、令下留二原任一、不中必加上銜、仍接二算前俸一。

【接子】64セフシ　戰國齊、捷子の一名。

【接翅】65セツシ　同年に科擧の試驗に及第することをいふ。〔書言故事、同年類〕同年登科、曰三幸接二鸞鳳之翅一、曹鄴、卽席呈二同年一詩、云云、自疑孤飛鳥、得レ接二鸞鳳翅一。

【接事】66セツジ　㊀從事中郎となつて事へること。〔盧諶、贈二劉琨一詩幷書〕嘗自思惟、因緣運會、得レ蒙二接事一。〔注〕向曰、得レ蒙二接事一、謂二從事中郎一也。㊁chieh¹ shih⁴　事務を受け繼ぐ。仕事の引繼ぎを受ける。

【接收】67セツシウ　㊀受付ける。受取る。〔清會典事例、禮部、貢擧、朝考〕卽援二照鄕會試覆試優、拔生朝考成案一、由二監試王大臣一査收、不レ准三該貢士等自行二攜出一、俟二諸貢士淨場後一、監試王大臣將二所レ收試卷一、彙二送受卷官一點檢接收、轉送彌封。㊁chieh¹ shou¹　引繼ぐ。

【接袖】68セツシウ　㊀袖を交へる。〔王融、長歌引〕方轂雷塵起、接袖風雲生。㊁chieh¹ hsiu⁴　袖をつぎたす。

【接就】69 chieh¹ chiu⁴　適應させる。間に合はせる。一致する。

【接膝】70セツシツ　ひざをつきあはせる。〔陶潛、閑情賦〕願接レ膝以交レ言。

【接寫】71セツシヤ　つづけてうつす。〔清會典事例、禮部、貢擧〕准三於另行二接寫一。〔福惠全書、涖任部、文移諸式〕四字或二句俱接寫。

【接壤】72セツジヤウ　地續き。〔漢書、武帝紀〕兩國接壤。〔魏志、公孫瓚傳、注〕(劉)虞爲二博平令一、云云、時鄰縣接壤、蝗蟲爲レ害、至二博平界一、飛過不レ入。

【接手】73セツシユ　㊀手をつらねる。〔戰國、趙策〕馮忌請レ見二趙王一、行人見レ之、馮忌接レ手俛レ首、欲レ言而不レ敢。㊁chieh¹ shou³　㋑引き繼ぐ。引き渡す。㋺キヤッチヤー。捕手。

【接取】74セツシユ　とる。うけとる。〔北史、崔道固傳〕道固諸兄等逼二其所生一、自致レ酒炙二於客前一、道固驚起接取、謂レ客曰、家無二人力一、老親自執二劬勞一。

【接受】75セツジュ 接する。受取る。〔福惠全書、涖任部、查交代〕欲レ行二接受一、既懼二貽レ累之非一レ輕。

【接樹】76セツジュ ❶つぎ木。〔王冕、村居詩〕灌レ畦晴抱レ甕、接レ樹濕封レ泥。❷木にまじはる。〔庾肩吾、侍レ宴餞二東陽太守蕭子雲一詩〕新枝漸接レ樹、故凍欲レ含レ流。❸交はつた木。連なつた木。〔何遜、登二禪岡寺一望和二虞記室一詩〕接樹隱二高蟬一、交枝承二落日一。

【接充】77 chieh^{1} chʻung^{1} 再任する。引き續き其の職に當る。

【接准】78 chieh^{1} chuen^{3} 受取る。接受する。

【接署】79セツショ 事務を引きついで其の代理をする。〔六部成語、吏部、接署、注解〕接二任署理一。

【接誦】80 chieh^{1} sung^{4} 手紙を受けとつて讀む。

【接踵】81セツショウ くびすを接する。かかとをつづける。轉じて、物事が後から續いて起ること。續發。〔戰國、秦策〕韓魏父子兄弟、接踵而死二於秦一者百世矣。〔孔子家語、屈節解〕徒欲下與二吳王一接踵而死上、孤之願也。〔沈炯、爲二王僧辯等一勸二進梁元帝一第二表〕英傑接踵、忠勇相顧。〔隋煬帝、雲中受三突厥主朝二宴席一賦〕呼韓頓顙至、屠耆接踵來。〔王安石、詩〕魏王兵馬接レ踵出。

【接踵而去】82 chieh^{1} chung^{3} êrh^{2} chʻü^{4} あとへあとへと詰めかける。

【接觸】83セツショク 近づきふれる。くつつきさはる。

【接觸感覺】84セツショクカンカク 觸感覺と壓感覺との結合によつてなつたと見做される感覺。

【接觸電氣】85セツショクデンキ 異種の金屬を接觸した時、其の接合部にあらはれる異號の電氣。

【接心】86セツシン 心が外物に感ずること。

【接神】87セツシン ❶神に接する。〔中鑒、俗嫌〕祈請者、誠以接レ神、自然應也。❷十二月三十日の夜の十二時頃に竈神を祭ること。〔燕京歲時記、祭竈〕二十三日祭レ竈、云云、至二除夕一、接神時、再行二供奉一。〔燕京歲時記、除夕〕京師謂二除夕一爲二三十晚上一、云云、及二亥子之際一、天光愈黑、鞭炮益繁、列レ案焚レ香、接神下界、合衣少臥、已至二來朝一。

【接軫】88セツシン 車後の横木が連接すること。❶多くの車の連なり行くをいふ。車の雜沓すること。連軫。〔張衡、西京賦〕方レ轅接レ軫。〔洛陽伽藍記、四〕雷車接レ軫、羽蓋成レ陰。❷近づくさま。接近。〔司馬相如、上書諫レ獵書〕是胡越起二於轂下一、而羌夷接レ軫也。〔注〕良曰、起レ轂接レ軫、有レ如二戎狄不レ遠矣、軫、車後橫木。〔孫愐、獵狐記〕然僻居與二山藪一接レ軫。

【接刃】89セツジン ❶はものをふれる。〔漢書、蒯通傳〕然則慈父孝子、將下爭接二刃於公之腹一、以復二其怨一、而成中其功名上。❷戰をひらく。開仗。〔吳子、勵士〕交レ兵接レ刃。〔後漢書、袁紹傳〕交レ鋒接レ刃。〔晉書、宗室、譙王休之傳〕大軍相臨、交レ鋒接レ刃。

【接榱】90セツスイ たるきをまじへる。〔皇甫謐、三都賦序〕廣廈接レ榱、不レ容二以居一也。

【接穗】91ツギホ 接木にする苗木。

【接生】92セツセイ ❶長生する。道家の語。〔黃庭內景經、注〕接生、長生也。❷日中司命君をいふ。〔雲笈七籤〕日中司命君名二接生一。❸chieh^{1} shêng^{1} 分娩の時に小兒を取り上げること。

【接生婆】93 chieh^{1} shêng^{1} pʻo^{2} 產婆。取上げ婆。

【接掣】94セツセイ 引き續いてとる。〔淸會典事例、吏部、除授〕其所レ臢之籤、下次卽不二接掣一者、有下按二人數一計訣上。

【接誠】95セツセイ 誠の心を神にまじへること。〔國語、楚語下〕接誠拔取。

【接淅】96セツセキ とぎかけの米を取つて行く。孔子が齊を去つたとき、とぎかけの米を手に承けて行つた故事。急いで去ること。〔孟子、萬章下〕孔子去レ齊、接レ淅而行。〔注〕淅、漬米也。〔疏〕言、孔子之去レ齊急速、但漬レ米、不レ及レ炊而卽行、以二其避レ惡、故如レ是也。〔焦循正義〕說文水部云、滰、浚二乾漬米一也、孟子曰、孔子去レ齊、滰レ淅而行、淅、汏米也、段氏玉裁說文解字注云、云云、自二其方漚未レ淘言レ之曰二漬米一、不レ及二淘抒一而起レ之曰レ滰、萬章篇、今滰作レ接、當二是字之誤一、王氏念孫廣雅疏證云、云云、說文、滰、浚二乾漬米一也、引二孟子、孔子去レ齊、滰レ淅而行一、今本滰作レ接、所レ見本異也、滰之言竟、謂三漉二乾之一也、今俗語猶謂三漉二乾漬米一爲二滰乾一矣、西溪叢語云、異聞集引二李吉甫南銘一曰、孟子去レ齊而滰レ淅、唐本作二滰字一。〔集注〕接、猶レ承也、淅、漬レ米水也、漬レ米將レ炊、而欲二去之速一、故以レ手承レ水、取レ米而行、不レ及レ炊也。

【接齣】97 chieh^{1} chʻu^{1} 中斷させずに續けるさま。又、次々とつづくさま。〔紅樓夢、二十二回〕李紈等俱各點了、接齣扮演。

【接絕】98セツゼツ 絕えたるをつぐ。〔管子、入國〕九曰、接絕。

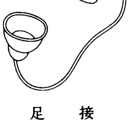
【接綫】99 chieh^{1} hsien^{4} 線をつなぐ。電話をつなぐ。

【接線】100セツセン 圓の一點に觸れる線。幾何學の語。

【接戰】101セツセン 敵と入りまじつてたたかふ。互に接觸して戰鬪する。又、そのたたかひ。〔史記、李將軍傳〕大將軍與二單于一接戰。〔漢書、匈奴傳上〕以二精兵一待二於幕北一、與二漢大將軍一接戰一日。〔庾信、周兗州刺史廣饒公鄭常神道碑〕河橋接戰、秋水則三日不レ流。

【接送】102 chieh^{1} sung^{4} 客などを送り迎へする。

【接足】103セツソク ❶佛兩手で尊者の足に接して禮すること。兩手を仰向けて、足を捧げるやうに接する。〔觀無量壽經〕韋提希見二無量壽佛一、已接足作レ禮。〔梁簡文帝、大法頌序〕天子降二雕輦之貴一、行二接足之禮一。❷樂器の名。細細甸樂に用ひる。口徑一寸八分、高さ一寸、厚さ一分。左右合擊して鳴らす。〔淸會典圖、三十四、樂器、接足〕接足、范銅、口徑一寸八分、高一寸、厚一分、中隆起五分、腰圍三寸、各穿二口孔一以二黃絨紃一貫レ之、左右合擊。



接足
（淸會典圖）

【接續】104セツゾク つづく。つながる。連續（**11－38902**··197）に同じ。

【接續草】105セツゾクサウ 草の名。すぎな。問荊。〔本草、木賊〕附錄、問荊、藏器曰、味苦平無レ毒、主二結氣瘤痛上氣氣急一、煑レ汁服レ之、生二伊沒洲渚閒一、苗如二木賊一、節節相接、一名接續草。

【接續詞】106セツゾクシ 語句又は文章を接續する語。且・又・並などの類。連詞。

【接待】107セツタイ ❶あしらひもてなす。又、もてなし。接遇。待遇。〔漢書、尹翁歸傳〕接待以レ禮。〔新書、淮難〕接二待怨言一。〔吳志、甘寧傳〕接待隆厚。〔晉書、胡奮傳〕以二白衣一待二從左右一、甚見二接待一。❷佛人に飮食物を施す。〔佛祖統記〕法師宗曉鑿二義井於城南櫟社一、曰二法華泉一、以飮二行者一、作二亭其上一、施二湯茗一、無レ問二道俗一、結二屋數楹一、則爲二接待一。

【接替】108 chieh^{1} tʻi^{4} うけつぐ。入れかはる。

【接對】109セツタイ 應接對面する。〔北史、陸彥師傳〕爲二中書舍人通直散騎侍郎一、每二陳使至一、必高二選主客一、彥師所二接對一者、前後六輩。

【接臺】110ツギダイ 接木の臺木。砧木。

【接到】111セツタウ 受取る。〔淸國行政法汎論、內閣、副本庫〕稽察房由二票簽處一接到傳送之後、詳密記二載其順序一。

【接談】112 chieh^{1} tʻan^{2} 客に應接して談話する。

【接仗】113 chieh^{1} chang^{4} 接戰する。

【接住】114 chieh^{1} chu^{4} つづく。

【接著】115 chieh^{1} chê 續けて。引受けて。

【接徵】116セツチヨウ 稅又は手數料などを前任者から引續いて徵收する。〔淸會典事例、戶部、漕運〕本員留二於該處一、與二新任接徵之員一、再限二一年一催完。〔六部成語、戶部、接徵、注解〕自二現在一以後、接續徵收之錢糧也。

【接綴】117セツテイ つなぎあはせること。〔輟耕錄、禽戲〕至二松江一、見三一全身道寓二太古菴一、一日取二二鰍魚一、一黃色、一黑色、大小相侔者、用レ藥塗二利刃一、各斷二其腰一、互換接綴、首尾異レ色、投二放水內一、浮放如レ故。

【接遞】118セツテイ つぎからつぎとつづくこと。又、つぎつぎに文書などを送る。郵便物の取扱ひをすること。〔淸會典事例、兵部、驛遞〕臺站武職員弁、接二遞內外衙門公文一。〔福惠全書、郵政部、逐娼妓〕凡郵騎接遞之所、必孔道鎭集之區、每有二無恥棍豪一。〔燕京歲時記、天地桌〕及二接神時一、將二百分焚化一、接遞燒香、至二燈節一而止。

【接天】119セツテン ❶天に接する。〔杜審言、登二襄陽城一詩〕楚山橫レ地出、漢水接レ天回。❷元日に、楮馬香燭及び糕果等の供物を中堂に設ける行事。〔浙江志書、長興縣〕元日、家設二楮馬香燭及糕果于中堂一、名曰二接天一。

【接展】120 chieh^{1} chan^{3} 手紙を受け取つて開封する。

【接篆】121 chieh^{1} chuan^{4} 印綬の引繼を受ける。

印綬を引繼ぐ。

【接棟】122 つづいてゐる家のむね。ならびつづく家。〔李華、尙書都堂瓦松詩〕接棟臨二雙闕一、連甍近二九重一。

【接統】123 系統をつぐ。〔任昉、爲二范尙書一讓二吏部封侯一第一表〕接二統千祀一。

【接頭】124 chieh¹ t'ou² ❶つなぎ。❷武劇で、兩英雄が接戰すること。

〖接頭語〗125 或る語の頭に添へて其の意味を強め、又は或る意味を添へるもの。卽ちみよしの・まさご・さ迷ふ等の、み・ま・さの類。

〖接頭兒〗126 chieh¹ t'ou² êrh ❶初めから。❷物のつぎ目。

【接納】127 近づけて其の言を聽き入れること。〔後漢書、岑彭傳〕光武深接二納之一。

【接任】128 任務の引繼ぎ。又、後任。〔簷曝雜記〕官滿而去、接任者來。〔淸會典事例、兵部、墩臺營房〕至二該管官離任時一、將二墩臺營房一與二接任官一交代。〔六部成語、吏部、接任、注解〕由二前任官一將二責任一交二付新官一接辦。

【接買】129 chieh¹ mai³ 仲買する。

【接伴】130 賓客をもてなす。又、其の事をつかさどる人。接伴使を見よ。

〖接伴使〗131 外國の使臣を接待する官。〔宋史、李繼昌傳〕(景德二年)遼人請レ和、欲二近臣充一レ使、乃令下繼昌與二其使姚東之一偕詣中遼部上、俄與二韓杞一同至二行在一、及二遼人聘至一、又命至レ境首二接伴一。

【接盤】132 chieh¹ p'an² 店舖の讓り受け。受盤。

【接比】133 ちかづきつらなる。鄰比。〔漢書、地理志下〕本呉粤與レ楚接比。

【接尾】134 すゑにつくこと。

〖接尾語〗135 或る語の尾に添へて其の意味を強め、又は或る意味を加へる語。例へば、幾ら・善さの、ら・さ等の類。

【接武】136 古、堂上を步む法。疾趨しないために、後足が前足の跡の半を踏むやうに步むこと。一說に、半を踏まずに、足跡が相連接するやうに步むこと。武は足跡。〔禮、曲禮上〕堂上接レ武、堂下布レ武。〔注〕武、迹也、迹相接、謂二每移レ足半躡一レ之。〔疏〕堂上接レ武者、武、跡也、既不レ欲二疾趨一、故跡相接也、鄭云、每レ移レ足半躡レ之、王云、足相接也、庾云、謂二接則足連一、非レ半也、武跡相接、謂二每移レ足半躡一レ之也、中人跡一尺二寸、半躡レ之、是每進六寸也。〔禮、玉藻〕君與レ尸行接レ武、〔疏〕接レ武者、二足相躡、每蹈二於半一、未レ得二各自成一レ迹、故云接レ武也。

【接撫】137 愛する。近づけてなづける。〔後漢書、皇后上、鄧皇后紀〕夙夜戰兢、接二撫同列一、常克レ己以下レ之。

【接風】138 chieh¹ fêng¹ 遠來の客に宴席を設ける。歡迎會。洗塵。

〖接風酒〗139 chieh¹ fêng¹ chiu³ 旅行歸著祝賀會。歡迎の宴。

【接物】140 ❶外物に接觸する。物を見る。〔朱熹、白鹿洞書院揭示〕若夫篤行之事、則自レ修レ身、以至二于處レ事接一レ物、亦各有レ要。❷人と交際する。〔漢書、司馬遷傳〕教以レ愼二于接物一、推レ賢進レ士爲レ務。

【接吻】141 くちづけ。人の脣又は手などに自分の脣を當て、親愛の意をあらはすこと。キッス。英語 kiss の譯語。

【接聞】142 ぢかにきく。直接に本人から聞くこと。〔漢書、藝文志〕論語者、孔子應二答弟子時人一、及弟子相與言、而接二聞於夫子一之語也。

【接兵】143 戰をひらく。接刃。〔尉繚子、武議〕接レ兵角レ刃。

【接辦】144 chieh¹ pan⁴ 引き繼ぎ。引受ける。

【接奉】145 受取る意の敬語。〔淸國行政法汎論、皇室、立皇后〕禮部官至二內閣一、接二奉金冊金寶、及冊文寶文一。

〖接奉瑤函〗146 chieh¹ fêng¹ yao² han² 御手紙拜受仕り候。書翰文の句。

【接木】147 つぎき。木をつぐ。異木を人工でつぎ合はせて、一本の生木とする。接樹。〔金史、曹望之傳〕栽レ花接レ木、乃加二爵命一。

【接密】148 しかとつく。密接(**3**－**7205**··122)に同じ。

【接問】149 chieh¹ wen⁴ 接見してたづねる。

【接役】150 むかへのやくにん。〔福惠全書、筮仕部、待接役〕待二接役一。

【接余】151 水草の名。あさざ。はなじゅんさい。荽餘。荇菜。莕菜。〔爾雅、釋草〕莕接余、其葉苻。〔毛詩草木鳥獸蟲魚疏、參差荇菜〕荇、一名接余、白莖、葉紫赤色、正圓、徑寸餘、浮在二水上一、根在二水底一、與二水深淺一等、大如二釵股一、上青下白、鬻二其白莖一、以二苦酒一浸レ之、肥美可レ案レ酒。

【接輿】152 ❶春秋楚の隱者。孔子と時を同じくす。佯り狂して世を避け、嘗て歌つて孔子の傍を過ぎる。高士傳に、姓は陸、名は通とある。〔論語、微子〕楚狂接輿、歌而過二孔子一。〔疏〕接輿楚人、姓陸、名通、字接輿、昭王時、政令無レ常、乃被レ髮佯狂不レ仕、時人謂二之楚狂一也。〔楚辭、九章、涉江〕接輿髡首兮。〔蜀志、秦宓傳〕接輿行且歌、論レ家以光レ篇。❷複姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕接輿氏、楚隱者、其後因爲レ氏。

〖接輿妻〗153 春秋、楚の人。王の使者が金と車とを以て接輿を聘するや、君命に從はざるは忠に非ず、從ふは義に非ずとして、夫とともに姓名を變じて遠く去る。〔列女傳、賢明傳〕。

【接譽】154 ほまれに接する。一說に、譽は豫に通じ、事に先立ち憂に先立つて慮るをいふ。〔荀子、臣道〕推類接譽、以待二無方一。〔注〕推二其比類一、接二其聲譽一。〔集解〕兪樾曰、楊注未レ得二接譽之義一、接二其聲譽一、豈遂足レ應二無方一乎、譽、當二讀爲一レ豫、昭二年左傳、宣子譽レ之、孟子梁惠王篇、引作レ豫、梁惠王篇、一游一豫、昭二年注、引作レ豫、是古字、譽、與レ豫通也、大略篇曰、先レ事慮レ事、謂二之接一、先レ患慮レ患、謂二之豫一、卽此文接譽之義。

【接容】155 招き入れる。面會する。逢ふ。〔先哲叢談、熊澤蕃山〕於レ是始接容。

【接離】156 接羅に同じ。〔韻會〕羅、接離、白帽也。

【接羅】157 頭巾の名。白帽をいふ。接離。接籬。〔廣韻〕羅、接羅、白帽。〔李白、襄陽歌〕落日欲レ沒峴山西、倒著二接羅一花下迷。〔李白、襄陽曲〕山公醉レ酒時、酩酊高陽下、頭上白接羅、倒着還二騎馬一。〔剪燈餘話、秋夕訪二琵琶亭一記〕倒二接羅一歌二大堤一。〔桃花扇、投轄〕倒戴二著接羅帽一、橫跨二著湛盧刀一。

【接籬】158 接羅に同じ。〔晉書、山簡傳〕時有二童兒歌一曰、山公出二何許一、往至二高陽池一、日夕倒載歸、酩酊無レ所レ知、時時能騎レ馬、倒二著白接籬一、擧レ鞭向二葛彊一、何二如幷州兒一。

【接連】159 つらなる。つづく。連接。〔尉繚子、兵敎下〕接二連前矛一。〔左思、蜀都賦〕棟宇相望、桑梓接連。

〖接連着〗160 chieh¹ lien² chê 續けざまに。

〖接連不斷〗161 chien¹ lien² pu⁴ tuan⁴ あとからあとから續いて絕えぬこと。續續。

【接聯】162 つらなる。つらねる。〔杜甫、奉二贈嚴八閣老一詩〕客禮容二疏放一、官曹可二接聯一。

【接和】163 上下が親しみ和すること。接穌。〔國語、呉語〕明日遷レ軍接穌。

【接眼鏡】164 顯微鏡又は望遠鏡の眼に接する端にあるレンズ。

【接過來】165 chieh¹ kuo⁴ lai 受けとる。引受ける。

【接元寶】166 chieh¹ yüan² pao³ 十二月二十四日、竈神送りに燃やした火の焚き殘りを、又竈に戾し入れること。蘇州地方の語。

【接財神】167 chieh¹ ts'ai² shen 福の神を迎へること。

【接笋峯】168 峯の名。福建省崇安縣、武夷山の仙掌峯の南。

【接聲兒】169 chieh¹ shêng¹ êrh ❶次々と言ひ傳へる。❷一人歌ひはじめて衆人が之に和する。

【接太陽】170 chieh¹ t'ai⁴ yang 六月十九日、農村廟中に賑はしく騷ぐこと。河北地方の語。

【接不上】171 chieh¹ pu shang⁴ 續かない。續けきれない。

【接路頭】172 chieh¹ lu⁴ t'ou² 正月五日、早起きして福の神を祭る行事。蘇州地方の語。

【接過來做】173 chieh¹ kuo⁴ lai tsuo⁴ 引續いてする。

【接二連三】174 chieh¹ êrh⁴ lien² san¹ それからそれへと。〔紅樓夢、一回〕於是接二連三、撁五掛四。

【接坑三姑娘】175 chieh¹ k'êng¹ san¹ ku¹ niang

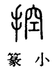
一月十五日の夕刻、紫姑を迎へる行事。蘇州地方の語。

【揚】 12281 テキ チヤク 〔篇海〕他歷切 錫

かかげる。ゑぐる。〔篇海〕揚、挑揚也、亦借用㆑剔。

【揥】 12282 バウ 搒(**5－12474**)の本字。〔字彙〕揥、搒本字。

【控】 12283 ㈠コウ ク 〔集韻〕苦貢切 送 ㄎㄨㄥˋ k'ung⁴ ㈡コウ ク 〔集韻〕枯公切 東 ㈢カウ 〔集韻〕枯江切 江 ㈣カウ 〔集韻〕克講切 講


小篆

㈠❶**ひく。ひかへる**。㋑ひきよせる。〔說文〕控、引也、从㆑手空聲。〔段注〕引者、開㆑弓也、引㆓申之㆒、爲㆓凡引㆑遠使㆑近之稱㆒。〔馬汝驥、北嶽詩〕東銜㆓滄海嶼㆒、北控㆓黑河湍㆒。㋺弓をはる。〔說文〕控、匈奴引㆑弓曰㆓控弦㆒。〔班固、西都賦〕弦不㆓再控㆒。〔注〕善曰、控、引也。㋩馬をとめる。〔詩、鄭風、大叔于田〕抑磬控忌。〔傳〕止㆑馬曰㆑控。〔謝靈運、望海詩〕策馬步㆓蘭皐㆒、緤控息㆓椒丘㆒。㋥おさへる。牽掣する。〔鮑照、登㆓大雷岸㆒與㆑妹書〕鎭㆓控湘漢㆒。❷**つげる**。うつたへる。おもむく。〔說文〕控、詩曰、控㆓于大邦㆒。〔詩、鄘風、載馳〕控㆓于大邦㆒。〔集傳〕控、控持而告㆑之。〔一切經音義、九〕控告、詩云、控㆓于大邦㆒、韓詩云、控、赴也。〔袁宏、三國名臣序贊〕宗子思㆑寧、薄言解㆑控。〔注〕善曰、謂㆘彼有㆑急而控㆓告于己㆒、己能解㆑之也。❸**なげる**。〔莊子、逍遙遊〕時則不㆑至、而控㆓於地㆒而已矣。〔釋文〕控、司馬云、投也。❹**たたく**。〔莊子、逍遙遊、控㆓於地㆒而已矣、集釋〕控、崔云、叩也。❺**つまづく**。〔管子、度地〕地下則平行、地高則控。〔注〕控、謂㆑頓也。❻**危急なこと**。急。〔袁宏、三國名臣序贊〕解㆑控。〔注〕翰曰、控、急也。㈡**のぞく**。〔集韻〕控、除也。㈢㈣**うつ**。たたく。〔集韻〕控、打也。〔莊子、外物〕儒以㆓金椎㆒控㆓其頤㆒。邦❶**ひかへる**。㋑うちはにする。十分にしない。㋺やめる。見合はせる。㋩たくはへる。用意して置く。㋥近い位置に構へ備へる。㋭手許に書き留めて置く。㋬後詰として待ち構へる。㋣退き待つ。㋠別に構へる。❷**ひかへ**。㋑うつし。副本。㋺そなへ。たくはへ。用意。㋩後詰。㋥加護。

【控壓】 1（コウアツ） ひかへおさへる。〔薛廷珪、授㆔馮繼文充㆓河西防禦使㆒制〕防㆓禦西夏㆒、控㆓壓三州㆒。〔白居易、論㆓孫璹張奉國㆒狀〕控㆓壓隴蜀㆒。〔李中、廬山詩〕控壓潯陽境、崔嵬古及㆑今。

【控案】 2（コウアン） 告訴する。〔淸國行政法汎論、官廳監督形式、備考〕來㆑京控案。

【控引】 3（コウイン） ひく。牽制する。〔左思、魏都賦〕白藏之藏、富有無㆑隄、同㆓賑大內㆒、控㆓引世資㆒。

【控咽】 4（コウエン） のどをしめつける。要所をおさへる。〔周邦彥、汴都賦〕扼㆑襟控㆑咽、屛㆓藩表裏㆒。

【控屋】 5（ヒカヘヤ） 控屋敷。控家。

【控溫】 6（コウオン） 遼、耶律曷魯(**9－29008**‥55)の字。

【控家】 7（ヒカヘヤ） 控屋に同じ。

【控鶴】 8（コウカク） ❶鶴をおさへる。仙人が飛んで天に昇る喩。〔孫綽、遊㆓天台山㆒賦〕王喬控㆑鶴以沖㆑天。〔孔稚珪、褚先生百玉碑序〕王喬雲擧、控㆓鶴於玄都㆒。❷宿衞近侍の臣の稱。唐の武后、控鶴府を置き、近幸の官とし、張易之を監とす。後、奉宸院と改め、尋いで廢す。後、天子宿衞の兵を控鶴軍と稱す。唐末、昭宗が殿後軍を廢して控鶴排馬官を置いた類。〔唐書、兵志〕昭宗幸㆓華州㆒、云云、留㆓殿後兵三十人㆒、爲㆓控鶴排馬官㆒、隸㆓飛龍坊㆒。〔唐書、后妃上、則天武皇后傳〕自㆓薛懷義死㆒、張易之昌宗得㆑幸、乃置㆓控鶴府㆒。〔唐書、叛臣下、李巨川傳〕詔留㆓三十人㆒、爲㆓控鶴排馬官㆒、隸㆓飛龍坊㆒。〔五代史、唐明宗紀〕汴州控鶴軍亂。〔元史、世祖紀一〕設㆓控鶴五百四人㆒、以㆓劉德㆒爲㆓軍使㆒領㆑之。

〔控鶴府〕 9（コウカクフ） 官名。唐代近侍の官。控鶴の「❷を見よ。

【控御】 10（コウギョ） 馬をひかへて制使する如くに、人の自由を制し止める。又、おさへとりしまる。控制。〔晉書、劉琨傳〕琨善㆓於懷撫㆒、而短㆓於控御㆒。〔傳毅、舞賦〕控御緩急。〔李衞公問對、下〕然非㆓朕控御㆒、則不㆑可㆑用也。

【控馭】 11（コウギョ） 馬をつかふ。又、おさへて自由にすること。駕馭。控御に同じ。〔庾信、周柱國大將軍拓跋儉神道碑〕控㆓馭五十州㆒、風㆓行數千里㆒。〔蔣伸、授㆓張允伸幽州節度㆒制〕遼陽甲兵之雄、幽州控馭之遠。

〔控馭之術〕 12（コウギョノジュツ） 勢を制する方法。馬を制御するやうに人の自由を制し治める術。〔日本外史、源氏前記、平氏序〕更相箝制、以爲㆑得㆓控馭之術㆒。

【控禦】 13（コウギョ） ひき止めふせぐ。ひかへとどめる。控御に同じ。〔宋史、李綱傳上〕控禦以扼㆓其衝㆒。

【控捲】 14（コウケン） 拳を引く。拳で擊つ。捲は拳。〔史記、孫子傳〕夫解㆓雜亂紛糾㆒者不㆓控捲㆒。〔注〕索隱曰、解㆓雜亂紛糾㆒者、當㆓善以㆑手解㆑之、不㆑可㆓控捲而擊㆑之、捲、卽拳也。

【控弦】 15（コウゲン） 弓の弦をひく。又、弓を引く兵士。弓手。〔說文〕控、匈奴引㆑弦曰㆓控弦㆒。〔史記、匈奴傳〕控弦之士三十餘萬。〔漢書、婁敬傳〕當㆓是時㆒、冒頓單于兵彊、控弦四十萬騎。〔新書、匈奴〕匈奴控弦、大率六萬騎。〔鹽鐵論、誅秦〕控弦之民、旃裘之長、莫㆑不㆓沮㆑膽挫折遠遁㆒。〔後漢書、寇恂傳〕控弦萬騎。〔魏志、裴潛傳〕士馬控弦、動有㆓萬數㆒。

【控告】 16（コウコク） ❶うつたへつげる。上訴する。〔左氏、襄、八〕剪焉傾覆、無㆑所㆓控告㆒。〔蜀志、許靖傳〕三江五湖、皆爲㆓虜庭㆒、臨㆑時困厄、無㆑所㆓控告㆒。〔蘇軾、乞㆓常州居住㆒表〕不㆑若㆔歸㆑命投㆑誠、控㆓告於君父㆒。❷第一審の判決に服せずして控告すること。

【控搶】 17（コウサウ） うつたへる。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕況敢挾㆑命控搶乎。

【控止】 18（コウシ） おしとどめる。

【控兒】 19 k'ung⁴ êrh 鼓の異名。

【控守】 20（コウシュ） ひかへまもる。おさへまもる。〔新書、親疏危亂〕然且吟齲而堅、控㆓守之㆒爲㆓何如㆒。

【控所】 21（ヒカヘジョ） 公衆の集まる所に設けた休息場所。

【控制】 22（コウセイ） おさへてとりしまる。操制する。控御。控馭。〔北史、魏道武帝紀〕詔曰、昔朕遠祖、總㆓御幽都㆒、控㆓制遐國㆒。〔唐書、王忠嗣傳〕帶㆓四將印㆒、勁兵重地、控㆓制萬里㆒。

【控掣】 23（コウセイ） おさへとりしまる。控制に同じ。

【控哨】 24（コウセウ） 軍用語。前哨馬隊の駐紮の總區。

【控汐】 25（コウセキ） 夕方の引きしほ。〔張纘、南征賦〕青溢赤岸、控汐引潮。

【控折】 26 k'ung⁴ chê² 高利貸が金を借す時、證書面の金額から幾分を控除し、額面に照らして元利を收めるのをいふ。

【控攝】 27（コウセツ） ひきとめる。おさへとめる。控制に同じ。〔隋書、郭榮傳〕汾州與㆓姚襄鎭㆒相去懸遠、榮、云云、請㆘於㆓州鎭之閒㆒更築㆓一城㆒、以相控攝㆖。

【控訴】 28（コウソ） ❶訴へる。告訴する。〔剪燈新話、富貴發跡司志〕困㆓阨艱難㆒、無㆑所㆓控訴㆒。〔福惠全書、蒞任部、禀帖贅說〕莫㆓敢控訴㆒。❷第一審の判決に不服の時、再びしらべなほしてもらふために、上級裁判所に訴へ出る申し立をいふ。控告。

〔控訴院〕 29（コウソヰン） もと、地方裁判所の判決に對して、控訴又は抗告をなす合議制度の裁判所。現在の高等裁判所に相當する。

【控愬】 30（コウソ） うつたへる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕無㆑從㆓控愬㆒。

【控打】 31 k'ung⁴ ta³ 計算其の他を處理して遺「漏がない。

【控帶】 32（コウタイ） ひきめぐらす。〔任昉、爲㆓范尙書㆒

讓二吏部封侯一第一表〕東皐數畝、控二帶朝夕一。〔注〕良曰、控、引也、帶、繞也、朝夕、謂レ海也。

【控揣】33 コウタン 愛惜貴重する。控摶。〔漢書、賈誼傳〕忽然爲レ人、何足二控揣一。〔注〕孟康曰、控、引也、揣、持也、言、人生忽然、何足二引持自貴惜一也。〔王先謙補注〕專字或作レ耑、故摶亦變レ文爲レ揣、作レ摶是也。〔賈誼、鵩鳥賦〕何足二控摶一〔注〕善曰、如淳曰、摶、或作レ揣、晉灼曰、許愼云、揣、量也、度商曰レ揣、言、何足下度二量己之年命長短一而惜上之乎。

【控摶】34 コウタン 生命を惜しむこと。ひかへたもつて惜しむこと。控揣を見よ。〔賈誼、鵩鳥賦〕忽然爲レ人兮、何足二控摶一。〔注〕善曰、控摶、愛レ生之意也、孟康曰、控、引也、摶、持也、言、人生忽然、何足二引持自貴惜一也。

【控地】35 コウチ ❶地におちる。地に投ずる。〔莊子、逍遙遊〕時則不レ至、而控二於地一而已矣。〔釋文〕控、投也。❷ヒカヘチ 用意のために備へて置く土地。

【控柱】36 ヒカヘバシラ ❶物が倒れるのを支へるための柱。❷其の家一切の事を處置して行く人。大黑柱。

【控除】37 コウヂョ ひき去る。とりのける。さしひく。扣除(5－11807・・30)に同じ。〔淸國行政法汎論、地方官廳、知府、職權〕先控二除該官廳經費一。

【控邸】38 ヒカヘテイ 用意のために設けおく屋敷。

【控轡】39 コウヒ たづなをひかへて制する。控馭(10)に同じ。〔呂覽、審分〕王良之所二以使レ馬者約、審レ之而以控二其轡一、而四馬莫二敢不レ盡レ力。

【控尾】40 コウビ 寨の名。雲南省鎭康縣の西南。〔讀史方輿紀要、雲南、鎭康禦夷州〕控尾寨、萬歷三十三年、木邦酋罕思禮誘二鎭康酋悶枳歸レ緬、枳不レ從、遂令下其黨海慶襲二控尾一據上レ之、又欲レ取二猛侖一、猛侖、亦州境別部也。

【控目】41 ヒカヘメ 物事を思ひ切つてしないこと。

【控扼】42 k'ung⁴ ê⁴ 引きおさへる。

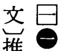
【控杙】43 ヒカヘクヒ 物が倒れるのを支へるための杙。

【控勒】44 k'ung⁴ lê⁴ 馬をつかふ。勒は、おもがい。控馭(10)に同じ。

【解レ控】45 コウヲトク 急を救ふ。〔袁宏、三國名臣序贊〕宗子思レ寧、薄言解レ控。〔注〕翰曰、控、急也。

【控卡山】46 コウサフサン 山名。又、空卡に作る。四川省懋功縣の西。兩金川の往來に當り、最も險阻。〔金川瑣記〕絕頂爲二崇化・懋功兩縣分界處一、高出二雲表一、雖二盛夏一積雪逾レ尺。

【推】
12284


小篆

㊀タイ ツイ 〔集韻〕通回切 ㄊㄨㄟ t'uei¹ 灰

㊁スイ 〔集韻〕川隹切 支

㊂ヅイ 〔史記注〕直追切 支

㊀❶**おす**。㋑おしひらく。〔說文〕推、排也、从レ手隹聲。〔晉書、范汪傳〕皆當二魚貫而行、排推而進一。㋺おしだす。〔集韻〕推、一曰、進也。〔一切經音義、六〕推、軵也、前也。〔禮、月令〕天子三推。〔左氏、襄、十四〕或輓レ之、或推レ之。〔公羊、定、四〕推レ刃之道也。〔注〕一往一來、曰レ推レ刃。〔淮南子、主術訓〕推而不レ可レ爲二之勢一。〔注〕推、行也。〔後漢書、趙壹傳〕載以二鹿車一、身自推レ之。㋩つく。〔李白、襄陽歌〕淸風明月不レ用二一錢買一、玉山自倒非二人推一。㋥おしかへす。〔孫作、謝二馬善卿送レ茱詩〕鵝掌推不レ受。㋭うつす。おしやる。〔素問、六節藏象論〕推二餘於終一。㋬おしおとす。〔書、仲虺之誥〕推レ亡固レ存。〔穀梁、僖、二十二〕君子不レ推二人危一。㋣のける。さる。おしはらふ。〔詩、大雅、雲漢〕則不レ可レ推。〔傳〕推、去也。〔疏〕推、是遠離之辭。㋠ゆづる。おしあたへる。〔史記、淮陰侯傳〕推レ食食レ我。❷**さかんなさま**。推推(137)を見よ。㊂現㋑かこつける。㋺なすりつける。㊁❶**うつりかはる**。〔集韻〕推、順遷也。〔易、繫辭下〕寒暑相推而歲成焉。〔淮南子、氾論訓〕故恩推則懦。〔注〕推、猶レ移也。〔淮南子、脩務訓〕與レ物推移。〔注〕推移、猶二轉易一也。❷**せめる**。つめる。なじる。〔集韻〕推、一曰、窮詰。❸**おす**。㋑すすめあげる。薦擧。〔增韻〕推、奬也。〔書、周官〕推レ賢讓レ能。〔禮、儒行〕下弗レ推。〔注〕推猶二進也擧也一。〔梁書、劉寔傳〕天下所二共推一則天下士也。〔梁書、蕭景傳〕專行二禮讓一、爲二衆所一レ推。㋺いただく。奉戴する。〔增韻〕推、奉也。〔梁書、武帝紀〕謳歌攸レ奉、萬有樂推。㋩おしはかる。おしきはめる。〔字彙〕推、尋繹也。〔管子、海王〕受二人之事一、以重相推。〔注〕推、度也。〔淮南子、原道訓〕因二其自然一而推レ之。〔注〕推、求也。〔淮南子、說林訓〕類不レ可二必推一。〔注〕推、猶レ知也。〔漢書、劉向傳贊〕有レ意三其推二本之一也。〔注〕師古曰、言下其究二極根本一、深有上レ意也。〔太玄經、玄圖〕馴レ幽推レ麻。〔注〕推、猶レ謀也。㋥ひろげる。擴充する。〔孟子、公孫丑上〕推二惡レ惡之心一。㊂❶**せめる**。㊁の❷に同じ。〔史記、酷吏傳論贊〕天水駱壁推咸。〔注〕索隱曰、推、直追反。❷**かざらぬ**。椎(6－15024)に通ず。〔韓非子、八說〕皆推政也。〔集解〕盧文弨曰、推、當レ作レ椎。邦❶**おし**。語勢を強めるために添へる助辭。推し戴く、推し出す、の類。❷**おして**。たつて。むりに。

【推壓】1 スイアツ おしつける。おさへる。〔文心雕龍、檄移〕贊曰、云云、推二壓鯨鯢一、抵二落蜂蠆一、移レ寶易レ俗、草偃二風邁一。

【推按】2 スイアン おししらべる。推案。〔吳志、陸凱傳〕常留レ心推按、是以獄無二寃囚一。〔通典、刑典〕推二按刑獄一、朝臣遞相牽引。

【推案】3 スイアン ❶つくゑを推しのける。〔陳書、蔡景歷傳〕徹レ鞍下レ馬、推レ案止レ食。❷おししらべる。詮議する。推按。〔吳志、孫綝傳〕推二案舊典一、運集二大王一。〔南史、顏竣傳〕時元凶巫蠱事已發、故上不レ加二推案一。

【推衣】4 t'uei¹ i¹ 貧民に衣服を施し與へること。

【推移】5 スイイ ❶うつりかはる。おしうつる。〔韓詩外傳、七〕天有二燥濕一、絃有二緩急一、柱有二推移一。〔莊子、秋水〕夫不下爲二頃久一推移上。〔楚辭、漁父〕聖人不レ凝二滯於物一、能與レ世推移。〔淮南子、原道訓〕不レ待二萬物之推移一。〔淮南子、脩務訓〕且夫精神滑淖纖微、倏忽變化、與レ物推移。〔注〕推移、猶二轉易一也。〔司馬相如、子虛賦〕激水推移。〔楚辭、賈誼、惜誓〕或推迻而苟容兮。〔論衡、命義〕衆星推移。〔吳志、孫登傳〕與レ時推移。❷夏の人。桀の臣。一に推哆〔墨子、所染〕・〔抱朴子、良規〕・雅侈〔漢書、古今人表〕・推侈〔晏子、諫上〕・〔賈誼新書、連語〕・侯侈〔韓非子、說疑〕に作る。〔呂覽、簡選〕遂禽推移大犧。〔墨子、所染〕推哆。〔閒詁〕畢云、本書明鬼云、王手二禽推哆大戲一、下又云、推哆大戲、生二別兕虎一、指畫殺レ人、古今人表作二雅侈一、詒讓案、推哆、晏子春秋諫上篇・賈子新書連語篇、作二推侈一、韓子說疑篇又作二侯侈一、淮南子主術訓又作二推移一、惟抱朴子良規篇作二推哆一、與レ此同。

【推委】6 t'uei¹ wei³ なげやり。責任を人に推しつける。〔紅樓夢、十三回〕事無專執、臨期推委。

【推諉】7 スイヰ なげやり。責任を人に推しつける。推委。〔正韻牋〕諉、猶レ委也、言尙可二他委一、後人因借爲二推諉一。〔福惠全書、典禮部、朝覲、大計〕或遺漏字樣、及借レ端推諉。

【推右】8 スイイウ おしたふぶ。尊重。〔宣和書譜、正書四〕宋文臣宋綬、云云、作字尤爲三時人所二推右一。

【推育】9 スイイク 推し育てる。〔管子、四稱〕推二育賢人一。

【推挹】10 スイイフ おし進める。重んじておしたてる。〔南史、任昉傳〕沈約一代辭宗、深所二推挹一。

【推引】11 スイイン ❶人を引き立て用ひる。人を推薦引用する。〔唐書、文藝中、蕭穎士傳〕以三推二引後進一爲二己任一。〔韓愈、與二汝州盧郞中一論レ薦二侯

喜一狀〕未レ聞レ有レ所二推引一。㊁おしひく。〔管子、禁藏〕推二引銚耨一、以當二劍戟一。

【推寅】12 スイイン ㊀きりみがく。研究する。鑽研。推演。〔北史、魏紀序〕其遷徙策略、多出二宣・獻二帝一、故時人並號曰二推寅一、蓋俗云鑽研之義。㊁寅の辰を指す。〔欒伸、閏月定二四時一詩〕斗杓重指レ甲、灰琯再推レ寅。㊂後魏、宣帝の名。

【推驛】13 スイエキ 宿驛から宿驛へとうつりすぎること。〔謝靈運、撰征賦〕怨二物華之推驛一、慨二丹壑之遞遷一。

【推延】14 t'uei¹ yen² 延引する。後らせる。

【推衍】15 スイエン おしひろめる。衍は敷衍。推演に同じ。〔漢書、鄭弘傳贊〕至二宣帝時一、汝南桓寬次公治二公羊春秋一、擧爲レ郎、至二廬江太守丞一、博通善屬レ文、推二衍鹽鐵之議一、增二廣條目一、極二其論難一、著二數萬言一。〔蘇轍、西掖告詞五十一首、太皇太后三代、曾祖母李氏燕國〕推二衍天澤一、丕二冒海涯一。

【推演】16 スイエン おしひろめる。敷衍。推衍。〔漢書、外戚下、趙皇后傳〕不レ知下推二演聖德一、述中先帝之志上。〔新語、明誠〕推二演萬事之類一。〔蜀志、諸葛亮傳〕推二演兵法一、作二八陣圖一。

【推袁】17 スイエン 晉の桓溫が袁宏を推賞した語。〔世說新語、文學〕桓宣武命二袁彥伯一作二北征賦一、云云、(王珣)云、恨少二一句一、得二寫字足一レ韻當レ佳、袁卽於レ坐攬レ筆益云、感不レ絕二於余心一、泝二流風一而獨寫、公謂レ王曰、當今不レ得レ不下以二此事一推上袁。

【推恩】18 スイオン ㊀いつくしみをおし及ぼす。愛情を人におよぼす。〔孟子、梁惠王上〕故推レ恩、足三以保二四海一、不レ推レ恩、無三以保二妻子一。〔史記、主父偃傳〕推レ恩分二子弟一。〔漢書、諸侯王表序〕推恩之令。〔任昉、爲二褚諮議蓁一讓二代レ兄襲封一表〕乃遠謬二推恩一。㊁明代、七品以上の官が其の先祖に對して爵位を賜はること。〔明史、職官志一〕誥勅、七品以上、皆得三推二恩其先一。㊂清代、皇太后及び皇后の父に爵位を授けること。〔清會典事例、宗人府、天潢宗派〕著二宗人府一奏聞、以示二朕親族推恩一。

【推河】19 スイカ 川の名。外蒙古三音諾顏中部。源は三音諾顏旗の西、杭愛山脈の南麓。鄂羅克泊に注ぐ。〔龔之鑰、後出塞錄〕推河昔爲二元氏苑囿一、其地甚煖、土性宜二於耕種一。

【推開】20 t'uei¹ k'ai¹ ㊀おしあける。㊁脫ける。逃げる。㊂考へ出す。

【推解】21 スイカイ 食を推し衣を解いて人に與へる。恩惠を施す。〔史記、淮陰侯傳〕漢王授二我上將軍印一、予二我數萬衆一、解レ衣衣レ我、推レ食食レ我、言聽計用、故吾得三以至二於此一。

【推劾】22 スイガイ 罪を吟味する。推問に同じ。〔宋史、邊珝傳〕官吏推劾、累二三百日一、獄未レ具。

【推考】23 スイカウ おし考へる。〔後漢書、方術上、謝夷吾傳〕推二考星度一、綜二校圖錄一。

【推行】24 スイカウ おし廣める。おし行ふ。實施する。〔宋史、職官志五〕官吏推行、多違二法意一。

【推校】25 スイカウ おしはかりかんがへる。〔陸機、謝二平原內史一表〕事蹤筆跡、皆可二推校一。〔梁簡文帝、弔二道澄法師一書〕推二校因緣一、未二始有一レ例。〔柳宗元、獻下平二淮夷一雅上表〕推二校千古一。

【推較】26 スイカウ おしくらべる。〔後漢書、左雄傳〕雄推二較災異一、以爲三下人有二逆レ上之徵一。

【推敲】27 スイカウ 詩の字句を練り工夫する。唐の賈島が詩を作り、推の字を用ひんか、敲の字を用ひんかと、苦慮した故事。〔賈島、題二李凝幽居一詩〕閑居少二鄰竝一、草徑入二荒園一、鳥宿池邊樹、僧敲月下門、過レ橋分二野色一、移レ石動二雲根一、暫去還來レ此、幽期不レ負レ言。〔野客叢談、六〕賈島初赴レ擧在レ京、一日在二驢上一得レ句、云云、引レ手作二推敲之勢一、時韓退之爲二京兆尹一、車騎方出、島不レ覺行至二第三節一、左右擁至二尹前一、島具道二所レ得詩句一、退之遂並レ轡歸、爲二布衣交一。〔唐詩紀事、四十〕島赴レ擧至レ京、騎レ驢賦レ詩、得二僧推月下門之句一、欲レ改レ推爲レ敲、引レ手作二推敲之勢一、未レ決、不レ覺衝二大尹韓愈一、乃具言、愈曰、敲字佳矣、遂並レ轡論レ詩。

【推覈】28 スイカク おしきはめしらべる。罪を十分にとりしらべる。〔唐書、裴守眞傳〕天授中、爲二司府丞一、推二覈詔獄一、多裁恕、全二免數十姓一。

【推勘】29 スイカン 罪をしらべる。推勘官を見よ。

〖推勘院〗30 スイカンヰン 宋代、裁判を掌るために、中書省の命によつて臨時に設けた官署。事終れば罷めた。〔大學衍義補、愼二刑憲一、制二刑獄之具一二〕神宗以來、凡一時承レ詔置レ推者、謂二之制勘院一、事出二中書一、則曰二推勘院一、獄已乃罷。

〖推勘官〗31 スイカンクワン 官名。宋、御史臺推勘官を置き、京朝官を以てこれに充つ。諸州の大獄を鞫治することを掌る。〔宋史、太宗紀二〕(淳化元年五月)辛卯、置二詳覆推勘官一。〔宋史、刑法志一〕置二御史臺推勘官二十人一、皆以二京朝官一爲レ之、凡諸州有二大獄一、則乘レ傳就鞫。

【推陷】32 スイカン おし陷れる。〔宋書、劉湛傳〕邪附者榮二曜九族一、秉レ理者推陷必至。

【推寄】33 スイキ 心を推して人の腹中に置くこと。〔資治通鑑、晉紀〕(安帝、義熙十一年)推寄相與、正當レ如レ此。〔注〕推寄、謂三推レ心置二人腹中一也。

【推歸】34 スイキ おしきはめいたすこと。窮理に達すること。〔史記、龜策傳〕以爲下後世衰微、愚不レ師レ智、人各自安、化分爲二百室一、道散無上レ垠、故推二歸之至微一、要レ潔二於精神一也。

【推疑】35 スイギ 疑を解決する。〔司馬法、定爵〕變レ「嫌推レ疑。

【推求】36 スイキウ おしもとめる。しらべたづねる。〔後漢書、獨行、王烈傳〕烈使二推求一、乃先盜レ牛者也。〔蜀志、郤正傳〕則鑽鑿推求、略皆寓レ目。

〖推求師意〗37 スイキウシイ 書名。二卷。明、戴原禮撰。其の師、震亨の意を闡發して此の書を作る。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【推究】38 スイキウ おしきはめる。深入りして調べ考へる。推窮。推原。〔周書、蘇綽傳〕精レ心悉レ意、推二究事源一。〔朱子全書、論語、泰伯〕此類只合二大槩看一、不レ須二苦推究一也。

【推咎】39 スイキウ とがめる。〔後漢書、安帝紀論〕推二咎台衡一、以答天眚一。

【推鞫】40 スイキク 罪をしらべる。推問(197)に同じ。推鞫。〔北史、裴蘊傳〕帝付レ蘊推二鞫之一。〔唐書、百官志一〕推鞫得レ情、處斷平允、爲二法官之最一。

【推及】41 スイキフ おしおよぼす。又、おしおよぶ。〔朱熹、白鹿洞書院揭示〕莫レ非レ使下之講二明義理一、以修二其身一、然後推以及上レ人。

【推卻】42 スイキヤク おししりぞける。〔鹽鐵論、地廣〕聖王懷二四方一、獨苦レ興レ師、推二卻胡越遠寇一。

【推窮】43 スイキユウ おしきはめる。〔舊唐書、懿宗紀〕崔雍任居二牧守一、云云、情狀可レ見、欲レ行二朝典一、宜二更推窮一。

【推許】44 スイキヨ 人をおし許す。才能ありとしてほめ推す。〔南齊書、王儉傳〕少有二宰相之志一、物議咸相推許。

【推擧】45 スイキヨ 人を上へ薦め上げる。推薦(127)に同じ。〔史記、韓長孺傳〕所二推擧一皆廉士、賢二於己一者也。〔漢書、韓安國傳〕然所二推擧一皆廉士、賢二于己一者。〔淮南子、泰族訓〕外內相推擧。〔後漢書、度尙傳〕家貧不レ修二學行一、不レ爲二鄕里所一推擧一。

【推極】46 スイキヨク おしきはめる。おしつくす。〔潘岳、馬汧督誄〕推二極小疵一、非四所三以褒二獎元功一。

【推襟】47 スイキン 心をおす。誠意を盡す。〔南史、張充傳〕充與二(王)儉一書曰、云云、所レ可二通レ夢交レ魂、推レ襟送レ抱者、唯丈人而已。

【推懷】48 スイクワイ 誠の心を人におし及ぼす。〔南史、劉懷珍傳〕高帝曰、我布衣時、懷珍便推レ懷投レ款、況在二今日一、寧當レ有レ異。

【推廣】49 スイクワウ おしひろめる。〔李衞公問對、中〕「推二廣其義一。

【推官】50 スイクワン 官名。唐、置く。節度・監察兩使の屬。其後諸州に皆置いて軍事推官といひ、其の次官を衙推といふ。宋、これに仍り、元明には各府に推官一人を設け、專ら一府の刑名を處理することを掌る。清初もこれを置き、後、廢す。〔事物紀原、撫字長民部、推官〕唐百官志曰、節察防國使、皆有二推官一、舊唐書云、天寶續事也。〔元史、汪澤民傳〕遷二南安路總管府推官一。〔獻徵錄〕明羅脩己、字以敬、爲二吉安府推官一。

【推丸】51 スイグワン 蟲の名。さらむし。蜣蜋の異名。推車客。〔本草、蜣蜋〕釋名、推丸、推車客、弘景曰、莊子云、蜣蜋之智、在二於轉丸一、喜入二糞土中一、取二屎丸一而推二卻之一、故俗名二推丸一。

【推敬】52 スイケイ おしうやまふ。推服(180)に同じ。〔後漢書、儒林下、許愼傳〕馬融常推二敬之一。

【推髻】53 スイケイ もとどりを去る。〔論衡、恢國〕周時被レ髮推レ髻。

【推激】54 スイゲキ おしすすめはげますこと。〔陳師道、和三黃生春盡遊二南山一詩〕學レ詩有二新功一、黃魏共推激。

【推擊】55 スイゲキ　おしうつ。〔法苑珠林〕若二是弟子舍利一、推擊便破矣。

【推拳】56 tʻuei^1 chʻüan^2　拳で押しあふ。

【推賢】57 スイケン　賢人をおしすすめる。〔書、周官〕推レ賢讓レ能。〔禮、儒行〕推レ賢而進二達之一。〔史記、太史公自序〕推レ賢讓レ位。〔漢書、兒寬傳贊〕推レ賢則韓安國、鄭當時、定レ令則趙禹、張湯。〔司馬遷、報二任少卿一書〕推レ賢進レ士。〔孔子家語、儒行解〕推レ賢達レ能。

【推檢】58 スイケン　おし考へる。おししらべる。〔晉書、山濤傳〕凡所レ受賂、皆見二推檢一。〔北史、蕭寶夤傳〕戍主杜元倫、推檢知レ實。

【推謙】59 スイケン　人を推したふとび、自らはへりくだる。〔南史、宋宗室上、彭城王義康傳〕與二王弘一共輔二朝政一、弘既多レ疾、且每レ事推謙、自レ是內外衆務、一斷二之義康一。

【推言】60 スイゲン　次第に廣く論じ及ぼす。推論(211)に同じ。〔史記、秦始皇紀〕賈生推二言之一也。

【推原】61 スイゲン　本をおしたづねる。推究(38)に同じ。〔漢書、宣元六王、淮陽憲王欽傳〕爲レ王傷レ之、推二原厥本一。〔陸游、草堂詩〕浩歌陌上君無レ怪、世譜推原自二楚狂一。

【推戶】62 スイコ　戶をおし開く。〔蘇軾、中秋見レ月和二子由一詩〕卷レ簾推レ戶寂無レ人、牕下咿啞惟楚老。〔貢師泰、關山月送三殷文學還二浙西一詩〕攬レ衣推レ戶仰視レ天、一寸鄉心幾千里。

【推古】63 スイコ　❶古をおしはかる。〔素書、求二人之志一章〕求二人之志一、癉レ惡斥レ讒、所二以止一レ亂、推レ古驗レ今、所二以不一レ惑、先揆後度、所二以應一レ卒、設レ變致レ權、所二以解一レ結。〔魏志、孫禮傳〕當乙以下烈祖初封二平原一時圖上決甲之、何必推レ古問レ故、以益二辭訟一。❷第三十三代の帝諡。

【推故】64 スイコ　事故にかこつけてことわる。推託(145)に同じ。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕著レ他是必便來、休二推故一。

【推故不二受理一】65 スイコシテジユリセズ　事故に推託して訴狀を受理しないこと。〔明律、刑律、訴訟、告狀不二受理一〕若詞訟元告被論、在二兩處遞州縣一者、聽下元告就二被論官司一告理歸結上、推故不二受理一者亦如レ之。

【推弘】66 スイコウ　おしひろめる。〔弘道館記述義、上〕推二弘叡旨一、以培二養斯道一。

【推溝】67 スイコウ　民をあはれみ救ふこと。〔梁簡文帝、大法頌〕推溝之念、有レ如レ不レ足。

【推轂】68 スイコク　車のこしきを推す。こしきを推して車をすすめる。❶天子が將を遣はすとき、自ら車をおすこと。〔漢書、馮唐傳〕上古王者遣レ將也、跪而推レ轂曰、閫以內寡人制レ之、閫以外將軍制レ之。〔干寶、晉紀總論〕然後推二轂鍾鄧一。〔注〕良曰、天子遣レ將推レ轂而送、鍾會・鄧艾爲レ將、征レ蜀破レ之。〔隋書、劉方傳論〕出當二推轂之重一、入受二爪牙之寄一。〔唐律、擅興、征人稽留、疏議〕推レ轂寄レ重、議資二英雄一。❷こしきを推して車をすすめる樣に、人の事業を助成すること。〔史記、燕世家〕今呂氏雅故、本推二轂高帝一、就二天下一。〔注〕索隱曰、謂下呂氏素心、奉二推高祖一取二天下一、若四人推レ轂欲三前進二塗一然上也。❸賢才を薦擧するをいふ。〔史記、武安侯傳〕推二轂趙綰一、爲二御史大夫一。〔史記、鄭當時傳〕其推二轂士及官屬丞史一、誠有レ味二其言一レ之也、常引以爲レ賢二於己一。〔書言故事、請託類〕薦レ人曰二推轂一。

【推搡】69 スイソウ　tʻuei^1 sang^3　推しつける

【推搶】70 スイソウ　おしのけて奪ひ合ふ。〔宣和遺事、前集下〕萬姓推搶沒二理會一。

【推燥】71 スイソウ　人に乾燥した場所を讓る。〔後漢書、楊震傳〕王聖出レ自二微賤一、得レ遭二千載一、奉二養聖躬一、雖レ有二推レ燥居レ溼之勤一、前後賞惠、過レ報二勞苦一。〔孝經援神契〕母之於レ子也、鞠養殷勤、推レ燥居レ溼、絕レ少分レ甘也。

【推策】72 スイサク　めどぎによつておしはかる。策は、うらなひのめどぎ。〔史記、封禪書〕於レ是黃帝迎レ日推レ策。

【推察】73 スイサツ　おしはかりかんがへる。推考。推量。〔後漢書、邳彤傳論〕斯固原レ情比レ迹、所レ宜二推察一者也。

【推參】74 スイサン　❶自分から進んでまゐる。おして出る。〔明衡往來〕上酒一樽相具、可下令二推參一侍上。❷目通りの叶はぬ所におして出る。轉じて、無禮の意に用ひる。差出がましい。

【推算】75 スイサン　❶おしはかり勘定する。日月の運行を推して曆日を算定する。〔史記、五帝紀、獲二寶鼎一迎日推筴、注〕索隱曰、黃帝得レ蓍、以推二算曆數一。〔宋史、律曆志十五〕請參攷推算頒行。❷ tʻuei^1 suan^4 人の吉凶を占ふ。

【推之】76 スイシ　明、孫克恕の字。

【推哆】77 スイシ　夏の人。桀王の佞臣。推移(5)の❷を見よ。〔墨子、所染〕夏桀染二於干辛推哆一。

【推事】78 スイジ　❶事を推す。〔南史、張岱傳〕語レ功推レ事、臣門之恥。❷官名。宋、大理寺に左右推事を置く。清朝にも大理院以下各審判廳に推事を置き、皆、訟案の論定を掌る。〔宋史、職官志五〕(紹聖)二年、復置二右治獄一、云云、左右推事一。

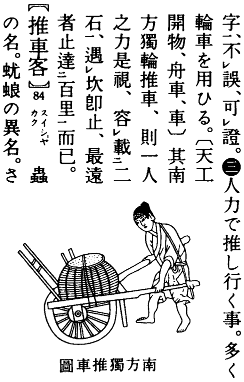
【推辭】79 スイジ　おしてことわる。辭退する。固辭。辭退。〔白居易、對酒詩〕相逢且莫三推二辭醉一、聽レ唱陽關第四聲。

【推收】80 スイシウ　❶一定の順序をふんで其の所有權を收得すること。〔元典章、戶部、賣典章〕今後典二賣田宅一、先行レ經二官給一レ據、然後立レ契、依レ例投レ稅、隨時推收。❷現金受渡をせず帳簿で振替て置くこと。❸田地の賣渡し、及び其の買收。〔福惠全書、編審部、定二推收一〕由三賣者推出與二買者收管一也。

【推舟】81 スイシウ　舟をおしやる。〔論語、憲問〕羿善レ射、奡盪レ舟。〔疏〕盪、推也、能陸地推レ舟而行。

【推脩】82 スイシウ　おしひろめておさめること。又、推すこと、脩めること。〔意林、四〕風俗通曰、舜、推也、脩也、言推二德行一、脩二堯之緒一。

【推車】83 スイシャ　❶車を推す。〔左氏、成、二〕苟有レ險、余必下推レ車。〔韓非子、八說〕古者寡レ事而備簡、樸陋而不レ盡、故有二珧銚而推レ車者一。〔解詁〕推車、謂レ不レ駕二牛馬一也。〔易林、觀之第二十、節〕推レ車上レ山、高仰二重難一。❷ ツイシャ 上古の飾を施さぬ質樸な車。椎車。〔韓非子、八說、故有二珧銚而推レ車者一、集解〕盧文弨曰、推、當レ作レ椎、下同、注卽椎輪也四字、不レ應二閒在一レ中、當レ云二椎車卽椎輪也一、移二置於末一、始得、今本注字、譌且衍、不レ可レ從、顧廣圻曰、推、當レ作レ椎、淮南子云、古之所レ爲不レ可レ更、則推車至レ今無二蟬匱一、鹽鐵論非鞅云、推車之蟬攫負二子之教一也、亦當レ作レ椎、又鹽鐵論遵道・散不足・世務、皆言二推車一、則作二椎字一、不レ誤、可レ證。❸人力で推し行く事。多く一輪車を用ひる。〔天工開物、舟車、車〕其南方獨輪推車、則一人之力是視、容レ載二二石一、遇レ坎卽止、最遠者止達二百里一而已。



南方獨推車圖
(天工開物)

【推車客】84 スイシャカク　蟲の名。蜣蜋の異名。さらむし。推丸(51)に同じ。〔本草、蜣蜋〕釋名、推丸、推車客。

【推卸】85 スイシャ　人になすりつける。〔福惠全書、錢穀部、比較〕彼此亦不レ致二推卸一矣。

【推邪】86 スイジャ　縣名。漢、置く。陝西省の境。〔漢書、地理志下〕上郡、縣二十三、推邪。

【推尙】87 スイシャウ　おし尊ぶ。推尊(133)に同じ。〔唐書、呂溫傳〕溫操翰精富、一時流輩推尙。

【推奬】88 スイシャウ　人をおしほめる。人をほめそやす。推譽。推頌。〔杜甫、故著作郎貶二台州司戶一滎陽鄭公虔詩〕詞場竟疎闊、平昔濫推奬。

【推讓】89 スイジャウ　他人をおしすすめて自らゆづる。〔莊子、刻意〕語二仁義忠信一、恭儉推讓、爲レ脩而已矣。〔史記、平準書〕先二富有一而後二推讓一。〔漢書、王莽傳上〕莽稽首涕泣、固推讓焉。〔論衡、本性〕一歲嬰兒、無二推讓之心一。〔蜀志、費詩傳〕猶懷二推讓一。

【推讓之風】90 スイジャウノフウ　他をおしすすめて自らへり下る謙遜な氣風。〔漢書、董仲舒傳〕亡二推讓之風一、而有二爭田之訟一。〔魏志、蔣濟傳〕冒賞之漸、自レ此而興、推讓之風、由レ此而廢。

【推授】91 スイジュ　官吏を推薦して官職を補授する。〔清會典、吏部〕不二開列一者、有二揀授一、有二推授一。〔注〕以二應レ升之員一、論レ俸擬二正陪一、推二取二十人一、引見補授。

【推出】92 スイシュツ　推し出す。

【推恤】94 スイジュツ　おしはかつてあはれむ。思ひやりめぐむ。

【推處】95 スイショ　おしはかつて處置する。〔後漢書、方術傳序〕望レ雲省レ氣、推二處祥妖一、時亦有三以效二於事一也。

【推敍】96 スイジョ　位階を加へすすめる。

【推升】97 スイショウ　おし升せて任用する。〔清會典事例、兵部、職制〕雍正四年覆准、副將員缺、停二其

在部推升一、將下倖深參將十人、並應レ補二副將一之人文到レ部者上、一併開列具題。

【推頌】98 スイショウ　人をおしすすめてほめる。推獎。〔韓愈、太學生何蕃傳〕太學諸生推頌、不二敢與一レ蕃齒一。

【推稱】99 スイショウ　人をおしあげてほめたたへる。推獎(88)に同じ。

【推丞】100 スイジョウ　宋代、大理寺は左寺・右寺に分れ、左寺は法制の適用を掌り、右寺は推問理獄を掌る。推丞は右寺の主任で、卿及び小卿の監督下に其の事務を掌る。〔宋史、職官志五〕大理寺、云云、元豐官制、置二卿一人、少卿二人、正二人、推丞四人、斷丞六人一。

【推食】101 スイショク　食を推し進める。〔史記、淮陰侯傳〕漢王授二我上將軍印一、予二我數萬衆一、解レ衣衣レ我、推レ食食レ我、言聽計用、故吾得三以至二於此一。

【推心】102 スイシン　心を推す。誠心をうつし置く。〔後漢書、光武紀上〕降者更相語曰、蕭王推二赤心一置二人腹中一、安得レ不レ投レ死乎。〔後漢書、皇后下、順烈梁皇后紀〕太后夙夜勤勞、推レ心仗レ賢、委二任太尉李固等一。〔資治通鑑、晉紀、（安帝、義熙十一年）〕推寄相與、〔注〕推寄、謂三推レ心置二人腹中一也。

【推信】103 スイシン　まことをおしいたす。〔白虎通、號〕舜猶二僢僢一也、能推二信堯道一而行レ之。

【推進】104 スイシン　❶他人をおしすすめる。又、人からおしすすめられる。〔韓非子、功名〕得二勢位一、則不二推進一而名成。〔呉志、妃嬪、呉王權步夫人傳〕夫人性不二妬忌一、多所二推進一、故久見二愛待一。❷進展させる。

【推進去】105 tʻuei^{1} chin^{4} chʻü^{4}　押し込む。推し進めてゆく。

【推進螺旋】106 スイシンラセン　汽船又は軍艦等の艫から水中に突出し、二個以上の拗れた翅のあるもの。船艦が進行するのは、此の機が水を截つて後方に推すためである。スクリユウ。

【推刃】107 スイジン　刃をおしかへす。後世、復讎をいふ。〔公羊、定、四〕父不レ受レ誅、子復レ讎可也、父受レ誅、子復レ讎、推刃之道也。〔注〕一往一來曰二推刃一。〔魏志、臧洪傳〕惜洪力劣、不レ能下推刃爲二天下一報上レ仇。

【推訊】108 スイジン　きただす。〔林鶴梁、兄弟止レ訟〕獄官推訊累レ年、不レ能レ斷。

【推尋】109 スイジン　おしたづねる。〔蜀志、杜瓊傳〕此雖三己所二推尋一、然有レ所二因由一。

【推盡】110 スイジン　おしきはめつくす。〔呉志、孫亮傳、注〕請二付レ獄推盡一。

【推睡】111 スイスイ　そらねむり。

【推成】112 スイセイ　罪を推し窮めて獄を成す。〔史記、酷吏傳贊〕天水駱壁推減、〔注〕索隱曰、減、作レ成、是也、謂下推二繫之一以成上レ獄也。

【推青】113 スイセイ　石の名。〔駢雅、釋地〕推青、膚青也。

【推政】114 ツイセイ　上古の質樸な政。椎政。〔韓非子、八說〕然則行二揖讓一、高二慈惠一、而道二仁厚一、皆推政也。〔集解〕盧文弨曰、推、當レ作レ椎。

【推誠】115 スイセイ　まごころを人に移し及ぼす。〔文中子、周公〕子曰、推レ之以レ誠、不レ言而信。〔蜀志、譙周傳〕體貌素朴、性推誠。

【推整】116 スイセイ　衣服をかき合はせる。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕長吁氣、推二整素羅衣一。

【推擠】117 スイセイ　人をおしおとす。おしのける。〔荀子、解蔽〕不レ好二辭讓一、不レ敬二禮節一、而好相推擠。

【推銷】118 tʻuei^{1} hsiao^{1}　❶委託販賣する。❷販路を廣める。

【推斥】119 スイセキ　おししりぞける。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕四節相推斥、季冬風且涼。

【推析】120 スイセキ　勘定する。〔蘇軾、決壅蔽策〕三司之吏、推二析贏虛一、至二於毫毛一、以繩二郡縣一、則不レ任二轉運使一也。

【推迹】121 スイセキ　あとをおす。あとをたどつて推究する。〔漢書、劉向傳〕推二迹行事一。〔漢書、梅福傳〕推二迹古文一。

【推籍】122 スイセキ　おしすすめて官位につかせる。推薦(127)に同じ。〔大學衍義補、正二百官一、嚴二考課之法一〕張說喜推二籍後進一。

【推說】123 スイセツ　❶おしひろめて說く。おしひろげていふ。〔漢書、董仲舒傳〕先レ是、遼東高廟長陵高園殿灾、仲舒居レ家、推二說其意一。❷tʻuei^{1} shuo^{1}　いひぬけをする。

【推先】124 スイセン　推して第一とする。〔後漢書、逸民、矯愼傳〕皆推二先於愼一。〔晉書、阮咸傳〕太原郭奕、高爽有二識量一、知二名于時一、少レ所二推先一、見レ咸心醉、不レ覺歎焉。

【推遷】125 スイセン　事にかこつけて引き延ばす。〔資治通鑑、隋紀、（恭帝、義寧元年）〕何不下早勸二唐公一舉上レ兵、而推遷不レ已。〔注〕推遷、言二推故遷延一也。

【推選】126 スイセン　おしえらぶ。又、おしえらばれる。〔史記、公孫弘傳〕願更推選。〔戰國、齊策〕士生二乎鄙野一、推選則祿焉。

【推薦】127 スイセン　おしすすめる。人を上に紹介して舉げ用ひる。人を官に引き立てる。推舉。〔後漢書、竇章傳〕與二馬融・崔瑗一同好、更相推薦。〔晉書、鄭袤傳〕時賢並相推薦。〔北史、崔季舒傳〕推二薦人士一、獎二勸文學一。

【推闡】128 スイセン　一理を推して他の理を明かにする。推し廣めて大ならしめる。〔韓愈、論二佛骨一表〕推二闡聖明一。

【推前】129 スイゼン　❶おしすすめる。〔漢書、南越傳〕得二粵船粟一、因推而前挫二粵鋒一。❷前事を推し考へる。〔後漢書、律曆志中〕定二立術數一、推レ前校レ往。

【推前擦後】130 tʻuei^{1} chʻien^{2} tsʻa^{1} hou^{4}　ためらふ。心がぐらつく。

【推測】131 スイソク　おしはかる。〔李商隱、爲二安平公一進レ賀狀〕驗二推測一、則咸知二周卜一。

【推粟】132 スイゾク　車で運んだ粟。糧食。輓粟。一說に、推は樵の誤。薪食をいふ。〔墨子、備城門〕我城池修、守器具、推粟足。〔閒詁〕推粟義難レ通、推、當レ爲二樵之誤一、下云、爲二薪樵挈一、又云、薪食足三以支二三月一、以上樵粟卽薪食也、畢云、推粟言二輓粟一、失レ之。

【推尊】133 スイソン　すすめたふとぶ。あがめたつとぶ。推尙。〔厲九疇、范寬秦川圖詩〕畫史推尊爲二第一一。

【推尊式】134 スイソンシキ　羅馬舊教で、拔羣の信者又は教會の功勞者に對し、死後聖號を贈る儀式。

【推拏】135 tʻuei^{1} na^{2}　按摩の類。

【推墮】136 スイダ　おしおとす。〔史記、李將軍傳〕廣暫騰而上二胡兒馬一、因推二墮兒一。〔漢書、高帝紀上〕漢王急推二墮二子一、滕公下收、載遂得レ脫。

【推推】137 タイタイ　盛なさま。〔漢書、韋玄成傳〕嘽嘽推推、如レ霆如レ雷。〔注〕師古曰、推推、盛也、推音他回反。

【推戴】138 スイタイ　おしいただく。尊んで自分の上におく。主と仰ぐ。〔魏志、司馬芝傳〕以二鹿車一推二戴母一。〔宋史、王彥昇傳〕爲レ衆推戴。

【推體】139 スイタイ　體を卑くして人に下る。〔戰國、秦策〕主折レ節以下二其臣一、臣推レ體以下二死士一。

【推倒】140 スイタウ　❶おしたふす。おしたふされる。❷傾け盡す。〔宋史、儒林六、陳亮傳〕推二倒一世之智勇一、開二拓萬古之心胸一。

【推盪】141 スイタウ　おしうごかす。〔王曾、有二物混成一賦〕縱二陰陽之推盪一、我質難レ移。

【推托】142 スイタク　事にかこつけてことはる。推託。

【推度】143 tʻuei^{1} tuo^{4}　推量する。推し量る。想像する。

【推度災】144 スイドサイ　詩緯の一種。その書、現在は佚す。古微書に輯本あり。

【推託】145 スイタク　❶推し舉げて囑託する。〔中論、譴交〕推二託恩好一、不レ較二輕重一。❷事にかこつけてことわる。推托。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕夫人失レ信、推二託別詞一。

【推擇】146 スイタク　人を登用する。又、登用せられる。推は、下から推舉する。擇は、上から選拔する。〔史記、淮陰侯傳〕始爲二布衣一時、貧無レ行、不レ得二推擇爲レ吏。〔陸倕、授二潯陽太守一章〕徒荷二容益一、空班二推擇一。

【推敓】147 スイタツ　季候がおしうつること。〔韓愈、送二孟東野一序〕四時之相推敓、其必有下不レ得二其平一者上乎。

【推脫】148 tʻuei^{1} tʻuo^{1}　ことわる。辭退する。

【推彈】149 スイダン　おしきはめる。しらべただす。推究(38)に同じ。〔宋書、蕭惠開傳〕偃レ怒使三門下推二彈之一。〔唐書、百官志三〕掌下糾二舉百寮一、及入閤、承レ詔知中推彈雜事上。

【推斷】150 スイダン　推しはかり定める。〔韻府引、舊唐書、宋璟傳〕璟奏、侍臣張昌宗兄弟、有二不順之言一、請付二推斷一。

【推治】151 スイチ　罪をおしはかりただす。推問(197)に同じ。〔周書、張孫儉傳〕推治獲レ實。〔靈鬼志〕不レ爲レ發レ冢、願勿二推治一。

【推知】152 スイチ　おしはかつて知る。揣知(**5**－**12371**··12)に同じ。〔清國行政法汎論、武官迴避〕總令

以下距二藉貫一三十驛以內上、定爲二其任地一等類、可二以推知一焉。

【推致】153（スイチ） 推薦する。おしいたす。〔韓愈、毛穎傳〕相推致、其出處必偕。

【推築】154（スイチク） 傍から手でつついて意思を通ずる。推は、おす、築は、地をたたく。〔魏志、倉慈傳、注〕典農與レ斐共坐、云云、乃私推二築斐一、斐不二肯謝一。

【推拿】155 t'uei^{1} na^{2} ❶古の按摩術。❷整骨術。推とは、脫臼の骨を推すこと、拿とは、もんで原位置にかへすこと。

【推張】156（スイチヤウ） 吾が物を人の物とする。〔福惠全書、錢穀部、比較〕無二指レ李推レ張之弊一。

【推重】157（スイチヨウ） おしおもんずる。又、たふとび重んぜられる。推尊(133)に同じ。〔宋書、賈恩傳〕賈恩少有二志行一、爲三鄉曲所二推重一。〔世說新語、輕詆〕何以不二相推重一。

【推枕】158（スイチン） 枕をおしのける。〔白居易、長恨歌〕攬レ衣推レ枕起徘徊、珠箔銀屛邐迤開。

【推定】159（スイテイ） おしはかつてさだめる。推測して決定する。又、法律關係または事實が明瞭でない場合、その事實に關して反對の證據がない限り、それを正當と假定すること。

〖推定遺產相續人〗160（スイテイキサンサウゾクニン） 遺產を相續する者と推定せられる人。

〖推定家督相續人〗161（スイテイカトクサウゾクニン） 家督相續の順により、家督を相續する者と推定せられる人。〔民法、第九百七十八條〕。

【推調】162 t'uei^{1} t'iao^{2} 雙方互に責任を避ける。

【推得】162'（スイトク） おしはかり得る。〔淮南子、本經訓〕可二以レ曆推得一也。

【推督】163（スイトク） 督し責める。〔潘岳、藉田賦〕靡二推督一而常勤兮。

【推讀】164（スイドク） 尊重して讀む。〔論衡、宣漢〕唐虞夏殷、同載在二二尺四寸一、儒者推讀、朝夕講習。

【推任】165（スイニン） 推重し信任する。〔蜀志、費禕傳〕慶賞威刑、皆遙先諮斷、然後乃行、其推任如レ此。

【推念】166 t'uei^{1} nien^{4} 思ひやる。熟考する。

【推波】167（スイハ） ❶波をおしのける。舟夫が棹で小舟を推すこと。〔郝經、宴二北渚亭一詩〕推波委レ濤到二北渚一、滙蓄涵渟數十頃。❷旁から鼓動して勢をます。〔文中子、問易〕眞君建レ德之事、適足二推レ波助レ瀾、縱レ風止レ燎爾。〔朱子全書、治道、王伯〕況此等議論、正是推レ波助レ瀾、縱レ風止レ燎、使下彼益輕二聖賢一而無中忌憚上、又何足下以關二其口一而奪中其氣上乎。

【推罵】168（スイバ） おしやりののしる。〔蘇軾、答二李端叔一書〕往往爲三醉人所二推罵一。

【推排】169（スイハイ） ❶おしのける。〔後漢書、方術上、王喬傳〕後天下二玉棺於堂前一、吏人推排、終不二搖動一。❷おしのける。排斥する。〔論衡、書虛〕孔子生時、推排不レ容。❸おしならべる。推排法を見よ。

〖推排法〗170（スイハイハフ） 田稅を釐正する法。宋の理宗の景定五年に始めて行ふ。其の法は、縣を以て都を統べ、都を以て保を統べ、才略公平なる者を任じて田稅を釐正せしめたもので、田畝の稅色を訂正してこれを圖冊に載せ、民に定產有り、產に定稅あり、稅に定籍あらしめた。卽ち民の物力を推し排べて貧富を通檢記錄し、これによつて稅率を定めるもの。故に理論としては、富者は財產を隱匿し得ず、貧者は重ねて苦しむことは無い筈であるが、賈似道等の貪婪な者がこれを掌つたために、終に苛斂誅求の一手段となり、度宗の咸淳八年には、詔してこれを罷めしめた。〔宋史、食貨志上二〕乃若二推排之法一、不レ過下以レ縣統レ都、以レ都統レ保、選二任才富公平者一、訂二田畝稅色一、載二之圖冊一、使丙民有二定產一、產有二定稅一、稅有乙定籍甲而已。〔宋史、姦臣四、賈似道傳〕又行二推排法一、江南之地、尺寸皆有レ稅、而民力弊矣。

【推方】171（スイハウ） おし並べてすすむ。〔後漢書、段熲傳〕熲士卒飢渴、乃勒レ衆推方奪二其水一。

【推鉋】172（スイハウ） かんな。又、かんなをかける。

【推亡】173（スイバウ） ❶滅亡の因あるとき、これをおしてほろぼすこと。〔書、仲虺之誥〕推レ亡固レ存、邦乃其昌。〔蔡傳〕推三彼之所二以亡一、固三我之所二以存一、邦國之其昌矣。〔左氏、襄、三十〕仲虺之志云、亂者取レ之、亡者侮レ之、推レ亡固レ存、國之利也。〔漢書、宣帝紀贊〕匈奴乖亂、推レ亡固レ存。❷弩弓の神。〔太平御覽、兵部、弓〕春秋佐助期曰、天弓、主二司弓一、弩之神名二推亡一。

【推扳】174 t'uei^{1} p'an^{1} 劣惡な。

【推挽】175（スイバン） 推輓に同じ。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕無下相知有二氣力一得レ位者推挽上。〔白居易、遊二悟眞寺一詩〕牽率使レ讀レ書、推挽令レ效レ官。

【推輓】176（スイバン） 車を後から推し、前から輓く。轉じて、人をおしすすめること。推挽。推引。〔左氏、襄、十四〕衞君必入、夫二子者、或輓レ之、或推レ之、欲レ無レ入得乎。

【推盤】177 t'uei^{1} p'an^{2} 店鋪を讓り渡す。

〖推盤據〗178 t'uei^{1} p'an^{2} chü^{4} 店鋪讓渡證書。

【推病】179 t'uei^{1} ping^{4} 病にかこつける。假病をつかふ。〔水滸傳、二回〕此人卽係推病在家。

【推服】180（スイフク） おし立てて從ふ。重んじあがめる。〔任昉、王文憲集序〕見二公弱齡一、便望レ風推服。〔南史、陳武帝紀〕爲二當時推服一。〔世說新語、賞譽〕王平子邁世有二儁才一、少レ所二推服一。

【推福】181（スイフク） 幸福を子孫におし及ぼすこと。〔唐書、忠義下、蔡廷玉傳〕古未レ有下不臣而能推福及二子孫一者上。

【推覆】182（スイフク） くりかへしてしらべ問ふこと。〔獄令〕凡死罪雖二已奏報一、猶訴二寃枉一、事有レ可レ疑、可二推覆以レ狀奏聞一。

【推拂】183（スイフツ） おしはらふ。〔儀禮、有司徹〕主人西面、左手執レ几、縮レ之、以二右袂一推二拂几一三、二手橫執レ几、進授二尸于筵前一。

【推分】184（スイブン） 己の分限をおしはかつて、それに安んずる。揣分。〔晉書、王導傳〕任レ眞推レ分、澹如也。

【推兵】185（スイヘイ） 兵を推しすすめる。又、兵を擧つて。〔公羊、莊、十、精者曰レ伐、注〕推レ兵入レ境。

【推變】186（スイヘン） 推移。變化。〔後漢書、仲長統傳論〕周物之智、不レ能レ研二其推變一、山川之奧、未レ足レ況二其紆險一。〔注〕推、遷也。

【推步】187（スイホ） 日月五星の度數を推して曆を作るをいふ。〔後漢書、楊厚傳〕就二同郡鄭伯山一、受二河洛書及天文推步之術一。〔後漢書、方術傳序〕若二夫陰陽推步之學一、往往見二於墳記一矣。〔魏志、劉劭傳〕文學之士、嘉二其推步詳密一。〔抱朴子、極言〕黃帝、云云、精二推步一、則訪二山稽力牧一、講二占候一、則詢二風后一。

【推慕】188（スイボ） 推ししたふ。〔後漢書、陳紀傳〕後進之士、皆推二慕其風一。

【推奉】189（スイホウ） おしあがめる。〔晉書、王導傳〕傾レ心推奉、潛有二興復之志一。

【推本】190（スイホン） もとをきはめたづねる。根源をたづねる。〔史記、曆書〕推二本天元一、順二承厥意一。

〖推本溯源〗191（スイホンサクゲン） 根本に溯る。〔漢書、劉向傳贊〕有レ意三其推二本之一也。

【推緐】192 t'uei^{1} fan^{1} ひつくりかへす。

【推磨】193（スイマ） 臼を挽く。〔晉書、天文志上〕天旁轉如二推磨一而左行。〔王安石、擬二寒山拾得一詩〕作レ馬便二搭鞍一、作レ牛便二推磨一。

【推明】194（スイメイ） おしあきらめる。推考究明。〔中庸、二十一章、章句〕以反二覆推三明此章之意一。

【推命】195（スイメイ） 人の運命を推し究める。〔困學紀聞、曆數〕以二十一星行歷一、推二人命貴賤一、始二於唐貞元初、都利術士李彌乾一。

【推門】196 t'uei^{1} men^{2} 門をおしひらく。

【推問】197（スイモン） 罪狀をとり調べる。吟味。推鞫。推勘。〔風俗通、過譽〕不二潔淸一、當二亟推問一。〔晉書、藝術、鮑靚傳〕靚年五歲、語二父母一云、本是曲陽李氏兒、九歲墜レ井死、其父母尋訪得二李氏一、推問皆符驗。

〖推問使〗198（スイモンシ） 王朝時代、臨時に推問のために派遣する使者。〔日本紀略、一〕延喜二年九月二十日、遣二推問使於越後國一、彼國守紀有世爲二藤原有度一落髮著鉗之由。

〖推問密告使〗199（スイモンミツコクシ） 王朝時代、密告した事件を推問するために臨時に派遣された使。〔三代實錄〕貞觀十二年十一月十七日、以二從五位下行大內記安倍朝臣興行一、爲二遣太宰推問密告使一、判官一人、主典一人。

【推譽】200（スイヨ） すすめほめる。〔管子、形勢解〕毀二訾賢者一之謂レ訾、推二譽不肖一之謂レ讆。〔鮑欽止、答二李景夏一書〕昨書推譽、皆過二其實一、謹避レ席不二敢當一。〔宋史、宗室四、士晤傳〕文藝卓絕、衆所二推譽一。

【推來】201（スイライ） 未來のことをおしかんがへる。〔法言、五百〕因レ往以推レ來、雖二千一一無レ不レ可レ知也。

【推賴】202 t'uei^1 lai^4 ❶拒絶する。宜い加減な理由をつけて拒絶する。❷互に罪をなすりつける。❸たのみいる。

【推梨】203スイリ 梨を人におし讓ること。〔南史、梁武帝諸子、武陵王紀傳〕元帝乃與二紀書一曰、云云、兄肥弟瘦、無二復相代之期一、讓レ棗推レ梨、長罷二歡愉之日一。

【推理】204スイリ 理を推し考へる。或る斷定から他の斷定を推知すること。既知の事實から未知の事實を推知すること。

【推理式】205スイリシキ 三段論法（1－12‥1261）に同じ。

【推量】206スイリヤウ おしはかる。推察（73）に同じ。

【推類】207スイルイ 類によつておしはかる。〔墨子、經下〕推レ類之難、說在二之大小一。〔閒詁〕之上、疑挩二名字一。〔漢書、貨殖、范蠡傳〕推二此類一而脩レ之。〔論衡、別通〕不二推類以況一レ之也。

【推曆】208スイレキ 曆をおしはかり定める。〔左氏、文、元〕履二端於始一、疏〕日月轉二運於天一、猶如二人之行一步一、故推歷謂二之步歷一。〔漢書、律歷志上〕推レ曆生レ律。

【推歷】209スイレキ 推曆に同じ。〔太玄經、玄圖〕馴レ幽推レ歷。

【推輦】210スイレン てぐるまをおす。天子の御車をおす。〔風俗通、正失〕推輦而去、還二歷禁中一。

【推論】211スイロン ❶推して論及する。次第に廣く論じ及ぼす。〔孔子家語、致思〕推二論利害一、釋二二國之患一。〔魏志、王肅傳、注〕帝每與レ夏推二論書傳一、未二嘗不一レ終レ日也。❷或る事理に本づいて更に他の結論におしうつる。

【推論式】212スイロンシキ 三段論法（1－12‥1261）に同じ。推理式。

【推差法】213スイサハウ 差法（4－8732‥91）を見よ。

【推受據】214 t'uei^1 shou^4 chü^4 店舖讓受證。

【推受盤】215 t'uei^1 shou^4 p'an^2 推盤と受盤。營業の株の讓渡と讓受。

【推背圖】216スイハイヅ 書名。一卷。唐の貞觀中、李淳風と袁天綱とが共に圖讖を爲り、圖每に七言詩一首を附して、歷代の興亡變亂のことを豫言したものといはれている。六十圖に至つて止む。これを推背圖といふのは、袁が推すものを、李が背いてこれを止めたから名づけたといふ。此の圖の傳本は一ならず、其の詞も不明で信憑し難い。〔宋史、藝文志五〕推背圖一卷。〔讀書質義、坤、推背圖之僞〕今世所謂推背圖、託二之李淳風一、其實虛無妖僞之言、不レ足レ信也。

【推牌九】217 t'uei^1 p'ai^2 chiu^3 賭具の一種。牌九と稱するものの骰を押すこと。

【推易始末】218スイエキシマツ 書名。周易參考書（2－3441‥29）の❷を見よ。

【推刻之吏】219スイコクノリ 慘酷な法官。〔大學衍義補、愼二刑憲一存二欽恤之心一〕武后時、侍御史周矩上疏曰、推刻之吏、以二深刻一爲レ功。

【推三阻四】220 t'uei^1 san^1 tsu^3 ssŭ^4 いろいろ言遁れする。何やかや口實を設けて引受けないこと。〔荆釵記傳奇〕恁推三阻四、莫不是行濁言清。〔元曲、鴛鴦被〕非是我推三阻四、這事情應難造次。

【推小車的】221 t'uei^1 hsiao^3 ch'ê^1 tê 小車といふ一輪車を推して運搬に從事する勞働者。苦力。

【推潭僕遠】222スイタンボクヱン 甘美な御馳走をいふ。蠻夷の語。〔後漢書、西南夷、莋都傳〕遠夷樂德歌詩曰、云云、甘美酒食。〔本注〕推潭僕遠。

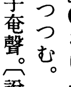
【掩】
12285

㊀エン 〔集韻〕衣檢切 ㄧㄢˇ yen^3 琰

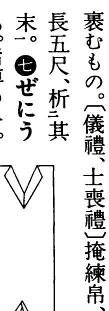
㊁アン オン 〔集韻〕鄔感切 感

㊂エン 〔集韻〕於瞻切 豔

㊃エフ オフ 〔集韻〕乙業切 葉


小篆

㊀❶**おほふ**。㋑をさめる。下からつつむ。〔說文〕掩、斂也、小上曰レ掩、从レ手奄聲。〔說文通訓定聲〕掩、自レ上而下者、爲レ弇爲レ奄、自レ下而上者、爲レ掩。〔儀禮、士喪禮〕商祝掩。〔注〕掩者先結二頤下一、既瑱幎目、乃還結レ項也。㋺おほひかくす。〔方言、六〕掩、薆也。〔禮、月令〕君子齊戒、處必掩レ身。〔注〕掩、猶二隱翳一也。〔國語、晉語五〕爾童子何知、而三掩二人于朝一。〔注〕掩、蓋也。〔淮南子、天文訓〕掩茂之歲。〔注〕掩、蔽也。〔史記、司馬相如傳〕掩二薄草渚一。〔注〕正義曰、掩、覆也。㋩恤みかばふ。なでる。〔爾雅、釋訓〕矜憐、撫二掩之一也。〔集韻〕掩、一曰、撫也。㋥とぢる。〔南史、袁粲傳〕席門常掩、三逕裁通。〔沈約、學省愁臥詩〕愁人掩レ軒臥。〔注〕善曰、掩、猶レ閉也。㋭かくす。〔左氏、文、十八〕作二誓命一曰、毀レ則爲レ賊、掩レ賊爲レ藏。〔注〕掩、匿也。㋬おほひとる。〔方言、六〕掩、取也、自レ關而東曰レ掩。〔淮南子、主術訓〕畋不レ掩レ羣。〔注〕掩、盡也。㋣あはせる。ひろい。〔方言、三〕掩、同也、江淮南楚之閒曰レ掩。〔張衡、東京賦〕掩二觀九隩一。〔注〕薛曰、掩、猶レ及也。〔孔子家語、辨樂〕掩二有四方一。〔注〕掩、同也。㋠おそふ。ふいをうつ。〔左氏、莊、二十九、輕曰レ襲、疏〕掩二其不備一曰レ襲。❷**とまる**。やめる。倓（1－768）に通ず。〔說文通訓定聲〕掩、叚借爲レ倓。〔方言、十二〕掩、止也。〔王褒、洞簫賦〕掩以絶滅。〔注〕善曰、掩、止息貌。〔班昭、女誡〕室人和則謗掩。❸**ただす**。檢（6－15684）に通ず。〔說文通訓定聲〕掩、叚借爲レ檢。〔淮南子、道應訓〕大人之行、不二掩以一レ繩。❹**うかがふ**。頭を門にさし入れてぬすみみする。閃（11－41214）に通ず。〔說文通訓定聲〕掩、叚借爲レ閃。〔淮南子、俶眞訓〕其兄掩レ戶而入覘レ之。❺**そそぐ**。水をかける。淹（7－17696）・瀸（7－18706）に通ず。〔說文通訓定聲〕掩、叚借爲レ淹、實爲レ瀸。〔禮、祭義、三盆レ手、注〕三盆レ手者、三掩レ手也。〔釋文〕掩、本亦作レ淹。❻**ねりぎぬ**。屍の首を裹むもの。〔儀禮、士喪禮〕掩練帛、廣終レ幅、長五尺、析二其末一。❼**ぜにうち**。賭博の一。〔後漢書、王符傳〕或以二游博持掩一爲レ事。〔注〕掩、謂二意錢一也。❽**物のさま**。掩掩（11）を見よ。❾**たちまち**。奄（3－5881）に通ず。〔左氏、昭、十三〕蔿掩。〔漢書、古今人表〕薳奄。❿**なびく**。掩苒（53）を見よ。㊁**おほひとる**。揜（5－12359）に同じ。〔集韻〕揜、覆取也、或从レ奄。㊂**いとぐちを振り出す**。或は䋎（8－27588）に作り、通じて淹（7－17696）に作る。〔集韻〕掩、繅レ絲以レ手振二出緒一也、或从レ糸、通作レ淹。㊃**うつ**。〔集韻〕掩、打也。


掩（三禮圖）

【掩薆】1エンアイ おほひかくす。おほはれかくれる。掩藹。

【掩藹】2エンアイ おほひかくす。〔王褒、關山篇〕關山恆掩藹、高峯白雲外。

【掩惡】3エンアク 惡をかくす。〔白虎通、諡〕掩レ惡揚レ善。

【掩遏】4エンアツ 止める。ひきとめる。塞ぎとめる。〔宣和書譜、孔琳之〕以二剛正自力一、不レ能三阿二諛當レ前者一、故奄二奄衆人後一、至二於作字之工一、人不二得而掩遏一也。

【掩衣】5エンイ 袈裟をいふ。〔說原〕袈裟、一名掩衣、謂下覆二左膊一而掩中右腋上也。

【掩有】6エンイウ おほひ有する。併せ有つ。〔漢書、天文志〕掩二有四方一。〔漢書、敍傳下〕掩二有東土一。〔孔子家語、辨樂〕掩二有四方一。〔注〕掩、同也。

【掩鬱】7エンウツ おほひふさぐ。〔木華、海賦〕呵嗽掩鬱。

【掩映】8エンエイ ❶おほひかくす。映は隱。〔李白、大鵬賦〕掩二映乎四海之半一。❷おほひうつす。〔李郢、江亭春霽詩〕春風掩映千門柳、曉色凄涼萬井煙。

【掩翳】9エンエイ おほひかくす。又、おほはれたか

げ。〔釋名、釋天〕陰而風曰㆑曀、曀、翳也、言㆘掩㆓翳日光㆒使㆖不㆑明也。〔東京夢華錄、二、酒樓〕綵樓相對、繡旆相招、掩㆓翳天日㆒。

【掩咽】10 エンエツ 顏をおほうてむせび泣くこと。〔江淹、齊太祖高皇帝誄〕深㆓酸舊物㆒、掩㆓咽故臣㆒。

【掩掩】11 エンエン にほひの盛なさま。芬芬。馥郁。〔宋玉、高唐賦〕越香掩掩。〔注〕良曰、掩掩、香氣皃。

【掩蓋】12 エンガイ ❶おほふ。おほひかくす。又、おほひ。〔戰國、東周策〕宋君奪㆓民時㆒以爲㆑臺、而民非㆑之、無㆔忠臣以掩㆓蓋之㆒也。〔荀子、王制〕我今將脩㆓飾之拊㆔循之掩㆕蓋之於府庫㆒。❷敵彈を防ぐために塹壕等の上に水平に作る屋根。軍隊用語。

【掩迒】13 エンカウ わだちをおほふ。〔張衡、東京賦〕軌塵掩㆑迒。

【掩骼】14 エンカク されぼねをおさめる。揜骼。〔禮、月令〕掩㆑骼埋㆑胔。〔注〕骨枯曰㆑骼、肉腐曰㆑胔。〔周禮、秋官、序官、蜡氏、注〕蜡、骨肉腐臭、蠅蟲所㆑蜡也、月令曰、掩㆑骼埋㆑胔、此官之職也。〔後漢書、趙咨傳〕但以㆓生者之情㆒、不㆑忍㆑見㆓形之毀㆒、乃有㆓掩㆑骼埋㆑窆之制㆒。〔魏志、崔琰傳〕掩㆑骼埋㆑胔。

【掩坎】15 エンカン おほひかくす穴。墓穴をいふ。〔孔子家語、曲禮子貢問〕其壙掩坎、深不㆑至㆓於泉㆒。〔潘岳、西征賦〕臨㆓掩坎㆒而累抃。

【掩棄】16 エンキ おほひすてる。〔趙微明、回軍跛者詩〕常恐道路旁、掩棄狐兔塋。

【掩泣】17 エンキフ 面を掩うて泣く。〔任昉、王文憲集序〕有識銜㆑悲、行路掩泣。

【掩卷】18 エンクワン 書物をおほつて讀むことを止める。〔李白、翰林讀㆑書言㆑懷呈㆓集賢諸學士㆒詩〕片言苟會㆑心、掩㆑卷忽而笑。

【掩關】19 エンクワン 關門をとぢる。掩門(87)に同じ。〔羊士諤、雨中寒食詩〕令節逢㆓煙雨㆒、園亭但掩㆑關。〔錢起、歲初歸㆓舊山㆒詩〕求仲應㆑難㆑見、殘陽且掩㆑關。

【掩觀】20 エンクワン おほひ觀る。大觀する。〔張衡、東京賦〕掩㆓觀九隩㆒、靡㆓地不㆑營。

【掩羣】21 エングン 狩の時、獸羣を襲ひ圍んで捕へること。〔禮、曲禮下〕大夫不㆑掩㆑羣。〔疏〕羣者、禽獸共聚也、羣聚則多、不㆑可㆔掩㆓取之㆒。

【掩脛】22 エンケイ 脛をおほふ。脛をうづめる。〔薛季宣、誠臺雪望懷㆓子都㆒詩〕掩㆑脛誠臺雪、吟頭秪自昂。

【掩擊】23 エンゲキ 敵の不意をおそひうつ。又、ふいうち。掩襲。〔後漢書、虞詡傳〕因掩擊、大破㆑之。〔北史、崔浩傳〕宜㆔分㆑軍隱㆑山、掩㆓擊不意㆒。

【掩月】24 エンゲツ 月を掩ひかくす。〔晉書、慕容廆載記贊〕角端掩㆑月、步搖翻㆑霜。〔杜甫、朝獻㆓太清宮㆒賦〕萬神開八駿回、旗掩㆑月車奮㆑雷。

【掩軒】25 エンケン 長廊の窓を閉ぢる。〔沈約、學省愁臥詩〕愁人掩㆑軒臥、高牕時動㆑扉。〔注〕善曰、掩、猶㆑閉也、軒、長廊也。

【掩戶】26 エンコ 戶口をおほふ。戶を閉める。〔後漢書、獨行、繆肜傳〕兄弟四人、皆同㆓財產㆒、及㆓各娶㆑妻、諸婦遂求㆓分異㆒、又數有㆓鬬爭之言㆒、肜深懷㆓憤歎㆒、乃掩㆑戶自撾曰、繆肜、汝修㆑身謹㆑行、學㆓聖人之法㆒、將㆔以齊㆓整風俗㆒、柰何不㆑能㆑正㆓其家㆒乎。

【掩護】27 エンゴ おほひ守る。敵が攻めて來るのを遮り味方を掩つて護る。又、味方の行動または目的を、敵の攻擊から護る。

【掩口】28 エンコウ 口をおほふ。❶呼吸をひそめる。〔禮、曲禮上〕負劍辟咡詔㆑之、則掩㆑口而對。〔注〕習㆘其鄉㆓尊者㆒屛氣㆖也。〔疏〕掩㆑口、恐㆓氣觸㆑人。❷ものをいはぬ。沈默する。〔史記、武帝紀〕臣恐㆘效㆓文成㆒、則方士皆掩㆖口、惡敢言㆑方哉。〔後漢書、酷吏、陽球傳〕莫㆑不㆘被㆓蒙殊恩㆒、蟬㆗蛻滓濁㆖、是以有識掩㆑口、天下嗟歎。❸笑ふさま。〔孔子家語、子路初見〕左右皆掩㆑口而笑。

〖掩口葫蘆〗29 yen^2 k'ou^3 hu^2 lu 口を掩うて語らない。

【掩攻】30 エンコウ 不備に乘じておそひ攻める。〔魏志、三少帝、齊王芳紀〕征南將軍王昶渡㆑江、掩㆓攻吳㆒破㆑之。

【掩忽】31 エンコツ たちまち。にはか。奄忽。〔漢嚴訢碑〕掩忽徂亡。

【掩藏】32 エンザウ かくす。おほひしまふ。揜藏。〔白虎通、崩薨〕所㆔以掩㆓藏形惡㆒也。

【掩殺】33 エンサツ 相手の不意に乘じて殺す。〔金史、石抹卞傳〕漢軍將吏、乘㆑夜掩㆓殺闌子山㆒。

【掩疵】34 エンシ きずをおほふ。過失を隱す。〔謝偃、高松賦〕誠責㆑躬而咎㆑己、豈藏㆑瑕而掩㆑疵。

【掩耳】35 エンジ みみをおほふ。聞かないさま。揜耳。〔左氏、昭、三十一〕苟樂掩㆑耳而走。〔淮南子、說山訓〕遽掩㆓其耳㆒、憎㆓人聞㆑之可也。〔顏氏家訓、風操〕猶㆑欲㆑掩㆑耳。

〖掩㆑耳偸㆑鈴〗35′ ミミヲオホウテスズヲヌスム 耳をおほひて鈴をぬすむ。愚者の喩。〔能改齋漫錄〕諺有㆓掩㆑耳偸㆑鈴。

【掩收】36 エンシウ あはせおさめる。〔漢書、禮樂志〕「掩㆓收嘉穀㆒。

【掩袖】37 yen^3 hsiu^4 袖で顏をかくす。

【掩執】38 yen^3 chih^2 捕へる。捉へる。

【掩襲】39 エンシフ 敵の不意をうつ。掩擊。掩討。〔魏志、傅嘏傳〕然自㆑治㆑兵以來、出入三載、非㆓掩襲之軍㆒也。〔陳琳、爲㆓袁紹㆒檄㆓豫州㆒文〕內相掩襲。〔注〕善曰、左氏傳曰、凡師輕曰㆑襲、杜預曰、掩㆓其不㆑備也。〔晉書、羊祜傳〕每與㆓吳人㆒交㆑兵、剋㆑日方戰、不㆑爲㆓掩襲之計㆒。〔宋史、葛懷敏傳〕發㆑兵掩襲、盡誅㆓其黨㆒。

【掩邪】40 エンジヤ 邪をおほひかくす。〔戰國、燕策〕諺曰、厚者不㆓毀㆑人以自益㆒也、仁者不㆓危㆑人以要㆑名、故掩㆓人之邪㆒者、厚㆑人之行也、救㆓人之過㆒者、仁者之道也。

【掩障】41 エンシヤウ おほひさへぎる。揜障。〔論衡、說日〕謂㆓之合襲相掩障㆒。

【掩弱】42 エンジヤク 弱者をおそふ。〔淮南子、脩務訓〕強掩㆑弱、衆暴㆑寡。

【掩取】43 エンシユ 不意に乘じて奪ひ取る。揜取。〔後漢書、酷吏、黃昌傳〕後乃密遣㆓親客㆒、至㆓門下賊曹家㆒、掩取得㆑之。

【掩飾】44 エンシヨク ごまかす。過を飾る。〔紅樓夢、三十三回〕公子也不㆓必掩飾㆒。〔福惠全書、錢穀部、比較〕希㆔圖掩㆓飾一時㆒。

【掩縟】45 エンジヨク まばゆい色彩を掩ひかくすこと。〔謝莊、月賦〕列宿掩縟、長河韜映。

【掩心】46 エンシン ❶胸を掩ふ。胸にあたる。〔戰國、韓策〕天下之強弓勁弩、皆自㆑韓出、谿子少府時力距來、皆射㆓六百步之外㆒、韓卒超足而射、百發不㆑暇㆑止、遠者達㆑胷、近者掩㆑心。〔西京雜記、三〕咸陽宮、云云、有㆓方鏡㆒、云云、人有㆓疾病在㆑內、則掩㆑心而照㆑之、則知㆓病之所㆑在。❷yen^3 hsin^1 刀の鍔元。

【掩身】47 エンシン 身をかくし掩ふ。〔禮、月令〕仲冬之月、是月也、日短至、云云、君子齊戒、處必掩㆑身。

【掩屑】48 エンセツ 風吹きそよぐ。〔謝靈運、撰征賦〕聆㆓悲飈之掩屑㆒。

【掩截】49 エンセツ おほひたつ。〔後漢書、西羌傳〕追尾掩截、其道自窮、便㆑人利㆑事、大功立矣。

【掩攝】50 エンセツ 犯罪人を不意に乘じて逮捕すること。〔唐律、名例、同居爲㆑隱、疏議〕假有㆓鑄錢及盜之類㆒、事須㆓掩攝追收㆒。

【掩絕】51 エンゼツ おほひたつ。〔史記、齊太公世家〕齊兵掩㆓絕魯歸道㆒。

【掩冉】52 エンゼン 風が物を吹き靡かす。掩苒に同じ。〔高啓、秋日江居寫㆑懷詩〕芙蓉澤國瀰漫雨、禾黍田疇掩冉風。

【掩苒】53 エンゼン 風が物を吹き靡かす。奄冉。〔柳宗元、袁家渴記〕振㆓動大木㆒、掩㆓苒衆草㆒。

【掩善】54 エンゼン 善をかくす。〔六韜、文韜、上賢〕掩㆑善揚㆑惡。

【掩聰】55 エンソウ 聰明をおほひかくす。〔孔子家語、入官〕王冕而前旒、所㆓以蔽㆑明也、紘紞充耳、所㆓以掩㆑聰也。

【掩足】56 エンソク あしをおほひつつむ。〔儀禮、士喪禮〕冒、緇質、長與㆑手齊、經殺掩㆑足。〔風俗通、怪神〕持㆑被掩㆑足、跣脫幾失再三。

【掩息】57 エンソク やむ。やめる。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕設言虛亡、則厚德掩息。〔王融、三月三日曲水詩序〕讒莠蔑㆑聞、攘爭掩息。〔注〕翰曰、掩息、言㆑無也。

【掩塞】58 エンソク おほひふさぐ。掩閉。〔吳越春秋、句踐伐吳外傳〕上天蒼蒼、不㆑可㆓掩塞㆒。〔後漢書、蘇章傳〕私掩㆓塞家椁㆒。

【掩賊】59 エンゾク 賊を掩ひかくす。〔左氏、文、十八〕掩㆑賊爲㆑藏。〔注〕掩、匿也。〔會箋〕言、得㆓賊之物㆒而隱㆓庇其人㆒、猶今之窩主之謂。

【掩替】60 エンタイ 他人の不備に乘じて、これを覆へし、自分がとつてかはること。〔晉書、劉毅傳〕北海王宮上疏曰、云云、臣謹按、謚者行之迹、而號者功之表、今毅功德竝立、而有㆑號無㆑謚、云云、

願聖世擧㆓春秋之遠制㆒、改㆓列爵之舊限㆒、使㆔夫功行之實不㆓相掩替㆒、則莫㆑不㆓率賴㆒。

【掩討】61エンタウ 敵の不意を襲ってうつ。掩擊。〔魏志、武帝紀〕掩㆓討逆節㆒、折㆓衝四海㆒。

【掩踔】62エンタク 越えまさる。〔魏書、文苑傳序〕頡㆓頏漢徹㆒、掩㆓踔曹丕㆒、氣韻高豔、才藻獨構。

【掩肘】63エンチウ ひぢをおほふ。〔陶潛、詠㆓貧士㆒詩〕弊襟不㆑掩㆑肘、藜羹常乏㆑斟。

【掩住】64 yen^3 chu^4 ❶止める。❷はさむ。

【掩涕】65エンテイ 顏をおほひかくして涕をながす。〔楚辭、離騷〕長太息以掩涕兮、哀㆓民生之多艱㆒。〔漢書、揚雄傳上〕臨㆓江瀕㆒而掩涕兮。〔潘岳、西征賦〕眷㆓鞏洛㆒而掩涕。〔資治通鑑、唐紀〕(德宗、興元元年)上駐㆑馬慰撫、爲㆑之掩涕。〔注〕掩㆑面垂㆑涕、謂㆓之掩涕㆒。

【掩跳】66エンテウ 遊戲の名。掩撲(81)を見よ。

【掩燈】67エントウ 燈をおほふ。〔李商隱、屛風詩〕掩㆑燈遮㆑霧密如㆑此、雨落月明俱不㆑知。

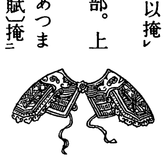
【掩匿】68エントク かくす。〔史記、曹相國世家〕專掩㆓匿覆㆔蓋之㆒、府中無㆑事。〔漢書、曹參傳〕掩㆓匿覆㆔蓋之㆒。〔後漢書、和帝紀〕掩㆓匿盜賊㆒。

【掩破】69エンパ 不意に攻めてやぶること。〔後漢書、班固傳下〕憲上遣㆑固行㆓中郎將事㆒、將㆓數百騎㆒、與㆓虜使㆒俱出㆓居延塞㆒迎㆑之、會㆓南匈奴㆒掩㆓破北庭㆒。

【掩敗】70エンパイ おそはれやぶれる。〔新書、耳痺〕高㆓臺榭㆒而掩敗。

【掩謗】71エンバウ そしりをおほひかくす。〔左氏、昭、二十七〕仁者殺㆑人以掩㆑謗、猶弗㆑爲也。

【掩膊】72エンハク 鎧の一部。上膊部を掩ふもの。


掩膊
(武備志)

【掩薄】73エンパク おほひあつまる。〔司馬相如、上林賦〕掩㆓薄水渚㆒。〔注〕善曰、張揖曰、掩、覆也、郭璞曰、薄、猶㆑集也。

【掩鼻】74エンビ ❶臭氣を厭うて鼻をつまむ。〔孟子、離婁下〕西子蒙㆓不潔㆒、則人皆掩㆑鼻而過㆑之。〔注〕懼㆑聞㆓其臭㆒也。〔新書、勸學〕予恐過㆑之、有㆓掩㆑鼻之容㆒也。❷詐術をもうけて人をおとし入れること。揜鼻(**5－12359‥16**)を見よ。〔韓非子、內儲說下、六微〕魏王遺㆓荊王美人㆒、荊王甚悅㆑之、夫人鄭袖、云云、因謂㆓新人㆒曰、王甚悅㆓愛子㆒、然惡㆓子之鼻㆒、子見㆑王常掩㆑鼻、則王長幸㆑子矣、於㆑是新人從㆑之、每㆑見㆑王常掩㆑鼻、王謂㆓夫人㆒曰、新人見㆓寡人㆒常掩㆑鼻、何也、對曰、云云、嘗言、惡㆑聞㆓王臭㆒、王怒曰、劓㆑之、云云、御者因揄㆑刀而劓㆓美人㆒。〔梁簡文帝、怨歌行〕娥眉本多㆑嫉、掩㆑鼻特成㆑虛。〔韓偓、故都詩〕掩鼻計成終不㆑覺、馮驩無㆑路斅㆓鳴鷄㆒。

【掩鼻吟】74′エンビギン 鼻をおさへて歌ふこと。晉の謝安は鼻疾のために吟聲が濁ってゐたが、時人はこれを愛して、鼻をおさへてこれに效つたといふ故事。擁鼻吟(**5－12781‥62**)を見よ。〔晉書、謝安傳〕安本能爲㆓洛下書生詠㆒、有㆓鼻疾㆒、故其音濁、名流愛㆓其詠㆒而弗㆑能㆑及、或手掩㆑鼻以斅㆑之。

【掩赴】75エンフ かくれおもむく。〔後漢書、馬援傳〕援乃潛㆓行閒道㆒、掩㆓赴其營㆒。

【掩敷】76 yen^3 fu^1 膏藥などを貼りつける。

【掩覆】77エンフク おほひかくす。〔魏志、中山恭王傳〕其微過細故、當㆔掩㆓覆之㆒。〔路史〕瘞㆑之不㆑封不㆑植也、掩覆而已。

【掩閉】78エンペイ おほひとぢる。おほひふさぐ。掩塞(58)に同じ。〔後漢書、袁閎傳〕母去、便自掩閉、兄弟妻子、莫㆑得㆑見也。

【掩蔽】79エンペイ おほひかくす。轉じて、他の見聞の明を邪魔する。揜弊。〔韓非子、備內〕大臣比周、蔽㆑上爲㆑一、陰相善而陽相惡、以示㆑無㆑私、相爲㆓耳目㆒、以候㆓主隙㆒、人主掩蔽、無㆑道㆑得㆑聞。〔說苑、君道〕雍塞掩蔽。〔後漢書、郎顗傳〕大風掩㆓蔽天地㆒。〔列女傳、賢明、魯黔婁妻傳〕頌尸不㆓掩蔽㆒、猶諡曰㆑康。

【掩捕】80エンポ おそひ捕へる。逮捕する。〔漢書、韓信傳〕掩㆓捕梁王㆒。〔後漢書、何顒傳〕有㆘被㆓掩捕㆒者㆖。〔宋史、宗室四、善俊傳〕監司議㆓調㆑兵掩捕㆒。

【掩撲】81エンボク 錢戲の名。意錢。〔一切經音義、十二〕纂文曰、掩撲・掩跳、錢戲也、俗謂㆓之射數㆒、或云㆓射意㆒也。

【掩沒】82エンボツ おほはれかくれる。〔廣川書跋〕覆壓掩沒、故不㆔復得㆓其全文㆒。

【掩埋】83エンマイ 埋める。埋葬する。〔習藝所章程〕因㆑病死、云云、如無㆓家屬㆒、或道途遙遠者、別暫行㆓掩埋㆒、樹㆑標待㆑識。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕屍着㆓屍親㆒暫殯掩埋。

【掩面】84エンメン ❶死者の面をおほふねりぎぬ。〔荀子、禮論〕設㆓掩面儇目㆒。〔注〕士喪禮、掩用㆓練帛㆒、廣終幅、長五尺。❷かほをおほひかくす。見るに忍びぬさま。又泣くさま。〔山海經、海內南經、梟陽國〕云云、左手操㆑管、〔注〕笑則上脣掩㆓其面㆒。〔宋玉、神女賦〕西施掩㆑面。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕掩㆑面涕泣闌干。

【掩茂】85エンモ 閹茂(**11－41372‥18**)・淹茂(**7－17696‥63**)を見よ。

【掩目】86エンモク 目をおほひかくす。揜目。〔淮南子、主術訓〕掩㆑目而視㆓青黃㆒。〔後漢書、崔駰傳〕掩㆑目而淵潛。〔魏志、陳琳傳〕陳琳進曰、云云、諺有㆓掩㆑目捕㆑雀、夫微物尚不㆑可㆓欺以得㆑志、況國之大事。

【掩門】87 yen^3 men^2 戶を閉める。戶をたてる。

【掩抑】88エンヨク おさへとどめること。〔王融、琵琶詩〕掩抑有㆓奇態㆒、悽鏘多㆓好聲㆒。〔白居易、代㆓琵琶弟子㆒謝㆔女師曹供奉寄㆓新調弄譜㆒詩〕蕤賓掩抑嬌多怨、散水玲瓏峭更清。

【掩纇】89エンライ きずのある所をおほひかくす。〔竇臮、述書賦〕愧㆓隋珠之掩㆑纇。

【掩淚】90エンルイ 淚をおほひかくす。淚をおさへる。掩泣。〔陸機、漢高祖功臣頌〕聳㆑顏誚㆑項、掩㆑淚寤㆑主。〔左思、嬌女詩〕掩㆑淚俱向㆑壁。〔陶潛、雜詩、其九〕掩㆑淚汎東逝、順㆑流追㆑時遷。

【掩骨會】92エンコツクワイ 清代、遠地貧民の死亡者を埋葬することを職とする官設の會。〔津門雜記〕。

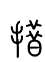
【掩旗息鼓】93 yen^3 ch'i^2 hsi^2 ku^3 內密の話。

【措】12286

㊀ソ 〔集韻〕倉故切 遇 ㄘㄨㄛˋ ts'uo^4

㊁サク シャク 〔集韻〕側格切 陌

㊂セキ シャク 〔集韻〕七迹切 陌


小篆

㊀❶おく。㋑すゑる。もと揞(**5－12769**)に作る。〔正字通〕措、本作㆑揞。〔說文〕揞、置也、从㆑手昔聲。〔段注〕立㆑之爲㆑置、捨㆑之亦爲㆑置。措之義亦如㆑是。〔禮、曲禮下〕措㆓之廟㆒。〔釋文〕措、置也。〔禮、禮器〕措則正。〔疏〕措、置也、言㆓置㆑禮在㆑身、則身正㆒也。〔論語、子路〕民無㆑所㆑措㆓手足㆒。〔皇疏〕措、猶㆓置立㆒也。㋺まうける。〔太玄經、玄攡〕攡㆓措陰陽㆒而發㆑氣。〔注〕措、猶㆑設也。㋩ほどこしく。〔增韻〕措、施布也。〔易、繫辭上〕擧而措㆓之天下之民㆒、謂㆓之事業㆒。㋥すてる。やめる。〔周禮、考工記、梓人〕如㆑將㆓廢措㆒。〔注〕措、猶㆑頓也。〔禮、中庸〕學㆑之弗㆑能、弗㆑措也。〔釋文〕措、置也。〔淮南子、說山訓〕物莫㆘措㆓其所㆑修、而用㆗其所㆖短也。〔漢書、文帝紀〕幾㆓於刑措㆒。❷**はからふ**。はからひ。〔禮、中庸〕時措之宜也。〔注〕時措、言得㆓其時㆒而用也。〔疏〕措、猶㆑用也。〔宋史、夏國傳〕茫然失㆑措。❸**まぜる**。まじはる。〔史記、燕世家〕內措㆓齊晉㆒。〔注〕索隱曰、措、交雜也。❹**あげる**。〔廣韻〕措、擧也。❺**なげる**。〔廣韻〕措、投也。❻**さす**。簎(**8－26457**)に通ず。〔說文通訓定聲〕措、段借爲㆑簎。〔淮南子、繆稱訓〕猨狖之捷來措。〔注〕措、刺也。❼或は厝(**2－2961**)に作り、通じて錯(**11－40579**)に作る。〔說文、段注〕經傳多段㆑錯爲㆑之、賈誼傳段㆑厝爲㆑之。〔集韻〕措、或从㆑厂、通作㆑錯。❽醋(**11－39911**)に通ず。措大(12)を見よ。㊁❶**はさむ**。笮(**8－25945**)に通ず。〔漢書、文三王傳〕王使㆓謁者中郎胡等遮㆒止閉㆑門、李太后與爭㆑門措㆑指。〔注〕晉灼曰、許愼云、措、置字、借

㠯爲㆑笮耳、師古曰、謂㆑爲㆓門扉所㆒㆑笮。㊁**とらへる**。おひとらへる。〔集韻〕措、迫捕也。〔漢書、王莽傳下〕迫㆓措青徐盜賊㆒。〔注〕師古曰、措、讀與㆑笮同、音莊客切。[三]**うがつ**。**又、そこなふ**。刺(**2－1969**)に同じ。〔集韻〕刺、穿也、傷也、或作㆑措。

【措意】1 ソイ　意におく。意を注ぐ。留意。錯意。〔孔子家語、致思〕大夫不㆓以措㆒㆑意。

【措畫】2 ソクワク　とりはからふ。又、とりはからひ。〔宋史、李稙傳〕措畫有㆑方、廷議倚重。

【措爪】3 ソサウ　爪をほどこす。つめでてむかふ。〔老子、五十〕虎無㆑所㆑措㆓其爪㆒。

【措止】4 ソシ　事の始末をつける。措置(14)に同じ。

【措施】5 ソシ　手配する。施行する。實行處置する。〔禮經學術〕然政事禮樂刑法之措施、正恐成王年幼、未㆑能㆓盡暗㆒。

【措詞】6 ソジ　詩文の言葉の使ひかた。措辭に同じ。

【措辭】7 ソジ　言辭を設ける。ものをいふ。轉じて、詩文などの文句の配置。〔逸周書、官人解〕措㆑辭而弗㆑遂。〔論衡、刺孟〕見㆓彼之問㆒、則知㆓其措辭所㆑欲㆑之矣。

【措手】8 tsʻuo⁴ shou³　處置する。

【措處】9 tsʻuo⁴ chʻu⁴　工面する。取り捌く。處置する。

【措齊】10 tsʻuo⁴ chʻi²　工面して集める。整理する。

【措足】11 ソソク　足を容れ置く。安んじて居るさま。〔聞見記〕措㆓足乎平穩之地㆒、則不㆑跌。〔日本政記、後村上天皇論〕雖㆑無㆓措㆑足之地㆒、天下爲㆓之用㆒。

【措大】12 ソダイ　貧士の稱。又、醋大に作る。古來定解無く、或は士流の通稱で、其の峭酸なること四民に冠たる意に取るといひ、或は衣冠儼然として、犯すべからず、これを犯せば其の驗あること醋よりも甚しい意に取るといふ。又、醋駄の轉で、古、新鄭の郊に居た貧士が、醋を驢に駄して行商し、落魄して顧みられず、邑人これを稱して醋駄と號したのに因るといひ、又、鄭に醋溝あり、士流多く其の東に居るものを大族とし、甲乙を以てこれを分つたのによつて稱すといふ。又、士流の善く大事を擧措するの意に取つて稱すともいふ。後、專ら貧儒・貧書生等の意に用ひる。〔資暇錄、措大〕世稱㆓士流㆒爲㆓醋大㆒、言㆔其峭酸而冠㆓四民之首㆒、一說、衣冠儼然、黎庶望㆑之、有㆓不㆑可㆑犯之色㆒、犯必有㆑驗、比㆓於醋㆒而更驗、故云、或云、往有㆓士人㆒、貧居㆓新鄭之郊㆒、以㆑驢負㆑醋、巡㆑邑而賣、復落魄不㆑調、邑人指㆓其醋駄㆒而號㆑之、新鄭多衣冠所㆑居、因總被㆓斯號㆒、亦云、鄭有㆓醋溝㆒、士流名家、其州溝之東、尤多㆓甲族㆒、以㆓甲乙㆒敍㆑之、故曰㆓醋大㆒、愚以爲、四說亦非也、醋宜㆑作㆑措、止言㆔其能擧㆓措大事㆒而已。〔李商隱雜纂、不㆑如㆑不㆑解〕措大解㆑音、則廢㆑業、婦人解㆑詩、則犯㆓物議㆒。〔五代史、東漢劉旻世家〕劉旻號㆓令東偏㆒先進、王得中叩㆑馬諫曰、南風甚急、非㆓北軍之利㆒也、宜㆓稍待㆒㆑之、旻怒曰、老措大毋㆔妄沮㆓吾軍㆒。〔唐詩紀事、崔鉉〕宣宗嘗謂㆓侍臣㆒曰、崔鉉眞貴人、裴休眞措大。〔五雜組、物、三〕今人以㆓秀才㆒爲㆓措大㆒、措者、醋也、蓋取㆓寒酸之味㆒。

【措大官】13 ソダイクワン　貧乏な役人。寒酸な官。〔九國志〕蜀王宗銖、授㆓司戶參軍㆒、問㆑吏曰、參軍何官、服何衣、曰、下州判司、綠衫槐笏而已、宗銖大笑絕倒曰、若要㆓頭便斬去㆒、何能作㆓措大官㆒耶。

【措置】14 ソチ　㊀事柄の始末をつける。又、さばき。處分。措止。錯置。〔宋史、徽宗紀四〕令㆓工部侍郎孟揆、親往措置㆒。㊁手足をおく。安んじ居ること。〔禮、中庸、學㆑之弗㆑能弗㆑措也、疏〕言㆘學不㆑至㆓於能㆒、不㆓措置休廢㆒、必待㆑能㆑之乃已㆖也。〔後漢書、光武十王、東平憲王蒼傳〕毎㆓會見㆒、踧踖無㆑所㆓措置㆒。

【措廢】15 ソハイ　すてやめる。〔墨子、節葬下〕仁者將㆑求㆘除㆓之天下㆒、相廢而使㆗人非㆑之終身勿㆖爲。〔閒詁〕相廢、義難㆑通、相、疑當㆑爲㆑措、與㆑廢義同。

【措辦】16 ソベン　はかつて處置する。籌辦。〔福惠全書、淸丈部、淸丈餘論〕白鏹從㆑何措辦。

【措理】17 tsʻuo⁴ li³　整へる。調整する。

【措斂】18 セキレン　租稅をとりたてる。聚斂。籍斂(**8－26676‥27**)の㊀に同じ。〔墨子、非樂上〕將㆘必厚措㆓斂乎萬民㆒、以爲㆗大鐘鳴鼓琴瑟竽笙之聲㆖。〔閒詁〕王云、措字以㆑昔爲㆑聲、措斂與㆓籍斂㆒同、案王說是也。

【措支剌】19 tsʻuo⁴ chih¹ la²　腦中が混亂すること。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇〕措支剌不對答。

【不㆑知㆑所㆑措】20 オクトコロヲシラズ　じつとして居られない。如何に處置すべきか判らない。〔先哲叢談、熊澤蕃山〕吾驚喜不㆑知㆑所㆑措。

【掫】

12287

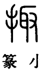
[一] ソウ ス　〔集韻〕將侯切　[尤]　ㄗㄡ tsou¹

[二] シウ シユ　〔集韻〕側九切　[有]

[三] ソウ シユ　〔集韻〕此苟切　[有]

[四] シユ ス　〔集韻〕遵須切　[虞]

[五] シウ シユ　〔集韻〕初尤切　[尤]



小篆

[一][二]㊀**まもる**。柝鼓の類をうつて夜まはりをする。〔說文〕掫、夜戒守有㆑所㆑擊也、从㆑手取聲、春秋傳曰、賓將㆑掫。〔左氏、襄、二十五〕陪臣干掫。〔注〕掫、行㆑夜也。〔左氏、昭、二十〕賓將㆑掫。〔注〕掫、行㆑夜也。㊁**たきぎ**。薪。又、あさがら。麻幹。〔康熙字典〕掫、按、木薪曰㆑掫。〔漢書、五行志下之上〕民驚走、持㆓稾或掫一枚㆒。〔注〕汝淳曰、掫、麻幹也。㊂**地名**。陝西省臨潼縣の東北。〔後漢書、劉玄傳〕赤眉立㆓劉盆子㆒、更始使㆓李松軍㆑掫以拒㆑之。〔注〕新豐有㆓鴻門亭㆒、掫城卽此也。㊃或は趣(**10－37207**)に作る。〔集韻〕掫、或作㆑趣。㊄**姓**。〔萬姓統譜〕掫、見㆓姓苑㆒。[三][四]㊀**うつ**。〔集韻〕掫、擊也。㊁**なす**。聚(**9－29093**)に通ず。〔說文通訓定聲〕掫、叚借爲㆑聚。〔廣雅、釋詁三〕掫、成也。[五]㊀**もつ**。〔廣雅、釋詁三〕掫、持也。〔集韻〕掫、持也。㊁**とる**。〔集韻〕掫、手取㆑物也。

【掫囊】1 シウダウ　ふくろの口をとぢる。蘊蓄を外にもらさないこと。學問はあつても實行しないこと。撮囊。揖囊。〔太平御覽、服用、囊〕莊子曰、人而不㆑學、命㆑之曰㆓視皮㆒、學而不㆑行、命㆑之曰㆓掫囊㆒。

【拏】

12288

ダ ナ　〔篇海〕女加切　[麻]

ひきあふ。〔篇海〕拏、相牽引也。

【⿰扌杀】

12289

セツ　揲(**5－12403**)の俗字。〔正字通〕⿰扌杀、俗揲字。

【掬】

12290

キク　〔集韻〕居六切　[屋]　ㄐㄩ chü²

㊀**すくふ**。むすぶ。兩手にもる。匊(**2－2523**)に同じ。〔集韻〕匊、說文、在㆑手曰㆑匊、或从㆑手。〔釋名、釋姿容〕掬、局也、使㆓相局近㆒也。〔左氏、宣、十二〕舟中之指可㆑掬也。〔釋文〕兩手曰㆑掬。㊁**兩のたなごころ**。〔禮、曲禮上〕受㆓珠玉㆒者以㆑掬。〔注〕掬、手中。㊂**くみとる**。みとる。〔鄭還古、杜子春傳〕饑寒之色可㆑掬。㊃**容量の名**。五合。〔小爾雅、廣量〕兩手謂㆓之掬㆒。〔注〕半升也。㊄**はなれる**。はなす。〔方言、七〕掬、離也、燕之外郊、朝鮮洌水之閒曰㆑掬。㊅[現]情が外にあらはれる。

【掬飮】1（キクイン）すくひ飮む。

【掬月】2（キクゲツ）水中の月をすくひ取る。掬水を見よ。

【掬水】3（キクスイ）水を兩手ですくふ。又、すくつた水。〔于良史、春山夜月詩〕掬レ水月在レ手、弄レ花香滿レ衣。〔施肩吾、咏レ手詩〕粧成皓腕洗二凝脂一、背接二紅巾一掬レ水時。

【掬泉】4（キクセン）手で泉をすくふ。〔李華、故左溪大師碑序〕布レ紙而衣、掬レ泉而齋。〔徐照、送二塵老入レ廣花米開田一詩〕遇レ景因開レ畫、思レ茶亦掬レ泉。

【掬壤】5（キクジヤウ）一つかみの土。〔抱朴子、外篇、良規〕龍門沸騰、非三掬壤所二能遏一。

【掬縮】6（キクシユク）かがみちぢまること。〔柳宗元、晉問〕搜攬流離、掬縮推移、梁會網疉、騰天彌圍。

【掬蹙】7（キクシユク）かがみちぢまること。〔化書〕蟲之無レ足、蛇能屈曲、蛭能掬蹙。

【掬弄】8（キクロウ）水をすくひもてあそぶ。〔陸游、放言詩〕摘嗅砌下花、掬弄澗底泉。

【可レ掬】9（キクスベシ）手ですくひとることができる。多いさま。〔左氏、宣、十二〕中軍下軍爭レ舟、舟中之指可レ掬也。〔會箋〕可レ掬者、言二其多一也。

【掬天皮】10（キクテンピ）苔の一。地衣の異名。〔本草、地衣草〕釋名、仰天皮、掬天皮。

【捆】12291 コン　捆（5－12131）の俗字。〔正字通〕捆、俗捆字。

【⿱⿰氵𠔉手】12292 ハン　攀（5－12506）に同じ。〔潘岳、射雉賦〕⿱⿰氵𠔉手レ場拄翳。〔注〕⿱⿰氵𠔉手、善作レ攀。

【掔】12293 ワン　擥（5－12364）に同じ。〔正字通〕擥、或作レ掔。

【⿰扌券】12294 ケン　拳（5－11996）の古字。〔字彙補〕⿰扌券、古拳字。

【⿰扌吴】12295 シ ジ　〔字彙補〕士支切　支　ささへる。〔字彙補〕⿰扌吴、支也。

【⿰扌叀】12296 [一]セン ゼン　〔集韻〕船釧切　霰　[二]タン ダン　〔集韻〕徒官切　寒

[一]**みづなは**。さげふり。物の邪枉を正すために繩を懸けること。或は⿰糸叀（8－27536）・⿰月叀（9－29641）に作り、通じて叀（2－3083）に作る。〔集韻〕⿰扌叀、望レ繩取レ正、周禮置レ臬以懸、是、或作二⿰糸叀⿰月叀一、通作レ叀。[二]**まるめる**。摶（5－12642）に同じ。〔集韻〕摶、說文、圜也、謂二以レ手圜一レ之也、或省。

【掻】12297 サウ ソウ　〔集韻〕先到切　號

うつ。攪掻。或は搔（5－12477）に作る。〔集韻〕掻、攪掻、搏也、或作レ搔。

【⿱舌手】12298 カツ　舝（9－30341）に同じ。〔集韻〕舝、或作レ⿱舌手。

【⿱与手】12299 ハイ　拜（5－11969）の古字。〔字彙補〕⿱与手、古拜字。

【捀】12300 アツ　〔篇海〕音遏

きりかぶ。〔篇海〕捀、伐木餘捀也。

【⿰扌𠕒】12301 シウ　搊（5－12453）に同じ。〔篇海〕⿰扌𠕒、與レ搊同。

【⿱𠬪手】12302 ラン　亂（1－214）の古字。〔篇海〕⿱𠬪手、古亂字。

【⿰扌色】12303 ハ　把（5－11874）に同じ。〔篇海〕⿰扌色、同レ把。

【⿰扌⿱厶天】12304 ケイ　義未詳。〔篇海〕⿰扌⿱厶天、音攜。

【⿰扌坴】12305 リク・クツ　義未詳。〔篇海〕⿰扌坴、音六、又音掘。

【捐】12306 イフ・シヨ　義未詳。〔篇海〕捐、伊入切、又相居切。

【掭】12307 テン　〔中華大字典〕他念切　豔　ㄊㄧㄢˋ t'ien⁴

㊀**燈心をかきたてる棒**。桥の譌字。〔中華大字典〕掭、挑二剔燈火一之杖曰レ掭、見二容齋五筆一、按、廣韻五豔、桥火杖、則从レ木爲レ正。㊁[現]㋑かかげる。かきたてる。㋺操つる。㋩筆を硯の中に入れる。

【掭燈】1 t'ien⁴ têng¹　燈心をかきたてる。

【掭筆】2 t'ien⁴ pi³　字を書く時、筆の先を硯につけてそろへること。

【掭鎖】3 t'ien⁴ suo³　鎖をこぢあける。

【掮】12308 ケン　〔中華大字典〕讀若レ肩。ㄑㄧㄢˊ ch'ien²

㊀**になふ**、かつぐ。〔中華大字典〕掮、俗謂二以レ肩擧一レ物也。㊁[現]才取。仲買人。又、卸賣問屋を兼ねる者。

【掮客】1 ch'ien² k'en⁴　人に代つて商品を賣買する者。商界の仲介者。賣買の仲介をして、成立すれば手數料を得る小仲買。上海地方の語。

【掮賣】2 ch'ien² mai⁴　店を持たずに行商する。

【掯】12309 コウ　〔辭海〕肯去聲　ㄎㄣˋ k'en⁴

㊀**とどこほる**。とどこほつてひらかない。〔辭海〕掯、俗謂二滯留不一レ發曰レ掯。㊁[現]㋑壓伏する。㋺強奪する。㋩強ひて無理に。

【掯手】1 k'en² shou³　決心がつかず躊躇する。

【掯阻】2 k'en⁴ tsu³　阻む。遮ぎる。

【掯照】3 k'en⁴ chao⁴　下附すべき免狀を抑留して出さぬこと。

【掯賬】4 k'en⁴ chang⁴　借りた金を出し澁つて返さぬこと。

【掯贖】5 k'en⁴ shu²　受け出すべき抵當物を澁つて受出さぬこと。

【掯呑】6 k'en⁴ t'uen¹　一手に買占める。壟斷する。

【掯留】7 k'en⁴ liu²　無理に引留める。

【掯勒】8 k'en⁴ lê⁴　金を無理取する。脅迫して要求する。〔福惠全書、莅任部、馭衙役〕不令鎖帶該胥恣意掯勒。

【掯口說話】9 k'en⁴ k'ou³ shuo¹ hua　不得要

領に話す。

【掰】12310 ハイ 擘(5-12092)に同じ。

【掱】12311 シユ 俗に掏摸を扒掱といふ。

【掲】12311′ ケイ 揭(5-12389)の略字。

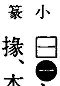
九畫

【掽】12312 ハウ ビヤウ 〔字彙〕蒲孟切 敬 ㄆㄥˋ p'êng⁴

つく。搕掽。〔字彙〕掽、搕掽、撞也。邦**は へ**。はへづみ。〔和漢三才圖會、藝才、倭字〕掽、凡材木及米俵積層、皆曰レ掽、从レ手从レ並、俗附會用レ之也、蓋掽、音彭、搕掽訓レ撞、與二倭訓一不レ應。

【掽和】1ハウワ 紙牌を以てする博戲。鬪牌。〔牧豬閒話〕。

【掾】12313 ㊀エン 〔集韻〕兪絹切 霰 ㄩㄢˋ yüan⁴ ㊁テン デン 〔集韻〕重緣切 先


小篆

㊀❶**たすける**。〔說文通訓定聲〕掾、本訓當レ爲二佐助之誼一、故从レ手、玉篇、公府掾史也、亦佐助之一事。〔說文、掾緣也、段注〕引申爲下凡貪二緣邊際一之倂上、掾者緣二其邊際一而陳掾也、陳掾、猶二經營一也。❷**したやく**。小役人。屬官。〔玉篇〕掾、公府掾史也。〔六書故〕掾乃屬官通稱。〔說文、掾緣也、段注〕漢官有二掾屬一、正曰レ掾、副曰レ屬、漢舊注、東西曹掾比二四百石一、餘掾比二三百石一、屬比二二百石一。〔漢書、蕭何傳〕爲二沛主吏掾一。〔後漢書、馬援傳〕此丞掾之任、何足二相煩一。❸**ふち。えり。そでぐち**。〔說文〕掾、緣也、从レ手彖聲。〔段注〕緣者衣純也、既夕禮注、飾二衣領袂口一曰レ純。㊁❶**はせまはる**。奔走經營する。〔集韻〕掾、陳掾、馳逐也、司馬貞說。❷**姓**。〔萬姓統譜〕掾、見二姓苑一。邦**じやう**。古、地方の第三等官。

參考 椽(6-15087)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕掾、音延、官屬。椽、音傳、屋椽。

【掾佐】1エンサ 屬官。したやく。〔隋書、百官志中〕郡縣自レ丞已下、逮二于掾佐一、亦皆以レ帛爲レ秩。

【掾史】2エンシ 屬官。丞史。〔史記、張湯傳〕必引二正監掾史賢者一。〔漢書、丙吉傳〕始二於官屬掾史一。〔後漢書、百官志五〕皆置二諸曹掾史一。

【掾屬】3エンゾク したやく。屬官。〔後漢書、循吏、童恢傳〕及二賜被レ劾當免一、掾屬悉投レ刺去。〔阮籍、詣二蔣公一奏記辭二辟命一〕人人自以爲二掾屬一、辟書始下、而下走爲レ首。〔通典、職官、總敍、三師三公以下官屬〕其大尉、後改爲二大司馬一、綏和初、始置二長史一人、掾屬二十四人一。〔日知錄、政事、掾屬〕古文苑注王延壽桐柏廟碑、人名、謂二掾屬一、皆郡人、可レ攷二漢世用レ人之法一、今考二之漢碑一皆然、不二獨此廟一、蓋其時惟守相命二於朝廷一、而自二曹掾一以下、無レ非二本郡之人一、故能知二一方之人情一、而爲レ之興レ利除レ害、其辟二用之一者、卽出二於守相一、而不レ似三後代之官、一命以上皆由二於吏部一。

【掾吏】4エンリ 屬官。したやく。下級の官吏。〔後漢書、馬援傳〕爲二郡掾吏一、守二墳墓一、鄉里稱二善人一。

【掿】12314 ダク ニヤク 〔篇海〕昵角切 覺

まくる。かかげる。〔篇海〕掿、手掿也。

【掿在】1ダクザイ まくしあげる。〔水滸傳、四回〕把二兩隻袖子一、掿二在手裡一。

【揀】12315 ㊀カン ケン 〔集韻〕賈限切 潸 ㄐㄧㄢˇ chien³ ㊁レン 〔集韻〕郞甸切 霰

㊀❶**えらぶ**。柬(6-14655)に同じ。〔廣雅、釋詁一〕揀、擇也。〔集韻〕柬、說文、分別簡レ之也、或从レ手。〔魏志、袁紹傳、注〕博愛容レ衆、無レ所二揀擇一。❷**わける**。よなげる。分別する。淘汰する。〔韓愈、贈二張籍一詩〕吾愛二其風骨一、粹美無レ可レ揀。〔張耒、贈二无咎一詩〕磨二君古青銅一、汰揀寄二明辨一。❸簡(8-26520)に通ず。〔正字通〕揀、與レ簡通。㊁**えらぶ**。柬(6-14655)に同じ。〔集韻〕柬、擇也、或从レ手。

【揀廒】1カンガウ 倉をえらぶ。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕旗甲揀レ廒。

【揀貨】2 chien³ huo⁴ 商品を擇りぬく。

【揀刺】3カンシ えらんで入墨をする。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕只如三治平之初、揀二刺義勇一。

【揀淨】4 chien³ ching⁴ 純粹の。

【揀授】5カンジユ 清代、官吏を選擇して正副の候補者を定め、引見の上で二者の中につき敕裁を仰いで任命すること。〔淸會典、吏部、注〕以二應レ升之員一揀選、擬二正陪一引見補授、漢欽天監監正、則由二本部一揀定、交レ部具題。〔淸國行政法汎論、文官任命形式、奏薦〕揀授者、謂地在二吏部若本屬官廳一選乙擇於有下陞二任某官一之資格上者數人中甲、引見之後、就二其正副二人一、請レ旨補授天。

【揀剩】6 chien³ shêng⁴ 選び取つた殘り。

【揀蔘】7 chien³ shen¹ 人參の異名。撰び拔いた人參。

【揀選】8カンセン 選拔の上任命する。清代、滿蒙の司業、滿洲外班翰林、及びその他滿蒙人の專缺と爲るには、滿蒙の禮俗に習熟するを要し、皆吏部の奏請に由つて揀選した。又各省の督撫、人員を奏准揀發するにも、部の奏請によつて揀選した。皆、欽派揀選大臣がこれを掌る。簡選。〔淸會典事例、吏部、滿洲銓選、各衙門留缺〕遇レ有二滿洲蒙古題缺主事缺出一、先由二題署內一揀選題升、題署主事缺出、先儘二京察一等筆帖式內一、咨レ部查覈。〔淸會典事例、吏部、滿洲銓選、京員差滿保題〕道光二十三年定、各處新疆章京專用京員之缺、由二吏部一咨二取各衙門現任筆帖式一、其歷俸未レ滿二三年一、及京察三等之員、不レ准二保送一、並年老親老、及親老之獨子、均免二保送一外、將下合例通二曉滿漢文義一者上、每衙門筆帖式額缺在二十缺以上一者、各保二二員一、十缺以下者、各保二一員一、不レ得二以レ無レ員聲覆一、由二吏部一奏二請欽派考試揀選一、錄二取二十名一、交レ部注レ册。〔六部成語、吏部、揀選、注解〕於二應レ陞此缺之人中一、揀二擇最好者一、帶領引見、候レ旨定奪。

【揀退】9カンタイ 淘汰されて退く。官をしりぞく。〔白居易、新豐折臂翁詩〕骨碎筋傷非レ不レ苦、且圖三揀退歸二鄉土一。〔金史、百官志四〕若揀退還レ家者、亦驗二回程一給レ之。

【揀擇】10カンタク わかちえらぶ。選揀。簡擇。〔魏志、袁紹傳、注〕皆博愛容レ衆、無レ所二揀擇一。〔范益謙、座右誡〕凡喫二飮食一、不レ可二揀擇去取一。

【揀派】11 chien³ p'ai⁴ 選拔の上派遣する。

【揀發】12カンパツ 清代、各省督撫が其の省の人員の不足により、奏請して候選人員中から適才を擇んで任用すること。〔淸會典、兵部〕凡用二題缺一、曰二豫保一、曰二揀發一。〔注〕各省差委需員、准二督撫奏請揀發一。〔淸會典事例、吏部、漢員遴選、遠省揀發人員〕乾隆十七年議准、福建原屬二邊遠一、兼屬二海疆一、遇レ有レ需レ人之時一、由二該督撫一具題請レ旨揀發。

【揀別】13カンベツ わかちしる。識別する。〔朱子全書、學、理欲義利君子小人辯〕胡子之言、蓋欲下人於二天理中一揀中別得人欲上。

【揀補】14 カンポ　清代、揀選して補授すること。〔清會典事例、吏部、漢員遴選、遠省揀發人員〕如所㆑屬無㆓可㆑升之人㆒、亦應㆓在㆑部揀補㆒。

【揀精揀肥】15 chien^3 ching^1 chien^3 fei^2　精細に擇ぶ。

【揀點之法】16 カンテンノハフ　唐代、兵士を選取する法。〔唐律、擅興、揀點衞士、諸揀點衞士取捨不㆑平者、疏議〕揀點之法、財均者取㆑強、力均者取㆑富、財力又均、先取㆓多丁㆒。

【揀佛燒香】17 カンブツセウカウ　佛を擇んで燒香する、轉じて、人を待遇するのに厚薄をあらはし示す喩。〔寒山、詩〕擇㆑佛燒㆓好香㆒、揀㆑僧歸㆓供養㆒。

【揀兵併營】18 カンペイヘイエイ　兵士をえらび、兵營を合併する。〔蘇轍、陳州爲㆓張安道㆒論㆓時事㆒書〕其最大者、一出而爲㆓常平青苗㆒、再出而爲㆓揀兵併營㆒。

【揁】

12316

［一］テイ チヤウ　〔集韻〕知盈切　［庚］

［二］カウ キヤウ　〔集韻〕丘耕切　［庚］

［三］カウ キヤウ　〔集韻〕苦杏切　［梗］

［一］**ひく**。〔集韻〕揁、引也。［二］**琴を置く音**。摼（**5−12113**）に同じ。〔集韻〕摼、琴聲、論語、摼爾捨㆑琴而作、或作㆑揁。［三］**琴の音**。〔集韻〕揁、琴聲。

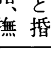
【捪】

12317

［一］ビン ミン　〔集韻〕眉貧切　［眞］

［二］ビン ミン　〔集韻〕美隕切　［軫］

［三］ブン モン　〔集韻〕武粉切　［吻］


小篆

［一］［二］❶**なでる**。**うつす**。もと捪（**5−12195**）に作る。〔説文〕捪、撫也、从㆑手昏聲、一曰、摹也。〔正字通〕捪、本作㆑捪。〔集韻〕捪、説文、撫也、一曰、摹也。❷或は抿（**5−11932**）に作る。〔集韻〕捪、或省。［三］**ぬぐふ**。抆（**5−11869**）に同じ。〔集韻〕抆、拭也、一曰、抿也、或从㆑昏。

【揂】

12318

［一］シウ シユ　〔集韻〕將由切　［尤］

［二］イウ ユ　〔集韻〕夷周切　［尤］

小篆

［一］❶**あつまる**。**あつめる**。〔説文〕揂、聚也、从㆑手酋聲。❷或は愁（**4−10885**）に作る。〔集韻〕揂、或作㆑愁。❸遒（**11−39008**）に通ず。〔説文、揂、段注〕商頌、百祿是遒、傳曰、遒、聚也、按、傳謂㆓此遒㆒爲㆓揂之叚借字㆒。［二］**おほふ**。〔集韻〕揂、掩也。

【揃】

12319

［一］セン　〔集韻〕子淺切　［銑］　ㄐㄧㄢˇ chien^3

［二］セン　〔集韻〕子仙切　［先］

［三］セン　〔集韻〕千廉切　［鹽］

小篆

［一］❶**もむ**。する。さする。揃（**5−12770**）に同じ。〔正字通〕揃、通作㆑揃。〔説文〕揃、搣也、从㆑手前聲。〔説文通訓定聲〕揃、蓋擊搫按摩之法、以㆓休養㆒理㆑體者。❷**きる**。たつ。剪（**2−2088**）に通ず。〔説文通訓定聲〕揃、叚借爲㆑剪。〔儀禮、士喪禮〕蚤揃如㆓他日㆒。〔注〕斷㆑爪、揃㆑鬢也。〔釋文〕揃、子淺反。❸**わける**。わかつ。〔史記、西南夷傳〕西夷後揃剽。〔注〕索隱曰、揃、謂㆑被㆓分割㆒也。❹**ぬく**。擇り去る。〔集韻〕揃、一曰、擇也。〔急就篇〕沐浴揃搣寡㆓合同㆒。〔唐書、韋表徽傳〕吾年五十、拭㆑鏡揃㆑白。❺**ほろぼす**。翦（**9−28752**）に通ず。〔正字通〕揃、滅也、左傳揃㆓搣此㆒而後朝食、今作㆓翦滅㆒、義通、唐李愬曰、吾先人曾以揃㆓大盜㆒。❻**そろへる**。**そろふ**。揃搣（4）を見よ。❼或は擶（**5−12939**）に作る。〔集韻〕揃、或从㆑翦。［二］**しるす**。かきとめる。葥（**6−15089**）に同じ。〔集韻〕葥、箋識也、或从㆑手。〔周禮、秋官、職金、注〕既揭㆑書揃㆓其數量㆒。〔釋文〕揃、音牋。〔疏〕揃、卽今錄記文書。［三］**ためす**。**又、とがる**。籤（**8−26769**）に同じ。〔集韻〕籤、説文、驗也、一曰、銳也、貫也、或作㆑揃。

【揃刈】1 センガイ　刈り切る。かりそろへる。〔韓愈、司徒兼侍中中書令贈太尉許國公神道碑銘〕然不㆓一揃刈㆒、不㆑足㆑令㆓震駴㆒。

【揃平】2 センペイ　きりたひらげる。〔魏書、明亮傳〕拓㆓定江表㆒、揃㆓平蕭衍㆒。

【揃剽】3 センペウ　さきわかつ。〔史記、西南夷傳賛〕西夷後揃剽分㆓二方㆒。〔注〕索隱曰、揃、謂㆑被㆓分割㆒也。

【揃搣】4 センメツ　眉や髮をぬきそろへること。〔急就篇〕沐浴揃搣寡㆓合同㆒。〔注〕揃搣、謂㆔鬄㆓拔眉髮㆒也、蓋去㆘其不㆓齊整㆒者㆖。

【揃落】5 センラク　ほろぼしつくす。〔資治通鑑、宋紀十五、太宗明皇帝下、裴子野論〕曾是莫㆑懷、甘心揃落。

【揄】

12320

［一］ユ　〔集韻〕容朱切　［虞］　ㄩˊ yü^2

［二］イウ ユ　〔集韻〕夷周切　［尤］

［三］トウ ツ　〔集韻〕他侯切　［尤］

［四］チウ チユ　〔集韻〕丑鳩切　［尤］

［五］エウ　〔集韻〕餘招切　［蕭］

［六］トウ ヅ　〔集韻〕徒口切　［有］

［七］シユ　〔集韻〕舂朱切　［虞］

小篆

［一］❶**ひく**。㋑ひきだす。〔説文〕揄、引也、从㆑手兪聲。〔淮南子、主術訓〕揄㆓策于廟堂之上㆒。〔注〕揄、出也。〔正字通〕揄、揄揚、譽言也。㋺ひきあげる。ほめる。㊇ひきずる。曳（**5−14282**）に通ず。〔説文通訓定聲〕揄、叚借爲㆑曳。〔史記、司馬相如傳〕揄㆓紵縞㆒。〔注〕正義曰、揄、曳㆑地。〔史記、貨殖傳〕揄㆓長袂㆒躡㆓利屣㆒。❷**うごかす**。〔集韻〕揄、一曰、動也。❸**なぶる**。からかふ。〔集韻〕揄、一曰、邪揄、手相弄。〔正字通〕揄、笑貌。〔後漢書、王霸傳〕市人皆大笑、擧㆑手邪㆓揄之㆒。❹**ぬぐ**。すてる。輸（**10−38438**）に通ず。〔説文通訓定聲〕揄、叚借爲㆑輸。〔方言、十二〕揄・㨯、脱也。〔廣雅、釋詁四〕揄、脱也。〔疏證〕方言、輸、挩也、郭璞注曰、挩、猶㆑脱耳、揄・輸、聲相近、輸・脱、聲之轉。❺**くみだす**。かきとる。舀（**9−30183**）に通ず。〔説文通訓定聲〕揄、叚借爲㆑舀。〔詩、大雅、生民〕或舂或揄。〔釋文〕揄、説文作㆑舀。❻**手をたれる**。〔莊子、漁夫〕被㆑髮揄㆑袂。〔釋文〕揄、音搖、又音兪、又褚由反、謂㆘垂㆓手衣內㆒而行㆖也。❼**けおりもの**。毹（**6−16897**）に通ず。〔方言、二〕荊揚江湖之閒、謂㆑毹曰㆓揄鋪㆒。〔箋疏〕揄、猶㆑毹也。❽或は擨（**5−12836**）に作り、俗に廞（**4−9511**）に作る。〔集韻〕揄、或从㆑歈、俗作㆑廞非㆑是。［二］**くみだす**。抭（**5−11911**）に同じ。〔集韻〕抭、抒㆑臼也、或作㆑揄。［三］❶**ひく**。〔集韻〕揄、引也。❷**ふるふ**。〔莊子、漁父〕被㆑髮揄㆑袂。〔釋文〕揄、李音投、投、揮也。［四］**たれる**。［一］の❻に同じ。［五］❶**たれる**。［一］の❻に同じ。〔集韻〕揄、垂㆑手行也。❷**翟羽で飾った王后の衣**。褕

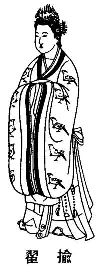
(10−34442)に通ず。〔說文通訓定聲〕揄、段借爲レ褕。〔集韻〕褕、褕翟、王后之服、刻二畫鷂羽一以爲レ飾、或作レ揄。〔禮、玉藻〕夫人揄狄。〔注〕揄、讀如レ搖、狄、讀如レ翟、謂レ畫二搖翟之雉於衣一也。㊅**ひく**。㊂の❶に同じ。〔集韻〕揄、引也。㊆**かたむくさま**。閃揄。〔集韻〕揄、閃揄、傾皃。

【揄絞】1（エウカウ）青質五色の雉の模様を畫いた絞繒。これを垂れて振容を爲す。搖翟。〔禮、喪大記〕士布帷布荒、一池、揄絞。〔注〕揄、揄翟也、青質五色、畫二之於絞繒一而垂レ之以爲二振容一、象二水草之動搖一。

【揄弃】2（キユ）なげすてる。〔枚乘、七發〕揄二弃恬怠一、輸二寫淟濁一。〔注〕善曰、方言曰、揄、脫也。

【揄策】3（ユサク）はかりごとをひき出す。〔淮南子、主術訓〕雖下在二卿相人君一、揄中策于廟堂之上上、未二必可一レ用。〔注〕揄、出、策、謀也。

【揄狄】4（エウテキ）青質五色の雉の模様を刻畫して飾とした衣。古、王后六服の一。王に從つて先公を祭るときに用ひる。又、三夫人及び侯伯の夫人の命服。褕狄。搖翟。〔周禮、天官、內司服〕內司服掌二王后之六服一、褘衣・揄狄・闕狄・鞠衣・展衣・緣衣・素沙。〔注〕玄謂、狄、當レ爲レ翟、翟、雉名、伊雒而南、素質、五色皆備二成章一曰レ搖、江淮而南、青質、五色皆備二成章一曰レ翬、王后之服、刻繒爲二之形一、而采二畫之一、綴二於衣一以爲二文章一、褘衣畫レ翬者、揄翟畫レ搖者、闕翟刻而不レ畫、此三者、皆祭服、從レ王祭二先王一則服二褘衣一、祭二先公一則服二揄翟一、祭二羣小祀一則服二闕翟一。〔禮、玉藻〕王后褘衣、夫人揄狄。〔注〕夫人、三夫人、亦侯伯之夫人也。


揄翟（三禮圖）

【揄翟】5（エウテキ）揄狄を見よ。

【揄柎】6（ユフ）上古の人。黃帝の時の醫人。兪柎。〔周禮、天官、疾醫〕兩レ之以二九竅之變一、參レ之以二九藏之動一。〔注〕能專レ是者、其唯秦和乎、岐伯揄柎、則兼二彼數術一者。〔釋文〕岐伯・揄柎、皆黃帝時醫人、揄、云云、亦作レ兪。

【揄袂】7（トウベイ）袂を垂れること。又、袂の中に手を入れること。〔莊子、漁父〕須眉交白、被レ髮揄レ袂、行レ原以上。〔釋文〕揄レ袂、謂下垂二手衣內一而行上也、李音投、投、揮也。

【揄鋪】8（ホユ）鳥獸のぬけた毛で織つた物。もうせん。けむしろ。〔方言、二〕揄鋪、云云、輸毳也、荊揚江湖之閒、曰二揄鋪一。〔箋疏〕揄、猶レ毹也、鋪、猶レ布也、揄鋪者、蓋以二鳥獸揄脫之毛一鋪二陳之一。

【揄揚】9（ヤユウ）譽め揚げる。引き擧げる。〔班固、兩都賦序〕雍容揄揚、著二於後嗣一。〔注〕向曰、揄、引、揚、擧。〔曹植、與二揚德祖一書〕揄二揚大義一、彰二示來世一。〔盧諶、贈二劉琨一詩序〕不レ足三以揄二揚弘美一。

【⿰扌則】12321 ショク シキ 〔集韻〕札色切 職

うつ。通じて⿰扌⿱貝大(5−12153)に作る。〔集韻〕⿰扌則、打也、通作レ⿰扌⿱貝大。

【⿰扌㡿】12322 タク

⿰土㡿(3−5246)の俗字。〔正字通〕⿰扌㡿、俗⿰土㡿字。

【⿰扌段】12323 タン 〔集韻〕都玩切 翰

衣をうちたたく。〔集韻〕⿰扌段、捶レ衣。

【掔】12324 ケン

掔(5−12568)の俗字。〔康熙字典〕掔、俗掔字。

【搜】12325 カウ

捜(5−12090)に同じ。〔正字通〕搜、同レ捜。

【揆】12326 キ ギ 〔集韻〕巨癸切 紙 ㄎㄨㄟˊˇ k'uei$^{2\cdot3}$

小篆

❶**はかる**。もと揆に作る。〔正字通〕揆、本作レ揆。〔說文〕揆、度也、从レ手癸聲。〔爾雅、釋言〕揆、度也。〔集韻〕揆、說文、葵也、一曰、度也。〔詩、鄘風、定之方中〕揆レ之以レ日。〔傳〕揆、度也。〔左氏、文、十八〕以揆二百事一。〔注〕揆、度也。〔楚辭、離騷〕皇覽揆二余于初度一兮。〔注〕揆、度也。❷**はかりごと**。〔北史、邢巒傳論〕內參二機揆一、外寄二折衝一。❸**みち**。のり。〔孟子、離婁下〕先聖後聖、其揆一也。〔集注〕揆、度也、其揆一者、言二度レ之而其道無一レ不レ同也。❹**つかさ**。〔書、舜典〕百揆時敍。〔史記、五帝紀〕百官時序。❺**宰相**。大臣。書經舜典の納二于百揆一を、百事を揆度する官、卽ち冢宰と釋し、後世單稱して宰相の義とする。〔晉書、禮志上〕桓溫居レ揆、政由レ己出。邦**き**。人民が黨を結んで上に反抗する擧動。

【揆一】1（キイツ）天下をはかり治める所以の道が同一である。考え方が同一である。〔孟子、離婁下〕先聖後聖、其揆一也。〔焦循正義〕揆、言二其度一也、蓋指下聖人之所三以度二量天下一者上言。〔漢書、外戚恩澤表序〕世代雖レ殊、其揆一也。〔班彪、王命論〕至二于應レ天順一レ人、其揆一焉。

【揆今】2（キコン）いまの世をおしはかる。〔國史略、後白河天皇〕詔曰、以レ古揆レ今、雖レ有二孝德皇子一、承レ統者天智也。

【揆策】3（キサク）はかりごとを運らす。畫策。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕昔賢者之未二遭遇一也、圖レ事揆レ策、則君不レ用二其諫一。

【揆敍】4（キジヨ）❶はかりついでる。はかつて順序づける。〔趙岐、孟子題辭〕包二羅天地一、揆二敍萬類一。❷清、滿洲正白旗人。明珠の子。字は愷功。號は惟實居士。諡は文端。康熙中、左都御史となる。書室を益戒堂・隙光亭・謙牧堂といふ。著に隙光亭雜識・益戒堂詩集・雞肋集がある。〔清史稿、二百九十三〕・〔清史列傳、十二〕・〔國朝耆獻類徵、六十五〕。

【揆水】5（キスイ）みづの深さをはかる。〔陸機、演連珠〕臨レ淵揆レ水、而淺深難レ察。

【揆席】6（キセキ）百揆を掌る位。國政を總持する官。宰相をいふ。〔李乂、哭二僕射鄂公楊再思一詩〕揆席凝二邦績一、台階闡二國猷一。

【揆測】7（キソク）はかる。測量する。揆度。〔唐書、曆志三上〕三代之興、皆揆二測天行一、考二正星次一。〔宋史、天文志一〕黃赤道占レ天之法、云云、唐一行作二大衍曆一、以レ儀揆二測之一、得二畢觜參鬼四宿一、分度與レ古異。

【揆度】8（キタク）❶はかる。おしはかる。はかりかんがへる。〔釋名、釋天〕癸、揆也、揆度而生、乃出レ之也。〔書、泰誓上、同レ力度レ德、同レ德度レ義、傳〕揆二度優劣一、勝負可レ見。〔史記、律書〕癸之爲レ言揆也、言萬物可二揆度一、故曰レ癸。〔史記、倉公傳〕揆二度陰陽外變一。〔漢書、武五王、昌邑哀王劉髆傳〕願王內自揆度。〔淮南子、俶眞訓〕不レ可二隱儀揆度一而通二光耀一者。❷管子の篇名。

【揆端】9（キタン）事の端をはかる。〔論衡、實知〕揆レ端推レ類。

【揆程】10（キテイ）物事の度あひをはかる。〔蔡邕、京兆樊惠渠頌〕揆レ程經レ用、以レ事上聞。

【揆德】11（キトク）德をはかる。人物を見分ける。〔逸周書、官人解〕飾貌者不レ靜、假レ節者不レ平、多レ私者不レ義、揚言者寡レ信、此之謂二揆德一。〔魏志、王烈傳〕自省揆レ德。

【揆務】12（キム）つとめをはかる。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕沿レ才授レ職、揆レ務分レ司。

【揆禮】13（キレイ）清、吳騫(2−3365・・164)の號。

【揆情度理】14 k'uei^2 ch'ing^2 tu^4 li^3 情理を考察する。

【揇】12327 ダン ナン 〔集韻〕乃感切 感

からめる。〔集韻〕摘、搦也。

【揹】12328 ㊀ヰ ユイ 〔集韻〕愈水切 紙 ㊁タ 〔集韻〕吐火切 哿

㊀❶すてる。或は擿(5-12952)に作る。〔廣雅、釋詁一〕揹、棄也。〔集韻〕揹、博雅、棄也、或作レ擿。❷とる。〔一切經音義、十〕捫摸曰レ揹。❸或は擶(5-12754)に作る。〔集韻〕揹、博雅、棄也、又曰、捫也、或作レ擶。㊁❶おとす。〔玉篇〕揹、俗云、落。❷かぞへる。〔集韻〕揹、揲也。

【揈】12329 ㊀クヮウ 〔集韻〕呼宏切 庚 ㄏㄨㄥ hung¹ ㊁ケン 〔集韻〕翾縣切 霰 ㊂キク 〔韻會〕居六切 屋

㊀❶うつ。又、うつ音。〔廣韻〕揈、擊聲。〔集韻〕揈、擊也。❷ふるふ。ふる。或は拘(5-12033)に作る。〔集韻〕揈、揮也、或作レ拘。❸現追ふ。㊁うつ。拘(5-12033)に同じ。〔集韻〕拘、博雅、擊也、或从レ訇。㊂すくふ。掬(5-12290)に同じ。〔韻會〕掬、本作レ揈。

【㨋】12330 シヤ 〔集韻〕齒者切 馬

うつ。〔集韻〕㨋、擊也。

【㨘】12331 トウ

桸(6-15142)に同じ。〔集韻〕桸、或从レ手。

【揉】12332 ㊀ジウ ニユ 〔集韻〕而由切 尤 ㄖㄡˊ jou² ㊁ジウ ニユ 〔集韻〕忍九切 有 ㊂ヂウ ニユ 〔集韻〕女九切 有 ㊃ジウ ニユ 〔集韻〕如又切 宥 ㊄ゼウ ネウ 〔集韻〕爾紹切 篠

㊀❶もむ。ひねる。〔廣韻〕揉、捻也。〔集韻〕揉、以レ手挺也。〔王建、照レ鏡詩〕暖レ手揉二雙目一。❷まじる。いりみだれる。糅(8-27023)に通ず。〔錢惟演、春雪詩〕纔兗兗紛揉、更霏霏而交錯。❸やはらげる。柔(6-14622)に通ず。〔說文通訓定聲〕揉、叚借爲レ柔。〔廣韻〕揉、又順也。〔詩、大雅、崧高〕揉二此萬邦一。〔箋〕揉、順也。〔馬祖常、府學碑〕列聖仁涵義揉。㊁㊂❶ためる。煣(7-19219)に通ず。〔廣雅、釋詁三〕揉、直也。〔集韻〕煣、說文、屈二申木一也、或作レ揉。〔周禮、考工記、輪人〕揉レ輻必齊。〔注〕揉、謂二以レ火槁一レ之。〔儀禮、大射儀〕公親揉レ之。〔注〕揉、宛レ之觀二其安危一也。❷こねる。磨研。〔王氏談錄〕公自能造レ墨、嘗走レ人取二兗州善煤一、手自和揉。㊃❶やはらげる。㊀❸に同じ。〔集韻〕揉、順也。〔詩、大雅、崧高〕揉二此萬邦一。〔釋文〕揉、汝又反。❷ためる。㊁に同じ。〔周禮、考工記、輪人〕揉レ輻必齊、〔釋文〕揉、一音而又反。㊄ためる。㊁に同じ。或は撓(5-12698)に作る。〔集韻〕揉、屈也、或作レ撓。〔儀禮、大射儀、公親揉レ之、釋文〕揉、又耳了反。

名乘 ノブ。

【揉革】1 モミカハ なめしがはの上面を削り、揉んでやはらかにしたもの。をしかは。

【揉合】2 モミアヒ ❶互に觸れ合ひ摩れ合ふ。❷取引用語。相場が小變動して騰落の不定なこと。

【揉球】3 jou² ch'iu² 掌中に圓球を入れ、指でもむ。

【揉鬮】4 モミクジ 或る事柄を紙に書いて拈つたものを取つて占ふくじ。ひねりぶみ。〔長町女腹切、中〕もみ鬮は惠方果報。

【揉瓜】5 モミウリ ❶菜瓜ツケウリの異名。〔雅筵醉狂集、夏〕鼽茶是鼻苑、揉瓜彼鬚田。❷うりもみ。瓜揉。〔運歩色葉集〕揉瓜。

【揉搓】6 jou² ts'uo¹ ❶揉んでしわにする。〔紅樓夢、二十五回〕倆還只是揉搓、一會鬧上酒來。❷虐待する。暴慢なるふるまひをする。

【揉碎】7 ジウサイ 揉みこはす。〔唐寅、妬レ花歌〕把レ花揉碎擲二郎前一、請郎今夜抱レ花眠。

【揉雜】8 ジウザツ 入りまじる。雜揉。〔舊五代史、梁末帝紀下〕誘二化庸民一、揉二雜淫穢一。

【揉上】9 モミアゲ 髮の毛が耳にそつて生ひ延びたところ。鬢のはえさがり。〔洞房語園〕額際揉あげの髮自慢に。

【揉手】10 jou² shou³ ❶拳術の術の一。❷モミテ ㋑左右の掌を相互にすり、又はもむこと。〔孕常盤、三〕吉次奥より揉手をして。㋺あやまること。謝罪すること。

【揉斲】11 ジウタク たわめ切ること。〔梅堯臣、和二孫端叟寺丞農具十三首一、耒耜詩〕古聖通二物宜一、揉斲資二粒食一。〔王安石、耒耜詩〕山林盡二百巧一、揉斲無二良材一。

【揉輻】12 ジウフク 火で炙つて曲を直にためた木で造つた輻。〔周禮、考工記、輪人〕揉輻必齊、平沈必均。

【揉紛】13 ジウフン みだれもつれること。紛糅(8-27295・42)に同じ。

【揉木】14 ジウボク 木をためて直くすること。〔易、繫辭下〕斲レ木爲レ耜、揉レ木爲レ耒。〔白虎通、諫諍〕法火以揉レ木也。

【揉目】15 jou² mu⁴ 目をこする。

【揉輪】16 ジウリン 木をためまるくして車輪を作る。〔管子、七法〕不レ明二於化一、而欲二變レ俗易一レ教、猶二朝揉レ輪而夕欲一レ乘レ車。

【揉療治】17 モミレウヂ 肩・腰などの痛み、又は凝つたところを揉んで療治すること。按摩。〔皇都午睡、三上〕按摩をもみ療治。

【揉烏帽子】18 モミエボシ 烏帽子を柔かに揉んで、皺のあるやうに造つたもの。

【㨉】12333 ウツ ウチ 〔集韻〕王勿切 物

なげうつ。或は㧎(5-11912)・擓(5-12789)に作る。〔集韻〕㨉、擲也、或从レ穴、从レ運。

【揊】12334 ㊀ヒヨク ヒキ 〔集韻〕拍逼切 職 ㊁テツ テチ 〔六書統〕敕列切 屑

㊀❶うつ。〔廣雅、釋詁三〕揊、擊也。❷うつ音。或は敲(5-13297)・扑(5-11779)に作る。〔集韻〕揊、擊聲、或作二敲・扑一。㊁さる。すてる。〔六書統〕揊、去也。

【揋】12335 ワイ 〔集韻〕烏回切 灰

ひく。〔集韻〕揋、掎也。

【揌】12336 サイ 〔集韻〕桑才切 灰

❶うごかす。〔廣雅、釋詁一〕揌、動也。〔玉篇〕揌、擡揌也。❷えらぶ。〔集韻〕揌、擇也。

【揍】12337 ソウ ス 〔集韻〕千候切 宥

❶さしはさむ。〔集韻〕揍、插也。❷なげる。〔字彙〕揍、投揍也。❸すぢみち。道理。〔淮南子、兵略訓〕發必中レ銓、言必合レ數、動必順レ時、解必中レ揍。〔注〕揍、理也。

【揎】12338 セン 〔集韻〕荀緣切 ㄒㄩㄢ hsüan^1 先

❶かかげる。うでをまくる。〔集韻〕揎、手發レ衣。〔六書故〕揎、鉤レ袂出レ臂也。〔張師錫、老兒詩〕濯レ手袖慵レ揎。〔元史、列女傳序〕崔自揎レ袖。❷或は撏(5−12732)・擐(5−12813)に作る。〔集韻〕揎、或作二撏・擐一。❸現なぐる。徒手で人を打つ。

【描】12339
［一］ベウ メウ 〔集韻〕眉鑣切 ㄇㄧㄠ miao^2 蕭
［二］バウ メウ 〔集韻〕謨交切 肴
［三］バウ メウ 〔集韻〕眉教切 效

［一］❶うつす。ゑがく。〔集韻〕描、畫也。〔六書故〕描、描・摹聲相近、描輕而摹重。〔白居易、薛陽吹二觱篥一歌〕條條直直如二筆描一。❷現㋑しきうつしする。㋺狙ふ。［二］うつ。〔集韻〕描、打也。［三］なげうつ。〔集韻〕描、擲也。

【描金】1 miao^2 chin^1 まきゑ。蒔繪。漆と金銀粉で畫く。金を着せる。金粉を置く。

【描畫】2 ベウグワ ゑがく。繪をゑがく。〔鄭玉、屛山樓詩〕丹青花草春描畫、水墨林泉秋寫成。

【描字】3 ベウジ 書體の一。宋の黄庭堅が用ひたもの。〔海岳名言〕海岳以二書學博士一召對、上問二本朝以レ書名レ世者凡數人一、海岳各以二其人一對曰、蔡京不レ得レ筆、蔡卞得レ筆而乏二逸韻一、蔡襄勒字、沈遼排字、黄庭堅描字、蘇軾畫字。上復問曰、卿書如何、對曰、臣書刷字。〔墨池璅錄〕米元章嘗評、黄庭堅爲二描字一、亦是好レ勝遇レ敵也。

【描寫】4 ベウシヤ ❶畫きうつす。似せて畫く。描摹。〔圖繪寶鑑、四〕徐珂、云云、畫二人物一、得二其遺意一、頗能描寫。❷miao^2 hsieh^3 しきうつしする。なぞる。

【描情】5 miao^2 ch'ing^2 感情をいひあらはす。

【描眉】6 miao^2 mei^2 眉をつくる。眉毛を畫く。

【描筆】7 ベウヒツ 畫くに用ひる筆。繪筆。〔輟耕錄、寫山水訣〕皮袋中置二描筆一在レ內、或於二好景處一見三樹有二怪異一、便當二摸寫記レ之、分外有二發生之意一。

【描摸】8 ベウボ ゑがきうつす。描摹。〔周密、昭君詞〕丹青自是難二描摸一、不二是當時畫錯一。

【描容】9 miao^2 jung^2 肖像を畫く。

【描紅格】10 miao^2 hung^2 kê^2 手本を下にしいて、文字練習用の紅色罫紙に文字を書く。描紅模子。紅模子(8−27243・459)を見よ。

【描紅模子】11 miao^2 hung^2 mo^2 tzŭ 描紅格に同じ。

【描鸞刺繡】12 ベウランシシウ 鸞の刺繡をすること。女子の仕事の喩。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕一箇通二徹三教九流一、一箇曉二盡描レ鸞刺繡一。

【㲉】12340 コウ ク 〔集韻〕居候切 宥

❶牛羊の乳をしぼる。〔集韻〕㲉、取二牛羊乳一也。❷㝅(3−7012)の譌字。〔正字通〕㲉、㝅字之譌。

【𢷎】12341 ハウ 〔集韻〕逋旁切 陽

❶ふせぐ。まもる。〔集韻〕𢷎、捍也。〔字彙〕𢷎、捍也、衞也。❷ならべる。〔集韻〕𢷎、並也。

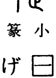
【搋】12342 チ

搋(5−12457)の俗字。〔正字通〕搋、俗搋字。

【搮】12343 リツ リチ 〔集韻〕劣戌切 質

こす。〔集韻〕搮、去二滓汁一曰レ搮。

【提】12344
［一］テイ ダイ 〔集韻〕田黎切 ㄊㄧˊ t'i^2 ㄉㄧ ti^1 齊
［二］シ ジ 〔集韻〕常支切 ㄕˊ shi^2 支
［三］テイ タイ 〔集韻〕典禮切 薺
［四］テイ ダイ 〔集韻〕大計切 霽
慣 チヤウ


小篆

［一］❶ひつさげる。㋑手に物をさげもつ。〔說文〕提、挈也、从レ手是聲。〔段注〕挈者、縣持也。〔釋名、釋姿容〕提、地也、臂垂所レ持近レ地也。〔禮、曲禮下〕凡奉者當レ心、提者當レ帶。〔國語、越語下〕范蠡乃左提レ鼓。〔注〕提、挈也。㋺指にて引き張る。〔詩、大雅、抑〕匪二面命レ之、言提二其耳一。〔箋〕親提二撕其耳一、此言二以教導之熟、不レ可二啓覺一。❷あげる。㋑引き起す。手綱を引いて馬首を引き起す。〔周禮、夏官、田僕〕凡田、王提レ馬而走。〔注〕提、猶レ擧也、云云、止レ奔也。㋺かかげしめす。〔淮南子、要略〕提レ名責レ實。〔漢書、英布傳〕大王提二空名一以鄕レ楚。〔注〕師古曰、提、擧也。〔韓愈、進學解〕必提二其要一。㋩おこす。〔尙書緯帝命驗〕河圖子提。〔注〕提、起也。㋥もちひる。〔太玄經、事〕豎子提レ壺。〔注〕提、用也。〔張九齡、贈二韋明府一詩〕竟與二尙書佩一、遙應二天子提一。❸たづさへる。㋑かかへもつ。たすける。〔漢書、陳餘傳〕左提右挈、而責レ殺二王之罪一。〔注〕師古曰、提挈、言二相扶持一也。〔元結、去レ鄕悲詩〕羸弱相提將。㋺もつ。とる。〔太玄經、盛〕提レ禍撣撣。〔注〕提、持也。㋩つれだつ。〔禮、曲禮上〕長者與レ之提攜。❹とりて。把鼻。〔遵生八牋、燕閒淸賞牋、中〕古銅小提卣。❺もちあふ。對峙する。〔管子、輕重乙〕與二天子一提衡、爭二秩於諸侯一。〔注〕提、持也。❻よそほひ。したく。行李。〔管子、山權數〕百全之提。〔注〕提、裝也。❼つかさどる。あづかる。〔宋史、職官志七〕都監及提二轄兵甲一者。❽曲つた木に釣り下げて馬上に建てる鼓。〔周禮、夏官、大司馬〕師帥執レ提。〔注〕提、馬上鼓、有二曲木一提二持鼓一、立二馬髦上一者、故謂二之提一。❾とどこほる。ゆるい。堤(3−5259)に通ず。〔說文通訓定聲〕提、叚借爲レ堤。〔荀子、脩身〕不レ由レ禮則勃亂提僈。〔注〕提、舒緩也。❿ただす。是(5−13859)に通ず。〔說文通訓定聲〕提、叚借爲レ是。〔太玄經、玄攡〕明者定レ之、疑者提レ之。〔注〕提、正也。⓫つごもり。陰暦で月の出ない日。〔鶡冠子、王鈇〕家里用レ提。〔注〕提、零日也、公羊傳曰、提月者、僅逮二是月晦日一也。⓬やすらかなさま。提提(108)の❶を見よ。⓭あきら

かなさま。提提（108）の❸を見よ。⓮**およそ**。あらまし。提封（140）を見よ。⓯**うってとる**。碁の手法の一。〔圍棋義例、詮釋〕殺、提也、碁死而結ㇾ局曰ㇾ殺、既殺而隨ㇾ手曰二復殺一、俗又謂二之提一。⓰**姓**。〔左氏、宣、二〕其右提彌明知ㇾ之。⓱［現］㋑申出る。陳述する。㋺上がる。上げる。㋩引き出す。［二］❶**鳥の飛ぶさま**。翨（**9－28761**）に通ず。〔廣韻〕提、羣飛皃。〔集韻〕提、提提、羣皃、或从ㇾ羽。〔正字通〕提、鳥飛安閒貌。❷**やすらかなさま**。禔（**8－24773**）に通ず。〔集韻〕禔、說文、安福也、通作ㇾ提。❸朱提は、縣名。〔漢書、地理志上〕朱提。〔注〕蘇林曰、提、音時。［三］❶**なげうつ**。擿（**5－12922**）に通ず。〔說文通訓定聲〕提、叚借爲ㇾ擿。〔正字通〕提、投擲也。〔戰國、秦策〕以二藥囊一提二荊軻一。〔史記、絳侯世家〕以二冒絮一提二文帝一。❷**たつ**。きる。斯（**5－13563**）に通ず。〔說文通訓定聲〕提、叚借爲ㇾ斯。〔集韻〕提、絕也。〔禮、少儀〕牛羊之肺、離而不ㇾ提ㇾ心。〔注〕提、猶ㇾ絕也。［四］［三］の❶に同じ。

【提鞋】1 t'i² hsieh² 履を手にさげる。

【提握】2 テイアク たづさへ持つ。〔高適、留二上李右相一詩〕吹噓成二羽翼一、提握動二芳馨一。

【提按】3 テイアン 地方の刑獄を取調べる官。〔歐陽脩、楊畋屯田員外郎直史館制〕楊畋由ㇾ早辭ㇾ科、歷二任郡縣一、至二提按之職一。

【提案】4 テイアン ❶議案を持ち出す。又、その議案。❷t'i² an⁴ 事件を法廷にもち出す。

【提衣】5 テイイ 衣の裾をかかげる。〔隋書、禮儀志六〕緣廂行得ㇾ提ㇾ衣、省閤內得ㇾ著ㇾ履。

【提引】6 テイイン あげひく。ひきあげる。〔沈約、桐柏山金庭館碑〕忘二其菲薄一、曲賜二提引一。

【提隱】7 テイイン 遼、耶律蒲古（**9－29008··133**）の「字。

【提拽】8 テイエイ ひきあげる。〔後漢書、鐘離意傳〕近臣尚書以下、至ㇾ見二提拽一。

【提要】9 テイエウ 要領を提出する。かなめの所を擧げ示す。又、要所を擧げ示したもの。摘要。〔韓愈、進學解〕記ㇾ事者必提二其要一、纂ㇾ言者必鉤二其玄一。〔四庫提要、凡例〕是書卷帙浩博、爲二亘古所ㇾ無一、然每ㇾ進二一編一、必經二親覽一。

【提掖】10 テイエキ たすけてみちびく。提拔。又、手を引いたりかかへたりして連れてゆく。〔漢書、西域傳下〕匈奴得二漢降者一、常提掖搜索、問二以所ㇾ聞一。〔唐書、許孟容傳〕孟容方勁有二禮學一、每所二折衷一、咸得二其正一、好提二掖士一。

【提荷】11 テイカ ひつさげたりになつたりする。もつ。〔賈子新書、屬遠〕提二荷弊衣一而至。

【提解】12 テイカイ ❶ひきよせおくる。〔福惠全書、典禮部、朝覲大計〕司府提二解本項銀兩一。❷捕縛して護送する。〔清國行政法汎論、官吏責任、懲戒性質〕刑屬之目七、盜賊・逃人・提解・審斷・用刑・禁獄・雜犯、是也。

【提孩】13 テイガイ いとけないこども。提は手をひつさげる、孩は初めて笑ふ年頃。孩提。〔韓愈、詠ㇾ雪贈二張籍一詩〕莫ㇾ煩二相屬和一、傳示及二提孩一。〔韓愈、符讀二書城南一詩〕兩家各生ㇾ子、提孩巧相「如。

【提交】14 t'i² chiao¹ 監視に渡す。

【提高】15 t'i² kao¹ 高める。引上げる。又、高く上がる。

【提項】16 t'i² hsiang⁴ 送金する。

【提綱】17 テイカウ おほづなをひつさげる。事の主要な點を擧げる。又、事の主要な點を擧げたもの。提要。〔宋史、職官志八〕提ㇾ綱而衆目張、振ㇾ領而羣毛理。

〔提綱振領〕18 テイカウシンリヤウ 大綱を提げ、衣領を挈げる。事の主要なところをあげ扼する喩。〔宋史、職官志八〕提ㇾ綱而衆目張、振ㇾ領而羣毛理。

【提衡】19 テイカウ ❶相並ぶ。兩者相等しい。匹敵する。一說に、相提攜する。〔韓非子、有度〕貴賤不二相踰一、愚智提衡而立、治之至也。〔漢書、杜周傳、贊〕爵位尊顯、繼ㇾ世立ㇾ朝、相與提衡。〔注〕如淳曰、提衡、猶ㇾ言二相提攜一也、臣瓚曰、衡、平也、言二二人齊一也。❷公平にする。はかりを手にして計る意。〔任昉、王文憲集序〕公提衡惟允。〔注〕善曰、漢書曰、衡、平也、所三以平二輕重一也、言、選曹以ㇾ材授ㇾ官、似二衡之平ㇾ物、故取以喩焉。

【提學】20 テイガク 官名。宋の徽宗の時、提擧學事司を置き、一路州縣の學政を掌らしめ、歲每に所部を巡視し、師儒の優劣、生員の勤惰を按察し、擧刺の事を專にせしめた。明には、按察分司に提學道があり、淸は提督學政と改め、專ら全省の學政を司らしめ、督撫と平行して、權力が特に重かつた。淸末、提學司と改めて督撫に屬す。民國、廢す。〔宋史、職官志七〕提擧學事司、掌二一路州縣學政一、歲巡二所部一、以察二師儒之優劣、生員之勤惰一、而專二擧刺之事一、崇寧二年置、宣和三年罷。〔大政記〕正統二年、始設二提學一、憲臣南京戶部尙書黃福建白、人才出二學校一、必設二監司提督一、巡視、下ㇾ部議、南北直隸御史各一員、各省按察副使、或僉事各一員、專敕責成、不ㇾ許二巡安御史侵越一。〔歷代職官表、學政、國朝官制〕提督學政、順天・山東・山西・河南・江蘇・安徽・江西・福建・浙江・湖北・湖南・四川・廣東・廣西・雲南・貴州各一人、陝西・甘肅一人、奉天府一人、福建・臺灣府一人、掌二直省學校生徒攷課黜陟之事一。

【提轄】21 テイカツ 官名。❶兵事を統率する役の名。宋代、各州郡に多く之を置き、或は守臣に兼帶せしめた。〔宋史、職官志七〕守臣、云云、及提二轄兵甲一者、掌下統二治軍旅一、訓練教閱、以督二捕盜賊一、而肅中淸治境上、凡諸營名籍賞罰之事、皆掌ㇾ之。❷度支官（事務官）の稱。宋に四提轄があり、一に権貨務及び都茶場、二に買賣雜務、三に文思院、四に左藏庫、皆提轄官を置いて之を領せしめた。〔文獻通考、職官考、雜買雜賣務〕紹興六年詔、雜買務雜賣場、置二提轄官一員一。〔文獻通考、職官考、左藏庫〕建炎以來朝野雜記曰、云云、四提轄、謂二権貨務、都茶場、雜買務、雜賣場、文思院、左藏、東西庫一、是也、権貨務場、掌二醒茗香礬鈔引之政令一、紹興初、沿二宣政舊例一、置二提領官一、率以二故省吏一爲ㇾ之、後乃改用二士人一、行在・建康・鎭江三務場歲入、凡二千四百萬緡、皆以二都司一提領、不ㇾ係下戶部之經費、而在二建康鎭江一者上、分二屬總領所一焉、開禧末、以三總所侵二用儲積錢一、始徑隸二提領官一、不ㇾ屬二總所一、買務賣場、蓋唐宮市之遺制、近制、凡宮禁月料、朝省紙劄、文思院之製造、利劑局之修合、皆所二取給一焉、至ㇾ若二斥左帑封椿之幣餘、編佑打套、則賣場掌ㇾ之、紹興六年、始置二提轄官一總二其事一、先ㇾ是四轄官、外補則爲ㇾ州、內遷則寺監丞簿、亦有下徑爲二雜監司一、或入二三館一者上、近歲望稍輕、往往更遷二六院官一、或出爲二添倅一、非二曩日之比一矣。

【提盒】22 テイガフ さげ重箱。〔和漢三才圖會、庖廚具、食盒〕提盒、今云二提重箱一、近世製甚精美、三四重層層、養餠酒肴以可二提攜一者、舟逍遙野遊等行廚、提盒必用之器。

【提起】23 テイキ ❶說きあかす。〔琵琶記、蔡公逼試〕他意兒、難二提起一。❷もちあげる。〔水滸傳、五十三回〕李逵搶將入去、提二起斧頭一、便望二羅眞人腦門上一劈。❸もちだす。提出する。

【提戲】24 t'i² hsi⁴ あやつり人形。

【提議】25 テイギ 議題をもち出す。又、其の議題。

【提休】26 テイキウ あやつり人形。傀儡戲の異稱。〔事物異名錄、玩戲、傀儡〕方言、稱二傀儡戲一曰ㇾ休、亦曰二提休一。〔稱謂錄、傀儡、提休〕案、傀儡以二木人一爲ㇾ之、提ㇾ之以ㇾ索、故曰二提休一。

【提究】27 テイキウ 取調べる。〔淸會典事例、禮部、學校、學政關防〕有下容ㇾ令二跪道投書稟見一者上、巡捕員役重究、該巡捕官不ㇾ許二代替如ㇾ違二提究一。〔福惠全書、刑名部、逃人、拿獲〕以二地方官印文一爲ㇾ憑、亦不ㇾ准二提究一。

【提及】28 t'i² chi² いひ出す。言及する。提出す「る。

【提擧】29 テイキヨ ❶官名。提擧は管理の意。特種の事務を主管する官。宋代、提擧常平倉・提擧水利・提擧茶鹽・提擧宮觀等の官があり、元・明は多くその制に從ひ、淸はただ鹽課提擧司を置く。〔文獻通考、職官考、提擧〕卽漢耿壽昌常平之任也、自三衞李悝制二平糴之法一、漢人因ㇾ之、則謂二之常平一焉、然漢人特置ㇾ倉、而猶領二之於大司農一也、宋朝淳化中、建二常平倉一、景祐元年、令下轉運司擧長史擧二所部官一專中領之上、然猶隸二漕臣一、熙寧遣ㇾ使提領、此蓋提擧常平之所ㇾ始也、九年、府界畿內亦專置二提擧常平倉一員一、不ㇾ令二司農丞兼領一、提擧常平司操二常平斂散之法一、申二嚴免役之政令一、治荒修廢、振二民艱阸一、則隸二提擧司一、歲察二所部廉能一、而保二任之一、若疲軟或犯ㇾ法、則隨二

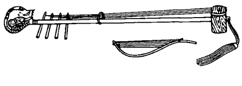
其職事一劾奏、元祐初、罷、紹聖九年、復置、政和改元詔、江淮荊浙六路、共置二茶鹽提舉一員一、宣和三年詔、河北京東路、推二行新法一、鈔鹽可三添二置提舉官一員一、此提舉茶鹽之所レ始也。〔蘇洵、議レ修二禮書一狀〕謹具レ狀、申二參政侍郎一、欲レ乞二備錄聞奏一。〔元史、百官志一〕都提舉萬億寶源庫、掌二寶鈔玉器一、至元二十五年、始置、都提舉一員、正四品、提舉一員、正五品、同提舉一員、從五品、副提舉一員、從六品。㊁およそ。あらまし。すべて。 提封(140)を見よ。

【提筐】30 テイキヤウ 筐を提げる。〔梁簡文帝、洛陽道樂府〕遊童初挾レ彈、蠶妾始提レ筐。〔吳均、陌上桑樂府〕蠶饑妾復思、拭レ淚且提レ筐。〔錢起、月下洗藥詩〕寄レ言養生客、來レ此共提レ筐。

【提供】31 テイキヨウ ㊀さしだす。提出。㊁さしだして用に供する。供給。

【提金】32 t'i² chin¹ 爐房で舊馬蹄銀を新馬蹄銀に改鑄するとき、舊馬蹄銀中に包有する金分を除き取ること。

〔提金樂〕33 テイキンラク 雅樂曲。唐樂。黃鐘調曲。今、傳らず。〔和名抄〕黃鐘調曲、提金樂。


提　琴　（清會典圖）

【提琴】34 テイキン ㊀樂器の名。形は胡弓に似、二絃。胴に蛇皮を張り、馬尾弦で摩擦して鳴らす。もと胡國から傳來。胡琴。〔西河詞話〕提琴、則起二于明神廟一。其製用二花梨一爲レ幹、飾以二象齒一、而龍二其首一、有二兩弦一、從二龍口中一出、腹綴以レ皮如二三絃一、然較小、其外別有二鬃絃一、絆二曲木一、有レ似レ張レ弓、衆昧二其名一、大倉樂師楊仲修能識二古器一、一見曰、此提琴也、然按レ之少レ音、于レ是易レ木以レ竹、而音生焉、時崑山魏良甫善爲二新聲一、賞レ之甚、遂攜レ之入二洞庭一、奏一月不レ輟、提琴以傳、然究不レ知レ爲二何代樂器一、仲修雖レ識レ古、亦不レ能レ按レ所レ始也、考、唐宋舊樂器甚夥、然移レ時卽沒、此亦不レ過二唐宋閒所レ造、而獨得二盛行一、亦屬二異事一。㊁ヴアイオリンをいふ。

〔提琴樂〕35 テイキンラク 提金樂(33)に同じ。〔續教訓抄〕提琴樂、新樂、呂、拍子十二、或拍子十一、此曲、清、瀨宮繼作。

【提戈】36 テイクワ 戈を提げもつこと。〔淮南子、人閒訓〕陽虎因赴レ圍而逐、揚レ劍提レ戈而走。〔梁元帝、告二四方一檄〕中レ權後勁、龔行二天罰一、提レ戈蒙レ險、隕越以之。〔王僧孺、與二何炯一書〕不レ得下奉レ扳中涓、預二衣裳之會一、提レ戈後勁、厠中龍豹之謀上。〔徐陵、爲二貞陽侯一與二王太尉僧辯一書〕因以提レ戈負レ劍、臥泣行號。

【提貨】37 t'i² huo⁴ 荷を出す。出荷する。貨物を「引渡す。

〔提貨單〕38 t'i² huo⁴ tan¹ 引渡し指圖書。貨物引換證。船積證券。

【提過】39 t'i² kuo⁴ 話を持ち出すこと。〔宣和遺事、前集下〕且提過、只說官裏當日說朝。

【提回】40 t'i² huei² 銀行から預金を引出す。

【提誨】41 テイクワイ ねんごろにをしへさとす。 提耳(62)を見よ。〔書言故事、談論類〕不レ聆二提誨一、提耳之誨、提撕、詩、匪二手攜一レ之、言示二之事一、匪二面命一レ之、言提二其耳一。

【提闊】42 タイナカ 姓氏。

【提刑】43 テイケイ 官名。宋、提點刑獄の官を置き、所部の獄訟を察し、その曲直を平にすることを掌る。明・清には提刑按察使といふ。提刑按察司を見よ。〔宋史、職官志七〕提點刑獄公事、掌下察二所部之獄訟一、而平中其曲直上、所レ至審二問囚徒一、詳二覆案牘一、凡禁擊淹延而不レ決、盜竊逋竄而不レ獲、皆劾以聞、及舉二刺官吏之事一、舊制參二用武臣一、熙寧初、神宗以二武臣不一レ足、以察二所部人材一、罷レ之。〔文獻通考、職官考、提刑〕宋太宗淳化二年、以二司門員外郎董循等一十一人一、分二充諸路轉運司一、提二點刑獄一、四年省、景德四年、眞宗謂二王旦一曰、朕慮、四方刑獄官吏、未二盡得一レ人、一夫受レ冤、卽召二災沴一、今軍民事務雖レ有二轉運使一、且地遠無レ由レ知、先帝嘗選二朝臣一、爲二諸路提點刑獄一、今可二復置一、仍以二使臣一副レ之、於レ是置二諸路提點刑獄公事一、以二朝臣一充。〔六部成語、刑部、提刑、注解〕提二拿罪犯一、加以二刑訊一也。

〔提刑司本〕44 テイケイシボン 刻本の名。地方官署の手になつたものの一。提刑司で刻されたもの。〔書林清話、宋司庫州軍郡府縣書院刻書〕浙西提刑司本、淳熙己亥、刻二作邑自箴十卷一、見二瞿目繆續記一。

〔提刑按察司〕45 テイケイアンサツシ 官署の名。元、置き、明・清、之を承く。其の長官の提刑按察使は宋の提點刑獄の官に當り、諸路の獄訟を掌り、兼ねて農事を勸む。〔續文獻通考、職官考、按察使司〕元提刑按察司、國初立、後改爲二肅政廉訪司一、凡二十二道、每道、使・副使各二人、僉事四人、云云、明提刑按察使司、按察使一人、副使僉事無二定員一、云云、按察使掌二一省刑名按劾之事一、糾二官邪一戢二姦暴一、平二獄訟一雪二冤抑一、以振二揚風紀一、而澄二清其吏治一、大者暨二都市二司一會議、告二撫按一以聽二於部院一、凡朝覲慶弔之禮具、如二布政司一、副使僉事、分レ道巡二察其兵備・提學・撫民・巡海・清軍・驛傳・水利・屯田・招練・監軍一、各專レ事宜三併分レ員巡二備京畿一。〔明律、刑律、有司決囚等第〕凡獄囚鞫問、明白追勘完備、徒流以下從二各府州縣一決配、至二死罪者一、在レ內聽二監察御史一、在レ外聽二提刑按察司一審錄無レ冤、依レ律議擬、轉二達刑部一、定レ議奏聞。〔清會典事例、吏部、官制、各省按察使司〕國初、直隸不レ設二集司一、設二大名巡道一、兼二河南按察使銜一、通永天津巡道、俱兼二山東按察使銜一、霸昌井陘巡道、俱兼二山西按察使銜一、其餘各省皆設二提刑按察使司、按察使各一人一。

【提奚】46 テイケイ 縣名。漢、置く。今、闕く。朝鮮の境に當る。〔漢書、地理志下〕樂浪郡、縣二十五、提奚。

【提溪】47 テイケイ 土司の名。貴州省江口縣の西北。〔讀史方輿紀要、貴州、銅仁府〕提溪長官司、一統志、元置二提溪等處軍民長官司一、隸二都雲定雲安撫司一、後隸二思州軍民安撫司一、元志不レ載、明朝洪武五年、置二今司一、授二土酋楊秀纂一、後又以二張秉仁一副レ之、屬二思州宣慰一、尋改二今屬一。

【提擎】48 テイケイ 持ちささげる。〔劉師服・侯喜・軒轅彌明、石鼎聯句〕陋質荷二斟酌一、狹中愧二提擎一。

【提攜】49 テイケイ ㊀互に手をひく。たづさへる。提挈。〔禮、曲禮上〕長者與レ之提攜、則兩手奉二長者之手一。〔注〕提攜、謂二牽將行一。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一徐幹詩〕伊昔家二臨淄一、提攜弄二齊瑟一。㊁互にたすけあふ。〔孟郊、與二王二十一員外涯遊二枋口柳溪一詩〕小儒峭二章句一、大賢嘉二提攜一。

【提橋】50 テイケウ 清、河閒の人。字は景如。號は澹如居士。明、天啓の進士。淸に入り、刑部侍郎となる。著に詩說简正錄がある。〔四庫提要、十八〕。

【提擊】51 テイゲキ なげつけてうつ。〔漢書、王莽傳下〕拔レ劍四面提擊。

【提挈】52 テイケツ ㊀ひつさげる。たづさへる。携帶する。引連れる。〔禮、王制〕道路、云云、輕任并、重任分、班白者不二提挈一。〔墨子、兼愛下〕奉二承親戚一、提二挈妻子一。〔戰國、東周策〕夫鼎者、非下效二壺醯醬瓿一耳、可二懷挾提挈以至一レ齊者上。㊁處理する。〔淮南子、俶眞訓〕夫挾二依於跂躍之術一、提二挈人閒之際一。㊂たすける。 たすけあふ。持ちつ持たれつ。又、共同して事をなすこと。左提右挈。〔漢書、陳餘傳〕左提右挈、而責レ殺レ王。〔注〕師古曰、提挈、言二相扶持一也。〔後漢書、袁術傳〕天下提挈、政在二家門一。㊃かかげ出す。〔朱熹、中庸章句序〕歷二選前聖之書一、所下以提二挈綱維一、開中示蘊奧上。

【提揭】53 テイケツ 一緒になる。〔還魂記、冥誓〕歎書生何幸遇レ仙提揭。

【提月】54 テイゲツ つごもり。晦日。〔公羊、僖、十六〕是月、六鷁退飛、過二宋都一、云云、是月者何、僅逮二是月一也。〔阮元校勘記〕盧文弨曰、是月、有下作二提月一者上。〔初學記、歲時、月晦〕提月、晦日。〔注〕公羊傳曰、提月、六鷁退飛、過二宋都一、提月何、僅建二是月一、晦日也、何休注曰、提、月邊也、魯人語也、在二是月之幾盡一。〔鶡冠子、王鈇、四時始二於歷一故家里用レ提、注〕提、零日也、公羊傳曰、提月者、僅逮二此月一、晦日也。

【提壺】55 テイコ ㊀壺を提げる。〔王褒、僮約〕舍中有レ客、提レ壺行レ酤。〔劉伶、酒德頌〕止則操レ卮執レ觚、動則挈レ榼提レ壺。㊁禮を用ひる。〔太玄經、事〕丈人扶レ孤、豎子提レ壺。〔注〕壺、禮也、提、用也。㊂鳥の名。提壺盧。〔王禹偁、初入二山聞二提壺鳥一詩〕遷客由來長合レ醉、不レ煩幽鳥道提レ壺。

〔提壺盧〕56 テイコロ 鳥の名。提壺鳥。〔歐陽脩、詩〕獨有二花上提壺盧一、勸レ我有レ酒花前傾。〔周紫芝、五禽言詩〕提壺盧、樹頭勸レ酒聲相呼、勸レ人沽レ酒無レ處レ沽。〔高啓、五禽言和二張水郎一詩〕提壺蘆趣沽レ酒、杏花村中媼家有。

【提控】57（テイコウ） ❶牽制する。制する。又、其のこと。〔金史、章宗紀四〕長官常加二提控一。❷ただして制御することを掌る職の名。元に提控案牘の官がある。〔續文獻通考、職官考、戶部〕金戶部、尙書一人、云云、主事五人、女直司二人、通掌二戶度金倉等事一、漢人司三人、同員外郎、分二掌曹事一、兼提二控編附條格管句架閣等事一。〔元史、百官志二〕都提擧萬億寶源庫、云云、都提擧一員正四品、云云、提控案牘一員。

【提催】58（テイサイ） 罪人をひきよせる。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕致二差票提催一、定行二解究責革一。

【提早】59 t'i^2 tsao^3 早める。

【提槧】60（テイザン） 文字を書くふだをたづさへる。〔西京雜記、三〕揚子雲好レ事、常懷レ鉛提レ槧。

【提示】61（テイシ） さし出ししめす。みせる。

【提耳】62（テイジ） 耳に口を近づける。耳に口を近づけて言ふこと。切に教へたり諫めたりすること。提耳面命を見よ。〔後漢書、循吏、劉矩傳〕提レ耳訓告。〔舊唐書、陸贄傳論〕攜レ手提レ耳。

〔提耳面命〕63（テイジメンメイ） 耳に口を近づけ面と向つて教へる。ねんごろに諭し教へるにいふ。〔詩、大雅、抑〕匪二手攜一レ之、言示二之事一、匪二面命一レ之、言提二其耳一。〔箋〕我非二但對面語一レ之、親提二撕其耳一。

【提拾】64（テイシフ） あげひろふ。ひつさげとる。〔梁簡文帝、詠二筆格一詩〕幸因二提拾一用、遂廁二璇臺一賞。

【提緝】65（テイシフ） とらへかた。捕手。〔福惠全書、刑名部、問擬〕方可レ立二提緝之案一。

【提集】66 t'i^2 chi^2 呼出し集める。

【提倡】67 t'i^2 ch'ang^4 自ら言ひ出して人に勸める。奬勵する。主張する。

【提唱】68（テイシヤウ） ❶〘佛〙禪家の宗匠が學徒に向つて宗要を提起して唱道することをいふ。❷事に先だつてとなへ導く。提倡。主張。主唱。

【提將】69（テイシヤウ） たすけひきゐる。扶持。扶將。〔元結、系樂府、去レ鄉悲詩〕日行見二孤老一、羸弱相提將。

【提奬】70（テイシヤウ） 取り立てる。あげすすめる。〔北齊書、趙彥深傳〕提二奬人物一、皆行業爲レ先、輕薄之徒、弗二之齒一也。〔北史、魏收傳〕提二奬後輩一、以二名行一爲レ先。

【提觴】71（テイシヤウ） さかづきをもつ。〔韓非子、十過〕平公大說、坐者皆喜、平公提レ觴而起、爲二師曠壽一。〔風俗通、聲音〕平公提レ觴而起。〔鮑照、三日詩〕提レ觴野中飮、愛愛煙未レ開。

【提取】72（テイシユ） ひきよせる。とりあげる。〔福惠全書、刑名部、人命上、印官親驗〕提二取兇器一。〔福惠全書、蒞任部、稟帳贅說〕提二取高繼曾案內屍格一。

【提出】73（テイシユツ） さし出す。持ち出す。呈出。〔淸國行政法汎論、官廳監督種類、備考〕光緒二十八年、廢二通政使司一、地方奏事、直接提二出之內閣一。

【提詢】74 t'i^2 hsün^2 もち出して問ふ。喚問する。

【提書】75（テイシヨ） 提頭して書くこと。提頭(119)を見よ。

【提署】76 t'i^2 shu^3 提督衙門をいふ。

【提敍】77 t'i^2 hsu^4 說く。陳述する。

【提升】78 t'i^2 shêng^1 引立てる。拔擢する。

【提心】79 t'i^2 hsin^1 用心する。注意を怠らない。

〔提心弔膽〕80 t'i^2 hsin^1 tiao^4 tan^3 心中びくびくする。

【提神】81 t'i^2 shen^2 氣を付ける。精を出す。

【提審】82（テイシン） 裁判する。取調べる。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕在二憲臺提審一、不レ過下以三安二靖地方一爲上レ念。

【提親】83 t'i^2 ch'in^1 結婚の媒介をする。

【提訊】84（テイジン） 呼び出して訊問する。喚問する。引致して訊問する。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄、獄囚衣糧〕凡司獄吏目典史、專管二囚禁一、如犯人果有二冤濫一、許二管獄官檢擧申明一、如府州縣不レ准、許下卽直申二憲司各衙門一提訊上。

【提數】85 t'i^2 shu^4 房事を行ふ度數。

【提成】86 t'i^2 ch'êng^2 全額の幾割かを取り出す。

【提請】87 t'i^2 ch'ing^3 推薦する。

【提撕】88（テイセイ） ❶後進の人をさし導く。〔正字通〕撕、提撕、警覺也。〔顏氏家訓、序致〕提二撕子孫一。❷ふるひおこす。振作する。又、元氣を出す。〔韓愈、南內朝賀歸呈二同官一詩〕所レ職事無レ多、又不二自提撕一。❸ひきつれたすける。提挈(52)に同じ。〔剪燈餘話、芙蓉屛記〕逝魂願二提撕一、煢嫠賴二將引一。❹〘佛〙（テイゼイ） 弟子を警覺して教へ導く。〔大唐西域記、七〕阿難聞已、云云、提撕指授。〔性靈集、八〕庭訓有レ餘、提撕無窮。

【提醒】89 t'i^2 hsing^3 注意を引き起す。暗示を與へる。〔紅樓夢、二十五回〕一句語、提醒了王夫人。

【提攝】90（テイセツ） ひきよせる。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕必不レ令三提二攝經承一。

【提前】91 t'i^2 ch'ien^2 期日よりも早く。又、はやめる。

【提訴】92（テイソ） 訴訟を提起する。起訴。

【提送】93 t'i^2 sung^4 捕縛して護送する。

【提罾】94（テイソウ） 漁網の一種。よつであみ。もんどり。〔和漢三才圖會、漁獵具、坐罾〕提罾、四手阿美、三才圖會云、坐罾・板罾・提罾、其三制俱相似、惟坐罾稍大。

【提捽】95（テイソツ） ひきとらへる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕提捽而下、則驚魂大怖。

【提存】96 t'i^2 ts'uen^2 供託。

〔提存風潮〕97 t'i^2 ts'uen^2 fêng^1 ch'ao^2 取つけの騷ぎ。

【提陀】98（テイダ） 民衆。人民。百姓。蠻夷の語。〔桂海虞衡志、志蠻〕餘民皆稱二提陀一、猶レ言二百姓一也。

【提拿】99 t'i^2 na^2 とらへる。〔福惠全書、刑名部、監禁〕提拿分別懲處。

【提台】100（テイダイ） 提督の別名。

【提到】101 t'i^2 tao^4 話し及ぶ。

【提塘】102（テイタウ） 官名。淸、置く。兵部の屬。各省の督撫から武職一人を駐京せしめ、中央官廳と地方との往復文書を遞送することを掌らしめた。之を提塘官といふ。〔淸會典、兵部〕掌レ監二堂印一、收二在京衙門之文書一、凡鋪遞之件、記二其號一、以發二於提塘一。〔淸會典事例、兵部、郵政、塘務〕各省駐京提塘官、直隸一員、山東一員、河南一員、山西一員、江南一員、江西一員、福建一員、浙江一員、廣東一員、廣西一員、湖廣一員、四川一員、陝西甘肅新疆共一員、雲南貴州共一員、漕河一員、凡鈔刊章奏事件、奇二交各省一敕書印信物件、以及二各部院尋常各行外省公文一、俱交給遞送、又設二兵部差官二十員一、遇有二緊要事件一、給二發火票一、交二差官一馳二送通州・良鄉・昌平・順義各驛一、接續飛遞。〔福惠全書、筮仕部、發二諭單一〕命下之日、卽書二諭單一紙一、附二提塘一報二房郵一去。〔六部成語、吏部、提塘、注解〕各省皆在二京城一、設二立往來遞送文報之官一、曰二提塘一。

【提單】103 t'i^2 tan^1 ❶船荷證券。❷貨物引換證。

【提持】104（テイヂ） さげもつ。

【提抽】105 t'i^2 ch'ou^1 分採。抽出。

【提鎭】106（テイチン） 武官の役所。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕通二詳各憲幷提鎭衙門一。〔淸國行政法汎論、盛京將軍〕蓋直省駐防將軍、僅總二統其所屬之軍隊一、至二督撫提鎭一、則不レ能三節二制之一。

【提挺】107（テイテイ） ひつさげおさへる。〔古三墳〕居方氏生レ子、三十二世、強弱相迫、欲レ生二呑害一、中有二神人一、提挺而治、故號二提挺氏一。

【提提】108（テイテイ） ❶しとやかにゆつたりしたさま。安舒のさま。〔詩、魏風、葛屨〕好人提提、宛然左辟。〔傳〕提提、安諦也。〔疏〕釋訓、提提、安也、孫炎曰、提提、行步之安也、言二安諦一、謂二行步安舒而審諦一也。〔集傳〕提提、安舒之意。❷やすらかに自得するさま。〔管子、白心〕爲レ善乎、毋二提提一、爲二不善一乎、將レ陷二於刑一。〔注〕提提、謂レ有レ所二揚擧一也。〔纂詁〕提提、安祥自得貌。❸明らかなさま。〔淮南子、說林訓〕的的者獲、提提者射。〔注〕提提、安也。〔集解〕王念孫云、注訓二提提一爲レ安、雖レ本二爾雅一、然非二此所謂提提一也、的的・提提、皆明也、語之轉耳、提與レ題同、說文、題、顯也、顯亦明也。❹（シシ） 鳥の羣飛するさま。〔詩、小雅、小弁〕弁彼鸒斯、歸飛提提。〔傳〕提提、羣貌。〔集傳〕提提、羣飛安閒之貌。

〔提提星兒〕109 t'i^2 t'i^2 hsing^1 êrh 線香花火。

【提調】110（テイテウ） ❶官名。元に大都路兵馬都指揮使司があり、京城の盜賊・姦僞・鞫捕の事を掌る。世祖、刑部尙書一人を以て提調司事とし、提調の名は此に起る。淸は方略館・會典館の類に皆提調を置き、章奏文移を掌り、吏役を治めさせた。鄉會試にも內外提調を置き、各局の總辦ある者にも又提調を置いて屬とした。其の職は上命を承けて下に宣布し、以て事務を理めるにある。〔元史、百官志六〕大都路兵馬都指揮使司、凡二秩、正四品、掌二京城盜賊・姦僞・鞫捕之事一、都指

揮使二一員、副指揮使五員、知事一員、提控案牘一員、吏十四人、至元九年、改二千戸所一爲二兵馬司一隸二大都路一、而刑部尙書一員提調司事、凡刑名則隸二宗正一、且爲二宗正之屬一、二十九年、置二都指揮使等官一、其後因レ之、一置二司於北城一、一置二司於南城一。〔淸會典事例、刑部、刑律捕亡、稽留囚徒〕若發遣之時、提調官吏、不レ行三如レ法鎖杻一、以致二囚徒中途解脫一、自帶二鎖杻一在レ逃者、與二押解人一同レ罪。〔六部成語、禮部、提調、注解〕總二理試場雜務一之官、府道爲レ之。〔淸國行政法汎論、新設官廳〕又有二所謂督辦者一、立二於總辦之上一、監二督其事務一、然未三必全設二此等職員一、大抵有下一總辦、在二其下一、準二備補三助一切事務一者上、謂二之提調一。❷とりしまる。〔明律、兵律、廏牧、孳生馬匹〕都羣所官不レ爲二用レ心提調一者、各減二三等一。❸佛其の事を提擧して能く調理する。〔敕修淸規、寮主副寮〕提二調香燈茶湯一。

【提調部糧官】111 テイテウブリヤウクワン　提調は、稅務の長官。部糧は、佐貳官。〔明律、戶律、倉庫、收糧違限〕若夏稅違レ限至二八月終一、秋糧違レ限至二次年正月終一、不レ足者、其提調部糧官吏典三分二催里長欠糧一。

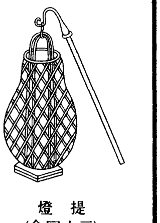
【提擲】112 テイテキ　手にとつてなげうつ。〔韓詩外傳、七〕果園梨栗、後宮婦人、以相提擲、士曾不レ得二一嘗一。

【提掇】113 テイテツ　救ひ上げる。〔琵琶記、義倉賑濟〕正是今日得二君提掇起一。

【提點】114 テイテン　官名。點檢調査する役の名。宋に提點刑獄・提點宮觀等の官があり、金に殿前都提點及び敎坊太醫諸局監提點があり、元に司天監及び諸局諸倉諸庫に提點があり、明には神樂觀提點だけがあり、道士に授ける官とした。提刑(43)を見よ。〔續文獻通考、職官考、內侍省〕遼、所屬內庫、有二提點一、云云、金近侍局官、有二提點一、又有二使副使一、掌下侍從承二敕令一、轉中進奏帖上。〔稱謂錄、按察使、提點刑獄〕山堂肆攷、宋置二諸路提點刑獄一、卽按察也、宋諸州觀察使亦是其職。

【提燈】115 チヤウチン テイトウ　手に提げて持ち歩くやうに作つた燈火。チヤウは唐音。〔行厨集〕提者曰二提燈一。

【提燈會】116 tʻi^{2} têng^{1} huei^{4}　提灯行列。宣統三年十月六日、立憲速開の上諭が出て、祝賀のため北京各學校で催したのに始まる。


提燈
（三才圖會）

【提燈持】117 チヤウチンモチ　夜行に先頭に立ち、提燈を提げる者。轉じて、俗に他人のおさきに使はれ、或は賴まれもせぬのに他人の有利になるやうな言動をすること。又、その人。〔艶狩劍本地、一〕提燈持を礑と蹴倒し。

【提燈行列】118 チヤウチンギヤウレツ　祝意を表するため、多人數の團體が、各個に提燈を携へ、列を作つて夜中に市中などをねり行くこと。

【提頭】119 テイトウ　かしらをもちあげる。文章中、天子又は皇室に關する文字を別行にして上に提げ出して書き、尊敬の意を表はすことをいふ。〔名山藏〕翁萬達傳、萬達謝疏中、有三一人字失二提頭一、爲二不敬一、斥爲レ民。

【提督】120 テイトク　❶官名。武職最高の官。明代、提督京營戎政諸職があり、率ね勳戚大臣、及び太監を以て之に任じた。淸代は重要の省に提督を分設し、全省の水陸各軍を統轄せしめた。此の外、別に明に提督東廠、淸に提督學政・提督會同四譯官等の名がある。〔明史、職官志五〕京營、嘉靖二十九年、革二團營官廳一、仍併二三大營一、改二三千一曰二神樞一、設二副參遊佐坐營號頭中軍千把總等官一、統以二提督總兵官一員一、已改二提督一曰二總督一、鑄二總督京營戎政印一、俾二仇鸞佩レ之、更設二侍郎一人一、協二理京營戎政一、定巡二視科道官一、歲一代更悉革、內侍官增二設巡視主事一、尋亦革、隆慶初、仍以二總督一爲二提督一、改二協理一爲二閱視一、尋併改二閱視一爲二提督一、四年二月、更二京營制三營一、各設二提督一、又各設二右都御史一員一、提二督之一、九月罷、六提督仍復二總督戎政一人一。〔續文獻通考、職官考〕提督操江一人、以二副僉都御史一爲レ之、領二上下江防之事一。〔續文獻通考、職官考〕提督四夷館、掌二譯書之事一、少卿一人。〔皇朝通典、職官、提督〕提督軍務總兵官、直隸一人、山東一人。〔歷代職官表、提督〕謹案、提督之官、自二有明一始、然不レ爲二一定之官稱一、且不レ設二員額一、亦不二常置一、蓋古者天子寄二軍政於六卿一、居則以田、警則以戰、所謂入使レ治レ之、出使レ長レ之、素信者與レ衆相得也、周之六卿在レ國、以二比長閭胥族師黨正卿大夫一爲レ稱、其在レ軍也、則以二五長兩司馬卒長族師師帥軍將一爲レ號、爲レ兵者皆平居之民、爲レ將者皆平居之吏、故曰、邊境有レ事、左右之官皆將帥也、漢承二秦制一、郡都尉專司二兵事一、而兵始有二常將一、然都尉亦以二文臣一爲レ之、則兵民之事雖レ分、而主レ兵者固不レ分二文武一、魏晉以降、督二軍州一者、多加二將軍郎將之號一、而當時中朝淸望官、亦頗以レ加二軍號一爲レ重、知三將軍等號、元非二專爲レ統レ兵而設嗣一、是總管節度、殊レ名同レ實、唐末之節度使、多用二武人一、至レ宋、而總管鈐轄、或領以二文臣一、而武臣實司二其事一、蓋自有レ長、募二屯駐之兵一、而始有二營伍之制一、既有二營伍一、卽不レ得レ不下置二將帥一以專領上之、然其初偏裨以下、雖三漸漸專用二武臣一、而大帥則仍多以二地方官一兼レ之、自二宋都副總管文武並置一、元置二元帥萬戶等府一、則守臣不三復得レ與二兵事一、而文與レ武始截然爲レ二矣、夫司馬世官、亦以命レ氏、後世兵皆常聚、師多世守、文武之途既分、而緩帶輕裘者、或不レ嫻二行陣一、卽如下宋崇寧中、以二湯景仁等一、提中擧各路弓箭手上、後仍改用二武臣一、則以前所レ置文臣、不レ能下親詣二邊塞一、衝中冒寒暑上之故、然則省會內地、邊陲要區、屯レ兵以衞二民生一、立レ將以統二營伍一、實亦因二時之政一矣、第明制提督既不二常設一、而自二總兵一以下、凡統兵之官、亦俱無二品級一、無二定員一、且多充以二勳戚都督等官一、大率童騃驕恣、軍政紊如、我朝奄二有區宇一、詰戎飭伍、各省特設二水師陸路提督一、以統二綠旗兵旅一、自二畿輔海甸一、達二於雪山炎徼一、星羅碁置、腹地則兼以二巡撫一、承以二總兵副將參將遊擊都司守備千總把總之屬一、各有二員額品秩一、而總督實節二制之一、文武相維、分標協理、我皇上制レ治保レ邦、動二關宸慮一、邊防屯戍、往往增二設兵伍一、又以三武臣俱有二分猷宣力之責一、特命倣二文臣之例一、量レ職定レ制、各給二養廉一以優贍、其身家規畫、尤爲盡レ善、茲故撮二論其概一、而總兵以下、其說亦略具二於此一云。❷一隊の兵をすべる人。又、艦隊の總指揮官。水師提督。

【提督衙門】121 テイトクガモン　步軍統領衙門(6－16264··48)に同じ。〔淸會典事例、刑部、刑律捕亡、應捕人追捕罪人〕步軍統領衙門番役、止許下於二京城內外五城所屬地方一緝中拏人犯上、既經二拏獲一、屬二提督管轄一者、限二卽日一送二該管營一弁轉二送提督衙門一、屬二五城管轄一者、限二卽日一送二該管官一、轉二送御史衙門一。

【提把】122 tʻi^{2} pa^{4}　とつて。とりて。つる。

【提婆】123 ダイバ　佛梵語 deva の音譯。❶天をいふ。〔事物異名錄、乾象、天〕椒園記、匈奴呼レ天爲二祁連一、西域曰二提婆一。❷提波。菩薩の名。迦那提婆。もと執師子國の人。龍樹の弟子となる。付法藏第十四祖。〔百論疏、上之上〕提婆者、天也、蓋是其本名、末稱二伽那提婆一、伽那者小二一目一、以二一目一施二天神一、故以爲レ名、復傳云、提婆曾乞レ食、有二女人應レ發二道心一、於二提婆眼一生レ愛、提婆出レ之示レ之、但是不淨、因以發心、故小二一目一也。

【提包】124 tʻi^{2} pao^{1}　手提かばん。

【提邦】125 テイハウ　國中こぞつて。擧國。〔新書、耳痺〕提レ邦以伐レ楚。

【提防】126 tʻi^{1} fang　看守する。守備する。注意して防備する。

【提撥】127 テイハツ　❶出征又は守備の際、本隊を離れて進發すること。〔明律、兵律、軍政、從征守禦官軍逃〕若有二病亡・殘疾・提撥等項事故一者、不レ在二此限一。〔六部成語、兵部、提撥、注解〕從二大隊兵中一、提二出幾分一、撥二往他處一。❷tʻi^{2} po^{1} ㋑取り出す。㋺言ひ出して思ひ起させる。

【提拔】128 テイバツ　引き立てる。引き拔く。拔擢する。又、其のこと。〔南史、齊宗室、衡陽公諶傳〕已死之人、何足レ至レ此、君不レ憶二相提拔時一邪。〔庾信、爲二杞公一讓二宗師驃騎一表〕不レ悟天澤沛然、謬垂二提拔一。〔文苑英華、劍賦〕許二提拔一而非レ遙、期二磨礱一而在レ爾。

【提犯】129 tʻi^{2} fan^{4}　犯人を法廷に呼び出す。

【提筆】130 テイヒツ　ふでをたづさへる。筆をもつ。〔王禹偁、故太子中允知洛陽縣穎公詩〕提レ筆入二廣場一、辭氣干二斗牛一。

［提筆寫字］131 t'i² pi² hsieh³ tzŭ⁴ 筆を持つて字を書く。

【提布】132 t'i² pu⁴ 模樣のある綿布。提花布(161)に同じ。

【提扶】133 テイフ ❶手をひいてたすける。❷鳳凰が止つて鳴くこと。〔初學記、鳥部、鳳〕論語摘衰聖曰、鳳凰行鳴曰二歸嬉一、止鳴曰二提扶一。

【提兵】134 t'i² ping¹ 兵を率ゐる。

【提票】135 t'i² p'iao⁴ 拘引狀。召喚狀。拘票。

【提標】136 テイヘウ 清代、提督麾下の綠營兵の稱。中左右前後の五營に分け、參將中軍官が之に將となる。標は本營麾下の兵をいふ。〔清會典、兵部〕十有九省、則統二於督標・撫標・提標・鎭標・軍標・河標・漕標一、而以達二於部一、標分二其治於レ協、於レ營、於レ汎、以愼二巡守一、備二徵調一。〔注〕各省提督所レ屬爲二提標一。〔清會典事例、兵部、官制巡捕營〕八旗、步軍向係二提督專管一、今著二兩翼總兵一一同管二理其巡捕五營事務一、著二將中營一作二提標一、副將作二爲提標中軍一。

【提瓢】137 テイヘウ ひさごをたづさへる。〔青山延于、皇朝史略〕父嗜レ酒、樵夫常提レ瓢過レ市、購レ酒以進。

【提補】138 t'i² pu³ 言ひ出して注意する。助言する。

【提母】139 テイボ 草の名。三輔に產し、黃白なのが最も善い。知母ともいふ。〔庶物異名疏〕范子計然曰、提母出二三輔一、黃白者善、吳氏本草曰、知母、一名提母、無レ毒、補二不足一、益レ氣。

【提封】140 テイホウ およそ。あらまし。すべて。合計。多凡の轉音。一說に、封內のすべて、地域內の合計の意。〔漢書、東方朔傳〕盩厔以東、宜春以西、提封頃畝。〔注〕師古曰、提封、亦謂下提二擧四封之內一、總中計其數上也。〔漢書、刑法志〕一同百里、提封萬井。〔注〕李奇曰、提、擧也、擧二四封之內一也。〔漢書、匡衡傳〕初衡封二僮之樂安鄕一、鄕本田提封三千一百頃。〔班固、西都賦〕提封五萬。〔注〕善曰、臣瓚案、舊說云、提、撮凡也、言三大二擧頃畝一也。

【提僈】141 テイマン ゆるやかなこと。舒緩のさま。〔荀子、脩身〕由レ禮則治通、不レ由レ禮則勃亂提僈。〔注〕提、舒緩也。〔王先謙集解〕言、不レ由レ禮、則血氣強者多二悖亂一、弱者多二弛慢一也。

【提命】142 テイメイ ねんごろに訓へる。又、ねんごろな教。提耳面命(63)を見よ。〔鄭㙔、與二鄧衞玉一書〕固未下嘗親二炙其人一、受中其提命上者也。

【提問】143 テイモン 呼び出して取り調べる。召喚訊問する。〔福惠全書、刑名部、問擬〕合下問二某人一、倶另行中提問上、是謂二照提一。

【提牢】144 テイラウ 官名。刑部の牢獄を取調べ、罪囚を稽核する職。明・清、皆刑部主事を以て之に任じ、之を提牢主事といひ、其の官署を提牢廳といふ。〔明律、刑律、凌虐罪囚〕凡獄卒非レ理、在レ禁凌二虐毆傷罪囚一者、依二凡鬭傷一論、尅二減衣糧一者、計レ贓以二監守自盜一論、因而致レ死者至レ死者減二一等一。〔清會典、刑部、盛京刑部〕飯銀處、掌下收二儲飯銀一及其支放之事上。〔注〕秋審處一百九十二兩、提牢廳六十四兩。〔清國行政法汎論、刑部、附屬官廳〕提牢、專掌二監獄事務一、主事滿漢各一人。

【提洛】145 デルスデロス 島の名。エーゲ海中のキクラデス諸島中部の小島。Delus の音譯。

【提絡】146 t'i² luo⁴ 提げる。提溜。

【提籃】147 t'i² lan² 手に提げるかご。手さげかご。

【提理】148 テイリ すべをさめること。又、其の職。〔風俗通、十反〕何能乃發レ忿、欲二自提理一。

【提溜】149 テイリウ ❶水溜の大小を檢番する人夫。〔六部成語、工部、提溜、注解〕查二看水溜大小一之夫也。❷ti¹ liu 提げる。

［提溜不動］150 ti¹ liu pu tung⁴ 重くて提げられない。

【提梁】151 t'i² liang² て。つる。

【提領】152 テイリヤウ 官名。元、置き、所部をただし領する。〔元史、百官志一〕大都皮貨所、提領一員、大使一員、副使一員、用二從九品印一、至元二十九年置。

【提煉】153 t'i² lien⁴ 精煉する。混合物を除き去る。

【提爐】154 テイロ ❶辨當の一種。茶辨當。〔和漢三才圖會、庖厨具、提爐〕按、提爐、今之茶辨當也、入二茶爐於檯一行厨、與レ此令二僕擔一レ之、行旅重器也、今製數多。❷t'i² lu² 香爐を棒の尖端に下げたもの。回教徒の葬式又は天子の鹵簿に用ひる。

【提摟】155 t'i² lou¹ つかまへ提げる。

【提籠】156 t'i² lung² 人足の夾み箱の類をいふ。又、手籠・さげ籠の類。

【提腕】157 テイワン 書法の名。中字を書く時、肘を机につけ、手首を擧げて書くこと。〔翰林要訣、第一執筆法〕提腕、肘著レ案、而虛提二手腕一。〔古今法書苑〕腕法有レ三、有二枕腕一、有二懸腕一、有二提腕一、枕腕者、以二左手一枕レ右而書レ之、提腕者、肘著レ案、虛提二手腕一而書レ之、懸腕者、懸二著空中一而書レ之、枕腕以書二小字一、提腕以書二中字一、懸腕以書二大字一。

【提起來】158 t'i² ch'i lai ❶持ち出す。❷語り出す。

【提花業】159 t'i² hua¹ yeh⁴ 染物業。

【提花緞】160 t'i² hua¹ tuan⁴ 閃緞 (**11－41214**・・29)に同じ。

【提花布】161 t'i² hua¹ pu⁴ 模樣織の綿布。

【提手旁】162 t'i² shou³ p'ang² 手扁。

【提線摳】163 テイセンコウ あやつり人形。人形芝居。〔稱謂錄、傀儡、提線摳〕西河詞話、宮戲、本水傀儡、其製、用二偶人一立二板上一、浮二大池一、面用二屛障一、其下而以レ機運レ之、杖頭傀儡、以三人持二其足一、俗謂二之提腳摳一、懸絲傀儡、俗謂二之提線摳一。

【提法使】164 テイハフシ 官名。清末、按察使を改めて此の官を置く。一省の司法上の行政事務を管理す。〔清史稿、職官志六〕外省官制變更略少、唯省會司道別易二新名一、員額愈益、改二學政一爲二提學使一、按察使爲二提法使一云云、提法使司、提法使一人、掌二司法行政一、督二監各級審判廳調度、檢察事務一、署設二三科一、曰總務、曰民刑、曰典獄、科長各一人、一等科員各一人、二等科員無二恆額一。

【提彌明】165 テイビメイ 春秋、晉の人。趙盾の車右。勇力の士。靈公が盾を殺さうとして與に飮んだ時、彌明が之を知り、盾を扶けて下り、公が猛犬獒を嗾して盾を害させようとした時、彌明が之を搏殺し、鬭つて死んだ。史記晉世家には示眯明に作る。〔左氏、宣、二〕。

【提羅迦】166 テイラカ 花の名。日光を見れば開くといふ。〔酉陽雜俎、貝編〕提羅迦樹花、見二日光一卽開。〔皮日休、開元寺佛鉢詩〕拘律樹邊齋散後、提羅花下洗來時。

【提羅爾】167 チロール 地名。オーストリヤ、アルプスの一地方名。中心都市をインスブルクといふ。Tirol の音譯。

【提傀儡兒】168 t'i² k'uei² lei³ êrh 操人形。

【提提卡卡】169 チチカカ 湖の名。ペルーとボリヴィヤ兩國にまたがる淡水湖。Titicaca の音譯。

【提不起來】170 t'i² pu ch'i³ lai つまらない。名もない平凡な。

【提弗利斯】171 チフリス 地名。ジョージヤ共和國の首府、外コーカシヤ聯邦の首府。Tiflis の音譯。

【提名道姓】172 t'i² ming² tao⁴ hsiang⁴ 姓名を名乘る。

【提拉德爾非戈】173 チルデルフエゴ 島の名。南米最南端の群島。アルゼンチン・チリー兩國に分屬す。Tierra del Fuego の音譯。

【捏】12345

㊀ゲツ ゲチ 〔正韻〕魚列切 ㄋㄧㄝ nieh¹ 屑。
㊁ネツ 〔廣韻〕奴結切 屑。

㊀❶**こねあはせる**。揑(**5－12268**)に同じ。❷**姓**。〔廣宗縣志〕捏古伯、至元間、監二廣宗縣一。㊁現㋑つまむ。㋺捕へる。㋩おさへる。以上は捏に通用させて用ひる。㋥こねる。㋭たくらむ。以上は揑に通用させて用ひ、音は捏を踏襲する。

參考 熟語は捏(**5－12149**)を併せ見よ。

【捏合】1 ネツガフ こしらへあふ。〔福惠全書、刑名部、人命中、檢肉屍〕扶同捏合、增二減屍傷一。

【捏陷】2 nieh¹ hsien⁴ 無實のことを申立てて人を陷れる。

【捏虛】3 ネツキヨ うそをこしらへる。〔福惠全書、蒞任部、攷代書〕敢有二捏レ虛擅書一、立拿、重責枷示。

【捏控】4 nieh¹ k'ung⁴ 誣告する。捏控。

【捏告】5 ネツコク 無實の告訴をする。誣告する。捏

控。〔福惠全書、刑名部、人命中、圖賴〕捏㆓告打死殺死或威逼死㆒、自要㆔說㆓出一段根因㆒。

【捏造】6 ネツザウ 無實のことをこしらへる。捏做。捏飾。捏造。

【捏做】7 nieh¹ tsuo⁴ 捏造する。

【捏詞】8 ネツシ 無實の事を申立てる。誣告する。又、虛言。捏詞。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕赴㆓督撫衙門㆒、捏㆑詞告理。

【捏稱】9 ネツショウ いつはつてまうしたてる。〔福惠全書、刑名部、監禁〕捏㆔稱某犯出入難㆓以隄防㆒。

【捏飾】10 nieh¹ shih⁴ 外面を僞りかざる。

【捏侵】11 ネツシン とりこむ。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕如無㆓原行㆒、卽屬㆓捏侵㆒。

【捏泥】12 nieh¹ ni² 泥をこねる。

【捏登】13 ネツトウ うそをかきのせる。〔福惠全書、錢穀部、比較〕捏㆓登完數㆒、希㆔圖掩㆓飾一時㆒。

【捏報】14 ネツハウ 僞り報告する。虛報。捏報。〔福惠全書、清丈部、清丈餘論〕有㆓按㆑畝勒加、指㆑荒捏報㆒。

【捏病】15 ネツビヤウ 假病。僞病氣。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、土番點卯〕有㆓云云、朔望捏㆑病違㆑卯者㆒。

【捏覆】16 nieh¹ fu⁴ 捏造して復命する。

【捏滅】17 nieh¹ mieh⁴ 火をもみけす。

【捏稟】18 nieh¹ ping³ 虛報。捏報。

【捏列】19 nieh¹ lieh⁴ 捏ねならべる。

【捏弄】20 nieh¹ lung⁴ 物なれず耻かしさうにする。

【捏脚摳】21 nieh¹ chiao³ k'ou¹ 提線摳(**5−12344··163**)を見よ。

【捏款兒】22 nieh¹ k'uan³ êrh みえを張る。威張る。

【捏骨縫兒】23 nieh¹ ku³ fêng⁴ êrh 骨の隙をぬひつける。出產後、第十二日目に里方から煑餑餑を送り來ることをいふ。

【捏手捏脚】24 nieh¹ shou³ nieh¹ chiao³ 拔足差足して。音を立てずに。

【捏着鼻子】25 nieh¹ chê pi² tzŭ ❶鼻をつまむ。❷無理やりに。

【插】12346

一 サフ セフ 〔集韻〕側洽切 洽。
二 セフ 〔集韻〕七接切 葉。

小篆 一二 ❶さす。さしこむ。さしはさむ。〔說文〕插、刺內也、从㆑手臿聲。〔段注〕內、各本作㆑肉、今正、內者、入也、刺內者、刺入也。〔玉篇〕插、刺入也。〔南史、王儉傳〕斜插㆑簪。〔陸游、大雨詩〕緜地千里開、四月秧盡插。〔楊萬里、道旁居詩〕青瓷瓶插紫薇花。❷になひ。になひ棒。〔急就篇〕捃・穫・秉・把・插・捌・杷。〔注〕插者、擔也、兩頭鐵銳、所㆘以插㆓刺禾束㆒而擔㆖之也。❸とる。〔集韻〕插、攝也。❹すき。鍤(**11−40634**)に通ず。〔戰國、齊策〕坐而織㆑蕢、立則杖㆑插。〔注〕插・鍤同、刺㆑土器。❺捷(**5−12216**)・扱(**5−11835**)に通ず。〔說文、插、段注〕漢人注㆑經、多叚㆓捷字・扱字㆒爲㆑之。❻現こみあふ。混雜する。

【插秧】1 サフアウ ❶稻の苗を植ゑる。稻を植ゑ附ける。田植をする。〔高適、廣陵別㆓鄭處士㆒詩〕溪水堪㆑垂㆑釣、江田耐㆑插㆑秧。❷本田に移植したばかりの稻の苗。〔月令廣義〕插秧稀則透㆑風發㆑科、又可㆑入㆓耘耙㆒。〔蘇軾、戲作種松詩〕初移一寸根、瑣細如㆓插秧㆒。

【插羽】2 サフウ ❶羽をさしはさむ。〔潘岳、笙賦〕寫㆓皇翼㆒以插㆑羽、摹㆓鸞音㆒以厲㆑聲。〔孔稚珪、讓㆓詹事㆒表〕延㆓芳芝苑㆒、插㆓羽瓊條㆒。〔宋史、輿服志一〕指南車駕㆓赤馬㆒二、銅面插㆑羽。❷兵の召狀に鳥の羽を添へること。羽をさしはさんで鳥の飛翔に象り、その迅速を示す。〔文心雕龍、檄移〕植㆑義颺㆑辭、務在㆓剛健㆒、插㆑羽以示㆑迅、不㆑可㆑使㆓辭緩㆒、露板以宣㆑衆、不㆑可㆑使㆓義隱㆒。〔劉長卿、送㆔喬判官赴㆓福州㆒詩〕揚㆑帆向㆓何處㆒、插㆑羽逐㆓征東㆒。

【插羽佳人】3 サフウカジン 鳥の名。鵨(**12−46884**)の異名。〔清異錄、禽、插羽佳人〕豪少年尙㆑畜㆑鵨、號㆓半天嬌㆒、人以㆔其蠱惑過㆓於嬌女艷妖㆒、呼爲㆓插羽佳人㆒。

【插腰】4 サフエウ 腰にさしはさむ。〔劉孝威、結客少年場行〕插㆓腰銅匕首㆒。〔庾信、周車騎大將軍賀婁公神道碑〕蓮花插㆑腰、甚得㆓蛟龍之氣㆒。

【插架】5 サフカ ❶たなにおく。又、棚におく書。〔韓愈、送㆘諸葛覺往㆓隨州㆒讀㆖書詩〕鄴侯家多㆑書、插㆑架三萬軸。〔還魂記、延師〕我年將㆑半、性喜㆑書、牙籤插㆑架三萬餘。❷ch'a¹ chia⁴ 壁に懸ける竹製の書棚。

【插蓋】6 ch'a¹ kai⁴ さしぶた。差し蓋。

【插漢】7 サフカン ❶地名。今の察哈爾。明代、插漢といふ。又、察罕に作る。❷部族の名。元の裔の小王子の後で、明の嘉靖中、插漢の地に駐牧したから名づく。後、遼東の口外に移る。清、其の衆を宣大近くの地に移し、分けて八旗として管轄す。民國は之を特別區域とし、十七年、改めて省とした。〔清一統志〕察哈爾、明時曰㆓插漢㆒、本元裔小王子後、嘉靖閒、布希駐㆓牧察哈爾之地㆒、因以名㆑部。

【插岸】8 サフガン 貝の名。までがひ。馬蛤。⿰火臿岸(**7−19223··1**)に同じ。〔文同、過㆓友人溪居㆒詩〕水蟲行㆓插岸㆒、林鳥過㆓提壺㆒。

【插具】10 ch'a¹ chü⁴ 南滿で一種の協同農の俗稱。

【插花】11 サフクワ ❶花をかんざしとしてさす。〔梁簡文帝、答㆓新渝侯和詩㆒書〕九梁插㆑花、步搖爲㆑古。〔袁昂、古今書評〕衞恒書、如㆔插㆑花美女、舞㆓笑鏡臺㆒。〔歐陽脩、洛陽牡丹記、風俗記〕洛陽之俗、大抵好㆑花、春時城中、無㆓貴賤㆒皆插㆑花、雖㆓負擔者㆒亦然。〔張耒、田家詩〕插㆑花野婦抱㆑兒至、曳㆑杖老翁扶㆑背行。❷いけばな。活花。❸ch'a¹ hua¹ ㋑花瓶に花をさす。㋺甲縣で納稅すべき田地が乙縣內にある時、其の田地を插花といふ。

【插花人】12 サフクワジン 花を頭にさした人。〔杜牧、杏園詩〕莫㆑怪杏園顦顇去、滿城多少插㆑花人。〔王惲、和㆓仲常牡丹㆒詩〕清如㆓司馬相㆒、也作㆓插㆑花人㆒。

【插花地】13 ch'a¹ hua¹ ti⁴ 插花の❷の㋺に同じ。

【插科】14 ch'a¹ k'ê¹ 身振りをいふ。〔琵琶記、副末開場〕休論插科打諢。

【插畫】15 サフグワ 書物の中にゑをさしはさむ。又、其のゑ。さしゑ。插圖。

【插畫本】16 サフグワボン 文字だけでは十分に表現し難い場合、圖畫を以て補足した書物をいふ。繪入本。

【插繪】17 サシエ 文書の中に說明の補助などの目的で加へた繪畫。插畫。

【插關】18 ch'a¹ kuan¹ 門扉の閂をかける。

【插關兒】19 ch'a¹ kuan¹ êrh 俗にこつとりと稱するもの。門の栓。

【插關兒塞子】20 ch'a¹ kuan¹ êrh sai¹ tzŭ こつとりにさし込む小さい栓。

【插翹】21 サフゲウ 奇藥の名。山獺の枯死したもの。矢の毒を解くに用ひる。〔宋稗類鈔〕世傳、補㆓助奇僻㆒之品、有㆓所謂山獺者㆒云、以㆓少許㆒磨㆑酒、飮㆑之立驗、然本草・醫方、皆所㆑不㆑載、止見㆓桂海虞衡志㆒云、出㆓宣州溪峒㆒、峒人云、獺性淫毒、山中有㆓此物㆒、凡牝獸悉避去、獺無㆑偶、抱㆑木而枯、峒獠尤貴㆓重之㆒、能解㆓箭毒㆒、中㆑箭者、研㆓其骨少許㆒、傅㆑之立消、其土人號㆑之曰㆓插翹㆒、一枚値㆓黃金數兩㆒。

【插言】22 ch'a¹ yen² さし出口する。又、其のこと。插口に同じ。

【插口】23 ch'a¹ k'ou³ さしでぐち。

【插釵】24 サフサイ ❶かんざしをさす。〔王維、扶南曲歌詞〕散㆑黛恨㆓猶輕㆒、插㆑釵嫌㆑未㆑正。❷宋代、結婚の相談に兩親が相見えることを相親といひ、若し相手が氣に入れば金釵をその髻にさすことを插釵といひ、氣に入らなければ綵緞二匹を送ることを壓驚といふ。〔夢粱錄、嫁娶〕婚娶之禮、云云、或借㆓園圃㆒、或湖舫內、兩親相見、謂㆓之相親㆒、男以㆓酒四盃㆒、女則添㆓備雙盃㆒、此禮取㆓男強女弱之意㆒、如新人中㆑意、卽以㆓金釵㆒插㆓于冠髻中㆒、名曰㆓插釵㆒、若不㆑如㆑意、則送㆓綵緞二匹㆒、謂㆓之壓驚㆒、則姻事不㆑諧矣。

【插刺】25 サフシ サフセキ ❶荷ひ棒に荷をつきさすこと。荷をつける。〔急就篇〕捃・穫・秉・把・插・捌・杷。〔注〕插㆓刺禾束㆒。❷さす。さしはさむ。又、かざす。〔元稹、村花晚詩〕村中女兒爭摘將、插㆓刺頭鬢㆒相誇張。

【插枝】26 サフシ 植物の枝をたちきつて、砂の中、又は土中にさしこんで、適度の濕度をあたへて根

を發生させる方法。さしえ。

【插翅】27 サフシ　つばさをさしはさむ。翼を身につける。飛ぶことのできないものが飛翔したいと希望することにいふ。〔韓愈、寄㆓崔二十六立之㆒詩〕安有㆘巢中鷇、插ㇾ翅飛㆗天陲㆖。〔顧雲、苔歌〕會待㆓功成㆒插ㇾ翅飛。〔蘇舜欽、送㆓黃莘還ㇾ家詩〕不㆔步受㆓羈轡㆒、但欲㆓插ㇾ翅翔㆒。

【插嘴】28 サフシ　差し出口する。はや口に言ふ。𡟈嘴。〔通俗編、言笑、插嘴〕五燈會元、慧林深有㆓插嘴廝罵語㆒。按、說文、插、音同ㇾ插、解云、疾言失ㇾ次也、俚言插嘴、當㆓从ㇾ女作ㇾ𡟈爲ㇾ正。

【插蒔】29 サフジ　さしうゑる。苗などを植ゑること。〔宋犖、遊㆓姑蘇臺㆒記〕觀㆔農夫插蒔、婦子滿㆓田塍㆒。

【插櫛】30 サシグシ　櫛の一種。婦人が常に髮にさすもの。〔和漢三才圖會、容飾具、櫛〕插櫛以㆓黃楊木・象牙・瑇瑁、或漆塗・描金㆒、其齒如㆓水櫛㆒、婦人每插ㇾ髮者也。

【插車】31 chʻa^1 chʻê^1　車が込み合つて通行できない。

【插手】32 サフシユ　手をさし入れる。〔陳造、再次韻荅㆓許節推㆒詩〕宦途要處難ㇾ插ㇾ手、詩社叢中常引ㇾ頭。

【插趣】33 chʻa^1 chʻü^4　興を催す。

【插訟】34 chʻa^1 sung^4　訴訟事件に干涉する。

【插身】35 chʻa^1 shen^1　物の間に體をさし入れる。局外から身を入れる。關係する。

【插衽】36 サフジン　衽をさしはさむ。〔管子、小匡〕管仲詘ㇾ纓插ㇾ衽、使㆔人操ㇾ斧而立㆓其後㆒。

【插舌】37 chʻa^1 shê^2　差し出口する。插口。

【插箭】38 サフセン　箭をさしはさむ。矢を携帶する。〔胡天游、送㆓李巡檢㆒詩〕挂ㇾ弓插ㇾ箭出ㇾ門去、白面已作ㇾ嗔ㇾ人紅。

〖插箭嶺〗39 サフセンレイ　山名。河北省淶源縣の東南。宋の將の楊彥朗が箭を其の上に插したと傳へる。又、插箭峪といふ。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、蔚州、廣昌縣〕插箭嶺、相傳、宋將楊彥朗、曾插㆓箭其上㆒、亦曰㆓插箭峪㆒、明嘉靖二十二年、蒙古俺答犯㆓大同㆒、趣㆓紫荆㆒、攻㆓插箭浮圖等峪㆒、卽此。

〖插箭遊營〗40 chʻa^1 chien^4 yu^2 ying^2　兵士の罪を犯したものを軍棍で打ち、一尺許りの小さい箭に小さい旗をつけたものを耳朶に突き刺して兵營內を步ませること。此の旗を、令字旗といふ。

【插選】41 サフセン　清代、任期滿了の官吏に對して選用を行ふとき、一定の人員に一人を差し加へて升選すること。〔清會典、吏部、插選附例〕滿洲刑部司獄期滿者、於㆓雙單月主事主官㆒、除㆓不積缺㆒外、升㆓選十缺㆒後、升㆓用一人㆒。

【插足】42 chʻa^1 tsu^2　足を踏み込む。足を下す。

【插打】43 サフダ　羽を矢にはさむために矢の幹を打つこと。轉じて、矢を射て人を殺すこと。〔嘉話錄〕范希朝赴㆓鎭太原㆒、辭㆓省中郎官㆒曰、郎中有ㇾ事、但處㆓分希朝㆒、至㆓第三遍㆒不ㇾ應、卽任㆓下手插打得㆒、插打、爲㆓造ㇾ箭者插ㇾ羽打ㇾ幹、言、攢ㇾ箭射ㇾ我也。

【插單】44 サフタン　佛 僧が初めて禪林に入つた時に、自分の單位(坐位)を僧堂內に插むこと。〔敕修淸規、新戒參堂〕歸ㇾ堂插單、隨ㇾ衆禪誦。

【插通】45 chʻa^1 tʻung^1　さし通す。

【插翟】46 サフテキ　きじの羽を車蓋にさしかざる。又、其の飾つた羽。〔後漢書、輿服志上〕插翟象鑣。

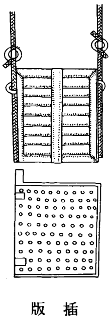
【插頭】47 カザシ　王朝時代、頭髮又は冠にさした花、又は造花。かみざしの約。〔和名抄、術藝部、雜藝具〕插頭花、楊氏漢語抄云、頭花、賀佐之、俗用㆓插頭花㆒。

〖插頭草〗48 カザシグサ　草の名。二葉葵の古名。かもあふひの異名。

【插入】49 サフニフ　さしいれる。さしこむ。

【插班】50 サフハン　學校の編入。他校からの轉學者、又、中途入學者等を補缺編入すること。

【插版】51 サフバン　守城の具。古の縣門。城門の闉を去る五尺の所に兩頰木を立て、槽を開いて閒に插版を容れ、起落せしめる。插版の兩旁には鐵環を施し、鐵索を貫き、敵が至れば之を下して防ぐ。〔武備志、插版圖說〕插版與㆓城門㆒爲㆓重門㆒、其制、用㆓楡槐木㆒、廣狹準㆓城門㆒、幔以㆓生牛皮㆒、裹以㆓鐵葉㆒、兩旁施㆓鐵環㆒貫㆓鐵索㆒、凡大城門、去㆓門闉㆒五尺、立㆓兩頰木㆒、木開㆓池槽㆒、亦用㆓鐵葉㆒裹ㇾ之、若寇至、卽以㆓絞車㆒自㆓城樓上㆒抽㆓所ㇾ貫鐵索㆒、下㆓插版於槽中㆒、外實以ㇾ土、防㆓火政ㇾ內、枝以ㇾ柱防㆓傾折㆒。



插版
(武備志)

【插屛】52 chʻa^1 pʻing^2　❶中門の內に設けた木製の目隱。前面には鴻禧、又は福字を大書する。❷屛風。

【插苗】53 サフベウ　苗を植ゑる。うゑつけ。插秧(1)に同じ。

【插木】54 サシキ　地中に木の枝をさし込んで根を生ぜしめること。又、其の切枝。刺木。接木(**5－12280‥147**)の對。

【插萸】55 サフユ　茱萸をさしはさむ。後漢の桓景が、九月九日に、其の家の災を除くために絳囊に茱萸を盛つて臂上にかけ、高い所に登つて菊花酒を飲んだ故事。轉じて、九月九日をいふ。〔王維、九日懷㆓山東兄弟㆒詩〕獨在㆓異鄕㆒爲㆓異客㆒、每ㇾ逢㆓佳節㆒倍思ㇾ親、遙知兄弟登ㇾ高處、遍插㆓茱萸㆒少㆓一人㆒。〔注〕齊諧志、費長房謂㆓桓景㆒、九月九日、汝家有ㇾ災、急令㆘家人縫㆓絳囊㆒盛㆗茱萸㆖、係㆓臂上㆒、登ㇾ高飲㆓菊華酒㆒、此禍乃消、九日登ㇾ高起㆓於此㆒。

【插話】56 サフワ　❶文章や談話の中に插入された、本筋以外の短い話。エピソード(episode)。❷chʻa^1 hua^4　さし出口する。插口(23)に同じ。

【插籌的】57 chʻa^1 chʻou^2 tê　籤取係。かずとりがかり。

【插田藨】58 サフデンヘウ　藥草の名。覆盆子(**10－34789‥121**)の異名。〔本草、覆盆子〕釋名、茥・蒛葐・西國草・畢楞伽・大麥莓・插田藨・烏藨子、時珍曰、五月子熟、其色烏赤、故俗名㆓烏藨・大麥莓・插田藨㆒、亦曰㆓栽秧藨㆒。

【插班生】59 サフハンセイ　補缺編入生。

【插柳枝】60 サフリウシ　柳の枝を頭にさす。江蘇地方で、淸明節に行ふ風習。〔兗州府志、金鄕縣志〕淸明、男女插㆓柳枝㆒祭㆓先壟㆒、名曰㆓踏靑㆒。

【插圈弄套】61 chʻa^1 chʻüan^1 nung^4 tʻao^4　係蹄を作つて人を陷れる。手筈をきめて人を騙す。

【挿】12346′

サフ　插(**5－12346**)の俗字。

【揷】12347

サフ　插(**5－12346**)に同じ。〔篇海〕揷、同ㇾ插。

【揓】12348

シ　〔集韻〕施智切　寘

とる。或は擿(**5－12707**)に作る。〔集韻〕揓、把也、或作ㇾ擿。

【揔】12349

㊀ソウ ス　〔集韻〕祖動切　董
㊁ソウ ス　〔集韻〕蘇叢切　東
㊂ソウ ス　〔集韻〕作弄切　送

㊀❶**すべる**。**又**、**みな**。總(**8－27671**)・摠(**5－12596**)に同じ。〔集韻〕總、說文、聚束也、一曰、皆也、或从ㇾ手。❷**ひきゐる**。〔玉篇〕揔、將領也。❸**あふ**。〔玉篇〕揔、合也。㊁**すすめる**。おしやる。〔集韻〕揔、手進ㇾ物。㊂**せはしい**。**又**、**くるしむ**。傯(**1－889**)に同じ。〔集韻〕傯、倥傯、苦也、一曰、困皃、或从ㇾ手。

【揕】12350

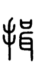
㊀チン　〔集韻〕知鴆切　沁
㊁チン　〔集韻〕知林切　侵
㊂チン　〔集韻〕陟甚切　寢

㊀❶**うつ**。〔集韻〕揕、擊也。❷**さす**。〔集韻〕揕、一曰、刺也。〔史記、刺客、荆軻傳〕臣左手把㆓其袖㆒、右手揕㆓其胷㆒。〔注〕索隱曰、揕、謂㆔以ㇾ劒刺㆓其胷㆒也。㊁❶**さす**。〔集韻〕

揕、刺也。❷木をきるおと。〔集韻〕揕、一曰、斫レ木聲。㊂さす。戡（5－11616）に同じ。〔集韻〕戡、刺也、或从レ手。

【揖】12351

㊀イフ　〔集韻〕一入切　緝　i^{1}
㊁シフ　〔集韻〕卽入切　緝
㊂シフ ジフ　〔集韻〕籍入切　緝
㊃イ　〔集韻〕乙冀切　寘


小篆

㊀❶**ゑしやく。又、ゑしやくする**。禮容の一。㋑兩手を胸の前で拱し、之を上下し、或は前に推しすすめて先方を敬ふ意を表はす禮。〔說文〕揖、攘也、从レ手咠聲。〔六書故〕揖、拱レ手、上二下左二右之一以相禮也。〔周禮、秋官、司儀〕土二揖庶姓一、時二揖異姓一、天二揖同姓一。〔注〕土揖、推レ手小下レ之也、時揖、平推レ手也、天揖、推レ手小擧レ之也。〔儀禮、鄕飮酒禮〕賓揖レ介。〔注〕推レ手曰レ揖。〔楚辭、大招〕揖辭讓焉。〔注〕上レ手爲レ揖。㋺胸の前で拱した手を胸にひきあてて人を招きすすめる。擪（5－12867）に通ず。〔說文通訓定聲〕揖、叚借爲レ擪、凡辭讓之意、禮用レ揖、引進之意、禮用レ擪。擫者、引レ手使三指按二箸胸一也。〔說文〕揖、一曰、手箸レ匈曰レ揖。〔廣雅、釋詁二〕揖、進也。〔儀禮、燕禮〕公揖二卿大夫一。〔注〕揖、揖レ之入レ之也。〔公羊、僖、二〕獻公揖而進レ之。〔注〕揖、以レ手通指曰レ揖。〔論語、述而〕揖二巫馬期一而進レ之。〔釋文〕手著レ胷曰レ揖。〔逸周書、克殷解〕遂揖レ之。〔注〕揖、召也。㋩通じて挹（5－12105）に作る。〔集韻〕揖、通作レ挹。❷**ゆづる**。辭退する。〔正字通〕揖、固遜也。〔漢書、王莽傳上〕揖二大福之恩一。〔注〕師古曰、揖、謂二讓而不一レ當也。〔後漢書、劉祐傳〕延陵高揖、華夏仰レ風。〔注〕揖、讓也。❸**おす**。進める。〔儀禮、大射儀〕揖レ弓。〔注〕揖、推レ之也。❹**さしはさむ**。〔尙書大傳、略說〕八十者杖二於朝一、見レ君揖レ杖。〔注〕揖、挾也。❺**くむ**。くみとる。挹（5－12105）に通ず。〔集韻〕挹、說文、酌也、或作レ揖。〔王禹偁、竹樓記〕遠吞二山光一、近揖二江瀨一。㊁❶**あつまる。あつめる**。緝（8－27645）・縶（8－27883）に通ず。〔說文通訓定聲〕揖、叚借爲レ縶。〔正字通〕揖、古與レ緝通。〔集韻〕揖、聚也、詩、螽斯羽、揖揖兮。❷**あはせる**。輯（10－38420）に通ず。〔史記、秦始皇紀〕搏レ心揖レ志。〔漢書、郊祀志上〕揖二五瑞一。〔注〕師古曰、揖、與レ輯同、揖、合也。❸**をさめる**。戢（5－11617）に通ず。〔說文通訓定聲〕揖、叚借爲レ戢。〔書、舜典〕輯二五瑞一〔馬注〕揖、斂也。㊂❶**あつまる**。㊁の❶に同じ。〔集韻〕揖、聚也。❷**なす**。〔集韻〕揖、成也。❸通じて輯（10－38420）に作る。〔集韻〕揖、通作レ輯。㊃**手を胸につけて拜する**。撎（5－12690）に同じ。〔集韻〕撎、俯レ手拜也、或作レ揖。

名乘　ヲサ。

【揖客】1 イフカク　❶平揖して拜禮を行はない客。主人と抗禮するものをいふ。〔史記、汲黯傳〕大將軍青旣益尊、姊爲二皇后一、然黯與亢禮、人或說レ黯曰、自二天子一欲三羣臣下二大將軍一、大將軍尊重益貴、君不レ可三以不二レ拜、黯曰、夫以二大將軍一有二揖客一、反不レ重邪、大將軍聞、愈賢レ黯。❷客に對して揖禮を行ふ。賢を禮し士に下る意。〔揚雄、解嘲〕羣卿不レ揖レ客、將相不レ俛レ眉。

【揖揖】2 シフシフ　多くあつまってゐるさま。多いさま。〔詩、周南、螽斯〕螽斯羽、揖揖兮、宜爾子孫、蟄蟄兮。〔傳〕揖揖、會聚也。〔陳奐傳疏〕廣雅、集集、衆也、揖通作レ集。

【揖謝】3 イフシャ　拱手の禮を行って別れる。〔後漢書、种暠傳〕暠復留一年、遷二漢陽太守一、戎夷男女送至二漢陽界一、暠與相揖謝。

【揖讓】4 イフジャウ　❶拱手の禮を行ってへりくだる。會釋して讓る。賓主相見の禮。〔周禮、秋官、司儀〕掌二九儀之賓客擯相之禮一、以詔二儀容・辭令・揖讓之節一。〔孫詒讓正義〕揖讓、卽下文土揖・時揖・天揖、及三讓之等、三者皆有二尊卑隆殺之節一。〔左氏、昭、二十五〕簡子問二揖讓周旋之禮一焉。〔論語、八佾〕子曰、君子無レ所レ爭、必也射乎、揖讓而升、下而飮。❷轉じて、命令したり強制したりせず、謙虛で温和な動作をすること。〔漢書、禮樂志〕揖讓而天下治者、禮樂之謂也。❸平和裡に天子の位を讓ること。征誅（4－10077・・65）の對。堯が舜に授け、舜が禹に授けた如きをいふ。湯が桀を放ち、武王が紂を伐ち、兵力を以て國を得た如きは征誅である。〔袁宏、三國名臣序贊〕揖讓之與二干戈一、文德之與二武功一。〔注〕向曰、舜禹揖讓、文德以興、湯武干戈、武功以取。〔孔穎達、尙書正義序〕動華揖讓而典謨起、湯武革命而誓誥興。

『揖讓傳禪』5 イフジャウデンゼン　禮讓を以て位を禪ること。〔宣和遺事、前集上〕不二敢盤逸遊畋一、不二敢荒淫音樂一、到二得他揖讓傳禪時分一。

【揖宿】6 イフスキ　薩摩國の地名。

【揖進】7 イフシン　會釋してすすむ。〔禮、表記〕君子三揖而進、一辭而退。

【揖川】8 i^{1} $ch'uan^{1}$　縊殺された屍體をいふ。檢屍人の隱語。

【揖遜】9 イフソン　へりくだる。〔申鑒、政體〕垂拱揖遜、而海內平矣。〔宋史、樂志九〕揖遜之美、放勳比レ隆。

【揖拜】10 イフハイ　拱手の禮を以て拜する。揖禮。〔嵆康、與二山巨源一絕交書〕當下裹以二章服一、揖中拜上官上。

【揖斐】11 イビ　❶美濃國の地名。❷姓氏。❸セガイ　姓氏。

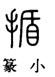
【揖別】12 イフベツ　禮をして別れる。拜別する。〔福惠全書、教養部、學規〕父母與三會宗二一門外揖別。

【揖保】13 イボ　播磨國の地名。

【揖禮】14 イフレイ　拱手の禮をいふ。揖拜。字解㊀❶を見よ。

【揗】12352

㊀シュン ジュン　〔集韻〕豎尹切　軫
㊁シュン ジュン　〔集韻〕殊閏切　震
㊂シュン ジュン　〔集韻〕松倫切　眞


小篆

㊀㊁㊂❶**なでる。又、手でなでてなぐさめる**。〔說文〕揗、摩也、从レ手盾聲。〔段注〕廣雅曰、揗、順也、廣韻曰、手相安慰也、今人撫循字、古蓋作レ揗。〔廣韻〕揗、手相安慰也。❷**したがふ**。循（4－10187）に通ず。〔說文通訓定聲〕揗、叚借爲レ循。〔廣雅、釋詁一〕揗、順也。

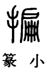
【揘】12353

㊀クヮウ　〔集韻〕呼橫切　庚
㊁エイ ヤウ　〔集韻〕于平切　庚

㊀**うつ**。〔集韻〕揘、擊也。〔張衡、西京賦〕竿殳之所二揘畢一。〔注〕呂曰、揘畢、猶二擊刺一也。㊁❶**ぬく**。〔廣韻〕揘、拔也。❷**うつ**。〔集韻〕揘、擊也。

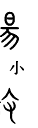
【揙】12354

㊀ヘン ベン　〔集韻〕婢善切　銑
㊁ヘン　〔集韻〕卑眠切　先


小篆

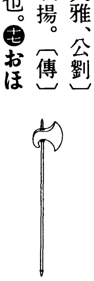
㊀㊁**うつ**。〔說文〕揙、搏也、从レ手扁聲。〔廣韻〕揙、揙擊。〔集韻〕揙、擊也。

【揚】12355 〔集韻〕余章切 ［陽］ ヤウ 一尢 yang^{2}



小篆 古文

㊀あげる。㋑さしあげる。かざす。〔說文〕揚、飛擧也、从レ手易聲。〔說文通訓定聲〕按、擧者本義、飛者叚借。〔小爾雅、廣言〕揚、擧也。〔儀禮、鄉飲酒禮〕盥洗揚レ觶。〔注〕揚、擧也。〔禮、樂記〕弦歌干揚。〔皇氏注〕揚、擧也、擧レ干以舞也。〔楚辭、九歌、東皇太一〕揚レ抱兮拊レ鼓。〔注〕揚、擧也。〔史記、樂書〕紘歌干揚。〔注〕正義曰、揚、擧也。㋺ひきあげる。あげ用ひる。〔書、堯典〕明レ明揚二側陋一。〔傳〕明擧下明人在二側陋一者上。〔禮、文王世子〕或以レ言揚。〔疏〕揚、亦進擧之類。㋩すすめる。〔禮、檀弓下〕杜蕢洗而揚レ觶。〔注〕揚、擧二爵於君一也。㋥立てる。引きおこす。〔禮、玉藻〕退則揚レ之。〔注〕揚レ之、謂三小仰二見於後一也。㋭おこす。ふるふ。たかめる。さかんにする。〔禮、曲禮上〕將レ上レ堂、聲必揚。〔禮、明堂位〕各揚二其職一。〔注〕揚、擧也。〔班固、典引〕揚二洪輝一奮二景炎一。㋬あらはす。しらせる。〔增韻〕揚、顯也。〔書、立政〕以揚二武王之大烈一。〔中庸〕隱レ惡而揚レ善。㊁あがる。㋑立つ。立ち上る。〔楚辭、九章、哀郢〕楫齊揚以容與兮。〔注〕揚、擧也。㋺あらはれる。しれる。〔漢書、匡衡傳〕淑問揚二乎疆外一。㋩おこる。ふるふ。たかまる。さかんになる。〔書、泰誓中〕我武惟揚。〔傳〕揚、擧也。㋥のぼる。のぼせる。〔易、夬〕揚二于王庭一。〔鄭注〕揚、越也。㋭とぶ。〔詩、小雅、沔水〕載飛載揚。㊂つづく。〔爾雅、釋詁〕揚、續也。㊃あきらか。あきらかにする。易(5-13832)に通ず。〔說文通訓定聲〕揚、叚借爲レ易、詩君子偕老、子之清揚、按、眉目清明之誼。〔淮南子、覽冥訓〕不レ揚二其聲一。〔注〕揚、明也。㊄あがりとぶ。颺(12-43909)に通ず。〔說文通訓定聲〕揚、叚借爲レ颺。〔周禮、考工記、矢人〕中強則揚。〔注〕揚、飛也。〔列子、黃帝〕揚二於地一。〔釋文〕揚、猶レ颺、物從レ風也。〔漢高祖、大風歌〕大風起兮雲飛揚。㊅火が盛にもえる。火をあふぐ。煬(7-19235)に通ず。〔說文通訓定聲〕揚、叚借爲レ煬。〔詩、鄭風、大叔于田〕火烈具揚。〔傳〕揚、揚レ光也。〔周禮、春官、卜師〕揚レ火以作レ龜。〔注〕揚、猶レ熾也。〔漢書、枚乘傳〕一人炊レ之、百人揚レ之。㊆ととのふ。やはらぐ。暘(5-14066)・陽(11-41725)に通ず。〔說文通訓定聲〕揚、叚借爲レ暘。〔禮、玉藻〕盛レ氣顚實揚休。〔注〕揚、讀爲レ陽。〔淮南子、說山訓〕其聲舒揚。〔注〕揚、和也。㊇いふ。ほめる。詳(10-35446)に通ず。〔說文通訓定聲〕揚、叚借爲レ詳。〔廣雅、釋詁二〕揚、說也。〔詩、鄘風、墻有茨序〕不レ可レ詳也、釋文、詳、韓詩作レ揚、猶レ道也。〔穀梁、僖、元〕不レ足二乎揚一。〔注〕揚、稱道也。〔淮南子、說山訓〕名不レ可二得而揚一。〔注〕揚、猶レ稱也。㊈うごく。激する。盪(8-23062)に通ず。〔說文通訓定聲〕揚、叚借爲レ盪。〔詩、王風、揚之水〕揚之水。〔傳〕揚、激揚也。〔呂覽、必己〕盡揚播二入於海一。〔注〕揚、動也。㊉すぎる。宕(3-7103)に通ず。〔說文通訓定聲〕揚、叚借爲レ宕。〔儀禮、大射禮〕上曰レ揚。〔注〕揚、過去也。⑪おごる。愓(4-10936)に通ず。〔說文通訓定聲〕揚、叚借爲レ愓。〔戰國、齊策〕志高而揚。〔注〕揚、發揚也。〔漢書、五行志上〕驕揚奢侈。〔注〕揚、謂二振揚張大一也。⑫いたむ。傷(1-1029)に通ず。〔說文通訓定聲〕揚、叚借爲レ傷。〔詩、魯頌、泮水〕不レ吳不レ揚。〔傳〕揚、傷也。⑬ひらく。〔楚辭、騷離〕揚二雲霓之晻靄一兮。〔注〕揚、披也。⑭眉目のあたりがひろくうるはしい。〔詩、鄘風、君子偕老〕揚且之晳。〔傳〕揚、眉上廣。〔詩、鄘風、君子偕老〕子之清揚。〔傳〕揚、廣揚而顏角豐滿。〔詩、齊風、猗嗟〕抑若揚兮。〔傳〕揚、廣揚。⑮ひたひ。眉の上下の邊り。〔詩、齊風、猗嗟、傳、廣揚、疏〕揚、是顙之別名。〔詩、鄘風、君子偕老、傳、廣揚、疏〕眉之上、眉之下、皆曰レ揚。⑯をの。まさかり。〔詩、大雅、公劉〕干戈戚揚。〔傳〕揚、鉞也。⑰おほよそ。大略。〔廣雅、釋訓〕揚搉、都凡也。⑱古は敭(5-13306)・敭(2-3198)に作る。〔集韻〕揚、古作レ敭。〔康熙字典〕揚、古文敭。⑲古の九州の一。今の江蘇・安徽・江西・浙江・福建の各省を併せた地方。〔爾雅、釋天〕江南曰二揚州一。〔周禮、秋官、職方氏〕東南曰二揚州一。〔釋名、釋州國〕揚州、州界多レ水、水波揚也。〔書、禹貢〕淮海惟揚州。⑳國の名。姬姓。侯爵。春秋周の同姓の國。今の山西省洪洞縣の東南。一に楊に作る。〔左氏、襄、二十九〕叔侯曰、虞・虢・焦・滑・霍・揚・韓・魏、皆姬姓也。㉑姓。〔說文通訓定聲〕揚、爲二楊之誤字一、漢書揚雄傳、字从レ手、說者謂、子雲好レ奇、特自標異、按、雄反騷自序、世系當二卽左傳楊食我之後一、三國楊德祖云、脩家子雲、老不レ曉レ事、則其氏从レ木可レ知。〔史姓韻篇、揚〕揚雄、字子雲、蜀都成都人、其先出レ自二有周伯僑者一、以二支庶一初食二采於晉之揚一、因氏焉。㉒［現］つけあがる。［邦］あげ。㋑子供の衣服の肩と腰とに取つて縫つた襞。㋺油で煑たものの總稱。



揚
（會圖才三）

［名乘］ アキラ。アキ。

【揚阿】1 ヤウア 音調があがつて曲折する。一說に、楚の歌曲の名。陽阿（11-41725‥1）の㊀に同じ。揚荷(13)を見よ。〔楚辭、大招〕謳二和揚阿一、趙簫倡只。〔注〕揚、擧也、阿、曲也。〔補注〕揚阿、卽陽阿、已見二招魂一。

【揚隱】3 ヤウイン 字號。㊀遼、蕭繼先(9-32012‥34)の字。㊁遼、耶律馬六(9-29008‥130)の字。

【揚雲】4 ヤウウン ㊀雲をあげる。雲を飛ばす。〔張融、海賦〕噴灑噦噫、流レ雨而揚レ雲。㊁漢の揚雄(109)をいふ。㊂清、許遂(10-35298‥137)の字。

【揚枻】5 ヤウエイ かいをあげる。かいを操つて舟をやる。〔江淹、採二石上菖蒲一詩〕緩步遵二汀渚一、揚レ枻泛二春瀾一。

【揚越】6 ヤウエツ 揚粵に同じ。

【揚粵】7 ヤウエツ 地名。揚州の南越。百粵(8-22679‥22)を見よ。〔漢書、鼂錯傳〕南攻二揚粵一。〔注〕張晏曰、揚州之南越也。〔漢書、南粵王傳〕秦幷二天下一、略二定揚粵一。〔注〕師古曰、本揚州之分、故云二揚粵一。〔廣東通志〕五嶺之南至レ海爲二揚粵一、今廣東地。

【揚煙】8 ヤウエン けむりをあげる。〔孫綽、遊二天台山一賦〕法鼓琅以振レ響、衆香馥以揚レ煙。

【揚焉】9 ヤウエン 揚揚(106)に同じ。

【揚屋】10 アゲヤ ㊀遊女を招いて遊ぶ家。青樓。〔浪花襍誌街廼噂、二〕大坂の揚屋で遊亭。㊁アガリヤ 御目見以下の御家人、また大名・旗本の陪臣、坊主・山伏等の未決囚を收容した處。江戸時代、傳馬町の牢獄內にあつた獄舍。〔牢獄祕錄〕揚り屋へ入り候者之事。

〖揚屋繩〗11 アガリヤナハ 江戸時代の牢屋の一なる揚屋內の者に繩をかけること。

〖揚屋行燈〗12 アゲヤアンドン 揚屋の傍に置いた行燈。客の送り迎へに備へたもの。

【揚荷】13 ヤウカ 楚の歌曲の名。一說に、名倡の名。又、陽阿に作る。揚阿。〔楚辭、宋玉、招魂〕涉江采

菱、發㆓揚荷㆒些㆓。〔注〕楚人歌曲也、言、己渉㆓渡大江㆒、南入㆓湖池㆒、采㆓取菱芰㆒、發㆓揚荷葉㆒、喩㆘屈原背㆓去朝堂㆒、隱㆓伏草澤㆒、失㆗其所㆖也。〔集注〕菱、一作㆑薐、荷、一作㆑阿、云云、荷、當㆑作㆑阿、渉江・采菱・陽阿、皆楚歌名。〔補注〕淮南云、歌㆓采菱㆒發㆓揚阿㆒、又云、足蹀㆓陽阿之舞㆒、注云、陽阿古之名倡、又云、欲㆓美和㆒者、必先始㆓於陽阿・采菱㆒、注云、陽阿・采菱、樂曲之和聲。

【揚歌】14 ヤウカ 聲をはりあげてうたふ。〔孫楚、登樓賦〕牧豎吟嘯於㆓行陌㆒、舟人鼓㆑枻而揚歌。

【揚搉】15 ヤウカク おほよそ。大略。概言。又、あげひく。擧引する。列擧引證する。事例を擧げ引いて述べること。〔廣雅、釋訓〕揚搉、都凡也。〔廣韻〕搉、揚搉、大擧。〔莊子、徐無鬼〕頡滑有㆑實、古今不㆑代、而不㆑可㆓以虧㆒、則可㆑不㆑謂㆑有㆓大揚搉㆒乎。〔注〕搉而揚㆑之、有㆓大限㆒也。〔釋文〕王云、搉略而揚㆓顯之㆒。〔漢書、敍傳下〕揚㆓搉古今㆒、監㆓世盈虛㆒。〔注〕師古曰、揚、擧也、搉、引也、揚搉者、擧而引㆑之、陳㆓其趣㆒也。〔王先謙補注〕王念孫曰、揚搉、猶㆓辜搉㆒也、廣雅釋訓、揚搉、都凡也、揚㆓搉古今㆒、猶㆔約㆓略古今㆒、文選左思蜀都賦、請爲㆓左右㆒、揚搉而陳㆑之、猶㆑言㆓約略而陳㆑之也。〔左思、蜀都賦〕請爲㆓左右㆒、揚搉而陳㆑之。〔注〕善曰、許愼淮南子注曰、揚搉、粗略也。

【揚較】16 ヤウカク 揚搉に同じ。〔漢書、古今人表、張晏注〕略㆓擧揚較㆒以起㆓失謬㆒。

【揚擢】17 ヤウカク 揚搉に同じ。〔淮南子、俶眞訓〕物豈河㆑謂㆑無㆓大揚擢㆒乎。〔注〕揚擢、無慮、大數名也。

【揚間】18 アガリマ 風呂場の脫衣場。〔好色二代男〕揚間は二間續きの氈にて塞ぎ。

【揚氣】19 yang² ch'i⁴ 威張る。得意がる。

【揚揮】20 ヤウキ 揮をあげる。揮は肩上につける燕尾に似た絳幟、指圖旗、しるしばた。〔張衡、東京賦〕戎士介而揚㆑揮。〔注〕綜曰、揮、爲㆓肩上㆒絳幟、如㆓燕尾㆒者也。

【揚煇】21 ヤウキ 光輝を發揚する。かがやく。揚暉。〔後漢書、李膺傳〕虹蜺揚㆑煇、棄㆑和取㆑同。〔曹植、七啓〕符彩照爛、流景揚㆑煇。〔劉楨、魯都賦〕紫金揚㆓暉于鴻岸㆒、水精潛㆓光乎雲穴㆒。

【揚旗】22 yang² ch'i² ❶旗をあげる。❷信號旗。

【揚麾】23 ヤウキ ❶采配を振る。指麾。〔南史、梁高祖紀〕揚麾鼓譟嚮、振㆓山谷㆒。❷あげてさしまねく。〔鍾會、孔雀賦〕裁㆓修尾之翹翹㆒、若㆓順㆑風而揚麾㆒。

【揚詰】24 アゲツメ ❶物を常に上げてゐること。❷藝娼妓をあげつづけること。〔曾根崎心中〕揚詰めの大大盡。

【揚去】25 ヤウキヨ とびあがつて去る。〔魏志、呂布傳〕譬如㆑養㆑鷹、飢則爲㆑用、飽則揚去。

【揚玉】26 アゲダマ 兜の臺座のかざり。

【揚句】27 アゲク ❶連歌の下の七七の二句。❷をはり・する等の意。擧句。上句。〔曾根崎心中〕理窟に詰つて上げ句には。

【揚休】28 ヤウキウ 陽氣が萬物を養ふ。一說に、陽氣が物をあたためてその來ることの窮りないのをいふ。休は煦。〔禮、玉藻〕盛㆑氣顚實揚休。〔注〕揚、讀爲㆑陽、聲之誤也、盛㆓聲中之氣㆒、使㆘之闐㆓滿其息㆒、若㆗陽氣之休㆖物也。〔疏〕揚、陽也、休、養也、言戊軍士宜㆜怒㆓其氣㆒、塞㆓滿身中㆒、使㆓氣息出㆑外、咆勃如㆛盛陽之氣生㆚養萬物㆙也。〔集說〕揚、讀爲㆑陽、休與㆑煦同、氣體之充也、云云、若㆓陽氣之煦㆑物、其來無㆑窮也。

【揚華】29 ヤウクワ 明、張煥(**4**−**9812**··241)の字。

【揚堁】30 ヤウクワ 土塵をあげる。〔淮南子、說林訓〕揚㆑堁而欲㆑弭㆑塵。〔注〕堁、土塵也、楚人謂㆓之堁㆒。

【揚光】31 ヤウクワウ 光を發する。かがやく。〔淮南子、本經訓〕日月淑清而揚㆑光。〔後漢書、襄楷傳〕金火罰星揚㆓光其中㆒。〔蜀志、郤正傳〕雖㆓尺枉㆒而尋直終揚㆑光、以發㆑輝也。

【揚卷】32 アゲマキ 小兒の髮の結方。左右に振分けて總角の如く結んだもの。總角。

【揚翹】33 ヤウゲウ 上にあがる。高く立つ。〔潘岳、射雉賦〕班尾揚翹、雙角特起。

【揚乾】34 アゲボシ 江戶の遊里の語。遊女に揚代をつけたまま登樓せぬ事。〔辯蒙通人講釋〕よくたびたびあげぼしにしなんした。

【揚權】35 ヤウケン 韓非子(**12**−**43159**··196)の篇名。

【揚言】36 ヤウゲン 聲をはりあげていひふらす。大言壯語する。颺言。〔戰國、秦策〕楚王揚㆓言與㆑秦遇㆒、魏王聞㆑之、恐效㆓上洛於秦㆒。〔漢書、蕭望之傳〕(鄭)朋出揚言曰、我見言㆓前將軍小過五、大罪一㆒。〔後漢書、馬防傳〕幡幟揚言。〔資治通鑑、唐紀〕(懿宗、咸通十年)勛乃集㆑衆揚言。〔注〕大言以播告曰㆓揚言㆒。

〔揚言者寡㆑信〕36′ ヤウゲンスルモノハシンスクナシ 大言壯語する者は、其れを實行することが少い。〔逸周書、官人解〕飾㆑貌者不㆑靜、假㆑節者不㆑平、多㆑私者不㆑義、揚言者寡㆑信、此之謂㆓揆德㆒。〔大戴禮、文王官人〕揚言者寡㆑信。

【揚乎】37 ヤウコ 得意なさま。揚揚(106)に同じ。

【揚汨】38 ヤウコツ 疾くわたる。〔枚乘、七發〕所㆓揚汨㆒者、所㆓溫汾㆒者。〔注〕向曰、揚汨、疾度也。

【揚沙】39 ヤウサ すなを吹きあげる。〔書、洪範、月之從㆑星則以風雨、疏〕春秋緯云、月離㆓於箕㆒、則風揚㆑沙。

【揚妻】40 アガツマ 姓氏。〔姓氏家系大辭典〕。

【揚槽】41 アゲフネ 酒・醬油等の諸味を搾る具。

【揚子】42 ヤウシ ❶縣名。㋑唐、置く。江蘇省儀徵縣の東南。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、儀眞縣〕揚子廢縣、九域志、揚子縣、東至㆓揚州㆒六十里、渡㆑江而南至㆓金陵㆒亦六十里、隋末杜伏威營置㆓戍守於此㆒、永淳元年、始分㆓江都㆒置㆓揚子縣㆒。㋺清末、宣統帝溥儀の諱を避け、儀徵縣を改め置く。民國、舊名に復す。〔清史稿、地理志〕江蘇、揚州府、縣六、揚子。❷渡津の名。江蘇省江都縣の南。揚子橋があり、古來、江濱の要津。唐代、江流が移動したので揚子江の本流からは遠くなつたが、伊婁河(瓜州運河)を穿つて江に通じ、西の儀徵、南の瓜州からの舟運が此處で合して北行するので、依然として交通・運輸の要衝である。〔資治通鑑、隋紀〕(文帝、開皇十年)(楊)素帥㆓舟師㆒、自㆓揚子津㆒入、擊㆓賊帥朱莫問於京口㆒。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、江都縣〕揚州橋、府南二十里、自㆑古爲㆓濱江津要㆒、繇㆑此渡㆑江、抵㆓京口㆒、渡闊四十里。❸漢の揚雄をいふ。揚雄(109)を見よ。〔常景、揚雄詩〕蜀江導㆓清流㆒、揚子挹㆓餘休㆒。❹揚子法言(45)の略。

〔揚子江〕43 ヤウスカウ 江の名。唐代、揚子津に於て江を渡り、京口に至る。後、揚子縣を此處に置く。因つて此の大江を稱して揚子江といふ。卽ち今の江都と丹徒の間の大江である。後、西洋人が誤つて長江を通稱して揚子江といふ。長江(**11**−**41100**··86)の❶を見よ。〔讀史方輿紀要、江南、揚州、江都縣〕揚子江、府南四十里、繇㆓六合縣㆒經㆓儀眞縣㆒至㆓瓜州鎭㆒、又東過㆓泰興・如皐㆒、歷㆓通州故海門縣㆒而入㆑海、江心有㆓南冷水㆒、與㆓鎭江府㆒分㆑界、曹魏黃初五年、至㆓廣陵㆒、時江水盛漲、丕臨望歎曰、魏雖㆑有㆓武騎千羣㆒、無㆑所㆑用㆑之、未㆑可㆑圖也、明年復如㆓廣陵故城㆒、臨㆑江觀㆑兵、見㆓江濤洶湧㆒、歎曰、此天所㆔以限㆓南北㆒也、晉建興末、祖逖誓㆑清㆓中原㆒、自㆓京口㆒濟㆓廣陵㆒、其後南北津、廣陵・京口、實爲㆓襟要㆒。

〔揚子方言〕44 ヤウシハウゲン 方言(**5**−**13620**··157)の❶を見よ。

〔揚子法言〕45 ヤウシハフゲン 法言(**6**−**17290**··109)の❸を見よ。

【揚滓】46 アゲカス あげものをして油の中に殘つたかす。

【揚觶】47 ヤウシ さかづきをあげる。〔禮、檀弓下〕杜蕢洗而揚㆑觶。〔禮、射義〕又使㆓公罔之裘・序點、揚㆑觶而語㆒。

【揚州】48 ヤウシウ ❶州名。㋑古の九州の一。今の江蘇・安徽・江西・浙江・福建の地。〔書、禹貢〕淮海惟揚州。〔爾雅、釋地〕江南曰㆓揚州㆒。〔疏〕李巡曰、江南其氣燥勁、厥性輕揚。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、夏〕夏有㆓天下㆒、還爲㆓九州㆒、禹貢所㆑稱其較著矣、云云、淮海惟揚州、海在㆓古揚州東境㆒、揚州今江南浙江江西福建皆是、孔子曰、揚州北據㆑淮、東南距㆑海。㋺周・漢、皆置き、後代之に倣ふ。後漢の揚州刺史は歷陽を治とす。今の安徽省和縣。三國の魏は壽春を治とす。今の安徽省壽縣。吳の孫權は建業を治とす。今の江蘇省江寧縣の南。晉は又、壽春を治とす。東晉は建康卽ち建業を治とす。南朝、皆之による。隋、蔣州と改め、唐復た揚州といひ、尋いで昇州と改む。但、其の疆域は時代の降るに從つて次第に狹くなり、其の治も又變遷す。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府〕壽州、春秋時六蓼國地、戰國時屬㆑楚、名曰㆓壽

春㆒、秦爲㆓九江郡㆒漢初爲㆓淮南國㆒、武帝復爲㆓九江郡㆒、後漢因㆑之、兼置㆓揚州治㆒焉、魏曰㆓淮南郡㆒、仍置㆓揚州㆒爲㆓重鎭㆒西晉因㆑之。〔讀史方輿紀要、江南〕江甯府、禹貢揚州之域、春秋時吳地、戰國屬㆑越、後屬㆑楚、楚威王初、置㆓金陵邑㆒、秦改曰㆓秣陵㆒、屬㆓鄣郡㆒、漢初、屬㆓荊國㆒、後屬㆑吳、又屬㆓江都國㆒、元封初、屬㆓丹陽郡㆒、後漢因㆑之、孫吳自㆓京口㆒徙㆓都此㆒、改㆓秣陵㆒曰㆓建業㆒、晉平㆑吳移㆓置丹陽郡㆒、兼置㆓揚州治㆒焉、元帝都㆓建業㆒、改㆓丹陽太守㆒爲㆑尹、宋・齊・梁・陳因㆑之、隋平㆑陳郡廢、於㆓石頭城㆒置㆓蔣州㆒、大業三年、復曰㆓丹陽郡㆒、唐武德三年、置㆓揚州㆒、七年、改爲㆓蔣州㆒、八年、復爲㆓揚州㆒、置㆓大都督府㆒、九年、揚州移㆓治江都㆒、至德二載、置㆓江甯郡㆒、乾元元年、改爲㆓昇州㆒。㊇前秦、置く。治は下邳。今、江蘇省邳縣の東。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府、邳州〕下邳城、太元三年、沒㆓於苻堅㆒、堅使㆓揚州刺史戍㆒焉。㊁隋、置く。唐の南兗州、元の揚州路、明・清の揚州府。今、江蘇省江都縣治。❷府名。明、置く。隋の揚州、元の揚州路。清、江蘇省に屬し、高郵・泰の二州、及び江都・甘泉・揚子・興化・寶應・東臺の六縣を管轄す。治は今の江蘇省江都縣。〔讀史方輿紀要、江南〕揚州府、禹貢揚州之域、春秋時屬㆑吳、後屬㆑越、戰國時屬㆑楚、秦屬㆓九江郡㆒、楚漢之際、分㆓置東陽郡㆒、漢初屬㆓荊國㆒、後又屬㆑吳、景帝更名㆓江都國㆒、武帝更名㆓廣陵國㆒、後漢爲㆓廣陵郡㆒、三國屬㆑魏、爲㆓重鎭㆒、後屬㆑吳、晉亦爲㆓廣陵郡㆒、東晉以㆔廣陵控㆓接三齊㆒、嘗使㆓青・兗三州刺史鎭㆑此、宋亦置㆓廣陵郡㆒、元嘉八年、始定爲㆓南兗州治㆒、齊・梁因㆑之、北齊改爲㆓東廣州㆒、陳復爲㆓南兗州㆒、後周改爲㆓吳州㆒、隋初爲㆓揚州㆒、大業初、曰㆓江都郡㆒、唐武德三年、改爲㆓兗州㆒、六年、又改㆓邦州㆒、九年、改爲㆓揚州㆒、天寶初、曰㆓廣陵郡㆒、乾元初、復曰㆓揚州㆒、兼置㆓淮陽節度於此㆒、五代時、揚氏都㆑焉、曰㆓江都府㆒、南唐以爲㆓東都㆒、周世宗取㆑之、復曰㆓揚州㆒、宋因㆑之、元曰㆓揚州路㆒、明初曰㆓淮海府㆒、尋曰㆓淮揚府㆒、後復爲㆓揚州府㆒、直㆓隸京師㆒、領㆓州三縣七㆒、今仍曰㆓揚州府㆒。〔清史稿、地理志〕江蘇、揚州府、領㆓州二㆒、縣六㆒、江都・甘泉・揚子・高郵州・興化・寶應・泰州・東臺。

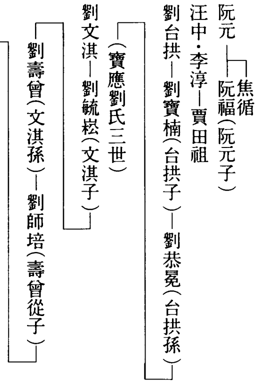
【揚州簒】49（ヤウシウサン） 婦女の髻形の一種。〔還魂記、遇母〕鳳髻消除打㆓不上揚州簒㆒、上㆑岸了到㆓臨安㆒。

【揚州慢】50（ヤウシウマン） 詞牌の名。〔姜詞序〕淳熙丙申至日、余過㆓維揚㆒、夜雪初霽、薺麥彌望、入㆓其城㆒則四顧蕭條、寒水自碧、暮色漸起、戍角悲吟、予懷愴然、感㆓慨今昔㆒、因自度㆓此曲㆒、千巖老人以爲㆑有㆓黍離之悲㆒也。

【揚州夢】51（ヤウシウム） ❶唐の杜牧が、揚州にあつて繁華な土地に狹斜の樂をしたことを追懷した故事。〔杜牧、遣㆑懷詩〕十年一覺揚州夢、贏得靑樓薄倖名。❷元曲選百種中の一。元、喬孟符撰。杜牧が牛僧孺の幕中に在つて倡樓に出入した事、及び張好好に詩を贈つたことを演ずる。題目は張好好花月洞房春。正名は杜牧之詩酒揚州夢。❸戲曲の名。清、嵆留山撰。杜子春が揚州の巨商となり、後、老君に遇つて得道した事を演ずる。

【揚州學派】52（ヤウシウガクハ） 清代、揚州に起つた經學の一派。浙西吳派の支派と見るべきもので、此の派に屬する主な者に、汪中・李淳、寶應の劉氏の三世（劉台拱・寶楠・恭冕）、阮元・凌廷堪・焦循、儀徵の劉氏四世（劉文淇・毓崧・壽曾・師培）等がある。

【揚州學派】



阮元─┬焦循
　　　└阮福（阮元子）
汪中・李淳─賈田祖
劉台拱─劉寶楠（台拱子）─劉恭冕（台拱孫）
（寶應劉氏三世）
劉文淇─劉毓崧（文淇子）
劉壽曾（文淇孫）─劉師培（壽曾從子）
（儀徵劉氏四世）

【揚州元寶】53 yang^2 chou^1 yüan^2 pao^3 元寶銀の一種。

【揚州之鶴】54（ヤウシウノツル） 多くの欲望を合せ滿たさうと欲する喩。古、人々が集つて各〻志を言ふ。或る人曰く、揚州刺史とならんと。或る人曰く、多く財貨を得んと。或る人曰く、鶴に乘つて上昇せんと。其の時、他の一人が、腰に十萬貫を纏ひ鶴に乘つて揚州に上らんと言つた故事。〔蘇軾、於潛僧綠筠軒詩〕可㆑使㆓食無㆒㆑肉、不㆑可㆑使㆓居無㆒㆑竹、無㆑肉令㆓人瘦㆒、無㆑竹令㆓人俗㆒、人瘦尙可㆑肥、俗士不㆑可㆑醫、傍人笑㆓此言㆒、似㆑高還似㆑癡、若對㆓此君㆒仍大嚼、世間那有㆓揚州鶴㆒。〔注〕昔有㆑客、相從各言㆑所㆑志、或願㆑爲㆓揚州刺史㆒、或願㆑多㆓貲財㆒、或願㆓騎㆑鶴上昇㆒、其一人曰、腰纏㆓十萬貫㆒騎㆑鶴上㆓揚州㆒、蓋兼㆓三人者之所㆒㆑欲也。〔剪燈新話、逢㆓華亭故人㆒記〕世間寧有㆓揚州鶴㆒耶、丈夫不㆑能㆑流㆓芳百世㆒、亦當㆑遺㆓臭萬年㆒。

【揚州八怪】55（ヤウシウハチクワイ） 清の金農・羅聘・鄭燮・李方膺・汪士愼・高翔・黃愼・李鱓の八人をいふ。皆畸行の士で畫をよくし、揚州に流寓したので、世に揚州八怪と稱する。

【揚州夢記】56（ヤウシウムキ） 傳奇の名。唐、于鄴作。〔龍威祕書、第四集、第二十九冊〕・〔唐人說薈、第十四冊〕。

【揚州畫舫錄】57（ヤウシウグワハウロク） 書名。十八卷。清、李艾塘撰。清の乾隆四五十年間の揚州の繁華の有樣を記したもの。

【揚州教水調】58（ヤウシウケウスイテウ） 樂曲の名。〔宣和遺事、前集上〕作㆓蘭陵王・揚州教水調㆒、勸酬交錯、日且㆑暮矣。

【揚州十日記】59（ヤウシウジフジツキ） 書名。清、王秀楚撰。清兵が初めて揚州に入つた時の慘虐の狀を見聞して記述したもの。

【揚州芍藥譜】60（ヤウシウシヤクヤクフ） 書名。一卷。宋、王觀撰。劉攽の芍藥譜の列する所の三十一種に因り、其の一種を改め、其の八種を增して敍述す。劉本に比してやや詳かである。〔四庫提要、子、譜錄類〕。

【揚出】61（アゲダシ） 豆腐・茄子などを輕く油揚にしたもの。

【揚盾】62（ヤウジユン） 盾をあげる。〔周禮、夏官、方相氏〕玄衣朱裳、執㆑戈揚㆑盾、帥㆓百隸㆒而時難、以索㆑室毆㆑疫。

【揚稱】63（ヤウシヨウ） ほめたたへる。稱揚する。〔列女傳、仁智、楚武鄧曼傳〕識㆓彼天道㆒、盛而必衰、終如㆓其言㆒、君子揚稱。

【揚旌】64（ヤウセイ） ❶はたを立てる。〔王融、永明九年策㆓秀才㆒文〕或揚㆑旌求㆑士、或設㆑虛待㆑賢。〔注〕善曰、管子曰、舜有㆓告㆑善之旌㆒、應劭漢書注曰、旌、幡也、設㆓之五達之道㆒。❷戰爭をする意。〔張九齡、奉㆕和聖製送㆔尙書燕國公說赴㆓朔方軍㆒詩〕朔南方偃㆑革、河陽蹔揚㆑旌。

【揚聲】65（ヤウセイ） ❶こゑをはりあげる。〔晏子、諫、上〕倨㆑身而揚㆑聲。〔樂府江陵樂〕逢㆑人駐㆑步看、揚㆑聲皆言㆑好。〔朝野僉載〕宗元、成門外揚㆑聲、奮臂直入。❷ほまれをあげる。〔孔融、薦㆓禰衡㆒表〕揚㆓聲紫微㆒、垂㆓光虹蜺㆒。

【揚接】66（アゲツギ） 臺木（ダイギ）（接木の臺にする木）を掘取り、便宜の場所で接木を行ふこと。

【揚錢】67（アガリセン） ❶上方の花街で、藝娼妓が月末に扱ひ店から受取る線香代の總額。❷（アゲセン）藝娼妓の玉代。揚代。

【揚前】68（アゲマヘ） 廓詞。遊女が約束した茶屋へ行く迄、斷つて外の茶屋へ出てゐること。

【揚善】69（ヤウゼン） ❶善を稱揚する。又、善人をあげ用ひる。〔易、大有〕象曰、火在㆓天上㆒、大有、君子以遏㆑惡揚㆑善、順㆓天休命㆒。〔中庸〕隱㆑惡而揚㆑善。〔白虎通、諡〕掩㆑惡揚㆑善。❷清、滿洲鑲白旗人。姓は瓜爾佳氏。費英東の弟子。天聰中、明を攻めるのに從つて至る所に功があり、議政大臣を授けられた。順治の初、何洛會が逆事を諫阻しないのに坐して、其の子羅碩と共に棄市せられた。後、世祖が其の辜無きを念ひ、世職に復した。〔國朝耆獻類徵、二百六十三〕。

【揚然】70（ヤウゼン） 得意なさま。揚揚（106）に同じ。

【揚孫】71（ヤウソン） 清、蔣廷錫（**9−31820**‥200）の字。

【揚湯】72（ヤウタウ） 沸騰した湯を火から下す。民を困苦から蘇らせる喩。揚沸。〔魏志、劉廙傳〕遭㆓乾坤之靈㆒、値㆓時來之運㆒、揚㆑湯止㆑沸、使㆑不㆓燋爛㆒。

【揚長】73 yang^2 chʻang^3 穀物を簸して屑を去る。揚場。

【揚長而去】74 yang^2 chʻang^3 êrh^2 chʻü^4 突然に去る。俄かに去る。

【揚張】75（アゲバリ） 昔の軍用語。大きい幕。卽ち今の天幕の如きもの。

【揚場】76 yang² ch'ang³ ㊀㋑農夫が穀物を簸する場所。㋺穀物を簸して屑を去る。㊁アゲバ 船の荷物などをあげるところ。埠頭。

〖揚場去〗77 yang² ch'ang³ ch'ü⁴ 挨拶なしに突然に出て行く。俄かに出かける。

【揚中】78 ヤウチユウ 縣名。民國、太平縣を改め置く。江蘇省鎭江縣の東。縣治の太平洲が揚子江中に在るから名づく。

【揚塵】79 ヤウヂン 塵をあげる。ほこりをたてる。〔宋玉、風賦〕夫庶人風、塕然起㆓於窮巷之間㆒、堀㆑堁揚㆑塵。〔神仙傳、七、麻姑〕麻姑自說云、接侍以來、已見㆔東海三爲㆓桑田㆒矣、向到㆓蓬萊㆒、水又淺㆓于往者㆒、會時略半也、豈將㆔復還爲㆓陵陸㆒乎、(王)方平笑曰、聖人皆言、海中復揚㆑塵也。

【揚庭】80 ヤウテイ ㊀宋、陳過庭(**11－41698**··762)の本名。㊁㋑宋、鄭史(**11－39647**··154)の字。㋺清、羅光烈(**9－28397**··323)の字。

【揚擲】81 ヤウテキ あげてなげうつ。〔舊唐書、食貨志下〕米至㆓京師㆒、或砂礫糠粃雜㆓乎其閒㆒、開元初、詔使㆔揚擲而較㆓其虛實㆒。

【揚土】82 yang² t'u³ 埃をあげる。

【揚波】83 ヤウハ ㊀波をあげる。波を立てる。波をおこす。〔楚辭、九歌、少司命〕與㆑女遊㆓兮九河㆒、衝風至兮揚㆑波。〔拾遺記、四、燕昭王〕八年、盧扶國來朝、云云、水不㆑揚㆑波、風不㆑折㆑木、人皆壽三百歲。㊁時勢に從つて世人と同樣な行動をすること。〔屈原、漁父〕世人皆濁、何不㆘淈㆓其泥㆒而揚㆗其波㆖。〔注〕逸曰、與沈浮也、銑曰、淈㆑泥揚㆑波、稍隨㆓其流㆒也。〔後漢書、周燮傳〕斯固以滑㆑泥揚㆑波、同㆓其流㆒矣。

【揚葩】84 ヤウハ 花をあげる。文章の才を發揮する喩。〔北史、文苑傳序〕漢自㆓孝武之後㆒、雅尚㆓斯文㆒、揚㆑葩振㆑藻者如㆑林、而二馬・王・楊爲㆓之傑㆒、東京之朝、茲道逾扇、咀㆑徵含㆑商者成㆑市、而班・傅・張・蔡爲㆓之雄㆒。

【揚播】85 ヤウハ ㊀あがりちらばる。とびあがりちらばる。動き散る。〔呂覽、必己〕孟賁瞋㆑目而視㆓船人㆒、髮植目裂鬢指、舟中之人、盡揚播入㆓於河㆒。〔注〕揚、動也、播、散也。㊁アゲマキ 播種法の一。水に浸した種子を薄く蓆に擴げ、外部の水の乾燥を待つて直ちに播種する。種子を水に浸し、發芽させてから播く芽出播(メダシマキ)に對していふ。

【揚簸】86 ヤウハ あふりあげる。又、あふられてあがる。〔王禹偁、七夕詩〕匏瓜從㆓繫滯㆒、糠粃任㆓揚簸㆒。

【揚旆】87 ヤウハイ はたをあげる。はたを立てる。〔潘岳、藉田賦〕九旗揚㆑旆。〔沈約、應㆑詔樂遊苑餞㆓呂僧珍㆒詩〕推㆑轂二崤道、揚㆑旆九河陰。

【揚芳】88 ヤウハウ 香氣を發する。香氣を吹き送る。又、名聲をあげる。宣傳する。〔晉書、文苑、曹毗傳〕陵㆑冬揚㆑芳、披㆑雪獨振。〔潘岳、秋興賦〕泉涌㆓湍於石閒㆒兮、菊揚㆓芳於崖澨㆒。〔溫庭筠、嘲㆓春風㆒詩〕揚㆑芳歷㆓九門㆒、澹蕩入㆓蘭蓀㆒。

【揚白】89 ヤウハク 眼の玉が白く飛び出てゐること。〔南史、陳宗室諸王、新安王伯固傳〕生而龜胸、目通睛揚白。

【揚幕】90 アゲマク 能舞臺の橋掛り、又は芝居の花道の出入口にかける幕。

【揚暴】91 ヤウバク あがりあらはれる。〔鄭俠、觀㆓孔義甫謝致仕詩㆒有㆑感詩〕青春被㆓恩擢㆒、名姓粗揚暴。

【揚帆】92 ヤウハン ほをあげる。擧帆。〔謝靈運、遊㆓赤石㆒進帆㆑海詩〕揚㆑帆采㆓石華㆒、挂㆑席拾㆓海月㆒。〔劉潛、帆㆓渡吉陽洲㆒詩〕揚㆑帆乘㆓浪華㆒、操㆑鼓要㆓風力㆒。

【揚板】93 アゲイタ 臺所の板の間などの床板を釘付けにせず、上げて開くことができるやうに作つたところ。上板。

【揚飯】94 ヤウハン 飯の熱氣を揚げ去ること。〔禮、曲禮上〕毋㆓揚飯㆒。〔疏〕毋㆓揚飯㆒者、飯熱當㆑待㆑冷、若揚㆓去熱氣㆒、則爲㆓貪㆑快傷㆑廉也。

【揚旛】95 ヤウハン はたをあげる。はたをたてる。揚旟。〔雲笈七籤〕千乘火甲、萬騎揚旛。

【揚臂】96 ヤウヒ 腕をあげる。〔尉繚子、制談〕使㆓民揚㆑臂爭出㆓農戰㆒。

【揚眉】97 ヤウビ ㊀眉をあげる。眼を見張る。〔列子、湯問〕離朱・子羽、方㆑畫拭㆑皆、揚㆑眉而望㆑之、弗㆑見㆓其形㆒。〔劉峻、廣絕交論〕見㆓一善㆒則盱衡扼㆑腕、遇㆓一才㆒則揚㆑眉抵㆑掌。㊁きつとした眼つきをする。意氣の盛なさま。〔李白、上㆓韓荊州㆒書〕何惜㆓階前盈尺之地㆒、不㆑使㆔白揚㆑眉吐㆑氣、激㆓昂青雲㆒耶。

【揚美】98 ヤウビ ほめたたへる。〔賈子新書、官人〕內相匡正、外相揚美、謂㆓之友㆒。

【揚浮】99 ヤウフ あがりうかぶ。〔木華、海賦〕於㆑是鼓怒溢、浪揚浮。

【揚沸】100 ヤウフツ 沸騰した湯を火からおろす。吏治の烈しく慌しいことの喩。揚湯。〔史記、酷吏傳序〕吏治若㆓救㆑火揚㆑沸。〔漢書、酷吏傳序〕吏治若㆓救㆑火揚㆑沸。〔注〕師古曰、言㆓迫急㆒也。

【揚物】101 アゲモノ 油であげた料理。

【揚袂】102 ヤウベイ たもとをあげる。また舞ふさま。〔宋玉、高唐賦序〕其始出也、暾兮若㆓松榯㆒、其少進也、晰乎若㆓姣姬揚㆑袂障㆑日而望㆑所㆑思。〔曹植、酒賦〕或揚㆑袂屢舞、或扣㆑劍清歌。〔賈曾、餞㆔張尙書赴㆓朔方㆒序〕接㆑蓋陰㆑衢、揚㆑袂風㆑野。

【揚鞭】103 ヤウベン むちをあげる。勢よく馬をかるにいふ。〔岑參、衞節度赤驃馬歌〕揚㆑鞭驟急白汗流、弄㆑影行驕碧蹄碎。〔溫庭筠、春州曲〕岸上揚㆑鞭烟草迷。

【揚部】104 アゲジトミ 日除、又は風雨を防ぐに用ひた横戸で、上に釣り上げて開くやうにしたもの。

【揚名】105 ヤウメイ 名をあげる。名聲を馳せる。〔孝經、開宗明義章〕立㆑身行㆑道、揚㆓名於後世㆒、以顯㆓父母㆒、孝之終也。〔六韜、犬韜、練士〕有㆘贅壻人虜、欲㆓掩㆑迹揚㆑名者㆖。〔顏氏家訓、序致〕立㆑身揚㆑名。〔舊唐書、蕭瑀傳〕以㆓爾才智㆒、足㆑堪㆓揚㆑名顯㆑親。

【揚揚】106 ヤウヤウ 得意なさま。〔荀子、儒效〕得㆓委積㆒、足㆔以揜㆓其口㆒、則揚揚如也。〔注〕揚揚、得意之貌。〔史記、管晏傳〕策㆓駟馬㆒、意氣揚揚、甚自得也。〔韓愈、復志賦〕有㆑肆㆓志之揚揚㆒。

〖揚揚得意〗107 yang² yang² tê² i⁴ 甚だ得意なことをいふ。

【揚油】108 アゲアブラ あげものに用ひる油。

【揚雄】109 ヤウユウ 漢、成都の人。字は子雲。少くして學を好み、群書を博覽したが、章句訓詁を事とせず。人となり簡易佚蕩、吃りで劇談することができず、深湛の思を好み、文章を以て名を揚げた。成帝の時、召されて甘泉・河東・長楊等の賦を奏し、多く司馬相如に倣ふ。後、王莽に仕へた。著に太玄經・揚子法言・方言・訓纂・州箴等がある。一に楊雄に作る。〔前漢書、八十七〕。

〖揚雄草玄〗110 ヤウユウサウゲン 蒙求の標題。漢の揚雄が太玄經を草した故事。〔漢書、揚雄傳下〕時雄方草㆓太玄㆒、有㆔以自守㆓泊如㆒也、或嘲㆑雄以㆓玄尚白㆒、而雄解㆑之、號曰㆓解嘲㆒。〔注〕師古曰、玄、黑色也、言㆘雄作㆑之、不㆑成㆓其色㆒、猶白、故無㆗祿位㆖也。

【揚輿】111 アゲゴシ 肩で昇ぐ輿。

【揚厲】112 ヤウレイ 高く發揚する。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕鋪㆓張對天之閎休㆒、揚㆓厲無前之偉蹟㆒。

【揚歷】113 ヤウレキ 引擧げて試用する。又、過去の事蹟を明かにすること。既往の事實を以て衆に示し知らせること。敭歷。〔魏志、管寧傳〕優賢揚㆑歷、垂㆓聲千載㆒。〔注〕今文尚書曰、優賢揚㆑歷、謂㆑揚㆓其所㆓歷試㆒。〔左思、魏都賦〕優賢著㆓於揚歷㆒。〔注〕向曰、明㆓其搜揚㆒、而歷㆓試之㆒。

【揚烈】114 ヤウレツ ㊀いさをしをあげあらはす。〔書、立政〕以覲㆓文王之耿光㆒、以揚㆓武王之大烈㆒。㊁強い香氣を發する。強い香氣をただよはせる。〔司馬相如、上林賦〕應㆑風披靡、吐㆑芳揚㆑烈。

【揚裂】115 ヤウレツ 風が吹き上げて裂く。又、風に吹きあげられてさける。〔漢書、外戚下、孝成許皇后傳〕大風自㆑西搖㆓祖宗寢廟㆒、揚㆓裂帷席㆒。

【揚羽蝶】116 アゲハノテフ 蝶の一種。普通にいふ蝶。鳳蝶。

【揚雲雀】117 アゲヒバリ 空中高く舞ひあがつて鳴いてゐる雲雀。〔曉臺の句〕猪垣の崩れ口より揚雲雀。

【揚古利】118 ヤウコリ 清、滿洲正黃旗人。姓は舒穆祿氏。世〻渾春に居る。庫爾喀部長であつた父が部人に害せられた時、十四歲の揚古利は父を殺した者を手づから刃し、太祖に異とせられ、信任せられた。後、烏喇を破り、輝發を征し、瀋陽に克ち、直ちに長城に入り、行軍四十餘年、大小百餘戰、創を被ること最も多く、功業特偉。超品公に封ぜられ、卒して武勳王に追封せられた。〔清史稿、二百二十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十三〕・〔國朝先正事略、二〕。

【揚子雲】119 ヤウシウン 漢の人。揚雄(109)を見よ。

〖揚子雲集〗120 ヤウシウンシフ 書名。六卷。漢、揚雄撰。隋志・唐志には皆雄の集六卷を載せてゐるが其

の本は久しく佚し、宋の譚愈が始めて殘剩を裒合して、五巻とし、明の萬暦中、鄭璞が又補輯して六巻とした。收むる所の諸箴は凡て三十篇。雄の箴は實は二十八篇に止まり、雜ふるに崔駰・崔瑗の作を以てしたもので、殊に考訂を失してゐる。　漢魏六朝百三名家集は一巻に縮め、その目は、賦・上書・書・設難・頌・箴・箴補・符命・連珠・誄・文・騷・序傳・附錄。〔四庫提要、集、別集類〕。

【揚之水】121 ヤウシスイ ㊀詩經の篇名。㋑王風の篇名。周の平王の民が久しく屯戍して歸ることを得ず、王の恩澤が下に及ばないのを怨んで作ったもの。〔詩、王風、揚之水序〕揚之水、刺㆓平王㆒也。㋺鄭風の篇名。鄭の太子忽に良臣の無いのを閔んだもの。〔詩、鄭風、揚之水序〕揚之水、閔㆑無㆑臣也、君子閔㆘忽之無㆓忠臣良士㆒、終以死亡㆖而作㆓是詩㆒也。㋩唐風の篇名。晉の昭公が桓叔を曲沃に封じたところ、沃が彊盛になり、ために昭公は微弱で民心が傾かんとするのを述べ、昭公を刺つたもの。〔詩、唐風、揚之水序〕揚之水、刺㆓晉昭公㆒也、昭公分㆑國以封㆑沃、沃盛彊、昭公微弱、國人將㆓叛而歸㆑沃焉。㊁川の名。源は安徽省績溪縣の東北の龍從山。上流を徽溪、又は績溪といふ。下流は練溪といひ、更に浙水と會して新安江となる。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府、歙縣〕揚之水、在㆓城西㆒、出㆓績溪縣龍從山㆒、西南流凡百餘里、至㆓城東北㆒達㆓于城西㆒、謂㆓之練溪㆒、亦曰㆓徽溪㆒、府西北黃山諸水、悉流合焉、又環遶而東南達㆓于歙浦㆒、謂㆓之浦口㆒、浦口而東南、或謂㆓之苦溪㆒、下抵㆓深渡㆒凡八十里、名㆓八十里苦㆒、此卽新安江之上流也、志云、苦溪中亂石磯磯、洪灘斗折、源流奔騰、其急如㆑箭、雖㆓三峽㆒不㆑足㆑方㆓其險㆒。

【揚城戶】122 アゲキド 城戶の一種。上に擧げて開くもの。〔平塞錄〕篠垣に擧城戶あり。

【揚且皙】123 ヤウカツニシテセキ 額が廣く且つ白いこと。〔詩、鄘風、君子偕老〕玼兮玼兮、其之翟也、鬒髮如㆑雲、不㆑屑㆑髢、玉之瑱也、象之揥也、揚且之皙也、胡然而天也、胡然而帝也。〔傳〕揚、眉上廣、皙、白皙。

【揚武谷】124 ヤウブコク 谷の名。山西省崞縣の西。又、陽武峪・羊武谷に作る。唐の大暦十三年、都督張光晟が回紇をここに破る。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、代州、崞縣〕揚、一作㆑羊、或作㆑陽、自㆑昔戍守要地也、唐大歷十三年、回紇入㆓寇代州㆒、都督張光晟破㆓之於羊武谷㆒。

【揚无咎】125 ヤウムキウ 宋、淸江の人。字は補之。號は逃禪老人。又、淸夷長者。高宗の朝に、累りに徵せられたが秦檜の故を以て起たず。書畫を善くし、詞に巧。著に逃禪詞がある。〔四庫提要、一百九十八〕。

【揚瘌子】126 ヤウラツシ 蟲の名。蛅蟖（10－32961‥2）の異名。いらむし。〔正字通〕蛅蟖別名、無㆑足有㆑毛、身扁綠色、似㆑蠶而短、能螫㆑人、俗呼㆓揚瘌子㆒。

【揚羽帽子】127 アゲハバウシ 兩緣の揚つた帽子。其の狀が揚羽の蝶に似てゐる。婚儀に花嫁が被るもの。〔日本西王母、一〕あげは帽子にうしろ帶。

【揚侍郎集】128 ヤウジラウシフ 漢の揚雄の文集。揚子雲集（120）に同じ。

【揚人抑己】129 yang^1 jên^2 i^4 chi^3 人をほめて己をへり下る。

【揀】12356

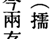
小篆（段注本）

🈩 ゼン ネン 〔集韻〕而宣切 先

🈔 ズイ ニ 〔集韻〕儒隹切 支

🈪 ゼツ ネチ 〔集韻〕如劣切 屑

🈩㊀**ひたす**。沒入する。〔說文〕揀、染也、从㆑手耎聲、周禮曰、六曰揀祭。〔段注〕各本篆作㆑擩、解作㆓需聲㆒、引㆓周禮㆒作㆓擩祭㆒、今正、古音耎聲在㆓十四部㆒、需聲在㆓四部㆒、其音畫然分別、後人乃或淆㆓亂其偏旁㆒、本从㆑耎者、譌而从㆑需、而音由㆑是亂矣、周禮大祝、九祭、六曰揀祭、士虞禮・特牲饋食禮・少牢饋食禮・有司徹四篇、經文凡用㆓揀字㆒二十、唐石經、周禮・士虞皆作㆑擩、特牲・少牢・有司皆作㆑揀、參差乖異、云云、郭璞、而沿反、李善、而緣反、劉昌宗、而玄反、陸德明、而泉反、皆耎聲之正音也。〔儀禮、特牲饋食禮〕右取㆑菹揀㆓于醢㆒。〔注〕揀㆑醢者、染㆓於醢㆒。㊁**もむ**。撋（5－12683）に同じ。〔集韻〕撋、煩撋、猶㆓挼莎㆒、或作㆑揀。🈔**ひたす**。擩（5－12866）に同じ。〔集韻〕擩、搵也、或作㆑揀。🈪**もむ**。擩（5－12866）に同じ。〔集韻〕擩、撋也、或作㆑揀。

參考 說文繫傳は、篆文を（擩 5－12866）に作り、音をジユとしてゐる。今兩存する。

【揬】12357

シウ 搜（5－12486）に同じ。〔正字通〕揬、今作㆑搜。

【換】12358

小篆

クワン グワン 〔集韻〕胡玩切 翰 ㄏㄨㄢˋ huan^4

㊀**かへる**。㋑とりかへる。さしかへる。交易する。〔說文〕換、易也、从㆑手奐聲。〔晉書、阮孚傳〕嘗以㆓金貂㆒換㆑酒。㋺あらためる。〔魏收、爲㆓東魏㆒檄㆑梁文〕改㆓換朝章㆒、變㆓易官品㆒。㊁**かはる**。㋑あらたまる。〔王勃、滕王閣詩〕物換星移幾度秋。〔李洞、贈㆓徐山人㆒詩〕瓦礫變㆑黃憂㆓世換㆒。㋺いりかはる。さしかはる。〔蘇轍、送㆓孫提刑㆒詩〕詔書遂㆓公私㆒、使節詐㆓新換㆒。㊂**ほしいまま**。畔換。〔漢書、敍傳下〕項氏畔換。〔注〕師古曰、畔換、強恣貌、猶㆑言㆓跋扈㆒也。〔左思、魏都賦〕雲撤㆓叛換㆒。〔注〕劉曰、換、猶㆓恣睢㆒也。㊃逭（11－38930）に通ず。〔穀梁、桓、元、用見㆘魯之不㆑朝㆓於周㆒、而鄭之不㆖祭㆓泰山㆒也、注〕擅相換易。〔釋文〕換、一本亦作㆑逭。

名乘 ヤス。

【換押】1 huan^4 ya^1 合資營業の質舗。

【換衣】2 クワンイ 着物をきかへる。又、ころもがへ。更衣。〔事文類聚〕進士新及第、換㆑衣、以㆓故衣㆒予㆑人、故張籍詩云、後來爭取舊衣裳。

〔換衣裳〕3 huan^4 i^1 shang 着物を着換へる。

【換位】4 クワンヰ 論理學用語。原命題の主辭と賓辭を轉換してすること。かうして新命題を得る方法を換位法といふ。

【換韻】5 クワンヰン 詩作上の語。句末に蹈む韻を換へること。轉韻。

【換易】6 クワンエキ ㊀とりかへる。〔後漢書、朱浮傳〕浮因上疏曰、云云、閒者守宰、數見㆓換易㆒、迎㆑新相代、疲㆓勞道路㆒。㊁變化する。〔蘇軾、留㆓題仙都觀㆒詩〕舟中行客去紛紛、古今換易如㆓秋草㆒。

【換價】7 クワンカ 物を代價に見つもること。ねぶみ。

【換鵝】8 クワンガ 晉の王羲之が道德經（一說に、黃庭經）を書いて鵝と交換した故事。書を請ひ求めるをいふ。〔晉書、王羲之傳〕性愛㆑鵝、云云、山陰有㆓一道士㆒、養㆓好鵝㆒、羲之往觀焉、意甚悅、固求㆑市㆑之、道士云、爲寫㆓道德經㆒、當㆓擧㆑羣相贈㆒耳、羲之欣然寫畢、籠㆑鵝而歸、甚以爲㆑樂、其任率如㆑此。〔李白、送㆓賀賓客歸㆑越詩〕山陰道士如相見、應㆘寫㆓黃庭㆒換㆗白鵝㆖。〔李白、王右軍〕右軍本淸眞、瀟洒在㆓風塵㆒、山陰過㆓羽客㆒、愛㆓此好鵝賓㆒、掃㆑素寫㆓道經㆒、筆精妙入㆑神、書罷籠㆑鵝去、何曾別㆓主人㆒。

〔換鵝帖〕9 クワンガテフ 晉の王羲之が鵝と換へるために寫した帖。〔白孔六帖〕右軍王羲之、嘗見㆓山陰道士㆒、有㆓羣鵝㆒、求㆑之、要㆘右軍書㆓黃庭經㆒以換㆖、遂與㆑之。〔侯鯖錄〕韓宗儒每㆑得㆓東坡帖㆒、于㆓殿帥姚麟處㆒換㆓羊肉數斤㆒、山谷曰、右軍爲㆓換鵝帖㆒、今爲㆓換羊書㆒矣。

【換眼】10 クワンガン 眼をとりかへる。〔乖異記〕陶穀少時夢、數吏云、奉㆑符換㆑眼、吏求㆓錢十萬㆒、安㆓第一眼㆒、穀不㆑應、又云、錢五萬、安㆓第二眼㆒、復不㆑

答、吏曰、止安㆓第三眼㆒、即以㆓一丸㆒納㆓入眼中㆒、既覺、眼深碧、後相者曰、好貴人骨氣、奈㆓一雙鬼眼㆒、不㆑至㆓大位㆒。

【換季】11 クヮンキ ㊀清代、毎年三月と九月に衣服や帽子を、其の季節のものに取換へること。㊁huan^4 chi^4 時候のうつりかはりをいふ。

【換氣】12 クヮンキ 空氣を入れかへること。かぜとほし。通風。

【換給】13 クヮンキフ 取りかへて與へる。〔清會典事例、戸部、關稅、禁令〕凡民人向㆓夷人㆒買㆑物、不㆑許㆔使㆓用官銀㆒、亦不㆑許㆘將㆓官銀㆒換㆗給夷人㆖、如有㆓前項情弊㆒、拘拏治㆑罪、該同知漫無㆓查察㆒、別經㆓發覺㆒、將㆓該同知㆒嚴參。

【換錦】14 クヮンキン 花の名。葉は冬に生じて夏に至れば落ち、葉が落ちて花が開き、花が落ちて葉が生ずるといふ。〔南越筆記〕換錦者、脫㆑紅換㆑錦、脫㆑綠換㆑錦也、葉冬生、至㆑夏而落、獨抽㆓一莖㆒二尺許、作㆓十餘花㆒、花或紅或綠、落㆑葉而花、故曰㆓脫紅脫綠㆒、花落而葉、故曰㆓換錦㆒、花與㆑葉兩不㆓相見㆒也。

【換銀】15 クヮンギン 兩替。換錢。脫換。〔清國行政法汎論、皇室財產〕皆按㆓價格㆒換銀上納。

【換貨】16 huan^4 huo^4 商品を交易する。品物を取換へる。

【換刑】17 クヮンケイ 罰金、科料を納め得ない者を一日一圓の割合で禁錮又は拘留に處すること。易科。〔清國行政法汎論、知縣、權限〕處㆓分輕罪㆒、有㆓換刑法㆒。

【換肩】18 huan^4 chien^1 肩をかへる。

【換言】19 クヮンゲン いひかへる。言ひかたをかへる。他の語を以ていふ。

【換吾】20 クヮンゴ 清、陳世仁(**11－41698**··1033)の號。

【換骨】21 クヮンコツ ㊀道家の說。仙を學ぶ者が、金丹を吞んで、凡骨を仙骨に化することをいふ。〔李商隱、藥轉詩〕鬱金堂北畫樓東、換骨神方上藥通。〔方干、遊㆓張公洞㆒寄㆓陶校書㆒詩〕由來委曲尋㆓仙路㆒、不㆑似㆓先生換骨丹㆒。㊁骨をとりかへる。〔續仙傳、王可交〕一旦棹㆓漁舟㆒、方鼓㆑枻高歌、入㆑江行㆓數里間㆒、忽見㆔一綵畫花舫漾㆓於中流㆒、有㆓道士七人㆒云云、道士曰、酒是靈物、必若得㆑入㆑口、當㆑換㆓其骨㆒。〔景德傳燈錄、三、慧可大師〕翌日覺㆓頭痛如㆑刺、其師欲㆑治㆑之、空中有㆑聲曰、此乃換骨、非㆓常通㆒也、云云、師視㆓其頂骨㆒、即如㆓五峯秀出㆒矣。

【換骨羽化】22 クヮンコツウクヮ 俗骨を脫し、羽を生じて飛行すること。仙人になることをいふ。〔太平記、十三、龍馬進奏〕換骨羽毛の仙人となる。

【換骨奪胎】23 クヮンコツダツタイ 骨を取りかへ、生れ變らせる。古人の詩文を作りかへて新思想を加へ、己の詩文とすること。古人の詩に本づいて作るを換骨といひ、古詩の意を基として稍〻意を換へるを奪胎といふ。奪胎換骨。〔冷齋夜話、換骨奪胎法〕山谷云、詩意無㆑窮、而人之才有㆑限、以㆓有㆑限之才㆒、追㆓無㆑窮之意㆒、雖㆓淵明・少陵㆒、不㆑得㆑工也、然不㆑易㆓其意㆒、而造㆓其語㆒、謂㆓之換骨法㆒、規㆓入其意㆒而形㆓容之㆒、謂㆓之奪胎法㆒。〔捫蝨新話〕文章雖㆑不㆑要㆔蹈㆓襲古人一言一句㆒、然自有㆓奪胎換骨等法㆒、所謂靈丹一粒、點㆑鐵成㆑金也。〔藝苑雌黃、奪胎換骨〕前輩云、時有㆓奪胎換骨之說㆒、信有㆑之也、杜陵謁㆓玄元廟㆒、其一聯云、五聖聯㆓龍袞㆒、秋風折㆓鴈行㆒、亦以㆓鴈行㆒對㆓龍袞㆒、然語中的其親切、過㆓于本詩㆒、茲不㆑謂㆓之奪胎㆒可乎、不㆑然則徒用㆓前人之語㆒、殊不㆑足㆑貴、且如㆔沈佺期云㆓小池殘暑退、高樹早涼歸㆒、非㆑不㆑佳也、然正用㆓柳惲太液微波起、長楊高樹秋之句㆒耳、蘇子云、峽束㆓滄淵㆒深貯㆑月、巖排㆓紅樹㆒巧粧㆑秋、非㆑不㆑佳也、然正用㆘杜陵峽束㆓滄江㆒起、岩排㆓石樹㆒圓之句㆖耳、語雖㆑工而無㆑別也。

【換坐】24 huan^4 tsuo^4 乘換へる。

【換盞】25 クヮンサン 宴席でさかづきを相互にやりとりすること。獻酬。

【換算】26 クヮンサン ㊀單位を異にする數量に計算しかへること。㊁りやうがへ。

【換質】27 クヮンシツ 論理學用語。原命題の質をかへること。かうして新命題を得る方法を換質法といふ。例、「甲は乙なり」。換質「甲は乙ならざるにあらず。」

【換車】28 huan^4 chʻê^1 車を乘換へる。

【換上】29 huan^4 shang 換へる。交換する。

【換借】30 クヮンシャク 取りかへたり借りたりすること。〔南史、曹武傳〕時帝在㆑戎多㆑乏、就㆑武換借、未㆓嘗不㆑得。

【換授】31 クヮンジュ 其の人の能力によつてそれぞれ仕事をかへさづけること。〔宋史、儒林七、劉清之傳〕言㆓用㆑人四事㆒、云云、四曰、聽㆓換授㆒、謂、文武之官、不㆑可㆔用違㆓其才㆒、然不㆑當㆑許㆓之自列㆒、宜㆑令㆘文武臣四品以上、各以㆓性行材略及文武藝㆒、每歲互㆗擧堪㆖㆑充㆓左右㆒、選者一人於㆓合入資格㆒、外稍與㆓優獎㆒。

【換稱】32 クヮンショウ 名稱をかへること。よびかへの名。かへな。一稱。

【換心】33 クヮンシン 心臟をとりかへる。〔列子、湯問〕扁鵲謂㆓公扈㆒曰、汝志彊而氣弱、故足㆓於謀㆒而寡㆓於斷㆒、齊嬰志弱而氣彊、故少㆓於慮㆒而傷㆓於專㆒、若換㆓汝之心㆒、則均㆓於善㆒矣、扁鵲遂飲㆓二人毒酒㆒、迷死三日、剖㆑胸探㆑心、易而置㆑之、投以㆓神藥㆒。

【換新】34 huan^4 hsin^1 新しいものととりかへる。新品と交換する。

【換新衣】35 huan^4 hsin^1 i^1 十二月二十三日、竈神の昇天に際して新紙を貼り代へることをいふ。

【換親】36 huan^4 chʻin^1 雙方で身元・親戚關係を記した書類を交換して結婚の約定をすること。

【換人】37 huan^4 jen^2 召使を取換へる。

【換錢】38 huan^4 chʻien^2 兩替。換銀。兌銀。

【換兌】39 huan^4 tuei^4 手形の振替。

【換替】40 huan^4 tʻi^4 かへること。

【換替着】41 huan^4 tʻi^4 chê 交る交る。交代に。

【換戴】42 huan^4 tai^4 帽子をかぶりかへる季節をいふ。夏は立夏前後に、秋は寒露前後に涼帽を暖帽に、暖帽を涼帽にとりかへる。

【換代】43 クヮンダイ かはる。交代する。〔孔穎達、周易正義序〕莫㆑非㆑資㆓變化之力、換代之功㆒。

【換朝】44 クヮンテウ 代がはりの新朝廷をいふ。〔桃花扇、餘韻〕開國元勳留㆓狗尾㆒、換朝逸老縮㆓龜頭㆒。

【換帖】45 クヮンテフ ㊀義兄弟の契を結ぶものが、互に交換する姓名・原籍・年齡等を書いた蘭帖。〔樂鈞、致㆓姚椿㆒書〕附㆓上名紙㆒、兼注㆓年籍㆒、用答如㆓昆之愛㆒。㊁huan^4 tʻieh^3 換小帖兒(64)に同じ。

【換轉】46 huan^4 chuan^3 變更する。

【換頭】47 クヮントウ 塡詞の一體。詞中の前後闋が完全に相同じものを重頭といひ、起頭の數句の前後が相同じくないものを換頭といふ。

【換班】48 クヮンパン 交替する。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕換㆑班應㆑調。

【換付】49 クヮンプ 引換にわたす。〔蒲生褧亭、近世偉人傳、瑞賢機智〕價金則與㆓材木㆒換付。

【換文】50 クヮンブン 兩國の間で外交文書を相互に交換すること。

【換票】51 huan^4 pʻiao^4 兌換券を換へる。

【換名】52 クヮンメイ 名をとりかへる。改名(**5－13114**··144)に同じ。

【換喩】53 クヮンユ 修辭學用語。言はんとする事物に換へるにこれに關係ある事物を以てする詞態。

【換領】54 huan^4 ling^3 引換受領。

【換鐘兒】55 huan^4 chung^1 êrh 胎兒の時から、雙方の親と親の間で約束して、結婚を成立せしめること。

【換水土】56 huan^4 shuei^2 tʻu^3 風土が變はる。

【換撥兒】57 huan^4 po^1 êrh 交代する。

【換羊書】58 クヮンヤウショ 宋の韓宗儒が、東坡の法帖を得る每に、姚麟の處で羊肉數斤に換へた故事。〔侯鯖錄〕韓宗儒每㆑得㆓東坡帖㆒、于㆓殿帥姚麟處㆒、換㆓羊肉數斤㆒、山谷曰、右軍爲㆓換鵝帖㆒、今爲㆓換羊書㆒矣。

【換換口胃】59 huan^4 huan^4 kʻou^3 wei^4 しやべる。腹ごなしをする。

【換個過兒】60 huan^4 kê kuo^4 êrh 前と後をひつくりかへす。

【換巢鸞鳳】61 クヮンサウランホウ 詞牌の名。宋、史達祖撰。〔古今詞話〕沈雄曰、史梅溪換巢鸞鳳春情一闋、通首是簫韶韻、伯前半是簫韶之平聲、而落句是簫韶之仄聲、後遂相沿、盡爲㆓仄聲㆒、則曲韻亦不㆑可㆑不㆑知也。

【換三換四】62 huan^4 san^1 huan^4 ssŭ^4 取りかへ引きかへ。

【換字文章】63 クヮンジブンシャウ 文體の名。宋の咸淳時代、

江東の謹・思・熊・瑞の諸人が倡へたもの。奇詭浮豔な文字を用ひ、多く莊子・列子の語を用ひる。〔癸辛雜識〕咸淳之末、江東謹・思・熊・瑞諸人、倡爲二變體一、奇詭浮豔、多用二莊列之語一、時人謂二之換字文章一。

【換小帖兒】64 huan^4 hsiao^2 t'ieh^3 êrh　庚帖を取りかはすこと。庚帖(4－9278‥24)を見よ。

【換亂紙的】65 huan^4 luan^4 chih^3 tê　紙屑買ひ。

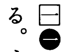
【換官不換吏】66 huan^4 kuan^1 pu^2 huan^4 li^4　上級官吏は其の年限によつて更迭するが、下級の吏員は更迭しない。

【換字拗句法】67（クワンジエウクハフ）　七言の第五字目を元來の平仄規則に反して作る法。〔禁臠〕七言第五字反二其平仄一、欲二其氣挺然一、如二田中誰問不レ納レ履、坐上適來何處蠅、負レ鹽出レ井此溪女、打レ鼓發レ船何處郞一、今俗謂二之換字拗句一。

【換湯不換藥】68 huan^4 t'ang^1 pu^2 huan^4 yao^1　湯だけをかへて藥をかへない。うはべだけを換へて內容を換へないことにいふ。

【揜】12359

㊀エン　〔集韻〕衣檢切　ㄧㄢˇ yen^3　琰
㊁アン オン　〔集韻〕鄔感切　感


小篆

㊀❶**とる**。おほひとる。とらへる。うばふ。〔說文〕揜、自レ關以東、取曰レ揜、从レ手弇聲。〔穀梁、昭、八〕揜二禽旅一。〔注〕揜二取衆禽一。〔淮南子、氾論訓〕懼揜二其氣一也。〔注〕揜、奪也。〔說苑、修文〕諸侯不レ揜レ羣。〔司馬相如、上林賦〕揜二焦明一。〔注〕善曰、方言曰、揜、取也。〔史記、司馬相如傳〕揜二羣雅一。〔注〕索隱曰、揜、捕也。❷**おほふ**。おほひつつむ。奄(3－5881)・弇(4－9610)・掩(5－12285)に通ず。〔說文通訓定聲〕揜、叚借爲レ奄爲レ弇。〔說文〕揜、一曰、覆也。〔禮、雜記下、豚肩不レ弇レ豆、釋文〕弇、本又作レ揜。〔穀梁、昭、八〕揜二禽旅一。〔釋文〕揜、於撿反、本亦作レ掩。〔禮、中庸〕誠之不レ可レ揜如レ此夫。〔疏〕揜、蔽。〔孟子、萬章上〕從而揜レ之。〔荀子、富國〕出入相揜。〔注〕揜、覆蓋也。〔淮南子、氾論訓〕民得二以揜レ形御一レ寒。〔注〕揜、蔽。❸**ふかい**。〔呂覽、仲夏〕處必揜。〔注〕揜、深也。❹**おそふ**。蹈襲する。〔荀子、儒效〕教二誨開三導成王一、使下諭二於道一而能揜中迹於文武上。〔注〕揜、襲也。❺**をさめる**。かくす。〔方言、六〕揜、藏也、吳・揚曰レ揜。〔廣雅、釋詁四〕揜、藏也。〔大學〕揜二其不善一。〔新書、道術〕信レ理遂レ惔、謂二之敢一、反レ敢爲レ揜。❻**せまる**。つめる。苦しめる。厭(2－3025)・險(11－41874)に通ず。〔說文通訓定聲〕揜、叚借爲レ厭、或曰、借爲レ險。〔易、困〕困、剛揜也。〔禮、表記〕篤以不レ揜。〔注〕揜、猶レ困也。❼**あざむく**。婩(3－6416)に通ず。〔說文通訓定聲〕揜、叚借爲レ婩、禮記表記、篤以不レ揜、按、不レ受二人誣挐一也。❽**ぜにうち**。賭博の一。閃(11－41214)に通ず。〔說文通訓定聲〕揜、叚借爲レ閃。〔漢書、高惠高后文功臣表〕博揜。〔注〕師古曰、揜、意錢之屬也。❾**はやいさま**。揜乎(8)を見よ。

㊁**おほひとる**。或は掩(5－12285)に作る。〔集韻〕揜、覆取也、或从レ奄。

[參考] 熟語は掩(5－12285)をも併せ見よ。

【揜于】1（ウエン）　北方の語。猛獸をいふ。〔北史、隋文帝紀〕嘗從二周文帝一狩二于龍門一、皇考獨當二一猛獸一、左挾二其腰一、右拔二其舌一、周文壯レ之、北臺謂二猛獸一爲二揜于一、因以字レ之。

【揜揜】2（エンエン）　目を覆はれて外の見えないこと。〔韓愈、琴操、拘幽操〕目揜揜兮、其凝其盲。

【揜瑕】3（エンカ）　缺點をおほひかくす。〔晉書、涼武昭王傳〕揜レ瑕藏レ疾、滌二洗疵垢一。

【揜蓋】4（エンガイ）　おほふ。掩蓋(5－12285‥12)の❶に同じ。

【揜骼】5（エンカク）　枯骨をおほひかくす。掩骼。〔呂覽、孟春〕揜レ骼霾レ髊。〔注〕白骨曰レ骼、有レ肉曰レ髊、揜・霾者、覆二藏之一也。

【揜函】6（エンカン）　くるしむ。又、くるしめる。困急。函は亟の誤。一說に、くるしみおちいる。函は臽の誤。〔墨子、非儒下〕揜函弗レ射。〔閒詁〕揜、吳鈔本作レ掩、禮記表記鄭注云、揜、猶二困迫一也、案、函、疑亟之形誤、下同、詳二魯問篇一、儀禮聘禮鄭注云、賓之意不レ欲三奄二卒主人一也、此揜亟、亦奄卒之意、謂二敵困急則不レ忍レ射レ之也、韓非子外儲說左上云、宋襄公曰、寡人聞、君子曰、不レ推二人於險一、不レ迫二人於阨一、卽此義、又疑、函當レ爲二臽之誤一、說文臼部云、臽、小阱也、今經典通作レ陷、漢書司馬遷傳、函二糞土之中一而不レ辭、漢紀、函作レ陷、於レ義亦通。

【揜亟】7（エンキヨク）　揜函を見よ。

【揜乎】8（エンコ）　疾いさま。〔漢書、司馬相如傳上〕率乎直指、揜乎反レ鄉。〔注〕師古曰、揜然、疾歸貌。

【揜護】9（エンゴ）　かばひまもる。掩護(5－12285‥27)に同じ。

【揜藏】10（エンザウ）　おほひかくす。掩藏。〔顏氏家訓、教子〕一行之非、揜藏文飾、冀二其自改一。

【揜耳】11（エンジ）　耳をおほふ。掩耳。〔呂覽、自知〕遽揜二其耳一、惡二人聞レ之、可也。

【揜障】12（エンシヤウ）　おほひへだてる。又、おほひへだてられる。掩障。〔韓非子、詭使〕名號誠信、所二以通一レ威也、而主揜障、近習女謁竝行、百官主レ爵遷レ人、用レ事者過矣。

【揜取】13（エンシユ）　おほひとる。掩取。〔穀梁、昭、八〕揜二禽旅一、〔注〕揜二取衆禽一。

【揜然】14（エンゼン）　はやいさま。揜乎(8)を見よ。

【揜著】15（エンチヨ）　不善をおほひかくし、善をあらはす。〔大學〕揜二其不善一、而著二其善一。

【揜鼻】16（エンビ）　鼻をおほひかくす。楚の懷王の妾の故事。楚の懷王の夫人鄭褎が妾の美を嫉み、陽には之を愛して己を信ぜしめ、僞つて王が妾の鼻を惡むと告げた。其のために、妾は王に見える每に自分の鼻をおほひかくした。王が怪しんで夫人に問ふと、夫人が、妾は王の臭を嗅ぐのを厭つてゐるのだと言つたので、王は怒つて妾の鼻を劓つた。掩鼻(5－12285‥74)の❷を見よ。〔戰國、楚策〕魏王遺二楚王美人一、楚王說レ之、夫人鄭褎、知三王之說二新人一也、甚愛二新人一、衣服玩好、擇二其所レ喜而爲レ之、宮室臥具、擇二其所レ善而爲レ之、愛レ之甚二於王一、王曰、婦人所二以事レ夫者色也、而妬者其情也、今鄭褎知三寡人之說二新人一也、其愛レ之甚二於寡人一、此孝子之所二以事レ親、忠臣之所二以事レ君也、鄭褎知二王以レ己爲レ不レ妬也、因謂二新人一曰、王愛二子美一矣、雖レ然惡二子之鼻一、子爲見レ王、則必揜二子鼻一、新人見レ王、因揜二其鼻一、王謂二鄭褎一曰、夫新人見二寡人一、則揜二其鼻一、何也、鄭褎曰、妾知也、王曰、雖レ惡必言レ之、鄭褎曰、其似レ惡レ聞二君王之臭一也、王曰、悍哉、令レ劓レ之、無レ使レ逆レ命。

【揜蔽】17（エンペイ）　おほひかくす。掩蔽。〔韓非子、說疑〕進則揜二蔽賢良一、以陰二闇其主一。

【揜目】18（エンモク）　目をおほふ。掩目。〔列子、力命〕揜レ目塞レ耳。

【揝】12360

サン　〔集韻〕子感切　ㄗㄨㄢˋ tsuan^4　ㄗㄢˇ tsan^3　感

❶**手がうごく**。攢(5－12687)に同じ。〔集韻〕揝、手動也、或从レ昝。❷[現]㋑摑む。握る。把持する。㋺絞る。㋩ひねる。㋥騙す。（以上去聲）㋭あつめる。貯金する。（以上上聲）。

【揝錢】1 tsan^3 ch'ien^2　金を集める。貯金する。攢錢。

【揝籌】2 tsuan^4 ch'ou^2　鬮を引く。

【揝住】3 tsuan^4 chu^4　摑む。つかまへる。握る。

【揝猴兒】4 tsuan^4 hou^2 êrh　なんこ。掌中に銅錢を握り、それを言ひあてて勝負をする賭博。

【揝仨猜倆】5 tsuan^4 sa^1 ts'ai^1 lia^3　ぐづぐづする。ためらふ。

【揞】 12361

［一］アン オン 〔集韻〕鄔感切 ㄢˇ an^3 感
［二］アン オン 〔集韻〕烏紺切 勘
［三］カン コン 〔集韻〕古暗切 勘
［四］アン エン 〔集韻〕於咸切 咸
［五］アン エン 〔集韻〕於陷切 陷
［六］エフ 〔集韻〕益涉切 葉

［一］［二］［三］❶**かくす**。〔廣雅、釋詁四〕揞、藏也。❷**おほふ**。〔廣韻〕揞、手覆。〔集韻〕揞、掩也。［四］**かくす**。〔集韻〕揞、方言、摩、藏也、荊楚曰㆑揞。［五］**なげうつ**。〔廣韻〕揞、吳人云、抛也。〔集韻〕揞、弃也、吳俗云。［六］**えらぶ**。〔集韻〕揞、揑也。

【揟】 12362

シヨ 〔集韻〕新於切 魚

小篆

❶**こす**。水を濾過して滓渣を去る。〔說文〕揟、取㆓水沮㆒也、从㆑手胥聲。〔段注〕沮、今之渣字。❷**水を掬みとる器**。〔玉篇〕揟、取㆑水具。❸**すなどる**。〔集韻〕揟、一曰、取㆑魚也。❹揟次は、縣名。〔說文〕揟、武威有㆓揟次縣㆒。❺或は捉(5－11907)に作る。〔集韻〕揟、或作㆑捉。

【揟次】1 シヨジ 縣名。漢、置く。甘肅省古浪縣の北。三國魏志は且次に作り、晉書は揖次に作る。〔漢書、地理志下〕武威郡、縣十、揟次。

【揠】 12363

アツ エチ 〔集韻〕乙點切 ㄧㄚˋ ya^4 黠

小篆

❶**ぬく**。ぬきだす。草木のしんをひきぬく。〔說文〕揠、拔也、从㆑手匽聲。〔方言、三〕揠、拔也、東齊海岱之閒曰㆑揠。〔廣雅、釋詁一〕揠、出也。〔小爾雅、廣物〕拔㆑心曰㆑揠、拔㆑根曰㆑擢。❷或は扎(5－11771)に作る。〔集韻〕揠、或作㆑扎。

【揠刀】1 アツタウ 刀を拔く。又、拔いた刀。〔山陽遺稿、高山彥九郎傳〕揠刀突入尺餘、卽死。

【揠苗】2 アツベウ 苗のしんを拔く。轉じて、成功を急いで却つて功をやぶることの喩。〔孟子、公孫丑上〕宋人有㆘閔㆓其苗之不㆒㆑長而揠㆑之者㆖、芒芒然歸、謂㆓其人㆒曰、今日病矣、予助㆑苗長矣、其子趨而往視㆑之、苗則槁矣、云云、助㆑之長者、揠㆑苗者也、非㆓徒無㆒㆑益、而又害㆑之。〔注〕揠、挺㆓拔之㆒。

【掔】 12364

ワン 〔集韻〕烏貫切 翰

小篆

❶**うで**。うでくび。てくび。〔說文〕掔、手掔也、从㆑手臤聲。〔段注〕掔者、手上臂下也、云云、臂者、手上也、肘者、臂節也、云云、厷者、臂上也、是則肘以下手以上、渾㆓言之㆒曰㆑臂、析㆓言之㆒則近㆑手處曰㆑掔、士喪禮、設㆓決麗於掔㆒、注云、掔、手後節中也、云㆓後節中㆒者、肘以上爲㆓前節㆒、則肘以下爲㆓後節㆒、後節之中以上爲㆑臂、則以下爲㆑掔也。❷**にぎる**。〔說文〕掔、揚雄說、掔、握也。❸**ふむ**。〔呂覽、本味〕述蕩之掔。〔注〕掔、踏也。❹或は腕(9－29631)・捥(5－12181)・⿱夗手(5－11970)・⿱夗月(9－29389)に作る。〔說文通訓定聲〕掔、字亦作㆑腕、作㆑捥。〔集韻〕掔、或作㆓腕・捥・⿱夗手・⿱夗月㆒。

【搜】 12365

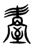
［一］セツ ゼチ 〔集韻〕似絕切 屑
［二］セツ セチ 〔集韻〕子結切 屑

［一］❶**ひねる**。或は抉(5－13209)・乴(1－191)に作る。〔集韻〕搜、拈也、或作㆓抉・乴㆒。❷**くくる**。〔字彙〕搜、括也。［二］**たつ**。〔集韻〕搜、斷絕也。

【握】 12366

［一］アク 〔集韻〕乙角切 ㄨㄛˋ wo^4 覺
［二］ヲク 〔集韻〕烏谷切 屋
［三］オウ ウ 〔集韻〕於候切 宥

小篆


古文

［一］❶**にぎる**。㋑五指を屈して物をもつ。〔說文〕握、搤持也、从㆑手屋聲。〔廣雅、釋詁三〕握、持也。〔詩、小雅、小宛〕握㆑粟出卜。〔楚辭、九章、懷沙〕懷㆑瑾握㆑瑜。〔注〕在㆑手曰㆑握。㋺五指を屈してこぶしをつくる。〔老子、五十五〕骨弱筋柔而握固。〔莊子、庚桑楚〕終日握而手不㆑掜。〔釋文〕捲㆑手曰㆑握。〔開元傳信記〕握拳不㆑開、爪透㆓手背㆒。㋩とる。しめる。占據する。自由にする。〔王僧孺、栖玄寺雲法師碑〕且說且定、以披以握。〔李子卿、功成作樂賦〕歷數在㆑躬、鈞樞初握。❷**にぎり**。㋑にぎりとるところ。〔儀禮、鄕射禮〕上㆑握焉。〔注〕握、謂㆓中央㆒也。㋺こぶし。たなごころ。掌中。〔漢書、食貨志上〕輕微易㆑藏、在㆓於把握㆒。〔漢書、張敞傳〕海內之命、斷㆓于掌握㆒。〔李白、來日大難詩〕授以㆓仙藥㆒、金丹滿㆑握。❸**長さの單位の一**。こぶしから算出した長さ。四指を並べた長さ、卽ち膚と同じで、約四寸。〔儀禮、鄕射禮記〕長尺有握。〔注〕握、本㆓所㆑持處㆒也。〔禮、王制〕宗廟之牛、角握。〔注〕握、謂㆓長不㆑出㆑膚也。〔穀梁、昭、八〕流旁握。〔注〕握、四寸也。❹**量の單位**。ひとにぎりの量。〔詩、陳風、東門之枌〕貽㆓我握椒㆒。〔箋〕乃遺㆓我一握之椒㆒。〔北史、許惇傳〕以㆑刀截㆑之、唯留㆓一握㆒。❺**とばり**。四周のおほひ。楃(6－15096)・屋(4－7684)に通ず。〔說文通訓定聲〕握、叚借爲㆑楃、又爲㆑屋。〔爾雅、釋言〕握、具也。〔釋文〕握、李本作㆑幄、云㆓居處位之具㆒也。〔周禮、天官、巾車〕翟車貝面組總有㆑握。〔釋文〕握、馬本作㆑幄。❻古は臺(9－30164)に作る。〔集韻〕握、古作㆑臺。❼［現］㋑むしあつい。暑苦しい。㋺蔽ふ。かくす。搗(5－12605)に通ず。［二］**小さいさま**。〔集韻〕握、小皃、易、若號一握、鄭氏讀。〔易、萃〕一握爲㆑笑。［三］**死者の手を斂束する衣巾**。握手。或は⿰糸屋(8－27710)に作る。〔集韻〕握、喪束㆑手者、或从㆑糸。〔釋名、釋喪制〕握、以㆑物著㆓尸手中㆒、使㆑握㆑之也。〔儀禮、士喪禮〕握手、用㆑玄、纁裏、長尺二寸、廣五寸、牢中旁寸、著㆓組繫㆒。〔儀禮、既夕禮記〕設㆑握。〔注〕手無㆑決者、以㆑握繫㆓一端㆒、繞掔、還自㆑上自貫、反與㆓其端㆒結㆑之。［邦］**にぎり**。㋑器物などの手で握つて持つ部分。㋺弓の名所。握る部分。ゆづか。㋩握鮓の略。㋥握飯の略。

［名乘］モチ。

【握要】1 アクエウ かなめの所をにぎる。要點を握る。要領を得る。〔淮南子、人閒訓〕執㆑一而應㆑萬、握㆑要而治㆑詳、謂㆓之術㆒。

【握下】2 ニギリシタ 弓のにぎりから下の部分。

【握河】3 アクカ 緯書の名。堯が羣臣と璧を河に沈

め、龍圖を受けて作つたもの。〔水經、河水注〕堯壇二於河一、受二龍圖一作二握河記一。〔王融、三月三日曲水詩序〕方握レ河沈レ璧、封レ山紀レ石。〔注〕善曰、帝王世紀曰、堯與二羣臣一沈二璧於河一、乃爲二握河記一、今尙書候是也。

【握綱】4 アクカウ おほづなをにぎる。根本・要點をにぎる。要領を得る。〔潘尼、荅二傅咸一詩〕握レ綱提レ領。

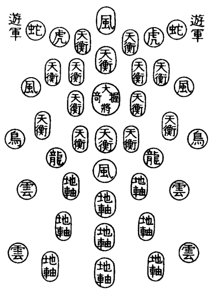
【握革】5 アクカク ㊀たづなをにぎる。〔風俗通、十反〕側レ身陪乘、執レ策握レ革。㊁ ニギリカハ 弓・刀などのにぎりの處に卷いた革。

【握汗】6 アクカン 手に汗をにぎる。〔投甕隨筆〕今世旁二觀人涉レ險而濟者一、輒云、爲レ爾捏二兩把汗一、按二元史一、憲宗召二趙璧一、問曰、天下何如而治、璧曰、請先誅二近侍之尤不レ善者一、璧退、世祖曰、秀才、汝渾身都是膽耶、吾亦爲レ汝握二兩手汗一也。

【握翰】7 アクカン 筆を執る。翰は鳥羽、卽ち筆の意。〔冊府元龜〕唐孫逖、幼英俊、年十五、謁二雍州長史崔日用一、令レ作二土火爐賦一、握レ翰卽成、日用覽レ之、駭然遂爲二亡年交一。

【握簡】8 アクカン 字を書くふだを手にとる。〔沈約、武帝集序〕載レ筆握レ簡、各有司存。

【握奇】9 アクキ 軍陣の名。天・地・風・雲の四陣を正といひ、龍・虎・鳥・蛇の四陣を奇といひ、餘の一陣を握奇といふ。握機。〔李衞公問對、上〕大宗曰、黃帝兵法、世傳二握奇文一、或謂、爲二握機文一、何謂也、靖曰、奇、音機、故或傳爲レ機、其義則一、考二其辭一云、四爲レ正、四爲レ奇、餘奇爲二握機一、奇餘零也、因レ此音機。〔握奇發微、握奇陣圖說〕天・地・風・雲・龍・虎・鳥・蛇、四爲レ正、四爲レ奇、餘奇爲二握奇一。



風后握奇陣圖
（武備志）

【握奇經】10 アクキケイ 書名。一に握機經・幄機經に作る。一卷。舊本、風后撰と題す。漢、公孫弘解、馬隆述讚。漢書藝文志及び隋・唐二志には皆この書を載せず、宋志に至つて始めて著錄す。蓋し、後世の假託の書。然し、その言には條理があり、流傳すること四五百年、兵法者の祖となる。〔四庫提要、子、兵家類〕。

【握機】11 アクキ ㊀軍陣の名。握奇に同じ。〔李衞公問對、上〕是故握機・握奇、本無二二法一。㊁大切なところを握り持つ。天下の政權をとること。〔後漢書、祭祀志上〕昔在帝堯、聰明密微、讓二與舜庶一、後裔握レ機。〔王融、三月三日曲水詩序〕我大齊之握レ機創レ歷。〔注〕濟曰、握レ機、執二天下之柄一也。

【握火】12 アククワ 火を握る。艱難辛苦すること。〔吳越春秋、句踐歸國外傳〕越王念レ復二吳讎一、云云、冬常抱レ氷、夏還握レ火。

【握君】13 アククン 如意をいふ。〔淸異錄、薰燎、握君〕僧繼顒住二五臺山一、手執二香如意一、紫檀鏤成、劉繼元時在二潛邸一、以レ金易致、毎レ接レ僧、則頂帽具二三衣一、假二比丘一、秉レ此揮レ談、名曰二握君一。

【握卷】14 アククワン 書物を手にもつ。書に親しんで常に離さぬこと。〔南齊書、孝義、江泌傳〕泌少貧、晝日斫レ屧、夜讀レ書隨二月光一、握レ卷升レ屋。

【握管】15 アククワン ㊀筆を手にとる。〔謝靈運、山居賦〕援レ紙握レ管、會レ性通レ神。㊁書法で筆の持方の一。四指を以て筆を掌に押し、懸腕で書く法。〔翰林要訣、第一執筆法〕握管、四指中レ節握レ管、沈著有レ力、書二誥敕牓疏一。

【握月】16 アクゲツ 月を手に持つ。月を愛する情の切なるをいふ。〔春宴錄〕虞松方レ春言、握レ月擔レ風、且留二後日一、吞レ花臥レ酒、不レ可レ過レ時。

【握拳】17 アクケン ㊀こぶしをにぎる。〔顏氏家訓、勉學〕帝握レ拳代レ痛。㊁にぎりこぶし。〔易林、中孚之第六十一、節〕空手握拳、坐恨相咎。

【握拳透爪】18 アクケントウサウ 握つた拳の爪が掌を突き通す。極度に憤り恨むことを形容する語。〔開天傳信記〕顏眞卿既死、賊平、家迎二其喪一、啓レ殯視レ之、棺朽而肌肉如レ生、握レ拳不レ開、爪透二手背一、遠近驚異。

【握權】19 アクケン 權力をにぎる。政權を秉る。政治の大綱を掌る。〔揚雄、解嘲〕旦握レ權則爲二卿相一、夕失レ勢則爲二匹夫一。

【握槊】20 アクサク すごろくの一種。〔通雅、戲具〕握槊・長行局・波羅塞・雙陸、要一類也、後魏李邵曰、曹植作二長行局一、胡王作二握槊一、亦雙陸也。〔魏書、術藝、蔣少游傳〕趙國李幼序、洛陽丘何奴、竝工二握槊一。〔唐書、諸帝公主、丹陽公主傳〕下二嫁薛萬徹一、萬徹蠢甚、主羞不二與同レ席者數月、太宗聞笑焉、爲置酒、悉召三它壻與二萬徹一從容語、握槊、賭二所レ佩刀一、陽不レ勝、遂解賜レ之、主喜命、同載以歸。〔唐國史補、下〕今之博戲、有二長行一、最盛、其具有レ局有レ子、云云、其法生二于握槊一、變二于雙陸一。

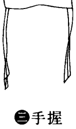
【握齪】21 アクサク こせつくさま。あくせく。齷齪。握齱。偓促。〔史記、司馬相如傳〕豈特委瑣握齪、拘レ文牽レ俗、循レ誦習レ傳、當世取レ說云爾哉。〔注〕索隱曰、握齪、局促也。

【握齱】22 アクサク 心せはしく心の狹いさま。こせつくさま。又、小節のさま。齷齪。偓促。〔史記、酈生傳〕酈生問二其將一、皆握齱、好二苛禮一自用、不レ能レ聽二大度之言一。〔注〕集解曰、應劭曰、握齱、急促之貌、索隱曰、應劭云、齱、音若レ促、鄒氏音初角反、韋昭云、握齱、小節也。〔漢書、酈食其傳〕其將皆握齱、好二荷禮一自用、不レ能レ聽二大度之言一。

【握者】23 アクシヤ 物を握るもの。〔墨子、經說下〕爲二握者之頗倍一、非二智之任一也。

【握上】24 ニギリガミ 弓のにぎりから上の部分。

【握手】25 アクシユ ㊀手をにぎる。又、互に手をにぎつて親愛の情を示す。〔史記、滑稽、淳于髡傳〕握レ手無レ罰、目眙不レ禁。〔後漢書、李通傳〕光武往荅レ之、及二相見一、共語移レ日、握レ手極レ歡。〔後漢書、彭寵傳〕握レ手交レ歡。〔魏志、曹眞傳〕先帝握レ手遺レ詔、託以二天下一。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕握レ手出二肺肝一相示。〔高啓、逢二吳秀才一復送レ歸二江上一詩〕暫時握レ手還分レ手、暮雨南陵水寺鍾。㊁轉じて、交を結び好を通ずること。㊂ オウシユ 死者の手を斂束する衣巾。又、單に握ともいふ。字解の㊂を見よ。〔儀禮、士喪禮〕握手、用レ玄、纁裏、長尺二寸、廣五寸、牢中、旁寸、著二組繫一。〔疏〕名二此衣一爲レ握、以二其在レ手、故言二握手一、不レ謂三以レ手握二之爲二握手一。



㊂握手（三禮圖）

【握錐】26 アクスイ きりをにぎる。錐を握つて膝に刺し、睡を戒めるをいふ。勸學の喩。蘇秦の故事。〔顏氏家訓、勉學〕古人勤レ學、有二握レ錐投レ斧、照レ雪聚レ螢。〔趙曦明注〕戰國、秦策、蘇秦讀レ書欲レ睡、引レ錐自刺二其股一、血流至レ足。

【握椒】27 アクセウ ひとにぎりの山椒。〔詩、陳風、東門之枌〕視レ爾如レ荍、貽二我握椒一。〔傳〕椒、芬香也。〔箋〕女乃遺二我一握之椒一。

【握雪】28 アクセツ 雪をにぎる。〔李白、塞下曲〕握レ雪海上餐、拂レ沙隴頭寢。

【握雪礜】29 アクセツヨ 鑛物の名。徐州宋里山に產する黃白色の粉末。〔本草、握雪礜石〕集解、恭曰、握雪礜石、出二徐州宋里山一、入レ土丈餘、於二爛土石間一得レ之、細散如レ麵、黃白色、土人號爲二握雪礜石一、一名二化公石一、一名二石腦一、云二服レ之長生一。

【握節】30 アクセツ 信節を保持する。轉じて、節操を立てとほす。〔劉克莊、寄二何立可提刑一詩〕故人握レ節守二齊安一。

【握鮓】31 ニギリズシ 飯を握りかため、上に魚介・卵燒などを附けた鮨。

【握粟】32 アクゾク 穀物をにぎり持つ。〔詩、小雅、小宛〕握レ粟出卜、自レ何能穀。

【握炭】33 アクタン 處刑に用ひる炭火を持つ。殷の紂王の兵卒が紂王の暴虐を助けた故事。〔陸倕、石闕銘序〕流レ湯之黨、握レ炭之徒、守似二藩籬一、戰同二枯朽一。〔注〕善曰、六韜曰、紂之卒、握レ炭流レ湯者十八人。

【握持】34 アクヂ にぎりもつ。〔後漢書、杜林傳〕林前於二西州一、得二漆書古文尙書一卷一、常寶二愛之一、雖レ遭二艱困一、握持不レ離レ身。

【握中】35 アクチユウ 掌中。〔劉琨、重贈二盧諶一詩〕握中有二懸璧一、本自荊山璆。

【握定】36 wo^4 ting^4 しかと握る。

【握遞】37 アクテイ 五指がまがつて伸びず、物を握つたやうな形になつてゐる不具者。〔管子、入國〕聾盲・喑啞・跛躄・偏枯・握遞。〔注〕遞、著也、謂、

而子相拱著而不レ甲者、謂二之握遞一。〔纂詁〕握遞、謂二五指屈繞不レ伸、若レ握レ物者一。

【握登】38 アクトウ 虞舜の母の名。〔史記、五帝紀、虞舜者名曰二重華一、注〕正義曰、瞽叟、姓嬀、妻曰二握登一、見二大虹一意感而生二舜於姚墟一。

【握把】39 アクハ にぎりもつ。把握。握持。

【握褒】40 アクハウ 舜の手中に褒の字の文様があつたといふ故事。褒は、勞苦から起り、褒飾されて、大祥を致す義といふ。〔孝經援神契〕舜、龍顏、重瞳、大口、手握レ褒。〔注〕握レ褒、手中有二褒字一、喩下從二勞苦一起褒飾致中大祥上也。

【握髮】41 アクハツ 人材を得るに熱心な喩。周公が一回髮を洗ふ間に幾度も髮を握つて士に面接した故事。禹にも又この事がある。握沐。捉髮。吐哺握髮。〔韓詩外傳、三〕成王封二伯禽於魯一、周公誡レ之曰、往矣、子無下以二魯國一驕上レ士、吾文王之子、武王之弟、成王之叔父也、又相二天下一、吾於二天下一亦不レ輕矣、然一沐三握レ髮、一飯三吐レ哺、猶恐レ失二天下之士一。〔史記、魯周公世家〕周公戒二伯禽一曰、云云、我一沐三握レ髮、一飯三吐レ哺、起以待レ士、猶恐レ失二天下之賢人一。〔淮南子、氾論訓〕禹之時、云云、當二此之時一、一饋而十起、一沐而三捉レ髮、以勞二天下之民一。〔列女傳、母儀、魯季敬姜傳〕周公一食而三吐レ哺、一沐而三握レ髮。〔說苑、敬愼〕一沐而三握レ髮、一食而三吐レ哺、猶恐レ失二天下之士一。

【握髮殿】42 アクハツデン 吳の錢氏の宮殿の名。〔雞肋篇〕車駕駐二蹕臨安一、更修二射殿一以爲二享所一、基卽錢氏時握髮殿也、吳人語誤乃云二惡發殿一、謂三錢王怒乘二此殿一也。

【握飯】43 ニギリメシ 握りかためた飯。むすび。おにぎり。摶飯。〔曾我會稽山、二〕朝比奈が握り拳の握り飯。

【握臂】44 アクヒ ひぢをにぎる。〔後漢書、第五倫傳〕始以二營長一詣二郡尹鮮于褒一、（褒）署爲レ吏、後褒坐レ事、左二轉高唐令一、臨レ去握二倫臂一、訣曰、恨二相知晚一。〔南史、沈約傳〕已老、病百日數旬、革帶常應レ移レ孔、以レ手握レ臂、率計レ月小半分。

【握符】45 アクフ 帝王たるべき者のしるしとして天が授けた符瑞を保持すること。天子の位につくこと。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕魏氏乘二時於前一、皇齊握二符於後一。〔注〕善曰、孝經鉤命決曰、帝受レ命握レ符出也。

【握別】46 wo⁴ pieh² 手を握つて袂別する。

【握沐】47 アクモク 政治に精勵する喩。又、賢者を優待する喩。周公が、洗ひかけた髮をにぎりながら士に面接した故事。握髮(41)を見よ。〔世說新語補、規箴上〕高義方造二馬季長一、辭不レ見、義方覆レ刺爲レ書曰、伏聞二高問一、爲レ日已久、冀下一見二龍光一、叙中腹心之願上、不レ圖辭レ之以レ疾、昔周公、云云、握レ沐吐レ食、以接二白屋之士一、天下歸レ德、歷レ載邈矣、今君不レ能二相見一、宜哉、季長大媿、追請、徑去。

【握瑜】48 アクユ たまをもつ。善美の才をもつてゐること。瑜は美玉の名。〔楚辭、九章、懷沙〕懷レ瑾握レ瑜兮、窮不レ知レ所レ示。〔注〕在レ手爲レ握、瑾・瑜、美玉也。〔史記、屈原傳〕何故懷レ瑾握レ瑜、而自令レ見レ放爲。

【握譽】49 アクヨ 祥氣をいふ。慶雲。〔廣雅、釋天〕握譽、祥氣。

【握鷹】50 アクヨウ 神鷹(**8－24673**··526)を見よ。

【握力】51 アクリョク 手で物を握る力。

【握力計】52 アクリョクケイ 握力をはかる器械。

【握腕】53 アクワン かひなをにぎる。親しむ意。〔晉子夜、秋歌〕握レ腕同遊戲。

【握誠圖】54 アクセイヅ 春秋緯の一種。現在佚す。古微書にその輯本がある。

【握蘭職】55 アクランノシヨク 辨官の唐稱。辨官は太政官に屬し、唐の尚書に當る。又、蘭臺といふ。〔職原鈔〕漢朝尚書、親近官也、仍口含二雞舌香一、手握レ蘭、故此云二握蘭之職一。

【握衍朐鞮單于】56 アクエンクテイゼンウ 漢代、匈奴の烏維單于の遠孫。頭曼單于より第十三代の匈奴の單于。名は屠耆堂。始め、父に代つて右賢王となり、神爵年間、單于となる。性、凶惡。前單于の時に事を用ひた貴人を盡く殺し、又、其の子弟近親を免じ、顓渠閼氏の弟都隆奇、及び其の子弟を任用して之に代へた。國內多く叛き、呼韓邪單于を立て、兵を發して握衍朐鞮を伐つた。握衍朐鞮は敗走し、忿恚して自殺した。〔前漢書、九十四上〕。

【挌】12367

㊀カク キヤク 〔集韻〕乞格切 陌 ㄎㄜˋ k'ê⁴

㊁カ ケ 〔集韻〕丘加切 麻

㊂カ ケ 〔集韻〕丘駕切 禡

㊀❶**にぎる**。とる。もつ。〔廣韻〕挌、手把著也。❷**とらへる**。〔集韻〕挌、搦也。㊁**にぎる**。**おさへる**。抲(**5－11918**)に同じ。〔集韻〕抲、扼也、或作レ挌。㊂**もつ**。〔集韻〕挌、持也。

【挍】12368

カウ ケウ 〔集韻〕吉巧切 巧

❶**まじはる**。〔集韻〕挍、接レ物也。❷**もとる**。〔集韻〕挍、一曰、戾也。〔五音篇海〕挍、很也。

【⿰扌眏】12369

㊀エツ エチ 〔篇海〕伊決切 屑

㊁カツ

㊀**目をゑぐりとる**。〔篇海〕⿰扌眏、抉レ目也。㊁眏(**8－23197**)の譌字。〔正字通〕⿰扌眏、眏字之譌。

【⿰扌炭】12370

㊀タン 〔集韻〕他干切 寒

㊁タン 〔集韻〕他案切 翰

㊀㊁**めぐる**。擊⿰扌炭。〔集韻〕⿰扌炭、擊⿰扌炭、婉轉也。

【揣】12371

㊀スイ 〔集韻〕楚委切 紙 ㄔㄨㄞˇ ch'uai³

㊁タ 〔集韻〕都果切 哿

㊂セン 〔集韻〕樞絹切 霰

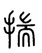
㊃セン 〔集韻〕尺兗切 銑

㊄スイ 〔集韻〕之瑞切 寘

㊅スイ 〔集韻〕朱惟切 支

㊆タン ダン 〔集韻〕徒官切 寒

慣シ



小篆

㊀㊁㊂㊃❶**はかる**。㋑高さをはかる。〔說文〕揣、量也、从レ手耑聲、度レ高曰レ揣。〔段注〕左傳昭三十二年、揣二高卑一、杜注云、度レ高曰レ揣、度レ深曰レ仞。〔方言、十二〕度レ高爲レ揣。〔左氏、昭、三十二〕揣二高卑一。〔注〕度レ高曰レ揣。〔淮南子、人閒訓〕規慮揣度。〔注〕揣、商二量高下一也。㋺さぐる。うかがふ。おしはかる。かんがへる。〔孟子、告子下〕不レ揣二其本一、而齊二其末一。〔注〕揣二量其本一。〔漢書、翟方進傳〕揣二知其指一。〔注〕師古曰、揣、謂三探二求之一。❷**こころみる**。ためす。〔方言、十三〕揣、試也。〔注〕揣度試レ之。〔廣雅、釋言〕揣、試也。〔蜀志、魏延傳〕令三禕往揣二延意指一。❸**さだめる**。〔戰國、秦策〕簡練以爲二揣摩一。〔注〕揣、定也。❹**とる**。もつ。〔漢書、賈誼傳〕何足二控揣一。〔注〕孟康曰、揣、持也。❺**うごく**。うごかす。〔廣雅、釋詁一〕揣、動也。〔集韻〕揣、搖也。❻**のぞく**。剟(**2－2055**)に通ず。〔說文通訓定聲〕揣、叚借爲レ剟。〔廣雅、釋詁三〕揣、除也。❼**むちうつ**。捶(**5－12215**)に通ず。〔說文〕揣、一曰、捶レ之。〔段注〕椯訓レ箠、揣訓レ捶、其意一也。❽**をさめる**。**きたへる**。〔老子、九〕揣而銳レ之、不レ

可㆓長保㆒。〔河上公注〕揣、治也。〔釋文〕揣、治也。㊈或は敱（5－12390）に作り、古は揣（5－12170）に作る。〔集韻〕揣、或从㆑攴、古作㆑揣。㊉姓。〔正字通〕揣、姓、明永樂擧人揣本。(十一)［現］押し込む。［五］［六］きたへる。〔集韻〕揣、治擊也。〔集韻〕揣、治擊也、老子、揣而鋭㆑之、梁簡文讀。［七］㊀まるめる。摶（5－12642）・團（3－4834）に通ず。〔漢書、賈誼傳〕何足㆓控揣㆒。〔注〕如淳曰、控、引也、揣、音團、控摶、玩弄、愛㆑生之意也。〔馬融、長笛賦〕冬雪揣㆓封乎其枝㆒。〔注〕善曰、鄭玄毛詩箋曰、團、聚貌、揣、與㆑團古字通、徒歡反。㊁あつまるさま。敦（5－13276）に同じ。〔集韻〕敦、聚貌、或作㆑揣。

【揣丸】1（シグワン） うごかし轉ずる。旋轉する。〔淮南子、俶眞訓〕挺㆓挏萬物㆒、揣丸變化、天地之間、何足㆓以論㆑之。

【揣骨】2（シコツ） 骨をなでさぐつて占ふ相術の一法。〔劇談錄、上、龍待詔相笏〕開成中、有㆓龍復本者㆒、無㆑目、善聽㆑聲揣㆑骨、每言㆓休咎㆒、無㆑不㆓必中㆒。〔庚巳編〕正統間、虎邱半塘寺有㆑僧、兩目皆盲、善㆓揣骨㆒、言㆓人貴賤禍福㆒多奇中、外大父胡公數歲時、家人攜往揣㆑骨、僧曰、兒他日應㆑得㆑繫㆓金帶㆒、好自愛也、後公擧㆓進士㆒、累官至㆓山西參議㆒致仕、果終㆓四品㆒。

【揣骨聽聲】3（シコツテイセイ） 手で畫面を摸して鑑定する。眼識を持たない者の繪の鑑定をいふ。〔夢溪筆談、書畫〕藏㆓書畫㆒者、多取㆓空名㆒、偶傳爲㆓鍾・王・顧・陸之筆㆒、見者爭㆑售、此所謂耳鑒、又有㆓觀㆑畫而以㆑手摸㆑之、相傳以謂、色不㆑隱㆑指者爲㆓佳畫㆒、此又在㆓耳鑒之下㆒、謂㆓之揣骨聽聲㆒。

【揣挫】4（シザ） 除きくじく。〔後漢書、酷吏傳序〕若夫揣㆓挫彊勢㆒、摧㆓勒公卿㆒、碎㆓裂頭腦㆒而不㆑顧、亦爲㆑壯也。

【揣想】5 chʻuai^2 hsiang^3 はかり思ふ。推量する。

【揣策】6（シサク） おしはかる。計度する。〔鬼谷子、內揵〕揣㆓策來事㆒、見㆑疑訣㆑之。

【揣食】7（タンジキ） ［佛］手で丸めた食物。團食。〔注維摩經、二〕生曰、凡欲界食、謂㆓之揣食㆒、揣食者、揣握食也。

【揣情】8（シジヤウ） 實情をはかり考へる。〔鬼谷子、揣篇〕揣㆑情不㆑審、不㆑知㆓隱匿變空之動靜㆒。

【揣說】9（シゼイ） 相手の言說の眞意をおしはかる。〔鬼谷子、本經陰符〕乃以揣㆑說圖㆑事、盡㆓圓方㆒、齊㆓長短㆒。

【揣測】10 chʻuai^3 tsʻê^4 臆測する。推測する。

【揣度】11（シタク） おしはかる。考へはかる。忖度。〔淮南子、人間訓〕規慮揣度、而後敢以定㆑謀。〔論衡、知實〕孔子既不㆑能㆑如㆔心揣度以決㆓然否㆒。〔柳宗元、上㆓裴行立中丞撰訾家洲記㆒啓〕退自揣度、惕然汗流。

【揣知】12（シチ） おしはかりさとる。〔漢書、卓行、翟方進傳〕揣㆓知其指㆒、不㆓敢發㆑言。

【揣分】13（シブン） 己の分をおしはかる。〔唐書、司空圖傳〕圖本居㆓中條山王官谷㆒、有㆓先人田㆒、遂隱不㆑出、作㆓亭觀素室㆒、悉圖㆓唐興節士文人㆒、名㆑亭曰㆓休休㆒、作㆑文以見㆑志曰、休、美也、既休而美具、故量㆑才一宜㆑休、揣㆑分二宜㆑休、耄而聵三宜㆑休。〔洪希文、煑㆓土茶㆒歌〕王侯第宅鬬㆓絕品㆒、揣㆑分不㆑到山翁前。

【揣篇】14（シヘン） 鬼谷子（12－45758··54）の篇名。

【揣麪】15 chʻuai^3 mien^4 うどん粉を練る時に手で押すこと。

【揣摸】16 chʻuai^3 mo はかる。推測する。

【揣摩】17（シマ） 眞相を推しはかつて、それと合致することを期し求める。又、單に我の心を以て彼の情を推しはかる意にも用ひる。推量する。推測する。臆測。〔戰國、秦策〕乃夜發㆑書、陳㆑篋數十、得㆓太公陰符之謀㆒、伏而誦㆑之、簡練以爲㆓揣摩㆒。〔注〕揣、量度、摩、研究、以㆓我所㆑學之精熟者㆒、揣㆓摩時務之切㆒、而用㆓之世主之情㆒、而中㆑之。〔史記、蘇秦傳〕期年以出㆓揣摩㆒。〔注〕索隱曰、江邃曰、揣㆓人主之情㆒、摩而近㆑之、其意當矣。〔論衡、答佞〕處㆓擾攘之世㆒、行㆓揣摩之術㆒。

【揣量】18（シリヤウ） おしはかる。〔韓偓、春陰獨酌寄㆓同年虞部李郎中㆒詩〕詩道揣量疑可㆑進、宦情刓缺轉無㆑多。

【揣練】19 chʻuai^3 lien^4 想像を練る。

【揣而鋭㆑之】20（ヲサメテコレヲスルドクス） 鍛へてするどくする。〔老子、九〕揣而鋭㆑之、不㆑可㆓長保㆒。〔釋文〕揣、治也。

【揣】12372

スイ

揣（5－12371）に同じ。〔正韻〕揣、與㆑揣同。

【揤】12373

［一］シヨク ソク 〔集韻〕節力切 ［職］。 ［二］シツ ジチ 〔集韻〕昨悉切 ［質］。

小篆

［一］㊀つかむ。〔說文〕揤、捽也、从㆑手卽聲、魏郡有㆓揤裴侯國㆒。㊁ぬぐふ。［二］に同じ。〔集韻〕揤、一曰、拭也。［二］ぬぐふ。〔廣雅、釋詁二〕揤、拭也。

【⿰扌保】12374

ホウ フ 〔集韻〕彼口切 ［有］。

小篆

㊀衣服の上から擊つ。〔說文〕⿰扌保、衣上擊也、从㆑手保聲。㊁或は拊（5－11947）に作る。〔集韻〕⿰扌保、或作㆑拊。

【⿰扌窒】12375

チツ チチ 〔集韻〕陟栗切 ［質］。

㊀つく。〔集韻〕⿰扌窒、擣也。㊁通じて挃（5－12025）に作る。〔集韻〕⿰扌窒、通作㆑挃。

【⿰扌韋】12376

［一］ヰ 〔集韻〕羽鬼切 ［尾］。 ［二］キ

［一］逆におふ。〔集韻〕⿰扌韋、逆追也。［二］揮（5－12394）に同じ。〔同文擧用〕⿰扌韋、同㆑揮。

【⿰扌㚇】12377

ソウ ス 〔集韻〕祖叢切 ［東］。

㊀つかむ。〔集韻〕⿰扌㚇、字統、⿰扌㚇搣、俗謂㆓之捉頭㆒。㊁かぞへる。〔玉篇〕⿰扌㚇、數也。㊂緵（8－27692）の譌字。〔正字通〕⿰扌㚇、緵字之譌。

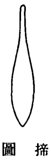
【⿰扌奎】12378

ケイ ケ 〔集韻〕傾畦切 ［齊］。

㊀ひつかける。たぐりよせる。〔玉篇〕⿰扌奎、中㆑鉤也。㊁さす。又、さく。或は刲（2－1955）・刲（2－2093）に作る。〔集韻〕刲、說文、刺也、引㆓易士刲㆑羊、或作㆓⿰扌奎・刲㆒。〔儀禮、鄉飲酒禮、肺皆離、注〕離、猶㆑⿰扌奎也。

【揥】12379

［一］テイ タイ 〔集韻〕丑例切 ［霽］ ㄊㄧˋ tʻi^4 ［二］テキ チヤク 〔集韻〕他歷切 ［錫］。 ［三］テイ タイ 〔集韻〕都黎切 ［齊］。


揥圖（三才圖會）

［一］㊀かうがい。〔釋名、釋首飾〕揥、摘也、所㆓以摘㆑髮也。〔詩、鄘風、君子偕老〕象之揥也。〔傳〕揥、所㆓以摘㆑髮也。〔疏〕以㆓象骨㆒搔㆑首、因以爲㆑飾、名㆑之曰㆑揥。〔三才圖會、衣服、揥圖說〕揥、所㆓以摘㆑髮、以㆓象骨㆒爲㆑之、若㆓今之篦兒㆒。㊁すてさる。〔陸機、文賦〕意徘徊而不㆑能㆑揥。〔注〕善曰、揥、或爲㆑諦、諦、猶㆑去也。㊂かたる。〔廣雅、釋詁一〕揥、語也。㊃みだれる。〔廣雅、釋詁二〕揥、嬈也。㊄たはむれる。〔集韻〕揥、戲也。［二］㊀たはむれる。〔集韻〕揥、戲也。㊁とる。〔廣雅、釋詁一〕揥、取也。〔集韻〕揥、取也。〔陸機、文賦〕意

徘徊而不ㇾ能ㇾ揥。〔注〕善曰、說文曰、揥、取也。㊂**すてる**。〔集韻〕揥、捐也。

[參考] ㊁❶注に「善曰、說文曰、云云」とあるが、說文に揥字はない。摕(5－12578)の字解を見よ。

【揦】12380 ラツ ラチ 〔集韻〕郎達切 ㄌㄚˊ la² 曷

手でひらく。攋(5－12961)に同じ。〔集韻〕攋、撥攋、手披也、或从ㇾ剌。

【揦子】¹ la² tzŭ ガラス瓶。

【揧】12381 ラツ ラチ 〔集韻〕郎達切 ㄌㄚˇ la³ 曷

とぐ。みがく。或は䊪(8－27040)に作る。〔廣雅、釋言〕揧、⿱孚手也。〔玉篇〕揧、研破也。〔集韻〕揧、或从ㇾ米。

【揨】12382 タウ チヤウ 〔集韻〕除耕切 庚

❶**ふれる**。〔廣韻〕揨、觸也。❷**つく**。朾(6－14440)に同じ。〔集韻〕朾、說文、撞也、或作ㇾ揨。❸**さす**。〔廣雅、釋詁一〕揨、刺也。❹**ばち**。〔管子、宙合〕若㆓鼓之有㆒ㇾ揨。〔注〕揨、鼓枹也。

【揩】12383 ㊀カイ 〔集韻〕丘皆切 ㄎㄞ k'ai¹ 佳 ㊁カイ 〔集韻〕口戒切 卦 ㊂カツ ケチ 〔集韻〕訖黠切 黠

㊀❶**する**。こする。かすめる。はらふ。〔廣雅、釋詁三〕揩、磨也。〔玉篇〕揩、摩拭也。〔張衡、西京賦〕揩㆓枳落㆒、突㆓棘藩㆒。〔注〕善曰、字林曰、揩、摩也。❷**あつめる**。〔廣雅、釋詁三〕揩、聚也。❸或は⿰皆攵(5－13296)に作る。〔集韻〕揩、或作ㇾ⿰皆攵。㊁❶**強くつく**。揩排(7)を見よ。❷**鼓の名**。⿰革皆(12－42918)に通ず。〔集韻〕⿰革皆、鼓名、通作ㇾ揩。〔唐書、南蠻、驃傳〕龜茲部有㆓羯鼓・揩鼓・腰鼓㆒。㊂**樂器の名**。奏樂の拍子を整へるために鳴らすもの。通じて戛(5－11598)に作る。〔集韻〕揩、敔也、擽ㇾ之以止ㇾ樂、通作ㇾ戛。〔禮、明堂位〕拊搏・玉磬・揩擊。

【揩鏗】¹ カイ カウ こすりたたく。摩戛(5－12613‥25)に同じ。〔元稹、董逃行〕董逃董逃董卓逃、揩㆓鏗戈甲㆒聲勞嘈。

【揩去】² カイ キヨ ぬぐひとる。〔福惠全書、刑名部、人命下、檢枯骨〕待ㇾ乾揩㆓去墨㆒。

【揩擊】³ カイ ゲキ 樂器の名。奏樂の拍子を整へるために鳴らすもの。敔。〔禮、明堂位〕拊搏・玉磬・揩擊・大琴・大瑟・中琴・小琴、四代之樂器也。〔注〕揩擊、謂㆓柷敔㆒、皆所㆓以節㆒ㇾ樂者也。

【揩鼓】⁴ カイ コ 樂器の名。指でついて音を出す鼓。字解㊁の❷を見よ。〔沈遼、龜茲舞〕雞婁揩鼓舊所ㇾ識、鐃貝流蘇分㆓白羽㆒。〔海錄碎事、音樂、樂器〕荅臈鼓制、廣如㆓羯鼓㆒而短、以ㇾ指揩ㇾ之、其聲甚震、俗謂㆓之揩鼓㆒。

【揩背】⁵ カイ ハイ 背中をこする。揩背人を見よ。

【揩背人】⁶ カイハイ ジン 浴室で人の背を洗ひこする人。三助。〔東坡志林〕元豐七年十二月、浴㆓泗州雍熙塔下㆒、戲作㆓如夢兩闋㆒云、水垢何曾相受、細看兩俱無ㇾ有、寄ㇾ語揩ㇾ背人、盡日勞ㇾ君揮ㇾ肘、輕ㇾ手輕ㇾ手、居士本來無ㇾ垢。

【揩排】⁷ カイ ハイ 強くつく。〔集韻〕揩、揩排、強突。

【揩磨】⁸ カイ マ すりみがく。揩痒(12)を見よ。〔桂海虞衡志、志蟲魚〕靑螺、狀如㆓田螺㆒、其大兩拳、揩㆓磨去麤皮㆒、如㆓翡翠色㆒、雕琢爲㆓酒盃㆒。

【揩抹】⁹ カイ マツ ぬぐひはらふ。〔水滸傳、六回〕就㆓竈邊㆒拾㆓把草㆒、把㆓春臺㆒、揩㆓抹了灰塵㆒、雙手把ㇾ鍋掇起來。

【揩面】¹⁰ k'ai¹ mien⁴ 顏を拭く。

【揩目】¹¹ カイ モク 目をこする。〔蘇軾、寓㆓居定惠院之東㆒雜花滿ㇾ山有㆓海棠一株㆒云云詩〕忽逢㆔絕艷照㆓衰朽㆒、歎息無ㇾ言揩㆓病目㆒。

【揩痒】¹² カイ ヤウ 痒い所をこすりつけて搔く。〔黃庭堅、題㆔伯時畫㆓揩蛘虎㆒詩〕猛虎肉醉初醒時、揩㆓磨苛痒㆒風助ㇾ威。〔鄭元祐、題㆓揩痒馬圖㆒詩〕摩㆓擦樹根㆒休ㇾ揩ㇾ痒、明朝要ㇾ爾戰㆓沙場㆒。

【揪】12384 シウ シユ 〔字彙〕卽尤切 ㄐㄧㄡ chiu¹ 尤

❶**あつめる**。をさめる。束ねる。揫(5－12385)・⿱秌手(5－12386)に同じ。〔字彙〕揪、手揪也。〔正字通〕揪、揫・⿱秌手・揪並同。❷現㋑引張る。㋺攫む。㋩捕へる。

【揪耳】¹ chiu¹ êrh³ 耳を引張る。

【揪心】² chiu¹ hsin¹ 心配する。氣にかかる。氣にかける。

【揪折】³ chiu¹ chê² 引張つて折る。

【揪束】⁴ chiu¹ suu⁴ 束ねる。

【揪扭】⁵ chiu¹ niu³ つかみあふ。組打つ。

【揪住】⁶ シウ ヂユウ 手で物をかたく抑へる。〔宣和遺事、前集下〕那漢舒㆓猿臂㆒、用ㇾ手揪㆓住師師之衣㆒。

【揪番】⁷ chiu¹ fan¹ つかまへて投げる。

【揪皮】⁸ chiu¹ p'i² 皮膚をひねる。

【揪回來】⁹ chiu¹ huei² lai 引張り戻す。

【揫】12385 ㊀シウ シユ 〔集韻〕將由切 尤 ㊁シウ ジユ 〔集韻〕字秋切 尤

小篆

㊀㊁❶**たばねる**。つかねる。もと⿱秌手(5－12386)に作る。〔說文〕⿱秌手、束也、从ㇾ手秌聲、詩曰、百祿是揫。〔說文通訓定聲〕禮鄉飲酒義、秋之爲ㇾ言、愁也、注、揫、斂也、爾雅釋詁、揫、聚也、又方言、揫、細也、斂ㇾ物而細、謂㆓之揫㆒。〔康熙字典〕揫、說文、本作ㇾ⿱秌手。❷**をさめる**。〔禮、鄉飲酒義、秋之爲ㇾ言愁也、注〕揫、斂也。❸**あつめる**。〔爾雅、釋詁〕揫、聚也。〔馬融、廣成頌〕揫㆓斂九藪之動物㆒。〔注〕揫、聚也。❹**かたい**。〔廣雅、釋詁一〕揫、固也。❺**こまかい**。ちひさい。〔方言、二〕揫、細也、斂ㇾ物而細、謂㆓之揫㆒。〔廣雅、釋詁二〕揫、小也。❻愁(4－10885)に通ず。〔禮、鄉飲酒義、秋之爲ㇾ言愁也、注〕愁、讀爲ㇾ揫。❼遒(11－39008)に通ず。〔說文〕揫、詩曰、百祿是揫。〔詩、商頌、長發〕百祿是遒。❽揪(5－12384)に同じ。〔正字通〕揪、揫・⿱秌手・揪並同。❾𩏠(12－43231)に同じ。〔說文〕𩏠、⿱秌手、𩏠或从㆓秋手㆒。〔集韻〕揫、或作ㇾ𩏠。

[參考] 熟語は揪(5－12384)を見よ。

【揫斂】¹ シウ レン あつめをさめる。〔愼子、外篇〕氣之揫斂而有ㇾ質者爲ㇾ陰、舒散而有ㇾ氣者爲ㇾ陽。〔後漢書、馬融傳〕揫㆓斂九藪之動物㆒。

【⿱秌手】12386 シウ

揫(5－12385)に同じ。〔正字通〕揪、揫・⿱秌手・揪並同。

【⿰扌癹】12387 ハツ ハチ 〔集韻〕普活切 曷

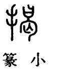
❶**かる**。〔廣韻〕⿰扌癹、芟⿰扌癹。❷**足で草をふみにじる**。癹(7－22661)に同じ。〔集韻〕癹、說文、以ㇾ足蹋㆓夷艸㆒、或从ㇾ手。❸撥(5－12727)に同じ。〔正字通〕⿰扌癹、本作ㇾ撥。

【揬】12388 トツ ドチ 〔集韻〕陁沒切 月

❶**つく**。**こする**。〔玉篇〕揬、衝揬也。〔一切經音義、五〕揬、揩也。❷**ふれる**。突きあたる。塘揬。〔集韻〕揬、塘揬、觸也。

【揭】12389

[一]ケイ　〔集韻〕去例切　[霽]　ㄑㄧˋ ch'i⁴
[二]ケツ コチ　〔集韻〕居謁切　[月]　ㄐㄧㄝ chieh¹
[三]ケツ ケチ　〔集韻〕丘傑切　[屑]
[四]ケツ ゲチ　〔集韻〕巨列切　[屑]
[五]ケツ ゲチ　〔集韻〕其謁切　[月]
[六]ゲツ ゲチ　〔集韻〕語訐切　[月]
[七]テイ　〔集韻〕丑例切　[霽]
[八]ケイ ゲイ　〔集韻〕其例切　[霽]
[九]ケン コン　〔集韻〕丘言切　[元]
[十]カツ カチ　〔集韻〕何葛切　[曷]


小篆

[一]❶かかげる。㋑あげる。〔說文〕揭、高擧也、从㆑手曷聲。㋺からげる。衣のすそをからげる。〔爾雅、釋水〕淺則揭、繇㆑膝以下爲㆑揭。〔釋文〕揭、褰㆑衣渡㆑水也。〔詩、邶風、匏有苦葉〕深則厲、淺則揭。〔傳〕揭、褰㆑衣也。〔史記、司馬相如傳〕涉㆑冰揭㆑河。〔注〕集解曰、揭、褰㆑衣也。❷になふ。〔小爾雅、廣言〕揭、擔也。[二]❶かかげる。あげる。[一]の❶に同じ。或は撤(5－12804)に作る。〔集韻〕揭、說文、高擧也、或从㆑歇。〔詩、小雅、大東〕維北有㆑斗、西柄之揭。❷になふ。〔後漢書、馮衍傳〕揭㆑節垂㆑組。〔注〕揭、猶㆑負也。❸物の拔け倒れようとするさま。〔詩、大雅、蕩〕顚沛之揭。〔傳〕揭、根見貌。〔疏〕樹倒、故根見。❹しるし。表標。〔郭璞、江賦〕峨嵋爲㆓泉陽之揭㆒。〔注〕善曰、揭、表也。❺つまづくさま。〔詩、大雅、蕩〕顚沛之揭。〔箋〕揭、蹶貌。❻長いさま。〔詩、衞風、碩人〕葭菼揭揭。〔傳〕揭揭、長也。〔釋文〕揭、其揭反、徐居謁反。❼草の名。藒(9－31985)・藒(9－32270)に通ず。〔說文通訓定聲〕揭、叚借爲㆑藒。〔楚辭、離騷〕畦㆔留夷與㆓揭車㆒兮。〔集注〕揭、一作㆑藒。❽姓。〔萬姓統譜〕唐揭鎭、青州刺史。[三]❶あげる。或は担(5－11941)・拮(5－11990)に作る。〔集韻〕揭、擧也、或作㆓担・拮㆒。〔淮南子、精神訓〕繇者揭㆓钁臿㆒。〔注〕揭、擧也。❷とる。もつ。〔後漢書、馮衍傳〕揭㆑節奉㆑使。〔注〕揭、持也。❸はりだす。〔中華大字典〕揭、張貼也。〔明史、劉大夏傳〕揭㆓飛語宮門㆒。❹反る。そりかへる。〔戰國、韓策〕脣揭者齒必寒。〔注〕揭、猶㆑反也。❺はやいさま。〔漢書、王吉傳〕匪㆑車揭兮。〔注〕師古曰、揭揭、疾驅貌。[四]❶になふ。擖(5－12871)に同じ。〔集韻〕擖、擔也、或省。〔莊子、胠篋〕負㆑匱揭㆑篋擔㆑囊而趨。〔釋文〕揭、徐其謁反、又音桀、三蒼云、擧也、擔也、負也。❷かかげる。㋑たてる。〔漢書、陳勝項籍傳贊〕揭㆑竿爲㆑旗。〔注〕師古曰、揭、謂㆑豎㆑之也。㋺あらはす。しめす。表示する。〔張衡、東京賦〕揭以㆓熊耳㆒。〔注〕綜曰、揭、猶㆑表也。❸そばだつさま。あがるさま。たかいさま。〔張衡、思玄賦〕脩劒揭以低昂。〔注〕衡曰、揭、卬貌。❹ひらめきうごくさま。〔張衡、思玄賦〕脩劒揭以低昂。〔注〕向曰、揭、劒動皃。[五]❶になふ。或は擖(5－12871)に作る。[四]の❶に同じ。〔集韻〕揭、擔也、或从㆑竭。〔莊子、胠篋〕負㆑匱揭㆑篋、擔㆑囊而趨。❷あげる。〔廣雅、釋詁一〕揭、擧也。❸或は撤(5－12804)に作る。〔集韻〕揭、或从㆑歇。[六]長いさま。[二]の❺に同じ。〔集韻〕揭、長皃、詩、葭菼揭揭。[七]からげる。[一]の❶㋺に同じ。〔集韻〕揭、褰㆑衣渡㆑水。[八]揭陽は、縣名。〔集韻〕揭、揭陽、縣名、在㆓南越㆒。[九]あげる。攑(5－12981)に同じ。〔集韻〕攑、擧也、或作㆑揭。[十]ふさぐ。〔集韻〕揭、壅也。

[名乘]ナガ。

【揭衣】1（ケイイ）　ころもをかかげる。衣のすそをからげる。〔爾雅、釋水〕濟有㆓深涉㆒、深則厲、淺則揭、揭者、揭㆑衣也。

【揭焉】2（ケツエン ケチエン）　❶高くあがるさま。〔張衡、西京賦〕豫章珍館、揭焉中峙。〔注〕善曰、說文曰、揭、高擧也。❷いちじるしく明かなさま。〔續日本後紀、七〕稠人之中、揭焉而立。

【揭下】3 chieh¹ hsia　❶取りはづす。❷めくる。めくれる。

【揭河】4（ケイカ）　衣をかかげて河をわたる。〔史記、司馬相如傳〕涉㆑冰揭㆑河。〔注〕集解曰、揭、褰㆑衣也。

【揭開】5（ケイカイ）　ひらく。めくる。まくる。取る。又、はげる。めくれる。〔福惠全書、錢穀部、解給〕上司一時弔査揭開不㆑便。

【揭項】6 chieh¹ hsiang⁴　借りた金高。

【揭竿】7（ケイカン）　❶さをたてる。〔莊子、庚桑楚〕若㆘喪㆓父母㆒揭㆑竿而求㆗諸海㆖也。〔漢書、陳勝項籍傳贊〕斬㆑木爲㆑兵、揭㆑竿爲㆑旗。〔注〕師古曰、揭、謂㆑豎㆑之也。〔賈誼、過秦論〕斬㆑木爲㆑兵、揭㆑竿爲㆑旗。❷chieh¹ kan¹　亂を始めること。

【揭軌】8（ケイキ）　明、臨川の人。傒斯の後。洪武の初、明經を以て擧げられ、官は清河主簿・知縣事。民、其の德に懷く。既にして謝し歸り、生徒に教授す。召されて書傳會選を定め、數〻顧問を承けた。著に清河集がある。〔明名人傳、二十九〕・〔明詩綜、七〕。

【揭旗】9（ケイキ）　旗をかかげる。〔王融、三月三日曲水詩序〕扛㆑鼎揭㆑旗之士。

【揭去】10（ケイキヨ）　とりのける。はぎとる。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕俟㆓屍體透軟㆒揭㆓去衣薦㆒。

【揭瓦】11 chieh¹ wa³　屋根の瓦をめくる。

【揭汯】12（ケイクヮウ）　元の人。傒斯の子。字は伯防。官は祕書郞・國史編修・肅政廉訪使。建寧の守となつてゐた時、陳友諒の兵が松關に寇し、建寧を圍んだ。汯は經略使普顏不花と賊を禦ぐことを謀り、方略を設けて延平等の三州を復す。江西行省に改められ、未だ赴かないうちに工部郞中として召された。〔新元史、二百六〕。

【揭換】13 chieh¹ huan⁴　葺きかへる。

【揭揭】14（ケイケイ ケツケツ）　❶長いさま。〔詩、衞風、碩人〕葭菼揭揭、庶姜孽孽。〔傳〕揭揭、長也。〔陳奐傳疏〕說文、揭、高擧也、重言曰㆓揭揭㆒。❷高いさま。〔楚辭、劉向、九歎、遠逝〕服㆓覺酷㆒以殊㆑俗兮、貌揭揭以巍巍。〔注〕揭揭、高貌也。〔韓愈、故幽州節度判官贈給事中清河張君墓誌銘〕子揭揭也。❸高く擧がるさま。〔文同、詩〕揭揭酒旗當㆑岸立、翩翩魚艇隔㆑灣歸。❹速かに走るさま。偈偈。〔漢書、王吉傳〕詩云、匪㆑風發兮、匪㆑車揭兮、顧㆓瞻周道㆒、中心制兮、說曰、是非㆓古之風㆒也、發發者、是非㆓古之車㆒也、揭揭者、蓋傷㆑之也。〔注〕師古曰、揭揭、疾驅貌。❺物のぬけようとするさま。〔淮南子、兵略訓〕推㆓其搖搖㆒、擠㆓其揭揭㆒。〔注〕揭揭、欲㆑拔也。

【揭驕】15（ケイケウ ケツケウ）　おごる。心のおごれるさま。拮撟。〔潘岳、射雉賦〕眄㆓箱籠㆒以揭驕。〔注〕善曰、揭驕、志意肆也。

【揭曉】16（ケイゲウ）　發表する。試驗の成績などを揭示して知らせること。曉は知らせる。〔括異志〕張湘以㆓乙卯魁亞㆒荐、揭曉前、夢人持㆓巨鰲㆒撲賣、湘一撲五錢皆黑。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕會闈揭曉、名次㆓群英㆒。〔清會典、禮部〕凡鄉會試、各分㆓三場㆒、而試以㆑文以㆑詩以㆑策、中㆑式、榜㆓其名㆒以揭曉。〔六部成語、禮部、揭曉、注解〕將㆓中㆑式名榜㆒高揭懸掛、俾㆓衆共曉㆒。

【揭孽】17（ケツゲツ）　極めて高いさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕飛陛揭孽、緣㆑雲上征。〔注〕向曰、揭孽、極高貌。

【揭欠】18 chieh¹ ch'ien⁴　借金する。

【揭暄】19（ケイケン）　清、江西廣昌の人。字は子宣。西洋算術に明通す。著に璇璣遺述、一名、寫天新語がある。〔清史稿、五百十一〕・〔國朝耆獻類徵、四百十七〕・〔碑傳集、一百三十二〕。

【揭告】20 ケイコク 告發する。告訴する。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕匿レ名揭告、謀代調停。

【揭載】21 ケイサイ 新聞・雜誌などに文章や圖畫の類をのせること。登載。

【揭參】22 ケイサン 問責する。非難する。〔福惠全書、郵政部、總論〕非下以二貪汚一揭參而挾上レ詐。

【揭示】23 ケイジ ❶かかげ示す。〔宋史、食貨志上五〕揭二示不レ實者一、民得二自言一。❷一般の人に知らせるために揭げる文書。〔莊子、外物、飾二小說一以干二縣令一口義〕縣令、猶二今揭示一也。

【揭車】24 ケツシヤ 香草の名。〔楚辭、離騷〕畦三留夷與二揭車一兮。〔注〕揭車、亦香草。〔補注〕揭・藒・藹、並丘謁切。〔宋玉、高唐賦〕揭車芳幷。〔注〕善曰、漢書音義曰、揭車、香草也。〔司馬相如、上林賦〕揭車・衡蘭。〔注〕善曰、應劭曰、揭車、一名芞輿、香草也。

【揭章】25 ケイシヤウ 文を書いた札を高く揭げて衆に示すこと。〔宋史、蔣猷傳〕讀有二直聲一、嘗論、士風浮薄、云云、以二特立不レ回者一爲レ愚、共嗤二笑之一、此風不レ可レ長、云云、內侍省不レ隸二臺察一、案二元豐官制一、云云、上皆嘉納、至レ揭二其章內侍省一。

【揭借】26 ケイシヤク 借金する。〔福惠全書、刑名部、詞訟、差拘〕傾囊倒橐、未レ遂二鯨吞一、乃假代爲二揭借一。

【揭恂】27 ケイジユン 清、江西廣昌の人。字は木男。號は瓶園。順治中、父が賊營に繫がれたので、恂は父に代つて死す。詩文に巧。著に尙書藺・瓶園集・頌讓賦がある。〔國朝耆獻類徵、三百七十六〕。

【揭水】28 ケイスイ 衣をかかげて水を涉る。〔柳宗元、游二黃溪一記〕黃神之上、揭レ水八十步、至二初潭一、最奇麗、殆不レ可レ狀。

【揭跣】29 ケイセン 衣をかかげ、素足になる。〔柳宗元、石澗記〕流若レ織レ文、響若レ操レ琴、揭跣而往。

【揭穿】30 chieh^1 chʻuan^1 かかげあばく。あばき出す。

【揭脫】31 chieh^1 tʻuo^1 檢擧。

【揭單】32 chieh^1 tan^1 契約書。貸付證書。

【揭短】33 chieh^1 tuan^3 人の短所をあばく。

【揭帝】35 ギヤテイ 佛梵語の行くといふ意。羯諦。俗に護法の猛神の稱。〔水滸傳、四回〕直饒揭帝也難レ當、便是金剛須レ拱レ手。

【揭調】36 ケイテウ 高い調子。〔王驥德、曲律雜論上〕揭調之說、不二特今曲爲レ然、楊用修詩話云、樂府家謂二揭調一者、高調也、高駢詩、公子邀歡月滿レ樓、佳人揭調唱二伊州一、便從二席上一西風起、直到二蕭關一水盡頭、則唐時之歌曲可二想見一矣。

【揭帖】37 ケイテフ ❶かかげはりつける。又、其の文書。揭貼に同じ。〔通雅、器用、書札〕宋元豐中、詔二中書一、例寫二一本一、納二執政一、分令二諸房揭帖一、謂二揭而帖一レ之、古貼・帖通用、世說以二如意一帖レ之、是也、今人因有二揭帖之名一。〔明史、劉大夏傳〕帝嘗諭二大夏一曰、臨レ事輒思レ召レ卿、慮レ越レ職而止、後有下當二行罷一者上、具二揭帖一以進。〔桃花扇、拜壇〕這是內閣揭帖、送來過目。❷chieh^1 tʻieh^3 事由を申し立てる文書。

【揭貼】38 ケイテフ かかげはりつける。はりだす。揭帖。〔明史、劉大夏傳〕揭貼滋弊、不レ可レ爲二後世法一。

【揭牓】39 ケイバウ 招牌をかかげる。又、試驗成績を發表する。揭榜。揭梆。〔楊萬里、送三王季山省二親樞府一詩〕會當二再奏二河東賦、姓氏從レ頭揭牓看。〔周伯琦、紀事二首詩〕得士共爲天下賀、明朝揭牓醉二黃封一。

【揭斧】40 ケイフ をのをになふ。〔淮南子、說山訓〕操レ釣上レ山、揭レ斧入レ淵。

【揭弊】41 chieh^1 pi^4 他人の弱點をあばく。揭短(33)に同じ。

【揭裱】42 chieh^1 piao^3 表裝する。

【揭幕】43 chieh^1 mu^4 幕をあげる。開始する。開場。

【揭名】44 chieh^1 ming^2 名をかかげる。挂名(5－12020・・31)の❶に同じ。

【揭鳴】45 ケツメイ 鷄鳴の時をいふ。揭は、鷄のとまり木、桀に同じ。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一詩〕朝遊牛羊下、暮坐括二揭鳴一。〔注〕善曰、毛詩曰、鷄棲二于桀一、日之夕矣、牛羊下括、毛萇曰、雞棲二於杙一爲レ桀、括、至也、桀與レ揭、音義同、良曰、揭、雞棲木、括二揭鳴一、謂二雞鳴時一也。

【揭陽】46 ケイヤウ ❶山名。廣東省揭陽縣の西北。又、揭嶺といふ。〔讀史方輿紀要、廣東、潮州府、揭陽縣〕縣西北百五十里、形勢岧嶤、南北二支、直抵二興甯・海豐二縣界一、亦曰二揭嶺一。❷縣名。㋑漢、置き、晉、廢す。廣東省揭陽縣の西。宋、復た置く。卽ち今の縣。〔漢書、地理志下〕南海郡、縣六、揭陽。〔讀史方輿紀要、廣東、潮州府〕揭陽縣、漢縣、屬二南海郡一、後漢因レ之、晉廢、義熙中、以二其地一析二置湖陽等縣一、後因レ之、宋宣和三年、始析二海陽三鄕一置レ縣、紹興二年、廢、八年、復置。〔淸史稿、地理志〕廣東、潮州府、縣九、揭陽。㋺三國吳、置き、晉、陂陽と改む。江西省石城縣の西。〔讀史方輿紀要、江南、贛州府、寧都縣〕陂陽廢縣、晉太康五年、徙二揭陽縣治一焉。

【揭簾】47 ケイレン すだれをかかげる。褰簾。〔韓偓、偶見詩〕半身映レ竹輕聞レ語、一手揭レ簾微轉レ頭。〔元淮、南園杏花詩〕昨夜南園春雨過、玉人曉起揭レ簾看。

【揭祐民】48 ケイイウミン 元、廣昌の人。後、盱水のほとりに寓居し、盱里子と號す。晚號は希韋子。泰定中、邵武經歷となる。著に盱里子集がある。

【揭疙痂】49 chieh^1 kê^1 chia^1 天然痘全治祝の贈物。

【揭傒斯】50 ケイケイシ 元、富州の人。字は曼碩。諡は文安。早くから文名があり、大德中、程鉅夫・盧摯に薦められて三度翰林に入る。天曆の初、奎章閣を開くや、授經郎に擢んでられ、勳戚大臣の子弟を教ふ。元統の初、侍講學士となり、經世大典・遼金宋三史の編纂に與る。卒して豫章郡公に追封せられた。文學に秀で、虞集・楊載・范梈と共に元代四大家と稱せられる。著に文安集がある。〔元史、一百八十一〕。

【揭重熙】51 ケイチユウキ 明、臨川の人。字は祝萬。崇禎中、五經を以て鄕會試に中り、福王の時、吏部主事となる。後、永明王に隨つて土兵を招いて聚保し、兵敗れて死す。〔明史、二百七十八〕・〔萬斯同明史、三百六十七〕・〔明史稿、二百五十七〕。

【揭羅闍】52 ケイラシヤ 佛梵語。鷲をいふ。〔正字通〕鷲、梵言、耆闍崛、此云二靈鷲一、或姞栗陀、此云レ鷲、或揭羅闍、此云二鵰鷲一。

【揭曼碩】53 ケイマンセキ 元の人。揭傒斯(50)を見よ。

〔揭曼碩詩〕54 ケイマンセキシ 書名。三卷。元、揭傒斯撰。〔元四大家詩、第六冊〕。

〔揭曼碩詩集〕55 ケイマンセキシシフ 書名。九卷。附一卷。元、揭傒斯撰。

【⿰扌革】12390

［一］カク キヤク 〔集韻〕各核切 ［陌］
［二］カツ ケチ 〔玉篇〕古鎋切 ［黠］

［一］［二］**あらためる**。〔玉篇〕⿰扌革、改也。〔集韻〕⿰扌革、改治也。〔太玄經、玄數〕縫遭竝合、⿰扌革二繫其名一。〔注〕⿰扌革、更也、手有二改更一、故字从レ手。

【⿰扌禹】12391

ク 〔集韻〕果羽切 ［麌］

❶**姓**。〔集韻〕⿰扌禹、姓也、詩、⿰扌禹維師氏。❷或は禑(**8－24764**)に作り、通じて萬(**9－31340**)に作る。〔集韻〕⿰扌禹、或从レ示、通作レ萬。❸楀(**6－15091**)に通ず。〔詩、小雅、十月之交〕楀維師氏。〔阮元、校勘記〕楀維師氏、小字本・相臺本同、閩本・明監本・毛本亦同、唐石經初刻レ⿰扌禹、後改レ楀、云云、從レ木從レ扌、字多相亂。

【捽】12392

ラウ 捽(**5－12147**)に同じ。〔篇海〕捽、同レ捽。

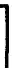
【⿰扌兗】12393

エン 〔集韻〕以轉切 ［銑］

うごく。又、はかる。抁(**5－11858**)に同じ。〔集韻〕抁、動也、揣也、或从レ兗。

【揮】12394

［一］キ 〔集韻〕吁韋切 ［微］ ㄏㄨㄟ hui^1
［二］クン 〔集韻〕吁運切 ［問］
［三］コン ゴン 〔集韻〕胡昆切 ［元］



小篆

㈠❶ふるふ。㋑勢よく動かす。ふりまはす。〔郭璞、蚍蜉賦〕龍劍揮而不レ恐。㋺うごかす。〔廣雅、釋詁一〕揮、動也。〔傅毅、舞賦〕順二微風一揮二若芳一。〔注〕揮、動也。㋩ちらす。〔易、說卦〕發二揮于剛柔一。〔釋文〕揮、散也。㋥はなつ。おひやる。〔莊子、田子方〕揮二斥八極一。〔注〕揮斥、猶二縱放一也。㋭あげる。あらはす。〔易、說卦〕發二揮于剛柔一。〔釋文〕揮、揚也。〔李德裕、易州候臺記〕博二采舊史一、發二揮新意一。㋬ひらく。おこす。〔鬼谷子、抵巇〕揮二之于太山之本一。〔注〕揮、發也。㋣はらふ。掃ひさる。ふるひ拂ふ。〔爾雅、釋詁〕揮、竭也。〔儀禮、特牲饋食禮〕又不レ揮。〔疏〕揮、振二去水一使二手乾一。〔禮、曲禮上〕飲二玉爵一者弗レ揮。〔注〕揮、振二去餘一也。〔左氏、僖、二十三〕奉レ匜沃レ盥、既而揮レ之。〔注〕揮、湔也。〔戰國、齊策〕揮レ汗成レ雨。〔注〕揮、振也。❷ふるふ。うごく。勢よく動く。〔曹植、七啓〕琴瑟交揮。〔韓愈、譴二瘧鬼一詩〕丹墨交橫揮。❸さしづする。さしまねく。〔梁元帝、討二侯景一檄〕抽レ戈而揮。〔宋三朝政錄〕趙大祖乘レ快指揮、一事誤失、史官必書。❹とぶ。とびあがる。翬（9－28769）に通ず。〔說文通訓定聲〕揮、叚借爲レ翬。〔說文〕揮、奮也、从レ手軍聲。〔段注〕按、奞部奮下曰二翬也一、翬下曰二大飛也一、此云二奮也一、揮與レ翬、義略同。〔潘岳、西征賦〕終奮レ翼而高揮。〔注〕善曰、西京賦曰、遊鶤高翬、薛綜曰、翬、飛也、揮、與レ翬古字通。〔左氏、襄、二十四〕鄭公孫揮、字子羽。❺かがやく。煇（7－19174）・輝（10－38372）に通ず。〔說文通訓定聲〕揮、叚借爲レ煇。〔易、乾〕六爻發揮。〔釋文〕揮、本亦作レ輝、義取二光輝一。〔王粲、從軍詩〕良苗實已揮。〔注〕善曰、揮、當レ爲レ輝。❻はた。しるし。徽（4－9041）・徽（4－10267）に通ず。〔說文通訓定聲〕揮、叚借爲レ徽。〔張衡、東京賦〕戎士介而揚レ徽。〔注〕善曰、左氏傳、廚人濮曰、揚レ徽者、公徒也、徽、與レ揮古字通。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕揚二素揮一以啓二降路一。〔注〕善曰、廣雅曰、徽、幡也、徽、與レ揮古通用。❼うつす。運（11－38998）に通ず。〔說文通訓定聲〕揮、叚借爲レ運。〔太玄經、玄告〕天渾而揮擢。〔注〕揮、猶レ移也。❽或は擢（5－12908）に作る。〔集韻〕揮、或作レ擢。❾麾（12－47899）・撝（5－12716）に通ず。〔正字通〕揮、與二麾・撝一通。㈡ふるふ。㈠の❶㋑に同じ。〔集韻〕揮、奮也。㈢完全で破れない。揮掄（50）を見よ。

【揮羽】1 キウ　羽扇をふるひうごかす。〔曹植、鬬雞詩〕揮レ羽激二清風一。

【揮乂】2 キガイ　山の精の名。〔太平御覽、妖異部、精〕抱朴子曰、云云、有二山精一、或如レ鼓、色赤、一足、其名曰二揮乂一。

【揮毫】3 キガウ　筆をふるふ。書畫をかく。揮筆。〔杜甫、飲中八仙歌〕張旭三杯草聖傳、脫帽露頂王公前、揮レ毫落レ紙如二雲煙一。

【揮喝】4 キカツ　指揮し叱咤する。〔柳宗元、起レ廢答〕羣談角レ智、列坐爭レ英、披レ華發レ輝、揮二喝雷霆一。

【揮汗】5 キカン　あせをふるひはらふ。〔戰國、齊策〕臨淄之途、車轂擊、人肩摩、連レ衽成レ幃、擧レ袂成レ幕、揮レ汗成レ雨。〔注〕揮、振也。

【揮翰】6 キカン　ふでをふるふ。文字を書いたり詩文を作つたりすること。〔晉書、虞溥傳〕含レ章舒レ藻、揮レ翰流離。〔蘇軾、次二韻林子中春日新堤書レ事見レ寄詩〕收得玉堂揮レ翰手、却爲二淮月弄レ舟人一。

【揮棄】7 huei^{1} ch'i^{4}　なげすてる。

【揮戈】8 キクワ　ほこをふりまはす。〔晉書、慕容德載記〕奮レ劍與二夕火一爭レ光、揮レ戈與二秋月一競レ色。

【揮霍】9 キクワク　❶動くさま。上下するさま。❸を見よ。〔張衡、西京賦〕跳二丸劍之揮霍一。〔注〕綜曰、揮霍、謂二丸劍之形一也、銑曰、揮霍、鈴劍上下貌。❷勢がはげしい。〔曹植、七啓〕蜿蟬揮霍。〔注〕向曰、揮霍、奮迅也。❸はやいさま。〔陸機、文賦〕紛紜揮霍、形難レ爲レ狀。〔注〕善曰、揮霍、疾貌、西京賦曰、跳二丸劍一之揮霍。〔張協、七命〕翕忽揮霍。〔注〕良曰、並飛走亂急也。❹變易するさま。〔孫綽、遊二天台山一賦〕騁二神變之揮霍一。〔注〕向曰、揮霍、變易貌。❺ふるひすてる。思ひきつてすてる。霍は分離。〔柳宗元、招二海賈一文〕垂レ涎閃レ舌兮、揮霍旁午。❻やたらに。〔紅樓夢、一回〕瘋瘋顚顚、揮霍談咲而至。❼揮は、手をうごかすこと。霍は、手をうらがへすこと。〔焦竑字學〕搖レ手曰レ揮、反レ手曰レ霍、蓋極二言其動作輕捷一也。❽huei^{1} huo^{4} 金錢を亂暴に使ふ。金費ひが荒い。贅澤する。浪費する。

【揮攉】10 キクワク　ふりまはす。〔岡鹿門、尊攘記事、吉田松陰〕手執レ棍揮攉。

【揮拳】11 キケン　拳をふりまはす。〔書評〕歐陽詢書、若二草裏蛇驚、雲間電發一、若二金剛之瞋レ目、力士之揮レ拳。

【揮絃】12 キゲン　絃をふるはす。絃器を奏する。〔新論、言苑〕紅黛飾レ容、欲二以爲一レ艷、而動レ目者稀、揮レ絃繁弄、欲二以爲一レ悲、而驚レ耳者寡。〔虞世南、琵琶賦〕臨二清流一而揮レ絃、與二殊方一而俱寫。〔朱熹、招隱操序〕夜久月明、風露凄冷、揮レ絃度レ曲、聲甚悲壯。

【揮忽】13 キコツ　盡きる。〔梁武帝、孝思賦〕年揮忽而莫二反時一。〔張說、江路憶レ郡詩〕水宿厭二洲渚一、晨光屢揮忽。

【揮犀】14 キサイ　拂子をふるふ。轉じて、清談すること。揮麈（24）に同じ。〔宋史、藝文志五〕墨客揮犀二十卷。〔鄧潤甫、詩〕相期郡齋冷、清話看二揮犀一。

【揮灑】15 キサイ　❶書又は畫をかくこと。揮は筆を揮ふ、灑は墨を灑ぐ。筆墨の拘束されぬさま。揮洒。〔杜甫、石硯詩〕揮灑容二數人一、十手可レ對レ面。〔徐積、和二倪敦復一詩〕擇レ交蓋已定、言レ志亦已合、布陳詩其詳、揮灑手不レ歇。〔書苑菁華、十八、陸羽、唐僧懷素傳〕貧無二紙可一レ書、嘗於二故里一種二芭蕉一萬餘株、以供二揮灑一。〔蘇軾、書二若逵所レ書經後一〕如二空中雨一、是誰揮灑、自然蕭散、無レ有二疎密一。〔郝經、跋下魯公送二劉太沖一序帖上〕輪囷權奇恣二揮灑一、瑰偉乃見二烈士風一。〔晁沖之、和二十二兄一詩〕揮灑每被レ酒。❷垢を洗ひすてる。綺麗に押拭ふ。〔李白、魯郡堯祠送三竇明府薄華還二西京一詩〕藍田太白若可レ期、爲レ余揮灑石上月。❸つかひはたす。〔福惠全書、蒞任部、謹操守〕猶可レ足二五十年之揮灑一。❹huei^{1} sa^{3} 振り撒く。散布する。

【揮掃】16 キサウ　❶はらふ。はらひ棄てる。〔秦觀、和二黃法曹一詩〕誰云廣平心似レ鐵、不レ惜二珠璣一與揮掃。❷勢よく筆をふるつて書畫を書くこと。〔陸游、草書歌〕忽然揮掃不二自知一。

【揮策】17 キサク　むちをふるふ。揮鞭（44）に同じ。〔李白、送三王屋山人魏萬還二王屋一詩〕廻レ橈楚江濱、揮レ策揚子津。

【揮散】18 キサン　ふるひちらす。撒きちらす。〔十國春秋〕允章大慚、自レ是稍稍揮散。〔柳宗元、送二易師楊君一序〕論說辨問、貫二穿上下一、揮散而咸同、幽昏而大明。

【揮袖】19 キシウ　風にひるがへるそで。人の衆い形容。〔左思、吴都賦〕揮袖風飄、而紅塵晝昏。〔注〕向曰、揮袖、謂二人衆之甚一也。

【揮車】20 キシャ　鈎車をいふ。〔海錄碎事、服用、車〕揮車、鈎車也。

【揮觴】21 キシャウ　さかづきをあげる。酒を飲む。〔陶潛、時運詩〕揮二茲一觴一、陶然自樂。〔孫恂、獵狐記〕退處二于三川之上一、以二擊レ鞠揮一レ觴爲レ事、遨二遊于南鄰北里閒一。

【揮綽】22 キシャク　ふるひうごくことがゆるやか。〔莊子、天運〕其聲揮綽、其名高明。〔疏〕揮、動也、綽、寛也、同二雷霆之震動一、其聲寛也。

【揮手】23 キシュ　❶手をふるふ。手をうごかす。樂器をかなでる。〔嵇康、琴賦〕伯牙揮レ手、鍾期聽レ聲、華容灼爚、發レ采揚レ明。〔南史、隱逸上、戴顒傳〕顒父逵、善二琴書一、顒並傳レ之、凡諸音律、皆能

揮レ手。❷手を振つて別れを惜しむ。〔李白、送二友人一詩〕揮レ手自レ茲去、蕭蕭班馬鳴。

【揮麈】24 キシュ　麈尾で作つた拂子をふるふ。晉人が清談する時、每に麈尾を取つて談話を助けたことから談話をいふ。〔歐陽脩、和二聖兪聚レ蚊詩〕抱レ琴不レ暇レ撫、揮レ麈無レ由レ停。〔蘇軾、贈二治レ易僧智周一詩〕斷レ絃掛レ壁知音喪、揮二麈空山一亂石聽。〔朱熹、次二香野閒居十五詠一山人方丈詩〕地窄不レ容二揮レ麈客一、室空那有二散レ花天一。〔許有壬、宴集詩〕揮レ麈風生レ座、扶レ笻雨壓レ沙。

【揮麈錄】25 キシュロク　書名。前錄四卷・後錄十一卷・三錄三卷・餘話二卷。宋、王明清撰。皆朝廷の故事を記す。明清は王銍の子、曾紆の外孫。紆は曾布の第十子。故に是の錄中、曾布に於て溢美が多い。然し中原の舊族・舊聞を識ること多く、頗る參考に資するに足る。前錄は百三條、後錄は二百七條、三錄は三十二條、餘話は百一條。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【揮春】26 huei^1 ch'uen^1　春聯を書く。

【揮鋤】27 キジョ　鋤をふるふ。鋤で耕すこと。〔世說新語、德行〕管寧・華歆、共園中鋤レ菜、見三地有二片金一、管揮レ鋤與二瓦石一不レ異、華捉而擲二去之一。

【揮刃】28 キジン　刃物をふりまはす。〔李白、出自薊北門行〕揮レ刃斬二樓蘭一、彎レ弓射二賢王一。

【揮斥】30 キタク　❶ほしいまま。ほしいままに行く。又、すみやかに行く。〔列子、黃帝〕揮二斥八極一、神氣不レ變。〔釋文〕揮斥、猶二放縱一也、又、奮迅也。〔莊子、田子方〕夫至人者、上闚二青天一、下潛二黃泉一、揮二斥八極一、神氣不レ變。〔注〕揮斥、猶二縱放一也。❷勢つよくふるふ。〔歐陽脩、祭二蘇子美一文〕忽然揮斥、霹靂轟車。❸送つた品をかへされる。〔福惠全書、蒞任部、承事上司〕致レ見二揮斥一。

【揮染】31 キセン　筆をふるひ紙をそめる。書畫をかく。揮灑。

【揮刀】32 キタウ　刃物をふるふ。刀・庖丁などを揮つて切ること。〔張協、七命〕伊公爨レ鼎、庖子揮レ刀。〔韓愈、元和聖德詩〕揮レ刀紛紜、爭刌二膾脯一。

【揮棹】33 キタウ　さををふるふ。棹をあやつる。〔何承天、鼓吹鐃歌、雉子遊二原澤一篇〕浩然寄二卜肆一、揮レ棹通二川陰一。

【揮棁】34 キタツ　棒を振り動かす。棁は木杖。〔淮南子、說山訓〕執レ彈而招レ鳥、揮レ棁而呼レ狗、欲レ致レ之顧反走。

【揮涕】35 キテイ　涙をはらひ落す。揮涙。〔孔子家語、曲禮子夏問〕無レ揮レ涕無レ拊レ膺。〔王粲、七哀詩〕顧聞二號泣聲一、揮レ涕獨不レ還。〔晉書、姚襄載記〕溫軍所レ得士女、莫レ不二北望揮一レ涕。

【揮掉】36 キテウ　ふるひ動く。奮起する。〔文同、奉詔詩〕郡兵厭二寶玉一、得レ此只揮掉。

【揮拍】37 キハク　うち鳴らす。樂器をかきならす。〔張隨、無絃琴賦〕振二素手一以揮拍。

【揮發】38 キハツ　化學用語。液體が普通の溫度で氣體となつて飛び散ること。揮散。

【揮發油】39 キハツユ　無色透明の稀薄な石油。よく揮發するから燈用に供することができない。樹脂を溶き塗料を製し、又、脂肪等で汚染した物を洗滌するに用ひる。

【揮筆】40 キヒツ　筆をふるひうごかす。字をかくこと。揮毫。〔李頎、贈二張旭一詩〕興來灑二素壁一、揮レ筆如二流星一。〔五代史、雜四十二、司空頲傳〕揮レ筆成レ文。

【揮拂】41 キフツ　はらふ。樂器をかきならすこと。〔蘇舜欽、演化琴德素高云云詩〕索二我瑤琴一一揮拂。

【揮文】42 キブン　古い家屋の精の名。〔太平御覽、妖異部、精〕故宅之精、名曰二揮文一。

【揮袂】43 キベイ　たもとをうちふる。たもとを拂ふ。意氣の盛なさま。〔曹植、七啓〕揮レ袂則九野生レ風、慷慨則氣成二虹蜺一。〔阮籍、詠懷詩〕揮レ袂撫二長劍一、仰觀二浮雲征一。

【揮鞭】44 キベン　むちをふるふ。〔蔡邕、太尉喬玄碑陰〕不レ動二干戈一、揮レ鞭而定。

【揮墨】45 キボク　筆をふるつて文字を書くこと。揮毫。〔耶律楚材、和三黃華老人題二獻陵吳氏成趣園一詩〕湛然揮レ墨試二續貂一、囁嚅使二人難一レ出レ口。

【揮沐】46 キモク　洗つてゐる髮の水をいそいで振ひ落すこと。周公旦が士を待つのに急であつた故事。握沐（**5**－12366··47）を見よ。〔後漢書、儒林傳〕昔周公旦、父文、兄武、九命作レ伯、以尹二華夏一、猶揮レ沐吐レ餐、垂二白屋一。

【揮揚】47 キヤウ　ふるひあげる。さかんにする。發揚。〔晉書、禮志下〕立レ德濟レ世、揮二揚仁風一。

【揮涙】48 キルイ　なみだをはらひおとす。涙を流す。〔晉書、殷仲堪傳〕父病積年、仲堪衣不レ解レ帶、躬學二醫術一、究二其精妙一、執レ藥揮レ涙、遂眇二一目一。〔陸機、晉平西將軍孝公周處碑〕廻レ輪出二於新年一、士女揮レ涙、褰レ帷望二於廣漢一、雞犬靡レ喧。〔杜甫、贈二蜀僧閭丘師兄一詩〕窮愁一揮レ涙、相遇卽諸昆。

【揮弄】49 キロウ　ふるひもてあそぶ。水鳥が羽で水を搏つて飛沫をあげることなどにいふ。〔郭璞、江賦〕揮弄灑レ珠、拊拂瀑レ沫。

【揮掄】50 キロン　完全で破れない。〔集韻〕揮、揮掄、全而不レ破。

【⿰扌⿵冂車】12395

キ　揮（**5**－**12394**）に同じ。〔正字通〕⿰扌⿵冂車、同レ揮。

【揯】12396

㊀コウ　〔集韻〕居曾切　蒸

㊁コウ　〔集韻〕居鄧切　徑

小篆

㊀㊁❶**きびしくひく**。〔說文〕揯、引急也、从レ手恒聲。❷**きびしい**。〔廣雅、釋詁一〕揯、急也。❸**わたる**。亙（**1**－**265**）に通ず。〔說文通訓定聲〕揯、叚借爲レ亙。〔廣雅、釋詁三〕揯、竟也。❹或は⿰扌亙（**5**－**12028**）に作る。〔集韻〕揯、或省。❺或は⿱恒手に作る。〔集韻〕揯、或書作レ⿱恒手。

【⿰扌衍】12397

㊀エン　〔集韻〕以淺切　銑

㊁イン　〔集韻〕以忍切　軫

㊂イン　〔集韻〕羊進切　震

㊀㊁**のべしく**。〔集韻〕⿰扌衍、舒布也。〔集韻〕⿰扌衍、申布也。㊂**のべる**。〔集韻〕⿰扌衍、伸也。

【⿰扌苴】12398

サ　〔集韻〕千个切　箇

ぬぐふ。〔集韻〕⿰扌苴、拭也。

【⿰扌冒】12399

バウ
モウ　〔集韻〕莫報切　號

❶**たすける**。手をそへる。〔廣韻〕⿰扌冒、手扶レ之也。❷**あたる**。或は⿰冒攵（**5**－**13313**）に作る。〔集韻〕⿰扌冒、抵也、或从レ攴。

【揰】12400

㊀ショウ
シュ　〔集韻〕昌用切　宋　ㄔㄨㄥˋ ch'ung^4

㊁トウ
ツ　〔集韻〕覩鵻切　腫

㊀**うつ**。つく。〔集韻〕揰、推擊也。㊁❶うつ。㊀に同じ。〔集韻〕揰、擊也。❷**すてる**。〔玉篇〕揰、弃也。

【⿰扌苞】12401

ハウ　苞（**9**－**31195**）に同じ。〔康熙字典〕⿰扌苞、說文作レ苞。

【揱】12402

㊀サク　〔集韻〕色角切　覺

㊁セウ　〔集韻〕思邀切　蕭

㊂シャク
サク　〔集韻〕息約切　藥

㊃サウ
セウ　〔集韻〕所敎切　效

㊄サン
セン　〔集韻〕師咸切　咸

小篆

㊀㊁❶**臂の細長くしなやかなさま**。〔說文繫傳〕揱、人臂皃也、从レ手削聲、周禮曰、輻欲二其揱尒一、臣鍇曰、

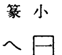
人臂捎長纖好也。〔集韻〕揱、長臂皃。❷**細くそげるさま**。揱爾(2)を見よ。〔集韻〕揱、一曰、纖殺也。㈢**そげる**。そげて細くなる。〔集韻〕揱、殺小也。㈣❶**臂のさま**。〔集韻〕揱、人臂皃。❷**そげる**。木の先が鋭くそげる。或は梨(6-15160)に作る。〔廣韻〕揱、木上小、或作レ梨。㈤❶**しなやか**。攕(5-12979)に同じ。〔集韻〕攕、説文、好手皃、或作レ揱。❷**細くそげるさま**。揱爾(2)を見よ。

【揱參】1 セウ シン 枝の擢んでそばたつさま。莦蔘。〔周禮、考工記、輪人〕欲二其揱爾而纖一也、孫詒讓正義〕史記司馬相如上林賦、説二樹木一云、紛容蕭蔘、漢書・文選、皆作二紛溶莦蔘一云云、郭璞曰、紛溶・莦蔘、枝竦擢也、鄭司農所レ偁作二揱參一、音義與レ郭同。

【揱爾】2 セウ ジ 細くそげるさま。〔周禮、考工記、輪人〕望二其輻一欲二其揱爾而纖一也。〔注〕揱、纖殺小貌也、云云、鄭司農云、揱、讀爲二紛容揱參之揱一。〔釋文〕揱、音蕭、又色交反、李又所咸反。

【揲】
12403

㈠ セツ ゼチ 〔集韻〕食列切 屑 ㄕㄜˊ shê²
㈡ エフ 〔集韻〕弋涉切 葉
㈢ テフ デフ 〔集韻〕達協切 葉
㈣ セフ 〔集韻〕悉協切 葉
㈤ ケツ ケチ 〔集韻〕吉列切 屑
㈥ エツ エチ 〔集韻〕羊列切 屑
㈦ タフ デフ 〔集韻〕直甲切 洽


小篆

㈠㈡㈢㈣㈤㈥㈦❶**かぞへる**。かぞへてもつ。〔説文〕揲、閲持也、从レ手枼聲。〔段注〕閲者、具數也、更迭數レ之也、匹下曰、四丈也、从二八匸一、八揲一匹、按、八揲一匹則五、五數レ之也、五五者、由二一五二五一數レ之、至二於八五一、則四丈也。〔廣雅、釋詁二〕揲、積也。〔廣韻〕揲、度揲也。〔集韻〕揲、持數也。〔易、繫辭上〕揲レ之以レ四、以象二四時一。〔釋文〕揲、猶レ數也。❷**うるほす**。〔史記、扁鵲傳〕揲レ荒爪レ幕。〔注〕集解曰、揲、音舌、索隱曰、揲レ荒、膏レ荒也。❸**うつ**。鍱(11-40649)に通ず。〔説文通訓定聲〕揲、叚借爲レ鍱。〔淮南子、説山訓〕揲二挻其土一、而不レ益レ厚。❹**した**。舌(9-30277)に通ず。〔説文通訓定聲〕揲、叚借爲レ舌。〔管子、弟子職〕執レ箕膺レ揲。〔尹注〕揲、舌也。❺或は抴(5-11920)・擛(5-12798)・箕(8-26350)に作る。〔集韻〕揲、或作二抴・擛・箕一。

【揲貫】1 セツ クヮン うちつらぬく。〔淮南子、俶眞訓〕横二廓六合一、揲二貫萬物一、此聖人之游也。

【揳】
12404

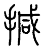
㈠ セツ セチ 〔集韻〕私列切 屑
㈡ ケツ ケチ 〔韻會〕奚結切 屑
㈢ カツ ケチ 〔集韻〕訖黠切 黠

㈠❶**ただしくない**。攕揳。〔廣韻〕揳、攕揳、不二方正一也。❷**ぬぐふ**。攕揳。〔集韻〕揳、攕揳、拭滅也。❸**ひねる**。〔字彙〕揳、撚也。❹**ふさぐ**。〔正韻〕揳、塞也。㈡**はかる**。絜(8-27419)に通ず。〔正字通〕揳、與レ絜通。〔荀子、非相〕不レ揣レ長、不レ揳レ大。〔注〕揳、與レ絜同、約也、謂三約二計其大小一也、絜、戶結反、莊子、匠石見二櫟社樹一、絜レ之百圍。㈢**うちならす**。戛(5-11598)に通ず。〔集韻〕揳、擊持也。〔轉注古音〕揳、與レ戛通。〔楚辭、宋玉、招魂〕揳二梓瑟一些二。〔注〕揳、鼓也。〔史記、貨殖傳〕趙女鄭姬、設二形容一揳二鳴琴一。

【揳擊】1 カツ ゲキ 樂器をうちならすこと。〔柳宗元、嶺南節度饗軍堂記〕揳擊吹鼓之音、飛騰幻怪之容、寰二觀于遠邇一。

【揻】
12405

カン ゴン 〔集韻〕戶感切 感


小篆

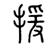
ゆする。**うごかす**。或は撼(5-12775)に作る。〔説文〕揻、搖也、从レ手咸聲。〔集韻〕揻、或从レ感。〔韻會〕揻、動也。

【搽】
12406

デフ 擟(5-13044)に同じ。〔集韻〕擟、或作レ搽。

【援】
12407

㈠ ヱン ヲン 〔集韻〕于元切 元 ㄩㄢˊ yüan²
㈡ ヱン ヲン 〔集韻〕于眷切 霰
㈢ ヱン ヲン 〔集韻〕于願切 願
㈣ クヮン グヮン 〔集韻〕胡玩切 翰


小篆

㈠㈡㈢❶**ひく**。㋑ひきよせる。〔説文〕援、引也、从レ手爰聲。〔禮、緇衣〕不レ援二其所一レ不レ及。〔注〕援、引也。〔呂覽、下賢〕桃李之垂二於行一者、莫二之援一也。〔注〕援、攀也。〔淮南子、精神訓〕夫造化之攫二援物一也。〔注〕援、引也。㋺ひきあげる。〔禮、儒行〕擧レ賢援レ能。㋩ひきぬく。〔增韻〕援、拔也。〔荀子、性惡〕不肖者敢援而廢レ之。㊁とる。〔禮、儒行〕上弗レ援。〔注〕援、取也。㋭もつ。〔集韻〕援、引持也。〔淮南子、脩務訓〕援二豐條一。〔注〕援、持也。㋬すがる。たよる。〔中庸〕在二下位一、不レ援レ上。〔章句〕謂三牽二持之一也。㋣引證する。〔墨子、小取〕援也者、曰二子然、我奚獨不レ可二以然一也。〔閒詁〕説文手部云、援、引也、謂二引レ彼以例レ此。❷**たすける**。〔字彙〕援、救助也。〔戰國、秦策〕楚人援レ韓以拒レ秦。〔注〕援、助也。❸**たすけ**。とりつくところ。〔集韻〕援、助也。〔國語、魯語上〕爲二四鄰之援一。〔注〕援、所二攀援以爲一レ助也。〔戰國、秦策〕楚國援也。〔注〕援、助也。❹**戈**。〔周禮、考工記、冶氏〕戈廣二寸、援四レ之。〔注〕援、長八寸、直刃也。〔禮書通故、物〕考工記冶人、云云、援、八寸、鄭司農云、援、直刃也、云云、著レ柲直前爲レ援、云云、援七寸半、亦以二三寸一爲レ横、四寸半、向レ上爲二磬折一。㈣**したがはない**。**又、はびこる**。愌(4-10918)に同じ。又、換(5-12358)に通ず。〔説文通訓定聲〕援、叚借爲レ換、詩皇矣、無二然畔援一、漢書敍傳注、引作レ換。〔集韻〕愌、怑愌、不レ順也、一曰、拔扈、或作レ援。〔詩、大雅、皇矣〕無二然畔援一。〔箋〕畔援、猶二拔扈一也。

名乘 スケ。

【援案】1 yüan² an⁴ 前の案を引用する。前例による。

【援引】2 エン イン ❶引いて證據とする。〔何休、公羊傳序〕援二引他經一、失二其句讀一。〔論衡、程材〕援二引古義一。〔魏志、臧洪傳〕重獲二來命一、援二引古今一。〔郭璞、爾雅序〕事有二隱滯一、援據徵レ之、疏〕援、引也、徵、成也、若事有二隱奧滯泥者一、則援二引經據一以證二成之一也。❷引きよせる。味方にする。〔後漢書、宦者傳序〕其有下更相援引、希レ附二權彊一者上、皆腐レ身熏レ子、以自衒達。

【援毫】3 エン ガウ 筆を持つ。書き記すこと。毫は筆。

〔王昌齡、觀二江淮名勝圖一詩〕援レ毫無二逃境一、遂展二千里眺一。

【援翰】4エンカン 筆を手に執る。書き記すこと。翰は筆。〔晉書、向秀傳〕佇駕言其將レ邁兮、故援レ翰以寫レ心。

【援鑒】5エンカン 鏡をひきよせる。〔應璩、與二夏侯孝智一書〕援レ鑒自照レ鬢、已半白、良可レ懼也。

【援救】6エンキウ すくふ。たすける。又、すくひ。たすけ。援助。救助。救援。〔後漢書、臧洪傳〕城中糧盡、外無二援救一。〔後漢書、何顒傳〕顒常私入二洛陽一、從レ紹、計二議其窮困閉戹者一、爲レ求二援救一、以濟二其患一。

【援擧】7エンキヨ たすけ引きあげる。〔風俗通、愆禮〕爲三瓊所二援擧一。

【援據】8エンキヨ 引いて據りどころとする。證據とする。〔郭璞、爾雅敍〕事有二隱滯一、援據徵レ之。〔宋史、胡穎傳〕穎博學彊記、云云、下レ筆千言、援二據經史一、切二當事情一。

【援琴】9エンキン 琴を引きよせる。〔蜀志、郤正傳〕雍門援レ琴而挾レ說。〔北史、韋夐傳〕死生命也、去來常事、亦何足レ悲、援レ琴撫レ之如レ舊。

【援寡】10エンクワ 後援者がすくない。〔南史、江智深傳〕智深門孤援寡、獨有二此選一。〔福惠全書、蒞任部、査交代〕才疎援寡、而當二此重累一。

【援軍】11エングン たすけの軍勢。援兵。

【援繫】12エンケイ 出世のてづる。ひき。〔國語、晉語九〕董叔將レ取二於范氏一。

【援繼】13エンケイ たすけて續けさせる。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕敦二崇帝族一、援二繼絕世一。

【援擊】14エンゲキ たすけてうつ。〔日本政記、欽明天皇〕九年、高麗攻二百濟一、我遣レ兵援擊卻レ之。

【援結】15 yüan^2 chieh^1 結びつく。結托する。

【援驗】16エンケン 證據を引く。〔唐書、儒學上、曹憲傳〕太宗嘗讀レ書、有二奇難字一、輒遣二使者一問レ憲、憲具爲二音注一、援レ驗詳復。

【援古】17エンコ 古をひいて證據とする。〔宋史、韓肖胄傳〕時召二侍從一、問二戰守計一、肖胄條二奏千餘言一、云云、吏部尚書席益嘆曰、援レ古證レ今、切二於時用一、非レ世レ官不レ能也。〔徐鉉、校二說文一序〕大抵此書、務下援レ古以正レ今、不中狥レ今而違上レ古。〔陳旅、從三車駕遊二護聖寺一詩〕援レ古言應切、匡レ時慮二更長一。

【援護】18エンゴ たすけまもる。すくひまもる。

【援國】19エンコク たすけてくれる國。〔戰國、西周策〕此皆恃二援國一、而輕二近敵一也、今君恃二韓魏一而輕レ秦、國恐傷矣。〔史記、蘇秦傳〕夫齊趙者、燕之仇讎也、楚魏者、燕之援國也。〔史記、匈奴傳〕以分二匈奴西方之援國一。

【援勦】20エンサウ 援兵を出して賊匪を勦滅する。〔六部成語、兵部、援勦、注解〕派レ兵救二援我軍一、勦二殺賊匪一。

【援師】21エンシ たすけの軍勢。援軍。

【援紙】22エンシ 紙をひきよせる。字を書くこと。〔謝靈運、山居賦〕伊昔齠齔、實愛二斯文一、援レ紙握レ管、會レ性通レ神。

【援寘】23エンシ 引きあげて置く。登用して地位につける。〔宋史、王濟傳〕金鎖沒、濟撫二其孤一、援寘祿仕。

【援赦】24エンシヤ 赦例を援用して罪を赦し減ずること。〔清國行政法汎論、官吏分限、守制〕官員短喪、並聞二父母祖父母喪一、仍行二戀職一者、革レ職、不レ准二援赦一。〔六部成語、刑部、援赦、注解〕援、引也、國有二恩赦一、援レ例減レ罪、或予二寬免一。

【援將】25エンシヤウ 援軍の大將。

【援手】26エンシユ 手を引く。手を引いて救ひ出す。〔孟子、離婁上〕嫂溺、援レ之以レ手者、權也。

【援助】27エンジヨ すくひたすける。又、たすけ。〔後漢書、耿弇傳〕招二迎匈奴・烏桓一、以爲二援助一。〔應璩、與二侍郎曹長思一書〕薄二援助一者、不レ能三進參二於高妙一。〔注〕向曰、薄二援助一、謂下無二親朋在朝之貴一者上。

【援升】28エンシヨウ ひきあげる。たすけのぼせる。〔韻府引、人物志〕仲尼不レ試、無レ所二援升一、猶序二門人一、以爲二四科一、泛論二衆材一、以辨二三等一。

【援拯】29エンジヨウ たすけすくふ。援救。〔舊唐書、李繁傳〕左右援拯、後得三累居二郡守一。

【援進】30エンシン ひきあげすすめる。〔宋史、鞠詠傳〕臣願、陛下以下援二進忠良一、退中斥邪佞上、爲二國寶一。

【援照】31 yüan^2 chao^4 據る。準據する。

【援箸】32エンゼイ とらへたり、かみついたりするもの。猛獸類をいふ。〔周禮、考工記、梓人〕攫閷援箸之類。〔疏〕援攬則噬レ之。

【援摭】33エンセキ とりひろふ。〔文心雕龍、正緯〕是以後來辭人、援二摭英華一。

【援隊】34エンタイ 救援の部隊。

【援持】35エンヂ ひいてもつ。引いて來る。〔魏志、曹仁傳〕仁意氣奮怒甚、謂二左右取レ馬來一、矯等共援二持之一。

【援梯】36 yüan^2 t'i^1 梯子。

【援溺】37エンデキ 溺死しかけたのを救ふ。苦難から救ふ喩。〔魏書、蕭衍傳〕致二符上帝一、援二溺下土一。〔北史、隋文帝紀〕援二大川之溺一、救二燎原之火一。

【援納】38エンナフ ひきいれ用ひる。〔漢書、孔光傳〕援二納斷斷之介一。

【援能】39エンノウ 才能のある者をえらびぬく。〔禮、儒行〕其擧レ賢援レ能、有二如レ此者一。

【援拔】40 yüan^2 pa^2 引つ張り上げる。

【援攀】41エンパン すがつてよぢのぼる。〔依田學海、裏海之勝〕或矗立數仞、不レ可二援攀一。

【援庇】42エンピ たすけかばふ。援護。〔元稹、同州刺史謝上表〕無二朋友爲レ臣吹噓一、無二親黨爲レ臣援庇一。

【援筆】43エンピツ 筆を持つ。字を書くこと。〔魏志、陳思王植傳〕援レ筆立成。〔晉書、后妃上、左貴嬪傳〕援レ筆舒レ情、涕淚增レ零。〔南史、蔡景歷傳〕召令レ草レ檄、景歷援レ筆立成、辭義感激。

【援桴】44エンプ 桴を手にとる。桴は、鼓をうつ棒。〔呂覽、執一〕援レ桴一鼓、使二三軍之士樂レ死若レ生。

【援兵】45エンペイ 救ひの軍隊。救援軍。援軍。〔日本政記、文德天皇〕請發二援兵數千一備レ之。

【援用】46エンヨウ 引いて來て利用する。

【援立】47エンリツ たすけ立てる。〔後漢書、謝弼傳〕定二策宮闈一、援二立聖明一。〔後漢書、鄧騭傳〕陛下開二日月之明一、運二獨斷之慮一、援二立皇統一、奉二承大宗一。

【援糧】48エンリヤウ 救ひの糧食。糧援(8－27132‥7)に同じ。

【援例】49エンレイ 例をひく。前例を引き用ひる。〔清會典事例、吏部、除授〕四十七年奏准、現任各官、援レ例捐升、未レ經二銓選一、緣レ事降革、續經レ捐二復原官一、其捐升之項、不レ准二隨帶一。

【援路】50エンロ すくひのみち。援兵の來るみち。〔日本外史、足利氏後記、毛利氏〕元就乃分二兵五百一、備二元繁援路一。

【援神契】51エンシンケイ 書名。孝經の緯書。孝道の至は、陰陽に行はれ、鬼神に通じ、上下古今、符契を合するやうであるから名づける。原書は已に佚し、今傳はる所は諸雜纖と同じである。〔玉函山房輯佚書、緯書類〕・〔說郛、卷五〕。

【援鶉堂】52エンジユンダウ 清、姚範(3－6202‥104)の室名。

〔援鶉堂筆記〕53エンジユンダウヒツキ 書名。五十卷。清、姚範撰。經史子集の四部に就いて考證する。

【⿰扌盈】12408

エイ 攍(5－12963)に同じ。〔集韻〕攍、或从レ盈。

【揵】12409

㊀ケン ゲン 〔集韻〕渠焉切 先

㊁ケン ゴン 〔集韻〕渠言切 元

㊂ケン ゴン 〔集韻〕巨偃切 阮

㊃ケン 〔集韻〕九件切 銑

㊀㊁❶**あげる**。〔集韻〕揵、擧也。〔漢書、司馬相如傳上〕揵レ鰭掉レ尾。〔注〕師古曰、揵、擧也。❷**になふ**。〔集韻〕揵、以レ肩擧レ物也。〔後漢書、輿服志上〕揵二弓韣九鞬一。❸**かたくもつ**。〔鬼谷子、內揵、舊注〕揵者、持レ之令レ固也。㊂㊃❶**あげる**。㊀㊁の❶に同じ。〔集韻〕揵、擧也。❷**たてる**。たつ。〔史記、河渠書〕頹二竹林一兮揵二石菑一。〔注〕集解曰、揵、柱也。〔後漢書、張衡傳〕左二青琱一以揵レ芝兮。〔注〕揵、竪也。❸**さかひする**。封界をたてる。〔漢書、賈誼傳〕淮陽包二陳以南一、揵二之

江一。〔注〕如淳曰、揵、謂レ立二封界一也。❹まじはる。接近する。〔漢書、賈誼傳、注〕如淳曰、或曰、接也。❺くわんの木。又、とぢる。楗(6−15136)に通ず。〔康熙字典〕揵、與レ楗通。〔莊子、庚桑楚〕夫外韄者、不レ可二繁而捉一、將二內揵一。〔注〕揵、關揵也。〔釋文〕楗、關也、向云、閉也。❻せき。水を壅ぐもの。〔漢書、溝洫志〕是時東郡燒レ草、以レ故薪柴少、而下二淇園之竹一、以爲レ揵。❼かたい。むづかしい。〔廣韻〕揵、難也。

[參考] 犍(7−20078)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕揵、音虔、以レ肩擧レ物、犍、音堅、牛之健強者。

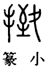
【揵然】1 ケンゼン 尾端などの曲つて上向してゐるさま。〔詩、小雅、都人士〕卷髮如レ蠆。〔箋〕蠆、螫蟲也、尾末揵然、似二婦人髮末曲上卷然一。

【揵馬牌】2 ケンバヒ 戰爭のとき、木などで獸の形を作り、陣の前に立てるもの。〔宋史、周三臣、李重進傳〕周世宗親征二淮南一、(吳人)橫布二拒馬一、以レ萬數、皆貫以二利刃一、維以二鐵索一、又刻レ木爲二戰形一、立二陣前一、號二揵馬牌一。

【⿰扌叀】12410 タン

摶(5−12642)に同じ。〔正字通〕⿰扌叀、同レ摶。

【⿰扌致】12411 [一]チ 〔集韻〕陟利切 [寘] [二]チ ヂ 〔集韻〕直利切 [寘] [三]チ 〔集韻〕展豸切 [紙]


小篆

[一]❶さす。〔說文〕⿰扌致、刺也、从レ手致聲。〔段注〕刺者、直傷也。❷いたる。刺してわづかにとどく。〔說文〕⿰扌致、一曰、刺レ之財至也。〔方言、十三〕⿰扌致、到也。❸うつ。〔集韻〕⿰扌致、一曰、搏也。❹つく。〔玉篇〕⿰扌致、挃也。❺かすめる。財を劫す。〔廣韻〕⿰扌致、又劫レ財也。[二]さす。[一]の❶に同じ。〔集韻〕⿰扌致、刺也。[三]❶さす。〔集韻〕⿰扌致、博雅、刺也。❷いたる。〔集韻〕⿰扌致、一曰、至也。〔漢書、揚雄傳上〕洪臺掘其獨出兮、⿰扌致二北極之嶟嶟一。〔注〕應劭曰、⿰扌致、至也、師古曰、⿰扌致、音竹指反。❸ゆびさす。〔廣韻〕⿰扌致、指也。

【⿰扌𦤺】12412 チ 〔篇海〕陟里切 [紙]

❶やはらいだこゑ。〔篇海〕⿰扌𦤺、和聲。❷⿰扌致(5−12411)の譌字。〔康熙字典〕⿰扌𦤺、按、⿰扌致字之譌。

【⿰扌⿱斤示】12413 テイ タイ 〔集韻〕丁計切 [霽]

つまむ。又、兩手で急に人をとらへること。摕(5−12578)に同じ。〔集韻〕摕、說文、撮取也、或从レ折从レ示、兩手急持レ人也。

【⿰扌穾】12414 アウ

⿰扌窔(5−12415)に同じ。〔康熙字典〕⿰扌穾、按、集韻作レ⿰扌窔。

【⿰扌窔】12415 アウ エウ 〔集韻〕於絞切 [巧]

くじく。拗(5−11962)に同じ。〔集韻〕拗、拉也、或作レ⿰扌窔。

【⿰扌巺】12416 セン

撰(5−12753)の本字。〔正字通〕⿰扌巺、撰本字。

【捬】12417 フ ブ 〔字彙補〕逢無切 [虞]

てのひら。〔海篇〕捬、掌手也。

【⿰扌矦】12418 アイ 〔集韻〕英皆切 [佳]

❶おす。〔集韻〕⿰扌矦、推也。❷うつ。〔集韻〕⿰扌矦、擊也。❸せおふさま。〔廣韻〕⿰扌矦、亦背負皃。❹或は挨(5−12082)に作る。〔集韻〕挨、或作レ⿰扌矦。

【捛】12419 リヨ

旅(5−13644)の俗字。〔海篇〕捛、俗旅字。

【⿰扌兖】12420 エン

⿰扌兗(5−12393)に同じ。〔篇海〕⿰扌兖、與レ⿰扌兗同。

【⿰扌⿱吅寸】12421 セン 〔篇海〕荀緣切 [先]

ねぢる。〔篇海〕⿰扌⿱吅寸、捩也。

【⿰扌囬】12422 タン ダン 〔篇海〕徒官切 [寒]

あふぐ。〔篇海〕⿰扌囬、⿰扌囬レ風也。

【⿰扌⿱罒心】12423 カウ 〔篇海〕古康切 [陽]

❶あげる。〔篇海〕⿰扌⿱罒心、擧也。❷揘(5−12512)の譌字。〔康熙字典〕⿰扌⿱罒心、按、揘字之譌。

【⿰扌⿱宀犬】12424 アン 〔字彙補〕羊安切 [寒]

ぬすんでうゑる。〔字彙補〕⿰扌⿱宀犬、掠種也。

【⿰扌⿱卄井】12425 コウ

搆(5−12447)に同じ。〔篇海〕⿰扌⿱卄井、同レ搆。

【捊】12426 ホツ ボチ 〔字彙補〕蒲沒切 [月]

❶ぬく。〔字彙補〕捊、拔也。❷挬(5−12089)の譌字。〔康熙字典〕捊、按、挬字之譌。

【⿰扌㝵】12427 トク

⿰扌⿱日寸(5−12180)の譌字。〔字彙補〕⿰扌㝵、⿰扌⿱日寸字之譌。

【⿰扌従】12428 [一]ソウ ス 〔字彙補〕七容切 [冬] [二]サウ 〔字彙補〕昌江切 [江]

[一][二]❶うつ。〔字彙補〕⿰扌従、打也。〔字彙補〕⿰扌従⿰扌従、打二鐘鼓一也。❷摐(5−12566)の譌字。〔康熙字典〕⿰扌従、按、摐字之譌。

【⿰扌脊】12429 セキ

⿰扌脊(5−12468)の譌字。〔康熙字典〕⿰扌脊、按、⿰扌脊字之譌。

【⿰扌𨚗】12430 ダ ナ 〔篇海〕奴何切 [歌]

❶にぎる。〔篇海〕⿰扌𨚗、握⿰扌𨚗也。❷挪(5−12084)の譌字。〔康熙字典〕⿰扌𨚗、按、挪字之譌。

【⿰扌囟】12431 セン　遷(11－39123)の古字。〔說文〕⿰扌囟、古文遷。

【搚】12432 ラフ　〔篇海〕郞合切 合　**くじく。ねぢる。**〔篇海〕搚、摧折拗搚也。

【⿰扌郅】12433 チツ　挃(5－12025)に同じ。〔篇海〕⿰扌郅、同レ挃。

【⿰扌畁】12434 ヘイ　捭(5－12200)の譌字。〔康熙字典〕⿰扌畁、捭字之譌。

【⿰扌皃】12435 ハイ　拜(5－11969)の古字。〔集韻〕攑、揚雄說、拜、从二兩手下一、古作レ⿰扌皃。

【挔】12436 ダ ナ　〔字彙補〕泥多切 歌　**木のしげるさま。**〔字彙補〕挔、木茂盛貌。

【揶】12437 ヤ　挪(5－12155)に同じ。〔字彙補〕揶、與レ挪同。

【⿰扌㚔】12438 アツ　⿰扌夲(5－12300)に同じ。〔字彙補〕⿰扌㚔、同レ⿰扌夲。

【⿰扌㕣】12439 シ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰扌㕣、音咨。

【⿰扌⿱廾目】12440 クヮク・イフ　義未詳。〔篇海〕⿰扌⿱廾目、古麥切。〔字彙補〕⿰扌⿱廾目、音揖。

【⿰扌疌】12441 セフ　捷(5－12216)に同じ。〔篇海〕⿰扌疌、與レ捷同。

【⿰扌料】12442 クヮ　料(7－20092)の譌字。〔康熙字典〕⿰扌料、按、即料字之譌。

【揸】12443 サ　〔中華大字典〕讀如レ查。　ㄓㄚ cha¹　**つまむ。**指で物を取ること。もと摣(5－12601)に作る。〔中華大字典〕揸、謂二以レ指取レ物也、本作レ摣。

【揹】12444 ハイ　ㄅㄟ pēi　[現]背負ふ。

【㨗】12445 セフ　捷(5－12216)の俗字。〔辭海〕㨗、捷俗字。

【揺】12445′ エウ　搖(5－12479)の略字。

十畫

【㨙】12446 [一] カイ ゲ　〔集韻〕戶佳切 佳　[二] ケイ ゲイ　〔集韻〕胡計切 霽　[三] ケイ ゲイ　〔集韻〕戶禮切 薺

[一]❶**さしはさむ。**〔廣韻〕㨙、挾レ物。〔集韻〕㨙、挾也。❷**たすける。**〔集韻〕㨙、扶也。[二]**かへる。**或は⿰扌系(5－12146)に作る。〔集韻〕㨙、杭越之間、謂レ換曰レ㨙、或从レ系。[三]**かかげる。**〔集韻〕㨙、揭也。

【㨙履】1（ケイリ）　履物をはく。〔韓詩外傳、九〕夫志不レ得、㨙レ履而適二秦楚一耳。〔注〕劉云、納レ履而去、趙本作下夫志不レ得、則㨙レ履而適二秦楚一耳上。〔校語〕㨙、舊本作レ授譌、今據二御覽一改。

【搆】12447 [一] コウ ク　〔集韻〕居候切 宥　ㄍㄡˋ kou⁴　[二] コウ ク　〔集韻〕居侯切 尤

[一]❶**事を解しない。**搆擩(10)を見よ。〔廣韻〕搆、搆擩也。〔集韻〕搆、擩也。❷[現]とどく。達する。[二]❶**ひく。**〔集韻〕搆、牽也。❷**かまへる。**つくる。おこす。つらねる。構(6－15317)に通ず。〔字海〕搆、結也、架也。〔正字通〕搆、結也、架也。〔雷浚、說文外編〕搆、是南宋人避レ諱字、故賈昌朝羣經音辨手部、尚無二搆字一。

[參考] 字解・熟語共、構(6－15317)をも參照せよ。

【搆怨】1（コウエン）　怨をかまへる。怨を結ぶ。怨をひきおこす。〔管子、大匡〕又力成二吾君之禍一、以搆二二國之怨一。〔漢書、平帝紀〕刑罰所レ不レ加、聖王之所レ制也、惟苛暴吏、多拘二繫犯レ法者親屬婦女老弱一、搆レ怨傷レ化、百姓苦レ之。

【搆害】2（コウガイ）　言ひがかりを作つて害する。〔後漢書、宦者傳序〕皆剝二割萌黎一、競恣二奢欲一、搆二害明賢一、專樹二黨類一。

【搆陷】3（コウカン）　言ひがかりを作つて陷しいれる。構陷。〔後漢書、順帝紀〕安帝乳母王聖等、與二樊豐江京一共搆二陷太子一。

【搆閒】4（コウカン）　不和を引起すやうに仕組む。〔蜀志、陳祇傳〕自二祇之有一レ寵、後主追怨レ允日深、謂爲二自輕一、由下祇媚二茲一人一、皓搆レ閒浸潤上故耳。

【搆逆】5（コウギャク）　叛逆を企てる。〔晉書、刁協傳〕王敦及レ搆レ逆、上疏罪レ協。

【搆會】6（コウクヮイ）　多くの者がぐるになつて離閒策を講ずること。構會。詩經、小雅、青蠅篇の句に本づいて作られた語。〔詩、小雅、青蠅〕讒人罔レ極、搆二我二人一。〔箋〕搆、合也、合、猶二交亂一也。〔疏〕二人者、人君與二見レ讒之人一也、讒者每レ人讒之、常搆二二人一。〔後漢書、寇榮傳〕青蠅之人、所二共搆會一。〔晉書、桓伊傳〕搆會之嫌隙遂成。

【搆思】7（コウシ）　考を組みたてる。構想をねる。〔南史、王筠傳〕(沈)約製二郊居賦一、搆レ思積レ時。

【搆訟】8（コウショウ）　訴訟を起す。〔福惠全書、刑名、詞訟、差拘〕其奸徒爲レ計、豈眞有レ意レ搆レ訟哉。

【搆成】9（コウセイ）　かまへつくる。くみたてる。こしらへる。形づくる。構成。〔後漢書、孔融傳〕海內英俊、皆信二服之一、曹操既積二嫌忌一、而郗慮復搆二成其罪一。

【搆擩】10（コウドウ）　事を解しない。〔集韻〕擩、搆擩、不レ解レ事。

【搆難】11（コウナン）　難をかまへる。難を起す。互に争ひ戰ふこと。〔後漢書、袁紹傳〕令三臣骨肉兄弟還爲二讎敵一、交レ鋒接レ刃、搆レ難滋甚、臣雖レ欲レ釋レ甲投レ戈、事不レ得レ已。

【搆兵】12（コウヘイ）　兵をかまへる。兵器をつらねる。軍隊を出動させる。〔孔子家語、賢君〕賢者知二其不レ用而怨レ之、不肖者知二其必己賤一而讎レ之、怨讎並存二其國一、鄰敵搆二兵於郊一、中行氏雖レ欲レ無レ亡、豈可レ得乎。

【搆離】13（コウリ）　不和になるやうに仕組む。策をもつて離閒する。搆閒。〔後漢書、西羌、滇良傳〕遣二譯使一搆二離諸種一、誘以二財貨一。

【搆不上】14 kou^{4} pu shang^{4}　達し得ない。到り得ない。

〘搆不上來〙15 kou^{4} pu shang^{4} lai　達し得ない。

【搆不着】16 kou^{4} pu chao^{2}　探りあてられない。届かない。

【捦】12448

キン コン　〔集韻〕丘禁切　ㄑㄧㄣˋ　沁　ch'in^{4}

おさへる。〔集韻〕捦、按也。

【搈】12449

㈠ヨウ ユ　〔集韻〕尹竦切　腫

㈡ヨウ ユ　〔集韻〕餘封切　冬

小篆

㈠うごく。〔說文〕搈、動搈也、从㆑手容聲。〔段注〕動搈、漢時語、廣雅曰、搈、動也。㈡❶おちつかない。〔廣韻〕搈、不㆑安。❷うごく。㈠に同じ。〔集韻〕搈、博雅、動也。

【⿰扌蚩】12450

テン　〔集韻〕丑展切　銑

うつ。〔集韻〕⿰扌蚩、擊也。

【搉】12451

㈠カク　〔集韻〕克角切　ㄑㄩㄝˋ　覺　ch'üeh^{4}

㈡クワク　〔集韻〕忽郭切　藥

小篆

㈠❶うつ。たたく。〔說文〕搉、敲擊也、从㆑手隺聲。〔廣雅、釋詁三〕搉、擊也。〔漢書、五行志中之上〕高后支㆓斷戚夫人手足㆒、搉㆓其眼㆒以爲㆓人彘㆒。〔注〕師古曰、搉、謂㆔敲擊去㆓其精㆒也。❷ひく。〔漢書、敍傳下〕揚㆓搉古今㆒。〔注〕師古曰、搉、引也。❸しめる。もつぱらにする。㲄（10－34791）に通ず。〔說文通訓定聲〕搉、段借爲㆑㲄、激遮㲄賣之意、云云、漢書武帝紀、榷㆓酒酤㆒、云云、以㆑榷爲㆑之。〔史記、鄭當時傳〕爲㆓大農僦人㆒、〔注〕集解曰、晉灼曰、當時爲㆓大農㆒任㆓使其賓客㆒、辜㆓較任僦㆒也、索隱曰、辜較字、亦作㆓酤榷㆒、搉者、獨也、言㆓國家獨搉酤㆒也。〔漢書、敍傳上〕般輸搉㆓巧於斧斤㆒。〔注〕師古曰、搉、猶㆑專也。❹きそふ。〔漢書、敍傳上〕般輸搉㆓巧於斧斤㆒。〔注〕師古曰、搉、一曰、競也。❺はかる。〔北史、孝芬傳〕商㆓搉古今㆒、間以㆓嘲謔㆒。❻あたる。〔莊子、徐無鬼〕可㆑不㆑謂㆑有㆓大揚搉㆒乎。〔釋文〕三蒼云、搉、適也。❼およそ。大略。搉揚（6）・揚搉（5－12355‥15）を見よ。〔左思、吳都賦〕商㆓搉萬俗㆒。〔注〕劉曰、搉、粗略也。❽榷（6－15283）に通ず。〔正字通〕搉、與㆑榷通。㈢手をかへす。攉（5－12951）に同じ。〔集韻〕攉、手反覆也、或从㆑隺。

【搉巧】1 カクカウ　技巧を專らにする。其の道に精しいこと。〔班固、答賓戲〕逢蒙絕㆓技於弧矢㆒、般輸搉㆓巧於斧斤㆒。〔注〕善曰、韋昭曰、搉、猶㆑專也。

【搉筦】2 カククワン　もつぱらにする。〔漢書、車千秋傳〕自以、爲㆓國家㆒興㆓搉筦之利㆒。〔注〕師古曰、搉、謂㆓專㆑利使㆑入㆑官也、筦、卽管字、義與㆑幹同、皆謂㆑主也。

【搉商】3 カクシヤウ　はかりさだめる。商搉（2－3803‥28）に同じ。

【搉場】4 カクヂヤウ　賣買を監督するところ。〔宋史、眞宗紀〕（景德二年）置㆓覇州安肅軍搉場㆒。

【搉牧】5 カクボク　草の名。〔馬融、廣成頌〕其土毛則搉牧・薦草。

【搉揚】6 カクヤウ　あらまし。大略。〔左思、魏都賦〕搉惟庸蜀與㆓鴝鵲㆒同㆑窠、〔注〕善曰、許愼淮南子注云、搉揚、搉略也。

【搉利】7 カクリ　利を專らにする。〔唐書、食貨志二〕搉㆑利借㆑商、進奉獻助。

【搉量】8 カクリヤウ　はかる。商量。〔白居易、與㆓楊虞卿㆒書〕必不㆑能㆘與㆓掊㆑聲攫㆑利者㆒搉㆗量其分寸㆖。

【搉慮】9 カクリヨ　大略をいふ。〔墨子、經、下〕攉慮不㆑疑。〔閒詁〕攉、當㆑作㆑搉、形近而誤、亦作㆑榷、廣雅釋訓云、揚搉・嫴榷・無慮、都凡也、凡古書言㆓大略計算㆒者、重㆓言之㆒曰㆓揚搉・嫴榷・無慮㆒、單㆓言之㆒則曰㆑榷、曰㆑慮、文選左思魏都賦云、榷惟庸蜀與㆓鴝鵲㆒同㆑巢、荀子議兵篇云、慮率用㆓賞慶刑罰埶詐㆒而已矣、楊注云、慮、大凡也、此又合㆓兩文㆒言㆑之曰㆓搉慮㆒、其義一也。

【⿰扌苟】12452

㈠シユン ジユン　〔字彙〕松允切　軫

㈡シユン　〔字彙〕須倫切　眞

㈠こばむ。〔字彙〕⿰扌苟、拒也。㈡えらぶ。〔字彙〕⿰扌苟、擇也。

【搊】12453

㈠シウ シユ　〔集韻〕初尤切　ㄔㄡ　尤　ch'ou^{1}

㈡シウ シユ　〔集韻〕側九切　有

㈢ス シユ　〔集韻〕莊俱切　虞

㈠❶引く。とらへる。〔廣雅、釋言〕搊、拘也。❷はじく。つまびく。〔廣韻〕搊、手搊也。〔六書故〕搊、五指摳擸也。〔唐書、禮樂志十二〕五弦、如㆓琵琶㆒而小、北國所㆑出、舊以㆓木撥㆒彈、樂工裴神符、初以㆑手彈、太宗悅甚、後人習爲㆓搊琵琶㆒。〔熊朋來、瑟賦〕立搊臥摘、竹軌木搕。❸俗に扭に作る。〔集韻〕搊、俗作㆑扭、非㆑是。㈡❶もつ。にぎる。或は⿰扌州（5－12002）に作る。〔集韻〕搊、持也、或从㆑州。❷扇の別名。〔廣韻〕搊、扇別名。㈢とく。〔集韻〕搊、解也。

【搊箏】1 シウサウ　箏をかなでる。〔唐書、禮樂志十二〕西涼伎、云云、有㆓彈㆑箏搊㆑箏。

【搊彈】2 シウダン　彈ずる。搊彈家を見よ。

〘搊彈家〙3 シウダンカ　唐代、容色の美しい庶民の女で、選ばれて宮中に入り、琵琶・五絃・箜篌・箏などを習ふ者をいふ。〔崔令欽、敎坊記〕宮中女子習㆓琵琶・三絃㆒者、謂㆓之搊彈家㆒。〔文獻通考、樂考〕平人女選入者、謂㆓之搊彈家㆒。

〘搊彈詞〙4 シウダンシ　金の董解元が作った絃索西廂をいふ。故事を編んで韻語とし、琵琶或は三絃で彈唱するもの。略して彈詞といふ。〔西河詞話〕宋末、安定郡王趙令時、始作㆓商調鼓子詞㆒、譜㆓西廂傳奇㆒、則純以㆓事實㆒譜㆓詞曲間㆒、然猶無㆓演白㆒也、金章宗朝、董解元作㆓西廂搊彈詞㆒、則有㆑白有㆑曲、專以㆓一人㆒搊彈、幷念㆓唱之㆒。

【搊琶】5 シウハ　琵琶をひく。〔宣和遺事、後集〕一旦奸邪、傾㆑天拆㆑地、忍聽㆑搊㆑琶。

【搊琵琶】6 シウビハ　琵琶の一種。五絃で、撥を用ひず、手の爪を以て彈奏する。〔陳暘、樂書〕五絃琵琶、蓋出㆓於北國㆒、其形制如㆓琵琶㆒而小、舊彈以㆑木、唐太祖時、始有㆓手彈之法㆒、所謂搊琵琶、是也。

【⿰扌閃】12454

㈠セン　〔集韻〕失冉切　琰

㈡セン　〔集韻〕舒贍切　豔

㈠はやくうごくさま。〔集韻〕⿰扌閃、疾動皃。〔潘岳、射雉賦〕⿰扌閃降㆑丘以馳㆑敵。〔注〕銑曰、⿰扌閃、疾貌也。㈡のぶ。又、はやくうごく。掞（5－12270）に同じ。〔集韻〕掞、舒也、一曰、疾動、或从㆑閃。

【揀】12455

シヨウ　竦（8－25776）の古字。〔玉篇〕揀、古文竦。

【⿰扌虔】12456

[一]ケン ゴン 〔集韻〕渠言切 元

[二]ケン 〔集韻〕丘虔切 先

[三]カン ケン 〔集韻〕丘顏切 刪

小篆

[一][二][三]❶ひきあふ。〔說文〕⿰扌虔、相援也、从レ手虔聲。❷になふ。かつぐ。〔通雅、釋詁〕⿰扌虔、以レ肩擧レ物也。❸あばきあふ。〔通雅、釋詁〕⿰扌虔、互訐告也。

【搋】12457

[一]チ 〔集韻〕丑豸切 紙

[二]イ 〔集韻〕演爾切 紙

[三]イ 〔集韻〕余支切 支

[四]タイ テ 〔集韻〕樝佳切 佳 ㄔㄨㄞ ch'uai¹

[一][二]❶さく。〔集韻〕搋、析也。❷ひく。〔增韻〕搋、拽也。❸或は扡(5－11805)・拸(5－12008)・拖(5－11961)に作る。〔集韻〕搋、或作ニ扡・拸一。〔集韻〕搋、或作ニ拸・拖一。[三]からかふ。⿰虒欠(6－16166)・⿰扌⿰虒欠(5－12865)に同じ。〔集韻〕⿰虒欠、說文、人相笑相⿰虒欠瘉、或作レ⿰扌⿰虒欠、亦省。[四]❶うつ。扠(5－11804)に同じ。〔集韻〕扠、以レ拳加レ物、或作レ搋。❷[現]いれる。

【搌】12458

[一]テン 〔集韻〕知輦切 銑 ㄓㄢˇ chan³

[二]テン 〔集韻〕陟扇切 霰

[一]❶のびきる。〔廣雅、釋訓〕搌⿰扌善、展極也。❷醜く長いさま。〔玉篇〕⿰扌善、搌⿰扌善、醜長皃。❸しばる。〔集韻〕搌、一曰、縛束也。❹展(4－7715)に通ず。〔正字通〕搌、與レ展通。❺或は㠭(4－8735)に作る。〔說文通訓定聲〕㠭、字亦作レ搌。[二]❶まく。〔集韻〕搌、捲也。❷ぬぐふ。〔集韻〕搌、拭也。

【損】12459 ソン 〔集韻〕鎖本切 阮 ㄙㄨㄣˇ suen³

小篆

❶へす。へらす。〔說文〕損、減也、从レ手員聲。〔荀子、大略〕益ニ上之譽一、而損ニ下之憂一。〔注〕損、減也。❷へる。減少する。〔淮南子、本經訓〕取レ焉而不レ損。〔注〕損、減也。〔墨子、經上〕損、偏去也。〔後漢書、范升傳〕老子曰、學レ道日損、損、猶レ約也。❸いためる。そこなふ。〔正字通〕損、傷也。〔鬼谷子、捭闔〕益損去就倍反。〔注〕以レ事相賊曰レ損。〔吳志、樓玄傳〕勞ニ損聖慮一。❹そしる。〔淮南子、說山訓〕小人之譽、人反爲レ損。〔注〕損、毀也。❺うしなふ。〔字彙〕損、失也。〔晉書、杜預傳〕不レ過三費二損日月之閒一。❻おさへる。へりくだす。〔字彙〕損、貶也。〔史記、晏嬰傳〕御者乃自抑損。〔魏志、管輅傳〕未レ有下損レ己而不ニ光大一、行レ非而不中傷敗上。〔晉書、安平王孚傳〕常自退損。❼よわる。つかれる。〔南史、陶潛傳〕疾患以來、漸就ニ衰損一。❽古は扻(5－11847)に作る。〔集韻〕損、古作レ扻。❾易の六十四卦の一。䷨兌下艮上。下を減少し、上に增加する象。〔易、損〕山下有レ澤、損。〔程傳〕爲ニ損レ下益レ上之義一。❿[現]けち。吝嗇。滿洲方言。[邦]そん。㋑利を失ふこと。資本・所有物などを失ふこと。㋺そこなふこと。㊇不得策。

[名乘] チカ。

【損菴】1 ソンアン 字號。❶漢、馮光裕(12－44579・・199)の號。❷清、吳愁(2－3365・・379)の號。❸清、賴以邪(10－36861・・30)の字。

【損友】2 ソンイウ 交はれば反つて不利を受ける友。有害の友。〔論語、季氏〕益者三友、損者三友、友レ直、友レ諒、友ニ多聞一、益矣、友ニ便辟一、友ニ善柔一、友ニ便佞一、損矣。

【損挹】3 ソンイフ おさへしりぞける。慢心を抑へてへりくだる。抑損。〔後漢書、光武紀下〕陛下情存ニ損挹一、推而不レ居。

【損盈】4 ソンエイ へることとみちること。〔列子、天瑞〕損盈成虧、隨世隨死。

【損益】5 ソンエキ ❶へることとふえること。又、へらすことゝますこと。又、或はへらし、或はます。ましたりへらしたりする。增減。加減。〔易、損〕損剛益柔有レ時、損益盈虛、與レ時偕行。〔禮、三年問〕別ニ親疏貴賤之節一、而弗レ可ニ損益一也。〔論語、爲政〕殷因ニ於夏禮一、所ニ損益一可レ知也。〔荀子、榮辱〕謹守ニ其數一、愼不ニ敢損益一也。〔管子、乘馬〕天地莫ニ之能損益一也。〔鬼谷子、內揵〕先取ニ詩書一混說、損益議レ去論レ就。〔史記、禮書〕觀ニ三代損益一。〔漢書、禮樂志〕所ニ損益一可レ知也。❷損害と利益。〔諸葛亮、出師表〕至下於斟ニ酌損益一、進盡中忠言上、則攸之・禕・允之任也。❸損の卦と益の卦。〔易、雜卦〕損・益、盛衰之始也。〔杜甫、兩當縣吳十侍御江上宅詩〕仲尼甘ニ旅人一、向子識ニ損益一。〔集注〕修可曰、後漢向長、字子平、潛ニ隱於家一、讀レ易至ニ損・益卦一、喟然嘆曰、吾知ニ富不レ如レ貧、貴不レ如レ賤、未レ知三死何ニ如生一耳。

【損益之友】6 ソンエキノトモ 損友(2)と益友(8－22972・・2)。〔孔融、論ニ盛孝章一書〕吾祖不レ當三復論ニ損益之友一。

【損怨】7 ソンエン うらみをへらす。怨恨を解く。〔左氏、襄、三十一〕我聞ニ忠善以損レ怨。

【損改】8 ソンカイ 改め無くする。〔後漢書、宦者、呂強傳〕實願陛下損ニ改既謬一、從レ此一止。

【損害】9 ソンガイ そこなふ。又、利益をそこなひ害せられること。既有の利益を失ふこと。〔左氏、昭、元、雖レ憂何害、注〕雖レ有ニ憂患一、無レ所ニ損害一也。〔人物志、七繆〕夫人情莫レ不下趨ニ名利一、避中損害上。

〖損害賠償〗10 ソンガイバイシヤウ 他に對して損害を及ぼしたとき、之を補ひつぐなふこと。

〖損害保險〗11 ソンガイホケン 火災保險・海上保險のやうに、偶然の損害を塡補するための保險。

【損耗】12 ソンカウ へる。へらす。いためへらす。損失。耗は又、秏に作る。〔漢書、東方朔傳〕損ニ耗五穀一。〔魏志、蘇則傳〕戶口損耗、則撫ニ循之一。〔南史、傅縡傳〕貨賄公行、帑藏損耗。

【損巖】13 ソンガン 明、朱淛(6－14424・・412)の號。

【損己】14 ソンキ 己をおさへる。へりくだること。〔魏志、管輅傳〕山在ニ地中一曰レ謙、雷在ニ天上一曰レ壯、謙則裒レ多益レ寡、壯則非レ禮不レ履、未レ有下損レ己而不ニ光大一、行レ非而不中傷敗上。

【損氣】15 ソンキ ❶健康を害する。〔陸游、詩〕問レ因損レ氣嗟誰念、學レ道刳レ心恐ニ已遲一。❷陰の氣。肅殺の氣。金氣。〔淮南子、時則訓〕求ニ不孝不悌一、戮ニ暴傲悍一而罰レ之、以助ニ損氣一。〔集解〕損氣、陰氣。

【損棄】16 ソンキ すてる。〔淮南子、精神訓〕人主之所下以殘ニ亡其國家一、損ニ棄其社稷一、身死ニ於人手一、爲中天下笑上。

【損墮】17 ソンキ そこなひこぼつ。〔淮南子、人閒訓〕忠臣事レ君也、辭レ所レ不レ能、而受レ所レ能、則得下無ニ損墮之勢一、而無中不レ勝之任上矣。

【損金】18 ソンキン ❶黃金を棄てる。又、黃金を破毀する。❷金錢を失ふ。又、失つた金錢。

〖損金袋〗19 ソンキンブクロ 宴會などで祝儀を入れて與へる袋。散財袋。

【損壞】20 ソンクワイ いたみやぶれる。〔南史、隱逸下、阮孝緒傳〕其恒供ニ養石像一、先有ニ損壞一、心欲レ補レ之。

【損惠】21 ソンケイ めぐみあたへる。有するものを減らして惠與する意。〔顏氏家訓、勉學〕江南有ニ一權貴一、讀ニ誤本蜀都賦一、注解ニ蹲鴟、芋也一、乃爲ニ羊字一、人饋ニ羊肉一、答書云、損ニ惠蹲鴟一、擧朝驚駭、不レ解ニ事義一、久後尋レ迹、方知レ如レ此。〔說林〕有丁人謝ニ惠レ羊者一、曰丙損乙惠蹲鴟甲、蓋平日誤讀レ芋爲レ羊也。

【損缺】22 ソンケツ いたみかける。〔荀悅、祿制論〕清節毀傷、公儀損缺。

【損闕】23 ソンケツ いたみ缺ける。〔後漢書、黃瓊傳〕顧ニ省政事有レ所ニ損闕一。

【損軒】24 ソンケン 貝原篤信の號。貝原益軒(10－36656・・56)を見よ。

【損減】25 ソンゲン おとしへらす。へらす。〔史記、樂書〕君子以二謙退一爲レ禮、以二損減一爲レ樂。〔漢書、貢禹傳〕方今天下飢饉、可レ亡三大自損減以救レ之、稱二天意一乎。〔後漢書、王符傳〕促短者、非レ謂二分度損減一。

【損齋】26 ソンサイ 字號。❶明、梅純(6－14830・・157)の號。❷清、惲彥琦(4－10857・・10)の號。❸清、陳善(錢塘の人)(11－41698・・422)の號。

【損之】27 ソンシ 字號。❶唐、李宗閔(6－14459・・1634)の字。❷宋、魏宏(12－45872・・37)の字。❸宋、劉師道(2－2224・・1006)の字。❹金、賈益(10－36755・・10)の字。❺宋、陳越(11－41698・・33)の字。❻明、田益(7－21723・・13)の字。❼清、徐晟(4－10110・・184)の字。❽清、張修(4－9812・・364)の號。❾清、趙文哲(10－37171・・877)の字。

【損失】28 ソンシツ ❶そこね失ふ。損害。〔後漢書、和帝紀〕若有レ所二損失一、以レ實除レ之。❷利益を失ふこと。財産を減少すること。

【損傷】29 ソンシヤウ ❶いたみやぶれる。いたむ。又、いためる。やぶる。〔後漢書、陳蕃傳〕青徐炎旱、穀損傷。❷人身をそこなふを損といひ、血を出すを傷といふ。〔唐律、名例〕其於二人損傷一。〔疏議〕損、謂レ損二人身體一、傷、謂レ見レ血爲レ傷。

【損壽】30 suen^3 shou^4 壽命を縮める。

【損所】31 ソンシヨ 物のいたんだ箇所。

【損書】32 ソンシヨ ❶書物をすてる。〔莊子、山木〕徐行翔佯而歸、絕レ學損レ書。❷自分の書の謙稱。〔劉琨、答二盧諶一詩序〕損書及詩、備二辛酸之苦言一、暢二經通之遠旨一。

【損處】33 suen^3 ch'u^4 損。不利益。

【損辱】34 ソンジヨク そこなひはづかしめる。〔後漢書、楊震傳〕擾二亂天下一、損二辱清朝一。〔楊脩、答二臨淄侯一牋〕損二辱嘉命一。

【損心】35 ソンシン 心をそこなふ。〔莊子、大宗師〕彼有レ駭レ形而無レ損レ心。

【損神】36 ソンシン 心をそこなふ。損心に同じ。

【損人】37 ソンジン 他人を損傷する。人を譏る。人をけなす。〔舊唐書、陸象先傳〕爲レ政者、理則可矣、何必嚴レ刑樹レ威、損レ人益レ己、恐レ非二仁恕之道一。

〔損人利己〕38 suen^3 jen^2 li^4 chi^3 人を傷めて自分を利する。極めて不德義なこと。

【損生】39 ソンセイ 生をそこなふ。肉體をそこなふ。〔列子、楊朱〕原憲之窶、損レ生。

【損省】40 ソンセイ へらしはぶく。〔後漢書、桓帝紀〕詔曰、云云、其輿服制度、有二踰レ侈長レ飾者一、皆宜二損省一。

【損精】41 ソンセイ 精力を損耗する。〔韓非子、揚權〕夫香美脆味、厚酒肥肉、甘レ口而疾レ形、曼理皓齒、說レ情而損レ精。〔集解〕先愼曰、乾道本、損、作レ捐。

【損消】42 ソンセウ そこなはれへる。又、そこなひへらす。〔阮籍、詠懷詩〕顏色改二平常一、精神自損消。

【損瘠】43 ソンセキ おとろへやせる。〔管子、八觀〕稼亡二三之一一、而非レ有二故蓋積一也、則道有二損瘠一矣。〔注〕道行之人、有二毀損羸瘠者一也。〔蘇頲、處二分朝集使一勅〕損瘠相仍。

【損折】44 ソンセツ そこなひをる。〔北史、儒林下、樊深傳〕至三馬驚墮レ地損二折支體一、終亦不レ改。

【損膳】45 ソンゼン 御馳走をへらす。又、食膳の費用を減ずる。〔史記、平準書〕天子乃損レ膳。〔漢書、元帝紀〕六月、以二民疾疫一、令下大官損レ膳、減二樂府員一、省二苑馬一、以振中困乏上。

【損瘦】46 ソンソウ おとろへやせる。〔張敏、神女賦序〕夫鬼魅之下人也、無レ不二羸病損瘦一、迺平安無レ恙、豈不レ異哉。

【損兌】47 ソンタイ 耳目をすてる。耳目のはたらきをおさへ、心眼・心耳を以て視聽すること。兌は、耳・鼻・眼・口等をいふ。一說に、兌は心眼、損兌は他慮を減損して心眼を以て察すること。〔鬼谷子、本經陰符〕損レ兌法二靈蓍一。〔注〕莊子曰、心有レ眼、然則兌者、謂下以二心眼一察中理也、損者、謂下減二損他慮一、專以レ心察上也、兌能知二得失一、蓍能知二休咎一、故損レ兌法二靈蓍一也。

【損道】48 ソンダウ 宋、鄒餘(11－39562・・54)の字。

【損奪】49 ソンダツ へらしうばふ。〔漢書、魏相傳〕宜レ有下以損二奪其權一、破中散陰謀上。

【損短】50 ソンタン ❶へらし短くする。〔管子、明法解〕尺寸尋丈者、所三以得二長短之情一也、云云、是故尺寸之度、雖二富貴衆強一、不二爲益長一、雖二貧賤卑辱一、不二爲損短一也。❷そしる。〔唐書、裴度傳〕乃共訾二其跡一、損二短之一。

【損持】51 ソンヂ 清、張尚瑗(4－9812・・1157)の字。

【損仲】52 ソンチユウ 明、王惟儉(7－20823・・1130)の字。

【損絀】53 ソンチユツ おとししりぞける。〔荀子、仲尼〕主疏二遠之一、則全一而不レ倍、主損二絀之一、則恐懼而不レ怨。

【損除】54 ソンヂヨ へらしのぞく。〔魏志、和洽傳〕方今之要、固在下息二省勞煩之役一、損中除他餘之務上。

【損徹】55 ソンテツ へらしとりさる。〔後漢書、安帝紀論〕至下乃損二徹膳服一、克念中政道上。

【損田】56 ソンデン 水旱・蟲霜等によつてそこなはれた田。〔主計寮式、下〕凡諸國申二損田一、年損戶、三分論レ之、七分已上、戶一分已下、五分已上、戶二分已下、以爲二定例一。

【損得】57 ソントク 損と得。損失と利得。

【損年】58 ソンネン ❶年齡を少くいふこと。〔淮南子、說林訓〕損レ年則嫌二于弟一、益レ年則疑二于兄一。〔魏志、司馬朗傳〕十二試レ經、爲二童子郎一、監レ試者、以二身體壯大一、疑二其匿レ年、劾問、朗曰、朗之內外、累世長大、朗雖二稚弱一、無二仰高之風一、損レ年以求二早成一、非二志所レ爲也。❷壽命をちぢめる。わかじにする。〔庾信、小園賦〕崔駰以レ不レ樂損レ年、呂質以二長愁一養レ病。

【損敗】59 ソンバイ そこなひやぶれる。又、其のこと。敗殘。〔顏氏家訓、文章〕但其損敗居レ多耳。〔隋書、食貨志〕每年牧積、勿レ使二損敗一。

【損亡】60 ソンバウ 利益を失ふこと。

【損薄】61 ソンハク へらす。少くする。〔說苑、反質〕卑二小宮室一、損二薄飲食一。

【損貶】62 ソンペン へらす。品質を惡くする。〔唐書、張文錫傳〕日膳豐鮮、無二損貶一。

【損甫】63 ソンホ 清、董士錫(9－31433・・204)の字。

【損名】64 ソンメイ 名をおとす。評判を惡くする。〔唐書、李安遠傳〕急刻少レ恩、由レ是損レ名。

【損命】65 suen^3 ming^4 命をおとす。

【損抑】66 ソンヨク おさへしりぞける。又、自らをおさへてへりくだる。損挹。抑損。降損。〔後漢書、蔡邕傳〕人自損抑、以塞二咎戒一。〔宋書、王僧綽傳〕懼二其太盛一、勸令二損抑一。

【損爛】67 ソンラン いためる。そこなふ。〔冊府元龜〕後唐明宗、長興二年乙卯、宣制曰、先南北兩軍前倉場持主、損爛欠折、據三主持人見在家業勒二收納一外、餘放レ所レ欠。

【損料】68 ソンレウ 衣服・物品などを貸した代として取る金錢。

〔損料貸〕69 ソンレウガシ 損料を取つて貸すこと。

【損裂】70 ソンレツ こはれる。破損。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕無二損裂及活孔縫痕一。

【損穢】71 ソンワイ いためけがす。〔范曄、宦者傳論〕卒有二蕭周之禍一、損二穢帝德一焉。

【損者三樂】72 ソンシヤサンガウ ソンシヤサンラク 人の身の損失となる三つのこのみ。驕樂を好むこと。佚遊を好むこと。宴樂を好むこと。〔論語、季氏〕益者三樂、損者三樂、樂レ節二禮樂一、樂レ道二人之善一、樂レ多二賢友一、益矣、樂二驕樂一、樂二佚遊一、樂二宴樂一、損矣。〔集疏〕陸德明云、三樂、五教反、物茂卿云、樂、皆音洛。

【揁】12460

サ　〔集韻〕損果切　哿

❶**きたへる**。〔集韻〕揁、揣擊也。❷**うごかす**。〔集韻〕揁、一曰、動也。

【⿰扌屑】12461

セツ セチ　〔集韻〕先結切　屑

❶**ぬきだす**。ひきぬく。〔集韻〕⿰扌屑、挻二出物一也。❷**かぞへる**。〔集韻〕⿰扌屑、一曰、揲也。

【搮】12462

㊀サク　〔集韻〕昔各切　藥　ㄙㄨㄛˇ suo^3

㊁サク シヤク　〔集韻〕色窄切　陌

【摗】 12463　㊀ソ　〔集韻〕蘇故切　遇　㊁サク

㊀❶**さぐる**。なでる。〔集韻〕摗、摸也。㊁❶**えらぶ**。〔集韻〕摗、擇也。❷**とる**。もとめる。索(**8－27306**)に通ず。〔正字通〕摗、與レ索通。〔太玄經、玄數〕參珍睟精、以摗レ數。

【摗】 12463　㊀ソ　〔集韻〕蘇故切　遇　㊁サク

㊀**てさぐりで物をとる**。〔集韻〕摗、暗取レ物也。㊁摗(**5－12462**)の俗字。〔正字通〕摗、俗摗字。

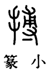
【搎】 12464　ソン　〔集韻〕蘇昆切　元　ㄙㄨㄣ　suen¹

さぐる。或は撰(**5－12843**)に作る。〔廣韻〕搎、捫搎、摸摗也。〔集韻〕搎、捫也、或从レ廾。

【𢶡】 12465　カイ　〔集韻〕柯開切　灰

ふれる。〔集韻〕𢶡、觸也。

【搏】 12466　㊀ハク　〔集韻〕伯各切　藥　ㄅㄛˊ　po²　㊁フ　〔集韻〕方遇切　遇　㊂ホ ブ　〔集韻〕蒲故切　遇


小篆

㊀❶**とらへる**。さがして捕へる。〔說文〕搏、索持也、从レ手尃聲。〔周禮、秋官、環人〕搏二諜賊一。〔左氏、莊、十二〕右顓孫生搏レ之。〔注〕搏、取也。❷**とる**。〔史記、李斯傳〕鑠金百鎰、盜跖不レ搏。〔注〕索隱曰、搏、猶レ攫也、取也。〔張衡、西京賦〕摭二紫貝一、搏二耆龜一。〔注〕綜曰、搏・摭、皆拾取之名。❸**うつ**。なぐる。素手でうつ。攴(**5－13154**)に通ず。〔說文通訓定聲〕搏、叚借爲レ攴。〔廣雅、釋詁三〕搏、擊也。〔穀梁、僖、元〕屏二左右一而相搏。〔注〕搏、手搏也。〔荀子、正論〕詈侮捽搏。〔注〕搏、手擊也。〔荀子、富國〕是猶下烏獲與二焦僥一搏上也。〔注〕搏、鬭也。〔史記、魏其武安侯傳〕夫醉搏レ甫。〔注〕索隱曰、搏、擊也。❹**はうつ**。鳥が翼でうつ。羽ばたく。〔禮、儒行〕鷙鳥攫搏。〔疏〕以レ翼擊レ之曰レ搏。〔莊子、逍遙游〕搏二扶搖一羊角而上。〔釋文〕搏、崔云、拊レ翼徘徊而上也。❺**たたく**。拍(**5－11952**)に通ず。〔說文通訓定聲〕搏、叚借爲レ拍。〔集韻〕搏、一曰、拊也。〔周禮、考工記、總目〕搏埴之工二。〔注〕搏之言、拍也。〔史記、李斯傳〕彈レ箏搏レ髀。❻**樂器の名**。なめし皮に糠をつめたもので、手でたたいて鳴らす。〔釋名、釋樂器〕搏、拊也、以レ韋盛レ糠、形如レ鼓、以レ手拊二拍之一也。❼**はりつけにする**。膊(**9－29782**)に通ず。〔說文通訓定聲〕搏、叚借爲レ膊。〔周禮、秋官、掌戮〕掌下斬二殺賊諜一而搏上レ之。〔注〕搏、當レ爲下膊二諸城上一之膊上、字之誤也。〔釋文〕搏、磔也。❽**わき**。側面。〔山海經、西山經〕東望二恒山四成一、有窮鬼居レ之、名在二一搏一。〔注〕搏、猶レ脅也、羣鬼各以レ類聚二處山四脅一。❾**せまる**。いたる。迫(**11－38797**)・薄(**9－32083**)に通ず。〔說文通訓定聲〕搏、叚借爲レ迫。〔說文〕搏、一曰、至也。〔左氏、昭、十七〕水火所二以合一也、〔注〕水火合而相搏。〔釋文〕搏、本又作レ薄。❿伯(**1－466**)に通ず。〔禮、月令、鵙始鳴、注、鵙搏勞、釋文〕搏、又作レ伯。⓫博(**2－2761**)に通ず。〔漢書、高惠高后孝文功臣表、搏揜完爲二城旦一、注〕師古曰、搏、字或作レ博。⓬髆(**12－45241**)に通ず。〔說文通訓定聲〕搏、叚借爲レ髆。㊁㊂❶**とらへる**。**とる**。捕(**5－12157**)に同じ。〔集韻〕搏、擊取也、或作レ捕。〔集韻〕捕、說文、取也、或作レ搏。〔詩、小雅、無羊、以雌以雄、箋〕搏二禽獸一以來歸也。〔釋文〕搏、亦作レ捕。❷**つぼめる**。鍵のばねをつぼめること。〔禮、月令、脩二鍵閉一、愼二管籥一、注〕管籥、搏レ鍵器也。❸搏穀は、鳥の名。鳩。布(**4－8778**)に通ず。〔禮、月令、鷹化爲レ鳩、注、鳩搏穀、疏〕釋鳥云、鳴鳩、鶻鵃、郭云、今之布穀也、云云、彼云レ布此云レ搏者、布・搏、聲相近。❹鋪(**11－40491**)に通ず。〔說文通訓定聲〕搏、叚借爲レ鋪。

參考　摶(**5－12642**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕搏、音博、擊也、摶、音團、聚也。

【搏景】1 ハクエイ　陰影をうつ。捕へ得ないことの喩。搏影。〔管子、兵法〕善者之爲レ兵也、使二敵若レ據レ虛、若レ搏レ景。〔漢書、主父偃傳〕匈奴獸聚而鳥散、從レ之如レ搏レ景。〔注〕師古曰、搏、擊也、搏二人之陰景一、言レ不レ可レ得也。

【搏影】2 ハクエイ　搏景に同じ。〔史記、主父偃傳〕夫匈奴之性、獸聚而鳥散、從レ之如レ搏レ影。

【搏銳】3 ハクエイ　物をうつことがするどい。きびしいこと。〔管子、幼官〕藏二恭敬一行二搏銳一。

【搏搖】4 ハクエウ　翼でつむじ風をうつ。つむじ風に乘じて飛ぶこと。又、羽ばたき上る。搖は、扶搖、つむじ風。又、のぼる。莊子、逍遙遊の搏二扶搖一から出た語。〔莊子、逍遙遊〕搏二扶搖一而上者九萬里。〔梁元帝、玄覽賦〕且搏搖以九萬、乍高風而三千。〔李白、上二李邕一詩〕大鵬一日同レ風起、搏搖直上九萬里。

【搏掩】5 ハクエン　搏揜に同じ。〔漢書、貨殖、宣曲任氏傳〕掘レ冢搏掩、犯レ姦成レ富。〔注〕師古曰、搏掩、謂下搏擊掩二襲取人物一者上也、搏、字或作レ博、一說、博、六博也、掩、意錢之屬也、皆戲而賭二取財物一。

【搏揜】6 ハクエン　強盜又は博戲によつて人の財物を取ること。搏掩。博揜。〔漢書、高惠高后孝文功臣表〕元狩元年、侯拾嗣九年、元鼎四年、坐下入二上林一謀レ盜レ鹿、又搏揜上、完爲二城旦一。〔注〕師古曰、搏揜、搏二擊揜三襲人一、而奪二其物一也、搏字或作レ博、一曰、博、六博也、揜、意錢之屬、皆謂三戲而取二人財一也。

【搏援】7 ハクエン　うつこととひくこと。〔淮南子、主術訓〕若下五指之屬二於臂一、搏援攫捷、莫上レ不レ如レ志。

【搏競】8 ハクキヤウ　うちあふ。〔福惠全書、刑名部、姦情、鞫姦〕體無二搏競之傷一。

【搏獲】9 ハククワク　うちとる。〔後漢書、荀彧傳〕先帝貴二指縱之功一、薄二搏獲之賞一。

【搏攫】10 ハククワク　うつ。たたく。攫は、撲ちとる。〔呂覽、決勝〕鷙鳥之擊也、搏攫則殪。

【搏撠】11 ハクゲキ　うつ。たたく。撠も、うつ。一說に、素手でうつことと戟で刺すこと。〔史記、孫子傳〕孫子曰、夫解二雜亂紛糾一者不二控捲一、救レ鬭者不二搏撠一。〔注〕索隱曰、謂下救レ鬭者、當二善爲三搗二解之一、無二以レ手助相搏撠一、則其怒益熾矣、按、撠、謂二以レ手持レ撠刺一レ人也。

【搏擊】12 ハクゲキ　うつ。たたく。なぐる。やつつける。〔漢書、翟方進傳〕搏二擊豪彊一、京師畏レ之。〔後漢書、酷吏、董宣傳〕搏二擊豪彊一、莫レ不二震慄一。

【搏蹶】13 ハクケツ　手でうつことと足でふむこと。〔論衡、論死〕手不レ能レ搏、足不レ能レ蹶。

【搏嚙】14 ハクゲツ　うつこととかむこと。搏噬。〔陸龜蒙、奉レ酬二襲美先輩吳中苦雨一百韻一詩〕初驚二蚩尤陣一、虎豹爭搏嚙。

【搏猏】15 ハクケン　猏を手うちにする。猏は豣、三歲の豕、卽ち大豕をいふ。〔晏子、諫、下〕公孫接・田開疆・古冶子、事二景公一、以二勇力搏一レ虎聞、云云、接一搏レ猏、而再搏二乳虎一。

【搏虎】16 ハクコ　虎を手うちにすること。轉じて、無謀の勇の意。〔孟子、盡心下〕晉人有二馮婦者一、善

搏レ虎、卒爲二善士一。〔淮南子、繆稱訓〕中行繆伯、手搏レ虎。〔注〕力能搏二生虎一也。

【搏穀】17（ハクコク） 鳩の異名。〔禮、月令、鷹化爲レ鳩、注〕鳩、搏穀也。

【搏桑】18（ハクサウ） 日の出る所。扶桑。搏は榑フの誤。〔淮南子、覽冥訓〕朝發二搏桑一、暮入二落棠一。〔注〕搏桑、日所レ出也。

【搏殺】19（ハクサツ） 手うちにしてころす。格殺。〔左氏、宣、二〕公嗾二夫獒一焉、明搏而殺レ之。

【搏撮】20（ハクサツ） うちつかむ。〔法苑珠林〕入レ宮搏「撮。

【搏摯】21（ハクシ） うちとらへる。搏鷙に同じ。〔張衡、西京賦〕雨雪飄飄、冰霜慘烈、百卉具零、剛蟲搏摯。〔注〕五臣作レ鷙、音至、綜曰、草木零落、陰氣盛殺、鷹犬之屬可二摯擊一也、濟曰、搏、擊也、摯、執也。

【搏鷙】22（ハクシ） うちとらへる。搏摯。〔呂覽、季夏、鷹乃學習、注〕秋節將レ至、故鷹順二殺氣一、自習肆、爲レ將二搏鷙一也。〔淮南子、原道訓〕秋風下レ霜、到生挫傷、鷹鵰搏鷙、昆蟲蟄藏。〔易林、既濟之第六十三、大壯〕孟春和氣、鷹隼搏鷙、衆雀憂憒。

【搏獸】23（ハクジウ） 獸をうつ。狩をして獸をうち捕へること。〔詩、小雅、車攻〕建レ旐設レ旄、搏二獸于敖一。〔箋〕獸、田獵搏レ獸也。

【搏執】24（ハクシフ） とらへる。めしとる。捕縛。〔禮、月令〕〔孟秋之月〕務二搏執一。〔孟子、離婁下〕有レ故而去、則君搏二執之一。

【搏手】25（ハクシユ） 兩手をうつ。計略のないことをいふ。搏は一本に摶に作る。摶は、にぎる・つかねる。〔後漢書、龐參傳〕田疇不レ能二墾闢一、禾稼不レ得二收入一、搏レ手困窮、無レ望二來秋一。〔注〕兩手相搏、言レ無レ計也。

【搏取】26（ハクシユ） 捕獲する。捕へる。〔周禮、天官、鼈人〕以レ時籍二魚鼈龜蜃凡貍物一、〔注〕鄭司農云、籍、謂下以レ杈刺二泥中一搏中取之上。

【搏埴】27（ハクシヨク） 粘土をまるめて陶器を造ること。又、其の工人。陶人。搏を摶に作るは誤り。〔周禮、考工記、總目〕搏埴之工二。〔注〕搏之言、拍也、埴、黏土也。〔孫詒讓正義〕搏、唐石經作レ摶、釋文同、誤也、今據二宋余仁仲本・建陽本、及嘉靖本一正、云云、注云二搏之言拍也一者、搏、釋文亦作レ搏、云、李音團、劉音搏、戴震云、團音當二手旁專一、搏音手旁專、絕然二字、譌溷莫レ辨、鄭注搏之言拍、取二音聲相邇一爲レ訓、拍、古音搒各反、釋名云、拍、搏也、手搏二其上一也、又云、搏、博也、四指廣博、亦似レ擊レ之也、據レ此定從二博音一、阮元云、按レ注則當レ從二劉昌宗音搏一、李軌音團、釋文唐石經作レ摶、誤也、段玉裁云、說文手部、搏、索持也、拍、拊也、是搏之本義不レ訓レ拍、故鄭以二之言一通レ之、案、戴・阮・段說、是也、凡注云二某之言某一者、多依レ聲爲レ訓、若二天官敍官注云、膳之言善、庖之言苞一、並其例也、此注搏・拍聲相近、若作レ摶、則與レ拍聲義倶遠、足レ證二其非一、說文手部云、拍、拊也、拍與レ拍同、此云、搏レ埴、卽旗人注所謂拊レ泥也、賈疏云、以レ手拍二黏土一以爲レ培、乃燒レ之。

【搏蝕】28（ハクシヨク） へづりとる。〔福惠全書、雜課部、雜徵餘論〕官與レ胥、爭搏二蝕于小民一矣。

【搏心】29（ハクシン） むねをうつ。なげくこと。〔漢書、王莽傳下〕因搏レ心大哭。

【搏噬】30（ハクゼイ） つかみくらふ。攫噬。〔列子、黃帝〕異類雜居、不二相搏噬一也。〔曹植、求二自試一表〕試二之狡兔之捷一、以驗二搏噬之用一。

【搏摭】31（ハクセキ） ひろふ。〔張衡、西京賦〕摭二紫貝一、搏二耆龜一。〔注〕綜曰、搏・摭、皆拾取之名。

【搏戰】32（ハクセン） うち合つてたたかふ。組討。格鬭。〔逸周書、大武解〕政攻侵伐搏戰。〔史記、白起傳〕趙括出二銳卒一自搏戰。〔漢書、李陵傳〕虜見二漢軍少一、直前就レ營、陵搏戰攻レ之。〔魏志、張郃傳〕郃率二親兵一搏戰。

【搏腊】33（ハクソ） 草履の異名。不借(1−19‥476)に同じ。〔釋名、釋衣服〕不借、言五賤易レ有、宜四各自蓄レ之、不三假二借人一也、齊人云二搏腊一、搏腊猶二把鮓一、麤貌也。

【搏鼠】34（ハクソ） 鼠をうつ。〔荀子、解蔽〕曾子曰、是其庭可二以搏レ鼠、惡能與レ我歌矣。

【搏討】35（ハクタウ） うつ。〔白虎通、五行〕其精白虎、虎之爲レ言搏・討也。

【搏逐】36（ハクチク） うつて追ひかける。〔蘇洵、禮論〕奮レ手擧レ挺、而搏二逐之一、可也。

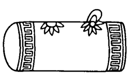
【搏杖】37（ハクチヤウ） 杖をもつ。〔呂覽、異用〕孔子之弟子從二遠方一來者、孔子荷レ杖而問レ之曰、子之公不レ有レ恙乎、搏レ杖而揖レ之、問曰、子之父母不レ有レ恙乎、置レ杖而問曰、子之兄弟不レ有レ恙乎。〔畢沅新校正〕孫云、御覽七百十、云云、搏杖、作二持杖一、云云、廣韻杖字下引云、孔子見二弟子一、抱レ杖而問二其父母一。

【搏鬬】38（ハクトウ） うち合つて戰ふ。〔唐書、藩鎭盧龍、李載義傳〕性矜蕩、好與二豪傑一游、力挽レ彊搏鬬。

【搏髀】39（ハクヒ） 股をうつ。〔戰國、秦策〕夫擊レ甕叩レ缻、彈レ箏搏レ髀、歌呼嗚嗚、快二耳目一者、眞秦之聲也。〔史記、馮唐傳〕上既聞二廉頗・李牧爲レ人良一、說而搏レ髀曰、嗟乎、吾獨不レ得二廉頗・李牧一時爲二吾將一、吾豈憂二匈奴一哉。〔文心雕龍、諧讔〕夫觀二古之爲レ隱、理周二要務一、豈爲二童稚之戲謔一、搏レ髀而忭笑哉。〔戴表元、義蜂行詩〕我來訪レ翁親目睹、搏レ髀不レ覺長咨嗟。

【搏仆】40（ハクフ） うちたふす。

【搏拊】41（ハクフ） ❶うつ。樂器などをうちならす。〔書、益稷〕戛二擊鳴球一、搏二拊琴瑟一以詠。〔蔡傳〕搏、至、拊、循也、云云、蓋戛二擊鳴球一、搏二拊琴瑟一、以合二詠歌之聲一也。❷手を擧げる。〔馬融、長笛賦〕失レ容墜レ序、搏拊雷抃。〔注〕濟曰、搏拊、擧レ手也、雷抃、同拊レ手也。❸樂器の名。鼓に似て小さく、なめし皮に糠を充したもので、項に懸け左右の手で擊つ。單に拊ともいふ。拊搏。〔釋名、釋樂器〕搏、拊也、以レ韋盛レ糠、形如レ鼓、以レ手拊二拍之一也。〔書、益稷〕戛二擊鳴球・搏拊・琴瑟一。〔傳〕搏拊、以レ韋爲レ之、實レ之以レ糠、所二以節レ樂。〔疏〕搏拊、形如レ鼓、云云、擊レ之以節レ樂。



搏 拊

（四書引蒙略圖解）

【搏負】42（ハクフ） 負ふ。背負ふ。又、重なりあつて連なる。〔王延壽、魯靈光殿賦〕傍夭蟜以橫出、互黝糾而搏負。〔注〕善曰、搏負、負荷而攢搏也、向曰、搏、猶二相負一也。

【搏風】43（ハクフウ） ❶風をうつ。風に羽ばたいて飛ぶこと。〔梁簡文帝、阻歸賦〕躡二九枝一而耀レ景、總二六翮一而搏レ風。❷（ハフ）屋根の切妻の所にある合掌形の板。母屋桁の鼻を隱すためと、裝飾のため取付ける。其の位置及び形狀により種々の名稱がある。破風。博風。〔倭名類聚抄、居處部、屋宅具・榑風〕辨色立成云、榑風板、比宜。〔箋注〕榑、當レ作レ搏、榑、桑字、音義皆異、但諸本皆從レ木。

【搏幣】44（ハクヘイ） 幣帛を持つ。一說に、幣は弊、搏弊は、おほひかくす。掩蔽。〔莊子、則陽〕夫靈公有二妻三人一、同レ濫而浴、史鰌奉御而進レ所、搏レ幣而扶翼、其慢若レ彼之甚也、見二賢人一若レ此其肅也、是其所三以爲二靈公一也。〔注〕以レ鰌爲レ賢、而奉御之勞、故搏レ幣而扶二翼之一、使二其不レ得レ終レ禮、此其所二以爲レ肅レ賢也、幣者、奉御之物。〔釋文〕弊、郭作レ幣、帛也、司馬云、引二衣裳一自蔽、謂二公及レ浴、女相扶翼自隱一也。

【搏壁】45（ハクヘキ） ❶むしろをはりつけた壁。〔釋名、釋牀帳〕搏壁、以レ席搏二著壁一也。❷壁のやうに急な崖をのぼる。〔李白、贈二厓公一詩〕自言歷二天台一、搏レ壁躡二翠屏一。〔岑參、登二嘉州凌雲寺一作詩〕搏レ壁躋二半空一、喜レ得レ登二上頭一。

【搏面】46（ハクメン） かほをたたく。〔蜀志、劉琰傳〕以レ履搏レ面。

【搏膺】47（ハクヨウ） むねをうつ。〔左氏、成、十〕晉侯夢、大厲被レ髮及レ地、搏レ膺而踊。

【搏翼】48（ハクヨク） 羽ばたく。勢よく飛ぶ。〔張衡、東京賦〕贏氏搏レ翼、擇二肉西邑一。

【搏族戶】49（ハアラベ） 姓氏。

【搷】12467

ベン メン 〔集韻〕彌殄切 銑

ぬる。〔廣雅、釋宮〕搷、塗也。

【搚】12468

セキ シヤク 〔集韻〕秦昔切 陌

うつ。〔集韻〕搚、擊也。

【搡】12469

ソウ ス 〔集韻〕損動切 董

❶**おす。**〔集韻〕搡、推也。❷擻(5−13005)の俗字。〔正字通〕搡、俗擻字。

【捜】 12470 サウ 搜(5-12117)に同じ。〔正字通〕捜、同㆑搜。

【搠】 12471 テキ 擿(5-12922)に同じ。〔集韻〕擿、或作㆑搠。

【搐】 12472 チク 〔集韻〕敕六切 ㄔㄨˋ ch'u⁴ ［屋］

❶**うごきいたむ**。身體がひきつけていたむ。〔漢書、賈誼傳〕一二指搐、身慮亡㆑聊。〔注〕師古曰、搐、謂㆓動而痛㆒也。❷**ひく**。ひきつける。〔集韻〕搐、牽制也。

【搐引】1 ch'u⁴ yin³ ひくこと。

【搐牽】2 ch'u⁴ ch'ien¹ 搐引に同じ。

【搑】 12473

［一］ジョウ ニュ 〔集韻〕乳勇切 ［腫］

［二］ジョウ ニュ 〔集韻〕如容切 ［冬］

［三］ダウ ニヤウ 〔集韻〕濃江切 ［江］

［四］ダウ ニヤウ 〔集韻〕匿講切 ［講］

小篆 ［一］**おす**。おしつける。〔說文〕搑、推擣也、从㆑手茸聲。［二］❶**おす**。［一］に同じ。〔集韻〕搑、推擣也。❷**をさめる**。〔集韻〕搑、一曰、收也。［三］❶**おす**。［一］に同じ。〔集韻〕搑、推擣也。❷**ふさぐ**。〔集韻〕搑、一曰、窒也。［四］**つく**。**さす**。擃(5-12786)に同じ。〔集韻〕擃、撞也、刺也、或作㆑搑。

【搒】 12474

［一］ハウ ヒヤウ 〔集韻〕北孟切 ㄅㄥˋ pêng⁴ ［敬］

［二］ハウ 〔集韻〕補曠切 ［漾］

［三］ハウ ビヤウ 〔集韻〕蒲庚切 ［庚］

［四］ハウ ヒヤウ 〔集韻〕晡橫切 ［庚］

［五］ハウ 〔集韻〕逋旁切 ［陽］

小篆 ［一］❶**おほふ**。〔說文〕搒、掩也、从㆑手旁聲。❷**舟をやる**。榜(6-15241)に同じ。〔集韻〕搒、進㆑舟也、或从㆑手。［二］**舟をやる**。榜(6-15241)に同じ。〔集韻〕榜、進㆑舟也、或从㆑手。［三］**むちうつ**。通じて篣(8-26336)に作る。〔廣雅、釋詁三〕搒、擊也。〔廣韻〕搒、笞打。〔集韻〕搒、笞擊也、通作㆑篣。〔漢書、張耳傳〕吏搒笞數千。［四］**ひきあふ**。或は㧍(5-11866)に作る。〔集韻〕搒、相牽也、或作㆑㧍。［五］**かすめる**。〔集韻〕搒、掠也。

【搒人】1 ハウジン ふなびと。せんどう。水夫。榜人(6-15241‥18)に同じ。

【搒捶】2 ハウスイ むちうつ。たたく。搒笞。〔南史、沈瑀傳〕輒加㆓搒捶㆒。

【搒笞】3 ハウチ むちうつ。むちうち責めること。搒掠。搒捶。〔漢書、張耳傳〕吏搒笞數千。

【搒掠】4 ハウリヤク むちうって糺問する。〔史記、李斯傳〕搒掠千餘、不㆑勝㆑痛自誣服。〔漢書、孫寶傳〕僕射崇下㆑獄覆治、搒掠將㆑死、卒無㆓一辭㆒。〔注〕師古曰、搒掠、謂㆔笞擊而考㆓問之㆒也。〔後漢書、朱穆傳〕搒掠割剝。

【㨡】 12475

［一］コツ ゴチ 〔集韻〕胡骨切 ［月］

［二］コツ コチ 〔集韻〕苦骨切 ［月］

［三］コン ゴン 〔集韻〕胡昆切 ［元］

［四］コン ゴン 〔集韻〕戸袞切 ［阮］

［五］コン 〔集韻〕古本切 ［阮］

小篆 ［一］❶**おす**。一說に、たたく。うちかためる。〔說文〕㨡、手推㆑之也、从㆑手圂聲。〔桂注〕推、當㆑爲㆑椎。❷**はさむ**。［四］に同じ。〔集韻〕㨡、一曰、拑也。［二］**おす**。［一］の❶に同じ。〔集韻〕㨡、推也。［三］**おす**。［一］の❶に同じ。或は捆(5-12131)に作る。〔集韻〕㨡、手推㆑之也、或从㆑困。［四］［五］**はさむ**。〔廣雅、釋言〕㨡、拑也。

【搓】 12476

［一］サ 〔集韻〕倉何切 ㄘㄨㄛ ts'uo¹ ［歌］

［二］サ 〔集韻〕此我切 ［哿］

［三］サイ 〔集韻〕初皆切 ［佳］

［一］❶**うつ**。**きる**。〔後漢書、馬融傳〕冒㆓椒柘㆒、搓㆓棘枳㆒。〔注〕搓、斫也。❷**もむ**。すりもむ。よる。よれる。〔集韻〕搓、搓挪也。〔正字通〕搓、轉摩也。〔戴叔倫、畏亭柳詩〕雨搓㆓金縷㆒細、烟裹㆓翠絲㆒柔。〔韓偓、大慶堂賜㆑宴詩〕綠搓楊柳綿初軟、紅暈櫻桃粉未㆑乾。❸［現］洗ふ。［二］**かたむいたさま**。〔集韻〕搓、邪皃。［三］**うつ**。〔集韻〕搓、推擊也。

【搓香】1 ts'uo¹ hsiang¹ 香を撚り丸める。

【搓塊】2 サクワイ 銀塊をなげうつ。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕手箝㆓封角㆒、搓㆑塊擲㆑地。

【搓碎】3 ts'uo¹ suei⁴ もみくだく。

【搓澡】4 ts'uo¹ tsao³ 湯に入って肩を流す。

【搓揉】5 ts'uo¹ jou² 擦りつけて揉む。

【搓手】6 ts'uo¹ shou³ 手をこする。手をもむ。

【搓磨】7 ts'uo¹ mo² ❶擦り磨く。❷誹謗する。いぢめる。

【搓衣裳】8 ts'uo¹ i¹ shang 衣服を揉み洗ふ。

【搓搓碎】9 ts'uo¹ ts'uo¹ suei⁴ 揉み碎く。

【搓搓澡】10 ts'uo¹ ts'uo¹ tsao³ 入浴して身體を流しこする。

【搔】 12477

［一］サウ ソウ 〔集韻〕蘇遭切 ㄙㄠ sao¹ ［豪］

［二］サウ セウ 〔集韻〕側絞切 ［巧］

［三］サウ ソウ 〔集韻〕先到切 ［號］

小篆 ［一］❶**かく**。爪の先端でこする。かきむしる。〔說文〕搔、刮也、从㆑手蚤聲。〔段注〕刮者、掊杷也。〔禮、內則〕問㆓衣燠寒、疾痛苛癢㆒、而敬抑㆓搔之㆒。〔注〕搔、摩也。〔漢書、枚乘傳〕十圍之木、始生如㆑蘗、足可㆓搔而絕㆒。〔注〕師古曰、搔、謂㆑抓也。❷**うごかす**。慅(4-11043)に通ず。搔法(18)を見よ。〔說文通訓定聲〕搔、叚借爲㆑慅。〔淮南子、氾論訓〕厭㆑文搔㆑法。〔注〕搔、勞也。❸**さわぐ**。さわぎたてる。騷(12-44935)に通ず。〔吳志、陸凱傳〕所在搔擾、更爲㆓煩苛㆒。❹或は搔(5-12959)に作る。〔集韻〕搔、或从㆑蚀。［二］**つめ**。爪を切る。㕚(2-3117)・爪(7-19653)に同じ。〔集韻〕㕚、說文、手足甲也、或作㆓蚤・搔㆒、通作㆑爪。〔儀禮、士虞禮〕沐浴櫛搔翦。〔注〕搔、當㆑爲㆑爪。［三］**つかむ**。搔(5-12297)に同じ。〔集韻〕搔、攫搔、搏也、或作㆑搔。［邦］**かき**。接頭語。

【搔攪】1 sao¹ chiao³ かきみだす。理不盡。

【搔瓜】2 サウクワ 瓜をかきむしる。瓜を傷害する。〔新序、雜事四〕楚亭人、心惡㆓梁亭之賢㆒、已因往夜竊搔㆓梁亭之瓜㆒、皆有㆓死焦者㆒矣、梁亭覺㆑之、云云、亦欲㆔竊往報㆓搔楚亭之瓜㆒、尉以請㆓宋就㆒、就曰、云云、人惡亦惡、何褊之甚也。

【搔卷】3 カイマキ 薄綿を入れた夜着。小夜着。

【搔蝨】5 サウシツ しらみのかゆみをかく。〔易林、萃之第四十五、大過〕亂頭多㆑憂、搔㆑蝨生㆑愁。

【搔手】6 sao¹ shou³ 手をかく。

【搔首】7 サウシユ 頭をかく。心の落ちつかない時の動作。又、愁ある時の動作。〔詩、邶風、靜女〕愛

而不レ見、搔レ首踟躕。〔白居易、九日登二巴臺一詩〕臨レ觴一搔レ首、座客亦徘徊。

〖搔首尋思〗8 sao^1 shou^3 hsün^2 ssŭ^1 腦漿をしぼる。

【搔擾】9 サウゼウ さわぐ。又、さわがす。又、さわがしい。騷擾。〔吳志、陸凱傳〕而更傾二動天心一、搔二擾萬姓一、云云、所在搔擾、更爲二煩苛一。

【搔剪】10 サウセン 爪を切り、ひげをそること。〔儀禮、士虞禮〕沐浴櫛搔剪。

【搔前】11 sao^1 ch'ien^2 蟲の名。碎車蟲(**8－24284‥52**)の異名。

【搔頭】12 サウトウ あたまをかく。髮を撫でる。轉じて、簪の別名。〔西京雜記、二〕武帝過二李夫人一、就取二玉簪一搔レ頭、自レ此後宮人、搔頭皆用レ玉。〔白居易、長恨歌〕花鈿委レ地無二人收一、翠翹金雀玉搔頭。

〖搔頭弄レ姿〗13 サウトウシヲロウス 簪をさし、容姿をととのへる。〔後漢書、李固傳〕遂共作二飛章一、虛誣二固罪一曰、云云、大行在レ殯、路人掩レ涕、固獨胡粉飾レ貌、搔頭弄レ姿。〔王先謙集解〕曹子建搔頭傳粉、蓋漢末有二是飾一也。

【搔動】14 サウドウ さわぐ。騷動。〔淮南子、兵略訓〕萬人搔動、莫レ寧二其所一。

【搔把】15 サウハ かく。搔爬。〔白居易、春日閑居詩三首〕飽竟快二搔把一、筋骸無二檢束一。

【搔爬】16 サウハ ❶かく。〔黃庭堅、詩〕刺二頭簿領中一、蚤蝨廢二搔爬一。❷醫學用語。化膿、その他の疾患のある組織を削りとること。又、人工流產をいふ。

【搔背】17 サウハイ せなかをかく。〔鹽鐵論、利議〕不レ知二趨舍之宜、時世之變一、議論無レ所レ依、如二膝癢而搔レ背。〔韻府引、後漢書袁安傳〕安負二暄晴一、奮令二人搔レ背曰、甚快二人意一。〔李白、西嶽雲臺歌送二丹丘子一〕明星玉女備二灑掃一、麻姑搔レ背指爪輕。

【搔法】18 サウハフ 法に從ふ。法文を固守しようと努力する。搔は慅、心を動かすこと。又、搔は揉・操、執りもつこと。〔淮南子、詮言訓〕厭レ文搔レ法、治レ官理レ民者、有司也。〔注〕厭、持也、搔、勞也。

【搔鬢】19 サウビン 鬢の毛をかく。〔鄭谷、寄二司勳張員外學生一詩〕烟暝搔二愁鬢一、春陰賴二酒鄉一。〔劉克莊、漁梁詩〕落盡梅花心事惡、獨搔二蓬鬢一遶二殘枝一。

【搔布】20 カイシキ 昔、食器の中に布いた木の葉。搔敷。

【搔敷】21 カイシキ 搔布に同じ。搔敷紙。〔類聚雜要、一〕搔敷はかしはの上に濱木綿を敷く。

【搔痒】22 サウヤウ 搔癢に同じ。〔事文類聚引、韓非子內儲說上〕韓昭侯搔レ痒而失二一蝨一、求レ之甚急。

【搔癢】23 サウヤウ かゆい所をかく。搔痒。〔詩話總龜〕詩不レ著レ題、如二隔レ靴搔レ癢。

【搔亂】24 サウラン かきみだす。

【搔腦兒】25 sao^1 nao^3 êrh ❶禿頭の人。❷頭をかく。

【搕】12478

㊀カフ　〔集韻〕克盍切　［合］

㊁アフ　〔集韻〕乙盍切　［合］

㊀❶**とる**。〔集韻〕搕、取也。❷**うつ**。たたく。〔字彙〕搕、打也、擊也。❸**くそ**。搕撞(1)を見よ。㊁**手をかざす**。おほふ。〔集韻〕搕、以レ手覆也。

【搕撞】1 カフサフ くそ。ごみ。〔廣韻〕搕、搕撞、糞也。〔五燈會元〕大海不レ容レ塵、小溪多二搕撞一。〔虛堂錄〕坌掃堆頭、更加二搕撞一。

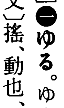
【搕打】2 k'o^2 ta 打ちあてる。打ちつける。

【搕撻】3 k'o^2 t'a たたき落す。ふり落す。

【搖】12479

㊀エウ　〔集韻〕餘招切　一幺ˊ yao^2　［蕭］

㊁エウ　〔集韻〕弋笑切　［嘯］



㊀㊁❶**ゆる**。ゆする。うごかす。〔說文〕搖、動也、从レ手䍃聲。〔廣雅、釋詁一〕搖、動也。〔楚辭、宋玉、招魂〕鏗レ鍾搖レ簴。〔注〕搖、動也。❷**ゆれる**。ゆらぐ。うごく。おちつかない。〔管子、心術上〕搖者、不レ定。〔漢書、天文志〕星搖者、民勞也。〔唐書、魏知古傳〕羣心震搖、衆口藉藉。❸**おこす**。**おこる**。〔爾雅、釋詁〕搖、作也。❹**のぼる**。**あがる**。〔方言、十二〕搖、上也。〔廣雅、釋詁一〕搖、上也。〔漢書、禮樂志〕將二搖擧一。〔班固、西都賦〕遂乃風擧雲搖、浮游博覽。❺**はやい**。〔廣雅、釋詁一〕搖、疾也。❻**をさめる**。藥(**9－32341**)に通ず。〔說文通訓定聲〕搖、叚借爲レ藥。〔廣雅、釋詁三〕搖、治也。❼**鳥の名**。鷂(**12－47207**)に通ず。〔說文通訓定聲〕搖、叚借爲レ鷂。〔釋名、釋衣服〕搖翟、畫二搖雉之文於衣一也。❽**かんざし**。ゆれかんざし。步搖。〔曹植、七啓〕戴二金搖之熠爍一。〔注〕良曰、金搖、釵也。❾愮(**4－10990**)に通ず。〔詩、王風、黍離〕中心搖搖。〔傳〕搖搖、深憂無レ所レ愬。〔爾雅、釋訓〕愮愮、憂無レ告也。❿繇(**8－27856**)に通ず。〔禮、明堂位、婦人副褘、注〕今之步搖。〔釋文〕搖、本又作レ繇。⓫通じて猶(**7－20557**)に作る。〔禮、檀弓下、咏斯猶、注〕猶、當レ爲レ搖、聲之誤也、搖、謂二身動搖一也、秦人猶・搖聲相近。⓬遙(**11－39035**)に通ず。〔周禮、春官、小師、掌レ教二鼓鼗一云云、注〕持二其柄一而搖レ之。〔釋文〕搖、本亦作レ遙。⓭飄(**12－43917**)に通ず。〔爾雅、釋天〕扶搖謂二之猋一。〔釋文〕搖、字林作レ飄。⓮**姓**。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕搖氏、姒姓、越王句踐裔孫東越王搖之後、以二王父名一爲レ氏。

【搖握】1 エウアク 手で動かし持つ。〔南史、梁宗室上、梁武化侯正信傳〕幼不慧、常執二白團扇一、湘東王取題二八字銘一玩レ之、正信不レ知、終常搖握。

【搖曳】2 エウエイ ❶ゆれて長くつづく。ゆれたなびく。長い物のゆれてゐるにいふ。〔鮑照、代櫂歌行〕颷戾長風振、搖曳高帆擧。〔常建、西山詩〕圓月逗二前浦一、孤琴又搖曳。❷ひるがへりあがるさま。ひるがへりとぶさま。飄颻。〔李肱、詩〕霞衣競搖曳。❸ゆつたりしたさま。ぶらぶらするさま。消搖(**6－17529‥7**)に同じ。〔李白、玉眞公主別館苦レ雨贈二衛尉張卿一詩〕功成拂レ衣去、搖曳滄州傍。

【搖影】3 エウエイ 影がうごく。又、うごいてゐる影。

【搖搖】4 エウエウ ゆれうごくさま。おちつかないさま。うれへておちつかないさま。たよる所が無くて不安なさま。〔詩、王風、黍離〕行邁靡靡、中心搖搖。〔傳〕搖搖、深憂無レ所レ愬。〔疏〕戰國策云、心搖搖然如二懸旌一而無レ所レ薄、然則搖搖心憂無レ所二附着一之意。〔大戴禮、武王踐阼〕若二風將レ至、必先搖搖一。〔注〕搖搖、無レ所レ託。〔史記、蘇秦傳〕心搖搖然如二懸旌一。〔漢書、五行志中之上〕鸜鵒之巢、遠哉搖搖。〔注〕師古曰、搖搖、不安之貌。〔陶潛、歸去來辭〕舟搖搖以輕颺、風飄飄而吹レ衣。〔謝朓、之二宣城一出二新林浦一向二版橋一詩〕旅思倦搖搖、孤游昔已屢。〔注〕搖搖、不レ定貌。

〖搖搖擺擺〗5 yao^2 yao^2 pai^2 pai^3 威張る。大きな面をする。

【搖易】6 エウエキ うごかしかへる。〔漢書、杜欽傳〕卒搖二易之一、則民心惑。

【搖悅】7 エウエツ よろこぶ。〔楚辭、宋玉、九辯〕心搖悅而日幸兮、然怊悵而無レ冀。〔注〕意中私喜、想二用施一也。〔集注〕搖、一作レ遙、一作レ愮。〔補注〕搖、動也、愮、憂也、無二喜悅之義一。

【搖演】8 エウエン うごかしひく。〔馬融、長笛賦〕搖二演其山一、動二杌其根一。〔注〕善曰、賈逵國語注曰、演、引也、翰曰、謂三風水搖引、動二杌竹根一二。〔常袞、浮萍賦〕搖二演青蘋一。

【搖下】9 yao^2 hsia^4 ゆり落す。ゆすぶり落す。

【搖江】10 エウカウ 江の兩岸の舟から網を張り、其の網に傳はつて小舟が徐々に進むこと。〔蟹譜〕吳人於二江側一相對引二兩舟一、中間施レ網、搖二小舟一徐行、謂二之搖江一。

【搖嚇】11 エウカク いひふらしおどす。〔福惠全書、刑名部、欽犯〕夥黨搖嚇、估二量家私一、飽レ欲方止。

【搖撼】12 エウカン ゆりうごかす。〔宋史、蘇轍傳〕惟元豐舊黨、分二布中外一、多起二邪說一、以搖二撼在位一。

〔蘇轍、臣事策四〕而方今之弊、在㆘乎不㆑欲㆑有㆑所㆓搖撼㆒、而徒得㆓天下之利㆒、而云云㆖。

【搖起】13 エウキ 立ちあがる。行動を起す。〔楚辭、九章、抽思〕願搖起而横犇兮、覽㆓民尤㆒以自鎭。〔注〕言㆘己見㆓君妄怒㆒、無㆑辜而受㆑罪、則欲㆗搖動而奔走㆖。

【搖旗】14 yao^2 ch'i^2 旗をふる。

【搖響】15 エウキヤウ ゆれひびく。又、ゆるがしひびかせる。〔西廂記、張君瑞害㆓想思㆒雜劇〕啓㆓朱扉㆒搖㆓響雙環㆒。

【搖簴】16 エウキヨ 簴(鐘懸け)をうごかす。〔楚辭、宋玉、招魂〕鏗㆑鍾搖㆑簴、揳㆓梓瑟㆒些。〔注〕搖、動也。〔集注〕簴、懸㆑鍾格。

【搖擧】17 エウキヨ 立ちあがつて高くのぼる。又、のぼる、あがる。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕天馬徠執徐時、將㆓搖擧㆒誰與期。〔注〕師古曰、言㆘當㆓奮搖高擧㆒、不㆖㆑可㆓與期㆒也。

【搖光】18 エウクワウ 星の名。北斗七星の第七星で、斗柄の末端にある星。破軍星。アルカイド。ベナトナツシユ。瑤光。〔文子、下德〕搖光者、資㆓糧萬物㆒者也。〔讚義〕北辰、天之尊常也、端㆓居天心㆒而衆星拱㆑之、至人取㆑法爲㆑治、心與㆑神處、漠然無㆑爲、而天下和、搖光居㆓北斗之柄㆒、資㆓糧萬物㆒、隨㆑天左旋、日轉一周、斗不㆑降㆑祿、生民罔㆑食、舜察㆓璇璣㆒、以齊㆓七政㆒、其知㆑天矣乎。〔詩含神霧〕搖光如㆑蜺、貫㆑月正白、感㆓女樞㆒生㆓顓頊㆒。〔漢書、司馬相如傳下〕悉徵㆓靈圉㆒而選㆑之兮、部㆓署衆神於搖光㆒。〔注〕張揖曰、搖光、北斗柄頭第一星。

【搖㨪】19 yao^2 huang^3 ゆれる。ゆする。ふる。

【搖丸】20 エウグワン 遊戲の一種。たまとり。〔西京雜記、四〕京兆有㆓古生者㆒、學㆓縱横・揣摩・弄矢・搖丸・摴蒲之術㆒、爲㆓都掾史㆒四十餘年、云云、京師至㆑今、俳戲皆稱㆓古掾曹㆒。

【搖刖】21 エウゲツ 危いさま。〔張協、七命〕搖刖峻挺、茗邈苕嶢。〔注〕善曰、搖刖、危貌也。

【搖鼓】22 yao^2 ku^3 太鼓を打つ。

［搖鼓兒］23 yao^2 ku^3 êrh ふりつづみをならす。搖波浪鼓。

【搖兀】24 エウゴツ ゆれうごく。〔玉堂雜記、上〕輅行頗搖兀。〔范成大、昱嶺詩〕竹輿搖兀走婆娑。

【搖碎】25 エウサイ うごかしくだく。〔高士談、春愁曲〕寶堦寂寂苔紋深、東風搖碎湘簾影。

【搖作】26 エウサク 動きなす。動作。〔莊子、則陽〕復㆑命搖作、而以㆑天爲㆑師。〔注〕搖者、自搖、作者、自作、莫㆑不㆑復㆑命、而師㆓其天然㆒也。〔釋文〕搖、動也、萬物動作生長、各有㆓天然㆒、則是復㆓其命㆒也。

【搖徙】27 エウシ うごきうつる。〔韓非子、解老〕工人數變㆑業、則失㆓其功㆒、作者數搖徙、則亡㆓其功㆒。

【搖幟】28 エウシ はたをゆりうごかす。又、ゆれ動く幟。〔韓愈、訟㆓風伯㆒〕雷鞭㆑車兮電搖㆑幟。〔李繼本、喜雨賦〕日車騰騰以遄邁、搖幟閃閃以交攻。

【搖車】29 エウシヤ ❶こどもを乘せてひき、又、ゆりうごかして眠らせる車。〔戒菴漫筆〕古人製㆓小兒睡車㆒、曰㆓搖車㆒。❷草の名。蔓生で、花は紫色。食用に供す。翹搖車。柱夫。〔爾雅、釋草〕柱夫、搖車。〔疏〕柱夫、可㆑食之草也、一名搖車、俗呼㆓翹搖車㆒、蔓生紫華、華翹起搖動、因名云。

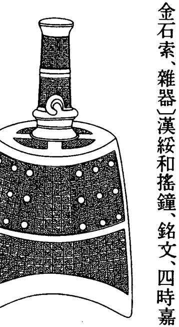
【搖槳】30 エウシヤウ 楫をうごかす。又、ゆれ動く楫。〔李華、寄㆓趙七侍御㆒詩〕搖㆑槳曙江流、江清山復重。

【搖膝】31 エウシツ ひざをゆり動かす。〔北史、王昕傳〕搖㆑膝吟詠。〔白居易、聞㆓龜兒詠㆑詩詩〕憐渠已解詠㆓詩章㆒、搖㆑膝支㆑頤學㆓二郎㆒。

【搖手】32 エウシユ 手をゆり動かす。手を振る。〔漢書、外戚下、成帝許后傳〕家吏不㆑曉、今壹受㆑詔如㆑此、且使㆓妾搖㆑手不㆑得。〔梁簡文帝、春江行〕誰知堤上人、拭㆑涙空搖㆑手。

【搖首】33 エウシユ ❶頭をゆり動かす。頭を振る。搖頭。〔梁武帝、採菱曲、和㆑云㆔菱歌女解㆑佩戲㆓江陽㆒〕江南稚女珠腕繩、金翠搖㆑首紅顏興。❷首をふつて斷る。

【搖鐘】34 エウシヨウ ❶鐘の一種。樂舞の時、擊つもの。〔金石索、雜器〕漢綏和搖鐘、銘文、四時嘉至、搖鐘末㆓中角㆒、按㆓漢書禮樂志㆒、高祖時、叔孫通制㆓宗廟樂㆒、迎㆓神于廟門㆒、奏㆓嘉至㆒、又文帝始作㆓四時舞㆒、銘曰、四時嘉至、此樂舞時所㆑擊也。❷yao^2 chung^1 鐘をならす。



漢綏和搖鐘
（金石索）

【搖心】35 エウシン 心をゆるがす。〔左氏、昭、二十三〕三國敗、諸侯之師、乃搖㆑心矣。

【搖脣】36 エウシン くちびるをうごかす。しやべる。〔莊子、盜跖〕搖㆑脣鼓㆑舌、擅生㆓是非㆒。〔北史、尉瑾傳〕搖㆑脣振㆑足、爲㆓人所㆑哂。

【搖水】37 エウスイ 美味なる水の名。三危の露・崑崙の井・沮江の丘の三者をいふ。〔呂覽、本味〕水之美者、三危之露・崑崙之井・沮江之丘、名曰㆓搖水㆒。

【搖精】38 エウセイ 心をゆるがす。心を勞する。〔莊子、在有〕無㆑勞㆓女形㆒、無㆑搖㆓女精㆒。

【搖旌】39 エウセイ ゆらめく旗。心のおちつかない喩。〔白居易、江州赴㆓忠州㆒至㆓江陵㆒以來舟中示㆓舍弟㆒五十韻詩〕年光同㆓激箭㆒、鄉思極㆓搖旌㆒。

【搖消】40 エウセウ うごかし除く。〔淮南子、俶眞訓〕搖㆔消掉㆓捎仁義禮樂㆒。

【搖舌】41 エウゼツ 舌を動かす。言葉を口から出すこと。〔傅玄、墻上難㆑爲㆑趨樂府〕吐㆑言若㆑覆㆑水、搖㆑舌不㆑可㆑追。〔元稹、出門行〕言者未㆑搖㆑舌、無㆓人敢輕議㆒。

【搖扇】42 エウセン ❶扇子をうごかす。〔李白、送㆓岑徵君㆒詩〕西來一搖㆑扇、共拂元規塵。〔韓愈、江陵途中寄㆓翰林三學士㆒詩〕窮冬或搖㆑扇、盛夏或重㆑裘。❷速かなさま。〔方言、二〕速・逞・搖扇、疾也、東齊海岱之閒曰㆑速、燕之外鄙朝鮮冽水之閒曰㆓搖扇㆒、楚曰㆑逞。

【搖增】43 エウソウ はげしく動かす。〔史記、賈生傳〕見㆓細德之險徵㆒兮、搖㆓增翮㆒逝而去㆑之。〔注〕正義曰、搖、動也、增、加也、云云、合㆘加㆓動羽翮㆒、遠逝而去㆖㆑之。

【搖蕩】44 エウタウ ゆれうごく。又、うごかす。動搖。搖動。搖盪。〔莊子、天地〕季徹曰、大聖之治㆓天下㆒也、搖㆓蕩民心㆒、使㆓之成㆑教易㆒㆑俗。〔呂覽、侈樂〕駭㆓心氣㆒、動㆓耳目㆒、搖㆓蕩生㆒。〔史記、司馬相如傳〕與㆑波搖蕩。〔漢書、酈食其傳〕海內搖蕩。〔春秋繁露、天地陰陽〕夫物愈淖而愈易、變動搖蕩也。〔淮南子、本經訓〕搖㆓蕩精神㆒、感㆓動血氣㆒。〔新序、善謀下〕海內搖蕩。〔魏志、王基傳〕人心搖蕩。

【搖盪】44′ エウタウ 搖蕩に同じ。盪も、動・搖の意。

【搖櫂】45 エウタウ かいを動かす。船をやること。〔常建、夢㆓太白西峯㆒詩〕春風又搖㆑櫂、潭島花紛紛。

【搖艇】46 エウテイ 小舟をこぎうごかす。又、ゆれ動いてゐる舟。進み行く舟。〔徐彥伯、採蓮曲〕妾家越水邊、搖艇入㆓江煙㆒。

【搖綴】47 エウテイ 枝葉が連りあつて動搖すること。〔柳宗元、至㆓小邱西小石潭㆒記〕蒙絡搖綴。

【搖掉】48 エウテウ ゆれ動く。又、ゆすぶりうごかす。〔賈子新書、容經〕臂不㆓搖掉㆒、肩不㆓上下㆒。〔白居易、渭村退居寄㆓禮部崔侍郎・翰林錢舍人㆒詩一百韻〕泥㆑尾休㆓搖掉㆒、灰㆑心罷㆓激昂㆒。

【搖翟】49 エウテキ 搖雉(青質五色の雉)の模樣を繡畫して飾とした衣。揄狄(5―12320‥4)を見よ。〔釋名、釋衣服〕搖翟、畫㆓搖雉之文於衣㆒也、江淮而南、青質五色、皆備成㆑章曰㆑搖。

【搖頭】50 エウトウ 頭をゆりうごかす。〔史記、滑稽傳贊〕優孟搖㆑頭而歌。〔白居易、醉中得㆓上都親友書㆒以㆓予停㆑俸多時㆒憂㆓問貧乏㆒偶乘㆓酒興㆒詠而報㆑之詩〕沒㆑齒甘㆓蔬食㆒、搖㆑頭謝㆓搢紳㆒。

［搖頭幌惱］51 yao^2 t'ou^2 huang^2 nao^3 頭を振り動かす。首を振る。

［搖頭擺尾］52 エウトウハイビ 頭を動かし尾を振る。滿足のさま。又、媚びへつらふさま。〔五燈會元〕孚上座謂㆓雪峯㆒曰、和尚搖㆑頭、某甲擺㆑尾、僧昭參圓晤曰、師若搖㆑頭、弟子擺㆑尾。

【搖動】53 エウドウ ゆれうごく。ゆるぎうごく。又、ゆるがしうごかす。搖蕩。〔史記、季布傳〕噲又面諛、欲㆔搖㆓動天下㆒。〔風俗通、祀典〕春者、蠢也、蠢蠢搖動也。〔魏志、明帝紀〕搖㆓動屋瓦㆒。〔北史、韋世康傳〕汾絳舊是周齊分界、因㆑此亂階、恐生㆓搖動㆒。

【搖攤】54 エウナン 賭博の一種。骰子三箇を磁製の盒に入れて蓋をし、手で之をふり動かす。案上に幺二三四の四門を定め、衆人は思ふままに錢を賭けて後、盒を開いて骰子の點數を數へ、四に滿つるごとに之を除き去り、其の餘す所によつて幺二三四を定め、勝負を決する。一名、壓寶。

【搖波】55 エウハ 波をたてる。波だたせる。〔蘇軾、游㆓博羅香積寺㆒詩〕東風搖㆑波舞㆓淨綠㆒、初日泫㆑露酣㆓嬌黃㆒。

［搖波稜蓋］56 yao^2 po^1 lêng^2 kai^4 膝をゆす

る。貧乏ゆすりする。

【搖擺】57エウハイ ㊀うごかしふるふ。〔王令、詩〕搖二擺舌吻一歸二之仙一。㊁yao^2 pai^3 身體をうごかす。得意のさま。〔桃花扇、罵筵〕道人醒了揚州夢、云云、搖擺下。

〖搖擺亂跑〗58 yao^2 pai^3 luan^4 pʻao^3 大手をふつてかけ出す。

【搖煤】59 yao^2 mei^2 煤球兒（一種の炭團）を造る。

【搖尾】60エウビ 尾をふるふ。憐みを乞ふさま。〔漢書、司馬遷傳〕猛虎在二深山一、百獸震恐、及三其在二穽檻之中一、搖レ尾而求レ食、積威約之漸也。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕若二俛レ首帖レ耳、搖レ尾而乞レ憐者、非二我之志一也。

【搖筆】61エウヒツ 筆をうごかす。筆をつかふ。〔杜審言、贈二蘇味道一詩〕據レ鞍雄劍動、搖レ筆羽書飛。〔李白、贈二秋浦柳少府一詩〕搖レ筆望二白雲一、開レ簾當二翠微一。

【搖風】62エウフウ ㊀つむじかぜ。はやて。疾風。〔江淹、恨賦〕搖風忽起、白日西匿。〔注〕善曰、爾雅曰、颫颻謂二之飈一、颻與レ搖同、良曰、搖風、飄風也。㊁yao^2 fêng^1 扇子の異名。華中でいふ。

【搖吻】63エウフン くちびるを動かす。ものをいふ。〔宋史、忠義二、徐徽言傳〕汝、云云、且下爲二敵人一搖レ吻作中說客上耶。

【搖碧】64エウヘキ みどりをゆりうごかす。又、ゆれるみどり。共に水などがゆれ動いて表面が碧色に見えるさまにいふ。〔郝經、五河口翫レ月詩〕擧レ杯對レ月月浮動、酒浪搖レ碧金鱗生。

【搖鞭】65エウベン 鞭をふるふ。〔方干、送二吳彥融赴レ擧詩〕西陵柳路搖レ鞭盡、北固潮程掛レ席飛。

【搖民】66エウミン 傳說上の國の名。又、民族の名。有易がつくつた國。有易は神名で、河伯の友といふ。〔山海經、大荒東經〕河念二有易一、有易潛出爲レ國、云云、名曰二搖民一、帝舜生レ戲、戲生二搖民一。

【搖揚】67エウヤウ うごかしあげる。又、うごきあがる。〔張耀、井賦〕青梧下映、泛二珪葉一以搖揚。

【搖漾】68エウヤウ ㊀ゆれ動く。〔梁簡文帝、述レ羈賦〕搖漾而生レ風。㊁ただよふ。〔溫庭筠、酬二友人一詩〕游魚自搖漾、浴鳥故浮沈。㊂飛ぶさま。又、飛ぶ。〔沈約、詠二湖中鴈一詩〕刷レ羽同搖漾、一擧還二故鄉一。〔注〕善曰、搖漾、飛皃也。

【搖颺】69エウヤウ 吹きあげる。〔柳宗元、袁家渴記〕搖二颺葳蕤一、與レ時推移。

【搖溶】70エウヨウ 川の長くて廣いさま。搖は遙。〔李商隱、河陽詩〕黃龍搖溶天上來、玉樓影近中天臺。

【搖落】71エウラク ゆれおちる。〔魏文帝、燕歌行〕秋風蕭瑟天氣涼、草木搖落露爲レ霜。〔謝朓、拜二中軍記室一辭二隨王一牋〕何則皋壤搖落、對レ之惆悵。〔蘇頲、汾上驚レ秋詩〕心緒逢二搖落一、秋聲不レ可レ聞。〔杜甫、吹笛詩〕故園楊柳今搖落、何得二愁中卻盡生一。〔劉長卿、秋日登二吳公臺上寺一云云吳明徹戰場詩〕古臺搖落後、秋日望鄉心。〔白居易、早入二皇城一贈二王留守僕射一詩〕城柳宮槐謾搖落、悲愁不レ到貴人心。

【搖亂】72エウラン うごかしみだす。〔范曄、宦者傳論〕所三以海內嗟毒、志士窮棲、寇劇緣レ間、搖二亂區夏一。〔注〕濟曰、起二其讒言一、動二亂於國一。

【搖籃】73エウラン 小兒を容れて吊しおき、時々うごかして眠らせるやうにしたかご。ゆりかご。轉じて、故鄉・嬰兒時代。又、物事の端緒。〔戒菴漫筆〕今眠二小兒一竹籃、名二搖籃一。

【搖鈴】74エウレイ 鈴をふる。〔北史、西域、波斯國傳〕城外有レ人別レ居、云云、若入二城市一、搖レ鈴自別。

〖搖鈴鐺〗75 yao^2 ling^2 tang 鈴をならす。

【搖櫓】76エウロ 櫓をうごかす。舟をやる。搖櫓。〔徐鉉、過レ江詩〕登レ艫望レ城遠、搖レ櫓過レ江遲。

【搖艣】77エウロ 搖櫓に同じ。

【搖惑】78エウワク ゆるぎまどふ。又、ゆるがしまどはす。〔支那現行文件隨釋〕頗反二對立憲一、致二上意搖惑不レ定。

【搖枝粟】79エウシソク 植物の名。背明國にあるといふ。〔拾遺記、六、前漢下〕樂浪之東、有二背明國一、云云、有二搖枝粟一、其枝長而弱、無レ風常搖、食レ之益レ髓。

【搖錢樹】80エウセンジユ ㊀年末に、松柏の大きな枝を瓶に插して、古錢・元寶・石榴花などを點綴したもの。北平の風習。〔燕京歲時記、搖錢樹〕取二松柏枝之大者一、插二于瓶中一、綴以二古錢・元寶・石榴花等一、謂二之搖錢樹一。㊁yao^2 chʻien^2 shu^4 金の實る木。錢儲け。

【搖骰子】81 yao^2 shai^3 tzŭ 骰をふる。

【搖毋餘】82エウブヨ 漢の人。謚は齊信。初め趙に仕へて隊將となり、秦を破る。漢になつて、三秦を定め、都尉を以て項羽を擊つ。封は海陽侯。

【搖旗納喊】83エウキタフカン 旗をふり叫び聲を送る。傍の人が應援する氣勢をいふ。〔通俗編、武功、搖旗納喊〕元人兩世姻緣劇、搖旗納喊。

【搗】12480

タウ
トウ
〔韻會〕覩老切　ㄉㄠˇ tao^3　皓

㊀**つく**。うつ。たたく。擣(**5－12853**)に同じ。〔韻會〕擣、集韻、又作レ搗。㊁現㋑改める。㋺露顯する。邦㊀**かつ**。つく。うすづく。㊁**かてて**。その上に。

【搗衣】1タウイ 衣を打つ。又、きぬた。擣衣。〔天祿識餘、搗衣〕字林云、直舂曰レ搗、古人搗レ衣、兩女子對立、執二一杵一如レ舂レ米然、今易作二臥杵一、對坐搗レ之、取二其便一也、嘗見二六朝人畫搗衣圖一、其制如レ此。

【搗鬼】2タウキ ㊀うそつき。〔水滸傳、四十三回〕假黑旋風眞搗鬼。㊁tao^2 kuei^3 つぶやく。獨語する。

【搗臼】3ツキウス 中に物を入れてつく臼。

【搗碎】4 tao^3 suei^4 つき碎く。

【搗絲】5 tao^3 ssŭ^1 絲を捲く。

【搗實】6 tao^3 shih^2 築きかためる。

【搗杵】7カチギネ 槌の形に作つた杵。〔和漢三才圖會、農具類、臼杵〕杵者、舂槌也、有二細腰杵一、又有二形如レ槌大者一、俗謂二之搗杵一。

【搗線】8 tao^3 hsien^4 搗絲(5)に同じ。

【搗碓】9 tao^3 tuei^4 舂く。

【搗稻】10カチシネ 籾米。玄米。

【搗難】11カチカタ 大麥の異稱。

【搗入】12ツキイレ 賴まれた米・餅などを搗き終へて、其の家に届けること。

【搗藥】13タウヤク 藥をつく。擣藥。〔杜甫、月詩〕入レ河蟾不レ沒、搗レ藥兎長生。〔李白、把レ酒問レ月詩〕白兎搗レ藥秋復春、嫦娥孤栖與レ誰鄰。

【搗亂】14 tao^3 luan^4 混亂する。秩序を亂す。

【搗爛】15タウラン 舂いてぐたぐたにする。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕以二白梅一搗爛、壅二所レ告レ傷之處一。

【搗栗】16カチグリ 栗の實をゆでてよく干し、臼に入れて搗いたもの。勝栗と音が相通ずるので、祝賀の式などに用ひる。〔古今著聞集、三〕內辨かちぐりを取りて。

【搗石村】17タウセキソン 地名。江蘇省永新縣の北の平原村。〔安成記〕石廣四尺、長倍レ之、其色瑩黛、顏魯公爲二吉州司馬一、行レ部至レ此、撫レ石而憩、叩レ之、其聲淸越、謂レ可レ搗レ衣、其子孫有下居二平原村一者上、因稱爲二搗石村一。

【搗練子】18タウレンシ ㊀詞牌の名。〔詞譜〕一名二搗練子令一、因下馮延己詞起結、有中深院靜及二數聲一、和レ月到二簾櫳一句上、更名二深院月一。㊁曲牌の名。湖搗練ともいふ。南曲は仙呂宮引に入り、北曲は雙角隻曲に入る。又、搗白練ともいひ、南曲は南呂宮正曲に入る。

【搘】12481

シ
〔正韻〕旨而切　ㄓ chih^1　支

㊀**ささへる**。支(**5－13061**)に通ず。〔正韻〕搘、捂也。〔正字通〕搘、同レ支。㊁現ひろげる。

【搘頤】1イシ あごを手で支へる。ほほづえをつく。支頤。

【搘捂】2ゴシ ささへる。〔唐書、南蠻上、南詔傳上〕初鳳迦異築二柘東城一、諸葛亮石刻故在、文曰、碑即仆、蠻爲二漢奴一、夷畏レ誓、常以レ石搘捂。

【搘拄】3シチユウ 支へる。支持する。榰柱。〔經學歷史、經學極盛時代〕非三直肅二淸風化一、抑可三搘二拄衰微一。

【搘起來】4 chih^1 chʻi lai 支へ上げる。

【搙】12482

㈠チョク ノク〔集韻〕奴沃切 沃
㈡ダク ニャク〔集韻〕昵角切 覺
㈢ドウ ヌ〔集韻〕乃豆切 宥

㈠**ひねる。**〔集韻〕搙、捻也。㈡**おさへる。**〔集韻〕搙、搵也。㈢**ささへる。**〔集韻〕搙、博雅、拄也。

【搚】12483

㈠ケフ コフ〔集韻〕迄業切 葉
㈡ラフ〔集韻〕落合切 合
㈢ケン〔集韻〕虚欠切 豔

㈠**やぶる。又、くじく。**拹(5−12009)に同じ。〔集韻〕拹、說文、摺也、一曰、拉也、或从レ脅。㈡**くじく。**ひしぐ。拉(5−11946)に同じ。又、拹(5−12009)に通ず。〔集韻〕拉、說文、摧也、或作レ搚。〔廣雅、釋詁一〕搚、折也。〔公羊、莊、元〕搚レ幹而殺レ之。〔注〕搚、折聲也。〔釋文〕搚、本亦作レ拹、亦作レ拉、皆同、折聲也。〔阮元校勘記〕段玉裁云、依二說文一當レ作レ拹、作レ搚者、或體也、作レ拉者、假借字也。㈢**ひきしたがへる。**〔集韻〕搚、引從也。

【搛】12484

㈠レン〔集韻〕離鹽切 鹽
㈡ケン〔集韻〕堅嫌切 鹽

㈠**鼓をうつ。**𢿦(5−13404)に同じ。〔集韻〕𢿦、擊レ鼓謂二之𢿦一、或从レ手。㈡**はさみもつ。**〔集韻〕搛、夾持也。

【搝】12485

ヒ 批(5−11845)に通ず。〔正字通〕搝、與レ批通。

【搜】12486

㈠シウ シユ〔集韻〕疎鳩切 尤 ㄙㄡ sou¹
㈡セウ〔集韻〕先彫切 蕭
㈢サウ ソウ〔集韻〕蘇遭切 豪
㈣ソウ ス〔集韻〕蘇后切 有
㈤ソウ ス〔集韻〕先奏切 宥
㈥オウ オ〔集韻〕於候切 宥
㈦サウ セウ〔集韻〕山巧切 巧
慣 サウ

小篆

㈠もと搜(5−12357)に作る。〔正字通〕搜、今作レ搜。❶**さがす。**もとめる。〔說文〕搜、一曰、求也。〔方言、二〕搜、求也、秦晉曰レ搜。〔顏氏家訓、音辭〕入レ室求曰レ搜。〔莊子、秋水〕搜二於國中一。〔釋文〕搜、索也。〔漢書、武帝紀〕大搜二上林一。❷**たづねる。**きはめる。〔江總、陶貞白集序〕好事研搜。❸**えらぶ。**〔揚雄、甘泉賦〕洒搜レ逑索レ偶。〔注〕善曰、韋昭曰、搜、擇也。❹**しらべる。**〔玉篇〕搜、閱也。❺**かぞへる。**〔玉篇〕搜、數也。❻**そなはる。**〔小爾雅、廣詁〕搜、具也。❼**おほい。**〔說文〕搜、衆意也、一曰、求也、从レ手叜聲、詩曰、束矢其搜。〔詩、魯頌、泮水〕束矢其搜。〔傳〕搜、衆意也。❽**はやい。**〔詩、魯頌、泮水、束矢其搜、箋〕束矢搜然、言二勁疾一也。❾**矢の飛ぶおと。**〔詩、魯頌、泮水、束矢其搜、疏〕搜、爲二矢行之聲一。❿**秋の狩。**獀(7−20588)・蒐(9−31539)に通ず。〔說文通訓定聲〕搜、叚借爲レ獀。〔左氏、昭、二十九、爲二被廬之法一、注〕文公搜二被廬一。〔釋文〕搜、本又作レ蒐。⓫**はく。**はらふ。埽(3−5202)に通ず。〔說文通訓定聲〕搜、叚借爲レ埽。〔禮、郊特牲、在レ滌三月、注〕滌牢中所二搜除一處也。⓬古は𣪘(4−9128)に作る。〔集韻〕搜、或作レ搜、古作レ𣪘。⓭廋(4−9438)に通ず。〔莊子、秋水〕搜二于國中一。〔釋文〕搜、字又作レ搜、或作レ廋。⓮叜(2−3176)に通ず。〔莊子、寓言〕搜搜也。〔釋文〕搜、本又作レ叜。㈡㈢㈣**うごくさま。**或は叜(2−3176)に作る。〔集韻〕搜、鬫、搜搜、動皃、亦省。㈤㈥**人名。**〔集韻〕搜、人名。〔莊子、讓王〕王子搜援レ綏登レ車。㈦**みだれる。**〔集韻〕搜、攪搜、亂也。

【搜攪】1 サウカウ ❶みだれる。擾亂。攪亂。〔韓愈、岳陽樓別二竇司直一詩〕炎風日搜攪、幽怪多冗長。❷かきまはす。かきみだす。〔黃庭堅、謝レ送二碾賜壑源揀牙一詩〕搜二攪十年燈火讀一、令二我胸中書傳香一。〔方岳、詩〕相思幾夢山陰雪、搜攪平生書五車。

【搜求】2 サウキウ さがしたづねる。〔後漢書、王充傳、箸二論衡八十五篇二十餘萬言一、注〕抱朴子曰、時人嫌三蔡邕得二異書一、或搜二求其帳中隱處一、果得二論衡一、抱二數卷一持去、邕丁二寧之一曰、唯我與レ爾共レ之、勿レ廣也。〔韓愈、詠レ雪贈二張籍一詩〕雕刻文刀利、搜求智網恢。

【搜逑】3 サウキウ 相手をえらぶ。相手をさがす。〔揚雄、甘泉賦〕搜レ逑索レ偶。〔注〕善曰、韋昭曰、搜、擇也、逑、匹也。

【搜句】4 サウク 良い語句をさがす。索句。〔文心雕龍、章句〕搜レ句忌二於顚倒一、裁レ章貴二於順序一。〔李中、宿米處士幽居詩〕靜慮同搜レ句、淸神旋煑レ茶。

【搜火】5 サウクワ 火をさがす。〔薛能、寒食有レ懷詩〕晉聚應レ搜レ火、秦喧定走レ車。

【搜獲】6 sou¹ huo⁴ 搜し獲る。尋ねて得る。

【搜括】7 サウクワツ さがしもとめる。〔梁書、劉之遴傳〕晚冬晷促、機事空暇、夜分求レ衣、未レ遑二搜括一。〔直語補證〕南史梁武帝紀詔、凡郡國舊族、邦內無下在二朝位一者上、選官搜括、吏部有二一人一、今則專爲下指三斥徵二掠財物一者通稱上矣。

【搜景】8 サウケイ 景色のよい處をたづねる。探勝。〔韓偓、早發二藍關一詩〕關門愁立候二雞鳴一、搜レ景馳レ魂入二杳冥一。

【搜轎】9 sou¹ chiao⁴ 花嫁の輿入の前に長者が燭と鏡とをもつて轎の四隅を照して異狀の有無を確かめること。浙江省蕭山地方の風習。

【搜檢】10 サウケン ❶さぐりしらべる。〔南史、循吏、郭祖深傳〕祖深搜二檢姦惡一、不レ避二強禦一。❷身體檢査をする。〔明律、戶律、倉庫、倉庫不レ覺二被盜一〕凡有下人從二倉庫中一出上、守把之人、不二搜檢一者、笞二十。〔明律、兵律、宮衞、關防內使二出入一〕其門官與二守衞官軍一、搜二檢沿身一、別無二夾帶一、方許二放出一。❸科擧の試驗に、受驗者の身體を檢査し、攜帶品を取調べること。搜身。〔稱謂錄、外簾官、搜檢官〕元史選擧志、搜檢懷挾官一員、每二擧人一名一、差二軍一名看守一、無二軍人一處差二巡軍一。〔隨園隨筆〕搜檢之法、不レ知二何始一、然讀二舒元輿疏一云、士子入レ場、自攜二脂燭一、聽二候唱一、名二搜檢一等語、是搜檢始二於唐一也。〔淸會典事例、禮部、貢擧〕嗣後擧二場內一切考試一、俱照二考試八旗生童之例一、奏二派搜檢大臣數員・彈壓副都統一員一、嚴行二搜檢一。

【搜抉】11 サウケツ さがしあばく。さがしだす。〔蘇軾、次下韻孔毅父集二古人詩一見上レ贈詩〕詩人雕刻閑二草木一、搜二抉肝腎一神應レ哭。

【搜賢】12 サウケン 後魏、元詮(1−1340··383)の字。

【搜採】13 サウサイ さがし索めとる。搜攬。〔梁昭明太子、答三湘東王求二文集及詩苑英華一書〕又往年因レ暇搜二採英華一。

【搜搜】14 サウサウ 動くさま。一說に、搜は謏に通じ、區區(小さいさま・とるに足らぬ)の意。〔集韻〕搜、搜搜、動皃。〔莊子、寓言〕搜搜也、奚稍問也。〔釋文〕搜、本又作レ叜、向云、動貌。〔疏〕搜搜、無レ心運動之貌。〔馬敍倫義證〕劉師培曰、搜、讀如二禮學記謏聞之謏一、猶二區區一也。

【搜索】15 サウサク ❶さがしもとめる。〔韓非子、外儲

說左下〕陽虎去レ齊走レ趙、簡主問曰、吾聞、子善樹レ人、虎曰、臣居レ魯樹二三人一、皆爲二令尹一、及三虎抵二罪於魯一、皆搜二索於虎一也。〔漢書、西域下、渠犂傳〕匈奴得二漢降者一、常提掖搜索、問以レ所レ聞。〔春秋繁露、五行逆順〕閉二門閭一、大搜索。〔說苑、脩文〕蒐者、搜二索之一。〔列女傳、節儀、珠崖二義傳〕關候士吏搜索、得二珠十枚於繼母鏡奩中一。❷行ききするさま。〔王褒、洞簫賦〕玄猨悲嘯、搜二索乎其閒一。〔注〕善曰、搜索、往來皃。❸豫審判事が刑事事件につき、其の證據物・沒收物又は被告人等を見出すために、此等のものを藏匿した疑のある住居・身體等について取調べること。

【搜察】16 sou^1 ch'a^2 さがしもとめる。

【搜集】17 サウシフ さがしあつめる。〔南史、梁宗室下、安成王秀傳〕秀精二意學術一、搜二集經記一。

【搜緝】18 sou^1 ch'i^4 搜索して捕縛する。

【搜輯】19 sou^1 chi^2 蒐輯する。搜しあつめる。

【搜聚】20 サウシウ さがしあつめる。搜集。〔隋書、經籍志一〕後齊遷レ鄴、頗更搜聚。

【搜射】21 サウシヤ 敵兵が隱れてゐるか否かを知るために、彈丸又は弓箭を發射すること。

【搜奬】22 サウシヤウ さがして引きたてる。〔南史、宋高祖紀〕搜二奬忠烈一。

【搜身】23 サウシン 考試に際し、受驗者の攜帶品を取檢べること。搜檢に同じ。搜檢(10)の❸を見よ。

【搜尋】24 サウジン たづねさがす。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕流滑隨二仄步一、搜尋得二深行一。

【搜選】25 サウセン さがしえらぶ。又、えらぶ。搜もえらぶ。〔後漢書、儒林傳序〕搜二選高能一以受二其業一。〔後漢書、蔡邕傳〕太子官屬、宜三搜二選令德一。

【搜疏】26 サウソ さぐりわける。〔柳宗元、招二海賈一文〕崩濤搜疏剡二戈鋋一。

【搜捉】27 サウソク さがしとらへる。〔明律、兵律、宮衞、宮殿造作罷不レ出〕如名數短小、就便搜捉、隨卽奏聞。

【搜拿】28 sou^1 na^2 さがしてつかまへる。

【搜討】29 サウタウ さがしもとめる。討は尋。〔韓琦、答二陳舜兪求レ硯詩〕求者如レ痲幾百年、宜乎今日難二搜討一。

【搜探】30 サウタン さがす。さぐる。搜索。〔韓維、孔先生以二僊長老山水略錄一見レ約二同遊一作レ詩答レ之詩〕浮屠日僊好レ事者、奄二有勝跡一窮二搜探一。

【搜剔】31 サウテキ はらひ除く。搜は埽。〔柳宗元、零陵三亭記〕決二疏沮洳一、搜二剔山麓一。〔杜牧、祭二百神一文〕紹レ功嗣レ德、搜二剔幽昧一。

【搜摘】32 サウテキ さがしてひろひあつめる。〔韓維、詩〕諸君豪傑士、經訓飽二搜摘一。

【搜得】33 サウトク さがして得る。〔漢書、李陵傳〕始軍出時、關東群盜妻子徙レ邊者、隨レ軍爲二卒妻婦一、大匿二車中一、陵搜得、皆劍二斬之一。

【搜督】34 サウトク さがしだしてせめただす。〔唐書、食貨志二〕長安丞薛萃、搜督甚峻。

【搜爬】35 サウハ さがしてひつかきまはす。〔孔平仲、狂犬詩〕撐突盤盂甒、搜爬堂廡汗。

【搜訪】36 サウハウ さぐりとふ。さがしたづねる。尋訪。〔晉書、山濤傳〕濤甄二拔隱屈一、搜二訪賢才一。

【搜縛】37 サウバク さがしだしてしばる。

【搜票】38 sou^1 p'iao^4 逮捕狀。

【搜捕】39 サウホ さがして捕へる。搜緝。搜拿。〔周書、司馬消難傳〕數日閒、搜二捕鄴中一、鄴中大擾。

【搜揚】40 サウヤウ さがし出して登用する。〔後漢書、竇憲傳論〕非下復搜二揚仄陋一、選レ擧而登上也。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕搜二揚潛逸一。

【搜羅】41 サウラ さがしあつめる。〔宋史、李燾傳〕博二極載籍一、搜二羅百氏一。

【搜邏】42 サウラ みだれめぐる。心がみだれ苦しむこと。心苦しい思ひをすること。〔蘇舜欽、答二宋太祝見レ贈詩〕無三以答二高誼一、胸中強搜邏。

【搜牢】43 サウラウ 財物を剽取すること。牢は牢固のもの。一說、廩食。〔後漢書、董卓傳〕是時洛中貴戚、室第相望、金帛財產、家家殷積、卓縱二放兵士一、突二其廬舍一、淫二略婦女一、剽二虜資物一、謂二之搜牢一。〔注〕言二牢固者、皆搜索取レ之也、一曰、牢、漉也。〔王先謙集解〕周壽昌曰、案、上卓奏言、牢直不レ畢、注、牢、廩食也、古者名二廩牢一、是搜牢者、搜二掠資物一以爲二廩食一、似レ不レ得レ如二注言一。

【搜攬】44 サウラン さがして取る。〔宋史、張浚傳〕以三搜二攬豪傑一爲二先務一。

【搜掠】45 サウリヤク さがしとる。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕其人之家財細軟、搜掠一空。

【搜奇窟】46 サウキクツ 龜谷行の號。龜谷省軒(12－48847・・164)を見よ。

【搜夾子】47 サウケフシ 蟲の名。はさみ蟲。〔正字通〕螋、蠼螋、尾有二叉歧一、能夾二人物一、俗名二搜夾子一。

【搜神記】48 サウシンキ 書名。二十卷。晉、干寶撰。もと二十卷、漸次散佚して八卷となる。今、太平御覽・藝文類聚・初學記・北堂書鈔・法苑珠林等所載の殘文を綴合して二十卷と爲してゐるが、原本の舊を存するものではない。鬼神妖怪の說を雜陳し、佛書の因果應報を交へてゐる。中國小說中、佛教の影響を受けた最古のもの。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【搜玉小集】49 サウギヨクセウシフ 書名。一卷。撰者未詳。宋の鄭樵の通志の藝文略に著錄されてゐる。凡て詩六十二首。〔四庫提要、集、總集類〕。

【搜孤救孤】50 サウコキウコ 二簧劇の一種。心義圖の別名。

【搜詔逼宮】51 サウセウヒキウ 二簧西皮劇の一種。逍遙津(11－38873・・11)の別名。

【搜章摘句】52 サウシヤウテキク 章を搜し句を摘み取る。文章中の重要な語句を覺えること。又、人の文章を剽竊すること。〔唐書、段秀實傳〕秀實、云云、擧二明經一、其友易レ之、秀實曰、搜レ章摘レ句、不レ足二以立一レ功、乃棄去。

【搜神後記】53 サウシンコウキ 書名。十卷。晉、陶潛撰と傳へられるが、潛の卒年は宋の元嘉四年であるのに、書中に元嘉十四年・十六年の事が見えてゐるから、其の僞たることは辨ずるを待たない。しかし、隋志に著錄せられてゐるから、隋以前の作品である。搜神記と同じく鬼神妖怪の事を載せてゐる。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【搜粟都尉】54 サウゾクトヰ 官名。春秋の時に始まり、漢の武帝、復た置く。農事を督促することを掌る。騪粟都尉(12－44891・・1)を見よ。〔漢書、食貨志上〕以二趙過一爲二搜粟都尉一。〔漢書、霍光傳〕搜粟都尉桑弘羊、爲二御史大夫一。〔鹽鐵論、伐功〕越王任二種蠡一、不レ過下以二搜粟都尉一爲中御史大夫上。

【搜府盤關】55 サウフバンクワン 二簧劇の一種。戰國、齊の太子の故事を脚色したもの。又、黃金臺・田單救主・樂毅伐齊ともいふ。

【搜諧若鞮單于】56 サウカイジヤクテイゼンウ 漢代の匈奴の單于。名は且麋胥。元延元年に、翌二年の歲首の漢廷の朝會に列するために其の國都を發したが、未だ漢土に入らないうちに病死した。〔漢書、九十四下〕。

【搽】12487

ハ バ 〔玉篇〕蒲摩切 歌

❶をさめあつめる。〔玉篇〕搽、斂聚也。❷擵(5－12982)の譌字。〔康熙字典〕搽、疑擵字之譌。

【搝】12488

キウ ク 〔集韻〕去久切 有

かかげる。搝揭。〔集韻〕搝、搝揭、手擧。

【搞】12489

㊀カウ ケウ 〔集韻〕丘交切 肴
㊁カウ コウ 〔集韻〕口到切 號

㊀**たたく。**敲(**5－13337**)に同じ。〔集韻〕敲、說文、橫擿也、或作レ搞。㊁**もとる。**靠(**12－42604**)に同じ。〔集韻〕靠、說文、相違也、或从レ手。

【搟】12490

㊀ケン コン 〔集韻〕許偃切 阮
㊁サン セン 〔漢書補注〕山檻反 豏

㊀**なぞらへる。又、手で物を束ねる。**攇(**5－12946**)に同じ。〔集韻〕攇、博雅、擬也、一曰、手約レ物、或作レ搟。㊁**かる。**摲(**5－12637**)の譌字。〔正字通〕搟、摲之譌。〔漢書、揚雄傳下〕麾レ城搟レ邑。〔注〕師古曰、搟、擧レ手擬レ之也。〔補注〕宋祁曰、韋昭曰、拚也、

音芟、蕭該案、李善云、鄭注二禮記一曰、摲之言、芟也、字林曰、摲、山檻反、呂向云、蒼頡篇曰、摲、指取也。

【搠】12491　サク　〔集韻〕色角切　ㄕㄨㄛˋ shuo4　覺

ぬる。〔集韻〕搠、博雅、塗也。

【搠思監】1 元の人。怯烈氏。順帝の時、右丞相となる。公けに賄賂を受け、朴不花と表裏して姦を爲す。博羅特穆爾に殺され、詔して其の尸を戮せしめた。〔元史、二百五〕・〔新元史、一百三十三〕。

【⿰扌能】12492　ヒ　〔集韻〕攀麋切　支

❶肉をさく。破(5－16426)に同じ。〔集韻〕破、剖レ肉也、或作レ搋。❷披(5－11909)に通ず。〔正字通〕⿰扌能、與レ披通。

【搡】12493

［一］サウ　〔集韻〕寫朗切　ㄙㄤˇ sang3　養
［二］サウ　〔集韻〕四浪切　漾

［一］❶うつ。〔集韻〕搡、搷也。❷なげうつきほひ。〔字彙〕搡、投擲之勢。［二］おしつける。とめる。〔集韻〕搡、揨也。

【搡不去】1 sang3 pu ch'ü4　さばけない。

【搢】12494

［一］シン　〔集韻〕卽刃切　ㄐㄧㄣˋ chin4　震
［二］セン　〔集韻〕子賤切　霰
［三］セイ サイ　〔集韻〕牋西切　齊
［四］シヤウ サウ　〔國語注〕卽兩切　養

小篆

［一］［二］［三］❶はさむ。さしはさむ。〔說文新附〕搢、插也、从レ手晉聲。〔廣雅、釋詁二〕搢、插也。〔儀禮、士喪禮〕搢レ笏。〔注〕搢、插也。❷通じて晉(5－13898)・縉(8－27737)・薦(9－32143)に作る。〔說文新附考〕通作二晉・縉一、或作レ薦。［四］ふる。ふるふ。〔國語、吳語〕挺レ鈹搢レ鐸。〔注〕搢、卽兩切、振也。

【搢曶】1 搢笏に同じ。〔穆天子傳、一〕天子、大服・冕禕・帗帶、搢レ曶。〔注〕曶、長三尺、杼上椎頭、一名レ珽、亦謂二之大圭一、搢、猶レ帶也。

【搢笏】2 笏をさしはさむ。〔廣韻〕搢、搢紳之士、搢レ笏而垂レ紳、又插也。〔禮、內則〕端韠紳、搢レ笏、左右佩レ用。〔穀梁、僖、三〕陽穀之會、桓公端委搢レ笏、而朝二諸侯一。〔逸周書、王會解〕唐叔・荀叔・周公在レ左、太公望在レ右、皆絻、亦無二繁露一、朝服七十物、搢レ笏、旁二天子一而立二堂上一。〔荀子、哀公〕哀公曰、然則夫章甫・絇屨、紳而搢レ笏者、此賢乎、孔子對曰、不二必然一。〔韓非子、八說〕搢笏干戚、不レ適二有方鐵銛一。〔商子、賞刑〕築二五庫一、藏二五兵一、偃二武事一、行二文教一、倒二載干戈一、搢レ笏作二爲樂一、以申二其德一。〔淮南子、齊俗訓〕越王句踐、劗髮文身、無二皮弁搢笏之服、拘罷拒折之容一。〔孔子家語、五儀解〕然則章甫・絇屨、紳帶搢レ笏者、賢人也。

【搢珊】3 清、余聯沅(1－515‥132)の字。

【搢升】4 清、褚寅亮(10－34457‥39)の字。

【搢紳】5 笏を大帶にさしはさむ。轉じて、高貴の人の意。貴顯。貴人。尊者。紳士。縉紳。薦紳。〔史記、封禪書〕其語不二經見一、搢紳者不レ道。〔注〕集解曰、李奇曰、搢、插也、插二笏於紳一、紳、大帶、索隱曰、姚氏云、搢當レ作レ縉、鄭眾注二周禮一云、搢、讀曰レ薦、謂レ垂二之於紳帶之閒一、今案二鄭意一、以レ搢爲レ薦、則薦亦是進、進而置二於紳帶之閒一也、故史記諸書、亦多作二薦字一也。〔後漢書、楊震傳〕今天下纓緌搢紳。〔晉書、輿服志〕所謂搢紳之士者、插レ笏而垂二紳帶一也。〔任昉、天監三年策二秀才一文〕搢紳道行。〔故事成語考、文臣〕朝臣皆搢二笏于紳閒一、故曰二搢紳一。

【搢紳錄】6 官吏の職務・氏名・鄉貫を載錄した書。〔容齋隨筆、張全義治レ洛〕輒采二張文定公所レ著搢紳舊聞記一、芟二取其要一、而載二于此一。

【搢叟】7 元、史公珽(2－3249‥213)の字。

【搢鐸】8 すずをふる。〔國語、吳語〕挺レ鈹搢レ鐸。〔注〕搢、振也。

【搢珽】9 玉笏をさしはさむ。〔禮、玉藻〕天子搢レ珽、方二正於天下一也。〔注〕珽之言、珽然無レ所レ屈也、或謂二之大圭一、長三尺。

【搢紱】10 笏をさしはさみ印の組紐を身につけること。官吏となつて朝廷にあること。佩紱。紆紱。〔陶弘景、許張史舊館壇碑〕搢二紱朝班一。

【搢扑】11 むちをさしはさむ。〔禮、月令〕司徒搢レ扑、北面誓レ之。〔孫希旦集解〕扑、所三以罰二犯レ令者一、搢、搢二於帶閒一也。

【搢朴】12 搢扑に同じ。〔淮南子、時則訓〕司徒搢レ朴、北嚮贊レ之。〔注〕搢、插也、朴、以教導也、插二置帶閒一、贊二相威儀一也、司徒主レ衆教二導之一也。

【搣】12495

［一］ベツ メチ　〔集韻〕莫列切　屑
［二］ケツ ケチ　〔康熙字典〕覕劣切　屑

小篆

［一］❶する。もむ。なでる。さする。〔說文〕搣、𢪛也、从レ手威聲。〔段注〕𢪛、各本作レ批、小徐本、及集韻・類篇・廣韻、作レ批、今正、批者、批之譌、批者、𢪛之譌也。〔廣韻〕搣、又摩也、批也。〔字彙〕搣、又摩也、撚也。❷つかむ。〔廣雅、釋詁三〕搣、捽也。❸ぬく。ひきぬく。〔廣韻〕搣、手拔。［二］ぬく。〔急就篇、三〕沐浴揃搣寡二合同一。〔顏師古注〕揃搣、謂三鬋二拔眉髮一也、搣、音威。

【⿰扌畟】12496　シユク

⿰扌肅(5－12738)に同じ。〔集韻〕⿰扌肅、或作レ⿰扌畟。

【搤】12497

［一］アク ヤク　〔集韻〕乙革切　ㄜˋ e4　陌
［二］エツ エチ　〔集韻〕壹結切　屑
［三］エイ　〔集韻〕壹計切　霽
［四］アイ エ　〔集韻〕烏懈切　卦

小篆

［一］❶とらへる。とる。つかむ。〔說文〕搤、捉也、从レ手益聲。〔廣雅、釋詁三〕搤、持也。〔漢書、揚雄傳下〕搤二熊羆一、拕二豪豬一。〔注〕師古曰、搤、捉二持之一也。〔漢書、揚雄傳下〕搤二其咽一、炕二其氣一。〔注〕師古曰、搤、謂三急二持之一。❷にぎる。握(5－12366)に通ず。〔正字通〕搤、與レ握通、史記、周本紀、蘇厲說二周君一、養由基釋レ弓搤レ劍、注、卽握レ劍。〔史記、周紀〕養由基怒、釋レ弓搤レ劍。❸おさへる。しめつける。扼(5－11942)に通ず。〔說文通訓定聲〕搤、叚借爲レ扼。〔字彙〕搤、按也。❹ふさぐ。隘(11－41791)に通ず。〔說文通訓定聲〕搤、叚借爲レ隘。〔管子、度地〕因而搤レ之可也。〔注〕搤、塞也。［二］もつ。〔集韻〕搤、持也。［三］くじく。〔集韻〕搤、拉也。［四］おさへる。〔集韻〕搤、扼也。

【搤咽】1 のどをつかむ。急所をおさへる喩。〔揚雄、解嘲〕蔡澤山東之匹夫也、顩頤折頞、涕唾流沫、西揖二彊秦之相一、搤二其咽一而亢二其氣一、拊二其背一而奪二其位一時也。

【搤肮】2 搤咽に同じ。搤亢。〔史記、劉敬傳〕夫與レ人鬭、不下搤二其肮一拊中其背上、未レ能レ全二其勝一也。

【搤劍】3 劍をにぎる。〔史記、周紀〕釋レ弓搤レ劍。

【搤殺】4ヤクサツ 手でしめころす。つかみころす。〔詩、齊風、南山序、鄭注〕襄公使二公子彭生乘レ公、而搤二殺之一。

【搤臂】5ヤクヒ ひぢをにぎる。〔論衡、感虛〕以二右手一搤二其左臂一。

【搤捥】6ヤクワン 搤腕に同じ。〔史記、封禪書〕海上燕齊之閒、莫レ不丁搤レ捥而自言丙有二禁方一能乙神僊甲矣。〔史記、刺客、荊軻傳〕樊於期偏袒搤捥而進曰、此臣之日夜切齒腐心也。〔注〕索隱曰、勇者奮厲、必先以二左手一扼二右捥一也、捥、古腕字。

【搤腕】7ヤクワン うでをにぎる。腕をさすつて意氣込むこと。扼腕。〔韓詩外傳、九〕小人之論也、專レ意自是、言二人之罪一、瞋レ目搤レ腕。〔戰國、魏策〕天下之游士、莫レ不下日夜搤レ腕瞋レ目切レ齒、以言二從之便一、以說中人主上。〔史記、武帝紀〕海上燕齊之閒、莫レ不丁搤レ腕而自言丙有二禁方一能乙神仙甲矣。〔注〕集解曰、瓚曰、搤、執持也。〔魏志、杜恕傳〕搤腕抗論。

【搤掔】8ヤクワン 搤腕に同じ。〔漢書、游俠傳序〕搤掔而游談者、以二四豪一爲二稱首一。〔注〕師古曰、搤、捉持也、掔、古手腕字也。

【搥】
12498

㊀タイ ツイ 〔集韻〕都回切 灰

㊁ツイ ヅイ 〔字彙〕直追切 支 ㄔㄨㄟˊ ch'uei²

㊀なげうつ。或は捶(5－12261)に作る。〔廣雅、釋詁四〕搥、擿也。〔集韻〕搥、博雅、搥𢷺、擿也、或作レ捶。〔增韻〕搥、擲也。㊁うつ。たたく。〔字彙〕搥、擊也。〔唐書、禮樂志五〕日未レ明四刻、搥二一鼓一爲二一嚴一、二刻搥二二鼓一爲二再嚴一、云云、一刻搥二三鼓一爲二三嚴一。

【搥鼓】1ツイコ 太鼓を打つ。〔唐書、禮樂志五〕日未レ明四刻、搥二一鼓一爲二一嚴一。

【搥牀】2ツイシヤウ 手で其の坐具を擊つ。〔陸游、詩〕酒酸肉冷不レ得レ嘗、搥レ牀大叫如二發狂一。

【搥足】3ツイソク 足をたたく。〔白居易、自在詩〕小奴搥二我足一、小婢搔二我背一。

【搥打】4 ch'uei² ta³ うつこと。

【搥提】5タイテイ なげうつ。すてる。〔法言、問道〕及下搥二提仁義一、絕中滅禮學上、吾無レ取焉耳。

【搥魯】6 ch'uei² lu³ 愚鈍な。

【搞】
12499

ケウ 撟(5－12719)の譌字。〔正字通〕搞、撟字之譌。

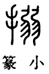
【搦】
12500

㊀ダク ニャク 〔集韻〕昵格切 陌 ㄋㄨㄛˋ nuo⁴

㊁ヂョク ニョク 〔字彙〕女力切 職

㊂ダク ニャク 〔集韻〕昵角切 覺

慣 ヂャク



小篆

㊀㊁㊂❶おさへる。〔說文〕搦、按也、从レ手弱聲。〔段注〕按者、抑也。〔漢書、敍傳上〕搦レ朽摩レ鈍。〔注〕師古曰、搦、按也。〔左思、魏都賦〕搦レ秦起レ趙。❷する。みがく。〔班固、答賓戲〕搦レ朽摩レ鈍、鉛刀皆能一斷。〔注〕善曰、韋昭曰、搦、摩也。❸とる。もつ。にぎる。〔集韻〕搦、持也。〔郭璞、江賦〕舟子於レ是搦レ棹。〔注〕善曰、搦、捉也。❹からめる。縛り上げる。〔正字通〕搦、與レ搻音別、義通、李德裕奏、禁二聖水百姓渡レ江者一、日三五十人、已加二捉搦一。❺或は[illegible](5－13335)に作る。〔集韻〕搦、或从レ攴。

【搦下】1 nuo⁴ hsia⁴ 取りはづす。しごき落す。

【搦鬼】2 nuo⁴ kuei³ とても出來ない相談。杭州地方の方言。

【搦朽】3ヂャクキウ くちたものをみがく。轉じて、不才の人が自ら激勵すること。〔班固、答賓戲〕搦レ朽磨レ鈍、鉛刀皆能一斷。〔注〕善曰、韋昭曰、搦、磨也、良曰、朽・鈍、謂二不才之人一也、搦・磨、皆自激厲也。

【搦管】4ヂャククワン 筆をとる。〔梁簡文帝、講頌序〕搦レ管摛レ章。〔白居易、紫毫筆詩〕搦レ管趨入二黃金闕一、抽レ毫立在二白玉除一。

【搦翰】5ヂャククワン 筆をとる。搦管。〔文心雕龍、神思〕方二其搦レ翰、氣倍二辭前一。

【搦手】6カラメテ ❶からめる人。捕手。❷城・砦の裏門。大手(3－5831··1100)の❸の對。〔源平盛衰記、三十五、範賴義經都入〕大手・搦手都合し。

【搦戰】7 nuo⁴ chan⁴ 挑戰する。

【搦不得】8 nuo⁴ pu tê² 引つ掛けきれない。握り得ない。

【搻】
12501

ヨウ 攤(5－12999)・擁(5－12781)に同じ。〔集韻〕攤、或作二擁・搻一。

【搧】
12502

㊀セン 〔集韻〕尸連切 先 ㄕㄢ shan¹

㊁セン 〔集韻〕式戰切 霰

㊀㊁❶うつ。頰をうつ。顏をうつ。〔集韻〕搧、批也。〔通俗編、雜字〕搧、今謂二以レ手批レ面曰レ搧。❷あふぐ。扇(5－11743)に通ず。〔正字通〕搧、古借用レ扇、義通。

【搧開】1 shan¹ k'ai¹ 打ち開ける。

【搧箱】2センサウ 米を俵から移して入れるはこ。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕多置二搧箱斗斛一、以便二速收一。

【搧扇】3 shan¹ shan⁴ 扇であふぐ。

『搧扇子』4 shan¹ shan⁴ tsŭ 扇であふぐ。

【搧打】5 shan¹ ta³ 打つ。

【搧風】6 shan¹ fêng¹ 扇で風を起す。

【搧巴掌】7 shan¹ pa¹ chang 手のひらで毆りつける。

【搨】
12503

タフ 〔集韻〕德盍切 合 ㄊㄚˋ t'a⁴

❶をさめる。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕垂レ頭搨レ翼。〔注〕銑曰、搨、斂。❷うつ。或は撘(5－12731)に作る。〔集韻〕搨、打也、或作レ撘。❸おほふ。又、うつす。しきうつしにする。摹寫する。或は揩(5－12185)・搭(5－11958)に作る。〔集韻〕揩、冒也、一曰、摹也、或作二搨・搭一。〔唐書、百官志四上〕弘文館、云云、搨書手二人・楷書手十人。❹する。碑碣・法帖の類を石ずりにとる。もと揩(5－12185)に作り、又、拓(5－11958)に作る。〔康熙字典〕搨、今用二紙墨一磨二摸古碑帖一曰レ搨。〔辭海〕搨、本作レ揩、亦作レ拓。〔王建、原上新居詩〕古碣憑レ人搨。

【搨寫】1タフシャ うつす。搭寫。〔皮日休、奉三和魯望寄二南陽廣文一次韻詩〕八會舊文多二搭寫一、七眞遺語剩二思量一。〔注〕搭、一作レ搨。

【搨染】2タフセン すりつけそめること。

【搨損】3 t'a⁴ suen³ 崩れる。

【搨帖】4 t'a⁴ t'ieh⁴ 拓本。法帖の類。

【搨文】5タフブン 石摺の文字。

【搨本】6タフホン 石摺にして寫し取つた印刷物。いしずり。拓本。〔寶章待訪錄〕唐太師顏眞卿乞米帖、右眞蹟楮紙、在二朝請郎蘇澥處一、云云、士人多有二臨搨本一。

【搨抹】7 t'a⁴ mo³ 糊をとく。

【搨翼】8タフヨク つばさをおさめる。志を失ふさまの喩。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕皆垂レ頭搨レ翼、莫レ所二憑恃一。〔注〕銑曰、搨、斂。

【搨書手】9タフショシユ 寫字生。〔稱謂錄、百工、搨書手〕唐書百官志、校書郎、掌下校二理典籍一、刊中正錯繆上、有二搨書手一。

【搨地錢】10タフチセン 唐代、茶商から取立てた稅。〔唐書、食貨志四〕茶商所レ過州縣有二重稅一、或掠二奪舟車一、露二積雨中一、諸道置レ邸以收レ稅、謂二之搨地錢一。

【搩】 12504 ［一］ケツ ゲチ 〔集韻〕巨列切 ［屑］ ［二］タク チャク 〔集韻〕陟格切 ［陌］

［一］**かつぐ**。搊(**5－12871**)に同じ。〔集韻〕搊、擔也、亦从レ桀。［二］**手で物をはかる**。或は拏(**5－12039**)に作る。〔集韻〕搩、手度レ物、或作レ拏。

【搪】 12505 タウ ダウ 〔集韻〕徒郎切 ㄊㄤ tʻang^2 ［陽］

❶**はる**。〔方言、十三〕搪、張也。〔注〕謂二轂張一也。❷**つく**。〔廣雅、釋詁四〕搪、突也。❸［現］㋑犯す。㋺ふせぐ。㋩ふさぐ。

【搪寒】1 tʻang^2 han^2 寒さを防ぐ。

【搪瓷】2 tʻang^2 tzʻŭ^2 洋瓷器。琺瑯器皿。

【搪塞】3（タウソク） ❶間隙をふさぐ。はめこむ。〔唐彦謙、宿二田家一詩〕阿母出搪塞、老脚走顛躓。〔通俗編、行事、搪塞〕按、搪字、當二只作一レ唐、淮南子人閒訓、唐有二萬穴塞一、一魚遽無レ由レ出、蓋卽唐塞二字之本。〔福惠全書、郵政部、廩糧工料〕或將二低銀一搪塞。❷よい加減にうちやる。ごまかす。逃口上をいふ。〔水滸傳、二回〕卻不下是那廝抗二拒官府一、搪中塞下官上。

〔搪塞話〕4 tʻang^2 sai^4 hua^4 其の場塞ぎの話。一寸脱れの話。一時を糊塗する言ひぐさ。

【搪拖】5 tʻang^2 tʻuo^1 よい加減にうつちやる。ごまかす。

【搪帳】6 tʻang^2 chang^4 借金取をことわる。

【搪突】7（タウトツ） 搪揬に同じ。

【搪揬】8（タウトツ） つきあたる。突然。ぶしつけ。唐突。〔玉篇〕搪、搪揬也。〔廣韻〕搪、搪揬。

【搪比】9（タウヒ） 納めた分にする。〔福惠全書、錢穀部、比較〕杜二奸里猾戸、臨レ限持レ銀搪比一。

【搪風】10 tʻang^2 fêng^1 風を犯す。

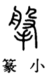
【搪門】11 tʻang^2 men^2 門をおし開く。

【搪不住】12 tʻang^2 pu chu^4 防ぎ止められない。

【搪不下去】13 tʻang^2 pu hsia^4 chʻü 防ぎきれない。遮りきれない。

【搪不過去】14 tʻang^2 pu kuo^4 chʻü 防ぎきれない。

【搫】 12506 ［一］ハン バン 〔集韻〕蒲官切 ［寒］ ［二］ハ バ 〔集韻〕蒲波切 ［歌］


小篆

［一］❶**正しくない**。舞の手が正しくない。〔説文〕搫、搫擭、不レ正也、从レ手般聲。〔玉篇〕搫、手不レ正也。❷**ころがる**。搫撥。〔廣韻〕搫、搫撥、婉轉。❸**のぞく**。**はらふ**。〔廣雅、釋詁三〕搫、除也。［二］❶**のぞく**。［一］の❸に同じ。〔集韻〕搫、除也。〔潘岳、射雉賦〕搫レ場柱レ翳。〔注〕搫、善作レ搫、爰曰、搫者、開除之名也、射者聞レ有二雉聲一、便除レ地爲レ場、柱二翳於草一。❷**をさめあつめる**。〔集韻〕搫、斂聚也。❸**ひらきちらす**。〔廣韻〕搫、披散也。❹或は⿰扌繁(**5－12982**)に作る。〔集韻〕搫、或从レ繁。

【搬】 12507 ［一］ソク 〔字彙〕私谷切 ［屋］ ［二］ハン ㄅㄢ pan^1

［一］**掌をついてななめに行くさま**。〔字彙〕搬、掌趴也。［二］❶搫(**5－12506**)に同じ。〔正字通〕搬、搫字重文。❷**うつる**。**うつす**。〔説文通訓定聲〕搫、今俗作レ搬、訓二遷運一。〔字彙〕搬、此字今俗音般、作二搬移・搬演字一。

【搬移】1（ハンイ） 運びうつす。〔字彙〕搬、此字今俗音般、作二搬移・搬演字一。

【搬運】2（ハンウン） はこぶ。運搬。般運。〔夢溪筆談、官政一〕陝西顆鹽、舊法、官自般運、云云、請二鹽二百斤一、任二其私賣一、得レ錢、以實二塞下一、省二數十郡般運之勞一。

【搬演】3（ハンエン） 狂言を仕組むこと。搬移(1)を見よ。

【搬屋】4 pan^1 wu^1 搬家に同じ。

【搬家】5（ハンカ） 轉宅する。居を遷す。〔陳造、謝二朱宰借レ船詩〕大舟百尺影白虹、借我搬レ家我何有。

【搬回】6（ハンクワイ） はこびかへす。〔福惠全書、陞遷部、還二借辦一〕各宜二伺候照レ數搬回一。

【搬簧】7 pan^1 huang^2 スヰツチ(switch)。

【搬完】8 pan^1 wan^2 引越をはる。

【搬散】9（ハンサン） 持ち去る。〔福惠全書、刑名部、人命上、總論〕家資任二人搬散一、米穀聽二衆取携一。

【搬子】10 pan^1 tzŭ 親指にはめる指輪。元來、滿州人の韘（ユガケ）に用ひ、後世、裝飾として使用されるやうになつた。

【搬指】11 pan^1 chih^3 右の親指にはめる道具。ゆがけ。扳指。

〔搬指兒〕12 pan^1 chih^3 êrh 決（ユガケ）。

【搬出】13（ハンシユツ） はこび出す。〔水滸傳、一回〕搬二出飯一來。

【搬遷】14 pan^1 chʻien^1 移る。移轉。

【搬走】15 pan^1 tsou^3 轉宅する。

【搬送】16 pan^1 sung^4 運搬する。送付する。

【搬住】17 pan^1 chu^4 やどがへする。ひつこしする。

【搬除】18 pan^1 chʻu^2 はらひのぞく。廓清。

【搬鬭】19 pan^1 tou^4 爭鬪する。喧嘩する。

【搬挪】20 pan^1 nuo^2 運びつくす。

【搬入】21（ハンニフ） 運び入れる。

【搬房】22 pan^1 fang^2 やどがへ。轉宅。

【搬來】23 pan^1 lai 移轉して來る。運んでくる。

【搬弄】24（ハンロウ） なぶる。やたらに缺點を數へあげて人をからかふこと。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕怕二有レ人搬弄一。〔元典、伍員吹簫〕他在二平公面前一搬二弄我一、許多的是非。

〔搬弄是非〕25 pan^1 lung^4 shih^4 fei^1 告げ口する。文句をつけ面倒を起させて、人を仲違ひさせる。茶々を入れて掻きみだす。

【搬進來】26 pan^1 chin^4 lai はこびいれる。〔紅樓夢、三回〕林姑娘的行李東西、可搬進來了。

【搬不到】27 pan^1 pu tao^4 不倒翁。おきあがりこぼし。

【搬不動】28 pan^1 pu tung^4 動かせない。

【搬場公司】29 pan^1 chʻang^3 kung^1 ssŭ 引越を請負ふ運送店。

【搬薪運水】30（ハンシンウンスイ） たきぎをはこび水をくむ。〔言志錄〕雖二搬レ薪運一レ水、亦是學所レ在。

【搭】 12508 タフ 〔集韻〕德合切 ㄉㄚ ta^1 ［合］

❶**うつ**。たたく。〔集韻〕搭、擊也。〔北史、李彪傳〕搭レ奴肋折。❷**つく**。つける。〔字彙〕搭、附也。❸**かかる**。かける。つるす。〔字彙〕搭、掛也。〔盧仝、月蝕詩〕當レ天一搭如二炱煤一。〔林逋、胡山小隱詩〕肩搭二道衣一歸。❹**のる**。**のせる**。つむ。〔龍圖公案〕可下搭二我船一而去上。❺**はおり**。うちかけ。短衣。〔林逋、深居雜興詩〕中有二病夫一披二白搭一。❻**まぜる**。〔宋史、食貨志三〕收二易舊會一、品二搭入輸一。❼**おほふ**。**又**、**うつす**。揩(**5－12185**)に通ず。又、搨(**5－12503**)に通ず。搭寫(25)を見よ。〔集韻〕揩、冒也、一曰、摹也、或作レ搭。〔字彙〕搭、摸也。〔梅堯臣、觀二楊之美畫一詩〕韓幹馬本摸搭時、神駿都失存二毫釐一。❽**筆法の名**。筆鋒が下にかかるもの。上筆が下筆にかかり、上字が下字にかかるものを皆搭といふ。❾搭(**5－12711**)に同じ。〔正字通〕搭、同レ搭。❿**姓**。〔浙江通志〕搭海、鄞人、元進士。⓫［現］㋑組む。㋺連れ出す。

【搭運】1（タフウン） 分け載せて運送すること。〔清會典事例、戸部、漕運〕准二其搭運一。〔六部成語訂正、戸部、搭運、注解〕將二漕米一分搭配運也。

【搭營】2 ta^1 ying^2 陣營を張る。

【搭架】3 ta^1 chia^4 たなを組み立てる。枠架を

作る。

【搭界】4 ta¹ chieh⁴ 界を接する。境界。

【搭蓋】5タフガイ 上に作つて下を蔽ふこと。〔福惠全書、刑名部、人命上、總論〕搭二蓋廠棚一、掃二除場地一。

【搭交】6 ta¹ chiao¹ 足場。足代。

〔搭交手〕7 ta¹ chiao¹ shou³ 足場を掛ける。

【搭客】8 ta¹ kʻê⁴ 船・車などの乘客。

【搭救】9 ta¹ chiu⁴ 救ふ。救助する。

【搭脚】10 ta¹ chiao³ 連帶の關係あるをいふ。

【搭夥】11 ta¹ huo³ 仲間となる。

〔搭夥計〕12 ta¹ huo³ chi 仲間となる。

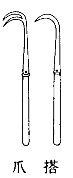
【搭橋】13 ta¹ chʻiao² 橋を架ける。

【搭護】14タフゴ 俗に、皮衣の表と裏とが具はつて長いものをいふ。又、袖の短い單衣をいふ。〔通俗編、服飾、搭護〕鄭思肖詩、駿笠氈靴搭護衣、金牌駿馬走如レ飛、自注、搭護、元衣名、按、俗謂二皮衣之表裏具而長者一曰二搭護一、頗合二鄭詩意一、居易錄言、搭護、半臂衫也、起二于隋時一、內官服レ之、乃名同而實異。

【搭鉤】15タフコウ 熊手の一種。〔隋書、煬帝紀上〕大業五年正月己丑、制二民間鐵叉・搭鉤・穳刃之類一、皆禁二絕之一。

【搭載】16タフサイ 船・車などに荷物を積込むこと。

〔搭載錢〕17 ta¹ tsai⁴ chʻien² 船車賃。


搭 爪（農政全書）

【搭爪】18タフサウ 農具の名。鐵製で、鈎尖が分れて二叉となり、草禾の束を引掛けるに用ひる。〔農政全書、四、農器圖譜一、搭爪圖說〕搭爪、上用二鐵鈎一、帶榜中受二木柄一、通長尺許、狀如二彎爪一、用如二爪之搭レ物、故曰二搭爪一、以摟二草禾之束一、或積或擲、日以レ萬數、速二于手挈一。

【搭訕】19 ta¹ shan⁴ すまなく思つてぐずぐずする。

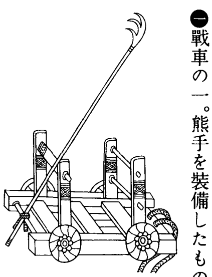
【搭撒】20 ta¹ sa¹ 下げる。

【搭子】21タフシ ❶美人をいふ。〔事物異名錄、形貌、人〕搭子、袖中錦、京師婦人美者、謂二之搭子一、陋者、謂二之七一、搭子者、女傍着レ子爲二好字一、七字不レ成二女字一、謂二其不レ成二婦女一也。❷ta¹ tzŭ 紙一帖。

【搭識】22 ta¹ shih⁴ 知り合ひになる。知己になる。

【搭膝】23タフシツ ひざかけ。〔清異錄、人事、金搭膝〕溫韜、少無賴、拳レ人幾レ死、市魁將レ送レ官、韜謝二過魁前一、拜逾二數百一、魁釋レ之、韜每念レ之以爲レ恥、既貴達、拍二金薄一爲二搭膝一、帶レ之曰、聊酬二此膝一。

【搭車】24タフシヤ ❶戰車の一。熊手を裝備したもの。〔武備志、攻具〕搭車圖。❷ta¹ chʻê¹ 車につける。車に乘せる。又、乘車する。


搭 車（武備志）

【搭寫】25タフシヤ うつす。搨寫。〔皮日休、奉三和魯望寄二南陽廣文一次韻詩〕八會舊文多二搭寫一、七眞遺語剩二思量一。〔注〕搭、一作レ搨。

【搭手】26タフシユ 病氣の名。癰疽の類。肩の骨の動く部分に生ずる一種の腫物。〔醫宗金鑑〕。

【搭乘】27タフジヨウ 船・飛行機などに乘込むこと。

【搭閃】28 ta¹ shan³ すまないと思つてぐずぐずする。

【搭船】29タフセン 船に乘る。又、船に乘せる。〔龍圖公案〕可下搭二我船一而去上。〔通俗編、器用、搭船〕唐廖融、夢仙謠、擬三就張騫搭二漢槎一、按、俗云二搭船一、搭字見レ此。

【搭錢】30タフセン 錢をまぜる。錢をそへる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕七分徵レ銀、三分搭レ錢。

【搭對】31タフタイ 對抗する。〔通俗編、交際、搭對〕五燈會元、金山穎曰、山僧意好二相撲一、秪是無二人搭對一、今日且共首座搭對。

【搭塔】32 ta¹ tʻa³ 煉瓦を積み重ね、塔神として供物を供へること。安徽地方で、子兒等が中秋節に行ふ行事。

【搭猱】33タフダウ 無情な人をいふ。〔通俗編、獸畜、搭猱〕能改齋漫錄、俗以二不情者一曰二搭猱一、唐人已有二此語一、周顗處士答二賓從一絕句云、今朝甘被花枝笑、任道尊前愛二搭猱一。

【搭單】34 ta¹ tan¹ 表・目錄などに書き加へる。切符の類につけ足す。

【搭住】35タフヂユウ ❶かかりとどまる。〔黃庚、一春詩〕楊花怕逐二東風去一、搭二住闌干一不二肯飛一。❷ta¹ chu⁴ ㋑住む。㋺とどめる。

【搭調】36 ta¹ tiao⁴ 調子にあふ。

【搭背】37 ta¹ pei⁴ 背に出來る癰ヨウ。

【搭配】38タフハイ ❶取りまぜる。配合する。取合せ。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕納戶不レ便二零星搭配一。❷ta¹ pʻei⁴ ㋑交尾する。㋺亂雜な。

【搭包】39 ta¹ pao¹ 包み込む。中へ包み込む。

【搭放】40タフハウ 兵士の祿米の一部を錢で發給すること。〔清會典事例、戶部、錢法、搭二放京餉一〕順治十二年題准、每年二月八月、以二制錢半成一、搭二放兵餉俸銀一。〔六部成語、戶部、搭放銀、注解〕搭、配也、如米不レ足レ數、以レ銀分配、放二給兵丁一、謂二之搭放一。

〔搭放兵米〕41タフハウヘイベイ 粗惡な米を兵米の中にまぜて給すること。〔六部成語、戶部、搭放兵米、注解〕米色稍粗、不レ充二俸祿一、配二搭兵米之中一、散放。

【搭棚】42 ta¹ pʻêng² 雨除け日除けなどの棚をかける。天井をはる。

【搭伴】43 ta¹ pan⁴ 道連れとなる。組合ふ。搭幫。

【搭膊】44 ta¹ po 胴まき。財布。金囊。〔水滸傳、五回〕繫一條稱狼身、銷金包肚紅搭膊。

【搭袱】45 ta¹ fu² 鏡の外被。

【搭補】46 ta¹ pu³ 足す。補ふ。

【搭拉】47 ta¹ la¹ 垂れる。垂らす。

【搭利】48 ta¹ li⁴ 利子を入れる。

【搭輪】49 ta¹ luen² 汽船に乘る。

【搭連】50 ta¹ lien² ふくろ。〔紅樓夢、一回〕將道人肩上搭連搶了過來背著、竟不回家。

〔搭連嘴子〕51タフレンシシ 地名。滿洲遼寧省撫順縣の東南境。石炭を產す。

【搭話】52 ta¹ hua⁴ 人の話に口を入れる。

【搭窩】53 ta¹ wo¹ 結托する。

〔搭窩棚〕54 ta¹ wo¹ pʻêng² 小屋を掛ける。

【搭隔房】55 ta¹ chieh¹ fang 隣人になる。

【搭火車】56 ta¹ huo³ chʻê¹ 汽車に乘る。

【搭耳帽】57タフジバウ 帽子の一種。韋を以て作り、羔毛を絡縫したもの。

【搭稱頭】58 ta¹ chʻêng⁴ tʻou 物を衡にかけてはかり、目方が其の分量に達しない時に補足すること。

【搭人情】59 ta¹ jen² chʻing 人に賴まれ義理にからまれて承諾すること。

【搭截題】60タフセツダイ 清代の小試で、試驗官が經文中から幾箇かの文字、或は句を割取して一つに組み合せて出した題。もと經書の成句を取つて出題したが、抄襲の弊を妨ぐため、後に此の方法を用ひるに至つた。〔讀書作文譜、諸題作法、割截搭題〕唐彪曰、割截搭題、與二單割截題一作法有レ異。

【搭把手】61 ta¹ pa⁴ shou³ 盡力する。

【搭別人】62 ta¹ pieh² jen² ほかの人を仲間に入れる。

【搭拚頭】63 ta¹ pʻan⁴ tʻou 夫婦氣取りをする。同棲する。

【搭羅兒】64タフラジ 小兒の帽子の一種。〔通俗編、服飾、搭羅兒〕武林舊事載、諸小經紀、有二髮垛兒・搭羅兒・香袋兒・符袋兒・襟膊兒一、按、搭羅乃新涼時孩子所レ戴小帽、以レ帛維縷、如二髮圈一然。

【搭收現洋】65 ta¹ shou¹ hsien⁴ yang² 鐵道の運賃を半分は紙幣、半分は銀貨で受取ること。

【搭上跳板】66 ta¹ shang¹ tʻiao⁴ pan³ 飛板を架け渡す。

【搭蓬租銀】67タフホウソギン 工事場に茅舍を立てるために借用した土地に對して支拂ふ租借料。〔六部成語、工部、搭蓬租銀、注解〕工匠所レ集之處、必須下發レ銀租二賃民地一、搭レ蓬以處上レ之。

【搭尖兒領子】68 ta¹ chien¹ êrh ling³ tzŭ 清代、禮服の下に着けるカラー樣のもの。

【搭爛痲婆子】69 ta¹ lan⁴ ma² pʻo² tzŭ 大痘痕をいふ。江蘇省蘇州地方の方言。

【搭天橋破地獄】70 ta¹ tʻien¹ chʻiao² pʻo⁴ ti⁴ yü⁴ 死者のために天橋を架けて極樂に導き、地獄を破つて地獄に陷らないやうにする。佛家で唱へる語。

【搮】12509 リツ リチ 〔集韻〕力質切 ㄌㄧˋ li^{4} 質

手で物をさめる。〔集韻〕搮、以レ手理レ物。

【搯】12510 タウ トウ 〔集韻〕他刀切 ㄊㄠ tʻao^{1} 豪

小篆

㊀**とりだす。**くみだす。〔說文〕搯、捾也、从レ手舀聲。〔段注〕通俗文、捾出曰レ掏、爪按曰レ搯、掏、卽搯字。〔廣雅、釋詁二〕搯、抒也。〔韓愈、孟郊墓誌〕鉤レ章棘レ句、搯二擢胃腎一。㊁**たたく。**うつ。〔國語、魯語下〕無レ搯レ膺。〔注〕搯、叩也。㊂**よろこぶ。**慆(**4－11044**)に通ず。〔說文通訓定聲〕搯、叚借爲レ慆、周書古大誓、師乃搯、前歌後舞、極二于上天下地一。〔太平御覽、人事、喜〕尙書大傳曰、惟丙午、王還レ師、師乃鼓噪、師乃慆、前歌後舞、注、鄭玄曰、慆、喜也、衆大喜、前歌後舞也。㊃**ぬく。**㨨(**5－12699**)・抽(**5－11930**)に通ず。〔說文通訓定聲〕搯、叚借爲レ㨨。〔說文〕搯、周書曰、師乃搯、搯者、㨨二兵刃一㠯習二擊刺一也、詩曰、左旋右搯。〔詩、鄭風、淸人〕左旋右抽。㊄或は掏(**5－12251**)に作る。〔集韻〕搯、或作レ掏。㊅現㋑くじる。ゑぐりだす。㋺つねる。ひねる。爪で摘みとる。㊇指を折る。

参考 掐(**5－12253**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕掐、音恰、爪刺、搯、音滔。

【搯記】1（タウキ）指先で叩いて調子を取ること。〔長生殿、聞樂〕按二宮商一搯記指兒尖。

【搯壞】2 tʻao^{1} huai^{4} 惡い心。狡猾な。

【搯溝】3 tʻao^{1} kou^{1} 溝を浚へる。

【搯算】4 tʻao^{1} suan^{4} かぞへる。

【搯死】5 tʻao^{1} ssŭ^{3} ㊀咽をつねって死ぬ。㊁つねって殺す。

【搯水】6 tʻao^{1} shuei^{3} 水を汲出す。

【搯井】7 tʻao^{1} ching^{3} 井戸を浚へる。

【搯線】8 tʻao^{1} hsien^{4} 絲をたぐる。絲を繰る。

【搯錢】9 tʻao^{1} chʻien^{2} 袋の中から錢を取り出す。懷中物を探る。

【搯倒】10 tʻao^{1} tao^{3} つかみ倒す。

【搯摘】11（タウテキ）指でぬきとること。〔顏氏家訓、風操〕雖二薑萊一、有二切割一、皆不レ忍レ食、居家唯以二搯摘一供レ厨。

【搯擢】12（タウテキ）とりだす。〔韓愈、貞曜先生墓誌〕鉤レ章棘レ句、搯二擢胃腎一。

【搯摸】13 tao^{1} mo^{1} ㊀取出す。㊁掏摸（リス）。

【搯膺】14（タウヨウ）胸をうちたたく。〔國語、魯語下〕無レ搯レ膺。〔注〕搯、叩也。〔馬融、長笛賦〕靁歎頹息、搯レ膺擗摽。〔注〕翰曰、搯、叩、膺、胷也。

【搯尖子】15 tʻao^{1} chien^{1} tzu^{1} 人の話をおさへつける。壓迫する。

【搯不齊】16 tʻao^{1} pu chʻi^{2} 草の名。矢筈草。

【搯尖出色】17 tʻao^{1} chien^{1} chʻu^{1} sê^{4} 優良。拔群。出色。

【搯燈花兒】18 tʻao^{1} têng^{1} hua^{1} êrh 日暮に乘じて人家に忍び入る賊。

【搯頭去尾】19 tʻao^{1} tʻou^{2} chʻü^{4} wei^{3} 不必要な部分を省いて。

【搰】12511
㈠コツ ゴチ 〔集韻〕胡骨切 ㄏㄨˊ hu^{2} 月
㈡カツ ケチ 〔集韻〕苦滑切 黠

小篆

㈠㊀**ほる。**〔說文〕搰、掘也、从レ手骨聲。㊁**みだす。**にごす。〔呂覽、本性〕水之性情、土者搰レ之。〔注〕搰、濁也、亂也。㊂**あばく。**〔國語、吳語〕狐埋レ之、而狐搰レ之。〔注〕搰、發也。㊃**力を用ひるさま。**搰搰を見よ。㈡㈠の㊃に同じ。

【搰搰】1（コツコツ カツカツ）力を用ひるさま。〔莊子、天地〕搰搰然用レ力甚多、而見レ功寡。〔釋文〕搰搰、用レ力貌。

【搰擁】2 hu^{2} yung^{3} もたつく。よちよちする。

【掆】12512 カウ 〔韻會〕古雙切 江

あげる。かつぐ。になふ。杠(**6－14481**)に通ず。〔正字通〕掆、同レ扛。〔晉書、輿服志〕大駕鹵簿、有二掆鼓一。〔晉書音義、上〕掆、擧也。

【搉】12513 クワイ

擓(**5－12823**)に同じ。〔集韻〕擓、或省。

【鞠】12514 キク 〔集韻〕居六切 屋

小篆

㊀**つまむ。**〔說文〕鞠、撮也、从レ手鞠省聲。㊁或は鞠(**8－26729**)に作る。〔集韻〕鞠、或作レ鞠。㊂掬(**5－12290**)に同じ。〔正字通〕鞠、同レ掬。

【摨】12515
㈠チ ヂ 〔集韻〕直利切 寘
㈡ダイ ナイ 〔正字通〕囊來切 灰

㈠**すごろくの采。**通じて雉(**11－41987**)に作る。〔集韻〕摨、樗蒲采名、通作レ雉。㈡**ぬぐふ。**摨(**5－12675**)に同じ。〔正字通〕摨、博雅、揩摨、摩拭也、亦作レ摨。

【搲】12516
㈠ワ 〔集韻〕烏瓜切 麻
㈡ワ 〔集韻〕烏瓦切 ㄨㄚˇ wa^{3} 馬
㈢ワ 〔集韻〕烏化切 禡

㈠**とる。**もつ。にぎる。〔集韻〕搲、以レ手捉レ物。㈡**かく。**〔集韻〕搲、吳俗謂二手爬レ物曰レ搲。㈢**ひく。**或は攨(**5－13039**)に作る。〔集韻〕搲、吳人謂レ挽曰レ搲、或作レ攨。

【搳】12517
㈠カツ ゲチ 〔集韻〕下瞎切 黠
㈡ガツ ゲチ 〔集韻〕五瞎切 黠

小篆

㈠**けづる。又、うつ。**或は捾(**5－12226**)に作る。〔說文〕搳、擖也、从レ手害聲。〔集韻〕搳、說文、擖也、或作レ捾。㈡**かく。**〔廣雅、釋詁二〕搳、搔也。

【搳拳】1（カツケン）酒席で拳を鬪はすこと。拇戰。手勢(**5－11768**・140)の㊀に同じ。

【搻】12518 ダフ ナフ 〔集韻〕諾荅切 合

うつ。或は抐(**5－11882**)に作る。〔集韻〕搻、打也、或省。

【搴】12519
㈠ケン 〔集韻〕丘虔切 ㄑㄧㄢ chʻien^{1} 先
㈡ケン 〔集韻〕九件切 銑
㈢セン 〔集韻〕巳仙切 先

㈠㈡㊀**ぬく。又、とる。**ぬきとる。〔小爾雅、

廣詁〕搴、取也。〔楚辭、離騷〕朝搴二阰之木蘭一兮。〔注〕搴、取也。〔楚辭、九歌、湘君〕搴二芙蓉兮木末一。〔注〕搴、手取也。〔史記、叔孫通傳〕斬レ將搴レ旗之士。〔注〕集解曰、瓚曰、拔取曰レ搴。〔漢書、季布傳贊〕身履レ軍搴レ旗者數矣。〔注〕李奇曰、搴、取也、孟康曰、搴、斬取也、師古曰、謂三勝レ敵拔二取旗一也。〔爾雅、釋言、芼搴也、釋文〕搴、取也。〔郭璞、爾雅序〕搴二其蕭稂一。〔釋文〕搴、拔也。❷**まく**。〔史記、叔孫通傳〕搴レ旗之士。〔注〕集解曰、張晏曰、搴、卷也。❸**草の名**。〔爾雅、釋草〕搴、柜朐。❹**かかげる**。もちあげる。攐(**5－12968**)に通ず。〔正字通〕搴、按、摳レ衣之攐、通作レ搴、毛詩、褰レ裳涉レ溱、省レ扌。❺攓(**5－12976**)に同じ。〔集韻〕攓、方言、取也、楚謂二之攓一、一曰、縮也、拔也、或作レ搴。❻㩃(**5－12689**)に同じ。〔集韻〕㩃、說文、拔取也、亦作レ搴。❼**姓**。〔萬姓統譜〕搴楊、漢將。[三]**ひきとる**。〔集韻〕搴、引取也、史記、搴二長茭一。

【搴帷】1 ケン ヰ 掛け幕をかかげ上げる。〔曹植、棄婦篇〕搴レ帷更攝レ帶、撫レ節彈二素箏一。

【搴旗】2 ケン キ 旗をぬき取る。敵の旗を奪ひ取る。〔吳子、料敵〕力輕二扛鼎一、足輕二戎馬一、搴レ旗取レ將、必有レ能者。〔史記、叔孫通傳〕斬レ將搴レ旗之士。〔注〕集解曰、張晏曰、搴、卷也、瓚曰、拔取曰レ搴、楚辭曰、朝搴二阰之木蘭一、索隱曰、案、方言云、南方取レ物云レ搴、許愼云、搴、取也。〔漢書、欒布傳贊〕身履レ軍搴レ旗者數矣。〔孔子家語、致思〕搴レ旗執レ馘。

【搴擷】3 ケン ケツ ぬきとる。〔無可、蘭詩〕靈均曾搴擷、紉レ珮掛二荷裳一。

【搴裳】4 ケン シヤウ すそをかかげる。股立ちをとる。褰裳。

【搴取】5 ケン シユ とる。ぬきとる。

【搴出】6 ケン シユツ ぬき出す。

【搴芳】7 ケン パウ 花をぬき取る。〔白居易、從二龍潭寺一至二少林寺一題贈二同遊者一詩〕山屐田衣六七賢、搴レ芳蹋レ翠弄二潺湲一。

【搴木】8 ケン ボク 木に取る。木から取る。〔韓愈、木芙蓉詩〕採レ江官渡晩、搴レ木古祠空。

【搴攬】9 ケン ラン かかげとる。〔王泠然、初月賦〕搴攬而不レ盈。

【搴簾】10 ch'ien¹ lien² 簾を捲き上げる。

【搵】12520

[一] ヲン 〔集韻〕烏困切 ㄨㄣˋ wen⁴ 願
[二] ウン 〔集韻〕委隕切 吻
[三] ウン 〔集韻〕於云切 文
[四] ヲツ ヲチ 〔集韻〕烏沒切 月

小篆

[一][二][三]❶**しづむ**。ひたる。そまる。〔說文〕搵、沒也、从レ手昷聲。〔段注〕謂三湛二浸於中一也。❷**ひたす**。そめる。〔廣雅、釋詁四〕搵、擩也。❸**おさへる**。〔六書故〕搵、指按也。[四]**手で物をとらへるさま**。〔廣韻〕搵、手撩レ物皃。

【搵死】1 ヲン シ 水におしいれられて死ぬ。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕此被二人倒提入レ水搵死者也。

【搵染】2 ヲン セン そめる。〔漢書、司馬相如傳上、脟割輪焠、注〕師古曰、焠、亦搵染之義耳。

【搵倒】3 wen⁴ tao³ 抑へ倒す。

【搵住】4 wen⁴ chu⁴ 抑へる。壓へる。

【搵抐】5 ヲン ドツ ひたす。そめる。〔廣雅、釋言〕搵抐、擩也。

【𢶁】12521

ビツ ミチ 〔集韻〕覓畢切 ㄇㄧˋ mi⁴ 質

ぬぐふ。〔集韻〕𢶁、拭也。

【擥】12522

ラン 擥(**5－12859**)・攬(**5－13046**)の俗字。〔康熙字典〕擥、俗擥字。〔字彙〕擥、攬俗字。

【𢱤】12523

シヨウ シユ 〔集韻〕筍勇切 腫

とる。**又、おす**。㩳(**5－13005**)に同じ。〔集韻〕㩳、執也、推也、或省。

【𢳆】12524

ホン ボン 〔玉篇〕蒲本切 阮

車を蓋ふ篷。〔玉篇〕𢳆、車弓也。

【搶】12525

[一] サウ シヤウ 〔集韻〕此兩切 ㄑㄧㄤˇˋ ch'iang³·⁴ ㄔㄨㄤˇ ch'uang³ 養
[二] シヤウ サウ 〔集韻〕千羊切 陽
[三] サウ シヤウ 〔集韻〕鋤庚切 庚
[四] シヤウ サウ 〔字彙補〕此亮切 ㄑㄧㄤ ch'iang¹ 漾

[一]❶**つく**。或は摤(**5－12603**)に作る。〔集韻〕搶、突也、或从レ爽。❷**とどく**。〔廣韻〕搶、頭搶レ地、見二史記一。❸**あらそひとる**。〔字彙〕搶、爭取也。❹**筆法の名**。斜上にはね出すもの。〔翰林要訣〕搶各有二分數一、圓蹲直搶、偏蹲側搶、出鋒空搶。❺[現]㋑強ひる。㋺蹈み出す。[二]❶**あつまる**。〔集韻〕搶、集也。〔莊子、逍遙遊〕搶二榆枋一。〔釋文〕搶、司馬・李云、猶レ集也。❷**つく**。つきさす。〔集韻〕搶、突也。〔戰國、魏策〕以レ頭搶レ地爾。〔注〕搶、突也。〔莊子、逍遙遊〕我決起而飛、搶二榆枋一。〔釋文〕搶、支遁云、搶、突也。❸**とどく**。いたる。〔莊子、逍遙遊〕搶二榆枋一。〔釋文〕搶、崔云、著也。❹**とびかすめる**。〔正字通〕搶、飛掠也。❺**こばむ**。〔廣韻〕搶、拒也。[三]❶**みだれるさま**。搶攘(14)を見よ。❷槍(**6－12525**)に通ず。〔韻會〕槍、爾雅、慧星爲二攙槍一、或作レ搶。[四]**帆をはる**。帆に風をうける。〔正字通〕搶、吳楚謂二帆上レ風曰レ搶。〔庾闡、揚都賦〕艇子搶レ風、榜人逸レ浪。

【搶案】1 ch'iang³ an⁴ 強盜事件。

【搶行】2 ch'iang³ hsing² 謀を以て人を推しのけて自分が其の地位を占めること。

【搶姦】3 サウ カン 搶奪と姦通。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、窩主〕取下具並無二搶姦等弊一各甘結上存レ案。

【搶捍】4 サウ カン 疾く走るさま。又、勇躍する。〔傅毅、舞賦〕良駿逸足、搶捍凌越。〔注〕善曰、搶捍、馬走疾之皃、翰曰、搶捍、勇躍也。

【搶眼】5 ch'iang² yen³ 美しくて眼をうばふ。

【搶去】6 サウ キヨ 掠め去る。強奪する。〔桃花扇、逃難〕倶被二亂民搶去一、還把二學生一打倒在レ地。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕要証又行二搶去一。

【搶劫】7 サウ ケフ 掠めとる。〔淸會典事例、刑部、刑律賊盜、白晝搶奪〕川省嘓匪、糾二夥五人以上一、在二於城市人煙湊集之所一、橫行搶劫者、不レ論三曾否二得財一、爲レ首者照二光棍例一、擬レ斬立決。

〖搶劫一空〗8 ch'iang³ chieh² i⁴ k'ung¹ 掠奪して裸にする。〔桃花扇、逃難〕被二此亂民搶劫一空、僅留性命。

【搶險】9 サウ ケン 危險で急を要する河の工事は、本部に連絡しないで、卽時に修理すること。〔淸會典事例、工部、河工、河工經費歲修搶修〕嘉慶二十一年諭、方受疇奏下籌二撥河工搶險銀兩一一摺上、豫省河工、每年於二藩庫地丁內一撥二銀三十萬兩一、另款存貯、以爲二搶險之用一。

【搶臉】10 ch'iang² lien³ 顏をすりむく。

【搶攙】11 サウ サン 星の名。又、戰爭をいふ。攙搶(**5－12991··8**)を見よ。〔白居易、和下渭北劉大夫借二

便秋遮虜一寄中朝中親友上詩〕廻レ頭問二天下一、何處有二搶攙一。（和刻馬元調本）

【搶嘴】12 chʻiang^{2} tsuei^{3} さし出口をする。人の話に口を入れる。

【搶修】13（サウシウ） 隄防が安固か危險かを見計らひ、臨時に修理すること。又、其の工事。〔六部成語、工部、搶修、注解〕河工已出二危險一、竭レ力爭修、以救レ之也。

【搶攘】14（サウジヤウ） みだれるさま。傖囊（1－964‥8）に同じ。〔集韻〕搶、搶攘、亂皃。〔漢書、賈誼傳〕首尾衡決、國制搶攘、非二甚有レ紀、胡可レ謂レ治。〔注〕蘇林曰、搶攘、亂貌。〔柳宗元、弔二屈原一文〕支離搶攘兮、遭二世孔疚一。

【搶親】15（サウシン） 奪掠結婚をいふ。〔陔餘叢考、劫婚〕村俗有下以二婚姻議財不レ諧、而糾レ衆劫レ女成レ婚者上、謂二之搶親一。

【搶清】16 chʻiang^{3} chʻing^{1} 清明節に神に供へた供物を、小兒等が窃かに奪ひあふこと。山東省榮城附近の行事。

【搶擾】17（サウゼウ） さわぎみだれる。又、さわがしみだす。騷擾。

【搶占】18（サウセン） 奪ひ取る。〔還魂記、耽試〕適纔不二敢奏知一、金主此行、單爲三來搶二占西湖美景一。

【搶先】19 chʻiang^{3} hsien^{1} 先を爭ふ。

【搶奪】20（サウダツ） うばふ。奪掠する。〔明律、刑律、賊盜、白晝搶奪〕凡白晝搶二奪人財物一者、杖一百、徒三年。〔清律、刑律、賊盜、白晝搶奪、注〕人少而無二兇器一、搶奪也、人多而有二兇器一、強劫也。〔附注〕出二人不意一而攫レ之曰レ搶、用レ力互爭而得レ之曰レ奪。〔福惠全書、刑名部、監禁〕多二其護送一、則搶奪無レ所レ施。

【搶地】21（サウチ） 地にとどく。地にいたる。匍伏して哀を乞ふこと。槍地。〔戰國、魏策〕布衣之怒、亦免レ冠徒跣、以レ頭搶レ地耳。〔注〕搶、突也。〔漢書、司馬遷傳〕見二獄吏一則頭搶レ地。

【搶頭】22 chʻiang^{3} tʻou^{2} 搶嘴（12）に同じ。

【搶破】23 chʻiang^{3} pʻo^{4} すりむく。地で打ち傷をする。

【搶白】24 chʻiang^{3} po^{2} ❶たしなめる。〔西廂記、張君瑞鬧道場雜劇〕被紅娘搶白了一頓呵、回來了。❷面と向つてそしり、又は嗤ふこと。

【搶風】25（サウフウ） 帆に風を受ける。〔庾闡、揚都賦〕艇子搶レ風、榜人逸レ浪。

【搶步】26 chʻiang^{3} pu^{4} 驅け出す。

【搶糧】27（サウリヤウ） うばひとる年貢。〔福惠全書、荒政部、除盜〕非レ懲二偷竊一而禁二搶糧一無レ由也。

【搶掠】28（サウリヤク） 掠める。強奪する。〔清會典事例、戶部、蠲恤、賑恤〕閒有下本地糧石被二賊搶掠一者上。〔福惠全書、刑名部、拿審〕搶二掠鄉村一。

【搶擄】29（サウリヨ） 掻つ拂ふ。掠奪。〔清會典事例、刑部、刑律賊盜、白晝搶奪〕苗人聚レ衆、至二百人以上一、燒レ邨劫殺、搶二擄婦女一。

【搶上風】30 chʻiang^{3} shang fêng^{1} 利のある處を占め取る。一番良い所を占めようと爭ふ。

【搶著買】31 chʻiang^{3} chê mai^{3} 爭つて買取る。

【搶臘水】32 chʻiang^{3} la^{4} shuei^{3} 十二月八日早朝に、龍池から水を汲むことを競ふこと。雲南省騰衝地方の風習。

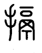
【搷】12526 🈩テン デン 〔集韻〕亭年切 先 🈔チン 〔集韻〕癡鄰切 眞

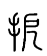
🈩❶うつ。たたく。〔集韻〕搷、擊也。〔楚辭、宋玉、招魂〕搷二鳴鼓一些。〔注〕搷、擊也。❷あげる。〔廣雅、釋詁四〕搷、揚也。❸ひく。〔集韻〕搷、引也。🈔のびる。又、ひきもどす。伸（1－481）に同じ。〔集韻〕伸、申也、引戾也、或作レ搷。

【搸】12527 シン 〔集韻〕緇詵切 眞

❶あつめる。〔廣韻〕搸、聚也。❷琴瑟のおと。〔集韻〕搸、琴瑟聲也。

【搹】12528 🈩アク ヤク 〔集韻〕乙革切 陌 🈔カク キヤク 〔集韻〕各核切 陌


小篆


或體

🈩❶とる。もつ。〔說文〕搹、把也、从レ手鬲聲。❷つかむ。にぎり。〔儀禮、喪服〕苴絰大搹。〔注〕搹、扼也。❸或は㧖（5－11942）・扼（5－11848）に作る。〔說文〕搹、㧖、搹或从レ戹。〔集韻〕搹、或作二㧖・扼一。🈔とる。🈩の❶に同じ。〔集韻〕搹、把也。

【携】12529 ケイ 攜（5－13008）の俗字。〔字彙〕携、俗攜字。

【𢳆】12530 ベン 拚（5－11966）の本字。〔正字通〕𢳆、拚本字。

【𢶍】12531 セン 擅（5－12338）の本字。〔正字通〕𢶍、擅本字。

【𢲾】12532 ヨ 舁（9－30188）の俗字。〔正字通〕𢲾、俗舁字。

【𢳂】12533 キ 揮（5－12394）の古字。〔古文奇字〕𢳂、古揮字。

【𢬀】12534 ダク 搦（5－12500）に同じ。〔篇海〕𢬀、同レ搦。

【搩】12535 カツ 擖（5－12833）に同じ。〔康熙字典〕搩、同レ擖。

【𢪸】12536 ホウ 奉（3－5894）の古字。〔六書本義〕𢪸、古文奉字。

【㨨】12537 🈩リウ ル 〔集韻〕力救切 宥 🈔リク ロク 〔集韻〕力竹切 屋 🈪チウ

🈩墻を築いて土を塗る。〔集韻〕㨨、築レ墻布レ土也。🈔ひく。〔集韻〕㨨、引也。🈪抽（5－11930）の籀文。〔刊謬正俗〕㨨、抽字籀文从レ此。

【搃】12538 シン 〔集韻〕七鴆切 沁

さす。さしはさむ。或は𢩧（5－11875）に作る。〔集韻〕搃、插也、或从レ心。

【𢱧】12539 シン 〔集韻〕子鴆切 沁

ふかくほる。〔集韻〕𢱧、深掘也。

【㨗】12540 🈩セフ 🈔テイ 🈩捷（5－12216）に同じ。〔篇海〕㨗、同レ捷。🈔𣔻（6－15279）の譌字。〔康熙字典〕㨗、按、𣔻字之譌。

【㨃】12541 ツイ ヅイ 〔篇海〕直追切 支

❶うつ。〔篇海〕㨃、打也。❷搥（5－12498）の譌字。〔康熙字典〕㨃、按、搥字之譌。

【𢴀】12542 ハウ 拋（5－11948）に同じ。〔篇海〕𢴀、同レ拋。

【搙】 12543 セツ ゼチ 〔篇海〕情雪切 屑

㊀**たつ**。〔篇海〕搙、絶也。㊁庋(8－22861)の譌字。〔康熙字典〕搙、按、庋字之譌。

【搼】 12544 ケン 拳(5－11996)に同じ。〔篇海〕搼、同レ拳。

【摉】 12545 シウ 搜(5－12486)に同じ。〔篇海〕摉、同レ搜。

【摒】 12546 イフ 揖(5－12351)に同じ。〔篇海〕摒、同レ揖。

【搵】 12547 エン ヲン 〔篇海〕於元切 元

かがめる。〔篇海〕搵、屈也。

【摞】 12548 ゼン ネン 〔海篇〕而宣切 先

㊀**すみやかにさる**。〔海篇〕摞、去急也。㊁撰(5－12356)の譌字。〔康熙字典〕摞、按、撰字之譌。

【捿】 12549 フ 扶(5－11840)の古字。〔字學元元〕捿、古扶字。

【掤】 12550 ヒョウ 〔字彙補〕巳升切 蒸

㊀**手で矢をおほふ**。〔字彙補〕掤、以レ手覆レ矢也。㊁**弓の弦**。〔字彙補〕掤、弓弦也。

【摬】 12551 ザ 挫(5－12087)の本字。〔正字通〕挫、本作レ摬。

【搽】 12552 タ ダ 〔中華大字典〕讀若レ茶。ㄔㄚˊ ch'a^{2} ㄘㄚ ts'a^{1}

現塗る。〔中華大字典〕搽、俗字、敷也、如二婦女敷レ粉曰レ搽粉、瘡瘍敷レ藥曰レ搽レ藥之類。

【搽瘡】^{1} ch'a^{2} ch'uang^{1} 腫物に塗り藥する。又、腫物をこすること。

【搽旦】^{2} ch'a^{2} tan^{4} 淫婦・娼婦に扮する役者。花旦。

【搽粉】^{3} ch'a^{2} fen^{3} 白粉をぬりつける。

【搽藥】^{4} ch'a^{2} yao^{4} 藥をつける。

【搽乾淨】^{5} ch'a^{2} kan^{1} ching^{4} 綺麗に拭く。

【搽不掉】^{6} ch'a^{2} pu tiao^{4} こすつても落ちない。拭ひおちない。

【搽胭抹粉】^{7} ch'a^{2} yen^{1} mo^{2} fen^{3} 紅をつけ白粉を塗る。おしやれする。

【搾】 12553 サ 〔辭源〕讀如レ詐。ㄓㄚˋ cha^{4} 慣サク

現しぼる。しぼりとる。 榨(6－15259)の俗字。〔辭源〕搾、凡物之含二有流質一者、以二榨牀一壓二擠之一、而取二其汁一也。〔辭海〕搾、榨俗字。

【搾取】^{1} サク シュ ㊀しぼつて汁をとること。㊁資本家や地主が勞働者や農民の爲す勞働に對し、その價値だけのものを支拂はず、僅かにその一部分を與へて、他を自分の所有とすること。

【搿】 12554 カク 〔辭源〕讀與レ格近。ㄍㄜˊ kê^{2}

現兩手で合せ抱く。〔辭源〕搿、俗字、吳方言、兩手合抱レ之曰レ搿。

【摀】 12555 ウ ㄨˇ wu^{3}

現㋑塞ぐ。㋺手で蔽ふ。

【摀嘴】^{1} wu^{2} tsuei^{3} 口を蔽ふ。

【摀天】^{2} wu^{3} t'ien^{1} 天を蔽ふ。

【摀耳朶】^{3} wu^{2} êrh^{3} tuo 耳を蔽ふ。

【摀不住】^{4} wu^{3} pu chu^{4} 蔽ひきれない。蓋をしきれない。

【摁】 12556 オン ㄣˋ en^{4}

現おす。おさへる。〔國音常用字彙〕摁、按也、如レ摁二電鈴一。

【揘】 12557 音未詳 〔中華大字典〕音未詳。

たたく。**うつ**。 攩(5－13040)の㈠の㊁を見よ。〔廣韻〕攩、攩揘、槌打。〔中華大字典〕揘、攩揘、槌打也、見二廣韻三十七、蕩、他朗切、攩字注一。

【摂】 12557′ セツ 攝(5－13010)の略字。

十一畫

【摋】 12558 ㈠サツ サチ 〔集韻〕桑葛切 ㄙㄚ sa^{1} 曷 ㈡セツ セチ 〔集韻〕私列切 屑 ㈢サツ セチ 〔集韻〕山戛切 黠 ㈣サイ 〔集韻〕師駭切 蟹

㈠㈡㈢㊀**うつ**。ひら手で擊つ。〔公羊、莊、十二〕宋萬臂摋二仇牧一、碎二其首一。〔注〕側レ手曰レ摋。㊁**揮ひ散らす**。〔字彙〕摋、揮散也。㊂**はらひのける**。抹摋。〔廣韻〕摋、抹摋。〔集韻〕摋、一曰、抹摋、掃滅也。㊃**いりまじる**。〔淮南子、俶眞訓〕不三與レ物相弊摋二。〔注〕弊摋、猶二雜糅一也。㊄殺(6－16638)に通ず。〔韓愈、貞曜先生墓誌〕唯其大翫二於詞一、而與レ世抹摋。〔注〕古通二用末殺一。㈣**あげる**。ふるひ出す。擺摋。〔集韻〕摋、擺摋、抖擻也。

【撇】 12559 ネン 撚(5－12713)に同じ。〔篇海〕撇、與レ撚同。

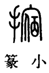
【擘】 12560 ヰ 〔集韻〕紆胃切 未

のばす。のす。〔集韻〕擘、以レ手布レ物也。

【摌】 12561 ㈠サン セン 〔集韻〕所簡切 潸 ㈡ソン 〔集韻〕所恨切 願

㈠㊀**ゆする**。うごかす。〔廣韻〕摌、以レ手核レ物。㊁**よりわける**。捍摌。〔集韻〕摌、捍摌、手精二擇物一也。㊂**ゆれる**。捍摌。〔集韻〕捍、捍摌、搖動。㈡**ふるふ**。〔集韻〕摌、揮也。

【摍】12562 シュク スク 〔集韻〕所六切 屋

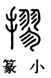

小篆 ❶ひく。ひきぬく。もと摍に作る。〔正字通〕摍、本作レ摍。〔說文〕摍、蹴引也、从レ手宿聲。〔段注〕蹴、猶レ迫也。〔廣雅、釋詁一〕摍、引也。〔疏證〕說文、摍、蹴引也、小雅巷伯傳、摍レ屋而繼レ之、正義云、摍、抽也、抽亦引也。〔廣韻〕摍、抽也。❷縮(8－27815)に通ず。〔詩、小雅、巷伯、哆兮侈兮成二是南箕一、傳、縮レ屋而繼レ之、釋文〕縮、又作レ摍。❸或は⿱宿手(5－12563)に作る。〔集韻〕摍、或書作レ⿱宿手。

【摍亂】1（シュクラン） ひいてみだす。〔新方言、釋言〕縱而引レ之曰レ摍、引レ之而亂曰二摍亂一。

【⿱宿手】12563 シュク 摍(5－12562)に同じ。〔集韻〕摍、或書作レ⿱宿手。

【摎】12564

㊀キウ ク 〔集韻〕居尤切 ㄐㄧㄡ chiu¹ 尤
㊁リウ ル 〔集韻〕力求切 尤
㊂レウ 〔集韻〕離昭切 蕭
㊃カウ ケウ 〔集韻〕居肴切 肴
㊄カウ ケウ 〔集韻〕吉巧切 巧
㊅ダウ ネウ 〔集韻〕女巧切 巧
㊆ラウ レウ 〔集韻〕力交切 肴


小篆 ㊀❶しばりころす。しめころす。繆(8－27855)に通ず。〔說文〕摎、縛殺也、从レ手翏聲。〔正字通〕摎、與レ繆通。❷くくる。〔玉篇〕摎、絞也。〔儀禮、喪服傳〕殤之經、不レ摎レ垂。〔注〕不レ摎レ垂者、不レ絞二其帶之垂者一。❸まつはる。めぐる。糾(8－27227)に通ず。〔說文通訓定聲〕摎、段借爲レ糾。〔正字通〕摎、繞也。〔漢書、五行志中之下〕天雨レ草而葉相摎結、大如二彈丸一。〔注〕師古曰、摎、繞也。〔郭璞、江賦〕驪虯摎二其址一。〔注〕善曰、宋衷太玄經注曰、摎、猶レ糾也。❹いりくむ。まじはる。〔管子、大匡〕朋友不レ得二相合摎一。〔注〕摎、交入也。❺みだれる。もつれる。〔太玄經、玄攡〕死生相摎。〔注〕摎、謂二相擾一也。❻もとめる。求(6－17105)に通ず。〔說文通訓定聲〕摎、段借爲レ求。〔後漢書、張衡傳〕摎二天道一其焉如。〔注〕摎、求也。❼たばねる。或は⿰扌丩(5－11774)に作る。〔集韻〕摎、束也、或从レ丩。❽姓。〔通志、氏族略〕摎氏、居求切、一音留、史記、南越王趙嬰齊、在二長安一時、娶二邯鄲摎氏女一。㊁❶たばねる。〔廣雅、釋詁三〕摎、束也。❷とる。〔廣雅、釋言〕摎、捋也。❸或は⿰扌劉(5－12896)に作る。〔集韻〕摎、或从レ劉。❹姓。㊀の❽に同じ。〔集韻〕摎、亦姓。㊂❶おさへる。〔集韻〕摎、擣也。❷しめころす。〔集韻〕摎、一曰、縛殺。㊃❶たばねる。〔集韻〕摎、束也。❷みだす。みだれる。〔廣韻〕摎、撓也。㊄もとめる。さがす。〔集韻〕摎、摎蓼、搜索也。㊅みだれる。或は撓(5－12698)に作る。〔集韻〕撓、說文、擾也、一曰、捄也、或作レ摎。㊆まじはる。いりくむ。〔集韻〕摎、物相交也。

【摎結】1（キウケツ） まつはりかたまる。又、つかねて丸める。〔漢書、五行志中之下〕天雨レ草而葉相摎結、大如二彈丸一。〔注〕師古曰、摎、繞也。

【摎流】2（キウリウ） 周流する。〔揚雄、反離騷〕乘二雲蜺之旖旎一兮、望二崑崙一以摎流。

【摎蓼】3（カウレウ） 偏く搜索する。〔張衡、西京賦〕摎蓼浶浪、乾レ池滌レ藪。〔注〕銑曰、摎蓼浶浪、謂二偏搜索一也。

【摏】12565 ショウ シユ 〔集韻〕書容切 ㄔㄨㄥ ch'ung¹ 冬

❶つく。〔集韻〕摏、衝也。〔左氏、文、十一〕富父終甥摏二其喉一、以レ戈殺レ之。〔注〕摏、猶レ衝也。❷うつ。たたく。〔廣韻〕摏、撞也。❸舂(9－30195)に通ず。〔正字通〕摏、本借レ舂、俗加レ手。

【摐】12566

㊀サウ 〔集韻〕初江切 ㄔㄨㄤ ch'uang¹ 江
㊁ショウ シユ 〔集韻〕七恭切 冬

㊀㊁❶うつ。たたく。〔廣雅、釋言〕摐、撞也。〔史記、司馬相如傳〕摐二金鼓一吹二鳴籟一。〔注〕集解曰、摐、擊也。〔漢書、司馬相如傳上〕摐二金鼓一。〔注〕師古曰、摐、撞也。❷をさまる。〔太玄經、從迎至昆〕逃、云云、次四、喬木維摐、飛鳥過レ之或降。〔注〕上撩稱レ摐、上撩之木、鳥所レ不レ集、故過レ之而去、君自尊高、衆士亦望レ之而去也。❸もののさま。摐摐(二)を見よ。

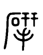
【摐摐】1（サウサウ） ❶聲の大きくほがらかなさま。〔韓愈、病中贈二張十八一詩〕扶レ几導レ之言、曲節初摐摐。❷みだれるさま。紛錯。〔陸龜蒙、憶二襲美一洞庭觀步奉和次韻詩〕聞君遊二靜境一、雅具更摐摐。

【摐陽】2（ショウヤウ） 縣名。漢、置く。故城は安徽省桐城縣の東南。一に樅陽に作る。〔漢書、地理志上〕廬江郡、縣十二、摐陽。

【⿰扌曹】12567 サウ ゾウ 〔集韻〕在到切 號

かきみだす。〔集韻〕⿰扌曹、攪也。

【揅】12568 ゲン 〔集韻〕倪堅切 ㄧㄢ yen² 先 慣ケン


小篆（段注本） ❶みがく。する。こする。研(8－24177)に通ず。〔說文〕揅、摩也、从レ手研聲。〔段注〕宋本奪二此字一、今依二小徐・集韻・類篇一補。〔說文通訓定聲〕揅、鍇本有二此篆一、鉉本無。〔廣雅、釋詁三〕揅、磨也。〔易、繫辭上〕夫易、聖人之所二以極レ深而研レ幾也。〔釋文〕研、蜀本作レ揅。❷とぎやぶる。〔廣韻〕揅、挈破。

【揅經】1（ケンケイ） 經書を研究する。研經室を見よ。

【揅經室】2（ケンケイシツ） 清、阮元の書室の名。〔阮元、揅經室集自序〕室名二揅經一者、余幼學、以レ經爲レ近也、余之說レ經、推二明古訓一、實レ事求レ是而已、非二敢立レ異也。

【揅經室集】3（ケンケイシツシフ） 書名。五十四卷。清、阮元撰。一集十四卷、二集八卷、三集五卷、四集文二卷・詩十一卷、外集五卷、續集十一卷。阮元の文集及び詩集。〔四部叢刊、第一千八百五十八－一千八百七十七冊〕。

【摢】12569

㊀ゴ コ 〔集韻〕後五切 麌
㊁ク コ 〔正字通〕呼誤切 遇

㊀捬摢は、かつてにふるまつて理不盡なこと。〔集韻〕摢、捬摢、不二順理一。㊁ほどこす。しく。濩(7－18517)に通ず。〔正字通〕摢、敷施也、義與レ濩通。〔路史、禪通紀〕體用相彙、彌綸布摢。

【⿰扌兜】12570 トウ ツ 〔集韻〕當侯切 ㄉㄡ tou¹ 尤

㊀うつ。〔集韻〕⿰扌兜、批也。㊁つつむ。〔字彙〕⿰扌兜、⿰扌兜⿰扌監。㊂現兜(1−1386)に同じ。

【⿰扌笡】12571 シヤ 〔集韻〕七夜切 禡

㊀ななめにささへる。〔集韻〕⿰扌笡、衺捂也。㊁誤って担(5−11914)に作る。〔正字通〕担、⿰扌笡字之譌。

【摑】12572 ㈠クワク 〔集韻〕古獲切 ㄍㄨㄛ kuo² 陌 ㈡クワク 〔字彙〕古伯切 陌

㈠㈡㊀うつ。〔集韻〕摑、批也。〔避暑錄話〕摑二其口一。㊁耳をうつ。⿰扌馘(5−12993)に同じ。〔康熙字典〕摑、掌ㇾ耳也、與ㇾ⿰扌馘同。邦つかむ。にぎる。

【摑合】1（ツカミアヒ） とつくみあひ。喧嘩。

【摑取】2（ツカミドリ） つかみ取ること。貪り取ること。無造作に取ること。

【摑裂】3（クワクレツ） 佛裂き破る。〔無量壽經、上〕摑二裂邪網一。

【⿰扌郭】12573 クワク

擴(5−12895)に同じ。〔集韻〕擴、或从ㇾ郭。

【⿰扌袞】12574 コン 〔集韻〕古困切 願

めぐる。めぐらす。〔集韻〕⿰扌袞、轉也。

【摒】12575 ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕卑正切 ㄅㄧㄥ ping⁴ 敬

㊀はらふ。のぞく。〔廣雅、釋詁三〕摒、除也。㊁或は拼(5−12236)に作る。〔集韻〕摒、或从ㇾ幷。㊂屛(4−7734)に通ず。〔正字通〕摒、與ㇾ屛通。

【摒擋】1 ping⁴ tang⁴ 定める。整へる。處置する。屛當(4−7734･55)に同じ。

【摓】12576 ㈠ホウ ブ 〔集韻〕符容切 冬 ㈡フウ ブ 〔集韻〕符風切 東

㈠㊀衣をぬふ。縫(8−27809)に同じ。〔集韻〕縫、說文、以ㇾ鍼紩ㇾ衣也、亦作ㇾ摓。㊁大きい。逢(11−38901)に通ず。〔正字通〕摓、莊子、摓衣淺帶、通作ㇾ逢、注、逢掖大衣也。㊂ささげる。捀(5−12120)・捧(5−12189)に通ず。〔集韻〕捀、奉也、通作ㇾ摓。〔正字通〕摓、別作ㇾ捧。㈡ぬふ。縫(8−27809)に同じ。〔集韻〕縫、紩ㇾ衣也、或作ㇾ摓。

【摓策】1（ホウサク） 筮竹を兩手で分けて扐すること。〔史記、龜策傳〕夫摓ㇾ策定ㇾ數。〔注〕集解曰、徐廣曰、摓、音逢、一作ㇾ達、索隱曰、摓、謂二兩手執ㇾ蓍、分而扐ㇾ之、故云ㇾ摓ㇾ策。

【摔】12577 シュツ シユチ 〔字彙〕山律切 ㄕㄨㄞ shuai¹·³ 質

㊀地に棄てる。〔字彙〕摔、摔抾、棄二於地一也。㊁現㋑落ちる。落す。（上平）。㋺振る。㋩投げる。㋥落す。（以上上聲）。

【摔跤】1 shuai¹ chiao¹ 相撲。

【摔角】2 shuai¹ chiao³ 柔道に似た角力の一種。

【摔去】3 shuai¹ ch'ü⁴ なげすてる。〔紅樓夢、三回〕摘下那玉、就狠摔去、罵道、什麼罕物。

【摔懷】4 shuai¹ huai⁴ ゆすりやぶる。摔破(14)に同じ。

【摔碎】5 shuai¹ suei⁴ ゆすりやぶる。摔破(14)に同じ。

【摔砸】6 shuai¹ tsa² 打ちこはす。破壞する。

【摔讚】7 shuai¹ tsan⁴ 失敬な言葉を吐く。

【摔子】8 shuai³ tzŭ 蟲魚などが産卵すること。

【摔死】9 shuai¹ ssŭ³ ふり落されて死ぬ。

【摔袖】10 shuai³ hsiu⁴ 袖を振り拂ふ。

【摔手】11 shuai² shou³ 手を振る。

【摔折】12 shuai¹ shê² 折る。打ち破る。

【摔倒】13 shuai¹ tao³ 投げ倒す。

【摔破】14 shuai¹ p'o⁴ 搖り動かして破る。

【摔斃】15 shuai¹ pi⁴ 振り落されて死ぬ。

【摔門】16 shuai¹ men² 力を入れてひどく戸を閉める。

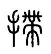
【摔筋斗】17 shuai¹ chin¹ tou もんどり打って倒れる。轉倒する。

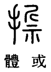
【摔打砸拉】18 shuai¹ ta³ tsa² la¹ 破壞する。

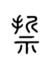
【摔蹬下馬】19 shuai¹ têng⁴ hsia⁴ ma³ 鐙をはづし馬から下りる。

【摕】12578

㈠テイ タイ 〔集韻〕丁計切 霽
㈡テイ ダイ 〔集韻〕大計切 霽
㈢テツ デチ 〔集韻〕徒結切 屑
㈣タイ 〔集韻〕當蓋切 泰
㈤トツ ドチ 〔集韻〕陀沒切 月


小篆


或體（說文）


或體（段注本）

㈠㈡㈢㊀つまむ。つまみとる。〔說文〕摕、撮取也、从ㇾ手帶聲、讀ㇾ若三詩曰二蝃蝀在ㇾ東一。㊁とる。〔廣雅、釋詁一〕摕、取也。㊂かすめる。かすめとる。〔張衡、西京賦〕超二殊榛一摕二飛鼯一。〔注〕綜曰、摕、捎二取之一。㊃或は⿰扌⿱斤示(5−12413)・⿱折示(6−14835)に作る。〔說文〕摕、⿰扌⿱斤示、或从ㇾ折从ㇾ示、兩手急持ㇾ人也。〔集韻〕摕、或作ㇾ⿱折示。㊄揥(5−12379)に通ず。〔正字通〕摕、或曰、揥、本作ㇾ摕、義通。㈣つまむ。㈠の㊀に同じ。〔集韻〕摕、撮取也。㈤うつ。〔集韻〕摕、擊也。

【摖】12579 ㈠セイ サイ 〔集韻〕七計切 霽 ㈡サツ セチ 〔集韻〕初戛切 黠

㈠かかげとる。〔集韻〕摖、挑取也。㈡おす。〔集韻〕摖、推也。

【摗】12580 ㈠ソウ ス 〔集韻〕先侯切 尤 ㈡ソウ ス 〔集韻〕損動切 董

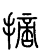
㈠とる。摟摗。或は捒(5−12154)に作る。〔集韻〕摗、摟摗、取也、或省。㈡馬がくつわをふりながら走る。駷(12−44758)に同じ。〔集韻〕駷、搖二馬銜一走、或作ㇾ摗。

【⿰扌⿱交夂】12581 アウ

㊀㑃(1−480)に同じ。〔集韻〕㑃、很戾也、或作ㇾ⿰扌⿱交夂。㊁挨(5−12414)の譌字。〔正字通〕⿰扌⿱交夂、挨之譌。

【摘】12582

㊀テキ チヤク 〔集韻〕他歷切 錫。ㄓㄜˊ chê²
㊁タク チヤク 〔集韻〕陟革切 陌。ㄓㄞ chai¹


小篆

㊀㊁つむ。とる。〔廣雅、釋詁一〕摘、取也。㋑つみとる。つまみとる。擿（5－12707）に同じ。〔說文〕擿、拓二果樹實一也、从レ手啻聲。〔段注〕引二伸之一、凡他取亦曰レ摘。〔唐書、承天皇帝倓傳〕一摘使二瓜好一、再摘令二瓜稀一。〔范成大、新荔枝詩〕新摘抽花薰二熟水一。㋺えらびとる。えらびわけてとる。〔晉書、裴秀傳〕甄二摘舊文一、疑者則闕。〔蔡邕、瑯琊王傳蔡公碑〕包二洞典籍一、刊二摘沉秘一。㋩つまみまとめる。〔詩、鄘風、君子偕老、象之揥也、傳〕揥、所二以摘一レ髮也。❷かなでる。〔熊朋來、瑟賦〕立摘臥摘、竹軋木搕。❸あばく。〔廣韻〕摘、發也。〔北史、王劭傳〕指二摘經史謬誤一。〔曾鞏、寄二王介甫一詩〕吽嚬聚譏摘。❹みだす。〔後漢書、隗囂傳〕東摘二濊貊一。〔注〕摘、擾也。❺ゆびさす。〔說文〕摘、一曰、指近レ之也。〔傳毅、舞賦〕摘二齊行列一。〔注〕善曰、指二摘行列一、使二整齊一也。❻うごく。うごかす。〔廣韻〕摘、動也。❼或は擿（5－12922）に作る。〔集韻〕摘、或从レ適。〔詩、鄘風、君子偕老、象之揥也、傳、揥所二以摘一レ髮也、釋文〕摘、本又作レ擿。❽現㋑下ろす。㋺脫ぐ。㋩融通する。

參考 熟語は擿（5－12922）を併せ見よ。

【摘印】1（テキイン） 官印を取上げる。官吏を懲戒免官すること。〔清會典事例、吏部、處分例、外官參劾〕凡遇二此等參奏一、概用二題本一、以昭二慎重一、再向例各省參案、除二特參貪酷挐問質審等犯一、一面具レ題、一面摘レ印看守、至二其餘降革休致改教之員一、必俟二部覆一允准、方令二離任一。〔六部成語訂正、吏部、摘印、注解〕凡官員犯レ事、急須レ撤二去其任一、不レ能三更待二公文往返、稽遲派員一、代替者、卽由二督撫委員一、連往索二摘該官之印一、使二之離任一。

【摘要】2（テキエウ） 多くの中から大切な所をぬきとること。要點をつまみとること。又、さうして作つた書類。

【摘校】3（テキカウ） 一つ一つしらべる。〔魏志、孫禮傳〕今二郡爭レ界八年、一朝決レ之者、緣下有二解書圖畫一、可上レ得二尋案摘校一也。

【摘記】4（テキキ） 要點をかいつまんで記す。摘錄（53）に同じ。

【摘釁】5（テキキン） きずをひろひだす。擿釁。〔後漢書、陳元傳〕抉レ瑕擿レ釁、掩二其弘美一。

【摘句】6（テキク） 句をとり出す。重要な句を擇び出す。〔李賀、南園十三首詩〕尋レ章摘レ句老雕蟲。〔玉海、聖文、御製論述、唐金鑑述〕宣宗大中初、令狐綯爲二翰林學士一、他夜召、與論二人間疾苦一、帝出二金鑑書一曰、太宗所レ著也、卿爲レ我擧二其目一、綯摘レ句擧レ此、帝曰、善、朕讀レ此、凡三復乃已、綯再拜曰、陛下欲レ興二王業一、捨レ此孰先、詩曰、惟其有レ之、是以似レ之。

【摘頑】7（テキグワン） わるものをえりだす。〔福惠全書、錢穀部、比較〕惟在二摘レ頑勒追一。

【摘果】8 chai¹ kuo³ 果物をもぎとる。

【摘花】9（テキクワ） 花をつみとる。摘英。〔梁元帝、咏霧詩〕不レ妨鳴レ樹鳥、時蔽二摘レ花人一。〔杜甫、佳人詩〕摘レ花不レ插レ髮、采レ柏動盈レ掬。

【摘欠】10 chai¹ ch'ien⁴ 商家に備へる萬年謄清帳をいふ。每年、他地方の商人との取引差引高を記入し置くもの。

【摘抉】11（テキケツ） あばき出す。〔韓愈、送レ窮文〕其次名曰二學窮一、傲二數與レ名、摘抉。〔注〕摘、發也、抉、出也。

【摘觖】12（テキケツ） あばき出す。摘發。擿觖（5－12922：4）に同じ。

【摘阮】13（テキゲン） 阮咸を彈ずるをいふ。阮咸は、樂器の名。〔米芾、西園雅集圖記〕琴尾冠紫道服摘レ阮者、爲二陳璧虛一。〔黃庭堅、聽二宋宗儒摘レ阮歌〕翰林尙書宋公子、文采風流今尙爾。〔顧英、是日秦淮海泛レ舟過二綽湖一云云詩〕王子岡頭秋杳冥、石牀摘レ阮素琴停。

【摘語】14（テキゴ） 要領を摘擧して傳語すること。

【摘拘】15（テキコウ） ひきよせてぎんみする。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕遞レ禀摘拘。

【摘菜】16（テキサイ） 菜をつみとる。又、其の菜。つみな。〔陸游、詩〕古洗注レ湯供二頮濯一、春畦摘レ菜助二炰烹一。

【摘載】17（テキサイ） 大略又は要點をつまんで書きのせること。又、其のかきもの。摘記。

【摘草】18（テキサウ） ❶草をつみとる。〔韋應物、賈常侍林亭燕集詩〕淩レ露摘二幽草一、涉レ煙翫二輕舟一。❷（ツミクサ） 春先、野に出て雜菜又は草花をつみとること。

【摘索】19（テキサク） つまみとる。〔韓偓、清興詩〕陰沈天氣連翩醉、摘二索花枝一料峭寒。

【摘插】20（テキサフ） つまみはさむ。つまんでさしこむ。〔孟珠曲〕揚州石榴花、摘插雙襟巾。〔宋石城樂〕摘插環髻前。

【摘參】21（テキサン） 官吏の過失を指摘して、その罪狀を彈劾すること。〔六部成語、吏部、摘參、注解〕指二出其過失一而參二劾之一。

【摘髭】22（テキシ） ひげをひつぱる。科擧の試驗に合格することの容易な意。〔書言故事、科第類〕摘髭、言下取二科第一之易上、韓愈、寄二崔立之一詩、連年取二科第一、若レ摘二頷底髭一。

【摘將】23（テキシヤウ） つまみとる。つみとる。〔元稹、村花晚詩〕村中兒女爭摘將、插二刺頭鬢一相誇張。

【摘借】24 chai¹ chieh⁴ 金を借りる。內借。

【摘釋】25（テキシヤク） 犯罪連累被告人中から無罪の保證のある者を釋放すること。〔大清律例〕將二案內無辜牽連人等一、先行二摘釋一、止將二要犯一解二赴同知衙門一審明。

【摘取】26（テキシユ） つみとる。

【摘出】27（テキシユツ） つまみだす。あばきだす。〔福惠全書、錢穀部、比較、摘二拿頑戶一〕尙欠者將二排年一摘出值レ比。

【摘心】29 chai¹ hsin¹ 斷腸の。

【摘齊】30（テキセイ） 指摘して整へさせる。〔傳毅、舞賦〕摘二齊行列一、經營切儗。〔注〕善曰、指二摘行列一、使二之齊整一也。

【摘蓆】31 chai¹ hsi² 寢所を變じたためにねむれないこと。

【摘拿】32（テキダ） えりだしてとらへる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕或查出摘拿。

【摘刀】33 chai¹ tao¹ ❶刀をはづす。❷刀をお取り下さい。武官の上官が小官に對する挨拶。

【摘茶】34（テキチヤ） 茶の芽をつみとること。ちやつみ。〔韓偓、信筆詩〕生涯采レ芝叟、鄉俗摘レ茶歌。〔歐陽脩、詩〕雪消深林自劚レ筍、人向二空山一隨摘レ茶。

【摘頂】35 chai¹ ting³ 清代、官吏の懲戒處分。官吏の品級を示す帽子の上につける珠玉の頂子を取去ること。

【摘調】36（テキテウ） 曲體の一。曲の中から優れた部分だけをぬいて作つた小曲。

【摘掇】37（テキテツ） つまむ。つみとる。〔元稹、遣レ書詩〕掃除田地靜、摘掇園蔬美。〔貢師泰、學圃吟〕琅玕琥珀鉤二珊瑚一、鑱劚摘掇覗二密疏一。

【摘鑷】38 chai¹ nieh⁴ 毛ぬきの類。

【摘田】39（ツミタ） 苗をつまみ取る田の意。直接に田に播種し、苗が二十糎位になつた頃、多過ぎる所を適宜に間引くからいふ。

【摘入】40（ツミイレ） 料理の一種。捏ねた小麥粉、又はすつた魚肉等を、團子のやうに丸めて汁の中に入れて煑たもの。

【摘芳】41（テキハウ） 花をつみとる。〔謝靈運、石室山詩〕合レ歡不レ容レ言、摘レ芳弄二寒條一。〔江淹、麗色賦〕摘レ芳拾レ藥、含レ詠吐レ辭。

【摘放】42（テキハウ） えりだしてゆるす。〔福惠全書、刑名部、問擬〕先行二摘放一。

【摘發】43（テキハツ） あばきだす。隱れた惡をあばきあげる。擿發。摘觖。〔列子、力命〕窮年不二相摘發一、自以二行無一レ戾也。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕涉二奸私一卽爲二摘發一。

【摘髮】44（テキハツ） 髮をととのへる。〔詩、鄘風、君子偕老、象之揥也、傳〕揥、所二以摘一レ髮者。

【摘僻】45（テキヘキ） 摘辟。摘擗。❶かがむさま。〔莊子、馬蹄〕摘僻爲レ禮。〔疏〕摘僻、是曲拳之行。〔釋文〕辟、本或作レ僻。❷禮節の多いさま。〔集韻〕僻、摘僻、多二禮節一皃。〔莊子、馬蹄、摘僻、釋文〕

崔云、摘辟、多㆑節。〔集釋〕擿辟、當㆑作㆓摘擗㆒、王逸注楚詞、擗、析也、摘者摘㆓取之㆒、擗者分㆑之、謂㆓其煩碎㆒也。

【摘遍】47（テキヘン） 詞曲の全部を用ひないで、其の中から裁截して用ひること。詞曲の段數の全くないもの。大遍(**3－5831**‥2099)の對。〔夢溪筆談、樂律一〕元稹建昌宮詞、有㆓逡巡大遍涼州徹㆒、所謂大遍者、有㆓序引歌䬸嗺哨催攧衮破行中腔踏歌之類㆒、凡數十解、毎解有㆓數疊㆒者、裁截用㆑之、則謂㆓之摘遍㆒、今人大曲、皆是裁用、悉非㆓大遍㆒也。

【摘毛】48 chai^{1} mao^{2} 毛ぬき。

【摘綿】49 chai^{1} mien^{2} 押繪細工。

【摘問】50（テキモン） ぬきだしてとふ。〔唐書、鄭澣傳〕試擧㆓諸條㆒、摘㆓問之㆒。

【摘由】51（テキユウ） 公文書の事由をぬきだして記す。後の査閲に備へるために、公文を入手し又は發送した場合に、事由を抽き書きして置くこと。

【摘裂】52（テキレツ） 經傳中の語句を拔き集めて文章を作る。擿裂。〔歐陽脩、蘇氏文集序〕務以㆓言語聲偶摘裂㆒。

【摘錄】53（テキロク） 要點をつまみ出してしるす。又、其のかきもの。ぬきがき。摘書。摘記。摘載。抄錄。

【摘芸人】54（テキウンジン） 貫名苞の號。貫名海屋(**10－36681**‥78)を見よ。

【摘菘翁】55（テキスウヲウ） 貫名苞の號。貫名海屋(**10－36681**‥78)を見よ。

【摘衰聖】56（テキスイセイ） 論語緯の一種。その書已に佚し、古微書に輯本がある。

【摘星軒】57（テキセイケン） 宋、張鎡(**4－9812**‥361)の室名。

【摘星陀】58（テキセイダ） 險處の名。河北省房山縣の西南、上方山の最高處。

【摘星臺】59（テキセイダイ） 峯の名。河北省登封縣の少室(嵩山の一部)の中央の絶頂をなし、高く諸峯の上に出づ。

【摘星樓】60（テキセイロウ） 樓の名。江蘇省江都縣城の西北隅。賈似道が寶祐城を築き、樓を其の上に建つ。〔蘇轍、揚州五詠、摘星亭詩〕闕角孤高特地迷、迷藏渾忘日東西。

【摘得新】61（テキトクシン） 唐の教坊曲名。後、詞牌の名とす。〔詞律〕皇甫松詞首句摘得㆑新、因以爲㆑名。

【摘輔象】62（テキホシヤウ） 論語緯の一種。其の書已に佚し、古微書に輯本がある。

【摘棉術】63（テキメンジユツ） 女子の手藝の一。人物や花卉の畫稿に棉花をかさね、外を絨絹でつつみ、まはりを膠でかためて、更に絹や緞の上にはりつけたかけもの。

【摘豔薫香】64（テキエンクンカウ） 文辭の華美なこと。〔杜牧、冬至日寄㆓小姪阿宜㆒詩〕高摘屈宋豔、濃薫班馬香。

【揞】12583 エウ 搖(**5－12479**)に同じ。〔周禮、考工記、矢人、夾而搖㆑之、釋文〕搖、本又作㆑揞。

【摙】12584 ㈠レン 〔集韻〕力展切 銑 ㈡レン 〔集韻〕連彥切 霰

㈠**になふ**。かつぐ。〔集韻〕摙、負擔也。〔南史、何遠傳〕以㆑錢買㆓井水㆒、不㆑受㆑錢者、摙㆑水還㆑之。㈡**おさへる**。〔集韻〕摙、按也。

【摖】12585 サク 搡(**5－12744**)に同じ。〔康熙字典〕摖、字彙補、與㆑搡同、按、摖卽搡字、見㆓班固北征頌㆒。

【摚】12586 ㈠タウ ダウ 〔集韻〕徒郎切 陽 ㈡タウ ヂヤウ 〔集韻〕除庚切 庚

㈠**とめる**。〔集韻〕摚、博雅、距也。㈡**とめる**。㈠に同じ。或は堂(**10－37470**)・蹚(**10－37806**)に作る。〔集韻〕摚、距也、或作㆓堂・蹚㆒。**參考** 廣雅疏證、卷五下、釋言に、橕、距也。とあり。集韻誤引す。

【摚振】1（タウタウ） 蹴り突く。蹴つたり突いたりするもの。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕算㆑蹄記㆓功賞㆒、裂㆑腦擒㆓摚振㆒。

【摛】12587 ㈠チ 〔集韻〕抽知切 支 ㈡リ 〔集韻〕鄰知切 支 ㄔ ch'ih^{1}

小篆

㈠㊀**しく**。のべる。攡(**5－13026**)に通ず。〔說文〕摛、舒也、从㆑手离聲。〔集韻〕摛、說文、舒也、揚子雲作㆑攡。〔班固、答賓戲〕摛㆑藻如㆓春華㆒。〔梁簡文帝、神山寺碑〕英名遠摛。㊁**ひらく**。〔增韻〕摛、發也。㈡㊀**はる**。攡(**5－13026**)に同じ。〔集韻〕攡、張也、太玄、幽㆓攡萬類㆒、或省。㊁䍦(**2－1563**)に同じ。〔集韻〕䍦、接䍦、白帽也、通作㆑摛。

【摛翰】1（チカン） 文翰をひらく。文を作ること。〔郭璞、爾雅敍〕學覽者之潭奧、摛翰者之華苑也。〔左思、魏都賦〕摛㆑翰則華縱㆓春葩㆒。〔注〕銑曰、發㆓文翰㆒則華縱如㆓春之葩花㆒。〔南齊書、丘巨源傳〕摛㆑翰振㆑藻、非㆑爲㆑乏㆑人。

【摛藻】2（チサウ） 詞藻を布く。詞章を作る。又、巧な詞章。〔班固、答賓戲〕馳㆑辯如㆓濤波㆒、摛㆑藻如㆓春華㆒。〔注〕善曰、韋昭曰、摛、布也、藻、水草之有㆑文者。〔左思、蜀都賦〕幽思絢㆓道德㆒、摛藻掞㆓天庭㆒。〔注〕向曰、摛猶㆑發也。〔劉珍、贊㆓賈逵㆒詩〕摛㆑藻揚㆑輝、如㆑山如㆑雲、世有㆓令聞㆒、以迄㆓於君㆒。

〔摛藻堂〕3（チサウダウ） 清、汪文柏(**6－17154**‥336)の「室名。

【摛詞】4（チシ） 詞を述べる。詩文を作ること。〔郭璞、方言敍〕類㆓摛詞之指韻㆒、明㆓乖途㆒而同㆑致。

【摛辭】5（チジ） 辭を述べる。詩文を作ること。摛詞に同じ。〔李商隱、太尉衛公會昌一品集序〕吮㆑墨摛㆑辭、詠㆓日月之光華㆒、知㆑天者之務也。

【摛鏤】6（チロウ） 彫刻する。廣く彫刻する。〔左思、魏都賦〕雲雀踶㆑甍而矯㆑首、壯翼摛㆓鏤於青霄㆒。〔注〕善曰、摛鏤、摛㆓布其彫鏤㆒也。

【摛文堂】7（チブンダウ） 宋、慕容彥逢(**4－11088**‥74)の室名。

〔摛文堂集〕8（チブンダウシフ） 書名。十五卷。附錄一卷。宋、慕容彥逢撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【擄】12588 ロ 〔集韻〕籠五切 麌

㊀**つよい**。〔集韻〕擄、博雅、強也。㊁**うごく**。ゆれる。〔廣韻〕擄、搖動。

【搭】12589 チ 荅(**8－25921**)に同じ。〔字彙〕搭、同㆑荅。

【搽】12590 デフ 擸(**5－13044**)に同じ。〔集韻〕擸、或作㆑搽。

【摜】12591 クワン 〔集韻〕古患切 諫 ㄍㄨㄢˋ kuan^{4}

小篆

㊀**ならふ**。〔說文〕摜、習也、从㆑手貫聲。㊁**なれる**。けがす。〔說文〕摜、春秋傳曰、摜㆓瀆鬼神㆒。㊂**身につける**。〔廣韻〕摜、摜帶。㊃或は遦(**11－39068**)・慣(**4－11111**)・貫(**10－36681**)・串(**1－80**)に作る。〔集韻〕摜、或从㆑辵从㆑心、亦作㆓貫・串㆒。〔字彙補〕摜、爲㆓慣本字㆒、今摜習之摜爲㆑慣、摜、但爲㆓摜帶㆒矣。㊄現 投げる。

【摜交】1 kuan^{4} chiao^{1} 角力をいふ。角觝。

【摜稻簞】2（クワンタウタン） ものほしむしろ。〔三才圖會、器用十一、摜稻簞〕摜稻簞、摜抖擻也、簞承㆓所㆑遺稻㆒也。

【掎】 12592

🈩キ〔玉篇〕俱爲切 ［支］
🈔キ〔集韻〕居義切 ［寘］
🈪キ〔集韻〕擧綺切 ［紙］

🈩🈔いただく。〔玉篇〕掎、戴也。〔集韻〕掎、戴也。🈪をさめる。庋(4−9245)に同じ。〔集韻〕庋、閣二藏食物一也、或作レ掎。

【摝】 12593

🈩ロク〔集韻〕盧谷切 ㄌㄨˋ lu^{4} ［屋］
🈔ロウ ル〔集韻〕盧貢切 ［送］
🈪ロ ル〔六書故〕籠五切 ［麌］

🈩ふる。うごかす。ゆる。或は捸(5−12252)に作る。〔集韻〕摝、振也、或作レ捸。〔周禮、夏官、大司馬〕鼓人皆三鼓、司馬摝レ鐸。〔注〕鄭司農曰、摝、讀爲レ弄、玄謂、摝、讀如二涿鹿之鹿一、掩レ上振レ之爲レ摝。🈔ゆる。🈩に同じ。〔集韻〕摝、搖也、周禮、摝レ鐸、鄭司農讀。🈪とる。水中に沈んで物を取る。〔六書故〕摝、撈也、別作レ擄。

【摝牀居士】1 ロクシヤウコジ 清、戴熙(5−11685・・29)の號。

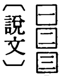
【⿰扌⿱罒糸】 12594

🈩ラ〔集韻〕盧戈切 ［歌］
🈔ラ〔集韻〕盧臥切 ㄌㄨㄛˋ luo^{4} ［箇］

🈩🈔❶をさめる。〔集韻〕⿰扌⿱罒糸、博雅、理也。〔後漢書、輿服志下〕古有レ冠無レ幘、云云、漢興、續二其顏一、卻⿰扌⿱罒糸レ之、施レ巾連レ題、卻覆レ之。❷［現］積みかさねる。

【摟】 12595

🈩ロウ ル〔集韻〕郎侯切 ㄌㄡ lou$^{1\cdot2\cdot3}$ ［尤］
🈔ル〔集韻〕龍珠切 ［虞］
🈪ロウ ル〔正字通〕郎斗切 ［有］


小篆

🈩🈔🈪❶ひく。㋑ひきあつめる。〔說文〕摟、曳聚也、从レ手妻聲。〔段注〕此當レ作二曳也、聚也一。〔孟子、告子下〕五伯者、摟二諸侯一以伐二諸侯一者也。㋺ひきよせる。いざなふ。〔孟子、告子下〕踰二東家牆一而摟二其處子一。〔注〕摟、牽也。❷あつめる。〔爾雅、釋詁〕摟、聚也。〔郝懿行義疏〕今俗語以二牢摟一爲レ聚、斂聚之意也。❸とる。さぐりとる。〔廣韻〕摟、探取。〔廣韻〕擻、摟擻、取也、出二陸氏字林一。❹ひきのばす。〔集韻〕摟、一曰、挽使レ申也。❺抱く。かかへる。〔正字通〕摟、褒持謂二之摟一。❻通じて妻(3−6383)に作る。〔集韻〕摟、通作レ妻。❼［現］㋑すすめる。㋺委託を受ける。㊇からげる。(以上上聲)。㊁算盤をはじく。(上平)。

【摟貨】1 lou^{1} huo^{4} 人から委託されて販賣する商品。
【摟錢】2 lou^{1} ch'ien^{2} 金を懷に入れる。金を取り込む。
【摟搜】3 ロウソウ あつめる。〔李詡、俗呼小錄〕鄙嗇計較者、爲二摟搜一。
【摟擻】4 ロウソウ 取ること。〔廣韻〕擻、摟擻、取也、出二陸氏字林一。
【摟住】5 lou^{3} chu^{4} 抱きしめる。抱へる。
【摟吧】6 lou^{1} pa^{1} 取る。取り込む。
【摟賣】7 lou^{1} mai^{4} 委託販賣すること。
【摟抱】8 lou^{3} pao^{4} 抱く。かかへる。
【摟⿰扌毘】9 ロウベツ 手で弦をかきならすさま。〔嵇康、琴賦〕或摟⿰扌毘擽捋、縹繚潎冽。〔注〕善曰、摟⿰扌毘擽捋、皆手撫レ絃之貌。
【摟攬】10 lou^{2} lan^{3} 抱く。
【摟衣裳】11 lou^{1} i^{1} shang 衣服の裾をからげる。
【摟處子】12 lou^{1} ch'u^{3} tzŭ 駈落する。
【摟糞的】13 lou^{1} fen^{4} tê 糞便を汲み取る人。
【摟在懷裏】14 lou^{3} tsai^{4} huai^{2} li 懷中に抱く。
【摟入懷中】15 lou^{3} ju^{4} huai^{2} chung^{1} だきしめる。〔紅樓夢、三回〕早被他外祖母一巴摟入懷中、心肝兒肉叫著大哭起來。
【摟頭一槓】16 lou^{3} t'ou^{2} i^{2} kang^{4} 突然。ふと。

【摠】 12596

ソウ ス〔集韻〕祖動切 ㄗㄨㄥˇ tsung^{3} ［董］

❶すべる。あつめたばねる。又、みな。總(8−27671)・揔(5−12349)・緫(8−27844)に同じ。〔集韻〕總、說文、聚束也、一曰、皆也、或从レ手、古作二總・摠一。❷搯(5−12163)に同じ。〔正字通〕摠、六書故作レ搯。

［參考］熟語は緫(8−27844)を見よ。

【摡】 12597

🈩カイ〔集韻〕居代切 ［隊］
🈔キ ケ〔集韻〕許既切 ［未］

小篆

🈩❶あらふ。通じて漑(7−18123)に作る。〔說文〕摡、滌也、从レ手既聲、詩曰、摡二之釜鬵一。〔段注〕匪風文、云云、今本作レ漑者、非。〔集韻〕摡、通作レ漑。〔正字通〕摡、从レ漑爲レ正。〔操敍齋文集、摡漑辨〕滌レ器、用レ手、亦用レ水、摡漑互用、義固可レ通、如下厭浥之亦作二厭挹一、擩染之亦作中濡染上、皆手旁通用之證。❷ぬぐふ。〔周禮、天官、世婦〕帥二女官一而濯摡。〔注〕摡、拭也。〔釋文〕摡、古愛反。❸つかさどる。〔廣雅、釋詁三〕摡、主也。🈔❶とる。〔廣雅、釋詁一〕摡、取也。❷ぬぐふ。🈩の❷に同じ。或は抚(5−11878)に作る。〔集韻〕摡、一曰、拭也、或作レ抚。

【⿰扌⿰耳攵】 12598

サツ 撮(5−12748)に同じ。〔篇海〕⿰扌⿰耳攵、同レ撮。

【⿰扌乾】 12599

ケン 建(4−9574)に同じ。〔集韻〕建、覆也、或作レ⿰扌乾。

【摢】 12600

🈩コ ゴ〔集韻〕胡故切 ［遇］
🈔チョ〔集韻〕抽居切 ［魚］

🈩ささへる。〔集韻〕摢、擁障也。🈔ばくち。摴(5−12639)に同じ。〔集韻〕摴、摴蒲、戲也、或作レ摢。

【摣】 12601

🈩サ シャ〔集韻〕莊加切 ㄓㄚ cha^{1} ［麻］
🈔ダ ナ〔集韻〕女加切 ［麻］
🈪サイ セ〔集韻〕莊蛙切 ［佳］

🈩❶とる。㋑すくひあげる。つかみとる。⿰虘又(2−3195)に同じ。〔方言、十〕摣、取也、南楚之間、凡取二物溝泥中一、或謂二之摣一。〔釋名、釋姿容〕摣、叉也、五指俱往叉取也。〔集韻〕⿰虘又、說文、叉取也、或从レ手。㋺さしとる。戟でさしとる。〔張衡、西京賦〕摣二

狒猬㆒批㆓⿰犭窳狻㆒。〔注〕綜曰、摣・批、皆謂㆔戟㆓撮之㆒。❸抯(5-11914)に通ず。〔正字通〕摣、同㆑抯。［二］**とる**。〔集韻〕摣、取也。［三］**うつ**。〔集韻〕摣、擊也。

【擶】12602 セン 〔廣韻〕卽淺切 ［銑］

きる。揃(5-12319)の俗字。〔正字通〕擶、俗揃字。

【摤】12603 サウ シャウ 〔集韻〕楚兩切 ［養］

❶**みがく**。石などでとぐ。或は磢(8-24437)に作る。〔集韻〕摤、磨滌也、或作㆑磢。❷**つく**。搶(5-12525)に同じ。〔集韻〕搶、突也、或从㆑爽。

【⿰扌窒】12604

［一］テツ デチ 〔集韻〕徒結切 ［屑］
［二］テツ テチ 〔集韻〕丁結切 ［屑］
［三］チツ チチ 〔集韻〕得悉切 ［質］

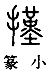
［一］**なげうつ**。挃(5-12025)に同じ。〔集韻〕⿰扌窒、博雅、擿也、或省。［二］**つむ**。〔集韻〕⿰扌窒、摘也。［三］［一］に同じ。〔集韻〕⿰扌窒、廣雅、擿也。

【搗】12605 タウ

擣(5-12853)に同じ。〔集韻〕擣、或作㆓擣・搗㆒。〔字彙〕搗、同㆑擣。

【⿰扌堇】12606

［一］キン コン 〔集韻〕居炘切 ［問］
［二］キン コン 〔集韻〕居覲切 ［震］
［三］キン ギン 〔集韻〕渠巾切 ［眞］
［四］キン コン 〔集韻〕几隱切 ［吻］
［五］キン コン 〔集韻〕擧欣切 ［文］
［六］カン ケン 〔集韻〕居閑切 ［刪］


小篆

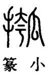
［一］❶**ぬぐふ**。〔説文〕⿰扌堇、飾也、从㆑手堇聲。〔段注〕飾、各本作㆑拭、今正、云云、飾・拭、正俗字。❷**きよめる**。〔玉篇〕⿰扌堇、清也。❸或は挋(5-12045)に作る。〔集韻〕⿰扌堇、或作㆑挋。［二］**ぬぐふ**。［一］の❶に同じ。或は挋(5-12045)に作る。〔集韻〕⿰扌堇、拭也、或作㆑挋。［三］［四］**ぬぐふ**。［一］の❶に同じ。〔集韻〕⿰扌堇、拭也。［五］❶**ぬぐふ**。［一］の❶に同じ。〔集韻〕⿰扌堇、拭也。❷**ただしい**。〔集韻〕⿰扌堇、靖也。［六］**かたい**。艱(9-30600)に同じ。〔集韻〕艱、説文、土難㆑治也、或作㆑⿰扌堇。

【摥】12607 タウ 〔集韻〕他浪切 ［漾］

おしひらく。〔集韻〕摥、排也。

【摦】12608

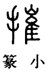
［一］クヮ ゲ 〔集韻〕胡化切 ［禡］
［二］クヮ ゲ 〔集韻〕胡瓜切 ［麻］


小篆

［一］［二］❶**ひろい**。横にひろい。〔説文新附〕摦、横大也、从㆑手瓠聲。〔集韻〕摦、鐘横大也。〔左氏、昭、二十一〕小者不㆑窕、大者不㆑摦、則和㆓於物㆒、今鐘摦矣。〔注〕摦、横大不㆑入。〔疏〕摦聲近㆑横、故爲㆓横大㆒、心所㆑不㆑容、故不㆑入㆑心也。〔洪亮吉、左傳詁〕徐鉉新附有㆓摦字㆒云、横大也、玉篇、摦、胡化切、寬也、廣韻、摦、寬也、大也、五經文字本收㆓摦字㆒云、戶化反、見㆓春秋傳㆒、則此字不㆑宜㆑從㆓木旁㆒。〔張聰咸、左傳杜注辨正〕説文無㆓摦字㆒、當㆘依㆓玉篇㆒作㆖窊、胡霸切、横木不㆑入也、今本杜注及正義、皆作㆓横大㆒、亦誤。❷或は⿰扌⿰兆瓜(5-12819)に作る。〔集韻〕摦、或作㆑⿰扌⿰兆瓜。

【摧】12609

［一］サイ ズイ 〔集韻〕昨回切 ［灰］ ㄘㄨㄟ ts'uei^1
［二］スイ 〔集韻〕遵綏切 ［支］
［三］サイ スイ 〔集韻〕催內切 ［隊］
［四］サ 〔集韻〕寸臥切 ［箇］


小篆

［一］❶**おす**。おしおとす。〔説文〕摧、擠也、从㆑手崔聲。〔廣雅、釋詁三〕摧、推也。〔素問、五常政大論〕其變、振㆑法摧㆑拔。〔注〕摧、仆落也。❷**ひく**。〔説文〕摧、一曰、挏也。〔段注〕挏者、擁引也。❸**くじく**。**くじける**。くだく。くだける。〔説文〕摧、一曰、折也。〔增韻〕摧、挫也。〔周禮、考工記、輿人〕大倚㆑小則摧。〔史記、孔子世家〕泰山壞乎、梁柱摧乎。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕折㆑鋭摧㆑矜。〔注〕摧、挫也。〔鮑照、蕪城賦〕心傷已摧。〔唐書、孔巢父傳〕何敵不㆑摧。❹**おさふ**。抑壓する。〔史記、季布傳〕季布能摧㆑剛爲㆑柔。❺**はばむ**。〔詩、邶風、北門〕室人交徧摧㆑我。〔傳〕摧、沮也。❻**そしる**。〔詩、邶風、北門、箋〕摧者、刺譏之言。❼**ほろびる**。ほろぼす。おとろへる。〔詩、大雅、雲漢〕先祖于摧。〔集傳〕祖祀將㆓自㆑此滅㆒也。❽**いたる**。〔説文、段注〕釋詁・毛傳皆云、摧、至也、卽抵之義也。〔爾雅、釋詁〕摧、至也。〔方言、一〕摧、至也、楚語也。〔詩、大雅、雲漢〕先祖于摧。〔傳〕摧、至也。❾**おもむく**。〔太玄經、衆〕丈人摧孥。〔注〕摧、趣也。❿**きはめる**。〔太玄經、玄圖〕摧㆓上萬物㆒。〔注〕摧、極也。⓫**うれへる**。かなしむ。なげく。〔易、晉〕晉如摧如。〔虞注〕摧、憂愁也。〔古詩、爲㆓焦仲卿妻㆒作〕阿母大悲摧。⓬**ああ**。嘆息の辭。嗺(2-4149)に通ず。〔詩、大雅、雲漢〕先祖于摧。〔箋〕摧、當㆑作㆑嗺、嗺、嗟也、云云、告㆑困之辭。［二］**しりぞく**。〔集韻〕摧、退也、易、晉如摧如、鄭康成讀。〔易、晉〕晉如摧如。〔釋文〕摧、退也。［三］**へる**。へらす。〔集韻〕摧、減也。［四］**まぐさ**。**まぐさかふ**。莝(9-31062)に同じ。〔集韻〕莝、説文、斬芻也、或作㆑摧。〔詩、小雅、鴛鴦〕摧㆑之秣㆑之。〔傳〕摧、莝也。〔箋〕摧、今莝字。〔釋文〕摧、芻也。

【摧壓】1 サイアツ くじきつぶす。くだきつぶす。〔蘇轍、和㆘子瞻自㆓淨土㆒步至㆗功臣寺㆖詩〕崇高畏㆓摧壓㆒。

【摧紆】2 サイウ 心がくじけむすぼれる。〔韻府引、柳宗元、文〕此心未㆑慊、祇益摧紆。

【摧轅】3 サイエン 車のながえをくだく。〔中論、賞罰〕至㆓于覆㆑車而摧㆑轅。

【摧臆】4 サイオク 胸をくじく。〔孫楚、鷹賦〕遂陷㆑首以摧㆑臆。

【摧哽】5 サイカウ かなしんでなきむせぶ。〔王羲之、建安帖〕臨㆑紙摧哽。

【摧槁】6 サイカウ かれ木をくだく。破り易い喩。摧枯。摧朽。〔徐積、和㆓楊椽月蝕㆒篇〕苻堅之師、號㆓百萬㆒、一戰而北、若㆑摧㆑槁。

【摧剛】7 サイガウ 剛をくだく。強剛をおさへる。〔史記、季布傳〕諸公皆多㆓季布摧㆑剛爲㆑柔。〔陸機、漢高祖功臣頌〕陵㆑險必夷、摧㆑剛則脆。

【摧角】8 サイカク　つのをる。高慢をくじく。〔葉適、送㆓鄭景元㆒詩〕高材自摧㆑角。

【摧陷】9 サイカン　くだきおとしいれる。人の名譽をくじいて罪におとす。挫折し破壞する。〔後漢書、馮衍傳上〕初衍爲㆓狼孟長㆒、以㆑罪摧㆓陷大姓令狐略㆒。〔南史、宋武帝紀〕軍中多㆓萬鈞神弩㆒、所㆑至莫㆑不㆓摧陷㆒。

〖摧陷廓清〗10 サイカンクワクセイ　くだき破つて掃蕩する。從來の惡弊などを一掃する。〔李漢、唐吏部侍郎昌黎先生諱愈文集序〕先生於㆑文、摧陷廓清之功、比㆓於武事㆒、可㆑謂㆓雄偉不㆑常者㆒矣。

【摧感】11 サイカン　氣がくじけ深く感じてかなしむ。〔吳志、孫登傳〕權益以摧感、言則隕㆑涕。

【摧毀】12 サイキ　くだきこはす。

【摧朽】13 サイキウ　くさつたものをくだく。破り易い喩。〔北史、高閭傳〕有㆑若㆑摧㆑朽。

【摧屈】14 サイクツ　くじけまがる。屈伏する。〔趙至、與㆓嵇茂齊㆒書〕鋒鉅靡㆑加、翅翮摧屈。

【摧頸】15 サイケイ　くびをくじくこと。骨を折ること。〔易林、豐之第五十五、漸〕義不㆑勝㆑情、以欲㆓自縈㆒、覬㆑利危㆑躬、摧㆑角折㆑頸。

【摧擊】16 サイゲキ　くだきうつ。擊摧。〔陳與義、浴室觀雨催㆑詩走㆓羣龍㆒爲㆑韻得㆓走字㆒詩〕摧擊竟自碎、映㆑空自煙走。

【摧決】17 サイケツ　ゆがけをくじく。勢の鋭い喩。〔陳琳、武軍賦〕當㆑鋒摧㆑決、貫㆑遐洞㆑堅。〔袁淑、防禦索虜議〕重㆑幣甘㆑辭、招㆓摧㆑決之將㆒。

【摧堅】18 サイケン　強敵をくじきやぶる。堅陣を破摧する。〔孔融、衞尉張儉碑銘〕凌㆑剛摧㆑堅、視㆑危如㆑寧。〔陸機、漢高祖功臣頌〕陵㆑險必夷、摧㆑剛則脆。〔注〕五臣、剛作㆑堅、濟曰、摧㆓敗堅陳㆒則如㆑脆矣。〔宋史、張令鐸傳〕摧㆑堅陷㆑敵、未㆔嘗妄殺㆓一人㆒。

〖摧堅陷陣〗19 サイケンカンヂン　敵の堅陣をくじきおとしいれる。摧鋒陷陣。〔南史、桓康傳〕摧㆑堅陷㆑陣、膂力絕㆑人。

【摧枯】20 サイコ　枯木をくだく。事のなし易い喩。摧槁。摧朽。拉朽。摧㆓枯朽㆒。〔漢書、異姓諸侯王表序〕鐫㆓金石㆒者難㆑爲㆑功、摧㆓枯朽㆒者易㆑爲㆑力。

〖摧枯折腐〗21 サイコセツフ　枯木をくだき腐木を折る。事のなし易い喩。〔後漢書、耿弇傳〕發㆓突騎㆒以轔㆓烏合衆㆒、如㆓摧㆑枯折㆒㆑腐耳。

〖摧枯拉朽〗22 サイコラフキウ　枯木をくだき朽木をつぶす。事のなし易い喩。〔晉書、甘卓傳〕將軍之舉㆓武昌㆒、若㆓摧㆑枯拉㆒㆑朽、何所㆓顧慮㆒乎。〔宋史、曹彬傳〕翦㆓太原之孤壘㆒、如㆓摧㆑枯拉㆒㆑朽爾。

【摧寇】23 サイコウ　敵をうちくだく。侵入した敵を擊破する。〔宋書、自序林子傳〕廣固既平、而盧循奄至㆓云云、林子㆒領㆓別軍於石頭㆒、屢戰摧㆑寇。〔王羲之、桓公帳、虞義〕桓公摧㆑寇、罔㆑不㆑如㆑志。

【摧扤】24 サイゴツ　くだけうごく。くじきうごかす。〔劉孝威、箜篌謠〕不㆑見山嶺樹、摧扤下爲㆑薪。

【摧沙】25 サイサ　堡の名。甘肅省固原縣の西北。〔唐書、元載傳〕吐蕃防戍、乃在㆓摧沙堡㆒、而原州界㆓其閒㆒、云云、巨塹長濠、重複深固。

【摧剉】26 サイザ　くじく。打ちくじく。くだける。〔蘇轍、次㆓韻子瞻病中大雪㆒詩〕空貨乘㆓峽船㆒、行意被㆓摧剉㆒。

【摧挫】27 サイザ　打ちくじく。くだき破る。摧折。〔後漢書、馮異傳〕異輒摧㆓挫之㆒。

【摧碎】28 サイサイ　くだく。くじきくだく。うちこはす。摧折。摧破。〔魏志、許褚傳〕褚飛㆑石擲㆑之、所㆑値皆摧碎、賊不㆓敢進㆒。

【摧嗺】29 サイサイ　林木のむらがり重つたさま。〔揚雄、甘泉賦〕於㆑是大廈雲譎波詭、摧嗺而成㆑觀。〔注〕善曰、摧嗺、林木崇積貌也。

【摧愴】30 サイサウ　心をいためかなしませる。〔摯虞、輓歌議〕案、輓歌因㆓倡和㆒而爲㆓摧愴之聲㆒、衡㆑枚所㆓以全㆒㆑哀、此亦以感㆑衆。

【摧藏】31 サイザウ　❶くだきかくす。〔左思、吳都賦〕莫㆑不㆓衂㆑銳挫㆑鋩、拉捭摧藏㆒。❷心を痛める。藏は臟。〔古詩、爲㆓焦仲卿妻㆒作〕未㆑至㆓二三里、摧㆑藏馬悲哀。

【摧錯】32 サイサク　入り雜はるさま。〔淮南子、本經訓〕芒繁亂澤、巧爲㆓紛挐㆒、以相摧錯。

【摧殘】33 サイザン　くだきそこなふ。破壞する。くじける。摧折。〔張衡、西京賦〕樸叢爲㆑之摧殘。〔吳均、贈㆓王桂陽㆒詩〕弱幹可㆓摧殘㆒、纖莖易㆓淩忽㆒。〔李白、贈㆓友人㆒詩〕荊卿一去後、壯士多摧殘。

【摧志】34 シサイ　志を折りくじく。〔後漢書、崔駰傳贊〕建新恥㆑潔、摧㆑志求㆑容。

【摧謝】35 サイシヤ　心を屈してあやまる。恐懼して謝す。深謝すること。〔漢書、張湯傳〕奏㆑事卽譴、湯摧謝。〔注〕蘇林曰、深自挫按也、師古曰、若上有㆑責、卽摧折而謝也。

【摧戕】36 サイシヤウ　くだきそこなふ。〔郝經、鴈媒詩〕奄忽一舉盡、羽毛皆摧戕。

【摧傷】37 サイシヤウ　❶くじけやぶれる。凋落する。〔淮南子、原道訓〕秋風下㆑霜、倒生摧傷。❷くだけいたむ。〔潘岳、寡婦賦〕心摧傷以愴惻。〔張籍、祭㆓韓愈㆒詩〕頃息萬事盡、腸情多摧傷。

【摧如】38 サイジヨ　うれへかなしむさま。又、おさへしりぞかせる。抑退。〔易、晉〕晉如摧如。〔虞注〕摧、憂愁也。〔疏〕何氏云、摧、退也。

【摧辱】39 サイジヨク　くじきはづかしめる。挫辱。折辱。〔漢書、鮑宣傳〕沒㆓入其車馬㆒、摧㆓辱宰相㆒、事下㆓御史中丞㆒。〔宋史、蘇軾傳〕內侍每摧㆓辱舉子㆒。

【摧心】40 サイシン　心をくだき痛める。〔潘岳、寡婦賦〕少伶俜而偏孤兮、痛忉怛以摧㆑心。

【摧燒】41 サイセウ　くだいて火に投じて燒くこと。〔古樂府、有所思〕聞君有㆓他心㆒、拉雜摧㆓燒之㆒、摧㆓燒之㆒當㆔風㆓揚其灰㆒。

【摧折】42 サイセツ　くじきをる。うちこはす。くだきやぶる。くだけ折れる。威勢を屈する。摧破。摧拉。摧挫。〔史記、袁盎傳〕弗㆓稍禁㆒以至㆑此、今又暴摧㆓折之㆒。〔漢書、賈山傳〕雷霆之所㆑擊、無㆑不㆓摧折㆒者。〔後漢書、朱暉傳〕摧㆓折惡類㆒。

【摧絕】43 サイゼツ　くだきたつ。くだけ絕える。破壞。〔傅毅、舞賦〕紆㆑形赴㆑遠、漼似㆓摧折㆒。〔孔稚珪、北山移文〕澗戶摧絕無㆓與歸㆒、石逕荒涼徒延佇。

【摧頹】44 サイタイ　❶おちぶれて時を失ふ。崔頹。〔易林、泰之第十一、咸〕老楊日衰、條多㆓枯枝㆒、爵級不㆑進、遂乃摧頹。〔北史、文苑、荀濟傳〕自傷㆓年幾摧頹㆒、恐㆓功名不㆒㆑立。❷くだけくづれる。くじけ落ちる。〔應瑒、侍㆓五官中郎將建章臺集㆒詩〕遠行蒙㆓霜雪㆒、毛羽日摧頹。〔白居易、早秋晚望兼呈㆓韋侍郎㆒詩〕憫默向㆑隅心、摧頹觸㆑籠翅。〔蘇軾、龜山詩〕元嘉舊事無㆓人記㆒、故壘摧頹今在不。

【摧撓】45 サイダウ　をれまがる。をりまげる。〔陳琳、爲㆓袁紹㆒檄㆓豫州㆒文〕摧㆓撓棟梁㆒、孤㆓弱漢室㆒。

【摧褫】46 サイチ　くじきうばふ。氣をくじき心を奪ふ。へこませる。〔玉海、兵制、弓矢、熙寧神臂弓〕神臂弓銘曰、云云、電激星流、敵胆摧褫。

【摧衄】47 サイヂク　くじけやぶれる。〔魏志、方技、管輅傳、注〕景春奔㆑北、軍師摧衄。〔北史、毛脩之傳〕一攻㆓陣倉㆒、疎遲失㆑會、摧衄而反。

【摧黜】48 サイチユツ　心のくじけること。又、物をしりぞけること。〔顏氏家訓、文章〕潘岳乾沒取㆑死、顏延年負㆑氣摧黜。

【摧陣】49 サイヂン　敵陣をくじきやぶる。〔邢邵、爲㆓潘司徒樂㆒讓表〕摧㆓蚩尤之陣㆒、破㆓尋邑之師㆒。

【摧殄】50 サイテン　くじきほろぼす。くだきつくす。〔隋書、音樂志中〕摧㆓殄侯景㆒、克㆓復河南㆒也。

【摧破】52 サイハ　くじきやぶる。うちやぶる。破碎。〔後漢書、伏隆傳〕大彤高胡、望㆑旗消靡、鐵脛五校、莫㆑不㆓摧破㆒。〔魏志、三少帝、高貴鄉公髦紀〕醜虜摧破、斬首獲生、動以㆑萬計。

【摧敗】53 サイハイ　❶くじきやぶる。くだけやぶれる。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕事已無㆑可㆓奈何㆒、其所㆓摧敗㆒功、亦足㆔以暴㆓於天下㆒矣。〔漢書、李廣傳〕身雖㆓陷敗㆒、然其所㆓摧敗㆒、亦足㆑暴㆓於天下㆒。❷心がいたむ。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕念㆓我出腹子㆒、胸臆爲摧敗。

【摧方】54 サイハウ　かどをけづつて圓くする。直言を憚つておだやかにすること。〔資治通鑑、晉紀〕（武帝、泰始八年）是以正士摧㆑方、而庸臣苟㆑媚。〔注〕摧㆑方、言㆘刓㆓稜角㆒而爲㆖圓也。

【摧剝】55 サイハク　くづしはぐ。くづれはがれる。〔陸游、遠遊詩〕荒寒過㆓吳宮㆒、摧剝觀㆓禹窆㆒。

【摧拔】56 サイバツ　くじけぬける。〔曹冏、六代論〕疾風卒至、而無㆓摧拔之憂㆒、天下有㆑變、而無㆓傾危之患㆒矣。

【摧圮】57 サイヒ　くだけやぶれる。〔唐書、韓滉傳〕若摧圮、繕㆑之則已、安敢改作以傷㆓儉德㆒。

【摧眉】58 サイビ　眉をさげる。へりくだる。〔李白、夢遊㆓天姥㆒吟留別詩〕安能摧㆑眉折㆑腰事㆓權貴㆒。

【摧靡】59 サイビ　くじけなびく。〔舊唐書、哥舒翰傳〕翰持㆓半段槍㆒當㆓其鋒㆒、擊㆑之、三行皆敗、無㆑不㆓

摧靡一。

【摧服】60（サイフク） 心がくじけてしたがふこと。屈服。〔北史、楊素傳〕南指而吳越肅清、北臨而獯獫摧服。

【摧弊】61（サイヘイ） くじきやぶる。〔魏志、三少帝、齊王芳紀、注〕憑二賴天威一、摧二弊姦凶一。

【摧鋒】62（サイホウ） 敵のほこ先をくじく。敵をうち破る。〔蜀志、黃忠傳〕淵衆甚精、忠摧レ鋒必進。

【摧鋒陷陣】63（サイホウカンヂン） 敵の鋒をくじき陣をおとしいれる。敵を破つて深く入る喩。摧堅陷陣。〔宋書、武帝紀上〕高祖常被レ堅執レ銳、爲二士卒先一、每レ戰輒摧レ鋒陷レ陣。

【摧北】64（サイホク） くじけやぶれて逃げる。敗走する。〔唐書、李嗣業傳〕每レ戰必爲二先鋒一、所レ嚮摧北。

【摧撲】65（サイボク） くじきうつ。勢をくじき擊つ。おさへつけてせめる。〔後漢書、荀彧傳〕遂摧二撲大寇一、濟レ危以レ安。

【摧滅】66（サイメツ） くだいてほろぼす。摧破して滅亡させる。〔魏武帝、加二棗祗子處中封爵一並祀祗令〕摧二滅群逆一、克二定天下一。

【摧抑】67（サイヨク） おさへる。くじきおさへる。沮みくじく。〔後漢書、申屠剛傳〕摧二抑外戚一。〔鮑照、春羈詩〕摧抑多二嗟思一。〔柳宗元、懲咎賦〕摧抑而廻邅。〔大學衍義補、制二國用一、市糴之令〕雖レ曰三摧二抑商賈居レ貨待レ價之謀一、貧吾民也、富亦吾民也。

【摧落】68（サイラク） くだけちる。碎けおちる。〔王粲、羽獵賦〕山川於レ是乎搖蕩、草木爲レ之摧落。〔韓愈、鳴鴈詩〕風霜酸苦稻粱微、羽毛摧落身不レ肥。

【摧拉】69（サイラフ） くじきひしぐ。〔潘尼、火賦〕林木摧拉、沙礫煎糜。〔宋史、曹彬傳〕翦二太原之孤壘一、如二摧レ枯拉レ朽爾。

【摧戮】70（サイリク） くじきころす。〔資治通鑑、魏紀〕雖二犯レ顏極諫一、無レ所二摧戮一。

【摧輪】71（サイリン） わをくだく。〔新論、薦賢〕車摧レ輪則無二以行一、舟無レ檝則無二以濟一。

【摧裂】72（サイレツ） くだけさける。さけくだける。碎裂。〔蔡琰、悲憤詩〕慕二我獨得レ歸、哀叫聲摧裂。

【摧艫】73（サイロ） 舟のともをくだく。〔太平寰宇記〕迅川奔注、溪險石蹙、跳波激射、摧レ艫碎レ舳。

【摧勒】74（サイロク） くじきおさへつける。〔後漢書、酷吏傳序〕揣二挫彊埶一、摧二勒公卿一。

【摧撞氣】75（サイドウキ） 張り氣を挫く。

【摧衡折軛】76（サイカウセツヤク） 車の横木をくじき、くびきを折ること。〔論衡、逢遇〕必有二摧衡折軛之患一。

【⿰扌乕】12610

チ

搋(**5－12457**)の俗字。〔正字通〕⿰扌乕、俗搋字。

【擑】12611

ヘイ ハイ 〔海篇〕必計切 霽

うつ。〔海篇〕擑、批也。

【摩】12613

〈一〉バ マ 〔集韻〕眉波切 ㄇㄛˊ mo^2 歌

〈二〉バ マ 〔集韻〕莫臥切 箇

〈三〉ビ ミ 〔集韻〕忙皮切 支

〈四〉キ 〔禮記釋文〕毀皮切 支

小篆

〈一〉❶**する。すれる。**㋑みがく。〔說文〕摩、磨也、从レ手麻聲。〔王注〕衆經音義引二爾雅一、石謂二之摩一、郭璞曰、玉石被レ摩、猶二人自修飾一也、案、此作レ研也、小徐增二磨字一、亦爲レ不レ智矣。〔禮、學記〕相觀而善、之謂レ摩。〔注〕摩、相切磋也。〔漢書、董仲舒傳〕摩レ民以レ誼。〔注〕師古曰、摩、謂三砥二礪之一也。㋺こする。〔增韻〕摩、揩也。〔禮、內則〕濯レ手以摩レ之、去二其皽一。㋩なでる。〔廣韻〕摩、撫也。〔陳書、徐陵傳〕手摩二其頂一。㊁ふれる。〔戰國、秦策〕人肩摩。〔注〕摩、相摩也。〔戰國、齊策〕鍺擊摩レ車而相過。〔注〕摩、猶レ比也。㋭ちかづく。〔左氏、宣、十二〕摩レ壘而還。〔注〕摩、近也。㋬せまる。〔禮、樂記〕陰陽相摩。〔注〕摩、猶レ迫也。㋣そぐ。けづる。けす。〔史記、平準書〕姦或盜二摩錢裏一取レ鎔。❷**あらためる。**〔管子、侈靡〕能摩二故道新道一。〔注〕摩、謂レ新二其事一也。❸**へる。**きえる。ほろびる。䃺(**8－24612**)に通ず。〔說文通訓定聲〕摩、叚借爲レ䃺。〔方言、六〕摩、滅也、云云、陳之東鄙曰レ摩。〔莊子、徐無鬼〕循レ古而不レ摩。〔釋文〕摩、消滅也。〔淮南子、精神訓〕故形有レ摩、而神未二嘗化一。〔注〕摩、滅、猶レ死也。❹**をさめる。**かくす。〔廣雅、釋詁四〕摩、藏也。〔周禮、考工記、弓人〕強者在レ內而摩二其筋一。〔注〕摩、猶レ隱也。❺**したがへる。**縻(**8－27839**)に通ず。〔說文通訓定聲〕摩、叚借爲レ縻、漢書、董仲舒傳、摩レ民以レ誼、注、砥二勵之一、非レ是。〔廣雅、釋詁一〕摩、順也。❻**はかる。おしはかる。**〔戰國、秦策〕簡練以爲二揣摩一。〔注〕摩、合也。❼**ただらす。**爢(**7－19626**)に通ず。〔說文通訓定聲〕摩、叚借爲レ爢、孟子、摩レ頂放レ踵。❽或は攠(**5－13024**)に作る。〔集韻〕摩、或作レ攠。❾磨(**8－24449**)に通ず。〔論語、學而〕如レ琢如レ摩。〔釋文〕摩、一本作レ磨。❿靡(**12－42612**)に通ず。〔禮、學記、釋文〕摩、又作レ靡。⓫劘(**2－2281**)・攠(**5－13024**)に通ず。〔一切經音義、十〕摩、古文劘攠二形、同。〈二〉❶**もむ。**〔廣韻〕摩、按摩。❷**とぐ。**〔集韻〕摩、磨也。〈三〉施摩は、神の名。〔集韻〕摩、漢有二施摩神一、荊巫所レ祠。〈四〉**こころよい。**快しとする。麾(**12－47899**)に通ず。〔禮記、禮器〕不レ摩レ蚤。〔注〕摩之言、快也。〔釋文〕摩、本又作レ麾、毀皮反、齊人謂レ快爲レ摩。

名乘 キヨ。ナツ。

【摩圍】1（マヰ） 山名。四川省彭水縣の西。〔輿地紀勝〕獠人呼レ天曰レ圍、言二此摩レ天、故名。

【摩圍閣】2（マヰカク） 宋、黃庭堅(**12－47926**‥1260)の室名。

【摩訶】3（カマ） ❶曲調の名。摩訶兜勒(13)を見よ。❷池の名。摩訶池(7)を見よ。〔陸游、登二子城新樓一遍至二西園池亭一詩〕千疊雪山連二滴博一、一支春水入二摩訶一。❸黑奴の名。唐の人。善く泳ぐ。南海の守が陶峴に古劍・玉環と共に摩訶を遺つたところ、峴はこれ等を吾家の三寶といつた。〔甘澤謠〕南海守遺下陶峴古劍長二尺許、玉環竟四寸、海舶崑崙奴名二摩訶一、善泅レ水而勇健上、遂悉以レ所レ得歸、曰、吾之三寶也、越數歲渡二巢湖一、投二環劍一而令レ取レ之、摩訶纔入、獲二劍環一、跳波而出焉。❹佛梵語mahāの譯。大・多・勝の三義を有する語。〔智度論、三〕摩訶、秦言二大或多或勝一。〔翻譯名義集、三〕摩訶摩耶、西域記云、唐言二大術一、或云二大幻一。

【摩訶衍】4（マカエン） ❶佛大乘法をいふ。mahāyānaの譯。摩訶衍那。〔慧苑音義、上〕摩訶衍、具云二摩訶衍那一、言二摩訶一者、此云レ大也、衍那者、云レ乘也。〔智度論、百〕摩訶衍、是大乘法。❷隋の崔弘度(**4－8178**‥256)の字。

【摩訶山】5（マカサン） 山名。江蘇省如皐縣の南。蝦蟇山。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、泰州、如皐縣〕摩訶山、縣南百二十里、大江中、水勢湍激、亦曰二蝦蟇山一。

【摩訶陀】6（マカダ） 佛梵語Magadhaの音譯。中印度の國名。城を王舍といふ。持甘露・善勝・無惱・無害などと譯す。或は星の名とし、或は古仙人又は帝釋前身の名とす。摩竭陀。摩伽陀。摩竭提。〔玄應音義、一〕摩竭提、或云二摩竭陀一、亦言二默偈陀一、又作二摩伽陀一、皆梵音訛轉也、正言二摩揭陀一、此譯云二善勝國一、或云二無惱害國一、一說云、摩伽、星名、此言二不惡主十二月一、陀者、處也、名爲二不惡處國一、亦名二星處國一也、揭音渠謁反。

【摩訶池】7 マカチ 池の名。舊四川省成都城内に在り、太平寰宇記によれば蕭摩訶が造つたといふ。唐の懿宗の時、南詔、成都を攻めるや、城中の井水竭き、摩訶池の泥を取り、澄まして之を飲んだといふ。今は無い。〔太平寰宇記〕汗池、一名摩訶池、蕭摩訶所レ置、唐懿宗時、南詔攻二成都一、城中井竭、取二摩訶池泥一、澄而飲レ之、今湮。〔高駢、殘春遣レ興詩〕摩訶池上醉二青春一。〔蘇軾、洞仙歌序〕僕七歲時、見二眉州老尼一、姓朱、忘二其名一、年九十餘、自言、嘗隨二其師一、入二蜀主孟昶宮中一、一日大熱、主與二花蘂夫人一、夜起避二暑摩訶池上一、作二一詞一、朱具能記レ之、云云、獨記二其首兩句一云云。

【摩訶男】8 マカナン 佛梵語 Mahānāman の譯。又、摩訶那摩・摩訶納に作る。釋迦の弟子。五比丘の一。〔增一阿含經、三〕速二神通一、中不レ有レ悔、所謂摩訶男比丘是。

【摩訶末】9 マホメット イスラム教の開祖。Mahomet〔唐書、西域下、大食傳〕種有二二姓一、一曰、盆尼末換、二曰、奚深、有二摩訶末者一、勇而智、衆立爲レ主。

【摩訶迦葉】10 マカカセフ 佛波羅門種の一姓。名は畢波羅。大富長者の子で能く大財と大姓とを捨て、頭陀の大行を修めた。〔法華光宅疏、一〕摩訶言レ大、迦葉是姓、此翻爲レ龜也、所二以呼爲一レ大者、異二于三小迦葉一、故呼二此人一爲レ大也。

【摩訶至那】10′ マカシナ 佛印度の人が中國を呼んでいふ。〔大唐西域記、五〕對曰、當二此東北數萬餘里一、印度所謂摩訶至那國是也。

【摩訶震旦】11 マカシンタン 中國、卽ち支那をいふ。摩訶は大、震旦は中國をいふ。〔唐書、西域上、天竺國傳〕貞觀十五年、帝命二雲騎尉梁懷璥一持レ節慰撫、尸羅逸多驚問二國人一、自レ古亦有三摩訶震旦使者至二吾國一乎。

【摩訶提婆】12 マカダイバ 佛梵語 mahā-deva の譯。比丘の名。大天をいふ。釋迦滅後百年頃、五箇條の新說を主張して大衆・上座の二部二裂の基をなした。〔大唐西域記、三〕摩揭陀國無憂王、以二如來涅槃之後第一百年一命世君臨、威被二殊俗一、深信二三寶一、愛二育四生一、時有二五百羅漢僧五百凡夫僧一、王所二敬仰一、供養無レ差、有二凡夫僧摩訶提婆一、唐言二大天一、闊達多智、幽求二名實一、覃思作レ論、理違二聖教一、凡有二聞知一、羣從二異議一、無憂王不レ識二凡聖一、因二情所一レ好、黨二援所一レ親、召二集僧徒一、赴二殑伽河一、欲下沈二深流一、總從中誅戮上、時諸羅漢、既逼二命難一、咸運二神通一、陵レ虛履レ空、來二至此國一、山棲谷隱。

【摩訶兜勒】13 マカトウロク 笳曲の名。漢の張騫が西域に入り、笳調を西京に傳へた時、此の曲を得たといふ。又、摩訶・兜勒二曲の名といふ。〔古今注、音樂〕橫吹胡樂也、張博望入二西域一、傳二其法於西京一、唯得二摩訶・兜勒二曲一。

【摩訶摩耶】14 マカマヤ 佛梵語 Mahāmāyā の譯。釋迦の生母。略して摩耶夫人といふ。摩耶(82)を見よ。

【摩訶迦旃延】15 マカカセンエン 佛佛十大弟子の一人。波羅門姓十姓の一。姓を以て名とする。迦旃延。〔慧琳音義、二十七〕摩訶迦旃延、摩訶迦多衍那、此云二大剪剔種男一、剪剔婆羅門姓也。

【摩訶僧祇律】16 マカソウギリツ 佛書名。四十卷。東晉の佛陀跋陀羅、法顯と共に譯す。大衆部所傳の律藏。〔法顯傳〕法顯本求二戒律一、而北天竺諸國、皆師師口傳、無二本可一レ寫、乃至二中天竺一、於二此摩訶衍僧伽藍一得二一部律一、是摩訶僧祇衆律、佛在世時最初大衆所レ行也、於二祇洹精舍一傳二其本一。

【摩訶鉢特摩】17 マカハドマ 佛梵語 Mahāpadma の譯。大紅蓮華。八寒地獄の第八。嚴寒のために身が大紅蓮のやうに折裂するのでいふ。〔俱舍光記、十一〕摩訶鉢特摩、此云二大紅蓮華一、嚴寒逼切、身變折裂、如二大紅蓮華一。

【摩訶波闍波提】17′ マカハジヤハダイ 佛梵語 Mahāprajāpatī の譯。釋尊の姨母。摩耶夫人の妹。千佛の母となり、道師を生育するといふ。比丘尼の最初の人。〔法華玄贊、一〕摩訶鉢刺闍鉢底、此云二大勝生主一、佛母有レ三、此爲二小母一、大術生レ佛七日命終、此尼養レ佛、大術姊妹之類、故號爲二姨母一、大勝生主本梵王名、一切衆生皆彼子故、從レ彼乞得、因以爲レ名。

【摩訶毘盧遮那】18 マカビルシヤナ 佛天台宗では遍一切處と譯し、密教には大日と譯す。佛の稱號。〔法華文句、九、下〕釋迦如來、亦名二毘盧遮那一。

【摩訶曼陀羅華】19 マカマンダラケ 佛大白蓮華。四華の一。大なる白蓮華。〔法華光宅疏、一〕曼陀羅華者、譯爲二小白團華一、摩訶曼陀羅華者、譯爲二大白團華一。

【摩訶般若波羅蜜多心經】20 マカハンニヤハラミツタシンギヤウ 佛經名。一卷。姚秦、羅什三藏譯。唐、玄奘三藏再譯。大般若經六百卷の要を萃めたものといひ、また般若菩薩の內證三昧を說いたものといふ。諸經典中最も簡單なもので、字數僅に二百六十二。眞宗、日蓮宗を除く外、各宗で用ふ。略して心經といふ。

【摩牙】21 マガ 口舌相競ふこと。議論しあふこと。〔通俗編、身體、摩牙〕文選長楊賦、鑿齒之徒、相與摩牙而爭レ之、按、俗以二口舌相競一、爲二摩牙一、似三卽借二用其語一。

【摩改】22 マカイ けづりあらためる。〔國朝漢學師承記、王蘭泉先生〕近見二錢少詹唐石經攷異一、云、將黜殷下、本有二命字一、後摩改。

【摩崖】23 マガイ 巖石懸崖などに刻した碑文・經文・佛像・詩賦・贊頌などの類をいふ。磨崖に同じ。

般若波羅蜜
經 王
冠軍將軍梁父縣令王 子
椿
北齊王子椿
祖來山摩崖
（金石索）

【摩革】24 マカク 革をすりみがくこと。〔周禮、考工記、輪人〕既摩レ革、色青白、謂二之轂之善一。〔注〕以レ石摩二平之一。

【摩戞】25 マカツ すれあふこと。物と物とが擦れ合つて音響を發すること。〔杜甫、自レ京赴二奉先縣一詠懷五百字詩〕瑤池氣鬱律、羽林相摩戞。〔晁補之、新城游二北山一記〕窓間竹數十竿、相摩戞。

【摩竭】26 マカツ ㊀鯨をいふ。〔玄應音義、一〕摩伽羅魚、亦言二摩竭魚一、正言二摩迦羅魚一、此云二鯨魚一、謂二魚之王一也。〔慧琳音義、四十一〕摩竭海中大魚、呑二啗一切一。〔事物異名錄、水族部、鯨〕華夷志、海中大魚口可レ容レ舟、其名曰二摩竭一、按、摩竭、梵語、卽鯨魚也、其雌曰レ鯢。㊁國の名。摩竭提、又は摩竭陀の略。中印度の國名。王舍城の在る所。摩訶陀(6)を見よ。〔華嚴經〕佛在二摩竭提國一、處二寂滅道場一、始成二正覺一。〔王巾、頭陀寺碑文〕掩二室摩竭一、用啓二息言之津一、杜二口毗邪一、以通二得意之路一。〔翻譯名義集、三、摩竭提〕。

【摩旗】27 マキ 山名。㊀山東省昌樂縣の西南。㊁湖北省京山縣の西北。上に道觀があり、元の揭傒斯・盧摯・程文海の遊記がある。

【摩祇】28 マギ 佛靈藥の名。莫耆。摩蚳。摩醯。摩蛇。〔智度論、五十六〕譬如二憍尸迦一、有レ藥名二摩祇一、有レ蛇、飢行索レ食、見レ蟲欲レ噉、蟲趣二藥所一、藥氣力、故蛇不レ得レ前、卽便還去。

【摩詰】29 マキツ 唐、王維(**7**−**20823**‥19)の字。

【摩近】30 マキン 接近すること。〔淮南子、人閒訓〕物類之相摩近。

【摩空】31 マクウ 天にとどく程に高い。摩天(64)に同じ。

【摩笄】32 マケイ かんざしをとぐこと。摩笄山を見よ。

【摩笄山】33 マケイサン 山名。今の河北省蔚縣の東南。晉の趙毋卹、代を滅すや、代君の夫人は毋卹の姉であつたので、泣いて天を呼び、笄を磨して遂に自殺し、代人其の死地に名づけて摩笄山といふ。〔史記、趙世家〕太子毋卹代立、是爲二襄子一、趙襄子元年、越圍レ吳、襄子降二喪食一、使三楚隆問二吳王一、襄子姊前爲二代王夫人一、簡子既葬未レ除レ服、北登二夏屋一、請二代王一、使下廚人操二銅料一以食中代王上及二從者一行レ斟、陰令三宰人各以レ料擊二殺代王及從官一、遂興レ兵平二代地一、其姊聞レ之、泣而呼レ天、摩レ笄自殺、代人憐レ之、所レ死地名レ之爲二摩笄之山一。〔注〕正義曰、笄、今簪也、括地志云、靡笄山、一名二磨笄山一、亦名二爲山一、在二蔚州飛狐縣東北百五十里一、魏土地記云、代郡東南二十五里有二馬頭山一、趙襄子既殺二代王一、使三人迎二其婦一、代王夫人曰、以レ弟慢レ夫非レ仁也、以レ夫怨レ弟非レ義也、磨レ笄自殺而死、使者亦自殺。

【摩羯】34 マケツ 天文家の分ける十二宮の一。今の山羊座をいふ。星紀の次、十二辰の丑に當り、陽曆十二月二十二日に當る星座をいふ。此の日を冬至といひ、太陽が運行して此の宮に至る。又、磨蝎(**8**−**24449**‥8)に作る。十二宮(**2**−**2695**‥352)の㊂を見よ。

【摩肩】35 マケン 混雜で肩と肩とが擦れ合ふ。〔太平

御覽、車部、轂〕桓譚新論、曰、楚之郢都、車掛㆑轂、民摩㆑肩、市路相交、號爲㆓朝衣新而暮衣弊㆒。〔劉峻、廣絕交論〕彯組雲臺者摩㆑肩、趨走丹墀者疊㆑跡。〔庾信、荅㆓移市㆒教〕臥轍反車之流、摩㆑肩相接。

【摩研】36 マケン　とぎみがく。磨研。〔後漢書、蘇竟傳〕竟時在㆓南陽㆒、與㆓劉龔書㆒曉㆑之曰、云云、走昔以摩㆓研編削之才㆒、與㆓國師公㆒從㆑事出入、校㆓定祕書㆒。

【摩姑】37 マコ　菌類をいふ。俗に蘑菇(9－32477‥)に作る。〔袁桷、上京雜詠詩〕芍藥圍㆓紅斗㆒、摩姑綴㆓玉釘㆒。

【摩姑手】37′ マコノテ　竹・木などで指爪の形に作り、背など手の屆かない所を搔くに用ひる具。痲姑。痲姑手。爪杖。〔書言字考節用集、七〕痲姑手、爪杖、まごのて。

【摩些】38 マサ　地名。今の雲南省麗江縣。唐宋の時の摩些蠻地。〔讀史方輿紀要、雲南、麗江軍民府〕蒙古忽必烈降㆓摩荻㆒。〔注〕一名摩沙、卽摩些之譌也。

【摩些詔】39 マサセウ　蠻族の名。又、越析詔に作る。唐の六詔の一。摩些に住す。六詔(2－1453‥385)の❶・越析(10－37110‥92)を見よ。〔南詔記〕五曰、摩些詔、亦作㆓越析詔㆒。

【摩挲】40 マサ　手を上下してこすること。摩擦。〔釋名、釋姿容〕摩挲、猶㆓末殺㆒也、手上下之言也。

【摩挲撫弄】41 mo^{2} sha^{1} fu^{4} nung^{4}　かはいがること。〔紅樓夢、二十四回〕賈環見寶玉同邢夫人坐在一個坐褥上、邢夫人又百般摩挲撫弄他。

【摩挲】42 マサ　❶手でなでまはす。愛撫する。摩挱。〔後漢書、方術下、薊子訓傳〕與㆓一老公㆒共摩㆓挲銅人㆒。〔韓愈、石鼓歌〕牧童敲㆑火牛礪㆑角、誰復著㆑手摩挲。〔白居易、寄㆓皇甫賓客㆒詩〕食飽摩㆓挲腹㆒、心頭無㆓一事㆒。❷寶石の名。摩挲石に同じ。〔庚辛玉冊〕摩挱、陽石也、出㆓三佛齊㆒、海南有㆑山、五色聳峙、其石有㆓光焰㆒、船過㆓其下㆒、人以㆓刀斧㆒擊㆓取之㆒、匱㆓五金㆒制㆓鉛汞㆒。

【摩挲石】43 マサセキ　寶石の名。三佛齊から出る。胡人は最も珍重し、食前又は食後に口中に含んで防毒の用に供する。〔本草、娑婆石〕釋名、摩挲石、時珍曰、姚亮西溪叢話云、船船過㆓產石山下㆒、愛㆓其石㆒以㆑手捫㆑之、故曰㆓摩挲㆒、不㆑知然否、集解、頌曰、胡人尤珍㆓貴之㆒、以㆑金裝飾作㆓指彄㆒、帶㆑之每欲㆑食及食罷、輒含吮數次、以防㆑毒、今人有㆑得㆓指面許塊㆒、則價直百金也。

【摩齋】44 マサイ　金本觀の號。金本摩齋(11－40152‥1436)を見よ。

【摩擦】45 マサツ　すれあふ。こすれる。又、こする。

【摩擦音】46 マサツオン　音聲學用語で、發音の際、氣息の通路を狹めて、其の隙間の所で作る騷音。

【摩擦力】47 マサツリョク　摩擦する力。

【摩擦電氣】48 マサツデンキ　物の摩擦によつて生ずる電氣。靜電氣。

【摩擦發電機】49 マサツハツデンキ　摩擦によつて電氣が起るといふ理法を實驗研究するために作られた機械。又、其の理法に依つて電氣を起す機械。

【摩踵】50 マシヨウ　摩㆑頂放㆑踵 (12－43335‥71) の略。人の爲、わが身を犧牲にする喩。摩頂(60)を見よ。〔江淹、詣㆓建平王㆒上書〕剖㆑心摩㆑踵、以報㆓所天㆒。

【摩拭】51 マシヨク　こすりぬぐふ。〔論衡、率性〕今妄以㆓刀劍之鉤月㆒、摩拭朗白、仰以嚮㆑日。

【摩震】52 マシン　新羅末期、弓裔の建てた國號。後、泰封と改む。年號は武泰。〔三國史記〕・〔高麗史〕。

【摩芻】53 マスウ　縣名。民國、置く。雲南省雙柏縣。

【摩切】54 マセツ　❶すりみがく。轉じて、人を立派に陶治すること。〔漢書、蓋寬饒傳〕乃欲㆘以㆓太古久遠之事㆒、匡㆗拂天子㆖、數進㆓不用難聽之語㆒、以摩㆓切左右㆒、非㆚所㆘以揚㆓令名㆒全㆗壽命㆖者㆙也。〔宇文之邵、上㆓皇帝㆒書〕以㆓禮節廉恥㆒、摩㆓切臣下㆒。❷せまりちかづく。〔王庭珪、次㆓韻曾育才翠樾堂雪㆒詩〕詞如㆓劍戟相摩切㆒。

【摩多】55 マタ　［佛］梵語 Mātr の譯。母音をいふ。梵語雜名に、悉曇の四十七字に於て母音の十二字を摩多とし、子音の三十五字を體文といふ。摩多は母の義で、彼を以て體文の音を發せしめるからであるといふ。〔悉曇三密鈔、一〕摩多此云㆓點畫㆒、或云㆑韻。

【摩多羅】56 マタラ　［佛］天台宗で祭る天神。摩多羅神。〔羅山文集、三十七〕又一宇置㆓摩多羅神像㆒、或曰、亦名㆓金毘羅㆒、烏帽着㆑袴持㆑鼓、左右有㆓兩童㆒、一曰㆓丁禮多㆒、一曰㆓尼子多㆒、或立舞、或擊㆑鼓、相傳、最澄入唐在㆓天台山㆒時、此神顯㆑形見㆑澄曰、我隨㆑汝赴㆓日本㆒、且授以㆓祕法㆒、所謂擊鼓觀心者、台徒深爲㆓祕要㆒、逮㆓澄歸㆑國、逢㆓此神於比叡山㆒、於㆑是崇㆑之云。

【摩多樓子】57 マタロウシ　樂府、雜曲歌辭の名。古詞がある。北朝或は隋時の邊塞曲に似る。唐の李賀にも又歌辭がある。〔古樂府、摩多樓子〕從㆑戎向㆓邊北㆒、遠行辭㆓密親㆒、借問陰山候、還知塞上人。〔李賀、摩多樓子〕玉塞去㆓金人㆒、二萬四千里、風吹㆑沙作㆑雲、一時渡㆓遼水㆒、天白水如㆑絹、甲絲雙串斷、行行莫㆓苦辛㆒、城月猶殘半、曉氣朔烟上、趢趢胡馬蹄、行人聽㆑水別、隔㆑隴長東西。

【摩盪】58 マタウ　空を摩してうごかす。氣勢の雄壯なこと。〔郭翼、天台行〕赤霞壁立百雉城、閶闔天開勢摩盪。

【摩托】59 mo^{2} t'uo^{1}　モーター。發動機。電動機。motor の音譯。

【摩頂】60 マチヤウ　❶頭上を摩突すること。墨子の兼愛說で、深く人を愛して己を顧みないこと。一說に、摩は磨。頭頂をすりへらすことをいふ。又、摩は靡、頭頂をただらかすこと。又、一說に、摩突の突は禿、東奔西走、天下のために勞苦して、頭髮は禿げ、脛に毛が無くなることをいふ。〔孟子、盡心上〕孟子曰、楊子取㆑爲㆑我、拔㆓一毛㆒而利㆓天下㆒、不㆑爲也、墨子兼愛、摩㆑頂放㆑踵、利㆓天下㆒爲㆑之。〔注〕摩㆓突其頂㆒、下至㆓於踵㆒、以利㆓天下㆒、己樂爲㆑之。〔集注〕摩㆑頂、摩㆓突其頂㆒也。〔古義〕忘㆓其身㆒而殉㆓天下㆒者也。〔逢原〕摩・磨通、云云、磨㆓礪頂顱㆒、次第以至㆓趾踵㆒、是一身消滅無㆑餘也、甚言㆓利㆑物而不㆑惜㆑身之義㆒、正見㆘拔㆓一毛㆒不㆑爲之反對㆖矣、註摩突、失㆑解。〔說文通訓定聲〕摩、叚借爲㆑靡、孟子摩㆑頂放㆑踵。〔焦循正義〕音義云、突、丁、徒忽切、穿突也、襄公二十五年左傳、宵突㆓陳城㆒、注云、突、穿也、此丁公著所㆑本、乃城可㆑言㆑穿、頂不㆑可㆑言㆑穿、莊子說劍篇云、吾王所㆑見劍士、皆蓬頭突鬢、荀子非相篇、孫叔敖突禿、楊倞注云、突、謂㆘短髮可㆔淩㆓突人㆒者㆖、故莊子說㆓趙劍士蓬頭突鬢㆒、突禿聲轉、突卽禿、楊氏解爲㆓短髮㆒、是也、趙氏以㆑突明㆑摩、謂㆘摩㆓迫其頂㆒髮爲㆑之禿㆖、丁氏以㆑突爲㆑穿、失㆓趙義㆒矣、云云、謹按、墨子有㆓兼愛三篇㆒、無㆓摩頂放踵語㆒、莊子、天下篇云、墨子稱道曰、禹親自操㆓橐耜㆒、而九㆓雜天下之川㆒、腓無㆑胈、脛無㆑毛、沐㆓甚風㆒、櫛㆓疾雨㆒、置㆓萬國㆒、禹大聖也、而形勞㆓天下㆒如㆑此、使㆘後世之墨者、多以㆓裘褐㆒爲㆑衣、跂蹻爲㆑服、日夜不㆑休、以㆓自苦㆒爲㆖㆑極、以頂不㆑能㆑如㆑此、非㆓禹之道㆒也、不㆑足㆑爲㆑墨、墨翟禽滑釐之意則是、其行則非也、將㆑使㆘後世之墨者、必自苦以㆓腓無㆑胈、脛無㆑毛、相進㆖而已矣、亂之上也、治之下也、孟子推㆓其汎愛兼利、生勤死薄之道㆒、而擬㆑之爲㆓摩頂放踵㆒、卽自苦以㆓腓無㆑胈、脛無㆑毛之意㆒耳。〔吳均、行路難〕摩㆑頂至㆑足買㆓片言㆒、開㆑胷瀝㆑膽取㆓一顧㆒。❷［佛］大法を授けるために弟子の頂をなで、或は授戒の時、頂をなでること。〔法華經、囑累品〕釋迦牟尼佛、從㆓法座㆒起、現㆓大神力㆒、以㆓右手㆒摩㆓無量菩薩摩訶薩頂㆒、而作㆓是言㆒。〔南史、徐陵傳〕陵年數歲、家人攜以候㆓沙門釋寶誌㆒、寶誌摩㆓其頂㆒曰、天上石麒麟也。

【摩頂松】61 マチヤウシヨウ　玄奘法師が西域に佛法を求めに行かうとした時、手で頂をなでたと傳へられる松。〔大唐新語〕玄奘法師往㆓西域㆒取㆑經、手摩㆓靈巖寺松枝㆒曰、吾西去求㆓佛教㆒、汝可㆓西長㆒、吾歸、卽東向、既去、其枝年年西指、一年忽東方、弟子曰、教主歸矣、果還、至㆑今謂㆓之摩頂松㆒。

【摩廚】62 マチユウ　樹木の名。其の汁は油の如く、芳香がある。〔齊民要術、五穀果蓏菜茹、非㆓中國物產㆒者、摩廚〕南州異物志曰、木有㆓摩廚㆒、生㆓於斯調國㆒、其汁肥潤、其澤如㆓脂膏㆒、馨香馥郁、可㆔以煎㆓熬食物㆒、香美如㆓中國用㆑油。

【摩跌】63 マテツ　足を以て地を摩してつまづくこと。〔傅毅、舞賦〕蹀蹋摩跌。〔注〕善曰、蹀蹋摩跌、或反㆓足蹋㆒以象㆑蹈、或以㆑足摩㆑地而揚㆑跌也、字書曰、跌、足蹠也。

【摩天】64 マテン　❶天をこする。天に屆くほど高い形容。摩乾。〔曹植、(黃初六年)自戒令〕欲㆘使㆔皇帝恩在㆓摩天㆒、使㆛孤心常存㆚人地㆙。〔李白、古風、三十三〕吾觀摩㆑天飛、九萬方未㆑已。〔蘇軾、次㆓韻馬元賓㆒詩〕塞鴻正欲㆓摩㆑天去㆒、垂㆑老追攀豈所㆑

期。❷寨の名。山西省五臺縣の東北にある。

【摩天嶺】65 マテンレイ 山名。❶一に、高嶺といふ。長白山脈の秀峯。主峯は滿洲遼寧省鳳城縣の西北。一名、千頂山・千朵蓮花山。遼陽本溪二縣の邊境に跨る。唐の太宗、高麗を征し、曾て此に駐蹕した。日淸日露の戰地。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮、蘭秀山〕摩天嶺、在二咸興府東北一、朝鮮謂二之東北雄關一。❷河南省武安縣の西北。山西に通ずる要路。巓に峻極關がある。明末、流賊が此處から武安に西下して、左良玉を破る。❸湖南省桂陽縣。もと硫礦及びアルミニユームを產した。❹四川省平武縣の東北。魏の鄧艾、此處から蜀に寇す。❺綏遠省和林格爾縣の西南紅河の南岸。

【摩天樓】66 マテンロウ 高層建築をいふ。摩天閣。sky-「scraper

【摩登】67 mo² têng¹ モダン。近代的。現代的。はやりの。moderm の音譯。

【摩突】68 マトツ うがつこと。〔孟子、盡心上、墨子兼愛〕摩レ頂放レ踵利二天下一爲レ之、〔集注〕摩二突其頂一也。摩頂(60)を見よ。

【摩敦】69 マトン 母をいふ。〔稱謂錄、方言稱レ母、摩敦〕周書宇文護傳、母閻氏與レ護書、呼レ我作二阿摩敦一、又護報書、齊朝解レ網、惠以二德音一、摩敦四姑、並許二矜放一。

【摩那】70 マナ 科斗書をいふ。〔法苑珠林〕梵書六十四種、有二支那國書・摩那書一。

【摩那斯龍王】71 マナシリユウワウ ［佛］八大龍王の一。阿修羅が、海水を排して、喜見城を浸した時、この龍が海水を遏めたといふ。〔法華文句、二〕摩那斯、此云二大身一、云云、此龍縈レ身、以遏二海水一。

【摩尼】72 ニマ ❶回鶻で、僧侶をいふ。〔資治通鑑、唐紀〕〔憲宗、元和元年〕是歲回鶻入貢、始以二摩尼一偕來。〔注〕回鶻之摩尼、猶二中國之僧一也。❷［佛］梵語 mani の譯。摩尼珠・摩尼寶珠の略。如意珠と譯す。龍王の腦中にあるといふ淸淨な玉。〔玄應音義、一〕摩尼、珠之總名也。〔翻譯名義集、三〕摩尼、或云二踰摩一、應法師云、正云二末尼一、卽珠之揔名也、此云二離垢一、此寶光淨、不下爲二垢穢一所上レ染、云云、大論云、有二人言一、此寶珠從二龍王腦中一出、云云、輔行曰、亦云二如意一。

【摩尼教】73 マニケウ ［佛］波斯國の拜火教。末尼火祆教。末尼教(**6－14420**‥157)に同じ。

【摩陂】74 マヒ 地名。河南省郟縣の東南。又、龍陂といふ。〔水經、汝水注〕汝水又東南流、與二白溝水一合、水出二夏亭城西一、又南逕二龍城西一、城西北卽摩陂也、縱廣可二十五里一、魏靑龍元年、有レ龍見二于郟之摩陂一、明帝幸レ陂觀レ龍、于レ是改二摩陂一曰二龍陂一。

【摩撫】75 マブ ❶なでさする。人心を安んずること。〔宋史、冷應徵傳〕應徵亦竭レ力摩撫、與爲二簡便一。❷按摩すること。〔蘇軾、次二韻章傳道喜レ雨詩〕應レ憐郡守老且愚、欲下把二瘡痍一手摩撫上。〔王炎、題二唐人浴レ兒圖一詩〕有レ犬爛煸受二摩撫一、與レ人習熟無二猜疑一。

【摩拂】76 マフツ することとはらふこと。こすり拂ふ。〔漢書、司馬相如傳上〕下摩二蘭蕙一、上拂二羽蓋一。〔詩疏廣要〕翼相摩拂。

【摩平】77 マヘイ すつて平らにする。〔周禮、考工記、輪人、旣摩レ革、注〕以レ石摩二平之一。

【摩篇】78 マヘン 鬼谷子の篇名。

【摩滅】79 マメツ すれてなくなる。すれて消える。磨滅。〔漢書、司馬遷傳〕古者富貴而名摩滅、不レ可レ勝レ記。〔孔安國、尙書序〕錯亂摩滅、弗レ可二復知一。〔謝靈運、入二華子崗一是麻源第三谷詩〕圖牒復摩滅、碑版誰聞傳。

【摩門】80 mo² men² 米國に行はれるモルモン宗の音譯。Mormonism

【摩也】81 ヤマ 淸、王詰(**7－20823**‥227)の字。

【摩耶】82 ヤマ ［佛］梵語、摩訶麻耶 mahā māyā(14)の略。大術・大幻・大淸淨等と譯す。又、釋迦の生母の名。摩耶夫人は其の尊稱。〔大唐西域記、六〕摩訶摩耶、唐言二大術一。〔慧苑音義、上〕摩耶、此云レ幻也。〔衆許摩訶帝經、二〕爾時酥鉢羅沒馱王、忽於二後時一、妃乃有二娠懷一、九月誕二生一女一、顏貌端正、諸相具足、福德智慧、於二其世間一最爲二殊勝一、如レ是衆人觀二福相一俱言、希有、應二是毘首竭摩天所作一、或是幻化之所レ作、女生之後、一日二日至二三七日一、王爲二此女一、集二諸戚里及群臣等一、慶賀爲レ樂、卽爲立レ名名二摩耶一、其女身相而有二八乳一、相師占、此女後時當下生二貴子一紹中灌頂王位上。

【摩耶夫人】83 マヤフニン ［佛］拘利城主善覺王の息女で、淨飯大王に嫁す。釋尊の聖母。摩耶。〔佛本行經〕菩薩正念從二兜率一、下託二淨飯王大妃摩耶夫人右脇一。〔顧況、八月五日歌〕四月八日明星出、摩邪夫人降二前佛一。

【摩羅】84 ラマ ❶百合の異名。〔本草、百合〕釋名、別錄曰、一名二摩羅一。〔農政全書、百合考〕一名重箱、一名摩羅、一名中逢花。❷［佛］㋑華鬘をいふ。㋺鷂魚をいふ。〔翻譯名義集、二〕摩羅、善見云、鷂魚、長二丈餘、有二四足一、似レ鼉。

【摩羅伽陀】85 マラガダ ［佛］七寶の一。金翅鳥の口邊から出る綠色の珠。能く一切の諸毒を避けるといふ。〔玄應音義、二十一〕末羅羯多、亦言二磨羅伽多一、綠色寶也、大論云、出二金翅鳥口邊一、能避二諸毒一也。〔智度論〕摩羅伽陀。

【摩羅迦隷】86 マラカレイ 瑪瑙の異名。〔本草、馬腦〕釋名、瑪瑙、文石、摩羅迦隷。

【摩捋】87 マラツ なでること。〔爾雅、釋蟲、強蚚、疏〕強、蟲名也、一名蚚、好自摩捋者、蓋蠅類。

【摩壘】88 マルイ 敵壘に逼り近づくこと。〔左氏、宣、十二〕許伯曰、吾聞致レ師者、御靡レ旌、摩レ壘而還。〔林注〕近二敵人之軍壘一而還。

【摩厲】89 マレイ みがきとぐこと。磨厲。〔國語、越語上〕達士潔二其居一、美二其服一、飽二其食一、而摩二厲之於義一。

【摩厲以須】90 マレイモツテマツ 利器を磨いて敵を待つ。自分の德を磨いて相手の惡を正さうとすること。〔左氏、昭、十二〕摩厲以須二王出一、吾刃將レ斬矣。〔注〕以レ己喩二鋒刃一、欲三自摩厲、以斬二王之淫慝一。

【摩弄】91 mo² lung⁴ さする。撫で弄ぶ。

【摩勒】92 マロク ❶最も美しい金。〔南史、夷貊上、天竺迦毗黎國傳〕天竺迦毗黎國、元嘉五年、國王月愛、遣レ使奉レ表、獻二金剛指環・摩勒金環諸寶物一。〔宋瑣語〕摩勒、金之至美者也、卽紫磨金、林邑謂二之楊邁金一、其貴無レ匹、故云二寶物一。❷人名。〔裴硎傳奇〕大曆中有二崔生者一、家中崑崙奴磨勒有二神術一。

【摩勒香】93 マロクカウ 樹木の名。薰陸の異名。〔本草、薰陸香乳香〕釋名、馬尾香、天澤香、摩勒香、多伽羅香。

【摩伽陀】94 マガダ ［佛］中印度の國名。摩訶陀(6)に同じ。〔唐書、西域上、天竺國傳〕漢身毒國也、或曰二摩伽陀一。

【摩伽羅】95 マカラ 魚の名。鯨をいふ。摩竭(26)の❶に同じ。

【摩賀部】96 マカヘ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【摩睺羅】97 マゴラ ❶土偶をいふ。土製の人形。夢華錄に京師の舊俗、七月七日街上に磨喝樂を賣るとあるは、小塑の土偶をいふ。睺は又侯に作る。一名、化生。磨喝樂(**8－24449**‥84)及び化生(**2－2572**‥111)の❷を見よ。〔薛能、吳姬詩、三體詩注〕唐歲時紀事曰、七夕、俗以レ蠟作二嬰兒形一、浮二水中一以爲レ戲、爲二婦人宜レ子之祥一、謂二之化生一、本出二西域一、謂二之摩睺羅一。❷七夕に、蠟で綵のある女人形、又は木刻の小兒人形に綵服を着せたものを作つて之を賣り、又は之を婚姻の家に送るものをいふ。大同、臨安地方の風習。〔乾淳歲時記〕七夕節物、多尙二果食茜雞及泥孩兒一、號二摩睺羅一、有下極二精巧一、飾以二金珠一者上、其値不レ貲、併以二蠟印鳧鴈水禽之類一、浮二之水上一、婦人女子夜對レ月、穿レ鍼餖レ釘、盃盤飮レ酒爲レ樂、謂二之乞巧一、及以二小蜘蛛一貯二合內一、以候二結網之疎密一、爲二得レ巧之多少一、小兒女多衣二荷葉一、效二顰摩睺羅一、大抵皆中原舊俗也。〔杭州府志〕七月七日、織女當レ渡レ河、諸仙悉還レ宮、蓋晢詣二牽牛一、世人謂三織女嫁二牽牛一也、淮南子、七月七日、織女赴二牽牛一、烏鵲塡レ河、成レ道而渡、市中以二土木一、雕二塑孤兒一、衣以二綵服一而賣レ之、號爲二摩睺羅一。❸［佛］㋑神の名。天龍八部の一。摩睺羅伽。〔大日經、一〕爾時執金剛祕密主、於二彼衆會中一坐、白レ佛言、世尊云何、如來應供正遍知、得二一切智智一、彼得二一切智智一爲二無量衆生一、廣演分布、隨二種種趣種性欲一、云云、夜叉乾闥婆乃至說下生二摩睺羅伽一法上。〔慧林音義〕摩睺羅伽、是樂神之類、或云二大蟒神一、其形人身而蛇首也。㋺時分の名。須臾。〔法苑珠林〕一息爲二羅婆一、三十羅婆爲二一摩睺羅一、三十摩睺羅爲二一日夜一。

【摩斯吒】98 マシタ さるの異名。〔本草、獮猴〕釋名、時珍曰、梵書、謂二之摩斯吒一。〔翻譯名義集、二〕摩斯吒、或麼迦吒、此云二獮猴一。

【摩耳刀】99モルダウ 川の名。エルベ河の支流。Moldau

【摩爾人】100ムーアジン 民族の名。現在モロッコ・アルジエリヤ・チユニス等に於ける都會住民の主要部を構成する民族。Moors

【摩蘇爾】101モスール 地名。イラクの北境、チグリス河の終航點に位する都市。Mosul の音譯。

【摩托車】102 mo^{2} t‘uo^{1} ch‘ê 自動車をいふ。motorcar の譯。

【摩兜鞬】103マトウケン 愼みて言ふことなかれといふこと。〔西陽雜俎、廣知〕鄧城西百餘里有二穀城一、穀伯綏之國、城門有二石人一焉、刊二其腹一云、摩兜鞬、摩兜鞬、愼莫レ言、疑此亦同二太廟金人緘口銘一。

【摩鄧伽】104マトウガ 佛梵語 mātanga の音譯。憍逸又は惡作業の意。淸掃で生活を營む印度の賤族の通稱。男を摩鄧伽といひ、女を摩鄧祇といふ。摩燈伽。摩登伽。〔玄應音義、二十二〕阿死羅・摩登羅、女之別名也、此女由二卑賤一、故但以レ拂レ市爲レ業、用供二衣食一也。〔瑜伽論記、二十三〕阿死羅、是人別名也、摩登祇者、旃荼羅女名二摩登祇一、旃荼羅男名二摩登伽一、此二是通名也、此女但以二拂箒一爲レ活。

【摩鄧祇】105マトウギ 佛卑賤の業を營む女子の通稱。摩鄧伽を見よ。

【摩頭陀】106マトウダ 北周、叱列伏龜(**2**－3248‥38)の字。

【摩菟羅】107マトウラー mathurs 印度美術における一派。印度美術史を古代期より回教期まで六期に區分したとき、第二期として塞外人侵入期が考へられ、更にこの期に犍陀羅・摩菟羅・アマラバアテイーの三派がある。中印度摩菟羅を中心に古代派の彫刻があり、佛像はこゝで創作せられた。これを摩菟羅といひ、今其の附近に佛教及耆那教の古址があり、彫刻は之等の古趾及び其の他の地域より發掘せられ、材料並に樣式に於て一見判然たる特色を有してゐる。

【摩納哥】108モナコ 南歐の小公國、及び其の首府。Monaco

【摩摩帝】109ママテイ 佛一寺の主をいふ。寺主。〔行事鈔中、一〕寺主、摩摩帝。

【摩由羅】110マユラ 佛孔雀をいふ。〔大威德陀羅尼經〕摩由羅、此云二孔雀一。

【摩勒香】111マロクカウ 乳香(**1**－**190**‥13)に同じ。

【摩洛哥】112モロッコ アフリカ西北部の國。Morocco

【摩鹿加】113モルッカ 群島の名。セレベス島とパプア島(ニユーギニヤ)との間に點在し、香料の產出を以て夙に西歐に知られ、一に香料諸島とも呼ばれる。もとオランダ領。Moluccas の音譯。

【摩醯首羅】114マケイシユラ 佛梵語 Mahesvara の音譯。威靈、大自在などの意。色界の天主で、大千世界を統御する神。〔慧苑音義、上〕摩醯首羅、正云二摩醯濕伐羅一、言二摩醯一者、此云レ大也、濕伐羅者、自在也、謂、此天王於二大千世界中一得二自在一故也。

【摩乾軋坤】115マケンアツコン 天地に近づき迫ること。〔劉基、龍虎臺賦〕於二赫龍虎之臺一、摩レ乾軋レ坤、魁二羣山一而獨尊。

【摩沙勒江】116マサロクカウ 川の名。雲南省新平縣の西。又、馬龍江、鹿滄江といふ。禮社江の上源。

【摩贊俾克】117モザンビツク ❶地名。アフリカ洲東南岸、マダガスカル島に面した都邑。❷海峽の名。アフリカ洲とマダガスカル島との間の海峽。Mozambique

【摩島松南】118マシマシヨウナン 京都の人。名は長弘。字は子毅。通稱は助太郎。號は松南。天保十年四月十九日歿す、年四十九。若槻幾齋に師事し、家に在つて、教授を業とした。又、書に巧。著に娯語・興起詩集・尙書說・松南文集・翠眉稿・摩島松南遺稿・論語說がある。〔近代著述目錄、後篇〕。

【摩登伽女】119マトウガチヨ 佛人の名。佛の在世中、一の摩登伽女あり、幻術を以て阿難を蠱惑しようとしたもの。

【摩奴法典】120マヌノハフテン 古代印度の法典。古代印度民族の社會組織が既に出來上つた時に、各種の法規が立てられたことは此の書によつて知ることが出來る。相傳へて、摩奴は世界最初の人で、法典は其の人の創めた所といふが、是れ實は一時一人の作ではなく、各處の習慣法を收集して編纂されたものであることは明かである。其の內容は、宗教上の禮儀及び各階級の權利義務民法刑法等の類迄包含されてゐる。

【摩拉維亞】121モラヴイヤ もとのチエツコスロヴアキヤ中部の地方。Moravia

【摩利支天】122マリシテン 佛印度の神。天女の名。國を護り兵戈を救ふ大力があるといつて武士・力士等の守り神とする。摩利支は梵語 Marici の音譯で、陽炎と譯す。〔摩利支天經〕有三天名二摩利支一、有二大神通自在之法一、常行二日前一、日不レ見レ彼、彼能見レ日、無二人能見一、無二人能知一、無二人能害一、無二人欺誑一、無二人能縛一、無三人能債二其財物一、無二人能罰一、不レ畏二怨家能得二其便一。

【摩里得尼亞】123マウリタニヤ 地名。アフリカ西北部の地方名。Mauretania

【摩勒斯涅特】124モレスネツト モレネ。地名。ドイツ、ラインランド近傍の都邑。舊ベルギー領。Moresnet

【摩】12613′ マ 摩(**5**－**12613**)に同じ。

【⿰扌麻】12614 マ 摩(**5**－**12613**)の古字。〔古文奇字〕摩、古作レ⿰扌麻。

【摪】12615 一シヤウ サウ 〔集韻〕資良切 陽 二シヤウ サウ 〔集韻〕七亮切 漾

一**たすける**。⿰月寽(**5**－**11844**)に同じ。〔集韻〕⿰月寽、說文、扶也、或作レ摪。二**さす**。〔集韻〕摪、刺也。

【⿸厂拜】12616 ハイ バイ 〔集韻〕部浼切 賄

おこす。〔集韻〕⿸厂拜、手起レ物。

【⿰扌密】12617 バツ マチ 〔集韻〕莫八切 黠

うつ。〔集韻〕⿰扌密、打也。

【⿰扌彗】12618 一ケイ ヱイ 〔集韻〕胡桂切 霽 二セイ サイ 〔集韻〕祖芮切 霽 三ヱイ ヱ 〔集韻〕于歲切 霽 四セツ セチ 〔集韻〕相絕切 屑

一❶**さく**。〔集韻〕⿰扌彗、裂也。❷**かける**。〔集韻〕⿰扌彗、挂也。❷或は⿰扌惠(**5**－**12696**)に作る。〔集韻〕⿰扌彗、或从レ惠。二❶**さく**。攜(**5**－**12935**)に同じ。〔集韻〕攜、裂也、或省。❷**かける**。〔集韻〕⿰扌彗、挂也。三**さく**。〔廣雅、釋詁二〕⿰扌彗、裂也。四**はらふ**。けす。〔集韻〕⿰扌彗、掃滅也。

【⿰扌畢】12619 ヘツ ヘチ 〔集韻〕匹蔑切 屑

ひく。〔集韻〕⿰扌畢、牽也。

【⿰扌焉】12620 イン ⿰扌㥯(**5**－**12855**)に同じ。〔集韻〕⿰扌㥯、或从レ焉。

【⿰扌旋】12621 一セン ゼン 〔集韻〕隨戀切 霰 二セン ゼン 〔集韻〕旬宣切 先

🈩❶かかげる。〔集韻〕⿰扌旋、手挑㆑物。❷長くひく。〔玉篇〕⿰扌旋、長引也。❸つなぐ。縼(8－27843)に同じ。〔廣韻〕縼、長繩繫㆓牛馬㆒放也、⿰扌旋、上同。❹旋(5－13656)の俗字。〔正字通〕⿰扌旋、俗旋字。🈔ひく。〔集韻〕⿰扌旋、引也。

【摫】 12622 キ 〔集韻〕均窺切 支

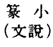
たつ。衣を裁斷する。〔方言、二〕摫、裁也、梁益之間、裁㆑木爲㆑器曰㆑鈲、裂㆑帛爲㆑衣曰㆑摫。〔左思、蜀都賦〕鈲摫兼呈。〔注〕劉曰、揚雄方言云、鈲摫、裁也、梁益之間、裁㆑木爲㆑器曰㆑鈲、裂㆑帛爲㆑衣曰㆑摫。

【摬】 12623

🈩エイ ヤウ 〔集韻〕於慶切 敬

🈔エイ ヤウ 〔集韻〕於境切 梗

🈪キヤウ ガウ 〔集韻〕巨兩切 養


小篆（說文）

小篆（段注本）

🈩❶**擊つてあてる。**〔說文〕摬、中擊也、从㆑手竟聲。〔段注〕擊㆑之而中也。❷**擊つていためる。**〔玉篇〕摬、傷擊也。🈔🈪**うつ。**〔廣雅、釋詁三〕摬、擊也。〔集韻〕摬、擊也。

【摭】 12624

🈩セキ シヤク 〔集韻〕之石切 ㄓˊ chih^{2} 陌

🈔シヤク 〔集韻〕職略切 藥

🈩**ひろふ。**とる。ひろひとる。拓(5－11958)に同じ。〔集韻〕拓、說文、拾也、陳宋語、或从㆑庶。〔方言、一〕摭、取也、陳宋之間曰㆑摭。〔禮、禮器〕有㆓順而摭㆒也。〔疏〕摭、猶㆓拾取㆒也。〔漢書、揚雄傳上〕往往摭㆓離騷文㆒而反㆑之。〔注〕師古曰、摭、拾取也。🈔**ひろふ。**🈩に同じ。〔集韻〕摭、拾也。

【摭言】1 セキゲン 書名。十五卷。五代、王定保撰。唐代貢擧の制を特に詳しく記してある。唐摭言の略稱。〔說郛、第三十五〕。

【摭採】2 セキサイ ひろひとる。採摭(5－12274・41)に同じ。

【摭拾】3 セキシフ ひろふ。ひろひ取る。拾摭。〔淸會典事例、禮部、貢擧、命題規制〕摭㆓拾往事㆒、泛爲㆓鋪張㆒。

【摭取】4 セキシユ ひろひ取る。〔趙岐、孟子題辭〕今諸解者、往往摭取而說㆑之。

【摭拭】5 セキショク ひろひぬぐふ。〔李白、贈㆓范金鄕㆒詩〕摭拭欲㆑贈㆑之、申㆑眉路無㆑梯。

【摭說】6 セキセツ 言直しをする。

【摭稻】7 セキタウ 二毛作のいね。〔羣芳譜〕摭稻、春種夏穫、七月再插、十月熟。

【摭入】8 セキニフ ひろひとつてかき入れる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕摭㆓入前告之事㆒。

【⿸广掣】 12625 セイ 掣(5－12277)に同じ。〔集韻〕掣、或作㆑⿸广掣。

【摮】 12626

🈩ガウ ゴウ 〔集韻〕牛刀切 豪

🈔ガウ ゲウ 〔集韻〕牛交切 肴

🈪カウ ケウ 〔集韻〕丘交切 肴

🈩**うつ。**〔集韻〕摮、擊也。〔公羊、宣、六〕膳宰熊蹯不㆑熟、公怒、以㆑斗摮而殺㆑之。〔注〕摮、猶㆑擊也、摮、謂㆔旁㆓擊頭項㆒。🈔**うつ。**敼(5－13383)に同じ。〔集韻〕敼、擊也。或从㆑手。🈪**たたく。**敲(5－13337)に同じ。〔集韻〕敲、說文、橫擿也、或作㆑摮。

【⿰扌敖】 12627 ガウ ゴウ 〔集韻〕魚到切 號

❶**うごかす。**〔集韻〕⿰扌敖、動也。❷摮(5－12626)に同じ。〔正字通〕⿰扌敖、同㆑摮。

【⿰扌族】 12628

🈩ソク 〔集韻〕千木切 屋

🈔サク ザク 〔集韻〕仕角切 覺

🈩❶**うながす。**〔字彙〕⿰扌族、促也。❷**をさめる。**⿱族手(5－12629)に同じ。〔集韻〕⿱族手、斂也、或書作㆑⿰扌族。🈔**さす。**捔(5－12156)に同じ。〔集韻〕捔、刺也、或作㆑⿰扌族。

【⿰扌族管】1 サククワン 書法の筆の持方の一。〔翰林要訣、第一執筆法〕以㆓大指小指㆒倒垂執㆑管、⿰扌族㆓三指㆒攢㆑之、就㆑地書㆓大幅屏障㆒。

【⿱族手】 12629 ソク ゾク 〔集韻〕昨木切 屋

🈩**をさめる。**或は⿰扌族(5－12628)に作る。〔集韻〕⿱族手、斂也、或書作㆑⿰扌族。

【⿱絇手】 12630 ク 拘(5－11963)に同じ。〔集韻〕拘、或作㆑⿱絇手。

【⿰扌㒼】 12631

🈩ベン メン 〔集韻〕彌殄切 銑

🈔ボン

🈩**かざる。**〔集韻〕⿰扌㒼、飾也。🈔捫(5－12197)の俗字。〔正字通〕⿰扌㒼、俗捫字。

【摯】 12632

🈩シ 〔集韻〕脂利切 寘

🈔チ 〔集韻〕陟利切 ㄓˋ chih^{4} 寘

🈪シツ シチ 〔集韻〕職日切 質

小篆

🈩❶**つかむ。**にぎりもつ。〔說文〕摯、握持也、从㆓手執㆒。〔段注〕會意也。〔史記、酷吏、義縱傳〕縱以㆓鷹擊毛摯㆒爲㆑治。❷**いたる。**⿱埶女(3－6639)に通ず。〔說文通訓定聲〕摯、叚借爲㆑⿱埶女。〔爾雅、釋詁〕摯、臻也。〔書、西伯戡黎〕大命不㆑摯。〔傳〕摯、至也。❸**手厚い。**情意が至る。摯而有㆑別(13)を見よ。❹**こまかい。**致(9－30146)に通ず。〔說文通訓定聲〕摯、叚借爲㆑致。〔周禮、考工記、函人〕甲鍛不㆑摯。〔注〕摯之言、致也。〔孫詒讓正義〕致、卽今緻字。❺**きはまる。**きはまり。〔漢書、竇田灌韓傳贊〕臨㆓其摯㆒而顚墜。〔注〕李奇曰、摯、極也。❻**いたす。**すすめる。〔戰國、魏策〕近習之人、其摯㆑諂也固矣。❼**あらい。**てあらい。鷙(12－47275)に通ず。〔說文通訓定聲〕摯、叚借爲㆑鷙。〔廣雅、釋詁三〕摯、很也。〔禮、儒行、鷙蟲攫搏、注、鷙蟲、猛鳥猛獸也、釋文〕鷙、與㆑摯同。❽**うつ。**〔詩、大雅、常武、如㆑飛如㆑翰、傳〕摯如㆑翰。〔疏〕摯、擊也。〔張衡、西京賦〕靑骹摯㆓於韝下㆒。〔注〕綜曰、摯、擊也。❾**にへ。**雉・鴈の類。贄(10－36907)・質(10－36833)に通ず。〔正字通〕摯、與㆓質・贄㆒同。〔儀禮、士冠禮〕尊㆑摯見㆓於君㆒。〔注〕摯、雉也。〔儀禮、士昏禮記〕摯不㆑用㆑死。〔注〕摯、鴈也。〔禮、郊特

牲〕各執レ摯以相見。〔注〕摯、亦奠鴈也。〔釋文〕摯、本亦作レ贄。❿をる。くじく。くだける。折(5−11890)に通ず。〔說文通訓定聲〕摯、叚借爲レ折。〔禮、月令〕雪霜大摯。〔釋文〕摯、蔡云、傷折。⓫古の國名。任姓。仲虺の後。今の河南省汝南縣の東南。〔廣韻〕摯、國名。〔詩、大雅、大明〕摯仲氏任。〔傳〕摯、國名。〔國語、周語中〕昔摯疇之國也、由二大任一。〔注〕摯・疇、二國、任姓、奚仲・仲虺之後。⓬姓。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕摯氏、風俗通、摯・疇、古諸侯國也、見二毛詩一、周有二摯荒一、或言、帝嚳子摯之後、漢有二茂陵執綱一。[二]❶ひく。⿸疒摯(7−22380)に通ず。〔說文通訓定聲〕摯、叚借爲レ⿸疒摯。〔廣雅、釋詁一〕摯、引也。❷とく。〔廣雅、釋詁一〕摯、解也。❸ひくい。おもい。車の前が下る。⿱執車(10−38506)・輊(10−38311)に通ず。〔說文通訓定聲〕摯、叚借爲レ⿱執車。〔正字通〕摯、與レ輊通。〔周禮、考工記、輪人〕今夫大車之轅摯。〔注〕摯、輖也。[三]**姓**。〔集韻〕摯、姓也。

解字 會意。手と執との合字。執の本義は罪人を捕へる。轉じて、取る意。摯は手で、大切に握り持つ意。

【摯虞】1（シグ） 晉、長安の人。字は仲治。少くして皇甫謐に師事し、才學通博、賢良に擧げらる。武帝の時、太子舍人に擢んでられ、聞喜令に除せらる。後、祕書監・衞尉卿を歷任し、惠帝に從つて長安に赴く。東軍來寇し、百官奔散するに及び、遂に鄠杜の閒に流離し、飢乏を嘗め、後、洛に還るを得。官は光祿勳・太常卿。時に懷帝、親郊するや、虞、舊典を考正す。洛京荒亂するに及び、餒ゑて卒す。著に三輔決錄注・文章志・文章流別集等がある。〔晉書、五十一〕。

【摯敬】2（シケイ） 士・大夫が相見える時、其の時候に適當の品物を贈つて敬意を表はすをいふ。〔儀禮、士相見禮〕士相見之禮、摯、冬用レ雉、夏用レ腒、云云、下大夫相見以レ雁、云云、如二士相見之禮一。〔注〕摯、所二執以至一者、君子見三於所二尊敬一、必執レ摯以將二其厚意一也、士摯用レ雉者、取二其耿介、交有レ時、別有レ倫也、云云、鴈取三知レ時飛翔有二行列一也、云云、上大夫、卿也、羔取二其從レ帥、群而不レ黨也。〔疏〕釋曰、此下大夫及卿、其摯雖レ有二羔鴈之異一、其相見之儀、則皆如レ士也。

【摯見】3（シケン） 男女婚禮をなす場合に、男が幣物として鴈を用ひて女にあふこと。〔禮、郊特牲〕男子親迎、云云、執レ摯以相見、敬章レ別也。〔注〕摯、所レ奠鴈也。

【摯獻】4 chih^4 hsien^4 贈る。

【摯獸】5（シジウ） あらあらしいけもの。猛獸。虎狼の屬。〔禮、曲禮上〕前有二摯獸一、則載二貔貅一。〔疏〕摯獸、猛而能擊、謂二虎狼之屬一也。

【摯執】6（シシツ） とらへること。〔呂覽、忠廉〕吳王曰、諾、明旦加二要離罪一焉、摯二執妻子一、焚レ之、而揚二其灰一。

【摯峻】7（シシユン） 漢、長安の人。字は伯陵。少くして清節、司馬遷と交る。⿰阝幵山に隱る。遷既に貴位に在り、書を以て峻の進仕を勸めたが、峻、遂に志を高尚にして仕へず、⿰阝幵に卒す。⿰阝幵人、祠を立て、⿰阝幵君と號す。〔高士傳、中〕・〔全上古三代秦漢三國六朝文、前漢文、二十六〕。

【摯恂】8（シジユン） 後漢、京師の人。峻の十二世の孫。字は季直。禮易に明通し、遂に五經を治め、百家に博通す。善く文を作り、儒術を以て教授し、南山に隱れ、徵聘に應ぜず、名、關西に重く。馬融、從つて業を受く。恂、其の才を愛して女を妻した。永和中、公車を以て徵されて就かず、清名、世に顯はる。〔後漢書、百上〕・〔高士傳、下〕。

【摯忱】9 chih^4 ch'en^2 誠實。至誠。眞心。

【摯瞻】10（シセン） 晉の人。虞の兄の子。字は景游。少くして文章を善くし、著作郎に起用さる。中朝が亂れるや、王敦の戶曹參軍となり、安豐・新蔡・西陽の太守を歷任し、復出でて內史となる。時に年始めて二十九、王敦に別る。敦、瞻に謂つて、卿年未だ三十ならずして已に萬石、又、甚だ早しと。瞻曰く、將軍に比べれば甚だ早いが、甘羅に比すれば已に甚だ老と。〔世說新語、言語〕。

【摯倒】11 chih^4 tao^3 ひき倒す。

【摯甫】12（シホ） 清、吳汝綸(2−3365‥667)の字。

【摯而有別】13（シニシテベツアリ） 鳩の情意は至つて厚いが、雌雄の別があつて禮儀正しいことをいふ。〔詩、周南、關雎、關關雎鳩、傳〕雎鳩、王雎也、鳥摯而有レ別。〔箋〕摯之言、至也、謂二王雎之鳥、雌雄情意至、然而有レ別。

【摯仲辭翰】14（シチユウジカン） 蒙求の標題。晉の摯虞、字は仲治、文筆を善くし、辯論に巧な太叔廣と竝稱された。廣が談笑すれば虞は對へる能はず、虞が筆論すれば廣は答へる能はず、互に相嗤笑して世に紛然たり。太叔辯給・摯仲辭翰と稱された故事。〔晉書、摯虞傳〕東平太叔廣樞機清轉、廣談虞不レ能レ對、虞筆廣不レ能レ答、更相嗤笑、紛二然於世一云。

【摰】
12633

[一] ゲツ ゲチ 〔集韻〕倪結切 屑

[二] セイ 〔集韻〕尺制切 霽

[一]❶**あやふい**。隉(11−41749)に同じ。〔集韻〕隉、說文、危也、或作レ摰。❷槷(6−15383)に通ず。〔周禮、考工記、輪人〕轂小而長則柞、大而短則摰。〔注〕摰、讀爲レ槷、謂二輻危槷一也。[二]**ひく**。**ひきおさへる**。掣(5−12277)に同じ。〔集韻〕掣、爾雅、甹夆、掣曳、或作レ摰。

【⿰扌埶】
12634

ゲイ 〔正韻〕倪制切 霽

すれあふ。木がすれあふ。槸(6−15384)に通ず。〔字彙〕槸、木相磨也。〔正字通〕槸、按、說文、槸、木相磨也、魚祭切、又集韻、闑或作レ槷、是木枝相磨之槸、借爲二闑字一、分二蓺孽二音一、非レ从レ手也、⿰扌埶、不レ宜下與二槸槷一混上。

【摱】
12635

[一] バン マン 〔集韻〕模元切 元

[二] バン マン 〔集韻〕莫晏切 諫

[一]**ひく**。〔集韻〕摱、引也。[二]**うつ**。〔集韻〕摱、擊也。

【⿱斬手】
12636

[一] サン ザン 〔集韻〕財甘切 覃

[二] サン セン 〔集韻〕所斬切 豏

[三] セン ゼン 〔集韻〕疾染切 琰

[四] サン ザン 〔集韻〕在敢切 感

[五] サン ゾン 〔集韻〕徂紺切 勘

小篆

[一]**きりとる**。或は摲(5−12637)に作る。〔說文〕⿱斬手、斬取也、从レ手斬聲。〔段注〕各本、斬取二字作レ暫、今正。〔集韻〕⿱斬手、說文、暫也、或書作レ摲。[二][三]❶**ついでる**。**ついづ**。順序だてる。〔廣雅、釋詁三〕⿱斬手、次也。〔疏證〕⿱斬手之言、漸也。❷**とる**。〔集韻〕⿱斬手、取也。[四]**うつ**。〔集韻〕⿱斬手、擊也。[五]**あげる**。〔集韻〕⿱斬手、擧也。

【摲】
12637

[一] サン セン 〔集韻〕師咸切 咸

[二] サン セン 〔集韻〕所斬切 豏

[三] サン セン 〔集韻〕叉鑑切 陷

[四] セン ゼン 〔集韻〕疾染切 琰

[五] サン 〔集韻〕賞敢切 感

㊀かる。〔集韻〕摲、芟也。〔禮、禮器〕君子之於㆑禮也、云云、有㆓摲而播㆒也。〔注〕摲之言、芟也。〔釋文〕摲、所監反、又所覽反。㊁❶かる。㊀に同じ。〔集韻〕摲、芟也、禮有㆓摲而播㆒。❷のぞく。〔集韻〕摲、除也。㊂❶なげる。〔集韻〕摲、投也。❷かる。㊀に同じ。〔集韻〕摲、芟也。❸ふさぐ。板を以て水をふせぐ。〔集韻〕摲、投㆑版堰㆑水曰㆑摲。❹或は摲(5－12636)に作る。〔集韻〕摲、或書作㆑摲。㊃のぞく。㊁の❷に同じ。〔集韻〕摲、除也。㊄かる。㊀に同じ。〔集韻〕摲、芟也。

【摲手】1 サンシュ　拳術手法の一。拇指をまげて掌につけ、他の四指をのべて、眞下にうちおろし、敵の攻撃をうちくだく手法。

【摳】12638

㊀コウ ク　〔集韻〕墟侯切　ㄎㄡ k'ou¹　尤
㊁ク　〔集韻〕虧于切　虞
㊂オウ ウ　〔集韻〕於口切　有

小篆

㊀㊁❶ひきかける。〔説文〕摳、繑也、从㆑手區聲。〔説文通訓定聲〕摳、謂㆓扣結所㆑紐也。〔正字通〕摳、曲㆑指摳搵也。❷つまどる。衣の裾をからげる。〔説文〕摳、一曰、摳㆑衣。〔集韻〕摳、褰㆑裳也。〔禮、曲禮上〕摳㆑衣趨㆑隅。〔釋文〕摳、提也。❸あげる。〔廣雅、釋詁一〕摳、擧也。❹なげる。投(5－11887)に通ず。〔説文通訓定聲〕摳、叚借爲㆑投。〔列子、黃帝〕以㆓黃金㆒摳者惛。〔注〕互有㆑所㆑投曰㆑摳。❺さぐる。さぐり取る。〔列子、黃帝〕以㆑瓦摳者巧。〔釋文〕摳、探也、以㆑手藏㆑物、探而取㆑之。❻わせ。早熟。摳揄(5)を見よ。❼現㋑かく。つまむ。㋺くりとる。㊇からかふ。㊂うつ。毆(6－16674)に同じ。〔集韻〕毆、説文、捶㆓擊物㆒也、或从㆑手。

【摳衣】1 コウイ　衣の裾をかかげる。古の敬禮。轉じて、拜趨することにいふ。〔禮、曲禮上〕毋㆑踐㆑屨、毋㆑踖㆑席、摳㆑衣趨㆑隅。〔釋文〕摳、提也。〔疏〕摳、提也、衣、裳也、云云、既不㆑踖㆑席、當㆘兩手提㆓裳之前㆒、徐徐向㆓席之下角㆒、從㆑下而升、當㆓己位㆒而就㆖坐也。〔孫希旦集解〕深衣、衣裳相連、故言㆑摳㆑衣、實是摳㆓深衣之裳㆒也。〔孔子家語、王言解〕摳㆑衣而退、負㆑席而立。〔書言故事、謁見類〕敍㆑見㆑人云、摳㆑衣進謁。

【摳傷】2 k'ou¹ shang¹　爪でかき切った傷。爪でかいて傷をつける。

【摳趨】3 コウスウ　まかり出る。參上する。〔福惠全書、稟啓附、候㆓張二府㆒〕卽日摳趨、臨㆑風粉滌。

【摳破】4 k'ou¹ p'o⁴　かき破る。つつき破る。

【摳揄】5 コウユ　❶早く成熟する稼。わせ。〔方言、六〕摳揄、旋也、秦・晉、凡物樹㆑稼早成熟、謂㆓之旋㆒、燕齊之閒、謂㆓之摳揄㆒。〔戴震疏證〕旋、疾也。❷k'ou yü　歸る。動く。

【摳起來】6 k'ou¹ ch'i lai　着物の裾などをかかげ上げる。

【摳不動】7 k'ou¹ pu tung⁴　爪でかくことが出來ない。

【摳心挖膽】8 k'ou¹ hsin¹ wa¹ tan³　びつくりする。

【摴】12639

㊀チョ　〔集韻〕抽居切　ㄕㄨ shu¹　魚
㊁チ　〔集韻〕超之切　支

小篆

㊀❶のべる。〔説文新附〕摴、舒也、从㆑手雩聲。❷ちよぼ。ばくち。摴蒲。樗(6－15438)に通ず。〔説文新附〕摴、又摴蒲、戲也。〔正字通〕蒲、樗蒲、博物志曰、老子入㆑胡、作㆓五木㆒也、今人擲㆑之爲㆑戲。❸姓。〔集韻〕摴、亦姓。❹或は摢(5－12600)に作る。〔集韻〕摴、或作㆑摢。㊁摴里は、地名。樗里(6－15438‥30)に同じ。〔集韻〕摴、摴里、地名、在㆑秦。

【摴博】1 チョバク　ばくち。摴蒲に同じ。〔舊五代史、房知溫傳〕時部將牛存節、屯㆓于鎭㆒、好㆓摴博㆒、每求㆓辨㆑采者㆒、知溫以㆑善㆑博見㆑推。

【摴蒲】2 チョボ　賭博の戲。三百六十の駒を以て戲を鬭はす博弈。今、其の法傳はらず。樗蒲(6－15438‥26)を見よ。〔吳志、諸葛瑾傳〕或有㆓博弈㆒、或有㆓摴蒲・投壺・弓彈㆒。〔晉書、安帝紀〕禁㆓絹扇及摴蒲㆒。〔唐國史補、下〕洛陽令崔師本、又好爲㆓古之摴蒲㆒、其法三㆓分其子三百六十㆒、限以㆓二關㆒、人執㆓六馬㆒、其骰五枚、分㆑上爲㆑黑、下爲㆑白、黑者刻㆑二爲㆑犢、白者刻㆑二爲㆑雉、擲㆑之、全黑者爲㆑盧、其采十六、二雉三黑爲㆑雉、其采十四、二犢三白爲㆑犢、其采十、全白爲㆑白、其采八、四者、貴采也、貴采得㆓連擲㆒、得㆓打馬㆒、得㆓過關㆒、餘采則否。

【摴蒲牧猪奴戲耳】3 チョボハボクチョドノギノミ　博奕は、猪を飼ふやうな奴隷人のする遊戲で、士君子のするものでない。〔晉書、陶侃傳〕諸參佐或以㆓譚戲㆒廢㆑事者、乃命取㆓其酒器蒲博之具㆒、悉投㆓之于江㆒、吏將則加㆓鞭朴㆒曰、摴蒲者、牧猪奴戲耳。

【摵】12640

㊀サク シャク　〔集韻〕色責切　陌
㊁シュク スク　〔集韻〕所六切　屋
㊂ベイ マイ　〔集韻〕綿批切　齊

小篆

㊀❶かすめる。〔説文新附〕摵、捎也、从㆑手戚聲。❷はらふ。又、揻(5－12921)に作る。〔廣韻〕揻、拂㆑著也。〔康熙字典〕摵、廣韻作㆑揻、一曰、拂㆑著也。❸葉の落ちた木のさま。〔廣韻〕摵、隕落皃。〔集韻〕摵、隕落謂㆓之摵㆒。〔潘岳、秋興賦〕庭樹摵以灑落兮。〔注〕善曰、摵、枝空貌。❹葉の落ちる音。瑟(7－21133)に通ず。摵摵を見よ。〔正字通〕摵、白居易、琵琶行、楓葉荻花秋摵摵、云云、古借用㆑瑟、瑟瑟、卽摵摵也。㊁いたる。埱(6－16307)・造(11－38898)に通ず。〔方言、十三〕摵、到也。〔箋疏〕摵、通作㆑埱、説文、埱、至也。〔廣雅、釋詁一〕摵、至也。〔疏證〕摵之言、造也、造亦至也、摵・造、古聲同。㊂うつ。𡠣に同じ。〔集韻〕𡠣、批也、或从㆑手。

【摵摵】1 サクサク　葉の落ちる聲。瑟瑟。〔六書故〕摵、摵摵、借以狀㆓落葉之聲㆒。〔盧諶、時興詩〕摵摵芳葉零、橤橤芬華落。〔注〕濟曰、摵摵、葉落聲也。〔韓愈、荷池詩〕未㆑諳鳴㆓摵摵㆒、那似卷㆓翻翻㆒。〔李商隱、雨詩〕摵摵度㆓瓜園㆒、依依傍㆓竹軒㆒。

【㨽】12641

ヒ　〔集韻〕補弭切　紙

たすける。〔廣韻〕㨽、扶持。〔集韻〕㨽、挾持也。

【摶】12642

㊀タン ダン　〔集韻〕徒官切　ㄊㄨㄢ t'uan²　寒
㊁セン　〔集韻〕朱遄切　先
㊂テン デン　〔集韻〕柱兗切　銑
㊃テン デン　〔集韻〕柱戀切　霰

小篆

㊀❶まるめる。〔説文〕摶、㠯㆑手圜㆑之也、从㆑手專聲。〔一切經音義、十〕通俗文、手團曰㆑摶。〔禮、曲禮上〕毋㆑摶㆑飯。〔注〕捏聚也。❷つく。つける。〔廣雅、釋詁三〕摶、著也。❸むすぶ。かたまる。〔管子、內業〕摶氣如㆑神、萬物備存。〔注〕摶、謂㆓結聚㆒也。❹あつまる。〔管子、霸言〕不㆑摶不㆑聽。〔注〕摶、聚也。❺

うつ。搏(5-12466)に通ず。〔周禮、考工記、總目〕摶埴之工二。〔注〕摶之言、拍也。〔校勘記〕嘉靖本・閩監毛本、搏作レ摶。〔莊子、逍遙遊〕摶二扶遙一羊角而上。〔釋文〕摶、徒端反。❻**脈うつ**。〔史記、倉公傳〕三陰倶摶者。❼**まるい**。團(3-4834)に通ず。〔說文通訓定聲〕摶、叚借爲レ團。〔楚辭、九章、橘頌〕圜果摶兮。〔注〕摶、圜也。❽**もつぱら**。〔漢書、天文志〕騎氣卑而布、卒氣摶。〔注〕如淳曰、摶、專也。❾**鳥の名**。摶黍(3)の❶を見よ。❿或は⿰扌⿱叀厶(5-12296)・⿰扌團(5-12858)に作る。〔集韻〕摶、或省、亦从レ團。㈡❶**もつぱら**。專一。嫥(3-6662)・專(4-7439)に通ず。〔說文通訓定聲〕摶、叚借爲レ嫥。〔呂覽、適音〕不レ收則不レ摶。〔注〕不レ摶、入不二專一一也。〔史記、秦始皇紀〕摶レ心揖レ志。〔注〕索隱曰、摶、古專字。❷**ほしいままにする**。あはせすべる。或は剸(2-2148)に作り、通じて、叀(2-3083)・專(4-7439)に作る。〔集韻〕摶、擅也、一曰、幷合制領也、或作レ剸、通作二叀・專一。〔史記、田敬仲完世家〕摶二三國之兵一。〔注〕集解曰、徐廣曰、摶、音專、專、猶二幷合一、制領之謂也、索隱曰、摶、音團、謂二握領一也。㈢㈣❶**たばねる**。或は縳(8-27771)・⿰糸⿱叀厶(8-27536)に作る。〔集韻〕摶、束也、周禮、百羽爲レ摶、或作レ縳、亦省。〔周禮、考工記、鮑人〕卷而摶レ之。〔注〕摶、讀爲二摶一如レ瑱之摶一、謂三卷二摶韋革一也。❷**たば**。百羽を一括したたば。〔集韻〕摶、百羽爲レ摶。〔周禮、地官、羽人〕十羽爲レ審、百羽爲レ摶。〔注〕摶、羽數束名也。

参考 摶(5-12466)は別字。〔字彙辨似、二字相似〕摶、音博、擊也。摶、音團、聚也。

【摶一】1（センイツ） もつぱらなこと。それ一方で他を顧みない。專一に同じ。

【摶沙】2（タンサ） 砂をまるめて團子にすること。又、其のだんご。すこしも團結力のない喩。〔蘇軾、二公再和亦再答レ之詩〕親友如レ摶レ沙、放レ手還復散。

【摶黍】3（タンショ） ❶黃鳥をいふ。〔詩、周南、葛覃、黃鳥于飛、疏〕幽州人謂二之黃鶯一、齊人謂二之摶黍一。〔爾雅、釋鳥、皇黃鳥、注〕俗呼二黃離留一、亦名二摶黍一。〔孫處、詠二黃鶯一詩〕聲詩辨二摶黍一、比興思二無窮一。❷きびをにぎつてまるめる。又、其のもの。〔儀禮、特牲饋食禮〕摶レ黍授レ祝、祝授レ尸。〔呂覽、異寶〕今以三百金與二摶黍一、以示二兒子一、兒子必取二摶黍一矣。

【摶埴】4（タンショク） 粘土をまるめて陶器を造ること。又、其の工人。陶工。搏埴(5-12466・・27)を見よ。

【摶食】5（タンジキ） 佛食を握りまるめてくらふ。揣食(5-12371・・7)に同じ。〔徐陵、長干寺衆食碑〕菩薩應化、咸同二色身一、諸佛淨土、皆爲二摶食一。

【摶心】6（センシン） 心をもつぱらにする。〔史記、秦始皇紀〕摶レ心揖レ志。〔注〕索隱曰、摶、古專字。

【摶摶】7（タンタン） ❶ふかくあつまるさま。〔楚辭、宋玉、九辯〕乘二精氣之摶摶一兮、鶩二諸神之湛湛一。〔集注〕摶、與レ團同、湛湛厚集貌。❷垂下するさま。〔張衡、思玄賦〕志摶摶以應レ懸兮、誠心固其如レ結。〔注〕衡曰、摶摶、垂貌。

【摶治】8（タンチ） 土をまるめて瓦を作る。治は甄。〔晏子、練、下〕景公令二兵摶治一、當二臈氷月之閒一而寒、民多二凍餒一而功不レ成。

【摶泥】9（タンデイ） 泥土をまるめること。〔論衡、累害〕以レ塗摶レ泥、以レ黑點レ繒。

【摶土】10（タンド） 泥土をまるめる。摶泥に同じ。〔禮、禮運、蕢桴、注〕蕢、讀爲レ凷、聲之誤也、凷、塩也、謂二摶レ土爲レ桴也。〔漢中志〕漢東三郡有二作道、九君摶レ土作レ人處、而其記及漢中記不レ載。

【摶土作人】11（タンドサクジン） 土をまるめて人形を作る。〔太平御覽、皇王、女媧氏〕風俗通曰、俗說、天地開闢、未レ有二人民一、女媧摶二黃土一作レ人、劇務力不レ暇レ供、乃引二繩於泥中一、擧以爲レ人、故富貴者、黃土人也、貧賤凡庸者、絙人也。

【摶飯】12（タンパン） 手で飯をにぎりまるめること。轉じて、にぎりめし。むすび。〔禮、曲禮上〕毋レ摶レ飯。〔疏〕共器若取レ飯作レ摶、則易レ得レ多、是欲レ爭レ飽、非レ謙也。〔梁溪漫志〕滕達道口二占盜犬一辭曰、摶レ飯引來、猶レ掉二續貂之尾一、持レ刀擊去、難レ回二顧兔之頭一。

【摶萬】13（タンバン） 淸、張鵬(4-9812・・676)の字。

【摶飛】14（タンピ） 風に羽うつ。又、まき風。〔范雲、古意贈二王中書一詩〕逸翮陵二北海一、摶飛出二南皮一。〔注〕善曰、司馬彪曰、摶、圜也、圜飛而上、若二扶搖一也。

【摶風】15（タンプウ） ❶まき風。〔莊子、逍遙遊〕摶二扶搖一而上者九萬里。〔集釋〕慶藩案、云云、文選江文通雜體詩注、引二司馬一云、摶、圜也、扶搖、上行風也、圜飛而上行者、若二扶搖一也。❷屋根の翼。〔揚雄、甘泉賦、列宿迺施二於上榮一兮、注〕善曰、韋昭曰、榮、屋翼也、翰曰、榮、摶風也。

【摶壁】16（タンペキ） むしろばりのかべ。〔釋名、釋牀帳〕摶壁、以レ席摶二著壁一也。

【摶力】17（センリョク） 民力を專らにして外事を待つこと。〔商子、壹言〕夫聖人之治レ國也、能二摶力一、能二殺力一、制度察則民力摶、摶而不レ化則不レ行。〔韓愈、曹成王碑〕王親教二之摶力勾卒贏越之法一。

【摶廉】18（タンレン） 圓くて銳いこと。摶は圜、廉は利。〔周禮、考工記、弓人〕昔也者、深瑕而澤、紾而摶廉。〔注〕摶、圜也、廉瑕、嚴利也。

【摶鑪】19（タンロ） 胡餠をいふ。〔太平御覽、飮食、餠〕趙錄曰、石勒諱レ胡、胡物皆改レ名、胡餠曰二摶鑪一、石虎改曰二麻餠一。

【摶弄】20（タンロウ） 自由にもてあそぶこと。貅弄。〔長生殿、倖恩〕直恁被二他摶弄一。

【摷】
12643

㈠セウ　〔集韻〕子小切　篠

㈡サウ　セウ　〔集韻〕莊交切　肴

㈢レウ　〔集韻〕憐蕭切　蕭

㈣ラウ　ロウ　〔集韻〕郎刀切　豪

小篆

㈠❶**おさへうつ**。もと摷(5-12846)に作る。〔說文〕摷、拘擊也、从レ手巢聲。〔段注〕拘止而擊レ之也、集韻・類篇、作二擊也拘也一、非レ是。〔康熙字典〕摷、本从レ巢作レ摷。❷**きる**。絕つ。剿(2-2226)に通ず。〔說文通訓定聲〕摷、叚借爲レ剿、班婕妤賦、命摷絕而不レ長。❸或は摷(5-12998)に作る。〔集韻〕摷、或作レ摷。㈡❶**うつ**。おさへうつ。㈠の❶に同じ。〔廣韻〕摷、擊也、拘也。❷**はさみとる**。鈔(11-40227)に同じ。〔集韻〕鈔、說文、叉取也、或作レ摷。㈢❶**うごかす**。うごく。掉(5-12243)に通ず。〔說文通訓定聲〕摷、叚借爲レ掉。〔廣雅、釋詁一〕摷、動也。〔集韻〕摷、動也。❷**うつ**。〔集韻〕摷、擊也。㈣❶**取る**。すなどる。〔廣雅、釋詁一〕摷、取也。〔王念孫疏證〕摷之言、勦也、衆經音義引二通俗文一云、浮取曰レ摷、西京賦、摷二鯤鮞一、殄二水族一、薛綜注云、摷殄、言二盡取一レ之。❷**うつ**。〔廣雅、釋詁三〕摷、擊也。

【摸】
12644

㈠バク　マク　〔集韻〕末各切　ㄇㄛ mo^1　藥

　　　　　　　　　　　　　　ㄇㄠ mao^1

㈡モ　ボ　〔集韻〕蒙晡切　ㄇㄛˊ mo^2　虞

㈠❶**さぐる**。なでる。〔集韻〕摸、摸揉、捫搎也。〔後漢書、蔡邕傳〕邕讀二曹娥碑一、能手摸二其文一讀レ之。❷**とる**。つかむ。もつ。〔集韻〕摸、手捉也。㈡❶**うつす**。まねる。摹(5-12645)に同じ。〔廣韻〕摸、以レ手摸也、亦作レ摹。〔集韻〕摹、說文、規也、謂レ有レ所二規倣一、亦書作レ摸。〔唐書、李靖傳〕文宗敕、摸二詔本一還二賜彥芳一。❷**のり**。**かた**。模(6-15

453)に通ず。〔說文通訓定聲〕摹、叚借爲レ模。〔廣雅、釋詁四〕摹、刑也。〔正字通〕模、模範。〔正韻〕模、亦作レ摸。

參考 摹(5－12645)を併せ見よ。

【摸傚】1 モカウ 他のものにまねならふ。摸倣。摹倣。〔日本政記、孝德天皇論〕後王之過二於摸傚一、文縟太甚。

【摸擬】2 モギ 他のものにまねる。なぞらへ似せる。模擬。〔袁宏、三國名臣序贊〕豈曰二摸擬一、實在二雅性一。

【摸擬店】3 モギテン 園遊會などで來會者を饗應するために處々に飮食販賣の店に擬して設けた飮食店。

【摸魚】4 mao¹ yü² 魚をつかむ。

【摸魚兒】5 モギョジ もと唐の教坊曲の名。後、詞牌の名となる。又、摸魚子・買陂塘・陂塘柳・邁陂塘・山鬼論・雙蕖怨・安慶模といふ。〔苕溪、漁隱叢話〕摸魚兒一詞、晁无咎所レ作也、滿江紅一詞、呂居仁所レ作也、余性樂二閑退一、二詞俱能道二阿堵中事一、每二一歌レ之、未二嘗不レ擊レ節也。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕因賦二摸魚兒一闋一憶レ之。

【摸魚公】6 モギョコウ 鵜の異名。〔事物異名錄、禽鳥、鸕鷀〕事物紺珠、鸕鷀、一名、摸魚公。

【摸鍋】7 mo¹ kuo¹ ❶目あてがない。前途の見込みが立たない。❷又、家庭內に紛失物のあった場合、新鍋の中に、鍋墨を桐油に混じたものを塗りつけ、嫌疑者が代る代る其の鍋を擦り鳴らせば其の墨油が手に附いて、潔白の人は洗へばすぐ落ち、眞の盜人は容易に其の油がしみ込んで、洗ひ落すことが出來ないといふ傳說。

【摸挲】8 mo¹ sha¹ 頭などを撫でること。〔紅樓夢、二十三回〕王夫人摸挲著寶玉的頰頭說道。

【摸造】9 モザウ 他のものに形を似せて造ること。又、其のもの。模造。〔日本政記、崇神天皇〕六年、別摸二造劍鏡一、置二之御座一。

【摸造品】10 モザウヒン 摸造した物品。模造品。

【摸索】11 モサク ❶さがす。さぐりもとめる。手さぐりでさがす。摸捺。〔集韻〕摸、摸捺、捫搎也。〔世說新語補、簡傲〕許敬宗、見レ人多忘レ之、或謂二其不聽一、曰、卿自難レ記、若遇二何劉沈謝一、暗中摸索著亦可レ識。〔隋唐嘉話〕暗中摸索、著亦可レ知。❷關の名。四川省宜賓縣の南。俗に摩些關といふ。訛って摸索となる。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、宜賓縣〕摸索關、府南二百里、當二蠻彝溪口一、蠻有二摩些種一、洪武初、禁二私茶一不レ得レ入二蠻境一、俗呼爲二摩些關一、語訛爲二摸索一也。

【摸秋】12 モシウ 女づれが秋の夜に瓜田に出かけて瓜を摘んで歸れば、男を得る兆があるといふ。鳩茲の風習。〔兩般秋雨菴隨筆〕鳩茲俗、女伴秋夜出遊、各於二瓜田一摘レ瓜歸、爲レ宜二男兆一、名曰二摸秋一。

【摸寫】13 モシャ 手でうつしとること。まねうつすこと。摹寫。模寫。

【摸水】14 mo¹ shuei³ 水中を手探りする。

【摸石】15 モセキ 石をさがす。男を生むの兆。〔月令廣義〕成都三月有二海雲山摸石之游一、求レ子、得レ石者男、得レ瓦者女。

【摸蘇】16 モソ さぐりもとめる。摸索。〔淮南子、俶眞訓〕以摸二蘇牽三連物之微妙一。〔注〕摸蘇、猶二摸索一。

【摸捉】17 モソク 手さぐりする。摸索。〔得閒瑣錄、畫島鎌倉〕暗中摸捉、頭觸足蹶。

【摸掏】18 mo¹ t'ao¹ 手さぐりでさがすこと。〔紅樓夢、三十一回〕說著一面在身上摸掏、掏了半天。

【摸拓】19 モタク 碑銘などの文字をなでうつしてすりとること。摸搨。〔國朝漢學師承記、武億〕遇レ有二石刻一、捫レ苔剔レ蘚、盡レ心摸拓。

【摸搨】20 モタフ 碑銘などの文字を寫し搨ること。摹搨(5－12645‥11)を見よ。

【摸底】21 mao¹ ti³ 探索する。

【摸枋】22 モハウ 大木をいふ。〔事物異名錄、樹木、總名〕表異錄、摸枋、大木也、出二齊東野語一。

【摸倣】23 モハウ まねならふこと。模倣。摹倣。

【摸本】24 モホン 寫した本。摸寫本。摹本(5－12645‥14)に同じ。

【摸樣】25 モヤウ ありさま。かたち。模樣(6－15453‥29)の❶に同じ。

【摸量】26 mo¹ liang⁴ 分別する。

【摸稜】27 モリョウ 事を曖昧にして是非を決しないこと。唐の蘇味道が國事を問はれた時確答せず、唯牀稜を撫でてゐたことからいふ。模稜。摸稜宰相を見よ。〔事物紀原、布帛雜事部、摸稜〕世人以三依違不二正辨一爲二摸稜一、按、唐書、蘇味道居二相位一、不レ能レ有レ所二發明一、依違取レ容而已、嘗謂レ人曰、處レ事不レ欲二明白決斷一、若有二差誤一必貽二咎譴一、但摸稜以持二兩端一、時人號曰二蘇摸稜一。〔書言故事、評論類〕處レ事兩可曰二摸稜一。

【摸稜手】28 モリョウシュ 唐の蘇味道をいふ。味道、宰相となり、兩端を持して事を明白にしなかつたのでいふ。模稜を見よ。〔唐書、蘇味道傳〕味道、云云、常謂レ人曰、決レ事不レ欲二明白一、誤則有レ悔、摸稜持二兩端一可也、故世號二摸稜手一。

【摸稜宰相】29 モリョウサイシャウ 唐の蘇味道をいふ。摸稜手に同じ。〔宛委〕味道拜レ相、人問曰、天下事殷、公何以燮和、味道無レ言、但以レ手摸二牀稜一耳、故名二摸稜宰相一。

【摸稜兩可】30 モリョウリャウカ 事を曖昧にして是非を決しないこと。あれもよしこれもよしで有耶無耶なこと。摸稜手を見よ。

【摸瞎兒】31 mao¹ hsia⁴ êrh めくらさがしする。

【摸黑兒】32 mao¹ hei¹ êrh 暗中で手さぐりする。くらやみの中で話をする。

【摸頭緒】33 mao¹ t'ou² hsü 端緒を探り得る。

【摸得著】34 mao¹ tê chao² 探ることが出來る。

【摸不清】35 mao¹ pu ch'ing¹ 明瞭に探られない。

【摸不着】36 mao¹ pu chao² 探りあてられない。見つからない。手がかりがつかない。

【摸摸着】37 mo¹ mo¹ chê 大抵。大約。大概。

【摸金校尉】38 モキンカウヰ 魏の曹操が置いた校尉の名。發丘中郎將と共に墓を發いて金寶を取ることを掌る。轉じて、貪婪の極をいふ。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕操又特置二發丘中郎將・摸金校尉一、所レ過隳突、無二骸不レ露。〔注〕翰曰、言下操置二發丘中郎將・摸金校尉之官一、所レ過皆破二壞冢墓一、以取二金寶一、而露中其骸骨上也。

【摸着兜兒的】39 mo¹ chê tou¹ tou¹ êrh tê ひそかに。謹みぶかく。

【摹】
12645

小篆

㈠ ボ モ 〔集韻〕蒙晡切 ㄇㄛˊ mo² 虞
㈡ ボ モ 〔集韻〕莫故切 遇

㈠❶**のつとる。ならふ。**〔說文〕摹、規也、从レ手莫聲。〔漢書、高帝紀〕規摹弘遠矣。〔注〕鄧展曰、若下畫工規二摹物一之摹上。❷**うつす。**〔廣韻〕摸、以レ手摸也、亦作レ摹。〔後漢書、蔡邕傳〕及二碑始立一、其觀視及摹寫者、車乘日千餘兩、塡二塞街陌一。❸**のり。かた。**模(6－15453)に通ず。〔說文通訓定聲〕摹、叚借爲レ模。〔廣雅、釋詁四〕摹、刑也。〔太玄經、玄攡〕攡二神明一而定レ摹。〔注〕摹、數也。❹或は撫(5－12743)に作り、又、摸(5－12644)に作る。〔集韻〕摹、或从レ無、亦書作レ摸。㈡**うつす。**㈠の❷に同じ。〔集韻〕摹、模也。

參考 摸(5－12644)を併せ見よ。

【摹印】1 ボイン 秦の八體書の一。印璽の文には此の書體を用ふ。王莽の六體には之を繆篆といふ。〔許愼、說文解字敍〕秦書有二八體一、云云、五曰、摹印、云云、亡新、云云、時有二六書一、五曰、繆篆、所二以摹印一也。〔段注〕摹、規也、規二度印之大小、字之多少一而刻レ之。

【摹傚】2 モカウ まねならふ。摸傚。模傚。摹倣。〔弘道館記述義、下〕操觚之士、徒眩二西土之文一、慊二古風之質一、一意摹傚、捨レ此從レ彼。

【摹畫】3 モグワ うつし畫く。〔韓愈、毛穎傳〕又所二摹畫一。

【摹繪】4 モクワイ まねゑがく。〔齋藤拙堂、海外異傳、山田長政傳〕命レ工摹二繪當時戰鬭之狀一、爲レ扁、附二商船一獻二於淺閒廟一、以報賽焉。

【摹古】5 mo² ku³ 古式を摸倣すること。

【摹姑】6 モコ 小兒のつかれくるしむ病氣。〔韻會〕姑、摹姑、小兒羸病。

【摹刻】7 モコク 書物などを寫し取って版木に刻むこと。模刻。〔蘇軾、太虛以二黃樓賦一見レ寄作レ詩

爲謝詩〕朱蠟爲㆓摹刻㆒、細妙分㆓毫釐㆒。〔通雅、碑帖〕絳帖者、尙書郎潘師旦、以㆓官帖㆒摹㆓刻于家㆒、爲㆓石本㆒。

【摹刻本】8（モコクボン） 摹刻した版本。かぶせぼり。覆刻本。模刻(6－15453‥15)を見よ。

【摹採】9（ボサイ） うつしとる。〔陶弘景、與㆓梁武帝㆒啓〕太丘之碑、可㆓就摹採㆒。

【摹寫】10（モシヤ） まねてうつす。摸寫。〔後漢書、蔡邕傳〕及㆓碑始立㆒、其觀視及摹寫者、車乘日千餘兩、塡㆓塞街陌㆒。〔潘岳、西征賦〕乃摹㆓寫舊豐㆒、制㆓造新邑㆒。

【摹搨】11（モタフ） 碑銘などの文字を寫し、すること。摸拓。〔北史、崔浩傳〕初浩父潛、爲㆓兄渾等㆒誄、手㆓筆本草㆒、延昌初、著作佐郎王遵業、買㆓書於市㆒遇得㆑之、年將㆓二百㆒、寶㆓其書迹㆒、深藏㆓祕之㆒、武定中、遵業子松年、將㆔以遺㆓黃門郎崔季舒㆒、人多摹㆓搨之㆒。

【摹帖】12（ボテフ） うすい紙を書帖の上におほひ、帖の文字の筆畫を摹寫すること。〔丹鉛總錄〕宋、岳珂云、摹帖如㆓梓人作㆑室、梁櫨棖桷、雖㆘具㆓準繩㆒而締創既成㆖、氣象自有㆓工拙㆒。〔董其昌容臺集〕米襄陽(芾)少時不㆑能㆓自立㆑家、專事㆓摹帖㆒、人謂㆓之集古字㆒。

【摹倣】13（モハウ） ならふ。まねをする。模倣。〔洞天畫錄、臨書〕沈石田有㆓一種本色㆒、不㆓甚稱㆒、摹㆓倣諸舊筆意㆒奪㆑眞。

【摹本】14（モホン） ㊀原本をまね寫した本。摸寫した本。摸本。〔書史〕世南汝南公主銘、起㆓草洛陽王護處㆒、見㆓摹本㆒、云、眞跡在㆓洛陽好事家㆒、有㆓古跋㆒、後十年見㆓眞跡㆒、在㆓故相張公孫直清處㆒。〔皇朝類苑〕皇祐中、仁宗命㆓待詔高克明輩㆒、盡出㆓三朝聖迹一百事㆒、不㆓復見㆒、今傳樂毅論、皆摹本也。〔樓鑰、余子來入判慕㆓博記善屬㆑文偶談及㆑此又出㆓摹本及尊公跋語㆒始知㆔其爲㆓先世舊物㆒也爲賦㆓長句㆒詩〕摹本尙爾存㆓其眞㆒。㊁手本。臨本。〔寶章待訪錄〕蘭章摹本、章惇跋、蘇激所㆑收、云、與㆓吾家所㆑收同。㊂絹織物の一種。花田絲。花緞。〔清稗類鈔〕摹本、絲織物也、一稱㆓花景㆒、俗稱㆓花緞㆒。

【摹略】15（モリヤク） まねてうつす。〔墨子、小取〕摹㆓略萬物之然㆒。〔閒詁〕兪云、然字無㆑義、疑當㆑作㆑狀。

【摹臨】16（モリン） 手本や實物を見てまね寫すこと。摸臨。臨摹。〔宣和畫譜、人物二〕周昉、云云、故俗畫摹臨、莫㆓克髣髴㆒。〔琅琊代醉編、摹臨〕六朝人尙㆓字學㆒、摹臨特盛。〔姜夔、續書譜臨摹〕古人名筆、置㆓之几案㆒、懸㆓之座右㆒、朝夕諦觀、思㆓其用筆之理㆒、然後可㆓以摹臨㆒。

【㨾】12646

ヤウ 〔廣韻〕餘亮切 ［漾］

のり。かた。かたどる。〔廣韻〕㨾、式㨾。

［参考］ 字形一に㨾に作る。

【摺】12647

㈠セフ 〔集韻〕質涉切 ［葉］ ㄓㄜˋ chê²

㈡ラフ 〔集韻〕落合切 ［合］

小篆

㈠㊀**やぶる**。こはす。〔說文〕摺、敗也、从㆑手習聲。〔段注〕敗者、毀也。㊁**たたむ**。折りたたむ。〔廣韻〕摺、摺疊也。〔南史、齊武帝紀〕有㆓侍臣衣帶卷摺㆒。㊂**ひだ**。しわ。〔方鳳、金華遊錄〕袪褏襞摺皆天成。㊃［現］折帖。帳簿。通帳。㈡**くじく**。拉(5－11946)に同じ。〔集韻〕拉、說文、摧也、或作㆑摺。〔淮南子、脩務訓〕摺㆑脇傷㆑幹。［邦］**する**。搨を誤つたもの。㋑印刷する。㋺こする。摩擦する。

【摺衣】1（スリゴロモ） 古、染草で種々の模様を摺り出した衣服。

【摺葉】2（セフエフ） 折本をいふ。摺本。

【摺稿】3 chê² kao³ 上奏文の原稿。

【摺角】4 chê² chiao³ かどを折り疊む。書籍の紙の一端を折ること。

【摺據】5 chê² chü⁴ 證文。通帳。

【摺卷】6（スリマキ） 版によってすった書物。摺本(35)に同じ。

【摺脅】7（ラフケフ） あばら骨をくじく。〔史記、魯周公世家〕夏四月丙子、齊襄公饗㆑公、公醉、使㆔公子彭生抱㆓魯桓公㆒、因命㆓彭生㆒摺㆓其脅㆒、公死㆓于車㆒。〔史記、鄒陽傳〕范雎摺㆓脅折㆔齒於魏㆒。〔淮南子、脩務訓〕摺㆑脅傷㆑幹。

【摺袴】8（スリバカマ） ㊀山藍、月草などで摺つて模様を染めつけた袴。〔拾遺和歌集、雜秋〕すり袴すりに遣はしけるを。㊁袴の股立を組絲で綴つたもの。〔兵範記〕保元三年三月二十二日、纓、青摺袍、摺袴。

【摺痕】9 chê² hen² をり目。疊み目。

【摺差】10（セフサ） 清代、地方長官から上奏すべき書類は武官をして北京に送らしめたが、此の任に當る使者をいふ。〔清會典事例、禮部、表箋〕嗣後呈㆓遞萬壽賀摺㆒者、著以㆓十月初一日㆒爲㆑始、若十月初一日以前、外省摺差、有㆚專爲㆘呈㆓遞摺㆒來㆖者㆙、奏事官員不㆑准㆓接受㆒。

【摺子】11（セフシ） ㈠上奏書。摺奏(21)を見よ。〔福惠全書、陞遷部、辭㆓鄉紳㆒〕通行查㆓開摺子㆒送㆑宅。㈡chê³ tzŭ ㋑折本。通帳の類をいふ。㋺皺。

【摺紙】12 chê² chih³ 紙を折り疊む。

【摺齒】13（ラフシ） 齒をくじく。〔史記、范雎傳〕魏齊大怒、使㆔舍人笞㆓擊雎㆒、折㆑脇摺㆑齒。〔注〕索隱曰、謂㆘打㆓折其脅㆒、又拉㆗折其齒㆖也。

【摺兒】14 chê³ êrh 折り目。皺。

【摺縐】15 chê² chou⁴ ㊀縮緬。㊁たたむ。

【摺上】16 chê² shang たたむ。

【摺處】17 chê² ch'u⁴ 物の折り目をいふ。

【摺尺】18（セフシャク） 金屬、又は獸骨竹木等で造った疊尺。

【摺剪】19（セフセン） はさみをいふ。摺疊剪(26)に同じ。

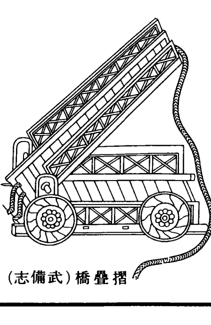
【摺扇】20（セフセン） 扇子をいふ。摺疊扇(25)の略。〔楊循吉、摺扇賦〕當㆓溽暑之蒸鬱㆒、咸浹㆑背而汗流、雖㆓四海之遍㆒、爾在㆓江南㆒而爲㆑尤。〔陔餘叢考、摺扇〕高江村天祿識餘謂、今之摺疊扇、初名㆓聚頭扇㆒、元時、高麗始以充㆑貢、明、永樂閒、稍效爲㆑之、今則流傳寖廣、團扇廢矣、至㆓於揮灑翰墨㆒、則始㆓於成化閒㆒云、癸辛雜識、倭人聚扇、用㆓倭紙㆒爲㆑之、雕㆑木爲㆑骨、金銀花草爲㆑飾、幷有㆘作㆓不肖之畫於其上㆒者㆖、云云、摺扇非㆑始㆓於元㆒、蓋宋金時已有㆑之、特其時尙未㆓盛行㆒、民閒猶多用㆓團扇㆒、云云、客中閒談、又謂㆓之撒扇㆒、云云、又按、昔人摺扇、有㆓用㆑絹者㆒、陸儼山、有㆓楊妹子書摺絹扇㆒、郎瑛又謂、墨骨泥金起㆓於日本㆒云、南齊褚淵以㆓腰扇㆒障㆑日、通鑑注云、腰扇佩㆓之於腰㆒、今謂㆓之摺疊扇㆒、此恐誤、唐時尙未㆑有㆓摺扇㆒、何得㆓六朝已有㆑之、胡三省蓋以㆓後世之物㆒、妄爲㆓附會㆒耳。

【摺奏】21（セフソウ） 上奏書類をいふ。俗に摺子ともいふ。臣下が上奏するものの中で、通政司で取次いで上奏するものを題本といひ、機密を要するので直接上奏するものを摺奏といふ。〔清會典事例、內閣、職掌〕乾隆二年議準、各部院摺奏事件、已奉㆓諭旨㆒、卽日赴㆓內閣㆒登號。

【摺帖】22 chê² t'ieh³ 折手本をいふ。

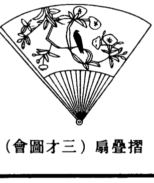
【摺疊】23（セフデフ） をりたたむこと。〔文苑彙雋〕此乃拆卸摺疊之亭也。〔書林清話、書之稱㆑本〕吾謂、書本由㆓卷子摺疊㆒而成㆑卷、不㆑如㆓摺本紬閱之便㆒、其制當㆑興㆓於秦漢閒㆒。

【摺疊橋】24（セフデフケウ） 廣い濠を渡るに用ひるたたみ梯子。〔武備志、攻具、壕橋圖說〕壕橋、長短以㆑壕爲㆑準、下施㆓兩巨輪㆒、首貫㆓兩小輪㆒、推進入㆑壕、輪陷則橋平可㆑渡、若壕闊則用㆓摺疊橋㆒、其制以㆓兩壕橋㆒相接、中施㆓轉軸㆒、用法亦如㆑之。



摺疊橋（武備志）

【摺疊扇】25（セフデフセン） 扇子をいふ。摺扇。撒扇。古名は聚頭扇。〔南齊書、劉祥傳〕褚淵入朝、以㆓腰扇㆒鄣㆑日。〔資治通鑑、齊紀、太祖高帝、注〕腰扇、佩㆓之於腰㆒、今謂㆓之摺疊扇㆒。〔文苑彙雋〕高麗有㆓撒扇㆒、一名㆓聚頭扇㆒、亦名㆓摺疊扇㆒。〔蓬窗續錄、聚頭扇〕聚頭扇、卽摺疊扇、貢㆓於永樂閒㆒、盛行㆓於國㆒、東坡謂、高麗白松扇、展㆑之廣尺餘、合㆑之只兩指、倭人所㆑製泥金面烏竹骨、卽此、余至㆑京有㆓外國道人利馬竇㆒、贈㆓予倭扇四



摺疊扇（三才圖會）

柄一合レ之不レ能二一指一、甚輕而有レ風、又堅緻。

【摺疊剪】26（セフデフセン） 折りだたみ式のはさみ。〔洞天清錄、剪刀〕有二鑌鐵剪刀一、製作極巧、外面起二花度金一、裏面嵌二回回字一者、如二潘鐵所レ遺、倭製摺疊剪刀、古所レ未レ有、有則寶レ之、後世必有下好二尙之一者上。

【摺疊船】27（セフデフセン） 折りだたみのふね。〔廣陽筆記〕流客木雅零、本姓朱、河南天潢也、能製二奇器一、有二摺疊船一、可レ藏二巾笥一、有二急欲レ渡、卽湊二合而成二篷梔一。

【摺貝】28（スリガヒ） 螺鈿（ラデン）（10－33512‥22）に同じ。〔薩戒記〕正長元年八月十七日、御堂、東面之七間、云云、佛壇幷柱等皆摺貝。

【摺放】29 chê² fang⁴ たたんだりのばしたりすること。

【摺房】30 chê² fang² 文書を認める室。書記室。

【摺鉢】31（スリバチ） ❶地唄。二上りの端唄。油屋茂作調。京都の里石作。須磨の浦と題する替歌がある。❷擂鉢（5－12783‥9）に通ず。〔運步色葉集〕摺鉢、擂鉢。

【摺物】32（スリモノ） 印刷した物。印刷物。

【摺屛】33 chê² p'ing² 屛風の類。

【摺片】34（セフヘン） 清代、上奏文をいふ。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄、官司出入人罪〕光緒九年諭、御史何桂芳奏、各省酷吏濫二用非刑一、並幕友刪二改犯供一、鷹二引徒黨一、請飭嚴二禁各摺片一。

【摺本】35（セフホン） ❶をり手本帖をいふ。摺疊(23)を見よ。〔王氏書苑〕智永千文、唐粉蠟紙摺本、內一幅、麻紙、是眞迹。❷（スリホン）版によつてすつた書物。印刷した本。摺卷。

【摺紋】36 chê² wên² 皺。折目。〔運步色葉集〕摺本。

【摺拉】37（ラフラフ） とりひしぐ。〔庾信、哀江南賦〕硎穽摺拉、鷹鸇批攢。

【摺攏】38 chê² lung³ たたむ。疊み込む。

【⿱略手】12648

リャク 〔集韻〕力灼切 ㄌㄧㄠˋ liao⁴ 藥

❶かすめとる。掠（5－12273）の俗字。〔集韻〕⿱略手、擦取也。〔正字通〕⿱略手、俗掠字。❷［現］㋑掲げる(lüeh⁴)。㋺下ろす(liao⁴)。

【⿱略手下】1 liao⁴ hsia⁴ ❶下ろす。さしおく。❷まかせる。

【⿱略手開】2 liao⁴ k'ai¹ 關係を絶つ。〔紅樓夢、二十八回〕聽他說只說一句話、從此⿱略手開手。

【⿱略手開手】3 liao⁴ k'ai¹ shou³ 手を切る。絕交する。

【⿱略手取】4 liao⁴ ch'ü³ 掠めとる。

【⿱略手掠】5 liao⁴ lüeh⁴ 掠奪する。

【摻】12649

㊀サン セン 〔集韻〕所斬切 ㄕㄢˇ shan³ 豏
㊁サン セン 〔集韻〕師咸切 ㄕㄢ shan¹ 咸
㊂セン 〔集韻〕思廉切 鹽
㊃シン 〔集韻〕疏簪切 侵
㊄サン 〔集韻〕倉含切 覃
㊅セウ 〔集韻〕千遙切 蕭
㊆サン 〔字彙〕七勘切 ㄘㄢˋ ts'an⁴ 勘

小篆（本注段）

㊀❶とる。をさめる。〔說文〕摻、斂也、从レ手參聲。〔段注〕各本無二摻篆及解一、今依二鄭風遵大路正義所レ引補、詩摻二執子之袪一、傳曰、摻、攬也、正義引二說文摻參聲、斂也、操喿聲、奉也一、蓋因二俗二字相亂一故分引レ之、今本無二摻篆一、亦由二南朝以來、摻・操不レ別之故一。〔廣雅、釋詁一〕摻、取也。〔集韻〕摻、博雅、取也、一曰、執也。〔詩、鄭風、遵大路〕摻二執子之袪一兮。〔傳〕摻、擥。❷ほそい。ちひさい。纖（8－28072）・攕（5－12979）に通ず。〔說文通訓定聲〕摻、叚借爲レ纖、爲レ攕。〔方言、二〕摻、細也、云云、斂レ物而細、謂二之揫一、或曰レ摻。〔廣雅、釋詁二〕摻、小也。❸［現］まぜる。混合する (ts'an⁴)。㊁㊂女の手のしなやかなさま。攕（5－12979）に同じ。〔集韻〕攕、說文、好手皃、或作レ摻。〔集韻〕摻、摻摻、女好手皃、或作レ攕。㊃長大で多いさま。〔集韻〕摻、林離摻攦也。〔淮南子、俶眞訓〕萬物摻落。㊄㊅とる。もつ。〔集韻〕摻、摻搓、捫也。〔集韻〕摻、持レ物也。㊆みたびうつ。又、鼓曲の名。參（2－3098）に通ず。〔韻會〕參、鼓曲也、又參鼓也、或作レ摻。〔古歌〕邊城晏開漁陽摻、黃塵蕭蕭白日暗。〔天中記〕漁陽摻者、三撾レ鼓也。〔後漢書、禰衡傳〕漁陽參撾。〔注〕王僧孺詩云、散度廣陵音、參寫漁陽曲。

【摻搓】1（サンサ） とる。〔集韻〕摻、摻搓、捫也。

【摻雜】2 ch'an¹ tsa² 混合する。

【摻摻】3（サンサンセンセン） 女の手のしなやかなさま。纖纖。〔詩、魏風、葛屨〕摻摻女手、可二以縫レ裳。〔傳〕摻摻、猶二纖纖一也。

【摻執】4（サンシフサンシツ） 手でとり持つこと。〔詩、鄭風、遵大路〕遵二大路一兮、摻二執子之袪一兮。〔傳〕摻、擥。〔箋〕欲下擥二持其袂一而留上レ之。

【摻手】5（サンシユ） 細く美しい手。美人の手。纖手。〔常沂、靈鬼志〕見二摻手如レ玉。

【摻筆】6（サンピツ） 筆を執る。〔晏子、重而異者〕得下爲二地下之臣一、擁レ札摻レ筆、給中事宮殿中右陛之下上。

【摻落】7（サンラク） 叢がり生ずるさま。〔淮南子、俶眞訓〕萬物摻落。

【摻擥】8（サンラン） 手でとり持つ。つまむ。摻執(4)を見よ。

【摻作勤緊】9（サンサクキンキン） 働き勤める。

【摼】12650

㊀カウ キヤウ 〔集韻〕丘耕切 庚
㊁カウ キヤウ 〔集韻〕苦杏切 梗
㊂ケン 〔集韻〕輕煙切 先

小篆

㊀❶うつ。つく。頭をうつ。〔說文〕摼、擣レ頭也、从レ手堅聲、讀若二論語鏗尒舍レ琴而作一。〔玉篇〕摼、撞也。❷或は掔（5－12098）に作る。〔集韻〕摼、或作レ掔。㊁うつ。鐘をうつ。〔集韻〕摼、擊レ鍾也。㊂ひく。牽（7－20025）に同じ。〔說文通訓定聲〕摼、叚借爲レ牽。〔集韻〕牽、說文、引前也、古作レ摼。〔揚雄、羽獵賦〕摼二象犀一。

【摽】12651

㊀ヘウ ベウ 〔集韻〕婢小切 ㄆㄧㄠˇ p'iao³ 篠
㊁ヘウ 〔集韻〕卑遙切 ㄅㄧㄠ piao¹ 蕭
㊂ハウ ヘウ 〔集韻〕披交切 肴
㊃ヘウ 〔集韻〕匹妙切 嘯
㊄ヘキ ヒヤク 〔集韻〕匹歷切 錫

小篆

㊀❶うつ。又、むねうつさま。もと⿰扌㒷（5－13009）に作る。〔說文〕⿰扌㒷、擊也、从レ手㒷聲。〔正字通〕⿰扌㒷、六書故、⿰扌㒷、爲二摽本字一。〔詩、邶風、柏舟〕靜言思レ之、寤辟有レ摽。〔傳〕摽、拊レ心貌。〔左氏、哀、十二〕長木之斃、無レ不レ摽也。❷闢鍵をひきぬく。〔說文〕摽、一曰、挈二闢牡一也。❸おちる。〔詩、召南、摽有梅〕摽有レ梅。〔傳〕摽、落也。㊁❶うつ。或は㱿（5－13361）に作る。〔廣雅、釋詁三〕摽、擊也。〔集韻〕摽、擊也、或从レ攴。❷さしまねく。〔孟子、萬章下〕摽二使者一出二諸大門之外一。〔注〕摽、麾也。❸はらふ。かすめる。はらひしく。〔淮南子、脩務訓〕攫援摽拂。〔注〕摽拂、敷也。❹高い。高くあがるさま。票（8－24694）に通ず。〔說文通訓定聲〕摽、叚借爲レ

票。〔管子、侈靡〕摽然若二秋雲之遠一。〔注〕摽、高擧貌。❺する。切つ先。標（6－15442）・鏢（11－40813）に通ず。〔說文通訓定聲〕摽、叚借爲レ標、爲レ鏢。〔漢書、王莽傳上〕摽末之功。〔注〕服虔曰、摽音、刀末之摽。〔王先謙補注〕漢謂二刀末一爲レ摽。❻かるい。僄（1－1047）に通ず。〔韓詩外傳、二〕怠慢摽棄。〔校注〕摽、荀作レ僄、楊注、僄、輕也。❼［現］告示する。［三］すてる。なげうつ。拋（5－11948）に同じ。〔集韻〕拋、棄也、或作レ摽。〔公羊、莊、十三〕曹子摽レ劍而去レ之。〔注〕摽、辟也。〔釋文〕摽、普交反、辟也、辟レ劍置レ地、劉兆云、辟、捐也。［四］❶うつ。〔集韻〕摽、擊也。❷おちる。𠬪（2－3441）に通ず。〔爾雅、釋詁〕摽、落也。〔義疏〕摽者、𠬪之段音也、說文云、𠬪、物落上下相付也。［五］うつ。〔集韻〕摽、擊也。

【摽危】1 ヘウキ 高く立つ。〔左思、魏都賦〕邈邈摽危、亭亭峻峙。〔注〕翰曰、摽、立也。

【摽棄】2 ヘウキ 輕薄なこと。又、輕んじすてる。摽は僄（1－1047）に同じ。〔韓詩外傳、二〕劫レ之以二師友一、怠慢摽棄。〔校注〕摽、荀作レ僄、楊注、僄、輕也。

【摽牛】3 ヘウギウ 牛を擊つ。もと西班牙の鬪牛の戲であつたが、フイリッピンに於てこの戲を鬼やらひに用ひた。〔東西洋考〕呂宋國王兄弟、既爲二佛郎機所レ戕、輒祟二於國人一、國人每レ値二死日一、摽レ牛厭レ之、摽レ牛者、柵レ木爲レ場、置二牛數十頭於中一、環射レ之、以レ此逐レ鬼云。

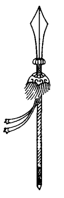
【摽擧】4 ヘウキヨ あげ示す。標擧。〔顏氏家訓、文章〕原二其所レ積文章之體一、摽二擧興會一、發二引性靈一、使二人矜伐一。

【摽擊】5 ヘウゲキ うつ。〔左氏、哀、十二〕長木之斃、無レ不レ摽也、注〕摽、擊也。

【摽劍】6 ヘウケン 劍を棄てる。〔公羊、莊、十三〕曹子摽レ劍而去レ之。〔注〕摽、辟也。〔釋文〕劉兆云、辟、捐也。

【摽顯】7 ヘウケン 目立つやうにあらはす。摽顯。〔抱朴子、祛惑〕亦肯自摽二顯於流俗一哉。

【摽鎗】8 ヘウサウ なげやり。投鎗。標槍（6－15442‥2）に同じ。〔武備志、摽鎗圖說〕或用二稠木細竹一皆可、鐵鋒要二重大一、柄前重後輕、前粗後細、爲レ得レ法。



摽鎗（武備志）

【摽幟】9 ヘウシ 記號を作つて識別する。しるし。めじるし。表識。〔後漢書、皇甫嵩傳〕（張）角等、云云、一時俱起、皆著二黃巾一爲二摽幟一、時人謂二之黃巾一。〔晉書、職官志〕蜀破後、令三緫受二諸葛亮圍陣用兵倚伏之法、又甲乙摽幟之制一、緫悉闇二練之一。

【摽然】10 ヘウゼン たかくあがるさま。〔詩、邶風、柏舟〕寤辟有レ摽。〔疏〕謂二拊レ心之時、其手摽然一。〔管子、侈靡〕摽然若三秋雲之遠二人心之悲一。〔纂詁〕摽然、輕擧貌。

【摽牌】11 ヘウハイ 戰具の名。兵刃矢石をふせぐに用ひる板。俗に籐牌といふ。標牌。〔宋史、兵志四〕關東戍卒、多是硬弩手及摽牌手、不三惟捍二賊勁矢一、亦可レ使二賊馬驚潰一、此中國步騎之利也。

【摽梅】12 ヘウバイ 梅の實の熟して落ちること。女子の婚期の來た喩。摽有梅（21）を見よ。〔蔡邕、協和昏賦〕葛覃恐二其失一レ時、摽梅求二其庶事一。〔鄭世翼、看二新婚一詩〕初笄夢二桃李一、新妝應二摽梅一。

【摽賣】13 ヘウバイ 棄て賣る。〔吳志、魯肅傳〕肅不レ治二家事一、大散二財貨一、摽二賣田地一、以賑二窮弊一、結レ士爲レ務。

【摽搒】14 ヘウバウ 其の善を表はしかかげる。稱揚する。標搒。〔後漢書、黨錮傳序〕海內希風之流、遂共相摽搒、指二天下之名士一、爲二之稱號一。〔注〕摽搒、猶二相稱揚一也、搒、與レ榜同、古字通。〔王先謙集解〕通鑑胡注、立レ表以示レ人曰レ標、揭レ書以示レ人曰レ榜、標榜、猶レ言二表揭一也。

【摽拂】15 ヘウフツ はらひしくこと。〔淮南子、脩務訓〕攫援摽拂、手若二薎蒙一、不レ失二一絃一。〔注〕摽拂、敷也。

【摽摽】16 ヘウヘウ 高いさま。〔陸龜蒙、江南秋懷寄二華陽山人一詩〕諒難レ求二摽摽一、聊欲レ取二錚錚一。

【摽末】17 ヘウマツ 刀のきつさき。僅少のことにいふ。摽末之功を見よ。

【摽末之功】18 ヘウマツノコウ 刀のきつ先程の僅少の功をいふ。〔漢書、王莽傳上〕摽末之功、一言之勞。〔注〕服虔曰、摽音、刀末之摽。〔王先謙補注〕沈欽韓曰、淮南修務訓高注、摽讀刀摽之摽、與二服虔一同、則漢謂二刀末一爲レ摽。

【摽落】19 ヘウラク 落ちること。〔曹鄴、梅妃傳〕信二摽落之梅花一。

【摽蘦】20 ヘウレイ 落ちること。〔爾雅、釋詁〕隕・磒・湮・下・降・墜・摽・蘦、落也。

【摽有梅】21 ヘウイウバイ 詩經、召南の篇名。召南の國、文王の化を被つて男女時に及んで婚姻することを詠じたもの。一說に、文王の化を被つて女子が貞信を以て身を保ち、佳士が禮を以て求めにくるのを待つことを詠じたもの。〔詩、召南、摽有梅序〕摽有梅、男女及レ時也、召南之國、被二文王之化一、男女得二以及一レ時也。〔集傳〕南國被二文王之化一、女子知下以二貞信一自守上、懼三其嫁不レ及レ時、而有二強暴之辱一也、故言、梅落而在レ樹者少、以見二時過而太晚一矣、求レ我之衆士、其必有下及二此吉日一而來者上也。

【擟】12652 セン 〔集韻〕親然切 ㄑㄧㄢ ch'ien¹ ［先］

❶さす。さしはさむ。〔集韻〕擟、插也。❷俗に扦（5－11814）に作る。〔正字通〕擟、俗作レ扦。

【摾】12653 キヤウ ガウ 〔集韻〕其亮切 ［漾］

あみはる。又、いぐるみ。矢に絲をつけて鳥獸をとる。弶（4－9813）に同じ。〔集韻〕弶、字林、施二罟於道一、一曰、以レ弓罥二鳥獸一、或作レ摾。

【掩】12654 エン 掩（5－12285）の本字。〔正字通〕掩、掩本字。

【⿰扌副】12655 ヒョク ヒキ 〔正字通〕拍逼切 ［職］

さく。副（2－2097）・疈（7－21971）に通ず。〔正字通〕⿰扌副、副・疈通。〔韓非子、顯學〕不レ⿰扌副レ痤則寖益。〔注〕痤、謂レ癰也、疈、威而潰レ之、披疈也。〔王先謙集解〕⿰扌副字不レ見二於字書一、注作レ疈、是也、古本韓子作レ疈、或改作レ副、寫者又誤加二手旁一、注文猶存レ眞、又案、注威字當レ爲二痤之譌一、披疈二字亦倒。

【捧】12656 ハイ 〔集韻〕布怪切 ［卦］

をがむ。拜（5－11969）に同じ。〔說文〕捧、首至レ手也、从二手𠦪一、云云、𢫦、揚雄說捧、从二兩手下一。

【揞】12657 イン オン 〔楊愼字說〕於金切 ［侵］

たふれかかる。揞揞。〔淮南子、兵略訓〕推二其揞揞一、擠二其揭揭一、此謂二因勢一。〔注〕揞揞、欲レ臥也。

【⿰扌紬】12658 チウ 㨨（5－12699）に同じ。〔篇海〕⿰扌紬、同レ㨨。

【𢱢】12659 セイ 制（2－1961）に同じ。〔篇海〕𢱢、同㆑制。

【掁】12660 ラウ 〔集韻〕郎宕切 ［漾］ **うつ。**〔集韻〕掁、擊也。

【揻】12661 ベツ 搣（5－12495）に同じ。〔篇海〕揻、同㆑搣。

【揥】12662 テイ タイ 〔篇海〕通帝切 ［霽］ **とる。**〔篇海〕揥、手取也。

【𢷾】12663 コウ ク 〔篇海〕古斸切 ［有］ **ちちをしぼる。**〔篇海〕𢷾、取㆓牛羊乳㆒也。

【𢴨】12664 セキ 揹（5－12468）に同じ。〔海篇〕𢴨、同㆑揹。

【𢶏】12665 ト 捈（5－12135）に同じ。〔字彙補〕𢶏、同㆑捈。

【搩】12666 タク 磔（8－24406）に同じ。〔篇海〕搩、與㆑磔同。

【𢫦】12667 エウ 搖（5－12479）に同じ。〔篇海〕𢫦、同㆑搖。

【撓】12668 テウ デウ 〔中華大字典〕徒了切 ［篠］ **書法の一。**字の形の偏つたものは、その均勢を保つためにそれぞれ傍脚などをはねあげること。〔歐陽詢、書法、挑撓〕字之形勢有㆘須㆓挑撓㆒者㆖、如㆓獻勵亂斷之字㆒、左邊既多、須㆑得㆓右邊撓㆒之、又如㆓省炙之類㆒、上偏者、須㆘得㆓下撓㆒之相稱㆖乃善。

【㩻】12669 ケン コン 〔集韻〕居言切 ［元］ **㩻蒲の朶の名。**㩻子。或は榩（6－15365）に作る。〔集韻〕㩻、㩻子、㩻蒲朶名、或从㆑木。

【摋】12670 タツ 義未詳。〔篇海〕摋、音掇。

【𢵋】12671 ドウ 義未詳。〔篇海〕𢵋、音動。

【撁】12672 ケン 牽（7－20025）に同じ。〔正字通〕撁、牽、別作㆓縴・撁㆒非。

【撂】12673 リャク 掠（5－12648）の俗字。〔辭源〕撂、本作㆑掠。

【㨿】12674 キョ 據（5－12839）の俗字。〔辭海〕㨿、據俗字。

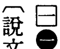
【撃】12674′ ゲキ 擊（5－12800）の略字。

十二畫

【摨】12675
🈩 ダイ ナイ 〔集韻〕尼皆切 ［佳］
🈔 ダイ ナイ 〔字彙〕囊來切 ［灰］
🈪 チ ヂ 〔字彙〕直利切 ［寘］

🈩🈔**する。**こする。〔集韻〕摨、博雅、揩摨、摩也。🈪𢮮（5－12515）に同じ。〔字彙〕摨、亦作㆑𢮮。

【撅】12676
🈩 ケツ クヮチ 〔集韻〕居月切 ［月］ ㄐㄩㄝ chüeh$^{1\cdot4}$
🈔 ケイ ケ 〔集韻〕姑衞切 ［霽］ ㄍㄨㄟ kuei^{4}
🈪 ケツ ケチ 〔集韻〕紀劣切 ［屑］


小篆

🈩❶**あつめる。**かきあつめる。〔說文〕撅、㠯㆑手有㆑所㆑杷也、从㆑手厥聲。〔段注〕杷、各本誤㆑把、今正、杷本訓、收㆑麥器、引㆓申之㆒、用㆑手捊聚、亦曰㆑杷。❷**かく。**〔廣雅、釋詁二〕撅、搔也。❸**投げる。**〔方言、十〕楚凡揮㆓棄物㆒謂㆓之拌㆒或謂㆓之敲㆒、注〕今汝潁閒語亦然、或云㆑撅也。〔廣雅、釋詁三〕撅、投也。〔集韻〕撅、一曰、投也。❹**擊つ。**〔集韻〕撅、一曰、擊也。〔唐書、褚遂良傳〕撅㆓高昌㆒、纓㆓突厥㆒。❺**ほる。**うがつ。掘（5－12264）に通ず。〔集韻〕掘、穿也、或作㆑撅。〔逸周書、周祝解〕狐有㆑牙而不㆓敢以噬㆒、獂有㆑爪而不㆓敢以撅㆒。〔杜牧、注㆓孫子㆒序〕撅㆓其城郭㆒。❻［現］㋑折る。㋺割く。㊇矯める。㊁滿洲語で指導に従はない意。🈔**かかげる。**揭（5－12389）に通ず。〔說文通訓定聲〕撅、叚借爲㆑揭。〔集韻〕撅、揭也。〔禮、內則〕不㆑涉不㆑撅。〔注〕撅、揭㆑衣也。🈪**ぬける。**ぬく。〔集韻〕撅、撥也。〔韓詩外傳、二〕草木根荄淺、未㆓必撅㆒、飄風起、暴雨墜、則撅必先矣。

【撅菴】1（ケツアン） 淸、唐泰（2－3709・・250）の號。

【撅開】2 chüeh^{1} k'ai^{1} 割く。切り裂く。

【撅叫】3 chüeh^{1} chiao^{4} 氣絕した人を抱き起して呼ぶ。

【撅觜】4 chüeh^{1} tsuei^{3} 口を尖らして怒るさま。〔桃花扇、選優〕丑撅觜介。

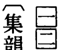
【撅者】5（ケイシャ） 衣をかかげて肌をあらはすもの。〔墨子、公孟〕是猶㆔倮謂㆓撅者不恭㆒也。〔閒詁〕洪云、禮記內則、不㆑涉不㆑撅、鄭注、撅、揭㆑衣也、謂㆘袒衣與㆓揭衣㆒、其露㆑體不恭一㆖也。

【撅豎】6（ケツジュ） 短小、又、卑劣な人をいふ。撅豎小人を見よ。

【撅豎小人】7（ケツジュセウジン） 卑劣な人をいふ。〔魏書、崔浩傳〕屈丐結㆓忿於蠕蠕㆒、背㆓德於姚興㆒、撅豎小人、無㆓大經略㆒、正可㆓歲暴㆒、終爲㆓人所㆑滅耳。

【撆】12677 ヘツ 撇（5－12678）の本字。〔集韻〕撆、亦書作㆑撇。

【撇】12678
🈩 ヘツ ヘチ 〔集韻〕匹蔑切 ［屑］ ㄆㄧㄝ p'ieh$^{1\cdot3}$
🈔 ヘイ 〔正韻〕必弊切 ［霽］


小篆

🈩🈔もと撆（5－12677）に作る。〔集韻〕撆、亦書作㆑撇。❶**ぬぐふ。**はく。〔說文〕撆、飾也、从㆑手敝聲。〔段注〕飾也、各本作㆓別也㆒、不㆑可㆑通、今正。〔王褒、洞簫賦〕撆㆑涕抆㆑淚。〔注〕善曰、撆、拭也。❷**はらふ。**ふるふ。〔集韻〕撇、一曰、拂也。〔王褒、洞簫賦、注〕良曰、撇、揮也。〔揚

雄、甘泉賦〕浮二蠛蠓一而撇レ天。❸きめる。わかつ。蔽(9－31888)・弊(4－9644)に通ず。〔說文通訓定聲〕撆、別也、一曰、擊也、按、斷制之誼、書、蔽囚、左傳、蔽罪、以レ蔽爲レ之、周禮、弊二邦治一、漢書刑法志、枉以待レ弊、以レ弊爲レ之、所謂撇斷也、擊斷也。❹ひく。〔廣韻〕撆、引也。❺かすめる。〔字彙〕撇、略也。〔韓非子、存韓〕韓小國也、而應二天下四擊一。❻うつ。〔說文〕撆、一曰、擊也。〔集韻〕撇、摽也。〔王褒、四子講德論〕故膺騰撇レ波而濟レ水。〔注〕善曰、說文曰、撆、擊也、撆、與レ撇同也。❼衣をまくり上げる。〔集韻〕撇、揎レ衣也。❽書法の名。筆を左にはらふこと。〔蔡邕、篆勢〕揚レ波振レ撆。〔梁武帝、答二陶宏景一論レ書書〕復當下以二點畫波撇一論中極諸家之致上。〔書法離鉤〕長撇須レ迅二其鋒一。❾現㋑のぞく。㋺なげすてる。㊇置きわすれる。㊁すくひとる。

【撇曳】1（ヘイエイ）雜沓するさま。〔駢雅、釋詁上〕撇曳、紛沓也。〔揚雄、蜀都賦〕偃衍撇曳、絺索恍惚。

【撇葉】2（ヘツエフ）中國の畫法の一。蘭の葉を畫く時に書の撇法のやうな筆致を用ひる法。

【撇下】3 p'ieh hsia 棄てる。投げ捨てる。

【撇假】4（ヘツカ）詐言を吐く。うそを言ふ。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕撇假偌多話。

【撇開】5 p'ieh^1 k'ai 棄ておく。排斥する。

【撇棄】6 p'ieh^1 ch'i^4 棄てる。

【撇缺】7（ヘイケツ）雷電の神をいふ。擊缺。〔駢雅、釋天〕雷電之神曰二擊缺一。〔黃香、九宮賦〕摽二擊缺一而拂二勃決一。〔注〕皆鬼神名。

【撇口】8（ヘツコウ）朝顏形に口の開いた盃。宋代磁器の一種。

【撇殺】9 p'ieh^1 sha^1 全くはなれる。〔燕子箋、僞緝〕撇殺檀郎、相思一樣。

【撇篘】10（ヘツシウ）酒をこすこと。〔白居易、詠二家醞一十韻詩〕釀糯豈勞吹二范黍一、撇篘何假漉二陶巾一。

【撇清】11 p'ieh^1 ch'ing きれいに取り除ける。又、人前で物事を立派に言ひなすこと。

【撇酥】12 p'ieh^1 su^1 べそをかく。

【撇脫】13（ヘツダツ）❶さつぱりとして趣がある。凝滯の無い畫法。〔輟耕錄、寫二山水一訣〕一窠一石、當三逸墨撇脫、有二士人家風一、纔多便入二畫工之流一矣。❷p'ieh^1 t'uo^1 ㋑事をためすにてきぱきしてゐること。敏捷。㋺除ける。棄てる。

【撇涕】14（ヘツテイ）涕をぬぐふ。涕をふるふ。〔王褒、洞簫賦〕撆レ涕抆レ淚。〔注〕撆、五臣作レ撇、善曰、撆、拭也、良曰、撇、揮也。

【撇波】15（ヘツハ）波を擊つ。〔王褒、四子講德論〕故膺騰撇レ波而濟レ水。

【撇莩】16（ヘツフ）あらくむなしい。〔柳宗元、答問〕僕乃單庸撇莩、離疏空虛。

【撇漾】17 p'ieh^1 yang^4 投げすてる。〔長生殿、獻飯〕不忍累伊每把妻兒父母、輕撇漾。

【撇油】18 p'ieh^1 yu^2 油をすくひとる。油を除き去る。

【撇拉】19 p'ieh^1 la^1 かぶら。蕪菁。

【撇蘭】20 p'ieh^1 lan^2 數人集り各〻醵金して酒を飲む遊戲。其の方法は先づ蘭一株を紙に畫き、其の葉と根とを集つた人數と等しくし、根に金數を書き入れ、之を隱して葉のみをあらはし、各人をして籤引のやうに之を引かせ、根にあらはれた金額を醵出させる。阿彌陀鬮の類。

【撇高兒】21 p'ieh^1 kao^1 êrh 下の方からすくひ上げるやうにして投げること。

【撇道兒】22 p'ieh^1 tao^4 êrh 舌の根。〔還魂記、圓駕〕把那撇道兒搭、長舌揸。

【撇不掉】23 p'ieh^1 pu tiao^4 捨てられない。棄てるに忍びない。

【撇沫子】24 p'ieh^1 mo^4 tzŭ 沫を取除ける。

【撈】12679

㊀ラウ ロウ 〔集韻〕郎刀切 ㄌㄠ lao$^{1\cdot2}$ 豪

㊁ラウ ロウ 〔集韻〕郎到切 號

㊂レウ 〔集韻〕力弔切 嘯

㊃レウ 〔集韻〕憐蕭切 蕭

㊀**すくひあげる**。水中に沈んで物を取る。〔集韻〕撈、沈取曰レ撈。〔七佛神呪經音義〕通俗文曰、沉取曰レ撈。〔舒元輿、坊州按レ獄詩〕水窮盆深撈。㊁㊂**とる**。ひつかけてとる。或は撩(5－12741)に作る。〔集韻〕撈、取レ物也、或作レ撩。〔集韻〕撈、方言、取也、或作レ撩。〔方言、十三〕撈、取也。〔注〕謂二鉤撈一也。㊃**とる**。通じて操(5－12643)に作る。〔集韻〕撈、取也、通作レ操。

【撈起】1 lao^1 ch'i ❶水などをすくひ出す。さらひ上げる。❷引揚げる。

【撈救】2（ラウキウ）水中から引上げて救ふ。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕問二如何情由、並曾否有レ人撈救一。

【撈魚】3 lao^1 yü^2 すなどりする。魚をすくひとる。漁撈(7－18101・・122)に同じ。

【撈月】4 lao^1 yüeh^4 水中の月をすくふ。むだなこと。

【撈採】5（ラウサイ）水をくぐつて物を取る。〔元史、食貨志二〕元貞元年、聽下民於二楊村直沽口一撈採上。

【撈上】6 lao^1 shang すくひ上げる。

【撈上來】7 lao^1 shang lai すくひ上げて來る。

【撈捎】8 lao^1 shao^1 賭博に負けた金を賭博で取り返す。

【撈摸】9（ラウボ）水中で物をさがす。あてどなく物を探る。〔通俗編、行事、撈摸〕朱子文集、答二萬正淳一曰、若只如レ此空蕩蕩、恐無二撈摸一也。

【撈攏】10（ラウロウ）手にもつ。〔李賀、黃頭郎〕黃頭郎、撈攏去不レ歸、南浦芙蓉影、愁紅獨自垂。

【撈摝】11（ラウロク）もがく。〔剪燈餘話、至正妓人行〕那知末路翻撈摝。

【撈蝦齋】12（ラウカサイ）清、周凱(2－3441・・49)の號。

【撈蝦舞】13（ラウカマヒ）踊の名。今の鰌すくひに類したものであらう。〔日本外史、德川氏正記、德川氏二〕聞汝善二撈蝦舞一、爲レ我一爲レ之。

【撈什子】14 lao^1 shih^2 tzŭ 無味の物をいふ。

【撈不着】15 lao^1 pu chao^2 すくひ取り得ない。

【撈淺鋪夫】16（ラウセンホフ）河さらひの人夫。〔六部成語、工部、撈淺鋪夫注解〕河工各段安二設窩鋪一、令二人夫居一レ之、以備二水淺撈沙之役一。

【撉】12680

トン 〔集韻〕都昆切 元

うつ。〔集韻〕撉、擊也。

【擳】12681

チ ヂ 〔集韻〕直利切 寘

❶**うちあはせる**。〔集韻〕擳、持レ物使二相當一也。❷⿰扌貳(5－12706)の譌字。〔正字通〕擳、⿰扌貳字之譌。

【撊】12682

㊀カン ゲン 〔集韻〕下赧切 潸

㊁カン ケン 〔集韻〕賈限切 潸

㊀㊁❶**いきどほる**。〔集韻〕撊、忿皃。〔小爾雅、廣言〕撊、忿也。〔左氏、昭、十八〕今執事撊然授レ兵登レ陴。〔注〕撊然、勁忿貌。❷**たけだけしいさま**。僩(1－1122)に同じ。〔集韻〕僩、武皃、爾雅、瑟兮僩兮、或作レ撊。❸**てあらい**。〔方言、二〕撊、猛也、晉魏之間曰レ撊。❹**さへぎる**。とどめる。〔管子、五行〕撊二瀆盜賊一。〔注〕撊、謂二遮禁一也。❺憪(4－11251)に通ず。〔正字通〕撊、與レ憪通。

【撊然】1（カンゼン）くわつと怒るさま。赫怒するさま。

〔左氏、昭、十八〕今執事撊然授㆑兵登㆑陴。〔注〕撊然、勁忿貌。

【撊瀆】^{2} カントク　さへぎりふせぐ。一說に、てあらくぬきとる。嚴重に搜索して捕へる意。撊は猛、瀆は⿰扌賣に通じ、抽の意。〔管子、五行〕則發撊㆓瀆盜賊㆒。〔注〕撊、謂㆓遮禁㆒也、云云、撊㆓防盜賊㆒。〔纂詁〕撊、猛也、瀆、讀爲㆑⿰扌賣、⿰扌賣、抽也、猛㆓抽盜賊㆒、嚴㆓追捕㆒也。

【撋】12683

㈠ゼン ネン　〔集韻〕而宣切　〖先〗　ㄖㄨㄢˊ juan^2
㈡ズイ ニ　〔集韻〕儒垂切　〖支〗
㈢ダ ナ　〔集韻〕奴禾切　〖歌〗
㈣ジュン ニン　〔集韻〕濡純切　〖眞〗

㈠❶**もむ**。する。〔集韻〕撋、煩撋、猶㆓挼莏㆒也。〔阮孝緒、字略〕煩撋、猶㆓挼抄㆒。〔周禮、考工記、鮑人、進而握㆑之、注〕謂㆔親手煩㆓撋之㆒。〔黃庭堅、訓㆓郭氏三子㆒說〕炙㆑手撋㆑凍。❷或は擩(**5**－**12866**)・挾(**5**－**12356**)・捼(**5**－**12223**)に作る。〔集韻〕撋、或作㆓擩・挾・捼㆒。㈡**もむ**。或は捼(**5**－**12223**)に作る。〔集韻〕撋、擩也、或从㆑委。㈢**おす**。**又、もむ**。捼(**5**－**12223**)に同じ。〔集韻〕捼、說文、推也、一曰、兩手相切摩也、或作㆑撋。㈣**ぬぐふ**。〔集韻〕撋、拭也。

【撋就】^{1} juan^2 chiu^4　近づきになる。親しくなる。〔西廂記、草橋店夢鶯鶯雜劇〕俺家裏陪酒陪茶到撋就。

【撋縱】^{2} juan^2 tsung^4　なでさする。〔長生殿、窺浴〕千般撋縱百般隨。

【掔】12684　ケン　牽(**7**－**20025**)の古字。〔集韻〕牽、古作㆑掔。

【撌】12685　キ　〔篇海〕丘愧切　〖寘〗

はらふ。はらひのける。〔篇海〕撌、搵也。〔淮南子、要略〕禹之時、云云、燒不㆑暇㆑撌、濡不㆑給㆑扢。〔注〕撌、排去也。

【⿰扌賁】12686　フン ブン　〔集韻〕符分切　〖文〗

ぬぐふ。〔集韻〕⿰扌賁、拭也。

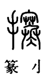
【撍】12687

㈠サン　〔集韻〕子感切　〖感〗
㈡サン　〔集韻〕作紺切　〖勘〗
㈢サン　〔集韻〕祖含切　〖覃〗
㈣シン　〔集韻〕緇岑切　〖侵〗
㈤セン ゼン　〔集韻〕慈鹽切　〖鹽〗

㈠❶**手がふるへる**。或は揝(**5**－**12360**)に作る。〔集韻〕撍、手動也、或从㆑昝。❷**とる**。もつ。にぎる。〔字彙〕撍、執持。㈡❶**手がふるへる**。〔廣韻〕撍、手撼。❷**つづる**。**ぬふ**。篸(**8**－**26407**)に同じ。〔集韻〕篸、綴也、或作㆑撍。㈢❶**つきる**。つくす。〔廣韻〕撍、盡也。❷**はやい**。**すみやか**。〔集韻〕撍、疾也。❸**はり**。くぎ。ぬふ。鐕(**11**－**40915**)に通ず。〔集韻〕鐕、說文、可㆔以綴㆓箸物㆒者、一曰、釘也、一曰、綴㆑衣、通作㆑撍。㈣**はやい**。**すみやか**。通じて簪(**8**－**26558**)に作る。〔集韻〕撍、疾也、通作㆑簪。〔易、豫、朋盍簪、釋文〕簪、京作㆑撍。㈤**つむ**。つみとる。〔集韻〕撍、摘也。

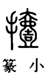
【⿰扌曾】12688　ソウ　增(**3**－**5454**)に同じ。〔海篇〕⿰扌曾、同㆑增。

【⿰扌𡨄】12689　ケン　〔集韻〕九件切　〖銑〗


小篆

❶**ぬきとる**。⿰扌寒(**5**－**13053**)に同じ。〔說文〕⿰扌寒、拔取也、南楚語、从㆑手寒聲、楚辭曰、朝⿰扌𡨄㆓阰之木蘭㆒。❷或は攓(**5**－**12976**)・搴(**5**－**12519**)に作り、俗に⿰扌搴(**5**－**12881**)に作る。〔集韻〕⿰扌𡨄、或从㆑蹇、亦作㆑搴、俗作㆑⿰扌搴、非㆑是。

【撎】12690


小篆

㈠エイ　〔集韻〕壹計切　〖霽〗
㈡イ　〔集韻〕乙冀切　〖寘〗

㈠**えしやく**。ひざまづいて首を起し、手だけをたれる禮。〔說文〕撎、擧㆑首下㆑手也、从㆑手壹聲。〔段注〕各本作㆓擧㆑手下㆒㆑手也、今正、西征賦注・玉篇引說文有㆓拜字㆒、云云、凡不㆑跪不㆑爲㆑拜、跪而擧㆓其首㆒、惟下㆓其手㆒、是曰㆓肅拜㆒、漢人曰㆑撎。〔周禮、春官、大祝、九曰肅拜、注〕但俯下㆑手、今時撎、是也。〔左氏、成、十六〕三肅㆓使者㆒。〔注〕肅、手至㆑地、若㆓今之撎㆒。㈡**えしやく**。或は揖(**5**－**12351**)に作る。〔集韻〕撎、俯㆑手拜也、或作㆑揖。

【撏】12691

㈠サン ザン　〔集韻〕徂含切　〖覃〗　ㄒㄩㄣˊ hsün^2
㈡シン ジン　〔集韻〕徐心切　〖侵〗
㈢セン ゼン　〔集韻〕時占切　〖鹽〗

㈠㈡**とる**。つまむ。〔方言、一〕撏、取也、衞魯揚徐荊衡之郊曰㆑撏。〔錢繹箋疏〕今俗謂㆓以㆑指摘㆒㆑物曰㆑撏、音近㆑蠶。㈢❶**とる**。〔集韻〕撏、取也、或作㆑探。或は探(**5**－**12276**)に作る。❷**つまむ**。むしる。撆(**5**－**12954**)に同じ。〔集韻〕撆、摘也、或从㆑尋。

【撏撦】^{1} シンシヤ　つまみとる。〔劉克莊、劉叔安感秋八詞題跋〕耆卿有㆓教坊丁大使㆒、意態美成、頗偸㆓古句㆒、溫李諸人、困㆓于撏撦㆒。

【⿰扌棠】12692　タウ　撐(**5**－**12693**)の俗字。〔正字通〕⿰扌棠、俗撐字。

【撐】12693　タウ チヤウ　〔集韻〕中庚切　〖庚〗　ㄔㄥ ch'êng^1

❶**ささへる**。〔集韻〕撐、柱也。〔司馬相如、長門賦〕離樓梧而相撐。〔注〕善曰、字林曰、撐、拄也。〔趙元、渡㆓洛口㆒詩〕斷橋無㆑力強支撐。❷**さをさす**。舟をすすめる。〔方回、聽㆓航船歌㆒詩〕雇載錢輕載不㆑輕、阿郎牽曳阿奴撐。〔雲麓漫抄〕自㆓浙江㆒東溪行、水淺湍急、舟師所㆑用器、有㆓肩篙頭篙諸名㆒、所謂肩篙者、覆㆑面向㆑水用㆑肩撐、所謂頭篙者、覆㆑身向㆑水頭撐。❸**あく**。滿腹する。〔季潭、望海詩〕蝦蟹不㆑足㆓饑腸撐㆒。❹**ささへの柱**。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕浮虛有㆓新杌㆒、摧杌饒㆓孤撐㆒。❺或は樘(**6**－**15440**)に作る。〔集韻〕撐、或作㆑樘。❻⿱尚疋(**10**－**37470**)に同じ。〔正字通〕撐、同㆑⿱尚疋。❼撑(**5**－**12694**)に同じ。〔正字通〕撐、韻補譌作㆑撑。❽牚(**7**－**19919**)に同じ。〔正字通〕撐、或作㆑牚。❾〖現〗㋑壓倒する。㋺吃

を罵る語。

【撐搖】1 ch'êng¹ yao² 小舟をこぐ。

【撐駕】2 タウガ 竿で舟を進める。さをさす。〔明律、兵律、關津、關津留難〕若撐二駕渡船一稍水、如遇二風浪險惡一、不レ許二擺渡一、違者笞四十。

〔撐駕夫〕3 タウガフ 船をこぐ人。〔稱謂錄、船、撐駕夫〕天下郡國利弊書、糧長每日供二奉船長及撐駕夫一。

【撐篙】4 ch'êng¹ kao¹ 水棹で舟を進める。竿をとる。

【撐抉】5 タウケツ 支へかかげる。かかげる。〔司空圖、題二柳柳州集後一文〕其驅駕氣勢、若三掀レ雷扶レ電、撐二抉於天地之垠一。

【撐摐】6 タウサウ ささへることとたたくこと。〔韓維、次二韻平甫一詩〕馮侯抗議亦殊健、短鉤長鋌相撐摐。

【撐支】7 ch'êng¹ chih¹ ささへる。撐拄。

【撐拄】8 タウシユ ささへる。ささへ止める。〔古樂府、飮馬長城窟行〕死人骸骨相撐拄。〔宋史、陳襄傳〕賊曹捕二偸兒一、至三數輩一、相撐拄。

【撐刺】9 タウセキ 舟にさをさす。〔韓琦、衆春園詩〕乘レ興命二輕舟一、縱レ賞緩二撐刺一。

【撐船】10 タウセン 船にさをさす。棹舟(6－14992・・5)に同じ。〔楊萬里、詩〕峽裏撐レ船更不レ行。

【撐達】11 ch'êng¹ ta² ふんばる。支持。〔桃花扇、撫兵〕卻教俺自撐達。

【撐持】12 タウチ 支へる。支持する。〔迺賢、潁州老翁歌〕獲レ存二衰朽一見二今日一、病骨尙爾難二撐持一。

【撐腸】13 タウチヤウ 腹に飽き足る。滿腹する。〔盧仝、月蝕詩〕撐レ腸拄レ肚。〔蘇軾、試院煎茶詩〕不レ用撐レ腸拄レ腹文字五千卷、但願一甌常及二睡足日高時一。〔蘇軾、別二黃州一詩〕長腰尙載撐腸米、闊領先裁蓋癭衣。

【撐渡】14 ch'êng¹ tu⁴ 渡船を渡す。

【撐突】15 タウトツ ささへつく。〔杜甫、又觀二打魚一詩〕能者操レ舟疾若レ風、撐二突波濤一挺レ叉入。

【撐撥】16 タウハツ ささへおこす。あげおこす。〔白居易、題二盧祕書夏日新栽レ竹二十韻一詩〕撐二撥詩人興一、勾二牽酒客歡一。

【撐板】17 ch'êng¹ pan³ 處理濟の羊皮。

【撐夫】18 ch'êng¹ fu¹ 船を漕ぐ人。船頭。

【撐犂】19 タウリ 天をいふ。匈奴の語。撐犂孤塗を見よ。

〔撐犂孤塗〕20 タウリコト 天子をいふ。孤塗は子の義。匈奴の語。〔漢書、匈奴傳上〕單于、姓攣鞮氏、其國稱レ之曰二撐犂孤塗單于一。〔羣書札記〕匈奴謂レ天爲二撐犂一、子爲二孤塗一、單于者、廣大之貌也、言二其象レ天單于然一也。

【撐旱船】21 ch'êng¹ han⁴ ch'uan² 正月に黍稈で船の形を作り、五色の紙で飾り、其の中で歌を唄ふ行事。河南の風俗。

【撐竿跳】22 ch'êng¹ kan¹ t'iao⁴ 棒高跳。

【撐起來】23 ch'êng¹ ch'i lai 支へる。突つ張る。

【撐場面】24 ch'êng¹ ch'ang³ mien⁴ 外面を美しく展開する。

【撐桿跳高】25 ch'êng¹ kan³ t'iao⁴ kao¹ 棒高跳。撐竿跳に同じ。

【撑】12694

タウ

撑(5－12693)の俗字。〔正字通〕撑、俗撐字。

【揌】12695

サイ 〔集韻〕山皆切 佳

❶ちりうせる。〔集韻〕揌、散失也。❷［現］打つ。打ちつづける。

【⿰扌惠】12696

ケイ

⿰扌彗(5－12618)に同じ。〔集韻〕⿰扌彗、或从レ惠。

【撒】12697

サツ サチ ［慣］サン 〔集韻〕桑葛切 曷 ㄙㄚ sa¹·³

❶まく。又、放つ。或は粲(8－27085)に同じ。〔集韻〕粲、說文、⿰米悉粲、散レ之也、一曰、放也、或作レ撒。〔吳志、潘濬傳、注〕孫權數射レ雉、濬諫レ之、出見二雉翳一、手自撒壞。❷なげうつ。〔六書故〕撒、擲也。❸姓。〔萬姓統譜〕撒中謙、和州人、洪武擧人。❹［現］㋑攤げる。㋺許す。㋩また。

【撒鹽】1 サンエン 鹽を撒き散らす。雪をいふ。〔世說新語、賢媛〕謝太傅寒雪日內集、與二侍女一講二論文義一、俄而雪驟、公欣然曰、白雪紛紛何所レ似、兄子胡兒曰、撒二鹽空中一差可レ擬、兄女曰、未レ若二柳絮因レ風起一、公大笑樂。

【撒家】2 サンカ 眞臘國で骰子の異名。〔事物異名錄、玩戲、骰子〕事林廣記、占城骰子曰二胡纏一、眞臘骰子曰二撒家一。

【撒開】3 サンカイ ❶ひらく。ひろがる。撒扇(29)を見よ。❷sa¹ k'ai ㋑はじめる。㋺むやみに云云する。

〔撒開腿〕4 sa¹ k'ai t'uei³ 驅け出す。

【撒改】5 サンカイ 金、完顏思敬(3－7079・・81)の名。

【撒跤】6 sa¹ chiao¹ 子供が母にむつかる。

【撒氣】7 sa¹ ch'i⁴ 怒りを他に移す。

【撒脚】8 sa¹ chiao³ 足をふみ出す。

【撒金】9 サンキン 金銀の粉末を梨の皮の斑點の如くちらした塗物。梨子地。

【撒火】10 サンクワ 漢字の畫で火を灬と書く時の書體の稱。れつくわ。連火(11－38902・・51)に同じ。

【撒花】11 サンクワ 蒙古語。脅かして金銀をもとめる。後世訛つて雪花といひ、銀色精美の稱とする。〔黑韃事略〕其見レ物則欲、謂二之撒花一、云云、撒花者、漢語覓也。〔水雲集〕醉歌、北軍要レ討撒花銀、官府行レ移逼二市民一。〔通俗編、貨財、撒花錢〕心史、元兵犯レ宋、凡得二州縣鄉村一、排レ門脅二索金銀一曰二撒花一。

【撒科】12 sa¹ k'ê¹ 演劇の身振り。芝居めかす。氣をもたせる。〔水滸傳、二十四回〕西門慶便跪下道、乾娘、休要撒科、你作成我則箇。

【撒壞】13 サンクワイ にがしちらす。ばらばらにする。〔吳志、潘濬傳、注〕濬出見二雉翳故在一、手自撒二壞之一。

【撒謊】14 sa¹ huang³ うそをいふ。又、うそ。〔紅樓夢、十九回〕黛玉笑道、眞是撒謊。

〔撒謊調疲〕15 sa¹ huang³ tiao⁴ p'i² 虛言を吐いて敎化し難いこと。巧に虛言をいふ。

【撒歡】16 sa¹ huan¹ 跳ねまはる。躍りまはる。ふざけまはる。よろこぶさま。

【撒嬌】17 sa¹ chiao¹ あまへてふざける。

【撒沙】18 サンサ すなをまきちらす。〔韓愈、月蝕效二玉川子作一詩〕星如二撒沙一出、攢集爭二強雄一。

【撒暫】19 サンザン 酒店などで客の買ふ買はないに拘らず品物を渡して、後に代價を受取ること。撒嚐。〔東京夢華錄、二、飮食果子〕凡店內、云云、又有レ賣二藥或果實蘿蔔之類一、不レ問三酒客買與二不買一、散二與坐客一、然後得レ錢、謂二之撒暫一。

【撒嚐】20 サンザン 撒暫に同じ。〔武林舊事、酒樓〕有下以レ法製二青皮杏仁半夏縮砂荳蔲小臘茶香藥韻薑砌香橄欖薄荷一至二酒閣一分俵得上レ錢、謂二之撒嚐一。

【撒市】21 sa¹ shih⁴ 隨意に街路で取引を行ふもの。滿洲の雜穀取引市場の一種。

【撒嘴】22 sa¹ tsuei³ 口をはなす。

【撒手】23 サンシユ 手をはなす。手を退ける。關係しない。〔清珙、詩〕望二見嶮巇一多二退步一、有二誰撒手肯承當一。

【撒酒】24 サンシユ 酒をすてる。〔晏子、重而異者〕反命二撒レ酒去レ樂。

【撒種】25 sa² chung³ ❶富貴の子弟で少しも世事に通ぜぬ者。❷種子を播く。

【撒菽】26 サンシユク 豆をまく。降雨のさま。〔蘇軾、祈雪詩〕前年太守爲二旱請一、雨點隨レ人如二撒菽一。〔陸游、雨中詩〕風聲如二穊濤一、雨點如二撒菽一。

【撒水】27 サンスイ 水をまく。又、みづまき。

【撒數】28 サンスウ 小締めのたか。小計。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕花戶一歲應レ完銀米撒數。

【撒扇】29 サンセン 扇子の異名。摺疊扇。〔劉元卿、賢弈編〕摺疊扇、一名二撒扇一、蓋收則摺疊、用則撒開、故名、始二於永樂中一、因三朝鮮國進二撒扇一、上喜二其卷舒之便一、命レ工如レ式爲レ之、南方女人皆

用㆓團扇㆒、惟妓女皆用㆓撒扇㆒、近年良家女婦、亦有㆘用㆓撒扇㆒者㆖。

【撒線】30 sa^{3} hsien^{4} 紙鳶の絲をのばす。

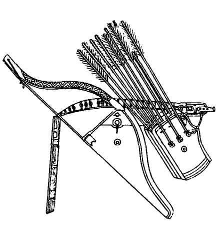
【撒箭】31 sa^{1} chien^{4} 弓を射る。

【撒錢】32 サンセン 錢をまく。〔舊唐書、玄宗紀上〕令㆘左右於㆓樓下㆒撒㆗金錢㆖。

【撒速】33 サンソク 金、完顏匡（**3**－**7079**・・21）の本名。

【撒村】34 sa^{1} ts'uen^{1} ㊀野鄙な。㊁誹謗する。罵る。

【撒袋】35 サンタイ 弓矢を入れる袋。箙。〔清會典事例、兵部、軍器〕十七年奏准、各直省綠營兵丁自備㆓軍械內㆒、弓箭撒袋腰刀。〔清會典圖、武備、撒袋〕撒袋、親王郡王用㆓青倭緞・紅氈裏・綠革緣㆒、飾皆鏤㆓金花文㆒、云云、百官撒袋、均用㆑革、綠革緣、各綴㆓鐶二㆒、懸㆓革帶㆒、藍布裏、前繫以㆑鉤、左右及後帶版各一、一二品官用一等撒袋、緣加㆓紅黃線三道㆒。

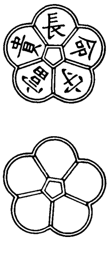


撒袋（清會典圖・武備圖）

【撒但】36 sa^{1} tan^{4} 惡魔。satan の音譯。

【撒帳】37 サンチヤウ 新婚の男女が對拜し畢つて後に床に入り、男は右に向ひ、女は左に向つて坐し、婦女が金錢綵果を散擲するをいふ。〔東京夢華錄、五、娶婦〕男女各爭㆓先後㆒對拜畢、就㆑床、女向㆑左、男向㆑右坐、婦女以㆓金錢綵菓㆒散擲、謂㆓之撒帳㆒。〔戊辰雜鈔〕撒帳始㆓於漢武帝㆒、李夫人初至、帝迎入㆓帳中㆒共坐、飲㆓合巹酒㆒、預戒㆓宮人㆒、遙撒㆓五色同心花果㆒、帝與㆓夫人㆒以㆓衣裙㆒盛㆑之、云得㆑多得㆑子多也。〔秦觀、醴泉開堂疏〕眞珠撒帳、未㆑遇㆓明師㆒。

〔撒帳錢〕38 サンチヤウセン 撒帳の時撒く錢。長命守富貴・如魚似水・夫妻偕老・五男二女・弄璋添喜等の文がある。〔洪邁泉志〕。



撒帳錢（金石索）

【撒帖】39 sa^{2} t'ieh^{3} 案內狀をくばる。引札を撒く。びらを配る。撒帖子。

〔撒帖子〕40 sa^{2} t'ieh^{3} tzŭ 商家で勘定書を得意先へくばること。

【撒甸】41 サンデン 地名。雲南省祿勸縣の北。もと撒甸土酋の地。清の康熙五十七年、土酋の常應運が叛いて誅せられた。

【撒殿】42 サンデン 宮殿の階段で眞珠・金蓮花等を撒くこと。〔宋史、禮志二十二〕注輦三佛齊使者至、以㆓眞珠龍腦金蓮花等㆒登㆑陛跪散㆑之、謂㆓之撒殿㆒。〔夢溪筆談、雜誌一〕熙寧中、珠輦國使人入貢、乞㆘依㆓本國俗㆒撒殿㆖、詔從㆑之、使人以㆓金盤㆒貯㆑珠、跪捧㆓於殿檻之間㆒、以㆓金蓮花㆒、酌㆑珠向㆓御座㆒撒㆑之。

【撒豆】43 サントウ まき散らしたまめ。〔福惠全書、郵政部、相㆓良馬㆒寶金篇〕斑如㆓撒豆㆒勿㆓同看㆒。

【撒唔】44 サンドン あぢけない。〔西廂記、張君瑞害㆓相思㆒雜劇〕似㆓這般㆒乾相思的好撒唔。

【撒尿】45 sa^{1} niao^{4} 放尿する。小便する。

【撒溺】46 sa^{1} niao^{4} 小便する。

【撒放】47 sa^{1} fang^{4} ゆるめる。許す。釋放する。

【撒撥】48 sa^{1} po^{1} いたづらをする。又、亂暴する。

【撒潑】49 サンパツ ㊀騎兵斥候の四方に出掛けるのをいふ。〔天祿識餘〕明時、軍中以㆓偵騎㆒四出爲㆓撒潑㆒。㊁亂暴する。〔元曲、陳州糶米〕俺兩個全仗㆓俺父親的虎威㆒、拿粗挾細、揣歪揑怪、幫閒鑽懶、放刁撒潑、那一個不㆑知㆓我的名兒㆒。〔桃花扇、拒媒〕撒潑介。㊂sa^{1} p'o^{1} ㋑あるだけの力を出す。努力する。㋺いたづらする。撒撥。㋩財産を使ひ果す。

〔撒潑打滾〕50 sa^{1} p'o^{1} ta^{2} kuen^{3} ころげまはる。

【撒板】51 サンパン 字號。㊀遼、蕭鐸盧斡（**9**－**32012**・・549）の字。㊁遼、蕭孝忠（**9**－**32012**・・319）の字。

【撒版】52 サンパン 遼、耶律頗的（**9**－**29008**・・129）の字。

【撒班】53 サンパン 字號。㊀遼、耶律阿思（**9**－**29008**・・37）の字。㊁遼、耶律撻不也（**9**－**29008**・・163）の字。

【撒布】54 サンプ ふりまく。ふりかける。

【撒風】55 sa^{1} fêng^{1} 狂氣じみた擧動をする。

【撒本】56 サンポン 遼、蕭阿古只（**9**－**32012**・・536）の字。

【撒網】57 サンマウ ㊀漁具の名。うちあみ。投網。〔和漢三才圖會、魚獵具、撒網〕今云㆓唐網㆒、江湖池川多用㆑之。㊁sa^{2} wang^{3} 家計困難に陷つた者が、名を家內の吉事に托して客を招き祝儀を受けて、家計を維持すること。

【撒野】58 sa^{1} yeh^{3} 亂暴する。又、擧動が野蠻で言語が放肆なことをいふ。〔紅樓夢、九回〕不許撒野。

【撒賴】59 sa^{1} lai^{4} ㊀欺く。㊁非認する。㊂いたづらする。

【撒剌】60 サンラツ 遼、耶律斜涅赤（**9**－**29008**・・160）の字。

【撒懶】61 サンラン 字號。㊀遼、耶律敵烈（**9**－**29008**・・114）の字。㊁遼、耶律適祿（**9**－**29008**・・118）の字。㊂遼、耶律老古（**9**－**29008**・・140）の字。

【撒鸞】63 サンラン 遼、耶律雅里（**9**－**29008**・・48）の字。

【撒利】64 sa^{1} li^{4} 小ざつぱりとする。

【撒呂】65 サンリヨ 城の名。雲南省路南縣の東北。〔元史、地理志四〕路南州、州在㆓本路之東㆒、夷名路甸、有㆑城曰㆓撒呂㆒、黑爨蠻之裔落蒙所㆑築、子孫世居㆑之、因名㆓落蒙部㆒。

【撒和】66 サンワ ㊀徐々にする。荒々しくせぬ。〔還魂記、懽撓〕便開呵、須㆓撒和㆒。㊁まぜる。〔福惠全書、郵政部、喂養〕盛夏拌以㆓水麩㆒撒㆓和之㆒。

〔撒和馬〕67 サンワバ 馬を解いて休ませる。〔西廂記、張君瑞鬧㆓道場㆒雜劇〕先撒㆓和那馬㆒者、小二哥你來。

【撒園荽】68 サンエンスイ 猥談をいふ。園荽は胡荽で、其の蒔く時に猥褻の說を唱へれば盛に生ずるからいふ。〔湘山集〕園荽、卽胡荽、世傳、布㆑種時、口㆓褻語㆒、則其生滋盛、故士大夫以㆓穢談㆒爲㆓撒園荽㆒。

【撒合輦】70 サンガフレン 黑の義。金國の語。〔金史、國語解〕撒合輦、黧黑之名。

【撒吉思】71 サンキツシ 元、回鶻の人。諡は襄惠。世祖の時、推戴の功により、山東經略統軍二使に至る。〔元史、一百三十四〕。

【撒讛症】72 sa^{1} i^{1} chêng^{4} ねぼける。

【撒穀豆】73 サンコクトウ 婚禮の時、豆錢綵果をまき散らして小供等に拾はせること。〔事物紀原、吉凶典制部、撒豆穀〕漢世京房之女適㆓翼奉子㆒、奉擇㆑日迎㆑之、房以、其日不吉、以㆔三煞在㆑門故也、三煞者、謂㆓青草烏雞青牛之神㆒也、凡是三者在㆑門、新人不㆑得㆑入、犯㆑之損㆓尊長㆒及無㆑子、奉以謂、不㆑然、婦將㆑至㆑門、但以㆓穀豆與㆑草禳㆑之、則三煞自避、新人可㆑入也、自㆑是以來、凡嫁娶者、皆置㆓草於門閫內㆒、下㆑車則撒㆓穀豆㆒、既至躄㆓草於側㆒而入、今以爲㆓故事㆒也。

【撒腿跑】74 sa^{1} t'uei^{2} p'ao^{3} 猛然として馳け出す。大股に走り出す。

【撒痴嬌】75 sa^{1} ch'ih^{2} chiao^{1} 恩に狎れて我儘なこと。

【撒顚魚】76 sa^{1} tien^{1} yü^{2} 鰯。英語 sardine の譯。

【撒法卽】77 サンハフソク 番紅花（**7**－**21858**・・101）の異名。さふらん。〔本草、番紅花〕釋名、泊夫藍、撒法卽。

【撒哈拉】78 サハラ 砂漠の名。アフリカ洲にある世界最大の砂漠。Sahara の音譯。

【撒八兒】79 サンハチジ 寶の名。海中に生ず。〔西使記〕撒八兒出㆓西海中㆒、蓋瑇瑁之遺精、蛟魚食㆑之吐出、年深結成、價如㆑金、其假者、卽犀牛糞爲㆑之也。

【撒痲米】80 サンマベイ 花嫁が床に入る時、其の椅子に痲米をふりかける。夫の家に行つて福祿を得るまじなひ。〔桂海虞衡志〕凡嫁娶者、置㆓草火於門前㆒、候㆓新人轎㆒、及㆑門則燃㆓草火㆒、名曰㆓攛轎㆒、及㆓新人進㆑房、以㆓痲米㆒撒㆑之、名曰㆓撒痲米㆒、至㆑今以爲㆓故事㆒。

【撒蒙魚】81 sa^{1} mêng^{2} yü^{2} 鮭。英語 salmon の譯。

【撒老夫】82 sa^{1} lao^{3} fu^{1} 銀兩の良否を見分ける人。銀師（**11**－**40355**・・109）に同じ。

【撒離喝】83 サンリカツ 金、完顏杲（**3**－**7079**・・19）の本名。

【撒腿就跑】84 sa^{1} t'uei^{3} chiu^{4} p'ao^{3} 大股で逃げ出す。

【撒地尼亞】85 サルヂニア 島の名。地中海にあるイタ

リヤの屬島。Sardinia の音譯。

【撒土揚烟】86 sa² tʻu³ yang² yen¹ 土砂をまきちらす。

【撒馬兒罕】87 サマルカンド 露領中央亞細亞の州名。石油・石炭等諸種の鑛產に富む。漢代、罽賓國の地で、元代、帖木兒の古都。〔讀史方輿紀要、陝西、附考〕撒馬兒罕、至二肅州一九千里、至二京師一一萬四千六百二十里、東連二亦力把力一、西抵二哈烈一、相傳、漢罽賓國地、東西相距三千餘里、地勢寬衍、土田膏腴、元使三駙馬帖木兒王二其國一、明初洪武二十年、帖木兒遣レ使入貢、自レ是入貢不レ絕。

【撒滿天星】88 sa² man³ tʻien¹ hsing¹ 滿天、星をまく。滿天星(7－18099‥170)を見よ。

【撓】12698

㊀ ダウ ネウ 〔集韻〕女巧切 巧

㊁ ダウ ネウ 〔集韻〕女教切 效

㊂ カウ コウ 〔集韻〕呼高切 豪

㊃ ゼウ ネウ 〔集韻〕爾紹切 篠

㊄ ダウ ネウ 〔集韻〕尼交切 ㄋㄠˊ nao² 肴

㊅ ケウ 〔集韻〕馨幺切 蕭

㊆ ゼウ ネウ 〔集韻〕人要切 嘯

小篆（説文）

小篆（段注本）

㊀❶みだす。みだる。嬈(3－6734)に同じ。〔説文〕撓、擾也、从レ手堯聲、一曰、捄也。〔段注〕此與二女部嬈字一音義皆同。〔國語、吳語〕撓二亂百度一。〔注〕撓、擾也。❷或は摎(5－12564)に作る。〔集韻〕撓、或作レ摎。㊁❶みだす。かきみだす。みだる。〔廣雅、釋詁三〕撓、亂也。〔集韻〕撓、擾也。〔荀子、議兵〕以レ指撓レ沸。〔注〕撓、攪也。❷まげる。〔集韻〕撓、屈也。〔國語、晉語二〕抑二撓志一以從レ君。〔注〕撓、屈也。❸まがる。しなる。〔呂覽、知度〕枉辟邪撓之人退矣。〔注〕撓、曲也。❹たわむ。たゆむ。〔孟子、公孫丑上〕不二膚撓一、不二目逃一。〔集注〕撓、撓屈也。❺よわめる。よわまる。〔呂覽、高義〕若レ是則荊國終爲二天下一撓。〔注〕撓、弱也。〔呂覽、別類〕必將レ撓。〔注〕撓、弱曲也。❻へらす。〔周禮、考工記、輪人、注〕其弓畜則撓レ之。〔疏〕撓、亦減也。❼ちらす。〔韻會〕撓、通作レ橈、易、橈二萬物一者、莫レ疾二乎風一。❽或は鐃(11－40867)に作る。〔集韻〕撓、或作レ鐃。㊂❶みだす。〔集韻〕撓、擾也。〔漢書、鼂錯傳〕匈奴之衆易二撓亂一也。〔注〕師古曰、撓、攪也、火高反。❷あへる。やはらげる。〔漢書、匈奴傳〕以二徑路刀金留犁一撓レ酒。〔注〕應劭曰、撓、和也。㊃❶たわむ。たわめる。揉(5－12332)に同じ。〔集韻〕揉、屈也、或作レ撓。〔禮、學記、良弓之子必學レ爲レ箕、注〕撓二角幹一也。〔釋文〕撓、火高反、曲屈也。❷うごく。うごかす。〔莊子、天地〕手撓顧指。〔釋文〕撓、司馬云、動也。㊄❶かく。或は⿰扌肉(5－11974)に作る。〔集韻〕撓、抓也、或从レ肉。❷くじける。敗れる。〔正字通〕撓、行軍失レ期挫敗也、韓安國傳、逗撓常斬。㊅めぐる。撓挑。〔集韻〕撓、撓挑、宛轉也。㊆まとふ。まつはる。めぐる。繞(8－27909)に同じ。〔集韻〕繞、纏也、史記、苛察繳繞、或作レ撓。

【撓革】1 イタメガハ 牛皮を鐵槌で打ちかためて薄くしたもの。又、撓皮に作る。練革。〔林逸、郎用集、財寶部〕撓皮。

【撓曲】2 ダウキョク たわめまげる。〔韓非子、有度〕法不レ阿レ貴、繩不レ撓レ曲。

【撓屈】3 ダウクツ たわめかがめる。たゆむ。しりごみする。〔北史、節義、于什門傳〕與レ跋往復、聲氣厲然、初不二撓屈一。〔秦觀、任臣策〕不レ爲三利害之所二撓屈一者、所謂大節也。

【撓滑】4 ダウクワツ みだす。惑亂する。〔荀子、解蔽〕直將治二怪說一、玩二奇辭一、以相撓滑也。〔淮南子、泰族訓〕張儀蘇秦、云云、濁二亂天下一、撓二滑諸侯一。〔淮南子、俶眞訓〕禍福弗レ能二撓滑一、非譽弗レ能二塵垢一。

【撓溝】5 ダウコウ 地名。湖北省襄陽縣の北。又、鬧溝といふ。

【撓鉤】6 ダウコウ 熊手の類。尖頭の曲つた捕器の一種。

【撓辭】7 ダウジ 正しくない言葉。〔法言、重黎〕越興亢レ眉、終無二撓辭一。

【撓傷】8 nao² shang¹ かきやぶる。ひきかいて傷つける。

【撓情】9 ダウジヤウ 情をまげる。私心を用ひる。〔范曄、後漢書二十八將傳論〕直レ繩則虧二喪恩舊一、撓レ情則違二廢禁典一。〔注〕向曰、撓、曲也。

【撓弱】10 ダウジャク よわいこと。〔支那通史、唐學藝宗教〕甫曠放不二自檢一、好談二大事一、爲二歌詩一、傷二時撓弱一。

【撓酒】11 カウシユ 酒を和する。酒をかきまぜる。〔漢書、匈奴傳下〕以二徑路刀金留犁一撓レ酒。〔注〕應劭曰、撓、和也、契金著二酒中一、撓攪飲レ之。

【撓心】12 nao² hsin¹ 心を惱ます。心を亂す。

【撓撓】13 ダウダウ セウセウ うごくさま。又、うごかすさま。一說に、みだれるさま。〔莊子、在宥〕挈レ汝適、復二之撓撓一、以遊二無端一。〔注〕撓撓、自動也。〔集釋〕撓撓、亂也。

【撓擾】13′ ダウゼウ 苦しめ亂す。又、苦しみさわぐ。〔後漢書、仲長統傳〕撓二擾百姓一、忿二怒四夷一。〔申鑒、政體〕私使則民撓擾而無レ節、是謂レ傷レ義。

【撓折】14 ダウセツ たわめくじく。挫折させる。〔後漢書、袁紹傳〕撓二折棟梁一、孤二弱漢室一。

【撓節】15 ダウセツ 節操を曲げる。〔唐書、柳宗元傳贊〕叔文沾沾小人、竊二天下柄一、云云、宗元等撓レ節從レ之。

【撓直】15′ ダウチョク まつすぐなものをたわめ曲げる。〔荀悅、王商論〕撓レ直爲レ曲、剄レ方爲レ圓。

【撓挑】16 ケウテウ めぐる。めぐりまとふさま。〔集韻〕撓、撓挑、宛轉也。〔莊子、大宗師〕登レ天游レ霧、撓挑無レ極。〔釋文〕李云、撓挑、猶二宛轉一也、宛二轉玄曠之中一、簡文云、循環之名。

【撓頭】17 nao² tʻou² 困つたとき頭をかく。頭をなやます。

【撓破】18 nao² pʻo⁴ 爪で搔き破る。

【撓敗】19 ダウハイ くじけやぶれる。戰に敗れる。〔左氏、成、二〕畏二君之震一、師徒撓敗。〔北史、韋孝寬傳論〕河橋北芒、周師撓敗。

【撓法】20 ダウハウ 法をまげる。〔史記、酷吏、周陽由傳〕所レ愛者撓レ法活レ之、所レ憎者曲レ法誅二滅之一。〔唐書、王世充傳〕有二繫レ獄者一、皆撓レ法貨減、以樹二私恩一。

【撓伏】21 ダウフク くじき負かす。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕何以二其衆一而撓二伏之一也。

【撓沸】22 ダウフツ 沸騰したものをかきまぜる。〔荀子、議兵〕譬レ之若二以レ卵投レ石、以レ指撓レ沸。

【撓北】23 ダウホク みだれやぶれる。〔呂覽、忠廉〕若レ此人也、云云、將レ衆、則必不二撓北一矣。〔淮南子、兵略訓〕心疑則支體撓北。

【撓癢】24 nao² yang³ かゆい所をかく。

【撓戹】25 ダウヤク 危難をたわめまげる。〔曹植、曹休誄〕矯矯公侯、不レ撓二其戹一。

【撓亂】26 カウラン ダウラン みだす。みだる。攪亂。〔左氏、成、十三〕撓二亂我同盟一。〔注〕乃卯反、或作レ摎。〔國語、吳語〕撓二亂百度一。〔韓非子、說疑〕退則撓二亂百官一、而爲二禍難一。〔注〕撓、擾也。〔漢書、鼂錯傳〕匈奴之衆易二撓亂一也。〔注〕師古曰、撓、攪也、音火高反、其字從レ手。〔說苑、建本〕本絕則撓亂、猶二兎走一也。

【撓力河】27 ダウリョクカ 川の名。滿洲吉林省饒河縣。源は密山縣の西北奔松子嶺。烏蘇里江に注ぐ。

【撓手迎抓】28 nao² shou³ ying² chua¹ むやみやたらにつかむ。

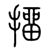
【㨨】12699

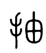
㊀チウ チユ 〔集韻〕丑鳩切 尤

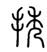
㊁チウ ヂユ 〔集韻〕陳留切 尤

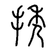
㊂リク ロク 〔集韻〕力竹切 屋

㊃リウ ル 〔集韻〕力救切 宥


小篆


或體


或體（說文）


或體（段注本）

㊀㊁❶ひく。〔說文〕㨨、引也、从ㇾ手畱聲。❷或は抽(5－11930)・⿰扌秀(5－12162)に作る。〔集韻〕㨨、或从ㇾ由、从ㇾ秀。㊂ひく。〔集韻〕㨨、引也。㊃平かにする。垣に土をかぶせる。〔集韻〕㨨、築ㇾ牆布ㇾ土也。

【㨨土】1 ドチウ 牆を築き土をかぶせて平かにする。〔集韻〕㨨、築ㇾ牆布ㇾ土也。〔詩、小雅、斯干、椓ㇾ之橐橐、箋〕椓、謂㆓㨨土㆒也。〔疏〕㨨者、以ㇾ手平ㇾ物之名。

【撔】12700

カウ ギヤウ 〔集韻〕胡猛切 梗

❶みたす。ひろげる。〔集韻〕撔、撗也。❷はかる。〔字彙〕撔、揣也。

【⿰扌項】12701

カウ 〔集韻〕虎項切 講

になふ。かつぐ。或は扛(5－11798)に作り、通じて傋(1－946)に作る。〔集韻〕⿰扌項、山東謂㆓擔荷㆒曰ㇾ⿰扌項、或作ㇾ扛、通作ㇾ傋。

【⿰扌就】12702

㊀シウ シユ 〔集韻〕卽就切 宥

㊁シユク 〔集韻〕就六切 屋

㊀とる。〔集韻〕⿰扌就、攬也。㊁はげしくうつ。〔集韻〕⿰扌就、極擊也。

【⿰扌畫】12703

㊀クワク ワク 〔集韻〕胡麥切 陌

㊁クワク 〔集韻〕忽麥切 陌

㊂サク シヤク 〔集韻〕砉擱切 陌

㊀心を打つ。むねうつ。〔集韻〕⿰扌畫、擗也。㊁さく。さける。掝(5－12269)に同じ。〔集韻〕掝、裂也、或从ㇾ畫。㊂もののさけるおと。〔集韻〕⿰扌畫、裂聲。

【⿰扌窘】12704

ギン 〔集韻〕牛尹切 軫

❶つかねる。たばねる。〔集韻〕⿰扌窘、束也。❷捃(5－12125)の俗字。〔正字通〕⿰扌窘、俗捃字。

【撕】12705

㊀セイ サイ 〔集韻〕先齊切 齊

㊁シ 〔集韻〕相支切 支 ム ssŭ^1

㊀いましめさとす。〔集韻〕撕、提撕也。〔正字通〕撕、提撕、警覺也。㊁さく。はなす。斯(5－13563)に同じ。〔集韻〕斯、說文、析也、或从ㇾ手。〔正字通〕撕、離也。

【撕開】1 ssŭ^1 k'ai^1 引き裂く。やぶる。

【撕毀】2 ssŭ^1 huei^3 引き裂く。やぶる。

【撕破】3 ssŭ^1 p'o^4 引き裂く。ひきやぶる。

【撕票】4 ssŭ^1 p'iao^4 人質を殺す。

【撕羅】5 ssŭ^1 luo とりさばく。始末する。〔紅樓夢、九回〕還不快些作個主意、撕羅開了罷。〔紅樓夢、十二回〕然後撕羅賈蓉。

【撕攞】6 ssŭ^1 luo^2 仕末する。處置する。

【撕邏】7 ssŭ^1 luo とりさばく。撕羅に同じ。

【撕捋】8 ssŭ^1 luo 撕攞に同じ。

【撕爛】9 ssŭ^1 lan^4 めちやめちやに裂ける。

【撕掠】10 ssŭ^1 lüeh^4 引き抓く。もつれさす。

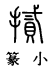
【撕擄】11 ssŭ^1 lu 事を纏める。處置する。〔紅樓夢、九十七回〕一面這裏過門、一面給他變法兒撕擄官事。

【撕撕拉拉】12 ssŭ^1 ssŭ^1 la^1 la^1 絶えず。始終。

【⿰扌貳】12706

㊀チ ヂ 〔集韻〕直利切 寘

㊁ジ ニ 〔集韻〕而至切 寘


小篆

㊀㊁あたる。〔說文〕⿰扌貳、當也、从ㇾ手貳聲。〔集韻〕⿰扌貳、相當也。

【⿰扌啻】12707

㊀チ 〔集韻〕陟利切 寘

㊁シ 〔集韻〕施智切 寘

㊂テキ

㊀すてる。〔集韻〕⿰扌啻、棄也。㊁とる。揓(5－12348)に同じ。〔集韻〕揓、把也、或作ㇾ⿰扌啻。㊂つむ。摘(5－12582)に同じ。〔正字通〕⿰扌啻、同ㇾ摘。

【⿰扌畢】12708

ヒツ ヒチ 〔集韻〕逼密切 質

さす。⿰扌必(5－11964)に同じ。〔廣韻〕⿰扌畢、方言、刺也、亦作ㇾ⿰扌必。〔集韻〕⿰扌畢、刺也。

【撖】12709

㊀カン ケン 〔集韻〕口減切 豏

㊁カン コン 〔集韻〕枯含切 覃

㊀❶かける。〔玉篇〕撖、挂也。❷あやふい。〔玉篇〕撖、一曰、危也。㊁❶かける。〔廣韻〕撖、挂也。❷姓。〔集韻〕撖、姓也。

【撖君錫】1 カンクンセキ 明、絳縣の人。字は賓王。崇禎中、荊州府訓導となる。李自成の兵が至るや、明倫堂に端坐し、賊を罵つて死んだ。

【撖大經】2 カンタイケイ 明、廣宗の人。字は守道。李東陽に海內の人豪と稱された。平生著述に努む。

【撗】12710

㊀クワウ 〔集韻〕古曠切 漾

㊁クワク 〔正字通〕讀若ㇾ郭。

㊂クワウ ワウ 〔集韻〕胡光切 陽

㊀㊁みちる。みたす。或は擴(5－12825)に作り、通じて横(6－15594)に作る。〔集韻〕撗、充也、或从ㇾ廣、通作ㇾ横。〔正字通〕撗、音義同ㇾ擴、集韻、撗、改㆓古曠切㆒、非。㊂草の名。撗目。或は横(6－15594)に作る。〔集韻〕撗、艸名、爾雅、傅撗目、一名、蔞艸、或从ㇾ木。〔爾雅、釋草〕傅、撗目。〔注〕一名、結縷、俗呼㆓鼓箏草㆒。

【搭】12711

タフ トフ 〔廣韻〕都合切 合

❶打つ。〔廣韻〕搭、打也、出㆓音譜㆒。❷搭(5－12508)に同じ。〔正字通〕搭、同ㇾ搭、分㆓搭搭㆒爲㆓二㆒、誤。

参考 熟語は搭(5－12508)を見よ。

【撙】12712 ソン 〔集韻〕祖本切 ㄗㄨㄣˇ 阮 tsuen^3

❶**おさへる**。ふみつける。〔集韻〕撙、挫也、禮、恭敬撙節。〔增韻〕撙、裁抑也。〔荀子、儒效〕以相薦撙。〔注〕撙、抑、皆謂㆓相陵駕㆒也。❷**つつましくする**。制限。節約。〔管子、五輔〕整齊撙詘、以辟㆓刑僇㆒。〔注〕撙、節也。❸**へりくだる**。卑屈。僔(**1－1093**)に通ず。〔荀子、仲尼、恭敬而僔、注〕僔、與㆑撙同、卑退也。❹**おもむく**。〔禮、曲禮上〕是以君子、恭敬撙㆑節。〔注〕撙、猶㆑趨也。〔疏〕言㆔恒趨㆓於法度㆒。❺**あつまる**。譐(**10－35959**)・蹲(**10－37874**)・墫(**3－5472**)・蕁(**9－32007**)に通ず。〔正字通〕撙、僔僔・譐譐・蹲蹲・墫墫・蕁蕁、皆撙撙之聲也、云云、言㆓衆多㆒、皆上聲、音義並同。❻劕(**2－2179**)に通ず。〔正字通〕撙、通作㆑劕、說文、劕、減也。❼繜(**8－27906**)に通ず。〔荀子、不苟、不㆑能則恭敬繜絀以畏㆓事人㆒、注〕繜、與㆑撙同。❽現㋑制限する。㋺儉約する。㋩くじく。

【撙銜】1 ソンガン くつわをおさへる。〔戰國、秦策〕伏㆑軾撙㆑銜、橫㆓歷天下㆒。〔注〕撙、挫也、猶㆑頓、銜、勒也。〔漢書、王吉傳〕馮㆑式撙㆑銜、馳騁不㆑止。〔注〕臣瓚曰、撙、捉也、師古曰、撙、挫也。〔王先謙補注〕銜、馬勒也。

【撙詘】2 ソンクツ 節制してへりくだる。謙遜する。〔管子、五輔〕整齊撙詘、以辟㆓刑僇㆒。〔注〕撙、節也、言㆓自節而卑屈㆒也。〔纂詁〕撙、挹損也、詘、貶下也。

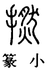
【撙辱】3 ソンジョク 挫かれ辱しめられる。〔說苑、指武〕撙辱不㆑行。

【撙省】4 tsuen^2 shêng^3 きりつめる。節約する。儉約する。

【撙節】5 ソンセツ ❶法度におもむき從ふ。一說に、抑制する。〔廣韻〕撙、挫趨、禮曰、恭敬撙節、鄭玄云、撙、猶㆑趨也。〔禮、曲禮上〕君子恭敬撙㆑節、退讓以明㆑禮。〔注〕撙、猶㆑趨也。〔疏〕撙者趨也、節、法度也、言㆔恒趨㆓於法度㆒也。〔孫希旦集解〕荀子不㆑恤㆓是非然不然之情㆒、以相薦撙、楊倞注、撙、抑也、漢書王吉傳、伏㆑軾撙㆑銜、臣瓚曰、撙、促也、云云、鄭氏訓爲㆑趨、當㆔讀爲㆓趨數煩志之趨㆒、疏以㆓趨向之義㆒解㆑之、非矣、有㆑所㆑抑而不㆓敢肆㆒、謂㆓之撙㆒、有㆑所㆑制而不㆓敢過㆒、謂㆓之節㆒。〔說苑、君道〕撙節安靜以藉㆑之。❷tsuen^3 chieh^2 ㋑節約する。きりつめる。㋺謙遜する。

【撙撙】6 ソンソン 聚まるさま。又、衆いさま。字解の❺を見よ。〔揚雄、甘泉賦〕齊總總以撙撙。〔注〕善曰、總總撙撙、束聚貌也、銑曰、總總蕁蕁、攢聚貌。

【撚】12713 デン ネン 〔集韻〕乃殄切 ㄋㄧㄢˇ 銑 nien^3


小篆

❶**とる**。とらへもつ。〔說文〕撚、執也、从㆑手然聲。〔段注〕執者、捕㆓罪人㆒也、引申爲㆓凡持取之偁㆒。〔廣韻〕撚、以㆑手撚㆑物也。❷**ひねる**。捻(**5－12222**)に通ず。〔新方言、釋言〕引㆑緜作㆑線、揉㆑紙使㆑緊曰㆑撚。〔清史稿、曾國藩傳〕捻匪者、云云、捻㆑紙然㆑脂、故謂㆓之捻㆒。〔朱孔彰、曾文正公別傳〕撚匪者、云云、撚㆑紙然㆑脂、故謂㆓之撚㆒。〔王士熙、柳枝詞〕駐㆓向山前㆒折㆓楊柳㆒、戲撚㆓柔條㆒作㆑笛吹。❸**もむ**。こねる。〔說文〕撚、一曰、蹂也。〔說文通訓定聲〕當㆑作㆓煣也㆒、煣卽今揉字。〔一切經音義、十四〕撚髭、通俗文、手捏曰㆑撚。〔楊萬里、觀㆑雪詩〕倩誰細撚成㆓湯餠㆒、換卻人間烟火腸。❹**よる**。〔廣韻〕撚、以㆑指撚㆑物也。〔楊萬里、春草詩〕年年春色屬㆓垂楊㆒、金撚千絲翠萬行。❺**しばる**。〔一切經音義、十四〕撚、又聲類云、緊也。❻**つづける**。緜(**8－27875**)に通ず。〔說文通訓定聲〕撚、叚借爲㆑緜。〔方言、一〕撚、續也。❼**ふみにじる**。〔集韻〕撚、一曰、蹂也。〔淮南子、兵略訓〕先後不㆓相撚㆒、左右不㆓相干㆒。〔注〕撚、揉蹈也。❽**したがふ**。〔逸周書、大武解〕後動撚㆑之。〔注〕撚、從也。❾**琵琶の手法**。右手の撥でならす。〔樂府雜錄〕綱善㆓運撥㆒、興奴長㆓於攏撚㆒、時人謂、綱有㆓左手㆒、興有㆓右手㆒。〔白居易、琵琶行〕輕攏慢撚撥復挑。❿或は捵(**5－12214**)に作る。〔集韻〕撚、或从㆑典。邦**より**。縒ること。又、縒りあはせたもの。こよりの類。

【撚金】1 nien^3 chin^1 金を用ひて物に飾を施す法。銷金(**11－40424**・・22)の❷を見よ。

【撚酸】2 nien^3 suan^4 嫉妬。〔還魂記、圍釋〕便是番使南朝而回、你卻也忒撚酸。

【撚子】3 ヨリゴ こより。撚紙(5)に同じ。

【撚支】4 ネンシ 香草の名。橪子。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕搴㆓薜荔於山野㆒兮、采㆓撚支於中洲㆒。〔注〕撚支、香草也。〔補注〕撚、音煙、相如賦云、枇杷橪柹、其字從㆑木、郭璞云、橪支、木也。

【撚紙】5 ネンシ ❶紙をひねる。〔朱孔彰、曾文正公別傳〕其黨明火劫㆑人、撚㆑紙然㆑脂、故謂㆓之撚㆒。❷かみより。こより。くわんじんより。くわんぜより。捻紙。紙縷。撚子。

【撚絲】6 ヨリイト 絹絲に撚りをかける。又、撚りを掛けた絲。縒絲。

【撚鬚】7 ネンシュ ひげをひねる。〔蘇軾、和㆓柳子玉喜㆑雪次韻仍呈㆓述古㆒詩〕燈青火冷不㆑成㆑眠、一夜撚㆑鬚吟㆓喜雪㆒。

【撚錢】8 ネンセン 錢を回轉させる。錢まはし。撚錢戲を見よ。

【撚錢戲】9 ネンセンノギ 錢を回轉させる遊戲。〔避暑漫抄〕光獻曹后在㆓父母家㆒時、與㆓羣女㆒爲㆓撚錢之戲㆒、而后一錢輒獨旋㆓轉盤中㆒、凡三日方止。

【撚斷】10 ネンダン ひねりきる。よりきる。〔盧廷讓、苦吟詩〕吟成一箇字、撚斷數莖鬚。〔孫覿、能仁寺悟上人詩〕撚㆓斷吟鬚㆒皺㆓兩眉㆒、鏤㆑冰琢㆑雪等㆓兒嬉㆒。

【撚匪】11 ネンピ 清の嘉慶年間、山東・江蘇・安徽三省の境界の鄕民が迎神賽會をするのに、油紙の撚つたものを燃して龍戲をする風習があり、咸豐年間に至り、之等の者が黨を結んで北部數省を擾掠した。之を撚匪といふ。革命的色彩はないが、太平天國の亂が起ると共に猖獗を極めた。後、曾國藩に討平されて東西に分裂し、同治六年に至つて全く鎭定した。捻匪(**5－12222**・・13)・捻子(**5－12222**・・5)に同じ。〔朱孔彰、曾文正公別傳〕撚匪者、始㆓於山東㆒游民相聚、其後河南之光固、安徽之潁亳、江蘇之淮徐、羣盜剽略、脅從愈衆、諺名爲㆑撚、或曰、其黨明火劫㆑人、撚㆑紙然㆑脂、故謂㆓之撚㆒、有㆓衆數十萬馬數萬㆒、蹂㆓躪數千里㆒、分合不㆑常。

【撚毛】12 nien^3 mao^2 毛氈を作る。

【撚抹】13 ネンマツ ひねりなでる。琵琶・琴などの彈じ方をいふ。〔葛長庚、琵琶行〕手撫㆓琵琶㆒意嗚咽、挑攏撚抹緩復急。〔葛長庚、琴樂序〕忽忽撚抹、其韻虛豁、如㆘在㆓池亭㆒蓮花燦發㆖。

【撚綿軸】14 ハズ 綿から絲をつむぐに用ひる一種の機械。〔和漢三才圖會、女工具、撚綿軸〕三才圖會云、撚綿軸、其制作㆓小碣㆒、或木或石上、插㆓細軸㆒、長可㆓尺計㆒、先用㆓叉頭㆒、挂㆑綿左手執㆑叉、右手綿上㆑軸懸㆑之、撚作㆓綿絲㆒、就纏㆓軸上㆒、旣爲㆓細縷㆒、閨婦室女用㆑之、可㆑代㆓績紡之工㆒。

【撚乾手巾】15 nien^3 kan^1 shou^3 chin^1 手拭を絞り乾かす。

【撚酸弄醋】16 nien^3 suan^4 nung^4 ts'u^4 嫉妬する。

【撛】12714 ㊀リン 〔集韻〕里忍切 軫 ㊁リン 〔集韻〕良刃切 震

㊀㊁❶**たすける**。〔集韻〕撛、扶也。❷**ぬく**。〔集韻〕撛、挺也。

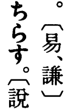
【撜】
12715

一シヨウ〔集韻〕蒸上之聲　迥
二シヨウ ジヨウ〔集韻〕常證切　徑
三シヨウ〔集韻〕書蒸切　蒸
四タウ チヤウ〔集韻〕除庚切　庚

一二三**すくふ**。すくひあげる。拼(**5－11879**)に同じ。〔集韻〕拼、說文、上擧也、或作レ撜。〔集韻〕拼、上擧也、或从レ登。〔淮南子、齊俗訓〕子路撜レ溺。〔注〕撜、擧也。四**ふれる**。彀(**6－16687**)に同じ。〔集韻〕彀、博雅、揬也、或从レ登。〔韓愈・劉師服・侯喜・軒轅彌明、石鼎聯句〕全勝二瑚璉貴一、空有二口傳名一、豈此俎豆古、不レ爲二手所一レ撜。

【撝】
12716

一キ〔集韻〕吁爲切　支　ㄏㄨㄟ huei¹
二ヰ〔集韻〕于嬀切　支
三ヰ〔集韻〕羽委切　紙


小篆

一❶**さく**。はなす。〔說文〕撝、裂也、从レ手爲聲。〔易、謙〕撝レ謙。〔馬注〕撝、猶レ離也。❷**ちらす**。〔說文、撝、段注〕易、撝レ謙、馬曰、撝、猶レ離也、按、撝レ謙者、溥二散其謙一、無二所レ往而不一レ用レ謙、裂義之引申也。❸**へりくだる**。謙遜。〔易、謙〕撝謙。〔王注〕指・撝、皆謙也。❹**あげる**。ふるふ。揮(**5－12394**)に通ず。〔說文通訓定聲〕撝、段借爲レ揮。〔說文〕撝、一曰、手指撝也。〔易、謙〕撝レ謙。〔荀注〕撝、猶レ擧也。❺**さす**。**さしまねく**。摩(**5－13025**)・麾(**12－47899**)に通ず。〔說文通訓定聲〕撝、段借爲レ摩。〔集韻〕撝、一曰、手指也。〔公羊、宣、十二〕莊王親自手レ旌、左右撝レ軍、退舍七里。〔淮南子、覽冥訓〕瞋レ目而撝レ之。〔班固、典引〕敦二奮撝之容一。〔注〕善曰、撝、與レ麾音義同。二**たすける**。〔集韻〕撝、佐也。〔太玄經、玄數〕事貌用レ恭撝レ肅。〔注〕撝、猶レ佐也。三**さく**。一の❶に同じ。〔集韻〕撝、裂也。

【撝挹】1（キイフ）へりくだりしりぞく。挹は、おさへる・しりぞく。謙挹。撝謙。〔王儉、褚淵碑文〕功成弗レ有、固秉二撝挹一。〔舊唐書、岑文本傳〕文本自以、出レ自二書生一、每懷二撝挹一、平生故人、雖二微賤一、必與レ之抗禮。

【撝軍】2（キグン）軍隊をさしまねく。〔公羊、宣、十二〕莊王親自手レ旌、左右撝レ軍、退舍七里。

【撝謙】3（キケン）❶へりくだる。手を擧げて謙意を表はすをいふ。一說に、謙を施し布く。撝は施。又、能く其の謙を發揮する。〔易、謙〕六四、无レ不レ利、撝謙。〔王注〕指・撝、皆謙也。〔程傳〕撝、施布之象、如二人手之撝一也、動息進退、必施二其謙一。〔本義〕故戒以四更當三發二揮其謙一。〔白居易、敍レ德書レ情四十韻上二宜歙崔中丞一詩〕撝謙驚二主寵一。❷字號。㋑明、趙謙(**10－37171**‥149)の字。㋺中野撝謙の號。中野撝謙(**1－73**‥786)を見よ。

【撝讓】4（キジヤウ）へりくだりゆづる。〔南史、謝朓傳〕撝讓之美、本出二人情一、今豈可二三署皆讓一邪。

【撝叔】5（キシユク）淸、趙之謙(**10－37171**‥609)の字。

【撝遜】6（キソン）へりくだる。謙遜。〔唐書、姜晈傳〕每所二撝遜一、造膝匪躬、擧多二規益一。

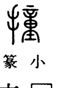
【撝奪】7（キダツ）さきうばふ。〔晏子、重而異者〕賦斂如二撝奪一。

【撝約】8（キヤク）淸、孔廣森(**3－6933**‥278)の字。

【撝戈反日】9（キクワハンジツ）戈を揮って日をよびもどしたといふ魯の陽公の故事。〔淮南子、覽冥〕魯陽公與レ韓搆レ難、戰酣日暮、援レ戈而撝レ之、日爲レ之反二三舍一。

【撞】
12717

一タウ ダウ〔集韻〕傳江切　江　ㄓㄨㄤ chuang⁴　ㄔㄨㄤ ch'uang²
二タウ ダウ〔集韻〕丈降切　絳
慣シユ


小篆

一二❶**つく**。㋑はやくうつ。〔說文〕撞、卂擣也、从レ手童聲。㋺つきならす。たたく。つくこととうつこと。〔廣韻〕撞、撞突也、學記曰、善待レ問者、如レ撞レ鐘、撞、擊也。〔集韻〕撞、撞擊也。〔禮、學記〕善待レ問者、如レ撞レ鐘。〔注〕撞、猶レ擊也。〔張衡、東京賦〕撞二洪鐘一。〔注〕綜曰、撞、鏗也。㋩つきさす。〔廣雅、釋詁一〕撞、刺也。〔戰國、秦策〕迫則杖戟相撞。〔注〕撞、刺也。㋥つきすすむ。突進する。〔漢書、樊噲傳〕噲直撞入、立二帳下一。㋭つきあたる。〔正字通〕撞、撞突。㋬うすづく。〔山堂肆考〕以レ杵撞レ地而成。❷揰(**5－12400**)に同じ。〔說文通訓定聲〕撞、字亦作レ揰。❸現㋑騙る。㋺出遇ふ。

【撞磕】1（タウガイ）つきあたる。衝突する。磕は、石などの相擊つ聲。〔紅樓夢、二十五回〕再無二驚恐邪祟撞客之災一。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕或有二金刄磁鋒等物一、撞磕成レ傷。

【撞嚇】2（タウカク）おどしてとる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕至下糾レ衆公擧匿レ名揭告、謀代調停、撞中嚇大錢上。

【撞額】3 chuang⁴ ê² 額をあつめて祕密話をする。

【撞歸】4 chuang⁴ kuei¹ 珠算除法見一の法。

【撞球】5（ドウキウ）遊戲の一。たまつき。

【撞遇】6（トウグウ）偶然に會ふ。突然に遇ふ。つきあたる。〔福惠全書、刑名部、人命上、審鞫〕偶然撞遇、一時忿起。

【撞壞】7（タウクワイ）うちこはす。つきやぶる。〔晉書、陸納傳〕好家居二纖兒一、欲三撞二壞之一邪。

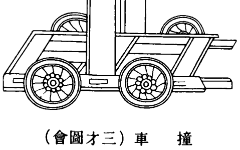
【撞擊】8（タウゲキ）つくこととうつこと。〔墨子、非樂上〕鍾猶二是延鼎一也、弗二撞擊一、將何樂得焉哉。〔吳志、吾粲傳〕以二戈矛一撞擊。

【撞見】9 chuang⁴ chien⁴ 出遇ふ。不意に遇ふ。〔桃花扇、沈江〕適纔撞見史閣部老爺、投江而死。

【撞鼓】10（タウコ）鼓をつきならす。撞鐘(15)を見よ。

【撞事】11 chuang⁴ shih⁴ 事が行き違ふ。又、不正な事。

【撞車】12（タウシヤ）❶守城具の名。車上に鐵で覆うた撞木を設け、横木に吊して、先端を各方に向はしめるに便にしたもの。飛梯をつき碎くに用ひる。〔三才圖會、器用五、撞車圖說〕撞車、上設二撞木一、以二鐵葉一裹二其首一、逐レ便移徙、伺二飛梯臨一レ城、則撞レ之。❷chuang⁴ ch'ê¹ 車又は汽車の衝突。


撞車（三才圖會）

【撞城】13（タウジヤウ）城をつき破る。〔後漢書、天文志上〕或爲二衝車一以撞レ城。

【撞衝】14（タウシヨウ）つくこと。衝撞(**10－34069**‥45)に同じ。

【撞鐘】15（タウシヨウ）かねをつく。〔禮、學記〕善待レ問者、如レ撞レ鐘。〔論衡、順鼓〕古者人君將レ出、撞レ鐘撞レ鼓。

【撞レ鐘舞レ女】15′（カネヲツキジヨヲマハシム）欲を恣にし、贅澤に耽ること。〔左氏、昭、二十〕撞レ鐘舞レ女。〔韓非子、說疑〕爲二人主一者、誠明二於臣之所一レ言、則雖二單戈馳騁、撞レ鐘舞一レ女、國猶且存也。

【撞席】16（タウセキ）酒の席などへ押し掛ける。招かれずして行くこと。〔通俗編、飲食、撞席〕見二王子一、悞入桃源曲一。

【撞捽】17（タウソツ）つきふれる。うちあたる。〔韓愈、贈二別元十八協律一詩〕峽山逢二颶風一、雷電助二撞捽一。

【撞倒】18 chuang⁴ tao³ 突き倒す。

【撞搪】19（タウタウ）つきあたること。搪は、うつ。つく。〔韓愈、送二鄭尙書一序〕撞搪呼號、以相和應。

【撞撞】20（タウタウ）物をつき擊つさま。〔季益、登二天

壇一夜見二海日一詩〕僊鐘撞撞迎二海日一、海中離離三山出。

【撞擣】21（タウタウ） つきうつ。〔顏氏家訓、勉學〕此謂四撞二擣挺三挏之一。

【撞蹋】22（タウタフ） つきふむ。〔後漢書、宦者、曹節傳〕撞二蹋省闥一、執二奪璽綬一。

【撞地】23（タウチ） 地をつき固める。〔山堂肆考〕以レ杵「撞レ地而成。

【撞挃】24（タウチツ） ㊀つくこと。〔釋名、釋兵〕殳矛、殳、殊也、長丈二尺而無レ刃、有レ所二撞挃一于二車上一使二殊離一也。㊁chuang⁴ chih² 線を交叉して指を貫ぬく。

【撞著】25（タウチヤク） ㊀あとさきが揃はない。つじつまが合はない。矛盾。著は助辭。〔禪林類聚、看經門〕回レ頭撞著自家底。㊁chuang⁴ chao² つきあたる。

【撞沈】26 chuang⁴ ch'ên² 衝突して沈める。

【撞跌】27 chuang⁴ tieh² つきたふす。

【撞挏】28（タウトウ） つきうごかす。挏は、おす、ひく。〔漢書、禮樂志、給二大官挏馬酒一注〕李奇曰、以二馬乳一爲レ酒、撞挏乃成也。

【撞頭】29（タウトウ） 頭をぶちあてる。突き當る。〔通俗編、身體、撞頭搕腦〕葉水心集、修路疏、南來北往、何憂二帶レ水拖レ泥、朝去暮歸、不レ到二撞頭搕腦一。

【撞突】30（タウトツ） つきあたる。衝突。〔正字通〕撞、撞突。〔王起、任公子釣魚賦〕若乃飛二鸞刀一以撞突。

【撞入】31（タウニフ） 勢つよくつきいる。突入。〔史記、樊噲傳〕營衞止レ噲、噲直撞入、立二帳下一。

【撞破】32（タウハ） つきやぶる。〔史記、項羽紀〕援レ劍撞而破レ之。〔北史、鮮于世榮傳〕及二周武帝入レ代、送二瑪瑙酒鍾一與レ之、得レ便二撞破一。

【撞碰】33 chuang⁴ p'êng⁴ 突き當る。衝突する。

【撞抋】34（タウヒツ） つきうつ。つきたふす。〔張衡、西京賦〕徒搏之所二撞抋一。〔注〕綜曰、撞抋、猶二揘畢一也、濟曰、撞抋、謂二撞而抋倒一。

【撞騙】35 chuang⁴ p'ien⁴ かたる。詐欺。

【撞木】36（シユモク） 鐘を鳴らすに用ひる丁字形のつち。〔文獻通考、樂考、木之屬〕撞木、古者撞レ鐘擊レ磬、必以二濡木一、以二上兩堅不レ能二相和一故也。

【撞木鞘】37（シユモクザヤ） 槍の鞘を撞木の如く丁字形に作つたもの。

【撞木鐘】38 chuang⁴ mu⁴ chung¹ ㊀官府の事にかこつけて富者に向つて金を求めること。㊁問うても答へない。反響がない。

【撞翻】39 chuang⁴ fan¹ 衝突してひつくりかへす。

【撞門】40（タウモン） 門をたたく。撞門紅を見よ。〔六部成語、刑部、撞門、注解〕打レ門也。

【撞門紅】41 chuang⁴ mên² hung² 通門の際に門番に與へる心付。〔還魂記、鬧喜〕明朝金闕、討你幅撞門紅去了也。

【撞門子】42 chuang⁴ mên¹ tzŭ 用事もなく訪問する。串門子。

【撞門酒】43（タウモンシユ） 結婚の時、婚家へ持つてゆく酒。〔文昌雜錄、一〕禮部王員外言、昔見二朝議大夫李冠卿一說、揚州所レ居堂前杏一窠極大、花多而不レ實、適有二一媒姥一見レ如レ此、笑謂二家人一曰、來春與二嫁了此杏一、冬深、忽攜二酒一樽一來、云、是婚家撞門酒、索二處子裙一腰一繫二杏上一、已而奠レ酒辭祝再三、家人莫レ不レ笑レ之、至二來春一、此杏結レ子無數。

【撞郎】44（タウラウ） 郎を撞つ。臣下を杖でむちうつこと。後漢の明帝が事を以て怒り、郎藥崧を杖で撞いた故事。〔後漢書、鍾離意傳〕帝性褊察、云云、以レ事怒二郎藥崧一、以レ杖撞レ之、云云、崧曰、天子穆穆、諸侯煌煌、未レ聞二人君自起撞一レ郎、帝赦レ之。〔盧照鄰、哭二金部韋郎中一詩〕徒令二永平帝、千載罷一レ撞レ郎。

【撞釘子】45 chuang⁴ ting¹ tzŭ 當るを幸ひ。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇〕我撞釘子、把賊兵來探。

【撞命郎】46（タウメイラウ） 宋代、夏國で漢人の勇者を前軍としたもの。〔稱謂錄、勇、撞命郎〕宋史夏國傳、得二漢人勇者一爲二前軍一、號曰二撞命郎一。

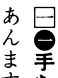
【⿰扌款】12718

クワン 〔集韻〕苦緩切 旱

とらへる。〔集韻〕⿰扌款、捉也。

【撟】12719

〘一〙ケウ 〔集韻〕擧夭切 ㄐㄧㄠ chiao³ 篠
〘二〙ケウ 〔集韻〕居妖切 蕭
〘三〙ケウ 〔集韻〕嬌廟切 嘯
〘四〙カウ コウ 〔集韻〕苦浩切 皓


小篆

〘一〙㊀**手をあげる**。せのびをする。あんまする。〔說文〕撟、擧レ手也、从レ手喬聲。〔段注〕引二申之一、凡擧皆曰レ撟、古多叚レ矯爲レ之。〔爾雅、釋獸〕人曰レ撟。〔集韻〕撟、夭撟、頻伸皃。〔史記、扁鵲傳〕鑱石撟引。〔注〕索隱曰、撟、謂下爲二按摩之法一、夭撟引レ身、如中熊顧鳥伸上也。㊁**あげる**。喬(2-3990)に通ず。〔說文通訓定聲〕撟、叚借爲レ喬。㋑上に向ける。〔漢書、揚雄傳上〕仰撟レ首以高視兮。〔注〕師古曰、撟、擧也。㋺こぞる。〔晏子、問、下〕撟二魯國一化而爲二一心一。〔注〕撟、猶レ擧也。㊂**ためる。たわめる**。矯(8-24015)に通ず。〔說文通訓定聲〕撟、叚借爲レ矯。〔集韻〕撟、撓曲也。〔周禮、考工記、弓人〕撟レ幹欲下孰二于火一而無キ嬴、撟レ角欲下孰二于火一而無キ燂。〔楚辭、九章、惜誦〕擣二木蘭一以撟レ蕙兮。〔注〕撟、猶レ揉也。㊃**まげる**。かがめる。〔荀子、臣道〕彊レ君撟レ君。〔注〕撟、與レ矯同、屈也。㊄**ただす**。〔倉頡篇〕撟、正也。〔漢書、燕剌王旦傳〕撟レ邪防レ非。〔注〕師古曰、撟、正也。㊅**かこつける**。〔漢書、高五王傳〕撟レ制以令二天下一。〔注〕師古曰、託二天子制詔一也。㊆**いつはる**。〔周禮、秋官、士師〕五曰、撟二邦令一。〔疏〕撟、卽詐也。〔漢書、武帝紀〕撟虔吏。〔注〕韋昭曰、凡稱レ詐爲レ矯、云云、師古曰、撟、與レ矯同、其字從レ手、矯託也。㊇**ほしいまま。もつぱら**。〔說文〕撟、一曰、擅也。〔集韻〕撟、一曰、擅也。〔楚辭、遠遊〕意恣睢以担撟。〔集注〕担撟、軒擧也。㊈**つよいさま**。あがるさま。〔荀子、臣道〕撟然剛折端志。〔注〕撟、彊貌。㊉通じて矯(8-24015)に作る。〔集韻〕撟、通作レ矯。

〘二〙㊀**手をあげる**。〔集韻〕撟、一曰、擧レ手也。㊁**あがる**。〔史記、扁鵲傳〕舌撟然而不レ下。〔注〕索隱曰、撟、擧也。㊂**えらぶ**。〔方言、二〕撟捎、選也、自レ關而西、秦晉之閒、凡取二物之上一、謂二之撟捎一。〔廣雅、釋詁一〕撟、擇也。〔集韻〕撟、一曰、選也。㊃**とる**。〔廣雅、釋詁一〕撟、取也。〔淮南子、要略〕覽取撟掇。〔注〕撟、取也。〘三〙㊀**あがる**。〘二〙の㊁に同じ。㊁**かすめる**。〔集韻〕撟、撟抄、略取。〘四〙**たわめる**。まげる。〔集韻〕撟、以レ火曲レ物也、周禮、撟レ幹欲下孰二于火一而無キ嬴、劉昌宗說。

【撟引】1（ケウイン） 道家導引の術。身體を按摩屈伸して強壯にすること。〔史記、扁鵲傳〕治レ病不レ以二湯液醴灑、鑱石撟引、案杌毒熨一。〔注〕索隱曰、撟、音九兆反、謂下爲二按摩之法一、夭撟引レ身、如中熊顧鳥伸上也。

【撟角】2（ケウカク） 角をためる。〔周禮、考工記、弓人〕撟レ幹欲下孰二於火一而無キ嬴、撟レ角欲下孰二于火一而無キ燂。

【撟幹】3（ケウカン） 木の幹をためる。撟角を見よ。

【撟君】4（ケウクン） 君を屈服させる。君の行をためる。〔荀子、臣道〕率二羣臣百吏一而相與彊レ君撟レ君。〔注〕撟、與レ矯同、屈也。

【撟撟】6（ケウケウ） 武勇のさま。〔漢平都相蔣君碑〕光光撟撟。

【撟虔】7（ケウケン） 矯虔(8-24015··16)を見よ。

【撟言】8（ケウゲン） 曲つて道理に合はない言葉。〔呂覽、離謂〕聽レ言而意不レ可レ知、其與二撟言一無レ擇。〔注〕撟、戾也。

【撟捎】9 ケウサウ えらぶ。えらびとる。〔方言、二〕撟捎、選也、自㆑關而西、秦晉之閒、凡取㆓物之上㆒、謂㆓之撟捎㆒。〔注〕此抄㆓擇積聚㆒者也。

【撟揉】10 ケウジウ 正しためる。〔馬融、長笛賦〕撟揉斤械。〔注〕善曰、蒼頡篇曰、撟、正也、鄭玄周禮注曰、揉、謂㆓以㆑火撟㆒也。

【撟邪】11 ケウジヤ よこしまをため正す。〔漢書、武五子、燕刺王旦傳〕欲㆓撟㆑邪防㆑非。〔注〕師古曰、撟、正也。

【撟首】12 ケウシユ 首をあげる。〔揚雄、甘泉賦〕仰撟㆑首以高視兮。〔注〕善曰、王逸楚辭注曰、撟、擧也。

【撟制】13 ケウセイ 天子の詔にかこつける。矯詔。〔漢書、高五王、燕靈王劉建傳〕今諸呂又擅自尊㆑官聚㆑兵、嚴㆑威劫㆓列侯忠臣㆒、撟㆑制以令㆓天下㆒。〔注〕師古曰、撟、託也、託㆓天子制詔㆒也。〔漢書、劉屈氂傳〕太子亦遣㆓使者撟㆑制。

【撟抄】14 ケウセウ かすめとる。〔集韻〕撟、撟抄、略取也。

【撟詔】15 ケウセウ 詔を僞作すること。矯詔(8－24015‥47)に同じ。

【撟舌】16 ケウゼツ 舌があがつて物が言へぬこと。〔史記、扁鵲傳〕中庶子聞㆓扁鵲言㆒、目眩然而不㆑瞚、舌撟然而不㆑下。〔唐書、吳湊傳〕撟舌阿旨固善。

【撟捷】17 ケウセフ 體が輕く擧動が迅速なこと。〔荀子、 輕利僄遬卒如㆓飄風㆒、注〕言㆓楚人之撟捷㆒也。

【撟然】18 ケウゼン ❶強いさま。〔荀子、臣道〕撟然剛折端志、而無㆓傾側之心㆒。〔注〕撟、彊貌。❷あがるさま。〔史記、扁鵲傳〕目眩然而不㆑瞚、舌撟然而不㆑下。〔注〕索隱曰、撟、擧也。

【撟掇】19 ケウタツ ひろふ。ひろひとる。〔淮南子、要略〕覽冥者、所㆘以言㆛至精之通㆓九天㆒也、至微之淪㆓無形㆒也、純粹之入㆓至淸㆒也、昭昭之通㆚冥冥㆙也、乃始攬㆑物引㆑類、覽取撟掇、浸㆓想宵類㆒。〔注〕撟、取也、掇、拾也。

【撟誣】20 ケウブ いつはりしひる。だましいつはる。誣矯。〔周禮、秋官、禁暴氏〕撟誣犯㆑禁者、作㆓言語㆒而不㆑信者、以告而誅㆑之。

【撟拂】21 ケウフツ 相手の心をためようとしてさからふこと。〔荀子、臣道〕事㆓暴君㆒者、有㆓補削㆒無㆓撟拂㆒。〔注〕撟、謂㆑屈㆓其性㆒也、拂、違也、撟拂則身見㆑害。

【撟命】22 ケウメイ 命令を矯める。君命にかこつける。矯命。〔公羊、僖、三十〕公子遂如㆓京師㆒、遂如㆑晉、注〕撟㆓君命㆒聘㆑晉。〔釋文〕撟、本又作㆑矯。

【撟枉】23 ケウワウ まがれるをためる。〔漢書、諸侯王表序〕可㆑謂㆔撟枉過㆓其正㆒矣。

【撟虔吏】24 ケウケンリ 正しきをまげて詐り、民から無理に物を取る役人。〔漢書、武帝紀〕夫仁行而從㆑善、義立則俗易、意奉㆑憲者、所㆓以導㆑之未㆑明與、將百姓所㆑安殊㆑路、而撟虔吏因乘㆑勢以侵㆓蒸庶㆒邪。〔注〕韋昭曰、凡稱㆑詐爲㆑矯、強取爲㆑虔、師古曰、撟、與㆑矯同。

【撠】
12720

ケキ キヤク 〔集韻〕訖逆切 陌

❶うつ。擊(5－12800)に通ず。〔正字通〕撠、搏持也、云云、與㆑擊通。〔史記、孫武傳〕救㆑鬭者不㆓搏撠㆒。〔注〕索隱曰、謂㆑救㆑鬭者、云云、無㆓以㆑手助㆒、云云、按、撠、謂㆓以㆑手持㆑撠刺㆑人也。❷もつ。とる。執持する。〔集韻〕撠、拘持也。〔漢書、五行志中之上〕撠㆓高后掖㆒。〔注〕師古曰、撠、謂㆔拘㆓持之㆒也。〔漢書、揚雄傳下〕不㆑能㆘撠㆓膠葛㆒、騰㆗九閎㆖。〔注〕師古曰、撠、挶也。

【撠挶】1 ケキキヨク 手でもちあげる。かかへもつ。〔詩、豳風、鴟鴞〕予手拮据、傳〕拮据、撠挶也。〔疏〕正義曰、撠挶、謂㆘以㆓手爪㆒挶㆗持草㆖也。

【擸】
12721

レフ 擸(5－12902)の俗字。〔字彙〕擸、俗擸字。

【⿰扌班】
12722

ハン ヘン 〔集韻〕博幻切 諫

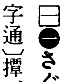
❶きづな。〔集韻〕⿰扌班、絆也。❷ひきうつ。〔集韻〕⿰扌班、引擊也。

【撡】
12723

㊀サウ ㊁サン ㊀操(5－12806)の俗字。〔康熙字典〕撡、一曰、俗操字。〔戰國、秦策〕秦王驚、自引而起、拔㆑劍、劍長、撡㆓其室㆒。〔注〕撡、與㆑操同。㊁摻(5－12649)の俗字。〔正字通〕撡、俗摻字。

【撢】
12724

㊀タン トン 〔集韻〕他紺切 ㄊㄢˋ t'an4 勘
㊁タン イン 〔集韻〕夷針切 侵
㊂シン ジン 〔集韻〕徐心切 侵
㊃タン ドン 〔集韻〕徒感切 ㄉㄢˇ tan3 感
㊄タン トン 〔集韻〕他含切 覃


小篆

㊀❶さぐる。もと⿰扌⿱鹵早に作る。〔正字通〕撢、篆作㆑⿰扌⿱鹵早。〔說文〕⿰扌⿱鹵早、探也、从㆑手⿱鹵早聲。〔周禮、夏官、撢人〕掌㆘誦㆓王志㆒、道㆓國之政事㆒、以巡㆓天下之邦國㆒而語㆖之。〔釋文〕撢、與㆑探同。〔疏〕誦㆓王志㆒者、若㆔撢㆓取王之志㆒。❷すくふ。とる。〔正字通〕撢、唐本說文、掬也、汎訓㆑掬、亦非。❸ひく。〔淮南子、俶眞訓〕撢㆓掞挺㆔挏世之風俗㆒。〔注〕撢、引。❹或は探(5－12276)に作る。〔集韻〕撢、或作㆑探。㊁さぐる。㊀の❶に同じ。〔集韻〕撢、探也。㊂をさめる。〔集韻〕撢、修也。㊃すてる。はらふ。〔集韻〕撢、揞也。㊄さぐる。探(5－12276)に同じ。〔集韻〕探、說文、遠取㆑之也、或作㆑撢。

【撢掞】1 タンエン 利益を求める。撢は引く、掞は利。〔淮南子、俶眞訓〕撢㆓掞挺㆔挏世之風俗㆒。〔注〕撢、引、掞、利也、挺、挏、猶㆓上下㆒也、以求㆓利便㆒也。

【撢子】2 tan3 tzŭ はたき。

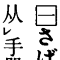
【撢人】3 タンジン 周官の名。夏官の屬。王の意を天下に告げることを掌る。〔周禮、夏官、撢人〕掌㆘誦㆓王志㆒、道㆓國之政事㆒、以巡㆓天下之邦國㆒而語㆖之。

【撢塵】4 tan3 ch'en2 旅行から歸つた人をもてなすこと。洗塵(6－17379‥79)に同じ。

【撢瓶】5 tan3 p'ing2 はたきを插す花瓶用の壺。

【撣】
12725

㊀タン ダン 〔集韻〕蕩旱切 ㄉㄢˇ tan3 旱
㊁タン ダン 〔集韻〕唐干切 寒
㊂タン ダン 〔集韻〕徒案切 翰
㊃セン ゼン 〔集韻〕時連切 先
㊄テン 〔集韻〕澄延切 先
㊅セン 〔集韻〕旨善切 銑


小篆

㊀さげもつ。〔說文〕撣、提持也、从㆑手單聲、讀若㆓行遲驒驒㆒。〔段注〕驒驒、未㆑見㆑所㆑出、葢郎詩之嘽嘽。㊁❶さげる。〔廣雅、釋詁四〕撣、提也。❷ふれる。〔集韻〕撣、觸也、太玄、撣㆓擊其名㆒。❸かるくにぎる。〔集韻〕撣、持不㆑堅也。❹うやまふさま。撣撣(5)を見よ。❺はじく。拂ふ。彈(4－9865)に通ず。〔正韻〕撣、通㆑彈、鼓㆑弦也。❻國の名。撣國。〔集韻〕撣、一曰、西南夷國名。㊂ふれる。㊁の❷に同じ。〔集韻〕撣、觸也。㊃❶ひく。撣援(1)を見よ。❷ゆづる。禪(8－24835)に通ず。〔說文通訓定聲〕撣、叚借爲㆑禪、實爲㆑傳、荀

子正論、堯舜撣讓。[五]❶まつはる。〔集韻〕撣、相纏不㆑去也、太玄、提㆑禍撣撣。❷渚の名。〔山海經、中山經〕青要之山、南望㆓撣渚㆒。❸人名。〔漢書、匈奴傳上〕明年、單于又殺㆓先賢撣兩弟㆒。[六]おしせまる。〔集韻〕撣、排急也。

【撣援】1センエン ひく。つらなる。嬋媛。〔廣雅、釋訓〕撣援、牽引也。〔王念孫疏證〕撣之言、蟬連、援之言、援引、皆憂思相牽引之貌也。〔張衡、南都賦〕垂條撣援。〔注〕善曰、撣援、枝相連引也。

【撣繫】2タンケイ ふれかかる。〔太玄經、數〕遭逢並合、撣㆓繫其名㆒。

【撣國】3タンコク 漢代、西南夷の國名。〔後漢書、西南夷、哀牢傳〕撣國西南通㆓大秦㆒。

【撣族】4タンゾク 人種の名。モンゴリア人種の一。所謂、タイ族。

【撣撣】5タンタン いましめつつしむさま。うやまふさま。〔太玄經、盛〕次五、何㆑福滿㆑肩、提㆑禍撣撣。〔注〕撣撣然敬也、何㆑福持㆑禍而自儆戒、無㆑所㆑失也。

【撤】12726

[一]テツ デチ 〔集韻〕直列切 ㄔㄜˋ chʻê^{4} 屑。

[二]テツ テチ 〔集韻〕敕列切 屑。

[一][二]❶はぐ。〔玉篇〕撤、剝也。❷さる。のぞく。〔廣韻〕撤、發撤。〔集韻〕撤、去也。〔論語、郷黨〕不㆑撤薑食。〔集解〕孔安國曰、撤、去也。〔皇疏〕撤、除也。〔吳志、孫權傳、注〕江表傳曰、上㆓津橋㆒、橋南已見㆑撤、丈餘無㆑版。❹ぬく。〔集韻〕撤、抽也。❺とる。〔廣雅、釋詁一〕撤、取也。❻をさめる。〔廣雅、釋詁三〕撤、治也。❼いましめる。〔玉篇〕撤、警也。❽或は⿰亻⿰育攵(2-2475)に作る。〔說文繫傳、⿰亻⿰育攵、發也、注〕⿰亻⿰育攵、謂㆓除去㆒、或作㆑撤、乃⿰亻⿰育攵之俗也。〔集韻〕撤、或从㆑力。❾通じて徹(4-10245)に作る。〔集韻〕撤、通作㆑徹。〔論語、八佾〕三家者以㆑雍撤、〔釋文〕撤、本或作㆑徹。

【撤委】1 chʻê^{4} wei^{3} 委任を解く。

【撤毀】2テツキ とりこはす。やぶる。〔唐書、李栖筠傳〕關中舊仰㆓鄭白二渠㆒、漑㆑田、而豪戚壅㆓上游㆒、取㆓磑利㆒、且百、所㆑奪農用十七、栖筠請㆓皆撤毀㆒、歲得㆓租二百萬㆒。

【撤却】3 chʻê^{4} chʻüeh^{4} とりのぞく。

【撤去】4テツキョ とりのける。撤除。撤廢。〔宋史、趙逢龍傳〕每㆑至㆑官、有司例設㆓供帳㆒、悉命撤去。

【撤棘】5テツキョク 門前に備へた矛槍などを取り去ること。後世、試驗の完了することをいふ。〔舊五代史、周、和凝傳〕貢院舊例、放牓之日、設㆓棘于門㆒、及閉㆓院門㆒、以防㆓下第不逞者㆒、凝令㆓撤㆑棘啓㆑門、是日寂無㆓喧者㆒、所㆑收多㆓名才之士㆒。〔清會典事例、禮部、貢擧〕順治二年定、闈中閱㆑卷、須㆑立㆓程限㆒、計㆘自㆓分卷㆒以至㆗撤棘㆖、約可㆓半月㆒、以㆓八日㆒完㆓前場㆒、以㆓七日㆒完㆓後場㆒。

【撤火】6 chʻê^{4} huo^{3} 火を除き去る。

【撤回】7テツクワイ やめてもとどほりにする。ひつこませる。〔清史稿、交通志、郵政〕各國將㆘在㆓中國㆒所㆑設之郵局㆖撤回。〔福惠全書、涖任部、禀帖贅說〕將㆓某某㆒撤回。

【撤換】8 chʻê^{4} huan^{4} 更迭する。

【撤還】9テツクワン 城をすて兵を引きあげて歸還する。〔日本外史、足利氏後記、毛利氏〕國都諸將欲㆓撤還㆒。

【撤塤】10テツケン 塤をすてる。塤は壎、樂器の名。〔潘岳、笙賦〕撤㆑塤屛㆑篪。〔注〕善本作㆑徹、翰曰、撤去、屛捨也、塤篪、樂器也。

【撤瑟】11テツシツ 病氣の時に琴瑟などの樂器を取り除くこと。轉じて、他人の病氣をいふ。〔儀禮、既夕禮〕有㆑疾、疾者齊、養者皆齊、撤㆓琴瑟㆒。〔注〕徹㆓琴瑟㆒、去㆑樂。〔任昉、出㆓郡傳舍㆒哭㆓范僕射㆒詩〕寧知安歌日、非㆓君撤㆑瑟晨㆒。〔注〕良曰、君子有㆑疾、撤㆓琴瑟㆒。

【撤守】12テツシユ 守備を引き揚げる。〔鹽谷青山、旅順表忠塔記〕撤㆑守出降。

【撤酒】13テツシユ 酒をとりのける。〔晏子、諫、上〕損㆑肉撤㆑酒。

【撤職】14テツショク 免職する。撤任。

【撤銷】15テツセウ 取消す。撤回する。〔清會典事例、翰林院、官制、保送御史〕同治元年諭、翰林院奏前經㆓撤銷㆒御史人員、應㆓否再行保送㆒、請㆑旨等語、翰林院編修彭瑞毓、曾經㆓考取㆒御史、因㆘在㆓南書房㆒行走撤銷㆖、玆屆㆘保㆓送御史㆒之期㆖、著㆘仍准㆓其保送一體㆒考試㆖。

【撤饌】16テツセン 神にそなへた供物をさげる。〔晉書、禮志上〕祠畢撤㆑饌。

【撤退】17テツタイ 其の場からひきあげる。

【撤脫】18 chʻê^{4} tʻuo^{4} 止める。

【撤地】19 chʻê^{4} ti^{4} 土地を回收する。

【撤除】20テツヂヨ とりのける。〔論語、郷黨、不㆑撤薑食、皇疏〕撤、除也。〔清國行政法汎論、最近廢止之官廳〕均着撤除、毋㆑庸㆓奏請簡補㆒。

【撤陳】21テツヂン 陣をとりはらふ。〔近古史談、織篇、大綏山〕宜㆘乘㆓其撤㆑陳、尾擊殲㆖㆑之。

【撤佃】22 chʻê^{4} tien^{4} 小作權を撤廢する。

【撤任】23テツニン 免職する。〔清國行政法汎論、官廳監督形式、備考一〕布政使之於㆓知府以下㆒、時行㆓撤任㆒。

【撤廢】24テツパイ とりのぞきやめる。とりけし。〔清國行政法汎論、盛京官制沿革〕順治元年、定㆓鼎燕京㆒、悉撤㆓廢盛京六部官㆒。

【撤防】25 chʻê^{4} fang^{2} 防備を撤する。

【撤飯】26 chʻê^{4} fan^{4} 膳を下げる。

【撤備】27テツビ 防備の兵をひきあげる。〔唐書、回鶻上、回紇傳〕吐蕃閉㆑營撤㆑備、乃縱㆓擊之㆒。

【撤兵】28テツペイ 派遣した軍兵を引上げる。〔吳志、呂蒙傳〕羽果信㆑之、稍撤㆑兵、以赴㆑樊。

【撤簾】29テツレン 垂簾の政を止めること。太后が政を天子にかへすこと。天子が幼年で、太后が簾を垂れて政を聽くのを垂簾之政といひ、既にして政を天子に歸するを撤簾といふ。垂簾之政(3-5012・・175)を見よ。〔宋史、高宗紀二〕皇太后撤㆑簾。

【撤水拏魚】30 chʻê^{4} shuei^{3} na^{2} yü^{2} 水を取り出して魚を捕へる。事の容易な喩。

【撤茶太守】31テツチヤタイシユ 明の王璡(7-20823・・634)の綽名。給事を叱つて茶を撤せしめたからいふ。〔湧幢小品〕王璡號㆓埋羹太守㆒、有㆓給事來謁㆒、具㆑茶、給事爲㆑客居㆑間、公大呼撤去、給事慚而退、又號爲㆓撤茶太守㆒。

【撤底根究】32 chʻê^{4} ti^{3} ken^{1} chiu^{4} 其の根柢に入つて研究する。撤底的に研究する。

【撥】12727

[一]ハツ ハチ 〔集韻〕北末切 ㄅㄛ po^{1} 曷。

[二]ハツ ボチ 〔康熙字典〕房越切 月。

小篆

[一]❶をさめる。〔說文〕撥、治也、从㆑手發聲。〔詩、商頌、長發〕元王桓撥。〔傳〕撥、治。〔公羊、哀、十四〕撥㆓亂世㆒。〔釋文〕撥、理也。❷はねる。㋑はねちらす。〔釋名、釋姿容〕撥、播也、播使㆓移散㆒也。〔禮、檀弓下〕爲㆓榆沈㆒故設㆑撥。〔注〕以㆑水澆㆓榆白皮之汁㆒、有㆑急以播㆑地。㋺はねあげる。〔禮、曲禮上〕衣毋㆑撥。〔注〕撥、發揚貌。㋩もてあそぶ。〔孟浩然、飮㆓襄陽公宅㆒詩〕手撥㆓金翠花㆒、心迷㆓玉紅草㆒。❸そる。はねかへる。〔戰國、周策〕弓撥矢鉤。〔注〕撥、弓反也。〔荀子、正論〕不㆑能㆘以㆓撥弓曲矢㆒中㆖。〔注〕撥弓、不正之弓。❹あばく。ほる。〔薛鳳、牡丹八書〕啓㆑瓦撥㆑土、覗㆓毋本發㆒。❺ひらく。おこす。發(7-22669)に通ず。〔周禮、考工記、梓人〕撥爾而怒。〔注〕故書、撥作㆑廢、鄭司農云、廢、讀爲㆑撥、以似㆑爲㆑發。〔白居易、新

栽㆑竹詩〕振㆓撥詩人興㆒、勾㆓牽酒客歡㆒。❻おこる。〔童蒙訓〕見㆓根撥㆒而知㆓花之高下㆒。❼かきたてる。かきまぜる。〔謝惠連、祭㆓古冢㆒文序〕以㆑物振㆓撥之㆒、應㆑手灰滅。〔蘇軾、書㆓雙竹湛師房㆒詩〕白灰旋撥通㆓紅火㆒、臥聽蕭蕭雪打㆑窓。❽かもす。酒が釀熟する。醱(11―40041)に通ず。〔蘇軾、蜜酒詩〕三日開㆑甕香滿㆑城、快瀉銀瓶㆓不㆑須㆑撥。❾ひく。かきならす。はねる。樂器の弦をはねる。〔張祜、王家五弦詩〕撚撥間關漫態生。〔白居易、琵琶行〕輕攏慢撚撥復挑。❿ばち。樂器の弦をはねる具。〔舊唐書、音樂志〕以㆓木撥㆒彈㆑之。〔虞世南、琵琶賦〕開㆓金撥㆒以更運。〔白居易、琵琶行〕曲終收㆑撥當㆑心畫。⓫さをさす。舟をやる。〔陸龜蒙、聖姑廟詩〕殷勤撥㆓香池㆒、重薦㆓汀洲蘋㆒。⓬舟。橃(6―15508)に通ず。〔集韻〕橃、海中大船。〔泰不華、送㆓瓊州萬戶入㆑京詩〕曾把㆓烏號㆒悲㆓絕塞㆒、卻乘㆓赤撥㆒上㆓神州㆒。⓭かみかざり。〔梁簡文帝、戲贈㆓麗人㆒詩〕同安鬟裏撥、異作額間黃。⓮正しくない。址に通ず。〔說文通訓定聲〕撥、叚借爲㆑址。〔淮南子、脩務訓〕琴或撥刺枉橈。〔注〕撥刺、不㆑正。⓯はらふ。拂(5―11936)に通ず。〔說文通訓定聲〕撥、叚借爲㆑拂、禮、曲禮、毋㆑撥㆑衣。⓰すてる。廢(4―9492)に通ず。〔說文通訓定聲〕撥、叚借爲㆑廢。〔一切經音義、十四〕撥、棄也。⓱ぬく。拔(5―11959)に通ず。〔說文通訓定聲〕撥、叚借爲㆑拔、詩蕩、本實先撥。⓲たちきる。絕える。剬(2―1910)に通ず。〔說文通訓定聲〕撥、叚借爲㆑剬。〔廣雅、釋詁四〕撥、絕也。〔集韻〕撥、絕也。〔詩、大雅、蕩〕本實先撥。〔箋〕撥、猶㆑絕也。⓳のぞく。癹(7―22661)に通ず。〔說文通訓定聲〕撥、叚借爲㆑癹。〔廣雅、釋詁三〕撥、除也。〔疏證〕史記、太史公自序云、秦撥㆓去古文㆒、焚㆓滅詩書㆒。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕撥㆓諂諛㆒而匡㆑邪兮。⓴ひつぎなは。柩車のひきづな。紼(8―27364)に通ず。〔說文通訓定聲〕撥、叚借爲㆑紼。〔禮、檀弓下〕哀公欲㆑設㆑撥。〔注〕撥、可㆔撥㆓引輴車㆒、所謂紼。㉑やぶれる。〔詩、大雅、蕩〕本實先撥。〔列女傳、孽嬖、齊東郭姜傳〕詩曰、枝葉未㆑有㆑害、本寔先敗。㉒まはす。派遣する。支出する。〔增韻〕撥、轉㆑之也。〔正字通〕撥、另撥㆓旗軍十一㆒。㉓物のさま。撥刺(75)を見よ。㉔現㋑押繪。㋺道士が道場を閉ぢること。㊂大きな盾。瞂(8―23544)に通ず。〔康熙字典〕撥、又史記索隱、房越切、音伐、謂㆓大楯㆒也、云云、集韻作㆑撥。〔史記、孔子世家〕矛戟劍撥。〔注〕索隱曰、撥、謂㆓大楯㆒也。

【撥衣】1 ハツイ 衣をはねあげる。〔說文通訓定聲〕撥、叚借爲㆑拂、禮、曲禮、毋㆑撥㆑衣。

【撥醫】2 ハツイ 醫者をつかはす。〔福惠全書、蒞任部、親查閱〕撥㆑醫調治。

【撥運】3 ハツウン 荷船ではこぶ。〔清會典、戶部〕凡糧、有㆓正兌㆒、有㆓改兌㆒、有㆓改徵㆒、有㆓折徵㆒、有㆓撥運㆒、有㆓籌備㆒、皆隨以漕耗。

【撥役】4 ハツエキ 下役をつかはす。〔福惠全書、蒞任改、馭衙役〕本道撥㆑役代理。

【撥捐】5 ハツエン すてる。〔孔叢子、儒服〕陳涏性多穢訾、每㆑得㆓酒食㆒、必先撥㆓捐之㆒、然後乃食。

【撥開】6 po^1 k'ai^1 ❶こじあける。❷支出する。支給する。

〔撥開門〕7 po^1 k'ai^1 men^2 門をこじあける。

【撥解】8 ハツカイ 一部分をわけて送る。撥送。〔清會典事例、戶部、海運〕此頃銀兩、先儘㆓蘇浙糧道庫漕項內㆒撥解、如有㆑不㆑敷、卽由㆓各該省司庫㆒通融借撥。〔福惠全書、錢穀部、解給〕如㆓府司雜稅、額外撥解等項㆒是也。

【撥交】9 po^1 chiao^1 交付する。手渡しする。振替拂ひ。

【撥項】10 po^1 hsiang^4 錢を支拂ふ。支出する。

【撥棄】11 ハツキ はらひすてる。〔杜甫、雨過㆓蘇端㆒詩〕妻孥隔㆓軍壘㆒、撥棄不㆑擬㆑道。

【撥歸】12 po^1 huei^1 一部分をさいて渡す。

【撥給】13 ハツキフ 支給する。與へる。〔清會典事例、八旗都統田宅〕今年從㆑東先來諸王各官兵丁、及現來在京各部院官、著先撥㆓給田園㆒、其後至者、再酌量撥給。

【撥弓】14 ハツキユウ 狂つた正しくない弓。〔荀子、正論〕羿蠭門者、天下之善射者也、不㆑能㆘以㆓撥弓曲矢㆒中㆖。〔注〕撥弓、不正之弓。

【撥去】15 ハツキヨ のぞきさる。はらひのける。撥棄。〔漢書、司馬遷傳〕秦撥㆓去古文㆒、焚㆓滅詩書㆒。

【撥火】16 ハツクワ 火をかきちらす。〔甘澤謠〕一日往見、正撥㆑火出㆑芋啖㆑之。〔傳燈錄〕汝撥㆓爐中㆒有㆑火否。

〔撥火杖〕17 po^1 huo^3 chang^4 火箸。

【撥灰】18 ハツクワイ 灰をかきちらす。〔搜神記、二〕乃撥㆓灰中㆒、擧而出㆑之。

【撥款】19 ハツクワン 金を支出する。支出金。〔清國行政法汎論、盛京五部、戶部〕奏㆓請中央戶部㆒撥㆑款補助。

【撥還】20 po^1 huan^2 一部分をさいて返却する。返金する。

【撥結】21 ハツケツ 試驗の答案の良否の均衡を取ること。〔科場條例〕將㆓佳卷多者㆒、撥㆓結佳卷少者㆒。

【撥穀】22 ハツコク 鳲鳩の異名。ふふどり。つつどり。〔爾雅翼、釋鳥、鳲鳩〕鳲鳩、云云、又呼㆓撥穀㆒、云云、似㆑鷂長尾、牝牡飛鳴、翼相摩拂。〔李白、荊州歌〕繅㆑絲憶㆓君頭緒多㆒、撥穀飛鳴奈㆑妾何。

【撥沙】23 ハツサ ❶砂をあげる。砂をおしひらく。〔范成大、從㆓宗偉㆒乞㆓冬筍山藥㆒詩〕竹塢撥㆑沙犀頂銳、藥畦粘土玉肌豐。❷堪輿家の語。墓穴の吉凶を判斷すること。撼龍撥沙(5―12775・・13)を見よ。〔宋史、藝文志五〕魏文卿撥沙經一卷。〔談叢〕閩越黃撥沙、善視㆑墓、畫㆑地爲㆑圖、卽知㆓休咎㆒、因號㆓黃撥沙㆒。

【撥冊】24 ハツサツ 各省の收支決算を報告する時、戶部に提出して檢閱に供する簿冊。〔清會典、戶部、田賦〕其春秋二季撥冊、酌量撥㆑銀解㆑部。

【撥殺】25 ハツサツ はねかへる勢で殺す。〔風俗通、正失〕烏號弓者、拓桑之林、枝條暢茂、烏登㆓其上㆒、上下垂著㆑地、烏適飛去、後從撥殺、取以爲㆑弓、因名㆓烏號㆒耳。

【撥子】26 po^1 tzŭ ❶葬式の時に旗などを持つて行く人夫。❷蒙古地方に行商する中國人。❸樂器などのばち。

【撥剌】27 ハツシ みだし害する。〔新語、懷慮〕違戾相錯、撥剌難㆑匡。

【撥爾】28 ハツジ 鳴聲のおこるさま。〔周禮、考工記、梓人〕於㆑眡必撥爾而怒、苟撥爾而怒、則於㆑任重宜、且其匪色必似㆑鳴矣。〔注〕故書、撥、作㆑廢、匪、作㆑飛、鄭司農云、廢、讀爲㆑撥、飛、讀爲㆑匪、以似㆑爲㆑發。〔疏〕發、謂㆓鳴聲發謂者㆒也。

【撥車】29 ハツシヤ 糸をかける車。糸車。〔三才圖會、器用、木棉撥車圖考〕木棉撥車、其制頗肖㆓麻苧幡車㆒。

【撥充】30 ハツジユウ 充當する。一部を支出して他に充てる。〔清會典事例、戶部、庫藏〕逾㆑限不㆑行㆓請領㆒者、卽行㆑報撥㆓充餉㆒。〔福惠全書、錢穀部、解給〕撥㆓充兵餉㆒。

【撥出】31 po^1 ch'u^1 支拂ふ。支出する。

【撥甩】32 po^1 shuai^3 ふり立てる。ふりうごかす。

【撥準】33 po^1 chuen^3 平均に分配する。

【撥冗】34 po^1 jung^3 用事を繰り合せる。忙しい所を繰合せる。

【撥食】35 ハツシヨク ❶食物をまき棄てる。〔儲光羲、田家卽事詩〕撥㆑食與㆓田烏㆒、日暮空㆑筐歸。❷天子に膳を進める時、禁中に於て警戒を嚴にし呼ばはること。〔夢梁錄、大內〕每㆑遇㆓進膳㆒、自㆓殿中省㆒對㆓嘉明殿㆒、禁衞成㆑列、約㆑欄不㆑許㆓過往㆒、省門上有㆓一人㆒呼唱、謂㆓之撥食㆒。

【撥檖】36 ハツスイ 縱に切りひらく。〔淮南子、齊俗訓〕披斷撥檖。〔注〕撥、析理也。

【撥正】37 ハツセイ 治め正す。〔楚辭、九章、懷沙〕巧倕不㆑斲兮、孰察㆓其撥正㆒。〔注〕撥、治也。

【撥船】38 po^1 ch'uan^2 ❶荷船。はしけ。❷船を

漕ぐ。

【撥錢】39 po¹ ch'ien² 金を支出する。撥欵。

【撥送】40 po¹ sung⁴ 一部分を分けて送る。分遣する。

【撥存】41 po¹ ts'uen² ㊀帳簿上で振替へること。㊁殘して貯へ置く。

【撥兌】42ハツタ 振替へる。金高の一部を割いて人に立て換へる。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕賄㆓買好幇次㆒撥兌。

〔撥兌銀〕43 po¹ tuei⁴ yin² 振替金。

【撥隊】44ハツタイ 軍隊を分つて派遣する。〔聞見錄〕上曰、爾輩今入㆓京師㆒、依㆓吾令㆒、卽當㆑有㆓重賞㆒、不㆑然則連㆑羣撥㆑隊、有㆓斧鉞之誅㆒。

【撥棹】45ハツタウ 蟹の一種。撥棹子を見よ。

〔撥棹子〕46ハツタウシ 蟹の一種。體が扁平で大きく、後足が廣くて棹に似てゐるので名づける。撥櫂。〔本草、蟹〕集解、頌曰、其扁而最大、後足闊者、名㆓蝤蛑㆒、南人謂㆓之撥棹子㆒、以㆓其後脚如㆑棹也、一名蟳、隨㆑潮退殼、一退一長、其大者如㆑升、小者如㆓盞楪㆒、兩螯如㆑手、所㆔以異㆓於衆蟹㆒也、其力至強、八月能與㆑虎鬪、虎不㆑如也。〔容齋四筆、臨海蟹圖〕撥棹子、狀如㆓蝤蛑㆒、螯足無㆑毛、後兩小足薄而微闊、其大如㆑升、云云、八月閒盛出、云云、其螯甚巨、往往能害㆑人。

【撥櫂】47ハツタウ 蟹の一種。撥棹子を見よ。〔備要〕嶺南謂㆑蟹曰㆓撥櫂子㆒、以㆓後腳如㆑棹也。〔傅嘉祐、十二種論〕呂亢守㆓台州㆒、命㆑工作㆓蟹圖㆒、凡十二種、一曰蝤蛑、二曰撥櫂、三曰擁劍、四曰彭螖、五曰竭朴、六曰沙狗、七曰望湖、八曰倚望、九曰石蜠、十曰江蜂、十一曰蘆虎、十二曰蟛蜞。

【撥獺】48ハツダツ 顏の肥えたさま。〔通俗編、狀貌、撥獺〕啓顏錄、甘洽嘲㆓王仙客㆒曰、王計爾應㆓姓田㆒、爲㆓爾面撥獺㆒、抽㆓却爾兩邊㆒、撥獺、面肥滿貌也。

【撥賬】49 po¹ chang⁴ 帳簿上の振替。

〔撥賬送欵〕50 po¹ chang⁴ sung⁴ k'uan³ 振替貯金。

【撥條】51ハツデウ ㊀ぜんまい。ばね。㊁ po¹ t'iao² 預金引出の小切手。

【撥剔】52ハツテキ かきのける。かきおこす。〔崔道融、酒醒詩〕酒醒撥剔殘灰火、多少淒涼在㆓此中㆒。

【撥轉】53 po¹ chuan³ ㊀轉回する。㊁改善する。

【撥土】54 po¹ t'u³ 土を掘りかへす。

【撥頭】55ハツトウ 戲劇の名。西域から出たもの。胡人が猛虎に殺されたため、其の子が山に登り、父の屍を尋ねて慟哭し、遂に虎を退治した事を演ずる。戲者は髮を振り亂し、素衣を著けて喪の裝束をなし、且つ泣面をなして行ふ。拔頭。鉢頭。〔文獻通考、樂考〕撥頭、出㆓西域㆒、胡人爲㆓猛獸所㆑噬、其子求㆑獸殺㆑之、爲㆓此舞㆒以象也。

【撥入】56 po¹ ju⁴ 拂ひ込む。

【撥派】57ハツパ 派出する。派遣する。分遣する。〔福惠全書、保甲部、功罪賞罰〕撥㆓派人夫㆒。

【撥碼】58 po¹ ma³ 帳簿上の振替をなすに用ひる小切手。

【撥醅】59ハツバイ 酒を釀す。醅は、にごりざけ。醱醅（11－40041··2）に同じ。〔白居易、醉吟先生傳〕吟罷自哂、揭㆑甕撥醅、又引數盃、兀然而醉。

【撥忙】60ハツバウ 忙しい事を拂ひ除く。〔楊萬里、雨後晚㆓步郡圃㆒詩〕風勒㆓歸雲㆒帶㆑雨回、不㆑容老子小徘徊、撥忙也到㆓池亭上㆒、昨日卷荷今盡開。

【撥撥】61ハツハツ 魚がひれを勢よく動かすさま。〔白居易、汎渭賦〕魚樂㆓兮泉底㆒、鬐撥撥兮尾瀲瀲。

【撥煩】62ハツハン 劇務を治める。煩雜を處理する。〔謝承、後漢書〕謝夷吾遷㆓鉅鹿太守㆒、上勑曰、鉅鹿劇郡難㆑治、以㆔君有㆓撥煩之才㆒、故特授㆑任。

【撥搬】63 po¹ pan¹ 轉居する。

【撥非】64ハツピ 〔佛〕俗氣をいふ。禪家の語。

【撥付】65ハツプ ㊀交付する。〔宋史、職官志七〕撥㆓付湖廣總領所㆒、勞㆔付軍官自買㆓士馬㆒。㊁ po¹ fu⁴ 支拂ふ。

【撥⿰缶刂】66ハツプ 大盾と刀のつか。〔墨子、非攻中〕甲盾撥劫。〔閒詁〕史記孔子世家索隱云、撥音伐、謂㆓大盾㆒也、劫未㆑詳、疑當㆑作㆑⿰缶刂、古書从㆑缶从㆑去之字、多互譌、備蛾傳篇、法譌作㆑浾、此⿰缶刂譌作㆑劫、可㆓以互證㆒、說文刀部云、⿰缶刂、刀把也。

【撥柎】67ハツフ 蟠車（10－33591··21）の異名。いとぐるま。撥車。〔事物異名錄、耕織、治麻具〕農桑通訣、蟠車纏纑具也、又謂㆓之撥車㆒、南人謂㆓之撥柎㆒、又曰㆓車柎㆒。

【撥麷】68ハツフウ 麥の芽をぬく。容易な喩。〔荀子、富國〕取㆓其將㆒、若㆑撥㆑麷。〔注〕麷、麥之牙蘖也、至脆弱、故以喩㆑之、若㆑撥㆑麷、如㆓以㆑手撥㆒㆑麷也。

【撥平】69ハツヘイ をさめたひらげる。〔魏志、袁術傳〕將㆘撥㆓平凶慝㆒、清㆗定海內㆖。

【撥兵】70ハツヘイ 軍隊を分遣する。〔六部成語、兵部、撥兵、注解〕防㆓守卡倫㆒之兵、一撥撥交換者。〔福惠全書、錢穀部、解給〕多則移㆑營撥㆑兵護送。

【撥補】71ハツホ 分ち與へて不足分を補ふ。〔清會典、戶部〕凡地公用則撥補。〔六部成語、戶部、撥補、注解〕分㆓撥此款㆒、以補㆓彼款之不足㆒也。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕請㆔撥㆓補驛站買馬㆒。

【撥無】72ハチム 〔佛〕押しのけはねかへして顧みないこと。〔地藏十輪經、七〕撥㆓無因果㆒、斷㆓滅善根㆒。〔楞嚴經、九〕撥㆓無因果㆒、一向入㆑空。

【撥悶】73 po¹ men⁴ 憂を散ず。氣を晴らす。

【撥用】74ハツヨウ 支出する。支出して使ふ。〔清會典事例、戶部、庫藏〕概行㆔提㆓歸原款㆒、報㆑部撥用。

【撥刺】75ハツラツ ㊀正しくない。〔淮南子、脩務訓〕琴或撥刺枉橈。〔注〕撥刺、不㆑正。㊁弓を張るさま。〔後漢書、張衡傳〕彎㆓威弧之撥刺㆒兮、射㆓嶓冢之封狼㆒。〔注〕撥刺、張㆑弓貌也。㊂魚の躍る聲。潑刺。〔王起、漢武帝遊㆓昆明池㆒見㆓魚銜㆑珠賦〕撥刺巨鱗、傍㆓畔水裔㆒。〔杜甫、漫成詩〕沙頭宿鷺聯拳靜、船尾跳魚撥刺鳴。

【撥攋】77ハツラツ おしひらく。撥拉に同じ。〔廣韻〕攋、撥攋、手披也。

【撥拉】78 po¹ la¹ ㊀おしのける。搔きひろげる。㊁給與する。渡す。蘇州地方の語。

【撥亂】79ハツラン 亂ををさめる。〔後漢書、梁統傳〕伏惟陛下、包㆑元履㆑德、權㆑時撥㆑亂。〔注〕撥、理也。

〔撥亂反正〕80ハツランハンセイ 亂世を治め正しい世に反へす。〔公羊、哀、十四〕撥㆓亂世㆒反㆓諸正㆒、莫㆑近㆓於春秋㆒。〔注〕撥、猶㆑治也。〔史記、高祖紀〕撥㆓亂世㆒、反㆓之正㆒。〔漢書、高帝紀〕帝起㆓細微㆒、撥㆓亂世㆒反㆓之正㆒、平㆓定天下㆒。〔後漢書、明帝紀〕仰惟先帝受㆑命中興、撥亂反正、以寧㆓天下㆒。〔鹽鐵論、詔聖〕非㆓撥亂反正之常㆒也。

【撥捩】81ハツレイ ばちを以て絃をはらふこと。〔梁簡文帝、烏夜啼〕鳴絃撥捩發初異、挑㆑琴欲㆑吹衆曲殊。

【撥簾】82ハツレン すだれをかかげる。〔白居易、香鑪峯下新卜㆓山居㆒草堂初成偶題㆓東壁㆒詩五首〕遺愛寺鐘欹㆑枕聽、香鑪峯雪撥㆑簾看。

【撥爐】83ハツロ 爐の中をかきたてる。〔陸游、江村詩〕轉㆑枕却尋驚斷夢、撥㆑爐偶見爇殘香。

【撥弄】84 po¹ nung⁴ ㊀さばく。㊁手でいぢる。

【撥滙】85 po¹ huei⁴ 爲替手形に對して現金を支拂ふこと。

【撥魚兒】86 po¹ yü² êrh 團粉を煮立て、之を冷して固まつたものを魚の形に切り、水に漬けて食するもの。

【撥協銀】87ハツケフギン 經費に不足を生じた時、他方の經費を分撥して補助する銀兩。〔六部成語、戶部、撥協銀、注解〕撥、分也、協、助也、此處用㆑款不㆑足、由㆓他處㆒分㆓撥款項㆒、以協㆓助之㆒。

【撥什庫】88ハツジフコ 兵卒中の會計係。滿洲語。〔六部成語注解〕撥什庫、滿洲語、漢謂㆓之領催㆒、乃兵丁中之司㆓會計㆒者也。

【撥心麪】89ハツシンメン 食物の名。〔東坡志林〕南都撥心麪、作㆓槐葉冷淘㆒。

【撥棹子】90 po¹ chuo¹ tzŭ 毒蟹の一種。しまがに。がざめ。

【撥單字】91 po¹ tan¹ tz'ŭ⁴ 讓與證書。

【撥鐙法】92ハツトウハフ 書法の名。乘馬者が鐙を淺く踏んで轉運し易くするやうに、筆を淺く持つて自由に筆を動かして書く筆法。一說に、鐙は燈で、燈を挑げるやうに、急がず又ゆつくりしない義。〔樓鑰、跋㆓李少陵修禊序㆒詩〕李王深得㆓撥鐙法㆒、筆力遒勁雄㆓江東㆒。〔廣川書跋、懷素別本帖〕鄔融、云云、又問、懷素撥鐙法如何、曰、如㆔人竝乘鐙不㆓相犯㆒。〔米庵墨談〕董其昌曰、右軍有㆓撥鐙法㆒、傳㆓於晉唐諸名家㆒、所謂口訣手授者、南唐李後主猶傳㆓此法㆒、余於㆓徐季海三藏碑㆒悟㆓筆意㆒、當㆘於㆓內擫留㆑筆得㆖㆑之、正自覓㆓解人㆒不㆑可㆑得、云云、王虛舟云、後主撥鐙法、解者殊鮮、所謂撥鐙者、逆筆也、筆尖向㆑裏、則全勢皆逆、無㆓浮滑之病㆒矣、學者試撥㆓鐙火㆒、可㆑悟㆓其法㆒、云云、楊升菴曰、鐙、古燈字、撥鐙・畫沙・懸針・垂露、皆喻言、撥鐙如㆑挑㆑燈、不㆑急不㆑徐也、云云、

楊鐵崖與二顧玉山一聯句、書出撥レ鐙侵二繭帖一、可レ證二其音讀一。〔書苑菁華、十六、唐林韞撥鐙序〕吾昔教二授於韓吏部一、其法曰二撥鐙一、今將レ授レ子、子勿二妄傳一、推拖撚拽、是也。〔陳繹曾、翰林要訣〕執筆法、謂指法有レ八、一擫、大指骨上節下端、用レ力欲レ直、如レ提二千鈞一、二捺、食指著二中節旁一、此上二指主レ力、三鉤、中指著二指尖一、鉤レ筆令二向下一、四揭、名指著二指外爪肉際一、揭レ筆令二向上一、五抵、名指揭レ筆、中指抵住、六拒、中指鉤レ筆、名指拒定、此上二指主二轉運一、七導、小指引二名指一過レ右、八送、小指送二名指一過レ左、此上一指主二往來一、以上八法、謂二之撥鐙法一。〔陳賓、桃源手聽〕宋錢若水曰、古之善レ書、鮮下有レ得二筆法一者上、唐陸希聲得レ之、凡五字、擫・押・鉤・抵・格、用筆雙鉤、則點畫遒勁而盡妙矣、謂二之撥鐙法一。〔通雅、器用、書法〕撥鐙・堆垛、書法也、王右軍有二撥鐙法一。

【撥枚力】93（ハモロ） 國の名。〔三才圖會、人物十四〕撥枚力國、國在二西南海中一、不レ識二五穀一、人止食レ肉、常針二牛畜一取レ血、和二乳生一飲レ之、身無レ衣、惟腰下用二羊皮一掩レ之。

【撥尾魚】94（ハツビギヨ） 魚の名。鯔（ボラ）の小さいもの。〔閩書、閩產〕魣魚似二烏魚一而小、身員口小、赤目細鱗、味似レ鯆、子月、脂膏滿レ腹尤佳、一名鮎、又有二撥尾一、蓋魣魚之小者。

【撥喇喇】95（ハツラツラツ） ばらばらつと。走るこゑのさま。〔水滸傳、五回〕把レ馬打二上兩柳條一、撥喇喇地馱二了大王一上レ山去。

【撥攊聲】96（ハツレキセイ） 廣陵散中の曲聲の名。〔夢溪筆談、書畫〕或說、嘗有レ人觀レ畫二彈琴圖一、曰、此彈二廣陵散一也、此或可レ信、廣陵散中有二數聲一、他曲皆無、如二撥攊聲之類一是也。

【撥雲見日】97 po¹ yün² chien⁴ jih⁴ 雲が晴れて日が見える。故障を除き去つてもと通りにする喩。

【撥個人來】98 po¹ kê jen² lai² 人を遣はす。「人を寄越す。

【撥草瞻風】99（ハツサウセンプウ） 佛撥草參玄ともいふ。無明の荒草を撥いて佛祖の玄風を瞻仰するをいふ。又、險路を涉つて知識の德風を瞻仰するをいふ。〔洞山錄〕此去二澧陵似縣一、石室相連、有二雲巖道人一、若能撥草瞻風、必爲二子之所一レ重。

【撥嘴撩牙】100（ハツシレウガ） みだりにしやべる。〔還魂記、圍釋〕通事中間撥嘴撩牙、事有レ足レ詑。

【撥賜公田】101（ハツシコウデン） 功臣に對して朝廷から下賜する田地。納税及び差役の義務を免ず。〔明律、戶律、田宅、功臣田土〕凡功臣之家、除二撥賜公田一外、但有二田土一、從二管莊人一盡レ數報レ官、入レ籍納レ糧當レ差。

【撦】12728 シヤ 〔集韻〕齒者切 ㄔㄜˇ chʻê³ 馬

❶さく。〔集韻〕撦、裂也。〔梅堯臣、永叔寄二澄心堂紙二幅一詩〕日畏二撦裂一防二嬰孩一。❷ひらく。〔廣雅、釋詁三〕撦、開也。❸俗に扯(5－11833)に作る。〔正字通〕撦、正韻㨴、扯、本作レ撦。

【撧】12729 ゼツ

絕(8－27407)に同じ。〔正字通〕撧、同レ㔮、或作レ絕。

【〓】12730 ゼツ

絕(8－27407)に同じ。〔集韻〕絕、或从レ手。

【㩉】12731 ㈠キフ コフ 〔集韻〕迄及切 緝 ㈡ラフ 〔集韻〕落合切 合 ㈢タフ 〔集韻〕德盍切 合 ㈣ケフ コフ 〔集韻〕迄業切 葉

㈠うつ。歙(5－13376)に同じ。〔集韻〕歙、擊也、或从レ手。㈡くじく。拉(5－11946)に同じ。〔集韻〕拉、說文、摧也、或作レ㩉。㈢うつ。搨(5－12503)に同じ。〔集韻〕搨、打也、或作レ㩉。㈣やぶる。又、くじく。拹(5－12009)に同じ。〔集韻〕拹、說文、摺也、一曰、拉也、或从レ翕。

【〓】12732 ㈠セン 〔集韻〕荀緣切 先 ㈡セイ シヤウ 〔集韻〕先命切 敬

㈠❶袖をまきあげて腕をあらはす。揎(5－12338)に同じ。〔集韻〕揎、手發レ衣、或作レ〓。〔一切經音義、二十〕揎、古文作レ〓、同。〔六書故〕揎、鉤レ袂出レ臂也、又作レ〓。〔儀禮、士虞禮、佐食許諾鉤袒、注〕鉤袒、如二今〓衣一也。〔釋文〕手發レ衣曰レ〓。❷むさぼる。〔廣雅、釋詁一〕〓、貪也。❸ひく。援(5－12407)に通ず。〔說文通訓定聲〕援、引也、字亦作レ〓。❹擐(5－12813)に通ず。〔禮、王制、贏二股肱一、注〕〓レ衣出二其臂脛一、今書皆作二擐甲之擐一。㈡肱をあらはす。〔集韻〕〓、裸レ肱也。

【〓】12733 キヨ コ 〔集韻〕丘於切 魚

うつ。〔廣雅、釋詁三〕〓、擊也。

【〓】12734 ㈠セン ゼン 〔集韻〕時戰切 霰 ㈡ケン 〔集韻〕九件切 銑 ㈢セン 〔集韻〕旨善切 銑

㈠㈡❶振〓は、のべきはめる。〔廣雅、釋訓〕振〓、展極也。❷振〓は、みにくくながいさま。〔玉篇〕〓、振〓、醜長皃。㈢ひく。〔集韻〕〓、引也。

【〓】12735 キ ケ 〔集韻〕丘衣切 微

をさめとる。〔集韻〕〓、扱取也。

【撨】12736 ㈠セウ 〔集韻〕思邀切 蕭 ㈡セウ 〔集韻〕先弔切 嘯 ㈢ソウ ス 〔集韻〕先侯切 尤

㈠❶えらぶ。〔廣雅、釋詁一〕撨、擇也。❷とる。〔廣韻〕撨、取也。❸ぬぐふ。〔集韻〕撨、拭也。㈡ぬぐふ。〔廣雅、釋詁二〕撨、拭也。㈢❶おす。〔集韻〕撨、推也。❷えらぶ。〔集韻〕撨、擇也。

【〓】12737 ルイ 〔集韻〕倫追切 支

❶をさめる。〔廣雅、釋詁二〕〓、理也。❷摞(5－12594)に同じ。〔正字通〕〓、同レ摞。

【〓】12738 ㈠シユク スク 〔集韻〕息六切 屋 ㈡セウ 〔集韻〕先彫切 蕭 ㈢セウ 〔集韻〕先弔切 嘯 ㈣セウ 〔集韻〕先了切 篠

㈠❶うつ。うつ音。〔廣雅、釋詁三〕〓、擊也。〔廣韻〕〓、擊聲。❷〓箾は、物につくさま。又、網のさま。潚(7－18239)に通ず。〔張衡、西京賦〕飛罕〓箾。〔注〕善本作レ潚、向曰、〓箾、著レ物貌、綜曰、潚箾、罕形也。❸或は〓(5－13387)に作る。〔集韻〕

⿰扌肅、或从㆑文。❹或は擭(5－12496)に作る。〔集韻〕⿰扌肅、或作㆑擭。㊁❶うつ。或は⿰扌蕭(5－12973)に作る。〔集韻〕⿰扌肅、擊也、或从㆑蕭。❷とる。にぎる。〔廣韻〕⿰扌肅、把也。㊂㊃うつ。〔集韻〕⿰扌肅、擊也。〔集韻〕⿰扌肅、打也。

【⿰扌絜】12739

ケツ ゲチ　〔集韻〕奚結切　屑

しばる。つかねる。たばねる。〔廣雅、釋詁三〕⿰扌絜、束也。〔一切經音義、十三〕⿰扌絜、圍係也。〔一切經音義、十三〕束縛謂㆓之⿰扌絜㆒。

【⿰扌費】12740

㊀ヒ　〔集韻〕芳未切　未

㊁フン　〔集韻〕方問切　問

㊀❶うちたほす。〔集韻〕⿰扌費、擊仆也。❷うつ。或は拂(5－11936)に作る。〔集韻〕⿰扌費、楚謂㆓博擊㆒曰㆑⿰扌費、或省。㊁うちたほす。㊀の❶に同じ。〔集韻〕⿰扌費、擊仆也、晉書、⿰扌費㆓馮豕㆒。〔晉書、張協傳〕蹴㆓封豨㆒、⿰扌費㆓馮豕㆒。

【撩】12741

㊀レウ　〔集韻〕憐蕭切　蕭　ㄌㄧㄠ　liao1·2·4

㊁レウ　〔集韻〕朗鳥切　篠

㊂ラウ ロウ　〔集韻〕魯皓切　皓

㊃レウ　〔集韻〕力弔切　嘯

㊄ラウ ロウ　〔集韻〕郎到切　號

小篆

㊀❶をさめる。〔說文〕撩、理㆑之也、从㆑手尞聲。〔一切經音義、十四〕通俗文曰、理㆑亂謂㆓之撩理㆒。❷からかふ。いどむ。〔字彙〕撩、又挑弄也。〔魏志、典韋傳〕但持㆓長矛㆒撩戰。❸とる。〔廣雅、釋詁一〕撩、取也。〔爾雅、釋器、罺謂㆓之汕㆒、注〕今之撩罟。〔釋文〕撩、取也。〔集韻〕撩、一曰、取㆑物。❹現㋑支へる。㋺握る。㋩煽動する。㋥開く。㋭すくふ。㋬蹴る。㋣置く。㋠まくる。㊁❶ゐぐる。〔廣韻〕撩、抉也。〔集韻〕撩、抉也。❷たすける。〔字彙〕撩、扶也。❸取る。〔集韻〕撩、取也。㊂とる。〔集韻〕撩、取也。㊃㊄取る。撈(5－12679)に同じ。〔集韻〕撈、方言、取也、或作㆑撩。〔集韻〕撈、取㆑物也、或作㆑撩。

【撩衣】1 liao1 i1　衣を引きかかげる。着物を引きあげる。

【撩衣裳】2 liao1 i1 shang　着物を掲げる。衣を捲くる。

【撩雲】3 レウウン　茶匙。茶杓。〔和漢三才圖會、庖厨具、茶匙〕撩雲、竹茶匙、俗云、茶杓。

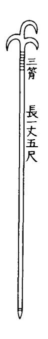
【撩交】4 liao4 chiao1　❶相撲。❷投げ倒す。

【撩跤】5 liao4 chiao1　相撲をとる。

【撩火】6 liao1 huo3　火を掻きおこす。

【撩罟】7 レウコ　魚を捕へる網。〔爾雅、釋器、罺謂㆓之汕㆒、注〕今之撩罟。〔詩、小雅、南有嘉魚、烝然汕汕、傳〕汕汕、樔也。〔箋〕樔者、今之撩罟也。

【撩鉤】8 レウコウ　古の戰具の名。うちかぎ。柄の先に鉤を附し、船中で物を引き寄せる時等に用ひる。〔武備志、撩鉤圖說〕兩船犂沈㆓賊舟㆒、用㆑此撈級、或勾㆓搭賊船㆒不㆑得㆑去、或勾㆓繚索㆒以牽㆓其棚㆒、舟中必不㆑可㆑少者。



撩　鉤　（武備志）

【撩情】9 liao2 ch'ing2　情慾を挑發する。

【撩人】10 liao2 jen2　❶人をからかふ。❷人を引き出す。

【撩水】11 liao1 shuei3　❶水を撒く。❷手で水をすくひ上げる。

【撩戰】12 レウセン　たたかひをいどむ。いどみたたかふ。挑戰。〔魏志、典韋傳〕棄㆑楯、但持㆓長矛㆒撩戰。

【撩治】13 liao4 chih4　支配する。世話をやく。又、療治する。

【撩摘】14 レウテキ　つまみとる。〔元稹、春六十韻詩〕撩摘芳情徧、搜求好處終。

【撩撥】15 レウハツ　❶いらだたす。からかふ。〔水滸傳、二十一回〕不㆑可㆔去撩㆓撥他㆒。❷みだれあふ。〔秦觀、灞橋雪詞〕清寒冽、祇緣不㆑禁㆓梅花撩撥㆒。〔葛長庚、楓葉辭〕丹楓隕葉粉墮飛、撩撥西風盡吹倒。❸ liao4 po1　誘引する。

【撩邊】16 liao2 pien1　着物などの緣を縫ふこと。

【撩亂】17 レウラン　みだれあふ。入りみだれる。繚亂。〔丁仙芝、餘杭醉歌贈㆓吳山人㆒詩〕桃花昨夜撩亂開、當㆑軒發㆑色映㆓樓臺㆒。〔熊孺登、祗㆑役遇㆑風謝㆓湘中春色㆒詩〕應㆑被㆓百華撩亂笑㆒、比來天地一閑人。

【撩理】18 レウリ　をさめととのへる。亂をさめる。〔說文〕撩、理㆑之也。〔段注〕通俗文曰、理㆑亂謂㆓之撩理㆒。

【撩零】19 レウレイ　賭博をいふ。〔唐國史補、下〕今之博戲、云云、及博徒、是強名爭㆑勝、謂㆓之撩零㆒。

【撩弄】20 liao2 nung4　手にとりあげる。手で扱ふ。

【撩開手】21 liao4 k'ai1 shou3　手をはなす。手をのける。

【撩起來】22 liao1 ch'i lai　引きあげる。捲くりあげる。

【撩蹶子】23 liao4 chüeh3 tzŭ　人を蹴る馬。

【撩洗軍】24 レウセングン　宋代、浙江の澱山湖附近の水道を修めるために設けた軍隊。〔元史、河渠志二、吳松江〕浙西諸山之水、受㆓之太湖㆒、下爲㆓吳淞江㆒、東匯㆓澱山湖㆒以入㆑海、云云、是以宋時設㆓置撩洗軍人㆒、專掌㆓修治㆒、元既平㆑宋、軍士罷散、有司不㆓以爲㆑務、勢豪租占、爲㆑蕩爲㆑田、云云、以致㆓湮塞不㆑通、公私俱失㆓其利㆒。

【撩定錢】25 liao4 ting4 ch'ien　手付金をうつ。

【撩風翎】26 レウフウレイ　鶻の右の翼にある複羽をいふ。翎は、はね。〔海錄碎事、鳥獸、鷹鶻門〕撩風翎、鶻兩翅、各有㆓複翎㆒、右名㆓撩風㆒、左名㆓掠草㆒。

【撩不開手】27 liao4 pu k'ai1 shou3　手が離されぬ。離すことが出來ない。

【撪】12742

ホン　捹(5－12524)に同じ。〔海篇〕撪、同㆑捹。

【撫】12743

㊀フ　〔集韻〕斐父切　麌　ㄈㄨˇ　fu3

㊁ボ モ　〔集韻〕蒙逋切　虞

慣ブ

小篆

古文

㊀❶なでる。てのひらでさする。もと⿰扌橆(5－13017)に作る。〔說文〕⿰扌橆、一曰、揗也。〔正字通〕撫、摩也。〔釋名、釋姿容〕撫、敷也、敷㆑手以拍㆑之也。〔儀禮、鄉射禮〕左右撫㆑矢而乘㆑之。〔注〕撫、拊㆑之也。〔國語、晉語八〕叔向見㆓司馬侯之子㆒、撫而泣㆑之。〔注〕撫、拊也。❷おさへる。手をあてる。〔正字通〕撫、按也。〔禮、曲禮上〕客跪撫㆑席而辭。〔集說〕撫、以㆑手按㆓止之㆒也。〔禮、曲禮上〕則撫㆓僕之手㆒。〔注〕撫、小止之謙也。〔禮、曲禮上〕國君撫㆑式。〔注〕撫、猶㆑據也。〔楚辭、招魂〕衽若㆓交竿㆒、撫㆑案下些。〔注〕撫、抵也。❸とる。もつ。〔廣雅、釋詁三〕撫、持也。〔楚辭、九歌、東皇太一〕撫㆓長劍兮玉珥㆒。〔注〕撫、持也。❹たもつ。手に入れる。〔廣雅、釋詁一〕撫、有也。〔禮、文王世子〕君王其終撫㆑諸。〔注〕撫、猶㆑有也。❺ひろふ。〔小爾雅、廣詁〕撫、拾也。❻やすんずる。いたはる。なぐさめる。〔說文〕⿰扌橆、安也、从㆑手無聲。〔正字通〕撫、慰勉也。〔周禮、秋官、大行人〕撫㆓邦國諸侯㆒。〔注〕撫、猶㆑

安也。〔左氏、定、四〕若以二君靈一撫レ之。〔注〕撫、存恤也。❼愛する。かはいがる。〔後漢書、梁竦傳〕撫レ我畜レ我。〔注〕撫、厚也。❽さだめる。〔廣雅、釋詁四〕撫、定也。❾したがふ。したがへる。〔正字通〕撫、循也。〔楚辭、九章、懷沙〕撫レ情效レ志兮。〔注〕撫、循也。〔史記、歷書〕撫二十二節一。〔注〕正義曰、撫、猶レ循也。❿めぐる。巡察按行する。〔後漢書、杜篤傳〕撫二未央一。〔注〕撫、巡也。⓫みる。〔宋玉、神女賦序〕於レ是撫レ心定レ氣。〔注〕善曰、撫、覽也。⓬はやい。舞(9－30342)に通ず〔説文通訓定聲〕撫、叚借爲レ舞。〔方言、十二〕撫、疾也。⓭おほふ。幠(4－9081)に通ず。〔説文通訓定聲〕撫、叚借爲レ幠。〔荀子、宥坐〕勇力撫レ世、守レ之以レ怯。〔注〕撫、掩也、猶レ言二蓋世一矣。⓮古は⿺辶亡(11－38713)に作る。〔説文〕⿺辶亡、古文撫、从二亡辵一。⓯拊(5－11947)に通ず。〔正字通〕撫、與レ拊通。⓰姓。〔萬姓統譜〕撫、見二姓苑一。🈔のつとる。摹(5－12645)に同じ。〔集韻〕摹、説文、規也、謂レ有二所レ規倣一、或从レ無。

【撫安】1（ブアン） なでやすんずる。〔魏志、賈詡傳〕以饗二吏士一、撫二安百姓一。〔吳志、太史慈傳〕策命レ

【撫按】2（ブアン） なでおさへる。 〔慈、往撫安焉。

【撫案】3（ブアン） なでおさへる。一説に、机をおさへる。机をうつ。〔楚辭、宋玉、招魂〕衽若二交竿一、撫二案下些一。〔注〕撫、抵也。〔集注〕以レ手撫二案其節一而徐行也。〔考〕手撫レ在二前几案一下。

【撫夷】4（ブイ） ❶夷狄をやすんずる。〔江統、徙戎論〕反二其舊土一、使二屬國撫夷一、就二安集之一。❷縣名。漢、置く。甘肅省鎭原縣の北。〔漢書、地理志下〕安定郡、縣二十一、撫夷。

【撫彝】5（ブイ） 縣名。❶唐、置く。四川省慶符縣の西。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、慶符縣〕撫彝廢縣、志云、在二縣西一、唐貞觀八年、置レ縣屬二戎州一。❷民國、置く。甘肅省臨澤縣。

【撫慰】6（ブヰ） いつくしみなぐさめる。やすんじいたはる。綏慰。撫勞。〔漢書、武五子、燕刺王劉旦傳〕撫二慰百姓一。〔後漢書、班超傳〕超曉告撫慰。〔吳志、諸葛恪傳〕皆當二撫慰一。〔六部成語、兵部、撫慰、注解〕招撫安慰降レ衆。

【撫有】7（ブイウ） なで安んじたもつ。あはれみをかけて自分のものとする。〔左氏、襄、十三〕撫二有蠻夷一。〔蜀志、後主劉禪傳〕撫二有區夏一。

【撫育】8（ブイク） いつくしみそだてる。撫養。〔後漢書、齊武王縯傳〕撫育恩愛甚篤。〔魏志、毛玠傳〕撫二育孤兄子一甚篤。〔蜀志、馬忠傳〕忠撫育卹理、甚有二威惠一。〔陳子昂、爲二蘇令本一與二岑內史一啓〕早蒙二撫育之恩一。

【撫院】9（ブヰン） 巡撫の別稱。撫臺(75)に同じ。

【撫掩】10（ブエン） なぐさめあはれむ。撫慰。〔爾雅、釋訓〕矜憐、撫二掩之一也。〔注〕撫掩、猶二撫拍一、謂二慰恤一也。

【撫遠】11（ブエン） 縣名。民國、置く。唐の渤海渤利州境の地。今、滿州吉林省同江縣の東北。其の地、烏蘇里河口に當り、露領と相對す。邊疆の要地。

【撫臆】12（ブオク） むねをなでさする。〔陸機、演連珠〕撫レ臆論レ心、有レ時而謬。〔沈約、郊居賦〕試撫レ臆而爲レ言、豈斯風之可レ扇。

【撫角】13（ナデカク） 器物の角に圓みをつけ和げて造つたもの。

【撫檻】14（ブカン） てすりをなでる。〔楚辭、王褒、九懷、通路〕撫レ檻兮遠望、念レ君兮不レ忘。

【撫牛】15（ナデウシ） 素燒の牛像。布團の上に置いて祭り、吉事ある每に、布團を重ねるといふ。迷信家の行ふもの。〔浮世床、二編上〕氣のきかねえ撫牛で。

【撫鞠】16（ブキク） なでやしなふ。撫育。〔潘岳、京陵女公子王氏哀辭〕嗟爾母氏、劬勞撫鞠。

【撫鏡】17（ブキヤウ） 鏡をとる。鏡をみる。〔劉峻、辨命論〕撫レ鏡知二其將レ刑。

【撫芎】18（ブキユウ） 香草の名。芎藭の一種。〔本草、芎藭〕釋名、時珍曰、出二江南一者爲二撫芎一。

【撫御】19（ブギヨ） なさけをかけて治める。いたはり統御する。撫馭。〔宋史、高繼勳傳〕善撫二御士卒一。

【撫馭】20（ブギヨ） 情をかけてつかふ。いたはり使ふ。撫馭。〔南史、蘭欽傳〕善撫馭、得二人死力一。

【撫胸】21（ブキヨウ） 胸をなでさする。〔明外史、趙時春傳〕此小臣所二以撫レ胸流涕一。

【撫玉】22（ブギヨク） 玉をなでる。〔儀禮、覲禮〕侯氏升致二命王一撫レ玉。

【撫琴】23（ブキン） ことをひく。撫箏。〔王粲、七哀詩〕獨夜不レ能レ寐、攝レ衣起撫レ琴。〔宋書、隱逸、宗炳傳〕撫レ琴動レ操、欲レ令二衆山皆響一。

【撫懷】24（ブクワイ） なでなつかしむ。なでやすんずる。〔魏志、三少帝、陳留王奐紀〕撫二懷六合一。

【撫訓】25（ブクン） なでをしへる。撫教。〔北史、李賢傳〕十四遭二父憂一、撫二訓諸弟一、友愛甚篤。

【撫軍】26（ブグン） ❶太子が君に從つて軍に赴くこと。君を助け軍士を撫循する意。〔左氏、閔、二〕大子奉二冢祀社稷之粢盛一、以朝夕視二君膳一者也、故曰二冢子一、君行則守、有レ守則從、從曰二撫軍一、守曰二監國一、古之制也。〔會箋〕從曰二撫軍一、助レ君撫二循軍士一之謂也。〔國語、晉語一〕君行、大子從以撫レ軍也。❷將軍の名號。魏に始まり隋に廢せらる。〔晉書、職官志〕伏波・撫軍・都護・鎭軍。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕桓桓撫軍、古賢作レ冠。〔通典、職官、武官下、雜號將軍〕撫軍、魏武帝置、以二司馬宣王一爲レ之。❸明・清の時、巡撫の別稱。撫軍中丞を見よ。〔翟鳳翥、白撫如梅實政記〕撫軍三韓世家也。

【撫軍中丞】27（ブグンチユウジヨウ） 明・清の時、巡撫の別稱。〔清國行政法汎論、地方官廳、支那本部總論、行政區劃及地方官廳〕官職古名、巡撫・撫軍・撫臺・中丞。

【撫教】28（ブケウ） 安んじをしへる。撫訓。〔易、明夷、內二文明一而外二柔順一、疏〕內懷二文明之德一、撫二教六州一。〔史記、五帝紀〕撫二教萬民一、而利二誨之一。

【撫結】29（ブケツ） 親しんで交りをむすぶ。〔後漢書、竇融傳〕撫二結雄傑一、懷二輯羌虜一。

【撫肩】30（ナデガタ） なだらかな肩。

【撫劍】31（ブケン） 劍に手をかける。拊劍。〔左氏、襄、二十六〕撫レ劍從レ之。〔孟子、梁惠王下〕夫撫レ劍疾視曰、彼惡敢當レ我哉、此匹夫之勇、敵二一人一者也。〔魏志、張邈傳〕撫レ劍顧眄。

【撫絃】32（ブゲン） 琴などをかなでる。拊絃。〔淮南子、脩務訓〕搏レ琴撫レ絃、參彈復徽。

【撫孤】33（ブコ） 孤兒を救濟する。〔史記、淮陰侯傳〕廣武君對曰、方今爲二將軍一計、莫レ如三按レ甲休レ兵、鎭レ趙撫二其孤一。

【撫箏】34（ブサウ） 琴をかなでる。撫琴。〔晉書、桓伊傳〕撫レ箏而歌二怨詩一。

【撫斬】35（ナデギリ） ❶押しつけて斬る。❷片端から斬り捨てる。〔源氏烏帽子折、烏帽子名盡〕撫斬・胴斬。

【撫子】36（ナデシコ） 草の名。山野に自生し、葉は披針狀對生で、淡紅色の花を開く。洛陽花。瞿麥。〔家經朝臣、和歌序〕鍾愛抽二衆草一、故曰二撫子一。

【撫子合】37（ナデシコアハセ） 昔、貴族の間に行はれた遊戲。左右に分れ撫子に歌を添へて、趣向の優劣を闘はしたもの。〔公任集〕藤壺の撫子あはせに。

【撫矢】38（ブシ） 矢をなでる。〔儀禮、鄕射禮〕左右撫レ矢而乘レ之。〔注〕撫、拊レ之也。

【撫師】39（ブシ） 軍隊を撫で循へる。〔漢書、李廣傳〕振レ旅撫レ師。

【撫視】40（ブシ） いつくしみる。いたはる。〔魏志、高柔傳〕又哀二兒女一、撫視不レ離。〔白居易、祭二浮梁大兄一文〕撫視之間、過二於猶子一。

【撫字】41（ブジ） なでいつくしむ。いたはる。愛養する。〔後漢書、列女、程文矩妻傳〕穆姜慈愛溫仁、撫字益隆。〔北齊書、封隆之傳〕頻爲二本州一、留二心撫字一、吏民追思、立レ碑頌レ德。〔唐書、陸贄傳〕視二戶口豐耗一、以稽二撫字一。〔韓愈、順宗實錄、四〕撫字心勞、徵科政拙。

【撫州】42（ブシウ） ❶州名。㋑隋、置く。江西省臨川縣。總管楊武通が其の地を安撫したので名づけた。〔讀史方輿紀要、江西〕撫州府、禹貢揚州地、春秋屬レ吳、戰國屬レ楚、秦屬二九江郡一、漢屬二豫章郡一、後漢因レ之、云云、隋平レ陳、改置二撫州一、大業初、又改爲二臨川郡一、唐復無二撫州一、天寶初、亦改爲二臨川郡一、唐復爲二撫州一。㋺金、置く。察哈爾省張北縣の境。㋩元、置く。朝鮮の平壤の西

北。❷府名。明、置く。清、之に因り、臨川・金谿・崇仁・宜黃・樂安・東鄕の六縣を管轄す。故治は江西省臨川縣。〔清史稿、地理志〕江西、撫州府、領㆓縣六㆒、臨川・金谿・崇仁・宜黃・樂安・東鄕。

【撫柔】43ブジウ なでやはらげる。いつくしみ安んずる。撫和。撫輯。〔左氏、隱、十一〕吾子其奉㆓許叔㆒、以撫㆓柔此民㆒也。

【撫集】44ブシフ なで集める。〔晉書、劉宣載記〕觀㆓其性質㆒、足㆔能撫㆓集本部㆒。

【撫緝】45ブシフ なでやはらげる。撫輯に同じ。〔五代史、雜十八、韓建傳〕獨建撫㆓緝兵民㆒。

【撫輯】46ブシフ なでやはらげる。撫和。撫柔。〔宋史、理宗紀四〕深入㆓蠻地㆒、撫輯有㆑方。

【撫掌】47ブシヤウ 手のひらをうつ。歡笑するさま。拊掌。〔魏志、武帝紀、注〕公聞㆓許攸來㆒、跣出迎㆑之、撫㆑掌笑曰、子卿遠來、吾事濟矣。〔吳志、魯肅傳〕權撫㆑掌歡笑。〔庾信、哀江南賦序〕陸士衡聞而撫㆑掌、是所㆓甘心㆒、張平子見而陋㆑之、固其宜矣。

【撫掌泉】48ブシヤウセン 泉の名。江蘇省句容縣の東南、茅山の昭明讀書臺の下。又、東溫泉といふ。〔建康志〕在㆓茅山崇壽觀前㆒、雖㆑旱不㆑涸、聞㆓擊掌之聲㆒、湧出如㆑湧、其味甚佳、冬時常暖、亦呼㆓冬溫泉㆒。

【撫情】49ブジヤウ 心を安んずる。撫心。〔楚辭、九章、懷沙〕撫㆑情效㆑志兮、俛屈以自抑。

【撫手】50ブシユ 手をうつ。撫掌。拊手。〔戰國、趙策〕鄭同因撫㆑手仰㆑天而笑㆑之。〔南史、王琨傳〕坐上莫㆑不㆓撫㆑手嗤笑㆒。

【撫衆】51ブシユウ 衆人を憐み安んずる。〔晉書、謝萬傳〕嘗以㆓嘯詠㆒自高、未㆓嘗撫㆑衆。

【撫叔】52ブシユク 夫の弟の尸をなでること。〔禮、雜記下〕嫂不㆑撫㆑叔、叔不㆑撫㆑嫂。

【撫恤】53ブジユツ いつくしみめぐむ。〔魏志、鄧艾傳〕撫㆓恤上下㆒、以立㆓根基㆒。〔魏志、倉慈傳〕撫㆓恤貧羸㆒。〔蜀志、張裔傳〕撫㆓恤故舊㆒。〔北史、源賀傳〕有㆓惠政㆒、善撫恤。

【撫卹】54ブジユツ 撫恤に同じ。〔晉書、華譚傳〕境內饑饉、譚傾㆑心撫卹。〔顏氏家訓、名實〕每加㆓撫卹㆒。

【撫巡】55ブジユン めぐつてなでやすんずる。拊巡。〔陸機、辨亡論上〕乃俾㆔一介行人、撫㆓巡外域㆒。

【撫徇】56ブジユン 人民をなで從へる。撫循に同じ。

【撫循】57ブジユン なでしたがへる。いたはつて服從させる。拊循。〔墨子、尙同中〕則其德音之所㆓撫循㆒者博矣。〔韓非子、用人〕勞苦不㆓撫循㆒、憂悲不㆓哀憐㆒、喜則譽㆓小人㆒、賢不肖俱賞。〔史記、王翦傳〕洗沐而善飲食撫㆓循之㆒。〔漢書、蓋寬饒傳〕有㆓疾病㆒者、身自撫循臨問。〔後漢書、皇后上、光烈陰皇后紀〕不㆑能㆔撫㆓循它子㆒。〔魏志、蘇則傳〕戶口損耗、則撫㆓循之㆒。〔潘岳、馬汧督誄〕霑㆑恩撫循。〔蘇轍、臣事策〕撫循鞠養。

【撫順】58ブジユン ❶なでしたがへる。〔後漢書、應劭傳〕辭謝撫順。❷縣名。清、置く。滿洲遼寧省瀋陽縣の東。渾河の北岸。石炭を產す。撫順煤鑛を見よ。〔清史稿、地理志〕奉天、奉天府、縣八、撫順。

【撫順煤鑛】59ブジユンバイクワウ 炭鑛の名。滿洲遼寧省撫順縣の南、渾河の左岸。渾河の支流によつて東西二部に分る。東部には楊佁堡・老虎臺・龍眼河・塔連嘴子、西部には千金寨・古城子・小瓢屯がある。

【撫松】60ブシヨウ ❶松に賢貞の操があるのを賞して愛撫すること。〔陶潛、歸去來辭〕景翳翳以將㆑入、撫㆓孤松㆒而盤桓。❷縣名。清、置く。治は雙甸子。滿洲遼寧省安圖縣の西。松花江の上流。〔清史稿、地理志〕奉天、長白府、縣二、撫松。

【撫松亭】61ブシヨウテイ 清、彭肇洙(4－10003・・195)の室名。

【撫式】62ブシヨク 車上のよこぎによつて敬禮する。尊敬の意を表はす。式は軾。〔禮、曲禮上〕國君撫㆑式、大夫下㆑之、大夫撫㆑式、士下㆑之。〔注〕撫、猶㆑據也、據㆑式小俛、崇敬也。

【撫軾】63ブシヨク 車前のよこぎに據る。撫式に同じ。〔楚辭、王褒、九懷、陶壅〕撫㆑軾歎兮作㆑詩。

【撫心】64ブシン ❶胸をうつ。胸をなでる。拊心。〔列子、湯問〕師襄乃撫㆑心高蹈。❷心をなでをさめる。〔宋玉、神女賦序〕於㆑是撫㆑心定㆑氣。

【撫臣】65ブシン 巡撫をいふ。撫臺(75)を見よ。

【撫綏】66ブスイ なでやすんずる。鎭めて安泰にする。撫寧。〔書、太甲上〕天監㆓厥德㆒、用集㆓大命㆒、撫㆓綏萬方㆒。〔傳〕撫㆓安天下㆒。

【撫世】67ブセイ ❶世人をなぐさめ安んずる。世の中を治める。〔莊子、天道〕以㆑此進爲而撫㆑世、則功大名顯。❷世を掩ふ。蓋世(9－31652・・43)に同じ。〔荀子、宥坐〕勇力撫㆑世、守㆑之以㆑怯。〔集解〕盧文弨曰、〔注〕撫、掩也、猶㆑言㆑蓋㆑世矣。據㆑注則撫、乃憮字之誤。

【撫正】68ブセイ なで安んじ正しくする。〔後漢書、文苑下、劉梁傳〕撫㆓正南海㆒、訓㆓及諸夏㆒、其寵大矣。

【撫西】69ブセイ 城の名。滿洲遼寧省撫順縣の治。もと撫順城といふ。

【撫征】70ブセイ 服從する者を安撫し、叛く者を征伐する。〔左氏、昭、十五〕撫㆓征東夏㆒。〔會箋〕撫征、撫㆑服征㆑叛也。〔國語、楚語上〕撫㆓征南海㆒。

【撫席】71ブセキ 席を抑へ整へる。〔禮、曲禮上〕客跪撫㆑席而辭。〔疏〕撫、謂㆔以㆑手按㆓止之㆒也。

【撫接】72ブセツ やすんじちかづける。〔後漢書、和帝紀〕撫㆓接夷狄㆒、以㆑人爲㆑本。〔宋書、袁顗傳〕惟賦㆑詩談㆑義而已、不㆑能㆔撫㆓接諸將㆒。「悲歌。

【撫節】73ブセツ 手拍子をうつ。〔列子、湯問〕撫㆑節

【撫存】74ブソン いたはりいつくしむ。安撫存問。〔晏子、問、上〕糾㆓合兄弟㆒、撫㆓存翌州㆒。〔後漢書、張純傳〕修㆓復祖宗㆒、撫㆓存萬姓㆒、天下曠然、咸蒙㆓更生㆒。

【撫臺】75ブダイ 巡撫(4－8684・・84)の別稱。〔觚不觚錄〕余自㆓嘉靖丁巳戊午閒㆒、爲㆓青臯㆒、前後所㆓周還㆒二三、撫臺劉公來・傅公頤・丁公以忠皆知己、丁公又同寮、而是時撫臣體尙尊、劉公三次詢㆓問事體㆒、丁公亦如㆑之、皆手書不㆑具㆑名、惟丁公一次用㆓單紅帖㆒而已、戊辰起㆑兵備㆓大名撫臺㆒、爲㆓溫公如璋㆒。〔清國行政法汎論、地方官廳、支那本部總論、行政區劃及地方官廳〕官職古名、巡撫・撫軍・撫臺・中丞。

【撫導】76ブダウ 安んじみちびく。〔北史、令狐整傳〕獎勵撫導、遷者如㆑歸。

【撫治】77ブチ なでをさめる。〔明雷禮列卿紀〕添㆓設都御史提督㆒撫㆓治之㆒。

【撫鎭】78ブチン なでしづめる。鎭撫。〔北史、魏高涼王傳〕選㆓豪右㆒爲㆓守令㆒、以撫㆓鎭之㆒。

【撫塵】79ブヂン 童子の戲。塵を集め積んで遊ぶこと。聚砂。轉じて、土いぢりする程の年頃。〔東方朔、與㆓公孫弘㆒借㆓車馬㆒書〕同類之游、不㆘以㆓遠近㆒爲㆖㆑敍、云云、大丈夫相知、何必撫塵而游、垂㆑髮齊㆑年、偃伏以㆓日數㆒哉。〔應璩、與㆓曹公㆒牋〕昔漢光武與㆓戴子高㆒、有㆓撫塵之好㆒。

【撫定】80ブテイ やすんじしづめる。〔漢書、韓王信傳〕〔項梁〕立㆓韓公子橫陽成㆒爲㆓韓王㆒、欲㆔以撫㆓定韓地㆒。

【撫納】81ブナフ なでてとりいれる。〔吳志、步騭傳〕承㆑制遣㆑使、宜㆑恩撫納。

【撫寧】82ブネイ ❶なでやすんずる。撫安。撫綏。〔漢書、韋賢傳〕撫㆓寧遐荒㆒。〔魏志、荀攸傳〕撫㆓寧內外㆒。〔傅亮、爲㆓宋公㆒求㆔加㆓贈劉前軍㆒表〕撫寧之勳。❷縣名。㋑南朝宋、置く。廣西省の境。㋺西魏、置く。陝西省米脂縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、綏德州〕撫寧城、在㆓州西㆒、魏置㆓撫寧郡及撫寧縣㆒。㋩金、置く。河北省永平縣の東。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府〕撫寧縣、府東八十里、漢驪成縣地、云云、金大定末、改置㆓撫寧縣㆒、元至元初、省入㆓昌黎縣㆒、尋復置、屬㆓永平路㆒。〔清史稿、地理志〕直隸、永平府、縣六、撫寧。「號。

【撫寧伯】83ブネイハク 明、朱謙(6－14424・・274)の封

【撫念】84ブネン かはいさうに思ふ。〔韋應物、送㆓楊氏女㆒詩〕女子今有㆑行、大江泝㆓輕舟㆒、爾輩況無㆑恃、撫念益慈柔。

【撫抱】85ブハウ なでいだく。〔宋史、宗室一、燕王德昭傳〕或中夜啼號、必自起撫抱。

【撫拍】86ブハク ❶慰めいつくしむ。〔爾雅、釋訓、矜憐撫㆓掩之㆒也、注〕撫掩、猶㆓撫拍㆒、謂㆓慰卹㆒也。❷親しみ狎れる。〔後漢書、文苑下、趙壹傳〕嫗㆓媚名埶㆒撫㆓拍豪強㆒。〔注〕撫拍、相親狎也。❸樂器の名。なめしがはで作つたふくろに糠を滿たし、これを拍つて音樂の調子を節するもの。〔舊唐書、音樂志二〕撫拍、以㆑韋爲㆑之、實㆑之以㆑糠、撫㆑之節㆑樂也。

【撫髀】87ブヒ ももの肉を擊つ。慨歎する時に用ひる語。拊髀。〔南史、李安人傳〕安人少有㆓大志㆒、

常撫レ髀歎曰、大丈夫處レ世、富貴不レ可二希取一。

【撫附】88ナデツク ㊀撫でて附着せしめる。〔源氏物語、柏木〕額などなでつけておはするに。㊁亂れた髮を櫛で搔き上げをさめる。〔天網島、下〕洗ひつ梳いつ撫で付けし。㊂結髮せずに梳つて後に垂れおく髮。

【撫缶】89ブフ 缶をうつ。拊缶。〔楊惲、報二孫會宗一書〕仰レ天撫レ缶、而呼嗚嗚。

【撫物】90ナデモノ ㊀禊・祈禱などの時、身を撫でて、禍・穢れを移し、身の代りとして祈禱所などに遣り、祓ひ棄てる紙製の人形又は衣服など。かたしろ。〔禁祕抄、下、御祓〕內侍進二撫物一、上臈傳レ之、撫二御身一給。㊁猫の異名。〔和訓栞〕懷の內におきふしなでものは。

〔撫物使〕91ナデモノツカヒ 昔、武家で撫物を祓の場所に持つて行つた使者。撫物役。

【撫兵】92ブヘイ 桃花扇(**6－14757**・・54)の篇名。

【撫米】93ブベイ 巡撫が徵收・運送を司る米。漕運總督の管理に歸しないもの。〔六部成語、戶部、撫米、注解〕本省巡撫專司二徵解一、不レ歸二於漕運總督一者。

【撫標】94ブヘウ 清代、巡撫所屬の軍隊。〔清會典、兵部〕各省巡撫所レ屬爲二撫標一。〔清國行政法汎論、巡撫、備考〕巡撫部下、皆有二若干軍隊一、名曰二撫標一。

【撫封】95ブホウ 封內の地を治め安んずる。〔左氏、成、十一〕昔、周克レ商、使二諸侯撫レ封。

【撫摩】96ブマ なでさする。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕號泣手撫摩、當レ發復回疑。

【撫抹】97ブマツ なでさする。〔福惠全書、郵政部、腰站〕冬則搭レ屜、夏則撫抹。

【撫民】98ブミン 人民を撫で安んずる。〔書、微子之命〕撫レ民以寬。〔漢書、平帝紀〕以レ德撫レ民。

【撫冥】99ブメイ 古の鎭の名。後魏六鎭の一。今の察哈爾省の右翼、鑲藍旗の地。〔魏書、高祖紀〕(太和十八年八月)辛酉、幸二撫冥鎭一。

【撫問】100ブモン なぐさめたづねる。〔舊唐書、玄宗紀下〕上皇親自撫問、人人感咽。

【撫養】101ブヤウ ㊀いつくしみやしなふ。〔史記、吳起傳〕撫二養戰鬭之士一。〔後漢書、陳蕃傳〕撫二養百姓一、同二之赤子一。〔後漢書、孔融傳〕撫二養戰士一。〔魏志、王基傳〕翁撫養甚篤。〔李密、陳情表〕祖母劉愍二臣孤弱一、躬親撫養。㊁ヤム 阿波國の地名。

【撫諭】102ブユ 撫で諭す。いつくしみさとす。〔宋史、劉子羽傳〕以二集英殿修撰一知二鄂州一、熊彥詩同撫二諭川陝一。〔宋史、魯宗道傳〕臣竊恥二尸祿一請得二罷去一、帝撫諭良久。〔宋史、趙逢龍傳〕爲レ政務二寬恕一、撫諭惻怛、一以二天理民彝一爲レ言、民是以不レ忍レ欺。

【撫諭使】103ブユシ 宋の官名。民を安慰存問し、其の利病を採つて條奏し、或は罷め或は行はしめることを掌る。南宋の初、金人北に退くや、路允迪・耿延禧を京城撫諭使として、地方を安撫させたのに始まる。其の後、諸路に皆撫諭を置き、併せて官吏を按察し、民の寃抑を伸べしむ。一に撫諭官ともいふ。又、專ら軍馬を撫諭するために出る者もある。〔宋史、職官志七〕撫諭使、掌二慰安存問一、采二民之利病一、條奏而罷二行之一、亦不二常置一、其後、云云、或以レ使名、則稱二撫諭官一。〔文獻通考、職官考、撫諭使〕掌二慰安存問一、採二民之利病一、條奏而罷二行之一、亦不二常置一、建炎元年、上謂二輔臣一曰、京城士庶自二金人退一レ師、人情未レ安、可二差レ官撫諭一、於レ是以二路允迪・耿延禧一爲二京城撫諭使一、此置レ使初意也、是年八月、又令二學士院一降レ詔、且命二江端友等一、奉レ詔撫二諭諸路一、其後李正民以二中書舍人一爲二江浙湖南撫諭使一、且令下按二察官吏一、伸中民寃抑上、傅崧卿以二吏部侍郎一爲二淮東撫諭使一、採二訪民間利病一、及措二置營田等事一、或不二以レ使名一則稱二撫諭官一、所レ至以二某州撫諭司一爲レ名、具二宣恩言一、俾三民知二德意一、初無二二致一、乾道元年、知閤門事龍大淵差二充兩淮撫諭一、軍馬回日結局、是又特爲二軍馬一出云。

【撫膺】104ブヨウ むねをなでる。拊膺。〔列子、說符〕撫レ膺而恨。

【撫鷹】105カタカヘリ 鷹の二歲になつたものをいふ。〔倭名類聚抄、羽族部、鳥名、鷹〕廣雅云、一歲名二之黃鷹一、和賀多加、二歲名二之撫鷹一、加太加閇利。

【撫翼】106ブヨク はばたきする。拊翼。〔袁宏、三國名臣序贊〕撫二翼桑梓一、息二肩江表一。〔傅玄、鬭雞賦〕或撫レ翼未レ舉。

【撫勞】107ブラウ やすんじねぎらふ。いたはり慰める。〔後漢書、吳漢傳〕車駕親幸撫勞。〔魏志、文帝紀〕其遣二使者一撫二勞之一。

【撫臨】108ブリン 惠みをさめる。やすんじをさめる。〔史記、文帝紀〕以二不敏不明一、而久撫二臨天下一。〔魏志、三少帝、陳留王奐紀〕撫二臨萬國一。

【撫弄】109ブロウ なでかなでる。琴などを奏でること。〔南史、隱逸上、陶潛傳〕陶潛、云云、蓄二素琴一張一、每レ有二酒適一、輒撫弄、以寄二其意一。

【撫和】110ブワ なでやはらげる。撫輯。〔張衡、東京賦〕撫二和戎狄一。〔魏志、三少帝、陳留王奐紀〕撫二和吏民一。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕撫二和戎狄一。

【撫鶴亭】111ブカクテイ 宋、張鎡(**4－9812**・・361)の室名。

【撫仙湖】112ブセンコ 湖の名。雲南省澂江縣の南。〔明一統志〕一名二羅迦湖一、又名二青魚戲月湖一、周三百餘里、中多レ石、玉筍山撫二其上一、宛如二仙人一。

【撫今思昔】113 fu^3 chin^1 ssŭ^1 hsi^2 現狀を以て往時を追想する。轉た今昔の感に堪へない。

【擌】12744

サク シヤク 〔集韻〕測革切 陌

たすける。或は捒(**5－12010**)に作る。〔集韻〕擌、扶也、或省。

【⿱湯手】12745

タウ 〔字彙〕他郎切 ㄊㄤˉ t'ang^1 陽

手で推し止める。〔字彙〕⿱湯手、以レ手推止也。

【⿱湯手風酒】1 t'ang^1 feng^1 chiu^3 寒氣を凌ぐ酒。

【撬】12746

ケウ 〔集韻〕牽幺切 ㄑㄧㄠˉˋ ch'iao$^{1\cdot4}$ 蕭

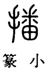
㊀**あげる**。〔集韻〕撬、舉也。㊁現 こじる。

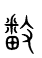
【撬開】1 ch'iao^4 k'ai^1 こじあける。

【撬門】2ケウモン 門の戶をこじあける。〔六部成語、刑部、撬門、注解〕以レ刀破レ門也。

【播】12747

[一]ハ 〔集韻〕補過切 ㄅㄛˋ po^4 箇
[二]ハ 〔集韻〕補火切 哿
[三]ハ 〔集韻〕逋禾切 歌


小篆


古文

[一]㊀**まく**。たねを下す。〔說文〕播、穜也、从レ手番聲。〔書、舜典〕汝后稷播二時百穀一。〔傳〕播、布也、汝后レ稷、布二種是百穀一、以濟レ之。〔書、大誥〕厥子乃弗二肯播一。〔疏〕播、謂二布種一。〔詩、周頌、載芟〕播二厥百穀一。〔箋〕播、猶レ種也。㊁**しく**。譒(**10－35962**)に通ず。〔說文通訓定聲〕播、叚借爲レ譒。〔說文〕播、一曰、布也。〔左氏、昭、四〕播二於諸侯一。〔嵇康、琴賦〕蒸二靈液一以播レ雲。〔注〕善曰、播、布也。㊂**のべる**。ほどこす。〔禮、禮運〕播二五行於四時一。〔注〕播、舒也。〔禮、緇衣〕播レ刑之不レ迪。〔注〕播、猶レ施也。㊃**ちらす**。判(**2－1923**)に通ず。〔說文通訓定聲〕播、叚借爲レ判。〔張衡、思玄賦〕播二余香一而莫レ聞。〔注〕衡曰、播、散也。㊄**ちる**。わかれる。〔書、禹貢〕又北播爲二九河一。〔鄭注〕播、散也。〔傳〕北分爲二九河一。㊅**うつる**。〔左氏、昭、二十六〕不穀震盪播越。〔會箋〕播、遷也。〔後漢書、獻帝紀贊〕身播國屯。〔注〕播、遷也。㊆**あげる**。簸ヒ(**8－26609**)に通ず。〔說文通訓定聲〕播、叚借爲レ簸。〔周禮、春官、大司樂〕播レ之以二八音一。〔注〕播之言、被也。〔孫詒讓正義〕被者、取下布二之樂器一、以發二其音一之義上、大師注云、播猶レ揚也、揚與レ被

義亦相成。〔周禮、春官、大師〕皆播レ之以二八音一。〔注〕播、猶レ揚也。❽**はなつ**。〔國語、周語下〕播二其淫心一。〔注〕播、放也。❾**すてる**。〔楚辭、劉向、九歎、思古〕播二規榘一以背レ度兮。〔注〕播、棄也。❿**のがれる**。〔字彙〕播、逋也。〔正字通〕播、亡逃也。〔書、大誥〕于伐二殷逋播臣一。〔疏〕播、謂二播揚逃亡之意一。⓫**うごかす。うごく**。〔廣雅、釋言〕播、搖也。〔左氏、昭、三十〕將焉用二是播揚一焉。〔注〕播揚、謂二動勞一也。〔論語、微子〕播鼗武。〔集解〕孔安國曰、播、猶レ搖也。⓬**まがき**。藩(**9－32346**)に通ず。〔尚書大傳、洪範五行傳〕播國。〔注〕播、讀曰レ藩。⓭古は𥝢(**11－40117**)・敽(**5－13385**)に作る。〔集韻〕播、古作二𥝢・敽一。⓮**姓**。〔集韻〕播、亦姓。〔正字通〕播、姓、殷賢人播軌。〔萬姓統譜〕播、見二姓苑一、唐置二播州之姓一。(二)**ゆりうごかす**。〔集韻〕播、搖也。(三)滎播は、澤の名。潘(**7－18236**)に通ず。〔說文通訓定聲〕播、叚借爲レ潘。〔集韻〕播、水名、在二豫州域一。〔史記、禹紀〕滎播既都。

名乘　カシ。スケ。

【播移】1 ハイ　樹の名。〔太平御覽、木部〕林邑記曰、播移樹、柯節發、根下虛中、森羅望レ之似レ懸レ髮。

【播逸】2 ハイツ　分布する。〔嵇康、琴賦〕陵縱播逸、霍濩紛葩。〔注〕銑曰、凌縱播逸、聲高而分布也。

【播雲】3 ハウン　雲を布きひろげる。〔嵇康、琴賦〕蒸二靈液一以播レ雲。〔注〕善曰、播、布也。

【播越】4 ハエツ　うつりのがれる。居場所を失つて他國にさすらふ。〔左氏、昭、二十六〕茲不穀震盪播越、竄在二荊蠻一。〔會箋〕播、遷也、越、逸也、言レ失二其所一レ居。〔國語、晉語二〕乃使三梁由靡告二于秦穆公一曰、云云、隱悼播越、託在二草莽一、未レ有レ所レ依。〔後漢書、袁術傳〕天子播越。〔注〕播、遷也、越、逸也、言レ失二其所一レ居。〔蜀志、先主劉備傳〕臣播越失レ據。〔顏氏家訓、慕賢〕流離播越。

【播音】5 po^4 yin^1　放送する。ラヂオ放送。

【播降】6 ハカウ　種をまく。下種する。〔楚辭、天問〕而禹播降。〔注〕播、種也、降、下也。

【播耕】8 ハカウ　たねをまき田をたがやす。〔韓非子、外儲說左上〕夫賣庸而播耕者、主人費レ家而美レ食、調レ布而求二易錢一者、非レ愛二庸客一也。

【播穅】9 ハカウ　ぬかをまく。ぬかをふりまく。〔莊子、天運〕孔子見二老聃一而語二仁義一、老聃曰、夫播レ穅眯レ目、則天地四方易レ位矣。

【播棄】10 ハキ　見すてる。すてる。放棄。〔書、泰誓中〕播二棄黎老一、昵二比罪人一。〔國語、吳語〕今王播二棄黎老一。〔注〕播、放也。〔淮南子、俶眞訓〕必有二波溢而播棄者一。

【播琴】11 ハキン　種子を播く。土俗の語。〔山海經、海內經〕西南黑水之閒、有二都廣之野一、云云、百穀自生、冬夏播琴。〔注〕播琴、猶二播殖一、方俗言耳。

【播琴堂】12 ハキンダウ　清、金學詩(**11－40152**··1214)の室名。

【播化】13 ハクワ　廣く萬物を生ずる。〔魏徵、道觀內柏樹賦〕覽二大鈞之播化一、察二草木之殊類一。

【播穫】14 ハクワク　❶父の耕作を受け繼いで、子が種を播き收穫を行ふこと。轉じて、父祖の業を繼承すること。〔書、大誥〕若二考作一レ室、既底レ法、厥子乃弗二肯堂一、矧肯構、其父菑、厥子乃弗二肯播一、矧肯穫。〔漢書、翟方進傳〕若二考作一レ室、厥子堂而構レ之、厥父菑、厥子播而穫レ之。〔資治通鑑、宋紀〕(明帝、泰始三年)裴子野論曰、後之子孫、日蹙二百里一、播穫堂構、豈云レ易哉。❷植付と刈取。〔福惠全書、錢穀部、比較〕宜下照二本處播穫閑忙月分一、定レ分可上耳。

【播刑】15 ハケイ　刑を施す。刑典を公布すること。播刑之迪を見よ。〔禮、緇衣〕播レ刑之不レ迪。〔注〕播、猶レ施也。

【播刑之迪】16 ハケイノテキ　伯夷が刑典を布いて民を導いたこと。迪はみちびき。〔書、呂刑〕今爾何監、非二時伯夷播刑之迪一。〔蔡傳〕伯夷布レ刑、以啓二迪斯民一。

【播馨】17 ハケイ　かをりをはなつ。〔楊脩、節遊賦〕紛灼灼吕舒レ葩、芳馥馥吕播レ馨。

【播厥】18 ハケツ　穀物をまく。厥は語辭。〔詩、周頌、載芟〕播二厥百穀一、實函二斯活一。〔箋〕播、猶レ種也。〔南史、宋宗室及諸王上、衡陽文王義季傳〕陽相扇レ氣、播厥之始、一日不レ作、人失二其時一。

【播憲】19 ハケン　のりをしく。〔陸機、辨亡論上〕播レ憲稽二乎遺風一。

【播吾】20 ハゴ　地名。河北省平山縣。番吾(**7－21858**··30)に同じ。〔韓非子、外儲說左上〕且先王之賦頌、鍾鼎之銘、皆播吾之跡、華山之博也、云云、趙主父令下工施二鉤梯一、而緣二播吾一、刻中疏人迹其上上、廣三尺、長五尺、而勒レ之曰、主父常游二於此一。

【播告】21 ハコク　つげ知らせる。布告。〔書、盤庚上〕王播告之脩、不レ匿二厥指一。〔傳〕王布二告人一。

【播國】22 ハコク　藩屛となる國。藩國。〔尚書大傳、洪範五行傳〕播國率相行祀。〔注〕播、讀曰レ藩、藩國謂二侯相助一也。

【播穀】23 ハコク　穀物の種子を蒔く。〔淮南子、原道訓〕神農之播レ穀也、因レ苗以爲レ教。〔曹植、神農贊〕造二爲耒耜一、遵レ民播レ穀。〔惠洪、晚步歸二西崦一詩〕播レ穀風光寒日近。

【播骨】24 ハコツ　骨を散らす。骨をすてさらす。〔韓非子、詭使〕而斷二頭裂三腹播四骨乎平原曠野一者、無二宅容一レ身、身死田奪。

【播灑】25 ハサイ　まきそそぐ。まきちらす。〔管子、弟子職〕堂上則播灑、室中握レ手。〔纂詁〕堂上寬、故播散而灑。

【播散】26 ハサン　❶蒔きちらす。播灑。〔管子、弟子職、堂上則播灑、纂詁〕堂上寬、故播散而灑。❷po^4 san^4 逃げる。

【播時】27 ハジ　たねをまく。時は蒔。播蒔。一說に、時は發語の辭で、是の意。〔書、舜典〕汝后レ稷、播二時百穀一。〔傳〕汝后レ稷、布二種是百穀一。〔史記、五帝紀〕汝后レ稷、播二時百穀一。〔注〕集解曰、鄭玄曰、時、讀曰レ蒔。

【播州】28 ハシウ　州名。唐、置く。貴州省遵義縣。〔讀史方輿紀要、四川〕遵義府、禹貢梁州之域、秦爲二巴郡地一、漢初爲二夜郎侯國一、武帝平二西南彝一、置二牂牁郡一、後漢因レ之、云云、唐初沒二於蠻一、貞觀九年、始置二郎州一、十一年廢、十三年復置、改曰二播州一、天寶初曰二播川郡一、乾元初復爲二播州一、大中末沒二於南詔一、咸通初收復、宋爲二羈縻蠻地一、大觀二年、復建二播州一、宣和三年州廢、端平三年復置、嘉熙三年、置二播州安撫司一、元曰二播州軍民安撫司一、明洪武四年歸附、亦曰二播州宣撫司一、六年升爲二宣慰使一、萬歷二十七年、改爲二遵義府一、領二州一縣四一、今因レ之。

【播種】29 ハシユ　たねをまく。又、たねまき。〔書、呂刑〕稷降二播種一、農殖二嘉穀一。〔孟子、告子上〕今夫麰麥、播種而耰レ之。〔王褒、四子講德論〕播種則扞弦掌拊。

【播出】30 ハシユツ　逃亡する。〔韓非子、八經〕父兄賢良播出曰二遊禍一、其患鄰敵多レ資。

【播糈】31 ハシヨ　米をひる。箕で米をあふつて、雜物を去ること。糈は精米。播精(36)に同じ。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕支離覆逆之數。〔注〕善曰、莊子曰、支離疏鼓レ筴播レ糈、足三以食二十人一。

【播植】32 ハシヨク　種を蒔いたり植ゑ付けたりすること。種植。蒔植。播殖。〔曹植、社頌〕克明二播植一。〔吳志、張紘傳〕廣開二播植一。〔南史、程靈洗傳〕性好二播植一、躬勤二耕稼一。

【播殖】33 ハシヨク　蒔きつけてふやす。〔國語、鄭語〕周棄能播二殖百穀蔬一。〔吳志、華覈傳〕奪二其播殖之時一。〔孔子家語、五帝〕孔子曰、古之平二治水土一、及播二殖百穀一者衆矣。

【播生】34 ハセイ　まき生ずる。〔後漢書、西羌傳贊〕金行氣剛、播二生西羌一。

【播旌】35 ハセイ　縣名。漢、置く。安徽省の境。〔漢書、地理志上〕臨淮郡、縣二十九、播旌。

【播精】36 ハセイ　米をひる。箕を以て米をあふつて雜物を去ること。播は簸。一說に、吉凶を判斷し、精靈を辨ずること。又一說に、うらなひの卦象。〔莊子、人閒世〕鼓レ筴播レ精、足三以食二十人一。〔釋文〕崔云、播精、卜卦占兆也。〔疏〕筴、小箕也、精、米也、言下其掃二市場一、鼓二箕筴一、播二揚土一、簡中精麤上也、又解二鼓筴一、謂三布レ蓍數二卦兆一也、播精、謂下精二判吉凶一、辨中精靈上也。

【播潛】37 ハセン　散じひそむ。遠くさまよふ。播遷に同じ。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕播二潛江表一。

【播遷】38 ハセン　散じ移る。遠地に流浪する。遠くに

うつす。〔列子、湯問〕仙聖之播遷者、巨億計。〔盧諶、贈㆓劉琨㆒詩〕王室喪㆑師、私門播遷。〔注〕善曰、聲類曰、播、散也、銑曰、遷、移也。〔庾信、哀江南賦〕彼淩㆑江而建㆑國、始播㆓遷於吾祖㆒。

【播蔬】39 ハソ 野菜の種をまく。〔逸周書、大匡解〕無㆓播蔬㆒無㆓食種㆒。

【播送】40 po^4 sung^4 放送する。

【播蕩】41 ハタウ 散りうつる。さすらふ。流離する。播越。〔左氏、襄、二十五〕夏氏之亂、成公播蕩。〔注〕流移失㆑所。〔後漢書、史弼傳〕周有㆓播蕩之禍㆒。〔魏志、田疇傳〕朝廷播蕩。

【播鼗】42 ハタウ 樂器の名。ふりつづみ。鼗（**12－48351**）の字解を見よ。〔周禮、春官、瞽矇〕掌㆑播㆓鼗・柷・敔・塤・簫・管・絃・歌㆒。〔論語、微子〕播鼗武入㆓於漢㆒。〔集注〕播、搖也、鼗、小鼓、兩旁有㆑耳、持㆓其柄㆒而搖㆑之、則旁耳還自擊。

【播田】43 ハデン 畑に種をまく。〔春秋繁露、三代改制質文〕后稷長㆓於邰土㆒、播㆓田五穀㆒。

【播傳】44 po^4 chʻuan^2 傳播する。宣傳する。

【播德】45 ハトク 德を施す。〔蜀志、楊戲傳〕履㆑迹播㆑德。

【播播】46 ハハ うつりゆくさま。又、水の流れるさま。〔韓愈、鄆州谿堂詩序〕播播流水。

【播布】47 ハフ ひろめしく。播敷に同じ。

【播敷】48 ハフ ひろめしく。播布。〔書、康誥〕乃別播敷、造㆓民大譽㆒。

【播賦】49 ハフ ひろめしく。播敷に同じ。〔墨子、天志中〕播㆓賦百事㆒。

【播磨】50 ハリマ 山陽道八箇國の一。現在の兵庫縣。

【播米】51 po^4 mi^3 米を簸る。箕で米をあふつてより分ける。

【播揚】52 ハヤウ ❶ほねをりうごく。事を起す。發動する。〔左氏、昭、三十〕將焉用㆓自播揚㆒焉。〔注〕播揚、猶㆓勞動㆒也。〔會箋〕播揚、是億寧之反、言㆓從㆑我生㆒㆑事也。❷しきひろめる。ひろめあげる。〔魏志、文帝紀、注〕袁宏漢紀、載㆓漢帝詔㆒曰、云云、斯乃播㆓揚洪烈㆒。〔成公綏、嘯賦〕散㆓滯積㆒而播揚。〔顏氏家訓、後娶〕播㆓揚先人之辭迹㆒。

【播郎】53 ハラウ 北魏の李昭徽の字。〔北史、李昭徽傳〕李昭徽博涉稽古、脫略不羈、時人稱㆔其爲㆓播郎㆒、因以㆑字行㆓於燕趙㆒焉。

【播流】54 ハリウ しきながれる。ひろまる。〔蜀志、楊戲傳〕魯則英風播流。

【播弄】55 ハロウ もてあそぶ。だます。丸めこむ。そそのかす。〔元曲、梧桐雨〕如今明皇年已昏眊、楊國忠李林甫播㆓弄朝政㆒。〔福惠全書、涖任部、謹操守〕豈非㆘冥冥之中有㆓鬼神㆒播㆗弄于其閒㆖哉。〔福惠全書、編審部、首改前弊〕官欠㆓精明㆒全爲㆓播弄㆒。

【播羅師】56 ハラシ 佛胡桃の異名。梵語。〔本草、胡桃〕釋名、時珍曰、此果外有㆓青皮肉㆒包㆑之、其形如㆑桃、胡桃乃其核也、羌音呼㆑核如㆑胡、名或以㆑此、或作㆓梵書㆒名㆓播羅師㆒。

【撮】
12748

㈠サツ サチ 〔集韻〕麤括切 ㄘㄨㄛˋ tsʻuo^4 ㄗㄨㄛˇ tsuo^3 曷

㈡サイ 〔集韻〕祖外切 泰

㈢サン 〔集韻〕祖官切 寒

㈣セツ セチ 〔集韻〕租悅切 屑

㈤サイ シャ 〔集韻〕初買切 蟹

小篆

㈠❶**容量の單位の名。**四圭。㋑二百五十六の黍量。現在は一升の一萬分の一の量。〔說文〕撮、四圭也、从㆑手最聲。〔廣韻〕六十四黍爲㆑圭、四圭爲㆑撮。〔漢書、律歷志上〕量多少者、不㆑失㆓圭撮㆒。〔注〕應劭曰、四圭曰㆑撮、三指撮㆑之也、孟康曰、六十四黍爲㆑圭。㋺六十粟。〔孫子、算經〕六粟爲㆓一圭㆒、十圭爲㆓一撮㆒、十撮爲㆓一抄㆒、十抄爲㆓一勺㆒、十勺爲㆓一合㆒。㋩さじ四杯。〔本草綱目、序例〕丸散云、刀圭者、十㆓分方寸匕㆒之一、準如㆓梧桐子大㆒也、云云、一撮者四刀圭也、云云、十撮爲㆓一勺㆒、十勺爲㆓一合㆒。❷**つまむ。**〔說文〕撮、亦㆓一指撮㆒也。〔釋名、釋姿容〕撮、捽也、擊捽取㆑之也。〔一切經音義、六〕撮、手小取也。〔玉篇〕撮、三指取也。〔增韻〕撮、蹙聚而捎㆓取之㆒也。〔中庸〕一撮土之多。〔莊子、秋水〕鴟鵂夜撮㆑蚤。❸**すべる。**くくりとる。〔漢書、藝文志〕向輒條㆓其篇目㆒、撮㆓其旨意㆒。〔漢書、司馬遷傳〕撮㆓名法之要㆒。〔注〕師古曰、撮、揔取也。❹**とる。**〔廣雅、釋詁一〕撮、取也。❺**ひく。**〔集韻〕撮、挽也。❻**あつめる。**最（**2－1597**）・冣（**2－1586**）に通ず。〔說文通訓定聲〕撮、段借爲㆑最、實爲㆑冣。〔孔子家語、始誅〕其居處足㆓以撮㆑徒成㆒㆑黨。〔注〕撮、聚。❼**髮づつみ。**髻をつつむ小さい冠。鬠（**12－45285**）に通ず。〔說文通訓定聲〕撮、段借爲㆑鬠。〔詩、小雅、都人士〕臺笠緇撮。〔傳〕緇撮、緇布冠也。〔疏〕小撮㆓持其髻㆒而已、制小、故言㆑撮。㈡**もとどり。**〔集韻〕撮、會撮、頭椎也。〔莊子、人閒世〕支離疏者、云云、會撮指㆑天。〔釋文〕崔云、會撮、項椎也、司馬云、會撮、髻也。㈢㈣**のりものの名。**〔集韻〕撮、乘載器也、尸子、行㆑險以㆑撮。㈤❶**つまむ。**〔集韻〕撮、指取㆑物也。❷**とらへる。**〔集韻〕撮、一曰、搦也。

【撮影】1 サツエイ 寫眞にとる。寫眞をうつす。

【撮要】2 サツエウ 要所をつまみとる。〔荀悅、漢紀序〕撮㆑要擧㆑凡、存㆓其大體㆒、旨少所㆑缺、務從㆓省約㆒、以㆓副本書㆒、以爲㆓要紀㆒。〔北史、藝術上、張深傳〕校㆓比天文書㆒、集㆓甘石二家星經㆒、及漢魏以來二十三家經占集五十五卷、後集諸家撮要、前後所㆑上雜占、以㆑類相從。

【撮合】3 サツガフ 一所にあつめる。撮合山を見よ。

【撮合山】4 サツガフザン 媒妁する。又、媒妁人。〔元曲、陳摶高臥〕撮合山錯㆓了眼光㆒。〔通俗編、交際、撮合山〕元曲選、馬致遠陳摶高臥・喬孟符揚州夢・鄭德符㑳梅香、倶用㆓此語㆒、俚俗以爲㆓媒之別稱㆒。〔西廂記、張君瑞害㆓相思㆒雜劇〕做㆘一箇縫㆓了口㆒的撮合山㆖。

【撮箕】5 tsʻuo^4 chʻi^2 箕。

【撮空】6 tsʻuo^4 kʻung^1 摑み取り。

【撮管】7 サツクワン 筆を持つ。筆をとる。〔翰林要訣、第一執筆法〕以㆓撥鐙指法㆒撮㆓管頭㆒、大字草書宜㆑用㆑之、書㆑壁尤佳。

【撮口】8 サツコウ 口をつぼめて聲を出す。〔潘耒、類音〕蹙㆑脣而成㆑聲、謂㆓之撮口㆒。

【撮口呼】8′ サツコウコ 注音符號 yü 音を含むものをいふ。脣をすぼめて發音する故にこの名がある。

【撮哄】9 tsʻuo^4 hung^4 誘惑する。そそのかす。

【撮壤】10 サツジヤウ 一つかみほどの土。僅かの土。撮土（15）に同じ。〔抱朴子、外篇、疾謬〕縱而肆㆑之、其猶㆘烈㆓猛火於雲夢㆒、開㆗積水于萬仞㆖、其可㆘撲以㆓箒篲㆒、遏以㆗撮壤㆖哉。

【撮取】11 ツマミトル つまみとること。又、ひろひとること。

【撮述】12 サツジユツ 要領を取つて述べる。〔容齋四筆、趙德甫金石錄〕因爲㆔撮㆓述大槩㆒云。

【撮染】13 tsʻuo^4 jan^3 しぼりぞめ。つかみぞめ。

【撮徒】14 サツト 仲間を聚める。〔孔子家語、始誅〕孔子曰、云云、少正卯皆兼有㆑之、其居處足㆓以撮㆑徒成㆒㆑黨。

【撮土】15 サツド ひとつまみほどの土。極めて少い喩。撮壤。〔中庸〕今夫地、一撮土之多。〔蔣防、聚㆑米爲㆑山賦〕縮㆓地勢於撮土之閒㆒、孰云見㆑小、備㆓山形於握粟之內㆒、何慮㆓功虧㆒。〔白居易、遊㆓悟眞寺㆒詩〕巖㟏無㆓撮土㆒、樹木多㆓瘦堅㆒。

【撮土移山】15′ tsʻuo^4 tʻu^3 i^2 shan^1 塵も積れば山となる。

【撮囊】16 サツナウ 學んでもそれを役に立てないこと。深く藏して世の役に立てないこと。振囊。〔南華逸篇〕人而不㆑學、謂㆓之視肉㆒、學而不㆑行、命㆑之曰㆓撮囊㆒。

【撮泡】17 サツハウ 茶をいれる法。〔通俗編、飮食、撮泡茶〕禪寄筆談、杭俗用㆓細茗㆒置㆑甌、以㆓沸湯㆒點㆑之、名爲㆓撮泡㆒。

【撮白】18 サツハク 上奏書の大要を拔書して、書中に貼付し、省覽に便するもの。〔江鄰幾雜誌〕審刑

奏、案、貼黃上更加二撮白一、撮白上復有二貼黃一。

【撮餅】19 サツペイ 油で揚げた食物の名。饊子。寒具。〔五總志〕干寶司徒儀曰、祭用二麟䴵一、晉制呼爲二撮餅一、又曰二寒具一、今曰二饊子一。

【撮摩】20 サツマ つまんでこする。〔楞嚴經〕如下以二手掌一撮中摩虛空上。

【撮藥】21 サツヤク 藥を調合する。〔通俗編、藝術、撮藥〕史記倉公傳、菑川王美人懷レ子不レ乳、意以二莨菪藥一撮一、以レ酒飲レ之、旋レ乳、按、今醫家量レ藥曰レ撮本レ此。

【撮擁】22 tsʻuo^4 yung^3 誘ひ引つぱる。

【撮弄】23 サツロウ ㊀手品を使ふ。又、手技。〔武林舊事、乾淳奉親〕又有二踏混・大水・傀儡・水百戲・撮弄等一。〔通俗編、俳優、撮弄〕武林舊事、撮弄曰二雲機社一、供奉志載、撮弄雜藝十九人、有二渾身手等號一、按、撮弄亦名二手技一、卽俚俗所謂做戲法也。㊁藥を配合する。〔燕子箋、入闈〕咀片般般備、依レ方撮弄。㊂tsʻuo^4 nung^4 ひやかす。〔紅樓夢、六十八回〕憑人撮弄我。

【撮襟書】24 サツキンシヨ 書體の名。南唐の後主、李煜が大字を書くのに筆を用ひず、帛を卷いて書いた。世に之を撮襟書といふ。〔宣和書譜、行書六〕江南僞後主李煜、字重光、云云、其作二大字一、不レ事レ筆、卷レ帛而書レ之、皆能如レ意、世謂二撮襟書一、復喜作二顫掣勢一、人又目二其狀一爲二金錯刀一。

【撮上轎】25 tsʻuo^4 shang^4 chiao^4 無理にかごに乘せる。

【掞】12749 エン 掞(5－12270)に同じ。〔集韻〕掞、或从レ焱。

【撖】12750 エフ ㊀擫(5－12868)の本字。〔正字通〕撖、擫本字。㊁又、擪(5－12867)に作る。〔正字通〕撖、亦作レ擪。

【⿰扌衷】12751 デウ ⿰扌衷(5－12947)に同じ。〔康熙字典〕⿰扌衷、擾字省文。

【⿰扌着】12752 チヤク ⿰扌着(5－12795)の俗字。〔正字通〕⿰扌着、俗⿰扌着字。

【撰】12753

[一]サン ゼン 〔集韻〕雛綰切 [潸]

[二]セン 〔集韻〕須兗切 [銑]

[三]セン ゼン 〔集韻〕雛戀切 [霰] ㄓㄨㄢˋ chuan^4

[四]サン 〔集韻〕損管切 [旱]

[一]㊀とる。もつ。〔集韻〕撰、持也。〔楚辭、招魂〕結二撰至思一。〔補注〕撰、持也、五臣曰、言、我能撰二深心一、以思二賢人一。㊁そなへる。そなへる事柄。內容。方法。〔集韻〕撰、具也。〔論語、先進〕異二乎三子者之撰一。〔集解〕孔安國曰、撰、具也。〔疏〕異二乎三子者所レ陳爲政之具一也。㊂ひろい。〔廣雅、釋詁四〕撰、博也。〔楚辭、宋玉、招魂〕結二撰至思一。〔注〕撰、博也。㊃かぞへる。〔易略例〕雜レ物撰レ德。㊄こと。〔易、繫辭下〕以禮二天地之撰一。〔本義〕撰、猶レ事也。㊅のり。〔韻會〕撰、又則也、易、以體二天地之撰一。㊆述べ作る。著はす。〔字彙〕撰、撰述也。〔正字通〕撰、屬レ辭記レ事曰レ撰。〔後漢書、班固傳〕探二撰前紀一、綴二集所一レ聞。〔北齊書、昭帝紀〕密二撰事情一。〔舊唐書、則天后紀〕僞二撰大雲經表一。㊇つくる。〔字彙〕撰、造也。〔潘岳、藉田賦〕司農撰二播殖之器一。㊈纂(8－28012)に通ず。〔一切經音義、六〕撰、三蒼作レ纂。㊉譔(10－35968)に通ず。〔漢書、揚雄傳下、譔以爲二十三卷一、注〕師古曰、譔、與レ撰同。⓫籑(12－44455)に通ず。〔漢書、司馬遷傳贊、至二孔子一籑レ之、注〕師古曰、籑、與レ撰同。⓬或は篹に作る。〔集韻〕撰、或作レ篹。[二]㊀もつ。〔禮、曲禮上〕君子欠伸、撰二杖屨一。〔注〕撰、猶レ持也。㊁かず。〔易、繫辭下〕以體二天地之撰一。〔釋文〕撰、仕勉反、數也。㊂さだめ。〔廣雅、釋詁四〕撰、定也。〔易、繫辭下〕以體二天地之撰一。〔釋文〕撰、定也。㊃のべる。〔廣韻〕撰、述也。㊄そなはる。〔廣雅、釋詁三〕饌、具也。〔疏證〕饌、亦撰也。㊅つかはす。〔周禮、夏官、大司馬、羣吏撰二車徒一、釋文〕撰、息轉反。㊆えらぶ。わけだす。〔禮、內則〕栗曰レ撰レ之。〔注〕撰、治擇之名也。〔淮南子、說山訓〕撰二良馬一者、非三以逐二狐狸一、將三以射二麋鹿一。〔班昭、東征賦〕撰二良辰一而將レ行。〔注〕善曰、鄭玄禮記注曰、撰、猶レ擇也。㊇貨幣の名。〔韻會〕撰、白撰、貨貝名。〔漢書、食貨志下〕白金三品、其一曰、重八兩、圜レ之、其文龍、名二白撰一、直三千。㊈選(11－39127)に通ず。〔集韻〕選、說文、遣也、一曰、擇也、或从レ手。〔史記、司馬相如傳〕歷撰列辟。〔注〕集解曰、撰、一作レ選。㊉僎(1－1083)に通ず。〔論語、先進〕異二乎三子者之撰一。〔釋文〕撰、鄭作レ僎。⓫饌(12－44386)に通ず。〔詩、大雅、卷阿、釋文〕饌、本亦作レ撰。[三]㊀もつ。〔集韻〕撰、持也。㊁あつめる。〔集韻〕撰、集也。㊂えらぶ。選(11－39127)に通ず。〔集韻〕選、擇也、或作レ撰。㊃篹に通ず。〔韻會〕撰、或作レ篹、漢班固探二篹前記一。㊄通じて籑(12－44455)に作る。〔韻會〕撰、通作レ籑。[四]かぞへる。算(8－26146)に同じ。〔集韻〕算、說文、數也、或作レ撰。〔易略例〕雜レ物撰レ德。〔注〕撰、數也。〔易、繫辭下〕若夫雜レ物撰レ德。〔釋文〕撰、鄭作レ算。

[名乘] ノブ。

【撰河】1 センカ 地名。湖北省竹谿縣の南、秦坪河の東岸。

【撰擬】2 センギ 撰定する。〔淸會典事例、翰林院、職掌、撰文〕三十四年諭、翰林官撰二擬文章一、是其專任、善與二不善一、皆應レ有二鼓勵懲戒之處一、自レ是以後、凡碑文祭文、其撰二擬人姓名及所一レ撰之文、或經二俞允一、或被二申飭一、一一記レ名、有二三次善一、有二三次不善者一、倶行二奏聞一。

【撰次】3 センジ 順序を立てて撰定する。撰んで編次する。〔後漢書、曹褒傳〕撰下次天子至二于庶人一、冠婚吉凶終始制度上。

【撰辭】4 センジ 辭をつらね記す。〔韻府引、南史〕撰レ辭欲三盛稱二功德一。

【撰集】5 センシフ えらびあつめる。撰文し集錄する。〔後漢書、張衡傳〕著二作東觀一、撰二集漢記一。〔後漢書、班固傳下〕令三固撰二集其事一。〔魏志、荀攸傳〕繇撰集未レ就。

【撰輯】6 センシフ えらびあつめる。撰集。〔魏書、獻文六王上、咸陽王禧傳〕遂命二百官一、更欲二撰輯一。

【撰者】7 センシヤ センジヤ ㊀撰擇の任に當る人。えらびて。㊁詩歌文章書物等の作者。著者。

【撰述】8 センジユツ 書物を作る。書を著す。又、其の書。著書。撰著。著作。著述。〔魏志、衞覬傳〕凡所二撰述一數十篇。〔魏志、劉劭傳〕凡所二撰述一、法論・人物志之類、百餘篇。〔晉書、儒林、孔衍傳〕凡所二撰述一、百餘萬言。

【撰序】9 センジヨ 述べついでる。〔袁宏、三國名臣序贊〕故復撰二序所懷一、以爲二之讚一云。

【撰敍】10 センジヨ 順序を立てて述べる。〔井上梧陰、岩倉村瘞髮碑〕撰二敍公之勳德一。

【撰人】11 センジン 詩文又は書籍の著作人をいふ。〔文獻通考、經籍考〕周公諡法一卷、不レ著二撰人名氏一。

【撰進】12 センシン 撰述して天子に上る。

【撰錢】13 chuan^4 chʻien^2 錢儲けする。

【撰續】14 センゾク えらびつづける。續いて著はす。〔史通、外篇、古今正史〕史記所レ書年、止二漢武太初一、已後闕而不レ錄、其後劉向、向子歆、及諸好レ事者、若二馮商・衞衡・揚雄云云等一、相次撰續、迄二于哀平閒一、猶名二史記一。

【撰答】15 センタフ 君命により文書を作つて報答す

る。〔南齊書、陸慧曉傳〕撰二答詔草一。

【撰著】16 センチョ 書物などをつくりあらはす。〔後漢書、徐璆傳論〕撰二著篇籍一、甄二紀異知一。

【撰定】17 センテイ えらびさだめる。文書を作りきめる。〔後漢書、曹褒傳論〕專命二禮臣一、撰二定國憲一、洋洋乎盛德之事焉。〔晉書、張華傳〕撰二定官書一。

【撰德】18 サントク 德をかぞへる。〔易、繫辭下〕雜レ物撰レ德。〔釋文〕撰、鄭作レ算、云、數也。〔易略例〕雜レ物撰レ德。〔注〕撰、數也。

【撰碑】19 センヒ 石ぶみの文章をえらび作る。碑文を書く。〔聖宋撰遺〕余近撰レ碑獲二潤筆二百千一、可レ償レ爾矣。〔王禹偁、高閑詩〕京中吏去慵二傳信一、江外僧來與撰レ碑。

【撰轡】20 センヒ たづなをとる。〔楚辭、九歌、東君〕撰二余轡一兮高駝翔。〔補注〕撰、持也。

【撰文】21 センブン 文章をつくる。又、其の文。作文。〔淸會典事例、翰林院、職掌、撰文〕順治十六年定、尊崇・冊立・曁冊妃嬪、各冊寶印文、恭上恭加尊謚、升祔冊謚各冊寶文、均由二翰林院一撰擬進呈。

【撰利】22 センリ 利をまうける。〔福惠全書、錢穀部、解給〕有下竟借作二生意一、暫延二時日一撰レ利補解者上。

【撰曆】23 センレキ こよみをつくる。

【撰錄】24 センロク えらびしるす。文に綴って書き記す。〔南史、王韶之傳〕當時詔命表奏、輒手自書寫、泰元隆安時事、大小悉撰錄。〔孫奭、孟子正義序〕惟是音釋二家、撰錄未二精當一。

【撰考讖】25 センカウシン 論語緯の一。今佚す。古微書に輯本がある。

【揹】12754

㊀キ 〔集韻〕翾規切 支

㊁タ 〔字彙〕吐火切 哿

㊂ヰ 〔集韻〕尹捶切 紙

㊀**すてる**。〔集韻〕揹、棄也。㊁**せまくて長い**。椭(6－15565)に通ず。〔字彙〕揹、爾雅注、揹、狹長也。〔爾雅、釋魚、蟦小而椭、注〕椭、謂二狹而長一。㊂**すてる**。**又、とる**。揹(5－12328)に同じ。〔集韻〕揹、博雅、棄也、又曰、捫也、或作レ揹。

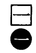
【揹石】1 ダセキ 圓くて長い石。此の石を用ひると水が澄み茶を煎じるによいといふ。〔黃庭堅、謝レ寄二惠山泉一詩〕錫谷寒泉揹石俱。〔注〕揹、音妥、揹石圓而長、所二以澄レ水不レ濁、用以煎レ茶。

【撲】12755

㊀ハク バク 〔集韻〕弼角切 ㄆㄨ- p'u¹ 覺

㊁ホク 〔集韻〕普木切 屋

慣ボク


小篆

㊀❶**うつ**。〔說文〕撲、挨也、从レ手業聲。〔淮南子、說林訓〕蔭二不祥之木一、爲二雷電所一レ撲。〔注〕撲、擊也。〔後漢書、荀彧傳〕擢二撲大寇一、濟レ危以安。❷**たほれる**。つまづく。〔增韻〕撲、踣也。〔韓愈・孟郊、納涼聯句〕朽杌惧二傾撲一。❸**もつ**。〔淮南子、時則訓〕具二撲曲筥筐一。〔注〕撲、持也。❹**あつまる**。〔方言、三〕撲、聚也。〔注〕撲、屬葉相著貌。❺**つくす**。あげて。すべて。みな。或は擈(5－12861)に作る。〔集韻〕撲、或不レ省。〔方言、三〕擈、盡也、南楚凡物盡生者曰二擈生一。〔疏證〕案、擈亦作レ撲。〔鮑照、蕪城賦〕壥閈撲レ地、歌吹沸レ天。❻**蠶のまぶしかご**。〔淮南子、時則訓〕具二撲曲筥筐一。〔集解〕孫編修云、撲、卽曲簿。❼㩧(5－12930)に同じ。〔集韻〕㩧、博雅、擊也、或作レ撲。❽**すまふ**。相撲。〔事物紀原、博弈嬉戲部、角觝〕今相撲也。〔中華大字典〕撲、日本武士鬪レ力曰二相撲一。❾**うつてがへし**。碁の手法の名。〔圍棋義例、詮釋〕撲、投也、以二我子一投二彼穴中一、使二其急救一曰レ撲、所三以促二其著一也。❿或は擈(5－12861)に作る。〔集韻〕撲、或不レ省。㊁❶**うつ**。杖でうつ。あらそひたほす。〔一切經音義、十四〕打撲、通俗文、連杖曰レ撲。〔一切經音義、六〕撲令、符剝反、通俗文、爭倒曰レ撲也。❷**うちつける**。拂著す。〔廣韻〕撲、拂著。❸攴(5－13108)に同じ。〔集韻〕攴、說文、小擊也、或作レ撲。❹**ぬぐふ**。〔集韻〕撲、拭也。〔白居易、新栽レ蓮詩〕粉汗紅塵撲。

【撲交】1 p'u¹ chiao¹ 相撲する。

【撲救】2 p'u¹ chiu⁴ 救助する。火事を消し防ぐ。

【撲毬】3 ボクキウ 毬をうつ。打毬。〔張憲、唐五王擊レ毬圖詩〕申王按レ毬宋王馳、杖撲二毬囊一手親挈。

【撲鏡】4 ボクキャウ かがみをなげうつ。〔魏志、夏侯惇傳、注〕軍中號レ惇爲レ盲、夏侯惇惡レ之、每照レ鏡恚怒、輒撲二鏡於地一。

【撲曲】5 ボクキョク 蠶具を持つ。撲は持つ。曲は蠶具の名、す。一說に、撲は曲簿で、撲曲を蠶具の名とする。薄曲。〔淮南子、時則訓〕(季春之月)具二撲曲筥筐一、后妃齋戒、東鄉親桑。〔注〕撲、持也、三輔謂二之撲一、撲讀、南陽人言二山陵一同、曲、簿也、青徐謂二之曲一、員底曰レ筥、方底曰レ筐、皆受レ桑器。〔集解〕孫編修云、撲卽曲簿。

【撲空】6 p'u¹ k'ung¹ 留守の所を訪問すること。

【撲螢】7 ボクケイ ほたるをうつてとる。〔高觀國、詩〕撲レ螢涼夜沈沈月、障レ面清歌澹澹秋。

【撲戶】8 p'u¹ hu⁴ すまふとり。相撲取。力士。

【撲克】9 p'u¹ k'ê⁴ トランプ。ポーカー。poker の音譯。

【撲朔】10 ボクサク ❶つまづくさま。蹉跌するさま。〔木蘭辭〕雄兔脚撲朔、雌兔眼迷離。❷兔をいふ。撲朔迷離を見よ。又、撲渥に作る。〔蘇軾、游二徑山一詩〕寒窗煖足來二撲朔一、夜盎呪水降二蜿蜒一。〔注〕一本作二撲渥一。

【撲朔迷離】11 ボクサクメイリ 兔の雌雄不明なこと。轉じて、男か女か分らぬをいふ。〔木蘭辭〕雄兔脚撲朔、雌兔眼迷離、兩兔旁レ地走、安能辨二我是雄雌一。

【撲殺】12 ボクサツ うちころす。なぐり殺す。扑殺。〔說苑、正諫〕取二其兩弟一、囊撲二殺之一。〔後漢書、杜根傳〕於二殿上一撲二殺之一。〔唐書、褚遂良傳〕何不三撲二殺此獠一。

【撲取】13 ボクシユ うちとる。〔吳志、鍾離傳〕當下及二其根柢未一レ深、而撲中取之上。

【撲食】14 p'u¹ shih² 動物が餌食を捕へる。

【撲生】15 ボクセイ ❶種子が地上一ぱいに生え出るをいふ。〔方言、三〕南楚、凡物盡生曰二擈生一。〔注〕今種物皆生、云二撲レ地生一也。〔疏證〕案、擈亦作レ撲。❷p'u¹ shêng 生き物を捕へる。餌食にする。

【撲樕】16 ボクソク ❶小さい木。物の小さい喩。❷槲の實。

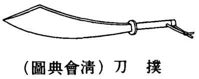
【撲蔌】17 ボクソク 飛ぶ聲。〔溫庭筠、寒寒行〕燕弓弦勁霜封レ瓦、撲蔌寒雕睨二平野一。

【撲損】18 ボクソン 打ちそこなふ。〔桐譜〕去二其臨レ險之枝一、則無二撲損之患一矣。

【撲打】19 ボクダ うつ。打撲。〔南史、宋明帝紀〕漸長喜怒乖レ節、左右失レ旨者、手加二撲打一。

【撲堆】20 ボクタイ 滿面にあらはす。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕早是那臉兒上撲二堆著可憎一。

【撲刀】21 ボクタウ 刀の名。長さ一尺九寸五分、刃渡り一尺四寸。上部廣く下部狹く、下部に木質の柄がある。〔淸會典圖、六十五、武備圖〕撲刀、通長一尺九寸五分、刃長一尺四寸、上闊二寸四分、下半レ之、銎厚五分、柄長五寸木質、纏二紅黃革一末鈷以二鐵繫藍訓一。


撲刀（清會典圖）

【撲討】22 ボクタウ うつ。討伐(10－35231‥58)に同じ。〔蜀志、先主劉備傳〕應レ天順レ時、撲二討凶逆一。

【撲蕩】23 ボクタウ 打ち平げる。〔魏志、公孫瓚傳、注〕故遂住二大軍一、分レ兵撲蕩。

【撲地】24 ボクチ ❶にはかに。忽ち。忽然。〔水滸傳、楔子〕撲地跳出、一隻吊睛、白額錦毛、大蟲來。❷地に滿ちること。撲生(15)を見よ。〔鮑照、蕪城賦〕壥閈撲レ地、歌吹沸レ天。〔注〕善曰、方言曰、撲、盡也、郭璞曰、今種物皆生、云二撲レ地出一也。〔王勃、滕王閣詩序〕山原曠其盈レ視、川澤盱其

駭レ矚、閭閻撲レ地、鐘鳴鼎食之家、舸艦彌レ津、青雀黃龍之軸。

【撲褫】25ボクチ 屠殺する音。〔通俗編、聲音、撲褫〕李蕃雪鴻堂集、南齊周顒與二何點一書、區區微卵、脆薄易レ矜、膽二彼弱麑一、顧步宜レ憫、何可二甘心一、撲褫復加、恣忍吞嚼、俗以二宰殺之聲一曰二撲褫一、本レ此。

【撲通】26 p'u^{1} t'ung^{1} ぽとんと水中に落ちる音の形容。〔通俗編、聲音、撲通〕元曲選、馬致遠青衫淚曲、撲通的甁墜井。

【撲蝶】27ボクテフ 蝶をうちおとす。〔高啓、扇詩〕驅レ螢臨二几席一、撲レ蝶近二闌干一。

【撲蝶會】28ボクテフクワイ 二月十五日の花朝の會をいふ。此の時蝶を撲つて戲れをなすからいふ。〔荊楚歲時記〕長安二月間、士女相聚、撲レ蝶爲レ戲、名曰二撲蝶會一。〔楊誠齋詩話〕東京二月十五日曰二花朝一、爲二撲蝶會一。〔書言故事、社日〕花朝曰二撲蝶會一。

【撲殄】29ボクテン うち滅ぼす。〔唐書、李晟傳〕賊既敗、當二乘レ機撲殄一。

【撲頭】30 p'u^{1} t'ou^{2} 依賴すべき人。たよるべき人。

【撲騰】31 p'u^{1} t'êng^{1} もがく。

【撲鼕】32 p'u^{1} tung^{1} 水中に落ちる音の形容。撲通。〔通俗編、聲音、撲通〕李壽卿伍員吹簫曲、撲鼕的跳在江裏。

【撲凸】33ボクトツ 岩石などの出張つてゐる所をうつ。雹凸(**12－42248··7**)に同じ。〔姚合、惡神行雨詩〕風擊二水凹一波撲レ凸、雨淙二山口一地嵌レ坑。

【撲破】34ボクハ うちこはす。〔齊己、撲滿子詩〕到頭須二撲破一、却散與二他人一。

【撲賣】35ボクバイ 客が商人に錢を出して骰を投げ、其の勝負によつて品物を商人から受取ること。〔括異志〕有二張湘一、以二乙卯魁亞一薦、揭曉前兩夕、夢人持二巨蟹一撲賣、湘一撲五錢皆黑、一錢旋轉不レ已、竟作二字一、人曰、幾二乎渾純一、及レ榜乃小薦第一。〔西湖繁勝錄〕牛郞織女、撲賣盈レ市。

【撲罰】36ボクバツ 罪人をうちたたく刑罰。扑罰。〔後漢書、左雄傳〕孝明皇帝、始有二撲罰一、皆非二古典一。

【撲鼻】37ボクビ 鼻をうつ。鼻をつく。〔韻府引、楊萬里、詩〕從教二蘆服專車大一、早覺二蔓青撲レ鼻香一。

【撲筆】38ボクヒツ ふでをなげうつ。〔韓愈、盧郞中雲夫寄下示送二盤谷子一詩兩章上歌以和レ之詩〕閉レ門長安三日雪、推レ書撲レ筆歌二慨慷一。

【撲撲】39ボクボク 打ち當るさま。〔田閒書〕焦頭爛額、猶撲撲必期二以死一。

【撲奔】40 p'u^{1} pen^{1} 追ひかけて來る。

【撲滿】41ボクマン 錢を貯へる器。土で作り、口は小さく、錢が一ぱいになると撲ち毀して取り出すから此の名がある。地獄だめ。貯金玉。撲滿子。〔西京雜記、五〕撲滿者、以レ土爲レ器、以蓄レ錢具、其有二入竅一而無二出竅一、滿則撲レ之。〔堅瓠集〕撲滿、卽今小兒積受罐、以レ土爲レ之、畜レ錢之具、可レ入不レ可レ出、滿則撲レ之。

【撲滿子】42ボクマンシ 撲滿に同じ。〔海錄碎事、商賈、錢〕撲滿子、齊己有レ詩、祇知滿二我腹一、寧知滿害レ身、到頭須二撲破一、却散與二他人一、錢藏也。

【撲滅】43ボクメツ うちほろぼす。ほろびたえる。撲殄。〔書、盤庚上〕若三火之燎二于原一、不レ可二嚮邇一、其猶可二撲滅一。〔左氏、隱、六〕商書曰、惡之易也、如三火之燎二于原一、不レ可二嚮邇一、其猶可二撲滅一。

【撲蠅】44ボクヨウ 蠅をうちたたく。〔張耒、夏日詩〕書帙慵レ披レ蠹、盤飧厭レ撲レ蠅。

【撲落】45ボクラク 散り亂れるさま。〔成彥雄、寒夜吟詩〕猧兒睡魘喚不レ醒、滿窗撲落銀蟾影。

【撲鹿】46ボクロク 翼を鳴らす音。撲漉に同じ。〔楊萬里、詩〕每聞撲鹿初鳴處、只是鬆鬖好レ睡時。

【撲漉】47ボクロク 翼を鳴らす音。撲鹿。〔冷齋夜話〕龍女詞曰、數點雪花亂委、撲漉沙鷗驚起。〔歐陽玄、芳洲詩〕王孫鬭レ草歸來晚、撲漉鴛鴦帶レ水飛。

【撲虎兒】48 p'u^{1} hu^{3} êrh 俯して倒れる。

【撲蝴蝶】49ボクコテフ もと、舞曲の名。後、詞牌の名。〔詞譜〕按、周密癸辛雜志云、吳有二小妓一善舞二撲蝴蝶一、疑是舞曲、邵叔齊詞名二撲蝴蝶近一。〔苕溪漁隱叢話〕舊詞高雅、非二近世所一レ及、如下撲蝴蝶煙條雨葉、綠遍二江南岸一一詞上、不レ知二誰作一、非二惟藻麗可一レ喜、其腔調亦自婉美。

【撲過來】50 p'u^{1} kuo^{4} lai ❶打った。❷進擊して來る。

【撲刺刺】51 p'u^{1} tz'ŭ^{4} tz'ŭ^{4} 手荒くばたばたする。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇〕撲刺刺將比目魚分破。

【撲進來】52 p'u^{1} chin^{4} lai 進擊して來る。

【撲燈蛾】53 p'u^{1} têng^{1} ê^{2} 火取蟲。

【撲燈蛾兒】54 p'u^{1} têng^{1} ê^{2} êrh 火取蟲。

【摯】12756 シ 摯(**5－12632**)の本字。〔正字通〕摯、摯本字。

【摰】12757 ゲツ 摰(**5－12633**)の本字。〔正字通〕摰、摰本字。

【捶】12758 スイ 捶(**5－12215**)の本字。〔正字通〕捶、捶本字。

【撅】12759 ケツ 撅(**5－12676**)に同じ。〔集韻〕撅、或書作レ撅。

【撒】12760 サツ 撒(**5－12697**)の本字。〔六書故〕撒、撒本字。

【摉】12761 シウ シユ 〔篇海〕所丘切 尤 **風の吹く音。**〔藝林伐山〕甄后塘上行云、邊地多二悲風一、樹木何摉摉。

【撓】12762 ハイ 拜(**5－11969**)の古字。〔篇海〕撓、古文拜字。

【搋】12763 ハイ バイ 〔篇海〕蒲拜切 卦 **火を吹く。**〔篇海〕搋、吹レ火也。

【擲】12764 テウ 掉(**5－12243**)に同じ。〔字彙補〕擲、與レ掉同。

【㨩】12765 シユン 㨩(**5－12452**)に同じ。〔字彙補〕㨩、與レ㨩同。

【掤】12766 ヒヨウ 掤(**5－12279**)に同じ。〔篇海〕掤、同レ掤。

【撻】12767 音未詳 衣がやぶれる。須撻。〔康熙字典〕切音闕、揚子方言、敗也、南楚、凡人貧衣被醜弊、謂二之須撻一、郭璞注、狎翣也、按、語意與二挾斯一同。

【揌】12768 ソウ 揔(**5－12349**)に同じ。〔篇海〕揌、同レ揔。

【措】12769 ソ 措(**5－12286**)の本字。〔正字通〕措、本作レ措。

【揃】12770 セン 揃(**5－12319**)の本字。〔正字通〕揃、通作レ揃。

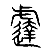
【撳】12771 キン 〔中華大字典〕讀如レ近。ㄑㄧㄣˋ ch'in^{4} 現❶おさへる。手をあてる。❷ひねる。

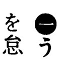
【撴】12772 トン tun^{1} 現打つ。投げる。がたつく。㩧(**5－12457**)に通ず。

十三畫

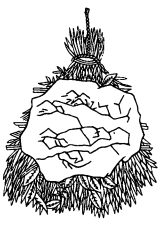
【擦】12773 レツ　挒(5－12056)の俗字。〔正字通〕擦、俗挒字。

【撻】12774 タツ タチ　〔集韻〕他達切　圀。ㄊㄚˋ tʻa⁴


小篆


古文

❶うつ。むちうつ。事を怠り罪過ある者を、むちでうちいましめる。轉じて、汎くうつの意。〔說文〕撻、鄕飮酒、罰㆓不敬㆒撻㆓其背㆒、从㆑手達聲。〔王注〕此擧㆓一事㆒、以概㆓其餘㆒也、然鄕飮酒禮不㆑言㆑撻、鄕射禮記、射者有㆑過、則撻㆑之、案、射義曰、卿大夫士之射也、必先行㆓鄕飮酒之禮㆒、故許君連㆓言之㆒也。〔正字通〕撻、笞擊也。〔書、益稷〕撻以記㆑之。〔周禮、地官、閭胥〕凡事掌㆓其比・觵撻罰之事㆒。〔注〕撻、扑也。〔周禮、春官、小胥〕巡㆓舞列㆒而撻㆓其怠慢者㆒。〔注〕撻、猶㆑抶也。〔禮、內則〕撻㆑之流㆑血。〔注〕撻、擊也。〔列子、黃帝〕斫撻無㆓傷痛㆒。〔注〕撻、打也。❷**農具の名**。ははきの一種で土をならすに用ひる。〔農政全書、四、農器圖譜一、撻、圖說〕撻、打㆑田篲也、用㆓科木㆒縛㆓加埽篲㆒、復加㆑匾闆㆑上、以㆓土物㆒壓㆑之、亦要㆓輕重隨㆑宜、用以打㆑地、長可㆓三四尺㆒、廣可㆓一尺餘㆒、古農法云、耬種既過後、用㆓此撻㆒使㆓壟滿㆑土實㆑苗易㆑生也。❸**はやい**。駛(12－44774)に通ず。〔說文通訓定聲〕撻、叚借爲㆑駛。〔詩、商頌、殷武〕撻彼殷武。〔傳〕撻、疾意也。❹**達する**。〔詩、商頌、殷武、釋文〕韓詩云、達也。❺**ゆづかの矢をあてがふ處、韋で作る**。達(11－39011)に通ず。〔說文通訓定聲〕撻、叚借爲㆑達。〔儀禮、既夕禮記〕設㆓依撻㆒焉。〔注〕撻、弣側矢道也、以㆑韋爲㆑之。❻古は遽(11－39195)・敊(5－13250)に作り、或は攟(5－13019)に作る。〔集韻〕撻、古作㆓遽・敊㆒、或从㆑手。


撻（農政全書）

【撻脛】1 タツケイ　脛をうちたたく。〔魏書、刑罰志〕杖㆑背者二分、撻㆑脛者一分、拷悉依㆑令。

【撻擊】2 タツゲキ　うつ。〔漢書、吾丘壽王傳〕其後民以㆓耰鉏箠梃㆒相撻擊。

【撻子】3 tʻa⁴ tzŭ　韃靼人をいふ。

【撻市】4 タツシ　まちなかでむちうたれる。衆人の居る市場で笞刑にあふ。〔書、說命下〕予弗㆑克㆑俾㆓厥后惟堯舜㆒、其心愧恥、若㆑撻㆓於市㆒。〔周必大、謝㆓吏部侍郎㆒表〕肺腑抱㆓履㆑冰之懼㆒、面顏形㆓撻㆑市之羞㆒。

【撻辱】5 タツジョク　むちうちはづかしめる。〔晉書、潘岳傳〕岳惡㆓其爲㆑人、數撻㆓辱之㆒。

【撻笞】6 タッチ　むちうつ。笞撻。扑撻。〔白虎通、五刑〕刑不㆑上㆓大夫㆒者、據㆑禮無㆓大夫刑㆒、或曰、撻笞之刑也。

【撻伐】7 タツバツ　殷が衰へ楚人が叛いたので、殷王武丁が撻然として疾く起ち、その武を奮つて楚を討つといふ意。轉じて、攻めうつの意味に用ふ。〔詩、商頌、殷武〕撻彼殷武、奮伐㆓荊楚㆒。〔傳〕撻、疾意也。〔箋〕有㆓鍾鼓㆒曰㆑伐、云云、殷道衰而楚人叛、高宗撻然奮㆓揚威武㆒、出㆑兵伐㆑之。

【撻罰】8 タツバツ　むちうちつみする。又、其の刑罰。扑刑。〔周禮、地官、閭胥〕凡事掌㆓其比・觵撻罰之事㆒。〔注〕撻、扑也。〔疏〕云㆑掌㆓其比㆒者、人聚則有㆓校比之法㆒、皆掌㆑之、云㆓觵撻罰之事㆒者、凡有㆓失㆑禮者㆒、輕者以㆓觵酒㆒罰㆑之、重者以㆑楚撻㆑之、故雙㆓言觵撻罰之事㆒。〔元稹、旱災自咎貽㆓七縣宰㆒詩〕誅求與㆓撻罰㆒、無㆔乃不㆓逡巡㆒。

【撻尾】9 タツビ　帶の端を下に垂れさげること。鉈尾。魚尾。〔事物異名錄、服飾、帶〕唐舊史、高祖詔、腰帶令㆔向㆑下插㆓垂頭㆒、名曰㆓鉈尾㆒、宋志鉈尾、卽今之魚尾、中華古今注、合呼㆓撻尾㆒。

【撻末】10 タツマツ　蟲の名。蛺蝶(10－33077‥3)の異名。〔古今注、魚蟲〕蛺蝶、一名風野蛾、一名風蝶、江東人謂㆓之撻末㆒、色白而背青者也。〔薩都剌、快雪軒詩〕門外青山不㆑得㆑青、刮地東風翻㆓撻末㆒。

【撻懶】11 タツライ　金、完顏昌(3－7079‥28)の本名。

【撻戮】12 タツリク　うつてはづかしめる。撻辱。〔周禮、地官、胥〕凡有㆑罪者、撻戮而罰㆑之。〔孫詒讓正義〕撻、卽司市市刑之大刑扑罰也。

【撻林】13 タツリン　官名。遼の僕射(1－1094‥45)の❶をいふ。〔稱謂錄、工部、撻林〕遼史國語解、撻林、官名、改爲㆓僕射㆒、又名㆓司空㆒。

【撻鬼棒】14 tʻa⁴ kuei³ pang⁴　正月十四・十五・十六日に黍稈を削つて各家の簷に插すものをいふ。河南地方の風習。

【撻不衍】15 タツフエン　遼、蕭孝友(9－32012‥316)の字。

【撻不也】16 タツフヤ　❶遼、蕭兀納(9－32012‥358)の一名。❷金、完顏宗亨(3－7079‥105)の本名。

【撻不野】17 タツフヤ　金、大臭(3－5831‥274)の本名。

【撼】12775 カン ゴン　〔集韻〕戸感切　感。ㄏㄢˋ han⁴

❶**ゆする**。**うごかす**。動く。ゆらぐ。揻(5－12405)・感(4－10953)に同じ。〔集韻〕揻、說文、搖也、或从㆑感。〔韻會〕撼、動也、通作㆑感、與㆘詩無㆑感㆓我帨㆒之感㆖同。〔唐書、席豫傳〕當㆑官不㆑爲㆓勢權所㆑撼。〔韓愈、調㆓張籍㆒詩〕蚍蜉撼㆓大樹㆒。〔宋史、蘇轍傳〕多起㆓邪說㆒、以搖㆓撼在位㆒。❷現㋑振る。㋺すすめる。教唆する。

【撼搖】1 カンエウ　ゆりうごかす。動搖する。〔宋史、姦臣三、秦檜傳〕檜位復安據㆑之凡十八年、公論不㆑能㆓撼搖㆒矣。

【撼捒】2 カンサン　うごく。うごかす。〔廣韻〕捒、撼捒、搖動也。

【撼膝】3 カンシツ　ひざをゆりうごかす。〔韋莊、又元集序〕陋巷窮時、聊撼㆑膝以書㆑紳。

【撼振】4 han⁴ chen⁴　振ひ動かす。

【撼撞】5 カンタウ　うごかしつくこと。〔宋史、劉昺等傳論〕亦使㆓攘臂恣睢撼撞無㆑忌。

【撼動】6 カンドウ　ゆりうごかす。又、罪におとしいれることにいふ。〔歐陽脩、湖州長史蘇君墓誌銘〕顧㆓人主方信用㆒、思㆑有㆓以撼動㆒。

【撼頓】7 カントン　うごきたふれる。動搖顚躓。〔庾信、枯樹賦〕或低㆓垂于霜露㆒、或撼㆓頓于風烟㆒。〔韓愈、祭㆓女挐女㆒文〕天雪冰寒傷㆓汝羸肌㆒、撼㆓頓險阻㆒、不㆑得㆓少息㆒。〔曾鞏、顏魯公祠堂記〕顚跌撼頓、至㆓於七八㆒。

【撼摩】8 カンマ　うごかしせまる。〔巖下放言〕排㆓雲雨㆒、撼㆓摩半空㆒。

【撼落】9 カンラク　ゆすぶりおとす。振り落す。〔元稹、酬㆓樂天雪中見㆑寄詩〕撼落不㆑教㆑封㆓柳眼㆒、掃來偏盡附㆓梅林㆒。

【撼鈴】10 カンレイ　すずをならす。〔顧況、李供奉彈㆓箜篌㆒歌〕一絃一絃如㆑撼㆑鈴。

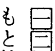
【撼龍經】11 カンロウケイ　書名。一卷。舊題、唐の揚筠松撰。土地の吉凶を相した書で、山陵の形勢に九星を配して其の吉凶を卜したもの。〔四庫提要、子、術數類〕。

【撼天動地】12 カンテンドウチ　天地をゆりうごかす。活動の極めて目ざましいこと。大事業などにいふ。又、音聲などの極めて大きな形容。震天動地(12－42300‥81)に同じ。

【撼龍撥砂】13 カンロウハツサ　墓所などの地の吉凶を相すること。丘を動かし砂を揚げる義。龍は壟に通じ、丘阜をいふ。山陵の形勢に九星を配して吉凶を卜する。其の事を記した書を撼龍經といふ。撼龍經・撥沙(5－12727‥23)の❶を見よ。

【擻】
12776

㊀ケウ〔集韻〕詰弔切 嘯
㊁カウ ケウ〔集韻〕口教切 效
㊂ケキ キヤク〔集韻〕吉歷切 錫
㊃ケウ〔集韻〕堅堯切 蕭
㊄ケウ〔集韻〕吉了切 篠


小篆

［一］［二］うつ。たたく。旁からうつ。もと擊(5－12777)に作る。〔康熙字典〕擻、一說、擊字變體、本从レ敫。〔集韻〕擊、或書作レ擻。〔說文〕擊、旁擊也、从レ手敫聲。〔段注〕公羊傳曰、公怒以レ斗擊而殺レ之、注、擊猶レ擊也、擊謂二旁擊頭項一。〔莊子、至樂〕擻以二馬捶一。〔釋文〕擻、苦弔反、又古的反、說文作レ擊云、旁擊也。［三］たたく。擊也。〔集韻〕擊、說文、攴也、或作レ擻。［四］さへぎる。邀(11－39168)に同じ。〔集韻〕邀、遮也、或从レ手。［五］もつ。〔集韻〕擊、持也。

【擻遂】1 ケキスイ 天が萬物をうちたたいて驅りたて成長發達させる意。一說に、遂は逐の譌。又、一說に、擻遂の二字は意義通ぜず、擻はもと邀に作つたもので、誤つて擻邀の二字と爲し、又誤つて擻遂となすといふ。〔墨子、天志中〕今夫天、兼二天下一而愛レ之、擻二遂萬物一以利レ之。〔簡詁〕畢云、說文云、擊、旁擊也、但未レ詳二擊遂之義一、兪云、擻遂二字、義不レ可レ通、擻、當レ爲レ邀、疑本作レ邀、邀、傳寫誤、合レ之爲二擻邀一、而邀又誤爲レ遂耳、邀、與レ交通、莊子庚桑楚篇、夫至人者相與交二食乎地一、而交二樂乎天一、徐無鬼篇、作下吾與レ之邀二樂於天一、吾與レ之邀中食於地上、是交邀古通用也、邀二萬物一以利レ之、卽交二萬物一以利レ之、與下兼二天下一而愛ゟ之同義、交猶レ兼也、案、兪說迂曲不レ足レ據、韓非子說林上篇云、有下欲三以レ御見二荊王一者上曰、臣能擻レ鹿、莊子至樂篇云、莊子至レ楚見二空髑髏一、擻以二馬箠一、成玄英疏云、擻、打擊也、依二韓子擻レ鹿義一推レ之、疑當レ爲二毆御之義一、遂、或當レ爲二逐之譌一、然下文云下以長二遂五穀麻絲一、使中民得而財利ゟ之、則遂字又似レ非レ誤、未レ能二質定一也。

【擊】
12777

ケウ 擻(5－12776)の本字。〔正字通〕擻、同レ擊、說文本作レ擊。

【擿】
12778

㊀タ テ〔集韻〕張瓜切 麻 ㄓㄨㄚ chua^1
㊁クヮ〔字彙補〕古禾切 歌

［一］［二］❶うつ。たたく。なぐる。〔集韻〕擿、擊也。〔魏志、三少帝、齊王芳紀〕擿二捶老小一、務二崇脩飾一。❷鼓をうちならす。〔字彙〕擿、又擊レ鼓也。〔韓愈、太清宮詩〕噌吰宮夜闢、嘈囐鼓晨擿。〔李過、猛虎行〕搥レ午擿レ鼓會二衆賓一。❸ばち。〔宣和畫譜、山水二〕操擿之次。❹音曲。〔藝苑巵言〕顧レ曲之周郎、辨レ擿之王應。❺また。股。〔潘岳、射雉賦〕鸎綺翼而經擿。〔注〕爰曰、擿、肶也。

【擿乖】1 タクヮイ 巧に動作する。〔桃花扇、修札〕一雙空手、也去當レ差、也會二擿乖一。

【擿擊】2 タゲキ うちたたくこと。〔演繁露〕其擿擊不レ待二正月一。

【擿鼓】3 タコ つづみをうつ。〔岑參、與二獨孤漸一道別長句兼呈二嚴八侍御一詩〕軍中置レ酒夜擿レ鼓、錦筵紅燭月未レ午。〔李過、猛虎行〕丈夫相見且爲レ樂、搥レ午擿レ鼓會二衆賓一。

【擿殺】4 タサツ うちころす。撲殺。〔吳志、薛綜傳〕擿二殺主簿一、仍見二驅逐一。

【擿捶】5 タスイ むちうつ。〔魏志、三少帝、齊王芳紀〕聞、乃擿二捶老小一、務二崇脩飾一。

【擿撻】6 タタツ うつ。むちうつ。鞭撻。笞撻。〔魏書、沈文秀傳〕白曜忿レ之、乃至二擿撻一。

【擿破】7 タハ うちやぶる。〔宋史、忠義一、李若水傳〕監軍者擿二破其脣一。

【擿門】8 chua^1 men^2 續けざまに門の扉を叩く。

【辨レ擿】9 タヲベンズ 音曲に明かなこと。〔藝苑巵言〕顧レ曲之周郎、辨レ擿之王應。〔桃花扇、鬧榭〕玉樹難レ諧レ拍、漁陽不レ辨レ擿。

【擿婦翁】10 タフヲウ 妻の父をむちうつ。原因がないのに謗られる喩。擿二婦翁一(3－6432‥4)を見よ。

【撿】
12779

㊀レン〔集韻〕力冉切 琰
㊁ケン〔集韻〕居奄切 琰 ㄐㄧㄢˇ chien^3

小篆

［一］こまぬく。〔說文〕撿、拱也、从レ手僉聲。〔段注〕凡斂手、宜レ作二此字一。［二］❶くくる。とりしまる。〔集韻〕撿、束也。〔漢書、黃霸傳〕郡事皆以二義法令一撿レ式。〔注〕師古曰、撿、局也。❷しらべる。引合はせる。〔字彙〕撿、校也。〔晉書、周顗傳〕王導料二撿中書故事一、見二顗表救一レ己。❸あげる。〔字彙〕撿、擧也。❹みまはる。〔字彙〕撿、巡察也。❺さぐる。さがす。〔字彙〕撿、搜也。❻しるし。あかし。譣(10－36005)に通ず。〔說文通訓定聲〕撿、叚借爲レ譣。〔廣雅、釋詁四〕撿、譣也。❼或は儉(1－1190)に作る。〔集韻〕撿、或作レ儉。❽檢(6－15684)に同じ。〔廣韻〕檢、書檢印窠封題也、又檢校、俗作レ撿、撿、本音斂。〔正字通〕撿、今通作レ檢、義同。❾えらぶ。えり集める。〔正字通〕撿、與二揀簡一通。❿［現］㋑拾ふ。㋺摸型。㋩取下る。

【撿按】1 ケンアン しらべる。檢按(6－15684‥2)に同じ。

【撿閱】2 ケンエツ しらべみる。檢閱。〔後漢書、張堪傳〕撿二閱庫藏一、收二其珍寶一。

【撿戒】3 ケンカイ ひきしめいましめる。檢戒(6－15684‥9)に同じ。

【撿校】4 ケンカウ 檢校(6－15684‥13)に同じ。❶しらべかんがへる。檢校(6－15684‥13)の❶を見よ。❷官名。檢校(6－15684‥13)の❷を見よ。❸ケンゲウ ㋑高野山・熊野などで寺務を監督する職。〔文德實錄、七〕齊衡二年十月甲戌、修理東大寺大佛司撿校傳燈、修行賢大法師位眞如。㋺古、盲人の最上の官名。〔康富記〕文安元年四月六日、珍一撿校。

【撿押】5 ケンカフ 取締る。檢押。〔法言、君子〕君子純レ終領レ聞、蠢迪二撿押一。〔注〕蠢、動也、迪、道也、撿押、猶二隱括一也、言、君子擧動則當レ蹈二規矩一。

【撿勘】6 ケンカン 調べる。吟味する。〔左氏、昭、元、帝用嘉レ之封二諸汾川一、疏〕史籍散亡無レ可二撿勘一、此事未二必然一也。〔牛弘同、律度量衡議〕謹尋二今之鐵尺一、是太祖遣二尙書故蘇綽一所レ造、當時撿勘、用爲二前周之尺驗一。

【撿擧】7 ケンキヨ 檢擧(6－15684‥23)に同じ。

【撿括】8 ケンクヮツ つかねくくる。檢括(6－15684‥27)に同じ。

【撿柴】9 chien^3 chʻai^2 柴を拾ふ。

【撿察】10 ケンサツ 檢查する。取調べる。檢察(6－15684‥44)の❶に同じ。

【撿式】11 ケンシキ しらべとりしまる。〔漢書、循吏、黃霸傳〕郡事皆以二義法令一撿レ式。〔注〕師古曰、撿、局也。

【撿拾】12 chien^3 shih^2 拾ふ。

【撿書】13 ケンシヨ 本を校正する。檢書(6－15684‥66)に同じ。

【撿籍】14 chien^3 chi^2 帳簿を檢查する。

【撿束】15 ケンソク ❶とりしまる。牽束。〔白居易、閒夜詠レ懷因招二周協律劉薛二秀才一詩〕世名撿束爲二朝士一、心性疎慵是野夫。❷警察官が權力で人の自由を一時束縛すること。檢束。

【撿敕】16 ケンチヨク 心をしめくくつていましめる。〔魏志、賈逵傳、注〕告二子弟一、使二各自撿敕一。

【撿呈】17 chien³ ch'êng² しらべて呈出する。

【撿點】18 chien² tien³ ❶しらべる。點檢。❷さがす。

【撿起來】19 chien² ch'i lai 拾ひ上げる。

【撿窮的】20 chien³ ch'iung² tê ぼろ拾ひ。

【撿漏兒】21 chien³ lou⁴ êrh 漁父の利を占める。

【撿溝貨的】22 chien³ kou¹ huo⁴ tê 塵溜拾ひ。

【撿非違使】23 ケビヰシ 檢非違使(6－15684‥121)に同じ。〔國史略、一條天皇〕詔㆓撿非違使㆒、捕㆓二人㆒、護㆓送伊周於播磨、隆家於出雲㆒。

【擀】12780

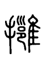
カン 〔集韻〕古旱切 ㄍㄢˇ kan³ 旱

❶手で物をのばす。〔集韻〕擀、以㆑手伸㆑物。❷或は扞(5－11802)に作る。〔集韻〕擀、或省。

【擁】12781

🈩ヨウ ユ 〔集韻〕委勇切 ㄩㄥˇ yung³ 腫

🈔ヨウ ユ 〔集韻〕於容切 ㄩㄥ yung¹ 冬


小篆

🈩❶だく。だきかかへる。もと⿰扌雝(5－12999)に作る。〔正字通〕擁、本作㆑⿰扌雝。〔說文〕⿰扌雝、袌也、从㆑手雝聲。〔釋名、釋姿容〕擁、翁也、翁㆓撫之㆒也。〔儀禮、公食大夫禮〕左擁㆓簠粱㆒。〔禮、玉藻〕走則擁㆑之。〔疏〕擁、謂㆑抱㆓之於懷㆒也。〔漢書、金日磾傳〕弄㆑兒或自㆑後擁㆓上項㆒。〔注〕師古曰、擁、抱也。❷とる。もつ。〔廣雅、釋詁三〕擁、持也。〔漢書、谷永傳〕擁㆓天下之樞㆒。❸まもる。〔字彙〕擁、衞也。〔後漢書、虞延傳〕延常嬰㆓甲冑㆒、擁㆓衞親族㆒。❹したがへる。〔正字通〕擁、羣從也。〔晉書、范弘之傳〕坐擁㆓大衆㆒、侵㆓食百姓㆒。〔唐書、竇威傳〕身擁㆓數百騎㆒殿。❺ふさぐ。つつむ。うづめる。邕(11－39277)に通ず。〔說文通訓定聲〕擁、叚借爲㆑邕。〔韓愈、左遷至㆓藍關㆒示㆓姪孫湘㆒詩〕雲橫㆓秦嶺㆒家何在、雪擁㆓藍關㆒馬不㆑前。〔朱熹、鉛山立春詩〕雪擁㆓山腰洞口㆒、春迴㆓楚居吳頭㆒。❻たくはへる。占有する。〔王融、爲㆓竟陵王㆒與㆓劉虬㆒書〕良書獨擁、善談無㆑析。❼ひかへる。とめる。拘束する。〔李嶼、過㆓洞庭㆒詩〕勢翻㆓荆口㆒迮、聲擁㆓岳陽㆒浮。〔曾鞏、青雲亭閒坐詩〕一登㆓此亭高㆒、夐脫㆓蕃廡擁㆒。❽まとふ。〔南史、陶潛傳〕敗絮自擁。〔白居易、布裘詩〕朝擁坐至㆑暮、夜覆眠達㆑晨。❾とりこむ。むらがる。混雜。〔南史、梁武帝紀〕日止㆓一食㆒、云云、或遇㆓事擁㆒、日儻移㆑中、便嗽㆑口以過。〔庾信、答㆓趙王㆒啓〕舌端鼻端、惟知㆓煩擁㆒。〔梅堯臣、詩〕夾㆑道都人擁。❿ひきこもる。〔伏知道、爲㆓王寬㆒與㆓婦義安公主㆒書〕廣攝㆓金屛㆒、莫㆑令㆓愁擁㆒。⓫或は搈(5－12501)・⿰扌廱(5－13049)に作り、又、⿱雝手(5－13000)・⿱雍手(5－12782)に作る。〔集韻〕擁、或作㆓擁・搈・⿰扌廱㆒、亦書作㆓⿱雝手・⿱雍手㆒。⓬雍(12－42000)に通ず。〔漢書、揚雄傳上〕雍㆓神休㆒、〔注〕師古曰、雍、讀曰㆑擁。🈔さへぎる。或は⿱雝手(5－13000)に作る。〔集韻〕擁、遮也、或作㆑⿱雝手。〔禮、內則〕女子出㆑門、必擁㆓蔽其面㆒。〔注〕擁、猶㆑障也。

【擁遏】1 ヨウアツ おさへとどめる。又、ふさがる。〔太平御覽、職官、司空〕尙書大傳曰、溝瀆擁遏、水爲㆓民害㆒、田廣不㆑墾、則責㆓之司空㆒。〔史記、龜策傳〕擁㆓遏鬼神㆒、使㆑不㆑得㆑通。〔鹽鐵論、褒賢〕道擁遏不㆑得㆑行。

【擁閼】2 ヨウアツ ふさぎとどめる。又、ふさがる。壅塞。壅遏。雍閼。夭閼。〔史記、朝鮮傳〕欲㆔上書見㆓天子㆒、又擁閼不㆑通。〔史記、天官書〕土與㆑水合、穰而擁閼。

【擁右】3 ヨウイウ まもりたすける。擁佑に同じ。〔漢書、元后傳〕常有㆑意欲㆘廢㆓太子㆒、而立㆗共王㆖、時鳳在㆑位、與㆓皇后㆒同㆑心憂懼、賴㆓侍中史丹㆒、擁㆓右太子㆒、故得㆑不㆑廢。〔注〕師古曰、右、音佑、助也。

【擁佑】4 ヨウイウ まもりたすける。佑は助。〔漢書、王商傳〕商爲㆓外戚重臣輔政㆒、擁㆓佑太子㆒、頗有㆑力焉。

【擁祐】5 ヨウイウ まもりたすける。〔漢書、佞幸、石顯傳〕元帝晚節寢㆑疾、定陶恭王愛幸、顯擁㆓祐太子㆒頗有㆑功。

【擁毓】6 ヨウイク たすけそだてる。毓は育。〔漢書、敍傳下〕擁㆓毓孝昭㆒。

【擁咽】7 ヨウイン よだれかけ。涎衣。

【擁鬱】8 ヨウウツ ふさがる。〔嵇康、琴賦〕或徘徊顧慕、擁鬱抑按。

【擁衞】9 ヨウエイ かばひまもる。〔後漢書、虞延傳〕延常嬰㆓甲冑㆒、擁㆓衞親族㆒。〔後漢書、董卓傳〕董承李樂擁㆓衞左右㆒。

【擁轅】10 ヨウエン 轅をかかへもつ。棺車をひくことにいふ。〔晏子、重而異者〕擁㆑轅執㆑輅、木乾鳥栖。

【擁隔】11 ヨウカク ふさぎへだてる。壅隔。〔魏志、夏侯玄傳〕若省㆓郡守㆒、縣皆徑達、事不㆓擁隔㆒、官無㆓留滯㆒。〔王粲、登樓賦〕悲㆓舊鄉之壅隔㆒兮、涕橫墜而不㆑禁。〔注〕五臣作㆑擁、向曰、謂㆓喪亂擁隔㆒也。

【擁旗】12 ヨウキ 旗をもつ。擁旆。〔說苑、尊賢〕提㆑鼓擁㆑旗、披㆑堅執㆑銳。

【擁據】13 ヨウキヨ たもちまもる。〔魏志、公孫瓚傳評〕皆擁㆓據州郡㆒。〔皇甫謐、三都賦序〕擁㆓據函夏㆒。

【擁⿱髟屈】14 ヨウクツ 半臂の羽衣。〔後漢書、五行志一〕皆幘而衣㆓婦人衣繡擁⿱髟屈㆒。

【擁經】15 ヨウケイ 經書を抱く。厚く禮を用ひる意。後漢の明帝が、經書を抱いて桓榮の疾を見舞つた故事。〔後漢書、桓榮傳〕榮每㆓疾病㆒、云云、帝幸㆓其家㆒問㆓起居㆒、入㆑街下㆑車、擁㆑經而前、撫㆑榮垂㆑涕。

【擁頸】16 ヨウケイ 漢代の戟の名。〔周禮、考工記、冶氏〕戈廣二寸、〔注〕戈、今句孑戟也、或謂㆓之鷄鳴㆒、或謂㆓之擁頸㆒。〔疏〕或謂㆓之擁頸㆒者、以㆓其胡曲㆒。

【擁髻】17 ヨウケイ もとどりをいだきかかへる。なげくさま。〔蘇軾、九日舟中望㆓見有美堂上魯少卿飲處㆒以㆑詩戲㆑之詩〕遙知通德淒涼甚、擁㆑髻無㆑言怨㆑未㆑歸。

【擁劍】18 ヨウケン 劍をいだく。轉じて、はさみの偏大な蟹をいふ。〔古今注、魚蟲〕蟚蜞小蟹、生㆓海邊泥中㆒、食㆑土、一名長卿、其一有㆑螯、偏大者名㆓擁劍㆒。〔左思、吳都賦〕烏賊擁劍、鼅鼊鯖鰐。〔注〕劉曰、擁劍、蟹屬也、從廣二尺許、有㆑爪、其螯偏大、大者如㆓人大指㆒、長二寸餘、色不㆓與㆑體同㆒、特正黃而生㆓光明㆒、常忌㆓護之㆒如㆓珍寶㆒、以㆓利如㆒㆑劍、故曰㆓擁劍㆒、其一螯尤細、主㆑取㆑食、出㆓南海交趾㆒。〔顏氏家訓、文章〕異物志云、擁劍狀如㆑蟹、但一螯偏大爾、何遜詩曰、躍魚如㆓擁劍㆒、是不㆑分㆓魚蟹㆒也。

【擁後】19 ヨウゴ うしろをとりまく。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕旗旄導㆑前、而騎卒擁㆑後。

【擁護】20 ヨウゴ たすけまもる。かばひまもる。抱擁庇護する。擁衞。〔漢書、陳湯傳〕郅支、云云、怨㆘漢擁㆓護呼韓邪㆒、而不㆖㆑助㆑己。〔後漢書、盧芳傳〕呼韓邪單于歸㆑漢、漢爲發㆑兵擁護、世世稱㆑臣。〔後漢書、劉玄傳〕更始常依㆓謝祿㆒居、劉恭亦擁㆓護之㆒。

【擁笏】21 ヨウコツ しやくを持つ。〔唐書、忠義下、賈直言傳〕輒紫衣擁㆑笏。〔韓愈、曹成王碑〕出則囚服就㆑辯、入則擁㆑笏垂㆑魚。

【擁帚】22 ヨウサウ ❶はきをかかへもつ。掃除の時、塵埃が長者にかからないやうに帚を袂でおほひかこむ。〔禮、曲禮上〕以㆑袂拘而退、其塵不㆑及㆓長者㆒。〔注〕謂㆓埽時㆒也、以㆑袂擁㆓帚之前㆒、埽而卻㆑之。❷擁彗(40)に同じ。〔何遜、七召〕橫㆑經者比㆑肩、擁㆑帚者繼㆑足。

【擁篲】23 ヨウサウ 擁帚に同じ。

【擁札】24 ヨウサツ 札は牒。牒をかかへもつ。〔晏子、重而異者〕得㆘爲㆓地下之臣㆒、擁㆑札摻㆑筆、給㆗事宮殿中右陛之下㆖。

【擁止】25 ヨウシ いだきとどめる。さへぎりとどめ

る。〔日本外史、源氏正記、平氏〕清盛令二兵士一擁二止重盛一。

【擁矢】26ヨウシ 投壺の禮の時、卑者は矢を地に置かないで抱き持つをいふ。〔禮、少儀〕侍レ射則約レ矢、侍レ投則擁レ矢。〔疏〕投、投壺也、擁、抱也、矢、謂二投壺箭一也、云云、若卑者侍レ投、則不三敢釋二置於地一、但手幷抱投レ之也。

【擁膝】27ヨウシツ ひざをいだく。苦吟のさま。〔魏志、高柔傳、注〕柔夙夜匪レ懈、至下擁レ膝抱二文書一而寢上。〔梁宣帝、遊二七山寺一賦〕或擁レ膝而長吟。〔駱賓王、夏日夜憶二張二一詩〕伏レ枕憂思深、擁レ膝獨長吟。

【擁膝齋】28ヨウシツサイ 明、丁乾學(1－2・・248)の號。

【擁社】29ヨウシヤ 社の木主をいだくこと。自ら滅亡を期するを示すこと。〔左氏、襄、二十五〕陳侯免擁レ社、使三其衆男女別而纍、以待二於朝一。〔注〕免、喪服也、擁レ社、抱二社主一示レ服也。〔會箋〕陳侯奔レ墓、既而知二鄭無レ意二於滅レ陳、乃復歸レ城、免、喪冠也、初死有二喪冠一、免擁レ社者、示二自期レ亡也。

【擁樹】30ヨウジュ 木をいだきかこむ。擁柱(55)を見よ。〔太平御覽、兵、箭下〕韓子曰、云云、楚人有二白猨一、王自射レ之、則搏レ矢而熙、使二養由基射レ之、始調レ弓矯レ矢、未レ發而猨擁レ樹號矣。〔注〕擁、抱也。〔陸機、漢高祖功臣頌〕馬煩轡殆、不レ釋二擁樹一。〔杜甫、返照詩〕返照入レ江翻二石壁一、歸雲擁レ樹失二山村一。〔杜牧、雲詩〕渡レ江隨二島影一、擁レ樹隔二猿吟一。

【擁樹面】31ヨウジュメン 小兒を抱くこと。雍樹(11－42000・・27)を見よ。〔事物異名錄、人事、抱二小兒一〕漢書蘇林註、南方人謂レ抱二小兒一爲二擁樹一、面者、以二面首一向レ臨レ之也。

【擁衆】32ヨウシュウ 多勢をたのむこと。〔後漢書、岑彭傳〕時田戎擁二衆夷陵一、聞二秦豐被レ圍、懼二大兵方至一、欲レ降。〔晉書、儒林、范弘之傳〕坐擁二大衆一、侵二食百姓一。〔傅玄、晉鼓吹曲、惟庸蜀〕擁二衆數十萬一、闚レ隙承二我虛一。

【擁盾】33ヨウジュン 盾をもつ。〔史記、項羽紀〕噲卽帶レ劍擁レ盾入二軍門一。

【擁書】34ヨウショ 書物を所有する。藏書。抱籍。〔蔡邕、楊復碑〕擁レ書抱レ籍。〔北史、李謐傳〕鳩二集諸經一、廣校二同異一、云云、爲二璠等一判二析隱伏一、云云、辭氣磊落、觀者忘レ疲、每曰、丈夫擁二書萬卷一、何假二南面百城一。

【擁書閣】35ヨウショカク 清、周治(2－3441・・366)の室名。

【擁書漫筆】36ヨウショマンピツ 書名。四卷。高田與清撰。歌語・繪卷による古語・古事の考證、及び著者と同時代の著名な人の詩歌についての評判等を輯錄したもの。

【擁腫】37ヨウショウ 材木等に節やこぶが多くあること。ふくれてゐること。はれてゐること。轉じて、醜いさま。無知のさま。〔莊子、逍遙遊〕惠子謂二莊子一曰、吾有二大樹一、人謂二之樗一、其大本擁腫而不レ中二繩墨一。〔釋文〕李云、擁腫、猶二盤瘿一。〔陸倕、遷二吏部郎一啓〕臣器均二濩落一、材同二擁腫一。〔白居易、畫竹歌〕人畫竹身肥擁腫、蕭畫竹莖瘦節竦。

【擁腫之材】38ヨウショウノザイ 役にたたない材木。轉じて、自己の謙稱。〔劉潛、爲二安成王一讓二江州一表〕六輿沃若、不レ策二玄黃之馬一、九成輪奐、無レ求二擁腫之材一。〔徐陵、報二尹義尙一書〕夫以二擁腫之木一、得レ免、因二于不材一、觳觫之牛自保、由二其無用一。

【擁翠】39ヨウスイ 山名。雲南省蒙化縣の南。刁斯郎が築いた寨の遺址がある。

【擁彗】40ヨウスイ ははきをかかへもつ。古、尊貴を迎へるに常に帚を擁して敬を致した。掃除して客を持つの意。〔史記、孟子荀卿傳〕(騶子)如レ燕、昭王擁レ彗先驅、請下列二弟子之座一而受上レ業。〔注〕索隱曰、彗、帚也、謂二爲レ之掃レ地、以二衣袂一擁レ帚而卻行、恐三塵埃之及二長者一、所二以爲レ敬也。〔漢書、高帝紀下〕太公擁レ彗、迎レ門卻行。

【擁旌】41ヨウセイ はたを持つ。擁旆。

【擁篲】42ヨウセイ 擁彗に同じ。〔史記、高祖紀〕太公擁レ篲、迎レ門卻行。〔揚雄、解嘲〕或枉二千乘於陋巷一、或擁レ篲而先驅。〔論衡、別通〕燕昭爲二鄒衍一擁レ篲、彼獨受、何性哉。〔阮籍、詣二蔣公一奏記辭二辟命一〕昔子夏處二西河之上一、而文公擁レ篲。

【擁擠】43ヨウセイ 群集がおしあふ。雜踏する。こみあふ。〔清會典事例、內閣、職掌〕同治六年諭、近聞、內閣每月會二議事件一、往往閒二雜人等一、乘レ閒擁擠、雖二與留レ京辦一レ事、時情形不レ同、而會議重地、任レ令二多人喧雜一、殊不レ足下以示二嚴肅一而照中愼密上。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕嚴下禁閒人圍看、擁擠喧譁、云云、凌中辱兇身上。

【擁擠不堪】44 yung^2 chi^3 pu^4 k‘an^1 大混雜で身動きができない。

【擁擠不透】45 yung^2 chi^3 pu^2 t‘ou^4 押し分けられない群集。非常に雜沓すること。

【擁擠不動】46 yung^2 chi^3 pu^2 tung^4 動きがとれない。身動きが出來ない。

【擁絶】47ヨウゼツ ふさぎたつ。〔後漢書、耿恭傳〕匈奴遂於二城下一擁二絶澗水一。

【擁塞】48ヨウソク ㊀ふさぐ。〔晏子、諫、上〕君疏レ輔而遠レ拂、忠臣擁塞、諫言不レ出。〔後漢書、循吏、王景傳〕瓠子河決尙二十餘年、不レ卽二擁塞一。㊁ yung^3 sai^1 押しつめること。

【擁隊】49ヨウタイ 隊伍の名。〔稱謂錄、勇頭、擁隊〕羅濬寶慶四明志、正兵二十二隊、總有二二十名色一、分二隸於三將一、訓練官二十人、押隊四十四人、擁隊四十四人、引戰教頭二十二人、旂頭百三十二人。

【擁帶】50ヨウタイ たのみよる。たよる。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕擁二帶燕胡一、馮二陵險遠一。〔注〕向曰、擁、恃也。

【擁戴】51ヨウタイ いだきいただく。守りいただく。〔日本政記、土御門天皇論〕爲三其舊部曲所二擁戴一。

【擁倒】52 yung^2 tao^3 押し倒す。

【擁鐸】53ヨウタク 音の聞えるのを恐れて鐸をいだくこと。〔國語、吳語〕行頭皆官帥、擁レ鐸拱レ稽、建二肥胡一。〔注〕擁、抱也、抱鐸者、亦恐レ有レ聲也。

【擁持】54ヨウヂ いだきもつ。〔高啓、我昔詩〕異鄉寡二儔侶一、僮僕相擁持。

【擁柱】55ヨウチュウ はしらをいだく。擁樹(30)を見よ。〔史記、齊世家〕公擁レ柱而歌。〔淮南子、說山訓〕楚王有二白蝯一、王自射レ之、則搏レ矢而熙、使二養由基射レ之、始調レ弓矯レ矢、未レ發而蝯擁レ柱號矣。〔注〕由基、楚王之臣、養、姓、調張矯直、擁抱號呼、幽通賦曰、養流睇而蝯號、是也。

【擁塵】56ヨウヂン 勉學に熱心で室に塵の積るのを顧みない。他を顧みずして苦學する。〔翻譯名義集〕手不レ釋レ卷、任二塵擁一レ室。

【擁旆】57ヨウハイ はたを持つ。〔晉書、陶侃傳贊〕長沙勤王擁二旆戎場一。〔駱賓王、從軍中行路難詩〕連レ營去去無二窮極一、擁レ旆遙遙過二強國一。

【擁抱】58ヨウハウ かかへいだく。抱擁。〔宋史、宗室一、燕王德昭傳〕(太祖)命二黃門一、擁抱出入常從。

【擁旄】59ヨウバウ はたぼこをかかへもつ。〔駱賓王、從軍中行路難詩〕將軍擁レ旄宣二廟略一。

【擁被】60ヨウヒ 寢衣をかぶる。夜着をまとふ。〔歐陽脩、答二丘寺丞一簡〕今日食後就レ寢、方覺擁レ被臥讀二太白集一。〔戴復古、冬日移レ舟入レ峽避レ風詩〕同舟有二佳士一、擁レ被共論レ文。〔范成大、十一月十二日枕上曉作詩〕日高猶擁レ被、蓐食媿二鄰家一。

【擁鼻】61ヨウビ 鼻をおほふこと。〔杜牧、折レ菊詩〕雨中夜半濕、擁レ鼻自知レ心。

【擁鼻吟】62ヨウビギン 晉の謝安が鼻疾のために其の歌聲が濁り、それが却つてよかつたので、時人が皆鼻をおさへて其の聲にならつた故事。〔晉書、謝安傳〕安本能爲二洛下書生一詠、有二鼻疾一、故音濁、名流愛二其詠一而弗レ能レ及、或手掩レ鼻以斆レ之。〔唐彥謙、春陰詩〕天涯已有二銷魂別一、樓上寧無二擁鼻吟一。〔林逋、春夕閒詠詩〕屐齒偏庭深、若レ爲二擁鼻吟一。

【擁覆】63ヨウフ おほふこと。〔宋濂、送二東陽馬生一序〕以レ衾擁覆。

【擁兵】64ヨウヘイ 兵をかかへる。部下に軍隊をかかへもつこと。〔後漢書、李忠傳〕南方海濱江淮、多擁レ兵據レ土。

【擁蔽】65ヨウヘイ おほひかくす。又、おほひかくされる。壅蔽。遮障。〔禮、內則〕女子出レ門、必擁二蔽其面一。〔管子、形勢解〕羣臣多レ姦立レ私、以擁二蔽主一。〔後漢書、蓋勳傳〕上甚聰明、但擁二蔽於左右一耳。〔潛夫論、交際〕此奸雄所二以逐レ黨進一、而處子所二以愈擁蔽一也。

【擁滿】66ヨウマン むらがりあつまる。

【擁面】67ヨウメン 顏を蔽ひかくす。〔禮、內則〕女子出レ門、必擁二蔽其面一。

【擁蒙】68 ヨウモウ 面をふさぎおほふ。〔說苑、敬愼〕見二道側巾弊布、擁蒙而衣レ哀。

【擁予】69 ヨウヨ 淸、朱書（上海の人）(6－14424‥388)の字。

【擁抑】70 ヨウヨク かこみふさぐ。〔謝靈運、山居賦〕衆流溉灌以環レ近、諸堤擁抑以接レ遠。

【擁縲】71 ヨウラ 草器を荷ふもの。縲は⿰土累に通じて土を盛る器。論語に荷蕢に作る。〔說文繫傳、通論〕孔子擊二石於衞一、擁縲子聞レ之曰、有レ心哉、擊レ磬乎。

【擁耒】72 ヨウライ すきくはをもつ。〔潘岳、河陽縣作詩〕長嘯歸二東山一、擁レ耒耨二時苗一。〔南史衞陽王義季傳〕老人擁レ耒。

【擁離】73 ヨウリ 樂府、鼓吹曲辭、漢鐃歌の一。又、翁離に作る。〔隋書、音樂志上〕第五漢曲擁離、改爲二忼威一。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、漢鐃歌〕古今樂錄曰、漢鼓吹鐃歌十八曲、字多二訛誤一、一曰朱鷺、二曰思悲翁、三曰艾如張、四曰上之回、五曰擁離、云云、擁離亦曰二翁離一。

【擁立】74 ヨウリツ たすけ守つて成立させる。もりたてる。擁護樹立。〔漢書、西域傳上〕漢擁二立呼韓邪單于一。

【擁列】75 ヨウレツ とりまきつらなる。〔文同、月嵓齋詩〕更選他山相擁列、就中獨爾一峯最奇絕。

〖擁列圜視〗76 ヨウレツエンシ 周圍を取りまいて、おどろきみること。

【擁鎌】77 ヨウレン かまをかかへもつ。〔孔子家語、致思〕擁レ鎌帶レ索、哭音不レ哀。

【擁爐】78 ヨウロ 火鉢をかかへる。火鉢をかこむ。〔陸游、冬夜爐邊小飮詩〕擁レ爐可レ使二曲身直一、飮レ酒能回二槁面紅一。〔王銍、明覺山中始見二梅花一戲呈二妙明老一詩〕詩成火煖夜堂深、擁レ爐細與二山僧一說。

【擁上來】79 yung^3 shang^4 lai 一齊に押し寄せて來る。

【擁身扇】80 ヨウシンセン 身體をかかへ抱く程の大きな扇。〔後漢書、梁冀傳〕折上巾、擁身扇、狐尾單衣。〔注〕大扇也。

【擁雙艷三種】81 ヨウサウエンサンシユ 淸の萬樹が作曲した風流棒・念八翻・空青石の倂稱。

【⿱雍手】12782 ヨウ 擁(**5－12781**)に同じ。〔廣韻〕擁、⿱雍手、上同。

【擂】12783

㊀ライ 〔玉篇〕力堆切 ㄌㄟˊ lei^2 灰

㊁ライ 〔韻會〕盧對切 ㄌㄟˋ lei^4 隊

㊀**する**。細末にくだく。攂(**5－12929**)に同じ。〔玉篇〕擂、研レ物也。〔正字通〕擂、以レ手研レ物、本作レ攂。㊁❶**石を推し下す**。礧(**8－24568**)に同じ。〔韻會〕礧、推レ石自レ高而下也、又作レ擂、唐李光弼傳、擂石車。❷**うつ**。たたく。〔正字通〕擂、今俗謂二擊鼓一爲レ擂。〔虛鈴經、步戰〕擂レ鼓一通、步騎背裝。

【擂芋】1 スリイモ 一種の料理。山芋を擂りおとし、醬油・酢などで味をつけたもの。

【擂研】2 lei^2 yen^2 墨をする。

【擂鼓】3 ライコ つづみをうつ。擊鼓。〔虛鈴經、步戰〕夫步戰之法、擂レ鼓一通、步騎背裝。〔岑參、獻二封大夫一破二播山一凱歌〕鳴笳擂鼓擁二回軍一、破レ國平レ蕃昔未レ聞。

〖擂鼓攂鑼〗4 lei^2 ku^3 shai^1 luo^2 太鼓を打ち銅鑼を鳴らす。賑々しい形容。

【擂餌】5 スリエ 小鳥を飼ふ餌。はこべ草、又は菜の類に、鰌・鮒などを雜ぜてすつたもの。

【擂身】6 スリミ 擂りつぶした魚肉。

【擂槌】7 ライツイ すりこぎ。れんぎ。〔武林舊事、六、小經紀〕脩砧頭・磨刀・磨剪子・擂槌・棒槌・舂米・云云。

【擂鎚】8 lei^2 ch'uei^2 すりこぎ。擂槌に同じ。

【擂鉢】9 スリバチ 食物に供するものなどを擂りこなす器具。

〖擂鉢蟲〗10 スリバチムシ うすばかげろふの幼蟲の異名。あとびさり。

【擂木】11 スリコギ れんぎ。擂鉢で物をすりつぶす木棒。擂粉木。

【擂盆】12 ライボン 擂鉢の異稱。奧羽の方言。〔物類稱呼〕。

【擂草坡】13 ライサウハ 坡の名。湖南省鳳凰縣の北。

【擂石車】14 ライセキシヤ 戰車の名。石を轉ずる車で、攻城に用ひる。字解の㊁の❶を見よ。〔唐書、李光弼傳〕乃徹二民屋一爲二擂石車一。

【擂頭風】15 lei^2 t'ou^2 fêng^1 行くなりしかりつける。

【擂盤珠】16 ライバンシユ 新參の婢僕。他から命ぜられるのを待たず、自發的に立ちまはる意。佛頂珠(**1－517‥217**)を見よ。〔輟耕錄、井珠〕凡納二婢僕一、初來時曰二擂盤珠一、言二不レ撥自動一、稍久曰二算盤珠一、言二撥レ之則動一、既久曰二佛頂珠一、言二終日凝然、雖レ撥亦不一レ動、此雖二俗諺一、實切二事情一。

【擂粉鉢】17 スリコバチ 擂鉢の異稱。

【擂粉木】18 スリコギ 擂鉢で物を擂るに用ひる器。

【⿰扌禁】12784

㊀キン ゴン 〔集韻〕渠金切 侵

㊁キン ゴン 〔集韻〕巨禁切 沁

㊀**かたくとる**。捦(**5－12183**)に同じ。〔說文〕捦、急持二衣裣一也、⿰扌禁、捦或从レ禁。㊁**もつ**。鈙(**11－40233**)に同じ。〔集韻〕鈙、持也、或作レ鈙。

【⿰扌罪】12785

㊀サイ セ 〔集韻〕崇懷切 佳

㊁サイ ゼ 〔集韻〕仕壞切 卦

㊂サイ ズイ 〔集韻〕粗賄切 賄

㊀**そこなふ**。〔集韻〕⿰扌罪、方言、損也。㊁㊂**くじく**。〔集韻〕⿰扌罪、拉也。

【擃】12786 ダウ ナウ 〔集韻〕匿講切 講

❶**つく**。〔集韻〕擃、撞也、❷**さす**。〔集韻〕擃、刺也。❸或は搑(**5－12473**)に作る。〔集韻〕擃、或作レ搑。

【擄】12787

ロ ル 〔集韻〕籠五切 ㄌㄨˇ lu^3 麌

ㄌㄨㄛˇ luo^3

❶**かすめる**。〔廣韻〕擄、擄掠。❷**える**。とらへる。虜(**9－32710**)に同じ。〔集韻〕擄、虜、說文、獲也、或从レ手。❸**おほふ**。〔字彙〕擄、覆也。❹**したがへる**。〔字彙〕擄、服也。❺現まくる。

【擄掠】1 ロリヤク 兵卒が敵地の人民・財物を掠奪すること。鹵掠。〔宋史、太祖紀三〕縣民爲レ賊擄掠也、蠲二其逋租一。〔明律、兵律、軍政、縱軍擄掠〕凡守邊將帥、非レ奉二調遣一、私自使二令軍人一、於二外境一擄二掠人口財物一者、杖一百。〔六部成語、兵部、擄掠、注解〕賊匪以及下不レ守二紀律一之兵上、任意奪二取民間之男女財物一。

【擄起袖子】2 lu^2 ch'i^3 hsiu^4 tzŭ 袖をまくり上げる。腕まくりする。

【擄人勒贖】3 lu^3 jen^2 lê^4 shu^2 人質を捕へて代償を強要すること。

【撢】12788 タン 撢(**5－12724**)に同じ。〔正字通〕撢、撢同。

【⿰扌運】12789 ウツ 揮(**5－12333**)に同じ。〔集韻〕揮、或从レ運。

【擅】 12790 セン ゼン 〔集韻〕時戰切 霰 ㄕㄢˋ shan⁴

小篆

●一**ほしいまま**。ほしいままに。もつぱら。〔說文〕擅、專也、从㆑手亶聲。〔左氏、成、十三〕擅及㆑鄭盟。〔管子、法法〕此所謂擅也。〔注〕擅、專也。〔呂覽、貴生〕不㆑得㆓擅行㆒。〔注〕擅、專也。〔史記、魏豹彭越傳〕擅將㆓其兵㆒。〔注〕索隱曰、擅、猶㆑專也。●二**ほしいままにする**。專にする。〔詩、鄭風、狡童序〕權臣擅㆑命也。〔釋文〕擅、專也。〔史記、范雎傳〕擅㆑國之謂㆑王。●三**しめる**。據有する。〔增韻〕擅、据也。〔戰國、趙策〕以擅㆓呼沱㆒。〔注〕擅、言㆔固㆓有之㆒也。●四**ゆづる**。禪(8-24835)に通ず。〔荀子、正論〕堯舜擅讓。〔注〕擅、與㆑禪同。

【擅愛】1（センアイ） ほしいままに愛すること。〔韓非子、外儲說右上〕夫不㆔處㆑勢以禁㆓誅擅愛之臣㆒、而必德厚以與㆓天下㆒、齊行以爭㆑名、是皆不㆑乘㆓君之車㆒、不㆑因㆓馬之利㆒、舍㆑車而下走者也。

【擅移】2（センイ） ほしいままにうつす。〔春秋繁露、堯舜不㆓擅移㆒湯武不㆓專殺㆒〕堯舜何緣而得㆔擅移㆓天下㆒哉、云云、堯舜之不㆘私㆓傳天下㆒、而擅移㆖㆑位也、無㆑所㆑疑也。

【擅爲】3（センヰ） ほしいままになす。〔呂覽、貴生〕官職不㆑得㆓擅爲㆒、必有㆑所㆑制。〔孔子家語、本命解〕事無㆓擅爲㆒、行無㆓獨成㆒。

【擅爲妄意之道】4（センヰバウイノミチ） 專擅な行爲と妄に臆測して爲す道。〔呂覽、處方〕擅爲妄意之道、雖㆑當賢主不㆑由也。

【擅改】5（センカイ） ほしいままにあらためる。〔張家聲、三事忠告跋〕其累㆓於上下文義㆒者不㆑少、予欲㆑正㆑之、恐負㆓擅改之罪㆒。

【擅行】6（センカウ） ほしいままな行。又、ほしいままに行ふ。〔呂覽、貴生〕耳目鼻口不㆑得㆓擅行㆒。〔史記、范雎蔡澤傳〕今太后擅行不㆑顧。〔魏志、司馬芝傳〕敕㆓縣老㆒竟擅㆓行刑戮㆒。

【擅敢】7 shan⁴ kan³ 自分勝手に行ふ。

【擅議】8（センギ） ほしいままにはかりさだめる。〔漢書、郊祀志下〕漢宗廟之禮、不㆑得㆓擅議㆒。〔漢書、韋玄成傳〕故定著㆑令、敢有㆓擅議者㆒棄市。

【擅彊】9（センキヤウ） ほしいままでつよい。〔荀子、賦〕仁人絀約、敖暴擅彊。〔後漢書、馮衍傳下〕忿㆓戰國之遘禍㆒兮、憎㆓權臣之擅彊㆒。

【擅斡】10（センクワン） 自由にする。獨占すること。擅管。〔漢書、食貨志下〕浮食奇民、欲㆘擅㆓斡山海之貨㆒、以致㆓富羨㆒、役㆗利細民㆖。〔注〕師古曰、斡、謂㆓主領㆒也、讀與㆑管同。

【擅管】11（センクワン） 獨占する。擅斡(10)に同じ。〔史記、平準書〕浮食奇民、欲㆘擅㆓管山海之貨㆒、以致㆓富羨㆒、役㆗利細民㆖。〔注〕集解曰、張晏曰、若㆔人執㆓倉庫之管籥㆒、或曰、管、固。

【擅雞】12（センケイ） 有毒の鳩鳥の異名。〔事物異名錄、禽鳥、鳩〕過庭錄、廣南異物志曰、擅雞、鳩鳥之別名。

【擅矯】13（センケウ） ほしいままでいつはる。〔史記、文帝紀〕擅矯遣㆓灌將軍嬰㆒、將㆑兵擊㆑齊。

【擅劫】14（センケフ） 思ふままにおびやかす。〔漢書、高帝紀上〕擅㆓劫諸侯兵㆒、入㆑關。

【擅權】15（センケン） 權柄をほしいままにする。勢力を濫用する。專權。擅柄。〔史記、衞將軍驃騎傳〕見㆘爲㆓人臣㆒不㆗敢擅㆖㆑權。〔史記、賈生傳〕專欲㆔擅㆑權紛㆓亂諸事㆒。〔史記、酈生陸賈傳〕諸呂擅㆑權、欲㆘劫㆓少主㆒、危㆗劉氏㆖。〔漢書、文帝紀〕立㆓諸呂㆒爲㆓三王㆒、擅㆑權專㆑制。〔漢書、賈誼傳〕專欲㆔擅㆑權紛㆓亂諸事㆒。

【擅厚】16（センコウ） ほしいままに私恩をほどこす。〔史記、范雎傳〕天下有㆓明主㆒、則諸侯不㆑得㆓擅厚㆒者何也。

【擅興】17（センコウ） ●一ほしいままにおこる。〔史記、太史公自序〕哀王擅興、發㆓怒諸呂㆒。●二ほしいままに賦役を興す。〔曾鞏、移㆓滄州㆒過㆑闕上㆑殿劄子〕常謹㆓復除之科㆒、急㆓擅興之禁㆒。

【擅哭】18（センコク） ほしいままに哀哭する。〔史記、文帝紀〕非㆓旦夕臨時㆒、業毋㆑得㆓擅哭㆒。

【擅國】19（センコク） 國政を總攬して專らにする。〔國語、晉語九〕不㆑恤㆓庶難㆒、而欲㆑擅㆓晉國㆒。〔史記、范雎傳〕夫擅㆑國之謂㆑王、能㆓利害㆒之謂㆑王、制㆓殺生之威㆒之謂㆑王。〔風俗通、皇霸、三王〕夫擅㆑國之謂㆑王。

【擅創】20（センサウ） ほしいままに始める。勝手に始める。〔管子、四稱〕變㆓易國常㆒、擅創爲㆑令。

【擅作】21（センサク） 勝手に作る。〔荀子、禮論〕堅白同異之察、入焉而溺、其理誠大矣、擅作典制辟陋之說、入焉而喪、其理誠高矣。〔韓非子、說疑〕非㆓上之令㆒、不㆓敢擅作疾言誣㆒㆑事、此聖王之所㆔以牧㆓臣下㆒也。

【擅殺】22（センサツ） ほしいままにころす。專殺。〔國語、晉語九〕夫以㆑回鬻㆓國之中㆒、與㆓絕㆑親以買㆒㆑直、與㆘非㆓司寇㆒而擅殺㆖、其罪一也。〔宋史、仁宗紀二〕詔獲㆓劫盜㆒者、奏裁毋㆓擅殺㆒。

【擅纂】23（センサン） みだす。簒る。〔紅樓夢、一回〕他生性狡滑、擅㆓纂禮儀㆒。

【擅私】24（センシ） ほしいままで私あること。我儘勝手。專私。

【擅恣】25（センシ） ほしいまま。わがまま。かつて。きまま。放恣。放肆。縱恣。〔詩、小雅、十月之交序、鄭注〕此篇譏㆓皇父擅恣、日月告㆒㆑凶。〔淮南子、氾論訓〕無㆓擅恣之志㆒、無㆓矜伐之色㆒、可㆑謂㆓能臣㆒矣。〔後漢書、陳寔傳論〕漢自㆓中世㆒以下、閹豎擅恣、故俗遂以遁㆑身矯㆑絜、放㆑言爲㆑高。

【擅自】26 shan⁴ tzŭ⁴ ほしいままに。勝手に。

【擅事】27（センジ） 事をほしいままに行ふ。〔莊子、漁父〕專㆑知擅㆑事、侵㆑人自用、謂㆓之貪㆒。

【擅赦】28（センシヤ） ほしいままにゆるす。〔隋書、建武傳〕酒酣遂擅㆓赦所部內獄囚㆒。

【擅讓】29（センジヤウ） 位を賢者にゆづる。擅は禪に通ず。禪讓。〔荀子、正論〕世俗之爲㆑說者曰、堯舜擅讓、是不㆑然、天子者、執位至尊、無㆑敵㆓於天下㆒、夫有誰與讓矣、道德純備、智惠甚明、南面而聽㆓天下㆒、生民之屬、莫㆑不㆔振動從服、以化㆓順之㆒、天下無㆓隱士㆒、無㆓遺善㆒、同㆑焉者是也、異㆑焉者非也、夫有惡擅㆓天下㆒矣。〔注〕擅、與㆑禪同、墠亦同義、謂㆓除㆑地爲㆑墠、告㆑天而傳㆒㆑位也、後因謂㆓之禪位㆒、世俗以爲、堯舜德厚、故禪㆓讓聖賢㆒、後世德薄、故父子相繼、荀卿言、堯舜相承、但傳㆓位於賢㆒而已、與㆑傳㆑子無㆑異、非㆑謂㆓求㆑名而禪讓㆒也、案、書序曰、將㆘遜㆓于位㆒、讓㆗于虞舜㆖、是亦有㆓讓之說㆒、此云㆑非㆓擅讓㆒、蓋書序美㆓堯之德㆒、雖㆘是傳㆑位與㆓遜讓㆒無㆖㆑異、非㆔是先有㆓讓意㆒也、孟子亦云、萬章曰、堯以㆓天下㆒與㆑舜、有㆑諸、孟子曰、天子不㆑能㆘以㆓天下㆒與㆖㆑人、曰、孰與㆑之、曰、天與㆑之、又曰、天與㆑賢、則與㆑賢、天與㆑子、則與㆑子。

【擅書】30（センシヨ） ほしいままにかく。〔福惠全書、蒞任部、攷代書〕有㆓捏㆑虛擅書㆒立拿、重責枷示。

【擅進】31 shan⁴ chin⁴ 勝手に這入る。又、勝手に入れる。

【擅制】32（センセイ） 我儘勝手に爲すこと。〔列女傳、母儀、鄒孟軻母傳〕婦人無㆓擅制之義㆒、而有㆓三從之道㆒也。

【擅政】33（センセイ） ほしいままに政治を行ふこと。專政。

【擅勢】34（センセイ） 勢力をほしいままにする。〔戰國、趙策〕先王之時、奉陽君相、專㆑權擅㆑勢、蔽㆓晦先王㆒、獨㆓制官事㆒。

【擅專】35（センセン） もつぱらにする。〔史記、衞將軍驃騎傳〕以㆓臣之尊寵㆒、而不㆔敢自擅㆓專誅於境外㆒。

【擅退】36（センタイ） ほしいままにしりぞく。〔新書、服疑〕人循㆓其度㆒、擅退則讓。

【擅斷】37（センダン） ほしいままに事をとりさばく。勝手にきめる。氣ままにふるまふ。〔韓非子、和氏〕主用㆑術、則大臣不㆑得㆑擅㆑斷、近習不㆓敢賣㆒㆑重。〔淮南子、主術訓〕法籍禮義者、所㆓以禁㆑君使㆒㆑無㆓擅斷㆒也。〔鹽鐵論、非鞅〕邪臣擅斷、公道不㆑行。〔陳琳、爲㆓袁紹㆒檄㆓豫州㆒文〕擅㆓斷萬機㆒。

【擅長】38（センチヤウ） 思ふままに伎倆をのばす。伎倆を振ふ。〔王捧珪、日賦〕在㆓七政㆒雖㆑擅㆓其長㆒、昭㆓萬物㆒不㆑競㆓其功㆒。

【擅場】39（センヂヤウ） ●一其の場に匹敵する者がないこと。一人舞臺。勝れた腕前。〔張衡、東京賦〕秦政利觜長距、終得㆑擅㆑場。〔注〕綜曰、言、秦以㆓天下㆒爲㆓大場㆒、喩㆘七雄爲㆓鬬雞㆒、利喙長距者、終擅㆗一場㆖也、云云、說文曰、擅、專也。〔杜甫、冬日洛城北謁㆓玄元皇帝廟㆒廟有㆓吳道士畫五聖圖㆒詩〕畫手看㆓先輩㆒、吳生遠擅場。●二主席をいふ。唐代、送別又は宴會等に多數の人が集まつた時、必ず詩を賦し、其の中で第一等となつた者をいふ。〔唐國史補、上〕郭曖、昇平公主駙馬也、盛集㆓文士㆒、卽席賦㆑詩、云云、是會也、(李)端擅㆑場、云

云。

【擅寵】40 センチョウ　寵愛をほしいままにする。〔易緯乾鑿度〕妲己擅レ寵、殷以レ之破。〔漢書、外戚上、孝武陳皇后傳〕及二帝卽レ位、立爲二皇后一、擅レ寵驕貴、十餘年而無レ子。

【擅逞】41 センテイ　跋扈すること。〔韓非子、説疑〕有下務二朋黨一、徇レ智尊レ士、以擅逞者上。

【擅朝】42 センテウ　朝廷に立つて權をもつぱらにする。朝廷の威光を勝手に振りまはす。專朝。〔漢書、成帝紀贊〕趙氏亂レ內、外家擅レ朝。

【擅調】43 センテウ　上命を經ず勝手に軍兵を調發すること。〔明律、兵律、軍政、擅調官軍〕若無二警急一、不三先申二上司一、雖三已申二上司一、不レ待二回報一、輒於二所屬一擅調二軍馬一、及所屬擅發與者、各杖一百、罷レ職發二邊遠一充レ軍。

【擅廢】44 センパイ　勝手に廢する。〔史記、齊悼惠王世家〕聽二諸呂一、擅二廢高帝所一レ立、云云、以王二諸呂一。

【擅發】45 センパツ　ほしいままに兵を出す。〔後漢書、袁安傳〕擅發二邊兵一。〔五代史、梁臣、王重師傳〕太祖以三其擅發レ兵挫二失國威一、將二召而罪一レ之。

【擅美】46 センビ　美名を獨占する。〔宋書、謝靈運傳論〕標レ能擅レ美、獨映二當時一。

【擅賦】47 センプ　下民に對し恣に賦課すること。規定以外に租税を徵すること。〔鹽鐵論、地廣〕禁二苛暴一、止二擅賦一。

【擅賦法】48 センプノハウ　必要に應じて規定以外に賦税を徵收すること。〔史記、平準書〕不三敢言二擅賦法一矣。

【擅兵】49 センペイ　兵權を擅にすること。〔戰國、燕策〕彼大將擅二兵於外一、而內有二大亂一、則君臣相疑。〔劉歆、遂初賦〕吉射叛而擅レ兵。

【擅柄】50 センペイ　權力をほしいままにする。擅權。〔道德指歸論、萬物之奥篇〕夫爵尊二天下一、云云、專レ權擅レ柄、人之所レ畏也。

【擅命】51 センメイ　命令をほしいままにして節制を受けない。〔揚雄、冀州箴〕陪臣擅レ命。〔魏志、劉放傳〕阻レ兵擅レ命、人自封殖。〔高適、東征賦〕乃擅レ命以誅伏、徒矯レ迹以安レ劉。

【擅利】52 センリ　利益を獨占する。〔史記、貨殖傳〕得二丹穴一而擅二其利一數世。

【擅横】53 センワウ　❶連衡をほしいままに行ふ。〔揚雄、劇秦美新〕至レ政破レ縱擅レ横、幷二呑六國一。❷わがままで無理を通すこと。勢力をたのみに勝手な振舞をすること。專横。擅恣横暴。

【擅造作】54 センザウサク　認可を經ずに工事をすること。〔明律、工律、營造、擅造作〕凡軍民官司、有レ所二營造一、應レ申レ上而不レ申レ上、應レ待レ報而不レ待レ報、而擅起二差人工一者、各計二所レ役人雇工錢一、坐レ贓論。

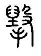
【⿰扌頁】12791　ハン　ボン　〔集韻〕符袁切　元

もむ。通じて煩（7－19229）に作る。〔廣韻〕⿰扌頁、捼也。〔集韻〕⿰扌頁、⿰扌頁摑、按也、通作レ煩。

【⿰扌頍】12792　キ

摫（5－12622）の譌字。〔正字通〕⿰扌頍、摫字之譌。

【⿱毀手】12793　キ　〔集韻〕虎委切　紙


小篆

❶うちいためる。〔說文〕⿱毀手、傷擊也、从二手毀一、毀亦聲。❷或は⿰扌毀（5－12749）に作る。〔集韻〕⿱毀手、或書作レ⿰扌毀。

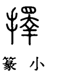
【⿰扌毀】12794　キ

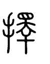
⿱毀手（5－12793）に同じ。〔康熙字典〕⿰扌毀、本作レ⿱毀手。

【擆】12795　チャク　〔集韻〕陟略切　藥

❶うつ。〔廣雅、釋詁三〕擆、擊也。❷おく。〔廣韻〕擆、置也。

【擇】12796　🈩タク　ヂャク　〔集韻〕直格切　陌　ㄗㄜˊ　tsê²
🈔エキ　ヤク　〔集韻〕夷益切　陌　ㄓㄞˊ　chai²


小篆（說文）


小篆（段注本）

🈩❶えらぶ。㋑えりとる。よいものをえらびとる。〔說文〕擇、柬選也、从レ手睪聲。〔玉篇〕擇、簡選也。〔書、呂刑〕罔レ有二擇言在レ身。〔中庸〕擇レ善而固執レ之者也。〔呂覽、驕恣〕存二其所レ擇。〔注〕擇、取也。〔淮南子、本經訓〕是以不レ擇二時日一。〔注〕擇、選也。㋺えりわける。差別をたてる。〔孟子、梁惠王上〕則牛羊何擇焉。〔呂覽、簡選〕與二惡劍一無レ擇。〔注〕擇、別也。❷えらび。えらぶこと。〔梅堯臣、王侍郎南京留守詩〕尹以二名臣一擇。❸やぶれる。わるい。殬（6－16584）に通ず。〔說文通訓定聲〕擇、叚借爲レ殬、書、呂刑、罔レ有二擇言在レ身、孝經、口無二擇言一、身無二擇行一、按、敗也。❹或は⿱睪廾（4－9649）に作る。〔集韻〕擇、或从レ廾。🈔人名。〔集韻〕擇、闕、人名、漢有二司馬無擇一。

【擇位】1 タクヰ　位をえらぶ。〔左氏、昭、三〕今嬖寵之喪、不三敢擇レ位、而數二於守適一。〔會箋〕言、嬖寵之喪、鄭不三敢擇二弔葬者之位一、所二以卿自親一。

【擇友】2 タクイウ　友をえらぶ。〔大戴禮、主言〕孔子曰、上敬レ老則下益孝、上順レ齒則下益悌、上樂レ施則下益諒、上親レ賢則下擇レ友。

【擇尤】3 tsê² yu²　優良なものをえらぶ。

【擇音】4 タクオン　タクイン　❶よい音聲を出さうとすること。音は音聲。一說に、蔭庇の處を擇ぶ。音は蔭の假借。〔左氏、文、十七〕鹿死不レ擇レ音、小國之事二大國一也、德則其人也、不レ德則其鹿也、鋌而走レ險、急何能擇、命之罔レ極、亦知レ亡矣。〔注〕音所二茠蔭一之處也、古字聲同、皆相假借也。〔會箋〕鹿得二美草一、呦呦相呼、至二於困迫將レ死、則不レ暇二復擇二善音一也、莊子人閒世、獸死不レ擇レ音、郭象注、譬二之野獸一、蹴二之窮地一、意急情迫、則和聲不レ至、後漢書皇甫規傳稱、鹿死不レ擇レ音、謹冒味略上、劉逵吳都賦注、凡閒暇則有二好音一、逼レ急不レ擇レ音、凡獸皆然、非二惟鹿一也、皆主二音聲一言、惟鹿聲可レ愛、故子家云二鹿死不レ擇レ音、而詩人亦咏レ之、不レ擇レ音者、以喩レ出二惡聲一也、杜讀レ音作レ蔭、非二古訓一矣。❷tsê² yin⁴　あわてた時には、なんにでもすがらうとすることにたとえる。

【擇可】5 タクカ　元、潘從善（7－18236··175）の字。

【擇交】6 タクカウ　❶交るべき國をえらぶ。〔史記、蘇秦傳〕說二趙肅侯一曰、安民之本、在二乎擇レ交、擇レ交而得則民安、擇レ交而不レ得、則民終身不レ安。❷交るべき良友をえらぶ。〔白居易、寓意詩五首〕乃知擇レ交難、須レ有二知レ人明一。

【擇行】7 タクカウ　善惡を擇び分けねばならぬ行。一說に、擇は殬、わるい行。字解の🈩の❸並に【無二擇行一】を見よ。

【無二擇行一】8 タクカウナシ　行が皆法にかなひ、善惡の選ぶべきものがない。〔孝經、卿大夫章〕口無二擇言一、身無二擇行一。〔注〕言行皆遵二法道一、所二以無レ可レ擇也。〔風俗通、過譽〕身無二擇行一、口無二擇言一。

【擇期】9 tsê² ch'i²　期日をえらぶ。

【擇誼】10 タクギ　宜しきを擇ぶ。正しい道をえらぶ。〔韓愈、送二齊皞下第一序〕故上之人、行レ志擇レ誼。

【擇吉】11 タクキツ　よい日をえらぶ。〔史記、封禪書〕擇二吉月日一、見二四嶽諸牧一、還レ瑞。

【擇鄉】12 タクキャウ　善い村里をえらぶ。〔荀子、勸學〕君子居必擇レ鄉、遊必就レ士。

【擇官】13 タククワン　官をえらぶ。官をえりごのみする。〔韓詩外傳、一〕家貧親老者、不レ擇レ官而仕。〔干寶、晉紀總論〕選者爲レ人擇レ官、官者爲レ身擇レ利。

【擇君】14 タククン　仕ふべき立派な君主をえらぶこと。〔孔子家語、六本〕夫君子居必擇レ處、遊必擇レ方、仕必擇レ君。

【擇賢】15 タクケン　賢者をえらぶ。簡賢。〔左氏、襄、三十一〕年均擇レ賢、義均則卜、古之道也。〔孔子家語、五儀解〕不三擇レ賢以託二其身一。

【擇遣】16（タクケン） えらんで遣す。〔蘇軾、趙清獻公神道碑〕成都以二戍卒一爲レ憂、朝廷擇下遣大臣爲三蜀人所二愛信一者上、皆莫レ如レ公。

【擇言】17（タクゲン） ㊀善惡をえらび取るべき言葉。無二擇言一を見よ。㊁えらんで言ふ。〔戰國、魏策〕魯君興避レ席擇言曰、昔者帝女、令二儀狄作レ酒而美。

【無二擇言一】18（タクゲンナシ） 言語がみな法にかなひ、善惡の選び拔くべきものがない。皆立派な言葉ばかりである。一說に、擇は殬、わるい言葉がない意。字解㊂を見よ。〔孝經、卿大夫章〕口無二擇言一、身無二擇行一。〔注〕言行皆遵二法道一、所二以無一レ可レ擇也。〔後漢書、馬援傳〕龍伯高敦厚周愼、口無二擇言一。〔風俗通、過譽〕身無二擇行一、口無二擇言一。

【擇言擇行】19（タクゲンタクカウ） 善惡を選び拔くべき言行。各條を見よ。

【罔レ有二擇言一】20（タクゲンアルナシ） 言語みな法にかなひ、選び拔くべきものがないこと。無二擇言一に同じ。〔書、呂刑〕罔レ有二擇言在一レ身。〔傳〕無レ有三可レ擇之言在二其身一。

【擇菜】21（タクサイ） 野菜をえらび調へる。〔莊子、讓王〕孔子窮二於陳蔡之間一、七日不二火食一、藜羹不レ糝、顏色甚憊、而弦二歌於室一、顏回擇レ菜。〔呂覽、愼人〕顏回擇二菜於外一。

【擇材】22（タクザイ） 人材をえらぶ。〔左氏、哀、十六〕召レ之而擇レ材焉可也、若不材、器可レ得也。

【擇士】23（タクシ） 人物をえらぶ。〔說苑、雜言〕君子居必擇レ處、遊必擇レ士。

【擇子】24（タクシ） 子の能・不能を知ること。〔左氏、昭、十一〕王問二於申無宇一曰、弃疾在レ蔡、何如、對曰、擇レ子莫レ如レ父、擇レ臣莫レ如レ君。

【擇之】25（タクシ） 字號。㊀宋、徐處仁(**4−10110**‥491)の字。㊁宋、祖無擇(**8−24664**‥174)の字。㊂宋、陳琦(**11−41698**‥123)の字。㊃宋、林用中(**6−14551**‥443)の字。

【擇視】26（タクシ） えらびみる。〔後漢書、皇后紀序〕擇二視可否一、乃用登御。

【擇日】27（タクジツ） よい日をえらぶ。吉日をえらぶ。〔禮、曾子問〕擇レ日而祭二於禰一、成二婦之義一也。〔莊子、德充符〕彼且擇レ日而登假。〔漢書、韓信傳〕必欲レ拜レ之、擇レ日齋戒、設二壇場一具レ禮乃可。〔說苑、反質〕故卜數擇レ日、潔二齋戒一、肥二犧牲一。

【擇車】28（タクシャ） えらびわけたよい車。簡車。選車。〔墨子、明鬼下〕武王以二擇車百兩虎賁之卒四百人一、云云、與二殷人一戰二乎牧之野一。〔閒詁〕擇車、猶三呂氏春秋云二簡車選車一、說文手部云、擇、柬選也。

【擇種】29（タクシュ） たねをえりわける。〔說苑、雜言〕田者擇レ種而種レ之。

【擇所】30（タクショ） 石井文吏の號。石井擇所(**8−24024**‥451)を見よ。

【擇處】31（タクショ） 居るべき立派な居處をえらぶ。擇鄉。〔論語、里仁〕子曰、里レ仁爲レ美、擇不レ處レ仁、焉得レ知。〔說苑、雜言〕君子居必擇レ處、游必擇レ士。〔孔子家語、六本〕夫君子居必擇レ處、遊必擇レ方。

【擇食】32（タクショク） ㊀食をえらぶ。〔范成大、題二易元吉獐猿兩圖一詩〕擇レ食麏相喚、無二人意不一レ驚。㊁婦人のつはりの時には食を擇ぶことから、つはりをいふ。〔婦人良方、惡疽〕肢體沈重、頭眩、擇レ食、惟嗜二酸鹹一。

【擇臣】33（タクシン） 立派な家來をえらぶ。〔左氏、昭、十一〕擇レ子莫レ如レ父、擇レ臣莫レ如レ君。〔孔子家語、弟子行〕是故君擇レ臣而任レ之。

【擇親】34 tsê² ch'in¹ よい婿をえらぶ。擇婿。

【擇人】35（タクジン） 立派な人をえらぶ。〔左氏、昭、七〕一曰擇レ人、二曰因レ民、三曰從レ時。〔說苑、雜言〕是以君子擇レ人與交、農人擇レ田而田。

【擇趨】36（タクスウ） 趨く所をえらぶ。〔淮南子、人閒訓〕百言百當、不レ如二擇レ趨而審一レ行也。

【擇婿】37（タクセイ） よいむこをえらぶ。〔申培詩說〕摽有梅、女父擇レ婿之詩、興也。〔郤掃編〕本朝公卿、多有二知レ人之明一、見三於擇婿與二辟客一、蓋趙參政昌言之婿、爲二王文正旦一、王文正之婿、爲二韓忠憲億呂惠穆公弼一、呂惠穆之婿、爲二韓文定忠彥一、李侍郎虛己之婿、爲二晏元獻殊一、晏元獻之婿、爲二富文忠弼一。

【擇婿車】38（タクセイシャ） むこをえらぶ車。〔菊坡叢話〕東坡詩云、囊空不レ辦レ尋二春馬一、眼亂行看擇婿車、按、唐進士宴二曲江一、公卿家傾城縱觀、鈿車珠鞅、櫛比而至、中二東榻之選一者十八九、坡公擇婿車之句本レ此。

【擇席】39 chai² hsi² 場所が變ると眠ることの出來ないこと。

【擇席病】40 chai² hsi² ping⁴ 寢床が變ると眠れない癖。

【擇選】41（タクセン） えらぶ。選擇。〔吳志、甘寧傳〕自擇二選銳士五千人一。

【擇善】42（タクゼン） ㊀善をえらぶ。〔中庸〕誠レ之者、擇レ善而固執レ之者也。〔左氏、襄、二十九〕擇レ善而擧、則世隆也。㊁字號。㋑宋、范同(**9−30834**‥100)の字。㋺金、趙鑑(**10−37171**‥81)の字。

【擇捉】43（エトロフ） 千島の郡地名。

【擇對】44（タクタイ） ㊀配偶者をえらぶ。〔後漢書、逸民、梁鴻傳〕同縣孟氏有レ女、云云、擇レ對不レ嫁、至二年三十一。㊁tsê² tuei 繰り合せる。

【擇濯】45（タクタク） えらびあらふ。えりごのみする。〔論衡、福虛〕臣不二畏敬一、擇濯不レ謹。

【擇地】46（タクチ） ㊀地をえらぶ。〔韓詩外傳、一〕任重而道遠者、不レ擇レ地。〔孔子家語、致思〕子路見二於孔子一曰、負レ重涉レ遠、不レ擇レ地而休、家貧親老、不レ擇レ祿而仕。㊁身を愼しむさま。〔史記、伯夷傳〕或擇レ地而蹈レ之、時然後出レ言、行不レ由レ徑、非二公正一不レ發レ憤、而遇二禍災一者、不レ可レ勝レ數也。〔漢書、馮奉世傳贊〕宜鄉侯參鞠躬履レ方、擇レ地而行。〔後漢書、第五倫傳〕倫復上疏曰、臣、云云、素性駑怯、位尊爵重、拘二迫大義一、思二自策厲一、雖レ遭二百死一、不二敢擇一レ地、又況親遇二危言之世一哉。

【擇定】47（タクテイ） えらび定める。〔福惠全書、涖任部、清號件〕擇二定空日一查比。

【擇訂】48 tsê² ting⁴ えらび定める。

【擇任】49（タクニン） 任務をえらぶ。〔左氏、昭、二十〕擇レ任而往、知也、知レ死不レ辟、勇也。

【擇能】50（タクノウ） 才能ある者をえらぶ。〔左氏、襄、三十一〕子產之從レ政也、擇レ能而使レ之。

【擇配】51 tsê² p'ei⁴ 配偶者をえらぶ。擇對。

【擇方】52（タクハウ） 方角をえらぶ。〔孔子家語、六本〕夫君子居必擇レ處、遊必擇レ方。

【擇筆】53（タクヒツ） ふでをえらぶ。〔廣川書跋、歐陽詢帖〕余求二前人論一レ書、必先擇レ筆、至二於動作皆得一レ如レ意、然後論二工之善非一、是未二嘗書一也。

【擇婦】54（タクフ） 妻を擇ぶ。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕襄陽記曰、黃承彥者、高爽開列、爲二沔南名士一、謂二諸葛孔明一曰、聞君擇レ婦、身有二醜女一、黃頭黑色、而才堪二相配一、孔明許、卽載送レ之、時人以爲二笑樂一、鄉里爲二之諺一曰、莫レ作二孔明擇婦一、正得二阿承醜女一。

【擇米】55（タクベイ） 米をえりわける。〔漢書、惠帝紀、注〕應劭曰、取レ薪給二宗廟一、爲二鬼薪一、坐擇レ米、使二正白一、爲二白粲一、皆三歲刑也。〔漢書、百官公卿表上、注〕師古曰、導官主レ擇レ米。〔唐書、韋陟傳〕陟性侈縱、云云、窮二治饌羞一、擇二膏腴地一、藝二穀麥一、以二鳥羽一擇レ米。

【擇木】56（タクボク） 木をえらぶ。臣が主を擇んで仕へる喩。〔左氏、哀、十一〕鳥則擇レ木、木豈能擇レ鳥。〔注〕以レ鳥自喩也。〔新論、託附〕鳥有二擇レ木之性一、魚有二選レ潭之情一。

【擇用】57（タクヨウ） えらび用ひる。〔漢書、兒寬傳〕擇二用仁厚士一。

【擇良】58（タクリヤウ） よいものをえらぶ。〔宋書、謝靈運傳〕非レ龜非レ筮、擇レ良選レ奇、翦レ棒開レ徑、尋レ石覓レ崖。

【擇鄰】59（タクリン） 近所をえらぶ。孟母三遷(**3−6960**‥254)の故事。轉じて、ひろく居を卜するをいふ。〔何晏、景福殿賦〕嘉二班妾之辭一レ輦、偉二孟母之擇一レ鄰。〔白居易、欲下與二元八一卜上レ鄰先有二是贈一詩〕每因二暫出一猶思レ伴、豈得三安居不二擇一レ鄰。

【擇手貨】60 chai² shou huo⁴ 賣れ殘りの品。疵物。惡い品物。

【擇不開】61 chai² pu k'ai¹ 手が離せない。分けられない。

【擇毛兒】62 chai² mao² êrh 毛を吹いて疵を求める。

【擇乾淨的】63 tsê² kan¹ ching⁴ tê 責任をさける。

【擇個空兒】64 tsê² kê k'ung⁴ êrh 暇な時をえらぶ。

【擇齋先生】65（タクサイセンセイ） 宋、徐明叔(**4−10110**‥637)の尊稱。

【擇滅无爲】66（チヤクメツムヰ） 佛三无爲の一。擇滅は涅槃の異名。涅槃の無爲法。〔大藏法數〕擇滅卽揀擇、滅卽寂滅、謂聲聞之人、用レ智揀擇、遠二離見

思繫縛一、卽證二寂滅眞空之理一、是名二擇滅无爲一。

【擈】12797 ハク 撲(5－12755)に同じ。〔正字通〕擈、同レ撲。

【擙】12798 セツ ゼチ 〔集韻〕食列切 ［屑］

かぞへる。揲(5－12403)に同じ。〔集韻〕揲、說文、閱持也、或作レ擙。〔漢書、揚雄傳下〕擙レ之以二三策一。〔注〕蘇林曰、三三而分レ之。〔王先謙補注〕沈欽韓曰、易揲レ之以レ四、玄揲レ之以レ三。

【擉】12799

［一］サク 〔集韻〕測角切 ㄔㄨㄛ ch'uo^{1} ［覺］

［二］タク 〔集韻〕敕角切 ［覺］

［三］シヨク ゾク 〔集韻〕殊玉切 ［沃］

［四］シヨク ゾク 〔集韻〕樞玉切 ［沃］

［一］［二］❶さす。つく。水中に居る魚や龜の類をやすで衝き刺してとる。〔集韻〕擉、刺二取鼈蜃一也。〔莊子、則陽〕冬則擉二鼈於江一。❷やす。魚鼈を刺しとる漁具。〔韓愈、祭二鱷魚一文〕罔繩擉刃、以除二蟲蛇惡物一。❸或は簎(8－26457)・捒(5－12010)・捔(5－12156)に作る。〔集韻〕擉、或作二簎・捒・捔一。〔集韻〕簎、或作レ擉。［三］［四］さす。［一］の❶に同じ。〔集韻〕擉、刺二取龜鼈一。

【擉眼】1 ch'uo^{1} yen^{3} 心に逆つて事をする。

【擉壞】2 ch'uo^{1} huai^{4} 刺し毀す。挫き傷める。

【擉紗】3 ch'uo^{1} sha^{1} 戳紗(5－11684‥3)に同じ。

【擉刺】4 ch'uo^{1} tz'ŭ^{4} 刺す。

【擉手】5 ch'uo^{1} shou^{3} 手を突き傷つける。

【擉刃】6 ch'uo^{1} jen^{4} やす。魚叉。

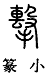
【擉碰】7 ch'uo^{1} p'êng^{4} ぶつかる。衝突する。

【擊】12800

［一］ケキ キヤク 〔集韻〕吉歷切 ㄐㄧˊ chi^{2} ［錫］

［二］ケイ 〔集韻〕吉詣切 ［霽］

［慣］ゲキ


小篆

［一］❶うつ。㋑たたく。〔說文〕擊、攴也、从レ手毄聲。〔段注〕攴下曰、小擊也、攴訓二小擊一、則擊兼二大小一言レ之、而但云二攴也一者、於二攴下一見二析言之理一、於二擊下一見二渾言之理一、互相足也。〔廣韻〕擊、打也。〔增韻〕擊、扣也。〔韻會小補〕擊、撲也。〔書、益稷〕擊レ石拊レ石。〔孟子、萬章下〕抱關擊柝。〔注〕擊、椎レ之也。㋺なぐる。〔列子、說符〕擊二搏樓上一。〔注〕擊、打也。㋩せめる。〔史記、高祖紀〕急擊勿レ失。〔史記、孔子世家〕昭公率レ師擊二平子一。㋥おそふ。〔史記、酷吏、義縱傳〕以二鷹擊毛摯一爲レ治。㋭くじく。おさへる。〔漢書、翟方進傳〕搏二擊豪彊一。㋬おしのける。のぞく。〔莊子、知北游〕掊二擊而知一。㋣うちあふ。たたかふ。〔莊子、說劍〕日夜相二擊于前一。㋠ふれる。あたる。〔戰國、秦策〕車轂擊、人肩摩。〔注〕擊、相當。㋷きる。つく。〔戰國、韓策〕韓卒之劍擊、皆陸斷二馬牛一、海擊二鵠鴈一。㋦ころす。〔儀禮、少牢饋食禮〕司馬刲レ羊、司士擊レ豕。〔注〕刲・擊、皆謂レ殺レ之。㋸をさめる。啓く。〔易、蒙〕擊レ蒙。〔釋文〕擊、治也。❷やいば。鋒刃。〔淮南子、氾論訓〕槽矛無レ擊、修戟無レ別。〔注〕無レ擊、無二鐵刃一也。❸うごく。〔莊子、田子方〕目擊而道存矣。〔釋文〕擊、動也。❹つながる。かかる。繫(8－27940)・系(8－27223)に通ず。〔說文通訓定聲〕擊、叚借爲レ繫、實爲レ系、莊子田子方、目擊而道存矣。❺もとる。そむく。乖(1－149)に通ず。〔說文通訓定聲〕擊、叚借爲レ乖。〔淮南子、主術訓〕曲得二其宜一、無レ所二擊戾一。〔注〕擊、掌也。❻男巫。覡(10－34875)に通ず。〔荀子、王制〕傴巫跛擊之事也。〔注〕擊、讀爲レ覡。❼樂器の名。柷。〔後漢書、馬融傳〕戛擊鳴球。〔注〕戛、敔也、擊、柷也、象三桶中有二椎柄連一レ底、撞レ之所二以作一レ樂。❽或は擻(5－12776)に作り、古は隔(11－41783)に作る。〔集韻〕擊、或作レ擻、古作レ隔。［二］人名。〔集韻〕擊、闕、人名、春秋傳、晉有二屠擊一。

【擊衣】1 ゲキイ ころもをうつ。〔史記、豫讓傳〕今日之事、臣固伏レ誅、然願請二君之衣一而擊レ之焉、以致二報讎之意一、則雖レ死不レ恨、非レ所二敢望一也。

【擊轊】2 ゲキエイ 車軸の頭をうつ。〔劉峻、廣絕交論〕輜軿擊レ轊、坐客恆滿。〔注〕濟曰、轊、車軸頭也。

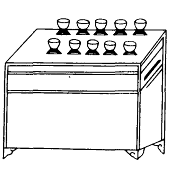
【擊擪】3 ゲキエフ たたくことと指でおさへること。擪は擫に同じ。〔元稹、連昌宮詞〕李謩擪レ笛傍二宮牆一。〔白居易、霓裳羽衣舞歌〕磬簫箏笛遞相攙、擊擪彈吹聲邐迤。

【擊寃】4 chi^{2} yüan^{1} 寃罪を告げる。

【擊轅】5 ゲキエン ながえをうつ。〔崔駰、上二四巡頌一表〕唐虞之世、樵夫牧豎、擊レ轅中レ韶、感二于和一也。

【擊轅之歌】6 ゲキエンノウタ ながえをうつて歌ふ野人のうた。〔曹植、與二楊德祖一書〕擊轅之歌、有レ應二風雅一。〔注〕善曰、崔駰曰、竊作二頌一篇一、以當二野人擊轅之歌一、班固集曰、擊レ轅相杵、亦足レ樂也、向曰、擊轅、野人歌也。

【擊甌】7 ゲキオウ かめをうつ。唐代、盛に行はれたもので、甌十餘を並べ、水を加減して之を箸で擊ち、宮商の調子を整へると、其の響は古の缶を擊つ音に似てゐたといふ。〔詩、陳風、宛丘、坎其擊レ缶、疏〕缶是瓦器、可二以節一レ樂、若二今之擊甌一。〔趙飛燕外傳〕成帝于二太液池中一、起二瀛洲榭一、高四十尺、后歌二舞歸風送遠之曲一、帝以二文犀簪一擊二玉甌一。〔文獻通考、樂考、土之屬、俗部〕擊甌、唐武宗大中初、天興縣丞郭道源、取二邢甌越甌十二一、酌レ水作レ調、以レ筯擊レ之、其音妙二於方響一、咸通中、吳嬪亦精二於此一、劉安曰、窮鄉之社、扣レ甕拊レ瓶、相和而歌、以爲レ樂、豈亦擊甌類歟、墨子農夫息二於吟缶之樂一、亦此類。〔樂府雜錄、方響〕武宗朝、郭道源、云云、善擊レ甌、率以二邢甌越甌十二隻一、旋加二減水於其中一、以レ筯擊レ之、咸通中、有二異嬪一、洞二曉音律一、云云、善二於擊甌一、擊甌蓋出二於擊缶一。〔非烟傳〕臨淮武公業愛妾曰二非烟姓步氏一、容止纖麗、不レ勝二綺羅一、善二秦聲一、好二文筆一、尤工二擊甌一、其韻與二絲竹一合。〔張曙、擊甌樓賦序〕有二馬處士一來至、善擊レ甌者、請卽二清讌一、爰騁二妙絕一。


擊甌（三才圖會）

【擊甕】8 ゲキヲウ かめをうつ。〔戰國、秦策〕夫擊レ甕叩レ缻、彈レ箏搏レ髀、歌呼嗚嗚、快二耳目一者、眞秦之聲也。

【擊甕圖】9 ゲキヲウヅ 宋の司馬光が幼時群童と戲れ、一兒が誤つて水甕の中に墜ちた時、直ちに甕を擊ち破つて之を救つた故事を畫いた圖。〔冷齋夜話、活人手段〕司馬溫公童稚時、與二羣兒一戲二于庭一、庭有二大甕一、一兒登レ之、偶墮二甕水中一、羣兒皆棄去、公則以レ石擊レ甕、水因レ穴而迸、兒得レ不レ死、云云、至レ今京洛間、多爲二小兒擊甕圖一。

【擊咢】10 ゲキガク 鼓をうつ。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕謠舞擊レ咢、纖屑促密、皆曲中二節度一。

【擊危】11 ゲキキ あやふきをうつ。〔淮南子、要略〕誠明二其意一、進退左右、無レ所二擊危一、乘レ勢以爲レ資。

【擊毀】12 ゲキキ うつてやぶる。〔韓非子、外儲說右上〕孔子聞レ之、使下子貢後覆二其飯一、擊中毀其器上曰、魯君有レ民、子奚爲乃餐レ之。

【擊燬】13 chi^{2} huei^{3} 雷に擊たれて燒ける。

【擊咎】14 ゲキキウ 黃色の彗星。〔晉書、天文志中〕河圖云、云云、擊咎、黃彗。

【擊毬】15 ゲキキウ 打毬で優劣を競ふ技。〔唐書、三宗諸子、讓皇帝憲傳〕具レ樂縱飮、擊毬鬭雞、云云、爲レ樂。

〔擊毬狀元〕16 ゲキキウジヤウゲン 打毬の競技に第一等となること。狀元は科擧で第一等の及第者をいふ。唐の僖宗が擊毬を善くし、嘗て優人石野豬に、朕が若し擊毬進士の試に應じたら、必ず第一等と爲るだらうといつた故事。〔資治通鑑、唐紀〕（僖宗、廣明元年）好二蹴鞠鬭雞一、云云、尤善二擊毬一、嘗謂二優人石野豬一曰、朕若應二擊毬進士擧一、須レ爲二狀元一、對曰、若遇三堯舜作二禮部侍郎一、恐陛下不レ免二駁放一、上笑而已。

【擊牛】17 ゲキギウ 牛を殺す。〔後漢書、馬援傳〕擊レ牛釃レ酒、勞二饗軍士一。

【擊掬】18 ゲキキク 打毬。〔宣和遺事、後集〕皆往騎レ馬、去令レ習二擊掬一。

【擊鏡】19 ゲキキヤウ 日蝕月蝕の時、之を救ふために諸侯の夫人が鏡をうつこと。〔白虎通、災變〕角尾交日月食、救レ之者、謂二夫人擊レ鏡、傳人擊レ杖、庶人之妻楔レ搔。

【擊卻】20 ゲキキヤク うちしりぞける。〔史記、蔡澤傳、批レ患折レ難、注〕索隱曰、批患謂二擊而卻一レ之。〔唐書、突厥、骨咄祿傳〕殺二嵐州刺史王德茂一、分二掠定州一、北平刺史霍王元軌擊卻レ之。

【擊虛】21 ゲキキヨ 空隙の所をうつ。〔孫子、虛實〕兵之形、避レ實而擊レ虛。

【擊琴】22 ゲキキン ❶ことをかなでる。撫琴。彈琴。〔皮日休、曉次二神景宮一詩〕天籟如レ擊レ琴、泉聲似レ摐レ鐸。❷樂曲の名。唐の柳惲作。柳惲が嘗て詩を賦して未だ完成せず、誤つて筆を以て琴を打つ。坐客が筯を以て之を扣いて樂を爲したが、惲其の哀韻に驚き、制して雅音を作つたといふ。〔南史、柳惲傳〕嘗賦レ詩未レ就、以レ筆捶レ琴、坐客過、以レ筯扣レ之、惲驚二其哀韻一、乃製爲二雅音一、後傳二擊琴一自二於此一。〔舊唐書、音樂志二〕擊琴、柳惲所レ造、惲嘗爲二文詠一、思有レ所レ屬、搖レ筆誤中二琴絃一、因爲二此樂一、以レ管承レ弦、又以二片竹一約而束レ之、使二絃急而聲亮一、擧レ竹擊レ之、以爲二節曲一。〔文獻通考、樂考、絲之屬、俗部〕擊琴、梁柳世隆、素喜彈レ琴、其子惲、每奏二父曲一、居常感思、因變二其體一、備寫二古調一、嘗賦レ詩未レ就、誤以レ筆撫レ琴、坐客以レ筯扣レ之、惲驚二其哀韻一、乃制爲二雅音一、而擊琴自レ此始矣、蓋其制以レ管承レ絃、又以二竹片一約而束レ之、使二絃急而聲亮一、擧而擊レ之、一爲二曲節一、江左有レ之、非二古制一也。

【擊攫】23 ゲキクワク うつこととつかむこと。〔國史略、後白河天皇〕爲朝退嘆曰、鸞鳳雖レ有二美儀一、安知二擊攫之事一。

【擊磬】24 ゲキケイ 磬をうつ。又、その役の人。〔論語、憲問〕子擊二磬於衞一、有下荷レ蕢而過二孔子之門一者上、曰、有レ心哉、擊レ磬乎。〔集注〕磬、樂器。〔論語、微子〕少師陽・擊磬襄入二於海一。

【擊劍】25 ゲキケン 太刀で斬り合ふ術。擊刺。劈刺。劍術。劍法。〔史記、刺客、荊軻傳〕荊卿好二讀書擊劍一。〔史記、司馬相如傳〕少時好二讀書一、學二擊劍一。〔漢書、司馬相如傳上〕少時好二讀書一、學二擊劍一。〔注〕師古曰、擊劍者、以レ劍遙擊而中レ之、非二斬刺一也。〔王先謙補注〕沈欽韓曰、學二擊劍一、學二擊刺之法一也、云云、顏說謬。〔漢書、尹翁歸傳〕曉二習文法一、喜二擊劍一。〔魏志、任城威王彰傳〕汝不下念二讀書一、慕中聖道上、而好乘二汗馬一擊レ劍、此一夫之用、何足レ貴也。

〔擊劍家〕26 ゲキケンカ 擊劍に達した人。

【擊鼓】27 ゲキコ ❶つづみをうつ。〔鹽鐵論、散不足〕富者祈二名嶽一望二山川一、椎牛擊鼓、戲倡儛像。〔論衡、順鼓〕古者人君將レ出、撞レ鍾擊レ鼓、故警二戒下一也。〔唐書、裴寬傳〕寬兄弟八人、皆擢二明經一、任二臺省州刺史一、雅性友愛、於二東都一治レ第、八院相對、甥姪亦有二名稱一、常擊レ鼓會飯。〔楞嚴經〕食辨擊レ鼓、衆集撞レ鐘。❷詩經、邶風の篇名。衞の州吁の兵を用ひることの暴亂なのを國人が怨んだ詩。〔詩、邶風、擊鼓序〕擊鼓、怨二州吁一也、衞州吁用レ兵暴亂、使三公孫文仲將而平二陳與レ宋、國人怨二其勇而無レ禮也。

〔擊鼓其鏜〕28 ゲキコソレタウタリ 戰爭の時に太鼓を鳴らすをいふ。鏜は其の音。〔詩、邶風、擊鼓〕擊鼓其鏜、踊躍用レ兵、土レ國城レ漕、我獨南行。〔傳〕鏜然、擊レ鼓聲也。

【擊穀】29 ゲキコク 鳥の名。よぶこどり。布穀。〔方言、八〕布穀、云云、周魏之間、謂二之擊穀一。〔廣雅、釋鳥〕擊穀、布穀也。

【擊轂】30 ゲキコク かまびすしい聲。吳地方の方言。〔太倉州志〕。

【擊困】31 ゲキコン 敵の苦しみに乘じてうつ。〔虎鈐經、困敵〕以レ逸擊レ困、不レ敗何待哉。

【擊碎】32 ゲキサイ うちくだく。〔白居易、琵琶引〕鈿頭銀雲擊レ節碎、血色羅裙飜レ酒汙。〔蘇軾、富陽妙庭觀董雙成故宅發レ地得二丹鼎一詩〕琉璃擊碎走二金丹一、無三復神光發二舊壇一。〔謝翺、鐵如意詩〕其一起楚舞、一起作二楚歌一、雙執二鐵如意一、擊二碎珊瑚柯一。

【擊摧】33 ゲキサイ 打ちくだく。又、うち滅す。〔諸葛亮、心書〕擊崩如レ摧、合戰如レ虎。

【擊殺】34 ゲキサツ うちころす。きりころす。〔戰國、韓策〕聶政大呼、所二擊殺一者數十人。〔史記、項羽紀〕籍所二擊殺一數十百人。

【擊斬】35 ゲキザン うちきる。きる。切斷。〔史記、高祖紀〕乃前拔レ劍擊二斬蛇一。

【擊之】36 ゲキシ 鹽鐵論（**12**－**47579**・・141）の篇名。

【擊死】37 chi^{2} ssŭ^{3} 擊たれて死ぬ。

【擊豕】38 ゲキシ 祭のとき犧牲の豕を殺すこと。〔儀禮、少牢饋食禮〕司馬刲レ羊、司士擊レ豕。〔注〕刲・擊、皆謂レ殺レ之。

【擊刺】39 ゲキシ ❶戈を以て擊ち矛を以て刺す。〔書、牧誓〕不レ愆二于四伐五伐六伐七伐一。〔傳〕伐、謂二擊刺一。〔疏〕上有二戈矛一、戈、謂二擊兵一、矛、謂二刺兵一。❷劍を以て人を刺し殺す。又、其の術。劍術。擊劍。〔管子、兵法〕擊刺若二雷電一。〔史記、日者傳〕齊張仲曲成侯、以レ善二擊刺一、學レ用レ劍、立二名天下一。〔論衡、量知〕不レ曉二什伯之陣一、不レ知二擊刺之術一者、彊使二之軍一。〔晉書、劉聰傳〕（聰）十五學二擊刺一、猿臂善射。

〔擊刺法〕40 ゲキシノハフ 劍を以て人を擊ち人を刺す術。劍術をいふ。〔漢書、司馬相如傳上〕學二擊劍一。〔王先謙補注〕沈欽韓曰、學二擊劍一、學二擊刺之法一也。〔昭代記〕獨縭出二空庭一演二擊刺法一。

【擊楫】41 ゲキシフ 舟のかいをうつこと。後世、晉の祖逖の故事により、天下を平定する志ある者をいふ。〔晉書、祖逖傳〕渡レ江中流擊レ楫而誓曰、祖逖不レ能三清二中原一而復濟者、有レ如二大江一。〔儲光羲、夜到二洛口一入二黃河一詩〕登レ艫望二落月一、擊レ楫悲二新秋一。

【擊掌】42 chi^{2} chang^{3} 兩掌を打つ。拍手する。

【擊賞】43 ゲキシヤウ ひどくほめる。激賞。〔舊唐書、封倫傳〕（楊）素負レ貴恃レ才、多レ所二凌侮一、唯擊二賞倫一。

【擊壤】44 ゲキジヤウ 壤と呼ぶ土製の樂器をうつ。一說に、地を擊つこと。又、一說に、壤は木製履形のもので、其の一を地におき、三四十步離れて他の一を之に投げあてる遊戲。げたうち。堯の時、天下が太平であつた故、老人が此の戲をして堯の德を歌つたといふ故事。轉じて、太平無事を形容する詞として用ひられる。擊壤歌を見よ。〔張協、七命〕玄齠巷歌、黃髮擊壤。〔注〕濟曰、謂三玄髮童子、黃髮壽人、並歌二謠於衢巷田壤之中一也。〔謝靈運、初去レ郡詩〕獲二我擊壤聲一。〔注〕善曰、周處風土記曰、擊壤者、以レ木作レ之、前廣後銳、長四尺三寸、其形如レ履、將レ戲、先側二一壤於地一、遙二於三四十步一、以二手中壤一擊レ之、中者爲二上部一。〔太平御覽、樂、壤〕風土記曰、壤者以レ木作、前廣後銳、長尺三四寸、其形如レ履、節僮少以爲レ戲也、堯時有二八九十老人一擊而歌曰、日出而作、日入而息、鑿レ井而飮、耕レ田而食、帝何力二於我一哉。〔困學紀聞、雜識下〕擊壤、周處風土記云、以レ木爲レ之、前廣後銳、長尺三寸、其形如レ履、古童兒所レ戲之器、非二土壤一也、先側二一壤於地一、遙二於三十四步一、以二手中壤一擊レ之、中者爲レ上。〔文獻通考、樂考、土之屬、俗部〕擊壤、壤之爲レ器、以レ木爲レ之、形如二覆節一、長一寸餘、前廣後銳、童子之樂也、與二堯時擊レ壤而歌者一異矣。

〔擊壤歌〕45 ゲキジヤウノウタ 樂府、雜謠歌辭の一。帝堯の代、太平を謳歌した歌。擊壤・壤父（**3**－**5608**・・20）を見よ。〔樂府詩集、雜謠歌辭、歌辭、擊壤歌〕帝王世紀曰、帝堯之世、天下大和、百姓無レ事、有二八九十老人一擊レ壤而歌、日出而作、日入而息、鑿レ井而飮、耕レ田而食、帝何力二於我一哉。

〔擊壤集〕46 ゲキジヤウシフ 書名。二十卷。宋の邵雍の詩集。其の詩、俗流を超脫し、寒山拾得より出

づといふ。〔四庫提要、集、別集類〕。

【擊壤聲】47 ゲキジヤウノコヱ　壤をうつこゑ。太平豐年の民の聲。〔謝靈運、初去レ郡詩〕卽二是義唐化一、獲二我擊壤聲一。〔注〕翰曰、我得レ同二擊壤老人之情一。〔范成大、插秧歌〕誰知細細青青草、中有二豐年擊壤聲一。

【擊攘】48 ゲキジヤウ　うつて追ひはらふこと。擊退。

【擊絮】49 ゲキジヨ　わたをうつ。〔越絕書、越絕荊平王內傳〕見二一女子擊二絮於瀨水之中一。

【擊鐘】50 ゲキシヨウ　鐘をうつ。〔左氏、襄、三十〕夜飮レ酒擊レ鐘焉。〔左氏、定、九〕吾猶衰絰、而子擊レ鐘何也。〔張衡、西京賦〕擊鐘鼎食、連レ騎相過。

【擊征】51 ゲキセイ　鷹の異名。〔禮、月令、征鳥厲疾、注〕征鳥、題肩也、齊人謂二之擊征一。〔毛詩草木鳥獸蟲魚疏〕隼、鷂屬也、齊人謂二之擊征一、或謂二之題肩一、或謂二之雀鷹一、春化爲二布穀一者是也。

【擊石】52 ゲキセキ　磬をうつ。〔書、益稷〕予擊レ石拊レ石、百獸率舞。〔蔡傳〕重擊曰レ擊、輕擊曰レ拊、石、磬也。〔列子、黃帝〕擊レ石拊レ石、百獸率舞。〔孔叢子、論書〕擊レ石拊レ石、百獸率舞。

【擊石波】53 ゲキセキハ　書法の名。〔王羲之、題二筆陣圖後一〕其草書亦復須二篆勢八分古隸一相雜、亦不レ得レ急、令二墨不一レ入レ紙、若急作、意思淺薄、而筆卽直過、惟有二章草及章程行押等一、不レ用二此勢一、但用二擊石波一而已。

【擊折】54 ゲキセツ　うちをる。〔論衡、雷虛〕雷電迅疾、擊二折樹木一、壞二敗室屋一。

【擊節】55 ゲキセツ　❶拍子をとる。〔晉書、樂志下〕案、魏晉之世、有二孫氏一善歌二舊曲一、宋識善擊レ節唱和。〔左思、蜀都賦〕巴姬彈レ絃、漢女擊レ節。❷節操をうちはげます。〔袁宏、三國名臣序贊〕後世擊レ節、懦夫增レ氣。〔注〕向曰、使下後生之賢、擊二其節操一、懦弱之夫、亦增中其壯氣上也。

【擊鮮】56 ゲキセン　獸の肉を屠るをいふ。獸を殺して新鮮な肉をとる。擊は殺、鮮は新。〔漢書、陸賈傳〕一歲中、以二往來過レ它客一、率不レ過二再過一、數擊レ鮮、毋二久溷一レ女爲一也。〔注〕師古曰、鮮、謂二新殺之肉一也、溷、亂也、言、我至之時、汝宜下數數擊二殺牲牢一、與中我鮮食上、我不二久住亂累一レ汝也。〔晉書、孝友傳序〕柔レ色承レ顏、怡怡盡レ樂、擊レ鮮就レ養、亹亹忘レ劬。

【擊走】57 ゲキソウ　うち走らす。擊つて敗走させる。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕擊二走足利義詮于鎌倉一。

【擊賊】58 ゲキゾク　賊を打つ。〔文天祥、正氣歌〕或爲二擊レ賊笏一、逆豎頭破裂。

【擊卒】59 ゲキソツ　太白星が出づべくして出ないこと。此の時は兵大いに起るといふ。〔史記、天官書〕當レ出不レ出、是謂二擊卒一、兵大起。

【擊打】60 ゲキダ　うつこと。打擊。〔北史、張彝傳〕以二瓦石一擊二打公門一。

【擊汰】61 ゲキタイ　波に棹さすこと。〔王維、送二邢桂州一詩〕赭圻將赤岸、擊汰復揚レ舲。

【擊退】62 ゲキタイ　うちしりぞける。擊攘。

【擊棹】62′ ゲキタウ　擊櫂に同じ。〔范成大、龍門峽詩〕不レ辭擊棹更深入、萬一龍驚雷破レ山。

【擊櫂】63 ゲキタウ　櫂をこぐ。舟を漕ぎ進めること。〔漢書、嚴助傳〕前時南海王反、陛下先臣使二將軍閒忌將レ兵擊一レ之、以二其軍降一、處二之上淦一、後復反、會二天暑多一レ雨、樓船卒水居擊レ櫂、未レ戰而疾死者過レ半。〔注〕師古曰、言、常居二舟中水上一、而又有二擊レ櫂行レ舟之役一、故多死也。〔王粲、爲二荀彧一與二孫權一檄〕今皆擊レ櫂若レ飛、回レ柁若レ環者也。〔閭丘沖、三月三日應詔詩〕擊レ櫂淸歌、鼓レ枻行酬。

【擊柝】64 ゲキタク　拍子木をうつて夜まはりをすること。又、其の人。夜番。〔易、繫辭下〕重門擊柝、以待二暴客一。〔釋文〕馬云、兩木相擊以行レ夜。〔周禮、天官、宮正〕爲二之版一以待、夕擊柝而比レ之。〔疏〕手持二二木一以相敲、是爲二擊柝一、擊柝爲二守備警戒一也。〔左氏、哀、七〕魯擊柝、聞二於邾一。〔穀梁、莊、二十五〕大夫擊レ門、士擊レ柝。〔孟子、萬章下〕辭レ尊居レ卑、辭レ富居レ貧、惡乎宜乎、抱關擊柝。〔注〕柝、行レ夜所レ擊木也。〔荀子、榮辱〕或監門御旅、抱關擊柝、而不二自以爲一レ寡。〔注〕擊柝、擊レ木所二以警一レ夜者。〔魏書、獻文六王、北海王詳傳〕終夜擊柝、列坐圍守。

【擊椊】65 ゲキタク　擊柝に同じ。〔廣韻〕椊、擊椊、漢書曰、宮中衞城門、擊二刁斗一傳二五更一、衞士周廬擊椊也。〔漢書、貨殖傳序〕抱關擊椊。

【擊欜】66 ゲキタク　擊柝に同じ。〔說文〕欜、云云、易曰、重門擊欜。〔周禮、夏官、挈壺氏、聚欜、注〕玄謂、擊欜、兩木相敲行二夜時一也。

【擊奪】67 ゲキダツ　うち奪ふ。きりどりする。〔荀子、正論〕盜賊擊奪、以危レ上矣。

【擊斷】68 ゲキダン　❶ほしいままに法律に照して處分する。擊斷無レ諱を見よ。❷うちきる。うちたつ。〔史記、仲尼弟子傳〕擊二斷子路之纓一。

【擊斷無レ諱】69 ゲキダンイムナシ　刑罰を恣に行つて、少しも諱み憚る所のないこと。〔戰國、秦策〕涇陽華陽、擊斷無レ諱。

【擊笞】70 ゲキチ　うちむちうつ。〔史記、衡山王賜傳〕王以レ故數擊二笞太子一。

【擊竹】71 ゲキチク　歌の拍子を取る竹片。兩片より成り、長さ數寸。手中に之を打つ。〔文獻通考、樂考、匏之屬、俗部〕擊竹之制、近世民間多有レ之、蓋取二竹兩片緊厚者一、治而爲レ之、其長數寸、手中相擊爲レ節、與二歌指一相和焉、方二之漸離所レ善者一、固異矣。

【擊筑】72 ゲキチク　筑をうち鳴らす。筑は琴に似て大。上部に絃をかけ、竹を以て之を擊つ。〔戰國、齊策〕臨淄甚富而實、其民無下不二吹レ竽鼓レ瑟、擊レ筑彈レ琴、鬭レ雞走レ犬、六博蹹鞠一者上。〔史記、高祖紀〕酒酣、高祖擊レ筑。〔史記、刺客、荊軻傳〕荊軻既至レ燕、愛二燕之狗屠、及善擊レ筑者高漸離一、荊軻嗜レ酒、日與二狗屠及高漸離一、飮二於燕市一、酒酣以往、高漸離擊レ筑、荊軻和而歌二於市中一、相樂也、已而相泣、旁若二無レ人者一。〔注〕索隱曰、筑似レ琴有レ絃、用レ竹擊レ之、取以爲レ名。〔風俗通、聲音〕高漸離擊レ筑、荊軻和レ歌。〔文獻通考、樂考、絲之屬、俗部〕擊筑、筑之爲レ器、大抵類レ箏、其頸細、其肩圓、以レ竹鼓レ之、如レ擊レ琴然、又有三形如二頌琴一、施二十三絃一、身長四尺二寸、頸長三寸、圍四寸五分、首長七寸五分、闊六寸五分、品聲按レ柱、左手振レ之、右手以二竹尺一擊レ之、隨レ調應レ律焉、高漸離擊二之於燕一、漢高祖擊二之於燕一、而戚夫人亦善焉、至レ唐置二於雅部一、長四尺五寸、折二九尺之半一爲レ法、是不レ知特世俗之樂、非二雅樂之音一也、宋朝沿二襲唐制一、設レ柱同二箏法一、第一絃黃鍾正聲、第十二絃黃鍾淸聲、箏以レ指彈、筑以レ筯擊、大同小異、其按習、竝依二鍾律彈擊之法一、降二之於俗部一可也。

【擊杖】73 ゲキヂヤウ　日・月食の時、之を救ふために大夫の妻が杖をうつこと。〔白虎通、災變〕角尾交日月食、救レ之者、謂二夫人擊レ鏡、傳人擊レ杖、庶人之妻楔レ搔。

【擊柱】74 ゲキチユウ　柱をうつこと。亂暴なふるまひ。〔漢書、叔孫通傳〕羣臣飮爭レ功、醉或妄呼、拔レ劍擊レ柱。〔後漢書、劉盆子傳〕盆子居二長樂宮一、諸將日會、論レ功爭レ言讙呼、拔レ劍擊レ柱。〔鮑照、擬行路難詩〕對レ案不レ能レ食、拔レ劍擊レ柱長歎息。

【擊沈】75 ゲキチン　軍艦や汽船を大砲等でうちしづめること。〔依田百川、日本海之戰〕是日及二翌二十八日一、爲三我軍所二擊沈一者二十隻。

【擊刁】76 ゲキテウ　刁斗を擊つて夜を警めること。〔陸倕、新漏刻銘〕擊刁舛レ次、叢木乖レ方。

【擊撞】77 ゲキドウ　うつ。〔韓愈、病中贈二張十八一詩〕文章自娛戲、金石日擊撞。

【擊破】78 ゲキハ　うちやぶる。〔史記、韓王信傳〕竟從擊二破項籍一、天下定。〔史記、陳涉世家〕章邯別將擊二破之一。〔漢書、高帝紀上〕漢王引レ兵、北擊二破終公一。〔漢書、宣元六王、楚孝王劉囂傳〕更始遣二丞相李松一、擊破殺レ嬰云。

【擊馬】79 ゲキバ　敵の駒を打つ。馬は將棋の駒の一種。〔五木經〕凡擊馬及王采、皆又投。〔注〕擊馬、謂レ打二敵人子一也、打レ子得レ雋、王采自專、故皆許重擲、王采屢得屢擲レ之、變則止。

【擊排】80 ゲキハイ　うちしりぞける。〔史記、韓非傳〕大忠無レ所二拂悟一、辭言無レ所二擊排一。〔注〕正義曰、言、大忠之事、擬二安民興化一、事在三匡二弼君一、初亦不二擊排一、乃後周懌霑濡、君臣道合、乃敢辯智說焉。

【擊排冒沒】81 ゲキハイバウボツ　他人をうちしりぞけて是非をかへりみないこと。〔柳宗元、唐故給事中云云陸文通先生墓表〕以二辭氣一相擊排冒沒者。

【擊梆】82 ゲキハウ　拍子木をうつ。〔福惠全書、蒞任部、發各告示〕許下擊レ梆從二轉斗內一投進上。

【擊博】83 ゲキハク　博弈をすること。〔列子、說符〕虞氏者梁之富人也、家充殷盛、錢帛無レ量、財貨無レ訾、登二高樓一臨二大路一、設レ樂陳レ酒、擊二博樓上一。

〔注〕擊、打也、如二今雙陸碁一也。〔淮南子、人間訓〕設レ樂陳レ酒積二博其上一。〔集解〕莊逵吉云、列子釋文、作三擊二博其上一。

【擊搏】84 ゲキハク　うつ。〔宣和畫譜、花鳥敍論〕如レ畫二鷹隼一、使二人見一レ之、則有二擊搏之意一、然後爲レ工。

【擊搏才】85 ゲキハクノサイ　他人を彈劾する才。御史は他人を彈劾するのを職能とする所から、御史の才ある者の喩。〔唐書、李珏傳〕爲二殿中侍御史一、宰相韋處厚曰、清廟之器、豈擊搏才乎、除二禮部員外郎一。

【擊披】86 ゲキヒ　うちひらく。〔後漢書、董卓傳〕董承以レ戈擊二披之一。

【擊扉】87 ゲキヒ　扉をうつ。〔左氏、襄、二十八〕子尾抽レ桷擊レ扉三。

【擊缶】88 ゲキフ　ほとぎをうつ。缶は酒漿を盛る瓦器で、之を鼓して歌に合はせる。〔詩、陳風、宛丘〕坎其擊レ缶、宛丘之道。〔傳〕盎、謂二之缶一。〔集傳〕缶、瓦器、可二以節一レ樂。〔文獻通考、樂考、土之屬、雅部〕古缶、形如二足盆一、或曰、形如二覆盆一、以二四枚一擊レ之、土音缶、立秋之音也、古者盎謂二之缶一、則缶之爲レ器、中虛而善容、外圓而善應、中聲之所二自出一者也、唐堯之時、有二擊レ壤而歌者一、因使下鄭以二麋輅一冥レ缶而鼓上レ之、是以易之盈缶見二於比一、用缶見二於坎一、鼓レ缶而歌見二於離一、詩之擊缶見二於宛邱一、是缶之爲レ樂、自レ唐至レ周、所レ不レ易也、昔秦趙會二於澠池一、趙王爲二秦王一擊レ缶、亦因レ是已、孰謂レ始二於西戎一乎、先儒之說、一何疏邪、徐幹曰、聽二黃鍾之音一、知二擊缶之細一、則岳之樂、特其器之細者歟。

【擊拊】89 ゲキフ　㊀輕く樂器等をうちならす。擊は強くうつこと、拊は輕くうつこと。擊搏。〔書、益稷〕予擊レ石拊レ石、百獸率舞、庶尹允諧。〔蔡傳〕重擊曰レ擊、輕擊曰レ拊。〔唐書、禮樂志十一〕校二石聲一、合而擊二拊之一、音遂諧。〔杜甫、朝二享太廟一賦〕升降之際、見二玉桂生一レ芝、擊拊之初、覺二鈞天合一レ律。㊁拊をうつこと。拊は樂器の名、形は鼓に似て韋で作り、其れに糠（糠）がみたしてあつて音樂の調子をとるもの。〔周禮、春官、大師〕大祭祀、帥レ瞽登歌、令三奏二擊拊一。〔注〕玄謂、拊形如レ鼓、以レ韋爲レ之、著レ之以レ糠。

【擊缻】90 ゲキフ　擊缶（88）に同じ。〔史記、藺相如傳〕遂與二秦王一會二澠池一、秦王飲酒酣曰、寡人竊聞二趙王好一レ音、請奏レ瑟、趙王鼓レ瑟、秦御史前書曰、某年月日、秦王與二趙王一會飲、令二趙王鼓一レ瑟、藺相如前曰、趙王竊聞三秦王善爲二秦聲一、請奉二盆缻秦王一、以相娛樂、秦王怒不レ許、於レ是相如前進レ缻、因跪請二秦王一、秦王不レ肯レ擊レ缻、相如曰、五步之內、相如請得下以二頸血一濺中大王上矣、左右欲レ刃二相如一、相如張レ目叱レ之、左右皆靡、於レ是秦王不レ懌、爲一擊レ缻、相如顧召二趙御史一書曰、某年月日、秦王爲二趙王一擊レ缻。〔注〕集解曰、風俗通義曰、缶者瓦器、所三以盛二酒漿一、秦人鼓レ之以節レ歌也。

【擊箙】91 ゲキフク　箙（エビラ）をうつ。〔遼史、禮志六〕皇帝臥二木側一、叟擊レ箙曰、生レ男矣。

【擊拂】92 ゲキフツ　うちはらふ。〔宋史、郭從義傳〕從義喜二擊毬一、嘗侍二大祖於便殿一、命レ擊レ之、從義易レ衣跨レ驢、馳二驟殿庭一、周旋擊拂、曲二盡其妙一。

【擊斃】93 ゲキヘイ　うちたふす。〔日本政記、後土御門天皇論〕獨能奮前、擊二斃之一。

【擊掊】94 ゲキホウ　うつ。うちたふす。〔蘇軾、石鼓歌〕聞レ六經既已委二灰塵一、此鼓亦當レ遭二擊掊一。

【擊撲】95 ゲキボク　うちなぐる。〔李東陽、石鼓歌〕聞レ之興レ慕且興レ敬、以レ手摩挲防二擊撲一。

【擊摩】96 ゲキマ　うちすれ合ふ。〔馬存、浩浩歌〕皇天爲忙逼、星宿相擊摩。

【擊滅】97 ゲキメツ　うちほろぼす。討滅。〔史記、秦始皇紀〕故擧レ兵擊二滅之一。〔漢書、西南夷兩粵朝鮮傳〕元封二年、天子發二巴蜀兵一、擊二滅勞深靡莫一。

【擊蒙】98 ゲキモウ　無智な童子を教へさとすこと。發蒙。〔易、蒙〕上九、擊レ蒙不レ利レ爲レ寇、利レ禦レ寇。〔注〕擊二去童蒙一、以發二其昧一者也。〔釋文〕王肅云、擊、治也。〔沈佺期、酬二楊給事兼見レ贈二臺中一詩〕宿昔陪二餘論一、平生賴二擊蒙一。

【擊目】99 ゲキモク　㊀目をうつ。〔傳燈錄〕問二尊者一、撥眉擊目、視二育王一時如何、師曰、即今也恁麽、曰、學人如何領會、師曰、摩利支山。㊁chi^2 mu^4　注目を妨げる。

【擊勞】100 ゲキラウ　敵の疲れに乘じてうつ。〔漢書、趙充國傳〕以レ逸擊レ勞、取レ勝之道也。

【擊閭】101 ゲキリヨ　寶劍の名。〔韻府引、博物志〕擊閭寶劍名。

【擊戾】102 ゲキレイ　ねぢれもどる。又、そむく。違背する。隔背。〔荀子、脩身〕行而俯レ項、非二擊戾一也。〔注〕擊戾、謂二項曲戾不レ能レ仰者一也、擊戾、猶レ言二了戾一也。〔淮南子、主術訓〕擧動廢置、曲得二其宜一、無レ所二擊戾一。〔注〕擊、掌也、戾、破也。〔集解〕洪頤煊云、荀子脩身篇、行而俯レ項、非二擊戾一、尚書益稷、戛二擊鳴球一、文選長楊賦作二拮隔一、韋昭曰、古文隔爲レ擊、擊戾卽隔背、高注非。

【擊笏樓】103 ゲキコツロウ　清、馬雄鎭（**12**－**44572**‥**953**）の室名。

【擊訊律】104 ゲキジンリツ　刑律の篇名。鬬訟律。〔唐律、鬬訟、疏議〕至二後魏太和年一、分二擊訊律一爲二鬬律一。

【擊鉢催詩】105 ゲキハツサイシ　梁の蕭文琰が銅鉢を打つて、其の響の消えない間に詩を作つたといふ故事。〔南史、王僧孺傳〕竟陵王子良嘗夜集二學士一、刻レ燭爲レ詩、云云、文琰曰、頓燒二一寸燭一而成二四韻詩一、何難之有、乃與二丘令楷江洪等一共打二銅鉢一立レ韻、響滅則詩成、皆可二觀覽一。〔陳師道、和三李使君九日登二戲馬臺一詩〕登レ高能賦屬二吾儕一、不レ用傳杯擊鉢催。

【⿰扌殿】12801

トン　ドン　〔集韻〕徒渾切　元

むち。⿱竹殿（**8**－**26620**）に同じ。〔集韻〕⿱竹殿、說文、榜也、博雅从レ手。

【擋】12802

タウ　〔集韻〕丁浪切　漾　ㄉㄤˇˋ　tang$^{3·4}$

㊀**おほひかくす**。**さける**。摒擋。屛當（**4**－**7734**‥**54**）に通ず。〔集韻〕擋、摒也。〔字彙〕擋、摒擋、一作二屛當一。〔正字通〕擋、摒擋、按、屛當、猶二掩避一也。㊁現 攩（**5**－**13040**）に通ず。㋑遮る。邪魔する。㋺防ぐ。あたる。㋩婚禮に介添が花嫁を扶けること。邦 とても。到底。

【擋駕】1 tang^3 chia^4　人の來訪した時、差支があつて面會しないこと。

【擋格】2 tang^3 kê^2　㊀受け流す。㊁避ける。防ぐ。

【擋寒】3 tang^3 han^2　寒氣を防ぐ。

【擋眼】4 tang^2 yen^3　眼界を遮る。目ざはりになる。

【擋住】5 tang^3 chu^4　遮り止める。

【擋木】6 タウボク　廐の橫木。〔福惠全書、郵政部、立局〕外加二擋木一內可レ安レ槽。

【擋網】7 tang^2 wang^3　網の一種。さであみ。すくひあみ。

【擋路】8 tang^3 lu^4　道を遮る。道を止めて通さない。

【擋下把】9 タウカヒ　戲劇の配角（重要な役割をしないもの）の中で兵卒となるものをいふ。〔梨園佳話〕學者十人、成者未二必有一レ五、劇詞滿腹、無レ利レ用レ之、不レ得レ已乃甘三於作二配角一、充二兵卒一、謂二之擋下把一、否則爲二人執役一、謂二之潤場一、料二量後台一、謂二之看衣箱一、前臺奔走、謂二之拉前揚一、伶人至レ此、一生已矣。

【擋用的】10 tang^3 yung^4 tê　日用の。

【擋浪堤】11 tang^3 lang^4 tʻi^2　防波堤。

【擌】12803

サク　シャク　〔集韻〕色責切　陌

擌簎は、鳥を捕へる具。もちざを。〔集韻〕擌、簎擌捕レ鳥也。〔字彙〕擌、簎擌、捕レ鳥具。〔正字通〕擌、簎鳥竿。

【⿰扌歇】12804

ケツ

揭（**5**－**12389**）に同じ。〔集韻〕揭、或作レ⿰扌歇。

【⿰扌⿱𤇾凡】12805

ケイ

さい。⿰木⿱𤇾凡（**6**－**15588**）の譌字。〔正字通〕⿰扌⿱𤇾凡、⿰木⿱𤇾凡字之譌。

【操】 12806

㈠ サウ ソウ 〔集韻〕倉刀切 ㄘㄠ 豪 ts'ao¹

㈡ サウ ソウ 〔集韻〕七到切 ㄘㄠˋ 號 ts'ao⁴

小篆

㈠❶**とる**。にぎる。もつ。〔說文〕操、把持也、从レ手喿聲。〔公羊、成、二〕操レ飲而至。〔釋文〕操、持也。〔漢書、刑法志〕躬操二文墨一。❷**あやつる**。つかふ。〔莊子、達生〕津人操レ舟若レ神。❸**せまる**。あはてる。躁（**10**－37906）に通ず。〔詩、王風、兔爰、有レ兔爰爰雉離二于羅一、箋〕有レ急者、有レ所二操蹙一也。〔釋文〕操、本亦作レ燥、今作レ躁、與二定本一異、與二箋義一合。〔公羊、莊、三十〕蓋以レ操レ之爲二已蹙一矣。〔注〕操、迫也。❹**軍事の演習**。操練（77）を見よ。❺或は皷（**5**－13399）に作る。❻摻（**5**－12649）に通ず。魏晉の閒の人、武帝の諱を避け、喿に从ふ字を多く參に改む。〔墨子、耕柱〕一人奉レ火將灌レ之、一人摻レ火將益益レ之。〔閒詁〕畢云、摻卽操字異文、唐人別有レ音非也。❼**姓**。〔正字通〕操、姓、明嘉靖進士操守經、官二給事中一、浮梁人。〔萬姓統譜〕操見二姓苑一、操斗祥、浮梁人、淳祐進士。❽現體操。㈡❶**みさを**。こころざし。節操。〔集韻〕操、持念也。〔正字通〕操、節操。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕夫何執レ操之不レ固。〔注〕操、志也。〔漢書、張湯傳〕雖二賈人一有二賢操一。〔注〕師古曰、操、謂下所二執持一之志行上也。❷**おもむき**。風調。〔南史、袁粲傳〕淸整有二風操一。❸**琴曲の名**。〔風俗通、聲音〕其遇二閉塞憂愁一而作者、命二其曲一曰レ操、操者言下遇レ菑遭レ害、困厄窮迫、雖二怨恨失一意一、猶守二禮義一、不レ懼不レ懾、樂レ道而不レ失二其操一者上也。〔史記、宋微子世家〕紂爲二淫泆一、箕子諫不レ聽、乃被髮佯狂、而爲レ奴、遂隱而鼓レ琴、以自悲、故傳レ之曰二箕子操一。〔後漢書、曹褒傳〕樂詩曲操、以俟二君子一。〔注〕操、猶レ曲也、劉向別錄曰、君子因二雅琴之適一、故從容以致レ思焉、其道閉塞悲愁而作者、名二其曲一曰レ操。邦❶**あやつる**。㋑絲や機械の仕掛で物を活動させる。㋺人を程よくあしらふ。あやなす。❷**あやつり**。人形芝居。

名乘 トル。アヤ。モチ。

【操衣】1 ts'ao¹ i¹ 體操服。

【操韻】2（サウヰン） 心にかたく守り持する所。韻は心のおもむき。氣韻。操守。〔宋史、文苑五、文同傳〕操韻高潔。

【操竽】3（サウウ） 竽（笙の類）をとる。轉じて、君の好みに適することをいふ。齊の宣王が竽を好んだ故事。〔韓非子、內儲說上〕齊宣王使二人吹一レ竽、必三百人、南郭處士請二爲レ王吹一レ竽、宣王說レ之、廩食以二數百人一、宣王死、湣王立、好二一一聽一レ之、處士逃、一曰、韓昭侯曰、吹レ竽者衆、吾無三以知二其善者一、田嚴對曰、一一而聽レ之。〔韓愈、答二陳商一書〕齊王好レ竽、有下求レ仕二於齊一者上、操レ瑟而往、立二王之門一、三年不レ得レ入、云云、客罵レ之曰、王好レ竽而子鼓レ瑟、雖レ工如二王不一レ好何。〔王安石、雜詠詩〕操レ竽入レ齊人、雅鄭亦復殊。

【操銳】4（サウエイ） 銳い武器をとる。〔淮南子、繆稱訓〕操レ銳以刺、操レ刃以擊、自召也、何怨二乎人一。

【操煙】5（サウエン） 飛火を手に持つ。煙は熛の誤で、飛火の意。慾心を抱くに喩へる。〔晏子、諫、下〕五尺童子、操二寸之煙一、天下不レ能二足以一レ薪、今君之左右皆操レ煙之徒、而君終不レ知。

【操演】6（サウエン） 稽古する。練習する。調練する。〔長生殿、驛備〕每人管二領女工九十九人一、住二在驛中一操演、伺二候駕到一便了。〔淸會典事例、八旗都統、兵制、操二演火器一〕每日早、八旗各放レ礮百出、記二打牌中的數目一、計二一月一。

【操洿】7（サウヲ） みさをのけがれてゐること。〔論衡、治期〕智淺操洿。

【操介】8（サウカイ） みさを。節操。操守。〔宋書、臨川王義慶傳〕才學明敏、操介淸修。

【操概】9（サウガイ） ますめをはかること。概は斗かき。〔越絕書、越絕請糴內傳〕妻操レ斗身操レ概、自量而食。

【操行】10（サウカウ） おこなひ。みさを。操履。素行。〔史記、伯夷傳〕操行不レ軌、專犯二忌諱一。〔漢書、宣帝紀〕操行節儉、慈仁愛レ人。〔論衡、逢遇〕操行有二常賢一、仕宦無二常遇一。〔後漢書、賈復傳〕少有二操行一、多二智略一。〔左思、魏都賦〕榮二操行之獨得一。

【操江】12（サウカウ） 官名。明代、都察院に提督操江一人あり、副僉都御史を以て之に任ず。上下江防の事を掌る。〔明史、職官志四〕提督操江一人、以二副僉都御史一爲レ之、領二上下江防之事一。

【操竿】13（サウカン） 竿をとる。〔孔叢子、公儀〕不レ任三爲レ君操レ竿下レ鈞、以蕩二守節之士一也。

【操玉】14（サウギヨク） 玉をとる。〔晏子、不合經術者〕晏子死、景公操レ玉、加二於晏子一而哭レ之。

【操琴】15（サウキン） ことをとる。〔蔡邕、女訓〕舅姑若命二之鼓一レ琴、必正坐操レ琴而奏レ曲。

【操戈】16（サウクワ） ほこをとる。〔符載、愁賦〕伏波據レ鞍而骨驚、定遠操レ戈而氣激。

【操火】17（サウクワ） 火をとる。〔淮南子、說山訓〕今人放燒、或操レ火往益レ之、或接レ水往救レ之。

【操血】18（サウケツ） 血をとる。〔後漢書、臧洪傳〕乃攝レ衣升レ壇、操レ血而盟。

【操業】19（サウゲフ） ❶業務をとり守る。仕事をする。〔揚雄、博士箴〕官操二其業一、士執二其經一。❷みさをとわざ。志行。〔劉潛、爲二江侍中一薦レ士表〕濟陽江興、字休恭、立レ身貞白、操業淸廉。〔晉書、謝尙傳〕猶當下崇二其操業一、以弘中風尙上。

【操券】20（サウケン） 契約して償を責める。事の必ず成功する喩。〔史記、平原君傳〕且虞卿操二其兩權一、事成、操二右券一以責、事不レ成、以二虛名一德レ君。

【操堅】21（サウケン） みさをがかたい。〔楚辭、東方朔、七諫、自悲〕操愈堅而不レ衰。〔注〕志愈堅固不二衰懈一也。

【操檢】22（サウケン） しつかりとした節操。〔南史、孝義上、何子平傳〕幼持二操檢一、敦厲二名行一。

【操絃】23（サウゲン） 琴などをあやつる。又、其の調子をあはせる。〔舊唐書、衞次公傳〕次公善鼓レ琴、京兆尹李齊運、使二其子交歡一レ意、欲三次公授二之琴一、次公拒レ之、由レ是終身未二嘗操一レ絃。〔劉禹錫、德宗神武孝文皇帝挽歌〕操レ絃調二六氣一。

【操固】24（サウコ） 操をかたく守る。〔韻府引、淮南子〕操固而不レ知レ遷也、知明而不レ可レ蔽也。

【操觚】25（サウコ） 觚をとる。觚は木の四角な札。古は紙がなかつたので、事を記すのに之を用ひた。轉じて、文章を作ること。〔陸機、文賦〕或操レ觚以率爾、或含レ毫而邈然。〔注〕善曰、觚、木之方者、古人用レ之以書、猶二今之簡一也、急就章曰、急就二奇觚一。

【操觚者】26（サウコシヤ） 文筆を業とするもの。新聞・雜誌等の記者の類。

【操觚字訣】27（サウコジケツ） 書名。十卷。伊藤東涯著、伊藤東所編。語辭・虛字・雜字・實字を類別し、同訓の漢字の意義を說明したもの。

【操宰】28（サウサイ） 萬機をとりつかさどる大臣。〔張九齡、贈二澧陽韋明府一詩〕何時遇二操宰一、當レ使二玉如一レ泥。

【操作】29（サウサク・サウサ） 仕事をする。はたらく。〔後漢書、逸民、梁鴻傳〕乃更爲二椎髻一、著二布衣一、操作而前。〔李綱、種瓜圖說〕兒童玉立形骨淸、挈レ笠攜レ筐助二操作一。

【操巵】31（サウシ） 盃をとる。酒を飲むこと。〔劉伶、酒德頌〕止則操レ巵執レ觚。

【操舟】32（サウシウ） ふねをあやつる。〔莊子、達生〕津人操レ舟若レ神。〔疏〕操、捉也。〔列子、黃帝〕津人操レ舟若レ神。

【操執】33（サウシツ） とる。〔後漢書、隗囂傳〕將軍操二執款款一、扶レ傾救レ危。

【操檝】34（サウシフ） かいをあやつる。〔後漢書、皇甫規傳〕將軍兄弟操檝者也。

【操舍】35（サウシヤ） 心に堅く守ることと捨てること。〔孟子、告子上〕操則存、舍則亡、出入無レ時、莫レ知二其鄕一、惟心之謂與。〔淮南子、要略〕操舍開塞、

各有二龍忌一。

【操尙】36 サウシヤウ 品行がすぐれて高い。〔晉書、羊祜傳〕祜執レ德沖虛、操尙清遠、德高而體卑、位優而行恭。

【操守】37 サウシユ 心にかたく守り持する所。正道を履んで變らないこと。みさを。節操。操植。操持。操韻。〔唐書、裴度傳〕神觀邁爽、操守堅正。〔福惠全書、莅任部、謹操守〕爲レ官之道、必以二操守一爲レ先。

【操手】38 サウシユ 拳術を練習する。對操。

【操縱】39 サウジユウ 巧に使ふ。上手にあつかふ。あやつる。

〘操縱桿〙40 サウジユウカン 飛行機の主翼・尾翼・方向舵等の操縱に用ひる桿。

【操術】41 サウジユツ とり守るところの術。〔荀子、不苟〕君子位尊而志恭、心小而道大、所二聽視一者近、而所二聞見一者遠、是何邪、則操術然也。

【操植】42 サウシヨク 操守(37)に同じ。植は志。〔晉書、袁湛傳〕湛、字士深、少有二操植一。

【操心】43 サウシン ❶自ら其の心を固くとり守る。〔孟子、盡心上〕其操レ心也危、其慮レ患也深。❷tsʻao^1 hsin^1 心配する。

【操刃】44 サウジン 刃をとる。〔淮南子、繆稱訓〕操レ銳以刺、操レ刃以擊、自召也、何怨二乎人一。〔後漢書、魏朗傳〕少爲二縣吏一、兄爲二鄉人所一レ殺、朗白日操レ刃、報二仇於縣中一。〔高適、奉二酬睢陽李太守一詩〕着レ鞭驅二駟馬一、操レ刃解二全牛一。

【操篲】45 サウスイ 人に謁見を求める意。掃除して客を待つ意。擁篲(**5**－**12781**・・40)を見よ。〔書言故事、謁見類〕比嘗操レ篲求レ見、莊子、田開之曰、操二拔篲一以侍二門庭一。

【操制】46 サウセイ かたく權柄をとつて人を使ふこと。〔宋史、儒林四、呂祖謙傳〕陛下於二左右一、雖レ不レ勞二操制一、苟玩而弗レ慮、則聲勢浸長。

【操切】47 サウセツ 操持する所の手嚴しいこと。斟酌せず手嚴しくする。〔漢書、貢禹傳〕姦軌不レ勝、則取下勇猛能操二切百姓一者上、以下苛暴威二服下一者上、使レ居二大位一。〔注〕師古曰、操、持也、切、刻也。

【操節】48 サウセツ ❶みさを。操守。操韻。〔後漢書、儒林下、樓望傳〕操節清白、有レ稱二鄉閭一。❷符節をとる。〔墨子、號令〕莫レ令二騎若使者操レ節、閉レ城者、皆以二執毚一。

【操箋】49 サウセン 書きつけをもつ。〔韻府引、陸雲、賦〕操レ箋染レ翰、思溢情煩。

【操柁】50 サウタ かぢをあやつる。〔晉書、隱逸、夏統傳〕統乃操レ柁正レ櫓、折二旋中流一。

【操撾】51 サウタ 歌曲を奏すること。操は曲操の操。撾はうつ。又、摻撾・參撾(**2**－**3098**・・146)に作る。〔太平御覽、樂部、鼓〕後漢書曰、云云、禰衡、字正平、孔融雅愛二其才一、數稱二賞於曹操一、操欲レ見レ之、衡不レ肯レ往、操懷レ忿、而以二其才一不レ欲レ殺レ之、聞二衡善レ鼓、召爲二鼓吏一、因會二賓客一、閱二試音節一、諸吏過者、皆令下脫二其故衣一、更着中岑牟單絞之服上、次至レ衡、衡方操撾、踊躍而前、吏呵レ之曰、鼓吏何不レ改レ服而輕進、衡於レ是先解二褻衣一、次釋二餘服一、裸身而立、徐取二岑牟單絞一而着レ之、復操撾、顏色不レ怍、操笑曰、本欲レ辱レ衡、衡反辱レ孤、衡對曰、不下敢以二先王之法服一、爲中傖倫之衣上。

【操蛇】52 サウダ 蛇をとる。〔山海經、中山經〕夫夫之山、神于兒居レ之、其狀人身而手操二兩蛇一。

〘操蛇之神〙53 サウダノシン 山海の神。〔列子、湯問〕操蛇之神聞レ之、懼二其不一レ已也、告二之於帝一、帝感二其誠一、命二夸蛾氏二子一、負二二山一、一厝二朔東一、一厝二雍南一。〔注〕大荒經云、山海神、皆執レ蛇。

【操刀】54 サウタウ 刀をとる。〔左氏、襄、三十一〕猶二未レ能レ操レ刀而使一レ割也。〔論衡、順鼓〕操レ刀把レ杖以擊レ之。〔潘岳、征西賦〕制者必割、實存二操刀一。

【操持】55 サウヂ とりまもる。操守。〔漢書、蘇武傳〕杖二漢節一牧レ羊、臥起操持、節旄盡落。〔漢書、王嘉傳〕外內顧望、操二持兩心一。〔韓愈、答二崔立之一書〕顚頓狼狽、失三其所二操持一。〔李商隱、漫成詩〕李杜操持事略レ齊、三才萬象共端倪。

【操張】56 サウチヤウ とりはる。琴を張る。操暢に同じ。〔嵇康、琴賦〕伶倫比レ律、田連操張。〔注〕善曰、韓子曰、田連成竅、天下善レ鼓琴者也。

【操暢】57 サウチヤウ とりのべる。とりはる。琴をはること。操張。〔枚乘、七發〕使二師堂操暢、伯子牙爲一レ之歌。〔注〕五臣本作二張字一、善曰、琴道曰、堯暢達則兼レ善、天下無レ不二通暢一、故謂二之暢一、向曰、操張者、張レ琴也。

【操場】58 tsʻao^1 chʻang^3 運動場。

【操斗】59 サウト ますめをはかる。〔越絕書、越絕請糴內傳〕妻操レ斗身操レ概、自量而食。

【操防】60 サウバウ 軍隊が演習を爲し邊境を守ること。〔六部成語補遺、兵部、操防注解〕言二操練及防守一也。

【操法】61 tsʻao^1 fa^3 操作の方法。

【操轡】62 サウヒ たづなをとる。〔後漢書、靈帝紀〕駕二四驢一、帝躬自操レ轡。

【操筆】63 サウヒツ 筆をとる。〔後漢書、陳球傳〕球曰、皇太后以二盛德良家一、母二臨天下一、宜レ配二先帝一、是無レ所レ疑、(趙)忠笑而言曰、陳廷尉宜二便操一レ筆。〔晉書、郗超傳〕及二死之日一、貴賤操レ筆而爲レ誄者、四十餘人、其爲二衆所一宗貴、如レ此。〔梁簡文帝、金錞賦〕聊染レ翰而操レ筆、終有レ愧二于璆琳一。〔陸厥、齊歌行〕垂レ帷五行下、操レ筆百金賦。

【操分】64 サウブン とり守つて分別する。〔管子、宙合〕操分不レ雜、故政治不レ悔。〔纂詁〕所二操持分別一、不レ致二雜糅一、故政治無レ所レ悔也。

【操兵】65 サウヘイ ❶兵器を持つ。〔六韜、犬韜、教戰〕教二操兵・起居・旌旗・指麾之變法一。❷tsʻao^1 ping^1 兵を指揮する。兵隊の教練をする。練兵。

【操柄】66 サウヘイ ❶權勢を握る。〔漢書、賈山傳〕富貴者人主之操柄也。❷政權。〔曾鞏、移二滄州一過レ闕上レ殿疏〕所三以謹二其操柄一者如レ此。

【操袂】67 サウベイ たもとをとる。舞をするをいふ。〔白居易、太社觀二獻捷一操〕班レ師郊社內、操レ袂凱歌中。

【操瓢】68 サウヘウ ひさごをとる。乞食をいふ。〔莊子、盜跖〕無レ異二於磔犬流豕、操レ瓢而乞者一。〔疏〕貧病之人、操レ瓢乞告。

【操鞭】69 サウベン むちをとる。〔越絕書、越絕荆平王內傳〕操レ鞭捶二笞平王之墓一。

【操矛】70 サウボウ ほこをとる。〔後漢書、鄭玄傳〕休見而歎曰、康成入二吾室一、操二吾矛一、以伐レ我乎。〔後漢書、鄭太傳〕關西諸郡、云云、婦女猶戴レ戟操レ矛、挾レ弓負レ矢。

【操莽】71 サウマウ 王莽(**7**－**20823**・・993)と曹操(**5**－**14297**・・91)。國を簒奪する者をいふ。

【操縵】72 サウマン 樂器になれるために調子を合はせて弦をかきならすこと。〔禮、學記〕學不レ學二操縵一、不レ能レ安レ弦。〔注〕操縵、雜弄。〔疏〕言、人將レ學二琴瑟一、若不三先學二調弦雜弄一、則手指不レ便、手指不レ便、則不レ能三安二正其弦一、先學二雜弄一、然後音曲乃成也。〔嵇康、酒會詩〕操二縵清商一、游二心大象一。

【操耒】73 サウライ すきを取る。〔徐積、答二何楚才一詩〕有レ客能操レ耒、而捨二其良田一。

【操勞】74 tsʻao^1 lao^2 仕事する。稼ぐ。勞働。

【操剌】75 サウラツ 猛く勇しいこと。〔五代史、漢高祖紀〕晉高祖卽二位於太原一、以二知遠一爲二侍衞親軍都虞候領保義軍節度使一、契丹耶律德光送二高祖一至二路州一、臨レ決指二知遠一曰、此都軍甚操剌。〔通俗編、武功、操剌〕按、世俗以二勇猛一爲二操剌一也。〔表異錄〕耶律德光指二劉知遠一曰、此都軍甚操剌、按、操剌、俗語猛勇也。

【操履】76 サウリ おこなひ。品行。行狀。操行。操は心にとり守る所、履は身にふみ行ふ所。〔顏氏家訓、慕賢〕何況操履藝能、較明易習者也。〔北史、藝術上、庾質傳〕操履貞懿、立言忠鯁。〔隋書、煬帝紀〕操履修潔。〔歐陽脩、張子野墓誌銘〕被服操履、甚二於寒儒一。

【操練】77 サウレン 兵隊のかけひきを稽古すること。實戰のための練習。調練。練兵。〔續文獻通考、兵考、兵制〕(正德)八年、設二兩官廳軍一、自調二邊軍人衞一、於レ是集二九邊突騎家丁數萬人於京師一、名曰二外四家一、乃立二兩官廳一、次年命二鎭國府春秋兩班官軍、及宜府軍一、幷選二團營及勇士四衞諸軍一、於二西官廳一操練、而正德元年、所二操練一新選官軍、則於二東官廳一、自レ是兩官廳軍爲二選鋒一、而十二團營且爲二老家一矣。

〘操練場〙78 サウレンヂヤウ 操練を行ふ處。練兵場。〔柏原藩史〕嘉永五年六月、令三藩士甲冑巡二回于郭內一、且閱二兵操練場一。

【操弄】79 サウロウ あやつり弄ぶ。〔後漢書、竇武傳〕操二弄國權一、濁二亂海內一。〔蜀志、郤正傳〕操二弄威權一。

【立レ操】80 ミサヲヲタツ 志を變へない。〔晉書、鄭冲傳〕起レ自二寒微一、貞爾立レ操。

【操槍場】81 tsʻao^1 chʻiang^1 chʻang^3 射的場。

【操師乞】82 サウシコツ 隋、鄱陽の人。煬帝本紀には操天成に作る。大業中、謀叛して自ら元興王と號

し、天成と建元す。煬帝、治書侍御史劉子翊をして之を平定せしむ。〔唐書、八十七〕。

【操天成】83（サウテンセイ） 操師乞を見よ。

【操南音】84 ts'ao^1 nan^2 yin^1 南方の語音で話「す。

【操毷氉】85（サウモウサウ） 進士の試驗に落第してやけ酒を飮むものをいふ。打毷氉。〔唐國史補、下〕進士、云云、會大二讌於曲江亭子一、謂二之曲江會一、籍而入レ選、謂二之春關一、不レ捉而醉飽、謂二之打毷氉一、匿レ名造レ謗、謂二之無名子一、退而肄レ業謂二之過夏一。〔書言故事大全、不捷類〕落榜而縱二飮食一、謂二操毷氉一。

【操奇計贏】86（サウキケイエイ） 資金が多く奇異の物を聚め畜へるをいふ。一說に、奇とは殘物のことで、殘餘の儲けをとること。〔漢書、食貨志上〕商賈大者、積貯倍レ息、小者坐列販賣、操二其奇贏一、日遊二都市一。〔注〕師古曰、奇贏、謂下有二餘財一而畜中聚奇異之物上也、一說、奇謂二殘餘物一也。

【操則存舍則亡】87（トレバスナハチソンシ スツレバスナハチウシナフ） 本然の良心は之を正しく操り守れば存在するが、之を捨てて顧みなければ亡失することをいふ。〔孟子、告子上〕孔子曰、操則存、舍則亡、出入無レ時、莫レ知二其鄕一、惟心之謂與。〔法言、問神〕人心其神矣乎、操則存、舍則亡、能常操而存者、其唯聖人乎。

【㨶】12807

タウ 擣(5-12853)の古字。〔字彙〕㨶、古擣字。

【擎】12808

［一］ケイ ギヤウ 〔集韻〕渠京切 ㄑㄧㄥˊ ch'ing^2 庚

［二］ケイ ギヤウ 〔集韻〕渠映切 敬

［一］❶**ささげる**。かかげる。あげる。〔廣雅、釋詁一〕擎、擧也。〔集韻〕擎、擧也。〔正字通〕擎、持高也。〔賈島、寄二令狐綯相公一詩〕重擎獻二匠人一。❷**たかい**。そばだつ。〔曾鞏、雪詩〕里表仍孤擎。〔王禹偁、立春前一日雪詩〕龍鍾老檜擎。〔宋濂、蟠桃核賦〕銅莖中峙、仙掌高擎。❸或は弊(4-9647)に作り、又、擏(5-12809)に作る。〔集韻〕擎、或从レ廾、亦書作レ擏。❹通じて鯨(12-46257)に作る。〔潘岳、射雉賦、鯨牙低鏃、注〕爰曰、鯨、當レ作レ擎、擧也。［二］**もつ**。〔集韻〕擎、持也。

【擎菴】1（ケイアン） 淸、張天柱(4-9812・・1410)の號。

【擎衡】2（ケイカウ） 明、晉國柱(5-13898・・124)の字。

【擎起】3 ch'ing^2 ch'i^3 持ち上げる。

【擎跽】4（ケイキ） ものをささげて跪く。〔蘇軾、司馬溫公神道碑〕擎跽流涕者、不レ可レ勝レ數。

〖擎跽曲拳〗5（ケイキキヨクケン） 擎跽曲拳(16)を見よ。

【擎拳】6（ケイケン） 手に持ちささげること。〔還魂記、尋夢〕咳、甚甌兒氣、力與擎拳。

【擎劍】7（ケイケン） 劍をささげもつ。〔李賀、送二秦光祿北征一詩〕今朝擎レ劍去、何日刺レ蛟廻。

【擎元】8（ケイゲン） 明、唐世柱(2-3709・・459)の字。

【擎之】9（ケイシ） 淸、趙良棟(10-37171・・930)の字。

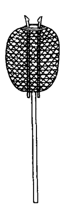
【擎傘】10 ch'ing^2 san^3 傘をさす。

【擎受】11 ch'ing^2 shou^4 うける。受けつぐ。

【擎天】12（ケイテン） 天をささへる。樹などの高くそびえる形容。〔宋史、外戚上、劉永年傳〕生四歲、云云、仁宗使レ賦二小山詩一、有二一柱擎レ天之語一。

〖擎天柱〗13（ケイテンチユウ） ❶天を支へる八つの柱。〔楚辭、天問、八柱何當、注〕天有二八山一爲レ柱。〔張說、唐中書令梁國公姚崇神道碑〕叙曰、八柱承レ天、高明之位定、四時成レ歲、亭育之功存。❷重要な官職。又、大事業。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕小娘子來了、擎二天柱一大事如何了也。

【擎燈】14（ケイトウ） 燈火の一種。下に長柄があつてかかげ持つやうにしたもの。〔三才圖會、器用〕擎燈。



擎燈（三才圖會）

【擎雨蓋】15（ケイウガイ） 雨をささげるかさ。蓮の葉の喩。〔蘇軾、贈二劉景文一詩〕荷盡已無二擎レ雨蓋一、菊殘猶有二傲レ霜枝一。

【擎跽曲拳】16（ケイキキヨクケン） 手をささげ、足を跪き、躬を曲げ、首を俯す。禮をつつしむさま。〔莊子、人間世〕擎跽曲拳、人臣之禮也。〔釋文〕跽、說文云、長跪也。〔疏〕擎レ手跽レ足、磬折曲躬、俯仰拜伏者、人臣之禮也。

【擏】12809

［一］ケイ ギヤウ 〔集韻〕渠映切 敬

［二］ケイ ギヤウ 〔集韻〕渠京切 庚

［三］ケイ キヤウ 〔集韻〕擧影切 梗

［一］**たかつき**。檠(6-15681)に同じ。〔集韻〕檠、有レ足所二以几一レ物、或作レ擏。〔正字通〕擏、與レ檠同。［二］❶**あげる**。擎(5-12808)に同じ。〔廣韻〕擎、擧也。〔集韻〕擎、擧也、亦書作レ擏。❷**ゆだめ**。檠(6-15681)に同じ。〔字彙〕擏、與レ檠同。［三］❶**ゆだめ**。弓弩を輔正する器。檄(6-15682)に同じ。〔類篇〕擏、正二弓弩一也。〔字彙〕擏、與レ檄同。〔淮南子、說山訓〕擏不レ正而可二以正一レ弓。❷**いましめる**。儆(1-1187)に同じ。〔集韻〕儆、說文、戒也、或作レ擏。

【擌】12810

ハク ヒヤク 〔集韻〕匹麥切 陌

射て物にあたるおと。〔集韻〕擌、射中聲。

【擌㩧】1（ハクバク） 射て物にあたる聲。〔張衡、西京賦〕飛罕瀟箾、流鏑擌㩧。〔注〕綜曰、擌㩧、中聲也。

【攓】12811

ケン 搴(5-12519)に同じ。〔字彙〕攓、同レ搴。

【擮】12812

テツ テチ 〔集韻〕他結切 屑

ひく。〔集韻〕擮、捎擮也。

【擐】12813

［一］クワン ゲン 〔集韻〕胡慣切 ㄏㄨㄢˋ huan^4 諫

［二］クワン 〔集韻〕姑還切 刪

［三］ケン 〔集韻〕古泫切 銑

［四］セン 〔集韻〕荀緣切 先

小篆

［一］［二］❶**つらぬく**。甲冑をまとふ。〔說文〕擐、毌也、从レ手睘聲、春秋傳曰、擐レ甲執レ兵。〔國語、吳語〕服レ兵擐レ甲。〔注〕擐、貫也。〔賈注〕擐、衣レ甲也。〔淮南子、要略〕躬擐二甲冑一。〔注〕擐、貫著也。❷**つける**。まとふ。〔廣雅、釋詁三〕擐、著也。［三］**つなぐ**。〔集韻〕擐、繫也。［四］**衣をかかげる**。揎(5-12338)に同じ。又、援(5-12407)・撙(5-12732)に通ず。〔說文通訓定聲〕擐、叚借爲レ援。〔集韻〕揎、手發レ衣、或作レ擐。〔禮、王制、贏二股肱一、注〕謂二擐レ衣出二其臂脛一也。〔釋文〕擐、依レ字作レ撙。

［名乘］ ツラ。

【擐衣】1（クワンイ） 衣をかかげること。〔禮、王制、贏二股肱一、注〕謂三擐レ衣出二其臂脛一。

【擐甲】2（クワンカフ） よろひをきる。甲冑を著ける。〔左氏、成、二〕擐レ甲執レ兵、固卽死也。〔注〕擐、貫也。〔國語、吳語〕夜中乃令二服レ兵擐一レ甲。〔淮南子、要略〕武王繼二文王之業一、用二太公之謀一、悉二索薄賦一、躬擐二甲冑一、以伐二無道一而討二不義一、誓二師牧野一、以踐二天子之位一。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕援レ旌擐レ甲。

〖擐甲禮〗3（クワンカフノレイ） 昔、我が國の武家に行はれた鎧の著初めの儀式。〔近古史談、德篇下、阿閉掃部〕越前侯秀康之就レ封也、聞二阿閉掃部爲二勳閥之士一、以二重祿一聘レ之、狛伊勢亦越之世臣也、將下爲二其子一行中擐甲禮上、請二掃部一爲レ賓、禮畢置酒。

【擐袖】4 クワンシウ　袖をひるがへす。〔徐夤、酒胡子詩〕當レ歌誰擐袖、應レ節旋二輕軀一。

【⿰扌⿱⺮沙】12814　サ シヤ　〔集韻〕師加切　麻

ひきとめる。〔集韻〕⿰扌⿱⺮沙、拘引也。

【擳】12815　セフ　接（**5－12280**）に同じ。〔集韻〕接、或作レ擳。

【擒】12816　［一］キン ゴン　〔集韻〕渠金切　ㄑㄧㄣˊ　ch'in^2　侵

［二］キン ゴン　〔集韻〕巨禁切　沁

［一］［二］❶**しつかりとる。とらへる。**捦（**5－12183**）に同じ。又、禽（**8－24893**）に通ず。〔集韻〕捦、說文、急持二衣衿一也、或从レ禽。〔一切經音義、十一〕捦、獲、云云、三蒼云、捦、手捉レ物也、埤蒼云、捦、捉也、今皆作レ擒。〔易、井〕舊井無レ禽、〔崔憬注〕禽、古擒字、猶レ獲也。❷**とりこにする。**〔戰國、燕策〕漁者幷而擒レ之。〔杜甫、前出塞詩〕射レ人先射レ馬、擒レ賊先擒レ王。❸拎（**5－11836**）に同じ。〔集韻〕拎、捉也、或从レ禽。

［參考］熟語は禽（**8－24893**）を併せ見よ。

【擒禦】1 キンギヨ　とりおさへる。〔福惠全書、保甲部、調集符信〕不レ患レ無二擒禦之人一也。

【擒獲】2 ch'in^2 huo^4　とらへる。捕獲。禽獲。

【擒斬】3 キンザン　とりこにすることと斬り殺すこと。〔宋史、太祖紀一〕乘レ火爲レ盜者五十人、擒斬三十八人。〔國史略、天智天皇〕磐鍬逃歸、餘被二擒斬一。

【擒縱】4 キンシヨウ　とりこにすることとゆるしてかへすこと。生擒と放釋。七縱七擒（**1－6‥262**）を見よ。〔李邕、鬪鴨賦〕迭爲二擒縱一。

〔擒縱法〕5 キンシヨウハフ　文章法の一。事理を推論して至當の點を求めるために、先づ他を論破し、忽ち其の長所を提示して一面より理を得しめ、又之を攻擊して納得させる方法。韓愈・老蘇・歐陽脩の文に此の法が多い。

【擒生】6 キンセイ　生きながらとらへる。いけどり。生擒。〔張仲素、塞下曲〕功名恥レ計二擒生數一、直斬二樓蘭一報二國恩一。

【擒送】7 キンソウ　とりこにして送る。

【擒捉】8 キンソク　とらへる。捕獲する。又、其のこと。捕捉。〔爾雅、釋鳥、二足而羽謂二之禽一疏〕禽、擒也、言三鳥力小、可二擒捉而取一レ之。

【擒賊】9 キンゾク　賊をとらへる。賊をとりこにする。〔杜甫、前出塞詩〕射レ人先射レ馬、擒レ賊先擒レ王。

【擒捽】10 キンソツ　とらへる。〔葉適、溫州州學會拜〕然皆以二錢穀刑獄搏擊擒捽一爲レ職。

【擒拿】11 キンダ　捕へる。〔福惠全書、刑名部、欵犯〕倘度レ可二擒拿一、定須二拿住收監一。

【擒盜】12 キンタウ　盜人を捕へる。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、遴捕役〕用二捕役一所二以擒一レ盜。

【擒治】13 キンチ　とらへて吟味する。〔福惠全書、庶政部、訪二拿蠹棍一〕欲二其擒治一、亦必如二前法一。

【擒住】14 キンヂユウ　捕へる。捕へたものをとめおく。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕預行二擒住一。

【擒縛】15 キンバク　とらへしばる。つかまへる。いけどりにする。又、其のこと。捕縛。縛擒。〔金剛經鳩異〕遂擒二縛五六人一。

【擒滅】16 キンメツ　とらへほろぼす。〔皇甫謐、三都賦序〕吳蜀以二擒滅一比二亡國一。

【擒戮】17 キンリク　とらへ殺す。〔白居易、賀レ平二淄青一表〕未レ勞二師徒一、自取二擒戮一。

【擒奸酒】18 キンカンシユ　酒の名。晉の劉白墮が醸した酒で、青州刺史毛鴻が路で追剝に出會つた時、此の酒を飲ませて擒にしたからいふ。〔談苑〕海東劉白墮、善釀レ酒、曝二於日中一、經レ旬飲レ之、醉而不レ醒、青州刺史毛鴻、齎レ酒之レ藩、路逢二劫盜一、飲レ之卽醉、皆被レ擒、因レ此名二擒奸酒一、語云、不レ畏二張弓拔刀一、惟畏二白墮春醪一。

【⿰扌臿】12817　サフ　〔集韻〕悉盍切　合

❶**物の破れるおと。**〔集韻〕⿰扌臿、破聲。❷**もつ。**〔集韻〕⿰扌臿、一曰、持也。❸搕⿰扌臿は、きたないもの。〔廣韻〕⿰扌臿、搕⿰扌臿、糞。❹擸⿰扌臿は、ごたごたする。〔集韻〕⿰扌臿、擸⿰扌臿、和攪也。

【⿰扌零】12818　レイ　拎（**5－11953**）に同じ。〔集韻〕拎、或作レ⿰扌零。

【⿰扌㼌】12819　クワ　⿰扌瓜（**5－12608**）に同じ。〔集韻〕⿰扌瓜、或作レ⿰扌㼌。

【⿰扌剽】12820　ヘウ　〔集韻〕匹沼切　篠

おちる。摽（**5－12651**）に同じ。〔集韻〕⿰扌剽、落也。〔正字通〕⿰扌剽、同レ摽。

【⿰扌豈】12821　キ　攕（**5－12978**）に同じ。〔篇海〕⿰扌豈、同レ攕。

【⿰扌裊】12822　デウ　擾（**5－12947**）の俗字。〔正字通〕⿰扌裊、俗字、擾、同レ⿰扌裊。

【⿰扌匯】12823　クワイ ケ　〔集韻〕枯懷切　ㄎㄨㄞˇ　k'uai^3　佳

❶**する。**⿰扌雁（**5－12513**）に同じ。〔廣韻〕⿰扌匯、搏雅、⿰扌匯扠、揩摩。❷**ぬぐふ。**〔集韻〕⿰扌匯、拭也。❸或は⿰扌雁（**5－12513**）・⿰扌進（**5－12824**）に作る。〔集韻〕⿰扌匯、或省。〔篇海〕⿰扌進、同レ⿰扌匯。❹［現］㋑掻く。㋺腕に掛ける。㋩酌む。すくふ。

【⿰扌匯破】1 k'uai^3 p'o^4　掻き傷つける。

【⿰扌進】12824　クワイ　⿰扌匯（**5－12823**）に同じ。〔篇海〕⿰扌進、同レ⿰扌匯。

【擓】12825　クワイ ケ　〔集韻〕古外切　泰

をさめる。〔集韻〕擓、收也。〔路史、前紀〕有巢氏擓二菘桔一以爲レ蓐。

【⿰扌畺】12826　キヤウ ガウ　〔集韻〕渠良切　陽

たすけるさま。〔集韻〕⿰扌畺、扶持皃。

【⿰扌臯】12827　サイ スイ　〔集韻〕取猥切　賄

❶**さぐる。**〔集韻〕⿰扌臯、摸也。❷⿰扌罪（**5－12785**）に同じ。〔正字通〕⿰扌臯、同レ⿰扌罪。

【擔】12828　［一］タン トン　〔集韻〕都甘切　ㄉㄢ　tan^1　覃

［二］タン トン　〔集韻〕都濫切　ㄉㄢˋ　tan^4　勘

［三］セン ゼン　〔集韻〕時豔切　豔

［四］エン　〔集韻〕以贍切　豔

［一］❶**になふ。**かつぐ。儋（**1－1195**）に同じ。〔集韻〕儋、說文、何也、或从レ手。〔爾雅、釋天、何鼓謂二之牽牛一、注〕今荊楚人呼二牽牛星一爲二擔鼓一、擔者、何也。〔戰國、秦策〕負レ書擔レ囊。❷**おふ。**せおふ。〔爾雅、釋天、釋文〕擔、負也。❸**ひきうける。**〔釋名、釋姿容〕擔、任也、任二力所一レ勝也。〔白居易、上弘和尚碑〕荷二擔大事一。❹**あげる。**〔廣雅、釋詁

一〕擔、擧也。〔管子、七法〕擔レ竿而欲レ定二其末一。〔注〕擔、擧也。［二］❶になふ。又、になふもの。にもつ。或は檐(6－15659)・薝(10－36042)に作る。〔集韻〕擔、負也、或从レ木、亦作レ薝。〔左氏、莊、二十二〕弛二于負擔一。❷量の名。㋑一荷。今の目方で百斤、容積で一石。〔皇朝文獻通考、征榷考〕船實能受二載百擔一、而所レ裝之貨、乃在二七十擔以下一者。㋺イギリス・アメリカの衡量の單位。hundred weight の略稱。イギリスでは一一二封度、アメリカでは一〇〇封度。［三］［四］かす。〔集韻〕擔、假也。〔儀禮、喪服傳〕無レ爵而杖者何、擔レ主也。〔注〕擔、猶レ假也、無レ爵者假レ之以レ杖、尊二其爲レ主也。［邦］かつぐ。㋑だます。㋺迷信。

【擔憂】1 tan¹ yu¹ 氣遣ふ。

【擔架】2タンカ 傷病者を載せて運ぶ具。

【擔荷】3タンカ ❶にもつをになふこと。又、にもつ。〔管子、小匡〕負任擔荷、服レ牛軺レ馬、以周二四方一。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕負擔荷以二丈尺一兮。〔注〕背曰レ負、荷曰レ擔。❷tan¹ hê⁴ 身に引きうける。責任を負ふ。

【擔閣】4タンカク ❶ぐずぐずする。遲延。〔林逋、清河茂才以二良筆幷詩一爲レ惠次韻奉答詩〕聊爲二夫君一一擔閣。〔水滸傳、三十二回〕事急難二以擔閣一、我自捱二到山下一便了。❷空しくする。無駄にする。擔擱。

【擔擱】5タンカク 擔閣。❶ぐずぐずする。遲延。❷空しくする。無駄にする。〔琵琶記、牛氏規レ奴〕這文君、可レ不三擔二擱了相如琴奏一。

【擔杆】6 tan¹ kan¹ 天秤棒。

【擔笈】7タンキフ 本箱を負ふ。〔北史、高允傳〕允性好二文學一、擔レ笈負レ書。

【擔驚】8 tan¹ ching¹ 吃驚する。

〖擔驚受怕〗9 tan¹ ching¹ shou⁴ p'a⁴ 吃驚する。びくびくする。

【擔脚】10タンキャク 昔、調・庸を運んだ人夫。運脚。〔續日本紀〕天平勝寶八年十一月、由レ此擔脚辛苦、競爲二逃歸一。

【擔險】11 tan¹ hsien³ 危險な事を引受ける。

【擔鼓】12タンコ 星の名。牽牛星の異稱。〔爾雅、釋天、河鼓、注〕今荆楚人呼二牽牛星一爲二擔鼓一。

【擔瓠】13タンコ 清、顧公燮(12－43689··267)の號。

【擔悞】14タンゴ あやまる。〔琵琶記、糟糠自厭〕媳婦、算來是我相擔悞、不レ如吾死免二把レ你再辜負一。

【擔子】15タンシ ❶肩でかつぐ輿。〔唐會要、命婦朝皇后〕命婦朝謁並不レ得レ乘二擔子一、其尊屬年高特勅賜二擔子一者、不レ在二此例一。❷tan¹ tzŭ 荷。荷物。

【擔承】16 tan¹ ch'êng² 責任を負ふ。引き受ける。

【擔心】17 tan¹ hsin¹ 心配する。

【擔生】18タンセイ 蛇の名。〔水經、濁漳水注〕故溝上承二武強淵一、淵之西南側水、有二武強縣故治一、云云、耆宿云、邑人有下行二於途一者上、見二一小蛇一、疑二其有レ靈、持而養レ之、名曰二擔生一、長而吞二噬人一、里中患レ之、遂捕繫レ獄、擔生負而奔、邑淪爲レ湖、縣長及吏、咸爲レ魚矣。

【擔石】19タンセキ ❶少しばかり。一かつぎの重さと一斛の量。儋石(1－1195··6)の❶に同じ。〔鹽鐵論、地廣〕家不レ滿二擔石一者、不レ足二以計レ事。〔後漢書、吳祐傳〕及二年二十一喪レ父、居無二擔石一。〔法言、淵騫〕吾見二擔石一矣。〔班彪、王命論〕思レ有二短褐之襲、擔石之蓄一。〔注〕銑曰、擔、謂二一擔之重一、石、謂二一斛之數一。❷湖の名。〔豫章古今紀〕擔石湖在二江西東北一、有三石堆二湖心一、遂成二小山一。❸清、計芬(10－35220··74)の號。

〖擔石儲〗20タンセキノチョ 僅かなたくはへ。儋石儲(1－1195··7)に同じ。〔後漢書、明帝紀〕生者無二擔石之儲一、而財力盡二於墳土一。〔後漢書、宣秉傳〕分二與田地一、自無二擔石之儲一。〔魏志、華歆傳〕歆素清貧、祿賜以振二施親戚故人一、家無二擔石之儲一。

【擔待】21 tan¹ tai⁴ ❶引受ける。世話する。寬容する。❷申譯がない。すまない。

〖擔待不起〗22 tan¹ tai⁴ pu ch'i³ 責任を負ひきれない。背負ひきれない。

【擔當】23タンタウ ❶引受ける。責任を負ふ。擔任(33)に同じ。〔朱子全書、孟子、公孫丑上〕公孫丑問、孟子動レ心否乎、非レ謂下以二卿相富貴一動中其心上、謂下霸王事大、恐孟子擔當不レ過、有レ所二疑懼一、而動中其心上也。❷字號。㋑清、唐泰(2－3709··250)の❷の號。㋺清、普荷(5－13982··8)の號。

〖擔當得住〗24 tan¹ tang¹ tê chu⁴ 支へ得られる。擔當し得られる。

〖擔當不起〗25 tan¹ tang¹ pu ch'i³ 引受けられない。背負ひきれない。

〖擔當不住〗26 tan¹ tang¹ pu chu⁴ 支へきれない。背負ひきれない。

【擔纏】27タンテン 荷物をになふこと。〔列子、說符〕臣有下所二與共擔纏薪菜一者上。

【擔桶】28タゴ 水などを入れて擔ふ桶。になひおけ。

〖擔桶棒〗29タゴボウ 擔桶をかつぐ天秤棒。

【擔頭】30タントウ かづきもの。纏頭。〔伯顏、過二梅嶺岡一留題詩〕擔頭不レ帶江南物、只揷梅花一兩枝。

【擔簦】31タントウ さしがさをになふ。〔史記、虞卿傳〕虞卿者、遊說之士也、躡蹻擔簦、說二趙孝成王一、一見賜二黃金百鎰、白璧一雙一。〔國朝漢學師承記、卷一〕擔レ簦追レ師、不レ遠二千里一。

【擔囊】32タンナウ ❶ふくろをになふ。〔莊子、胠篋〕巨盜至、則負レ匱揭レ篋、擔レ囊而趨。〔戰國、秦策〕(蘇秦)去レ秦而歸、羸レ縢履レ蹻、負レ書擔レ囊。〔魏武帝、苦寒行〕擔レ囊行取レ薪、斧レ冰持作レ糜。❷兩方に物を入れるふくろ。膀擔。

【擔任】33タンニン 責任を負うて事にあたる。任務を引き受ける。又、其のこと。うけもち。擔當。〔唐書、李白傳〕見二公主擔任爭レ道。〔清國行政法汎論、刑部〕專遵二由土地區域一以定二擔任事件一。

【擔伯】34タンパク 清、張錫爵(4－9812··1265)の字。

【擔夫】35タンプ 荷をかつぐ男。〔唐書、文藝中、張旭傳〕始見二公主擔夫爭レ道。

【擔布】36タンプ 上肢を懸吊するために用ひる外科材料。

【擔負】37タンプ になふ。負擔。荷負。〔詩、商頌、玄鳥、百祿是荷、箋〕謂レ當三擔二負天之多福一。〔漢書、兒寬傳〕大家牛車、小家擔負。〔魏志、楊阜傳〕轉運之勞、擔負之苦。

【擔糞】38タンプン 肥桶をになふ。〔晉書、王澄傳〕衍妻郭性貪鄙、欲レ令二婢路上擔一レ糞、澄年十四、諫レ郭以爲二不可一、郭大怒、云云、捉二其衣裾一、將レ杖レ之。〔南史、到漑傳〕(何)敬容謂レ人曰、到漑尙有二餘臭一、遂學作二貴人一云云、漑祖彥之初以二擔糞一自給、故世以爲レ譏云。〔墨客揮犀〕林和靖曰、世間事皆能レ之、惟不レ能三擔糞與二著棋一爾。

【擔保】39タンポ ❶ひきあて。しちぐさ。抵當。❷債務不履行によつて生ずる損害をつぐなふために設ける方法。抵當物・質物・供託物・保證人などを設ける類。

〖擔保品〗40タンポヒン 債務の償却、其の他の義務履行の保證のために差入れる物品有價證券。

〖擔保條約〗41タンポデウヤク 或る事實、又は條約の履行を確實にするために締結する條約。

〖擔保物權〗42タンポブツケン 或る事實、又は條約の履行・債務を確實にするため、物の交換價格を權利人の物權に歸屬させること。卽ち、動產或は、不動產を債權の擔保とすること。若し債務不履行の場合は、債權者は其の擔保品を賣却して、其の債務を清算することが出來る。

【擔峯】43タンホウ 清、孫淦(3－6987··198)の字。

【擔僕】44タンボク 荷物をになふしもべ。〔范成大、詩〕擔僕輿夫盡勞悴。

【擔羅】45タンラ 蛤の一種。〔本草、擔羅〕集解、藏器曰、蛤類也、生二新羅國一、彼人食レ之。

【擔錯兒】46 tang¹ ts'uo⁴ êrh 過失を引き受ける。

【擔屎漢】47タンシカン 肥桶を擔ふ男。人をそしつていふ。屎は糞。〔大藏一覽〕德山云、文殊普賢、是擔屎漢。

【擔糖湯】48 tan¹ t'ang² t'ang¹ 花嫁が男家に輿を着ければ、男家は先づ七八歲の童子に盛裝させ糖湯を花嫁に飮ませること。浙江省海寧地方の風俗。

【擔板漢】49タンパンカン 板をになふ者は、其の一方は見えるが他方は見えないやうに、一を知つて其の二を知らない者の喩。〔碧巖錄〕這擔板漢。

【擔不起】50 tan¹ pu ch'i³ 引受けられない。

【擔不是】51 tan¹ pu² shih⁴ 罪を引受ける。

【擔飢受凍】52 tan¹ chi¹ shou⁴ tung⁴ ひもじい目にも寒い目にもあふ。

【擔沈重兒】53 tan¹ ch'en² chung⁴ êrh 重い責

任を負ふ。

【擔榜狀元】54 タンバウジヤウゲン 科擧の試驗に、第五甲の末で及第した人。〔茶香室叢鈔、七、擔榜狀元〕宋趙升朝野類要云、第五甲末、名爲㆓擔榜狀元㆒、按、今有㆓背榜之稱㆒、背負與㆓擔荷㆒、其義一也。〔稱謂錄、殿軍、擔榜狀元〕朝野類要、謂㆓五甲末名㆒爲㆓擔榜狀元㆒、朱文公卽五甲進士、故有㆑若㆑使㆔當年無㆓五甲㆒、先生也、是落孫山之句、今無㆓五甲㆒、是三甲末名、亦稱㆓擔榜狀元㆒矣。

【擔遲不擔錯】55 tan^1 ch'ih^2 pu^4 tan^1 ts'uo^4 時日は遲くなつても決して間違ひはない。

【⿰扌⿱曰男】 12829

バン

搬（5－12635）の俗字。〔正字通〕⿰扌⿱曰男、俗搬字。

【⿰扌⿱山隽】 12830

ケイ

攜（5－13008）の俗字。〔正字通〕⿰扌⿱山隽、俗攜字。

【㩗】 12831

ケイ

攜（5－13008）の俗字。〔正字通〕㩗、俗攜字。

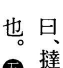
【⿰扌煎】 12832

セン

揃（5－12319）の俗字。〔正字通〕⿰扌煎、俗揃字。

【擖】 12833

㈠カツ ケチ 〔集韻〕古滑切 ㄍㄜˋ ko^4 黠
㈡ガツ ゲチ 〔集韻〕五瞎切 黠
㈢エフ 〔集韻〕弋涉切 葉
㈣ケイ 〔集韻〕去例切 霽
㈤カツ カチ 〔集韻〕居曷切 曷
㈥タフ デフ 〔集韻〕直甲切 洽
㈦ラフ 〔集韻〕力盍切 合
㈧レフ 〔集韻〕力涉切 葉



㈠㈡❶**けづる**。〔說文〕擖、刮也、从㆑手葛聲。❷**かく**。〔廣雅、釋詁二〕擖、搔也。❸**むちうつ**。〔說文〕擖、一曰、撻也。❹**をる**。〔廣雅、釋詁一〕擖、折也。❺**かける**。〔廣韻〕擖、架也。㈢**塵取の舌**。箕の物を掃き入れる處。〔集韻〕擖、箕舌。〔禮、少儀〕拚㆑席不㆑以㆑鬛、執㆑箕膺㆑擖。〔疏〕當㆑持㆓箕舌㆒、自嚮㆓胷前㆒也。㈣**けづる**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕搳、刮也。㈤搳擖は、くさびを打つ音。〔集韻〕搳、搳擖、楔木聲。㈥押擖は、重なるさま。〔集韻〕擖、押擖、重接皃。㈦**くだく**。擸（5－12902）に同じ。〔集韻〕擸、拆也、或作㆑擖。㈧**正しくもつ**。擸（5－12902）に同じ。〔集韻〕擸、說文、理持也、或作㆑擖。

【擗】 12834

㈠ヘキ ビヤク 〔集韻〕毗亦切 ㄆㄧˋ p'i^4 陌
㈡ヘキ ビヤク 〔韻會〕匹歷切 錫
㈢ハク ビヤク 〔集韻〕博厄切 陌

㈠❶**むねをうつ**。〔字彙〕擗、拊㆑心。〔孝經、喪親章〕擗踊哭泣。❷**なでる**。〔集韻〕擗、撫也。❸通じて辟（10－38642）に作る。〔爾雅、釋訓、辟、拊㆑心也、釋文〕辟、字宜㆑作㆑擗。㈡❶**をる**。〔楚辭、九歌、湘夫人〕擗㆑蕙櫋兮既張。〔注〕擗、折也。❷**ひらく**。〔韻會〕擗、開也。〔正字通〕擗、擘開也。㈢**ひく**。又、**おやゆび**。擘（5－12835）に同じ。〔集韻〕擘、說文、撝也、一曰、大指、或書作㆑擗。

【擗易】1 ヘキエキ おそれしりぞく。辟易（10－38642・・11）の❷に同じ。〔李翰、裴將軍旻射虎圖贊〕喪精擗易。

【擗開】2 ヘキカイ あける。破りあける。〔韻會〕擗、開也。

〔擗開揉碎〕3 p'i^4 k'ai^1 jou^2 sui^4 詳しく說きあかす。

【擗杏】4 ヘキキヤウ さけ開いたあんず。〔韓詩外傳、九〕目如㆓擗杏㆒、齒如㆓編貝㆒。

【擗琴】5 ヘキキン 琴を破る。破琴。〔韓詩外傳、九〕鍾子期死、伯牙擗㆑琴絕㆑絃、終身不㆓復鼓㆑琴、以爲世無㆑足㆓與鼓㆑琴也。〔校注〕擗、呂劉皆作㆑破。

【擗算】6 ヘキサン 宋代、夏國で、竹を以て吉凶を卜したこと。〔宋史、外國二、夏國傳下〕每㆑出㆑兵、則先卜、卜有㆑四、云云、二擗㆓竹於地㆒、若㆓揲蓍㆒以求㆑數、謂㆓之擗算㆒。

【擗破】7 p'i^4 p'o^4 割き破る。あける。

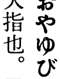
【擗摽】8 ヘキヘウ 胸を拊つて悲しむ。詩經、邶風、柏舟の寤擗有㆑摽から出た語。辟摽。〔馬融、長笛賦〕靁歎頹息、掐㆑膺擗摽。〔注〕善曰、毛詩曰、寤擗有㆑摽、毛萇曰、擗摽、拊㆑心皃、翰曰、擗摽、撫㆑心也。〔張協、七命〕焭嫠爲㆑之擗摽、孀老爲㆑之嗚咽。〔注〕善曰、毛詩曰、寤擗有㆑摽、毛萇曰、擗、拊㆑心貌。

【擗踊】9 ヘキヨウ 泣き悲しむ。慟哭する。擗は手を以て胸を打つこと。踊は足を以て地を打つこと。辟踊。〔孝經、喪親章〕擗踊哭泣、哀以送㆑之。

【擗踴】10 ヘキヨウ 擗踊に同じ。〔晉書、劉元海載記〕七歲遭㆓母憂㆒、擗踴號叫、哀感㆓旁鄰㆒。〔北史、孝行、荆可傳〕母喪水漿不㆑入㆑口三日、悲號擗踴、絕而後蘇者數四。

【擘】 12835

㈠ハク ヒヤク 〔集韻〕博厄切 ㄅㄛˋ po^4 陌
㈡ヘキ ビヤク 〔集韻〕蒲歷切 錫



㈠❶**おやゆび**。〔說文通訓定聲〕擘、大指也。〔爾雅、釋魚〕首大如㆑擘。〔釋文〕擘、大指也、手足大指俱名㆑擘。〔孟子、滕文公下〕吾必以㆓仲子㆒爲㆓巨擘㆒焉。〔注〕巨擘、大指也。❷**さく**。つんざく。劈（2－2223）に通ず。〔說文〕擘、撝也、从㆑手辟聲。〔說文通訓定聲〕擘、叚借爲㆑劈。〔廣雅、釋言〕擘、剖也。〔玉篇〕擘、裂也。〔廣韻〕擘、分擘也。〔淮南子、要略〕擘㆓畫人事之終始㆒者也。〔注〕擘、分也。〔張衡、西京賦〕擘㆑肌分㆑理。〔注〕善曰、鄭玄周禮注曰、擘、破裂也。❸或は擗（5－12834）に作る。〔集韻〕擘、或書作㆑擗。❹通じて辟（10－38642）に作る。〔禮、喪大記、絞㆓一幅㆒爲㆑三、不㆑辟、疏〕古字假借、讀㆑辟爲㆑擘也。❺捭（5－12200）に通ず。〔禮、禮運、其燔㆑黍捭㆑豚、釋文〕捭、注作㆑擗、又作㆑擘。㈡**おやゆび**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕擘、大指。

【擘肌】1 ハクキ 肌をつんざく。擘㆑肌分㆑理（9－29242・・31）を見よ。〔張衡、西京賦〕剖㆓析毫釐㆒、擘㆑肌分㆑理。〔注〕善曰、鄭玄周禮注曰、擘、破裂也、說文曰、肌、肉也。

【擘窠】2 ハククワ ❶篆刻に用ひる書體の一。題額などに文字を正しく割り付けて書くもの。〔通雅、器用、書法〕擘窠、言㆓擘書窠分㆒也。〔唐顏魯公集〕乞㆓御書天下放生池碑額㆒表云、絹寫一本、附㆓史元琮㆒奉進、兼乞㆓御書題額㆒、以光㆓揚不朽㆒、緣㆓前書點畫稍細㆒、恐不㆑堪㆑經㆑久、臣今謹據㆑石擘窠大書一本、隨㆑表奉進。〔揚州畫舫錄〕汪楫使㆓琉球㆒、爲㆓其國王㆒書㆓殿榜㆒、縱筆爲㆓擘窠大書㆒。〔藝苑巵言〕蘇文忠擘窠大書、源自㆓魯公擘窠㆒、稍有㆓墨豬之誚㆒、最爲㆓淳古㆒。〔洞天清錄集〕漢印多用㆓五字㆒、不㆑用㆓擘窠㆒、篆上移、篆畫停勻、故左有㆓三字㆒、右有㆓二字㆒、或左㆓二字右㆓三字者。❷大字を書く書法。〔書學捷要、下〕書有㆓擘窠書者㆒、大書也、特未㆑詳㆓擘窠之義㆒、意者擘、巨擘也、窠、穴也、卽大指中之窠穴也、把㆓握大筆㆒在㆓大指中之窠㆒、卽虎口中也、小字中字用㆓撥鐙㆒、大筆大書用㆓擘窠㆒、然把㆓握提斗大筆㆒、用㆓擘窠㆒仍須㆓雙鉤㆒、用㆓名指㆒揭㆑筆、不㆑可㆓五指齊握㆒。

【擘畫】3 ハククワク きりもりして處分する。決斷する。〔淮南子、要略〕擘㆓畫人事之終始㆒者也。〔注〕

擘、分也。〔蘇軾、上㆓神宗皇帝㆒書〕凡所㆓擘畫㆒利害、不㆑問㆓何人㆒。〔朱子全書、學、讀書法〕今又就㆓上面㆒更起㆓意思㆒、擘畫分疏、費力愈多。

【擘劃】4 ハククヮク 擘畫に同じ。

【擘攫】5 ハククヮク つんざきつかむ。〔埤雅、釋獸、羆〕遇㆑人、則擘而攫㆑之。

【擘指】6 ハクシ おやゆび。おほゆび。第一指。大指。拇指。巨指。巨擘。〔爾雅、釋魚〕蝮虺博三寸、首大如㆑擘。〔注〕身廣三寸、頭大如㆓人擘指㆒。〔事物異名錄、形貌、手〕爾雅、蝮蛇首大如㆑擘、註、頭大如㆓人擘指㆒、按、擘指、大指也、卽孟子所謂巨擘是也。

【擘紙】7 po^4 chih^3 紙を裂く。

【擘牋】8 ハクセン 紙を裁ちきる。擘箋。〔北夢瑣言〕羅紹威擘㆑牋起草、下㆑筆成㆑文。

【擘箋】9 ハクセン 紙を裁ちきる。擘牋に同じ。

【擘地】10 ハクチ 地をさくこと。〔韓偓、寶劍詩〕斗間紫氣分明後、擘㆑地成㆑川看㆑化㆑龍。

【擘張】11 ハクチヤウ 手で弩弓をはる。又、其のいしゆみ。〔漢書、申屠嘉傳、以㆓材官㆒蹶張、注〕師古曰、今之弩以㆑手張者、曰㆓擘張㆒、以㆑足蹋者曰㆓蹶張㆒。

【擘豚】12 ハクトン 豚をきりさく。〔孔子家語、問禮〕燔㆑黍擘㆑豚、汙罇而杯飮。

【擘膚】13 ハクフ はだをつんざく。〔岑參、酬㆓成少尹駱谷行見㆑呈詩〕飛雪縮㆓馬尾㆒、烈風擘㆓我膚㆒。

【擘餠】14 po^4 ping^3 餠を割る。

【擘李】15 ハクリ 李の一種。熟すれば自ら裂ける李。〔羣芳譜〕擘李。〔注〕熟則自裂。

【擘裂】16 ハクレツ ひきさく。つんざく。劈裂。〔揚雄、太玄賦〕翠羽嫩而殃㆑身兮、蚌含㆑珠而擘裂。〔李咸用、石版歌〕雷根擘裂雷斧痕、龍泉切撲青皮皴。〔孟郊、品松詩〕抓拏巨靈手、擘裂少室峯。〔明皇十七事〕希烈既平㆑人、發㆓眞卿棺㆒欲㆓改葬㆒、瞋㆑目如㆑生、遽掩㆑之、隱士曹庸山曰、此後三十年、能擘裂、飛騰而出。

【擘箜篌】17 ハクコウコウ 樂器の名。本名、高昌樂。二十二絃あり、竪に懷に抱いて兩手でかきならすもの。〔舊唐書、音樂志二〕竪箜篌、胡樂也、漢靈帝好㆑之、體曲而長、二十有二弦、竪抱㆓於懷㆒、用㆓兩手㆒齊奏、俗謂㆓之擘箜篌㆒。

【擘柳風】18 ヘキリウノカゼ 柳の枝を折る風。春の暴風をいふ。〔風土記〕河朔春時、疾風數日、一作三日乃止、曰㆓吹花擘柳風㆒。〔遯齋閑覽〕河朔春時、疾風數日、一作、二三日方止、名曰㆓吹花擘柳風㆒、草木百數皆藉㆑之。

【⿰扌歈】 12836 ユ

揄（5－12320）に同じ。〔集韻〕揄、或从㆑欿。

【⿰扌義】 12837 ギ

檥（6－15690）の譌字。〔正字通〕⿰扌義、檥字之譌。

【擙】 12838 アウ オウ

〔字彙〕於到切 號

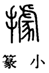
みがく。〔字彙〕擙、擙磨也。

【據】 12839

㈠キヨ コ 〔集韻〕居御切 ㄐㄩˋ chü^4 御

㈡キヨ ゴ 〔集韻〕其據切 御

㈢ケキ キヤク 〔康熙字典〕訖逆切 陌


小篆

㈠❶よる。㋑よりもつ。すがる。〔說文〕據、杖持也、从㆑手豦聲。〔段注〕謂㆓倚㆑杖而持㆑之也。〔廣雅、釋言〕據、杖也。〔易、困〕困㆓于石㆒、據㆓于蒺蔾㆒。㋺たよる。たのむ。〔詩、邶風、柏舟〕亦有㆓兄弟㆒、不㆑可㆓以據㆒。〔傳〕據、依也。〔論語、述而〕據㆓於德㆒。〔集解〕何晏曰、據、杖也。㋩もとづける。〔正字通〕據、援也。〔廣雅、釋詁一〕據、引也。〔郭璞、爾雅序〕事有㆓隱滯㆒、援據徵㆑之。〔後漢書、荀爽傳〕引㆓據大義㆒、正㆓之經典㆒。〔廣書、劉知幾傳〕辯據明銳、視㆓諸儒㆒、皆出㆓其下㆒。㋥もとづく。〔漢書、鄒陽傳〕今天子據㆓先帝之遺業㆒、左規㆓山東㆒、右制㆓關中㆒。㋭をる。くらゐする。つく。〔國語、晉語一〕不㆑據㆓其安㆒。〔注〕據、居也。〔戰國、齊策〕猿獼猴錯㆑木、據㆑水則不㆑若㆓魚鼈㆒。〔注〕據、處也。〔張衡、東京賦〕據㆓其府庫㆒。〔注〕綜曰、據、就也。㋬しめる。よりたもつ。〔正字通〕據、拒守也。〔史記、孔子世家〕今孔丘得㆑據㆓土壤㆒、而賢弟子爲㆑佐、非㆓楚之福㆒也。〔史記、趙奢傳〕先據㆓北山上㆒者勝。〔呉志、孫皓傳、注〕割㆓據江南㆒、席㆓捲交廣㆒。㋣固くとり守る。〔論語、述而〕據㆓於德㆒。〔集注〕據者、執守之意。❷よりどころ。たより。〔後漢書、皇甫嵩傳〕州郡先㆑據、長吏多逃亡。❸あかし。しるし。根據、源。〔莊子、寓言〕天有㆓曆數㆒、地有㆓人據㆒。〔注〕據、徵也。〔呉志、張昭傳、注〕經有㆓明據㆒、傳有㆓徵案㆒。❹ひく。〔廣雅、釋詁一〕據、引也。〔揚雄、羽獵賦〕據㆓黿鼉㆒。〔注〕善曰、廣雅曰、據、引也。❺さだめる。〔方言、六〕據、定也。〔廣雅、釋詁四〕據、定也。❻やすんずる。おちつく。〔左氏、僖、五〕神必據㆑我。〔注〕據、猶㆑安也。❼おさへる。おほふ。〔廣雅、釋詁三〕據、按也。〔正字通〕據、按也。〔禮、玉藻〕君賜、稽首據㆑掌致㆓諸地㆒。〔注〕據㆑掌、以㆓左手㆒覆㆓按右手㆒也。〔孫希旦集解〕據㆑掌致㆓諸地㆒、爲㆓稽首拜之法㆒、據㆑掌、以㆓右手㆒據㆓左手之掌㆒也、致㆓諸地㆒、謂㆓首及手俱至㆑地也。❽爪でつかむ。〔老子、五十五〕猛獸不㆑據。〔注〕以㆑爪按拏曰㆑據。❾またぐ。〔書、禹貢、濟河惟兗州、傳〕東南據㆑濟。〔疏〕據、跨㆑之。❿うづくまる。〔釋名、釋姿容〕據、居也。〔疏證〕說文、居、蹲也、是卽踞字。⓫十里をいふ。晉の語。〔水經、河水注〕據者、晉言㆓十里㆒也。⓬俗に據に作る。〔集韻〕據、俗作㆑據、非是。⓭据（5－12204）に通ず。〔漢書、揚雄傳下、三摹九据、注〕晉灼曰、据、今據字也。⓮姓。〔萬姓統譜〕據、見㆓姓苑㆒、據成、玉田人、宣德中漏刻博士。㈡形態あるさま。遽（11－39161）に通ず。〔集韻〕遽、有㆑形皃、莊子、覺則遽遽然、或作㆑據。㈢爪でつかむ。〔史記、呂后紀〕見㆘物如㆓蒼犬㆒、據㆗高后掖㆖。〔注〕集解曰、徐廣曰、據、音戟。邦よんどころ。よんどころなしと打消に用ひて、やむを得ない、是非に及ばぬ、仕方がないの意を表はす。

【據鞍】1 キヨアン 馬のくらにまたがる。〔後漢書、馬援傳〕劉尚擊㆓武陵五溪蠻㆒、深入軍沒、援因復請㆑行、時年六十二、帝愍㆓其老㆒、未㆑許㆑之、援自請曰、臣尚能被㆑甲上㆑馬、帝令㆑試㆑之、援據㆑鞍顧眄、以示㆑可㆑用、帝笑曰、矍鑠哉是翁也。〔魏志、滿寵傳〕廉頗彊食、馬援據㆑鞍。〔周書、儒林、樊深傳〕朝暮還往、常據㆑鞍讀書。

【據依】2 キヨイ よる所。〔國語、周語下〕民無㆓據依㆒、不㆑知㆑所㆑力、各有㆓離心㆒。〔國語、晉語一〕民各有㆑心、無㆓所㆑據依㆒。

【據有】3 キヨイウ よりたもつ。たてこもりもつ。〔蜀志、諸葛亮傳〕孫權據㆓有江東㆒、已經㆓三世㆒、國險而民附。

【據云】4 chü^4 yün^2 云ふ所に據れば。

【據義】5 キヨギ 正道にしたがひよる。〔唐書、孫伏伽傳〕至誠慷慨據㆑義、懇切指㆓朕失㆒無㆑所㆑諱。

【據供】7 chü^4 kung^1 申し立てに據れば。

【據火】8 キヨクワ 螢火の異名。〔本草、螢火〕釋名、夜光、熠燿、卽炤、夜炤、景天、救火、據火、挾火、宵燭、丹鳥。

【據經】9 キヨケイ 聖人の經書を根據とする。〔後漢書、趙典傳〕朝廷每㆑有㆓災異疑議㆒、輒諮㆓問之㆒、典

據レ經正對、無レ所二曲折一。〔宋史、職官志四〕博士掌下講二定五禮儀一、式有二改革一、則據レ經審議上。

〔據經樓〕10 キョケイロウ 清、允禧(**1**－1338‥14)の室名。

【據險】11 キョケン 險阻の地によること。〔虎鈐經、人用〕沉毅而性執者、使レ據二險阻一。〔六部成語、兵部、據險、注解〕仗二著據一守險要之地、不二肯出降一。

【據估】12 キョコ 豫算額に據つて工事を辨理すること。〔六部成語、工部、據估、注解〕據二官吏所レ估用款之數一辨理也。

【據固】13 キョコ まもりかためる。〔蜀志、譙周傳〕當二殷周之際一、王侯世尊、君臣久固、民習所レ專、深根者難レ拔、據固者難レ遷。

【據梧】14 キョゴ 几によりかかる。〔莊子、齊物論〕昭文之鼓レ琴也、師曠之枝レ策也、惠子之據レ梧也、三子之知幾乎。〔疏〕言レ據レ梧者、只是以二梧几一而據レ之談說、猶二隱レ几者一也。〔世說新語、排調〕范榮期見二郗超一、俗情不レ淡、戲レ之曰、夷齊巢許一詣垂レ名、何必勞レ神苦レ形、支レ策據レ梧邪。

〔據梧軒〕15 キョゴケン 清、葉奕苞(**9**－31387‥163)の室名。

【據此】16 chü^4 tz'ŭ^3 云云の趣承知した。下行文の用語。

【據膝】17 キョシツ ひざにもたれよる。〔莊子、漁父〕左手據レ膝、右手持レ頤。

【據實】18 キョジツ 事實に依據する。ありのまま。〔後漢書、左雄傳〕言レ善不レ稱レ德、論レ功不レ據レ實。

【據掌】19 キョシヤウ 左手で右手をおほひなでる。〔禮、玉藻〕君賜稽首據レ掌致二諸地一。〔注〕致二首於地一、據レ掌、以二左手一覆二按右手一也。

【據城】20 キョジヤウ 城にたてこもる。〔後漢書、王昌傳〕光武乃引レ兵東北圍二鉅鹿一、郎太守王饒據レ城數十日、連攻不レ剋。

【據情】21 chü^4 ch'ing^2 ありのまま。實際のまま。

【據守】22 キョシユ たてこもり守る。〔晉書、李特載記〕羅尙據二大城一自守。

【據處】23 キョショ より所として居る。〔韓愈、鱷魚文〕據處食二民畜熊豕鹿麞一、以肥二其身一。

【據稱】24 chü^4 ch'êng^1 いふ所によれば。

【據軾】25 キョショク 車の前の横木によりかかる。〔莊子、盜跖〕據レ軾低レ頭。

【據說】26 chü^4 shuo^1 いふ所によれば。

【據竊】27 キョセツ こもりゐてぬすみとること。〔創業起居注〕羣凶據竊。

【據榻】28 キョタフ 腰掛にもたれる。〔唐書、李義琛傳〕初義琰使二高麗一、其王據レ榻召見。

【據仗】29 キョチヤウ よる。〔漢書、杜欽傳〕孤獨特立、莫レ可二據仗一。

【據呈】30 chü^4 ch'êng^2 差出した願書により。

【據點】31 キョテン よりどころ。

【據德】32 キョトク 德を固く執り守る。〔論語、述而〕子曰、志二於道一、據二於德一、依二於仁一、游二於藝一。〔集注〕據者、執守之意、德則行レ道、而有レ得二於心一者也、得二之於心一、而守レ之不レ失、則終始惟一、而有二日新之功一矣。

【據法】33 キョハフ 法律による。掟によること。据法。〔史記、酷吏傳贊〕趙禹時據レ法守レ正。〔魏志、臧霸傳〕父戒爲二縣獄掾一、據レ法、不レ聽二太守欲レ所二私殺一、太守大怒、令二收戒詣レ府、時送者百餘人、霸年十八、將二客數十人一、徑於二費西山中一要二奪之一、送者莫二敢動一。

【據禀】34 キョヒン 申し立てによる。〔福惠全書、蒞任部、禀帖、贅說〕據レ禀以二其種地三十畝一、節年欺隱、未レ入二流水一。

【據阨】35 キョヤク けはしくせまい所による。〔史記、秦始皇紀〕閉レ關據レ阨。

【據理】36 キョリ 道理による。理窟による。〔北史、陽固傳〕初硤石之役、固有二先登之功一、而朝賞未レ及、至レ是與二尙書令李崇一、訟レ勳更相表、崇雖二貴盛一、固據レ理不レ撓、談者稱レ焉。

【據梁】37 キョリヤウ つよいこと。強梁(**4**－9815‥213)の❶に同じ。一說に、古の勇士の名。〔莊子、大宗師〕夫无莊之失二其美一、據梁之失二其力一、黃帝之亡二其知一、皆在二鑪捶之閒一耳。〔釋文〕无莊・據梁、司馬云、皆人名、李云、據梁、強梁也。〔疏〕據梁、古之多力之人。

【據犁】38 キョレイ すきを操る。〔新語、資質〕夫窮澤之民、據犁接耜之士、或懷二不羈之才一。

【據我想】39 chü^4 wo^2 hsiang^3 私の考へる所によれば。

【據你說】40 chü^4 ni^3 shuo^1 君の說によれば。

【擊】12840 ガウ 擊(**5**－12626)の本字。〔正字通〕擊、擊本字。

【擛】12841 エフ 〔集韻〕弋涉切 ［葉］

擛擛は、うごくさま。或は聶(**9**－29179)に作る。〔集韻〕擛、擛擛、動皃、或从二三耳一。

【擜】12842 ［一］ヒョウ ビョウ 〔篇海〕皮證切 ［徑］ ［二］ヒョウ ビョウ 〔篇海〕皮冰切 ［蒸］

［一］［二］**几にもたれる。**〔篇海〕擜、依レ几也。

【擙】12843 ソン 搎(**5**－12464)に同じ。〔集韻〕搎、或从レ廾。

【擑】12844 セフ 捷(**5**－12216)に同じ。〔篇海〕擑、同レ捷。

【摤】12845 サウ 搶(**5**－12525)に同じ。〔集韻〕搶、或从レ摤。

【擌】12845′ サイ ムㄞ sai^1

［現］ふさぐ。又、ふさぐ物。

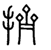
十四畫

【摷】12846 サウ 摷(**5**－12643)の本字。〔正字通〕摷、摷本字。

【擟】12847 ミ ビ 〔廣韻〕武移切 ［支］

擟拘は、山名。〔廣韻〕擟、擟拘、山名。〔正字通〕擟、按杜陽雜編、拘弭國有二大凝山一、弭、亦作レ擟、擟拘、卽拘弭之譌。

【擠】12848 ［一］セイ サイ 〔集韻〕子計切 ［霽］ ［二］セイ サイ 〔集韻〕子禮切 ㄐㄧˇ chi^3 ［薺］ ［三］セイ サイ 〔集韻〕牋西切 ［齊］


小篆

［一］［二］［三］❶**おす。おしおとす。**おしのける。〔說文〕擠、排也、从レ手齊聲。〔廣雅、釋詁三〕擠、推也。〔正字通〕擠、推レ之使レ墜也。〔莊子、人間世〕因二其脩一而擠レ之。〔釋文〕擠、一云、陷也、簡文云、排也。〔漢書、賈損之傳〕擠二之大海之中一。〔注〕師古曰、擠、墜也。❷**おちる。**〔左氏、昭、十三〕小人老而無レ子、知レ擠二于溝壑一矣。〔注〕擠、隊也。❸**そこなふ。又、ほろぼす。**〔莊子、人間世〕因二其脩一而擠レ之。〔釋文〕擠、司馬云、毒也、方言云、滅也。❹**くじく。**〔楚辭、王逸、九思、憫上〕魁壘擠摧兮常困辱。〔注〕擠摧、折屈也。〔淮南子、俶眞訓〕飛鳥鎩レ翼、走獸擠レ腳。❺**近づく。**擠近(8)を見よ。❻［現］㋑絞る。搾る。㋺つまる。窮屈。㋩銀行の取付。

【擠軋】1 chi^3 ya^4 人を押しのける。

【擠害】2 セイガイ おとしいれそこなふ。陷害。〔元史、阿魯圖傳〕先レ是別兒怯不花嘗與二阿魯圖一

謀、擠㆓害脫㆒。

【擠陷】3 セイカン 惡意を以て人を罪におとしいれる。〔唐書、李泌傳〕又楊炎罪不㆑至㆑死、杞擠㆓陷之㆒、而相㆓闕播㆒。

【擠眼】4 chi² yen³ 目くばせする。

【擠機】5 セイキ ゆがけ。搬指（5—12507・・11）に同じ。〔庶物異名疏〕決、今俗呼爲㆓擠機㆒。

【擠響】6 セイキヤウ ひびきをおとす。一說に、ひびきをまつてなす。〔陸機、漢高祖功臣頌〕伐㆑謀先㆑兆、擠㆓響于音㆒。〔注〕善曰、言、將㆑伐㆓其謀㆒、先㆓其未㆑兆、欲㆑墜㆓其響㆒、在㆓於爲㆑音、良曰、凡響出㆓於音㆒、故須㆓音響㆒相濟也。

【擠腳】7 セイキヤク 足をそこなふ。〔淮南子、俶眞訓〕飛鳥鎩㆑翼、走獸擠㆑腳。

【擠近】8 chi³ chin⁴ ちかづく。接近。〔燕子箋、試窘〕莫擠近柵欄邊去。

【擠摧】9 セイサイ 折れくじく。〔楚辭、王逸、九思、憫上〕年齒盡兮命迫促、魁壘擠摧兮常困辱。〔注〕擠摧、折屈也。

【擠擦】10 セイサツ こすつてみる。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕若檢洗擠擦肉內四畔。

【擠攢】11 chi² tsan² おし寄せてくる。〔長生殿、合圍〕這閒四下裏來擠攢擠攢。

【擠死】12 chi² ssŭ³ 群衆の力で押し殺される。

【擠進】13 chi³ chin⁴ 人を推し分けて進む。

【擠水】14 chi² shuei³ ポンプで水を押し出す。

【擠洗】15 セイセン あらひおとす。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕至㆓溪河㆒將㆓傷處㆒擠洗血盡。

【擠兌】16 chi³ tuei⁴ 多人數押し合つて銀行に取り付ける。

【擠對】17 chi³ tuei⁴ ❶強迫する。❷取り付ける。

【擠倒】17′ chi² tao³ 取り付けにあつて破産する。

【擠奶】18 chi² nai³ 乳をしぼる。

【擠住】19 chi³ chu⁴ しつかりとおしつける。

【擠乳】20 chi² ju³ 乳を搾り出す。

【擠破】21 chi³ pʻo⁴ ❶押し破る。しめ破る。❷靴ずれ。

【擠排】22 セイハイ サイハイ おし斥ける。おしのける。排擠。〔漢書、薛宣傳〕劉氏孤弱、王氏擅㆑朝、擠㆓排宗室㆒。〔馮子振、十八公賦〕揮㆓斥日月㆒、擠㆓排煙霞㆒。

【擠閉】23 chi³ pi⁴ 取り付けにあつて閉店する。

【擠變】24 chi³ pien⁴ 壓制したために變事を激成する。

【擠擁】25 chi² yung³ 群衆がおし合ふ。

【擠抑】26 セイヨク 排斥しておさへつける。〔唐書、李晟傳〕通王府長史丁瓊者、嘗爲㆓延賞㆒擠抑、內怨望。

【擠爛】27 chi³ lan⁴ 押されてくさる。

【擠訛兒】28 chi³ ê² êrh 云ひがかりをつけて金錢をゆすり取る。

【擠鼓眼】29 chi² ku² yen³ 目くばせする。

【擠得慌】30 chi³ tê huang おし合つて身動きもならない。

【擠不動】31 chi³ pu tung⁴ 押し合つて動けない。

【擠眉弄眼】32 chi³ mei² nung⁴ yen³ 目くばせする。

【擠鼻子弄眼兒】33 chi³ pi² tzŭ nung⁴ yen³ êrh 目つき口つきで知らせる。

【擙】12849

㊀ヘウ 〔集韻〕俾小切 篠

㊁ヘウ 〔集韻〕卑遙切 蕭

㊀**おちる。** 摽（5—12651）に同じ。〔集韻〕擙、落也、北史、擙㆓其門閭㆒。〔正字通〕擙、與㆑摽通。㊁**しるし。** 表（10—34105）に同じ。〔集韻〕表、識也、或作㆑擙。

【㩡】12850

タク

拓（5—11958）に同じ。〔集韻〕拓、或从㆑橐。

【擡】12851

タイ ダイ 〔集韻〕堂來切 灰 ㄊㄞˊ tʻai²

❶**うごかす。** ゆする。〔廣雅、釋詁一〕擡、動也。〔玉篇〕擡、動振也。❷**もたげる。** あげる。〔廣韻〕擡、擡擧。〔開元天寶遺事、天寶上、依㆓冰山㆒〕使㆓擡㆑頭不㆒㆑得。❸俗に抬（5—11910）に作る。〔辭海〕擡、俗作㆑抬。

❹現 二人でかつぐ。

【擡愛】1 tʻai² ai⁴ 愛顧を蒙る。

【擡價】2 tʻai² chia⁴ 價を上げる。

【擡杠】3 tʻai² kang⁴ ❶逆ふ。爭ふ。意地を張る。❷肩で擔ぐ。

【擡高】4 tʻai² kao¹ 上へ高く持ちあげる。騰貴する。

【擡槓】5 tʻai² kang⁴ 爭論する。意地を張る。

〖擡槓辯嘴〗6 tʻai² kang⁴ pien⁴ tsuei³ 逆ふ。爭論する。

【擡閣】7 tʻai² kê² 祭禮。

【擡貴】8 tʻai² kuei⁴ 値上げする。

【擡擧】9 タイキヨ ❶さしあげる。もちあげる。〔元稹、高荷詩〕亭亭自擡擧、鼎鼎難㆓藏擪㆒。〔元稹、牡丹詩〕風光一擡擧、猶得暫時看。❷稱揚する。人物をぬきすすめる。ひきあげ用ひる。〔白居易、霓裳羽衣歌〕妍媸優劣寧相遠、大都只在㆓人擡擧㆒。〔張元晏、謝㆓辛相㆒啓〕驟忝㆓轉遷㆒、盡由㆓擡擧㆒。〔水滸傳、十二回〕梁中書見㆓他勤謹㆒、有㆑心要㆔擡㆓擧他㆒。❸tʻai² chü³ 花卉を培養して豐肥ならしめること。

【擡轎】10 タイケウ かごをかつぐ。〔明律、兵律、郵驛〕凡各衙門官吏、及出使人員、役㆓使民人㆒擡轎者、杖六十、有司應㆑付者減㆓一等㆒、若豪富之家、役㆓使佃客㆒擡轎者、罪亦如㆑之、每名計㆓一日㆒、追㆓給雇工錢六十文㆒。

【擡肩】11 tʻai² chien¹ 衣服の袖付け。

【擡估】12 タイコ 見積りの値段を更に增すこと。估は見積りの價。〔五代史、漢臣十八、王章傳〕百官俸廩、皆取㆓供㆑軍之餘㆒、不㆑堪者、命㆓有司㆒高估㆓其價㆒、估定又增、謂㆓之擡估㆒。

【擡槍】13 tʻai² chʻiang¹ 擡鎗に同じ。

【擡鎗】14 tʻai² chʻiang¹ 數人で擔ぐ火繩銃。大型の銃。

【擡寫】15 タイシヤ 上奏文や一般の文書中で皇室天地陵寢等に關する文字は一段高くあげること。淸朝に於ては、特に嚴重で單擡・雙擡・三擡の別がある。單擡は一般の字格より一位を高くするもので、宮殿政府の性格及び臣民の皇帝に對する行位を指示する文字に用ひ、雙擡は二位を高くするもので、皇帝皇后の性格及び行爲を指示する文字に用ひ、三擡は三位を高くするもので、列祖・列宗・太上皇・皇太后並に天地郊壇太廟等に關する文字に用ひる。〔淸會典事例、內閣、職掌〕嘉慶五年諭、近來各省陳奏事件、凡本章摺奏內、恭載㆔乾隆年閒皇考諭旨、與㆓嘉慶年閒所㆑降諭旨㆒、一律擡寫、殊非㆓敬謹之道㆒、所㆑有各省呈遞本章、經㆓內閣㆒票擬、其擡寫不㆑合之處、俱籤出請㆑旨飭行、而各省遞到奏摺、摺寫每㆑有㆓參差㆒、未㆑經㆓通飭㆒、嗣後在京各衙門各直省文武大臣、遇㆑有㆓陳奏事件㆒、恭載㆓乾隆年閒皇考諭旨㆒、首行俱用㆓三擡㆒、嘉慶年閒、朕節次所㆑降諭旨、首行俱用㆓雙擡㆒、均當㆓一體遵㆒、不㆑得㆓仍㆑前疏忽㆒。〔淸國行政法汎論、皇室、擡寫〕擡寫、謂臣下章奏、及一般文書中、凡關㆓繫於皇室天地陵寢等㆒之字樣、不㆘與㆓他字樣㆒平行抄寫㆖、必於㆓次行上位㆒、擡㆓頭一格、或二三格㆒、以抄寫也。

【擡頭】16 タイトウ ❶あたまをもちあげる。〔皮日休、病孔雀詩〕煙花雖㆑媚思沈冥、猶自擡㆑頭護㆓翠翎㆒。❷文章を書き下す時、帝王や高貴の人に關係ある敬語、或は姓名に敬意を表して之を次行に送り、普通の行の欄よりも高く著はして書く書式。一字上るを一字擡頭、二字上るを二字擡頭といふ。擡寫を見よ。〔明律、附解〕第一擡頭、第二擡頭。〔淸會典事例、內閣職掌〕嗣後題奏本章、除㆓式樣擡頭錯誤㆒外、通政司不㆑得㆘以㆓字數款項多寡㆒違㆖㆑式。〔經解入門、科場解經式〕經解與㆑策不㆑同、通體皆無㆓擡頭㆒、其擡頭者、乃引㆓御纂・欽定等書㆒耳、然引㆓此書㆒、且須㆓三擡㆒、以㆓其皆先王所㆑定故也。〔鶩津穀堂、親燈餘影〕春秋正義云、魏晉儀注、寫表有㆓出格㆒、則擡頭之例、當時既有㆑之。

〖擡頭不㆑起〗17 タイトウタタズ 頭を持ち上げて起ち上がることができない。〔開元天寶遺事、天寶上、依㆓冰山㆒〕張生曰、大丈夫有㆓凌霄蓋世之去㆒、而拘㆓於下位㆒、若㆘立㆓身於矮屋中㆒、使㆗人擡㆑頭不㆖㆑得、遂拂㆑衣長往、歸㆓遯於崧山㆒。〔朱子文集〕答㆓潘叔昌㆒曰、世俗近年有㆓一種議論㆒、愈見㆓卑狹㆒、令㆓人

擡頭不レ起轉身不レ得。

【擡榜】18 t'ai² pang³　試驗の成績を發表する。

【擡起來】19 t'ai² ch'i lai　❶持上げる。❷喧嘩をはじめる。

【擡死扛】20 t'ai² ssŭ³ kang⁴　飽く迄も意地を張る。

【擡不動】21 t'ai² pu tung⁴　持上げられない。

【擡龍頭】22 タイリュウトウ　二月二日をいふ。此の日は灰を門外から臺所の水瓶の周圍まで撒く。一に龍擡頭につくる。〔宛署記〕燕都人呼二二月二日一爲二擡龍頭一、郷民用レ灰、自二門外一蜲蜿布入二宅廚一、繞二水缸一、呼爲二引龍回一。

【擡石頭神】23 t'ai² shih² t'ou shen²　婦女が石を麻繩に結び、竈神の前で咒文を唱へた後、之を運搬する遊戲。河南地方正月の風習。

【擡送嫁粧】24 t'ai² sung⁴ chia⁴ chuang¹　嫁入道具をかついで送る。

【擡不起來】25 t'ai² pu ch'i³ lai　持上げられない。

【擢】12852

タク　〔集韻〕直角切　覺
ダク　ㄓㄨㄛˊ chuo²
慣テキ

小篆文

❶ぬく。ひきぬく。ぬきさる。〔說文〕擢、引也、从レ手翟聲。〔方言、三〕擢、拔也、自レ關而西、或曰レ拔、或曰レ擢。〔小爾雅、廣物〕拔レ根曰レ擢。〔集韻〕擢、一曰、拔也。〔正字通〕擢、取也。〔韓非子、姦劫弑臣〕淖齒擢二湣王之筋一、縣二之廟梁一。〔莊子、駢拇〕擢レ德塞レ性。〔釋文〕擢、司馬云、拔也。〔淮南子、俶眞訓〕擢レ德捲レ性。〔注〕擢、取也。❷とる。さる。のぞく。とりさる。〔玉篇〕擢、去也、徹也。〔禮、少儀〕不レ擢レ馬。〔注〕擢、去也、謂レ徹也。❸ぬきんでる。㋑ひきあげる。〔正字通〕擢、今俗凡遷レ官曰レ擢、擢、猶レ升也、進也。〔戰國、燕策〕擢二之于賓客之中一、而立二之于羣臣之上一。㋺そばだつ。そびえる。ぬけ出る。〔廣雅、釋詁一〕擢、出也。〔增韻〕擢、聳也。〔張衡、東京賦〕徑百常而莖擢。〔注〕綜曰、擢、獨出貌也。❹のびる。長く伸びる。〔山海經、海內經〕韓流擢首。〔注〕擢、長咽也。

【擢擧】1 テキキョ　ひきぬいてあげ用ひる。擧擢。〔後漢書、獨行、雷義傳〕嘗擢二擧善人一、不レ伐二其功一。

【擢賢】2 テキケン　賢者をぬきんで用ひる。〔後漢書、黃瓊傳〕擢二賢於衆愚之中一、畫二功於無形之世一。〔北史、魏宣武帝紀〕往代擢賢之體、必令二才學並申、資望兼致一。

【擢秀】3 テキシウ　❶人品が群俗にすぐれぬきんでること。〔潘岳、悲二邢生一辭〕雄二州閭一以擢秀。〔徐勉、報二伏挺一書〕雄州擢秀、弱冠升レ朝、穿二綜百家一、佃二漁六學一。〔杜甫、醉歌行〕偶然擢秀非レ難レ取、會是排風有二毛質一。❷草木の穗が伸び長ずること。〔蘇軾、元修菜詩〕種レ之秋雨餘、擢レ秀繁霜中。〔沈演之、嘉禾頌〕擢二秀辰畦一、揚二穎角澤一。

【擢賞】4 テキシャウ　衆中からぬき出してほめる。〔陳書、宣帝紀〕戶有二增進一、卽加二擢賞一。

【擢首】5 テキシュ　頸の長いこと。〔山海經、海內經〕黃帝娶二雷祖一、生二昌意一、昌意降處二若水一、生二韓流一、韓流擢首謹耳、人面豕喙、麟身渠股豚止。〔注〕擢首、長咽。

【擢授】6 テキジュ　特にひきあげて高位高官を授ける。〔晉書、文苑、左思傳〕起二小吏一以レ能擢二授殿中侍御史一。

【擢出】6′ テキシュツ　ぬき出る。ぬき出す。

【擢潤】7 テキジュン　つやつやしくのびる。〔潘岳、河陽庭前安石榴賦〕新莖擢潤、膏葉垂腴。

【擢序】8 テキジョ　ぬきだして位に序する。〔後漢書、張陵傳〕明府不レ以二陵不肖一、誤見二擢序一。

【擢升】9 テキショウ　ぬきだして官位をのぼす。擢昇。〔鹽鐵論、刺復〕所二聞覩一選擧之士、擢升贊憲甚顯。

【擢昇】10 テキショウ　ぬきだして官位をのぼす。擢升。〔舊唐書、馬周傳〕自レ古郡守縣令、皆妙二選賢德一、欲レ有二擢昇一、宰相必先試以臨レ人。〔崔嘏、授二裴諗知制誥一制〕擢二昇翰苑一、入二侍禁闈一。

【擢進】11 テキシン　ぬきだして官位をすすめる。〔後漢書、文苑下、邊讓傳〕以二高才一擢進屢遷。

【擢對】12 テキタイ　水を貯へる器。〔淮南子、說林訓〕涔則具二擢對一。〔注〕擢對、貯レ水器。

【擢抽】13 テキチュウ　ひきぬく。抽擢(5－11930··65)に同じ。

【擢第】14 テキダイ　及第する。登第する。〔北史、柳謇之傳〕因奏爲二國子生一、以二明經一擢第。〔唐書、儒學下、趙冬曦傳〕冬曦進士擢第、歷二左拾遺一。

【擢登】15 テキトウ　ぬき上げて官位をのぼす。〔後漢書、徐穉傳〕若使下擢二登三事一、協中亮天工上、必能翼二宣盛美一、增二光日月一矣。

【擢德】16 テキトク　天から授かつた德をぬき去ること。〔莊子、駢拇〕擢レ德塞レ性、以收二名聲一。〔集解〕塞、當レ爲レ搴、形近而誤、擢搴、皆謂三拔二取之一。

【擢任】17 テキニン　ぬきんで用ひる。〔南史、鮑泉傳〕少事二元帝一、爲二國常侍一、早見二擢任一。〔唐書、田弘正傳〕帝皆擢二任之一。

【擢能】18 テキノウ　才能あるものをぬきんで用ひる。〔新論、薦賢〕昔時人君拔二奇于囚虜一、擢二能于屠販一。

【擢馬】19 テキバ　馬を去らしめる。〔禮、少儀〕不レ擢レ馬。〔注〕擢、去也、謂レ徹也。

【擢髮】20 テキハツ　かみの毛をぬく。又、擢髮難レ數の略。〔史記、范雎傳〕范雎曰、汝罪有レ幾、曰、擢二賈之髮一、以續二賈之罪一、尙未レ足。〔蘇頲、命二薛訥等一與二九姓一共伐二默啜一制〕數二其擢髮之愆一、成二於屈指之計一。〔李白、雪讒詩〕擢髮贖レ罪乃孔多。

【擢髮難レ數】21 テキハツカゾヘガタシ　數へるに堪へない程の多さ。極めて多い喩。〔蘇軾、惠州謝表〕方尙口乃窮之時、蓋擢髮莫レ數罪。

【擢拔】22 テキバツ　ぬきだす。ぬきだして登用する。拔擢。〔淮南子、俶眞訓〕今萬物之來、擢二拔吾性一、攓二取吾情一。〔枚乘、七發〕觀下其所二駕軼一者、所二擢拔一者上。

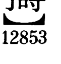
【擢本】23 テキホン　根を深く下ろすこと。又、木の幹の高く聳えてゐること。〔左思、吳都賦〕擢レ本千尋、垂陰萬畝。〔注〕翰曰、本、根也、言下本深枝盛、下達二千尋一、傍垂中蔭萬畝之地上。〔南史、齊高帝紀〕南有二一桑樹一、擢本三丈、橫生二四枝一。

【擢用】24 テキヨウ　ぬきんでもちひる。人材を選拔して官にあげ使ふ。〔後漢書、公孫述傳〕程烏李育以レ有二才幹一、皆擢二用之一。

【擢亂】25 テキラン　ぬきだしてみだす。〔莊子、胠篋〕擢二亂六律一。〔疏〕擢、拔也。

【擣】12853

㊀タウ　〔集韻〕覩老切　皓
　トウ　ㄉㄠˇ tao³
㊁チウ　〔集韻〕陳留切　尤
　チュ


小篆

㊀❶つく。㋑手でつきくだく。もと𢷎(5－12807)に作る。〔康熙字典〕擣、說文、本作レ𢷎。〔說文〕𢷎、手椎也、从レ手𠷎聲。〔段注〕以レ手爲レ椎而椎レ之。〔儀禮、有司徹〕擣肉之脯。㋺うすづく。〔字彙〕擣、舂也。㋩きづく。つきかためる。〔說文〕擣、一曰、築也。〔漢書、中山靖王勝傳〕惄焉如レ擣。〔注〕師古曰、擣、築也。㋥つきさす。攻める。〔廣雅、釋詁一〕擣、刺也。〔史記、孫子傳〕批レ亢擣レ虛。〔注〕索隱曰、擣者、擊也、衝也。❷うつ。たたく。〔字彙〕擣、敲也。〔李白、子夜吳歌〕長安一片月、萬戶擣レ衣聲。❸ふれる。〔管子、度地〕杜レ曲則擣毀。〔注〕擣、觸也。❹心臟の病氣。疛(7－22034)に通ず。〔說文通訓定聲〕擣、叚借爲レ疛。〔詩、小雅、小弁〕惄焉如レ擣。〔傳〕擣、心疾也。〔釋文〕擣、韓詩作レ疛。❺よる。嶹(4－9127)・㠀(4－8433)に通ず。〔說文通訓定聲〕擣、叚借爲レ嶹、或曰、說文、水中有レ山可二依止一曰レ㠀、疑借爲レ㠀、亦通。〔方言、十三〕擣、依也。❻或は搗(5－12605)・捯(5－12205)に作る。〔集韻〕擣、或作二擣・搗・捯一。❼搗(5－12480)に通ず。〔儀禮、有司徹、釋文〕擣、劉本作レ搗。❽現發覺す

る。㈡**あつまる**。稠(**8－25130**)に通ず。〔説文通訓定聲〕擣、叚借爲㆑稠。〔集韻〕擣、聚也。〔史記、龜策傳〕上有㆓擣蓍㆒、下有㆓神龜㆒。〔注〕索隱曰、擣、音逐留反、擣蓍、卽蘩蓍、擣、古稠字。

名乘 アツ。

【擣衣】1 タウイ 布帛をしなやかにし、又つやを出すためにきぬたにのせて槌でうつこと。ころもうつ。又、きぬた。〔曹毘、夜聽㆓擣衣㆒詩〕寒興御㆓紈素㆒、佳人理㆓衣衾㆒、冬夜淸且永、皓月照㆓堂陰㆒。〔謝惠連、擣衣詩〕衡紀無㆓淹度㆒、晷運倏如㆑催、白露滋㆓園菊㆒、秋風落㆓庭槐㆒。〔李白、子夜吳歌〕長安一片月、萬戶擣㆑衣聲。

【擣衣石】2 タウイセキ きぬた。うちばん。又、石の名。〔水經、沔水注〕其水南注㆑漢、水南有㆓女郞山㆒、云云、下有㆓女郞廟及擣衣石㆒、言㆓張魯女㆒也。〔郡國志〕梁州女郞山、張魯女浣㆓衣于石上㆒、女便懷孕、生㆓二龍㆒。

【擣鬼】3 tao² kuei³ 搗鬼。❶詭計を用ひる。うそをつく。❷かげでこそこそ言ふ。〔還魂記、婚走〕小姐搗鬼、秀才搗鬼。

【擣毀】4 タウキ ふれてこはす。〔管子、度地〕杜㆑曲則擣毀。〔注〕擣、觸也。

【擣虛】5 タウキョ すきをねらってつけ入る。虛に乘ずる。〔孫子、虛實、故能爲㆓敵之司命㆒注〕何氏曰、武論㆓虛實之法㆒、云云、避㆓其堅㆒而攻㆓其脆㆒、批㆓其亢㆒而擣㆓其虛㆒。〔史記、孫武傳〕批㆑亢擣㆑虛。〔唐書、南蠻中、南詔傳〕韋臯奏南詔必襲㆓邕管㆒、不㆓先防㆑近而圖㆑遠、恐擣㆑虛絕㆓糧道㆒。

【擣剉】6 タウザ こまかくつきくだく。〔齊東野語、絹紙〕蔡倫以㆑布、擣剉作㆑紙、故字從㆑巾。

【擣蓍】7 チウシ あつめ合はせためどぎ。擣は稠。〔史記、龜策傳〕上有㆓擣蓍㆒、下有㆓神龜㆒。〔注〕索隱曰、擣蓍、卽蘩蓍、擣、古稠字。

【擣遒】8 タウシウ うちせまる。〔新書、匈奴〕拊㆓胡嬰兒㆒、擣㆓遒之㆒、戲㆓弄之㆒。

【擣抄】9 タウセウ つきくだいて紙にすく。〔那珂通世、支那通史〕擣抄作㆑紙。

【擣綃】10 タウセウ きぬをうつて練る。〔韓愈、春雪詩〕城險疑㆑懸㆑布、砧寒未㆑擣㆑綃。

【擣素】11 タウソ 白ぎぬをうつ。〔班婕妤、擣素賦〕若乃廣儲懸月、暉水流淸、桂露朝滿、涼衿夕輕、云云、改㆓容飾㆒而相命、卷㆓霜帛㆒而下㆑庭、曳㆓羅裙之綺靡㆒、振㆓珠佩之精明㆒。

【擣繒】12 タウソウ きぬをうつ。擣帛に同じ。

【擣珍】13 タウチン 肉をついて作った珍味。〔禮、內則〕擣珍取㆓牛羊麋鹿麕之肉㆒、必胅。

【擣砧】14 タウチン きぬたで衣をうつ。擣碪に同じ。

【擣碪】15 タウチン きぬたで衣をうつ。碪は砧。〔述異記、上〕擣衣山、一名靈山、昔有㆓神女㆒、於㆑是擣㆑衣、其石明瑩、謂㆓之玉女擣練碪㆒。〔李賀、謝秀才有㆓妾縞練㆒云云嘲㆑謝賀復繼詩〕好作鴛城夢、南城罷㆓擣碪㆒。

【擣肉】16 タウニク 肉をこまかにつく。〔儀禮、有司徹取㆔糗與㆓腶修㆒〕腶修、擣肉之脯。

【擣帛】17 タウハク きぬをうつ。〔岑參、秋夜聞㆑笛詩〕天門街西聞㆓擣帛㆒、一夜愁殺江南客。〔白居易、太湖石詩〕磨㆑刀不㆑如㆑礪、擣㆑帛不㆑如㆑砧。

【擣藥】18 タウヤク 藥を舂つく。搗藥。〔南史、宋武帝紀〕帝伐㆓荻新洲㆒、見㆓大蛇長數丈㆒、射㆑之傷、明日復至㆓洲裏㆒、聞㆑有㆓杵臼聲㆒、往覘㆑之、見㆓童子數人、皆靑衣擣㆑藥、問㆓其故㆒、答曰、我王爲㆓劉寄奴所㆑射、合㆑散傅㆑之、帝叱㆑之皆散、仍收㆑藥而反。

【擣藥鳥】19 タウヤクテウ 鳥の名。形をあらはさずに、臼を搗く鳴き聲を出すといふ。〔羅浮志〕葛玄從㆓左慈㆒受㆓丹液仙經㆒、嘗於㆓西峰石壁上石臼中㆒擣㆑藥、因遺㆓一粟㆒、許有㆓飛禽㆒過而食㆑之、遂得㆑不㆑死、至㆓今夜靜月白風淸之時㆒、猶作㆓丁當杵臼之聲㆒、名㆑之曰㆓擣藥鳥㆒。

【擣練】20 タウレン 布帛などを打って練る。擣碪(15)を見よ。〔杜本、秋興詩〕月冷誰家頻擣練、風淸何處細吹㆑簫。

【擝】12854 ボウ ム 〔集韻〕謨蓬切 東

をさめる。とる。〔集韻〕擝、收斂也。

【⿰扌隱】12855 イン オン 〔集韻〕於靳切 問

わける。**ただしく量る**。或は⿰扌焉(**5－12620**)に作る。〔集韻〕⿰扌隱、劑也、一曰、平量、或从㆑焉。

【⿰扌拜】12856 ハイ 拜(**5－11969**)の古字。〔正字通〕⿰扌拜、古文拜。

【擤】12857 カウ キヤウ 〔篇海〕呼梗切 梗 ㄒㄧㄥˇ hsing³

はなをかむ。〔篇海〕擤、手捻㆓鼻膿㆒曰㆑擤。

【擤齈】1 hsing³ nung² 鼻汁をかみ取る。

【擤鼻涕】2 hsing³ pi² tʻi⁴ 鼻汁をかむ。

【⿰扌團】12858 タン 摶(**5－12642**)に同じ。〔集韻〕摶、亦从㆑團。

【擥】12859 ラン 攬(**5－13046**)・⿰扌監(**5－12860**)に同じ。〔集韻〕擥、或从㆑覽、从㆑監。〔正字通〕擥、別作㆑攬非。

【⿰扌監】12860 ㈠ラン 〔集韻〕盧甘切 覃 ㈡ラン

㈠**とる**。〔集韻〕⿰扌監、取也。㈡擥(**5－12859**)に同じ。〔正字通〕⿰扌監、同㆑擥。

【擈】12861 ㈠ホク 〔集韻〕普木切 屋 ㈡ハク

㈠**つきる**。〔集韻〕擈、方言、盡也。㈡撲(**5－12755**)に同じ。〔正字通〕擈、同㆑撲。

【擦】12862 サツ セチ 〔篇海〕初戛切 黠 ㄘㄚ tsʻa¹

❶**する**。強くこする。〔篇海〕擦、摩㆑之急也。❷現 拭ふ。

名乘 アキラ。

【擦牙】1 tsʻa¹ ya² 齒を磨くこと。

【擦汗】2 tsʻa¹ han⁴ 汗を拭ふ。

【擦乾】3 tsʻa¹ kan¹ きれいに拭く。

【擦火】4 スリビ 摩擦して發する火。

【擦臉】5 tsʻa¹ lien³ 顏を拭ふ。

【擦減】6 サツゲン へらす。〔福惠全書、編審部、立局親審〕新推擦減之數。

【擦鼓】7 スリツヅミ 指ですり鳴らす羯鼓の類。摩鼓。

【擦痕】8 サツコン 地盤に印した氷河の跡痕。

【擦坐】9 サツザ 料理屋などで、押し賣りに歌を唱つて金をもらふ小娘。〔武林舊事、酒樓〕市樓有㆓小鬟㆒、不㆑呼自至、歌吟強聒、以求㆓支分㆒、謂㆓之擦坐㆒。

【擦擦】10 サツサツ 泥で作った小塔。之を海濱に置いて海の災ひを鎭める。〔元史紀事本末、十八〕又有㆘作㆓擦擦㆒者㆖、以㆑泥爲㆓小浮屠㆒也、云云、作㆓擦擦㆒者、或十萬、二十萬、以至㆓三十萬㆒、又常造㆓浮屠㆒二百一十有六、實以㆓七寶珠玉㆒、半置㆓海畔㆒、半置㆓水中㆒、以鎭㆓海災㆒。 「擦過傷。

【擦疵】11 スリキズ 擦つて生じたきず。すりむききず。

【擦字】12 tsʻa¹ tzŭ⁴ 字をすり消す。

【擦傷】13 サツシヤウ すりきず。

【擦淨】14 tsʻa¹ ching¹ きれいに拭きこする。

【擦聲】15 サツセイ かすり聲。聲帶を摩擦して出る聲。注音符號、ㄈ・ㄪ・ㄏ・ㄒ・ㄕ・ㄖ・ㄙ・ㄦに屬する音聲。

【擦損】16 サツソン すりそんじ。〔福惠全書、錢穀部、催徵、三連串票〕每本前後用㆓棉紙護葉㆒、以防㆓擦損㆒。

【擦肉】17 スリミ すりつぶした魚肉。擂身。

【擦破】18 tsʻa¹ pʻo⁴ すり破る。

【擦背】19 サツハイ 浴場で背を洗ふ人。さんすけ。揩背(**5－12383‥5**)に同じ。

【擦剝】20 スリムキ すりむいたあと。又、其のきず。

【擦布】21 tsʻa¹ pu⁴ 雜巾。搌布。

【擦抹】22 tsʻa¹ mo³ 雜巾がけをする。〔紅樓夢、四十回〕掃那些㆔落葉、並擦抹桌椅。

【擦免】23 サツメン へらす。〔福惠全書、編審部、立局親

審〕希二圖擦兒一者、均應二重責一。

【擦油】24 ts'a¹ yu² ❶油を拭ふ。❷油を塗る。

【擦過傷】25（サツクヮシヤウ） かすりきず。擦傷。

【擦床兒】26 ts'a¹ ch'uang² êrh 雜巾。

【擦半鐘】27（スリハンシヨウ） 近火の時、火見櫓で半鐘をすりならすこと。略して擦半。

【擦付木】28（スリツケギ） 燐寸。まつち。

【擦拉河】29（サツラフガ） 川の名。源は雲南省魯甸縣の南境。麗魚河・大關河・洛澤河等を合はせ長江に注ぐ。

【擦胭抹粉】30 ts'a¹ yen¹ mo² fen³ 化粧する。白粉・紅などを塗る。

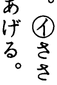
【擦拳磨拳】31 ts'a¹ ch'üan² mo² ch'üan² 手をこすりながら全身に力を入れる。

【擧】12863

🈩（キヨ コ） 〔集韻〕苟許切 ㄐㄩˇ chü³ 語

🈔（ヨ） 〔集韻〕羊諸切 魚

🈪（キヨ コ） 〔集韻〕居御切 御



小篆

🈩❶**あげる**。㋑ささげる。兩手で物をさしあげる。〔說文〕擧、對擧也、从レ手與聲。〔段注〕對擧、謂下以二兩手一擧上レ之。〔廣韻〕擧、擎也。〔淮南子、道應訓〕擧レ白而進レ之。㋺すすめる。〔儀禮、鄕飮酒禮〕擧二觶于賓一。〔注〕發二酒端一曰レ擧。㋩かつぐ。になふ。〔增韻〕擧、扛也。〔史記、滑稽傳〕令三兩人共持二擧其書一。㋥ひつさげる。〔增韻〕擧、挈也。〔詩、大雅、烝民〕民鮮二克擧一レ之。〔箋〕衆人寡二獨擧一レ之以行者一。〔疏〕擧者、提持之言。〔五代史、吳世家〕能手擧二百斤一。㋭つまだてる。〔呂覽、順說〕莫レ不三延レ頸擧二レ踵。〔注〕擧レ踵、企二望之一也。㋬高く升らせる。〔韻會〕擧、揚也。〔北史、慕容廆傳〕擧二煙于城一。㋣たたへる。ほめる。〔韻會〕擧、稱也。〔後漢書、馮衍傳〕諸公多下薦二擧之一者上。㋠おこす。〔廣韻〕擧、立也。〔中庸〕擧二廢國一。〔左氏、文、元〕楚國之擧、恒在二少者一。〔注〕擧、立也。㋷登用する。用ひる。〔禮、儒行〕懷二忠信一以待レ擧。〔注〕擧、擧用也。〔論語、子路〕擧二賢才一。㋦行ふ。〔呂覽、不廣〕佐二齊桓公一擧レ事。〔注〕擧、猶レ用也。〔素問、六元正紀大論〕大凉迺擧。〔注〕擧、用レ事也。㋸いふ。かぞへたてる。〔廣韻〕擧、言也。〔禮、雜記下〕過而擧二君之諱一則起。〔注〕擧、猶レ言也。㋾問ふ。〔禮、曲禮上〕主人不レ問、客不二先擧一。〔疏〕擧、亦問也。㋻しるす。〔左氏、襄、二十七〕仲尼使レ擧二是禮一也。〔釋文〕擧、謂三記二錄之一也。㋕はかる。〔呂覽、異寶〕不レ足二與擧一。〔注〕擧、猶レ謀也。㋵ただす。〔呂覽、自知〕所二以自擧一レ過也。〔注〕擧、猶レ正也。㋟ひく。〔淮南子、脩務訓〕木熙者擧二梧檟一。〔注〕擧、援也。㋹とる。〔呂覽、不賢〕莫二之擧一也。〔注〕擧、猶レ取也。㋞もつ。にぎる。〔周禮、考工記、廬人〕擧圍欲レ細。〔注〕擧、謂二手所一レ操。㋡ぬく。せめほろぼす。〔韻會〕擧、拔也。〔戰國、齊策〕三十日而擧二燕國一。〔注〕擧、拔也。〔荀子、王霸〕中足二以擧一レ宋。〔注〕擧、謂二擧而取一レ之。〔漢書、嚴助傳〕雖下擧二越國一而虜上レ之。㋧える。獲得する。〔戰國、秦策〕擧二河內一。〔注〕擧、猶レ得也。㋤音樂を奏する。〔周禮、秋官、大行人〕上公之禮、食禮九擧。〔注〕擧、樂也。㋶酒をのみほす。〔儀禮、特牲饋食禮〕嗣擧レ奠。〔注〕擧、飮レ酒也。㋰膳部をさかんにする。〔周禮、天官、膳夫〕王日一擧。〔注〕殺レ牲盛饌曰レ擧。一擧、朝食也。㋒沒收する。とりあげる。〔周禮、地官、司門〕犯レ禁者擧レ之。〔注〕擧レ之、沒二入官一。〔周禮、地官、司關〕凡貨不レ出二于關一者、擧二其貨一。〔注〕從二私道一出避レ稅者、則沒二其財一。㋖生む。そだてる。〔書、洪範、惟天陰二隲下民一、馬注〕隲、升也、升、猶レ擧也、擧、猶レ生也。〔史記、孟嘗君傳〕其母竊擧二生之一。〔注〕索隱曰、擧、謂二浴而乳一レ之。㋨捕へる。〔後漢書、酷吏、陽球傳〕以二嚴苛過一レ理、郡守收擧。〔注〕擧、劾レ之也。❷**あがる**。㋑のぼる。たかまる。昂揚する。〔庾信、周王寧神道碑〕風神軒擧。㋺善く行はれる。興る。〔禮、中庸〕其政擧。〔疏〕擧、猶レ行也。〔晉書、華譚傳〕王化克擧。㋩とびあがる。〔論語、鄕黨〕色斯擧矣。〔集注〕擧、飛去。〔張衡、西京賦〕鳥不レ暇レ擧。〔注〕綜曰、擧、飛也。㋥たつ。〔國語、晉語五〕擧而從レ之。〔注〕擧、起也。㋭さる。たちのく。〔楚辭、東方朔、七諫、自悲〕願離レ羣而遠擧。〔注〕擧、去也。❸**うごく**。〔廣韻〕擧、動也。〔國語、楚語下〕不下爲二豐約一擧上。〔注〕擧、動也。❹**おこなひ**。ふるまひ。行動。〔漢書、張蒼傳〕人主無二過擧一。〔蜀志、諸葛亮傳〕乃治レ戎講レ武、以俟二大擧一。❺**ゆく**。〔周禮、地官、師氏〕王擧則從。〔注〕擧、猶レ行也。❻**まつる**。たつとぶ。〔詩、大雅、雲漢〕靡二神不一レ擧。〔禮、王制〕山川神祇、有二不レ擧者一。〔注〕擧、猶レ祭也。❼**えらびとる**。こころみ。〔後漢書、和帝紀〕孝廉之擧。❽**試驗**。〔唐書、選擧志上〕長安二年、始置二武擧一、有二長垜・馬射・步射・平射・筒射一。❾**肺脊の肉**。〔儀禮、有司徹〕佐食受二牢擧一如レ儐。〔注〕擧、肺脊。〔儀禮、特牲饋食禮〕尸實二擧于菹豆一。〔注〕擧、謂二肺脊一。❿**目方の單位の名**。三兩。〔小爾雅、廣衡〕二十四銖曰レ兩、兩有半曰レ捷、倍レ捷曰レ擧。⓫**あげて**。**こぞりて**。こぞる。みな。與(**9－30212**)に通ず。〔說文通訓定聲〕擧、叚借爲レ與。〔韻會〕擧、皆也。〔左氏、哀、六〕君擧不レ信二羣臣一乎。〔注〕擧、皆也。〔楚辭、東方朔、七諫、初放〕擧レ世皆然兮。〔注〕擧、與也。⓬**木の名**。〔山海經、中山經〕敖岸之山、北望二河林一、其狀如レ蒨如レ擧。〔注〕蒨・擧、皆木名。擧、欅。⓭**かひこむ**。貯(**10－36698**)に通ず。〔說文通訓定聲〕擧、叚借爲レ貯。〔史記、仲尼弟子傳〕子貢好二廢擧一。〔注〕索隱曰、擧、謂二物賤而買一レ之。⓮**こし**。轝(**5－12980**)に通ず。〔說文通訓定聲〕擧、叚借爲レ轝。〔說文〕擧、一曰、輿也。⓯或は舉(**9－30238**)に作り、俗に擧(**5－12981**)に作る。〔集韻〕擧、或作レ舉、俗作レ擧、非レ是。⓰莒(**9－31046**)に通ず。〔史記、蔡澤傳〕而從二唐擧一相。〔注〕索隱曰、荀卿書作二唐莒一。⓱**姓**。〔萬姓統譜〕擧、見二姓苑一。🈔**ささげる**。🈩の❶㋑に同じ。〔集韻〕擧、說文、對擧也。🈪**あげる**。もちひる。〔集韻〕擧、稱引也、禮、其任擧有二如レ此者一、徐邈讀。

名乘 タカ。

【擧哀】1（キヨアイ） ❶葬式、又は納棺後、棺側にあつて哭聲を放つ禮。死者を祭るために哭泣する禮。〔隋書、禮儀志六〕梁制乘輿、云云、單衣白帢、以代二古之疑衰皮弁一、爲二弔服一、爲二羣臣一擧哀臨喪則服レ之。〔隋書、禮儀志三〕(梁天監)五年、貴嬪母車喪、議者疑二其儀一、明山賓以爲、貴嬪既居二母憂一、皇太子出二貴嬪別第一、一擧レ哀、以申二聖情一、庶不レ乖レ禮、帝從レ之。〔通典、禮〕魏大司馬曹眞薨、王肅爲二擧哀表一云、在レ禮、大臣之喪、天子臨弔、諸侯之薨、又庭哭焉。❷佛（コアイ） 禪林の葬式で佛事の畢つて後、大衆一同が哀哀哀と三度聲を擧げる式。擧哀佛事。〔禪林象器箋、喪薦門〕擧哀。

【舉哀儀】2 キヨアイノギ 中古、御大喪の時など、諸臣が八省院に至つて聲を放つて哀情を表はす儀。〔儀式、十〕舉哀儀、式部率二四位以下刀禰一左右列二立朝集堂前一、訖、參議以上列立、定共再拜、居而舉哀三段、段別三聲、訖、依レ次退出、日別三節、至二於斂葬之夕一乃罷。

【舉安】3 キヨアン 元、賀勝(10－36725‥55)の字。

【舉按】4 キヨアン あげ調べる。〔朝野雜記〕凡監司不法許二舉按一。

【舉圍】5 キヨヰ 器具の握り持つところの太さ。〔周禮、考工記、廬人〕轂兵同強、舉圍欲レ細、細則校。〔注〕舉、謂二手所一レ操。

【舉逸】6 キヨイツ 世をのがれてゐる人を舉用する。〔漢書、五行志下之下〕存レ亡繼レ絕、修レ廢舉レ逸。

【舉嬴】7 キヨエイ 行ふことが餘裕あつて派手なこと。奢侈をいふ。〔史記、韓世家〕此謂二時絀舉嬴一。〔注〕集解曰、徐廣曰、時衰耗而作二奢侈一。

【舉要】8 キヨエウ 要點をあげる。〔四庫提要、經、禮類〕周禮疑義舉要七卷、國朝江永撰。

【舉家】9 キヨカ 一家こぞつて。家中。一家全体。闔家。〔蜀志、後主劉禪傳〕舉家東遷。〔蘇轍、爲二兄軾下一レ獄上書〕舉レ家驚號、憂在レ不レ測。〔剪燈新話、三山福地志〕至レ日、舉家懸望。

【舉劾】10 キヨガイ 罪あるものを其の名をあげて彈劾する。〔史記、蒙恬傳〕趙高近親、日夜毀二惡蒙氏一、求二其罪過一、舉二劾之一。〔漢書、百官公卿表上〕外督部刺史、內領侍御史、員十五人、受二公卿奏事一、舉劾按章。〔漢書、江充傳〕充皆舉劾奏請。〔後漢書、朱穆傳〕舉二劾權貴一。〔風俗通、過譽〕司直舉劾。〔許愼、說文解字敍〕書或不レ正、輒舉二劾之一。

【舉行】11 キヨカウ あげ行ふ。公におこなふ。一般に行ふ。皆行ふ。〔漢書、食貨志下〕使レ屬二在所縣一、使下僅咸陽乘レ傳、舉二行天下鹽鐵一、作中官府上。

【舉孝】12 キヨカウ 孝行のものを舉げ用ひること。〔漢書、武帝紀〕深詔二執事一、興レ廉舉レ孝。

【舉效】13 キヨカウ 獲物の多少を調べて示すこと。舉は、あげ示す意。效は、捕獲物。〔潘岳、西征賦〕收レ罟課レ獲、引レ繳舉レ效。〔注〕善曰、杜預春秋左氏傳曰、效、致也、謂三其舉二所レ致多少一也。

【舉綱】14 キヨカウ あらましのすべくくりをあげる。〔北史、源賀傳〕不レ好二煩碎一、恒語レ人曰、爲レ政貴レ當レ舉レ綱。

【舉樂】15 キヨガク 音樂を奏する。〔漢書、賈山傳〕未レ斂不二飲酒食肉一、未レ葬不レ舉レ樂、云云、可レ謂レ盡レ禮矣。〔晉書、禮志中〕應二三朝發一レ哀者、踰レ月不レ舉レ樂、其一朝發レ哀者、三日不レ舉レ樂。

【舉合】16 chü³ hê² 殘らずよせあはす。

【舉監】17 キヨカン 舉人をいふ。〔稱謂錄、監生、舉監〕明史選舉志、學校有レ二、曰二國學一、曰二府州縣學一、云云、入二國學一者、通謂二之監生一、舉人曰二舉監一。

【舉眼】18 キヨガン 眼をあげてながめる。舉目。〔神仙傳、玉子〕能令三弟子舉レ眼見二千里外物一、亦不レ能レ久也。〔白居易、登二龍尾道一南望憶二廬山舊隱一詩〕青山舉レ眼三千里、白髮平頭五十人。

【舉旗】19 キヨキ 旗擧げする。戰を起す。〔後漢書、袁紹劉表傳論〕天下之勝兵舉レ旗者、莫レ不二假以爲一レ名。

【舉機】20 キヨキ 兵をあげる機會。戰を起す機會。〔管子、幼官〕舉機誠要、則敵不レ量。〔纂詁〕舉レ兵之機、純一不レ失レ要、則敵不レ能レ量二我所一レ爲。

【舉義】21 キヨギ 義兵をあげる。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕想三見公舉レ義之秋、及其子孫據以扞二護王室一也。

【舉玖】22 キヨキウ 賭博の一種。玖は玉に似た黑色の石で博奕の器に用ひる。〔唐律、雜律、博戲賭二財物一、疏議〕停二止主人一、謂三停二止博戲賭レ物者主人一、乃出玖之人、亦舉玖爲レ例。

【舉去】23 chü³ ch'ü⁴ 殘らず去る。

【舉擧】24 キヨキヨ 舉止の端麗なこと。〔韓愈、送三陸暢歸二江南一詩〕舉擧江南子、名以レ能詩聞。〔注〕唐人以二舉止端麗一爲二舉擧一。

【舉句】25 アゲク 連歌の最後の句。轉じて、物事の終「をいふ。

【舉火】26 キヨクワ 火を燃やす。轉じて、生計を立てる。生活する。〔管子、弟子職〕昏將レ舉レ火。〔晏子、雜、下〕待レ臣而後舉レ火者、數百家。〔莊子、讓王〕三月不レ舉レ火。〔漢書、昭帝紀〕夏旱大雩、不レ得レ舉レ火。〔北史、楊愔傳〕親族羣從、弟姪十數人、並待而舉レ火。

【舉過】27 キヨクワ 過失をあげる。〔呂覽、自知〕所二以舉一レ過也。〔白虎通、壽命〕滔レ天則司命舉レ過。

【舉軍】28 キヨグン 全軍のこらず。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏中〕舉軍從レ之。

【舉郡】29 キヨグン 郡中のこらず。〔後漢書、孔奮傳〕舉郡莫レ不レ改レ操、爲レ政明斷、甄レ善疾レ非、云云、郡中稱爲二清平一。

【舉業】30 キヨゲフ 官吏登用試驗のための學問。〔金史、文藝下、元好問傳〕年十有四、從二陵川郝晉卿一學、不レ事二舉業一、淹二貫經傳百家一。〔日知錄、藝文、舉業〕林文恪福州府志曰、余好問二長老前輩時事一、或爲レ余言、林尙默方游二鄕序一、爲二弟子員一、卽自負二其才當一レ冠二海內士一云、然攷下其時試二諸生一者上、則楊文貞・金文靖二公也、夫尙默當時所レ習、特舉子業耳、而楊金二學士、皆文章宿老、蔚爲二儒宗一、尙默乃能必二之二公一、若レ合二符節一何哉、當二是時一也、學出二於一一、上以レ是取レ之、下以レ是習レ之、譬作レ車者、不レ出レ門而知下適二四方一之合中轍上也。

【舉業文】31 キヨゲフブン 文體の名。科擧に用ひられる文章をいふ。一に場屋文といふ。〔福惠全書、典禮部、賓興考試〕揣二摩舉業文章一。

【舉賢】32 キヨケン ㊀賢者を舉げ用ひる。〔禮、大傳〕聖人南面而聽二天下一、所二且先一者五、云云、三曰、舉レ賢。〔尉繚子、戰威〕舉レ賢任レ能。㊁六韜、文韜の篇名。

【舉言】33 キヨゲン 申し上げる。〔管子、大匡〕管仲進「而舉言。

【舉口】34 キヨコウ 多くの人の言葉。又、すべての人。〔顏氏家訓、音辭〕如レ此之類、舉口皆然。

【舉功】35 キヨコウ 功勞あるものを舉げ用ひる。〔漢書、文帝紀〕舉レ功行レ賞。

【舉貢】36 キヨコウ 舉人と貢士。〔後漢書、章帝紀〕每尋二前世舉人貢士一、或起二甽畝一、不レ繫二閥閱一。〔福惠全書、教養部、學規儀注〕縉紳舉貢、西平二列階下一。

【舉告】37 キヨコク 其の事を指示して申し出ること。〔韻府引、魏書、太武帝紀〕舉二告守令不レ如レ法者一。

【舉國】38 キヨコク ㊀國中のものこらず。國民のすべて。全國。〔左氏、隱、元〕若弗レ與則請除レ之、無レ生二民心一。〔注〕叔久不レ除、則舉國之民、當レ生二他心一。〔管子、法禁〕故舉國之士、以爲二亡黨一。〔管子、輕重丁〕舉レ國而一則無レ貲。〔史記、刺客、聶政傳〕是韓舉レ國與二仲子一爲レ讎。〔漢書、宣帝紀〕舉國同レ心。㊁國力の凡てを盡くす。〔李陵、答二蘇武一書〕舉レ國興レ師。㊂國を攻め取る。〔戰國、齊策〕三十日而舉二燕國一。〔注〕舉、拔也。

【舉國一致】39 キヨコクイツチ 國民全體心を一にするこ「と。

【舉坐】40 キヨザ 一座の者みな。舉座に同じ。〔顏氏家訓、風操〕舉坐驚駭、莫レ測二其情一。

【舉座】41 キヨザ 一座の者のこらず。滿座。〔謝承、後漢書〕周景爲二豫州一、辟二陳蕃一爲二別駕一、不レ就、景題二別駕輿一曰、陣中舉座也、不二復更辟一、蕃惶懼起視レ職。

【舉祭】42 キヨサイ 祭祀を舉行する。〔左氏、桓、六〕今民餒而君逞、欲二祝史矯舉以祭一、臣不レ知二其可一也。

【舉催】43 キヨサイ 督促する。〔蘇軾、論二積欠一狀〕舉二「催積欠一。

【舉債】44 キヨサイ 人から金錢を借りうけること。〔梁書、王志傳〕舉債以斂葬。

【舉齋】45 キヨサイ 明、檀凱(6－15632‥6)の號。

【舉削】46 キヨサク 人をあげ用ひることと、人をしりぞけて官籍から其の名をけづり去ること。

【舉察】47 キヨサツ 人物を見ぬいて任用する。〔北史、司馬膺之傳〕膺之弟子瑞爲二御史中丞一、正レ色舉察、爲二朝廷所一レ許。〔李嶠、授二馮嘉賓左臺監察御史一制〕黃綬隨レ班、未レ展二才用一、繡衣莅レ事、方觀二舉察一。

【舉子】48 キヨシ ㊀子をあげすすめる。〔韓愈、送二齊皡下第一序〕於レ是乎、舉レ譽舉レ子之事、載二之傳中一而稱二美之一、而謂二之忠一。㊁官吏の登用試驗に應ずる人。〔舊唐書、高適傳〕時右相李林甫、擅レ權薄二於文雅一、唯以二舉子一待レ之。〔秦中歲時記〕進士下第、當年七月、復獻二新文一、求二拔解一、故曰二槐花黃、舉子忙一。〔逌旃瑣言〕嘗聞二吾東郡敖公靜之一云、槐花黃、舉子忙、閑時做下忙時用。㊂子を生む。子を育てる。〔後漢書、侯霸傳〕乃戒二乳婦一、勿レ得レ舉レ子。

【舉之】49 キヨシ 字號。㊀唐、王起(7－20823‥189)の字。㊁宋、朱昂(6－14424‥77)の字。㊂明、陸釴(11－41708‥240)の字。㊃清、張萬選(4－9812‥1459)の字。

【舉止】50 キヨシ たちゐふるまひ。舉措。舉動。〔後漢書、馮異傳〕觀二其言語舉止一、非二庸人一也。〔蜀

志、黃權傳〕權擧止顏色自若。〔魏書、賀狄干傳〕擧止風流、有レ似二儒者一。

【擧卮】51キョシ　さかづきをあげる。〔何遜、哭二吳興柳惲一詩〕霞區兩借レ寇、貪泉一擧レ卮。

【擧矢】52キョシ　矢を擧げる。投壺を試みる時の姿。〔左氏、昭、十二〕齊侯擧レ矢曰、有レ酒如レ澠、有レ肉如レ陵。

【擧刺】53キョシ　❶惡者を數へあげて除く。〔晉書、天文志上〕執法所三以擧二刺凶姦一也。❷善いものを擧げ惡い者を除く。〔宋史、職官志七〕歲巡二所部一、以察二師儒之優劣、生員之勤惰一、而專二擧刺之事一。

【擧翅】54キョシ　翅を擧げる。❶羽をたてる。〔易林、困之第四十七、家人〕擧レ翅據レ翼、跳二望南國一。❷飛ぶ。〔魏武帝、卻東西門行〕鴻鴈出二塞北一、乃在二無人鄉一、擧レ翅萬里餘、行止自成レ行。

【擧資】55キョシ　試驗に及第するための學問。〔才鬼記、竇玉〕丈人曰、君今此遊、將何所レ求、曰求二擧資一耳。

【擧似】56コジ　あげ示す。言葉で示す。說明する。似は、みせる。又、似は於・于と同じ前置詞。〔段成己、蒲城董公云云詩〕探レ懷出二新圖一、一語煩二擧似一。〔臨濟錄、勘辨〕飯頭却擧二似師一。

【擧事】57キョジ　事をあげる。事を行ふ。事業をはじめる。仕事を始める。〔晏子、問、上〕擧事不レ私。〔韓非子、外儲說左上〕梁人有二治者一、動作言レ學、擧事於レ文、曰、難レ之顧失二其實一。〔史記、天官書〕出レ東爲レ德、擧レ事、左レ之迎レ之吉。〔漢書、天文志〕其國凶、不レ可二擧レ事用一レ兵。〔後漢書、竇融傳〕智者不レ危、衆以擧レ事。〔孔子家語、致思〕夫聖人之擧レ事也。

【擧實】58キョジツ　實情を擧げしらべる。〔後漢書、質帝紀〕分二行州郡一、班二宣風化一、擧二實臧否一。〔後漢書、和帝紀〕遣下使者分二行貧民一、擧中實流冗上。〔注〕冗、散也、流散者、擧二案其實一而給レ之。

【擧將】59キョシャウ　擧げ用ひた將。〔吳志、諸葛瑾傳〕吳郡太守朱治、權擧將也。〔吳志、吳主孫權傳、注〕江表傳曰、云云、嚴刺史昔爲二公所一レ用、又是州擧將。

【擧觴】60キョシャウ　さかづきをあげる。擧杯(126)に同じ。〔戰國、魏策〕酒酣、請二魯君擧一レ觴。〔後漢書、禮儀志中〕上レ殿稱二萬歲一、擧レ觴御二坐前一。〔劉琨、答二盧諶一詩序〕擧レ觴對レ膝、破レ涕爲レ笑。

【擧狀】61キョジャウ　❶擧人の文牘。擧主(68)を見よ。❷中古、其の筋へ訴へ出ようとする者に長官から與へる添狀。鎌倉・室町時代には、莊司・莊官等身分の低い者は、地頭の擧狀がなければ直訴することが出來なかつた。〔東鑑、六〕文治二年六月十一日、依二御擧狀一、遂所レ加二朝恩一也。

【擧爵】62キョシャク　さかづきをあげる。擧杯(126)に同じ。〔儀禮、鄉飲酒禮〕凡擧爵三作而不二徒爵一。〔禮、檀弓下〕蓋君踰レ月而后擧レ爵。

【擧手】63キョシュ　❶手をあげる。〔後漢書、王霸傳〕光武令下霸至二市中一募上レ人、將三以擊二(王)郎一、市人皆大笑、擧レ手邪二揄之一。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕一擧手一投足之勞也。❷手をあげて敬意を表する禮式。〔南史、柔然傳〕夷俗無二拜跪一、擧レ手作レ禮而已。

〖擧手禮〗64キョシュノレイ　脫帽の代りに擧手してする敬禮。軍人・警官などが行ふ。

〖擧手可レ采〗65キョシュトルベシ　手をあげてとることが出來る。事の甚だ容易なこと。〔蜀志、許慈傳〕皆指レ掌畫レ地、擧手可レ采。

〖擧手低頭〗67コシュテイヅ　[佛]輕い敬禮をいふ。〔法華經、方便品〕或有レ人禮拜、或復但合掌、乃至擧二一手一、或復小低頭、以レ此供二養像一、漸見二無量佛一、自成二無上道一。

【擧主】68キョシュ　推薦されたものが、推薦する者を稱して擧主といふ。〔宋史、選擧志六〕凡被二擧擢一官、於二誥命一署二擧主姓名一、他日不レ如二擧狀一、則連二坐之一。〔稱謂錄、受知師、擧主〕端拱四年令、內外官所二保擧一人、有二變節濫踰者一、擧主自首、免二其罪一。

【擧首】69キョシュ　❶引擧げられる人の首位。首位で擧用される。第一位。第一等。〔史記、主父偃傳贊〕上方鄉二文學一、招二俊乂一、以廣二儒墨一、弘爲二擧首一、主父偃當レ路、諸公皆譽レ之。〔漢書、董仲舒傳〕今子大夫褒然爲二擧首一。❷申し出る。訴へ出る。〔福惠全書、刑名部、監禁〕擧首者賞。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕隱狗不レ行二擧首一。

【擧酒】70キョシュ　杯をあげる。酒を飲みはじめる。酒を飲む。〔何遜、與二蘇九德一別詩〕踟躕暫擧レ酒、倏忽不二相見一。〔高適、秋日作詩〕擧レ酒聊自勸、窮通信二爾身一。〔蘇軾、前赤壁賦〕擧レ酒屬レ客。

【擧舜】71キョシュン　明、馬稷(12－44572··327)の字。

【擧踵】72キョショウ　あしをつまだてる。つまだてのぞむ。〔莊子、胠篋〕延レ頸擧レ踵。〔荀子、榮辱〕延レ頸擧レ踵而願。〔呂覽、精通〕天下皆延レ頸擧レ踵矣。〔淮南子、主術訓〕延レ頸擧レ踵而望。

【擧證】73キョショウ　證據をあげ示す。立證。

【擧燭】74キョショク　ともしびをかかげる。轉じて、賢者を登用する意に用ひる。郢書燕說(11－39438··20)を見よ。〔韓非子、外儲說左上〕郢人有下遺二燕相國書一者上、夜書火不レ明、因謂二持レ燭者一曰、擧レ燭、云、而過書レ擧燭、擧燭非二書意一也、燕相受レ書而說レ之曰、擧レ燭者、尙レ明也、尙レ明也者、擧レ賢而任レ之。

【擧職】75キョショク　すたれた官職を復活する。〔左氏、昭、十三〕施舍寬レ民、宥レ罪擧レ職。〔注〕擧レ職、脩二廢官一。

【擧身】76キョシン　身をあげる。身をおこす。〔史記、梁孝王世家〕竇太后謂レ帝曰、安車大駕、用二梁王一爲レ寄、景帝跪レ席擧レ身曰、諾。

〖擧身投地〗77コシントウチ　[佛]最敬禮をいふ。一說に、禮拜威儀を事とせずに、佛前に悶絕號哭すること。

【擧人】78キョジン　❶人を抱き擧げる。〔山海經、西山經〕崦嵫之山、有レ獸焉、其狀馬身而鳥翼、人面蛇尾、是好擧レ人。〔注〕喜抱二擧人一。❷人をあげ用ひる。〔呂覽、遇合〕凡擧レ人之本。❸漢代、官吏を登庸するに一定した試驗方法がなく、皆郡國の守相に薦擧させたので之を擧人といふ。唐宋では進士の試驗をうける者をいふ。〔後漢書、章帝紀〕每尋二前世擧人貢士一、或起二甽畝一、不レ繫二閥閱一、敷奏以レ言、則文章可レ採、明試以レ功、則政有二異迹一、文質彬彬、朕甚嘉レ之。〔事文類聚〕唐制禮部試二擧人一、夜以二三鼓一爲レ限。〔日知錄、科擧、擧人〕擧人者、擧到之人、北齊書、鮮于世榮傳、以二本官一判二尙書省右僕射事一、與二吏部尙書袁修一在二尙書省一簡二試擧人一、舊唐書高宗紀、顯慶初四年二月乙亥、上親策二試擧人凡九百人一、調露元年十二月甲寅、臨レ軒試二應岳牧擧人一、是也、登レ科則除レ官、不三復謂二之擧人一、而不レ第則須二再擧一、不レ若下今人以二擧人一爲中一定之名上也、進士迺諸科目中之一科、而傳中有下言二擧進士一者上、有乙言下擧二進士一不上レ第者甲、但云二擧進士一、則第不第未レ可レ知之辭、不レ若三今人已登科而後謂二之進士一也、自二本人一言レ之、謂二之擧進士一、自二朝廷一言レ之、謂二之擧人一、進士卽是擧人、不レ若下今以二鄉試榜一謂二之擧人一、會試榜謂中之進士上也。〔陔餘叢考、擧人〕漢時取レ士無二考試之法一、皆令二郡國守相薦擧一、故謂二之擧人一、後漢章帝建初元年、詔曰、前世擧人貢士或起二甽畝一、擧人之名、始見二於此一、今世俗別稱二擧人一曰二孝廉一、以二孝廉本郡國所一レ擧也、然漢時擧人名目甚多、如二賢良・方正・文學・有道・直言・極諫・茂材・異等・明陰陽・明兵法・能治獄・有行義之類一、皆郡國所レ擧而孝廉特其一途耳、今專以レ此爲二擧人之稱一、蓋孝廉乃每歲所二常擧一、其他則隨レ時詔擧故也、和帝十三年制、郡國口十萬以上、歲擧二一人一、五萬以上、三歲擧二一人一、不レ滿二十萬一、二歲擧二一人一、此可レ見下漢時擧二孝廉一之常制上、又漢成帝詔二北邊二十二郡一、擧下勇猛知二兵法一者各一人上、平帝又詔擧下武勇有レ節明二兵法一者郡各一人上、此又後世武擧之始也、唐宋擧人則又與二前代一異、前代擧二孝廉等一、卽爲二入仕之途一、唐宋惟重二進士一科一、所謂擧人者、不レ過二由レ此可レ應二進士試一耳、故又謂二之擧進士一。❹明代以後、鄉試に及第して更に會試卽ち中央政府の官吏登用試驗に應ずる者をいふ。清代、擧人の試驗、卽ち鄉試は子午卯酉の歲に施行するを普通とし、朝廷の慶事があれば其の外にも行ふことあり、之を恩科といふ。〔明史、選擧志二〕三年大比、以二諸生一試二之直省一、曰二鄉試一、中式者爲二擧人一、次年以二擧人一試二之京師一、曰二會試一、中式者天子親策二於廷一、曰二廷試一、亦曰二殿試一、云云、狀元榜眼探花之名、制所レ定也、而士大夫又通以二鄉試第一一爲二解元一、會試第一爲二會元一、云云、鄉試以二八月一、會試以二二月一。〔淸會典、禮部〕凡鄉試中式、曰二擧人一。〔注〕鄉試正科、以二子午卯酉年八月一擧行、非二正科之年一特旨擧行者曰二恩科一。〔淸史稿、選擧志〕文科、

有清科目取レ士、承二明制一、用二八股文一、取二四子書及易書詩春秋禮記五經一、命題謂二之制義一、三年大比、試二諸生於直省一、曰二鄕試一、中式者爲二舉人一、次年試二舉人於京師一、曰二會試一、中式者爲二進士一、天子親策二於廷一、曰二殿試一、名第分二一二三甲一、一甲三人曰二狀元榜眼探花一、賜二進士及第一、二甲若干人賜二進士出身一、三甲若干人賜二同進士出身一、鄕試第一曰二解元一、會試第一曰二會元一、二甲第一曰二傳臚一、悉仍二明舊稱一也。〔稱謂錄、舉人〕案明史選舉志、三年大比、以二諸生試一之直省一、曰二鄕試一、中式者爲二舉人一、蓋古稱二所レ舉之人一爲二舉人一、未三嘗定爲二名目一、而稱二鄕試中式一曰二舉人一、則自レ明始。

【舉人大挑】79 キヨジンタイテウ 舉人で會試に落第した者、及び事故のため會試に應ずることの出來ない者に對して行ふ任用法。〔清會典事例、禮部、貢舉〕與人大挑、凡會試後、奉レ旨舉二行大挑一、禮部查造二清冊一、咨送二吏部一、奏請欽二派王大臣一、於二各省舉人內一、公同揀選、一等者以二知縣一試用、二等者以二教職一銓補。

【舉燧】80 キヨスイ のろしをあげる。〔後漢書、班固傳上〕割レ鮮野食、舉レ燧命レ爵。〔張衡、西京賦〕升レ觴舉レ燧。〔宋史、种世衡傳〕令下諸族置二烽火一、有レ急則舉レ燧介レ馬以待上。

【舉數】81 chü² shu³ かぞへあげる。

【舉世】82 キヨセイ 世をあげて。世人こぞつて。〔莊子、逍遙遊〕舉レ世而譽レ之、而不レ加レ勸、舉レ世而非レ之、而不レ加レ沮。〔楚辭、漁父〕舉世皆濁、我獨清。〔陸機、弔二魏武帝一文〕固舉世之所レ推。〔韓愈、伯夷頌〕若至二於舉世非一レ之、力行而不レ惑者、則千百年乃一人而已耳。

【舉世盡從二愁裏一老】83 キヨセイコトゴトクシウリニシタガヒテオユ 世人はのこらずうれひのうちに年をとる。〔杜荀鶴、秋宿二臨江驛一詩〕舉世盡從二愁裏一老、誰人肯向二死前一閑。

【舉正】84 キヨセイ ❶正しい標準をあげる。〔左氏、文、元〕先王之正レ時也、履二端於始一、舉二正於中一、歸二餘於終一。〔注〕舉二中氣一以正レ月。〔漢書、律歷志上〕舉二正於中一。❷正しいものをあげ用ひる。〔後漢書、安帝紀〕既不二奏聞一、又無レ舉レ正。❸宋、陳綱(11－41698‥81)の字。

【舉生】85 キヨセイ 子を生みそだてる。〔史記、孟嘗君傳〕其母竊舉二生之一。〔注〕索隱曰、舉、謂二浴而乳一レ之。

【舉旌】86 キヨセイ はたを舉げる。〔儀禮、大射儀〕舉レ旌以レ宮、偃レ旌以レ商。

【舉稅】87 キヨゼイ 出舉稻スイコタウ(2－1811‥63)に同じ。〔續日本紀、三〕慶雲二年、四月壬子、勿レ收二今年舉稅之利一。

【舉召】88 キヨセウ 官吏などに登用する。採用する。〔後漢書、袁閎傳〕服闋、累徵聘、舉召皆不レ應、居處仄陋、以二耕學一爲レ業。

【舉照】89 キヨセウ 申し立てのひきあひ。〔福惠全書、刑名部、問擬〕釋二舉照一。

【舉籍】90 キヨセキ 數をかぞへあげて帳簿に記す。〔漢書、東方朔傳〕乃使下太中大夫吾丘壽王與二待詔能用レ算者二人一、舉中籍阿城以南、盩厔以東、宜春以西上。〔注〕師古曰、舉二計其數一而爲二簿籍一也。

【舉節】91 キヨセツ 拍子をとる。〔淮南子、說林訓〕舞者舉レ節、坐者不レ期而拚、皆如レ一。

【舉選】92 キヨセン 選びあげる。選舉。〔韓愈、贈二侯喜一詩〕半世遑遑就二舉選一、一名始得紅顏衰。

【舉錢】93 キヨセン 今のせり賣の類。〔寃債志、償債鬼〕阿郞且レ歸、甚平安、今日於二西市絹行一舉錢。

【舉薦】94 キヨセン あげすすめる。〔袁淑、防二禦索虜一議〕舉二薦板築之下一、抽二登臺阜之間一。

【舉善】95 キヨゼン 善人をあげ用ひる。又、善をあげほめる。〔左氏、襄、三〕建二一官一而三物成、能舉レ善也夫。〔魏志、劉馥傳〕其經明行修者、則進レ之以崇レ德、荒レ教廢レ業者、則退レ之以懲レ惡、舉レ善而教二不能一則勸、浮華交游、不レ禁自息矣。

【舉厝】96 キヨソ あげることとおくこと。たちゐふるまひ。舉措に同じ。〔後漢書、劉玄傳〕但爲二陛下一、惜二此舉厝一。〔朱孚、爲二幽州牧一與二彭寵一書〕舉厝建レ功、何以爲レ人。〔注〕五臣本作レ措、銑曰、舉措、猶二進退一也。

【舉措】97 キヨソ あげることとおくこと。行動することと靜止すること。たちゐふるまひ。動作。舉止。舉錯。〔戰國、燕策〕臣以二所レ學者一、觀二先王之舉措一。〔三略、上〕舉措伐レ功。〔荀子、榮辱〕舉措時。〔呂覽、謹聽〕舉措無レ所レ過矣。〔韓非子、有度〕故以レ法治レ國、舉措而已矣。〔管子、五輔〕大夫任レ官辨レ事、則舉措時。〔漢書、宣帝紀〕舉二措曲直一、各得二其所一。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕豈輕舉措也。

【舉錯動作】98 キヨソドウサ たちゐふるまひ。〔漢書、匡衡傳〕舉錯動作、物遵二其儀一、故形爲二仁義一、動爲二法則一。

【舉疏】99 キヨソ 上奏文を奉る。〔論衡、命祿〕赴レ闕舉レ疏。

【舉錯】100′ キヨソ ❶あげることとおくこと。舉動措置。舉措に同じ。〔戰國、趙策〕今治二天下一、舉錯非也、國家爲二虛戾一、而社稷不二血食一、然而王不レ待レ工、而與二連信君一何也。〔管子、法禁〕舉錯而不レ變者、聖王之道也。〔漢書、伍被傳〕上之舉錯、遵二古之道一。〔淮南子、原道訓〕舉錯不レ能レ當、動靜不レ能レ中。❷人をあげ用ひることとさしおくこと。〔史記、張釋之傳〕今陛下以二嗇夫口辯一而超二遷之一、臣恐下天下隨レ風靡靡爭、爲二口辯一而無中其實上、且下之化レ上、疾二於影響一、舉錯不レ可レ不レ審也。〔風俗通、皇霸〕言下其能行二天道一、舉錯審諦上。〔宋史、陳宓傳〕舉錯當而人心服。

【舉宗】101 キヨソウ 一族のこらず。〔史記、萬石君傳〕舉宗及兄建肉袒。〔魏志、李典傳〕典駑怯功微、而爵寵過厚、誠宜二舉宗陳一レ力。

【舉奏】102 キヨソウ 官に申したてる。上奏する。〔後漢書、黃瓊傳〕舉下奏州郡素行貪汙至二死徙一者十餘人上。〔後漢書、宦者、侯覽傳〕張儉因舉二奏覽貪侈奢縱一。〔論衡、超奇〕無二舉奏之吏一。〔宋史、選舉志二〕凡廷試前一年、舉二奏官一、具二所レ舉者策論五十首一。

【舉足】103 キヨソク ❶足を動かす。〔莊子、漁父〕人有二畏レ影惡一レ迹而去レ之走者一、舉レ足愈數、而迹愈多、走愈疾、而影不レ離レ身。❷アゲアシ ㋑相撲・柔道などで足が地を離れてあがること。㋺言葉尻。言ひそこなひ。揚足。

【舉族】104 キヨゾク 一族こぞつて。〔元結、與二瀼溪鄰里一詩〕昔年苦二逆亂一、舉レ族來南奔。

【舉體】105 キヨタイ 全體。からだ全體。〔顏氏家訓、歸心〕舉體如レ被二刀刺一。

【舉代】106 キヨダイ 一代こぞつて。世をあげて。〔陶弘景、吳太極左仙公葛公碑〕由レ是舉代翕然、號爲二仙公一。〔白居易、讀二張籍古樂府一詩〕尤工二樂府詩一、舉代少二其倫一。

【舉臺】107 キヨダイ 御史臺及び諫院に於ける規諫の任にあるものすべてをいふ。〔宣和遺事、後集〕臺諫則洪昌黎確、及舉臺之臣是也。

【舉棹】107′ キヨタウ 舉櫂に同じ。〔李白、至二鴨欄驛一上二白馬磯一贈二裴侍御一詩〕亂レ流若二電轉一、舉レ棹揚二珠輝一。

【舉櫂】108 キヨタウ かいをあげる。〔李嶠、和二杜學士旅次淮口阻一レ風詩〕迎レ風欲レ舉レ櫂、觸レ浪反停レ橈。〔孫覿、明谿詩〕舉レ櫂擊二空明一、玉壺響二春水一。

【舉達】109 キヨタツ ❶推舉を得て榮達すること。〔太平記、十二、足利殿東國下向〕舉達道遠くして。❷とりあげて進達すること。〔庭訓往來、八月〕寺社訴訟者、就二本所舉達一、被三是二非之一。

【舉地】110 キヨチ 土地をとる。土地を獲得する。〔史記、李斯傳〕孝公用二商鞅之法一、移レ風易レ俗、民以殷盛、國以富彊、百姓樂用、諸侯親服、獲二楚魏之師一、舉レ地千里、至レ今治彊。

【舉場】111 キヨヂヤウ 官吏登用の試驗場。科場。〔韓愈、與二汝州盧郞中一論レ薦二侯喜一狀〕在二舉場一十餘年。〔玉海、選舉、科舉、嘉祐明經科〕嘉祐二年十二月、戊申詔、閒歲一開二舉場一。

【舉黜】112 キヨチユツ 人を登用することと退けやめさせること。〔韓愈、送二齊皥下第一序〕其下之視レ上也、亦惟視二其舉黜之當否一。

【舉直】113 キヨチヨク 正しい人をあげ用ひる。〔論語、爲政〕孔子對曰、舉レ直錯二諸枉一、則民服。〔論語、顏淵〕子曰、舉レ直錯二諸枉一、能使二枉者直一。

【舉陳】114 キヨヂン ❶陳營を張る。〔尉繚子、戰威〕舉陳加刑之論。❷キヨチン 申し出る。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕不三敢舉二陳其過跡一也。

【舉廷】115 キヨテイ 朝廷の官吏のこらず。舉朝(119)に同じ。

【舉定】116 キヨテイ あげさだめる。〔日本政記、清和天皇〕其俸料舉二定正稅公廨之閒一。

【舉鼎】117 キヨテイ 鼎をあげる。〔儀禮、公食大夫禮〕士舉レ鼎去二鼏于外一。〔儀禮、士昏禮〕贊者徹二尊鼏一、舉者盥、出除レ鼏舉レ鼎入、陳二於阼階南一。

【舉鼎絕臏】118 キヨテイゼツピン 力の少なくて任の重い喩。秦の武王が孟說と鼎を舉げ、臏を絕つて卒した

故事。絕臏。〔史記、秦紀〕王與二孟說一舉レ鼎絕レ臏。

【舉朝】119キヨテウ 朝廷の官吏のこらず。滿朝。〔舊唐書、王求禮傳〕求禮止レ之曰、云云、三月雪爲二瑞雪一、則臘月雷、亦瑞雷也、舉朝嗤笑、以爲二口實一。

【舉擢】120キヨテキ ぬきんで用ひる。〔宋史、選舉志〕凡被二舉擢一官、於二誥命一署二舉主姓名一。

【舉土】121キヨド 土地をあげて。全土。〔後漢書、安帝紀〕夜郎蠻夷、舉土內屬。

【舉頭】122キヨトウ 頭をあげる。頭をもたげる。〔後漢書、皇后上、鄧皇后紀〕將レ去舉レ頭、若レ欲二自訴一。〔李白、靜夜詩〕舉レ頭望二山月一、低レ頭思二故鄉一。〔蘇軾、王晉卿作二煙江疊嶂圖一云云詩〕山中舉レ頭望二日邊一、長安不レ見空二雲煙一。

【舉動】123キヨドウ たちゐふるまひ。動作。舉止。〔韓非子、解老〕夫弃二道理一而忘二舉動一者、雖下上有二天子諸侯之勢尊一、而天下有中倚頓陶朱卜祝之富上、猶失二其民人一而亡二其射資一也。〔後漢書、淳于恭傳〕舉動周旋、必由二禮度一。〔魏志、張範傳〕舉動必諮二此二人一。〔蜀志、諸葛亮傳〕舉動失レ宜。〔范曄、宦者傳論〕舉動廻二山海一、呼吸變二霜露一。

【舉難】124キヨナン 呂氏春秋、離俗覽の篇名。

【舉肉】125キヨニク 食膳に肉類をとること。肉類をくらふこと。〔黃庭堅、書贈二兪清老一〕余又以レ病屛レ酒不レ舉レ肉多年。

【舉杯】126キヨハイ 杯をあげる。酒をのむこと。舉白。舉觴。〔李白、月下獨酌〕舉レ杯邀二明月一、對レ影成二三人一。〔秦觀、書二晉賢圖後一〕此畫舊名二晉賢圖一、有二古衣冠十人一、惟一人舉レ杯。

【舉肺】127キヨハイ 牲の豚をさいて、其の肺をまつること。〔禮、曾子問〕祭殤不レ舉レ肺、無二肵俎一。

【舉報】128キヨハウ 申し出る。〔福惠全書、教養部、禮耆德〕從レ公確實舉報。

【舉白】129キヨハク さかづきをあげて酒を飲むこと。又、酒を進めること。舉杯(126)に同じ。〔淮南子、道應訓〕舉レ白而進レ之。〔注〕舉レ白、進レ酒也。〔漢書、敍傳上〕皆引レ滿舉レ白、談笑大噱。

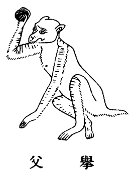
【舉發】130キヨハツ 事を行ひ令を發する。〔管子、幼官〕舉發以レ禮。

【舉凡】131キヨハン あらましの大切な點をあげる。凡は大指。〔漢書、揚雄傳下〕僕嘗倦レ談、不レ能三一二二其詳一、請略舉レ凡、而客自覽二其切一焉。〔注〕凡、大指也、切要也。〔淮南子、要路〕總レ要舉レ凡、而語不下剖二判純樸一、靡中散太宗上。

【舉帆】132キヨハン 帆をあげる。帆を掛ける。船出する。出帆する。〔劉刪、泛二宮亭湖一詩〕廻レ艫乘二泒水一、舉レ帆逐二分風一。

【舉藩】133キヨハン 藩內こぞつて。領土中のこらず。〔鹽谷宕陰、昭代記〕舉藩翕然嚮レ化。

【舉父】134キヨフ 獸の名。猿に似たもの。夸父。〔山海經、西山經〕崇吾之山、有レ獸焉、其狀如レ禺而文、臂豹虎而善投、名曰二舉父一。〔注〕或作二夸父一。〔箋疏〕舉・夸聲近、故或作二夸父一。



舉父
(山海經圖)

【舉兵】135キヨヘイ 兵をあげる。軍兵を發して戰を起す。〔戰國、秦策〕范雎曰、卑レ辭重レ幣以事レ之不可、削レ地而賂レ之不可、舉レ兵而伐レ之、于レ是舉レ兵而攻二邢丘一。〔晏子、問、上〕可二以舉レ兵而征レ暴。〔墨子、魯問〕今又舉レ兵將二以攻レ鄭。〔史記、吳王濞傳〕欲二舉レ兵誅レ之。〔漢書、高五王、燕靈王建傳〕諸呂舉二兵關中一。

【舉辦】136 chü³ pan⁴ 興す。行ふ。舉行する。開設する。

【舉鞭】137キヨベン 鞭をあげる。馬を進めること。〔晉書、山簡傳〕舉レ鞭向二葛彊一、何如幷州兒。〔北史、齊神武紀〕霸業可二舉レ鞭而成一。

【舉母】138コロモ 三河國の地名。

【舉烽】139キヨホウ のろしをあげる。〔史記、信陵君傳〕北方傳二舉烽一。

【舉名】140キヨメイ 佛號を唱へる。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕舉名的班首眞呆僗。

【舉滅】141キヨメツ ことごとくほろぼす。〔莊子、天地〕舉滅二其賊心一而皆進二其獨志一。

【舉目】142キヨモク 目をあげて眺める。舉眼。〔李陵、重報二蘇武一書〕舉レ目言笑、誰與爲レ歡。〔晉書、王導傳〕風景不レ殊、舉レ目有二江山之異一。

【舉門】143キヨモン 一門を舉げて。仲間全體。〔抱朴子、勤求〕或舉レ門扣レ頭、以向二空坐一。

【舉揚】144キヨヤウ ほめあげる。ほめそやす。

【舉用】145キヨヨウ 引きあげ用ひる。登用。〔史記、五帝紀〕自二堯時一而皆舉用、未レ有二分職一。〔魏志、毛玠傳〕其所二舉用一、皆清正之士。

【舉羅】146キヨラ あみをはる。〔風俗通、正失〕舉レ羅但得二一雙舃一耳。

【舉例】147キヨレイ ❶例をあげる。〔國朝漢學師承記、汪中〕凡此四科、無レ勞レ舉レ例。❷書名。一卷、淸、莊存與撰。要旨一卷と共に公羊春秋の說を敍し、此の學を治める者の指南車とし、且つ存與の家法を最も闡明したものである。

【舉王】148キヨワウ 勢盛となる王。興つて王となるべき人。興起の王。〔戰國、燕策〕臣聞、當世之舉王、必誅レ暴正レ亂。〔注〕舉王、興起之王。

【得レ舉】149アゲラルルヲウ 舉げ用ひられる。〔左氏、襄、三〕解狐得レ舉、祁午得レ位、伯華得レ官、建二一官一而三物成、能舉レ善也夫。〔楚辭、離騷〕呂望之鼓レ刀兮、遭二周文一而得レ舉。

【舉隅法】150キヨグウハフ 修辭學用語。一斑を示して全豹を悟らしめる詞態。論語、述而篇の舉二一隅一、不下以二三隅一反上、則不レ復也に本づく。

【舉進士】151キヨシンシ 唐宋の時進士の試驗に應ずる者。舉人(78)を見よ。〔陔餘叢考、舉人〕唐宋惟重二進士一科一、所謂舉人者、不レ過二由レ此可レ應二進士試一耳、故又謂二之舉進士一。

【舉天下】152キヨテンカ 天下をこぞつて。滿天下。〔韓愈、送二齊皥下第一序〕則曰二今舉天下人一焉、則非二今舉天下人之過一也。

【舉尾蟲】153 chü² wei³ ch'ung² 蟲の名。體黑く長さ六七分、狀頗る蠍に類する。蠍蠅。

【舉毛筋】154 chü³ mao² chin¹ 眞皮の上層にある牽動毛髮の小筋。毛囊に附いて收縮の時毛を立たしめるからいふ。

【舉一全收】155コイチゼンシウ [佛]一法を舉げれば、一切法を收めること。〔唐判五教章、中〕三性一際、舉一全收。

【舉一蔽諸】156コイチヘイシヨ [佛]一を舉げて、一切をかねそなへること。〔文句、三下〕但略舉レ一而蔽レ諸耳。

【舉一明三】157コイチミヤウサン [佛]一を舉げて之に示せば直ちに三を了解すること。知解の鋭いこと。〔碧巖錄、第一則垂示〕舉一明三、目機銖兩。

【舉棋不レ定】158キヨキサダマラズ 棋子を下すに方針がない。事を作すに恆の無い喩。〔左氏、襄、二十五〕弈者舉レ棋不レ定、不レ勝二其耦一。〔注〕弈、圍棋也。〔疏〕方言云、圍棋謂二之弈一、自二關東一齊魯之閒、皆謂二之弈一、蓋此戲名レ之曰レ弈、故說文弈从レ廾、言下竦二兩手一而執上レ之、孟子稱、弈秋善レ弈、秋自以レ善レ弈而著レ名也、棋者所レ執之子、云云、以レ子圍而相殺、故謂二之圍棋一、沈氏云、圍棋稱レ弈者、取二落弈之義一也。

【舉不レ失レ選】159アグルニセンヲウシナハズ 人を舉用するに選擇を間違はない。〔左氏、襄、九〕晉君類レ能而使レ之、舉不レ失レ選、官不レ易レ方。

【舉不レ踰レ等】160アグルニトウヲコエズ 人を引きあげるのに順序に從つて、次第をとびこえない。〔左氏、襄、二十九〕舉不レ踰レ等、則位班也。

【所レ舉者必有レ賢】161アグルトコロノモノハカナラズケンアリ 明王が舉用する者は皆賢德のある者ばかりである。〔韓非子、人主〕明王者推レ功而爵祿、稱レ能而官事、所レ舉者必有レ賢、所レ用者必有レ能、賢能之士進、則私門之請止矣。

【舉如二鴻毛一取如レ拾レ遺】162アグルコトハコウモウノゴトクトルコトハオチタルヲヒロフガゴトシ 國を取る事の甚だたやすい喩。舉・取は國を取ること。〔漢書、梅福傳〕是以舉レ秦如二鴻毛一、取レ楚如レ拾レ遺。

【捷】
12864

チ

寁(7－22011)に同じ。〔集韻〕寁、或从レ手。

【擨】
12865

[一]ヤ 〔集韻〕余遮切 [麻]

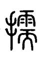
[二]イ 〔集韻〕余支切 [支]

[一]❶**輕んじ笑ふさま**。〔玉篇〕擨、擨揄、輕笑皃。❷**もてあそぶ**。なぶる。〔集韻〕擨、擨揄、舉レ手相弄。❸或は歋(**6－16166**)・揶(**5－12155**)に作り、通じて邪(**11－39319**)に作る。〔集韻〕擨、或省、亦作レ揶、通作レ邪。

[二]たはむれ笑ふ。 歋(6－16166)に同じ。〔集韻〕歋、說文、人相笑相歋瘉、或作レ擨。

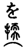
【擩】12866

[一] ジュ ニュ 〔集韻〕橤主切 [麌]
[二] ズイ ニ 〔集韻〕儒隹切 [支]
[三] ゼツ ネチ 〔集韻〕如劣切 [屑]
[四] ジュ ニュ 〔集韻〕儒遇切 ㄖㄨˇ ju^3 [遇]
[五] ドウ ヌ 〔集韻〕乃豆切 [宥]
[六] ヂュ ニュ 〔集韻〕尼主切 [麌]
[七] ゼン ネン 〔集韻〕而宣切 [先]



小篆

[一]ひたす。〔說文繫傳〕擩、染也、从レ手需聲、周禮曰、六曰擩祭。〔儀禮、公食大夫禮〕取二韭菹一以辯二擩于醢一。〔注〕擩、猶レ染也。[二]❶ひたす。〔廣韻〕擩、染也。〔集韻〕擩、搵也、周禮、擩祭以二肝肺一。❷或は⿰扌耎(5－12356)・⿰扌而(5－12046)に作る。〔集韻〕擩、或作二⿰扌耎・⿰扌而一。[三]もむ。或は⿰扌耎(5－12356)に作る。〔集韻〕擩、撋也、或作レ⿰扌耎。[四]すすめる。おしやる。〔集韻〕擩、手進レ物也。[五]事を解しない。〔集韻〕擩、構擩、不レ解レ事。[六]ささへる。〔集韻〕擩、拄也。[七]❶もむ。撋(5－12683)に同じ。〔集韻〕撋、煩撋、猶二挼莎一也、或作レ擩。❷⿰扌耎(5－12356)に通ず。〔正字通〕擩、集韻、省、作レ⿰扌耎、非。

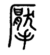
[參考] 說文段注本は、篆文を(⿰扌耎)に改め、音をゼンとする。今兩存する。

【擩祭】1 ゼンサイ 古人の飲食の時の祭儀。肝肺を鹽醢にひたして祭る。〔周禮、春官、大祝〕辨二九祭一云云、六曰二擩祭一。〔注〕擩祭擩、讀爲二虞芮之芮一、擩祭、以二肝肺菹一擩二鹽醢中一以祭也。

【擩嚌】2 ジュセイ 手で持って口で味ふ。深く入る喩。〔唐書、文藝傳序〕大曆貞元間、美才輩出、擩二嚌道眞一、涵二泳聖涯一。

【擪】12867

[一] エフ 〔集韻〕益涉切 ㄧㄝˋ yeh^4 [葉]
[二] テフ 〔集韻〕託協切 [葉]
[三] デフ ネフ 〔集韻〕諾叶切 [葉]
[四] アフ エフ 〔集韻〕乙甲切 [洽]
[五] エン 〔集韻〕於琰切 [琰]



小篆

[一]❶おさへる 指をあてる。〔說文〕擪、一指按也、从レ手厭聲。〔廣雅、釋詁三〕擪、按也。〔淮南子、泰族訓〕擪二息脈血一。❷書法上、執筆法の一。親指の節の端で筆をおさへ力をこめて書くこと。〔翰林要訣、執筆法〕擪、大指骨下節下端用レ力、欲二直如一レ提二千鈞一。❸厭(2－3025)に通ず。〔說文通訓定聲〕擪、笙賦、厭焉乃揚、以レ厭爲レ之。❹葉(9－31387)に通ず。〔說文通訓定聲〕擪、家語辨樂、葉拱而對、以レ葉爲レ之。❺擫(5－12868)に同じ。〔說文通訓定聲〕擪、今字作レ擫。〔集韻〕擪、或書作レ擫。[二][三]おさへる。或は壓(3－5557)に作る。〔集韻〕擪、一指按、或作レ壓。〔莊子、外物〕壓二其顪一〔釋文〕壓、本亦作レ擪、郭於琰反、又勑頰反、字林云、擪、一指按也。[四]おさへる。〔集韻〕擪、按也。[五]❶もつ。〔集韻〕擪、持也。❷おさへる。[二]を見よ。

【擪息】1 エフソク 手でおさへる。〔淮南子、泰族訓〕所三以貴二扁鵲一者、非レ貴二其隨レ病而調一レ藥、貴丁其擪二息脈血一、知丙病之所乙從生甲也。

【擪笛】2 エンテキ 樂器の名。笛の一種。擫笛。〔范成大、陳侍御園坐上詩〕擘牋沫墨乞二奇句一、擫笛當レ筵惝二妙聲一。

【擪擸】3 エフデフ おさへひねる。擸は、ひねる。〔王褒、洞簫賦〕膠緻理比、挹抐擪擸。〔注〕善曰、挹抐擪擸、言レ中レ制也。

【擪籥】4 エフヤク 指でふえの孔をおさへる。擫籥。〔張衡、南都賦〕彈レ琴擫レ籥、流風徘徊。〔注〕善曰、說文、擪、一指按也、擪、與レ擫同。

【擫】12868

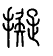
エフ 擪(5－12867)に同じ。〔正字通〕擫、同レ擪。

【⿰扌㬎】12869

ケン 抮(5－11913)に同じ。〔集韻〕抮、或作レ⿰扌㬎。

【擬】12870

ギ 〔集韻〕偶起切 ㄧˇ i^2 ㄋㄧˇ ni^3 [紙]



小篆

❶はかる。〔說文〕擬、度也、从レ手疑聲。〔段注〕今所謂揣度也。〔易、鼎、君子以正レ位凝レ命、釋文〕凝、翟作レ擬、云、度也。❷なぞらへる。㋑のっとる。かたどる。〔增韻〕擬、準擬、揣度以待也。〔正字通〕擬、儀也。〔楚辭、王逸、九思、怨上〕擬レ斯號二一蹤一。〔注〕擬、則也。㋺まねる。くらべにせる。〔漢書、公孫弘傳〕侈擬二於君一。〔注〕師古曰、擬、疑也、言二相似一也。㋩ならぶ。〔後漢書、張衡傳〕吾觀二太玄一、方知三子雲妙極二道數一、乃與二五經一相擬、非二徒傳記之屬一。❸むける。〔一切經音義、十六〕擬、向也。〔潘岳、射雉賦〕屬二剛挂一以潛擬。❹うたがふ。〔漢書、揚雄傳上〕蝯蚖擬而不二敢下一。〔注〕師古曰、擬、疑也。❺或は儗(4－11374)・譺(10－36058)に作る。〔集韻〕擬、或从レ心从レ言。❻又、疑(7－22007)に作る。〔集韻〕擬、亦作レ疑。〔漢書、何武王嘉師丹傳贊〕疑二於親戚一。〔注〕師古曰、疑、讀曰レ擬。❼儗(1－1233)に通ず。〔禮、緇衣、注〕度謂二所レ儗射一也、〔釋文〕儗、本亦作レ擬。❽[現]㋑作る。試作する。㋺云云しようとする。云云と欲する。[邦]まがひ。もどき。

【擬稿】1 ni^2 kao^3 起稿する。

【擬捍】2 ギカン 敵の攻めて來るのを、おしはかって防ぐこと。〔魏書、盧昶傳〕卿可レ深二擬捍之規、攘レ敵之略一。

【擬宜】3 ギギ [佛]說法を衆生にあてはめて之を受け得るや否やを考へること。

【擬儀】4 ギギ 儀式を似せる。〔後漢書、孔融傳〕至三乃郊二祭天地一、擬二儀社稷一。

【擬議】5 ギギ ❶考へ、相談する。考へ、論議する。〔易、繫辭上〕擬レ之而後言、議レ之而後動、擬議以成二其變化一。〔左思、魏都賦〕工徒擬議而騁レ巧。❷ぐずぐずとためらふ。〔太平記、二十五、住吉合戰〕少しも不二擬議一。❸ni^3 i^4 相談する。決議する。

【擬栩】6 ギク 宋、王中立(7－20823··1910)の號。

【擬栩道人】7 ギクダウジン 宋、王中立(7－20823··1910)の號。

【擬經】8 ギケイ 經書になぞらへるをいふ。漢の揚雄の法言は論語に擬し、太玄經は易に擬し、隋の王通の中說は論語に擬する類をいふ。其の他朱彝尊の經義考擬經部(卷二百六十八－二百八十)には衞元嵩の元包、司馬光の潛虛、邵雍の皇極經世書、文軫の信書等數書を載錄して解說してゐる。〔徐陵、讓二左僕射一初表〕臣聞、七十之歲、揚雄擬レ經、六十之年、平津對策。

【擬憲】9 ギケン まねをして似せること。〔唐書、后妃上、貴妃楊氏傳〕第舍聯亘、擬二憲宮禁一。

【擬古】10 ギコ ❶文章を作るに當って古人の筆意を摸擬すること。此の風既に先秦時代に發し、韓非子の揚權篇は老子の文に擬したものであり、淮南子は老莊諸子の文を摸擬蹈襲した所がある。其の他、東方朔の答客難、揚雄の解嘲、班固の答賓戲、崔駰の達旨、蔡邕の釋誨が同一の

模型から成り、東方朔の大人先生傳、陶淵明の五柳先生傳も亦同一軌轍に成つたものである。此の風は、延いて唐宋元明より後世に及んでゐる。❷詩體の名。晉の陸機・陶潛等に擬古の諸作がある。〔陸機、擬古詩、注〕良曰、雜、謂レ非二一類一、擬、比也、比二古志一以明二今情一。〔陶潛、擬古詩〕日暮天無レ雲、春風扇二微和一。〔捫蝨新話、詩類、江文通擬古詩〕擬古詩難二于近似一、觀二江文通雜體詩三十首一、便是淵明具體、叔敖復生也。

【擬古的】11 ギコテキ 物事を古代になぞらへること。

【擬古文】12 ギコブン 文體・文法などを古體になぞらへて作つた文章。

【擬古樂府】13 ギコガフ 古樂府の題を取り、之に依つて長短句を作るをいふ。唐代、近體律詩の法式が一定するに及んで唐人は專ら絶句を歌唱して漢魏六朝の古樂府を歌ふ調法が漸く衰廢した。從つて擬古樂府は、全く古詩の一體となり、歌唱には用ひられなくなつた。

【擬講】14 ギコウ 佛學職の名。〔釋家官班記、下〕講師・講者、南北各別之敕會也、受講以後、勤仕已前、稱二擬講一、勤仕以後、號二已講一也。

【擬購】15 ni^{3} kou^{4} 購買せんとする。

【擬差】16 ギサイ はかり擇ぶ。〔韻府引、宋史〕擬差從レ之。

【擬妻】17 ギサイ 妻になぞらへる。〔韓非子、說疑〕配有二擬妻之妾一。

【擬罪】18 ギザイ 罪を定める。罪を決定する。〔明律、刑律、賊盜〕故有二犯者一、隨レ地擬レ罪。

【擬造】19 ギザウ なぞらへつくる。〔異苑〕今梵唱皆植依擬所レ造。

【擬作】20 ギサク つくらうとする。しようとする。〔白居易、自詠五首詩〕爲レ貪二逐日俸一、擬レ作二歸田計一。

【擬死】21 ギシ 動物の死眞似。

【擬似】22 ギジ 何の罪にあたるかを評議する。〔福惠全書、刑名部、問擬〕議者擬似也、問者欲レ似二諸律一。

【擬相】22′ ギシヤウ 宰相になぞらへる。〔韓非子、說疑〕廷有二擬相之臣一、臣有二擬レ主之寵一。

【擬章】23 ni^{3} chang^{1} 章程をつくる。規則を作成する。

【擬主】24 ギシユ 主君になぞらへる。主君のふりをする。〔韓非子、說疑〕故曰、內寵並レ后、外寵貳レ政、枝子配レ適、大臣擬レ主、亂之道也。

【擬銃】25 ギジユウ 銃をさしむける。〔川田甕江、岩倉公所藏正宗鍛刀記〕鐵舟擧レ鞭而東、至二品川一、守兵誰何、擬二銃馬首一、出レ符示レ之、得三馳入二府城一。

【擬準】26 ni^{2} chuen^{3} 決定する。

【擬正】27 ギセイ 主任官となる。〔淸會典事例、翰林院、官制、升除〕咸豐十年諭、吏部奏請應レ行二引見一、庶子待讀等員、現在出差、請旨辦理等語、詹事府左庶子、著擬二正之伍忠阿一補授、翰林院侍讀、著擬二正之全順一補授、均著毋レ庸二帶領引見一。

【擬制】28 ギセイ ❶なぞらへ定める。〔宋書、武三王、江夏王義恭傳〕脩二治館宇一、擬二制東城一。❷現實に存在しない事實を、制度によつて假設すること。

【擬勢】29 ギセイ 動物の防護手段の一。威嚇的姿勢を示して敵難を免れんとするもので、昆蟲類に其の例が多い。

【擬製】30 ギセイ ❶摸擬してつくること。又は其の品。摸造。まがいもの。❷擬製豆腐の略。

【擬製豆腐】31 ギセイドウフ 豆腐に卵等を入れて甘味をつけ、又多少野菜などを加へて製したものをいふ。

【擬請】32 ギセイ 要請する。求め欲する。〔淸會典事例、戶部、田賦、畿輔官兵莊田二〕咸豐二年諭、戶部奏下旗民交產擬三請量爲二變通一一摺上、另片奏下奉夫旗地仍照二舊例一辦理等語上。

【擬斥】33 ギセキ なぞらへる。〔後漢書、孔融傳〕遂乃郊二祀天地一、擬二斥乘輿一。〔注〕斥、指也。

【擬跡】34 ギセキ 古人の行ひになぞらへる。〔張衡、西京賦〕齊二志無忌一、擬二跡田文一。

【擬奏】35 ギソウ ❶上奏になぞらへることをいふ。〔南齊書、沈昭略傳〕臣已有二擬奏一、轉二前軍將軍一。❷上奏しようとする。〔馬祖常、無題詩〕揚雄擬レ奏二河東賦一、但乞二君王酒一巵一。

【擬則】36 ギソク なぞらへのつとる。模範として從ひのつとる。〔後漢書、宦者、單超傳〕皆珍飾華侈、擬二則宮人一。〔成公綏、嘯賦〕若夫假二象金革一、擬二則陶匏一。

【擬妥】37 ni^{2} t'uo^{3} 考定する。決斷する。擬定。

【擬態】38 ギタイ 動物が體形・體色等を他物にまぎらして敵を禦ぐ狀態。

【擬題】39 ギダイ 試驗問題に擬して文書を作ること。〔日知錄、科擧、擬題〕今日科場之病、莫レ甚二乎擬題一、且以二經文一言レ之、初場試所レ習本經義四道、而本經之中、場屋可レ出之題、不レ過二數十一、富家巨族、延二請名士一、館二於家塾一、將二此數十題一各譔二一篇一、計レ篇酬レ價、令二其子弟及僮奴之俊慧者、記誦熟習一、入場命題、十符二八九一、卽以二所レ記之文一抄謄上卷、較二之風簷結構一、難易迥殊、四書亦然、發榜之後、此曹便爲二貴人年少貌美者一、多得二館選一、天下之士、靡然從レ風、而本經亦可二以不レ讀矣。〔皇朝文獻通考、選擧考、擧士〕康熙五十四年、復奉二諭旨一、科場出題、關係緊要、鄕會經書題目不レ拘二忌諱一、斷不レ可レ出二熟習常擬之題一、朕常講レ易、及修二定天文律呂算法諸書一、爾等考試官、斷不レ可下以二此諸書一出題表題上、亦不レ可レ出二修書賜書等類一、不レ然則人皆可二擬題倖進一、實學何由而得。

【擬度】40 ギタク はかり考へる。熟慮する。〔易、繫辭上〕擬レ之而後言、〔疏〕擬二度之一而後言也。

【擬託】41 ギタク なぞらへよせる。〔李嶠、上二高長史述和詩一啓〕登二卞肆一而論レ寶、入二夔門一而撫レ節、擬託非レ倫、揣摩增レ靦。

【擬斷】42 ギダン 量つて罪を斷ずる。〔明律、名例律、以理去官〕凡任滿得レ代、改除致仕等官、與二見任一同、封贈官與二正官一同、其婦人犯レ夫、及義絕者、得下與二其子之官品一同上、犯罪者並依二職官犯罪律一擬斷。〔福惠全書、刑名部、贓私〕依レ律擬斷、按レ數給沒。

【擬肘】43 ギチウ 怒つて腕を張り虛勢を示すこと。〔晉書、張寔傳〕寔曰、孤常忿、袁本初擬二肘諸君一、何忽有二此言一、因送二于京師一。

【擬注】44 ギチユウ あてはめておぎなふ。〔宋史、章衡傳〕嘗有二員闕一、既擬注、而三班院輒用レ之、反二訟吏部一、宰相主二其說一。

【擬定】45 ギテイ 假定する。案を定める。考へを定める。議定する。〔淸會典事例、翰林院、官制、升除〕道光二十一年奏准、滿洲贊善缺出、應レ用二外班一、庶吉士出身有レ人、仍按レ科分二甲第名次一、擬二定正陪一、毋レ庸二揀選一、如二輪用進士及應用進士擬陪、輪用擧人及應用擧人擬陪一、均按二照品級一、考レ所レ列、咨二取各衙門一、應レ升二人員一。〔福惠全書、敎養部、學規儀注〕預爲擬定。

【擬適】46 ギテキ 嫡子になぞらへる。適は、嫡。〔韓非子、說疑〕孽有二擬適之子一、配有二擬妻之妾一、廷有二擬相之臣一、臣有二擬主之寵一、此四者、國之所レ危也。

【擬電】47 ni^{3} tien^{4} 電文の草稿をつくる。

【擬把】48 ギハ わりあててとる。〔羅隱、送二沈先輩一詩〕擬二把金錢一贈二嘉禮一、不レ堪二栖屑一困二名場一。

【擬梅】49 ギバイ 楮の實。楊梅の實に似てゐるからいふ。〔能改齋漫錄〕京師中太一宮道士房、有二楮結レ子如二楊梅一、徽宗車駕臨幸觀レ之、名曰二擬梅軒一。

【擬陪】50 ギバイ 副官にする。〔淸會典事例、翰林院、官制、升除〕道光二十一年奏准、滿洲贊善缺出、應レ用二外班一、庶吉士出身有レ人、仍按レ科分二甲第名次一、擬二定正陪一、毋レ庸二揀選一、如二輪用進士及應用進士擬陪、輪用擧人及應用擧人擬陪一、均按二照品級一、考レ所レ列、咨二取各衙門一、應レ升二人員一。

【擬報】51 ギハウ 罪人に擬して屆け出る。〔福惠全書、刑名部、欵犯〕便徑擬報無レ妨。

【擬罰】52 ギバツ ばつをあてる。〔福惠全書、雜課部、贓罰〕有二上司批審、追レ贓擬レ罰者一。

【擬法】53 ギハフ なぞらへのつとること。〔吳越春秋、句踐歸國外傳〕范蠡乃觀二天文一、擬二法於紫宮一、築二作小城一、周千一百二十二步、一圓三方。

【擬判】54 ギハン 或る假定の事實に對して如何に裁判すべきかと論ずること。

【擬範】55 ギハン かた。てほん。てほんにしてのつとること。〔易、繫辭上、範二圍天地之化一而不レ過、注〕範圍者、擬二範天地一、而周二備其理一也。

【擬比】56 ギヒ なぞらへる。似せる。〔陸機、擬古詩、十二首、注〕良曰、雜、謂レ非二一類一、擬、比也、比二古志一以明二今情一。

【擬辟】57 ギヘキ 死罪にあてる。辟は罪。〔福惠全書、刑名部、監禁〕人命正犯、已結擬レ辟。

【擬壁】58 ギヘキ 火口壁に擬せられる屛風狀の長い山々のつらなり。

【擬欲】59 ギヨク かんがへる。欲する。〔蘇軾、雪詩〕

擬二欲爲レ之修二水記一、惠山泉冷釀泉淸。

【擬流】60（ギリウ） 島流しの刑にあてる。〔福惠全書、刑名部、問擬〕擬レ流已有二餘辜一。

【擬律】61（ギリツ） 犯罪事實に對して法令を適用すること。

【擬論】62（ギロン） ㊀言ひ爭ひ。論爭。擬は、向、相手にはむかふこと。〔魏志、荀彧傳〕初文帝與二平原侯植一、竝有二擬論一。㊁妄論する。〔張華、相風賦〕擬二論天地一、錯二綜神明一。

【擬詠懷】63（ギエイクワイ） 詩篇の名。北周、庾信の作。阮籍の詠懷詩になぞらへて作つたもの。此の詩は、聲律が能く整ひ、其の平仄が殆ど唐詩と區別し難い程で、後來律詩の先驅となつたものである。〔庾信、擬詠懷詩、其二十六〕蕭條亭障遠、悽愴風塵多、關門臨二白狄一、城影入二黃河一、秋風別二蘇武一、寒水送二荊軻一、誰言氣掩レ世、晨起帳中歌。

【擬猴類】64（ギコウルイ） 動物分類上の一部門。脊椎動物門、哺乳綱、靈長目に屬する。每肢五趾を有し、一趾は他の四趾と對し、能く物を摑む。鎖骨はよく發達し、尾は他物に纏絡し得ない。乳腺は多くは一對、子宮は雙角、胎盤は大體散漫性で且非脫落性。腦の發達程度は低い。マダガスカル等に產する。あいあい・狐猴等。

【擬國會】65（ギコククワイ） 政治上の議事討論の練習のために、國會の組織になぞらへて行ふ討論會。模擬國會。

【擬近奏】66（ギコンソウ） 王朝時代、相撲の節會に奉仕する力士を、當日近衞に任ずる事を奏請する儀式。〔江家次第、八、相撲召合〕右近進二擬近奏一。

【擬人法】67（ギジンハフ） 修辭法の一。非情の物を、人に見たてていひなす法。personification

【擬天問】68（ギテンモン） 詩篇の名。晉、傅玄の作。屈原の天問に擬して作つたもの。〔太平御覽、天部、月〕傅玄、擬天問曰、月中何有、有二白兔擣レ藥。〔太平御覽、天部、漢〕傅玄、擬天問曰、七月七日、牽牛織女、時會二天河一。

【擬寶珠】69（ギボウシユ） 佛塔の相輪の上に在る寶珠に象つて、柱・橋などの上につける寶珠形の飾。訛つてぎぼうし・ぎぼしといふ。

【擬太平策】70（ギタイヘイサク） 書名。七卷。淸、李塨撰。周禮に倣つて作り、其の師顏元の及ばぬところを補ふ。〔畿輔叢書、第二百十六冊〕。

【擬文章生】71（ギモンジヤウシヤウ） 古、大學寮で史記・漢書の中、五條を試問し、その三條以上に通じた者を及第として補した職。〔本朝文粹、大江匡衡、省試詩論〕式云、凡擬文章生者、春秋二仲月、試詩畢喚二文章博士及儒士二三人一省共判定。

【擬脈翅類】72（ギミヤクシルイ） 昆蟲類の一。その口器は咀嚼に便で、前後に翅二對あり、膜質は透明で細かい網脈がある。蜻蜓・蜉蝣・白蟻等の類。

【擬連廂詞】73（ギレンシヤウシ） 詞曲の名。淸、毛奇齡作。金代の連廂詞に擬して作つたもの。其の一は賣嫁連廂、其の二は放偸連廂といふ。前者は金の時、小木蘭河の女子利哥が老親に孝養を盡した事を敍べ、後者は遼太祖の孫耶律忽論が惡習を爲さなかつた事を敍べたもの。〔西河合集、第三十六冊〕。

【擖】12871

㈠ケツ ゲチ 〔集韻〕其謁切 〖月〗

㈡ケツ ゲチ 〔集韻〕巨列切 〖屑〗

㈠になふ。揭(5−12389)に同じ。〔集韻〕揭、擔也、或从レ竭。㈡になふ。或は揭(5−12389)・搩(5−12504)に作る。〔集韻〕擖、擔也、或省、亦从レ桀。

【㩝】12872

カウ コウ 〔集韻〕乎刀切 〖豪〗

量をくらべあはせる。〔集韻〕㩝、較二多少一曰レ㩝。

【㩭】12873

クワク 捇(5−12134)に同じ。〔集韻〕捇、或从レ赫。

【擨】12874

イ 〔集韻〕隱綺切 〖紙〗

正しくない。ななめ。或は掎(5−12250)に作る。〔集韻〕擨、擨匜、不レ正也、或省。

【擵】12875

バク マク 〔集韻〕墨角切 〖覺〗

うつ。〔廣韻〕擵、打也。〔集韻〕擵、擊也。

【擭】12876

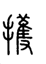
㈠ワク 〔集韻〕屋虢切 〖陌〗

㈡コ ゴ 〔集韻〕胡故切 〖遇〗

㈢クワ ゲ 〔集韻〕胡化切 〖禡〗

㈣クワク ワク 〔集韻〕黃郭切 ㄏㄨㄛˋ huo^4 〖藥〗

㈤コク ゴク 〔集韻〕胡谷切 〖屋〗


小篆

㈠㊀ただしくない。〔說文〕擭、擊擭也、从レ手蒦聲。〔正字通〕擭、擊擭、不レ正也。㊁にぎる。つかむ。とる。もつ。〔說文〕擭、一曰、握也。〔廣雅、釋詁三〕擭、持也。〔正字通〕擭、取也。〔張衡、西京賦〕擭二獑猢一。〔注〕綜曰、擭、謂三握二取之一也。㊂あまねし。濩(7−18517)に通ず。〔說文通訓定聲〕擭、叚借爲レ濩。〔說文〕擭、一曰、布擭也。〔段注〕布擭、遍滿皃。㈡しく。〔廣韻〕擭、布擭、猶二分解一也。〔集韻〕擭、布擭、分解也。㈢㈣㈤わな。禽獸をとらへる器具。〔集韻〕擭、捕レ獸機檻也。〔書、費誓〕杜二乃擭一。〔傳〕擭、搏レ獸機檻。〔周禮、秋官、雍氏〕春令爲二阱擭一、秋令塞レ阱杜レ擭。〔注〕擭、柞鄂也、堅地阱淺、則設二柞鄂於其中一。〔中庸〕驅而納二諸罟擭陷阱之中一。

〖名乘〗ミツ。モチ。

【擹】12877

タン 〔集韻〕覩緩切 〖旱〗

いとわくをまはす。〔廣雅、釋詁四〕擹、轉也。〔集韻〕擹、一曰、轉レ篗也。

【擳】12878

シウ ジユ 〔集韻〕鉏救切 〖宥〗

うつ。〔集韻〕擳、擊也。

【擮】12879

㈠シツ シチ 〔集韻〕子悉切 〖質〗

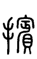
㈡セツ ゼチ 〔集韻〕昨結切 〖屑〗

㈠つまむ。扻(5−11864)に同じ。〔集韻〕扻、摘也、或作レ擮。㈡たつ。截(5−11639)に同じ。〔集韻〕截、說文、斷也、或作レ擮。

【擯】12880

㈠ヒン 〔集韻〕必仞切 〖震〗 ㄅㄧㄣˋ pin^4

㈡ヒン 〔字彙〕卑民切 〖眞〗


小篆

㈠㈡㊀すてる。しりぞける。〔集韻〕擯、弃也。〔字彙〕擯、斥也。〔莊子、徐無鬼〕以擯二寡人一久矣。〔釋文〕司馬云、擯、棄也。〔後漢書、趙壹傳〕爲二鄉黨所一レ擯。〔注〕擯、斥也。〔郭璞、江賦〕擯二落江山一。〔注〕善曰、擯落、謂下被二斥擯一而漂落上也。㊁みちびく。みちびく人。賓客の接件をする。又、其の者。儐(1−1214)・賓(10−

36788）に通ず。〔說文〕儐、擯、儐或从レ手。〔字彙〕擯、與レ儐同。〔周禮、秋官、司儀〕掌二九儀之賓客擯相之禮一。〔注〕出接レ賓曰レ擯。〔儀禮、士冠禮〕擯者請レ期。〔注〕擯者、有司佐レ禮者、在二主人一曰レ擯、在レ客曰レ介。〔論語、鄕黨〕君召使レ擯。〔釋文〕擯、本又作レ儐、亦作レ賓。

【擯壓】1（ヒンアツ） しりぞけおさへる。排斥し壓迫する。又、きらはれのけものにされる。〔蜀志、郤正傳、注〕桓譚新論曰、先貴而後賤、昔富而今貧、擯二壓窮巷一、不レ交二四鄰一。

【擯介】2（ヒンカイ） 主人と客との間に立つて周旋する者。主人側の者を擯といひ、賓客側の者を介といふ。〔儀禮、士冠禮、擯者請レ期、注〕擯者、有司佐レ禮者、在二主人一曰レ擯、在レ客曰レ介。

【擯棄】3（ヒンキ） 退け棄てる。〔列女傳、辯通、齊孤逐女傳〕孤無二父母一、擯二棄於野一。〔崔寔、政論〕寡不レ勝レ衆、遂見二擯棄一。

【擯卻】4（ヒンキヤク） しりぞけ遠ざける。擯斥。〔漢書、中山靖王勝傳〕使二夫宗室擯卻、骨肉冰釋一。

【擯辭】5（ヒンジ） 賓客に對する擯者のことば。〔孔子家語、弟子行〕禮以二擯辭一。

【擯者】6（ヒンジヤ） 客を接待する者。〔儀禮、士冠禮〕擯者請レ期。〔注〕擯者、有司佐レ禮者、在二主人一曰レ擯、在レ客曰レ介。

【擯相】7（ヒンシヤウ） 賓客の事を司る官。出でて賓客に接する者を擯といひ、入りて禮を贊ける者を相といふ。〔周禮、秋官、司儀〕掌二九儀之賓客擯相之禮一。〔注〕出接レ賓曰レ擯、入贊レ禮曰レ相。〔禮、深衣〕可二以爲レ武、可二以擯相一。

【擯出】8（ヒンシユツ） 人をしりぞける。人を拒む。擯斥。〔下學集、下〕擯出、拒レ人義也。

【擯詔】9（ヒンセウ） 禮場で賓主の行禮の世話をし補佐する者。〔禮、禮器〕故禮有二擯詔一、樂有二相步一、溫之至也。〔注〕擯詔、告二道賓主一者也。

【擯斥】10（ヒンセキ） しりぞけてのけものにする。擯棄。擯卻。〔劉峻、辨命論〕皆擯二斥於當年一、韞二奇才一而莫レ用。〔宋史、王禹偁傳〕以レ是頗爲二流俗所一レ不レ容、故屢見二擯斥一。

【擯治】11（ヒンチ） 佛惡比丘を擯斥して罰すること。擯出・默擯・滅擯の三種がある。〔行事鈔、二之二〕。

【擯罰】12（ヒンバツ） 佛戒律を犯した者に加へる刑罰。

【擯落】13（ヒンラク） ❶すてさる。しりぞける。〔魏志、鍾會傳、注〕至二于六爻變化、群象所レ效、日時歲月、五氣相推、弼皆擯落、多レ所レ不レ關。〔謝靈運、曇法師誄序〕慨然有下擯二落榮華一、兼二濟物我一之志上。〔元稹、白氏長慶集序〕就中六籍尤擯落。〔蘇洵、上二（仁宗）皇帝一書〕當二少時一、亦嘗欲三僥二倖於陛下之科擧一、有司以爲二不肖一、輒以擯落。❷しりぞけすてられて、おちぶれる。〔郭璞、江賦〕蘆人漁子、擯二落江山一。〔注〕善曰、擯落、謂下被二斥擯一而漂落上也。

【擯僇】14（ヒンリク） しりぞけはづかしめる。〔柳宗元、答レ問〕狼狽擯僇、何以自表二於今之世一乎。

【攑】12881 ケン

搴（5－12519）の俗字。〔正字通〕攑、俗搴字。

【⿰扌笁】12882 コウ

笁（8－26151）に同じ。〔集韻〕笁、或从レ手。

【擰】12883 ダウ ニヤウ

〔字彙補〕泥耕切 ㄋㄧㄥˊˇ ning$^{2\cdot 3}$ 庚

❶みだれる。搶擰。攘（5－12989）・獰（7－20755）に通ず。〔字彙補〕擰、搶擰、亂也。〔漢書、賈誼傳、國制搶攘、注〕師古曰、讀二搶攘一爲二傖獰一。❷現㋑ひねる。ねじる。〔紅樓夢、八回〕寶釵也忍不住、笑著把黛玉腮上一擰。㋺搾る。（以上二聲）。㋩まちがへる。〔兒女英雄傳、三十八回〕我是把兩樣東西的名兒記擰了。㋥葛藤。爭ひ。ごたつき。〔兒女英雄傳、四十四回〕玉格這孩子、眞個的怎麼這麼擰啊。（以上三聲）。

【擰開】1 ning^{2} kʻai^{1} ねぢつてあける。

【擰乾】2 ning^{2} kan^{1} しぼつて水を乾かす。

【擰壞】3 ning^{2} huai^{4} ねじりこわす。

【擰腫】4 ning^{2} chung^{3} ひねつて腫らす。

【擰折】5 ning^{2} shê^{2} ねぢつて折る。

【擰葱】6 ning^{2} tsʻung^{1} 間違ふ。

【擰斷】7 ning^{2} tuan^{4} ねぢ切る。

【擰眉瞪眼】8 ning^{2} mei^{2} têng^{4} yen^{3} 激怒する。

【⿰扌⿰留刂】12884 リウ

⿰扌劉（5－12896）に同じ。〔篇海〕⿰扌⿰留刂、與レ⿰扌劉同。

【⿰扌⿸厂豦】12885 キヨ

據（5－12839）に同じ。〔字彙補〕⿰扌⿸厂豦、與レ據同。

【⿰扌⿱一東】12886 シヨウ

竦（8－25776）の古字。〔集韻〕竦、古作レ⿰扌⿱一東。

【⿰扌⿱舛木】12887 サク

搩（5－12585）に同じ。〔字彙補〕⿰扌⿱舛木、與レ搩同。

【⿰扌⿱冊心】12888 ソウ

揔（5－12349）に同じ。〔篇海〕⿰扌⿱冊心、同レ揔。

【⿰扌鄕】12889 シヤウ

義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰扌鄕、音鄕。

【⿰扌慈】12890 ジ

義未詳。〔篇海〕⿰扌慈、音慈。

【⿰扌長】12891 デウ

擾（5－12947）に同じ。〔中華大字典〕⿰扌長、同レ擾、見二玉篇一。

【擱】12892 カク ㄍㄜˉ kê^{1}

❶閣（11－41300）の俗字。〔中華大字典〕閣、停輟也、俗作レ擱。❷現㋑架ける。㋺置く。㋩さし置く。凡て動詞に用ひる。

【擱下】1 kê^{1} hsia 下に置く。止める。退職する。

【擱開】2 kê^{1} kʻai^{1} 横へのける。移す。

【擱岩】3 kê^{1} yen^{2} 船が岩にのりあげて居据ること。

【擱記】4 kê^{1} chi^{4} 懸念する。

【擱起】5 kê^{1} chʻi^{3} 中止する。止める。

【擱機】6 kê^{1} chi^{1} 手品を演ずるに用ひるテーブル。手品師の語。

【擱局】7 kê^{1} chü^{2} 賭博の宿。賭場。

【擱回】8 kê^{1} huei^{2} もとの處へ置く。

【擱沙】9 kê^{1} sha^{1} 船が淺瀨にのりあげて自由を失ふこと。擱淺。

【擱要】10 kê^{1} shua^{3} 賭博の宿をする。

【擱坐】11（カクザ） 船が淺瀨等にのりあげて居据ること。

【擱車】12 kê^{1} chʻê^{1} 止める。中止する。

【擱淺】13（カクセン） ❶船が淺瀨に乘り上げて自由を失ふこと。坐洲。〔拍案驚奇〕船上人道、只是船重得緊、所以只管擱レ淺。〔六部成語、戶部、擱淺、注解〕船重水淺、沮擱不レ行也。❷kê^{1} chʻien^{3} 商店で資本の運轉がとまること。停滯する。

【擱稻】14（カクタウ） 水田を立秋後、水をかけないで十餘日間さらして置くこと。〔陶朱公書〕稻田立秋後不レ添レ水、曬十餘日、謂二之擱稻一。

【擱置】15 kê^{1} chih^{4} さしおく。放任する。

【擱褙】16 kê^{1} pei^{4} 靴の内側に入れる厚い布。

【擱忘】17 kê^{1} wang^{4} 置き忘れる。

【擱板】18 kê^{1} pan^{3} 棚。

【擱筆】19（カクヒツ） ふでをさしおく。書きやめる。閣筆（11－41300‥22）に同じ。

【擱穩當】20 kê^{1} wen^{3} tang^{1} 具合よく置くこと。

【擱不住】21 kê^{1} pu chu^{4} ❶永く置かれない。❷堪へられない。

【擱在心裡】22 kê^{1} tsai^{4} hsin^{1} li 氣に掛ける。氣に掛けて忘れない。

十五畫

【擲】 12893 テキ ヂヤク 〔集韻〕直炙切 ㄓˊ chih^{2} 陌。

㊀**なげうつ**。〔廣韻〕擲、投也。〔字彙〕擲、投也、拋也。㋑なげとばす。なげつける。〔後漢書、呂布傳〕拔二手戟一擲レ之。〔晉書、孫綽傳〕嘗作二天台山賦一、以示二范榮期一云、卿試擲レ地、當レ作二金石聲一也。㋺博弈する。骰子をなげる。〔晉書、劉毅傳〕摴蒱一擲。〔晉書、慕容垂載記〕于レ是三擲、盡レ盧。㊁**すてる**。〔陶潛、雜詩〕日月擲レ人去。㊂**はねる**。〔增韻〕擲、掉也。〔周賀、晚題二江館一詩〕澄波月上見二魚擲一、晚徑葉多聞二犬行一。㊃**ふるふ**。〔廣韻〕擲、振也。〔賈岱宗、大狗詩〕時頻伸而振迅、若二應龍之騰擲一。㊄**かく**。〔廣韻〕擲、搔也。㊅擿(**5－12922**)に同じ。〔集韻〕擿、說文、搔也、一曰、投也、或作レ擲。

【擲下】1 テキカ ㊀とびおりる。又、投げすてる。投げ振る。〔隋書、酷吏、崔弘度傳〕登レ樓至二上層一、去レ地四五丈、云云、欻然擲下、至レ地無二損傷一。〔西墅雜記〕遂擲二下六六一、其友大喜。㊁chih^{2} hsia^{4} 送る。送附する。

【擲交】2 chih^{2} chiao^{1} 渡す。交付する。

【擲筊】3 テキカウ 盃筊(蛤の殼、或は其の形に模した木竹製の卜具)をなげて吉凶を卜すること。杯珓(**6－14497**・・5)を見よ。

【擲寄】4 chih^{2} chi^{4} 送る。送付する。

【擲棄】5 chih^{2} chʻi^{4} うちすてる。

【擲卻】6 テキキヤク なげうつ。すておく。

【擲去】7 テキキヨ 投げ捨てる。又、投げ除ける。〔世說新語〕管寧・華歆、共園中鋤レ菜、見二地有二片金一、管揮レ鋤與二瓦石一不レ異、華捉而擲二去之一、又嘗同レ席讀レ書、有下乘二軒冕一過レ門者上、寧讀如レ故、歆廢レ書出看、寧割レ席分レ坐曰、子非二吾友一也。

【擲炬】8 テキキヨ 炬火をなげうつ。〔國史略、朱雀天皇〕征南海賊使小野好古、云云、分レ兵海陸相攻、純友航レ海而走、急追レ之、擲レ炬焚二其艦一。

【擲金】9 テキキン 金をなげうつ。〔錢起、和下范郎中宿二直中書一曉翫中清池上贈二南省同僚西垣補遺一詩〕六義驚二摛藻一、三臺響二擲金一。

【擲果】10 テキクワ 容貌の美しい者をいふ。晉の潘岳は極めて美しい人であつたから、洛陽の婦人が爭つて果物をこれに投じた故事。〔晉書、潘岳傳〕少時常挾レ彈、出二洛陽道一、婦人遇レ之者、皆連レ手縈繞、投レ之以レ果、遂滿レ車以歸。〔世說新語、容止、注〕語林曰、安仁至美、每レ行老嫗以レ果擲レ之、滿レ車。〔李白、送二族弟凝之レ滁求レ婚詩〕遙知向二前路一、擲果定盈レ車。〔楊億、無題詩〕應レ知韓掾偸レ香夜、猶記潘郎擲レ果年。

【擲卦】11 テキクワ 錢を投げて卜ふ筮法。古人は蓍を用ひたが、後人は錢を以て之に代へた。今、三個の錢を投げ、字が出るか、背が出るかによつて卦を作る。〔通俗編、藝術、擲卦錢〕揮麈錄、擲卦以レ錢、自二嚴君平一始、唐詩、井有二君平一擲二卦錢一。〔卜筮全書〕以二錢三文一熏二於爐上一、致レ敬而祝、祝畢擲レ錢、一背爲レ單、畫レ一、二背爲レ拆、畫レ‐‐、三背爲レ重、畫レ○、純字爲レ交、畫レ×、自レ上而下三擲內卦成、再祝、祝畢復如二前法一、再擲成二一卦一而斷二吉凶一。

【擲回】12 chih^{2} huei^{2} 投げ戻す。

【擲還】13 chih^{2} huan^{2} 返却する。戻す。

【擲丸】14 テキグワン 圓いものをなげつける。〔遼史、禮志六〕正旦、國俗以二糯飯一和二白羊髓一爲レ餅、丸之若レ拳、每帳賜二四十九枚一、戊夜、各於二帳內窗中一擲二丸於外一、數偶、動樂飲宴、數奇、令二巫十有二人、鳴レ鈴執レ箭繞レ帳歌呼一、帳內爆二鹽墟中一、燒レ地拍レ鼠、謂二之驚鬼一、居七日乃出。

【擲戟】15 テキゲキ 戟を投げうつ。〔後漢書、呂布傳〕(布)嘗小失二董卓意一、卓拔二手戟一擲レ之、布拳捷得レ免、云云、由レ是陰怨二於卓一、云云、時允與二尙書僕射士孫瑞一密謀レ誅レ卓、因以告レ布、使レ爲二內應一、布曰、如二父子一何、曰、君自姓レ呂、本非二骨肉一、今憂レ死不レ暇、何謂二父子一、擲戟之時、豈有二父子情一也。

【擲梭】16 テキサ ㊀梭を通はして機を織る。〔于濆、苦辛吟詩〕窗下擲梭女、手織身無レ衣。㊁梭の通ふやうに、時の經つことの極めて迅速な喩。又、はやいさま。〔雲笈七籤〕紅顏三春樹、流年一擲梭。

【擲采】17 テキサイ 雙六の采を投げる。ちよぼ采を擲る。擲色。〔唐國史補、下〕貴采則得二連擲一。

【擲殺】18 テキサツ なげ殺す。うちころす。〔金史、逆臣、紇石烈執中傳〕執中方飼レ鶡、怒擲二殺之一。

【擲鵲】19 テキジヤク かささぎに投げつける。かささぎを打つ。〔李咸用、送レ人詩〕荊山有レ玉猶在レ璞、未レ遇二良工一虛擲レ鵲。

【擲手】20 テキシユ ㊀賭博で錢を張る。〔燕子箋、偕征〕朱窩擲手無雙。㊁chih^{2} shou^{3} ピッチャー。野球の投手。

【擲出】21 テキシユツ なげだす。〔世說新語、假譎〕魏武少時、嘗與二袁紹一好爲二游俠一、觀二人新婚一、因潛二入主人園中一、夜叫呼云、有二偸兒賊一、青廬中人皆出觀、魏武乃入、抽レ刃劫二新婦一、與レ紹還出、失レ道墜二枳棘中一、紹不レ能レ得レ動、復大叫云、偸兒在レ此、紹遑迫自擲出、遂以俱免。

【擲楯】22 テキジユン 楯をなげうつ。〔後漢書、逸民、逢萌傳〕家貧、給二事縣一爲二亭長一、時尉行過レ亭、萌候迎拜謁、既而擲レ楯歎曰、大丈夫安能爲二人役一哉、遂去レ之。

【擲石】23 テキセキ 嬉戲の一。いしなげ。〔和漢三才圖會、嬉戲類、擲石〕擲石、兒女取二碁石十有餘一撒レ之、擲二一於空一、未レ墜中、與二所レ撒石二三箇一同攫二合之一、其餘如レ之、拾盡爲レ勝。

【擲錢】24 テキセン 錢をなげる戲。意錢。〔通俗編、俳優、擲錢〕後漢書、梁冀傳、少爲二蹴踘意錢之戲一、注云、卽擲錢也。

【擲鼠】25 テキソ 鼠に投げつける。投レ鼠忌レ器(**12－48390**・・102)を見よ。

【擲送】26 chih^{2} sung^{4} 送る。

【擲倒】27 テキタウ なげたふす。擲倒伎を見よ。

【擲倒伎】28 テキタウギ 古の百戲の一。倒行して舞ひ、逆行連倒する所作。とんぼがへりの戲。〔通典、樂〕擲倒伎、卽倒行而舞也、晉咸康中、散騎侍郎顧臻表曰、末代之樂、設二禮外之觀一、逆行連倒、足以蹈レ天、頭以履レ地、反二天地之順一、傷二彝倫之大一、乃命二太常一罷レ之。〔言鯖〕擲倒伎、卽今翻金斗、伎人以レ頭委レ地、而翻斗跳過、且四面旋轉如レ毬、謂二之金斗一。

【擲彈】29 テキダン 白兵戰などで、兵士が手に持つて投げとばす爆彈。

【擲地】30 テキチ 地になげうつ。〔晉書、孫綽傳〕嘗作二天台山賦一、辭致甚工、以示二友人范榮期一云、卿試擲レ地、當レ作二金石聲一也。〔世說新語、雅量〕謝萬石後來、坐小遠、蔡暫起、謝移就二其處一、蔡還、見二謝在一焉、因合レ褥擧レ謝擲レ地、自復坐。

【擲注】31 chih^{2} chu^{4} 成敗をかけること。

【擲塗】32 テキト 泥を投げつけ合ふ遊び。〔資治通鑑、齊紀〕(明帝、建武元年)擲塗賭跳。〔注〕塗、泥也、以二塗泥一相擲爲レ樂也。

【擲投】33 テキトウ なげうつ。投擲。

【擲拋】34 テキハウ なげうつ。拋擲。擲投。

【擲博】35 テキハク 賭博をする。ばくちを打つ。〔唐書、逆臣下、董昌傳〕凡民訟、不レ視レ獄、但與擲博、齒不レ勝者死。

【擲鉢】36 テキハツ 鉢をなげる。鉢は僧の食器。〔三昧經〕菩薩擲二鉢於空中一、自然飛來。

【擲鉢峯】37 テキハツホウ 峯の名。湖南省衡山縣の西北。衡山七十二峯の一。世に思大和尚が鉢を此處に捨てて陳主の召に赴いたので、名づくと傳ふ。〔衡岳志〕擲鉢峯在二岳廟後一、云云、世傳、思大和尙擲二鉢於此一、赴二陳主之召一、故名。

【擲甁】38 テキヘイ 艦船の進水式にシャンペン酒の甁をなげて碎く禮。

【擲來】39 chih^{2} lai^{2} 送り來る。

【擲挖窖】40 テキアツカウ 賭博の名。六骰を投げて勝負を決める。〔牧猪閒話〕。

【擲刀劍】41 テキタウケン 刀劍を手玉にとる戲。〔通俗編、俳優、擲刀劍〕說符篇、蘭子弄二七劍一、迭而躍レ之、五劍常在二空中一。

【擲鐵球】42 chih^{2} tʻieh^{3} chʻiu^{2} 砲丸投。

【擲鐵餅】43 chih^{2} tʻieh^{2} ping^{3} 圓盤投。

【擲筆峯】44（テキヒツホウ） 峯の名。江西省九江縣、廬山の一峯。晉の僧慧遠が涅槃經疏を作った處。〔明一統志〕晉釋慧遠於レ此製二涅槃經疏一成、因以名レ峯、上有二文殊巖一、下有二十八賢臺一、慧遠與二同社諸賢一嘗憩二於此一。

【擲標槍】45 chih² piao¹ ch'iang¹ 槍投。

【擲老羊】46（テキラウヤウ） 賭博の名。〔牧猪閒話〕。

【擲火萬里】47（テキクワバンリ） 火を萬里に擲つ。仙人の行をいふ。〔芥隱筆記〕杜牧之詩、老翁四百牙爪利、擲二火萬里一精神高、蓋用二天蓬咒舌蒼綠齒四目老翁一、而今本誤以レ目爲レ百耳、擲二火萬里一亦用下度人經擲二火萬里一流二鈴八衝一語上。

【擲十點兒】48 chih² shih² tien³ êrh 賭博の名。

【擳】12894

［一］シツ シチ 〔廣韻〕阻瑟切 質

［二］セツ セチ 〔集韻〕子結切 屑

［一］**稻を刈るおと。**〔廣韻〕擳、挃擳。［二］**ぬぐふ。**幯(4－9135)に同じ。〔集韻〕幯、拭也、或从レ手。

【擴】12895

［一］クワク 〔集韻〕闊鑊切 藥 ㄎㄨㄛˋ k'uo⁴

［二］クワク 〔集韻〕古獲切 陌

［三］クワウ 〔集韻〕古曠切 漾

［四］クワウ 〔集韻〕胡曠切 漾

［一］❶**ひろめる。ひろげる。**〔集韻〕擴、張大也。〔正字通〕擴、張レ小使レ大也。〔孟子、公孫丑上〕皆擴而充レ之矣。❷或は㨯(5－12573)に作る。〔集韻〕擴、或从レ郭。［二］**はる。**〔集韻〕擴、張也。［三］**みたす。**撗(5－12710)に同じ。〔集韻〕撗、充也、或从レ廣。［四］**うつ。**攩(5－13040)に同じ。〔集韻〕攩、打也、或作レ擴。

【擴散】1（クワクサン） ひろがり散る。液體に他の液體を注ぐ時、それが漸次に相混和すること。

【擴施】2（クワクシ） ひろめほどこす。〔論衡、感虛〕王者何須、修レ身正レ行、擴二施善政一。

【擴充】3（クワクジユウ） おしひろげて大きくしみたす。擴大して充實させる。仁義禮智の素質は我が心に先天的に備はつてゐるものであるから、之をおしひろげて、完全に發達させるを要するといふ倫理說。〔孟子、公孫丑上〕凡有二四端於我一者、知三皆擴而充レ之矣。〔集注〕擴、推廣之意、充、滿也、四端在レ我、隨處發見、知三皆卽レ此推廣、而充二滿其本然之量一、則其日新又新、將レ有下不レ能二自已一者上矣、能由レ此而遂充レ之、則四海雖レ遠亦吾度內、無二難レ保者一、不レ能レ充レ之、則雖二事之至近一不レ能矣。〔朱熹、又四齋銘、由義〕羞レ惡爾汝勉二擴充一兮、遵二彼大路一行無レ窮兮。

【擴大】4（クワクダイ） おしひろげる。ひろめる。擴張。㨯大。

【擴張】5（クワクチヤウ） 勢力、又は範圍などをおしひろげる。擴大に同じ。

【擴展】6（クワクテン） ひろめる。發展。

【擴聲器】7（クワクセイキ） ❶人の音聲を大にして遠方まで聞えしめるため、口にあてる器械。メガフォン。❷高聲電話受信器の一。ラウドスピーカー。

【擴廓帖木兒】8（クワククワクチムール） 元、沈丘の人。もと王姓。小字は保保。平章察罕帖木兒の甥。順帝この名を賜はる。官は太尉・中書平章政事。河南王に封ぜられ、天下の兵を統ぶ。太子ににくまれ、又、順帝にも忌まれ、盡く官爵を削られる。元、既に明に滅され、順帝北走し、太子嗣いで立つや、國事を任せられ、大將軍徐達等十五萬の衆を和林に敗る。明兵遂に敢て塞を出でず。〔元史、一百四十一〕・〔新元史、二百二十〕・〔明史、一百二十四〕・〔萬斯同明史、一百五十九〕・〔明史稿、一百十五〕。

【㩡】12896

リウ ル 〔集韻〕力求切 尤

❶**きる。**さす。〔廣韻〕㩡、斬刺。❷**つかねる。又、とる。**摎(5－12564)に同じ。〔集韻〕摎、束也、捋也、或从レ劉。

【擵】12897

マ 摩(5－12613)の俗字。〔正字通〕擵、俗摩字。

【擶】12898

セン 〔集韻〕子賤切 霰

ただす。矢の曲りをなほくする。〔集韻〕擶、射敬令レ正也。

【擆】12899

チヤク 撯(5－12795)に同じ。〔康熙字典〕擆、同レ撯。

【擷】12900

ケツ ゲチ 〔集韻〕奚結切 屑 ㄐㄧㄝˊ chieh² ㄒㄧㄝˊ hsieh²

❶**つむ。**つみとる。〔廣韻〕擷、捋取。〔宋之問、秋蓮賦〕芳心未レ成、採擷都盡。〔許有壬、詠二上京地椒一詩〕奚童擷滿レ筐。❷**はさむ。**襭(10－34702)に同じ。〔集韻〕襭、說文、以二衣衽一扱レ物、謂二之襭一、或从レ手。

【擷采】1（ケツサイ） つまみとる。〔姚文炎、贈二趙尊客一詩〕何來忽作思鄉曲、擷采幽香絕妙詞。

【擷芳】2（ケツハウ） 香草を採る。〔劉禹錫、送三王師魯協律赴二湖南使幕一詩〕楚水多二蘭芷一、何人事二擷芳一。〔蔡襄、上仲知已賦〕說困二刑戮一、何擷二其芳一、尹恬二耔耨一、何餔二其香一。

【擷芳詞】3（ケツハウシ） 詞牌の名。〔古今詞話〕政和間、京師妓之姥、曾嫁二伶官一、常入レ內教レ舞、傳二禁中擷芳詞一、以教二其妓一、人皆愛二其聲一、又愛二其詞一、類唐人所レ作、張尙書帥二成都一、蜀中傳二此詞一、競唱レ之、卻二於前段下添二憶憶憶三字一、後段下添二得得得三字一、又名二摘紅英一、殊失二其義一、不レ知三禁中有二擷芳園一、故名二擷芳詞一也。

【擷英閣】4（ケツエイカク） 宋、余日華(1－515··93)の室名。

【擷子髻】5（ケツシケイ） 晉代に流行した髮の名。〔搜神記、七〕晉時婦人結レ髮者、既成、以レ繒急束二其環一、名曰二擷子髻一、始自二宮中一、天下翕然化レ之也。

【擙】12901

［一］アウ オウ 〔集韻〕於刀切 豪

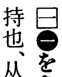
［二］ヘウ ベウ 〔集韻〕被表切 篠

［三］フウ フ 〔集韻〕方鳩切 尤

［一］**みなごろしにする。**鏖(11－40799)に同じ。〔集韻〕鏖、盡死二殺人一曰二鏖糟一、或作レ擙。［二］**くじきしばる。**〔集韻〕擙、折縛也。［三］**取る。**ひきとる。捊(5－12139)の古字。〔集韻〕捊、引取也、古作レ擙。

【擙轡】1（フウヒ） たづなをとる。〔木華、海賦〕若乃大明擙二轡於金樞之穴一、翔陽逸二駭於扶桑之津一。〔注〕善曰、擙、猶レ攬也。

【擸】12902



［一］レフ 〔集韻〕力涉切 葉

［二］ラフ 〔集韻〕力盍切 合 ㄌㄚˋ la⁴

［一］❶**をさめもつ。**〔說文〕擸、理持也、从レ手巤聲。〔段注〕謂二分理而持レ之也。〔新方言、釋言〕今謂レ理二須髮一爲レ擸、俗誤書レ掠。❷**もつ。**とる。〔廣雅、釋詁三〕擸、持也。〔儀禮、聘禮〕尙擸坐

啐レ醴。㊂通じて躐（10－37962）に作る。〔後漢書、崔駰傳、當二其無一レ事、則躐レ纓整レ襟、注〕躐、字宜レ从レ手。㊃通じて獵（7－20768）に作る。〔正字通〕史日者傳、擸レ纓正レ襟、俗本史記作レ獵。㊄或は擖（5－12833）に作る。〔集韻〕擸、或作レ擖。[二]㊀**えらびもつ**。〔玉篇〕擸、擇持也。㊁**をる**。くじく。或は擖（5－12833）に作る。〔集韻〕擸、折也、或作レ擖。㊂**やぶれる音**。〔字彙〕擸、破壞聲也。㊃[現]おとす。忘れる。

【擸下】1 la^4 hsia^4　遺す。置き忘れる。

【擸揷】2 レフ サフ　まじる。まじへる。〔集韻〕揷、擸揷、和攪也。〔吳越風土錄〕俗以、冬至前後逢二雨雪一、主年夜晴、若冬至晴、則主年夜雨雪、道塗泥濘、諺云、乾淨冬至擸揷年。

【擸持】3 la^4 ch‘ih^2　持つ。把持する。

【擸破】4 la^4 p‘o^4　破る。裂き破る。

【搖】 12903　ラ　〔集韻〕郎可切　[哿]

ゆれる。挼搖。〔集韻〕搖、挼搖、搖也。

【擳】 12904　チ　〔集韻〕展里切　[紙]

さす。〔集韻〕擳、刺也。

【擜】 12905

[一] ベツ メチ　〔集韻〕莫結切　[屑]

[二] ベイ マイ　〔集韻〕彌計切　[霽]

[三] バツ マチ　〔集韻〕莫八切　[黠]

[一]㊀**うつ**。〔廣雅、釋詁三〕擜、擊也。㊁**ゆがむ**。形が正しくない。擜僁。〔集韻〕擜、擜僁、不二方正一。[二]㊀**たつ**。〔廣韻〕擜、裁也。㊁**ぬぐひけす**。〔集韻〕擜、拭滅也。[三]**ぬぐふ**。〔集韻〕擜、拭也。

【𢹇】 12906　テン デン　〔篇海〕丈善切　[銑]

ころばす。〔篇海〕𢹇、手𢹇轉也。

【擹】 12907　タン

攤（5－13033）に同じ。〔集韻〕擹、或从レ難。

【𢹷】 12908　キ　〔集韻〕吁韋切　[微]

㊀**ふるふ**。**又、つくす**。揮（5－12394）に同じ。〔集韻〕揮、說文、奮也、一曰、竭也、或作レ𢹷。〔太玄經、玄攡〕𢹷而散レ之者也。㊁**うつる**。〔太玄經、玄告〕天渾而𢹷。〔注〕𢹷、猶レ移也。

【𢸿】 12909　トク ドク　〔集韻〕徒谷切　[屋]

ぬく。〔集韻〕𢸿、抽也。

【擺】 12910　ハイ バ　〔集韻〕部買切　[蟹]　ㄅㄞˇ pai^3

㊀**ひらく**。〔廣韻〕擺、擺撥。〔集韻〕擺、撥也。〔韓愈、調二張籍一詩〕垠崖劃二崩割一、乾坤擺二雷硠一。㊁**ならべる**。排列する。〔張衡、西京賦〕置レ互擺レ牲。㊂**ふるふ**。ふるひおとす。〔正字通〕擺、持而搖二振之一也。〔海內十洲記〕振二擺其垢一。㊃**ゆらぐ**。〔裴說、贈二衡山令一詩〕猿跳高岳靜、魚擺大江寬。㊄**兩手でうつ**。捭（5－12200）に同じ。〔玉篇〕捭、兩手擊也、擺、同レ上。㊅或は擘（5－12911）に作る。〔集韻〕擺、或書作レ擘。㊆[現]時計の振子。

【擺夷】1 ハイ イ　種族の名。四川省の境に住む僰人をいふ。

【擺宴】2 pai^3 yen^4　酒宴を開くこと。

【擺下】3 pai^3 hsia^4　ならべる。陳列する。

【擺開】4 ハイ カイ　ひろがる。ひろげる。〔福惠全書、保甲部、訓練伍壯〕北軍在二中軍後一擺開。

【擺盒】5 pai^3 hê^2　辨當をひらく。

【擺撼】6 ハイ カン　ふるひうごかす。〔孔平仲、越州飛來山詩〕草木困二擺撼一、枯葉半不レ全。

【擺供】7 pai^3 kung^4　祀る。祭禮。

【擺局】8 pai^3 chü^2　手くだを用ひてだましとる。

【擺鉤】9 ハイ コウ　㊀鉤を垂れる。釣をする。〔晉書、文苑、曹毗傳〕安期解二褐於秀林一、漁父擺二鉤於長川一。㊁長い繩に數本の鉤を垂れ、二艘の舟で兩端を持ち、往來して魚を取る釣り方。〔岳陽風土記〕江中漁人取二巨魚一、以二兩舟一夾レ江、一人持レ綸、鉤二其一綸一、繫二其兩端一、度二江所一レ宜用、餘皆軸レ之、中至二十鉤一、有二大如一レ秤、鉤皆相連、絕レ江往來牽挽、以待二魚行一亟取レ之、謂二之擺鉤一。

【擺沙】10 ハイ サ　砦の名。貴州省都勻縣の西北。〔讀史方輿紀要、貴州、都勻府〕擺沙寨、府西北三十里、天啓初、府境長田諸苗應二安邦彥一爲レ越、平越官軍討レ之、克二其擺沙大砦一、砦居二諸寨之中一、去二平亂一百里、官軍由二間道一襲破レ之、進攻二甕缶等寨一、復攻二府城西南仲賊一、克二江時戶西高平養古數十寨一、掃二蕩二百餘里一云。

【擺唆】11 pai^3 suo^1　勸誘する。そそのかす。

【擺支】12 pai^3 chih^1　話す。

【擺手】13 ハイ シユ　㊀手を振る。〔朱熹、香茶供二養黃蘗長老悟公塔一詩〕擺レ手臨レ行一寄レ聲、故應二離合一未レ忘レ情。㊁pai^2 shou^3　手を振つて拒む。

【擺酒】14 ハイ シユ　宴會を開く。〔北京指南、食宿遊覽、妓館、淸吟小班、擺酒〕擺酒、每席十數元、三五十元不レ等、班中皆自置二酒館一、菜頗不レ惡。

【擺牲】15 ハイ セイ　牲を並べる。〔張衡、西京賦〕置レ互擺レ牲、頒二賜獲鹵一。〔注〕綜曰、互、所二以挂一レ肉、擺、謂二破磔懸一レ之。〔馬融、廣成頌〕擺レ牲班レ禽。

【擺掣】16 ハイ セイ　動搖の急速なこと。〔顧雲、天威行〕颶風忽起雲顚狂、波濤擺掣魚龍殭。〔張耒、石樓詩〕犇騰去莫レ脫、擺掣恣二驍猛一。

【擺齊】17 pai^3 ch‘i^2　整頓した。

【擺設】18 ハイ セツ　㊀陳列する。飾付ける。〔長生殿、製譜〕不レ免下將二文房四寶一擺設起來上。㊁pai^3 shê^4　裝飾。飾物。

【擺線】19 ハイ セン　平面內に於て圓周が一直線上に沿つて迴轉する時、其の圓周上の任意の一點によつて描かれる曲線。cycloid の譯。

【擺臺】20 pai^3 t‘ai^2　膳立をする。飯をならべる。

【擺檯】21 pai^3 t‘ai^2　擺臺に同じ。

【擺脫】22 ハイ ダツ　除き去る。ぬけだす。脫れ去る。〔韓偓、送二人棄レ官入一レ道詩〕狃怩非二壯志一、擺脫是良圖。〔宣和書譜、行書二〕李邕云云、復乃擺二脫舊習一、筆力一新。〔朱子全書、學、立心處事〕若見二得時一、自須二猛省一、急擺脫出來。

【擺站】23 ハイ タン　徒罪に當る犯人を、驛站の苦役に使用すること。〔福惠全書、刑名部、問擬、釋二笞杖徒流決贖不一レ同〕家貧不レ足二以入一レ鍰者、謂二之無力一、凡擬二得罪狀一、依レ律決配、笞杖則受レ責、今每二笞杖二十一、折二責一板一、不レ用二荊條一、徒流按二年里一起發、民擺站軍瞭哨。〔六部成語、刑部、擺站、注解〕徒犯罪、在二驛站一充二當苦差一、曰二擺站一。

【擺攤】24 ハイ タン　㊀ならべ廣げる。〔福惠全書、雜課部、門攤稅〕有下支レ棚擺攤、賣二雜貨一生理者上。㊁pai^3 t‘an^1　露店を出す。

【擺扭】25 pai^2 niu^3　振る。動かす。

【擺陣】26 pai^3 chen^4　陣立をする。

【擺渡】27 ハイ ト　わたる。河などを渡る。〔明律、兵律、關津〕如遇二風浪險惡一、不レ許二擺渡一。

【擺渡船】28 pai^3 tu^4 ch‘uan^2　渡船。

【擺渡口兒】29 pai^3 tu^4 k‘ou^3 êrh　渡船場。船渡しする所。

【擺動】30 ハイ ドウ　㊀振り動かす。〔還魂記、婚走〕擺二動那長裙帶一。㊁擺二動鑾輿一は、行幸の意。〔宣和遺事、前集上〕陛下若擺二動鑾輿一、則出警入蹕。

【擺撥】31 ハイハツ ふりすてる。うちすてる。〔世說新語、政事〕王劉與二林公一、共看二何驃騎一、驃騎看二文書一不レ顧レ之、王謂レ何曰、我今故與二林公一來相看、望下卿擺二撥常務一、應對言上、那得二方低レ頭看一レ此邪。〔水滸傳、六十二回〕又是一箇不レ會レ走的、蔡福得二了這箇消息一、擺撥不レ下。

【擺飯】32 ハイハン 飯をならべる。膳立をする。〔桃花扇、投轅〕叫二左右快擺レ飯來一。

【擺尾】33 ハイビ 尾をふる。〔王安石、詩〕淸波映二白日一、擺レ尾揚二其鬚一。

【擺布】34 ハイフ ㊀始末する。處置をつける。〔朱子全書、學、論解經〕子思參二取夫子之說一、著爲二此書一、自レ是沈潛反覆、逐レ漸得二其旨趣一、定二得今章句篇一、其擺布得來、直恁麽細密。㊁pai^3 pu^4 ㋑ならべる。排列する。㋺人を困らせる。難題を持ち出す。

【擺佈】35 pai^3 pu^4 安排する。手配する。擺布。〔長生殿、傍訝〕吾儕如何擺佈。

【擺鋪】36 ハイホ 宋代各府縣に設けた官文書を遞送することを掌る役。〔宋史、輿服志六〕淳熙末、趙汝愚在二樞筦一、乃作二黑漆紅字牌一、奏委二諸路提擧官一催督、歲校二遲速最甚者一、以議二賞罰一、其後尙書省亦踵二行之一、仍命二逐州通判一、具二出入界日時狀一申レ省、久之稽緩復如レ故、紹熙末、遂置二擺鋪一焉。

【擺磨】37 ハイマ おしする。〔韓愈、陸渾山火和二皇甫湜一用二其韻一詩〕擺磨出レ火以自燔、有レ聲夜中驚莫レ原。

【擺落】38 ハイラク はらひのぞく。〔陶潛、飲酒詩〕擺落悠悠談、請レ從二余所レ之。〔白居易、遊二藍田山一卜レ居詩〕脫二置腰下組一、擺二落心中塵一。

【擺拉】39 ハイラフ とりひしぐ。〔李陽冰、論篆〕於二蟲魚禽獸一、得二屈伸飛動之理一、於二骨角齒牙一、得二擺拉咀嚼之勢一。

【擺列】40 pai^3 lieh^4 排列する。竝べる。

【擺弄】41 ハイロウ もてあそぶ。〔韓愈、鎭州初歸詩〕別來楊柳街頭樹、擺二弄春風一只欲レ飛。

【擺架子】42 pai^3 chia^4 tzŭ 虛飾をする。見せびらかす。威張る。

【擺翎子】43 pai^3 ling^2 tzŭ ぶよに似た小蟲の名。白蛉子。

【擺虛架】44 pai^3 hsü^1 chia^4 見榮を張る。虛飾する。

【擺字的】45 pai^3 tzŭ^4 tê 活版の文選。植字工。

【擺錫鮫】46 ハイシャクカウ 魚の名。馬鮫の異名。〔事物異名錄、水族、鮫〕事物原始、馬鮫色白如レ雪、俗名二擺錫鮫一、其小者名曰二青箭一。

【擺請兒】47 pai^2 chʻing^3 êrh 仲直りの宴會。又、仲直りの挨拶。

【擺場的】48 pai^2 chʻang^3 tê 芝居の衣裳方。

【擺不開】49 pai^3 pu kʻai^1 列べきれない。

【擺樣子】50 pai^3 yang^4 tzŭ ㊀見榮を張る。㊁講釋が上手で經驗のないこと。

【擺大架子】51 pai^3 ta^4 chia^4 tzŭ 大威張に威張る。

【⿱罷手】12911 ハイ

擺(5-12910)に同じ。〔集韻〕擺、或書作レ⿱罷手。

【擻】12912 ソウ ス 〔集韻〕蘇后切 〘有〙 ㄙㄡˇˋ sou$^{3 \cdot 4}$

㊀あげる。〔集韻〕抖、抖擻、擧二索物一也。㊁ふるふ。〔正字通〕擻、振動也。㊂すてる。はらふ。〔法苑珠林、百〕西云二頭陀一、此云二抖擻一、能行二此法一、卽能抖二擻煩惱一。㊃〘現〙引き起す。振ひ起す。

【擼】12913 ロ 〔篇海〕郎古切 〘麌〙

うごかす。〔篇海〕擼、動也。

【擹】12914 エン 〔集韻〕余專切 〘先〙

とる。もつ。にぎる。〔玉篇〕擹、把擹也。〔集韻〕擹、把也。

【擙】12915 フ 〔集韻〕芳無切 〘虞〙

㊀はる。〔集韻〕擙、張也。㊁あげる。〔集韻〕擙、揚也。

【擟】12916 サ

搓(5-11276)の本字。〔正字通〕擟、槎本字。

【擮】12917 セン

攕(5-12979)の俗字。〔正字通〕擮、俗攕字。

【⿰扌槩】12918 カイ

概(6-15364)の俗字。〔正字通〕⿰扌槩、俗概字。

【擽】12919

〘一〙リャク 〔集韻〕力灼切 〘藥〙
〘二〙ヤク 〔集韻〕弋灼切 〘藥〙
〘三〙レキ リャク 〔集韻〕狼狄切 〘錫〙
〘四〙ラク 〔集韻〕歷各切 〘藥〙

〘一〙うつ。〔廣韻〕擽、字統云、擊也。〔集韻〕擽、擊也。〘二〙つくす。〔集韻〕擽、竭也。〘三〙㊀うつ。或は攦(5-13036)・攊(5-12957)に作る。〔集韻〕擽、博雅、擊也、或从レ麗、从レ歷。〔廣雅、釋詁三〕擽、擊也。㊁のべる。〔玉篇〕擽、舒也。㊂かすめる。〔玉篇〕擽、捎也。〔漢書、司馬相如傳上〕擽二蜚遽一。〘四〙㊀石のさま。固いさま。〔荀子、王霸〕擽然扶二持心國一。〔注〕擽、讀爲レ落、石貌也。㊁うつ。挌(5-12047)に同じ。〔集韻〕挌、擊也、或从レ樂。

〘邦〙こそぐる。くすぐる。抓癢の義。

〘名乘〙ノブ。

【擽然】1 ラクゼン 堅いさま。石のさま。しつかりと。〔荀子、王霸〕擽然扶二持心國一、且若レ是其固也。〔注〕擽、讀爲レ落、石貌也。〔資治通鑑、周紀〕〔赧王三十一年〕荀子論レ之曰、云云、擽然扶二持心國一。〔注〕擽然、落石貌、言三其持レ心持レ國、擽然如二石之固一。

【擽捋】2 リャクラツ 手で絃を撫でるさま。〔嵇康、琴賦〕或摟批擽捋、縹繚潎冽。〔注〕善曰、摟批擽捋、皆手撫二拂絃一之貌。

【擾】12920

〘一〙ゼウ ネウ 〔集韻〕爾紹切 〘篠〙 ㄖㄠˇ jao^3
〘二〙ゼウ ネウ 〔集韻〕如招切 〘蕭〙
〘三〙ダウ ノウ 〔集韻〕乃老切 〘皓〙

小篆

〘一〙㊀みだれる。みだす。もと⿰扌夒(5-13018)に作る。〔正字通〕擾、从レ夒、本作レ⿰扌夒。〔說文〕⿰扌夒、煩也、从レ手夒聲。〔段注〕煩者、熱頭痛也、引伸爲二煩亂之偁一、今作レ擾从レ憂、俗字也。〔廣韻〕擾、亂也。〔書、允征〕俶擾二天紀一。〔傳〕擾、亂也。〔左氏、襄、四〕德用不レ擾。〔注〕擾、亂也。〔素問、王常政大論〕其動炎灼妄擾。〔注〕擾、撓也。〔素問、四氣調神大論〕無レ擾二乎陽一。〔注〕擾、謂二煩也、勞也一。㊁にごる。〔呂覽、音初〕水擾則魚鼈不レ大。〔注〕擾、渾。㊂わづらはす。手間をかける。馳走になる。煩費。〔司馬光、書儀〕凡弔及送二喪葬一者、必助二其事一而弗レ擾也。〔注〕擾、謂レ受二其飮食一。㊃したがふ。すなほ。獿(7-20219)に通ず。〔說文通訓定聲〕擾、叚借爲レ獿。

〔書、皐陶謨〕擾而毅。〔傳〕擾、順也。〔鄭注〕擾、謂事理擾順。❺したがへる。ならす。〔書、周官〕司徒掌邦教、敷五典、擾兆民。〔蔡傳〕擾、馴也。〔周禮、天官、大宰〕以擾萬民。〔注〕擾、猶馴也。〔周禮、夏官、服不氏〕掌養猛獸而教擾之。〔注〕擾、馴也。〔張衡、思玄賦〕擾應龍以服輅。〔注〕衡曰、擾、馴也。❻やはらか。〔管子、地員〕其木宜櫄擾桑。〔注〕擾、柔。❼やすんずる。やすらか。〔周禮、地官、序官〕以佐王安擾邦國。〔注〕擾、亦安也。❽家畜。〔周禮、夏官、職方氏〕其畜宜六擾。〔注〕家所畜曰擾、六擾、馬・牛・羊・豕・犬・雞。❾或は鐃(**11－40867**)に作る。〔集韻〕擾、或作鐃。㊁**したがふ。**㊀の❹に同じ。〔集韻〕擾、順也。㊂**みだれる。**㊀の❶に同じ。〔集韻〕擾、煩也。

名乘 ナツミ(姓)。

【擾怨】1（ゼウエン） 心をみだしうらむこと。〔宋史、李稷傳〕一路擾怨。

【擾害】2（ゼウガイ） さわがし害する。〔清會典事例、刑部、刑律賊盜、白晝搶奪〕直省不法之徒、如乘地方歉收、夥眾搶奪、擾害善良、挾制官長、或因賑貸稍遲、搶奪郁市、喧鬧公堂、及懷挾私憤、糾眾罷市辱官者、俱照光棍例治罪。

【擾狎】3（ゼウカフ） ならす。なれる。〔史記、韓非傳〕夫龍之爲蟲也、可擾狎而騎也。

【擾毅】4（ゼウキ） すなほでゐながら、きつい。擾而毅(29)を見よ。

【擾畜】5（ゼウキク／ゼウチク） ❶馴らし養ふ。〔左氏、昭、二十九〕(董父)實甚好龍、云云、乃擾畜龍、以服事帝舜。〔注〕順龍所欲而畜養之。❷よく馴らした馬。〔楚辭、大招〕曲屋步櫚、宜擾畜只。〔注〕擾、謹也、云云、宜乘擾謹之馬。

【擾化】6（ゼウクワ） ならし化する。〔荀子、性惡〕以擾化人之情性而導之也。〔注〕擾、馴也。

【擾索】7（ゼウサク） むさぼりとる。〔福惠全書、刑名部、人命上、總論〕擾索百端、男女驚逃。

【擾雜】8（ゼウザツ） みだしまじへる。かき亂して混雜さす。〔後漢書、東夷傳論〕燕人衞滿、擾雜其風、於是從而澆異焉。〔注〕擾、亂也。

【擾柔】9（ゼウジウ） やはらか。又、やさしい。すなほ。〔韓非子、說難〕夫龍之爲蟲也柔、可狎而騎也。〔集解〕盧文弨曰、文選袁彥伯三國名臣序贊注引、柔上有擾字、史無柔字、有擾字。〔翼毳〕佩文韻府尤韻柔字、引作可擾柔而騎。

【擾攘】10（ゼウジヤウ） さわぎみだれるさま。擾亂。〔史記、陳丞相世家贊〕傾側擾攘楚魏之閒。〔漢書、律歷志上〕歷戰國擾攘、秦兼天下。〔後漢書、王昌等傳論〕因時擾攘、苟恣縱而已耳。〔魏志、三少帝、高貴鄉公髦紀〕山賊擾攘。

【擾順】11（ゼウジユン） すなほ。〔書、皐陶謨、擾而毅、鄭注〕擾、謂事理擾順。

【擾馴】12（ゼウジユン） ならす。〔潛夫論、志氏姓〕擾馴鳥獸。〔孔子家語、五帝德〕擾馴猛獸。

【擾世】13（ゼウセイ） みだれた世。亂世(**1－214··103**)に同じ。

【擾擾】14（ゼウゼウ） ❶みだれるさま。ごたつきさわぐさま。紛紛。〔廣雅、釋訓〕擾擾、亂也。〔列子、周穆王〕哀樂好惡、擾擾萬緒起矣。〔莊子、天道〕堯曰、然則膠膠擾擾乎。〔疏〕膠膠擾擾、皆動亂之貌也。〔潘岳、河陽縣作詩〕擾擾俗化訛。〔鮑照、行樂至城東橋詩〕擾擾遊宦子、營營市井人。〔鄭谷、慈恩寺偶題詩〕往事悠悠添浩歎、勞生擾擾竟何能。〔杜牧、阿房宮賦〕綠雲擾擾、梳曉鬟也。❷柔かなさま。〔莊子、天道、釋文〕司馬云、擾擾、柔也。

【擾擾焉】15（ゼウゼウエン） みだれるさま。擾擾に同じ。〔國語、晉語六〕惟有諸侯、故擾擾焉。〔枚乘、七發〕擾擾焉、如三軍之騰裝。〔孔叢子、獨治〕今天下將擾擾焉。

【擾敓】16（ゼウダツ） みだしうばふ。擾奪。〔唐書、逆臣下、秦宗權傳〕樹壁相望、擾敓梁宋閒。

【擾溺】17（ゼウデキ） 多いさま。〔劉楨、贈從弟詩〕蘋藻生其涯、華葉紛擾溺。〔注〕向曰、紛擾溺、多貌。

【擾叛】18（ゼウハン） みだれそむく。〔詩、小雅、采菽、優哉游哉、亦是戾矣、疏〕思不出其位、無復擾叛。

【擾煩】19（ゼウハン） みだれてさわがしい。煩擾。〔漢書、武帝紀、何紛然其擾也、注〕師古曰、擾、煩也。

【擾飯】20 jao^3 fan^4 御馳走になる。

【擾逼】21（ゼウフク） みだれせまる。〔梁書、武帝紀上〕永明季年、邊隙大啓、荆河連率、招引戎荒、江淮擾逼、勢同履虎。

【擾敝】22（ゼウヘイ） みだれやぶれる。擾弊。〔日本政記、後宇多天皇論〕節用蓄力、不內自擾敝。

【擾弊】23（ゼウヘイ） みだれやぶれる。〔王勃、倬彼我系詩〕晉曆崩坼、衣冠擾弊。

【擾民】24（ゼウミン） 民をならしたがへる。〔書、周官〕司徒掌邦教、敷五典、擾兆民。〔蔡傳〕擾、馴也。〔周禮、天官、大宰〕以擾萬民。〔注〕擾、猶馴也。

【擾亂】25（ゼウラン） 亂れる。さわぐ。又、みだす。さわがす。紛擾。〔六韜、虎韜、金鼓〕三軍大恐、擾亂失次。〔韓非子、制分〕則法安得無失、而刑安得無煩、是以賞罰擾亂、邦道差誤、刑賞之不分白也。〔呂覽、去宥〕羣臣擾亂。〔史記、項羽紀〕門下大驚擾亂、籍所擊殺數十百人。〔漢書、周勃傳〕內相攻擊擾亂、至於帳下。

【擾龍】26（ゼウリヨウ） ❶龍を馴らす。〔張衡、思玄賦〕擾應龍以服輅。〔漢書、高帝紀贊〕有劉累、學擾龍事孔甲。❷複姓。〔通志、氏族略、以技爲氏〕擾龍氏、劉累之後。

【擾龍後人】27（ゼウリヨウコウジン） 宋、劉涇(**2－2224··227**)の號。

【擾累】28（ゼウルイ） わづらはしい。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕納戶不致擾累。

【擾而毅】29（ゼウニシテキ） よく馴れ順ふと共に毅然として強い所のあること。〔書、皐陶謨〕亂而敬、擾而毅。〔蔡傳〕馴擾而果毅。〔史記、夏紀〕治而敬、擾而毅。

【擑】12921

㊀サク　㊀摵(**5－12640**)の俗字。〔正字通〕擑、俗摵字。

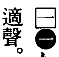
㊁ソク　字通〕...

【擿】12922

㊀テキ／ヂヤク　〔集韻〕直隻切　陌。

㊁テキ／チヤク　〔集韻〕丁歷切　去一　ㄊㄧ　錫。

㊂タク／チヤク　〔集韻〕陟革切　陌。



小篆

㊀❶**かく。**〔說文〕擿、搔也、从手適聲。❷**かんざしの足。**〔後漢書、輿服志〕簪以瑇瑁爲擿。❸**なげる。**なげうつ。なげだす。〔說文〕擿、一曰、投也。〔史記、刺客、荊軻傳〕乃引匕首、以擿秦王。〔注〕索隱曰、擿、與擲同、古字耳。〔漢書、史丹傳〕隤銅丸以擿鼓。〔注〕師古曰、擿、投也。〔莊子、胠篋〕擿玉毀珠。〔釋文〕擿、崔云、猶投棄之也。❹**つまむ。とる。**摘(**5－12582**)に通ず。〔詩、鄘風、君子偕老、象之揥也、傳、揥所以摘髮也、釋文〕摘、本又作擿。❺或は擲(**5－12893**)に作る。〔集韻〕擿、或作擲。㊁❶**ひらく。**摘(**5－12582**)に通ず。〔說文通訓定聲〕擿、段借爲摘。〔淮南子、本經訓〕擿蚌蜃。〔注〕擿、猶開也。〔後漢書、張衡傳〕贏擿讖而戒胡兮。〔注〕擿、猶發也。❷**あばく。**あばきだす。えぐりだす。或は晢(**8－24227**)・[illegible](**5－12471**)に作る。〔集韻〕擿、挑也、或作晢・[illegible]。〔漢書、趙廣漢傳〕其發姦擿伏如神。〔漢書、孫寶傳〕故欲擿觖以揚我惡。〔注〕師古曰、擿觖、謂挑發之也。〔漢書、谷永傳〕擿永令發去。〔注〕師古曰、擿、謂發動之。❸**かかげる。**つまみあげる。〔漢書、劉向傳〕乃著疾讒・擿要・救危、及世頌、凡八篇。〔注〕師古曰、擿、謂指發之也。❹**のぞく。**〔一切經音義、十四〕擿、除也。❺**うつ。**〔集韻〕擿、磓也。〔漢書、史

丹傳〕隤二銅丸一以擿レ鼓。〔注〕師古曰、一曰、擿、磓也。❻さぐる。〔法言、修身〕擿レ埴索レ塗、冥行而已。〔注〕謂二冥行一者、以レ杖擿レ路尋レ地。〖三〗❶きざむ。〔莊子、胠篋〕擿レ玉毀レ珠。〔釋文〕擿、李云、刻也。❷とる。擿(5－12582)に同じ。〔集韻〕擿、取也、或从レ適。❸かく。〔集韻〕擿、博雅、搔也。

〖參考〗熟語は擿(5－12582)を併せ見よ。

【擿要】1（テキエウ）劉向の著した篇の名。〔漢書、劉向傳〕乃著二疾讒・擿要・救危、及世頌、凡八篇一。

【擿姦】2（テキカン）よこしまをあばく。〔日本政記、淳和天皇〕高房參議藤嗣子、廉明絕二請託一、善擿レ姦。

【擿玉】3（テキギヨク）玉をなげすてる。一說に、玉を刻む。〔莊子、胠篋〕擿レ玉毀レ珠、小盜不レ起。〔釋文〕擿、義與二擲字一同、崔云、猶三投二棄之一也、李云、刻也。

【擿抉】4（テキケツ）かかげあばく。隱れた惡事をあばきだす。挑發。〔吳志、步騭傳〕騭上疏曰、伏聞、諸典校擿二抉細微一、吹レ毛求レ瑕。

【擿觖】5（テキケツ）かかげあばく。あばきだす。擿抉に同じ。〔漢書、孫寶傳〕欲三擿觖以揚二我惡一。〔注〕師古曰、擿觖、謂三挑二發之一也。

【擿鼓】6（テキコ）鼓に投げつける。一說に、鼓を打つ。〔漢書、史丹傳〕隤二銅丸一以擿レ鼓。〔注〕師古曰、隤、下也、擿、投也、云云、一曰、磓也。

【擿巢】7（テキサウ）巢をさぐる。〔漢書、宣帝紀〕其令二三輔一、毋レ得下以二春夏一擿レ巢探上レ卵。

【擿出】8（テキシユツ）ひろひ出す。あばきだす。〔後漢書、賈逵傳〕擿二出左氏三十事尤著明者一。

【擿埴】9（テキシヨク）地をさぐる。めくらが杖で地をさぐるなど。〔法言、修身〕擿レ埴索レ塗、冥行而已矣。〔注〕埴、土也、盲人以レ杖擿レ地而求レ道。

【擿讖】10（テキシン）讖をひらく。〔後漢書、張衡傳〕嬴擿レ讖而戒レ胡兮。

【擿盡】11（テキジン）つぶさにあばく。あばきつくす。〔林鶴梁、膽本胡邦衡上二高宗一封事序〕擿二盡時弊一。

【擿擋】12（テキタウ）鼓の聲。〔管子、宙合〕若二鼓之有レ「捭、擿擋則擊一。

【擿發】13（テキハツ）あばきだす。ほじくり出す。摘發。挑發。〔後漢書、賈復傳〕轉相二監司一、以擿二發其姦一。

【擿伏】14（テキフク）かくれひそんでゐる惡事をあばき出す。〔漢書、趙廣漢傳〕其發レ姦擿レ伏如レ神。〔注〕師古曰、擿、謂二動發之一也。〔梁元帝、玄覽賦〕慕二張生之擿伏一、挹二邊延之勵積一。

【擿遍】15（テキヘン）歌曲の一部分を裁截して用ひること。摘遍(5－12582··40)に同じ。

【擿烏豆】16（テキウトウ）ちまめをいふ。〔通俗編、草木、擿烏豆〕齊書王敬則傳、少時于二草中一射獵、有レ蟲如二烏豆一、集二其身一、擿去乃脫、其處皆流レ血、按俚俗謂、撚二人膚體一致二起血瘤一、曰二擿烏豆一、似レ因二于此事一。

【擳】12923

シツ　シチ　〔集韻〕子悉切　〖質〗

❶つむ。とらへつまむ。扻(5－11864)に同じ。〔集韻〕扻、擿也、或作レ擳。〔字彙〕擳、捉擿也。❷擳(5－12879)の本字。〔康熙字典〕擳、擳本字。

【擕】12924

ケイ　擕(5－13008)に同じ。〔康熙字典〕擕、擕字省文。

【攀】12926

ハン　〔集韻〕披班切　〖刪〗　ㄆㄢ　p'an^1

❶ひく。癶(2－3123)に同じ。〔集韻〕癶、說文、引也、或作レ攀。〔正字通〕攀、自レ下援レ上也。❷よぢる。すがつて上る。〔釋名、釋姿容〕攀、翻也、連翻上及レ之也。〔莊子、馬蹄〕烏鵲之巢、可二攀援而闚一。❸すがる。とりつく。〔晉書、王裒傳〕攀レ柏悲號。❹たよる。ちからとする。たのむ。〔庾信、廣饒公鄭常墓誌〕吏人攀慕。❺扳(5－11837)に同じ。〔廣韻〕扳、音班、挽也、又音攀、同レ攀。❻〖現〗白狀する。

〖名乘〗ヨシ。ヒク。ヨリ。

【攀倚】1（ハンイ）のぼりよる。〔高適、宴二韋司戶山亭院一詩〕苔逕試二窺踐一、石屏可二攀倚一。

【攀雲】2（ハンウン）雲によぢる。高きによぢ登る。攀高。〔曹植、苦思行〕我心何踴躍、思欲二攀レ雲追一。〔劉崇望、授二崔凝沈文偉翰林學士一制〕周旋鳴玉之儀、頡頏攀雲之路。

【攀搖】3（ハンエウ）よぢのぼつてうごかす。〔日本政記、後醍醐天皇論〕童稚攀二搖之一而動矣。

【攀緣】4（ハンエン）❶よぢのぼる。攀援。〔李白、蜀道難〕黃鶴之飛尙不レ得レ過、猿猱欲レ度愁二攀緣一。〔吳融、閿鄉寓居十首、小徑詩〕礙レ竹妨レ花一徑幽、攀緣可レ到玉峯頭。❷俗緣にたづさはる。俗事にひかれる。〔元稹、悟禪詩〕病宜レ多二宴坐一、貧似レ少二攀緣一。〔楞嚴經、一〕何謂二病本一、謂二攀緣一。❸怒る。憤怒。〔玉葉集〕治承三年十一月十五日、法皇與二博陸一同意、被レ亂二國政一之由、入道相國攀緣。

【攀緣莖】5（ハンエンケイ）葡萄などのやうに、卷鬚を以て他物によぢのぼる莖。

【攀援】6（ハンエン）❶よぢのぼる。攀緣。〔莊子、馬蹄〕烏鵲之巢、可二攀援而闚一。❷引く。㋑引き持つ。援、持也。〔劉安、招隱士〕攀二援桂枝一兮聊淹留。〔注〕翰曰、援、持也、言下原引二持美行一、淹二留於此一、以待中明君上。㋺引き留める。〔漢書、杜欽傳〕主上昭然知レ之、故攀援不レ遣。〔後漢書、馮衍傳下〕往者不レ可二攀援一兮。㋩引き戾す。〔曹丕、與二吳質一書〕年一過往、何可二攀援一。㋥助ける。又、賴る。〔漢書、翟方進傳〕欲二相攀援、死而後已一。

【攀轅】7（ハンエン）ながえにとりつく。攀轅臥轍・攀車(23)を見よ。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕黃童白叟、臥レ轍攀レ轅。

【攀轅泣送】8（ハンエンキフソウ）車にとりつき涙を流して見送る。〔福惠全書、蒞任部、忍性氣〕邑鄉紳士民、攀レ轅泣送者。

【攀轅臥轍】9（ハンエングワテツ）車の轅にすがり、車のわだちに臥す。百姓が良い長官の留任を希望して引留めること。〔白孔六帖〕漢侯霸爲二臨淮大守一、被レ徵、百姓攀レ轅臥レ轍、願留二期年一。〔書言故事、仕進類〕餞レ去任、當二攀レ轅臥一レ轍。

【攀轅扣馬】10（ハンエンコウバ）攀轅臥轍に同じ。扣馬は、馬を引止める。〔東觀漢記、第五倫傳〕倫性節儉、作二會稽太守一、云云、爲レ事徵、百姓攀レ轅扣レ馬呼曰、舍レ我何之。

【攀高】11（ハンカウ）❶高きによぢのぼる。高地に上る。〔沈君攸、採桑詩〕摘駛籠行滿、攀レ高腕欲レ疲。❷p'an^1 kao^1 高い位地を切望する。

【攀高親】12 p'an^1 kao^1 ch'in^1　富貴權門の人にとり入つて結婚すること。

【攀號】13（ハンガウ）死者を哀號すること。黃帝が龍に乘つて天に上つた時、小臣が龍の髯にとりすがり、弓を抱いて號泣した故事。攀髯(35)を見よ。〔郭湜、高力士傳〕二聖昇遐、攀號不レ迨。

【攀柩】14（ハンキウ）柩をひく。〔淮南子、說山訓〕曾子攀二柩車一。

【攀弓】15 p'an^1 kung^1　弓をひく。

【攀花】16（ハンクワ）花にすがりつく。〔李白、贈二范金鄉一詩〕桃李君不レ言、攀レ花願レ成レ蹊。〔王維、聽二宮鶯一詩〕隱レ葉棲二承露一、攀レ花出二未央一。

【攀花折柳】17 p'an^1 hua^1 shê^2 liu^3　遊蕩生活をすること。

【攀翫】18（ハングワン）もてあそぶ。〔白居易、白牡丹詩〕唐昌玉蘂花、攀二翫衆所一レ爭。

【攀桂】19（ハンケイ）月中のかつらを取る意。轉じて、官吏登用試驗に及第すること、又、立身出世の喩。月の桂を折る。〔魏徵、賞二舊左右一議〕攀桂之謳未レ絕、積薪之歎尙深。〔杜甫、八月十五夜月詩〕轉蓬行レ地遠、攀レ桂仰二天高一。〔注〕趙次公曰、言二月中桂一也。〔剪燈餘話、賈雲還魂記〕寄語風流攀桂客。

【攀桂花】20（ハンケイクワ）木棉の異名。〔事物異名錄、樹木、棉〕閩部疏、木棉花、惠安志、名爲二攀桂花一、楊用修乃曰、班枝花與二吳中所レ稱攀枝一、蓋三名、實一物也。

【攀桂分】21（ハンケイノブン）立身出世する運命。〔可明、贈二方干一詩〕月裏豈無二攀桂分一。

【攀教】22（ハンケウ）教をうける。〔桃花扇、罵筵〕清談攀教顯二得老師相高量雅懷一。

【攀索】23 p'an^1 suo^3　繩をたぐる。

【攀舟】24（ハンシウ）舟によぢのぼる。

【攀扯】25 p'an¹ ch'ê³ 依賴する。たのむ。引つぱりこむ。

【攀車】26 ハンシヤ 車に手をかけてとどめる。〔後漢書、循吏、孟嘗傳〕被レ徵當レ還、吏民攀レ車請レ之。〔後漢書、第五倫傳〕永平五年、坐レ法徵、老少攀レ車叩レ馬嗁呼。〔沈約、齊故安陸昭王碑〕攀レ車臥レ轍之戀、爭レ塗忘レ遠。

【攀樹】27 ハンジユ 木によぢのぼる。〔傅玄、放歌行〕孤雛攀レ樹鳴、離鳥何繽紛。〔黃庚、林高士隱居詩〕白猿攀レ樹藤花落、點破巖前一地雲。

【攀親】28 p'an¹ ch'in¹ 富貴權門にとり入つて結婚すること。攀高親。

【攀濟】29 p'an¹ chi⁴ 攀ぢ上る。

【攀躋】30 ハンセイ よぢのぼる。〔岑參、酬下崔十三侍御登二玉壘山一思二故園一見上レ寄詩〕山高徒仰止、不レ得二日攀躋一。〔周咸、登二吳嶽一賦〕邈崖谷遂攀躋、入二雲靄一出レ塵。

【攀繞】31 ハンゼウ よぢまつはる。

【攀折】32 ハンセツ ひき折る。〔鄭審、奉レ使巡二檢兩京路一種二果樹一事畢入レ秦因詠歌〕何當下扈二仙蹕一、攀折奉中恩輝上。〔李嶠、柳詩〕短簫何以奏、攀折爲レ思君。〔韓翃、寄二柳氏一詩〕縱使二長條似レ舊垂一、也應三攀二折他人手一。

【攀接】33 ハンセツ 接近してすがる。〔元黃之、維摩詰畫像碑〕四天讚仰而無レ假、十地攀接而無レ階。〔徐夤、邑宰相訪云云詩〕夜半夢醒追復想、欲レ長二攀接一有二何因一。

【攀船】34 ハンセン 舟によぢのぼる。攀舟。

【攀髯】35 ハンゼン 人の死を悼み悲しむ言葉。黃帝の昇天した時、小臣が龍の髯にとりすがつた故事。〔史記、封禪書〕黃帝采二首山銅一、鑄二鼎於荊山下一、鼎既成、有レ龍垂二胡髯一下迎二黃帝一、黃帝上レ騎、羣臣後宮從レ上者七十餘人、龍乃上去、餘小臣不レ得レ上、乃悉持二龍髯一、龍髯拔墮、墮二黃帝之弓一、百姓仰望、黃帝既上レ天、乃抱二其弓與二胡髯一號。〔朱弁、哀辭〕攀二龍髯一而莫レ遂、淚灑冰レ天。

【攀登】36 ハントウ つかまりあがる。よぢのぼる。〔曹植、九愁賦〕眷二浮雲一以太息、願二攀登一而無レ階。

【攀陪】37 ハンバイ おともをする。〔羅隱、烏程詩〕兩府攀陪十五年、郡中甘雨幕中蓮。

【攀柏】38 ハンパク 柏にとりすがる。〔晉書、孝友、王裒傳〕裒痛二父非命一、云云、廬二於墓側一、旦夕常至二墓所一拜哭、攀レ柏悲號、涕著レ樹、樹爲レ之枯。

【攀附】39 ハンプ ㊀よぢのぼる。〔陳琳、爲二曹洪一與二魏文帝一書〕設令守無二巧拙一、皆可二攀附一、則公輸已陵二宋城一、樂毅已拔二卽墨一矣。㊁すがる。すがりついて賴る。〔後漢書、寇恂傳〕今聞、大司馬劉公伯升母弟、尊レ賢下レ士、士多歸レ之、可二攀附一也。〔顏氏家訓、慕賢〕安可レ不四攀二附景三仰之一乎。〔宋史、張遜傳〕遜小心謹愼、徒以二攀附一至二貴顯一。

【攀慕】40 ハンボ たよりしたふ。名殘を惜しむ。〔庾信、周大將軍上開府廣饒公鄭常墓誌〕吏人攀慕、飛走變レ色。〔宋史、樂志十五〕漢儀雄盛、攀慕傷レ情。

【攀翻】41 ハンポン よぢのぼる。翻は援。〔謝靈運、石門新營レ所レ住詩〕洞庭空波瀾、桂枝徒攀翻。〔注〕銑曰、翻、援也。

【攀輿】42 ハンヨ ㊀輿にすがる。後漢の劉寵が、母の病のために官を去らんとした時、士民が輿にすがつて引き留めた故事。〔續漢書〕劉寵除二東平陵令一、以二母病一去レ官、士民攀レ輿拒レ輪、充二塞道路一、車不レ得レ前。㊁こし。乘輿。〔蘇軾、諸公餞二子敦一、軾以レ病不レ往復次二前韻一詩〕攀輿共二六尺一、食レ肉飛二萬里一。

【攀留】43 ハンリウ 引き留める。扳留。

【攀龍】44 ハンリヨウ 龍につかまる。秀れた人に附きしたがふこと。顯貴な人に附きしたがつて出世すること。攀龍附鳳。〔蜀志、楊戲傳〕乖レ道反レ德、託レ鳳攀レ龍。〔陶潛、命レ子詩〕於赫愍侯、運當二攀龍一。〔左思、詠史詩〕自レ非二攀龍客一、何爲欻來游。

【攀龍附驥】45 ハンリヨウフキ 攀龍附鳳に同じ。〔吳志、吳主孫權傳、注〕魏略曰、浩周、云云、又曰、今子當二入侍一、而未レ有二妃耦一、昔君念レ之、以爲、可下上連二綴宗室一若中夏侯氏上、雖二中間自棄一、常奉戢在レ心、當下垂二宿念一爲中之先後上、使二獲二攀レ龍附レ驥、永自固定一。

【攀龍附鳳】46 ハンリヨウフホウ 龍につかまり鳳凰につきしたがふ。すぐれた人に附きしたがふこと。〔漢書、敍傳下〕攀レ龍附レ鳳、竝乘二天衢一。〔後漢書、光武紀上〕士大夫、云云、從二大王於矢石之閒一者、其計固望下其攀二龍鱗一附二鳳翼一、以成中其所上レ志耳。〔吳志、魯肅傳〕攀龍附鳳、馳騖之秋。〔法言、淵騫〕或曰、淵騫曷不レ寢、曰、攀二龍鱗一附二鳳翼一、巽以揚レ之、勃勃乎、其不レ可レ及也、如二其寢一如二其寢一。

【攀鱗】47 ハンリン 龍鱗につかまる。すぐれた人をたよりにすること。攀龍に同じ。〔王惲、送二王子初總管奉詔北上一詩〕烟霄未レ遂攀レ鱗志、葵藿空懷向レ日誠。

【攀例】48 ハンレイ 先例とする。〔宣和遺事、前集下〕不レ許二後人攀例一。

【攀輦】49 ハンレン てぐるまを引く。〔國語、晉語八〕攀レ輦卽レ利而舍。〔注〕攀、引也。

【攀戀】50 ハンレン 去る車につかまつてこひ慕ふ。賢明な長官が辭職し去る時、吏民がなごりを惜しむにいふ。〔北史、伊婁謙傳〕以レ疾去レ職、吏民攀戀、行數百里不レ絕。〔庾信、周車騎大將軍贈小司空宇文顯墓誌〕吏人攀戀、刊二石陘山一。

【攀攣】51 ハンレン ㊀よぢのぼる。攣は拘牽。攀援。㊁ひくこと。〔韻府引、易、中孚、有レ孚攣如、疏〕已又攀攣而迎接、志意合同。

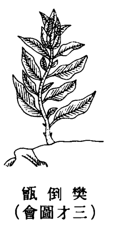
【攀話】52 p'an¹ hua⁴ 話のてづるを考へて話す。

【攀禽類】53 ハンキンルイ 鳥類分類上の一目。嘴は眞直で鋭く、後肢に四本の趾があつて、內二本は前方、二本は後方に向ふ。樹上を上下することが巧で、常に森林に棲息し、樹洞內に產卵する。あかげら・こげら・ほととぎす等の類。

【攀古樓】54 ハンコロウ 室名。㊀清、錢泳(11−40563・・11)の室名。㊁清、潘祖蔭(7−18236・・189)の室名。

【攀枝花】55 ハンシクワ ㊀木棉の異名。〔事物異名錄、樹木、棉〕閩部疏、木棉花、惠安志、名爲二攀桂花一、楊用修乃曰、班枝花與二吳中所レ稱攀枝一、蓋三名、實一物也。㊁地名。姚關の南。㋑雲南省保山縣の東南、灣甸州附近の地。〔讀史方輿紀要、雲南、灣甸禦夷州〕官軍進討二緬酋一、復合二東西諸路兵一、進寇二姚關一、參將鄧子龍大破二之於攀枝花一、其地在二姚關南一也。㋺雲南省西疇縣。

【攀倒甑】56 ハンタウソウ 草の名。郊野に自生し、莖葉は薄荷に類す。其の汁は藥用となる。にはとこ。一名、斑杖、又は接骨。〔大觀本草〕攀倒甑、生二宜州郊野一、一名斑杖、一名接骨。


樊倒甑（三才圖會）

【攀一脈親】57 p'an¹ i² mo⁴ ch'in¹ 親類分になる。

【攀古小廬】58 ハンコセウロ 清、許瀚(10−35298・・38)の室名。

【攀木緣崖】59 ハンボクエンガイ 木によぢ崖によぢのぼる。〔魏志、鄧艾傳〕將士皆攀レ木緣レ崖、魚貫而進。

【⿰扌樊】
12927

ハン 攀(5−12926)に同じ。〔正字通〕攀、說文、𠬜重文作レ⿰扌樊。〔說文〕𠬜、⿰扌樊、𠬜或从レ手从レ樊。

【攁】
12928

ヤウ 〔集韻〕以兩切 養

ひらきうごかす。〔集韻〕攁、發動也。

【攂】
12929

ライ 擂(5−12783)の本字。〔正字通〕攂、擂本字。

【㩧】
12930

㊀ハク バク 〔集韻〕弼角切 覺
㊁ハク 〔集韻〕北角切 覺
㊂ハク ヒヤク 〔集韻〕博陌切 陌
㊃ハウ 〔集韻〕普講切 講

㊀㊀うつ。〔廣雅、釋詁三〕㩧、擊也。㊁**物をうちたたく音**。〔廣韻〕㩧、擊聲。〔張衡、西京賦〕流鏑掩㩧。〔注〕綜曰、掩㩧、中聲也。㊂もと㩧(5−13006)に作る。〔集韻〕㩧、或

作㆑擈。〔康熙字典〕擈、本作㆑擈。㊁❶うつ。轂（5－13423）に同じ。〔集韻〕轂、擊也、或从㆑手。❷或は攴（5－13119）・撲（5－12755）・技（5－11856）・扑（5－11779）・攴（5－13108）に作る。〔集韻〕擈、博雅、擊也、或作㆓攴・撲・技・扑㆒、亦省。㊂うちたたく音。〔集韻〕擈、擊聲。㊃うつ。〔集韻〕擈、擊也。

【摖】12931　サツ　サチ　〔集韻〕桑葛切　曷

❶草原を步く音。〔廣韻〕摖、足動㆑草聲。❷する。或は磜（8－24555）に作る。〔集韻〕摖、摩也、或从㆑石。〔益州名畫錄〕以㆓筆端㆒搶摖、文理縱橫。❸まく。又、はなつ。ばらまく。粲（8－27085）に同じ。〔集韻〕粲、説文、糂粲、散㆑之也、一曰、放也、或作㆑摖。〔韓愈、月蝕詩〕星如㆑摖㆑沙出。

【攄】12932　チョ　〔集韻〕抽居切　ㄕㄨ shu¹　魚

❶のべる。〔廣雅、釋詁四〕攄、舒也。〔增韻〕攄、摛也。〔漢書、敍傳上〕率不㆑能㆑攄㆓首尾㆒。〔注〕師古曰、攄、申也。〔後漢書、班彪傳上〕獨攄㆓意乎宇宙之外㆒。〔注〕攄、舒也。❷しく。〔漢書、司馬相如傳下〕攄㆓之無窮㆒。〔注〕師古曰、攄、布也。❸はる。〔廣雅、釋詁一〕攄、張也。〔楚辭、九章、悲回風〕據㆓青冥㆒而攄㆑虹兮。❹ちらす。〔漢書、揚雄傳上〕奮㆓六經㆒以攄㆑頌。〔注〕師古曰、攄、散也。❺あがる。〔後漢書、張衡傳〕八乘攄而超驤。〔注〕攄、猶㆑騰也。❻なぞらへる。〔玉篇〕攄、擬也。❼或は捈（5－12135）に作り、通じて摴（5－12639）に作る。〔集韻〕攄、或作㆑捈、通作㆑摴。❽姓。〔萬姓統譜〕攄、見㆓直音㆒。

【攄意】1 チョイ　こころをのべる。〔班固、答賓戲〕獨攄㆓意乎宇宙之外㆒。〔傳毅、舞賦〕攄㆓予意㆒以弘觀兮。

【攄懷】2 チョクワイ　おもひをのべる。〔唐太宗、秋日翠微宮詩〕攄㆑懷俗塵外、高眺白雲中。

【攄書】3 チョショ　書物の意味をのべる。〔淮南子、脩務訓〕攄㆑書明指以示㆑之。

【攄頌】4 チョショウ　ほめことばをのべる。〔揚雄、河東賦〕奮㆓六經㆒以攄㆑頌。

【攄武】5 チョブ　武威をのべる。〔陸機、漢高祖功臣頌〕振㆓威龍蛻㆒、攄㆓武墉城㆒。

【攄武師】6 チョブシ　吳の鼓吹曲の名。三國吳、韋昭作。漢の短簫鐃歌十八曲の一なる艾如張に代へて作つたもの。〔古今樂錄〕攄武師者、言㆘孫權卒㆓父之業㆒而征伐㆖也、當㆓漢艾如張㆒。

【攅】12933　サン

攢（5－13030）の俗字。〔字彙〕攢、俗攅字。

【擧】12934　キョウ　〔廣韻〕居悚切　腫

姓。〔廣韻〕擧、姓也。

【𢹷】12935　㊀セイ　サイ　〔集韻〕祖芮切　霽　㊁ケイ　エ　〔廣韻〕胡桂切　霽

㊀さく。或は㩗（5－12618）に作る。〔集韻〕𢹷、裂也、或省。㊁さく。〔廣韻〕𢹷、𢹷裂。

【擷】12936　㊀ケイ　キヤウ　〔集韻〕犬穎切　梗　㊁セイ　シヤウ　〔集韻〕騂穎切　梗

㊀㊁をへる。をはる。〔集韻〕擷、博雅、竟也。〔方言、十三〕擷、竟也。

【擙】12937　ヘウ

摽（5－12651）の本字。〔六書故〕擙、摽本字。

【擐】12938　クワン

擐（5－12813）の本字。〔正字通〕擐、本作㆑擐。

【擶】12939　セン

揃（5－12319）に同じ。〔集韻〕揃、或从㆑翦。

【攃】12940　サツ

攃（5－13038）に同じ。〔篇海〕攃、同㆑攃。

【擷】12941　ケツ

擷（5－12900）に同じ。〔篇海〕擷、同㆑擷。

【擿】12942　テキ

摘（5－12582）に同じ。〔篇海〕擿、同㆑摘。

【攎】12943　サ

摣（5－12601）に同じ。〔篇海〕攎、同㆑摣。

【攆】12944　デン　ㄋㄧㄢˇ nien³

逐ふ。追ひ出す。〔辭海〕攆、同㆓捻・撚㆒、驅逐也。

【攆逐】1 nien³ chu² 追ひ出す。放逐する。

【攆走】2 nien² tsou³ 追放する。放逐する。

【攆跑】3 nien² p'ao³ 追ひ出す。放逐する。

【攆出去】4 nien³ ch'u¹ ch'ü⁴ 放逐する。〔紅樓夢、八回〕攆了出去、大家乾淨。

【攆不開】5 nien³ pu k'ai¹ 追ひ出すことが出來ない。

十六畫

【擮】12945　キ

攕（5－12978）の譌字。〔康熙字典〕擮、正字通、攕字之譌。

【攇】12946　ケン　コン　〔集韻〕許偃切　阮

❶なぞらへる。〔集韻〕攇、博雅、擬也。❷むすぶ。つめる。〔集韻〕攇、一曰、手約㆑物。❸かかげる。ひく。〔正字通〕攇、或曰、攇乃攐字之轉。❹ふるひ動く。〔正字通〕攇、震攇、猶㆓搴掔㆒也。〔蜀志、許慈傳〕時尋㆓楚撻㆒、以相震攇。❺或は掀（5－12490）に作る。〔集韻〕攇、或作㆑掀。

【㩡】12947　デウ　ネウ　〔集韻〕乃了切　ㄒㄧㄠ hsiao¹　篠

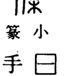
つまむ。〔集韻〕㩡、擿也。

【㩻】12948　キ　〔集韻〕虛宜切　支

うつ。攕（5－12978）に同じ。〔集韻〕攕、博雅、擊也、或作㆑㩻。

【攈】 12949

㈠クン 〔集韻〕倶運切 ㄐㄩㄣˋ chün^4 問
㈡クン 〔韻會〕擧蘊切 吻
㈢キン 〔集韻〕九峻切 震
㈣ヒ 〔集韻〕鋪畏切 未


小篆

㈠❶**ひろふ**。〔說文〕攈、拾也、从ㇾ手麇聲。〔漢書、刑法志〕蕭何攈㆓摭秦法㆒、取㆘其宜㆓於時㆒者㆖、作㆓律九章㆒。〔注〕師古曰、攈摭、謂㆓收拾㆒也。❷**とる**。〔方言、二〕攈、取也。❸或は捃(**5-12125**)・攟(**5-13023**)に作る。〔集韻〕攈、或从ㇾ君、亦作ㇾ攟。㈡㈢**ひろふ**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕攈、拾也。㈣**力を用ひつくす**。⿰忄麇に同じ。〔集韻〕⿰忄麇、用ㇾ力極也、或从ㇾ手。

參考 熟語は捃(**5-12125**)を見よ。

【⿰扌簒】 12950

サン セン 〔集韻〕初患切 諫

❶**ならふ**。なれる。〔玉篇〕⿰扌簒、攢⿰扌簒也。❷**うばふ**。簒(**8-26330**)に同じ。〔集韻〕簒、屰而奪取曰ㇾ簒、或从ㇾ手。

【攉】 12951

㈠カク 〔康熙字典〕訖岳切 覺
㈡クヮク 〔集韻〕忽郭切 ㄏㄨㄛˋ huo^4 藥

㈠❶**專有する**。利益を獨占する。專賣する。〔漢書、王莽傳下〕令㆓豪吏猾ㇾ民、辜而攉ㇾ之。〔注〕師古曰、辜攉、謂㆜獨專㆓其利㆒、而令㆛他人犯者得㆚罪辜㆙也。❷**あらい**。粗略。〔淮南子、俶眞訓〕物豈可ㇾ謂ㇾ無㆓大揚攉㆒乎。〔注〕揚攉、麤略也。❸搉(**5-12451**)・榷(**6-15283**)に通ず。〔正字通〕攉、與㆓搉・榷㆒通。㈡❶**揮ふ**。手をかへす。〔玉篇〕攉、揮攉也。〔集韻〕攉、手反覆也。〔韻會〕攉、手反覆也、搖ㇾ手曰ㇾ揮、反ㇾ手曰ㇾ攉。❷**てづま**。〔廣韻〕攉、攉盤、手戲。❸或は搉(**5-12451**)に作る。〔集韻〕攉、或从ㇾ隺。❹**現**㋑こねる。㋺比較する。

【攉較】1 huo^4 chiao^4 比較する。くらべる。

【攉銅】2 クヮクドウ 人の錢をとること。〔通俗編、雜字、攉〕按、鄙俗作㆓廋語㆒、謂㆔逆㆓取人錢㆒曰㆓攉銅㆒。

【攉麪】3 huo^4 mien^4 饂飩をこねる。

【⿰扌遺】 12952

ヰ 〔集韻〕愈水切 紙

❶**すてる**。揹(**5-12328**)に同じ。〔集韻〕揹、博雅、棄也、或作ㇾ⿰扌遺。❷遺(**11-39134**)の俗字。〔正字通〕⿰扌遺、俗遺字。

【⿰扌學】 12953

カウ ゲウ 〔集韻〕下巧切 巧

❶**みだす**。みだれる。〔集韻〕⿰扌學、亂也。❷或は攪(**5-13041**)に作る。〔集韻〕⿰扌學、或从ㇾ覺。

【⿱尋手】 12954

セン ゼン 〔集韻〕徐廉切 鹽

つまむ。或は⿱蕁手・撏(**5-12691**)に作り、又⿰扌蕁(**5-12955**)に作る。〔集韻〕⿱尋手、摘也、或从ㇾ艸从ㇾ尋、亦書作ㇾ⿰扌蕁。

【⿰扌蕁】 12955

セン ⿱尋手(**5-12954**)に同じ。〔集韻〕⿱尋手、亦書作ㇾ⿰扌蕁。

【⿰扌槖】 12956

タク ❶拓(**5-11958**)に同じ。〔集韻〕拓、手推ㇾ物、或作ㇾ⿰扌槖。❷槖(**6-15847**)の譌字。〔正字通〕⿰扌槖、槖字之譌。

【攊】 12957

レキ リャク 〔集韻〕狼狄切 錫

うつ。擽(**5-12919**)に同じ。〔集韻〕攊、博雅、擊也、或从ㇾ歷。

【⿰扌臻】 12958

シン 搸(**5-12527**)に同じ。〔篇海〕⿰扌臻、同ㇾ搸。

【⿰扌⿱叉䖵】 12959

サウ 搔(**5-12477**)に同じ。〔集韻〕搔、或作ㇾ⿰扌⿱叉䖵。

【⿰扌穌】 12960

ソ 〔集韻〕孫租切 虞

さぐる。〔集韻〕⿰扌穌、摸也。

【攋】 12961

㈠ラツ ラチ 〔集韻〕郎達切 曷
㈡ライ 〔集韻〕洛駭切 蟹
㈢ライ 〔集韻〕落蓋切 泰
㈣ラン 〔集韻〕魯旱切 旱

㈠**手でひらく**。撥攋。或は揦(**5-12380**)に作る。〔集韻〕攋、撥攋、手披也、或从ㇾ刺。㈡**すてさる**。把攋。〔集韻〕攋、把攋。〔類篇〕攋、把攋、弃去也。㈢**こぼちさく**。〔集韻〕攋、毀裂。㈣**やぶれる**。くづれる。〔方言、十三〕攋、壞也。〔太玄經、度〕次三、小度差差、大攋之階、測曰、小度之差、大度傾也。

【攌】 12962

㈠クヮン ゲン 〔集韻〕戶版切 潸
㈡ワン 〔正韻〕烏版切 潸

㈠㈡❶**木のさく**。やらい。〔集韻〕攌、木柵也。〔史記、賈誼傳〕拘士繫ㇾ俗兮、攌如㆓囚拘㆒。〔注〕索隱曰、攌、木柵也。❷**とらへつなぐ**。ひとや。〔正字通〕攌、拘繫也、攌、與ㇾ圜通、獄名、圜ㇾ土使㆓囚不ㇾ得㆓越出㆒也。

【攍】 12963

エイ ヤウ 〔集韻〕怡成切 庚

❶**になふ**。せおふ。〔方言、七〕攍・膂・賀・⿰扌盈、擔也、齊楚陳宋之間曰ㇾ攍、南楚或謂㆓之攍㆒。〔廣雅、釋言〕攍、負也。❷或は⿰扌盈(**5-12408**)に作り、通じて嬴(**3-6776**)に作る。〔集韻〕攍、或从ㇾ盈、通作ㇾ嬴。〔方言、七、注〕莊子曰、攍ㇾ糧而赴ㇾ之。〔莊子、胠篋〕嬴ㇾ糧而趣ㇾ之。

【⿰扌褱】 12964

クヮイ 壞(**3-5590**)に同じ。〔集韻〕壞、或从ㇾ手。

【攎】12965

〖一〗ロ 〔集韻〕龍都切 虞
〖二〗ロ 〔集韻〕魯故切 遇
〖三〗ラ 〔集韻〕良何切 歌

〖一〗❶ひきとる。ひきもつ。〔說文〕攎、拏持也、从レ手盧聲。❷ひく。〔廣雅、釋詁一〕攎、引也。❸をさめる。〔集韻〕攎、一曰、斂也。❹はる。〔方言、十三〕攎、張也。〖二〗をさめる。抯攎。〔集韻〕攎、抯攎、收斂也。〖三〗えらぶ。攞(5－13022)に同じ。〔集韻〕攞、揀也、或作レ攎。

参考 〖二〗の韻にて集韻・類篇等、攎を擄(5－12932)に作る。今康熙字典に據りて訂正す。〔康熙字典〕攎、集韻、魯故切、音路、抯攎、收斂也、或誤作レ擄。

【⿱龍手】12966

ロウ ル 〔集韻〕盧東切 東

うつ。〔集韻〕⿱龍手、擊也。

【攏】12967

〖一〗ロウ ル 〔集韻〕魯孔切 ㄌㄨㄥˇ lung^{3} 董
〖二〗ロウ ル 〔集韻〕盧東切 東

〖一〗❶とる。もつ。〔集韻〕攏、持也。❷かすめる。〔集韻〕攏、掠也。❸おさへる。〔白居易、琵琶行〕輕攏慢撚抹復挑。❹くくる。つかねる。〔郭璞、江賦〕攏二萬川乎巴梁一。〔注〕善曰、攏、猶二括束一也。❺酒量の數取り。〔集韻〕攏、一曰、拗攏籌也。〔正韻〕攏、俗言二拗攏籌一也、謂二酒律一。❻舟を泊める。〔通俗編、雜字、攏〕今謂レ泊レ船曰レ攏。〔丁仙芝、江南曲〕知郎舊時意、且請攏二船頭一。❼現㋑つかむ。㋺近づく。㋩引きしめる。㊁搔き込む。〖二〗❶をさめる。〔集韻〕攏、理也。❷髮を梳る。髮をととのへをさめる。〔玉篇〕攏、馬攏レ頭。〔通俗編、雜字、攏〕小理レ髮曰レ攏。❸だく。〔字彙〕攏、攏擁。

【攏音】1 lung^{3} yin^{1} 音聲がよく響く。

【攏岸】2 lung^{3} an^{4} 船を岸につける。

【攏近】3 lung^{3} chin^{4} 側近く寄せる。引き寄せる。

【攏子】4 lung^{3} tzŭ 櫛。

【攏總】5 lung^{2} tsung^{3} すべて。皆。合計。全體。

【攏住】6 lung^{2} chu^{4} 引き止める。

【攏統】7 （ロウトウ） ひとつによりかたまる。よりかたまる。攏統含糊を見よ。

〔攏統含糊〕8 （ロウトウガンコ） ごちやごちやにする。事を曖昧にすること。〔福惠全書、刑名部、問擬、釋招狀〕至二于強盜偸劫及鬬毆謀殺等類一、俱照二本犯原日實情實景一供序、一字攏統含糊不レ得。

【攏頭】9 （ロウトウ） 髮を梳る。〔玉篇〕攏、馬攏レ頭。

【攏撚】10 （ロウネン） 指で抑へ撚ねること。〔白居易、琵琶行〕輕攏慢撚抹復挑、初爲二霓裳一後綠腰。〔元稹、琵琶歌〕涼州大徧最豪嘈、六么散序多二攏撚一。〔李羣玉、索曲送レ酒詩〕煩二君玉指一輕攏撚。

【攏肺】11 lung^{3} fei^{4} 肺をひきしめる。

【攏髮】12 lung^{2} fa^{3} 髮を梳る。攏頭(9)に同じ。

【攏擁】13 lung^{2} yung^{3} 一處に集合する。

【攏掠】14 lung^{3} lüeh^{4} かすめ取る。

【攏前解勸】15 lung^{3} ch'ien^{2} chieh^{3} ch'üan^{4} 進み寄つて仲裁する。

【攐】12968

〖一〗ケン 〔集韻〕丘虔切 先
〖二〗ケン コン 〔集韻〕丘言切 元

〖一〗〖二〗❶かかげる。衣服のすそをかかげる。〔說文〕攐、摳レ衣也、从レ手褰聲。〔淮南子、人間訓〕江之始出二於岷山一也、可二攐レ裳而越一也。❷ちぢめる。〔廣韻〕攐、縮也。❸褰(10－34513)に通ず。〔說文通訓定聲〕攐、經傳皆以レ褰爲レ之。❹搴(5－12519)の俗字。〔正字通〕攐、俗搴字。

【⿰扌橆】12969

ブ

撫(5－12743)に同じ。〔正字通〕⿰扌橆、同レ撫。

【⿰扌興】12970

セン

攑(5－12652)の本字。〔正字通〕⿰扌興、攑本字。

【⿰扌𣈆】12971

シン

搢(5－12494)の本字。〔正字通〕⿰扌𣈆、搢本字。

【⿰扌霝】12972

レイ

櫺(6－15887)の譌字。〔康熙字典〕⿰扌霝、篇海、音靈、窻⿰扌霝也、按、窻櫺、宜レ从レ木、此譌文。

【⿰扌肅】12973

セウ

⿰扌肅(5－12738)に同じ。〔集韻〕⿰扌肅、或作レ⿰扌肅。

【⿰扌閻】12974

エン 〔方言注〕音剡

つづける。つぐ。〔方言、六〕⿰扌閻・剡、續也、秦晉續レ折謂二之⿰扌閻一、繩索謂二之剡一。〔注〕⿰扌閻、音剡。

【⿰扌攀】12975

ハイ

攀(5－12856)の譌字。〔五音篇海〕⿰扌攀、攀字之譌。

【⿰扌隸】12975'

レイ ライ 〔集韻〕郎計切 霽

さく。〔集韻〕⿰扌隸、裂也。

十七畫

【攓】12976

〖一〗ケン 〔集韻〕丘虔切 先
〖二〗ケン 〔集韻〕九件切 銑

〖一〗❶とる。〔方言、十〕攓、取也、楚謂二之攓一。〔疏證〕案、攓、取也、南楚曰レ攓。❷ちぢめる。〔集韻〕攓、一曰、縮也。❸ぬく。〔集韻〕攓、一曰、拔也。❹或は搴(5－12519)に作る。〔集韻〕攓、或作レ搴。〖二〗❶ぬきとる。攓(5－12689)に同じ。〔集韻〕攓、說文、拔取也、或从レ蹇。❷おこたる。〔淮南子、齊俗訓〕望レ我而笑、是攓也。〔注〕攓、慢也。

【攓雲】1 （ケンウン） 雲を取る。〔蘇軾、攓雲篇序〕雲氣自二山中一來、如二羣馬奔突一、以レ手掇二開籠一收二其中一、歸レ家雲盈レ籠、開而放レ之、作二攓雲篇一。

〔攓雲樓〕2 （ケンウンロウ） 淸、張柯(4－9812・81)の室名。

【攓撅】3 （ケンケツ） 衣をかかげる。〔韓非子、外儲說左上〕諺曰、築レ社者、攓撅而置レ之、端冕而祀レ之。

【攓取】4 （ケンシュ） 取る。擇取。〔淮南子、俶眞訓〕擢二拔吾性一、攓二取吾情一。〔集解〕文典、謹按、御覽七百二十引、攓二取吾情一、作三擇二取吾精一。

【攔】12977

ラン 〔玉篇〕力丹切 ㄌㄢˊ lan^{2} 寒

❶さへぎる。〔玉篇〕攔、遮攔也。〔聞見錄〕以レ足攔レ之。〔杜甫、兵車行〕牽レ衣頓レ足攔レ道哭。❷しきり。てすり。或は闌(11－41433)に作る。〔廣韻〕攔、階際木句攔、亦

作レ闌。

【攔腰】1 lan² yao¹ 抱きとめる。

【攔街】2（ランガイ） 街路をさへぎる。〔李白、襄陽歌〕襄陽小兒齊拍レ手、攔レ街爭唱白銅鞮。

【攔櫃】3 lan² kuei⁴ 帳場の勘定臺。

【攔胸】4（ランキョウ） 胸をとつてさへぎる。〔指月錄〕光曰、事卽不下無二擬議一卽差上、光便問、如何、是事被二師攔レ胸踏倒一、光從レ此有レ省。

【攔勸】5 lan² ch'üan⁴ 差止め仲裁する。〔紅樓夢、十二回〕爭奈父女之情、也不好攔勸。

【攔告】6（ランコク） 告訴を遮る。告發を取下げる。〔元典章、刑部、雜例〕原告人自願二攔告休和一。

【攔車】7（ランシャ） 鎭の名。山西省晉城縣の南。商業地。晉豫の間の要道。鎭北に孔子回車廟があるので名づく。

【攔縱】8 lan² tsung⁴ 其の爲すがままにする。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇〕索將他攔縱。

【攔截】9 lan² chieh² 遮り止める。

【攔占】10（ランセン） ふさぎ占める。〔燕子箋、寫箋〕恁般活現、平白地陽臺攔占。

【攔阻】11（ランソ） とどめる。遮りはばむ。〔長生殿、復召〕偭怎麼攔二阻咱家一。〔淸會典事例、戶部、鹽法〕敢有二攔阻陷害者一、該商卽稟二明地方官一、嚴拏懲辨。

【攔擋】12 lan² tang³ 遮ぎる。止める。

〔攔擋得住〕13 lan² tang³ tê chu⁴ 遮り得られる。

〔攔擋不住〕14 lan² tang³ pu chu⁴ 阻み得ない。遮り得ない。

【攔住】15 lan² chu⁴ 引き止める。遮る。〔水滸傳、一回〕盤做一堆、攔住去路。

【攔頭】16（ラントウ） ❶船頭を看守する人。〔六部成語、工部、攔頭、注解〕看二守船頭一之人也。❷ lan² t'ou² 遮る。阻止する。出鼻を挫く。

【攔門】17（ランモン） 新婦を娶つて家門に至る時、從人や家人が土產物を乞ふこと。〔東京夢華錄、五、娶婦〕先回至二兒家門一、從人及兒家人乞二覓利市錢物花紅等一、謂二之攔門一。

〔攔門槓〕18 lan² men² kang⁴ 除夜に門外に棒一本を横たへ置くこと。河南地方の風習。

〔攔門酒〕19 lan² men² chiu³ 兩日酒の日、岳父母の歸るに臨み、新郎がこれを門内に留めて酒をすすめること。兩日酒(**1－1436··194**)を見よ。

【攔輿】20 lan² yü² 淸代、長上官の乘物を敬して遮ること。長上の訪問を辭するにいふ。

〔攔輿遞稟〕21 lan² yü² ti⁴ ping³ 乘物を遮つて直訴する。攔輿告狀。

【攔路】22（ランロ） 路を遮る。〔楊萬里、雨中入城詩〕拂レ溪楊柳縷生レ金、攔レ路山礬香殺レ人。〔楊維楨、嬉春詩〕小娃猶帶レ酒、攔レ路奪二人花一。

〔攔路虎〕23 lan² lu⁴ hu³ 障碍物。邪魔者。

〔攔路強盜〕24 lan² lu⁴ ch'iang² tao⁴ 道で追剝を働く強盜。

【攔河壩】25（ランカハ） 河流を切斷する大堤防。〔六部成語、工部、攔河壩、注解〕攔二截河流一之大壩也。

【攔江磯】26（ランカウキ） 磯の名。安徽省貴池縣の西、大江の中。懷寧・桐城二縣の界に近い。磯廣く、冬、水が減ずれば、江の半に亘る。近くに太子磯・寶塞磯がある。

【攔江沙】27 lan² chiang¹ sha¹ 河口にある洲。

【攔水壩】28（ランスイハ） 河の水流を切斷する堤。〔淸會典事例、工部、河工〕水涸之時、仍於二脊上一用二柴土疊鑲・關攔堵禦・束水壩・攔水壩一。

【攔不住】29 lan² pu chu⁴ 遮り止められない。

【攔面牆】30 lan² mien⁴ ch'iang² ❶行き詰つた所にある壁。❷止まり。

【攔詞抵辯】31 lan² tz'ŭ² ti³ pien⁴ 抗辯して言い拔けする。

【⿰扌戲】 12978

㊀キ 〔集韻〕虛宜切 ［支］
㊁キ 〔集韻〕香義切 ［寘］
㊂キ 〔集韻〕許几切 ［紙］

㊀**うつ**。或は擨(**5－12948**)に作る。〔集韻〕⿰扌戲、博雅、擊也、或作レ擨。㊁㊂**うつ**。㊀に同じ。〔集韻〕⿰扌戲、擊也。

【攕】 12979

㊀サン セン 〔集韻〕師咸切 ［咸］
㊁セン 〔集韻〕師炎切 ［鹽］

小篆

㊀❶**しなやかな手のさま**。纖(**8－28072**)に通ず。〔說文〕攕、好手皃、从レ手韱聲、詩曰、攕攕女手。〔王注〕則今魏風葛屨、作二摻摻一者、傳寫之誤也、韓詩卽作レ纖、云云、秦漢閒、借レ攕爲レ纖、纖者、細也。❷**くさび**。櫼(**6－15889**)に通ず。〔說文通訓定聲〕攕、叚借爲レ櫼、淮南要略、攕二呪齵齵之郄一。❸或は摻(**5－12649**)・⿱𦥑手(**5－12402**)に作る。〔集韻〕攕、或作二摻・⿱𦥑手一。㊁❶**しなやかな手のさま**。㊀の❶に同じ。或は摻(**5－12649**)に作る。〔集韻〕攕、說文、好手皃、或作レ摻。❷**ぬぐふ**。⿰巾韱(**4－9149**)に同じ。〔集韻〕⿰巾韱、說文、拭也、或从レ手。

【擧】 12980

ヨ 〔集韻〕羊諸切 ［魚］

小篆（說文）

❶**向ひあつて持ちあげる**。〔說文繫傳〕擧、對擧也、从レ手與聲。❷**こし**。輿。〔增韻〕擧、兩手對擧之車。❸舁(**9－30188**)に同じ。〔廣韻〕舁、對擧、擧、上同。

參考 說文、小篆を に作るを、段注本は に改めてゐる。攑(**5－12981**)の字解の段注を見よ。

【攑】 12981

㊀ケン コン 〔集韻〕丘言切 ［元］
㊁キョ

小篆（段注本）

㊀**あげる**。或は揭(**5－12389**)に作る。〔說文〕攑、擧也、从二手擧一。〔段注〕此篆、各本作レ擧、云二對擧也、从レ手與聲一、云云、今按、玉篇列字次第、拲下揚上、作レ攑、丘言切、擧也、說文、拲下揚上則作レ擧、顯是攑篆之譌、葢希馮作二玉篇一時、所レ據說文未レ誤也。〔集韻〕攑、擧也、或作レ揭。㊁擧(**5－12863**)の俗字。〔集韻〕擧、俗作レ攑、非レ是。

解字 會字。手と擧との合字。手で持ちあげる意。

【⿰扌繁】 12982

ハ バ 〔集韻〕蒲波切 ［歌］

をさめあつめる。**又、はらふ**。⿱敏手(**5－12506**)に同じ。〔集韻〕⿱敏手、斂聚也、除也、或从レ繁。

【⿰扌⿱辛木】 12983

ハク 擘(**5－12835**)に同じ。〔篇海〕⿰扌⿱辛木、同レ擘。

【撜】 12984

㊀タウ チヤウ 〔集韻〕豬孟切 ［敬］
㊁タウ チヤウ 〔集韻〕中莖切 ［庚］

㊀**繒ぎぬを張る**。或は⿰巾登(**4－9148**)・幀(**4－8982**)に作る。〔集韻〕⿰巾登、張二畫繒一也、或作レ幀、亦从レ手。㊁**はる**。⿱穴丁(**10－36269**)に同じ。〔集韻〕⿱穴丁、張也、或作レ撜。

【⿰扌燮】 12985

セフ 〔集韻〕悉協切 ［葉］

とる。〔集韻〕⿰扌燮、取也。

【攖】12986 エイ ヤウ 〔集韻〕伊盈切 ㄧㄥ ying¹ 庚

❶**せまる。ふれる。**〔正字通〕攖、觸也、迫近也。〔孟子、盡心下〕虎負レ嵎、莫二之敢攖一。〔注〕攖、迫也。〔集注〕攖、觸也。❷**むすぶ。**〔玉篇〕攖、結也。❸**まつはる。まとふ。からまる。**〔莊子、大宗師〕其名爲二攖寧一。〔釋文〕攖、崔云、有レ所二繫著一也。〔莊子、在宥〕女愼無レ攖二人心一。〔釋文〕攖、崔云、羈落也。❹**からめる。**〔正字通〕攖、縈也。〔淮南子、繆稱訓〕勿レ撓勿レ攖。〔注〕攖、纓。❺**もとる。**〔呂覽、本生〕能養二天下之所レ生而勿レ攖レ之。〔注〕攖、戾也。❻**ひねる。**〔集韻〕攖、拈也。❼**みだす。**〔廣雅、釋詁三〕攖、亂也。〔莊子、庚桑楚〕不下以二人物利害一相攖上。〔釋文〕攖、廣雅云、亂也。❽**ひく。**〔莊子、在宥〕汝愼勿レ攖二人心一。〔釋文〕攖、司馬云、引也。❾**つらぬく。**〔莊子、庚桑楚〕不下以二人物利害一相攖上。〔釋文〕攖、崔云、猶レ貫也。❿**しばる。**桎梏を加へる。〔孟子、盡心下〕莫二之敢攖一。〔孟子音義、下〕攖、梏也。⓫通じて嬰(**3－6826**)に作る。〔正字通〕攖、通作レ嬰。

【攖寧】1 エイネイ 道はいかなるものに接觸して亂されても、常に差別界を超越して安定してゐるものであることをいふ。〔莊子、大宗師〕參日而後能外二天下一、已外二天下一矣、吾又守レ之七日、而後能外レ物、已外レ物矣、吾又守レ之九日、而後能外レ生、已外レ生矣、而後能朝徹、朝徹而後能見レ獨、見レ獨而後能無二古今一、無二古今一而後能入二於不死不生一、殺レ生者不レ死、生レ生者不レ生、其爲レ物無レ不レ將也、無レ不レ迎也、無レ不レ毀也、無レ不レ成也、其名爲二攖寧一、攖寧者、攖而後成者也。〔注〕夫與レ物冥者、物縈亦縈、而未二始不レ寧也。〔疏〕攖、擾動也、寧、寂靜也、動而常寂、雖レ攖而寧者也。〔集解〕家世父曰、趙岐孟子注、攖、迫也、物我生死之見、迫二於中一、將迎成毀之機、迫二於外一、而一無レ所レ動二其心一、乃謂二之攖寧一、置二身紛紜蕃變交爭互觸之地一、而心固寧焉、則幾二於成一矣、故曰、攖而後成。

【攖寧菴】2 エイネイアン 明、項元汴(**12－43343**・・65)の號。

【攖寧生】3 エイネイセイ 明、滑壽(**7－18032**・・46)の「號。

【攖寧居士】4 エイネイコジ 宋、陳天麟(**11－41698**・・1162)の號。

【攖鋒】5 エイホウ ほこさきにかける。又、嬰鋒とも書く。

【攖溪野老】6 エイケイヤラウ 宋、陳天麟(**11－41698**・・1162)の號。

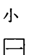
【攗】12987 ビ ミ 〔集韻〕旻悲切 支

ひし。菱。〔集韻〕攗、水中芰也。

【擠】12988 サ 扠(**5－11804**)の俗字。〔正字通〕擠、俗扠字。

【攘】12989

[一] ジヤウ ニヤウ 〔集韻〕如陽切 ㄖㄤˊ jang² 陽
[二] ジヤウ ニヤウ 〔集韻〕人樣切 漾
[三] ジヤウ ニヤウ 〔集韻〕如兩切 ㄖㄤˇ jang³ 養
[四] ダウ ニヤウ 〔集韻〕尼庚切 庚
[五] シヤウ 〔集韻〕式亮切 漾


小篆

[一][二]❶**おす。**手を前に推し、人に謙遜の態度を示す禮容。讓(**10－36139**)・儴(**1－1297**)に同じ。〔說文〕攘、推也、从レ手襄聲。〔段注〕推レ手使レ前也、古推攘字如レ此作、上曲禮注曰、攘、古讓字、許云、讓者、相責讓也、攘者、推也、从レ古也、漢書禮樂志、盛二揖攘之容一、藝文志、堯之克攘、云云、皆用二古字一、凡退讓用二此字一、引二申之一、使二人退讓一、亦用二此字一、如二攘寇攘夷狄一、是也、按、當二人樣切一。〔說文通訓定聲〕攘、字亦作レ儴。〔廣韻〕攘、文字指歸云、揖攘。❷**とどめる。**〔方言、十二〕攘、止也。❸**ゆづる。**〔禮、曲禮上〕左右攘辟。〔注〕或者、攘、古讓字。〔史記、大史公自序〕小史何敢攘焉。〔注〕索隱曰、攘、古讓字。〔漢書、藝文志〕合二於堯之克攘一。〔注〕師古曰、攘、古讓字。❹**しりぞける。はらふ。**㋑おひはらふ。〔公羊、僖、四〕攘二夷狄一。〔注〕攘、卻也。〔國語、魯語下〕大攘二諸夏一。〔注〕攘、卻也。〔漢書、敍傳下〕周宣攘レ之。〔注〕攘、卻也。〔楚辭、東方朔、七諫、沈江〕反離レ謗而見レ攘。〔注〕攘、排也。㋺のぞく。〔廣韻〕攘、除也。〔左氏、僖、四〕攘二公之羭一。〔注〕攘、除也。〔素問、生氣通天論〕濕熱不レ攘。〔注〕攘、除也。㋩神に祀つて災厄疫厲をはらふ。禳(**8－24868**)に通ず。〔禮、月令〕九門磔攘。〔周禮、春官、占夢、注〕九門磔禳。〔荀子、王制〕主攘二擇五卜一。〔注〕攘擇、攘二除不祥一。❺**しりぞく。**さがる。〔漢書、司馬相如傳下〕隨レ流而攘。〔注〕師古曰、攘、卻退也。❻**こばむ。**ふせぐ。槍(**6－15319**)・堂(**10－37470**)に通ず。〔說文通訓定聲〕攘、段借爲レ槍、爲レ堂。〔周禮、秋官、禁殺戮〕攘レ獄者。〔注〕距二當獄一者也。❼**さからふ。**〔莊子、外物〕心無二天遊一、則六鑿相攘。〔注〕攘、逆。❽**まくる。かかげる。**〔孟子、盡心下〕馮婦攘レ臂下レ車。〔漢書、鄒陽傳〕攘レ袂而正議。❾**ぬすむ。**纕(**8－28071**)に通ず。〔說文通訓定聲〕攘、段借爲レ纕。㋑向ふから來たものをかくしぬすむ。〔書、費誓〕無二敢寇攘一。〔傳〕自來而取曰レ攘。〔鄭注〕因二其失亡一曰レ攘。〔書、呂刑〕奪攘撟虔。〔鄭注〕有レ因而盜曰レ攘。〔論語、子路〕其父攘レ羊。〔集解〕周生烈曰、有レ因盜曰レ攘。〔淮南子、氾論訓〕直躬其父攘レ羊。〔注〕凡六畜自來而取レ之曰レ攘レ之。〔孟子、滕文公下〕今有レ人、日攘二其鄰之雞一。〔注〕攘、取也、是取二自來之物一也。㋺取る。取り入れる。〔穀梁、成、五〕攘レ善。〔注〕攘、取也。㋩盜み取る。〔廣韻〕攘、竊也。㋥しのぐ。身分にこえる。潛越。〔禮、禮器〕匹士太牢而祭謂二之攘一。〔注〕攘、盜竊也、不レ稱也。❿**よる。**〔匡謬正俗、一〕攘・仍、因也。〔漢書、五行志下之上〕否則爲三下相二攘善一。〔注〕師古曰、一曰、攘、因也。⓫**をかす。**〔漢書、嚴助傳〕南夷相攘。〔注〕師古曰、攘、謂二相侵奪一也。⓬**ふくむ。**囊(**2－4633**)に通ず。〔說文通訓定聲〕攘、段借爲レ囊。〔楚辭、離騷〕忍レ尤而攘レ詬。[三][四][五]❶**みだす。みだれる。**孃(**3－6891**)に通ず。〔說文通訓定聲〕攘、段借爲レ孃。〔集韻〕攘、擾也。〔淮南子、詮言訓〕故至三於攘二天下一。〔注〕攘、亂也。〔漢書、陳平傳贊〕傾二側擾三攘楚魏之間一。❷**みだれるさま。**搶攘。〔集韻〕攘、搶攘、亂皃。〔漢書、賈誼傳〕國制搶攘。❸**はやく行くさま。**驤(**12－45075**)に通ず。〔說文通訓定聲〕攘、段借爲レ驤。〔傳毅、舞賦〕擾攘就レ駕。〔注〕善曰、埤蒼、攘、疾行貌。❹**わづらはしい。**浩攘。〔字彙〕攘、浩攘、繁冗也。❺**おくる。**食物をあたへる。饟(**12－44480**)に同じく、餉(**12－44140**)に通ず。〔說文通訓定

聲〕攘、叚借爲レ饟。〔集韻〕餉、說文、饟也、或作レ攘。〔詩、小雅、甫田〕攘二其左右一。〔箋〕攘、當レ爲レ饟。

【攘夷】1 ジヤウイ ㊀夷狄をはらひしりぞける。〔詩、小雅、車攻序〕宣王能內修二政事一、外攘二夷狄一。〔公羊、僖、四〕桓公救二中國一、而攘二夷狄一。〔注〕攘、卻也。〔史記、秦始皇紀〕天下已定、外攘二外夷一。㊁幕末の頃、一部の人士に唱へられた主張。西洋人を追ひ拂つて交際を絕たんとしたもの。〔德川齊昭、弘道館記〕撥レ亂反レ正、尊レ王攘レ夷。

【攘棄】2 ジヤウキ はらひすてる。しりぞけすてる。〔莊子、胠篋〕削二曾史之行一、鉗二楊墨之口一、攘二棄仁義一、而天下之德、始玄同矣。

【攘卻】3 ジヤウキヤク はらひしりぞける。攘斥。〔禮、曲禮上〕左右攘辟。〔注〕謂二羣臣陪レ位侍レ駕者攘卻一也。

【攘袪】4 ジヤウキヨ たもとをかかげる。〔淮南子、人間訓〕攘レ袪薄レ腋。〔注〕袪、袂也。

【攘金】5 ジヤウキン 金をぬすむ。又、其の金。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏上〕償二攘金一也。

【攘衿】6 ジヤウキン えりをかかげる。勇みたつさま。〔劉伶、酒德頌〕奮レ袂攘レ衿、怒レ目切レ齒。

【攘患】7 ジヤウクワン 患をはらひのぞくこと。〔魏志、臧洪傳〕苟區二區于攘患一、不レ知二言乖二乎道理一矣。

【攘雞】8 ジヤウケイ 雞をぬすむ。〔孟子、滕文公下〕戴盈之曰、什一去二關市之征一、今茲未レ能、請輕レ之以待二來年一、然後已、何如、孟子曰、今有下人日攘二其鄰之雞一者上、或告レ之曰、是非二君子之道一、曰、請損レ之、月攘二一雞一、以待二來年一、然後已、如知二其非レ義、斯速已矣、何待二來年一。〔集注〕攘、物自來而取レ之也。〔文獻通考、論二元祐保甲一〕知二保甲之當レ罷、而不レ能二盡革一、是猶下紾二兄臂一而諭以レ徐、日攘レ雞而易以上レ月。

【攘卷】9 ジヤウケン 袂をかかげまくること。〔淮南子、原道訓〕短袂攘卷、以便レ刺レ舟。〔注〕卷、卷レ臂也。〔列女傳、辯通、趙津女娟傳〕娟攘卷操レ檝而請。

【攘拳】10 ジヤウケン こぶしをかかげる。〔任昉、奏二彈劉整一文〕隔レ箔攘レ拳、大罵突進。

【攘捲】11 ジヤウケン 攘卷に同じ。〔淮南子、脩務訓〕及レ至二勇武攘捲一擣一。〔列女傳、母儀、魯季敬姜傳〕文伯引レ衽攘捲而親饋レ之。

【攘詬】12 ジヤウコウ 恥を忍ぶ。攘は、ふくむ・かくす、一說に、のぞく。攘詢。〔楚辭、離騷〕屈レ心而抑レ志兮、忍レ尤而攘レ詢。〔注〕攘、除也、詢、恥也。〔集注〕詢、一作レ詬。

【攘獄】13 ジヤウゴク 獄に行くことを拒否すること。〔周禮、秋官、禁殺戮〕凡傷レ人見レ血、而不二以告一者、攘レ獄者、遏レ訟者、以レ告而誅レ之。〔注〕鄭司農云、攘レ獄者、距二當獄一者也。

【攘災】14 ジヤウサイ 災害をはらひ除く。〔晉書、郭璞傳〕攘レ災轉レ禍。〔庭訓往來、八月〕四海太平、一天靜謐事、人人攘レ災、所所幸レ祐也。

【攘爭】15 ジヤウサウ 腕まくりして爭ふ。〔王融、三月三日曲水詩序〕讒莠蔑レ聞、攘爭掩息。〔注〕翰曰、攘爭、謂二攘レ臂而爭訟一也。

【攘殺】16 ジヤウサツ 取り殺す。〔墨子、非攻下〕以湮二其溝池一、攘二殺其牲牷一。

【攘袖】17 ジヤウシウ そでをまくる。そでをかかげる。〔曹植、美女篇〕攘レ袖見二素手一、皓腕約二金環一。

【攘攘】18 ジヤウジヤウ ㊀ごたごたみだれる。紛錯のさま。〔史記、貨殖傳〕天下攘攘、皆爲レ利往。㊁衆いさま。穰穰(8－25383‥9)の㊀に同じ。〔鹽鐵論、論菑〕詩云、降レ福攘攘、降レ福簡簡。

【攘袛】19 ジヤウシン えりをはらふ。〔魏志、陳思王植傳〕奮レ袂攘レ袛。

【攘斥】20 ジヤウセキ はらひのける。おひしりぞける。攘卻。〔韓愈、進學解〕牴二排異端一、攘二斥佛老一。

【攘竊】21 ジヤウセツ 向ふから來たものをかくしぬすむ。ぬすむ。〔書、微子〕今殷民、乃攘二竊神祇之犧牷牲一。〔傳〕自來而取曰レ攘。〔後漢書、仲長統傳〕鷄狗之攘竊、男女之淫奔。〔權德輿、答二楊湖南一書〕刓レ精耗レ神、攘二竊文字一。

【攘善】22 ジヤウゼン 美を掠める。善を盜む。〔穀梁、成、五〕伯尊其無レ績乎、攘レ善也。〔注〕攘、盜也。

【攘討】23 ジヤウタウ はらひ討つ。〔論衡、恢國〕匈奴時擾、遣レ將攘討。

【攘撓】24 ジヤウダウ 亂しまげる。〔唐書、鄭珣瑜傳〕內交二奄人一、攘二撓政機一。

【攘擇】25 ジヤウタク 不祥をはらひ吉事をえらぶ。〔荀子、王制〕主二攘擇五卜一、知二其吉凶妖祥一。〔注〕攘擇、攘二除不祥一、擇二取吉事一也。

【攘奪】26 ジヤウダツ ぬすみうばふ。〔管子、八觀〕里域橫通、則攘奪竊盜者不レ止。〔管子、立政九敗解〕如レ是則無二幷兼攘奪之心一。

【攘地】27 ジヤウチ 地上のものを一掃する。〔孔子家語、致思〕必也攘レ地千里。

【攘場】28 jang² ch'ang³ 穀粒を簸で分けること。

【攘除】29 ジヤウヂヨ はらひのぞく。〔白虎通、號〕興二復中國一、攘二除夷狄一。〔風俗通、皇霸〕攘二除不軌一。〔蜀志、諸葛亮傳〕庶竭二駑鈍一、攘二除姦凶一、興二復漢室一、還二於舊都一。

【攘剔】30 ジヤウテキ きりのぞく。〔耕祿藁〕聚二百鍊之精一、以鑄二農器一、俾四啓二辟攘三剔地一。

【攘伐】31 ジヤウバツ うちはらふ。〔莊子、漁父〕諸侯暴亂、擅相攘伐、以殘二民人一。

【攘辟】32 ジヤウヒ しりぞき遠ざかる。〔禮、曲禮上〕君出就レ車、則僕幷レ轡授レ綏、左右攘辟。〔注〕攘、卻也、或者、攘、古讓字。〔釋文〕辟、音避、本或作二避字一、非也。〔疏〕攘、卻也、辟、遠也、君已上レ車、車欲二進行一、故左右侍者、悉遷卻以辟レ車、使レ不レ妨二車行一也。

【攘臂】33 ジヤウヒ うでまくりをする。力を入れる。勇奮する。又、其のこと。〔孟子、盡心下〕馮婦攘レ臂下レ車。〔戰國、齊策〕燕王必喜、士民見レ公如レ見二父母一、交遊、攘レ臂而議二於世一、功業可レ明矣。〔老子、三十八〕攘レ臂而扔レ之。〔史記、蘇秦傳〕攘レ臂瞋レ目。

【攘臂疾言】34 ジヤウヒシツゲン うでまくりし早口に言ふ。得意のさま。〔呂覽、驕恣〕魏武侯謀レ事而當、攘二臂疾三言於庭一曰、大夫之慮、莫レ如二寡人一矣。

【攘服】35 ジヤウフク しりぞけ征服する。〔漢書、賈捐之傳〕因二富民一以攘二服之一。

【攘袂】36 ジヤウベイ たもとをかかげる。腕まくりする。〔袁宏、三國名臣序贊〕來哲攘二袂於後一。〔晉書、劉伶傳〕嘗醉與二俗人一相忤、其人攘レ袂奮レ拳而往。

【攘羊】37 ジヤウヤウ 羊をぬすむ。攘は向ふから來たものをかくしぬすむこと。春秋楚の直躬(一說に、直躬は身を直くすること)といふものが、其の父が羊を盜んだのを訴へて己の正直を證した故事。馬鹿正直で却つて其の當を得ないことを行ふ喩。〔論語、子路〕吾黨有二直躬者一、其父攘レ羊而子證レ之。〔集解〕周生烈曰、有レ因而盜曰レ攘。〔疏〕言下因三羊來入二已家一、父卽取上レ之。〔集注〕直レ躬、直レ身而行者。〔集說〕淮南氾論訓、直躬其父攘レ羊、而子證レ之、高誘注、直躬、楚葉縣人也。

【攘羭】38 ジヤウユ 牡羊をぬすむ。大事にしてゐるものを除き去る。〔左氏、僖、四〕其繇曰、專レ之渝、攘二公之羭一。〔注〕攘、除也。〔會箋〕攘、論語攘レ羊之攘、奪也、羭、如レ字、云云、攘二公之羭一、攘二竊公所レ畜之羭一也、此譬喩語、公之羊、申生也、申生當レ之、故良史記レ之、以爲下殺二申生一之首引上。〔李商隱、爲二滎陽公一謝上表〕敢伐レ善以攘レ羭。

【攘腕】39 ジヤウワン 腕をまくりあげる。〔傅玄、和二秋胡行一〕攘レ腕採二柔桑一。

【攛】
12990

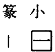
フン 〔集韻〕方問切 ［問］

㊀はらふ。はききよめる。掃除する。坌(3－4995)に同じ。〔集韻〕坌、說文、掃除也、或作レ攛。〔詩、小雅、伐木、於粲灑掃、箋〕粲然已灑攛矣。㊁拚(5－11966)に同じ。〔玉篇〕攛、亦作レ拚、禮記曰、掃二席前一曰レ拚。

【攛除】1 フンヂヨ 掃除すること。糞除(8－27102‥28)に同じ。

【攙】
12991

㈠ サン ゼン 〔集韻〕鋤咸切 イㄢ ch'an¹ ［咸］
㈡ シン 〔集韻〕初簪切 ［侵］
㈢ サン ゼン 〔集韻〕仕懺切 ［陷］
［慣］ ザン


小篆

㈠㊀さす。鑱(11－41052)・劖(2－2273)に通ず。〔說文新附〕攙、刺也、从レ手毚聲。〔鄭珍、新附考〕說文、鑱・

剷、皆古攙字、後別从㆑手、亦从㆑木、衆經音義、鑱刺下引㆓說文鑱字㆒、謂㆓論文作㆑攙、非㆑體、知㆔攙當㆓晚出最俗㆒。〔張衡、西京賦〕叉蔟之所㆓攙捔㆒。〔注〕綜曰、攙捔、貫㆓刺之㆒也。㊁**するどい**。〔廣雅、釋詁四〕攙、銳也。㊂**たすける**。〔字彙〕攙、扶也。〔沈遼、禪僧巖詩〕復畏㆓神怪來邀攙㆒。㊃**まぜる**。混合する。〔蘇軾、答㆓李端叔㆒書〕妄㆓論利害㆒、攙㆓說是非㆒。㊄**彗星の名**。攙搶(8)を見よ。🈔天攙は星の名。〔集韻〕攙、天攙、星名。〔史記、天官書〕退而西北三月、生㆓天攙㆒。〔注〕集解曰、攙、音參差之參。🈪㊀**つくらふ**。〔集韻〕攙、完補也。㊁**はたからひく**。〔集韻〕攙、一曰、傍掣。

【攙越】1 ザンエツ　相續法の順位を越え、私情を以て相續すること。〔清律、吏律、職制、官員襲廕〕不㆑依㆓次序㆒、攙越襲廕者、杖一百、徒三年。

【攙假】2 ch'an¹ chia³　にせ物をまぜる。まぜ物をする。

【攙懈】3 ch'an¹ hsieh⁴　怠る。ずるける。

【攙捔】4 ザンカク　さし貫く。〔張衡、西京賦〕但觀㆘罝羅之所㆓羂結㆒、竿殳之所㆓揘畢㆒、叉蔟之所㆓攙捔㆒、徒搏之所㆗撞㧙㆖。〔注〕綜曰、攙捔、貫㆓刺之㆒。

【攙合】5 ch'an¹ hê　まぜる。混合する。

【攙起】6 ch'an¹ ch'i³　扶け起す。

【攙叉】7 サンサ　銳いさすまた。攙は銳。〔牛僧孺、李蘇州遺㆓太湖石奇狀絕倫㆒因題㆓二十韻㆒奉㆓呈夢得・樂天㆒詩〕攙叉鋒刃簇、縷絡釣絲縈。

【攙搶】8 ザンサウ　彗星の名。孛星。一說に、妖星の名。爾雅釋天には攙槍に作る。〔史記、司馬相如傳〕攬㆓攙搶㆒以爲㆑旌兮。〔注〕正義曰、天官書云、天攙、長四尺、末銳、天搶、長數丈、兩頭銳、其形類㆑彗也。〔淮南子、俶眞訓〕攙搶衡杓之氣、莫㆑不㆓彌靡㆒。〔注〕攙搶、彗孛也。〔左思、吳都賦〕攙搶暴出而相屬。〔注〕翰曰、攙搶、妖星也。

【攙雜】9 サンザツ　さしまぜる。惡い物をまぜる。〔福惠全書、蒞任部、承事上司〕勿㆔攙雜而更置㆓己詞㆒。

【攙嘴】10 ch'an¹ tsuei³　傍から口をさし插む。差し出口をする。

【攙收】11 サンシウ　まぜうけとる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕不㆑許㆔攙㆓收低少㆒。

【攙水】12 ch'an¹ shuei³　水を混ぜる。

【攙擠】13 ザンセイ　せりあふ。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕毋㆑得㆓攙擠喧雜㆒。

【攙說】14 ザンセツ　雜然としてのべたてる。ごたごたいふ。〔蘇軾、答㆓李端叔㆒書〕攙㆓說得失㆒。

【攙先】15 ザンセン　先んずる。ぬきんでる。〔利登、梅花詩〕但知殿後壓㆓年芳㆒、誰識攙先啓㆓春路㆒。

【攙前】16 ch'an¹ ch'ien²　先だつ。

【攙入】17 サンニフ　まじりこむ。混入する。〔福惠全書、郵政部、喂養〕草鍘僅半寸許、老根不㆑宜㆓攙入㆒。

【攙扶】18 ch'an¹ fu²　扶け持つ。

【攙和】19 サンワ　混ぜる。混ぜ合はす。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕有㆘盜賣攙㆓和灰土㆒、不㆖堪㆓施用㆒。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗㆓各種死傷㆒〕滚水攙㆓和醃菜湯㆒。

【攙親太太】20 ch'an¹ ch'in¹ t'ai⁴ t'ai　婚禮の日、花嫁がかごに乘り下りするのを手傳ふ女。

【攑】12992　ケン　攐(**5-13020**)の古字。〔玉篇〕攑、古文攐。

【⿰扌馘】12993　クワク　〔集韻〕古獲切 〖陌〗　㊀**掌で耳をうつ**。〔玉篇〕⿰扌馘、掌㆑耳。㊁**ひく**。〔集韻〕⿰扌馘、挺也。

【⿰扌邀】12994　タツ　撻(**5-12774**)に同じ。〔篇海〕⿰扌邀、同㆑撻。

【擏】12995　ケイ キヤウ　〔集韻〕擧影切 〖梗〗　**のぞく**。はらふ。〔集韻〕擏、除也。

【⿰扌䍃】12996　ラン　〔篇海〕力淡切 〖感〗　**米を再びつきしらげる**。〔篇海〕⿰扌䍃、米再舂曰㆑⿰扌䍃。

【攓】12997　セン　〔集韻〕斯兼切 〖鹽〗　**手で物をはかる**。拈攓。〔集韻〕攓、拈攓、手稱㆑物。

【⿰扌巣】12998　セウ　〔集韻〕子小切 〖篠〗　㊀**たちきる**。〔玉篇〕⿰扌巣、剿截也。㊁**おさへうつ**。摷(**5-12643**)に同じ。〔集韻〕摷、說文、拘擊也、或作㆑⿰扌巣。

十八畫

【⿰扌雝】12999　ヨウ　擁(**5-12781**)の本字。〔正字通〕⿰扌雝、擁本字。

【⿱雝手】13000　ヨウ　⿰扌雝(**5-12999**)の俗字。〔正字通〕⿱雝手、俗⿰扌雝字。

【⿰扌爵】13001　シヤク　〔集韻〕卽約切 〖藥〗　㊀**えらぶ**。〔廣雅、釋詁一〕⿰扌爵、擇也。㊁**あげる**。〔集韻〕⿰扌爵、一曰、掆也。㊂**のぞく**。〔集韻〕⿰扌爵、一曰、捎也。㊃**けづる**。〔字彙〕⿰扌爵、削也。

【⿰扌壘】13002　ルイ　〔集韻〕魯水切 〖紙〗　㊀**喪家の音樂**。魁⿰扌壘。〔集韻〕⿰扌壘、魁⿰扌壘、喪家之樂。㊁儡(**1-1249**)に同じ。〔正字通〕⿰扌壘、魁⿰扌壘、本作㆓傀儡㆒。

【⿰扌雚】13003　ケン　**いさましい**。拳(**5-11996**)に同じ。權(**6-15926**)に通ず。〔詩、齊風、盧令〕其人美且鬈、箋、鬈讀當㆑爲㆑⿰扌雚、⿰扌雚勇壯也、校勘記〕案、五經文字權字注云、從㆑手作㆑⿰扌雚、古拳握字、可㆑知㆓鄭箋從㆑手不㆑從㆑木。

【攛】13004　🈩サン　〔集韻〕取亂切 〖翰〗　🈔サン　〔集韻〕七丸切 〖寒〗　ㄘㄨㄢ ts'uan¹

🈩🈔㊀**なげうつ**。〔集韻〕攛、擲也。㊁**そそのかす**。教唆する。攛掇(7)を見よ。㊂**まぜる**。攛上(5)を見よ。

【攛去】1 ts'uan¹ ch'ü⁴　なげすてる。

【攛哄】2 ts'uan¹ hung³　そそのかす。けしかける。

【攛梭】3 サンサ　頻繁に往來する梭。轉じて、往來の頻繁な喩。〔王惲、余自㆓閩中㆒北邊舟行過㆓常秀間㆒云云詩〕幹當江南有㆓許多㆒、往還冠蓋似㆓攛梭㆒。

【攛搓】4 サン サフ まぜる。俗に穢壞雜碎の物を攛搓といふ。垃圾(3－5029··1)に同じ。

【攛上】5 tsʻuan^1 shang^4 まぜたす。〔長生殿、驛備〕恰好驛中僉報女工、要去攛上一名。

【攛斷】6 tsʻuan^1 tuan^4 僞つて憤激させる。おだてる。〔西廂記、張君瑞害相思雜劇〕攛斷得上竿。

【攛掇】7 サンテツ サンタツ 勵ます。そそのかす。すすめる。おだてる。〔正字通〕攛、俗謂下誘レ人爲レ惡曰中攛掇上。〔朱熹、答二陳同父一書〕奉レ告老兄、且莫二相攛掇一。〔史彌寧、杜鵑詩〕春歸怪見難二留住一、攛掇留取。元來都是他。

【攛趕子活】8 tsʻuan^1 kan^3 tzŭ huo^2 いそいで仕事をする。いいかげんにすます。

【㩳】13005

［一］シヨウ シユ 〔集韻〕筍勇切 ［腫］

［二］サウ 〔集韻〕雙講切 ［講］

［一］❶とる。〔集韻〕㩳、執也。❷おす。〔集韻〕㩳、推也。❸ひく。ぬき出す。〔禮部韻略〕㩳、挺也。❹そばだてる。〔杜甫、畫鷹詩〕㩳レ身思二狡兔一。〔注〕㩳、猶レ竦也。❺或は㩳(5－12523)に作る。〔集韻〕㩳、或省。

［二］とる。［一］の❶に同じ。〔集韻〕㩳、執也。

【㩳㩳】1 シヨウシヨウ とること。〔杜牧、念二昔遊一詩〕曾奉二郊宮一爲二近侍一、分明㩳㩳羽林槍。

【㩧】13006

ハク

㩧(5－12930)の本字。〔正字通〕㩧、㩧本字。

【攫】13007

［一］キヨク コク 〔集韻〕拘玉切 ［沃］

［二］ク グ 〔集韻〕權俱切 ［虞］

小篆

［一］❶つかむ。〔說文〕攫、爪持也、从レ手瞿聲。❷すてる。〔太玄經、瑩〕故不レ攫レ所レ有。〔注〕攫、去也。❸或は攫(5－13043)に作る。〔集韻〕攫、或作レ攫。〔說文通訓定聲〕攫、當レ爲二攫之正篆一。［二］攫疎は、枝葉の生ひ茂るさま。〔集韻〕攫、攫疎、枝葉敷布皃。

【攜】13008

ケイ ゲイ 〔集韻〕玄圭切 ［齊］ ㄒㄧ hsi^1 ㄒㄧㄝˊ hsieh^2

小篆

❶たづさへる。㋑ひつさげる。さげもつ。〔說文〕攜、提也、从レ手嶲聲。〔六書故〕攜、懸持也。〔詩、大雅、板〕如レ取如レ攜。〔疏〕物在二地上一、手擧二攜之一。㋺ひきつれる。〔公羊、襄、二十七〕攜二其妻子一。〔注〕攜、猶レ提也。〔淮南子、覽冥訓〕相二攜於道一。〔注〕攜、引也。❷つらなる。〔漢書、天文志〕杓攜二龍角一。〔注〕孟康曰、攜、連也。❸はなれる。はなす。乖離する者。懏(4－11490)に通ず。〔說文通訓定聲〕攜、叚借爲レ懏。〔集韻〕攜、一曰、離也。〔左氏、僖、七〕招レ攜以レ禮。〔注〕攜、離也。〔左氏、僖、二十八〕不レ如下私許レ復二曹衞一以攜レ之。〔注〕攜、離也。〔逸周書、武順解〕均伯勤勞而無レ攜。〔注〕攜、離也。❹俗に携(5－12529)に作る。〔集韻〕攜、俗作レ携非レ是。〔正字通〕携、俗攜字。❺謚。〔逸周書、謚法解〕怠レ政外交曰レ攜。❻姓。〔集韻〕攜、亦姓。〔萬姓統譜〕攜、見二姓苑一。

【攜幼】1 ケイエウ 幼兒の手を引く。〔史記、周紀〕扶レ老攜レ幼。〔陶潛、歸去來辭〕攜レ幼入レ室、有レ酒盈レ樽。

【攜行】2 ケイカウ たづさへて行く。持參して行く。

【攜角】3 ケイカク 姑洗三十四律の一。〔隋書、律曆志上〕姑洗、南授・懷來・考神・方顯・攜角、云云、右姑洗一部三十四律。〔耕祿藁、代二良耜一謝表〕土脈起膏、俶嚴二斲木之教一、天田攜角、誤躋二司稷之班一。

【攜盒】4 ケイカフ さげざゆう。提重。提盒。携盒。〔遵生八牋、目錄、八、起居安樂牋下〕携盒有レ圖。

【攜歸】5 ケイキ たづさへ歸る。〔國史略、桓武天皇〕大春日清足、在レ唐娶二李氏一、今年攜歸。

【攜翫】6 ケイグワン 手にとつてもてあそぶ。〔韓愈、新竹詩〕何人可二攜翫一、清景空瞪視。

【攜擊】7 ケイケイ もちあげる。ささげもつ。提擊。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕瀟碧遠輸委、湖嵌費二攜擊一。

【攜隙】8 ケイゲキ はなれてすき間を生ずる。〔魏志、陳思王植傳評〕然不レ能二克讓遠防一、終致二攜隙一。

【攜挈】9 ケイケツ 手を引いて連れて行く。〔羅隱、廣陵妖亂志〕攜二挈老幼一。〔李德裕、述夢詩〕恩光惟覺レ重、攜挈未レ爲レ勞。 「く。

【攜眷】10 hsieh^2 chüan^4 家族を引きつれてゆく。

【攜妻】11 ケイサイ 妻を伴ふ。妻をつれてゆく。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕欲三攜レ妻挈レ子、逃二之別境一。

【攜貳】12 ケイジ はなれてうたがふ。そむきはなれる。〔左氏、閔、元〕閒二攜貳一、覆二昏亂一、霸王之器也。〔注〕離而相疑者、則當二因而閒一レ之也。〔國語、周語中〕若七德離判、民乃攜貳。〔說苑、辨物〕百姓攜貳。〔後漢書、公孫述傳〕發二閒使一、召二攜貳一。〔丘遲、與二陳伯之一書〕部落攜離、酋豪攜貳。

【攜將】13 ケイシヤウ 攜持(18)に同じ。〔後漢書、鄧訓傳〕黎陽故人、多攜二將老幼一、樂二隨レ訓徙一レ邊。

【攜手】14 ケイシユ 手をたづさへる。親密なことをいふ。〔詩、邶風、北風〕惠而好レ我、攜レ手同行。〔孫子、九地〕攜レ手若レ使二一人一。〔李陵、與二蘇武一詩〕攜二手上河梁一、游子暮何之。〔阮籍、詠懷詩〕攜レ手等二歡愛一、宿昔同二衣裳一。〔黃庭堅、新喩道中詩〕一百八盤攜レ手上、至レ今猶夢繞二羊腸一。

【攜手曲】15 ケイシユキヨク 樂府、雜曲歌辭の一。梁、沈約作。手を携へて行樂し、芳時の留らず、君恩の將に歇まんとするを恐れて作る。〔樂府詩集、雜曲歌辭、攜手曲〕攜手曲、梁沈約所レ制也、樂府解題曰、言三攜レ手行樂、恐二芳時不一レ留、君恩將レ歇也。〔沈約、攜手曲〕捨レ轡下二雕輅一、更レ衣奉二玉牀一、斜レ簪映二秋水一、開レ鏡比二春妝一、所レ畏紅顏促、君恩不レ可レ長、鵁冠且容裔、豈吝二桂枝亡一。

【攜接】16 ケイセツ 手をとる。〔後漢書、循吏、劉寵傳〕綏攜接收養、與同二優劇一、甚得二名稱一。

【攜帶】17 ケイタイ たづさへおびる。身につける。もちあるく。又、其のこと。攜持。〔桃花扇、歸山〕老爺若肯二攜帶一、小人就有レ命了。

【攜持】18 ケイヂ ❶たづさへもつ。〔書、立政、左右攜僕、傳〕攜二持器物一之僕。❷手をひく。〔書、召誥〕夫知下保二抱攜三持厥婦子一、以哀中籲天上。〔阮籍、詠懷詩〕王子一何好、猗靡相攜持。〔范曄、逸民傳論〕相攜持而去レ之者、蓋不レ可レ勝數一。

【攜提】19 ケイテイ 互に助けあふ。提攜(5－12344··50)の❷に同じ。

【攜抱】20 ケイハウ 手をひき、又、ふところにいだく。〔南史、袁昂傳〕昂年五歲、乳媼攜抱、匿二於廬山一。

【攜扶】21 ケイフ たづさへたすける。力になる。扶持する。〔眞德秀、游二鼓山一詩〕願言祝二同社一、著力相攜扶。

【攜負】22 ケイフ 手をひき背に負ふ。〔蜀志、張嶷傳〕嶷冒二白刃一、攜二負夫人一、夫人得レ免。

【攜僕】23 ケイボク 左右に侍して器物を捧持する下僕。又、攜持僕御の人。〔書、立政〕左右攜僕、百司庶府。〔傳〕攜二持器物一之僕。〔蔡傳〕攜僕、攜持僕御之人。

【攜養】24 ケイヤウ 手を取つて養育する。〔後漢書、袁紹傳上〕父嵩、乞匄攜養。

【攜離】25 ケイリ はなれる。はなれそむく。

【攜鹿】26 ケイロク 淸、王邦采(7－20823··2017)の號。

【攜雪齋】27 ケイセツサイ 淸、溫汝适(7－17968··271)の號。

【攜雪堂】28 ケイセツダウ 淸、吳可讀(2－3365··459)の室名。

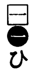
【擧】13009

ヘウ

摽(5－12651)の古字。〔玉篇〕擧、古文摽。

【攝】13010

㊀セフ 〔集韻〕失涉切 ㄕㄜˋ shê⁴ ［葉］
㊁デフ ネフ 〔集韻〕諾叶切 ［葉］
㊂ケフ 〔集韻〕詰叶切 ［葉］
㊃サフ セフ 〔集韻〕色甲切 ［洽］
［慣］セツ



小篆

㊀❶ひく。ひきもつ。ひつぱる。〔說文〕攝、引持也、从レ手聶聲。〔漢書、陳餘傳〕耳攝レ之使レ受レ笞。〔注〕師古曰、攝、謂三引二持之一。❷ひきよせる。〔顧況、大雲寺碑〕磁石攝レ鍼、不レ攝二鴻毛一。❸とる。とらへる。〔國語、吳語〕攝二少司馬茲一。〔注〕攝、執也。❹とりこむ。入れる。〔神異經、東荒經〕計二其晝夜噏攝一無レ極。❺ひらく。〔儀禮、士昏禮〕執レ皮攝レ之。〔注〕攝、猶レ辟也。❻もつ。〔儀禮、士喪禮〕橫攝レ之。〔注〕攝、持也。〔司馬相如、喩二巴蜀一檄〕皆攝レ弓而馳。〔注〕善曰、攝、謂二張レ弓注レ矢而持一レ之。❼とりもつ。固く維持する。〔國語、楚語上〕悛而不レ攝。〔注〕攝、固也。〔後漢書、朱穆傳〕徒感二王綱之不一レ攝。〔注〕攝、持也。❽かかげる。〔論語、鄕黨〕攝レ齊升レ堂。〔皇疏〕攝、摳也。❾をさめる。〔莊子、胠篋〕則必攝二緘縢一。〔釋文〕攝、崔云、收也。〔史記、酈生傳〕起攝レ衣。〔注〕正義曰、攝、猶レ言二斂著一也。❿ととのへる。〔儀禮、士冠禮〕攝レ酒。〔注〕攝、猶レ整也。⓫たすける。〔詩、大雅、既醉〕朋友攸レ攝、攝以二威儀一。〔左氏、襄、三十一〕朋友攸レ攝。〔注〕攝、佐也。⓬ただす。〔後漢書、銚期傳〕攝レ幘復戰。〔注〕攝、猶レ正也。⓭やしなふ。〔老子、五十〕蓋聞、善攝レ生者。〔河上公注〕攝、養也。⓮とりしまる。〔吳志、孫皓傳〕二千石以下、皆日入レ山督二攝伐木一。⓯すべる。〔宋史、胡宏傳〕宰二制萬事一、統二攝億兆一。⓰しるす。かきとる。記錄する。〔字彙〕攝、錄也。〔宋史、禮志〕列奏申攝。⓱むすぶ。〔莊子、胠篋〕則必攝二緘縢一。〔釋文〕攝、李云、結也。⓲すすむ。〔潘勖、册二魏公九錫一文〕君則攝進。〔注〕向曰、攝、進也。⓳かはる。代（1－386）に通ず。〔說文通訓定聲〕攝、叚借爲レ代、弋・聶、雙聲。㋑攝位をいふ。〔周禮、春官、大宗伯〕若王不レ與二祭祀一則攝レ位。〔注〕代二行其祭事一。〔禮、明堂位、昔者周公朝二諸侯于明堂一之位、注〕周公攝二王位一、以二明堂之禮儀一朝二諸侯一也。〔疏〕攝、代也。〔左氏、隱、元〕不レ書二卽位一、攝也。㋺攝政をいふ。〔書、金縢、武王既喪、傳〕武王死、周公攝レ政。〔詩、豳風、狼跋序〕周公攝レ政。㋩冢宰居レ攝をいふ。〔詩、豳風、七月、集傳〕周公旦以二冢宰一攝レ政。〔漢書、食貨志上〕王莽居レ攝、遂篡レ位。⓴かねる。假に他を兼ねる。夾（3－5867）に通ず。〔說文通訓定聲〕攝、叚借爲レ夾。〔左氏、昭、十三〕羊舌鮒攝二司馬一。〔注〕攝、兼官也。〔論語、八佾〕官事不レ攝。〔集解〕包氏曰、攝、猶レ兼也。㉑はさまれる。せまる。〔論語、先進〕攝二乎大國之閒一。〔皇疏〕攝、迫也。㉒かす。かりる。貣（10－36666）に通ず。〔說文通訓定聲〕攝、叚借爲レ貣。〔集韻〕攝、一曰、假也。〔禮、檀弓上〕冉子攝二帛乘馬一而將レ之。〔注〕攝、猶レ貸也。㉓おそれる。おびやかす。おどす。おそれさす。懾（4－11498）に通ず。〔說文通訓定聲〕攝、叚借爲レ懾。〔左氏、襄、十一〕武震以攝二威之一。〔會箋〕攝、讀爲レ懾、懼也、謂三武震以畏二懼之一也。㉔くじける。〔呂覽、下賢〕卑爲二布衣一而不二瘁攝一。〔注〕攝、猶レ屈也。㉕うれへる。〔荀子、禮論〕不レ至二於隘攝傷一レ生。〔注〕攝、猶レ戚也。㉖ふちどる。飾（12－44111）に通ず。〔說文通訓定聲〕攝、叚借爲レ飾、攝・飾、雙聲。〔儀禮、既夕禮〕白狗攝レ服。〔注〕攝、猶レ緣也。㉗まがる。〔集韻〕攝、曲折也。㉘龜の名。攝龜（10）を見よ。〔集韻〕攝、一曰、龜名。㉙姓。〔左氏、宣、十二〕攝叔爲レ右。㉚［現］寫眞をとる。㊁❶もつ。〔集韻〕攝、持也。❷やすらか。聑（9－29061）に通ず。〔說文通訓定聲〕攝、叚借爲レ聑。〔集韻〕攝、一曰、攝然、安也。〔漢書、嚴助傳〕天下攝然、人安二其生一。〔注〕孟康曰、攝、安也、音奴協反。㊂**龜の名**。〔集韻〕攝、小龜名、腹甲曲折解、能自張閉者、郭璞說。㊃**棺の羽飾。又、扇形の飾物**。翣（9－28739）に通ず。〔集韻〕翣、說文、棺羽飾也、或作レ攝。〔國語、楚語下〕屛攝之位。〔注〕攝、形如二今要扇一、所下以分二別尊卑一、爲中祭祀之位上。

［名乘］カヌ。カネ。

【攝衣】1 セツイ ❶衣服のみだれをととのへる。〔史記、高祖紀〕沛公起攝レ衣謝レ之。❷衣をかかげる。〔蘇軾、後赤壁賦〕予乃攝レ衣而上、履二巉巖一、披二蒙茸一、踞二虎豹一、登二虬龍一。

【攝位】2 セツヰ 君に代つて君位につく。〔周禮、春官、大宗伯〕若王不レ與二祭祀一則攝レ位。〔注〕王有レ故、代二行其祭事一。〔左氏、隱、元〕公攝レ位而欲レ求二好於邾一。〔漢書、異姓諸侯王表序〕洽二于百姓一、攝レ位行レ政。

【攝威】3 セフヰ おどかす。おそれしめる。〔左氏、襄、十一〕不レ然則武震以攝二威之一。〔會箋〕攝、讀爲レ懾、懼也、謂三武震以畏二懼之一也。

【攝影】4 shê⁴ ying³ 寫眞をとる。撮影する。

【攝衞】5 セツエイ 攝養保衞する。養生する。〔隋唐佳話〕裴知古、云云、又善二於攝衞一、開元十二年終、年且二百歲一。

【攝葉】6 セツエフ のびひろがらないさま。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕衣攝葉以儲與兮。〔注〕攝葉・儲與、不二舒展一貌。

【攝音】7 セツオン セツイン 聲勢の相同じい數韻を一類にまとめること。又、其の時に中心・基準とした字、他の音を統率する音の意。康熙字典の卷首に引く所の字母切韻要法の如く迦・結・岡・庚・裓・高・該・傀・根・干・鉤・歌の十二に分つて攝するもの、劉鑑の切韻指南の如く通・江・止・過・蟹・臻・山・効・果・假・宕・曾・梗・流・深・咸の十六に分つて攝するもの等があるのは、方言によつて不同を生じたためである。切韻指掌に分けてある二十圖、七音略に分けてある四十三圖も亦此の類である。

【攝假】8 セツカ 攝皇帝と假皇帝。漢の王莽が宣帝の玄孫嬰を皇太子となし、自ら攝に居て祚を踐んで假皇帝といひ、臣民は攝皇帝といつた故事。〔漢書、王莽傳中〕予前在二大麓一、至二于攝假一。〔注〕師古曰、攝假、謂下初爲二攝皇帝一、又爲中假皇帝上。

【攝行】9 セツカウ ❶假に其の職務を務めること。〔史記、五帝紀〕令三舜攝二行天子之政一、薦二之於天一。〔朱熹、論語集注序說〕孔子年五十六、攝二行相事一、誅二少正卯一。❷攝政が天皇に代つて政治を行はれること。〔皇室典範、第三十六條〕。

【攝龜】10 セツキ 小龜の名。一名、陵龜。〔爾雅、釋魚〕三曰、攝龜。〔注〕小龜也、腹甲曲折解、能自張閉、好食レ蛇、江東呼爲二陵龜一。〔郝懿行義疏〕攝、猶レ摺也、亦猶レ折也、言三能自曲折解、張閉如二摺疊一也。

【攝境】11 セツキヤウ 精神を鍛錬し養ふ處。〔指月錄、寶誌禪師大乘讚〕斂レ容入レ室坐禪、攝境安心、覺觀機關、木人修レ道、何時得レ達二彼岸一。

【攝弓】12 セツキユウ 弓を張り矢をつがへる。〔司馬相如、喩二巴蜀一檄〕皆攝レ弓而馳。〔注〕善曰、攝、謂二張レ弓注レ矢而持一レ之也。

【攝官】13（セツクワン） 役をかりにかね行ふ。〔左氏、成、二〕敢告不敏、攝官承乏。

【攝關】14（セツクワン） 攝政と關白。〔年中行事歌合、判〕內裏・仙洞・攝關・大臣。〔日本政記、後三條天皇〕帝奮髯曰、攝關之可憚、以其爲國戚。

【攝家】15（セツケ） 攝政關白に任ぜられるべき家門。藤原氏の近衞・九條・二條・一條・鷹司の五家のことで、これを五攝家といふ。清和天皇の時に藤原良房攝政となり、光孝天皇の時に其の子基經關白となつてから、其の特權は專ら藤原氏に歸し、天皇御幼少の閒は攝政となり、御成年の後は關白となり、五攝家に分れてからは各家交選して任ぜられ、明治維新に至る。〔和漢三才圖會、七、人倫類〕攝家、五家、近衞・九條・二條・一條・鷹司、謂之五攝家、共是藤原姓、以攝政關白爲先途、如女帝幼帝、攝天下政之家系也、近衞殿、攝政關白忠通公長男基實爲祖、九條殿、同忠通公九男兼實（號法性寺殿、又名月輪殿）爲祖、二條殿、兼實公孫名道家、其長男教實爲九條殿家督、二男良實爲二條殿之祖、一條殿、道家公三男實經爲祖、鷹司殿、近衞基實公孫名家實、其長男兼經爲近衞殿家督、二男兼平爲鷹司殿祖、天兒屋根命苗裔、神代以來不易輔佐、而中華亦稱讚之。〔武家嚴制錄、一、禁中幷公家衆諸法度〕一、雖爲攝家、無其器用者、不可被任三公・攝關、況其外乎。

〖攝家門跡〗16（セツケモンゼキ） 門跡の一。攝家の子弟が法主となる寺。〔御當家令條、二、禁中井公家諸法度〕一、攝家門跡者、可爲親王門跡之次座。

【攝兼】17（セツケン） かねること。兼攝（**2**－1483・・76）に同じ。

【攝檢】18（セツケン） 取り調べること。〔任昉、奏彈劉整文〕求攝檢、如訴狀。

【攝固】19（セツコ） 固くとりまもる。〔國語、魯語上〕故能攝固、不解以久。〔注〕攝、持也。

【攝悟】20（セツゴ） 眞正でないさとり。〔謝靈運、辨宗論答慧琳問〕若人皆得意、亦何貴于攝悟假知之論旨。

【攝魂】21（セツコン） 亡魂を招く。〔畫譜〕葉法善欲求李北海書碑、北海爲括食太守、不可強、乃攝其魂書之、北海夢中書碑竟、醒而遣人追覗、宛如夢中、今名攝魂碑。

【攝山】22（セツサン） 山名。江蘇省江寧縣の東北。一名、棲霞山。古蹟極めて多く、風景絶美。清の高宗、題して江南第一明秀山といふ。〔輿地志〕山多藥草、可以攝生、故名。

【攝贊】23（セツサン） たすける。〔左氏、昭、二十六〕晉爲不道、是攝是贊。〔注〕攝、持也、贊、佐也。

【攝齊】24（セツシ） もすそをかかげる。攝齋。攝齎。〔論語、鄉黨〕攝齊升堂。〔集解〕孔安國曰、衣下曰齊、攝齊者、摳衣也。〔集注〕齊、音咨、攝、摳也、齊、衣下縫也。

【攝齋】25（セツシ） 攝齊に同じ。又、攝齎に作る。〔漢書、朱雲傳〕攝齋登堂。〔注〕師古曰、齋、衣下之裳、音子私反。〔陸機、漢高祖功臣頌〕攝齋赴節。

【攝齎】26（セツシ） 攝齊を見よ。〔注〕五臣作齎、卽衣切、翰曰、攝齎、摳衣也。

【攝次】27（セツジ） 正しい順序。〔新書、道術〕動靜攝次、謂之比。

【攝州】28（セツシウ） 攝津の國をいふ。〔賴山陽、攝州路上詩〕酒家粉壁映晴波、官道乾沙度淤河、風景依然人欲老、楠公墓下十經過。

【攝收】29（セツシウ） とりをさめる。

【攝社】30（セツシヤ） 昔、神宮又は官幣社に於て本社に攝せられる神社。本社と末社との閒にあり、其の祭神は本社祭神と緣故あるものか、其の他特別の由緒あるもの。本社の境內に在るものを境內攝社、境外に在るものを境外攝社といふ。〔和漢三才圖會、地部、山城國〕山城、貴布禰社、攝社三座、奧深社・吸葛社・私市社。

【攝相】31（セツシヤウ） 政治の輔佐役。〔荀子、宥坐〕孔子爲魯攝相、朝七日而誅少正卯。

【攝政】32（セツシヤウ） ㊀君主に代つて政治を行ふ。又、其の人。〔禮、文王世子〕昔者周公攝政、踐阼而治。〔逸周書、明堂解〕周公攝政君天下、弭亂。〔史記、五帝紀〕舜得舉、用事二十年、而堯使攝政。〔漢書、翟方進傳〕昔成王幼、周公攝政。〔白虎通、五行〕主幼臣攝政何法。㊁天皇が成年に達せられず、或は久しい閒故障あらせられ、大政を統べ給ふことが出來ない時、天皇に代り大權を執行する機關。攝政になる順位は皇位繼承の順に從ふ。我が國にては第十五代應神天皇幼少にましまし、御母神功皇后（御名息長帶姬）が攝政し給うたに始まり、後、第三十三代推古天皇（女帝にまします）の御代、聖德太子（厩戶皇子）が攝政せられた。人臣にして攝政となるは第五十六代清和天皇天安二年、藤原良房が御齡九歲の天皇の攝政となつたのを初めとする。〔和漢三才圖會、九、官位部、攝政〕攝政唐堯擧舜爲攝政、殷湯王以伊尹爲阿衡（當攝政也）、周成王幼而卽位、叔父周公旦攝政、漢昭帝亦幼而卽位、霍光奉武帝遺詔攝政、以此等爲始、仲哀天皇崩、神功皇后平三韓而歸筑紫生皇子、皇后攝政、遂治天下六十餘年、雖同正帝稱攝政矣、因推古天皇女王、以姪厩戶皇子攝政、清和天皇幼而卽位、奉文德帝遺詔、外祖藤原忠仁公攝政（人臣攝政始于此）、自此以來、攝政關白傳於彼家門。

〖攝政王〗33（セツシヤウワウ） 清、多爾袞（**3**－**5756**・・298）の封號。

【攝殳】34（セツシユ） からさを。連枷。〔方言、五〕僉、宋魏之閒、謂之攝殳。

【攝主】35（セツシユ） ㊀君主に代つて政務を聽く上卿。〔禮、曾子問〕曾子問曰、君薨而世子生、如之何、孔子曰、卿大夫士從攝主、北面於西階南。〔注〕攝主、上卿代君聽國政。㊁主人の代理をすること。〔公羊、昭、十五〕大夫聞君之喪、攝主而往。〔注〕主、謂已主祭者、臣聞君之喪、義不可以不卽行、故使兄弟若宗人攝行主事而往。

【攝取】36（セツシユ） ㊀[佛]ことをさめ取る。佛が慈悲によつて衆生を救ふ。〔無量壽經、上〕我當修行攝取佛國清淨莊嚴無量妙土。㊁養分を體內にとり入れる。

〖攝取不捨〗37（セツシユフシヤ） [佛]佛が一切の衆生を捨てずに拾ひあげること。〔觀無量壽經〕一一光明偏照十方世界、念佛衆生攝取不捨。

【攝酒】38（セツシユ） 酒をかきたててほどよくすること。〔儀禮、士冠禮〕再醮攝酒。〔疏〕攝、猶整也、整酒、謂撓之者、案、有司徹云、司宮攝酒、注云、更洗益整頓之、不可云洗、亦當爲撓、謂更撓攪添益整頓示新也。〔儀禮、有司徹〕司宮攝酒。〔注〕更洗益整頓之。

【攝受】39（セフジユ） ㊀[佛]佛が衆生を救ひあげること。〔勝鬘經〕願佛常攝受。〔梁簡文帝、大愛敬寺刹下銘〕權實隨方、攝受孰能弘濟。㊁受け入れる。

【攝承】40（セツシヨウ） 他の役にあるものが、かりに缺員の後をうけて事を兼ね行ふこと。〔左氏、成、二〕攝官承乏、〔注〕攝承空乏。〔黃庭堅、三秀亭記〕輒以他吏攝承。

【攝職】41（セツシヨク） 官途につくこと。〔千字文〕攝職從政。

【攝心】42（セツシン） [佛]心ををさめて散らさない。〔遺教經〕常當攝心在心。

【攝進】43（セツシン） すすむ。〔潘勖、冊魏公九錫文〕君則攝進、首啓戎行。〔注〕向曰、攝、進也。

【攝生】44（セツセイ） 生を養ふ。からだをすこやかにする。養生。攝養。〔老子、五十〕蓋聞、善攝生者、陸行不遇兕虎、入軍不避甲兵。〔河上公注〕攝、養也。〔列子、黃帝〕其齋欲攝生。〔韓非子、解老〕動無死地、而謂之善攝生矣。〔張華、鷦鷯賦〕惟鷦鷯之微禽兮、亦攝生而受氣。〔左思、吳都賦〕土壤不足以攝生。〔注〕劉曰、攝、持也。〔白居易、病中作詩〕久爲勞生事、不學攝生道。

〖攝生四要〗45（セツセイシエウ） 養生法の四要。(一)思慮を少なくして神を養ふ。(二)慾を少なくして精を養ふ。(三)勞を少なくして力を養ふ。(四)言語を少なくして氣を養ふ。〔和漢名數、初上〕。

〖攝生七養〗46（セツセイシチヤウ） 養生法の七種。(一)言語を少なくして內氣を養ふ。(二)色慾を戒めて精氣を養ふ。(三)滋味を薄くして血氣を養ふ。(四)精液を呑んで臟氣を養ふ。(五)嗔怒せずして肝氣を養ふ。(六)飲食を淡くして胃氣を養ふ。(七)思慮を少なくして心氣を養ふ。〔養老新書〕。

【攝小】47 shê^{4} hsiao^{3} 寫眞を縮寫する。

【攝攝】48（セツセツ） 楓の異名。〔海錄碎事、草木、木〕說文云、楓木、厚葉弱枝善搖、一名攝攝。

【攝讋】49（セフセフ） ふるひおそれる。恐れて志氣を失ふ。〔漢書、霍去病傳〕輜重人衆、攝讋者弗㆑取。〔注〕師古曰、攝讋、謂㆔振動失㆓志氣㆒。

【攝然】50（デフゼン） やすらかなさま。靜謐のさま。〔漢書、嚴助傳〕天下攝然、人安㆓其生㆒。〔注〕孟康曰、攝、安也、音奴協反。

【攝祚】51（セツソ） かりに帝位についてゐること。〔揚雄、交州箴〕周公攝㆑祚、白雉是獻。

【攝息】52（セツソク） いきをさめる。息をころす。〔易林、革之第四十九、訟〕屛氣攝息、不㆑得㆓鯉子㆒。

【攝持】53（セツヂ） ❶養ひたもつ。〔謝靈運、山居賦〕若乃乘㆓攝持之告㆒、評㆓養達之篇㆒。〔自注〕老子云、善攝㆑生者、莊子云、謂㆔之不㆓善持㆑生。❷もつ。たもつ。〔釋周澤、和㆓瓶梅㆒詩〕孤山意足一壺枝、無限風情悉攝持。

【攝追】54（セツツイ） 比周して追ひ合ふこと。〔鹽鐵論、疾貪〕縣吏相遺、官庭攝追。

【攝提】55（セツテイ） ❶星の名。大角の兩旁に各〻三星あり、これを右攝提及び左攝提といふ。〔韓非子、飾邪〕此非㆘豐隆・五行・太乙・王相・攝提・六神・五括・天河・殷搶・歲星、數年在㆖西也。〔楚辭、離騷〕攝提貞㆓于孟陬㆒兮。〔注〕太歲在㆑寅、曰㆓攝提格㆒。〔史記、天官書〕大角者、天王帝廷、其兩旁各有㆓三星㆒、鼎足句㆑之、曰㆓攝提㆒、攝提者、直㆓斗柄所㆑指、以建㆓時節㆒、故曰㆓攝提格㆒。〔後漢書、張衡傳〕倚㆓招搖攝提㆒以低回劉流兮。❷天神の名。〔淮南子、墬形訓〕諸稽攝提、條風之所㆑生也。〔注〕諸稽攝提、天神之名也。❸十紀の一。十紀（2-2695‥56）の❸を見よ。

〔攝提格〕56（セツテイカク） 太歲星が寅の方位にあること。攝提の❶を見よ。轉じて、寅の歲の異稱。〔爾雅、釋天〕太歲在㆑寅曰㆓攝提格㆒。〔郝懿行、爾雅義疏〕攝提、星名、屬㆓東方亢宿㆒、分㆓指四時㆒、從㆑寅起也。〔淮南子、天文訓〕太陰在㆑寅、歲名曰㆓攝提格㆒。

【攝鐵】57（セツテツ） 鐵を引きつける。〔顧況、廣陵白沙大雲寺碑〕磁石攝㆑鐵、不㆑攝㆓鴻毛㆒。

【攝蝶】58（セツテフ） 唐鞍の具。杏葉を羈・鞅・鞦に結び附ける金物。〔物具裝束抄〕唐鞍具、攝蝶、胸掛十、鞦十八、面掛十。

【攝篆】59（セツテン） 下役の者が上役に代つて印を捺すこと。兼務する。代理する。〔福惠全書、陞遷部、出衙〕署官攝篆、無㆑論㆓進㆑衙居住與㆒㆑否。

【攝殿】60（セツテン） 假の御殿。〔漢書、王莽傳上〕安漢公廬爲㆓攝省㆒、府爲㆓攝殿㆒、第爲㆓攝宮㆒。

【攝圖】61（セツト） 隋、沙鉢略可汗（6-17212‥315）の名。

【攝動】62（セツドウ） ❶行動を統理すること。❷太陽系の諸天體が、相互引力又は太陽の引力のために、其の運行に影響をうけること。

〔攝動力〕63（セツドウリヨク） 天體の運行に影響を與へる力。

【攝播】64（セツパ） 攝津と播磨。〔日本外史、新田氏前記、楠氏記〕外史氏曰、余數往㆓來攝播間㆒、訪㆓所謂櫻井驛㆒、得㆓之山崎路㆒。

【攝迫】65（セツパク） せまる。はさまる。〔論語、先進〕攝㆓乎大國之閒㆒。〔皇疏〕攝、迫也。

【攝判】66（セツパン） 朝官が他の職を假に兼ね行ふこと。〔隋書、長孫熾傳〕尋以㆓本官㆒攝㆓判東宮㆒。

【攝服】67（セツプク） 服にふちどる。服の緣をかざる。〔儀禮、旣夕禮〕貳車白狗攝㆑服。〔注〕攝、猶㆑緣也、狗皮緣㆑服差飾。

【攝揚】68（セツヤウ） ととのへあげる。〔白虎通、聖人〕武王望羊、是謂㆓攝揚㆒、盱㆑目陳㆑兵、天下富昌。

【攝養】69（セツヤウ） やしなひそだてる。身體を養ふ。〔吳志、陸瑁傳〕瑁迎攝養、至㆑長乃別。〔庾信、奉㆓報趙王出㆑師在㆑道賜㆒㆑詩詩〕小人乖㆓攝養㆒、岐路阻㆓逢迎㆒。

【攝理】70（セツリ） ❶他人に代つて事をさめ處置すること。〔左氏、昭、十四〕士景伯如㆑楚、叔魚攝理。〔注〕攝、代㆓景伯㆒。〔孔子家語、正論解〕晉邢侯與㆓雍子㆒爭㆑田、叔魚攝理。❷すべをさめること。❸基督教で、神が世を導き人に幸を與へること。

【攝力】71 shè⁴ lì⁴ ❶引力。❷凝聚力。

【攝療】72（セツレウ） 病氣を治療すること。〔北史、藝術下、王顯傳〕宣武自㆑幼有㆓微疾㆒、顯攝療有㆑效。

【攝斂】73（セツレン） 收め集める。とりしまる。統制する。〔蜀志、劉焉傳〕攝㆓斂吏民㆒、得㆓千餘人㆒、攻㆓相等㆒。

【攝錄】74（セツロク） 檢束して取り調べる。〔漢書、敍傳上〕共諫㆑伯宜㆔頗攝㆓錄盜賊㆒、且言㆓本謀亡匿號㆒。

【攝籙】75（セツロク） 天子に代つて符をとること。籙は符。攝政の異稱。〔三代實錄、四十一〕元慶六年正月二十五日、攝籙之機、欲㆓公勿㆒㆑讓。

【攝護腺】76（セツゴセン） 哺乳動物の膀胱下にあつて尿道を圍繞するすぢ。

【攝津職】77（セツツシキ） 古の官署の名。奈良朝時代、攝津國の政を掌つた處。大夫・亮・大進・少進・大屬・少屬・史生・使部・直丁等の官を置く。つのつかさ。〔職員令〕攝津職、大夫一人。

【攝摩騰】78（セフマトウ） 後漢の高僧。中天竺の人。別稱は迦葉摩騰。明帝の時、招かれて白馬馱經を持つて至り、鴻臚寺に舍し、遂に寺の字を取つて居の名と爲し、白馬寺を置いてこれに居る。これが中國で僧の居に寺と名づけた初めである。〔梁高僧傳、一〕。

【攝受折伏】79（セフジユシヤクブク） 折伏攝受（5-11890‥191）を見よ。

【攝氏寒暖計】80（セツシカンダンケイ） 瑞典人セルシウス（Celsius）の創製した寒暖計。冰點を零度、沸騰點を百度としたもの。學術上に用ひられ、Cの記號であらはす。

【⿰扌簫】13011 セウ ⿰扌肅（5-12738）の俗字。〔正字通〕⿰扌簫、俗⿰扌肅字。

【攈】13012 クン 攟（5-13023）に同じ。〔字彙補〕攈、與㆑攟同。

【攍】13013 カウ ゲウ 〔篇海〕下巧切 巧 ❶**たわめる。**〔篇海〕攍、撓也。❷攪（5-13041）の譌字。〔康熙字典〕攍、按、攪字之譌。

【⿰扌幽】13014 タン ⿰扌幽（5-12877）に同じ。〔篇海〕⿰扌幽、同㆑⿰扌幽。

【⿰扌薩】13015 サツ 拶（5-12004）に同じ。〔篇海〕⿰扌薩、同㆑拶。

【⿰扌蠃】13016 ラ 〔集韻〕盧臥切 箇 **うつ。**〔集韻〕⿰扌蠃、擊也。

【⿰扌森】13017 ブ 撫（5-12743）の本字。〔正字通〕撫、說文篆作㆑⿰扌森。

【⿰扌夒】13018 ゼウ 擾（5-12920）の本字。〔正字通〕擾、⿰扌夒本字。

十九畫

【⿰扌⿺辶羍】13019 タツ 撻（5-12774）の古字。〔字彙〕⿰扌⿺辶羍、古文撻字。

【⿰扌繭】13020 ケン 挸（5-12104）に同じ。〔集韻〕挸、或作㆑⿰扌繭。

【⿰扌關】13021 ㊀クワン ㊁コン 〔集韻〕姑還切 刪 ㊀**かかはる。**關（11-41470）に通ず。〔集韻〕⿰扌關、手相關付也。〔正字通〕⿰扌關、⿰扌關・關音義並同、加㆑手非。〔太玄經、玄攡〕⿰扌關㆓神明㆒而定㆑摹。〔注〕⿰扌關、關也、若㆓手相關付㆒、故字有㆑手也。㊁**魚の卵。**鯤（12-46247）に通ず。〔禮、內則、濡魚卵醬、注〕卵、讀爲㆑鯤、鯤、魚子、或作㆑⿰扌關也。

【攞】13022

🈩ラ 〔集韻〕朗可切 哿 ㄌㄨㄛˇ luo³
🈔ラ 〔集韻〕良何切 歌

🈩❶**えらぶ**。〔集韻〕攞、揀也。❷**さく**。〔集韻〕攞、裂也。🈔**えらぶ**。或は攎(5－12965)に作る。〔集韻〕攞、揀也、或作レ攎。

【攞攤】1 ラタン 大道みせ。ほしみせ。露店。〔姑妄聽之〕隆福寺鬻二雜珠一者、布二茵于地一、羅二諸小篋於其上一。〔注〕俗謂二之攞攤一。

【攟】13023

🈩クン 〔集韻〕俱運切 問 ㄐㄩㄣˋ chün⁴
🈔クン 〔集韻〕擧蘊切 吻

🈩**ひろふ**。攈(5－12949)に同じ。〔集韻〕攟、說文、拾也、亦作レ攈。🈔**とる**。〔集韻〕攟、博雅、取也。

参考 熟語は捃(5－12125)を見よ。

【攠】13024

🈩ビ ミ 〔集韻〕忙皮切 支
🈔バ マ 〔集韻〕莫臥切 箇
🈪バ マ 〔集韻〕眉波切 歌

🈩🈔❶**鐘の槌をあてる箇處**。〔集韻〕攠、鐘擊處。〔周禮、考工記、鳧氏〕于上之攠、謂二之隧一。〔注〕攠、所レ擊之處、攠、弊也。〔孫詒讓正義〕攠弊與二少儀靡敝字一通、與二總敍刮靡一義亦相近。❷**やぶれる**。〔周禮、考工記、鳧氏〕于上之攠。〔注〕攠、弊也。🈪**とぐ**。摩(5－12613)に同じ。〔集韻〕摩、說文、研也、或作レ攠。

【⿱麾手】13025

キ 麾(12－47899)の本字。〔正字通〕⿱麾手、麾本字。

【攡】13026

🈩リ 〔集韻〕鄰知切 支
🈔チ 〔集韻〕抽知切 支

🈩**はる**。〔集韻〕攡、張也。〔太玄經、玄攡〕玄者、幽二攡萬類一而不レ見レ形者也。🈔**のべる**。摛(5－12587)に同じ。〔集韻〕摛、說文、舒也、揚子雲作レ攡。

【⿰扌⿱炏欠】13027

セフ 〔玉篇〕七葉切 葉

さじ。めしべら。〔玉篇〕⿰扌⿱炏欠、飯臬也。

【⿰扌⿸虍瓜】13028

ラ 〔廣韻〕魯過切 箇

うつ。〔廣韻〕⿰扌⿸虍瓜、擊レ物之名。

【⿰扌藥】13029

ラク 擽(5－12919)の譌字。〔正字通〕⿰扌藥、擽字之譌。

【攢】13030

🈩サン 〔集韻〕祖官切 寒 ㄘㄨㄢˊ ts'uan²
🈔サン 〔集韻〕子罕切 旱 ㄗㄢˇ tsan³
🈪サン 〔集韻〕徂畔切 翰

🈩❶**あつまる**。**あつめる**。通じて鑽(11－41082)に作る。〔正韻〕攢、族聚也。〔漢書、司馬相如傳上〕攢二戾莎一。〔注〕師古曰、攢、聚也。〔張衡、西京賦〕攢二珍寶之玩好一。〔注〕綜曰、攢、聚也。〔班固、西都賦、列レ刃鑽レ鍭、注〕善曰、蒼頡篇曰、攢、聚也、鑽、與レ攢同。❷**葬らないで柩に土をかけること**。〔正字通〕攢、不レ葬掩二其柩一曰レ攢。〔宋史、哲宗孟皇后傳〕擇レ地攢殯。❸**ゑる**。**うがつ**。通じて鑽(11－41082)に作る。〔集韻〕攢、治擇也、通作レ鑽。〔禮、內則〕柤梨曰レ攢レ之。〔注〕攢、治擇之名也。〔釋文〕攢、本又作レ鑽。〔疏〕言三一一攢二看其蟲孔一也。❹現㋑貯へる。㋺支度する。🈔❶**をる**。〔集韻〕攢、折也。❷**あつまるさま**。纂(8－28012)に通ず。〔潘岳、笙賦、歌二棗下之纂纂一、注〕善曰、攢、聚貌、纂、與レ攢古字通。🈪❶**あつまる**。〔集韻〕攢、聚也。❷**うがつ**。〔集韻〕攢、穿也。❸**とく**。〔玉篇〕攢、解也。❹**うつたへる**。〔廣韻〕攢、訟也。❺**百家の聚落**。酇(11－39752)に通ず。〔呂覽、季秋紀、制二百縣一、注〕五家爲レ鄰、五鄰爲レ里、四里爲レ攢。〔說文〕酇、百家爲レ酇。

【攢蔚】1 サンウツ 草木等の群り繁ること。〔水經、沔水注〕深松茂柏、攢二蔚川阜一、莫レ知二墓塋所在一。

【攢瘞】2 サンエイ 埋葬する。〔還魂記、祕議〕麗娘原是他香閨女、十八而亡、就レ此攢瘞。

【攢毆】3 サンオウ 聚つて打つ。袋敲きにする。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕輙爲二攢毆一而折二股肱一。

【攢下】4 ts'uan² hsia⁴ あつめる。貯蓄する。

【攢柯】5 サンカ 密生した枝。〔左思、吳都賦〕攢柯挐莖、重葩殗葉。

【攢號】6 サンガウ 一所によせる。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕酉刻攢レ號時。

【攢盒】7 ts'uan² hê² 幾つかに區分して瓜子乾葡萄などを盛る匣をいふ。〔紅樓夢、四十回〕一個上面放著爐瓶一分攢盒。

【攢起】8 サンキ あつまりたつ。〔夏侯湛、朝華賦〕長莖攢起、柔條列布。

【攢宮】9 サンキウ 天子のなきがらを一時安置する所。殯宮。攢所。あらき。〔宋史、高宗紀七〕以二孟忠厚一、爲二樞密使一、充二攢宮總護使一。

【攢火】10 サンクワ のろしの類。〔墨子、備城門〕城上爲二攢火一。

【攢花】11 サンクワ ❶花をあつめる。〔白居易、裴常侍以下題二薔薇架一十八韻上見レ示云云詩〕托レ質依二高架一、攢レ花對二小堂一。❷ts'uan² hua¹ 花模樣を繡りする。

【攢勁】12 tsan³ chin⁴ 全力を注ぐ。努力する。

【攢擊】13 サンゲキ 一ところに向つて砲擊を集中する。〔依田學海、日本海之戰〕攢二擊敵艦左右先鋒一。

【攢構】14 サンコウ あつめ造る。〔徐彥伯、南郊賦〕周廬攢構以戢脊、列轟抗莖而翩綿。

【攢犀】15 サンサイ 朱・黑・黃三色の漆を以て人物其の他を彫刻し、其の間處を鑽つて漆の層を現はしたもの。又、西皮・犀皮ともいふ。宋元人の作る所は殊に佳い。

【攢槍】16 サンサウ やりぶすま。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五〕其長子忠脩死二於攢槍下一。

【攢造】17 サンザウ 各帳簿を合冊すること。〔福惠全書、編審部、攢二造審冊一〕攢二造審冊一、即將二逐日審過各里甲紅單一、照二造冊稿一、分二立舊管・新收・開除・實在四柱一。〔六部成語、戶部、攢造、注解〕各冊攢二集一處一、而造二爲總冊一也。

【攢攢】18 サンサン あつまるさま。むらがつてゐるさま。〔鮑照、紹古辭〕攢攢頸秋木、昭昭淨冬暉。

【攢集】19 サンシフ あつめる。〔六部成語注解〕各冊攢二集一處一、而造二爲總冊一也。

【攢寫】20 サンシヤ 帳簿へ列記淸書すること。〔明律、吏律、職制、濫設官吏〕若官府稅糧由帖、戶口籍冊、雇募寫者勿レ論。

【攢珠】21 ts'uan² chu¹ 眞珠をつなぐ。

【攢聚】22 サンシユウ むらがりあつまる。〔王延壽、王孫賦〕又咨噉而攢聚。〔謝靈運、維摩經十譬贊、浮雲〕俄已就飛散、豈復得二攢聚一。

【攢蹙】23 サンシユク あつまりちぢまる。〔柳宗元、始得二西山一宴游記〕尺寸千里、攢蹙累積、莫レ得二遯隱一。

【攢所】24 サンシヨ 攢宮(9)に同じ。

【攢竦】25 サンシヨウ 山嶽などの連續して聳えること。攢聳。〔賴山陽、耶馬溪圖卷記〕群峰夾レ水、攢竦如二春筍矗出一。

【攢聳】26 サンシヨウ 山嶽などの連續して聳えること。

【攢心】27 サンシン 心にあつまる。〔先哲叢談、源君美〕毎一念至百感攢心。

【攢垂】28 サンスイ あつまり垂れる。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏中〕我兵力拒、刀槍攢垂。

【攢萃】29 サンスイ あつまる。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕翔驟之所往還、游泳之所攢萃。

【攢生】30 サンセイ あつまりはえる。〔韓愈、和侯協律詠笋詩〕散布忽無垠、攢生猶有隙。

【攢錢】31 ts'uan^2 ch'ien^2 ㊀金を寄附する。金を集める。㊁ tsan^3 ch'ien^2 金を貯へる。儲蓄する。

【攢素】32 サンソ 厚い霜。〔顏延之、應詔觀北湖田收詩〕攢素既森藹、積翠亦蔥芊。〔注〕善曰、廣雅曰、攢、聚也、銑曰、言木葉既落、霜封其枝、故云攢素。

【攢湊】33 ts'uan^2 ts'ou^4 あつめる。

【攢叢】34 サンソウ あつまりむらがる。叢攢。攢聚。〔江掩、栟櫚頌〕攢叢石逕、森蓯山道。

【攢仄】35 サンソク 群りあつまるさま。又、聲の重疊するさま。〔馬融、長笛賦〕蹜踧攢仄。〔注〕善曰、攢仄、攢聚貌。〔嵆康、琴賦〕或參譚繁促、複疊攢仄、從橫駱驛、奔遁相逼。〔注〕良曰、皆聲繁急重疊、從橫相連貌。

【攢簇】36 サンソウ 群りあつまる。〔傳燈錄〕有僧問先曹山承古人有言、吾有大病、非世所醫、未審喚作什麼病、曹云、攢簇不得底病。

【攢打】37 サンダ あつまつてうつ。ふくろだたき。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕遇馬夫緊行攢打。

【攢隊】38 サンタイ 士卒が集つて隊伍を爲すこと。〔遼史、禮志六〕閤門攢隊前引。

【攢擔】39 サンタン まとめて擔ふ。〔青山佩弦齋、雜著、赤穗義士〕攢擔弓槍。

【攢蹄】40 サンテイ 馬が疾走することにいふ。馬が疾走するとき、蹄が相聚るやうに見えるからいふ。〔韓愈、汴泗交流贈張僕射詩〕分曹決勝約前定、百馬攢蹄近相映。〔蘇軾、韓幹馬十四匹詩〕二馬竝驅攢八蹄、二馬宛頸騣尾齊。

【攢典】41 サンテン ㊀帳簿係の役人。〔元曲、陳州糶米〕則這攢典哥哥休強挺、你可敢教我親自秤。〔明律、戸律、錢糧互相覺察、纂注〕攢欄、稅務之攢典欄頭也。㊁明・清の時代、首領官・佐貳官・雜職官の總稱。吏胥の一。〔淸會典、吏部〕外吏之別四、云云、四曰攢典。〔注〕攢典、首領官・佐貳官・雜職官之吏、皆曰攢典。〔清國行政汎論、文官仕途種類、吏胥之特別遷秩〕屬州縣佐貳官雜職官者曰攢典。

【攢點】42 サンテン 續けて鐘を打つ。おほく鐘をうつ。〔福惠全書、蒞任部、發各告示〕要按定時刻、分明、直至黎明攢點。

【攢動】43 ts'uan^2 tung^4 群集が人波を打つ。

【攢念】44 サンネン 心中に集る種々の感念。〔謝靈運、登臨海嶠初發疆中作與從弟惠連云云詩〕攢念攻別心、旦發青谿陰。

【攢眉】45 サンビ まゆをよせる。顏をしかめる。憂愁のさま。顰蹙。〔蔡琰、胡笳十八拍〕攢眉向月兮撫雅琴。〔周續之、廬山記〕遠師勉令陶潛入蓮社、淵明攢眉而去。

【攢墓】46 ts'uan^2 mu^4 改葬して墓を築き上げる。

【攢峯】47 サンボウ 重なつてゐるみね。疊峰。〔孔稚珪、北山移文〕列壑爭譏、攢峯竦誚。〔盧仝、喜逢鄭三遊山詩〕相逢之處花茸茸、石壁攢峯千萬重。

【攢鋒】48 サンボウ ほこさきをあつめる。〔顏延之、陽給事誄〕攢鋒成林、按鞍爲園。〔注〕翰曰、攢、聚也、鋒、謂劍戟。

【攢木】49 サンボク 群り繁つてゐる木。〔劉希夷、謁漢世祖廟詩〕攢木承危柱、疎蘿挂朽椽。

【攢羅】50 サンラ あつまりならぶ。〔司馬相如、大人賦〕攢羅列聚。〔王延壽、魯靈光殿賦〕芝栭攢羅以戢孴。〔注〕善曰、蒼頡篇曰、攢、聚也。

【攢攔】51 サンラン 攢攔庫子を見よ。

〔攢攔庫子〕52 サンランコシ 攢は帳簿係の役人。攔は雜人を監督する者。庫子は倉庫の番人。〔明律、戸律、錢糧互相覺察〕凡倉庫務場官吏、攢攔庫子斗級皆得互相覺。

【攢巒】53 サンラン 聚り重つた峯。群山。〔柳宗元、懲咎賦〕攢巒奔以紆委兮。

【攢立】54 サンリツ むらがり立つ。〔司馬相如、上林賦〕攢立叢倚、連卷欐佹。〔注〕善曰、蒼頡篇曰、攢、聚也。〔張衡、南都賦〕攢立叢駢。

【攢列】55 サンレツ 集まりつらなる。〔夏侯湛、石榴賦〕綠采未披、照灼攢列。

【⿰扌䜌】13031

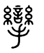
ラン 〔集韻〕盧丸切 寒

㊀あつまる。〔集韻〕⿰扌䜌、聚也。㊁えらぶ。〔集韻〕⿰扌䜌、擇也。

【攣】13032

㊀レン 〔集韻〕閭員切 ㄌㄩㄢˊ luan^2 先

㊁レン 〔集韻〕龍眷切 霰


小篆

㊀㊀かける。かかる。つながる。〔說文〕攣、係也、从手䜌聲。〔易、中孚〕九五、有孚攣如。〔釋文〕攣、連也、引也。〔疏〕攣如者、相牽繫不絕之名也。㊁かかはる。なづむ。〔韻會〕攣、又拘攣也。〔後漢書、曹褒傳〕帝知群寮拘攣。㊂つる。ひきつる。〔素問、皮部論〕寒多則筋攣骨痛。〔注〕攣、急也。㊃或は⿱䜌乚(2-2489)・聯(9-29187)に作る。〔集韻〕攣、或作⿱䜌乚・聯。㊁㊀かがまる。手足がまがる。〔集韻〕攣、手足曲病。〔素問、疏五過論〕痿躄爲攣。〔史記、蔡澤傳〕魋顏蹙齃膝攣。〔注〕集解曰、攣、兩膝曲也。〔後漢書、揚彪傳〕稱腳攣不復行、積十年。㊁こひしたふ。孌(3-6912)・戀(4-11504)に通ず。〔說文通訓定聲〕攣、叚借爲孌。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕上所以攣攣顧念我者。〔注〕師古曰、攣、讀曰戀。

【攣踠】1 レンエン 手足の曲つてのびない病。〔柳宗元、捕蛇者說〕永州之野產異蛇、云云、得而腊之以爲餌、可以已大風攣踠瘻癘、去死肌、殺三蟲。

【攣曲】2 レンキョク まがつてのびないこと。〔史記、蔡澤傳、膝攣、注〕索隱曰、膝攣、謂膝叉攣曲也。

【攣急】3 レンキフ ひきつる。〔素問、皮部論、筋攣骨痛、注〕攣、急也。

【攣胊】4 レンク まがる。かがまる。滿足でない喩。〔鹽鐵論、非鞅〕此所謂攣胊之知、而愚人之計也。〔注〕攣、手足曲也、胊、脡曲也。

【攣拳】5 レンケン まがつてのびないこと。かがむ。〔釋名、釋宮室〕欒、攣也、其體上曲攣拳然也。〔蘇軾、淨因院畫記〕如是而死、如是而攣拳瘠蹙。

【攣拘】6 レンコウ つなぎしばられる。束縛される。拘攣。攣拘之語を見よ。〔韓愈、送文暢師北遊詩〕攣拘屈吾眞、戒轄思遠發。

〔攣拘之語〕7 レンコウノゴ 束縛された語。淺近で遠大の計の無いこと。〔史記、鄒陽傳〕何則以其能越攣拘之語、馳域外之議、獨觀於昭曠之道也。

【攣索】8 レンサク つなぐ繩。解脫攣索を見よ。

〔解脫攣索〕9 レンサクヲゲダツス 羈絆を脫する。〔韓愈、元和聖德詩〕解脫攣索、夾以砧斧、婉婉弱子、赤立傴僂。

【攣耳】10 レンジ ひきつつた耳。〔宋玉、登徒子好色賦序〕其妻蓬頭攣耳。

【攣弱】11 レンジャク かがまつて弱いこと。〔唐書、后妃下、肅宗吳皇后傳〕皇后生代宗、爲嫡皇孫、生之三日、帝臨澡之、孫體攣弱、負姆嫌陋、更取它宮兒以進、帝視之不樂。

【攣縮】12 レンシュク ひきつりちぢまること。〔魏志、倉慈傳、注〕攣縮如羊腸。

【攣如】13 レンジョ 引きつらなつて絕えない。〔易、中孚〕九五、有孚攣如、无咎。〔疏〕攣如者、相牽繫不絕之名也。

【攣癈】14 レンパイ 手足のひきつれるやまひ。〔南史、孝義下、司馬延義傳〕至都遂致攣癈、數年乃愈。

【攣躄】15 レンペキ 手足がまがつて伸びない。ゐざり。〔陸游、養生詩〕攣躄豈不苦、害猶在四支。

【攣領】16 レンリヤウ つなぎとめた襟。粗服をいふ。曲領。〔晏子、諫、下〕古者嘗有紩衣攣領、而王天下者。

【攣攣】17 レンレン 戀ひしたふさま。思ひこがれるさま。睠睠。戀戀。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕夫人曰、上所以攣攣顧念我者、乃以平生容貌也。〔注〕師古曰、攣、音力全反、又讀曰戀。

【攤】13033

㊀タン〔集韻〕他干切 ㄊㄢ t'an¹ 寒
㊁ダン ナン〔集韻〕乃旦切 翰
㊂ダン ナン〔集韻〕乃坦切 旱
㊃ナダ

小篆

㊀❶ひらく。撳（5―12907）・攣（5―13034）に同じ。〔說文新附〕攤、開也、从レ手難聲。〔說文新附考〕按、世說新語、王戎攤二書滿一レ牀、始見二於此一、是漢後俗語。〔集韻〕撳、手布也、或从レ難、亦書作レ攣。❷ゆるやか。〔廣韻〕攤、亦緩也。❸わりあてる。〔字海〕攤、攤派也。❹しく。ひろげる。〔正字通〕攤、布也、杜甫詩、白晝攤レ錢高浪中。❺現露店。㊁㊂おさへる。〔廣雅、釋詁三〕攤、按也。㊃儺（1―1317）に通ず。〔說文新附考〕攤、周禮占夢、始難歐レ疫、鄭注、難、謂三執レ兵以有二難卻一也、故書、難或爲レ儺、杜子春、儺讀爲二難問之難一、据レ儺訓レ難、卻、與二抑按一義有レ合、故疑、攤爲二儺之別體一。

【攤捐】1 t'an¹ chüan¹ 各人に割りあてて義捐する。

【攤開】2 t'an¹ k'ai¹ ひろげる。

【攤戲】3 タンギ 攤錢（14）の❶に同じ。〔南史、梁武帝諸子、昭明太子傳〕又見二後閤小兒攤戲一。

【攤掛】4 タンクワイ ひろげかける。〔福惠全書、郵政部、立局〕宜二另厦攤掛一。

【攤簧】5 タンクワウ 韻語を用ひて故事・時事を編說した歌曲をいふ。蘇州・上海地方に盛に行はれた。又、灘簧に作る。蘇灘に前後の別があり、前灘は崑曲から脫却したものとし、後灘は時事を重唱する新曲、或は前灘から脫却して出たものといふ。蓋し、咸豐の頃より始まる。〔揚州畫舫錄〕歌以二清唱一爲レ上、十番鼓次レ之、若二鑼鼓・馬上撞・下曲・攤簧・對白・評話之類一、又皆濟勝之具也。

【攤款】6 t'an¹ k'uan³ 割當金。

【攤還】7 t'an¹ huan² 割賦で償還する。

【攤工】8 t'an¹ kung¹ 工事を分擔する。分擔した工事。

【攤扣】9 ダンコウ 外官の俸給を削減すること。〔周禮政要、重祿〕近年度支缺乏、京官有二減折一、外官有二攤扣一。

【攤控】10 ダンコウ 地方官の俸給をへらすこと。減折（7―17759・・41）を見よ。〔淸國行政法汎論、官吏權利、俸給〕淸國法上削二減官吏俸給一、其對二京官一、謂二之減折一、其對二外官一、謂二之攤控一。

【攤子】11 t'an¹ tzŭ 露店。ほしみせ。

【攤兒】12 t'an¹ êrh 攤子に同じ。

【攤書】13 タンシヨ 書冊を開きならべる。〔杜甫、示二宗武一詩〕覓レ句新知レ律、攤レ書解二滿床一。〔邵寶、集注〕嵆紹新解、覓レ句稍知二音律一、王渾阿戎年小漸解二滿レ牀攤レ書、時問二難字一可レ喜。

【攤錢】14 タンセン ❶賭博の名。器中に納れた錢を適宜に取出し、四枚づつ一組として分ち、餘の奇數が一、或は二、或は三、若しくは四のときに、初め定めた數と照らし合はせ、符合したものを勝とする。攤賭。〔杜甫、夔州歌〕長年三老長歌裏、白晝攤レ錢高浪中。〔資暇錄、戲錢〕錢戲有下每以二四文一爲二一列一者上、卽史傳所レ云意錢是也、俗謂二之攤錢一、亦稱二攤賭一。❷ダセン t'an¹ ch'ien² 割り前を出す。❸あないち・ぜにうち等の遊戲。

【攤擔】15 t'an¹ tan⁴ 露店商と行商人。

【攤場】16 t'an¹ ch'ang³ 賭場。ばくち場。攤場錢物を見よ。

〔攤場錢物〕17 タンヂヤウセンブツ 賭博に供する錢。〔明律、刑律、雜犯、賭博〕攤場錢物入レ官。

【攤塗】18 タント 蟹の一。潮が退けば泥中に居るもの。〔正字通〕蟹、有下隨二潮退一散中行泥中上、曰二攤塗一。

【攤賭】19 タント 攤錢の❶に同じ。〔艇齋詩話〕老杜、白晝攤レ錢高浪中、攤錢、今攤賭也、見二後漢梁冀傳一。

【攤凍】20 t'an¹ tung⁴ 擴げて凍らせる。

【攤認】21 t'an¹ jen⁴ 割當てた額を承認する。

【攤派】22 ハタン 均分する。わりつける。〔六部成語、戶部、攤派、注解〕攤乃均分之意、應レ集捐若干、均二分其數於衆一、派レ令交出也。〔福惠全書、庶政部、嚴緝二私販一〕若行二分發一、鄰二于攤派一。

【攤賠】23 t'an¹ p'ei² 割賦で賠償する。

【攤飯】24 タンハン 食後に少しく休み睡ること。飯後の一睡。午睡。〔詩人玉屑、中興諸賢、陸放翁〕東坡謂二晨飮一爲二澆書一、李黃門謂二午睡一爲二攤飯一。〔陸游、春晩村居雜賦詩〕澆書滿引浮レ蛆甕、攤飯橫眠夢レ蝶床。〔何氏語林、五、言語〕東坡謂二晨飯一爲二澆書、李黃門謂二午睡一爲二攤飯一。

【攤付】25 t'an¹ fu⁴ 割賦。

【攤分】26 t'an¹ fen¹ 分つ。分配する。

【攤蒱】27 タンホ 賭博の語。四の數をいふ。〔容齋五筆、俗語有レ出〕今人意錢賭博、皆以レ四數レ之、謂二之攤一、案、廣韻攤字下云、攤蒱、四數也。

【攤冷】28 タンレイ おしひろげてさます。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕以二胡蔴一升一炒黑、攤冷爲レ末。

【攤黃菜】29 t'an¹ huang² ts'ai⁴ 料理の名。オムレツ。

【攤洒銀】30 タンサイギン 各地から徵集する稅銀。〔六部成語、戶部、攤洒銀、注解〕攤、開也、洒、分也、將二應レ徵之款一、分二開於各處一而徵レ之。

【攤詩閣】31 タンシカク 淸、周洽（2―3441・・72）の室名。

【攤沙起竈】32 タンサキサウ 海濱の砂を平にひろげて鹽を煎る爐竈を築くこと。海濱で鹽を製すること。〔六部成語注解〕海濱沙地、攤使二平正一、築二起爐竈一、以煎レ鹽。

【攣】13034

タン

攤（5―13033）に同じ。〔集韻〕攤、亦書作レ攣。

【擹】13035

タツ タチ 〔集韻〕他達切 曷

うつ。〔集韻〕擹、博雅、擊也。

【攦】13036

㊀レイ ライ〔集韻〕郎計切 霽
㊁シ〔集韻〕所綺切 紙
㊂リ〔集韻〕輦尒切 紙
㊃レツ レチ〔集韻〕力結切 屑
㊄サイ シヤ〔集韻〕所賣切 卦
㊅レキ リヤク〔集韻〕狼狄切 錫

㊀㊁㊂をる。さく。〔集韻〕攦、折也。〔莊子、胠篋〕攦二工倕之指一、而天下始人有二其巧一矣。〔釋文〕攦、李云、折也、崔云、撕レ之也。㊃ねぢる。捩（5―12192）に同じ。〔集韻〕捩、拗也、或作レ攦。㊄はらふ。〔集韻〕攦、掃也。㊅うつ。擽（5―12919）に同じ。〔集韻〕擽、博雅、擊也、或从レ麗。

二十畫

【擟】13037

デフ

攝（5―13044）の別字。〔康熙字典〕擟、按、擟字別體。

【攥】13038

サツ サチ〔集韻〕宗括切 ㄗㄨㄢ tsuan⁴ 曷

とる。〔集韻〕攥、把也。

【攨】13039

ワ

搲（5―12516）に同じ。〔集韻〕搲、或作レ攨。

【攩】 13040

㊀タウ 〔集韻〕底朗切 ㄉㄤˇ tang^3 養
㊁クヮウ ワウ 〔集韻〕戸廣切 養
㊂クヮウ ワウ 〔集韻〕胡曠切 漾
㊃シャウ サウ 〔集韻〕止兩切 養

（小篆）㊀❶とも。むれ。黨(12－48132)・儻(1－1323)に同じ。〔說文〕攩、朋羣也、从㆑手黨聲。〔段注〕此鄉黨・黨與本字、俗用㆑黨者、叚借字也。〔說文通訓定聲〕攩、字亦作㆑儻。〔集韻〕攩、通作㆑黨。❷たたく。うつ。攩捝。〔廣韻〕攩、攩捝、槌打。〔集韻〕攩、攩捝、擊也。❸さへぎりとどめる。〔正字通〕攩、俗用爲㆓抵攩字㆒、遮遏也。㊁❶たたく。うつ。〔廣雅、釋詁三〕攩、擊也。〔疏證〕方言、沅涌澆幽之語、相椎搏曰㆑攩、郭璞注云、今江東人亦名㆑椎爲㆑攩。❷推す。〔方言、十〕㧙・抌、推也、沅涌澆幽之語、或曰㆑攩。〔集韻〕攩、一曰、推也。❸たたく。うつ。〔廣韻〕攩、搥打。〔列子、黃帝〕攩㧙挨抌。〔釋文〕攩、搥打也。㊂たたく。うつ。或は擴(5－12895)に作る。〔廣韻〕攩、廣雅云、槌打也。〔集韻〕攩、打也、或作㆑擴。㊃推す。〔集韻〕攩、推也。

【攩駕】1 tang^3 chia^4 人の來訪に、差支へがあって面會しないこと。

【攩板】2 tang^2 pan^3 船倉の隔障。

【攩㧙】3（クヮウヒツ） あなどりたはむれてうちたたく。〔列子、黃帝〕攩㧙挨抌。〔口義〕攩㧙挨抌四字、皆戲侮而推㆓打之㆒也。

【攩網】4（モタ） さであみ。たま。周圍に竹又は木を添へて造った小形のすくひあみ。

【攩黃兒】5 tang^3 huang^2 êrh 保護する。

【攪】 13041

㊀カウ ケウ 〔集韻〕吉巧切 ㄐㄧㄠˇ chiao^3 巧
㊁カウ ゲウ 〔集韻〕下巧切 ㄍㄠˇ kao^3 巧
慣 カク

（小篆）㊀❶みだす。かきみだす。かきまはす。〔說文〕攪、亂也、从㆑手覺聲、詩曰、祇攪㆓我心㆒。〔增韻〕攪、撓也。〔詩、小雅、何人斯〕祇攪㆓我心㆒。〔傳〕攪、亂也。〔夢粱錄、育子〕尊長以㆓金銀釵㆒攪㆑水、名曰㆓攪盆釵㆒。❷うごかす。ゆする。〔廣韻〕攪、手動。❸水の音。攪搜(9)を見よ。❹或は捁(5－12123)に作る。〔集韻〕攪、或作㆑捁。〔後漢書、馬融傳〕捁㆓羽羣㆒、〔注〕捁、卽古文攪字。❺現邪魔する。騷がす。㊁みだす。⿱學手(5－12953)に同じ。〔集韻〕⿱學手、亂也、或作㆑攪。

【攪勻】1（カクイン） 平均にかきまぜる。〔本草、接骨木〕附方、接骨木半兩、乳香半錢、芍藥・當歸・芎藭・自然銅各一兩爲㆑末、化㆓黃蠟四兩㆒、投㆑藥攪勻、衆手丸、如㆓芡子大㆒。

【攪家】2 chiao^3 chia^1 家庭をかきみだす。

【攪攪】3（カクカク） いりみだれるさま。〔韓愈、寄㆓崔二十六立之㆒詩〕攪攪爭附託、無㆔人角㆓雄雌㆒。

【攪合】4 chiao^3 hê^2 かきまはす。かきまぜる。

【攪局】5 chiao^3 chü^2 席末を汚す。邪魔をする。

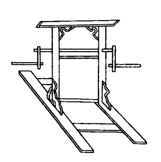
【攪聒】6（カククヮツ） やかましい。〔蘇軾、西山戲題㆓武昌王居士㆒詩〕荊笄供膽愧㆓攪聒㆒、乾鍋更戛甘㆓瓜羹㆒。

【攪混】7 chiao^3 huen^4 混亂をひき起す。

【攪唆】8 chiao^3 suo^1 人を唆かして悶著を起させる。

【攪搜】9（カクサウ） ❶みだれる。〔集韻〕搜、攪搜、亂也。❷水聲の形容。〔王褒、洞簫賦〕攪搜澩捎、逍遙踊躍。〔注〕善曰、攪搜・澩捎、水聲也。

【攪車】10（カクシャ） 綿くり器械。〔戴良、對雪聯句〕疊㆑逕如㆓拖縞㆒、旋㆑空若㆓攪車㆒。


木綿攪車（三才圖會）

【攪水】11（カクスイ） 水をかきまはす。攪盆(19)を見よ。〔蘇軾、畫魚歌〕豈知白梃鬧如㆑雨、攪㆑水覓㆑魚嗟已踈。

【攪擾】12（カクゼウ） ❶かきみだす。心がみだれる。〔白居易、分司詩〕錢塘五馬留㆓三匹㆒、還擬騎遊㆓攪擾春㆒。〔清會典事例、總理各國事務衙門、交涉〕不㆑得㆘徑㆓上公堂㆒、攪㆗擾公事㆖。❷chiao^2 jao^3 人の馳走になり、又は人の家に遊ぶこと。

【攪撓】13（カクダウ） かきみだす。〔元稹、競渡詩〕羣動皆攪撓、化作㆓流渾渾㆒。

【攪轉】14（カクテン） かきまはす。

【攪鬧】15 chiao^3 nao^4 騷がす。

【攪動】16 chiao^3 tung^4 攪亂する。騷がす。

【攪破】17（カクハ） かきみだす。

【攪拌】18（カクハン） かきまはす。かきまぜる。

【攪盆】19（カクボン） 攪盆釵に同じ。〔東京夢華錄、五、育子〕以㆓釵子㆒攪㆑水、謂㆓之攪盆㆒。

【攪盆釵】20（カクボンサイ） 生後一箇月の洗兒會に、香湯を銀盆内に煎じ、洗兒果・綵錢等を入れ、尊長が金銀釵で水中をかきまはすことをいふ。杭州地方の風習。〔夢粱錄、育子〕至㆓滿月㆒、則外家以㆓綵畫錢或金銀錢雜果㆒、及以㆓綵段珠翠顖角兒食物等㆒、送㆓往其家㆒、大展㆓洗兒會㆒、親朋俱集、煎㆓香湯於銀盆內㆒、下㆓洗兒果綵錢等㆒、仍用㆓色綵㆒繞㆑盆、謂㆓之圍盆紅㆒、尊長以㆓金銀釵㆒攪㆑水、名曰㆓攪盆釵㆒、親賓亦以㆓金錢銀釵㆒撒㆓于盆中㆒、謂㆓之添盆㆒。

【攪亂】21（カクラン） かきみだす。〔郝經、三汊北城月榭翫㆑月醉歌詩〕悄然清唱多㆓怨曲㆒、攪㆓亂羈思㆒爲停㆑觴㆒。

【攪和】22（カクワ） かきまはしてまぜる。〔方干、袁明府以㆓家醞㆒寄㆑余余以㆓山梅㆒答㆑贈云云詩〕九度攪和誰用㆑法、四邊窺摘自攀㆑枝。

【攪一天】23 chiao^3 i^4 t'ien^1 一日をごまかす。意義のない生活にいふ。

【攪是攪非】24 chiao^3 shih^4 chiao^3 fei^1 かれこれと議論する。

【⿰扌獻】 13042

㊀ガツ ガチ 〔集韻〕牙葛切 曷
㊁サツ ザチ 〔集韻〕才達切 曷

㊀㊁うつ。〔廣雅、釋詁三〕⿰扌獻、擊也。

【攫】 13043

㊀キャク クヮク 〔集韻〕厥縛切 ㄐㄩㄝˊ chüeh^2 藥
㊁ケキ キャク 〔集韻〕倶碧切 陌
㊂ワク 〔集韻〕屋虢切 陌
㊃キョク コク 〔集韻〕拘玉切 沃
慣 クヮク

（小篆）㊀❶つかむ。つかみとる。つまむ。〔說文〕攫、扟也、从㆑手矍聲。〔一切經音義、二十五〕說文、攫、爪持也、通俗文、手把曰㆑攫。〔禮、儒行〕鷙蟲攫搏。〔疏〕以㆑脚取㆑之、謂㆓之攫㆒。〔史記、田敬仲完世家〕攫㆑之深。〔注〕集解曰、攫、以㆑爪持也。〔淮南子、覽冥訓〕鷙鳥攫㆓老弱㆒。〔注〕攫、撮也。〔漢書、循吏、黃霸傳〕烏攫㆓其肉㆒。〔注〕師古曰、攫、搏㆓持之㆒也。❷うつ。うちとる。〔集韻〕攫、搏也。〔增韻〕攫、撲取也。❸とる。〔莊子、讓王〕左手攫㆑之、則右手廢。〔釋文〕攫、倶碧・倶縛二反、李云、取也。❹草の名。〔爾雅、釋草〕攫、烏階。〔注〕卽烏把也。㊁❶うつ。玃(7－20807)に同じ。〔集韻〕攫、搏也、或从㆑犬。❷とる。㊀の❸を見よ。㊂とる。〔集韻〕攫、取也。㊃つかむ。擢(5－13007)に同じ。〔集韻〕擢、說文、

爪持也、或作レ攫。

【攫援】1 クワクエン とる。ひろふ。〔淮南子、脩務訓〕攫援摽拂。〔注〕攫援、掇也。

【攫客】2 クワクカク すり。掏摸。〔談撰〕遇ニ一攫客一。

【攫金】3 クワクキン 金をつかみかすめる。〔列子、說符〕因攫ニ其金一而去。

【攫擊】4 クワクゲキ うちとる。〔新序、雜事四〕攫擊之物、貪叨之類。

【攫釵】5 クワクサイ かんざしをつかむ。〔宋史、李及傳〕有ニ禁卒一、白晝攫ニ婦人金釵於市一。

【攫搔】6 クワクサウ うつ。をどりなげうつ。攫抓。攫搔。〔集韻〕搔、攫搔、搏也、或作レ搔。〔莊子、徐無鬼〕委蛇攫搔、見ニ巧乎王一。〔疏〕攫搔、騰擲也。〔釋文〕搔、本又作レ搔。

【攫採】7 クワクサツ うつ。手でうつ。〔集韻〕採、攫採、搏也。

【攫撮】8 クワクサツ つかむ。〔卞彬、蚤蝨賦序〕探揣攫撮、日不レ替レ手。

【攫⿰糹殺】9 クワクサツ つかんでころす。⿰糹殺は殺に同じ。〔周禮、考工記、梓人〕凡攫⿰糹殺援簭之類、必深ニ其爪一、出ニ其目一、作ニ其鱗之而一。〔疏〕攫⿰糹殺者、攫著則殺レ之。

【攫攘】10 クワクジヤウ こぶしを握り袂をからげる。腕組をする。うでまくりする。〔蘇軾、書ニ朱象先畫後一〕雖レ余亦得三攫ニ攘其傍一也。

【攫取】11 クワクシユ つかみとる。〔福惠全書、刑名部、監禁〕婪官攫ニ取家貲一。〔日本政記、一條天皇論注〕火ニ其屋一、欲下乘レ擾攫中取之上。

【攫噬】12 クワクゼイ つかみかむ。〔戰國、齊策〕貂勃曰、跖之狗吠レ堯、非ニ貴レ跖而賤一レ堯也、狗固吠レ非ニ其主一也、且今使ニ公孫子賢、而徐子不肖一、然而使下公孫子與ニ徐子一鬪上、徐子之狗、猶將下攫ニ公孫子之腓一而噬上之也。〔淮南子、覽冥訓〕當ニ此之時一、禽獸蝮蛇、無レ不下匿ニ其爪牙一、藏中其螫毒上、無レ有ニ攫噬之心一。

【攫醳】13 クワクセキ つまむこととはなすこと。琴をかなでるさま。〔史記、田敬仲完世家〕攫レ之深、醳レ之愉者、政令也。〔注〕集解曰、徐廣曰、攫、以レ爪持也、音己足反、索隱曰、醳、音釋、與ニ下文舍字一並同。〔蘇軾、聽ニ僧昭素琴一詩〕至和無ニ攫醳一、至平無ニ按抑一。

【攫竊】14 クワクセツ つかみぬすむこと。

【攫拏】15 クワクダ つかみとる。又、相搏つこと。爭ひ奪ふ。〔王延壽、魯靈光殿賦〕奔虎攫拏以梁倚。〔注〕善曰、攫拏、相搏持也。〔柳宗元、同ニ劉二十八院長述レ舊言レ懷感レ時書レ事云云五十二韻之作一云云詩〕屋鼠從ニ穿穴一、林狙任ニ攫拏一。

【攫盜】16 クワクタウ つかみぬすむ。〔韓詩外傳、四〕知卽攫盜而漸。〔荀子、不苟〕知則攫盜而漸。

【攫掇】17 クワクタツ 黃帝時代の人。捷疾を以て著はる。〔淮南子、脩務訓〕離朱之明、攫掇之捷。〔注〕攫掇、亦黃帝時捷疾者也。

【攫奪】18 クワクダツ つかみ奪ふ。占める。

【攫挐】19 クワクチヨ みだりにつかみ執へて引合ふ。〔漢書、揚雄傳下〕攫挐者亡、默默者存。〔注〕師古曰、攫挐、妄有ニ搏執牽引一也、挐、音女居反。

【攫鳥】20 クワクテウ 他の動物をつかみ殺す猛き鳥。〔老子、五十五〕猛獸不レ據、攫鳥不レ搏。〔道德指歸論、含德之厚篇〕故能被レ道含レ德、與ニ天地一同、則蜂蠆蟲蛇、無レ心レ施ニ其毒螫一、攫鳥猛獸、無レ意レ加ニ其攫搏一。

【攫徒】21 chüeh^{2} t'u^{2} すり。

【攫肉】22 クワクニク 肉をつかむ。〔漢書、循吏、黃霸傳〕吏出不三敢舍ニ郵亭一、食ニ于道旁一、烏攫ニ其肉一。〔禽經〕朱鳶不レ攫レ肉、朱鷺不レ呑レ鯉。

【攫搏】23 クワクハク つかみうつ。攫は脚で取ること。搏は翼で擊つこと。〔禮、儒行〕鷙蟲攫搏、不レ程ニ勇者一。〔疏〕以レ脚取レ之、謂ニ之攫一、以レ翼擊レ之、謂ニ之搏一。〔淮南子、說山訓〕熊羆之動以ニ攫搏一。〔孔子家語、儒行解〕鷙蟲攫搏、不レ程ニ其勇一。

【攫利】24 クワクリ 利益をつかむ。〔福惠全書、蒞任部、謹關防〕未レ有下不ニ通同攫レ利者上。

【攫戾】25 クワクレイ 無道の者をうつ。勇壯な人にいふ。〔張衡、南都賦〕攫レ戾執レ猛、破レ堅摧レ剛。〔注〕翰曰、攫レ戾執レ猛、壯勇之人也。

【攫裂】26 クワクレツ つかんで裂くこと。〔南摩羽峯、奉レ送三松平恒雄君赴ニ任英國一序〕攫裂呑噬。

【攫蟲草】27 クワクチユウサウ 草の名。葉のはたらきにより、昆蟲などを捕へて自體の養分とする草。うつぼかづらの類。

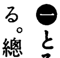
【攡】13044 デフ ネフ 〔集韻〕諾叶切 葉。

ひねる。或は捻(5－12590)に作る。〔集韻〕攡、攝攡、中制、或作レ捻。

【攦】13045 ジヤウ 攘(5－12989)に同じ。〔篇海〕攦、同レ攘。

二十一畫

【攬】13046 ラン 〔集韻〕魯敢切 感 ㄌㄢˇ lan^{3}


小篆

❶とる。㋑すべとる。つかさどる。總括する。もと擥(5－12859)に作る。〔說文〕擥、撮持也、从レ手監聲。〔段注〕謂ニ總撮而持レ之也。〔中華大字典〕攬、本作レ擥。〔漢書、揚雄傳上〕方擥ニ道德之精剛一兮。〔注〕師古曰、擥、總也。㋺もつ。手にとる。にぎる。〔釋名、釋姿容〕攬、斂也、斂ニ置手中一也。〔廣雅、釋詁三〕攬、持也。〔楚辭、離騷〕擥ニ木根一以結レ茝兮。〔注〕擥、持也。㋩つみとる。つまむ。〔楚辭、離騷〕夕擥ニ洲之宿莽一。〔注〕擥、采也。❷或は擥(5－12860)に作る。〔集韻〕擥、或从レ覽、从レ監。〔漢書、五行志上〕是以擥ニ仲舒一、別ニ向歆一。〔注〕師古曰、擥字、與レ擥同、謂三引ニ取之一。〔漢書、王莽傳中〕故務自擥ニ衆事一。〔注〕師古曰、擥、與レ擥同。❸現 一手に買占める。

【攬要】1 ランエウ 要所をとる。擥要。

【攬去】2 ランキヨ とりさる。〔柳宗元、石渠記〕攬ニ去翳朽一、決ニ疏土石一。

【攬袪】3 ランキヨ 袖をとる。〔宋玉、登徒子好色賦〕遵ニ大路一兮攬ニ子袪一。〔注〕向曰、袪、袖也。

【攬貨】4 lan^{3} huo^{4} 商品を買占める。

【攬契】5 lan^{3} ch'i^{4} ジヤンクの船頭が客に渡す貨物の運送約束書。

【攬結】6 ランケツ とりむすぶ。〔晉書、五行志中〕安帝隆安中、百姓忽作ニ懊憹之歌一、其曲曰、草生可ニ攬結一、女兒可ニ攬擷一、尋桓靈寶誅、子女妓妾、悉爲ニ軍賞一。

【攬擷】7 ランケツ とりはさむ。攬結を見よ。

【攬權】8 lan^{3} ch'üan^{2} 權力をふりまはす。

【攬減】9 ランゲン 飢饉をいふ。淮人の語。〔陳造、送下學生歸ニ赴秋試一因省中別業上詩〕寧堪ニ再攬減一、又抱ニ兩嘔鴉一。〔自注〕淮人謂ニ歲飢一爲ニ年歲攬減一、越人以ニ嬰兒一爲ニ嘔鴉一。

【攬載】10 ランサイ とりのせる。〔論衡、答佞〕攬ニ載高卓一、以儀ニ秦功美一。

【攬茝】11 ランシ つまみ取つた茝。茝は香草の一種、よろひぐさ。〔楚辭、離騷〕又申レ之以ニ攬茝一。〔注〕然猶復重引ニ芳茝一、以自結束、執レ意彌篤也。

【攬做】12 lan^{3} tsao^{4} 取纏め引受けて製作する。請負製造。

【攬秀】13 ランシウ 勝れた景色を目にをさめる。〔丁復、同ニ永嘉李季和一望ニ鍾山一聯句〕攬レ秀目顒顒、討レ幽心養養。

【攬取】14 ランシユ とる。とりうばふ。擥取。〔後漢書、方術下、薊子訓傳〕母不レ覺攬取、乃實兒也。

【攬諸】15 ランシヨ 咎を食ふ神の名。〔後漢書、禮儀志中〕騰簡食ニ不祥一、攬諸食レ咎。

【攬稻】16 lan^{3} tao^{4} 稻を收穫する。

【攬掇】17 ランタツ とりひろふ。〔淮南子、要略〕攬ニ掇遂事之蹤一。

【攬單】18 lan^{3} tan^{1} 貨物運送の約定書。

【攬持】19 ランヂ とる。保持する。〔東萊博議、二、齊仲孫湫觀レ政〕實流風遺俗、攬持之力也。

【攬涕】20 ランテイ 涙をとる。落涙を手でぬぐひとる。〔山陽遺稿、高山彥九郎傳〕正之與ニ同志一語、攬レ涕曰、噫公上、百不レ知也。

【攬綴】21 ランテイ 取つてつづり合はせる。あれこれを取つて來て一つのものにまとめること。擥綴。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕皆因レ事擥綴、取ニ一切一乃已。

【攬統】22 ラントウ とりすべる。〔續列女傳、梁夫人嫕

傳〕今遭三陛下神聖之德、攬二統萬幾一。

【攬頭】23 lan^3 t'ou^2 ❶船主と荷主との間に立つて船舶貨物の周旋をする船荷取扱人。❷請負人の長。

【攬納】24 ランナウ 數戸の租税を總括して代納すること。包攬代納の略。〔明律、戸律、倉庫、攬納、税糧〕凡攬二納税糧一者、杖六十。

【攬買】25 lan^2 mai^3 商品を買占める。

【攬轡】26 ランピ たづなを取る。攬轡澄清を見よ。

【攬轡錄】27 ランピロク 書名。一冊。宋、范成大撰。其の紀行文を收載したもの。〔雪堂韻史、第二冊〕・〔續百川學海、第二十六冊〕・〔稗乘、第七冊〕・〔山林經濟籍、八〕・〔知不足齋叢書、第一百八十冊〕。

【攬轡澄清】28 ランピチヨウセイ 天下の政を清澄にする志を抱いて任に赴くこと。初めて官に就いた時、亂れた政治を刷新する志を懷くこと。攬轡は、出發を意味する。後漢の范滂が亂れた冀州の政情の案察を命ぜられた時、天下を澄清する志を抱いて出發した故事。〔後漢書、黨錮、范滂傳〕時冀州飢荒、盜賊羣起、乃以レ滂爲レ清、詔使三案二察之一、滂登レ車攬レ轡、慨然有下澄二清天下一之志上、及レ至二州境一、守令自知二臧汙一、望レ風解二印綬一去。

【攬縻】29 ランビ つなを手にとる。〔劉禹錫、因論、嘆牛〕叟攬レ縻而對云、瑰其形飯之至也、病其足役之過也。

【攬筆】30 ランピツ ふでをとる。援筆。執筆。〔後漢書、文苑下、禰衡傳〕人有下獻二鸚鵡一者上、射擧二巵於衡一曰、願先生賦レ之、以娛二嘉賓一、衡覽レ筆而作。〔注〕劉攽曰、案、覽、當レ作レ攬。〔梁武帝、戲題二劉孺手板一詩〕攬レ筆便應レ就、何事久遲回。

【攬撲】31 lan^3 p'u 取る。握る。摑む。打つ。

【攬蔓】32 ランマン とらへる。〔莊子、山木〕王獨不レ見三夫騰猿一乎、其得二柟梓豫章一也、攬二蔓其枝一、而王二長其閒一。〔疏〕攬蔓、猶二把捉一也。

【攬涙】33 ランルイ 涙をとる。攬涕(20)に同じ。

【攬勝圖】34 ランシヨウヅ 遊戲に用ひる圖の名。清、高兆作。天下の名勝を圖列し、六人で行ふ一種のすごろく。〔昭代叢書、丁集〕。「室名。

【攬青閣】35 ランセイカク 清、李貽德(**6－14459‥831**)の

【攬不得】36 lan^3 pu tê^2 引受けかねる。

【攨】 13047 ハ 欛(**6－15971**)の俗字。〔集韻〕欛、俗从レ手、非。

【⿰扌羼】 13048 サン セン 〔集韻〕初莧切 諫

さす。〔集韻〕⿰扌羼、插也。

【⿰扌⿸广離】 13049 ヨウ 攡(**5－12999**)に同じ。〔正字通〕⿰扌⿸广離、同レ攡。

【⿰扌屬】 13050 シヨク ゾク 〔集韻〕珠玉切 沃

とる。とらへる。〔集韻〕⿰扌屬、博雅、執也。

【⿰扌纍】 13051 ライ 擂(**5－12929**)に同じ。〔集韻〕擂、急擊レ鼓、或从レ纍。

【攭】 13052 ㊀レイ ライ 〔正韻〕力霽切 霽 ㊁ラ 〔韻會〕魯果切 哿

㊀**わける**。**わかれる**。劙(**2－2283**)に通ず。〔正韻〕攭、分判也。〔荀子、賦〕攭兮其相逐而反也。〔注〕攭、與レ劙同、攭兮、分判貌。㊁**あかはだか**。毛羽の無いさま。⿰亻蠡(**1－1330**)に同じ。〔韻會〕攭、無二毛羽一貌。〔康熙字典〕攭、或作レ⿰亻蠡。

【攭兮】1 レイタリ 分判するさま。わかれるさま。〔荀子、賦〕攭兮其相逐而反也。〔注〕攭、與レ劙同、攭兮、分判貌、言三雲、云云、分散相逐而還二於山一、攭、音戾。

二十二畫

【攐】 13053 ケン 攓(**5－12689**)の本字。〔正字通〕搴、篆作レ攐、省作レ攓。

【⿰扌疊】 13054 ㊀テフ デフ 〔集韻〕達協切 葉 ㄉㄧㄝˊ tieh^2 ㊁タフ 〔集韻〕敵盍切 合

㊀❶**をさめる**。〔玉篇〕⿰扌疊、收也。❷**かける**。〔廣韻〕⿰扌疊、掛⿰扌疊。❸**ならべる**。〔集韻〕⿰扌疊、排也。㊁**ならべる**。〔集韻〕⿰扌疊、排也。

【攮】 13055 ダウ ナウ 〔字彙〕乃黨切 養 ㄋㄤˇ nang^3

❶**おす**。〔字彙〕攮、推也。❷現 刺し通す。

【攮子】1 nang^3 tzŭ 匕首・短刀の類。メス。

【攮死人】2 nang^2 ssŭ^3 jen^2 人を刺し殺す。人を突き殺す。

【⿰扌⿸厤足】 13056 テウ 義未詳。〔篇海〕⿰扌⿸厤足、音跳。

二十四畫

【⿰扌靈】 13057 ㊀レイ リヤウ 〔集韻〕郎定切 徑 ㊁レイ リヤウ 〔集韻〕郎丁切 青

㊀**さしはさむ**。〔廣韻〕⿰扌靈、插レ空兒。〔集韻〕⿰扌靈、插也。㊁**懸ける**。拎(**5－11953**)に同じ。〔集韻〕拎、懸二捻物一也、或从レ靈。

二十五畫

【⿰扌⿱䀠𦆠】 13058 サン 攛(**5－13004**)に同じ。〔篇海〕⿰扌⿱䀠𦆠、同レ攛。

【⿰扌蠻】 13059 音義未詳 〔康熙字典〕⿰扌蠻、音義闕、後漢趙一非二草書一說、今之學二草書一者、以爲下⿰扌蠻扶拄挃詰屈叐乙不上可レ失也。

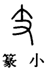
二十九畫

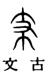
【⿰扌鬱】 13060 ウツ ウチ 〔集韻〕紆勿切 物

ねぢる。或は捥(**5－12181**)に作る。〔集韻〕⿰扌鬱、拗戾也、或从レ宛。

支部

【支】 13061 ㊀シ 〔集韻〕章移切 支 ㄓ chih^1 ㊁キ ギ 〔集韻〕翹移切 支 ㊂シ 〔集韻〕支義切 寘 ㊃チヤウ ヂヤウ 〔集韻〕雉兩切 養


小篆


古文

㊀❶**わける**。ばらばらに切り離す。〔說文〕支、去二竹之枝一也、从三手持二半竹一。❷**わかれ**

る。はなれる。〔集韻〕支、一曰、分也。〔莊子、人閒世〕支離楚者。〔釋文〕司馬云、支離、形體支離不レ全兒。❸**えだ**。わかれ。枝(6-14557)に通ず。〔說文通訓定聲〕支、叚借爲レ枝。㋑草木のえだ。〔詩、衞風、芄蘭〕芄蘭之支。〔說苑、脩文〕芄蘭之枝。㋺戈戟の橫に出た刃。〔後漢書、呂布傳〕擧レ弓射レ戟、正二中小支一。〔注〕小支、謂レ胡也、卽今之戟傍曲支。㋩わかれた血統。宗家に對しては分家、嫡出の昆弟に對しては庶出の昆弟、嗣子に對しては衆兄弟の稱。〔韻會〕支、庶也。〔詩、大雅、文王〕本支百世。〔傳〕支、支子也。〔儀禮、士昏禮記〕支子則稱二其宗一。〔注〕支子、庶昆弟也。〔禮、曲禮上〕支子不レ祭。〔疏〕支子、庶子也。㊁分出したもの。〔李端、送二鄭有入一レ蜀迎レ覲詩〕巴水一支長。❹**ささへる**。榰(6-15275)に通ず。〔說文通訓定聲〕支、叚借爲レ榰。㋑つっぱり保つ。維持する。〔玉篇〕支、持也。〔廣韻〕支、支持也。〔國語、周語下〕天之所レ支、不レ可レ壞也。〔注〕支、拄也。〔淮南子、齊俗訓〕金之性沈、託二之於舟上一則浮、勢有レ所レ支也。〔後漢書、蘇竟傳〕天之所レ壞、人不レ得レ支。〔注〕支、持也。〔文中子、事君〕大廈將レ顚、非二一木所一レ支也。㋺ふせぎとめる。〔戰國、西周策〕魏不レ能レ支。〔注〕支、猶レ拒也。❺**ささへ**。支柱。〔梁宣帝、詠牀詩〕漢殿珊瑚支。❻**のせる**。〔爾雅、釋言〕支、載也。〔玉篇〕支、載充也。❼**たへる**。〔國語、越語下〕皆知二其資財不一レ足三以支二長久一也。〔注〕支、猶レ堪也。❽**もちあふ**。均衡がとれる。〔孫子、地形〕我出而不レ利、彼出而不レ利、曰レ支。❾**はかる**。計算する。〔廣韻〕支、支度也。〔大戴禮、保傳〕燕支レ地計レ衆、不二與レ齊均一也。〔注〕支、猶レ計也。〔後漢書、竇憲傳〕士官懷二琬琰一以就二煨塵一者、亦何可レ支哉。❿**はらふ**。わたす。支出。〔宋史、食貨志下一〕曰、收支、曰、民賦。⓫**てあて**。給與。支給。〔宋史、兵志八〕邊兵、每歲寒食・端午・冬至、有二特支一。⓬**えと**。北斗星の柄の指す所を占定し、十干と組合はせて年・月・日・時・方角などに配する子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の十二辰の稱。〔周禮、秋官、鄉士、汁レ日刑殺、注〕和二合支幹善日一。〔疏〕十二辰子丑之等是支、甲乙丙丁之等是幹。〔後漢書、王符傳〕明帝時、以二反支日一不レ受二章奏一。〔注〕凡反支日、用二月朔一爲レ正、戌亥朔、一日反支、申酉朔、二日反支、云云。⓭**縱の脈節**。〔史記、扁鵲傳〕夫以レ陽入二陰支蘭藏一者活。〔注〕正義曰、支者、順節、蘭者、橫節。⓮**わりふ**。符契。〔魏書、盧同傳〕一支付二勳人一、一支付二行臺一。〔韓愈、寄二崔立之一詩〕當レ如レ合二分支一。〔注〕今時人、謂二析產符契一爲二分支帳一。⓯**地方**。京師以外の地。〔漢書、地理志下〕彊レ幹弱レ支。〔注〕師古曰、謂二京師一爲レ幹、四方爲レ支。⓰**手足**。四肢。肢(9-29285)に通ず。〔正字通〕支、與レ肢通。〔易、坤〕美在二其中一、而暢二於四支一。〔疏〕四支、猶二人手足一。⓱**木の名**。俗に梔(6-14846)に作る。〔正字通〕支、黃子、木名、一名鮮支、實可レ染レ黃、卽今支子、俗作レ梔。⓲古は帝(5-13063)に作る。〔集韻〕支、古作レ帝。⓳**百六韻の一**。上平第四。⓴**しねう。えだねう**。漢字の偏旁の名。㉑**姓**。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕支氏、石趙司空支雄傳云、其先、月支人也。㉒［現］㋑追ひ出す。㋺張る。㋩燭光。㊁數詞に附いて、個と同樣の用をする。㋭綿絲の幾番手。［二］令支は、縣名。〔集韻〕支、令支、縣名、在二遼西一。［三］**ひく**。〔方言、十〕謰謱、拏也、南楚或謂二之支一。［四］**十尺の長さ**。丈(1-11)の本字。〔集韻〕支、从三又持一レ十、隸作レ丈。［邦］❶**支那の略稱**。❷**つかへ**。さはり。❸**はせ**。姓氏。

［名乘］　モロ。ナカ。ユタ。

［解字］　會意。上下二つの十(个、竹)と手(又)との合字。上下各〻竹の半である。人が手で竹の枝を分ち取つて持つてゐる義。わけはなす意。〔說文、段注〕上下各分二竹之半一、手在二其中一。

［參考］　❶攴(5-13108)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕攴、音朴、擊也。支、音枝、出也、又、庶也。❷丈の本字は支とは本來別字であるが、字形が區別し難いから此處に併せることとした。

【支移】1 シイ　❶分けうつす。餘り有る所から足らぬ所へわかちうつす。〔宋史、食貨志上二〕歲賦之物、云云、其輸有二常處一、而以レ有レ餘補レ不レ足、則移レ此輸レ彼、移レ近輸レ遠、謂二之支移一。❷chih^{1} i^{2}　納稅金を流用する。

【支頤】2 シイ　ほほづゑをつく。支頰。〔韓愈、題二秀禪師房一詩〕暫拳二一手一支レ頭臥、還把二魚竿一下二釣沙一。〔注〕頭、或作レ頤。

【支胤】3 シイン　本系以外の子孫。支族の血統。枝胤。〔魏志、三少帝、高貴鄉公髦紀、注〕帝集、載二帝自敍二始生禎祥一曰、昔帝之生、或有二禎祥一、蓋所三以彰二顯神異一也、惟予小子、支胤末流、謬爲三靈祇之所二相祐一也。

【支飲】4 シイン　病の名。呼吸困難を感じて臥すことができない。飲(12-44063)の字解を見よ。〔金匱要略、痰飲〕問曰、四飲何以爲レ異、師曰、其人素盛今瘦、水走二腸閒一、瀝瀝有レ聲、謂二之痰飲一、飲後水流在二脅下一、欬唾引レ痛、謂二之懸飲一、飲水流行歸二於四肢一、當二汗出一而不二汗出一、身體疼重、謂二之溢飲一、欬逆倚息、氣短不レ得レ臥、其形如レ腫、謂二之支飲一。

【支院】5 シヰン　寺院の境內の附屬の坊。子院。〔鹽尻、五十三〕支院、倭俗にいふ末寺也。

【支運】6 シウン　明代の河運の一法。米を一所から一所へと順次に送ること。永樂に始まり、宣德に官軍兌運の法が行はれるに及んで廢せられた。〔明志、食貨志〕歷代以來、漕レ粟所三都給二官府廩食一、各視二道里遠近一以爲レ準、太祖都二金陵一、四方貢賦、由レ江以達二京師一、道近而易、自二成祖遷一レ燕、道里遼遠、法凡三變、初支運、次兌運支運相參、至三支運悉變爲二長運一而制定。

【支裔】7 シエイ　❶わかれ。末流。〔漢書、藝文志〕雖レ有二蔽短一、合二其要歸一、亦六經之支與二流裔一。〔賴山陽、耶馬溪圖卷記〕皆馬溪之支裔矣。❷わかれた血筋。遠い子孫。〔川北梅山、夢清樓存稿〕士民概亦屬二皇祖支裔一。

【支葉】8 シエフ　枝と葉。又、子孫などをいふ。枝葉。〔漢書、鼂錯傳〕屮木蒙龍、支葉茂接、此矛鋋之地也。

【支葉碩茂】9 シエフセキモ　枝も葉も大きく茂る。本家も分家も榮える喩。〔漢書、敍傳下〕侯王之祉、祚及二宗子一、公族蕃滋、支葉碩茂。

【支應】10 シオウ　取計らふ。用達する。金錢出納の事を掌る。支應局を見よ。〔福惠全書、涖任部、馭衙役〕支二應上差一之時多。

【支應局】11 シオウキョク　清代、地方の軍餉の出納の事を掌る役所。〔清國行政法汎論、新設官廳〕支應局、掌二軍餉出入事項一。

【支架】12 chih^{1} chia^{4}　受けとめる。

【支河】13 シカ　えだがは。支流。〔清會典事例、戶部、關稅、禁令〕又奏准、各商船戶、不レ許三私走二支河一、務須下直赴二關口一、按レ例輸上レ課。〔六部成語、工部、支河、注解〕旁枝小河也。

【支開】14 chih^{1} k‘ai^{1}　支拂ひ。

【支解】15 シカイ　四肢を切りはなす。古の酷刑。枝解(6-14557‥6)に同じ。〔公羊、宣、六〕公怒以レ斗擊而殺レ之、支解、將レ使二我棄一レ之。〔韓詩外傳、一〕吳起削レ刑而車裂、商鞅峻レ法而支解。〔韓非子、姦劫弒臣〕此商君之所三以車二裂於秦一、而吳起之所三以枝二解於楚一者也。〔集解〕枝、當レ作レ支。〔戰國、秦策〕功已成矣、卒支解。〔注〕斷二其四

支㆓。〔淮南子、人間訓〕商鞅支解、李斯車裂。〔六部成語、刑部、支解人、注解〕斷㆓人四支㆒而分㆓斬之㆒也。

〖支解黃〗16 シカイクワウ 木の名。丁香(1－2‥18)の㊁の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕支解黃、丁香。

【支閡】17 シガイ ささへ。支柱障閡。〔後漢書、隗囂傳〕又多設㆓支閡㆒。〔注〕支柱障閡。

【支骸】18 シガイ 四肢とむくろ。體軀。〔後漢書、質帝紀〕兵役連年、死亡流離、或支骸不㆑斂、或停棺莫㆑收、朕甚愍焉。

【支行】19 シカウ 出張所。

【支抗】20 シカウ ささへふせぐ。〔晉書、王濬傳〕攻無㆓堅城㆒、夏口・武昌、無㆓相支抗㆒。

【支犒】21 シカウ 分ちねぎらふ。ねぎらひの金品を分ち與へること。〔宋史、馬光祖傳〕支㆓犒軍民㆒。

【支革】22 シカク 手足の皮。〔後漢書、西羌傳論〕頭顱斷㆓落於萬丈之山㆒、支革判㆓解於重崖之上㆒、不㆑可㆓校計㆒。〔注〕支、謂㆓四支㆒、革、皮也。

【支干】23 シカン えと。十二支と十干。互に相配して年月・日時・方位等に當てる。幹枝(4－9183‥27)・干支(4－9165‥41)を見よ。〔史記、歷書、曆術甲子篇、注〕索隱曰、甲子、是陽氣、支干之首。

【支幹】24 シカン 支干に同じ。字解の🈩の㊃を見よ。

【支鑑】25 シカン 明、崑山の人。字は汝同。畫を善くし、嘗て戲れに耕篠澗蒲を作るに、寫生家皆之を寶とす。〔梅花草堂集〕。

【支給】26 シキフ わりあてて與へる。わかち與へる。〔花蕊夫人、宮詞〕月頭支給買㆑花錢、滿殿宮人近㆓數千㆒。〔明律、戶律、倉庫〕凡收㆓受支㆔給官物㆒。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕二季糧餉支㆓給東路㆒。

【支去】27 chih¹ ch'ü⁴ ㊀支拂つてやる。㊁遣はす。

【支許】28 シキョ 支伯と許由。共に舜が天下を讓らんとしたが受けなかつた賢人。〔白居易、宿㆓香山寺㆒酬㆓廣陵牛相公見㆑寄詩〕支許徒思㆑遊㆓白月㆒、夔龍未㆑放㆓下青天㆒。

【支局】29 シキョク 本局から分れて事務を取扱ふ局。

【支會】30 chih¹ huei⁴ ㊀支教會。㊁分會。

【支壞】31 シクワイ ささへることとこはすこと。〔國語、周語下〕天之所㆑支、不㆑可㆑壞也、其所㆑壞、亦不㆑可㆑支也。

【支軍】32 シグン 別軍をいふ。〔後漢書、袁紹傳〕可㆘遣㆓蔣奇㆒別爲㆓支軍於表㆒、以絕㆗曹操之鈔㆖。

【支郡】33 シグン 國の四邊に在る附屬の郡。〔漢書、鼂錯傳〕請㆔諸侯之罪過、削㆓其支郡㆒。〔注〕師古曰、支郡、在㆓國之四邊㆒者也。

【支系】34 シケイ 宗家からの分れ。傍系。〔皇室典範〕。

【支計】35 シケイ 計算。支出計算。出納。〔晉書、宗室、安平王孚傳〕置㆓度支尙書㆒、專掌㆓軍國支計㆒。

【支徑】36 シケイ えだみち。よこみち。枝道。岐路。〔陸游、詩〕支徑秋原上。

【支硎】37 シケイ ㊀山名。江蘇省吳縣の西南。晉の支遁が此處に隱れた。山に平石が多い。支遁に因んで支硎と號す。硎は平石。又、白馬澗・放鶴亭があり、皆支遁の遺蹟。又、報恩山・觀音山ともいふ。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、吳縣〕陽山、隆池而東北曰㆓支硎山㆒、志云、晉支遁居㆑此、而山多㆓平石㆒也、一名南峰山、亦、多㆓峰巖泉石之勝㆒、俗名㆓觀音山㆒、南距㆓天平山㆒五里而近也。㊁晉、支遁(113)の號。

〖支硎山人〗38 シケイサンジン 明、鄧庠(11－39630‥62)の號。

【支孼】39 シゲツ ㊀ひこばえ。轉じて、妾腹の子。支子。支庶。〔史記、呂后紀、索隱述贊〕大臣菹醢、支孼芟夷。㊁傍系のもの。中心人物でないもの。〔土屋鳳洲、海舟誡㆓書生㆒〕今之當㆑局者、概其支孼耳。

【支頰】40 シケフ 頰杖をつく。支頤。〔段成式、題㆓僧壁㆒詩〕有㆑僧支㆑頰撚㆓眉毫㆒。

【支券】41 chih¹ ch'üan⁴ わりふ。てがた。支は、兩分した一つのわかれ。左券。左契。

【支謙】42 シケン 後漢の高僧。字は恭明。月支國の優婆塞。漢末に洛陽に遊び、獻帝の末に亂を吳に避け、孫權の博士となる。經籍該覽、經四十九部を譯す。長身で黑く瘦せ、白眼で眸は黃色であつた。時人が、支郞(支謙)は眼中黃、形軀小なりと雖も是れ智囊なりと言つた。支郞(173)を見よ。〔高僧傳〕。

【支遣】43 シケン のぞきさる。〔朱子全書、學、持敬〕讀㆑書心在㆑書、爲㆑事心在㆑事、如㆑此頗覺㆑有㆑力、只是瞑目靜坐時、支㆓遣思慮㆒不㆑去。

【支湖】44 シコ 明、胡鐸(9－29400‥255)の號。

【支吾】45 シゴ ㊀ささへる。てむかふ。反對する。又、行違ひとなる。枝梧(6－14557‥19)に同じ。〔舊五代史、僭僞、孟知祥傳〕知祥慮㆘唐軍驟至、與㆓遂閬兵㆒合、則勢不㆖可㆓支吾㆒。〔楊萬里、中秋前二夕釣㆑雪舟中靜坐詩〕愛他月色強支吾。〔朱熹、上㆓宰相㆒書〕至㆓其必不㆑可㆓支吾㆒而去。㊁すごす。〔西廂記、張君瑞鬧㆓道場㆒雜劇〕著㆑甚支㆓吾此夜長㆒。㊂ごまかす。言ひぬける。ぐずる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕惟理曲者、猶復支吾。

【支項】47 シカウ 支給の箇條。支給高。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕槩作㆓支項算銀㆒發給。

【支骨】48 シコツ 手足と筋骨。四支筋骨。〔北史、李元護傳〕元護妾伎十餘、聲色自縱、情慾既甚、支骨稍消、鬢長二尺、一時落盡。

【支根】49 シコン 植物學用語。主根から分れた根。

【支叉】50 シサ えだがまじはる。〔蘇轍、詩〕弱榴生掩冉、插竹強支叉。

【支差】51 chih¹ ch'a¹ 物のはした。

【支策】52 シサク ことじをささへる。策は音を節する具で、ことじ。枝策。〔莊子、齊物論〕昭文之鼓㆑琴、師曠之枝㆑策、惠子之據㆑梧也、三子之知幾矣。〔世說新語、排調〕勞㆑神苦㆑形、支㆑策據㆑梧邪。

【支倉】53 ハセクラ 姓氏。

【支散】54 シサン わかち散らす。又、ちりぢりばらばらになる。支離。〔淸會典事例、戶部、蠲恤、賑飢〕目下時已屆㆑冬、總漕無㆑事、著會㆓同總督巡撫㆒、親往㆓各州縣被災地方㆒、備加㆓查勘㆒、將㆓本年所㆑徵漕糧㆒、每㆓州縣㆒或留㆓八九萬石㆒、或留㆓十萬石㆒、酌㆓量足支賑給之數㆒、分㆓別多寡㆒、存留支散、及㆔今漕米尙未㆓開兌㆒、截㆓現收之糧㆒、以濟㆓待哺之衆㆒、實於㆓民生㆒大有㆓裨益㆒。

〖支散人〗55 シサンジン 蒲坂圓の號。蒲坂青莊(9－31611‥125)を見よ。

【支子】56 シシ ㊀嫡子以外の子。㋑本妻腹の長子以外の子。庶子又は別子ともいふ。〔詩、大雅、文王、本支百世、傳〕支、支子也。〔傳疏〕支子者、天子庶子、出封爲㆓諸侯㆒。〔儀禮、士昏禮〕支子則稱㆓其宗㆒。〔注〕支子、庶昆弟也。〔儀禮、喪服傳〕何如而可㆔以爲㆓人後㆒、支子可也。〔疏〕是以變㆑庶言㆑支、支者、取㆓支條之義㆒、不㆑限㆓妾子㆒而已。〔禮、曲禮下〕支子不㆑祭、祭必告㆓於宗子㆒。〔疏〕支子、庶子也。㋺妾の子。庶子。〔魏志、明帝紀〕(太和三年)秋七月詔曰、禮、皇后無㆑嗣、擇㆓建支子㆒、以繼㆓大宗㆒。㊁木の名。くちなし。梔子。〔正字通〕支、黃子、木名、一名鮮支、實可㆑染㆑黃、卽今支子、俗作㆑梔。

【支使】57 シシ ㊀官名。唐代、節度使・觀察使などの屬官。位は副使・判官の次。事務の繁多な時に置く。〔文獻通考、職官考、監察侍御史〕知㆓朝堂左右廂及百司綱目㆒、凡十道巡按、以㆓判官二人㆒爲㆑佐、務繁則有㆓支使㆒、是也。㊁拂ひ戾す。〔淸會典事例、戶部、田賦、畿輔官兵莊田〕向來旗民交產、例禁綦嚴、無㆑如㆓日久弊生㆒、或指㆑地借㆑錢、或支㆓使長租㆒、顯避㆓交易之名㆒、陰行㆓典賣之實㆒。㊂chih¹ shih³ ㋑差し遣はす。㋺指圖する。使用する。

〖支使帳〗58 chih¹ shih³ chang⁴ 使用人に對する金錢關係を記錄する帳簿。

【支指】59 シシ えだゆび。六つゆびの類。枝指(6－14557‥24)に同じ。

【支賜】60 シシ 手當として賜はる。賜はる。又、其の物。〔宋史、刑法志三〕仍卽斷㆓絕支賜㆒。

【支社】61 シシャ ㊀神社の分社。㊁會社などの分社。

【支障】62 シシャウ さしさはり。さしつかへ。故障。

【支狀】63 シジャウ 鎌倉時代、問狀に應じて論人の提出する答辯書をいふ。陳狀。初答狀。

【支借】64 シシャク 前借する。〔淸會典事例、戶部、錢法〕各省作㆓正開銷㆒、如前途業已支借、至㆔下游省㆒分復行㆓請借㆒、兩省覈計、總不㆑得㆑逾㆓八百兩之數㆒。

【支拄】65 シシュ ささへる。〔漢書、西域傳下〕以㆓道當㆑爲㆓拄置㆒心不㆑便也、注〕師古曰、拄、支拄也、言、有㆑所㆓置立㆒、而支㆓拄於己㆒、故心不㆑便。〔水經、河水注〕楊泉物理論曰、秦始皇使㆔蒙恬築㆓長城㆒、死者相屬、民歌曰、生㆑男愼勿㆑擧、生㆑女哺用㆑餔、不㆑見㆓長城下㆒、尸骸相支拄、其寃

痛如レ此矣。

【支取】66（シシユ） 受取る。〔紅樓夢、十四回〕倘或他來支二取東西一。〔清會典事例、內務府、工作〕支二取官物一、順治十八年定、奉二先殿及諸祭祀燎所一レ應レ用楊木葦柴一、據二掌儀司一、咨文呈レ堂、轉二咨工部一支領。

【支酒】67（シシユ） 歌館に登樓して、初めて一杯の茶を飲む時に與へる數貫の錢をいふ。〔武林舊事、歌館〕凡初登レ門、則有二提レ瓶獻レ茗者一、雖二盃茶一亦犒二數千一、謂二之點花茶一、登レ樓甫飲二一盃一、則先與二數貫一、謂二之支酒一。

【支出】68（シシユツ） 金錢の支拂。

【支庶】69（シシヨ） 嫡子以外の子。又、妾腹の子。枝庶。支子。支孼。〔詩、小雅、白華序、以レ孼代レ宗、鄭注〕孼、支庶也、宗、適子也。〔疏〕以二適子一比二根幹一、庶子比二支孼一。〔史記、漢興以來諸侯年表序〕天子支庶子爲レ王、王子支庶爲レ侯、百有餘焉。〔漢書、王子侯表序〕支庶畢侯矣。〔注〕師古曰、嫡者爲二天子一、支庶爲二諸侯一、皆不レ絕也。〔漢書、杜欽傳〕支庶有二間レ適之心一。〔後漢書、宋意傳〕今康焉幸以二支庶一享二食大國一。〔蘇舜欽、感興詩〕君不レ祭二臣僕一、又不レ祭二支庶一。

【支證】70（シシヨウ） 自分の正しさや議論の正當の支へとなる證據。〔牛希濟、刑論〕遠取二支證一、廣擒二黨與一。

【支親】71（シシン） 分れた親族。〔後漢書、桓帝紀〕凡諸妖惡支親從坐、及吏民減レ死徙レ邊者、悉歸二本郡一。

【支嚫】72（シシン） chih^{1} chʻen^{4} 布施する。

【支讖】73（シシン） 後漢の僧。月支の人。別稱は支婁迦讖。般若・楞言・寶積經等を譯す。〔梁高僧傳、一〕。

【支數】74（シスウ） はした。又、其のかず。

【支消】75（シセウ） ㊀金錢を消費する。㊁金錢などを返濟する。

【支銷】76（シセウ） 支出する。又、費用。經費。〔清會典事例、戶部、倉庾〕將下未二驗看一之米上、照レ此計算、餘米歸二入正項一、支銷。〔六部成語、戶部、支銷、注解〕開發也。〔福惠全書、郵政部、總論〕其廩糧工料、存留項下支銷。〔周禮政要、會計〕京師內外、支銷各有二典司一。

〖支銷銀〗77（シセウギン） 支出した經費。〔六部成語、戶部、支銷銀〕業經二支用開銷一之款。

【支節】78（シセツ） わかれた骨節。又、手足と骨節。〔列子、湯問〕外則筋骨・支節・皮毛・齒髮。〔尉繚子、攻權〕將帥者心也、羣下者支節也。〔羅隱、蒙叟遺志文〕上帝旣剖二混沌氏一、以二支節一爲二山嶽一、以二腸胃一爲二江河一。

【支川】79（シセン） 本流からわかれた川。支流。〔莊子、天下〕名川三百、支川三千、小者無數。

【支線】80（シセン） 幹線から分れたみち。えだみち。主として鐵道線路などにいふ。幹線（**4－9183**‥14）の對。

【支戰】81（シセン） 軍の小部隊の戰鬪。本戰（**6－14421**‥198）の對。

【支錢】82（シセン） 前金で支拂はれる錢。〔姚合、武功縣中作詩〕每旬常乞レ假、隔月探二支錢一。

【支漸】83（シゼン） 宋、資州の人。母を葬むること厚く、自ら墳を築き哀號毀瘠す。五色の雀萬餘が悲鳴して哀を助けるが如く、時人ために感化すといふ。〔宋史、四百五十六〕。

【支宗】84（シソウ） 分家と本家。

【支族】85（シゾク） 一族の分れ。枝族（**6－14557**‥44）に同じ。〔清國行政法汎論、皇族、世襲罔替之宗室〕選二擇最近支族一、命襲二其封一。

【支屬】86（シゾク） わかれのつづきあひ。分家の一族。枝屬（**6－14557**‥45）に同じ。〔呂覽、愼行〕身爲レ僇、支屬不レ可二以見一。〔史記、武安侯田蚡傳〕遣レ吏分レ曹、逐二捕諸灌氏支屬一。〔漢書、辛慶忌傳〕宗族支屬、至二二千石一者、十餘人。

【支隊】87（シタイ） 本隊から分れた軍隊。分隊。枝隊。

【支體】88（シタイ） 手足と身體。又、手足。肢體。枝體。〔韓詩外傳、三〕夫重臣羣下者、人主之心腹支體也、心腹支體無レ疾、則人主無レ疾矣。〔呂覽、孝行〕能全二支體一、以守二宗廟一、可レ謂レ孝矣。〔史記、文帝紀〕夫刑至下斷二支體一刻二肌膚一、終身不上レ息。〔淮南子、道應訓〕仲尼遽然曰、何謂二坐忘一、顏回曰、隳二支體一黜二聰明一、離レ形去レ知、洞二於化通一、是謂二坐忘一。〔枚乘、七發〕縱二耳目之慾一、恣二支體之安一者、傷二血脈之和一。

【支提】89（シダイ） ［佛］寺塔の別名。佛舍利のない塔。惡を滅し善を生ずる意。〔法苑珠林〕有二舍利一者名レ塔、無二舍利一者名二支提一。

【支撐】90（シタウ） 支へる。持ちこたへる。枝撐（**6－14557**‥49）に同じ。

〖支撐點〗91（シタウテン） 軍用語。攻守に便利な地點。高地・大きな村落・樹林などをいふ。

【支黨】92（シタウ） ㊀わかれた黨派。枝派の黨。又、殘黨。餘類。枝黨（**6－14557**‥50）に同じ。〔後漢書、荀淑傳〕兄弟皆正レ身疾レ惡、志レ除二閹官一、其支黨賓客、有レ在二二郡一者、纖罪必誅。〔後漢書、祭肜傳〕誅二破姦猾一、殄二其支黨一。㊁ささへる黨派。支援する人々。〔魏志、劉表傳〕初表及妻、愛二少子琮一、欲二以爲レ後、而蔡瑁・張允、爲二之支黨一。〔蜀志、關羽傳〕梁郟陸渾羣盜、或遙受二羽印號一、爲二之支黨一。

【支度】93（シタク） ㊀計る。計算する。〔北周書、王悅傳〕時縣兵深入、悅支二度路程一。〔六典、吏部〕度支、掌三支二度國用租賦多少之數一。㊁㋑前以て物事を用意する。準備。㋺食事の用意をする。㋩衣服を著ける。身じたく。結束。

〖支度郎〗94（シタクラウ） 官名。唐、置く。〔唐書、百官志一〕支度郎、云云、掌二天下租賦物產豐約之宜、水陸道涂之利、歲計所レ出而支二調之一、以レ近及レ遠、與二中書門下一議定、乃奏。

【支搭】95 chih^{1} ta^{1} 掛ける。

【支單】96 chih^{1} tan^{1} 小切手。支票。

【支地】97（シチ） 土地を計る。〔大戴禮、保傅〕燕支レ地計レ眾、不二與レ齊均一也。〔注〕支、猶レ計也。

【支持】98（シヂ） ㊀ささへもつ。もち堪へる。又、力になる。〔淮南子、本經訓〕漂株欂櫨、以相支持。〔王延壽、魯靈光殿賦序〕豈非下神明依憑、支持以保二漢室一者上也。㊁chih^{1} chʻih^{2} 需要を充たす。

【支胄】99（シチウ） わかれのちすぢ。〔唐書、竇威傳贊〕竇宗自レ魏訖レ唐、支胄扶疏數百年、所レ馮厚矣。

【支賬】100 chih^{1} chang^{4} 勘定を引きずつて拂はぬ。

【支廳】101（シチヤウ） 特に分設した役所。

【支柱】102（シチユウ） ㊀支へる。枝柱。〔後漢書、章帝紀〕支二柱橋梁一。㊁ひかへのはしら。ささへばしら。つつかひ棒。

【支註】103（シチユウ） 言語のもつれて正しくないさま。〔方言、十〕南楚曰二謰謱一、或謂二之支註一。〔箋疏〕玉篇、謰謱、繁拏也、廣韻、謰謱、小兒語、楚辭九思王逸注、謰謱、不レ正皃。

【支絀】104（シチユツ） 缺乏する。不足する。〔清會典事例、戶部、釐稅、直省釐局〕咸豐八年奏准、廣西省軍餉支絀、現於二桂林・平樂・梧州・鬱林・潯州・柳州・慶遠・南寧・泗城・百色、各府廳州出入要口一、設レ卡抽二收貨釐一。

【支綴】105（シテイ） ささへつなぐ。〔柳宗元、先侍御史府君神道表〕支二綴氣息一、以嚴二邦刑一。

【支調】106（シテウ） しらべる。計算する。支度郎（94）を見よ。

【支條】107（シデウ） えだ。枝條（**6－14557**‥55）に同じ。〔儀禮、喪服、支子可也、疏〕變レ庶言レ支、支者、取二支條之義一。

【支敵】108（シテキ） 敵をささへとめる。〔白居易、請レ罷レ兵第二狀〕不三唯意在二逗留一、兼是力難レ支レ敵。

【支店】109（シテン） でみせ。分店。兒店。

【支點】110（シテン） 物理學用語。挺子（テコ）を支へる固定した點。

【支途】111（シト） 金錢のつかひみち。又、金錢を支拂ふべき事由。

【支頭】112（シトウ） 頭をささへる。〔韓愈、題二秀禪師房一詩〕暫拳一手支レ頭臥、還把二漁竿一下二釣沙一。〔注〕頭、或作レ頤。

【支遁】113（シトン） 晉の僧。陳留の人。或は河東林慮の人といふ。字は道林。支硎山に隱修し、世に支林公・支硎と稱す。本姓は關氏。餘杭山に隱居し、哀帝の初、洛陽の東安寺に止宿す。太和の初、卒す。〔梁高僧傳、四〕。

〖支遁集〗113′（シトンシフ） 書名。二卷。晉、支遁撰。支遁の詩集。〔四庫未收書目提要、二〕。

【支那】114（シナ） 國の名。中華人民共和國をいふ。元來外國人の稱呼で中國人自らは用ひない。其の起因は秦の始皇帝が海內を統一し、餘威が國境に及んだので、附近の民族これを秦と呼び、後、轉訛して支那となつたといふのが通說。而して中國人自らこれを知つたのは佛教徒の紹介に因る。佛書中に散見する中國の國號は至那・脂

那・莫訶至那・摩訶支那等で、皆中國の佛教徒が印度人から傳聞した自國の名稱を、其の儘音譯したもので、語源は總べて同一である。他に震旦・振旦・眞丹とも書く。〔宋史、外國六、天竺傳〕天竺㆓、云云、表來、云云、譯云、云云、伏願、支那皇帝、云云、福壽圓滿。〔慈恩傳〕三藏至㆓印土㆒、王問、支那國何若、對曰、彼國衣冠濟濟、法度可㆑遵、君聖臣忠、父慈子孝。〔翻譯名義集、諸國篇〕脂那、一云㆓支那㆒、此云㆓文物國㆒。〔慧苑音義〕支那、此翻爲㆓思惟㆒、以㆘其國人多㆑所㆓思慮㆒、多㆖所㆓制作㆒、故以爲㆑名。〔華嚴音義〕震旦國、或曰㆓支那㆒、亦曰㆓眞丹㆒、卽今此漢國是也。〔曼殊全集、書札集〕支那一語、確非㆓秦字轉音㆒、印度古詩摩訶婆羅中已有㆓支那之名㆒、摩訶婆羅、乃印度姿羅多王朝、紀事詩、婆羅多王言、嘗親統㆓大軍㆒、行至㆓北境㆒、文物特盛、民多㆓巧智㆒、殆支那分族、云云、考㆓婆羅多朝㆒、在㆓公元前千四百年㆒、正震旦商時、當時印人、慕㆓我文化㆒、稱㆓智巧㆒耳。

〖支那劇〗115（シナゲキ）　中國に於ける芝居は歌曲を主とし、俳優は、武戲以外は一人若しくは二三人を主とする。舞臺も我が國の能樂に似てゐるが、唯俳優は假面を用ひずして、顏面に隈取を施す。現今行はれる舊劇は、其の起つた地方によつて五種に分れる。㈠京調（湖北）。㈡崑曲（江蘇）。㈢梆子（山西）。㈣高腔（河北）。㈤廣調（廣東）。又、內容によつて三種に分れる。㈠文戲（人情劇）。㈡武戲。㈢文武戲。俳優の脚色は凡そ五種。㈠生（立役）。㋑正生（賢相・忠臣・儒臣等）。㋺老生（老人）。㋩武生（武將・豪傑等）。㋥小生（貴公子・色男）。㋭娃娃生（小童）。㈡旦（女形）。㋑正旦（賢母・烈女等）。㋺閨門旦（小娘）。㋩花旦（淫婦・藝妓等）。㋥花衫（正旦と花旦とを兼ねるもの）。㋭武旦（女賊・女俠客等）。㋬老旦（老婦人）。㋣彩旦（毒婦・惡婢）。㈢淨（敵役）。㋑大花臉（大臣・宰相の惡役）。㋺二花臉（賊將・惡徒役）。㈣丑（道化役）。㋑文丑。㋺武丑。㈤末（端役）。

〖支那語〗116（シナゴ）　中國語。其の系統は西藏・緬甸・暹羅の三語と同一で、特に單音なること、孤立的なること、歌調的なることは其の特質である。之を官話と非官話とに分ち、官話は語音の聲音・語句の構成等の比較的一貫した文法に則るもので、主に都會に行はれるもの、之に北平・南京・成都の三種あり、非官話は方言で特に一地方に行はれる難解の地方語である。之に浙江語・福建語・廣東語の別あり、浙江語は更に蘇州語・寧波語・溫州語等に分れ、福建語は福州語・汕頭語・厦門語に分れ、廣東語は廣東語・客家語に分れる。民國七年、北京官話による注音字母を公布して國語統一を圖つた。

〖支那鞄〗117（シナカバン）　外側を革又は紙で貼つた木製櫃形のカバン。もと支那で製産したからいふ。

〖支那游記〗118（シナイウキ）　中國各地に旅行した紀行文には唐の李翶の來南錄を始めとし、宋の范成大の呉船錄、陸游の入蜀記、張禮の游城南記、明の陶宗儀の游志續編、都穆の游名山記、清の王漁洋の廣州游覽小志、孟超然の使粤日記・使蜀日記等枚擧に遑が無い。又、我が國人のものには齊明天皇の御代、遣唐使に隨行した伊吉博德の紀行が書紀に見えるのを始めとして彼の地に至つた僧に頗る多く、慈覺大師の順禮記、智證大師の行歷抄、瑞訢和尙の入唐記、最近のものには岡鹿門の觀光紀游、竹添進一郎の棧雲峽雨日記等がある。

〖支那哲學〗119（シナテツガク）　中國哲學。古代の中國には所謂純粹哲學の概念に相當するものは少いが、倫理思想は早く上古に發し、特に實踐道德に關する思想に秀でてゐる。これは中國人の現實的な性格に本づく。其の主流を成すものが儒教であり、道家・墨家・法家・名家・陰陽家の思想と共に中國の代表思想であり、太史公の所謂六家である。此の中、道・墨及び後世傳來した佛教には認識論・論理學・本體論等が見られ、更に宋代に入つては中國思想化した佛教の影響を受け、先秦の述作を新時代の思想を以て解する風が現はれ、此處に性理學が生れた。其の代表的なものは二程子・朱子・陸象山等であり、明に至つて王陽明が出た。清代には見るべき哲學思想家は少い。

〖支那文學〗120（シナブンガク）　中國に於ける文學の字義には廣狹の二義がある。廣義には讀書學問を總稱し、狹義には詩歌・小說・戲曲の類を專稱する。論語・墨子非命篇・荀子大略篇・史記公孫弘傳・漢書董仲舒傳等に見える文學の義は皆前者に屬し、世說新語文學篇、南齊書以下の文學傳等は皆後者に屬する。今、後者の意味の支那文學の變遷を見るに、之を四期に分けることが出來る。卽ち唐虞から秦の滅亡までを上古文學とし、漢以後、隋の滅亡までを中古文學と稱し、唐以後、明の滅亡までを近古文學と稱し、清代を近世文學とする。次に文學諸體の發達を見るに、其の體は散文・韻文の二に分れ、散文には古文・駢儷文・時俗文等があり、韻文には詩・詞・賦・騷等がある。現存最古の作品は詩經と書經とで前者は詩の、後者は文章の祖と稱せられる。次いで春秋戰國には春秋・左傳の如き史的文章を始め、莊子・孟子等の諸子百家の議論文が盛に起り、戰國末には屈原一派の楚辭が創められた。楚辭は漢代に至り、益〻盛行して遂に賦へと發展した。一方、楚歌は漢の武帝頃迄流行し、樂府の詩形上に影響を及ぼし、後漢に至つて五言詩形、六朝に至つて七言詩形が確立した。又、前漢の文章は戰國の體を學んだが、後漢には漸く變じて句格・對句等を設けて修飾をなし、晉宋を經て齊梁陳に至り、全く整備されて駢儷文が成立した。中唐に至り、韓柳二家が古文復興を唱へ、歐陽脩・王安石・三蘇等が輩出するに及び、之を奉じて其の目的を達成し、近代まで古文・駢儷文は並び行はれるに至つた。詩は初唐には律詩・絕句の新詩形が成立し、漢以來の自由形式の詩を古體詩といふに對し、之を近體詩といふ。又、中唐からは絕句から變じて長短句を交へた詞が始められ、宋代に至り益〻長短錯雜して詩形を增加した。尙、散文（**5**－13265‥203）の❷・韻文（**12**－43307‥50）・小說（**4**－7473‥788）・戲曲（**5**－11681‥26）・支那劇（115）の各條を見よ。

〖支那文字〗121（シナモンジ）　漢字をいふ。

〖支那戲曲集〗122（シナギキョクシフ）　書名。一冊。今關天彭撰。其の內容は支那戲曲史論に始まり、西廂記・琵琶記等の十種の小說の梗概を敍し、附錄として支那思想と道教・支那劇についての二篇を附す。

【支奈】124（シナ）　草の名。菊科の多年草本。トルキスタン地方に栽培され、形は稍〻かはらよもぎに似てゐる。蕾を支奈花と稱し、蛔蟲驅除藥として用ひる。せめんしな。

【支巴】125 chih^1 pa^1　つつかへる。つつぱる。

【支派】126（ハシ）　えだ川。本流から分れた川。轉じて、本部のわかれ。支部。又、子孫。後裔。〔杜甫、敬寄㆓族弟唐十八使君㆒詩〕聖賢冠㆓史籍㆒、支派羅㆓源津㆒。

【支婆】127（バシ）　父の妾。庶母。〔陸游、家世舊聞〕有㆘云㆓杜支婆㆒者㆖。〔注〕先世以來、庶母皆稱㆓支婆㆒。

【支配】128（ハシイ）　❶區別して分配する。區分して手配する。〔北史、唐邕傳〕文襄崩、事出㆓倉卒㆒、文宣部㆓分將校㆒、鎭㆓壓四方㆒、夜中召㆑邕支配、造次便了、帝甚重㆑之。❷部下を監督し、事務を整理する。とりしまる。❸統治する。❹或る者の意思が相手の行爲を規定・束縛すること。

〖支配權〗129（シハイケン）　物を直接支配する權利。

〖支配人〗130（シハイニン）　支配する人。❶銀行・會社などで營業に關する一切の行爲を扱ふ者。❷本人の委任を受けて其の事を支配する者。

〖支配階級〗131（シハイカイキフ）　政治的・社會的・經濟的に他を支配する階級。他より優越した社會層。

【支排】132（シハイ）　排列する。〔還魂記、繕備〕平看取鹽花竈場、儘支排中納邊商。

【支放】133（シハウ）　支出する。〔清會典事例、內務府、庫藏〕支放養廉、乾隆三十三年奏准、內務府大臣官員等、每年應㆑得㆓養廉㆒。〔福惠全書、錢穀部、解給〕支放中之急項、莫㆑先㆓驛遞㆒。

【支伯】134（シハク）　古の賢人の名。支父（160）に同じ。〔阮籍、爲㆓鄭沖㆒勸㆓晉王㆒牋〕臨㆓滄州㆒而謝㆓支伯㆒、登㆓箕山㆒以揖㆓許由㆒。〔注〕善曰、莊子曰、舜讓㆓天下於子州支伯㆒、子州支伯曰、子有㆓幽憂之病㆒、方且㆑治㆑之、未㆑暇㆑治㆓天下㆒、支或爲㆑交。

【支發】135（シハツ）　支出する。拂ふ。支給する。支撥。〔清會典事例、內務府、庫藏〕支發、雍正四年奏准、凡向六庫支領之物、現有者、不㆑得㆑過㆓六日㆒、

轉取者、不レ得レ過二十日一、各按レ數給發。

【支撥】136（シハツ）　支出する。支發。〔宋史、河渠志七〕乞下詔二兩浙運司一、於二窠名錢內一支撥上。

【支費】137 chih^{1} fei^{4}　費用。

【支備】138（シビ）　支給して其の費用に備へる。〔嘉慶會典、七十五〕。

【支付】139 chih^{1} fu^{4}　支給。支拂。

〖支付所在〗140 chih^{1} fu^{4} suo^{3} tsai^{4}　手形類の支拂地。

〖支付傳票〗141 chih^{1} fu^{4} ch'uan^{2} p'iao^{4}　支拂傳票。拂ひ渡しする傳票。

〖支付匯款〗142 chih^{1} fu^{4} huei^{4} k'uan^{3}　爲替券に據つて現金の拂出しをすること。

【支附】143（シフ）　親屬をいふ。〔後漢書、宦者傳序〕府署第館、棊二列於都鄙一、子弟支附、過二半於州國一。

【支部】144（シブ）　本部の管轄下に、或る地方、或る區域の事務を取扱ふ所。

【支拂】145（シハラヒ）　金錢などを拂ひわたすこと。

〖支拂人〗146（シハラヒニン）　支拂をする人。

〖支拂猶豫〗147（シハラヒイウヨ）　支拂の期日を延ばすこと。

〖支拂停止〗148（シハラヒテイシ）　支拂を止めること。

〖支拂命令〗149（シハラヒメイレイ）　債權者が債務者に債務の辨濟を要求するため、簡易裁判所に申請した時、裁判所が債務者に對して發する命令。此の命令を受けて支拂はず、又抗議せぬ時は強制執行せられる。

〖支拂擔當者〗150（シハラヒタンタウシャ）　支拂人に代つて手形・小切手の支拂を爲すべき者として證券面に記載せられた者。

〖支拂拒絕證書〗151（シハラヒキョゼツショウショ）　手形に關する拒絕證書で手形義務者が作成する公正證書。

【支分】152（シブン）　❶細かに分けて取る。分割。〔戰國、秦策〕韓魏支二分方城膏腴之地一以薄レ鄭。❷肢體のばらばらになること。〔資治通鑑、唐紀〕（懿宗、咸通九年）今聞、已有二密敕一下二本軍一、至則支分滅族矣。〔注〕支分、謂下被二支解一而支體異上處也、卽冎刑。❸支拂ひ。〔還魂記、淮泊〕逐日裏、支分有レ盡。

〖支分節解〗153（シブンセツカイ）　書物を解釋するに、支體を分ち關節を解くやうに、詳しく明かにする。〔朱熹、中庸章句序〕此書之旨、支分節解、脈絡貫通、詳略相因、巨細畢擧。

【支兵】154（シヘイ）　別隊の兵。〔漢書、趙充國傳〕充國子、右曹中郎將卬、將二期門佽飛・羽林孤兒・胡越騎一、爲二支兵一。

【支票】155 chih^{1} p'iao^{4}　小切手。

〖支票帳〗156 chih^{1} p'iao^{4} chang^{4}　小切手帳。

〖支票簿〗157 chih^{1} p'iao^{4} pu^{4}　小切手帳。

【支別】158（シベツ）　わかれ。支派。〔後漢書、馮魴傳〕其先魏之支別、食二菜馮城一、因以氏焉。

【支辨】159（シベン）　❶とりはからふ。とりさばく。❷金錢を仕拂ふ。勘定をすます。

【支父】160（シホ）　古の賢人の名。或は支甫・支伯に作り、又、友父に作る。堯と舜とが天下を讓らうとした時、幽憂の病があると稱して辭退した。〔莊子、讓王〕堯以二天下一讓二許由一、許由不レ受、又讓二於子州支父一、子州支父曰、以レ我爲二天子一、猶之可也、雖レ然我適有二幽憂之病一、方且レ治レ之、未レ暇レ治二天下一也、夫天下至重也、而不三以害二其生一、又況他物乎、唯無下以二天下一爲上者、可三以託二天下一也、舜讓二天下於子州支伯一、子州支伯曰、予適有二幽憂之病一、方且レ治レ之、未レ暇レ治二天下一也。〔釋文〕子州支父、李云、支父、字也、卽支伯也。〔漢書、古今人表、中〕子州支父。〔後漢書、周磐傳〕磐語二友人一曰、昔方回・支父、嗇レ神養レ和、不下以二榮利一滑中其生術上。〔注〕高士傳曰、堯舜各以二天下一讓二支父一、支父曰、予適有二勞憂之病一、方且レ療レ之、未レ暇レ理二天下一也、莊子作二支伯一。

【支甫】161（シホ）　子父に同じ。〔魏志、文帝紀、注〕昔堯讓二天下於許由・子州支甫一、舜亦讓二于善卷・石戶之農・北人無擇一。

【支輔】162（シホ）　ささへたすける。又、ささへ。たすけ。〔史記、李斯傳〕封二子弟功臣一、自爲二支輔一。

【支舖】163 chih^{1} p'u^{4}　支店。

【支封】164（シホウ）　分家として封ずる。又、分家の大名。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五〕直政初支二封于大野一。

【支俸】165（シホウ）　俸給を支拂ふ。〔淸會典事例、戶部、俸餉、公主以下及額駙俸祿〕又議准、在レ京居住公主額駙俸祿、除二固倫公主、和碩公主、並額駙照レ舊支給一外、郡主、每歲改支二俸銀一百六十兩一。

【支峰】166（シホウ）　賴復の號。賴支峰(10－36861‥37)を見よ。

【支本】167（シホン）　えだやみき。本支(6－14421‥120)に同じ。

【支米】168（シマイ）　米を支給する。〔淸會典事例、戶部、蠲恤、恤孤貧〕又議准、甘肅省孤貧共一千一百八名、每歲支二米三石六斗一、折二銀三兩六錢一、遇レ閏加增、小建扣除。

【支脈】169（シミャク）　主脈から分れたすぢ。えだ分れのすぢ。山脈のわかれなど。〔唐書、酷吏、來俊臣傳〕作二羅織經一篇一、具爲二支脈綱由一。〔宋无、詠石詩〕支脈崑崙柝胚渾混沌先。

【支門】170（シモン）　門を支へる。〔陸游、詩〕空房終夜無二燈下一、斷木支レ門睡到レ明。

【支用】171（シヨウ）　❶支出して用ひる。〔宋史、職官志五〕雜物庫、掌下受二內外雜輸之物一、以備中支用上。❷支拂ふ。〔皇朝文獻通考、國用考、會計〕六年正月起二一年之內一、著二該管衙門一照二依原冊一、會二同戶部一、將二直隸各省府州縣衙所等衙門、完欠數目一、詳細對察、已經二完解一者、著二各衙門一行催速解奏二請支用一。

【支來】172 chih^{1} lai^{2}　持ち來る。

【支郞】173（シラウ）　僧侶をいふ。後漢の高僧の支謙を支郞と稱したのに本づく。〔韋莊、下第題二靑龍寺僧房一詩〕酒薄恨濃消不レ得、却將二惆悵一問二支郞一。〔丹鉛錄〕古今儒雅、多下呼レ僧爲二支郞一者上、高僧傳云、魏有二三高僧一、曰、支謙・支讖・支亮、支謙爲レ人細長黑瘦、眼多レ白而睛黃、復多レ智、時賢諺曰、支郞眼中黃、形軀雖レ小是智囊。

【支蘭】174（シラン）　❶人體の血脈をいふ。〔史記、扁鵲傳〕扁鵲曰、夫以レ陽入二陰支蘭藏一者生、以レ陰入二陽支蘭藏一者死。〔注〕正義曰、素問云、支者、順節、蘭者、橫節。❷毒草の名。狼牙(7－20432‥8)の異名。みつもとさう。〔本草、狼牙〕釋名、牙子・狼齒・狼子・犬牙・抱牙・支蘭、集解、保昇曰、所在有レ之、苗似二蛇苺一而厚大、深綠色、根黑若二獸之牙一。

【支離】175（シリ）　❶分散する。又、ばらばらでとりとめのつかぬこと。〔通俗編、言笑、支離〕法言五百篇、或問、天地簡易而聖人法レ之、何五經之支離、曰、支離蓋其所三以爲二簡易一也、注云、支離、言二分散一也。〔王延壽、魯靈光殿賦〕捷獵鱗集、支離分赴。〔注〕善曰、支離、分散也。〔程頤、言箴〕傷レ煩則支、注〕言語太多、支離不レ可レ曉。❷めちゃめちゃにする。〔莊子、人閒世〕夫支二離其形一者、猶足下以養二其身一、終中其天年上。❸せむし。かたは。不具。癈疾。支離疏を見よ。〔莊子、德充符〕闉跂支離無脤、說二衞靈公一。〔釋文〕崔云、支離、傴者也。❹軍陣の名。〔左氏、哀、二十五〕公爲二支離之卒一。〔注〕支離、陳名。❺山名。河南省嵩縣の境。〔山海經、中山經〕支離之山、濟水出焉。❻古の屠殺を善くした人の名。〔張協、七命〕爾乃命二支離一、飛二霜鍔一、紅肌綺散、素膚雪落。〔注〕善曰、莊子曰、朱泙漫學二屠龍於支離益一、殫二千金之家一、三年技成而無レ所レ用二其巧一、翰曰、支離、古之屠人也。

〖支離子〗176（シリシ）　字號。❶宋、黃希旦(12－47926‥1025)の號。❷明、吳鼎(2－3365‥322)の號。

〖支離疏〗177（シリソ）　古の不具者の名。支離は不具の稱。疏は其の名。〔莊子、人閒世〕支離疏者、頤隱二於齊一、肩高二於頂一、會撮指レ天、五管在レ上、兩髀爲レ脅、挫鍼治繲、足二以餬一レ口、鼓レ筴播レ精、足三以食二十人一、上徵二武士一、則支離攘二臂於其閒一、上有二大役一、則支離以レ有二常疾一不レ受レ功、上與二病者粟一、則受二三鍾與二十束薪一。〔釋文〕支離疏、司馬云、形體支離不レ全貌、疏、其名也。

〖支離叟〗178（シリソウ）　元の鮮于樞が廢圃中に得た松に附けた名。〔硏北雜志、下〕鮮于樞、字伯機、云云、於二廢圃中一得二怪松一株一、移二植所レ居之旁一、名レ之曰二支離叟一。

〖支離先生〗179（シリセンセイ）　宋、陸祐(11－41708‥6)の號。

〖支離紛錯〗180（シリフンサク）　ちりぢりに分れみだれる。〔村上函峰、答三某生問二讀書作文一書〕支離紛錯、非二膚淺陋劣一、則怪妄迂僻。

〖支離滅裂〗181（シリメツレツ）　わかれわかれ。ちりぢりばらばら。めちゃめちゃ。滅裂(7－18008‥55)の❸を見よ。

〖支離擁腫〗182（シリヨウショウ）　支離疏が醜い不具であつたために身を全うした故事。擁腫はこぶが多く醜いさま。才智なく卑弱に居れば却つて身を全うする喩。〔顏氏家訓、勉學〕夏侯玄以二才望一

被レ戮、無二支離擁腫之鑒一也。

【支流】184 シリウ ❶本流から分れた枝川。分流。枝流。支派。〔阮籍、詠懷詩〕臨川羨二洪波一、同レ始異二支流一。〔唐書、南蠻下、驃傳〕海行五月、至二佛代國一有レ江、支流三百六十。❷㋑本家から分れた別家。分家。支派。㋺家元から分れた別の流儀。別派。分派。支派。

【支立】185 シリフ 明、嘉興の人。字は可與。號は十竹軒主人。母に孝、羅一峰と親しく交はる。經學に深く、時人が支五經と號す。〔四庫提要、一百四十四〕。

【支領】186 シリヤウ 支拂ふ。又、支給を受ける。〔清會典事例、內務府、緝捕〕支領、雍正四年奏准、賞二給番役一銀兩、照二步軍統領衙門之例一給予、其賞銀、於二文門監督處一領二取銀三千兩一、交二廣儲司銀庫一另儲、以備二賞用一。

【支凌】187 chih¹ ling² 元氣になる。いきいきする。

【支類】188 シルイ 本家からわかれ出た人々。分家の人々。〔後漢書、陳蕃傳〕其支類多行二貪虐一、蕃常疾レ之。

【支繚】189 シレウ わかれめぐる。つぶさにめぐりいましめる。〔荀子、富國〕其候徼支繚、其竟關之政盡察、是亂國已。〔注〕支繚、支分繚繞、言二委曲巡警一也。

【支連】190 シレン 植物の名。黃連(**12－47926‥952**)の異名。其の根株が連なるから名づく。〔本草、黃連〕釋名、王連、支連、時珍曰、其根連レ珠、而色黃、故名。

【支路】191 chih¹ lu⁴ ❶本道から分れたみち。えだみち。岐路。❷鐵道の支線。

【支渭興】192 シヰコウ 元、長寧の人。號は龍溪。至順の進士。官は四川行省參政。詩集がある。

【支雲塔】193 シウンタフ 塔の名。揚子江口の狼山の頂に在る。〔名山記〕通之山有レ五、狼山爲二最奇一、米芾書第一山三字、在二狼山之陽一、頂立二浮圖五級一、名二支雲塔一、遠可レ望二數百里一。

【支可大】194 シカダイ 明、崑山の人。字は有功。萬曆の進士。清介を以て聞ゆ。宦者陳奉が大獄を構へんとするを看破して未然に妨止す。官は湖廣巡撫。〔梅花草堂集、九〕。

【支孝龍】195 シカウリユウ 晉の僧。淮陽の人。阮瞻・庾敳と交遊す。〔梁高僧傳、四〕。

【支祈井】196 シキセイ 井の名。安徽省盱眙縣の東北。下龜山寺の後に在る。大禹が水神巫支祈を鎭した處。〔鳳陽府志〕聖母井、在二縣東北三十里下龜山寺後一、卽大禹鎖二水怪一處也、俗傳、僧伽降二水母於此一、又曰二支祈井一。

【支機石】197 シキセキ 織女が機を支へたと傳へる石。〔集林〕有レ人尋二河源一、見二婦人浣一レ紗、問レ之、曰、此天河也、乃與二一石一而歸、問二嚴君平一、君平曰、此織女支機石也。〔宋之問、明河篇〕更將二織女支機石一、還訪二成都賣卜人一。

【支銀人】198 chih¹ yin² jen² 支拂者。金を拂ふ人。

【支五經】199 シゴケイ 明の人。支立(185)を見よ。

【支兀另】200 シゴツレイ 嘯く聲。〔還魂記、冥判〕嘯一聲支兀另。

【支子孫】201 シシソン 妾腹の子孫。〔漢書、宣帝紀〕擇二支子孫賢者一爲レ嗣。

【支日子】202 chih¹ jih⁴ tzŭ 日を延ばす。

【支叔才】203 シシユクサイ 唐、定州の人。母に孝養を盡し、其の瘡を吮ふ。〔新唐書、一百九十五〕。

【支如玉】204 シジヨギヨク 明、嘉善の人。字は寧瑕。號は半衲菴。萬曆の擧人。官は刑部主事。著に半衲菴集がある。〔明詞綜、五〕。

【支大綸】205 シタイリン 明、嘉善の人。字は華平。萬曆の進士。官は南昌府教授・泉州府推官。後、江西布政司理問に謫せられ、奉新知縣に終る。書室を清旦閣といふ。著に世穆兩朝編年史・支子餘集・華萃詞がある。〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、五十二〕。

【支諾皐】206 シダクカウ 酉陽雜俎續集の篇名。酉陽雜俎に諾皐記二卷、續集に支諾皐三卷がある。諾皐は、道家の語で、鬼神を呼び招くこと。

【支曇籥】207 シドンヤク 晉の僧。月支の人。孝武の初、建業に寓居す。孝武は之を師として遇す。〔梁高僧傳、十三〕。

【支曇蘭】208 シドンラン 晉の僧。青州の人。太元中、剡に遊び、赤城山に憩ふ。〔梁高僧傳、十二〕。

【支髮枕】209 シハツチン 枕の名。〔黃山谷集〕支髮枕、庾公所レ作、蓋今俗山枕。

【支妙音】210 シメウオン 尼僧の名。〔比丘傳〕簡靜寺尼支妙音、未レ詳二何許人一也、幼而志レ道、居二處京華一、博學二內外一、善爲二文章一。

【支羅服】211 シラフク 野菜の名。〔潛夫論、思賢〕治レ世不レ得二眞賢一、譬猶二治レ病不レ得二良醫一也、治レ疾當レ得二眞人參一、反得二支羅服一、當レ得二麥門冬一、反得二烝橫麥一、已而不レ識レ眞、合而服レ之、病以侵劇、云云、三代以下、皆以二支羅服・烝橫麥一合レ藥也。

【支理人】212 シリニン 爲替金額の支拂人。〔臺灣私法、三〕。

【支隆求】213 シリユウキウ 清、嘉善の人。字は武侯。號は泊菴。順治の擧人。官は沂水知縣。著に泊菴集がある。

【支滙單】214 chih¹ huei⁴ tan¹ 爲替手形を振出す。

【支款憑信】215 chih¹ kʻuan³ pʻing² hsin⁴ 銀行が顧客の委託により他地方の支店・取引店から支拂ふべき旨を記載した手形。

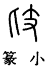
【支糧票帖】216 シリヤウヘウヂヨウ 扶持米の願書の證文。〔福惠全書、刑名部、賍私〕易二買軍人支糧票帖一。

【支婁迦讖】217 シルカシン 後漢の僧、支讖(73)の一名。

【支支動動撥撥轉轉】218 chih¹ chih¹ tung⁴ tung⁴ po¹ po¹ chuan² chuan³ 自ら働く氣がなく、人に命ぜられていやいや働くさま。

二畫

【𢺵】13062 キ 〔集韻〕去智切 寘



小篆

❶**かたむく**。〔説文〕𢺵、頃也、从レ匕支聲、匕、頭頃也、詩曰、𢺵彼織女。〔段注〕小雅大東、跂彼織女、傳曰、跂、隅貌、按、隅者、陬隅不レ正而角、織女三星成二三角一、言レ不レ正也、許所レ據作レ𢺵、今本乃改爲二俗企字一、音同而義不レ同矣。❷**仰ぐさま**。〔玉篇〕𢺵、顒皃。❸或は伎(**1－436**)に作り、通じて跂(**10－37416**)に作る。〔集韻〕𢺵、或作レ伎、通作レ跂。

三畫

【𢺿】13063 シ 支(**5－13061**)の古字。〔説文〕支、𢺿、古文支。

四畫

【攰】13064 🈩ヒ 〔集韻〕攀糜切 支　🈔ヒ ビ 〔廣韻〕符鄙切 紙

🈩❶**ひびがいる**。或は𤿍(**8－22834**)に作る。〔集韻〕攰、方言、南楚之間、器破而未レ離、謂二之攰一、或从レ皮。❷**きぬが破れかける**。紕(**8－27279**)に同じ。〔廣韻〕紕、繒欲レ壞也、攰、同。🈔🈩の❶に同じ。

【枝】13065 キ 攲(**5－13079**)に同じ。〔廣韻〕攲、枝、上同。

【𢻲】13066 キ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕𢻲、音忌。

五畫

【攱】13067 🈩キ 〔集韻〕古委切 紙　🈔キ 〔集韻〕居僞切 寘

🈩❶**のせる**。〔廣雅、釋詁二〕攱、載也。❷**食物をのせるたな**。庪(**4－9329**)・庋(**4－9245**)に同じ。〔集韻〕庪、閣二藏食物一、或作レ攱。〔集韻〕庋、或作レ攱。❸**こしかけ**。いす。

〔玉篇〕⿰支支、椅也。❹まくら。〔玉篇〕⿰支支、枕也。〖三〗物をささげおこす。或は庪(4−9329)・庋(4−9245)に作る。〔集韻〕⿰支支、擎㆓起物㆒也、或作㆓庋・庪㆒。

【⿰氐支】 13068 テイ 〔字彙〕音底

❶かくす。かくれる。〔字彙〕⿰氐支、隱也。❷敁(5−13164)の譌字。〔康熙字典〕敁、按、从㆑支、篇海譌从㆑支、字彙因㆑之譌。

【⿰世支】 13069 シ 義未詳。〔字彙補〕⿰世支、音尸。

【⿰尸支】 13070 フ 義未詳。〔五音篇海〕⿰尸支、音府。

六畫

【⿱奐支】 13071 クワン 奐(3−5916)の譌字。〔正字通〕⿱奐支、奐字之譌。

【攱】 13072

〖一〗キ 〔集韻〕丘奇切 〖支〗

〖二〗キ 〔集韻〕居僞切 〖寘〗

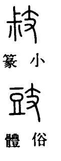
〖三〗キ 〔集韻〕古委切 〖紙〗

小篆

〖一〗❶かたむく。〔説文〕攱、攱匾也、从㆑危支聲。〔廣韻〕攱、不㆑正也。❷或は戲(5−13107)・郁(11−39498)・奇(3−5892)・欹(6−16093)に作る。〔集韻〕攱、或作㆓戲・郁・奇・欹㆒。❸俗に崎(4−8169)に作る。〔正字通〕攱、俗作㆑崎。❹俗に攲(5−13086)に作る。〔説文、段注〕攱、今俗作㆑攲。〖二〗❶やせきる。非常にやせる。或は劬(2−2308)に作る。〔廣韻〕攱、瘦極。❷つかれきる。〔集韻〕攱、疲極也、或作㆑劬。〖三〗かさなる。又、よる。佹(1−566)に通ず。〔集韻〕佹、重累也、一曰、依也、或从㆑支。

【攱⿰阝區】1 クキ かたむいてあやふい。陭⿰阝區。踦⿰足區。崎嶇。〔宋書、廬江王禕傳〕徼幸攱⿰阝區、僅得㆓自免㆒。〔庾信、小園賦〕攱⿰阝區兮狹室、穿漏兮茅茨。

【⿰尗支】 13073 シ ジ 〔集韻〕是義切 〖寘〗


小篆 俗體

❶味噌の類。〔説文〕⿰尗支、配㆑鹽幽尗也、从㆑尗支聲、豉、俗⿰尗支、从㆑豆。〔玉篇〕⿰尗支、以調㆓五味㆒。❷或は豉(10−36253)・⿰豆是(10−36284)に作る。〔集韻〕⿰尗支、或从㆑豆、亦作㆑⿰豆是。

【⿰多支】 13074

〖一〗シ 〔集韻〕章移切 〖支〗

〖二〗シ 〔集韻〕支義切 〖寘〗

〖一〗多い。多(3−5756)に同じ。〔集韻〕多、⿰多支、廣雅、多也、或从㆑支。〔張衡、西京賦〕炙炮夥、清酤⿰多支。〖二〗多い。〔集韻〕⿰多支、博雅、多也。

【⿰戶支】 13075 コ 辜(10−38636)の古字。〔字彙補〕⿰戶支、古文辜字。

【⿰合支】 13076 カウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰合支、音蒿。

【⿰亥支】 13077 カイ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰亥支、音改。

【⿰典支】 13078 テン 義未詳。〔五音篇海〕⿰典支、音典。

七畫

【⿰束支】 13079 キ ギ 〔集韻〕渠羈切 〖支〗

❶よこえだ。横にのびた枝。〔集韻〕⿰束支、字林、横首枝也。❷ひこばえ。〔集韻〕⿰束支、一曰、木別生。❸横首のさま。〔廣韻〕⿰束支、横首皃。❹枝(5−13065)に同じ。〔廣韻〕枝、⿰束支、上同。❺或は枝(6−14557)に作る。〔集韻〕⿰束支、或作㆑枝。

参考 敕(5−13225)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕⿰束支、音奇、横首枝也。敕、音勅、試也。

【⿰吾支】 13080 ギヨ 敔(5−13224)の譌字。〔正字通〕⿰吾支、敔字之譌。

【⿰召支】 13081 キ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰召支、音岐。

【⿰孝支】 13082 ケウ 教(5−13212)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰孝支、同㆑教。

八畫

【⿰臣支】 13083 シ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰臣支、音祇。

【⿰⿱龷月支】 13084 サン 散(5−13265)の譌字。〔正字通〕⿰⿱龷月支、散字之譌。

【⿰垂支】 13085

〖一〗ツイ 〔集韻〕株垂切 〖支〗

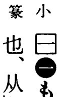
〖二〗キ ギ 〔集韻〕渠羈切 〖支〗

〖一〗ひとしくない。⿰㐱支⿰垂支。〔集韻〕⿰垂支、⿰㐱支⿰垂支、不㆑齊。〖二〗たれる。〔集韻〕⿰垂支、垂也。

【攲】 13086

〖一〗キ 〔集韻〕丘奇切 〖支〗 ㄑㄧ chʻi

〖二〗キ 〔集韻〕擧綺切 〖紙〗


小篆

〖一〗❶もちさる。〔説文〕攲、持去也、从㆑支奇聲。❷はさみとる。〔説文通訓定聲〕攲、説文、持去、疑持夾之誤。〔通俗文〕以㆑箸取㆑物曰㆑攲。❸かたむく。⿰匕支(5−13062)に通じ、攱(5−13072)に同じ。〔説文通訓定聲〕攲、段借爲㆑⿰匕支。〔荀子、宥坐〕有㆓攲器㆒焉。〔注〕傾攲易㆑覆之器。〔正字通〕攲、同㆑攱。〖二〗❶さる。〔集韻〕攲、去也。❷平らかでない。かたむく。〔集韻〕攲、一曰、不㆑平。

参考 欹(6−16093)はもと別字であるが、字形、時に混同して用ひる。〔康熙字典、辨似、二字相似〕欹、音衣、歎美。攲、音欺、偏也。

【攲案】1 キアン 見臺。斜に傾けて作つた臺。書物を置いて見る台。攲架。〔劉孝綽、昭明太子集序〕臨㆓書幌㆒而不㆑休、對㆓攲案㆒而忘㆑怠。〔詞林海錯〕嬾架、卽曹公所㆑作攲案。

【攲架】2 キカ 攲案に同じ。〔三才圖會、器用、嬾架〕陸法言切韻曰、曹公作㆓攲架㆒、臥視㆑書、今嬾架卽其制也、則是此器、起㆑自㆓魏武帝㆒也。

【攲閣】3 キカク 清、趙青藜(10−37171‥729)の號。

【攲岸】4 キガン そばだつてゐる岸。〔杜甫、奉先劉少府新畫山水障歌〕滄浪水深青溟闊、攲岸側島秋毫末。

【攲危】5 キキ 傾いてあやふい。ひよろついてあぶ

ない。〔杜甫、江畔獨步尋レ花七絶句詩〕稠花亂蘂裹二江濱一、行步攲危實怕レ春。

【攲攲】6 キキ 物のそばだつさま。欹欹。〔吳融、江行詩〕欹欹側側海門帆、軋軋啞啞洞庭櫓。

【攲器】7 キキ 傾いて覆へり易い器。金屬で作り、水が一ぱいに滿ちると覆り、全く水を入れなければ傾き、唯水を八分目に入れて置くときは、正しくして傾かないやうに作つた容器。以て人の盈滿を戒める。欹器。〔荀子、宥坐〕孔子觀二於魯桓公之廟一、有二攲器一焉、孔子問二於守レ廟者一曰、此爲二何器一、守レ廟者曰、此蓋爲二宥坐之器一、孔子曰、吾聞、宥坐之器者、虛則攲、中則正、滿則覆、孔子顧謂二弟子一曰、注レ水焉、弟子挹レ水而注レ之、中而正、滿而覆、虛而攲、孔子喟然而嘆曰、吁惡、有二滿而不レ覆者一哉。〔注〕攲器、傾攲易レ覆之器。〔說苑、敬愼〕孔子觀二於周廟一而有二欹器一焉。〔孔子家語、三恕〕孔子觀二於魯桓公之廟一、有二欹器一焉、孔子曰、吾聞、宥坐之器、虛則欹、中則正、滿則覆、明君以爲二至誡一。

【攲筐】8 キキヤウ かたむけてつくつたかたみ。入れやすいやうに作つた小籠。〔詩、周南、卷耳、采二采卷耳一不レ盈二頃筐一、釋文〕韓詩云、頃筐、攲筐也。

【攲臥】9 キグワ ものによりかかつて臥す。〔庾信、枯樹賦〕橫二洞口一而攲臥、頓二山腰一而半折。

【攲傾】10 キケイ かたむく。〔王延壽、魯靈光殿賦〕連拳偃蹇、崙菌踡蹠、傍攲傾兮。〔注〕濟曰、皆屈曲高大、傾側峻險貌。〔杜甫、同二元使君舂陵行一詩〕作レ詩呻吟內、墨淡字攲傾。〔范成大、詩〕攲傾棧路繞レ山明。

【攲紅】11 キコウ うなだれた紅の花。〔柳宗元、戲題二堦前芍藥一詩〕攲紅醉二濃露一、窈窕留二餘春一。

【攲坐】12 キザ かたむいて坐る。樂な姿勢で坐る。行儀惡く坐る。〔暢當、軍中醉飲寄二沉八劉叟一詩〕軟莎攲坐穩、冷石醉眠醒。〔長生殿、春睡〕掠二削鬢兒一攲坐。

【攲斜】13 キシヤ かたむく。斜になる。又、方正でない。欹斜。〔新語、懷慮〕身無二境外之交一、心無二攲斜之慮一。〔戴復古、九日詩〕醉來風帽半欹斜、幾度他鄉對二菊花一。

【攲牀】14 キシヤウ 籐で作つた安樂椅子。〔遵生八牋、攲牀〕高尺二寸、長六尺五寸、用二藤竹一編レ之、勿レ用レ板、輕則童子易レ擡、上置二倚圈靠背一如二鏡架一、後有二撐放活動一、以適二高低一、如二醉臥偃仰一觀レ書、幷花下臥賞一俱妙。

【攲石】15 キセキ かたむきよりかかつた石。欹石。〔江總、靜二臥棲霞寺房一望二徐祭酒一詩〕臥藤新接レ戶、欹石久成レ階。

【攲側】16 キソク かたむきよる。ななめになる。傾斜。〔庾信、小園賦〕猶得攲側八九丈、縱橫數十步。〔杜甫、過二南岳一入二洞庭湖一詩〕攲側風帆滿、微暝水驛孤。

【攲頹】17 キタイ かたむきくづれる。〔福惠全書、典禮部、修二理文廟一〕垣廡之攲頹、亟爲二繕葺一也。

【攲倒】18 キタウ かたむきたふれる。〔蘇軾、書二李世南所レ畫秋景一詩〕野水參差落二漲痕一、疎林攲倒出二霜根一。

【攲帆】19 キハン 帆をかたむける。〔杜甫、最能行〕攲レ帆側レ拖入二波濤一、撇レ旋梢レ濆無二險阻一。

【〓】13087 キ 〓(**5－13093**)に同じ。〔集韻〕〓、或作レ〓。

参考 〓(**5－13250**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕〓、同レ〓。〓、古撻字。

【〓】13088 クワイ 〔字彙補〕何對切 隊 **果物を食ふ。**〔字彙補〕〓、食レ果也。

【〓】13089 タウ 義未詳。〔五音篇海〕〓、持行切。

九畫

【〓】13090 アン 〓(**5－13312**)の譌字。〔康熙字典〕〓、集韻从レ攴、字彙从レ支、誤。

【〓】13091 チ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕〓、音致。

【〓】13092 シヨク 義未詳。〔龍龕手鑑〕〓、音食。

十畫

【〓】13093 キ ギ 〔集韻〕翹移切 支 **弓のつよいさま。**或は〓(**5－13087**)・弜(**4－9725**)に作る。〔集韻〕〓、弓彊兒、或作二〓・弜一。

【〓】13094 カイ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕〓、音害。

【〓】13095 ロ 魯(**12－46013**)に同じ。〔龍龕手鑑〕〓、同レ魯。

十一畫

【〓】13096 ヘン 變(**5－13445**)に同じ。〔龍龕手鑑〕〓、同レ變。

【〓】13097 サン 㪚(**5－13105**)に同じ。〔龍龕手鑑〕〓、同レ㪚。

【〓】13098 ケウ 義未詳。〔字彙補〕〓、音皎。

十二畫

【攳】13099 シン ジン 〔集韻〕徐心切 侵 ㊀**ながい。**〔集韻〕攳、長也。〔後漢書、馬融傳〕踔二攳枝一杪二標端一。〔注〕攳、音尋、謂二長枝一也。㊁尋(**4－7447**)に通ず。〔正字通〕攳、尋通。

【〓】13100 リ 〔字彙〕力地切 寘 **ただしい。**〔字彙〕〓、正也。

【〓】13101 ケウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕〓、巨昭切、渠照切。

十三畫

【〓】13102 音未詳 〔字彙補〕音未詳。**かる。**かりたてる。〔字彙補〕〓、敺也。

【〓】13103 サウ 〓(**5－13399**)の譌字。〔正字通〕〓、同レ〓、譌从レ支。

【〓】13104 シ 施(**5－13629**)の古字。〔篇韻〕〓、古文施字。

【㪚】13105 サン 散(5－13265)に同じ。〔篇海類編〕㪚、同㆑散。

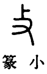
【斀】13106 トク 〔龍龕手鑑〕音獨 陰州。〔龍龕手鑑〕斀、陰州也。

十六畫

【⿰器攴】13107 キ ❶攲(5－13072)に同じ。〔集韻〕攲、或作㆑⿰器攴。❷敼(5－13086)の俗字。〔正字通〕⿰器攴、俗敼字。

攴部

【攴】13108 [一]ホク 〔集韻〕普木切 [屋]。[二]ハク 〔集韻〕匹角切 [覺]。[慣]ボク


小篆

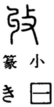
[一]❶**うつ**。かるくたたく。〔說文〕攴、小擊也、从㆑又卜聲。❷或は撲(5－12755)・扑(5－11779)・⿱竹卜(8－25891)・⿱艹卜(9－30720)・剝(2－2049)に作る。〔集韻〕攴、或作㆓撲・扑・⿱竹卜・⿱艹卜・剝㆒。[二]❶**むちうつ**。〔廣韻〕攴、楚也。❷**うつ**。擈(5－12930)に同じ。〔集韻〕擈、博雅、擊也、或作㆓攴・撲・技・扑㆒、亦省。❸**ぼくづくり**。**ぼくねう**。**しぶん**。しぶんとは攴と文の中間の形に似てゐる故の稱。漢字偏旁の名。〔字彙、檢字〕凡从㆑攵者、屬㆓攴部㆒。

[參考] 攴(5－13061)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕攴、音朴、擊也。支、音枝、出也、又、庶也。

【攵】13109 ボク ❶攴(5－13108)に同じ。攴を旁とする時、この形を用ひる。〔廣韻〕攵、凡从㆑攴者作㆑攵、同。〔九經字樣〕攵、本作㆑攴、今依㆓石經㆒作㆑攵、與㆑文別。〔佩觿集〕攵、用㆑攵代㆑攴。〔正字通〕攵、攴字旁文、俗省作㆑攵、从㆑攴爲㆑正。❷注音符號の聲符の一。雙脣音。發音法はㄅと同じであるが、氣息を烈しく外洩せしめることを要する。ポ。pᵒ、此の符號を單獨で讀むときは韻符のㄛを加へて、ポオ、pᵒと讀む。注音符號としての形は、ㄆ。

二畫

【收】13110 [一]シウ シュ 〔集韻〕尸周切 ㄕㄡ shou [尤]。[二]シウ シュ 〔集韻〕舒救切 [宥]。


小篆

[一]❶**をさめる**。㋑とらへる。ひきとめる。〔說文〕收、捕也、从㆑攴丩聲。〔王紹蘭、段注訂補〕此謂㆔捕㆓取辠人㆒也。〔詩、大雅、瞻卬〕女反收㆑之。〔傳〕收、拘收也。㋺あつめる。〔爾雅、釋詁〕收、聚也。〔詩、周頌、維天之命〕我其收㆑之。〔傳〕收、聚也。〔漢書、藝文志〕漢興、改㆓秦之敗㆒、大收㆓篇籍㆒。㋩とりいれる。〔史記、太史公自序〕春生夏長、秋收冬藏、此天道之大經也。㋥とりもどす。〔左氏、昭、三〕以㆓家量㆒貸、而以㆓公量㆒收㆑之。〔戰國、齊策〕誰能爲㆑文收㆓責於薛㆒者乎。㋭しまふ。たくはへる。〔禮、郊特牲〕既蜡而收。〔注〕收、謂㆓收斂積聚㆒也。〔張祜、高閑上人詩〕卷軸朝廷餞、書函內庫收。㋬受けいれる。引取る。〔左氏、僖、四〕辱收㆓寡君㆒。〔韓非子、說難〕陽收㆓其身㆒、而實疏㆑之。〔史記、秦紀〕百里傒曰、云云、臣嘗遊、困㆓於齊㆒、而乞㆑食、銍人蹇叔收㆑臣。㋣もつ。にぎる。とる。〔廣雅、釋詁一〕收、取也。〔左氏、襄、二十七〕我其收㆑之。〔注〕收、取也。〔禮、玉藻〕勤者有㆑事則收㆑之。〔疏〕收、謂㆓斂持在㆑手。〔國語、鄭語〕收以奔㆑褒。〔注〕收、取也。㋠かすめる。うばふ。〔荀子、議兵〕矜糾收繚之屬。〔注〕收、謂㆓掠㆑美者㆒也。㋷めしあげる。徵收する。〔漢書、宣帝紀〕毋㆓收事㆒。〔注〕師古曰、收、謂㆓租賦㆒也。㋦ととのへる。〔禮、學記〕夏楚二物、收㆓其威㆒也。〔注〕收、謂㆕收㆓斂整㆔齊之㆒。〔禮、大傳〕敬㆑宗、故收㆑族。〔注〕收㆑族、序以㆓昭穆㆒也。㋸かへす。〔國語、吳語〕王其無㆓方收㆒也。〔注〕收、還也。㋾やめる。〔戰國、秦策〕秦可㆓以少割而收㆑害也。〔注〕收、猶㆑息也。㋻振恤する。すくふ。〔廣雅、釋言〕收、振也。〔莊子、山木〕迫㆓窮禍患害㆒相收也。㋕遺骸を棺に容れる。〔史記、扁鵲傳〕至㆓今日㆒收乎。〔注〕索隱曰、收、謂㆓棺斂㆒。❷**をさまる**。㋑ちぢむ。しぼむ。〔小爾雅、廣言〕收、斂也。〔國語、楚語下〕士氣含收。〔注〕含收、收縮。〔素問、至眞要大論〕諸寒收引。〔注〕收、謂㆑斂也。〔唐中宗、九日詩〕長房萸早熟、彭澤菊初收。〔文同、江樹詩〕萬葉驚㆑風盡卷收。㋺かへる。〔後漢書、光武紀上〕反水不㆑收、後悔無㆑及。㋩やむ。をはる。〔禮、月令〕農事備收。〔李德裕、鼓吹賦〕天地肅而雷霆收、川波靜而魚龍伏。〔應璩、與㆓岑文瑜㆒書〕雲重積而復散、雨垂落而復收。㋥かくれる。〔唐太宗、冬狩詩〕騎斂原塵靜、戈迴嶺日收。㋭きえる。〔唐太宗、述聖賦〕景將㆑仄而光收。〔劉克莊、夜行詩〕嶺頭無㆓復一人來㆒、漁店燈收戶不㆑開。❸**みのる**。〔後漢書、明帝紀〕今茲蠶麥善收。❹**とりいれ**。**又、とりいれた物**。收穫物。〔禮、月令〕藏㆓帝籍之收於神倉㆒。〔左氏、襄、十七〕爲㆓平公㆒築㆑臺、妨㆓於農收㆒。❺**冠の名**。夏の時代のもの。〔集韻〕收、一曰、夏冠名。〔釋名、釋首飾〕收、夏后氏冠名也、言㆔收㆓斂髮㆒也。〔儀禮、士冠禮記〕周弁、殷冔、夏收。〔禮、王制〕夏后氏、收而祭。〔史記、五帝紀〕黃收純衣。〔注〕索隱曰、收、冕名、其色黃、故曰㆓黃收㆒、象㆓古質素㆒也。❻**車の後の横木**。〔詩、秦風、小戎〕小戎俴收。〔傳〕收、軫也。❼**をさむ**。月建除家で吉凶によつて附けた日の名。建ヲザスの後二辰に居る。建除十二神(4－9574‥118)を見よ。〔淮南子、天文訓〕亥爲㆑收。❽**ただす**。糾(8－27227)に通ず。〔說文通訓定聲〕收、叚借爲㆑糾。❾**あげる**。**あばく**。〔史記、商君傳〕相收司連坐。〔注〕索隱曰、收司、謂㆓相糾發㆒也、一家有㆑罪、而九家連擧發、若不㆓糾擧㆒、則十家連坐。❿古は⿰扌丩(5－11774)に作る。〔集韻〕收、古作㆑⿰扌丩。⓫俗に収(2－3126)に作る。〔廣韻〕收、俗作㆑収。⓬**姓**。〔萬姓統譜〕收、見㆓姓苑㆒。[二]❶**とりいれる**。かりこむ。或は敊(5－13192)に作る。〔集韻〕收、穫也、或作㆑敊。〔禮、月令〕農事備收。〔釋文〕收、如㆑字、又守又反。❷**くむ**。〔易、井〕上六、井收勿㆑幕。〔釋文〕收、徐詩救反、馬云、汲也。〔虞注〕收、謂㆘以㆓轆轤㆒收㆖繘也。

名乘 サネ。モロ。ナカ。ノブ。ナヲ。モト。

【收押】1シウアフ 拘禁する。〔清會典事例、刑部、刑律斷獄、婦人犯罪〕康熙四年覆准、凡婦女犯二姦及重罪一者、依レ律收禁、直省解レ部流犯妻室、亦應二收禁一、至二外省解到入レ官婦女一、止令二原解收押一、三日內咨二交戶部一、不二必寄監一。

【收案】2シウアン 捕へてしらべる。收按。〔漢書、趙廣漢傳〕於レ是收案致レ法。〔後漢書、黨錮、陳翔傳〕翔奏、冀恃レ貴不敬、請收案レ罪。

〔收案注銷〕3 shou¹ an⁴ chu⁴ hsiao¹ 訴訟事件を棄卻する。事件を取消す。

【收菴】4シウアン 清、趙懷玉(10—37171・・477)の號。

【收夷】5シウイ をさめ平げる。〔漢書、淮南厲王長傳〕后太子諸所二與謀一、皆收夷、國除爲二九江郡一。

【收繘】6シウイツ 釣瓶なはをひきあげる。〔易、井、井收勿レ幕、本義〕晁氏云、收、轆轤收レ繘者也。

【收陰】7シウイン 織女神の異稱。〔荆楚歲時記、七月七日爲二牽牛織女聚會之夜一、注〕佐助期云、織女神名二收陰一。

【收瘞】8シウエイ をさめうづめる。をさめ葬る。收葬。〔北史、東魏靜帝紀〕收二瘞骸骨一。〔曾鞏、越州趙公救レ菑記〕時凡死者、使三在處隨收二瘞之一。

【收役】9シウエキ ❶年貢・租稅を受納する係員。〔福惠全書、錢穀部、催徵、遴二收役一〕收役者、所謂櫃吏、是也、計二區里之多寡一以設レ櫃、每櫃一人掌レ之。❷shou¹ i⁴ 捕手の役人。

【收益】10シウエキ 利益をさめる。又、收めた利益。

〔收益稅〕11シウエキゼイ 地代・利子・家賃・營業收益・賃銀等の個々の收益源を課稅物件とする租稅。地租・資本利子稅・家屋稅・營業收益稅・俸給勞賃稅等がこれである。

【收捐】12シウエン 稅をとりたてる。收稅。又、稅として取立てた。〔皇朝文獻通考、市糴考、糴〕以三河北三府艱二於粒食一、議令下截二留漕米六萬二千五百九十石於衛輝府倉一、存貯、撥二運陝州收捐米二萬石於懷慶府倉一、存貯備一レ用。

【收掩】13シウエン ひきとめる。とらへる。掩も、收の意。〔後漢書、黨錮、范康傳〕康既常疾二閹官一、因レ此皆窮、相收掩無レ得二遺脫一。

【收緣】14 shou¹ yüan² 結果。始末。收場。

【收音】15 shou¹ yin¹ 音聲がよくひびく。

〔收音機〕15′ shou¹ yin¹ chi¹ ラジオ聽取機。

【收下】16 shou¹ hsia うけ取る。とりをさめる。

【收蝦】17シウカ えびを取る。〔楊基、廢宅行〕守卒收レ蝦屋後池。

【收刈】18シウカイ かりとる。收穫する。〔詩、鄘風、載馳、芃芃其麥、箋〕麥芃芃者、言下未二收刈一、民將一レ困也。

【收解】19シウカイ うけとることとおくること。收納と支給。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕隨二其多寡一、以爲二收解一。

【收劾】20シウガイ 罪人を捕へて罪狀をしらべただすこと。〔南史、陸杲傳〕杲奏收二劾之一。

【收交】21 shou¹ chiao¹ うけとりわたす。受取つて拂ふ。又、收入と支拂。

【收考】22シウカウ ❶とらへしらべる。〔吳志、陳表傳〕時有下盜二官物一者上、疑二無難士施明一、明素壯悍、收考極レ毒、惟死無レ辭。❷入場を許し試驗を受けさせる。〔還魂記、耽試〕告二遺才一的、望二老大人收考一。

【收香】23シウカウ 鳥の名。一名、毋桐花鳳。〔虞集、東家四時詞四首〕海南新送二收香鳥一、轉覺三清寒入二翠帷一。

【收效】24シウカウ 效果をあげる。〔元明善、丞相東平忠憲王碑〕碑得レ展レ能專レ理、期二之致一レ寧收レ效、所レ書蓋不レ止レ此。

【收稾】25シウカウ わらを收穫する。藁を自分のものとする。〔史記、蕭相國世家〕長安地狹、上林中多空地棄、願令下民得二入田一、毋一レ收レ稾、爲二禽獸食一。〔注〕索隱曰、苗子還二種田人一、留レ稾入レ官、正義曰、其稾艸留二苑中一、爲二禽獸食一レ之。

【收號】26 shou¹ hao⁴ 受取のしるし。受取證又は手形に記入した何年何月何日收の印。

【收額】27シウガク ❶ひたひにをさまる。汗がひたひから出なくなること。〔韻府引、梅堯臣、詩〕晝日馳來奪二炎赫一、冷氣射レ屋汗收レ額。❷收入した總額。

【收割】28 shou¹ kê¹ 收穫する。

【收合】29シウガフ をさめあつめる。〔左氏、成、二〕請收二合餘燼一、背レ城借レ一。〔蜀志、王平傳〕平徐徐收二合諸營遺迸一、率二將士一而還。

【收監】30シウカン 監獄にいれる。入牢。下獄。投獄。〔清會典事例、刑部、刑律斷獄、囚應レ禁而不レ禁〕其犯二笞杖等輕罪一、遞回安插者、承二審衙門一、於二遞解票內一、注下明不レ應二收監一字樣上、前途接二遞州縣一。

〔收監狀〕31シウカンジヤウ 檢事から收監を命ずる書狀。

【收規】32 shou¹ kuei¹ 手數料を受取る。

【收歸】33シウキ 始末して家に歸る。〔福惠全書、雜課部、門攤稅〕晚則收歸、早則鋪設。

【收求】34シウキウ 求める。〔管子、小匡〕次號二召收三求天下之賢士一。

【收救】35シウキウ をさめすくふ。收拾。〔桃花扇、賺將〕只恐挑二起爭端一、難二于收救一。

【收訖】36 shou¹ ch'i⁴ 受取濟み。

【收泣】37シウキフ なみだを揮ふ。涙を拭ふ。呂氏春秋、仲冬紀、長見篇には抆泣に作る。〔韓非子、難言〕孫子臏二腳於魏一、吳起收二泣於岸門一。〔翼毳〕博雅云、收、振也、愚按、振、揮也、又、按、文選洞簫賦、擊涕抆淚注、抆亦拭、疑收・抆相似誤。

【收腳】38 shou¹ chiao³ 足を止める。

【收去】39シウキヨ をさめ去る。徵收して除き去る。〔史記、李斯傳〕收二去詩書百家之語一、以愚二百姓一、使三天下無二以レ古非一レ今。

【收據】40シウキヨ ❶兵隊をまとめてたてこもる。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕虜終不レ能レ上レ岸、收二據鷹島一。❷shou¹ chü⁴ 受取。領收證。

〔收據稅〕41 shou¹ chü⁴ shuei⁴ 印紙稅。

〔收據簿〕42 shou¹ chü⁴ pu⁴ 受取帳。

【收擧】43シウキヨ ❶捕へて劾奏する。〔後漢書、酷吏、陽球傳〕出爲二高唐令一、以二嚴苛過一レ理、郡守收擧。〔注〕收、繫、擧、劾レ之也。❷をさめあげる。取りたてる。取りたてて言ふ。〔風俗通、正失〕俗說、元服父、字伯楚、爲二光祿卿一、於二服中一生二此子一、時年長矣、不孝莫レ大二於無一レ後、故收二擧之一、君子不レ隱二其過一、因以レ服爲レ字。

【收金】44シウキン 金錢をとり入れる。

【收禁】45シウキン 拘禁する。檢束する。拘留する。收管。〔清會典事例、刑部、刑律斷獄、囚應レ禁而不レ禁〕乃近聞丙州縣中有乙將二一切斬絞流徒罪犯一、混雜監禁、全無二分別一、並將下未レ經二審結一之笞杖輕罪上、與二大案干連人犯一、一概混行收禁甲。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕收二禁鋪厫一、斷二絕飲食一。

【收禽】46シウキン ❶狩獵で得た獲物を集める。〔班固、西都賦〕收レ禽會レ眾、論レ功賜レ胙。〔注〕銑曰、言收二所レ獲之禽一、會二師眾一以論レ功。〔張衡、西京賦〕然後收レ禽擧レ胔、數二課衆寡一。❷捕へる。〔後漢書、張衡傳〕陰知二姦黨名姓一、一時收禽、上下肅然。❸とりこを捕へる。〔左氏、襄、二十四〕收レ禽挾レ囚。〔注〕禽、獲也。

〔收禽吏〕47 shou¹ ch'in² li⁴ 鳥を捕へる役人。

【收緊】48 shou¹ chin³ しめつける。ひきしめる。

【收銀】49シウギン 現金を受取る。〔清會典事例、戶部、庫藏、銀庫〕四十五年諭、凡庫內錢糧、皆有二交代一、所三以易二於盤查一、惟戶部銀庫貯レ銀甚多、盤查甚難、其出入數目、必不レ能二清楚一、著將二每年新收銀一別行二收貯一、至二用レ銀時一、將二舊銀一挨レ用、則易二於盤查一、而數目亦得二清楚一矣。

【收科】50 shou¹ k'ê¹ 終る。

【收貨】51シウクワ 商品を受取る。

〔收貨單〕51′ shou¹ huo⁴ tan¹ 商品受取證。

〔收貨帳〕51″ shou¹ huo¹ chang⁴ 商人が買取つた貨物の品目價格を記載する帳簿。

【收過】52シウクワ うけとる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕收過詞狀、本日卽閱。

【收課】53シウクワ 稅を收納する。〔清會典事例、戶部、釐稅、直省釐局〕按年造報、事甚煩雜、不レ克三兼管二鹽務一、乃詳二請號一設二綱鹽總局一、責二成運司督辦、藩司會辦一、另派二道員一駐レ局總辦、現將二綱鹽局一裁撤、一應收課支發造銷各事宜、統由二運司督辦一、所レ有會辦提調等名目、概行二裁撤一、以節二經費一。

【收回】54シウクワイ 回收する。取りもどす。〔清會典事例、戶部、鹽法、長蘆〕其停曬日久、修灘工本較多者、限二八年一准二其另租一、竈戶收回自曬、亦照二此限一、仍責二成場員實力一稽查。

【收獲】55シウクワク をさめとる。得る。又、とらへる。〔風俗通、十反〕田種蓄收、多レ所二收獲一、以解二債負一。〔白居易、與二希朝一詔〕況殺傷既重、收獲頗多。

【收穫】56シウクワク 作物をとりいれること。とりいれ。斂穫。收納。又、とりいれた物。〔漢書、食貨

志上〕力耕數耘、收穫如㆓寇盜之至㆒。〔後漢書、何敞傳〕比年水旱、人不㆓收穫㆒。〔鹽鐵論、相刺〕非㆓良農㆒不㆑得㆑食㆓收穫㆒。

〖收穫期〗57（シウクワクキ） 收穫の時期。

〖收穫器〗58（シウクワクキ） 收穫に使用する農具。

【收括】59 shou^1 kua^1 一つにする。

【收完】60（シウクワン） うけとりすむ。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕收完存㆑庫。

【收款】61 shou^1 k'uan^3 金を受取る。又、收入金。

【收管】62（シウクワン） ❶有罪者を保管する。〔明律、刑律、婦人犯罪〕凡婦人犯㆑罪、除㆓犯姦及死罪收禁㆒外、其餘雜犯、責㆓付本夫㆒收管、如無㆑夫者、責㆓付有服親屬鄰里㆒保管。❷引取つて世話する。〔燕子箋、雙逅〕知㆑爲㆓令愛㆒、因而收管。❸引取の書類。〔福惠全書、刑名部、問擬〕問㆑徒發遣者、取㆓收管㆒。

【收攟】63（シウクン） をさめひろふ。拾ひあげる。〔國語、魯語上〕土發而社、助㆑時也、收攟而烝、納㆑要也。〔注〕攟、拾也。

【收繫】64（シウケイ） 捕へて獄につなぐ。拘禁。〔漢書、宣帝紀〕猶坐收㆓繫郡邸獄㆒。〔漢書、王章傳〕果下㆓廷尉獄㆒、妻子皆收繫。〔後漢書、第五倫傳〕在所縣令苦㆓其不法㆒、收繫論㆑之。〔北史、酷吏、王文同傳〕見㆓沙門齋戒菜食者㆒、以爲㆓妖妄㆒、皆收㆓繫之㆒。

【收繼】65（シウケイ） 兄が死亡し、弟が兄の妻を娶ること。〔元典章、戶部〕劉珪告、至元七年四月、內親劉國玉、因㆓病身㆒、故拋㆓下阿嫂馬氏㆒、依㆑例收繼、本婦年老、已有㆓成人兒男㆒、守㆑志不㆑行㆓改嫁㆒。

【收教】66（シウケウ） 召し捕へてをしへる。〔周禮、秋官、司圜〕掌㆔收㆓教罷民㆒、凡害㆑人者、弗㆑使㆓冠飾㆒、而加㆓明刑㆒焉、任㆑之以㆑事、而收㆓教之㆒。〔疏〕謂㆘入㆓圜土㆒見㆑收、使㆗困苦改悔㆖、是收教也。

【收繳】67（シウケウ） 地方税を收取して庫內に納めること。〔六部成語、戶部、收繳、注解〕收㆓取捐項㆒、繳㆓納於庫㆒也。

【收戟】68（シウゲキ） 武器を收め集める。軍隊の武器を引上げて之を使用しないやうにすること。太平の世をいふ。〔梁宣帝、建除詩〕收㆑戟歸㆓農器㆒、牧㆑馬恣㆓蒭場㆒。

【收結】69（シウケツ） ❶しめくくりをつける。きまりをつける。〔佐藤一齋、言志晚錄〕凡晚年所㆑爲、皆收結事也。❷味方につける。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕與㆓皇子護良㆒謀、收㆓結南都・叡山僧徒㆒。

【收檢】70（シウケン） とりまとめる。〔後漢書、張衡傳〕及㆑爲㆓侍中㆒、上疏請㆑得㆘專㆓事東觀㆒、收㆓檢遺文㆒、畢㆑力補綴㆖。

【收現】71 shou^1 hsien^4 現金を受取る。

【收口】72 shou^1 k'ou^3 ❶港に入れる。❷創口を癒す。

【收工】73 shou^1 kung^1 仕事を休む。

【收公】74（シウコウ） 領地などを取りあげること。沒收。〔東鑑、三〕元曆元年六月拾三日、片切鄕者、爲㆓平氏㆒被㆓收公㆒、已廿餘年空㆑手。〔源平盛衰記、三井僧綱被㆑召〕末寺庄園及彼寺僧等私領、仰㆓諸國宰吏㆒、早可㆑令㆓收公㆒。

【收項】75（シウコウ） ❶收入の箇條。收入高。〔清會典事例、戶部、庫藏、銀庫〕又奏准、銀庫一切收項、俱用㆓比子彈兌㆒、務令㆓平均㆒。❷shou^1 hsiang^4 簿記の借方。收方。

【收國】76（シウコク） 北宋、徽宗の時、金太祖（完顏旻）の年號。（1115—1116）

【收穀】77（シウコク） 貧窮者を引取つて養ふ。穀は、養ふ。〔資治通鑑、周紀〕（赧王、三十六年）乃布㆑令求㆓百姓之飢寒者㆒、收㆓穀之㆒。〔注〕穀、養也、收穀、收而養㆑之也。

【收獄】78 shou^1 yü^4 捕へて獄につなぐ。

【收骨】79（シウコツ） 茶毘に附した後、其の骨を拾收すること。〔韓愈、左遷至㆓藍關㆒示㆓姪孫湘㆒詩〕知汝遠來應㆑有㆑意、好收㆓我骨㆒瘴江邊。〔敕修淸規、亡僧入塔〕茶毘後、執事人、鄕曲法眷、同收㆑骨、以㆑綿裹、袱包函貯、封定迎歸㆓延壽堂㆒。

【收魂】80（シウコン） 正月十八日に至り、正月の遊を止めて各〻其の業に就くことをいふ。臨安地方の風習。放魂（**5**—**13133**··94）の對。〔杭州府志〕凡投㆑瓊買㆑快、鬬㆓九翻牌㆒、舞㆑棍踢㆑毬、唱㆓說平話㆒、演㆓習歌吹㆒、無㆑論㆓晝夜㆒、謂㆓之放魂㆒、至㆓十八日落燈㆒、然後學子攻㆑書、工人返㆑肆、農商各執㆓其業㆒、謂㆓之收魂㆒。

【收才】81（シウサイ） 才能のあるものを用ひる。〔魏志、傅嘏傳〕此先王收㆑才之義也。

【收採】82（シウサイ） とる。收穫する。收采。〔後漢書、淳于恭傳〕家有㆓山田果樹㆒、人或侵盜、輒助爲㆓收採㆒。〔曹植、迷迭香賦〕既經㆑時收而采兮、遂幽殺以增㆑芳。

【收責】83（シウサイ） ❶貸金などをとりたてる。〔戰國策、齊策〕孟嘗君出㆑記、問㆓門下諸客㆒、誰習㆓計會㆒、能爲㆑文收㆓責於薛㆒者乎。〔史記、孟嘗君傳〕客食恐㆑不㆑足、故請㆓先生㆒收㆓責之㆒。〔漢書、昭帝紀〕其令㆘邊郡受㆑牛者、勿㆓收責㆒。〔後漢書、桓帝紀〕其令㆘大司農絕㆓今歲調度徵求、及前年所㆑調未㆑畢者㆒、勿㆗復收責㆖。❷（シウセキ） 罪を引き受ける。自ら責（セメ）を負ふ。〔後漢書、隗囂傳〕范蠡收㆓責句踐㆒、乘㆓偏舟於五湖㆒。〔注〕收㆑責、謂㆑收㆓其罪責㆒也。

【收債】84（シウサイ） 貸金を取立てる。〔史記、孟嘗君傳〕問㆓左右㆒、何人可㆑使㆑收㆓債於薛㆒者、傳舍長曰、代舍客馮公、云云、長者無㆓他伎能㆒、宜可㆑令㆑收㆑債。

【收載】85（シウサイ） とりをさめてのせる。〔漢書、高帝紀〕楚騎追㆓漢王㆒、漢王急、推㆓墮二子㆒、滕公下收載、遂得㆑脫。

【收葬】86（シウサウ） 遺骸や遺骨を取りをさめてはうむること。〔韻府引、魏志〕袁譚死、王循詣㆓太祖㆒、乞㆓收葬㆒云、受㆓袁氏恩㆒、得㆓收葬㆒、就㆑戮無㆑悔。〔北史、趙貴傳〕（貴）乃詣㆑悅詐降、悅信㆑之、因請㆔收㆓葬岳㆒、言辭慷慨、悅壯而許㆑之。

【收藏】87（シウザウ） ❶をさめたくはへる。又、をさめたくはへた財物。〔荀子、議兵〕處舍收藏、欲㆓周以固㆒。〔注〕收藏、財物也。〔韓非子、內儲說上〕韓昭侯使㆔人藏㆓弊袴㆒、云云、吾必待㆓有功者㆒、故收㆓藏之㆒、未㆑有㆑與也。〔管子、形勢解〕春夏生長、秋冬收藏。〔墨子、備城門〕灰康粃杯馬矢、皆謹收㆓藏之㆒。❷詩經の德の收を長生收藏の四に分つた藏の德。生生（**7**—**21670**··216）の❷を見よ。

〖收藏家〗88（シウザウカ） 書畫・古物・書籍などを愛して集め藏する人。〔葉德輝、書林淸話敍〕國朝收藏家、幷重㆓元明本㆒。

【收煞】89（シウサツ） 全く終る。終局をむすぶ。煞は、強意の助辭。〔長生殿、理玉〕長生殿恁歡洽、馬嵬驛恁收煞。

【收支】90（シウシ） 收入と支出。〔蘇轍、元祐會計錄敍〕凡會計之實、取㆓元豐之八年㆒、而共爲㆑別有㆑五、一曰收支、二曰民賦、三曰課入、四曰儲運、五曰經費。

〖收支局〗91 shou^1 chih^1 chü^2 會計局。

〖收支遞減〗92（シウシテイゲン） 土地の生產は或る程度までは其の資本勞力に伴ふが、其の程度を過ぎれば、之に投ずる資本勞力に比して次第に減ずるものであるといふこと。收益遞減。收穫遞減。

〖收支報單〗93 shou^1 chih^1 pao^4 tan^1 出納報告。

〖收支不償〗94（シウシツグナハズ） 支出が收入より多くて費用の足りないこと。

【收司】95（シウシ） ❶罪をあばく。一說に、收は牧、牧司は、監察することをいふ。〔史記、商君傳〕令㆘民爲㆓什伍㆒、而相收司連坐㆖。〔注〕索隱曰、收司、謂㆓相糾發㆒也、一家有㆑罪、而九家連擧發、若不㆓糾擧㆒、則十家連坐。〔漢書、王溫舒傳〕置㆓伯落長㆒、以收㆓司姦㆒。〔王先謙補注〕王引之曰、收當㆑作㆑牧、牧司、相監察也。〔資治通鑑、周紀〕令㆘民爲㆓什伍㆒、而相收司連坐㆖。〔注〕康曰、司、猶㆑管也、爲㆓什伍之法㆒、使㆓之相司相管㆒。❷捕へしらべる。〔漢書、酷吏、王溫舒傳〕置㆓伯落長㆒、以收㆓司姦㆒。〔注〕師古曰、置㆓伯及邑落之長㆒、以收㆓捕司㆔察姦人㆒也。

〖收司連坐告匿之法〗96（シウシレンザコクトクノハウ） 秦の商鞅の定めた法。收司・連坐、及び告發の法を定めたもの。〔秦觀、法律策〕魏文侯之師李悝、論㆓次諸國之法㆒、著㆓爲法經㆒、其徒商鞅、用以相㆑秦、始作㆓收司連坐告匿之法㆒、而輔以㆓詆欺文致細微之事㆒、晚節末路、至㆓于焚㆑書坑㆑儒。

【收使】97（シウシ） 收納してつかふ。〔管子、任法〕禁㆓民私㆒、而收㆓使之㆒。

【收食】98（シウシ シウショク） 引取つて養ふ。〔漢書、成帝紀〕關東比歲不㆑登、吏民以㆑義收㆓食貧民㆒。〔注〕師古曰、收㆓食貧人㆒、謂㆔收取而養㆓食之㆒。

【收徙】99（シウシ） 取集めてうつす。〔史記、五宗世家〕府庫壞漏、盡腐㆓財物㆒、以㆓鉅萬㆒計、終不㆑得㆓收徙㆒。

【收寘】100（シウシ） をさめ置く。〔朱熹、與㆓趙尙書㆒書〕方㆓其未㆑用而收㆓寘門墻㆒、勸㆓獎成就㆒。

【收視】101（シウシ） ❶取りかたづける。視は、納めること。〔史記、欒布傳〕已而梟㆓彭越頭於雒陽㆒、下㆑詔

曰、有二敢收視者一輒捕レ之。❷視力を使はないこと。視ないこと。〔陸機、文賦〕其始也、皆收レ視反レ聽、耽思傍訊。〔注〕善曰、收レ視反レ聽、言レ不二視聽一也。

【收齒】102 シウシ 上げ用ひて朝官に列する。〔北史、李諤傳〕擯二落私門一、不レ加二收齒一。〔歐陽脩、答二李秀才一啓〕誤蒙二甄擢一、遂見二收齒一。

【收事】103 シウジ 賦税と役使。〔漢書、宣帝紀〕三輔民就レ賤者、且毋二收事一、盡四年。〔注〕師古曰、收、謂二租賦一也、事、謂二役使一也。

【收收】104 シウシウ 詩經の德の收を更に長生收藏の四に分つた收の德。生生(7－21670・・216)の❷を見よ。

【收秋】105 シウシウ 秋のとり入れをする。〔王褒、四子講德論〕播レ種則扞レ弦掌レ拊、收レ秋則奔レ狐馳レ兔。

【收執】106 シウシツ 受取る。〔淸會典事例、戶部、關稅、考覈〕其所レ收商稅銅斤水脚銀、照二正稅一一例塡二入單內一、給レ商收執、俟二早晚放關一、卽驗レ單截角放行、至二年滿考覈時一、將二所レ收正稅贏餘若干、銅斤水脚若干一、分二造淸冊一報レ部。

【收拾】107 シウシフ ❶ひろひあつめる。とりまとめる。〔後漢書、徐防傳〕收二拾缺遺一、建二立明經一。〔論衡、別通〕蕭何入レ秦、收二拾文書一。〔韓愈、送二高閑上人一序〕頹墮委靡潰敗、不レ可二收拾一。〔朱子全書、學、持敬〕敬莫下把做二一件事一看上、只是收二拾自家精神一、專一在レ此。❷とりかたづける。〔後漢書、光武紀下〕吏人死亡、或在二壞垣毀屋之下一、而家羸弱不レ能二收拾一者。〔李商隱雜纂、失本體〕不三收二拾椀器一、失二家事一。❸shou¹ shih ㋑つくろふ。㋺始末する。㋩懲らす。㋥たしなめる。強ひて云云させようとする。

〔收拾策〕108 シウシフサク 取りまとめるはかりごと。又、取りかたづけるはかりごと。

【收集】109 シウシフ あつめる。〔後漢書、班固傳上〕期下於總二攬賢才一、收二集明智一、爲レ國得レ人、以寧中本朝上。

【收輯】110 シウシフ 取りあつめる。〔朱熹、書二先吏部韋齋記銘幷劉・范二公帖後一文〕敢收二輯遺文一、藏二其家廟一、以示二子孫一。

【收捨】111 シウシヤ 取ることと捨てること。又、用ひることと捨てること。〔太平記、十三、龍馬進奏〕收捨の間、一凶一吉的然として。

【收掌】112 シウシヤウ 引受ける。取扱ふ。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄、長官使人有レ犯〕若犯二死罪一、收管、聽二候回報一、所レ掌印信鎖鑰、發二付次官一收掌、若無二長官一、次官掌レ印者、亦同二長官一、違者笞四十。〔福惠全書、蒞任部、酬答書札〕收二掌書札一之人、置レ簿掛レ號、亦同。

【收取】113 シウシユ とりをさめる。引取る。又、徵收する。めしあげる。〔史記、貨殖傳〕齊俗賤二奴虜一、而刁閒獨愛二貴之一、桀黠奴人之所レ患也、唯刁閒收取、使三之逐二漁鹽商賈之利一。〔論衡、吉驗〕北夷槖離國王侍婢、有レ娠、云云、後產レ子、捐二於猪溷中一、猪以二口氣一噓レ之、不レ死、云云、王疑以爲二天子一、令二其母收取一、奴畜レ之。〔論衡、驗符〕君賢曰、此黃金也、云云、倶競探レ之、合得二十餘斤一、云云、太守遣レ吏收取。

〔收取人〕114 shou¹ ch'ü³ jen² 受取人。

【收受】115 シウジユ うけいれる。うけ取る。〔讀律提綱〕誣告敎唆詞訟、軍民約會詞訟諸條、律與レ例皆詳著下收二受呈詞一之法上。

【收授】116 シウジユ をさめることとさづけること。

【收聚】117 シウシユウ をさめあつめる。〔管子、幼官〕十二中絕收聚。〔史記、吳王濞傳〕乃使三人收二聚亡卒一。〔漢書、陳平傳〕遂入レ關、收二聚兵一而復東。〔越絕書、越絕計倪內經〕聖人反二其刑一、順二其衡一、收聚而不レ散。

【收充】118 シウジユウ 犯人の名を帳簿に記入して官役の勞働にあてること。〔明律、刑律、起除刺字〕收充二警跡一。

【收縮】119 シウシユク ちぢめる。又、ちぢまる。ちぢむ。〔詩、豳風、七月、九月肅霜、傳〕肅、縮也、霜降而收二縮萬物一。〔國語、楚語下、土氣含收、注〕含收、收縮。

〔收縮力〕120 シウシユクリヨク ちぢまうとする力。

【收熟】121 シウジユク 收穫してよい程度に熟すること。〔魏志、滿寵傳〕寵以爲、田向二收熟一、男女布レ野。〔吳志、呂蒙傳〕皖田肥美、若一收熟、彼衆必增。〔陳子昂、梓州射洪縣東山故居士陳君碑〕百穀收熟。

【收卹】122 シウジユツ 收恤に同じ。〔新書、過秦下〕百姓困窮、而主不二收卹一。〔魏志、任峻傳〕於二饑荒之際一、收二卹朋友・孤遺、中外貧宗一。

【收恤】123 シウジユツ 引取りめぐむ。又、めぐむ。收は振。字解[一]❶の㋻を見よ。〔戰國、趙策〕其社稷之不レ能レ恤、安能收二恤藺離・石祁一乎。〔史記、文帝紀〕賞二賜長老一、收二恤孤獨一、以育二羣生一。

【收所】124 シウシヨ 受取る場所。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕昇レ櫃至二收所一。

【收書】125 シウシヨ 集められた書籍。又、藏書。〔蘇軾、仙道、次二韻回先生一詩序〕回先生過二湖州東林沈氏一、云云、書二其家東老庵之壁一云、云云、白酒釀來因レ好レ客、黃金散盡爲レ收レ書。

【收拭】126 シウシヨク 取去り淸める。〔溫庭筠、上二裴相公一啓〕收二拭瑕疵一、申二明枉結一。

【收贖】127 シウシヨク 金を出して罪を贖ふこと。老幼廢疾、又は罪の疑はしい者に適用する。〔明律、名例、老小廢疾收贖〕凡年七十以上十五以下、及廢疾犯二流罪以下一收贖、八十以上十歲以下、及篤疾犯二殺人一應レ死者、議擬奏聞取二自上裁一、盜及傷レ人者亦收贖、餘皆勿レ論、九十以上七歲以下、雖レ有二死罪一、不レ加レ刑、其有二人敎令一、坐二其敎令一者、若有レ贓應レ償、受レ贓者償レ之。〔淸會典事例、吏部、處分例〕凡衙門胥役閱歷愈久、則貪詐愈甚、況年至二七十一、刑不レ加レ身、流徙杖笞、例得二收贖一。

〔收贖紀錄〕128 シウシヨクキロク 公罪を犯した官吏が金を以て其の罪を贖つた記錄。之を後日の陟黜の參考に供する。〔明律、名例、無官犯罪〕凡無レ官犯レ罪、有レ官事發、公罪亦得二收贖紀錄一。

【收心】129 shou¹ hsin¹ 人心を收攬する。人氣を得る。

【收進】130 shou¹ chin⁴ 受取り收める。領收。

【收審】131 シウシン 裁判の結審。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄、有司決囚等〕又議准、戶部以二旗民互控事件一、如有下咨二送刑部一、仍行二送回一者上、卽片二行刑部一、查二明例文一定レ期會審、經丁刑部以二現審案件一、必須丙罪在二徒流以上一甲、方准二收審一。

【收人】132 shou¹ jen² ❶捕手。罪人を捕へる人。❷幼女を買取つて女中として召使ひ、成長の後、妾とすること。

【收生】133 シウセイ ❶詩經の德の收を更に生長收藏の四に分つた生の德。生生(7－21670・・216)の❷を見よ。❷產兒をとりあげる。收生嫗を見よ。

【收生嫗】134 シウセイアウ とりあげばば。產婆。穩婆。〔名山藏、朱裳傳〕裳妻就レ館、裳敝衣冠執レ爨、收生嫗至、以爲レ傭也。〔五雜組、人部、一〕相傳、胞衣爲二人取去一、兒必不レ育、故中家以上、防二收生嫗一如レ防レ盜。

〔收生婆〕135 shou¹ shêng¹ p'o² 產婆。收生嫗に同じ。

【收成】136 シウセイ 秋をいふ。成熟した穀物を收穫する意。後世、秋に收穫することを、農家で秋成といふ。〔爾雅、釋天〕春爲二發生一、夏爲二長嬴一、秋爲二收成一、冬爲二安寧一。〔注〕此亦四時之別號。

【收旌】137 シウセイ 旗を取りかたづける。收旆。〔曹植、七啓〕於レ是駴レ鍾鳴レ鼓、收レ旌弛レ旆。

【收淸】138 shou¹ ch'ing¹ 金錢受領濟み。

【收齊】139 シウセイ 領收濟み。〔淸會典事例、戶部、鹽法〕鹽價未レ及二收齊一、而奏限已屆。

【收聲】140 シウセイ ❶聲を出すことをやめる。〔禮、月令〕(仲秋之月)是月也、日夜分、雷始收レ聲。〔注〕雷始收レ聲、在二地中一動二內物一也。〔逸周書、時訓解〕秋分之日、雷始收レ聲。❷韻をいふ。

【收稅】141 シウゼイ 租稅をとりたてる。徵稅。征稅。〔唐書、食貨志〕廣德二年、定二天下酤戶一、以レ月收稅。

〔收稅單〕142 shou¹ shuei⁴ tan¹ 稅金納付濟證卷。

〔收稅吏〕143 シウゼイリ 收稅を取扱ふ官吏。

〔收稅免照〕144 shou¹ shuei⁴ mien³ chao⁴ 免稅切符。

【收小】145 shou¹ hsiao³ ❶小さくする。縮寫する。❷產兒をとりあげる。

〔收小的〕146 shou¹ hsiao³ tê 產婆。

【收梢】147 shou¹ shao¹ 最後の結果。結局。

【收鈔】148 shou¹ ch'ao⁴ 收納する所の錢財。

【收摭】149 シウセキ をさめひろふ。收拾。〔申鑒、時事〕逮レ至二漢興一、收二摭散滯一、固已無二全學一矣。

【收接】150 シウセツ ❶引附けて手なづける。〔史記、酷吏、張湯傳〕及レ列二九卿一、收二接天下名士大夫一。〔田錫、上二宰相一書〕閤門有司、未レ便二收接一。❷shou¹ chieh¹ 受付。受付ける。

【收攝】151 シウセツ をさめとる。又、とらへる。〔魏志、國淵傳〕收攝案問、具得二情理一。

【收擅】152 シウセン ほしいままに占有する。獨占する。〔魏書、李崇傳〕子世哲爲二相州刺史一、亦無二清白狀一、鄴洛市鄽、收二擅其利一、爲二時論所一レ鄙。

【收錢】153 シウセン 錢をとりたてる。〔晉書、潘岳傳〕差レ吏掌下主依二客舍一收上レ錢。〔隋書、食貨志〕于二滄瀛幽青四州之境一、傍レ海置二鹽官一、以煮レ鹽、每歲收レ錢、軍國之資、得二以周贍一。

【收租】154 シウソ 地主側からいふ小作料。〔清會典事例、戶部、蠲恤、養幼孤〕八年、又賜二帑銀一千五百兩一、令三置二立產業一、每年約二收租銀六百餘兩一。

【收束】155 シウソク ❶しめくくること。❷文法の名。文章の主意を取りまとめて結ぶ意。一節・一段の終は束住・小結といひ、一篇の大尾は總束・總收といふ。❸shou^1 shu^4 引きからげとらへる。始末する。

【收足】156 shou^1 tsu^2 全額受取濟み。

【收族】157 シウゾク 一族をまとめる。一族の秩序を整へ保つ。〔儀禮、喪服傳〕大宗者、收レ族者也。〔注〕收レ族者、別二親疏一序二昭穆一。〔禮、大傳〕敬レ宗、故收レ族、收レ族、故宗廟嚴。〔注〕收レ族、序以二昭穆一也。〔疏〕敬レ宗故收レ族者、族人既敬二宗子一、宗子故收二族人一、云云、收レ族故宗廟嚴者、若族人散亂、骨肉乖離、則宗廟祭享不二嚴肅一也、若收レ之、則親族不レ散、昭穆有レ倫、則宗廟之所二以尊嚴一也。

【收粟】158 シウゾク 穀物をとりいれる。〔唐書、食貨志三〕歲收レ粟二十萬石。

【收屬】159 シウゾク あつまり屬する。〔新書、大政下〕官有二政長一、而民有レ所二收屬一。

【收率】160 シウソツ まとめひきゐる。統率。〔戰國、趙策〕大王收二率天下一以儐レ秦、秦兵不三敢出二函谷關一十五年矣、大王之威、行二於天下一。

【收存】161 シウソン ❶をさめて保存すること。〔清會典事例、戶部、庫藏、銀庫〕雜賦解レ部與二田賦一同、直省贓罰銀、彙解二按察使司一、除レ解二刑部公用一外、餘亦解レ部、均入レ庫收存、寶泉局鑄出制錢、亦入レ庫收存、以待二度支一。〔福惠全書、蒞任部、繳憑〕照レ式謄二寫一張一收存。❷shou^1 tsʻun^2 ㋑預ける。預かる。㋺拂込んだ。

【收兌】162 シウダ 目方を量つて受取る。〔福惠全書、錢穀部、總論〕漕項收兌。

【收退】163 シウタイ やめしりぞく。〔顏氏家訓、止足〕吾近爲二黃門郎一、已可二收退一。

【收到】164 shou^1 tao^4 ❶受け取つた。❷到着する。

【收擇】165 シウタク とりえらぶ。〔歐陽脩、答三安撫使范龍圖辭二辟命一書〕今奇怪豪雋之士、往往蒙レ見二收擇一。

【收單】166 shou^1 tan^1 受取證。收單子。收帖。收條。

【收治】167 シウチ 捕へてしらべる。〔魏志、楚王彪傳〕乃遣二傳及侍御史一、就レ國案驗、收二治諸相連及者一、廷尉請二徵レ彪治レ罪。

【收置】168 シウチ 捕へて或る場所におくこと。〔唐書、叛臣下、高駢傳〕駢恐三呂用之屠二其家一、乃收二置署中一。

【收長】169 シウチヤウ ❶引取つて育てる。〔史記、大宛傳〕昆莫生棄二於野一、烏嗛レ肉蜚二其上一、狼往乳レ之、單于怪以爲レ神、而收長レ之。❷詩經の德の收を更に生長收藏の四に分つた長の德。生生(**7－21670**・・216)の❷を見よ。

【收賬】170 shou^1 chang^4 集金。掛取り。

〖收賬的〗171 shou^1 chang^4 tê 收金係。收金人。

【收場】172 シウヂヤウ ❶戲劇用語。全本戲の最終齣。又、團圓・結局ともいふ。❷shou^1 chʻang^2 ㋑結果。始末。㋺終る。始末がつく。

【收貯】173 シウチヨ をさめたくはへる。〔白居易、題二文集櫃一詩〕收貯誰家集、題云白樂天。〔羅隱、金錢花詩〕若教三此物堪二收貯一、應レ被二豪門盡劚レ將。〔文同、謝三楊侍讀惠二端溪紫石硯一詩〕豈不レ願二收貯一、恐竊二好レ事名一。

【收儲】174 シウチヨ 取り入れて蓄積する。〔清會典事例、順天府、考試、科場〕十二年覆准、貢院房屋號舍、並收二儲二場應レ用什物一、應下設二專官一管理上、於二貢院西轅門內空基一、蓋造二房十一間一、令三順天府照磨移住一、管二貢院及一應存儲官物一。

【收潮】175 shou^1 chʻao^2 潮のひくこと。しほひ。干潮。

【收條】176 shou^1 tʻiao^2 受取書。收單。收帖。

【收掇】177 シウテツ をさめひろふ。用ひあげる。〔蘇轍、謝レ除二龍圖閣學士御史中丞一表〕是以度二越儁賢一、收二掇微賤一。

【收帖】178 shou^1 tʻieh^3 受取書。收單。收條。

〖收帖兒〗179 shou^1 tʻieh^3 êrh 受取書。

【收店】180 shou^1 tien^4 店鋪をたたむ。店じまひする。收鋪。

【收展】181 shou^1 chan^3 受取つて開封する。

【收轉】182 shou^1 chuan^3 受信及び中繼。

【收電】183 シウデン ❶きえて行く電光。〔漢書、韓安國傳〕至如二猋風一、去如二收電一。〔新序、善謀下〕來若二風雨一、解若二收電一。❷電光を發することをやめる。電は威光の喩。威光を振ふことをやめる。〔陸機、謝二平原內史一表〕廻レ霜收レ電、使レ不二隕越一。〔注〕向曰、雷電喩レ威、云云、廻二收其威一、使レ至二不死一也。

【收帑】184 シウド 收孥(186)に同じ。〔史記、文帝紀〕今犯レ法已論、而使二毋レ罪之父母妻子同產坐レ之、及爲二收帑一、朕甚不レ取。〔新書、過秦中〕除二去收帑汙穢之罪一。

〖收帑相坐律令〗185 シウドアヒザスルノリツレイ 一人が罪を犯せば其の家族を罪する秦の酷法。漢の文帝に至つて之を除去した。〔漢書、文帝紀〕呂氏所レ奪齊楚地、皆歸レ之、盡除二收帑相坐律令一。

【收孥】186 シウド 罪人の妻子を捕へる。罪人の妻子を捕へて官の奴婢とすること。又、其の奴婢をいふ。收帑。〔史記、商君傳〕事二末利一、及怠而貧者、擧以爲二收孥一。〔注〕索隱曰、卽糾擧而收二錄其妻子一、沒爲二官奴婢一。〔後漢書、楊終傳〕太宗至仁、除二去收孥一。〔注〕太宗、文帝也、云云、除二去收孥相坐之律一。

【收頭】187 shou^1 tʻou やめる。切り上げる。

【收得】188 シウトク ❶捕へる。〔後漢書、公孫瓚傳〕收二得生口一、七萬餘人。❷とりいれる。收穫。〔曹鄴、寄二陽朔友人一詩〕我到二月中一收二得種一、爲レ君移向二故園一栽。

【收納】189 シウナフ とりいれをさめる。〔揮塵前錄、一〕國朝承二五代搶攘之後一、三館有レ書、僅萬二千卷、云云、方許三收二納其所レ進書一。

【收入】190 シウニフ ❶自分の方にをさめいれる。〔戰國、燕策〕珠玉財寶、車甲珍器、盡收二入於燕一。〔後漢書、皇甫規傳〕坡二埽凶党一、收二入財賄一、以塞二痛怨一、以答二天誠一。❷所得。金錢・米穀などを得ること。みいり。〔漢書、溝洫志〕河決而南、則鄃無二水災一、邑收入多。❸shou^1 ju^4 收容する。

〖收入役〗191 シウニフヤク 町村の會計事務を擔當する職。

【收杯】192 shou^1 pei^1 盃をかたづける。酒宴を終る。

【收旆】193 シウハイ 旗をとりをさめる。旗を卷く。收旌。〔王遒、夷門詩〕秦師收レ旆亦西遷。

【收買】194 シウバイ 買收する。〔清會典事例、戶部、海運、收買捐辦〕道光六年諭、海運現已陸續到レ津、沙船餘米不レ下二十萬餘石一、前經レ降レ旨照二南糧餘米例一、聽二天津民人一照二市價一收買、茲據二英和奏一、沙船宜レ令二速歸一。

〖收買賣〗195 shou^1 mai^3 mai 商賣を止める。閉店する。

【收方】196 shou^1 fang^1 簿記の借方。

【收放】197 シウハウ ❶回收と發行。〔清會典事例、戶部、庫藏、銀庫〕又議准、收二放一切銀兩一、由二承辦司分一、分別出具二印劄印付一投レ庫。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕收放錢糧、乃庫吏耑司。❷shou^1 fang^4 人の上に立つて駕馭する。

【收寶】198 シウハウ 寶物を受領する。〔還魂記、謁遇〕這寺原是番鬼們建造、以便三迎二接收寶官員一。

【收房】199 shou^1 fang^2 ❶貸した家を取り戾す。❷女中を妾になほす。收人(132)の❷を見よ。

【收摸】200 シウバク とる。にぎる。〔風俗通、窮通〕徑詣二床蓐一、手自收摸、對レ之垂レ涕。

【收縛】201 シウバク とらへしばる。〔漢書、張敞傳〕汗レ赭輒收二縛之一。〔後漢書、五行志五〕中黃門桓賢等、呼二門吏僕射一、欲三收二縛何人一。〔魏志、趙儼傳〕儼取二其尤甚者一、收縛案驗。

【收發】202 シウハツ 受取ることと差出すこと。受渡し。〔清會典事例、戶部、庫藏、銀庫〕其江南道御史本有下稽二查戶部一之責上、遇有下部庫收二發銀兩一時上、卽知三會該道輪流前往、眼同收放、以專二查察一。

【收盤】203 shou^1 pʻan^2 廢業する。店をたたむ。

【收靡】204 シウビ 縣名。漢、置く。又、牧靡に作る。今の雲南省尋甸縣の地。〔漢書、地理志上〕益州郡、縣二十四、收靡。

【收畢】205 shou^1 pi^4 受取濟み。

【收緡】206 シウビン つり絲をかたづける。釣をやめる。緡は、つりいと。收綸。〔杜甫、復愁詩〕釣艇收レ緡

盡、昏鴉接レ翅稀。〔黃鎭成、贈二鄭守一詩〕雨畚仍把レ耒、風艇自收レ緡。

【收付】207シウフ ❶捕へて渡す。罪人を捕へて係の役人に渡すこと。〔任昉、奏二彈曹景宗一文〕削二爵土一收付二廷尉一。❷shou^1 fu^4 受渡。支拂と取立。收支。

【收附】208シウフ をさめとる。をさめて我がものにする。〔元史、外夷三、瑠求傳〕生二長福建一、熟二知海道利病一、以爲若欲二收附一、且就二彭湖一發レ船。

【收賦】209シウフ 租稅を取立てる。〔孔子家語、王言解〕關譏市廛、皆不レ收レ賦。

【收撫】210シウブ 味方にしてなつける。〔後漢書、臧洪傳〕洪收二撫離叛一、百姓復安。

【收復】211シウフク とりかへす。〔唐書、杜鴻漸傳〕縱爲二賊據一、日夜望二官軍一、以圖二收復一。

【收兵】212シウヘイ ❶兵をひきまとめる。又、兵をかりあつめる。〔史記、項羽紀〕行收レ兵、復入保二成皋一。〔史記、淮陰侯傳〕信復收レ兵、與二漢王一會二榮陽一。❷shou^1 ping^1 七月十五日の夜、景佑眞君廟で鼓を打ち螺を吹き小鉦を鳴らして、更に市中を巡回すること。湖北省地方の行事。放兵(**5**－13133・・256)を見よ。

【收米】213シウベイ ❶米を手に入れる。又、米を掠奪する。〔後漢書、岑彭傳〕自引レ兵乘レ利、直指二墊江一、攻破二平曲一、收二其米數十萬石一。❷とりいれた米。〔張耒、詩〕淮潁耕田倍二收米一。

【收票】214 shou^1 p'iao^4 ❶受取證。❷爲替手形、及び約束手形の總稱。❸切符や入場券などを集める。

【收璧】215シウヘキ 受取つたといふこと。〔福惠全書、蒞任部、酬答書札〕有二禮物一註二明收璧一。

【收保】216シウホ あつめ保つ。兵士を收集して安全ならしめること。〔史記、李牧傳〕爲レ約曰、匈奴卽入盜、急入收保、有二敢捕虜者一斬、匈奴每レ入、烽火謹、輒入收保、不二敢戰一。〔注〕正義曰、急入レ壘、收斂而保護。

【收捕】217シウホ めしとる。拿捕。〔漢書、趙廣漢傳〕其或レ負者、輒先聞知、風諭不レ改、乃收二捕之一。〔後漢書、光武紀下〕其牧守令長、坐下界內盜賊而不二收捕一者上、又以二畏愞一捐レ城委レ守者、皆不二以爲レ負。〔張衡、四愁詩序〕皆密知レ名、下吏收捕。

【收鋪】218 shou^1 p'u^4 閉店する。收鋪。

【收鋪】219シウホ 閉店する。鋪は店。收鋪。〔中井履軒、鬻二蕎麵一者傳〕還命輸二之錢一、夜則戌而收レ鋪。

【收簿】220シウボ 受取の帳簿。〔福惠全書、錢穀部、流水收簿〕收簿者、各櫃吏收レ銀之簿也。

【收沒】221シウボツ 罪人の財產や、犯罪の用に供した物件を官にとりあげること。沒收。〔南史、齊廢帝東昏侯紀〕復加二收沒計一、一家見レ陷、禍及二親隣一。

【收埋】222 shou^1 mai^2 ❶埋藏する。貯へて置く。❷埋葬する。

【收養】223シウヤウ ひきとつてそだてる。〔莊子、盜跖〕與二天下一更始、罷レ兵休レ卒、收二養昆弟一、共祭二先祖一。〔史記、周紀〕遂收養長レ之。〔後漢書、任隗傳〕賑二卹宗族一、收二養孤寡一。〔風俗通、愆禮〕哀二其無レ歸、直可二收養一。

【收用】224シウヨウ ❶集めてもちひる。ととのへて用ひる。〔墨子、非攻中〕飾二攻戰一者之言曰、彼不レ能三收二用彼衆一、是故亡。❷引寄せて用ひる。召し出して用ひる。〔史記、汲黯傳〕黯爲レ上泣曰、云云、不レ意、陛下復收二用之一。❸手に入れて用ひる。召し上げて用ひる。

【收容】225シウヨウ 一定の場所に容れること。

【收容人員】227シウヨウジンヰン 一定の場所の收容できる人數。

【收羅】229シウラ 味方に引入れる。羅は、網する。をさめとる。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕收二羅英雄一、弃レ瑕取レ用。

【收雷】230シウライ 鳴り止んだ雷。〔禮、月令〕（仲秋之月）收雷先行、草木蚤死。

【收攬】231シウラン をさめとる。攬は持。〔晉書、周嵩傳〕因二時之望一、收二攬英奇一、遂續二漢業一、以美二中興之功一。〔宋史、劉敞傳〕收二攬威權一。

【收纜】232シウラン ともづなをひきあげる。出帆する。〔鮑照、從二臨海王一上レ荊初發二新渚一詩〕收レ纜辭二帝郊一、揚レ棹發二皇京一。

【收吏】233シウリ 受取の役人。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕該收吏賠補。

【收利】234シウリ 利益を手に入れる。〔韓非子、孤憤〕大臣挾二愚汙之人一、上與レ之欺レ主、下與レ之收レ利侵漁、朋黨比周相與。〔孔叢子、論勢〕子順對曰、云云、遊說之士、挾二強秦一以爲レ資、賣二其國一以收レ利。〔後漢書、光武紀上〕野穀旅生、麻未二尤盛一、野蠶成レ繭、被二於山阜一、人收二其利一焉。

【收留】235シウリウ ❶をさめとどめる。〔琵琶記、兩賢相遘〕若得二收留一、感レ恩非レ淺。❷shou^1 liu^2 受取る。受收める。

【收領】236シウリヤウ 受取る。領收。〔淸會典事例、戶部、蠲恤、恤孤貧〕二十四年議准、大・宛二縣孤貧銀兩、每二銀一兩一、折二給制錢九百文一、於二糶賣成色米錢內一扣留散給、如有二餘額一、轉二給養濟院一收領。

【收糧】237シウリヤウ とりいれた年貢米。〔淸會典事例、刑部、吏律職制〕其倉官收糧、不レ及二千石一者、本等レ用。

【收掠】238シウリヤク かすめとる。〔晉書、石勒載記〕可下分二遣諸將一、收中掠野穀上。

【收虜】239シウリヨ とりこにする。〔漢書、霍去病傳〕漢兵卽度レ幕、人馬罷、匈奴可二坐收虜一耳。

【收綸】240シウリン 釣絲をかたづける。釣をやめる。收緡。〔韻府引、陰鏗、詩〕林寒正下レ葉、釣晚欲レ收レ綸。

【收淚】241シウルイ 淚をふきとる。〔晉書、孝友、劉殷傳〕殷收レ淚視レ地、便有二菫生一焉。〔嵆康、思レ親詩〕中夜悲兮當二誰告一、獨收レ淚兮抱二哀戚一。

【收繚】242シウレウ 鄙陋の者。ねぢけた者。收は美を掠める者、繚は委曲の多い者。〔荀子、議兵〕矜糺收繚之屬、爲レ之化而調。〔注〕收、謂二掠レ美者一也、繚、謂二繚繞一、言二委曲一也、四者皆鄙陋之人。

【收斂】243シウレン ❶穀物・果實などをとりいれる。收穫。〔大戴禮、千乘〕方二秋三月一、收斂以レ時。〔莊子、讓王〕秋收斂、身足二以休食一。〔荀子、榮辱〕收斂蓄藏。〔陸游、蕎麥初熟刈者滿レ野喜而有レ作詩〕霜晴收斂少レ在レ城、餠餌今冬不レ憂レ窄。❷租稅をとりたてる。〔禮、月令〕孟秋之月、云云、命二百官一始收斂。〔注〕順二秋氣一、收二斂物一。〔墨子、尙賢中〕收二斂關市山林澤梁之利一、以實二官府一。❸物を取り收める。〔論衡、効力〕蕭何所三以能使二樊・酈一者、以三入レ秦收二斂文書一也。❹收殮(245)に同じ。〔漢書、宣帝紀〕使レ得三收斂送レ終、盡二其子道一。❺集めひきしめる。收縮させる。❻光線の束が一點に集まること。集束。

【收斂劑】244シウレンザイ 粘膜や創面等に作用して、局部の血管を收縮させる藥。

【收殮】245シウレン 死人を棺にをさめること。納棺する。〔桃花扇、閒話〕買レ棺收殮、獨自一箇戴レ孝守レ靈。〔福惠全書、刑名部、問擬〕意在下官斷二葬埋一、爲中收殮計上耳。

【收錄】246シウロク 取り集めて記錄する。〔後漢書、侯霸傳〕時無二故典一、朝廷又少二舊臣一、霸明二習故事一、收二錄遺文一、條下奏前世善政法度、有レ益二於時一者上。

【收賄】247シウワイ 賄賂をとる。

【收賄罪】248シウワイザイ 官公吏が其の職務上に關して、他人の請託を受け、其の賄賂をとりいれた罪。

【收儀簿】249シウギボ 受取帳。〔福惠全書、筮仕部、立號簿〕送賀禮、立二收儀簿一、註二明收璧一。

【收件人】252 shou^1 chien^4 jen^2 受取人。受信人。

【收卷官】253シウクワンクワン 科擧の試驗答案を保管する官吏。〔淸會典事例、禮部、貢擧、磨勘處分〕康熙七年題准、卷面籍貫不明、收卷官不レ行二詳查駁回一者、罰俸六月。

【收莊稼】254 shou^1 chuang^1 chia 作物を收穫する。

【收信的】255 shou^1 hsin^4 tê 信書受取人。

【收進價】256 shou^1 chin^4 chia^4 買値。

【收門生】257 shou^1 mên^2 shêng 門生を取立てる。弟子をとる。

【收話機】258 shou^1 hua^4 chi^1 電話の受話機。

【收元結果】259 shou^1 yüan^2 chieh^2 kuo^3 せんじつめれば。結局。

【收物之府】260シウブツノフ 物を收める所。四府(**3**－4682・・686)の❶㋑を見よ。

【收民之府】261シウミンノフ 人民を收める所。四府(**3**－4682・・686)の❶㋑を見よ。

【收不回來】262 shou^1 pu huei^2 lai 取返されない。

【收不住脚】263 shou^1 pu chu^4 chiao^3 足を止めることが出來ない。

【收臘脂油】264 shou^{1} la^{4} chih^{1} yu^{2} 十二月に豚油を壁上に掛け置くこと。かうすれば、來年蚊蠅を避け得られるといふ。天津地方の行事。

【攷】13111

カウ コウ 〔集韻〕苦浩切 ㄎㄠˇ kʻao^{3} 皓

小篆

❶たたく。うつ。〔說文〕攷、敂也、从レ攴丂聲。〔廣雅、釋詁三〕攷、擊也。❷かんがへる。〔周禮、夏官、大司馬〕以待レ攷而賞誅。〔注〕攷、謂三考二校其功一。❸考(9—28843)に通ず。〔說文通訓定聲〕攷、經傳通以レ考爲レ之、詩山有樞、弗レ鼓弗レ考。

【攷黜】1 カウチユツ 白虎通の篇名。

【攷古編】2 カウコヘン 書名。十卷。宋、程大昌撰。經義の異同を論じ、紀傳の誤謬を正したもの。其の目は、詩論十七條・正朔八條・象刑五條・三宅三俊三條・舜論禹論各一條・夫子論二條・中庸論四條・莊子論一條・雜說八十九條。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【攷古質疑】3 カウコシツギ 書名。六卷。宋、葉大慶撰。古書を引いて疏通考證したもの。〔武英殿聚珍版全書、第八十六・八十七冊〕・〔嘯園叢書、第五冊〕。

三畫

【𢻫】13112

シ 〔集韻〕商支切 支

小篆

ほどこす。しく。或は𢼊(5—13151)・敆(5—13150)に作り、通じて施(5—13629)に作る。〔說文〕𢻫、敷也、从レ攴也聲、讀與レ施同。〔集韻〕𢻫、或作二𢼊・敆一、通作レ施。

【攸】13113

㈠イウ ユ 〔集韻〕夷周切 ㄧㄡ yu^{1} 尤
㈡イウ ユ 〔集韻〕以九切 有
㈢シウ 〔漢書注〕音收

小篆

秦刻石文

㈠❶水のゆつたりと流れるさま。〔說文〕攸、行水也、从レ攴从二人・水省一。〔段注〕唐本作二水行攸攸也一、按、當レ作二行水攸攸也一、行水順二其性一、則安流攸攸而入二於海一。❷ところ。所の字と略〻同じに使用される助辭。一說に、由(7—21724)・以(1—388)・用(7—21703)・从(1—362)に通じ、もつてと訓じて以の字と同じに使用される。〔爾雅、釋言〕攸、所也。〔經傳釋詞、一〕廣雅曰、由・以、用也、由・以・用、一聲之轉、而語詞之用亦然、字或作レ猶、或作レ攸、其義一也、說レ經者、見二猶字一則釋レ之爲レ尚、見二攸字一則釋レ之爲レ所、皆望レ文生レ訓、而非二其本指一。〔易、坤〕君子有レ攸レ往。〔釋文〕攸、所也。〔書、大禹謨〕嘉言罔レ攸レ伏。〔傳〕攸、所也。〔詩、大雅、旱麓〕福祿攸レ降。〔箋〕攸、所也。❸はるか。遠い。悠(4—10681)に通ず。〔說文通訓定聲〕攸、叚借爲レ悠、左氏昭十二、湫乎攸乎。〔張表碑〕令德攸兮。❹をさめる。修(1—721)に通ず。〔說文通訓定聲〕攸、叚借爲レ修。〔婁壽碑〕不レ攸二廉隅一。❺のびやか。やはらぐ。わらふさま。逌(11—38872)に通ず。〔說文通訓定聲〕攸、叚借爲レ逌。〔正字通〕攸、自得貌、孟子、攸然而逝。〔漢書、敍傳上〕主人逌爾而咲、〔注〕師古曰、逌、古攸字也、攸、咲貌也。❻はやい。鋚(10—37550)に通ず。〔說文通訓定聲〕攸、叚借爲レ鋚。〔孟子、萬章上〕攸然而逝。〔注〕攸然、迅走レ水趣二深處一也。❼或は汥(6—17170)・攸(1—689)に作り、古は泅(6—17270)に作る。〔說文〕攸、汥、秦刻石嶧山文、攸字如レ此。〔集韻〕攸、秦刻石嶧山文作レ汥、或作レ攸、古作レ泅。❽姓。〔姓氏急就篇〕北燕有二攸邁一。㈡❶危ふげにかかつてゐるさま。〔集韻〕攸、懸危皃。〔左氏、昭、十二〕湫乎攸乎。〔注〕攸、懸危之貌。❷うれへるさま。〔左氏、昭、十二〕恤恤乎、湫乎攸乎。〔洪亮吉左傳詁〕案、湫・攸與レ愁同音、亦卽恤恤之義。❸ところ。㈠の❷に同じ。〔集韻〕攸、一曰、所也。㈢縣名。攸縣(5)を見よ。

解字 會意。攴(たたいて注意する)と人と水との合字。說文に水の省文といふは、水を丨としたからであらう。人に注意を加へて水中を游行せしめる義。水中をゆつたり行く意。〔說文通訓定聲〕按、安行得レ所之意。

【攸攸】1 イウイウ ❶遠いさま。悠悠。〔漢書、敍傳下〕攸攸外寓、閩越東甌。〔注〕師古曰、攸攸、遠貌。〔王先謙補注〕王念孫曰、劉逵吳都賦注、引レ此作二悠悠一。❷思ひの深いさま。悠悠。〔太平御覽、服章、佩〕詩曰、青青子佩、攸攸我思。

【攸遠】2 イウエン はるかに遠い。悠遠。〔新書、耳痺〕天之誅罰、不レ可レ爲二廣虛幽閒攸遠無一レ人。

【攸久】3 イウキウ 永く久しい。悠久。

【攸關】4 yu^{1} kuan^{1} 關係するところ。

【攸縣】5 シウケン 縣名。漢、置く。後漢・晉、之に因り、唐・明、復た置く。湖南省茶陵縣の西北。〔漢書、地理志下〕長沙國、縣十三、攸。〔注〕音收。〔讀史方輿紀要、湖廣、長沙府〕攸縣、漢縣、屬二長沙國一、以レ水爲レ名、後漢屬二長沙郡一、晉梁因レ之、云云、唐武四年、復置二攸縣一、兼二置南雲州一。〔淸史稿、地理志〕湖南、長沙府、縣十一、攸。

【攸乎】6 イウコ あやふげにかかつてゐるさま。〔左氏、昭、十二〕恤恤乎、湫乎攸乎。〔注〕攸、懸危之貌。

【攸爾】7 イウジ わらふさま。〔漢書、敍傳上〕主人逌爾而咲。〔注〕師古曰、逌、古攸字也、攸、咲貌也。

【攸然】8 イウゼン はやく行くさま。鋚然。又、ゆつたりと自得するさま。悠然。〔孟子、萬章上〕反命曰、始舍レ之圉圉焉、少則洋洋焉、攸然而逝。〔注〕攸然、迅走レ水趣二深處一也。〔集注〕攸然而逝者、自得而遠去也。

【攸屬】9 イウゾク つき從ふ。〔陳書、高祖紀上〕王公卿尹、莫レ不二攸屬一。

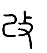
【攸女】10 イウヂヨ 禹が娶つた女の名。〔連山易〕禹娶二塗山之子一、名曰二攸女一。

【攸陵子】11 イウリヨウシ 明、張鳳翔(4—9812‥1515)の號。

【攸哈剌拔都】12 ユハラバト 元、渤海の人。初名は興哥。騎射を善くす。木華黎に降る。後、太祖、哈剌拔都の名を賜ひ、都元帥に累官し、太原の鎭となり、尋いで武仙の兵至り、戰つて死す。〔元史、一百九十三〕。

【改】13114

㈠カイ 〔集韻〕己亥切 ㄍㄞˇ kai^{3} 賄
㈡キ 〔集韻〕苟起切 紙


小篆

㈠❶あらためる。かへる。なほす。〔說文〕改、更也、从レ攴己聲。〔正字通〕改、革也。〔易、益〕有レ過則改。〔疏〕改、謂二改更懲止一。〔楚辭、離騷〕何不レ改二乎此度一也。〔注〕改、更也。〔張衡、東京賦〕春秋改レ節。〔注〕綜曰、改、易也。❷あらためて。〔詩、鄭風、緇衣〕敝予又改爲兮。〔傳〕改、更也。〔儀禮、鄕射禮〕改取二一介一挾レ之。〔注〕改、更也。❸あらたまる。かはる。〔國語、魯語下〕執政未レ改。〔注〕改、易也。❹姓。〔通志、氏族略、上聲〕改氏、秦有二大夫改產一。邦❶あらためる。檢察する。❷あらためる。吟味。とりしらべ。❸あらたまる。

容儀を正す。四角ばる。二一の❶に同じ。

名乘 アラ。

【改惡】1（カイアク） ❶惡い事を改め直す。〔禮、中庸、明則動動則變、注〕動、動二人心一也、變、改レ惡爲レ善也。❷改めることによつて反つて惡くすること。

【改移】2（カイイ） 移る。代へる。〔白居易、埇橋舊業詩〕改移新逕路、變換舊郛鄰。

【改意】3（カイイ） 心を改める。改心。〔司馬法、定爵〕容色積威、不レ過レ改レ意。〔後漢書、楊厚傳〕懼然改レ意、恩養加レ篤。

【改爲】4（カイヰ） あらためてつくる。つくりかへる。改作。〔詩、鄭風、緇衣〕緇衣之宜兮、敝予又改爲兮。〔李覯、袁州州學記〕陜隘不レ足二改爲一。

【改印】5（カイイン） 印形を改めかへること。

【改易】6（カイエキ） ❶とりかへる。〔漢書、何武傳〕哀帝亦欲三改二易大臣一、遂策レ免レ武。〔後漢書、耿弇傳〕輒改二易守・令一。〔魏志、文帝紀〕郡國縣邑、多レ所二改易一。❷かへる。變更する。改變。〔何晏、論語集解敍〕有二不レ安者一、頗爲二改易一。❸德川時代、士分に科した刑罰。家錄を沒收して士籍を除くこと。〔御定書百箇條〕一、改易、但家屋敷取上、家財無構。

【改捐】7（カイエン） 官吏が金を納めて更に上の官を買ふこと。〔清會典事例、吏部、除授〕捐升・改捐・降捐・正佐各官、仍發二原省一。

【改嫁】8（カイカ） 再嫁する。改醮。〔後漢書、列女、許升妻傳〕榮父積レ忿疾レ升、乃呼レ榮欲三改二嫁之一。

【改價】9（カイカ） ❶價格を改める。値段をかへる。〔六部成語注解〕從二折色定價之中一、從二新改價一、或加或減、謂二改折一。❷評判をよくする。名聲を高める。〔隋書、儒林、劉炫傳〕請羣公厚レ禮殊レ恩、增レ榮改レ價、其幸三也。

【改行】10（カイカウ） ❶行爲を改める。〔左氏、襄、五〕楚人討レ貳、而立二子囊一、必改レ行、而疾討レ陳。〔漢書、武帝紀〕刷レ恥改レ行。❷kai³ hang² 商賣をかへる。

【改更】11（カイカウ） 改めかへる。又、改まりかはる。〔禮、月令、其日庚辛、注〕庚之言、更也、云云、萬物皆肅然改更。〔楚辭、天問〕悟レ過改更、我又何言。〔漢書、孔光傳〕災異數見、以譴二告之一、欲二其改更一。

【改號】12（カイガウ） 名號を改める。〔春秋、僖、元、楚人伐レ鄭、杜注〕荆始改レ號曰レ楚也。〔北史、蠕蠕傳〕太武以三其無知狀類二于蟲一故、改二其號一爲二蠕蠕一。

【改革】13（カイカク） 改めかへる。又、改まりかはる。變更。改易。〔後漢書、黃瓊傳〕瓊復上言、覆試之作、將下以澄二洗清濁一、覆中實虛濫上、不レ宜二改革一。

【改合】14 kai³ hê² 適應させる。

【改刊】15（カイカン） 改正して出版する。〔福惠全書、錢穀部、催徵、查二實徵一〕尤必預爲二改刊一。

【改紀】16（カイキ） 改め正す。〔左氏、定、六〕於レ是乎遷二郢於鄀一、而改二紀其政一、以定二楚國一。

【改寄】17 kai³ chi⁴ 轉送する。

【改基】18（カイキ） 基址(土臺)を改めさだめる。〔六部成語、工部、改基、注解〕宮室基址、初定不レ和、又復改定也。

【改期】19 kai³ ch'i² 期日を改める。

【改琦】20（カイキ） 清、松江の人。字は伯蘊。香伯(香白)と號し、別に七薌・玉壺外史(玉壺山人・冰壺外史)とも號す。佛畫・人物畫に巧。畫室を乍村老屋といふ。〔清史稿、五百九〕・〔清畫家詩史、己、下〕・〔國朝書畫家筆錄、三〕。

【改機】21（カイキ） 絹布の名。ベンガラ國から製出したものといふ。寛文年中、甲斐の郡內の職工が始めて外邦の製品に倣つて織り出した。又、海氣とも書き、明治以後、甲斐絹とした。從來、無地物をいひ、縞物は特に郡內縞といふ。〔紅毛譯問答〕此織物、元はベンガラ國の出產なる故、定てかの國の語にて可レ有レ之候哉、唐土の書にも改機と有レ之候よし承及候。

【改舊】22（カイキウ） 舊習を改める。〔逸周書、謚法解〕好三更二改舊一曰レ易。〔魏書、獻文六王上、咸陽王禧傳〕宜應三改レ舊以成二日新之美一。〔周書、斛斯徵傳〕自二魏孝武西遷一、雅樂廢缺、徵博採二遺逸一、稽二諸典故一、創レ新改レ舊、方始備焉。

【改居】23（カイキヨ） 軀をうごかす。又、居場所を移す。〔儀禮、士相見禮〕凡侍二坐於君子一、君子欠伸、問二日之蚤晏一、以二食具一告、改レ居則請レ退可也。〔注〕改レ居、謂二自變動一也。

【改玉】24（カイギヨク） 佩玉を變へる。禮を改める意にいふ。改步(139)を見よ。〔左氏、定、五〕季平子行二東野一、還未レ至、丙申、卒二于房一、陽虎將下以二璵璠一斂上、仲梁懷弗レ與曰、改レ步改レ玉。〔會箋〕公侯佩二山玄玉一、丈夫佩二水蒼玉一、是君臣玉不レ同也、周語、晉文公請レ隧、王弗レ許、曰、先民有レ言、曰、改レ玉改レ行、韋昭云、玉、佩玉、所三以節二行步一也、君臣尊卑、遲速有レ節、言下服二其服一則行中其禮上、晉侯尚在二臣位一、不レ宜レ有レ隧也、今仲梁懷之言、亦此意、若レ曰下季孫人臣、未三改爲二君步一、則不上レ宜レ佩二君玉一矣、杜謂下季孫前レ此嘗佩二璵璠一祭中宗廟上、未二必然一也。〔南史、齊高帝紀〕或改レ玉以弘レ風、或胙レ土以宣レ化。

【改化】25（カイクワ） 舊惡を改めて新善に從ふ。又、改まり感化せられる。〔史記、秦始皇紀〕黔首改レ化、遠邇同レ度。

【改火】26（カイクワ） 四時によつて火を取る木を變へること。春は楡柳、夏は棗杏、季夏は桑柘、秋は柞楢、冬は槐檀を用ひる。〔論語、陽貨〕舊穀既沒、新穀既升、鑽レ燧改レ火、斯可レ已矣。〔集解〕馬曰、周書月令有二更レ火之文一、春取二楡柳之火一、夏取二棗杏之火一、季夏取二桑柘之火一、秋取二柞楢之火一、冬取二槐檀之火一、一年之中、鑽レ火各異レ木、故曰レ改レ火也。〔北史、王劭傳〕劭以下上古有二鑽レ燧改レ火之義一、近代廢絕上、於レ是上表請レ變レ火。〔徐頲、改火解〕改レ火之典、昉二於上古一、行二於三代一、迄二於漢一、廢二於魏晉以後一、復二於隋一而仍廢、蓋四時之火、各有レ所レ宜、若下春用二楡柳一、至レ夏仍用中楡柳上便有レ毒、人易二以生一レ疾、故須三改レ火以去二茲毒一、卽所二以救一レ疾也。

【改科】27（カイクワ） 法律の箇條を變更する。〔晉書、刑法志〕改二投書棄市之科一。

【改過】28（カイクワ） あやまちを改める。改心する。〔書、仲虺之誥〕用レ人惟己、改レ過不レ吝。〔論語、學而〕過則勿レ憚レ改。〔晏子、重而異者〕晏子對曰、臣請、改レ道易レ行、而治二東阿一。〔漢書、刑法志〕雖三後欲二改レ過自新一、其道亡レ繇也。

【改過齋】29（カイクワサイ） 字號。❶明、袁凱(**10－34152**··15)の號。❷清、張師載(**4－9812**··1124)の號。

【改畫】30（カイグワ） 改めゑがく。〔虞世南、怨歌行〕掖庭羞二改畫一、長門不レ惜レ金。

【改悔】31（カイクワイ） 悔い改める。後悔して考を變へる。〔戰國、燕策〕荆軻有レ所レ待、欲二與倶一、其人居遠未レ來、而爲留待、頃之未レ發、太子遲レ之、疑三其有二改悔一。〔論衡、率性〕蹶然起坐、心覺二改悔一。

【改換】32（カイクワン） かへる。又、かはる。易換。更換。〔魏收、爲二東魏一檄レ梁文〕政荒民流、禮崩樂壞、改二換朝章一。〔孔穎達、周易正義序、第一論二易之三名一〕易者、變化之總名、改換之殊稱。〔白居易、曲江感レ秋詩〕銷二沉昔意氣一、改二換舊容質一。

【改館】33（カイクワン） 改めて宿舍を與へる。宿舍をかへる。〔左氏、僖、十五〕改二館晉侯一、饋二七牢一焉。〔郝經、冬至後在二儀眞館一賦レ詩以贈二三伴使一詩〕一自レ入二儀眞一、改レ館七牢美。

【改觀】34（カイクワン） ❶樣子をかへる。面目を一新する。〔後漢書、王暢傳〕拜二南陽太守一、云云、下レ車奮二厲威猛一、其豪黨有二釁穢一者、莫レ不二糾發一、云云、功曹張敞奏記諫曰、五教在レ寬、著二之經典一、云云、以二明府上智之才、日月之曜一、敷二仁惠之政一、則海內改レ觀、云云、化レ人在レ德不レ在レ刑。❷見方をかへる。考をかへる。〔北夢瑣言〕朱溫盛レ禮郊迎、人士改レ觀。

【改稽】35（カイケイ） しらべ考へる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕有三折レ封對レ號、流水查擦、改二稽總撒一。

【改月】36 kai³ yüeh⁴ 月を越えること。翌月。

【改業】37（カイゲフ） 職業をかへる。〔白居易、分二司洛中一多レ暇數與二諸客一宴遊醉後狂吟偶成二十韻一因招二夢得賓客一兼呈二思黯奇章公一詩〕改レ業爲二逋客一、移レ家住二醉鄉一。〔通俗編、藝術、改業〕廣川畫跋、相傳、吳道子畫二地獄變相一、時京師屠酤漁罟之輩、見者皆懼レ罪改レ業。

【改建】38（カイケン） 改めたてる。〔息軒遺稿、錦山神祠「改建記」〕。

【改憲】39（カイケン） おきてをかへ改める。〔王融、永明九年策二秀才一文〕改レ憲勅レ法、審二刑德之原一。

【改元】40（カイゲン） 改めて元年をたてる。年號を改める。改元の制は、魏の惠王が三十六年を改めて元年と爲し、秦の惠文王が十四年を更めて元年とした中途改元に始まる。尋いで漢の武帝、建元して始めて年號をたて、其の後、天瑞に因つて屢〻改元し、皆年號を置く。歷朝之に仍り、其の甚だしきは一年に四度、一帝にして十餘度改

元したが、明・清兩朝に至り、始めて一世一元とした。〔春秋、隱、元、春王正月、疏〕天子之封㆓諸侯㆒也、割㆓其土壤㆒、分㆓之臣民㆒、使㆔之專爲㆓己有㆒、故諸侯於㆓其封內㆒、各得㆑改㆑元。〔漢書、天文志〕其六月甲子夏、賀良等建言、當㆔改㆑元易㆑號增㆓漏刻㆒。〔後漢書、和帝紀〕夏四月庚午、大㆓赦天下㆒、改㆓元元興㆒。〔文中子、問易〕子曰、改㆑元立㆑號、非㆑古也。〔事物紀原、朝廷注措部、改元〕史記秦本紀曰、惠文王十四年更爲㆓元年㆒、又六國表云、初更㆓元年㆒也、檢自㆓歷代㆒、人君卽㆑位爲㆓元年㆒、中閒無㆓改元之制㆒、至㆓秦惠王㆒、乃始有㆑之、漢興多因㆓秦故㆒、故文帝因㆑之、亦有㆓中元・後元之改㆒、迄㆑今以爲㆑常、故改元之始、由㆓秦惠王㆒也。〔陔餘叢考、改元〕歐陽公云、年號以㆑一爲㆑元、亦未㆓嘗有㆒法、蓋古人之語爾、古謂、歲之一月不㆑曰㆓一月㆒、而云㆓正月㆒、國語、六呂曰㆓元閒太呂㆒、周易、六爻曰㆓初九㆒、大抵古人言㆑數、多不㆑云㆑一、不㆓獨年號㆒也、後世始以㆔孔子書㆓元年㆒爲㆓春秋大法㆒、遂以㆓改元㆒爲㆓重事㆒、漢以後、又名㆑年以㆑建㆑元而稱㆑號、遂多不㆑勝㆓其紀㆒也、按、歐公此說亦臆度之詞、古人最重者元、漢律歷志云、歷始曰㆑元、傳曰、元者、善之長也、又曰、元、體之長也、三統合㆓於一元㆒、古人所謂元祀・元年、蓋取㆓諸此㆒、董仲舒亦曰、春秋謂㆓一元㆒之意、萬物所㆓從始㆒也、元者、辭之謂㆑大也、謂㆑一爲㆑元者、視㆓大始㆒而欲㆑正㆑本也、是建元爲㆓重事㆒、由來久矣、古者天子諸侯皆終身一元年、無㆓所謂改元者㆒、史記、秦惠文王十四年、更爲㆓元年㆒、此實後世改元之始、漢文帝因㆓新垣平之言㆒、亦以㆓十六年㆒爲㆓後元年㆒、景帝又有㆓中元年・後元年之改㆒、至㆓武帝㆒而改元十餘、次後人但知㆘改元自㆓武帝㆒始㆖、則以㆘武帝有㆓年號㆒人所㆗共見㆖、而不㆑知㆓改元實非㆑始㆓於漢武㆒也、歷代以來、又有㆘不㆑應㆓建元㆒而卽有㆓年號㆒者㆖、如㆘劉淵稱㆓漢王㆒、卽建㆓元元熙㆒、僭㆓帝位㆒、又改㆓永鳳㆒、石勒稱㆓趙王㆒、卽建㆓元太和㆒、潛㆓帝位㆒、又改㆓建平㆒、呂光據㆓姑臧㆒、建㆓元太安㆒、稱㆓三河王㆒、又改㆓麟嘉㆒、稱㆓天王㆒、又改㆗龍飛㆖、以及㆓諸潛僞國㆒、如㆓乞伏沮渠禿髮之類㆒、雖㆑不㆑稱㆑帝、而各有㆓年號㆒、是也、又有㆘不㆑改㆓年號㆒而但改元者㆖、如㆘光武帝仍㆓建武之號㆒、而改爲㆓中元年㆒、梁武帝仍㆓大進之號㆒、而改爲㆗中大通元年㆖是也、有㆔一歲而兩㆓改元㆒者㆒、漢中平六年、獻帝卽位、改㆓元光熹㆒、張讓・段珪誅後、改㆓元昭寧㆒、董卓輔㆑政、改㆓元永漢㆒、此一歲四號也、晉惠帝太安二年、長沙王乂事敗、成都王穎改㆓元永安㆒、河閒王顒得㆑政、又改㆓元永興㆒、魏孝明帝、武泰元年崩、孝莊帝立、卽改㆓元建義㆒、又改㆓元永安㆒、宋廢帝子業卽位之次年、改㆓元永光㆒、又改㆓元景和㆒、唐中宗嗣聖元年、武后既廢立、改㆓元文明㆒、九月又改㆓元光宅㆒、垂拱五年春、改㆓元永昌㆒、十一月又改㆓元載初㆒、天授三年夏四月、改㆓元如意㆒、秋九月又改㆓元長壽㆒、及㆓長壽三年夏五月㆒、改㆓元延載㆒、十一月又改㆓元證聖㆒、其明年九月、改㆓元天冊萬歲㆒、十二月又改㆓萬歲登封㆒、其明年四月、改㆓元神功㆒、十一月又改㆓元聖歷㆒、又四年改㆓元大足㆒、十月改㆓元長安㆒、及㆓金哀宗正大九年㆒、既改㆓開興㆒、又改㆓天興㆒、明萬歷四十八年、神宗崩、光宗立、一月崩、熹宗立、從㆓左光斗議㆒、以㆓今年八月以前㆒、仍爲㆓萬歷㆒、八月以後爲㆓泰昌㆒、明年爲㆓天啓㆒、是皆一歲兩㆓號也、有㆘不㆑應㆓改元㆒而卽改者㆖、蜀先主卒、子禪嗣未㆑逾㆑月、卽改㆓元建興㆒、吳孫亮・晉惠帝・宋元凶劭亦然、宋書五行志謂、數君皆不㆑終㆓其位㆒、是也、有㆘應㆓改元㆒而不㆑改者㆖、人君卽位逾㆑年卽改㆑元、而梁末帝・晉出帝・劉承鈞皆踰㆑年不㆑改㆑元、又明年始改、孟昶卽位五年始改、金熙宗卽位亦二年始改、唐哀帝・漢隱帝・周世宗皆用㆓先世年號㆒終身不㆑改、哀帝・隱帝皆年少且迫㆓於權臣㆒、故不㆑暇、及㆓世宗㆒、何以亦因循如㆑此、豈以㆔周太祖甫改元卽崩、顯德之號、初未㆓嘗用㆒、遂襲以紀㆑年耶、又有㆓年號犯㆑諱而不㆑改者㆒、梁末帝名友貞、而年號貞明、漢隱帝名承祐、而年號乾祐、夏主仁孝之父名乾順、而仁孝亦改㆓元乾祐㆒、擧朝之人、不㆑聞㆓議及㆒、何也。〔國史略、元正天皇〕帝在位九年、改㆑元者二、曰靈龜、曰養老。

【改弦】 41 カイゲン 弦樂器の弦を取り變へる。法度を變改する喩。改絃。改弦更張を見よ。〔吳志、孫休傳評〕不㆑能㆘拔㆓進良才㆒、改㆑絃易張㆖、雖㆓志好善學㆒、何益㆑救㆑亂乎。〔隋書、循吏、梁彥光傳〕改㆑絃易㆑調、庶有㆔以變㆓其風俗㆒。

【改弦易轍】 42 カイゲンエキテツ 弦樂器の調子を改め、車輪の幅をかへる。法度を變改する喩。改弦・易轍(**5**-**13814**・・140)を見よ。

〔改弦更張〕 43 カイゲンカウチヤウ 弦樂器の調子を變へるために弦を更め張る。法度を變改する喩。改弦を見よ。〔董仲舒、元光元年擧賢良對策〕竊譬㆘之琴瑟不㆑調、甚者必解而更㆓張之㆒、乃可㆖鼓也。〔宋書、樂志四〕琴瑟時未㆑調、改㆑弦當㆓更張㆒、矧乃治㆓天下㆒、此要安可㆑忘。

【改悟】 44 カイゴ 改寤に同じ。

【改寤】 45 カイゴ 惡を悔い改める。今までの惡をさとつて行を改めること。〔漢書、五行志下之下〕天之視㆑人顯矣、史之有㆑占明矣、時君終不㆓改寤㆒。〔魏志、公孫淵傳、注〕若不㆔改寤計㆑功、減降當㆑在㆓八議㆒。

【改口】 46 kai^{2} k'ou^{3} 話をかへる。

【改構】 47 カイコウ 家屋などを改めかまへる。改築する。〔陳書、阮卓傳〕改㆓構亭宇㆒、脩㆓山池卉木㆒。〔南史、何敬容傳〕我始欲㆓改構㆒、遂遭㆓天火㆒。

【改差】 48 カイサ 別人を派遣する。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕止拿㆓原差㆒、不㆔必改差、以滋㆓騷擾㆒。

【改歲】 49 カイサイ 改まつた年。新年。夏正は建寅の月、殷正は建丑の月、周正は建子の月を以て夫夫正月とする。從つて周の正月は夏の十一月に當る。改春。改曆。〔詩、豳風、七月〕十月蟋蟀、入㆓我牀下㆒、穹窒熏㆑鼠、塞㆑向墐㆑戶、嗟我婦子、曰爲㆓改歲㆒、入㆓此室㆒處。〔箋〕爲㆓改歲㆒者、歲終而一之日觱發、二之日栗烈、當㆚避㆓寒氣㆒、而入㆘所㆓穹窒墐㆑戶之室㆖而居㆙之、至㆑此而女功止。〔集傳〕東萊呂氏曰、十月而曰㆓改歲㆒、三正之通㆓於民俗㆒尙矣、周特擧而迭用㆑之耳。〔陳奐傳疏〕改歲、更㆓一歲㆒也、周建子、以㆓十一月㆒爲㆓歲始㆒。

【改葬】 50 カイサウ 改め葬る。〔左氏、隱、元〕改㆓葬惠公㆒。〔漢書、外戚、定陶丁姬傳〕禮有㆓改葬㆒。〔後漢書、公孫述傳〕以㆑禮改㆓葬之㆒。〔白居易、唐故虢州刺史贈禮部尙書崔公墓誌銘序〕山東士人、皆改㆓葬兩京㆒。〔陔餘叢考、改葬〕中庸、武王末受㆑命、追㆓王太王・王季㆒、疏云、武王追㆓王周公㆒、又改葬以㆓王禮㆒。

【改裝】 51 カイサウ ㊀よそほひを改める。〔後漢書、文苑下、禰衡傳〕鼓史何不㆑改㆑裝、而輕敢進乎。㊁裝備を改める。㊂kai^{3} chuang^{1} 包裝を改める。

【改操】 52 カイサウ ㊀操を變へる。〔易、困、困亨、疏〕困者窮厄委頓之名、云云、君子遇㆑之、則不㆑改㆓其操㆒。㊁惡行を改める。〔後漢書、孔奮傳〕拜爲㆓武都太守㆒、奮自㆑爲㆓府丞㆒、已見㆓敬重㆒、及㆑拜㆓太守㆒、擧郡莫㆑不㆑改㆑操。

【改造】 53 カイザウ ㊀改めてえらぶ。〔荀子、議兵〕是數年而衰、而未㆑可㆑奪也、改造則不㆑易㆑周也。〔注〕改造、更選擇也。㊁改めつくる。改作。〔詩、鄭風、緇衣〕緇衣之好兮、敝予又改造兮。㊂改めて作る。〔宋史、律歷志十四〕願詔得㆔一改㆓造新歷㆒。

【改作】 54 カイサク ㊀あらためつくる。つくりかへ。〔詩、鄭風、緇衣〕緇衣之蓆兮、敝予又改作兮。〔論語、先進〕魯人爲㆓長府㆒、閔子騫曰、云云、何必改作。〔史記、匈奴傳〕聖人者日新改作更始。〔漢書、食貨志上〕君子爲㆑政、貴㆓因循㆒而重㆓改作㆒。㊁江戶時代の加賀藩の土地整理法。〔舊加賀藩田地割制度〕。

【改削】 55 kai^{3} hsiao^{1} 文章などを改め削る。

【改策】 56 カイサク 改めて討つ。〔陸機、漢高祖功臣頌〕改㆓策西秦㆒、報㆓辱北冀㆒。

【改札】 57 カイサツ 切符をしらべる。

〔改札口〕 58 カイサツグチ 切符をしらべる所。

【改煞】 59 カイサツ 濫りに法文其の他の公文を書き改めて立法の本意に背くこと。煞は殺の俗字。〔福惠全書、刑名部、問擬〕不㆑可㆓因而拂㆑意、遂竟改煞、致㆑負㆘造㆓浮圖㆒初念㆖耳。

【改山】 60 カイサン 清、王晟(**7**-**20823**・・662)の字。

【改刪】 61 カイサン 改竄に同じ。

【改竄】 62 カイザン 文字・語句などをあらためなほす。竄は易。改刪。〔晉書、阮籍傳〕無㆑所㆓改竄㆒、辭甚清壯。〔楓窓小牘〕歐陽公樊侯廟災記眞藁、舊存㆓余家㆒、其中改㆓竄數處㆒。

【改之】 63 カイシ 字號。㊀宋、劉過(**2**-**2224**・・203)の字。㊁清、姚世錸(**3**-**6202**・・174)の字。㊂清、陶貞一(**11**-**41705**・・217)の字。

【改氏】 64 カイシ 氏を變へる。〔通志、氏族略、改氏〕嬀氏、改爲㆓姚氏㆒。

【改修】 65 カイシウ なほす。〔後漢書、循吏、王景傳〕河決積㆑久、日月侵毀、濟渠所㆑漂、數十許縣、修理

之費、其功不レ難、宜下改二脩堤防一以安中百姓上。〔晉書、宗室、高陽王睦傳〕退靜思レ愆、改二修其德一。

【改式】66 kai^{3} shih^{4}　形式を變へる。樣式を變へる。

【改日】67 kai^{3} jih^{4}　他日。後日。〔更する。

【改常】68 カイジャウ　平生の狀態を改め變へる。〔輟耕錄、改常〕今人謂下易二其所レ守者上曰二改常一。北夢瑣言、左軍容使嚴遵美、閹官中仁人也、嘗一日發狂、手足舞蹈、傍有二一猫一犬一、猫忽謂レ犬曰、軍容改レ常也。

【改宗】69 カイシュウ　宗教をかへる。歸依信仰した宗教を捨てて他の宗教に入ること。

【改聚】70 カイシュウ　更にあつめる。〔孟子、公孫丑上〕地不二改辟一矣、民不二改聚一矣、行二仁政一而王、莫二之能禦一也。

【改春】71 カイシュン　新年。

【改悛】72 カイシュン　前非を悔いあらためる。改痞。

【改潤】73 kai^{3} juen^{4}　文章などを添削する。又、一般に、直すの意。

【改書】74 カイショ　古書を改訂する。〔日知錄、藝文、改書〕東坡志林曰、近世人輕以レ意改レ書、鄙淺之人、好惡多同、故從而和レ之者衆、遂使三古書日就二訛舛一、深可二忿疾一、孔子曰、吾猶及二史之闕文一也、自二予少時一、見三前輩皆不二敢輕改ロ書、故蜀本大字書、皆善本。

【改稱】75 カイショウ　稱呼を變へる。改め稱する。又、改めた稱呼。

【改色】76 カイショク　いろを變へる。〔古詩三首、其二〕芳菲不二相投一、青黃忽改レ色。〔劉孝綽、陪二徐僕射晩宴一詩〕景移林改レ色、風去水餘レ波。〔李德林、詠二松樹一詩〕歲寒無レ改レ色、年長有二倒枝一。

【改植】77 カイショク　植ゑかへる。又、改めて植ゑる。〔魏書、李安世傳〕廬井荒毀、桑榆改植。

【改職】78 カイショク　官職を改める。〔漢書、食貨志上〕分二裂州郡一、改レ職作レ官。

【改心】79 カイシン　心を改める。心を入れかへる。又、其のこと。〔宋史紀事本末、二十八〕國亡、丞相忠孝盡矣、能改レ心、以二事レ宋者一事レ今、將レ不レ失レ爲二宰相一也。〔先哲叢談、伊藤仁齋〕遂皆改レ心自勵云。

【改進】80 カイシン　❶事物の改まり進むこと。❷舊弊を改革して進歩を圖ること。

【改進黨】81 カイシンタウ　政黨の名。明治十四年、大隈重信が首唱して結黨したもの。立憲改進黨の略稱。自由黨(9—30095··21)の對。

【改新】82 カイシン　❶改めあたらしくすること。❷年のはじめ。

【改井】83 カイセイ　井戸を改める。井戸の性質を變へる。〔易、井〕井、改レ邑不レ改レ井、无レ喪无レ得、往來井井。〔疏〕井者、物象之名也、古者穿レ地取レ水、以レ瓶引汲、謂レ之爲レ井、云云、改レ邑不レ改レ井者、以四下明三井有二常德一、此明三井體有二常邑一、雖二遷移一而井體无レ改。

【改正】84 カイセイ　❶改め正す。更生。〔漢書、谷永傳〕無レ所二改正一。〔後漢書、皇后紀序〕改二正后妃之制一。〔南史、梁武帝諸子、昭明太子統傳〕太子明二於庶事一、每レ所レ奏謬誤巧妄、皆卽辯析、示二其可否一、徐令二改正一、未三常彈二糾一人一。〔六部成語、兵部、改正、注解〕軍營諸事、或有二錯誤之處一、應二卽改正一。❷正朔を改める。〔禮、大傳、改二正朔一易二朝服一、疏〕周子、殷丑、夏寅、是改正也、周夜半、殷雞鳴、夏平旦、是易朔也。❸歲が卯酉にあるをいふ。午亥の歲を革命とするに對する語。〔詩、大序、是謂二四始一詩之至也、疏〕汎歷樞云、午亥之際爲二革命一、卯酉之際爲二改正一。

【改制】85 カイセイ　制度を改める。〔漢書、律歷志上〕自二殷周皆創レ業改ロ制、咸正二歷紀一、服色從レ之。〔白虎通、封禪〕始受レ命之時、改レ制應レ天。〔風俗通、山澤、五嶽〕王者受レ命、易レ姓改レ制。

【改姓】86 カイセイ　姓をかへる。〔瑯琊代醉編、改姓〕漢元帝名奭、以二奭氏一爲二盛氏一。

【改製】87 カイセイ　改めつくる。〔國史略、文武天皇〕改二製官位名號一、停レ賜二位冠一、易以二位冠一。

【改照】88 カイセウ　❶光を改める。面目を一新するにいふ。〔南齊書、高帝紀上〕舊物維新、三光改レ照。〔王勃、益州夫子廟碑〕託二鹽梅于異代一、鼎路生レ光、寄二舟楫于同時一、泉塗改レ照。❷kai^{3} chao^{4} 云云の通りに改める。

【改醮】89 カイセウ　改めて嫁ぐ。改嫁。再婚。再醮。再嫁。再緣。醮は、祝言の杯。〔晉書、李密傳〕父早亡、母何氏改醮。

【改析】90 カイセキ　分割しなほす。〔國朝漢學師承記、王昶〕府州縣增置改析者多。

【改折】91 カイセツ　漕米を其の價に照し銀に替へて徵收した定價の中から改定の價に從つて加減する銀兩をいふ。〔淸會典事例、戶部、漕運〕內二灰石改折、分灑帶運。〔六部成語、戶部、改折銀、注解〕從二折色定價之中一、從二新改價一、或加或減、謂二之改折一。

【改節】92 カイセツ　みさをを改める。節操をかへる。〔魏志、王烈傳〕徒欲二懷安一、必肆二其志一、不レ惟四古人亦有三翻然改レ節以隆二斯民一乎。

【改撰】93 カイセン　改めて撰述する。〔舊唐書、武宗紀〕故復請三改二撰實錄一。

【改選】94 カイセン　議員や役員の任期が滿ちた時などに、改めて選擧すること。

【改善】95 カイゼン　惡いところを改めて善くする。〔兩般秋雨盦隨筆、種痘〕今西洋夷醫咇哈、改二善種痘法一。

【改組】96 カイソ　組織を變へる。

【改錯】97 カイソ　あらためおく。〔楚辭、離騷〕固時俗之工巧兮、偭二規矩一而改錯。

【改增】98 カイゾウ　改め增す。〔國史略、天智天皇〕三年命二皇太弟大海人一、改二增冠位一。

【改塞】99 カイソク　塞ぎなほす。修繕する。〔福惠全書、蒞任部、到衙門〕有二迎レ外不レ謹之處一、傳二工房一改塞。

【改俗】100 カイゾク　惡い習俗を改める。〔東觀漢記〕鄧訓拜二張掖太守一、以レ身率レ下、河西改レ俗。

【改兌】101 カイダ　漕米を銀に換へて發送する類。〔六部成語、戶部、改兌、注解〕應レ兌二漕米一、或臨時改二兌銀兩一之類。

【改替】102 カイタイ　改めかへる。

【改題】103 カイダイ　❶題本を改める。題本は、公事に關する上奏文。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄、有司決囚〕儻有二強行比附一、率レ意改レ題爲レ奏。❷題目をかへる。又、其の題目。

【改堂】104 カイダウ　淸、唐紹祖(2—3709··468)の號。

【改道】105 カイダウ　道を改める。行を改める。制度を改める。〔白虎通、三正〕王者受レ命而起、或有二所レ不レ改者一、何也、王者有二改レ道之文一、無二改レ道之實一、如君南面、臣北面、皮弁素積、聲味不レ可レ變、哀戚不レ可レ改、百王不レ易之道也。

【改奪】106 カイダツ　變改することと取上げること。〔晉書、荀勖傳〕若造次改奪、恐不レ能レ不二以爲ロ恨。

【改置】107 カイチ　あらためおく。〔國語、晉語三〕二三子、其改置以代レ圉也。〔周書、武帝紀下〕〔建德四年〕改二置宿衞官員一。

【改鑄】108 カイチウ　あらためている。いなほす。〔後漢書、劉陶傳〕人以二貨輕錢薄一、故致二貧困一、宜三改二鑄大錢一。〔北史、高道穆傳〕百姓之業、錢貨爲レ本、救レ弊改鑄、王政所レ先。

【改築】109 カイチク　家などを建てなほす。〔公羊、莊、元〕其築レ之、何以禮、主二王姬一者、必爲レ之改築。〔列子、周穆王〕穆王乃爲レ之改築。〔史記、燕世家〕昭王爲レ隗改二築宮一、而師二事之一。〔漢書、孔光傳〕卽議以爲、定陶太后宜二改築ロ宮。

【改張】110 カイチャウ　琴の調子をかへるために、弦を改め張ること。轉じて、法度を變改する喩。更張。〔文心雕龍、聲律〕今操レ琴不レ調、必知二改張一、摛レ文乖レ張、而不レ識レ所レ調、云云、其故何哉、良由レ內聽難レ爲レ聽也。〔資治通鑑、唐紀〕〔穆宗、長慶二年〕若不二改張一、必無レ所レ望。〔注〕改張、猶二更張一也、董仲舒曰、譬如二琴瑟不レ調、必改レ絃而更張レ之、乃可ロ鼓也。

【改聽】111 カイチャウ　改めてよくきく。〔晉書、文苑、成公綏傳〕鍾期棄レ琴而改聽、尼父忘レ味而不レ食。

【改除】112 カイヂョ　人員淘汰や官廳の改廢等に因り官名を改めて官吏を別途に任用すること。〔淸律、名例、以レ理去レ官〕凡任滿得レ代、改除致仕等官、與二見官一同。〔注〕改除、如下沙汰裁革起送赴レ部、或改レ官、或改二衙門一、別項除用、尙未レ補レ官、或已補而未レ到レ任者上。

【改徵】113 カイチョウ　租稅として米麥を徵收する代りに、改めて銀を徵收すること。〔淸會典事例、戶部、田賦、歸轄改徵〕康熙十二年覆准、貴州錢糧、向係二府縣分徵一、並無二經徵督徵之異一、今以二貴陽・思南・鎭遠・銅仁・安順・都勻・平越七府所レ徵錢糧一、各歸二附郭之縣一經徵、知府止司二督徵之責一、俾二畫一遵行一。

【改定】114 カイテイ　改めさだめる。改める。〔漢書、賈誼傳贊〕及レ欲三改二定制度一、以レ漢爲二土德一、色上レ黃、數用レ五。〔魏志、王粲傳〕粲善屬レ文、擧レ筆便成、無レ所二改定一。〔曹植、與二楊德祖一書〕有レ不レ

善、應レ時改定。

【改亭】115カイテイ 字號。❶明、方鳳(5－13620‥420)の號。❷清、計東(10－35220‥69)の號。

【改訂】116カイテイ 改めただす。改め訂正する。

【改調】117カイテウ ❶音調を改める。調子をかへる。〔莊子、徐無鬼〕爲レ之調レ瑟、廢二一於堂一、廢二一於室一、鼓レ宮宮動、鼓レ角角動、音律同矣、夫或改二調一絃一、於二五音一無レ當也、鼓レ之二十五絃皆動、未三始異二於聲一、而音之君已。〔南齊書、高帝紀上〕笙管變レ聲、鐘石改レ調。〔王建、宮詞〕玉簫改レ調箏移レ柱、催換紅羅繡舞筵。〔蘇軾、定惠院顒師爲レ余竹下開二嘯軒一詩〕飲レ風蟬至潔、長吟不レ改レ調。❷轉任させる。〔清會典事例、內務府、升除、府屬司官〕其人不二甚相宜一、卽於二補授之後一、原可二酌量改調一、嗣後推二升揀選人員一、著仍論下其年久人去得二能辦レ事者上、揀選引見。

【改轍】118カイテツ 車の通路をかへる。轉じて、前の仕方を變改する喩。易轍。〔曹冏、六代論〕覩二前車之傾覆一、而不レ改二其轍迹一。〔曹植、贈二白馬王彪一詩〕中逵絕無レ軌、改レ轍登二高岡一。〔傅亮、感物賦〕瞻二前軌之既覆一、忘レ改二轍於後乘一。〔隋書、禮儀志序〕必有二人情一、將レ移二禮意一、殷周所二以異一レ軌、秦漢于レ焉改レ轍。

【改天】119 kai^3 tʻien^1 他日。

【改都】120カイト 都をうつす。遷都。〔左氏、襄、二十九〕使三工爲レ之歌二周南召南一、疏〕文王改二都于豐一。

【改塗】121カイト 通る道をかへる。やり方をかへる。改轍。〔抱朴子、廣譬〕雖三劫以二鋒鋭一、猶二不レ失レ正而改一レ塗焉。

【改圖】122カイト 計畫を變ずる。變計。〔左氏、哀、二〕郢不レ足三以辱二社稷一、君其改レ圖。

【改土】123カイド 土司を改める。改レ土歸レ流(3－4867‥498)を見よ。

【改任】124カイニン 現任者をやめ、他の者をして其の任にあたらせること。

【改年】125カイネン 年の初を變更する。改歲(49)を見よ。又、改まつた年。新年。改歲。〔史記、秦始皇紀〕改二年始一、朝賀皆自二十月朔一。〔漢書、陳湯傳〕改レ年垂レ歷、傳二之無窮一。〔太平廣記〕改年多レ感、敬想同レ之。

【改廢】126カイハイ 改めることとやめること。改正と廢止。〔孟子、盡心上〕大匠不下爲二拙工一改中廢繩墨上。

【改貌】127カイバウ 容貌をかへる。瘠せ衰へたりなどするにいふ。〔南齊書、劉悛傳〕悛初免レ喪、太祖欲レ使レ領二支軍一、召見二悛兄弟一、皆羸削改レ貌、於レ是乃止。

【改判】128カイハン ❶改め定める。〔曹植、長歌行〕古人感二鳥跡一、文字有二改判一。❷改印(5)に同じ。

【改板】129カイハン 改版に同じ。

【改版】130カイハン 版木をほりなほすこと。原版をくみなほすこと。

【改班】131カイハン 清朝時代の授官法の一。官吏改任の順序を定めたもの。〔清會典、吏部〕凡授レ官之班有レ六、一曰二除班一、二曰二補班一、三曰二轉班一、四曰二改班一、五曰二升班一、六曰二調班一。〔清會典事例、吏部、除授〕咸豐十年諭、嗣後由二部員中書中式進士一以二知縣一用、呈請三改歸二原班一、仍准行。

【改殯】132カイヒン 一旦葬つたものを掘りだして改めて殯すること。〔日知錄、禮制、改殯〕古人改殯之禮、必反二於宮寢一、不レ拘二卽遠之制一、齊莊公以二襄公二十五年一、爲二崔杼所一レ弑、葬二諸士孫之里一、二十八年、崔慶既死、十二月乙亥朔、齊人遷二莊公一、殯二於大寢一、以二其棺一尸二崔杼于市一、二十九年二月癸卯、齊人葬二莊公于北郭一、夫以二郭外之葬一、歷二三年之久一、出而遷二之路寢一、爲二之改殯一、不下以二宮廷一爲上レ忌、不下以二兵死一爲上レ嫌、古人送レ往愼レ終之禮如レ此。

【改服】133カイフク 衣服をかへる。更衣。換衣。〔左氏、襄、十六〕改レ服脩レ官。〔注〕既葬改二喪服一也。〔左氏、昭、二十七〕羞者獻レ體、改二服於門外一。

【改物】134カイブツ 正朔・服色・徽號等、一切の制度をあらためる。〔左氏、昭、九〕文之伯也、豈能改レ物。〔注〕言二文公雖レ霸、未レ能下改二正朔一易中服色上。〔國語、周語中〕叔父若能光二裕大德一、更レ姓改レ物、以創二制天下一、自顯庸也。〔注〕改レ物、改二正朔一易二服色一也。

【改辟】135カイヘキ 更に開拓する。辟は闢。〔孟子、公孫丑上〕地不二改辟一矣、民不二改聚一矣。

【改窆】136カイヘン 改めて葬むる。窆は、棺を下して葬る。改葬。〔南史、許亨傳〕凡七柩皆改窆焉。

【改編】137カイヘン 改めて編輯する。

【改變】138カイヘン 改めかへる。〔孔子家語、弟子行〕祁奚曰、每レ位改變、未レ知レ所レ止。

【改步】139カイホ 步調を改める。禮を改めるにいふ。改玉(24)を見よ。〔左氏、定、五〕季平子卒、陽虎將下以二璵璠一斂上、仲梁懷弗レ與曰、改レ步改レ玉。〔疏〕玉藻云、君與レ尸行接レ武、大夫繼レ武、士中レ武、鄭玄云、尊者尚レ徐、接レ武、蹈二半迹一、繼レ武、迹相及也、中レ武、迹閒容レ迹、是君臣之步不レ同也、玉藻又云、公侯佩二山玄玉一、大夫佩二水蒼玉一、是君臣玉不レ同也、昭公之出、季氏行二君事一、爲二君行一、佩二君玉一、及二定公立一、季氏復二臣位一、故步玉皆復矣。〔郭璞、南郊賦〕乃改レ步而鳴レ玉。

【改補】140カイホ 原官以外の別職に任ずる。〔清會典事例、吏部、除授〕內閣中書等官補、嘉慶三年奏准、內閣中書、准二其注銷一、改二補敎職一。〔六部成語、吏部、改補、注解〕不レ用二原官一、另補二別職一。

【改封】141カイホウ 領地をかへて封ずる。〔詩、大雅、崧高、會箋〕史記謂、四岳佐レ禹有レ功、虞夏之際、或封二於申一、然則申固舊國、非二宣王始封一レ之也、謝非二中國之舊一、宣王改二封申伯於此一矣、申之舊國莫レ可二攷知一。

【改卜】142カイボク 改めてうらなふ。〔春秋、宣、三〕春王正月、郊牛之口傷、改レ卜牛、牛死、乃不レ郊。

【改抹】143カイマツ 書き改める。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕不二敢改抹作弊一。

【改名】144カイメイ 名をかへる。〔南史、袁昂傳〕昂、本名千里、齊永明中、武帝謂曰、昂昂千里之駒、在レ卿有レ之、今改二卿名一爲レ昂、卽字二千里一。〔白居易、江州赴二忠州一至二江陵一以來舟中示二舍弟一五十韻詩〕山逐レ時移レ色、江隨レ地改レ名。

【改命】145カイメイ ❶行つた事を改める。〔易、革〕九四、悔亡、有レ孚、改レ命、吉。〔程傳〕改レ命、改爲也、謂レ革レ之也。❷名をかへる。改名。〔左氏、宣、四〕王思三子文之治二楚國一也、曰、子文無レ後、何以勸レ善、使レ復二其所一、改命曰レ生。〔注〕易二其名一也。〔左氏、襄、二十六〕左師改レ命、曰二君夫人一。

【改盟】146カイメイ 前の誓盟をかへる。又、改めて誓を結ぶ。〔左氏、定、八〕晉人請レ改レ盟、弗レ許。

【改樣】147 kai^3 yang^4 形式を改める。樣子を變へる。

【改容】148カイヨウ 緊張した態度になること。又、身じまひを正すこと。〔晏子、雜、下〕公愀然改レ容。〔漢書、賈誼傳〕今自二王侯三公之貴一、皆天子之所二改レ容而禮一レ之也。〔後漢書、王龔傳〕龔改レ容謝曰、是吾過也。

【改亂】149カイラン 變改しみだす。〔漢書、劉歆傳〕〔師丹〕奏、歆改二亂舊章一、非二毀先帝所一レ立。

【改律】150カイリツ ❶法律を改める。〔後漢書、陳寵傳〕漢舊事、斷レ獄報レ重、常盡二三冬之月一、是時帝始改用二冬初十月一而已、元和二年、旱、云云、議者咸曰、旱之所レ由、咎在レ改レ律。❷音律を變改する。〔陸雲、考志〕和音變而改レ律、乘風革而爲レ商。

【改良】151カイリヤウ 惡い所を改めてよくする。

【改良半紙】152カイリヤウバンシ 原料を漂白し、ロールで光澤を出した和紙。

【改勵】153カイレイ 心を改めて勵む。〔晉書、周處傳〕慨然有二改勵之志一。

【改曆】154カイレキ こよみを改正する。又、こよみが改まる。新年。改歷。〔史記、封禪書〕文帝乃召二公孫臣一、拜爲二博士一、與二諸生一草下改二歷・服色一事上。

【改蟲齋】155カイチユウサイ 清、高層雲(12－45313‥1259)の號。

【改不了】156 kai^3 pu liao^3 なほしきれない。改められない。

【改村雷父】157カイソンライフ 清、許田(10－35298‥185)の號。

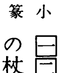
【改頭換面】158カイトウクワンメン 表面だけを改めて、實の變らぬこと。〔古今風謠、一〕(宋)皇祐中、汾河謠、漢似二胡兒一胡似レ漢、改レ頭換レ面總一般、只在二汾州州子畔一。〔朱子全書、學、持敬〕且如二大學・論語・孟子・中庸一、都說レ敬、詩也書也禮也、亦都說レ敬、各就二那事上一、說二得改レ頭換レ面一、要レ之只是箇敬。〔通俗編、身體、改頭換面〕寒山詩、改レ頭換二面孔一、不レ離二舊時人一。

【改不過來】159 kai^3 pu kuo^4 lai 改められない。なほされない。

【攺】13115

㈠イ 〔集韻〕養里切 紙

㈡シ ジ 〔集韻〕象齒切 紙

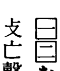

小篆

㈠㈡毅攺は、鬼魅をはらふ呪ひの杖。〔說文〕攺、毅攺、大剛卯、㠯逐二鬼魅一也、从レ攴巳聲、讀若レ巳。

【⿰亡攴】13116

㈠フ 〔集韻〕斐父切 麌

㈡ブ ム 〔集韻〕微夫切 虞


小篆

㈠㈡なでる。〔說文〕⿰亡攴、撫也、从レ攴亡聲、讀與レ撫同。

【⿰止攴】13117

フ

⿰亡攴(5－13116)に同じ。〔正字通〕⿰亡攴、篆作レ⿰止攴。

【⿰乞攴】13118

コツ コチ 〔廣韻〕苦骨切 月

㊀おだやかでない。⿰乞攴⿰㞟攴。〔廣韻〕⿰乞攴、⿰㞟攴⿰乞攴、不レ穩。㊁なめらかでない。⿰乞攴⿰㞟攴。〔類篇〕⿰乞攴、⿰乞攴⿰㞟攴、不二滑利一也。

【⿰勹攴】13119

ハク

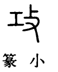
⿰嗀攴(5－13423)に同じ。〔集韻〕⿰嗀攴、或从レ勹。

【攻】13120

㈠コウ ク 〔集韻〕沽紅切 東 ㄍㄨㄥ kung¹

㈡コウ ク 〔集韻〕古宗切 冬

㈢コウ ク 〔集韻〕古送切 送


小篆

㈠㈡㈢㊀うつ。せめる。〔說文〕攻、擊也、从レ攴工聲。〔易、繫辭下〕愛惡相攻。〔虞注〕攻、摩也。〔書、仲虺之誥〕兼レ弱攻レ昧。〔疏〕攻、謂レ擊レ之。〔書、伊訓〕造レ攻自二鳴條一。〔戰國、秦策〕寬則兩軍相攻。〔注〕攻、擊。㊁をかす。かすめる。ぬすむ。〔漢書、游俠、郭解傳〕臧レ命作レ姦剽攻。〔注〕師古曰、攻、謂二穿窬而盜一也。㊂きる。〔山海經、大荒南經〕有二雲雨之山一、云云、禹攻二雲雨一。〔注〕攻、謂三槎二伐其材木一。㊃去勢する。〔廣雅、釋獸〕攻、犍也。〔周禮、夏官、校人〕頒レ馬攻レ特。㊄をさめる。〔廣雅、釋詁三〕攻、治也。〔集韻〕攻、一曰、治也。㋑みがく。加工する。細工をする。〔詩、小雅、鶴鳴〕可二以攻一レ玉。〔傳〕攻、錯也。〔周禮、考工記、總目〕攻レ木之工七。〔注〕攻、猶レ治也。〔左氏、襄、十五〕使二玉人爲レ之攻一レ之。〔注〕攻、治也。〔呂覽、上農〕農攻レ粟、工攻レ器。〔注〕攻、治也。〔逸周書、糴匡解〕車不二彫攻一。〔注〕攻、治也。㋺なほす。〔周禮、天官、瘍醫〕凡瘡瘍以二五毒一攻レ之。〔注〕攻、治也。㋩つくる。〔詩、大雅、靈臺〕庶民攻レ之。〔傳〕攻、作也。㋥ならふ。まなぶ。〔論語、爲政〕攻二乎異端一。〔集解〕何晏曰、攻、治也。〔集注〕范氏曰、攻、專治也。㋭ならす。調教する。〔大戴禮、夏小正〕執陟攻レ駒。〔注〕攻レ駒也者、教二之服一レ車、數舍レ之也。㊅よい。〔爾雅、釋詁〕攻、善也。㊆**祭の名**。日食等の時に行ふ祭。〔周禮、春官、大祝〕五曰攻。〔注〕鄭司農云、攻、祭名、玄謂、攻、用レ幣而已。㊇たくみ。工(4－8714)に通ず。〔說文通訓定聲〕攻、叚借爲レ工。〔戰國、西周策〕是攻二用兵一。〔注〕攻、巧也。㊈かたい。⿱臤革(12－42873)に通ず。〔說文通訓定聲〕攻、叚借爲レ⿱臤革。〔廣雅、釋詁一〕攻、⿱臤革也。〔詩、小雅、車攻〕我車既攻。〔傳〕攻、堅也。㊉とがめる。責める。嚳(2－4586)に通ず。〔說文通訓定聲〕攻、叚借爲レ嚳。〔周禮、春官、大祝〕五曰攻、六曰說。〔注〕玄謂、攻・說、則以レ辭責レ之。〔論語、先進〕小子鳴レ鼓而攻レ之。〔論衡、順鼓〕攻者、責也、責二讓之一也。(十一)そなへる。供給する。龔(12－48837)に通ず。〔說文通訓定聲〕攻、叚借爲レ龔、書甘誓、左不レ攻二于左一、傳、治也、按、給也、墨子明鬼作レ共。(十二)ふせる。窖(8－25516)に通ず。〔說文通訓定聲〕攻、叚借爲レ窖。〔廣雅、釋詁三〕攻、伏也。(十三)姓。〔奇姓通〕攻生、單漢人。

【攻圍】1 コウヰ 攻めかこむ。〔後漢書、劉表傳〕表遣レ兵攻圍、破レ羨平レ之。〔祖君彥、與二袁子幹一書〕四面攻圍、千里援絕。

【攻熨】2 コウヰ 病める局部に藥を貼る。又、そこを溫める。轉じて、治療の意。熨は、藥をはること。〔柳宗元、報二崔黯秀才一書〕學レ道以來、日思二砭鍼攻熨一。

【攻禜】3 コウエイ 祈の名。蠱物を除くために行ふ。〔周禮、秋官、翦氏〕掌レ除二蠱物一、以二攻禜一攻レ之、以二莽草一熏レ之。〔義疏〕鄭氏康成曰、攻禜、祈名、鄭氏鍔曰、謂下其有レ神、則以二攻禜一攻上レ之。

【攻暇】4 コウカ 攻虛(10)に同じ。

【攻開】5 kung¹ k'ai¹ 攻め落す。

【攻學】6 コウガク 學問を修める。

【攻訐】7 kung¹ chieh² 攻擊する。

【攻陷】8 コウカン せめておとしいれる。〔晉書、文帝紀〕護軍胡烈、攻二陷關城一。

【攻究】9 コウキウ をさめきはめる。研究する。攷究。「討究。

【攻虛】10 コウキヨ 敵の備のない處を攻める。擊虛。〔管子、霸言〕釋レ實而攻レ虛、釋レ堅而攻レ脆。

【攻玉】11 コウギヨク ㊀玉をみがく。轉じて、知識を磨く喩。理玉。〔詩、小雅、鶴鳴〕佗山之石、可二以攻一レ玉。〔傳〕攻、錯也。〔易林、坤之第二、豫〕鉛刀攻レ玉、堅不レ可レ得。〔潛夫論、實貢〕攻レ玉以レ石、洗レ金以レ鹽、云云、夫物固有二以レ賤理一レ貴、以レ醜化レ好者一矣。㊁淸、姚瑚(3－6202・・52)の字。

【攻金】12 コウキン 金屬を鍛冶加工する。金屬を以て器物を作る。〔周禮、考工記、輈人〕攻レ金之工、築氏執二下齊一、冶氏執二上齊一、鳧氏爲レ聲、㮚氏爲レ量、段氏爲二鎛器一、桃氏爲レ刃。

【攻苦】13 コウク 苦難と戰ふ。苦難を冒す。苦勞する。後世、轉じて、苦心して勉學する意に用ひる。攻苦食レ啖を見よ。〔韓偓、卽目詩〕攻苦慣來無レ不レ可、寸心如レ水但澄鮮。

【攻苦茹レ淡】14 コウクタンヲクラフ 攻苦食レ啖に同じ。〔昭代記〕攻苦茹レ淡、日夜講二武技一。

【攻苦食レ啖】15 コウクタンヲクラフ 苦境と戰ひ粗食に甘んずる。後世、轉じて、苦心して勉學する意に用ひる。啖は、一に淡に作る。〔史記、叔孫通傳〕呂后與二陛下一攻苦食レ啖。〔注〕集解曰、徐廣曰、攻猶二今人言一レ擊也、啖、一作レ淡、駰案、如淳曰、食無二菜茹一爲レ啖、索隱曰、案、孔文祥云、與レ帝共攻二冒苦難一、俱食レ淡也、案、說文云、淡、薄味也、音唐敢反。〔漢書、叔孫通傳〕攻苦食レ啖。〔注〕師古曰、啖、當レ作レ淡、淡、謂二無レ味之食一也、言下共攻二擊勤苦之事一、而食中無レ味之食上也。〔王先謙補注〕攻、治也。

【攻苦食レ淡】16 コウクタンヲクラフ 攻苦食レ啖に同じ。〔宋史、隱逸下、徐中行傳〕中行得二瑗所レ授經一、熟讀精思、攻苦食レ淡、夏不レ扇、冬不レ爐、夜不レ安レ枕者、踰レ年。

【攻駒】17 コウク ㊀蹴つたり齧みついたりする荒駒を去勢すること。攻特(58)を見よ。〔周禮、夏官、庾人〕教レ駣、攻レ駒。〔注〕攻レ駒、騬二其蹄齧者一。〔孫詒讓正義〕云三攻レ駒騬二其蹄齧者一、與二校人攻一レ特義同、騬、亦詳二校人疏一、大戴禮記夏小正、四月執陟攻レ駒、傳云、攻レ駒也者、教二之服一レ車、數舍レ之也、彼攻レ駒與二此經攻一レ駒事異、而與レ教レ駣事正相類、故鄭不下依二彼傳一爲上レ釋也、阮元云、古制不三盡用二騬馬一、惟善蹄齧者騬レ之耳、不三盡用二騸馬一者、凡馬特居二四之一一也。㊁駒を乘りならす。調教する。〔大戴禮、夏小正〕四月執陟攻レ駒。〔注〕教二之服一レ車、數舍レ之也。

【攻具】18 コウグ 攻擊に用ひる武具。〔六韜、虎韜、軍用〕修二治攻具一、砥二礪兵器一。〔後漢書、來歙傳〕歙乃大修二攻具一。〔魏志、武帝紀〕令二軍中一、促爲二攻具一、進復攻レ之。

【攻掘】19 コウクツ 懸命に掘る。〔北史、李先傳〕躬往攻掘、得下若二環璧雜器形一者上。

【攻獲】20 コウクワク 敵國を攻めて城邑などを得ること。〔戰國、趙策〕今王破レ卒散レ兵、以奉二騎射一、臣恐二其攻獲之利、不レ如二所レ失之費一也。

【攻完】21 コウクワン 堅固で完全なこと。〔荀子、議兵〕械用兵革、攻完便利者彊。〔注〕攻、當レ爲レ功、功、精好加レ功者也、器械牢固、便二利於用一則強也。

【攻患】22 コウクワン 病氣を治療する。〔神仙傳、彭祖〕其體中、或瘦倦不レ安、便導二引閉氣一、以攻レ所レ患。

【攻劫】23 コウケフ 攻めおびやかす。〔史記、大宛傳〕當二空道一攻二劫漢使王恢等一尤甚。〔後漢書、光武紀下〕攻二劫在所一、害二殺長吏一。

【攻擊】24 コウゲキ せめうつ。戰鬪。又は言論などにいふ。〔戰國、楚策〕長爲二昆弟之國一、終身無二相攻擊一。〔韓非子、喩老〕天下無道、攻擊不レ休。〔呂覽、愛類〕攻二擊人一而不レ止。〔管子、八觀〕則攘奪竊盜、攻擊殘賊之民、毋二自勝一矣。〔史記、南越王尉佗傳〕兩越俱爲二藩臣一、毋レ得二擅興レ兵相攻擊一。

【攻堅】25 コウケン 堅固なものを攻める。強敵をせめる。又、敵軍中の強い部隊を攻める。〔老子、七十八〕天下柔弱、莫レ過二於水一、而攻二堅強一者、莫二之能勝一。〔管子、制分〕故凡用レ兵者、攻レ堅則軔、乘レ瑕則神、攻レ堅則瑕者堅、乘レ瑕則堅者瑕。〔魏志、賈詡傳、注〕攻レ堅易二於折一レ枯、摧レ敵甚二於湯一レ雪。〔晉書、陳敏傳〕攻レ堅蹈レ險、三十餘戰。

【攻研】26 コウケン をさめみがく。勉學する。〔王建、送三于丹移二家洛州一詩〕詩禮不二外學一、兄弟相攻研。

【攻權】27 コウケン ❶よく敵を攻めうつ權力。〔尉繚子、攻權〕夫將不二心制一、卒不二節動一、雖レ勝幸勝也、非二攻權一也。❷尉繚子の篇名。

【攻克】28 kung¹ k'ê⁴ 攻擊して勝つ。

【攻錯】29 コウサク みがく。磨いて美しくする。人の長所を借りて自己の短所を直す喩。錯は礪石、又、みがく。〔詩、小雅、鶴鳴〕佗山之石、可二以爲一レ錯、云云、佗山之石、可二以攻一レ玉。〔集傳〕錯、礪石也。

【攻殺】30 コウサツ せめてころす。〔漢書、武帝紀〕東越王餘善反、攻二殺漢將吏一。

【攻讎】31 コウシウ 仇をせめる。〔左氏、襄、二十八〕或卜レ攻レ讎。

【攻蹂】32 コウジウ せめてふみにじる。〔宋史、胡舜陟傳〕羣盜攻蹂、無二全城一。

【攻車】33 コウシヤ 攻擊用の車。〔李衞公問對、上〕攻車七十五人。〔北史、韋孝寬傳〕造二攻車一、車之所レ及、莫レ不二摧毀一。〔攷古質疑、二〕古者、車兼二攻守一、合而言レ之、皆曰二革車一、云云、攻車用レ馬、守車牛、攻車七十五人、守車二十五人、在二攻車一則曰二甲士一、曰二步卒一、在二守車一則曰レ徒。

【攻社】34 コウシヤ 社の神をせめたてる。〔論衡、順鼓〕春秋之義、大水、鼓用二牲於社一、說者曰、鼓者、攻レ之也、或曰、脅レ之、脅則攻矣、陽勝、攻レ社以救レ之。

【攻城】35 コウジヤウ 城を攻める。〔孫子、作戰〕攻レ城則力屈、久暴レ師、則國用不レ足。〔蜀志、馬謖傳、注〕用レ兵之道、攻レ心爲レ上、攻レ城爲レ下。

〖攻城砲〗36 コウジヤウハウ 攻城に使用する巨大な火砲。

〖攻城野戰〗37 コウジヤウヤセン 城を攻め野原で戰ふ。〔戰國、趙策〕故攻城野戰、未丁嘗不丙爲二王先一被乙矢石甲也。〔墨子、節用上〕有與二侵就伏橐、攻城野戰死者一、不レ可二勝數一。〔史記、廉頗藺相如傳〕我爲二趙將一、有二攻城野戰之大功一。

〖攻城略地〗38 コウジヤウリヤクチ 城を攻め地を取る。〔史記、項羽紀〕白起爲二秦將一、南征二鄢郢一、北阬二馬服一、攻レ城略レ地、不レ可二勝計一。〔漢書、蕭何傳〕平陽侯曹參、身被二七十創一、攻レ城略レ地、功最多、宜二第一一。

【攻守】39 コウシユ 攻めることと守ること。攻擊と守備。攻備。〔六韜、虎韜、軍用〕武王問二太公一曰、王者擧レ兵、三軍器用、攻守之具、科品衆寡、豈有レ法乎。〔尉繚子、兵令上〕武所下以犯二強敵一力中攻守上也。〔史記、秦始皇紀論贊〕仁義不レ施、而攻守之勢異也。〔漢書、五行志下之上〕孝公始用二商君攻守之法一。〔新書、過秦上〕一夫爲レ難而七廟墮、身死二人手一、爲二天下笑一者、何也、仁義不レ施、而攻守之勢異也。〔李衞公問對、下〕攻守兩齊之說、其孰能知二其然一乎。

〖攻守同盟〗40 コウシユドウメイ 二國以上が他國を攻める時も自ら守る時も互に助け合ふ目的を以て結んだ盟約。

【攻取】41 コウシユ せめとる。〔史記、天官書〕三家分レ晉、竝爲二戰國一、爭二於攻取一。

【攻書】42 コウシヨ 書を學ぶ。〔紅樓夢、四回〕今方五歲、已入レ學攻レ書。

【攻心】43 コウシン ❶人を攻める心。〔新書、修政語下〕凡有二攻心一者、必結レ之以レ約、而諭レ之以レ信、然後能以得也。❷心を攻める。戰爭をせずに德化智略で敵を服すること。〔蜀志、馬謖傳、注〕襄陽記曰、夫用レ兵之道、攻レ心爲レ上、攻レ城爲レ下。

【攻勢】44 コウセイ ❶攻めかかるいきほひ。❷積極的に攻擊してゐる狀態。守勢の對。❸攻める方のたちば。守勢の對。

【攻鈔】46 コウセウ 攻めかすめる。攻抄。〔後漢書、公孫瓚傳〕尅二會期日一、攻二鈔郡縣一。

【攻說】47 コウセツ 祈の名。毒蠱を去るためにする祈。〔周禮、秋官、庶氏〕以二攻說一禬レ之。〔注〕攻說、祈名、祈二其神一求レ去レ之也。

【攻戰】48 コウセン 攻め戰ふ。又、城を攻めることと野に戰ふこと。攻城野戰の略。〔莊子、達生〕故無二攻戰之亂一。〔戰國、齊策〕故明君之攻戰也、甲兵不レ出二於軍一、而敵國勝、衝櫓不レ施、而邊城降、士民不レ知、而王業至矣。〔荀子、議兵〕凡用レ兵攻戰之本、在二乎壹一レ民。〔韓非子、五蠹〕今爲二之攻戰一、進則死二於敵一、退則死二於誅一、則危矣。〔墨子、非攻中〕飾二攻戰一者言曰、南則荊吳之王、北則齊晉之君。

【攻續】49 コウゾク 攻めつづける。〔晉書、邵續傳〕初李龍之攻續也、朝廷有二王敦之逼一、不レ遑二救恤一。

【攻打】50 kung¹ ta³ 攻擊する。

【攻討】51 コウタウ 攻めうつ。攻伐。〔吳志、呂岱傳〕攻討一年破レ之。

【攻盜】52 コウタウ ぬすむ。〔說苑、指武〕所謂誅レ之者、非レ爲二其晝則攻盜、暮則穿窬一也、皆傾覆之徒也。

【攻奪】53 コウダツ 攻めうばふ。〔荀子、議兵〕君之所レ貴、權謀執利也、攻奪變詐也。〔論衡、命義〕攻二奪人物一、斷二斬人身一。〔李康、運命論〕利害生二其左一、攻奪出二其右一。

【攻逐】54 コウチク 攻めて追ひはらふ。〔史記、秦紀〕秦能攻二逐戎一、卽有二其地一。

【攻敵】55 コウテキ 敵を攻める。〔商子、去彊〕能生能殺、曰二攻レ敵之國一、必彊。

【攻佔】56 kung¹ chan⁴ 攻め落して占領する。

【攻屠】57 コウト 城を攻め落す。〔後漢書、孔融傳〕曹操攻二屠鄴城一、袁氏婦子多見。

【攻特】58 コウトク 牡馬を去勢する。〔周禮、夏官、校人〕夏祭二先牧一、頒レ馬攻レ特。〔注〕夏通レ淫之後、攻二其特一、爲二其蹄齧不一レ可二乘用一、鄭司農云、攻特、謂レ騬レ之也。〔孫詒讓正義〕廣雅釋獸云、騬、攻羯也、謂三割二去馬勢一、猶二今之扇馬一。〔辭海〕按、特、謂二牡馬一、騬、去二其勢一也。

【攻得】59 コウトク 攻め勝つこと。〔漢書、蒯通傳〕必將二戰勝而後略一レ地、攻得而後下レ城。

【攻難】60 コウナン 攻擊して難を爲すこと。〔左氏、昭、三十一〕攻難之士、將三奔二走之一。

【攻佞】61 コウネイ 佞人をせめただす。〔唐書、陳子昂傳〕以レ正攻レ佞、勢不二相利一。

【攻破】62 コウハ 攻め破る。〔漢書、周緤傳〕上欲三自擊二陳豨一、緤泣曰、始秦攻二破天下一、未二曾自行一。

【攻防】63 コウバウ 攻擊と防禦。

【攻發】64 コウハツ せめあばく。さぐり出す。〔王守仁、教條示二龍場諸生一、責善〕訐二人之短一、攻二發人之陰私一。

【攻伐】65 コウバツ せめうつ。討伐。攻擊。攻發。〔國語、周語上〕有二刑罰之辟一、有二攻伐之兵一。〔戰國、秦策〕省二攻伐之心一、而肥二仁義之誡一。〔韓非子、亡徵〕無二守戰之備一、而輕二攻伐一者、可レ亡也。〔呂覽、名類〕凡人之攻伐也、非レ爲レ利、則因レ爲レ名也。〔管子、七法〕故凡攻伐之爲レ道也、計必先二定於內一、然後兵出二乎境一。〔墨子、兼愛下〕國都不二相攻伐一、人家不二相亂賊一。〔史記、張儀傳〕終身無二相攻伐一。

【攻拔】66 コウバツ せめて城をぬきとる。攻陷。〔後漢書、荀彧傳〕古人尙二帷幄之規一、下二攻拔之力一。

【攻燔】67 コウハン 攻めて燒く。〔漢書、天文志〕攻二燔官寺一。

【攻皮】68 コウヒ 皮に加工する。皮類で器物をつくる。〔周禮、考工記、總目〕攻レ皮之工、函・鮑・韗・韋・裘。

【攻備】69 コウビ 攻撃と守備。攻守。攻防。〔商子、兵守〕使二客無レ得二以助二攻備一。

【攻偪】70 コウヒヨク 攻めせまる。〔後漢書、公孫瓚傳〕袁紹漸相攻偪、瓚衆日蹙。

【攻兵】71 コウヘイ 攻撃の軍勢。寄手の兵。

【攻病】72 コウヘイ 病を治療する。〔漢書、藝文志、箴石、注〕師古曰、古者攻レ病則有レ砭。

【攻剽】73 コウヘウ 攻めおびやかして物品を奪ふ。〔史記、酷吏、義縱傳〕嘗與二張次公一俱攻剽爲二羣盜一。〔漢書、景十三王、趙敬肅王彭祖傳〕使二人椎埋一、攻剽爲レ姦甚衆。

【攻砭】74 コウヘン 病を治療する石針。〔漢書、藝文志、箴石、注〕師古曰、箴、所二以刺一レ病也、石、謂二砭石一、卽石箴也、古者攻レ病則有レ砭、今其術絕矣。〔宋史、趙鼎傳〕若復加二攻砭一、必傷二元氣一矣。

【攻復】75 コウフク 攻めて取りもどす。〔日本外史、足利氏正記、足利氏下〕誘二京師法華徒一、攻二復界城一。

【攻掊】76 コウホウ 治療する。攻療。〔宋濂、詩〕醫言濕熱勝、良劑急攻掊。

【攻謀】77 コウボウ 攻撃のはかりごと。〔國史略、堀河天皇〕義家已爲二攻謀一。

【攻木】78 コウボク 木に加工する。木材で器物を作る。〔周禮、考工記、總目〕攻レ木之工、輪・輿・弓・廬・匠・車・梓。

【攻沒】79 コウボツ 攻奪(53)に同じ。〔後漢書、文苑上、夏恭傳〕王莽末、盜賊從橫、攻二沒郡縣一。

【攻昧】80 コウマイ 暗昧無道の者を攻める。〔左氏、宣、十二〕兼レ弱攻レ昧、武之善經也。〔注〕昧、昏亂也。

【攻滅】81 コウメツ 攻めほろぼす。〔日本政記、正親町天皇〕天正元年八月、信長攻二滅朝倉氏・淺井氏一。

【攻牢】82 コウラウ つよくかたい。堅固。〔詩、唐風、鴇羽、王事靡レ盬、疏〕盬、與レ蠱字異義同、云云、然則蠱害レ器敗レ穀者、皆謂二之蠱一、是盬爲下不二攻牢一不二堅緻一之意上也。

【攻略】83 コウリヤク 攻めとる。攻奪。〔晉書、天文志下〕劉元海・石勒、攻二略幷州一、多レ所二殘滅一。

【攻療】84 コウレウ 治療する。治療。攻掊。攻熨。〔孔叢子、嘉言〕大夫衆賓、並復獻二攻療之方一。

【攻媿集】85 コウキシフ 書名。一百十二卷。宋、樓鑰撰。其の目は、古體詩六卷（琴操二首・楚辭一首附）・今體詩八卷・表牋五卷・奏議十一卷・狀劄三卷・外制八卷・內制七卷・謚議一卷・進故事一卷・序三卷・記七卷（碑二首附）・啓五卷・書三卷（禮十五首附）・題跋十卷・雜著一卷・賦一卷・銘、贊、偈頌共一卷・祝文一卷・祭文二卷・事略一卷・行狀七卷・神道碑六卷・誌銘十一卷・塔銘一卷・北行日錄二卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

【攻太鼓】86 セメダイコ 敵に攻めかかる時に打つ太鼓。せめつづみ。〔國性爺合戰〕攻め鼓、攻め太鼓。

【攻必取】87 セムレバカナラズトル 攻撃すれば必ず土地や城を取る。〔漢書、高帝紀下〕連二百萬之衆一、戰必勝攻必取、吾不レ如二韓信一。

【攻媿主人】88 コウキシユジン 宋、樓鑰(6－15430・・76)の號。

【⿰卩攴】13121 セツ セチ 〔集韻〕子結切 屑

❶をさめる。〔集韻〕⿰卩攴、治也。❷或は𠬝に作る。〔集韻〕⿰卩攴、或作レ𠬝。❸卩(2－2838)の譌字。〔正字通〕⿰卩攴、卩字之譌。

【攼】13122 ㊀カン 〔集韻〕居寒切 寒 ㊁カン ガン 〔集韻〕侯旰切 翰

㊀❶もとめる。〔集韻〕攼、求也。❷える。〔集韻〕攼、得也。❸すすむ。〔玉篇〕攼、進也。㊁とめる。⿰咠攴(5－13204)に同じ。〔集韻〕⿰咠攴、說文、止也、古省。

【⿰于攴】13123 ウ 〔篇海類編〕音于

すすむ。〔篇海類編〕⿰于攴、進也。

【斈】13124 ガク 學(3－7033)の俗字。〔篇海〕學、俗作レ斈。

四畫

【⿰夫攴】13125 フ 扶(5－11840)の古字。〔說文〕扶、⿰夫攴、古文扶从レ攴。

【攽】13126 ㊀ハン 〔集韻〕逋還切 刪 ㊁ヒン 〔集韻〕悲巾切 眞

小篆

㊀❶わける。わかれる。〔說文〕攽、分也、从レ攴分聲、周書曰、乃惟孺子攽、讀與レ彪同。〔集韻〕攽、說文、分也。❷頒(12－43378)・班(7－20976)に通ず。〔說文通訓定聲〕攽、經傳皆以二頒・班一爲レ之。㊁❶わける。わかれる。或は⿰分刂(2－1891)に作る。〔集韻〕攽、⿰分刂、說文、分也、引二周書乃惟孺子攽一、亦从レ刀。❷へる。へらす。〔廣雅、釋詁二〕攽、減也。

【⿰屯攴】13127 トン 〔集韻〕都困切 願

ひく。又、する。扽(5－11850)に同じ。〔集韻〕扽、博雅、引也、一曰、摩也、或从レ攴。

【⿰木攴】13128 ハイ 〔集韻〕博蓋切 泰

物のななめなさま。〔集韻〕⿰木攴、物衺犿也。

【⿰今攴】13129 ㊀キン ゴン 〔集韻〕渠金切 侵 ㊁カン コン 〔集韻〕枯含切 覃 ㊂カン コン 〔集韻〕丘凡切 咸 ㊃カン ゴン 〔集韻〕其嚴切 鹽 ㊄ケン 〔集韻〕去劍切 豔

㊀もつ。或は鈙(11－40233)に作る。〔集韻〕⿰今攴、說文、持也、或从レ金。㊁㊂㊃ひとしくない。〔廣韻〕⿰今攴、⿰吉攴多也。〔集韻〕⿰今攴、⿰吉攴、不レ齊。㊄❶がけした。〔廣韻〕⿰今攴、崖下也。❷がけあひ。〔集韻〕⿰今攴、厓閒也。

【⿱亼攴】13130 ヘン 〔玉篇〕卑縣切 先

すみやか。〔玉篇〕⿱亼攴、速也。

【⿰巴攴】13131 ハ ヘ 〔集韻〕邦加切 麻

をさめる。〔集韻〕⿰巴攴、斂也。

【⿰斤攴】13132 キン 〔集韻〕規倫切 眞

開墾した田畑。甾(7－21917)に同じ。〔集韻〕甾、墾田也、或作レ⿰斤攴。

【放】13133 ㊀ハウ 〔集韻〕甫妄切 漾 ㄈㄤˋ fang^4 ㊁ハウ 〔集韻〕甫兩切 養 ㊂ハウ バウ 〔集韻〕分房切 陽

小篆 [一]❶はなつ。はなす。㋑追ふ。追ひやる。しりぞける。〔說文〕放、逐也、从レ支方聲。〔周禮、夏官、大司馬〕放二殺其君一則殘レ之。〔注〕放、逐也。〔穀梁、宣、元〕放、猶レ屛也。〔楚辭、漁父〕屈平既放、游二于江潭一。㋺すてる。〔小爾雅、廣言〕放、棄也。〔增韻〕放、捨也。〔書、康誥〕大放二王命一。〔傳〕大放二棄王命一。〔淮南子、脩務訓〕放二驩兜于三苗一。〔注〕放、棄也。〔漢書、哀帝紀〕鄭聲淫而亂レ樂、聖王所レ放。〔注〕師古曰、放、弃也。㋩さる。〔廣雅、釋詁二〕放、去也。〔禮、曲禮上〕毋レ放レ飯。〔注〕去二其黏レ手餘飯於器中一。㋥ときはなす。自由にさせる。〔字彙〕放、縱也。〔書、武成〕放二牛于桃林之野一。〔疏〕據レ我釋レ之則曰レ放。〔梁書、武帝紀〕詔二諸州一、見在北人爲二奴婢一者、並及二妻兒一、悉可二原放一。㋭貸す。〔容齋五筆、俗語放債〕今之人、出二本錢一以規二利入一、俗語謂二之放債一。㋬のべる。ひろげる。〔朱熹、中庸章句序〕放レ之則彌二六合一。㋣あらはす。示す。〔賈公談錄〕放二進士標一。㋠ちらす。つける。〔字彙〕放、散也。〔晉書、毛璩傳〕放二火焚葑一。〔宋史、食貨志〕以爲二水旱閣放之備一。㋷とばす。射る。〔王績、古意詩〕但使二雛卵全一、無レ令二矰繳放一。❷はなれる。㋑遠ざかる。〔楚辭、劉向、九歎〕獨偏棄而遠放。㋺にげる。逸走する。〔字彙〕放、逸也。〔孟子、告子上〕人有二雞犬放一、則知レ求レ之。❸おく。〔廣雅、釋詁四〕放、置也。㋑ひかへる。やめる。〔論語、微子〕隱居放レ言。〔集解〕包氏曰、放、置也、不三復言二世務一也。㋺寄せ置く。〔淮南子、兵略訓〕放二乎九天之上一。〔注〕放、寄。❹古の刑罪の一。一處に放逐屛棄して故處に歸さない刑。流罪。追放。〔書、舜典〕放二驩兜于崇山一。〔傳〕殛・竄・放・流、皆誅也。〔疏〕放者、使二之自活一。〔書、太甲序〕伊尹放二諸桐一。〔傳〕不レ知二朝政一、故曰レ放。〔左氏、宣、元〕晉放二其大夫胥甲父于衞一。〔注〕放者、受レ罪黜免、宥レ之以レ遠。〔公羊、宣、元〕放レ之者何、猶レ曰レ無レ去レ是云爾。❺おこる。發する。開く。〔管子、小問〕桓公放二春三月、觀二于野一。〔注〕春物放發、故曰二放春一。〔趙師秀、九客一羽衣泛レ舟分韻詩〕花放林逋村。❻ほしいまま。ほしいままにする。〔增韻〕放、肆也。〔漢書、藝文志〕及二放者爲レ之、則欲下絕二去禮學一、兼中棄仁義上。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕重增二其放一。〔注〕善曰、放、謂二放蕩一。〔韓愈、祭二柳子厚一文〕大放二厥辭一。〔北史、高祐傳〕性通放、不レ拘二小節一。❼大きい。大いに。〔孟子、盡心上〕放飯流歠。〔注〕放飯、大飯也。❽みだり。みだら。〔廣雅、釋言〕放、妄也。〔漢書、五行志下之上〕君樂二逸人一、茲謂レ放。❾たがふ。〔漢書、敍傳下〕厥事放紛。〔注〕師古曰、放、失也。❿あたる。當(**7－21890**)に通ず。〔說文通訓定聲〕放、叚借爲レ當。〔管子、小問〕桓公放二春三月一觀二于野一。⓫のぞむ。又、むかふ。望(**5－14368**)・向(**2－3301**)に通ず。〔說文通訓定聲〕放、叚借爲レ望、爲レ向。〔莊子、天運〕君子放レ風而動。⓬給與する。支給する。放給(49)を見よ。⓭古は匚(**2－2595**)に作る。〔集韻〕放、古作レ匚。⓮[現]㋑地方に赴任する。㋺擴大する。㋩交附する。㋥下ろす。㋭大きく。ゆるく。[二]❶ならふ。或は倣(**1－785**)・方(**5－13620**)・㑂(**1－469**)に作り、又、仿(**1－420**)に通ず。〔說文通訓定聲〕放、叚借爲レ仿。〔集韻〕放、效也、或从レ人、亦作二方・㑂一。〔廣雅、釋詁三〕放、效也。〔書、堯典〕帝堯、曰放勳。〔疏〕能放二效上世之功一。〔莊子、在宥〕今則民之放也。〔釋文〕放、效也。❷のつとる。〔漢書、楊僕傳〕治放二尹齊一。〔注〕師古曰、放、法也。❸にかよふ。〔漢書、禮樂志〕相放怫。〔注〕師古曰、放怫、猶二髣髴一也。〔後漢書、班固傳上〕放二泰紫之圓方一。〔注〕放、象也。❹よる。徬(**4－10200**)に通ず。〔說文通訓定聲〕放、叚借爲レ徬。〔廣雅、釋詁四〕放、依也。〔周禮、天官、食醫〕凡君子之食、恒放焉。〔注〕放、猶レ依也。〔論語、里仁〕放二於利一而行。〔集解〕孔安國曰、放、依也。〔國語、楚語下〕民無レ所レ放。〔注〕放、依也。❺いたる。旁(**5－13637**)に通ず。〔說文通訓定聲〕放、叚借爲レ旁。〔孟子、梁惠王下〕放二於琅邪一。〔注〕放、至也。〔孟子、盡心上〕摩レ頂放レ踵。〔注〕放、至也。〔列子、楊朱〕以放二餓死一。〔釋文〕放、至也。❻姓。〔萬姓統譜〕放、見二姓苑一、上聲、堯臣放齊之後。[三]舟をならべる。方(**5－13620**)に通ず。〔集韻〕方、說文、併レ船也、亦作レ放。〔荀子、子道〕不レ放レ舟、不レ避レ風、則不レ可レ涉也。〔注〕放、讀爲レ方。

[參考] ユク。ユキ

【放鴨】1 ハウアフ ❶鴨を放つ。〔舊唐書、文宗紀上〕（太和元年四月）壬寅、毀二昇陽殿東放鴨亭一。〔陸游、雨中宿二石帆山下民家一詩〕雨泥看レ放レ鴨、烟草聽レ呼レ牛。❷fang^4 ya^1 鴨を放し飼ひにする。

【放依】2 ハウイ ならひよる。たよりにする。倣依。〔墨子、法儀〕放依以從レ事、猶逾己。〔閒詁〕畢云、說文云、仿、相似也、放、與レ仿同。

【放菴】3 ハウアン 清、原詰(**2－2973・・9**)の字。

【『放菴居士』】3' ハウアンコジ 清、蔣光煦(**9－31820・・135**)の號。

【放意】4 ハウイ 意をほしいままにする。恣意。〔列子、楊朱〕藉二其先貲一、家累二萬金一、不レ治二世故一、放二意所レ好。〔顏氏家訓、文章〕勿レ使三流亂軌躅、放意塡二坑岸一也。〔唐書、白居易傳〕乃放二意文酒一。

【放宥】5 ハウイウ はなちゆるす。ゆるす。〔後漢書、王符傳〕夫性惡之民、民之豺狼、雖レ得二放宥之澤一、終無二改悔之心一。

【放遊】6 ハウイウ ぶらつくこと。放浪。〔東鑑、一〕治承四年八月四日、邦道者、洛陽放遊客也。

【放佚】7 ハウイツ ❶ほしいままにはなつ。〔禮、月令〕（仲冬之月）馬牛畜獸、有二放佚者一、取レ之不レ詰。❷ほしいままなこと。きままなこと。放恣。放逸に同じ。〔新語、懷慮〕身死二於凡人之手一、爲二天下所一レ笑者、乃由二辭語不レ一、而情欲放佚一故也。〔正法念經〕此放佚過、一切過中最爲二勝上一。

【放逸】8 ハウイツ ❶ほしいまま。わがまま。きまま。自墮落。放肆。放恣。放縱。〔逸周書、時訓解〕又五日半夏生、云云、蜩不レ鳴、貴臣放逸。〔列子、楊朱〕意之所レ欲レ爲者、放逸而不レ得レ行、謂二之閼往一。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕魄放逸以飛揚。〔後漢書、仲長統傳〕棄二放逸一而赴二束縛一、夫誰肯爲レ之者邪。❷[佛]規矩を守らないこと。大煩惱地法の一として、二十隨煩惱の一に數へる。〔大乘義章、二〕離二善方便一、名二放逸一。

【放溢】9 ハウイツ ❶ながれあふれる。〔漢書、五行志下之上〕水以二東流一爲レ順、走而西行、反レ類逆レ上、象二數度放溢一、妄以相予、違二忤民心一之應也。〔漢書、溝洫志〕以爲、水猥盛則放溢。❷ほしいままで法度にはづれる。ほしいままで分をこえる。放逸。〔新語、資質〕然而爲レ之者、情欲放溢、而人不レ能レ勝二其志一也。〔魏志、高堂隆傳〕精誠不レ制、則放溢無レ極。

【放陰】10 fang^4 yin^1 中元に行ふ一種の施餓鬼。「雲南地方の行事。」

【放越】11 ハウエツ 放たれ散る。〔漢書、五行志上〕水北方終二臧萬物一者也、其於二人道一、命終而形臧、精神放越、聖人爲二之宗廟一、以收二魂氣一。

【放焉】12 ハウエン 氣ままにしてゐること。

【放遠】13 ハウエン はなちとほざける。〔漢書、劉向傳〕放二遠佞邪之黨一、壞二散險詖之聚一。〔漢書、孔

光傳〕放二遠讒說之黨一、援二納斷斷之介一。

【放翁】14（ハウヲウ） 字號。❶宋、陸游（11－41708··7）の號。〔宋史、陸游傳〕范成大帥レ蜀、游爲二參議官一、以二文字一交、不レ拘二禮法一、人譏二其頹放一、因自號二放翁一。❷金、周嗣明（2－3441··694）の號。

【放翁詞】15（ハウヲウシ） 書名。一卷。宋、陸游撰。楊愼の詞品には其の詞を評して、纖麗は淮海に似、雄快は東坡に似るといふ。〔四庫提要、集、詞曲類〕・〔宋名家詞、第一集〕。

【放翁詩選】16（ハウヲウシセン） 書名。前集、八卷。宋、羅椅編。後集、八卷。宋、劉辰翁編。附錄の別集、一卷。明人某編。前集には圈點があり、後集には評語がある。〔四庫提要、集、別集類〕。

【放翁詩話】17（ハウヲウシワ） 書名。一卷。黑崎貞孝・飯村孫編。宋、陸游の詩話を編したもの。

【放翁題跋】18（ハウヲウダイバツ） 書名。六卷。宋、陸游撰。〔津逮祕書、第七十九冊〕・〔嘯園叢書、第二十七冊〕。

【放下】19（ハウカ） ❶手を離して下に置く。おろす。くだす。すておく。〔陳傳良、春日和二林宗易韻一詩〕卻憐追逐今無レ力、放二下簾鉤一就二爵煤一。〔楊萬里、初夏卽事十二解詩〕更無三人借二田中水一、放二下清溪一恣レ意流。❷安心する。〔琵琶記、兩賢相遘〕敎二我怎生放下一。❸放下僧の略。田樂法師・歌祭文などの類。〔大內家壁書〕一、薦僧、放下、猿引事。❹fang⁴ hsia⁴ 任命せられる。

【放下師】20（ハウカシ） 俗人で放下僧の技を演ずるもの。放下遣。放下僧に同じ。〔書言字考節用集、四〕放下師。

【放下僧】21（ハウカソウ） 遊藝人の一。禪僧の姿で小切子といふ竹片を打つて歌ひ舞ひ、さまざまの藝をする者。鎌倉の頃から始まるといふ。放下は、既に悟道に入つて萬事を放下した義。〔貞丈雜記〕・〔謠曲、放下僧〕。

【放下著】22（ハウケヂャク） 手を放して下に置く。著は語尾に置く助辭。〔五燈會元、世尊章〕黑氏梵志、擎二合歡梧桐華一、供二養世尊一、佛召二梵志一、志應諾、佛言放下著。

【放下膽心】22′（ハウカタンシン） ゆるりとなる。

【放下屠刀】23（ハウカトタウ） 過を改めて善をなすこと。〔山堂肆考〕屠兒在二涅槃會上一、放下屠刀、立便成佛。

【放假】24 fang⁴ chia⁴ 休暇。放假日に同じ。

【放假日】25（ハウカジツ） 休暇日。やすみび。〔元典章、吏部〕放假日頭體例。

【放歌】26（ハウカ） 聲をはりあげて歌ふ。高歌。〔杜甫、聞二官軍收二河南河北一詩〕白首放歌須レ縱レ酒、青春作レ伴好還レ鄕。〔杜牧、潤州詩〕向吳亭東千里秋、放歌曾作昔年遊。〔歐陽秬、移二陸沔一書〕鱸鱠蒓羹、放歌長嘯。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、漢鐃歌、將進酒〕古詞曰、將進酒乘大白、大略以二飮酒放歌一爲レ言。

【放歌行】27（ハウカカウ） 樂府瑟調の曲名。古辭はもと孤兒行に作る。晉の傅玄、宋の鮑照、唐の王昌齡に歌辭がある。〔樂府詩集、相和歌辭、瑟調曲、孤兒行〕孤子生行、一曰二孤兒行一、古辭、言下孤兒爲二兄嫂所一レ苦難中與久居上也、歌錄曰、孤子生行亦曰二放歌行一、樂府解題曰、鮑照放歌行云、蓼蟲避二葵菫一、言朝廷方レ盛、君上好レ才、何爲臨レ歧相將レ去也。〔傅玄、放歌行〕靈龜有二枯甲一、神龍有二腐鱗一。〔鮑照、代放歌行〕蓼蟲避二葵菫一、習苦不二言非一。

【放衙】28（ハウガ） ❶役所がひけて、官吏が退出する。〔蘇軾、入レ峽詩〕放レ衙鳴二晚鼓一、留レ客薦二霜柑一。〔倦游錄〕如今幸有二黃紬被一、努出頭來聽二放衙一。❷fang⁴ ya² 商賣に出かけることをいふ。饂飩屋の語。

【放開】29 fang⁴ k'ai¹ ❶開く。大きくする。❷のばす。ひろげる。❸放免する。赦す。

【放行】30（ハウカウ） ❶自由に行かせる。通行を許す。〔清會典事例、刑部、兵律、關律〕若無二印票一、不レ准二放行一。〔清會典事例、刑部、督捕例軍船商船〕順治十三年題准、凡軍船商船、該管官將二本船男婦數目一、給二予印票一、鈔關之關、查二照票內數目一放行。❷許可する。〔清會典事例、戶部、釐稅、直省釐局〕浙西地方、一起一驗、由二經過之頭卡一併收、餘均驗レ票放行。❸とりおこなふ。〔福惠全書、蒞任部、出堂規、堂規式〕俱于二前一日一、送二稿案一放二行謄眞一。❹fang⁴ hsing² 解放する。

【放行單】31 fang⁴ hsing² tan¹ ❶納稅證明書。❷許可證。

【放效】32（ハウカウ） 人の行を見ならふ。模倣する。倣效。仿效。〔書、堯典、放勳、疏〕此帝堯、能放二效上世之功一。〔漢書、貢禹傳〕臣下亦相放效。〔論衡、四諱〕連相放效、或至二于被一レ刑。〔後漢書、宦者、呂強傳〕競相放效、莫二肯矯拂一。

【放校】33（ハウカウ） 不都合な行爲のあつた學生を學校から放逐すること。

【放皋】34（ハウカウ） 山名。〔山海經、中山經〕放皋之山。

【放敖】35（ハウガウ） つつしまないさま。高ぶつてほしいままなこと。〔洛陽伽藍記、城內〕景林寺、云云、國子博士盧白頭、云云、性愛二恬靜一、丘園放敖。

【放驁】36（ハウガウ） つつしまないさま。不注意。放傲に同じ。〔莊子、庚桑楚〕蹍二市人之足一、則辭以二放驁一。〔集解〕宣云、辭謝以二放肆一自引レ罪。〔莊子雪〕放驁、不レ謹也。

【放鶴】37（ハウカク） 鶴を放つ。又、放した鶴。〔盧綸、虢州逢二侯釗一同尋二南觀一因贈別詩〕放レ鶴登二雲壁一、澆花遶二石壇一。〔韋莊、李氏小池亭十二韻詩〕養猿秋嘯レ月、放鶴夜棲レ杉。

【放鶴村】38（ハウカクソン） 清、張侗（4－9812··590）の號。

【放鶴亭】39（ハウカクテイ） 亭の名。❶江蘇省銅山縣の雲龍山の麓に在る。宋の熙寧中、張天驥が雲龍山の麓に隱れ、二匹の鶴を飼ひ、朝に放てば暮に歸る。宅の東に亭を作り、名づけて放鶴亭といふ。蘇軾に放鶴亭記がある。〔蘇軾、放鶴亭記〕熙寧十年秋、彭城大水、雲龍山人張君之草堂、水及二其半扉一、云云、山人有二二鶴一、甚馴而善飛、旦則望二西山之缺一而放焉、縱二其所一レ如、或立二於陂田一、或翔二於雲表一、暮則傃二東山一而歸、故名レ之曰二放鶴亭一。〔江南通志、徐州〕放鶴亭、在二雲山之麓一、宋山人張天驥所レ築、山人有二二鶴一、旦放暮歸、蘇軾爲レ記。❷江蘇省吳縣の支硎山の西南峯の寺の中。今、寺は廢れて亭のみ存す。もと晉の支遁の別庵。❸江蘇省吳縣の虎丘にある。清遠道士が鶴を養つたところといふ。❹浙江省杭縣の孤山の北。宋の林逋の舊廬。逋、嘗て兩鶴を畜ひ、時に小艇を浮べて西湖に遊ぶ。客が來ると、童子が籠を開いて鶴を縱つたといふ。元の至元の閒、陳子安が放鶴亭を此所に建てた。〔浙江通志、杭州府〕放鶴亭在二孤山之北一、元至元閒、儒學提擧余謙既葺二處士之墓一、復植二梅數百本於山一、構二梅亭於下一、郡人陳子安以二處士無レ家妻レ梅子一レ鶴、不レ可二偏擧一、乃持二一鶴一放二之孤山一、特建二放鶴亭一以祀レ之、歲久傾圮。❺廣西省宜山縣城の南、大號山の上。宋の趙抃建つ。嘗て亭中に於て鶴を放つ。

【放學】40（ハウガク） 學課が終つて休になる。放課。〔陸游、蔬圃詩〕貪看忘卻還レ家飯、恰似兒童放學時。

【放甲】41（ハウカフ） よろひをすてる。〔蜀志、姜維傳〕投レ戈放レ甲、詣二會於涪軍前一。

【放閑】42 fang⁴ hsien² すきがあつてしまりのないこと。〔水滸傳、三十四回〕沒半米放閑、往往來來。

【放銜】43（ハウカン） くつわをはなつ。〔易林、艮之第五十二、泰〕放レ銜委レ轡、奔亂不レ制。

【放起】44（ハウキ） ゆるしてたたせる。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕他既認招、不レ要二放起一。

【放汽】45 fang⁴ ch'i⁴ ❶汽笛。❷汽笛を鳴らす。

【放棄】46（ハウキ） ❶ゆるしはなつ。〔春秋、宣、元、晉放二其大夫胥甲父于衞一、疏〕放者、有二罪當一レ刑、而不レ忍レ刑レ之、寬二其罪一、而放二棄之一也。❷なげやりにする。すてる。放擲。〔史記、樂書〕放二棄詩書一、極二意聲色一。〔吳越春秋、勾踐入臣外傳〕伍子胥入諫曰、云云、大王、云云、放二棄忠直之言一。〔漢書、西南夷傳〕宜下罷レ都、放二棄其民一、絕二其王侯一勿中復通上。

【放牛】47（ハウギウ） 牛をはなつ。牛を牧養する。〔書、武成〕歸二馬于華山之陽一、放二牛于桃林之野一。

【放牛兒】48 fang⁴ niu² êrh 牛飼ひわらは。牧童。

【放給】49（ハウキフ） 給與する。發行する。支拂つてやる。〔清會典事例、戶部、蠲恤、恤孤貧〕光緒八年議准、戶部放二給順天府孤貧一銀米、查照レ例定二原額九百零六名一、每二名口一月支二銀三錢・米三斗一。

【放魚】50（ハウギョ） 魚をはなつ。〔盧仝、觀二放魚一歌〕常州賢刺史、從二諫議大夫一。〔白居易、放魚詩〕曉日提二竹籃一、家僮買二春蔬一。

【放殛】51（ハウキョク） 追放の罪にする。流罪にする。〔書、洪範、鯀則殛死、疏〕鯀則放殛、至レ死不レ赦。

〔鹽鐵論、周秦〕身放殛而辱二後世一。〔後漢書、傅燮傳〕陛下宜下思二虞舜四罪之擧一、速行中讒佞放殛之誅上。

【放禽】52（ハウキン）鳥をはなつ。〔梁簡文帝、大法頌序〕解レ網放レ禽、穿レ泉掩レ胔。

【放吟】53（ハウギン）聲をはりあげて思ふ存分に吟ずる。高吟。

【放空】54 fang⁴ k'ung¹ 舟車などに荷物を載せないでからでやる。

【放空鐘】55（ハウクウシヨウ）獨樂をまはすこと。空鐘（8－25415・・184）を見よ。

【放空的】56 fang⁴ kung¹ tê 荷を載せない。空荷の。

【放火】57（ハウクワ）㊀火をつける。つけび。〔周禮、夏官、羅氏〕蜡則作二羅襦一。〔注〕王制、云云、又曰、昆蟲已蟄、可二以火一レ田、今俗放レ火張レ羅、其遺教。〔易林、睽之第三十八、渙〕從レ風放レ火、芝艾俱死。〔後漢書、董卓傳〕放レ火燒二宮殿官府一。〔魏志、張既傳〕因二大風一、欲二放レ火燒一レ營。㊁燈火をともす。提灯をつける。放燈。〔老學庵筆記、五〕田登作レ郡、自諱二其名一、觸者必怒、吏卒多被二榜笞一、於レ是擧レ州皆謂レ燈爲レ火、上元放燈、許下人入二州治一遊觀上、吏人遂書レ榜揭二于市一曰、本州依レ例放火三日。

【放花】58 fang⁴ hua¹ 花火をあげる。

【放花炮】59（ハウクワハウ）花火をあげる。〔北平歳時志、正月十五日〕如二大洋貨店・茶葉鋪・綢緞鋪一、放二花炮一者亦多。

【放花爆】60 fang⁴ hua¹ pao⁴ 花嫁を迎へるかごが女家の門に着いた時に放つ花火の一種。南京の風俗。

【放過】61（ハウクワ）其の儘にすておく。ききながしにする。〔琵琶記、金閨愁配〕誰想爹爹苦不二放過一。

【放貨】62（ハウクワ）商品を手離す。賣る。

【放課】63（ハウクワ）所定の時間の課業を終る。

【放廻】64（ハウクワイ）放ち廻る。〔白居易、游二湓水一詩〕放二廻岸傍馬一、去二逐波間鷗一。

【放懷】65（ハウクワイ）おもひをはらす。〔溫庭筠、秋日詩〕投レ迹倦レ攸往、放レ懷志レ所レ執。

【放光】66（ハウクワウ）光をはなつ。〔白居易、池上早春即事招二夢得一詩〕雲破山呈レ色、冰融水放レ光。〔蘇軾、戲贈二虔州慈雲寺鑒老一詩〕窓閒但見蠅鑽レ紙、門外唯聞佛放レ光。

【放曠】67（ハウクワウ）心がのんびりとして物にこだはらぬこと。放達。〔晉書、桓石秀傳〕性放曠、常弋二釣林澤一。〔潘岳、秋興賦〕放二曠乎人閒之世一。〔劉琨、答二盧諶一詩序〕近嘉二阮生之放曠一。〔孟貫、寄二山中高逸人一詩〕煙霞多放曠、吟嘯是尋常。

【放完】68（ハウクワン）わたしすます。〔福惠全書、錢穀部、解給〕每年照二經制一放完。

【放款】69（ハウクワン）貸し出す。貸し付ける。投資。〔清會典事例、戶部、蠲恤、恤孤貧〕曾於二乾隆五十年一奏明以レ錢改支、每兩以二一千文一覈給、聲明俟二積錢支銷完竣一、再行三改支二銀兩一、茲順天府於二孤貧一放二款積錢一早經二支銷一、自應下按二照原奏一改支中銀兩上。

【放寬】70 fang⁴ k'uan¹ 擴げる。ゆるくする。くつろぐ。

【放還】71（ハウクワン）はなちかへす。ゆるしかへす。〔周書、明帝紀〕諸村民家有レ犯、乃及二數家一而被二遠配一者、並宜二放還一。〔水滸傳、四十七回〕主管答道、小人親二見朝奉一、下二了書一、倒有二放還之心一。

【放關】72（ハウクワン）關門出入者を檢査して後、通過させること。〔清會典事例、戶部、關稅、考覈〕其所レ收商稅銅斤水腳銀、照二正稅一一例塡二入單內一、給レ商收執、俟二早晚放關一、卽驗レ單截レ角放行、至二年滿考覈時一、將二所レ收正稅贏餘若干、銅斤水腳若干一、分二造清冊一報レ部。

【放勛】73（ハウクン）帝堯の名號。放勳に同じ。〔史記、五帝紀〕帝嚳娶二陳鋒氏女一、生二放勛一、云云、弟放勛立、是爲二帝堯一。〔注〕正義曰、勛、亦作レ勳、言、堯能放二上代之功一、故曰二放勛一。

【放勳】74（ハウクン）史臣が帝堯を贊美した語。其の上世の功化にならつて教化を施した義から（一說に、勳業の四達する義）、堯の號とし或は名とする。〔書、堯典〕曰若稽二古帝堯一、曰、放勳、欽明文思安安。〔傳〕勳、功、欽、敬也、言、堯放二上世之功化一、而以二敬明文思之四德一、安二天下之當レ安者一。〔疏〕帝堯能放二效上世之功一、而施二其教化一。〔蔡傳〕放、至也、猶二孟子言一レ放二乎四海一、是也、勳、功也、言、堯之功大、而無レ所レ不レ至也。〔孟子、滕文公上〕放勳曰、勞レ之來レ之、匡レ之直レ之。

【放兄】75（ハウケイ）家から放逐された兄。〔說苑、正諫〕故無二亡國破家・悖父亂子・放兄棄弟・狂夫淫婦・絕交敗友一。

【放麑】76（ハウゲイ）仁心の喩。孟孫が鹿の子をはなちやった故事。〔淮南子、人閒訓〕孟孫獵而得レ麑、使二秦西巴持歸烹一レ之、麑母隨レ之而嗁、秦西巴弗レ忍、縱而予レ之。〔後漢書、公孫述傳〕觀二放レ麑啜レ羹、二者孰仁一。

【放血】77 fang⁴ hsieh³ 獸を屠殺して血を出す。

【放缺】78 fang⁴ ch'üeh¹ 地方官に缺員のあつた場合に任命せられること。

【放券】79（ハウケン）放券狀の略。放券狀は、土地などの賣却の證書。沽却狀。〔庭訓往來〕永代沽券、安堵年記放券、奴婢雜人券契。

【放遣】80（ハウケン）ゆるしてかへす。はなちにがす。〔後漢書、李恂傳〕光素聞二其名一、放二遣之一。

【放賢】81（ハウケン）賢者をすてる。〔後漢書、五行志二〕天戒若曰、放レ賢賞レ淫、何以舊典爲。

【放言】82（ハウゲン）㊀氣ままに議論する。言ひたいはうだいに言ふ。放論。〔論語、微子〕謂二虞仲・夷逸一、隱居放言、身中レ清、廢中レ權。〔劉寶楠正義〕中庸云、國無道、其默足二以容一、卽此注義、後漢書孔融傳、跌蕩放言、李賢注、放、縱也、又荀韓鍾陳傳論、漢自二中世一以下、閹豎擅恣、故俗遂以レ遁身矯レ潔放言爲レ高、李賢注、放二肆其言一、不レ拘二節制一也、論語曰、隱居放言、此解似レ勝二包氏一。〔集注〕隱居獨善、合二乎道之清一、放言自廢。〔三略、上略〕放言過レ之、四網羅レ之。〔後漢書、孔融傳〕跌蕩放言。〔晉書、夏侯湛傳〕莊周駘蕩以放言、君平賣卜以自賢。〔舊唐書、裴度傳〕高歌放言、以二詩書琴酒一自樂。㊁世事を言はない。放は置。〔論語、微子、放言、集解〕包曰、放、置也、置不二復言二世務一。

【放言居】83（ハウゲンキヨ）清、曹炳曾（5－14297・・311）の室名。

【放言遺辭】84（ハウゲンヰジ）ほしいままに言ひたいことを言ふ。〔陸機、文賦序〕夫其放レ言遺レ辭、良多レ變矣。〔注〕濟曰、遺、發。

【放言高論】85（ハウゲンカウロン）思ふ儘に言論する。〔文章軌範、侯字集、小序〕放言高論、筆端不二窘束一。

【放弦】86（ハウゲン）ゆみづるをはなつ。〔儀禮、大射儀、朱極三、注〕極、猶レ放也、所二以韜一レ指利一レ放レ弦也、以二朱韋一爲レ之。

【放古】87（ハウコ）古にならふ。古人に眞似る。仿古。倣古。〔漢書、兒寬傳〕上由レ此愈奇レ寬、及二議欲一レ放二古巡狩封禪之事一、諸儒對者五十餘人、未レ能レ有レ所レ定。〔注〕師古曰、放、依也。〔漢書、貢禹傳〕臣愚以爲、盡如二太古一難、宜二少放レ古以自節一焉。

【放鼓】88（ハウコ）禁門の出入を報ずる太鼓。〔槁簡贅筆〕禁鼓、古有二鼓契一、有レ二、一曰放鼓、二曰止鼓、其制、以レ木刻二字於上一、凡放鼓契出、禁門外擊レ鼓然後作、止鼓契出亦然。

【放語】89（ハウゴ）言ひたいはうだいに言ふ。放言（82）に同じ。〔大鏡、中〕鼓うちそこなひて立ち給ひたるぞかしと放語したてまつりたるを。

【放工】90 fang⁴ kung¹ 仕事を休む。休業する。

【放鞚】91（ハウコウ）馬のおもがひをはなつ。〔白居易、閑出覓レ春戲贈二諸郞官一詩〕放レ鞚體安騎二穩馬一、隔レ袍身暖照二晴陽一。

【放喉】92（ハウコウ）喉を十分にあけてなく。聲一ぱいにはりあげてなく。〔柴野栗山、雛鶯說示二塾生一〕如レ此一兩日、乃能放レ喉縱轉、音響劉亮、可レ愛云。

【放告】93（ハウコク）㊀うつたへる。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕本縣放告、以二三六九日一爲レ期。㊁fang kao 休業する。

【放魂】94（ハウコン）燈節の際、少年等が晝夜樂器をひきならし、牌を鬪はし舞踏などすること。臨安地方の行事。〔杭州府志〕自レ此少年游治徵逐、凡投瓊買レ快、鬭二九翻牌一、舞レ棍踢レ毬、唱二說平話一、演二習歌吹一、無レ論二晝夜一、謂二之放魂一。

【放差】95 fang⁴ ch'ai¹ 解職する。役目を解除される。

【放債】96（ハウサイ）金を貸して利息を取る。かねかし。〔容齋五筆、俗語放錢〕今人出二本錢一以規二利入一、俗語謂二之放債一、又名二生放一、予考レ之、亦有レ所レ來、漢書谷永傳云、至二爲レ人起レ責分レ利受一レ謝、顏師古注曰、言、富賈有レ錢、假二託其名一、代レ之爲レ主、放二與他人一、以取二利息一而共分レ之、此放字

所レ起也。〔明律、戸律、錢債、注〕蓋以下放債多二豪強之弊一、而負債有中不レ得レ已之情上、故此則抑レ強扶レ弱。〔陔餘叢考、放債起利加二加三加四並京債〕放債起息、後人皆以下周禮泉府之官、凡民之貸與、其有司辨レ之、以二國服一爲二之息一一語上爲二口實一。

【放債戸】97（ハウサイコ） 債權者。放債人に同じ。

【放債人】98（ハウサイジン） 債權者。金貸營業者。〔淸律、戸律、錢債、違禁取利、注〕放債之人、潛赴二任所一追索。

【放債不歸】99 fang^{4} chai^{4} pu^{4} kuei^{1} 金の貸し倒れ。呆賬。

【放齋】100（ハウサイ） 宋、曹粹中（**5**－**14297**・・268）の號。

【放在】101 fang^{4} tsai^{4} 置く。

【放想】102（ハウサウ） 怖ろしいさま。〔周禮、夏官、序官方相氏、注〕方相、猶レ言二放想一、可二畏怖一之貌。

【放槍】103 fang^{4} ch'iang^{1} 銃をはなつ。發砲する。

【放殺】104（ハウサツ） 追ひはらふこととうちほろぼすこと。堯舜の禪讓に對して、湯武が桀紂を討伐したことをいふ。放伐（243）に同じ。〔呂覽、當務〕湯武有二放殺之事一、五霸有二暴亂之謀一。〔注〕成湯放二桀于南巢一、周武殺二殷紂於宣室一、故曰レ有二放殺之事一。〔戰國、趙策〕封二侯貴戚一、湯武之所二以放殺而爭一也。〔史記、儒林傳〕是後學者、莫下敢明二受命放殺一者上。〔漢書、高帝紀上〕項羽爲二無道一、放二殺其主一、天下之賊也。

【放參】105（ハウサン） 佛禪林の語。住持に事故があり、或は臨時の祈禱に晩參（夜の座禪）を放免するをいふ。卽ち鐘を鳴らすこと三下、之を放參の鐘といふ。

【放散】106（ハウサン） ❶まきちらす。四方に散る。發散。〔後漢書、陳俊傳〕放散在レ野者、因掠取レ之。〔魏志、衞覬傳〕夫鹽國之大寶也、自レ亂來放散。❷わがまま。ほしいまま。〔司馬相如、大人賦〕放散畔岸、驤以孱顏。〔阮籍、元父賦〕故其民放散淆亂、藪竄澤居。

【放散蟲】107（ハウサンチユウ） 熱帶地方の海中に產する肉質蟲類の一種。體內に圓形、又は楕圓形の囊膜がある。

【放士】108（ハウシ） 仕官せずして野に在る士。放人（149）に同じ。〔山海經、南山經〕柜山、有レ鳥焉、云云、其名曰レ鴸、云云、見則其縣多二放士一。

【放支】109（ハウシ） 物を給與する。發給。〔明律、戸律、倉庫、挪移出納〕若不レ給二半印勘合一、擅出二權帖一、或給二勘合一、不下立二文案一放支上、及倉庫不レ候二勘合一、或已奉二勘合一、不二附レ簿放支一者、罪亦如レ之。

【放志】110（ハウシ） ほしいままな志。又、志をほしいままにする。〔陸雲、逸民賦〕眇二區外一而放レ志兮、眷二天路一而怡レ顏。

【放恣】111（ハウシ） ほしいまま。きまま。放肆。放縱。〔孟子、滕文公下〕聖王不レ作、諸侯放恣。〔漢書、景十三王傳贊〕漢興至二于孝平一、諸侯王以レ百數、率多二驕淫失レ道、何則沈二溺放恣之中一、居レ勢使レ然也。〔後漢書、孔融傳〕桀逆放恣、所レ爲不軌。

【放徙】112（ハウシ） はなちうつす。〔漢書、五行志中之下〕大臣董賢等、皆放二徙遠方一。

【放弑】113（ハウシ） 追ひはらふこととうちほろぼすこと。放殺（104）に同じ。〔周禮、夏官、大司馬〕放二弑其君一則殘レ之。〔注〕放、逐也、殘、殺也、王霸記曰、殘二滅其爲レ惡、弑、本又作レ殺、同音試。〔韓非子、忠孝〕今舜以レ賢取二君之國一、而湯武以レ義放二弑其君一、此皆以レ賢而危レ主者也。〔史記、蘇秦傳〕封二侯貴戚一、湯武之所二以放弑而爭一也。

【放肆】114（ハウシ） ほしいまま。氣まま。放恣。〔釋名、釋典藝〕律、累也、累二人心一使レ不レ得二放肆一也。〔關尹子、六匕〕一蜂至微、亦能游二觀乎天地一、一鰕至微、亦能放二肆乎大海一。〔魏志、袁術傳評〕袁術奢淫放肆。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕陸梁放肆。〔嵇康、琴賦〕放二肆大川一、濟二乎中州一。〔唐書、嚴武傳〕武在レ蜀頗放肆、用度無藝、或一言之悅、賞至二百萬一。

【放資】115 fang^{4} tzū^{1} 資本を投下する。投資。

【放屣】116（ハウシ） ほしいまま。なげやり。〔後漢書、蔡邕傳〕逡巡放屣、不レ足二以況二其易一。

【放飼】117（ハナシガヒ） ❶牛馬などを原野に放ち養ふこと。野飼。❷放任しておくこと。❸佛（ハウシヤウ） 放生（1－53）の❷に同じ。

【放囚】118（ハウシウ） 囚人をゆるしやること。放赦。〔南史、席闡文傳〕冬至悉放二獄中囚一、依レ期而至。〔宋史、曹豳傳〕寒食放レ囚、歸祀二其先一。

【放舟】119（ハウシウ） 舟を併せる。舟を並べる。方舟。〔荀子、子道〕不レ放レ舟、不レ避レ風、則不レ可レ涉也。〔注〕放、讀爲レ方、國語曰、方レ舟設レ泭、韋昭曰、方、並也。

【放失】120（ハウシツ） はなちすてる。〔史記、太史公自序〕罔二羅天下放失舊聞一。〔淮南子、時則訓〕牛馬畜獸有二放失一者、取レ之不レ詰。

【放車】121 fang^{4} ch'ê^{1} 車を置く。車を置き放し「にする。

【放射】122（ハウシヤ） ❶鐵砲などを擊つ。❷一點から四方に射出する。

【放射說】123（ハウシヤセツ） 光の諸種の現象を解明してニユートンの主唱した說。

【放射線】124（ハウシヤセン） 放射性物質から出る輻射線をいふ。

【放射性體】125（ハウシヤセイタイ） ベクレール線を發生する物質。ラヂウム・トリウム等。放射性物質。

【放射同形】126（ハウシヤドウケイ） 棘皮動物などの諸器官が中心を圍んで配置せられる狀態が、恰も車輪の輻が車軸を圍んで射出してゐるやうなこと。放散同形・放散對稱・放射相稱。

【放赦】127（ハウシヤ） 囚人をはなちゆるす。放免。釋放。〔李白、流二夜郞一贈二辛判官一詩〕我愁遠謫夜郞去、何日金鷄放赦回。

【放餉】128（ハウシヤウ） 給料支拂。〔淸會典事例、戸部、權量、法馬〕每月放餉時、監放官會二同鑲黃正黃二旗參佐領一到レ庫、將二平法一領出、分二置庫門以外南北門以內一。

【放上】129（ハウジヤウ） 上に依る。上の者に見ならひ從ふ。〔國語、周語下〕賓之禮事、放レ上而動咨也。〔注〕放、依也。

【放狀】130（ハウジヤウ） 古、莊園などを人に讓る時、其の由を記した書狀。讓狀。

【放情】131（ハウジヤウ） ほしいまま。氣儘。〔郭璞、游仙詩〕放二情凌霄外一、嚼レ蘂挹二飛泉一。〔張籍、贈二梅處士一詩〕早聞聲價滿二京城一、頭白江湖放二曠情一。

【放釋】132（ハウシヤク） ゆるしはなつ。にがしてやる。〔後漢書、循吏、童恢傳〕遂令二放釋一、吏人爲レ之歌頌。

【放手】133（ハウシユ） ❶慾深く恣なこと。〔後漢書、明帝紀〕權門請託、殘吏放手。〔注〕放手、謂二貪縱爲レ非也。❷手を放す。手を止める。〔杜甫、示二從孫濟一詩〕刈レ葵莫二放手一、放手傷二葵根一。〔燕子箋、收女〕後面費二了許多事一纔放レ手。❸fang^{4} shou^{3} 制限せず、自由に。

【放粥】134 fang^{4} chou^{1} 粥廠で貧民に粥を賑給すること。

【放粥局】135 fang^{4} chou^{1} chü^{2} 冬期窮民に粥を施す所。粥廠（**8**－**26938**・・4）に同じ。

【放出】136（ハウシユツ） ❶ほしいままに出る。放たれて出る。〔白居易、七德舞〕怨女三千放出レ宮、死囚四百來歸レ獄。〔淸會典事例、刑部、兵律關津〕回レ濵時照レ驗放出。❷食糧物資などを放ち出す。❸（ハナチデ） 古の家の建方。母屋から續けて建て出した家作。離座敷。〔源氏物語、若菜上〕寢殿の放出を、例のしつらひて。

【放春】137（ハウシユン） ❶春をいふ。放は當、春の時に當る義。字解[一]の❿を見よ。一說に、放は萬物皆放發する義。〔管子、小問〕桓公放春三月、觀二於野一。〔注〕春物放發、故曰二放春一。〔纂詁〕放春者、當レ春放浪自適也。❷春になつて花木のひらくこと。〔杜甫、酬二別公安太易沙門一詩〕沙邨白雲仍含レ凍、江縣紅梅已放レ春。❸蔣苑使が小圃に遊戲の設備をなし、遊客を娛ましめたこと。〔乾淳歲時記〕蔣苑使有二小圃一、不レ滿二一畝一、而花木匼匝、亭榭奇巧、春時、悉以二所レ有書畫・玩器・冠花・器弄之物一、羅列滿レ前、且立二標竿・射垜及鞦韆・梭門・鬬雞・蹴踘諸戲事一、以娛二遊客一、衣冠士女至者、招邀杯酒、往往禁煙乃已、謂二之放春一。

【放從】138（ハウシヨウ） ほしいまま。放縱。〔漢書、王吉傳〕其後復放從自若。〔注〕師古曰、從、音子用反。〔後漢書、虞延傳〕賓客放從。〔注〕劉攽曰、案レ文、當レ作レ縱。

【放踵】139（ハウシヨウ） きびすにいたる。摩頂（**5**－**12613**・・60）の❶を見よ。〔孟子、盡心上〕墨子兼愛、摩レ頂放レ踵、利二天下一爲レ之。〔集注〕放、至也。

【放縱】140（ハウシヨウ） ❶ほしいまま。放肆。〔詩、鄭風、山有二扶蘇一隰有二游龍一、箋〕游、猶二放縱一也、云云、紅草放二縱枝葉於隰中一。〔列子、楊朱〕此天民之放縱者也。〔漢書、王嘉傳〕奢僭放縱、變二亂陰陽一。〔後漢書、光武紀上〕人情得レ足、苦二於放縱一。〔論

衡、本性）放縱悖亂。㊁きままにさせる。〔後漢書、馬武傳〕面折二同列一、言二其短長一、無レ所二避忌一、帝放二縱之一、以爲二笑樂一。

【放鬆】141 ハウショウ 許す。ゆるめる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕原被倶不二放鬆一。

【放贖】142 ハウショク 質權者が質物の受戾に應ずること。〔明律、戶律、田宅、典買田宅〕其所レ典田宅園林碾磨等物、年限已滿、業主備レ價取贖、若典主託レ故不レ肯二放贖一者、笞四十。

【放心】143 ハウシン ㊀放逸した心。そむき離れる心。外物に迷つて其の本體を失つた心。〔書、畢命〕雖レ收二放心一、閑レ之惟難。〔禮、樂記〕不レ使二放心邪氣得一レ接焉。〔孟子、告子上〕孟子曰、仁、人心也、義、人路也、舍二其路一而弗レ由、放二其心一而不レ知レ求、哀哉、云云、學問之道無レ他、求二其放心一而已矣。〔墨子、尙賢下〕百姓皆攸レ心解レ體。〔閒詁〕畢云、攸、一本作レ放。〔張衡、東京賦〕若乃流遁忘レ反、放レ心不レ覺。㊁おもひをはなち去る。心をひろびろさせる。胸襟をひらく。〔王維、瓜園詩〕攜レ手追二涼風一、放レ心望二乾坤一。㊂うつかりする。氣をゆるす。安心。放念。〔紅樓夢、一回〕那僧笑道、儞放心。〔福惠全書、刑名部、人命上、印官親驗〕許多不二放心一難二憑信一。

【放臣】144 ハウシン 主家を放たれた臣。遠國に追放された臣。〔禰衡、鸚鵡賦〕放臣爲レ之屢歎、棄妻爲レ之歔欷。〔注〕翰曰、放臣、謂下得レ罪見レ逐二遠國一者上。〔馬融、長笛賦〕放臣逐子、棄妻離友。〔注〕翰曰、放臣、謂下遷二於遐荒一者上。

【放神】145 ハウシン ㊀心をほしいままにする。わがままな心。〔韋應物、賈常侍林亭燕集詩〕放神遺レ所レ拘、觥罰屢見レ酬。〔蘇舜欽、寒夜十六韻答二子履見一レ寄詩〕邦國方登レ俊、江湖且レ放レ神。㊁安心。放心。

【放新】146 fang^4 hsin^1 小作人が地主から借りた米等を翌年收穫の時、二倍にして返すこと。加一老。

【放賑】147 ハウシン 賑給する。〔淸會典事例、戶部、蠲恤、賑恤〕又撥二兩淮解京銀一百萬兩一、截二留直隸省一、以備二放賑一。

〖放賑底冊〗148 fang^4 chang^4 ti^3 ts'ê^4 放賑の正確を保つため、州縣官に於て各地委員からの報告書を纏めておく臺帳。

【放人】149 ハウジン 世を遁れた人。山野に放浪する者。放士。〔文中子、立命〕或問二陶元亮一、子曰、放人也、歸去來有二避レ地之心一焉。

【放水】150 ハウスイ ㊀水をきりひらく。水を通はす。〔福惠全書、淸丈部、立二丈冊一〕若係二私行小路、放水溝塍一之外。㊁水ぬきの樋。

〖放水燈〗151 fang^4 shuei^3 têng^1 ㊀中元節に浮燈籠を流すこと。㊁放河燈。

【放醉】152 ハウスイ 醉ひをほしいままにする。思ふ存分に醉ふ。〔白居易、初到二洛下一閑遊詩〕趁レ伴入レ朝應二老醜一、尋レ春放レ醉尙二麤豪一。

【放生】153 ハウセイ ㊀魚鳥などの生物を放つ。〔列子、說符〕邯鄲之民正旦獻二鳩于趙簡子一、簡子厚賞レ之而放二其鳩一、客問二其故一、曰、正旦放レ生、示レ有レ恩也。〔柳宗元、放二鷓鴣一詞〕齊王不レ忍二觳觫牛一、簡子亦放二邯鄲鳩一。〔蘇軾、六月二十七日望湖樓醉書五絕詩〕放生魚鼈逐レ人來、無レ主荷到處岸開。㊁佛 ハウジヤウ 功德を積むため、生物を放つ。〔佛祖統紀、三十三〕放生、光明經述二流水長者救レ魚、十千天子報レ德、此緣起也。

〖放生器〗154 ハウジヤウキ 佛 比丘が日常漉水囊を以て水を漉したとき、其の囊底に殘つた小蟲を放ち置く器。〔護命放生儀軌法〕。

〖放生會〗155 ハウジヤウヱ 佛 佛が比丘に放生器を貯へ、日常漉水囊に罹つた生類をこれに容れ、以て泉池河水に放たしめた。其の時は未だ放生會といふことはなかつたが、中國で天臺の智者が天臺山の海曲を制して放生池となし、海上の魚夫をして魚介を放たしめ、三歸戒を授け、大法を說き、法緣を結ばしめたのが法生會の濫觴である。吾が朝では敏達天皇の七年、始めて六齋日に殺生を禁じ、其の後天武天皇の五年に放生會を修する詔があつた。後世は、既に捕獲されて將に殺さるべき運命の魚鳥等を、特設或は普通の池沼山野等に放つて生を完うせしめる佛事をいふ。〔乾淳佛時記〕四月八日、爲二佛誕生日一、諸寺各有二浴佛會一、是日西湖作二放生會一、小船競二賣龜魚螺蚌一、令二放生一。

〖放生池〗156 ハウジヤウチ 佛 ㊀當に死すべき魚介を放つて食を施し法を施す池。もと金光明經所說の流水長者の緣に依り、天台智者の立法に始まる。吾が朝では持統天皇の三年八月、攝州武庫海一千步、紀州耆野、加州身野各二萬を放生所と定められ、又寺社の境內に私設の放生池が多い。〔佛祖統紀、三十三〕放生、光明經述二流水長者救レ魚十千天子報レ德、此緣起也、智者買二斷簄梁一、悉罷二江上採捕一、此立法也、云云、本朝眞宗天禧元年詔、復二天下放生池一。㊁池の名。浙江省杭縣の西湖の中。宋の蘇軾が杭州の役人となり、瓶形の塔を湖中に立てたが、明の成化の後毀たる。萬曆の間、濬へて葑泥を取り、潭の周圍に埂を作り、放生池とす。また三塔を置く。月光が潭に映ずれば塔を三分するので三潭印月の稱がある。〔陔餘叢考、放生池〕放生本二於佛家戒殺之義一、唐乾元中、命二天下一置二放生池八十一所一、顏魯公碑云、環レ地爲レ池、周レ天布レ澤、動植依レ仁、飛潛受レ獲、宋天禧中、王欽若奏、以二杭州西湖一、爲二祝聖放生池一、郡守王隨記レ之、東坡奏、西湖不レ可レ廢者五、此其一也、其狀云、郡人數萬、會二於湖上一、所レ活羽毛鱗介、以二百萬一數、然考二藝文類聚一、梁元帝時、荊州有二放生亭碑一、則唐以前已有レ之。

【放靑】157 fang^4 ch'ing^1 家畜を野に放つて草を食はせる。家畜を放牧する。

【放晴】158 fang^4 ch'ing^2 晴れる。

【放齊】159 ハウセイ 堯の臣。〔書、堯典〕放齊曰、胤子朱、啓明。〔傳〕放齊、臣名。

【放聲】160 fang^4 shêng^1 聲を出す。叫ぶ。

【放哨】161 fang^4 shao^4 巡邏する。見廻る。

【放斥】162 ハウセキ はなちしりぞける。放黜。〔後漢書、王龔傳〕龔深疾二宦官專一レ權、志在二匡正一、乃上書極二言其狀一、請レ加二放斥一。

【放迹】163 ハウセキ 意の儘に遊び廻ること。〔楚辭、九章、悲回風〕求二介子之所一レ存兮、見二伯夷之放迹一。〔陳深、江上詩〕放迹淸江上、悲歌惜二歲窮一。

【放絕】164 ハウゼツ なくなる。絕える。〔史記、太史公自序〕自二獲麟一以來、四百有餘歲、而諸侯相兼、史記放絕。

【放箭】165 ハウセン 箭をはなつ。

【放錢】167 ハウセン 金を貸しつけて利息を取る法。放債(96)を見よ。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕靑苗放錢、自レ昔有レ禁。

〖放錢債〗168 ハウセンサイ 債權。〔明律、戶律、錢債、違禁取利〕凡私放二錢債一及典二當財物一、每月取レ利並不レ得レ過二三分一。

〖放錢主〗169 fang^4 ch'ien^2 chu^3 金錢の貸主。貸金者。債權者。

【放蛆】170 ハウソ でたらめなことをいふ。氣儘に饒舌る。縱談。〔北史、甄琛傳〕琛會拜レ官、諸賓悉集、巒乃晚至、甄謂レ巒、何處放蛆來、今晚始顧。

【放走】171 ハウソウ 走り競べする。競走。〔輟耕錄、貴由赤〕貴由赤者、快行是也、每歲一試レ之、名曰二放走一、以二腳力便捷者一膺二上賞一、故監臨之官、齊二其名數一而約レ之以レ繩、使レ無二後先參差之爭一、然後去レ繩放行、在二大都一則自二河西務一起レ程、若二上都一則自二泥河兒一起レ程、越二三時一走二一百八十里一、直抵二御前一、俯伏呼二萬歲一、先至者賜二銀一餠一、餘者賜二段疋一有レ差。

【放送】172 ハウソウ ラジオ又はテレビの電波により、多くの人に傳へ送ること。又、有線による報道をもいふ。

〖放送局〗173 ハウソウキヨク 放送を目的として開設する無線局。

【放足】174 fang^4 tsu^2 足を開く。

【放賊】175 fang^4 tsei^2 賊を放免する。

【放鏃】176 ハウゾク 矢を射る。〔夏侯湛、獵兔賦〕覘二毫末一而放レ鏃、乃殪二之于窟中一。

【放率】177 ハウソツ さつぱりとしてかざらない。〔晉書、桓尹傳〕帝彌賞二其放率一、乃許召レ之。

【放惰】178 ハウダ ほしいままでおこたる。〔杜牧、與レ人論レ諫書〕其疎愚放惰、不レ識二機括一、獨好二讀書一。

【放大】179 fang^4 ta^4 ㊀廓大する。㊁寫眞の引伸し。寫眞を引伸す。

〖放大儀〗180 fang^4 ta^4 i^2 擴大器。

〖放大官〗181 fang^4 ta^4 kuan^1 大官に任用される。

【放退】182 ハウタイ はなちしりぞける。又、退いて自由の身となる。〔漢書、師丹傳〕有司條下奏邪臣建二

定稱號㆒者㆖、已放退。〔後漢書、杜詩傳〕陛下殊恩未㆑許㆓放退㆒。

【放對】183（ハウタイ）　立合ひする。對手となる。やりあふ。戰ふ。〔水滸傳、七十四回〕二十七日在㆓那裏㆒打㆓深一日㆒、二十八日、卻好和㆓那廝㆒放對。

【放代】184（ハウダイ）　官物、又は囚徒等を護送する官吏が二人あるとき、一人が留つて一人が護送すること。〔唐律、職制、奉使部送雇寄人〕卽綱典自相放代者、笞五十、取㆑財者坐㆑贓論。〔疏議〕或綱獨部送、而放㆑典不㆑行、或典自領行、而留㆑綱而不㆑去、此爲㆓自放代㆒。

【放題】185（ハウダイ）　㊀秩序のないこと。自由勝手なこと。〔敕規桃源抄、五〕㊁思ひのままにする意を表はす語。〔下學集、下、能藝門〕放題、注、詩歌所㆑言也、日本俗或云㆓放埒之人㆒。

【放唐】186（ハウタウ）　堯をいふ。放は大。唐は堯の氏。〔班固、典引〕答㆓三靈之蕃祉㆒、展㆓放唐之明文㆒。〔注〕翰曰、放唐、謂㆑堯也。

【放蕩】187（ハウタウ）　㊀ほしいまま。きまま。放逸。〔漢書、東方朔傳〕指意放蕩、頗復詼諧。〔魏志、武帝紀〕太祖少機警、有㆓權數㆒、而任俠放蕩、不㆑治㆓行業㆒。〔水滸傳、八十回〕高大尉大醉、酒後不㆑覺放蕩。㊁酒色などの慾をほしいままにする。道樂。

【放蕩息子】188（ハウタウムスコ）　放蕩する息子。遊蕩兒。道樂息子。蕩子。

【放盪】189（ハウタウ）　ほしいまま。放蕩。〔魏志、楊阜傳〕總㆓觀季世放盪之惡政㆒。

【放濁】190（ハウダク）　しまりがなくてにごる。〔干寶、晉紀總論〕行㆑身者以㆓放濁㆒爲㆑通、而狹㆓節信㆒。

【放達】191（ハウタツ）　ほしいままで物にこだはらない。物事に拘らず氣ままにふるまふ。放曠。〔嵆康、琴賦〕非㆓放達者㆒、不㆑能㆓與㆑之無㆑吝。〔世說新語、任誕〕劉伶恆縱㆑酒放達。〔顏氏家訓、涉務〕舉朝以爲㆓放達㆒。

【放誕】192（ハウタン）　思ふままに大言壯語する。大きな口をきく。〔漢書、敍傳下〕放誕之徒、緣㆑間而起。〔晉書、何曾傳〕阮籍負㆑才放誕、居㆑喪無㆑禮。〔南史、文學、檀超傳〕少好㆓文學㆒、放誕任㆑氣。〔傅玄、舉㆓清遠有禮之臣㆒疏〕魏武好㆓法術㆒、而天下貴㆓刑名㆒、魏文帝慕㆓通遠㆒、而天下賤㆓守節㆒、其後綱維不㆑攝、而虛無放誕之論、盈㆓於朝野㆒。

【放膽】193（ハウタン）　思ひきつて大膽に事をなす。放膽文を見よ。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕便放膽吐㆓露眞情㆒。

【放膽子】194 fang^4 tan^3 tzŭ　大膽になる。勇氣を振ひ起す。

【放膽文】195（ハウタンブン）　少々文法にかなはぬ所があつても、筆法が大膽で思ふままにかき記した文章。宋の謝疊山が文章軌範を編次して、放膽文・小心文に分けて文章を收錄した。〔文章軌範、侯字集小序〕凡學㆑文、初要㆓膽大㆒、終要㆓心小㆒、由㆑麤入㆑細、由㆑俗入㆑雅、由㆑繁入㆑簡、由㆓豪蕩㆒入㆓純粹㆒。〔海保漁村、補注文章軌範〕唐書孫思邈告㆓盧照鄰㆒曰、膽欲㆑大而心欲㆑小、放膽小心蓋本㆓諸此㆒、淮南子主術篇、凡人之論、心欲㆑小而志欲㆑大、此亦眞人所㆑本也、困學紀聞、梁文帝誡㆓子當陽公㆒書曰、立㆑身之道與㆓文章㆒異、立㆑身先須㆓謹重㆒、文章且須㆓放蕩㆒、王洙談錄、歐陽公曰、文字既馳騁亦要㆓簡重㆒、是編立㆓放膽小心二目㆒、蓋亦文家相傳遺矩云。

【放膽小心】196（ハウタンセウシン）　文章を作るには、初めは大膽に筆を揮つて書き流し、熟達した後は、細心の注意を拂つて規則正しく書くべきであるといふこと。放膽文を見よ。

【放談】197（ハウダン）　憚りなく語る。出放題な談話。〔蜀志、孟光傳〕光解㆓正愼宜不㆑爲㆓放談㆒。

【放置】198（ハウチ）　はなちおく。そのままにすておく。

【放鑄】199（ハウチウ）　ほしいままに鑄る。妄りに錢などを鑄造する。〔漢書、食貨志下〕使㆓民放鑄㆒。〔注〕師古曰、恣㆓其私鑄㆒。

【放逐】200（ハウチク）　はなちおふ。追ひ拂ふ。〔戰國、魏策〕恃㆓此險㆒也、爲㆑政不㆑善、而禹放㆓逐之㆒。〔史記、項羽紀贊〕放㆓逐義帝㆒、而自立。〔漢書、淮南厲王長傳〕昔堯舜放㆓逐骨肉㆒。

【放長】201 fang^4 chʻang^2　延長する。長く延ばす。

【放長假】202 fang^4 chʻang^2 chia^4　十二月十五日以後、塾が散學休暇となること。杭州の習俗。

【放賬】203 fang^4 chang^4　㊀金を貸す。貸付。㊁かけ賣する。

【放賬局】204 fang^4 chang^4 chü^2　金錢の貸付を業とする店。

【放黜】205（ハウチユツ）　はなちしりぞける。放逐貶黜。〔書、泰誓下〕崇㆓信姦回㆒、放㆓黜師保㆒。〔傳〕姦邪之人、反尊㆓信之㆒、可㆓法以安㆒者、反放㆓退之㆒。〔晉書、鍾雅傳〕宜㆘加㆓放黜㆒、以整㆗王憲㆖。

【放敶】206（ハウチン）　ときつらねる。敶は陳。〔楚辭、宋玉、招魂〕放㆓敶組纓㆒、班其相紛些。〔集注〕敶、一作㆑陳。

【放定】207（ハウテイ）　㊀おきさだめる。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕庫吏放㆓定等陀㆒在㆑星。㊁fang^4 ting^4 結納をおくる。

【放定銀】208 fang^4 ting^4 yin^2　手付金を打つ。

【放停】209（ハウテイ）　はなちとどめる。除隊をいふ。〔蘇軾、再上㆓皇帝㆒書〕近者放停軍人李興、告㆓虎翼吏、率㆑錢行㆑賂、以求㆑不㆑併。

【放刁】210 fang^4 tiao^1　㊀しつこくつきまとふ。〔西廂記、草橋店夢鶯鶯雜劇〕這賤小人、到會放刁。㊁詐りかたる。詐僞する。惡だくみをする。〔水滸傳、二十四回〕與人放刁把濫、說事過錢、排陷官吏。

【放鳥】211（ハウテウ）　㊀追善のために鳥を放ちやる。㊁翅などを切つて、池水などに放ち飼ふ鳥。

【放朝】212（ハウテウ）　群臣がゆるされて朝參せぬことをいふ。〔舊唐書、文宗紀論〕朕欲㆘與㆓卿等㆒每日相見㆖、其輟朝放朝、用㆓雙日㆒可也。〔白居易、雨雪放朝因懷㆓微之㆒詩〕歸騎紛紛滿㆓九衢㆒、放朝三日爲㆓泥塗㆒。

【放鵰】213（ハウテウ）　そむかせる。〔通俗編、禽魚、放鵰〕朱子大全集多見㆑之、猶㆑言㆑使㆑乖也、今俗用㆓刁字㆒非。

【放糶】214（ハウテウ）　米價が昂騰した場合に政府の貯藏米を廉く賣放つこと。〔皇朝文獻通考、市糴考、糴〕向來京師需用麥石俱藉㆓豫東二省㆒接濟、本年春夏之閒、該二省雨澤短少、收成歉薄、未㆔必更有㆓寬裕㆒、以資㆓商販糴運㆒、恐京中麥石入㆑市稀少、價値或致㆓昂貴㆒、不㆑可㆑不㆔預爲㆓調劑㆒、今歲奉天各屬㆓雨水㆒調㆓勻麥收豐稔、永璋鄂寶等㆒、查㆓照向例㆒採㆓買麥二萬石㆒委員運㆑京、以備㆓支放糶糶之用㆒。

【放擲】215（ハウテキ）　なげやりにする。うつちやる。抛擲(5-11948・・24)に同じ。

【放驏】216（ハウテン）　馬に乘つて走る。〔福惠全書、郵政部、喂養〕三日一浴、十日一放驏。

【放顚】217（ハウテン）　やりつぱなしで氣が狂ふ。〔大窪詩佛、閑遊詩〕落花於㆑我何輕薄、飛絮比㆑人尤放顚。

【放電】218（ハウデン）　異種の電氣が中和して消失する現象。

【放電叉】219（ハウデンサ）　放電せしめるために用ひる叉形の具。

【放賭】220 fang^4 tu^3　博弈を打つこと。

【放燈】221（ハウトウ）　燈火を點ける。正月の上元節に提灯を飾ること。〔蘇軾、諫㆑買㆓浙燈㆒狀〕且內庭故事、每㆑遇㆓放燈㆒、不㆑過㆑令㆓內東門雜物務臨㆑時收買㆒。〔事物紀原、歲時風俗部、放燈〕史記樂書曰、漢帝以㆓正月上辛㆒、祀㆓太一甘泉㆒、以㆓昏時㆒祀到㆑明、徐堅謂、今人正月望、夜遊觀㆑燈、是其遺事。

【放燈事】222 fang^4 têng^1 shih^4　正月の上元節に舞樂の設備をする行事。

【放頭】223 fang^4 tʻou^2　喇嘛僧が木の棒を黃布で包み、これで弟子の頭を打つこと。おこぞりをあてる。

【放德】224（ハウトク）　德にならふ。〔莊子、天道〕夫子亦放㆑德而行、循㆑道而趨、已至矣。

【放毒】225（ハウドク）　しりぞけ害する。〔後漢書、宦者、呂強傳〕放㆓毒人物㆒、疾㆓妒忠良㆒。

【放豚】226（ハウトン）　逃げ出した豚。〔孟子、盡心下〕今之與㆓楊墨㆒辯者、如㆑追㆓放豚㆒、既入㆓其苙㆒、又從而招㆑之。〔集注〕放豚、放逸之豕豚也。

【放入】227（ハウニフ）　這入る。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄、獄囚衣糧〕如有㆓姦徒捏㆑名入㆑監舞弊㆒、卽據㆑實分別拏究參處、其盜犯妻子家口、均不㆑許㆘放㆓入監門㆒探視㆖。

【放任】228（ハウニン）　なげやりにする。なるままにする。干涉(4-9165・・71)の㊀の對。

【放任主義】229（ハウニンシユギ）　物事に敢て干涉せぬ主義。

【放尿】230（ハウネウ）　小便する。

【放念】231（ハウネン）　心遣ひをやめる。心をやすくする。

【放馬】232（ハウバ・ハナチウマ）　放飼にした馬。つながぬ馬。

【放悖】233（ハウハイ）　ほしいままで道理にもとる。〔呂覽、

審分〕按二其實一、而審二其名一、以求二其情一、聽二其言一、而察二其類一、無レ使二放悖一。

【放廢】234 ハイ はなちすてる。〔漢書、武五子、昌邑哀王髆傳〕賀嚚頑放廢之人。〔後漢書、皇甫嵩傳〕雖レ云二多讒一、不レ過二放廢一、猶有二令名一、死且不レ朽。

【放砲】235 fang⁴ p'ao⁴ 發砲する。大砲を放つ。

【放亡】236 ハウバウ すてにげる。〔春秋繁露、五行順逆〕百姓叛去、賢聖放亡。

【放榜】237 ハウバウ 試驗の及第者の姓名を發表する。〔杜牧、及第後寄二長安故人一詩〕東都放榜未レ開レ花、三十三人走レ馬迴。〔淸會典事例、禮部、貢擧、磨勘處分〕康熙五十三年覆准、各省放榜後、地方近者限二一月一、遠者限二兩月一、京師限二十日一、均令下本生到二學政衙門一、塡書親供上。

【放牓】238 ハウバウ 試驗の合格者の姓名を發表する。放榜に同じ。〔玉海、選擧、科擧、唐覆試〕侍郎王起言、故事已放牓而始詳覆、今請二先詳覆而後放牓一。〔南部新書、丙〕（唐）大中以來、禮部放牓、歲取二三二人一、姓氏稀僻者、謂二之色目一、亦謂曰二牓花一。〔事物紀原、學校貢擧部、放牓〕摭言曰、進士牓頭、立二粘黃紙四張一、以二氈筆淡墨一、云云、書二禮部貢院四字一、或曰、文皇親以二飛白一書レ之、又云、象二陰注陽受之狀一、蓋亦自二唐室一始也、張洎賈郎中談錄曰、賈君嘗問、放二擧人一、牓二貢院字一、用二墨氈書一何也、對曰、聞二諸祖父說一、李紓侍郎將レ放二擧人一、命二筆吏一書、吏暴卒、令三史王祀終二其事一、祀被レ酒揮染、不レ能二加墨建明一、張レ牓始覺無レ及矣、一牓之內、云云、遂成二故事一、今用二氈書一、蓋益二增其奇麗一。

【放鉢】239 ハウハチ 佛長壽の祕法。〔如意寶珠轉輪祕密現身成佛金輪呪王經放鉢品〕。

【放發】240 ハウハツ ほしいままに發する。〔皇甫謐、三都賦序〕淫文放發、言過二于實一。

【放髮】241 ハウハツ 振分けがみ。たれがみ。〔吳越春秋、闔閭內傳〕放髮僵臥無レ所レ懼。〔吳志、虞翻傳、注〕翻別傳曰、云云、又臣郡吏陳桃夢、臣與二道士一相遇、放髮被二鹿裘一。

【放潑】242 fang⁴ p'o¹ ある限りの力を出す。努力する。

【放伐】243 ハウバツ 惡虐の政を行ふ天子に對して、武力を用ひて之を帝位から放逐し又は討伐すべしといふ思想で、天子の地位は有德の君に傳へられるべきであるといふ禪讓と共に、禪讓放伐と竝稱され、易姓革命を認めた君主更迭法の一である。其の最も顯著な例は、夏の桀王が虐政を行ひ暴戾の行が多く、諸侯が服しなかつたので、殷の湯王は師を興し諸侯を率ゐて桀王を伐ち、之を帝位から放逐して自ら商の天下を肇め、又、殷の紂王が暴虐甚だしくて、賢人の諫を容れず酷刑を施し、百姓は怨望し諸侯は叛いたので、周の武王は兵を擧げて諸侯と共に紂王を討伐して之を滅し、自ら周の天下を肇めた如き類である。〔孟子、梁惠王下〕齊宣王問曰、湯放レ桀、武王伐レ紂、有レ諸、孟子對曰、於レ傳有レ之、曰、臣弑二其君一、可乎、曰、賊レ仁者謂二之賊一、殘レ義者謂二之殘一、殘賊之人、謂二之一夫一、聞レ誅二一夫紂一矣、未レ聞レ弑レ君也。〔顧璘、鳴蛙賦〕唐虞受レ禪、舜禹雍和、湯武放伐、伊呂攫拏。〔弘道館記述義、上〕有レ決不レ可レ用者二一焉、曰禪讓也、曰放伐也、虞夏禪讓、殷周放伐、而秦漢以降、欺二孤兒寡婦一以簒二其位一者、必藉二口於舜禹一、滅二宗國一、弑二舊主一以奪二天下一者、必託二名於湯武一、歷代之史既遇二二十一、不三啻上下易レ位、或併二內外之分一而失レ之、所謂拓拔・耶律・完顏・奇渥溫・愛新覺羅者、何等種類、何等功德、而九州臣民、若レ崩二其角一、又從而贊二揚其美一、動比二唐虞一、不三亦可二憫笑一乎。

【放飯】244 ハウハン 手についた飯を器中にもどすこと。一說に、大口に食ふ。〔禮、曲禮上〕毋二放飯一、毋二流歠一、毋二咤食一、毋レ齧レ骨。〔注〕去二手餘飯於器中一、人所レ穢。〔疏〕放飯者手就二器中一取レ飯、飯若黏着著レ手不レ得レ拂、放二本器中一也。〔禮、少儀〕毋二放飯一、毋二流歠一、小飯而亟レ之。〔孟子、盡心上〕放飯流歠。〔注〕放飯、大飯也。

【放飯流歠】245 ハウハンリウセツ 大口に飯を食ひ、流しこむやうに汁をすする。無作法な食ひかたをする。放飯・放飯流歠而問レ無二齒決一を見よ。

【放飯流歠而問レ無二齒決一】246 ハウハンリウセツシテシケツスルナキヲトフ 放飯流歠の無作法を行つて顧みず、却つて齒決しないといふ小禮を守らないのを責める。先づ務むべき所を知らない喩。齒決は、乾肉を齒で齧み切る。乾肉は堅くて斷り難いから手を以て引き裂いて食ふ。齒で齧み切るは小不敬に當る〔孟子、盡心上〕不レ能二三年之喪一、而緦小功之察、放飯流歠、而問レ無二齒決一、是之謂レ不レ知レ務。〔注〕放飯、大飯也、流歠、長歠也、齒決、斷レ肉置二其餘一也、於二尊者前一賜レ飯、大飯長歠、不敬之大者、齒決小過耳、言、世之先務舍レ大譏レ小、若レ此之類也。〔定本〕衡案、放飯與二流歠一對言、流歠レ之如二水流一、則放飯飯レ之、放縱無二檢束一也、趙訓二大飯一洵是。

【放翻】247 fang⁴ fan¹ 突きはなし倒される。ひつくりかへる。〔水滸傳、三十一回〕打從這裏過、喫我放翻了。

【放盤】248 fang⁴ p'an² 價を安く賣る。又、價を高く買ひ入れる。

【放屁】249 ハウヒ ❶放屁する。〔大慧普說、二〕山僧敢道他放屁。❷人を罵る言葉で、馬鹿の意。〔紅樓夢、二十八回〕王夫人道、放屁、什麼藥就這麼貴。〔桃花扇、阻奸〕亡放屁、國破家亡之時、還有二甚麼趣話說一。❸つまらぬことをいふ。〔水滸傳、二十一回〕胡言亂語、放屁辣臊、押司都不レ要レ聽。

【放屁狂言】250 ハウヒキヤウゲン 亂罵する。〔桃花扇、鬧丁〕恨輕薄新進、也放屁狂言。

【放風】251 ハウフウ ❶風に依る。風に從ふ。〔莊子、天運〕吾子亦放レ風而動。〔釋文〕司馬云、放、依也。❷かく希ふといひきかせる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕放レ風薰嚇、已告則使二黨圈和一。

【放風箏】252 fang⁴ fêng¹ chêng 凧を揚げる。

【放悲】253 ハウフツ 似通ふ。髣髴（**12—45371・・4**）の❶に同じ。〔漢書、禮樂志〕相放悲、震二澹心一。〔注〕師古曰、放悲、猶二髣髴一也。

【放物】254 ハウブツ 物に依る。〔史記、歷書〕不レ可レ放レ物。〔漢書、郊祀志上〕民神雜擾、不レ可レ放レ物。

【放紛】255 ハウフン もつれみだれる。まとまりなくもつれる。〔左氏、昭、十六〕獄之放紛、會朝之不レ敬。〔注〕放、縱也、紛、亂也。〔國語、周語下〕刑政放紛、動不レ順レ時。〔漢書、敍傳下〕三季之後、厥事放紛。

【放兵】256 fang⁴ ping¹ 七月一日の夜、景佑眞君廟に鼓を打ち螺を吹き小鉦を鳴らして、更に市中を巡廻する行事をいふ。湖北地方の風習。

【放米】257 ハウベイ 米を施す。〔淸會典事例、戶部、權量、升斗斛〕三十一年議准、各倉所レ用木斛、放米之日、毎晚封二存廒內一、次早驗封給發、通倉由二倉場侍郎一查驗、京倉由二都統御史一查驗、務使下木斛與二鐵斛一相準上、稍有二贏絀一、隨レ時修整。

【放飄】258 fang⁴ p'iao¹ 散布する宣傳文。又は流言を放つて宣傳すること。祕密結社の語。

【放辟】259 ハウヘキ ほしいままで我儘勝手なことをする。辟は僻と同じ。我儘にふるまふ。〔孟子、梁惠王上〕若レ民則無二恒產一、因無二恒心一、苟無二恒心一、放辟邪侈、無レ不レ爲已。〔集注〕辟、與レ僻同。

【放扁】260 ハウヘン 放りつぱなし。〔桃花扇、題畫〕翠菱花放扁、鎖二寒煙一。

【放步】261 ハウホ 氣ままに歩く。〔孟郊、西上經二靈寶觀一詩〕放步霽霞起、振衣華風生。

【放俸】262 ハウホウ 俸給を支拂ふ。〔淸會典事例、戶部、蠲恤、賑飢〕該省既經二被水一、米色顆粒、自當二稍減一、所レ有交倉之米、並著不レ論二紅白私秈一、地方官酌量可レ收、一體准予收兌、此等米俟二兌運抵通一、卽先行撥二放俸餉一、該部遵レ諭速行。

【放烽】263 ハウホウ のろしをあげる。〔唐六典、尙書、兵部、職方郎中〕其放レ烽有二一炬二炬三炬四炬者一。

【放眸】264 ハウボウ 遙かに見渡すこと。〔依田學海、泛游小品〕放レ眸游眺。

【放牧】265 ハウボク 牛馬などをはなしがひにする。〔後漢書、光武紀下〕牛馬放牧、邑門不レ閉。〔後漢書、烏桓傳序〕隨二水草一放牧、居無二常處一。

【放邁】266 ハウマイ 心がほしいままで才能がすぐれてゐる。〔北史、崔接傳〕容貌魁偉、放邁自高。

【放慢】267 ハウマン ほしいまま。打棄て置く。氣儘。〔許月卿、捧硯姬空翠詩〕看レ山車放慢、遇レ水馬爭レ先。

【放民】268 ハウミン 氣ままな民。放人。〔謝翺、魯國圖詩〕被髮逢二夫子一、狂歌作二放民一。

【放命】269 ハウメイ 教命を放棄する。天子の命に從はない。〔漢書、傅喜傳〕同心背畔、放レ命圮レ族。〔注〕應劭曰、放二棄教令一、毀二其族類一。〔王先謙補

注〕尚書作レ方、今文作レ放、云云、方與レ放、文異義同。〔後漢書、皇甫嵩朱儁傳論〕値二弱主蒙塵、獷賊放一レ命。〔陸機、諸侯五等論〕放レ命者七臣。〔注〕善曰、韋昭曰、方放命、不レ承二天子之制一。

【放免】270 ハウメン ㊀はなちゆるす。罪人などをゆるす。束縛を解く。〔宋史、太祖紀二〕詔廣南有下買二人男女一爲二奴婢一轉二傭利一者上竝放免。㊁ヘウハン 罪ある者が許されて檢非違使廳の下部となつたもの。賀茂祭の時などに警固の役をつとめ、又、死罪・流罪者のある時など之を警固した。〔今昔物語、十六〕。

【放目】271 fang^{4} mu^{4} 見晴らす。見渡す。

【放夜】272 ハウヤ 正月の十四日・十五日・十六日の三日間、夜中城門を開放して臣下の夜遊びをゆるすこと。〔西都雜記〕西都京城街衢、有二執金吾曉瞑傳呼一、以禁二夜行一、惟正月十五日夜、敕二金吾一弛レ禁、前後各一日、謂二之放夜一。

【放夜遊子】273 fang^{4} yeh^{4} yu^{2} tzu 外出して遊びまはり夜ふかしをする。家で遊戲して夜をふかす。

【放羊】274 fang^{4} yang^{2} 羊を牧養する。

【放洋】275 ハウヤウ 船で海外に行く。出洋。〔春渚紀聞、龍神需二舍利經文一〕元豐初、安燾厚卿陳睦和叔二學士、奉二使三韓一、濟レ海、舟中安二貯佛經一、云云、以備二投散一、放洋之二日、風勢甚惡、海濤大洶湧、海神百怪、攀レ船而上。〔清會典事例、刑部、兵律、關津〕該衙門卽訊下明由二何處一放洋上。

【放養】276 ハウヤウ はなちやしなふ。はなち飼ふ。〔運步色葉集〕放養小鳥。

【放與】277 fang^{4} yü^{3} 貸與。

【放鷹】278 ハウヨウ 鷹狩。鷹を使つて小鳥などをとる。〔陸雲、答二車茂安一書〕密罔彌レ山、放レ鷹走レ犬、弓弩亂發、鳥不レ得レ飛、狩不レ得レ逸。〔魏書、島夷蕭道成傳〕放鷹走狗。〔白居易、放鷹詩〕十月鷹出レ籠、草枯雉兔肥。

【放鷹司】279 ハウヨウシ 養老・天平の頃に置かれ、鷹犬を調習し、遊獵の用に供することを掌つた。〔續日本紀、八〕養老五年七月、放鷹司鷹狗、大膳職鸕鶿。

【放慾】280 ハウヨク 慾望のままにふるまふこと。利己慾のままにふるまふこと。〔愼思錄、四〕非レ如三小人欲二長生而放レ慾也。

【放賴】281 fang^{4} lai^{4} ㊀冤罪に對して賠償を要求すること。㊁互に爭ふ。

【放浪】282 ハウラウ ㊀氣ままにする。心のままに振舞つて物事にかかはらぬこと。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕因寄レ所レ託、放二浪形骸之外一。㊁氣ままに歩く。さまよふ。流浪。〔胡宿、南園詩〕眼前百事輸二年少一、猶解因レ君放浪吟。〔蘇軾、次二韻秦觀秀才見レ贈秦與二孫莘老李公擇一甚熟將二入レ京應一レ擧詩〕江湖放浪久全レ眞、忽然一鳴驚二倒人一。〔金史、文藝下、元德明傳〕放二浪山水間一、飲レ酒賦レ詩以自適。

【放落】283 fang^{4} lao^{4} 下へおろす。

【放埒】284 ハウラツ 馬が埒を放れる。埒は馬場のかこひ。轉じて、恣に酒などにふけるをいふ。行爲のしまりがないこと。放蕩。〔傾城島原蛙合戰、一〕。

【放濫】285 ハウラン 氣ままでみだりなこと。〔後漢書、蔡茂傳〕外戚憍逸、賓客放濫。〔後漢書、朱穆傳〕放濫驕溢、莫二能禁禦一。

【放懶】286 ハウラン 我儘勝手でなまける。放惰。〔白居易、日高臥詩〕怕レ寒放懶日高臥、臨レ老誰言牽率身。

【放纜】287 ハウラン ともづなを解く。船を出す。〔韓維、答下公懿以三屢游二薛園一見上詒詩〕田廬常閉レ門、野艇時放レ纜。

【放利】288 ハウリ ㊀利による。專ら利を追求する。〔論語、里仁〕子曰、放二於利一而行多レ怨。〔集解〕孔安國曰、放、依也。㊁fang^{4} li^{4} 貸付利子。

【放流】289 ハウリウ ㊀島ながしにする。追放する。又、罪を蒙つて追はれさまよふ。〔大學〕唯仁人放二流之一、迸二諸四夷一。〔史記、屈原傳〕屈原既嫉レ之、雖二放流一、睠二顧楚國一、繫二心懷王一。〔論衡、恢國〕唐虞放流、死二於不毛一。㊁ほしいままに光りかがやく。〔漢書、李尋傳〕日失二其光一、則星辰放流。〔注〕張晏曰、日陽失二光明一、陰得レ施也。㊂魚を養殖する目的で河川に放飼すること。

【放溜】290 ハウリウ 舟を流れのままに獨りで行かせる。〔梁元帝、早發二龍巢一詩〕征人喜二放溜一、曉發晨陽隈。

【放良】291 ハウリヤウ 財物を納れて奴隸の籍を免れること。奴隸を解放する。〔輟耕錄、奴婢〕亦有戊自願丁納二其財一、以求丙脫乙免奴籍甲、則主署レ執憑二付之一、名曰二放良一。

【放慮】292 ハウリヨ 心をゆるす。安心する。放心。放念。

【放冷】293 fang^{4} lêng^{3} 食物などの冷えること。

【放禮】294 fang^{4} li^{3} 結納を送る式。放定之禮。

【放列】295 ハウレツ 射撃のため火砲を排列した砲兵の隊形。放列布置。

【放論】296 ハウロン ほしいままに論ずる。憚らず議論する。放言。〔史記、老莊申韓傳贊〕莊子、散二道德一放論、要亦歸二之自然一。

【放橫】297 ハウワウ 勝手氣儘なこと。〔後漢書、袁紹傳〕饕餮放橫、傷レ化虐レ人。〔魏志、裴潛傳〕單于自知三放橫日久、內不二自安一。

【放印子】298 fang^{4} yin^{4} tzŭ 日歩金を貸す。

【放烟火】299 ハウエンクワ 爆竹に類するものを放つこと。正月に行ふ風習の一種。〔燕京歲時記、燈節〕每至二燈節一、內廷筵宴、放二烟火一、市肆張レ燈。

【放餤口】300 fang^{4} yen^{4} kʻou^{3} 人が死んで三日目の夜に、僧道喇嘛を請じて終夜念經供養すること。

【放河燈】301 ハウカトウ ㊀七月十五日の中元節に蓮花燈を水に流すこと。〔帝京景物略〕七月十五日、諸寺建二盂蘭盆會一、夜於二水流一放レ燈曰二放河燈一。〔燕京歲時記、放河燈〕運河二閘、自二端陽一以後、遊人甚多、至二中元日一、例有二盂蘭會一、扮二演秧歌獅子諸雜技一、晚間沿レ河燃レ燈、謂二之放河燈一、中元以後、則遊船歇レ業矣。㊁fang^{4} hê^{2} têng^{1} 七月中に吹く風をいふ。江蘇如皋地方の語。

【放荷燈】302 fang^{4} hê^{2} têng^{1} 七月十五日西瓜の皮で作つた燈籠を河に流すこと。

【放鷳亭】303 ハウカンテイ 清、李延昰(**6－14459**・・891)の室名。

【放活燈】304 fang^{4} huo^{2} têng^{1} 中元に、色紙製の蓮花燈を路邊に置き、又は水中に浮べること。雲南地方の行事。

【放官債】305 fang^{4} kuan^{1} chai^{4} 放官吏債(323)に同じ。

【放京債】306 ハウケイサイ 地方に赴任する官吏に金を貸し付けること。放官吏債。〔陔餘叢考、放債起利加二一加三加四竝京債一〕史記貨殖傳、吳楚七國反、時長安列侯當レ從レ軍者、欲レ貸二子錢一、子錢家莫二肯貸一、惟無鹽氏捐レ金出貸、其息十レ之、吳楚平、而無鹽氏之息十倍、曰二子錢家一、則將レ有二此出レ錢取レ息之人一、如二今放京債一者也、曰二息十倍一、則如二今京債之重利一也。

【放穀氣】307 fang^{4} ku^{3} chʻi^{4} 放屁(249)に同じ。

【放豕歌】308 ハウシカ 豚を放牧する歌。〔晉書、束晳傳〕故謂二北土不レ宜二畜牧一、此誠不レ然、案二古今之語一、以爲馬之所レ生、實在二冀北一、大賈牂羊、取二之淸渤一、放豕之歌、起二於鉅鹿一、是其效也。

【放紙條】309 ハウシデウ 九月九日に兒童が五色の紙を竿の先につけて庭に立てることをいふ。〔江南志書、常熟縣〕九月九日、兒童以二五色紙一接爲レ條、長一二丈、粘二竿首一植二於庭戶閒一、曰二放紙條一。

【放主兒】310 fang^{4} chu^{3} êrh 貸主。債權者。

【放暑暇】311 fang^{4} shu^{3} chia^{4} 暑中休暇。

【放燒火】312 fang^{4} shao^{1} huo^{3} 火災を避けるために行ふ正月十五日の行事。

【放錢穀】313 fang^{4} chʻien^{2} ku^{3} 錢穀を人に施與する。轉じて、ほどこしをする。

【放杖草】314 ハウヂヤウサウ 藥草の名。淫羊藿の異名。〔本草、淫羊藿〕釋名、仙靈脾、放杖草、棄杖草、千兩金、乾雞筋、黃連祖、三枝九葉草、剛前、時珍曰、豆葉曰レ藿、此葉似レ之、故亦名レ藿、仙靈脾、千兩金、放杖、剛前、皆言二其功力一也。

【放杖木】315 ハウヂヤウボク 藥木の名。〔本草、放杖木〕集解、藏器曰、生二溫括睦婺諸州山中一、樹如二木天蓼一、老人服レ之一月、放レ杖故以爲レ名。

【放年學】316 fang^{4} nien^{2} hsüeh^{2} 冬期休業。

【放麥苗】317 fang^{4} mai^{4} miao^{2} 家畜に麥苗を食べさせる。

【放伏學】318 fang^{4} fu^{4} hsüeh^{2} 暑中休暇。

【放揚枝】319 ハウヤウシ 戲曲の名。淸、桂馥の作。白樂天が晚年老病の時、愛馬と愛妾を遣らんとして忍びざる情を寫したもの。後四聲猿雜劇本の一。

【放量喝】320 fang^{4} liang^{4} hê^{1} 飲めるだけ飲む。

【放冷箭】321 fang^{4} lêng^{3} chien^{4} 人を中傷する。

【放閻王賬】322 fang⁴ yen² wang² chang⁴　高利の金を貸出す。

【放官吏債】323 fang⁴ kuan¹ li⁴ chai⁴　地方に赴任する官吏に金を貸付ける。

【放虎自衞】324（ハウコジヱイ）　虎を放つて自らまもる。自ら禍を招く喩。〔華陽國志〕先主入㆑蜀、嚴顏歎曰、此所謂獨坐㆓窮山㆒、放㆑虎自衞也。

【放倒卽寢】325（ハウタウソクシン）　食後にすぐ寢ること。〔通俗編、行事、放倒卽寢〕南部新書、杜邠食飽卽寢、或諫㆑之曰、布袋盛㆑米、放倒卽寢。

【放倒頭睡】326 fang⁴ tao³ t'ou² shuei⁴　枕を高くして眠る。

【放島之試】327（ハウタウノココロミ）　王朝時代、學生の試驗をするに、他人と談合せしめないために、池の中島などに居らせて、詩文を作らせること。〔二中歷、十二〕省試幷放島試。

【經㆑放爲㆑良】328（ハウヲヘテリヤウトナル）　婢が家主の寵を得て子を生むときは婢の賤しい身分から開放されて平民の身分を取得するをいふ。經㆑放爲㆑良の後は妾と爲すことを聽す。〔唐律、戶婚、以㆑妻爲㆑妾〕以㆑婢爲㆑妾者、徒一年半、各還㆓正之㆒、若婢有㆑子、及經㆑放爲㆑良者、聽㆑爲㆑妾。〔疏議〕婢雖㆓經㆑放爲㆑良、豈堪㆓承㆑嫡之重㆒、律既止聽㆑爲㆑妾、卽是不㆑許㆑爲㆑妻。

【放重利息錢】329 fang⁴ chung⁴ li⁴ hsi¹ ch'ien²　高利金を貸出す。

【敀】
13134

㊀ ヒ 〔集韻〕篇夷切 支
㊁ ヒ 〔集韻〕普鄙切 紙
㊂ ヒ 〔集韻〕匹寐切 寘

㊀**器がこはれかける。**〔集韻〕敀、器破也。㊁**器がこはれかける。**　或は皅（**8―22834**）に作る。〔方言、六〕南楚之閒、器破而未㆑離、謂㆓之敀㆒。〔集韻〕敀、或从㆑皮。㊂**器がこはれかける。**〔集韻〕皅、器破也。

【政】
13135

㊀ セイ シヤウ 〔集韻〕之盛切 ㄓㄥˋ chêng⁴ 敬
㊁ セイ シヤウ 〔集韻〕諸盈切 庚

小篆

㊀❶**ただす。**　不正をただす。正（**6―16255**）に通ず。〔說文〕政、正也、从㆓攴正㆒、正亦聲。〔釋名、釋言語〕政、正也、下所㆑取㆑正也。〔說文通訓定聲〕政、叚借爲㆑正。〔廣雅、釋詁一〕政、正也。〔論語、顏淵〕政者、正也。〔江淹、爲㆓蕭太尉㆒上㆓便宜㆒表〕肅㆓政黎心㆒、釐㆓一民心㆒。❷**まつりごと。**統治。〔周禮、天官、大宰〕建㆓邦之六典㆒、云云、四曰、政典、以平㆓邦國㆒、以正㆓百官㆒、以均㆓萬民㆒。〔論語、爲政〕爲㆑政以㆑德。〔淮南子、氾論訓〕聽㆓天下之政㆒。〔注〕政、治也。❸**おきて。**政を行ふ細則。教命・法規・禁令の類。〔禮、王制〕齊㆓其政㆒。〔注〕政、謂㆓刑禁㆒。〔論語、爲政、集解〕孔安國曰、政、謂㆓法教㆒也。〔皇疏〕政、謂㆓法制㆒也。〔大戴禮、小辨〕制㆑禮以行㆑政。〔注〕政、禁令。❹**政を行ふ人。**㋑君。〔法言、先知〕政吏駢惡。〔注〕政、君也。㋺官吏。〔大戴禮、盛德〕均㆓五政㆒。〔注〕五政、天子公卿大夫也。❺**やくめ。**官職。〔國語、晉語一〕棄㆑政而役。〔注〕政、猶㆑職也。❻**えだち。**ぶやく。役。〔禮、王制〕五十不㆑從㆓力政㆒。〔注〕力政、城道之役也。❼**をしへ。**道。人の道。〔大戴禮、盛德〕亦有㆓六政㆒。〔注〕六政、謂㆓道德仁聖禮義㆒也。〔法言、問道〕五政之所㆑加。〔注〕五政、五常之政也。❽**人民の生活をささへるもの。**〔書、洪範〕農用㆓八政㆒。〔集傳〕八政曰㆑農、所㆓以厚㆑生。〔書、洪範〕三、八政、一曰食、二曰貨、三曰祀、四曰司空、五曰司徒、六曰司寇、七曰賓、八曰師。❾**つかさどる。**管理。主宰者。〔儀禮、大射儀〕爲政請㆑射。〔注〕爲政、謂㆓司馬㆒也、司馬政官主㆓射禮㆒。〔說苑、善說〕魏文侯與㆓夫人㆒飲、使㆔公乘不仁爲㆓觴政㆒。❿**星。**日月五星。〔書、舜典〕以齊㆓七政㆒。〔傳〕七政、日月五星。⓫**とりきめ。**事を行ふさだめ。とりきめる。〔庾信、侯莫陳君夫人寶氏墓銘〕君子朝端、賢才家政。〔無可、送㆓沅江宋明府㆒詩〕唯有㆓傳家政㆒、家風重㆓發揮㆒。⓬**まさに。**まさしく。〔墨子、節葬〕上稽㆓之堯舜禹湯文武之道㆒、而政逆㆑之。〔庾信、賀㆑平㆓鄴都㆒表〕政須㆘東南一尉、立㆓於比景之南㆒、西北一侯、置㆗於交河之北㆖。⓭**清制、京察に於ける人物擧用の標準。**〔清會典、吏部〕凡京察、堂官察㆓其屬之職㆒、而註考焉、云云、乃定以㆓四格㆒、三曰、政。〔注〕有㆑勤、有㆑平。⓮**姓。**〔萬姓統譜〕賦政、見㆓姓苑幷千姓編㆒。㊁❶**とりたて。**賦稅。通じて征（**4―10077**）・正（**6―16255**）に作る。〔說文通訓定聲〕政、叚借爲㆑征。〔集韻〕政、賦也、通作㆓征正㆒。〔周禮、地官、均人〕掌㆑均㆓地政㆒。〔注〕政、讀爲㆑征。〔荀子、王制〕相㆑地而衰㆑政。〔注〕政、或讀爲㆑征。❷**うつ。**征伐。〔史記、范雎傳〕政㆑適伐㆑國。〔注〕集解曰、徐廣曰、政適、音征敵。

［名乘］ノブ。ノリ。カズ。ヲサ。ナリ。タダ。ユキ。

［解字］會意形聲。攴（輕くたたいて注意する）と正との合字。注意を與へて正す義。正しくないものを正す意。正は聲を兼ねて形聲。

【政安】1（セイアン）　北宋（仁宗）時代、南詔世宗（段思廉）の時の年號。

【政友】2（セイイウ）　政治上の主義を同じくして運動を共にする友人。政治上の友。政治界の仲閒。

【政友會】3（セイイウクワイ）　明治三十三年九月、伊藤博文・星亨及び西園寺公望等が創設した政黨。

【政印】4（セイイン）　伊勢齋宮寮で公文に捺す印。〔神宮雜例集、二〕政印事。

【政要】5（セイエウ）　まつりごとの大切なところ。政治の眼目。施政の主眼。〔後漢書、蔡邕傳〕宜㆘披㆓露失得㆒、指㆗陳政要㆖。〔任昉、天監三年策㆓秀才㆒文〕比雖㆔輻㆓湊闕下㆒、多非㆓政要㆒。

【政役】6（セイエキ）　❶軍政と力役。兵を發し國家の公事業を起す。〔周禮、天官、小宰〕一曰、聽㆓政役㆒以比㆑居。〔注〕政、謂㆓軍政㆒也、役、謂㆔發㆑兵起㆓徒役㆒也。❷命令と仕事。政令と役使。〔禮、鄕飮酒義〕五十者立侍、以聽㆓政役㆒。〔疏〕政事役使也。❸とりたてと力役。租稅と賦役。〔管子、小匡〕寬㆓政役㆒、敬㆓百姓㆒、則國富而民安矣。

【政家】7 chêng⁴ chia¹　政治家。

【政界】8（セイカイ）　政治社會。政治に關係してゐる方面。政治界。

【政海】9（セイカイ）　政治上の範圍。政治社會。政界。

【政綱】10（セイカウ）　政治の大綱。政治の大方針。〔南史、隱逸上、顧歡傳〕上表進㆓政綱一卷㆒。〔宋史、薛極傳〕政綱雖㆑擧、必求㆑益㆓其所㆑未㆑至。

【政客】11（セイカク）　政治に從事する人。政治家。

【政核】12（セイカク）　政事が明かで正しいこと。〔法言、先知〕或問㆓政核㆒、曰眞僞、眞僞則政核、如眞不㆑眞、僞不㆑僞、則政事不㆑核。

【政學】13（セイガク）　賦稅と學業。〔周禮、夏官、都司馬〕以㆓國灋㆒掌㆓其政學㆒、以聽㆓國司馬㆒。〔注〕政、謂㆓賦稅㆒也、學、修㆑德學㆑道。

【政記】14（セイキ）　日本政記（**5―13733‥738**）の略。〔梁川星巖、聞㆓賴子成訃音㆒以哭寄詩〕一編政記盡㆓心血㆒、灑到㆓民痍㆒痕更多。

【政機】15（セイキ）　政治の機微。〔魏志、傅嘏傳〕隨㆓時之宜㆒、以應㆓政機㆒。

【政議】16（セイギ）　正しい議論。正議。〔戰國、韓策〕韓傀相㆑韓、嚴遂重㆓於君㆒、二人相害也、嚴遂政議直指、擧㆓韓傀之過㆒、韓傀以㆑之叱㆓之於朝㆒。〔注〕政、正通。

【政況】17（セイキヤウ）　政治のありさま。政界の狀況。政情。

【政局】18（セイキヨク）　政治の局面。政治のなりゆき。

【政化】19 セイクワ 國を治め民を導く。政治で民を教化する。政治と教化。〔後漢書、伏湛傳〕造次必於二文德一、以爲二禮樂政化之首一。〔魏志、張範傳〕政化大行。〔范甯、穀梁傳序〕所下以明中其不レ能二復雅一、政化不上レ足三以被二羣后一也。

【政官】20 セイクワン ❶軍政を掌る官。周禮で夏官司馬をいふ。〔周禮、夏官、序官〕政官之屬、大司馬卿一人、小司馬中大夫二人。〔儀禮、大射儀、爲政請レ射、注〕爲政、謂二司馬一、司馬政官、主二射禮一。❷政を取り行ふ官。〔南史、范泰傳〕然短二於爲政一、故不レ得レ在二政事官一。❸ジヤウクワン 古、太政官の役人。〔名目抄〕。

【政寬】21 セイクワン 政治のゆるやかなこと。政寬則民慢を見よ。

〖政寬則民慢〗22 マツリゴトクワンナレバスナハチタミアナドル 政治が寬大であると民は上を畏れないで怠る。〔左氏、昭、二十〕仲尼曰、善哉、政寬則民慢、慢則糾レ之以レ猛、猛則民殘、殘則施レ之以レ寬、寬以濟レ猛、猛以濟レ寬、政是以和。

【政君】23 セイクン 漢、王后(7−20823・・390)の❸の名。

【政刑】24 セイケイ 政治と刑罰。〔周禮、地官、司市〕掌二市之治教政刑量度禁令一。〔疏〕政者、卽下文云以二政令一禁二物靡一等是也、刑者、卽下文云以二刑罰一禁レ虣等是也。〔左氏、隱、十一〕君子謂、鄭莊公失二政刑一矣、政以治レ民、刑以正レ邪、既無二德政一、又無二威刑一、是以及レ邪。〔論語、爲政〕子曰、道レ之以レ政、齊レ之以レ刑、民免而無レ恥。〔孟子、公孫丑上〕國家閒暇、及二是時一明二其政刑一、雖二大國一必畏レ之矣。

【政經】25 セイケイ ❶政事ののり。政治の常道。政道。〔李彭年、論二刑法一表〕政經有レ序、德洽二人心一。〔溫庭筠、上二崔相公一啓〕又專門有レ暇、曾習二政經一、門レ戶無レ營。❷書名。一卷。宋、眞德秀撰と傳ふ。經典にあらはれた政事を論ずるの言を經とし、事迹を傳とし、德秀の歷官した公牘・告諭等を附す。〔四庫提要、子、儒家類〕・〔說符、第七十冊〕。

【政教】26 セイケウ ❶政治と教化。〔禮、王制〕修二其教一不レ易二其俗一、齊二其政一不レ易二其宜一。〔注〕教、謂二禮義一、政、謂二刑禁一。〔禮、鄕飮酒義〕經レ之以二天地一、紀レ之以二日月一、參レ之以二三光一、政教之本也。〔戰國、趙策〕張孟談曰、夫董閼安于、簡主之才臣也、世治二晉陽一、而尹澤循レ之、其餘政教猶存、君其定二居晉陽一。〔荀子、仲尼〕彼非レ本二政教一也。〔史記、申不害傳〕內修二政教一、外應二諸侯一。❷軍中の號令。〔管子、七法〕爲レ兵之數、云云、存二乎政教一、而政教無レ敵。〔注〕政教、軍中號令。❸政治と宗教。政治と教育。

【政見】27 セイケン 政治上の見識。政治に關する意見。

【政權】28 セイケン まつりごとを執る力。政治を行ふ權力。朝柄。政柄。〔日本外史、源氏前記、平氏〕藤原氏以二外戚一世執二政權一。

【政源】29 セイゲン 政治の根本。〔北史、文苑、李文博傳〕今政源混亂。〔舊唐書、崔融傳〕陛下留レ神繫レ表、屬二想政源一。

【政爭】30 セイサウ 政治上のあらそひ。

【政策】31 セイサク 政治上の方策。政略。政術。

【政察】32 セイサツ 政治の嚴しく詳かなこと。〔後漢書、明帝紀贊〕危心恭德、政察姦勝。

【政始】33 マツリゴトハジメ 正月四日に行はれる公事。其の年の政事を執り行ふはじめ。政事始。〔日本紀略、三〕天曆元年正月二十五日、政始、右大臣著廳聽レ政。

【政事】34 セイジ ❶まつりごとの事柄。又、まつりごと。大きな政治と小さな政治。〔韻會〕政、大曰レ政、小曰レ事。〔書、皋陶謨〕政事懋哉懋哉。〔書、說命中〕惟厥攸レ居、政事惟醇。〔詩、邶風、北門〕政事一埤二益我一。〔左氏、昭、二十五〕爲二政事庸力行務一、以從二四時一。〔注〕在レ君爲レ政、在レ臣爲レ事。〔禮、仲尼燕居〕政事得二其施一。〔疏〕言三布レ政治レ事、各得二其所レ施之處一也。〔論語、先進〕政事、冉有・季路。〔孟子、盡心下〕無二政事一則財用不レ足。〔荀子、勸學〕故書者、政事之紀也。〔管子、小匡〕教訓不レ善、政事其不レ治。〔戰國、趙策〕諒毅曰、敝邑之君、有二母弟一、不レ能二教誨一、以惡二大國一、請黜レ之、勿レ使レ與二政事一、以稱二大國一。❷世說新語の篇名。

〖政事始〗35 セイジハジメ 一月四日に國家の政務を取り始める公事。この日、天皇正殿に出御、親しく政治をみそなはせらる。

〖政事堂〗36 セイジダウ 唐宋の頃、門下省內にあり、政事を論議する處。後、中書門下と改む。今の內閣に當る。民國は大總統府に政事堂を設け、國務卿を監督とし、左右丞を置いて之を補佐させた。內に法制・機要・銓敍・主計・印鑄の五局及び司務所を分置す。〔文獻通考、職官考、門下省〕唐初始合二中書門下之職一、故有二同中書門下三品同中書門下平章事一、其後又置二政事堂一、蓋以下中書出二詔令一、門下掌二封駁一、日有二爭論一、紛紛不上レ決、故使下兩省先於二政事堂一議定、然後奏聞上、開元中、張說奏、改二政事堂一爲二中書門下一、自レ是相承至二于國朝一、莫二之能改一、非レ不レ欲レ分也、理勢不レ可二復分一也、向日所謂中書者、乃中書門下政事堂也。〔卻掃編〕唐之政令、雖レ出二於中書門下一、然宰相治事之地、別號曰二政事堂一、猶二今之都堂一也、故號二令四方一、其所レ下書曰二堂帖一。〔漢宮秋、言懷〕秉レ軸持レ鈞政事堂。

〖政事犯〗37 セイジハン 國家の政治上の根本組織を侵害する犯罪で、主權者の生命・身體に對する罪。內亂罪及び外患罪の類。

【政社】38 セイシヤ 政事上意見を同じくする者の組織した團體。政黨。

【政象】39 セイシヤウ ❶政法の書。大司馬の官法九法等の類をいふ。〔周禮、夏官、大司馬〕縣二政象之灋于象魏一、使三萬民觀二政象一、挾日而斂レ之。〔注〕至二正歲一又縣二政法之書一。〔孫詒讓正義〕政象之法、卽大司馬之官法九法等是也。❷のり。おきて。〔管子、執〕故賢者誠信以仁レ之、慈惠以愛レ之、端二政象一不二敢以先レ人。〔纂詁〕象、法也。

【政首】40 セイシユ 政治のはじめ。〔孔叢子、答問〕興レ滅繼レ絕、以爲二政首一。

【政術】41 セイジユツ 政治上のてだて。政治のやりかた。政道。〔後漢書、安帝紀〕詔、云云、擧下云云、明二政術一、達二古今一、能直言極諫者、各一人上。〔潘岳、西征賦〕思二夫人之政術一、實幹時之良具。〔白居易、祈二皐亭神一文〕忝奉二詔條一、愧無二政術一。

【政順】42 セイジユン 政の順調なこと。〔新書、數寧〕晏子曰、唯以二政順一乎、爲三神可二以益レ壽。

【政所】43 マンドコロ ❶凡そ政を執り行ふ所。政廳。❷特に檢非違使廳の稱。❸後宮女御附の下官。〔台記別記〕久安四年八月十四日、被レ仰二備件等人一、宜レ令レ從二三位方政所事一者。❹平安朝以後、親王・攝政・關白・大臣・大將家で知行所の事務または家政の事などを掌った役所。〔玉海〕仁安二年十二月十日、今攝政、政所移徙也。❺勸學院の院務を掌る所。〔扶桑略記、二十六〕天德四年九月二十九日、勸學院倉一宇、政所板屋二宇燒亡。❻鎌倉室町幕府の政廳。鎌倉幕府では政務を總攝し、庶事を施行し、兼て財政を掌る所とし、室町幕府では財政を掌り、及び貸借・土地等の訴訟を裁決する所とした。關東管領家でも又幕府に倣つて之を置いた。〔東鑑、十一〕建久二年正月十五日、被レ行二政所吉書始一。❼地頭が其の莊園に關する事務を取り扱ふ所。〔東寺百合古文書、一、下〕山城國下久世庄公文職、地頭政所。❽庄屋をいふ。西國の方言。❾寺社で其の所領に關する事務、及び其の他の事務を取扱ふ所。〔法隆寺伽藍緣記幷流記資財帳〕板葺漆閒政所廳屋一宇。❿延曆寺の七座の公人の中、中堂常供佛供を調する賤しい僧。⓫北政所(2−2574・・506)の略。⓬地名。㋑上野國の地名。㋺羽後國の地名。㋩近江國の地名。㊁安藝國の地名。㋭マドコロ 豐後國の地名。

〖政所代〗44 マンドコロダイ 室町幕府の職名。政所執事の代官。執事伊勢氏の家臣、蜷川氏の世職。始め私職であつたが、勢力を得るに及び幕府より任命するに至つた。〔蜷川親元日記〕文明五年八月七日、政所代事、如二先先一可二執沙汰一之由、被三仰二付親元一。

〖政所下部〗45 マンドコロシモベ 武家の職名。政所に宿直し、驅使雜務に當るもの。室町幕府では政所公人ともいふ。〔東鑑〕建久五年五月五日、御所中屋舍葺二菖蒲一事、云云、政所下部等沙二汰之一。

〖政所開闔〗46 マンドコロノカイカフ 室町幕府の職名。政所執事代の異稱。〔細川家書札抄〕政所開闔。

〖政所執事〗47 マンドコロシツジ 武家の職名。鎌倉幕府では政所の長官。室町幕府では政所の次官。〔東鑑、二十四〕承久元年九月六日、伊賀次郎左衞門尉光宗、補二政所執事一。

〖政所吉書始〗48 マンドコロノキツシヨハジメ 政所始に同じ。〔東鑑、十一〕建久二年正月十五日、被レ行二政所吉書始一。

【政所執事代】49 マンドコロノシツジダイ 武家の職名。㊀鎌倉幕府では常置せず、政所執事故障ある時、其の一族が臨時に代理した職。㊁室町幕府では政所の次官。政所開闔ともいふ。〔後愚昧記〕貞治五年八月十八日、政所執事代日來齋藤五郎左衞門季基也。

【政丞】50 セイジョウ 朝鮮議政府の左、右、領議政三人。〔前言往行錄、清貧宰相〕貴爲二政丞一。

【政職】51 セイショク ㊀周官六職の一。不正を正す職。〔周禮、天官、小宰〕以二官府之六職一辨二邦治一、云云、四曰政職、以服二邦國一、以正二萬民一、以聚二百物一。〔義疏〕王氏昭禹曰、政典於二邦國一言レ平、政官之屬、推而行レ之、然後有三以服二邦國一。㊁賦稅をいふ。〔周禮、夏官、大司馬〕以二九畿之籍一、施二邦國之政職一。〔注〕政職、所レ共二王政一之職、謂二賦稅一也。㊂政治を執り行ふ職務。〔新書、輔佐〕中執二政職一。

【政人】52 セイジン 政治を行ふ人。爲政者。〔書、康誥〕不下于二我政人一得上罪。〔傳〕不下於二我執政之人一得上罪乎。

【政樞】53 セイスウ 政治の要領。政治の大切な所。政要。〔唐書、蘇安恒傳〕陛下始革レ命、勤二秉政樞一、博逮二謀猷一、天下以爲二明主一。

【政聲】54 セイセイ 善政を行ふとのほまれ。政事のよい評判。〔後漢書、杜根傳〕位至二巴郡太守一、政甚有レ聲。

【政績】55 セイセキ 政治の成績。政治上の功績。まつりごとのてがら。〔晉書、武帝紀〕以三京兆太守劉霄・陽平太守梁柳有二政績一、各賜二穀千斛一。〔潘岳、在二懷縣一作詩〕驅役宰二兩邑一、政績竟無レ施。〔南史、韋叡傳〕所レ居必有二政績一。

【政拙】56 セイセツ 政治のつたないこと。〔唐書、卓行、陽城傳〕賦稅不レ時、上考功第、城自署曰、撫字心勞二追科一、政拙考下下。〔韋應物、答二王郎中一詩〕賦繁屬二軍興一、政拙媿二斯人一。〔范成大、甘棠驛詩〕心勞政拙無二遺愛一、慚向二甘棠驛裏一來。

【政戰】57 セイセン 政界に於ける鬭爭。

【政俗】58 セイゾク まつりごととならはし。政治と風俗。〔禮、明堂位〕禮樂・刑法・政俗、未二嘗相變一也。

【政體】59 セイタイ ㊀政治の方針。政治のとり方。〔後漢書、光武紀下〕明二愼政體一、總二攬權綱一。〔後漢書、崔寔傳〕(寔)除爲レ郎、明二於政體一、吏才有レ餘。〔晉書、劉頌傳贊〕詳二辨刑名一、該二覈政體一。〔南史、宗元饒傳〕諳二曉故事一、明二練政體一。㊁申鑒の篇名。㊂國家主權行使の形式。統治權の行はれる態樣。

【政黨】60 セイタウ 政治上、同意見の者が相集つて組織する團體。政社。

【政黨政治】61 セイタウセイヂ ㊀政黨内閣によつて行はれる政治。㊁有力な政黨の意見によつて行はれる政治。

【政黨内閣】62 セイタウナイカク 政黨員を以て組織した内閣。

【政道】63 セイダウ 政治の道。施政の道。政經。政塗。〔後漢書、安帝紀論〕至下乃損二徹膳服一、克念中政道上。

【政團】64 chêng^4 t‘uan^2 政黨。政派。

【政談】65 セイダン ㊀政治上に關する談論。㊁政務の執行、又は訴訟の裁判などに關する説話。㊂書名。一卷。荻生徂徠撰。當時の政治・法律・制度等を論じ、國用の出入・官吏の職責其の他を説いて時弊を矯正せんとしたもの。〔日本經濟叢書〕。

【政談集會】66 セイダンシフクワイ 時の政治に直接關係ある談論をするための集會。

【政談演説會】67 セイダンエンゼツクワイ 時の政治に直接關係ある談論をする演説會。

【政治】68 セイヂ ㊀まつりごと。政事。〔詩、鄘風、定之方中、靈雨既零、疏〕此章説二政治之美一。〔左氏、隱、七〕亦知二陳之將一レ亂、〔注〕入二其國一觀二其政治一。〔管子、宙合〕故政治不レ悔。〔説苑、敬愼〕政治内定、則擧レ兵而伐レ衞。〔漢書、嚴延年傳〕坐下怨望非二謗政治一不道上弃市。㊁まつりごとがよく行はれる。〔書、畢命〕道洽政治、澤潤二生民一。〔傳〕道至普洽、政化治理、其德澤惠施、乃浸二潤生民一。〔晏子、重而異者〕君順懷レ之、政治歸レ之。

【政治家】69 セイヂカ 政治を施す任にある人。政治に長じ、又、適した人。政治上の事にたづさはる人。

【政治界】70 セイヂカイ 政治に關する方面の社界。

【政治學】71 セイヂガク 國家の起源・組織・性質などを研究し、其の政策の標準を論ずる學問。

【政治史】72 セイヂシ 政治上の記述を主とした歷史。

【政治犯】73 セイヂハン 國家の政治的秩序を侵害する犯罪。國事犯(**3-4798··286**)に同じ。

【政治運動】74 セイヂウンドウ 政治上の主義・施設・改革・實行等についての運動。

【政治季節】75 セイヂキセツ 國會の會期中等、一年中で政治界の最も緊張活動する時節をいふ。

【政治形態】76 セイヂケイタイ 政治を行ふ形式態樣。

【政治教育】77 セイヂケウイク 政府・教育機關・公法人・教化團體等が言論又は出版物によつて、國家及び政治の組織、政策の解説をなし、大衆的了解を得させること。

【政治地理】78 セイヂチリ 人文地理をいふ。

【政治鬭爭】79 セイヂトウサウ 政治的手段による鬭爭をいふ。

【政治的解決】80 セイヂテキカイケツ 政府と議會または各省間等に紛議が生じた際、事務的見地を離れて政治的大所高所から眺め、兩者合意の上で一種の解決點を見出すこと。

【政長】81 セイチヤウ 政治を行ふ長官。上官。〔墨子、尙同上〕夫明下虖天下之所二以亂一者上、生三於無二政長一。〔新書、大政下〕官有二政長一、而民有レ所二收屬一。

【政廳】82 セイチヤウ 政治を取扱ふ役所。主に屬國又は海外の領地にあるものをいふ。

【政潮】83 chêng^4 ch‘ao^2 政治上の紛擾。

【政條】84 セイデウ 政令法律の類。綱條。〔元史、楊惟中傳〕年二十、奉レ命使二西域三十餘國一、宣二暢國威一、敷二布政條一。

【政敵】85 セイテキ 政治上の意見を異にして反對の地位に立つ人々。

【政適】86 セイテキ 敵を征伐する。征敵(**4-10077··74**)に同じ。〔史記、范雎傳〕政レ適伐レ國、莫二敢不一レ聽。〔注〕集解曰、徐廣曰、音征敵。

【政典】87 セイテン ㊀先王の政治に關する典籍。〔書、胤征〕政典曰、先レ時者、殺無レ赦、不レ及レ時者、殺無レ赦。〔傳〕政典、夏后爲レ政之典籍、若二周官六卿之治典一。〔南史、齊武帝紀論〕御レ衰垂レ旒、深存二政典一。㊁不正を正す法式。周官司馬が之を守り行ふ。〔周禮、天官、大宰〕掌下建二邦之六典一、以佐レ王治中邦國上、云云、四曰政典、以平二邦國一、以正二百官一、以均二萬民一。〔注〕政典、司馬之職、故立二其官一。㊂書名。〔舊唐書、杜佑傳〕開元末、劉秩、云云、撰二分門書三十五卷一、號曰二政典一、云云、加以二開元禮樂一、號曰二通典一。

【政塗】88 セイト 政治のしかた。まつりごとを施すみち。塗は途。〔梁書、武帝紀上〕思レ弘二政塗一、莫レ知二津濟一。

【政德】89 セイトク ㊀世を治め正す德。〔左氏、昭、四〕恃二此三者一、而不レ脩二政德一、亡於不レ暇。〔孔子家語、入官〕政德貫二乎心一、藏二乎志一、形二乎色一、發二乎聲一。㊁北宋の仁宗の時代に南詔の世宗(段思廉)が用ひた年號。

【政眊】90 セイバウ 政治の道にくらいこと。〔漢書、董仲舒傳〕故政有二眊而不一レ行。

【政法】91 セイハフ 手段方法をいふ。〔莊子、人間世〕仲尼曰、云云、太多二政法一而不レ諜。〔口義〕政、事也、法、方法也。㊁政治の方法。〔賈子新書、無蓄〕政法未二必通一也。㊂政治と法律。

【政煩】92 セイハン 政治が煩はしいこと。〔王泠然、山水賦〕政煩則人擾。

【政費】93 セイヒ 政務を執るに要する費用。

【政夫】94 セイフ 清、許行健(**10-35298··247**)の字。

【政府】95 セイフ ㊀政治を司る役所。〔宋史、歐陽脩傳〕其在二政府一、與二韓琦一同レ心輔レ政。㊁國家の統治機關の總稱。㊂我が國では、國務大臣、又はそれが組織する内閣、或は内閣の統轄する行政機關の全體をいふ。

【政府委員】96 セイフヰヰン 衆參兩院に出席して、政府提出の議案の説明、又は議員の質問に對して答辯し、若しくは議員の提出した議案に對し政府を代表して意見を陳述する權限を有する委員をいふ。

【政府奏議】97 セイフソウギ 書名。二卷。宋、范仲淹撰。仲淹の子、純仁が父の奏議を輯めたもの。八十五篇、治體・邊車・薦擧・雜奏の四類に分れる。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【政平】98 セイヘイ 南宋の理宗の時、安南の太祖(陳煚)の年號「天應政平」の略。(1232-1250)

【政柄】99 セイヘイ 政治上の權力。政權(28)に同じ。〔左氏、昭、七〕抑諺曰、蕞爾國、而三世執二其政柄一。

【政病】100 セイヘイ 政治の惡弊。〔唐書、杜希全傳〕獻二體要八章一、砭二切政病一。

【政辟】101 セイヘキ 政治上の法令。〔左氏、襄、十〕子孔當レ國、爲二載書一、以二位序一聽二政辟一。〔會箋〕辟、法也、杜解二政辟一爲二執政之法一、非。

【政變】102 セイヘン 政治上の移り變り。內閣の更迭など政治上に變局を發生すること。

【政本】103 セイホン ❶政治の根本。政治の大本をいふ。〔漢書、蕭望之傳〕望之以爲、中書政本。❷地をいふ。〔管子、乘馬〕地者、政之本也、是故地可二以正一レ政也。❸禮をいふ。〔大戴禮、哀公問二於孔子一〕孔子遂有レ言曰、云云、爲レ政先レ禮、禮其政之本與。❹愛と敬とにいふ。〔大戴禮、哀公問二於孔子一〕孔子對曰、云云、愛與レ敬、其政之本與。❺農をいふ。〔王融、永明九年策二秀才一文〕食惟民天、農爲二政本一。〔帝範〕夫食爲二人天一、農爲二政本一。

【政網】104 セイマウ まつりごとのおきて。政治の法紀。〔北齊書、儒林傳序〕朝章寬簡、政網疏闊。〔北史、崔暹傳〕宜下寬二政網一、去中糾察法官上。

【政務】105 セイム 政治のつとめ。政治の事務。〔後漢書、班固傳上〕政務之績、有二絕異之效一。〔後漢書、仲長統傳〕審二此十六一者、以爲二政務一。

【政務官】106 セイムクワン 國務大臣に直屬し、其の政策に參與する官吏。事務官の對。

【政務處】107 セイムショ 官署の名。清、置く。政務に關し皇帝から諮詢された事項を審議する顧問府。光緖二十七年、初めて設置す。軍機大臣、內閣大學士、各部院の長官を以て組織す。〔清國行政法汎論、政務處〕向來軍機爲二政事統滙一、今別設二政務處一、以二軍機大臣一領レ之。

【政務廳】108 セイムチヤウ 官署の名。民國置く。各省の省長公署にあり、廳長一人を置き、總務・內務・教育・實業四科を分設す。

【政務委員】109 セイムヰヰン 政務を取扱ひ、又、取調べなどする委員。

【政務次官】110 セイムジクワン 政務官の一。各省大臣を輔佐して政務に參與し、議會に出席して質疑の答辯に當り、政府と議會との交涉に任ずる次官。事務次官の對。

【政務十六事】111 セイムジフロクジ 後漢の仲長統の時務策。版籍を明かにし、什伍を審かにし、夫田を限り、五刑を定め、君長を益し、農業を急にし、末作を去り、教學を敦くし、德行を表はし、才藝を覈し、精悍を簡び、武器を修め、禁令を嚴にし、賞罰を信にし、遊戲を糾し、苛刻を察かにするの十六事をいふ。〔後漢書、仲長統傳〕損益篇曰、云云、制レ國以分レ人、立レ政以分レ事、人遠則難レ綏、事總則難レ了、今遠州之縣、或相去數百千里、雖レ多二山陵洿澤一、猶有下可二居レ人種レ穀者上焉、當下更二制其境界一、使丙遠者不レ過二二百里一、明二版籍一以相數閱、審二什伍一以相連持、限二夫田一以斷二幷兼一、定二五刑一以救二死亡一、益二君長一以興二政理一、急二農桑一以豐二委積一、去二末作一以一二本業一、敦二教學一以移二情性一、表二德行一以厲二風俗一、覈二才藝一以敍二官宜一、簡二精悍一以習二師田一、修二武器一以存二守戰一、嚴二禁令一以防二僭差一、信二賞罰一以驗二懲勸一、糾二游戲一以杜二姦邪一、察二苛刻一以絕乙煩暴甲、審二此十六者一、以爲二政務一、操レ之有レ常、課レ之有レ限、安寧勿二懈墮一、有レ事不二迫據一、聖人復起不レ能レ易也。

【政亂】112 セイラン 治まることと亂れること。治亂。又、政がみだれる。〔後漢書、仲長統傳〕存亡以レ之迭代、政亂從レ此周復、天道常然之大數也。

【政吏】113 セイリ 君と役人。〔法言、先知〕所謂三勤曰、政善而吏惡、一勤也、吏善而政惡、二勤也、政吏駢惡、三勤也。〔注〕政、君也。

【政理】114 セイリ ❶政治の道理。又、政治。〔鬼谷子、本經陰符〕原二人事之政理一。〔後漢書、郅壽傳〕考二知政理一、違二失人心一、輒改二更之一。〔蜀志、諸葛亮傳〕外結二好孫權一、內脩二政理一。❷人事がよく治まること。〔後漢書、張衡傳〕陰知二姦黨名姓一、一時收禽、上下肅然、稱爲二政理一。❸說苑の篇名。

【政理寧靜】115 セイリネイセイ 政治がよく治まり、世の中が安らかなこと。〔大日本史、列女、北條時頼母安達氏傳〕時頼克守二勤儉一、政理寧靜、亦母教之使レ然也。

【政略】116 セイリヤク 政治上の方略。政治上のかけひき。

【政略結婚】117 セイリヤクケツコン 婚姻當事者の家長が、自己の利益のために、當事者たる男女の意思を度外視して專權を以て子女を婚姻させること。

【政令】118 セイレイ 政治を行ふための法律命令。一國の憲法・法律・規則など。政典、政法。〔周禮、天官、小宰〕掌下建二部邦之宮刑一、以治中王宮之政令上。〔孫詒讓正義〕凡施行爲レ政、布告爲レ令、月令注云、宮令、稽二出入及開閉一之屬、是也。〔周禮、春官小宗伯〕其正室皆謂二之門子一、掌二其政令一。〔注〕政令、謂二役守之事一。〔左氏、成、十六〕魯之有二季孟一、猶三晉之有二欒范一也、政令於レ是乎成。〔孝經、孝優劣章〕行二其政令一。〔管子、形勢〕進退無レ儀、則政令不レ行。〔荀子、王制〕政令時、則百姓一。〔淮南子、泰族訓〕賞レ善罰レ暴者、政令也。

【政令得失】119 セイレイノトクシツ 政治や法令の善惡是非。〔李退溪、啓蒙篇〕勿レ談二國家朝庭政令得失一。

【政令不レ一】120 セイレイイツナラズ 政治の法令が畫一でない。〔左氏、昭、二十三〕帥賤多レ寵、政令不レ壹。〔魏志、武帝紀〕兵多而分畫不レ明、將驕而政令不レ一。

【政路】121 セイロ まつりごと。政治の方策。政道。〔蔡邕、上二封事一陳二政要七事一〕三事、云云、宣二聲海內一、博開二政路一。

【政論】122 セイロン 政治に就いての議論。時の政事の是非得失についての議論。政談。〔後漢書、崔寔傳〕（寔）除爲レ郎、明二於政體一、吏才有レ餘、論二當世便事數十條一、名曰二政論一、指二切時要一、言辨而确、當世稱レ之。

【政和】123 セイワ ❶政治のなごやかなこと。政治がほどよく行はれること。〔禮、樂記〕是故治世之音、安以樂、其政和。〔左氏、昭、二十〕寬以濟レ猛、猛以濟レ寬、政是以和。❷縣名。宋、置く。今の福建省建甌縣の東北。松溪の支流の北岸。〔讀史方輿紀要、福建、建寧府〕政和縣、本福州甯德縣地、五代時王氏立二關隸鎭一、宋咸平三年升二關隸縣一、屬二建州一、政和五年、改曰二政和縣一、明朝宏治中、礦賊作レ亂始築レ城、嘉靖閒毀二於倭一、萬曆初改築、今城周二一里有奇、編戶五十九里。〔清史稿、地理志〕福建、建寧府、縣七、政和。❸北宋、徽宗（趙佶）の年號。(1111－1118)

【政和通寶】124 セイワツウハウ 宋の徽宗の時の貨幣。〔董逌錢譜、宋朝錢〕崇寧通寶、徽宗年號、崇寧重寶、大觀通寶、政和通寶。

【政和五禮新儀】125 セイワゴレイシンギ 書名。二百二十卷。宋の徽宗の時、鄭居中等奉敕撰。原本散佚して、凡そ十九卷を佚し、三卷を闕く。前には御筆の指揮を列ね、次には御製の冠禮を列ぬ。宮中に於ける禮式制度を記したもので、大體開元禮に倣つて居るが少しく異つた所がある。〔四庫提要、史、政書類〕。

【弛レ政】126 セイヲサル 虐政を去ること。〔禮、樂記〕庶民弛レ政、庶士倍レ祿。〔注〕弛政、去二其紂時苛政一也。

【報レ政】127 マツリゴトヲハウズ 政治の成績を報告する。〔史記、魯世家〕伯禽受レ封之レ魯、三年然後報レ政、周公曰、何遲也、伯禽曰、變二其俗一、革二其體一、喪三年而後除レ之、故遲、太公封二於齊一、五月而報レ政、周公曰、何速也、曰、吾簡二其君臣一、禮從二其俗一也、故速。

【問レ政】128 マツリゴトヲトフ 政治のやり方をたづねる。〔論語、顏淵〕子貢問レ政。

【政合國】129 セイガフコク 數國が、其の內政に於ては各各獨立してゐながら、外交關係に限つて相共通する場合の稱。

【政字銀】130 セイジギン 安政六年小判金改鑄の際、金に比例させるために改鑄した丁銀及び豆板銀をいふ。丁銀には上下兩邊に年號の一字なる政の字の印を打ち、豆板銀には大黑の胸に政の字を款したからいふ。〔憲法類編、九、國法、明治元年閏四月布告內國銀貨表〕政字銀、位百目、內銀十二文目、銅八十八文目。

【政貴レ有レ恒】131 マツリゴトハツネアルヲタツトブ 政治には仁義を主として恒に守る所あるを大切とする。〔書、畢命〕政貴レ有レ恒、辭尙二體要一、不二惟好レ異、商俗靡靡、利口惟賢、餘風未レ殄、公其念哉。

【政躬安泰】132 セイキユウアンタイ 天皇陛下の玉體が安らかにおはしますこと。〔徐大總統之答詞〕頌二貴國大皇帝陛下政躬安泰一。

【政修年豐】133 マツリゴトヲサマリトシユタカ 政治がよくをさまり年が豐年である。〔國史略、仁德天皇〕帝明叡寬仁、恭儉恤レ民、政修年豐、海內清平。

【政者正也】134 セイハセイナリ 政の字の本義は天下を正す意である。〔禮、哀公問〕公曰、敢問、何謂レ政、孔子對曰、政者、正也、君爲レ正、則百姓從レ政矣。

〔論語、顏淵〕季康子問㆓政於孔子㆒、孔子對曰、政者、正也、子帥而正、孰敢不㆑正。〔大戴禮、哀公問㆓於孔子㆒〕大公曰、敢問、何謂㆑爲㆑政、孔子對曰、政者、正也、君爲㆑正、則百姓從㆑政矣。〔孔子家語、大婚解〕夫政者、正也、君爲㆑正、則百姓從而正矣。

【政如㆑張㆑琴】135（マツリゴトハコトヲハルガゴトシ） 政治といふものは琴を張るやうなもので、調和を主とするものである。〔日本政記、朱雀天皇〕君家先關白有㆑言、政如㆑張㆑琴、大絃急、則小絃絕。

【政如㆓蒲盧㆒】136（マツリゴトハホロノゴトシ） 政治の效果が速かに現はれる喩。蒲盧は蒲蘆で、生長し易い草。よい政治を行へば、生長し易い蒲蘆の如く、すぐ其の效果があらはれる。一說に、蒲盧は細腰蜂（ジガバチ）をいふ。政治は土蜂が他蟲の子を變化して己の子とするやうに政治も民心を變化して己に心服させるべきである。〔禮、中庸〕夫政也者、蒲盧也。〔注〕蒲盧、蜾蠃、謂㆓土蜂㆒也、詩曰、螟蛉有㆑子、蜾蠃負㆑之、螟蛉、桑蟲也、蒲盧取㆓桑蟲之子㆒、去而變㆓化之㆒、以成㆑爲㆓己子㆒、政之於㆓百姓㆒、若㆔蒲盧之於㆓桑蟲㆒然。〔章句〕蒲盧、沈括以爲㆓蒲葦㆒是也、以㆑人立㆑政、猶㆓以㆑地種㆑樹㆒、其成速矣、而蒲葦又易㆑生之物、其生尤速也、言、人存政擧、其易如㆑此。

【政如㆓魯衞㆒】137（マツリゴトハロエイノゴトシ） 兩國の政治の相似たこと。魯の祖、周公と、衞の祖、康叔とは兄弟であつたからいふ。〔論語、子路〕子曰、魯衞之政、兄弟也。〔漢書、馮奉世傳〕兄弟繼㆑踵相因循、聰明賢智惠㆓吏民㆒、政如㆓魯衞㆒。

【政通人和】138（マツリゴトツウジヒトワス） 政治がよく行はれ人民が和睦すること。〔范仲淹、岳陽樓記〕政通人和、百廢俱興。〔西湖志引、分省人物考〕陸偉、字仲奇、錢塘人、成化乙酉鄉薦、授㆓澤州知州㆒、政通人和、小民戴㆑德、而怨家訛謗。

【政隆寶應】139（セイリウハウオウ） 南宋孝宗の時、安南英宗（李天祚）の年號。（1163－1173）

【政則在㆓簡而能㆒】140（マツリゴトハカンニシテノウナルニアリ） 政治は簡略で從ひやすく、人を服せしめるはたらきあるをよしとする。〔忠經、政理〕政則在㆓簡而能㆒、德則在㆓博而久㆒。

【爲㆑政在㆑去㆓三冗㆒】141（マツリゴトヲナスハサンジヨウヲサルニアリ） 政事をするには、三の冗多なるものを去るに在る。三冗とは冗官・冗兵・冗費をさす。〔增韻〕冗、雜也、剩也、忙也、今無事備㆑員曰㆓冗官㆒、蘇軾曰、爲㆑政、在㆑去㆓三冗㆒、曰冗官・冗兵・冗費。

【布㆑政之庭風流未㆔必敵㆓於崐閬㆒】142（マツリゴトヲシクノニハハフウリウイマダカナラズシモコンラウニヒトシカラズ） 政事を行ふ處は、必ずしも崑崙、閬風のやうな風趣があるとは限らない。〔和漢朗詠集、帝王、菅原文時、花光水上序〕布㆑政之庭、風流未㆔必敵㆓於崐閬㆒、兼㆑之者此地也、好㆑文之世、德化未㆔必光㆓于黃炎㆒、兼㆑之者我君也。

【爲㆑政心閑物自閑】143（マツリゴトヲナシテココロカンナレバモノオノヅカラカンナリ） 君が政をなすや、心が淡靜なれば、從つて萬物も靜かに世間も穩かに治まるといふ意。〔李頎、寄㆓韓鵬㆒詩〕爲㆑政心閑物自閑、朝看飛鳥暮飛還、寄㆑書河上神明宰、羨爾城頭姑射山。

【攸】13136 イウ 攸（5－13113）の譌字。〔正字通〕攸、攸字之譌。

【⿰户攴】13137 ケイ 启（2－3820）に同じ。〔正字通〕⿰户攴、启同。

【⿰木攴】13138 タン トン 〔集韻〕多感切 感 ❶**うつ。又、さす。**抌（5－11876）に同じ。〔集韻〕抌、刺也、擊也、或从㆑攴。〔集韻〕⿰木攴、擊也。❷杸（6－16615）の譌字。〔正字通〕⿰木攴、杸字之譌。

【⿰立攴】13139 テイ ⿰立支（5－13164）に同じ。〔篇海〕⿰立攴、與㆑⿰立支同。

【⿰乞攴】13140 コツ ⿰乞攵（5－13118）に同じ。〔類篇〕⿰乞攵、或作㆑⿰乞攴。

【⿰朩攴】13141 サン 㪚（5－13263）の古字。〔集韻〕㪚、古从㆑朩。

【⿰爻攵】13142 ケウ 教（5－13212）に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰爻攵、同㆑教。

【⿰幺攵】13143 コウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰幺攵、音口。

【⿺乙攴】13144 コツ コチ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿺乙攴、口骨切。

【⿰户攵】13145 キウ 義未詳。〔五音篇海〕⿰户攵、音救。

【⿰夂月】13146 タウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰夂月、音堂。

【⿰⺁支】13147 キ 義未詳。〔川篇〕⿰⺁支、去委切。

【⿰乂支】13148 ケウ 教（5－13212）の古字。〔說文〕教、⿰乂支、亦古文教。

五畫

【⿰可支】13149 ㊀カ 〔集韻〕許我切 哿 ㊁カ 〔集韻〕口箇切 箇 ㊀❶**うつ。**〔廣雅、釋詁三〕⿰可支、擊也。❷或は敤（5－13204）に作る。〔集韻〕⿰可支、或作㆑敤。㊁**うつ。**〔集韻〕⿰可支、博雅、擊也。

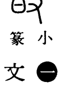
【⿰⿱𠂉口攵】13150 シ ⿰⿱山口支（5－13112）に同じ。〔集韻〕⿰⿱山口支、或作㆑⿰⿱𠂉口攵。

【⿰⿱𠂉口攵】13151 シ ⿰⿱山口支（5－13112）に同じ。〔集韻〕⿰⿱山口支、或作㆑⿰⿱𠂉口攵。

【⿰巿攵】13152 フツ ブチ 〔集韻〕符勿切 物 ❶**やぶる。**〔玉篇〕⿰巿攵、破也。❷**をさめる。**⿰黹攴（5－13429）に同じ。〔集韻〕⿰黹攴、理也、或作㆑⿰巿攵。

【⿰朿攵】13153 セイ 〔玉篇〕子泥切 齊 **矢をいる。**〔玉篇〕⿰朿攵、箭射也。

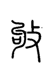
【敀】13154 ハク ヒャク 〔集韻〕博陌切 陌


小篆

❶**おこす。**せまりおこす。〔說文〕敀、迮也、从㆑攴白聲、周書曰、常敀常任。❷**せまる。**しひる。〔玉篇〕敀、強也。❸**つく。**〔篇海〕敀、附也。❹**うつ。**〔廣韻〕敀、打也。❺迫（11－38797）に通ず。〔說文、敀、段注〕與㆑迫音義同。〔廣韻〕迫、逼也、敀、上同。

【敁】13155 テン 〔集韻〕丁兼切 鹽 ㄉㄧㄢ tien¹ **はかる。**敁敠。敁掇。〔類篇〕敁、敁掇、以㆑手稱㆑物。〔集韻〕敁、敁敠、稱量也。

【敂】13156 コウ ク 〔集韻〕擧厚切 有 ㄎㄡˋ k'ou⁴


小篆

うつ。たたく。扣(**5**-**11807**)・叩(**2**-**3238**)に同じ。〔說文〕敂、擊也、从レ攴句聲。〔段注〕自二扣・叩行一而敂廢矣。〔正字通〕敂、扣・叩、並通。

【敂關】1 コウクワン 關をたたく。關所の役人に謁すること。〔周禮、地官、司關〕凡四方賓客敂レ關、則爲二之告一。〔注〕敂レ關、猶レ謁二關人一也。

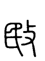
【㪀】13157 ハウ ベウ 〔集韻〕皮教切 效

たたく。〔類篇〕㪀、手擊也。

【㪅】13158 カウ 更(**5**-**14283**)に同じ。〔字彙〕㪅、俗作レ更。

【敃】13159

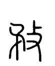
🈩 ビン ミン 〔集韻〕美隕切 軫
🈔 ビン ミン 〔集韻〕眉貧切 眞
🈪 フン 〔集韻〕敷文切 文


小篆

🈩🈔❶**つとめる。**〔說文〕敃、彊也、从レ攴民聲。〔玉篇〕敃、勉也。❷敯(**5**-**13318**)・忞(**4**-**10350**)に通ず。〔集韻〕敃、或作二敯・忞一。🈪**みだれるさま。**通じて紛(**8**-**27295**)に作る。〔集韻〕敃、亂皃、通作レ紛。

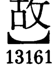
【敄】13160

🈩 ブ ム 〔集韻〕亡遇切 遇
🈔 ブ ム 〔集韻〕罔甫切 麌
🈪 ボウ ム 〔集韻〕迷浮切 尤


小篆

🈩🈔🈪**つとめる。**〔說文〕敄、彊也、从レ攴矛聲。〔復古編〕北燕之外、相勉努力、謂二之敄一。

【故】13161 コ ク 〔集韻〕古慕切 遇 ㄍㄨˋ ku⁴


小篆

❶**もと。**㋑むかし。〔莊子、秋水〕證二曏今故一。〔注〕今故、猶二古今一。㋺まへかた。〔左氏、昭、十二〕曼成然故事二蔡公一。〔注〕故、舊也。❷**もとの。**㋑以前の。〔楚辭、宋玉、招魂〕反二故居一些。〔注〕故、舊也。㋺死んだ。死んだ人に冠していふ。〔沈約、齊故安陸昭王碑文一首〕。〔白氏文集、碑碣〕唐撫州景雲寺、故律大德上弘和尚石塔碑銘。❸**もとより。**㋑もともと。本來。〔荀子、性惡〕凡禮義者、是生二於聖人之僞一、非三故生二於人之性一也。〔注〕故、猶レ本也。㋺はじめから。昔から。〔史記、呂后紀〕食其故得二幸太后一。㋩まことに。たしかに。〔經傳釋詞、五〕故、本然之辭也、襄九年左傳曰、然故不レ可レ誣也。❹**ふるい。**㋑年を經る。〔孟子、梁惠王下〕所謂故國者、非下有二喬木一之謂上也。〔管子、五行〕發二故粟一。〔注〕故粟、陳也。㋺ふるめく。ふるぶ。〔吳志、韋曜傳〕怪二其書之垢故一。㋩ふるい物事。〔廣韻〕故、舊也。〔易、雜卦〕革、去レ故也。〔論語、爲政〕溫レ故而知レ新。〔集注〕故者、舊所レ聞。❺**しきたり。**ならはし。先例。〔左氏、定、十〕齊魯之故。〔注〕故、舊典。〔呂覽、知度〕非二晉國之故一。〔注〕故、法。❻**なじみ。**前からの知合。〔周禮、秋官、小司寇〕議二故之辟一。〔注〕故、謂二舊知一也。〔管子、禁藏〕不下爲二親戚故貴一易中其法上。〔注〕故、謂二恩舊一。〔後漢書、應劭傳〕夫親故賢能。〔注〕故、謂二舊知一也。❼**としより。**年長者。〔詩、小雅、正月〕召二彼故老一。〔傳〕故老、元老。〔周禮、天官、太宰〕二曰、敬レ故。❽**ゆゑ。**わけ。理由。〔國語、楚語下〕夫其有レ故。〔注〕故、猶レ意也。〔淮南子、氾論訓〕勒二問其故一。〔注〕故、意也。❾**ゆゑに。**それで。上をうけ下を起す語。〔禮、學記〕故安二其學一而親二其師一。〔疏〕故、謂因レ上起レ下之辭。❿**もつて。**以(**1**-**388**)に通ず。〔史記、五帝紀贊〕余幷論次、擇二其言尤雅者一、故著爲二本紀書首一。〔淮南子、泰族訓〕澄二列金木水火土之性一、故立二父子之親一、而成レ家、別二清濁五音六律相生之數一、以立二君臣之義一、而成レ國。⓫**こと。**㋑ことがら。しごと。〔廣雅、釋詁三〕故、事也。〔公羊、昭、三十一〕習二乎邾婁之故一。〔注〕故、事也。〔左氏、昭、二十五〕昭伯問二家故一。〔注〕故、事也。〔荀子、解蔽〕身盡二其故一則美。〔注〕故、事也。㋺祭祀などの大事。大切なこと。〔禮、王制〕諸侯無レ故不レ殺レ牛。〔注〕故、謂二祭饗一。〔禮、玉藻〕君無レ故不レ殺レ牛、大夫無レ故不レ殺レ羊、士無レ故不レ殺二犬豕一。〔注〕故謂二祭祀之屬一。〔漢書、禮樂志〕以二簿書不報期會一爲レ故。〔注〕師古曰、故、謂二大事一也。㋩できごと。さはり。變事。〔易、繫辭下〕又明二於憂患與レ故。〔注〕故、事故也。〔周禮、天官、宮正〕國有レ故則令レ宿。〔注〕故、凡非レ常也。㋥なんぎ。わざはひ。〔周禮、天官、宮正〕國有レ故。〔注〕故、謂二禍災一。〔周禮、春官、大宗伯〕國有二大故一。〔注〕故、謂二凶烖一。〔禮、曲禮下〕君無レ故、玉不レ去レ身。〔注〕故、謂二災患喪病一。〔穀梁、桓、元〕繼レ故。〔注〕故、謂レ弑也。〔穀梁、文、十八〕子卒不レ日、故也。〔注〕故、殺也。㋭わるい事。惡德。〔論語、微子〕故舊無二大故一、則不レ棄也。〔漢書、文帝紀〕損二棄細故一。㋬ことわり。道理。〔易、繫辭上〕知二幽明之故一。〔疏〕故、謂レ事也。⓬**ことさらに。**わざと。〔史記、信陵君傳〕朱亥故不二復謝一。〔史記、申屠嘉傳〕嘉坐自如、故不レ爲レ禮。⓭**わざとしたこと。**〔書、大禹謨〕刑レ故無レ小。〔集傳〕故者、知レ之而故犯也。⓮**いつはり。**たくらみ。〔國語、晉語二〕多爲二之故一、以變二其志一。〔注〕故、謂三多作二計術一。〔荀子、王霸〕不レ敬二舊法一、而好二詐故一。〔注〕故、巧也。〔淮南子、主術訓〕是以上多レ故、則下多レ詐。〔注〕故、詐。⓯**はし。**〔詩、齊風、載驅序〕無二禮義故一。〔鄭注〕故、猶レ端也。⓰**死ぬ。**〔釋名、釋喪制〕漢以來謂レ死爲二物故一、言三其諸物皆就二朽故一也。〔漢書、蘇武傳〕前以降及物故、凡隨レ武還者九人。〔注〕師古曰、物故、謂レ死也、言下其同二於鬼物一而故上也。⓱**ときあかし。**詁(**10**-**35347**)に通ず。〔說文通訓定聲〕故、段借爲レ詁。〔一切經音義、二十二〕故、古文作レ詁。〔詩、國風、周南〕故訓傳。〔釋文〕故、今或作レ詁。〔漢書、劉歆傳〕學者傳二訓故一而已。〔注〕師古曰、故、謂二指趣一也。〔漢書、丁寬傳〕訓詁舉二其大誼一而已。〔注〕師古曰、故、謂二經之旨趣一也。〔漢書、藝文志〕魯故二十五卷。〔注〕師古曰、故者、通二其指義一也、今流俗毛詩、改二故訓傳一爲二詁字一、失レ眞耳。⓲**つみ。**辜(**10**-**38636**)に通ず。〔史記、賈誼傳〕其離二此尤一兮、亦夫子之辜也、注〕索隱曰、

漢書、辜作レ故。⓳**則ち**。〔經傳釋詞、五〕故、猶レ則也、莊子齊物論篇曰、有二成與一レ虧、故昭氏之鼓レ琴也、無二成與一レ虧、故昭氏之不レ鼓レ琴也、故字並與レ則同義。⓴**かならず**。固(**2－4745**)に通ず。〔經傳釋詞、五〕固、猶レ必也、或作レ故、秦策曰、吳不レ亡レ越、越故亡レ吳。㉑**なほ**。**しかも**。**乃ち**。〔經傳釋詞、五〕固、猶レ乃也、或作レ故、呂覽審己篇曰、臣以レ王爲二已知一レ之矣、王故尙未二之知一希。㉒**させる**。せしむ。〔說文〕故、使レ爲レ之也、从レ支古聲。〔大戴禮、保傅〕故三趙高傅二胡亥一而教二之獄一。〔漢書、賈誼傳〕使三趙高傅二胡亥一而教二之獄一。㉓**姓**。〔萬姓統譜〕故、見二姓苑一、宋故宿字武平、合肥縣丞。

參考 ヒサ。モト。フル。

【故鞋】1 ku^{4} hsieh^{2} ふるいわらぢ。ふるい草履。

【故惡】2 コアク ふるくなつてきたなくなる。〔北史、劉仁之傳〕麤飯冷菜、衣服故惡。

【故安】3 コアン 縣名。漢、置く。侯國。戰國、燕の武陽邑。晉、固安といふ。故城は河北省易縣の東南。〔漢書、地理志上〕涿郡、縣二十九、故安。

【故衣】4 コイ ❶常に身に著けて居る衣。〔史記、外戚世家〕於レ是(武)帝詔、使下邢夫人衣二故衣一、獨身來前上、尹夫人望二見之一、乃低頭俛而泣、自痛二其不一レ如也。〔後漢書、文苑下、禰衡傳〕諸史過者、皆令下其脫二故衣一、更著中岑牟單絞之服上。〔白居易、病中哭二金鑾子一詩〕故衣猶架上、殘藥尙頭邊。❷ふるぎ。新衣の對。〔古樂府、豔歌行〕故衣誰當レ補、新衣誰當レ綻。

【故意】5 コイ ❶古い心。故人の心。〔杜甫、贈二衞八處士一詩〕十觴亦不レ醉、感二子故意長一。❷ふるめかしいおもむき。〔楊萬里、胡英彥得二歐陽公二帖一云云詩〕羣兒有二新舌一、六學無二故意一。❸ことさらにたくらむ心。わざとすること。有心故造。〔紅樓夢、三十七回〕而故意往レ前趕。

【故位】6 コヰ もとのくらゐ。〔史記、趙世家〕今趙武既立、爲二成人一、復二故位一。

【故爲】7 コヰ ことさらにする。下心があつてする。〔淮南子、詮言訓〕豈加二故爲一哉。

【故友】8 コイウ ふるい友達。舊友。〔魏志、臧洪傳〕望二主人之旗鼓一、感二故友之周旋一。〔徐晶、送三友人尉二蜀中一詩〕故友漢中尉、請爲二西蜀吟一。

【故由】9 ユエヨシ わけがら。ゆかり。おこり。理由。

【故邑】10 コイフ もとの領地。〔漢書、高帝紀下〕信家在レ楚、其意欲三復得二故邑一。

【故遊】11 コイウ 以前に遊んだこと。又、其の處。〔白居易、重到二渭江舊居一詩〕追思昔日行、感傷故遊處。

【故域】12 コヰキ 古なじみの場所。〔曹植、贈二白馬王彪一詩〕孤魂翔二故域一、靈柩寄二京師一。

【故印】13 コイン かつて佩用した印。古い印。〔漢書、匈奴傳下〕詔令レ上二故印紱一。

【故陰】14 コイン 秋冬をいふ。〔謝靈運、登二池上樓一詩〕初景革二緒風一、新陽改二故陰一。〔注〕善曰、神農本草曰、春夏爲レ陽、秋冬爲レ陰。

【故院】15 コヰン 崩御し給うた上皇又は法皇。〔日本外史、源氏前記、平氏〕我思二故院遺詔一、獨屬二官軍一。

【故宇】16 コウ もとの家。昔住んだ家。〔楚辭、離騷〕何所獨無二芳草一兮、爾何懷二乎故宇一。〔注〕宇、居也。〔馮衍、顯志賦〕聞二至言一而曉領兮、還吾反二乎故宇一。

【故驛】17 コエキ ふるい驛。古昔の宿場。〔王維、送二岐州源長史一歸詩〕故驛通二槐里一、長亭下二槿原一。

【故葉】18 コエフ 古くなつて枯れかかつた葉。〔張正見、衰桃賦〕風落二新枝一、霜飛二故葉一。

【故淵】19 コエン もと住んだ淵。〔陶潛、歸二園田居一詩〕羈鳥戀二舊林一、池魚思二故淵一。

【故堰】20 コエン ふるいゐせき。堰は土を築いて水の流れを塞ぐこと。〔晉書、孔愉傳〕愉自巡行、修二復故堰一、漑二田二百餘頃一、皆成二良業一。

【故掾】21 コエン もとの下役。〔後漢書、趙典傳〕(李)傕欲レ遣二人殺一レ溫、董卓從弟應、溫故掾也、諫レ之數日、乃獲レ免。

【故緣】22 コエン 古い緣故。昔の緣故。舊緣。

【故怨】23 コヱン 前前からのうらみ。〔漢書、張良傳〕雍齒與レ我有二故怨一、數窘二辱我一。

【故苑】24 コエン ふるい庭。むかしのその。舊苑。〔庾肩吾、謝レ賚二林檎一啓〕丹徒故苑、歲綿長而不レ見。〔洪偃、遊二故苑一詩〕龍田留二故苑一、汾水結二餘波一。

【故園】25 コエン 古い庭。轉じて、ふるさと。故山。故鄕。〔駱賓王、晚憩二田家一詩〕唯有二寒潭菊一、獨似二故園花一。〔柳宗元、酬下婁秀才寓二居開元寺一早秋月夜病中見上レ寄詩〕客有二故園思一、瀟湘生二夜愁一。〔宋之問、早發二始興江口一至二虛氏村一作詩〕何當下首二歸路一、行翦中故園萊上。〔杜甫、復愁詩〕萬國尙戎馬、故園今若何。〔杜甫、秋興詩〕叢菊兩開佗日淚、孤舟一繫故園心。〔李郢、江亭晚望詩〕聞說故園香稻熟、片帆歸去就二鱸魚一。

【故園渺何處】26 コエンベウトシテイヅレノトコロゾ 故鄕を望んでも何處とは判らないが、一體何處が故鄕であらうか。故鄕を切に思ふ意。〔韋應物、聞レ雁詩〕故園渺何處、歸思方悠哉、淮南秋雨夜、高齋聞二雁來一。

【故園今在灞陵西】27 コエンイマハリヨウノニシニアリ 異鄕に在つて故鄕を思ふ句。灞陵は長安の東七十里に在る。〔王昌齡、別二李浦之一レ京詩〕故園今在二灞陵西一、江畔逢レ君醉不レ迷、小弟鄰莊尙漁獵、一封書寄二數行啼一。

【故園黃葉滿青苔】28 コエンノクワウエフセイタイニミツ 故鄕には今や黃葉が青苔の上に滿ちてゐるであらう。故鄕を思ふ詩。〔顧況、聽レ角思レ歸詩〕故園黃葉滿二青苔一、夢後城頭曉角哀、此夜斷腸人不レ見、起行殘月影徘徊。

【故園東望路漫漫】29 コエントウバウミチマンマン 東方に向つて故鄕を望めば路は遠く隔たつてゐる。故鄕を遙かに想ふ意。〔岑參、逢三入レ京使一詩〕故園東望路漫漫、雙袖龍鍾淚不レ乾、馬上相逢無二紙筆一、憑レ君傳語報二平安一。

【故屋】30 コヲク 古い家。〔管子、四時〕開二久墳一發二故屋一。

【故音】31 コオン もとのなき聲。〔土屋鳳洲、鶯說〕鶯聽化レ之、失二其故音一。

【故家】32 コカ 古くから續いてゐる家。古い家柄。舊家。〔孟子、公孫丑上〕紂之去二武丁一未レ久也、其故家遺俗、流風善政、猶有二存者一。〔焦循正義〕故家、勳舊世家。

【故交】33 コカウ ふるい交際。舊交。〔盧照鄰、羈臥山中詩〕紅顏意氣盡、白璧故交輕。〔杜荀鶴、山中喜下與二故交一宿話上詩〕山中深夜坐、海內故交稀。

【故行】34 コカウ もとの步きかた。故步。〔莊子、秋水〕且子獨不レ聞三夫壽陵餘子之學二行于邯鄲一與、未レ得二國能一、又失二其故行一矣、直匍匐而歸耳。

【故窌】35 コカウ 古いあなぐら。〔管子、四時〕發二故屋一、辟二故窌一、以假貸。〔纂詁〕穿レ地曰レ窌、墳亦窌類。

【故濠】36 コガウ 古いほり。古城のほり。〔柳宗元、遊二南亭一夜還敍レ志七十韻詩〕磻谿近二餘基一、阿城連二故濠一。

【故客】37 コカク 古いなじみの客。もとからの食客。〔史記、廉頗傳〕失勢之時、故客盡去。〔後漢書、皇后上、光烈陰皇后紀〕遂率二百官及故客一上レ陵。

【故格】38 コカク 古い格式。古格。〔重野成齋、霞關臨幸記〕破二故格一、棄二舊例一。

【故勘】39 コカン 訊問權を有する官吏が故意に無罪の者を拷問すること。〔明律、刑律、斷獄、故二禁故三勘平人二〕若故二勘平人一者、杖八十、折傷以上、以二凡鬪傷一論。

【故氣】40 コキ けがれて正しくない精根。〔海錄碎事、道釋、養生〕人臥二室宇一、當レ令二潔盛一、則受二靈氣一、否則受二故氣一。注、謂二塵濁不正之氣一。

【故記】41 コキ 古い記錄。舊記。古書。〔呂覽、至忠〕臣之兄嘗讀二故記一曰、殺二隨兕一者、不レ出二三月一。〔注〕故記、古書也。〔說苑、立節〕對曰、臣之兄讀二故記一曰、射二斜雉一者、不レ出二三月一必死。

【故鬼】42 コキ 古い昔に死んだ人の魂。〔左氏、文、二〕秋八月丁卯、大二事於太廟一、躋二僖公一、逆祀也、於レ是夏父弗忌爲二宗伯一、尊二僖公一、且明見曰、吾見二新鬼大、故鬼小一。

【故基】43 コキ 古い建物のあと。故址(105)に同じ。〔韻府引、陳規、詩〕豐鎬無三由問二故基一。

【故貴】44 コキ 昔なじみの貴人。〔管子、禁藏〕不下爲二親戚故貴一易中其法上。〔纂詁〕故、故舊也。

【故綦】45 コキ 古いくつのひも。〔梁簡文帝、傷二美人一詩〕翠帶留二餘結一、苔階沒二故綦一。

【故器】46 コキ 古いうつは。古い道具。〔周禮、春

官、典同、凡和樂亦如レ之、注〕和、謂レ調二其故器一也。〔李商隱、代上二李相公德裕一啓〕抱二徽音于故器一、雖レ賞逐レ時遷。

【故丘】47 コキウ ふるさと。故鄕。故山。〔杜甫、解悶詩〕一辭二故國一十經レ秋、每レ見二秋瓜一憶二故丘一。

【故舊】48 コキウ 昔からのなじみ。故人。舊知。舊友。〔周禮、春官、大宗伯〕以二賓射之禮一親二故舊朋友一。〔論語、泰伯〕故舊不レ遺、則民不レ偸。〔劉寶楠正義〕故之爲レ言、古也、舊之爲レ言、久也、周官大宗伯、以二賓射之禮一親二故舊朋友一、注云、王之故舊朋友、爲二世子一時、共在レ學者、小司寇注、故謂二舊知一也、是也。〔荀子、大略〕絕二故舊一矣、與レ義分背矣。〔國語、晉語四〕禮二賓旅一友二故舊一。〔史記、留侯世家〕弃二墳墓一、去二故舊一。

【故鄕】49 コキヤウ 自分が生れた邑里。ふるさと。鄕里。鄕國。〔荀子、禮論〕過二故鄕一則必徘徊焉、鳴號焉、躑躅焉、踟躕焉。〔史記、高祖紀〕威加二海內一兮、歸二故鄕一。〔漢書、高帝紀下〕游子悲二故鄕一。〔淮南子、泰族訓〕思二故鄕一作二爲山木之嘔一。〔史記、項羽紀〕富貴不レ歸二故鄕一、如二衣レ繡夜行一。〔陸機、赴レ洛道中作詩〕佇立望二故鄕一、顧レ影悽自憐。

【故鄕七十五長亭】50 コキヤウシチジフゴチヤウテイ 故鄕は甚だ遠く、七十五もの宿亭を距つた遙か彼方にある。長亭とは、距離の遠い宿驛。〔杜牧、題二齊安城樓一詩〕嗚軋江樓角一聲、微陽瀲瀲落二寒汀一、不レ用憑レ欄苦回レ首、故鄕七十五長亭。

【故境】51 コキヤウ もとの國境。〔史記、司馬穰苴傳〕取二所レ亡封內故境一、而引レ兵歸。

【故疆】52 コキヤウ もとの國境。故境に同じ。〔柳宗元、送三邠寧獨孤書記赴二辟命一序〕論者以爲、天子且復二河壖故疆一、拓二達西戎一、而罷二諸侯之兵一。

【故宮】53 コキユウ ふるい宮殿。〔國史略、嵯峨天皇〕上皇既禪レ位、養レ病徙二數處一、遂修二造平城故宮一居焉。

【故宮博物院】54 コキユウハクブツキン 國民政府置く。北京の故宮及び所屬の建物・古物・圖書等を保管し、一般に開放し參觀に供する。內に祕書・總務の兩處、古物・圖書・文獻の三館を設け、院長・副院長各一人を置き院務を綜理せしめる。

【故居】55 コキヨ もとのすみか。古い住居。舊居。〔史記、殷紀〕復居二成湯之故居一、廼五遷無二定處一。〔後漢書、張衡傳〕既垂レ潁而顧レ本兮、爾要二思乎故居一。〔楚辭、宋玉、招魂〕反二故居一些。〔劉長卿、喜下鮑禪師自二龍山一至上詩〕故居何日下、春草欲二

【故渠】56 ku⁴ chʻü² 古き溝。古どぶ。［芊芊一。

【故墟】57 コキヨ ふるいあと。昔の城あと。故址。廢墟。〔詩、唐譜〕成王封二母弟叔虞於堯之故墟一、曰二唐侯一。〔後漢書、馮衍傳下〕忠臣過二故墟一而歔欷。

【故蕖】58 コキヨ ふるい蓮。〔鄭絪、奉下和武相公省二中宿齋一酬二李相公一見上寄詩〕寒露滋二新菊一、秋風落二故蕖一。

【故曲】59 コキヨク ふるい樂曲。〔庾肩吾、賦二得稽叔夜一詩〕廣陵餘二故曲一、山陽有二舊隣一。

【故琴】60 コキン 古い琴。〔盧照鄰、哭二明堂裴主簿一詩〕故琴無二復雪一、新樹但生レ煙。〔溫庭筠、寄二渚宮遺民弘里生一詩〕波月欺二華燭一、汀雲潤二故琴一。

【故禁】61 コキン 官吏が私憤を懷いて無罪の人を故意に監禁すること。〔明律、刑律、斷獄、故禁故勘平人〕凡官吏懷二挾私讐一、故二禁平人一者、杖八十。

【故苦】62 コク 古い苦しみ。〔智度論、十九〕新苦爲レ樂、故苦爲レ苦。

【故官】63 コクワン もとの官。以前に就いて居つた官位。〔史記、蘇秦傳〕燕王曰、先生復就二故官一、益厚遇レ之。〔漢書、路溫舒傳〕太僕杜延年問レ狀、罷歸二故官一。

【故關】64 コクワン ㊀古い關所。〔司空圖、塞上詩〕沙塡孤障角、燒斷故關碑。㊁地名。山西省平定縣の東。河北省井陘縣の界に接す。又、固關に作り、一に土門關ともいふ。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、平定州〕故關、州東九十里、道出二井陘一之要口也、通志謂二之井陘關一、今關與二直隷井陘縣一接レ界、洪武三年、置二故關巡司於此一。〔元和志〕井陘故關、在二廣陵縣東八十里一、韓信・張耳、擊レ趙時所レ出道、今亦名二土門一。

【故懽】65 コクワン 昔なじみ。舊好。古歡。古懽。

【故君】66 コクン もとの君。先代の君主。死んだ君。亡君。〔戰國、趙策〕是爲二先知報二後知一、爲二故君一賊二新君一、大亂二君臣之義一者。〔呂覽、恃君〕爲二故君一賊二新君一矣。

【故訓】67 コクン ㊀古代の訓み方。古訓。〔漢書、藝文志、魯故二十五卷、注〕師古曰、故、通二其指義一也、云云、今流俗毛詩、改二故訓傳一爲二詁字一、失レ眞耳。〔馬瑞辰、毛詩傳箋通釋〕散言、則故訓・傳、俱可二通稱一、對言、則故訓與レ傳異、連二言故訓一、與下分二言故訓一者上又異、故訓卽古訓、烝民詩、古訓是式、又作二詁訓一、說文、詁訓、古言也、詁訓本爲二故言一、由レ今通レ古、皆曰二詁訓一、亦曰二訓詁一、而單詞則爲レ詁、重語則爲二訓詁一、詁第就二其義旨一而證二明之一、訓則兼二其言之比興一而訓二導之一、此詁與レ訓之別也。㊁古いをしへ。〔梁武帝、謚二始興王憺一冊〕是以方二軌往賢一、稽二擇故訓一、鴻名美義、允臻二其極一。

【故刑】68 コケイ 刑を被つて服役してゐるもの。〔國語、晉語七〕畢二故刑一、赦二囚繫一。〔注〕故刑、若二今被レ刑居作者一。

【故京】69 コケイ かつての都。古京。舊都。〔源平盛衰記、二十四、兩院主上還都〕故京に上ぼる嬉しさは、さる事に侍れど。［皆就二安利一、皆辟二危窮一。

【故計】70 コケイ 常の計。〔韓非子、五蠹〕民之故計、

【故畦】71 コケイ 刈田をいふ。〔列子、天瑞〕底レ春被レ裘、拾二遺穗於故畦一。〔注〕收刈後、田中棄穀捃レ之也。

【故溪】72 コケイ ふるいたにがは。〔鄭谷、下第退居詩〕年來還未レ上二丹梯一、正着二漁蓑一謝二故溪一。

【故蹊】73 コケイ もと來たこみち。〔謝靈運、登二石門最高頂一詩〕來人忘二新術一、去子惑二故蹊一。

【故徼】74 コケウ 古い邊境のとりで。〔漢書、西南夷傳〕及二漢興一、皆棄二此國一、而關二蜀故徼一。

【故業】75 コゲフ ㊀古くからのわざ。古のしきたり。故事。先例。〔國語、魯語上〕君爲二是擧一、而往觀レ之、非二故業一也。〔後漢書、馬融傳〕由二質要之故業一、率二典刑之舊章一。㊁先祖のいさをし。〔賈誼、過秦論〕蒙二故業一因二遺策一。

【故券】76 コケン 古い手形。古い證文。〔宋史、王質傳〕貸二人息錢一、違レ期以二所レ乘馬一償レ之、質閱レ書得二故券一。

【故劍】77 コケン ふるいつるぎ。舊妻の喩。漢の宣帝が卽位し、微賤であつた時の妻を忘れず、舊妻を古劍に喩へて遂に皇后とした故事。〔漢書、外戚上、許皇后傳〕皇曾孫立爲レ帝、是時霍將軍有二小女一、公卿議三更立二皇后一、上乃詔求二微時故劍一、大臣知レ指、白下立二許倢伃一爲中皇后上。〔晉書、后妃傳贊〕故劍辭レ恩、池蒲起レ歎。〔北史、隋煬帝愍皇后蕭小氏傳〕感二懷舊之餘恩一、求二故劍于宸極一。

【故見】78 コケン ふるくさいかんがへ。〔會澤正志齋、新論序〕溺二舊聞一而狃二故見一也。

【故縣】79 コケン ㊀ふるい縣。〔後漢書、龐參傳〕三輔山原曠遠、民庶稀疏、故縣丘城、可レ居者多。㊁鎭の名。㋑河南省桐柏縣の東。㋺江西省鄱陽縣の東。昌江の北岸。〔鄱陽縣志〕鄱陽舊縣、在二今縣東六十里一、今名二故縣鎭一、民居稠密。

【故故】80 ココ ㊀鳥などの鳴き聲。〔白居易、人定詩〕誰家教二鸚鵡一、故故語相驚一。㊁しばしば。〔杜甫、月詩〕時時開二暗室一、故故滿二青天一。〔仇注〕故故、猶レ言二屢屢一。〔薛能、春日使府寓懷詩〕青春背レ我堂堂去、白髮催レ人故故生。㊂わざと。故意。〔徐鉉、九月三十夜雨寄二故人一詩〕別念紛紛起、寒更故故遲。

【故袴】81 ココ 古いはかま。〔韓非、外儲說左上〕鄭縣人卜子、使二其妻爲レ袴、其妻問曰、今袴何如、夫曰、象二吾故袴一、妻子因毀二新今一如二故袴一。

【故吾】82 コゴ むかしの自己。舊時の自分。以前の我。今吾(**1**−**358**・・24)の對。〔莊子、田子方〕雖レ忘二乎故吾一、吾有二不レ忘者存一。〔注〕雖レ忘二乎故吾一、而新吾已至、吾何患焉。〔王炎、元日書懷詩〕年光除日又元日、心事今吾非二故吾一。

【故後】83 コゴ 姓氏。

【故誤】84 コゴ わざとするあやまち。罪惡と知つて犯すを故といひ、知らないで犯すを誤といふ。〔晉書、刑法志〕其知而犯レ之、謂二之故一、云云、不レ意誤犯、謂二之過失一。〔崔融、代二宰相一上二尊號一表〕除二指斥之坐一、議二故誤之條一。

【故公】85 ココウ 先君。〔穀梁、定、元〕踰レ年不レ言二卽位一、是有二故公一也、言二卽位一、是無二故公一也。

【故侯】86 ココウ 漢の召平の異名。召平は秦の時、東陵侯に封ぜられ、秦の滅亡後、布衣となり、瓜を長安城東に種ゑて貧しい生活をした。〔史記、蕭相國世家〕召平者、故秦東陵侯、秦破爲二布衣一、貧、種二瓜於長安城東一。〔王維、老將行〕路傍時賣故侯瓜、門前學レ種先生柳。

【故國】87ココク ❶ふるい國。久しく續いてゐる國。〔孟子、梁惠王下〕所謂故國者、非下有二喬木一之謂上也、有二世臣一之謂也。〔戰國、魏策〕齊人攻レ燕、殺二子之一、破二故國一、燕不レ割、而燕國復歸。〔後漢書、馮衍傳下〕覽二河華之泱漭一兮、望二秦晉之故國一。❷もと居た國。〔戰國、燕策〕柳下惠吏二於魯一、三黜而不レ去云云、猶且黜乎、寧於二故國一爾。〔史記、淮南王安傳〕臣聞、微子過二故國一而悲。❸ふるさと。故鄕。鄕國。〔杜甫、解悶詩〕一辭二故國一十經レ秋、每レ見二秋瓜一憶二故丘一。〔杜甫、上二白帝城一詩〕取レ醉他鄕客、相逢故國人。〔羊士諤、登樓詩〕秋風南陌無二車馬一、獨上二高樓一故國情。

【故國原王】88ココクゲンワウ 高句麗第十六代の王。姓は高、名は斯由。一に劉といふ。晉及び前燕に朝貢す。丸都城を修築して居城としたが前燕王慕容皝に破られ、母・妃を生獲された。後、平壤に移り、前燕より征東大將軍營州刺史樂浪公王に封ぜられたが、百濟の蓋鹵王に攻められ流矢に中つて死す。〔三國史記、十八〕

【故妻】90コサイ もとの妻。前妻。又、棄てた妻。〔漢書、朱買臣傳〕入二呉界一見二其故妻一。〔杜甫、促織詩〕久客得レ無レ淚、故妻難レ及レ晨。

【故衰】91コサイ 古い喪服。〔左氏、襄、三十一〕比レ及レ葬、三易レ衰、衰衽如二故衰一。

【故塞】92コサイ ふるいとりで。〔史記、朝鮮傳〕復修二遼東故塞一。

【故歲】93コサイ ふるいとし。過ぎた年。先年。舊歲。〔喬知之、定情篇〕故歲雕梁燕、雙去今來隻。

【故巢】94コサウ もと棲んでゐた巢。ふるす。〔晉書、呂光載記〕燕雀何徘徊、意欲レ還二故巢一。

【故瘡】95コサウ ふるいきず。以前の疲弊。古瘡。舊瘡。〔戰國、楚策〕故瘡未レ息、驚心未レ去也。

【故操】96コサウ もとからとり守る志行。〔史記、楊僕傳〕行二中尉事一如二故操一。

【故造】97コザウ ことさらにたくむ。有心故造(**5**―14332‥204)を見よ。

【故作】98 ku^4 tsuo^4 わざとする。故意にする。

【故殺】99コサツ 故意に人を殺す。過失でなく心に謀つて態と人を殺傷すること。〔周禮、地官、調人、凡過而殺二傷人一者以レ民成レ之、疏〕成、平也、非三故心殺二傷人一、故共二鄕里一、和二解之一也。〔元史、刑法志四、殺傷〕諸故二殺無罪子孫一、以誣二賴仇人一者、以三故二殺常人一論。〔六部成語、刑部、故殺、注解〕故意殺レ人也。

【故山】100コザン ふるさと。故鄕。〔謝靈運、初發二石首城一詩〕故山日既遠、風波豈還時。〔張協、雜詩〕流波戀二舊浦一、行雲思二故山一。〔鄭谷、慈恩寺偶題詩〕故山歲晚不二歸去一、高塔晴來獨自登。

【故山終勝二他山好一】101コザンツヒニタザンノヨキニマサル 他鄕のよい風景も結局は故鄕の愛すべきに及ばない。〔劉子翬、觀二二劉題壁一詩〕故山終勝二他山好一、新交不レ如二舊交樂一。

【故山無レ主晚雲孤】102コザンニシユナクシテバンウンコナリ 隱遁の士も既に去つたので、嘗て隱士の友であつた夕の雲のみ獨り空しくたなびく。君が人材を登用したので、山野に遺賢なきを讚稱した句。故山はもと隱士の居つた山。〔和漢朗詠集、仙家、紀長谷雄、山無二隱士一句〕虛澗有レ聲寒溜咽、故山無レ主晚雲孤。〔土御門院御集〕故山無レ主晚雲孤。

【故市】103コシ ❶ふるいまち。〔徐陵、在二北齊一與二梁太尉王僧辯一書〕故市新城、飛甍華屋。❷縣名。漢、置く。侯國。故治は河南省鄭縣の西北。〔漢書、地理志上〕河南郡、縣二十二、故市。

【故此】104 ku^4 tzʻŭ^3 此の故に。

【故址】105コシ 古い建物のあと。故墟。〔北史、劉芳傳〕宮闕府寺、僉復二故址一。〔賀鑄叢臺歌〕人生物數不二相待一、摧頹故址秋風前。

【故志】106コシ ❶もとの志。〔後漢書、郎顗傳〕皆懷下歸二藪澤一、修中其故志上矣。❷古い記錄。故記。舊記。〔國語、楚語上〕申叔時曰、云云、教二之故志一、使下知二廢興者一而戒懼上焉。

【故枝】107コシ 古い枝。〔應璩、與二侍郎曹長思一書〕薄二援助一者、不レ能三追二參于高妙一、復斂二翼于故枝一。〔秦觀、春日偶題呈二錢尙書一詩〕三年京國鬢如レ絲、又見新花發二故枝一。

【故祀】108コシ 古からの祭祀。〔管子、幼官〕令曰、修二春秋冬夏之常祭一、食二天壤山川之故祀一。

【故紙】109コシ ❶ほぐ紙。ほご。反故紙。〔北齊書、韓軌傳〕廢人飮二美酒一、對二名勝一、安能作二刀筆吏一、返披二故紙一乎。〔顏氏家訓、治家〕其故紙有二五經詞義、及賢達姓名一、不二敢穢用一也。❷書籍をいふ。〔馬令南唐書〕周彬妻讓レ彬曰、君家兄弟、皆力レ田致二豐羨一、而獨玩二故紙一以自困、寧有レ益耶、彬笑曰、耕レ田不レ如レ耕レ道。

【鑽二故紙一】110コシヲキル 古人の書をよむのを自ら嘲つていふ。〔傳燈錄、古靈禪師傳〕其師在二窗下一看レ經、蜂子投二窗紙一求レ出、師覩レ之、曰、世界如許廣闊、不二肯出一、鑽二他故紙一。

【故絲】111コシ 古い絲。〔梁簡文帝、妾薄命篇〕奩鏡迷二朝色一、縫鍼脆二故絲一。

【故雌】112コシ 死んだ妻。前妻。〔沈約、效レ古詩〕可レ憐桂樹枝、單雄憶二故雌一。

【故事】113コジ ❶ふるごと。昔あつた事實。古事。〔史記、太史公自序〕余所謂述二故事一、整二齊其世傳一、非二所謂作一也。❷先例。前朝の事例。故實。〔史記、三王世家〕竊從下長老好二故事一者上、取二其封策書編一、列二其事一而傳レ之。〔漢書、郊祀志下〕修二武帝故事一、盛二車服一、敬二齊祠之禮一。〔漢書、蘇武傳〕明二習故事一、奉レ使不レ辱レ命。〔後漢書、禮儀志下〕百官會送、如二故事一。

【奉二行故事一】114コジヲホウカウス 舊來の例に照して事を行ふ。〔漢書、魏相傳〕方今務在三奉二行故事一而已。

【故式】115コシキ ふるいしきたり。舊い儀式。〔潘尼、釋奠頌〕釋二玄衣一、御二春服一、弛二齋禁一、反二故式一。

【故失】116コシツ ❶故出入と失出入。故出入とは、法官が故意に人の罪を重くし、或は輕くすること。失出入とは、法官が過失に因つて人の罪を重くし或は輕くすること。〔明律、刑律、斷獄〕若輒引レ此斷レ罪、致三罪有二出入一者、以二故失一論。❷ku^4 shih^1 判決が不當で、或は輕きに失し或は重きに過ぎること。

【故失減】117コシツゲン 故出減と失出減をいふ。故出減とは法官が故意に犯人を罪から救ひ出すも、後に悔いて再び之を捕へたときに、罪一等を減ずること。失出減とは法官が過失で犯人を罪から出した場合をいふ。後者は前者に比して罪が輕い。〔唐律、名例、一人有議請減、疏議〕從坐減者、謂二共犯罪一、造意者爲レ首、隨從者減二一等一、自首減者、謂下犯レ法知二人欲一レ告而自首者、聽上レ減二一等一、故失減者、謂下判官故出二人罪一、放而還獲、減中一等上、通判之官不レ知レ情、以レ失論、失出減二判官之罪五等一、又斷獄律云、斷罪應レ決二配之一、而聽二收贖一、應二收贖一而決二配之一、各減二故失一等一、謂二故減故一等、失減失一等一、是名二故失減一。

【故實】118コジツ ふるい事がら。古の儀式禮法で後世の手本となるもの。〔國語、周語上〕(樊穆仲)對曰、賦レ事行レ刑、必問二於遺訓一、而咨二於故實一。〔注〕故實、故事之是者。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕施レ命發レ號、必酌二之於故實一。

【故實家】119コジツカ 昔の典例法規などに通じて居る人。

【故實叢書】120コジツソウシヨ 叢書の名。三輯百六十八冊十二帖。今泉定介編。有職故實に關する名著。增訂本は在來の和裝を洋裝に改め、二十四種一百七十七卷を增加す。

【故習】121コシフ 古い習はし。昔からの習慣。〔商子、更法〕夫常人安二於故習一、學者溺二於所聞一。〔金史、循吏、劉煥傳〕自レ今以往、毋レ狃二于故習一。

【故車】122コシヤ ふるいくるま。〔法苑珠林〕故車之精、名寧野、狀如二輕車一。

【故車腳】123コシヤノキヤク 古い車のあし。〔晉書、荀勖傳〕又嘗在二帝坐一進レ飯、謂二在レ坐人一曰、此是勞薪所レ炊、咸未二之信一、帝遣レ問二膳夫一、乃云、實用二故車腳一、舉世伏二其明識一。

【故榭】124コシヤ 古いうてな。〔溫庭筠、經二李徵君故居一詩〕芳筵想像情難レ盡、故榭荒涼路已迷。〔皮日休、奉二和魯望四明山九題一、樊榭詩〕主人成二列仙一、故榭獨依然。

【故倡】125コシヤウ 古くからのわざをぎ。〔漢書、佞幸、李延年傳〕李延年中山人、身及父母兄弟皆故倡也。

【故將】126コシヤウ もとの大將。ふるい將軍。〔金史、石抹仲溫等傳贊〕故將遺老、往往在焉。

【故粧】127コシヤウ 前にかはらぬよそほひ。もとのままのよそほひ。〔梁簡文帝、秋閨夜思詩〕故粧猶累レ日、新衣襞未レ成。

【故鄣】128コシヤウ 縣名。漢、置く。故城は今の浙江省安吉縣の西北。〔漢書、地理志上〕丹揚郡、縣十七、故鄣。〔讀史方輿紀要、浙江、湖州府〕長興縣、秦爲二鄣縣地一、兩漢爲二烏程・故鄣二縣地一。

【故鄣侯】129 コシヤウコウ　三國吳、朱治(6－14424‥45)の封號。

【故障】130 コシヤウ　❶さしつかへ。さはり。さしさはり。障礙。〔九條殿遺誡〕若有二故障一之時、早奉二假文一、可レ申二障之由一。❷不服のいひたて。ものいひ。異議。不同意。〔源平盛衰記、四十二、屋島合戰〕面面の故障に、日既に暮れなんとす。

【故障期間】131 コシヤウキカン　故障を申立て得る期間。民事にあつては、十四日間、刑事にあつては三日間。

【故城】132 コジヤウ　❶ふるい城。〔史記、春申君傳贊〕吾適レ楚、觀二春申君故城宮室一、盛矣哉。〔後漢書、安帝紀〕破二南單于於屬國故城一。〔韋莊、金陵圖詩〕君看六幅南朝事、老木寒雲滿二故城一。〔耶律楚材、西域河中十詠詩〕寂寞河中府、頽垣遶二古城一。❷縣名。元、置く。河北省景縣の南。運河の北岸に瀕す。〔讀史方輿紀要、直隸、河間府、景州〕故城縣、宋恩州歷亭縣地、金爲二故城鎭一、元初升爲二故城縣一、屬二河間路一、至元二年、仍省爲レ鎭、尋復置レ縣、屬二景州一。〔清史稿、地理志〕直隸、河間府縣十、故城。

【故城曲】133 コジヤウキヨク　樂府の名。〔溫庭筠、故城曲〕漠漠沙堤煙、堤西雉子班。

【故常】134 コジヤウ　常例。習慣。〔韓愈、平二淮西一碑〕欲レ事二故常一。

【不レ主二故常一】135 コジヤウヲシユトセズ　常例に拘はらない。又、機に隨つて變轉する。〔莊子、天運〕變化齊一、不レ主二常故一。〔石林詩話〕禪宗論雲門有二三種語一、其一爲二隨波逐浪句一、謂二隨レ物應レ機不レ主二故常一。

【故情】136 コジヤウ　もとの樣子。〔史記、陳涉世家〕言二陳王故情一。

【故壤】137 コジヤウ　古い土地。〔謝靈運、撰征賦〕家永懷二於故壤一、國願言二於先塋一。

【故爵】138 コシヤク　もとの爵位。〔漢書、高帝紀下〕今天下已定、令三各歸二其縣一、復二故爵田宅一。

【故主】139 コシユ　❶もとの主君。昔仕へた主人。舊主。〔禮、喪大記〕叔母・世母、故主・宗子、食レ肉飮レ酒。〔注〕故主、謂二舊君一也。〔史記、項羽紀〕逐二其故主趙王一。❷死んだ主君。

【故眾】140 コシユウ　もとの軍勢。〔後漢書、公孫述傳〕招二其故眾一、因欲レ取二荊州諸郡一。

【故出】141 コシユツ　刑罰が犯罪より輕いこと。法官が故意に因つて犯人を罪より出すこと。故出入を見よ。

【故出入】142 コシユツニフ　法官が故意に人の罪を重くしたり輕くしたりする。〔明律、刑律、斷獄〕若官吏故出入者、雖レ會レ赦並不二原宥一。

【故出入人罪】143 コシユツニフジンザイ　故意に人の罪の輕重を增減すること。〔清會典事例、刑部、刑律斷獄、主守教二囚反異一〕凡司獄官典獄卒、教下令罪囚反異、變二亂事情一、及與通二傳言語一、有上所三增二減罪一者、以三故出二入人罪一論、外人犯者、減二一等一、若容二縱外人入獄一、及走二泄事情一、於二囚罪一無二增減一者、笞五十、若受レ財者、並計レ贓以二枉レ法從レ重論。〔六部成語、刑部、故出入人罪、注解〕將二重罪一爲レ輕、以二輕罪一加レ重、故意爲レ之、大干二禁例一。

【故術】144 ku^4 shu^4　舊套手段。

【故所】145 ku^4 suo^3　故に。それ故に。

【故書】146 コシヨ　❶ふるい本。古書。〔唐書、文藝中、鄭虔傳〕虔追二紬故書可レ誌者一、得二四十餘篇一。❷古文の本。今文の本に對していふ。又、舊本の意。〔周禮、天官、大宰、以二九貢一云云、二曰嬪貢、注〕嬪、故書作レ賓。〔疏〕言二故書一者、鄭注二周禮一時有二數本一、劉向未レ校之前、或在二山巖石屋一、有二古文一、考校後爲二今文一、古今不レ同、鄭據二今文一注、故云二故書作レ賓。〔孫詒讓正義〕徐養原、周禮有二故書今書之別一、疏謂下劉向未レ校以前爲二古文一、既校以後爲中今文上、非也、以二鄭注一考レ之、凡杜子春・鄭大夫・鄭司農所レ據之本、並是故書、故書今書、猶レ言二舊本新本一耳。〔周禮、地官、族師、月吉則屬レ民、注〕故書上句、或無二事字一。

【故處】147 コシヨ　❶最初の故舊の態度で處置する。古處(1－3233‥273)に同じ。〔詩、邶風、日月〕乃如レ之人兮、逝不二古處一。〔傳〕古、故也。〔箋〕不三以レ故處一、甚違二其初時一。〔會箋〕毛訓レ古爲レ故者、古者故之省借、凡以二故舊一相處、謂二之故一、故處與二一章相好一同義。❷もとの場所。〔漢書、成帝紀〕侍中衞尉長、數白レ宜三早止、徙レ家反二故處一。〔蘇軾、初秋寄二子由一詩〕惟有二宿昔心一、依然守二故處一。

【故絮】148 コジヨ　ふるわた。〔晉書、周顗傳〕收二得數枚素籠一、盛二故絮一而已。

【故縱】149 コシヨウ　ことさらにゆるす。罪あるものをわざとゆるしはなつ。〔漢書、刑法志〕張湯趙禹之屬、條二定律令一、作二見知・故縱・監臨・部主之法一。〔注〕師古曰、見二知人犯レ法不二擧告一、爲二故縱一。〔後漢書、馬武傳〕帝故二縱之一以爲二笑樂一。

【故蹤】150 コシヨウ　ふるいあしあと。もとの形跡。〔謝翺、正三立春詩〕明日金華洞、牧羊尋二故蹤一。

【故心】151 コシン　久しく思つてゐた心。かねて思つてゐた心。宿心。〔何遜、暮秋答二朱記室一詩〕故心不レ存レ此、高文徒可レ詠。〔陳後主、自君之出矣〕思レ君若二寒草一、零落故心生。

【故臣】152 コシン　もとの臣下。古い家來。〔史記、李斯傳〕除二去先帝之故臣一。

【故人】153 コジン　❶死んだ人。なき人。〔謝朓、和二王主簿怨情一詩〕故人心尚爾、故心人不レ見。❷ふるいなじみの友人。舊友。故侶。舊知。故知。〔禮、檀弓下〕孔子之故人曰二原壤一。〔墨子、貴義〕子墨子自レ魯卽レ齊過二故人一。〔呂覽、必己〕舍二故人之家一。〔注〕故人、知舊也。〔韓非子、說林下〕從者曰、此嗇夫、公之故人、公奚不三休舍且待二後車一。〔管子、入國〕不レ能二自生一者、屬二之其鄉黨知識故人一。〔後漢書、逸民、嚴光傳〕帝笑曰、朕故人嚴子陵共臥耳。〔王維、送三元二使二安西一詩〕渭城朝雨裛二輕塵一、客舍青青柳色新、勸レ君更盡一杯酒、西出二陽關一無二故人一。❸朋友、又は門人故吏等に對して自分をいふ。〔後漢書、楊震傳〕荊州茂才王密、爲二昌邑令一謁見、至レ夜懷二金十斤一以遺レ震、震曰、故人知レ君、君不レ知二故人一何也。〔資治通鑑、漢紀〕(桓帝、建和三年)此咎由二故人畏憚彊禦一。〔注〕漢人於二門生故吏之前一、率自稱二故人一。❹もとの夫。故夫(209)に同じ。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕新婦識二馬聲一云云、知是故人來。❺もとの妻。〔古詩〕新人工レ織レ縑、故人工レ織レ素。❻文章生の耆宿をいふ。〔江家次第、五、釋奠〕諸道博士、故人、得業生、學生著レ北。〔江家次第抄、五〕故人、謂二文人之宿老一也。

【故人意】154 コジンノイ　舊交を忘れぬ親切な心。〔史記、范雎傳〕以三綈袍戀戀、有二故人之意一、故釋レ之。

【故人駕】155 コジンノガ　舊い友達ののりもの。轉じて、故知の訪問。〔王維、喜二祖三至留宿一詩〕不レ枉二故人駕一、平生多掩レ扉。

【故人稀】156 コジンマレナリ　むかしなじみの者は少ない。又、舊交を忘れず深切な心を持つて居る者は滅多にないといふ意。〔李嘉祐、至二七里灘一作詩〕獨隨二流水一遠、轉覺二故人稀一。

【故人居】157 コジンノキヨ　舊くからの友達の住居。舊友のすまひ。〔孟浩然、西山尋二辛諤一詩〕漾レ舟尋二水便一、因訪二故人居一。

【故人疎】158 コジンソナリ　友人の情もうとくなる。〔孟浩然、歲暮歸二南山一詩〕北闕休二上書一、南山歸二敝廬一、不才明主棄、多病故人疎。

【故井】159 コセイ　ふるいゐど。〔南史、江紑傳〕泄二故井一、井水清冽、異二於恆泉一。

【故制】160 コセイ　もとからのおきて。古制。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕因二豐臣氏故制一造二金幣一。

【故棲】161 コセイ　もとのすみか。舊宅。〔後漢書、張衡傳〕垂レ翅而還二故棲一。〔孟郊、鵶路溪行呈二陸中丞一詩〕瘦馬戀二舊秣一、羈禽思二故棲一。

【故迹】162 コセキ　ふるいあと。昔あつて今は廢れた地。歷史上の遺跡。古迹。舊跡。〔漢書、溝洫志〕議者常欲下求二索九河故迹一而穿上レ之。

【故跡】163 コセキ　ふるいあと。故迹に同じ。〔韓愈、藍田縣丞廳壁記〕則盡枿二去牙角一、一躡二故跡一、破二崖岸一而爲レ之。

【故蹟】164 コセキ　むかしのあと。故迹。

【故賤】165 コセン　もとの身分がいやしいこと。〔史記、魏彭傳贊〕魏豹彭越雖二故賤一、然已席二卷千里一、南面稱レ孤。

【故戰】166 コセン　故意にするいくさ。わざと戰ひをしかけること。〔侍所沙汰篇〕一、故戰防戰事、縱雖レ有二確論之宿意一、可レ仰二上意一之處、任二雅意一及二鬪殺一之條、罪科不レ輕、所詮於二故戰一者、雖レ有二理運一、不レ可レ有二御免一者也、至二防戰一者、若有二理運一者、可レ被二免許一者哉。

【故藪】167 コソウ　古いくさむら。〔陸機、贈二從兄車騎一詩〕孤獸思二故藪一、離鳥悲二舊林一。

【故俗】168 コゾク　古いならはし。舊俗。〔韓非子、姦劫弑臣〕當二此之時一、秦民習下故俗之有レ罪可二以

得レ免、無レ功可丙以得乙尊顯甲也、故輕犯二新法一。〔史記、衞將軍驃騎傳〕因二其故俗一爲二屬國一。

【故族】169 コゾク 舊家。〔剪燈餘話、田洙遇濤聯句記〕美人曰、此爲二平姓成都故族一也。

【故粟】170 コゾク ふるいもみ。〔管子、五行〕賞二於四境之内一、發二故粟一以二田數一。

【故態】171 コタイ ❶いつものくせ。もとの行狀。〔後漢書、逸民、嚴光傳〕帝笑曰、狂奴故態也。〔剪燈餘話、聽經猿記〕師笑曰、故態也。❷平生の狀態。〔韓愈、奉二和武相公一云云、孔雀一詩〕飄零失二故態一。

【故第】172 コダイ もとの邸宅。ふるいやしき。〔唐書、高祖紀〕（武德六年四月）以二故第一爲二通義宮一。

【故套】173 コタウ もとのしきたり。舊套。〔福惠全書、蒞任部、齋宿〕若以レ誓爲二故套一、欺レ人瀆レ神。〔福惠全書、郵政部、總論〕雖二層疊申詳一、視爲二故套一。

【故黨】174 コタウ ❶もとの村。古里。〔戴良、芳橋宴集分韻得二兩字一詩〕信美終二異鄕一、雖レ樂非二故黨一。❷舊緣の一味。〔日本外史、足利氏正記、足利氏上〕告二謀於其故黨吉良貞義一。

【故道】175 コダウ ❶ふるいみち。舊道。故路。〔史記、項羽紀〕不三敢出二故道一。〔漢書、高帝紀上〕引レ兵從二故道一出。〔曹植、贈二王粲一詩〕欲レ歸忘二故道一、顧望但懷レ愁。❷先王の道。〔管子、侈靡〕能摩二故道一、新レ道定二國家一。〔注〕故道、謂二先王之典形一。❸川の名。源は陝西省寶雞縣。流れて兩當溪、白水江等といひ、西漢水に注ぐ。❹縣名。漢、置く。陝西省鳳縣の西北。〔漢書、地理志下〕武都郡、縣九、故道。〔讀史方輿紀要、陝西、漢文府、鳳縣〕漢武都郡之故道縣、東晉時爲二仇池氏所一レ據。

【故宅】176 コタク もとの家。ふるい家。舊宅。〔水經、泗水注〕（周公）臺南四里許、則孔廟、卽夫子之故宅也。

【故地】177 コチ ふるい土地。昔所有した地。〔戰國、齊策〕王收而與二之十萬之衆一、使レ收二三晉之故地一、卽臨晉之關可レ入矣。〔史記、吳王濞傳〕復二故地一而罷。〔漢書、高帝紀下〕其以二魏故地一王レ之。〔鄭谷、中年詩〕苔色滿レ墻尋二故地一、雨聲一夜憶二春田一。

【故池】178 コチ ふるいけ。〔謝靈運、還二舊園一作見二顏范二中書一詩〕曩基卽先築、故池不二更穿一。

【故知】179 コチ もとの知人。むかしなじみ。舊友。〔左氏、昭、二十八〕昔賈大夫惡、娶レ妻而美、三年不レ言不レ笑、御以如レ皐、射レ雉獲レ之、其妻始笑而言、賈大夫曰、才之不二以已一、我不レ能レ射、女遂不レ言不レ笑夫、今子少不レ颺、子若無レ言、吾幾失レ子矣、言之不レ可二以已一也如レ是、遂如二故知一。

【故智】180 コチ 既に人が試みたはかりごと。前人の智慧。舊智。祖二故智一を見よ。〔福惠全書、錢穀部、比較、完糧獎勵〕蓋以二抗延一爲二故智一。

【祖二故智一】181 コチニナラフ 前人のはかりごとに倣ふ。祖は祖として尊ぶ。〔史記、韓世家〕對曰、秦王必祖二張儀之故智一。〔注〕集解曰、徐廣曰、故智、猶二前時謀計一也。

【故儔】182 コチウ ふるい友。むかしの友人。〔徐彥伯、贈二劉舍人一古意詩〕浩歌在二蘭渚一、婉孌故儔心。〔白居易、想二東遊一五十韻詩〕珠玉傳二新什一、鵷鸞念二故儔一。

【故疇】183 コチウ ふるいはたけ。もと作ったはたけ。疇はあぜ。〔陸雲、歲暮賦〕望二故疇之迴遼一兮、泝二南風一而頽泣。

【故寵】184 コチヨウ かつて受けた寵愛。又、昔にかはらぬ寵愛。〔戰國、趙策〕梁王安得二晏然而已一乎、而將軍又何以得二故寵一乎。

【故庭】185 コテイ 昔ゐた庭。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕既下二新宮一、不レ復二故庭一兮。

【故程】186 コテイ もと來た道。又、古いみち。〔劉言史、初下二東周一贈二孟郊一詩〕偶隨二下山雲一、荏苒失二故程一。

【故轍】187 コテツ ❶ふるいわだち。前車の通り過ぎた輪のあと。〔梁簡文帝、中書令臨汝靈侯墓誌銘〕草茂二故轍一、松插二新枚一。❷舊來の經歷。來し方の迹かた。〔陶潛、詠二貧士一詩〕量レ力守二故轍一、豈不二寒與一レ飢。❸前例。先蹤。〔元史、陳祖仁傳〕馭二天下之勢一、當レ論二其輕重・強弱・遠近・先後一、不レ宜下膠二于一偏一、狃中于故轍上。

【故堞】188 コテフ 古いひめがき。〔許渾、洛陽城詩〕鴉噪二暮雲一歸二故堞一、雁迷二塞雨一下二空壕一。

【故帖】189 コテフ 古い法帖。〔唐書、褚遂良傳〕帝方博購二王羲之故帖一。

【故典】190 コテン むかしからの法則。舊い典禮。〔後漢書、皇后下、何皇后紀〕未レ能三紹レ先以光二故典一。〔後漢書、蔡邕傳〕自今齋制宜レ如二故典一。〔魏志、管寧傳〕繼二二祖招レ賢故典一、賓二禮儁邁一。

【故田】191 コデン もとの田。昔から耕作した田地。〔商子、懇令〕愛子惰民不レ窳、則故田不レ荒。〔徐陵、與二王吳郡僧智一書〕新屋方華、故田斯墾。

【故途】192 ku^4 t'u^2 もと來たみち。故路。

【故都】193 コト 古い都。舊都。〔楚辭、離騷〕已矣哉國無レ人莫二我知一兮、又何懷二乎故都一。〔史記、項羽紀〕韓王成因二故都一都二陽翟一。〔許渾、咸陽懷古詩〕渭水故都秦二世、咸陽秋草漢諸陵。〔蘇轍、上二樞密韓太尉一書〕過二秦漢之故都一、恣觀二終南・高華之高一。

【故土】194 コド ❶かつて行ったことのある土地。昔遊の土地。舊遊の地。〔柳宗元、鈷鉧潭記〕孰使三予樂レ居レ夷而忘二故土一者、非二茲潭一也歟。〔陳高、述懷詩〕故土多二薇蕨一、春江有二鯉魴一。❷祖國。ふるさと。本國。〔國朝漢學師承記、顧炎武〕逮二夫故土焦原橫流毒浪之後一、尚自二負東林之黨人一。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕輕離二故土一。

【故土復生】195 ku^4 t'u^3 fu^4 shêng^1 一度陷沒した沙地が水勢の工合で再び出現する。

【故德】196 コトク もとから有する德。舊有の德。〔韓非子、解老〕知レ治レ人者、其思慮靜、知レ事レ天者、其孔竅虛、思慮靜、故德不レ去、孔竅虛、則和氣日入。

【故櫝】197 コトク ふるいひつ。〔蘇軾、明日南禪和詩不レ到故重賦二數珠篇一以督レ之詩〕請歸視二故櫝一、靜夜珠當レ反。

【故二】198 コニ 佛故は舊、二は配、僧侶の舊妻をいふ。〔四分律、一〕近在二屛處一犯二惡行一、與二故二一行二不淨一。

【故入】199 コニフ 犯した罪よりも刑罰が重いこと。故入人罪を見よ。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄、官司出二入人罪一〕承審官改二造口供一、故行二出入一者革レ職、故入二死罪一、已決者抵以二死罪一、其草率定レ案、證據無レ憑、枉坐二人罪一者亦革レ職。

【故入人罪】200 コニフジンザイ 裁判官が故意に人を罪にする。〔唐律、斷獄、依告狀鞫獄〕諸鞫獄者、皆須二依レ所レ告狀鞫一レ之、若於二本狀之外一、別求二他罪一者、以二故入人罪一論。

【故敗】201 コハイ ふるびてやぶれる。〔魏書、劉仁之傳〕其對二賓客一、破牀弊席、粗飯冷菜、衣服故敗。

【故廢】202 コハイ ふるびてすたれる。又、久しく廢絕してゐること。〔漢書、五行志中之下〕眭孟以爲、木陰類、下民象、當レ有二故廢之家一。

【故買】203 コバイ 不正品と知りながら買ひ入れる。〔唐律、賊盜、知略知誘強竊盜〕知二盜贓一而故買者、以レ贓而論減二一等一。

【故方】204 コハウ ふるいてだて。ふるい藥方。〔史記、扁鵲傳〕盡去二其故方一、更悉以二禁方一與レ之。

【故房】205 コバウ 古く住った家。久しくすんでゐるへや。〔潘岳、悼亡詩〕茵幬張二故房一、朔望臨二爾祭一。〔李白、去婦詞〕掩レ淚出二故房一、傷心劇二秋草一。

【故舶】206 コハク 古い大舟。〔王褒、和三庾司水修二渭橋一詩〕波生從二故舶一、沙漲湧二新洲一。

【故法】207 コハフ ふるいおきて。〔詩、大雅、蕩、殷不レ用レ舊、箋〕此言下紂之亂、云云、乃不レ用二先王故法一之所上レ致。〔韓非子、定法〕晉之故法未レ息、而韓之新法又生、先君之令未レ收、而後君之令下。〔史記、趙世家〕王毋三胡服如二故法便一。

【故犯】208 コハン 故意に罪を犯す。故意犯。〔書、大禹謨〕刑レ故無レ小、〔傳〕不忌故犯、雖レ小必刑。

【故夫】209 コフ もとのをつと。別れた夫。前夫。故人。〔古詩〕上レ山採二蘼蕪一、下レ山逢二故夫一。〔李商隱、寄二蜀客一詩〕金徽却是無レ情物、不レ許文君憶二故夫一。

【謀レ殺二故夫父母一】210 コフノフボヲコロスヲハカル 婦女が改嫁の後、前夫の祖父母父母を殺すことをはかる。〔唐律、賊盜、謀レ殺二故夫父母一〕諸妻妾、謀レ殺二故夫之祖父母父母一者、流二二千里一、已傷者絞、已殺者斬、部曲奴婢、謀レ殺二舊主一者、罪亦同。

【故府】211 コフ ふるいくら。ふるくからあるくら。〔左氏、定、元〕歸吾視二諸故府一。〔國語、魯語下〕君若使三有司求二諸故府一、其可レ得也。〔注〕故府、舊府也。〔說苑、辨物〕試求二之故府一、果得レ焉。

【故部】212 コブ もとの部屬。〔唐書、突厥傳〕統頡利故部居二河南一。

【故服】213コフク ❶平生きてゐた衣服。〔後漢書、順帝紀〕帝崩二于玉堂前殿一、云云、斂以二故服一。❷もと服從していたこと。〔漢書、西域傳〕故服二匈奴一。〔注〕師古曰、故、謂二舊時一也。

【故物】214コブツ ふるい品物。もとのもの。昔の物。〔古詩十九首、其十一〕所レ遇無二故物一、焉得レ不二速老一。〔杜甫、玉華宮詩〕當時侍二金輿一、故物獨石馬。〔范成大、柳公亭詩〕曲水流觴非二故物一、馬鞍山色舊青青。

【故弊】215コヘイ ふるびてやぶれる。故敗。〔南史、王藻傳〕衣被故弊。

【故廟】216コベウ 古いみたまや。〔韓愈、南海神廟碑〕因二其故廟一、易而新レ之。

【故窆】217コヘン 古い塚穴。ふるい墓。〔唐書、后妃下、呉皇后傳〕合二葬建陵一、啓二故窆一。

【故編】218コヘン 古い書物。〔楊萬里、詩〕長亭夜濯レ足、吹レ燈呻二故編一。

【故歩】219コホ ❶もとの歩みぶり。もとからのあるき方。故行(34)を見よ。〔司馬相如、報二文君一書〕誦二子嘉吟一、而回二予故歩一。〔漢書、敍傳上〕昔有下學二歩於邯鄲一者上、曾未レ得二其髣髴一、又復失二其故歩一、遂匍匐而歸耳。❷進取的でなく舊態を持續すること。〔法書要錄〕皆失二故歩一、名亦稍退。

【故墓】220コボ もとの墓地。〔莊子、則陽〕卜レ葬二於故墓一、不レ吉。

【故謀】221コボウ 古いはかりごと。前人の用ひた謀。〔戰國、趙策〕對曰、秦王必祖二張儀之故謀一。

【故民】222コミン 漢代に、仕官した者に仁愛などの後世に殘るものがない時、其の州縣の民が石に銘を刻む時、故民と稱した。亡くなつた民の意である。〔漢石例〕漢故民呉公之碑隸釋曰、漢之仕者、沒レ有二遺愛一、其州縣之民、爲レ之采レ石鑴レ銘、則自稱曰二故民一、呉公匿レ跡韜レ光、不レ答二聘召一、作レ碑者體二其謙晦之操一、故以レ民稱レ之、所謂故民者、物故之民也。〔碑版廣例〕漢例有二一官靡一レ不レ書レ官、有二一資靡一レ不レ書レ資、其處士則不レ書二處士一、而書二故民一者、亦以見二古人之醇質一也。

【故問】223 ku^4 wen^4 ことさらに問ふ。わざと問ふ。

【故約】224コヤク 舊い約束。〔史記、李牧傳〕李牧至、如二故約一。〔後漢書、南匈奴傳〕北單于遣レ使詣レ闕貢獻、願二和親一、修二呼韓邪故約一。

【故雄】225コユウ 死んだ夫。故夫(209)に同じ。〔魯陶嬰、黄鵠歌〕夜半悲鳴兮、想二其故雄一。

【故老】227コラウ 老いて事に明かな人。老いて德望ある人。又、舊臣。古老。〔詩、小雅、正月〕召二彼故老一、訊二之占夢一。〔傳〕故老、元老。〔集傳〕故老、舊臣也。〔班固、西都賦〕命二夫惇誨故老、名儒師傅一。〔漢書、藝文志〕不レ知則闕、問二諸故老一。〔後漢書、胡廣傳〕國有二大事一、必議二之於前訓一、諮二之於故老一。〔注〕國語、叔向曰、國有二大事一、必順二於典刑一、訪二於耇老一、而後行レ之。

【故吏】228コリ もと官吏であつた人。〔漢書、昭帝紀〕調二故吏一將屯二田張掖郡一。〔漢書、尹翁歸傳〕悉召二故吏五六十人一。〔後漢書、袁紹傳〕門生故吏、偏二於天下一。〔謝朓、拜二中軍記室一辭二隨王一牋〕故吏文學謝朓、死罪死罪卽日被二尚書召一。〔范甯、穀梁傳序〕乃帥二門生故吏我兄弟子姪一、研二講六籍一、次及二三傳一。

【故里】229コリ ふるさと。故鄕。鄕里。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕去レ國還二故里一、幽門樹二蓬藜一。〔江淹、別賦〕視二喬木兮故里一、訣二北梁一兮永亂。〔唐書、忠義上、張介然傳〕願得三列二戟故里二。〔白居易、小閣閑坐詩〕二疏返二故里一、四老歸二舊山一。

【故籬】230コリ 古いまがき。〔王維、早秋山居作詩〕無才不三敢累二明時一、思下向二東溪一守中故籬上。

【故栗】231コリツ 古い栗の木。〔蔡邕、傷二故栗一賦序〕人有下折二蔡氏祠前故栗一者上、故作二斯賦一。〔陸龜蒙、幽居賦〕漆工酒保、幾欲二沈淪一、故栗空桑、屢瞻二摧折一。

【故侶】232コリヨ ふるい友だち。むかしの友。故友。故人。故儔。〔呉均、別鶴樂府詩〕別鶴尋二故侶一、聯翩遼海間。

【故綠】233コリヨク もとからのみどり。〔蘇軾、軾欲下以レ石易中畫上云云詩〕春冰無二眞堅一、霜葉失二故綠一。

【故林】234コリン ふるい林。自分がもとゐた林。〔潘岳、西征賦〕問二休牛之故林一。〔謝靈運、晩出二西射堂一詩〕羈雌戀二舊侶一、迷鳥懷二故林一。〔李白、白頭吟〕東流不レ作二西歸水一、落花辭レ枝羞二故林一。〔白居易、慈烏夜啼詩〕經レ年守二故林一、夜夜夜半啼。〔李端、送三郭補闕歸二江陽一詩〕雁影愁二斜日一、鸎聲怨二故林一。

【故壘】235コルイ 古いとりで。昔の城壁。〔晉書、李矩傳〕劉聰遣二從弟陽歩騎三萬一、討レ矩屯二于韓王故壘一。〔劉禹錫、西塞山懷古詩〕今逢二四海爲レ家日一、故壘蕭蕭蘆荻秋。〔趙翼、赤壁詩〕依然形勝扼二荊襄一、赤壁山前故壘長。

【故例】236コレイ 古いしきたり。〔日本政記、後堀河天皇論〕待下廣元附二會故例一、處分裁決上。

【故曆】237コレキ 古のこよみ。古、使用した曆。〔晉書、律曆志下〕退修二殷之故曆一。

【故櫪】238コレキ もとゐたうまや。〔杜甫、別二贊上人一詩〕馬嘶思二故櫪一、歸鳥盡斂レ翼。

【故路】239コロ もとのみち。古いみち。故道。〔魏武帝、苦寒行〕迷惑失二故路一、薄暮無二宿棲一。

【故廬】240コロ ふるい家。〔范成大、次二韻宗偉溫伯一詩〕一廛不レ立渾輸レ我、卽境心安是故廬。

【故壟】241コロウ ふるい塚。〔孫逖、途中口號詩〕無二復新妝豔紅粉一、空餘故壟滿二青苔一。

【故祿】242コロク もとの俸祿。〔漢書、敍傳上〕穉懼、上書陳レ恩謝レ罪、願レ歸二相印一、云云、太后許焉、食二故祿一終レ身、由レ是班氏不レ顯二莽朝一。

【三二分故祿一】243コロクヲサンブンス もとの俸祿を三分する。〔海錄碎事、臣職、致仕〕漢制、年老致レ仕者、三二分故祿一、以レ一與レ之、以終二其身一。

【故王】244コワウ もとの王。〔漢書、陳餘傳〕項羽爲二天下宰一不レ平、盡王二諸將善地一、徙二故王一王二惡地一。

【如レ故】245コノゴトシ ❶もとの如し。以前の通り。〔漢書、高帝紀上〕吏民皆按堵如レ故。〔魏文帝、短歌行〕其物如レ故、其人不レ存。〔南史、文學、呉均傳〕柳惲爲二呉興一、召補二主簿一、云云、均嘗不レ得レ意、贈二惲詩一而去、久之復來、惲遇レ之如レ故。❷昔からの友人のやうである。故舊の如し。〔漢書、鄒陽傳〕白頭如レ新、傾レ蓋如レ故。

【無レ故】246コナシ 無事息災。故は事故で疾病・災難の類。〔孟子、盡心上〕君子有二三樂一、云云、父母俱存、兄弟無レ故、一樂也。

【故且蘭】247コシヨラン 縣名。漢、置く。晉以後、且蘭縣とす。今、貴州省平越縣治。〔漢書、地理志上〕牂柯郡、縣十七、故且蘭。

【故不直】248 ku^4 pu^4 chih^2 故意に無罪者を罪に入れること。

【故封識】249モトノフウシ もとの封緘文字。識は誌・記。〔柳宗元、段太尉逸事狀〕吏以告レ泚、泚取視、其故封識具存。

【以レ故興レ物】250コトヲモツテモノヲオコス 色々な形式によつて其の情を感ぜしめる。〔禮、檀弓下〕子游曰、禮有二微レ情者一、有二以レ故興レ物者一。

【溫レ故知レ新】251フルキヲタヅネテアタラシキヲシル もと學んだことを復習し、又、新しい道理を發明すること。溫は燖の溫であたための義。一說に、溫は尋繹の義。〔論語、爲政〕子曰、溫レ故而知レ新、可二以爲一レ師矣。〔集注〕溫、尋繹也、故者舊所レ聞、新者今所レ得、言、學能時習二舊聞一、而每有二新得一、則所レ學在レ我、而其應不レ窮、故可三以爲二人師一。〔禮、中庸〕溫レ故而知レ新、敦レ厚以崇レ禮。〔注〕溫、讀如二燖溫之溫一、謂二故學之孰矣、後時習一レ之、謂二之溫一。〔章句〕溫、猶二燖溫之溫一、謂二故學レ之矣、復時習一レ之也。

【革レ故鼎レ新】252フルキヲアラタメアタラシキヲトル 故きを改め新しきをとる。〔易、序卦〕井道不レ可レ不レ革、故受レ之以レ革、革レ物者莫レ若レ鼎、故受レ之以レ鼎。〔注〕革去レ故、鼎取レ新、既以去レ故、則宜二制レ器立レ法以治一レ新也、鼎所下以和二齊生物一、成中新之器上也、故取レ象焉。

【刑レ故無レ小】253コヲケイスルニハセウナルナシ 故意の犯罪者を罪するには、小罪でも許さぬ。〔書、大禹謨〕宥レ過無レ大、刑レ故無レ小。〔傳〕不レ忌故犯、雖レ小必刑。

【送レ故迎レ新】254コヲオクリシンヲムカフ 前任の人を送つて新任の人を迎へる。〔漢書、王嘉傳〕孝文時、吏或居レ官數月退、送レ故迎レ新、交二錯道路一。

【吐レ故納レ新】255コヲハキシンヲイル 腹中の古い濁氣を吐き出して新鮮の氣を吸ひ込む。深呼吸。吐納。〔莊子、刻意〕吹呴呼吸、吐レ故納レ新、熊經鳥申、爲レ壽而已矣、此道引之士、養形之人、彭祖壽考者之所レ好也。〔釋文〕吐レ故納レ新、李云、吐二故氣一、納二新氣一也。

【背レ故向レ新】256コニソムキシンニムカフ ふるなじみにそむいて新しいものと交る。〔通俗編、交際、背レ故向レ

新〕潜夫論、交際篇、思㆑遠而忘㆑近、背㆑故而向㆑新。

【歧】13162　セツ　拙(5－11965)に同じ。〔六書統〕拙、亦作㆑歧。

【⿰乍支】13163　サク　作(1－518)に同じ。〔正字通〕⿰乍支、同㆑作。

【⿰氐支】13164　テイ　タイ　〔集韻〕典禮切　薺　かくす。〔廣雅、釋言〕⿰氐支、隱也。

【⿰㐌支】13165　イ　逘(11－38833)に同じ。〔集韻〕逘、或作㆑⿰㐌支。

【⿰戈支】13166　カ　〔篇韻〕口我切　哿　ゆきなやむ。〔篇韻〕⿰戈支、行難也。

【⿰臣支】13167　クワウ　〔字彙補〕溪光切　陽　はたけのかこひ。〔字彙補〕⿰臣支、圃之四方圍也。

【⿰民支】13168　ビン　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰民支、音敏。

【⿺九支】13169　レウ　義未詳。〔川篇〕⿺九支、音遼。

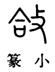
【⿰牛支】13170　シ　施(5－13629)の古字。〔字彙補〕⿰牛支、古施字。

【⿰衣支】13171　シヤ　赦(10－36999)に同じ。〔川篇〕⿰衣支、同㆑赦。

六畫

【⿰谷支】13172　🈩カク　キヤク　〔集韻〕各頟切　陌　🈔クワク　〔集韻〕郭獲切　陌　🈩㊀うつ。挌(5－12047)に同じ。〔集韻〕挌、説文、擊也、或作㆑⿰谷支。㊁摑(5－12572)に通ず。〔正字通〕⿰谷支、與㆑摑通。🈔うつ。摝(5－12229)に同じ。〔集韻〕摝、打也、或作㆑⿰谷支。

【⿰合支】13173　🈩カフ　コフ　〔集韻〕葛合切　合　🈔カフ　ゲフ　〔集韻〕轄夾切　洽



小篆　🈩🈔㊀あふ。あはせる。〔説文〕⿰合支、合會也、从㆓支合㆒、合亦聲。㊁合(2－3287)に同じ。〔正字通〕⿰合支、同㆑合。

解字　會意形聲。支(輕くたたいて注意する)と合との合字。人爲的に合ふ意。合が自然にあふのに對す。合は聲を兼ねて形聲。

【⿰亦支】13174　シヤ　赦(10－36999)に同じ。〔説文〕赦、⿰亦支、赦或从㆑亦。

【⿰束支】13175　サク　シヤク　〔集韻〕測革切　陌

小篆　㊀むちうつ。〔説文〕⿰束支、擊㆑馬也、从㆑支束聲。㊁策(8－26009)に同じ。〔正字通〕⿰束支、同㆑策。

参考　敕(5－13225)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕⿰束支、音策、擊㆑馬。敕、音赤、制書。

【⿰羊支】13176　ヤウ　養(12－44144)の古字。〔説文〕養、⿰羊支、古文養。〔集韻〕養、古作㆑⿰羊支。

参考　字形一に⿰羊攴(集韻)に作り、康熙字典は羊の部と重出。今併せて一とす。

【⿸尸⿰巾支】13177　サツ　刷(2－1964)に同じ。〔正字通〕⿸尸⿰巾支、同㆑刷。

【⿰生支】13178　セン　〔集韻〕先見切　霰　ちる。〔玉篇〕⿰生支、散也。〔通雅、釋器〕⿰生支、嵇康琴賦云、間遼故音庳者、猶㆔今俗云㆓⿰生支聲㆒也、⿰生支音鮮、見㆓羯鼓錄㆒、兩絃之間、遠則有㆑⿰生支、故曰㆓間遼㆒。

【⿰圭支】13179　ケイ　ケ　〔集韻〕涓惠切　霽　㊀はなつ。〔集韻〕⿰圭支、放也。㊁をかす。〔集韻〕⿰圭支、侵也。

【⿰㞷支】13180　ワウ　〔集韻〕嫗往切　養

小篆　㊀おふ。おひはなつ。〔説文〕⿰㞷支、放也、从㆑支㞷聲。㊁まげをかす。〔廣韻〕⿰㞷支、曲侵也。

【⿱攴谷】13181　タツ　敓(5－13223)に同じ。〔篇海〕⿱攴谷、同㆑敓。

【⿰朮支】13182　サツ　殺(6－16638)の古字。〔集韻〕殺、古作㆑⿰朮支。

【⿰杀支】13183　サツ　殺(6－16638)に同じ。〔字彙〕⿰杀支、同㆑殺。

【⿰吉支】13184　カツ　カチ　〔集韻〕丘八切　黠　うつ。たたく。〔玉篇〕⿰吉支、擊也。

【⿰舌支】13185　🈩クワツ　ゲチ　〔集韻〕乎刮切　黠　🈔キ　〔集韻〕去智切　寘　🈩つくす。〔集韻〕⿰舌支、盡也。🈔あへぐ。吙に同じ。〔集韻〕吙、行喘息也、或从㆑舌。

【效】13186　🈩カウ　ゲウ　〔集韻〕後教切　效　ㄒㄧㄠˋ　hsiao^4　🈔ケウ　〔集韻〕吉了切　篠　🈪カウ　ゲウ　〔集韻〕下巧切　巧

小篆　🈩㊀ならふ。かたどる。のつとる。まなぶ。〔説文〕效、象也、从㆑支交聲。〔段注〕象、當㆑作㆑像、像、似也。〔玉篇〕效、法效也。〔廣韻〕效、學也。〔增韻〕效、放也。〔易、繫辭上〕效㆑法之謂㆑坤。〔左氏、文、元〕效㆑尤禍也。㊁いたす。交(1－291)に通ず。〔説文通訓定聲〕效、叚借爲㆑交。㋑

さづける。〔左氏、昭、二十六〕宣王有レ志而後效レ官。〔注〕效、授也。㋺たてまつる。〔禮、曲禮上〕效レ馬效レ羊者、右牽レ之。〔注〕效、猶二呈見一也。〔漢書、元后傳〕天下輻湊自效。〔注〕師古曰、效、獻也。〔戰國、秦策〕效二上洛於秦一。〔注〕效、致也。㋩とどける。〔左氏、文、八〕效二節於府人一而出。〔注〕效、猶レ致也。㋥つとめる。つくす。〔增韻〕效、勉也。〔漢書、韓信傳〕願效二愚忠一。〔注〕師古曰、效、效レ力也。㋭まをす。〔禮、曲禮上〕效レ駕。〔注〕白二已駕一。〔疏〕效、白也、白レ君道二駕畢一。❸**あきらかにする**。覺(10－34973)に通ず。〔說文通訓定聲〕效、叚借爲レ覺。〔荀子、正論〕故桀紂無二天下一、而湯武不レ弑レ君、由レ此效レ之也。〔注〕效、明也。〔荀子、儒效〕鄉也效二門室之辨一。〔注〕效、白也。❹**あらはす**。あらはれる。〔史記、律書〕雖レ妙必效レ情。〔注〕正義曰、效、猶レ見也。〔史記、天官書〕其時宜レ效。〔注〕正義曰、效、見也。❺**しるし**。**ききめ**。〔廣韻〕效、驗也。〔淮南子、脩務訓〕哭者、悲之效也。〔注〕效、驗也。〔漢書、外戚下、孝元馮昭儀〕是欲レ陷レ我效也。〔注〕師古曰、效、徵驗也。❻**てがら**。いさを。實力。〔類篇〕效、一曰、功也。〔淮南子、脩務訓〕效亦大矣。〔注〕效、功也。❼**おごる**。**ほしいまま**。傲(1－1015)に通ず。〔說文通訓定聲〕效、叚借、又爲レ傲、荀子大略、其行效、其立效、其坐效、其置二顏色一出二辭氣一效、注、放也。❽**しらべる**。考査する。校(6－14713)に通ず。〔說文通訓定聲〕效、叚借爲レ校。〔廣雅、釋言〕效、考也。〔禮、月令〕分レ繭稱レ絲效レ功。〔莊子、列禦寇〕效レ我以レ功。〔釋文〕效、本又作レ校。❾**かぞへる**。〔史記、淮陰侯傳〕諸將效二首虜一。〔注〕索隱曰、效、數也。❿**そなへる**。〔廣雅、釋詁三〕效、具也。⓫**あや**。爻(7－19737)に通ず。〔說文通訓定聲〕效、叚借爲レ爻。〔方言、十二〕效、文也。⓬効(2－2334)・傚(1－969)に通ず。〔正字通〕效、別作二効・傚一、非。⓭通じて殽(6－16647)に作る。〔正韻〕殽、與レ效同。〔禮、禮運〕殽二於地一。〔疏〕殽、效也。⓮**一百六韻の一**。去聲第十九。⓯**姓**。〔萬姓統譜〕效、見二姓苑一。[二]**あきらか**。〔方言、十二〕效、明也。[三]**あらはれる**。事があらはれる。〔集韻〕效、事露也。

名乘 ノリ。ナリ。カズ。カタ。

【效尤】1（カウイウ） 人の惡事をまねする。尤はとがめ。〔左氏、莊、二十一〕原伯曰、鄭伯效レ尤、其亦將レ有レ咎。〔左氏、文、元〕先且居曰、效レ尤禍也。〔宣和遺事、前集上〕若不レ殺レ之、恐效レ尤成レ風。〔書言故事、評論類〕效二人過事一曰レ效レ尤。

【效郵】2（カウイウ） 過失にならふ。效尤。〔國語、晉語四〕效レ郵非レ義也。〔注〕郵、過也。

【效應】3（カウオウ） しるし。ききめ。いさを。

【效駕】4（カウガ） ❶車に馬をつけ畢つたことを君に申上げる。〔禮、曲禮上〕君車將レ駕、則僕執レ策立二於馬前一、已駕、僕展レ軨效レ駕。〔注〕白二已駕一。〔疏〕效、白也、云云、白レ君道二駕畢一。❷乘物を引き納れる。〔韓非子、外儲說右下〕造父爲二齊王駙駕一、渴レ馬服成、效二駕圃中一、渴馬見二圃池一、去レ車走レ池、駕敗。

【效考】5（カウカウ） ためしかんがえる。しらべかんがへる。〔論衡、答佞〕唯聖賢之人、以二九德一檢二其行一、以レ事效二考其言一。

【效義】6（カウギ） 正しい道をあらはしいたす。正道を行ふ。〔北齊書、高乾傳〕正是英雄效レ義之會也。

【效逆】7（カウギヤク） 不順なことにならふ。〔左氏、隱、三〕去レ順效レ逆、所二以速一レ禍也。

【效愚】8（カウグ） 愚忠を盡す。〔禰衡、鸚鵡賦〕甘二盡レ辭以效一レ愚。

【效果】9（カウクワ） ❶ききめ。❷てがら。❸できばえ。

【效獲】10（カウクワク） 獲物。〔左思、吳都賦〕罾罘滿、效獲衆。

【效官】11（カウクワン） ❶官をさづける。〔左氏、昭、二十六〕宣王有レ志而後效レ官。〔注〕效、授也。❷官事につとめる。〔白居易、遊二悟眞寺一詩〕我本山中人、誤爲二時網牽一、牽率使レ讀レ書、推挽令レ效レ官。

【效款】12（カウクワン） よしみをいたす。降服すること。〔唐書、藩鎭、朱滔傳〕始安史後、山東雖二外臣順一、實傲肆不廷、至二朱泚一首效レ款、帝嘉レ之。

【效勳】13（カウクン） 手柄を立てる。勳功をいたす。〔陸贄、冬至聽樂賦〕聖應レ天而效レ勳。

【效烓】14（カウケイ） 明るいこと。〔方言、十二〕效烓、明也。

【效業】15（カウゲフ） 臣下に官職を授けること。〔陸機、演連珠〕故明主程レ才以效レ業、貞臣底レ力而辭レ豐。

【效驗】16（カウケン） しるし。ききめ。〔後漢書、黨錮、劉淑傳〕又陳二時政得失災異之占一、事皆效驗。〔潛夫論、德化〕論士必定二於志行一、毀譽必參二於效驗一。〔論衡、道虛〕效驗不レ立。〔風俗通、怪神〕治レ病求レ福、多有二效驗一。

【效眝】17（カウコ） あやあるさま。〔方言、十二〕效眝、文也。

【效功】18（カウコウ） ❶功績をいたす。立派な仕事をする。〔後漢書、馮異傳〕願歸二據五城一、以レ效レ功報レ德。❷仕事の多寡をしらべる。〔禮、月令〕〔季春之月〕蠶事既登、分レ繭稱レ絲效レ功、以共二郊廟之服一。〔注〕登、成也、蠶畢將二課功一以勸二戒之一。

【效穀】19（カウコク） 縣名。漢、置く。甘肅省敦煌縣の西。〔漢書、地理志下〕敦煌郡、縣六、效穀。〔注〕桑欽說、孝武元封六年、濟南崔不意爲二魚澤尉一、教二力田一、以勤效得レ穀、因立爲二縣名一。

【效死】20（カウシ） 死をいたす。いのちを捨てる。轉じて、全力をつくす意に用ひる。〔公羊、昭、十三〕比之義、宜二乎效レ死不一レ立。〔孟子、梁惠王下〕與レ民守レ之、效レ死而民弗レ去、則是可レ爲也。〔注〕至レ死使三民不二畔去一。

【效實】21（カウジツ） ❶誠實をいたす。〔魏志、荀彧傳〕天下忠正效實之士、咸願レ爲レ用、此德勝也。❷力がみちる。實力。〔史記、酈生傳〕以示二諸侯效實形制之勢一。

【效祥】22（カウシヤウ） めでたいきざしをあらはす。〔梁簡文帝、馬寶頌〕王澤效レ祥、朱鬣降レ祉。〔宋史、樂志十三〕皎鑒澄澈、千年效レ祥。

【效情】23（カウジヤウ） まごころをあらはす。まごころをつくす。〔史記、律書〕雖レ妙必效レ情。〔注〕正義曰、效、猶レ見也、言、人雖レ有二微妙之性一、必須三程二督己之情理一。〔東方朔、答二客難一〕雖レ欲二盡レ節效一レ情、安知二前後一。

【效順】24（カウジユン） 順を致すこと。〔新書、五美〕細民鄉レ善、大臣效レ順。

【效誠】25（カウセイ） まごころをいたす。誠意を示す。〔嵇康、答レ難二養生論一〕九土述職、貢二方物一、以效レ誠耳。

【效績】26（カウセキ） いさををいたす。てがらをたてる。又、てがら。功績。〔國語、魯語下〕男女效レ績。〔注〕績、功也。〔魏書、世祖紀上〕羣司當三深思二效績一。

【效節】27（カウセツ） 符信をとどける。任務を解くをいふ。節は軍旅を起す時などに其の信を表はすために用ひる牙璋の類。〔左氏、文、八〕效二節於府人一而出。〔注〕效、猶レ致也。〔會箋〕周官玉節有レ五、典瑞云、牙璋以起二軍旅一、云云、效レ節者、示三已解レ任而退、不二敢帶レ官而逃一也。

【效先】28（カウセン） 明、潘奕鈞(7－18236・・123)の字。

【效足】29（カウソク） 用をいたす。立派なはたらきをする。賢臣を駿馬の足に喩へていふ。〔陸機、漢高祖功臣頌〕萬邦宅レ心、駿民效レ足。〔注〕翰曰、故羣賢如三駿馬足以效二其用一也。

【效答】30（カウタフ） しるし。こたへ。〔梁書、劉孝綽傳〕捕レ影繫レ風、終無二效答一。

【效智】31（カウチ） ちゑをつくす。〔魏書、太祖道武帝紀〕一官可二以效一レ智、華門可二以垂一レ範。

【效忠】32（カウチユウ） まごころを君につくす。〔張九齡、奉三和聖製過二王濬墓一詩〕古節猶不レ弃、今人爭效レ忠。

【效徵】33 カウチョウ めでたいしるしを表はす。又、しるしをいふ。〔南史、宋武帝紀〕至ニ於上天垂レ象、四靈效レ徵、圖讖之文既明、人神之望已改。

【效能】34 カウノウ ❶ききめ。效驗。❷hsiao^4 nêng^2 能率。

【效馬】35 カウバ 馬をたてまつる。〔禮、曲禮上〕效レ馬效レ羊者、右牽レ之。〔注〕效、猶ニ呈見一也。

【效法】36 カウハフ ❶法にならふ。法にのつとる。法は造化の形の上に見るべきもの。〔易、繫辭上〕效レ法之謂レ坤。〔本義〕法、謂ニ造化之詳密而可レ見者一。❷hsiao^4 fa おきてにならふ。

【效矉】37 カウヒン 自分の醜を顧みずして強ひて人眞似をする。古の美女、西施が癪を起して眉をひそめた容貌が美しいとて、其の里の醜人が之を眞似て眉をひそめ、見る人をして、走り去らしめた故事。學ぶことの善くない喩。〔莊子、天運〕西施病レ心而矉ニ其里一、其里之醜人見而美レ之、歸亦捧レ心而矉ニ其里一、其里之富人見レ之、堅閉レ門而不レ出、貧人見レ之、挈ニ妻子一而去レ之走、彼知レ美レ矉、而不レ知三矉之所二以美一。〔李白、效古詩〕蛾眉不レ可レ妒、況乃效ニ其矉一。

【效顰】38 カウヒン 效矉に同じ。〔韓偓、無題詩〕枉レ道嫌レ偸レ藥、推レ誠鄙レ效レ顰。

【效命】39 カウメイ いのちをすてる。致命。〔魏志、臧洪傳〕此誠天下義烈、報レ恩效レ命之秋也。〔曹植、求ニ自試一表〕竊不ニ自量一、志在レ效レ命、庶立ニ毛髮之功一、以報ニ所レ受之恩一。〔北史、王羆傳〕羆請ニ前驅效一レ命、遂爲ニ大都督一鎭ニ華州一。

【效羊】40 カウヤウ 羊をたてまつる。效馬(35)を見よ。

【效用】41 カウヨウ ❶はたらいて役に立つ。〔尉繚子、武議〕起レ兵直使ニ甲冑生ニ蟣蝨一者、必爲ニ吾所ニ效用一也。〔獨孤及、送ニ陽翟張主簿之一レ任詩〕少年當レ效レ用、遠道豈辭レ難。❷hsiang^4 yung^4 ききめ。はたらき。

【效勞】42 カウラウ ❶てがら。〔魏志、夏侯尙傳評〕左右勳業、咸有ニ效勞一。❷hsiao^4 lao^2 微力を盡す。盡力する。

【效率】43 hsiao^4 lü^4 能率。

【效力】44 カウリョク ❶ちからを致す。骨を折る。はたらき。〔呉子、圖國〕樂以進戰、效レ力以顯ニ其忠勇一者、聚爲ニ一卒一。〔魏志、辛毗傳〕誠欲レ取ニ其效力一。〔宋史、朱勝非傳〕上皇待ニ燕士一如ニ骨肉一、那無ニ一人效レ力者一乎。❷ききめ。げん。效驗。〔文同、和ニ仲蒙夜坐一詩〕少睡始知ニ茶效力一、大寒須ニ遣レ酒爭一レ豪。❸論衡(10－35658··12)の篇名。❹hsiao^4 li^4 報酬を受けないで奉公する。

【效靈】45 カウレイ 靈妙をあらはす。靈驗をしめす。〔劉峻、辨名論〕必御レ物以效レ靈、亦憑レ人而成レ象。〔宋史、樂志十三〕王化無レ外、坤珍效レ靈。〔輟耕錄、敍畫〕古先聖王受レ命應レ籙、則有ニ龜字效レ靈、龍圖呈一レ寶。

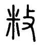
【⿰犭攴】13187 ヒツ 弼(4－9825)の古字。〔集韻〕弼、古作レ⿰犭攴。

【⿰共攴】13188 コウ ク 〔集韻〕虎孔切 董 うつ。たたく。〔集韻〕⿰共攴、擊也。

【⿰臣攴】13189 シン 〔集韻〕之刃切 震 うごかす。〔玉篇〕⿰臣攴、動也。

【⿰危攴】13190 キ 〔玉篇〕丘奇切 支 かたむく。攱(5－13072)の譌字。〔正字通〕⿰危攴字之譌。

【敉】13191


小篆

或體

㊀ ビ ミ 〔集韻〕母婢切 紙 ㄇㄧˇ mi^3
㊁ ヒ 〔集韻〕普弭切 紙

㊀㊁❶なでる。或は侎(1－591)に作る。〔說文〕敉、撫也、从レ攴米聲、周書曰、亦未レ克レ敉ニ公功一、讀若レ弭、侎、敉或从レ人。❷やすんずる。〔廣韻〕敉、安也。❸いつくしむ。〔廣韻〕敉、愛也。❹弭(4－9768)に通ず。〔周禮、春官、男巫〕春招弭以除ニ疾病一。〔注〕弭、讀爲レ敉。

名乘 ヤス。

【敉功】1 ビコウ 天下を安んずるの功。〔書、立政〕亦越ニ武王一、率ニ惟敉功一。〔蔡傳〕敉功、安ニ天下一之功。

【敉寧】2 ビネイ ❶撫で安んずる。〔書、大誥〕敉ニ寧武一圖レ功。〔傳〕撫ニ安武事一、謀ニ立其功一。❷清、周靖(2－3441··315)の字。

【敉平】3 mi^3 p'ing^2 たひらげる。平定する。

【敊】13192

㊀ チク 〔集韻〕敕六切 屋
㊁ シウ シユ 〔集韻〕舒救切 宥
㊂ シ 〔爾雅注〕音豉 寘

㊀やむさま。いたむさま。〔集韻〕敊、敊戳、痛至皃。㊁をさめる。收(5－13110)に同じ。〔集韻〕收、穫也、或作レ敊。㊂鳥の名。〔爾雅、釋鳥〕鴩、餔敊敊。

參考 ⿰尗支(5－13073)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕敊、同レ豉。⿰尗支、音蓄、病貌。

【⿰并攴】13193 ハウ ヒヤウ 〔集韻〕披庚切 庚 うつ音。板をうつ音。〔玉篇〕⿰并攴、打レ板聲。〔集韻〕⿰并攴、擊聲。

【⿰享攴】13194 トン 敦(5－13276)の古字。〔字彙補〕⿰享攴、古文敦字。

【⿰爻攴】13195 カウ ケウ 〔五音集韻〕古孝切 效 木を交へ炊く。〔五音集韻〕⿰爻攴、交ニ炊木一也。

【⿰⿱己几攴】13196 キ・ハイ 義未詳。〔篇海類編〕⿰⿱己几攴、音忌、音敗。

【⿰禾攴】13197 チウ 義未詳。〔篇海類編〕⿰禾攴、音紂。

【⿰杀攴】13198 サツ 殺(6－16638)に同じ。〔奚韻〕⿰杀攴、同レ殺。

【⿰𠂤攴】13199 ジ 義未詳。〔五音篇海〕⿰𠂤攴、音自。

【⿰亥攴】13200 サツ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰亥攴、音殺。

【⿰曲攴】13201 キヨク 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰曲攴、音曲。

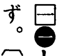
【⿰此攴】13202 シ 〔字彙補〕昭子切 紙 かつ。〔字彙補〕⿰此攴、剋也。

【敏】13202′ ビン 敏(5－13217)の略字。

七畫

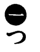
【敔】13203　クン　斁(5－13408)に同じ。〔集韻〕斁、或省。

【戢】13204　㈠カン ガン　〔集韻〕侯旰切　翰　㈡カ　〔集韻〕許我切　哿


小篆

㈠❶**とめる**。扞(5－11802)に通ず。〔説文〕戢、止也、从㆑支旱聲、周書曰、戢㆓我于艱㆒。〔段注〕文侯之命篇文、今作㆑扞。㈡**うつ**。攼(5－13149)に同じ。〔集韻〕攼、擊也、或作㆑戢。❷古は攼(5－13122)に作る。〔集韻〕戢、古省。

【敘】13205　シヨ ジヨ　〔集韻〕象呂切　ㄒㄩ　hsü⁴　語


小篆

❶**ついづ**。**ついでる**。㋑順序をさだめる。〔説文〕敘、次弟也、从㆑支余聲。〔書、皐陶謨〕天敘㆓有典㆒。〔疏〕敘、謂㆑定㆓其倫次㆒。〔國語、楚語下〕能道㆓訓典㆒以敘㆓百物㆒。〔注〕敘、次也。㋺位階・官職を授ける。〔晉書、應詹傳〕直以㆓舊望㆒登敘。㋩順に行ふ。順に行はれる。〔書、舜典〕百揆時敘。〔傳〕百事時敘、無㆑廢㆓事業㆒。❷**ついで**。㋑順番。次第。〔淮南子、本經訓〕不㆑失㆓其敘㆒。〔注〕敘、次也。㋺ならび。行列。〔周禮、地官、司市〕以㆓次敘㆒分㆑地而經㆑市。〔注〕敘、肆行列也。㋩しな。品秩。差等。〔周禮、天官、宮伯〕行㆓其秩敘㆒。〔注〕敘、才等也。❸**いとぐち**。はし。こぐち。緒(8－27633)に通ず。〔説文通訓定聲〕敘、段借爲㆑緒。〔爾雅、釋詁〕敘、緒也。〔孫注〕敘、謂㆓端緒㆒也。❹**のべる**。㋑次第を追って陳述する。〔國語、晉語三〕紀㆑言以敘㆑之。〔注〕敘、述也。㋺あらはす。出す。〔王羲之、蘭亭記〕亦足㆔以暢㆓敘幽情㆒。❺**のびる**。伸びひろがる。〔洪邁、新刻漏銘〕氣敘長短、刻㆓于箭閒㆒。❻**ならべる**。ならぶ。〔匡謬正俗、五〕敘、比也。〔蜀志、許靖傳〕不㆑得㆓齒敘㆒。❼**はしがき**。一書の綱要を卷末に述べたもの。後世は卷首にも置く。又、はしがきをつける。〔釋名、釋典藝〕敘、抒也、抒㆓泄其實㆒、宣㆓見之㆒也。〔正字通〕敘、凡書策擧㆓其綱要㆒列㆓卷首㆒、謂㆓之敘㆒、或作㆑序。〔曾鞏、梁書目錄序〕爲㆓目錄一篇㆒而敘㆑之。❽**序**(4－9253)に通ず。〔書、皐陶謨〕惇敘㆓九族㆒。〔漢書、王莽傳中〕惇序㆓九族㆒。❾**姓**。〔正字通〕敘、姓。❿［現］つどふ。あつまる。集會。宴會。

［名乘］　ノブ。

【敘位】1 ジョヰ　❶位階に敘せられる。❷昔、正月五日或は六・七日に諸臣に位を賜はった公事。〔式部省、式、下〕正月七日、敘位賜宴。

【敘永】2 ジョエイ　縣名。民國、置く。四川省古藺縣の西。縣城は永寧河の上流にのぞみ、滇蜀交通の要道。

【敘階】3 ジョカイ　❶敘任。❷清、邵晉之(11－39343··「119)の字。

【敘記】4 ジョキ　序記(4－9253··6)に同じ。

【敘鈞】5 ジョキン　多寡を計る器。算籌の類。綴鈞(11－40566··1)を見よ。〔管子、禁藏〕夫綴鈞者、所㆓以多寡㆒。〔纂詁〕諸本、綴鈞作㆓敘鈞㆒、云云、綴、籌、鈞、平也、云云、綴鈞者、量㆓多寡㆒之器、蓋謂㆓算籌㆒。

【敘畫】6 ジョグワ　畫についてのべる。〔輟畊錄、敘畫〕「敘㆓畫之源流㆒。

【敘官】7 ジョクワン　官位の次序を定める。又、官位をすすめ任ずる。又、官位の次序。序官(4－9253··9)に同じ。

【敘勳】8 ジョクン　勳等をさづけ勳章を賜ふこと。

【敘卿】9 ジョケイ　明、姚汝循(3－6202··171)の字。

【敘景】10 ジョケイ　けしきをのべ記す。風景をのべ作る。

〖敘景詩〗11 ジョケイシ　景色を敘述した詩。景色を客觀的にのべた詩。

〖敘景文〗12 ジョケイブン　景色を敘述した寫生文。客觀を主とするもので、自然と人間との形狀・色彩・位置・組成・性質等を寫し、讀者をして作者と同じ感覺を起さしめるもの。一名、記實文。

【敘之】13 ジョシ　宋、惠疇(4－10822··97)の字。

【敘齒】14 ジョシ　年齡によって席次を定める。序齒(4－9253··18)に同じ。〔通俗編、儀節、敘齒〕聽雨紀談、鄉人敘坐固以㆑齒、而禮云、一命齒㆓于鄉㆒、再命齒㆓于族㆒、三命則不㆑齒㆓于族㆒、是同輩而敘㆑齒而可也、苟非㆓其人㆒、亦以㆑齒尊㆑之、不㆓幾失㆑禮乎、藍田呂氏鄉約曰、非㆓士類㆒者以㆑齒、斯言得㆑之矣。

【敘次】15 ジョジ　ついで。しだい。順序。序次(4－9253··19)に同じ。

【敘事】16 ジョジ　事實を其のままのべしるす。又、其の文。序事。〔輟耕錄、文章宗旨〕敘事如㆓書史法㆒、尚書顧命是也、敘事之後、略作㆓議論㆒以結㆑之、然不㆑可㆑多。

〖敘事詩〗17 ジョジシ　議論などを交へず、主として事實をのべた韻文の一種。抒情詩(5－11884··8)の對。

〖敘事體〗18 ジョジタイ　主として事實を述べ、議論をさしはさまぬ文體。

〖敘事文〗19 ジョジブン　客觀的に事件や動作の過程を動態に敘述した文章。敘事體の文章。

【敘州】20 ジョシウ　❶州名。㋑唐、置く。故治は湖南省黔陽縣。㋺宋、置く。四川省宜賓縣。〔讀史方輿紀要、四川〕敘州府、禹貢、梁州之域、後爲㆓蠻地㆒、漢建元六年、開㆓西南彝㆒、置㆓犍爲郡㆒、後漢因㆑之、云云、宋初因㆑之、政和四年、改曰㆓敘州㆒、元升㆓敘州路㆒、明洪武六年、改爲㆓敘州府㆒、領㆓縣十㆒、今因㆑之。❷府名。明、置く。四川省に屬す。清、之に因り、馬邊・雷波の二廳、宜賓・慶符・富順・南溪・長寧・高・筠連・珙・興文・隆昌・屛山の十一縣及び蠻夷・沐川・泥溪・平夷の四土司を管轄した。〔清史稿、地理志〕四川、敘州府、領㆓廳二㆒、縣十一、土司四㆒、宜賓、慶符、富順、南溪、長寧、高、筠連、珙、興文、隆昌、屛山、馬邊廳、雷波廳、蠻夷長官司、沐川長官司、泥溪長官司、平夷長官司。

【敘情】21 ジョジャウ　感情をのべあらはす。抒情。

〖敘情詩〗22 ジョジャウシ　韻文の一。主として自分の感情をのべた詩。抒情詩。

【敘爵】23 ジョシャク　❶爵位をついづる。爵位を授ける。序爵。〔魏志、三少帝、高貴鄉公髦紀、注〕太尉華歆表曰、云云、班祿敘爵、莫㆑美㆓於顯能㆒。❷昔、始めて從五位下に敘せられること。〔太平記、三十五、青砥左衞門事〕敘爵の後は、此の太刀に弦卷をぞ附けたりける。

【敘述】24 ジョジュツ　次第を立ててのべる。序述。〔集賢記注〕趙玄默、才比㆓丘明㆒、學兼㆓儒墨㆒、敘述微婉、講㆓論道德㆒。

〖敘述詞〗25 ジョジュツシ　文法上、動詞をいふ。

【敘進】26 ジョシン　順序に進む。〔周禮、秋官、小司寇〕其位王南鄉、三公及州長百姓北面、羣臣西面、羣吏東面、小司寇擯以㆑敘進而問焉。

【敘招】27 ジョセウ　白狀書。〔福惠全書、刑名部、問擬〕敘招必以㆓看語㆒爲㆑定。

【敘績】28 ジョセキ　功績をあげ賞する。〔北史、李彪傳〕若不㆓賞㆑庸敘㆑績、將何以勸㆑奬勤㆑能。

【敘談】29 hsü⁴ t'an²　物語りする。談話する。

【敘擢】30 ジョテキ　ぬき擧げて官位を授ける。〔陳書、虞寄傳〕聖朝棄㆑瑕忘㆑過、寬厚得㆑人、改㆑過自新、咸加㆓敘擢㆒。

【敘傳】31 ジョデン　序傳(4－9253··37)に同じ。

【敘任】32 ジョニン　官位をさづける。位を授け官に任ずる。官に敘といひ、位に任といふ。〔日本外史、足利氏正記、足利氏中〕其官爵敘任、例概如㆑此。

〖敘任辭令〗33 ジョニンジレイ　敘任の時、官府から其の人に交附する文書。

【敘別】34 ジョベツ　わかれをつげる。暇乞する。告別。〔元稹、青雲驛詩〕逡巡來敘㆑別、頭白顏色黧。

【敘補】35 ジョホ　位を授け職に任ずること。

【敘命】36 ジョメイ　序命(4－9253··47)に同じ。

【敘明】37 ジョメイ　明瞭に書きのべる。〔福惠全書、教

養部、嚴邪教一弁二于朔望保甲結狀內一敍明。

【敍用】38 ジヨヨウ 官位をさづけ用ひる。登用。〔魏志、后妃、文昭甄皇后傳〕（大和元年）四月、初營二宗廟一、掘レ地得二玉璽一、方一寸九分、云云、於レ是差二次舅氏親疏高下一、敍用各有レ差。

【敍留】39 ジヨリウ 官はもとのままで位だけ進めること。

【敍錄】40 ジヨロク ❶次第を立てて記錄する。〔吳志、薛瑩傳〕右國史華覈上疏曰、臣聞、五帝三王、皆立二史官一、敍二錄功美一、垂二之無窮一。❷本題の始め又は終りに其の綱要などを述べ錄したもの。漢の劉向が當時の經傳・諸子・詩賦等の書を校して、其の內容の大體を說明し、之を各書の終りに附して敍錄と稱し、又此の敍錄のみを集めて一書とし別錄と名づけた。序錄。〔隋書、經籍志序〕每二一書就一、向輒撰爲二一錄一、論二其指歸一、辨二其訛謬一、敍而奏レ之。〔漢書藝文志、講疏〕別錄一曰二敍錄一、益附在二本書一者、謂二之敍錄一、如三今存二管子・晏子春秋・戰國策諸敍錄一是也、而別爲二一書一者、謂二之別錄一。

【敍論】41 ジヨロン ❶次第を立てて說いた論。〔列女傳、續列女、明德馬皇后傳〕議二經書一、述二敍論一。❷書物の初めに本論の敍として揭げる論說。本論のはしがきとして總括した論文。序論（**4－9253**・54）に同じ。

【敍話】42 hsü^4 hua^4 談話する。

【敍寒暄】43 hsü^4 han^2 hsüan^1 時候の挨拶を述べること。

【敘】13206

ジヨ 敍（**5－13205**）の俗字。

【敮】13207

㊀トウツ 〔集韻〕吐孔切 董　㊁ソウス 〔集韻〕損動切 董

㊀**うつ**。たたく。〔集韻〕敮、擊也。㊁**ひく**。〔集韻〕敮、引也。

【㪗】13208

㊀ホフ 〔集韻〕滂模切 虞　㊁ホフ 〔集韻〕彼五切 麌

㊀**屋がやぶれかかる**。〔玉篇〕㪗、戲㪗、屋欲レ壞也。㊁**數の名**。補（**10－34320**）に同じ。〔集韻〕補、數也、十垓曰レ補、或作レ㪗。

【𢼸】13209

セツゼチ 〔集韻〕似絕切 屑

ひねる。〔玉篇〕𢼸、拈也。

【𢼂】13210

タ 妥（**3－6107**）に同じ。〔集韻〕妥、或作レ𢼂。

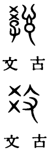
【𢽎】13211

ホツボチ 〔集韻〕薄沒切 月

もとる。勃（**2－2351**）に同じ。〔集韻〕勃、說文、排也、或从レ攴。〔後漢書、史弼傳〕昔周襄王恣二甘昭公一、孝景皇帝驕二梁孝王一、而二弟階レ寵、終用𢽎慢。

【教】13212

㊀カウケウ 〔集韻〕居效切 ㄐㄧㄠˋ chiao^4 效　㊁カウケウ 〔集韻〕居肴切 ㄐㄧㄠˉ chiao^1 肴



㊀㊁❶**をしへる**。㋑善にみちびく。〔廣韻〕教、訓也。〔禮、學記〕教也者、長レ善而救二其失一者也。〔孟子、離婁上〕古者易レ子而教。〔管子、侈靡〕政與レ教孰急。〔注〕教者、訓誘以感レ心。㋺技藝をならはす。〔戰國、秦策〕兵法之教。〔注〕教、習也。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕十三教二汝織一。㋩知識をさづける。〔周禮、地官、師氏〕以教二國子一。〔注〕教レ之者、使レ識二舊事一也。㋥つげる。〔廣雅、釋詁一〕教、語也。〔呂覽、貴公〕願仲父之教二寡人一也。〔注〕教、猶レ告也。㋭いひつける。命令する。〔韓非子、姦劫弒臣〕人主雖丁不三口教二百官一、不丙目索乙姦衺甲、而國已治矣。❷**をしへ**。㋑上の施して民の法るもの。〔說文〕教、上所レ施、下所レ效也、从二攴孝一。〔廣韻〕教、法也。〔書、舜典〕敬敷二五教一、在レ寬。〔周禮、地官、序官〕使下帥二其屬一而掌中邦教上。〔注〕教、所下以親二百姓一、訓中五品上、有虞氏五而周十有二焉。〔禮、王制〕明二七教一以興二民德一。〔注〕七教、父子・兄弟・夫婦・君臣・長幼・朋友・賓客。〔管子、弟子職〕先生施レ教、弟子是則。㋺いましめ。〔趙岐、孟子題辭〕幼被二慈母三遷之教一。㋩さとし。諭告。〔淮南子、主術訓〕行二不言之教一。〔注〕教、令也。〔傅亮、爲二宋公一修二張良廟一教〕秦法、諸公王稱レ教、教者、教二示於人一也。㋥教へることがら。〔禮、樂記〕教者民之寒暑也。〔注〕教、謂レ樂也。〔禮、王利〕脩二其教一。〔注〕教、謂二禮儀一。〔晉書、廣樂傳〕名教中自有二樂地一。❸**がくかう**。夏の時代の名稱。校（**6－14713**）に通ず。〔後漢書、章帝紀〕三代導レ人、教學爲レ本。〔注〕前書曰、三代之道、鄉里有レ教、夏曰レ教、殷曰レ庠、周曰レ序、劉攽曰、夏曰レ教、教當レ作レ校。❹**先生**。教師。〔通典、職官、國子監〕助教、晉咸寧四年、初立二國子監一、置二助教十五人一、以教二生徒一。❺**宗旨**。〔唐書、后妃上、長孫皇后傳〕后曰、云云、佛老、異方教耳。❻**文體の名**。諸侯の命令書。〔文選、教、注〕善曰、蔡邕獨斷曰、諸侯言曰レ教。〔文體明辯、教〕按、劉勰云、教者、效也、言出而民效也、李周翰云、教二示於人一也、秦法、王侯稱レ教、而漢時大臣亦得レ用レ之、若三京兆尹王尊出レ教告二屬縣一是也、故陳繹曾以爲二大臣告レ衆之辭一、今考二諸集一亦不二多見一。❼**しむ**。**せしむ**。使・令と同じく使役の助動詞。〔管子、任法〕夫非二主令一而行一、有二功利一因賞レ之、是教二妄擧一也、遵二主令一而行レ之、有二傷敗一而罰レ之、是使二民慮レ利而離レ法也。〔韓非子、解老〕進則教二良民作レ姦、退則令二善人有レ禍。❽殺（**6－16647**）に通ず。〔禮、禮運〕命降二于社一、之謂二殺地一。〔孔子家語、禮運〕命降二於社一、之謂二教地一。❾學（**3－7033**）・斆（**5－13431**）に通ず。〔集韻〕教、或作レ學。〔正字通〕教、與レ斆通。❿古は𧦝（**10－35535**）・效（**5－13148**）に作る。〔說文〕𧦝、古文教、效、亦古文教。⓫**姓**。〔萬姓統譜〕教、見二姓苑一。

名乘 タカ。ノリ。ミチ。ナリ。ユキ。

解字 會意形聲。攴（輕くたたいて注意する）と孝（ならふ。一說に、學の古字）との合字。上から施すのが攴で、下からならふのが孝である。上の施すのを主として教といひ、下がならふことを學といふ。をしへる意。孝は聲を兼ねて形聲。〔說文、段注〕上施、故從レ攴、下效故從レ孝。

參考 この字は、名詞のときは去聲によみ、動詞のときは平聲・去聲共に用ひる。

【教安】1 chiao^4 an^1 手紙の末尾の用語。教育者の起居安泰を問ふ意。

【教案】2 ケウアン ❶基督教と人民との紛爭に關する案件。〔淸國行政法汎論、總督、職權〕光緖二十四年十一月上諭云、向來沿海沿江通商省分、交涉

事務本煩、及內地各省、亦時有二教案一、應レ行二核辨一。㊁諸學科の教授の順序方法などを書いたもの。教授草案の略。指導案。

【教意】3 ケウイ　教訓の趣旨。〔文中子、禮樂〕斯人也、旁行而不レ流矣、安知二教意一哉。

【教肆】4 ケウイ　教へならはす。教習。〔王巾、頭陀寺碑文〕既而方廣東被、教肆南移。〔注〕濟曰、教肆、謂二教レ人習レ法也、肆、習也。

【教友】5 ケウイウ　㊀教へ導いてくれる友。〔孔子家語、子路初見〕孔子曰、云云、士而無二教友一則失レ聽。㊁chiao^4 yu^3 教會員。信徒。

【教誘】6 ケウイウ　をしへいざなふ。教へ導く。〔皇甫曾、贈二鑒上人一詩〕律儀傳二教誘一、僧臘老二烟霄一。

【教育】7 ケウイク　をしへそだてる。教へて知識を開く。導いて善良ならしめる。又、其のをしへ。教養。〔孟子、盡心上〕君子有二三樂一、云云、得二天下英才一、而教二育之一、三樂也。

【教育家】8 ケウイクカ　教育事業の任にあたる人。教育者。

【教育學】9 ケウイクガク　教育に關する學說を研究する科學。

【教育廳】10 ケウイクチヤウ　省行政機關の一。民國、置く。全省の教育行政及び學術研究等の事を管理する。

【教育部】11 ケウイクブ　民國政府中央官廳の一。總務廳の外普通教育司・專門教育司・社會教育司の三司を設け、教育・學藝及曆象の事務を掌る。

【教育行政】12 ケウイクギヤウセイ　國や地方公共團體が教育に對して行ふ行政。

【教育勅語】13 ケウイクチヨクゴ　明治天皇が明治二十三年十月三十日煥發せられた教育に關する勅語。國民教育の大本を說き、國民道德の要旨を示されたもの。

【教育委員會】14 ケウイクヰインクワイ　昭和二十三年の教育委員會法に本づき、從來の都道府縣知事・市町村長の權限に屬した教育・學術・文化に關する事務その他を管理執行する機關。

【教育基本法】15 ケウイクキホンハフ　日本國憲法の精神に本づき、日本教育の根本理念を確立した法律。昭和二十二年公布。

【教育總監部】16 ケウイクソウカンブ　もと陸軍全般の教育の齊一進步を規畫した所。各兵種の兵監部を置き、其の長官を總監といふ。

【教一】17 ケウイチ　佛法華四一の一。法華經に、教法は唯成佛の一道を說く教であるから、教一といふ。〔法華經文句、四上〕今言二教一一、圓頓之教、名二一佛乘一、故序品云、說二大乘經卽是教義一也。自二別教一已去、皆名二有餘之說一、卽不了義、非二佛一乘一。

【教員】18 ケウヰン　生徒に學業ををしへさづける人。師匠。先生。教師。教官。

【教衞】19 ケウヱイ　教練して武衞に當らせる兵士。〔國語、魯語下〕帥二教衞一以贊二元侯一。〔注〕帥二其所レ教武衞之士一、以佐二元侯一。

【教閱】20 ケウエツ　兵士を教練檢閱すること。〔李衞公問對、上〕教閱既成、衆知二吾法一。〔蘇轍、陳州爲二張安道一論二時事一書〕四出而爲二保甲教閱一。

【教戒】21 ケウカイ　をしへいましめる。教誡。訓戒。教訓。〔吳子、治兵〕故用レ兵之法、教戒爲レ先。〔漢書、陳萬年傳〕萬年嘗病、召レ咸教二戒於牀下一。〔論衡、別通〕父兄在二千里之外一、且レ死、遺二教戒之書一。

【教誡】22 ケウカイ　をしへる。教へいましめる。教訓(54)に同じ。〔風俗通、怪神〕孫兒婦女、以レ次教誡。

【教孝】23 ケウカウ　孝道を教へる。〔禮、祭義〕祀二乎明堂一、所三以教二諸侯之孝一也。〔淸國行政法汎論、官吏權利、武官終養〕乾隆五十年四月上諭云、文武本無二岐視一、而職任各有レ不レ同、文職以レ教レ孝爲レ先、武職則教レ忠爲レ重。

【教亨】24 ケウカウ　金の高僧。任城の王氏の子。字は虛明。燕都の慶壽寺に住す。興定の間、示寂す。〔大明高僧傳、五〕。

【教綱】25 ケウカウ　をしへのおほもと。〔傳燈錄〕汾州無業師云、先賢古德、碩學高人、博二達古今一、洞二明教綱一。

【教學】26 ケウガク　㊀教へることと學ぶこと。教學相長(29)を見よ。㊁學校を建て教師を置いて教へること。學校教育。夏の時代には學校を教といふ。一に校の誤といふ。〔禮、學記〕是故古之王者、建レ國君レ民、教學爲レ先。〔疏〕內則設二師保一、外則設二庠序一、以教レ之、故云二教學爲一レ先。〔後漢書、章帝紀〕三代導レ人、教學爲レ本。〔注〕前書曰、三代之道、鄉里有レ教、夏曰レ教、殷曰レ庠、周曰レ序、劉攽曰、夏曰レ教、教、當レ作レ校。〔李覯、袁州學記〕是惟朝家教學之意。㊂師長をいふ。〔禮、玉藻〕凡祭不レ諱、廟中不レ諱、教學臨レ文不レ諱。〔疏〕教學、爲二師長一也。㊃教育と學問。

【教學局】27 ケウガクキヨク　もと文部省の外局として、教學の刷新振興に關する事務を掌つてゐた。

【教學半】28 ヲシフルハマナブノナカバナリ　人を教へることは結局自己の勉學の半ばをなすものである。教へることに依つて自己の學問もできあがることをいふ。斅學半(**5**－**13431**··2)を見よ。

【教學相長】29 ケウガクアヒチヤウズ　教へることと學ぶことが相須つて學業を增進する。〔禮、學記〕雖レ有二嘉肴一、弗レ食不レ知二其旨一也、雖レ有二至道一、弗レ學不レ知二其善一也、是故學然後知レ不レ足、教然後知レ困、知レ不レ足、然後能自反也、知レ困然後能自強也、故曰、教學相長也、兌命曰、學學半、其此之謂乎。

【教諫】30 ケウカン　をしへいましめる。いさめる。又、其のこと。〔孔子家語、郊問〕卜之曰、王親立二于澤宮一、以聽二誓命一、受二教諫一之義也。

【教規】31 chiao^4 kuei^1 宗教上の規定。

【教期】32 ケウキ　時期を知らせをしへる。〔淮南子、要略〕時則者、云云、發レ施レ令、以レ時教レ期、使四君レ人者知三所二以從レ事。

【教器】33 ケウキ　教習と兵器。〔管子、兵法〕教器備利。〔纂詁〕教備、器利。

【教義】34 ケウギ　㊀をしへのむね。教育の本旨。〔後漢書、郎顗襄楷傳論〕禍福吉凶既應、引二之教義一、亦明。〔任昉、爲二卞彬一謝レ脩二卞忠貞墓一啓〕陛下弘二宣教義一。㊁佛教法の義理。〔五教章、上〕海印三昧一乘教義。〔慈恩傳、九〕少來頗得三專二精教義一。

【教給】35 chiao^4 kei^3 をしへる

【教禁】36 ケウキン　をしへいましめる。〔宋書、蔡廓傳〕教禁以檢二其慢一。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕因二其土俗一、爲設二教禁一。

【教具】37 ケウグ　教育上用ひる所の圖表・模型・標本の類をいふ。

【教化】38 ケウクワ　㊀をしへ導いて感化すること。教育感化。薰陶。薰化。〔詩、周南、關雎序〕美二教化一、移二風俗一。〔禮、經解〕故禮之教化也微、其止レ邪也於レ未レ形。〔戰國、衞策〕君曰、治無レ小、亂無レ大、教化喩二於民一、三百之城、足二以爲レ治、民無二廉恥一、雖レ有二十左氏一、將何以用レ之。〔列子、天瑞〕天職二生覆一、地職二形載一、聖職二教化一。〔荀子、臣道〕政令教化、形レ下如レ影。〔史記、儒林傳〕教化之行也、建二首善一自二京師一始、由レ內及レ外。〔漢書、元帝紀〕宣二明教化一。〔漢書、禮樂志〕於レ是教化浹洽、民用和睦。〔淮南子、泰族訓〕德足二以教化一。㊁佛ケウ 人に施物を乞ふこと。

【教化地】39 ケウケチ　佛既に自利の行を成就した行者が、進んで他を教化救濟すべき修行の位をいふ。〔往生論注、下〕修行成就已、當レ至二教化地一、教化地、卽是菩薩自娛樂地。

【教化三部】40 ケウクワサンブ　土司名。雲南省文山縣治。明、長官司を置く。三部は教化・強現・牙車。〔讀史方輿紀要、雲南、臨安府〕教化三部長官司、唐時強現蠻居レ此、爲二強現・牙車等三部酋地一、華語訛爲二教化一、元爲二強現三部一、隸二臨安宣慰司一、後屬二強現四部一、明初改爲二長官司一。

【教化之宮】41 ケウクワノキユウ　學問を教授するところ。學校。〔海錄碎事、文學、庠序〕五經通義曰、三王教化之宮、總名爲レ學。

【教科】42 ケウクワ　教へる科目。

【教科書】43 ケウクワシヨ　學校でをしへる規定の書物。〔經學歷史、經學開闢時代〕故孔子爲二萬世師表一、六經卽萬世教科書。

【教會】44 ケウクワイ　基督教其の他で、演說又は祈禱其の他の儀式を行ふところ。

【教會堂】45 ケウクワイダウ　教會に同じ。

【教誨】46 ケウクワイ　をしへる。〔書、無逸〕古之人、猶胥訓告、胥保惠、胥教誨。〔詩、小雅、小宛〕教二誨爾子一、式レ穀似レ之。〔孟子、告子下〕教亦多レ術矣、予不レ屑二之教誨一也者、是亦教二誨之一而已矣。〔國語、周語上〕瞽史教誨。〔戰國、趙策〕諒毅曰、敝邑之君有二母弟一、不レ能二教誨一、以惡二大國一、請黜レ之、勿レ使レ與二政事一。〔墨子、兼愛下〕有道肆相教誨。〔荀子、儒效〕教二誨開三導成王一。〔史記、貨殖傳〕善者因レ之、其次利二道之一、其次教二誨之一、

其次整二齊之一、最下者與レ之爭。

〖教誨師〗47 ケウクワイシ　監獄で囚徒に勸善の說教をなす人。

【教壞】48 chiao⁴ huai⁴　惡く教育する。〔桃花扇、媚座〕這都是侯朝宗教壞的。

【教皇】49 chiao⁴ huang²　羅馬法王。教王(174)に「同じ。

【教官】50 ケウクワン　㊀教化を掌るつかさ。〔周禮、地官、序官、司徒〕教官之屬、大司徒卿一人、小司徒中大夫二人、云云。㊁教育のことに從事する役人。官學の教員。明代は府學に教授、州學に學正、縣學に教諭・訓導を置く。清、之に因り、文廟の奉祀を掌り、所屬文武士の子を管理す。〔宋史、職官志七〕元祐元年詔、齊廬宿常等州、各置二教授一員一、自レ是列郡各置二教官一。〔日知錄、科擧、教官〕朱子亦云、須下是罷二堂除及注授教官一、請二本州鄕先生一爲上レ之、年未二四十一、不レ得レ任二教官一、昔人之論、卽已及レ此。〔淸會典事例、禮部、學校〕於二都司學一設二教官一員一。

【教館】51 chiao⁴ kuan³　學校。

【教勸】52 ケウクワン　をしへすすめる。〔杜牧、唐故江西觀察使武陽公韋公遺愛碑〕廣二狹俗所一レ未レ習、教勸成レ之。

【教觀】53 ケウクワン　佛教相と觀心。教相とは釋迦一代の教法を自己の宗義から分別判斷することをいひ、觀心とは自宗で立ててゐる眞理を觀念することをいふ。〔止觀大意〕略述二教觀門戶大概一、今家教門、以二龍樹一爲二始祖一、慧文但列二內觀視聽一而已。

【教訓】54 ケウクン　をしへる。又、をしへ。教は學藝上のをしへ、訓は德義上のをしへ。教誨。教誡。〔禮、曲禮上〕教訓正レ俗、非レ禮不レ備。〔疏〕熊氏云、教、謂レ教二人師法一、訓、謂三訓二說義理一。〔左氏、僖、十五〕安二其教訓一而服二習其道一。〔左氏、文、十八〕顓頊民有二不才子一、不レ可二教訓一、不レ知二話言一。〔左氏、襄、三〕寡人有レ弟、弗レ能二教訓一。〔國語、晉語九〕未レ及二教訓一而嗣立矣。〔列子、黃帝〕其所二教訓一者、無レ所二遺逸一焉。〔管子、權修〕教訓成レ俗。〔墨子、兼愛中〕昔越王句踐、好二士之勇一、教二馴其臣一。〔閒詁〕馴、讀爲レ訓。

【教刑】55 ケウケイ　學校に於ける刑罰。〔書、舜典〕朴作二教刑一。〔傳〕扑、榎楚也、不レ勤二道業一則撻レ之。〔孫星衍、今古文注疏〕鄭康成曰、朴爲二教官一爲レ刑者、學記注云、榎、梠也、楚、荊也、二者、所三以朴二撻犯レ禮者一、案、犯レ禮是不レ率レ教、故云下爲二教官一爲上レ刑也。

【教權】56 ケウケン　㊀教授上の權力。㊁宗教上の權力。

【教言】57 chiao⁴ yen²　御高說。御教訓。

【教語】58 ケウゴ　をしへかたる。〔司馬光、論三張堯佐除二宣徽使一狀〕天意昭然、有レ如二教語一。

【教護】59 ケウゴ　をしへまもる。〔管子、形勢解〕治二安百姓一、主之則也、教二護家事一、父母之則也。

【教告】60 ケウコク　をしへつげる。〔書、多方〕我惟時其教二告之一。

【教唆】61 ケウサ　そそのかす。煽動する。教へて惡智慧をつける。又、其のこと。哄唆。〔品字箋〕以レ言弄レ人、謂二之唆哄・教唆一。〔元曲、賺蒯通〕當初韓信是你教二唆他一來。〔六部成語、刑部、教唆、注解〕暗中調唆害レ人也。

〖教唆罪〗62 ケウサザイ　他人をそそのかして犯罪を構成させた罪。

【教材】63 ケウザイ　教授に必要な色々の材料。

【教相】64 ケウサウ　佛教觀二門の一。教義を分別すること。〔玄義、一上〕教者、聖人被レ下之言也、相者、分二別同異一也。

〖教相觀心〗65 ケウサウクワンジン　佛教觀(53)に同じ。

〖教相判釋〗66 ケウサウハンシヤク　佛釋迦の教理を其の宗派の見地から分類すること。例へば天台宗で五時八教となす類。教判。

【教草】67 ヲシヘグサ　教訓の種となる物事。教種。

【教山】68 ケウサン　山名。山西省絳縣の東南。又、歷山といふ。〔太平寰宇記〕教山、今名二效山一、亦名二罩山一。

【教士】69 ケウシ　㊀教練した兵士。〔管子、小匡〕君有二此教士三萬人一、以橫二行於天下一。〔史記、越世家〕句踐復問二范蠡一、蠡曰、可矣、乃發二習流二千人、教士四萬人、君子六千人、諸御千人一、伐レ吳。〔注〕索隱曰、謂下常所二教練一之兵上也。〔史記、三王世家〕非二教士一不レ得二從徵一。㊁士に教へる。〔禮、王制〕有レ發則命二大司徒一、教レ士以二車甲一。㊂宣教師。〔淸國行政法汎論、外務部、庶務司〕專掌三居留地・海防、保二護教士及遊歷外國人一。㊃もと武德會で定めた柔劍道五段中の最優秀者に與へた稱號。

【教子】70 ケウシ　㊀顏氏家訓の篇名。㊁ヲシヘゴ　弟子。「門人。

【教旨】71 ケウシ　㊀佛宗教の旨義。㊁をしへの趣意。〔日本外史、足利氏正記、足利氏中〕貞親遂以二教旨一、召二義敏一。

【教思】72 ケウシ　人を教へ自ら思ふ。〔易、臨〕象曰、君子以教思無レ窮。

【教師】73 ケウシ　㊀教員(18)に同じ。㊁chiao⁴ shih¹　牧師。宣教師。

〖教師節〗74 ケウシセツ　民國二十一年、教育界の人士に依つて定められた教師の待遇改善・地位の保障・修養等を謀る六月六日をいふ。六六節。

【教示】75 ケウジ　をしへしめす。〔韓愈、贈二張籍一詩〕有レ兒雖二甚憐一、教示不レ免レ簡。

【教使】76 ケウシ　をしへる。〔禮、玉藻、燕居告二溫溫一、注〕告、謂二教使一也。

【教事】77 ケウジ　政教の事。〔易、坎〕君子以常二德行一、習二教事一。〔疏〕當下守二德行一、而習中其政教之事上。

【教室】78 ケウシツ　學藝を教授する部屋。

【教習】79 ケウシフ　㊀をしへならはす。〔管子、幼官〕教習不レ著、發二不意一。〔史記、李斯傳〕高受レ詔教二習胡亥一。〔漢書、賈誼傳〕行者有下雖レ死而不二相爲一者上、則教習然也。〔越絕書、越絕外傳記地傳〕射浦者、句踐教二習兵一處也。〔梁簡文帝、徵君何先生墓誌〕聚レ徒教習。㊁官名。清、庶常館に教習大臣・小教習翰林官等の官を置く。翰林官の教習を掌る。國初は內院學士・侍讀等の官を以て之に任じ、康熙年間には掌院學士・內閣學士、又は尙書侍郞の院事を兼ねざるものを之に任じ、又、工部尙書を任じたこともある。〔淸會典事例、翰林院、教習庶吉士〕國初以二內院學士一教二習庶吉士一。〔歷代職官表、翰林院、國朝官制〕庶常館、教習大臣、滿洲漢人各一人、小教習翰林官六人、庶吉士無二定員一、國初教習多以二內院學士一爲レ之、侍讀等亦閒有二預者一、自二康熙九年一後、皆以二掌院學士一領二其事一、而內閣學士時參用焉、六十一年辛丑、科始以二工部尙書陳元龍一領二教習事一、嗣後尙書侍郞之不レ兼二院事一者、均得レ爲レ之。㊂chiao⁴ hsi²　教師。教授。

〖教習貢生〗80 ケウシフコウセイ　貢生中の優秀者を擇んで教習とすること。〔六部成語、吏部、教習貢生、注解〕由二貢生中一、擇二文理優長者一、充二各學教習之任一。

【教社】81 ケウシヤ　基督教を奉ずる者に依つて組織せられた修道・傳道・社會事業等を爲す集團。

【教象】82 ケウシヤウ　をしへ。おきて。〔周禮、地官、大司徒〕縣二教象之灋于象魏一、使三萬民觀二教象一。

【教主】83 ケウシユ　㊀教化を施す主。僧侶をいふ。又、入道した廢后をいふ。〔宋史、徽宗紀三〕帝諷二道籙院一上章、冊レ己爲二教主道君皇帝一。〔老學庵筆記、二〕本朝廢后入道、謂二之教主一、郭后曰二金庭教主一、孟后曰二華陽教主一、其實乃一師號耳。㊁一宗教を始めた人。宗祖。教祖。

〖教主道君〗84 ケウシユダウクン　宋、徽宗の自稱。趙佶(10-37171・・102)を見よ。

【教受】85 ケウジユ　教へさづける。教授。〔抱朴子、金丹〕太清觀天經、有二九篇一、云其上三篇、不レ可二教受一。

【教授】86 ケウジユ　㊀をしへさづける。〔史記、仲尼弟子傳〕子夏居二西河一教授、爲二魏文侯師一。〔漢書、云敞傳〕初章爲二當世名儒一、教授尤盛。〔越絕書、越絕外傳本事〕當二是之時一有二聖人一、教二授六藝一。〔後漢書、郅惲傳〕免歸避レ地教授。〔何晏、論語集解序〕琅邪王卿及膠東庸生・昌邑中尉王吉、皆以教授。㊁子弟に學業を教へる人。又、其の官職。漢代、博士を置いて諸生に教授し、唐も又諸學に博士を置く。卽ち後代の教授の職である。宋に至り始めて諸路州、郡及び王府に教授を置き、三年を一任とした。明・清には府學の教官を教授といふ。教官。學官。教職。〔書言故事、教授類、郡博士〕武德初、郡守置二經學博士一、掌下以二五經一教授上、始有二教授之稱一、宋元豐始興二三舍一、於二諸大郡府一、始各置二教授一人一。㊂大學又は高等・專門學校にて學生・生徒を教授し、その研究を指導する人。又、その職名。

〖教授案〗87 ケウジユアン　諸學科の教授の順序・方法などを書いたもの。教案。指導案。

〖教授會〗88 ケウジユクワイ　大學・專門學校等に於て、總

長・學長、又は校長により召集され、教授によつて組織せられる集會。學科課程、學生の試驗、及び大學に在つては學位に關する事項等を審議する。

【教授師】89ケウジュシ 佛受戒者に戒法を授ける三師の一。

【教授法】90ケウジュハフ 生徒を教授する方法。〔唐書、歸崇敬傳〕各立二五經博士品秩、生徒、云云、教授法一。

【教授細目】91ケウジュサイモク 教科を適切に教授するため、各學期、各週に配當し、其の分量と進行の豫定とを精細に示した案。

【教宗】92ケウシュウ 佛禪宗で自宗以外の經論の文字・言句によつて教義を說き信ずる宗派の總稱。

【教順】93ケウジュン をしへしたがへる。教化して道理に順はしめること。〔禮、昏義〕教順成レ俗、外內和順、國家理治。〔荀子、禮論〕故大路之馬、必倍至二教順一。〔管子、度地〕故吏者所二以教順一也。〔墨子、非命中〕上有三以規二諫其君長一、下有三以教二順其百姓一。〔淮南子、道應訓〕夫聖人之擧レ事也、可二以移レ風易レ俗、而教順可レ施二後世一。〔史記、平準書〕不善者教二順之一。

【教馴】94ケウジュン をしへならす。教擾(105)に同じ。〔墨子、兼愛中〕昔越王句踐、好二士之勇一、教二馴其臣一。〔閒詁〕馴、讀爲レ訓。〔史記、文帝紀〕邑遠吏卒、給輸費苦、而列侯亦無レ由三教二馴其民一。〔漢書、公孫弘傳〕及二其教馴服習之至一、可二牽持駕服一。

【教書】95ケウショ ❶書をしへる。〔漢書、宣帝紀〕以二私錢一供給教レ書。❷㋑大統領の發布する諭告書。㋺昔、徵兵の時に發した召狀。〔御成敗式目〕帶二問狀御教書一致二狼藉一。

【教書的】96 chiao^{1} shu^{1} tê 學校の教師。

【教織】97ケウショク はたおるわざをしへる。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕十三教二汝織一、十四能裁レ衣。

【教職】98ケウショク ❶周官小宰の六職の一。邦國・萬民・賓客を安んずる職務。〔周禮、天官、小宰〕以二官府之六職一辨二邦治一、云云、二曰教職、以安二邦國一、以寧二萬民一、以懷二賓客一。❷學生・生徒・兒童を教へる職務。〔國朝漢學師承記、錢大昕〕自以レ不レ習二吏事一、就二教職一。

【教數】99ケウスウ 民を教へる法。〔管子、山權數〕桓公問二於管子一曰、請二問教數一。〔纂詁〕教數、教レ民之法。

【教正】100ケウセイ 清代、州學の主任教官。

【教生】101ケウセイ 教育實習生。

【教成】102ケウセイ 教への成就すること。〔呂覽、義賞〕其所二以加一者義、則忠信親愛之道彰、久彰而愈長、民之安レ之若レ性、此之謂二教成一。

【教制】103ケウセイ をしへのおきて。〔嵇康、與二山巨源一絕交書〕見二馴育一則服二從教制一。

【教詔】104ケウセウ をしへつげる。又、をしへ。ふれ。布告。命令。〔戰國、燕策〕今主君幸教二詔之一、合從以安レ燕。〔呂覽、審分〕多二其教詔一而好自以。〔司馬法、定爵〕牧二遊士一申二教詔一。

【教擾】105ケウゼウ をしへならす。獸類等を馴らす。教馴。擾は馴。〔周禮、夏官、掌畜〕掌四養レ鳥而阜二蕃教三擾之一。

【教先】106ケウセン 宋、鄭洙(**11－39647**··166)の字。

【教戰】107ケウセン ❶戰爭の法をしへる。〔六韜、犬韜、教戰〕武王問二太公一曰、合二三軍之衆一、欲レ令三士卒服二習教戰之道一奈何。〔蘇轍、私試進士策問〕旦暮教レ戰。❷六韜、犬韜の篇名。

【教祖】108ケウソ 宗教を開いた人。教主。

【教則】109ケウソク 教育に關する規則。

【教卒】110ケウソツ 教練した兵卒。〔呂覽、簡選〕齊桓公良車三百乘、教卒萬人、以爲二兵首一。〔管子、七法〕以二教卒練士一、擊二敺衆白徒一。

【教堂】111 chiao^{4} tʻang^{2} 基督教その他の教會堂。

【教道】112ケウダウ をしへみちびく。教導。〔禮、月令〕(孟春之月)善相二丘陵阪險原隰、土地所レ宜、五穀所レ殖、以教二道民一。〔韓詩外傳、三〕故形二其仁義一、謹二其教道一。〔漢書、鄭崇傳〕教道以レ禮、至二於成人一。〔注〕師古曰、道、讀曰レ導。

【教導】113ケウダウ をしへみちびく。をしへる。又、をしへ。教道。〔史記、酷吏傳贊〕方略教導、禁レ姦止レ邪。〔淮南子、人閒訓〕孔子以二三代之道一、教二導於世一。〔淮南子、氾論訓〕儒者循レ之、以教二導於世一。〔說苑、政理〕教導可レ施二於百姓一。〔後漢書、光武十王、東平憲王蒼傳〕在レ家被二教導之仁一、升レ朝蒙二爵命之首一。〔後漢書、循吏、任延傳〕教二導民夷一、漸以二禮義一。

【教導職】114ケウダウショク 神官・僧侶等などで人を教導するを職とするもの。

【教導團】115ケウダウダン もと陸軍の下士官を養成するために設けた學校。

【教導學校】116ケウダウガクカウ もと現役下士官となる學生を教育した學校。陸軍教導學校の略。

【教澤】117ケウタク 教化のめぐみ。教化。恩澤。〔戰國、齊策〕乃使三人聽二於閭里一、聞二丈夫之相與語一、擧曰、田單之愛レ人、嗟乃王之教澤也。

【教達】118ケウタツ 教へ達せしめる。教へ導く。〔後漢書、馬融傳〕司徒勒レ卒、司馬平レ行、車攻馬同、教達戒通。

【教團】119ケウダン 宗教團體の略。

【教壇】120ケウダン 教場で教師の上る壇。

【教地】121ケウチ 地に法つて教令を下すこと。禮記には殽地に作る。〔孔子家語、禮運〕命降二於社一、之謂二教地一。〔注〕所謂因二地之利一。

【教池】122ケウチ 池で水戰・競渡を教へる。〔事物紀原、歲時風俗部、教池〕辛氏秦記曰、昆明池、漢武帝立レ之習二水戰一、則是教レ池之事、略見二於此一矣、亦競渡之遺意也。

【教治】123ケウチ をしへをさめる。又、教化に關する政。〔周禮、地官、州長〕各掌二其州之教治政令之灋一。〔禮、燕義〕掌三其戒令與二其教治一。

【教笞】124ケウチ 教戒するためにむちうつこと。又、其のむち。〔史記、律書〕教笞不レ可レ廢二於家一、刑罰不レ可レ捐二於國一。

【教尼】125ヲシヘトドマル 教化事業が停止する。〔李覯、袁州州學記〕倡而不レ和、教尼不レ行。

【教場】126ケウヂヤウ ❶宋代、武術を教習したところ。練兵場。講武所。毬場。鞠場。操場。〔宋史、禮志二十四〕乾道二年十一月、幸二候潮門外大教場一、次幸二白石教場一。〔升庵外集〕中冬教大閱、古者軍將蓋營二治于國門一、魯有二東門襄仲一、宋有二桐門右師一是也、愼按、此後世教場之始。〔長生殿、偵報〕明日教場操演。❷學業をしへる所。又、其の室。教室。

【教忠】127ケウチユウ 忠義を教へる。教孝(23)を見よ。〔左氏、僖、二十三〕子之能仕、父教二之忠一、古之制也。

【教敕】128ケウチヨク をしへいましめる。教戒。〔漢書、江充傳〕以二教敕亡レ素者一、唯江君寬レ之。〔參同契〕嚴父施レ令、教二敕子孫一。

【教弟】129 chiao^{4} ti^{4} ❶私。小生。同輩の年長者。又は學德高い人に對して用ひる自稱。❷弟子。

【教庭】130ケウテイ 學問を教へる所。學校。

【教程】131ケウテイ 教育の方法。又、形式。教範。

【教調】132 chiao^{1} tʻiao^{2} 教へしつける。

【教條】133ケウデウ ❶法規。〔韓愈、司徒兼侍中中書令贈太尉許國公神道碑銘〕公之爲レ治、嚴不レ爲レ煩、止除二害本一、不レ多二教條一。❷學生の守るべき條規。教條示二龍城諸生一を見よ。

【教條示二龍場諸生一】134ケウデウリユウヂヤウノショセイニシメス 明の王陽明が龍場の謫地に於て、諸生に教示した四箇條の教條。卽ち立志・勤學・改過・責善。王陽明全書卷二十六に收む。

【教典】135ケウテン ❶周官太宰の六典の一。邦教を掌り、邦國を安んずる職務。司徒の職を置いて之を掌らせた。〔周禮、天官、大宰〕大宰之職、掌下建二邦之六典一、以佐中王治上邦國上、云云、二曰、教典、以安二邦國一、以教二官府一、以擾二萬民一。〔注〕教典、司徒之職、故立二其官一、曰、使下帥二其屬一、而掌二邦教一、以佐レ王安中擾邦國上。❷佛宗教上の經文。

【教讇】136ケウテン へつらふことをしへる。〔漢書、陳萬年傳〕萬年嘗病、召レ咸教二戒於牀下一、語至二夜半一、咸睡、頭觸二屛風一、萬年大怒、欲レ杖レ之、云云、咸叩頭謝曰、具曉レ所レ言、大要教二咸讇一也、萬年迺不二復言一。〔注〕師古曰、讇、古諂字。

【教徒】137ケウト 宗教を信奉するともがら。

【教徒的】138 chiao^{1} tʻu^{2} tê 學校の教師。

【教頭】139ケウトウ 高等學校及び中等學校・小學校等で教師の首位にあり校長を輔佐する職名。

【教督】140ケウトク をしへただす。教訓督察。〔漢書、車千秋傳〕光治レ內、君侯治レ外、宜下有二以教督一、使中光毋上負二天下一。〔楊惲、報二孫會宗一書〕足下哀二其愚矇一、賜レ書教督、以レ所レ不レ及。〔後漢書、來歙傳〕陛下哀憐、數賜二教督一。

【教德】141ケウトク 教訓と德化。〔漢書、禮樂志〕大莫レ大レ成二教德一、長無レ長レ被二無極一。

【教讀】142 chiao^{1} tu^{2} 教授する。

【教派】143ケウハ 宗教の分派。

【教方】144（ケウハウ） 教へる方法。

【教坊】145（ケウバウ） 京師に於て官設で音樂歌舞する者を居住させて教へる處。地方では樂戶といふ。〔唐書、百官志三〕開元二年、又置二教坊于蓬萊宮側一、云云、京都置二左右教坊一、掌二俳優雜劇一。〔白居易、琵琶引〕十三學二得琵琶一成、名屬二教坊第一部一。

【教坊記】146（ケウバウキ） 書名。一卷。唐、崔令欽撰。教坊の組織・樂曲の演奏法及び妓女の逸話の外、所屬樂曲名三百二十四曲を擧ぐ。〔四庫提要、子、小說家類〕。〔古今說海、十八〕・〔續百川學海、二十八〕・〔古今逸史、十二〕・〔五朝小說、十二〕・〔說郛、七十八〕・〔唐人說薈、八〕。

【教坊司】147（ケウバウシ） 朝廷の歌舞音曲を取締る役人。〔桃花扇、眠香〕你是教坊司麼、叫二俺報一レ名。

【教法】148（ケウハフ） ❶教への法典。〔周禮、地官、鄕大夫〕正月之吉、受二教法于司徒一、退而頒二之于其鄕吏一。❷教授法。❸chiao^4 fa^3 宗教。

【教判】149（ケウハン） ［佛］釋迦一代の教理を其の宗派の見地から分類すること。教相判釋の略。天台宗の五時八教の類。

【教範】150（ケウハン） 教へるのり。教育の方法。又、其の形式。教程。

【違二教範一】151（ケウハンニタガフ） お目にかかつて教をうける機會がない。御無沙汰をしたことをいふ。

【教匪】152（ケウヒ） 白蓮教の亂匪。白蓮教(**8－22678**‥1197)を見よ。〔李惺、忠武楊公神道碑〕仁宗時、教匪迭起、大者糾レ衆至二數萬一、次亦不レ下二數千一、在二湖北一、則張漢潮・覃家耀・林之華爲二尤甚一、嘉慶二年、公破二之於黃金嶂一。〔國朝先正事略、那文毅公事略〕先レ是湖北白蓮教匪樊學明叛二於襄陽一、其黨張漢潮寇二秦中一、詔二參贊大臣明亮一討レ之、而成都將軍慶成、陝西巡撫永保、與二明亮一有レ隙、師行不二相顧一。

【教父】153（ケウフ） ❶をしへの父。眞理を世に傳へるもの。師。〔老子、四十二〕吾將三以爲二教父一。〔全解〕教父、謂レ師也、云云、吾將下以レ此爲二人師一、以教中天下後世上矣。❷基督の說いた教を教義に組織することに與つた人達。

【教父學】154（ケウフガク） 基督教の教父組織時代の哲「學。

【教付】155（ケウフ） 教へ付託する。〔韓愈、魏博節度觀察使沂國公先廟碑銘〕乃以教二付厥子一。

【教服】156（ケウフク） 教令を設けて士をして服習せしめること。〔管子、地圖〕繕二器械一選二練士一、爲二教服一連二什伍一。〔注〕設二教令一使二士服習一。

【教鞭】157（ケウベン） 兒童を教へるため、教師の執つて指示するむち。轉じて、教職をいふ。

【教本】158（ケウホン） 教化の基。教へのもと。〔禮、祭統〕故曰、祭者、教之本也已。〔唐書、蕭昕傳〕建下請崇二太學一、以樹中教本上。

【教民】159（ケウミン） ❶民を教へみちびくこと。〔左氏、僖、二十七〕晉侯始入、而教二其民一二年、欲レ用レ之。〔論語、子路〕子曰、善人教レ民七年、亦可二以卽レ戎矣。〔集注〕教レ民者、教レ之以二孝弟忠信之行、務レ農講レ武之法一。❷chiao^4 min^2 基督教の信徒。

【教務】160（ケウム） ❶教授上の事務。❷宗教上の事務。

【教命】161（ケウメイ） 皇后の命令。令旨。〔五代史、唐太祖家人、莊宗皇后劉氏傳〕太后稱二詔令一、皇后稱二教命一、兩宮使者、旁二午於道一。

【教門】162（ケウモン） 宗派。教會。佛教にもいふが俗には回教にいふ。〔李華、荊州南泉大雲寺故蘭若和尙碑〕或問二南北教門一、豈無二差別一。

【教養】163（ケウヤウ） ❶教へそだてる。〔後漢書、鄧禹傳〕修二整閨門一、教二養子孫一。〔嵇康、與二山巨源一絕交書〕今但願守二陋巷一、教二養子孫一。❷修得した學問教育。

【教約】164（ケウヤク） 教へ約する。教へ聞かせる。〔唐書、于志寧傳〕今太子須二人教約一、卿彊起爲レ我卒輔二道之一。

【教喩】165（ケウユ） をしへさとす。教諭。〔禮、學記〕君子之教喩也、道而弗レ牽、強而弗レ抑、開而弗レ達。

【教諭】166（ケウユ） ❶をしへさとす。教喩。〔吳志、朱治傳〕初權弟翊性峭急、喜怒快レ意、治數責教諭以二道義一。❷官名。宋元明に皆縣學教諭あり。淸は各廳・縣學に教諭を置き、生員を教誨するを掌る。教官(50)を見よ。〔明史、職官志四〕儒學府教授一人、訓導四人、州學正一人、訓導三人、縣教諭一人、訓導二人、教授・學正・教諭、掌三教二誨所レ屬生員一、訓導佐レ之。❸小學校・中學校・高等學校の教員の職名。

【教理】167（ケウリ） ［佛］宗教上の理論。法の道理。

【教令】168（ケウレイ） ❶命令。號令。〔韓非子、外儲說左上〕吾聞、宋君無道、蔑二侮長老一、分レ財不レ中、教令不レ信、余來爲レ民誅レ之。〔晏子、雜、下〕今者萬乘無二教令一、臣故不二敢剖一。〔漢書、文帝紀〕上親勞レ軍、勒レ兵申二教令一。〔後漢書、祭遵傳〕今遵奉レ法不レ避、是教令所レ行也。〔獨斷〕天子之命令曰レ詔、諸侯王之命令曰レ教。❷教化をいふ。〔詩、小雅、隰桑、既見二君子一德音孔膠、箋〕君子在レ位、民附仰レ之、其教令之行、甚堅固也。❸父母のをしへといひつけ。違二犯教令一を見よ。❹各〻時節によつて爲すべき事柄の規定。禮記の月令の類。〔史記、太子公自序〕夫陰陽四時八位十二度二十四節、各有二教令一、順レ之者昌、逆レ之者、不レ死則亡。❺そそのかす。教へて惡事を行はせる。教唆。〔唐律、鬬訟、教令人告事虛〕諸教二令人一告レ事虛、應二反坐一、得レ實應レ賞者、皆以二告者一爲レ首、教令爲レ從。❻大統領が其の職權を以て制定せる條律で未だ立法院の協贊を經ないもの。

【違二犯教令一】169（ケウレイニヰハンス） 祖父母父母の教訓命令にそむくこと。〔唐律、鬬訟、子孫違犯教令〕諸子孫違二犯教令一、及供養有レ闕者徒二年。〔明律、刑事、訴訟、違犯教令〕凡子孫違二犯祖父母父母教令一、及奉養有レ缺者杖一百。〔六部成語、刑部、違二犯教令一、注解〕故違二教訓號令一、以致二犯罪一也。

【教練】170（ケウレン） ❶兵卒ををしへねる。訓練。〔諸葛亮、心書、習練〕千人可レ教二萬人一、萬人可レ教二三軍一、然後教練而敵可レ勝矣。❷もと學校で施行した軍事教育の學科。

【教練使】171（ケウレンシ） 唐代、軍事教育を掌る官。〔事物紀原、律令刑罰部、教練〕唐會要曰、大中六年五月、勅二天下軍府一、有二兵馬一處、且選下會二兵法一能二弓馬一人上、充二教練使一。

【教勒】172（ケウロク） をしへいましめる。教戒。〔後漢書、馬廖傳〕廖性寬緩、不レ能三教二勒子孫一。

【教和】173（ケウワ） 教へが成り、心が和すること。〔管子、霸言〕政平則人安、士教和則兵勝レ敵。〔纂詁〕教成心和、則士皆盡レ力、故勝。

【教王】174 chiao^4 wang^2 羅馬法王。

【教行證】175（ケウギヤウショウ） ［佛］教は佛一切の言教、行は教によつて修行進取すること、證は言教所詮の義理に證契すること。〔翻譯名義集、法寶衆名篇、達摩〕青龍疏云、有二教行證一、名爲二正法一。

【教外人】176 chiao^4 wai^4 jen^2 基督教徒以外の人を其の信者が言ふ語。

【教經堂】177（ケウケイダウ） 淸、徐書受(**4－10110**‥490)の「室名。

【教之末】178（ヲシヘノスヱ） 教の末なもの。教としては最もつまらないもの。〔莊子、天道〕賞罰利害、五刑之辟、教之末也。

【教中人】179 chiao^4 chung^1 jen^2 基督教徒。

【教忠堂】180（ケウチユウダウ） 宋、劉寧止(**2－2224**‥1253)の室名。

【教部省】181（ケウブシヤウ） 神佛に關する事務を管理する所。明治五年に設置され、同十年に廢止された。

【教便物】182（ケウベンブツ） 教具(37)に同じ。

【教來石】183（ケウライシ） 姓氏。

【不レ待レ教】184（ヲシヘヲマタズ） ❶上からの教命を待たぬこと。〔孟子、萬章下〕是不レ待レ教而誅レ之者也。❷生れながらにして知り、教導を必要とせぬもの。〔韓愈、孟東野失レ子詩〕上聖不レ待レ教、賢聞レ語而遷。

【教外別傳】185（ケウゲベツデン） ［佛］經典や言語などによらず以心傳心で傳はる奧義。禪宗の教義。直指人心、見性成佛といふ特別の傳。〔正宗紀〕其所謂教外別傳者、非レ謂下黃卷赤軸閒、言聲字色縱然之有レ狀者、直與二實相無相一一上也、亦非三果別二於佛教一也、正其教迹所レ不レ到者也、吾宋章聖皇帝爲二之修心詩一曰、初祖安禪在二少林一、不レ傳二經教一但傳レ心、後人若悟二眞如性一、密印由來妙理深。

【教文之施】186（ヲシヘハブンノシ） 教へは德を廣め布くもの。〔國語、周語下〕教、文之施也、孝、文之本也。

【不レ教而誅】187（ヲシヘズシテチユウス） 教へさとさずして殺す。〔荀子、富國〕故不レ教而誅、則刑繁而邪不レ勝、教而不レ誅、則姦民不レ懲。

【教之化レ民深二於命一】188（ヲシヘノタミヲクワスルハメイヨリフカシ） 法令の民を化することが、君の命よりも深刻である。秦の民が商鞅の法を畏れること、秦君より

も甚だしきをいふ。〔史記、商君傳〕教之化レ民也、深二於命一、民之效レ上也、捷二於命一。〔注〕索隱曰、劉氏云、教、謂二商鞅之令一也、命、謂二秦君之命一也、言三人畏レ鞅甚二於秦君一。

【以二不レ教民一戰是謂レ棄レ之】189（ヲシヘザルタミヲモチヒテタタカフハ コレ コレヲスツトイフ） 平生から教訓してゐない人民を用ひて戰はせるのは、民を棄てて死なせるやうなものだ。〔穀梁、僖、二十三〕以二其不レ教民一戰、則是棄二其師一。〔論語、子路〕子曰、以二不レ教民一戰、是謂レ棄レ之。〔孟子、告子下〕不レ教レ民而用レ之、謂二之殃一レ民、殃レ民者不レ容二於堯舜之世一。

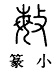
【教】13213 ケウ
敎(5−13212)の俗字。〔正字通〕敎、俗作レ教。

【⿰肖攴】13214 サウ セウ 〔集韻〕師交切 肴
うつ。たたく。〔集韻〕⿰肖攴、擊也。

【⿰谷攴】13215 ㈠カフ コフ 〔篇海〕公答切 合 ㈡カフ ゲフ 〔篇海〕侯夾切 洽 ㈢カク
㈠㈡㊀あふ。〔篇海〕⿰谷攴、會合也。㊁あはせる。〔篇海〕⿰谷攴、併也。㊂あつめる。〔篇海〕⿰谷攴、集也。㈢敆(5−13172)の俗字。〔字彙〕⿰谷攴、與レ敆同、俗字之譌。

【⿰𡿧攴】13216 クワイ ケ 〔玉篇〕口數切 卦
㊀ためいき。欳(6−16082)に同じ。〔玉篇〕⿰𡿧攴、或從レ欠。〔字彙〕⿰𡿧攴、休息也。㊁⿰𡿧又(5−13216)に同じ。〔康熙字典〕⿰𡿧攴、案、爾雅作レ⿰𡿧又。

【敏】13217 ビン ミン 〔集韻〕美隕切 ㄇㄧㄣˇ min³ 軫


小篆

㊀とし。はやい。すばやい。〔說文〕敏、疾也、从レ攴每聲。〔釋名、釋言語〕敏、閔也、進敍無二否滯一之言也、故汝潁言レ敏如レ閔也。〔廣雅、釋言〕敏、亟也。〔書、大禹謨〕黎民敏レ德。〔傳〕敏、疾也。〔詩、小雅、甫田〕農夫克敏。〔傳〕敏、疾也。〔左氏、哀、十一〕子羽銳敏。〔注〕敏、疾也。〔論語、學而〕敏二於事一而愼二於言一。〔集解〕孔安國曰、敏、疾也。㊁さとい。かしこい。〔論語、公冶長〕敏而好レ學。〔集解〕孔安國曰、敏者、識之疾也。〔論語、顏淵〕回雖二不敏一、請事二斯語一矣。〔皇疏〕敏、達也。〔漢書、趙廣漢傳〕廉絜通敏。〔注〕師古曰、敏、謂二材識捷疾一也。㊂はたらき。材能。〔國語、齊語〕盡二其四支之敏一。〔注〕敏、猶レ材也。㊃つとめる。〔禮、中庸〕人道敏レ政。〔注〕敏、猶レ勉也。㊄つまびらか。〔左氏、僖、二十三〕辟二不敏一也。〔注〕敏、猶レ審也。〔左氏、僖、三十三〕禮成而加レ之以レ敏。〔注〕敏、審二當於事一。㊅商音の別名。〔爾雅、釋樂〕商謂二之敏一。㊆おやゆび。足のおやゆび。拇(5−11944)に通ず。〔說文通訓定聲〕敏、叚借爲レ拇。〔類篇〕敏、足之大指名。〔爾雅、釋訓〕敏、拇也。〔詩、大雅、生民〕履二帝武敏一歆。〔箋〕敏、拇也。㊇姓。〔萬姓統譜〕敏、見二姓苑一。

名乘 トシ。ハル。ヨシ。

【敏銳】1 ビンエイ さとくするどい。銳敏。穎敏。〔唐書、張薦傳〕薦敏銳有二文辭一。

【敏叡】2 ビンエイ 敏捷で怜悧なこと。〔南史、梁簡文帝紀論〕太宗敏叡過レ人、神采秀發、多聞博達、富二贍詞藻一。

【敏行】3 ビンカウ ㊀つとめ行ふ。〔漢書、東方朔傳〕日夜孳孳敏行而不二敢怠一也。㊁行を敏捷にする。〔論語、里仁〕子曰、君子欲下訥二於言一而敏中於行上。㊂明、鄒輗(11−39562‥16)の字。

【敏恪】4 ビンカク 諡號。㊀宋、梁從吉(6−14825‥271)の諡。㊁清、瑚圖(7−21126‥4)の諡。㊂清、查克丹(6−14643‥93)の諡。㊃清、趙宏燦(10−37171‥485)の諡。㊄清、瑪拉(7−21156‥11)の諡。

【敏學】5 ビンガク 明、姚文(3−6202‥106)の字。

【敏學齋】6 ビンガクサイ 清、李得春(6−14459‥1817)の號。

【敏黠】7 ビンカツ さとくわるがしこい。〔遼史、太祖紀〕謂二左右一曰、諸弟性雖二敏黠一而蓄レ姦稔レ惡、嘗自矜レ有二出レ人之智一。

【敏感】8 ビンカン 感じの銳敏なこと。するどい感覺。

【敏毅】9 ビンキ 諡號。㊀明、蔣琬(9−31820‥11)の諡。㊁明、張養蒙(4−9812‥1555)の諡。

【敏求】10 ビンキウ ㊀つとめて求める。求めるに敏である。〔論語、述而〕子曰、我非二生而知レ之者一、好レ古敏而求レ之者也。〔集注〕敏、速也、謂二汲汲一也。〔劉寶楠正義〕敏、勉也、言二黽勉以求一レ之也、說本二朱彬經傳考證一。㊁宋、李伯敏(6−14459‥1867)の字。

【敏給】11 ビンキフ ㊀すばしこいこと。〔莊子、徐無鬼〕敏給搏二捷矢一。〔疏〕敏給、猶レ速也。〔史記、夏紀〕禹爲レ人敏給克勤、其德不レ違、其仁可レ親、其言可レ信。〔後漢書、皇后上、竇皇后紀〕后性敏給、傾レ心承接。㊁口まへの達者なこと。〔後漢書、循吏、王景傳〕景陳二其利害一、應對敏給。

【敏歆】12 ビンキン 祠事を行ふことがつつしんですばやいので神が其の誠意をうけることをいふ。一說に、履二帝武敏一歆と讀んで、敏を足のおやゆびと解する。〔詩、大雅、生民〕履二帝武敏一歆。〔傳〕敏、疾也、云云、將レ事齊敏也、歆、饗。〔箋〕敏、拇也。〔疏〕行事敬而敏疾、故爲二神歆饗一。

【敏果】13 ビンクワ 諡號。㊀明、明安達哩(5−13805‥679)の諡。㊁清、魏象樞(12−45872‥223)の諡。㊂清、米思翰(8−26832‥112)の諡。

【敏果齋】14 ビンクワサイ 清、許乃釗(10−35298‥352)「の號。

【敏快】15 ビンクワイ すばやいこと。「敏慧。

【敏活】16 ビンクワツ 才能の敏捷でよくはたらくこと。

【敏卿】17 ビンケイ 字號。㊀明、嚴訥(2−4589‥203)の字。㊁明、馮時可(12−44579‥228)の字。

【敏惠】18 ビンケイ ㊀敏慧(20)の㊀に同じ。〔後漢書、皇后上、馬皇后紀〕母兄客卿敏惠早夭。㊁諡號。㋑明、祁伯裕(8−24634‥42)の諡。㋺清、潘思榘(7−18236‥163)の諡。

【敏敬】19 ビンケイ つつしみのよいこと。

【敏慧】20 ビンケイ ㊀さとい。りこう。警慧。敏活。穎悟。銳敏。機敏。敏惠。〔五代史、梁臣、謝彥章傳〕從周憐二其敏慧一、養以爲レ子、授二之兵法一。〔方孝孺、戇窩記〕氣節者偃蹇可レ畏、而才智者敏慧可レ喜。㊁元、阿尼哥(11−41599‥392)の諡。

【敏教】21 ビンケウ さといをしへ。〔易林、泰之第十一、蠱〕敏教勁疾、如二猿升レ木。

【敏軒】22 ビンケン 清、吳敬梓(2−3365‥526)の字。

【敏鎌】23 トガマ 銳利な鎌。〔祝詞式、六月晦大祓〕燒鎌乃敏鎌以氐打掃事之如久。

【敏悟】24 ビンゴ さとい。悟敏。〔宋史、元絳傳〕絳生而敏悟、五歲能作レ詩。

【敏公】25 ビンコウ 清、郝惟訥(11−39430‥36)の字。

【敏才】26 ビンサイ ㊀才のさといこと。すばしこい。〔後漢書、宦者傳論〕或敏才給對、飾レ巧亂レ實。㊁宋、戴敏(5−11685‥123)の字。

【敏齋】27 ビンサイ 字號。㊀清、應寶時(4−11330‥279)の字。㊁清、祁世長(8−24634‥35)の號。㊂清、曹享時(5−14297‥215)の字。㊃清、湯修(7−17874‥60)の字。

【敏壯】28 ビンサウ 諡號。㊀清、阿爾護(11−41599‥106)の諡。㊁清、喀山(2−3896‥5)の諡。㊂清、喀蘭圖(2−3896‥22)の諡。㊃清、噶達渾(2−4421‥11)の諡。㊄清、趙國祚(10−37171‥566)の諡。㊅清、巴哈納(4−8745‥112)の諡。㊆清、巴篤理(4−8745‥132)の諡。㊇清、李國翰(6−14459‥1240)の諡。㊈清、楊捷(6−15112‥254)の諡。

【敏士】30 ビンシ 清、蔣于京(9−31820‥119)の字。

【敏之】31 ビンシ 字號。㊀宋、高若訥(12−45313‥1211)の字。㊁宋、陳若拙(11−41698‥960)の字。

❸宋、丁仲修(**1－2**··288)の字。❹金、張本(**4－9812**··682)の字。

【敏修】32（ビンシウ）字號。❶宋、許懋(**10－35298**··205)の字。❷清、蔣維勤(**9－31820**··111)の字。❸清、曾釗(**5－14299**··99)の字。❹清、竇克勤(**8－25695**··67)の字。

【敏識】33（ビンシキ）さとくしる。〔賈至、邢宇司封員外郎制〕雅志沖澹、敏識精達。

【敏疾】34（ビンシツ）すばしこい。敏速。〔說文〕敏、疾也。〔漢書、張敞傳〕敞爲レ人敏疾。〔高適、奉和鶻賦〕懷ニ果斷之沈潛一、任ニ性情之敏疾一。

【敏襄】35（ビンジヤウ）清、古爾布什(**2－3233**··598)の「諡。

【敏若】36（ビンジヤク）字號。❶宋、石悉(**8－24024**··725)の字。❷宋、趙彥吶(**10－37171**··542)の字。

【敏手】37（ビンシユ）手を疾く動かすこと。又、其の手。轉じて、敏捷なうでまへ。敏腕。〔顏延之、赭白馬賦〕捷ニ趫夫之敏手一、促ニ華鼓之繁節一。

【敏叔】38（ビンシユク）字號。❶宋、張景修(**4－9812**··671)の字。❷明、盛訥(**8－23005**··163)の字。

【敏肅】39（ビンシユク）諡號。❶宋、蔡挺(**9－31818**··97)の諡。❷宋、湯鵬擧(**7－17874**··209)の諡。❸明、陳壽(隨州の人)(**11－41698**··337)の諡。❹明、李世達(**6－14459**··1544)の諡。❺清、岳昇龍(**4－8001**··65)の諡。❻清、莽奕祿(**9－31132**··23)の諡。❼清、盧坤(**8－23050**··67)の諡。

【敏儁】40（ビンシユン）さとくすぐれる。敏俊。〔元稹、答ニ姨兄胡靈之見レ寄五十韻詩〕豆箕才敏儁、羽獵正崢嶸。

【敏愼】41 min^3 shen^4 さとく注意深い。

〖敏愼齋〗41′（ビンシンサイ）木下貞幹の號。木下順菴(**6－14415**··37)を見よ。

【敏性】42（ビンセイ）すばしこい性質。

【敏政】43（ビンセイ）政治につとめること。一說に、政令に從ふことの速かなこと。〔中庸〕人道敏レ政、地道敏レ樹。〔鄭注〕敏、猶レ勉也。〔章句〕敏、速也。

【敏誠】44（ビンセイ）さとくてまことのあること。〔孔子家語、五帝德〕黃帝者、少典之子、曰ニ軒轅一、生而神靈、弱而能言、哲睿齊莊、敦敏誠信、長聰明。

【敏切】45（ビンセツ）さとく適切なこと。〔魏志、王肅傳〕辭義敏切、辨而有レ禮。

【敏節】46（ビンセツ）宋、王庶(**7－20823**··591)の諡。

【敏捷】47（ビンセフ）すばしこい。〔漢書、酷吏、嚴延年傳〕延年爲レ人短小精悍、敏ニ捷於事一。〔蜀志、張裔傳〕汝南許文休入レ蜀、謂、裔幹理敏捷、是中夏鍾元常之倫也。〔宋書、張暢傳〕孝伯足ニ詞辯一、亦北土之美、暢隨レ宜應答、甚爲ニ敏捷一。

【敏贍】48（ビンセン）敏捷で智識が多い。〔陳書、蔡徵傳〕隋文帝聞ニ其敏贍一召見。〔南史、臧盾傳〕爲レ人敏贍有ニ風力一。

【敏聰】49（ビンソウ）さとい。かしこい。聰敏(**9－29154**「··28)に同じ。

【敏則】50（ビンソク）宋、趙宗潔(**10－37171**··757)の字。

【敏速】51（ビンソク）とくはやい。すばやい。敏疾。捷速。〔晉書、車胤傳〕風姿美劭、機悟敏速。

【敏遜】52（ビンソン）すばしこくて人にへりくだる。敏捷謙遜。〔晏子、問、上〕其言彊梁而信、其進敏遜而順、此佞人之行也。

【敏道】53（ビンダウ）宋、朱裕(**6－14424**··581)の字。

【敏達】54（ビンタツ）❶さとくて事理に通達する。〔漢書、京房傳〕敏達好レ政、欲ニ爲レ國忠一。〔後漢書、袁譚傳〕行レ之以ニ敏達一。〔北史、崔浩傳〕性敏達、長ニ于謀計一。❷清、李衞(**6－14459**··62)の諡。

【敏智】55（ビンチ）さとい。さとい智慧。機智。聰敏。〔劉攽、三聖殿賦〕敏智通達。

❸（ビダツ）第三十代の帝諡。

【敏中】56（ビンチユウ）字號。❶南唐、游簡言(**7－17792**··339)の字。❷清、嚴果(**2－4589**··62)の字。

【敏仲】57（ビンチユウ）字號。❶宋、陳駿(**11－41698**··347)の字。❷元、李好古(**6－14459**··932)の字。❸清、馬之迅(**12－44572**··795)の字。

【敏德】58（ビントク）❶すみやかに德を修めること。德を修めるに敏なること。〔書、大禹謨〕后克艱ニ厥后一、臣克艱ニ厥臣一、政乃乂、黎民敏レ德。〔傳〕敏、疾也、能知ニ爲レ君難、爲レ臣不一レ易、則其政治、而衆民皆疾修レ德。❷さとい德。機敏な德。〔書、康誥〕丕則ニ敏德一、用康ニ乃心一。〔疏〕大當ニ法爲ニ機敏之德一。〔周禮、地官、師氏〕以ニ三德一教ニ國子一、云云、二曰敏德、以爲ニ行本一。〔疏〕謂ニ敏達之德一。〔朱子全書、禮、周禮〕敏德云者、彊志力行、畜レ德廣レ益之事、行則理之所レ當レ爲、日可レ見之迹也。❸明、吳訥(**2－3365**··338)の字。

【敏南】59（ビンナン）清、蕭捷三(**9－32012**··437)の字。

【敏夫】60（ビンプ）字號。❶宋、計有功(**10－35220**··94)の字。❷清、戴璐(**5－11685**··146)の字。

【敏馬】61（ミヌメ）❶攝津國の古地名。❷（トシマ）姓氏。

【敏辯】62（ビンベン）さとく辯ずる。口前の達者なこと。又、其の辯說。〔宋史、王沔傳〕沔聰察敏辯。

【敏邁】63（ビンマイ）すぐれてさとい。〔東軒筆錄、三〕至レ如ニ歐陽允叔之詩一、才力敏邁、句亦健美、但恨三其少ニ餘味一耳。

【敏妙】64（ビンメウ）さとくて妙である。賢い。〔遼史、文學下、王鼎傳〕唐俊驚ニ其敏妙一。

【敏勇】65（ビンユウ）清、覺善(**10－34973**··39)の諡。

【敏膺】66（ビンヨウ）清の僧。蘇州花山翠巖寺に居る。著に香城內外集がある。〔四庫提要、一百八十五〕。

【敏練】67（ビンレン）さとく熟練してゐる。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕才猷敏練者。

【敏腕】68（ビンワン）敏捷なうでまへ。うできき。

〖敏腕家〗69（ビンワンカ）敏腕な人。

【敏有レ功】70（ビンナレバコウアリ）すばやく事を勤めれば成功する。〔論語、陽貨〕寬則得レ衆、信則人任焉、敏則有レ功、惠則足ニ以使一レ人。

【⿰㐆攵】13218

㊀シン ジン〔集韻〕丞眞切 眞

㊁シン〔集韻〕止忍切 軫

㊀❶**よろこんでうごくさま。又、うつ。**殷(**6－16632**)に同じ。〔集韻〕殷、喜而動皃、一曰、擊也、或从レ攴。❷**うつおと。**〔玉篇〕⿰㐆攵、擊聲。㊁㊀の❶に同じ。〔集韻〕⿰㐆攵、⿰㐆攵、喜而動皃、一曰、擊也。

【敹】13219

㊀セン〔集韻〕失冉切 琰

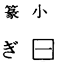
㊁ダフ ネフ〔集韻〕昵洽切 洽

㊀❶⿰鬳攵敹は、手をあげるさま。〔集韻〕敹、⿰鬳攵敹、擧レ手皃。❷敹數は、定まらぬさま。〔集韻〕數、敹數、不レ定皃。㊁**つきる。つくす。**〔集韻〕敹、盡也。

【散】13220

カン 敢(**5－13260**)の篆字。〔玉篇〕散、篆文敢字。

【救】13221


小篆

㊀キウ ク〔集韻〕居又切 宥 ㄐㄧㄡˋ chiu^4

㊁ク〔集韻〕恭于切 虞

㊀❶**すくふ。**㋑導きとめる。ふせぎ止める。〔說文〕救、止也、从レ攴求聲。〔周禮、地官、序官〕司救。〔注〕救、猶レ禁也、以レ禮防ニ禁人之過一者也。〔論語、八佾〕女弗レ能レ救與。〔集解〕馬融曰、救、猶レ止也。〔皇疏〕救、猶ニ諫止一也。〔孝經、事君章〕匡ニ救其惡一。〔注〕救、止也。㋺たすける。〔廣雅、釋詁二〕救、助也。〔詩、邶風、谷風〕凡民有レ喪、匍匐救レ之。〔周禮、地官、大司徒〕五族爲レ黨、使ニ之相救一。〔注〕救、救ニ凶災一也。〔禮、檀弓下〕扶服救レ之。〔注〕救、猶レ助也。〔禮、孔子閒居〕匍匐救レ之。〔注〕救レ之、賙ニ恤之一。〔穀梁、僖、元〕救不レ言レ次、言レ次、非レ救也。〔注〕救、赴レ急之意。㋩まもる。〔廣韻〕救、護也。㋥なほす。治療する。〔呂覽、觀學〕是救レ病而飮レ之以レ堇也。〔注〕救、治也。❷**すくひ。**たすけ。〔戰國、趙策〕求ニ救於齊一。❸**くつさきのかざり。**〔爾雅、釋器〕絇謂ニ之救一。〔注〕救、絲以爲レ絇。〔疏〕絇、屨頭飾也。〔郝懿行義疏〕救之言、糾也、糾繚斂聚之意、穀梁襄二十七年傳云、織ニ絇邯鄲一、是絇、織レ絲爲レ之也。❹捄(**5－12127**)に通ず。〔說文通訓定聲〕救、漢書多以レ捄爲レ之。❺**姓。**〔萬姓統譜〕救、見ニ

風俗通。二すくふ。とめる。〔集韻〕救、禁也、周官有司救、劉昌宗讀。

名乘 ナリ。ヒラ。ヤス。スケ。

【救惡】1（キウアク） 惡い點を止めすくふ。〔孝經、事君章〕將順其美、匡救其惡。

【救安】2（キウアン） すくひやすんずる。〔漢書、匈奴傳贊〕冀以救安邊境。

【救衞】3（キウエイ） すくひまもる。〔晉書、華恒傳〕盡心救衞、故得免。

【救暍】4（キウエツ） 暑氣あたりをたすける。暍は暑さに中ること。〔淮南子、說林訓〕救暍而飮之寒。

【救援】5（キウエン） すくひたすける。救助。援救。〔蜀志、宗預傳〕一欲以爲救援、二欲以事分割也。〔韓愈、張中丞傳後序〕賊語以國亡主滅、遠見救援不至、而賊來益衆、必以其言爲信。

【救應】6 chiu⁴ ying⁴ ❶助ける。救助する。❷答へる。應ずる。

【救駕】7 chiu⁴ chia⁴ 天子を救援する。

【救解】8（キウカイ） 人の罪をすくふためにいひわけする。〔漢書、杜欽傳〕救解馮野王・王尊・胡常之罪過。〔宋史、孫思恭傳〕歐陽脩出政府、思恭盡力救解。

【救鴿】9（キウカフ） 鴿を救ふ。如來が鷹に追はれた鴿のために腿の肉を切つて鷹に與へ、鴿を救つた故事。〔洛陽伽藍記、城北〕凝圓寺、云云、（惠生）於是西北行七日、渡一大水、至如來爲尸毗王救鴿之處、亦起塔寺。〔法苑珠林〕昔有一比丘、乞食至穿珠家、時彼珠師爲國王穿摩尼珠、比丘衣赤、往映彼珠、其色紅赤、彼穿珠師、卽入其舍、爲比丘取食、時有一鵝、見珠赤色、其狀似肉、卽便呑之、珠師持食以施比丘、尋卽覓珠、不知所在、珠師急語比丘言、得我珠耶、比丘恐殺鵝取珠、當設何計得免斯患、卽說偈言、菩薩往昔時、捨身以救鴿、我亦作是意、捨命欲代鵝。

【救扞】10（キウカン） すくつてふせぎ守る。〔冊府元龜〕命左右救扞、獲免。

【救危】11（キウキ） あやふいのを救ふ。〔論衡、幸偶〕衞之驂乘者見御者之過、從後呼車、有救危之義、不被其罪。

【救匱】12（キウキ） 鹽鐵論の篇名。

【救饑】13（キウキ） 饑饉を救ふ。〔國語、晉語四〕晉國饑、公問於箕鄭曰、救饑何以。

【救急】14（キウキフ） 急場をすくふ。急難を救ふ。〔魏志、張邈傳〕振窮救急、傾家無愛、士多歸之。〔顏氏家訓、雜藝〕居家得以救急。

【救急稻】15（キウキフタウ） 救急の料として貯へおく稻。平安朝時代に飢饉などにそなへておいた稻。〔類聚三代格、八〕經用破損、隨亦修理、其料用救急稻。

【救急仙方】16（キウキフセンパウ） 書名。六卷。撰者未詳。瘍醫の術をのぶ。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【救給】17（キウキフ） 救つて物を與へる。〔後漢書、獨行、劉翊傳〕翊救給之絕、資其食者數百人。

【救窮】18（キウキユウ） ❶窮迫を救ふ。困窮を救ふ。〔通俗編、境遇、救窮〕說苑反質篇、今當凶年、有欲予子隋侯珠者、不得賣也、又欲予子一鍾粟、得珠不得粟、得粟不得珠、子將何擇、滑釐曰、吾取粟耳、可以救窮。❷草の名。黃精の異名。なるこゆり。〔本草、黃精〕釋名、黃芝、戊己芝、菟竹、鹿竹、仙人餘糧、救窮草、米餔、野生薑、重樓、雞格、龍銜、垂珠。〔抱朴子、仙藥〕黃精、一名兎竹、一名救窮、一名垂珠、服其花勝其實、服其實勝其根。

【救禦】19（キウギヨ） すくひふせぐ。〔國語、晉語二〕恐其如壅大川、潰而不可救禦也。

【救凶】20（キウキヨウ） 凶年を救ふ。救荒(25)に同じ。〔白居易、別州民詩〕唯留一湖水、與汝救凶年。

【救火】21（キウクワ） ❶火をすくふ。火事を消しとめる。消火。〔孟子、告子上〕今之爲仁者、猶以一杯水、救一車薪之火也。〔鄧析子、無厚〕不治其本而務其末、譬如拯溺錘之以石、救火投之以薪。〔漢書、高五王、燕靈王建傳〕勃曰、失火之家、豈暇先言丈人後救火乎。❷螢の異名。〔本草、螢火〕釋名、夜光、熠燿、郎炤、夜炤、景天、救火、據火、挾火、宵燭、丹鳥。

【救火機】22 chiu⁴ huo³ chi¹ 消防用ポンプ。救火車。

【救火的】23 chiu⁴ huo³ tê 消防夫。

【救火夫】24（キウクワフ） 消防夫。〔願體集〕凡城郭村鎭、公設救火夫數十名、使其晝夜巡邏。

【救荒】25（キウクワウ） 飢饉をすくふ。凶年の困苦を助けすくふ。救凶。〔宋史、趙抃傳〕吳越大饑、疫死者過半、抃盡救荒之術。

【救荒作物】26（キウクワウサクモツ） 飢饉の場合、栽培に適した作物。旱濕風雨にあまりいたまず、瘠せた土地にもよく栽培することが出來るもの。菊芋・馬鈴薯・稗等の類。

【救荒本草】27（キウクワウホンザウ） 書名。八卷。明、朱橚撰。後、嘉靖年間、陸柬が野菜譜を加へ、胡乘に至り、現本の體裁を定む。飢饉を救ふべき植物四百十四種について記す。其の目は草・木・米穀・果・菜。以上の內、本草綱目から出るもの一百三十八種、新に加へたもの二百七十六種。〔四庫提要、史、政書類〕。

【救荒活民書】28（キウクワウクワツミンシヨ） 書名。三卷。宋、董煟撰。凶年を救ふ策を記す。〔四庫提要、史、政書類〕。

【救活】29 chiu⁴ huo² 命を助ける。

【救患】30（キウクワン） わざはひを救ふ。〔淮南子、人閒訓〕人皆務於救患之備、而莫能知使患無生。

【救傾】31（キウケイ） 傾いたのを助ける。〔國語、吳語〕吾先君之得之也、必有以取之、其亡之也、亦有以棄之、用能援持盈以沒、而驟救傾以時。

【救經】32（キウケイ） 自ら首をくくる者をすくふ。〔淮南子、說林訓〕救經而引其索。

【救月】33（キウゲツ） 月蝕の時、祈禱鼓噪して月の蝕するのを救ふこと。護月。〔周禮、地官、鼓人〕救日月、則詔王鼓。〔注〕救日月食。

【救月之矢】34（キウゲツノヤ） 矢の名。月蝕の時に作る。〔周禮、秋官、庭氏〕掌射國中之夭鳥、若不見其鳥獸、則以救日之弓與救月之矢夜射之。〔注〕鄭司農云、救日之弓、救月之矢、謂日月食所作弓矢。

【救護】35（キウゴ） ❶すくひまもる。救助保護。〔左氏、昭、十八〕使祝史徙主祏於周廟、告于先君。〔注〕有火災、故合羣主於祖廟、易救護。〔後漢書、朱浮傳〕上下燋心、相望救護。〔六部成語、刑部、救護、注解〕救援保護之也。❷日月蝕の五箇月以前に於て欽天監から奏聞し、各省に分行して祈禱鼓噪し、之を救ふ禮を行ふをいふ。〔淸會典事例、欽天監、職掌、交食〕原定、日食分秒時刻、月食時刻、帶食分秒時刻、皆按法推算、前期五月、繪圖具題、旨下禮部、通行天下救護、自初虧起、至復圓止、帶出地平、自見食起、至復圓止、食不及一分、不行救護。

【救護法】36（キウゴハフ） もと、六十五歲以上の老衰者、十三歲以下の幼者、姙產婦、不具癈疾者、心身障害者で貧困のため生活出來ない者を、居住地の市町村長が、生活扶助、醫療、助產、生業扶助の種類によつて救護した法律。

【救護班】37（キウゴハン） ❶赤十字社が戰時に於いて編成した救護上の團體。❷傷病者を救護するために設けた團體。

【救護事業】38（キウゴジゲフ） 窮民救助・老癈疾者救護等を目的とする慈善的社會事業。

【救災】39（キウサイ） ❶災難をすくふ。〔左氏、僖、十三〕天災流行、國家代有、救災恤鄰、道也。❷賑濟の法。水災震災等があつて政府で救助の費用を給するをいふ。〔淸會典、戶部〕凡荒政十有二、一曰備祲、二曰除孽、三曰救災。

【救濟】40（キウサイ） すくふ。たすける。救恤。濟救。拯救。〔吳志、孫權傳〕思平世難、救濟黎庶。

【救濟院】41（キウサイヰン） 地方慈善機關。自活力のない老・幼・殘廢人を教養し、貧民の健康を保護し、貧民の生計を救濟するを目的とする。卹老・孤兒・殘廢・育嬰・施醫・因利等の所を設く。

【救濟會】42（キウサイクワイ） 艱難を互に救ひ合ふ目的を以て設立する組合。

【救濟權】43（キウサイケン） 權利が侵害された場合、その救濟を求めることを內容とする權利。損害賠償請求權、返還權等の類。

【救止】44（キウシ） すくひとどめる。〔蘇轍、爲兄軾下獄上書〕臣誠哀云云、已陷於刑辟、不可救止。

【救死】45（キウシ） 死に瀕するものを救ふ。死亡の災

を救ふ。〔孟子、梁惠王上〕救レ死而恐レ不レ贍。

【救施】46（キウシ） すくひほどこす。〔孔叢子、抗志〕今起以レ貪成レ富、聞ニ於諸侯一、而無ニ救施之惠一焉。

【救時】47（キウジ） 時世をすくふ。時弊を匡救する。救世。〔唐書、姚崇傳〕崇爲ニ救時宰相一。

【救日】48（キウジツ） 日蝕の時、祈禱鼓噪して日の蝕するのを救ふ。護日。〔禮、曾子問〕如諸侯皆在而日食、則從ニ天子一救レ日、各以ニ其方色與ニ其兵一。

〔救日之弓〕49（キウジツノユミ） 弓の名。日蝕の時に作る。救月之矢(34)を見よ。

【救將】50（キウシヤウ） 救援の大將。

【救餉】51（キウシヤウ） 糧食をおくりたすける。〔史記、匈奴傳〕漢兵中外不レ得ニ相救餉一。

【救主】52 chiu^4 chu^3 キリストをいふ。救世主(63)に同じ。

【救守】53（キウシユ） 守備を修める。〔尉繚子、武議〕千乘救守。〔詮解〕救守者、修ニ整守備一也。

【救恤】54（キウジユツ） すくひあはれむ。救濟。救助。救護。救援。〔魏志、張範傳〕救ニ恤窮乏一、家無レ所レ餘。〔唐書、蘇世長傳〕陛下救恤之言、未レ出レ口。

〔救恤金〕55（キウジユツキン） 救恤のために貯蓄し、又は義捐する金。

【救助】56（キウジヨ） すくひたすける。救恤。〔戰國、燕策〕胡與ニ越人一、言語不ニ相知一、志意不ニ相通一、同レ舟而凌レ波、至ニ其救助一如レ一也。〔漢書、鼂錯傳〕邑里相救助、赴レ胡不レ避レ死。〔後漢書、竇融傳〕雖レ承ニ威靈一、宜ニ速救助一。〔後漢書、盧芳傳〕單于不レ忘ニ舊德一、權立救助。

〔救助米〕57（キウジヨマイ） 救助の目的で貯蓄した米。施與する米。

〔救助信號〕58（キウジヨシンガウ） 危難にある際、救助を求めるための信號。赤旗・赤燈等をふつて信號し、萬國船舶信號ではS・O・Sを發信することになつてゐる。

【救拯】59（キウジヨウ） すくひたすける。

【救蝕】60（キウシヨク） 日蝕、月蝕を救ふ。中國古代、日蝕、月蝕を日月の災なりとし、これを救ふと稱して種々の行事を行つた。〔宋書、禮志一〕凡救蝕者、皆著ニ赤幘一以助レ陽也。

【救世】61（キウセイ） 世をすくふ。〔左氏、昭、六〕復書曰、若ニ吾子之言一、僑不才、不レ能レ及ニ子孫一、吾以救レ世也、既不レ承レ命、敢忘ニ大惠一。〔韓詩外傳、八〕若ニ申伯仲山甫一、可レ謂レ救レ世矣。〔莊子、天下〕我必得レ活哉、圖レ傲ニ乎救レ世之士一矣。

〔救世軍〕62（キウセイグン） 基督教の一派。一八六五年、英人プース氏が創始したもの。貧民又は窮者の救濟に從事し、傳道の組織は軍隊的で、將校又は下士卒の名を用ひた。

〔救世主〕63（キウセイシユ） 世をすくふ主。すくひぬし。罪惡によつて滅亡する人類を救ふ者の義。キリストの異稱。

〔救世濟民〕64（キウセイサイミン） 世の中をすくひ、民の難儀をすくふ。

〔救世砭劑〕65（キウセイノヘンザイ） 人世を救濟する藥となるをいふ。砭は石の針で、醫師の病を療する具。劑は藥劑。〔唐書、儒學傳序〕武爲ニ救世砭劑一。

【救正】66（キウセイ） すくひただす。〔福惠全書、錢穀部、比較、完糧獎勵〕惟在下上者濬ニ發之一、迎ニ其機一而救中正之上耳。

【救生】67 chiu^4 shêng^1 命を救ふ。救生船を見よ。

〔救生局〕68 chiu^4 shêng^1 chü^2 救助所。溺水者救護會。

〔救生圈〕69 chiu^4 shêng^1 ch'üan^1 救命器。浮き袋。救命圈。救命帶。

〔救生船〕70（キウセイセン） 水の危險な所に設けた船。助け船。一名、紅船。〔淸會典事例、工部、船政〕雍正十三年議准、川省奉節等縣、各設ニ救生船一。

【救星】71 chiu^4 hsing^1 救助の神。救世主。

【救請】72（キウセイ） 助けるやうに願ふ。〔顏氏家訓、歸心〕王克爲ニ永嘉郡守一、有レ人餉レ羊、集レ賓欲レ讌、而羊繩解、來投ニ一客一、先跪兩拜、便入ニ衣中一、此客竟不レ言レ之、固無ニ救請一。

【救船】73（スクヒブネ） たすけぶね。

【救頹】74（キウタイ） 老衰を救ふ。〔謝靈運、山居賦〕採レ藥救レ頹。

【救敵】76（キウテキ） 敵國を救援する。〔管子、中匡〕安ニ卿大夫之家一、而後可三以危ニ救レ敵之國一。〔纂詁〕救レ敵之國、救ニ援敵國一之國也。

【救溺】77（キウデキ） おぼれる者を救ふ。〔呂覽、擧難〕救レ溺者濡。

【救度】78（キウド） 人を救ひ濟度する。〔雲笈七籤〕無上法母爲ニ太上道君一說ニ元精經一、令三救ニ度好生保命之人一。

【救難】79（キウナン） なんぎをすくふ。拯難。〔史記、陳丞相世家贊〕常出ニ奇計一、救ニ紛糾之難一、振ニ國家之患一。

【救寧】80（キウネイ） すくひやすんずる。

【救熱】81（キウネツ） 熱を除き去る。〔左氏、襄、三十一〕禮之於レ政、如ニ熱之有レ濯也、濯以救レ熱、何患之有。

【救亡】82（キウバウ） ほろびるものを救ふ。〔孔叢子、執節〕今秦有下吞ニ食天下一之心上、以レ義事レ之、固不レ獲レ安、救亡不レ暇、何化之興。

【救拔】83（キウバツ） 助ける。救ふ。〔朱子全書、學、敎人〕如レ此則雖レ有ニ賢師長一、亦無下救ニ拔自家一處上矣。

【救乏】84（キウバフ） 乏しいのをすくふ。〔左氏、文、十五〕救レ乏、賀レ善、弔レ災、祭敬、喪哀、情雖レ不レ同、毋レ絕ニ其愛一、親之道也。

【救病】85（キウビヤウ） 病氣を治療する。〔呂覽、勸學〕是救レ病而飮レ之以レ堇也。〔注〕救、治也。

【救撫】86（キウブ） すくひいたはる。〔尉繚子、守權〕發ニ其窖廩一救撫。

【救兵】87（キウヘイ） 救ひの兵。援兵。〔史記、李將軍傳〕陵食乏而救兵不レ到。〔鄒陽、上ニ書吳王一書〕鬭城不レ休、救兵不レ止、死者相隨、輦車相屬。〔司馬遷、報ニ任少卿一書〕轉鬭千里、矢盡道窮、救兵不レ至。

【救敝】88（キウヘイ） 救弊に同じ。〔後漢書、王充等傳論〕引ニ救敝之規一、宜レ流ニ於長世一。

【救弊】89（キウヘイ） 衰へ破れたのを救ふ。疲弊を救ふ。又、弊害を救ふ。拯弊。救敝。〔白虎通、三教〕王者設ニ三教一者何、承レ衰救レ弊、欲三民反ニ正道一也。

【救邊】90（キウヘン） 潛夫論の篇名。

【救民】91（キウミン） 民を救ふ。〔孟子、滕文公下〕救ニ民於水火之中一。

【救命】92（キウメイ） 命をたすける。〔後漢書、董卓傳〕(賈)詡曰、此救命之計、何功之有。〔北史、魏道武七王羅傳〕羅通ニ叉妻一、時人穢レ之、或云、其救命之計也。

〔救命具〕93（キウメイグ） 溺死救助用の器具。

〔救命圈〕94（キウメイケン） 救命帶に同じ。

〔救命帶〕95（キウメイタイ） 水に溺れることを防ぐ具。ヅック製の環狀の袋の中にコルクをつめたもの。救命浮環。救生圈。救命圈。

【救藥】96（キウヤク） すくふ。又、病をなほす。不レ可ニ救藥一を見よ。

〔不レ可ニ救藥一〕97（キウヤクスベカラズ） 匡救藥治することの出來ないこと。救ふことの出來ぬこと。〔詩、大雅、板〕匪ニ我言耄一、爾用レ憂謔、多將ニ熇熇一、不レ可ニ救藥一。〔集傳〕如ニ火之盛不レ可ニ復救一矣。〔疏〕多行ニ慘毒之惡一、使三熇熇然惡加ニ於民一、不レ可三救止而藥ニ治之一。〔資治通鑑、唐紀〕(昭宗、天德三年)臣光曰、疾成ニ膏肓一、不レ可ニ救藥一矣。

【救爛】98（キウラン） やけただれるのを救ふ。民の塗炭の苦を救ふ。〔鹽鐵論、刑德〕昔秦法、繁ニ于秋荼一、而網密ニ于凝脂一、然而上下相遁、姦僞萌生、有司治レ之、若ニ救爛撲焦一、不レ能レ禁レ非。

【救療】99（キウレウ） すくひいやす。療救。救藥。〔左氏、襄、二十六〕今楚多ニ淫刑一、其大夫逃ニ死於四方一、而爲ニ之謀主一、以害ニ楚國一、不レ可ニ救療一。〔注〕療、治也。〔北史、李元忠傳〕性仁恕、無ニ貴賤一、皆爲ニ救療一。

【乞レ救】100（タスケヲコフ） たすけをねがふ。〔明徵錄〕南龍公曰、異邦乞レ救、本朝之榮也。

【救孝子】101（キウカウシ） 元曲選百種中の一。元、王仲文撰。正名を救孝子賢母不認屍といふ。賢母李氏が其の庶子楊謝祖を救ひ、謝祖が李に事へて孝を盡すことを演ずる。

【救苦齋】102（キウクサイ） 佛朝廷で民衆の病患・災厄を除くために臨時に行はれる佛會供養。梁の武帝に始まり、歷朝之を行ふ。我が國でも諸種の名稱で、天災・地變・惡疫流行の時などに行はせられた。〔南史、梁武帝紀下〕(中大通元年)都下疫甚、帝於ニ重雲殿一、爲ニ百姓一設ニ救苦齋一、以レ身爲レ禱。

【救風塵】103（キウフウヂン） 元曲選百種中の一。元、關漢卿撰。其の題目を安秀才花柳成花燭といひ、正名を趙盼兒風月救風塵といふ。

【救荷損失】104 chiu^4 hê^4 suen^3 shih^1 船舶遭難のため損失した積荷を安價に賣りさばいて

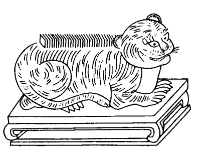
他の部分を救ふために生ずる損失。

【敒】13222
㊀チン ヂン〔集韻〕直刃切 震
㊁シン〔集韻〕升人切 眞
㊂ショウ〔集韻〕辰陵切 蒸
小篆
㊀㊁㊂❶をさめる。〔說文〕敒、理也、从㆑攴伸聲。〔類篇〕敒、治也。❷のべる。ひきもどす。伸(1―481)に同じ。〔集韻〕伸、申也、引戾也、或作㆑敒。

【敓】13223 タツ ダチ〔集韻〕徒活切 曷
小篆（說文） 小篆（段注本）
❶うばふ。ぬすむ。しひてとる。〔說文〕敓、彊取也、周書曰、敓攘矯虔、从㆑攴兌聲。〔段注〕此是爭敓正字、後人叚㆑奪爲㆑敓、奪行而敓廢。❷奪(3―5994)に通ず。〔說文通訓定聲〕敓、經傳皆以㆑奪爲㆑之。❸姓。〔廣韻〕敓、姓也。

【敔】13224 ギョ ゴ〔集韻〕偶擧切 ㄩˇ yü³ 語
小篆
❶さしとめる。圉(3―4793)・禦(8―24820)に通ず。〔說文〕敔、禁也、从㆑攴吾聲。〔段注〕與㆓圉禦㆒音同、云云、則敔爲㆓禁禦本字㆒、禦行而敔廢矣。❷樂器の名。衆樂をやめるときにかきならすもの。木製で虎の臥した形、上に二十七のきざがあり、木片でなでてならす。〔說文〕敔、一曰、樂器、控楬也、形如㆓木虎㆒。〔爾雅、釋樂〕所㆓以鼓㆑敔、謂㆓之籈㆒。〔注〕敔、如㆓伏虎㆒、背上有㆓二十七鉏鋙刻㆒、以㆓木長尺㆒櫟㆑之。〔白虎通、禮樂〕敔、終也。〔釋名、釋樂器〕敔、衙也、衙、止也、所㆓以止㆑樂也。〔書、益稷〕合止柷敔。〔鄭注〕敔、狀如㆓伏虎㆒、背有㆑刻、以㆑物櫟㆑之、所㆓以止㆑樂。

【敔舲】1ギョレイ 清、崇恩(4―8152・・14)の號。


敔　(禮器圖)

【敕】13225 チョク チキ〔集韻〕蓄力切 ㄔˋ ch'ih⁴ 職
小篆
❶いましめる。〔說文〕敕、誡也、从㆑攴束聲。〔釋名、釋書契〕敕、飭也、使㆔自警飭、不㆓敢廢慢㆒也。〔史記、樂書〕余每㆘讀㆓虞書㆒至㆗於君臣相敕㆖。❷つげる。〔廣雅、釋詁一〕敕、語也。〔班固、典引〕憚㆓勅天㆒乎。〔注〕翰曰、勅、告也。❸みことのり。天子制詔の一。漢代に於ては下吏を戒飭するに用ひられたが、後世は其の使途廣まる。一說に、漢代には汎く上より下を戒飭するに用ひ、南北朝以降、專ら朝命の稱となるといふ。〔後漢書、光武紀上、辛未詔曰、注〕漢制度曰、帝下書有㆑四、一曰策書、二曰制書、三曰詔書、四曰誡敕、誡敕者、謂㆑敕㆓刺史太守㆒。〔正字通〕敕、宋敕或用㆓之于獎諭㆒、非㆓敕初意㆒、云云、明制凡褒嘉責讓並用㆑敕。〔金石文字記〕敕者、自㆑上命㆑下之辭、漢時官長行㆓之掾屬㆒、祖父行㆓之子孫㆒、皆曰㆑敕、至㆓南北朝以下㆒、則此字惟朝廷專㆑之。〔文體明辯、敕〕按、字書云、敕、戒敕也、亦作㆑勅、劉熙云、敕飭也、使㆔之警飭不㆓敢廢慢㆒也、劉勰云、戒敕爲㆑文實詔之切者、周穆王命㆓郘父㆒受㆓勅憲㆒、此其事也、漢制、天子命令有㆑四、其四曰、戒書、卽戒敕也、唐制、王言有㆑七、其四曰、發勅、五曰、勅旨、六曰、論事勅書、七曰、勅牒、則唐之用㆑勅廣矣、宋亦有㆑敕、或用㆓之於獎諭㆒、豈敕之初意哉、其詞有㆓散文㆒有㆓四六㆒、云云、宋制、戒㆓勵百官㆒曉㆓諭軍民㆒別有㆓敕牓㆒、今制諸臣差遣多予㆑勅行㆑事、詳載㆓職守㆒、申以㆓勉詞㆒、而褒獎責讓亦用㆑之、詞皆散文、又六品已下官贈封亦稱㆓敕命㆒、始兼㆓四六㆒、亦可㆔以見㆓古文興復之漸㆒云。〔事物紀原、敕〕三代以上、王言有㆓典謨訓誥誓命凡六等㆒、總謂㆓之書㆒、漢初定儀則四品、其四曰㆓戒敕㆒、今敕是也、自㆑此帝王命令稱㆑敕、至㆓唐顯慶中㆒、始云、不㆑經㆓鳳閣鸞台㆒、不㆑得㆑稱㆑敕、其名遂定㆓于此㆒。〔北史、齊神武傳〕使㆓溫子昇草㆑敕。〔陔餘叢考、敕〕凡官長之諭㆓其僚屬㆒、尊長之諭㆓其子弟㆒、皆曰㆑敕。❹ただす。〔小爾雅、廣言〕敕、正也。〔班固、典引〕憚㆓勅天㆒乎。〔注〕善曰、敕、正也。❺ととのふ。整へる。〔張衡、思玄賦〕懼㆓余身之未㆑敕。〔注〕衡曰、敕、整也。❻そなへる。〔方言、十三〕敕、備也。〔韓非子、主道〕賢者勅㆓其才㆒、君因而任㆑之。❼をさめる。〔廣雅、釋詁二〕敕、理也。❽つつしむ。〔廣雅、釋言〕敕、謹也。〔漢書、禮樂志〕敕㆑身齊戒。〔注〕應劭曰、敕、謹敬之貌。❾勞する。〔爾雅、釋詁〕敕、勞也。〔注〕敕者、相約敕也、亦爲㆓勞苦㆒。❿すすめる。〔廣雅、釋詁二〕敕、進也。⓫かたい。飭(12―44057)に通ず。〔說文通訓定聲〕敕、叚借爲㆑飭。〔詩、小雅、楚茨〕既匡既敕。〔傳〕敕、固也。⓬せめる。〔廣韻〕敕、急也。〔後漢書、馬防傳〕數加㆓譴敕㆒。⓭さす。地につきたてる。敱(5―13326)に通ず。〔說文通訓定聲〕敕、叚借爲㆑敱。〔說文〕敕、一曰、臿㆑地曰㆑敕。⓮勅(2―2354)・勑(2―2380)に通ず。〔說文通訓定聲〕敕、字亦作㆑勅、相承又以㆑勑爲㆑之。⓯姓。〔萬姓統譜〕敕、望出㆓遼東㆒。

名乘 タダ。トキ。

參考 ❶敇(5―13175)・攲(5―13079)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕敇、音策、擊㆑馬、敕、音赤、制書。〔康熙字典、辨似、二字相似〕攲、音奇、橫首枝也、敕、音勅、試也。❷勑(2―2380)は元來別字。〔陔餘叢考、敕、自注〕甕牖閒評云、敕字從㆑束、從㆑文、不㆑從㆑來從㆑力、或作㆓敕字㆒乃變體書、猶可㆑用也、至㆔乃作㆓勑字㆒、則賚字非㆓敕字㆒矣。

【敕意】1チョクイ みことのりの御趣旨。

【敕允】2チョクイン 勅によつてゆるす。敕許。

【敕戒】3チョクカイ ただしいましめる。いましめ。敕誡。〔漢書、息夫躬傳〕天之見㆑異、所㆘以敕㆓戒人君㆒欲㆖令㆓覺悟反㆑正。〔後漢書、陰識傳〕敕㆓戒貴戚㆒。〔魏志、任城威王彰傳〕呼有㆑所㆓敕戒㆒。〔韓愈、元和聖德詩〕敕㆓戒四方㆒、侈則有㆑咎。

【敕誡】4チョクカイ いましめる。敕戒。〔廣韻〕敕、誡也。〔孔叢子、論書〕以成㆓敕誡之文㆒。

【敕額】5チョクガク 天子の敕命によつて寺を建てる時に賜ふ額。〔名物六帖〕通鑑周紀、世宗敕㆓天下寺院㆒、非㆓敕額㆒者悉廢㆑之、胡三省注、敕額者、敕㆓賜寺額㆒、如㆓慈恩・安國・興唐之類㆒、按、敕許建㆑寺、則賜㆑額、謂㆓之敕額㆒、非㆓宸筆扁額㆒也。〔宋史、食貨志上二〕戶部議、併㆓撥無敕額庵院田㆒。

【敕勘】6チョクカン 天子のおとがめを受けて逐ひ退けられる。勅命による勘當の義。〔太平記、二十八、慧源禪巷南方合體〕依㆓義貞等讒㆒、無㆑罪罷㆓成敕勘之身㆒。

【敕躬】7チョクキュウ 我が身をいましめる。〔漢書、孔光傳〕然後敕㆑躬自約、總㆓正萬事㆒。

【敕許】8チョクキョ 天子のおゆるし。勅命による免許。勅免。〔南史、褚翔傳〕以二秩滿一、吏人詣レ闕請レ之、敕許焉。〔慈恩傳〕謹附啓謝聞、事重人微、不レ能二宜盡一、法師已蒙二敕許一、遂改葬焉。

【敕喚】9チョククワン 天子のまねき。〔北齊書、方伎、張子信傳〕且云敕喚。

【敕勸】10チョククワン いましめすすめる。〔漢書、谷永傳〕敕二勸耕桑一、毋レ奪二農時一。

【敕願】11チョクグワン 天子の御祈。勅命の祈願。御祈願。〔浦島年代記、五〕聖主親ら雨乞ひの勅願申すぞ頼もしき。

〖敕願寺〗12チョクグワンジ 天皇の御發願によつて建立された寺。

〖敕願所〗13チョクグワンジョ 天子の御祈禱遊ばされる社寺。〔細川家書札抄〕敕願所・御祈願所によりて調へ様可二相替一候歟。

【敕計】14チョクケイ 參仕する人々の名を奏すること。〔西宮記、六、雷鳴陣〕左中將仲平奉二內侍宣一、行二解陣事一、則遣二使於諸陣一、爲二敕計一也訖。

【敕教】15チョクケウ みことのり。天子の命令。〔魏志、牽招傳〕皆下レ席跪伏、敬受二敕教一。

【敕遣】16チョクケン 君王が佐臣を遣はすこと。〔詩、小雅、皇皇者華序〕皇皇者華、君遣二使臣一也。〔疏〕首曰二皇皇者華一、而云三君遣二使臣一、則知三此辭亦君所二敕遣一也。

【敕憲】17チョクケン みことのり。〔穆天子傳、一〕丙寅天子屬レ官效レ器、乃命二正公郊父一、受二敕憲一。〔注〕憲、教令也。

【敕語】18チョクゴ ㊀みことのり。綸言。敕言。〔宋史、藝文志二〕鄭略敕語堂判、五卷。㊁天皇が機關の參與を俟たず親ら臣民に對して發表せられる意志表示にして法律上文書によるを要しないもの。國務大臣の副署を要しない。

【敕告】19チョクコク 官を拜する時の辭令書。告敕(**2**-3381‥72)の㊁に同じ。

【敕差】20チョクサ 天子の命を奉ずる使者。敕使(30)に同じ。〔楊萬里、答二陵務觀佛祖道院之戲一詩〕道院敕差權院事、筠菴身是住菴僧。

【敕祭】21チョクサイ 勅命によつて祭られること。又、其の祭事。

【敕裁】22チョクサイ 天子の御裁斷。勅命の裁決。勅斷。〔日本政記、光仁天皇〕百川執奏數日不レ退、終得二敕裁一。

【敕葬】23チョクサウ 天子の勅命を受けて行ふ葬式。〔老學庵筆記、九〕貴臣有レ疾宣醫、及二物故一敕葬、本以爲レ恩、然中使挾二御醫一至、凡藥必服、其家不二敢問一、蓋有下爲二醫所一誤者上、敕葬則喪家所レ費、至三傾二竭貲貨一、其地又未二必善一也、故都下諺曰、宣醫納レ命、敕葬破レ家。

【敕劄】24チョクサツ 天子の賜はるかきつけ。〔魏鄭錄〕大刹宮觀皆降二敕劄一、差二主首一。

【敕參】25チョクサン もと勅任參事官の略稱。

【敕旨】26チョクシ ㊀天子のおほせ。勅諚のむね。唐代には百官の奏請施行に勅旨といふ。〔梁昭明太子、謝三敕二賚制旨大涅槃經講疏一啓〕後閤應レ敕、木佛子奉二宣敕旨一。〔唐書、百官志二〕中書省、云云、凡王言之制有レ七、云云、五曰、敕旨、百官奏請二施行一則用レ之。㊁天皇の意思、特別の思召で、これを外部に發表する形式の相違により、舊憲法下では勅語・詔書・勅書などといつた。

〖敕旨省〗27チョクシシヤウ 古、官署の名。天平寶字頃に置かれ、延曆元年廢せらる。卿、少卿、大丞、小丞等の職員を置く。〔續日本紀、三十七〕延曆元年四月癸亥、宜下且罷二造宮、敕旨二省、法花鑄錢兩司一、以充二府庫之寶一、以崇中簡易之化上。

〖敕旨田〗28チョクシデン 王朝時代、勅旨によつて諸國の空閑地、荒廢地等を開墾して公領とした田地。勅旨開田。〔日本後紀、十四〕大同元年七月戊戌、畿內敕旨田、或分二用公水一、新得二開發一、或元墾二瘠地一、遂換二良田一、加以託二言敕旨一、遂開二私田一。

〖敕旨開田〗29チョクシカイデン 敕旨田に同じ。〔類聚三代格、十二〕右檢二案內一、頃年敕旨開田遍在二諸國一、雖レ占二空閑荒廢之地一、是奪二黎元產業之便一也、云云、宜三當代以後、敕旨開田皆悉停止、令二民負作一。

【敕使】30チョクシ ㊀天子の命を奉ずる使者。〔風俗通、正失、彭城相袁元服〕敕使留葬。〔晉書、何無忌傳〕無忌僞著二傳詔服一、稱二敕使一。㊁唐代、宦官をいふ。〔資治通鑑、唐紀〕(代宗、永泰元年)敕使反邪。〔注〕唐人謂二宦官一爲二敕使一。㊂シデ 丹波國の地名。

〖敕使坊〗31チョクシバウ 奈良縣興福寺にある一坊。維摩會の敕使の止宿する處。〔南都七大寺巡禮記、興福寺〕敕使坊、號二客坊一、件坊者、維摩會使住處也、又爲二學侶集會所一。

〖敕使河原〗32テシガハラ ㊀姓名。㊁地名。

【敕賜】33チョクシ みことのりしてたまはること。〔蜀志、後主劉禪傳〕存亡敕賜、惟所レ裁レ之。

【敕請】34チョクシヤウ 勅命で請待すること。天子の御招き。〔太平記、十二、聖廟〕勅請の旨、一往雖二辭申一。

【敕狀】35チョクジヤウ みことのり。御狀。

【敕取】36チョクシユ 勅によつてとるをいふ。〔後漢書、輿服志上〕此謂下追捕考案有レ所二敕取一者之所上乘也。

【敕授】37チョクジユ ㊀唐代、六品以下に封爵を賜はるには勅授といひ、清代も又六品以下の官に覃恩に遇うて封爵を授けるに勅授といふ。〔資治通鑑、唐紀〕(睿宗、景雲元年)舊制、三品以上官冊授、五品以上制授、六品以下敕授。㊁古、五位以上に天子が親しく位を授けさせ給ふにいふ。〔選敍令〕凡內外五位以上敕授。㊂從四位以上に勅命によつて位を授けられること。宮內大臣が之を奉行する。

〖敕授帶劍〗38チョクジユタイケン 納言・參議以上の公卿に、勅旨を以て帶劍を特に許されること。〔西宮記、臨時一〕諸宣旨、敕授帶劍、牛輦車宣旨。

【敕書】39チョクショ みことのりをしたためたかきつけ。〔淸會典事例、內閣、職掌〕敕書常行之事則不レ奏。

〖敕書莊〗40チョクショサウ 敕旨田(28)に同じ。〔東大寺要錄、六〕或御筆敕書莊、或御敕旨田。

【敕身】41チョクシン 身をつつしむ。〔漢書、禮樂志〕敕レ身齋戒、施レ教申申。〔漢紀、高后紀〕敕レ身正レ己、省二其咎一、謝二其過一。〔後漢書、安帝紀〕敕レ身率レ下。〔後漢書、丁鴻傳〕敕レ身自約、不二敢僭差一。

【敕信】42チョクシン 天子の命を奉ずる使者。敕使(30)に同じ。〔靈異記、中〕聖武天皇御世、敕信巡レ夜、行二於京中一。

【敕正】43チョクセイ いましめただす。〔漢書、翟方進傳〕方進國之司直、不三自敕正以先二羣下一。

【敕詔】44チョクセウ みことのり。詔勅。

【敕宣】45チョクセン みことのり。勅命の宣旨。勅書。〔源平盛衰記、劍卷〕可三守二護天下一之由、勅宣をも蒙りてけり。

【敕撰】46チョクセン みことのりを奉じて書をえらぶ。欽定。〔四庫提要、經、易類〕易經通注、九卷、國朝大學士傅以漸・左庶子曹本榮奉敕撰。

〖敕撰歌集〗47チョクセンカシフ 勅命によつて撰んだ歌集。古今和歌集以下新續古今和歌集に至る所謂二十一代集をいふ。二十一代集(**1**-**247**‥50**6**)を見よ。

【敕選】48チョクセン 天子親ら選ばれる。

〖敕選議員〗49チョクセンギヰン もと勳功、又は學識ある三十歳以上の男子中から勅任せられた貴族院議員、任期は終身。

【敕贈】50チョクゾウ 朝廷より敕命を以て功臣及び其の先世(共に死歿せる者)に對して、爵位・名號を賜給する榮典をいふ。

【敕題】51チョクダイ 天皇のお出しになる歌の題。

【敕答】52チョクタフ ㊀天子のおこたへ。〔南史、齊高帝諸子上、蕭子雲傳〕敕答曰、此是主者守レ株、宜二急改一也。㊁天子の御下問に對する答。〔平治物語、一、許由事〕許由つひに敕答をだに申さず。

【敕斷】53チョクダン 天子のおさばき。勅裁。〔金史、賈鉉傳〕敕斷亦依二已定程式一。

【敕定】54チョクヂヤウ 勅命できめること。

【敕諚】55チョクヂヤウ みことのり。天子のおほせ。〔源平盛衰記、四十八、法皇大原入御事〕度度勅諚ありければ。

【敕條】56チョクデウ みことのりの箇條。

【敕牒】57チョクテフ 唐代、みことのりの一。事に隨つて制を承け、舊と變らぬ時に用ひる。〔唐書、百官志二〕中書省、云云、凡王言制有レ七、云云、其七曰二敕牒一、隨レ事承レ制、不レ易二於舊一則用レ之。〔韓愈、進下撰平二淮西一碑文上表〕伏奉二正月十四日敕牒一。

【敕頭】58チョクトウ 狀元(**7**-**20280**‥2)をいふ。〔稱謂錄、狀元、敕頭〕松漠紀聞續、金人科擧至レ秋盡、集二諸路擧人於燕一、名曰二會試一、凡六人取二一榜一、

首曰㆓敕頭㆒、亦曰㆓狀元㆒。

【敕任】59 チョクニン ❶古、天子が大納言以上辨官諸長官等を親しく任命せられ給ふこと。〔選敍令義解〕敕任、云云、大納言以上・左右大辨・八省卿・五衞府督・彈正尹・太宰帥。❷もと天皇の御璽をおされた辭令書を以て官に任命する手續。其の官を敕任官といひ奏任の上、親任の下に位した。

〔敕任官〕60 チョクニンクヮン もと其の辭令書に御璽をおされ、內閣總理大臣之を奉行して任命する官。高等官一・二等の稱。

〔敕任參事官〕61 チョクニンサンジクヮン もと高等官二等以上の參事官。勅參。

【敕牓】62 チョクバウ ❶勅賜の門牓。〔白居易、諷諭、兩朱閣詩〕寺門敕牓金字書、尼院佛庭寬有㆑餘。❷宋代、百官を戒勵し、軍民を曉諭するに用ひるみことのり。字解❸を見よ。

【敕法】63 チョクハフ 法令を修飭する。〔易、噬嗑〕象曰、云云、明㆑罰敕㆑法。〔王融、永明九年策㆓秀才㆒文〕改㆑憲敕㆑法。

【敕版】64 チョクバン 江戶時代初期に於ける活字印本の稱。後陽成天皇の勅版には古文孝經(亡佚)・勸學文・錦繡段等、後水尾天皇の勅版には皇宋事類寶苑等がある。

【敕萬】65 チョクバン 北周、王謙(**7**－20823··360)の字。

【敕備】66 チョクビ 正しくととのふ。〔漢書、馮奉世傳〕參昭儀少弟、行又敕備、以㆑嚴見㆑憚。

【敕筆】67 チョクヒツ 天子の御手筆。宸筆。〔醒睡笑、元和、安樂庵策傳、三〕後奈良院殿、後柏原院殿のは、皆敕筆と仰せ候が。

〔敕筆流〕68 チョクヒツリウ 後圓融帝の宸翰を祖とする書流の一派。

【敕符】69 チョクフ 勅命によつて下す符。〔續日本紀、十三〕天平十二年九月癸丑、遣㆓敕符數十條㆒、散㆓擲諸國㆒。

【敕封】70 チョクフウ ❶勅命によつて封印する。❷チョクホウ 朝廷より敕命を以て功臣及び其の先世に對して、爵位・名號を賜給するの榮典をいふ。

〔敕封藏〕71 チョクフウノクラ 敕命によつて封印され、みだりに開閉することを許されない藏。正倉院の類。勅封倉。〔台記〕永治二年五月六日、今朝入道殿、參㆓御東大寺㆒、與㆓法皇㆒、御㆓覽敕封藏寶物㆒。〔本朝世紀〕永治二年五月六日、早旦開㆓敕封倉㆒、御㆓覽寶物㆒。

【敕補】72 チョクホ 勅命を以て補任すること。〔職原抄、下、施藥院使〕件職、往古藤氏長者宣也、近代敕補歟。

【敕本】73 チョクホン 監本(**8**－23032··108)の異名。

【敕命】74 チョクメイ ❶天皇の命令。みことのり。勅諚。〔書、舜典〕帝曰咨汝二十有二人、〔傳〕特敕㆓命之㆒。〔常語藪〕史注特所㆓敕命㆒。❷明淸時代には、六品以下を授けるを勅命といふ。〔正字通〕敕、明制、凡褒嘉責讓並用㆑敕、詞皆散文、六品以下官贈封稱㆓敕命㆒、始用㆓四六㆒。〔金石文字記〕敕者、自㆑上命㆑下之辭、漢時、官長行㆓之掾屬㆒、祖父行㆓之子孫㆒、皆曰㆑敕、至㆓南北朝以下㆒、則此字惟朝廷專㆑之。〔淸會典事例、中書科、職掌〕六品以下授以㆓敕命㆒。〔嘉慶會典、注〕敕㆓封外藩覃恩封贈六品以下官㆒、及世爵有㆓襲次㆒、曰㆓敕命㆒。❸天命をいましめつつしむ。〔書、益稷〕帝庸作㆑歌曰、敕㆓天之命㆒、惟時惟幾。〔蔡傳〕敕、戒敕也。〔釋名、釋書契〕符、付也、書㆑所㆔敕㆓命於上㆒、付使㆔轉㆓行之㆒也。

【敕免】75 チョクメン 勅命で免ぜられること。

【敕問】76 チョクモン 天子の御たづね。〔後漢書、馬嚴傳〕詔書敕問。

【敕約】77 チョクヤク 天子親らの御約束。

【敕諭】78 チョクユ ❶天子の御さとし。詔諭。〔徐陵、爲㆓貞陽侯㆒重與㆓王太尉㆒書〕敕諭分明。❷天子親らさとしたまふ。〔漢書、東平思王宇傳〕上於㆑是遣㆓太中大夫張子蟜㆒、奉㆓璽書㆒敕㆓諭之㆒。❸淸代、外藩及び外任官に勅して諭告すること。〔嘉慶會典、注〕諭㆓告外藩㆒、及外任官坐名敕、傳敕曰㆓敕諭㆒。

【敕力】79 チョクリョク 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕敕力氏、後魏高車別帥敕力犍。

【敕令】80 チョクレイ ❶天皇の御命令。みことのり。勅命。〔宋史、哲宗紀〕章惇等進㆓新修敕令式㆒、惇讀㆓於帝前㆒、閒有㆘元豐所㆑無、而用㆓元祐敕令㆒修立者㆖。❷いましめ命ずる。又、上官から下に訓諭すること。〔漢書、韋玄成傳〕父賢以㆓弘當㆑爲㆑嗣、故敕令自免。〔後漢書、魯恭傳〕亭長從㆑人借㆑牛、而不㆓肯還㆑之、牛主訟㆓於恭㆒、恭召㆓亭長㆒、敕㆓令歸㆑牛者再三㆒、猶不㆑從、恭歎曰、是教化不㆑行也、欲㆘解㆓印綬㆒去㆖。❸議會の協贊を經ずに天皇が直ちに發せられる命令。

〔敕令格式〕81 チョクレイカクシキ 唐代は律の外に令・格・式あり、律令格式といふ。宋初、之に因るも神宗に至つて其の目を更へて勅令格式といふ。勅は律の性質を有し、令は行政法、格は單行的刑法、式は手續法である。律令格式(**4**－10097··64)の❶を見よ。〔大學衍義補、愼㆓刑憲㆒、定㆓律令㆒之制、下〕丘濬曰、夫律者刑之法也、令者法之意也、法具、則意寓㆓乎其中㆒、方㆓草創之初㆒、未㆑暇㆑詳㆓其曲折㆒、故明示以㆓其意之所㆑在、令是也、平定之後、既已備㆓其制度㆒、故詳載㆓其法之所㆑存、律是也。

【敕厲】82 チョクレイ ただしはげます。〔後漢書、鄧騭傳〕常母子兄弟、內相敕厲。

【敕勒】83 チョクロク ❶土耳其をいふ。漢代には丁零といひ、魏書高車傳には狄歷といふ。又、鐵勒に作る。土耳其族の原住地は外蒙古のセレンガ・トウラ兩河流域であるが、五胡十六國時代、北方諸民族の北支那に侵入すると共に、河北地方に移住す。此の族の重なる人物には後燕の慕容重を惱ました翟釗・北魏末の鮮于修禮等がある。又、斛律氏を名乘るものはこの族である。土耳古(**3**－4867··457)を見よ。〔北史、魏世祖紀〕(神鹿三年)夏四月甲子、行㆓幸雲中㆒、敕勒萬餘落叛走。〔唐書、回紇傳上〕回紇、其先匈奴也、俗多乘㆓高輪車㆒、元魏時、亦號㆓高車部㆒、或曰㆓敕勒㆒、訛爲㆓鐵勒㆒。❷道家の語。符呪に敕令の二字を書いて鬼神を約勒すること。

〔敕勒歌〕84 チョクロクカ 樂府、新歌謠辭の名。勅勒の歌。北齊の神武が周玉璧を伐つた時、勅勒の人、斛律金をしてこの歌を歌はしめた。〔樂府詩集、雜歌謠辭、歌辭敕勒歌〕樂府廣題曰、北齊神武攻㆓周玉璧㆒、士卒死者十四五、神武恚憤疾發、周王下㆑令曰、高歡鼠子、親犯㆓玉璧㆒、劍弩一發、元凶自斃、神武聞㆑之、勉坐以安㆓士衆㆒、悉引㆓諸貴㆒、使㆔斛律金唱㆓敕勒㆒、神武自和㆑之、其歌本鮮卑語、易㆑爲㆓齊言㆒、故其句長短不㆑齊。〔無名氏、敕勒歌〕敕勒川陰山下、天似㆓穹廬㆒、籠㆓蓋四野㆒、天蒼蒼野茫茫、風吹草低見㆓牛羊㆒。〔溫庭筠、敕勒歌〕敕勒金隤壁、陰山無㆓歲華㆒、帳外風飄㆑雪、營前月照㆑沙、羌兒吹㆓玉管㆒、胡姬踏㆓錦花㆒、却笑江南客、梅落不㆑歸㆑家。

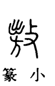
【批㆑敕】85 チョクニヒス 勅語の後に大臣が意見を書くのをいふ。〔唐書、李藩傳〕遷㆓給事中㆒、制有㆓不便㆒、就㆓敕尾㆒批㆓郤之㆒、吏驚請㆑聯㆓他紙㆒、藩曰、聯紙是牒、豈曰㆑敕耶。

〔敕別當〕86 チョクノベツタウ 平安朝時代、勅旨によつて任ぜられた別當。齋院また親王家に此の職あり、事務を總裁す。公卿の兼官とす。〔江家次第、十二、齋王卜定〕被㆔仰㆓下初齋院敕別當㆒。

【敖】
13226

㊀ ガウ ゴウ 〔集韻〕牛刀切 ㄠˊ ao² 豪

㊁ ガウ ゴウ 〔集韻〕魚到切 ㄠˋ ao⁴ 號



小篆

㊀❶**あそぶ**。遊びまはる。もと敖(**5**－13305)に作る。〔正字通〕敖、本作㆑敖。〔說文〕敖、游也、从㆑出从㆑放。〔詩、小雅、鹿鳴〕嘉賓以燕以敖。〔傳〕敖、遊也。〔莊子、列禦寇〕無㆑所㆑求、食而敖遊。〔漢書、食貨志上〕邑亡㆓敖民㆒。〔注〕師古曰、敖、謂㆓逸遊㆒也。❷**たはむれる**。〔廣雅、釋詁三〕敖、戲也。❸**ほしいまま**。〔廣雅、釋言〕敖、傲也。❹**楚の繼嗣の夭折した者の名**。君位に登る資格があるも君位に登らないで死去し、諡號のない者の稱。〔左氏、昭、十三〕實訾敖。〔注〕不㆑成㆑君無㆓諡號㆒者、楚皆謂㆓之敖㆒。❺**かしましい**。嚻(**2**－4616)・嗷(**2**－4142)に通ず。〔說文通訓定聲〕敖、叚借爲㆑嚻。〔荀子、彊國〕百姓讙敖。

〔注〕敖、喧譟也、亦讀爲ㇾ嗷。❻**いる**。熬(7－19352)に通ず。〔荀子、富國〕天下敖然、若ㇾ燒若ㇾ焦。〔注〕敖、讀爲ㇾ熬。❼**みだり**。謷(10－35896)に通ず。〔說文通訓定聲〕敖、叚借爲ㇾ謷。〔廣雅、釋言〕敖、妄也。❽**蟹の大足。はさみ**。⿱敖足(10－37824)・螯(10－33496)に通ず。〔正字通〕敖、蟹大足有ㇾ毛似ㇾ鉞、或作ㇾ⿱敖足、俗作ㇾ螯。〔荀子、勸學〕蟹六跪而二敖。❾**地名**。河南省河陰縣。〔詩、小雅、車攻〕搏二獸于敖一。〔箋〕敖、鄭城、今近二滎陽一。❿**長大なさま**。敖敖(4)の❶を見よ。⓫遨(11－39073)に通ず。〔詩、邶風、柏舟〕以敖以遊。〔釋文〕敖、本亦作ㇾ遨。⓬**姓**。〔通志、氏族略、以ㇾ名爲ㇾ氏〕敖氏、顓帝師太敖之後、宋敖頴士登二進士第一、又有二敖知言、臨江軍人、望出二譙國一。［二］❶**おごる**。たかぶる。あなどる。傲(1－1015)に通ず。〔說文通訓定聲〕敖、叚借爲ㇾ傲。〔禮、曲禮上〕敖不ㇾ可ㇾ長。〔疏〕敖者、矜慢在ㇾ心之名。〔楚辭、離騷〕保二厥美一以驕敖。〔注〕侮慢曰ㇾ敖。〔管子、宙合〕若敖之在ㇾ堯也。〔注〕慢而不ㇾ恭曰ㇾ敖。〔史記、游俠、郭解傳〕敖而無ㇾ足ㇾ數者。〔注〕集解曰、敖、倨也。❷**たはむれる**。なぶる。からかふ。嫯(3－6681)に通ず。〔說文通訓定聲〕敖、叚借爲ㇾ嫯。〔爾雅、釋詁〕敖、戲謔也。〔詩、邶風、終風〕謔浪笑敖、中心是悼。〔史記、天官書〕箕爲二敖客一。〔注〕索隱曰、敖、調弄也。

名乘　ヤス。ヨシ。

解字　出と放との合字。放は放流。出て遊ぶ意。傲・熬・嗷等に假借する。

【敖游】1 ガウイウ　敖遊に同じ。〔漢書、循吏、召信臣傳〕府縣吏家子弟、好二敖游一、不下以二田作一爲上ㇾ事。〔列女傳、母儀、有虞二妃傳〕弟曰ㇾ象、敖二游於嫚一。

【敖遊】2 ガウイウ　氣ままにあそびくらす。敖游。遨遊。〔詩、邶風、柏舟〕微三我無二酒、以敖以遊一。〔莊子、列禦寇〕巧者勞而知者憂、無能者無ㇾ所ㇾ求、食而敖遊、汎若二不繫之舟一、虛而敖遊者也。〔後漢書、馬援傳〕(隗)囂遣ㇾ援奉二書洛陽一、云云、世祖迎笑謂ㇾ援曰、卿遨二遊二帝閒一、今見ㇾ卿、使二人大慙一。

【敖英】3 ガウエイ　明、清江の人。字は子發。正德の進士。書室を綠雪亭といふ。著に愼言集訓・東谷贅言・綠雲亭雜言がある。〔皇朝詞林人物考、六〕・〔本朝分省人物攷、二十六〕・〔明人小傳、二〕。

【敖敖】4 ガウガウ　❶長いさま。長大なさま。〔詩、衞風、碩人〕碩人敖敖、說二于農郊一。〔傳〕敖敖、長貌。❷驕るさま。又、衆口で人をそしるさま。〔爾雅、釋訓〕仇仇・敖敖、傲也。〔郝懿行義疏〕敖與ㇾ謷同、釋文引舍人本、傲作ㇾ毀、釋云、謷謷、衆口毀ㇾ人之貌。

【敖客】5 ガウカク　たはむれからかふ客。〔史記、天官書〕箕爲二敖客一、曰二口舌一。〔注〕索隱曰、宋均云、敖、調弄也、箕以二簸揚調弄一爲ㇾ象、箕又受ㇾ物、有二去去來來一、客之象也。

【敖漢】6 ガウカン　部落の名。又、鄂漢に作る。內蒙古昭烏達盟八部の一旗。今、滿洲熱河省特別區域の中部。東は奈曼部、南は土默特部、西は喀喇沁部、北は翁牛特部と界す。明代、元の太祖の十八世の孫、岱青杜棱、始めて所部を號して敖漢といふ。〔清史稿、地理志〕內蒙古、敖漢部一旗、天聰元年、貝勒塞臣卓禮克圖擧ㇾ部來降、後封二郡王一世襲、牧地跨二老哈河一、東界二奈曼一、南界二土默特一、西界二喀喇沁一、北界二翁牛特一。

【敖漢先生】7 ガウカンセンセイ　清、彭楚克林沁(4－10003··209)の尊稱。

【敖戲】8 ガウギ　たはむれる。遨戲。〔漢書、谷永傳〕濟濟謹孚、無二敖戲驕恣之過一。〔魏志、陶謙傳、注〕吳書曰、云云、陶家兒、敖戲無ㇾ度。

【敖倨】9 ガウキヨ　おごる。おごりたかぶる。

【敖頑】10 ガウグワン　おごつてかたくななこと。〔元稹、酬二李相公一詩〕戇直撩二忌諱一、科儀懲二敖頑一。

【敖言】11 ガウゲン　おごつた言葉。〔列女傳、母儀、周室三母傳〕口不ㇾ出二敖言一。

【敖倉】12 ガウサウ　秦が敖山の上に建てた倉。敖は山の名で河南省成皋縣の西北にある。敖山(14)の❷を見よ。〔史記、高祖紀〕漢王軍二滎陽一、取二敖倉一。〔甕牖閒評〕敖、乃地名、秦時以二敖地一爲ㇾ倉故爾、今竟謂ㇾ倉爲ㇾ敖、蓋循習之誤。〔史記、吳王濞傳〕疾西據二雒陽武庫一、食二敖倉粟一。〔後漢書、安帝紀〕調二濱水縣一穀輸二敖倉一。〔水經、濟水注〕濟水又東逕二敖山北一、云云、其山上有ㇾ城、云云、秦置二倉于其中一、故亦曰二敖倉一。

【敖曹】13 ガウサウ　北齊、高昂(12－45313··105)の字。

【敖山】14 ガウザン　山名。❶山東省蒙陰縣の西北。具山(2－1473··29)を見よ。❷河南省成皋縣の西北。〔詩、小雅、車攻〕搏二獸于敖一。〔史記、高祖紀〕漢三年、漢王軍二滎陽一、南築二甬道一屬二之河一、以取二敖倉一。❸明、莘縣の人。字は靜之。成化の進士。文才あり、王越と共に、江北の二傑と稱せらる。數學に精し。官は翰林編輯・山西提學副使。著に石稜傳・燦然稿・先天手冊がある。〔本朝分省人物攷、九十六〕。

【敖炙】15 ガウシヤ　やく。やけどする。敖は熬(7－19352)に同じ。〔水滸傳、一百四回〕只怕是纔出ㇾ爐的熱的、敖二炙了手一。

【敖翔】16 ガウシヤウ　あそぶ。翺翔。遨遊(11－39073··2)の❶に同じ。〔後漢書、仲長統傳〕元氣爲ㇾ舟、微風爲ㇾ柂、敖二翔太淸一、縱二意容冶一。〔阮籍、大人先生傳〕施二無有一而宅ㇾ神、永太淸乎敖翔。

【敖水】17 ガウスイ　川の名。源は湖北省鍾祥縣の東北、黃仙洞。直河、又は池河といふ。漢水に注ぐ。〔水經、沔水注〕敖水、云云、合二枝水一、云云、又西南流注二于沔一、是曰二敖口一。

【敖成】18 ガウセイ　清、長安の人。諡は勇愨。乾隆の間、步卒より起り、武功により貴州提督に至る。〔清史稿、三百三十九〕・〔國朝耆獻類徵、二百九十〕。

【敖銑】19 ガウセン　明、高安の人。字は純之。嘉靖の進士。醇雅で風節があり、官は國子祭酒。〔國朝內閣名臣事略、二十二〕。

【敖然】20 ガウゼン　煎りあぶるさま。亂れるさまにいふ。〔荀子、富國〕天下敖然若ㇾ燒若ㇾ焦。〔注〕敖、讀爲ㇾ熬。〔史記、淮南王安傳〕天下敖然若ㇾ焦、民皆引ㇾ領而望。〔淮南子、兵略訓〕天下敖然若二焦熱一。

【敖惰】21 ガウダ　おごりおこたる。あそびなまける。〔大學〕之三其所二敖惰一而辟焉。

【敖盪】22 ガウタウ　たはむれ勝手なことをする。游蕩。〔漢書、丙吉傳〕不ㇾ得ㇾ令下晨夜去二皇孫一敖盪上。〔注〕師古曰、敖、游戲也、盪、放也、盪讀與ㇾ蕩同。

【敖東】23 ガウトウ　城の名。滿洲吉林省敦化縣城の東、鄂多里城をいふ。敖東は鄂多里の轉音、又、阿克敦といふ。

【敖嫩】24 ガウドン　鄂諾(11－39520··25)に同じ。

【敖暴】25 ガウバウ　おごつて手荒い。又、其の者。〔荀子、賦〕仁人絀約、敖暴擅彊。

【敖辟】26 ガウヘキ　おごりかたよる。〔禮、樂記〕齊音敖辟喬ㇾ志。

【敖蔑】27 ガウベツ　おごり高ぶつて他をあなどる。〔王沈、釋時論〕敖二蔑道素一、懾二吁權門一。

【敖慢】28 ガウマン　おごりあなどる。〔禮、哀公問〕今之君子、云云、荒怠敖慢、固民是盡。〔荀子、彊國〕凡人好敖二慢小事一、大事至、然後興ㇾ之務ㇾ之。

【敖民】29 ガウミン　なまけ遊ぶ民。游民。〔漢書、食貨志上〕朝亡二廢官一、邑亡二敖民一、地亡二曠土一。〔注〕師古曰、敖、謂二逸遊一也。

【敖弄】30 ガウロウ　たはむれからかふ。馬鹿にする。〔漢書、東方朔傳〕自二公卿一在ㇾ位、朔皆敖弄、無ㇾ所二爲屈一。

【敖繼翁】31 ガウケイヲウ　敖繼公を見よ。

【敖繼公】32 ガウケイコウ　明、長樂の人。吳興に住す。字は君善。一小樓に坐臥し、寒暑を意に介せず。經術に深く、官は信州教授。著に儀禮集說がある。萬姓統譜には繼翁、字は君壽に作る。〔新元史、二百三十五〕。

【敖爾布】33 ガウジフ　八旗兵の二等卒。鹿角兵(12－47586··33)に同じ。

【敖宗慶】34 ガウソウケイ　明、思南の人。字は汝承。號は梅坡。官は廣西按察使・副都御史・雲南巡撫。〔本朝分省人物攷、一百十五〕。

【敖陶孫】35 ガウタウソン　宋、福淸の人。字は器之。號は臞菴。氣節あり、朱熹・趙汝愚に同情して韓侂冑の怒りに會ひ、姓名を變じて亡命した。慶元の進士。官は溫陵通判。著に臞翁集がある。〔四庫提要、一百九十二〕。

【敖文禎】36 ガウブンテイ　明、高安の人。字は嘉猷。諡

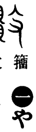
は文穆。萬曆の進士。官は禮部尚書。

【敖不レ可レ長】37（オゴリハチヤウズベカラズ） おごる心は增長させてはならぬ。〔禮、曲禮上〕敖不レ可レ長、欲不レ可レ從、志不レ可レ滿、樂不レ可レ極。

【敖拉諾爾】38（アオラノール） 湖の名。青海にある。今の扎棱諾爾、鄂棱諾爾の二湖。黃河の源。元史河源附錄には阿剌腦兒とある。

【敗】13227

ハイ　バイ　〔集韻〕薄邁切　卦　ㄅㄞˋ　pai^4



小篆　籒文

❶やぶる。㋑こぼつ。〔說文〕敗、毀也、从二攴貝一、賊・敗皆从レ貝。〔呂覽、尊師〕能全二天之所レ生、而勿レ敗レ之。〔注〕敗、毀也。㋺くづす。〔廣雅、釋詁一〕敗、壞也。㋩そこなふ。〔增韻〕敗、損也。〔書、大禹謨〕反レ道敗レ德。〔戰國、秦策〕紛彊欲レ敗レ之。〔注〕敗、害也。㋥いためる。〔呂覽、君守〕深思慮之務敗矣。〔注〕敗、傷也。㋭まかす。〔玉篇〕敗、破也。〔左氏、莊、十一〕未レ陳曰レ敗二某師一。〔公羊、隱、十〕公敗二宋師于菅一。〔釋文〕臨レ他曰レ敗。〔呂覽、義賞〕敗二楚人於城濮一。〔注〕敗、破也。〔史記、孔子世家〕吳敗二越王句踐會稽一。❷やぶれる。㋑つひえる。〔釋名、釋言語〕敗、潰也。㋺くつがへる。〔爾雅、釋言〕敗、覆也。㋩しづむ。〔淮南子、說林訓〕愈飋愈敗。〔注〕敗、猶レ沒也。㋥くさる。腐敗する。〔爾雅、釋器〕肉謂二之敗一。〔論語、鄉黨〕魚餒而肉敗不レ食。㋭しぼむ。おちる。〔許渾、秋晚雲陽驛西亭蓮池詩〕葉殘花敗尙維レ舟。〔歐陽脩、凝翠亭詩〕寂寞傷二蘭敗一。㋬ほろびる。〔呂覽、情欲〕故每動爲二亡敗一。〔注〕敗、滅亡也。㋣まける。〔逸周書、寶典序〕夏師敗績。〔傳〕大崩曰二敗績一。〔左氏、莊、十一〕大崩曰二敗績一。〔史記、白起傳〕秦軍佯敗而走。㋠くづれる。こはれる。〔增韻〕敗、頹也。〔詩、大雅、民勞〕無レ俾二正敗一。〔箋〕敗、壞也。〔左氏、僖、十五〕侯車敗。〔疏〕此謂二車有二敗壞一也。〔晉書、王戎傳〕卿輩意亦復易レ敗耶。❸やぶれ。〔魏志、賈詡傳、注〕赤壁之敗、蓋有二運數一。❹わざはひ。〔禮、孔子閒居〕四方有レ敗。〔注〕敗、謂二禍烖一也。❺やりそこなふ。しくじる。〔逸周書、寶典解〕臣能生レ寶、恐未レ有二子孫其敗一。〔注〕子能有二以致レ治也。❻くるふ。不順。〔春秋繁露、陽尊陰卑〕寒暑移二易其處一、謂二之敗歲一。❼凶年。〔穀梁、莊、二十八〕豐年補レ敗。〔注〕敗、謂二凶年一。❽姓。〔萬姓統譜〕敗崇美爲レ晉守二澤潞州一。❾籒文は贁(10－36900)に作り、古は貝(10－36656)・牗(7－19794)に作る。〔集韻〕敗、古作二贁・貝・牗一。

解字 會意形聲。攴(うつ・たたく)と貝との合字。貝殼は古の貨錢。貨錢をたたきやぶる義。やぶりこぼつ意。貝は聲を兼ねて形聲。一說に、攴と則の省文貝との合字。法則をやぶる義。說文には、賊・敗皆从レ貝とあるが、段注に、賊、從レ戈、則聲、與レ此不レ合といふ。此の賊は則の誤であらうといふ說である。

【敗衣】1（ハイイ） やぶれぎもの。つづれごろも。敝衣。〔禮、緇衣〕苟有レ衣必見二其敝一。〔注〕敝、敗衣也。

【敗意】2（ハイイ） 興をさます。敗興。〔晉書、王戎傳〕每與二阮籍一爲二竹林之游一、戎嘗後至、籍曰、俗物已復來敗二人意一、戎笑曰、卿輩意亦復易レ敗耳。

【敗友】3（ハイイウ） 仲の惡くなつた友。〔說苑、正諫〕狂夫、淫夫、絕交・敗友。

【敗葉】4（ハイエフ） おちば。落葉。〔李商隱、五月六日夜憶下往歲秋與二徹師一同宿上詩〕墮蟬翻二敗葉一、棲鳥定二寒枝一。

【敗屋】5（ハイヲク） あばらや。こはれた家。〔白居易、敍レ德書レ情四十韻上二宣歙翟中丞一詩〕敝衣羞二布素一、敗屋厭二茅茨一。

【敗瓜】6（ハイクワ） 星の名。〔隋書、天文志上〕(匏瓜)旁五星曰二敗瓜一、主レ種。

【敗家】7（ハイカ） ❶家をほろぼす。又、敗亡した家。〔孟子、離婁上〕不仁而可二與言一、則何亡レ國敗レ家之有。〔注〕則天下何有二亡國敗家一也。❷敗屋(5)に同じ。

【敗家子】8 pai^4 chia^1 tzŭ 放蕩息子。家產を「傷ふ子息。

【敗荷】9（ハイカ） やぶれた蓮の葉。荷ははちす。枯荷。〔李商隱、夜冷詩〕西亭翠被餘香薄、一夜將レ愁向二敗荷一。

【敗害】10（ハイガイ） 失敗。わざはひ。〔史記、日者傳〕言必稱二先王一、語必道二上古一、慮レ事定レ計、飾二先王之成功一、語二其敗害一、以恐二喜人主之志一、以求二其欲一、多言誇嚴、莫レ大二於此一矣。

【敗褐】11（ハイカツ） やぶれたぬのこ。敗衣。〔項斯、憶二朝陽峰前居一詩〕敗褐粘レ苔徧、新題在レ石重。

【敗氣】12（ハイキ） 敗北の氣。〔墨子、迎敵祠〕有二往氣一、有二來氣一、有二敗氣一、能得レ明二此者一、可レ知二成敗吉凶一。

【敗棋】13（ハイキ） やぶれご。まけご。敗棋有二勝著一「を見よ。

【敗棋有二勝著一】14（ハイキニシヨウチヤクアリ） 負け碁に却つて勝手あるをいふ。〔通俗編、藝術、敗棋有二勝著一〕五代史、周臣傳論、勝者所レ用、敗者之棋也、爲レ之易二置其處一而勝矣、楊愼、病榻手吹引諺語、敗棋有二勝著一。

【敗朽】15（ハイキウ） くさる。腐朽。腐敗。〔參同契〕金性不二敗朽一、故爲二萬物寶一。

【敗臼】16（ハイキウ） 星の名。〔隋書、天文志中〕敗臼四星在二虛危南一、知二凶災一。〔星經〕敗臼四星在二虛危南一、主二政治一。

【敗笈】17（ハイキフ） やぶれた本箱。〔蘇舜欽、檢書詩〕蹈撲下二塵梁一、侈哆張二敗笈一。

【敗郤】18（ハイキヤク） やぶれてしりぞく。敗退。〔史記、淮陰侯傳〕敗二郤彭城一。

【敗屩】19（ハイキヤク） やぶれたはきもの。ふるわらぢ。

【敗興】20（ハイキヨウ） 興をさます。面白くない。敗意。〔冷齋夜話、滿城風雨近二重陽一〕黃州潘大臨、工レ詩多二佳句一、云云、欣然起、題二其壁一曰、滿城風雨近二重陽一、忽催租人至、遂敗レ意。

【敗火】21 pai^4 huo^3 熱をさます。解熱。

【敗果】22（ハイクワ） 腐つたくだもの。〔韓偓、閑步詩〕傍山疎雨濕二秋花一、僻路淺泉浮二敗果一。

【敗華】23（ハイクワ） 芫花の異名。ふぢもどき。〔本草、芫花〕釋名、杜芫、赤芫、去水、毒魚、頭痛花、兒草、敗華、根名二黃大戟一。

【敗禍】24（ハイクワ） わざはひ。〔書、盤庚上〕乃敗禍姦宄、以自災二于厥身一。

【敗潰】25（ハイクワイ） やぶれつひえる。潰敗(7－18281「‥19)に同じ。

【敗壞】26（ハイクワイ） やぶれくづれる。又、やぶりくづす。敗頹。敗碎。〔史記、酷吏、義縱傳〕縱必以レ氣凌レ之、敗二壞其功一。〔後漢書、虞詡傳〕若衣敗壞、一以相補、猶有レ所レ完。

【敗壞淨盡】27 pai^4 huai^4 ching^4 chin^4 きれいにやぶりこはす。「破壞する。

【敗壞門風】28 pai^4 huai^4 men^2 fêng^1 家風をやぶりみだす。

【敗官】29（ハイクワン） 官職をやぶりみだす。〔左氏、昭、十四〕貪以敗レ官爲レ墨。

【敗軍】30（ハイグン） ❶まけいくさ。敗軍之將を見よ。〔諸葛亮、前出師表〕受二任於敗軍之際一、奉二命於危難之間一。❷まけた軍勢。敗兵。〔韓非子、難、二〕敗軍之誅、以二千百一數、猶北且不レ止。〔六韜、犬韜、均兵〕所下以踵二敗軍一、絕二糧道一、擊中便寇上也。

【敗軍之將】31（ハイグンノシヤウ） 敗北した大將。〔魏志、陳思王植傳〕臣聞、明主使レ臣、不レ廢二有罪一、故奔北敗軍之將用。〔北史、節義、張季珣傳〕(隋)大業末、爲二鷹揚郎將一、所レ居據二箕山一爲レ固、與二洛口一接、云云、爲二密所一レ陷、羣賊曳令レ拜レ密、季珣曰、吾雖二敗軍將一、猶是天子爪牙之臣、何容レ拜レ賊、密壯而釋レ之。

【敗軍將不レ可二以言一レ勇】32（ハイグンノシヤウハモツテユウヲイフベカラズ） 敗將は武勇を說く資格がないこと。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕范蠡對曰、臣聞、亡國之臣不二敢語一レ政、敗軍之將不二敢語一レ勇。〔史記、淮陰侯傳〕廣武君辭謝曰、臣聞、敗軍之將不レ可二以言一レ勇、亡國之大夫、不レ可二以圖一レ存、今臣敗亡之虜、何足三以權二大事一乎。〔說苑、談叢〕敗軍將不レ可二以言一レ勇、亡國之臣不レ可レ言レ智。

【敗羣】33（ハイグン） 羣を傷ふ。一二人の小人の害が公

衆に及ぶこと。害羣(**3**－**7165**‥10)に同じ。〔漢書、卜式傳〕式曰、非二獨羊一也、治レ民亦猶レ是矣、以レ時起居、惡者輒去、毋レ令レ敗レ羣。

【敗形】34 ハイケイ 敗北の形勢。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕號令不レ一、敗形已覩矣。

【敗橋】35 ハイケウ やぶれた橋。こはれた橋。〔王義康、讀曲歌〕敗橋語二方相一、欺レ儂那得レ渡。

【敗業】36 ハイゲフ 仕事をしくじる。〔戰國、秦策〕於二其言一也、多聽而時用レ之、是故無二敗業一而惡不レ章。

【敗鼓】37 ハイコ 皮がやぶれて役に立たないつづみ。やぶれだいこ。敗鼓皮を見よ。

〖敗鼓皮〗38 ハイコノカハ やぶれ大鼓の皮。無用のもの。轉じて、無用の物を貯藏して置いて役に立てる喩。〔本草、敗鼓皮〕集解、宗奭曰、此是穿敗者、不レ言二是何皮一、馬驢皮皆可レ爲レ之、當下以二黃牛皮一者上爲レ勝、云云、今用處絕少、尤好二煎膠一、氣味、平無レ毒。〔韓愈、進學解〕玉札丹砂、赤箭青芝、牛溲馬勃、敗鼓之皮、倶收竝蓄、待レ用無レ遺者、醫師之良也。

【敗功】39 ハイコウ 失敗。〔國語、周語中〕時動而濟、則無二敗功一。

【敗穀】40 ハイコク 穀物をそこなふ。〔禮、月令〕介蟲敗レ穀、戎兵乃來。

【敗歲】41 ハイサイ 寒暑が尋常でなくて農作に害のある歲。氣候不順の歲。〔春秋繁露、陽尊陰卑〕寒暑移二易其處一、謂二之敗歲一。

【敗碎】42 ハイサイ やぶれくだける。〔禮、曲禮下、鮮魚曰二脡祭一、疏〕若餒則敗碎不レ直。

【敗喪】43 ハイサウ やぶれほろびる。敗亡。〔王義之、又遺二殷浩一書〕知二安西敗喪一、公私惋怛、不レ能二須臾去一レ懷。

【敗散】44 ハイサン やぶれちる。ちりぢりばらばらになる。支離滅裂になる。〔史記、淮陰侯傳〕齊楚自居二其地一戰、兵易二敗散一。〔宋書、鄭鮮之傳〕民敝敗散、自然之理。

【敗盞】45 ハイサン こはれたさかづき。

【敗殘】46 ハイザン やぶりそこなふ。やぶれそこなはれる。

〖敗殘兵〗47 ハイザンヘイ 戰に負けて處々に隱れてゐる兵。

【敗子】48 ハイシ やくざな不孝の子。家產をやぶる男。道樂息子。〔韓非子、顯學〕夫嚴家無二悍虜一、而慈母有二敗子一、吾以レ此知下威勢之可二以禁一レ暴、而德厚之不上レ足二以止一レ亂也。〔史記、李斯傳〕韓子曰、慈母有二敗子一、而嚴家無二格虜一。

【敗死】49 ハイシ 戰爭に負けて討死する。〔日本政記、後柏原天皇〕永正七年夏六月、上杉顯定討二長尾爲景一、敗二死於長森原一。

【敗紙】50 ハイシ やぶれがみ。かみくづ。反故。故紙。〔志林〕以二敗紙半幅一、書二其上一。

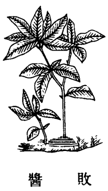
【敗事】51 ハイジ 事をやぶる。又、しくじり。失敗。〔左氏、襄、三十一〕子產之從レ政也、擇レ能而使レ之、云云、是以鮮レ有二敗事一。〔老子、六十四〕愼レ終如レ始、則無二敗事一。〔呂覽、樂成〕皆壹二於爲一、則無二敗事一矣。〔管子、霸言〕彊國少而施二霸道一者、敗事之謀也。

【敗車】52 ハイシャ やぶれた車。

【敗將】53 ハイシャウ いくさに負けた大將。轉じて、物事に失敗した人。敗軍の將。〔北史、麥鐵杖傳〕命二平懷道敗將宇文述等百餘人一、皆爲二執紼一。

【敗傷】54 ハイシャウ やぶれそこなはれる。又、そこなひきづつける。〔韓非子、解老〕藏二大器一而數徙レ之、則多二敗傷一。〔漢書、張釋之傳〕上怒曰、此人親驚二吾馬一、馬賴和柔、令四它馬固不三敗二傷我一乎。〔論衡、命義〕遭二遇幸偶一、遂以成レ完、遭二遇不幸偶一、遂以敗傷。

【敗醬】55 ハイシャウ 草の名。高さ二三尺で、秋小黃花を簇生する。をみなへし。女郎花。苦蔗花。〔本草、敗醬〕釋名、弘景曰、根作二陳敗豆醬氣一、故以レ爲レ名、時珍曰、南人採二嫩者一、暴蒸作レ菜、食味微苦、而有二陳醬氣一、故又名二苦菜一。〔古今醫統〕苦蔗菜、又曰二敗醬草一。



敗醬
(三才圖會)

【敗酒】56 ハイシュ 腐つた酒。〔呂覽、貴生〕嗜レ肉者非二腐鼠之謂一也、嗜レ酒者、非二敗酒之謂一也、尊レ生者非二迫生之謂一也。

【敗種】57 ハイシュ 腐敗した種子。

【敗絮】58 ハイジョ 役にたたぬ綿。ふるわた。〔陶潛、與二子儼等一疏〕余嘗感二孺仲賢妻之言一、敗絮自擁、何慙二兒子一。〔南齊書、卞彬傳〕縈二寢敗絮一、不レ能二自釋一。〔劉基、賣柑者言〕視二其中一、則乾若二敗絮一。

【敗色】59 ハイショク まけさうな様子。

【敗親】60 ハイシン 親密な間柄をやぶる。〔左氏、昭、二十六〕敗レ親速レ讎。

【敗水】61 ハイスイ 暴風に遭つて船をやぶられおぼれる。漂流する。〔海錄碎事、商賈、商賈〕市船錄云、船船放洋之時、或飄二入他國一及溺、曰二敗水一。

【敗政】62 ハイセイ 失敗したまつりごと。よからぬ政治。よからぬやりかた。〔國語、晉語八〕及レ爲レ卿、以輔二成景一、軍無二敗政一。

【敗蕉】63 ハイセウ やぶれたばせを。〔張時徹、詩〕嚴霜切二重衾一、疾風梳二敗蕉一。

【敗績】64 ハイセキ ❶いくさにひどくまける。大敗。大崩。〔春秋、桓、十三〕及二齊侯・宋公・衞侯・燕人一戰、齊師・宋師・衞師・燕師敗績。〔左氏、莊、十一〕凡師、云云、大崩曰二敗績一、得レ儁曰レ克。〔公羊、桓、十〕何以不レ言二師敗績一、內不レ言レ戰、言レ戰乃敗也。〔史記、司馬穰苴傳〕燕侵二河上一、齊師敗績。〔說苑、尊賢〕晉荊戰二於邲一、晉師敗績。❷失敗する。事をやぶる。仕事をしくじる。又、其のこと。敗業。〔國語、晉語八〕國無二敗績一。〔楚辭、離騷〕恐二皇輿之敗績一。〔注〕皇、君也、輿、君之所レ乘、以喩レ國也、績、功也。❸列をみだすこと。〔禮、檀弓上〕魯莊公及二宋人一戰二于乘丘一、縣賁父御、卜國爲レ右、馬驚敗績、公隊、佐車授レ綏。〔注〕驚奔失レ列。

【敗船】65 ハイセン こはれた船。〔鄭巢、泊二靈溪館一詩〕曉鷺棲二危石一、秋萍滿二敗船一。

【敗戰】66 ハイセン まけいくさ。敗軍。負戰。

【敗氈】67 ハイセン やぶれた毛布。〔五代史、雜、李愚傳〕明宗遣二宦官一視レ之、見二其敗氈弊席、四壁蕭然一。

【敗素】68 ハイソ 惡い白布。〔戰國、燕策〕齊人紫、敗素也、而賈十倍。

【敗訴】69 ハイソ 訴訟にまける。裁判にまける。

【敗走】70 ハイソウ やぶれてはしる。敗北。敗遁。〔史記、項羽紀〕秦嘉軍敗走、追レ之至二胡陵一。〔史記、匈奴傳〕於レ是冒頓詳敗走。〔漢書、陳餘傳〕悉二三縣兵一、襲二常山王耳一、耳敗走。〔宋史、岳飛傳〕單騎持二丈八鐵槍一、刺二殺黑風大王一、敵衆敗走。

【敗俗】71 ハイゾク 風俗をやぶる。〔顏氏家訓、文章〕阮籍無レ禮敗レ俗。〔琵琶記、幾言諫レ父〕怎說二著傷レ風敗レ俗非理的言語一。

【敗卒】72 ハイソツ 戰爭に負けた兵卒。〔魏志、賈詡傳〕退以二敗卒一擊二勝兵一、而公曰二必尅一。

【敗損】73 ハイソン やぶれ缺ける。そこなふ。〔顏氏家訓、名實〕功績遂敗損矣。

【敗退】74 ハイタイ まけてしりぞく。敗戰して退却する。又、其のこと。まけのき。敗却。〔後漢書、袁譚傳〕大戰二城下一、譚尚敗退。

【敗頹】75 ハイタイ やぶれくづれる。敗壞。頹敗(**12**－**43517**‥51)に同じ。

【敗道】76 ハイダウ 道を修めて成就しないこと。〔冷齋夜話、劉淵材迂闊好レ怪〕淵材迂闊好レ怪、嘗畜二兩鶴一、客至、指以誇曰、此仙禽也、凡禽卵生、而此胎生、語未レ卒、園丁報曰、此鶴夜產二一卵一、大如レ梨、云云、鶴輒兩展二其脛一伏レ地、淵材訝レ之、以杖驚使レ起、忽誕二一卵一、淵材嗟咨曰、鶴亦敗レ道。

【敗撓】77 ハイダウ 負けて勢がくじけること。〔韓愈、答三柳柳州食二蝦蟆一詩〕大戰元鼎年、孰強孰敗撓。

【敗宅】78 ハイタク こはれや。くづれた家。

【敗衄】79 ハイヂク たたかひやぶれる。敗北。〔白居易、論二行營一狀〕朝廷賞罰、近日不レ行、未レ立レ功者、或先封レ官、已敗衄者、不レ聞レ得レ罪。〔五代史、唐臣、符存審傳〕存審爲レ將、有二機略一、大小百餘戰、未二嘗敗衄一。

【敗仗】80 pai^{4} chang^{4} まけいくさ。

【敗徵】81 ハイチョウ 敗戰の徵候。〔史記、項羽紀〕居數日、軍果敗、兵未レ戰、而先見二敗徵一。

【敗陣】82 pai^{4} chên^{4} まけいくさ。敗仗。

【敗兆】83 ハイテウ 敗戰の徵候。敗徵に同じ。

【敗度】84 ハイド 法度をやぶる。〔書、太甲中〕欲敗レ度、縱敗レ禮。

【敗德】85 ハイトク 德義を破る。人道に背く。又、道ならぬ行。不德義。悖德。〔左氏、僖、十五〕先君之敗德、及レ可レ數乎。〔顏氏家訓、敎子〕逮二于成長一、終爲二敗德一。〔摯虞、觀魚賦〕懼二留連之敗德一、遂收レ歡而命レ駕。

【敗遁】86 ハイトン 戰やぶれてにげる。〔水經、瓠子河注〕田布敗遁。〔宋史、韓世忠傳〕世忠追擊、賊敗

而遁。

【敗肉】87 pai^4 jou^4 腐敗した肉。

【敗邦】88 ハイハウ やぶれほろんだ國。〔墨子、經說下〕若㆓敗邦鬻㆑室嫁㆑子無㆒㆑子。

【敗舫】89 ハイハウ やぶれたふね。〔溫庭筠、寄㆓渚宮遺民弘里生㆒詩〕荷疊平橋暗、萍稀敗舫沈。

【敗報】90 ハイハウ 負けた知らせ。敗聞。

【敗亡】91 ハイバウ やぶれほろびる。敗北。敗喪。敗滅。破滅。敗沒。〔史記、韓王信傳〕今王以㆓敗亡㆒走㆑胡、非㆑有㆓大罪㆒、急自歸。〔漢書、五行志中之上〕痛㆓其將㆑有㆓敗亡之禍㆒。〔列女傳、賢明、陶荅子妻傳〕君不㆑敬、民不㆑戴、敗亡之徵見矣。

【敗筆】92 ハイヒツ ちびふで。使ひふるしのふで。退筆。禿筆。〔太平廣記〕僧智永學㆑書、敗筆如㆓丘山㆒。

【敗腐】93 ハイフ やぶれくさる。腐敗。〔宋史、謝德權傳〕廥積多患㆓地下濕㆒、德權累㆑甓爲㆑臺、以藉㆑之、遂無㆓敗腐㆒。

【敗物】94 ハイブツ 壞れた物。〔世說新語、排調〕庾征西大擧征㆑胡、既成㆑行、止鎭㆓襄陽㆒、殷豫章與㆑書、送㆓一折角如意㆒以調㆑之、庾答書曰、得㆑所㆑致、雖㆓是敗物㆒、猶欲㆓理而用㆒㆑之。

【敗聞】95 ハイブン まけたしらせ。敗報。〔日本外史、足利氏後記、毛利氏〕得㆓關原敗聞㆒、返至㆓大坂㆒。

【敗兵】96 ハイヘイ 戰にまけた兵。敗卒。〔六韜、豹韜、敵武〕武王問㆓太公㆒曰、引㆑兵深入㆓諸侯之地㆒、卒遇㆓敵人㆒、甚衆且武、武車驍騎、繞㆓我左右㆒、吾三軍皆震、走不㆑可㆑止、爲㆑之奈何、太公曰、如㆑此者謂㆓之敗兵㆒、善者以勝、不善者以亡。〔漢書、鼂錯傳〕敗兵之卒、沒㆑世不㆑復。〔魏志、賈詡傳〕雖㆑用㆓敗兵㆒而戰必勝也。

【敗敝】97 ハイヘイ やぶれる。やぶれ。敗弊。破敝。〔貢父詩話〕衣服敗敝。

【敗篦】98 pai^4 pi^4 やぶれ櫛。

【敗壁】99 ハイヘキ やぶれたかべ。破壁。〔孫覿、題㆓硤江蕭氏菴㆒詩〕破扉風自掩、敗壁雨先頹。

【敗艑】100 ハイヘン やぶれた、底の淺平な舟。〔廬山記、二〕舊傳、故老眞見㆓山頂㆒、猶有㆓敗艑㆒。

【敗北】101 ハイボク やぶれにげる。戰爭にまける。敗走。敗亡。敗遁。〔史記、項羽紀〕身七十餘戰、所㆑當者破、所㆑擊者服、未㆓嘗敗北㆒。

【敗沒】102 ハイボツ まけほろびる。敗歿。〔後漢書、光武紀下〕遣㆓劉尙㆒討㆑之、戰㆓於沅水㆒、尙軍敗歿。〔魏志、王昶傳〕皆以㆓傾邪㆒敗沒。

【敗奔】103 ハイホン やぶれはしる。敗走(70)に同じ。

【敗民】104 ハイミン 法を侵す人民。〔韓非子、難、三〕法敗而政亂、以㆓亂政㆒治㆓敗民㆒、未㆑見㆓其可㆒也。

【敗名】105 ハイメイ 名譽をきずつける。〔左氏、僖、二十三〕姜曰、行也、懷與㆑安實敗㆑名。

【敗盟】106 ハイメイ 約束をやぶる。違約。破約。〔陸游、詩〕寄㆑語沙鷗勿㆓敗盟㆒。

【敗滅】107 ハイメツ やぶれほろびる。失ふ。

【敗餘】108 ハイヨ まけたあと。敗戰のあげく。

【敗落】109 pai^4 luo^4 落ちぶれる。敗滅する。

【敗爛】110 ハイラン やぶれただれる。腐敗。糜爛。〔朱子題跋〕此紙幸脫㆓于敗爛之中㆒。

【敗亂】111 ハイラン やぶれみだれる。やぶりみだす。又、秩序の亂れること。〔六韜、虎韜、略地〕三軍敗亂。〔漢書、劉向傳〕聖帝明王、常以㆓敗亂㆒自戒。〔後漢書、光武紀上〕敗㆓亂綱紀㆒。〔韓愈、祭㆓田橫墓㆒文〕當㆓秦氏之敗亂㆒、得㆓一士㆒而可㆑王。

【敗柳】112 ハイリウ 枯れかかつた柳。殘柳。衰柳。〔韓偓、再思詩〕流金鑠石玉長潤、敗柳凋花松不㆑知。

【敗柳殘花】113 ハイリウザンクワ 枯れた柳と咲き殘つてゐる花。美人の容色の衰へたさま。〔西廂記、張君瑞害㆓相思㆒雜劇〕休㆔猜㆓做敗柳殘花㆒。

【敗累】114 ハイルイ やぶれわづらふ。〔顏氏家訓、止足〕周穆王・秦始皇・漢武帝、富有㆓四海㆒、貴爲㆓天子㆒、不㆑知㆓紀極㆒、猶自敗累、況士庶乎。

【敗類】115 ハイルイ ❶同類を害する。〔詩、大雅、桑柔〕大風有㆑隧、貪人敗㆑類。〔箋〕類、等夷也。❷破廉恥の人。〔通俗編、品目、敗類〕太玄經、日彊其衰惡、敗類也。

【敗禮】116 ハイレイ 禮をやぶる。〔書、太甲中〕欲敗㆑度、縱敗㆑禮。

【敗露】117 ハイロ あらはれる。露顯する。〔金史、選擧志一〕文士有㆔偶中㆓魁選㆒、不㆑問㆓操履㆒、輒授㆓翰苑之職㆒、如㆓趙承元㆒、朕聞㆔其無㆓士行㆒、果敗露。〔福惠全書、刑名部、欵犯〕迨㆓一朝敗露㆒、貽㆓私狼籍㆒。

【敗漏】118 ハイロウ こはれて水などが漏る。〔菊池三溪、紀文海運〕以㆓其敗漏不㆒㆑可㆑用。

【敗簏】119 ハイロク やぶれた竹で作つたはこ。〔國朝漢學師承記、淩廷堪〕又北走㆓海州㆒、於㆓敗簏中㆒、攟㆓拾殘稿㆒。

【敗血病】120 ハイケツビヤウ 釀膿菌が血行の中に侵入して全身の傳染性疾患を起す病氣。敗血膿毒症。

【敗天公】121 ハイテンコウ 破れた笠。天公は笠の形が天の圓いのに似てゐるからいふ。〔正字通〕笠、穹天論、天形如㆑笠而冒㆓地之表㆒、故本草呼㆓破笠㆒爲㆓敗天公㆒。〔本草、敗天公〕釋名、弘景曰、此乃人所㆑戴竹笠之敗者、取㆑竹燒灰用、時珍曰、笠乃賤者禦㆑雨之具、以㆑竹爲㆑胎、以㆓箬葉㆒夾㆑之、穹天論云、天形如㆑笠、而冒㆓地之表㆒、則天公之名、蓋取㆓于此㆒。

【敗毒菜】122 ハイドクサイ 草の名。羊蹄草の異名。ぎしぎし。〔本草、羊蹄〕釋名、蓄、禿菜、敗毒菜、牛舌菜、羊蹄大黃、鬼目、東方宿、連蟲陸、水黃芹、子名㆓金蕎麥㆒。

【敗毒散】123 ハイドクサン 漢方藥の名。江戸後代に行はれた風邪藥。排毒散。解毒劑。どくけし。〔玉機微義、五〕良方治疫毒敗毒散、多加㆓人蔘・甘草・陳皮・姜棗㆒煎服。

【敗鱗殘甲】124 ハイリンザンカフ ちらばつた魚のうろことかふら。〔齋藤拙堂、雪喩〕敗鱗殘甲、蔽㆑天而下。

【因㆑敗爲㆑功】125 ハイニヨリテコウヲナス 失敗を轉じて成功となす。〔戰國、燕策〕臣聞、智者之擧㆑事也、轉㆑禍而爲㆑福、因㆑敗而成㆑功者也。

【因㆑敗爲㆑成】126 ハイニヨリテセイトナス 失敗を轉じて成功と爲す。轉㆑敗爲㆑功に同じ。〔劉琨、謝㆑拜㆓大將軍都督幷州㆒表〕昔曹沫三北、而收㆓功于柯盟㆒、馮異垂㆑翅、而奮㆓翼于澠池㆒、皆能因㆑敗爲㆑成。

【救㆑敗繼㆑絶】127 ハイヲスクヒゼツヲツグ やぶれたのを救ひ絶えたのを繼ぐ。敗絶した家や國をたすけおこす。〔漢書、高帝紀下〕存㆑亡定㆑危、救㆑敗繼㆑絶、以安㆓萬民㆒。

【轉㆑敗爲㆑功】128 ハイヲテンジテコウトナス 失敗を轉じて反つて成功とする。因㆑敗爲㆑成に同じ。禍を轉じて福となす。〔史記、管仲傳〕其爲㆑政也、善因㆑禍而爲㆑福、轉㆑敗而爲㆑功。

【敗者爲賊成者爲王】129 pai^4 chê^3 wei^2 tsei^2 ch'êng^2 chê^3 wei^2 wang^2 負ければ賊となり勝てば王となる。

【⿰亦攴】13228 シヤ 赦(**10－36999**)に同じ。〔正字通〕⿰亦攴、同㆑赦、見㆓說文㆒。

【⿰革支】13229 ヤウ 養(**12－44144**)の古字。〔正字通〕⿰革支、古文養字。

【娘】13230 ラウ 〔篇海〕魯當切 陽

はなはだしい。〔篇海〕娘、甚也。

【⿰豈支】13231 チ 〔集韻〕展里切 紙

かつ。〔集韻〕⿰豈支、尅也。

【⿺廴⿰壬攴】13232 テイ チヤウ 〔集韻〕徒鼎切 迥

つきる。つくす。〔集韻〕⿺廴⿰壬攴、盡也。〔廣雅、釋訓〕⿺廴⿰壬攴⿺廴⿰壬攴、盡也。

【敳】13233 サツ 殺(**6－16638**)の古字。〔說文〕殺、敳、古文殺。

【⿰⿱屮乂攴】13234 サツ 殺(**6－16638**)の古字。〔玉篇〕⿰⿱屮乂攴、古文殺。

【⿷匚攴】13235 タフ ドフ 〔玉篇〕大合切 合

つきる。つくす。〔玉篇〕⿷匚攴、盡也。

【敇】13236　チョク　敕(5―13225)の譌字。〔説文長箋〕敕、石鼓文申敕敕字、譌作㆑敇。

【⿰宂攴】13237　コウ　寇(3―7209)に同じ。〔説文長箋〕⿰宂攴、同㆑寇。

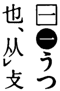
【⿰皃攴】13238　ヤウ　義未詳。〔五音篇海〕⿰皃攴、音揚。

【⿰㣇攴】13239　サツ　殺(6―16638)に同じ。〔五音集韻〕⿰㣇攴、同㆑殺。

【⿰尿支】13239′　サツ　ザチ　〔篇海〕自曷切　曷。
ゆばり。〔篇海〕⿰尿支、尿⿰尿支也。

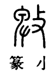
八畫

【⿰豖攴】13240　🈩タク　〔集韻〕竹角切　覺。　🈔トク　〔集韻〕都木切　屋。



🈩❶うつ。たたく。〔説文〕⿰豖攴、擊也、从㆑攴豕聲。❷なげうつ。〔類篇〕⿰豖攴、擿也。❸㧻(5―12186)・豛(10―36366)に同じ。〔説文通訓定聲〕⿰豖攴、案、實與㆓㧻・豛㆒同字。🈔たたくおと。〔廣韻〕⿰豖攴、擊聲。

【⿰卑攴】13241　🈩ヘイ　ハイ　〔集韻〕普米切　薺。　🈔ヘイ　ハイ　〔集韻〕必計切　霽。

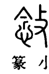


🈩🈔❶こぼつ。やぶる。〔説文〕⿰卑攴、毀也、从㆑攴卑聲。❷⿰卑攴殸は、うつ音。⿰卑攴殸。〔類篇〕⿰卑攴、⿰卑攴殸、擊聲。❸或は捭(5―12200)に作る。〔集韻〕⿰卑攴、或从㆑手。

【⿰耳攴】13242　ヘイ　⿰卑攴(5―13241)の俗字。〔正字通〕⿰耳攴、俗⿰卑攴字。

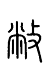
【⿸厂⿰臼攴】13243　ロツ　ロチ　〔集韻〕勒沒切　月。
❶⿸厂⿰臼攴攵は、おだやかでない。〔廣韻〕⿸厂⿰臼攴、⿸厂⿰臼攴攵不㆑穩。❷⿸厂⿰臼攴攵は、なめらかでない。〔玉篇〕⿸厂⿰臼攴、⿸厂⿰臼攴攵、不㆓滑利㆒。❸⿸厂⿰臼攴攱は、物が安らかでないさま。〔集韻〕⿸厂⿰臼攴、⿸厂⿰臼攴攱、一曰、物不㆑安兒。

【敜】13244　🈩デフ　ネフ　〔集韻〕諾叶切　葉。　🈔デツ　ネチ　〔集韻〕乃結切　屑。



🈩❶ふさぐ。ぬりふさぐ。〔説文〕敜、塞也、从㆑攴念聲、周書曰、敜㆓乃穽㆒。〔書、費誓〕敜㆓乃穽㆒。〔傳〕穽、穿㆑地陷㆑獸、當㆔以㆑土窒㆓敜之㆒。❷とぢる。或は捻(5―12222)に作る。〔玉篇〕敜、閉也、或作㆑捻。🈔おさへる。捻(5―12222)に同じ。〔集韻〕捻、按也、或从㆑攵。

【敝】13245　🈩ヘイ　ベイ　〔集韻〕毘祭切　霽。　ㄅㄧˋ　pi⁴　🈔ヒ　ビ　〔集韻〕部弭切　紙。　🈪ヘツ　ベチ　〔集韻〕蒲結切　屑。



🈩❶やぶれる。㋑こはれる。くづれる。〔玉篇〕敝、壞也。〔易、井〕甕敝漏。〔詩、齊風、敝笱序、釋文〕敝、敗也。㋺つきる。〔淮南子、原道訓〕齒堅㆓於舌㆒而先㆑之敝。〔注〕敝、盡也。㋩おとろへる。〔左氏、襄、九〕女敝族也。〔注〕敝、衰壞也。〔史記、樂書〕土敝則草木不㆑長。〔注〕正義曰、敝、猶㆓勞熟㆒也。㋥つかれる。〔素問、上古天眞論〕形體不㆑敝。〔注〕敝、疲敝也。㋭まける。敗北する。〔左氏、僖、十〕敝㆓於韓㆒。〔注〕敝、敗也。❷やぶる。㋑くづす。こはす。いためる。そこなふ。〔史記、平津侯主父傳〕靡㆓敝中國㆒。〔注〕索隱曰、敝、猶㆓凋敝㆒也。㋺つくす。〔荀子、富國〕以靡㆓敝之㆒。〔注〕敝、盡也。㋩つかれさす。〔左氏、襄、九〕還㆑師以敝㆑楚。〔注〕敝、罷也。㋥まかす。〔荀子、富國〕以靡㆓敝之㆒。〔注〕敝、敗也。❸すてる。〔禮、郊特牲〕冠而敝㆑之可也。〔釋文〕敝、弃也。❹自分を卑下する接頭語。〔左氏、隱、四〕敝邑以㆑賦與㆓陳蔡㆒從。❺おほひ。蔽(9―31888)に通ず。〔説文通訓定聲〕敝、叚借爲㆑蔽。〔禮、緇衣〕必見㆓其敝㆒。〔釋文〕敝、隱蔽也。〔周禮、考工記、弓人〕長㆓其畏㆒而薄㆓其敝㆒。〔注〕敝、讀爲㆓蔽塞之蔽㆒。❻にぎり。ゆづか。弓把。〔周禮、考工記、弓人〕長㆓其畏㆒而薄㆓其敝㆒。〔疏〕敝、謂㆘人所㆓握持手蔽㆒之處㆖。❼一はばのきれ。帗(4―8850)に通ず。〔説文〕敝、帗也、从㆑㡀从㆑攴、㡀亦聲。〔禮、緇衣〕苟有㆑車必見㆓其軾㆒、苟有㆑衣必見㆓其敝㆒。❽やぶれた衣服。〔説文〕敝、一曰、敗衣。❾獘(3―6010)に通ず。〔玉篇〕獘、或作㆑敝。❿弊(4―9644)に通ず。〔禮、禮運〕刑肅而俗敝。〔釋文〕敝、本亦作㆑弊。⓫姓。〔廣韻〕敝、姓也、齊有㆓敝無存㆒。〔萬姓統譜〕敝、見㆓姓苑㆒。🈔敝跬は、つとめるさま。敝跬(19)を見よ。〔集韻〕敝、敝跬、用㆑力兒。〔莊子、駢拇〕敝跬譽㆓無用之言㆒。〔釋文〕敝、徐音婢。🈪❶やぶれる。〔集韻〕敝、敗也、詩敝笱在㆑梁、徐邈讀。❷賤者の服。敝膝(54)を見よ。❸敝跬は、つとめるさま。〔莊子、駢拇、釋文〕敝、郭、父結反。

解字　會意形聲。攴(たたきやぶる)と㡀(やぶれた衣の象形)との合字。やぶれた衣の義。やぶれる意。㡀は聲を兼ねて形聲。

【敝惡】1　ヘイアク　やぶれてきたない。〔唐書、崔黯傳〕主者不㆑虔、祭器敝惡。

【敝衣】2　ヘイイ　やぶれごろも。鶉衣。敗衣。〔史記、范雎傳〕范雎聞㆑之、爲微行、敝衣閒步之㆑邸、見㆓須賈㆒。〔後漢書、劉虞傳〕敝衣繩履。〔方苞、左忠毅公逸事〕更㆓敝衣草屨㆒。

【敝帷】3　ヘイヰ　やぶれたとばり。敝帷不㆑棄を見よ。

【敝帷不㆑棄】4　ヘイヰステズ　やぶれたとばりも、馬を埋めるに役立つからすてるべきでない。〔禮、檀弓下〕仲尼之畜狗死、使㆓子貢埋㆒㆑之、曰、吾聞㆑之也、敝帷不㆑棄、爲㆑埋㆑馬也、敝蓋不㆑棄、爲㆑埋㆑狗也、丘也貧、無㆑蓋、於㆓其封㆒也、亦予㆓之席㆒、毋㆑使㆓其首陷㆒焉。

【敝幃】5　ヘイヰ　やぶれたとばり。敝帷。〔孔子家語、曲禮子夏問〕敝幃不㆑棄、爲㆑埋㆑馬也。

【敝友】6　pi⁴ yu³　私の友達。

【敝幽】7　ヘイイウ　困弊して幽隱した者。弊幽(4―9644・・3)を見よ。

【敝邑】8　ヘイイフ　❶自國の謙稱。〔禮、檀弓下〕君王討㆓敝邑之罪㆒、又矜而赦㆑之。〔左氏、隱、四〕君爲㆑主、敝邑以㆑賦與㆓陳・蔡㆒從。〔左氏、僖、二〕以侵㆓敝邑之南鄙㆒。〔史記、楚世家〕張儀南見㆓楚王㆒、謂㆓楚王㆒曰、敝邑之王所㆓甚說㆒者、無㆑先㆓大王㆒。❷小さい都邑をいふ。〔左思、吳都賦〕習㆓其敝邑㆒、而不㆑覩㆓上邦㆒者、未㆑知㆓英雄之所㆒㆑躔也。〔注〕濟曰、蜀但知㆑習㆓其敝小都邑㆒、不㆑見㆓上國㆒、不㆑

知三英雄之所二行歷一也。

【敝緼】9（ヘイウン ヘイヲン）やぶれたわたいれ。敝緼袍。〔崔融、諫レ稅二關市一疏〕蠶織休廢、敝緼闕如。

【敝緼袍】10（ヘイウンパウ ヘイヲンパウ）やぶれたわたいれ。古びたわたいれ。衣二敝緼袍一を見よ。〔張南史、早春書レ事詩〕敝緼袍多レ補、飛蓬鬢少レ杭。

【衣二敝緼袍一】11（ヘイヲンパウヲキル）古びたわたいれを着る。賤衣をきる。〔論語、子罕〕子曰、衣二敝緼袍一、與下衣二狐貉一者上立、而不レ恥者、其由也與。〔集解〕孔安國曰、緼、枲著。〔疏〕緼袍、衣之賤者、狐貉、裘之貴者。云云、枲著者、雜二用枲麻一以著レ袍也。

【敝屋】12（ヘイヲク）あばらや。自家の謙辭。敝廬。

【敝蓋】13（ヘイガイ）やぶれた車のおほひ。敝帷不レ棄(4)を見よ。〔禮、檀弓下〕敝蓋不レ棄、爲レ埋レ狗也。〔孔子家語、曲禮子夏問〕敝蓋不レ棄、爲レ埋レ狗也。

【敝行】14（ヘイカウ）弊店。自分の店の謙稱。

【敝號】15 pi^{4} hao^{4} 敝店。自分の店の謙稱。

【敝褐】16（ヘイカツ）やぶれごろも。粗末なぬのこ。〔晉書、皇甫謐傳〕辭二容服之光粲一、抱二敝褐一以終レ年。

【敝甲】17（ヘイカフ）やぶれたよろひ。粗末なよろひ。弊鎧。弊甲。〔戰國、楚策〕昭常應二齊使一曰、我典二守東地一、且與二死生一、悉三五尺至二六十一、三十餘萬、敝甲鈍兵、願承二下塵一。〔史記、楚世家〕我有二敝甲一、欲三以觀二中國之政一。

【敝鬼】18（ヘイキ）物をやぶりそこなふ幽靈。厲鬼。〔後漢書、度尙傳〕生爲二惡吏一、死爲二敝鬼一。

【敝跬】19（ヘイキ）大いにつとめるさま。〔莊子、駢拇〕竄句遊二心於堅白同異之閒一、而敝跬譽二無用之言一。〔釋文〕李云、敝跬、分外用レ力之貌。

【敝器】20（ヘイキ）つまらぬ道具。〔左氏、文、十二〕襄仲辭レ玉曰、云云、對曰、不腆敝器、不レ足レ辭也。

【敝虧】21（ヘイキ）おほはれかくれる。おほひかくす。蔽虧。〔梁昭明太子、和三武帝遊二鍾山大愛敬寺一詩〕嘉木互紛糺、層峯鬱敝虧。

【敝裘】22（ヘイキウ）やぶれたかはごろも。〔呂覽、具備〕巫馬期、短褐衣二敝裘一、而往觀二化於亶父一。〔岑參、武威春暮聞三宇文判官西使還已到二晉昌一詩〕白髮悲二明鏡一、青春換二敝裘一。

【敝筐】23（ヘイキヤウ）やぶれた竹かご。破筐。〔搜神記、一〕崔文子者、泰山人也、學二仙于王子喬一、子喬化爲二白蜺一、而持レ藥與二文子一、文子驚怪、引レ戈擊レ蜺中レ之、因墮二其藥一、俯而視レ之、王子喬之尸也、置二之室中一、覆以二敝筐一、須臾化爲二大鳥一、開而見レ之、翻然飛去。〔歐陽脩、記二舊本韓文後一〕見二其敝筐一。

【敝鄉】24 pi^{4} hsiang^{1} 自己の鄉里の謙稱。

【敝蹻】25（ヘイキヤク）やぶれたわらぐつ。轉じて、つまらぬ物の喩。弊蹻(**4－9644**··15)に同じ。

【敝居】26（ヘイキヨ）拙宅。私のうち。弊居(**4－9644**··17)に同じ。

【敝筥】27（ヘイキヨ）やぶれたはこ。敝篋。〔易林、否之第十二、萃〕破筐敝筥、棄二捐於道一。

【敝寓】28 pi^{4} yü^{4} 自己のすまひの謙稱。拙宅。

【敝化】29（ヘイクワ）風俗をやぶる。〔書、畢命〕敝レ化奢麗、萬世同レ流。〔蔡傳〕敝二壞風化一、奢侈美麗、萬世同一流也。

【敝夥】30 pi^{4} huo^{3} 弊店員。私方の手代。

【敝壞】31（ヘイクワイ）破れ毀れる。

【敝屐】32（ヘイゲキ）やぶれたげた。弊屐。〔梅堯臣、詩〕每愛前峰好、閒穿二敝屐一登。

【敝裕】33（ヘイゲキ）古いあらくずのぬの。〔墨子、備城門〕敝裕新布。〔閒詁〕畢云、說文云、裕、衣物饒也、言二敝衣物一、詒讓案、裕、疑綌字之誤。

【敝篋】34（ヘイケフ）やぶれたはこ。〔宋史、章鑑傳〕惟敝篋貯二一玉杯一。

【敝眷】35 pi^{4} chüan^{4} 自己の家族の謙稱。

【敝袴】36（ヘイコ）やぶれたはかま。〔陸游、五月十日曉寒甚聞二布穀鳴一有レ感詩〕敝袴久當レ脫、短褐竟未レ送。

【藏二敝袴一】37（ヘイコヲザウス）やぶれたはかまをしまつておく。韓の昭侯がやぶれはかまをしまはせて有功者を待つた故事。〔韓非子、內儲說上〕韓昭侯、使三人藏二弊袴一、云云、曰、吾聞、明主之愛二一嚬一笑一、嚬有二爲嚬一、而笑有二爲笑一、今夫袴豈特嚬笑哉、袴之與二嚬笑一遠矣、吾必待二有功者一。〔故事成語考、衣服〕昭侯藏二敝袴一、所三以待二有功一。

【敝鼓】38（ヘイコ）鼓をやぶる。〔荀子、解蔽〕擊レ鼓鼓痺、則必有二敝レ鼓喪レ豚之費一矣。

【敝笱】39（ヘイコウ）❶破れた魚網。〔詩、齊風、敝笱〕敝笱在レ梁、其魚魴鰥。〔釋文〕敝笱、本又作レ弊、敗也。❷詩經、齊風の篇名。魯の桓公が微弱で文姜の亂行を制することの出來ないのを譏つた詩。〔詩、齊風、敝笱序〕刺二文姜一也、齊人惡下魯桓公微弱、不レ能三防二閑文姜一、使上至三淫亂爲二二國患一焉。

【敝國】40（ヘイコク）自國の謙稱。敝邑。〔史記、吳王濞傳〕敝國雖レ狹、地方三千里。

【敝褌】41（ヘイコン）やぶれたふんどし。〔北史、慕容儼傳〕至二死時一、惟着二敝褌一、而積二絹二萬疋一。

【敝齋】42（ヘイサイ）我が家の謙稱。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕便春生二敝齋一。

【敝帚】43（ヘイサウ）やぶれた箒。轉じて、身の程を知らないで誇ることをいふ。弊帚。敝帚千金を見よ。〔秦觀、次韻答二裴仲謨一詩〕方愧貧家矜二敝帚一、忽蒙二隣壁一借二餘明一。

【敝帚軒】44（ヘイサウケン）明、沈德符(**6－17189**··619)の室名。

【敝帚稿略】45（ヘイサウカウリヤク）書名。八卷。宋、包恢撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【敝帚千金】46（ヘイサウセンキン）やぶれ箒を千金に比べた故事。轉じて、身の程を知らないで誇ること。又、自分の有するものを善とする喩。弊帚千金(**4－9644**··29)に同じ。

【敝策】47（ヘイサク）鞭をはげしく用ひる。敝は勞。弊策。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕庸人之御二駑馬一、亦傷レ吻弊レ策。〔注〕五臣作二敝策一、向曰、敝、勞、策、鞭也。

【敝簀】48（ヘイサク）やぶれたすのこ。〔唐書、盧懷愼傳〕敝簀單藉、門不レ施レ箔。〔韋應物、郊居言レ志詩〕出居唯空屋、敝簀委二窓閒一。

【敝棧】49 pi^{4} chan^{4} 敝舖。敝店。自己の店の謙稱。

【敝屣】50（ヘイシ）やぶれた草履。惜しむに足らない廢物の喩。敝蹝。〔徐陵、禪二位陳王一策〕居レ之如レ馭二朽索一、去レ之如レ脫二敝屣一。

【敝蹝】51（ヘイシ）やぶれた草履。棄てても惜しくないものの喩。敝屣。敝履。敝蹻。敝屐。〔孟子、盡心上〕舜視レ棄二天下一、猶レ棄二敝蹝一也。〔注〕舜視レ棄二天下一如三捐二棄敝蹝一、蹝、草履、可レ蹝者也、敝、喩レ不レ惜。

【敝躧】52（ヘイシ）やぶれた草履。敝蹝。〔戰國、燕策〕夫實得レ所レ利、名得レ所レ願、則燕趙之棄レ齊也、猶レ釋二敝躧一。〔正解〕躧・蹝通、草履也。

【敝寺】53 pi^{4} ssŭ^{4} 愚僧の寺。自分の寺の謙稱。

【敝膝】54（ヘイシツ）ひざかけ。ひざおほひ。蔽膝。〔漢書、東方朔傳〕上臨二山林一、主自執二宰敝膝一。〔注〕師古曰、爲二賤者之服一也。

【敝室】55（ヘイシツ）やぶれ衰へた家。〔左氏、昭、二十六〕告二於齊師一曰、孟氏魯之敝室也。〔注〕敝、壞也。

【敝車】56（ヘイシヤ）やぶれた車。〔左氏、襄、二十三〕對曰、然將下具二敝車一而行上。〔後漢書、酷吏、董宣傳〕大麥數斛、敝車一乘。

【敝處】57 pi^{4} ch'ü^{4} 自己の故鄕・土地・地方の謙稱。

【敝署】58 pi^{4} shu^{3} 自己の役所の謙稱。

【敝親】59 pi^{4} ch'in^{1} 自分の親戚。〔西廂記、張君瑞鬧道場雜劇〕老僧有箇敝親。

【敝人】60（ヘイジン）❶いやしい者。〔後漢書、卓茂傳〕茂曰、汝爲二敝人一矣。❷疲れた兵卒。敝卒。〔鄒陽、上二書吳王一書〕收二敝人之倦一、東馳二函谷一、西楚大破。〔注〕濟曰、收二秦疲倦之兵一、出二函谷關一、而破二項羽一。❸pi^{4} jen^{2} 自己の謙稱。拙者。小生。

【敝姓】61 pi^{4} hsing^{4} 自己の姓の謙稱。

【敝扇】62（ヘイセン）やぶれたうちは。〔眞山民、初夏詩〕篋中敝扇投レ閒久、依レ舊團團入手來。

【敝素】63（ヘイソ）粗末でかざりがない。〔後漢書、鮑永傳〕車服敝素、爲二道路所一レ識。

【敝俗】64（ヘイゾク）惡い風俗。弊俗。〔沈約、奏二彈王源一文〕陛下所二以負レ扆、興言思レ淸二敝俗一者也。

【敝族】65（ヘイゾク）おとろへた家柄。自己の一族の謙稱。

【敝卒】66（ヘイソツ）つかれた兵卒。〔戰國、齊策〕安平君以二惴惴之卽墨一、三里之城、五里之郭、敝卒七千、禽二其司馬一、而反二千里之齊一。

【敝撓】67（ヘイダウ）やぶれてまがる。〔周禮、考工記、函人〕凡甲鍛不レ摯則不レ堅也、已敝則撓。

【敝宅】68（ヘイタク）あばらや。自家の謙稱。〔張鳴鳳、謝二馬憲副一書〕敝宅依レ山、加レ之自廢。

【敝榻】69（ヘイタフ）やぶれた寢臺。〔曾國藩、王船山遺書序〕荒山敝榻、終歲孳孳。

【敝治】70 pi^{4} chih^{4} 自己の領地の謙稱。

【敝腸】71 ヘイチヤウ 惡い心。〔後漢書、董卓傳〕羌胡敝腸狗態、臣不レ能二禁止一。〔注〕言二羌胡心腸敝惡、情態如レ狗也、續漢書、敝作レ憋、方言云、憋、惡也。

【敝綈】72 ヘイテイ やぶれた綿入。〔王安石、祭二范潁州一文〕弊綈惡粟。

【敝撤】73 ヘイテツ 歩行の困難なこと。蹩躠。〔晏子、諫、上〕敝撤無レ走。

【敝東】74 pi^4 tung^1 自己の主人の謙稱。

【敝衲】75 ヘイナフ やぶれた僧衣。〔長阿含經〕尊者迦葉著二敝衲一。

【敝破】76 pi^4 p'o^4 破れた。みすぼらしい。

【敝邦】77 pi^4 pang^1 私の邦。敝國。自國の謙稱。

【敝布】78 ヘイフ やぶれたぬの。〔後漢書、宦者、蔡倫傳〕用二樹膚・麻頭、及敝布・魚網一以爲レ紙。

【敝賦】79 ヘイフ 自己の軍兵の謙稱。古は田賦にて兵を出したから、兵を賦といふ。〔左氏、文、十七〕將下悉二敝賦一以待中于鯈上。〔注〕鯈、晉鄭之境也、言レ欲二以レ兵距レ晉也。〔左氏、成、二〕不腆敝賦、以犒二從者一。〔國語、魯語下〕使三叔孫豹悉帥二敝賦一。〔注〕賦、兵也。

【敝服】80 ヘイフク やぶれた服。〔後漢書、獨行、范冉傳〕徒行敝服、賣二卜於市一。

【敝兵】81 ヘイヘイ 兵をつからせそこなふ。〔戰國、秦策〕敝レ兵勞レ衆、不レ足二以成一レ名。

【敝輿】82 ヘイヨ やぶれたこし。〔戰國、宋策〕今有レ人二於此一、舍二其文軒一、鄰有二敝輿一、而欲レ竊レ之。

【敝轝】83 ヘイヨ 敝輿に同じ。〔墨子、公輸〕今有レ人二於此一、舍二其文軒一、鄰有二敝轝一、而欲レ竊レ之。

【敝勞】84 ヘイラウ そこなひつからせる。〔戰國、秦策〕敝レ兵勞レ衆、不レ足二以成一レ名。

【敝里】85 ヘイリ 自己の鄕里の謙稱。〔後漢書、儒林上、孔僖傳〕今陛下親屈二萬乘一、辱臨二敝里一。

【敝履】86 ヘイリ やぶれたはきもの。惜しむに足らない喩。〔何遜、賦詠聯句〕敝履常決レ踵、眉高起二半額一。

【敝裂】87 ヘイレツ やぶれさける。〔論衡、雷虛〕其魄然若二敝裂一者、椎所二椎擊一之聲也。

【敝廬】88 ヘイロ やぶれたすまひ。自己の居宅の謙稱。弊廬。敝屋。敝舍。〔禮、檀弓下〕君之臣免二於罪一、則有二先人之敝廬在一。〔左氏、襄、二十三〕若免二於罪一、猶有二先人之敝廬在一。〔左氏、昭、三〕小人糞二除先人之敝廬一。〔庾信、小園賦〕余有二數畝敝廬一、寂二寞人外一。

【敝漏】89 ヘイロウ やぶれてもれること。〔唐書、隱逸、張志和傳〕以二舟敝漏一、請レ更レ之。〔宋史、蘇軾傳〕以二官舟一爲レ家、補二其敝漏一。

【敝簏】90 ヘイロク やぶれつづら。〔福惠全書、陞遷部、賞二吏役一、注解〕粗重木器及舊屏敝簏之類。

【承レ敝】91 ヘイヲウク ㊀敵の疲敝に乘ずる。承レ弊。〔史記、項羽紀〕今秦攻レ趙、戰勝則兵罷、我承二其敝一。㊁時弊を承ける。承レ敝通レ變(100)を見よ。

【敝衙門】92 pi^4 ya^2 men 自己の役所の謙稱。敝署(57)に同じ。

【敝及門】93 pi^4 chi^2 men^2 自己の門下生の謙稱。敝門人。

【敝相知】94 pi^4 hsiang^1 chih^1 自己の友人の謙稱。

【敝同鄉】95 pi^4 t'ung^2 hsiang^1 自己の同鄕人の謙稱。

【敝同宗】96 pi^4 t'ung^2 tsung^1 自己の一族の謙稱。

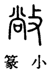
【敝年伯】97 ヘイネンハク 自分の父と同年の進士。〔桃花扇、卻奩〕阮圓老原是敝年伯、小弟鄙二其爲レ人、絕レ之已久。

【敝補衣】98 ヘイホイ やぶれたつぎはぎの衣。〔漢書、周仁傳〕常衣二敝補衣一溺レ袴。

【敝老師】99 pi^4 lao^3 shih^1 自己の師の謙稱。敝業師。

【承レ敝通レ變】100 ヘイヲウケヘンニツウズ 時弊を承け世變に通ずる。〔史記、太史公自序〕禮樂損益、律歷改易、兵權山川鬼神、天人之際、承レ敝通レ變、作二八書一。〔漢書、循吏、黃霸傳〕漢家承レ敝通レ變。

【敞】
13246


小篆

㈠シヤウ 〔集韻〕齒兩切 彳尢ˇ ch'ang^3 養

㈡タウ チヤウ 〔集韻〕恥孟切 敬

㈢タウ ヂヤウ 〔集韻〕除更切 敬

㈠㊀**高い土の上を平らにならす。**〔說文〕敞、平二治高土一、可二㠯遠望一也、从レ攴尙聲。㊁**たかい。**たかく平か。〔史記、淮陰侯傳〕行營二高敞地一。〔王延壽、魯靈光殿賦〕豐麗博敞。〔注〕銑曰、敞、高平也。㊂**あらはれる。**あらはす。〔類篇〕敞、露也。〔張衡、南都賦〕爽塏以閒敞。〔注〕善曰、蒼頡篇曰、敞、高顯也。〔王粲、登樓賦〕實顯敞而寡レ仇。〔注〕善曰、蒼頡篇曰、敞、高顯也。㊃**大きなさま。**又、ひろびろとしたさま。〔王褒、洞簫賦〕又足レ樂二乎其敞閑一也。〔注〕善曰、敞、大貌。〔馬融、長笛賦〕曠瀁敞罔。〔注〕善曰、敞、寬大貌。㊄**つく。**〔一切經音義、三〕敞、撞也。㊅**うつとりする。**惝(4－11208)に通ず。敞罔(13)の㊁を見よ。〔正字通〕敞、通作レ惝。㊆**ひらく。**ひらける。あらはす。〔類篇〕敞、一曰、開也、露也。㊇現罵る。㈡**ふせぐ。**〔集韻〕敞、拒也。㈢**みがく。**鋥(11－40483)に同じ。〔集韻〕鋥、磨也、或作レ敞。〔玉篇〕敞、磨光也。

名乘 ヒサ。タカ。アキラ。

【敞開】1 シヤウカイ ひろげる。開放する。〔類篇〕敞、一曰、開也。

【敞閑】2 シヤウカン 廣く靜かなさま。〔王褒、洞簫賦〕又足レ樂二乎其敞閑一也。〔注〕善曰、敞、大兒、銑曰、皆竹相連廣大兒。〔潘岳、閑居賦〕淸穆敞閑。

【敞懷】3 ch'ang^3 huai^2 心中を打ちあける。

【敞怳】4 シヤウクワウ 耳のはつきり聞えないさま。惝怳。〔漢書、司馬相如傳下〕視眩泯而亡レ見兮、聽敞怳而亡レ聞。〔注〕師古曰、敞怳、耳不レ諦也。

【敞芫】5 シヤウクワウ 敞怳に同じ。芫は怳の古字。〔漢書、外戚上、孝武夫人傳〕濅淫敞芫、寂兮無レ音。〔注〕師古曰、芫、古怳字、敞芫、猶二惝怳一。

【敞豁】6 シヤウクワツ ひろびろとひらける。からりとうちひらけたさま。弘敞。廣敞。〔杜甫、寄二題江外草堂一詩〕亭臺隨二高下一、敞豁當二淸川一。

【敞史】7 シヤウシ 書記。〔稱謂錄、筆帖式古稱、敞史〕案、漢稱二令史一、至レ元稱二筆且齊一、遼稱二南院郞君・南院掾史一、又稱二敞史一、皆今之筆帖式也。

【敞車】8 ch'ang^3 ch'ê^1 ㊀荷車。大八車。㊁無蓋貨車。

【敞心】9 ch'ang^3 hsin^1 心中を打ちあける。

【敞地】10 ch'ang^3 ti^4 廣い地面。

【敞肉】11 ch'ang^3 jou^4 肌をあらはす。

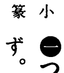
【敞罔】12 シヤウマウ ㊀大きなさま。又、ひろびろとしたさま。〔馬融、長笛賦〕徬徨縱肆、曠瀁敞罔、老莊之槩也。〔注〕善曰、敞、寬大貌、良曰、曠瀁敞罔、寬大閑幽貌。㊁自失するさま。又、志を得ないさま。愴惘。〔史記、司馬相如傳〕敞罔靡徙、因遷延而辭避。〔注〕索隱曰、敞罔、失レ容也。〔王先謙補注〕瞿鴻禨曰、敞罔卽悵惘之借字。〔漢書、司馬相如傳下〕敞罔靡徙、遷延而辭避。〔注〕師古曰、敞罔、失レ志貌。〔楚辭、王逸、九思、守志〕志稸積兮未レ通、悵敞罔兮自憐。

【敞亮】13 ch'ang^3 liang^4 廣い。からりとして氣持がよい。

【敞麗】14 シヤウレイ ひろくうるはしい。〔洛陽伽藍記、城內〕里中太傅錄尙書長孫權、云云、梁州刺史尉成興等六宅、皆高門華屋、齋館敞麗。

【敟】
13247

テン 〔集韻〕多殄切 銑


小篆

㊀**つかさどる。**典(2－1474)に通ず。〔說文〕敟、主也、从レ攴典聲。〔段注〕經傳多作レ典、典行而敟廢矣。㊁**つね。**〔玉篇〕敟、常也。

【㪔】
13249

サン ゼン 〔廣韻〕士咸切 咸

ついばむ。つつく。〔廣韻〕㪔、鳥㪔レ物也。

【㪗】
13250

タツ 撻(5－12774)の古字。〔集韻〕撻、古作レ㪗。

參考 敊(5-13087)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕敊、同㆑敹。敊、古撻字。

【敠】13251 ㊀タツ タチ 〔集韻〕都括切 曷 ㄉㄨㄛˊ tuo² ㊁セツ セチ 〔集韻〕七絶切 屑

㊀❶重量をはかる。敁敠。〔韻會〕敠、敁敠、知㆓輕重㆒也。❷敠敪は、まねかないでくる。〔集韻〕敠、敠敪、不㆑迎自來也。❸敠敪は、ゆつくり食べる。〔類篇〕敠、敠敪、食不㆑速也。㊁たつ。〔集韻〕敠、斷也。

【敇】13252 チョク 敕(5-13225)の譌字。〔正字通〕敇、敕字之譌。

【敊】13253 エフ 〔集韻〕又業切 葉 およぶ。つく。〔玉篇〕敊、相及也。

【𢾭】13254 チョウ 徵(4-10239)の古字。〔集韻〕徵、古作㆑𢾭。

【𢾮】13255 チョウ 徵(4-10239)の古字。〔篇海〕𢾮、古文徵字。

【𢽾】13256 バウ モウ 〔字彙〕莫報切 號 ❶手でたすける。〔字彙〕𢽾、手扶㆑之也。❷𢿦(5-13313)の譌字。〔康熙字典〕𢽾、案、集韻作㆑𢿦。

【敥】13257 カン ケン 〔集韻〕丘咸切 咸 ついばむ。鵮(12-47009)に同じ。〔集韻〕鵮、鳥啄㆑物也、或作㆑敥。

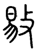
【𢾅】13258 ㊀ゲイ 〔集韻〕研計切 霽 ㊁ゲイ 〔集韻〕研奚切 齊 ㊂ゲイ 〔集韻〕吾禮切 薺

小篆(說文)

小篆(段注本)

㊀㊁㊂❶やぶる。〔說文〕𢾅、毀也、从㆑攴兒聲。❷毀𢾅は、うつ音。〔類篇〕𢾅、毀𢾅、擊聲。

【敡】13259 イ 〔集韻〕以豉切 寘


小篆

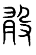
❶あなどる。〔說文〕敡、侮也、从㆑攴易、易亦聲。❷あらためる。〔佩觿集〕敡、改也。❸よろこぶ。〔篇海〕敡、說也。❹てがるい。〔篇海〕敡、輕簡爲㆑敡。

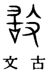
解字 會意。攴(たたく)と易(かろんずる)との合字。易は又聲。攻擊し輕んずる意。あなどる意。難易・輕易などの易の本字であるが、今は易を假借して、敡は廢せられた。

參考 敭(5-13306)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕敡、音異、輕簡。敭、與㆑揚同。

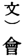
【敢】13260 カン 〔集韻〕古覽切 感 ㄍㄢˇ kan³

小篆


籀文


古文

❶あへて。㋑すすんで。𠭥(2-3182)に同じ。〔正字通〕敢、說文作㆑𠭥。〔說文〕𠭥、進取也、从㆑𠬪古聲、𣪘、籀文𠭥。〔段注〕ヨ、盍亦爪也、冃音冒、用㆑爪用㆑殳、冒而前也、今字作㆑敢、𣪘之隸變。〔書、益稷〕誰敢不㆑讓。㋺おしきつて。しひて。おもひきつて。〔增韻〕敢、忍爲也。〔廣雅、釋詁四〕敢、衂也。〔儀禮、燕禮〕臣敢辭。〔注〕敢者、怖懼用㆑勢決之辭。〔論語、堯曰〕敢以㆓玄牡㆒。〔皇疏〕敢、果也。〔荀子、性惡〕天下有㆑中、敢用㆓其身㆒。〔注〕敢、果決也。㋩むやみに。みだりに。〔儀禮、士虞禮記〕敢用㆓絜牲剛鬣㆒。〔注〕敢、昧冒之辭。〔疏〕凡言㆑敢者、皆是以㆑卑觸㆑尊、不㆓自明㆒之意。❷あへてする。おしきつてする。〔一切經音義、十六〕三蒼、敢、必行也。❸あへてせんや。反語、不敢の意。〔儀禮、聘禮記〕辭曰、非㆑禮也、敢。〔注〕敢、不㆑敢。〔左氏、昭、二〕敢辱㆓大館㆒。〔注〕敢、不㆑敢。〔左氏、定、五〕如㆑辭、〔疏〕敢爲㆓不敢㆒、如爲㆓不如㆒、古人之語然也。〔論語、述而〕若㆓聖與㆑仁、則吾豈敢。❹いさましい。つよい。〔廣雅、釋詁二〕敢、勇也。〔大戴禮、文王官人〕潔廉而果敢者也。〔注〕果敢、謂㆓不㆑虞不㆑懼也。〔老子、七十三〕勇㆓於敢㆒則殺、勇㆓於不敢㆒則活。〔列子、力命〕勇敢。〔釋文〕勇敢、勇猛果敢。❺をかす。〔廣雅、釋詁四〕敢、犯也。❻およそ。或は。もしかすると。大約。〔元曲、陳州糶米〕這個白髭鬚的老兒、敢是包待制。〔水滸傳、五十二回〕不㆓是我㆒、你敢認錯了。

解字 會意。今の字が敢に作るのは、籀文の𣪘が隸書で變じたもの。𣪘は殳(ほこ)とヨ(爪)と月(冒)との合字。爪で殳を持つて冒し進む義。すすむ・あへてする意。說文の一說に、小篆を𠭥に作る。形聲。𠬪は手の意、古は聲で、敢と雙聲合韻となる。▽(金文) 會意。二つの又と占の變形との合字。兩手で占の上部を曲げるさまから、無理をあえてする意。

【敢爲】1 カンヰ 思ひ切つて行ふ。斷乎として決行する。敢行。〔老子、六十三〕復㆓衆人之所㆑過、以輔㆓萬物之自然㆒而不㆓敢爲㆒。〔韓愈、進學解〕少始知㆑學勇㆓於敢爲㆒。

【敢伉】2 カンカウ あへてあたる。伉は抗。〔張衡、西京賦〕威懾㆓兕虎㆒莫㆓之敢伉㆒。〔注〕綜曰、伉、當也、謂㆓獸猛兕虎、且猶畏㆑之、人無㆓敢當㆑之者㆒。

【敢行】3 カンカウ 敢爲に同じ。〔史記、李斯傳〕斷而敢行、鬼神避㆑之、後有㆓成功㆒。〔漢書、敍傳下〕敢行稱㆑亂。

【敢諫】4 カンカン おしきつて諫める。敢諫之鼓を見「よ。

【敢諫之鼓】5 カンカンノコ 古、君を諫めんとする者に、其の意を通じさせるために宮門に置いて打たせた太鼓。〔淮南子、主術訓〕堯置㆓敢諫之鼓㆒、舜立㆓誹謗之木㆒。〔注〕欲㆑諫者、擊㆓其鼓㆒。

【敢毅】6 カンキ 果敢にしてつよい。果毅。〔唐書、石雄傳〕敢毅善戰、氣蓋㆓軍中㆒。

【敢擬】7 カンギ しひてあてる。〔福惠全書、稟啓附、賀㆓道臺中秋㆒〕豈曰㆓上交之敢擬㆒。

【敢求】8 カンキウ 思ひ切つて要求する。〔左氏、昭、十六〕敢求㆑玉以徼㆓二罪㆒、敢辭㆑之。

【敢強】9 kan³ ch'iang² 對抗する。反抗する。

【敢決】10 カンケツ おしきつて決戰する。〔杜甫、故武衞將軍挽詞〕壯夫思㆓敢決㆒、哀詔惜㆓精靈㆒。

【敢言】11 カンゲン あへて言ふ。おしきつて意見をのべる。〔唐書、郝處俊傳〕臨㆑事敢言、自秉㆑政、在㆓帝前㆒議論諄諄、必傅㆓經義㆒、凡所㆓規獻㆒、得㆓大臣體㆒。〔蘇軾、策略五〕養㆓其敢言之氣㆒。

【敢言之臣】12 カンゲンノシン 敢言する臣下。〔越絕書、越絕請糴內傳〕君㆑人者、必有㆓敢言之臣㆒。

【敢做】13 kan³ tsuo⁴ 敢てする。斷行する。敢作に同じ。

【敢作】14 カンサク 思ひ切つて行ふ。おしきつて行ふ。〔蘇軾、次㆓韻孔文仲推官見㆑贈詩〕門前自無㆑客、敢作㆓揚雄鏖㆒。

【敢作敢爲】15 kan³ tsuo⁴ kan³ wei² 思ひ切「つて事をする。

【敢作敢當】16 kan³ tsuo⁴ kan³ tang¹ 思ひ切つて事をする。自信を以て事に當る。

【敢爭】17 カンサウ すすんであらそふ。〔杜甫、敬贈㆓鄭諫議㆒十韻詩〕破的由來事、先鋒孰敢爭。

【敢死】18カンシ 死を惜しまない。しにもの狂ひ。必死。決死。〔論語、先進〕子在、回何敢死。〔後漢書、光武紀上〕光武乃與二敢死者三千人一、從二城西水上一、衝二其中堅一。〔吳志、吳主孫權傳〕以二輕船五百敢死萬人一、襲二攻徐陵一。〔輟耕錄、先輩諧謔〕趙魏公後見下先生同郡崔進之藥肆、懸二一牌一曰中養生主藥室上、以二敢死軍醫人一對レ之。

【敢死士】19カンシノシ 死を覺悟した士。〔史記、平原君傳〕得二敢死之士三千人一。〔後漢書、堅鐔傳〕選二敢死士一、夜自登レ城斬レ關而入。〔南史、宋武帝紀〕賊日來攻レ城、城內兵少、帝乃選二敢死士一、擊二走之一。

【敢死隊】20 kan² ssŭ³ tuei⁴ 決死隊。「隊。

【敢死團】21 kan² ssŭ³ t'uan² 決死隊。敢死

【敢死軍人】22カンシグンジン 決死の軍人。〔明史、閹黨、盧承欽傳〕戶部侍郎孫居相等因言、東林、云云、丁元薦・沈正宗・李朴・賀烺、謂二之敢死軍人一、云云、請以二黨人姓名罪狀一榜二示海內一、忠賢大喜、敕二所司一刊レ籍。

【敢摯】23カンシ 鷙鳥のやうに果敢なこと。摯は鷙。〔史記、酷吏、楊僕傳〕遷爲二御史一、使レ督二盜賊關東一、治放二尹齊一、以爲二敢摯行一。

【敢自】24 kan³ tzŭ⁴ 全く。勿論。實際。事實上。

【敢爾】25カンジ おしきつてしかする。〔晉書、郄超傳〕王獻之兄弟、自二超未亡一、見レ愔、云云、甚修二舅甥之禮一、及二超死一、見二愔慢怠一、云云、愔每慨然曰、使二嘉賓不レ死、鼠子敢爾邪。

【敢辭】26カンジ おしきつて辭退する。思ひ切つて辭する。〔儀禮、燕禮〕臣敢辭。

【敢情】27 kan³ ch'ing² ㊀豈に圖らんや。㊁成る程。果して。

【敢是】28 kan³ shih⁴ 敢て。勿論。實際に。

【敢說】29 kan³ shuo¹ 敢て言ふ。

【敢戰】30カンセン 必死の覺悟で戰ふ。血戰。〔五代史、唐廢帝紀〕其敢戰亦類レ我。

【敢然】31カンゼン 思ひきつてするさま。

【敢則】32 kan³ tsê² ㊀誠に。もとより。㊁却つて。㊂甚だ。

【敢當】33カンタウ ㊀おしきつて敵對する。〔孟子、梁惠王下〕撫レ劍疾視曰、彼惡敢當レ我哉。㊁おしきつて擔當する。〔宋史、蕭注傳〕王安石、云云、敢當二天下大事一。㊂向ふところ敵の無い意。〔急就篇、一〕石敢當。〔注〕衞有二石碏・石買・石惡一、鄭有二石癸・石楚・石制一、皆爲二石氏一、周有二石速一、齊有二石之紛如一、其後亦以命レ族、敢當、言二所レ當無レ敵也。

【不二敢當一】34アヘテアタラズ ㊀謙遜して其の事に當らない意。〔儀禮、士相見禮、非二敢求レ見、注〕嫌レ褻二主人一、不二敢當一也。〔儀禮、士相見禮、某不二敢以聞一、注〕又益不二敢當一。〔呂覽、審應〕弊邑不二敢當一也。〔史記、刺客、聶政傳〕不三敢當二仲子之賜一。㊁pu⁴ kang³ tang⁴ どういたしまして。

【莫二敢當レ夕】35アヘテユフベニアタルナシ 寢處に侍らないこと。〔禮、內則〕妻不レ在、妾御莫二敢當レ夕。

【敢斷】36カンダン 思ひきりがよい。決斷がよい。果斷。敢決。〔尉繚子、十二陵〕除レ害在二於敢斷一。

【敢直】37カンチョク 心勇ましく正しい。〔唐書、段平仲傳〕朝廷有二得失一、未三嘗不二論奏一、世推二其敢直一。

【敢任】38カンニン 敢て任ずる。どこまでも自ら任ずる。〔史記、驃騎將軍傳〕爲レ人少レ言不レ泄、有レ氣敢任。

【敢保】39 kan² pao³ 敢て保證する。

【敢問】40カンモン 敢て問ふ。思ひきつてたづねる。失禮ながらお尋ねする。〔論語、先進〕赤也惑、敢問。〔孟子、公孫丑上〕敢問、何謂二浩然之氣一。

【敢勇】41カンユウ 果敢にして強いこと。

【敢往】42カンワウ 思ひ切り進んで顧みない。〔漢書、酷吏、義縱傳〕治敢往、少二溫籍一。〔漢書、酷吏、王溫舒傳〕擇二郡中豪・敢往吏十餘人一、爲二爪牙一。

【敢無賴】43アイナダノミ あてにならない賴み。

【不二敢欺一】44アヘテアザムカズ あざむかうとしない。決してあざむかない。〔史記、滑稽、西門豹傳〕西門豹治レ鄴、民不二敢欺一。〔通俗編、交際、不二敢欺一〕戰國策、周顏率謂二齊王一曰、不三敢欺二大國一。

【敢不レ受レ教】45アヘテヲシヘヲウケザランヤ 教を受けないでゐようか、受けないではゐない。敢不は反語。〔沈旣濟、枕中記〕此先生所三以窒二吾欲一也、敢不レ受レ教。

【敢布二腹心一】46アヘテフクシンヲシク おしきつて心に思ふ存分を申しのべる。〔戰國、趙策〕雖レ死不レ恨、非レ所レ望也、敢布二腹心一。

【敢擔錯兒】47 kan³ tan¹ ts'uo⁴ êrh 過を引き受ける。

【非二敢爲レ佞】48アヘテネイヲナスニアラズ 強ひて口辯を以て人を悅ばせようとするのではない。〔論語、憲問〕孔子曰、非二敢爲レ佞也、疾レ固也。

【敢怒不敢言】49 kan³ nu⁴ pu⁴ kan³ yen² 心の中には怒つても口には言はない。〔杜牧、阿房宮賦〕使三天下之人、不二敢言而敢怒一。

【不二敢愛レ死】50アヘテシヲヲシマズ 敢て死を惜しまない。〔左氏、定、八〕不二敢愛レ死、懼レ不レ免レ主。

【不二敢期レ生】51アヘテセイヲキセズ 敢て生きて還らうとは思はない。

【不二敢暴レ虎】52アヘテトラヲテウチニセズ 空手で猛獸を搏つやうな冒險をしない。暴は手で搏つこと。〔詩、小雅、小旻〕不二敢暴レ虎、不二敢馮レ河、人知二其一一、莫レ知二其他一。〔傳〕徒涉曰二馮河一、徒搏曰二暴虎一。

【不三敢侮二鰥寡一】53アヘテクワンクワヲアナドラズ 老いて妻のないものや、夫のないものを侮らない。鰥寡は困窮の民。國を治めるには、困窮の民を恤むを以て先とするからいふ。〔書、無逸〕爰知二小人之依一、能保二惠于庶民一、不三敢侮二鰥寡一。〔孝經、孝治章〕治レ國者不三敢侮二鰥寡一、而況於二士民一乎。

【敢效二獻レ曝之忱一】54アヘテホクヲケンズルノマコトヲイタス 日なたぼつこの暖かさを獻ずるまごころをいたす。物を贈りつつしみをいたすをいふ。宋の田夫が、日なたぼつこのあたたかさは誰も知らぬゆゑ、之を君に獻じたならば重賞があらうと語つた故事に依る。〔列子、楊朱〕宋國有二田夫一、云云、暨二春東作一、自曝二於日一、云云、顧謂二其妻一曰、負二日之暄一、人莫二知者一、以獻二吾君一、將レ有二重賞一、里之富室告レ之曰、昔人有下美二戎菽甘枲莖芹萍子一者上、對二鄉豪一稱レ之、鄉豪取而嘗レ之、蜇二於口一、慘二於腹一、衆哂而怨レ之、其人大慙、子此類也。〔故事成語考、天文〕餽レ物致レ敬、曰三敢效二獻レ曝之忱一。

【不三敢爲二天下先一】55アヘテテンカノサキトナラズ 謙虛の德を守つて天下の人に先だち進むことをしない。老子が保身法の一として說いたもの。老子の三寶の一。〔老子、六十七〕我有二三寶一、持而保レ之、一曰慈、二曰儉、三曰不三敢爲二天下先一。

【不二敢毀傷一孝之始】56アヘテキシヤウセザルハカウノハジメナリ 常に戒愼して父母からうけた身體を傷つけ辱かしめないやう大切にすることは、孝を行ふ始めとなることである。〔孝經、開宗明義章〕身體髮膚、受二之父母一、不二敢毀傷一、孝之始也。

【非二敢後一馬不レ進也】57アヘテオクレタルニアラズウマススマザルナリ 魯の大夫孟側（字は之反）が殿後となつて退いたが、其の功に誇らず、己の後れたのを馬の進まないことに託した故事。軍敗れ走るときは、殿後は最も重任であるから之を功勞とする。〔左氏、哀、十一〕孟之側、後入以爲レ殿、抽レ矢策二其馬一曰、馬不レ進也。〔論語、雍也〕子曰、孟之反不レ伐、奔而殿、將レ入レ門、策二其馬一曰、非二敢後一也、馬不レ進也。〔集解〕馬融曰、殿在二軍後一、前曰レ啓、後曰レ殿。

【𢽾】13261

カン 敢（5－13260）の古字。〔玉篇〕𢽾、古文敢。

【敊】13262

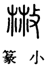
タイ デ 〔玉篇〕丈乖切 佳

㊀わざはひ。〔篇海〕敊、災敊也。㊁よこしま。〔篇海〕敊、邪也。

【㪔】13263

㈠サン 〔集韻〕顙旱切 旱

㈡サン 〔集韻〕先旰切 翰


小篆

㈠㈡㊀ちらす。わける。〔說文〕㪔、分離也、从レ林从レ支、林、分㪔之意也。〔正字通〕㪔、剝レ麻也。㊁古は枚（5－13141）に作る。〔集韻〕㪔、古从レ朩。㊂散（5－13265）に通ず。〔說文通訓定聲〕散、段借爲レ㪔。

解字 會意。支と林との合字。林は麻、分離し易い麻をうちたたい（支）て分散せしめる義。ちらすの意。後、散の字が行はれて、㪔の字は廢せられた。

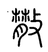
【敥】13264 ソウ 奏(3−5915)の古字。〔說文〕奏、敥、亦古文。

【散】13265

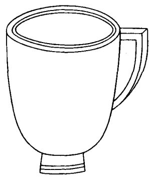
［一］サン 〔集韻〕顙旱切 ㄙㄢˇ san^3 ［旱］

［二］サン 〔集韻〕先旰切 ㄙㄢˋ san^4 ［翰］

［三］サン 〔集韻〕相干切 ［寒］


小篆

［一］［二］㊀ちる。ちらす。ちらせる。㪔(5−13263)に通ず。〔說文通訓定聲〕散、叚借爲㆑㪔。〔易、說卦〕風以散㆑之。〔大學〕財聚則民散、財散則民聚。〔素問、脈要精微論〕陽氣未㆑散。㊁しく。ちりしく。𢿥(5−13434)に通ず。〔說文通訓定聲〕散、叚借爲㆑𢿥。〔廣雅、釋詁三〕散、布也。〔太玄經、玄告〕散而聚。〔注〕散、布也。㊂いりみだれる。〔太玄經、玄瑩〕晝夜散者。〔注〕散、猶㆑雜也。〔淮南子、精神訓〕不㆓與㆑物散㆒。〔注〕散、雜亂貌。㊃あらい。〔後漢書、曹褒傳〕此制散略。〔注〕散略、猶㆓疏略㆒也。㊄ほしいまま。しまりがない。〔廣韻〕散、誕也。〔荀子、脩身〕庸衆駑散。〔注〕散、不㆓拘檢㆒者也。㊅はなれる。はなればなれ。〔孟子、梁惠王上〕兄弟妻子離散。〔漢書、天文志〕散者、不㆓相從㆒也。㊆きれぎれの肉。𢿌(5−13390)に同じ。〔說文〕𢿌、雜肉也、从㆑肉㪔聲。〔說文通訓定聲〕今隸作㆑散。㊇むだ。やくにたたない。〔莊子、人閒世〕散木也。〔注〕不㆑在㆓可㆑用之數㆒、故曰㆓散木㆒。㊈ひま。用がない。〔增韻〕散、冗散閒散。〔韓愈、進學解〕投㆑閒置㆑散、乃分之宜也。㊉くらい。あきらかでない。〔後漢書、黃瓊傳〕日闇月散。〔注〕散、不㆓精明㆒也。(十一)わかれる。〔漢書、敍傳下〕師徒彌散。〔注〕師古曰、散、謂㆓分派㆒也。(十二)わける。賦與する。〔書、武成〕散㆓鹿臺之財㆒。〔疏〕散者、言㆓其分布㆒。(十三)はなつ。〔禮、樂記〕馬散㆓之華山之陽㆒。〔注〕散、猶㆑放也。〔公羊、莊、十二〕散㆓舍諸宮中㆒。〔注〕散、放也。(十四)なくなる。うせる。〔國語、齊語〕其畜散無㆑育。〔注〕散、謂㆓失亡㆒也。(十五)にげる。逃亡する。〔易略例〕投㆑戈散㆑地。〔注〕散、逃也。〔呂覽、貴當〕貍處㆑堂而衆鼠散。〔注〕散、走也。(十六)そこなふ。〔方言、三〕散、殺也、東齊曰㆑散。(十七)こなぐすり。散藥。〔正字通〕散、藥石屑曰㆑散。〔後漢書、華佗傳〕佗授以㆓漆葉青黏散㆒。(十八)文體の名。韻をふまない文。韻文の對。散文(203)を見よ。(十九)琴曲の名。〔晉書、嵇康傳〕廣陵散從㆑茲絕矣。(二十)さかづきの名。容量五升のもの。〔詩、邶風、簡兮〕公言錫㆑爵、傳〕不㆑過㆓一散㆒。〔釋文〕散、酒爵也、容㆓五升㆒。〔儀禮、特牲饋食禮記〕實㆓二爵二觚四觶一角一散㆒。〔注〕舊說云、爵一升、觚二升、觶三升、角四升、散五升。〔禮、禮器〕賤者獻以㆑散。〔注〕五升曰㆑散。(廿一)さかだるの名。漆ぬりの無地のもの。〔周禮、春官、鬯人〕廟用㆑脩、凡山川四方曰㆑蜃、凡祼事用㆑概、凡疈事用㆑散。〔注〕脩・蜃・概・散、皆漆尊也、概尊以㆑朱帶者、無㆑飾曰㆑散。(廿二)そへ。副。〔禮、少儀〕以㆓散綏㆒升。〔疏〕散綏、副綏也。(廿三)いやしい。〔周禮、春官、旄人〕掌㆑教㆑舞㆓散樂㆒。〔注〕散樂、野人爲㆑樂之善者、若㆓今黃門倡㆒矣。(廿四)あられ。霰(12−42458)に通ず。〔說文通訓定聲〕散、叚借爲㆑霰。〔周禮、鹽人〕共㆓其苦鹽散鹽㆒。按、形如㆓稷雪㆒也。(廿五)姓。〔尚友錄〕散、上聲、今江東有㆓此姓㆒。［三］よろめく。跚(10−37477)に通ず。〔集韻〕跚、蹣跚、行不㆑進貌、或作㆑散。〔史記、平原君傳〕槃散行汲。〔注〕索隱曰、散、音先寒反。［邦］㊀ちらす。いひふらす。㊁ちる。ひろがる。㊂ちらし。㋑廣告の引札。㋺ちらしごもく。ちらしずしの略稱。㋩かるたをまきちらし爭ひ取ること。㋥色紙・短冊などに行をそろへずかくこと。


(圖器禮) 散

［解字］ 會意。㪔は分離、月は肉。分散した肉、卽ち雜肉・こま切れの意。轉じて、ちらす意。隸書で散となつた。一說に、肉をもととし、㪔の聲とし、形聲と解く。▽ (金文) 會意。攴と竹と肉との合字。竹の肉を皮から分離する、ばらばらに分かつ意。

【散衣】1サンイ ふだんぎ。通常の衣。〔儀禮、士喪禮〕祭服次、散衣次。〔注〕褖衣以下袍繭之屬。

【散意】2サンイ 心をちらす。〔阮瑀、爲㆓曹公㆒作㆑書與㆓孫權㆒〕抱懷數年、未㆑得㆑散㆑意。

【散位】3サンヰ サンニ 位のみあつて職掌のないもの。〔左氏、文、十二、秦獲㆓穿也㆒獲㆓一卿㆒矣、注〕然則晉自有㆓散位從㆑卿者㆒也。〔舊唐書、職官志二〕散位則一切以㆓門蔭㆒結㆑品、然後勞㆑考進㆑敍。

【散位寮】4サンヰレウ 古、官署の名。式部省に屬し、內外文武官の散位に關して總掌し、諸國朝集使の上日を判する所。頭・助・允・屬等の職員を置く。寬平八年本省に併合さる。〔令義解、職員令〕散位寮、頭、一人、掌㆓散位名帳・朝集事㆒也。

【散游】5サンイウ 諸方に散りあそぶ。〔史記、儒林傳序〕自㆓孔子卒㆒後、七十子之徒、散㆓游諸侯㆒、大者爲㆓師傅卿相㆒、小者友㆓教士大夫㆒。

【散佚】6サンイツ 散軼に同じ。

【散軼】7サンイツ ちらばる。なくなる。散逸する。〔困學紀聞、評文〕柳文、云云、食㆓蝦蟇㆒詩、韓文公有㆑答、今亦不㆑傳、則遺文散軼多矣。

【散逸】8サンイツ ㊀ちりうせる。散失。散亡。散軼。散佚。〔蔡邕、李子材碑〕名臣繼㆑踵、支冑散逸。〔顏氏家訓、雜藝〕梁氏祕閣散逸以來、吾見㆓二王眞草㆒多矣。〔潘岳、西征賦〕街里蕭條、邑居散逸。〔注〕濟曰、散逸、無㆑人也。〔北史、儒林下、樂遜傳〕山東寇亂、學者散逸。㊁仕事が無い。ひま。閑散で隱逸。〔南史、梁元帝諸子、忠烈世子方等傳〕性愛㆓林泉㆒、特好㆓散逸㆒。〔王貞白、洗㆑竹詩〕錦籜裁㆑冠添㆓散逸㆒、王芽脩㆑饌稱㆓淸虛㆒。

【散員】9サンヰン ひまな役員。任務の無い役人のかず。閒員。〔隋書、李德林傳〕既是西省散員、非㆓其所㆑好。〔蘇軾、到㆓黃州㆒謝表〕玷㆓散員㆒、更叨㆓善地㆒。

【散鬱】10サンウツ うさはらし。きばらし。〔北夢瑣言〕小貂游㆓鄰寺㆒、以散㆓鬱陶㆒。

【散液】11サンエキ ちり解ける。〔齊民要術、水稻〕北土高原、本無㆓陂澤㆒、隨㆓逐隈曲㆒而田者、二月冰解地乾、燒而耕㆑之、仍卽下水十日、塊既散液、持㆓木斫㆒平㆑之。

【散越】12サンエツ ちりぢりになる。〔國語、周語下〕氣不㆓沈滯㆒、而亦不㆓散越㆒。〔注〕越、遠也。

【散鹽】13サンエン 海水を煮詰めて作つた鹽。末鹽。山から取る苦鹽(9−30797・・13)の對。〔周禮、天官、鹽人〕祭祀共㆓其苦鹽・散鹽㆒。〔注〕鄭司農云、散鹽、湅治者、玄謂、散鹽、鬻㆑水爲㆑鹽。〔疏〕散鹽、煑㆑水爲㆑鹽。

【散翁】14サンヲウ 宋、黃子信(12−47926・・1114)の號。

【散衙】15サンガ 役所から退廳する。〔沈周、暮投㆓承天習靜房㆒與㆓老僧㆒夜酌復和㆓淸虛堂韵㆒詩〕臨㆑昏細雨如㆓撒沙㆒、城中官府已散衙。

【散開】16 san^4 kʻai ㊀散らばる。配置する。解散する。㊁サンカイ 軍隊用語。密集部隊が各個に適當の間隔を取つて隊形をひらくこと。

【散行】17サンカウ ㊀散じやる。〔管子、國蓄〕散㆓行之㆒以㆑重。㊁散從(112)の㊁に同じ。〔釋寧、答㆓郗仲誼㆒詩〕公餘聯㆑騎入㆓山城㆒、老衲追陪得㆓散行㆒。㊂ san^3 hang 散文體の尺牘。

【散膏】18サンカウ 脾にあるあぶら。〔史記、倉公傳、臣意不㆑能㆑全也、注〕正義曰、有㆓散膏半斤㆒。

【散客】19サンカク 歸りかけた客。〔韓偓、横塘詩〕散

客出㆑門斜月在、兩眉愁思問㆓横塘㆒。

【散樂】20 サンガク ㊀雜樂をいふ。もと西域より輸入され、演戲・奇伎を專らとするもの。隋以前、百戲と稱し、我が國の猿樂の一因を爲すといふ。正樂(**6-16255**・・54)・雅樂(**11-41973**・・19)の對。轉じて、百戲の弄丸・弄刀・綱渡等の雜藝の稱。〔周禮、春官、旄人〕掌㆑教㆘舞㆓散樂㆒、舞㆗夷樂㆖。〔注〕散樂、野人爲㆑樂之善者、若㆓今黃門倡㆒矣、自有㆑舞。〔疏〕以㆓其不㆑在㆓官之員內㆒、謂㆑之爲㆑散、云云、漢倡優之人、亦不㆑在㆓官樂之內㆒、故擧以爲㆑說也。〔通典、樂、散樂〕隋以前謂㆓之百戲㆒。散樂非㆓部伍之聲㆒、俳優歌舞雜奏、云云、隋文帝開皇初、周齊百戲、並放㆓遣之㆒、煬帝大業二年、突厥染于來朝、帝欲㆑夸㆑之、總㆓追四方散樂㆒、大集㆓東都㆒、於㆓華林苑積翠池側㆒、帝令㆓宮女觀㆒㆑之、有㆓舍利繩主等㆒、如㆓漢故事㆒、又爲㆓夏育扛鼎㆒、取㆓車輪石臼大盆器等㆒、各於㆓掌上㆒而跳㆓弄之㆒、并二人戴㆓竿其上㆒舞、忽然騰透而換易、千變萬化、曠古莫㆑儔、染于大駭㆑之、自㆑是皆於㆓太常㆒教習、每歲正月萬國來朝、留至㆓十五日㆒、於㆓端門外建國門內㆒、綿亘八里、列爲㆓戲場㆒、百官赴㆑棚夾㆑路、從㆑昏達㆑曙、以縱㆓觀之㆒、至㆑晦而罷、伎人皆衣㆓錦繡繒綵㆒、其歌者多爲㆓婦人服㆒、鳴㆓環佩㆒、飾以㆓花髦㆒者、殆三萬人、初課㆓京兆河南㆒、製㆓此服㆒、而兩京繒錦爲㆑之中虛、六年諸夷大獻㆓方物㆒、突厥啓人以下、皆國主親來朝賀、乃於㆓天津街㆒、盛陳㆓百戲㆒、自㆓海內凡有㆓伎藝㆒無㆑不㆓總萃㆒、崇㆓侈器翫㆒、盛㆓飾衣服㆒、皆用㆓珠翠金銀、錦罽絺繡㆒、其營費鉅億萬、關西以㆓安德王雄㆒總㆑之、東都以㆓齊王暕㆒總㆑之、金石匏革之聲、聞㆓數十里外㆒、彈絃擫管以上萬八千人、大列㆓炬火㆒、光㆓燭天地㆒、百戲之盛、振古無㆑比、自㆑是每年爲㆑常焉、大抵散樂雜戲多㆓幻術㆒、皆出㆓西域㆒、始㆓於善㆑幻人㆒、至㆓中國㆒、漢安帝時、天竺獻㆑伎、能自斷㆓手足㆒、刳㆓剔腸胃㆒、自㆑是歷代有㆑之、大唐高宗惡㆓其驚㆒㆑人、敕㆓西域關津㆒、不㆑令㆑入㆓中國㆒、睿宗時、婆羅門獻㆓樂舞㆒、人倒行而以㆑足舞、極銛刀鋒倒㆓植於地㆒、抵㆑目就㆑刃以歷㆓臉中㆒、又於㆓背下㆒吹㆓篳篥㆒、其腹上曲終、而亦無㆑傷、又伏伸㆓其手㆒、兩人躡㆑之、旋㆑身繞㆑手、百轉無㆑已、漢代有㆓橦末伎㆒、又有㆓盤舞㆒、晉代加㆑之、以㆑杯謂㆓之杯盤舞㆒、梁有㆓長橋伎・跳跈伎・躑倒伎・跳劍伎㆒、今並存、又有㆓舞輪伎㆒、蓋今之戲車輪者、透㆓三峽伎㆒、蓋今之透飛梯之類也、高桓伎、蓋今之戲繩者也、果有㆓猴幢伎㆒、今有㆓緣竿伎㆒、又有㆓獼猴緣竿伎㆒、未㆑審㆓何者爲㆒㆑是、又有㆓弄椀珠伎㆒、歌舞戲有㆓大面撥頭踏搖娘窟礧子等戲㆒、玄宗以㆔其非㆓正聲㆒、置㆓教坊於禁中㆒以處㆑之、婆羅門樂用㆓篳篥二㆒、齊鼓一㆒、散樂用㆓橫笛一、拍板一、腰鼓三㆒、其餘雜戲、變態多端、皆不㆑足㆑稱也。〔唐會要、散樂〕歷代有㆑之、其名不㆑一、非㆓部伍之聲㆒、俳優歌舞雜奏、總謂㆓之百戲㆒、跳跈・擲劍・透梯・戲繩・緣竿・弄枕。〔樂府詩集、舞曲歌辭、雜舞、散樂附〕散樂、云云、漢書所謂黃門名倡丙彊景武之屬是也、漢有㆓黃門鼓吹㆒、天子所㆔以宴㆓羣臣㆒、然則雅樂之外、又有㆓宴私之樂㆒焉、唐書樂志曰、散樂者非㆓部伍之聲㆒、俳優歌舞雜奏、秦漢以來又有㆓雜伎㆒、其變非㆑一、名爲㆓百戲㆒、亦總謂㆓之散樂㆒、自㆑是歷代相承有㆑之。㊁サルガク 神代の神遊に始まり、後世の能樂の源をなした古舞樂。さるがく。さるがう。猿樂。〔三代實錄、三十八〕元慶四年七月二十九日、右近衞、內藏富繼、長尾末繼、伎善㆓散樂㆒、令㆓人大咲㆒、所謂潙詐人近㆑之矣。

【散學】21 san^4 hsüeh^2 ㊀學校がひける。㊁san^3 hsüeh^2 ㋑規律なく學ぶ。教師に就いて規則的に學んだものでない勉強法。㋺塾。

【散合】22 サンガフ 散つたり聚つたり。〔日本外史、新田氏前記、楠氏北畠氏〕出沒散合、使㆓敵不㆒㆑知㆓我所㆒㆑在。

【散氣】23 サンキ 散じた氣。〔漢書、天文志〕星者金之散氣、其本曰㆑人、星衆國吉、少則凶。〔注〕孟康曰、星、石也、金石相生、人與㆓星氣㆒相應也。〔張華、女史箴〕茫茫造化、二儀既分、散氣流形、既陶既甄。

【散棄】24 サンキ ㊀官途に用ひられず捨てられてゐること。〔常袞、代㆓裴相公㆒讓㆓將相封爵㆒表〕自甘㆓散棄㆒、豈望㆓榮達㆒。㊁散らしすてる。〔歐陽脩、石鼓文跋〕孔子廟中鼓有㆑十、先時散㆓棄于野㆒、鄭餘慶置㆓于廟㆒、而亡㆓其一㆒。

【散機】25 サンキ 閑散な時。閑暇。〔易林本節用集〕散「機。

【散騎】26 サンキ 官名。散騎省を見よ。〔事物紀原、三省綱轄部、散騎〕秦置㆓散騎㆒、又置㆓中常侍㆒、本二官、魏文帝黃初初、合㆓散騎常侍㆒、爲㆓一官㆒、唐顯慶中、分㆓左右㆒、左隸㆓門下㆒、右中書也。

【散騎官】27 サンキクワン 散騎省の官吏。散騎省を見よ。

【散騎省】28 サンキシヤウ 官署の名。騎省ともいふ。魏、散騎常侍及び外散騎常侍を置く。魏・晉の間、尚書の奏事を掌り、東晉の時、表詔を掌る。宋齊及び北魏北周、集書省と稱し、梁は舊に仍つて散騎省といふ。皆散騎常侍を長官とし、侍中と並に帷幄に侍し、從容諷議するを職とする。其の下に散騎侍郎等あり、通じて之を散騎官といふ。隋、散騎省を廢し、之を門下省に併合す。〔通典、職官、宰相、侍中、散騎常侍〕自㆑秦置㆓散騎㆒、又置㆓中常侍㆒、散騎並㆓乘輿㆒、後中常侍得㆑入㆓禁中㆒、皆無㆑員、漢因㆑之並加㆑官、散騎有㆔常侍郎與㆓侍中黃門侍郎㆒、後漢中初、省㆓散騎㆒、而中常侍改用㆓宦者㆒、魏文帝黃初、初置㆓散騎㆒、合㆓於中常侍㆒、謂㆓之散騎常侍㆒、後用㆓士人㆒、始以㆓孟達㆒補㆑之、久次者爲㆓祭酒㆒、散騎常侍掌㆓規諫㆒、不㆑典㆑事、貂璫插㆓右騎㆒而散從、又有㆓員外者㆒、因曰㆓員外散騎常侍㆒、晉太始中、令㆘員外散騎常侍二人與㆓散騎常侍㆒通員直㆖、因曰㆓通直散騎常侍㆒、亦武冠右貂、金蟬、絳朝服、佩㆓水蒼玉㆒、雖㆑隸㆓門下㆒、而別爲㆓一省㆒、自㆑魏至㆑晉、共平㆓尚書奏事㆒、東晉乃罷㆑之、而以㆓中書職㆒入㆓散騎省㆒、故散騎亦掌㆓表詔㆒焉、宋置㆓四人㆒屬㆓集書省㆒、齊散騎侍郎・通直散騎侍郎・員外散騎侍郎、並爲㆓集書省職㆒、而散騎常侍爲㆓東省官㆒、散騎常侍・通直散騎常侍・員外散騎常侍、舊爲㆓顯職㆒、與㆓侍中㆒通㆑官、其通直員外用㆓衰老人士㆒、故其官漸替、宋大明中、雖㆔革㆓選比侍中㆒、而人情久習、終不㆑見㆑重、尋復如㆑初、梁謂㆓之散騎省㆒、天監六年、詔又革㆑之、自㆑是散騎視㆓中丞㆒、通直視㆓侍中㆒、員外視㆓黃門郎㆒、然而常侍終非㆓華冑所㆒㆑悅、常侍亦四人、功高者一人爲㆓祭酒㆒、與㆓侍中功高者一人㆒對、掌㆓禁令㆒糾㆓諸逋違㆒、陳因㆓梁制㆒、後魏北齊皆爲㆓集書省㆒、掌㆓諷議㆒左右從容獻納、領㆓諸散騎常侍・侍郎、及諫議大夫・給事中等官㆒、兼以出㆓入王命㆒、位在㆓中書之左㆒、其資敍爲㆓第三清㆒、北齊常侍定限八員、如㆓金紫光祿大夫㆒、隋諸散騎官並屬㆓門下省㆒、凡歷代散騎官、有㆓郎騎常侍・散騎常侍・散騎侍郎・員外散騎常侍・員外散騎侍郎・通直散騎常侍・通直散騎侍郎㆒、大唐貞觀二年制、諸散騎常侍、皆爲㆓散官從三品㆒、後悉省㆑之。

【散騎常侍】29 サンキジヤウジ 官名。散騎省の長官。秦代、散騎、及び中常侍を置く。散騎は乘輿にそひ、專ら可否を獻替することを掌り、中常侍は禁中に出入して常に左右に侍す。西漢は兼官とし、東漢は散騎を省き中常侍は改めて宦者を用ふ。魏晉、之を復し、合して散騎常侍といひ、士人を用ひ顯官とす。隋、之を廢し、唐、之を復して左右に分ち、門下・中書兩省に分隸す。宋、之に因り、明、廢して別に帶刀散騎舍人を置き、秩僅かに八品。清、唯〻王府に散騎郎を置く。散騎省を見よ。

【散吉】30 サキ 姓氏。

【散供】31 サンク ㊀米などをまき散らして神佛に供へる。〔源平盛衰記、九、康頼熊野詣〕清き砂を散供として、名句祭文を讀み上げて。㊁神物の供物を取り下げる。〔江家次第、六、大殿祭〕次南殿御膳宿散供。

【散給】32 サンキフ 貧窮者に食糧・金錢等を分ち與へる。〔清會典事例、刑部、戶律戶役〕其正實孤貧、俱令㆔居㆓住院內㆒、每名各給㆓印烙年貌腰牌一面㆒、該州縣按㆑季到㆑院、親身驗㆓明腰牌㆒、逐㆑名散㆓給口糧㆒。

【散去】33 サンキヨ ちりさる。ちりうせる。〔高適、別㆓韋參軍㆒詩〕歡娛未㆑盡分散去、使㆔我惆悵驚㆓心神㆒。

【散曲】34 サンキヨク 戲曲の用語。㊀科白が無くて相聯關する曲。㊁短章の歌曲をいふ。小令(**4-7473**・・1292)の㊁に同じ。

【散金】35 サンキン ㊀錢を分ち與へる。〔史記、蘇秦傳〕蘇秦爲㆓縱約長㆒、并㆓相六國㆒、北報㆓趙王㆒、乃行過㆓雒陽㆒、云云、散㆓千金㆒以賜㆓宗族朋友㆒。〔漢書、敍傳下〕疏克有㆑終、散㆑金娛㆑老。㊁金を散らす。〔崔善爲、答㆓王無功㆒九日詩〕露葉疑㆑涵㆑玉、風花似㆑散㆑金。㊂散らした黃金。〔張翰、雜詩〕青條若㆓摠翠㆒、黃華如㆓散金㆒。

【散禁】36サンキン 罪囚に獄具を施さないで獄內に監禁すること。鎖禁（**11**―40708‥14）の對。〔唐律、斷獄、囚應ㇾ禁而不ㇾ禁、疏議〕獄官令、禁囚死刑枷杻、婦人及流以下去ㇾ杻、其杖罪散禁。

【散錦】37サンキン にしきをまき散らす。星の多くあつまり輝いてゐる形容。〔庾闡、詩〕玄景如㆓映壁㆒、繁星如㆓散錦㆒。

【散屨】38サンク 飾のないくつ。〔周禮、天官、屨人〕辨㆓外內命夫・命婦之命屨・功屨・散屨㆒。〔注〕散屨亦謂㆓去飾㆒。

【散空】39サンクウ ちつてなくなる。〔越絕書、越絕外傳計倪〕兵革散空、國且㆓滅亡㆒。

【散火】40サンクワ ❶火花を散らす。〔稽神錄〕江南神武軍使孫漢威廐中有ㇾ馬、遇ㇾ夜輒尾上放ㇾ光、狀若㆓散火㆒、漢威以爲ㇾ妖、拔ㇾ劍斬ㇾ之、數日除㆓刺史㆒。❷花の咲いた形容。〔蘇軾、山茶詩〕誰憐兒女花、散火冰雪中。

【散花】41サンクワ ❶花を散らす。〔梁簡文帝、應令詩〕遠烟生兮含㆓山勢㆒、風散ㇾ花兮傳㆓馨香㆒。❷舞曲の名。〔隋書、音樂志下〕行曲有㆓單交路㆒、舞曲有㆓散花㆒。❸樓の名。又、錦樓・錦江樓といふ。四川省成都縣の龜城上。〔李白、西巡㆓南京㆒歌〕北地雖ㇾ誇㆓上林苑㆒、南京還有㆓散花樓㆒。〔方輿勝覽〕錦樓在㆓成都縣龜城上㆒、唐建、前瞰㆓大江㆒、西眺㆓雪嶺㆒、東望㆓長松㆒、二江合流、一曰㆓錦江樓㆒、亦曰㆓散花樓㆒。❹佛サンゲ ㋑佛の供養のために花を散らすこと。散華の❷に同じ。〔魏書、釋老志〕世祖初卽ㇾ位、亦遵㆓太祖太宗之業㆒、每引㆓高德沙門㆒、與共談論、於㆓四月八日㆒、輿㆓諸佛像㆒、行㆓於廣衢㆒、帝親御㆓門樓㆒臨觀、散花以致㆓禮敬㆒。〔宋之問、九月九日登㆓慈恩浮圖㆒應制詩〕散ㇾ花多寶塔、張ㇾ樂布金田。㋺經の散文をいふ。散花貫花を見よ。❺san⁴ hua¹ 正月十四・十五・十六の三日間に草束に紙を插み糞堆の傍に散らすこと。河南地方の田舍の風習。

【散花菴】42サンクワアン 宋、黃昇（**12**―47926‥491）の號。

【散花菴詞】43サンクワアンシ 書名。一卷。宋、黃昇撰。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【散花貫花】44サンゲクワンゲ 佛經の散文を譬へて散花といひ、其の偈頌を貫花といふ。散華貫華に同じ。〔文句、一上〕佛赴ㇾ緣作㆓散花貫花兩說㆒。

【散花女史】45サンクワヂヨシ 清、沈纕（**6**―17189‥196）の號。

【散花天女】46サンゲテンニヨ 佛花をまきちらす天女。〔維摩經〕會中有㆓一天女㆒、以㆓天花㆒散㆓諸菩薩㆒、悉皆墮落、至㆓大弟子㆒、便著不ㇾ墜、天女曰、結習未ㇾ盡、故花著ㇾ身。

【散華】47サンクワ ❶花を散らす。〔劉楨、公讌詩〕芙蓉散㆓其華㆒、菡萏溢㆓金塘㆒。❷佛サンゲ ㋑經の散文をいふ。散華貫華を見よ。㋺佛の供養のために花を散布すること。〔灌頂經、十二〕燒香散華歌詠讚歎。

【散華貫華】48サンゲクワンゲ 散花貫花（44）に同じ。〔嘉祥法華義疏〕龍住十住毘婆沙云、一者隨㆓國法不同㆒、如㆘震日有㆓序銘之文㆒、天竺有㆗散華貫華之說㆖也。

【散灰】49サンクワイ 灰を撒く。〔舊唐書、李益傳〕益少有㆓癡病㆒、而多㆓猜忌㆒、防㆓閑妻妾㆒、過爲㆓苛酷㆒、而有㆘散㆓灰扃戶㆒之譚㆖、聞㆓於時㆒。

【散會】50サンクワイ ❶集會を解くこと。❷立會を閉鎖すること。取引所の語。

【散壞】51サンクワイ ばらばらにやぶれる。〔唐書、姚璹傳〕彌勒成佛、七寶臺須臾散壞。〔資治通鑑、周紀一（威烈王、二十三年）〕臣光曰、云云、周道日衰、綱紀散壞。

【散懷】52サンクワイ 思ひをはらす。うさばらしをする。〔孫綽、遊㆓天台山㆒賦序〕方解㆓纓絡㆒、永託㆓茲嶺㆒、不ㇾ任㆓吟想之至㆒、聊奮ㇾ藻以散ㇾ懷。

【散光】53サンクワウ ❶粗な面より反射する光線。❷亂視をいふ。

【散豁】54サンクワツ ひろびろとしたさま。〔王蘊之、蘭亭詩〕散豁情志暢、塵纓忽已捐。

【散闊】55サンクワツ さへぎるものがなくひろびろとしてゐること。〔葉適、齊雲樓詩〕闤闠雖㆓散闊㆒、欄檻皆堪ㇾ記。

【散官】56サンクワン ❶職事官に對し、閑散の地位に在る官吏をいふ。其の制は漢に始まり、其の名は隋代に始まる。金元以後は階官も散官といふ。散職。閒職。〔通典、職官、文散官〕開府儀同三司、隋文帝並以爲㆓散官㆒、云云、大唐、云云、以㆓開府儀同三司㆒爲㆓文散官㆒、云云、特進、云云、隋文帝以爲㆓散官㆒不ㇾ理ㇾ事、煬帝卽ㇾ位、廢㆓特進官㆒、大唐爲㆓文散官㆒、光祿大夫以下、云云、隋有㆓光祿大夫・左右光祿大夫㆒、皆爲㆓散官㆒不ㇾ理ㇾ事、大唐初、猶有㆓左右之名㆒、貞觀以後、唯曰㆓光祿大夫・金紫光祿・銀青光祿㆒、並爲㆓文散官㆒。〔資治通鑑、唐紀、玄宗、注〕散官無㆓職事㆒。❷散位の唐名。〔職原抄、散位、增注〕散位者、散ㇾ官而有ㇾ位也、異朝曰㆓之散官㆒。

【散渙】57サンクワン 寬廣のさま。又、分布すること。〔司馬相如、上林賦〕散㆓渙夷陸㆒。〔注〕銑曰、散渙、寬廣貌。〔王褒、洞簫賦〕氣旁迕以飛射兮、馳散渙以遝律。〔注〕善曰、散渙、分布也。

【散緩】58サンクワン 散漫でゆるやか。〔捫蝨新話、詩類〕山谷常謂曰、云云、然以ㇾ予觀ㇾ之、云云、子厚氣悽愴、樂天語散緩、各得㆓其一㆒。

【散館】59サンクワン 清代、翰林院に庶常館があり、進士が庶吉士と爲つて三年の後、試驗を受けて各〻其の任に就くこと。優等者は留館して編修檢討に任ぜられ、平凡者は館を出で主事知縣に任ぜられる。留館（**7**―21808‥42）を見よ。〔清會典事例、吏部、除授、庶吉士散館〕原定、庶吉士散館、奉ㇾ旨留㆓翰林院㆒者、二甲授㆓編修㆒、三甲授㆓檢討㆒、以㆓知縣㆒卽用者、不ㇾ論㆓雙單月㆒卽用、以㆓知縣㆒歸ㇾ班用者、仍歸㆓進士原班㆒候選。〔清國行政法汎論、翰林院、庶常館〕庶吉士無㆓定員㆒、掌院學士、自㆓進士中㆒選㆓拔之㆒、常在㆓院內㆒、專從㆓事於讀書肄業㆒、無㆘可㆓執行㆒之事務㆖、庶常館教習監㆓督其學業㆒、在ㇾ院三年之後、施㆓行試驗㆒、君主親行ㇾ之、稱曰㆓散館㆒。

【散關】60サンクワン 地名。一名、大散關。陝西省寶雞縣の西南、大散嶺の上。〔宋中興四朝志〕大散關、爲㆓秦蜀往來要道㆒、自ㇾ關距㆓和尙原㆒纔咫尺、兩山關控㆓斗絕㆒、出可㆓以攻㆒、入可㆓以守㆒、實表裏之形勢也、亦稱㆓峭谷㆒。

【散缺】61サンケツ ちりぢりになつてかけ失せる。〔魏書、樂志〕樂章散缺、伶官失ㇾ守。

【散見】62サンケン あちらこちらに見える。ちらほら見える。

【散遣】63サンケン ちりぢりにはなちやる。〔宋史、后妃上、高皇后傳〕散遣修㆓京城役夫㆒。

【散估】64サンコ 雜稅の名。晉以來、宋・齊・梁・陳の各代に行はれ、奴婢・馬牛・田宅の賣買に際し、其の兩者から納めさせるもの。後世の契稅の起源を爲す。〔隋書、食貨志〕晉自ㇾ過ㇾ江、凡貨㆓賣奴婢牛馬田宅㆒、有㆓文券㆒、率錢一萬輸㆓估四百㆒入ㇾ官、賣者三百、買者一百、無㆓文券㆒者、隨㆓物所ㇾ堪、亦百分收ㇾ四、名爲㆓散估㆒、歷㆓宋齊梁陳㆒、如ㇾ此以爲ㇾ常。

【散語】65サンゴ ❶散文。〔捫蝨新話、人才類〕后山居士言、云云、曾子固短㆓於韻語㆒、黃魯直短㆓於散語㆒。❷san² yü³ 短句。

【散工】66san³ kung¹ ❶㋑臨時雇ひの職工。長工（**11**―41100‥261）の對。㋺職工を解雇する。❷san⁴ kung¹ 仕事がひける。

【散侯】67サンコウ 職守の無い侯。侯は侯爵。〔晉書、杜預傳〕詔ㇾ預以㆓散侯㆒定㆓計省闥㆒。〔北史、序傳、涼武昭王李承傳〕方裕有㆓鑒裁㆒、爲㆓時所ㇾ重、文成末、以㆓散侯㆒出爲㆓龍驤將軍、滎陽太守㆒。〔海錄碎事、政事、賣官〕後魏明帝、輸㆓粟八千石㆒賞㆓散侯㆒、六千石散伯、四千石散子、三千石散男。

【散差】68サンサ 緊要でないことに官馬を給すること。譬へば官に在つて功勞の多い者、又は父母の喪に公暇を得て鄕里に歸る者等に對し、特に驛馬を給すること。〔福惠全書、郵政部、總論〕憫ㇾ勞恤ㇾ死、許ㇾ給㆓郵騎㆒、是謂㆓散差㆒。

【散坐】69san³ tsuo⁴ 宴會で食事が終つて一同卓を離れること。

【散碎】70サンサイ 剪斷した銀錠。〔六部成語、戶部、整錠、注解〕自㆓元寶㆒以至㆓滴珠㆒、無ㇾ論㆓大小㆒、凡未㆓剪斷㆒者、皆曰㆓整錠㆒、剪斷者皆曰㆓散碎㆒。

【散載】71san³ tsai⁴ 荷物を船にばら積にする。

【散齊】72サンサイ 齊（モノイミ）に散齊・致齊の別あり、散齊は致齊の略式で其の行動等を謹愼し、致齊は其の心に思ふことを專にするために行ふものいみ。齊は齋。〔禮、祭義〕致㆓齊於內㆒、散㆓齊於外㆒、齊之日思㆓其居處㆒、思㆓其笑語㆒、思㆓其志意㆒、思㆓其所ㇾ樂、思㆓其所ㇾ嗜、齊三日、乃見㆓其所ㇾ爲ㇾ齊者㆒。〔注〕致齊思㆓此五者㆒也、散齊七日、不ㇾ御不ㇾ樂不ㇾ弔耳、見㆓所ㇾ爲ㇾ齊者㆒、思之熟也、所ㇾ嗜、素所ㇾ欲㆓飲食㆒也。〔孫希旦集解〕愚謂、致㆓齊於內㆒、

專㆓其內之所㆒㆑思也、散㆓齊於外㆒、防㆓其外之所㆒㆑感也、所㆑樂、所㆓樂爲㆒之事也、所㆑嗜、飲食之物也、齊三日、必見㆓所㆑爲㆑齊者㆒、由㆓其專精之至㆒也。〔禮、祭統〕是故君子之齊也、專致㆓其精明之德㆒也、故散齊七日以定㆑之、致齊三日以齊㆑之、定㆑之之謂㆑齊、齊者、精明之至也、然後可㆔以交㆓於神明㆒也。〔孔子家語、曲禮公西赤問〕散齊七日、愼思㆓其事㆒。

【散齋】73 サンサイ ❶散齊に同じ。〔圖書編〕正祭前三日、獻官幷陪祭官執事人等、沐浴更衣、散齋二日、致齋一日。❷ものいみの終ること。〔白居易、五月齋戒罷㆑宴徹㆑樂云云詩〕散齋香火今朝散、開素盤筵後日開。

【散灑】74 サンサイ 水をまくこと。水をそそぐこと。〔蘇頲、小園納涼卽事詩〕散灑納㆓涼氣㆒、蕭條遺㆓世情㆒。

【散在】75 サンザイ ちらばつてあること。〔魏志、趙儼傳〕散㆓在原野㆒。

【散材】76 サンザイ 無用の材木。やくにたたない人の喩。散木(213)を見よ。〔蘇軾、新城道中詩〕散材畏㆑見㆓搜㆑林斧㆒、疲馬思㆑聞㆓卷㆑旆鉦㆒。

【散財】77 サンザイ ❶錢財をわかちやる。〔書、武成〕散㆓鹿臺之財㆒、發㆓鉅橋之粟㆒。〔魏志、鍾會傳〕周武有㆓散㆑財發㆑廩表㆑閭之義㆒。〔梁書、王珍國傳〕發㆑米散㆑財、以拯㆓窮乏㆒。❷金錢をつかふ。又、贅澤な失費。冗費。

〖散財袋〗78 サンザイブクロ 宴席などで祝儀を入れて與へる紙袋。

【散草】79 サンサウ 草書の一體。晉の蔡謨、創始し、かすりがきに書く草書。又、飛草といふ。〔夢溪筆談、技藝〕古人以㆓散筆㆒作㆓隸書㆒、謂㆓之散隸㆒、近歲蔡君謨、又以㆓散筆㆒作㆓草書㆒、謂㆓之散草㆒、或曰㆓飛草㆒、其法皆生㆓于飛白㆒、亦自成㆓一家㆒。〔陸子淵、書輯〕宋蔡襄爲㆓飛草㆒、謂㆓之散草㆒。

【散想】80 サンサウ 思ふことを言ひちらす。考へをほしいままに述べる。〔高允、徵士頌〕披㆑襟散㆑想、解㆑帶舒㆑懷。

【散策】81 サンサク あちらこちらと杖を曳き歩く。そぞろあるき。散步。遊步。漫步。逍遙。〔杜甫、鄭典設自㆓施州㆒歸詩〕北風吹㆓瘴癘㆒、羸老思㆓散策㆒。〔蘇軾、塵外亭詩〕散策塵外遊、麾㆑手謝㆓此世㆒。〔陸游、散策至㆓湖上民家㆒詩〕農事正看㆓春水白㆒、客途漸愛㆓午陰涼㆒。

【散插】82 サンサフ ちらしさしはさむこと。〔王建、宮詞〕粟金腰帶象牙錐、散插紅翎玉突枝。

【散參】83 サンサン 特定の官職につかないで朝參出來るもの。〔資治通鑑、隋紀〕（文帝、開皇十年）臣不㆔敢復望㆓內史令㆒、請但預㆓散參㆒。〔注〕散參、謂㆘散官無㆓職務㆒而預㆓朝參㆒者㆖。

【散散】84 サンザン ❶したたか。❷物事の極度に及ぶこと。❸見苦しい敗北のさま。❹ チリヂリ はなればなれになること。

〖散散騷〗85 サンザサワギ 宴席などで歌ひつ舞ひつして騷ぎたてること。

【散士】86 サンシ 散人(124)に同じ。

【散史】87 サンシ 民間にあつて文筆に從事する人。在野の文人。無官の文士。

【散志】88 サンシ 志を他に散らす。〔禮、祭統〕齊者不㆑樂、言不㆔敢散㆓其志㆒也、心不㆓苟慮㆒、必依㆓於道㆒、手足不㆓苟動㆒、必依㆓於禮㆒。

【散使】89 サンシ 唐代、諸王以下に配する宦官。〔唐律、名例、工樂雜戶、疏議〕諸巡有㆓閹人㆒、並送㆑官配㆓內侍省及東宮坊內㆒、名爲㆓給使㆒、諸王以下爲㆓散使㆒。

【散施】90 サンシ 財を散じ施す。〔戰國、韓策〕公仲嗇㆓於財㆒、率曰、散施。〔後漢書、仲長統傳〕衣食有㆑餘、損㆓靡麗㆒以散施、不㆓亦義㆒乎。

【散絲】91 サンシ ❶絲をちらす。又、ちらした絲。〔張協、雜詩〕騰雲似㆓涌煙㆒、密雨如㆓散絲㆒。〔李羣玉、石門韋明府爲㆑致㆓東陽潭石鯽鱠㆒詩〕散絲繁灑拂㆓刀前㆒。❷花の名。注輦國に產す。〔文獻通考、四裔考、注輦國〕花有㆓白茉莉・散絲・蛇臍・佛桑・麗秋・靑黃碧婆羅瑤蓮・蟬紫・水蕉之類㆒。

【散賜】92 サンシ わかちあたへる。〔漢書、儒林、張山拊傳〕散㆓賜九族㆒、田畝不㆑益。

【散積】93 サンシ たくはへをちらす。〔張說、裴行儉神道碑〕善貸以爲㆑常、散㆑積以爲㆑樂。〔五代史、雜三十二、袁象先傳〕勸㆓其散㆑積以禳㆑之。

【散事】94 サンジ 位があつて職掌のない官。職事(9－29183··33)の對。〔令義解、一、後宮職員〕內侍司、云云、右諸司掌以上皆爲㆓職事㆒、自餘爲㆓散事㆒。

【散州】95 サンシウ 明・淸時代、府に隸せず、自ら屬縣を領し、布政司に直隸する州を直隸州といひ、縣と同等にして府の統轄するものを散州といふ。〔淸會典事例、戶部、疆理、盛京奉天府〕康熙元年、改㆓錦州㆒爲㆓錦縣㆒、隸㆓奉天府㆒、三年、以㆑附㆓京首邑㆒爲㆓承德縣㆒、設㆓開原・鐵嶺二縣㆒、改㆓蓋州㆒爲㆓蓋平縣㆒、並隸㆓奉天府㆒、又設㆓廣寧府㆒、並置㆓廣寧縣・寧遠州㆒、改㆓遼陽縣㆒爲㆑州、四年、於㆓錦縣㆒增㆓設錦州府治㆒、縣爲㆓附郭㆒、改㆓廣寧府㆒爲㆓廣寧縣㆒、隸㆓錦州府㆒、雍正七年、升㆓承德縣㆒爲㆓直隸州㆒、十一年、設㆓復州㆒隸㆓奉天府㆒、設㆓義州㆒隸㆓錦州府㆒、十二年、改㆓金州㆒爲㆓寧海縣㆒、隸㆓奉天府㆒。〔淸國行政法汎論、行政區劃及地方官廳〕普通州之對㆓直隸州㆒、稱曰㆓散州㆒。

【散收】96 サンシウ ❶罪囚に鎖などを施さないで拘禁すること。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄〕凡牢獄禁㆓繫囚徒㆒、年七十以上、十五以下、廢疾散收、輕重不㆑許㆓混雜㆒。❷ san^4 shou^1 釐金局が貨主から直接に徵收すること。

【散質】97 サンシツ 無用のもの。〔溫庭筠、謝㆓襄州李尙書㆒啓〕某啓、某櫟社凡材、蕪鄉散質、殊無㆓績效㆒。

【散車】98 サンシヤ 粗末に出來た輜重車。〔周禮、春官、巾車〕凡良車散車、不㆑在㆑等者、其用無㆑常。〔疏〕此良車散車二者、皆不㆑在㆓於服車五乘之等列㆒、作㆑之有㆓精麤㆒、故有㆓良・散之名㆒。

【散舍】99 サンシヤ 放ち止める。放つて置く。〔公羊、莊、十二〕莊公歸散㆓舍諸宮中㆒。〔注〕散、放也、舍、止也。

【散射】100 サンシヤ 諸禮や練習のために射ること。〔周禮、夏官、司弓矢〕恒矢・痺矢、用㆓諸散射㆒。〔注〕二者皆可㆓以散射㆒也、謂㆓禮射及習射㆒也。

【散寫】101 san^2 hsieh^3 やたらに寫すこと。

【散將】102 san^3 chiang^4 役のない將軍。

【散傷】103 サンシヤウ 精神をちらしそこなふ。〔鬼谷子、中經〕不㆓是以㆑聲散傷醜害者㆒、言必逆㆓於身㆒也。

【散狀】104 サンジヤウ 廻文通知狀の類。〔東鑑、十八〕建永二年八月十五日、供奉人散狀。

【散情】105 サンジヤウ 氣をまぎらす。〔孔子家語、曲禮公西赤問〕入彈㆑瑟以散㆑情。

【散場】106 サンジヤウ ❶終るところ。死ぬ場所。〔指月錄〕性空妙普庵主、結㆓茅青龍野㆒、吹㆓鐵笛㆒自娛、紹興庚申冬、造㆓大盆㆒、修㆑書寄㆓雪竇持禪師㆒曰、吾將㆓水葬㆒矣、壬戌歲、持至、師說㆑偈罷、坐㆓盆中㆒、乘㆑流而往、唱曰、船子當年返㆓故鄉㆒、沒㆓踪跡㆒處妙難㆑量、眞風偏寄㆓知音者㆒、鐵笛橫吹作㆓散場㆒。❷ san^4 ch'ang^3 散會する。閉會する。

【散釋】107 サンシヤク ちりとける。物事が氷解する。〔後漢書、陳禪傳〕神意自若、辭對無㆑變、事遂散釋。

【散爵】108 サンシヤク 酒を入れる器。單に散ともいふ。字解の❸を見よ。〔儀禮、大射儀〕士也、有㆘執㆓膳爵㆒者㆖、有㆘執㆓散爵㆒者㆖。〔禮、祭統〕以㆓散爵㆒獻㆓士及群有司㆒。

【散殊】109 サンシユ さまざまに異なる。めいめい異なる。〔禮、樂記〕天高地下、萬物散殊、而禮制行矣。

【散儒】110 サンジユ やくにたたない學者。世の用をなさない學者。〔荀子、勸學〕隆㆑禮、雖㆑未㆑明、法士也、不㆑隆㆑禮、雖㆓察辯㆒、散儒也。〔注〕散、謂㆑不㆓自檢束㆒、莊子以㆓不材木㆒爲㆓散木㆒也。〔西京雜記、三〕傅介子年十四、好㆑學㆑書、棄㆑觚而歎曰、大丈夫當㆑立㆓功殊域㆒、何能坐事㆓散儒㆒。

【散聚】111 サンシユウ 散ることと聚ること。〔史記、太史公自序〕萬物之散聚、皆在㆓春秋㆒。

【散從】112 サンジユウ ❶正式の行列員の外にあつて行列に從ふもの。散行。〔南史、謝裕傳〕裕字景仁、云云、善敍㆓前言往行㆒、玄每與言不㆑倦、玄出行、殷仲文卞範之之徒、皆騎馬散從、而使㆓景仁陪㆑輦。❷宋代、下級の吏。外班皂隸の類。〔升菴外集〕宋代、役夫之名、有㆓衙前散從㆒、衙前、今之內班門子也、散從、今之外班皂隸也、見㆓韓魏公㆒。

【散處】113 サンシヨ ちらばつてある。〔福惠全書、庶政部、育㆓養嬰兒㆒〕山僻鄉邨散處、所㆑棄祇見㆓其少㆒也。

【散書】114 チラシガキ ❶文をとびとび又は一行おきに書くこと。❷美しく走り書すること。❸女子の消息文。

【散序】115 サンジヨ 散つたりまとまつたりする。〔白居易、池上篇序〕散序聲隨㆑風、飄或凝或散。

【散絮】116 サンジヨ わたをちらす。又、ちつた綿。雪にたとえる語。〔李建勳、和㆓元宗元日大雪登樓㆒

詩〕狂㆓灑玉墀㆒初散㆑絮、密㆓黏官樹㆒未㆑妨㆑花。

【散舒】117 サンジヨ ちりひろがる。〔夏侯湛、芙蓉賦〕黃螺圓出、垂蕤散舒。

【散宂】118 サンジヨウ ひまなこと。閑散。〔王禹偁、詩〕平生好㆓泉石㆒、況復官散宂。

【散職】119 サンシヨク 定まつた務のない官吏。散官。〔唐書、李適之傳〕適之懼不㆓自安㆒、乃上㆓宰政㆒求㆓散職㆒、以㆓太子少保㆒罷。〔白居易、早春獨遊㆓曲江㆒詩〕散職無㆓羈束㆒、羸驂少㆓送迎㆒。

【散心】120 サンシン ❶心を他に馳せる。〔戰國、秦策〕楚人自戰㆓其地㆒、咸顧㆓其家㆒、各有㆓散心㆒、莫㆑有㆓鬭志㆒。❷うさをはらす。うさばらし。❸〘佛〙散亂の心。放逸の心。定心の對。〔止觀、五〕夫散心者、惡中之惑。

【散心法師】121 サンシンハフシ 〘佛〙漫りに分別を逞しくする人をいふ。〔止觀、十〕散心法師、雖㆔分㆓別諸使㆒、亦不㆔自知㆓空見過患㆒。

【散振】122 サンシン 財を散じて救ふ。〔管子、山至數〕散㆓振不㆑資者㆒。〔纂詁〕散振、散㆑財而救㆑之也。

【散賑】123 サンシン ほどこしをする。賑恤する。〔清會典事例、戶部、蠲恤、賑饑〕五十九年議准、撥㆓戶部庫銀五十萬兩㆒、委㆓司官㆒運㆓送西安延安蘭州㆒、分作㆓三路㆒散賑。

【散人】124 サンジン ❶やくにたたない人。世の用をなさない人。無用の人物。散士。〔莊子、人閒世〕匠石歸、櫟社見㆑夢曰、汝將㆓惡乎比㆒㆑予哉、云云、若與㆑予也、皆物也、奈何哉、其相㆑物也、而幾㆑死之散人、又惡知㆓散木㆒。〔疏〕匠石以㆓不材㆒爲㆑散。〔墨子、非儒下〕怒曰、散人焉知㆓良儒㆒。〔陸龜蒙、笠澤叢書、江湖散人傳〕散人者、散誕之人也。〔書言故事、漁釣類、江湖散人〕無㆓繫累㆒曰㆓江湖散人㆒、唐陸龜蒙以㆑舟載㆓茶竈筆牀釣具㆒、往㆓來江湖㆒、號㆓江湖散人㆒。❷雅號の下に添へていふ語。〔宋元學案、九峯學案、忠簡劉冰壺先生欽〕劉欽、字子時、云云、歸㆓院武夷㆒、自號㆓冰壺散人㆒。

【散盡】125 サンジン ちりつきる。又、ちらしつくす。〔晉書、郗超傳〕超性好㆑施、一日中散㆓親故㆒都盡。〔李白、將進酒〕天生㆓我材㆒必有㆑用、黃金散盡還復來。

【散綏】126 サンスイ 僕者の把る綏。副綏。〔禮、少儀〕拖㆓諸髀㆒、以㆓散綏㆒升、執㆑轡然後步。〔注〕散綏、副綏也、僕登㆑車既不㆑得㆑執㆓君綏㆒、故執㆓副綏㆒而升也。

【散水】127 サンズイ 漢字の偏の名。卽ち漢字の左傍にある氵の字をいふ。部首で水の部に屬す。みづへん。三水偏。二水(1－247‥630)の對。〔合類節用、九、言辭門〕氵、翰墨者流、謂㆓之散水㆒、字从㆓此偏㆒者、以㆑屬㆓水部㆒也。

【散水花】128 サンスイクワ 玉蘂花の異名。〔西溪叢語、下〕唐昌觀玉蘂花、今之散水花。

【散水調】129 サンスイテウ 曲調の名。〔白居易、代㆓琵琶弟子㆒云云詩〕蕤賓掩抑嬌多㆑怨、散水玲瓏峭更清。

【散水道人】130 サンスイダウジン 明、圓澄(3－4819‥135)の號。

【散勢】131 サンセイ 勢を發散する。〔鬼谷子、本經陰符〕散㆑勢法㆓鷙鳥㆒。

【散聖】132 サンセイ 世俗をすてた人の敬稱。出家・沙門等の尊稱。又、特に布袋和尙をいふ。〔合類節用集、四、人倫〕散聖、道人也。

【散精】133 サンセイ 氣の溢れ散ること。〔淮南子、天文訓〕四時之散精爲㆓萬物㆒。

【散聲】134 サンセイ ❶古樂府の歌法の一。曲譜以外の合ひの手をいふ。❷絃樂器で絃彈しない時に發する音の最低のもの。

【散抄】135 san³ ch'ao¹ 散掠(243)に同じ。

【散說】136 サンセツ 種々の論說。〔梁簡文帝、成實論義疏序〕處處散說、木應㆓根緣㆒。

【散節】137 サンセツ 草木等の發芽する季節。春をいふ。〔魏文帝、感㆑物賦〕伊陽春之散節、悟㆓乾坤之交靈㆒。

【散絕】138 サンゼツ ちつて無くなる。〔劉歆、移㆑書讓㆓太常博士㆒〕尙書初出㆓於屋壁㆒、朽折散絕。

【散仙】139 サンセン ❶未だ職を授けられない仙人。〔雲笈七籤〕建齋請㆓諸道士㆒、燒㆑香誦㆑經、三日謝過、此人卽得㆘飛行昇㆓入雲中㆒、於㆓景霄之上㆒受㆑書爲㆗散仙人㆖。〔韓愈、奉㆓酬盧給事雲夫四兄曲江荷花行見㆑寄幷呈㆓上錢七兄閣老張十八助敎㆒詩〕天門九扇相當開、上界眞人足㆓官府㆒、豈如㆘散仙鞭㆓笞鸞鳳㆒終日相追陪㆖。〔注〕謂㆘上界眞人、猶有㆓官府之事㆒、不㆖㆑如㆘雲夫作㆓地上散仙㆒、終日嬉遊㆖也。❷放曠不羈の喩。〔白居易、雪夜小飲贈㆓夢得㆒詩〕呼作㆓散仙㆒應㆑有㆑以、曾看東海變㆓桑田㆒。

【散船】140 san³ ch'uan² 乘合船。

【散遷】141 サンセン 放縱なこと。〔國語、周語上〕猶有㆓散遷解慢㆒。

【散錢】142 サンセン ❶錢をちらす。〔晉書、沮渠蒙遜載記〕蒙遜升㆓南景門㆒、散㆑錢以賜㆓百姓㆒。〔北史、王昕傳〕悅數散㆓錢于地㆒、令㆓諸佐爭拾㆑之。〔韓愈、論㆓佛骨㆒表〕解㆑衣散㆑錢、自㆑朝至㆑暮。❷錢さしに通さないばら錢。〔酉陽雜俎、諾皐記上〕根下得㆓大瓮二㆒、散錢實㆑之。

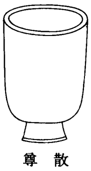
【散贍】143 サンセン 財物を散じて救ふこと。〔隋書、列女、鄭善果母傳〕當㆑須㆓散贍㆒六姻爲㆓先君之惠㆒、妻子奈何獨擅㆓其利㆒以爲㆓富貴㆒哉。

【散走】144 サンソウ ちりぢりに逃げる。〔韓非子、十過〕坐者散走、平公恐懼、伏㆓于廊室之閒㆒。〔後漢書、天文志上〕軍皆散走歸㆓本部㆒。〔魏志、夏侯淵傳〕轉擊㆓高平㆒屠、各皆散走。

【散送】145 サンソウ 送葬の時に散麻すること。散麻は腰に卷く麻の帶を散らし垂らすこと。〔禮、玉藻〕五十不㆓散送㆒。〔注〕送喪不㆓散麻㆒、始衰不㆑備㆑禮。〔孫希旦集解〕愚謂、始死要經散垂、三日成服乃絞㆑之、啓殯之後亦散垂、至㆑葬乃絞㆑之、五十不㆓散送㆒、則始死猶當㆓散麻㆒與。

【散卒】146 サンソツ つかれてやくにたたない兵士。逃げた兵士。〔戰國、魏策〕臣聞、越王句踐、以㆓散卒三千㆒、禽㆓夫差於干遂㆒。〔史記、彭越傳〕乃行略㆑地、收㆓諸侯散卒㆒、得㆓千餘人㆒。〔漢書、高帝紀上〕收㆓陳王項梁散卒㆒。〔魏志、賈詡傳〕遂收㆓散卒㆒赴追大戰、果以勝還。

【散尊】147 サンソン 漆を塗つただけで飾の無い酒樽。容量五斗のもの。概・蜃・獻・象等の尊の飾有るものに對していふ。〔名物圖、尊、散尊〕散尊、後鄭云、漆尊無㆑飾、賈疏云、對㆘概・蜃・獻・象等四尊各有㆓異物㆒爲㆖㆑飾、言㆔此散尊唯漆而已、別無㆓物飾㆒、故曰㆑散、聶氏曰、云云、此尊名飾雖㆑殊、以㆓義例㆒皆容㆓五斗㆒、漆㆓赤中㆒、口徑一尺二寸、底徑八寸、足高一寸、下徑九寸、底至㆑口上下中徑一尺五分、乃容㆓五斗㆒之數。


散尊
（名物圖）

【散退】148 サンタイ ちりしりぞく。〔後漢書、袁紹傳〕會㆓麴義來迎㆒、騎乃散退。

【散帶】149 サンタイ ❶喪服の腰につける麻帶の先をちらし垂らすこと。〔儀禮、士喪禮〕散帶垂長三尺。〔胡培翬正義〕散帶、卽要經也、李氏如圭云、雜記曰、大功以上散帶、散帶者、小斂後、垂㆓其帶㆒、至㆓成服㆒而絞㆑之、婦人則初而絞㆑之也、與㆓小功緦之男子㆒同、敖氏云、散、謂㆑不㆑絞㆑之也、此垂謂㆓帶下㆒也、云㆓帶垂㆒、又云、長三尺、見㆘其帶下之長與㆓大帶㆒同㆖也、沈氏彤云、此苴經牡麻經、皆一股而纏、不㆑絞、雜記云、小斂環經、是也、成服乃絞㆑之、與㆓要經㆒同、今案、亦散帶垂、亦初時不㆑絞也、據㆓喪服經㆒、又有㆓絞帶㆒、鄭注、絞帶象㆓革帶㆒、齊衰以下用㆑布、則斬衰之絞帶用㆑麻、卽下記主人絞帶、衆主人布帶、是也。〔禮、雜記上〕大功以上散帶。〔疏〕小斂之後、主人拜㆑賓、襲㆓經於序東㆒、小功以下皆絞㆑之、大功以上散㆓此帶垂㆒、不㆑忍卽成㆑之、至㆓成服㆒乃絞。❷身じまりのたしなみがない。〔晉書、王徽之傳〕徽之爲㆓大司馬桓溫參軍㆒、蓬首散帶、不㆑綜㆓府事㆒。

【散隊】150 san⁴ tuei⁴ ❶隊を解く。❷分れ。體操の號令の語。

【散黛】151 サンタイ 粉末のまゆずみ。〔梁簡文帝、美人晨粧詩〕散黛隨㆑眉廣、燕脂逐㆑臉生。

【散體】152 サンタイ 散文の體をいふ。〔經解入門、音韻源流〕文之有㆑韻、自㆓六經㆒始、虞廷賡歌、韻之最古、毛詩用㆑韻、周易彖小象雜卦皆韻、離騷・太玄・易林無㆑不㆑韻、其不㆑韻者、散體之文耳。

【散套】153 サンタウ 戲曲の用語。套數中、一闋を分離して單行するものをいふ。

【散臑】154 サンダウ 前肩の肉。〔駢雅、釋服食〕散臑、前「肩也。

【散卓】155 サンタク 筆の一種。〔文房四說〕筆用㆑毫爲㆑難、近宣州諸葛高、造㆓鼠鬚散卓及長心筆㆒絕佳。〔黃庭堅、林爲之送㆑筆詩〕李慶縛㆓散卓㆒、含㆑墨能不㆑洩。〔東坡題跋、書諸葛散卓筆〕散卓筆、惟諸葛能㆑之、他人學者、皆得㆓其形似㆒、而無㆓其法㆒、反不㆑如㆓常筆㆒。

【散淡】156 san^{4} tan^{4} 氣隨きままにする。〔紅樓夢、七回〕可知是他誠心、叫儞散淡散淡、別辜負了他的心。

【散誕】157 サンタン 世を憚らないこと。放縱なこと。〔剪燈餘話、武平靈怪錄〕瓦合散誕少二持推一。

【散彈】158 サンダン ㊀ばらだま。㊁ながれだま。

【散地】159 サンチ ㊀其の領內で戰爭すること。領內で戰ふ時は士卒は家を思うて堅志なく、ややもすれば逃れ散じ易いからいふ。〔孫子、九地〕用レ兵之法、有二散地一、有二輕地一、云云、諸侯自戰二其地一者、爲二散地一、云云、是故散地則無レ戰、云云、是故散地、吾將レ一二其志一。〔史記、黥布傳〕兵法、諸侯戰二其地一爲二散地一。〔注〕正義曰、魏武帝注二孫子一曰、卒戀二土地道近一、而易二敗散一。〔漢書、黥布傳〕諸侯自戰二其地一爲二散地一。㊁權勢の無い閑散な地位。閒地。〔唐書、郭子儀傳〕授二邠寧鄜坊兩節度使一、仍留二京師一、議者謂、子儀有二社稷功一、而孽寇二首鼠一、乃置二散地一、非レ所レ宜、帝亦悟。〔資治通鑑、唐紀〕（穆宗、長慶二年）諫官爭上言、時未レ偃レ兵、二（裴）度有二將相全才一、不レ宜レ置二之散地一。〔杜甫、大歲日詩〕散地逾高枕、生涯脫二要津一。〔虞集、江貫道江山平遠圖詩〕高雲舒卷非二散地一、麗日照耀皆名山。

【散地牙哥】160 サンチヤゴ 地名。㊀智利の首都。アンデス山脈の山麓にある。㊁港。キューバ島の南東岸にあり、キューバ共和國の港市。Santiago

【散置】161 サンチ ちらしおく。〔論衡、書虛〕豈分二橐中之體一、散二置二江中一乎。〔晉書、藝術、龐襦傳〕乞得二米穀一不レ食、輒散二置大路一。

【散籌】162 サンチウ 竹くじを散らすこと。〔世說新語、儉嗇〕每與二夫人一、燭下散レ籌算計。

【散秩】163 サンチツ 散官。一定の職守なき者。清代、散秩大臣を置く。〔權德輿、代二賈相公一乞レ退表〕伏惟、陛下覆育臨照、曲成不レ遺、俯矜二愚衷一、移二授散秩一。〔白居易、昨日復今辰詩〕散秩優游老、閒居淸淨貧。〔淸會典事例、宗人府、天潢宗派〕敬謹分二設於綵亭內一、散秩大臣侍衛、前引後護。

【散茶】164 サンチヤ 茶臼で挽いて粉にした茶。ひきちや。抹茶。

【散注】165 サンチユウ ばらばらに流れる。水滴が流れおちる。〔水經、洧水注〕洧水又東會二瀝滴泉一、水出二深溪之側一、泉流丈餘、懸水散注、故世士以二瀝滴一稱。

【散住】166 san^{3} chu^{4} あちこちに分れ住む。

【散朝】167 サンテウ 天子の退朝。〔傅若金、詩〕鳴二玉龍墀一午散朝。

【散適】168 サンテキ 氣を晴らす。〔劉元淑、夏雲賦〕周游散適、不レ常二其所一。

【散擲】169 サンテキ ちらしなげる。〔蘇軾、和二蔡景繁海州石室一詩〕戲將二桃核一裹二黃泥一、石閒散擲如二風雨一。〔范成大、兩木詩〕黃泥裹二餘核一、散擲籬落閒。

【散糴】170 サンテキ 米價暴騰のとき政府が平價で米の賣出しをすること。〔大學衍義補、制二國用一、市糴之令〕管仲、伯者之相也、其輔二桓公一以二兵事一伯二天下一、而其治レ國、猶知三以レ守レ穀爲二急務一、而通二輕重之權一、爲二斂散之法一、歲穰民有レ餘、則輕レ穀、因二其輕レ之之時一、官爲二斂糴一、則輕者重、歲凶而民不レ足、則重レ穀、因二其重レ之之時一、官爲二散糴一、則重者輕、上之人、制二其輕重之權一、而因レ時以散斂、使二米價常平一、以便レ人、是雖二伯者之政一、而王道亦在レ所レ取也。

【散篆】171 サンテン 香の烟の散ずるさまをいふ。〔晁補之、同二魯直一和二普安院壁上蘇公詩一詩〕散篆縈二簾額一、留雲暗二井眉一。

【散點】172 サンテン あちこちに散在する。〔李羣玉、新荷詩〕田田八九葉、散點綠池初。〔秦觀、詩〕漁父分星遠、沙鷗散點多。

【散傳】173 サンデン 方々にひろげつたへる。又、方々にひろがりつたはる。〔舊唐書、方伎、僧神秀傳〕天下乃散二傳其道一。

【散電】174 サンデン 電光の散る形容。〔張協、七命〕光如二散電一、質如二耀雪一。

【散等】175 サントウ 階段を升降する時、始め二段だけは連步聚足（前足を一步進めては後足を進めて揃へること）し、後は左右の足、各〻相越えて進むこと。〔禮、雜記下〕祭主人之升降散等、執レ事者亦散等。〔注〕散等、栗階。〔疏〕云二散等栗階一者、謂下升二一等一而後散升不中連步上也、故燕禮記云、栗階不レ過二二等一、注云、其始升猶聚足連步、趨二二等一、左右足各一發而升レ堂、以レ此知二散等栗階是一一也。

【散燈】176 サントウ 散燈花に同じ。〔帝京景物略〕十三日、家以二小琖一百八枚一、夜燈レ之、徧散二井竈門戶砧石一、曰二散燈一也、其聚如レ螢、散如レ星、富者燈四夕、貧者燈一夕止。

【散燈花】177 サントウクワ 正月十三日から十六日迄の閒、一百八燈を燃して堂奧から大門までを照らすこと。一名、散小花。北平の風俗。〔燕京歲時記、順星〕十三日至二十六日一、由二堂奧一以至二大門一、燃レ燈而照レ之、謂二之散燈花一、又謂二之散小人一、亦辟二除不祥一之意也。

【散日】178 サンニチ 佛法會の結願日。

【散熱】179 サンネツ 熱を放散する。〔禮、月令、農乃登レ麥天子乃以レ彘嘗レ麥、注〕麥之新氣尤盛、以レ彘食レ之、散二其熱一也。〔唐玄宗、端午三殿宴二羣臣一探二得神字一詩序〕廚人嘗二散熱之饌一、酒正行二逃暑之飮一。

【散熱反應】180 サンネツハンオウ 化合物が生成する時、熱を發して化合すること。

【散熱分解】181 サンネツブンカイ 化合物が分解する時、熱を發して分解すること。

【散馬】182 サンバ ㊀野馬。野飼の馬。〔王融、議レ給二虜書一疏〕春草水生、阻二散馬之適一。〔錢起、觀二法駕迴一詩〕周衢二散馬一出、禹讓二濬川一迴。㊁兵馬を解散する。〔薛道衡、隋高祖文皇帝頌序〕四海爲レ家、萬里爲レ宅、乃休レ牛散レ馬、偃レ武修レ文。㊂散差（68）に給する馬。〔福惠全書、郵政部、應付大差〕官坐・散馬除扣去。

【散配】183 サンパイ 配布すること。〔舊唐書、文宗紀上〕宜レ令下所在州縣寫本散中配鄕村上。

【散敗】184 サンパイ ちりくづれる。又、ちらしくづす。〔南史、垣護之傳〕散敗而歸。

【散輩】185 サンパイ 閑散の職。〔陸機、謝二平原內史一表〕懷レ金拖レ紫、退就二散輩一。〔注〕濟曰、散輩、謂下不レ除二名爵一、散官之輩上。〔南史、王敬則傳〕敬則名位雖レ達、不下以二富貴一自遇上、初爲二散輩一使レ魏。

【散方】186 チリガタ 散る頃。散りかかる頃。散りぎわ。

【散放】187 サンパウ めぐみの品をわかつ。賑給する。〔淸會典事例、戶部、蠲恤、賑恤〕又諭、前因二碭山等五縣河水漫淹一、當レ經三降レ旨先行二撫恤一、賞二給一月口糧一云云、加二恩給三賑兩箇月一、七分次貧並六分極貧民、加二恩給三賑一箇月一、概行二散放折色一、以資二口食一。

【散芳】188 サンパウ かをりをちらす。〔謝靈運、山居賦〕淵轉レ渚而散レ芳。

【散報】189 サンパウ 諸方につげ知らすこと。〔白居易、奏レ所レ聞狀、向外所レ聞事宜〕恐宣傳之際、或致二疑誤一、遂令三內外有二此流傳一、實恐旬月之閒、散二報諸道一、虧二損聖政一、無レ甚二於斯一。

【散亡】190 サンバウ ちりぢりににげる。〔國語、周語下〕若夫山林匱竭、林鹿散亡。〔管子、宙合〕百姓不レ養、則衆散亡。〔墨子、非攻下〕散二亡道路一。〔漢書、董仲舒傳〕尊卑昏亂、百姓散亡。

【散發】191 サンパツ ㊀ばらばらに現はれる。㊁ san^{4} fa^{1} まきちらす。

【散髮】192 サンパツ ㊀髮をふり亂す。髮を被る。總髮になる。轉じて、冠簪を棄てて隱居すること。〔後漢書、袁閎傳〕延熹末、黨事將レ作、閎遂散レ髮絕レ世、欲レ投二迹深林一。〔南史、虞玩之傳〕玩之東歸、王儉不二出送一、朝廷無二祖餞者一、中丞劉休與二親知書一曰、虞公散二髮海隅一、同二古人之美一、而東都之送、殊不二藹藹一。㊁髮をかること。斬髮。結髮（8－27398‥180）の對。

【散犯】193 サンパン 牢に入らず、かこひの中に居る犯人。〔福惠全書、刑名部、監禁〕唆二散犯一、成レ羣凌辱。

【散班】194 san^{4} pan^{1} ㊀俳優の一座を解散する。㊁官吏が宿直を終つて分散する。

【散飯】195 サンパン 日常膳に供へる飯の上部を取つて傍におき、鬼神に供し餓鬼に施すもの。さば。さんば。生飯。

【散盤】196 サンバン 周代、古銅器の一。散氏盤（255）を見よ。

【散比】197 サンピ 散語と比語。詩で對の無いものを散語といひ、對を用ひるものを比語といふ。

【散飛】198 サンピ ちりとぶ。〔白居易、燕詩示二劉叟一〕擧レ翅不二回顧一、隨レ風四散飛。

【散布】199 サンプ 方々にちりひろがる。又、方々にちらしひろげる。まきちらす。〔韓愈、和二侯協律詠レ箏詩〕攢生猶有レ隙、散布忽無レ垠。

【散附】200 サンプ ついたり離れたりして定まらな

い。〔吳志、虞翻傳〕明府用㆓烏集之衆㆒、驅㆓散附之士㆒。

【散福】201 サンプク ❶福をまきちらす。〔蘇軾、畫車詩〕賴㆑有㆓千車㆒能散㆑福、化爲㆓膏雨㆒滿㆓重城㆒。❷san^4 fu^2 あげていただく。神佛の供物。

【散粉】202 サンプン 散つたこな。〔宗懍、早春詩〕散粉初成㆑蝶、翦綵作㆓新梅㆒。〔唐太宗、望㆑雪詩〕不㆓妝空散㆑粉、無㆓樹燭飄㆑花。

【散文】203 サンブン ❶あやのあるかざりをまきちらす。〔木華、海賦〕雲錦散㆓文於沙汭之際㆒、綾羅被㆓光於螺蚌之節㆒。❷押韻しない文章の總稱。論辨類・序記類・詔令類・奏疏類・題跋類・書牘類・碑碣類等をいふ。韻文(**12**−**43307**‥50)の對。〔正字通〕敕、明制凡褒嘉責讓、並用㆓敕詞㆒、皆散文、六品以下官、贈封稱㆓敕命㆒、始用㆓四六㆒。〔文法詳論、文辨〕編內所㆑載、均謂㆓之文㆒、而此類獨以㆑文名者、蓋文中之一體也、有㆓散文㆒、有㆓韻語㆒、或效㆓楚辭㆒、或爲㆓四六㆒、或以盟㆑神、或以諷㆑人、其體不㆑同、其用亦異。

〔散文詩〕204 サンブンシ 散文體の詩。白話詩。

【散紊】205 サンブン ちりみだれる。散亂。〔文心雕龍、史傳〕自㆓平王微弱㆒、政不㆑及㆑雅、憲章散紊、彝倫攸㆑斁。

【散兵】206 サンペイ ❶方々に散らばつた兵。〔史記、夏侯嬰傳〕漢王既至㆓滎陽㆒、收㆓散兵㆒復振。〔漢書、陳平傳〕還收㆓散兵㆒、至㆓滎陽㆒。〔後漢書、袁紹傳〕散兵二千餘騎。〔隋書、禮儀志三〕其馬步隊與㆓軍中散兵㆒、交爲㆓兩番㆒、五日而代。❷軍用語。兵をまばらに散らして陣取る。❸san^4 ping^1 ㋑補充した兵。㋺除隊した兵。

〔散兵壕〕207 サンペイガウ 軍用語。味方の射擊に便にし、敵彈をよけ、又、味方の兵士を掩護するために設ける壕。

〔散兵線〕208 サンペイセン 軍用語。散兵した線。散開した隊形。

〔散兵綫〕209 サンペイセン 軍用語。散開の隊形。散兵線。

【散剽】210 サンペウ 四方に分散してかすめあるく。〔唐書、段秀實傳〕軍輒散剽。

【散片】211 サンペン 殘缺した書籍。〔四庫提要、凡例〕散片二百八十四種。〔注〕古書殘缺者曰㆓散片㆒。

【散步】212 サンポ そぞろあるき。散策。漫步。閒遊。〔劉孝威、奉㆓和六月壬午㆒應令詩〕神心重丘壑、散步懷㆓漁樵㆒。〔韋應物、秋夜寄㆓丘二十二員外㆒詩〕懷㆑君屬㆓秋夜㆒、散步詠㆓涼天㆒。〔白居易、犬鳶詩〕晚來天氣好、散步中門前。〔金史、太祖紀〕散㆓步門外㆒、南望㆓高阜㆒。〔瑯嬛記〕古之老人、飯後必散步。

【散木】213 サンボク ❶役に立たない木。用に適しない木。〔莊子、人閒世〕匠石之㆑齊、至㆓乎曲轅㆒、見㆓櫟社樹㆒、其大蔽㆑牛、絜㆑之百圍、其高臨㆑山、十仞而後有㆑枝、其可㆓以爲㆑舟者旁十數、觀者如㆑市、匠伯不㆑顧、遂行不㆑輟、弟子厭觀㆑之、走及㆓匠石㆒曰、自㆘吾執㆓斧斤㆒以隨㆗夫子㆖、未㆔嘗見㆓材如㆑此其美㆒也、先生不㆓肯視㆒、行不㆑輟何邪、曰、已矣、勿㆑言㆑之矣、散木也、以爲㆑舟則沈、以爲㆓棺槨㆒則速腐、以爲㆑器則速毀、以爲㆓門戶㆒則液樠、以爲㆑柱則蠹、是不材之木也、無㆑所㆑可㆑用、故能若㆑是之壽。〔注〕不㆑在㆓可㆑用之數㆒、故曰㆓散木㆒。〔庾信、奉和法筵應詔詩〕羈臣從㆓散木㆒、無㆔以預㆓中天㆒。〔溫庭筠、古意詩〕散木無㆓斧斤㆒、纖莖得㆓依託㆒。❷清、李榮(**6**−**14459**‥56)の字。

【散木子】214 サンボクシ 清、陳梁(**11**−**41698**‥595)の號。

〔散木樓〕215 サンボクロウ 清、奚岡(**3**−**5930**‥2)の室名。

〔散木居士〕216 サンボクコジ 清、奚岡(**3**−**5930**‥2)の號。

【散朴】217 サンボク 散樸に同じ。〔莊子、繕性〕及㆔唐虞始爲㆓天下㆒、興㆓治化之流㆒、澆㆑淳散㆑朴、離㆑道以善、險㆑德以行、然後去㆑性而從㆓於心㆒。〔疏〕豈毀㆓淳素㆒以作㆓澆訛㆒、散㆓樸質㆒以爲㆓華僞㆒。〔吳筠、覽古詩〕三皇已散㆑朴、五帝初尙㆑賢。

【散牧】218 サンボク 清、李榮(**6**−**14459**‥56)の字。

【散樸】219 サンボク 生來の性を失ふ。又、質素の風を失ふ。〔漢書、循吏、黃霸傳〕澆㆑淳散㆑樸。

【散沒】220 サンボツ 散りうせる。散りかくれる。〔北史、孫紹傳〕或詭㆑名託㆑養、散㆓沒人閒㆒。

【散麻】221 サンマ 麻で作つた帶を腰に垂れること。散帶。〔荀子、禮論〕喪服之先㆓散麻㆒也一也。〔集解〕先謙案、大戴禮、散麻作㆓散帶㆒、孔廣森云、帶、要經也、喪禮、小斂、主人始經、散㆓垂之㆒、既成㆑服、乃絞、雜記曰、大功以上散帶、三者皆從㆑質、故云㆓一也㆒。

【散米】222 サンマイ 神事を行ふ時、神前にまき散らす米。うちまき。くましね。神供。

【散毛】223 サンマウ 地名。湖北省來鳳縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、施州衞〕散毛宣撫司、衞西三百二十里、本蠻地、五代時、爲㆓羈縻感化州㆒、宋爲㆓羈縻富州地㆒、尋爲㆓柔遠州地㆒、元初因㆑之、尋曰㆓散毛洞㆒、至元三十一年、升爲㆓散毛府㆒、至正六年、改爲㆓散毛誓厓等處軍民宣撫司㆒、明玉珍時更爲㆓散毛沿邊軍民宣慰司㆒、明洪武四年、改爲㆓散毛沿邊宣撫司㆒、十四年、定㆓散毛地㆒、尋復叛、二十三年、發㆑兵剿捕、尋復定、永樂九年、置㆓散毛長官司㆒、十三年、復升㆓宣撫司㆒、宣德三年、分㆓領龍潭大旺二安撫司㆒、仍隸㆓施州衞㆒。

【散慢】224 サンマン だらだらしてしまりがない。

【散漫】225 サンマン ちらばつてとりとめない。〔謝惠連、雪賦〕其爲㆑狀也、散漫交錯、氛氳蕭索。〔張協、雜詩〕霖瀝過㆓二旬㆒、散漫亞㆓九齡㆒。〔注〕善曰、水流散漫亞㆓乎九齡㆒也。〔白居易、長恨歌〕黃埃散漫風蕭索、雲棧縈紆登㆓劍閣㆒。

【散脈】226 サンミャク 漢方醫學の脈の一種。散つて聚まらない脈。〔脈經〕散脈大而散、散者氣實血虛、有㆑表無㆑裏。

【散民】227 サンミン ちりぢりになつた人民。〔韓非子、初見秦〕令㆘荆人得㆗收㆓亡國㆒、聚㆓散民㆒、立㆓社稷主㆒、置㆓宗廟令㆒、率㆓天下㆒、西面以與㆑秦爲㆖難。〔管子、立政〕散民不㆔敢服㆓襍采㆒。

【散名】228 サンメイ 一般の事物の名。〔荀子、正名〕散名之加㆓於萬物㆒者、則從㆓諸夏之成俗㆒。〔集解〕先謙案、萬物之散名、從㆓諸夏之成俗㆒。

【散目】229 サンモク 目をはなつ。見渡す。眺める。〔朱熹、詩〕散㆑目山崔巍、縱㆑輿路修蔓。

【散門】230 サンモン 軍門の名。〔墨子、號令〕四人夾㆓令門㆒內坐、二人夾㆓散門㆒外坐。

【散悶】231 サンモン 氣ばらしする。散鬱。〔白居易、酬㆘夢得比㆓萱草㆒見㆖贈詩〕杜康能散㆑悶、萱草解㆑忘㆑憂。

【散陽】232 サンヤウ 冬時に陽氣の藏まらないこと。冬に凍らなかつたり、李や梅が實つたりするの類をいふ。〔國語、周語下〕故天無㆓伏陰㆒、地無㆓散陽㆒。〔注〕散陽、李梅冬實。〔國語、周語下〕於㆑是乎氣無㆓滯陰㆒、亦無㆓散陽㆒。〔注〕散陽、陽不㆑藏、冬無㆑冰、李梅實之類。

【散藥】233 サンヤク ❶藥をまきちらす。〔白居易、偶詠詩〕誦㆑經凭㆑檻立、散㆑藥繞㆑廊行。❷こなぐすり。粉藥。〔正字通〕散、藥石屑曰㆑散。

【散勇】234 san^4 yung^3 解散された義勇兵。

【散與】235 サンヨ 散じあたへる。〔後漢書、郭伋傳〕伋輒散與。〔魏志、徐邈傳〕賞賜皆散㆓與將士㆒。

【散用】236 サンヨウ ❶官吏の才力が稍〻疑はしい者は、待遇を同じくして事務の閑散な職務に採用すること。〔六部成語注解〕如㆑此員、才能稍有㆑不㆑及、則以㆓同品而事少之缺㆒調補。❷官吏が官物を用ひるとき、其の餘分の物を私用すること。〔唐律、廐庫、放㆓散官物㆒〕諸放㆓散官物㆒者、坐㆑贓論、物在還㆑官、已散用者勿㆑徵。

【散郎】237 サンラウ 散官(56)に同じ。〔史記、秦始皇紀、連㆓逮少近官三郎㆒、注〕索隱曰、三郎、中郎・外郎・散郎也。〔唐書、元稹傳〕長慶初、潭浚方親幸、以㆓稹歌詞數十百篇㆒奏御、帝大悅、問稹今安在、曰、爲㆓南宮散郎㆒、卽擢㆓祠部郎中㆒、知㆓制誥㆒。

【散落】238 サンラク ちり落ちる。〔漢書、五行志下之上〕劉向以爲、臣下背叛散落、不㆑事㆑上之象也。〔漢書、趙廣漢傳〕姦黨散落。

【散亂】239 サンラン ちりみだれる。ちらばり亂雜になる。散紊。〔列子、黃帝〕帝王之時、始驚駭散亂矣。〔六韜、虎韜、火戰〕吾三軍恐怖、散亂而走。〔史記、李斯傳〕古者天下散亂、莫㆓能相一㆒。〔漢書、司馬遷傳〕故明堂石室金鐀、玉板圖籍散亂。

【散吏】240 サンリ ひまな役人。閑散な官吏。散官。〔干寶、晉紀總論〕王彌者、青州之散吏也。

【散利】241 サンリ 古、十二荒政の一。凶作の年などに官より種食を貸すこと。〔周禮、地官、大司徒〕以㆓荒政十有二㆒、聚㆓萬民㆒、一曰散利。〔注〕散利、貸㆓種食㆒也。〔疏〕謂、豐時斂㆑之、凶時散㆑之、其民無者、從㆑公貸㆑之、或爲㆓種子㆒、或爲㆓食用㆒、至㆓秋熟㆒還㆑公、據㆓公家㆒爲㆑散、據㆑民往取爲㆑貸、故云㆓散利㆒。〔福惠全書、荒政部、除盜〕除㆓盜賊㆒而

必先レ之散利。

【散離】242 サンリ　ちりはなれる。又、ばらばらにはなす。〔左氏、成、十三〕散二離我兄弟一、撓二亂我同盟一。〔後漢書、崔駰傳〕淳樸散離。

【散掠】243 san^{4} lüeh^{4}　分捕る。掠奪する。

【散略】244 サンリヤク　ばらばらで粗略なこと。しまりのないこと。疎略。〔後漢書、曹褒傳〕此制散略、多不レ合レ經。〔注〕散略、猶二疎略一也。

【散慮】245 サンリヨ　心のうさをはらふ。〔張九齡、答二嚴給事一書〕林澤之間、聊足レ散レ慮。

【散隷】246 サンレイ　隷書の一體。晉の衞恆、創始す。かすりがきに書く隷書。〔南史、周顒傳〕少從二外氏車騎將軍臧質家一、得二衞恆散隷書法一、學レ之甚工。〔書斷〕王愔云、漢元帝時、史游作二急就章一、解二散隷體一、麤二書之一、漢俗簡墮、漸以行レ之。〔唐玄度、十體書論〕散隷、晉黃門郎衞恆所レ作、祖二覬父瓘一、皆以二蟲篆草隷一著名、恆幼傳二其法一、兼創二造散隷書一。〔夢溪筆談、技藝〕古人以二散筆一作二隷書一、謂二之散隷一。

【散僚】247 サンレウ　下級の官吏。又、務少くひまな官吏。〔舊唐書、裴度傳〕夫御二宰相一、當二委レ之信レ之親レ之禮レ之、如於レ事不レ効、於レ國無レ勞、則置二之散僚一、黜二之遠郡一。

【散列】247′ サンレツ　ばらばらに列ぶ。〔應瑒、車渠椀賦〕蔚術繁興、散列成レ章。

【散錄】248 サンロク　順序次第を立てず筆にまかせた記錄。そぞろがき。漫錄。漫筆。隨筆。

【散横】249 サンワウ　連衡をやめる。〔戰國、秦策〕約レ從散レ横、以抑二強秦一。

【散宜生】250 サンギセイ　周代の人。西伯が善く老を養ふと聞き、閎夭等と皆に往きて歸し、文王の四友の一となる。又、十亂の一人。後、武王を佐けて紂を滅した。〔書、君奭〕・〔孟子、盡心下〕。

【散合色】251 サンホセー　地名。コスタリカ共和國の首府。San Jose

【散褌角】252 san^{3} k'u^{4} chiao^{3}　ズボンの裾を縛らずに開放すること。

【散座兒】253 san^{3} tsuo^{4} êrh　劇場で一人づつ坐る席。

【散碎銀】254 san^{3} suei^{4} yin^{2}　小粒銀、又は銀錠の斷片。

【散氏盤】255 サンシバン　殷代の古銅器の一。清の乾隆の中葉に出土した。銘文凡て十九行三百四十八字、奇古の文字が多い。蓋し散邑の散氏が疆域を表正するために作つたものであらう。清の吳玉搢の金石存に始めて著錄され、銘文中の干支によつて乙卯鼎といひ、尋いで錢大昕は文中の西宮襄父といふ人名によつて西宮槃といひ、阮元は其の散氏田の記錄なることを確め、散氏槃と改稱した。

【散手仗】256 サンシユヂヤウ　唐の五衞の一。親勳翊衞を以て組織す。〔資治通鑑、唐紀〕（高祖、武德二年）令三散手執二君度玄怨一、批二其耳一數十。〔注〕散手者、散手仗也、凡朝會之仗、三衞番上、分爲二五仗一、一曰供奉仗、以二左・右衞一爲レ之、二曰親仗、以二親衞一爲レ之、三曰勳仗、以二勳衞一爲レ之、四曰翊仗、以二翊衞一爲レ之、皆服二鶡冠緋衫裌一、五曰散手仗、以二親勳翊衞一爲レ之、服二緋絁裲襠繡野馬一、列二坐于東西廊下一、唐謂二之衙內五衞一。

【散生齋】257 サンセイサイ　資財を施與して病の癒えるを乞ふこと。〔魏書、景穆十二王、京兆王太興傳〕初太興遇レ患、請二諸沙門行道一、所レ有資財、一時布施、乞求二病愈一、名曰二散生齋一。

【散小人】258 サンセウジン　散燈花(177)を見よ。

【散腿褌】259 san^{2} t'uei^{3} k'u^{4}　小兒の穿く褌子。小兒のズボン。

【散頒格】260 サンパンカク　州縣に下す條令。格は法令を施行するために隨時に發する典例。唐の高宗の時、長孫無忌等に詔して格勅を增損し、其の曹司常務を留司格といひ、州縣に下し天下共にするものを散頒格といふ。〔舊唐書、刑法志〕永徽初、敕二大尉長孫無忌・司空李勣・左僕射于志寧・右僕射張行成・侍中高季輔・黃門侍郞宇文節・柳奭・右丞段寶玄・太常少卿令狐德棻・吏部侍郞高敬言・刑部侍郞劉燕客・給事中趙文恪・中書舍人李友益・少府丞張行實・大理丞元紹・太府丞王文端・刑部郞中賈敏行等一、共撰二定律令格式一、舊制不レ便者、皆隨刪改、遂分レ格爲二兩部一、曹司常務爲二留司格一、天下所レ共者爲二散頒格一、其散頒格下二州縣一、留司格但留二本司一行用焉。

【散不足】261 サンプソク　鹽鐵論の篇名。

【散蠟燭】262 san^{3} la^{4} chu　枯竹を細片としてこれに蠟燭を點じ連ねること。雲南各地で中元に行ふ行事。

【散爲二六出一】263 サンジテロクシユツトナル　雪の形體をいふ。南朝宋の孝武帝が雪の六出を瑞となした故事。六出(2-1453·323)の㊃を見よ。〔海錄碎事、天、雪〕孝建五年正月朔、華雪降散爲二六出一、宋孝武以爲レ瑞。

【散幘斜簪】264 サンサクシヤシン　幘を解いて斜に簪を插す。南北朝時代に行はれた一つの儀容。〔南史、王儉傳〕儉監二試諸生一、巾卷在レ庭、劍衞令史、儀容甚盛、作下解二散幘一、斜插上レ簪、朝野慕レ之、相與放效。

【散脂大將】265 サンシタイシヤウ　佛神の名。鬼子母神の子。〔諸天傳、乾〕鬼子母有二三男一、長名二唯奢文一、次名二散脂大將一、小名二摩尼跋陀一。

【散所雜色】266 サンシヨザフシキ　攝關家等に使はれる身分の賤しい者。〔勘記〕永仁二年二月二日、散所雜色不レ足、被レ召二御舍人如木一。

【散所隨身】267 サンシヨズイジン　自己の隸屬してゐる官廳に出仕しないで、他に附屬する隨身。〔小右記〕長和二年正月四日、白馬樋近衞、稱二散所隨身一、不レ勤二其事一、前例不レ然之事也。

【〓】13266　コウ ク　〔集韻〕枯公切　東

うつ。たたく。或は〓(6-16643)に作る。〔集韻〕〓、擊也、或从レ殳。

【敐】13267　シウ シユ　〔集韻〕之由切　尤

ふせぐ。〔玉篇〕敐、禦也。

【〓】13268　コツ コチ　〔篇海〕呼骨切　月

うつ。たたく。〔篇海〕〓、擊也。

【〓】13269　ハウ ヒヤウ　〔篇海〕普庚切　庚

うつ。たたく。〔篇海〕〓、擊也。

【敤】13270　一 クワ　〔集韻〕苦果切　哿　二 クワ　〔集韻〕苦臥切　箇

小篆

一二　㊀みがく。とぎをさめる。〔說文〕敤、研治也、从レ攴果聲、舜女弟、名敤首。㊁うつ。たたく。〔廣雅、釋詁三〕敤、椎也。〔疏證〕椎・擊、同義。

【敤手】1 クワシユ　敤首に同じ。〔漢書、古今人表、上下〕敤手、舜妹。

【敤首】2 クワシユ　有虞氏、舜の妹。一名、嫘。又、敤手・顆首に作る。舜の父、屢〻舜を殺さんと欲するや、敤首之を憐み、二嫂と諧和す。畫は嫘に始まる。故に又、畫嫘といふ。〔說文〕敤、舜女弟、名敤首。

【〓】13271　シン　〔集韻〕子鴆切　沁

うつ。たたく。〓(5-12117)に同じ。〔集韻〕〓、擊也、或从レ攴。〔集韻〕〓、擊也。

【〓】13272　クワイ ケ　〔篇海〕古壞切　卦

こぼつ。〔篇海〕〓、毀也。

【敥】13273　エン　〔集韻〕以贍切　豔

まく。ちらす。〔集韻〕敥、以レ手散レ物。

【㪖】13274

［一］セウ 〔集韻〕徙了切 篠

［二］シャク 〔集韻〕尺約切 藥

［一］うつ。なぐる。〔集韻〕㪖、撲也。［二］うばふ。かすめとる。〔集韻〕㪖、奪二取物一也。

【㪗】13275

［一］ロク 〔集韻〕盧谷切 屋

［二］リョク ロク 〔集韻〕龍玉切 沃

［一］うつ。たたく。〔廣韻〕㪗、剝聲。〔類篇〕㪗、擊也。［二］うつおと。〔類篇〕㪗、撲聲也。

【敦】13276

［一］トン 〔集韻〕都昆切 元 ㄉㄨㄣ tuen$^{1\cdot4}$

［二］タイ ツイ 〔集韻〕都回切 灰 ㄉㄨㄟ tuei^{1}

［三］タン ダン 〔集韻〕徒官切 寒

［四］テウ 〔集韻〕丁聊切 蕭

［五］タイ ツイ 〔集韻〕都內切 隊 ㄉㄨㄟ tuei^{4}

［六］タウ ダウ 〔集韻〕大到切 號

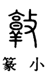
［七］タウ ダウ 〔集韻〕杜晧切 晧

［八］チウ ヂュ 〔集韻〕陳留切 尤

［九］トン ドン 〔集韻〕杜本切 阮

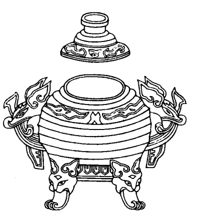
［十］トン 〔集韻〕都困切 願

［十一］シュン 〔集韻〕主尹切 軫



小篆

［一］❶いかる。斆（5－13433）に同じ。〔集韻〕敦、說文、怒也、詆也、一曰、誰何也。〔說文〕斆、怒也、詆也、从レ攴𦎫聲。〔揚雄、甘泉賦〕白虎敦二圉乎昆侖一。〔注〕善曰、敦圉、盛怒貌也。❷うつ。なげうつ。なげつける。〔說文通訓定聲〕敦、按、此字本訓、擿也、故从レ攴。〔詩、邶風、北門〕王事敦レ我。〔箋〕敦、猶二投擿一也。〔釋文〕擿、與レ擲同。〔淮南子、兵略訓〕敦二六博一、投二高壺一。❸しかる。とがめる。諯（10－35729）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲レ諯。〔說文〕敦、詆也、一曰、誰何也。❹あつい。あつく。あつくする。惇（4－10759）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲レ惇。〔易、臨〕敦臨、无レ咎。〔疏〕敦、厚也。〔禮、曲禮上〕敦二善行一而不レ怠。〔注〕敦、厚也。〔左氏、成、十六〕民生敦厖。〔注〕敦、厚也。〔老子、十五〕敦兮其若レ朴。〔河上公注〕敦者、質厚。❺まこと。まごころ。〔素問、上古天眞論〕長而敦敏。〔注〕敦、信也。❻たつとぶ。〔禮、樂記〕樂者敦レ和。〔注〕敦レ和、樂貴レ同也。❼つとめる。諄（10－35622）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲レ諄。〔爾雅、釋詁〕敦、勉也。〔漢書、揚雄傳下〕敦二衆神一使二式道一兮。〔注〕師古曰、敦、勉也。❽すすめる。〔後漢書、陳寔傳〕遣レ人敦レ寔。〔注〕敦、勸也。❾せまる。〔詩、邶風、北門〕王事敦レ我。〔釋文〕韓詩云、敦、迫。〔後漢書、韋彪傳〕重以レ禮敦勸。〔注〕敦、猶レ逼也。❿いたす。〔淮南子、兵略訓〕敦二六博一。〔注〕敦者、致也。⓫おほきい。奄（3－5864）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲レ奄。〔方言、一〕敦、大也、陳鄭之閒曰レ敦。〔漢書、地理志下〕敦煌郡。〔注〕應劭曰、敦、大也。⓬さかん。焞（7－19107）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲レ焞。〔爾雅、釋天〕太歲在レ午曰二敦牂一。〔淮南子、天文訓〕敦牂。〔注〕敦、盛、牂、壯也、言二萬物皆盛壯一也。⓭ただす。とりしまる。督（8－23457）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲レ督、敦・督、一聲之轉。〔荀子、彊國〕不レ勝下夫敦二比於小事一者上矣。〔注〕敦比、精審躬親之謂。⓮たむろする。啍（8－25789）・笣（8－25874）・屯（4－7828）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲レ啍、或爲レ笣。〔詩、大雅、常武〕鋪二敦淮濆一。〔箋〕敦、當レ作レ屯。〔揚雄、甘泉賦〕敦二萬騎於中營一兮。〔注〕善曰、敦、與レ屯同。⓯しんがり。殿（6－16651）・臀（9－29939）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲レ殿、實爲レ臀。〔逸周書、武順解〕一卒居レ後曰レ敦。⓰もだえる。憞（4－11227）に通ず。〔集韻〕憞、憞恨、心不レ明也、或省。⓱地名。〔類篇〕敦、敦煌、郡名。⓲姓。〔通志、氏族略、平聲〕敦氏、陳留風俗傳、敦氏、姞姓之後。〔尚友錄〕敦、陳留姞姓之後、又云、秦史敦之後。［二］❶獨り居て移らないさま。啍（8－23463）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲レ啍。〔詩、豳風、東山〕敦彼獨宿。〔箋〕敦敦然獨二宿於車下一。〔集傳〕敦、獨宿不レ移之貌。❷たつ。剬（2－2091）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲レ剬。敦・剬、一聲之轉。〔莊子、說劍〕今日試使二士敦レ劍。〔釋文〕司馬云、敦、斷也。❸をさめる。〔詩、魯頌、閟宮〕敦二商之旅一。〔箋〕敦、治。❹えらぶ。選擇。〔詩、周頌、有客〕敦二琢其旅一。〔箋〕言二敦琢一者、以二賢美一之故、玉二言之一。〔集傳〕敦、音堆、敦琢、選擇也。❺うつ。なげうつ。〔詩、邶風、北門〕王事敦レ我。〔釋文〕敦、都回反、猶二投擲一也。❻むらがる。あつまる。〔詩、豳風、東山〕有二敦瓜苦一。〔傳〕敦、猶二專專一也。〔箋〕專專、如二瓜之繫綴一焉。〔集傳〕音堆。❼うらむ。にくむ。憝（4－11226）に通ず。敦惡(9)を見よ。❽をか。𠂤（1－141）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲レ𠂤。〔爾雅、釋丘〕丘一成爲二敦丘一。〔注〕今江東呼二地高堆者一爲レ敦。［三］あつまる。むらがる。〔詩、大雅、行葦〕敦彼行葦。〔傳〕敦、聚貌。［四］❶朱うるしをかけた弓。或は弴（4－9808）・弤（4－9751）に作る。〔集韻〕敦、畫弓也、或从レ弓、亦作レ弤。❷ゑる。かざる。琱（7－21074）・彫（4－9995）・雕（11－42080）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲レ琱、敦・琱、一聲之轉。〔詩、大雅、行葦〕敦弓既堅。〔傳〕敦弓、畫弓也。〔集傳〕敦・雕、通。〔疏〕敦與レ彫、古今之異。〔詩、周頌、有客〕敦二琢其旅一。〔疏〕敦・雕、古今字。［五］❶黍稷を盛る器。〔周禮、天官、玉府〕若合二諸侯一、則共二珠槃玉敦一。〔注〕敦、槃類、珠玉以爲レ飾、古者以レ槃盛レ血、以レ敦盛レ食。〔禮、明堂位〕有虞氏之兩敦。〔注〕敦、黍稷器。〔爾雅、釋宮〕如レ覆レ敦者、敦丘。〔注〕敦、盂也。❷うらむ。憞（4－11227）に通ず。敦惡(9)を見よ。［六］［七］［八］おほふ。おほひ。幬（4－9127）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲レ幬、敦・幬、一聲之轉。〔周禮、春官、司几筵〕每敦一几。〔注〕敦、讀曰レ燾、燾、覆也。［九］ひらけない。くらいさま。渾敦。沌（6－17193）に通ず。〔左氏、文、十八〕謂二之渾敦一。〔注〕渾敦、不二開通一之



敦（禮器圖）

貌。〔疏〕混沌與㆓渾敦㆒、古今字之異耳。[十] ❶ひくい。ひくい丘。〔爾雅、釋丘〕爲㆓敦丘㆒。〔釋文〕郭云、音郵、或丁回反。〔漢書、班固傳〕欲㆘從㆓埜敦㆒而度㆗高乎泰山㆖。〔注〕師古曰、敦、頓邱也。❷たてる。錞（11－40557）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲㆑錞。〔莊子、列禦寇〕敦㆑杖、蹙㆓之乎頤㆒立。〔注〕敦、豎也。❸困敦は、歲名。〔爾雅、釋天〕太歲在㆑子曰㆓困敦㆒。❹地名。〔左氏、成、四〕鄭伯伐㆑許、取㆓鉏任冷敦之地㆒。〔漢書、匈奴傳下〕留㆓闟敦地㆒。[十一]はば。布帛の幅廣。準（7－17934）・純（8－27277）に通ず。〔說文通訓定聲〕敦、叚借爲㆑準。〔周禮、天官、內宰〕出㆓其度量敦制㆒。〔注〕杜子春讀㆑敦爲㆑純、純、謂㆓幅廣㆒也。

[名乘] アツ。ノブ。

【敦愛】1（トンアイ） あつく愛する。〔淮南子、道應訓〕子不㆑若㆔敦愛而篤㆓行之㆒。

【敦頤】2（トンイ） 宋、龔頤正（12－48837‥56）の本名。

【敦懿】3（トンイ） 金、完顏從憲（3－7079‥88）の諡。

【敦一】4（トンイツ） 清、陳希祖（11－41698‥716）の字。

【敦悅】5（トンエツ） あつくよろこぶ。〔後漢書、鄭興傳〕執㆑義堅固、敦㆓悅詩書㆒。〔晉書、皇甫謐傳論〕留㆓情筆削㆒、敦㆓悅丘墳㆒。

【敦說】6（トンエツ） 敦悅に同じ。〔任昉、齊竟陵王文宣王行狀〕選㆑衆而擧、敦說斯在。〔注〕良曰、選㆓於衆官㆒擧㆑之、爲㆓會稽太守㆒、重㆑德悅㆑才、其在㆓竟陵王㆒也、敦、重也。

【敦說齋】7（トンエツサイ） 清、李銳（6－14459‥58）の號。

【敦閱】8（トンエツ） あつく丁寧にしらべる。〔潘尼、釋奠頌〕留㆓精儒術㆒、敦㆓閱古訓㆒。

【敦惡】9（トンヲ タイヲ） 厚く惡む。深く惡む。一說に、敦は諄に通じ、相惡むこと。一說に、敦は頓に通じ、困しみ惡むこと。又、一說に、敦は憝に通じ、怨み惡むこと。〔荀子、議兵〕有㆓離㆑俗不㆑順㆓其上㆒、則百姓莫㆑不㆓敦惡㆒、莫㆑不㆓毒孽㆒、若㆑祓㆓不祥㆒。〔注〕敦、厚也。〔集解〕盧文弨曰、方言、諄憎、所㆑疾也、宋魯凡相惡謂㆓之諄憎㆒、此敦當㆓與㆑諄同㆒、王念孫曰、楊說㆓敦惡㆒、禮論篇同、又云、或曰、敦、讀爲㆑頓、頓、困躓也、皆非也、說文、憝、怨也、廣雅、憝、惡也、康誥、罔㆑不㆑憝、傳曰、人無㆓不㆑惡㆑之者㆒、孟子萬章篇、引㆑書作㆑譈、法言重黎篇、楚憞㆓羣策㆒而自屈㆓其力㆒、李注、憞、惡也、譈・憞・敦、並與㆑憝同、本篇敦惡與㆓毒孽㆒對文、禮論篇之敦惡、與㆓喜樂哀痛㆒對文、則敦不㆑得㆓訓爲㆒㆑厚、亦不㆑得㆔讀爲㆓困頓之頓㆒也、盧引㆓方言、諄憎、所㆑疾也㆒、宋魯凡相惡謂㆓之諄憎㆒、諄、與㆑敦亦聲之轉。〔荀子、禮論〕師旅有㆑制、刑法有㆑等、莫㆑不㆑稱㆑罪、是君子之所㆕以爲㆔悖詭其所㆓敦惡㆒之文也。〔注〕敦、厚也、厚惡、深惡也、或曰、敦、讀爲㆑頓、頓、困躓也、本因㆓感動敦惡㆒、故制㆓師旅刑法㆒、以爲㆓文飾㆒。〔集解〕盧文弨曰、案、方言七、諄憎、所㆑疾也、宋魯凡相惡謂㆓之諄憎㆒、敦、與㆑諄音義同。

【敦翁】10（トンヲウ） 明、史忠（2－3249‥123）の號。

【敦賀】11（ツルガ） 越前國（福井縣）の郡名及び市名。

【敦雅】12（トンガ） てあつくみやびやか。〔蜀志、糜竺傳〕竺雍容敦雅、而幹翮非㆑所㆑長。

【敦害】13（トンガイ） 大きな害。〔漢書、敍傳下〕淺爲㆓尤悔㆒、深作㆓敦害㆒。〔注〕師古曰、敦、厚也。

【敦概】14（トンガイ） 枡に穀物を盛つた時、これを平らにならす棒。とかき。〔荀子、君道〕斗斛敦概者、所㆓以爲㆒㆑嘖也。〔集解〕盧文弨曰、敦概卽準概、云云、郝懿行曰、槩卽杚也、所㆔以平㆓斗斛㆒者、敦亦其類、但形狀今未㆑聞。

【敦行】15（トンカウ） てあつい行。又、てあつく行ふ。人情のあついこと。〔國史略、文武天皇〕我聞、日本國、人民豐樂、禮儀敦行。〔愼思錄、一〕英才敦行之士。

【敦愨】16（トンカク） まこと。正直。〔荀子、王霸〕如㆑是則商賈莫㆑不㆓敦愨㆒而無㆑詐矣。〔管子、君臣上〕則雖㆑有㆓敦愨忠信者㆒、不㆑得㆑善也。

【敦樂】17（トンガウ） あつく好むこと。敦好。〔後漢書、王龔傳〕束㆓修厲節㆒、敦㆓樂藝文㆒。〔聖賢羣輔錄〕退㆓隱山谷㆒、敦㆓樂詩書㆒。

【敦學】18（トンガク） あつく學ぶ。〔後漢書、儒林傳序〕時樊準・徐防、並陳㆓敦學之宜㆒。〔蘇頲、奉㆘和聖製送㆔張說上㆓集賢學士㆒賜㆖宴得㆓茲字㆒詩〕用㆑儒今作㆑相、敦學舊爲㆑師。

【敦洽】19（トンカフ） 戰國、陳の醜女。德有り、陳侯に用ひらる。〔呂覽、遇合〕陳有㆓惡人㆒焉、曰㆓敦洽讎糜㆒、椎顙廣顏、色如㆓浹赭㆒、垂眼臨㆑鼻、長肘而盭、陳侯見而甚說㆑之、外使㆑治㆓其國㆒、內使㆑制㆓其身㆒。〔劉峻、辨命論〕猗頓之與㆓黔婁㆒、陽文之與㆓敦洽㆒。〔注〕善曰、高誘曰、醜而有㆑德也、濟曰、陽文、美女、敦洽、醜女。

【敦顏】20（トンガン） 厚顏。〔呂覽、達鬱〕敦顏而土色者忍㆑醜。〔注〕敦、厚也。

【敦丘】21（トンキウ タイキウ） かさなりあつた丘。頓丘。〔爾雅、釋丘〕丘一成爲㆓敦丘㆒。〔注〕成、猶㆑重也、今江東呼㆓地高堆者㆒爲㆑敦。〔疏〕成、重也、言、丘上更有㆓一丘相重累者㆒名㆓敦丘㆒。〔郝懿行義疏〕敦之爲㆑言、堆也、敦訓爲㆑厚、厚重義近、故一重之丘、因以爲㆑名。〔爾雅、釋丘〕如㆓覆敦㆒者敦丘。〔注〕敦、盂也、音堆。〔郝懿行義疏〕卽上敦丘、此又申㆓釋其狀㆒、故孫炎云、丘一成之形象也、明二者是一、云云、形如㆓覆敦㆒、敦器似㆑盂、蓋盂體圓、上下相連、敦形似㆑之。

【敦弓】22（テウキユウ） 弓の名。古、天子が用ひ、畫き飾つたもの。畫弓。敦は彫に通ず。〔詩、大雅、行葦〕敦弓既堅、四鍭既鈞。〔傳〕敦弓、畫弓也、天子敦弓。〔疏〕敦與㆑彫、古今之異、彫是畫飾之義、故云㆓敦弓、畫弓也㆒。

【敦圄】23（トンギヨ） 虎に似た小獸。一說に、仙人の名。〔淮南子、俶眞訓〕若㆓夫眞人㆒、則動㆓溶于至虛㆒、而游㆓于滅亡之野㆒、騎㆓蜚廉㆒而從㆓敦圄㆒、馳㆓於方外㆒、休㆓乎宇內㆒。〔注〕蜚廉、獸名、長毛有㆑翼、敦圄、似㆑虎而小、一曰、仙人名也。

【敦圉】24（トンギヨ） むきになる。いきまく。大いに怒る。圉は強。〔揚雄、甘泉賦〕蛟龍連㆓蜷於東厓㆒兮、白虎敦㆓圉乎崑崙㆒。〔注〕善曰、敦圉、盛怒貌也。

【敦化】25（トンクワ） ❶あつく化する。〔中庸〕小德川流、大德敦化、此天地之所㆓以爲㆒㆑大也。〔章句〕敦化者、敦㆓厚其化㆒。❷縣名。清、置く。滿洲吉林省額穆縣の南。縣城は牡丹江の西岸に瀕す。吉敦鐵路の終點。〔清史稿、地理志〕吉林、敦化縣。

【敦煌】26（トンクワウ） 又、焞煌・燉煌（7－19403‥1）に作る。❶郡名。漢、置く。甘肅省敦煌縣。唐の建中の時、吐蕃に陷り、大中の時收復したが、郡縣の名は俱に廢す。〔讀史方輿紀要、陝西、附考〕沙州衞、古㆓三危地㆒、舜流㆓共工於此㆒、其後子孫爲㆓羌戎㆒、代有㆓其地㆒、春秋時、謂㆓之瓜州㆒、左傳襄十四年、晉范宣子數㆓戎子駒支㆒曰、秦人迫㆓逐乃祖吾離于瓜州㆒、又昭九年、周詹桓伯曰、允姓之奸、居㆓于瓜州㆒、是也、秦及漢初、爲㆓月支匈奴地㆒、武帝逐㆓匈奴㆒屬㆓酒泉郡㆒、後元年、分置㆓敦煌郡㆒、後漢西域副校尉居㆓敦煌㆒、魏晉時、仍爲㆓敦煌郡㆒、十六國春秋、晉咸康元年、張駿分㆓敦煌等郡㆒爲㆓沙州㆒、永和十年、張祚置㆓商州㆒、仍治㆓敦煌郡㆒、西涼李暠都㆓于北涼㆒得㆓其地㆒、亦置㆓沙州㆒、後魏改爲㆓瓜州㆒、並治㆓敦煌郡㆒、後周因㆑之、隋初郡廢、仍曰㆓瓜州㆒、煬帝復改㆑州爲㆓敦煌郡㆒、唐武德二年、改曰㆓沙州㆒、五年又改爲㆓西沙州㆒、貞觀七年、復曰㆓沙州㆒、天寶初、曰㆓敦煌郡㆒、乾元初、復㆑故、後沒㆓于吐蕃㆒、大中三年、張儀潮以㆑州歸㆑朝、置㆓歸義軍㆒授㆑之、其後曹義金曹元德等、相繼有㆓其地㆒、終㆓五代之季㆒、瓜沙二州、皆附㆓于中國㆒、宋初亦羈屬焉、祥符六年、沙州曹賢順入貢、授㆓歸義節度使㆒、尋亦附㆓于契丹㆒、天禧三年、契丹冊㆓賢順㆒爲㆓敦煌郡王㆒、景祐初、沒㆓於西夏㆒、元初、置㆓沙州㆒、尋爲㆓沙州路㆒、明洪武二十四年、元裔阿魯哥失里遣㆑使朝貢、永樂三年、置㆑衞以授、其首領困卽來、宣德七年上言、諸部侵掠、願㆔徙居㆓察罕舊城㆒、不㆑許、正統十一年、其首領喃哥、以㆑困㆓于瓦剌㆒、率㆓部屬㆒來歸、因徙置㆓內地㆒、衞廢。❷縣名。漢、置く。甘肅省安西縣の西南。古來、酒泉と共に西域道上の重鎭。南に苻秦の建てた雷音寺があり、東南の鳴沙山に千佛洞がある。〔漢書、地理志下〕敦煌郡、縣六、敦煌。〔讀史方輿紀要、陝西、附考、沙州衞〕敦煌廢縣、今衞治、漢縣爲㆓敦煌郡治㆒、趙充國謂、自㆓敦煌㆒至㆓遼東㆒、萬一千五百餘里、是也、杜林曰、敦煌古瓜州地、生㆓美瓜㆒、杜佑曰、至㆑今猶出㆓大瓜㆒、長者狐入㆓其中㆒、首尾不㆑出、又漢有㆓步廣侯官㆒、爲㆓中部都尉治㆒、魏晉仍爲㆓敦煌縣㆒、後爲㆓前後涼及西涼所㆒㆑據、宋永初元年、沮渠蒙遜、圍㆓李歆於敦煌㆒、築㆑堤壅㆑水、以

灌二其城一、遂克レ之、後魏亦爲二瓜州治一、宋元徽二年、柔然寇レ魏、敦煌尙書奏、敦煌僻遠、介二居南北強寇之閒一、恐不レ能二自固一、請三內徙就二涼州一、韓秀以爲、敦煌隔二閡西北二番一、使不レ得二相通一、今徙就二涼州一、不三惟有二蹙國之名一、且姑臧去、敦煌千有餘里、防邏甚難、二番必有二交通窺闞之志一、若騷二動涼州一、則關中不レ得レ安レ枕矣、乃止、後周改レ縣爲二鳴沙縣一、隋大業中、復曰二敦煌一、隋書、大業三年、裴矩造二西域地圖一、從二西傾一以去、縱橫所レ亙、將二二萬里一、發レ自二敦煌一、至二於西海一、凡爲二三道一、北道從二伊吾一、中道從二高昌一、南道從二鄯善一、總二湊敦煌一、是也、唐亦爲二沙州治一、兼置二豆盧軍於城內一、其後沒二於吐蕃一、大中以後迄二於宋世一、羈屬而已、西夏仍爲二沙州治一、元初置二沙州一、以二敦煌縣一幷入。〔清史稿、地理志〕甘肅、安西直隸州、縣二、敦煌。

【敦煌五龍】27（トンクヮウゴリヨウ） 晉の敦煌の人で、太學で名聲を馳せた索靖・索紒・索永・氾衷・張甝等五人の倂稱。〔晉書、索靖傳〕靖、字幼安、敦煌人也、累世官族、父湛北地太守、靖少有二逸羣之量一、與二鄉人氾衷・張甝・索紒・索永一、倶詣二太學一馳レ名、海內號稱二敦煌五龍一。

【敦煌石窟】28（トンクヮウセキクツ） 三大石窟寺の一。甘肅省敦煌市街の東南、鳴沙山の東麓。又、敦煌千佛洞・莫高窟・千佛巖・鳴沙石室・敦煌石室・雷音寺ともいふ。一八七九年、匈牙利人ローチが始めて千佛洞を發見し、一九〇七年、英人スタイン、翌年、佛人ペリオ等踏査して多數の古寫本・繪畫等を得てより世界の視聽を蒐めるに至る。此の石窟の創始は、前秦苻堅の建元二年、沙門樂僔始めて造營し、法良・東陽王等其の業を繼いだのに起る。一說に、東晉の永和九年に始まるといふ。爾來、其の營造は續けられ、唐代に於て極點に達したやうである。現在の石窟數は主要なもの三百前後を合せて、總數五百以上と數へられ、唐・宋・元・明の壁畫が襲藏されてをり、又、清の光緒二十五年、住持王道士が發見した第百六十三窟中の古本・古文書等は、スタイン・ペリオ・オルデンブルグ・橘瑞超等に依つて購得され、又は中國政府が移管して北京京師圖書館に收藏され、一部は民間に流出して個人の有に歸したが、之等を敦煌石室遺書といふ。今其の二三を擧げれば、佛典に唐梵翻對字音盤若波羅密多心經・大雲夢想經・諸星母陀羅尼經・十誦比丘戒本（西涼建初元年筆寫）・安惠の倶舍論實義疏・世親の六門陀羅尼經論・勝鬘經義記（北魏正始元年筆寫）・法華義記（北魏正始五年筆寫）・梵網經述義・攝大乘論疏・楞伽師資記・歷代法寶記・唐慧超往五天竺國傳・三階教籍等があり、摩尼教に關するものには、摩尼教下部讚・一神論・序聽迷詩所經・志玄安樂經等があり、漢籍には、古文尙書・鄭玄注論語・抱朴子・羣書治要・老子化胡經・新脩本草・史記（寫本）・漢書（寫本）・貞元十道錄・敦煌錄・沙州都督府圖經・文心雕龍・文選等がある。

【敦煌石室】29（トンクヮウセキシツ） 石室の名。甘肅省敦煌縣の東南、鳴沙山の麓に三界寺があり、寺の傍に多數の石室がある。もと莫高窟といひ、俗に千佛洞といひ、巖石の閒に萬餘の佛像がある。清の光緒二十六年、積沙を掃除し、覆壁の破處から一室を見るに中に藏書が甚だ多い。之を發くに皆、唐及び五代人の手寫した書籍並に雕本で、佛經が最も多い。西夏の兵亂に、此所に保存したものといふ。近年英人スタイン・佛人ペリオが其の地に至り、精好なるものを持ち去り、自國の博物館中に陳列した。中國政府が往き求めた時は精好なものは已になかつた。敦煌石室遺書・鳴沙石室古佚書其の他の刊行本がある。

【敦煌零拾】30（トンクヮウレイシフ） 書名。民國、羅振玉輯。敦煌の遺書七種を收めたもの。其の目は、韋莊秦婦吟・雲謠集雜曲三十首・季布歌・佛曲三種・俚曲三種・小曲三種・搜神記。

【敦煌石室遺書】31（トンクヮウセキシツヰシヨ） 書名。清、蔣斧編。宣統二年、羅振玉刊。尙書顧命・沙州志・西州志・五天竺國記・溫泉銘・沙州文錄・別本心經・五臺山讚・老子化胡經・摩尼教經・景教三威蒙度讚・沙州石室文字記を收錄する。

【敦煌石室碎金】32（トンクヮウセキシツサイキン） 書名。一卷。民國、羅振玉編。其の目は、毛詩豳風鄭詩箋・春秋左氏傳昭公・漢書匡衡張禹孔光列傳・燉煌錄・職官表・後唐天成元年曆・晉天福四年曆・宋淳化元年曆・老子義・南華眞經・老子大應經・道家書・劉子・唐律義疏・食療本草・周公卜法・靈棋經。

【敦勸】33（トンクヮン） ねんごろにすすめる。〔後漢書、韋彪傳〕豹子著、字休明、少以二經行一知レ名、云云、桓帝公車備レ禮徵、至二霸陵一、稱レ病歸、乃入二雲陽山一、采レ藥不レ反、云云、復詔二京兆尹一、重以レ禮敦勸、著遂不レ就レ徵。〔宋書、高祖紀上〕屢請レ歸レ藩、天子不レ許、遣二百僚一敦勸。〔南史、齊高帝紀〕帝三讓、公卿敦勸固請。〔周書、武帝紀下〕陽和布レ氣、品物資レ始、敬授二民時一、義兼二敦勸一。

【敦敬】34（トンケイ） 心あつくつつしみぶかい。〔荀子、彊國〕其百吏肅然、莫レ不二恭儉敦敬、忠信而不楛一、古之吏也。〔管子、版法解〕慶二勉敦敬一以顯レ之。〔鮑照、與二伍侍郎一別詩〕貧遊不レ可レ忘、久交念二敦敬一。

【敦潔】35（トンケツ） 情あつく心がいさぎよい。〔歐陽脩、送三田畫秀才寧二親萬州一序〕爲レ人敦潔可レ喜。

【敦業】36（トンゲフ） 仕事を手あつくする。〔管子、君臣上〕上惠二其道一、下敦二其業一。

【敦劍】37（トンケン） 劍をもつて擊ち斷つ。〔莊子、說劍〕王曰、今日試使二士敦劍一。〔釋文〕司馬云、敦、斷也、試使二用レ劍相擊斷截一也。

【敦愿】38（トンゲン） 人情あつくしてすなほ。〔史記、貨殖傳〕夏人政尙二忠朴一、猶有二先王之遺風一、潁川敦愿。

【敦固】39（トンコ） あつくてかたい。〔荀子、成相〕處レ之敦固、有二深藏レ之能遠思一。〔後漢書、吳良傳〕資質敦固。〔魏志、陳思王植傳〕親レ親之義、寔在二敦固一。

【敦故】40（トンコ） 舊知に對して情のあついこと。〔白居易、漸老詩〕遇レ境多二愴辛一、逢レ人益二敦故一。

【敦厚】41（トンコウ） 人情が厚い。親切で手厚い。篤實。又、其の人。惇厚。〔禮、經解〕溫柔敦厚、詩教也。〔中庸〕敦厚以崇レ禮。〔荀子、非十二子〕古之所謂士仕者、敦厚者也。〔史記、公孫弘傳〕於レ是天子察二其行一、敦厚、辯論有レ餘。〔漢書、平帝紀〕擧二敦厚能直者各一人一。〔淮南子、泰族訓〕淳龐敦厚者、書之教也。〔後漢書、章帝八王傳論〕章帝長者、事從二敦厚一。

【敦厚周愼】41′（トンコウシウシン） 人情が厚くて愼みぶかい。〔後漢書、馬援傳〕龍伯高、敦厚周愼。

【敦薨】42（トンコウ） 湖の名。今、新疆省焉耆縣の南の博斯騰泊。〔水經、河水注〕大河、又東右會二敦薨之水一、其水出二焉耆之北一、敦薨之山、在二匈奴之西、烏孫之東一、山海經曰、敦薨之山、敦薨之水出焉、而西流注二于泑澤一、出二于崑崙之東北隅一、實惟河源者也、二源俱レ道、西源東流、分爲二二水一、左水西南流、出二于焉耆之西一、逕二流焉耆之野一、屈而東南流、注二于敦薨之渚一、右水東南流、又分爲レ二、左右焉耆之國城、居二四水之中一、在二河水之洲一、治二員渠城一、西去二烏壘一四百里、南會二兩水一、同注二敦薨之浦一、東源東南流、分爲二二水一、澗瀾雙引、洪湍濬發、俱東南流、逕二出焉耆之東一、導二于危須國西一、國治二危須城一、西去二焉耆一百里、又東南注流二于敦薨之藪一、川流所レ積、潭水斯漲、溢而爲レ海。

【敦艮】43（トンコン） 終を完うする。〔易、艮〕上九、敦レ艮、吉、象曰、敦レ艮之吉、以厚レ終也。〔疏〕敦、厚也、上九居二艮之極一、極、止者也、在レ上能用二敦厚一以自止、不レ陷二非妄一、宜二其吉一也。

【敦艮堂】44（トンコンダウ） 清、蔣師爚(9―31820・・168)の室名。

【敦艮吉齋】45（トンコンキツサイ） 清、徐子苓(4―10110・・444)の號。

【敦壯】46（トンサウ） あつくてさかん。〔蜀志、楊戲傳〕將軍敦壯、摧鋒登レ難。

【敦止】47（トンシ） 唐、李訥(6―14459・・641)の字。

【敦至】48（トンシ） てあつく行屆く。〔後漢書、鄭均傳〕均好レ義篤實、養二寡嫂孤兒一、恩禮敦至。

【敦祗】49（トンシ） 鄭重でつつしみ深い。〔韓非子、難言〕敦祗恭厚、鯁固愼完。

【敦詩】50（トンシ） 字號。㊀唐、賈耽(10―36755・・102)の字。㊁唐、崔羣(4―8178・・64)の字。

【敦州】51（トンシウ） 州名。五代唐、置く。湖南省郴縣。〔讀史方輿紀要、湖廣〕郴州、禹貢、荊州地、春秋戰國時、楚地、秦屬二長沙郡一、漢初置二桂陽郡一、云云、五代晉天福初、馬氏改曰二敦州一。

【敦實】52（トンジツ） ㊀てあつくまじめなこと。〔傳習錄、中〕篤者敦實篤厚之意已行矣。㊁（タイジツ） 敦に盛る稻。敦は古の祭器。〔春秋繁露、祭義〕宗廟之

祭、物之厚無㆑上也、云云、冬上㆓敦實㆒、云云、敦實、稻也、冬之所㆓畢熟㆒也。

【敦匠】53トンシヤウ　大工仕事を鄭寧にする。鄭寧に棺を作る。〔孟子、公孫丑下〕前日不㆑知㆓虞之不肖㆒、使㆓虞敦㆑匠。〔注〕敦㆑匠、厚作㆑棺也。

【敦尚】54トンシヤウ　あつくたつとぶ。敦崇。〔後漢書、桓郁傳〕子郁、結髮敦尚、繼傳㆓父業㆒。〔圖畫見聞志、七、近事、高麗國〕惟高麗國、敦尚㆓文雅㆒、漸染㆓華風㆒。

【敦牂】55トンシヤウ　十二支の午の異名。〔爾雅、釋天〕太歲、云云、在㆑午曰㆓敦牂㆒。〔疏〕李巡云、言、萬物皆茂壯、猗那其枝、故曰㆓敦牂㆒、敦、茂也、牂、壯也。〔史記、歷書〕徒維敦牂天漢元年。〔漢書、律歷志下〕故漢志曰、歲在㆓大棣㆒、名曰㆓敦牂㆒、太歲在㆑午。

【敦淳】56トンジユン　あつい。敦厚。〔梁昭明太子、宴蘭思㆑舊詩〕孝若信儒雅、稽古文敦淳。

【敦初】57トンシヨ　清、王復（**7－20823**··935）の字。

【敦書】58トンシヨ　清、陸學欽（**11－41708**··276）の字。

【敦序】59トンジヨ　あつく次第順序をつける。あつく整へをさめる。惇敍。〔史記、夏紀〕敦㆓序九族㆒。〔注〕集解曰、鄭玄曰、次㆓序九族㆒而親㆑之。〔蜀志、先主劉備傳〕昔在虞書、敦㆓序九族㆒。〔王延壽、魯靈光殿賦〕九族敦序、百姓昭明。

【敦敍】60トンジヨ　敦序に同じ。〔晉書、庾純傳〕敦㆓敍風俗㆒、以㆓人倫㆒爲㆑先、人倫之教、以㆓忠孝㆒爲㆑主。

【敦信】61トンシン　㊀あつく信ずる。〔逸周書、太子晉解〕君有㆓廣德㆒、分㆓任諸侯㆒而敦信。㊁字號。㋑隋、耿詢（**9－29026**··30）の字。㋺宋、陸蘊（**11－41708**··15）の字。

【敦愼】62トンシン　心あつくつつしみぶかい。惇愼。〔漢書、敍傳下〕博山敦愼、受㆓莽之疚㆒。〔後漢書、宦者、蔡倫傳〕盡㆑心敦愼。

【敦仁】63トンジン　心あつく惠み深い。〔吳志、諸葛瑾傳〕諸葛敦仁、則㆑天活㆑物。

『敦仁堂』64トンジンダウ　清、何宗韓（**1－511**··325）の「室名。

【敦水】65トンスイ　川の名。山西省陽高縣の南。雁門水に注ぐ。〔山海經、北山經〕少威之山、敦水出焉、東流注㆓于雁門之水㆒。

【敦崇】66トンスウ　あつくたつとぶ。うやまひあがめる。〔晉書、慕容寶載記〕砥礪自修、敦㆓崇儒學㆒、工㆓談論㆒、善屬㆑文。

【敦請】67 tuen^{1} chʻing^{3}　懇ろに依賴する。禮を厚くして招く。

【敦誠】68トンセイ　清の宗室、阿濟格の子孫。字は敬亭。別號は松堂。書室を四松堂・鷦鷯菴といひ、著に四松堂詩文集・鷦鷯菴筆塵がある。

【敦整】69トンセイ　あつくてととのふ。〔風俗通、十反〕好㆑學敦整。

【敦然】70トンゼン　混沌としたさま。〔魏志、邴原傳、注〕其心中不㆑知㆓天地閒何者爲㆑美、何者爲㆑好、敦然似㆘如與㆓陰陽㆒合㆑德者㆖。

【敦趣】71トンソク　あつく促す。〔唐書、馬周傳〕遣㆓使者四輩敦趣㆒。

【敦俗】72トンゾク　風俗をあつくする。又、敦厚の風俗。〔國史略、村上天皇〕未㆑有㆓賣㆑官而敦㆑俗、鬻㆑職而安㆑民者㆒矣。

【敦敦】73タイタイ　㊀獨り居て移らないさま。〔詩、豳風、東山〕敦彼獨宿、〔箋〕敦敦然獨㆓宿於車下㆒。〔集傳〕敦、音堆、獨處不㆑移之貌。㊁トントン　聚るさま。敦は屯（**4－7828**）に通ず。〔說苑、至公〕孔子爲㆓魯司寇㆒、云云、敦敦然皆立。

【敦琢】74タイタク テウタク　えらぶ。一說に、雕琢（**11－42080**··59）に同じ。〔詩、周頌、有客〕有㆑萋有㆑且、敦㆓琢其旅㆒。〔箋〕選㆓擇眾臣卿大夫之賢者㆒、與㆑之朝㆑王。〔釋文〕敦、都回反、徐又音彫。〔疏〕釋器云、玉謂㆓之雕㆒、又云、玉謂㆓之琢㆒、是雕琢皆治㆑玉之名、敦・雕、古今字。〔集傳〕敦音堆、敦琢、選擇也。

【敦忠】75トンチユウ　心あつく誠がある。〔史記、秦始皇紀〕端直敦忠、事業有㆑常。

【敦敕】76トンチヨク　あつくいましめる。〔水經、穀水注〕敦㆓敕工匠㆒、盡㆓要妙之巧㆒。

【敦貞】77トンテイ　情があつく意がただしいこと。〔潛夫論、讚學〕況君子敦貞之質、察敏之才、攝㆑之以㆓良朋㆒、教㆑之以㆓明師㆒。

【敦德】78トントク　あつい德。〔論衡、恢國〕皇帝敦德。

【敦篤】79トントク　てあつい。敦厚。敦實。〔左氏、成、十三〕勤㆑農莫㆑如㆑致㆑敬、盡㆑力莫㆑如㆓敦篤㆒。〔後漢書、朱穆傳〕感㆓時澆薄㆒、慕㆓尚敦篤㆒。

【敦任】80トンニン　あつく任用する。惇任。〔漢書、哀帝紀〕敦㆓任仁人㆒、黜㆓遠殘賊㆒。〔注〕師古曰、敦、厚也。

【敦拜】81ワンパイ　清、滿洲正黃旗の人。姓は富察氏。官は太子太保。封は一等子。謚は襄壯。太宗に從つて戰功があつた。

【敦脄】82トンバイ　肉の厚い背中。〔楚辭、宋玉、招魂〕敦脄血拇、逐人駓駓些。〔注〕敦、厚也、脄、背也。

【敦龐】83トンハウ　あつく大きい。民風の厚大なこと。龐は大。敦庬に同じ。〔淮南子、俶眞訓〕蘆苻之厚、通㆓於無垠㆒、而復㆓反於敦龐㆒。〔後漢書、孔融傳〕古者敦龐、善否不㆑別。〔注〕左傳、楚申叔時曰、人生敦龐、杜預注、敦龐、厚大也。〔晉書、劉曜載記論〕上古敦龐、不㆑親㆓其子㆒、功成高讓、歸㆓諸有德㆒。

【敦尨】84トンバウ　敦庬に同じ。尨は大。〔左氏、成、十六〕民生敦尨、和同以聽。〔注〕敦、厚、尨、大也。〔疏〕言、人之生計、若財物足、皆豐厚而多大。

【敦庬】85トンバウ　民風の厚く大きいこと。庬は一に龐に作る。敦龐。敦厚。〔國語、周語上〕敦庬純固、於㆑是乎成。〔後漢書、朱穆傳〕人不㆓敦庬㆒、則道數不㆑遠。〔潛夫論、本訓〕以㆓淳粹之氣㆒、生㆓敦庬之民㆒。〔論衡、自紀〕沒㆓華虛之文㆒、存㆓敦庬之朴㆒。

【敦槃】86タイバン　古、會盟に用ひた器。敦は食を盛り、槃は血を盛る。倶に木製で珠玉を以て飾つたもの。〔周禮、天官、玉府〕若合㆓諸侯㆒、則共㆓珠槃・玉敦㆒。〔注〕敦、槃類、珠玉以爲㆑飾、古者以㆑槃盛㆑血、以㆑敦盛㆑食。〔疏〕云㆓珠玉以爲㆑飾者、此槃敦應㆘以㆑木爲㆑之、將㆓珠玉㆒爲㆖飾耳。

【敦比】87トンピ　あつく治める。精しくしらべる。〔荀子、榮辱〕孝悌原愨、軥錄疾力、以敦㆓比其事業㆒。〔注〕敦、厚也、比、親也、言㆑不㆓敢怠惰㆒也。〔集解〕王念孫曰、敦・比、皆治也、云云、敦㆓比其事業㆒、猶㆑云㆑治㆓其事業㆒耳。〔荀子、彊國〕不㆑勝㆘夫敦㆓比於小事㆒者㆖矣。〔注〕敦比、精審躬親之謂也。

【敦毖】88トンピ　あつくつつしむ。〔蘇軾、張續除㆓宣德郎㆒敕〕益務㆓敦毖㆒、將㆑有㆑試焉。

【敦美】89トンピ　字號。㊀五代吳、徐溫（**4－10110**··29）の字。㊁宋、崔頌（**4－8178**··102）の字。

【敦逼】90トンヒヨク　くりかへしせまる。〔徐陵、爲㆓陳武帝㆒下㆓州郡㆒璽書〕公卿敦逼、率土翹惶。

【敦品】91 tuen^{1} pʻin^{3}　篤實な性質。

【敦敏】92トンビン　㊀行にまことがあつてさとい。〔大戴禮、五帝德〕黃帝、少典之子也、曰㆓軒轅㆒、生而神靈、弱而能言、幼而慧齊、長而敦敏、成而聰明。〔素問、上古天眞論〕長而敦敏。〔史記、五帝紀〕黃帝生而神靈、弱而能言、幼而徇齊、長而敦敏、成而聰明。〔孔子家語、五帝德〕黃帝者、云云、哲睿齊莊、敦敏誠信。㊁清、王凱泰（**7－20823**··1247）の本名。

【敦夫】93トンプ　字號。㊀宋、周師厚（**2－3441**··691）の字。㊁宋、孟厚（**3－6960**··94）の字。㊂明、夏尚樸（**3－5720**··322）の字。㊃明、趙汝廉（**10－37171**··696）の字。㊄清、秦恩復（**8－24995**··194）の號。

【敦風】94トンプウ　風俗をあつくする。〔陸機、五等諸侯論〕世治足㆓以敦㆑風。

【敦復】95トンプク　㊀あつく善にかへる。〔易、復〕六五、敦復无㆑悔。〔疏〕敦復无㆑悔者、處㆓坤之中㆒、是敦㆓厚於復㆒、故云㆓敦復㆒。㊁字號。㋑明、徐善安（**4－10110**··530）の字。㋺清、吳城（**2－3365**··217）の字。㋩清、張英（桐城の人）（**4－9812**··48）の字。

『敦復齋』96トンプクサイ　明、車泰（**10－38172**··150）の號。

【敦物】98トンブツ　山名。惇物（**4－10759**··24）に同じ。

『敦物山人』99トンブツサンジン　明、趙鰏（**10－37171**··76）の號。

【敦聘】100トンヘイ　てあつい招聘。〔外史〕以㆔晉王有㆓敦聘㆒、故遙涉㆓乎冀壤㆒、假㆓道於令邑㆒。

【敦勉】101トンベン　あつくつとめる。〔史記、秦始皇紀〕安和敦勉、莫㆑不㆑順㆑令。

【敦甫】102トンポ　清、湯金釗（**7－17874**··161）の字。

【敦慕】103トンボ　あつくしたふ。一說に、つとめる。〔荀子、儒效〕我欲㆓賤而貴、愚而智、貧而富㆒、可乎、曰、其唯學乎、彼學者行㆑之、曰、士也、敦㆓慕焉㆒、君子也。〔注〕敦厚慕㆑之。〔集解〕王引之曰、楊說非也、敦慕皆勉也、爾雅曰、敦、勉也、大戴記五帝德篇曰、幼而彗齊、長而敦敏、內則曰、惇行㆓孝弟㆒、是敦爲㆑勉也、說文、慔、勉也、爾雅曰、慔慔、勉也、釋文、慔音墓、亦作㆑慕、是慕爲㆑勉也、此承㆓

上文㆒而言、言、能行㆑之、則爲㆑士、行而加㆑勉、則爲㆓君子㆒、故曲禮云、敦㆓善行㆒而不㆑怠、謂㆓之君子㆒、非㆓徒厚慕㆑之而已㆒也。

【敦牟】104（タイボウ） 黍稷を盛る器。〔禮、內則〕敦牟巵匜、非㆑餕莫㆓敢用㆒。〔注〕敦牟、黍稷器也。〔釋文〕敦、音對。

【敦朴】105（トンボク） 親切で飾りけがない。質朴。敦厚。敦樸。〔鄧析子、轉辭〕上古之民、質而敦朴。〔史記、文帝紀〕以示㆓敦朴㆒、爲㆓天下先㆒。〔漢書、王嘉傳〕敦朴能直言。〔後漢書、虞延傳〕性敦朴不㆑拘㆓小節㆒。

【敦睦】106（トンボク） 親切でむつまじい。〔後漢書、孔融傳〕聖恩敦睦、感㆑時增㆑思。〔魏志、明帝紀〕敦㆓睦親親㆒、協㆓和萬國㆒也。〔宋史、竇偁傳〕閨門敦睦、人無㆓譋語㆒。

【敦樸】107（トンボク） 敦朴に同じ。〔後漢書、許劭傳〕司空楊彪、辟擧㆓方正㆒、敦樸、徵皆不㆑就。〔魏志、董昭傳〕凡有㆓天下㆒者、莫㆚不㆘貴㆓尙敦樸忠信之士㆒深㆗疾虛僞不眞之人㆖者㆙。

【敦穆】108（トンボク） てあつくやはらぐ。敦和。敦重親睦。〔夏侯湛、昆弟誥〕敦㆓穆于九族㆒。〔王儉、褚淵碑文〕是以仁經義緯、敦㆓穆於閨庭㆒。〔注〕濟曰、敦㆓重親㆔穆於閨庭之閒㆒也。〔北史、寇祖訓傳〕兄弟並孝友敦穆、白首同㆑居。

【敦本】109（トンポン） 明、郁新（**11**－**39371**・・15）の字。

〖敦本堂〗110（トンポンダウ） 清、羅登選（**9**－**28397**・・392）の室名。

【敦密】111（トンミツ） あつくてこまかなこと。〔晉書、隱逸、董京傳〕乾道剛簡、坤體敦密。

【敦懞】112（トンモウ） てあつい。心があつくすなほなこと。〔管子、五輔〕敦懞純固、以備㆓禍亂㆒。〔纂詁〕敦懞、厚愨也。

【敦喩】113（トンユ） 親切にさとす。懇諭。〔晉書、李胤傳〕遣㆓侍中㆒、宣旨優詔敦喩、絕㆓其章表㆒。

【敦輿】114（トンヨ） 山名。一名、幽淮山。河北省臨城縣の西南。〔元和志〕在㆓臨城縣西南七十里㆒、泜水所㆑出。

【敦老】115（トンラウ） 宋、吳居厚（**2**－**3365**・・500）の字。

【敦立】116（トンリツ） 宋、徐度（**4**－**10110**・・238）の字。

【敦臨】117（トンリン） ❶てあつく下にのぞむ。〔易、臨〕上六、敦臨、吉无㆑咎。❷清、董兆熊（**9**－**31433**・・242）の字。

【敦厲】118（トンレイ） てあつくはげます。はげましあつくする。〔顏氏家訓、勉學〕夫明㆓六經之指㆒、涉㆓百家之書㆒、縱不㆘能增㆓益德行㆒、敦㆗厲風俗㆖、猶爲㆓一藝㆒、得㆓以自資㆒。

【敦勵】119（トンレイ） てあつくはげます。はげましあつくする。〔福惠全書、典禮部、總論〕所㆘以崇㆓邦典㆒、隆㆓文治㆒而敦㆗勵風俗㆖。

【敦禮】120（トンレイ） ❶禮をてあつくする。〔後漢書、朱穆傳〕得㆓小心忠篤敦禮之士㆒。〔孔叢子、陳士義〕崇㆑德敦㆑禮。❷字號。㋑唐、田布（**7**－**21723**・・264）の字。㋺宋、葉祖洽（**9**－**31387**・・224）の字。

【敦和】121（トンワ） ❶あつくやはらぐ。敦穆。〔禮、樂記〕樂者敦和、率㆑神而從㆑天。❷清、吳愷（**2**－**3365**・・55）の字。

【敦彝堂】122（トンイダウ） 清、周於禮（**2**－**3441**・・552）の室名。

【敦好齋】123（トンカウサイ） 清、黄恩長（**12**－**47926**・・1002）の號。

【敦好堂】124（トンカウダウ） 清、李濛（**6**－**14459**・・757）の室名。

【敦義堂】125（トンギダウ） 明、丘集（**1**－**33**・・46）の室名。

【敦教堂】126（トンケウダウ） 清、官文（**3**－**7107**・・318）の室名。

【敦盛草】127（アツモリサウ） 草の名。蘭科の宿根草。北海道、本州などの山地に生じ、紅紫色又は白色の花を開く。

【敦拙堂】128（トンセツダウ） 清、陳奉玆（**11**－**41698**・・1252）の室名。

【敦夙好齋】130（トンシユクカウサイ） 清、葉名澧（**9**－**31387**・・274）の號。

【敁】13277 トウ ツ 〔集韻〕他口切 有

のべる。〔集韻〕敁、展也。

【敕】13278 チン 敶（**5**－**13357**）に同じ。〔集韻〕敶、或作㆑敕。

【㪁】13279 キウ ク 〔集韻〕居又切 宥

つよくうつ。〔集韻〕㪁、強擊也。

【𢽾】13280 サツ 殺（**6**－**16638**）に同じ。〔隸釋〕𢽾、與㆑殺同。

【𢾅】13281 サツ 殺（**6**－**16638**）に同じ。〔康熙字典〕𢾅、隸釋、孫叔敖爲㆓賊寇所㆑𢾅、按、卽殺字。

【㪇】13282 サツ 殺（**6**－**16638**）に同じ。〔字彙補〕㪇、與㆑殺同。

【敧】13283 ㈠キ 〔集韻〕居宜切 支 ㈡キ 〔集韻〕去倚切 紙

㈠❶**はさむ**。箸で物をつまむ。〔集韻〕敧、以㆑箸取㆑物也。❷**もちさる**。〔集韻〕敧、說文、持去也。㈡敧敧は、そろはないさま。〔集韻〕敧、敧敧、多少不㆑齊皃。

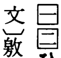
【𢾐】13284 フ 婦（**3**－**6432**）の古字。〔字彙補〕𢾐、古文婦字。

【㪉】13285 シヤク 義未詳。〔搜眞玉鏡〕㪉、赤灼切。

【敬】13285 ケイ 敬（**5**－**13303**）の略字。

九畫

【敫】13286 ㈠ヤク 〔集韻〕弋灼切 藥 ㈡ケウ 〔集韻〕吉了切 篠 ㈢ケウ 〔集韻〕吉弔切 嘯 ㄐㄧㄠˋ chiao⁴ ㈣ケウ 〔集韻〕牽幺切 蕭 ㈤ケキ キヤク 〔集韻〕吉歷切 錫


小篆

㈠㈡**ひあしがうつるさま**。〔說文〕敫、光景流皃、从㆓白放㆒、讀若㆑龠。㈢**うたふ**。〔廣韻〕敫、歌也。㈣**うつ**。たたく。通じて毃（**5**－**13383**）に作る。〔集韻〕敫、擊也、通作㆑毃。㈤**つつしむ**。〔集韻〕敫、敬也。

解字 會意。白と放との合字。白い日光が放流する義。光景が流れ、日あしが移る意。敫に從ふ字には、多く精明の意がある。

【㪋】13287 カン 敢（**5**－**13260**）の古字。〔正字通〕㪋、古文敢字。

【𢾖】13288 ト ツ 〔玉篇〕多古切 麌

ともなふ。〔玉篇〕𢾖、伴也。

【𢿙】13289 ㈠チン 〔集韻〕知林切 侵 ㈡チン 〔集韻〕陟甚切 寢

㈠❶**うつ**。たたく。〔集韻〕𢿙、擊也。❷**石をうつ**。〔玉篇〕𢿙、擣㆑石也。㈡❶**つよく**

うつ。〔集韻〕㪞、深撃也。❷**うつ**。〔集韻〕㪞、一曰、搏也、楚謂㆑搏曰㆑㪞。

【㪜】13290

🈩シ　〔集韻〕楚委切　紙

🈔セン　〔集韻〕尺兗切　銑

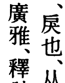
🈪タ　〔集韻〕都果切　哿

🈩🈔❶**はかる**。〔廣韻〕㪜、量也。❷**こころみる**。〔玉篇〕㪜、試也。❸揣(5－12371)に同じ。〔集韻〕揣、或从㆑攴。🈪**はかる**。目方をはかる。捶(5－12215)に同じ。〔集韻〕捶、战㆓捶物輕重㆒也、或作㆑㪜。

【𢿚】13291

🈩ヰ　〔集韻〕于非切　微

🈔キ　〔集韻〕吁韋切　微


小篆

🈩❶**もとる**。〔說文〕𢿚、戾也、从㆑攴韋聲。❷**ななめ**。〔廣雅、釋詁二〕𢿚、衺也。❸違(11－39013)に同じ。〔正字通〕𢿚、同㆑違。🈔❶**そむきもとる**。𢿚憒。〔廣雅、釋訓〕𢿚憒、乖剌也。❷或は𣪠(6－16653)に作る。〔集韻〕𢿚、或从㆑殳。

【㪣】13292

チ　〔集韻〕丑二切　寘

蠡をわけひろげる。〔集韻〕㪣、蠡析曰㆑㪣、或从㆑攴。〔正字通〕㪣、移㆑蠡就㆑寬曰㆑㪣。

【𢿏】13293

サン　ザン　〔玉篇〕賊安切　寒

❶**そこなふ**。〔玉篇〕𢿏、殘也。❷殘(6－16506)に同じ。〔字彙〕𢿏、同㆑殘。

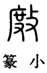
【𢿤】13294

ユ　〔集韻〕容朱切　虞

なげる。〔集韻〕𢿤、投也。

【𢿡】13295

ト　ヅ　〔集韻〕動五切　麌


小篆

或體

❶**とぢる**。ふさぐ。〔說文〕𢿡、閉也、从㆑攴度聲、讀若㆑杜。〔廣韻〕𢿡、塞也、閉也。❷或は剫(2－2090)に作る。〔說文〕𢿡、剫、𢿡或从㆑刀。❸杜(6－14477)に同じ。〔字彙〕𢿡、與㆑杜同。

【㪢】13296

カイ　〔集韻〕丘皆切　佳

なでる。揩(5－12383)に同じ。〔玉篇〕㪢、摩也。〔集韻〕揩、揩攦、摩甄也、或作㆑㪢。

【㪡】13297

ヒヨク

揊(5－12334)に同じ。〔集韻〕揊、或作㆑㪡。

【𢿫】13298

サツ

殺(6－16638)の古字。〔字彙〕𢿫、古文殺字。

【𢿜】13299

シン

媇(3－6483)の譌字。〔正字通〕𢿜、舊註、古親字、按、媇、六書不㆑載、獨秦詛楚文有㆑媇、譌作㆑𢿜、舊本、女部有㆑媇。

【𢿥】13300

タウ　ヂヤウ　〔集韻〕除耕切　庚

❶**つく**。朾(6－14440)に同じ。〔集韻〕朾、說文、撞也、或作㆑𢿥。❷振(5－12233)に同じ。〔字彙〕𢿥、與㆑振同。

【𢿢】13301

タン　〔類篇〕他案切　翰

❶**あやのないさま**。〔類篇〕𢿢、無㆓文采㆒貌。❷㪨(5－13473)の譌字。〔正字通〕𢿢、㪨字之譌。

【𣀃】13302

キ

毀(6－16654)の俗字。〔字彙〕𣀃、俗毀字。

【敬】13303

ケイ　キヤウ　〔集韻〕居慶切　敬　ㄐㄧㄥˋ　ching^{4}

小篆

❶**つつしむ**。かしこむ。主として心の操持にいふ。本義は言語をつつしむ意。〔說文〕敬、肅也、从㆓攴苟㆒。〔釋名、釋言語〕敬、警也、恒自肅警也。〔詩、周頌、閔予小子〕夙夜敬止。〔箋〕敬、愼也。〔禮、曲禮上〕恭敬撙節。〔疏〕貌多心少爲㆑恭、心多貌少爲㆑敬。〔呂覽、孝行〕敢不㆑敬乎。〔注〕敬、畏愼也。❷**いましめる**。〔詩、大雅、常武〕既敬既戒。〔箋〕敬之言、警也。❸**うやまふ**。〔周禮、天官、大宰〕二曰、敬㆑故。〔注〕敬㆑故、不㆑慢㆑舊也。〔荀子、彊國〕王者敬㆑日。〔注〕敬、謂㆑不㆓敢慢㆒也。❹**うやうやしい**。〔周禮、天官、小宰〕三曰、廉敬。〔注〕敬、不㆑解㆓于位㆒也。〔新書、道術〕接遇肅正、謂㆓之敬㆒。〔史記、五帝紀〕敬順㆓昊天㆒。〔注〕正義曰、敬、猶㆓恭勤㆒也。❺**謝意を表すること**。〔後漢書、周燮傳〕遣㆑生送㆑敬。〔注〕送㆑敬、猶㆑致㆑謝也。❻**一百六韻の一**。去聲第二十四。❼**諡**。〔逸周書、諡法解〕夙夜警戒曰㆑敬、夙夜恭㆑事曰㆑敬、象㆑方益㆑平曰㆑敬、善合㆓法典㆒曰㆑敬。❽**姓**。〔通志、氏族略、以㆑諡爲㆑氏〕敬氏、嬀姓、陳厲公子敬仲之後、以㆑諡爲㆑氏、姓苑云、黃帝孫敬康之後。❾或は憼(4－11308)に作り、古は㪾(5－13391)に作る。〔集韻〕敬、或从㆑心、古作㆑㪾。❿現おくる。すすめる。贈呈する。

名乘　タカ。ヒロ。ユキ。ヨシ。ノリ。ハヤ。ウヤ。トシ。

解字　會意。攴と苟との合字。攴は急迫し、せまる意。苟は、はげしくいましめる(急敕)意で、言を愼む意がある。卽ち苟の字に既に言を愼む意があるのに、更に攴を合せて、敬は一層怠らぬやうにする意を加へたもの。つつしむ意。〔說文〕苟、自急敕也、云云、猶㆑愼㆑言也。〔說文、敬、段注〕攴、猶㆑迫也、迫而苟也。▽ (金文)會意。苟と攴との合字。髮を束ねてうなだれる人の後から更に戒めを加へる意。

【敬愛】1 ケイアイ　うやまひいつくしむ。〔戰國、秦策〕天下懷樂敬愛、願㆔以爲㆓君王㆒。〔荀子、君道〕敬愛而致㆑文。〔管子、小稱〕修㆓恭遜敬愛㆒。〔魏志、胡昭傳〕閭里敬而愛㆑之。

【敬安】2 ケイアン　❶字號。㋑後魏、房三益(5－11714‥159)の字。㋺清、陳受笙(11－41698‥963)の字。㋩清、陸以湉(11－41708‥253)の號。❷明、唐鐸(2－3709‥261)の追諡。

【敬庵】3 ケイアン　佐藤惟孝の號。敬庵、名は惟孝、字は士友、一字は經卿。新介と稱し、冬嶺舘とも號した。江戸の人。著述に、周易說統十二卷、漢土易傳約說五卷、周易談二卷、書說統六卷、書集傳辨誤二卷、毛詩解頤一卷、詩說統九卷、名義錄一卷、舊話新談二卷、暗夜の燈一卷がある。

【敬菴】4 ケイアン　字號。❶宋、姚鏞(3－6202‥118)の號。❷明、耿隨朝(9－29026‥62)の號。❸明、許孚遠(10－35298‥384)の號。❹明、吳裕中(2－

3365··879)の號。㊄清、徐旭齡(4−10110··378)の號。㊅清、張伯行(4−9812··1445)の號。㊆堀正意の號。堀杏菴(3−5205··15)を見よ。

【敬異】5（ケイイ） 特別にうやまふ。〔東觀漢記〕莫レ不三敬二異之一。〔後漢書、逸民、梁鴻傳〕於レ是始敬異焉。

【敬意】6（ケイイ） うやまひ尊ぶ心。〔漢書、禮樂志〕蓋嘉二其敬意一、而不レ及二其財賄一。〔邵軫、雲韶樂賦〕昭二敬意於廉直一。

【敬懿】7（ケイイ） 元、賈昔刺(10−36755··185)の謚。

【敬位】8（ケイヰ） 北周、蔡大寶(9−31818··212)の字。

【敬畏】9（ケイヰ） うやまひおそれる。〔管子、小匡〕故以耕則多レ粟、以仕則多レ賢、是以聖王敬畏戚レ農。〔史記、魯周公世家〕四方之民、罔レ不二敬畏一。

【敬遺】10（ケイヰ） 鬼の名。〔酉陽雜俎、諾皋記上〕語忘・敬遺、二鬼名、婦人臨レ產呼レ之、不レ害レ人、長三寸三分、上下烏衣。

【敬惟】11 ching⁴ wei² 敬しみて思ふに。

【敬友】12（ケイイウ） うやまつて友とする。又、尊敬する友。〔國語、晉語四〕敬二友二虢一。

【敬猷】13（ケイイウ） 南朝宋、羊徽(9−28425··33)の字。

【敬一】14（ケイイツ） 清、黃應諶(12−47926··1000)の字。

〖敬一道人〗15（ケイイツダウジン） 清、高塞(12−45313··345)の號。

【敬挹】16（ケイイフ） うやまひへりくだる。敬揖。〔南史、孝義上、王虛之傳〕宗人江槩、位至二侍中一、性豪侈、惟見レ軻則敬挹焉。

【敬宇】17（ケイウ） 中村正直の號。中村敬宇(1−73··562)を見よ。

【敬羽】18（ケイウ） 唐、寶鼎の人。官は、肅宗の初、監察御史、寶應の初、道州刺史となり、後、詔を以て殺さる。〔唐書、二百九〕・〔舊唐書、一百八十六下〕。

【敬謁】19（ケイエツ） つつしんでお目通りする。〔國朝漢學師承記、王昶〕明日詣二觀德殿前一、敬二謁梓宮一。

【敬園】20（ケイエン） 漢の安帝の祖母宋貴人の陵。〔後漢書、皇后上、章德竇皇后紀〕梁貴人葬二西陵一、儀比二敬園一。〔注〕敬園、安帝祖母宋貴人之園也。

【敬遠】21（ケイエン） ㊀うやまひとほざける。近づいてけがさない。敬而遠レ之(265)を見よ。〔論語、雍也〕樊遲問レ知、子曰、務二民之義一、敬二鬼神一而遠レ之。㊁北周、韋夐(12−43108··38)の字。㊂表面は敬する樣子をして實は親しまない。敬遠主義。

【敬應】22（ケイオウ） つつしみしたがふ。〔書、益稷〕誰敢不レ讓、敢不二敬應一。

【敬憶】23（ケイオク） 敬ひおもふ。〔鮑照、謝二隨レ恩被レ原疏一〕助レ人爲レ恭、猶加二敬憶一。

【敬可】24（ケイカ） 字號。㊀元、丁好禮(1−2··231)の字。㊁清、徐善(4−10110··196)の字。

【敬荷】25（ケイカ） ありがたく思ふ。〔鄭蕡、才鬼記〕卑レ辭厚レ禮、敬荷而已。

【敬戒】26（ケイカイ） つつしみいましめる。〔周禮、夏官、職方氏〕乃守攷、乃職事、無三敢不二敬戒一。〔左氏、襄、二十二〕敬共事三君與二二三子一、生在二敬戒一、不レ在レ富也。〔國語、楚語上〕明二敬戒一、以道二之事一。〔荀子、大略〕敬戒無レ怠。

【敬行】27（ケイカウ） つつしみ行ふ。〔呂覽、孝行〕父母既沒、敬行二其身一、無レ遺二父母惡名一、可レ謂レ能終矣。

【敬康】28（ケイカウ） ㊀晉、孔愉(3−6933··236)の字。㊁清、愛星阿(4−10947··354)の謚。

【敬敎】29（ケイガウ） 明、項思敎(12−43343··69)の字。

【敬恪】30（ケイカク） うやまひつつしむ。〔吳志、周魴傳〕遠隔二江川一、敬恪未レ顯。

【敬樂】31（ケイガク） 北周、侯莫陳凱(1−633··146)の字。

【敬學】32（ケイガク） 學問をたつとぶ。〔禮、學記〕師嚴然後道尊、道尊然後民知レ敬レ學。

【敬咸】33（ケイカン） 清、載祖啓(10−38309··86)の字。

【敬涵】34（ケイカン） 明、方希哲(5−13620··499)の字。

【敬簡】35（ケイカン） 北齊、陽斐(11−41725··218)の謚。

【敬巖】36（ケイガン） 宋、王佖(7−20823··910)の號。

【敬忌】37（ケイキ） つつしみいむこと。〔書、康誥〕惟文王之敬忌。〔蔡傳〕敬則有レ所レ不レ忽、忌則有レ所レ不レ敢。

【敬鬼】38（ケイキ） 鬼をうやまふ。〔孔子家語、賢君〕尊レ天敬レ鬼、則日月當レ時。

【敬暉】39（ケイキ） 唐、絳州太平の人。字は仲曄。謚は肅愍。弱冠にして明經に擧げられ、聖曆の初、衞州刺史を授けられ、尋いで中臺右丞に遷る。張易之・昌宗を誅した功を以て金紫光祿大夫を加へられ、侍中を授けられ、平陽郡王に封ぜらる。尋いで三思に制せられて崖州司馬に左遷され、周利貞に殺さる。睿宗の時、官爵を追復す。〔唐書、一百二十〕・〔舊唐書、九十一〕。

【敬僖】40（ケイキ） 清、博啓圖(2−2761··209)の謚。

【敬歸】41（ケイキ） 春秋魯、襄公の妾。〔左氏、襄、三十一〕立二胡女敬歸之子子野一。

【敬義】42（ケイギ） 恭敬と義理。〔易、坤〕文言曰、云云、敬義立而德不レ孤。

〖敬義先生〗43（ケイギセンセイ） 宋、童伯羽(8−25775··129)の尊稱。

【敬儀】44（ケイギ） 清、趙成穆(10−37171··728)の字。

〖敬儀堂〗45（ケイギダウ） 清、桂芳(6−14755··105)の室名。

【敬丘】46（ケイキウ） 縣名。漢、置く。もと侯國。故城は河南省永城縣の西北。〔漢書、地理志上〕沛郡、縣三十七、敬丘。〔注〕侯國。

【敬求】47 ching⁴ ch'iu² つつしんで乞ふ。懇願。

【敬享】48（ケイキヤウ） つつしみまつる。〔禮、祭義〕君子生則敬養、死則敬享。〔注〕享、猶二祭也、饗也一。〔左氏、襄、九〕二師令二四鄕正敬享一。

【敬姜】49（ケイキヤウ） 春秋、魯の人。大夫公父穆伯の妻。文伯の母。

〖敬姜猶績〗50（ケイキヤウイウセキ） 蒙求の標題。魯の季敬姜は文伯の母。文伯退廳して家に歸り、母敬姜の絲を績ぐを見、我が奉養が足らないために績ぐのかと問へば、敬姜は文伯に向つて汝の如きものが魯の要路にあらば魯は亡びん、古聖王の制には男女皆績ぎ、然らざる者は罪せられたものであると戒めて、尙その績ぐことを怠らなかつた故事。〔列女傳、母儀、魯季敬姜傳〕魯季敬姜、莒女也、云云、博達知レ禮、云云、文伯退レ朝朝二敬姜一、敬姜方レ績、文伯曰、以二歜之家一、而主猶績、懼二干季孫之怒一、其以レ歜爲レ不レ能レ事レ主乎、敬姜嘆曰、魯其亡乎、使二吾子備レ官、而未二之聞一耶、居、吾語レ女、昔聖王之處レ民也、云云、男女效レ績、否則有レ辟、古之制也。

【敬仰】51（ケイギヤウ） うやまひあふぐ。〔後漢書、儒林下、周澤傳〕及レ爲二長吏一、所在有レ迹、爲三吏人所二敬仰一。

【敬共】52（ケイキヨウ） 敬恭に同じ。共は恭。〔左氏、襄、二十二〕敬共事三君與二二三子一。〔左氏、襄、二十三〕爲二人子一者、云云、敬二共父命一。

【敬恭】53（ケイキヨウ） つつしんでうやうやしい。うやまひつつしむ。〔詩、大雅、雲漢〕敬二恭明神一、宜レ無二悔怒一。〔禮、哀公問〕百姓不レ命而敬恭。〔逸周書、祭公解〕先王茂二綏厥心一、敬恭承レ之。〔後漢書、章帝紀〕然後敬二恭明祀一、膺二五福之慶一、獲二來儀之貺一。

【敬勖】54（ケイキヨク） つつしみつとめる。〔梁簡文帝、書案銘〕鑒矣勒レ銘、知レ微敬勖。

【敬莙】55（ケイキン） うやまひおそれる。〔墨子、明鬼下〕有恐二後世子孫、不レ能二敬莙以取一レ羊。〔閒詁〕畢云、言二敬威以取一レ祥也、孫云、云云、又云、羊、祥也。

【敬勤】56（ケイキン） つつしんでつとめる。〔韓愈、唐故監察御史衞府君墓誌銘〕與二其中行一別曰、若既克自敬勤。

【敬懃】57（ケイキン） つつしみねんごろにする。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕敬二懃顯陽一。

【敬謹】58（ケイキン） うやまひつつしむ。尊敬。〔董仲舒、郊事對〕陛下祭躬親、齋戒沐浴、以承二太廟一甚敬謹。〔宋皇太子冠樂章〕歷階而升、敬謹將レ冠。

【敬懼】59（ケイク） うやまひおそれる。敬意。〔書、皋陶謨〕敬哉有土。〔傳〕有土之君、不レ可レ不二敬懼一。〔墨子、尙賢上〕雖下在二厚祿尊位一之臣上、莫レ不二敬懼而施一。

【敬具】60（ケイグ） ㊀つつしみそなへる。〔儀禮、士昏禮〕某固敬具以須。㊁つつしみて申しのべる。書翰の結尾に用ひる語。用語。

【敬空】61（ケイクウ） 賤者から尊者におくる書翰の結尾に用ひる語。〔補筆談、雜誌〕前世卑者致二書于尊一、書尾作二敬空字一。〔胡鳴玉、訂譌雜錄、謹空〕後見二夢溪筆談一云、前世風俗、卑者致二書於所レ尊、尊者但批二紙尾一、答レ之曰レ反、故人謂二之批反一、如二官司批狀・詔批答之類一、故紙尾多作二敬空字一、自謂不二敢抗敵一、但空二紙尾一以待二批反一耳。

【敬遇】62（ケイグウ） うやまひもてなす。敬待。〔魏書、侯剛傳〕任城王澄、以三其起由二膳宰一、頗藐侮レ之

云、此近爲㆑我擧㆑食、然公坐對集、敬遇不㆑虧。

【敬詘】63 ケイクツ つつしみへりくだる。〔韓詩外傳、四〕敬詘而不㆑慢。〔荀子、君道〕請問㆓爲㆒人弟㆒、曰、敬詘而不㆑茍。〔集解〕盧文弨曰、元刻作㆑不㆑悖。

【敬寡】64 ケイクワ 寡婦を敬養する。〔書、梓材〕至㆓于敬㆑寡、至㆓于屬㆑婦。〔傳〕至㆔於敬㆓養寡弱㆒、至㆔於存㆓恤妾婦㆒。

【敬晦】65 ケイクワイ 唐の人。括の孫。字は日彰。諡は肅。進士。官は諫議大夫・兗海節度使・太子賓客分司。〔唐書、一百七十七〕。

【敬光】66 ケイクワウ 南朝宋、沈田子(**6**−**17189**‥613)の字。

【敬括】67 ケイクワツ 唐、河東の人。字は叔弓。文辭を以て著はれ、進士に擧げられ、殿中侍御史に累官した。楊國忠に惡まれて果州刺史に左遷され、尋いで兵部侍郎より御史大夫に至る。〔唐書、一百七十七〕・〔舊唐書、一百十五〕。

【敬君】68 ケイクン 明、葉秉敬(**9**−**31387**‥260)の字。

【敬卿】69 ケイケイ 字號。❶後漢、徐栩(**4**−**10110**‥89)の字。❷明、王庭譔(**7**−**20823**‥1958′)の字。

【敬惠】70 ケイケイ 元、張炤(**4**−**9812**‥470)の諡。

【敬教】71 ケイケウ をしへをつつしむ。五倫五常の教を敬重すること。〔左氏、閔、二〕敬㆑教勸㆑學、授㆑方任㆑能。

【敬業】72 ケイゲフ ❶學業を敬ふ。又、學業に長じたものを敬ふ。〔禮、學記〕一年視㆓離㆑經辨㆒㆑志、三年視㆓敬㆑業樂㆒㆑羣。〔疏〕敬㆑業、謂㆓藝業長者、敬而親㆒㆑之。〔庾信、周柱國大將軍拓拔儉神道碑銘〕青衿敬㆑業、童子離㆑經。〔于志寧、諫㆓太子㆒書〕願崇㆑儒敬㆑業、訪㆑道稽㆑疑。❷字號。㋑梁、徐悱(**4**−**10110**‥262)の字。㋺後魏、崔孝暐(**4**−**8178**‥207)の字。㋩北齊、孟業(**3**−**6960**‥83)の字。㋥陳、陳昌(**11**−**41698**‥315)の字。

【敬業堂】73 ケイゲフダウ 室名。❶清、査愼行(**6**−**14643**‥103)の室名。❷明、謝士元(**10**−**35827**‥285)の室名。

『敬業堂集』74 ケイゲフダウシフ 書名。五十卷。清、査愼行撰。敬業は其の堂名。清初の詩に唐宋の二大流があり、愼行は宋調を旨とするものの巨擘である。此の書は平生遊歷の詩を輯めたもので、各一集を爲す。其の目は、愼旃集（三卷）・遄歸集・西江集（共一卷）・踰淮集（一卷）・假館集（二卷）・人海集・春帆集・獨吟集（各一卷）・竿木集・題壁集（共一卷）・橘社集・勸酬集・湓城集・雲霧窟集（各一卷）・客船集・竝轡集（共一卷）・穴寄集（一卷）・白蘋集・秋鳴集（共一卷）・敝喪集・酒人集（共一卷）・游梁集・皖上集・中江集（各一卷）・得樹樓集・近游集（共一卷）・賓雲集（一卷）・炎天冰雪集・垂橐集（共一卷）・杖家集・過夏集（各一卷）・偸存集・繙經集（共一卷）・赴召集・隨輦集・直廬集・考牧集・甘雨集・西阡集・迎鑾集・還朝集・道院集（各一卷）・槐簃集（二卷）・棗東集・長告集・待放集・計日集・齒會集・步陳集・吾過集（各一卷）・夏課集・望歲集（共一卷）・粤游集（二卷）、附餘波詞（二卷）。〔四庫提要、集、別集類〕。

『敬業述事室』75 ケイゲフジユツジシツ 清、方駿謨(**5**−**13620**‥552)の室名。

【敬虔】76 ケイケン つつしみかしこむ。〔皮日休、魯望昨以㆓五百言㆒見㆑貽過有㆓褒美㆒云云因成㆓一千言㆒云云詩〕開卷讀數行、爲㆑之加㆓敬虔㆒。

【敬軒】77 ケイケン 明、薛瑄(**9**−**32123**‥91)の號。

【敬賢】78 ケイケン 賢人を敬ふ。〔漢書、谷永傳〕敬㆑賢下㆑士、樂㆑善不㆑倦。

【敬元】79 ケイゲン 字號。❶南朝宋、羊欣(**9**−**28425**‥43)の字。❷南齊、崔祖思(**4**−**8178**‥291)の字。

【敬鉉】80 ケイゲン 元、易州の人。大寧先生と稱す。金の進士。元初、中都儒學提擧を授けらる。經史に博通し、文章に巧。著に春秋備忘がある。〔新元史、二百一〕・〔宋元學案、八十二〕。

【敬儼】81 ケイゲン 元の人。鉉の從孫。字は威卿。諡は文忠。官は大德中、監察御史、皇慶中、中書・參知政事。政績多く、仁宗之を禮し、字を言って名を言はず。文宗の時、平章政事を以て告歸す。〔元史、一百七十五〕。

【敬故】82 ケイコ 故舊をうやまひたつとぶ。〔周禮、天官、大宰〕以㆓八統㆒詔㆑王馭㆓萬民㆒、云云、二曰敬㆑故。〔注〕敬㆑故、不㆑慢㆑舊也。〔疏〕二曰敬㆑故者、君與㆑民皆須㆑恭㆓故舊朋友㆒。

【敬語】83 ケイゴ 敬意を表はすに用ひる語。うやまひのことば。

【敬公】84 ケイコウ 字號。❶漢、夏恭(**3**−**5720**‥62)の字。❷後漢、高獲(**12**−**45313**‥226)の字。❸清、潘亮淵(**7**−**18236**‥225)の字。

【敬弘】85 ケイコウ 南朝宋、王裕之(**7**−**20823**‥2143)の字。

【敬恆】86 ケイコウ 清、姚宏任(**3**−**6202**‥149)の字。

【敬厚】87 ケイコウ うやまってあつくもてなす。敬重。〔漢書、張禹傳〕天子愈益敬㆓厚禹㆒。〔後漢書、桓榮傳〕帝笑指㆑之曰、此眞儒生也、以㆑是愈見㆓敬厚㆒。

【敬候】88 ching^4 hou^4 つつしんで待つ。

【敬才】89 ケイサイ 晉、司馬承(**2**−**3257**‥272)の字。

【敬哉】90 ケイサイ 清、王崇簡(**7**−**20823**‥1746″)の字。

【敬祭】91 ケイサイ 祭事をつつしむ。〔史記、封禪書〕吾甚重㆑祠而敬㆑祭。

【敬齋】92 ケイサイ 字號。❶宋、周天駿(**2**−**3441**‥801)の號。❷宋、彪居正(**4**−**9993**‥21)の號。❸宋、汪清卿(**6**−**17154**‥273)の號。❹元、李治(**6**−**14459**‥580)の號。❺明、溫良(**7**−**17968**‥238)の號。❻明、昝如心(**5**−**13834**‥4)の號。❼明、車瑾(**10**−**38172**‥60)の號。❽清、應是(**4**−**11330**‥121)の號。❾清、吳高增(**2**−**3365**‥474)の號。❿清、張純修(**4**−**9812**‥1194)の號。⓫清、方顯(**5**−**13620**‥155)の號。⓬近藤元隆の號。近藤棠軒(**11**−**38752**‥198)を見よ。⓭武居端の號。武居敬齋(**6**−**16273**‥468)を見よ。⓮萩原承の號。萩原綠野(**9**−**31333**‥10)を見よ。⓯小笠原棟敬の號。小笠原敬齋(**4**−**7473**‥1612)を見よ。

【敬濟】93 ケイサイ 津輕貞正の號。津輕儼淵(**6**−**17396**‥69)を見よ。

【敬山】94 ケイザン 字號。❶三國吳、沈峻(**6**−**17189**‥208)の字。❷後魏、孔乘(**3**−**6933**‥148)の字。

【敬子】95 ケイシ ❶春秋魯、叔弓(**2**−**3154**‥67)の諡。❷字號。㋑宋、傅定(**1**−**939**‥98)の字。㋺宋、李燔(**6**−**14459**‥671)の字。

【敬士】96 ケイシ 南朝宋、沈林子(**6**−**17189**‥660)の字。

【敬之】97 ケイシ ❶詩經、周頌、閔予小子之什の篇名。群臣が戒を嗣王に進めた詩。一說に、周の成王が群臣の戒を受けて其の言を述べた詩。〔詩、周頌、敬之序〕敬之、羣臣進㆓戒嗣王㆒也。〔集傳〕成王受㆓羣臣之戒㆒、而述㆓其言㆒、曰、敬㆑之哉敬㆑之哉。❷字號。㋑晉、許遜(**10**−**35298**‥157)の字。㋺晉、羅尙(**9**−**28397**‥132)の字。㋩唐、程修己(**8**−**25081**‥223)の字。㋥唐、梁肅(**6**−**14825**‥120)の字。㋭金、辛愿(**10**−**38630**‥25)の字。㋬金、蕭恭(**9**−**32012**‥77)の字。㋣元、蔣宗簡(**9**−**31820**‥186)の字。㋠元、朱肅(**6**−**14424**‥383′)の字。㋷元、盛欽(**8**−**23005**‥45)の字。㋦元、盛輿(**8**−**23005**‥192)の字。㋸元、薛元(**9**−**32123**‥55)の字。㋾元、劉好禮(**2**−**2224**‥738)の字。㋻明、應元徵(**4**−**11330**‥256)の字。㋕明、蔣冕(**9**−**31820**‥99)の字。㋵明、成始終(**5**−**11544**‥340)の字。㋟明、葉良佩(**9**−**31387**‥281)の字。㋹明、詹軾(**10**−**35458**‥23)の字。㋞明、張欽（順天の人）(**4**−**9812**‥214)の字。㋡清、裘行簡(**10**−**34312**‥28)の字。㋤清、蔣敬(**9**−**31820**‥38)の字。

【敬止】98 ケイシ ❶つつしんで止まるべき所に止まる。一說に、止は助辭。〔詩、大雅、文王〕穆穆文王、於緝熙敬止。〔集傳〕止、語辭、言、穆穆然文王之德、不㆑已其敬如㆑是。〔大學、傳三章〕於緝熙敬止。〔章句〕敬止、言㆓其無㆑不㆑敬、而安㆑所㆑止也、引㆑此而言㆓聖人之止無㆑非㆓至善㆒。❷字號。㋑唐、崔愼由(**4**−**8178**‥283)の字。㋺明、王獻臣(**7**−**20823**‥1417)の字。㋩明、王艮(**7**−**20823**‥408)の字。

『敬止集』99 ケイシシフ 書名。四卷。明、陳應芳撰。當時の奏疏・公牘・私札を集め、六圖・十三論を附したもの。〔四庫提要、史、地理類〕。

【敬始】100 ケイシ はじめをつつしむ。〔左氏、昭、五〕敬㆑始而思㆑終。

【敬思】101 ケイシ ❶字號。㋑清、黃齊賢(**12**−**47926**‥1188)の字。㋺清、樓儼(**6**−**15430**‥31)の字。❷後唐、李存孝(**6**−**14459**‥1644)の名。「室名。

『敬思堂』102 ケイシダウ 清、梁國治(**6**−**14825**‥249)の

【敬祉】103 ケイシ 清、何元錫(**1**−**511**‥264)の字。

【敬師】104 ケイシ 先生をうやまふ。〔禮、曲禮上〕請㆑業則起、〔陳澔集說〕藍田呂氏曰、此章言㆓弟子敬㆑師之道㆒。

【敬視】105 ケイシ つつしんでみる。〔禮、文王世子〕膳

宰之饌、必敬視㆑之、疾之藥、必親嘗㆑之。

【敬事】106 ケイジ ❶事をつつしみおこなふ。〔論語、學而〕敬㆑事而信、節㆑用而愛㆑人、使㆑民以㆑時。❷うやまひつつしんでつかへる。〔書、立政〕以敬㆓事上帝㆒。〔左氏、哀、十六〕以敬㆓事神㆒、可㆓以得㆒㆑祥。〔史記、魯周公世家〕敬㆓事耆老㆒。

【敬時】107 ケイジ ❶光陰を惜しむ。〔呂覽、上農〕敬㆑時愛㆑日。❷明、范寅（9−30834··5）の字。

【敬辭】108 ケイジ 唐、康承訓（4−9376··186）の字。

【敬修】109 ケイシウ ❶つつしんでをさめる。〔書、大禹謨〕愼㆓乃有位㆒、敬修㆓其可㆑願、四海困窮、天祿永終。❷字號。㋑元、周南瑞（2−3441··814）の字。㋺清、查繼佐（6−14643··88）の字。㋩清、周天爵（2−3441··799）の字。㋥清、孫允中（3−6987··324）の字。㋭清、張家駒（4−9812··846）の字。㋬清、熊賜履（7−19294··150）の字。

【敬脩】110 ケイシウ 清、查繼佐（6−14643··88）の字。

【敬執】111 ケイシツ 畏敬する友人。執は友。〔管子、樞言〕先王之書、心之敬執也。〔纂詁〕執、友也、心所㆓畏敬㆒之執友也。

【敬悉】112 ching^{4} hsi^{2} 書翰文用語。つつしんで承知しました。拜承仕候。

【敬謝】113 ケイシヤ 謝絕の意。不敏を敬謝するといふ類。〔韓詩外傳、九〕願夫子爲㆓寡人㆒敬謝焉。〔史記、陸賈傳〕沛公敬㆓謝先生㆒、方以㆓天下㆒爲㆑事、未㆑暇㆑見㆓儒人㆒也。

【敬尙】114 ケイシヤウ うやまひたつとぶ。〔王守仁、教條示㆓龍場諸生㆒〕人果遂以㆑彼爲㆓無能㆒、有㆘弗㆔敬㆓尙之㆒者㆖乎。

【敬翔】115 ケイシヤウ 後梁、馮翊の人。字は子振。梁の太祖に從つて軍中に在り、謀畫多く肯綮に中る。梁の太祖が禪を受くるや、樞密院を崇政院に改め、翔を以て使となす。尋いで兵部尙書・金鑾殿大學士に累遷し、友珪立つや、翔の己を圖るを懼れ、中書侍郞・同平章事に改む。末帝の時、愈〻疎遠され、梁亡んで自ら經死す。〔五代史、二十一〕·〔舊五代史、十八〕。

【敬上】116 ケイジヤウ 上をうやまふ。尊長を敬ふ。〔孟子、萬章下〕用㆑下敬㆑上、謂㆓之貴㆑貴。〔管子、治國〕民富則安㆑鄕重㆑家、安㆑鄕重㆑家、則敬㆑上畏㆑罪、敬㆑上畏㆑罪、則易㆑治也。〔漢書、禮樂志〕有㆓尊㆑尊敬㆑上之心㆒、爲制㆓朝覲之禮㆒。

【敬常】117 ケイジヤウ 元、葉恆（9−31387··47）の字。

【敬讓】118 ケイジヤウ つつしみゆづる。〔禮、表記〕敬讓以行㆑此。〔孝經、三才章〕先㆑之以㆓敬讓㆒、而民不㆑爭。〔荀子、性惡〕忠信敬讓之行也。〔漢書、元帝紀〕崇㆓敬讓㆒而民興㆑行。

【敬若】119 ケイジヤク うやまひしたがふ。敬順。〔後漢書、明帝紀〕順㆓行時令㆒、敬㆓若昊天㆒、以綏㆓兆人㆒。

【敬酒】120 ching^{4} chiu^{3} 盃を獻ずる。

【敬儒】121 ケイジユ ❶儒者をうやまふ。〔禮、儒行、不㆓敢以㆑儒爲㆑戲、注〕哀公、云云、聞㆓孔子之言㆒、遂敬㆓於儒㆒也。❷字號。㋑後魏、崔亮（4−8178··172）の字。㋺清、何逢禧（1−511··367）の字。

【敬壽】122 ケイジユ 北齊、高渙（12−45313··230）の字。

【敬終】123 ケイシユウ 終をつつしむ。事の結末を完うせんと心掛けること。〔禮、表記〕事㆑君愼㆑始而敬㆑終。

【敬從】124 ケイジユウ うやまひしたがふ。〔魏志、公孫瓚傳、注〕皆大小敬從、不㆓以爲㆑恨。〔沈佺期、侍㆓宴安樂公主新宅㆒應制詩〕敬㆓從乘輿㆒來㆓此地㆒、稱㆑觴獻㆑壽樂㆓鈞天㆒。

【敬叔】125 ケイシユク 字號。❶春秋魯、南宮括（2−2750··163）の字。❷南朝宋、薄紹之（9−32083··214）の字。❸後魏、裴詢（10−34362··54）の字。❹唐、柳冕（6−14662··220）の字。❺元、章齊（8−25761··110）の字。❻元、程端禮（8−25081··256）の字。❼元、趙大訥（10−37171··773）の字。❽明、喬世寧（2−3990··80）の字。

【敬肅】126 ケイシユク ❶隋、蒲坂の人。字は弘儉。官は開皇の初、安陵令・秦州・衞州司馬となり、煬帝の時、潁川郡丞となる。將に太守に擢んでられんとして宇文述に毀られて果さず。〔隋書、七十三〕·〔北史、八十六〕。❷諡號。㋑漢、劉彭祖（2−2224··1260）の諡。㋺遼、耶律斡特剌（9−29008··158）の諡。

【敬順】127 ケイジユン つつしみしたがふ。〔左氏、昭、二十六〕兄愛而友、弟敬而順。〔國語、晉語一〕敬㆓順所㆑安爲㆑孝。〔史記、五帝紀〕敬㆓順昊天㆒、數㆓法日月星辰㆒、敬㆓授民時㆒。〔淮南子、道應訓〕成王問㆓政於尹佚㆒曰、吾何德之行、而民親㆓其上㆒、對曰、使㆑之時而敬㆓順之㆒。

〖敬順王〗128 ケイジユンワウ 新羅、第五十六代の王。金傅（11−40152··974）を見よ。

【敬潤】129 ケイジユン 明、黃玹（12−47926··343）の字。

【敬遵】130 ching^{4} tsuen^{1} 敬意を表して遵ふ。

【敬初】131 ケイシヨ 元、陳基（11−41698··119）の字。

【敬所】132 ケイシヨ 字號。❶明、史起欽（2−3249··188）の字。❷明、王宗沐（7−20823··1855）の號。❸豬飼彥博の號。豬飼敬所（10−36432··69）を見よ。

【敬緖】133 ケイシヨ 晉、張闓（4−9812··100）の字。

【敬承】134 ケイシヨウ ❶つつしんで承る。拜承。〔後漢書、光武紀上〕羣下僉曰、皇天大命、不㆑可㆓稽留㆒、敢不㆓敬承㆒。❷つつしんでうけつぐ。〔孟子、萬章上〕啓賢、能敬承㆓繼禹之道㆒。❸字號。㋑明、程汝繼（8−25081··233）の字。㋺明、陸可教（11−41708··268）の字。

【敬稱】135 ケイシヨウ 他人をうやまつて呼ぶとなへ。尊稱。〔淸國行政法汎論、皇室、敬稱〕皇帝・皇太后・皇后、特設㆓一定敬稱㆒、而內外公文、必用㆓其字樣㆒。

【敬職】136 ケイシヨク 職務をつつしんで大切にする。〔詩、小雅、沔水、我友敬矣、箋〕言、諸侯有㆘敬㆓其職㆒順㆓法度㆒者㆖。〔忠經、觀風〕天下敬㆑職、萬邦以寧。

【敬心】137 ケイシン うやまふ心。〔禮、檀弓下〕弁絰葛而葬、與㆑神交之道也、有㆓敬心㆒焉。

【敬臣】138 ケイシン 字號。❶唐、裴贄（10−34362··43）の字。❷元、許師敬（10−35298··298）の字。❸明、馬卿（12−44572··167）の字。

【敬身】139 ケイシン ❶身をつつしむ。謹身。〔禮、哀公問〕君子無㆑不㆑敬也、敬㆑身爲㆑大。〔孔子家語、大婚解〕敬也者、敬㆑身爲㆑大。❷字號。㋑明、孫枝（錢塘の人）（3−6987··134）の字。㋺明、陸寶（11−41708··212）の字。㋩清、朱士曾（6−14424··799）の字。㋥清、丁敬（1−2··53）の字。

【敬信】140 ケイシン ❶つつしんでまことがある。〔韓非子、飾邪〕賞罰敬信、民雖㆑寡強、賞罰無㆑度、國雖㆑大兵。❷うやまひ信ずる。〔魏志、司馬芝傳〕太守郝光、素敬㆓信芝㆒。〔王守仁、教條示㆓龍場諸生㆒、立志〕宗族鄕黨敬㆓信之㆒。❸清の人。字は子徵。擧人。部郎を拜命し、後、戶部尙書に陞進す。常に微服して行き、一日、給事中吳光奎に遇ひ、其の參劾を恐れ憂病して卒す。〔清史列傳、六十一〕。

【敬神】141 ケイシン 神をうやまふ。〔禮、表記〕夏道尊㆑命、事㆑鬼敬㆑神而遠㆑之、近㆑人而忠焉。

【敬眞】142 ケイシン 南唐、王棲霞（7−20823··1780）の一名。

【敬深】143 ケイシン 南朝宋、沈淵子（6−17189··433）の「字。

【敬進】144 ケイシン つつしんですすめる。〔禮、內則〕問㆑所㆑欲而敬進㆑之、柔㆑色以溫㆑之。

【敬愼】145 ケイシン ❶つつしむ。つつしみ。〔易、需〕自㆑我致㆑寇、敬愼不㆑敗也。〔詩、大雅、抑〕敬㆓愼威儀㆒、維民之則。〔禮、儒行〕溫良者仁之本也、敬愼者仁之地也。〔管子、內業〕敬愼無㆑忒。〔墨子、明鬼下〕諸不㆔敬㆓愼祭祀㆒者、鬼神之誅至、若㆑此其憯遫也。❷說苑の篇名。

【敬箴】146 ケイシン 清、汪學金（6−17154··190）の字。

【敬親】147 ケイシン 父母をうやまふ。〔孝經、天子章〕敬㆑親者不㆔敢慢㆓於人㆒。

【敬人】148 ケイジン 人をうやまふ。〔孟子、離婁下〕敬㆑人者、人恆敬㆑之。〔孔子家語、弟子行〕蓋伯夷叔齊之行也、思㆑天而敬㆑人、服㆑義而行㆑信。

【敬仁】149 ケイジン 字號。❶晉、王修（7−20823··482）の字。❷陳、陸辯惠（11−41708··422）の字。❸隋、楊善會（6−15112··658）の字。

【敬崇】150 ケイスウ うやまひたつとぶ。尊敬。

【敬成】151 ケイセイ 漢、王鳳（7−20823··977）の諡。

【敬齊】152 ケイセイ 心をととのへつつしむ。〔禮、祭義〕敬齊之色、不㆑絕㆓於面㆒。〔疏〕恭敬齊莊之色、不㆔離㆓絕於面㆒。

【敬請】153 ching^{4} ch‘ing^{3} 書翰文用語。敬んで請ふ。

【敬釗】154 ケイセウ 隋の人。珍の孫。字は積善。仁壽中、官は繁時令。漢王諒と戰つて、執へられ、後、害を免れ、朝邑令に終る。〔隋書、七十一〕。

【敬捷】155 ケイセフ 清、余丙（1−515··54）の字。

【敬先】156 ケイセン 字號。❶元、王榮祖（7−20823··1186）の字。❷明、司五教（2−3257··450）の字。❸

明、譚啓宗(10－35978‥54)の字。

【敬瞻】156′ ケイセン 明、馬軾(12－44572‥326)の字。

【敬禪】157 ケイゼン つつしんで位をゆづる。〔任昉、爲二齊帝一禪二位梁王一詔〕今便敬禪二於梁一。

【敬祖】158 ケイソ ❶祖先を敬ふ。〔管子、侈靡〕上レ義以禁レ暴、尊レ祖以敬レ祖、聚レ宗以朝殺、示レ不二輕爲一レ主也。❷字號。㋑晉、卞範之(2－2778‥38)の字。㋺晉、何劭(1－511‥129)の字。㋩晉、桓謙(6－14774‥24)の字。㋥明、賀宗(10－36725‥73)の字。

【敬宗】159 ケイソウ ❶廟號。㋑唐、第十三代の帝。李湛(6－14459‥571)を見よ。㋺安南、黎朝第十五代の王。黎維新(12－47994‥84)を見よ。❷三國吳、陸胤(11－41708‥9)の字。

【敬叟】160 ケイソウ 宋、居簡(4－7663‥24)の字。

【敬則】161 ケイソク 晉、華恆(9－31214‥137)の字。

【敬存】162 ケイソン 清、姚延啓(3－6202‥131)の號。

【敬尊】163 ケイソン うやまひたふとぶ。尊敬。敬重。〔禮、表記〕君子雖二自卑一、而民敬二尊之一。

【敬遜】164 ケイソン つつしみへりくだる。〔漢書、匡衡傳〕溫恭敬遜、承レ親之禮也。

【敬待】165 ケイタイ うやまひもてなす。禮待。敬遇。〔後漢書、杜根傳〕酒家知二其賢一、厚敬二待之一。

【敬瑭】166 ケイタウ 後晉、高祖(12－45313‥559)の名。

【敬韜】167 ケイタウ 明、朱國盛(6－14424‥783)の字。

【敬堂】168 ケイダウ 字號。❶清、佟景文(1－522‥4)の字。❷清、李堅(6－14459‥310)の字。❸清、李集(6－14459‥410)の號。❹清、劉允升(2－2224‥692)の字。

【敬道】169 ケイダウ ❶道を敬ふ。〔禮、學記〕大學始教、皮弁祭菜、示レ敬レ道也。❷字號。㋑晉、桓玄(6－14774‥25)の字。㋺晉、劉耽(2－2224‥483)の字。㋩北周、蔡大業(9－31818‥211)の字。

【敬諾】170 ケイダク つつしんで承諾する。〔穀梁、文、六〕襄公曰、云云、今女佐レ盾矣、夜姑曰、敬諾。〔戰國、齊策〕公孫弘敬諾、以二車十乘一之レ秦。〔史記、刺客、荊軻傳〕鞠武曰、敬諾、出見二田先生一。〔漢書、鄒陽發二寤於心一曰、敬諾。

【敬達】171 ケイタツ 三國蜀、來敏(1－581‥236)の字。

【敬脱】172 ケイダツ 隋の高僧。汲郡の人。諸經に通じ、文章・聲韻を善くし、書に巧。時人、僧傑と稱す。煬帝の時、慧日道場に居る。〔續高僧傳、十二〕。

【敬憚】173 ケイタン うやまひはばかる。敬畏。〔史記、周昌傳〕陛下獨宜下爲二趙王一、置中貴彊相、及呂公太子羣臣、素所二敬憚一乃可上。〔漢書、何武傳〕郡縣敬二憚之一。〔魏志、崔琰傳〕太祖亦敬憚焉。

【敬歎】174 ケイタン うやまひほめる。〔隨手雜錄〕潘中散适、爲二處州守一、云云、僚吏皆敬歎。

【敬致】175 ケイチ つつしんで其の教を行ひ、其の事業をとげる。民事をつつしんでつとめ、種殖の事を行ふ。〔書、堯典〕平二秩南訛一敬致。〔傳〕敬行二其教一、以致二其功一。〔史記、五帝紀〕便二程南譌一敬致。〔注〕正義曰、宜下恭二勤民事一、致二其種殖一、使上レ有二程期一也。

【敬昵】176 ケイヂツ うやまひしたしむ。敬暱。〔北史、王肅傳〕兄弟竝敬二暱之一。

【敬長】177 ケイチヤウ 年長者をうやまふこと。〔孟子、盡心上〕親レ親仁也、敬レ長義也。〔韓詩外傳、五〕君不レ知レ敬レ長、則民不レ知レ貴レ親。

【敬聽】178 ケイチヤウ つつしんできく。〔詩、小雅、巷伯〕寺人孟子、作二爲此詩一、凡百君子、敬而聽レ之。〔蔡邕、陳留太守行縣頌、考城縣頌〕率爾苗民、愼不二敬聽一。

【敬中】179 ケイチユウ ❶心の智を敬すること。〔莊子、庚桑楚〕藏二不虞一以生レ心、敬レ中以達レ彼。〔疏〕中、內智也、彼、外境也、敬二重神智一、不二敢輕染一、智既凝寂、境自虛通。❷明、申用懋(7－21726‥189)の字。

【敬仲】180 ケイチユウ ❶字號。㋑後漢、衞宏(10－34074‥22)の字。㋺後漢、蔡倫(9－31818‥126)の字。㋩晉、錢廣(11－40563‥64)の字。㋥宋、游徹(7－17792‥106)の字。㋭宋、夏明誠(3－5720‥362)の字。㋬元、安熙(3－7072‥73)の字。㋣元、柯九思(6－14658‥43)の字。㋠元、王圭(7－20823‥320)の字。㋷明、徐敬(4－10110‥111)の字。㋦明、談倫(10－35633‥77)の字。㋸明、鄭心材(11－39647‥453)の字。㋾明、劉榮嗣(2－2224‥704)の字。❷春秋齊、陳完(11－41698‥185)の諡。❸㋑管仲(8－26162‥129)の一名。〔禮、禮器〕管敬仲鏤簋、朱紘、山レ節、藻レ棁、君子以爲レ濫矣。〔史記、管晏傳、管仲夷吾者、注〕正義曰、韋昭云、夷吾、姬姓之後、管嚴仲之子、敬仲也。㋺春秋齊、高傒(12－45313‥244)の一名。

【敬沖】181 ケイチユウ 梁、謝朏(10－35827‥163)の字。

【敬忠】182 ケイチユウ ❶上を敬ひまごころをつくす。〔論語、爲政〕季康子問、使二民敬忠以勸一、如レ之何。〔會箋〕敬忠者、謂二下事レ上致レ敬且盡一レ忠也。❷字號。㋑後魏、魏子建(12－45872‥212)の字。㋺清、徐體劬(4－10110‥545)の字。

【敬重】183 ケイチヨウ うやまひおもんずる。尊重。敬尊。〔韓非子、說林下〕則君不レ奪二公位一、而大敬二重公一、則公常用レ宋矣。〔漢書、董仲舒傳〕仲舒以二禮誼一匡正、王敬重焉。〔蜀志、向朗傳〕上自二執政一、下及二童冠一、皆敬重焉。

【敬寵】184 ケイチヨウ うやまひ愛する。〔漢書、宣元六王、淮陽憲王欽傳〕敬二寵之一、異二於它國一。

【敬直】185 ケイチヨク 梁、韋正(12－43108‥91)の字。

【敬珍】186 ケイチン 北周、蒲坂の人。字は國寶。從兄の祥結、同郡の豪右と共に北齊の軍を襲擊せんことを謀り、以て文帝に應じ、平陽太守を授けられ、永寧防主を領す。後、絳州刺史に遷り、疾を以て退職す。〔周書、三十五〕。

【敬通】187 ケイツウ 後漢、馮衍(12－44579‥17)の字。

【敬亭】188 ケイテイ ❶山名。安徽省宣城縣の北。別名、昭亭山・査山。山上に敬亭あり、南齊の謝朓が吟詠した處。高さ數百丈、千巖萬壑あり。〔李白、獨坐二敬亭山一詩〕相看兩不レ厭、只有二敬亭山一。〔讀史方輿紀要、江南、寧國府、宣城縣〕敬亭山、府北十里、一名昭亭山、東臨二宛勾二水一、南俯二城闉一、千巖萬壑、雲蒸霞蔚、爲二近郊名勝一、東麓有二敬亭潭一、勾宛二溪水所レ注也、自レ山而東北、峯嶺相接、其得レ名者、凡二十有餘、皆敬亭之支阜也。❷字號。㋑宋、鮑若雨(12－46074‥99)の號。㋺明、耿鳴世(9－29026‥79)の號。㋩明、姜埰(3－6205‥38)の號。㋥清、喬光烈(2－3990‥70)の字。㋭清、胡德銓(9－29400‥590)の號。㋬清、沈起元(6－17189‥459)の號。㋣清、敦誠(5－13276‥68)の字。㋠清、馮桂芬(12－44579‥203)の號。㋷清、兪瑩(1－1437‥5)の字。

【敬帝】189 ケイテイ 諡號。❶梁、第四代の帝。蕭方智(9－32012‥497)を見よ。❷明、孝宗の諡。朱祐樘(6－14424‥658)を見よ。

【敬庭】190 ケイテイ 清、陳宗起(11－41698‥1083)の字。

【敬弔】191 ケイテウ 死者をうやまひ弔ふ。〔禮、文王世子〕敬二弔臨賻賵一、睦友之道也。〔賈誼、弔二屈原一文〕造託二湘流一兮、敬弔二先生一。〔李德裕、祭二韋相公一文〕臨レ風敬弔、願與レ神遊。

【敬天】192 ケイテン 天をおそれうやまふ。〔詩、大雅、板〕敬二天之怒一、無二敢戲豫一。〔成公綏、天地賦〕故萬物之所レ宗、必敬レ天而事レ地。

【敬天愛人】193 ケイテンアイジン 天をうやまひ、人を愛する。西鄕南洲の語。〔南洲遺訓〕道は天地自然のものなれば、講學の道は敬天愛人を目的とし、身を修するに克己を以て終始す可し。

【敬典】194 ケイテン うやまひ守るべき法典。〔書、康誥〕王若曰、往哉、封、勿レ替二敬典一。〔傳〕汝往二之國一、勿レ廢二所レ宜敬之常法一。

【敬田】195 キヤウデン [佛]佛法僧の三寶を恭敬供養して得る無量の福分。〔止觀、十下〕上不レ見二經佛敬田一、下不レ見二親恩之德一。

【敬同】196 ケイドウ ❶敬が同じ。敬意を同じくすること。〔孝經、士人章〕資二於事一レ父以事レ君、而敬同。❷後世、人の詩に和して作る詩の題に用ひた。〔顏氏家訓、文章〕比世往往見レ有下和二人詩一者、題云中敬同上、孝經云、資二於事一レ父以事レ君而敬同、不レ可二輕言一也。❸明、胡軫(9－29400‥196)の字。

【敬德】197 ケイトク ❶字號。㋑隋、高勱(12－45313‥765)の字。㋺元、謝端(10－35827‥165)の字。㋩明、袁敬(10－34152‥49)の字。㋥明、黃頤(12－47926‥19)の字。❷地名。縣名。廣西省に屬す。もと、恩陽といひ、民國二十五年、改めて敬德といふ。

【敬播】198 ケイハ 唐、河東の人。貞觀の進士。祕書內省に詣り隋史の編纂に預り、著作佐郎に再遷し、國史を兼修す。尋いで太子司議郎に陞進し、令狐德棻等と晉書を撰す。又、顏師古の漢書注の繁を避け、四十篇に約す。後、事に坐して越州長史に左遷せられ、安州刺史を以て卒す。〔唐

書、一百九十八」・〔舊唐書、一百八十九」。

【敬拜】199 ching⁴ pai⁴　拜する。崇拜する。

【敬方】200（ケイハウ）明、曹義（儀眞の人）（5－14297··40）の字。

【敬放】201（ケイハウ）北齊、房謨（5－11714··124）の字。

【敬氓】202（ケイバウ）南朝宋、殷琰（6－16627··11）の字。

【敬保】203（ケイハウ）うやまひたもつ。〔書、顧命〕用敬二保元子釗一、弘濟二于艱難一。

【敬白】204（ケイハク）㊀つつしみ申す。〔朝野羣載、二、獻二供物於北野廟一〕敬白、獻上御幣上紙百帖。㊁願文・書翰文等の末尾に用ひる敬語。〔朝野羣載、二、獻二供物於北野廟一〕匡衡、病中右筆、伏レ地敬白。〔庭訓往來、九月〕一向仰二御哀憐一、恐惶敬白。

【敬伯】205（ケイハク）字號。㊀後漢、王堂（7－20823··751）の字。㊁南齊、孔嗣之（3－6933··315）の字。㊂宋、呂中（2－3386··124）の字。㊃明、劉養微（2－2224··1340）の字。㊄清、管晏（8－26162··2）の字。

【敬範】206（ケイハン）梁、蕭恭（9－32012··77）の字。

【敬避】207（ケイヒ）文中、避諱すべき文字に遇つた場合、其の字の代りに敬避の二字を書くこと。〔經解入門、科場解經程式〕遇二避諱字一、皆不レ可レ用、倘古書既有二其字一、而亦不レ能レ不レ引、則將二此字一空二一格一、並寫二敬避二字一、亦不レ犯レ禁。

【敬美】208（ケイビ）明、王世懋（7－20823··1765）の字。

【敬微】209（ケイビ）南朝齊、宗測（3－7106··192）の字。

【敬敏】210（ケイビン）㊀つつしんでさとい。〔周禮、地官、閭胥〕書二其敬敏任恤者一。〔孔子家語、辯政〕而行爲二敬敏一。㊁謚號。㋑清、阿林保（11－41599··462）の謚。㋺清、滿達爾漢（7－18099··258）の謚。

【敬夫】211（ケイフ）字號。㊀宋、張栻（4－9812··434）の字。㊁金、王質（7－20823··488）の字。㊂元、呂誠（2－3386··101）の字。㊃明、江浩（6－17140··53）の字。㊄明、蔡復一（9－31818··235）の字。㊅明、蕭大賓（9－32012··457）の字。㊆明、宋天顯（3－7078··378）の字。㊇明、陳大賓（11－41698··1098）の字。㊈明、翟善（9－28727··29）の字。㊉明、王九思（7－20823··1303）の字。

【敬孚】212（ケイフ）清、蕭穆（9－32012··253）の字。

【敬敷】213（ケイフ）㊀つつしんでしき及ぼす。〔書、舜典〕敬二敷五教一、在レ寬。〔晉書、王導傳〕敬二敷道訓一、以亮二天工一。㊁明、沈教（6－17189··140）の字。

【敬武】214（ケイブ）㊀縣名。漢、置く。故城は河北省趙縣の東北。〔漢書、地理志上〕鉅鹿郡、縣二十、敬武。㊁謚號。㋑前秦、苻雄（9－30825··16）の謚。㋺後魏、于忠（1－252··74）の謚。

【敬風】215（ケイフウ）三國吳、陸凱（11－41708··35）の字。

【敬服】216（ケイフク）うやまひしたがふ。うやまつて心服する。〔孔叢子、對魏王〕其相二晉國一、晉國以寧、諸侯敬服。〔蜀志、秦宓傳〕於レ是溫大敬服。〔搜神記、二〕百姓敬服、從者如レ歸。

【敬復】217（ケイフク）書翰文用語。つつしんで返事する。

〖敬復者〗218 ching⁴ fu⁴ chê³　書翰文用語。拜復。

【敬文】219（ケイブン）㊀うやうやしい態度とあやのあるありさま。〔荀子、勸學〕禮之敬文也、樂之中和也、詩書之博也、春秋之微也、在二天地之閒一者畢矣。〔注〕禮有二周旋揖讓之敬、車服等級之文一也。〔荀子、禮論〕事レ生不二忠厚一、不二敬文一、謂二之野一、送レ死不二忠厚一、不二敬文一、謂二之瘠一。〔注〕敬文、恭敬有二文飾一。㊁字號。㋑三國吳、薛綜（9－32123··94）の字。㋺晉、王薈（7－20823··1106）の字。㋩後魏、毛脩之（6－16772··284）の字。㋥南齊、宗尚之（3－7106··300）の字。㋭北齊、李繪（6－14459··241）の字。

〖敬文之恭〗220（ケイブンノキヨウ）敬とは禮儀作法の恭しいことである。文は、禮の外的動作となつて表はれた美しい姿をいふ。〔國語、周語下〕夫敬、文之恭也、忠、文之實也。

【敬平】221（ケイヘイ）字號。㊀後漢、馬廖（12－44572··652）の字。㊁北周、甄玄成（7－21557··55）の字。

【敬父】222（ケイホ）宋、張元簡（4－9812··1005）の字。

【敬甫】223（ケイホ）字號。㊀宋、孫自修（3－6987··422）の字。㊁宋、陳善（11－41698··422）の字。㊂金、張行簡（4－9812··863）の字。㊃元、王恂（7－20823··579）の字。㊄明、吳元滿（2－3365··550）の字。㊅明、陳堯（11－41698··216）の字。㊆明、劉寅（潛江の人）（2－2224··23）の字。㊇清、譚繼洵（10－35978··55）の字。㊈清、呂學簡（2－3386··177）の字。㊉清、呂緝熙（2－3386··211）の字。⑪清、盧存心（8－23050··265）の字。

【敬模】224（ケイボ）北齊、蕭祇（9－32012··146）の字。

【敬慕】225（ケイボ）うやまひしたふ。欽慕。〔南史、劉瓛傳〕學徒敬慕、不二敢指斥一。

【敬奉】226（ケイホウ）㊀つつしみ奉ずる。㊁つつしんで奉戴する。〔左氏、宣、十五〕後之人或者、將下敬二奉德義一、以事二神人一、而申中固其命上。㊂つつしんでさしあげる。〔陸游、戒レ殺詩〕豈無三園中蔬、敬二奉君子宴一。

【敬穆】227（ケイボク）うやまふ。敬意。

【敬慢】228（ケイマン）うやまふこととあなどること。〔墨子、經說上〕禮貴者公、賤者名、而俱有二敬慢一焉。

【敬命】229（ケイメイ）㊀天命をつつしむ。〔逸周書、大開武解〕其維天命、王其敬レ命。〔注〕言、天命在レ周、當レ敬レ命而已。㊁命令をつつしみうやまふ。〔左氏、昭、元〕魯雖レ有レ罪、其執事不レ辟レ難、畏レ威而敬レ命矣。〔會箋〕畏二楚之威一、敬二楚之命一矣。

【敬明】230（ケイメイ）前蜀、徐延瓊（4－10110··343）の字。

【敬養】231（ケイヤウ）うやまひやしなふ。〔禮、祭義〕君子生則敬養、死則敬享。〔潘岳、西征賦〕不レ獲レ事二于敬養一。

【敬豫】232（ケイヨ）晉、王恬（7－20823··843）の字。

【敬輿】233（ケイヨ）字號。㊀三國吳、劉基（2－2224··144）の字。㊁唐、陸贄（11－41708··130）の字。㊂明、徐學聚（4－10110··363）の字。

【敬用】234（ケイヨウ）つつしんでもちひる。〔書、洪範〕敬用二五事一。

【敬老】235（ケイラウ）老人をうやまふこと。〔孟子、告子下〕葵丘之會、云云、三命曰、敬レ老慈レ幼、無レ忘二賓旅一。〔說苑、脩文〕敬レ老尊レ賢。〔孔子家語、王言解〕上敬レ老、則下益レ孝。

〖敬老會〗236（ケイラウクワイ）老人をうやまひ之を慰藉する會。

【敬勞】237（ケイラウ）うやまひねぎらふ。〔書、梓材〕亦厥君先敬勞、肆徂厥敬勞。〔傳〕亦其爲レ君之道、當三先敬二勞民一、故汝往治レ民、必敬二勞來之一。〔史記、絳侯周勃世家〕皇帝敬二勞將軍一。

【敬覽】238（ケイラン）つつしんでみる。〔杜康、明膽論〕呂子曰、敬二覽來論一、可レ謂二海亦不レ加者一矣。〔蘇軾、答二陳傳道一書〕新詩幸得二敬覽一、不レ意餘生復見二斯作一。

【敬立】239（ケイリフ）清、申頲（7－21726··111）の字。

【敬領】240 ching⁴ ling³　有難く頂戴する。

【敬陵】241（ケイリヨウ）陵の名。㊀後漢、章帝の陵。河南省洛陽縣の東南にある。〔後漢書、和帝紀〕（章和二年三月）癸卯、葬二孝章皇帝于敬陵一。〔注〕在二洛陽城東南三十九里一、古今注曰、陵周三百步、高六丈二尺。〔洛陽縣志〕敬陵在二城東北三十九里一、俗稱二二漢冢一、卽此。㊁唐の則天武后の陵。陝西省長安縣の東。

【敬林】242（ケイリン）晉、孔羣（3－6933··52）の字。

【敬倫】243（ケイリン）字號。㊀晉、華混（9－31214··144）の字。㊁晉、王邵（7－20823··668）の字。

【敬聆】244 ching⁴ ling²　書簡文用語。拜聽仕候。お聞きする。

【敬禮】245（ケイレイ）㊀つつしんで禮する。又、其の禮。〔史記、汲黯傳〕其見二敬禮一如レ此。〔漢書、王吉傳〕王賀雖レ不レ遵レ道、然猶知二敬禮一。〔魏志、涼茂傳〕茂復爲二太子太傅一、甚見二敬禮一。㊁字號。㋑三國魏、丁廙（1－2··3）の字。㋺三國吳、張弘（4－9812··305）の字。

【敬和】246（ケイワ）晉、王洽（7－20823··162）の字。

〖敬和堂〗247（ケイワダウ）明、許孚遠（10－35298··384）の室名。

【敬王】248（ケイワウ）周、第二十六代の王。姬匄（3－6230··8）を見よ。

【敬鄉錄】249（ケイキヤウロク）書名。十四卷。元、吳師道撰。梁から南宋に至るまでの婺州の人物を錄し、其の事跡を述べ、其の詩を附したもの。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【敬君弘】250（ケイクンコウ）唐、絳の人。顯儁の曾孫。武德中、驃騎將軍となり黔昌縣侯に封ぜらる。其の部下の馮立・謝叔方と戰ひ、陣中に歿す。〔唐書、一百九十一」・〔舊唐書、一百八十七上」。

【敬啓者】251 ching⁴ ch'i² chê³　書翰文用語。拜啓。

【敬顯儁】252（ケイケンシユン）北齊、平陽の人。字は孝英。一の字は顯儁。官、度支尚書に至る。神武の鄴を

攻めるや土山を督造し、功を以て永安縣侯に封ぜられ、兗州刺史を以て卒す。〔北齊書、二十六〕・〔北史、五十五〕。

【敬元穎】253（ケイゲンエイ）　もと師曠、鑄る所の十二鏡の第七鏡。洛陽、清化里の井中に陷り、化して美女となり、毒龍のために人を妖惑、陷溺せしめた時の名。〔博異志〕天寶中、有㆓陳仲躬㆒、云云、乃携㆓數千金㆒、於㆓洛陽清化里㆒假㆓居一宅㆒、其井尤大、甚好溺㆑人、云云、仲躬異㆑之、閑乃窺㆓於井上㆒、忽見㆓水影中一女子面㆒、年狀少麗、依㆓時樣㆒粧飾、以目㆓仲躬㆒、仲躬凝㆓睇之㆒、則紅袂羊掩㆓其面㆒微笑、妖冶之姿、出㆓於世表㆒、仲躬神魂恍惚、若㆑不㆓支持㆒然、乃難曰、斯乃溺㆑人之由也、云云、忽一日水頓竭、清旦有㆓一人㆒扣㆑門云、敬元穎請謁、仲躬命入、乃井中所㆑見者、云云、元穎曰、妾實非㆓殺㆑人者㆒、此井有㆓毒龍㆒、云云、好食㆓人血㆒、自㆑漢已來、已殺㆓三千七百人㆒矣、云云、某乃國初方墮㆓於井㆒、遂爲㆓龍所㆓驅使㆒、爲妖惑以誘㆑人、用供㆓龍所㆑食、云云。

【敬志堂】254（ケイシダウ）　清、余子錦（**1－515**‥90）の室名。

【敬嗣暉】255（ケイシキ）　金、易州の人。字は唐臣。天眷の進士。尚書省令史を授けらる。海陵簒立するや、起居注に擢んでらる。正隆の間、官は參知政事。世宗卽位するや、其の巧佞を惡んで放歸され、後、丹州刺史・左宣徽使に歷任、また參知政事に陞進し、太常事を攝す。〔金史、九十一〕。

【敬聚齋】256（ケイシュウサイ）　元、衞仁近（**10－34074**‥151）の號。

【敬恕堂】257（ケイジョダウ）　清、耿介（**9－29026**‥8）の室名。

【敬新磨】258（ケイシンマ）　後唐の人。伶人を以て莊宗に事へ、俳戲を善くす。〔五代史、三十七〕。

【敬竹軒】259（ケイチクケン）　清、汪師韓（**6－17154**‥248）の室名。

【敬梅軒】260（ケイバイケン）　明、楊守陳（**6－15112**‥609）の室名。

【敬覆者】261 ching^{4} fu^{4} chê^{3}　書翰文用語。敬復者（218）に同じ。

【敬稟者】262 ching^{4} pin^{2} chê^{3}　書翰文用語。肅啓。

【毋㆑不㆑敬】263（ケイセザルナシ）　禮記、曲禮篇の始めの語。禮は敬を主とするから篇首に掲げる。〔禮、曲禮上〕曲禮曰、毋㆑不㆑敬、儼若㆑思、安㆓定辭㆒、安㆑民哉。

【敬以直㆑內】264（ケイモッテウチヲナホクス）　恭敬にして心の內を正しくする。〔易、坤、文言〕君子敬以直㆑內、義以方㆑外。

【敬而遠㆑之】265（ケイシテコレヲトホザク）　鬼神を敬して瀆さず、且、鬼神の下す禍福のことに心を惑はさない。轉じて、一般に敬遠する意に用ひる。〔禮、表記〕夏道尊㆑命事㆑鬼、敬㆑神而遠㆑之。〔論語、雍也〕樊遲問㆑知、子曰、務㆓民之義㆒、敬㆓鬼神㆒而遠㆑之、可㆑謂㆑知矣。〔集注〕程子曰、人多信㆓鬼神㆒惑也、而不㆑信者、又不㆑能㆑敬、能敬能遠、可㆑謂㆑知矣。

【敬惜字紙】266 ching^{4} hsi^{1} tzŭ^{4} chih^{3}　文字を書いた紙を大切にする。

【敬治喜筵】267 ching^{4} ch'ih^{2} hsi^{3} yen^{2}　謹んで祝賀會を開く。喜びの宴を設ける。

【敬齋古今黈】268（ケイサイコキントウ）　書名。八卷。元、李治撰。舊四十卷、佚して傳はらず。清初、永樂大典から錄出して八卷としたもの。經・史・子・集各各二卷に分つ。凡て經類六十七條、史類八十五條、子類五十四條、集類八十八條。舊文を訂正し考證を爲す。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【敬勝㆑怠則吉】269（ケイタイニカテバスナハチキツ）　恭敬の心が懈怠の心に克つ時はよい結果を得る。〔荀子、議兵〕故敬勝㆑怠則吉、怠勝㆑敬則滅、計勝㆑欲則從、欲勝㆑計則凶。

【敬節會善堂】270（ケイセツクヮイゼンダウ）　清代、孝子節婦を保護獎勵する目的で京師に設立した堂。其の經費は當初は官民の義捐によって辦じ、後、不足を生じて、順天府等より補助した。〔諭摺彙存〕。

【敬內義外說】271（ケイナイギグヮイセツ）　山崎闇齋が唱導した學說。宋の程子が、敬以て內を直くし、義以て外を方にすとの主張を奉じて、敬義を以て道德の神髓骨子とし、修身の要は之が實行に外ならないとした。猶、門人佐藤直方は之を非とし、心を內にし、身を外にすべきを論じてゐる。〔山崎闇齋、座右銘〕敬以直㆑內、義以方㆑外、敬義夾持、出入無㆑悖。

【⿰⿱艹冋攴】 13304　ケイ　敬（**5－13303**）の本字。〔字彙補〕⿰⿱艹冋攴、敬本字。

【⿰⿱出方攴】 13305　ガウ　敖（**5－13226**）の本字。〔正字通〕⿰⿱出方攴、敖本字。

【敭】 13306　ヤウ　揚（**5－12355**）の古字。〔說文〕敭、古文揚从㆑攴。

參考　敡（**5－13259**）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕敡、音異、輕簡。敭、與㆑揚同。

【⿰柬攴】 13307　レン　〔集韻〕郎甸切　［霰］

❶**うつ**。つちうつ。たたく。きたへる。〔廣韻〕⿰柬攴、搥㆓打物㆒也。❷**えらぶ**。柬（**6－14655**）に同じ。〔集韻〕柬、擇也、或从㆑攴。

【敮】 13308　㈠カフ ケフ　〔廣韻〕呼洽切　［洽］　㈡キ　〔集韻〕倶爲切　［支］

㈠**つきる**。つくす。〔廣韻〕敮、盡也。㈡❶**すき**。〔集韻〕敮、廣雅、臿也。❷或は東（**8－23550**）に作る。〔集韻〕敮、或作㆑東。

參考　字形、本來、敮に作るべきであるが、今姑く康熙字典に據つて此處に存す。〔廣雅、釋器、敮臿也、疏證〕敮、音嫣汭之嫣、字从㆑臿支聲、云云、各本敮字皆作㆑敮、音插、案、音插、則與㆓下文臿字㆒重出、且說文・玉篇・廣韻・集韻・類篇、皆無㆓敮字㆒、此因㆓敮字㆒譌作㆑敮、後人遂妄㆓改曹憲之音㆒耳。

【⿰春攴】 13309　シュン　〔集韻〕尺尹切　［軫］

❶**みだす**。みだれる。又、あつい。惷（**4－10864**）に同じ。〔集韻〕惷、說文、亂也、一曰、厚也、或从㆑攴。〔廣韻〕⿰春攴、亂也。❷**うごかす**。うごく。〔篇海〕⿰春攴、動也。

【⿰⿱宀各攴】 13310　カク　挌（**5－12047**）に同じ。〔正字通〕⿰⿱宀各攴、同㆑挌。

【数】 13311　サウ セウ　〔集韻〕山巧切　［巧］

❶**うつ**。或は捎（**5－12148**）に作る。〔集韻〕数、擊也、或作㆑捎。❷**とる**。〔廣韻〕数、一云、攪也。❸**みだす**。〔玉篇〕数、攪也。❹又、數（**5－13341**）に作る。〔廣韻〕数、亦作㆑數。

【⿰音攴】 13312　アン エン　〔集韻〕乙減切　［豏］

すてる。〔集韻〕⿰音攴、弃也。

【⿰冒攴】 13313　バウ モウ　〔集韻〕莫報切　［號］

❶**あたる**。⿰扌冒（**5－12399**）に同じ。〔集韻〕⿰扌冒、抵也、或从㆑攴。❷**手でたすける**。〔篇海〕⿰冒攴、手扶㆑之也。

【⿰⿱宀吉攴】 13314　クヮイ ケ　〔篇海〕口外切　［泰］

ぜに。〔篇海〕⿰⿱宀吉攴、錢也。

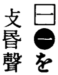
【⿰⿱白小攴】 13315　ボク　穆（**8－25251**）の古字。〔字彙補〕⿰⿱白小攴、古文穆字。

【⿰⿱目夬攴】 13316　エツ エチ　〔五音集韻〕於決切　［屑］

⿰⿱目夬攴昊は、目のくぼんださま。〔五音集韻〕⿰⿱目夬攴、⿰⿱目夬攴昊、目深貌。

【敨】13317 トン　敦（5－13276）に同じ。〔字彙補〕敨、與レ敦同。

【敯】13318 [一]ビン ミン　〔集韻〕美隕切 [軫]　[二]ビン ミン　〔集韻〕眉貧切 [眞]　[三]コン　〔集韻〕呼昆切 [元]



小篆　[一]❶**をかす**。〔說文〕敯、冒也、从レ攴昬聲、周書曰、敯不レ畏レ死。❷**つとめる**。敃（5－13159）に同じ。〔集韻〕敃、說文、彊也、亦作レ敯。[二]❶**つとめる**。忞（4－10358）に同じ。〔集韻〕忞、說文、彊也、亦作レ敯。❷**もだえる**。[三]に同じ。〔集韻〕敯、悶也。[三]**もだえる**。〔集韻〕敯、悶也。〔莊子、外物〕慰敯沈屯。〔注〕敯、悶也。

參考　字形、一に暋（5－14041）に作り、又、敃に作る。今、說文に據つて正す。

【数】13319 スウ　數（5－13363）の俗字。〔宋元以來俗字譜〕數、金瓶梅作レ数。

十畫

【⿰乘攴】13320 キ ギ　〔篇海〕巨支切 [支]　**弓のかたいさま**。〔篇海〕⿰乘攴、弓硬貌。

【⿰烝攴】13321 シヨウ　〔集韻〕諸仍切 [蒸]　**うつ**。たたく。〔集韻〕⿰烝攴、擊也。

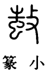
【⿱敄夂】13322 リ　務の俗字。務は務（2－2152）に同じ。〔正字通〕⿱敄夂、俗務字。

【⿰盇攴】13323 カフ　〔集韻〕克盍切 [合]　**たたく**。〔集韻〕⿰盇攴、敲也。

【⿰豙攴】13324 キ　毅（5－13093）の譌字。〔康熙字典〕毅、按、廣韻从レ支、不レ从レ攴、宜レ入二支部一。

【⿰兼攴】13325 [一]カン ケン　〔集韻〕口陷切 [陷]　[二]カン ケン　〔集韻〕丘咸切 [咸]　[一]❶**むさぼる**。〔康熙字典〕⿰兼攴、博雅、貪也。❷**あたる**。あふ。〔集韻〕⿰兼攴、物相値合。[二]**ついばむ**。鵮（12－47009）に同じ。〔集韻〕鵮、鳥啄レ物也、或作レ⿰兼攴。

【⿰蚩攴】13326 チ　〔集韻〕展几切 [紙]



小篆　**さす**。〔說文〕⿰蚩攴、刺也、从レ攴蚩聲。

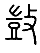
【⿸厂⿰永攴】13327 ロツ ロチ　〔篇海〕勒沒切 [月]　**おちつかない**。〔篇海〕⿸厂⿰永攴、不レ安也。

【⿰尃攴】13328 フ　敷（5－13359）の本字。〔正字通〕敷、敷本字。

【⿰宮攴】13329 トウ ヅ　〔集韻〕徒冬切 [冬]　**中空のものをたたくおと**。〔廣韻〕⿰宮攴、擊レ空聲。

【⿰害攴】13330 [一]カイ　〔集韻〕丘蓋切 [泰]　[二]カツ カチ　〔集韻〕丘葛切 [曷]　[一]❶**はづかしめる**。〔廣雅、釋詁三〕⿰害攴、辱也。❷**うつ**。せめる。〔玉篇〕⿰害攴、伐也。❸**たたく**。〔玉篇〕⿰害攴、擊也。❹或は⿰害殳（6－16667）に作る。〔集韻〕⿰害攴、或从レ殳。[二]**かたき**。あだ。〔集韻〕⿰害攴、敵也。

【敳】13331 [一]ガイ　〔集韻〕魚開切 [灰]　[二]クワイ　〔集韻〕姑回切 [灰]　[三]ガイ　〔集韻〕五亥切 [賄]　[四]シヨク ソク　〔集韻〕朱欲切 [沃]



小篆　[一][二][三]❶**をさめる**。〔說文〕敳、有レ所レ治也、从レ攴豈聲、讀若レ豤。〔集韻〕敳、改理也。❷**姓**。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕敳氏、八凱隕敳之後、以二王父字一爲レ氏。[四]**鼓をうつ**。〔集韻〕敳、擊レ鼓也。

【⿰辱攴】13332 ジヨク　搙（5－11635）に同じ。〔集韻〕搙、或作レ⿰辱攴。

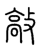
【⿰⿱山糸攴】13333 キ　徽（4－10267）の古字。〔集韻〕徽、古作レ⿰⿱山糸攴。

【⿰⿷匚⿱乂口攴】13334 ヒ　〔集韻〕篇夷切 [支]　**いへがくづれかかる**。⿰⿷匚⿱乂口攴敝。〔集韻〕⿰⿷匚⿱乂口攴、⿰⿷匚⿱乂口攴敝、屋欲レ壞。

【⿰弱攴】13335 [一]ダク ニヤク　〔集韻〕昵角切 [覺]　[二]ダク ニヤク　〔集韻〕昵格切 [陌]　[一]**とる**。もつ。搦（5－12500）に同じ。〔集韻〕搦、持也、或从レ攴。[二]**おさへる**。搦（5－12500）に同じ。〔集韻〕搦、按也、或从レ攴。

【⿰草攴】13336 ハウ ホウ　〔集韻〕滂保切 [皓]　**うつろなものをうつおと**。〔集韻〕⿰草攴、擊レ虛聲。

【敲】13337 [一]カウ ケウ　〔集韻〕丘交切 [肴]　ㄑㄧㄠ ch'iao^{1}　[二]カウ ケウ　〔集韻〕口敎切 [效]



小篆　[一][二]❶**うつ**。**たたく**。横ざまにたたく。〔說文〕敲、橫擿也、从レ攴高聲。〔左氏、定、二〕奪二之杖一以敲レ之。〔釋文〕敲、訓二此敲一云二橫擿一也。〔韓愈、曲江荷花詩〕腳敲二兩胲一呼二吳歌一。❷**たたくおと**。〔左氏、定、二、釋文〕敲、一曰、擊聲也。❸**むち**。しもと。短い杖。〔賈誼、過秦論〕執二敲朴一以鞭二笞天下一。〔注〕良曰、臣瓚

以爲、短曰レ敲、長曰レ朴。㊃**すてる**。はらひすてる。ふりすてる。〔方言、十〕楚凡揮二棄物一、或謂二之敲一。

名乘 アツ。ムス。タダ。

【敲挖】1カウアツ たたいて穴をあける。〔福惠全書、錢穀部、解給〕奸人趁レ縫敲挖。

【敲㱿】2カウカイ 相擊つ。〔一切經音義、五〕敲㱿、相擊也。

【敲戞】3カウカツ たたきうつ。〔徐賁、尙書命題二瓦硯一詩〕蘭亭如見レ用、敲戞有二金聲一。

【敲撼】4カウカン たたきうごかす。〔韓愈、唐故江南西道觀察使云云太原王公神道碑銘〕敲撼挫揠、竟遭二斥奔一。

【敲棊】5カウキ 碁石を打ち下すこと。敲枰。〔司馬光、詩〕閒敲二棊子一落二燈花一。

【敲擊】6カウゲキ うつ。たたく。〔李紳、悲二善才一詩〕秋吹動搖神女佩、月珠敲擊水晶盤。〔王炎、再用二元韻一因簡二縣庠諸先輩一詩〕竹閒杵臼相敲擊、茶不レ療レ饑何苦喫。

【敲鼓】7 ch'iao¹ ku³ 太鼓を打つ。

【敲詐】8 ch'iao¹ cha⁴ 言ひがかりをつけて詐僞をする。財物をゆする。

【敲碎】9 ch'iao¹ suei⁴ 叩き碎く。

【敲殺】10カウサツ たたきころす。〔宋史、虞允文傳〕敵兵不レ死二于江一者、亮悉敲二殺之一。

【敲詩】11カウシ 詩中の一字を隱して當てさせること。文字遊戲の一。詩謎。〔津門雜記〕敲詩、卽以二紙條約四五寸長者一、摘二錄時下新刻詩句一、於二句中一隱二去一字一、注二於字尾一、用二信套籠一插、卽在二詩句旁一添二擬大意相通者四字一、幷二紙尾一爲レ五、射中者、每二一錢一賠二三文一。

【敲唱】12カウシヤウ 佛 問答應酬の意。質問應答。學人の質問を敲といひ、師家の應答を唱といふ。〔寶鏡三昧歌〕正中妙挾、敲唱雙擧。

【敲推】13カウスイ 字句をねること。推敲(**5**－**12284**··**27**)に同じ。〔剪燈餘話、聽經猿記〕擧レ手推敲、頗類二苦吟之賈島一。〔書言故事、文章類〕吟レ詩下レ字未レ定、曰三向欠二敲推一。

【敲鞘】14タタキザヤ 刀の鞘の一種。〔和漢三才圖會、兵器、鞘〕大抵黑漆或朱漆、有二摺剝・敲鞘・鮫鞘之數品一。

【敲石】15カウセキ 燧石ヒウチイシをうつ。又、火打ち石。〔潘岳、河陽縣作詩〕歘如二敲石火一、瞥若二截道飈一。〔注〕良曰、敲、擊也、言二擊レ石之火、截レ道之風、暫見卽滅一。〔柳宗元、零陵贈三李卿元侍御簡二吳武陵一詩〕陽光競二四溟一、敲石安所レ施。〔韋應物、送三孫徵赴二雲中一詩〕敲石軍中傳二夜火一、斧冰河畔汲二朝漿一。

【敲折】16カウセツ たたきをる。〔蘇軾、石芝詩〕鏘然敲折青珊瑚、味如三蜜藕和二鷄蘇一。

【敲打】17カウダ 打つ。たたく。〔夢粱錄、茶肆〕今之茶肆、列二花架一、安二頓奇松異檜等物于其上一、裝二飾店面一、敲二打響盞一歌、賣止用二瓷盞漆托一、供賣則無二銀盂物一也。

【敲訂】19 ch'iao¹ ting⁴ おさらひ。〔長生殿、偸曲〕把新腔敲訂、新腔敲訂。

【敲土】20タタキツチ 風化花崗石に石灰苦鹽を混ぜて泉水・床などを作るに用ひる土。

【敲背】21 ch'iao¹ pei⁴ 背をたたく。按摩する。

【敲梆】22 ch'iao¹ pang¹ 拍子木。又、拍子木を叩く。

【敲榜】23カウバウ むちうつ。〔陳造、詩〕白頭敲榜地。

【敲枰】24カウヘイ 棋をうつ。〔米芾、詩〕神武樂育天下造、不レ使レ敲レ枰使レ傳レ道。

【敲朴】25カウボク むち。短いのを敲、長いのを朴といふ。又、むちうつ。うちたたく。〔賈誼、過秦論〕履二至尊一而制二六合一、執二敲朴一以鞭二笞天下一。〔注〕善曰、臣瓚以爲、短曰レ敲、長曰レ朴。〔孔稚珪、北山移文〕敲朴喧囂犯二其慮一、牒訴倥偬裝二其懷一。

【敲門】26カウモン 門をたたいて人を訪ふ。叩門。款門。〔賈島、題二李凝幽居一詩〕鳥宿池邊樹、僧敲月下門。〔蘇軾、九月二十日微雪懷二子由一詩〕遙知讀レ易東窻下、車馬敲レ門定不レ譍。

【敲門石】27カウモンセキ 敲門磚に同じ。〔王鏊、送三溫生廉還二江西一詩〕鏤レ冰刻レ棘巧何爲、名成至レ比二敲門石一。

【敲門磚】28カウモンセン 門をたたくかはら。磚を拾つて門を敲き、門に入れば其の磚を棄てることから、學問を手段として名聞を求め、既に名聞を得れば、學問を棄てて顧みない喩。轉じて、科學の試驗に應ずるために間に合せに學んだ學問の役に立たないことに用ひる。〔古諺〕敲門磚、不レ値レ錢。

【敲拉】29カウラフ たたきくだく。〔梅堯臣、和二端式上人一十詠、春溪水詩〕篙師畏レ割レ舟、敲拉碎二圭璧一。

【敲景樓】30カウケイロウ 淸、毛先舒(**6**－**16772**··**303**)の室名。

【敲竹槓】31 ch'iao¹ chu² kang⁴ 甘言で人の財物をまきあげる。上海地方の語。

【敲氷紙】32カウヒヨウシ 浙江省會稽道の嵊縣から產する紙。冬季の水で製する故に此の名がある。〔升菴外集〕敲氷紙、剡所レ出也、剡水淸潔、山又多二藤楮一、以二敲冰時一製レ之佳、蓋冬冰也。

【敲邊鼓兒】33 ch'iao¹ pien¹ ku³ êrh 怒つてゐる人を更にけしかけて益〻怒らせること。又、おだてあげること。

【敲金擊石】34カウキンゲキセキ 金石をたたき鳴らす。詩文の聲調のすぐれた喩。〔韓愈、代二張籍一與二李浙東一書〕未三必不レ如レ聽二吹竹彈絲、敲金擊石一也。

【敲】13338 ケウ 敲(**5**－**13337**)に同じ。〔康熙字典〕敲、字彙補、許昭切、音梟、地名、前漢王子侯表、敲陽侯延年、按、攴・支相通、則敲・敲、本一字也、以二音義少異一、姑別レ之。

【𢿡】13339 タツ 撻(**5**－**12774**)の古字。〔六書統〕𢿡、古文撻字。

【𢽽】13340 ギヨ 敔(**5**－**13224**)の籀文。〔正字通〕𢽽、籀文敔字。

【𢿀】13341 サウ 数(**5**－**13311**)に同じ。〔廣韻〕数、亦作レ𢿀。

【𢿋】13342 シヨウ 勝(**2**－**2409**)の古字。〔玉篇〕𢿋、古文勝。

【𢾅】13343 チヨウ 徵(**4**－**10239**)の古字。〔說文〕徵、𢾅、古文。

【𣀓】13344 ソウ 𣀘(**5**－**13415**)に同じ。〔訂正篇海〕𣀓、與レ𣀘同。

【𢼊】13345 テウ 肇(**9**－**29228**)に同じ。〔字彙補〕𢼊、同レ肇。

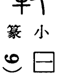
【𢿱】13346 ヒ 〔字彙補〕非尾切 尾

人名。〔字彙補〕𢿱、宋元嘉中、趙𢿱撰二中寅元曆一。

十一畫

【𢿏】13347 ロク 𣀷(**8**－**22904**)の譌字。

【𣀔】13348 ㊀ヒツ ヒチ 〔集韻〕壁吉切 質 ㊁ヒ 〔集韻〕必至切 寘


小篆

㊀❶**つきる**。をはる。畢(**7**－**21829**)に通ず。〔說文〕𣀔、𣀔盡也、从レ攴畢聲。〔段注〕事畢之字當レ作レ此、畢行

而戰廢矣。❷火のさま。〔類篇〕戰、火貌。㈡❶かぎる。〔集韻〕戰、畫也。❷うながす。召して疾くおもむかせる。〔集韻〕戰、一曰、召使㆓疾行㆒也。

【⿰参攴】13349 サン セン 〔字彙〕所斬切 豏

せまい。〔字彙〕⿰参攴、窄也。

【⿰髟攴】13350 ボク 穆(8-25251)の古字。〔玉篇〕⿰髟攴、古文穆字。

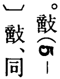
【⿰⿸虍田攴】13351 デン 畋(7-21774)に同じ。〔集韻〕畋、亦作㆑⿰⿸虍田攴。

【整】13352 セイ 整(5-13388)の譌字。〔康熙字典〕整、正字通、整、整字之譌、按、說文、从㆑束、不㆑从㆑束。

【⿰虘攴】13353 サ シヤ 〔集韻〕莊加切 麻

❶指でおさへる。〔集韻〕⿰虘攴、指按、謂㆓之⿰虘攴㆒。❷とる。〔玉篇〕⿰虘攴、取也。

【敵】13354 テキ ヂヤク 〔集韻〕亭歷切 錫 ㄉㄧˊ ti^2



小篆 ❶あだ。かたき。敵(5-13392)に同じ。〔正字通〕敵、同㆑敵。〔說文〕敵、仇也、从㆑攴啻聲。〔戰國、秦策〕鄰國敵也。〔注〕敵、讎也。❷たぐひ。なかま。

とも。〔爾雅、釋詁〕敵、匹也。〔廣雅、釋詁一〕敵、輩也。❸あひて。㋑つりあふ者。たぐふ者。〔禮、雜記上、同國適者、注〕敵、謂㆓爵同者㆒也。〔國語、周語中〕在㆑禮、敵必三讓。〔注〕敵、體敵也。〔國語、楚語下〕且夫自㆑敵以下則有㆑讎。〔注〕敵、敵體也。㋺はむかふ者。對する者。〔孟子、梁惠王上〕仁者無㆑敵。〔史記、項羽紀〕劍者一人之敵。❹あたる。㋑ひとしい。つりあふ。〔國語、周語中〕敵國賓至。〔注〕敵、位同也。〔戰國、秦策〕四國之兵敵。〔注〕敵、強弱等也。㋺むかふ。ぶつかる。はむかふ。〔爾雅、釋詁〕敵、當也。〔左氏、哀、十五〕敵㆓子路㆒。〔注〕敵、當也。〔北史、呂司禮傳〕講㆑書論㆑易、鋒難㆑敵。❺こたへる。むくいる。〔左氏、文、六〕敵㆑惠敵㆑怨。〔注〕敵、猶㆑對也。❻ただしい。〔廣雅、釋詁一〕敵、正也。❼つかさどる。〔廣雅、釋詁三〕敵、主也。❽適(11-39076)に通ず。〔禮、雜記上、同國適者、注〕適、讀爲㆓匹敵之敵㆒。

名乘 トシ。

【敵意】1（テキイ） 敵對する意志。あだをする考。害心。

【敵隱】2（テキイン） 遼、耶律唐古(9-29008‥103)の字。

【敵影】3（テキエイ） 敵兵のすがた。

【敵營】4（テキエイ） 敵軍の陣營。〔李商隱、南朝詩〕敵國軍營漂㆓木柹㆒、前朝神廟鎖㆓烟煤㆒。

【敵役】5（カタキヤク） 古くは、てきやくともいふ。演劇で惡人に扮する役。憎まれ役。又、敵半道。世話敵・色惡・實惡・實敵・親敵などの役柄はこれから派生したものである。

【敵怨】6（テキエン） 怨に報いる。〔左氏、文、六〕敵㆑惠敵㆑怨、不㆑在㆓後嗣㆒、忠之道也。〔會箋〕人有㆑怨㆓于我㆒、當㆔直報㆓其怨㆒、不㆑可㆑俟㆓其子孫㆒。

【敵應】7（テキオウ） 敵として互に反抗する。〔易、艮〕彖曰、云云、上下敵應、不㆓相與㆒也。

【敵愾】8（テキガイ） 君主の恨み怒る者に敵對する。公敵に當りむかふ。轉じて、敵と爭はんとする意氣。〔左氏、文、四〕諸侯敵㆓王所㆑愾、而獻㆓其功㆒。〔注〕敵、猶㆑當也、愾、恨怒也。〔疏〕當㆓王所㆑怒、往征㆓伐之㆒。〔洪亮吉左傳詁〕說文、愾、太息也、杜注、愾、恨怒也、當㆑從㆓說文轉訓㆒。〔故事成語考、武職〕爲㆑君洩㆑恨、曰㆓敵愾㆒。

〔敵愾心〕9（テキガイシン） 敵に向つて慷慨奮激する心。

【敵衡】10（テキカウ） 力が互に等しいこと。〔韓非子、存韓〕以㆑秦與㆑趙敵衡、加以㆑齊、今又背㆑韓、而未㆑有㆔以堅㆓荊魏之心㆒。

【敵艦】11（テキカン） 敵の軍艦。〔依田百川、日本海之戰〕南方哨艦信濃號、發㆓無線電信㆒報、敵艦北來、若㆘將㆑向㆓對馬東水道㆒者㆖。

【敵旗】12（テキキ） 敵のはた。

【敵機】13（テキキ） 敵軍の飛行機。

【敵騎】14（テキキ） 敵の騎馬兵。〔宋史、兵志十一〕韓世忠、云云、造㆓克敵弓㆒、以當㆓敵騎衝突㆒、其發可㆑至㆓百步㆒、其勁可㆑穿㆓重甲㆒。

【敵僞】15（テキギ） 敵がたくらんだ計略。〔韓非子、內儲說下〕參伍既用㆓於內㆒、觀聽又行㆓於外㆒、敵僞得。

【敵強】16（テキキヤウ） 六韜、豹韜の篇名。

【敵境】17（テキキヤウ） 敵地。敵國の國境。〔呂覽、懷寵〕故兵入㆓於敵之境㆒、則民知㆑所㆑庇矣。〔五代史、馬殷世家〕吾與㆓楚人㆒爲㆓敵境㆒。

【敵耦】18（テキグウ） たぐひならぶ。對等にならぶ。耦は二人對耕すること。一に偶に作る。匹敵。〔禮、內則〕舅姑若使㆓介婦㆒、毋㆔敢敵㆓耦於冢婦㆒。

【敵患】19（テキクワン） 敵襲のうれへ。〔明史、兵志三〕正統以後、敵患日多。

【敵丸】20（テキグワン） 敵彈(54)に同じ。

【敵軍】21（テキグン） 敵の軍勢。〔戰國、秦策〕卒爲㆑秦禽㆑將破㆓敵軍㆒、攘㆑地千里。

【敵羣】22（テキグン） 敵のむれ。

【敵惠】23（テキケイ） 惠みに報いる。〔左氏、文、六〕敵㆑惠敵㆑怨、不㆑在㆓後嗣㆒、忠之道也。〔注〕敵、猶㆑對也。

【敵國】24（テキコク） ❶我に仇をなす國。かたきの國。〔周禮、夏官、環人〕訟㆓敵國㆒、揚㆓軍旅㆒、降㆓圍邑㆒。〔注〕敵國兵來、則往㆑之與訟㆓曲直㆒。〔戰國、秦策〕今欲㆘幷㆓天下㆒、凌㆓萬乘㆒、詘㆓敵國㆒、制㆓海內㆒、子㆓元元㆒、臣㆗諸侯㆖、非㆑兵不可。〔管子、七法〕不㆑能㆑彊㆓其兵㆒、而能必勝㆓敵國㆒者、未㆓之有㆒也。〔史記、吳起傳〕若不㆑修㆑德、舟中人盡爲㆓敵國㆒也。❷國力の相等しい國。對等の諸侯の國。互角の國。〔孟子、盡心下〕征者上伐㆑下也、敵國不㆓相征㆒也。〔史記、陸賈傳〕欲㆘以㆓區區之越㆒與㆓天子㆒抗衡、爲㆗敵國㆖。〔漢書、蕭望之傳〕單于非㆓正朔所㆑加、故稱㆓敵國㆒、宜㆘待以㆓不㆑臣之禮㆒、位在㆗諸侯王上㆖。❸天下の輕重に係る程の人物を嘆賞していふ。一敵國(1-1‥2457)を見よ。〔漢書、游俠、劇孟傳〕大將軍得㆑之、若㆓一敵國㆒云。〔後漢書、吳漢傳〕歎曰、吳公差彊㆓人意㆒、隱若㆓一敵國㆒矣。❹富力強大で一國に匹敵するもの。〔樓鑰、陳順之靈壁石硯山詩〕陳侯之富可㆑敵㆑國、會有㆔寶光驚㆓四室㆒。

〔敵國外患〕25（テキコクグワイクワン） 我に敵對する強國と外から起る憂患。〔孟子、告子下〕入則無㆓法家拂士㆒、出則無㆓敵國外患㆒者、國恆亡、然後知㆘生㆓於憂患㆒、而死㆗於安樂㆖也。

〔敵國滅謀臣亡〕26（テキコクホロビテバウシンホロブ） 我に仇する國が滅べば、之を滅すに功のあつた智略の士も亦用ひられなくなる。〔三略、中略〕夫高鳥死、良弓藏、敵國滅、謀臣亡、亡者非㆑喪㆓其身㆒也、謂㆘奪㆓其威㆒廢㆗其權㆖也。〔史記、淮陰侯傳〕信曰、果若㆓人言㆒、狡兔死、良狗烹、高鳥盡、良弓藏、敵國破、謀臣亡、天下已定、我固當㆑烹。

【敵砦】27（テキサイ） 敵のとりで。敵壘。

【敵塞】28（テキサイ） 敵のとりで。敵寨。

【敵寨】29（テキサイ） 敵のとりで。敵壘。〔日本外史、德川氏正記、德川氏一〕城左右皆敵寨。

【敵子】30（テキシ） 相手の碁石。子は碁石。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕爲㆓天下㆒猶㆓弈碁㆒也、既勝㆓其全局㆒、則雖㆑有㆓敵子存者㆒、何足㆑較㆓輸贏㆒哉。

【敵使】31（テキシ） 敵の使者。〔左氏、成、十七〕不㆑然、豈其死之不㆑恤、而受㆓敵使㆒乎。

【敵屍】32（テキシ） 敵兵の死骸。〔日本外史、德川氏正記、德川氏二〕臣檢㆓敵屍㆒、北首者俯、南首者仰、可㆔以見㆓家康訓練㆒矣。

【敵視】33 テキシ　敵と見なす。仇と思ふこと。

【敵讎】34 テキシウ　あだ。かたき。仇讎。仇敵。〔書、微子〕小民方興、相二爲敵讎一。〔宋史、張復傳〕臣毎感慨、自期三誓殲二敵讎一。

【敵將】35 テキシヤウ　敵軍の大將。

【敵狀】36 テキジヤウ　敵のありさま。敵情。

【敵城】37 テキジヤウ　敵軍の城。〔運步色葉集〕。

【敵情】38 テキジヤウ　敵方の樣子。敵狀。〔三略、上略〕軍讖曰、用レ兵之要、必先察二敵情一、視二其倉庫一、度二其粮食一。

【敵手】39 テキシユ　㊀あひて。自分と匹敵する者。又、碁で力量の等しい對手。〔晉書、謝安傳〕安、常棋劣二于玄一、是日玄懼、便爲二敵手一。〔杜荀鶴、觀レ碁詩〕有レ時逢二敵手一、當レ局到二深更一。〔棊經〕凡棋有二敵手一、有二半先一、有二兩先一、有二桃花五一、有二北斗七一。㊁自分に手向ふもの。かたき。

【敵首】40 テキシユ　敵兵の首級。〔日本外史、德川氏正記、德川氏〔三〕〕高木清秀、提二敵首一而還。

【敵衆】41 テキシユウ　㊀多くの人に匹敵する。〔韓非子、八經、因情〕力不レ敵レ衆、智不レ盡レ物。㊁敵の人數。

【敵人】42 テキジン　かたき。あだ。〔六韜、龍韜、五音〕夜半遣二輕騎一、往至二敵人之壘一。〔管子、七法〕不レ明二于敵人之政一、不レ能レ加也。〔吳子、料敵〕敵人之來、蕩蕩無レ慮。

【敵數】43 テキスウ　敵兵の數。〔五代史、唐臣、周德威傳〕爲レ人勇而多二智能一、望レ塵以知二敵數一。

【敵正】44 テキセイ　正妻の子。〔韓非子、亡徵〕輕二其敵正一、庶子稱衡、太子未レ定、而主卽レ世者、可レ亡也。

【敵勢】45 テキセイ　㊀敵のいきほひ。〔五代史、梁臣、敬翔傳〕今凝不レ來、敵勢已迫。〔宋史、忠義二、唐重傳〕使三相掎角、以緩二敵勢一。㊁テキゼイ　敵の軍勢。

【敵戰】46 テキセン　敵として戰ふ。〔國語、越語上〕夫吳之與レ越也、仇讎敵戰之國也。〔戰國、魏策〕夫趙魏、敵戰之國也、趙王以二咫尺之書一來、而魏王輕、爲レ之殺二無罪之痤一。〔說苑、君道〕夫燕齊非二均權敵戰之國一也。

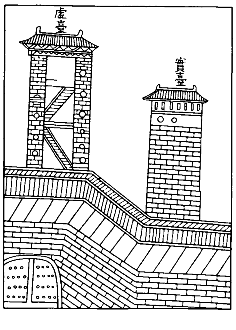
【敵前】47 テキゼン　敵軍の前方。敵軍がゐる前。

〔敵前上陸〕48 テキゼンジヤウリク　敵軍の守備地に船をつけ危險を冒して上陸を敢行すること。

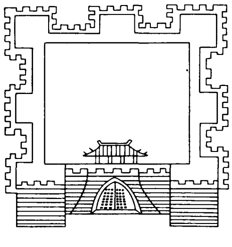
【敵對】49 テキタイ　敵として對抗する。〔法苑珠林〕敵對而除。

【敵體】50 テキタイ　同列で上下の區別がない。對等の者。〔禮、少儀、敵者曰二某固願レ見也、疏〕此明三敵體始相見、言二敵體不レ謙、故云願レ見也。〔春秋、莊、四、紀伯姬卒、杜注〕內女唯諸侯夫人卒葬皆書、恩成二於敵體一。〔國語、楚語下、且夫自レ敵以下、注〕敵、敵體也。〔白虎通、王者不臣〕春秋曰、公弟叔肸、諸父諸兄、不レ名二諸父諸兄一者、親與二己父兄一、有二敵體之義一也。

【敵臺】51 テキダイ　井樓。物見臺。樓臺。〔武備志、守具、敵臺圖說〕郭子章城書曰、城牆正面不レ便二俯視一、恐下其矢彈正面對攻、不二敢眺望一、故賊得中以攻二逼城下一、任意施爲上、如二今之城一、且不二必矢彈對攻一、雖二鎗筅一亦上刺有レ餘矣、全仗二高臺一、兩邊顧視夾擊、賊不レ得三直至二城下一、且又不レ能三屈矢斜彈、以傷二我臺上之人一、故我得二以放レ心肆レ力敵レ賊也、謂レ之曰二敵臺一、其義以レ此。



敵　臺（武備志）



敵　臺（武備志）

【敵討】52 カタキウチ　仇討。復讐。

【敵擋】53 ti^{2} tang^{3}　敵對する。抵抗する。

【敵彈】54 テキダン　敵のうちだす砲丸。敵丸。

【敵地】55 テキチ　敵の領地。〔後漢書、耿弇傳〕吾深入二敵地一、後無二轉輸一。

【敵場】56 テキヂヤウ　敵兵の出沒する地。又、敵の領土。敵壤。〔吳志、張紘傳〕斬レ將搴レ旗、威震二敵場一、此乃偏將之任、非二主將之宜一也。〔晉書、桓溫傳〕深入二敵場一、甚以爲レ憂。

【敵中】57 テキチユウ　㊀敵人が中道を得ること。一說、敵が擊つこと。又、一說に、敵は適に通じ、其の中に適すること、即ち中間を得ること。〔荀子、彊國〕敵中則奪。〔注〕敵人得二中道一、則奪二其國一、一曰、中、擊也。〔集解〕兪樾曰、此以二民情一言、不下以二敵國一言上、楊注非レ是、敵當二讀爲レ適、古字通用、論語里仁篇 無レ適也、釋文曰、鄭本作レ敵、禮記玉藻篇、敵者不レ在、釋文曰、敵本作レ適、並其證也、上文言、劫則致レ畏、贏則敖レ上、執拘則最、得レ閒則散、並就二其一偏者一而言レ之、此云二敵中一、謂レ適二乎其中一也、既不レ用二道德之威一、而用二暴察之威一、適二乎其中一、則反失四其所三以爲二暴察一矣、故曰二適レ中則奪一、下文曰、非三劫レ之以二形勢一、非三振レ之以二誅殺一、則無三以有二其下一、正承二此文一而言、足レ見二楊注之非一。㊁敵のなか。

【敵住】58 ti^{2} chu^{4}　敵對する。抵抗する。敵擋。

【敵陣】59 テキヂン　敵の陣屋。敵の陣地。

【敵庭】60 テキテイ　敵國(24)に同じ。〔蜀志、張嶷傳〕太傳離二少主一、履二敵庭一、恐非二良計長算之術一也。

【敵背】61 テキハイ　敵軍の背後。〔日本外史、足利氏後記、毛利氏〕潛レ兵出二敵背一。

【敵配】62 ti^{2} pʻei^{4}　敵。あひて。相方。

【敵堡】63 テキハウ　敵のとりで。敵塞。

【敵武】64 テキブ　六韜(**2−1453**‥427)、豹韜(**10−36499**‥33)の篇名。

【敵兵】65 テキヘイ　敵の軍兵。〔韓非子、內儲說下〕是以姦臣者、召二敵兵一以內除、擧二外事一以眩レ主。

【敵鋒】66 テキホウ　敵のほこさき。敵軍のいきほひ。〔日本外史、足利氏後記、武田氏上杉氏〕敵鋒不レ可レ遏。

【敵侔】67 テキボウ　力が匹敵する。對等。〔戰國、韓策〕韓與レ魏、敵侔之國也、申不害與二昭釐侯一、執レ圭而見二梁君一、非二好レ卑而惡レ尊也、非二慮過而議失一也。

【敵藥】68 テキヤク　一しよに食へば毒となるもの。松茸に生米の類。

【敵與】69 テキヨ　敵國と味方の國。〔管子、八觀〕計二敵與一、量二上意一。

【敵虜】70 テキリヨ　敵のものども。かたきのえびす。〔魏文帝、至二廣陵一於二馬上一作詩〕不レ戰屈二敵虜一、戢レ兵稱二賢良一。

【敵壘】71 テキルイ　敵のとりで。敵堡。〔六韜、虎韜、壘虛〕武王問二太公一曰、何以知二敵壘之虛實、自來自去一。

【敵禮】72 テキレイ　對等の禮。平等の禮。〔儀禮、覲禮、使者再拜受、侯氏再拜送レ幣、疏〕此賓與レ使行二敵禮一。〔左氏、僖、二十四、宋先代之後也、疏〕王以二敵禮一待レ之。

【敵烈】73 テキレツ　遼、蕭翰(**9−32012**‥57)の一名。

〔敵烈麻都〕74 テキレツマト　官名。遼、置く。禮儀を掌る。〔稱謂錄、禮部、敵烈麻都〕遼史百官志、北面官、敵烈麻都司、掌二禮儀一、今國語改爲二多囉倫穆騰一、多囉倫、禮也、穆騰、能也。

【敵輦】75 テキレン　字號。㊀遼、蕭敵魯(**9−32012**‥484)の字。㊁遼、耶律屋質(**9−29008**‥47)の字。㊂遼、耶律鐸軫(**9−29008**‥106)の字。㊃遼、耶律洼(**9−29008**‥35)の字。

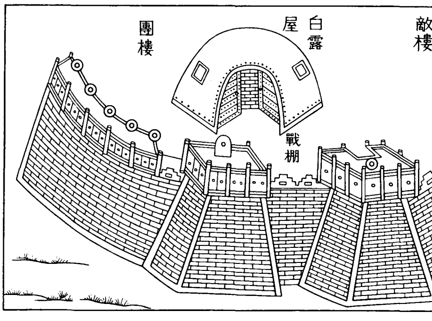
【敵路】76 テキロ　敵軍の進み來る路。〔日本政記、後奈良天皇論〕是以置二城寨於要衝之地一、以梗二敵路一。

【敵樓】77 テキロウ　城砦の樓臺。敵臺。望樓。〔還魂記、繕備〕敵樓高窺二臨女牆一、臨レ風灑レ酒旆揚。〔三才圖會、宮室、敵樓〕敵樓、前高七尺、後五尺、每間闊一步深一丈、其棚上下約容二二十人一、若城愈闊則愈深、上施二搭頭木一、中設二雙柱一、下施二地栿一、仍前出三尺、常法一間二柱、此用二四柱一、以備二矢石所レ摧、上密二布椽一、覆レ土厚二三尺一、加二石炭一泥レ之、被以二濡被及椽栿之首一、並以二牛革一裹レ之、以防二火箭一、敵樓之制、與二戰棚一同。

【勦レ敵】78 テキヲツクス　敵を滅しつくす。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕吾唯知二進而勦レ敵爲レ快而已。

【畔レ敵】79 テキニソムク　敵にそむく。敵と抗戰せぬこと。〔漢書、馮奉世傳〕今乃有二畔レ敵之名一、大爲二中國羞一。〔注〕如淳曰、不二敢當レ敵攻戰一、爲二畔敵一也。

【敵不過】80 ti^{2} pu kuo^{4}　敵し得ない。かなはない。



敵樓（三才圖會）

【敵不住】81 ti^2 pu chu^4 敵しない。叶はない。

【敵不レ可レ假】82（テキハユルスベカラズ） 敵は宜しく全滅すべきもので、假借してはならぬ。〔史記、春申君傳〕敵不レ可レ假、時不レ可レ失。

【敵本主義】83（テキホンシユギ） 眞の目的を秘して、第一目的であるかのやうに裝ふこと。明智光秀が中國出陣の途中で「吾が敵は本能寺に在り」と言つて馬首をかへて本能寺の織田信長に向つた故事に本づく。

【因レ敵爲レ資】84（テキニヨリテシヲナス） 敵國から兵糧を徵發する。〔魏志、張既傳〕今軍無二見糧一、當二因レ敵爲レ資。〔北史、燕鳳傳〕控弦百萬、號令若二一軍一、無二輜重樵爨之苦一、輕行速捷、因レ敵取レ資、此南方所二以疲弊一、北方所二以常勝一也。

【料レ敵若レ神】85（テキヲハカルコトカミノゴトシ） 敵狀をおしはかる事、神の如く明かなことをいふ。〔唐書、韓充傳〕始帝遣レ人、問二破レ賊期一、充對、汴天下咽喉、臣頗習二其人一、然王師臨レ之、一月可レ破、方二旬卽克、帝喜曰、充料レ敵若レ神。

【量レ敵而後進】86（テキヲハカツテノチニススム） 敵の多寡を量つてから進擊すること。〔孟子、公孫丑上〕孟施舍之所レ養レ勇也、曰、視レ不レ勝猶レ勝也、量レ敵而後進、慮レ勝而後會、是畏二三軍一者也。

【夐】13355 ケイ 敻(3−5731)の本字。〔正字通〕夐、俗作レ敻、非。

【敐】13356 イン 〔集韻〕羊進切 震

つく。〔集韻〕敐、擣也。

【敶】13357 一 チン ヂン 〔集韻〕直刃切 震 二 チン ヂン 〔集韻〕地鄰切 眞

小篆 一二❶つらねる。〔說文〕敶、列也、从レ攴陳聲。❷しく。〔廣雅、釋詁三〕敶、布也。❸或は陳(11−41698)に作り、又、陣(11−41667)に作る。〔說文、段注〕此本敶列字、後人叚二借陳一爲レ之、陳行而敶廢矣。〔集韻〕敶、或省、亦作レ陣。

【斄】13358 リ 𠩺(2−2983)の譌字。〔正字通〕斄、𠩺字之譌。

【敷】13359 フ 〔集韻〕芳無切 虞 ㄈㄨ fu^1

小篆 ❶しく。㋑ほどこす。敷(5−13328)に同じ。〔說文〕敷、攲也、从レ攴尃聲、周書曰、用敷二遺後人一。〔段注〕俗作レ敷、古寸與レ方多通用。〔書、康王之誥〕用敷二遺後人休一。〔傳〕用布二遺後人之美一。㋺のべひろげる。〔詩、小雅、小旻〕敷二于下土一。〔傳〕敷、布也。〔孔子家語、致思〕敷二其五教一。〔注〕敷、布也。〔穆天子傳、六〕敷二筵席一。〔注〕敷、鋪也。〔宋史、儒林五、范沖傳〕沖敷二衍經旨一、因以規諷。㋩つらねる。〔書、舜典〕敷奏以レ言。〔傳〕敷、陳也。㋥わける。〔書、禹貢〕禹敷レ土。〔馬注〕敷、分也。〔漢書、地理志上〕禹敷レ土。〔注〕師古曰、敷、分也、謂二分別治一レ之。㋭ちらす。ちる。〔廣韻〕敷、散也。〔書、舜典、傳〕敷、陳也。〔疏〕敷者、布散之言。〔張衡、東京賦〕武士星敷。〔注〕綜曰、敷、布也。㋬ひろがる。ひろげる。分散する。〔素問、寶命全形論〕木敷者其葉發。〔注〕敷、布也。〔漢書、禮樂志〕尃二與萬物一。〔注〕師古曰、尃、古敷字、敷與、言二開舒一也。㋣をさめる。〔孟子、滕文公上〕擧レ舜而敷治焉。〔注〕敷、治也、書曰、禹敷レ土、治レ土也。❷あまねし。あまねく。〔詩、周頌、賚〕敷レ時繹思。〔箋〕敷、猶レ徧也。❸おほきい。おほいに。溥(7−17957)に通ず。〔說文通訓定聲〕敷、叚借爲レ溥。〔詩、大雅、常武〕鋪二敦淮濆一。〔釋文〕鋪、韓詩作レ敷、云、大也。❹草木が繁茂する。蒪(9−31891)に通ず。〔說文通訓定聲〕敷、叚借爲レ蒪。〔漢書、地理志上〕篠蕩既敷。〔注〕師古曰、敷、謂二布レ地而生一也。❺專(4−7433)に通ず。〔後漢書、荀淑傳、汪爽肅專、注〕專、本或作レ敷。❻布(4−8778)に通ず。〔詩、商頌、長發〕敷政優優。〔孔子家語、正論〕布政優優。❼傅(1−939)に通ず。〔集韻〕敷、或作レ傅。〔漢書、宣帝紀、傅二奏其言一、注〕師古曰、傅、讀曰レ敷。❽姓。〔奇姓通〕敷季雅、犍爲人、洪武中松溪知縣。❾現㋑足りる。㋺塗沫する。

參考 ノブ。ヒラ。

【敷闇】1（シキヤミ） 非常なくらやみ。

【敷彝】2（フイ） 清、王訓(7−20823‥314)の字。

【敷遺】3（フヰ） 敷き及ぼす。のこしほどこす。〔書、康王之誥〕戡定二厥功一、用敷二遺後人休一。〔傳〕當下盡和二天下賞罰一、能定二其功一、用布中遺後人之美上、言三施二及子孫無窮一。

【敷佑】4（フイウ） ほどこしたすける。德教をしき施し四方をたすける。〔書、金縢〕乃命二于帝庭一、敷二佑四方一。〔傳〕受二命於天帝一、爲二天子一、布二其德教一、以佐二佑四方一。〔傅玄、晉四廂樂歌〕敷二佑四方一、如二日之升一。〔司馬光、交趾獻二奇獸一賦〕三光登清、萬靈敷佑。

【敷油】5 fu^1 yu^2 油を塗る。油をひく。

【敷蘛】6（フイク） 草木の盛に茂るさま。〔左思、吳都賦〕異荂蓲蘛。〔注〕善曰、爾雅曰、蘛、榮也、郭璞曰、蘛、猶レ敷、蘛、亦草之貌也、蘛、與レ蘛同、庾倶切、蓲、與レ敷同、無倶切。

【敷榮】7（フエイ） 草木が茂り榮える。茂つて花が咲く。〔王羲之、與二謝萬一書〕頃東遊還、脩二植桑果一、今盛敷榮。〔王筠、蜀葵花賦〕仰二椒屋一而敷レ榮、値二蘭房一而舒レ藻。〔許敬宗、掖庭山賦應詔〕百卉敷榮、六合清朗。

【敷英】8（フエイ） ❶敷き廣がつて花が咲く。〔傅咸、芸香賦〕攜二昵友一以逍遙兮、覽二偉草之敷英一。❷明、王時柯(7−20823‥1606)の字。

【敷衍】9（フエン） ❶しきひろげる。おしひろめる。敷暢。〔張衡、西京賦〕篠蕩敷衍、編レ町成レ篁。〔注〕綜曰、敷、布也、衍、蔓也。〔舊唐書、代宗紀贊〕埽二除沴氣一、敷二衍德音一。❷意味や義理をひきのばして他方面に及ぼす。敷演。〔宋史、儒林五、范沖傳〕上雅好二左氏春秋一、命三沖與二朱震一專講、沖敷二衍經旨一、因以規諷。❸fu^1 yen^3 ㋑苟且に付す。ごまかす。お茶を濁す。眞面目でない。㋺融通する。

【敷演】10（フエン） しきのべる。敷衍。〔魏志、高堂隆傳〕於レ是敷二演舊章一、奏而改焉。〔吳志、胡綜傳〕賦敷二演皇極一、流二化萬里一。〔成公綏、天地賦序〕賦者貴下能分二理賦物一、敷中衍無方上。

【敷洽】11（フカフ） あまねくしき及ぶ。〔張說、南省就二竇尚書山亭一尋二花柳一宴序〕況乃五教敷洽、萬邦

懷レ和。

【敷求】12（フキウ）あまねくもとめる。廣くさがす。〔書、伊訓〕敷二求哲人一、俾レ輔二于爾後嗣一。〔蔡傳〕敷、廣也、廣求二賢哲一、使レ輔二爾後嗣一也。〔詩、大雅、抑〕罔四敷求三先王一、克共二明刑一。〔箋〕無丁廣索丙先王之道、與乙能執二法度一之人甲乎。

【敷居】13（シキヰ）㊀引戸・障子等の下にある横木。しきみの轉。下檻。㊁坐るために地上に敷くもの。ござ・むしろの類。

〖敷居越〗14（シキヰゴシ）敷居の此方から彼方に向つて事をすること。

【敷金】15（シキキン）家屋土地などを借りる時、保證として貸主に預けおく金。

【敷具】16（フグ）座上に敷きかざるもの。座上の美しいしきもの。〔十住論〕諸佛師子座、金薄幃帳、柔輭滑澤、種種天衣、以爲二敷具一。

【敷化】17（フクワ）教化をしきひろめる。布化。〔阮籍、與二晉文王一薦二盧播一書〕應レ期作レ輔、論レ道敷レ化。〔宋書、裴松之傳〕敷化所レ莅、惠訓融遠。〔王融、永明九年策二秀才一文〕或設レ虡待レ賢、用レ能敷二化一時一、餘二烈千古一。〔沈約、安陸昭王碑文〕公下レ車敷レ化、風動神行。

【敷瓦】18（シキガハラ）㊀地上や土間などにしきつめた瓦。㊁茶道で風爐の下に敷く瓦。

【敷翫】19（フグワン）のべ翫味する。つらねもてあそぶ。〔後漢書、文苑下、趙壹傳〕高可下敷二翫墳典一、起中發聖意上。

【敷教】20（フケウ）教をしく。教化を普及させる。〔書、舜典〕百姓不レ親、五品不レ遜、汝作二司徒一、敬敷二五教一、在レ寬。〔褚琇、奉下和聖製送三張說上二集賢學士一賜上宴詩〕惟師恢二帝則一、敷レ教叶二天工一。

【敷縣】21（フケン）つけかける。敷は傅と通ず。〔墨子、備蛾傳〕以二鐵璅一敷二縣二脾上衡一。〔閒詁〕敷、傅通、謂四鐵璅傅二著縣三繫縣脾之上衡一也。

【敷言】22（フゲン）をしへをしく。一說、敷衍した言。〔書、洪範〕皇極之敷言、是彝是訓、于レ帝其訓。〔蔡傳〕敷言、上文敷衍之言也。

【敷五】23（フゴ）字號。㊀明、唐志契（**2－3709**・・427）の字。㊁明、彭教（**4－10003**・・29）の字。

【敷弘】24（フコウ）しきひろめる。弘敷。〔魏志、高柔傳〕敷二弘大猷一、光二濟先軌一。〔皇甫謐、三都賦序〕然則賦也者、所下因レ物造レ端、敷二弘體理一、欲中人不上能レ加也。

【敷告】25（フコク）あまねくつげる。普告。布告。〔晉書、劉曜載記〕可下敷二告天下一、使上知二區區之朝思レ聞レ過也。

【敷簀】26（シキス）敷物に供する簀。

【敷贊】27（フサン）のべたすける。敷讚。〔宋書、劉穆之傳〕翼二新王化一、敷二贊百揆一。

【敷讚】28（フサン）敷贊に同じ。〔傳亮、爲二宋公一求三加二贈劉前軍一表〕敷二讚百揆一、翼二新大猷一。

【敷施】30（フシ）普く敷き施す。普施。〔書、皐陶謨〕翕受敷施。〔傳〕能合二受三六之德一、而用レ之布二施政教一。

【敷紙】31（シキガミ）㊀紙で作つた敷物。㊁物の下に敷く紙。

【敷菑】32（フシ）開墾する。惡を除く喩。菑は荒地。〔書、梓材〕惟曰、若レ稽レ田、既勤敷菑。〔蔡傳〕敷菑、廣去二草棘一也、敷菑、以喩レ除レ惡。

【敷時】33（フジ）これをしく。此の事を偏く布く。〔詩、周頌、賚〕敷レ時繹思、我徂維求レ定。〔箋〕敷二是文王之勞心一、能陳繹而行レ之。

【敷秀】34（フシウ）しげりさかえる。〔宋史、樂志〕發レ榮敷レ秀、動植滋豐。

【敷砂】35（シキスナ）一面に布いた砂。

【敷寫】36（フシャ）㊀書きつらねる。〔文心雕龍、頌讚〕原夫頌惟典雅、辭必清鑠、敷寫似レ賦、而不レ入二華侈之區一、敬愼如レ銘、而異二乎規戒之域一。㊁（シキウツシ）紙の下に書畫などを敷いて上からうつしとること。

【敷城】37（フジヤウ）㊀郡名。㋑後魏、置く。陝西省洛川縣の北。㋺後魏、置く。山西省臨汾縣の地。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、鄜州、洛川縣、定陽城〕後魏敷城郡、領二定陽縣一。㊁縣名。㋑後魏、置く。山西省臨汾縣の地。㋺後魏、置く。山西省崞縣の地。㋩後魏、置く。陝西省洛川縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、鄜州〕洛川縣、州東六十里、漢鄜縣地、屬二左馮翊一、後魏爲二敷城縣地一、後周置二洛州縣一、屬二敷州一、隋因レ之、今縣城周二二里有奇、編戶六十里。

【敷述】38（フジユツ）しきのべる。〔蜀志、楊戲傳〕司農性才、敷述允章、藻麗辭理、斐斐有レ光。

【敷衽】39（フジン）もすそを布く。〔楚辭、離騷〕跪敷レ衽以陳レ辭兮、耿吾既得二此中正一。〔注〕敷、布也、衽、衣前也。〔宋書、謝靈運傳論〕敷レ衽論レ心、商二權前藻一。

【敷水】40（フスイ）㊀川の名。陝西省華陰縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、華州、華陰縣〕敷水、縣西二十里出二華州東南敷水谷一、東北流經二縣境一入二渭水一、一名二敷水渠一、唐開元二年、姜師度鑿レ之、以洩二水害一、五年、刺史樊忱、復鑿レ之使レ通二渭漕一。㊁鎭の名。陝西省華陰縣の西。〔九域志〕華陰縣有二敷水鎭一。

【敷蘂】41（フズイ）敷きひろがつた花しべ。〔左思、蜀都賦〕敷蘂葳蕤、落英飄颻。〔注〕銑曰、敷、布也、蘂、花心也。

【敷政】42（フセイ）㊀政事を敷き弘める。〔詩、商頌、長發〕不レ競不レ絿、不レ剛不レ柔、敷レ政優優、百祿是遒。㊁縣名。唐、置く。故城は陝西省安塞縣の西南。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、安塞縣〕敷政縣、縣西南百二十里、後魏置二因城縣一、屬二上郡一、後周廢、尋復置、屬二延州一、隋因レ之、舊唐書、武德二年、移二因城縣一治二金城鎭一、改爲二金城縣一、又於二界內一置二永州領・金城・洛盤・新昌土塠四縣一、貞觀四年、移二永州於洛源縣一、八年廢二洛盤等三縣一、入二金城一、屬二延州一、天寶元年、改二金城一爲二敷政縣一、宋因レ之、元廢、今爲二敷政巡司一。

【敷石】43（シキイシ）しきならべた石。

【敷設】44（フセツ）しきまうける。構へ据ゑつける。布設。

【敷宣】45（フセン）しきのべる。〔後漢書、皇后上、鄧皇后紀〕敷二宣景耀一、勒二勳金石一。〔晉書、下壺傳〕敷二宣五教一、實在レ任レ人。

【敷淺】46（フセン）あさいこと。膚淺（**9－29829**・・23）に同じ。〔顧野王、上二玉篇一表〕末學敷淺、誠所レ未レ詳。

〖敷淺原〗47（フセンゲン）原の名。其の所在について數說がある。〔書、禹貢〕岷山之陽、至二于衡山一、過二九江一、至二于敷淺原一。㊀傳陽山を敷淺原とする說。傳陽山は今の江西省德安縣の南。〔書、禹貢、傳〕敷淺原、一名二傳陽山一、在二揚州豫章界一。〔書、禹貢、今古文注疏〕地理志曰、豫章歷陵縣南有二傳陽山一、傳易川在レ南、古文以爲二敷淺原一。㊁傳易川を以て敷淺原とする說。〔漢書、地理志上、豫章郡、歷陵、注〕傳易山、傳易川在レ南、古文以爲二傳淺原一。〔書、禹貢、集注音疏〕敷・傳、古通用、則敷淺原卽傳易川也、蓋傳易川發二源於傳易山一、故卽以二山名一名二其川一、據二其流一言、則曰二傳易川一、推二本其始一、則謂二之敷淺原一、水經言二敷淺原地一者、亦謂二傳易川上之地一。〔王鳴盛尙書後案〕敷淺原、水也、傳以爲二傳易山一誤、疏曲二附傳一、刪二去傳易川三字一、非。㊂敷陽山の東を敷淺原とする說。〔通典、州郡、古揚州下、潯陽〕江州或爲二潯陽郡一、領二縣三一、潯陽、注、又縣有二蒲塘驛一、卽漢歷陵縣也、王莽改爲二蒲亭一、今驛前有二敷淺原一、在二西數十里一、有二傳陽山一。㊃廬山を敷淺原とする說。〔書、禹貢、金履祥注〕廬山中原田連亙、人民奠居、所三以有二敷淺原之名一、後世匡レ俗結レ廬居レ之、遂名二廬阜一、而其支隴林麓、猶存二舊名一爾。〔夏允彝、禹貢合注〕敷淺原在二湘水東北一、卽廬阜也、中有二原田連亙一、人民錯居、故有二敷淺原之名一、傳陽正在二其西南一、謂二敷淺原之陽一也。〔朱熹、九江彭蠡辨〕至二於今之所謂敷淺原者一、爲レ山甚小而庳、不レ足二以有レ所二表見一、而其全體正脈遂起而爲二廬阜一、則甚高且大。〔朱熹、答二程泰之一書〕蓋詳二經文敷淺原一、合二是衡山東北一支盡處一、疑、卽今廬山。㊄江北に在るといふ說。〔東塾讀書記、尙書〕衡山在二江之南一、自二衡山一過二九江一、則至二江北一矣、敷淺原當レ在二江北一、安得レ在二豫章郡境一乎。㊅和州六合の閒に在るといふ說。〔清、姚鼐說〕。

【敷奏】48（フソウ）のべ奏する。奏聞する。敷は陳、奏は進。〔書、舜典〕敷奏以レ言、明試以レ功、車服以レ庸。〔傳〕敷、陳、奏、進也。〔疏〕敷者、布散之言、與二陳設一義同、故爲レ陳也、奏、是進上之語、故爲レ進也。〔詩、商頌、長發〕何天之龍、敷二奏其勇一。〔後漢書、章帝紀〕敷奏以レ言、則文章可レ採。〔魏志、盧毓傳〕古者敷奏以レ言、明試以レ功。〔孔子家語、弟子行〕不レ戁不レ悚、敷二奏其勇一、強乎武哉。

【敷足】49 fu^1 tsu^2 十分な。足る。

【敷島】50（シキシマ）㊀日本の別名。〔榮華物語、二十、御賀〕。㊁（シキシマノ）枕詞。㋑大和の枕詞。〔曾舟集、

序〕。㋺日本（ヤマト）の枕詞。〔續拾遺集、一、春上〕。

【敷島道】51（シキシマノミチ） 和歌の道をいふ。〔千載集、序〕敷しまのみちも盛りにおこりにおこりて。

【敷道】52（フダウ） 道德を敷きひろめる。〔晉書、成帝紀〕王以二明德茂親一、居二宗師之重一、宜三敷レ道養レ德、靜二一其操一。〔江淹、爲二蕭驃騎一讓レ封第三表〕敷道之寄、管レ物成レ務、總錄之重、匡レ績毗レ風。

【敷地】53（シキチ） 建築などをするために使用する土地。

【敷治】54（フチ） 治める。又、分擔して治める。〔孟子、滕文公上〕堯獨憂レ之、擧レ舜而敷治焉。〔注〕敷、治也、書曰、禹敷レ土、治レ土也。〔焦循正義〕敷訓レ布、布、散也、散亦分也、敷治卽分治、堯不レ能二一人獨治一、故使三舜分二治之一。

【敷智】55（フチ） 姓氏。

【敷張】55'（フチャウ） しき廣がる。〔神異經、南荒經〕南方大荒有レ樹焉、云云、高五十丈、敷張如レ蓋。

【敷暢】56（フチャウ） しきのべる。〔孔安國、尙書序〕約レ文申レ義、敷二暢厥旨一、庶幾有レ補二於將來一。

【敷仲】57（フチュウ） 明、黃澤（**12−47926**‥624）の字。

【敷陳】58（フチン） 廣く布きのべる。明かにのべる。鋪敍。〔淮南子、要略〕分二別百事之微一、敷二陳存亡之機一。〔范甯、穀梁傳序〕于レ是乃商二略名例一、敷二陳疑滯一。〔魏志、管寧傳〕敷二陳墳素一、坐而論レ道。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、魏太子詩〕析レ理實敷陳。

【敷條】59（フデウ） 木の枝をしげらせる。敷枝。〔應瑒、迷迭賦〕朝敷レ條以誕レ節、夕結レ秀而垂レ華。

【敷疊】60（シキダタミ） 座敷に敷く疊。

【敷天】61（フテン） あまねき天。普天（**5−13982**‥72）に同じ。敷天之下を見よ。

〔敷天之下〕62（フテンノモト） 天のあまねくおほふところ。天下ぢゆう。〔詩、周頌、般〕於皇時周、陟二其高山一、嶞山喬嶽、允猶翕レ河、敷天之下、裒レ時之對、時周之命。〔箋〕徧天之下、衆山川之神、皆如レ是配而祭レ之。

【敷展】63（フテン） しきのべる。〔北史、尉元傳〕敷二展「德音一。

【敷土】64（フド） 土地を分つ。又、土地を治める。〔書、禹貢〕禹敷レ土、隨レ山刊レ木、奠二高山大川一。〔馬注〕敷、分也。〔蔡傳〕敷、分也、分レ土別レ地、以爲二九州一也。〔孟子、滕文公上、敷治焉、注〕敷、治也、書曰、禹敷レ土、治レ土也。

【敷德】65（フトク） 明、溫如璋（**7−17968**‥270）の字。

【敷納】66（フナフ） 言語を敷きのべて君の心に納れる。〔書、益稷〕敷納以レ言、明庶以レ功、車服以レ庸。〔蔡傳〕敷納者、下陳而上納也。

【敷放】67 fu^1 fang^4 ㊀廣げる。引伸ばす。㊁分配する。配布する。

【敷板】68（シキイタ） ㊀下にしく板。㊁廏のふみ板。〔古今著聞集、二十、魚蟲禽獸〕敷板も牛の角にあたりて。

【敷皮】69（シキガハ） 敷物とする毛皮。

【敷披】70（フヒ） 布き開く。〔潘岳、閑居賦〕遊鱗瀺灂、菡萏敷披。〔注〕銑曰、敷披、開也。

【敷布】71（フフ） ㊀しきのべる。〔釋名、釋典藝〕詩、之也、志之所レ之也、興レ物而作、謂二之興一、敷二布其義一、謂二之賦一、事類相似、謂二之比一。㊁（シキフ） 蒲團の上にしく布。

【敷佈】72 fu^1 pu^4 あまねくしく。

【敷敷】73（フフ） ひろく連るさま。〔韓愈、南山詩〕敷敷花披レ萼、闟闟屋摧レ霤。

【敷物】74（シキモノ） 坐る時に敷くもの。

【敷粉】75（フフン） fu^1 fen^3 白粉を塗る。

【敷紛】76（フフン） 草木の茂り盛なさま。一說に、莖が多いさま。〔王褒、洞簫賦〕洞條暢而罕レ節兮、標敷紛以扶疎。〔注〕善曰、敷紛、茂盛、向曰、敷紛、莖多皃。

【敷棻】77（フフン） 草木の茂り榮える。敷榮（7）に同じ。〔後漢書、班固傳上〕桑麻敷棻。〔注〕爾雅曰、敷、布也、棻、茂盛也。

【敷文】78（フブン） ㊀文字をのべつらねる。文章を作る。文章を書く。〔晉書、夏侯湛傳論〕觀二其抵疑詮レ理、本二窮通於自天一、作レ誥敷レ文、流二英聲於孝悌一。〔謝靈運、山居賦〕研レ書賞レ理、敷レ文奏レ懷。㊁清、葉方蔚（**9−31387**‥251）の字。

【敷聞】79（フブン） あまねくきこえる。廣く傳はる。〔書、文侯之命〕昭升二于上一、敷聞在レ下。〔傳〕明升二于天一、而布聞在二下民一。

【敷網】80（シキアミ） 下に敷いて用ひる網。

【敷妙】81（シキタヘ） ㊀敷布團。㊁（シキタヘノ） 枕・床・衣・袖・家の枕詞。〔萬葉集、二、長歌〕敷妙乃袖交へし君。

【敷揚】82（フヤウ） のべあげる。のべあらはす。〔後漢書、張皓傳〕不レ能下敷二揚五教一、翼中讚日月上。〔柳宗元、禮部賀レ立二皇太子一表〕陛下奉二率前規一、敷二揚盛典一。

【敷藥】83 fu^1 yao^4 藥を塗る。膏藥をはる。

【敷愉】84（フユ） よろこびをのべひろげる。たのしむ。〔古樂府、隴西行〕好婦出迎レ客、顏色正敷愉。

【敷蕍】85（フユ） 草の茂るさま。〔駢雅、釋詁一〕敷蕍、茂盛也。〔左思、吳都賦〕異荂蓲蘛、〔注〕善曰、爾雅曰、蕍、榮也、郭璞曰、蕍猶二敷蕍一、亦草之貌也、蘛、與レ蕍同。

【敷與】86（フヨ） のべひろげる。尃與。〔漢書、禮樂志〕尃二與萬物一。〔注〕師古曰、尃、古敷字、敷與、言二開舒一也。

【敷用】87 fu^1 yung^4 使用に十分である。入用に足る。

【敷和】88（フワ） 和を布く。〔素問、氣交變大論〕其德敷レ和。〔注〕敷、布也。〔柳宗元、唐故朝散大夫永州刺史崔公墓誌〕布二令諸夏一、敷二和六戎一。

【敷松葉】89（シキマツバ） 庭の霜除（シモヨケ）に枯松葉を地面に敷くこと。又、其の敷いた枯松葉。

【敷于散】90（フウサン） 正月一日に飮む藥の名。〔荊楚歲時記〕正月一日、云云、進二敷于散一、服二却鬼丸一。〔注〕敷于散、出二葛洪煉化篇方一、用二柏子仁・麻仁・細辛・乾薑・附子等一分爲レ散、井華水服レ之。

【敷蛇腹】91（シキジャバラ） こてやすねあてなどを蛇腹編にして作つたもの。

【敷蒲團】92（シキブトン） 寢る時に下に敷くふとん。

【敷目縅】93（シキメヲドシ） 鎧の縅方。二色の絲で縅したもの。

【敷】13359'

フ　敷（**5−13359**）に同じ。

【𣀳】13360

タ　ダ　〔玉篇〕大可切　哿

うつ。〔篇海〕𣀳、擊也。

【㪹】13361

[一]ハウ　ヘウ　〔集韻〕披交切　肴

[二]ヘウ　ベウ　〔集韻〕紕招切　蕭

[一]**すてる**。拋（**5−11948**）に同じ。〔廣韻〕拋、棄也、㪹、上同。[二]**うつ**。或は摽（**5−12651**）に作る。〔集韻〕㪹、擊也、或作レ摽。

【敹】13362

レイ　盭（**8−23087**）に同じ。〔集韻〕盭、或省。

【數】13363

[一]ス　シュ　〔集韻〕爽主切　ㄕㄨˇ　shu^3　麌

[二]ショ　ソ　〔集韻〕爽阻切　語

[三]ス　シュ　〔集韻〕雙遇切　ㄕㄨˋ　shu^4　遇

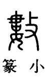
[四]サク　〔集韻〕色角切　ㄕㄨㄛˋ　shuo^4　覺

[五]ソク　〔集韻〕蘇谷切　屋

[六]ショク　ソク　〔集韻〕趨玉切　ㄘㄨˋ　ts'u^4　沃

[七]シュク　スク　〔集韻〕所六切　屋

慣　スウ



小篆

[一][二]㊀**かぞへる**。㋑かずをあらためる。〔禮、曲禮下〕問二國君之富一、數レ地以對。〔漢書、石慶傳〕上問二車中幾馬一、慶以レ策數。㋺つもる。計算する。〔說文〕數、計也、从レ攴婁聲。〔周禮、地官、廩人〕以二歲之上下一數二邦用一。〔注〕數、猶レ計也。㋩かぞへいふ。よみあげる。〔禮、儒行〕遽數レ之、不レ能レ終二其物一。〔疏〕數、說

也。㋥しらべる。〔荀子、王霸〕不レ足レ數二於大君子之前一。〔注〕數、閲也。㋭かずにいれる。かぞへとる。〔魏志、禰衡傳〕餘子碌碌、莫レ足レ數。㋬わきまへる。思ふ。〔字彙〕數、又辨也。〔詩、小雅、巧言〕心焉數レ之。〔箋〕思二數善言一。〔集傳〕數、辨也。❷**せめる**。〔廣雅、釋詁一〕數、責也。〔左氏、昭、二〕使二吏數一レ之。〔注〕責二數其罪一。〔列子、周穆王〕後世其追數二吾過一乎。〔釋文〕數、責也。〔戰國、秦策〕使二韓倉數一レ之。〔注〕數、讓。[三]❶**かず**。㋑量をかぞへるに使用する稱呼。一・二・三・百・萬など。〔禮、王制〕度量數制。〔注〕數、百千也。〔漢書、律歷志上〕數、一十百千萬也、所下以筭二數事物一、順中性命之理上也。㋺多少の量。〔類篇〕數、枚也。〔羣經音辨〕計レ之有二多少一曰レ數。〔周禮、夏官、量人〕制二其從獻脯燔之數量一。〔注〕數、多少也。㋩ほどあひ。〔易、節〕君子以制二數度一。〔疏〕數度、謂二尊卑禮命之多少一。㋥定った多少の量。定量。〔禮、王制〕布帛精麤不レ中レ數。〔注〕數、升縷多少。㋭なかま。〔漢書、衞青傳〕不三以爲二兄弟數一。❷**若干**。若干の。〔孟子、盡心上〕其傳爲レ之請二數月之喪一。❸**算術**。かぞへかた。つもりかた。周代六藝の一。〔周禮、地官、大司徒〕禮樂射御書數。〔疏〕數、九數之計。〔周禮、地官、保氏〕六曰、九數。〔注〕九數、方田・粟米・差分・少廣・商功・均輸・方程・贏不足・旁要、今有二重差・夕桀・句股一也。❹**きそく**。きまり。のり。〔太玄經、玄掜〕數爲二品式一。〔晉武帝、華林園集詩〕不レ常二厥數一。〔注〕數、猶レ禮也。❺**けじめ**。しな。わかち。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕監二督方部之數一。〔注〕善曰、數、謂二等差一也。❻**ことわり**。道理。〔老子、五〕多言數窮。〔河上公注〕數、謂二理數一也。〔管子、霸言〕固其數也。〔注〕數、理也。〔呂覽、壅塞〕世之直士、其寡不レ勝レ衆、數也。〔注〕數、道數也。❼**運命**。さだめ。〔應璩、與二侍郎曹長思一書〕春生者繁華、秋榮者零悴、自然之數、豈有レ恨哉。〔江淹、雜體、劉太尉傷亂詩〕治亂惟冥數。〔注〕銑曰、冥昧亦有二定數一。❽**いきほひ**。おもむき。情勢。〔呂覽、決勝〕知二先後遠近縱舍之數一。❾**曆法**。〔淮南子、氾論訓〕周室之執レ數者也。〔注〕數、歷術也。❿**筮法**。〔史記、日者傳〕試二之卜數一。〔注〕索隱曰、數、筮也。⓫**わざ**。技術。〔廣雅、釋言〕數、術也。〔孟子、告子上〕今夫弈之爲レ數。〔注〕數、技也。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕監二督方部之數一。〔注〕良曰、數、術也。⓬**はかりごと**。策略。〔呂覽、察賢〕任二其數一而已矣。〔注〕數、術也。⓭**手段**。**方法**。〔荀子、勸學〕其數則始二乎誦一レ經。〔注〕數、術也。[四]❶**しばしば**。婁(**3－6383**)に通ず。〔說文通訓定聲〕數、或曰、叚借爲レ婁。〔史記、游俠、郭解傳〕每レ至二踐更一數過。〔注〕索隱曰、數、頻也。〔漢書、賈山傳〕賦斂重數。〔注〕師古曰、數、屢也。❷**しばしばす**。くりかへす。〔禮、祭義〕祭不レ欲レ數、數則煩。〔論語、里仁〕事レ君數、斯辱矣。〔集注〕數、色角反、煩數也。〔漢書、汲黯傳〕上常賜二告者一數。〔注〕師古曰、數者、非レ一也。❸**はやい**。はやくする。〔爾雅、釋詁〕數、疾也。〔淮南子、說林訓〕數レ之則不レ中。〔注〕數、疾也。❹**ちかづく**。ちかい者。〔左氏、文、十六〕無二日不レ數二于六卿之門一。〔注〕數、不レ疏。〔孔子家語、賢君〕故夫不レ比二於數一而比二於疏一。〔注〕數、近。❺**うながす**。**せまる**。促(**1－664**)に通ず。〔說文通訓定聲〕數、或曰、叚借爲レ促。〔集韻〕數、促也。〔爾雅、釋草〕莽、數節。〔釋文〕數、猶レ促也。❻**せく**。いそぐ。あわただしい。數數(43)を見よ。[五]**はやい**。すみやか。速(**11－38897**)に通ず。〔說文通訓定聲〕數、叚借爲レ速。〔禮、曾子問〕不レ知二其已之遲數一。〔注〕數、讀爲レ速。〔史記、屈原賈生傳〕淹數之度兮。〔注〕集解曰、數、速也。[六]❶**こまかい**。〔詩、小雅、魚麗、傳〕庶人不二數罟一。〔釋文〕數、細也。〔孟子、梁惠王上〕數罟不レ入二洿池一。〔注〕數罟、密網也、密細之網、所三以捕二小魚鼈一者也。❷**はやい**。〔集韻〕數、汲レ水疾也。[七]❶**せまりうながす**。〔集韻〕數、數數、迫促意。❷**こす**。したむ。縮(**8－27815**)に通ず。〔周禮、春官、司尊彝〕醴齊縮酌。〔注〕故書、縮爲レ數。

[名乘] ノリ。ヒラ。カズ。

【數位】1 shu^4 wei^4 數名。數人。幾人。

【數家】2 スウカ ❶數氏の流派。〔後漢書、鄭玄傳〕遂令下經有二數家一、家有中數說上。❷五六軒の家。〔劉長卿、贈二西鄰盧少府一詩〕苔封三徑絕、溪向二數家一通。〔王安石、卽事詩〕縱橫一川水、高下數家村。❸術數を修めた人。〔漢書、東方朔傳〕上嘗使二諸數家射覆一。〔注〕師古曰、數家、術數之家也。

【數行】3 スウカウ ❶二三すぢ。涙をはらはらと落す時にいふ。〔戰國、楚策〕安陵君泣數行下。〔晏子、重而異者〕景公置二酒于泰山之上一、酒酣、公四二望其地一、喟然嘆、泣數行而下。〔史記、項羽紀〕項王泣數行下。〔漢書、蘇武傳〕陵泣下數行、因與レ武決。❷スウギヤウ 文字の幾つかのくだり。〔羊士諤、寄二江陵韓少尹一詩〕蜀國魚箋數行字、憶レ君秋夢過二南塘一。

【數行書】4 スウカウノショ 二三行または五六行の書。〔杜甫、奉下酬嚴公寄二題野亭一之作上詩〕拾遺曾奉二數行書一、懶性從來水竹居。

【數行涙】5 スウカウノナミダ いくすぢかの涙。涙が幾すぢも並び落ちること。〔高適、送下李少府貶二峽中一王少府貶中長沙上詩〕巫峽啼猿數行涙、衡陽歸雁幾封書。

【數行竝下】6 スウギヤウナラビクダル 書を讀むに幾行も一時に讀み下すこと。讀書の眼のするどいこと。〔後漢書、應奉傳〕奉讀レ書、五行竝下。〔北齊書、河南王孝瑜傳〕讀書敏速、十行倶下。〔梁書、昭明太子傳〕太子讀書數行竝下、過レ目皆憶。〔南史、宋孝武帝紀〕少機穎、神明爽發、讀書七行倶下。〔北史、裴讓之傳〕讓之弟諏之、嘗從二韋景一借二書百卷一、十許日便返、景疑二其不レ能レ讀、每卷策問、應答無レ遺、景歎曰、應奉五行倶下、禰衡一覽便記、今復見二之於裴生一矣。〔五雜組、人〕人有二一目數行倶下者一、非二眞倶下一也、但目捷耳、遲速相去甚者、差四五倍、不二但一二一也、一覽無レ遺、則嘗有レ之矣、閩林誌、避レ雨寓二染坊一、得二其染帳一、漫閲レ之匆匆而去、越二一日一、其家回祿、索レ帳者紛然、莫レ知レ爲レ計、林復過レ之曰、我能記レ之、取レ筆疾錄、不レ爽二一字一、此天生之資、非二強記可レ到者一、嘉禾周鼎、讀二百韻詩一、一遍卽誦、又能從レ末倒誦、亦絕世之資矣、而功名不レ顯、蓋似レ有二別才一也。

【數學】7 スウガク 數量の理論・計量の法式等を研究する學問。算道。算術。算數。算學九章を見よ。

【數學鑰】8 スウガクヤク 書名。六卷。淸、杜知耕撰。古法の九章を列し、今の線面體三部の法を以て之に附屬す。〔四庫提要、子、算法類〕。

【數學九章】9 スウガクキウシヤウ 書名。十八卷。宋、秦九韶撰。數學書で九類に分る。一は大衍、二は天時、三は田域、四は測望、五は賦役、六は錢穀、七は營建、八は軍旅、九は市易といふ。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【數學地理】10 スウガクチリ 天文地理(**3－5833**・・1336)に同じ。

【數合】11 スウガフ 數度合戰すること。數度敵とわたりあふこと。〔後漢書、蓋延傳〕戰或日數合、頗有二剋獲一。〔梁書、韋叡傳〕執二白角如意一麾レ軍、一日數合。

【數奇】12 スウキ ❶ふしあはせ。不運。數は運命。サ

クと讀むは非。奇は耦の對で相合はぬこと。〔史記、李將軍傳〕以爲、李廣老數奇、毋レ令レ當二單于一、恐不レ得レ所レ欲。〔注〕孟康曰、奇、隻不レ耦也、師古曰、言、廣之命孤隻不二耦合一也、數音所具反。〔徐悱、古意酬三到長史溉登二琅邪城一詩〕寄レ言封侯者、數奇良可レ歎。〔白居易、歲暮病懷贈二夢得一詩〕共遣三數奇從二是命一、同教二步蹇一有二何因一。〔癸辛雜識〕攷二藝文類聚一、馮道期集、吾數奇薄命、王維詩、衞青不レ敗由二天幸一、李廣無レ功緣二數奇一、杜詩、數奇謫二關塞一、道廣存二箕潁一、坡詩、數奇逢二惡歲一、計拙集二枯梧一、觀二其偶對一、則數爲二命數一、非二疏數之數一。〔書言故事、不調類〕命乖曰二數奇一。❷數寄に同じ。

〘數奇屋〙13 スキヤ 茶會を催す庵。風流な家。數寄屋に同じ。〔書言字考節用集、二、乾坤門〕數奇屋。

【數寄】14 スキ 好（キス）の當字。もと數奇と書く。數奇（スウキ）と混ずるを以て寄に改む。❶好むこと。風流の道を好むこと。このみ。嗜好。好奇。好事。風雅。〔下學集、下、言辭門〕數奇、辟愛之義也。〔正保慶安節用集〕數奇。❷茶の湯。〔二水記、大永六年七月二十二日、青蓮院〕。

【數寄屋】15 スキヤ 好屋の意。茶會のために特に建てて設ける小さな庵。茶室。茶寮。數奇屋。〔好色二代男、三〕數奇屋の懸繪は、雪村の觀音と見えしが。

〘數寄者〙16 スキシヤ ❶風流人。❷色好みの人。すきもの。❸茶事を好む者。〔酒茶論〕本朝諺、謂レ好二茶者一曰二數寄者一。

【數朞】17 スウキ 數年(101)に同じ。朞は年月のひとまはり。〔班固、東都賦〕由二數朞一而創二萬代一。〔注〕濟曰、朞、年也。

【數器】18 スウキ 數をはかる器械。度量衡の通名。又、單にはかりをいふ。權衡。〔周禮、夏官、合方氏〕同二其數器一、壹二其度量一。〔注〕權衡不レ得レ有二輕重一。〔周禮、秋官、大行人〕同二數器一。〔注〕數器、銓衡也。〔孫詒讓正義〕廣雅釋器云、稱、謂二之銓一、文選褚淵碑文李注、引二韋昭漢書注一云、銓、稱錘、案、銓卽權也、合方氏、同二其數器一、注亦釋爲二權衡一、凡五權五量五度、通爲二數器一、此及下合方氏並以三度量與二數器一分擧上、故知下數器惟據二銓衡一言上也。

【數騎】19 スウキ 若干の騎兵。二三騎。〔日本外史、源氏前記、平氏〕重盛次子資盛、與二數騎一出獵。

【數義】20 スウギ 數箇の意味。多くの意味。〔馬氏文通、界說〕凡字之有二數義一者、未レ能レ拘二於一類一。

【數九】21 スウキウ 冬至をいふ。立冬以後九九八十一日目に在るからいふ。

【數窮】22 サクキユウ しばしば苦しむ。又、スウキユウと讀み、道理がつまる意とする。〔老子、五〕多言數窮、不レ如レ守レ中。〔河上公注〕數、謂二理數一也。

【數曲】23 スウキヨク ❶いくつかの樂曲。〔世說新語、傷逝〕顧彥先、平生好レ琴、及レ喪、家人常以レ琴置二靈牀上一、張季鷹往哭レ之、不レ勝二其慟一、遂徑上レ牀鼓レ琴、作二數曲竟一、撫レ琴曰、顧彥先頗復賞レ此不、因又大慟、遂不レ執二孝子手一而出。❷いくつかのくま。〔皇甫松、大隱賦〕春水兩派、晴山數曲。

【數過】24 スウクワ 漢代、外國の名。〔洞冥記、四〕元封三年、數過國獻二能言龜一頭一、長一尺二寸。

【數課】25 スウクワ かぞへしらべる。〔張衡、西京賦〕收レ禽擧レ胔、數二課衆寡一。

【數回】26 スウクワイ 二三度から五六度をいふ。たびたび。

【數丸】27 スウグワン 泥蟹の一種。土で丸を作るからいふ。〔酉陽雜俎、廣動植、鱗介篇〕數丸、形似二彭蜞一、競取レ土各作レ丸、丸數滿二三百一則潮至、一曰二沙丸一。

【數計】28 スウケイ 數へ計る。〔漢書、賈捐之傳〕貫朽而不レ可レ校、注〕師古曰、校、謂二數計一也。

【數頃】29 スウケイ 二三頃。頃は田百畝。〔史記、天官書〕其下圜如二數頃田處一。

【數闋】30 スウケツ 數曲(23)に同じ。闋は樂曲の一終。〔史記、項羽紀〕於レ是項王乃悲歌忼慨、自爲レ詩曰、云云、歌數闋、美人和レ之、項王泣數行下。

【數月】31 スウゲツ 數箇月。〔孟子、盡心上〕王子有二其母死者一、其傅爲レ之請二數月之喪一。

【數見】32 サクケン たびたび見る。屢〻會ふ。幾度も面會する。數見不レ鮮を見よ。〔後漢書、光武十王、東平憲王蒼傳〕手詔賜レ蒼曰、骨肉天性、誠不下以二遠近一爲中親疏上、然數見二顏色一、情重二昔時一。

〘數見不レ鮮〙33 シバシバミレバセンナラズ たびたび面會すれば興味が乏しくなる。見慣れると珍しくなくなることをいふ。〔史記、陸賈傳〕一歲中、往來過レ他客、率不レ過二再三過一、數見不レ鮮。

【數罟】34 ソクコ 目の細かな網。〔孟子、梁惠王上〕數罟不レ入二洿池一、魚鼈不レ可二勝食一也。〔注〕數罟、密網也。〔集注〕數、音促、數、密也、罟、網也。

【數箇】35 スウコ 二つ三つ又は五つ六つ。

【數口】36 スウコウ 四五人又は五六人。數人。〔孟子、梁惠王上〕百畝之田、勿レ奪二其時一、數口之家可二以無一レ飢矣。

【數興】37 サクコウ しばしばおこる。〔後漢書、梁統傳〕征二伐遠方一、軍役數興。

【數刻】38 スウコク しばらく。數時。〔劉琨、答二盧諶一詩序〕排二終身之積慘一、求二數刻之暫歡一。

【數歲】39 スウサイ ❶五六歲の幼年をいふ。〔蘇洵、送二石昌言使レ北引〕昌言擧二進士一時、吾始數歲、未レ學也。❷數年。

【數罪】40 スウザイ ❶罪を數へる。罪をせめたてる。〔溫子昇、孝莊帝殺二爾朱榮一大赦詔〕拔レ髮數レ罪、蓋不レ足レ稱。〔劉基、野狸詩〕持來請二料斷一、數レ罪施二剜劃一。❷幾つもの罪。數罪俱發を見よ。

〘數罪俱發〙41 スウザイトモニハツス 一人で二つ以上の罪を犯してゐることが同時にあらはれること。

【數槍】42 カズヤリ 出來合で數多くある槍。特製でない粗末な槍。

【數數】43 サクサク ❶たびたび。屢次。〔韓愈、送二幽州李端公一序〕必數數焉爲レ上言。〔白居易、醉後走レ筆酬二劉五主簿長句之贈一兼簡二張大賈二十四先輩昆季一詩〕張賈弟兄同二里巷一、乘レ閑數數來相訪。〔蘇軾、冬至與二諸生一飮レ酒詩〕頻頻非レ竊レ食、數數尙乘レ風。❷ソクソク いそがはしいさま。汲汲として求めるさま。〔莊子、逍遙遊〕列子御レ風而行、泠然善也、旬有五日而後反、彼於レ致レ福者、未二數數然一也。〔注〕數數、司馬云、猶二汲汲一也。〔釋文〕崔云、迫促意也。〔張安道、粲全堂詩〕列子御レ風殊不レ惡、猶三彼莊生譏二數數一。

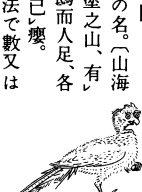
【數匝】44 スウサフ 數回めぐる。〔漢書、韓信傳〕與步二於庭一數匝。

【數子】45 カズノコ 鯡（ニシン）の子。〔和漢三才圖會、江海有鱗魚〕鯡、數子、鯡之子也。

【數四】46 スウシ ❶三、四箇。數箇の意。〔後漢書、朱祐等傳論〕分レ土不レ過二大縣數四一。〔吳志、孫晧傳、注〕彊界雖レ遠、而其險要必爭之地、不レ過二數四一。❷數が四あること。〔觀物外篇〕天之體數四而用者三、不レ用者一也、地之體數四而用者三、不レ用者一也。❸サクシ しばしば。たびたび。〔裴度、歲寒知二松柏後彫一賦〕殺菽之霜再三、斷蓬之風數四。

【數枝】47 スウシ 數本の枝。〔王安石、梅花詩〕牆角數枝梅、淩レ寒獨自開。

【數斯】48 スウシ 鳥の名。〔山海經、西山經〕皋塗之山、有レ鳥焉、其狀如レ鴟而人足、各曰二數斯一、食レ之已レ瘻。



數斯（山海經）

【數詞】49 スウシ 文法で數又は量を示す語。一・二・三、第一・第二・第三の類。

【數次】50 スウジ たびたび。しばしば。

【數字】51 スウジ ❶いくつかの文字。五六字。〔南史、任昉傳〕令二昉點正一、昉因定二數字一。〔宣和書譜〕我獨有二四面寸紙數字一、人爭售レ之。❷かずの符號に用ひる文字。

【數兒】52 shu^4 êrh 數。かず。

【數州】53 スウシウ いくつかの州。數箇國。〔唐書、天文志一〕天下地形、雌韓而雄魏、云云、皆綿二亙數州一。〔杜甫、對レ雪詩〕數州消息斷、愁坐正書レ空。

【數日】54 スウジツ 數箇の日子。二三日から五六日までをいふ。〔曹植、與二楊德祖一書〕植白、數日不レ見、思レ子爲レ勞。〔韓愈、次二硤石一詩〕數日方離レ雪、今朝又出レ山。

〘數日惡〙55 スウジツアク 數日閒心地のよくないこと。數日に亙つて感情をそこなふこと。〔世說新語、言語〕謝太傅語二王右軍一曰、中年傷二於哀樂一、與二親友一別、輒作二數日惡一、王曰、年在二桑楡一、自然至レ此、正賴二絲竹一陶寫、恒恐三兒輩覺損二欣樂之趣一。

【數十】56 スウジフ 二三十から五六十までの數。〔左氏、哀、七〕今其存者、無二數十一焉。〔漢書、韓信傳〕諸將道亡者數十人。

〘數十合〙57 スウジフガフ 數十度合戰する。〔漢書、蕭何

傳〕多者百餘戰、少者數十合。

〔數十百步〕58 スウジフヒヤクホ　數十步・數百步をいふ。一說に、數十步から百步の閒、卽ち八九十步。〔柴野栗山、進學喩〕初其數十百步之相前後、亦便旋竚立之頃、猶可二一蹶而及一焉。

【數城】59 スウジヤウ　數箇の縣城。〔李覯、袁州州學記〕或連二數城一亡二誦弦聲一。

【數讓】60 スウジヤウ　せめる。〔史記、張儀傳〕因而數二讓之一。〔後漢書、皇后下、獻穆曹皇后紀〕后乃呼二使者一入親數二讓之一。〔論衡、答佞〕蘇秦座二之堂下一、食以二僕妾之食一、數讓激怒。

【數尺】61 スウシヤク　二三尺から五六尺。〔孟子、盡心下〕堂高數仞、榱題數尺。〔南史、江淹傳〕淹探二懷中一得二數尺一與レ之。

【數術】62 スウジユツ　陰陽家卜筮家などの術。又、其の書。〔後漢書、方術傳序〕極レ數知レ變、而不レ詭レ俗、斯深二於數術一者也。〔後漢書、循吏、王景傳〕乃參二紀衆家數術・文書・冢宅・禁忌・堪輿・日相之屬一、適二於事用一者、集爲二大衍玄基一云。〔馬融、長笛賦序〕融既博二覽典雅一、精二核數術一。〔注〕善曰、漢書曰、術數者、皆義和卜史之職、韋昭曰、曆數占術也。〔蜀志、陳祇傳〕多二技藝一、挾二數術一。〔資治通鑑、漢紀〕（成帝河平三年）太史令尹、咸校二數術一。〔注〕師古曰、數術、占卜之書。

〔數術記遺〕63 スウジユツキヰ　書名。一卷。後漢、徐岳撰。北周甄鸞注。算書。〔津逮祕書、二十七〕。

【數旬】64 スウジユン　二三十日から五六十日。旬は十日。數旬客を見よ。

〔數旬客〕65 スウジユンノカク　數旬閒の賓客。〔唐書、韋思謙傳〕沛王府長史皇甫公義引二韋思謙一、爲二倉曹參軍一、謂曰、公非二池中物一、屈レ公爲二數旬客一、以重二吾府一。

【數所】66 スウシヨ　數箇所。〔漢書、韓安國傳〕高皇帝嘗圍二于平城一、匈奴王者、投レ鞍高如レ城者數所。

【數杵】67 スウシヨ　數回つくことをいふ。杵は鐘をたたくきね。〔齋藤拙堂、陪二游笠置山一記〕命レ僧敲レ之數杵。

【數處】68 スウシヨ　數箇處。處處。〔漢書、馮奉世傳〕今以二萬人一分二屯數處一、虜見二兵少一、必不二畏懼一。〔後漢書、方術下、華佗傳〕精二於方藥一、云云、針灸不レ過二數處一。〔宋之問、送三司馬道士遊二天台一詩〕羽客笙歌此地違、離筵數處白雲飛。

【數色】69 shù⁴ sè⁴　數種。幾種。いろいろ。

【數斟】70 スウシン　たびたび杯を重ねること。〔陶潛、飮レ酒詩〕班レ荆坐二松下一、數斟已復醉。

【數仞】71 スウジン　二三仞から五六仞。仞は八尺。〔論語、子張〕夫子之牆數仞。〔孟子、盡心下〕堂高數仞。〔謝瞻、於二安城一答二靈運一詩〕跬行安二步武一、鎩翮周二數仞一。

【數珠】72 ジユズ ズズ　佛三寶の名を唱へる時、其の數を計る具。數箇の珠を絲で貫いて環としたもの。其の珠の數に一千八十・一百八・五十四・四十二・三十六・二十七・二十一・十八・十四の九種がある。念珠。〔釋氏要覽、道具、數珠〕牟梨曼陀羅呪經云、梵語鉢塞莫、梁云二數珠一、此乃是引二接下根一、牽二課修業一之具也。〔數珠功德經〕其數珠者、要當須レ滿二一百八顆一、如其難レ得、或爲二五十四一、或二十七、或十四、亦皆得レ用。

【數水】73 スウスイ　いくつかの川。數箇の川の流。〔張相文、塞北紀行〕實爲二數水交匯之處一。

【數世】74 スウセイ　二三代から五六代をいふ。數代。〔左氏、襄、十三〕晉國以平、數世賴レ之。〔左氏、襄、三十一〕鄭有レ禮、其數世之福也。

【數聲】75 スウセイ　數回のこゑ。〔眞山民、山閒秋夜詩〕虛檐立盡梧桐聲、絡緯數聲山月寒。

【數噍】76 サクセウ　たびたびかむ。〔禮、少儀〕數噍毋レ爲二口容一。〔疏〕數噍、謂二數數嚼レ之。

【數責】77 スウセキ　せめる。數も、せめる。〔魏志、夏侯惇傳〕浩數責、皆斬レ之。

【數節】78 ソクセツ　竹の一種。節閒の短いもの。〔爾雅、釋草〕莽、數節。〔注〕竹類也、節閒促。〔疏〕凡竹節閒促數者名レ莽。

【數戰】79 サクセン　たびたびたたかふ。又、たびたびの戰爭。〔韓詩外傳、十〕數戰則民疲、數勝則主驕。

【數層】80 スウソウ　幾つにもかさなる。〔盧綸、蕭常侍瘿柏亭歌〕數層亂瀉雲裏峰、萬片爭呈雪中石。〔花蕊夫人、宮詩〕夜色樓臺月數層、金猊煙穗繞二觚稜一。

【數息】81 スソク　佛鼻息を數へて心を統一する。禪宗の靜修の法。〔江總、攝山棲霞寺山房夜坐云云詩〕梵字調レ心易、禪庭數レ息難。

〔數息觀〕82 スソククワン　佛出入の息を數へて心想の散亂を停止する觀法。〔金剛頂經疏、二〕安那般那、亦云二阿那波那一、亦云二阿般那一、謂二數息觀一。

【數多】83 スウタ　あまた。數が多くて知り難いこと。

【數朶】84 スウダ　いくつかの花ぶさ。〔惠洪、詩〕相期他日從二此遊一、先買鄰菴山數朶。〔唐寅、妬レ花歌〕昨夜海棠初帶レ雨、數朶輕影媚欲レ語。

【數代】85 スウダイ　二三代から五六代の閒をいふ。數世(74)に同じ。

【數段】86 スウダン　數箇にわかちくぎる。〔晉書、鄧遐傳〕遐揮レ劍截レ蛟、數段而出。

【數地】87 スウチ　土地を數へる。〔禮、曲禮下〕問二國君之富一、數レ地以對。

【數帙】88 スウチツ　數箇の書帙。〔白居易、與二微之一書〕唯收二數帙文章一。

【數着】89 shù³ chê　何々に數へられる。何々と言へよう。

【數重】90 スウチヨウ　いくへにも重なること。幾重。〔史記、項羽紀〕漢軍及諸侯兵、圍レ之數重。〔史記、齊悼惠王世家〕三國兵圍二臨菑一數重。

【數條】91 スウデウ　五六すぢ。五六本。〔近古史談、織篇、藝侯戒二諸子二〕呼二取箭數條一、一如二其子之數一。

【數蝶】92 スウテフ　五六匹の蝶。〔謝朓、和二王主簿季哲怨情一詩〕花叢亂二數蝶一、風簾入二雙燕一。〔司馬光、和二李殿丞倉中對レ菊詩〕庭空數蝶下、夜靜一螢飛。

【數椽】93 スウテン　數棟の家。椽は、たるき。〔陸游、曾原伯屢勸居二城中一而僕方欲下自二梅山一入中雲門上今日病レ酒偶得二長句一奉寄詩〕秋高更欲二移レ家去一、先葺雲門屋數椽。

【數點】94 スウテン　いくつか。わづかばかり。數箇。〔岑參、入二蒲關一詩〕秦山數點似二青黛一、渭上一條如二白練一。〔王安石、題二齊安壁一詩〕梅殘數點雪、麥漲一溪雲。〔朱熹、四時讀書樂詩〕讀書之樂何處尋、數點梅花天地心。

【數度】95 スウド　㊀物のきまりの度數。もののほどあひ。尊卑禮命の多少等。〔易、節〕象曰、云云、君子以制二數度一、議二德行一。〔疏〕數度、謂二尊卑禮命之多少一。〔莊子、天下〕其明而在二數度一者、舊法世傳之史尚多有レ之。〔疏〕數度者、仁義法名等也。㊁廣さや長さ。〔周禮、春官、典同〕凡爲二樂器一、以二十有二律一爲二之數度一、以二十有二聲一爲二之齊量一。〔注〕數度、廣長也。

〔數度衍〕96 スウドエン　書名。二十四卷。淸、方中通撰。數學諸書の長所をとつて一編とす。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【數得】97 スウトク　はかりごとが成就すること。又、制度の整ふこと。〔管子、幼官〕法立數得、而無二比周之民一。〔纂詁〕數、計也。

【數內】98 スウナイ　數のうち。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕歸二本日所レ拆數內一。

【數人】99 スウニン　二三人から五六人までをいふ。〔孟子、公孫丑下〕使三數人要二於路一。〔戰國、齊策〕數人飮レ之不レ足、一人飮レ之有レ餘。

【數寧】100 スウネイ　新書の篇名。

【數年】101 スウネン　二三年から五六年。〔論語、述而〕加二我數年一、五十以學レ易、可三以無二大過一矣。〔孟子、滕文公下〕引而置二之莊嶽之閒一數年。〔顏氏家訓、勉學〕何惜二數年勤學一、長受二一生愧辱一哉。

【數杯】102 スウハイ　二三杯から五六杯。數獻。〔冥祥記〕頻傾二數杯一。

【數倍】103 スウバイ　二三倍から五六倍。〔漢書、溝洫志〕今河溢之害、數下倍於前決二平原一時上。

【數白】104 サクハク　しばしば言上する。〔漢書、翟方進傳〕往者數白、三光垂レ象、變動見レ端。

【數法】105 スウハフ　かぞへのつとる。〔史記、五帝紀〕數二法日月星辰一、敬授二民時一。

【數汎】106 サクハン　しばしばうかぶ。〔荀濟、贈二陰梁州一詩〕數汎二明月沼一、頻遊二向日灣一。

【數備】107 スウビ　數がそなはる。〔呂覽、名類〕水氣至、而不レ知二數備一、將レ徙二于土一。

【數百】108 スウヒヤク　二三百から五六百。〔孟子、盡心下〕侍妾數百人。〔史記、高祖紀〕劉賈將二卒二萬人、騎數百一、渡二白馬津一。〔陶潛、桃花源記〕夾レ岸數百步、中無二雜樹一。

〔數百武〕109 スウヒヤクブ　數百步。武は足跡の義。又、半步の長さ。〔芳野金陵、登二久能山一〕行數百武、有二樓門一。

【數武】110 スウブ　數步(113)に同じ。數百武を見よ。

【數弊】111（ソクヘイ） ちぢまりつかれる。數は遬。〔韓非子、難、二〕簡子投㆑枹曰、烏乎、吾之士數弊也。

【數米】112（スウベイ） 米をかぞへる。數㆑米而炊(8-26832‥131)を見よ。〔莊子、庚桑楚〕簡㆑髮而櫛、數㆑米而炊。

【數步】113（スウホ） 二あし三あし。〔列子、湯問〕龍伯之國、有㆓大人㆒、擧㆑足不㆑盈㆓數步㆒、而曁㆓五山之所㆒。〔後漢書、隗囂傳〕蒼蠅之飛、不㆑過㆓數步㆒、卽託㆓驥尾㆒、得㆓以絕㆑羣。

【數簿】114 shu^4 pu^4 會計簿。帳簿。

【數峰】115（スウホウ） いくつかのみね。〔韓翃、宿㆓石邑山中㆒詩〕曉月暫飛千樹裏、秋河隔在數峰西。

【數墨】116（スウボク） 書物の文字を數へる。讀書の際、唯文字のみに拘つて、文外の義をさとらぬこと。〔朱熹、易詩〕須㆑知㆓三絕韋編㆒者、不㆓是尋㆑行數㆑墨人㆒。〔剪燈餘話、青城舞劍錄〕循㆑行數㆑墨、佔畢呻吟。

【數瞞】117（スウマン） 唐代、西域解蘇國の城名。〔舊唐書、地理志三〕西域、云云、大馬都督府、於㆓解蘇國所治㆒、治㆓數瞞城㆒、置以㆓其王㆒領㆑之。

【數目】118（ソクモク） ㊀見ることの速いこと。〔周禮、考工記、梓人〕銳喙・決吻・數目・顅脰・小體・騫腹、若㆑是者謂㆓之羽屬㆒。㊁（スウモク）數。たか。數量。〔福惠全書、蒞任部、親㆓查閱㆒〕將㆓存㆑庫銀兩㆒、查㆓明數目㆒。

【數譯】119（スウヤク） 數回の通譯。〔新書、保傅〕夫胡越之人、生而同㆑聲、嗜慾不㆑異、及㆓其長㆒、而成㆑俗也、累㆓數譯㆒、而不㆑能㆓相通㆒。

【數落】120 shu^3 lao 責め立てる。ぐづぐづ怨み言をいふ。口うるさく口說き立てる。〔紅樓夢、二十七回〕只聽山坡那邊有嗚咽之聲、一行數落著、哭的好不傷感。

【數理】121（スウリ） 數學の理論。數理學派を見よ。

【數理學派】122（スウリガクハ） 數理の研究方法で他の學問を研究しようとする學派。

【數理精蘊】123（スウリセイウン） 書名。五十三卷。淸、康熙帝御定。律歷淵源の第三部。中國・西洋の算法の異同を通貫し、古今の長短を辨訂す。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【數粒】124（スウリフ） 二三つぶから五六つぶ。〔張華、鷦鷯賦〕每㆑食不㆑過㆓數粒㆒。

【數量】125（スウリヤウ） かずと分量。又、かさ。量。分量。〔周禮、秋官、職金〕受㆓其入征㆒者、辨㆔其物之媺惡、與㆓其數量㆒。〔王褒、善行寺碑〕塵沙日月、同㆓渤澥之輪廻㆒、百億鐵圍、等㆓閻浮之數量㆒。

【數臠】126（スウレン） 數片の肉。臠は細切の肉。〔林鶴梁、烈士喜劍碑〕盛㆓魚膾數臠于脚指頭㆒。

【得㆑數】127（スウヲウ） ㊀數を得る。〔易、乾、疏〕先用㆑蓍以求㆑數、得㆑數以定㆑爻。㊁條理を得る。〔禮、樂記〕百度得㆑數而有㆑常。

【不㆑數】128（カゾヘズ） 數に入れない。かずならず。つまらぬものとして取りあげない意。〔小野湖山、華嚴瀑布歌〕不㆑數廬岳天台勝。

【數雜壽】129（スウザツノジユ） 十二支を幾めぐりするほどの壽命。六七十歲の壽命。雜は匝、子から亥に至る十二年間を一匝といふ。〔淮南子、詮言訓〕以㆓數雜之壽㆒、憂㆓天下之亂㆒、猶㆘憂㆓河水之少㆒、泣而益㆖之也。〔注〕雜、匝也。

【數不淸】130 shu^3 pu ch'ing^1 明かに勘定が出來ない。

【數立單】131 shu^4 li^4 tan^1 數字で表示した書付。

【數一數二】132（スウイチスウニ） 一二にかぞへられる。屈指。〔通俗編、數目、數一數二〕見㆓戴善夫風光好劇㆒。

【數一數二的】133 shu^3 i^1 shu^3 êrh^4 tê 指折の。一二を爭ふ程の。

【數事共㆑條】134（スウジデウヲトモニス） 異なる數種の事項を一條內に規定する。〔明律、刑律、斷獄、斷罪引律令〕凡斷㆑罪、皆須㆔具㆓引律令㆒、違者笞三十、若數事共㆑條、止引㆓所㆑犯罪㆒者聽。

【數典忘祖】135（スウテンバウソ） 典故を數へて其の祖の職掌を忘れる。本を忘れる。〔左氏、昭、十五〕王曰、籍父其無㆑後乎、數㆑典而忘㆓其祖㆒。〔注〕忘㆓祖業㆒。

【數貧嘴的】136 shu^3 p'in^2 tsuei^3 tê 數百字を一句として歌ひつつ物を乞ふ乞食。

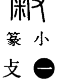
【數不過來】137 shu^3 pu kuo^4 lai 數へきれない。算へられない。

【有㆑數存㆓焉于其間㆒】138（スウアリテソノカンニソンス） 自然の道理が其の間に存する。〔莊子、天道〕得㆓之於手㆒、而應㆓於心㆒、口不㆑能㆑言、有㆑數存㆓焉於其間㆒。〔蘇洵、木假山記〕予家有㆓三峯㆒、予每㆑思㆑之、則疑㆔其有㆑數存㆓乎其間㆒。

【數】 13364 スウ 數(5-13363)に同じ。〔五音篇海〕數、同㆑數。

【數】 13365 スウ 數(5-13363)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕數、列女傳作㆑數。

【敹】 13366 レウ 〔集韻〕憐蕭切 蕭


小篆

㊀**えらぶ**。〔說文〕敹、擇也、从㆓攴〓㆒、周書曰、敹㆓乃甲冑㆒。〔玉篇〕敹、簡也。㊁**ぬひあはせる**。つづる。〔書、費誓〕善敹㆓乃甲冑㆒。〔鄭注〕敹、謂㆔穿㆓徹之㆒。〔蔡傳〕敹、縫完也、謂㆘縫㆓完其甲冑㆒、勿㆖使㆓斷毀㆒也。〔新方言、釋器〕凡非㆓綻裂㆒而粗率縫㆑之曰㆑敹。

解字 會意。攴（輕く注意を與へる）と、〓（審かに行きとどく）との合字。よくえらぶ意。

【敹一針】1（レウイツシン） 粗略に裁縫する。ほころびを縫ふ。〔通俗編、雜字、敹〕按、今謂㆓麁略治㆑衣曰㆒敹一針㆒。

【敺】 13367 ク 〔集韻〕虧于切 ㄑㄩ ch'ü^1 虞

かる。かりたてる。驅(12-44968)の古字。〔說文〕驅、馬馳也、敺、古文驅、从㆑攴。〔荀子、彊國〕胡不㆑敺㆓此勝㆑人之埶㆒。〔注〕敺、謂㆔駕㆓馭之㆒也。〔漢書、韓信傳〕經所謂敺㆓市人㆒而戰㆑之也。〔注〕師古曰、敺、與㆑驅同。

參考 ㊀歐(6-16185)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕歐、謳上聲、吐也。敺、音區、逐也。㊁熟語は驅(12-44968)を見よ。

【敺】 13368 ク 敺(5-13367)に同じ。〔字彙補〕敺、同㆑敺。

【〓】 13369 セツ 竊(8-25713)の古字。〔字彙補〕〓、古文竊字。

【〓】 13370 クワン 貫(10-36681)に同じ。〔六書統〕〓、同㆑貫。

【敳】 13371 カイ 〔集韻〕雄皆切 佳

わづかにいたる。辛うじて至る。〔集韻〕敳、裁至也。

【〓】 13372 サツ 殺(6-16638)の古字。〔集韻〕殺、古作㆑〓。

【〓】 13373 イウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕〓、音憂。

十二畫

【〓】 13374 レウ 〔廣韻〕力小切 篠

㊀**小さくてながいさま。**〔玉篇〕敼、小長貌。㊁撩(**5－12741**)に通ず。〔正字通〕敼、與レ撩通。

【敼】13375 イ 〔玉篇〕於已切 紙

たはむれる。〔篇海〕敼、戲也。

【𢿭】13376 キフ コフ 〔集韻〕迄及切 緝

うつ。たたく。或は㩉(**5－12731**)に作る。〔集韻〕𢿭、擊也、或从レ手。

【𢿣】13377 シウ 敲(**5－13418**)に同じ。〔正字通〕𢿣、同レ敲。

【𣀓】13378 フン 𪔉(**12－48350**)に同じ。〔集韻〕𣀓、或作レ𪔉。

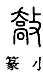
【𢿤】13379 カイ 敳(**5－13371**)に同じ。〔康熙字典〕類篇、敳作レ𢿤。

【𣀏】13380 ラン 〔集韻〕盧玩切 翰

小篆 ㊀**わづらはしい。**〔說文〕𣀏、煩也、从レ支𤔔聲。㊁**みだれる。**〔玉篇〕𣀏、亂也。㊂**おこたる。**〔玉篇〕𣀏、惰也。㊃或は嬀(**3－5735**)に作り、通じて亂(**1－214**)に作る。〔集韻〕𣀏、或从レ女、通作レ亂。〔說文通訓定聲〕𣀏、經傳皆以レ亂爲レ之。

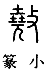
【𣀏】13381 ラン 亂(**1－214**)に同じ。〔說文長箋〕𣀏、同レ亂。

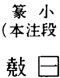
【敽】13382 🈩ケウ 〔集韻〕擧夭切 ㄐㄧㄠˇ chiao³ 篠 🈔ケウ ゲウ 〔集韻〕渠廟切 嘯


小篆 🈩㊀**つなぐ。**或は𣫘(**6－16682**)に作る。〔說文〕敽、繫連也、从レ支喬聲、周書曰、敽二乃干一、讀若レ矯。〔集韻〕敽、或从レ殳。〔書、費誓〕敽二乃干一。〔疏〕鄭云、敽、猶レ繫也。㊁**つぎあはす。**〔說文通訓定聲〕敽、繫連也、云云、按、器有レ罅、拍而合レ之曰レ敽。🈔**たて。**〔集韻〕敽、盾謂二之敽一。

名乘 ツラ。

【敿】13383 🈩ケウ 〔集韻〕牽幺切 蕭 🈔ガウ ゲウ 〔集韻〕牛交切 肴 🈪ケキ キヤク 〔集韻〕詰歷切 錫


小篆（說文）


小篆（段注本）

🈩🈔🈪**うつ。**〔說文〕敿、驚田也、从レ支堯聲。〔段注〕玄應書卷六曰、三蒼、敿𣁋、相擊也、卷十三曰、敿、蒼頡訓詁作レ敿、同、苦交切、下擊也、說文、橫撾也、擊レ頭也、據レ此則說文本無二敿字一、後人增レ之、其訓蓋本作二擊也一、擊者、旁擊也、一譌爲レ驚、再譌又衍レ田、莫二能通一矣、李仁甫本尚無二田字一、篇韻皆云、敿、擊也。〔玉篇〕敿、擊也。

【𢿍】13384 トウ ドウ 〔集韻〕唐亙切 徑

うつ。〔集韻〕𢿍、擊也。

【𢿏】13385 ハ 播(**5－12747**)の古字。〔說文〕播、𢿏、古文播。

【敾】13386 セン ゼン 〔集韻〕時戰切 霰

㊀**をさめる。**おぎなふ。〔玉篇〕敾、治也。〔類篇〕敾、補也。㊁繕(**8－27893**)に同じ。〔集韻〕繕、或从レ支。

【𢿀】13387 シユク スク 〔集韻〕息六切 屋

㊀**うつ。**𢷾(**5－12738**)に同じ。〔集韻〕𢷾、博雅、擊也、或从レ支。〔集韻〕𢿀、擊也。㊁**うつ音。**〔玉篇〕𢿀、打聲也。

【𢽾】13388 タウ チヤウ 〔集韻〕除耕切 庚

つく。打(**6－14440**)に同じ。〔集韻〕打、說文、撞也、或作レ𢽾。

參考 集韻、字形を𣫥(**6－16680**)に作る。今宋本・類篇に據りて正す。〔集韻考正〕打𢽾、案、𢽾譌从レ殳、據二宋本及類篇支部一正。

【𢾲】13389 タウ チヤウ 〔集韻〕徐庚切 庚

㊀**つく。ふれる。**〔廣雅、釋詁四〕𢾲、揬也、㊁或は振(**5－12233**)・撜(**5－12715**)に作る。〔集韻〕𢾲、或从レ長、从レ登。㊂或は𣪻(**6－16644**)に作る。〔集韻〕𢾲、或作レ𣪻。

參考 集韻、字形を𣫁(**6－16687**)に作る。今廣雅に據りて正す。〔集韻考正〕𣫁、案𢾲譌从レ殳、據二廣雅釋詁四一正。

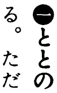
【𢿳】13390 サン 散(**5－13265**)に同じ。〔集韻〕𢿳、隸作レ散。

【𢼄】13391 ケイ 敬(**5－13303**)の古字。〔集韻〕敬、古作レ𢼄。

【𢿺】13392 テキ 敵(**5－13354**)に同じ。〔六書統〕𢿺、同レ敵。

【𢿽】13393 セイ 整(**5－13394**)に同じ。〔說文通訓定聲〕整、从レ支从レ束从レ正、正亦聲、按、从レ敕正聲。

【整】13394 セイ シヤウ 〔集韻〕之郢切 ㄓㄥˇ chêng³ 梗


小篆 ㊀**ととのへる。**そろへる。をさめる。ただす。𢿽(**5－13393**)に同じ。〔九經字樣〕整、从レ敕從レ正。〔說文〕整、齊也、从レ支从二束正一、正亦聲。〔繫傳〕鍇曰、束レ之、又小擊レ之使レ正、會意。〔增韻〕整、整飭也。〔詩、大雅、皇矣〕爰整二其旅一。〔禮、月令〕整設二于屏外一。〔注〕整、正列也。〔左氏、莊、十三〕夫禮所二以整レ民也。㊁**ととのふ。**そろふ。〔左氏、隱、九〕戎輕而不レ整。〔盧思道、後周興亡論〕器械完整。㊂現㋑きつちり。丁度。證書などの金額を認めた下に書いて、端數のない意を示す。㋺いま。最中。

名乘 ナリ。ヨシ。

解字 會意形聲。攴（うつ）と束（たばねる）と正との合字。ものをうつて、束ね正す義。ととのへる。そろへる意。正は聲を兼ねて形聲。

【整菴】1 セイアン 字號。❶明、黃元忠（**12**―**47926**‥1079）の字。❷明、羅欽順（**9**―**28397**‥319）の號。

【整衣】2 セイイ 衣をととのへる。身なりをととのへる。〔周書、蘇綽傳〕太祖乃起整レ衣危坐。

【整宇】3 セイウ 林戇の號。林鳳岡（**6**―**14551**‥431）を見よ。

【整暇】4 セイカ 容姿をととのへてゆつたりとしてゐること。暇は閑散。〔近古史談、德篇下、阿閉掃部〕未三嘗見二從容整暇、如レ此之士一。

【整駕】5 セイガ 車馬をととのへる。〔後漢書、張衡傳〕爰整レ駕而亟行。

【整翰】6 セイカン 羽をととのへる。〔左思、吳都賦〕理レ翮整レ翰、容與自玩。

【整旗】7 セイキ 旗をととのへる。〔墨子、褋守〕斥步鼓、整レ旗旗以二備戰一、從二麾所一レ指。〔閒詁〕蘇云、步、當レ作レ坐、下旗字衍。

【整毅】8 セイキ ととのつて強い。〔唐書、范希朝傳〕治レ軍整毅。

【整儀】9 セイギ 威儀をととのへる。〔班固、東都賦〕禮官整儀、乘輿乃出。〔注〕善曰、漢書、景帝詔曰、禮官具二禮儀一。

【整居】10 セイキヨ 治め整へて居住する。〔詩、小雅、六月〕玁狁匪レ茹、整二居焦穫一。〔集傳〕整、齊也。

【整襟】11 セイキン 襟を正す。容儀をととのへること。正襟。〔越絕書、越絕內傳陳成恒〕整レ襟交レ臂。〔後漢書、崔駰傳〕躐レ纓整レ襟、規二矩其步一。

【整冠】12 セイクワン 冠を正しくする。〔黃庭堅、又戲呈二康國一詩〕整レ冠行客莫二先嘗一、楊子家無二數仞牆一。〔袁桷、次下韻仲章過二陳氏城南書院一十韻上詩〕憶レ月時看レ劍、臨レ風復整レ冠。

【整訓】13 セイクン ととのへをしへる。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕幕府方詰二外姦一、未レ及二整訓一。

【整軍】14 セイグン 軍隊をととのへる。〔左氏、宣、十二〕見レ可而進、知レ難而退、軍之善政也、兼レ弱攻レ昧、武之善經也、子姑整レ軍而經レ武乎。

【整潔】15 セイケツ ととのへてきれいにする。整頓。

【整月】16 chêng^{3} yüeh^{4} 丁度一月。丸一箇月。

【整嚴】17 セイゲン 正しくおごそか。嚴重。〔吳志、孫堅傳、注〕堅整嚴救レ之。〔宋史、馬從先傳〕從先性整嚴、雖二盛夏一不二袒跣一。

【整穀】18 セイコク 正しくよい。〔韓非子、六反〕嘉厚純粹、整穀之民也、而世少レ之、曰二愚戇之民一。〔集解〕王先謙曰、整、正、穀、善也。

【整笏】19 セイコツ しやくを正しく持つ。〔謝朓、爲二明帝一讓レ封二宣城公一表〕整レ笏侍二升平之禮一。〔庾信、鉏麑見二趙盾一贊〕趙盾將レ朝、端レ衣整レ笏。

【整骨】20 セイコツ 骨つぎ。接骨。

【整齋】21 セイサイ 田邊希賢の號。田邊整齋（**7**―**21723**‥435）を見よ。

【整壯】22 chêng^{3} chuang^{4} 整つた。完全な。

【整裝】23 セイサウ 服裝をととのへる。〔傅毅、舞賦〕顧二形影一、自整レ裝、順二微風一、揮二若芳一。〔注〕善曰、裝、服也。

【整娖】24 セイサク 整擉に同じ。〔梅堯臣、寄二題知儀州太保蒲中書齋一詩〕老繋二戰馬一向二庭下一、廚架整娖齊二籤牙一。

【整擉】25 セイサク ととのへる。きちんとととのふ。〔猗覺寮雜記〕今人辨三人從二行李一之類、其言曰二整擉一、蓋用二娖字一、後漢中山簡王傳、官騎百人、稱娖前行、注、娖音楚角反、猶二整齊一也。

【整字】26 chêng^{3} tzŭ^{4} 偏と旁とを合はせて一字を組織した字。

【整秀】27 セイシウ ととのつてすぐれてゐること。〔宋史、外國三、高麗傳〕宜下得二問學博洽、器宇整秀者一、召中赴中書試上。

【整日】28 chêng^{3} jih^{4} まる一日。一日中。

【整葺】29 セイシフ 屋根をととのへつくろふこと。〔沈約、善館碑〕既加二整葺一、營二建堂宇一。

【整車】30 セイシヤ ❶車を治めととのへる。〔無可、冬夜姚侍御宅送二李廓少府一詩〕雪罷見二來吏一、川昏聊整レ車。❷chêng^{3} chʻê^{1} 一車輛全部。一臺全部。一輛貨切。

【整宿】31 chêng^{2} hsiu^{3} よもすがら。全夜。〔西廂記、草橋店夢鶯鶯雜劇〕諸著你停眠整宿。

【整肅】32 セイシユク ととのつておごそか。又、ととのへ治める。整嚴。〔風俗通、正失〕整二肅官司一。〔吳志、孫策傳〕軍令整肅、百姓懷レ之。〔晉書、何曾傳〕曾性至孝、閨門整肅、自レ少及レ長、無二聲樂嬖幸之好一。

【整峻】33 セイシユン 正しくて高い。ととのつてきびしい。峻整。方峻。〔北史、崔辯傳〕辯、學涉二經史一、風儀整峻。

【整飾】34 セイシヨク ととのへかざる。事に條理あるをいふ。〔鶡冠子、能天〕彼雖二至人一、能以練二其精神一、修二其耳目一、整二飾其身一、若レ合二符節一、小大曲制、無レ所二遺失一。〔後漢書、桓曄傳〕止二於傳舍一、整二飾從者一而後入。〔李尤、鏡銘〕整二飾容顏一。

【整數】35 セイスウ 一又は一の或る倍數である數。自然數。分數（**2**―**1853**‥212）の❸・小數（**4**―**7473**‥749）の對。

【整是】36 chêng^{3} shih 丁度。きつちり。

【整正】37 セイセイ 正しくととのふ。

【整齊】38 セイセイ ととのへそろへる。整理する。又、ととのつてゐる。齊整。〔呂覽、簡選〕離散係系、可三以勝二人之行陣整齊一。〔注〕整齊、周旋進退也。〔管子、五輔〕整齊撙詘、以辟二刑僇一。〔晏子、重而異者〕晏子事レ之以二整齊一。〔史記、貨殖傳〕善者因レ之、其次利二導之一、其次整二齊之一、最下者與レ之爭。〔史記、太史公自序〕余所謂、述二故事一、整二齊其世傳一。

【整齊花】39 セイセイクワ 各瓣の形狀大小が同じ花。梅・櫻の花の類。整正花。

【整整】40 セイセイ 正しくととのふさま。整然。〔黃庭堅、次三韻張仲謀過二酺池寺齋一詩〕忽書滿二窗紙一、整整復斜斜。〔宣和書譜、正書、宋、宋綬〕嘗爲二小字正書一、整整可レ觀。

【整整的】41 chêng^{2} chêng^{3} tê 丁度。きつちり。

【整整齊齊】42 chêng^{2} chêng^{3} chʻi^{2} chʻi^{2} 正しくきちんとする。整齊。〔西廂記、張君瑞慶團圞雜劇〕打扮得整整齊齊的、則等做女婿。

【整設】43 セイセツ ととのへ設ける。〔禮、月令〕（季秋之月）整二設于屛外一。〔注〕整、正列也、設、陳也。〔集解〕整、謂レ陳二車徒之行列一、設、謂レ設二驅逆之車一也。〔墨子、非命上〕所下以整二設師旅一、進中退師徒上者誓也。

【整然】44 セイゼン 物事のととのつたさま。整整（40）に同じ。

【整隊】45 chêng^{3} tuei^{4} 隊伍を整へる。整列する。

【整套】46 chêng^{3} tʻao^{4} 全體。完全な。一と揃。

【整地】47 セイチ 土地をととのへる。土地を整理する。

【整治】48 セイヂ ❶ととのへをさめる。整頓する。又、ととのひをさまつてゐること。〔六韜、豹韜、敵武〕其來整二治精銳一。〔漢書、天文志〕入二國邑一、視二封畺田疇之整治一、城郭室屋之潤澤一。❷政治をととのへる。〔新序、善謀下〕整レ治施レ德、以待二其亂一。❸chêng^{3} chih^{4} 介抱する。

【整除】49 セイヂヨ 一の整數を他の整數で割りきること。

【整飭】50 セイチヨク ととのふ。すぢみちが立つ。〔唐書、呂諲傳〕少力二於學一、志行整飭。〔遼史、耶律仁先傳〕庶事整飭。

【整錠】51 セイテイ 元寶錢から滴珠錢に至るまでの大小の錢の未だ剪斷しない完全な形のもの。〔六部成語、戶部、整錠、注解〕自二元寶一以至二滴珠一、無レ論二大小一、凡未二剪斷一者、皆曰二整錠一、剪斷者、皆曰二散碎一。

【整調】52 セイテウ 短艇で舵手の前に相對して全漕手の氣勢を揃へととのへる漕手。

【整董】53 セイトウ 土司名。雲南省寧洱縣の東南。車里宣慰司所轄の十二版納の一。召姓の土把總がある。清の雍正十年、置く。

【整頓】54 セイトン ととのへる。整飭。〔史記、張耳陳餘傳〕宜下整二頓其士卒一、以守戰上者也。〔漢書、蒯通傳〕臣因對曰、范陽令宜下整二頓其士卒一、以守戰上者也。〔後漢書、循吏、劉寵傳〕整頓洒埽、以待二劉公一、不レ可レ得也。〔吳志、孫堅傳〕整二頓行陣一、無レ得二妄動一。

【整年】55 chêng^{3} nien^{2} まる一年。

【整年家】56 chêng^{3} nien^{2} chia 一年中。まる一年。

【整年整月】57 chêng^{3} nien^{2} chêng^{3} yüeh^{4} 滿一年一箇月。

【整旆】58 セイハイ はたをととのへる。軍勢をそろへる。〔陳書、蔡景歷傳〕整二旆徐方一、詠歌溢二於東道一。

【整賣】59 chêng^{3} mai^{4} 卸し賣。

【整賣業】60 chêng^{3} mai^{4} yeh^{4} 卸賣業。

【整比】61 セイヒ ととのへならべる。〔唐書、百官志

二〕司衣・典衣・掌衣、各二人、掌二宮內御服首飾整比一、以レ時進奉。〔舊唐書、經籍志序〕卿試爲レ朕整二比之一。

【整轡】62 セイヒ たづなを整へる。速く行くさま。〔禰衡、鸚鵡賦〕少昊司レ辰、蓐收整レ轡。〔袁宏、三國名臣序贊〕整二轡高衢一、驤二首天路一。

【整備】63 セイビ とゝのへ備へる。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕整三備著精皮膚吃二頓打一。

【整武】64 セイブ 軍備をとゝのへる。〔楊戲、諸葛丞相贊〕受レ遺阿衡、整レ武齊レ文。

【整服】65 セイフク 衣服をきちんとする。〔風俗通、怪神〕整レ服坐誦二六甲孝經易本一訖。

【整兵】66 セイヘイ 兵をとゝのへる。〔吳子、治兵〕一鼓整レ兵、二鼓習レ陳。

【整票】67 chêng^3 pʻiao^4 銀票の十兩以上百兩以下のもの。

【整密】68 セイミツ とゝのつて精密なこと。〔顏氏家訓、序教〕吾家風教、素爲二整密一。

【整民】69 セイミン 民を秩序あらしめる。〔左氏、莊、二十三〕夫禮所二以整一レ民也。〔疏〕夫禮者所三以整二理天下之民一。

【整夜】70 chêng^3 yeh^4 每夜。又、終夜。

【整夜的】71 chêng^3 yeh^4 tê 夜通し。

【整容】72 セイヨウ 容姿を整へる。轉じて、理髮師。整容匠を見よ。

〔整容匠〕73 セイヨウシヤウ 明の太祖の時、上の理髮に從事したものをいふ。理髮師。〔泳化類編〕。

【整勑】74 セイチヨク とゝのへいましめる。〔後漢書、陳蕃傳〕宜二先自整勑、後以及一レ人。〔蜀志、許靖傳〕知下足下忠義奮發、整二勑元戎一、西迎二大駕一、巡中省中嶽上。

【整理】75 セイリ とゝのへをさめる。とゝのひをさまる。〔左氏、莊、二十三〕夫禮所二以整一レ民也。〔疏〕夫禮者所三以整二理天下之民一。〔後漢書、列女、曹世叔妻傳〕執二務私事一、不レ辭二劇易一、所レ作必成、手迹整理、是謂レ執レ勤也。〔蜀志、諸葛亮傳〕立レ法施レ度、整二理戎旅一。〔吳志、胡綜傳〕整二理天綱一。

〔整理公債〕76 セイリコウサイ 整理のために數種の公債を合同統一して新たに發行する公債。我が國では明治十九年前に發行した六分以上の利付公債を整理するために發行した五分利付の公債がある。

〔整理地區〕77 セイリチク 耕地整理を施すべき地域。

【整旅】78 セイリヨ 軍勢をとゝのへる。〔詩、大雅、皇矣〕王赫斯怒、爰整二其旅一。〔左氏、昭、二十三〕後者敦レ陳整レ旅。〔常袞、授二張自勉開府儀同三司一制〕職在二刺奸一、威屬二整旅一。

【整厲】79 セイレイ 身を正しをさめて氣をはげます。〔晉書、文三王、齊獻王攸傳〕疾雖レ困、尚自整厲。

【整麗】80 セイレイ とゝのつてうるはしいこと。〔八王故事〕容貌整麗。

【整列】81 セイレツ ただしくならぶ。行列をとゝのへる。勢揃ひ。齊列。〔左氏、哀、十三〕建レ鼓整レ列、二臣死レ之、長幼必可レ知也。〔陳琳、武軍賦〕乃清レ道整列、按レ節徐行。

【整勒】82 セイロク とゝのへをさめる。〔後漢書、郭伋傳〕伋整二勒士馬一、設二攻守之略一。〔蜀志、姜維傳〕整二勒戎馬一。

【整話】83 chêng^3 hua^4 眞面目な話。

【整一天】84 chêng^3 i^4 tʻien 丁度一日。滿一日。

【整工夫】85 chêng^3 kung^1 fu 終日。

【整桌的】86 chêng^3 chuo^1 tê 一卓幾圓と價を定めた料理。定食。

〔整桌的菜〕87 chung^3 chuo^1 tê tsʻai^4 正式献立の料理。完全な一食卓。

【整天家】88 chêng^3 tʻien^1 chia 滿一日。朝から晩まで。終日。

【整天際】89 chêng^3 tʻien^1 chi^4 整天家に同じ。

【整天的】90 chêng^3 tʻien^1 tê 整天家に同じ。

【整菴存稿】91 セイアンソンカウ 書名。二十卷。明、羅欽順撰。詩文を載す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【整潔銀洋】92 chêng^3 chieh^2 yin^2 yang^2 品質佳良の銀貨。

【整個兒的】93 chêng^3 kê êrh tê 全く。全體。丸のまま。

【整存整付】94 chêng^3 tsʻuen^2 chêng^3 fu^4 定期預金を期限到著後まとめて引出すこと。銀行側の用語。

【整存零付】95 chêng^3 tsʻuen^2 ling^2 fu^4 定期預金を期限到著後一部分づつ引出すこと。銀行側の用語。

【整的破的】96 chêng^3 tê pʻo^4 tê 完全なものと破れたもの。

【整千整萬的】97 chêng^3 chʻien^1 chêng^3 wan^4 tê 無數の。澤山な。

【⿰㣎攴】 13395 ボク 穆（**8－25251**）の古字。〔集韻〕數、穆、古作レ數。

【⿱⿰户攵早】 13396 タク 〔集韻〕敕角切 覺 うつ。たたく。〔集韻〕⿱⿰户攵早、擊也。

【⿰扌敉】 13397 サン 散（**5－13265**）に同じ。〔五音篇海〕⿰扌敉、同レ散。

十三畫

【⿱⺮敕】 13398 サク シヤク 〔集韻〕側革切 陌 うつ。或は摵（**5－12921**）に作る。〔集韻〕⿱⺮敕、博雅、擊也、或作レ摵。

【⿰喿攴】 13399 サウ 操（**5－12806**）に同じ。〔字彙〕⿰喿攴、同レ操。

【⿰亯攴】 13400 ケウ 〔廣韻〕火弔切 嘯 **かなしむ**。歊（**6－16214**）の譌字。〔廣韻〕⿰亯攴、說文云、悲意也。〔康煕字典〕⿰亯攴、按、說文从レ欠、譌从レ攴、非レ是。

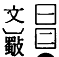
【⿰雷攴】 13401 ライ 〔集韻〕盧回切 灰 **くだく**。〔玉篇〕⿰雷攴、摧也。

【⿰詹攴】 13402 セン 〔集韻〕職琰切 琰 ⿰詹攴⿰尗攴は、手をあげるさま。〔集韻〕⿰詹攴、⿰詹攴⿰尗攴、舉レ手皃。

【⿰豊攴】 13403 レイ ライ 〔玉篇〕盧啓切 薺 **かたき**。〔玉篇〕⿰豊攴、敵也。

【⿰廉攴】 13404 レン 〔集韻〕離鹽切 鹽 **つづみを打つ**。或は⿰壴兼（**10－36314**）・搛（**5－12484**）に作る。〔集韻〕⿰廉攴、擊レ鼓、謂二之⿰廉攴一、或从レ壴、从レ手。

【斀】 13405
㊀タク 〔集韻〕竹角切 覺
㊁トク 〔集韻〕都木切 屋
㊂シヨク ソク 〔集韻〕朱欲切 沃


小篆

㊀㊁❶**刑罰の一**。去勢の刑。〔說文〕斀、去レ陰之刑也、从レ攴蜀聲、周書曰、刖劓斀黥。❷劅（**2－2212**）に同じ。〔說文〕斀、周書曰、刖劓斀黥。〔段注〕呂刑篇文、云云、尚書正義曰、賈馬鄭古文尚書、劓刵劅剠。❸椓（**6－15031**）に通ず。〔說文通訓定聲〕今本作二劓刵椓黥一、云云、以レ椓爲レ之。㊂**うつ**。〔集韻〕斀、擊也。

【斁】 13406

🈩エキ ヤク 〔集韻〕夷益切 一ˋ i⁴ 陌

🈔ト ヅ 〔集韻〕徒故切 ㄉㄨˋ tu⁴ 遇

🈪ト ヅ 〔集韻〕同都切 虞

小篆（説文）

小篆（段注本）

🈩❶**いとふ**。いやになる。おこたる。〔説文〕斁、解也、从ㇾ攴睪聲、詩曰、服ㇾ之無ㇾ斁、斁、厭也。〔詩、周南、葛覃〕服ㇾ之無ㇾ斁。〔傳〕斁、厭也。〔禮、大傳〕無ㇾ斁㆓于人㆒斯。〔注〕斁、厭也。❷**をはる**。〔説文〕斁、一曰、終也。❸**あきらか**。〔小爾雅、廣言〕斁、明也。❹**さかんなさま**。〔詩、商頌、那〕庸鼓有ㇾ斁。〔傳〕斁、斁然盛也。❺**えらぶ**。擇(**5－12796**)に通ず。〔説文通訓定聲〕斁、叚借爲ㇾ擇。〔詩、大雅、思齊〕古之人無ㇾ斁。〔箋〕口無㆓擇言㆒、身無㆓擇行㆒。❻**したばかま**。襗(**10－34630**)に通ず。〔説文通訓定聲〕斁、叚借爲ㇾ襗、説文、一曰、終也、按、終者絝字之誤。❼射(**4－7434**)に通ず。〔詩、周南、葛覃〕服ㇾ之無ㇾ斁。〔禮、緇衣〕服ㇾ之無ㇾ射。🈔❶**ぬる**。〔集韻〕斁、塗也。❷**いとふ**。〔集韻〕斁、厭也。❸**やぶる**。やぶれる。殬(**6－16584**)に通ず。〔説文通訓定聲〕斁、叚借爲ㇾ殬。〔書、洪範〕彝倫攸ㇾ斁。〔傳〕斁、敗也。〔詩、大雅、雲漢〕耗㆓斁下土㆒。〔箋〕斁、敗也。〔釋文〕斁、説文・字林皆作ㇾ殬。〔漢書、薛宣傳〕不ㇾ得㆓其人㆒、則大職墮斁。〔注〕師古曰、斁、壞也。❷**ほど**。どあひ。度(**4－9313**)に通ず。〔説文通訓定聲〕斁、叚借爲ㇾ度。〔後漢書、張衡傳〕惟盤逸之無ㇾ斁。〔注〕斁、古度字。🈪**ぬる**。塗(**3－5338**)に通ず。〔集韻〕斁、塗也、周書、斁㆓丹雘㆒。〔書、梓材〕惟其塗㆓丹雘㆒。〔疏〕斁、卽古塗字。

【斂】 13407

🈩レン 〔集韻〕力冉切 琰

🈔レン 〔集韻〕力驗切 ㄌㄧㄢˋ lien⁴ 豔

🈪レン 〔集韻〕離鹽切 鹽

小篆

🈩🈔❶**をさめる**。㋑ひきあつめる。集める。集めとる。〔説文〕斂、收也、从ㇾ攴僉聲。〔爾雅、釋詁〕斂、聚也。〔書、洪範〕斂㆓時五福㆒。〔疏〕斂㆓聚五福之道㆒也。〔荀子、成相〕下斂㆓黨與㆒。〔注〕斂、聚也。〔列子、楊朱〕君斂則己施。〔注〕斂、收聚也。㋺いれる。しまひこむ。〔周禮、夏官、繕人〕既射則斂ㇾ之。〔注〕斂、藏ㇾ之也。㋩ちぢめる。〔史記、春申君傳〕秦楚合而爲ㇾ一以臨ㇾ韓、韓必斂ㇾ手。㋥かくす。やめる。〔唐書、劉栖楚傳〕宿姦老蠹爲斂ㇾ迹。㋭ひきしめる。とりしまる。〔漢書、陳咸傳〕皆令㆓閉ㇾ戸自斂、不ㇾ得ㇾ踰ㇾ法。㋬とる。とり入れる。〔廣雅、釋詁二〕斂、取也。〔詩、小雅、大田〕此有㆓不ㇾ斂穧㆒。〔疏〕不㆓收斂㆒之穧束也。㋣とりあげる。賦課する。〔周禮、地官、司稼〕以㆓年之上下㆒出㆓斂灋㆒。㋠遺骸に衣服を著せるを小斂、棺に納めるを大斂といふ。殮(**6－16590**)に同じ。〔釋名、釋喪制〕衣㆓尸棺㆒曰ㇾ斂、斂藏不㆓復見㆒也。〔正字通〕斂、殯也、俗作ㇾ殮。〔後漢書、趙咨傳〕招復含斂之禮。〔注〕斂、以㆓衣服㆒斂ㇾ屍也。㋷死骸を葬る。窆(**8－25459**)に同じ。〔禮、檀弓下〕斂、般請㆓以ㇾ機封㆒。〔注〕斂、下㆓棺於椁㆒。〔禮、喪服大記〕凡封、注〕封、周禮作ㇾ窆、窆、下ㇾ棺也、此封或皆作ㇾ斂、檀弓曰、公輸若方小、斂、般請㆓以ㇾ機封㆒、謂㆓此斂㆒也、然則棺之入ㇾ坎爲ㇾ斂、與ㇾ斂ㇾ尸相似、記時同ㇾ之耳。❷**をさまる**。㋑ひきしまる。〔素問、氣交變大論〕其化緊斂。〔注〕斂、收也。㋺かへる。もどる。〔周髀算經、上〕日道發斂之所ㇾ生也。〔注〕斂、猶ㇾ還也。❸**ほぼ**。およそ。儉(**1－1190**)に通ず。〔説文通訓定聲〕斂、叚借爲ㇾ儉、猶ㇾ約也。〔字海〕斂、略也。〔史記、趙世家〕去㆓沙丘鉅鹿㆒、斂三百里。❹**けはしい**。險(**11－41874**)に通ず。〔説文通訓定聲〕斂、叚借爲ㇾ險。〔呂覽、不屈〕門中有㆓斂陷㆒。❺**姓**。〔萬姓統譜〕斂、見㆓姓苑㆒、羌酋姓也。〔廣韻〕斂、又、姓、姚秦錄、有㆓輔國將軍斂憲㆒。🈪斂盂は、春秋、衞の地名。今の河北省門縣の西南の斂盂聚。〔左氏、僖、二十八〕晉侯・齊侯、盟㆓于斂盂㆒。

名乘 ヲサ。ヨシ。カズ。

參考 歛(**6－16210**)は別字。〔字彙、醒誤〕斂、聚斂、收斂、从ㇾ攴、今誤作ㇾ歛。歛、音酣、欲也、从ㇾ欠。

【斂衣】1 レンイ 帛を衆人から請ひ集めて作った衣。〔雲仙雜記、斂衣〕伊處士從㆓衆人㆒求㆓尺寸之帛㆒、聚而服ㇾ之、名曰㆓斂衣㆒。

【斂盂】2 レンウ 春秋、衞の地名。今、河北省濮陽縣。〔左氏、僖、二十八〕晉侯齊侯、盟㆓于斂盂㆒。

【斂怨】3 レンエン ❶怨を抱く人ををさめ用ひる。〔詩、大雅、蕩〕斂ㇾ怨以爲ㇾ德。〔箋〕斂㆓聚羣不逞作ㇾ怨之人㆒、謂㆓之有德㆒、而任㆓用之㆒。❷積み重った怨。〔陸贄、貞元九年冬至大禮大赦制〕已後官司、應ㇾ有㆓市糴㆒者、各須㆔先付㆓價直㆒、不ㇾ得㆓賒取抑配㆒、因㆓茲斂怨擾ㇾ人。

【斂更】4 レンカウ をさめかへる。〔漢書、律歷志上〕斂㆓更於庚㆒、悉㆓新於辛㆒。

【斂氣】5 レンキ 氣ををさめる。〔隋書、音樂志中〕瘞ㇾ玉埋ㇾ俎、藏ㇾ芬斂ㇾ氣。

【斂去】6 レンキヨ 手をさめてさる。やめてにげる。〔宋史、何灌傳〕敵驚以爲ㇾ神、逡巡斂去。

【斂局】7 レンキヨク 一局を打ち終る。又、賭博して利を得る。〔南史、鄭鮮之傳〕(劉)毅素好㆓摴蒱㆒、於ㇾ是會戲、(武)帝與ㇾ毅斂局、各得㆓其半㆒、積ㇾ錢。

【斂衾】8 レンキン 死者を牀に遷した時に尸をおほふもの。〔儀禮、士喪禮〕死㆓于適室㆒、幠用㆓斂衾㆒。〔注〕斂衾、大斂所㆓幷用㆒之衾、衾、被也。〔禮、喪大記〕始死、遷㆓尸于牀㆒、幠用㆓斂衾㆒。〔疏〕斂衾者、將ㇾ擬㆓大斂之時衾被㆒也、既遷ㇾ尸在ㇾ牀、而用㆓斂衾㆒覆ㇾ之也。

【斂穫】9 レンクワク 穀物などをとり入れる。〔唐書、食貨志一〕配租以㆓斂穫蚤晚、險易遠近㆒爲ㇾ差。〔元稹、賽神詩〕家家不㆓斂穫㆒、賽ㇾ妖無㆓富貴㆒。

【斂官】10 lien⁴ kuan¹ 收稅官吏。

【斂絹】11 レンケン 絹をとりたてる。〔北史、儒林上、石曜傳〕令丞以下、斂㆓絹數千疋㆒遺ㇾ之。

【斂穀】12 レンコク 穀物を取りをさめる。〔管子、山至數〕今上斂ㇾ穀以ㇾ幣、民曰、無ㇾ幣以ㇾ穀。

【斂昏】13 レンコン たそがれ。黃昏。〔蘇軾、次㆔韻仲殊雪中遊㆓西湖㆒詩〕水光瀲灎猶浮ㇾ碧、山色空濛已斂昏。

【斂財】14 レンザイ 財を收め集める。〔周禮、天官、大宰〕大宰之職、云云、以㆓九賦㆒斂㆓財賄㆒。

【斂材】15 レンザイ 百草の根實の食ふべきものを集め收める。〔周禮、天官、大宰〕八曰、臣妾聚㆓斂疏材㆒。〔注〕男爲㆓人臣㆒、女爲㆓人妾㆒、云云、疏材、百草根實可ㇾ食者。〔周禮、地官、大司徒〕八曰斂材。〔注〕斂材、謂㆔臣妾聚㆓斂疏材㆒。

【斂葬】16 レンサウ 尸を收め葬る。〔後漢書、皇后上、竇皇后紀〕帝以㆓貴人酷歿、斂葬禮闕㆒、乃改殯㆓於承光宮㆒。〔唐書、裴冕傳〕王鉷死、李林甫方用ㇾ事、僚屬皆引去、獨冕爲㆓斂葬㆒、由ㇾ是寖知ㇾ名。

【斂藏】17 レンザウ をさめかくす。をさめたくはへる。蓄積する。〔釋名、釋喪制〕衣㆓尸棺㆒曰ㇾ斂、斂藏不㆓復見㆒也。〔周禮、天官、大宰、挾日而斂ㇾ之、疏〕斂㆓藏之于明堂㆒。〔周禮、地官、場人〕以ㇾ時斂而藏ㇾ之。

【斂散】18 レンサン 斂糴(38)と散糶(**5－13265‥170**)。〔福惠全書、雜課部、積穀〕斂散出易之際、尤宜ㇾ留ㇾ心。

【斂弛】19 レンシ 凶作の時に力役をゆるめること。〔周禮、天官、小宰〕六曰、斂弛之聯事。〔注〕玄謂、荒政弛二力役一、及下國中貴者・賢者・服二公事一者・老者・疾者上皆舍。

【斂死】20 レンシ 死者を收め葬る。殮死。〔晏子、諫、下〕殮レ死不レ失レ愛。

【斂收】21 レンシウ をさまる。又、をさめる。とりいれる。斂聚。〔趙抃、次二韻王憲中秋不レ見レ月詩〕明月幸無二虧損處一、浮雲應レ有二斂收時一。

【斂揫】22 レンシウ をさめること。〔王逢、無レ家燕詩〕衆雛被二焚蕩一、雙翅亦斂揫。

【斂膝】23 レンシツ ひざをくづさないで正しく坐る。〔晉書、陶侃傳〕終日斂膝危坐、閫外多事、千緒萬端、罔レ有二遺漏一。

【斂實】24 レンジツ 穀實をとりいれる。收穫。〔管子、山國軌〕秋十日、不レ害二斂實一、冬二十日、不レ害二除田一。

【斂戢】25 レンシフ すぼめる。〔福惠全書、郵政部、應付大差〕宜三和レ詞愉レ色、云云、使二其斂戢而退一。

【斂手】26 レンシユ 手を出さない。おそれつつしむ。〔史記、太史公自序〕使二諸侯斂レ手而事一レ秦者、魏冉之功。〔史記、春申君傳〕秦楚合而爲レ一以臨レ韓、韓必斂レ手。〔後漢書、鮑永傳〕帝常曰、貴戚且宜三斂レ手以避二二鮑一。

【斂聚】27 レンシユウ とりあつめる。〔書、舜典、輯二五瑞一傳〕輯斂、疏〕輯、是斂聚。〔書、洪範、斂二時五福一疏〕以斂二聚五福之道一。

【斂嗇】28 lien^4 sê^4 吝嗇。

【斂身】29 lien^4 shen^1 自制する。節制。

【斂衽】30 レンジン 襟を正す。身なりを整へること。又、拜禮するさま。整襟。女子の拜にも用ふ。檢衽。〔戰國、楚策〕一國之衆、見レ君莫レ不二斂レ衽而拜、撫レ委而服一。〔史記、留侯世家〕陛下南鄉稱レ霸、楚必斂レ衽而朝。〔後漢書、文苑下、趙壹傳〕逢則斂レ衽、下レ堂執二其手一。〔潘岳、秋興賦〕且斂レ衽以歸來兮、忽投レ紱以高厲。〔注〕向曰、衽、衣襟也。〔左思、魏都賦〕服二其荒服一、斂二衽魏闕一。〔注〕銑曰、言三斂レ袖而拜二於帝闕之下一。〔陔餘叢考、斂衽〕虞兆瀧謂、今世女人拜稱二斂衽一、而蘇子瞻舟中聽二大人彈琴一詩云、斂衽竊聽獨激昂、則古人男子亦稱二斂衽一矣、云云、按、國策、江乙說二安陵君一曰、一國之衆見レ君莫レ不二斂レ衽而拜一、史記留侯世家、酈生勸レ立二六國後一曰、陛下南鄉稱レ霸、楚必斂レ衽而朝、後漢書和熹鄧后紀論、嗣主側レ目、斂二衽於虛器一、新唐書后妃傳序、楊氏未レ死、元亂二厥謀一、張后制レ中、肅幾斂レ衽、皆就二男子一而言レ之、則男子之稱二斂衽一、亦不三第見二於蘇詩一也、又元熊禾題二東坡集一云、東坡眞天人、再拜當レ斂レ衽、則元時猶未下以二斂衽一專屬中之女人上。

【斂迹】31 レンセキ あとをひそめる。おそれつつしむ。斂跡。〔後漢書、李膺傳〕拜二司隸校尉一、時張讓弟朔爲レ令暴橫、膺捕二殺之一、自レ此黃門常侍皆屛レ氣斂レ迹。〔唐書、劉栖楚傳〕峻二誅罰一、不レ避二權豪一、云云、宿姦老蠹、爲斂レ迹。

【斂積】32 レンセキ 收め積む。〔管子、國畜〕斂二積之一「以レ輕。

【斂錢】33 レンセン 錢をあつめる。集金する。〔晉書、阮修傳〕修居レ貧、年四十餘、未レ有レ室、王敦等斂レ錢爲レ婚、皆名士也、時慕レ之者、求レ入レ錢而不レ得。

【斂然】34 レンゼン 集まるさま。〔荀子、非十二子〕斂然聖王之文章具焉。〔注〕斂然、聚集之貌。

【斂束】35 レンソク をさめつかねる。〔楊泉、草書賦〕或斂束而相抱、故婆娑而四垂。

【斂足】36 レンソク 足ををさめる。❶つつしみ進むさま。〔白居易、遊二悟眞寺一詩〕上レ階脫二雙履一、斂レ足升二淨筵一。❷おそれすすまぬさま。〔歐陽脩、送二呂夏卿一詩〕駑駘羣馬斂レ足避、天衢讓レ路先二騏驎一。〔福惠全書、蒞任部、忍性氣〕彼將二斂レ足戢レ尾而退一。

【斂持】37 レンヂ をさめ持つ。〔後漢書、杜詩傳〕所下以明二著國命一、斂中持威重上也。

【斂糴】38 レンテキ 官が米價の安いときに米の買上げをすること。〔韓維、答二曼叔一詩〕前時捧レ牋來二潁上一、謹視二斂糴一譏二姦訛一。

【斂法】39 レンパフ 租稅を取り立てる法令。〔周禮、地官、司稼〕巡レ野觀レ稼、以二年之上下一出二斂灋一。〔注〕斂法者、豐年從レ正、凶荒則損二若干一、今十傷二二三一、實除二減半一。

【斂費】40 レンピ 費用をとりたてる。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕誘二源斂レ費侵レ肥。

【斂眉】41 レンビ 眉をしかめて皺をよせる。にがい顏をする。顏をしかめる。〔劉孝威、侍レ宴賦二得龍沙宵月明一詩〕斂レ眉雖レ不レ樂、舞レ劍強爲レ歡。〔曾鞏、虞美人草〕芳心寂莫寄二寒枝一、舊曲聞來似レ斂レ眉。

【斂殯】42 レンヒン かりもがり。死骸を棺に入れて安置する。〔史記、齊世家〕辛巳夜斂殯。

【斂吻】43 レンブン ものいふことをやめる。〔張耒、詩〕此蛙斂レ吻收レ足、厎二然土中一、一聲不レ出。

【斂袂】44 レンベイ たもとををさめる。❶走るさま。〔史記、貨殖傳〕海岱之閒、斂レ袂而往朝焉。❷つつしむさま。〔後漢書、蔡邕傳〕公子謖爾斂レ袂而興。

【斂步】45 レンホ 步行をやめる。退いて進まない。〔江淹、思二北歸一賦〕虎踡跼而斂レ步、蛟蠖蜿而失レ穴。

【斂目】46 レンモク 目をふさぐ。〔惠洪、石臺夜坐詩〕斂目舊遊眞可レ數、蓋棺前車尙難レ知。

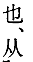
【斂藥】47 レンヨウ lieh^4 yao^4 收斂劑。斂澁藥。

【斂容】48 レンヨウ 容貌をととのへて謹しむ。〔漢書、霍光傳〕光每二朝見一、上虛レ己斂レ容、禮レ下之已甚。〔顏氏家訓、勉學〕瞿然自失、斂レ容抑レ志也。

【斂翼】49 レンヨク 翼ををさめる。飛ぶことをやめる。〔王粲、鸚鵡賦〕就二隅角一而斂レ翼、倦二獨宿一而宛レ頸。〔應璩、與二侍郞曹長思一書〕復斂二翼于故枝一、塊然獨處、有二離羣之志一。

【斂聲靜氣】50 lien^4 shêng^1 ching^4 ch'i^4 氣息をしづめ聲をひそめる。

【⿰羣攴】13408 クン グン 〔集韻〕衢云切 文


小篆

❶大學して犯す。〔說文〕⿰羣攴、朋侵也、从二攴羣一、羣亦聲。❷或は⿰君攴(5－13203)に作る。〔集韻〕⿰羣攴、或省。

解字 會意形聲。攴(侵す意)と羣(なかま・黨與)との合字。群衆が侵す意。羣は聲を兼ねて形聲。

【⿰尚攴】13409 タウ チヤウ 〔龍龕手鑑〕宅耕切 庚 つく。〔龍龕手鑑〕⿰尚攴、撞也。

【⿰⿱朿氺攴】13410 ヂン 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰⿱朿氺攴、音塵。

【⿰亟攴】13411 サツ 殺(6－16638)に同じ。〔字彙補〕⿰亟攴、同レ殺。

十四畫

【⿰⿱自幸攴】13412 ㊀コ 〔篇海〕音姑 ㊁ジヨ 〔篇海〕音如

㊀㊁義未詳。

【⿰⿱𣦵目攴】13413 エイ 叡(2－3214)の譌字。〔正字通〕⿰⿱𣦵目攴、叡字之譌。

【⿰𤔔攴】13414 ラン 敵(5－13380)の譌字。〔正字通〕⿰𤔔攴、敵字之譌。

【⿰⿱耳乑攴】13415 ソウ ズ 〔集韻〕粗送切 送

敪⿰⿱耳乑攴は、まねかないのにやってくる。〔集韻〕⿰⿱耳乑攴、敪⿰⿱耳乑攴、不レ迎自來也。

【⿰翟攴】13416 タク 〔集韻〕敕角切 覺

❶**さづける**。〔廣韻〕⿰翟攴、授也。❷**さす**。〔類篇〕⿰翟攴、刺也。〔五燈會元〕曾把二虛空一一⿰翟攴破。❸**いたむ**。〔集韻〕⿰翟攴、一曰、⿰翟攴敊、痛至也。❹**つく**。うすづく。〔集韻〕⿰翟攴、舂也。❺**きづく**。〔集韻〕⿰翟攴、築也。

【斃】13417　ヘイ　ベイ　〔集韻〕毗祭切　齊　ㄅㄧˋ pi^{4}

●たふれる。たふれ死ぬ。獘(**7－20672**)に同じ。〔說文〕獘、頓仆也、从レ犬敝聲、春秋傳曰、與レ犬、犬獘、斃、獘或从レ死。〔禮、表記〕斃而後已。〔注〕斃、仆也。〔左氏、哀、二〕斃ニ於車中一。〔注〕斃、踣也。〔呂覽、圜道〕八虛甚久則身斃。〔注〕斃、死也。●**たふす**。たふしころす。〔禮、檀弓下〕射レ之斃ニ一人一。〔注〕斃、仆也。●通じて弊(**4－9644**)に作る。〔左氏、隱、元〕多行ニ不義一、必自斃。〔注〕斃、踣也。〔釋文〕斃、本又作レ弊。〔挍勘記〕按、說文作レ獘从レ犬、諸書改从レ大从レ廾。

【斃死】1（ヘイシ）　たふれ死ぬ。僵死。僵斃。〔呂覽、圜道、注〕斃、死。

【斃踣】2（ヘイホク）　たふれる。僵斃。顚踣。〔司馬光、劄子〕天威違レ顏不ニ咫尺一、隕越斃踣爲ニ聖朝羞一。

【斃命】3　ㄅㄧˋ ㄇㄧㄥˋ pi^{4} ming^{4}　死ぬ。斃死。

【待レ斃】4（タフルルヲマツ）　死期を待つ。〔晉書、鍾雅傳〕蘇峻之難、云云、雅與ニ劉超一竝侍ニ衞天子一、或謂レ雅曰、云云、君性亮直、必不レ容ニ於寇讎一、何不下隨ニ時之宜一、而坐待中其斃上。

【斃而后已】5（タフレテノチヤム）　死に至るまで勤めて止まぬこと。死而後已。〔禮、表記〕忘ニ身之老一也、不レ知ニ年數之不一レ足也、俛焉日有ニ孳孳一、斃而后已。〔藤田東湖、述懷〕斯心奮發誓ニ神明一、古人有レ言斃而已。

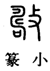
【敼】13418

一　シウ　ジユ　〔集韻〕時流切　尤

二　シウ　シユ　〔集韻〕齒九切　有

三　タウ　ドウ　〔集韻〕大到切　號

四　チウ　チユ　〔集韻〕陳留切　尤


小篆

一二三四●**すてる**。㪕(**5－1337 7**)に同じ。〔集韻〕㪕、或从レ壽。〔說文〕㪕、棄也、从レ攴𠷎聲、云云、詩曰、無ニ我㪕一兮。●**いつはる**。〔集韻〕敼、詐也。●**うつ**。討(**10－35231**)に通ず。〔說文通訓定聲〕敼、叚借爲レ討。〔說文〕㪕、周書曰爲レ討。〔段注〕周書中無ニ討字一、惟虞書咎繇謨云、天討ニ有罪一、疑周當レ作レ虞。

【㪔】13419

一　ハン　ホン　〔集韻〕孚萬切　願

二　サン　ソン　〔集韻〕芻萬切　願

三　セイ　〔集韻〕充芮切　霽

四　サイ　〔集韻〕楚快切　卦

小篆

㪔、小春也、从レ攴算聲。

一二●**かるくうすづく**。〔說文〕●或は篹(**8－27214**)に作る。〔集韻〕㪔、或作レ篹。三**うすづく**。〔集韻〕㪔、博雅、舂也。四**穀類ののぎをのぞく**。〔篇海〕㪔、除ニ穀芒一也。

【贁】13420　ハイ

敗(**5－13227**)の籀文。〔說文〕敗、贁、籀文敗从レ賏。

【敬】13421　ケイ

敬(**5－13303**)の古字。〔集韻〕敬、古作レ敬。

【䕫】13422　キ

夒(**3－5746**)に同じ。〔復古編〕䕫、同レ夒。

十五畫

【𣀈】13423　ハク　〔集韻〕北角切　覺

●**うつ**。たたく。〔集韻〕𣀈、擊也。●或は擈(**5－12930**)・攴(**5－13119**)に作る。〔集韻〕𣀈、或从レ手、从レ勹。

【𣀓】13424　ライ　〔集韻〕盧對切　隊

おす。勵(**2－2468**)に作る。〔集韻〕勵、說文、推也、或从レ攴。

【𣀗】13425　シヤク　〔集韻〕式灼切　藥

赦𣀗は、定まらないさま。〔集韻〕𣀗、赦𣀗、不レ定皃。

【𣀠】13426　リヨ　ロ　〔集韻〕良據切　御

をかす。〔集韻〕𣀠、侵也。

【斄】13427

一　リ　〔集韻〕陵之切　支

二　ライ　〔集韻〕郎才切　灰

三　タイ　〔集韻〕湯來切　灰

小篆

古文

一二●**こはい毛**。古は庲(**2－2969**)に作り、或は耗(**6－16861**)・綀(**8－27574**)に作る。〔說文〕斄、彊曲毛也、可ニ吕箸ニ起衣一、从ニ犛省一來聲、庲、古文斄省。〔集韻〕斄、古省、或作ニ耗・綀一。●**毛の長い牛**。犛(**7－20154**)に通ず。〔說文通訓定聲〕斄、叚借爲レ犛。〔莊子、逍遙遊〕今夫斄牛。三**地名**。今の陝西省武功縣の西南。邰(**11－39332**)に通ず。〔集韻〕邰、說文、炎帝之後、姜姓所レ封、周棄外家國、右扶風斄縣、是也、引ニ詩有邰家室一、或作レ斄。〔漢書、地理志上〕右扶風、斄。〔注〕周后稷所レ封、師古曰、斄、讀與レ邰同、音胎。

参考　斄(**7－18160**)とは別字。〔字彙、辨似、二字相似〕斄、音時、涎也。斄、音梨、斄牛。

十六畫

【𣀠】13428　ロ　ル　〔集韻〕龍都切　虞

●**をさめる**。〔玉篇〕𣀠、斂也。●敁𣀠は、あざむく。〔集韻〕𣀠、敁𣀠、欺也。

【𣀞】13429　フツ　ブチ　〔集韻〕符勿切　物

●**をさめる**。〔玉篇〕𣀞、理也。●或は𢿊(**5－13435**)・𢾍(**5－13152**)に作る。〔集韻〕𣀞、或作ニ𢿊・𢾍一。

【𣀏】13430　クワイ

壞(**3－5590**)の籀文。〔說文〕壞、𣀏、籀文壞从レ攴。

【斆】13431

一　カウ　ゲウ　〔集韻〕後教切　效　ㄒㄧㄠˋ hsiao^{4}

二　カク　ガク　〔集韻〕轄覺切　覺

小篆

一二**をしへる**。學(**3－7033**)・教(**5－13212**)に同じ。〔說文〕斆、覺悟也、从ニ教冂一、冂、尚矇也、臼聲、學、篆文

斆省。〔段注〕古之製ㇾ字、作ㇾ斆從ㇾ教、主㆓於覺㆒人、秦以來去ㇾ文作ㇾ學、主㆓於自覺㆒。〔韻會〕學、案、說文、學字本作ㇾ斆、今音效、而學校字但作ㇾ學。〔正字通〕斆、古文教。〔書、盤庚上〕盤庚斆㆓于民㆒。〔傳〕斆、教也。

解字 會意形聲。學の本字。學（3－7033）の解字を見よ。

【斆虞】1（カウグ） 清、許寶善（10－35298‥376）の字。

【斆學半】2（ヲシフルハマナブノナカバナリ） 人に教へるのは己の學業の半ばをなす。其の學ぶ業の半ばは、人に教へることに依つて出來上る。學學半（3－7033‥244）に同じ。〔書、說命下〕惟斆學半、念㆓終始㆒、典㆓于學㆒、厥德修罔ㇾ覺。〔蔡傳〕斆、教也、言、教ㇾ人居㆓學之半㆒。

【斆藝齋】3（カウゲイサイ） 清、鄒漢勛（11－39562‥75）の號。

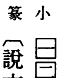
【斆學相長】4（カウガクアヒチヤウズ） 人に教へることと己の學問とは互に助け合ふ。教學相長（5－13212‥29）を見よ。〔王陽明、教條示㆓龍場諸生㆒、責善〕使㆓吾而是㆒也、因得㆔以明㆓其是㆒、吾而非也、因得㆔以去㆓其非㆒、蓋斆學相長也。

【⿰厤攴】13432 レキ リヤク 〔集韻〕狼狄切 錫

みだす。〔集韻〕⿰厤攴、亂也。

【⿰𦎫攴】13433 トン 敦（5－13276）の本字。〔正字通〕⿰𦎫攴、敦本字。

【⿰⿱林隹攴】13434 ㊀サン 〔集韻〕先旰切 翰 ㊁サン 〔集韻〕顙旱切 旱


小篆

㊀㊁❶いぐるみをまきはなつ。〔說文〕⿰⿱林隹攴、繳⿰⿱林隹攴也、从ㇾ隹㪔聲。❷ちる。さらす。〔說文〕⿰⿱林隹攴、一曰、飛㪔也。

【⿰⿱或糸攴】13435 フツ ⿰⿱或糸攴（5－13429）に同じ。〔集韻〕⿰⿱或糸攴、或作ㇾ⿰⿱或糸攴。

【⿰婁攴】13436 スウ 數（5－13363）に同じ。〔字彙補〕⿰婁攴、秦碑數字。

【夒】13437 キ 夔（3－5746）の譌字。〔字彙補〕夒、夔字之譌。

【⿰㗊攴】13438 イ 欹（6－16093）に同じ。〔五音篇海〕⿰㗊攴、同ㇾ欹。

【⿰⿱或巾攴】13439 フツ 拂（5－11936）に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰⿱或巾攴、同ㇾ拂。

十七畫

【⿰霝攴】13440 レイ リヤウ 〔集韻〕郎丁切 青

うつ。たたく。〔玉篇〕⿰霝攴、打也。〔集韻〕⿰霝攴、擊也。

【⿰襄攴】13441 ジヤウ 攘（5－12989）の古字。〔集韻〕攘、古作ㇾ⿰襄攴。

【⿰厭攴】13442 サン 〔篇海〕蘇甘切 覃

いとふ。〔篇海〕⿰厭攴、厭也。

參考 字形、集韻は⿰⿸广猒攴に作る。

【⿰糞攴】13443 フン 〔集韻〕方問切 問

はく。はらふ。のぞく。坌（3－4995）に同じ。〔集韻〕坌、掃除也、或作ㇾ⿰糞攴。

十八畫

【⿰聑攴】13444 デフ ネフ 〔集韻〕昵輒切 葉

相及ぶ。軙⿰聑攴。〔集韻〕⿰聑攴、軙⿰聑攴、相及也。

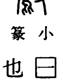
十九畫

【⿱䜌攴】13445 ヘン 變（10－36117）に同じ。〔正字通〕⿱䜌攴、同ㇾ變。

【⿰贊攴】13446 サン 〔集韻〕祖官切 寒

姓。〔集韻〕⿰贊攴、姓也。〔海西先賢傳〕漢⿰贊攴授、漁陽人。

【⿰麗攴】13447 ㊀レイ ライ 〔集韻〕里弟切 薺 ㊁リ 〔集韻〕鄰知切 支 ㊂レイ ライ 〔集韻〕郎計切 霽


小篆

㊀かず。かぞへる。〔說文〕⿰麗攴、數也、从ㇾ攴麗聲。〔方言、三〕⿰麗攴、數也。㊁魚⿰麗攴は、陣の名。麗（12－47663）に同じ。〔集韻〕⿰麗攴、魚⿰麗攴、陣名、通作ㇾ麗。㊂❶しく。〔廣雅、釋詁三〕⿰麗攴、布也。❷㊀に同じ。〔集韻〕⿰麗攴、一曰、數也。

名乘 カズ。ノブ。

二十一畫

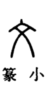
【⿰蘭攴】13448 ケン ⿰藺攴（8－22939）の譌字。〔中華大字典〕⿰蘭攴、⿰藺攴譌字。

【⿰屬攴】13449 ショク ゾク 〔集韻〕殊玉切 沃

❶うつ。たたく。〔玉篇〕⿰屬攴、擊也。❷屬（4－7821）の俗字。〔正字通〕⿰屬攴、俗屬字。

文部

【文】13450 ㊀ブン モン 〔集韻〕無分切 文 ㄨㄣˊ wen² ㊁ブン モン 〔集韻〕文運切 問 ㄨㄣˋ wen⁴ ㊂ビン ミン 〔集韻〕眉貧切 眞


小篆

㊀❶あや。㋑色を交錯させて畫き出した系統のある模樣。〔說文〕文、錯畫也、象㆓交文㆒。〔王注〕錯者、交錯也、錯而畫ㇾ之、乃成ㇾ文也、易繫辭、物相雜、故曰ㇾ文、錯斯雜矣。〔周禮、天官、典絲〕共㆓其絲纊組文之物㆒。〔注〕青與ㇾ赤謂㆓之文㆒。〔禮、樂記〕五色成ㇾ文而不ㇾ亂。〔孟子、告子上〕所㆔以不ㇾ願㆓人之文繡㆒也。〔注〕文繡、繡衣服也。〔太玄經、玄掜〕文爲㆓藻飾㆒。〔曹植、七啓〕爾乃御㆓文軒㆒。〔注〕善曰、文、畫飾也。㋺いろ。いろどり。〔山海經、大荒南經〕赤水之東、爰有㆓文貝㆒。〔注〕卽紫貝也。〔山海經、海內西經〕開明北有㆓文玉

樹一。〔注〕文玉樹、五采玉樹也。〔後漢書、班固傳上〕揄二文竿一出二比目一、〔注〕文竿、翠羽爲二文飾一也。㊇かた。もやう。まだら。〔山海經、中山經〕睢水、云云、多二文魚一。〔注〕有二斑彩一也。㊁もくめ。木理。〔韻會〕文、理也、如二木有レ文、亦名曰レ理。❷**質に對する語**。また、みばえ。外面的文飾。〔論語、雍也〕文質彬彬。〔皇疏〕文、華也。〔莊子、繕性〕文滅レ質、博溺レ心。〔注〕文・博者、心質之飾也。❸**すぢ**。みちすぢ。條理。〔莊子、應帝王〕鄕吾示レ之以二地文一。〔釋文〕崔云、文、猶レ理也。❹**のり**。みち。法度。禮儀。威儀。〔正字通〕文、史、玩レ法曰二舞文一。〔國語、周語上〕以レ文脩レ之。〔注〕文、禮法也。〔國語、周語上〕有レ不レ享則脩レ文。〔注〕文、典法也。〔荀子、禮論〕文之至也。〔注〕文、謂二法度一也。〔李康、運命論〕文薄之弊、漸二於靈景一。〔注〕善曰、云云、鄭玄曰、文、謂二尊卑之差制一也、習二文法一無二悃誠一也。〔荀子、富國〕禮節將甚文。〔注〕文、謂二敬事之威儀一也。〔淮南子、詮言訓〕止成レ文。〔注〕止、謂二威儀文采一。〔新書、容經〕有レ儀而可レ象、謂二之文一。❺**禮樂制度**。〔論語、子罕〕文王既沒、文不レ在レ茲乎。〔集注〕道之顯者謂二之文一、蓋禮樂制度之謂。❻**あらはれ**。現象。〔淮南子、天文訓、注〕文者、象也。❼**ふみ**。㋑もじ。文字。字の中で獨體のもの。〔孔安國、尚書序〕由レ是文籍生焉。〔注〕文、文字也。〔許愼、說文解字敍〕依レ類象レ形、謂二之文一、其後形聲相益、謂二之字一。〔通志、六書略、六書序〕象形指事、文也、會意諧聲轉注、字也。〔左氏、昭、元〕於レ文皿蟲爲レ蠱。〔注〕文、字也。㋺書籍。〔禮、中庸〕不レ考レ文。〔注〕文、書名也。〔論語、學而〕行有二餘力一、則以學レ文。〔集解〕馬融曰、文、古之遺文。〔皇疏〕文、卽五經六籍也。〔國語、周語下〕小不レ從レ文。〔注〕文、詩書也。〔漢書、孫寶傳〕前日君男欲レ學レ文。〔注〕師古曰、文、謂レ書也。❽**ことば**。語句。〔孟子、萬章上〕不二以レ文害レ辭。〔國語、楚語上〕文詠レ物以行レ之。〔注〕文、文詞也。❾**語句をつづつて思想感情をあらはしたもの**。㋑韻文と散文と倂せいふ。文體明辯(649)を見よ。〔論語、八佾〕文獻不レ足故也。〔皇疏〕文、文章也。〔論語、先進〕文學、子游・子夏。〔漢書、賈誼傳〕屬レ文。㋺韻文をいふ。六朝時代、散文を筆といふに對する語。〔南史、顏延之傳〕竣得二臣筆一、測得二臣文一。㊇散文をいふ。唐に詩賦の盛行した時、之に對していふ。〔蘇軾、潮州韓文公廟碑〕文起二八代之衰一。〔后山詩話〕詩文各有レ體。❿**ことばたくみ**。言辭に長ずる。〔國語、晉語四〕吾不レ如二衰之文一也。〔注〕文、文辭也。〔荀子、非相〕文而致レ實。〔注〕文、謂二辯說之詞一也。⓫**よい**。うるはしい。〔禮、樂記〕以レ進爲レ文。〔注〕文、猶二美也、善也一。⓬**みやびやか**。〔荀子、性惡〕多言則文而類。〔注〕文、謂レ不二鄙陋一也。⓭**德**。德惠。仁德。〔詩、大雅、江漢〕告二于文人一。〔傳〕文人、文德之人也。〔國語、周語下〕其敬レ文之恭也。〔注〕文者、德之總名。〔論衡、福虛〕文者德惠之表。⓮**學問**。道藝。〔論語、學而〕行有二餘力一、則以學レ文。〔鄭注〕文、道藝也。⓯**武事以外のこと**。〔後漢書、禮儀志〕齎二束帛一以賜二文官一。⓰**鼓樂の名**。〔禮、樂記〕始奏以レ文、復亂以レ武。⓱**錢貨の名**。圜形で中央に方孔のあるもの。又、錢の枚數をあらはす語。〔水經、漸江水注〕父老人持二百錢一出送、劉寵各受二一文一。⓲**周の文王**。〔詩、大雅、下武序〕下武、繼レ文也。〔箋〕繼レ文者、繼二文王之王業一而成レ之。⓳**つとめる**。忞(**4－10350**)に通ず。〔說文通訓定聲〕文、叚借爲レ忞、論語、文莫猶レ人也、按、猶二忞慔一。〔廣雅、釋詁三〕文、勉也。⓴**みだれる**。紊(**8－27261**)に通ず。〔說文通訓定聲〕文、叚借爲レ紊。〔書、洛誥〕咸秩無レ文。㉑**くみひも**。組綬。〔後漢書、輿服志下〕五首爲二一文一。㉒**文體の名**。〔文體明辯、文〕按、編內所レ載、鈞謂二之文一、而此類獨以レ文名者、蓋文中之一體也、其格有二散文一、有二韻語一、或倣二楚辭一、或爲二四六一、或以二盟神一、或以二諷人一、其體不レ同、其用亦異、今並採而列レ之、以俟二學者詳一レ焉。㉓**謚**。〔逸周書、謚法解〕道德博聞曰レ文、學勤好問曰レ文、慈惠愛レ民曰レ文、錫二民爵位一曰レ文、愍レ民惠レ禮曰レ文、經二緯天地一曰レ文。㉔**百六韻の一**。上平第十二。㉕**姓**。〔通志、氏族略、以レ謚爲レ氏〕文氏、姬姓、風俗通云、周文王支孫、以レ謚爲レ氏、越大夫文種、宋潞公家本敬氏、避二國諱一改爲二文字一。〔宋史、文彥博傳〕文彥博、字寬夫、汾州介休人、其先本敬氏、以レ避二晉高祖及宋翼祖諱一改焉。㈡❶**かざる**。彣(**4－9971**)に通ず。〔說文通訓定聲〕文、叚借爲レ彣。㋑あやを施す。〔廣雅、釋詁二〕文、飾也。〔國語、晉語八〕文二錯其服一。〔注〕文、文織。〔荀子、儒效〕取レ是而文レ之也。〔注〕文、飾也。㋺ととのへる。〔論語、憲問〕文レ之以二禮樂一。〔集解〕孔曰、加レ之以二禮樂一、文成。㊇つくろふ。〔論語、子張〕小人之過也、必文。❷**いれずみをする**。〔禮、王制〕東方曰レ夷、被髮文身。〔注〕雕・文、謂下刻二其肌一以二丹青一涅上レ之。㈢**かざる**。〔集韻〕文、飾也、禮、大夫以二魚須一文レ竹、劉昌宋讀。**邦**❶**ふみ**。手紙。❷**もん**。一厘の穴錢の稱。❸**ぶんねう**。漢字偏旁の名。

名乘　イト。ノリ。フミ。フム。トモ。アヤ。ヒサ。ヤス。ヨシ。

解字　象形指事。筆畫が交錯して種々の形を象る意をあらはした文字。類に依つた點からは、指事であり、形に象つた點からは、象形である。〔說文序〕黃帝之史倉頡、見二鳥獸蹏迒之迹一、知二分理之可一相別異一也、初造二書契一、云云、蓋依レ類象レ形、故謂二之文一。〔段注〕依レ類象レ形、謂二指事象形二者一也、指事亦所下以象上レ形也、文者遺畫也、迻二遺其畫一而物像在レ是。▽ （金文）象形。開いた胸に入れ墨模樣の見えるさまに象る。

【文盎】1（ブン アウ）　清、朱昆田(**6－14424**‥789)の字。

【文奧】2（ブン アウ）　三國吳、陳表(**11－41698**‥546)の字。

【文鴦】3（ブン アウ）　晉の人。欽の子。石勒が襄陽を陷れるや、王浚、鴦を遣して救ふ。鴦、王申と大いに勒を文石津に破る。〔三國志、二十八〕・〔晉書、一百四〕。

【文鷖】4（ブン アウ）　美しいあやのある鷖。〔王融、淥水曲〕湛露改二寒司一、文鷖變二春旭一。

【文安】5（ブン アン）　❶縣名。㋑漢、置く。河北省新鎭縣の東南。〔漢書、地理志上〕勃海郡、縣二十六、文安。〔讀史方輿紀要、直隸、霸州、文安縣〕文安城、漢置二縣于此一、今縣治乃三河口之豐利縣、當二三河合流處一。〔清史稿、地理志〕直隸、順天府、縣十九、文安。㋺西魏、置く。陝西省延川縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府〕延川縣漢膚施縣地、西魏置二文安縣一、兼二置文安郡一。❷年號。㋑北宋の徽宗時代、後理(南詔)の中宗(一に中宗文安帝、段正淳)の時。一に開明文安・開明・明開にも作る。(1105－1107)㋺第百二代後花園天皇

の年號。(1444－1449)〔藤原兼鄕・菅原在直勘文〕尚書曰、放勳欽明、文思安安。❷謚號。㋑宋、洪遵(6－17402··103)の謚。㋺宋、宋白(3－7078··181)の謚。㋩宋、趙景緯(10－37171··496)の謚。㋥宋、楊椿(6－15112··281)の謚。㋭宋、劉沆(2－2224··96)の謚。㋬宋、陸九淵(11－41708··284)の謚。㋣元、金履祥(11－40152··1405)の謚。㋠元、揭傒斯(5－12389··50)の謚。㋷明、周洪謨(長寧の人)(2－3441··661)の謚。㋦明、鄭賜(11－39647··158)の謚。㋸明、劉定之(2－2224··1211)の謚。㋾明、呂本(餘姚の人)(2－3386··143)の謚。㋻明、林瀚(6－14551··56)の謚。㋕明、王英(7－20823··56)の謚。㋵清、何淩漢(1－511··380)の謚。㋟清、張端(4－9812··541)の謚。㋹清、馮銓(12－44579··111)の謚。㋞清、王鐸(7－20823··762)の謚。

〖文安集〗6　書名。十四卷。元、揭傒斯撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖文安王皇后〗7　南齊、王后(7－20823··390)の⓬の謚。

【文按】8　文章の草案。したがき。文書の留めて按據となすものをいふ。〔資治通鑑、晉紀〕(孝武帝、太元十四年)諸曹皆得良吏、以掌文按。〔注〕按、據也、文按、謂諸曹文書留爲按據者。

【文案】9　❶文章の草案。したがき。〔陸機、答張士然詩〕終朝理文案、薄暮不遑眠。〔南史、宋宗室及諸王上、彭城王義康傳〕性好吏職、銳意文案。〔任昉、王文憲集序〕文案自環、主者百數。〔注〕向曰、文案多而自環繞其坐也。〔世說新語、任誕下、補〕王敬弘爲尚書僕射、關署文案、初不省讀。❷文書案件をいふ。文案勘合を見よ。

〖文案勘合〗10　文案は文書案件、帳簿に記入したものをいひ、勘合は半印勘合、卽ち割符で校勘對合に用ひるものをいふ。文案と勘合によつて收支することを正收正支といひ、之によらないで收支することを那移出納といふ。〔明律、戶律、倉庫、那移出納〕凡各衙門、收支錢糧等物、已有文案勘合、若監臨主守、不正收正支、那移出納、還充官用者、並計贓准監守自盜論。

〖結攬寫發文案〗11　非職官吏が官府と結託して官府文案の謄寫、及び發送を一手に請負ふこと。〔明律、吏律、職制、濫設官吏〕其罷閒官吏、在外干預官事、結攬寫發文案。

【文衣】12　美しい模樣のある衣。〔史記、孔子世家〕皆衣文衣而舞康樂。

【文移】13　❶屬縣に移與する文書。ふれぶみ。〔後漢書、光武紀上〕於是致僚屬作文移。〔注〕東觀漢記曰、文書移與屬縣也。〔王先謙集解〕惠棟曰、王幼學云、移、箋表之類也、官府公曹不相臨敬、則爲移。❷行文移文の略。行文は官署が文書を以て相往復すること。移文は今の移牒に同じく官文書の名。宋代、之を科擧の科目とし、其の文體に擬して文書を作らしめた。〔大學衍義補、正百官、公銓選之法〕我朝銓試之法、大略似宋、往者專考文移、云云、其所試之題、或論或策、或文移、不拘定時、遇本部有暇隙、卽署僚屬爲監試等名目、集監生而試之。

【文異】14　經文の文字の相違。〔經解入門、羣經辨異〕古者傳經、多以口相授、故異者滋多、云云、習經者當知其同、尤不可不辨其意、約擧異例、厥有數端、曰文異、曰義異、曰篇異、何謂文異、如易體仁足以長人、京氏作體信、聖人作百萬物覩、馬氏作聖人起、君子以經綸、鄭氏作經論、射鮒、荀氏作耶鮒、其惟聖人乎、王氏作愚人、明辨晳也、陸績作明辨逝也、利用侵伐、王廙作寢伐、官有渝、蜀才作館有渝、嫌于无陽、李鼎祚作兼于无陽之類、推之、尚書之今古文、詩齊魯韓與毛四家、周禮儀禮之古書今本、春秋之左氏公穀三傳、孝經論語孟子爾雅諸書之各本不同、而此外諸子史漢所引各經之異、又不可枚擧、此文之異也。

〖文異而義同〗15　文章は違つてゐるが、述べる意義は同じである。〔經傳釋詞、十〕下文其所厚者薄、而其所薄者厚、未之有也、與此文異義同。

【文意】16　文章の意義。文の意味。文義。〔漢書、王莽傳下〕刻銅印三、文意甚害。〔元史、韓性傳〕作大義、操筆立就、文意蒼古、先生宿學皆稱異焉。

【文漪】17　清、汪灝(臨清の人)(6－17154··2「4」)の字。

【文懿】18　❶隋、張齋(4－9812··39)の字。❷謚號。㋑後魏、李先(6－14459··522)の謚。㋺唐、虞世南(9－32723··172)の謚。㋩唐、王起(7－20823··189)の謚。㋥後周、馮道(12－44579··116)の謚。㋭宋、郭贄(11－39474··104)の謚。㋬宋、蔡幼學(9－31818··142)の謚。㋣宋、孫抃(3－6987··267)の謚。㋠宋、張士遜(4－9812··1086)の謚。㋷宋、陳居仁(11－41698··750)の謚。㋦宋、馮拯(12－44579··96)の謚。㋸宋、李璧(6－14459··727)の謚。㋾元、許謙(10－35298··75)の謚。㋻元、齊履謙(12－48565··330)の追謚。㋕元、尙野(4－7493··149)の謚。㋵元、傅立(1－939··131)の謚。㋟明、瞿景淳(8－23747··33)の謚。㋹明、章懋(8－25761··160)の謚。㋞明、朱賡(6－14424··81)の謚。㋡明、儲巏(1－1284··19)の謚。㋧明、趙志皐(10－37171··616)の謚。㋤明、翟鑾(9－28727··43)の謚。㋶明、楊起元(6－15112··465)の追謚。㋰明、楊守陳(6－15112··609)の謚。㋒明、劉宣(2－2224··447)の謚。㋼明、呂原(2－3386··66)の謚。㋨清、韓菼(12－43159··18)の謚。㋔清、馬教思(12－44572··757)の私謚。

【文位】19　勳位に對して普通の位階の稱。〔式部省式、上〕凡勳位朝參者、服文位服、列當位次第、若無文位、著黃袍。

【文偉】20　字號。❶漢、郭威(11－39474··3)の字。❷後漢、顧綜(12－43689··134)の字。❸三國蜀、費褘(10－36717··2)の字。

【文爲】21　文章につくる所のもの。〔禮、仲尼燕居〕子曰、制度在禮、文爲在禮、行之其在人乎。〔疏〕文爲在禮者、人之文章所爲亦在於禮、言禮爲制度文章之本。

【文煒】22　清、吳章(2－3365··3)の更名。

【文違】23　下總國の地名。

【文緯】24　❶書名。三十卷。山梨稻川撰。音韻の書。〔山梨稻川全集〕。❷後晉、李郁(6－14459··30)の字。❸朝鮮李朝、居昌の人。號は茅谿。官は司憲府監察。〔人物考〕。

【文友】25　❶詩文の友人。文友詩敵を見よ。〔論語、顏淵〕曾子曰、君子以文會友、以友輔仁。❷清、董以寧(9－31433··172)の字。

〖文友詩敵〗26　詩文の友。〔白居易、劉白唱和集解〕常戲微之云、僕與足下、二十年來、爲文友詩敵、幸也。

【文有】27　後漢、檀敷(6－15632··53)の字。

【文囿】28　❶文事をさめる場所。文章を集めた林囿。文章の集。〔梁書、昭明太子傳〕或擅談叢、或稱文囿。〔梁昭明太子、文選序〕歷觀文囿、泛覽辭林。〔注〕向曰、言偏涉文章之林囿也。❷文學の士をいふ。〔范曄、樂游應詔詩〕軒駕時未肅、文囿降照臨。〔注〕濟曰、文囿、謂文學之士。

【文遊】29　文學の遊。〔安倍廣庭、秋日於長王宅宴新羅客賦得流字詩〕宴庭招遠使、離席開文遊。

〖文遊臺〗30　臺名。江蘇省高郵縣の東。宋の蘇軾が王鞏・孫覺・秦觀・李公麟と遊ぶ。因つて名づく。〔江南通志、揚州府〕文遊臺、在高郵城東、宋蘇軾・孫覺・秦觀・李公麟同遊、載酒論文於此。

【文逸】31　梁、張孝秀(4－9812··870)の字。

【文郁】32　字號。❶唐、劉蘭(2－2224··641)の字。❷明、劉汝懋(2－2224··1069)の字。

【文允】33　字號。❶唐、法海(6－17290··36)の字。❷明、邊洵(11－39216··103)の字。

【文胤】34　清、李鄴嗣(6－14459··1129)の前「名。

【文茵】35　虎の皮で作つた車上の坐褥。文采があるからいふ。文鞇。〔詩、秦風、小戎〕文茵暢轂、駕我騏馵。〔傳〕文茵、虎皮也。〔疏〕茵者、車上之褥、用皮爲之、言文茵、則皮有文采、故知虎皮也。〔陶潛、閑情賦〕悲文茵之代御、方經年而見求。

【文鞇】35′　文茵に同じ。〔釋名、釋車〕文鞇、車中所坐也、用虎皮爲之、有文采、鞇、因也、因與下輿相聯著也。

【文隱】36　❶文が隱微である。〔後漢書、蘇竟傳〕玄包幽室、文隱事明。〔歐陽脩、春秋論上〕經文隱而意深。❷宋、林公遇(6－14551··318)の

私謚。

【文羽】37ブンウ　清、許尙遠(10－35298‥307)の字。

【文蔚】38ブンウツ　❶あやの美しく盛なこと。〔易、革〕上六、象曰、君子豹變、其文蔚也。〔法言、吾子〕君子豹別、其文蔚也。❷字號。㋑後漢、路粹(10－37524‥55)の字。㋺唐、竇威(8－25695‥1)の字。㋥元、尙野(4－7493‥149)の字。㋭明、聶豹(9－29179‥18)の字。

【文運】39ブンウン　❶文明の氣運。學問が盛になる氣運。〔袁桷、送三馬伯庸御史奉二使河西一詩〕清寧闡二文運一、覽二彼古帝都一。❷學問上の氣運。世の中の學問の形勢。學藝の趨勢。〔佐藤一齋、先哲叢談序〕文運之盛衰、關二乎世道之汙隆一、徵二諸文運之盛衰一。

【文蘊】40ブンウン　清、王質(7－20823‥488)の字。

【文永】41ブンエイ　第九十代龜山天皇の年號。(1264－1275)〔菅原在章勘文〕文永、云云、晉書曰。

【文英】42ブンエイ　❶すぐれた文才のある者。〔丁謂、大蒐賦〕博搜二聖書一、廣召二文英一。❷營の名。江西省崇義縣の西南。もと文英隘といひ、又、文英堡といふ。〔讀史方輿紀要、江西、南安府、崇義縣〕聶都隘、圖說、縣境西至二豐洲一、則接二湖廣之桂陽一、西南至二龍岷一、則臨二廣東之仁化一、皆山賊出沒要區、而聶都文英關田三隘、防禦尤急、然守二白溪堯付一、則聶都文英可レ無レ虞、據二三峯腦一、則桂陽流賊可二遏絕一、此又當レ圖二之於豫一者也。❸字號。㋑明、吳驥(2－3365‥168)の字。㋺明、穆世傑(8－25251‥88)の字。㋩明、沐英(6－17201‥4)の字。

【文榮】43ブンエイ　明、袁煒(10－34152‥6)の謚。

【文瑩】44ブンエイ　❶宋の僧。錢塘の人。字は道溫。詩に巧。藏書を好む。著に湘山野錄・玉壺野史・玉壺詩話がある。〔四庫提要、一百四十〕。❷明、宋子環(3－7078‥282)の字。

【文灤】45ブンエイ　清、龔鎭海(12－48837‥83)の字。

【文妖】46ブンエウ　あやしい文章家。又、文章のあやしいもの。〔唐國史補、下〕近代有三造謗而著二書雞眼苗登二一文一、有下傳二蟻穴一而稱中李公佐南柯太守上、有下樂伎而工二篇什一者成都薛濤上、有下家童而善二章句一者郭氏奴上、皆文之妖也。

【文瑤】47ブンエウ　美しい玉。あやある美玉。〔開元天寶遺事、天寶下、錦鴈〕奉御湯中、布以二文瑤密石一。

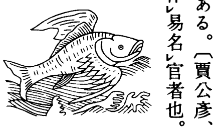
【文曜】48ブンエウ　文采あり光曜あるもの。日・月・星辰の類。〔晉書、天文志上〕文曜麗二乎天一、其動者有レ七、日月五星是也。

【文耀】49ブンエウ　❶うつくしい光。〔劉陶、改二鑄大錢一議〕瞰二三光之文耀一、視二山河之分流一。❷字號。㋑宋、趙孟奎(10－37171‥898)の字。㋺明、桑榮(6－14772‥2)の字。㋩明、陳煒(11－41698‥9)の字。

〖文耀鉤〗50ブンエウコウ　緯書の名。春秋緯の一。其の書既に佚し、古微書に輯本がある。〔賈公彥、周禮正義序〕故文耀鉤云、伏羲作レ易名レ官者也。

【文鰩】51ブンエウ　魚の名。とびうを。飛魚。文鰩魚を見よ。〔左思、吳都賦〕精衞銜レ石而遇レ繳、文鰩夜飛而觸レ綸。

〖文鰩魚〗52ブンエウギョ　魚の名。とびうを。文鰩。〔山海經、西山經〕泰器之山、觀水出焉、西流注二于流沙一、是多二文鰩魚一、狀如二鯉魚一、魚身而鳥翼、蒼文而白首赤喙、常行二西海一、遊二於東海一、以レ夜飛、其音如二鸞雞一、其味酸甘、食レ之已狂、見則天下大穰。



文鰩（三才圖會）

【文益】53モンエキ　五代南唐の僧。餘杭の魯氏の子。禪宗法眼宗の祖。羅漢桂琛禪師を嗣ぐ。李昇、迎へて報恩寺に住せしめ、號を淨慧と稱す。卒して大法眼禪師大智藏導師と謚す。〔唐詩紀事、七十六〕。

【文悅】54ブンエツ　字號。❶南朝宋、吳慶之(2－3365‥528)の字。❷宋、高懌(12－45313‥46)の字。

【文鉞】55ブンエツ　外國の名。文越。〔王融、三月三日曲水詩序〕文鉞碧砮之琛、奇幹善芳之賦。〔注〕善曰、文鉞、未レ詳、一曰、鉞、當レ爲レ越。

【文衍】56ブンエン　北周、楊敷(6－15112‥337)の字。

【文偃】57モンエン　南漢の高僧。嘉興の張氏の子。韶州の雲門山光泰院に住す。南漢の主晟、歸依して匡眞禪師の號を賜ふ。乾和中、示寂す。後人、其の派を雲門宗といふ。宋の乾德中、大慈雲匡眞弘明禪師の謚を賜はる。〔傳燈錄〕。

【文掞】58ブンエン　清の人。從簡の孫。柟の子。字は賓日(日賓)。號は古香。又、洗心子・十二硯齋。私謚は貞愨先生。書畫は其の家學を傳へ、隱居して終歲出でず。著に十二研齋詩集がある。〔國朝耆獻類徵、四百六十一〕・〔清畫家詩史、甲、下〕。

【文淵】59ブンエン　❶書名。一卷。荻生徂徠撰。文章の淵源に就いて分敍す。❷字號。㋑後漢、馬援(12－44572‥36)の字。㋺三國吳、鄭泉(11－39647‥195)の字。㋩後魏、羊深(9－28425‥101)の字。㋥宋、周湛(2－3441‥363)の字。㋭明、魏源(12－45872‥54)の字。㋬明、寇深(3－7209‥25)の字。㋣明、曹弘(5－14297‥82)の字。㋠明、謝海(10－35827‥25)の字。㋷明、樓澄(6－15430‥58)の字。

〖文淵閣〗60ブンエンカク　內閣の一。明、置く。もと南京に在り、成祖遷都の後、北京に遷す。典籍を貯へ、天子講讀の所、大學士之を掌る。清代、北京、紫禁城內の東南隅にあり、內廷四閣の一にして四庫全書を藏し、文淵閣領閣事、及び校理等の職、之を掌る。四庫全書(3－4682‥269)を見よ。〔明史、職官志一〕中極殿大學士、建極殿大學士、文華殿大學士、武英殿大學士、文淵閣大學士、東閣大學士、掌二獻替・可否・奉陳・規誨・點檢・題奏・票擬・批答一、以平二允庶政一。〔雙槐歲抄〕文淵閣、爲二天子講讀之所一、非二政府一也、故列レ凳側坐、而虛二其中一以俟二臨視一。〔大學衍義補、備二規制一、圖籍之儲〕我朝館閣之職、凡前代所謂集賢院・崇文院・秘書省・秘閣、皆不二復置レ官、惟於二翰林太學二置二此官二一員一、今翰林院秘藏皆在二文淵閣一、其典籍固有レ所二職掌一、惟兩京太學典籍、幾二於虛設一、臣聞永樂中、太宗皇帝肇建二北京一、敕二翰林院一、凡南京文淵閣所レ貯古今一切書籍、自二一部一至レ有二百部以上一、各取二一部一送レ京、餘悉封識收貯如レ故、則是兩京皆有二儲書一也。〔歷代職官表、內閣下、明〕謹案、明文淵閣、本在二南京一、成祖遷都後、設レ官雖レ沿二舊名一、實無二其地一、卽以二午門內大學士直廬一、謂二之文淵閣一、其實終二明之世一、未二嘗建レ閣也、我朝右文隆軌、超二邁往牒一、近者特命、於二文華殿後一、鼎二建文淵閣一、以藏二四庫全書一、輪奐聿新、規模大備、而閣臣之帶、文淵閣銜者、其稱名亦更爲二核實一矣、至三新二設領閣事直閣事諸官一、則詳二具於閣職表中一、玆不二備及一云。

〖文淵閣書目〗61ブンエンカクショモク　書名。明、揚士奇撰、四卷。永樂中、南京の書籍を北京に移して、左順門北廊に收貯し、其の冊籍を存記したもの。諸書を錄するのに千字文で題別し、天字より往字に至る。凡そ二十號。但、往往、撰者の名を佚し、又、冊數のみあつて卷數のないものがある。〔四庫提要、史、目錄類〕・〔讀畫齋叢書、戊集〕。

【文苑】62ブンエン　文壇。苑はその。文を花卉に比していふ。文人のあつまるところ。文林。〔文心雕龍、才略〕觀二夫後漢才林一、可レ參二西京一、晉世文苑、足レ儷二鄴都一。

〖文苑傳〗63ブンエンデン　文苑家の列傳。後漢書・晉書・魏書・北齊書・北史・舊唐書・唐書(文藝)・金史(文藝)・明史にある。

〖文苑英華〗64ブンエンエイグワ　書名。一千卷。宋の太宗の時、李昉等奉勅撰。蕭統の文選につがんとして作る。梁末より始まり唐朝の文を收む。其の目は、賦・詩・歌行・雜文・中書制誥・翰林制誥・策問・策・判・表・牋・狀・檄・露布・彈文・移文・啓・書・疏・序・論・議・頌・讚・銘・箴・傳記・謚冊・哀冊・謚議・誄・碑・誌・墓表・行狀・祭文の三十七類。〔四庫提要、集、總集類〕。

〖參考書〗【文苑英華辨證】十卷宋、彭叔夏撰。文苑英華は南宋になつて始めて行はれ、廣く傳はつたが訛脫が多かつたから、周必大が之を校正し、叔夏も其の事に預り、因て此の編を作る。凡例十一、異同を考訂し極めて精核。〔四庫提要、集、總集類〕・〔武英殿聚珍版全書、第四百三十二冊〕・〔知不足齋叢書、第一百四十五・一百四十六〕。

【文垣】65ブンエン　字號。❶明、孫一奎(3－6987‥320)の字。❷清、毛聚奎(6－16772‥290)の字。

【文園】66ブンエン　❶漢の司馬相如をいふ。孝文園令となつたのでいふ。〔漢書、司馬相如傳下〕相如拜爲二孝文園令一。〔杜牧、爲レ人題贈詩〕文園終レ病渴、休レ詠二白頭吟一。❷字號。㋑清、李棠階(6－14459‥1676)の號。㋺清、李中簡(6－14459‥1724)

の號。

【文遠】67　字號。❶三國魏、張遼（4－9812‥742）の字。❷南齊、祖沖之（8－24664‥173）の字。❸後魏、裴植（10－34362‥58）の字。❹唐、徐曠（4－10110‥99）の字。❺明、郭傳（11－39474‥173）の字。❻清、魯超（12－46013‥101）の字。

【文鴛】68　鳥の名。鳳凰の屬。〔剪燈餘話、瓊奴傳〕綵鳳分㆑羣、文鴛失㆑侶。

【文應】69　第九十代龜山天皇の年號。（1260－1261）〔菅原在章勘文〕晉書曰、大晉之行、戢㆑武興㆑文之應。

【文翁】70　❶漢、舒の人。少くして學を好み、春秋に通ず。景帝の末、官は蜀郡守。大いに教化を興す。武帝の時、郡國皆學校を立てたのは文翁に始まる。〔前漢書、八十九〕。❷元、漆希範（7－18108‥90）の字。

〖文翁興學〗71　蒙求の標題。漢の文翁、春秋の學に通じ、武帝が天下の郡國に學校を立てたのは文翁から始まる故事。〔漢書、循吏、文翁傳〕修㆓起學官於成都市中㆒、招㆓下縣子弟㆒以爲㆓學官弟子㆒、云云、蜀地學㆓於京師㆒者、比㆓齊魯㆒焉、至㆓武帝時㆒、乃令㆓天下郡國㆒、皆立㆓學校官㆒、自㆓文翁㆒爲㆓之始㆒云。

【文屋】72　❶學問をする所。まなびや。〔江家次第、五、釋典〕大學寮、謂㆓之文屋之司㆒。❷本屋。書肆。

〖文屋童〗73　古、大學寮の學生の稱。學生。〔江次第鈔、五、釋奠〕文屋童、大學寮謂㆓之文屋之司㆒、故學生名㆓文屋童㆒也。

〖文屋康秀〗74　歌人。六歌仙の一。又、中古三十六歌仙の一。又、文室ともいふ。字は文琳。天武天皇の皇子長親王の後裔。貞觀二年、刑部中判事、元慶元年、山城大掾、同三年、縫殿介に任ぜらる。詠歌は後撰和歌集・古今和歌集に見える。

【文下】75　羽前國の地名。

【文可】76　字號。❶元、吳景奎（2－3365‥520）の字。❷清、通復（11－38892‥389）の字。

【文夏】77　字號。❶清、吳兆宮（2－3365‥802）の字。❷清、周季畹（2－3441‥587）の號。

【文遐】78　清、江梓（6－17140‥180）の字。

【文嘉】79　❶明の人。徵明の次子。字は休承。號は文水・蕭閑齋。官は和州學正。詩書畫に巧。萬曆中、卒す。著に和州詩がある。〔明史、一百八十七〕・〔萬斯同明史、三百八十七〕・〔明史稿、二百六十八〕・〔明詩綜、四十五〕。❷北宋の徽宗時代、後理（南詔）の憲宗宣仁帝（段正嚴、一に段和譽）の代の私號。

【文牙】80　陳、駱牙（12－44734‥3）の一名。

【文雅】81　❶文學上のみやびやかな道。又、文事風流。〔新語、道基〕正㆓風俗㆒、通㆓文雅㆒。〔後漢書、傅毅傳〕由㆑是文雅顯㆓於朝廷㆒。〔魏志、三少帝、高貴鄉公髦紀〕愛㆓好文雅㆒。〔吳志、薛瑩傳〕乾德博好、文雅是貴。〔宋書、江智淵傳〕愛㆓好文雅㆒、詞采清贍。〔歐陽脩、與㆓梅聖俞㆒簡〕但恐荒淫不㆑及、而文雅過㆑之也。❷文事に長けて風流なこと。〔漢書、張敞傳〕（敞孫竦）博學、文雅過㆓於敞㆒。〔漢書、敍傳下〕敞亦平平、文雅自贊。〔論衡、談天〕文雅之人。〔孔子家語、子路初見〕宰我有㆓文雅之辭㆒。〔劉楨、贈㆓五官中郎將㆒詩〕君侯多㆓壯思㆒、文雅縱橫飛。〔晉書、文苑傳序〕文雅斯盛、張載擅㆓銘山之美㆒。❸後漢、繆斐（8－27855‥43）の字。

〖文雅臺〗82　孔子が禮を習つた場所。禮記には瞿相の圃と稱す。〔齊家寶要〕郡東南一里許、有㆓文雅臺㆒、吾夫子習㆑禮之處、而記稱㆓瞿相之圃㆒也。

【文蛾】83　蟲の名。飛蛾の異名。〔事物異名錄、昆蟲、蛾〕埤雅、飛蛾、一名文蛾。

【文駕】84　wen² chia⁴　文人又は官吏の乘物を尊んでいふ。又、旅行の敬語。

【文介】85　❶南齊、樂預（6－15399‥261）の字。❷諡號。㋑宋、陳禾（11－41698‥172）の諡。㋺明、公鼐（2－1452‥535）の諡。㋩明、孫愼行（3－6987‥456）の諡。㋥明、羅喩義（9－28397‥414）の諡。㋭明、劉儼（2－2224‥269）の諡。㋬明、薛三省（9－32123‥183）の諡。㋣清、閻敬銘（11－41379‥58）の諡。㋠清、馮培元（12－44579‥276）の諡。

〖文介先生〗86　清、王大經（7－20823‥1873）の私諡。

【文海】87　❶文章の府。〔陳陶、贈㆓江南從事張侍御㆒詩〕幾處談天致㆓雲雨㆒、早時文海得㆓鯨鼇㆒。❷書名。四十卷。北周、蕭圓肅撰。時人の詩筆を集む。〔北史、蕭圓肅傳〕蕭圓肅、云云、敏而好㆑學、云云、撰㆓時人詩筆㆒、爲㆓文海四十卷㆒。❸字號。㋑梁、陶籍（11－41705‥111）の字。㋺梁、王籍（7－20823‥687）の字。㋩元、程鉅夫（8－25081‥174）の名。㋥明、張迪（4－9812‥580）の字。

【文開】88　字號。❶後漢、袁成（10－34152‥91）の字。❷清、沈光文（6－17189‥480）の字。❸清、戴梓（5－11685‥69）の字。

【文乂】89　後漢、公沙穆（2－1452‥225）の字。

【文凱】90　北周、蔡大寶（9－31818‥212）の諡。

【文概】91　書名。一卷。清、劉熙載撰。文章法を論じたもの。〔文學津梁〕。

【文巧】92　かざりいつはる。〔管子、牧民〕故省㆑刑之要、在㆑禁㆓文巧㆒。〔後漢書、第五倫傳〕今承㆓百王之敝㆒、人尚㆓文巧㆒、咸趨㆓邪路㆒、莫㆓能守㆑正。

【文江】93　❶文章の宗流をいふ。文江學海を見よ。〔皎然、奉㆘和顏使君眞卿修㆓韻海㆒畢州中重宴㆖詩〕九流宗㆓韻海㆒、七字揖㆓文江㆒。❷江の名。吉水をいふ。流れが文字に似てゐるからいふ。〔吉州志〕吉水螺江如㆑字、曰㆓字江㆒、又曰㆓文江㆒。❸字號。㋑唐、黃滔（12－47926‥608）の字。㋺明、熊緯（7－19294‥1）の字。

〖文江學海〗94　文學の宗とするところ。文學の奧深いところ。〔姚鉉、唐文粹序〕天下之人、始知㆓文有㆑江、學有㆑海。

【文考】95　周の文王を其の死後にいつた稱。後、轉じて亡父の美稱。〔書、泰誓下〕予克㆑受、非㆓予武㆒、惟朕文考無㆑罪。〔傳〕推㆓功於父㆒、言㆓文王無㆑罪㆓於天下㆒。〔逸周書、大開武解〕佚不㆑可㆑還、維文考恪勤。〔注〕言、一佚不㆑可㆑還、故念㆓文王所㆑敬。〔後漢書、明帝紀贊〕懋㆓惟帝績㆒、增㆓光文考㆒。〔注〕書曰、惟我文考、光㆓于四海㆒。

【文行】96　❶文學と德行。文行忠信を見よ。❷字號。㋑三國魏、裴潛（10－34362‥73）の字。㋺唐、蕭德言（9－32012‥489）の字。

〖文行先生〗97　稱號。❶唐、元德秀（1－1340‥715）の尊稱。❷宋、鄧牧（11－39630‥104）の尊稱。

〖文行忠信〗98　孔門教育の四大綱。文は詩書禮樂、行は躬行、忠は中心を盡すこと、信は信實。〔論語、述而〕子以㆑四教、文行忠信。〔劉寶楠正義〕文謂㆓詩書禮樂㆒、凡博學審問愼思明辨、皆文之教也、行謂㆓躬行㆒也、中以盡㆑心曰㆑忠、恆有㆓諸己㆒曰㆑信、人必忠信、而後可㆓致㆑知力行㆒、故曰、忠信之人、可㆓以學㆑禮、此四者、皆教㆓成人㆒之法、與㆘教㆓弟子先行後學㆒文㆖不㆑同。

【文孝】99　諡號。❶宋、張觀（4－9812‥244）の諡。❷元、瞻思（8－23742‥27）の諡。❸清、李寅（6－14459‥40）の諡。

〖文孝先生〗100　諡號。❶清、黃宗羲（12－47926‥1209）の私諡。❷清、沈彤（6－17189‥313）の私諡。❸清、孫博雅（3－6987‥524）の私諡。❹清、刁包（2－1846‥49）の私諡。

【文岡】101　明、陳棐（11－41698‥517）の字。

【文降】102　文書を以て僞り降る。〔後漢書、皇甫規傳〕遂共誣㆑規、貨㆓賂群羌㆒、令㆓其文降㆒。〔資治通鑑、漢紀〕（桓帝、延熹五年）遂共誣㆑規貨㆓賂羣羌㆒、令㆓其文降㆒。〔注〕賢曰、謂㆘以㆓文簿㆒虛降、非㆗眞心㆖也。

【文高】103　字號。❶後漢、何敞（1－511‥96）の字。❷後漢、樊梵（6－15414‥67）の字。❸前秦、苻登（9－30825‥13）の字。❹南朝宋、袁最（10－34152‥64）の字。

【文康】104　❶清の人。勒保の孫。號は悔菴・鐵仙・燕北閒人。貲財を納れて理藩院郎中となり、道員に擢んでられ、憂を以て歸る。特に駐藏大臣に起用されたが疾に遘ひ、未だ任に赴かずして卒す。小說、兒女英雄傳を著はす。❷諡號。㋑晉、庾亮（4－9398‥45）の諡。㋺後魏、張袞（4－9812‥316）の諡。㋩宋、葛勝仲（9－31420‥130）の諡。㋥宋、葉時（9－31387‥61）の諡。㋭宋、王曙（7－20823‥596）の諡。㋬金、張浩（4－9812‥109）の諡。㋣元、安祐（3－7072‥13）の諡。㋠元、閻復（11－41379‥38）の諡。㋷元、王鶚（7－20823‥160）の諡。㋦明、顧鼎臣（12－43689‥333）の諡。㋸明、萬安（9－31339‥1）の諡。㋾明、苗衷（9－30781‥30）の諡。㋻明、李時（6－14459‥397）の諡。㋕明、梁儲（6－14825‥147）の諡。㋵清、宋

權(3-7078‥80)の諡。

【文康樂】105（ブンカウガク）　樂の名。禮畢に同じ。禮畢(8-24844‥189)の㊁を見よ。

【文皓】106（ブンカウ）　明、垣曲の人。字は孔暘。門人の私諡は溫簡先生。弘治の進士。平原・衡水二縣の長官となつて惠政を施し、御史に擢んでらる。時に劉瑾、害毒をほしいままにす。皓、命を奉じて冤獄を雪ぎ、善人の救はれる者多し。河南按察使に升り、魯山の盜、王昭等を誅す。嘉靖中、正議大夫に進めらる。〔國朝獻徵錄、九十二〕・〔本朝分省人物攷、一百〕。

【文綱】107（ブンカウ）　唐の高僧。會稽の孔氏の子。十二にして出家し、長安中、乾陵宮に於て二聖內尼のために四分律を講ず。開元中、示寂す。〔宋高僧傳、十四〕。

【文稿】108（ブンカウ）　作文のしたがき。草稿。〔福惠全書、涖任部、宅門告示〕如吏書傳㆓送僉套、或緊急文

【文稿子】109　wen² kao³ tzŭ　文章の草稿。〔稿㆒。

【文衡】110（ブンカウ）　㊀かざりのある兵車の衡。〔詩、小雅、采芑〕約軝錯衡。〔傳〕錯衡、文衡也。㊁典試の官。文字を評量することが衡で物を量るやうであるからいふ。〔裴皞、示㆓門生馬侍郎胤孫㆒詩〕宦途最重是文衡、天與㆓愚夫㆒著㆓盛名㆒。〔劉克莊、詩〕至尊殿上主㆓文衡㆒。㊂字號。㋑三國蜀、劉璿(2-2224‥454)の字。㋺明、朱銓(6-14424‥430)の字。㋩明、陶銓(11-41705‥116)の字。㋥清、董任(9-31433‥139)の字。㋭清、凌嘉印(2-1669‥130)の字。

【文號】111（ブンガウ）　文章と帝號。一說に、號は號令。〔漢書、王莽傳下〕訖無㆓文號旌旗表識㆒。〔注〕文、謂㆓文章㆒號、謂㆓大位號㆒也、一曰、號、謂㆓號令㆒也。

【文豪】112（ブンガウ）　文筆にすぐれた人。文章の大家。文宗。〔宋名臣言行錄、四、楊億〕公每㆑欲㆑作㆑文、云云、頃刻之閒、成㆓數千言㆒、眞一代之文豪也。

【文恪】113（ブンカク）　諡號。㊀宋、趙汝談(10-37171‥692)の諡。㊁宋、王陶(7-20823‥743)の諡。㊂明、耿裕(9-29026‥49)の諡。㊃明、韓日纘(12-43159‥306)の諡。㊄明、吳道南(2-3365‥761)の諡。㊅明、吳訥(2-3365‥338)の諡。㊆明、蔡國用(9-31818‥179)の諡。㊇明、周子義(2-3441‥674)の諡。㊈明、朱國祚(6-14424‥784)の諡。㊉明、朱善(6-14424‥431)の諡。(十一)明、宋訥(滑縣の人)(3-7078‥179)の諡。(十二)明、曾朝節(5-14299‥221)の諡。(十三)明、唐文獻(2-3709‥512)の諡。(十四)明、張元禎(4-9812‥1011)の諡。(十五)明、丁士美(1-2‥257)の諡。(十六)明、鄭以偉(11-39647‥292)の諡。(十七)明、傅新德(1-939‥181)の諡。(十八)明、楊道賓(6-15112‥679)の諡。(十九)明、余繼登(1-515‥78)の諡。(二十)明、劉楚先(2-2224‥1141)の諡。(二十一)明、林燫(6-14551‥251)の諡。(二十二)明、魯鐸(12-46013‥94)の諡。(二十三)清、尹泰(4-7631‥64)の諡。(二十四)清、高其位(12-45313‥1080)の諡。(二十五)清、額色赫(12-43586‥52)の諡。(二十六)清、祁世長(8-24634‥35)の諡。(二十七)清、魏元烺(12-45872‥201)の諡。(二十八)清、許乃普(10-35298‥353)の諡。(二十九)清、慶桂(4-11145‥35)の諡。(三十)清、吳士玉(2-3365‥590)の諡。(三十一)清、載齡(10-38309‥80)の諡。(三十二)清、桑春榮(6-14772‥161)の諡。(三十三)清、曹秀先(5-14297‥252)の諡。(三十四)清、蔣志章(9-31820‥167)の諡。(三十五)清、蔣溥(9-31820‥91)の諡。(三十六)清、鍾音(11-40672‥3)の諡。(三十七)清、沈初(6-17189‥211)の諡。(三十八)清、沈荃(6-17189‥259)の諡。(三十九)清、全慶(1-1424‥53)の諡。(四十)清、宋德宜(3-7078‥380)の諡。(四十一)清、孫毓汶(3-6987‥319)の諡。(四十二)清、單懋謙(2-3993‥325)の諡。(四十三)清、張泰開(4-9812‥1311)の諡。(四十四)清、丁阜保(1-2‥255)の諡。(四十五)清、趙光(10-37171‥120)の諡。(四十六)清、趙愼軫(10-37171‥706)の諡。(四十七)清、董教曾(9-31433‥196)の諡。(四十八)清、董邦達(9-31433‥250)の諡。(四十九)清、巴泰(4-8745‥68)の諡。(五十)清、龐鍾璐(12-48824‥59)の諡。(五十一)清、萬承風(9-31339‥600)の諡。(五十二)清、費淳(10-36717‥49)の諡。(五十三)清、羅惇衍(9-28397‥352)の諡。(五十四)清、李菡(6-14459‥157)の諡。(五十五)清、劉於義(2-2224‥718)の諡。(五十六)清、劉權之(2-2224‥878)の諡。(五十七)清、勵杜訥(2-2472‥23)の諡。(五十八)清、廖鴻荃(4-9464‥50)の諡。(五十九)明、王鏊(7-20823‥150)の諡。(六十)清、王鼎(蒲城の人)(7-20823‥827)の諡。

【文愨】114（ブンカク）　諡號。㊀清、秦承業(8-24995‥234)の諡。㊁清、陳官俊(11-41698‥772)の諡。㊂清、鄧爾恒(11-39630‥155)の諡。㊃清、沈德潛(6-17189‥618)の諡。

【文愨先生】115（ブンカクセンセイ）　清、錢梓林(11-40563‥331)の私諡。

【文翮】116（ブンカク）　あやのある美しい羽。〔潘岳、射雉賦〕綠柏參差、文翮鱗次。

【文甲】117（ブンカフ）　玳瑁の異名。たいまい。〔漢書、西域傳贊〕明珠文甲、通犀翠羽之珍、盈㆓於後宮㆒。〔注〕如淳曰、文甲、卽玳瑁也。〔吳志、陸胤傳〕附珠之妾家無㆓文甲㆒。

【文匣】118（ブンカフ）　本箱。文庫。〔福惠全書、刑名部、詞訟、放告〕門子接置㆓文匣內㆒。

【文夾】119（ブンカフ）　ふみばさみ。書札を入れる手箱。〔下學集、下〕文夾。

【文蛤】120（ブンカフ）　㊀貝の名。㋑蛤をいふ。殼に小紫斑があるから文といふ。〔晉書、后妃傳論〕惠皇稟質、天縱其嚚、識闇㆓鳴蛙㆒、智昏㆓文蛤㆒。〔本草、文蛤〕釋名、花蛤、集解、弘景曰、小大皆有㆓紫斑㆒、保昇曰、今出㆓萊州海中㆒、三月中旬采、背上有㆓斑文㆒。㋺いたやがひ。帆立貝の類。〔本草和名、下、十四〕文蛤、表有㆑文、以多也加比。㊁草の名。五倍子の異名。形が海蛤に似てゐるからいふ。〔本草、五倍子〕釋名、文蛤、百蟲倉、法釀過名㆓百藥煎㆒、時珍曰、五倍當㆑作㆓五檽㆒、見㆓山海經㆒、其形似㆓海中文蛤㆒、故亦同㆑名。

【文合】121（ブンガフ）　㊀文章でまじはる。〔梁肅、送㆔靈沼上人遊㆓壽陽㆒序〕初用㆑文合。㊁（フミアハセ）　文人が集つて左右に分れ、其の作つた文を合せ、判者をして其の優劣を定めしめること。〔月並文合、上〕。

【文格】122（ブンカク）　文章の品格。文章の法式。文則。文體。〔唐書、選擧志上〕吾患㆓文格浮薄㆒。〔于頔、贈㆓書上人㆒詩〕夙陪㆓翰墨徒㆒、深論㆓窮文格㆒。〔玉堂閒話〕陳鴻與㆑白傳㆓長恨歌㆒、文格極高。

【文樂】123（ブンガク）　㊀文道の音樂。武樂(6-16273‥51)の對。〔公羊、隱、五、始僭㆓諸公㆒云云、注〕婦人無㆓武事㆒、獨奏㆓文樂㆒。㊁（ブンラク）　操人形芝居。

【文學】124（ブンガク）　㊀學藝。學問。孔門四科の一。〔論語、先進〕文學、子游子夏。〔疏〕若㆓文章博學㆒、則有㆓子游子夏二人㆒也。〔墨子、天志中〕下將㆜以量㆛天下之萬民爲㆓文學㆒出㆚言談㆙。〔荀子、王制〕積㆓文學㆒正㆓身行㆒。〔史記、平津侯主父傳〕招㆓賢良文學之士㆒。〔漢書、董仲舒傳〕重禁㆓文學㆒不㆑得㆑挾㆑書。〔後漢書、文苑上、邊韶傳〕以㆓文學㆒知㆑名。〔唐書、李揆傳〕門地人物文學、皆當世第一。㊁詩歌・小說・戲曲及び之に關する學術をいふ。〔魏志、王粲傳〕始文帝爲㆓五官將㆒、及㆓平原君植㆒、皆好㆓文學㆒。〔宋書、隱逸、雷次宗傳〕元嘉十五年、徵㆓次宗㆒至㆓京師㆒、開㆓館於雞籠山㆒、聚㆑徒教授、置㆓生百餘人㆒、會稽朱膺之・潁川庾蔚之、幷以㆓儒學㆒監㆓總諸生㆒、時國子學未㆑立、上留㆓心蓺術㆒、使㆘丹陽尹何尙之立㆓玄學㆒、太子率更令何承天立㆓史學㆒、司徒參軍謝元立㆗文學㆖、凡四學幷建。〔章炳麟、文學總論〕文學者、以㆘有㆓文字㆒著㆗於竹帛㆖、故謂㆓之文㆒、論㆓其法式㆒、謂㆓之文學㆒。㊂官名。漢、郡國に令して賢良文學を擧げしめ、郡國に皆文學の官を置く。魏晉以來幷に之に因り、皆、博士助教を任とした。魏の武帝、及び後周、太子文學の官を置く。唐、亦太子諸王にこの官を置いて、文章に侍奉せしめ、州牧・府尹・各都督府・各州にも幷に文學の官を置き、五經を諸生に教授せしめた。〔漢書、東方朔傳〕武帝初卽㆑位、徵㆓天下㆒擧㆓方正賢良文學材力之士㆒。〔漢書、西域傳〕諸大夫郎爲㆓文學㆒者。〔注〕師古曰、爲㆓文學㆒謂㆘學㆓經書㆒之人㆖。〔歷代職官表、翰林院、漢〕漢時翰林未㆑有㆓專官㆒、而武帝令㆓賢良文學㆒待㆓詔金馬門㆒、應制奏賦、卽馬端臨所謂以㆓言語文字㆒被㆓顧問㆒者、蓋如㆑今。〔唐書、百官志四上〕文學三人、正六品下、分㆓知經籍㆒、侍㆓奉文章㆒。〔唐書、百官志四下〕文學一人、從八品上、掌㆘以㆓五經㆒授㆗諸生㆖、縣則州補、州則授㆓於吏部㆒、然無㆓職事㆒、衣冠恥㆑之。〔注〕武德初置㆓經學博士・助教・學生㆒、德宗卽㆑位、改㆓博士㆒曰㆓文學㆒、元和六年廢、中州下州文學、京兆等三府助教二人、學生八十人、大都督府上州各助教一人、中都督府學生五十人、下府下州各四十人。〔通典、職官、東宮官、太子庶子、文學〕漢時郡及王國並有㆓文學㆒、而東宮無㆑聞、魏武置㆓太子文學㆒、自後並無、至㆓後周建德二年㆒、太子文學十人、後省、龍朔三年、置㆓太子文學四員㆒、屬㆓桂坊㆒、桂坊廢而屬㆓司

經一、開元中定レ制爲二三員一、掌二侍奉一、分二掌四部書判書功事一。〔事物紀原、撫字長民部、文學〕漢郡國皆有二文學掾一、則文學、漢官也、唐會要曰、大曆十四年十二月五日、諸州府學博士、改爲二文學一、品秩同二參軍一、唐志曰、文學州授二於吏部一、然無二職事一、衣冠恥レ之、故朝以爲二散官一、炙轂子曰、隋開皇中、潞州刺史柳昂表勸レ學、帝令レ州置二博士一、俾二其教授一、唐肅宗時、顏眞卿曰、文學蓋復二漢舊號一也。㊃王朝時代、朝廷より侍講として有品親王家に賜はつた官名。〔家令職員令〕文學一人、掌二執經講授一。㊄江戸時代、諸藩の儒者をいふ。〔激翠館集序〕國初已來、藩國必置二文學一、其職講レ經、任二授簡著作事一。㊅城の名。陝西省興平縣の東南。附近に武學城がある。並に秦の章邯、築く。〔太平寰宇記〕後周移二始平於今興平縣東十五里文學城一。㊆世說新語(1—31‥210)の篇名。㊇言語藝術の一種。廣義には思想感情を言語文章によつて表はすものの汎稱で、哲學書・史書・經典等も含まれ、英語のLiteratureの語は屢この意に使用される。此の場合、詩歌・小說・戲曲は特に美文學と稱せられる。狹義には言語、又は文字を媒介物として人の空想に訴へ、以て美を表現するもので、傳說・歌謠・話術等の言語による傳誦文學と詩歌・小說・戲曲等の文學による記錄文學に分たれる。最狹義には此の後者を指していふ。今最も廣く行はれてゐる。㊈明、淩吉(2—1669‥30)の字。

【文學掾】125（ブンガクエン）　學官をいふ。〔稱謂錄、教職、文學掾〕歷代沿革、漢魏以來郡國各有二文學掾一、案卽學官也。

【文學界】126（ブンガクカイ）　文學の範圍。文學の領域。又、文壇。

【文學者】127（ブンガクシヤ）　文學に長じた人。文士。文人。文藝家。又、文學を專攻する學者。

【文學傳】128（ブンガクデン）　文學者の列傳。後漢書(文苑)・晉書(文苑)・南齊書・梁書・陳書・魏書(文苑)・北齊書(文苑)・隋書・南史・北史(文苑)・舊唐書(文苑)・唐書(文藝)・遼史・金史(文藝)・明史(文苑)にある。

【文學論】129（ブンガクロン）　文學の本質を明かにせんとする理論。卽ち文學鑑賞や理解を系統的に纏める理論をいふ。

【文學革命】130（ブンガクカクメイ）　從來行はれた古文、卽ち文章體を廢して白話卽ち口語文を用ひんとする運動で、民國六年一月の雜誌新青年に載せられた胡適の文學改良芻議が發端で、陳獨秀の贊成論あり、其の後、古文派及び軍閥の壓迫があつたが、白話文は文化運動の使用語となり、時勢の力は白話文學の勝利となり、文學革命が成就した。文學改良芻議(139)を見よ。

【文學廣談】131（ブンガククワウダン）　書名。三卷。豐島豐洲撰。

【文學祭酒】132（ブンガクサイシユ）　教授をいふ。〔稱謂錄、教職、文學祭酒〕五代稱二教授一曰二儒林祭酒一、又曰二文學祭酒一、又曰二儒林參軍一、蜀稱曰二典學從事一。

【文學辭章】133（ブンガクジシヤウ）　詩歌文章。文學は文藝、辭章は文章詩賦。

【文學津梁】134（ブンガクシンリヤウ）　叢書の名。民國、周鍾游編。文章法又は古人の文章に就いて評論した書を彙纂したもの。其の內容は、文章緣起一卷(梁、任昉)・文則二卷(宋、陳騤)・文章精義一卷(宋、李耆卿)・修詞鑑衡一卷(元、王構)・文說一卷(元、陳繹曾)・文章薪火一卷(明、方以智)・伯子論文一卷(清、魏禧)・退庵論文一卷(清、梁章鉅)・初月樓古文緒論一卷(清、呂璜)・文概一卷(清、劉熙載)・論文集要四卷(清、薛福成)。

【文學正路】135（ブンガクセイロ）　書名。三卷。附錄二卷。豐島豐洲撰。四術六經、詩・書・易・春秋・禮記等を論じ、更に附錄として文學・史傳に關する諸論辨を收む。附二卷には論語新注・論語補鈔・豐子筆談・仁說を收む。

【文學博士】136（ブンガクハクシ）　學位號の一。文學專攻者で、其の蘊奧を研究した論文を大學に提出し、審查の上、大學總長又は學長が文部大臣の認可を經て授與する。

【文學研究會】137（ブンガクケンキウクワイ）　民國九年、周作人・鄭振鐸・沈雁永・王統照・葉紹鈞等が五四運動によつて起ち、作家の聯絡、外國文學の紹介、中國小說の整理を目的として組織したもの。

【文學書官話】138（ブンガクシヨクワンワ）　書名。一卷。撰者未詳。官話の文法を記したもの。

【文學改良芻議】139（ブンガクカイリヤウスウギ）　胡適が民國六年一月の新青年誌上に揭げた文學革命の論說。其の要項は、一、須二言レ之有レ物、二、不三摹二倣古人一、三、須三講二求文法一、四、不レ作二無病之呻吟一、五、務去二爛調套語一、六、不レ用レ典、七、不レ講二對仗一、八、不レ避二俗字俗語一の八より成る。

【文覺】140（モンガク）　㊀眞言宗の僧。俗名、遠藤盛遠。もと北面の武士。十八歲の時、源渡の妻、袈裟御前を殺し出家。熊野山等で苦行し、後、京に歸り、高雄の神護山を再興せんとして、廣く資財を募り、一日、後白河法皇の宮に至りて強要し奉りし不敬の罪で伊豆國に流さる。時に源賴朝も配されて伊豆にあつたが、彼に擧兵を勸め、自らは法皇の院宣を得てこれを賴朝に傳へた。後賴朝の厚遇を受け、神護寺の再興を成就した。建久中、更に東寺の再興を發願したが、また罪を得て、隱岐に流さる。建仁三年十二月赦さる。正治元年歿、年九十。㊁文覺を題材とした淨瑠璃・歌舞伎の通稱。

【文覺禪師】141（モンガクゼンジ）　清、超揆(10—37096‥18)の諡。

【文洽】142（ブンカフ）　清、彭寧求(4—10003‥199)の字。

【文竿】143（ブンカン）　翠羽で飾を施した釣竿。〔班固、西都賦〕招二白鷴一下二雙鵠一、揄二文竿一、出二比目一。〔注〕善曰、文竿、竿以二翠羽一爲二文飾一也。

【文幹】144（ブンカン）　字號。㊀後唐、李羣(6—14459‥273)の字。㊁南唐、成彥雄(5—11544‥336)の字。

【文翰】145（ブンカン）　㊀かきつけ。文書。文章筆墨。古、筆を翰といひ、筆墨に關するものをすべて文翰といふ。〔顏氏家訓、風操〕須レ言二閥閱一、必以二文翰一。〔晉書、溫嶠傳〕詔命文翰、亦悉豫焉。㊁文彩ある鳥。文鶾に同じ。〔逸周書、王會解〕蜀人以二文翰一、文翰者如二皐雞一。〔注〕鳥有二文采一者、皐雞似レ鳧、翼州謂二之澤特一也。

【文翰將軍】146（ブンカンシヤウグン）　筆の異名。〔海錄碎事、文學、筆〕文翰將軍・文朝將軍、筆也。

【文鶾】147（ブンカン）　錦雞鳥の異名。雉の類で極めて美しい文彩がある。蜀中に產す。〔爾雅、釋鳥、鶾、天雞、注〕鶾雞赤羽、逸周書曰、文鶾若二彩鷄一、成王時、蜀人獻レ之。

【文簡】148（ブンカン）　㊀字號。㋑後魏、姜儉(3—6205‥29)の字。㋺明、蘇章(9—32427‥86)の字。㊁諡號。㋑後魏、李琰之(6—14459‥87)の諡。㋺後魏、李希宗(6—14459‥984)の諡。㋩後魏、李象(6—14459‥417)の諡。㋥南齊、褚淵(10—34457‥5)の諡。㋭北齊、高濟(12—45313‥526)の諡。㋬唐、牛僧孺(7—19922‥338)の諡。㋣唐、崔邠(4—8178‥149)の諡。㋠唐、鄭肅(11—39647‥169)の諡。㋷唐、楊綰(6—15112‥399)の諡。㋦宋、尤袤(4—7543‥38)の諡。㋸宋、向敏中(2—3301‥117)の諡。㋾宋、曹彥約(5—14297‥226)の諡。㋻宋、章得象(8—25761‥226)の諡。㋕宋、宋之才(3—7078‥287)の諡。㋵宋、張康國(4—9812‥875)の諡。㋟宋、陳騤(11—41698‥136)の諡。㋹宋、程琳(8—25081‥147)の諡。㋞宋、鄧洵武(11—39630‥161)の諡。㋡宋、范百祿(9—30834‥257)の諡。㋧宋、畢士安(7—21829‥94)の諡。㋤宋、馮京(12—44579‥57)の諡。㋶宋、李燾(6—14459‥560)の諡。㋰宋、劉綸(2—2224‥622)の諡。㋒金、高霖(12—45313‥954)の諡。㋼金、許安仁(10—35298‥229)の諡。㋨金、蔡松年(9—31818‥196)の諡。㋔金、李晏(6—14459‥5)の諡。㋗元、許師可(10—35298‥297)の諡。㋳元、葉李(9—31387‥141)の諡。㋮元、趙與票(10—37171‥920)の諡。㋘元、李衎(6—14459‥152)の諡。㋫元、劉敏中(2—2224‥1283)の諡。㋙明、翁正春(侯官の人)(9—28635‥83)の諡。㋓明、何孟春(1—511‥371)の諡。㋢明、許讚(10—35298‥99)の諡。㋐明、儀智(1—1172‥68)の諡。㋚明、黃鳳翔(12—47926‥1320)の諡。㋖明、黃淮(12—47926‥974)の諡。㋴明、郭朴(11—39474‥205)の諡。㋱明、周炳謨(2—3441‥854)の諡。㋯明、孫承恩(3—6987‥450)の諡。㋛明、陶望齡(11—41705‥222)の諡。㋽明、湛若水(7—17846‥70)の諡。㋪明、馬京(12—44572‥164)の追諡。㋲明、馬汝驥(12—44572‥829)の諡。㋝明、穆孔暉(8—25251‥80)の諡。㋜明、毛紀(6—16772‥29)の諡。(ン)明、毛澄(6—16772‥175)の諡。(甲)明、孟鳳(3—6960‥2

56)の諡。(乙)明、劉日寧(2－2224‥708)の諡。(丙)明、劉春(2－2224‥362)の諡。(丁)明、呂柟(2－3386‥121)の諡。(戊)明、呂調陽(2－3386‥243)の諡。(己)明、林堯俞(6－14551‥305)の諡。(庚)清、溫達(7－17968‥172)の諡。(辛)清、希福(4－8813‥136)の諡。(壬)清、金士松(11－40152‥1265)の諡。(癸)清、吳襄(2－3365‥218)の諡。(子)清、章煦(8－25761‥49)の諡。(丑)清、陳元龍(11－41698‥836)の諡。(寅)清、王引之(7－20823‥1170)の諡。(卯)清、王士禛(7－20823‥1516)の諡。

〖文簡先生〗149 ブンカンセンセイ　唐、吳蕎(2－3365‥232)の賜號。

【文含】150 ブンガン　明、皇甫焯(8－22701‥225′)の字。

【文季】151 ブンキ　❶字號。㋑後漢、朱暉(6－14424‥104)の字。㋺三國魏、裴徽(10－34362‥19)の字。㋩宋、司馬朴(2－3257‥313)の字。㋥宋、錢文子(11－40563‥426)の字。❷宋、燕文貴(7－19429‥279)の一名。

【文机】152 フヅクヱ　ふみづくゑ。机をいふ。〔字鏡集〕。

【文希】153 ブンキ　藥草の名。沙參の異名。つりがねにんじん。〔本草、沙參〕釋名、別錄、又名㆓文希㆒、一名識美、一名志取。

【文奇】154 ブンキ　詞文が奇想卓絕してゐること。〔舊唐書、文苑下、杜甫傳〕是時山東人李白、亦以㆓文奇㆒取㆑稱。

【文姬】155 ブンキ　字號。❶後漢、蔡琰の字。董祀の妻。蔡邕の女。博學強記、又、音樂に長ず。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕陳留董祀妻者、同郡蔡邕之女也、名琰、字文姬、博學有㆓才辯㆒、又妙㆓於音律㆒。❷唐、鮑君徽(12－46074‥86)の字。

〖文姬入塞〗156 ブンキニフサイ　明代の戲曲。陳與郊の作。六十種曲本の一。蔡文姬が曹操からの迎への使者と倶に胡地から漢に歸らんとして其の子と別れる場を寫し、玉門關の場面で筆を止めてゐる。

【文紀】157 ブンキ　❶書名。明、梅鼎祚編。上古より隋に至る迄の名文を輯めたもの。卽ち、皇霸文紀十三卷・西漢文紀二十四卷・東漢文紀三十二卷・西晉文紀二十卷・宋文紀十八卷・南齊文紀十卷・梁文紀十四卷・陳文紀八卷・北齊文紀三卷・後周文紀八卷・隋文紀八卷・釋紀四十五卷 の十二種より成る。❷字號。㋑後漢、張綱(4－9812‥116)の字。㋺唐、韋維(12－43108‥6)の字。㋩唐、李綱(6－14459‥128)の字。

【文軌】158 ブンキ　❶文字と轍迹の幅。王者天下統一の具。同㆓文軌㆒を見よ。〔隋書、煬帝紀上〕方今宇宙平一、文軌攸㆑同。〔謝靈運、述㆓祖德㆒詩〕秦趙欣㆓來蘇㆒、燕魏遲㆓文軌㆒。〔注〕銑曰、言、皆欣㆓其蘇息㆒、以待㆓文軌同㆒也。❷隋の杜正藏の著はした文章の體式。〔隋書、文學、杜正藏傳〕又著㆓文章體式㆒、大爲㆓後進所㆑寶、時號爲㆓文軌㆒。

〖同㆓文軌㆒〗159 ブンキヲオナジクス　文字と轍迹の幅とが天下皆同じである。天下が統一されてゐるのをいふ。〔中庸〕今天下車同㆑軌、書同㆑文、行同㆑倫。〔章句〕軌、轍迹之度、倫、次序之體、三者皆同、言㆓天下一統㆒也。〔梁簡文帝、菩提樹頌序〕一同㆓文軌㆒、萬方共貫。

【文記】160 ブンキ　文奏をいふ。〔後漢書、文苑上、葛龔傳〕和帝時、以㆑善㆓文記㆒知㆑名。〔注〕龔善爲㆓文奏㆒。

【文起】161 ブンキ　字號。❶後漢、廖扶(4－9464‥27)の字。❷北燕、馮跋(12－44579‥134)の字。❸明、文震孟(1010)の字。❹清、顧八代(12－43689‥349)の字。❺清、沈欽韓(6－17189‥476)の字。

〖文起堂〗162 ブンキダウ　明、張獻翼(4－9812‥1000)の室名。

【文基】163 ブンキ　民國、鄭振鐸(11－39647‥455)の「字。

【文規】164 ブンキ　❶文事のはかりごと。文規武略を見よ。❷北周、鄭元禮(11－39647‥369)の字。

〖文規武略〗165 ブンキブリヤク　文武のはかりごと。〔海錄碎事、武、武略〕文規武略、譽流㆓朝野㆒。

【文喜】166 ブンキ　唐の高僧。嘉禾の朱氏の子。號を無著と賜はる。光化中、示寂す。〔宋高僧傳、十二〕。

【文幾】167 ブンキ　字號。❶梁、阮研(11－41569‥11)の字。❷陳、陳詳(11－41698‥322)の字。

【文暉】168 ブンキ　清、西密揚阿(10－34763‥720)の字。

【文熙】169 ブンキ　明、俞雍(1－1437‥71)の字。

【文僖】170 ブンキ　諡號。❶宋、姚祐(3－6202‥2)の諡。❷宋、錢惟演(11－40563‥244)の諡。❸宋、陳彭年(11－41698‥1189)の諡。❹元、潘昂霄(7－18236‥134)の諡。❺明、靳貴(12－42728‥4)の諡。❻明、黃琯(12－47926‥479)の追諡。❼明、倪謙(1－792‥10)の諡。❽明、顧淸(12－43689‥121)の諡。❾明、陶大臨(11－41705‥212)の諡。❿明、張益(4－9812‥61)の諡。⓫明、張昇(南城の人)(4－9812‥428)の諡。⓬明、董越(9－31433‥19)の諡。⓭明、裴綸(10－34362‥97)の諡。⓮明、林庭機(6－14551‥404)の諡。⓯明、黎淳(12－47994‥44)の諡。⓰清、姚文田(3－6202‥209)の諡。⓱清、伊圖(1－432‥99)の諡。⓲清、黃機(12－47926‥187)の諡。⓳清、吳正治(2－3365‥701)の諡。⓴清、羅繞典(9－28397‥376)の諡。㉑清、王懿修(7－20823‥1128)の諡。

【文綦】171 ブンキ　美しいあやあるくつひも。〔劉楨、魯都賦〕纖纖絲履、燦爛鮮新、表以㆓文綦㆒、綴以㆓朱蠙㆒。〔楊維楨、孔子履賦〕大聖之所㆑履、豈遠異㆓夫文綦㆒。

【文綺】172 ブンキ　彩文ある帛。かざり。裝飾。文綵。〔六韜、文韜、盈虛〕帝堯王㆓天下㆒之時、云云、錦繡文綺不㆑衣。〔吳志、華覈傳〕美貌者、不㆑待㆓華采㆒以崇㆑好、艷姿者、不㆑待㆓文綺㆒以致㆑愛。

【文毅】173 ブンキ　❶諡號。㋑宋、洪天錫(6－17402‥264)の諡。㋺宋、陳亮(11－41698‥594)の追諡。㋩明、姚希孟(3－6202‥144)の諡。㋥明、何宗彥(1－511‥326)の諡。㋭明、金聲(11－40152‥650)の諡。㋬明、解縉(10－35067‥152)の諡。㋣明、黃孔昭(12－47926‥1091)の追諡。㋠明、郭正域(11－39474‥352)の追諡。㋷明、倪岳(1－792‥3)の諡。㋦明、商輅(2－3803‥257)の諡。㋸明、章曠(8－25761‥56)の諡。㋾明、張四維(4－9812‥1107)の諡。㋻明、趙用賢(10－37171‥923)の諡。㋕明、傅珪(1－939‥45)の追諡。㋵明、羅倫(9－28397‥278)の諡。㋟清、魏裔介(12－45872‥164)の諡。㋹清、帥遠燡(4－8886‥33)の諡。㋞清、陶澍(11－41705‥93)の諡。㋡清、張芾(4－9812‥653)の諡。㋧清、那彥成(11－39305‥58)の諡。㋤清、甯完我(7－21717‥25)の諡。㋶清、馬雄鎭(12－44572‥953)の諡。㋰清、馮溥(12－44579‥133)の諡。㋒清、勞崇光(2－2410‥141)の諡。❷清、董六泉(9－31433‥268)の名。

【文輝】174 ブンキ　字號。❶明、華燧(9－31214‥237)の字。❷明、沐斌(6－17201‥35)の字。

【文器】175 ブンキ　明、嚴球(2－4589‥45′)の字。

【文璣】176 ブンキ　字號。❶元、史伯璿(2－3249‥260)の字。❷明、岳璿(4－8001‥25)の字。

【文冀】177 ブンキ　前燕、裴嶷(10－34362‥22)の字。

【文龜】178 ブンキ　❶甲に文彩ある龜。〔爾雅、釋魚〕一曰神龜、二曰靈龜、三曰攝龜、四曰寶龜、五曰文龜、六曰筮龜、七曰山龜、八曰澤龜、九曰水龜、十曰火龜。〔注〕甲有㆓文彩㆒者、河圖曰、靈龜負㆑書、丹甲青文。❷第百四代後柏原天皇の年號。(1501－1504)

【文宜】179 ブンギ　明、李叔義(6－14459‥1438)の字。

【文義】180 ブンギ　❶文章の意味。文意。〔孔安國、古文尚書序〕以㆘所㆑聞㆓伏生㆒之書㆖考㆓論文義㆒。〔漢書、揚雄傳贊〕今揚子之書、文義至深、而論不㆑詭㆓於聖人㆒。〔晉書、后妃上、左貴嬪傳〕常居㆓薄室㆒、帝每㆑遊㆓華林㆒、輒回㆑輦過㆑之、言及㆓文義㆒、辭對淸華、左右侍聽、無㆑不㆓稱美㆒。〔顏氏家訓、勉學〕文義習史。〔南史、陸澄傳〕讀㆑易三年、不㆑解㆓文義㆒。❷古の人名。〔墨子、所染〕吳闔閭染㆓於伍員文義㆒。❸後漢、楊仁(6－15112‥233)の字。❹明、高穀(12－45313‥330)の諡。

【文儀】181 ブンギ　字號。❶後漢、謝該(10－35827‥26)の字。❷三國蜀、王連(7－20823‥1094)の字。❸明、陳鴻(11－41698‥251)の字。❹清、汪璲(6－17154‥84)の字。

【文魏】182 ブンギ　宋、錢良臣(11－40563‥444)の字。

【文戲】183　wen^2 hsi^4　武戲に對し、世話物などの劇。

【文久】184 ブンキウ　❶第百二十一代孝明天皇の年號。(1861－1864)〔菅原爲定勘文〕後漢書曰、文武並用、成㆓長久之計㆒。❷文久錢の略。

〖文久錢〗185 ブンキウセン　文久三年に鑄た錢。表に文久永寶と刻す。〔吹塵錄、九〕。

【文休】186 ブンキウ 字號。❶三國蜀、許靖(10－35298‥141)の字。❷隋、蕭吉(9－32012‥73)の字。❸明、歸昌世(6－16349‥313)の字。

【文裘】187 ブンキウ 文狐の裘。一說に、鹿の裘。〔曹植、七啓〕冠㆓皮弁㆒、被㆓文裘㆒。〔注〕善曰、文裘、文狐之裘也、翰曰、文裘、鹿裘也。

【文杏】188 ブンキヤウ 木目の正しいあんずの木。〔司馬相如、長門賦〕刻㆓木蘭㆒以爲㆑榱兮、飾㆓文杏㆒以爲㆑梁。〔西京雜記、一〕初修㆓上林苑㆒、羣臣遠方各獻㆓名果異樹㆒云云、杏二、文杏・蓬萊杏。

【文姜】189 ブンキヤウ 春秋、魯の桓公の夫人、齊の僖公の女。桓公が文姜と齊に行くや、文姜の兄襄公、文姜と通ず。公、怒る。文姜、襄公に告ぐ。襄公因つて桓公を殺す。〔列女傳、孽嬖傳〕。

【文珦】190 ブンキヤウ 宋の僧。於潛の人。杭州に出家す。讒に遘ひて獄に下され、後、釋され、遂に世を遯れて終る。詩に巧。山林閒適の作多し。著に潛山集がある。〔四庫提要、一百六十四〕。　「字。

【文強】191 ブンキヤウ 後漢、黃香(12－47926‥121)の字。

【文彊】192 ブンキヤウ 後漢、法雄(6－17290‥324)の字。

【文嚮】193 ブンキヤウ 三國吳、徐盛(4－10110‥186)の字。

【文窮】194 ブンキユウ よい加減な伎倆で奇怪な言動を爲し、獨りよしとすること。〔韓愈、送㆑窮文〕其次曰㆓文窮㆒、不㆑專㆓一能㆒、怪怪奇奇、不㆑可㆓時施㆒、祇以自嬉。

【文琚】195 ブンキヨ 晉、楊玭(6－15112‥24)の字。

【文擧】196 ブンキヨ ❶科擧に於ける文學の擧人。〔皇朝文獻通考、選擧考、擧士〕康熙五十二年、又奉㆓諭旨㆒、文武考試、雖㆑曰㆕兩途俱係㆔遴㆓拔人才㆒、而習文之內、亦有㆘學㆓習武略㆒善㆓於騎射㆒者㆖、習武之內、亦有㆘通㆓曉制義㆒、學問優長者㆖、如或拘㆓於成例㆒、以㆓文武兩途㆒不㆑令㆓通融應㆒㆑試、則不㆑能㆓各展㆒㆑所㆑長、必至㆔遺㆓漏眞才㆒、嗣後文生員擧人內、願㆑就㆓武場㆒、武生員擧人內、願㆑就㆓文場㆒、應㆔各聽㆓其考試㆒、中式者造㆓入新冊㆒、不㆓中式㆒者仍各入㆓文武原冊㆒、不㆑准㆓再考㆒。❷字號。㋑後漢、孔融(3－6933‥238)の字。㋺晉、郭文(11－39474‥200)の字。㋩唐、許子儒(10－35298‥293)の字。㋥唐、常達(4－8955‥244)の字。㋭宋、倪稱(1－792‥18)の字。㋬宋、孫之翰(3－6987‥412)の字。㋣金、張特立(4－9812‥1416)の字。㋠金、白華(8－22678‥309)の字。㋷元、楊翮(6－15112‥58)の字。㋦明、李昂(6－14459‥115)の字。

【文魚】197 ブンギヨ ❶斑采のある魚。〔山海經、中山經〕景山、睢水出焉、東南流注㆓于江㆒、其中多㆓丹粟㆒、多㆓文魚㆒。〔注〕有㆓斑采㆒也。❷鯉魚をいふ。〔楚辭、九歌、河伯〕乘㆓白黿㆒兮逐㆓文魚㆒。〔注〕又從㆓鯉魚㆒也。〔補注〕陶隱居云、鯉魚形既可㆑愛、又能神變、乃至㆔飛㆓越山湖㆒。❸文鰩魚をいふ。とびうを。〔曹植、洛神賦〕騰㆓文魚㆒以警㆑乘。〔注〕善曰、文魚有㆑翅、能飛。❹鱧の別名。〔事物異名錄、水族、鱧〕埤雅、鱧、今元鱧、一名文魚、其首戴㆓星夜㆒則北向。❺金魚をいふ。〔揚州畫舫錄〕費家花院、本費密故宅、草屋三四楹、與㆓藝㆑花人㆒同居、自㆓密移㆑家入㆑城、是地遂爲㆘蓄㆓養文魚㆒之院㆖。

【文漁】198 ブンギヨ 清、張燕昌(4－9812‥832)の號。

【文恭】199 ブンキヨウ 諡號。❶後漢、胡廣(9－29400‥100)の諡。❷晉、王謐(7－20823‥912)の諡。❸後魏、張蒲(4－9812‥671)の諡。❹後魏、鄭道昭(11－39647‥501)の諡。❺後魏、李韶(6－14459‥511)の諡。❻宋、胡宿(9－29400‥181)の諡。❼宋、曹豳(5－14297‥167)の諡。❽宋、薛映(9－32123‥2)の諡。❾宋、陳康伯(11－41698‥698)の諡。❿宋、羅點(9－28397‥193)の諡。⓫元、王思廉(7－20823‥1586)の諡。⓬明、朱延禧(6－14424‥678)の諡。⓭明、孫應龍(3－6987‥336)の諡。⓮明、孫如游(3－6987‥444)の諡。⓯明、張元汴(4－9812‥1012)の諡。⓰明、陳獻章(11－41698‥816)の追諡。⓱明、程文德(8－25081‥286)の諡。⓲明、萬士和(9－31339‥584)の諡。⓳清、翁同龢(9－28635‥90)の諡。⓴清、鄂彌達(11－39520‥54)の諡。㉑清、玉麟(7－20821‥876)の諡。㉒清、官文(3－7107‥318)の諡。㉓清、觀保(10－34993‥191)の諡。㉔清、嵇璜(4－8272‥7)の諡。㉕清、蔡新(9－31818‥71)の諡。㉖清、周煌(2－3441‥122)の諡。㉗清、秦蕙田(8－24995‥215)の諡。㉘清、陳弘謀(11－41698‥857)の諡。㉙清、程景伊(8－25081‥189)の諡。㉚清、董誥(9－31433‥29)の諡。㉛清、潘世恩(7－18236‥183)の諡。㉜清、富寧安(3－7230‥189)の諡。㉝清、李星沅(6－14459‥1563′)の諡。㉞清、劉鐶之(2－2224‥838)の諡。㉟清、勵廷儀(2－2472‥22)の諡。㊱清、王項齡(7－20823‥1328)の諡。

【文恭先生】200 ブンキヨウセンセイ 明、朱之瑜(6－14424‥813)の私諡。

【文曲】201 ブンキヨク ❶文章をいふ。〔荀子、正論〕今子宋子嚴然而好㆑說、聚㆓人徒㆒、立㆓師學㆒、成㆓文曲㆒。〔注〕文曲、文章也。〔集解〕王念孫曰、成㆓文曲㆒、義不㆑可㆑通、曲當㆑爲㆓典字之誤㆒也。❷樂曲をいふ。〔春秋繁露、楚莊王〕緣㆔天下之所㆓新樂㆒、而爲㆓之文曲㆒、且以和㆑政、且以興㆑德。❸星の名。文星をいふ。

【文曲星】202 ブンキヨクセイ 文星(577)に同じ。術數家のいふ九星に文曲・武曲等の星がある。

【文玉】203 ブンギヨク ❶宋、順慶の人。號は石山。進士。官は東路太守。❷字號。㋑元、杜瑛(6－14477‥17)の字。㋺明、蘇瓚(9－32427‥69)の字。㋩明、宋玫(3－7078‥180)の字。㋥明、董玘(9－31433‥35)の字。㋭明、王與玫(7－20823‥2150)の字。❸前秦、苻堅(9－30825‥3)の一名。「字。

【文欣】204 ブンキン 後魏、高道悅(12－45313‥1265)の字。

【文近】205 ブンキン 明、陸士仁(11－41708‥328)の字。

【文金】206 ブンキン 元文年間、德川幕府で鑄造した金貨。隅に文の字を刻す。

【文金風】207 ブンキンフウ 男子の髮の結ひ方。毛筋の分れ目の無いやうに油で固める。

【文金島田】208 ブンキンシマダ 年若い娘の結髮。根を高く結び高尙優美な島田髷。

【文禽】209 ブンキン ❶山雉の異名。羽毛に文彩があるからいふ。〔應璩、與㆓滿公琰㆒書〕高樹翳㆓朝雲㆒、文禽蔽㆓綠水㆒。〔事物異名錄、禽鳥、雉〕禽經、雪封㆓枯原㆒、文禽多死、按、雉有㆓文采㆒、故亦名㆓文禽㆒。❷孔雀の異名。〔事物異名錄、禽鳥、孔雀〕格物總論、孔雀、文禽、廣益諸州所㆑產。❸鴛鴦の異名。〔事物異名錄、禽鳥、鴛鴦〕格物論、鴛鴦、文禽也、又孔雀與㆑雉皆名㆓文禽㆒。

【文欽】210 ブンキン ❶三國魏、汴の人。勇猛驍果にして屢戰功あり。毌丘險と反し、敗れて吳に入り、假節鎭北大將軍・幽州牧となる。爵は譙侯。〔三國志、二十八〕。❷明、何東序(1－511‥350)の私諡。

【文勤】211 ブンキン 諡號。❶清、阿克敦(11－41599‥335)の諡。❷清、永貴(6－17088‥54)の諡。❸清、英桂(9－30808‥47)の諡。❹清、琦善(7－21062‥4)の諡。❺清、蔡世遠(9－31818‥200)の諡。❻清、周祖培(2－3441‥759)の諡。❼清、崇實(4－8152‥97)の諡。❽清、譚鍾麟(10－35978‥69)の諡。❾清、陳世倌(11－41698‥1028)の諡。❿清、彭蘊章(4－10003‥133)の諡。⓫清、彭啓豐(4－10003‥142)の諡。⓬清、彭元瑞(4－10003‥145)の諡。⓭清、潘祖蔭(7－18236‥189)の諡。⓮清、李霨(6－14459‥19)の諡。⓯清、王凱泰(7－20823‥1247)の諡。⓰清、王慶雲(7－20823‥1387)の諡。⓱清、王文韶(7－20823‥2076)の諡。

【文錦】212 ブンキン あやある錦。〔列子、力命〕子衣則文錦、食則粱肉。〔管子、小匡〕齊以㆓文錦虎豹皮㆒報。〔淮南子、繆稱訓〕筦子文錦也。〔漢書、貨殖傳〕富者木工被㆓文錦㆒。〔新書、匈奴〕家少者必衣㆓文錦㆒。

【文句】213 ブンク ❶文章の句。〔世說新語、文學〕郭象者、爲㆑人薄行、有㆓儁才㆒、見㆓秀義不㆑傳㆓於世㆒、遂竊以爲㆓己注㆒、乃自注㆓秋水至樂二篇㆒、又易㆓馬蹄一篇㆒、其餘衆篇、或定㆓點文句㆒而已。〔宋史、許將傳〕御史中丞朱諤、取㆓將舊謝章表㆒、折㆓文句㆒、以爲㆑謗。❷モンク いひぶん。いひぐさ。

【文矩】214 ブンク 元、長沙の人。字は子方。官は太常禮儀院判官。詩文に巧。著に子方集がある。

【文具】215 ブング ❶文は武に對して政令律法の意。專ら律令を尙んで、法文のみ完備すること。又、表の飾りだけ具はること。〔漢書、張釋之傳〕秦以㆑任㆓刀筆之吏㆒、爭以㆓亟疾苛察㆒相高、其敝徒文具、亡㆓惻隱之實㆒。〔注〕師古曰、文具、謂㆓具㆑文而已㆒。〔宋史、道學三、朱熹傳〕有㆓人心私欲㆒以介㆓乎其閒㆒、則雖㆑欲㆓憊㆑精勞㆑力以求㆑正、夫六事者、亦將㆘徒爲㆓文具㆒、而天下之事、愈至㆗於不㆖可㆑爲矣。❷文房具。筆・紙・硯・墨・机等の稱。❸

くしばこ。〔行廚集〕梳匣曰㆓文具㆒、又曰㆓匳具㆒。

【文化】216（ブンクワ）　㊀刑罰威力を用ひないで人民を教化すること。文治教化。〔說苑、指武〕凡武之興、爲㆑不㆑服也、文化不㆑改、然後加㆑誅。〔王融、三月三日曲水詩序〕設㆓神理㆒以景㆑俗、敷㆓文化㆒以柔㆑遠。〔束晳、補亡詩〕文化內輯、武功外悠。㊁獨逸語 kultur 英語 culture の譯語。自然を純化し、理想を實現せんとする人生の過程。卽ち、人間が自然を征服支配して、本來具有する究極の理想を實現完成せんとする過程の總稱。かかる過程の產物は、學問・藝術・道德・宗教・法律・經濟などである。㊂第百十九代光格天皇の年號。(1804－1818)㊃字號。㋑唐、許棠(10－35298··161)の字。㋺宋、趙廷美(10－37171··795)の字。㋩明、管鯨(8－26162··45)の字。㋥明、周南(2－3441··465)の字。㋭明、邵南(烏程の人)(11－39343··57)の字。

〖文化財〗217（ブンクワザイ）　㊀文化價値を有するもの。文化活動の客觀的所產としての諸事象、又は諸事物。㊁文化財保護法で保護の對象として取上げた文化財。有形文化(建造物・繪畫・彫刻・工藝品・書跡・典籍・古文書などで歷史上・藝術上價値の高いもの及び參考資料)、無形文化財(演劇・音樂・工藝技術などで歷史上・藝術上價値の高いもの)、民俗資料、史跡名勝天然記念物の四種。

〖文化財保護委員會〗217'（ブンクワザイホゴヰヰンクワイ）　文部省の外局。文化財の保存及び活用、その調査研究を行ふ委員會。委員五人、文部大臣が任命する。

〖文化史〗218（ブンクワシ）　學問・藝術・政治・教育・風俗・經濟などの經歷を研究して社會の發達變遷を明かにする歷史。文明史。開化史。

【文火】219（ブンクワ）　ぬるび。とろび。弱い火力。熱火を武火といふ對。〔皎然、對㆓陸迅㆒飮㆓天目山茶㆒因寄㆓元居士晟㆒詩〕文火香偏勝、寒泉味轉嘉。

【文科】220（ブンクワ）　㊀武科に對して經學文章を以て士を取る擧試をいふ。兩漢以來の孝廉・賢良方正・博學弟子・茂才、唐宋の秀才・進士・明經・學究・明法・書算・三禮・三傳・三史、金の經義・詞賦の兩科の類。〔宋史、選擧志三〕廷試始依㆓文科㆒。〔皇朝通典、選擧、選擧制、文科〕臣等謹按、鄕擧里選著㆓於成周㆒、尙已迨㆓兩漢㆒以來擧士之法曰㆓孝廉㆒、曰㆓賢良方正㆒、曰㆓博士弟子㆒、曰㆓茂才異等㆒、亦既略備焉、而策㆓試賢良文學於廷㆒、卽後世以㆓文藝㆒試㆑士所㆓自昉㆒、隋始置㆓進士之科㆒、唐之科目有㆓秀才進士明經學究明法書算三禮三傳三史諸科㆒、天子自詔曰㆓制科㆒、其目至繁、宋之進士以及㆓諸科㆒、大半沿㆓襲唐制㆒、金以㆓經義詞賦兩科㆒取㆑士、元明獨置㆓進士之科㆒、我朝自㆓定鼎之初㆒鄕會開㆑科徵㆑逸、聖祖仁皇帝振㆓興文治㆒、培㆓植士林㆒、于㆓常制鄕會之外㆒、特擧㆓博學鴻詞之科㆒、以收㆓奇才異能之士㆒、世宗憲皇帝循㆑名責㆑實、搜㆓羅羣彥㆒、廣㆓開保擧之門㆒、累頒㆓求賢之詔㆒、擧㆓孝廉方正㆒、擧㆓孝友端方㆒、增㆓設繙譯之科㆒、加㆓惠邊遠之士㆒、我皇上御極之初、親試㆓鴻博㆒、擧㆓察孝行㆒、復詔㆓九卿㆒、薦㆓擧經學㆒、迨㆘大駕六㆓巡江浙㆒、幸㆓山東㆒、臨㆗天津㆖、凡獻賦屬車之次、皆蒙㆓召試授官㆒、而揀㆓選擧班㆒、疏㆓通淹滯㆒、凡士之操㆓一技㆒以自見者、莫㆑不㆓甄綜無㆑遺、猗歟休哉、多士之沐㆓聖化㆒而被㆓恩榮㆒者、宜㆓何如其報效㆒也、臣等謹按㆓杜典之例㆒、列㆓選擧制㆒、而以㆓文科目㆒爲㆑首、依㆑次編載、具詳㆓於篇㆒。㊁作文の科。〔林鵞峰、忍岡塾中規〕文科者、其所㆑作儘佳者及㆓十篇㆒、則可㆑進㆓一等㆒。㊂學科の一。文學の科目。文學・哲學・歷史學等の學科を含む。文學部。

〖文科中學〗221（ブンクワチユウガク）　清の宣統帝の時、ドイツの制度にならつて中學を文科と實科にわけ、經史等の學を主とした中學。中華民國の初めに廢止さる。

【文華】222（ブンクワ）　㊀文明の華。文明の立派さ。〔後漢書、班彪傳論〕敷㆓文華㆒以緯㆓國典㆒、守㆓賤薄㆒而無㆓悶容㆒。㊁文章の華やかであること。〔梁昭明太子、文選序〕若㆘其論讚之綜㆓緝辭采㆒、序述之錯㆗比文華㆖、事出㆓於沈思㆒、義歸㆓乎翰藻㆒。㊂文學に長じた人。〔顏氏家訓、名實〕有㆓一士族㆒、讀書不㆑過㆓二三百卷㆒、天才鈍拙、而家世殷厚、雅自矜持、多以㆓酒犢珍玩㆒、交㆓諸名士㆒、甘㆓其餌㆒者、遞相吹噓、朝廷以爲㆓文華㆒。〔白居易、祭㆓微之㆒文〕行業志略、政術文華、四科全㆑才、一時獨步。㊃字號。㋑明、冀綺(2－1500··2)の字。㋺明、霍榮(盩厔の人)(12－42321··5)の字。㋩明、曹英(5－14297··10)の字。㋥明、李日茂(6－14459··1377)の字。

〖文華殿〗223（ブンクワデン）　內閣の一。明、置く。大學士が掌る。清、紫禁城東華門內、箭亭の南にあり、每年二月、皇帝此所に出御して經筵を開く。民國に至り開放して舊帝室御物の書畫を陳列す。文淵閣(60)を見よ。〔清會典、工部〕凡環㆓列於東西㆒者、各序以㆑次。〔注〕文華殿後爲㆓主敬殿㆒。〔清會典事例、吏部、官制〕方今蒐㆓羅遺籍㆒、彙爲㆓四庫全書㆒、每㆓輯錄㆒奏進、朕親披閱釐正、特於㆓文華殿後㆒建㆓文淵閣㆒弆㆑之。〔北京指南、地理、故宮志〕文華殿、丹陛與㆓露臺㆒相値、東爲㆓傳心殿㆒、祀㆓皇師帝師先聖先師之位㆒、後爲㆓文淵閣㆒、貯㆓四庫全書㆒、再後西向爲㆓上駟院㆒、東北爲㆓擷華殿㆒、皇子所㆑居、東南左轉而北爲㆓國史館㆒、館南爲㆓東華門㆒、外有㆓下馬石碑㆒、卽舊紫禁城之東門也。

〖文華秀麗集〗224（ブンクワシウレイシフ）　書名。三卷。嵯峨天皇の時、藤原冬嗣等奉敕撰。凌雲集に漏れたもの及び其の後の詩を集めたもので、作品の選定には嵯峨天皇の聖慮を煩はした。序文によれば作者二十六人、詩一百四十八首とあるが、二十六人中には嵯峨・淳和の兩天皇を數へてゐないから實は二十八人といふべく、詩は今、五首を失つて、一百四十三首を存する。其の目は遊覽・宴集・餞別・贈答・詠史・述懷・艷情・樂府・梵門・哀傷・雜詠の十一門に分つ。〔羣書類從、第一百二十四冊〕・〔古典文庫〕。

【文過】225（ブンクワ）　あやまちをかざる。〔論語、子張〕子夏曰、小人之過也、必文。〔集解〕孔安國曰、文㆓飾其過㆒、不㆑言㆓其情實㆒也。〔楊惲、報㆓孫會宗㆒書〕言㆓鄙陋之愚心㆒、則若㆓逆㆑指而文㆑過。

【文畫】226（ブングワ）　色どりゑがく。又、其の畫。〔說苑、反質〕宮墻文畫、彫琢刻鏤。〔後漢書、輿服志上〕樻文畫輈、羽蓋華蚤。〔吳志、賀齊傳〕芭瓜文畫。

【文會】227（ブンクワイ）　㊀學問文章に關する集會。文事の會合。〔論語、顏淵〕曾子曰、君子以㆑文會㆑友、以㆑友輔㆑仁。〔南史、儒林、顧越傳〕因歸㆑鄕栖㆓隱于武丘山㆒、與㆓吳興沈炯・同郡張種・會稽孔奐等㆒每爲㆓文會㆒。〔舊唐書、楊師道傳〕師道退朝後、必引㆓當時英俊㆒宴㆓集園池㆒、而文會之盛、當時莫㆑比。㊁字號。㋑春秋越、文種(505)の字。㋺隋、楊集(6－15112··193)の字。

〖文會堂〗228（ブンクワイダウ）　㊀明、胡文煥(9－29400··610)の室名。㊁林義端の號。林文會堂(6－14551··461)を見よ。

〖文會雜記〗229（ブンクワイザツキ）　書名。三卷。湯淺元禎撰。其の師、服部南郭の說の紹介、及び徂徠門の名家の太宰春臺・平野金華等の學術詩文の批評、又、木下順庵・新井白石・荻生徂徠の功績を擧げた書。〔日本文庫〕。

〖文會雜記附錄〗230（ブンクワイザツキフロク）　書名。一卷。湯淺元禎撰。文會雜記に漏れた四千餘則を擧げる。

〖文會筆錄〗231（ブンクワイヒツロク）　書名。二十卷。山崎闇齋撰。小學近思錄其の他、四書五經等に就いて朱注の要領を述べたもの。

【文繢】232（ブンクワイ）　あやをなしいろどる。〔李德裕、幽州紀聖功碑〕被㆓我文繢㆒、帶㆓我金犀㆒。

【文繪】233（ブンクワイ）　あやをなしゑがく。〔江淹、爲㆓蕭太尉㆒上㆓便宜㆒表〕何嘗不㆘翦㆓削浮奢㆒、銷㆗遺文繪㆖。

【文光】234（ブンクワウ）　㊀あやある光。〔李賀、竹詩〕入㆑水文光動、抽㆑空綠影春。㊁漢の文帝と後漢の光武帝の幷稱。〔顏延之、赭白馬賦〕鑒㆓武穆㆒、憲㆓文光㆒。〔注〕翰曰、文帝・光武爲㆓憲法㆒也。㊂字號。㋑明、華昺(9－31214··301)の字。㋺明、宋顯章(3－7078··268)の字。㋩明、趙煥(10－37171··131)の字。㋥清、朱射斗(6－14424··831)の字。

〖文光果〗235（ブンクワウクワ）　無花果の一種。〔本草、無花果〕附錄、文光果、出㆓景州㆒、形如㆓無花果㆒、肉味如㆑栗、五月成熟。

〖文光軒〗236（ブンクワウケン）　宋、張鎡(4－9812··361)の室名。

〖文光大師〗237（ブンクワウダイシ）　五代吳越、希覺(4－8813··23)の號。

【文皇】238（ブンクワウ）　唐の太宗、李世民をいふ。〔宋史、寇準傳〕上由㆑是嘉㆑之曰、朕得㆓寇準㆒、猶㆔文皇之得㆓魏徵㆒也。

〖文皇帝〗239（ブンクワウテイ）　清太宗(7－17695··892)の諡。

〖文皇統百揆〗240（ブンクワウトウヒヤククキ）　晉の鼓吹曲の名。古

の上陵行。晉の文帝、始めて百揆を統べ、よく人を用ひ、以て太平の化を敷いたのを詠じたもの。晉の傅玄、歌辭を作る。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、晉鼓吹曲、文皇統百揆〕古上陵行、古今樂錄曰、文皇統百揆、言下文皇帝始統二百揆一、用レ人有レ序、以敷中太平之化上也。〔傅玄、文皇統百揆〕文皇統二百揆一、繼レ天理二萬方一、武將鎭二四隅一、英佐盈二朝堂一、謀言協二秋蘭一、清風發二其芳一、洪澤所二漸潤一、礫石爲二珪璋一、大道侔二五帝一、盛德踰二三王一、咸光大上、參二天與レ地、至化無二內外一、無二內外一、六合並康乂、並康乂、遘二茲嘉會一、在昔羲與レ農、大晉德斯邁、鎭征及二諸州一、爲二蕃衞一、玄功濟二四海一、洪烈流二萬世一。

【文幌】241 ブンクヮウ　あやあるとばり。〔袁宏、擬古詩〕文幌曜二瓊扇一、碧疏映二綺櫺一。

【文廣】242 アヤヒロ　筑後國の地名。

【文卷】243 ブンクヮン　❶試驗の答案。〔文獻通考、選擧考、擧士〕九年殿試進士、初覆考官陳澤等、考上一甲文卷失レ當、贖金有レ差、詔自レ今唱名盡二四甲一、而禮部正奏名上十人、未レ與者奏聽二裁決一。❷フマキ　書籍の上のおほひ。帙。〔書言字考節用集、七〕帙、文卷。

【文官】244 ブンクヮン　兵事以外の官。武官（6－16273‥95）の對。〔後漢書、禮義志中〕立春遣二使者一齎二束帛一、以賜二文官一。〔紅樓夢、三十六回〕那文官更不レ比二武官一了。〔清會典、吏部〕凡文官之階十有八、一曰光祿大夫、二曰榮祿大夫、三曰資政大夫、四曰通奉大夫、五曰通議大夫、六曰中議大夫、七曰中憲大夫、八曰朝議大夫、九曰奉政大夫、十曰奉直大夫、十有一曰承德郎、十有二曰儒林郎、亦曰二宣德郎一、十有三曰文林郎、亦曰二宣議郎一、十有四曰徵仕郎、十有五曰修職郎、十有六曰修職佐郎、十有七曰登仕郎、十有八曰登仕佐郎、高下各如二其官之數一。

〖文官花〗245 ブンクヮンクヮ　❶錦帶花の異名。〔事物異名錄、花卉、錦帶〕杜詩註、錦帶花、一名文官花。❷芙蓉の異名。〔事物異名錄、花卉、芙蓉〕花史、邛州有二弄色芙蓉一、其色屢變、人號爲二文官花一。

〖文官處〗246 ブンクヮンショ　國民政府直屬の機關。文官長は、國民政府主席の命をうけて所屬職員を指揮し、國務會議及び府內の一切の文書機要、印鑄等の事項をつかさどるもの。

〖文官官秩〗247 ブンクヮンクヮンチツ　民國の文官の制。凡そ九秩、上卿・中卿・少卿・上大夫・中大夫・少大夫・上士・中士・少士。又、同中卿・同上大夫・同少大夫・同中士・同少士あり。秩は本官に同じ。上卿・中卿・少卿は特任官、少卿・上大夫・中大夫は簡任官。中大夫・少大夫・上士は薦任官。上士・中士・少士は委任官。

〖文官試驗〗248 ブンクヮンシケン　もと、文官に任用すべき資格の有無を檢定した試驗。文官高等試驗と文官普通試驗とに分つ。

〖文官甄別法〗249 ブンクヮンケンベツハフ　民國の定制。未だ考試を經ない任命の官吏は、甄別委員の資格ある者を除いて皆この法を適用される。其の甄別は檢驗畢業・調驗經歷・檢查成績・考驗學識・考試經驗の五項に分ち、甄別委員會、之を行ふ。

〖文官考試法〗250 ブンクヮンカウシハフ　民國の定制。男子滿二十一歲以上文官考試に應ずることが出來る。考試は文官高等考試と文官普通考試の二種がある。

〖文官懲戒法〗251 ブンクヮンチョウカイハフ　民國の定制。褫職・降等・減俸・申誡の四がある。

〖文官任職令〗252 ブンクヮンニンショクレイ　民國の定制。文官で文官官秩令に依り官を授けられるものの外は、其の任職區別を特任・簡任・薦任・委任の四種とし、その中、特任・簡任・薦任は高等文職、委任は普通文職とする。

〖文官保障法〗253 ブンクヮンホシヤウハフ　民國の官制。凡そ文官は、刑法の宣告、懲戒法の處分を受けた者でない限り保障法に依り、官を免ぜられることはない。

〖文官高等試驗〗254 ブンクヮンカウトウシケン　もと、文官試驗の一。高等文官となる資格を得ようとする者に課した試驗。

〖文官普通試驗〗255 ブンクヮンフツウシケン　もと、文官試驗の一。判任文官となる資格を得ようとする者に課した試驗。普通試驗の舊稱。

【文奐】255′ ブンクヮン　梁、蕭賁（9－32012‥255）の字。

【文煥】256 ブンクヮン　字號。❶明、吳兆璧（2－3365‥805）の字。❷明、成功（5－11544‥103）の字。❸明、孫丙（3－6987‥266）の字。❹明、錢奐（11－40563‥67）の字。❺明、楊應奎（6－15112‥440）の字。❻明、劉丙（2－2224‥586）の字。❼清、陳瓊（11－41698‥520）の字。

【文君】257 ブンクン　❶周の文王をいふ。〔張衡、思玄賦〕文君爲レ我端レ蓍兮、利二飛遯以保レ名。〔注〕向曰、文君、文王也。❷春秋、晉の文公をいふ。〔楚辭、九章、惜往日〕介子忠而立枯兮、文君寤而追求。〔注〕文君、晉文公也。❸漢の卓文君をいふ。卓文君（2－2741‥87）を見よ。〔漢書、司馬相如傳上〕今文君既失二身於司馬長卿一。❹美人をいふ。〔遊仙窟〕彈二鶴琴於蜀郡一、飽見二文君一。❺晉、庾后（4－9398‥17）の名。

【爲二文君一】258 ブンクントナル　新に寡婦となる喩。文君新寡を見よ。

【文君新寡】259 ブンクンシンクヮ　漢の卓王孫の女、文君が寡婦となつたばかりの時、司馬相如に匹耦無く、文君が再嫁したので、後世、再嫁をいふ。〔史記、司馬相如傳〕卓王孫有二女文君一、新寡、好レ音、故相如繆與レ令相重、而以二琴心一挑レ之、相如之二臨邛一、從二車騎一、雍容閒雅甚都、及下飮二卓氏一弄上琴、文君竊從レ戶窺レ之、心悅而好レ之、恐レ不レ得レ當也、既罷、相如乃使下人重賜二文君侍者一、通中殷勤上、文君夜亡奔二相如一。〔王僧孺、見三貴者初迎二盛姬一聊爲レ之詠詩〕長卿幸未レ匹、文君復新寡。

【文君當壚】260 ブンクンタウロ　蒙求の標題。司馬相如が卓文君と逃れて更に臨邛に往き、酒舍を買ひ、文君を酒場に居らせ、相如自ら犢鼻褌を著けて器を洗つた故事。壚は、土を累ねて作つた酒を賣る場所。〔史記、司馬相如傳〕相如與俱之二臨邛一、盡賣二其車騎一、買二一酒舍一酤レ酒、而令二文君當レ壚、相如身自著二犢鼻褌一、與二保庸一雜作、滌二器於市中一。

【文訓】261 ブンクン　書名。四卷。貝原益軒撰。益軒十訓の一。士は農工商の上に立つもので、萬事に通曉せねばならぬとして、學問の意義・價値・順序・範圍・方法・態度等に關して教諭した書。〔益軒全集、三〕。

【文勛】262 ブンクン　宋の人。字は安國。官は太府寺丞。畫・篆書に巧。

【文勳】263 ブンクン　文臣の功績。文政のてがら。武勳（6－16273‥101）の對。〔蔡邕、黃鉞銘序〕以昭二公文武之勛一焉。

【文奎】264 ブンケイ　字號。❶明、朱應辰（6－14424‥682）の字。❷明、屠奎（4－7761‥21）の字。

【文契】265 ブンケイ　證書。〔後漢書、樊宏傳〕其素所三假二貸人間一數百萬、遺令焚二削文契一、責家聞者、皆慙爭往償レ之。

【文珪】266 ブンケイ　三國吳、潘璋（7－18236‥48）の字。

【文啓】267 ブンケイ　六韜、武韜（6－16273‥270）の篇名。

【文莖】268 ブンケイ　樹木の名。符禺の山に產す。實は棗の如く、聾に效がある。〔山海經、西山經〕符禺之山、其陽多レ銅、其陰多レ鐵、其上有レ木焉、名曰二文莖一、其實如レ棗、可二以已レ聾。

【文卿】269 ブンケイ　字號。❶唐、王緯（7－20823‥20）の字。❷宋、黃朴（12－47926‥846）の字。❸宋、倪樸（1－792‥31）の字。❹宋、儲泳（1－1284‥5）の字。❺宋、竇從周（8－25695‥71）の字。❻宋、楊芾（6－15112‥341）の字。❼元、姜彧（3－6205‥3）の字。❽元、崔彧（4－8178‥5）の字。❾元、祝明（8－24672‥111）の字。❿明、宋儒（3－7078‥131）の字。⓫明、孫應奎（餘姚の人）（3－6987‥337）の字。⓬清、洪鈞（6－17402‥55）の字。⓭清、譚鍾麟（10－35978‥69）の字。

【文惠】270 ブンケイ　❶文化のめぐみ。〔史記、秦始皇紀〕光二施文惠一。❷三國魏、高柔（12－45313‥416）の字。❸諡號。㋑後魏、李騫（6－14459‥317）の諡。㋺南齊、蕭長懋（9－32012‥473）の諡。㋩北齊、叱列平（2－3248‥36）の諡。㋥北齊、房謨（5－11714‥124）の諡。㋭唐、狄仁傑（7－20290‥36）の諡。㋬宋、喬行簡（2－3990‥66）の諡。㋣宋、洪适（6－17402‥62）の諡。㋠宋、徐經孫（4－10110‥398）の諡。㋷宋、錢良臣（11－40563‥444）の諡。㋦宋、陳堯佐（11－41698‥806）の諡。㋸宋、趙元傑（10－37171‥515）の諡。㋾宋、楊長孺（6－15112‥690）の諡。㋻宋、李大性（6－14459‥166

1)の諡。㋕宋、王隨(7－20823‥648)の諡。㋵金、趙淇(10－37171‥88)の諡。㋟元、陳孚(11－41698‥524)の諡。

〖文惠太子〗271 ブンケイタイシ　南齊、蕭長懋(9－32012‥473)の諡。

〖文惠王太后〗272 ブンケイワウタイコウ　五代後梁、王后(7－20823‥390)の❾の諡。

【文景】273 ブンケイ　漢の文帝と其の子景帝。父子相繼いで賢主にして、海內富庶、黎民醇厚であつたから、史家、之を稱して文景の世といふ。〔漢書、景帝紀贊〕周云二成康一、漢言二文景一、美矣。

【文敬】274 ブンケイ　❶字號。㋑明、邵珪(11－39343‥22)の字。㋺明、楊能(6－15112‥306)の字。❷諡號。㋑金、完顏璦(3－7079‥24)の諡。㋺明、胡居仁(9－29400‥440)の諡。㋩清、三寶(1－12‥1456)の諡。㋥清、徐潮(4－10110‥233)の諡。㋭清、張大有(4－9812‥1317)の諡。㋬清、彭蘊章(4－10003‥133)の諡。㋣清、文孚(800)の諡。

〖文敬先生〗275 ブンケイセンセイ　明、辛全(10－38630‥46)の私諡。

【文溪】276 ブンケイ　❶川の名。浙江省江山縣の西南、禮溪鎭の西。三源あり。鎭に至つて合し、常山縣に入つて私溪といひ、衢縣の西南で金溪を合し、衢江となる。〔讀史方輿紀要、浙江、衢州府、常山縣〕文溪在二縣東一、自二江山縣一流入二縣境一、縣南諸溪流皆匯入焉、匯金川水入二西安縣界一、郡志、今縣南一里有二石硿溪一、自二江山縣一流入レ界、至二縣南十里一有二私溪一、自二縣西南一流合焉、謂二之新開溪一、蓋卽文溪矣。❷宋、李昴英(6－14459‥1859)の號。

〖文溪存稿〗277 ブンケイソンカウ　書名。二十卷。宋、李昴英撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【文經】278 ブンケイ　五代の時、南詔、武略帝〔一に文經帝、段思英〕の年號。一に文經武略に作る。(B.C.55)

〖文經武略〗279 ブンケイブリヤク　文經の別稱。文經を見よ。(B.C.55)

【文罫】280 ブンケイ　書名。二卷。荻生徂徠撰。和訓和習が往々文章の語脈を失し、顚倒措置の弊あることを辯論したもの。戒二和字一、戒二和句一、戒二和習一の三項から成る。

【文慶】281 ブンケイ　❶清、滿洲の人。諡は文端。咸豐の初、官は大學士軍機大臣。氣度渾融、初めて漢人の議を重用す。〔清史稿、三百九十二〕・〔清史列傳、四十〕・〔續碑傳集、四〕。❷字號。㋑明、邊賀(11－39216‥21、)の字。㋺明、豐慶(10－36304‥54)の字。

【文罽】282 ブンケイ　あやある毛織。〔鹽鐵論、力耕〕采旃文罽。〔後漢書、祭祀志中〕文罽爲レ壇。

【文繼】283 ブンケイ　明、蔡烈(9－31818‥129)の字。

【文繫】284 ブンケイ　文吏の法。〔漢書、董仲舒傳〕母迺牽二於文繫一、而不レ得二騁與一。〔注〕師古曰、謂レ懼二於文吏之法一。

【文藝】285 ブンゲイ　❶文章に關する事。文學と藝術。武藝(6－16273‥117)の對。〔逸周書、官人解〕有下隱二于文藝一者上、有下隱二于廉勇一者上。〔大戴禮、文王官人〕有下隱二於知理一者上、有下隱二於文藝一者上。〔中論、藝紀〕寶玉之山、土木必潤、盛德之士、文藝必衆。〔吳志、華覈傳〕皓答曰、得レ表以、東觀儒林之府、當下講二校文藝一、處中定疑難上、漢時皆名學碩儒、乃任二其職一。❷美的現象を理想化して表現するもの。詩歌・文章・小說・戲曲・繪畫・彫刻などの稱。

〖文藝傳〗286 ブンゲイデン　文藝家の列傳。唐書・金史にある。

〖文藝復興〗287 ブンゲイフクコウ　伊太利で、中世期の末から近世に亙つて起つた學術・技藝の革新運動。西曆十四五世紀の頃、煩瑣哲學が漸く衰へ、教會の教權から獨立し、或は新しきものを求めんとする思想の湧起により、人心が出世間的・超自然的中世文化を捨て、世間的・自然的で、人間の諸能力を圓滿に發達せしめ、現世に於て樂しい生活を營まんとする、希臘思想を理想とした文化現象。歐洲諸國に傳播し、獨逸・佛蘭西・英吉利などは最も其の影響を蒙る。ルネツサンス。

【文教】288 ブンケウ　禮樂法度を以て民俗を教化すること。學藝のをしへ。文事の教。教育。〔書、禹貢〕五百里綏服、三百里揆二文教一、二百里奮二武衞一。〔傳〕揆、度也、度二王者文教一而行レ之。〔疏〕諸侯揆二度王者政教一而行レ之、云云、卽是安二服王者一之義。〔商子、賞刑〕行二文教一倒二載干戈一。〔史記、夏紀〕三百里揆二文教一。〔漢書、王莽傳中〕在下揆二文教一奮中武衞上。〔後漢書、荀悅傳〕宣二文教一以章二其化一。〔韓愈、河南府同官記〕武志既揚、文教亦熙。

〖文教溫故〗289 ブンケウヲンコ　書名。二卷。山崎美成撰。德川幕府以前の學問教育の起原及び沿革を六國史・古事記・學令・政事要略・公式令・江家次第・拾芥抄・異制庭訓往來・空華日工集其の他の諸書幷に記錄類に據つて考說したものである。其の目は、上卷第一、文學(學規・大小經・四道儒・律令格式・武備・爛脫・折桂・燈油料・程朱學・新舊二義)、第二、學校(釋奠・文宣王)、第三、經籍(始傳二經典一・五經・十三經・老莊爲レ經・四書・孝經・讀書始用二孝經千字文一・孟子非レ經・佚書存二吾邦一・書冊)、第四、訓點(點圖・遠古止點・法家點圖・御書始調二進點圖角筆一・訓點・朱墨兩點・返點・須弖假名・濁點・朱引)、第五、讀法(經傳古訓・名目・漢音吳音・對馬音)。下卷第六、文字(上古無二文字一・新字・和字・省字・偏旁之稱・假名・片假名・伊呂波・伊呂波終書二京字一・以二難波津淺香山歌一爲二書學始一・假名書之用意・蘆手歌繪)、第七、文章(平出闕字・闕畫・年號・和文・假名遣・書翰)、第八、詩賦(詩賦起原・詩話・詩會・聯句・掩韻)、第九、和歌(和歌・抄物・制詞・連歌・和漢聯句)、第十、印版(古刻多二佛教一・儒書・始刻二醫書一・活字版)。〖參考書〗【文教溫故批考】二卷　第一卷は狩谷棭齋撰、第二卷は屋代弘賢撰。〔百家隨筆、三〕。

【文堯】290 ブンゲウ　五代閩、翁承贊(9－28635‥79)の字。

【文檄】291 ブンゲキ　ふれぶみ。檄文。〔史記、張儀傳〕爲二文檄一告二楚相一。〔晉書、劉超傳〕專掌二文檄一。〔南史、劉瑴傳〕當時文檄、皆其所レ爲。

【文鷁】292 ブンゲキ　鷁の形象を舡首に畫いた船。天子の遊樂に用ひる。〔漢書、司馬相如傳上〕浮二文鷁一揚二旌枻一。〔注〕張揖曰、鷁、水鳥也、畫二其象於舡首一、淮南子曰、龍舟鷁首、天子之乘也。

【文傑】293 ブンケツ　人にすぐれて文詞を巧に作る人。〔梁簡文帝、悔賦〕士衡文傑、綽有二餘裕一。

【文潔】294 ブンケツ　❶明、汪藻(6－17154‥61)の字。❷諡號。㋑明、陳龍正(11－41698‥1308)の私諡。㋺明、鄧以讚(11－39630‥115)の諡。㋩清、黃琮(昆明の人)(12－47926‥592)の諡。

〖文潔先生〗295 ブンケツセンセイ　諡號。❶宋、黃震(12－47926‥523)の私諡。❷清、汪士通(6－17154‥237)の私諡。

【文月】296 フミツキ フヅキ　陰曆七月の異稱。〔下學集、上、時節〕文月、此月七夕、諸人以二詩歌之文一、獻二於二星一、或晒二書篇一、以供レ星、故云二文月一也。

【文嚙】297 ブンゲツ　淡菜の別名。〔瑯嬛記〕文嚙類二女陰一、卽淡菜也。

【文挾】298 フミバサミ　貴人などに書狀を直接手渡すことを憚り、之を挾んで奉る棒。

【文業】299 ブンゲフ　❶文學のわざ。〔宋史、太宗紀一〕工二文業一、多二藝能一。❷前秦、趙整(10－37171‥248)の字。

【文件】300　wen^2 chien^4　文書。書類。

【文券】301 ブンケン　借用證書。〔剪燈新話、三山福地志〕以二鄕黨相處之厚一、不レ問二其文券一、如レ數貸レ之。

【文軒】302 ブンケン　❶華美な車。かざつた車。〔墨子、公輸〕今有レ人二於此一、舍二其文軒一、鄰有二敝轝一、而欲レ竊レ之。〔閒詁〕宋策高誘注云、文軒、文錯之車也。〔列子、力命〕乘二其華輅一、若二文軒之飾一。〔後漢書、張衡傳〕據二文軒一者、度レ德拜レ爵、量レ績受レ祿也。❷畫飾を施した殿檻。彫窓。畫廊。〔曹植、七啓〕爾乃御二文軒一、臨二洞庭一。〔注〕善曰、文、畫飾也、軒、殿檻也。〔成公綏、嘯賦〕披二文軒一而騁レ望。〔注〕善曰、新語曰、高臺百仞、文軒彫窓。〔王勃、九成宮頌〕阿房秦搆、文軒五里。❸清、汪彥博(6－17154‥222)の號。

【文堅】303 ブンケン　後漢、景毅(5－13983‥55)の字。

【文萱】304　wen^2 hsüan^1　草の名。すぢくわん草。

【文劍】305 ブンケン　飾りある劍。〔後漢書、酷吏、李章傳〕帶二文劍一被二羽衣一。

【文賢】306 ブンケン　字號。❶明、周世選(2－3441‥732)の字。❷清、施世綸(5－13629‥160)の字。

【文憲】307 ブンケン　❶學問の道。文學ののり。〔晉書、

索靖傳〕於レ是多才之英、篤藝之彥、役二心精微一、耽二此文憲一。〔鮑照、河淸頌〕文憲精弘、戎容犀利。㊁法規。〔張華、答二何劭一詩〕纓緌爲二徽纆一、文憲焉可レ踰。〔注〕翰曰、憲、法。㊂諡號。㋑後魏、元暉(1－1340‥109)の諡。㋺南齊、王儉(7－20823‥355)の諡。㋩唐、蘇頲(9－32427‥151)の諡。㋥唐、杜鴻漸(6－14477‥317)の諡。㋭五代吳越、裴堅(10－34362‥33)の諡。㋬宋、強淵明(4－9815‥223)の諡。㋣宋、洪擬(6－17402‥52)の諡。㋠宋、張洽(4－9812‥137)の諡。㋷宋、劉正夫(2－2224‥1113)の諡。㋦宋、王柏(7－20823‥888)の諡。㋸遼、姚景行(3－6202‥154)の諡。㋾遼、趙徹(10－37171‥98)の諡。㋻金、石琚(8－24024‥160)の諡。㋕元、何榮祖(1－511‥222)の諡。㋵元、郭貫(11－39474‥68)の諡。㋟元、張昇(平洲の人)(4－9812‥428)の諡。㋹元、程鉅夫(8－25081‥174)の諡。㋞元、楊奐(6－15112‥107)の諡。㋡明、宋濂(3－7078‥216)の諡。㋧明、陶安(11－41705‥2)の追諡。㋤明、陳于陛(11－41698‥662)の諡。㋶明、彭時(4－10003‥54)の諡。㋰明、費宏(10－36717‥16)の諡。㋒明、楊愼(6－15112‥229)の追諡。

【文檢】308 ブンケン　もと、文部省教員檢定試驗の略稱。文部省で行つた中等學校教員の資格檢定試驗。

【文縣】309 ブンケン　㊀縣名。㋑漢、置く。今、缺く。滿洲遼寧省の境。〔漢書、地理志下〕遼東郡、縣十八、文。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、蓋州衞、西安平城〕文城在二衞西一、漢置二文縣一、屬二遼東郡一、後漢改曰二汶縣一。㋺明、置く。甘肅省武都縣の南。白水河の北岸。三國魏の將鄧艾が蜀を攻めたとき此處からひそかに渡る。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、階州〕文縣、古氐羌地、漢武開二西南彝一置二陰平道一、屬二廣漢郡一、北部都尉治焉、云云、周明帝二年、以二葭蘆郡一置二文州一、云云、明洪武四年、改レ州爲レ縣、屬二階州一。〔淸史稿、地理志〕甘肅、階州直隸州、縣二、文。㊁州名。北周、唐、置く。明の文縣。

【文謙】310 ブンケン　㊀淸、滿洲鑲黃旗の人。姓は阿哈覺羅氏。諡は誠靖。官は馬蘭鎭總兵、兼總管內務大臣。㊁三國魏、樂進(6－15399‥151)の字。

【文獻】311 ブンケン　㊀典籍と賢者。古の制度文物を知る證據となるもの。又、單に文書、或は制度。文獻不レ足(314)を見よ。〔楊維楨、送三僧歸二日本一詩〕我欲三東遊訪二文獻一、歸二來中土一校二全經一。〔馬端臨、文獻通考、自序〕凡敍事則本二之經史一、而參レ之以二歷代會要一、以及二百家傳記之書一、信而有レ證者從レ之、乖異傳レ疑者不レ錄、所謂文也、凡論レ事則先取二當時臣僚之奏疏一、次及二近代諸儒之評論一、以至二名流之燕談、稗官之紀錄一、凡一話一言、可下以訂二典故之得失一、證中史傳之是非上者、則採而錄レ之、所謂獻也。㊁明、徽州の人。成化の擧人。監察御史となり、北直雲南河南を巡按し、至る所の貪吏、風を望んで遁れ去る。湖廣副使となり、治行卓異を以て稱せらる。〔蘭臺法鑒錄、三〕。㊂諡號。㋑晉、司馬泰(2－3257‥286)の諡。㋺晉、王導(7－20823‥757)の諡。㋩南朝宋、劉義恭(2－2224‥793)の諡。㋥後魏、賈思同(10－36755‥172)の諡。㋭後魏、源子恭(7－17926‥63)の諡。㋬後魏、元徽(1－1340‥116)の諡。㋣後魏、元弼(1－1340‥517)の諡。㋠後魏、穆紹(8－25251‥37)の諡。㋷後魏、王衍(7－20823‥78)の諡。㋦南齊、蕭嶷(9－32012‥79)の諡。㋸隋、獨孤后(7－20725‥81)の諡。㋾唐、姚崇(3－6202‥74)の諡。㋻唐、高士廉(12－45313‥1182)の諡。㋕唐、崔玄暐(4－8178‥244)の諡。㋵唐、鄭珣瑜(11－39647‥442)の諡。㋟唐、裴耀卿(10－34362‥102)の諡。㋹唐、劉幽求(2－2224‥678)の諡。㋞唐、劉仁軌(2－2224‥1089)の追諡。㋡五代吳越、沈崧(6－17189‥237)の諡。㋧五代南平、高從誨(12－45313‥1219)の諡。㋤宋、王柏(7－20823‥888)の諡。㋶宋、王溥(7－20823‥930)の諡。㋰遼、馬人望(12－44572‥839)の諡。㋒金、耶律履(9－29008‥33)の諡。㋼金、移剌履(8－25045‥108)の諡。㋨金、党懷英(1－1381‥6)の諡。㋔金、楊雲翼(6－15112‥430)の諡。㋗元、姚樞(3－6202‥75)の諡。㋳元、蓋苗(9－31652‥71)の諡。㋮元、黃溍(12－47926‥521)の諡。㋘元、曹元用(5－14297‥223)の諡。㋫元、徐琬(4－10110‥27)の諡。㋙元、杜瑛(6－14477‥17)の追諡。㋓元、傅起巖(1－939‥156)の諡。㋢元、楊果(6－15112‥97)の諡。㋐元、劉肅(2－2224‥359)の諡。㊃宋、陳大猷(11－41698‥1091)の字。

【文獻學】312 ブンケンガク　民族の言語及び文學を研究して其の文明の性質を明かにする學術。

【文獻通考】313 ブンケンツウカウ　書名。三百四十八卷。元、馬端臨撰。杜佑の通典に因り、更に之を廣め、通典八門を分ちて十九とし、更に經籍・帝系・封建・象緯・物異の五門を增し、共に二十四門とす。目は、田賦考・錢幣考・戶口考・職役考・征榷考・市糴考・土貢考・國用考・選擧考・學校考・職官考・郊社考・宗廟考・王禮考・樂考・兵考・刑考・經籍考・帝系考・封建考・象緯考・物異考・輿地考・四裔考である。述べる所の事蹟制度は、上は通典を承け、下は南宋の寧宗皇帝に至る。條を分ち排纂すること、通典が翦裁鎔鑄して、一家言を成すに及ばないが、宋朝の制度最も詳博にして、宋史各志の未だ備はらざる所と雖も大抵記載す。三通(1－12‥1304)の㊁を見よ。〔四庫提要、史、政書類〕。

【文獻不レ足】314 ブンケンタラズ　徵證すべき典籍と賢者の乏しいこと。〔論語、八佾〕子曰、夏禮吾能言レ之、杞不レ足レ徵也。殷禮吾能言レ之、宋不レ足レ徵也、文獻不レ足故也、足則吾能徵レ之矣。〔集注〕文、典籍也、獻、賢也。

【文獻徵存錄】315 ブンケンチヨウソンロク　書名。十卷。淸、錢林輯。王繰編。淸初から道光年間に至るまでの學者、百九十三人と附傳二百六十六人、併せて四百五十九人の傳記。〔淸史稿、藝文志〕。

【文顥】316 ブンケン　明、黃昭道(12－47926‥1189)の字。

【文元】317 ブンゲン　㊀擧試に十八番以下で合格した者をいふ。㊁諡號。㋑宋、賈昌朝(10－36755‥180)の諡。㋺宋、饒魯(12－44400‥57)の私諡。㋩宋、晁迥(5－13889‥3)の諡。㋥宋、楊簡(6－15112‥66)の諡。㊂淸、許占魁(10－35298‥337)の字。

【文元先生】318 ブンゲンセンセイ　唐、蕭穎士(9－32012‥297)の私諡。

【文言】319 ブンゲン　㊀易經十翼の一。乾坤二卦の意義を解釋したもの。文言の義に就いては、或は經文の解といひ、或は文飾の言といふ。阮元は文を以て文章の意となすことは孔子の文言を作るに始まるといふ。もと孔子の作といふ。宋の歐陽脩に至り、疑つて聖人の作に非ずとしてゐる。十翼(2－2695‥597)の㊀㋑を見よ。〔易、乾〕文言曰。〔疏〕文言者、是夫子第七翼也、以乾坤其易之門戶邪、其餘諸卦及爻、皆從二乾坤一而出、義理深奧、故特作二文言一以開二釋之一、莊氏云、文謂二文飾一、以二乾坤德大一、故特文飾以爲二文言一、今謂夫子但贊二明易道一、申二說義理一、非二是文飾華彩一、當レ謂下釋二二卦之經文一、故稱中文言上。〔史記、孔子世家〕孔子晚而喜レ易、序二彖繫象說卦文言一。〔易童子問〕童子問曰、繫辭非二聖人之作一乎、曰、何獨繫辭焉、文言說卦而下、皆非二聖人之作一、而衆說淆亂、亦非二一人之言一也、昔之學レ易者、雜取以資二其講說一、而說非二一家一、是以或同或異、或是或非、其擇而不レ精、至レ使二害レ經而惑レ世也。㊁かざつて實の無い言葉。〔韓非子、說疑〕文言多、實行寡、而不レ當レ法者、不二敢誣レ情以談說一。㊂wen² yen²　文語。白話(8－22678‥1229)の對。

【文彥】320 ブンゲン　後唐、歸藹(6－16349‥3)の字。

【文狐】321 ブンコ　毛にあやあるきつね。〔曹植、七啓〕曳二文狐一、掩二狡兔一、捎二鸕鶿一、拂二振鷺一。〔注〕銑曰、文狐、狐有レ文者。

【文虎】322 ブンコ　㊀かざりの虎。〔後漢書、輿服志上〕文虎伏レ軾。㊁美しい虎。皮に文采があるからいふ。〔山海經、海外南經〕狄山、爰有二熊羆文虎一。〔注〕彫虎也。㊂燈謎の別稱。㊃字號。㋑宋、鮑彪(12－46074‥68)の字。㋺宋、毛炳(6－16772‥219)の字。

【文虎章】323 ブンコシヤウ　民國勳章の名。武功ある者、又は功勞ある者に賜ふ。九等に分つ。中心に文虎を鏤刻す。

【文庫】324 ブンコ　㊀書籍ををさめて置くくら。ふみぐら。書庫。㊁圖書館の別稱。㊂文書紙筆などを容れておく箱。〔諸商人世帶氣質、四〕。㊃叢書。

【文五】325ブンゴ　清、張澤棨（4－9812‥1339）の字。

【文語】326ブンゴ　❶文章と言語。〔論衡、自紀〕蓋聖賢之材鴻、故其文語、與㆑俗不㆑通。❷文章上に用ひることば。文章用語。口語（2－3227‥56）の❸の對。

【文語解】327ブンゴカイ　書名。五卷。釋大典撰。宇野士新の語辭解に本づいて修補したもので、虛字・助語等を和解したもの。

【文語碎金】328ブンゴサイキン　書名。四卷。荒木謇士諤撰。體裁は文語粹金に同じ。

【文語粹金】329ブンゴスイキン　書名。四卷。錢木政寧撰。記游・紀事・附錄・紀戰・題跋・附錄等に分類して漢文の語句を輯集した書。山崎美成增補す。

【文公】330ブンコウ　❶春秋時代の諸侯の名。㋑齊の君。齊文公（12－48560‥323′）を見よ。㋺陳の君。陳文公（11－41698‥1231′）を見よ。㋩秦の君。秦文公（8－24995‥265）を見よ。㋥鄭の君。鄭文公（11－39647‥545）を見よ。㋭衞の君。衞文公（10－34074‥173）を見よ。㋬邾の君。邾文公（11－39366‥4′）を見よ。㋣晉の君。晉文公（5－13898‥151）を見よ。㋠魯の君。魯文公（12－46013‥197）を見よ。㋷曹の君。曹文公（5－14297‥306′）を見よ。㋦宋の君。宋文公（3－7078‥405）を見よ。㋸滕の君。滕文公（7－18036‥60）を見よ。㋾燕の君。燕文公（7－19429‥280）を見よ。❷字號。㋑後漢、張步（4－9812‥669）の字。㋺三國魏、鄭渾（11－39647‥145）の字。❸諡號。㋑後魏、鄭羲（11－39647‥66）の諡。㋺唐、韓愈（12－43159‥220）の諡。㋩唐、權德輿（6－15926‥163）の諡。㋥唐、李翺（6－14459‥133）の諡。㋭宋、朱熹（6－14424‥108）の諡。㋬宋、王安石（7－20823‥1112）の諡。

【文公帕】331ブンコウバツ　廣東、潮州の婦女は、外出に丈餘の皁布を以て頭を蔽ひ、首から垂れて膝に至らせる。之を文公帕といふ。唐の韓文公の遺製であるからいふ。〔兩般秋雨菴隨筆〕廣東潮州婦女出行、則以㆓皁布丈餘㆒蒙㆑頭、自㆑首以下、雙垂至㆑膝、時或兩手翕㆓張其布㆒以視㆑人、狀甚可㆑怖、名曰㆓文公帕㆒、昌黎遺製也。

【文公家禮】332ブンコウカレイ　書名。五卷。附錄一卷。舊本、宋の朱熹撰と題してゐるが、王懋竑の白田雜著によれば後人の依託であらう。

〔參考書〕【文公家禮儀節】八卷　明、丘濬撰。文公家禮に本づいて儀節考證雜錄を加へたもの。【文公家禮通考】一卷　室鳩巢撰。〔甘雨亭叢書〕。

【文侯】333ブンコウ　❶春秋戰國時代の諸侯。㋑晉の君。晉文侯（5－13898‥152）を見よ。㋺魏の君。魏文侯（12－45872‥283）を見よ。㋩韓の君。韓文侯（12－43159‥380′）を見よ。❷字號。㋑三國魏、丁斐（1－2‥175）の字。㋺清、謝彬（10－35827‥194）の字。

【文侯之命】334ブンコウシメイ　書經、周書の篇名。眞古文。幽王が犬戎に殺されたとき、晉の文侯が鄭の武公と共に其の太子宜臼を東都に迎へ、立てて平王とす。これより平王は文侯を寵用し方伯に擧げ、且つ秬鬯弓矢を賜ひ、策書を作り之に命じた。卽ち此の篇がそれである。〔書、文侯之命序〕平王錫㆓晉文侯秬鬯圭瓚㆒、作㆓文侯之命㆒。

【文洪】335ブンコウ　明、長洲の人。字は功大。號は希素。成化の擧人。官は淶水敎諭。著に淶水集・括囊詩稿がある。〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十五〕。

【文虹】336ブンコウ　美しい虹。〔王融、三月三日曲水詩序〕鏡㆓文虹於綺疏㆒、浸㆓蘭泉於玉砌㆒。〔傅玄、陽春賦〕文虹竟㆑天。

【文興】337ブンコウ　清初、聖祖仁皇帝（玄曄）の時、魏枝葉の僭年號。（1707）

【文告】338ブンコク　文を以て告げる。示諭する。〔國語、周語上〕有㆓威讓之令㆒、有㆓文告之辭㆒。〔鍾會、移㆑蜀檄〕庶弘㆓文告之訓㆒、以濟㆓元元之命㆒。

【文谷】339ブンコク　明、孔天允（3－6933‥355）の號。

【文國】340ブンコク　縣名。漢、置く。今、闕く。陝西省の境に當る。〔漢書、地理志下〕五原郡、縣十六、文國。

【文穀】341ブンコク　あやある縮緬。〔曹植、七啓〕然後姣人乃被㆓文穀之華袿㆒。〔注〕良曰、文穀、文紗類。

【文鵠】342ブンコク　❶山樂の曲名。瑟によつて奏す。〔韻府引、酉陽雜俎〕瑟曰㆓文鵠㆒、笙曰㆓采庸㆒、鼓曰㆓送君㆒、鐘曰㆓華緜㆒、琴曰㆓洗東㆒、皆山樂也。❷瑟の異名。又、琴の異名。〔事物異名錄、音樂、瑟〕致虛閣雜俎、瑟曰㆓文鵠㆒、又瑯嬛記、琴曰㆓文鵠㆒。

【文佐】343ブンサ　清、上官周（1－13‥197）の字。

【文才】344ブンサイ　❶文筆の才能。文學上の才能。〔後漢書、應劭傳〕弟子瑒・璩、並以㆓文才㆒稱。〔北史、牛弘傳〕先㆓德行㆒、後㆓文才㆒。❷元の高僧。號は仲華。賜號は眞覺國師。清水の楊氏の子。室を築き、松を植ゑたので、人、松堂和尙と稱す。洛陽白馬寺に居る。〔大明高僧傳、二〕。❸後漢、鮑出（12－46074‥40）の字。

【文采】345ブンサイ　❶五聲が相和し、相應じて美しい音曲をなすこと。〔禮、樂記〕廣㆓其節奏㆒、省㆓其文采㆒。〔疏〕文采、謂㆔樂之宮商相應、若㆓五色文采㆒。〔孫希旦集解〕省㆓其文采㆒、省㆓察其音曲㆒、使㆕五聲相和相應、若㆔五色之相雜、以成㆓文采㆒也。❷豔麗な彩澤。あやかざり。衣服等の華麗なのにいふ。〔莊子、馬蹄〕五色不㆑亂、孰爲㆓文采㆒。〔荀子、王制〕使㆕雕琢文采、不㆔敢專㆓造於家㆒、工師之事也。〔楚辭、劉向、九歎、離世〕光明齊㆓於日月㆒兮、文采燿㆓於玉石㆒。❸文章著述の立派なもの。〔韓非子、難言〕捷敏辯給、繁㆓於文采㆒、則見㆔以爲㆓史㆒。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕鄙陋沒㆑世、而文采不㆑表㆓於後世㆒也。〔南史、袁淑傳〕文采遒豔。❹色彩を加へたきぬ。あやぎぬ。文綵。〔管子、八觀〕乘㆑車者飾㆓觀望㆒、步行者襍㆓文采㆒。〔漢書、食貨志上〕衣必文采、食必粱肉。❺やうす。すがた。〔漢書、韋玄成傳〕玄成爲㆑相七年、守㆑正持㆑重、不㆑及㆓父賢㆒、而文采過㆑之。

【文采緣飾】346ブンサイエンショク　物事のかざり。虛禮の意。〔蘇軾、策略五〕非㆑有㆓文采緣飾㆒。

【文采風流】347ブンサイフウリウ　幽雅瀟洒な樣子。〔杜甫、丹青引贈㆓曹將軍霸㆒〕英雄割據雖㆓已矣㆒、文采風流今尙存。

【文彩】348ブンサイ　あやもやう。文綵（351）に同じ。〔蜀志、諸葛亮傳〕論者或怪㆓亮文彩不㆑豔。

【文犀】349ブンサイ　あやある角を有する犀。又、犀の角の文理あるもの。古、用ひて珍奇の器物を作る。〔國語、吳語〕建㆓肥胡㆒、奉㆓文犀之渠㆒。〔注〕文犀、犀之有㆓文理㆒者。〔後漢書、馬援傳〕援在㆓交阯㆒、常餌㆓薏苡實㆒云云、及㆑卒後、有㆓上書譖㆑之者㆒、以爲前所㆓載還㆒、皆明珠文犀。〔注〕犀之有㆓文彩㆒也。〔曹植、七啓〕飾以㆓文犀㆒、彫以㆓翠綠㆒。〔注〕向曰、文犀、犀角有㆓文章㆒者也。

【文載】350ブンサイ　❶明の高僧。字は月舟。定國を嗣ぐ。初め少室に住し、後、烟霞に隱る。後人、嵩少祖といふ。著に洞山緒餘がある。〔河南府志〕。❷字號。㋑三國魏、樂詳（6－15399‥128）の字。㋺晉、司馬顒（2－3257‥241）の字。㋩元、楊乘（6－15112‥221）の字。㋥明、査厚（6－14643‥23）の字。㋭明、曾䡵（5－14299‥96）の字。㋬清、王光國（7－20823‥1345）の字。

【文綵】351ブンサイ　あやもやう。又、あやぎぬ。〔老子、五十三〕服㆓文綵㆒、帶㆓利劍㆒。〔古詩十九首、其十八〕文綵雙鴛鴦、裁爲㆓合歡被㆒。

【文濟】352ブンサイ　明、周津（2－3441‥288）の字。

【文齋】353ブンサイ　字號。❶元、宋愿（3－7078‥91）の號。❷明、余祚徵（1－515‥104）の號。❸廣澤維直の號。廣澤文齋（4－9493‥231）を見よ。

【文材】354ブンザイ　文章の材料。文學の題材。

【文在】354′ブンザイ　清、黃中理（12－47926‥1246）の字。

【文壯】355ブンサウ　明、邵寶（11－39343‥58）の諡。

【文草】356ブンサウ　文章の草稿。

【文草小成】357ブンサウセウセイ　書名。十卷。千葉玄之撰。漢文の成句を類聚したもの。時候山水・人品態藝・宮殿器用・慶賀餞送・問災傷逝・佛語祖錄・諸體通用・目錄和解に分ち、一々出典を附し記す。

【文莊】358ブンサウ　諡號。❶後魏、元熙（1－1340‥111）の諡。❷宋、夏竦（3－5720‥165）の諡。❸宋、高若訥（12－45313‥1211）の諡。❹宋、曾漸（5－14299‥104）の諡。❺宋、晁宗慤（5－13889‥21）の諡。❻宋、汪洙（6－17154‥71）の諡。❼金、曹勇義（5－14297‥322）の諡。❽元、孫拱（3－6987‥68）の諡。❾明、殷士儋（6－16627‥159）の諡。❿明、歐陽德（6－16185‥92）の諡。⓫明、丘濬（1－33‥53）の諡。⓬明、顧起元（12－43689‥236）の

謚。⑬明、呉悌(2-3365‥316)の謚。⑭明、蔡毅中(9-31818‥150)の謚。⑮明、蔡清(9-31818‥75)の謚。⑯明、邵寶(11-39343‥58)の謚。⑰明、鄭守益(11-39562‥95)の謚。⑱明、葉盛(9-31387‥88)の謚。⑲明、陳仁錫(11-41698‥1023)の謚。⑳明、羅欽順(9-28397‥319)の謚。㉑明、羅洪先(9-28397‥333)の謚。㉒明、劉元震(2-2224‥887)の謚。㉓明、王一夔(7-20823‥1156)の謚。㉔明、王鴻儒(7-20823‥1468)の謚。㉕明、王俊(弋陽の人)(7-20823‥567)の謚。㉖明、汪俊(6-17154‥72)の❷の謚。㉗明、馬自強(12-44572‥809)の謚。㉘清、瑞麟(7-21131‥125)の謚。㉙清、德保(4-10243‥256)の謚。㉚清、寶興(3-7376‥104)の謚。㉛清、梁詩正(6-14825‥264)の謚。㉜清、王際華(7-20823‥1492)の謚。

【文窗】359（ブンサウ）　彩色したまど。〔駢雅、釋宮〕綺疏、文窗也。〔長生殿、偸曲〕只見畫簾縹緲、文窗掩映。

【文箱】360（フミバコ　フバコ）　書を入れて負ふ笈。〔倭名抄、十三〕笈、（不美波古）負㆑書箱也。

【文艘】361（ブンサウ）　ゑがき飾つたふね。〔抱朴子、崇教〕或浮㆓文艘於滉瀁㆒、布㆓密網於綠川㆒。

【文謅】362（ブンサウ）　言葉をかざりもてあそぶこと。〔水滸傳、九十回〕那漢道、不㆓必文謅㆒了、有㆑肉快切㆓一盤㆒來。

【文藻】363（ブンサウ）　❶文章の才。才藻。〔魏志、文帝紀評〕文帝天資文藻、下㆑筆成㆑章。〔蜀志、秦宓傳〕或謂㆑宓曰、足下欲㆔自比㆓於巢許・四皓㆒、何故揚㆓文藻㆒見㆓瓌穎㆒乎、宓答曰、僕文不㆑能㆑盡㆑言、言不㆑能㆑盡㆑意、何文藻之有㆑揚乎。〔唐書、裴矩傳〕矩在㆑乳而孤、及㆑長好㆑學、有㆓文藻知數㆒。〔駱賓王、帝京篇〕已矣哉歸去來、馬卿辭㆑蜀多㆓文藻㆒。❷明、朱鑑(6-14424‥96)の字。

〖文藻行潦〗364（ブンサウカウラウ）　書名。七卷。山本北山撰。文章上の佳句を排列して作文の資料としたもの。

【文像】365（ブンザウ）　裝束を著けた文官の像。〔明會典〕朝衣冠文像二對。

【文札】366（ブンサツ）　かきつけのふだ。〔後漢書、黨錮、劉祐傳〕閑㆓練故事㆒、文札強辨。

【文冊】367（ブンサツ）　書面の帳簿。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕凡申㆓詳上臺㆒文冊、俱于㆓前一日㆒送㆓稿案㆒、放㆓行謄眞㆒、次日送印。

【文插】368（フミザシ）　ふみばさみ。文挾(298)に同じ。

【文算】369（ブンザン）　文のはかりごと。〔資治通鑑、魏紀〕（高貴鄕公、甘露三年）習鑿齒曰、云云、武昭既敷、文算又治。

【文燦】370（ブンサン）　明、汪奎(6-17154‥50)の字。

【文山】371（ブンザン）　❶山名。㋑山東省平度縣。石炭を産す。㋺山東省文登縣。文登山の一名。文登(727)を見よ。㋩江西省吉安縣の東南。宋の文天祥の號はこれを取る。〔讀史方輿紀要、江西、吉安府、方石嶺〕志云、府東南百二十里、有㆓文筆峯㆒、文天祥居㆓其下㆒、因自號曰㆓文山㆒。㋥福建省尤溪縣の西北。宋の朱松、縣尉となり、秩滿ちて假に鄭氏に宿り、朱熹を此所に生む。㋭福建省龍溪縣の東。又、觀音巖ともいふ。〔讀史方輿紀要、福建、漳州府、龍溪縣〕文山北臨㆓大溪㆒、三面通㆑潮、或謂㆓之觀音巖㆒、其右爲㆓水頭山㆒、聳拔奇秀、濱㆓於大溪㆒。❷縣名。清、置く。雲南省西疇縣の西。盤龍江の西岸に濱す。〔清史稿、地理志〕雲南、開化府、縣一、文山。❸字號。㋑後漢、王隆(7-20823‥1072)の字。㋺唐、李羣玉(6-14459‥1075)の字。㋩宋、文天祥(1027)の號。㋥清、姚昌(3-6202‥63)の字。㋭清、闕嵐(11-41456‥52)の字。㋬清、崇綺(4-8152‥46)の字。㋣清、董玘(9-31433‥35)の號。

〖文山集〗372（ブンザンシフ）　書名。二十卷。宋、文天祥撰。四庫提要には二十一卷に作る。その目は文集十二卷・指南錄一卷・指南後錄一卷・吟嘯集一卷・集杜詩一卷・紀年錄一卷・拾遺一卷・附錄二卷。文集十二卷は次の細目に分つ。詩(樂府幷詞附)二卷。對策・封事・內制共一卷。表・牋・疏・申省狀共一卷。書二卷。啓二卷。記・序共一卷。跋・題・贊・銘・辭・說共一卷。講義・行狀・墓誌銘・祭文・祝文共一卷。樂語・上梁文・公牘・文判共一卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖文山先生〗373（ブンザンセンセイ）　明、吾冔(2-3379‥23)の尊稱。

【文士】374（ブンシ）　文學に長ずる人。文筆に從事する人。文章家。文人。〔戰國、秦策〕文士並飭、諸侯亂惑。〔韓詩外傳、七〕君子宜㆑避㆓三端㆒、文士之筆端、武士之鋒端、辯士之舌端。〔顏氏家訓、勉學〕文士則講㆓義經書㆒。〔唐書、劉子玄傳〕禮部尙書鄭惟忠、嘗問、自㆑古文士多、史才少何耶。

〖文士劇〗375（ブンシゲキ）　文士の演ずる素人演劇。

〖文士傳〗376（ブンシデン）　書名。一卷。晉、張隱撰。

【文子】377（ブンシ）　❶文王の子。〔書、立政〕文子文孫、孺子王矣。〔傳〕告㆓文王之子孫㆒、言㆓稚子以卽㆑政爲㆒㆑王矣。❷書名。二卷。周の辛鈃撰と傳ふ。蓋し後唐の天寶中、尊稱して通玄眞經といふ。蓋し後世の僞作。漢書藝文志には九篇とあり、隋書經籍志には十二篇とあり今本と同じ。其の篇目は道原・精誠・九守・符言・道德・上德・微明・自然・下德・上仁・上義・上禮。なほ九守篇は更に守虛・守無・守平・守易・守清・守貞・守靜・守法・守弱・守樸の十小目に分つ。此の書は元來老子を敷演したもので、虛無自然を宗旨としてゐる。〔四庫提要、子、道家類〕・〔守山閣叢書、第一百九冊〕。❸謚號。㋑春秋魯、季孫行父(3-6965‥178)の謚。㋺春秋晉、士燮(3-5638‥127)の謚。㋩春秋衞、孔圉(3-6933‥38)をいふ。㋥春秋衞、孫林父(3-6987‥554)をいふ。㋭春秋齊、析歸父(6-14538‥34)の謚。㋬春秋齊、陳須無(11-41698‥962)の謚。❹字號。㋑春秋越、計然(10-35220‥55)の字。㋺晉、王稜(7-20823‥1077)の字。㋩宋、徐邦憲(4-10110‥602)の字。㋥宋、戴栩(5-11685‥43)の字。㋭清、顧九苞(12-43689‥240)の字。㋬清、繆曰藻(8-27855‥57)の字。㋣清、夢麟(3-5802‥153)の字。㋠清、盧元昌(8-23050‥210)の字。

〖參考書〗【通玄眞經注】十二卷　唐、徐靈府撰。〔四庫未收書目提要、一〕。【文子纘義】十二卷　宋、杜道賢撰。精誠・符言・上德・下德・微明・自然・上義の七篇に注を施して自ら說を爲し、首尾完備す。道原・九守・道德・上仁・上禮の五篇を闕き、原文のみを揭ぐ。其の字句、多く今本と異なる。〔四庫提要、子、道家類〕・〔武英殿聚珍版全書、第二百三十九・二百四十冊〕・〔浙江書局彙刻書、第二・三冊〕。

【文之】378（ブンシ）　❶僧の名。名は玄昌。號は南浦。宋學を修め、京都東福寺に學び、各地の寺院を經て薩摩大龍寺に住す。四書新注・周易大全の和訓を作る。元和六年示寂。年六十六。著に南浦文集がある。❷字號。㋑宋、上官渙然(1-13‥211)の字。㋺宋、朱埜(6-14424‥575)の字。㋩明、黃質(12-47926‥443)の字。㋥明、朱謀𧮫(6-14424‥992)の字。

〖文之點〗379（ブンシテン）　我が國の文之和尙が宋儒の新注に加へた訓點をいふ。文之は論語開心切解・論語新注・周易傳義に訓點を施した。

【文止】380（ブンシ）　字號。❶明、羅萬藻(9-28397‥397)の字。❷明、張紀(4-9812‥164)の字。

【文史】381（ブンシ）　❶文章と歷史。文學と史學。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕文史星曆、近㆓乎卜祝之閒㆒。〔隋書、儒林、劉炫傳〕玩㆓文史㆒以怡㆑神、閱㆓魚鳥㆒以散㆑慮。〔南史、蕭惠聞傳〕少有㆓風氣㆒、涉㆓獵文史㆒。❷唐書藝文志、詩話文評に對して總集とは別に文史類の目を設く。學術の源委、著作の流別を論明するもので、卽ち文學史の如きものをいふ。〔唐書、藝文志四〕凡文史類、四家四部十八卷。〔中興書目〕文史者、所㆔以譏㆓評文人之得失㆒。

〖文史足㆑用〗382（ブンシモチフルニタル）　文章歷史に通じて役に立つこと。〔漢書、東方朔傳〕臣朔少失㆓父母㆒、長養㆓兄嫂㆒、年十三、學㆑書三冬、文史足㆑用。〔注〕師古曰、言㆓文史之事足㆒㆑可㆑用也。

〖文史通義〗383（ブンシツウギ）　書名。八卷。清、章學誠撰。內篇五卷は文史を通論し、外篇三卷は州志・序列・書儀を論ず。〔粵雅堂叢書、五十四冊―五十九冊〕。

〖文史通義補篇〗384（ブンシツウギホヘン）　書名。清、章學誠撰。〔靈鶼閣叢書、二十五冊―二十八冊〕。

【文司】385（モジ）　姓氏。

【文市】386（ブンシ）　小賣業者。門市。下手。

【文始】387（ブンシ）　❶漢の雅舞の名。舜の招舞を漢の高祖六年に改め稱す。〔漢書、景帝紀〕奏㆓武德・文始・五行之舞㆒。〔注〕孟康曰、文始、舜舞也。〔漢書、禮樂志〕文始舞者、曰、本舜招舞也、高祖六年、更㆑名曰㆓文始㆒、以示㆑不㆓相襲㆒也。❷書名。九卷。

民國、章炳麟撰。〔章氏叢書、第三―五冊〕。㊂後漢、任昉(**1－416**‥161)の字。

【文始舞】388 ブンシブ　漢の雅舞の名。武德舞(**6－16273**‥309)を見よ。

【文思】389 ブンシ　㊀天地を經緯するを文といひ、道德の純一完備するを思といふ。又、思は慮深通敏をいふ。一說に、文章と意思。〔書、堯典序〕聰明文思、光二宅天下一。〔疏〕以レ此聰明之神智、足レ可三以經二緯天地一、卽文也、又神智之運深二敏於機謀一、卽思也。〔書、堯典〕欽明文思安安。〔今古文注疏〕馬融曰、經二緯天地一謂二之文一、道德純備謂二之思一、鄭康成曰、經二緯天地一謂二之文一、慮深通敏謂二之思一。〔蔡傳〕文、文章也、思、意思也。㊁文章中に盛られた思想。作文の思考。文章を作る考慮。〔文心雕龍、神思〕陶二鈞文思一、貴レ在二虛靜一。〔白居易、題二潯陽樓一詩〕常愛陶彭澤、文思何高玄。㊂唐、祝欽明(**8－24672**‥132)の字。㊃明、彭華(**4－10003**‥24)の謚。

【文思院】390 ブンシヰン　官署の名。宋、置く。少府監の屬。金銀犀玉等の細工を掌る。金には文思署といふ。唐代既に文思院はあつたが、天子内殿の類で、工作の所ではない。〔事物紀原、庫務職局部、文思院〕唐有二文思院一、蓋天子内殿之比也、其事見二畫斷一、然非二工作之所一、而宋朝太平興國三年、始置二文思院一、掌二工巧之事一、非二唐制一矣。〔宋史、職官志五〕文思院、掌下造二金銀犀玉工巧之物、金采繪素裝鈿之飾一、以供中輿輦冊寶法物凡器服之用上。〔金史、百官志二〕少府監・尙方・織染・文思・裁造・文繡等署隷焉。

【文思奧府】391 ブンシノアウフ　文章を作る思考の深遠微妙な場所。〔海錄碎事、文學、文章〕山林臯壤、實文思奧府、屈平所三以洞二風騷之情一、抑亦江山之助。

【文思眞經】392 ブンシシンキヤウ　關尹子の異稱。唐代、關尹子を尊稱して文思眞經といふ。關尹子(**11－41470**‥7)を見よ。

【文思豆腐】393 ブンシトウフ　天寧寺の僧文思、よく豆腐羹・甜漿粥を作る。後世、其の法に效つて豆腐を作り、之を文思豆腐といふ。〔揚州畫舫錄〕枝上村天寧寺、西園下院也、僧文思居レ之、文思、字熙甫、工レ詩、又善爲二豆腐羹、甜漿粥一、至レ今效二其法一者、謂二之文思豆腐一。

【文思博要】394 ブンシハクエウ　書名。千二百卷。唐の太宗の時、中國公等奉敕撰。

【文師】395 ブンシ　㊀六韜(**2－1453**‥427)、文韜(657)の篇名。㊁學問の師。〔十訓抄、上〕學生なりければ、ここかしこに文師にてありきけり。㊂字號。㋑三國魏、蘇則(**9－32427**‥131)の字。㋺梁、荀匠(**9－30929**‥35)の字。

【文梓】396 ブンシ　木目の美しいあづさ。〔戰國、宋策〕荆有二長松文梓楩柟豫樟一、宋無二長木一、此猶三錦繡之與二短褐一也。〔史記、滑稽、優孟傳〕臣請、以二雕玉一爲レ棺、文梓爲レ槨。

【文詞】397 ブンシ　文辭。文章詞賦。〔史記、儒林、申公傳〕是時天子方好二文詞一。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕其經二承子厚口講指畫一爲二文詞一者、悉有二法度可レ觀。

【文詞婦】398 ブンシフ　文章を能くする婦人。〔瑯嬛記〕趙明誠幼時、其父將二爲擇レ婦、明誠晝寢、夢誦二一書一、覺來、惟憶二三句一云、言與レ司合、安上已脫、芝芙草拔、以告二其父一、父爲レ解曰、汝待得下能二文詞一婦上也、言與レ司合、是詞字、安上已脫、是女字、芝芙草拔、是之夫、非レ謂三汝爲二詞女之夫一乎、後李翁以レ女女レ之、卽易安也、果能二文章一。

【文詩】399 ブンシ　文章と詩。詩文。

【文駟】400 ブンシ　美しい四頭の馬。〔顏延之、赭白馬賦〕祕寶盈二於王府一、文駟列二乎華廐一。〔韓愈、楚國夫人墓誌銘〕文駟雕軒、往來有レ煒。

【文熾】401 ブンシ　北周、韓盛(**12－43159**‥143)の字。

【文字】402 モンジ　㊀言語思想を書き表はす記號。周代は單に名といひ、春秋戰國の世に及んで之を文又は書といふ。文とは獨體の文字をいひ、字とは合體の文字をいふ。秦以後、倂稱して文字といふ。文字の起原は俗に黃帝の史官蒼頡が鳥獸の足跡を見て作つたと傳へられる。現存する最古の漢字は殷代のものである。殷代の文字には二種あり、一は河南省安陽縣出土の龜甲文字であり、一は歷代發掘された鐘鼎彝器欵識である。周代の文字は當時の古銅器の銘、卽ち金文中に多く見られるが、周の宣王の時、太史籀が從來の文字、卽ち古文を變じて籀文を作ると傳へられる。この籀文は後に大篆と稱せられた。其の文字は古文と同じものであるが、概ね形式化して字畫が甚だ繁雜となつた。戰國時代になつては國によつて文字の相違が多く、秦の始皇帝が天下を統一するや、李斯の上奏に從つて天下の文字を統一し、秦の文字と合はぬ者を盡く禁止し、李斯は蒼頡篇を作り、中車府令趙高は爰歷篇を作り、大史令胡毋敬は博學篇を作る。皆史籀の大篆を參考にして頗る省改を加へたもので、小篆、又は秦篆と稱せられ、泰山に立てた秦の始皇の頌德碑の文字によつて大體をうかがふことが出來る。又、秦代には官獄多事であつたために、事務用の實用的文字として、程邈が作つたと傳へられる篆書を簡約にした隷書が發生した。秦代には大篆・小篆・刻符・蟲書・摹印・署書・殳書・隷書の八體の區別があつた。漢代に入つても秦代の諸體が行はれてゐたが、其の後文字の學が次第に明らかでなくなつたので、宣帝の時には蒼頡篇に通じてゐる者を召し、張敞をこれに從學せしめた。平帝の時、文字の學に通じてゐる者を未央宮に召して小學元士の官を授け、黃門侍郎揚雄はこれを採用して訓纂篇を作り、蒼頡より以下五千三百四十字が存せられた。王莽の時、頗る文字を改め、古文・奇字・篆書・佐書・繆篆・鳥蟲書の六種の書體が行はれ、これを新の六書といふ。然し漢代の通用文字としては隷書が用ひられ、當代の文字は碑文及び西域から發掘された木簡などによつて見ることが出來る。隷書にも種々の體があり、後漢には線が波形となつて筆端を跳ねる八分といふ體がある。又、漢代から草書が發生し、章草ともいはれ、後漢の頃から次第に行はれるやうになつた。漢書藝文志には、漢代の文字の學に關する書として司馬相如の凡將篇、元帝の時の黃門令史游の急就篇、別字十三篇、杜林の蒼頡訓纂及び蒼頡故等が擧げられてゐるが、今日殘存してゐる文字學に關する最古の大著は、後漢の許愼の說文解字十五篇である。許愼は當時文字學が衰微して時人の古文字を讀む者が無いのに慨して、山巖屋壁に至るまで當時に殘存した古籀字九千四百三十一を搜集してこれに解釋を加へた。魏晉六朝に至ると、篆書を用ひることは少なく、隷書草書が行はれた。今日の楷書は隷書の中から發達したもので、漢代に濫觴し、この時代に入つて大いに發達して多く用ひられたが、尙、隷書と呼ばれてゐた。又、草書も益盛で、魏の鍾繇、晉の王羲之・王獻之等の名手が輩出し、連綿草が非常に發達した。當時の文字は法帖及び敦煌から出た古鈔本等によつて見ることが出來る。唐代は古文・大篆・小篆・八分・隷書・行書・草書等があつたが、古文は廢されて用ひられず、大篆は石經のみに殘り、小篆は印章又は旗旛に用ひ、八分は石經又は碑文に用ひ、隷書は廣く典籍及び公私の文に用ひられた。この隷書は實に今の楷書である。八分は隷體に屬すもので、唯筆法が違つてゐるだけである。行書は楷書を稍〻簡便にしたもので、其の形は漢代からあつたが、草書と區別せずに共に用ひられたが、其の後、草書が發達して巧になり、解し難く實用に適さなくなつたために分れて別體をなすに至つたものである。草書も亦、唐代に盛に用ひられた。六朝から唐初にかけて、楷書の字形が統一せず、同一字に種々の異體があつたので、唐の太宗の時、顏師古は顏氏字樣を作り、異體を集めて其の是非を定め、其の四世の孫、顏元孫は、更にこれを整理して干祿字書を作り、正體・俗體・通體の三體を定めた。張參の五經字、元度の九經字樣も亦文字の正訛を論じたもので、顏氏が通體として許したものも亦訛字とした。此等の諸書が世に重んぜられてから楷書の字形が統一し、後世まで正否を判ずる規準となつた。又、則天武后の時、異體字、卽ち則天文字を作つて天下に布いたが行はれなかつ

秦八體	新六書
大篆	古文 奇字
小篆 刻符	篆書
蟲書	鳥蟲書
摹印	繆篆
署書	
殳書	佐書
隷書	

た。宋代以後、楷書が最も行はれ、行書・草書も並び用ひられ、小篆は碑額・印章等に、隷書は題字・額板等に用ひられた。宋以後印刷術が興つて書籍が刊行されるに及び、刊本には概して楷書が正體とされたが、筆寫の文字にはまた俗體や略體があつた。近年一般の用字としては日本・中國共に字體の簡易化が普及してゐる。唐宋二代の文字學としての書は李陽冰の刊定說文、徐鍇の說文繫傳、吾邱衍の說文續解、林罕の字原偏旁小說、張有の學古篇等があり、南唐の徐鉉の校定說文解字には說文に收められぬ文字若干種を新附として加へてゐる。明に至つて趙宧光の說文長箋があり、毛晉は汲古閣に於て仿北宋刻改大字本說文解字を刻した。清代に至つて、考證學の勃興と共に、說文は爾雅と並んで經書と同樣に尊重され、惠棟一派の所謂呉派の如きは說文を尊重する餘り、說文に未收の文字は使用すべからずとか、說文によつて經文を改易すべしとか唱へるに至り、文字の學は大いに盛行し、說文の注釋書は頗る輩出した。その中特に、戴震・桂馥・嚴可均・王筠の四人は說文研究家として最も有名で、世に段桂嚴王と併稱され、段玉裁の說文解字注と桂馥の說文義證とは白眉とされてゐる。然し道光以後は說文第一主義の研究方法は漸く振はなくなり、說文の誤謬を正した正確な文字學を提唱するものが多く、呉大澂の說文古籀補、丁佛言の說文古籀補補等があり、又、王國維・羅振玉の如く鐘鼎彝器款識・龜甲獸骨文字等によつて說文を訂正せんとするものもある。文字は古くから構成及び使用法を象形・指事・會意・形聲・轉注・假借の六つに分つて說明し、これを六書といふ。六書(**2**-**1453**‥331)の❶を見よ。漢字が我が國に渡來したのは、日本書紀及び古事記によれば、應神天皇の十六年に百濟王が論語・千字文を奉つたのが最初である。これより長い年月を經るに從つて獨特の發達をなし、其のよみ方に呉音・漢音・唐音等があり、これを國語に譯讀する訓讀法が發達した。更に日本語を表はすために漢字を使用し、且つ適當な文字が見當らぬ時は新しく文字を作るに至つた。これを和字又は國字といふ。和字(**2**-**3490**‥159)の❸を見よ。〔周禮、春官、外史〕掌㆑達㆓書名于四方㆒。〔注〕古曰㆑名、今曰㆑字。〔周禮、秋官、大行人〕諭㆓書名㆒。〔注〕書名、書之字也、古曰㆑名。〔儀禮、聘禮、注〕古者文字曰㆑名、後世曰㆑字。〔左氏、隱、元、仲子生而有㆔文在㆓其手㆒、會箋〕古人言㆑文不㆑言㆑字、云云、易、女子貞不㆑字、十年乃字、詩、牛羊腓㆑字之、後傳其僚無㆑子、使㆑字㆓敬叔㆒、皆訓爲㆑乳、書康誥、于㆑父不㆑能㆑字㆓厥子㆒、後傳樂王鮒字而敬、孟子以㆑大字㆑小者、亦取㆓愛養之義㆒、以㆑文爲㆑字、始㆓於秦始皇琅邪臺石刻㆒、曰、同㆓書文字㆒、說文序、依㆑類象㆑形謂㆓之文㆒、形聲相益謂㆓之字㆒、文者物象之本、字者孳乳而生、周禮外史掌㆑達㆓書名于四方㆒、注、古曰㆑名、今曰㆑字、儀禮聘禮注、名、書文也、今謂㆓之字㆒、則字之名由㆑秦而立、自㆑漢而顯、三代以上、言㆑文不㆑言㆑字也。〔經解入門、字學源流〕文字之源、肇㆓於上古㆒、五帝三王、代有㆓更別㆒、至㆑秦爲㆓一大變㆒、漢則各體競出、魏秦而下、俗書紛行矣、許氏說文自敍云、云云、此說文解字之所㆔以存㆓古篆於漢代㆒也、然如㆓許君所ㇿ云、字體雜出、在㆑漢已然、而羣經文字、尙存㆓古篆㆒、卽傳㆓今文㆒者、亦惟隸書而已、書籍之變、用㆓楷書㆒則肇㆓始於唐㆒、而宋元以下皆因㆑之、古文乃不㆑可㆑得、今講㆓小學㆒、則當㆘以㆓許氏說文㆒爲㆓宗主㆒、而旁㆗捜鐘鼎之遺㆖、近之治㆓說文㆒者、則以㆓段氏玉裁・桂氏馥之書㆒爲㆓善本㆒、而兼求㆓朱氏・阮氏・王氏、金石之學㆒、深研㆓古義㆒、不㆑爲㆓俗書所ㇿ惑、字學既明、而後古經可㆓得而讀㆒矣。〔許愼、說文解字敍〕黃帝之史蒼頡、見㆓鳥獸蹏迒之迹㆒、知㆔分理之可㆓相別異㆒也、初造㆓書契㆒、百工㠯乂、萬品㠯察、蓋取㆓諸夬㆒、夬揚㆓于王庭㆒、言、文者宣㆓教明㆔化於王者朝廷㆒、君子所㆓㠯施㆑祿及ㇿ下、居㆑德則忌也、蒼頡之初作㆑書、蓋依㆑類象㆑形、故謂㆓之文㆒、其後形勢相益、卽謂㆓之字㆒、文者物象之本、字者言㆓孳乳而寖多㆒也、箸㆓於竹帛㆒謂㆓之書㆒、書者如也、以迄㆓五帝三王之世㆒、改易殊㆑體、封㆓于泰山㆒者、七十有二代、靡㆑有㆑同焉、周禮、八歲入㆓小學㆒、保子敎㆓國子㆒、先以㆓六書㆒、云云、及㆓宣王大史籒㆒著㆓大篆十五篇㆒、與㆓古文㆒或異、至㆘孔子書㆓六經㆒、左丘明述㆗春秋傳㆖、皆以㆓古文㆒、厥意可㆓得而說㆒、其後諸侯力政、不㆑統㆓於王㆒、惡㆓禮樂之害ㇿ己、而皆去㆓其典籍㆒、分爲㆓七國㆒、田疇異㆑畮、車涂異㆑軌、律令異㆑灋、衣冠異㆑制、言語異㆑聲、文字異㆑形、秦始皇帝初兼㆓天下㆒、丞相李斯乃奏同㆑之、罷㆚其不㆘與㆓秦文㆒合㆖者㆙、斯作㆓蒼頡篇㆒、中車府令趙高作㆓爰歷篇㆒、大史令胡毋敬作㆓博學篇㆒、皆取㆓史籒大篆㆒、或頗省改、所謂小篆者也、是時秦燒㆓滅經書㆒、滌㆓除舊典㆒、大發㆓吏卒㆒、興㆑戍役㆑官、獄職務繁、初有㆓隸書㆒、以趣㆓約易㆒、而古文由㆑此絕矣、自㆑爾書有㆓八體㆒、一曰大篆、二曰小篆、三曰刻符、四曰蟲書、五曰摹印、六曰署書、七曰殳書、八曰隸書、漢興有㆓艸書㆒、尉律、學僮十七已上、始試諷㆓籒書九千字㆒、乃得㆑爲㆑史、又以㆓八體㆒試㆑之、郡移大史幷課、最者以爲㆓尙書史㆒、書或不㆑正、輒擧劾㆑之、今雖㆑有㆓尉律㆒、不㆑課、小學不㆑修、莫㆑達㆓其說㆒久矣、孝宣帝時、召㆘通㆓蒼頡讀㆒者㆖、張敞從受㆑之、涼州刺史杜業、沛人爰禮、講學大夫秦近、亦能言㆑之、孝平皇帝時、徵㆓禮等百餘人㆒、令㆑說㆓文字未央廷中㆒、以㆑禮爲㆓小學元士㆒、黃門侍郎揚雄、采以作㆓訓纂篇㆒、凡蒼頡已下十四篇、凡五千三百四十字、羣書所㆑載略存㆑之矣、及㆓亡新居ㇿ攝、使㆔大司空甄豐等、校㆓文書之部㆒、自以爲㆑應㆓制作㆒、頗改㆓定古文㆒、時有㆓六書㆒、一曰古文、孔子壁中書也、二曰奇字、卽古文而異者也、三曰篆書、卽小篆、秦始皇帝使㆓下杜人程邈所ㇿ作也、四曰左書、卽秦隸書、五曰繆篆、所㆓以摹印㆒也、六曰、鳥蟲書、所㆔以書㆓幡信㆒也、辟中書、魯恭王壞㆓孔子宅㆒、而得㆓禮記・尙書・春秋・論語・孝經㆒、又北平侯張蒼獻㆓春秋左氏傳㆒、郡國亦往往於㆓山川㆒得㆓鼎彝㆒、其銘卽前代之古文、皆自相似、雖㆑叵㆔復見㆓遠流㆒、其詳可㆑得㆓略說㆒也、而世人大共非訾、以爲㆓好㆑奇者㆒也、故詭更㆓正文㆒、鄉壁虛造不㆑可㆑知之書、變亂常行、以燿㆓於世㆒、諸生競逐說㆑字解㆓經誼㆒、稱㆓秦之隸書㆒爲㆓蒼頡時書㆒、云、父子相傳、何得㆓改易㆒、乃猥曰㆓馬頭人㆒爲㆑長、人持㆑十爲㆑斗、虫者屈中也、廷尉說㆑律、至㆓以㆑字斷ㇿ法、苛人受㆑錢、苛之字止句也、若㆑此者甚衆、皆不㆑合㆓孔氏古文㆒、謬㆓於史籒㆒、俗儒鄙夫、翫㆓其所ㇿ習、蔽㆑所㆓希聞㆒、不㆑見㆓通學㆒、未㆔嘗覩㆓字例之條㆒、怪㆓舊藝㆒而善㆓野言㆒、以㆓其所ㇿ知爲㆔祕妙究㆓洞聖人之微恉㆒、又見㆓蒼頡篇中幼子承詔㆒、因曰、古帝之所㆑作也、其辭有㆓神僊之術㆒焉、其迷誤不㆑諭、豈不㆑悖哉、書曰、予欲㆑觀㆓古人之象㆒、言必遵㆓修舊文㆒、而不㆓穿鑿㆒、云云、今敍㆓篆文㆒、合以㆓古籒㆒、博采通人、至㆓於小大㆒、信而有㆑證。〔事物紀原、經籍藝文部、文字〕淮南子曰、蒼頡之初作㆑書、以辨㆓治百官㆒、領㆓理萬事㆒、愚者得㆓以不ㇿ忘、智者得㆓以志ㇿ遠、又曰、昔者蒼頡作㆑書、而天雨㆑粟、又曰、見㆓鳥跡㆒而知㆑著㆑書、呂氏春秋曰、蒼頡作㆑書、注云、蒼頡生而知㆑書、寫㆓倣鳥跡㆒、以造㆓文字㆒、黃帝內傳曰、帝煞㆓蚩尤㆒、因命㆓蒼頡㆒造㆓文字㆒以㆑變㆑質。

❷ ジモ 姓氏。

〖參考書〗【小學考】五十卷 清、謝啓昆撰。【中國文字學】一冊 民國、顧實撰。【中國文字變遷考】一冊 民國、呂思勉撰。

【文字飮】402′ モンジノイン　詩を賦し文を談じて酒を飮むこと。〔韓愈、醉贈㆓張祕書㆒詩〕長安衆富兒、盤饌羅㆓羶葷㆒、不㆑解㆓文字飮㆒、惟能醉㆓紅裙㆒。〔捫蝨新話、詩類〕韓退之嘲㆘京師富兒、不㆑解㆓文字飮㆒、惟能醉㆗紅裾㆖。〔王十朋、與㆓鄭時敏㆒登㆑樓把㆑酒詩〕千里相從文字飮、不㆑辭費㆓盡杖頭錢㆒。

【文字交】402″ モンジノマジハリ　詩文などの交。〔宋史、陸游傳〕范成大帥㆑蜀、游爲㆓參議官㆒、以㆓文字㆒交、不㆑拘㆓禮法㆒。〔國朝漢學師承記、江德量〕與㆓同郡汪明經容甫㆒爲㆓文字交㆒。

【文字學】403 モンジガク　文字の形體・音韻・訓詁・起原・變遷などを研究する學。小學(**4**-**7473**‥176)の❷を見よ。

【文字獄】403′ モンジノゴク　文章によつて禍を買ふこと。筆禍。漢の楊惲が、報㆓孫會宗㆒書を書いて腰斬され、明の高啓が、改㆓修府治㆒上梁文を撰して腰斬された類。清代、聖祖・世宗・高宗の三朝、言論を嵌制し、士林を束縛して、この獄が最も繁多であつた。〔漢書、楊惲傳〕騶馬猥佐成、上書告㆑惲、驕奢不㆑悔㆑過、日食之咎、此人所㆑致、章下㆓廷尉㆒、按驗得㆘所㆑予㆓會宗㆒書㆖、宣帝見而惡㆑之、廷尉當㆓惲大逆無道㆒要斬。〔明史、文苑一、高啓傳〕啓嘗賦㆑詩有㆑所㆓諷刺㆒、帝嗛㆑之未㆑發也、及㆘歸㆓居青邱㆒授㆑書自給㆖、知府魏觀爲移㆓其家郡中㆒、旦夕延

見甚歡、觀以㆔改㆓修府治㆒獲㆑譴、帝見㆓啓所㆑作上梁文㆒、目發㆑怒腰㆓斬於市㆒、年三十有九。

〖文字禪〗403″（モンジゼン）　書名。三十卷。石門寺の侶慧洪覺範禪師の文章・詩偈を、門人覺慈の集錄したもの。明の萬曆二十五年に刊行。

〖文字通〗404（モジドホリ）　文字で示す通り。かけねなし。

〖文字癖〗404′（モンジヘキ）　甚だ文章を好むことにいふ。〔陳造、八月晦試院中詩〕官居㆓課程地㆒、生有㆓文字癖㆒。

〖文字輕易〗405（モンジケイイ）　語句が輕率で不用意なこと。〔蘇轍、爲㆓兄軾下㆑獄上書〕不㆑知㆔文字輕易、迹涉㆓不遜㆒。

【文事】406（ブンジ）　學問・文教などに關することがら。又、文學上の事。〔書、武成序、作㆓武成㆒、傳〕武功成、文事修。〔管子、小匡〕朝服以濟㆑河、而無㆓怵惕㆒焉、文事勝也。

〖文事祕書官〗407（ブンジヒシヨクワン）　宮廷の文事に關する「事務を掌る官。

〖文事祕書官長〗408（ブンジヒシヨクワンチヤウ）　文事祕書官を監督指導する勅任官。

〖有㆓文事㆒者必有㆓武備㆒〗409（ブンジアルモノハカナラズブビアリ）　文武兼ね備へること。治に居て亂を忘れない喩。〔穀梁、定、十〕因㆑是以見、雖㆑有㆓文事㆒必有㆓武備㆒、孔子於㆓頰谷之會㆒見㆑之矣。〔史記、孔子世家〕孔子攝㆓相事㆒曰、臣聞、有㆓文事㆒者必有㆓武備㆒、有㆓武事㆒者必有㆓文備㆒、古者諸侯出㆑疆、必具㆑官以從、請具㆓左右司馬㆒、定公曰、諾、具㆓左右司馬㆒、會㆓齊侯夾谷㆒。〔鹽鐵論、世務〕謹㆓爾侯度㆒、用戒㆓不虞㆒、故有㆓文事㆒、必有㆓武備㆒。

【文辭】410（ブンジ）　あやあることば。文章のことば。文詞。〔左氏、襄、二十七〕仲尼使㆑擧㆓是禮㆒也、以爲㆑多㆓文辭㆒。〔史記、伯夷傳〕其文辭不㆓少概見㆒何哉。〔漢書、匡衡傳〕上好㆓儒術文辭㆒。〔法言、重黎〕威儀文辭表也。〔沈約、宋書謝靈運傳論〕馳㆓騁文辭㆒。〔杜甫、移㆓居公安㆒敬贈㆓衞大郎鈞㆒詩〕平生感㆓意氣㆒、少小愛㆓文辭㆒。

【文秀】411（ブンシウ）　❶美しい穗。〔郭璞、客傲〕今足下既以拔㆓文秀于叢薈㆒、蔭㆓弱根于慶雲㆒。❷文章がすぐれる。〔鍾嶸、詩品、上〕魏侍中王粲詩、其源出㆓於李陵㆒、發㆓愀愴之詞㆒、文秀而質羸、在㆓曹劉之間㆒、別構㆓一體㆒。❸宋、陳文中（**11－41698**‥1238）の字。

【文周】412（ブンシウ）　宋、杜鎬（**6－14477**‥42）の字。

〖文周王〗413（ブンシウワウ）　百濟第二十一代の王。三國史記百濟本紀によれば、文周王は蓋鹵王の子とあり、日本書紀、雄略天皇二十一年の條の註記には、汶洲王（文周王）は蓋鹵王の母弟とある。初め蓋鹵王位に卽くや、文周はこれを輔け、位上佐平に至つた。蓋鹵王二十一年、高句麗長壽王の軍が來侵して漢城を圍むや、文周は王命を以て新羅に援兵を求めたが、既に蓋鹵王は麗軍のために害せられ、文周王位につく。王の四年九月、兵官佐平たる解仇、權を擅にし遂に彼の使簇する者に弑せられた。〔三國史記、二十六、百濟本紀〕。

【文修】414（ブンシウ）　諡號。❶宋、葉味道（**9－31387**‥266）の諡。❷明、林文俊（**6－14551**‥424）の諡。

【文臭】415（ブンシウ）　文章が臭い。〔通俗編、文學、文臭〕南唐書、宋齊邱自署㆓碑碣㆒、毎求㆓韓熙載寫㆑之、熙載以㆑紙塞㆑鼻、或問㆑之、對曰、文臭而穢。

【文醜】416（ブンシウ）　後漢の人。袁紹の將。曹操に擊斬さる。〔後漢書、一百〕・〔三國志、六〕。

【文繡】417（ブンシウ）　❶畫いた模樣と刺繡した模樣。上代は、衣に畫き、裳に刺繡したといふ。一說に、文はあや・かざりの意で、文繡は美しい刺繡、乃至は單に模樣・裝飾の意であるといふ。〔禮、月令〕乃命㆓有司㆒、具㆓飾衣裳㆒、文繡有㆑恆。〔注〕文、謂㆑畫也、祭服之制、畫㆑衣而繡㆑裳。〔孟子、告子上〕詩云、既醉以㆑酒、既飽以㆑德、言飽㆓乎仁義㆒也、所㆓以不㆑願㆓人之膏粱之味㆒也、令聞廣譽施㆓於身㆒、所㆓以不㆑願㆓人之文繡㆒也。〔注〕文繡、繡衣服也。〔集注〕文繡、衣之美者也。〔焦循正義〕文是衣、繡是裳、則膏粱亦當㆓是二物㆒、謹按、禮記月令、仲秋、文繡有㆑恆、注云、文、謂㆑畫也、祭服之制、畫㆑衣而繡㆑裳、孔氏正義云、尙書咎繇謨云、予欲㆑觀㆓古人之象㆒、日月星辰山龍華蟲作㆑會、是衣畫也、宗彝・藻火・粉米・黼黻・絺繡、是裳繡也、畫色輕、故在㆑衣以法㆑天、繡色重、故在㆑裳以法㆑地也、此周氏所㆑本也、乃趙氏云、文繡、繡㆓衣服㆒也、亦不㆓分爲㆑二㆒、劉熙釋名釋言語云、文者、會㆓集衆采㆒以成㆓錦繡㆒、會㆓集衆文㆒以成㆓詞誼㆒、如㆓文繡㆒然也、又釋采帛云、繡、修也、文修修然也、是文繡不㆑分也。〔管子、五輔〕其悅在㆓文繡㆒。〔莊子、列禦寇〕衣以㆓文繡㆒。〔韓非子、五蠹〕故糟糠不㆑飽者、不㆑務㆓粱肉㆒、短褐不㆑完者、不㆑待㆓文繡㆒。〔史記、文帝紀〕所㆑幸愼夫人、令㆓衣不㆑得㆑曳㆑地、幃帳不㆑得㆓文繡㆒。❷明、藍章（**9－32258**‥39）の字。

〖文繡院〗418（ブンシウヰン）　官署の名。宋、置く。少府監の屬。纂繡して、乘輿服御、及び賓客祭祀の用に供することを掌る。金には文繡署といふ。文思院（390）を見よ。〔宋史、職官志五〕文繡院、掌㆔纂繡以供㆓乘輿服御及賓客祭祀之用㆒。〔注〕崇寧三年置、招繡工三百人。

【文式】419（ブンシキ）　書名。明、左培撰。擧業者のために八股文の文法を論述したもの。

【文室】420（ブンシツ）　❶晉の平公（**5－18898**‥154）の室名。〔晏子、問、下〕晏子使㆑晉、晉平公饗㆓之文室㆒。❷文世室（1012）の略。❸（ブンヤ）姓氏。

【文質】421（ブンシツ）　❶文華と質朴。かざりあることと地味なこと。文質彬彬を見よ。〔白虎通、姓名〕名順㆓其文質㆒也。〔孔叢子、雜訓〕文質不㆑同。〔左思、魏都賦〕幷㆓文質之狀㆒。〔李嶠、扈從還㆑洛云云詩〕施㆑恩浹㆓寰宇㆒、展㆑義該㆓文質㆒。❷禮制改制の原理となつたもの。殷は質を尙び、周は文を尙ぶといはれ、王朝の交替に從つて循環して用ひられたものといふ。文質三統を見よ。❸白虎通義（**8－22678**‥383）の篇名。❹元、甬東の人。字は學古。吳の婁江に隱居す。詞章奇放、好んで長吉體を爲す。著に學古集がある。〔元詩紀事、二十七〕・〔列朝詩集小傳、甲前〕。❺字號。㋑明、袁彬（**10－34152**‥133）の字。㋺明、古朴（**2－3233**‥470）の字。㋩明、饒政（**12－44400**‥32）の字。㋥明、萬斌（**9－31339**‥432）の字。㋭明、劉仲質（**2－2224**‥1190）の字。㋬明、盧彬（**8－23050**‥150）の字。㋣明、王彬（**7－20823**‥915）の字。❻宋、羅從彥（**9－28397**‥351）の諡。

〖文質三統〗422（ブンシツサントウ）　文質とは夏は忠を尙び、殷は質を尙び、周は文を尙ぶこと。一說に、殷は質を尙び、周は文を尙ぶといふ如く、文と質とが王朝の革命に從つて循環して用ひられ、禮制改制の原理となつたものといふ。文質再而復とはこの意味である。三統とは夏の人統（建寅の月を正月とし、服色は黑を尙ぶ、黑統ともいふ）、殷の地統（建丑の月を正月とし、服色は白を尙ぶ、白統ともいふ）、周の天統（建子の月を正月とし、服色は赤を尙ぶ、赤統ともいふ）のことで、これ亦王朝の革命に從つて循環して用ひられたものといふ。正朔三而改とはこの意味である。春秋繁露の三代改制質文篇、白虎通の三正篇に見ゆ。〔論語、爲政〕子曰、殷因㆓於夏禮㆒、所㆓損益㆒可㆑知也、周因㆓於殷禮㆒、所㆓損益㆒可㆑知也。〔集解〕馬融曰、所㆑因、謂㆓三綱五常㆒、所㆓損益㆒、謂㆓文質三統㆒。〔集注〕文質、謂㆓夏尙㆑忠、商尙㆑質、周尙㆑文、三統、謂㆘夏正建寅爲㆓人統㆒、商正建丑爲㆓地統㆒、周正建子爲㆗天統㆖。〔劉寶楠正義〕皇疏云、所㆓損益㆒謂㆓文質三統㆒者、案大傳曰、王者始起、改㆓正朔㆒、易㆓服色㆒、夫正朔有㆓三本㆒、亦有㆓三統㆒、明㆔王者受㆑命各統㆓一正㆒也、又禮三正記云、正朔三而改、文質再而復、尙書大傳云、夏以㆓孟春㆒爲㆑正、殷以㆓季冬㆒爲㆑正、周以㆓仲冬㆒爲㆑正、又曰、夏以㆓十三月㆒爲㆑正、色尙㆑黑、以㆓平旦㆒爲㆑朔、殷以㆓十二月㆒爲㆑正、色尙㆑白、以㆓雞鳴㆒爲㆑朔、周以㆓十一月㆒爲㆑正、色尙㆑赤、以㆓夜半㆒爲㆑朔也、三統之義如㆑此、案禮大傳云、聖人南面而治㆓天下㆒、必自㆓人道㆒始矣、立㆓權度量㆒、考㆓文章㆒、改㆓正朔㆒、易㆓服色㆒、殊㆓徽號㆒、異㆓器械㆒、別㆓衣服㆒、此所㆑得㆓與㆑民變革㆒者也、變革卽是損益、非㆓祇一事㆒、此注但言㆓三統㆒者、以㆘服色等皆隨㆓三統㆒而改㆖、擧㆓三統㆒、則餘可㆑知。

〖文質彬彬〗423（ブンシツヒンピン）　文と質が適度に相雜ること。彬彬は相雜つて適當に備はりととのふさま。〔論語、雍也〕質勝㆑文則野、文勝㆑質則史、文質彬彬、然後君子也。〔集解〕包咸曰、彬彬、文質相半之貌。〔集注〕彬彬、猶㆓班班㆒、物相雜而適均之貌。

【文實】424（ブンジツ）　字號。❶明、沈誠（**6－17189**‥243′）の字。❷明、邵蕡（**11－39343**‥73）の字。❸明、鄭誠（**11－39647**‥188）の字。❹明、楊信（**6－15112**‥225）の字。

【文集】425（ブンシフ）　❶一家又は諸家の文を編輯した書籍。〔南史、范泰傳〕泰博覽㆓篇籍㆒、好爲㆓文章㆒、云

云、撰古今善言二十四篇及文集、傳於世。〔隋書、經籍志一〕宋齊已來、云云、更爲七錄、云云、四曰、文集錄。〔古今原始〕文集起于漢武帝、今田夫野老亦皆有集。〔隨園隨筆〕隋經籍志曰、集之名、漢東京所創、蓋指班史某人文幾大、某人詩幾大而言、實後人及之、非自爲及也、及梁開、始有自爲及者、南史阮孝緒爲七錄、四曰、文、及王筠以一官爲一集、江淹自名前後集、是也。〔文史通義、內篇、文集〕集之興也、其當文章升降之交乎、云云、兩漢文章漸富、爲著作之始衰、然賈生奏議編入新書、相如詞賦、但記篇目、皆成一家之言、與諸子未甚相遠、初未嘗有彙次諸體、裒焉而爲文集者也、自東京以降、訖乎建安・黃初之閒、文章繁矣、然范陳二史所次文士諸傳、識其文筆、皆云所著詩賦碑箴頌誄若干篇、而不云文集若干卷、則文集之實已具、而文集之名、猶未立也、自摯虞創爲文章流別、學者便之、於是別聚古人之作、標爲別集、則文集之名、實仿於晉代。❷白氏文集の略稱。〔異稱日本傳〕金澤文庫所藏文集卷第三十三後、書曰、會昌四年五月二日夜、奉爲日本國僧惠蕚上人寫此本、而此書首題曰文集太原白居易、當時之人多用此本、故惟稱文集、及彼國印本傳於我、始稱白氏文集。

【文緝】426　清、陳熙（**11－41698**・・126）の字。

【文沙】427　清、王夢篆（**7－20823**・・2110）の字。

【文車】428　❶彩繪を施した馬車。〔戰國、齊策〕遣太傅賚黃金千斤・文車二駟・服劍一。❷室內で書籍などを運ぶ板張の小車。〔山槐記〕治承三年十二月五日、被召寄文車七兩、櫃百餘合。

【文紗】429　綾ある紗。あやあるうすぎぬ。〔唐書、代宗紀〕文紗吳綾。

【文邪】430　かざつてよこしまなこと。〔新語、愼微〕雕琢文邪、抑定狐疑。

【文昌】431　❶星の名。文昌星（434）に同じ。〔漢書、外戚、孝成許皇后傳〕流星如瓜、出於文昌。❷神の名。又、文昌帝君・梓潼帝といふ。文昌帝（436）を見よ。〔明史、禮志四〕記云、神姓張、名亞子、居蜀七曲山、仕晉戰沒、人爲立廟、云云、道家謂、帝命梓潼、掌文昌府事、及人閒祿籍、故元加號爲帝君、而天下學校、亦有祠祀者、云云、夫梓潼顯靈於蜀、廟食其地、爲宜、文昌六星與之無涉、宜敕罷。❸正殿の名。〔曹植、贈徐幹詩〕文昌鬱雲興、迎風高中天。〔注〕善曰、劉淵林魏都賦注曰、文昌、正殿名也。❹川の名。源は廣西省岑溪縣の界。江に注ぐ。古の羅水。九域志は羅田水といふ。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府、文昌縣〕文昌江、一名南橋水、志云、江源有二、一出縣境之邁南山、一出龍塘、至縣南一里合流、又東南達清瀾港入海。❺縣名。唐、置く。漢の紫貝縣の地。今、廣東省瓊山縣の東南。海南島の東北境。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府〕文昌縣、漢紫貝縣地、屬朱崖郡、後廢、唐武德五年、置平昌縣、屬崖州、貞觀元年、改曰文昌縣、南漢亦屬崖州、宋改屬瓊州縣。〔清史稿、地理志〕廣東、瓊州府、縣七、文昌。❻唐、張籍（**4－9812**・・477）の字。

〔文昌宮〕432　星の名。文昌星に同じ。

〔文昌相〕433　❶唐の武后が左右僕射を改めて文昌左右相と稱した。〔文獻通考、職官考、僕射〕武太后改二僕射爲文昌左右相。❷文昌宮の丞相。〔癸辛雜識〕葉亦愚右丞忽夢一老人曰、汝前爲文昌相、坐漏泄天機、遭謫、能悔過當復職。

〔文昌星〕434　❶星の名。紫微垣外、北斗星の魁前にある六星。形は筐の如く、天の六府で、禍福を集計し、天道を明かにし、天下を經緯することを主る。六星は、一に上將、威武を建てることを主る。二に次將、左右を正すことを主る。三に貴相、文緒を理めることを主る。四に司命、功を賞し、德を進めることを主る。五に司中、文過詰咎を主る。六に司祿、大寶を佐理することを主る。一說に、上將・次將・貴相・司命・司祿・司災。〔史記、天官書〕斗魁戴筐六星曰文昌宮、一曰上將、二曰次將、三曰貴相、四曰司命、五曰司中、六曰司祿。〔注〕索隱曰、文耀鉤云、文昌宮爲天府、孝經援神契云、文者精所聚、昌者揚天紀、輔拂並居、以成天象、故曰文昌宮、春秋元命苞云、上將建威武、次將正左右、貴相理文緒、司祿賞功進士、司命主災咎、司中主佐理也。〔漢書、天文志〕斗魁戴筐六星曰文昌宮、一曰上將、二曰次將、三曰貴相、四曰司命、五曰司祿、六曰司災。〔星經〕文昌六星如半月形、在北斗魁前、天府、主營計天下事、其六星各有名、六司法大理。〔觀象玩占〕文昌六星在紫微垣外北斗魁前、如筐形、天之六府也、主集計禍福、明天道、經緯天下、天官書曰、斗魁戴筐六星曰文昌、六司之會計也、起北斗魁前、近內階、第一星爲上將、主建威武、二星曰次將、主正左右、次三星爲貴相、主理文緒、次四星曰司命、主賞功進德、次五星曰司中、主文過詰咎、次六星曰司祿、主佐理大寶、黃帝占曰、文昌者天府之離宮也。❷俗に文昌星は斗魁六星の一で、文學のことを主るとし、科第をこれに祈る。文昌帝を見よ。〔五雜組、天、一〕俗言、南斗注生、北斗注死、故以北斗爲司命、而文昌者、斗魁戴匡六星之一也、俗以魁故祠文星、以祈科第、因其近斗也、故亦稱文昌司命云、傅會甚矣。

〔文昌臺〕435　唐代、尙書省の一名。〔稱謂錄、尙書、文昌臺〕新唐書百官志注、龍朔二年改尙書省曰中臺、光宅元年曰文昌臺、俄曰都省、垂拱元年曰都臺、長安三年復曰中臺。

〔文昌帝〕436　周官太宗伯の祭る所の司中司命で、姓は張、名は揮、周の武王乙巳の年仲春、吳會に生れ、爾來種〻の奇跡を現はし、周の宣王の時には張仲となり、晉の武帝の時、張亞となり、元帝南渡の時に謝艾といふ。其の後、後秦の苻萇を輔けて梓潼縣に祭られ、梓潼君の尊稱を受く。〔陔餘叢考、文昌神〕今世文昌祠所祀梓潼帝君、王弇州宛委餘編謂、卽陷河神張惡子、而引其所著化書謂、本黃帝子、名揮、始造弦張羅網、因以張爲氏、周時爲山陰張氏子、以醫術事周公、卒托生于張無忌妻黃氏、爲遺腹子、詩所稱張仲孝友者也、以直諫爲幽王所酖、魂遊雪山、治蜀有功、五丁拔山、蛇厭死、蛇卽其所化也、尋爲漢帝子、曰趙王如意、爲呂后所殺、魂散無歸、孝宣世至邛池、其令曰呂牟、卽呂后之後身也、母戚夫人亦生于戚、嫁張翁、老無子、相與瀝血石臼中、祝曰、我無子、倘得一動物、亦遺體也、自是感生爲蛇、呂令有馬、乃呂產後身、蛇輒食之、呂令怒繫張夫婦、將殺之、蛇遂揚海水作雨灌、城邑皆陷、今所謂陷河也、以所殺多、讁爲卭池龍、受熱沙小蟲之苦、遇文殊皈誠脫罪、復生于趙國張禹家、名勳爲清河令、卒又生爲張孝仲、時順帝之永和閒也、西晉末復生于越嶲張氏、年七十三、入石穴悟道、而化改形入咸陽、見姚萇、後萇入蜀至梓潼嶺、神謂之曰、君還秦、秦無主、其在君乎、請其氏曰張惡子也、後萇卽其地主張相公廟、云云、據此則所謂張惡子者、乃流轉于人與蛇閒、一變幻不經之物耳、不知與文昌二字何與、云云、至文昌之星與梓潼無干、乃合而爲一、誠出附會、所有前項祀典伏乞罷免、則亦謂梓潼之與文昌了不相涉也、然世以梓潼爲文昌、則由來已久。

〔文昌雜錄〕437　書名。七卷。宋、龐元英撰。元豐の時、見聞する所の典制に關する記錄が多い。朝廷の禮儀百官除拜のことなど宋史の闕を補ふに足る。〔四庫提要、子、雜家類〕・〔續百川學海、第二十四冊〕・〔古今說海、第十四冊〕・〔說符、第四十七冊〕・〔雅雨堂十種、第二十一・二十二冊〕・〔學津討源、第十三集〕・〔學海類篇、第一百七十八〕。

〔文昌司命〕438　文昌星（434）の❷に同じ。

〔文昌天府〕439　尙書省の稱。衆務の淵藪で、衆星が北斗に向ふのに似てゐるからいふ。〔海錄碎事、臣職、尙書省〕文昌天府、衆務淵藪、內外所折衷、遠近所稟仰、故李固云、陛下之有尙書、猶天之有北斗。

〔文昌都省〕440　唐代、尙書省の一名。文昌臺（652）を見よ。

【文相】441　❶宋の文天祥をいふ。〔剪燈餘話、月夜彈琴記〕草味英雄起、空憐文相之勤王。❷文部大臣の異稱。

【文祥】442　❶清、滿洲正紅旗人。字は博川。姓は瓜爾佳氏。諡は文忠。道光の進士。工部侍郎軍

機大臣となり、總理衙門を創立し、南北口岸大臣を設け、神機營を立てる等大いに規劃する所あり、又、髮捻を平定するに發縱指事の功多し。同治の間、武英殿大學士に至る。著に黑龍江松花江間游記がある。〔清史稿、三百九十二〕・〔清史列傳、五十一〕・〔續碑傳集、七〕。❷字號。㋑三國蜀、習禎(9－28672・・75)の字。㋺宋、石天麟(8－24024・・1004)の字。㋩明、項麒(12－43343・・9)の字。㋥明、戴奎(5－11685・・51)の字。㋭明、陳應和(11－41698・・678)の字。㋬清、陸定(11－41708・・201)の字。

【文章】443ブンシヤウ ❶青と赤のあやを文といひ、赤と白のあやを章といふ。轉じて、衣服に施した黼黻繪繡等のあやをいふ。かざり。模樣。文采。〔周禮、考工記、畫繢〕青與レ赤謂二之文一、赤與レ白謂二之章一。〔禮、哀公問〕有二成事一、然後治二其雕鏤文章黼黻一以嗣。〔國語、周語中〕文章比象。〔注〕黼黻錦繡之文章也。〔荀子、非相〕觀レ人以レ言、美二於黼黻文章一。〔注〕黼黻文章、皆色之美者、白與レ黑謂二之黼一、黑與レ青謂二之黻一、青與レ赤謂二之文一、赤與レ白謂二之章一。〔管子、立政〕工事競二於刻鏤一、女事繁二於文章一、國之貧也。〔史記、禮書〕刻鏤文章、所二以養レ目也。〔後漢書、董卓傳〕錢無二輪郭文章一、不レ便二人用一。❷禮樂法度をいふ。〔詩、衞風、淇奧序〕淇奧、美二武公之德一也、有二文章一、又能聽二其規諫一、以レ禮自防。〔論語、泰伯〕煥乎其有二文章一。〔集注〕文章、禮樂法度也。❸古、軍兵の車服旌旗をいふ。〔左氏、隱、五〕故春蒐、夏苗、秋獮、冬狩、皆於二農隙一以講レ事也、三年而治兵、入而振旅、歸而飮至、以數二軍實一、昭二文章一、明二貴賤一、辯二等列一、順二少長一、習二威儀一也。〔注〕車服旌旗也。❹字句をつらねて一篇のまとまつた思想を述べたもの。〔史記、儒林傳贊〕明二天人之分際一、通二古今之義一、文章爾雅、訓辭深厚。〔漢書、公孫弘傳贊〕文章則司馬遷相如。〔後漢書、延篤傳〕能著二文章一、有レ名二京師一。〔杜甫、偶題詩〕文章千古事、得失知二寸心一。❺德の外面に現はれたもの。威儀・文辭など。〔論語、公冶長〕夫子之文章、可二得而聞一也。〔集注〕文章、德之見二乎外一者、威儀文辭皆是也。❻顏氏家訓(12－43591・・204′)の篇名。

【文章院】444モンジヤウヰン 古、大學寮の内にあり、東曹を江家、西曹を菅家の學舍とし、各〻其の子弟を教育した所。〔本朝文粹、六〕菅原・大江兩氏、建二立文章院一、分二別東西曹司一、爲二其門徒一、習二儒學一。

【文章家】445ブンシヤウカ 文章を書くに巧な人。文士。文人。〔輟耕錄、文章宗旨〕古今文章大家、數甚不レ多、云云、宋文章家尤多。〔震澤長語、十〕世謂六經無二文法一、不レ知二萬古文字從レ經出一、云云、論語宛然畫二出一箇聖人一、非二文能レ之乎、昌黎序、云云、學二書與レ詩、其它文多從二孟子一、遂後世文章家冠、孰謂三六經無二文法一乎。

【文章海】446ブンシヤウカイ 文章界の巨宗。〔雲仙雜記〕杜子美、十餘歲、夢人令レ采二文於康水一、覺而問レ人、此水在二二十里外一、乃往求レ之、見二鵝冠童子一、告曰、汝本文星典吏、天使三汝下謫爲二唐世文章海一、九雲誥已降、可下于二豆壠下一取上、甫依二其言一、果得二一石一、金字曰、詩王本在二陳芳國一、九夜捫レ之麟篆熟、聲振二扶桑一享二天福一。

【文章貨】447ブンシヤウクワ 筆をいふ。〔事物異名錄、文具、筆〕龍鬚志、唐羅隱喜二筆工一、甚鳳語レ之曰、筆、文章貨也、吾當三助レ子取二高價一。

【文章語】448ブンシヤウゴ 文語(326)の❷に同じ。

【文章草】449ブンシヤウサウ 藥草の名。五加皮。〔本草、五加〕釋名、五佳、五花、文章草、白刺、追風使、木骨、金鹽、豺漆、豺節、時珍曰、譙周巴蜀異物志、名二文章草一、有レ贊、云、文章作レ酒、能成二其味一、以レ金買レ草、不レ言二其貴一、是矣。

【文章樹】450ブンシヤウジユ 山桑の異名。〔清異錄、木、文章樹〕張曲江里第之側有二枯柘一、常因二狂風一發二其一根一、解爲二器具一、花紋甚奇、人又以二公之手筆冠レ世、目レ之曰二文章樹一。

【文章生】451モンジヤウシヤウ 古、大學寮で詩文・紀傳を學んだ學生。〔式部省式、上〕凡稱二文章生一者、試二詩賦一、取二下第已上一。

【文章伯】452ブンシヤウハク 文章界の巨擘。〔孫逖、故右丞相贈太師燕文貞公挽詞詩〕海內文章伯、朝端禮樂英。〔杜甫、戲贈二閿鄕秦少府一短歌〕同心不レ減骨肉親、每語見レ許文章伯。

【文章法】453ブンシヤウハフ 一文章中の各部分の位置、並に其の各部の關係等に關する規則。措辭法。

【文章論】454ブンシヤウロン ❶文章上の論說。❷文章法に關する論說。措辭論。

【文章一貫】455ブンシヤウイツクワン 書名。二卷。明、高琦等編。文章の法則を論ず。上卷は立意・氣象・篇法・章法・句法・字法に分ち、下卷は起端・敍事・議論・引用・譬喩・含蓄・形容・繳緒に分つ。

【文章緣起】456ブンシヤウエンギ 書名。一卷。舊本は梁の任昉撰と題す。秦漢以來の詩文の諸體八十五の起原を說いたから緣起と名づく。隋唐より既に佚す。疑ふらくは唐志の載する所の張績の補へる書か。明の陳懿仁の注、清の方熊の補注がある。〔四庫提要、集、詩文評類〕・〔學海類篇、第八十九冊〕。

【文章歐冶】457ブンシヤウオウヤ 書名。一卷。元、陳繹曾撰。もと文筌と名づけたが、後人、今の名に改む。文章の法則を論ず。古文譜(養氣法・識題法・式・製・體・格・律の七に大別す)・四六附說・楚賦譜・漢賦譜・唐賦附說・古文矜式の六類に分ち、每類また之を數目に細分し、終に詩譜を附す。

【文章格子】458 wen^2 chang kê^2 tzŭ 文章を書くのに、紙の下に敷く罫。

【文章軌範】459ブンシヤウキハン 書名。七卷。宋、謝枋得編。枋得が擧業者のために軌範とすべき文章を撰集したもの。王侯將相有種乎の七字を以て卷に名づく。韓柳歐蘇を中心とし、唐宋の文を錄す。唯、蜀の諸葛孔明の出師表と晉の陶淵明の歸去來辭とは前代に取る。凡て六十九篇、唐は韓愈三十一・柳宗元五・杜牧一・元結一、宋は歐陽脩五・蘇洵四・蘇軾十二・范仲淹一・王安石一・李覯一・李格非一・辛棄疾一。一・二卷を放膽文といひ、以下を小心文名づく。更に細別すれば一卷は粗大の文、二卷は辨難攻擊の文、三卷は議論變化の文、四卷は精明正大の文、五卷は謹嚴簡潔の文、六卷は不朽の文、七卷は自得の文を揭げた。全篇凡て圈點評語があるが、出師表と歸去來辭にこれがないのは、二子を尊重するのみならず、また寓意ありといふ。〔四庫提要、集、總集類〕。

〘參考書〙**【官板文章軌範】**七卷 松崎純儉校勘。此の書の本文は坊間の諸本と異り、枋得の眞を見るに足る。**【文章軌範評林】**七卷 伊東龜年撰。**【補注文章軌範】**七卷 海保元備撰。**【鼇頭增注文章軌範】**七卷 森之立撰。**【增訂評注文章軌範】**七卷 木山槐所撰。**【文章軌範纂評】**七卷 安東秉撰。**【評本文章軌範】**七卷 賴山陽講義・牧百峰筆記。**【文章軌範評注】**七卷 三島中洲撰。**【標箋正續文章軌範】**七卷 原田由己撰。**【體注正續文章軌範】**七卷 宮原通赫撰。**【正續文章軌範纂評】**七卷 近藤瓶城撰。**【標注正續文章軌範讀本】**七卷 井上櫻塘撰。**【正續文章軌範評林】**七卷 谷口藍田訂。**【纂評文章軌範】**七卷 草場船山撰。**【正文章軌範評林大成】**七卷 岡三慶補訂。**【增注補訂正續文章軌範】**七卷 松井羅洲撰。

【文章九命】460ブンシヤウキウメイ 明の王世貞の作。先秦より唐宋までの詩人五十餘人の罪過を擧げて攻擊したもので、貧困・嫌忌・玷缺・偃蹇・流貶・刑辱・夭折・無終・無後の九條に分ち、文章九命と名づけた。王丹鳳はこれを非として更に九命を撰び、通顯・薦引・純全・寵遇・安樂・榮名・壽考・神仙・昌後の九條に分ち、更定文章九命と名づけた。〔說郛〕。

【文章鉅公】461ブンシヤウキヨコウ 文章の大家。〔李賀、高軒過云云詩〕馬蹄殷レ耳聲隆隆、入レ門下レ馬氣如レ虹、東京才子文章鉅公、二十八宿羅二心胷一。

【文章司命】462ブンシヤウシメイ 唐の李白が韓朝宗の文章を稱讚して言つた語。〔李白、與二韓荊州一書〕今天下以二君侯一爲二文章之司命一。

【文章四友】463ブンシヤウノシイウ 文章家の四人の朋友。唐の杜審言・李嶠・崔融・蘇味道をいふ。〔唐書、文藝上、杜審言傳〕少與二李嶠・崔融・蘇味道一爲二文章四友一、世號二崔李蘇杜一。

【文章四體】464ブンシヤウノシタイ 散文(古文)・四六文(駢驪文)・韻語文(賦贊銘頌の類)・時文(制藝・制義、又は程文・程墨ともいふ)の四をいふ。〔操觚字訣、文章四體辨〕散文、句法長短不レ齊、不レ切二平仄一、不レ押レ韻、四六、句法字法、必取二對偶一、句末互取二平仄一、不レ押レ韻、韻語、句法字法、有レ對、

或長短不ㇾ同、句末必押ㇾ韻、時文、不ㇾ拘二字數一、不ㇾ切二平仄一、不ㇾ押ㇾ韻、必設二長句對一、或六段、或八段。

【文章宿老】465（ブンシヤウノシユクラウ）　文章界の老大家。〔唐書、李嶠傳〕李嶠富二才思一、然其仕前與二王勃・楊盈川一接、中與二崔融・蘇味道一齊ㇾ名、晩諸人沒、而爲二文章宿老一、一時學者取ㇾ法焉。

【文章緒論】466（ブンシヤウシヨロン）　書名。一卷。熊坂臺州撰。

【文章薪火】467（ブンシヤウシンクワ）　書名。一卷。明、方以智撰。文章法を論じた書。〔昭代叢書、戊集〕。

【文章正宗】468（ブンシヤウセイソウ）　書名。二十卷。續集二十卷。宋、眞德秀編。皆唐以前の文で辭命・議論・敍事・詩歌の四類に分ち、左氏傳・國語以下の諸作を錄して自らこれに注す。續集は皆北宋の文、僅かに議論・敍事の二類のみで未定稿である〔四庫提要、集、總集類〕。

【文章精義】469（ブンシヤウセイギ）　書名。一卷。宋、李耆卿撰。其の文を論ずるや、多く、六經に本づき、聲律章句に拘泥しない。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【文章絶唱】470（ブンシヤウノゼツシヤウ）　文章の最もすぐれたものをいふ。〔鶴林玉露、天、伯夷傳赤壁賦〕太史公伯夷傳・蘇東坡赤壁賦、文章絶唱也。

【文章叢話】471（ブンシヤウソウワ）　書名。三卷。結城顯彥撰。上卷は總論、中卷は文法名稱、下卷は文體略說・評古文。

【文章太守】472（ブンシヤウタイシユ）　明、鄒以信（**11**－**39562**‥66）の尊稱。

【文章博士】473（モンジヤウハカセ）　官名。古、大學寮の被官。文章及び歷史を教授する博士。紀傳博士が廢されてより紀傳をも掌る。唐名は翰林主人。又、翰林學士。〔職原抄〕大學寮、文章博士二人、唐名、翰林主人・翰林學士。

【文章風尙】474（ブンシヤウフウシヤウ）　人々が愛好する文章の型。〔海錄碎事、文學、文章〕元和之後、文章則學二奇於韓愈一、學二澁於樊宗師一、歌行則學二放於張籍一、詩則學二矯激於孟郊一、學二淺於白居易一云、學二淫靡於元稹一、倶號二元和體一、大抵天寶之風尙ㇾ黨、大曆之風尙ㇾ浮、貞元之風尙ㇾ蕩、元和之風尙ㇾ恠、皆因而倡ㇾ之、國史補。

【文章辨體】475（ブンシヤウベンタイ）　書名。五十卷。外集五卷。明、呉訥撰。文章正宗に依つて編集す。古歌・謠辭・樂府・古詩・歌行・諭告・璽書・批荅・詔冊・制・誥・議・彈文等の四十類に分ち、卷首には諸家の詩文に關する意見を集め、外集には四六對偶、及び律詩歌曲を集む。〔四庫提要、集、總集類存目〕。

【文章林府】476（ブンシヤウノリンプ）　文章が或は林木、或は府車の如く多く集る所。〔陸機、文賦〕游二文章之林府一、嘉二麗藻之彬彬一。〔注〕翰曰、林府、謂下多如二林木一、富如中府庫上也。

【文章一小伎】477（ブンシヤウハイチセウギ）　文章は末枝で尊ぶに足らないことをいふ。〔杜甫、貽二華陽柳少府一詩〕指二揮當世事一、語及二戎馬存一、涕淚濺二我裳一、悲氣排二帝閽一、鬱陶抱二長策一、義仗二知者一論、吾衰臥二江漢一、但愧ㇾ識二璵璠一、文章一小伎、於ㇾ道未ㇾ爲ㇾ尊、起ㇾ余幸二班白一、因ㇾ是託二子孫一。

【文章薰蕕辨】478（ブンシヤウクンイウベン）　書名。二卷。旭千里撰。上卷は皆川淇園の改竄文を批評し、下卷は山本北山が徂徠の文を改作したものに就いて駁難す。〔日本藝林叢書、第二卷〕。

【文章圈點法】479（ブンシヤウケンテンハフ）　批點（**5**－**11845**‥46）を見よ。

【文章憎二命達一】480（ブンシヤウメイタツヲニクム）　文章に秀れて巧な士は、多く命運が窮つて榮達しないことをいふ。〔杜甫、天末懷二李白一詩〕涼風起二天末一、君子意如何、鴻鴈幾時到、江湖秋水多、文章憎二命達一、魑魅喜二人過一、應下共二冤魂一語、投ㇾ詩贈中汨羅上。〔注〕師曰、自ㇾ古文章之士、命運多蹇滯。

【文章達德錄】481（ブンシヤウタツトクロク）　書名。一百卷。藤原惺窩撰。論語の辭達而已矣、有ㇾ德者必有ㇾ言の語に取りて名づく。明の呉訥の文章辨體に取りて、作文上の格式體例を論じた書。

【文章流別論】482（ブンシヤウリウベツロン）　書名。二卷。晉、摯虞撰。隋書經籍志に其の著、文章流別集四十一卷と文章流別志論二卷を載せるも、今皆亡佚し、嚴可均の全晉文に其の頌・詩・七・賦・箴・銘・誄・哀辭・碑銘・圖讖を論じたもの十一則を收め、民國の張鵬一も又その逸文を集め、文章流別志論一卷と題する。

【以二文章一取ㇾ士】483（ブンシヤウヲモツテシヲトル）　文章を以て士を試みて採用する。唐宋の制。〔文獻通考、選擧考、擧士〕神宗熙寧二年議、更二貢擧法一、罷二詩賦明經諸科一、以二經義論策一試二進士一云云、按、熙寧四年、始罷二詞賦一、專用二經義一取ㇾ士、元祐元年、復二詞賦一與二經義一並行、紹聖二年、復罷二詞賦一、專用二經義一、建炎二年、又兼二用經賦一、蓋熙寧・紹聖、則專用ㇾ經而廢ㇾ賦、元祐・建炎、則雖ㇾ復ㇾ賦而未二嘗不一ㇾ兼ㇾ經。

【文章意氣之交】484（ブンシヤウイキノマジハリ）　文章と意氣とを以てする交際。〔列朝詩集〕劉繪、字子素、一字少質、嘉靖乙未進士、與二李開先・唐順之・趙時春一、爲二文章意氣之交一。

【文章二十五品】485（ブンシヤウニジフゴヒン）　明の李九我が、周秦以來唐宋に至る迄の文章に就いて、其の秀逸なものを選んでこれを二十五品に分けたもの。

品目	文章
簡古	檀弓。
典則	左傳・國語。
雄偉	戰國策。
敍次	史記（孔子世家・管嬰傳・屈原傳・封禪書・六國表・儒林傳序）。
經濟	賈山、至言・晁錯、論二貴粟一・揚雄、諫ㇾ不ㇾ受二單于朝一書・蘇軾、策略五・蘇軾、敦二教化一。
殊絶	司馬相如、上林賦・司馬相如、大人賦・枚乘、七發・終軍、白麟奇木對・王褒、聖主得二賢臣一頌・揚雄、甘泉賦・駱賓王、應詔・王勃、滕王閣序。
抗直	路溫舒、上二尙德緩刑一書・班彪、王命論・司馬相如、諫獵・枚乘、上書諫二吳王一・貢禹、言二教化一奏・蘇軾、代二張方平一書・歐陽脩、朋黨論。
諷切	魯共公、酒味色論・東方朔、答客難・揚雄、解嘲・班固、答賓戲・韓愈、送二許郢州一序・韓愈、送二崔復州一序・柳宗元、捕蛇者說・柳宗元、種樹郭橐駝傳。
刺譏	賈誼、過秦論・孔稚珪、北山移文・杜牧、阿房宮賦・韓愈、爭臣論・歐陽脩、五代史宦者傳論・蘇洵、管仲論・蘇軾、始皇帝論・蘇軾、荀卿論。
攻擊	韓愈、諱辯・柳宗元、晉文公問ㇾ守ㇾ原議・柳宗元、桐葉封ㇾ弟辨・歐陽脩、縱囚論・蘇洵、辨姦。
議論	司馬遷、禮書・司馬遷、律書・蘇洵、春秋論・蘇洵、諫論・蘇軾、留侯論。
正大	韓愈、祭二鰐魚一文・韓愈、原道・韓愈、與二孟簡尙書一書・司馬光、諫院題名記・李覯、袁州州學記。
節義	蘇武、報二李陵一書・劉向、條二災異一封事・劉陶、上二孝桓帝一疏・梅福、論二王氏一書・諸葛亮、出師表・胡詮、上二高宗一封事・文天祥、慧和尙記・謝枋得、卻ㇾ聘書。
懇至	韓愈、祭二十二郎一文・白居易、哀二陸長源鄭通誠一辭・歐陽脩、祭二蘇子美一文・蘇洵、族譜引。
標表	東方朔、畫像贊序・蔡邕、陳太丘碑文・柳宗元、書二箕子廟碑陰一・蘇軾、表忠觀碑・范仲淹、嚴先生祠堂記・歐陽脩、晝錦堂記。
玄虛	老子。
神奇	莊子。
幻款	列子。

悲憤	幽思	機權	刻深	摭捃	瀟灑	豪放
屈原、離騷經・宋玉、九辯・賈誼、弔㆓屈原㆒賦・賈誼、鵩鳥賦・鄒陽、獄中上㆓梁王㆒書・司馬遷、太史公自序・司馬遷、報㆓任少卿㆒書・李陵、答㆓蘇武㆒書・中山靖王、聞樂對・劉峻、廣絕交論。	習鑿齒、與㆓桓祕㆒書・曹植、與㆓吳質㆒書・駱賓王、冒㆑雨尋㆑菊序・駱賓王、浮槎・韓愈、祭㆓田橫㆒文・歐陽脩、秋聲賦・歐陽脩、讀㆓李翺文㆒・范仲淹、岳陽樓記。	孫子・管子。	韓非子。	呂氏春秋・淮南子。	陶潛、歸去來辭・陶潛、五柳先生傳・韓愈、送㆔李愿歸㆓盤谷㆒序・王羲之、蘭亭記・歐陽脩、醉翁亭記・蘇軾、超然亭記・蘇軾、赤壁賦。	李白、與㆓韓荊州㆒書・蘇軾、上㆓田樞密㆒書・蘇軾、上㆓梅直講㆒書。

【文章辨體彙選】486 ブンシヤウベンタイヰセン　書名。七百八十卷。明、賀徵編。吳訥の文章辨體に依つてこれを廣め、一百三十二體に分つ。每體の首に皆凡例がある。〔四庫提要、集、總集類〕。

【文章流別志論】487 ブンシヤウリウベツシロン　文章流別論（482）を見よ。

【文章達德錄綱領】488 ブンシヤウタツトクロクカウリヤウ　書名。六卷。藤原惺窩撰。古人の詩話・文論を集めて、作文の法の指南としたもの。卷一は入式內錄（讀書・窮理・存養）、卷二は入式外錄（抱題・布置・篇法・章法・句法・字法）、卷三は入式雜錄（敍事・議論・取喩・用事・形容・含蓄・地步・關鍵・開闔・抑揚・起伏・響應・錯綜・鼓舞・頓挫・繁簡・伸縮・陳新・華實・雅俗・工拙・大小・逆順・常變・死活・方圓・險易・撐柱・步驟・瑕疵）、卷四は辨體內錄（辭命・議論・敍事・詩賦・雜著・題跋）、卷五は辨體外錄（駢儷・律詩・近代詞曲）、卷六は辨體雜錄（歷代・諸家）。

【文章經國之大業不朽之盛事】489 ブンシヤウハケイコクノタイゲフフキウノセイジ　文章は國家を經綸する大事業で、永久に朽ちない盛大な事業である。〔魏文帝、典論、論文〕蓋文章經國之大業、不朽之盛事、年壽有㆑時而盡、榮樂止㆓乎其身㆒、二者必至之常期、未㆑若㆓文章之無㆒㆑窮。

【文章自㆑古無㆓憑據㆒惟願朱衣暗點頭】490 ブンシヤウイニシヘヨリヒヨウキヨナシタダネガハクハシユイノアンニテントウセンコトヲ　文章の巧拙の判定に、依據し得る一定の標準は、昔から無い。だから、朱衣を着た人が暗にうなづいて其の文の巧拙を教へてくれることを望む。宋の歐陽脩が貢擧を司つた時、座後の朱衣の人の點頭によつて文を選んだ故事。〔侯鯖錄〕歐陽公知㆓貢擧㆒、常覺座後有㆓一朱衣人點頭者㆒、然後其文入㆑格、因語㆓同列㆒嘆、嘗有㆑句云、文章自㆑古無㆓憑據㆒、惟願朱衣暗點頭。

【文象】491 ブンシヤウ　美しい現象。昭かな現象。❶日月星辰の類をいふ。天文。〔後漢書、律曆志中〕璇璣不㆑正、文象不㆑稽。〔後漢書、襄楷傳〕臣聞、皇天不㆑言、以㆓文象㆒設㆑教、堯舜雖㆑聖、必歷㆓象日月星辰㆒、察㆓五緯所㆒㆑在、故能享㆓百年之壽㆒、爲㆓萬世之法㆒。❷文物・制度の類をいふ。〔傅玄、朝會賦〕仰㆓二皇之文象㆒、詠㆓帝德乎上系㆒。

【文翔】492 ブンシヤウ　明、劉翀（平陸の人）（2―2224‥500）の字。

【文城】493 ブンジヤウ　縣名。❶北齊、置く。江蘇省淮陰縣の南。❷後魏、置く。山西省吉縣の西北。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、吉州〕文城廢縣、本西魏所㆑置、屬㆓汾州㆒、隋因㆑之、唐屬㆓慈州㆒、舊唐書、顯慶二年移㆓縣治仵城縣東北文城邨㆒。

【文城郡王】494 ブンジヤウグンワウ　北齊、皮景和（8―22823‥145）の封號。

【文情】495 ブンジヤウ　❶文章と感情。〔世說新語、文學〕孫子荊除㆓婦服㆒、作㆑詩以示㆓王武子㆒、王曰、未㆑知㆘文生㆓於情㆒、情生㆗於文㆖、覽㆑之悽然增㆓伉儷之重㆒。❷文章に籠る感情。文章の風情。文致。〔趙抃、詩〕開㆑樽向㆓幽處㆒、餘㆑論見㆓文情㆒。

【文襄】496 ブンジヤウ　❶諡號。㋑金、張汝霖（4―9812‥1206）の諡。㋺元、孟祺（3―6960‥46）の諡。㋩明、高拱（12―45313‥192）の諡。㋥明、桂萼（6―14755‥18）の諡。㋭明、曹鼐（5―14297‥141）の諡。㋬明、周忱（2―3441‥285）の諡。㋣明、席書（4―8926‥37）の諡。㋠明、唐龍（2―3709‥345）の諡。㋷明、田樂（7―21723‥314）の諡。㋦明、方獻夫（5―13620‥508）の諡。㋸明、楊一清（6―15112‥420）の追諡。㋾清、于敏中（1―252‥139）の諡。㋻清、靳輔（12―42728‥20）の諡。㋕清、華顯（9―31214‥127）の諡。㋵清、黃廷桂（12―47926‥1259）の諡。㋟清、洪承疇（6―17402‥250）の諡。㋹清、左宗棠（4―8720‥469）の諡。㋞清、舒赫德（9―30300‥99）の諡。㋡清、長齡（11―41100‥896）の諡。㋧清、張之洞（4―9812‥1102）の諡。㋤清、兆惠（1―1347‥13）の諡。㋶清、圖海（3―4832‥8）の諡。㋰清、福康安（8―24768‥156）の諡。㋒清、明亮（5―13805‥582）の諡。㋼清、李之芳（6―14459‥1301）の諡。㋨清、勒保（2―2386‥57）の諡。❷清、陸雲錦（11―41708‥261）の字。

【文襄帝】497 ブンジヤウテイ　北齊、高澄（12―45313‥670）の諡。

【文襄敬皇后】498 ブンジヤウケイクワウゴウ　北齊、元后（1―1340‥205）の諡。

【文若】499 ブンジヤク　字號。❶後漢、荀彧（9―30929‥5）の字。❷後魏、元彧（1―1340‥26）の字。❸後魏、崔彧（4―8178‥5）の字。❹梁、柳忱（6―14662‥144）の字。❺北周、于翼（1―252‥94）の字。❻明、黃大鵬（12―47926‥1221）の字。

【文弱】500 ブンジヤク　❶文事にのみ耽つて柔弱なこと。〔世說新語、賞譽〕蔡司徒在㆑洛、見㆓陸機兄弟㆒云、士龍爲㆑人文弱可㆑愛、士衡長七尺餘、聲作㆓鐘聲㆒。❷明、楊嗣昌（6―15112‥582）の字。

【文弱淫靡】501 ブンジヤクインビ　徒に文事にのみふけるみだらな風習。〔日下勺水、示㆓範國民㆒〕一㆓洗文弱淫靡之風㆒。

【文手】502 フミテ　古、筆の異名。

【文珠】503 ブンシユ　あやのある珠。〔宋均、援神契注〕事㆓神明㆒得、則文珠有㆓其光㆒而可㆑爲㆑鏡。

【文酒】504 ブンシユ　詩文を作り酒を飲む。〔南史、蕭介傳〕介性高簡、少㆓交游㆒、唯與㆓族兄琛・從兄昞素、及洽從弟淑等㆒、文酒賞會、時人以比㆓謝氏烏衣之游㆒。〔南史、江革傳〕優游閑放、以㆓文酒㆒自娛。

【文種】505 ブンシユ　❶學問好きの子をいふ。讀書種子（10―36088‥62）に同じ。〔龍城錄、裴令公訓㆑子〕裴令公常訓㆓其子㆒、凡吾輩但可㆑令㆓文種無㆒㆑絕、然其間有㆔成㆑功能致㆑身、爲㆓萬乘之相㆒、則天也。〔齊東野語、書種文種〕裴度常訓㆓其子㆒云、凡吾輩但可㆑令㆓文種無㆒㆑絕、然其間有㆓成㆑功能致㆑身、萬乘之相㆒、則天也。❷ブンシヨウ　春秋、越の人。もと楚の鄒の人。字は會。越の大夫となる。吳王夫差、越を夫椒に破るや、越王句踐、種に吳と講和を行はしむ。句踐既に國に歸り、政を種に屬す。種、吳を滅すの謀に與ること多し。後、范蠡の書を受けて、疾と稱して朝せず、或る人に亂を作さんとすと譖せられ、王より屬鏤の劍を賜はり、自殺す。〔史記、四十一〕・〔吳越春秋〕・〔越絕書〕。

【文殊】506 モンジユ　佛　❶梵語曼珠室利（Manjusri）の音譯。妙德、又は吉祥の義。法身・般若・解脫の三德をそなへた菩薩。普賢と相對し、釋迦牟尼佛の左側に在つて智慧を司る。其の像は蓮華に坐し、又は獅子に駕し、頭に五髻を結び、右手に智劍を持ち、左手に蓮華を持つのを普通とする。〔放鉢經〕我今得㆑佛、云云、皆文殊師利之恩、是我本師、前過去無央數諸佛、皆文殊師利之弟子。❷寺の名。山西省五臺縣の東北中臺靈鷲峯の頂。又、文殊院といふ。唐の僧、法雲、建つ。❸ブンシユ　字號。㋑梁、柳悅（6―14662‥19）の字。㋺隋、楊昇（6―15112‥3）の字。

【文殊奴】507 モンジユド　遼聖宗（11―39137‥54）の小字。

【文殊蘭】508 wen^2 shu^1 lan^2　はまおもと。

【文殊師利】509 モンジユシリ　文殊に同じ。舊稱は文殊師利、又は滿殊尸利、新稱は曼殊室利、略して文殊といふ。文殊を見よ。〔法華文句、二〕文殊師利、此云㆓妙德㆒。

【文殊智慧】510 モンジユノチヱ　勝れた智慧。大乘の菩薩には文殊を智慧第一とするからいふ。

【文授】511 ブンジユ　宋、李孟傳（6―14459‥1952）の字。

【文綬】512 ブンジュ　❶あやのある印紐。〔虞世南、琵琶賦〕帶二文綬一而旁垂。❷清、滿洲鑲白旗人。姓は富察氏。雍正中、中書を授けられ、乾隆中、陝甘總督に累擢さる。金川を征し、四川に遷り、事に坐して職を奪はる。再び四川總督に起用されたが、游民、衆を糾合して劫掠し、啯嚕子と號し、湖廣貴州に闌入するに及んで、復た職を奪はる。〔淸史稿、三百三十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百七十六〕。

【文澍】513 ブンジュ　明、桃源の人。字は汝霖。成化の進士。官は南京刑部郎中を經て重慶府知となる。政、寬平を尙び、古の循吏の風あり。思南府に遷りて致仕す。學問に富み、詩文に巧。〔本朝分省人物攷、八十二〕。

【文儒】514 ブンジュ　學者。又、秀れた儒者。〔論衡、效力〕使三儒生博二觀覽一、則爲二文儒一。〔晉書、儒林傳序〕漢祖勃興、云云、未レ遑二俎豆一、逮二于孝武一、崇二尙文儒一。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕文儒是競。〔白居易、常樂里閑居云云詩〕幸逢二太平代一、天子好二文儒一。

【文孺】515 ブンジュ　字號。❶宋、劉章(**2－2224**・・339)の字。❷金、趙渢(**10－37171**・・325)の字。❸金、王賁(**7－20823**・・988)の字。❹明、楊漣(**6－15112**・・395)の字。

【文終】516 ブンシュウ　漢、蕭何(**9－32012**・・27)の諡。

【文叔】517 ブンシュク　字號。❶後漢、光武帝の字。劉秀(**2－2224**・・328)を見よ。❷宋、黃裳(普城の人)(**12－47926**・・450)の字。❸宋、黃度(**12－47926**・・622)の字。❹宋、錢文(**11－40563**・・196)の字。❺宋、鄭清之(**11－39647**・・473)の字。❻宋、范仲黼(**9－30834**・・241)の字。❼宋、潘友文(**7－18236**・・114)の字。❽宋、潘修(**7－18236**・・42)の字。❾宋、李格非(**6－14459**・・958)の字。❿宋、梁琢(**6－14825**・・156)の字。⓫金、蒲察鄭留(**9－31611**・・59)の字。⓬明、吳渙(**2－3365**・・132)の字。⓭清、楊繩武(**6－15112**・・626)の字。

【文俶】518 ブンシュク　清の人。從簡の女。一に文淑に作る。字は端容。號は寒山蘭閨畫史。趙靈均の妻となる。書畫、家法を得、特に花鳥に巧。淸代閨秀の冠となる。〔國朝書畫家筆錄、四〕。

【文宿】519 ブンシュク　明、孫應奎(洛陽の人)(**3－6987**・・337)の字。

【文淑】520 ブンシュク　❶文俶(518)を見よ。❷字號。㋑晉、壽良(**3－5672**・・172)の字。㋺清、戴陵濤(**5－11685**・・218)の字。

【文肅】521 ブンシュク　諡號。❶北齊、杜弼(**6－14477**・・221)の追諡。❷後魏、崔士泰(**4－8178**・・262)の諡。❸唐、李紳(**6－14459**・・477)の諡。❹宋、黃榦(**12－47926**・・160)の諡。❺宋、吳奎(**2－3365**・・141)の諡。❻宋、吳儆(**2－3365**・・147)の諡。❼宋、蔡抗(建陽の人)(**9－31818**・・23)の諡。❽宋、曹叔遠(**5－14297**・・257)の諡。❾宋、謝良佐(**10－35827**・・372)の諡。❿宋、章穎(**8－25761**・・11)の諡。⓫宋、徐應龍(**4－10110**・・348)の諡。⓬宋、徐邦憲(**4－10110**・・602)の諡。⓭宋、盛度(**8－23005**・・153′)の諡。⓮宋、曾布(**5－14299**・・139)の諡。⓯宋、陶崇(**11－41705**・・105)の諡。⓰宋、鄭湜(**11－39647**・・175)の諡。⓱宋、鄭伯熊(**11－39647**・・535)の諡。⓲宋、包恢(**2－2506**・・34)の諡。⓳宋、范鍾(**9－30834**・・61)の諡。⓴宋、李臯(**6－14459**・・464)の諡。㉑金、王寂(**7－20823**・・680)の諡。㉒元、暢師文(**5－14095**・・45)の諡。㉓元、孔思晦(**3－6933**・・313)の諡。㉔元、陳思濟(**11－41698**・・917)の諡。㉕元、鄧文原(**11－39630**・・194)の諡。㉖元、禿忽魯(**8－24910**・・42)の諡。㉗元、王構(東平の人)(**7－20823**・・399)の諡。㉘元、王克敬(**7－20823**・・1472)の諡。㉙元、王恂(**7－20823**・・579)の諡。㉚明、何喬新(**1－511**・・258)の諡。㉛明、岳正(**4－8001**・・20)の諡。㉜明、吳儼(**2－3365**・・169)の諡。㉝明、謝鐸(**10－35827**・・162)の諡。㉞明、朱國禎(**6－14424**・・787)の諡。㉟明、徐善述(**4－10110**・・532)の諡。㊱明、錢習禮(**11－40563**・・334)の諡。㊲明、趙貞吉(**10－37171**・・797)の諡。㊳明、文震孟(1010)の追諡。㊴明、羅玘(**9－28397**・・49)の諡。㊵明、劉瑞(**2－2224**・・412)の諡。㊶明、劉忠(**2－2224**・・499)の諡。㊷明、呂大器(**2－3386**・・299)の諡。㊸明、王錫爵(**7－20823**・・1813)の諡。㊹明、王圖(**7－20823**・・850)の諡。㊺明、王僎(**7－20823**・・1031)の諡。㊻清、英廉(**9－30808**・・199)の諡。㊼清、許景澄(**10－35298**・・274)の追諡。㊽清、蔣赫德(**9－31820**・・130)の諡。㊾清、蔣廷錫(**9－31820**・・200)の諡。㊿清、沈葆楨(**6－17189**・・641)の諡。(51)清、陳大受(**11－41698**・・1095)の諡。(52)清、范文程(**9－30834**・・264)の諡。(53)清、黎培敬(**12－47994**・・121)の諡。(54)清、王安國(**7－20823**・・1110)の諡。

【文術】522 ブンジュツ　文道。學問。〔陶潛、責レ子詩〕阿宣行志學、而不レ愛二文術一。

【文初】523 ブンショ　字號。❶唐、司空曙(**2－3257**・・44)の字。❷宋、譚掞(**10－35978**・・3)の字。❸清、倪端(**1－792**・・24)の字。

【文書】524 ブンショ モンジョ　かきもの。公用書類。公牘。又、書籍。〔史記、秦始皇紀〕禁二文書一、而酷二刑法一。〔漢書、刑法志〕文書盈二于几閣一、典者不レ能二徧睹一。〔後漢書、西南夷、冉駹傳〕頗知二文書一。〔論衡、別通〕以二文書一御二天下一。〔吳志、顧雍傳〕典二校諸官府及州郡文書一。

【文書袋】525 ブンショブクロ　文書を入れる袋。

【文書僞造罪】526 ブンショギザウザイ　官廳が其の職權の執行上作成した文書若しくは圖畫、權利義務又は事實證明に關する私人の文書、若しくは圖畫を僞造又は變造したことによって成立する罪。前者が公文書僞造罪、後者は私文書僞造罪。

【文翥】527 ブンショ　明、張翬(**4－9812**・・177)の字。

【文序】528 ブンジョ　後魏、崔庠(**4－8178**・・91)の字。

【文舒】529 ブンジョ　字號。❶後漢、張昶(**4－9812**・・550)の字。❷三國魏、王昶(**7－20823**・・791)の字。❸後魏、裴衍(**10－34362**・・7)の字。❹後魏、王衍(**7－20823**・・78)の字。

【文升】530 ブンショウ　字號。❶明、屠應埈(**4－7761**・・86)の字。❷清、汪士鋐(**6－17154**・・231)の字。

【文昇】531 ブンショウ　字號。❶陳、司馬暠(**2－3257**・・232)の字。❷隋、衞玄(**10－34074**・・36)の字。

【文勝】532 ブンショウ　後漢、酈炎(**11－39753**・・2)の字。

【文頌】533 ブンショウ　頌德の文章。頌辭。〔後漢書、酷吏、陽球傳〕未レ聞三豎子小人、詐作二文頌一。

【文證】534 ブンショウ　文章の證據。〔孔穎達、禮記正義序〕必取二文證詳悉、義理精審一。

【文飾】535 ブンショク　❶あや。かざり。又、かざる。文も、かざり・かざる。〔禮、玉藻〕犬羊之裘、不レ裼、不二文飾一也、不レ裼。〔荀子、禮論〕故其立二文飾一也、不レ至二於窕冶一。〔孔子家語、子路初見〕孔子相レ魯、齊人患二其將レ霸、欲レ敗二其政一、乃選二好女子八十人一、衣以二文飾一、而舞二容璣一、及文馬四十駟、以遺二魯君一。❷過失や惡事を辯解すること。言ひつくろふ。ごまかす。〔南史、恩倖、孔範傳〕後主性愚佷、惡レ聞二過失一、每レ有二惡事一、範必曲爲二文飾一、稱揚讚美。〔顏氏家訓、教子〕一行之非、揜藏文飾、冀二其自改一。

【文燭】536 ブンショク　赤い南天の實をいふ。〔本草、南燭〕釋名、南天燭、南燭草木、男續、染菽、猴菽草、草木之王、惟那木、牛筋、烏飯草、墨飯草、楊桐、赤者名二文燭一。

【文織】537 ブンショク　あや模樣のある織物。あやをり。〔周禮、天官、玉府〕凡王之獻二金玉・兵器・文織・良貨賄之物一、受而藏レ之。〔注〕文織、畫及繡錦。〔荀子、禮論〕卑絻黼黻、文織資麤、衰絰菲總菅屨、是吉凶憂愉之情、發二於衣服一者也。〔說苑、善說〕明日使下人奉二黃金百斤・文織百純一、進中之張先生上。

【文職】538 ブンショク　文官。武職(**6－16273**・・217)の對。〔後漢書、第五倫傳〕文職修理、所レ擧吏、多至二九卿二千石一。

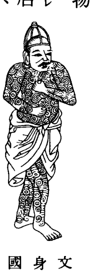
【文縟】539 ブンジョク　禮文(禮節)が繁數である。〔儀禮、喪服傳〕喪二成人者一、其文縟。〔注〕縟、猶レ數也、其文數者、謂二變除之節一也。〔胡培翬正義〕其文縟者、謂二禮文繁數一。

【文臣】540 ブンシン　文筆を以て仕へる臣。文官。文臣不レ愛レ錢、武臣不レ惜レ死を見よ。

【文臣不レ愛レ錢武臣不レ惜レ死】541 ブンシンゼニヲアイセズブシンシヲヲシマズ　文官が金錢を貪らず、武將が命を惜しまない。文武の臣が、各〻其の職分を守って忠を盡すをいふ。宋の岳飛の語。〔宋史、岳飛傳〕或問、天下何時太平、曰、文臣不レ愛レ錢、武臣不レ惜レ死、則天下平矣。

【文身】542 ブンシン　❶身體にほりものをする。身體にいれずみをした人。〔禮、王制〕東方曰レ夷、被レ髮文レ身、有下不二火食一者上矣。〔左氏、哀、七〕斷レ髮文レ身、臝以爲レ飾。〔穀梁、哀、十三〕吳、夷狄之國也、祝レ髮文レ身。〔注〕文レ身、刻二畫其身一以爲レ文也、必自殘毀者、以辟二蛟龍之害一。〔墨子、公孟〕昔

者越王句踐、剪レ髮文レ身、以治二其國一。〔戰國、趙策〕祝レ髮文レ身、錯臂左衽、甌越之民也。〔史記、周紀〕二人亡如二荆蠻一、文レ身斷レ髮、以讓二季歷一。〔漢書、揚雄傳上〕乃使三文身之技、水格二鱗蟲一。〔淮南子、齊俗訓〕劗レ髮文レ身。❷東夷の國名。國人は皆、體に刺青を施す。〔三才圖會、人物十三〕文身國、物至賤、行不レ賫レ糧、王居飾以二金玉一、市用二珍寶一交易。〔南史、夷貊下、東夷、文身國傳〕文身國、在二倭東北七千餘里一、人體有レ文如レ獸、其額上有二三文一、文直者貴、文小者賤、土俗歡樂、物豐而賤、行客不レ齎レ糧、有二屋宇一、無二城郭一、國王所レ居、飾以二金銀珍麗一、繞レ屋爲レ塹、廣一丈、實以二水銀一、雨則流二于水銀之上一、市用二珍寶一、犯二輕罪一者則鞭杖、犯二死罪一則置二猛獸一食レ之、有レ枉則獸避而不レ食、經レ宿則赦レ之。


文身國
（三才圖會）

【文信】543ブンシン　明、都嗣誠(11－39509‥222)の字。

〖文信侯〗544ブンシンコウ　秦、呂不韋(2－3386‥256)の封號。

【文振】545ブンシン　字號。❶宋、鄭南升(11－39647‥525)の字。❷宋、杜鐸(6－14477‥195)の字。❸宋、林公玉(6－14551‥317)の字。❹明、葛鏞(9－31420‥98)の字。❺明、丘鐸(1－33‥69)の字。❻明、呂鐸(2－3386‥119)の字。❼明、厲昇(2－3041‥36)の字。❽明、王詔(直隸趙の人)(7－20823‥672)の字。

【文深】546ブンシン　❶細密に注意すること。用意周到。〔史記、萬石君傳〕慶文深審謹、然無下他大略、爲二百姓一言上。❷法文を固執して苛酷なこと。〔漢書、汲黯傳〕湯辯常在二文深小苛一。〔漢書、酷吏、趙禹傳〕亞夫爲二丞相一、禹爲二丞相史一、云云、亞夫弗レ任、曰、極知二禹無レ害、然文深、不レ可三以居二大府一。〔注〕應劭曰、禹持二文法一深刻。〔王先謙補注〕文者、循レ理用レ法之謂、過二於理一則爲二文深一。❸字號。㋑北周、樊深(6－15414‥44)の字。㋺梁、柳憕(6－14662‥181)の字。

【文進】547ブンシン　❶明、孫文義(3－6987‥534)の舊名。❷字號。㋑明、戴進(5－11685‥81)の字。㋺明、王琦(7－20823‥194)の字。

【文軫】548ブンシン　文字と車。文軌(158)に同じ。〔江淹、雜體、袁太尉從駕詩〕文軫薄二桂海一、聲敎燭二冰天一。〔注〕濟曰、軫、車也。

【文愼】549ブンシン　諡號。❶清、伯麟(1－466‥473)の諡。❷清、潘錫恩(7－18236‥188)の諡。❸清、裕德(10－34305‥25)の諡。

【文蜃】550ブンシン　美しい大きな蛤。〔逸周書、王會解〕姑妹珍、具甌文蜃。〔注〕文蜃、大蛤也。

【文箴】551ブンシン　❶作文上のいましめ。作文上の心得。〔唐詩紀事、李德裕〕李德裕論レ文曰、云云、余嘗爲二文箴一曰、文之爲レ物、自然靈氣、怳惚而來、不レ思而至。❷清、孔廣森(3－6933‥278)の字。

【文人】552ブンジン　❶文德ある人。〔書、文侯之命〕追二孝于前文人一。〔傳〕以レ善使三追二孝於前文德之人一。〔疏〕追二行孝道於前世文德之人一。〔詩、大雅、江漢〕釐二爾圭瓚、秬鬯一卣一、告二于文人一。〔傳〕文人、文德之人也。❷文學を好む人。文筆に巧な人。文雅の事を修める人。文學者。文士。詞客。文人相輕を見よ。〔魏志、王粲傳〕觀二古今文人一、類不レ護二細行一。〔唐國史補、下〕進士爲二時之所レ尙矣、是故俊乂、實集二其中一、由レ此出者、終身爲二文人一。〔宋史、劉摯傳〕士當下以二器識一爲上レ先、一號爲二文人一、無レ足レ觀矣。

【文人畫】553ブンジングワ　文人の描く繪畫。筆意、風韻を尙ぶ疎畫。南宗畫。〔畫乘要略、三〕山作二山川梅竹一、不レ過二自娛一、故人稱レ之、謂二之文人畫一矣。

〖文人相輕〗554ブンジンアヒカロンズ　文學者には他の文學者を輕侮蔑視する癖があること。〔魏文帝、典論、論文〕夫文人相輕、自レ古而然、傅毅之于二班固一、伯仲之閒耳、而固小レ之、與二弟超一書曰、武仲以二能屬レ文、爲二蘭臺令史一、下レ筆不レ能二自休一、夫人善二於自見一、而文非二一體一、鮮二能備レ善、是以各以二其所レ長、相二輕所レ短。〔文心雕龍、知音〕至二班固・傅毅一、文在二伯仲一、而固嗤レ毅云二下レ筆不レ能二自休一、及二陳思論レ才、亦深排二孔璋一、云云、故魏文稱二文人相輕一、非二虛談一也。

【文水】555ブンスイ　❶川の名。㋑陝西省城固縣の西北。兩水が合流して文の字の如き故に名づく。又、門水といふ。〔水經、沔水注〕(文)水卽門水也。〔城固縣志〕兩水合流、有レ如二文字一、宋范柏年對二明帝一云、臣鄉有二文川一、卽此。㋺源は山西省交城縣の西北、孝文山。南流して文水縣に至り、汾水に注ぐ。又、文谷水・文峪水ともいふ。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府、汾陽縣〕文水、府東北五十里、亦自二文水縣一流入二縣境一、一名文谷河、亦曰二萬谷河一、至二府東十五里一、謂二之西河泊一、亦謂二之文湖一。❷縣名。隋、置く。故城は山西省文水縣の東。宋、水患によつて南漳沱村の高阜に徙す。現在の山西省文水縣治。〔讀史方輿紀要、山西、太原府〕文水縣、漢爲二大陵縣地一、屬二太原郡一、後漢及晉因レ之、後魏置二受陽縣一、隋開皇十年、改曰二文水一、以二文谷水一名也、唐武德三年、改屬二汾州一、六年還屬二幷州一、明年又屬二汾州一、貞觀初復レ故、天授初改爲二武興縣一、神龍初仍爲二文水縣一。〔清史稿、地理志〕山西、太原府、縣十、文水。❸字號。㋑明、文嘉(79)の號。㋺清、汪漣(6－17154‥152)の字。

【文榱】556ブンスイ　うつくしいたるき。〔曹植、七啓〕彤軒紫柱、文榱華梁。

【文瑞】557ブンズイ　❶文事の象瑞。〔漢書、王莽傳中〕典レ致二文瑞一、考レ圜合レ規。❷明、介休の人。成化の進士。使臣に任ぜられ、唐・潘二府に使す。御史に擢んでられ、畿甸を按じ、再び山東を巡り、百僚震肅す。後、遼陽に於て卒す。〔蘭臺法鑒錄、十二〕。❸字號。㋑明、康麟(4－9376‥153)の字。㋺明、干鳳(4－9165‥95)の字。㋩明、郭璽(11－39474‥106)の字。㋥明、談一鳳(10－35633‥81)の字。㋭明、鄧顯麒(11－39630‥141)の字。㋬明、劉奎(2－2224‥224)の字。㋣清、高翔麟(12－45313‥1208)の字。

〖文瑞樓〗558ブンズイロウ　清の嘉慶の時、桐鄉の金檀の藏書樓の名。同樓書目があり、明人の所藏の集部が最も多い。

〖文瑞樓書目〗559ブンズイロウショモク　書目の名。十二卷。清、金檀輯。文瑞樓を見よ。〔讀畫齋叢書、庚集〕。

【文樞】560ブンスウ　明、鄭辰(11－39647‥177)の字。

【文正】561ブンセイ　❶字號。㋑晉、夏方(3－5720‥277)の字。㋺明、張紀(4－9812‥164)の字。❷諡號。㋑宋、蔡沈(9－31818‥94)の諡。㋺宋、司馬光(2－3257‥248)の諡。㋩宋、陳康伯(11－41698‥698)の改諡。㋥宋、鄭居中(11－39647‥335)の諡。㋭宋、李昉(6－14459‥657)の諡。㋬宋、王曾(7－20823‥712)の諡。㋣宋、王旦(7－20823‥765)の諡。㋠金、虞仲文(9－32723‥182)の諡。㋷金、張行簡(4－9812‥863)の諡。㋦元、何瑋(1－511‥9)の諡。㋸元、賈居貞(10－36755‥152)の諡。㋾元、江學庭(6－17140‥464)の諡。㋻元、許衡(10－35298‥36)の諡。㋕元、吳澄(2－3365‥308)の諡。㋵元、趙良弼(10－37171‥931)の諡。㋟元、竇默(8－25695‥54)の諡。㋹元、耶律有尙(9－29008‥41)の諡。㋞元、耶律楚材(9－29008‥97)の諡。㋡元、劉秉忠(2－2224‥1310)の諡。㋧元、廉希憲(4－9436‥122)の諡。㋤元、王壽(7－20823‥553)の諡。㋶明、倪元璐(1－792‥44)の諡。㋰明、謝遷(10－35827‥153)の諡。㋒明、方孝孺(5－13620‥493)の追諡。㋼明、李東陽(6－14459‥1810)の諡。㋨明、劉理順(2－2224‥1347)の諡。㋔清、曹振鏞(5－14297‥262)の諡。㋗清、朱珪(6－14424‥255)の諡。㋳清、曾國藩(5－14299‥192)の諡。㋮清、孫家鼐(3－6987‥344)の諡。㋘清、湯斌(7－17874‥112)の諡。㋫清、杜受田(6－14477‥333)の諡。㋙清、李鴻藻(6－14459‥1227)の諡。㋓清、劉統勳(2－2224‥1233)の諡。❸ブンシヤウ　第百三代後土御門天皇の年號。(1466－1467)〔藤原綱光勘文〕荀子曰、積二文學一正二身行一。

〖文正集〗562ブンセイシフ　書名。二十卷。別集四卷。補篇五卷。宋、范仲淹撰。又、丹陽集といふ。詩賦五卷、雜文十五卷。蘇軾の序がある。別集は宋の綦煥が舊刻を校定して得た詩文三十七篇を收める。補篇は其の裔孫、清の范能濬の搜輯したもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【文生】563ブンセイ　❶科擧時代、秀才の一種。文擧(196)を見よ。❷清、周復(2－3441‥450)の字。

【文成】564ブンセイ　❶漢代、將軍の名號。漢の武帝が方士少翁を拜して文成將軍とした。文成五利(571)を見よ。〔史記、封禪書〕齊人少翁、以二鬼神方一見レ上、云云、上乃拜二少翁一、爲二文成將軍一、賞賜甚多。❷織物などの出來上るのをいふ。〔遊仙窟〕

自恨無㆓機榜㆒、何日見㆓文成㆒。㊂唐の中宗作の樂曲の名。〔唐書、禮樂志十二〕帝又作㆓文成曲㆒、與㆓小破陣樂㆒更奏㆑之。㊃縣名。漢、置く。後漢、省く。今の河北省盧龍縣の境。〔漢書、地理志下〕遼西郡、縣十四、文成。㊄諡號。㋑漢、張良（**4―9812**‥724）の諡。㋺晉、司馬亮（**2―3257**‥320）の諡。㋩晉、郗鑒（**11―39413**‥2）の諡。㋥北燕、馮跋（**12―44579**‥134）の諡。㋭南朝宋、殷景仁（**6―16627**‥156）の諡。㋬後魏、穆觀（**8―23050**‥200）の諡。㋣唐、盧懷愼（**8―25251**‥13）の諡。㋠金、溫迪罕締達（**7―17968**‥288）の諡。㋷明、劉基（**2―2224**‥144）の諡。㋦明、王守仁（**7―20823**‥1648）の諡。㋸清、阿桂（**11―41599**‥72）の諡。㋾清、額爾德尼（**12―43586**‥66）の諡。㋻清、達海（**11―39011**‥8）の諡。㊅字號。㋑唐、張鷟（**4―9812**‥328）の字。㋺清、樊夢斗（**6―15414**‥109）の號。

〖文成柵〗565 ブンセイサク　地名。河南省遂平縣の西南。〔讀史方輿紀要、河南、汝甯府、遂平縣〕文成柵、在㆓縣西三十里㆒、舊志、在㆓蔡州西南百二十里㆒、亦曰㆓鐵城㆒、元和十一年、唐鄧節度使高霞寓、自㆓蕭陂㆒進、至㆓鐵城㆒大敗、蓋淮西號㆓文成柵㆒爲㆓鐵城㆒也。

〖文成帝〗566 ブンセイテイ　㊀北燕の帝。馮跋（**12―44579**‥134）を見よ。㊁後魏、第四代の帝。拓跋濬（**5―11958**‥45）を見よ。

〖文成壩〗567 ブンセイハ　堰の名。江蘇省武進縣の東南。

〖文成榜〗568 ブンセイバウ　明代の戲曲。沈起鳳の作。六十種曲本の一。蘇州の王又恭と甘碧雲・向采蘋・卞芳芝の三佳人との情事を述べたもの。

〖文成王〗569 ブンセイワウ　明、朱彌鉗（**6―14424**‥971）の號。

〖文成將軍〗570 ブンセイシヤウグン　漢、少翁（**4―7475**‥22）の封號。

〖文成五利〗571 ブンセイゴリ　漢代、將軍の名號。文成將軍と五利將軍。共に仙術の士。文成（564）を見よ。〔史記、封禪書〕得㆑毋㆑效㆓文成・五利㆒乎。〔史記、武帝紀〕（天子）及㆑見㆓欒大㆒大悅、云云、使㆔先驗㆓小方鬭旗㆒、旗自相觸擊、云云、乃拜㆑大爲㆓五利將軍㆒。〔班固、西都賦〕騁㆓文成之丕誕㆒、馳㆓五利之所㆑刑。

〖文成公主〗572 ブンセイコウシユ　唐の宗室の女。貞觀中、吐蕃王棄弄贊に嫁す。佛教を信じ、中國より釋迦牟尼の像を鑄てこれを迎奉す。〔舊唐書、一百九十六上〕・〔唐書、二百十六上〕。

〖文成之僞〗573 ブンセイノイツハリ　漢の李少翁が鬼神の道に通じてゐるとして武帝に寵せられ、文成將軍となつたが、後に其の術が衰へたので、帛書を牛に食はせて武帝を僞り、遂に發覺して誅せられた故事。〔資治通鑑、漢紀〕武帝、元狩四年、齊人少翁、以㆓鬼神方㆒見㆑上、上有㆓所㆑幸王夫人㆒、卒、少翁以㆑方夜致㆑鬼、如㆓王夫人之貌㆒、天子自㆓帷中㆒望見焉、於㆑是乃拜㆓少翁㆒爲㆓文成將軍㆒、賞賜甚多、以㆓客禮㆒禮㆑之、文成又勸㆑上作㆓甘泉宮㆒、中爲㆓臺室㆒、畫㆓天地太一諸鬼神㆒、而置㆓祭具㆒以致㆓天神㆒、居歲餘、其方益衰、神不㆑至、乃爲㆓帛書㆒以飯㆑牛、佯不㆑知、言曰、此牛腹中有㆑奇、殺視得㆑書、書言甚怪、天子識㆓其手書㆒、問㆓其人㆒、果是僞書、於㆑是誅㆓文成將軍㆒而隱㆑之。

【文政】574 ブンセイ　㊀文治を主とする政治。學問と法令とを運用して國を治めるまつりごと。文治。〔新書、修政語下〕政平㆓於人㆒者、謂㆓之文政㆒矣。〔後漢書、南匈奴傳論〕帝方厭㆓兵間㆒、修㆓文政㆒、未㆓之許㆒也。㊁第百二十代仁孝天皇の年號。（1818―1830）

〖文政解〗575 ブンセイカイ　逸周書（**11―38951**‥149）の篇名。

〖文政堂〗576 ブンセイダウ　清、賀潔（**10―36725**‥27）の室名。

【文星】577 ブンセイ　㊀星の名。文運を主る。又、文昌星といふ。〔東觀奏記〕李景亮奏、文星暗、科場當㆑有㆑事。〔杜甫、衡州送㆔李大夫七丈勉赴㆓廣州㆒詩〕北風隨㆓爽氣㆒、南斗避㆓文星㆒。〔仇注〕文昌本在㆓北斗宮㆒、李自㆑北至㆑南、故南斗應㆑避㆑之。㊁草の名。穀精草の異名。白花が星に似てゐるからいふ。〔本草、穀精草〕釋名、戴星草、文星草、流星草、志曰、白花似㆑星、故有㆓戴星諸名㆒。

〖文星暗〗578 ブンセイクラシ　文運を掌る星が暗い。落第して歸る喩。文星の㊀を見よ。〔書言故事、不捷類、文星暗〕言㆓人下第而歸㆒、曰㆓無㆑怪文星暗㆒、唐大中間、天官奏云、文星暗、科場當㆑有㆑事、後經㆓三科㆒盡覆試、復落、考官皆罰㆑俸。

〖文星典吏〗579 ブンセイテンリ　天上の文運を主る星につかへる役人。〔琅琊代醉編、文星典吏〕杜子美十餘歲、夢人令㆑采㆓文于康水㆒、覺而問㆑人、此水在㆓二十里外㆒、乃往求㆑之、見㆓鵞冠童子㆒、告曰、汝本文星典吏、天使㆔汝下謫爲㆓唐世文章㆒。

〖文星和合〗580 ブンセイワガフ　學問に練達するをいふ。〔紅樓夢、八回〕取㆓文星和合之意㆒。

【文砌】581 ブンセイ　美しい石だたみ。〔張正見、御㆓幸樂遊苑㆒侍㆑宴詩〕鳴玉升㆓文砌㆒、稱觴溢㆓綺筵㆒。

【文旌】582 ブンセイ　美しいはた。道行者の敬稱。其の人を直指せず、其の道行の儀仗をさしていふ。〔何景明、詩〕書院新開日、文旌暫過時。

【文清】583 ブンセイ　諡號。㊀宋、游九功（**7―17792**‥341）の諡。㊁宋、徐僑（**4―10110**‥113）の諡。㊂宋、曾幾（**5―14299**‥25）の諡。㊃宋、湯漢（**7―17874**‥21）の諡。㊄宋、程元鳳（**8―25081**‥197）の諡。㊅宋、董槐（**9―31433**‥54）の諡。㊆宋、李宗勉（**6―14459**‥1635）の諡。㊇宋、劉宰（**2―2224**‥290）の諡。㊈宋、呂本中（**2―3386**‥266）の諡。㊉元、袁桷（**10―34152**‥25）の諡。（十一）元、徐毅（**4―10110**‥73）の諡。（十二）元、宋褧（**3―7078**‥75）の諡。（十三）元、趙師魯（**10―37171**‥636）の諡。（十四）明、徐渭（**4―10110**‥5）の諡。（十五）明、薛瑄（**9―32123**‥91）の諡。（十六）清、阿蘭泰（滿洲の人）（**11―41599**‥276′）の諡。（十七）清、衞周祚（**10―34074**‥143）の諡。（十八）清、格爾古德（**6―14749**‥108）の諡。（十九）清、松筠（**6―14516**‥14）の諡。（二十）清、孫爾準（**3―6987**‥425）の諡。（二十一）清、李棠階（**6―14459**‥1676）の諡。（二十二）清、劉墉（**2―2224**‥633）の諡。

【文盛】584 ブンセイ　字號。㊀明、吳郁（**2―3365**‥9）の字。㊁明、邵蕃（**11―39343**‥61）の字。㊂明、李衍（**6―14459**‥79）の字。

【文靖】585 ブンセイ　㊀諡號。㋑晉、謝安（**10―35827**‥1）の諡。㋺後魏、魏子建（**12―45872**‥212）の諡。㋩五代南唐、韓熙載（**12―43159**‥258）の諡。㋥前蜀、韋莊（**12―43108**‥63）の諡。㋭宋、游九言（**7―17792**‥340）の諡。㋬宋、魏了翁（**12―45872**‥306）の諡。㋣宋、胡晉臣（**9―29400**‥512）の諡。㋠宋、史彌遠（**2―3249**‥264）の諡。㋷宋、徐榮叟（**4―10110**‥339）の諡。㋦宋、舒璘（**9―30300**‥95）の諡。㋸宋、鄭應龍（**11―39562**‥73）の諡。㋾宋、張守（**4―9812**‥384）の諡。㋻宋、張慮（**4―9812**‥651）の諡。㋕宋、鄭昭先（**11―39647**‥479）の諡。㋵宋、李侗（**6―14459**‥635）の諡。㋟宋、楊時（**6―15112**‥184）の諡。㋹宋、李沆（**6―14459**‥113）の諡。㋞宋、劉章（**2―2224**‥339）の諡。㋡宋、梁克家（**6―14825**‥247）の諡。㋧宋、呂夷簡（**2―3386**‥157）の諡。㋤元、虞集（**9―32723**‥80）の諡。㋶元、貫雲石（**10―36681**‥73）の諡。㋰元、胡祗遹（**9―29400**‥484）の諡。㋒元、焦養直（**7―19119**‥143）の諡。㋼元、薛元（**9―32123**‥55）の追諡。㋨元、孛朮魯翀（**3―6949**‥20）の諡。㋔元、劉因（**2―2224**‥20）の諡。㋗明、魏驥（**12―45872**‥26）の諡。㋳明、金幼孜（**11―40152**‥1200）の諡。㋮明、嚴訥（**2―4589**‥203）の諡。㋘明、徐溥（**4―10110**‥271）の諡。㋫明、白日可（**8―22678**‥1250）の私諡。㋙明、劉健（**2―2224**‥248）の諡。㋓明、王汝玉（**7―20823**‥1690）の諡。㋢清、史貽直（**2―3249**‥169）の諡。㋐清、邵燦（**11―39343**‥29）の諡。㋚清、孫士毅（**3―6987**‥406）の諡。㋖清、孫爾準（**3―6987**‥425）の諡。㋴清、寶鋆（**3―7376**‥13）の諡。㋱清、王熙（**7―20823**‥198）の諡。㊁字號。唐、鄭愔（**11―39647**‥12）の字。

【文誠】586 ブンセイ　㊀元、本誠（**6―14421**‥194）の初名。㊁諡號。㋑清、袁保恒（**10―34152**‥237′）の諡。㋺清、曾璧光（**5―14299**‥237）の諡。㋩清、戴鴻慈（**5―11685**‥174）の諡。㋥清、丁寶楨（**1―2**‥296）の諡。㋭清、富俊（**3―7230**‥95）の諡。㋬清、李文田（**6―14459**‥1918）の諡。㋣清、王蘭生（**7―20823**‥2163）の私諡。

【文勢】587 ブンセイ　文章の勢。〔法苑珠林〕依㆓此文勢㆒。

【文齊】588 ブンセイ　㊀文が齊ふ。文齊福不㆑齊を見よ。㊁漢、梓潼の人。字は子奇。官は平帝の時、益州太守。群夷畏服す。光武帝の卽位を聞き、閒使を遣して以聞し、徵されて鎭遠將軍となり、成義侯に封ぜられる。〔後漢書、一百十六〕。

〖文齊福不㆑齊〗589 ブントトノヒテフクトトノハズ　學力はあるが運惡く試驗に及第せずして幸福の得られぬこと。〔西廂記、草橋店夢㆓鶯鶯㆒雜劇〕儞休㆑憂㆓文齊福

不㆑齊。

【文靜】590 ブンセイ ❶教養があつて清淨なこと。〔禮、表記〕文而靜。〔注〕文而靜者、臣皆有㆓文章㆒而又清淨。❷陵の名。北齊、孝昭帝の陵名。其の地は未詳。永平陵(6−17088・・223)の❷を見よ。〔北齊書、孝昭帝紀〕(皇建二年、十二月)庚午、葬㆓於文靖陵㆒。〔文獻通考、王禮考、山陵〕孝昭帝崩、葬㆓文靖陵㆒。❸字號。㋑後魏、趙默(10−37171・・353)の字。㋺南齊、王虛之(7−20823・・1315)の字。㋩明、蕭淵(9−32012・・24)の字。❹諡號。宋、游九言(7−17792・・340)の諡。

【文聲】591 ブンセイ 文章がうまいといふ名聲。文名。〔宋史、孔文仲傳〕初文仲與㆓弟武仲・平仲㆒皆以㆓文聲㆒起、江西時號㆓三孔㆒。

【文昭】592 ブンセウ ❶文德の明かなこと。〔左氏、僖、三十〕國君、文足㆑昭也。〔張衡、東京賦〕文德既昭、武節是宣。❷清の宗室。字は子晉。號は薌嬰居士・檜棲居士。自ら署して北柴山人(北砦山人)といふ。王士禎に從學し、爵を辭して讀書す。康熙己卯の鄕試に應じ、後場で子書の語を用ひたために放たれる。書室を紫幢軒といふ。著に紫幢軒詩がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔國朝耆獻類徵、四百三十二〕・〔詩畫家詩史、丙、上〕。❸諡號。㋑後魏、李孝伯(6−14459・・950)の諡。㋺唐、鄭畋(11−39647・・228)の諡。㋩唐、房玄齡(5−11714・・154)の諡。㋥五代楚、馬希範(12−44572・・728)の諡。㋭宋、胡瑗(9−29400・・33)の諡。㋬元、趙秉溫(10−37171・・883)の諡。㋣元、王守誠(7−20823・・1649)の諡。㋠明、江瀾(6−17140・・425)の諡。❹字號。㋑陳、周炅(2−3441・・139)の字。㋺宋、黃中美(12−47926・・1245)の字。㋩宋、朱黼(6−14424・・547)の字。㋥宋、鍾鼎(11−40672・・89)の字。㋭元、陶宗暹(11−41705・・211)の字。㋬元、陳麟(11−41698・・604)の字。㋣明、羅明(南平の人)(9−28397・・256)の字。㋠明、王彰(7−20823・・533)の字。

【文昭關】594 ブンセウクワン 二簧西皮劇の一。一名、一夜白鬚。春秋、楚の伍子胥に關する逸事を仕組む。

【文昭王】595 ブンセウワウ 西秦、乞伏熾磐(1−170・・66)の諡。

【文昭甄皇后】596 ブンセウケンクワウゴウ 三國魏、甄后(7−21557・・12)の追諡。

【文韶】597 ブンセウ 明、連鏞(11−38902・・303′)の字。

【文饒】598 ブンゼウ 字號。❶後漢、劉寬(2−2224・・217)の字。❷唐、李德裕(6−14459・・1829)の字。❸五代閩、翁承贊(9−28635・・79)の字。❹宋、蔡薿(9−31818・・35)の字。❺宋、張行成(4−9812・・866)の字。❻清、趙愈(10−37171・・358)の字。

【文石】599 ブンセキ ❶文理ある石。〔山海經、中山經〕陰山、多㆓礪石・文石㆒。〔漢書、地理志下、梁國縣碭、注〕師古曰、碭、文石也、其山出㆑焉、故以名㆑縣。〔後漢書、宦者、張讓傳〕材木及文石。〔魏志、高堂隆傳〕采㆓穀城之文石㆒。❷瑪瑙(7−21156・・4)の異名。〔本草、馬腦〕釋名、瑪瑙、文石、摩羅迦隸、時珍曰、按、增韻云、玉屬也、文理交錯、有㆑似㆓馬腦㆒、因以名㆑之。❸字號。㋑明、張納陛(4−9812・・1429)の號。㋺明、陳德文(11−41698・・1170)の字。

【文石之陛】600 ブンセキノヘイ 文石のきざはし。〔漢書、梅福傳〕登㆓文石之陛㆒、涉㆓赤墀之塗㆒。

【文赤】601 ブンセキ ❶清の人。點の子。字は周舄。號は石室山人。畫に巧。著に石室山人集・讀史記疑がある。❷清、向騰蛟(2−3301・・114)の字。

【文錫】602 ブンセキ 字號。❶明、潘賜(7−18236・・39)の字。❷清、衞周祚(10−34074・・143)の字。

【文籍】603 ブンセキ かきもの。文書書籍をいふ。〔孔安國、古文尚書序〕古者伏犧氏之王㆓天下㆒也、始畫㆓八卦㆒、造㆓書契㆒、以代㆓結繩之政㆒、由㆑是文籍生焉。〔本朝文粹、六、請㆘殊蒙㆓天裁㆒依㆓勤績及儒勞㆒敍㆗從三位㆖狀〕求㆓文籍於公私㆒、盡㆓心情於案牘㆒。

【文籍先生】604 ブンセキセンセイ 晉の侍中、王沈の名號。〔魏志、高貴鄕公髦紀、注〕傅暢晉諸公贊曰、帝嘗與㆓中護軍司馬望・侍中王沈・散騎常侍裴秀・黃門侍郎鍾會等㆒、講㆓宴於東堂㆒、幷屬㆓文論㆒、名㆑秀爲㆓儒林丈人㆒、沈爲㆓文籍先生㆒、望・會亦各有㆓名號㆒。

【文籍雖㆑滿㆑腹不㆑如㆓一囊錢㆒】605 ブンセキハラニミツトイヘドモイチナウノゼニシカズ 學問に長じても實行しなければ、一囊の錢にも及ばない。〔後漢書、文苑下、趙壹傳〕爲㆑詩曰、河清不㆑可㆑俟、人命不㆑可㆑延、順風激靡㆑草、富貴者稱㆑賢、文籍雖㆑滿㆑腹、不㆑如㆓一囊錢㆒、伊優北㆓堂上㆒、抗髒倚㆓門邊㆒。

【文節】606 ブンセツ ❶諡號。㋑隋、許善心(10−35298・・339)の諡。㋺宋、衞涇(10−34074・・27)の諡。㋩宋、家大酉(3−7169・・338)の諡。㋥宋、魏杞(12−45872・・21)の諡。㋭宋、蔡元定(9−31818・・167)の諡。㋬宋、謝枋得(10−35827・・352)の私諡。㋣宋、張知白(4−9812・・1347)の諡。㋠宋、趙卯發(10−37171・・834)の諡。㋷宋、趙蕃(10−37171・・311)の諡。㋦宋、薛叔似(9−32123・・199)の諡。㋸宋、楊萬里(6−15112・・758)の諡。㋾宋、李道傳(6−14459・・1686)の諡。㋻宋、劉光祖(2−2224・・834)の諡。㋕宋、林希(6−14551・・57)の諡。㋵宋、林光朝(6−14551・・294)の諡。㋟元、伯顏(1−466・・79)の諡。㋹元、汪澤民(6−17154・・306)の諡。㋞明、莊昶(9−31035・・104)の諡。㋡明、周鳳翔(2−3441・・859)の諡。㋧明、舒芬(9−30300・・79)の追諡。㋤明、沈懋學(6−17189・・644)の諡。㋶明、李廷機(6−14459・・1768)の諡。㋰明、李標(高邑の人)(6−14459・・723)の諡。㋒明、劉應秋(2−2224・・721)の諡。㋼明、王艮(7−20823・・408)の諡。㋨清、祁寯藻(8−24634・・33)の諡。㋔清、倪思(1−792・・13)の諡。㋗清、吳文鎔(2−3365・・862)の諡。㋳清、常大淳(4−8955・・402)の諡。㋮清、孫銘恩(3−6987・・548)の諡。㋘清、戴熙(5−11685・・29)の諡。㋫清、陶恩培(11−41705・・175)の諡。㋙清、陸光熙(11−41708・・299)の諡。㋓清、呂賢基(2−3386・・196)の諡。㋢清、聯元(9−29153・・24)の追諡。❷字號。後漢、韓馥(12−43159・・205)の字。

【文節先生】607 ブンセツセンセイ 諡號。❶宋、黃庭堅(12−47926・・1260)の私諡。❷宋、曾元忠(5−14299・・184)の私諡。❸清、王餘佑(7−20823・・2152)の私諡。

【文說】608 ブンセツ 書名。一卷。元、陳繹曾撰。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【文仙】609 ブンセン 山名。湖南省新化縣の南。又、文斤山といふ。〔讀史方輿紀要、湖廣、寶慶府、新化縣〕文仙山、縣西二十里、相傳、晉高平令文斤得㆓仙于此㆒、一名、文斤山、上有㆓三峰㆒、層巒峭絕、山半有㆓石橋・石室・龍洞・雙泉諸勝㆒。

【文先】610 ブンセン 後漢、楊彪(6−15112・・328)の字。

【文宣】611 ブンセン ❶諡號。㋑南朝宋、劉穆之(2−2224・・1326)の諡。㋺後魏、高徽(12−45313・・156)の諡。㋩後魏、元悅(1−1340・・51)の諡。㋥後魏、元澄(1−1340・・440)の諡。㋭後魏、胡國珍(9−29400・・468)の諡。㋬後魏、谷渾(10−36182・・31)の諡。㋣後魏、斛斯椿(5−13508・・6)の諡。㋠後魏、崔光(4−8178・・56)の諡。㋷後魏、穆壽(8−25251・・27)の諡。㋦後魏、陸子彰(11−41708・・333)の諡。㋸後魏、王誦(7−20823・・608)の諡。㋾南齊、蕭子良(9−32012・・388)の諡。㋻南齊、蕭尙之(9−32012・・405)の追諡。❷字號。梁、劉慧斐(2−2224・・859)の字。

【文泉】612 ブンセン 字號。❶後漢、鮑昱(12−46074・・3)の字。❷清、翟云升(9−28727・・46)の字。「號。

【文泉子】613 ブンセンシ 唐、劉蛻(2−2224・・434)の號。

【文筌】614 ブンセン 書名。文章歐冶(457)を見よ。

【文筌小言】615 ブンセンセウゲン 書名。一卷。服部南郭撰。文章上の助字法を辯說したもの。

【文戰】616 ブンセン 科擧の試驗。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕汝今秋文戰、或者得㆑捷。

【文潛】617 ブンセン 宋、張耒(4−9812・・713)の字。

【文潛先生】617′ ブンセンセンセイ 清、陸世儀(11−41708・・369)の諡。

【文選】618 ブンセン モンゼン ❶文官の選授・勳封・考課の政令をいふ。武選の對。唐は吏部これを掌り、宋は審官東院(尙書左選)流內銓(侍郎左選)これを掌る。明に至り、吏部に文選清吏司を置いて專管せしめた。文選司を見よ。〔歷代職官表、吏部、宋〕謹案、唐以㆓吏部㆒主㆓文選㆒、兵部主㆓武選㆒、宋則文武二選悉歸㆓之吏部㆒。〔宋史、職官志三〕吏部、云云、尙書掌㆓文武二選之法㆒。〔文獻通考、職官考、吏部尙書〕宋朝典選之職、自分爲㆑四、文選二、曰審官東院、曰流內銓、武選二、曰審官西院、曰三班院、元豐定制以㆓審官東院㆒爲㆓尙書左選㆒、審官西院爲㆓尙書右選㆒、流內銓爲㆓侍郎左選㆒、三班院爲㆓侍郎右選㆒、掌㆓文武官選授勳封考課之政令㆒、文臣寄祿官自㆓朝議大夫㆒、職事官自㆓大理正㆒以下、非㆓中書省敕授㆒者、歸㆓尙書左選㆒、云云、自㆓初仕㆒至㆓

州縣幕職官、歸二侍郎左選一。㊁樓の名。㋑湖北省襄陽縣治の南。梁の昭明太子、文選を此處に選すと傳ふ。〔輿地紀勝〕梁昭明太子統建、延二賢士劉孝威・庾肩吾・徐防・江伯操・孔敬通・惠子悅・徐陵・王囿・孔燦・鮑至等十餘人一、著二文選於此一。㋺江蘇省江都縣治の東南。隋の曹憲、文選を生徒に教授し、居所を文選巷と號す。樓はこれに因つて名を得たともいふ。清の阮元、此の巷に居り、因つて樓を構へて文選樓といひ、書を藏す。〔大業拾遺記〕帝嘗幸二昭明文選樓一、車駕未レ至、先命二宮娥數十人一、昇レ樓迎侍。〔明一統志〕曹憲江都人、仕レ隋爲二祕書監一、以二文選一教二授生徒一、李善・魏模輩、皆出二其門一、所レ居名二文選巷一、故樓以レ憲得レ名也。㊂活字ひろひ。活版所で活版を組立てる爲に活字をよせあつめる者。㊃（モンゼン）書名。原本三十卷。梁、昭明太子蕭統編。昭明太子がこの書を作るに當つて樂賢堂を立て、文選樓を築き、劉孝威・庾肩吾・徐防等の所謂高齋十學士の徒と共に討議選擇して、蕪雜なものを捨て清爽なものを選んで、終に三十卷とした。唐の李善、これに注し、毎卷を分つて二となし、六十卷とし、三十卷本は遂に傳はらず。收める所、次の如し。賦十九卷（末尾に詩を混ず）、詩十二卷、騷二卷、七・詔・冊共二卷、令・教・文共一卷、表二卷、上書・啓共一卷、彈事・奏記共一卷、書三卷、檄一卷、對問・設論・辭・序共二卷、頌・贊共一卷、符命一卷、史論・史述贊共二卷、論・連珠共五卷、箴・銘・誄・哀・碑文・墓誌共四卷、行狀・弔文・祭文共一卷。更に賦を分つて、京都・郊祀・耕籍・畋獵・紀行・遊覽・宮殿・江海・物色・鳥獸・志・哀傷・論文・音樂・情とし、詩を分つて、補亡、述德・勸勵・獻詩・公讌・祖餞・詠史・百一・游仙・招隱・反招隱・游覽・詠懷・哀傷・贈答・行旅・軍戎・郊廟・樂府・挽歌・雜詩・雜擬とす。尚、各〻それに屬する作品の數を擧げれば、賦五十六・詩四百四十三・騷十七・七二十四・詔二・冊一・令一・教二・策十三・表十九・上書七・啓三・彈事三・牋九・奏記一・書二十一・移二・檄四・難一・對問一・設論三・辭二・序九・頌五・贊二・符命三・史論九・史述贊四・論十四・連珠五十・箴一・銘五・誄八・哀三・碑文五・墓誌五・行狀一・弔文二・祭文三。收めた作者は上は周代から下は梁朝に至る、凡て百二十七人。卽ち周四・秦一・漢十七・後漢十六・蜀一・魏十六・吳一・晉四十六・宋十三・齊六・梁九で他に古詩・古詞・古樂府の無名氏のものもある。唐宋以來此の書は科學の士に尊ばれ、其の後も選學と稱して盛に研究せられる。又、李善の注は考證家の引據する好材料である。尚、宋の陳仁子に文選補遺四十卷、明の湯紹祖に續文選三十二卷がある。〔四庫提要、集、總集類〕。

〖參考書〗【文選注】六十卷唐、李善撰。古來文選の注の中、最も精該なものとして稱せられてゐる。〔四庫提要、集、總集類〕。【五臣注文選】六十卷唐の呂延濟・劉良・張銑・呂向・李周翰の五人の注を呂延祚が集めて一書とし、開元六年に上つた。これを五臣注といふ。【六臣注文選】六十卷唐の李善の注と、呂延濟・劉良・張銑・呂向・李周翰の五臣注とを合刊したもの。北宋頃より行はれ、編輯者の名は傳はらない。【文選補遺】四十卷宋、陳仁子編。眞德秀の文章正宗の法を執つて、文選の文を甲乙す。曰く、此の書を以て文選の闕を補ふ可きで、此の書に依つて文選を廢してはならない、兩書並行して見るべきであると。〔四庫提要、集、總集類〕。【文選句圖】一卷宋、高似孫撰。〔四庫提要、集、總集類存目〕。【文選雙字類要】三卷宋、蘇易簡撰。〔四庫提要、子、類書類存目〕。【文選類林】十八卷宋、劉攽撰。〔四庫提要、子、類書類存目〕。【文選顏鮑謝詩評】四卷元、方回撰。文選中の顏延之・鮑照・謝靈運・謝瞻・謝惠連・謝朓の六人の詩評を取つたもの。〔四庫提要、集、總集類〕。【文選心訣】一卷元、虞集撰。〔昌平叢書、第一百七十三冊〕。【文選章句】二十八卷明、陳與郊撰。〔四庫提要、集、總集類〕。【文選纂注】十二卷明、張鳳翼撰。〔四庫提要、集、總集類〕。【文選瀹注】三十卷明、閔齊華撰。〔四庫提要、集、總集類〕。【文選錦字】二十一卷明、凌迪知撰。〔四庫提要、子、類書類存目〕。【文選理學權輿】八卷清、汪師韓撰。內容は卷一は撰人、卷二は注引羣書目錄、卷三は選注訂誤、卷四は選注辨論、卷五は選注未詳、卷六・七は前賢評論、卷八は質疑。〔讀畫齋叢書、甲集〕。【文選理學權輿補】一卷清、孫志祖撰。〔讀畫齋叢書、甲集〕。【文選李注補正】四卷清、孫志祖撰。【文選考異】四卷清、孫志祖撰。〔讀畫齋叢書、甲集〕。【文選集評】六十卷清、于光華撰。【文選擧正】六卷清、陳景雲撰。【文選音義】八卷清、余蕭客撰。【文選紀聞】三十卷清、余蕭客撰。【文選課虛】四卷清、杭世駿撰。〔食舊堂叢書、第二十冊〕。【精訂昭明文選集成】四十二卷清、方廷珪撰。【文選考異】十卷清、胡克家撰。【文選集釋】二十四卷清、朱珔撰。【文選旁證】四十六卷清、梁章鉅撰。【文選古字通疏證】六卷清、薛傳均撰。〔益雅堂叢書、第一冊〕。【選學膠言】二十卷清、張雲璈撰。

【文選司】619（ブンセンシ）官署の名。唐は吏部をして文選を主らしめ、宋は文武二選とも吏部に主らしめた。明に及び、吏部に文選清吏司を置き、專ら官吏の班秩、遷升改調の事を掌らしめた。清、これに因る。〔明史、職官志四〕文選・考功・驗封・稽勳四清吏司、各郎中一人。〔歷代職官表、吏部、國朝官制〕文選清吏司、郎中、滿洲三人、蒙古・漢人各一人、員外郎、滿洲・漢人各二人、主事滿洲一人、漢人二人、掌二班秩・遷除・均平・銓法一。

【文選讀】620（モンゼンヨミ）昔、漢籍を讀む時、各文字毎に音讀訓讀とを交互に行ふ讀み方。例へば詩經の「窈窕淑女、君子好逑」を讀むに「エウテウとしてタヲヤカナルシユクヂヨのヨキムスメはクンシのヨキヒトのカウキウなりヨキツレアヒなり」の如きをいふ。

【文選樓】621（モンゼンロウ）清、阮元（**11－41569··13**）の室名。

【文選樓叢書】622（モンゼンロウソウショ）叢書の名。清、阮元輯。自著及び近世儒林の著を收む。此の書は分合定まりない。今朱記榮の彙刻書目により、その目を示す。揅經室全集四十五卷（清、阮元）・揅經室續集十一卷（清、阮元）・禮經釋例十三卷（清、凌廷堪）・孝經義疏九卷（清、阮福）・述學二卷（清、汪中）・詁經精舍文集十四卷（清、阮元）・石經儀禮校勘記四卷（清、阮元）・七經孟子考文補二百六卷（日本、山井鼎）・彫菰樓集二十四卷（清、焦循）・密梅花館集二卷（清、焦延琥）・曾子注釋五卷（清、阮元）・恒言錄四卷（清、錢大昕）・揅經室詩錄五卷（清、阮元）・淮海英靈集二十四卷（清、阮元）・定香亭筆談四卷（清、阮元）・小滄浪筆談四卷（清、阮元）・廣陵詩事十卷（清、阮元）・儀鄭堂文集二卷（清、孔廣森）・八磚吟館刻燭集三卷（清、阮元）・歷代帝王年表三卷附廣諡年諱譜一卷（清、齊召南・阮福）・倣宋畫列女傳八卷（清、阮元）・疇人傳四十六卷（清、阮元）・續疇人傳六卷（清、羅士琳）・小琅嬛叢記四卷（清、阮福）・地球圖說一卷（清、蔣友仁）・華山碑考四卷（清、阮元）・積古齋鐘鼎款識十卷（清、阮元）・石渠隨筆八卷（清、阮元）・周無專鼎銘考一卷（清、羅士琳）・漑亭述古錄二卷（清、錢塘）・呻吟語選二卷（明、呂坤）・愚溪詩稿一卷（清、張肇煐）。

【集二文選一文士】623（モンゼンヲアツムルノブンシ）梁の昭明太子の文選編輯に與つた文士。卽ち劉孝威・庾肩吾・徐防等の所謂高齋十學士をいふ。〔升庵外集、五十二〕梁昭明太子統聚二文士劉孝威・庾肩吾・徐防・江伯操・孔敬通・惠子悅・徐陵・王囿・孔爍・鮑至十人一、謂二之高齋十學士一、集二文選一、今襄陽有二文選樓一、池州有二文選臺一、未レ知二何地爲一レ的、但十人姓名、人多不レ知、故特著レ之。

【文選集注零本】624（モンゼンシフチユウレイホン）金澤文庫舊藏。平安時代の書寫と推定される。卷中引く所は六臣注の外に、陸善經注・音決・鈔の諸書を引く。多數散佚す。〔經籍訪古志〕。

【文選爛秀才半】625（モンゼンランスレバシウサイナカバナリ）文選に熟達すれば、試驗に及第して秀才となるべき資格の半分を得たと同じである。宋代、科擧の士は競つて四六騈儷の文を學び、皆文選を誦したのを時人が諷した語。〔老學庵筆記、八〕國初尚二文選一、當時文人專二意此書一、故草必稱二王孫一、梅必稱二驛使一、月必稱二望舒一、山水必稱二清暉一、至二慶曆後一、惡二其陳腐一、諸作者始一二洗之一、方二其盛時一、士子至三爲レ之語曰二文選爛秀才半一、建炎以來尚二蘇氏文章一、學者翕然從レ之、而蜀士尤盛、亦有レ語曰、蘇文熟喫二羊肉一、蘇文生喫二菜羹一。

【文錢】626（ブンセン）㊀文字を刻した錢。ぜに。〔曹植、聖皇篇〕文錢百億萬、采帛若二煙雲一。㊁寛永錢の

一。背に文の字を刻す。〔鑄錢考〕。

【文然】627 ブンゼン 三國蜀、楊戲(**6－15112**‥83)の字。

【文祖】628 ブンソ 祖先の文德あるもの。❶堯帝の始祖の廟をいふ。〔書、舜典〕正月上日、受㆓終于文祖㆒。〔傳〕文祖者、堯文德之祖廟。〔蔡傳〕文祖者、堯始祖之廟、未㆑詳㆔所㆑指爲㆓何人㆒也。〔孫星衍今古文注疏〕史遷說、文祖者、堯大祖也、馬融曰、文祖、天也、天爲㆓文萬物之祖㆒、故曰㆓文祖㆒、鄭康成曰、文祖者、五府之大名、猶㆓周之明堂㆒、史公說㆓文祖㆒爲㆓堯大祖㆒者、堯與㆑舜同㆓始祖㆒、故受㆓終其廟㆒、馬注見㆓釋文㆒、以㆓文祖㆒爲㆑天者、荀子禮論云、王者天㆓太祖㆒、堯之祖黃帝、亦必配㆑天、馬說與㆓史公㆒合、鄭注見㆓史記集解㆒、云㆓文祖五府之大名㆒者、史記索隱引㆓尙書帝命驗㆒曰、五府、五帝之廟、蒼曰㆓靈府㆒、赤曰㆓文祖㆒、黃曰㆓神斗㆒、白曰㆓顯紀㆒、黑曰㆓元矩㆒、唐虞謂㆓之五府㆒、夏謂㆓世室㆒、殷謂㆓重屋㆒、周謂㆓明堂㆒、皆祀㆓五帝㆒之所、史記正義云、文祖者、赤帝赤熛怒之府、名曰㆓文祖㆒、火精光明文章之祖、故謂㆓之文祖㆒云云、鄭說與㆓史公馬氏㆒俱同義。❷文王をいふ。〔書、洛誥〕乃單㆓文祖德㆒。〔蔡傳〕殫㆓盡文王之德㆒。

【文素】629 ブンソ 字號。❶宋、范質(**9－30834**・46)の字。❷元、楊樸(**6－15112**‥359)の字。

【文疏】630 ブンソ 願文。願書。〔王珉、荅㆓徐邈㆒書〕中舍人典㆓文疏㆒、位如㆓中書郞㆒。

【文組】631 ブンソ あやのあるくみ紐。模樣を編み出した紐。〔後漢書、王符傳〕徒御僕妾、皆服㆓文組綵牒㆒、云云。〔阮籍、大人先生傳〕挾㆓金玉㆒、垂㆓文組㆒。

【文楚】632 ブンソ 字號。❶後漢、趙咨(**10－37171**‥181)の字。❷南齊、徐伯珍(**4－10110**‥606)の字。

【文宗】633 ブンソウ ❶文章の大家で世の宗仰する所の者をいふ。文學の大家。文豪。文雄。〔晉書、陸雲傳論〕百代文宗、一人而已。〔唐書、陳子昂傳〕初爲㆓感遇詩三十八章㆒、王適曰、是必爲㆓海內文宗㆒。❷明清代、學政官の別名。〔李日華、官制備考〕提學稱㆓大文宗大宗師㆒。〔福惠全書、典禮部、崇祀名賢〕文宗守令、狥以㆓面情㆒。❸天子の廟號。㋑唐、第十四代の帝。李昂(**6－14459**‥115)を見よ。㋺元、第九代の帝。元文宗(**1－1340**‥733)を見よ。㋩清、第九代の帝。年號によつて咸豐帝といふ。清文宗(**7－17695**‥900)を見よ。㋥朝鮮、高麗第十一代の王。顯宗の第三子。名は徽。字は燭幽。其の治世中は高麗の最盛期で治績大いに擧る。在位三十七年。〔高麗史、七〕。㋭朝鮮、李朝第五代の王。世宗の長子。名は珦。字は輝之。儲位にあること久しく、其の閒頗る功績あり、學を好み文教を興す。在位三年。〔李朝實錄〕・〔燃藜室記述、四〕。❹隋、源彪(**7－17926**‥44)の字。

〖文宗閣〗634 ブンソウカク 清代、江浙三閣の一。乾隆四十七年、江蘇省鎭江金山寺內に建てられ、四庫全書を收藏す。後、長髮の亂に燒失す。四庫全書(**3－4682**‥269)を見よ。

【文奏】635 ブンソウ ❶官の簿書をいふ。〔謝朓、京路夜發詩〕文奏方盈㆑前、懷㆑人去㆓心賞㆒。〔注〕銑曰、文奏、謂㆓官簿書㆒。❷天子に奉る文章。〔宋書、樂志四〕侍臣省㆓文奏㆒、陛下體㆓仁慈㆒。

【文藪】636 ブンソウ 明、桂宗儒(**6－14755**‥143)の字。

【文繒】637 ブンソウ あやあるきぬ。花絹。〔說文〕綺、文繒也。〔鹽鐵論、散不足〕是以文繒薄織、不㆑粥㆓於市㆒。〔資治通鑑、唐紀〕(昭宗、光化三年)以㆓文繒二十萬㆒犒㆑軍。〔注〕文繒、絹之有㆑文者、今謂㆓之花絹㆒。

【文則】638 ブンソク ❶文章の規則。句法。文法。〔文心雕龍、通變〕是以九代詠歌、志合㆓文則㆒、黃歌斷竹、質之至也。❷書名。二卷。宋、陳騤撰。文の法則を論ず。十干に分ち、甲から戊までを上卷とし、經傳の文を評す。下卷は主として文體・句法を論ず。〔四庫提要、集、詩文評類〕・〔陳眉公訂正祕笈、第四十一冊〕・〔唐宋叢書、第二十八冊〕・〔說符、第七十八冊〕・〔台州叢書、第一冊〕。❸字號。㋑三國魏、于禁(**1－252**‥30)の字。㋺三國吳、吳範(**2－3365**‥354)の字。

〖文則樓〗639 ブンソクロウ 清、陳鼎(**11－41698**‥480)の室名。

【文塞】640 ブンソク 文思(389)の❶に同じ。〔後漢書、陳寵傳、弘㆓崇晏晏㆒、注〕尙書考靈燿曰、堯聰明、文塞晏晏。

【文俗】641 ブンゾク 平和的なやり方。〔後漢書、公孫述傳論〕徒以㆓文俗㆒自憙、遂能集㆓其志計㆒。

【文續】642 ブンゾク 字號。❶南齊、焦度(**7－19119**‥81)の字。❷明、廖謨(**4－9464**‥29)の字。

【文孫】643 ブンソン ❶文王の孫、成王をいふ。守成の君で文を尙ぶから文と稱す。〔書、立政〕繼㆑自㆑今文子・文孫、其勿㆑誤㆓于庶獄・庶愼㆒、惟正是乂㆑之。〔蔡傳〕文子・文孫者、成王、武王之文子、文王之文孫也、成王之時、法度彰、禮樂著、守成尙㆑文、故曰㆑文。❷人の孫の敬稱。❸字號。㋑清、蔣陳錫(**9－31820**‥197)の字。㋺清、李昌祚(**6－14459**‥1388)の字。

【文虵】644 ブンダ 模樣あるへび。〔左思、蜀都賦〕屠㆓麖麋㆒、剪㆓旄麈㆒、帶㆓文虵㆒、跨㆓彫虎㆒。

〖衣㆓文虵㆒〗645 ブンダヲキル 閩越の風俗。身體に蛇の模樣を入墨して衣服の如く見えること。〔張協、雜詩〕閩越衣㆓文虵㆒、胡馬願㆑度㆑燕。〔注〕翰曰、閩越國人皆刻㆓鏤其身㆒、爲㆓虵文㆒、如㆓人之衣服㆒也。

【文泰】646 ブンタイ 清の人。點の孫。字は萬通。諸生。畫に巧にして、詩詞を善くす。康熙中卒す。年三十六。〔國朝畫識、九〕。

【文體】647 ブンタイ ❶文章の體裁をいふ。梁の昭明太子の文選が文體を分つて三十九類としてより、宋の李昉の文苑英華、姚鉉の唐文粹、呂祖謙の宋文鑑、元の蘇天爵の元文類、明の程敏政の明文衡等は皆この分類を踏襲した。吳訥の文章辯體、徐師曾の文體明辯出でてより名目愈〻分れて百五十類となつた。清の魏禧は其の文集に部門を立て、各部に小序を撰して文の體式を論じ、姚鼐の古文辭類纂は十三類とし、曾國藩はこれを多少改易して十一類としてゐる。今、文體を分類して表示すれば、

	文體	題目
	論辨類	論・辨・難・議・說・解・釋・原・對問・喩。
	序記類	序・後序・送序・贈序・壽序・記・紀事・志・述・傳・行狀。
散文	詔令類	誥・誓・命・詔・制・敕・諭・璽書・口宣・策・策問・御札・批答・赦文・九錫文・鐵券文。
	奏疏類	奏・疏・上書・章・表・對策・射策・進策・帖括・劄子・牋・啓・封事・彈文・狀・露布。
	題跋類	題・書後・跋・引・例言・讀。
	書牘類	書・簡・札・帖・牘・啓・移書・檄。
	碑碣類	碑・墓碑・碑頌・神道碑・碣・墓碣・碣頌・墓表・阡表・殯表・靈表・神道表・墓誌・壙誌・權厝志・歸祔志・遷祔志・瘞石文・墳版文・墓版文。
韻文	謠諺	謠・謳・誦・諺。
	箴銘	箴・銘・戒・規。
	頌贊	頌・贊・符命文。
	哀弔	哀辭・哀策文・弔文・誄。
	祝祭	祝辭・祭文・盟辭・誓辭・嘏辭・玉牒文・上梁文・醴辭・醮辭・字辭。
	詩賦	詩・歌・樂府・歌行。
	辭騷	賦・騷・辭・七。
	連珠。	
	詩餘(詞、又は塡詞)。	

〔晉書、王隱傳〕隱雖㆑好㆓著述㆒、而文辭鄙拙、蕪舛不㆑倫、其書次第可㆑觀者、皆其父所㆑撰、文體混漫、義不㆑可㆑解者、隱之作也。〔宋書、謝靈運傳論〕自㆑漢至㆑魏四百餘年、辭人才子、文體三變。

〔江淹、雜體詩序〕而已今作二三十三首詩一、斅二其文體一。〔隋書、經籍志四〕世有二澆淳一、時移二治亂一、文體遷變、邪正或殊。❷文理體裁あること。〔賈子新書、道術〕動有二文體一、謂二之禮一。

〖文體有レ三〗648 ブンタイサンアリ　宋の朱熹は文體を分つて、治世の文・衰世の文・亂世の文とした。〔朱子語錄〕有二治世之文一、有二衰世之文一、有二亂世之文一、六經治世之文也、如二國語一、委靡繁絮、眞衰世之文耳、是等語言議論如レ此、宜乎、周之不レ能二振起一也、至二亂世之文一、則戰國是也、然有二英偉氣一、非二衰世國語之比一也、楚漢文字、眞是奇、豈易レ及也。

〖文體明辯〗649 ブンタイメイベン　書名。八十四卷。明、徐師曾撰。明の吳訥の文章辯體に據り、これを取捨して編す。分つて文章綱領一卷、詩文六十七卷、附錄十六卷とする。〘詩文〙古歌謠辭・四言古詩・楚辭・賦・樂府・五言古詩・七言古詩・近體歌行・近體律詩・絕句詩・六言詩・和韻詩・聯句詩・集句詩・命・諭告・詔・敕・璽書・制・誥・冊・批答・御札・赦文・鐵券文・諭祭文・國書・誓・令・敎・上書・章・表・牋・奏疏・盟・符・檄・露布・公移・判・書記・約・策問・策・論・說・原・議・辯・解・釋・問對・序・引・題跋・文・雜著・七・書・連珠・義・說書・箴・規・戒・銘・頌・贊・評・碑文・記・志・紀事・題名・字說・行狀・述・墓誌銘・墓碑文・墓碣文・墓表・諡議・傳・哀辭・誄・祭文・弔文・祝文。〘附錄〙雜句詩・雜言詩・雜體詩・雜韻詩・雜數詩・雜名詩・諧讔詩・詩餘・玉牒文・符命・表本・口宣・宣答・致辭・貼子詞・上梁文・樂語・右語・道場榜・道場疏・表・青詞・募緣疏・法堂疏の二十五類に分つ。〘綱領〙は文章詩賦に關する議論、及び各〻文體詩格の源流を揭げ、詩文は三代以下廣く例を取つてこれを載す。但し體例甚だ蕪雜で、編旨が何れにあるかを求め得ない。〔四庫提要、集、總集類存目〕。

〖文體明辯纂要〗650 ブンタイメイベンサンエウ　書名。三卷。大鄕穆撰。文體明辯を抄錄したもの。

〖文體明辯粹鈔〗651 ブンタイメイベンスイセウ　書名。二卷。野間三竹撰。文體明辯より抄出して文體數十種を辨說したもの。

【文臺】652 ブンダイ　❶蓋を仰向けにして、懷紙・短冊などを載せるもの。後には、文机の、小さく、高さ五六寸のものを作り、同じ目的に用ひた。〔山槐記、內御作文、文臺、注〕土高坏上、置二朝餉御硯筥蓋一、跪二文臺前一、頗膝行置レ笏、置二詩於文臺上一退。❷明の人。徵明の第三子。字は允承。號は祝峯。畫に巧。❸字號。㋑後漢末、孫堅(3−6987··106)の字。㋺清、徐渭仁(4−10110··326)の字。㋩清、郞葆辰(11−39431··77)の字。❹鈴木弘の號。鈴木文臺(11−40267··37)を見よ。

【文題】653 ブンダイ　作文の題。文章の題目。

【文陶】654 ブンタウ　清、沈承煥(6−17189··555)の字。

【文瑫】655 ブンタウ　美しい椽頭。〔何晏、景福殿賦〕列二髹彤之繡桷一、垂二琬琰之文瑫一。〔注〕翰曰、瑫、椽頭也。

【文濤】656 ブンタウ　清、袁江(10−34152··19)の字。

【文韜】657 ブンタウ　六韜の篇名。文師・盈虛・國務・大禮・明傳・六守・守土・守國・上賢・擧賢・賞罰・兵道の十二目がある。

【文道】658 ブンダウ　治平の道。又、學藝の道。武事の對。〔國語、齊語〕隱二武事一、行二文道一、帥二諸侯一、而朝二天子一。〔管子、小匡〕寢二武事一、行二文道一。

〖文道人〗659 ブンダウジン　清、汪漣(6−17154··152)の「號。

〖文道先生〗660 ブンダウセンセイ　清、陳景雲(11−41698··783)の私諡。

【文達】661 ブンタツ　❶字號。㋑三國魏、李通(6−14459··599)の字。㋺南齊、辛普明(10−38630··118)の字。㋩梁、蕭偉(9−32012··4)の字。❷諡號。㋑宋、陸九齡(11−41698··289)の諡。㋺明、李賢(鄧の人)(6−14459··314)の諡。㋩清、紀昀(8−27234··3)の諡。㋥清、裘日修(10−34312··27)の諡。㋭清、阮元(11−41569··13)の諡。㋬清、張之萬(4−9812··1103)の諡。㋣清、張百熙(4−9812··1465)の諡。㋠清、毛昶熙(6−16772··310)の諡。❸北周、王傑(7−20823··342)の本名。

【文旦】662 ブンタン　柚の別種。その房は白く味が甘い。古、香欒といふ。ざぼん。ぼんたん。又、皮裏淡紅なるものを香欒、皮裏白く、その房の淡紅なるものを朱欒といふ。〔漳州府志〕柚最佳者曰二文旦一、出二長泰縣一、色白、味清香、風韻耐レ人、惟溪東種者爲レ上、其地所レ種無レ多、移二他處一便不レ佳。

【文單】663 ブンタン　國の名。今の柬埔寨の地。〔唐書、南蠻下、眞臘傳〕陸眞臘或曰二文單一。

【文湛】664 ブンタン　明の僧。字は秋江。俗姓は顧氏。海鹽の天寧寺に住す。詩に巧。著に江海羣英集がある。〔明人小傳、五〕・〔明詩綜、九十一〕。

【文端】665 ブンタン　諡號。❶宋、戴溪(5−11685··53)の諡。❷宋、費若(10−36717··45)の諡。❸明、何如寵(1−511··301)の諡。❹明、高儀(12−45313··163)の諡。❺明、吳一鵬(2−3365··431)の諡。❻明、吳山(2−3365··192)の諡。❼明、吳宗達(2−3365··734)の諡。❽明、周經(2−3441··145)の諡。❾明、沈鯉(6−17189··390)の諡。❿明、焦竑(7−19119··26)の追諡。⓫明、蕭雲擧(9−32012··292)の諡。⓬明、張位(4−9812··9)の諡。⓭明、陳以勤(11−41698··626)の諡。⓮明、方從哲(5−13620··547)の諡。⓯明、劉一燝(2−2224··681)の諡。⓰明、王家屛(7−20823··1237)の諡。⓱明、王直(7−20823··806)の諡。⓲清、伊桑阿(1−432··150)の諡。⓳清、尹繼善(4−7631··108)の諡。⓴清、翁心存(9−28635··80)の諡。㉑清、賈楨(10−36755··104)の諡。㉒清、高爾儼(12−45313··1197)の諡。㉓清、高晉(12−45313··490)の諡。㉔清、鄂爾泰(11−39520··42)の諡。㉕清、祁寯藻(8−24634··33)の諡。㉖清、揆敘(5−12326··4)の諡。㉗清、桂良(6−14755··124)の諡。㉘清、顧八代(12−43689··349)の諡。㉙清、伍彌泰(1−435··55)の諡。㉚清、吳琠(2−3365··332)の諡。㉛清、朱軾(6−14424··397)の諡。㉜清、朱嶟(6−14424··438)の諡。㉝清、朱鳳標(6−14424··989)の諡。㉞清、瑞常(7−21131··78)の諡。㉟清、錢陳羣(11−40563··392)の諡。㊱清、對哈納(4−7457··218)の諡。㊲清、戴衢亨(5−11685··163)の諡。㊳清、湯金釗(7−17874··161)の諡。㊴清、卓秉恬(2−2741··88)の諡。㊵清、張英(4−9812··48)の諡。㊶清、張鵬翮(4−9812··1514)の諡。㊷清、徹克(4−10245··11)の諡。㊸清、田從典(7−21723··382)の諡。㊹清、杜立德(6−14477··390)の諡。㊺清、保寧(1−702··201)の諡。㊻清、福敏(8−24768··121)の諡。㊼清、文柟(666)の私諡。㊽清、熊賜履(7−19294··150)の諡。㊾清、來保(1−581··226)の諡。㊿清、鹿傳霖(12−47586··166)の諡。(51)清、倭仁(1−796··17)の諡。(52)清、王杰(7−20823··341)の諡。(53)清、汪由敦(6−17154··160)の諡。(54)清、車克(10−38172··79)の諡。

【文柟】666 ブンダン　清の人。從簡の子。字は曲轅。號は慨菴(溉菴)。門人の私諡は端文先生(文端)。順治中の諸生。山水を畫いて祖法を稟く。詩に巧。甲申の後、親を奉じて寒山に隱居す。大江以南、文章節義の士と稱す。著に青氈雜志・慨菴詩選がある。〔國朝耆獻類徵、四百六十一〕・〔清畫家詩史、甲、下〕・〔國朝畫識、一〕。

【文段】667 ブンダン　文章の段落。文章のきれめ。

【文談】668 ブンダン　❶文學又は文章に就いての話。文話(941)に同じ。〔梁書、張充傳〕灼灼文談、空罷二方寸一。❷書名。一卷。清、張秉直撰。

【文壇】669 ブンダン　文學上の舞臺。文學社會。文學者の社會。文陣。文界。文囿。文苑。文林。〔玉堂遺事〕明皇謂二張九齡一、爲二文壇之元帥一。

〖鼎二足文壇一〗670 ブンダンニテイソクス　文壇に鼎の足の如く立つて霸を制してゐる。〔李漁、閒情偶寄〕宋有二文士蹌蹌一、宜下其鼎二足文壇一、爲中三代後之三代上也。

【文致】671 ブンチ　❶文のおもむき。文章の意味。〔後漢書、賈逵傳論〕桓譚以レ不レ善レ讖流亡、鄭興以二遜辭一僅免、賈逵能附二會文致一、最差貴顯。〔注〕賈逵附二會文致一、謂丁引二左氏一明丙漢爲乙堯後甲也。❷法文を枉げて無辜を罪に陷れ、有罪者を助けること。〔漢書、景帝紀〕諸獄疑、若雖三文致二於法一、而於二人心一不レ厭者、輒讞レ之。〔漢書、酷吏、嚴延年傳〕其治務在下摧二折豪彊一、扶中助貧弱上、貧弱雖レ陷レ法、曲文以出レ之、其豪桀侵二小民一者、以レ文內レ之、衆人所レ謂レ當レ死者、一朝出レ之、所レ謂レ當レ生者、詭殺レ之、吏民莫三能測二其意深淺一、戰栗不二敢犯一レ禁、按二其獄一、皆文致、不レ可レ得レ反。〔注〕師古曰、致、至密也、言二其文案整密一也。〔後漢書、陳寵傳〕解二妖惡之禁一、除二文致之請一、讞二五十餘事一、定著二于令一。〔注〕文致、謂三前人無レ罪文飾致二於法中一也。❸文の極致。夏は忠を

尙び、商は質を尙ぶ。文質二三統(422)を見よ。〔漢書、董仲舒傳〕今漢繼二大亂之後一、若下直少損二周之文致一、用中夏之忠上者。〔注〕師古曰、致、至極也。

〖文致二太平一〗672（ブンタイヘイヲイタス）　孔子が春秋を制作して理想的王法を寓し、以て太平の世を書法の上にあらはしたといふ公羊家の說。〔公羊、定、六、譏二二名一、二名非レ禮也、注〕春秋定哀之閒、文致二太平一。〔疏〕春秋定哀之閒、文致二太平一者、實不二太平一、但作二太平文一而已、故曰、文致二太平一也。〔援鶉堂筆記〕原父曰、公羊春秋說、文致二太平一者、以二春秋亂世一、但聖人作レ文致二之太平一耳。

【文螭】673（ブンチ）　文采のある、角のない龍。〔王鑒、七夕詩〕六龍奮二瑤轡一、文螭負二瓊車一。〔秦觀、八駿圖序〕彪虎文螭之流。

【文治】674（ブンチ／ブンヂ）　❶教化や法令によって世を治めること。文道を以て國家を治めること。武斷(6―16273‥276)の對。〔禮、祭法〕文王以二文治一、武王以二武功一、去二民之菑一。〔杜牧、寄二小姪阿宜一詩〕朝廷用二文治一、大開二官職場一。❷年號。㋑（ブンチ）北宋の徽宗時代、後理（南詔）の憲宗宣仁帝（段正嚴）の時。年次不明。㋺第八十二代後鳥羽天皇の御時。(1185―1190)

【文丑】675　wen² ch'ou³　男の道化役者で、小官・從者・卜者などに扮するもの。

【文竹】676（ブンチク）　山名。湖南省新化縣。〔湘中記〕高平縣有二文竹山一、上有二石牀一、四面綠竹扶疎、隨レ風委レ拂二此牀一。

【文長】677（ブンチャウ）　字號。❶三國蜀、魏延(12―45872‥4)の字。❷晉、楊駿(6―15112‥213)の字。❸宋、趙彥橚(10―37171‥535)の字。❹明、何彬然(1―511‥359)の字。❺明、徐渭(4―10110‥5)の字。

【文暢】678（ブンチャウ）　梁、柳惲(6―14662‥12)の字。

【文杖】679（フツエ／ブンヂャウ）　ふばさみ。文夾。文書を挾み貴人にさし出す白木の杖。長さ五尺餘、端の金具を鳥口といふ。〔禁祕抄、下〕外記指二蕘奏於文杖一覽二上卿一、上卿覽レ之進二御所一、有二御覽一、留レ文返二給杖一。

【文場】680（ブンヂャウ）　❶文章家の集る所。文學者の社會。文壇。〔晉書、杜預傳贊〕元凱、文場稱爲二武庫一。〔劉孝綽、司空安成王碑銘〕義府文場、詞人髦士。〔文心雕龍、總術〕贊曰、文場筆苑、有レ術有レ門、務レ先二大體一、鑑二必窮レ源。〔唐書、藝文志二〕李奕文場盛事一卷。〔杜甫、魏十四侍御就二弊廬一相別詩〕遠尋留二藥價一、惜別到二文場一。❷文學の士を試驗する所。〔沈佺期、送二韋商州弼一詩〕累年同二畫省一、四海接二文場一。〔王起、和二周侍郎見レ寄詩〕貢院離來二十霜、誰知更忝レ主二文場一。❸wen² ch'ang³　芝居の囃子。

〖文場元帥〗681（ブンヂャウゲンスイ）　文壇の大將。〔事文類聚〕張九齡號二詞人之冠一、又號二文場元帥一。

【文中】682（ブンチュウ）　❶文章の中。文句の中。〔李程、攻二堅木一賦〕鏟二鱗皴於理外一、摭二精粹於文中一。❷第九十八代長慶天皇の年號。(1372―1375)　❸字號。㋑明、高應冕(12―45313‥1062)の字。㋺明、吳彬(2―3365‥360)の字。㋩明、孫冕(3―6987‥269)の字。㋥明、孫鏞(3―6987‥307)の字。㋭明、李彬(6―14459‥689)の字。㋬明、劉醇(2―2224‥377)の字。

〖文中虎〗683（ブンチュウノトラ）　文官中のすぐれた者。楊大年が謝希深に與へた語。〔歸田錄〕謝希深應二進士擧一、以レ啓レ事謁二見楊大年一、大年自書二四句於扇一曰、此文中虎也。

〖文中子〗684（ブンチュウシ）　書名。十卷。舊本に隋、王通撰と題す。門人と對問の書で、薛收・姚義が集めたものといふ。四庫提要によれば、通の子、福郊・福畤等の纂述せるものといふ。一說には假托の書で後世の僞書といふ。文中子は王通の諡。此の書は論語に擬して作られたもので、又、中說といふ。其の目は王道・天地・事君・周公・問易・禮樂・述史・魏相・立命・關朗の十篇。〔四庫提要、子、儒家類〕・〔六子全書、第十冊〕・〔十子全書、第三十二冊〕・〔漢魏叢書、第四十五冊〕・〔百子全書、第十六冊〕・〔四部叢刊、第三百三十九冊〕。

【文仲】685（ブンチュウ）　❶字號。㋑漢、魏尙(12―45872‥71)の字。㋺漢、翟義(9―28727‥4)の字。㋩宋、邢煥(11―39301‥18)の字。㋥金、段鐸(6―16619‥37)の字。㋭明、吳安國(2―3365‥421)の字。㋬明、吳彬(2―3365‥360)の字。㋣明、秦約(8―24995‥161)の字。❷春秋魯、臧孫辰(9―30083‥44)の諡。

【文忠】686（ブンチュウ）　❶諡號。㋑唐、韓休(12―43159‥57)の諡。㋺唐、顏眞卿(12―43591‥169)の諡。㋩唐、鄭從讜(11―39647‥440)の諡。㋥唐、裴度(10―34362‥81)の諡。㋭唐、李元紘(6―14459‥1162)の諡。㋬後晉、盧質(8―23050‥82)の諡。㋣宋、歐陽脩(6―16185‥69)の諡。㋠宋、江萬里(6―17140‥505)の諡。㋷宋、胡寅(9―29400‥12)の諡。㋦宋、蔡齊(9―31818‥76)の諡。㋸宋、周必大(2―3441‥828)の諡。㋾宋、眞德秀(8―23235‥343)の諡。㋻宋、蘇軾(9―32427‥103)の諡。㋕宋、張九成(4―9812‥917)の諡。㋵宋、張商英(4―9812‥1160)の諡。㋟宋、陳堯叟(11―41698‥809)の諡。㋹宋、富弼(3―7230‥145)の諡。㋞宋、王堯臣(7―20823‥1403)の諡。㋡元、高智耀(12―45313‥1272)の諡。㋧元、郝經(11―39430‥11)の諡。㋤元、巎巎(4―8653‥1)の諡。㋶元、許有壬(10―35298‥235)の諡。㋰元、敬儼(5―13303‥81)の諡。㋒元、張養浩(4―9812‥1554)の諡。㋼元、陳天祥(11―41698‥1155)の諡。㋨元、鐵木兒塔識(11―40945‥433)の諡。㋔元、耶律鑄(9―29008‥30)の諡。㋗元、李孟(6―14459‥754)の諡。㋳元、王結(7―20823‥343)の諡。㋮元、王磐(7―20823‥900)の諡。㋘明、溫體仁(7―17968‥280)の諡。㋫明、賀逢聖(10―36725‥155)の追諡。㋙明、倪宗正(1―792‥61)の諡。㋓明、吳貞毓(2―3365‥798)の諡。㋢明、葉向高(9―31387‥172)の諡。㋐明、張居正(4―9812‥927)の諡。㋚明、張璁(4―9812‥512)の諡。㋖明、陳子壯(11―41698‥895)の諡。㋴明、丁乾學(1―2‥248)の諡。㋱明、馬世奇(12―44572‥846)の諡。㋯明、楊廷和(6―15112‥707)の諡。㋛明、劉同升(2―2224‥1236)の諡。㋽清、榮祿(6―15273‥170)の諡。㋪清、胡林翼(9―29400‥632)の諡。㋲清、索尼(8―27306‥63)の諡。㋝清、沈兆霖(6―17189‥610)の諡。㋜清、傅恆(1―939‥51)の諡。(ン)清、文祥(442)の諡。(甲)清、駱秉章(12―44734‥34)の諡。(乙)清、李鴻章(6―14459‥1228)の諡。(丙)清、林則徐(6―14551‥378)の諡。❷明、黃節(12―47926‥569)の字。

〖文忠先生〗687（ブンチュウセンセイ）　❶後漢、朱穆(6―14424‥558)の尊稱。❷元、包希魯(2―2506‥143)の尊稱。

【文冢】688（ブンチョウ）　文章の草稿を埋めた塚。〔劉蛻、文冢銘序〕文冢者、長沙劉蛻復愚爲レ文、不レ忍レ棄二其草一、聚而封レ之也、銘曰、文乎、文乎、有二鬼神一乎、風水惟貞、將レ利二其子一乎。

【文珍】689（ブンチン）　❶唐、劉貞亮(2―2224‥1215)の名。❷清、屈蟠(4―7669‥127)の字。

【文琛】690（ブンチン）　元、顧深(12―43689‥111)の字。

【文鎭】691（ブンチン）　❶文書や紙類などの飜り散らぬやうに置くおもし。書鎭。鎭紙。〔和漢三才圖會、藝才、書鎭〕書鎭、俗云二文鎭一。❷明、姚岳(3―6202‥22)の字。

【文陣】692（ブンヂン）　文壇。文事を戰陣に見立てていふ語。文陣雄帥を見よ。〔石介、予與二元均永叔君謨一同年登科云云因寄二君謨一詩〕網羅當日得二英雄一、文陣三人各立レ功。

〖文陣雄帥〗693（ブンヂンノユウスイ）　文章に優れた者。戰陣の將帥に喩へていふ。〔唐書、蘇頲傳〕張九齡嘗覽二頲文卷一、謂二同列一曰、蘇生之俊贍無レ敵、眞文陣雄帥也。

【文通】694（ブンツウ）　❶文學に通達する。文通武達を見よ。❷文章の通則。清の馬建忠に文通の著がある。〔馬氏文通、序〕愚故罔レ揣二固陋一、取二四書・三傳・史・漢・韓文一、爲二歷代文詞升降之宗一、兼及二諸子語策一、爲レ之字櫛句比、繁稱博引、比レ例而同レ之、觸レ類而長レ之、窮二古今之簡篇一、字裏行閒、渙然冰釋、皆有三以得二其會通一、輯爲二一書一、名曰二文通一。❸書名。三十卷。明、朱荃宰撰。❹名號。㋑後唐、李茂貞(6―14459‥1967)の本名。㋺明、郭純(11―39474‥124)の初名。❺諡號。㋑明、錢溥(11―40563‥186)の諡。㋺明、費宷(10―36717‥29)の諡。㋩明、王一寧(7―20823‥1159)の諡。㋥清、金之俊(11―40152‥1266)の諡。❻字號。㋑漢、崔廣(4―8178‥58)の字。㋺後漢、高鳳(12―45313‥848)の字。㋩後漢、周紆(2―3

441‥17）の字。㋥後漢、習郁（9－28672‥5）の字。㋭後漢、張匡（4－9812‥194）の字。㋬晉、楊濟（6－15112‥162）の字。㋣北燕、馮弘（12－44579‥70）の字。㋠梁、江淹（6－17140‥26）の字。㋷梁、柳惔（6－14662‥177）の字。㋦唐、張璪（4－9812‥325）の字。㋸唐、劉師貞（2－2224‥1008）の字。㋾五代吳越、皮光業（8－22823‥144）の字。㋻宋、沈遘（6－17189‥161）の字。㋕明、吳徹（2－3365‥330）の字。㋵明、葉晝（9－31387‥105）の字。㋟明、暢亨（5－14095‥7）の字。㋹清、張雋（4－9812‥400）の字。❼後魏、李洪之（6－14459‥1222）の本名。❽手紙のやりとり。たより。書信。音信。消息。〔武家義理物語、二〕兵右衞門方へ文通せしに。

【文通先生】695 ブンツウセンセイ　唐、陸質（11－41708‥138）の私諡。

【文通武達】696 ブンツウブタツ　文武に通達する。文學武功を以て世に顯れる。〔南史、檀珪傳〕與二僧虔書一曰、僕一門雖レ謝二文通一、乃忝二武達一。

【文丁】697 ブンテイ　殷の王。武乙の子。竹書紀年には武乙の後文丁立つといひ、史記殷紀には太丁に作り、帝王世紀には帝文丁、一に太丁といふとある。卜辭では殷王の名の最後にある王が文丁である。〔增訂殷虛書契考釋、上〕

【文廷】698 ブンテイ　元、劉聞（2－2224‥585）の字。

【文定】699 ブンテイ　❶周の文王が、妃を迎へる時、問名の後、卜して吉祥を定め納幣せしめたこと。轉じて、昏禮に納幣を以て定約すること。〔詩、大雅、大明〕文定二厥祥一、親二迎于渭一。〔箋〕問名之後、卜而得レ吉、則文王以レ禮定二其吉祥一、謂レ使二之納幣一。〔疏〕祥者、吉祥之事、而言レ定レ之、是問名之後、卜而得レ吉、昏以二納幣一爲レ定、定二此吉祥一唯納幣耳。❷諡號。㋑後魏、邢巒（11－39301‥50）の諡。㋺宋、何基（1－511‥32）の諡。㋩宋、何坦（1－511‥152）の諡。㋥宋、葛邲（9－31420‥85）の諡。㋭宋、許將（10－35298‥113）の諡。㋬宋、胡安國（9－29400‥390）の諡。㋣宋、吳獵（2－3365‥412）の諡。㋠宋、聶子述（9－29179‥28）の諡。㋷宋、蘇轍（9－32427‥152）の諡。㋦宋、曾鞏（5－14299‥31）の諡。㋸宋、張綱（4－9812‥116）の諡。㋾宋、張齊賢（4－9812‥1254）の諡。㋻宋、張方平（4－9812‥1436）の諡。㋕宋、陳宗禮（11－41698‥1086）の諡。㋵宋、趙安仁（10－37171‥391）の諡。㋟宋、趙雄（10－37171‥360）の諡。㋹宋、鄧翰（11－39630‥81）の私諡。㋞宋、彭方（4－10003‥98）の諡。㋡宋、慕容彥逢（4－11088‥74）の諡。㋧宋、李迪（幽州の人）（6－14459‥614）の諡。㋤宋、李燔（6－14459‥671）の諡。㋶宋、劉克莊（2－2224‥923）の諡。㋰宋、王淮（7－20823‥1105）の諡。㋒宋、汪應辰（6－17154‥176）の諡。㋼金、董師中（9－31433‥213）の諡。㋨元、阿魯渾薩理（11－41599‥311）の諡。㋔元、郝天挺（11－39430‥55）の諡。㋗元、董立（9－31433‥165）の諡。㋳元、孟攀鱗（3－6960‥335）の諡。㋮元、王惲（7－20823‥49）の諡。㋘明、于慎行（1－252‥122）の諡。㋫明、何瑭（1－511‥147）の諡。㋙明、吳寬（2－3365‥134）の諡。㋓明、蔣冕（9－31820‥99）の諡。㋢明、徐光啓（4－10110‥383）の諡。㋐明、申時行（7－21726‥174）の諡。㋚明、沈淮（6－17189‥81）の諡。㋖明、盛訥（8－23005‥163）の諡。㋴明、張邦奇（4－9812‥1437）の諡。㋱明、陳敬宗（11－41698‥789）の諡。㋯明、楊溥（6－15112‥336）の諡。㋛明、李春芳（6－14459‥1452）の諡。㋽明、陸樹聲（11－41708‥361）の諡。㋪明、梁綱（6－14825‥33）の私諡。㋲明、王瓚（7－20823‥436）の諡。㋝明、王道（7－20823‥752）の諡。㋜清、高斌（12－45313‥800）の諡。ン⃝清、朱士彥（6－14424‥798）の諡。甲⃝清、徐元夢（4－10110‥416）の諡。乙⃝清、沈桂芬（6－17189‥487）の諡。丙⃝清、孫嘉淦（3－6987‥345）の諡。丁⃝清、孫廷銓（3－6987‥504）の諡。戊⃝清、托津（5－11793‥18）の諡。己⃝清、楊名時（6－15112‥790）の諡。庚⃝清、李天馥（6－14459‥1802）の諡。辛⃝清、劉綸（2－2224‥654）の諡。壬⃝清、梁國治（6－14825‥249）の諡。❸字號。元、劉君賢（2－2224‥850）の字。

【文定集】700 ブンテイシフ　書名。二十四卷。宋、汪應辰撰。應辰、諡は文定。〔四庫提要、集、別集類〕・〔武英殿聚珍版全書、第三百六十一—三百六十四冊〕。

【文帝】701 ブンテイ　❶帝號。㋑前漢孝文帝の略稱。劉恆（2－2224‥278）を見よ。㋺三國魏の帝。曹丕（5－14297‥161）を見よ。㋩晉の帝。司馬昭（2－3257‥280）を見よ。㋥南朝宋、第三代の帝。劉義隆（2－2224‥799）を見よ。㋭北周の帝。宇文康（3－7067‥64）を見よ。㋬陳、第二代の帝。陳蒨（11－41698‥413）を見よ。㋣西魏、第一代の帝。元寶炬（1－1340‥720）を見よ。㋠隋、第一代の帝。楊堅（6－15112‥132）を見よ。❷明、成祖の諡號。朱棣（6－14424‥469）を見よ。

【文帝全書】702 ブンテイゼンショ　書名。內外兩函五十卷。清、劉體恕編。關槐校。道敎の經典を蒐輯せるもの。文帝は卽ち文昌帝をいふ。

【文貞】703 ブンテイ　❶諡號。㋑南朝宋、王裕之（7－20823‥2143）の諡。㋺後魏、游肇（7－17792‥255）の諡。㋩後魏、賈思伯（10－36755‥173）の諡。㋥後魏、綦儁（8－27555‥9）の諡。㋭後魏、和安（2－3490‥2）の諡。㋬後魏、郭祚（11－39474‥151）の諡。㋣後魏、邢晏（11－39301‥1）の諡。㋠後魏、元匡（1－1340‥126）の諡。㋷後魏、元略（1－1340‥603）の諡。㋦後魏、崔休（4－8178‥47）の諡。㋸後魏、山偉（4－7869‥21）の諡。㋾後魏、劉芳（2－2224‥545）の諡。㋻北齊、魏收（12－45872‥67）の諡。㋕北齊、崔劼（4－8178‥33）の諡。㋵唐、閻立本（11－41379‥96）の諡。㋟唐、魏徵（12－45872‥117）の諡。㋹唐、崔祐甫（4－8178‥195）の諡。㋞唐、蘇瓌（9－32427‥42）の諡。㋡唐、宋璟（3－7078‥14）の諡。㋧唐、張說（4－9812‥865）の諡。㋤唐、張柬之（4－9812‥887）の追諡。㋶唐、苗晉卿（9－30781‥58）の諡。㋰唐、陸象先（11－41708‥356）の諡。㋒金、張萬公（4－9812‥1457）の諡。㋼元、曹伯啓（5－14297‥300）の諡。㋨元、唐仁祖（2－3709‥454）の諡。㋔元、同恕（2－3294‥214）の諡。㋗元、馬祖常（12－44572‥862）の諡。㋳元、不忽木（1－19‥1134）の諡。㋮元、也先不花（1－171‥26）の諡。㋘明、黃觀（12－47926‥313）の諡。㋫明、倪元璐（1－792‥44）の諡。㋙明、徐階（4－10110‥337）の諡。㋓明、錢象坤（11－40563‥338）の諡。㋢明、范景文（9－30834‥168）の諡。㋐明、繆昌期（8－27855‥62）の追諡。㋚明、楊士奇（6－15112‥552）の諡。㋖清、何桂珍（1－511‥247）の諡。㋴清、志銳（4－10331‥5）の諡。㋱清、崇綺（4－8152‥46）の諡。㋯清、張玉書（4－9812‥932）の諡。㋛清、陳廷敬（11－41698‥1142）の諡。㋽清、李光地（6－14459‥1059）の諡。㋪清、王崇簡（7－20823‥1746〃）の諡。❷字號。清、鍾若玉（11－40672‥152）の字。

【文貞子】704 ブンテイシ　明、儲洵（1－1284－37）の私諡。

【文貞先生】705 ブンテイセンセイ　諡號。❶晉、范平（9－30834‥114）の諡。❷宋、朱牧（6－14424‥551）の諡。❸元、葛元喆（9－31420‥122）の私諡。❹明、應宗祥（4－11330‥271）の私諡。

【文悌】706 ブンテイ　三國吳、聶友（9－29179‥1）の字。

【文楨】707 ブンテイ　宋、何桌（1－511‥205）の字。

【文鼎】708 ブンテイ　❶刻鏤の文ある鼎。〔漢書、武帝紀〕乃顯二文鼎一、獲二薦於廟一。〔注〕師古曰、文鼎、言三其有二刻鏤之文一。❷明、何鼎（1－511‥162）の別名。❸明、金鉉（松江の人）（11－40152‥366）の字。

【文鳥】709 ブンテウ　小鳥の名。燕雀の類。形、うそに似て灰色、頂・喉は黑く、頰は白く、背・腹は紅を帶び、觜・脚は共に紅。〔本朝食鑑、林禽〕文鳥、狀似レ鶯而背腹帶レ紅、兩頰純白、云云、近時自二外國一來、以二形麗一號二文鳥一、今畜レ籠而孕育、類多矣。

【文鳥之夢】710 ブンテウノユメ　羽毛の文彩の美しい鳥が口中に飛込んだ夢。晉の羅含が、此の夢を見てから文思詩藻が日每に豐かになつた故事。〔晉書、文苑、羅含傳〕含幼孤、爲二叔母朱氏所一レ養、少有二志尙一、嘗晝臥、夢三一鳥文彩異常、飛入二口中一、因驚起說レ之、朱氏曰、鳥有二文彩一、汝後必有二文章一、自レ此後、藻思日新。〔本朝文粹、九、菅原雅規、暮春於二文章院一餞二諸故人赴一レ任賦二風月一朝阻一各分二一字一〕夙發二文鳥之夢一、新分二銀兔之信一。

【文超】711 ブンテウ　明、許廓（10－35298‥60）の字。

【文條】712 ブンデウ　文の條理。〔王融、永明九年策二秀才一文〕分命顯二於唐官一、文條炳二於鄒說一。

【文哲】713 ブンテツ　明、王縝（7－20823‥636）の字。

【文牒】714 ブンテフ　かきもの。文書。〔元稹、長慶元年德音〕賊中文牒妄作二異端一、皆云二朝廷兵欲一レ戎二

邊塞一、此皆狂二詐扇三動人心一。

【文疊】715（ブンデフ）　後漢、諶重（10－35739‥6）の字。

【文典】716（ブンテン）　❶表面の立派な言葉をいふ。〔荀子、非十二子〕終日言成二文典一、反紃察レ之、則偶然無レ所二歸宿一。❷典籍。〔張說、上二東宮一請二講學一啓〕引二進文儒一、詳二觀文典一。❸文法を說明した書。❹文章に關する法則。文法。

【文恬】717（ブンテン）　文事を以て樂しむこと。

〖文恬武嬉〗718（ブンテンブキ）　天下太平で、文武の官が安逸嬉遊すること。〔韓愈、平淮西碑〕相臣將臣、文恬武嬉、習二熟見聞一、以爲二當然一。〔宋史、樂志九〕帝撫二熙運一、晏粲協レ期、禮明樂備、文恬武嬉。

【文展】719（ブンテン）　舊文部省美術展覽會の略稱。

【文點】720（ブンテン）　淸の人。震孟の孫。字は與也。號は南雲山樵。竹隖に隱居す。詩及び畫に巧。著に南雲詩文集がある。〔國朝耆獻類徵、四百八十〕・〔碑傳集、一百二十六〕。

【文田】721（ブンデン）　淸、任兆麟（1－416‥242）の字。

【文電】722（ブンデン）　電文。電報。

【文殿】723（ブンデン）　❶唐の宮殿の名。〔源乾曜、奉三和聖製送二張說一詩〕薰風淸二禁籞一、文殿述二皇明一。❷（フミドノ）㋑文庫。㋺校書殿。

【文度】724（ブンド）　字號。❶晉、孫晷（3－6987‥56）の字。❷晉、王坦之（7－20823‥1899）の字。❸明、尤安禮（4－7543‥44）の字。❹明、吳文泰（2－3365‥858）の字。❺明、陳則（11－41698‥436）の字。❻明、鄧黻（11－39630‥102）の字。❼明、趙左（10－37171‥171）の字。

【文東】725（ブントウ）　明、陸淞（11－41708‥152）の字。

【文棟】726（ブントウ）　文章界のかしら。文壇の棟梁。〔鍾嶸、詩品序〕降及二建安一、曹公父子、篤好二斯文一、平原兄弟、鬱爲二文棟一。

【文登】727（ブントウ）　❶山名。山東省文登縣。文山ともいふ。〔太平寰宇記〕在二縣東二里一、相傳、秦始皇東遊、集二文士於此山一、論レ德頌レ功、故名。❷縣名。北齊、置く。漢の不夜縣の地。今、山東省牟平縣の東南。南は黃海に瀕し、北に威海衞があり、渤海に瀕す。〔讀史方輿紀要、山東、登州府、寧海州〕文登縣、漢不夜縣地、屬二東萊郡一、後漢省入二牟平縣一、北齊天保七年、析二置文登縣一、取レ山爲レ名、屬二長廣郡一、隋屬二萊州一、唐武德四年、置二登州一治焉、貞觀初州廢、如意初、復置二登州一、以レ縣屬焉、宋因レ之、金改屬二甯海州一。〔淸史稿、地理志〕山東、登州府、縣九、文登。

【文篠】728（ブントウ）　明、朱鑑（6－14424‥96）の字。

【文同】729（ブンドウ）　❶宋、梓潼の人。字は與可。號は笑笑先生・石室先生・錦江道人・墨君・野人廬・此君菴。官は元豐中、湖州の守。故に又文湖州といふ。皇祐の進士。最も畫竹を善くし、詩文篆隸行草飛白皆其の妙を極む。元豐三年卒す、年六十二。著に丹淵集がある。〔宋史、四百四十三〕。❷明、席書（4－8926‥37）の字。

【文桐】730（アヤギリ）　あをぎりの異名。梧桐。

【文童】731（ブンドウ）　秀才の試驗を受ける資格を有する者。〔淸國行政法汎論、吏部銓選、備考〕文童、未レ得二秀才一者。

【文德】732（ブントク）　❶禮樂を以て敎化し、人々を心服せしめる德。文治の德。學問文敎の德。武德（6－16273‥306）の對。〔易、小畜〕象曰、風行二天上一小畜、君子以懿二文德一。〔書、大禹謨〕帝乃誕敷二文德一、舞二干羽于兩階一、七旬、有苗格。〔蔡傳〕文德、文命德敎也。〔詩、大雅、江漢〕矢二其文德一、洽二此四國一。〔左氏、襄、二十七〕所下以威二不軌一、而昭中文德上也。〔論語、季氏〕遠人不レ服、則修二文德一以來レ之。〔劉寶楠正義〕文德、謂二文治之德一。〔漢書、刑法志〕文德者、帝王之利器。〔淮南子、兵略訓〕行二文德一者王。〔後漢書、張皓傳〕今主上仁聖、欲下以二文德一服上レ叛。〔孔子家語、弟子行〕然後成レ之以二文德一。❷年號。㋑唐の僖宗（李儇）の時。（888）㋺五代、南詔の太祖（一に太祖聖神文武皇帝。段思平）の時。（937—944）❸字號。㋑三國魏、胡質（9－29400‥168）の字。㋺南朝宋、張興世（4－9812‥1045）の字。㋩南齊、樂頤（6－15399‥11）の字。㋥後魏、明亮（5－13805‥582）の字。㋭五代吳越、錢俶（11－40563‥120）の字。㋬宋、曹中（5－14297‥146）の字。㋣明、錢本中（11－40563‥433）の字。㋠明、陳宣（11－41698‥411）の字。❹諡號。明、章潢（8－25761‥55）の諡。❺（モントク）第五十五代の帝諡。

〖文德后〗733（ブントクコウ）　唐、長孫后（11－41100‥589）の諡。

〖文德郭后〗734（ブントククワクコウ）　三國魏、郭后（11－39474‥92）の諡。

〖文德先生〗735（ブントクセンセイ）　漢、夏牙（3－5720‥33）の尊稱。

【文牘】736（ブントク）　官文書。公文書。公牘。〔宋史、梅執禮傳〕句二稽財貨一、文牘山委。〔廼賢、贈二張直言南歸一詩〕文牘日冗繁、民力愈疲竭。

〖文牘員〗737　wen² tu² yüan²　文書の文稿の立案・寫書に任ずる係員。「の號。

【文南】738（ブンナン）　明、吳湘（鄞の人）（2－3365‥215）

【文寧】739（ブンネイ）　字號。❶明、朱國禎（6－14424‥787）の字。❷淸、顧文淵（12－43689‥356）の字。

【文年】740（ブンネン）　明、過百齡（11－39002‥296〳）の名。

【文派】741（ブンパ）　文章の流派。唐には韓愈・柳宗元等の達意を主とする達意派と、李于鱗・王世貞等の修辭を主とする修辭派とがあり、淸代には方苞・劉大櫆・姚鼐等の桐城派と、惲敬・張惠言・李兆洛等の陽湖派とあるが如きをいふ。

【文葩】742（ブンパ）　美しい花。〔德川齊昭、種梅記〕文葩布レ國。

【文馬】743（ブンバ）　立派に支度した馬。かざり裝つた馬。一說に、毛に文采があつて美しい馬。〔左氏、宣、二〕宋人以二兵車百乘・文馬百駟一、以贖二華元于鄭一。〔注〕畫馬爲レ文。〔疏〕謂下文二飾雕三畫之一、若レ朱二其尾鬣一之類上也。〔洪亮吉左傳詁〕賈逵云、文、貍文也、王肅云、畫馬也、說文、駁、馬赤鬣縞身、目若二黃金一、名曰レ駁、春秋傳曰、駁馬百駟、畫馬也、西伯獻レ紂、以全二其身一、王與レ杜並取レ此、周書王會曰、犬戎文馬、案、丘光庭曰、文馬、馬之毛色有二文采一者、蓋取二賈義一、今考、叔重既言、駁、馬赤鬣縞身、目若二黃金一、又云二畫馬也一、則意亦言二馬之文采似レ畫耳。〔管子、禁藏〕遺以二諂臣文馬一、以蔽二其外一。〔史記、宋世家〕故宋師敗、得レ囚二華元一、宋以二兵車百乘・文馬四百匹一、贖二華元一。〔注〕正義曰、文馬者、裝二飾其馬一。〔戰國、齊策〕弊邑有二寶璧二隻、文馬二駟一、請致二之先生一。〔注〕文馬、馬之毛色有二文采一者。〔山海經、海外西經〕奇肱之國、在二其北一、其人一臂三目、有レ陰有レ陽乘二文馬一。

【文牌】744（ブンハイ）　願書をさしだせといふふだ。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕次抬二投文牌一。

【文杯】745（ブンパイ）　文采を施したさかづき。〔鹽鐵論、國病〕文杯畫案。

【文旆】746（ブンパイ）　❶文采ある旆。古の天子の儀仗。〔隋書、禮儀志七〕齊河淸中定レ令、云云、旌旗皆囊首五色節、文旆悉赭黃。❷wen² p'ei⁴　相手方の旅行をいふ敬語。

【文貝】747（ブンバイ）　❶模樣のある貝。〔書、顧命〕西序東嚮、敷二重底席綴純一、文貝仍几。〔傳〕有レ文之貝飾レ几。❷紫貝（8－27337‥364）の異名。〔山海經、西山經〕陰山、濁浴之水出焉、而南流注二于蕃澤一、其中多二文貝一。〔本草、紫貝〕釋名、文貝、砑螺、時珍曰、南州異物志云、文貝甚大、質白文紫、無姿自然、不レ假二外飾一、而光彩煥爛、故名。

【文報】748　wen² pao⁴　報告書。文書。公文書類。

【文邦】749（ブンパウ）　明、張治（4－9812‥545）の字。

【文保】750（ブンパウ）　第九十五代、花園天皇の年號。（1317－1318）〔菅原在輔勘文〕梁書曰、姬周基レ文、久保二七百一。

【文彭】751（ブンパウ）　明の人。徵明の長子。字は壽承。號は三橋・漁陽子。官は國子博士。詩書畫に巧。最も篆刻に長じ、何震と並んで文何と稱せられた。書室を淸白堂といふ。著に博士詩がある。〔明史、二百八十七〕・〔萬斯同明史、三百八十七〕・〔明史稿、二百六十八〕・〔明詩綜、四十五〕。

【文葆】752（ブンパウ）　模樣を施してある小兒の衣服。文褓に同じ。〔史記、趙世家〕二人謀、取二他人嬰兒一負レ之、衣以二文葆一、匿二山中一。

【文褓】753（ブンパウ）　美しい刺繡などを施した小兒の衣服。〔新序、節士〕二人謀、取二他嬰兒一負以二文褓一、匿二山中一。

【文寶】754（ブンパウ）　宋、寧化の人。字は仲賢。太平興國の進士。官は陝西轉運副使・工部員外郞。後、忠武軍行軍司馬。著に談苑・江表志・集二十卷がある。

〖文寶緝柳〗755（ブンパウシフリウ）　蒙求の標題。孫敬（字は文寶）が、楊柳を編んで簡とし、經書を寫して學んだ故事。〔蒙求、中、文寶緝柳〕楚國先賢傳、孫

文寶到二洛陽一、在二大學左右一、得二一小屋一、安二止母一、然後入レ學、編二楊柳一爲レ簡、以寫レ經。

【文房】756（ブンバウ）　㊀文詞を司る地位。〔南史、江革傳〕任昉與レ革書云、比聞、雍府妙二選英才一、文房之職、總二卿昆季一。〔北史、柳慶傳〕時北雍州獻二白鹿一、羣臣欲レ賀、尚書蘇綽謂レ慶曰、云云、君職二典文房一、宜レ製二此表一。㊁讀書室。書齋。〔杜牧、奉乙和門下相公送下西川相公兼二領相印一出鎭中全蜀上詩甲十八韻詩〕彤弓隨二武庫一、金印逐二文房一。〔畫史〕大年收二得南唐集賢院御書印一、乃用二於文房書畫一者。㊂唐、劉長卿（2－2224‥1182）の字。

【文房具】757（ブンバウグ）　書齋に必要な器具。筆・硯・墨・紙の類。文具。

【文房四侯】758（ブンバウノシコウ）　筆・硯・紙・墨をいふ。文房四寶。〔文房四譜〕（筆譜下）文嵩四侯傳、管城侯毛元鋭、字文鋒、宣城人也。（硯譜）文嵩卽墨侯石虛中傳、石虛中、字居默、南越高要人也。（紙譜）文嵩好時侯楮知白傳、楮知白、字守元、華陰人也。（墨譜）文嵩松滋侯易元光傳、易元光、字處晦、燕人也。

【文房四寶】759（ブンバウノシハウ）　紙・筆・硯・墨をいふ。〔避暑錄話、上〕世言、歙州具二文房四寶一、謂二筆墨紙硯一也、其實三耳、歙本不レ出レ筆。〔明一統志〕四寶堂在二徽州府治一、以三郡出二文房四寶一爲レ義、新安志云、歙縣文房四寶、謂二紙墨筆硯一也。〔剪燈餘話、武平靈怪錄〕嘗擅二文房四寶稱一、盡誇鴝眼勝二金星一。

【文房四譜】760（ブンバウシフ）　書名。五卷。宋、蘇易簡撰。一名、文房四寶譜。筆譜二卷、硯譜・墨譜・紙譜各一卷、筆格・水滴を附し、始末を詳述し、故實詩文を附す。〔四庫提要、子、譜錄類〕・〔學海類編、第一百九十三・一百九十四冊〕。

【文房小說】761（ブンバウセウセツ）　叢書の名。八冊。明、顧元慶編。一名、顧氏文房小說。漢魏六朝唐宋代の隨筆小說等三十九種を收める。其の目は【第一冊】古今注三卷（漢、崔豹）・隋唐嘉話三卷（唐、劉餗）・周秦行紀一卷（唐、牛僧孺）・南岳魏夫人傳一卷（無名氏）・博異志一卷（唐、谷神子）。【第二冊】楊太眞外傳二卷（宋、樂史）・臥游錄一卷（宋、呂祖謙）・山家清事一卷（宋、林洪）・張太史明道雜志一卷（宋、張耒）。【第三冊】宜齋野乘一卷（宋、吳枋）・松窗雜錄一卷（唐、李濬）・次柳氏舊聞一卷（唐、李德裕）・芥隱筆記一卷（宋、龔頤正）・東坡居士艾子雜說一卷（宋、蘇軾）。【第四冊】梅妃傳一卷（唐、曹鄴）・集異記二卷（唐、薛用弱）・虬髯客傳一卷（唐、杜光庭）・資暇集三卷（宋、李濟翁）・幽閑鼓吹一卷（唐、張固）・小爾雅一卷（漢、孔鮒）。【第五冊】葆光錄三卷（宋、陳某）・洛陽名園記一卷（宋、李文叔）・高力士外傳一卷（唐、郭湜）・開元天寶遺事二卷（唐、王仁裕）。【第六冊】續齊諧記一卷（梁、吳均）・海內十洲記一卷（漢、東方朔）・卓異記一卷（唐、李翶）・松漠記聞二卷（宋、洪皓）。【第七冊】漢武帝別國洞冥記四卷（漢、郭憲）・白猿傳一卷（梁、江總）・碧雲騢一卷（宋、梅堯臣）・劉賓客嘉話錄一卷（唐、韋絢）・嘯旨一卷（無名氏）。【第八冊】深雪偶談一卷（宋、方嶽）・鍾嶸詩品三卷（梁、鍾嶸）・本事詩一卷（唐、孟棨）・德隅齋畫品一卷（宋、李廌）・鼎錄一卷（梁、虞荔）。

【文旄】762（ブンバウ）　旄牛の尾を染めて文綵を施したもの。〔荀子、王制〕西海則有二皮革文旄一焉。〔注〕旄、旄牛尾、文旄、謂下染レ之爲二文綵一者上也。

【文舫】763（ブンバウ）　裝飾した船。花舫。文艘。〔劉基、錢唐懷古得二吳字一詩〕鷁首馳二文舫一、龍鱗舞二繡襦一。

【文貌】764（ブンバウ）　身だしなみ。行儀。〔荀子、禮論〕忠信、愛敬之至矣、禮節、文貌之盛矣。〔史記、禮書〕文貌繁、情欲省、禮之隆也、文貌省、情欲繁、禮之殺也。

【文白】765（ブンパク）　清、范驤（9－30834‥51）の字。

【文伯】766（ブンパク）　㊀言論文章のはたがしら。〔梁肅、常州刺史獨孤及狀〕達言發辭、若二山嶽之峻極、江海之波瀾一、故天下謂二之文伯一。㊁㋑春秋魯、仲孫穀（1－403‥302）をいふ。㋺春秋晉、士匄（3－5638‥22）をいふ。㊂字號。㋑後漢、董鈞（9－31433‥48）の字。㋺後漢、王況（7－20823‥231）の字。㋩後周、王朴（7－20823‥982）の字。㋥宋、徐次鐸（4－10110‥463）の字。㋭宋、丁黼（1－2‥186）の字。㋬宋、利元吉（2－1932‥207）の字。㋣宋、王允文（7－20823‥1169）の字。㋠金、武都（6－16273‥299）の字。㋷明、兪煥章（1－1437‥90）の字。㋦清、曾岳（5－14299‥22）の字。㋸清、李士瓚（6－14459‥1279）の字。

【文伯羞鼈】767（ブンパクシウベツ）　蒙求の標題。春秋、魯の公父文伯が南宮敬叔に酒を飲ましめ、露睹父を客として招待したが、御馳走の鼈が小さかつたため、睹父は怒り、鼈を長ぜしめて、後に食はんといつて退席した。文伯の母が聞いて怒り、文伯を逐ひ出した故事。〔國語、魯語下〕公父文伯飮二南宮敬叔酒一、以二露睹父一爲レ客、羞レ鼈焉、小、睹父怒、相延食レ鼈、辭曰、將使二鼈長一而後食レ之、遂出、文伯之母聞レ之、怒曰、吾聞二之先子一、曰、祭養レ尸、饗養二上賓一、鼈於レ何有、而使二夫人怒一也、遂逐レ之、五日、魯大夫辭而復レ之。

【文博】768（ブンパク）　㊀字號。㋑三國魏、朱靈（6－14424‥611）の字。㋺晉、董景道（9－31433‥194）の字。㊁文學博士の略。

【文薄】769（ブンパク）　文德のうすいこと。〔李康、運命論〕文薄之弊、漸二於靈景一。〔注〕翰曰、文德之澆薄。

【文莫】770（ブンバク）　力を盡してつとめる。勉強。努力。忞慔の假借。論語述而篇の文莫吾猶レ人也の文莫の意味に就いては、四說ある。一は、勉強の意に解し、二は、文は云云ならずと讀み（莫を否定詞と見る）、三は、文は云云なからんやと讀み（莫を反語詞と見る）、四は、文は確かにの意とする（莫を定と解す）。文は學問。〔通雅、釋詁〕閔勉・僶勉一也、轉爲二密勿・蠠沒一、又轉爲二侔莫・文莫一、晉欒肇論語駁曰、燕齊謂二勉強一爲二文莫一。〔論語、述而〕子曰、文莫吾猶レ人也、躬行二君子一、則吾未二之有一レ得。〔集解〕何晏曰、莫、無也、文無者、猶二俗言二文不一也、文不二吾猶レ人者、言二凡文皆不レ勝レ人也。〔集注〕莫、疑辭。〔劉寶楠正義〕先從叔丹徒君駢枝曰、楊愼丹鉛錄引晉欒肇論語駁曰、燕齊謂二勉強一爲二文莫一、又方言曰、侔莫、強也、北燕之外郊、凡勞而相勉、若レ言二努力一者、謂二之侔莫一、案、說文、忞、強也、慔、勉也、文莫、卽忞慔、假借字也、廣雅亦云、文、強也、黽勉・密勿・蠠沒・文莫、皆一聲之轉、文莫、行二仁義一也、躬行二君子一、由二仁義一行也、謹案、淮南子繆稱訓、猶未二之莫一與、高誘注、莫、勉レ之也、亦是借レ莫爲レ慔、夫子謙不三敢居二安行一、而以二勉強而行一自承、猶之言、學不三敢居二生知一、而以二學知一自承也、胡氏紹勳拾義、以レ莫訓レ定、屬二下吾猶レ人也一爲レ句、引三詩求二民之莫一爲レ據、於レ義亦通、蓋夫子言、爲レ學可三以及レ人、至二躬行一則未レ能矣、亦一說、以レ莫爲二其字古文相近之誤一、嫌レ易二經字一、所レ不二敢從一。

【文莫堂】771（ブンバクダウ）　民國、王樹枏（7－20823‥1656）の室名。

【文發】772（ブンパツ）　後魏、董徵（9－31433‥130）の字。

【文伐】773（ブンバツ）　六韜（2－1453‥427）の武韜の篇名。

【文法】774（ブンパフ）　㊀法令の成文。法律。規則。〔史記、李將軍傳〕程不識、孝景時以二數直諫一爲二太中大夫一、爲レ人廉、謹二於文法一。〔史記、汲黯傳〕上聞、召以爲二主爵都尉一、列二於九卿一、治務在二無爲一而已、弘二大體一、不レ拘二文法一。〔漢書、循吏、黃霸傳〕霸爲レ人明察內敏、又習二文法一。〔漢書、酷吏、咸宣傳〕其後小吏畏レ誅、雖レ有レ盜弗二敢發一、恐レ不レ能レ得、坐レ課累レ府、府亦使レ不レ言、故盜賊寖多、上下相爲匿、以避二文法一焉。〔元稹、叙レ詩寄二樂天一書〕最不レ欲三文法吏生二天下之罪過一。㊁文に於ける語の配列、語形の變化の秩序など。又、文章を作る上の內容・形式上のきまり。文章の法則。〔松本謙、文法詳論序〕余志二於文一有レ年、其所二閱過一之書、不レ下二數十種一、而未レ能レ得二其要領一也、雖レ由二學菲才劣一、抑以レ無二可レ師之書一也、以レ故就二鴻齋石川先生一、問二文法一、先生出二所レ著文法詳論者一見示、曰、此余就二清客沉黃諸子一所レ質、子其由レ是學レ之、雖レ不レ及亦不二甚遠一也、受而閱レ之、則自二作文之根柢一、至二學術之其礎一、結構之法、組織之理、一一縷二述之一。

【文法吏】775（ブンパフノリ）　法律に通ずる吏。〔漢書、元帝紀〕宣帝所レ用、多二文法吏一、以二刑名一繩レ下。

【文法詳論】776（ブンパフシヤウロン）　書名。二卷。續編二卷。石川鴻齋撰。漢文章の作法に就いて論述する。正編の上卷は論言・警戒・辨體、下卷は句解・助字解・論文類纂、續編の上卷は歇語・起語・接語・轉語・襯語・束語、下卷は虛字互用・文則・文章諸法・文源・纂言。

【文法披雲】777（ブンパフヒウン）　書名。三卷。海保青陵撰。

文章に就き、文源・文法・文論・友古・合符等の綱目に分つて論じ、不娶同姓論・譴承文等を附錄とする。

〖文法授幼鈔〗778（ブンパフジユエウセウ）　書名。六卷。諸家の論文の要語を節取して、屬辭の法式を示した書。

【文班】779（ブンパン）　文官の序列。文職。〔宋史、禮志十九〕文武班尙書上將軍以下、竝先敍二立於殿門之外一、東西相向。

【文範】780（ブンパン）　❶文章の手本。模範文。❷字號。㋑宋、鄧約禮(**11**−**39630**‥202)の字。㋺明、柳楷(**6**−**14662**‥45)の字。

〖文範先生〗781（ブンパンセンセイ）　後漢、陳寔(**11**−**41698**‥366)の諡。

【文繁】782（ブンパン）　かざりの多いこと。〔後漢書、光武十王、濟南安王傳〕文繁者質荒。

【文皮】783（ブンピ）　模樣のある皮。虎豹の皮。〔管子、揆度〕發二朝鮮之文皮一、一策也。〔纂詁〕文皮、虎豹皮也。〔淮南子、墬形訓〕東北之美者、有二斥山之文皮一焉。〔注〕文皮、虎豹之皮也。

【文榌】784（ブンピ）　模樣のあるひさし。〔張衡、西京賦〕三階重軒、鏤檻文榌。〔注〕濟曰、榌、連簷也、言三皆飾爲二文彩一。

〖文榌武帳〗785（ブンピブチヤウ）　文武の官署をいふ。〔江總、華貂賦〕拜二文榌一而影度、陪二武帳一而香浮。

【文魮】786（ブンピ）　魚の名。體は覆銚の如く、鳥首にして魚翼魚尾、其の音磬石の聲の如く、珠玉を生ず。一に鰲魮に作る。〔郭璞、江賦〕文魮磬鳴以孕レ璆。〔注〕善曰、山海經曰、文魮之魚、其狀如レ覆レ銚、鳥首而翼、魚尾、音如二磬之聲一、是生二珠玉一。

【文備】787（ブンビ）　學問上の用意。文教上の設備。武備の對。〔史記、孔子世家〕臣聞、有二文事一者、必有二武備一、有二武事一者、必有二文備一。〔孔子家語、相魯〕有二武事一者、必有二文備一。

【文美】788（ブンビ）　遼、趙思溫(**10**−**37171**‥617)の字。

【文弼】789（ブンピツ）　明、張輔(**4**−**9812**‥672)の字。

【文筆】790（ブンピツ）　❶詩歌文章をつくるわざ。又、それを書きつづつたもの。文墨。〔陳書、姚察傳〕後主所レ製文筆卷軸甚多、乃別寫二一本一付レ察。〔南史、劉師知傳〕好レ學、有二當務才一、博二涉書傳一、工二文筆一、善二儀體一。❷六朝時代、散文を筆といひ、それに對して聲韻・偶語・藻采などの面への整齊に工夫をこらしたものを文といつた。文心雕龍に於ては、無韻のものは筆であり、有韻のものは文であるといつてゐるが、有韻のもののみに限らず、一般に駢儷の整齊をはかつたものをも文と稱した。〔晉書、蔡謨傳〕文筆議論、有レ集行二於世一。〔魏書、文苑、溫子昇傳〕臺中文筆、皆子昇爲レ之。〔北史、文苑、溫子昇傳〕張皐寫二子昇文筆一、傳二於江外一。〔南史、顏延之傳〕竣得二臣筆一、測得二臣文一。〔北齊書、文苑、李廣傳〕義雲、集二其文筆十卷一、託二魏收一爲二之敍一。〔陳書、文學、徐伯陽傳〕年十五、以二文筆一稱。〔文心雕龍、總術〕今之常言、有レ文有レ筆、以爲、無レ韻者筆也、有レ韻者文也。〔金樓子、立言〕揚二搉前言一、抵レ掌多識者謂二之筆一、咏二嘆風謠一、流二連哀思一者謂二之文一。〔劉師培、中古文學史〕是偶語・韻詞、謂二之文一、凡非二偶語・韻詞一、概謂二之筆一、蓋文以二韻詞一爲レ主、無韻而偶、亦得レ稱レ文。〔文鏡祕府論〕文者、詩賦銘頌箴讚弔誄等是也、筆者、詔策移檄章奏書啓也。

〖參考書〗**【文筆策問】**清、阮元撰。〔揅經室集〕。**【文筆辨】**清、章炳麟撰。**【文筆與詩筆】**民國、郭紹虞撰。**【文筆考】**民國、王肇祥撰。

〖文筆塔〗791　wen^{2} pi^{2} tʻa^{3}　筆の形に造つた石柱。風水を善くするために建てる。

〖文筆之才〗792（ブンピツノサイ）　文章に巧な才能。

〖文筆眼心抄〗793（ブンピツガンシンセウ）　書名。一卷。空海撰。文鏡祕府論が披誦するに稍〻記し難いところがあるので、其の要を抄つて一軸の手鏡とした詩文評論の書。編次は必ずしも文鏡祕府論と一致してゐない。誤脫が甚だ多いので、長谷寶秀が冠注文筆眼心抄を撰した。

【文憑】794　wen^{2} pʻing^{2}　かきつけ。文書の憑證。證書。辭令。〔水滸傳、五十五回〕受了行軍統領官文憑、便教收拾鞍馬軍器起身。

【文彬】795（ブンピン）　❶清、滿州正白旗人。姓は輝發那拉氏。字は質夫。咸豐の進士。官は光緒中、漕運總督。〔清史稿、四百五十六〕・〔續碑傳集、二十八〕。❷字號。㋑明、葛泰(**9**−**31420**‥66)の字。㋺明、李質(**6**−**14459**‥406)の字。

【文敏】796（ブンビン）　❶諡號。㋑宋、洪邁(**6**−**17402**‥193)の諡。㋺宋、李邴(**6**−**14459**‥719)の諡。㋩元、元明善(**1**−**1340**‥737)の諡。㋥元、張礎(**4**−**9812**‥509)の諡。㋭元、趙孟頫(**10**−**37171**‥904)の諡。㋬元、林泉生(**6**−**14551**‥371)の諡。㋣明、姚夔(**3**−**6202**‥27)の諡。㋠明、霍韜(**12**−**42321**‥37)の諡。㋷明、崔銑(**4**−**8178**‥117)の諡。㋦明、鄒濟(**11**−**39562**‥23)の追諡。㋸明、詹同(**10**−**35458**‥32)の諡。㋾明、董其昌(**9**−**31433**‥187)の諡。㋻明、馮琦(**12**−**44579**‥38)の諡。㋕明、楊榮(**6**−**15112**‥22)の諡。㋵明、李國槽(**6**−**14459**‥1250)の諡。㋟明、李廷相(**6**−**14459**‥1772)の諡。㋹清、伊里布(**1**−**432**‥190)の諡。㋞清、果斯海(**6**−**14556**‥110)の諡。㋡清、桂芳(**6**−**14755**‥105)の諡。㋧清、嵇曾筠(**4**−**8272**‥18)の諡。㋤清、曹文埴(**5**−**14297**‥307)の諡。㋶清、葉方藹(**9**−**31387**‥250)の諡。㋰清、錢維城(**11**−**40563**‥250)の諡。㋒清、長麟(**11**−**41100**‥894)の諡。㋼清、張照(**4**−**9812**‥473)の諡。㋨清、萬青藜(**9**−**31339**‥607)の諡。㋔清、百齡(**8**−**22679**‥621)の諡。㋗清、楊超曾(**6**−**15112**‥721)の諡。㋳清、王懿榮(**7**−**20823**‥1127)の諡。❷元、王遜志(**7**−**20823**‥1869)の字。

【文愍】797（ブンビン）　諡號。❶明、夏言(**3**−**5720**‥84)の諡。❷明、李默(**6**−**14459**‥758)の諡。

【文夫】798（ブンプ）　明、程質(**8**−**25081**‥60)の字。

【文布】799（ブンプ）　あやのある布。倭文布。〔唐書、東夷、日本傳〕至二煬帝一、賜二其民錦綫冠一、飾以二金玉一、文布爲レ衣、左右佩二銀蘤一、長八寸、以二多少一明二貴賤一。

【文孚】800（ブンプ）　清、滿洲鑲黃旗人。姓は博爾濟吉特氏。字は秋潭。諡は文敬。官は內閣中書。道光中、文淵閣大學士。著に秋潭相國詩存がある。〔清史稿、三百六十九〕・〔清史列傳、三十六〕。

【文府】801（ブンプ）　❶圖書の府。文章の林府。〔王僧達、答二顏延年一詩〕珪璋既文府、精理亦道心。〔注〕濟曰、文府、謂三文章爲二府庫之富一。〔沈約、到二著作省一表〕珥二筆史觀一、記二言文府一。❷星の名。壁星の別名。文籍を主る。〔陳祥道、禮書〕天文東壁爲二文府一。❸書名。二十卷。唐、徐堅撰。文選に漏れた詩賦を集む。〔唐書、藝文志〕。

【文符】802（ブンプ）　納稅の催促書。〔蘇軾、論二積欠一狀〕文符日至二其門一。

【文賦】803（ブンプ）　文章の名。晉の陸機作。文選卷十七に收む。〔陸機、文賦序〕余每レ觀二才士之所レ作、竊有三以得二其用心一、夫其放レ言遣レ辭、良多レ變矣、姸蚩好惡、可二得而言一、每自屬レ文、尤見二其情一、恒患三意不レ稱レ物、云云、故作二文賦一、以述二先士之盛藻一。〔文心雕龍、總術〕昔陸氏文賦、號爲二曲盡一、然汎論二纖悉一、而實體未レ該。

【文部】804（ブンプ）　唐の天寶十一年、吏部を改めて文部と稱し、至德二年舊に復す。〔唐書、百官志一、注〕天寶十一載、改二吏部一曰二文部一。

〖文部卿〗805（モンブキヤウ）　明治十八年の官制改革以前の文部大臣の稱。

〖文部省〗806（モンブシヤウ）　❶古、式部省を改め稱す。〔續日本紀、二十一〕天平寶字二年八月、式部省、總二掌文官考賜一、故改爲二文部省一。❷國務省の一。文部大臣の統轄の下に教育行政の事務を取扱ふ中央官廳。初等中學教育・大學學術・社會教育・調査・管理などの部局に分れてゐる。

〖文部大臣〗807（モンブダイジン）　文部省の長官。教育・學藝に關する一切の事務を管理す。

【文武】808（ブンブ）　❶文の道と武の道。文事と武事。〔詩、小雅、六月〕文武吉甫、萬邦爲レ憲。〔傳〕吉甫、尹吉甫也、有レ文有レ武。〔呂覽、不廣〕文武盡勝、何敵之不レ服。〔韓非子、解老〕故萬物必有二盛衰一、萬事必有二弛張一、國家必有二文武一、官治必有二賞罰一。〔帝範、崇文〕文武二途、捨レ一不可、與レ時優劣、各有二其宜一、武士儒人、焉可レ廢也。〔唐書、王珪傳〕兼二資文武一、出將入相。❷周の文王と武王。〔書、冏命〕昔在文武、聰明齊聖、小大之臣、咸懷二忠良一。〔疏〕昔在文王武王、聰無レ所レ不レ聞、明無レ所レ不レ見。〔禮、雜記下〕子曰、百日之蜡、一日之澤、非二爾所レ知也、張而不レ弛、文武弗レ能也、弛而不レ張、文武弗レ爲也、一張一弛、文武之道也。〔中庸〕周公成二文武之德一、追二王大王王季一。〔左氏、昭、九〕文武成康之建二母弟一、以蕃二屛周一、亦其廢隊是爲。〔孟子、告子上〕文武興、則民好レ善、幽厲興、則民好レ暴。❸鼓と鐘とをいふ。〔禮、樂記〕始奏以レ文、復亂以レ武。〔注〕文謂レ鼓也、武

謂㆑金也。㊃新論(5－13572‥579)の篇名。㊄（モンム）第四十二代の帝謚。

〖文武官〗809（ブンブクワン） 文官と武官。〔考課令〕凡內外文武官初位以上。

〖文武才〗810（ブンブノサイ） 文武兩道に互る才能。〔詩、小雅、菁菁者莪〕汎汎楊舟、載㆑沈載㆑浮、〔箋〕舟者沈物亦載、浮物亦載、喩㆘士君用㆑士、文亦用、武亦用、於㆓人之材㆒無㆖所㆑廢。〔通俗編、武功、文武兼才〕隋書李雄傳、上謂㆑雄曰、以㆔卿兼㆓文武才㆒、今擬㆓推㆑誠相委㆒。〔袁暉、送㆓張說巡㆑邊詩〕欲㆑識恩華盛、平生文武才。

〖文武材〗811（ブンブノザイ） 文武兩道に通じた才能。〔唐書、李光弼傳〕光弼器識宏遠、志懷沈毅、蘊㆓孫吳之略㆒、有㆓文武之材㆒。

〖文武實〗812（ブンブジツ） 桑の實。〔和漢三才圖會、灌木類〕桑椹、一名文武實。

〖文武王〗813（ブンブワウ） 朝鮮、新羅第三十代の王。武烈王の子。名は法敏。唐と聯合して高句麗を滅し、百濟の故地を奪って半島統一の大業を成就した。在位二十年。〔三國史記、六〕。

〖文武一途〗814（ブンブイツト） 文官武官の區別がない。〔日本外史、源氏前記、平氏〕政體簡易、文武一途、擧㆓海內㆒皆兵。

〖文武皇皇〗815（ブンブクワウクワウ） 文武の德の美しく盛なさま。〔桃花扇、入道〕文武皇皇、乘㆓白雲㆒而至止。

〖文武兼備〗816（ブンブケンビ） 學問武藝をかねそなへる。〔漢書、尹翁歸傳〕對曰、翁歸文武兼備、唯所㆓施設㆒。〔唐書、裴行儉傳〕兵不㆑血㆑刃、而叛黨禽夷、可㆑謂㆓文武兼備㆒矣。

〖文武才幹〗817（ブンブノサイカン） 文武兩道に通じた才能。〔國史略、天智天皇〕皇太子爲㆑人魁偉、眼有㆓精耀㆒、博學通㆑古、有㆓文武才幹㆒。

〖文武之勳〗818（ブンブノイサヲ） 文と武のいさを。政治と戰爭とに於けるいさをし。〔蔡邕、黃鉞銘序〕是用鏤㆑石、作㆓茲鉦鉞軍鼓㆒、陳㆓之東階㆒、以昭㆓公文武之勳㆒焉。

〖文武之道〗819（ブンブノミチ） 周の文王武王の道。聖人の道。〔論語、子張〕衞公孫朝、問㆓於子貢㆒曰、仲尼焉學、子貢曰、文武之道、未㆑墜㆓於地㆒、在㆑人、賢者識㆓其大者㆒、不賢者識㆓其小者㆒、莫㆑不㆑有㆓文武之道㆒焉、夫子焉不㆑學、而亦何常師之有。〔應貞、晉武帝華林園集詩〕文武之道、厥猷未㆑墜。

〖文武之悳〗820（ブンブノトク） 文王武王の德。〔漢書、路溫舒傳〕掃㆓亡秦之失㆒、尊㆓文武之悳㆒。

〖文武殊㆑塗〗821（ブンブミチヲコトニス） 文道と武道は其のみちを異にする。〔魏志、三少帝、陳留王奐紀〕文武殊㆑塗、勳烈同㆑歸。

〖文武制度〗822（ブンブノセイド） 文教と武事とに關する諸制度。〔陸海軍軍人に賜はりたる敕諭〕文武の制度、皆唐國風に倣はせ給ひ。

〖文武頓出〗823（ブンブトミニイヅ） 文武の道に秀でたものがにはかに並び出る。〔魏書、景穆十二王、任城王嵩傳〕嵩於㆓爾日㆒、勇冠㆓三軍㆒、高祖大悅而言曰、任城康王大有㆓福德㆒、文武頓出㆓其門㆒、以㆑功賜㆓爵高平縣侯㆒、賚㆓帛二千五百匹㆒。

〖文武百官〗824（ブンブヒヤククワン） 文官武官のあらゆる役人達。〔國史略、高野天皇〕文武百官在㆑列者、悉失㆑色汗㆑背。

〖文武不㆑岐〗825（ブンブワカレズ） 文武の德を兼ね備へる。文武を兼ね修めて、一方にかたより他をすてることをしないこと。〔德川齊昭、弘道館記〕忠孝无㆑二、文武不㆑岐。

〖文武兩道〗826（ブンブリヤウダウ） 學問と武藝の二道。〔李商隱、爲㆓濮陽公陳許㆒謝上表〕貴㆓忠孝之兩全㆒、則忠因移㆑孝、正㆓文武之二道㆒、則武可㆑輔㆑文。

〖文武代爲㆓雌雄㆒〗827（ブンブカハルガハルシユウタリ） 文と武が互に主となり從となる。治世には文が雄となり、武が雌となる類。〔淮南子、氾論訓〕一世之間、而文武代爲㆓雌雄㆒、有㆑時而用也、今世之爲㆑武者則非㆑文也、爲㆑文者則非㆑武也、文武更相非、而不㆑知㆓時世之用㆒也。

〖文武竝用長久之術也〗828（ブンブナラビモチフルハチヤウキウノジユツナリ） 文道と武道を並用するのは國家長久の道である。〔史記、陸賈傳〕且湯武逆取、而以㆑順守㆑之、文武並用、長久之術也。〔魏志、袁渙傳〕今天下大難已除、文武並用、長久之道也。

【文舞】829（ブンブ） ぶんのまひ。武舞(6－16273‥337)の對。〔書、大禹謨〕誕敷㆓文德㆒、舞㆓干羽于兩階㆒、〔傳〕修㆓闡文教㆒、舞㆓文舞于賓主階閒㆒、抑㆓武事㆒。〔唐書、禮樂志十一〕初隋有㆓文舞武舞㆒、至㆓祖孝孫㆒定㆑樂、更㆓文舞㆒曰㆓治康㆒、武舞曰㆓凱安㆒。

【文服】830（ブンプク） 表面だけ服從して心服しないこと。〔資治通鑑、晉紀〕(元帝、永昌元年)光武當㆓創業之初㆒、故隗・竇可㆘以㆓文服㆒從容顧望㆖。〔注〕文服、謂㆘非㆓心服㆒、特以㆓虛文㆒示㆗相臣服㆖而已。

【文馥】831（ブンプク） 後魏、裴芬之(10－34362‥154)の字。

【文物】832（ブンブツ） 文化の生み出したもの。學問・藝術・法律・制度・宗教など。〔左氏、桓、二〕夫德儉而有㆑度、登降有㆑數、文物以紀㆑之、聲明以發㆑之。〔後漢書、南匈奴傳論〕臨㆑之、制㆓衣裳㆒、備㆓文物㆒、加㆓璽紱之綬㆒、正㆓單于之名㆒。〔謝朓、和㆔伏武昌登㆓孫權故城㆒詩〕文物共葳蕤、聲明且葱蒨。〔韓愈、送㆓浮屠文暢師㆒序〕彼見㆓吾君臣父子之懿、文物事爲之盛㆒、其心有㆑慕焉。〔呂祖謙、秦晉遷㆓陸渾㆒論〕伊洛之民、居㆓中華聲明文物之地㆒。〔韓愈、題㆓子美墳㆒詩〕有唐文物盛復全、名書史冊具才賢。

〖文物制度〗833（ブンブツセイド） 文化の産物と制定された法度。禮樂・法律・制度等をいふ。

【文糞】834（ブンフン） 文章の賤陋甚しいもの。〔論衡、自紀〕言金由㆓貴家㆒起、文糞自㆓賤室㆒出、淮南呂氏之無㆓累害㆒、所㆓由出㆒者、家富官貴也。

【文扮】835（ブンプン） 文官の裝束。〔水滸傳、百十九回〕今番太平回㆑朝、天子特命㆓文扮㆒、卻是幞頭公服、入㆑城朝覲。

【文文】836（ブンブン） 獸の名。蜂に似て、枝尾反舌、善く呼鳴する。〔山海經、中山經〕放皐之山、有㆑獸焉、其狀如㆑蜂、枝尾而反舌、善呼、其名曰㆓文文㆒。

【文平】837（ブンペイ） 字號。㊀三國蜀、常播(4－8955‥279)の字。㊁晉、費緝(10－36717‥42)の字。

【文秉】838（ブンペイ） 明の人。震孟の子。字は孫符。號は竺塢遺民。明末の遺事を記して先撥志始を著はす。〔南疆繹史、二十五〕・〔崇禎忠節錄、十〕。

【文柄】839（ブンペイ） 文學、又は文治上の權力。〔姚合、寄㆓陝府內兄郭冏端公㆒詩〕三年住㆓西京㆒、相府執㆓文柄㆒。

【文炳】840（ブンペイ） ㊀模樣の鮮明美麗なこと。〔易、革〕象曰、大人虎變、其文炳也。〔法言、吾子〕聖人虎別、其文炳也。㊁字號。㋑宋、夏廷燁(3－5720‥348)の字。㋺宋、崔瀘(4－8178‥183)の字。㋩元、王磐(7－20823‥900)の字。

〖文炳㆓雕龍㆒〗841（ブンテウリヨウヨリモアキラカナリ） 威儀・文章などが極めて立派なこと。文は、質に對し、其の人の外面に現はれたもの。雕龍は、彫刻して作った龍で、美しく立派なものの喩。〔魏書、高允傳〕高滄朗達、默識淵通、領㆑新悟㆑異、發㆑自㆓心胸㆒、質侔㆓和璧㆒、文炳㆓雕龍㆒、耀㆓姿天邑㆒、衣㆓錦舊邦㆒。

【文陛】842（ブンヘイ） 天子の御殿のきざはし。文理ある石でたたんであるからいふ。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕升㆓降文陛㆒、逶㆓迆魏闕㆒。〔注〕銑曰、文陛、天子殿階也、以㆓文石㆒砌㆑之。

【文敝】843（ブンヘイ） 文道がやぶれすたれる。文弊。〔史記、高祖紀贊〕三王之道若㆓循環㆒、終而復始、周之間、可㆑謂㆓文敝㆒矣。

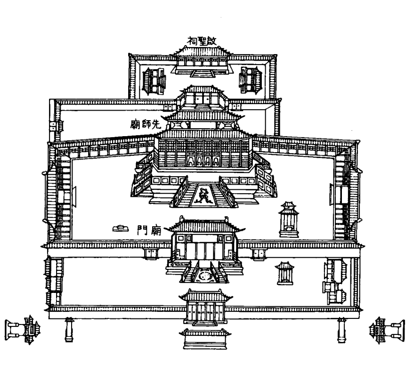
【文聘】844（ブンヘイ） 三國魏、宛の人。字は仲素。謚は壯。官は初、劉表の大將。後、魏の武帝の時、江夏太守。文帝の時、後將軍。新野侯に封ぜらる。〔三國志、十八〕・〔英雄記鈔〕。㊁明、傅應兆(1－939‥149)の字。

【文弊】845（ブンヘイ） 文道が衰へる。〔韓愈、答㆓呂毉山人㆒書〕自㆑周後文弊、百子爲㆑書、各自名㆑家。

【文表】846（ブンペウ） 字號。㊀後漢、王商(7－20823‥526)の字。㊁三國吳、芮玄(9－30731‥7)の字。

【文豹】847（ブンペウ） ㊀まだらのあやある豹。〔埤雅、釋獸、豹〕傳曰、文豹隱㆑霧、十日不㆑食、欲㆘以澤㆓其衣毛㆒、成㆗其文彩㆖、殆謂㆑是也、語曰、豹死留㆑皮、人死留㆑名。〔莊子、山木〕豐狐文豹、棲㆓於山林㆒、伏㆓於巖穴㆒。〔後漢書、東夷、濊傳〕多㆓文豹㆒。〔魏志、東夷、濊傳〕其海出㆓班魚皮㆒、土地饒㆓文豹㆒、又出㆓果下馬㆒、漢桓時獻㆑之。㊁字號。㋑晉、向條(2－3301‥70)の字。㋺明、朱蔚(6－14424‥21)の字。

【文廟】848（ブンベウ） 孔子の廟。明、先師廟を改めて文廟と稱し、清はこれに因り、民國は孔子廟と改む。〔明會典〕永樂八年、文廟明賢繪㆓塑衣冠㆒、令㆑合㆓古制㆒。〔皇朝文獻通考、學校考、祠祭褒贈錄後〕定㆓太學文廟㆒、朔望行㆓釋菜禮㆒、每月初一日、設㆓酒芹棗栗㆒、祭酒官於㆓先師位及四配位前㆒三獻、



文廟總圖（古今圖書集成）

十哲兩廡位前以二監丞博士等官一分獻、次詣二啓聖祠一行レ禮分獻、官亦隨行レ禮、十五日司業上レ香行レ禮、與二朔日一同。

〔參考書〕【闕里誌】二十四卷 明、陳鎬撰。【闕里廣志】二十卷 清、宋際・李慶長撰。【文廟通考】六卷 牛樹梅撰。【孔廟從祀末議】清、閻若璩撰。（昭代叢書、第六十冊）。【文廟從祀先賢先儒考】一卷 清、郎廷極撰。（學海類編、第七十八冊）。【文廟從祀弟子贊】一卷 清、盧存心撰。（昭代叢書、第八十六冊）。

【文璧】849 ブンペキ ❶字號。㋑元、宋尹文(**3**－**7078**‥224)の字。㋺明、饒瑄(**12**－**44400**‥36)の字。㋩明、馬琬(**12**－**44572**‥39)の字。㋥明、裴日英(**10**－**34362**‥136)の字。❷明、文徵明(1022)の初名。

【文編】850 ブンヘン ❶書名。六十四卷。明、唐順之撰。五代周から宋に至る文を編纂し、三十三體に分錄す。制策・對・諫疏・論疏・疏・疏請・疏議・封事・表・奏・上書・說・劄子・狀・論・年表論斷・論斷・議・雜著・策・辭命・書・啓・狀・序・記・神道碑・碑銘・墓誌銘・墓表・傳・行狀・祭文。〔四庫提要、集、總集類〕。❷唐、唐次(**2**－**3709**‥159)の字。

【文變】851 ブンペン 書名。一卷。荻生徂徠撰。文章に關する意見を述べたもの。

【文勉】852 ブンベン 字號。❶明、于懋(**1**－**252**‥89)の字。❷明、李勖(**6**－**14459**‥214)の字。

【文冕】853 ブンベン 明、孫紘(**3**－**6987**‥84)の字。

【文辯】854 ブンベン 文章と辯說。〔漢書、鄒陽傳〕陽與二吳嚴忌・枚乘等一俱仕レ吳、皆以二文辯一著レ名。〔淮南子、道應訓〕治レ國在レ禮、不レ在二文辯一。

【文父】855 ブンポ 後漢、楊厚(**6**－**15112**‥152)の私「諡。

【文甫】856 ブンポ 字號。❶元、趙賁亨(**10**－**37171**‥868)の字。❷明、黃宏憲(**12**－**47926**‥1056)の字。❸明、朱鴻謨(**6**－**14424**‥781)の字。❹明、呂申(**2**－**3386**‥97)の字。

【文圃】857 ブンポ ❶文學をまなぶ處。文學の社會。文囿。文苑。文林。〔沈約、齊臨川王行狀〕洽二貫書場一、該二緯文圃一。〔駱賓王、上二郭贊府一啓〕家傳二素業一、弋二書林一而騁レ志、少奉二庭闈一、踐二文圃一以漁レ魂。❷字號。㋑清、談友仁(**10**－**35633**‥80)の號。㋺清、張超(**4**－**9812**‥576)の字。

【文畝】858 ブンポ 紙の異名。〔事物異名錄、文具、紙〕清異錄、薛濤四友贊曰、入二文畝一以休休、按、文畝謂レ紙也。

【文輔】859 ブンポ 字號。❶明、閻佐(**11**－**41379**‥12)の字。❷明、俞友仁(**1**－**1437**‥79)の字。

【文母】860 ブンボ ❶文王の妃、太姒。太姒(**3**－**5834**‥240)を見よ。〔詩、周頌、雝〕既右二烈考一、亦右二文母一。〔傳〕文母、太姒也。〔王引之、詩述聞〕傳以二文母一爲二大姒一者、以二上文皇考是文王、則文母當レ爲二大姒一、非レ謂下因二文王一而稱中文母上也、列女傳母儀傳、大姒仁而明レ道、號曰二文母一、然則文母之稱、專美二大姒之文德明一矣、漢書元后傳、大皇大后、當レ爲二新室文母大皇大后一、後漢書鄧騭傳、伏惟和熹皇后、聖善之德、爲二漢文母一、何敞傳、伏惟皇大后秉二文母之操一、皆本二周頌一爲レ義、漢書杜鄴傳、雖レ有二文德之母一、必繫二於子一、顏注、文王之妃大姒、劉奉世・胡三省、則皆以爲二文王之母大任一、不レ知下文母爲二文德之母一、不中因二文王一而稱上之也。〔陳奐傳疏〕王說是也、杜鄴傳所レ云、雖レ有二文德之母一、心繫二於子一、正本下此詩先二武王一後二大姒一之義上。〔漢書、杜鄴傳〕雖レ有二文母之德一、必繫二於子一。〔列女傳、母儀、周室三母傳〕太姒最賢、號曰二文母一。❷漢の王莽が元后に奉った稱。〔漢書、元后傳〕更命二太皇太后一、爲二新室文母太皇太后一、協二于新室一。❸漢の朱寵が和熹皇后を稱した語。〔後漢書、鄧騭傳〕朱寵上疏追二訟騭一曰、伏惟和熹皇后、聖善之德、爲二漢文母一、兄弟忠孝、同心愛國、云云、當レ享二積善履謙之祐一、而横爲二宮人單詞所一レ陷。

【文簿】861 ブンボ かきもの。帳面。〔後漢書、公孫瓚傳〕其文簿書記、皆汲而上レ之。〔晉書、荀晞傳〕晞練二於官事一、文範盈積、斷決如レ流。

【文峰】862 ブンポウ 明、伍佐(**1**－**435**‥16)の字。

【文鋒】863 ブンポウ 文の勢氣。文章の鋒先。〔劉長卿、洛陽主簿叔知和驛承レ恩赴レ選伏辭詩〕器宇溟渤寬、文鋒鏌鋣利。

【文寶】864 ブンポウ 漢、孫敬(**3**－**6987**‥95)の字。

【文木】865 ブンボク 役に立つ立派な木。散木の對。〔莊子、人閒世〕櫟社見レ夢曰、女將二惡乎比一レ予哉、若將レ比二予於文木一邪。〔注〕凡可レ用之木爲二文木一。〔漢中山王、文木賦〕魯恭王得二文木一枝一、伐以爲レ器、意甚玩レ之。

〔文木山房〕866 ブンボクサンバウ 清、吳敬梓(**2**－**3365**‥52「6)の室名。

【文墨】867 ブンボク 文筆。又、文辭。文學。又、法律。〔史記、蕭相國世家〕今蕭何未三嘗有二汗馬之勞一、徒持二文墨一議論、不レ戰。〔漢書、杜周傳贊〕張湯・杜周、竝起二文墨小吏一。〔新序、節士〕信二文墨一、不レ察二是非一。〔蜀志、諸葛亮傳〕公誠之心、形二于文墨一。〔劉楨、雜詩〕職事煩塡委、文墨紛消散。〔北史、王世充傳〕明二習法律一、而舞二弄文墨一、高下在レ心。〔宋史、文苑七、韓駒傳〕若止作二制誥一、則粗知二文墨一者、皆可レ爲。

〔文墨職〕867′ ブンボクノショク 文學の職。文章の起草などを掌る官職。〔謝朓、寄二宋記室省中一詩〕清揚婉禁居、祕二此文墨職一。〔江淹、雜體、劉文學楨感懷詩〕謬蒙二聖主私一、託二身文墨職一。

【文穆】868 ブンボク ❶後漢の人。官は烏桓校尉。太原上谷の兵を帥ゐ、竇固に從つて西域を伐つ。〔後漢書、五十三〕。❷諡號。㋑晉、何充(**1**－**511**‥102)の諡。㋺晉、郗愔(**11**－**39413**‥1)の諡。㋩南燕、封孚(**4**－**7426**‥164)の諡。㋥南朝宋、劉延孫(**2**－**2224**‥714)の諡。㋭後魏、李沖(**6**－**14459**‥587)の諡。㋬北齊、陳元康(**11**－**41698**‥823)の諡。㋣五代吳越、錢元瓘(**11**－**40563**‥297)の諡。㋠宋、侯蒙(**1**－**633**‥86)の諡。㋷宋、蔣之奇(**9**－**31820**‥165)の諡。㋦宋、范成大(**9**－**30834**‥220)の諡。㋸宋、呂蒙正(**2**－**3386**‥269)の諡。㋾宋、王欽若(**7**－**20823**‥1329)の諡。㋻元、靳德進(**12**－**42728**‥34)の諡。㋕元、曹鑑(**5**－**14297**‥35)の諡。㋵元、張起巖(**4**－**9812**‥899)の諡。㋟元、杜仁傑(**6**－**14477**‥352)の諡。㋹元、滕安上(**7**－**18036**‥44)の諡。㋞元、雷膺(**12**－**42245**‥158)の諡。㋡元、李稷(**6**－**14459**‥466)の諡。㋧元、呂㙻(**2**－**3386**‥8)の諡。㋤明、敖文禎(**5**－**13226**‥36)の諡。㋶明、許國(**10**－**35298**‥87)の諡。㋰明、胡廣(**9**－**29400**‥100)の諡。㋒明、成基命(**5**－**11544**‥331)の諡。㋼明、傅瀚(**1**－**939**‥22)の諡。㋨明、劉吉(**2**－**2224**‥171)の諡。㋔明、林釬(**6**－**14551**‥50)の諡。㋗清、徐本(**4**－**10110**‥289)の諡。㋳清、馬齊(**12**－**44572**‥352)の諡。

〔文穆皇帝〕869 ブンボククワウテイ 後魏、元勰(**1**－**1340**‥184)の追諡。

【文魔】870 wen^2 mo^2 文學狂。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇〕文魔秀士、風欠酸丁。〔燕子箋、寫像〕只是小生下界文魔。

【文罔】871 ブンマウ おきて。法禁。文網。法網。〔史記、游俠傳序〕雖三時扞二當世之文罔一、然其私義廉潔退讓、有二足レ稱者一。〔注〕索隱曰、違二扞當世之法網一、謂レ犯二法禁一也。

【文盲】872 モンマウ 目に一丁字もないこと。一文不通。又、其の者。あきめくら。無學文盲。

【文網】873 ブンマウ 文罔に同じ。〔經學歷史、經學中衰時代〕文人學士、亦扞二文網一。

【文幕】874 ブンマン 錢の兩面。文は模樣。幕は平らかで模樣の無いこと。〔漢書、西域、罽賓國傳〕以二金銀一爲レ錢、文爲二騎馬一、幕爲二人面一。〔注〕張晏曰、錢文面、作二騎馬形一、漫面作二人面目一也、如淳曰、幕、音漫、師古曰、幕、卽漫耳、無レ勞二借音一、今所レ呼幕皮者、亦謂二其平而無一レ文也。

【文脈】875 ブンミヤク 文章中のすぢみち。文理。

【文無】876 ブンム 草の名。當歸(**7**－**21890**‥25)の異名。人を招いて贈るに用ひる。〔古今注、問答釋義〕牛亨問曰、將二離別一、相贈以二芍藥一者何、答

曰、芍藥、一名可離、故將㆑別以贈㆑之、亦猶㆔相招召贈㆑之以㆓文無㆒、文無亦名㆓當歸㆒也、欲㆑忘㆓人之憂㆒、則贈以㆓丹棘㆒、丹棘、一名忘憂草、使㆔人忘㆓其憂㆒也、欲㆑蠲㆓人之忿㆒、則贈㆓之青堂㆒、青堂、一名合懽、合懽則忘㆑忿。

〖文無害〗877 ブンムガイ　法律に通じてゐて、而も其の適用を公平にすること。害は、法を惡用して人を害する意。一說に、無害は、公平の意。文は、文理。〔史記、蕭相國世家〕蕭相國何者、沛豐人也、以㆓文無害㆒爲㆓沛王吏掾㆒。〔注〕集解曰、漢書音義曰、文無害、有㆑文無㆑所㆓枉害㆒也、律有㆓無害都吏㆒、如㆔今言㆓公平吏㆒、一曰、無害者、如㆑言㆓無比㆒、陳留閒語也、索隱曰、應劭云、雖㆑爲㆑吏而不㆓刻害㆒、韋昭云、爲㆘有㆓文理㆒無㆗傷害㆖也。

【文名】878 ブンメイ　❶節文威儀をいふ。〔荀子、正名〕後王之成㆑名、刑名從㆑商、爵名從㆑周、文名從㆑禮。〔注〕文、謂㆓節文威儀㆒。❷飾つた名。立派な名。一說に、文は之の誤。この名の義。〔墨子、經說上〕告以㆓文名㆒擧㆓彼實㆒也。〔閒詁〕文名、言㆘以㆓文飾㆒爲㆖名、又疑此篇、之字多誤爲㆑文、此文名亦當㆑作㆓之名㆒、之名猶㆑言㆓是名㆒、與㆓彼實㆒文相對、亦通。❸文章がうまいといふ評判。文章に秀でてゐるといふ名聲。

【文命】879 ブンメイ　❶文德の敎へ。文德敎命。文敎。〔書、大禹謨〕文命敷㆓于四海㆒、祗承㆓于帝㆒。〔傳〕布㆓文德敎命㆒。❷夏の禹王の名。〔史記、夏紀〕夏禹、名曰㆓文命㆒。〔注〕正義曰、大戴禮云、高陽之孫、鯀之子、曰㆓文命㆒。

【文明】880 ブンメイ　❶文采があり、光り輝くこと。〔易、乾〕見龍在㆑田、天下文明。〔疏〕陽氣在㆑田、始生㆓萬物㆒、故天下有㆓文章㆒而光明也。❷德や敎養があつて立派なこと。〔書、舜典〕濬哲文明。〔蔡傳〕文理而光明。〔袁宏、三國名臣序贊〕文明映㆑心、鑽㆑之愈妙。〔注〕善曰、孫卿子曰、君子通則文而明。❸文采が現はれ出る。〔易、賁〕文明以止、人文也。〔吳澂注〕文明者、文采著明、在㆑人、五典之敍、五禮之秩、粲然有㆑文、而安㆓其所㆑止、故曰㆓人文㆒也。❹文采が輝く。〔史記、樂書〕情深而文明。〔注〕正義曰、樂爲㆓德華㆒、故云㆓文明㆒。❺㋑人知が進んで世の中が進んだ狀態。人文が發達して光明のあること。文化。〔管子、侈靡〕美㆓壟墓㆒、所㆓以文明㆒也。㋺文化を狹義に、宗教・道德・學藝等の純粹精神文化と解し、之に對して、技術、又は物質文化を指していふ。❻年號。㋑唐、睿宗（李旦）の時。（684）㋺第百三代、後土御門天皇の時。（1469－1487）❼字號。㋑南齊、劉靈哲（**2－2224**··1364）の字。㋺梁、賀革（**10－36725**··11）の字。㋩梁、蕭映（**9－32012**··15）の字。㋥唐、韋絢（**12－43108**··44）の字。㋭唐、韋丹（**12－43108**··107）の字。㋬唐、高重（**12－45313**··669）の字。㋣唐、義淨（**9－28504**··114）の字。㋠唐、鄭絪（**11－39647**··13）の字。㋷明、應顯（**4－11330**··27）の字。㋦明、吳彤（**2－3365**··337）の字。㋸明、焦顯（**7－19119**··34）の字。㋾明、蕭顯（**9－32012**··108）の字。㋻明、方旰（**5－13620**··109）の字。❽北齊、徐之才（**4－10110**··446）の諡。

〖文明史〗881 ブンメイシ　文明の發達・變遷を記した歷史。文化史。

〖文明開化〗882 ブンメイカイクヮ　學問が進み世の中が開けること。文化(216)の❷に同じ。

〖文明皇帝〗883 ブンメイクヮウテイ　前燕、慕容皝（**4－11088**··58）の諡。

〖文明太后〗884 ブンメイタイコウ　後魏、馮后（**12－44579**··71）の諡。

〖文明王皇后〗885 ブンメイワウクヮウゴウ　晉、王后（**7－20823**··390）の❺の諡。

〖文明東漸史〗886 ブンメイトウゼンシ　書名。藤田茂吉撰。內篇は天文以後、天保年間の末に至るまでの我が國に西洋文明が輸入された經過を記し、外篇は渡邊崋山・高野長英の夢物語・鳥の鳴音等を收め、崋山及び長英の傳を附す。

【文鳴】887 ブンメイ　明、陳鳳梧（**11－41698**··1254）の字。

【文面】888 ブンメン　❶顏にいれずみをする。いれ墨した顏。〔唐書、南蠻傳上〕文面、濮俗鏤㆑面以㆑青涅㆑之。❷錢の、模樣のある面。文幕(874)を見よ。❸文章の上にあらはれてゐる意味。文章に記してある趣旨。

【文目】889 アヤメ　模樣。すぢ。條理。差別。〔源氏物語、螢〕あやめも分かず流れける根の。

【文野】890 ブンヤ　文明と野蠻。開化と未開。

【文洋】891 ブンヤウ　陳、袁泌（**10－34152**··132）の字。

【文約】892 ブンヤク　❶文章の簡約なこと。〔史記、屈原傳〕屈平之作㆓離騷㆒、蓋自㆑怨生也、其文約、其辭微、其志潔、其行廉。〔漢書、景十三王、河間獻王德傳〕得㆓事之中㆒、文約指明。❷字號。㋑後漢、韓遂（**12－43159**··137）の字。㋺梁、蕭勵（**9－32012**··280）の字。㋩宋、鄧綰（**11－39630**··114）の字。❸wên² yüeh¹ 契約書。

【文雄】893 ブンユウ　❶文章に秀でた人。文宗。文豪。〔論衡、佚文〕孝明世好㆓文人㆒、並徵㆓蘭臺之官㆒、文雄會聚。〔唐玄宗、贊㆓張說㆒詩〕既調㆓飾鶴㆒、又擅㆓雕龍㆒、有㆑典有㆑則、是爲㆓文雄㆒。〔楊烱、送㆓劉校書從㆑軍詩〕坐謀資㆓廟略㆒、飛檄佇㆓文雄㆒。❷北齊、薛震（**9－32123**··86）の字。

【文裕】894 ブンユウ　❶字號。㋑宋、張掞（**4－9812**··69）の字。㋺元、盛洪（**8－23005**··74）の字。❷諡號。㋑明、黃佐（**12－47926**··390）の諡。㋺明、桂彥良（**6－14755**··140）の追諡。㋩明、白鉞（**8－22678**··104）の諡。㋥明、陸深（**11－41708**··154）の諡。

【文融】895 ブンユウ　明、孫鐄（**3－6987**··86）の字。

【文輿】896 ブンヨ　❶文彩を施した輿。〔陶潛、詠㆓三良㆒詩〕出則陪㆓文輿㆒、入必侍㆓丹帷㆒。❷清、席啓圖（**4－8926**··75）の字。

【文譽】897 ブンヨ　文章に巧みなことのほまれ。名文のほまれ。能文の評判。文名。文聲。〔皮日休、和㆓魯望㆒詩〕唯我與㆑君堪㆓便戒㆒、莫㆘將㆓文譽㆒作㆗生涯㆖。〔宋史、陳宜中傳〕性特俊拔、既入㆓太學㆒、有㆓文譽㆒。

【文用】898 ブンヨウ　明、秦逵（**8－24995**··35）の字。

【文螺】899 ブンラ　ほらがひ。殼に模樣があるからいふ。〔南史、夷貊上、海南諸國、婆利國傳〕婆利國、在㆓廣州東海中洲上㆒、草木常榮、海出㆓文螺・紫貝㆒。〔唐書、南蠻下、婆利傳〕產㆓瑇瑁・文螺・石坩㆒。

【文狼】900 ブンラウ　蠻族の名。室宅なく樹上に巢居し、生魚肉を食し、採香を業とする。〔水經、溫水注〕朱吾以南有㆓文狼人㆒、野居無㆓室宅㆒、依㆑樹止宿、食㆓生魚肉㆒、採㆑香爲㆑業、與㆑人交市、若㆓上皇之民㆒矣、縣南有㆓文狼究㆒。

【文朗】901 ブンラウ　後魏、刁冲（**2－1846**··40）の字。

【文瀾】902 ブンラン　字號。❶明、閻生斗（**11－41379**··85）の字。❷明、江瀾（**6－17140**··425）の字。❸清、李瀚（**6－14459**··165）の字。❹清、李觀（**6－14459**··270）の字。

【文鸞】903 ブンラン　❶唐の藝妓の名。〔劉長卿、贈㆓妓文鸞㆒詩〕文鸞蕭灑美如㆑玉、眉畫㆓春山㆒螺黛綠。❷三國吳、芮良（**9－30731**··17）の字。

【文吏】904 ブンリ　❶武官以外の役人。文官。文臣。刀筆吏。〔後漢書、光武紀下〕帝退㆓功臣㆒而進㆓文吏㆒、戢㆓弓矢㆒而散㆓馬牛㆒。❷法律を司る役人。〔史記、馮唐傳〕文吏以㆑法繩㆑之、其賞不㆑行、而吏奉㆑法必用。〔漢書、何武傳〕然武疾㆓朋黨㆒、問㆓文吏㆒必於㆓儒者㆒、問㆓儒者㆒必於㆓文吏㆒、以相參檢。

【文狸】905 ブンリ　斑紋のあるたぬき。虎斑紋・貓斑紋等がある。又、文貍に作る。〔楚辭、九歌、山鬼〕乘㆓赤豹㆒兮從㆓文貍㆒、辛夷車兮結㆓桂旗㆒。〔集注〕貍、一作㆑狸。〔補注〕貍有㆓虎斑文者㆒、有㆓貓斑者㆒、河伯云、乘㆓白黿㆒兮逐㆓文魚㆒、山鬼云、乘㆓赤豹㆒兮從㆓文貍㆒、各以㆓其類㆒也。〔王安石、小姑詩〕初學㆓水仙㆒騎㆓赤鯉㆒、竟尋㆓山鬼㆒從㆓文貍㆒。

【文理】906 ブンリ　❶すぢめ。あや。條理。又、もやうのあること。〔禮、三年問〕壹使㆑足㆔以成㆓文理㆒、則釋㆑之矣。〔孫希旦集解〕文、謂㆓文章㆒、理、謂㆓條理㆒、三年之中、有㆓殯葬虞祔練祥之禮㆒、而使㆘之足㆔以成㆓文章㆒、有㆗變除之節㆖、而使㆕之足㆔以成㆓條理㆒、如㆑此、則可㆔以除㆓去其服㆒矣。〔中庸〕文理密察、足㆓以有㆑別也。〔章句〕文、文章也、理、條理也。〔管子、水地〕鳥獸得㆑之、形體肥大、羽毛豐茂、文理明著。〔纂詁〕文理、謂㆓羽毛爲㆑文者㆒。〔荀子、仲尼〕非㆑致㆓隆高㆒也、非㆑綦㆓文理㆒也。〔注〕非㆑極㆑有㆓文章條理㆒也。❷文辭の義理。〔舊唐書、陸扆傳下〕揮㆑翰如㆑飛、文理俱愜。〔金史、世宗紀〕取㆓文理優贍者㆒補㆓充學士院職㆒。❸字號。㋑後漢、劉瓆（**2－2224**··330）の字。㋺明、袁政（**10－34152**··92）の字。❹wen² li³ 引用して談話の中に交へた經書史冊の語。

〖文理科〗907 ブンリクヮ　文科と理科。

〖文理科大學〗908 ブンリクヮダイガク　單科大學の一。大學令に基づき、文科及び理科に關する高等な學術の

理論及び應用を授ける官立大學。昭和四年、高等師範學校を昇格させて、東京と廣島に置いたが、新制では廢止した。

【文履】909 ブンリ　裝飾を加へた履物。〔說苑、反質〕豈無三文履一奇以易二十稷之繡一哉。〔曹植、洛神賦〕踐二遠遊之文履一。

【文驪】910 ブンリ　美しい黑色の馬。〔王融、法樂辭、得道歌〕靑禽承二逸軌一、文驪鏡二重川一。

【文流】911 ブンリウ　文學を弄ぶこと。又、其の人々。〔北史、裴慶孫傳〕性雖二粗武一、愛二好文流一、與二諸才學之士一、咸相交結。

【文立】912 ブンリツ　晉、臨江の人。蜀漢の時、太學に遊び、毛詩・三禮を傳へ、譙周に師事す。官は泰始中、太子中庶子。〔晉書、九十一〕

【文律】913 ブンリツ　㊀文章の音律。〔晉書、文苑傳序〕言泉會二於九流一、文律諧二於六變一。〔陸機、文賦〕普三辭條與二文律一。〔注〕濟曰、普見三文章之條流、及與二音律一。㊁法文律令。〔後漢書、方術上、樊英傳論〕力詐可三以救二論敝一、文律足三以致二寧平一。

【文良】914 ブンリヤウ　諡號。㊀清、高其倬(12－45313‥1082)の諡。㊁清、胡煦(9－29400‥92)の諡。

【文亮】915 ブンリヤウ　字號。㊀後魏、裴粲(10－34362‥40)の字。㊁明、韓鏞(12－43159‥225)の字。

【文量】916 ブンリヤウ　明、陸容(11－41708‥239)の字。

【文略】917 ブンリヤク　文句の省略。〔儀禮、鄕飮酒禮、主人立二于西階東一、疏〕案、上獻レ賓薦設之時、主人云二疑立一、此不レ言者、文略也。

【文曆】918 ブンリヤク　第八十七代、四條天皇の年號。(1234－1235)〔藤原家光勘文〕唐書曰、掌二天文曆數一。

【文陵】919 ブンリヨウ　陵の名。後漢の靈帝の陵。河南省洛陽縣の東北。〔後漢書、靈帝紀〕(中平六年六月)辛酉、葬二孝靈皇帝於文陵一。〔注〕在二洛陽西北三十里一、陵高十二丈、周回三百步。〔河南通志〕文陵、在二河南府城東三十里一。

【文綾】920 ブンリヨウ　あやぎぬ。文繒。〔唐書、地理志二〕河南府河南郡、土貢文綾・繒穀・絲葛。

【文龍】921 ブンリヨウ　北齊の梁昱が從弟愔の文藻あるを稱した語。〔海錄碎事、人事、兄弟〕北齊梁愔、爲二從兄昱所一レ重、曰、是兒我家文龍。

【文林】922 ブンリン　㊀文學者の集るところ。文士の淵藪。文苑。文壇。〔後漢書、崔駰傳論〕崔氏世有二美才一、兼以三沈二淪典籍一、遂爲二儒家文林一。㊁詩文を集めたもの。文集。〔林下偶談、歐公文林〕歐公凡遇二後進投レ卷可レ採者一、悉錄爲二一冊一、名曰二文林一、公爲二一世文宗一、於二後進片言隻字一、乃珍重如レ此、今人可二以鑒一矣。㊂明の人。洪の子。字は宗儒。成化の進士。太僕寺丞に歷任し、時政十四事を建言す。病を告げて歸り、後、復た溫州の守となる。尤も易に邃し。著に瑯琊漫鈔・文溫州集がある。〔明史、一百八十七〕・〔國朝獻徵錄、八十五〕・〔明人小傳、二〕・〔本朝分省人物攷、八十二〕・〔明詩綜、二十四〕。㊃茶入壺の一種。〔和漢三才圖會、庖厨具〕碾茶壺、高二三寸、大者四五寸、小坩可三以盛二碾茶一、形狀名目數品難二勝計一、所謂文林・肩衝・小茄子云云。㊄字號。㋑後漢、桓曄(6－14774‥9)の字。㋺三國魏、顏斐(12－43591‥95)の字。㋩明、張芹(4－9812‥211)の字。

〖文林果〗923 ブンリンクワ　林檎の異名。唐の王方言が栽培した林檎を高宗に獻上したところ、高宗が大いに珍重して文林郎を賜つたのでいふ。〔洽聞記〕唐魏郡人、王方言、嘗于二河灘一、拾二得一小樹一栽レ之、及レ長乃林檎也、實大如二黃瓠一、色白如レ玉、間以二朱點一、有三得レ之貢二于高宗一、上大重レ之、賜二王方言文林郎一、亦號二此果一爲二文林果一。

〖文林館〗924 ブンリンクワン　官署の名。北齊、置く。文學の士を徵して此處に置き、著述のことを掌らしめた。後の翰林院に當る。文林郎を見よ。〔稱謂錄、翰林院、文林館〕隋書李德林傳、齊王留二情文雅一、召二德林一入二文林館一、令下與二黃門侍郎顏之推一二人同判中文林館事上。〔歷代職官表、翰林院、北齊〕謹案、顏之推傳稱、齊文林館所レ進文章、皆封二署於進賢門一奏レ之、待レ報方出、是所レ掌爲二文章供奉之事一、蓋猶二今之內廷翰林一也。〔通典、職官、中書令集賢學士〕漢魏以來祕書省有二其職一、梁武帝於二文德殿內一、列二藏衆書一、北齊有二文林館學士一、後周有二麟趾殿學士一、皆掌二著述一。

〖文林郎〗925 ブンリンラウ　㊀官名。隋、置く。散官。北齊の文林館の職に因つて設く。歷代、之に因り、明清は、七品階を封じて文林郎とした。〔通典、職官、文散官、光祿大夫以下〕文林郎、隋置二散官一、蓋取下北齊文林館徵二文學之士一、以充レ之義上、大唐因レ之。㊁少初位上の唐名。〔職原抄〕少初位上、唐名、文林郎。

〖文林綺繡〗926 ブンリンキシウ　叢書の名。文章の佳句を集錄したもの。凡て五種。其の目は、左國腴辭（八卷）・太史華句（八卷）(明、凌迪知)・文選錦字（二十一卷）(明、凌稚隆)・兩漢雋言（十六卷）(宋、林越・明、凌迪知補)・楚騷綺語（六卷）(明、張之象)。

〖文林閣傳奇〗927 ブンリンカクデンキ　叢書の名。明、文林閣編。還魂記・蕉帕記・四美記・魚籃記・義俠記・浣紗記・雲台記・珍珠記・易鞋記・袁文正還魂記の十種の戲曲を叢輯する。

【文綸】928 ブンリン　明、張緒(漢川の人)(4－9812‥420)の字。

【文鱗】929 ブンリン　㊀魚鱗の模樣。〔司馬相如、上林賦〕瑉玉旁唐、玢豳文鱗。〔注〕濟曰、玢豳・文鱗、玉文理也。㊁うつくしい魚。〔柳宗元、登二蒲州石磯一望二横江口一潭島深迴斜對二香零山一詩〕浮暉翻二高禽一、沈景照二文鱗一。㊂文章・手紙の類をいふ。〔李商隱、題二二首後一重有三戲贈二任秀才一詩〕虛爲二錯刀一留二遠客一、枉緣二書札一損二文鱗一。

【文令】930 ブンレイ　㊀文教の意。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕偃二閉武術一、闡二揚文令一。〔注〕良曰、言下偃二武道一開中學文學之政令上。㊁清、史簡(2－3249‥28)の字。

【文例】931 ブンレイ　文章の作り方または書き方などの實例。

【文禮】932 ブンレイ　㊀人に接する禮容をいふ。〔韓詩外傳、四〕文禮謂二之容一、禮容文義生、以レ治爲レ法。〔新書、修政語下〕諸侯接レ士、而使三吏禮二恭於人一者、謂二之文禮一矣。㊁後漢、邊讓(11－39216‥99)の字。㊂唐、殷聞禮(6－16627‥211)の一名。

【文麗】933 ブンレイ　あやがあつてうるはしい。文章華麗。〔韓非子、亡徵〕喜二淫刑一而不レ周二於法一、好二辯說一而不レ求二其用一、濫二於文麗一而不レ顧二其功一者可レ亡也。

【文靈】934 ブンレイ　後魏、鄭羲(11－39647‥66)の諡。

【文烈】935 ブンレツ　㊀諡號。㋑後漢、楊賜(6－15112‥183)の諡。㋺後魏、元順(1－1340‥315)の諡。㋩後魏、李平(6－14459‥717)の諡。㋥後魏、董徵(9－31433‥130)の諡。㋭明、何騰蛟(1－511‥352)の諡。㋬明、項志寧(12－43343‥68)の私諡。㋣明、張家玉(4－9812‥845)の諡。㋠明、汪偉(休寧の人)(6－17154‥2)の諡。㋷清、陸鍾琦(11－41708‥365)の諡。㊁三國魏、曹休(5－14297‥45)の字。

〖文烈帝〗936 ブンレツテイ　金、太宗の諡。完顏晟(3－7079‥32)を見よ。

【文練】937 ブンレン　あやあるねりぎぬ。〔喬知之、從軍行〕曲房理二鍼線一、平砧擣二文練一。

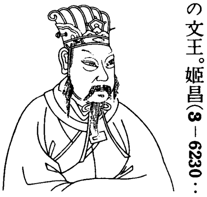
【文璉】938 ブンレン　明、伍鈍(1－435‥29)の字。

【文祿】939 ブンロク　第百七代、後陽成天皇の年號。(1592－1596)〔菅原盛長勘文〕杜氏通典、祿秩卷、貞觀二年制注曰、凡京文武官每歲給レ祿。

【文和】940 ブンワ　㊀北朝第四代、後光嚴天皇の年號。(1352－1356)〔菅原在成勘文〕吳志曰、文和二於內一、武信二于外一。㊁字號。㋑後漢、玄賀(7－20814‥44)の字。㋺三國魏、賈詡(10－36755‥38)の字。㋩晉、鄭沖(11－39647‥218)の字。㋥梁、柳慶遠(6－14662‥247)の字。㊂諡號。㋑明、尹直(4－7631‥73)の諡。㋺明、張廷玉(4－9812‥1377)の諡。㋩明、劉珝(2－2224‥194)の諡。㋥清、沈兆澐(6－17189‥609)の諡。㋭清、張允隨(4－9812‥788)の諡。㋬清、張祥河(4－9812‥1162)の諡。

【文話】941 ブンワ　㊀文語。㊁文章に關する談話。詩話・歌話・俳話などに對していふ。また文學に關する談話。史話などに對していふ。

【文王】942 ブンワウ　㊀周の文王。姬昌(3－6230‥52)を見よ。〔詩、大雅、文王〕穆穆文王、於緝熙敬止。〔論語、子罕〕子畏二於匡一、曰、文王既沒、文不レ在レ茲乎。〔孟子、梁惠王上〕文王以二民力一爲レ臺爲レ沼、民歡二樂之一。〔史



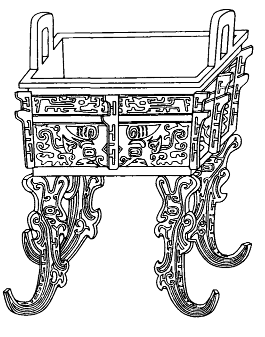
周文王（三才圖會）

記、周紀〕公季卒、子昌立、是爲二西伯一、西伯曰二文王一、遵二后稷公劉之業一、則二古公公季之法一、篤レ仁敬レ老慈レ少、禮二下賢者一、日中不レ暇レ食以待レ士、士以レ此多歸レ之、云云、後十年而崩、謚爲二文王一。❷詩經、大雅文王之什の篇名。文王が天命を受けて周邦を興したことを歌つたもの。〔詩、大雅、文王序〕文王、文王受レ命作レ周也。❸春秋、楚の王。楚文王(**6－1541‥178**)を見よ。

〖文王課〗943（ブンワウクワ）　京房・管輅等の占易の術。錢を以て蓍に代へ、單拆重交を以て卦爻の陰陽動靜を定め、卦爻を以て用神とした。而して、三百八十四爻は、伏羲の八卦を文王が敷衍して作つたとの傳説に本づいて、此の占術を俗に文王課といふ。單拆重交(**2－3993‥336**)を見よ。

〖文王操〗944（ブンワウサウ）　樂府、琴曲歌辭の名。周の文王の作。紂、無道を行ひ、諸侯皆文王に歸し、後、鳳凰が書を銜んで郊に來るを見て作る。〔樂府詩集、琴曲歌辭、文王操〕琴操曰、紂爲二無道一、諸侯皆歸二文王一、其後有二鳳凰一、銜二書於郊一、文王乃作二此歌一、謝希逸琴論曰、文王操、文王作也。〔周文王、文王操〕翼翼翱翔、彼鳳凰兮、銜レ書來遊、以會昌兮、瞻レ天案レ圖、殷將レ亡兮、蒼蒼之天、始有レ萌兮、五神連精、合二謀房一兮、興二我之業一、望二羊來一兮。

〖文王鼎〗945（ブンワウテイ）　周の鼎の名。〔博古圖、周文王鼎圖考〕右高八寸九分、耳高二寸三分、闊二寸、深三寸八分、口徑長六寸一分、闊四寸三分、腹徑長六寸三分、闊四寸五分、容二升有半、重一十二斤三兩、四足、銘七字。


周文王鼎（博古圖）

〖文王陵〗946（ブンワウリヨウ）　陵の名。陝西省咸陽縣の北。文王陵は南、武王陵は北。〔清一統志〕漢書劉向傳、文王周公皆葬二於畢一、而畢原之地、跨二渭南北一、故二陵所レ在、諸書互異、以二史記周本紀贊一證レ之、在二今咸寧縣西南一爲レ是、今咸寧縣西南遺蹟無レ可レ考、而文武成康四陵及歷代碑碣、本朝祀典、皆在二咸陽一云。

〖文王有聲〗947（ブンワウイウセイ）　詩經、大雅文王之什の篇名。武王がよく文王の令聞を廣め、其の伐功を卒へるを歌つたもの。一説に、文王、豐に遷り、武王、鎬に遷る事を詠じたものといふ。〔詩、大雅、文王有聲序〕文王有聲、繼レ伐也、武王能廣二文王之聲一、卒二其伐功一也。〔集傳〕此詩言二文王遷レ豐、武王遷レ鎬之事一。

〖文王官人〗948（ブンワウクワンジン）　大戴禮(**3－5831‥1506**)の篇名。

〖文王之囿〗949（ブンワウノイウ）　周の文王の動物を畜つた園。囿は禽獸を放畜する處。〔孟子、梁惠王下〕齊宣王問曰、文王之囿、方七十里、有レ諸、孟子對曰、於レ傳有レ之。

〖文王思士〗950（ブンワウシシ）　琴操の名。思士操ともいふ。文王の作といふ。〔琴操〕文王思士者、文王之所レ作也、文王思下得二賢士一與爲上レ治、出レ田、至二渭之陽一、遇二呂尙一、與語大悅、遂載與倶歸、立以爲レ師、號曰二太公望一、文王悅喜、乃援レ琴而鼓レ之、自敍二思レ士之意一、故曰二文王思士一。

〖文王四乳〗951（ブンワウシニユウ）　周の文王に四つの乳房があつたといふ。〔淮南子、脩務訓〕文王四乳、是謂二大仁一。〔白虎通、聖人〕文王四乳、是謂二至仁一。

〖文王世子〗952（ブンワウセイシ）　禮記(**8－24844‥31**)の篇名。〔禮、文王世子第八、疏〕鄭目錄云、名曰二文王世子一者、以下其記中文王爲二世子一時之法上。

〖文王嗜二菖蒲葅一〗953（ブンワウシヤウホノソヲタシナム）　周の文王が菖蒲のくきづけを好んだ故事。〔韓非子、難、四〕或曰、屈到嗜レ芰、文王嗜二菖蒲葅一、非二正味一也、而二賢尙レ之、所レ味不二必美一。〔呂覽、遇合〕若三人之於二滋味一、無レ不レ說二甘脆一、而甘脆未二必受一也、文王嗜二菖蒲葅一、孔子聞而服レ之、縮レ頞而食レ之、三年然後勝レ之。

〖文王葬二死人之骸一〗954（ブンワウシニンノムクロヲハウムル）　周の文王が靈臺を治めて死人の骨を得、五大夫の禮もて葬つた故事。〔淮南子、人間訓〕文王葬二死人之骸一、而九夷歸レ之。〔注〕文王治二靈臺一、得二死人之骨一、夜夢二人呼而請レ葬、于レ旦、文王反葬、以二五大夫之禮一。

〖文王八卦方位圖〗955（ブンワウハツクワハウヰヅ）　一名、後天圖。八卦の方位を示したもので震を東、兌を西、坎を北、艮を東北、乾を西北、巽を東南、坤を西南とする。後天圖(**4－10098‥547**)を見よ。

〖遇二文王一興二禮樂一遇二桀紂一逞二干戈一〗956（ブンワウニアヘバレイガクヲオコシケツチウニアヘバカンクワヲタクマシウス）　人臣は君主次第で禮樂に勵むやうにもなり、武力を逞しくするやうにもなるといふ意。〔通俗編、武功、遇二文王一興二禮樂一遇二桀紂一逞二干戈一〕見二五燈會元一。

【校レ文】957（ブンヲカウス）　文書を校理する。〔張衡、西京賦〕有二天祿・石渠、校レ文之處一。

【學レ文】958（ブンヲマナブ）　文藝を學ぶ。文は詩書六藝。〔論語、學而〕行有二餘力一、則以學レ文。

【曲レ文】959（ブンヲマグ）　法文を曲げ矯める。〔海錄碎事、臣職、姦吏〕延年其治務、在下摧二折豪強一、扶中助貧弱上、弱雖レ陷レ法、曲レ文以出レ之。

【工レ文】960（ブンヲタクミニス）　文を巧に作る。〔張說、唐昭容上官氏文集序〕形有二萬變一、非レ工レ文莫二之寫一。

【修レ文】961（ブンヲヲサム）　文德を修める。〔書、武成〕乃偃レ武修レ文、歸二馬于華山之陽一、放二牛于桃林之野一。〔傳〕修二文德一。

【守レ文】962（ブンヲマモル）　成法に遵つて事をさばき、武力や暴力を用ひない。〔唐書、姚崇宋景傳贊〕善守レ文以持二天下之正一。

【成レ文】963（ブンヲナス）　あやを形成する。あやを織り成す。〔詩、大序〕聲成レ文、謂二之音一。

【善レ文】964（ブンヲヨクス）　文を上手に作る。〔柳宗元、濮陽吳君文集序〕長髯而廣顙、好レ學而善レ文。

【屬レ文】965（ブンヲシヨクス）　文章を綴る。文を作る。〔漢書、賈誼傳〕年十八、以下能誦二詩書一屬上レ文、稱二於郡中一。

【賣レ文】966（ブンヲウル）　文章を作り、賣つて報酬を得る。賣レ文爲レ活を見よ。

〖賣レ文爲レ活〗966′（ブンヲウリテクワツヲナス）　文章を作り、それを賣つて生計の資とする。〔杜甫、聞二斛斯六官未一レ歸詩〕故人南郡去、去索作レ碑錢、本賣レ文爲レ活、翻令二室倒懸一。

【勒レ文】967（ブンヲロクス）　文を石にきざみつける。〔梁簡文帝、吳興楚王神廟碑〕翠石勒レ文、事皆二神掌一。

【文安之】968（ブンアンシ）　明、夷陵の人。字は鐵菴。天啓の進士。崇禎中、南京祭酒に遷り、讒を被りて籍を削られて歸る。後、唐王及び永明王に召されるも皆赴かず、意を當世に絶つ。國勢愈〻危きを見るに及んで、慨然として之を扶起せんとし、職に就く。其の後、清兵日に迫り、王、緬甸に入り、地、盡く失ふや、鬱鬱として卒す。著に易傭・鐵菴稿がある。〔明史、二百七十九〕・〔明史稿、二百六十一〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十六〕。

【文益漸】969（ブンエキゼン）　高麗、晉州江城縣の人。號は三憂堂。官は左司議。〔高麗史〕・〔東國輿地勝覽〕・〔東史綱目〕。

【文燕齋】970（ブンエンサイ）　明、趙崇禮(**10－37171‥719**)の號。

【文溫州】971（ブンヲンシウ）　明、文林(922)をいふ。

【文開解】972（ブンカイカイ）　逸周書(**11－38951‥149**)の篇名。

【文行遠】973（ブンカウエン）　清、江西德化の人。字は樵菴。康熙中の貢生。著に潯陽蹠醢がある。〔四庫提要、七十七〕。

【文孝坊】974（ブンカウバウ）　成都にある街の名。〔剪燈餘話、田洙遇二薛濤一聯句記〕妾文孝坊薛氏女。

【文毅集】975（ブンキシフ）　書名。十六卷。明、解縉撰。又、解學士全集ともいふ。〔四庫提要、集、別集類〕。

【文及翁】976（ブンキフヲウ）　宋、緜州の人。吳興に徙居す。字は時學。號は本心。進士。官は資政殿學士。文集がある。

【文玉樹】977（ブンギヨクジユ）　崑崙に生ずる樹の名。〔山海經、海內西經〕開明北有二視肉珠樹・文玉樹・玗琪樹一。〔注〕五彩玉樹。

【文恭集】979（ブンキヨウシフ）　書名。四十卷。宋、胡宿撰。其の四庫提要には五十卷、補遺一卷につくる。其の目は卷一、賦・五七古。卷二・三、五七律。卷四、七律。卷五、七律・五排。卷六、五排・五七絶。卷八、奏議・狀・議。卷九－十一、表・笏記。卷十二－二十一、外制。卷二十二－二十七、內制。卷二十八、帖子詞・上梁文。卷二十九、策問・頌銘・論

辯・序贊。卷三十一—三十四、書。卷三十五、記。卷三十六—三十八、誌銘。卷三十九、碑表・塔銘。卷四十、行狀。〔四庫提要、集、別集類〕。

【文冠花】980 ブンクワンクワ 木の名。〔和漢三才圖會、山果類〕文冠花、農政全書云、高丈許、葉似二楡樹葉一而狹小、開レ花彷彿似二藤花一。

【文桓帝】981 ブンクワンテイ ㊀前秦の王。苻雄(9－30825··16)を見よ。㊁後秦の王。姚興(3－6202··54)を見よ。

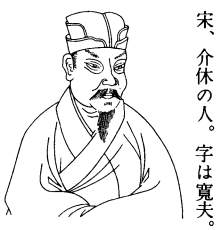
【文儆解】982 ブンケイカイ 逸周書(11－38951··149)の篇名。

【文元星】983 ブンゲンセイ 清、江都の人。字は城百。號は衡夫。諸生。梅を畫くに巧にして、吟詠を善くす。書室を種瑤草堂といふ。著に種瑤草堂集がある。〔清畫家詩史、丙下〕。

【文元善】984 ブンゲンゼン 明の人。嘉の子。字は子長。號は虎丘。書畫に巧。歸來堂を築きて親を養ふ。著に歸來堂帖がある。

【文彥直】985 ブンゲンチヨク 宋、萍鄉の人。字は益之。官は淮陽軍節度推官。

【文彥博】986 ブンゲンハク 宋、介休の人。字は寛夫。謚は忠烈。進士。同中書門下平章事に累官し、潞國公に封ぜらる。熙寧中、王安石に惡まれて引退した。後に司空・河東節度使。尋いで太師を以て致仕。元祐の初、平章軍國重事に命ぜられ、居ること五年にして復た致仕。紹聖四年卒した。年九十二。四朝に歷事し、將相に任ぜられること五十年、名、四夷にまで聞えた。嘗て洛陽に居り、司馬光等十三人と洛陽耆英會を爲る。著に潞公集がある。〔宋史、三百十三〕・〔宋元學案、二〕。



文寛夫（三才圖會）

【文源閣】987 ブンゲンカク 清代、內廷四閣の一。乾隆四十年、圓明園內に建てられ、四庫全書を收藏したが、咸豐十年、英佛聯合軍の兵火に遭つて烏有に歸した。四庫全書(3－4682··269)を見よ。

【文湖州】988 ブンコシウ 宋の人。文同(729)を見よ。

【文桑局】989 ブンサウキヨク あやめのある桑で作った碁盤。〔海錄碎事、百工、博弈〕堯敎二丹朱棊一、以二文桑一爲レ局、犀象爲レ子。

【文莊集】990 ブンサウシフ 書名。三十六卷。宋、夏竦撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【文三捷】991 ブンノサンセフ 進士の試驗に三科を得たもの。科擧(8－24950··13)を見よ。〔白居易、司徒令公分二守東洛一云云詩〕始擅二文三捷一、終兼二武六韜一。〔注〕進士及第、博學制策、連登二三科一。

【文士弘】992 ブンシコウ 明、江西德化の人。字は元任。周易に精通す。安節先生と私謚す。

【文之儀】993 ブンシギ 春秋時代の人。吳王闔閭の師。〔新序、雜事五〕吳王闔閭、學二伍子胥・文之儀一。

【文志鯨】994 ブンシゲイ 清、湖南桃源の人。字は石濤。康熙の進士。官は奉天府丞。文章を善くし、節概を重んず。三度、鄉試を主り、士を得と稱せらる。〔國朝耆獻類徵、六十四〕。

【文咨王】995 ブンシワウ 高句麗、第二十一代の王。一に明治好王に作る。諱は羅雲。長壽王の孫。齊の永明九年立ち、梁の天監十八年歿す。在位二十九年。〔三國史記〕。

【文二訓】996 ブンジクン 清、儀徵の人。字は命時。文點の子孫と自稱す。號は與可後人。諸生。蘭畫に巧。其の派を文蘭といふ。

【文㑳㑳】997 ブンシウシウ 仔細らしい様子。物知りめかす。學者ぶる。〔通俗編、狀貌、文㑳㑳〕元曲選、關漢卿謝天香曲。〔琵琶記、春宴二杏園一〕倆還要二文搊搊一。

【文翔鳳】998 ブンシヤウホウ 明、三水の人。字は天瑞。號は太青。萬曆の進士。官は太僕寺少卿。著に太微經・東極篇・太青文集がある。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十〕。

【文酌解】999 ブンシヤクカイ 逸周書(11－38951··149)の篇名。

【文從簡】1000 ブンジユウカン 清の人。元善の子。字は彥可。晚年、枕煙老人(枕霞老人)と號す。明の崇禎中の廩生。書畫を善くし、其の家法を傳へて少しも變ぜず。順治中卒す。〔國朝耆獻類徵、四百六十一〕・〔清畫家詩史、甲、上〕。

【文從昌】1001 ブンジユウシヤウ 明の人。伯仁の孫。字は順之。號は南岳。畫に巧。

【文巡捕】1002 ブンジユンポ 清代、總督衙門の備員の一。〔清國行政法汎論、總督、備考〕備二員於總督衙門一者、大凡有レ六、一曰中軍副將、二曰武巡捕、三曰戈什哈、四曰文巡捕、五曰監印委員、六曰收呈委員。

【文如子】1003 ブンジヨシ 明、王鳳嫺(7－20823··2104)の號。

【文漵子】1004 ブンジヨシ 樂曲の名。唐の僧、文漵の吟經の聲を取つて製したもの。一に文敍子に作る。〔碧雞漫志〕文漵子、盧氏雜記云、文宗善吹二小管一、僧文漵爲入二內大德一、得レ罪流レ之、弟子收二入院中一、藏二入家具一、猶作二師講聲一、上采二其聲一、製レ曲曰二文漵子一。〔唐音癸籤、樂通二、文敍子〕唐長慶中、俗講僧文敍、善吟レ經、其聲宛暢、感二動里人一、樂工黃米飯、狀二其念二四聲觀世音菩薩一、乃撰二此曲一。

【文丞相】1005 ブンジヨウシヤウ 宋の文天祥をいふ。官が右丞相であつたからいふ。〔宋史、文天祥傳〕募二二樵者一、以レ蕢荷二天祥一、至二高郵一、汎レ海至二溫州一、聞二益王未レ立、乃上表勸進、以二觀文殿學士侍讀一召至レ福、拜二右丞相一。〔剪燈餘話、月夜彈レ琴記〕文丞相起レ兵時、永新七大姓、皆在二勤王之列一。

【文信國】1006 ブンシンコク 宋の文天祥をいふ。信國は封號。〔宋史、文天祥傳〕天祥上表、自劾乞二入朝一、不レ許、八月、加二天祥少保信國公一。

【文津閣】1008 ブンシンカク 清代、內廷四閣の一。乾隆三十九年、熱河の避暑山莊中、萬壽園の西方に建てられ、四庫全書を收藏したが、後に四庫全書は北京圖書館に移して保存された。四庫全書(3－4682··269)を見よ。

【文震亨】1009 ブンシンカウ 明の人。震孟の弟。字は啓美。謚は節愍。天啓中、恩貢を以て中書舍人となる。書畫に巧。順治の初、絕食して死す。年六十一。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十一〕・〔小腆紀年、十〕。

【文震孟】1010 ブンシンマウ 明の人。徵明の曾孫。字は文起。號は藥圃。福王の時、文肅と追謚す。天啓中、殿試第一。修撰を授けられ、勤政講學を疏陳し魏忠賢に忤ひて外官に遷され、遂に歸る。崇禎の初、講筵に召され、王永光を劾す。後、官は禮部左侍郎・兼東閣大學士。溫體仁と協はず、劾せられて落職し歸りて卒す。書室を石經堂といふ。著に姑楚名賢小記がある。〔明史、二百五十一〕・〔萬斯同明史、三百五十六〕・〔明史稿、二百三十五〕。

【文世光】1011 ブンセイクワウ 清の人。從昌の子。字は仲英。畫に巧。

【文世室】1012 ブンノセイシツ ㊀文德あるものを祀り、代々、毀たない廟。〔禮、明堂位〕魯公之廟、文世室也、武公之廟、武世室也。〔疏〕文世室者、魯公伯禽有二文德一、世世不レ毀二其室一、故云二文世室一。㊁文王を祀る室。周初の宗廟の制は一太祖廟と四親廟とであつたが、文王が特殊の德があつた爲、親盡きた後も、特別の室を設け、之を文世室とした。のち武王にも武世室が出來た。〔隸經文、祧廟說〕而祧者藏二於太祖之廟一、至二穆王時一、則文王親盡、當レ祧、而以二有レ功當レ宗、故別立二一廟於西北一、而謂二之文世室一、云云、至二共王之時一、則武王親盡、當レ祧、而亦以二有レ功當レ宗故、別立二一廟於東北一、謂二之武世室一。

【文靜玉】1013 ブンセイギヨク 清の人。吳中の女子。字は湘霞。もと高氏の女。文俶を慕ひて、因りて姓を文と改む。錢塘の陳文述の妾となる。畫を善くし、詩に巧。書は晉人の法を學ぶ。書室を小停雲閣といふ。著に小停雲館詩鈔がある。〔清畫家詩史、癸、下〕。

【文聖王】1014 ブンセイワウ 新羅、第四十六代の王。金慶膺(11－40152··1240′)を見よ。

【文小生】1015 wen^2 hsiao^3 shêng^1 役者の若旦那に扮するもの。又、若い學者に扮するもの。

【文宣帝】1016 ブンセンテイ 北齊第一代の帝。高洋(12－45313··883)を見よ。

【文宣王】1017 ブンセンワウ 孔子の謚號。唐の玄宗の開元二十七年、文宣王と追謚し、宋の眞宗の大中祥符元年、玄聖文宣王と加謚し、尋いで五年、至聖文宣王と改む。元の成宗の大德十一年、大成至聖文宣王と加號し、明の世宗の嘉靖九年、至聖先師と改稱し、清の世祖の順治二年、大成至聖文宣先師孔子と稱し、十四年に至聖先師孔子と改稱した。孔子封號(3－6933··99)を見よ。〔淵鑑類函、禮儀、謚、二〕唐會要、開元二十七年、追二謚

孔子一爲二文宣一、宋大中祥符五年、追二諡至聖一、元加二諡大成一曰二大成至聖文宣王一、明朝因レ之、至二嘉靖閒一、改爲二先師孔子一。〔唐書、禮樂志五〕開元二十七年詔、夫子既稱二先聖一、可三諡曰二文宣王一、遣二三公一、持レ節冊命。〔宋史、眞宗紀二〕〔大中祥符元年十一月〕戊午、加二諡孔子一、曰二玄聖文宣王一、遣レ官祭以二太牢一、給二近便十戸一奉二塋廟一。〔宋史、眞宗紀二〕〔大中祥符五年十二月〕壬申、改二諡玄聖文宣王一、曰二至聖文宣王一。〔元史、武宗紀一〕〔大德十一年〕七月辛巳、加二封至聖文宣王一、爲二大成至聖文宣王一。〔續文獻通考、學校考〕〔世宗嘉靖九年十一月〕璁緣二帝意一言、孔子宜レ稱二先聖先師一、不レ稱レ王、祠宇宜レ稱レ廟、不レ稱レ殿、祀宜用二木主一、其塑像宜レ燬、籩豆用レ十、樂用二六佾一、配位公侯伯之號、宜三削止稱二先賢先儒一。〔皇朝文獻通考、學校考、祠祭襃贈錄後〕順治二年賜二給衍聖公孔允植三臺銀印一定、文廟諡二大成至聖文宣先師孔子一。〔皇朝文獻通考、學校考、祠祭襃贈錄後〕順治十四年復二至聖先師孔子神位舊稱一。

【文溯閣】1018 ブンソカク　清代、內廷四閣の一。乾隆四十八年、奉天の宮殿に設けられ、四庫全書及び古今圖書集成を收藏す。四庫全書(**3**－**4682**‥269)を見よ。

【文待詔】1019 ブンタイセウ　明、文徵明(1022)をいふ。

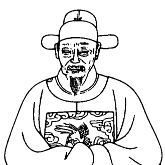
【文端集】1020 ブンタンシフ　書名。四十六卷。清、張英撰。內容は應制の詩四卷、存誠堂詩集二十五卷、篤素堂詩集七卷、文集十卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

【文中子】1020′ ブンチユウシ　❶隋、王通(**7**－**20823**‥816)の❷の私諡。❷書名。文中子中說の略稱。十卷。王通の撰と題し、論語に摹擬して通の言行を錄したもの。其の大旨は甚しくは理に悖らざるも、實は通の名に依託したものである。眞の筆者については諸說あり。恐らくは通の子、福郊・福時が父の言を虛飾して成したものと言はれる。〔四庫提要、子、儒家類〕。

《參考書》【中說注】十卷　宋、阮逸撰。

【文忠集】1021 ブンチユウシフ　書名。❶唐、顏眞卿撰。十六卷。〔閩刻武英殿聚珍版全書、第二百四十六・二百四十七冊〕。❷宋、歐陽脩撰。㋑周必大參訂本、百五十三卷、附錄五卷。卽ち現行本で其の目は、居士集五十卷、外集三十五卷、易童子問三卷、外制集三卷、內制集八卷、表奏書啓四六集七卷奏議集十八卷、雜著述十九卷、集古錄跋尾十卷、書簡十卷。〔四庫提要、集、別集類〕。㋺曾弘所刻本、百五卷。其の體例は全く異る。其の目は、古詩九卷、律詩五卷、賦一卷、論二卷、經旨一卷、記二卷、序四卷、上書二卷、書一卷、祭文二卷、古賦・辭・頌・贊・章共一卷、經旨一卷、墓表一卷、譜一卷、譜記一卷、雜題跋一卷、書四卷、樂府一卷、古詩三卷、律詩三卷、內制八卷、外制三卷、記一卷、序二卷、近體詩一卷、論策一卷、易童子問三卷、樂語・長短句共三卷、劄子三卷、表一卷、狀一卷、表一卷、啓二卷　諫院九卷、河北轉運一卷、銓部一卷、翰苑四卷、樞府一卷、政府五卷、濮議六卷、易類・書類・詩類・禮類・樂類・春秋類・論語類・小學類・儀注類・刑法類・正史類・編年類・實錄類等共一卷、歸田錄一卷、卷百五は弘の輯めた脩に關する紀事。〔四庫提要、集、別集類〕。❸宋、周必大撰。二百卷。其の子、綸の編。宋史には平園集と稱す。內容は、少齋文稾四十卷、平園續稾四十卷、省齋別集十卷、詞科舊稾三卷、掖垣類稾七卷、玉堂類稾二十卷、政府應制稾一卷、歷官表奏十二卷、奏議十二卷、奉詔錄七卷、承明集十卷、辛巳親征錄一卷、龍飛錄一卷、歸廬陵日記一卷、閒居錄一卷、泛舟游山錄三卷、乾道庚寅奏事錄一卷、壬辰南歸錄一卷、思陵錄一卷、玉堂雜記三卷、二老堂詩話二卷、二老堂雜誌五卷、唐昌玉蕊辨證一卷、近體樂府一卷、書稾三卷、劄子十一卷、小簡一卷、年譜一卷。別に祭文・行狀・諡誥・神道碑等を集めて附錄四卷とす。必大は文學を以て宰輔となり、晚年に至つて其の文筆愈〻熟した。其の詩は淡雅を以て長ずる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【文徵明】1022 ブンチヨウメイ　明、長洲の人。林の子。初名は璧。字を以て行はる。一の字は徵仲。號は衡山(衡山居士)・翠竹齋。私諡は貞獻先生。幼時には慧ならず、稍〻長じて穎異挺發。文を吳寬に、書を李應楨に、畫を沈周に學ぶ。徐禎卿等と共に吳中の四才子と呼ばる。正德中、京師に入り、翰林待詔を授けられ、世人、文待詔といふ。世宗の時、武宗實錄の編纂に與り、經筵に侍す。嘉靖三十八年卒す、年九十。詩文書畫、皆巧にして、畫最も勝る。世人、其の畫は趙孟頫・倪瓚・黃公望の長を兼ぬといふ。書室を辛夷館・玉磬山房・悟言室・煙條館・玉蘭堂・停雲館・拙政園・梅華屋・梅溪精舍といふ。著に甫田集がある。〔明史、二百八十七〕・〔萬斯同明史、三百八十七〕・〔明史稿、二百六十七〕・〔國朝獻徵錄、二十二〕・〔明詩綜、三十八〕。



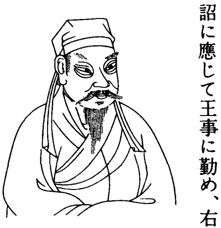
文貞憲像
(吳郡名賢圖傳贊)

【文廷式】1024 ブンテイシキ　清、萍鄉の人。字は芸閣。號は道希(道義)・薌德。自ら純常子と號す。光緒の進士。編修を授けられ、德宗の時、侍講學士に拔擢せらる。宦者寇聯材をして西太后に變法を勸めたといふ罪により、我が國に亡命す。戊戌の後、江湖に流徙して死す。詩・詞・駢體文を善くす。書室を雲起軒・知過軒といふ。〔碑傳集補、九〕・〔詩畫家詩史、壬上〕。

【文底耶】1025 ヴィンヂヤ　山脈の名。印度中部に横たはる山脈。Vindya の音譯。

【文肇祉】1026 ブンテウシ　明の人。彭の子。字は基聖。號は雁峯。官は上林苑錄事。書室を塔影園といふ。著に圖志・錄事集がある。〔四庫提要、一百八十九〕。

【文天祥】1027 ブンテンシヤウ　宋、吉水の人。字は宋瑞。又、履善。號は文山。諡は忠烈。進士第一。湖南提刑に累官し、贛州知に改めらる。德祐の初、元兵入寇するや、詔に應じて王事に勤め、右丞相を拜す。使して元軍に行いて和を請ひ、拘へられて鎭江に至り、夜亡げて眞州に入り、海に泛んで溫州に至り、益王未だ立たずと聞き、上表して勸進す。召されて福州に至り、左丞相に進められ、都督を以て江西に出で、元兵と空坑に戰ひて大いに潰え、殘兵を收めて循州に奔り、南嶺に駐まる。衞王立つや、少保を加へられ、爵は信國公となる。進んで潮陽に屯し、元將張弘範に執へられ、燕に拘留されること三年、元の世祖其の終に屈せざるを知り、之を殺さしむ。刑に臨んで正氣の歌を作つて志を見はし、從容として吏卒に謂ひて曰く、吾事畢れりと。南嚮して拜して死す。享年四十七、時に至元十九年。元主、歎じて眞男子といふ。著に文山集・文山詩集がある。〔宋史、四百十八〕・〔宋元學案、八十八〕。



文履善像（三才圖會）

【文天錫】1028 ブンテンセキ　宋、金壇の人。字は純止。特恩によつて寧國主簿を授けられたが、終に仕へず。

【文傳解】1029 ブンテンカイ　逸周書(**11**－**38951**‥149)の篇名。

【文德翼】1030 ブントクヨク　明、江西德化の人。字は用昭。崇禎の進士。嘉興推を授けられ、父の喪を以て歸る。書室を雅似堂といふ。著に宋史存・讀莊言小・傭吹錄・雅似堂文集がある。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十八〕。

【文伯仁】1031 ブンハクジン　明の人。徵明の從子。字は德承(葆生)。號は五峯(五峯山人)。諸生。山水人物畫に巧。書室を玄珠室・雙玉蘭堂といふ。享年七十四。〔明畫錄、三〕。

【文彌節】1032 ブンヤブシ　元祿年中、岡本文彌のはじめた一種の淨瑠璃。

【文不識】1033 ブンフシキ　漢、東海の人。匡衡、不識の家に藏書多きにより、傭作して書を讀まんことを求む。不識感歎して書を與へ、匡衡遂に大學者となる。

【文復之】1034 ブンフクシ　宋、合州の人。字は廷實。進士。官は朝散大夫。成都府玉局觀主管。

【文文山】1035 ブンブンザン　文天祥(1027)を見よ。

【文與可】1036 ブンヨカ　文同(729)を見よ。

【文老生】1037 wen² lao³ shêng¹　役者の忠臣・賢相・儒將に扮するもの。

【文瀾閣】1038 ブンランカク　藏書閣の名。浙江省杭縣の西湖の孤山の麓。文宗・文滙二閣と共に江南三閣

といふ。清の乾隆中建て、四庫全書を其の中に藏す。咸豐中、長髮賊の亂に書盡く散佚す。郡人の丁申・丁丙の兄弟二人が其の殘籍を收めて萬餘冊を得、光緒六年、巡撫の譚鍾麟、重ねて文瀾閣を建て之を藏す。藏書は後、浙江圖書館に移藏された。四庫全書(3－4682‥269)を見よ。『參考書』【文瀾閣志】二卷附一卷 清、孫樹禮・孫峻撰。〔武林掌故叢編、第二百一・二百二冊〕。【文瀾閣書目索引】楊立誠撰。

【文匯閣】1039 ブンワイカク　清代、江浙三閣の一。乾隆四十七年、江蘇省揚州の大觀堂に建てられ、四庫全書を收藏す。長髮賊の亂に燒失す。四庫全書(3－4682‥269)を見よ。

【文以載レ道】1040 ブンハモツテミチヲノス　文章は道を載せる所以のもの。文所二以載一レ道(1096)を見よ。

【文以足レ言】1041 ブンハモツテゲンヲタス　文章は言葉の效用を助け成す。〔左氏、襄、二十五〕言以足レ志、文以足レ言、不レ言誰知二其志一、言之無レ文、行而不レ遠。

【文有二三侑一】1042 ブンニサンイウアリ　文道に於ては罪過を三たびゆるす。又、文道に於ては、不識・過失・遺忘の三者の場合の罪をゆるす。文は武に對し、侑は宥に通ず。三は必ずしも三度とは限らず、度々・多くの意にも解せられる。三侑(1－12‥37)の㊁及び三宥(1－12‥38)を見よ。〔管子、法法〕文有二三侑一、武毋二一赦一、惠者多レ赦者也、先易而後難、久而不レ勝二其禍一、法者先難而後易、久而不レ勝二其福一、故惠者民之仇讎也、法者民之父母也。

【文家金丹】1043 ブンカキンタン　書名。二卷。土屋鳳洲撰。上卷は清の魏叔子批の孟子牽牛章序、土屋鳳洲批の評釋孟子荀卿列傳を收め、下卷には魏叔子の論文數章を合收す。

【文家小筌】1044 ブンカセウセン　書名。一卷。宇都宮由的撰。もと學要と名づく。經史醫書類の讀方大意、音注・助字の心得、和訓點例・音韻・反切・詩作・點抹の法例等を記す。

【文家必用】1055 ブンカヒツヨウ　書名。三卷。人見友竹撰。上卷は和辨類、中卷は助字、下卷は分辨類。說明に俗語を用ひ、擧例が平易簡切であつたので一時大いに行はれた。

【文過二其實一】1056 ブンソノジツニスグ　文飾が實際よりも過ぎる。〔後漢書、馮衍傳〕以三文過二其實一、遂廢二於家一。

【文外布衣】1057 ブングワイフイ　清、王樹穀(7－20823‥1654)の號。

【文館詞林】1058 ブンクワンシリン　書名。一千卷。唐の高宗の時、許敬宗奉勅撰。漢から唐初に至る詩文を蒐集す。文選に次ぐ最古の總集。宋初、既に散佚す。吾が國の僧、奝然、宋に入り、此の書の存在を語るに、宋人は之を知らなかつたといふ。吾が國には平安朝に傳へ、祕閣貞觀の火災に散佚して僅かに存するものあり。高野山及び大覺寺・東大寺に藏する所最も多きも數十卷に過ぎず。林述齋が佚存叢書を編するや、索めてその六百六十二・六百六十四・六百六十八・六百九十五の四卷を刻し、後、古逸叢書中に十二卷を刻し、明治四十四年、毘陵の誦芬室董氏、來つて、大學所藏の大覺寺傳寫本二十軸を借歸し、各本を互勘して譌舛を糾正し、後、重ねて高野山本によつて京都にて印行す。凡て十七卷。卷目は一百五十二・一百五十六・一百五十七・一百六十・三百四十六・三百四十七・四百五十三・四百五十七・四百五十九・六百十七・六百六十四・六百六十五・六百六十六・六百六十七・六百六十九・六百九十五・六百九十九。〔四庫未收書目提要、二〕・〔粤雅堂叢書、一百三十四冊〕・〔適園叢書、第四十五－四十八冊〕・〔古逸叢書、第三十・三十一冊〕・〔佚存叢書、第十一・十二冊〕。『參考書』【文館詞林盛事】一卷 木村正辭撰。

【文敬太子】1059 ブンケイタイシ　唐、李謜(6－14459‥324)の諡。

【文經武緯】1060 ブンケイブキ　北京人の愛養する菊花の一種。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按、日下舊聞考、云云、蓋京師之菊種亟繁、云云、文經武緯。

【文之烏獲】1061 ブンノウクワク　文章にすぐれたもの。文豪。烏獲は古の力士。〔論衡、效力〕世稱レ力者、常褒二烏獲一、然則董仲舒・揚子雲、文之烏獲也。

【文從字順】1062 ブンジユウジジユン　作文と用字との穩當なこと。〔韓愈、南陽樊紹述墓誌銘〕文從字順、各識レ職。

【文謝文鈔】1063 ブンシヤブンセウ　書名。五卷。巽世大編。宋の文天祥と謝枋得の文を拔萃したもの。

【文襄奏疏】1064 ブンジヤウソウソ　書名。八卷。清、靳輔撰。前後治河の奏疏を集める。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【文如二春華一】1065 ブンハシユンクワノゴトシ　文詞の華麗なこと。〔曹植、王仲宣誄〕文如二春華一、思若二涌泉一。

【文心雕龍】1066 ブンシンテウリヨウ　書名。十卷。梁、劉勰撰。左の五十篇に分つ。原道・徵聖・宗經・正緯・辯騷・明詩・樂府・詮賦・頌讚・祝盟・銘箴・誄碑・哀弔・雜文・諧讔・史傳・諸子・論說・詔策・檄移・封禪・意表・奏啓・議對・書記・神思・體製・風骨・通變・定勢・情采・鎔裁・聲律・章句・麗辭・比興・夸飾・事類・練字・隱秀・指瑕・養氣・附會・總術・時序・物色・才略・知音・程器・序志。每篇の終に必ず贊語を添へる。原道以下二十五篇は文章の體裁を論じ、神思以下二十四篇は文章の巧拙を論じ、序志一篇は書を著す所以をいふ。此の書は文章の利病に於て其の微妙を窮極し、又、實に後人の考據に資する所がある。凡そ文を論ずる書、此の書より古きはなく、又精なるものはない。〔四庫提要、集、詩文評類〕。『參考書』【文心雕龍輯注】十卷 清、黃叔琳撰。〔四庫提要、集、詩文評類〕。【文心雕龍講疏】十卷 民國、范文瀾撰。【文心雕龍選注】十卷 民國、莊適撰。

【文信國集】1067 ブンシンコクシフ　文山集(372)を見よ。

【文川武鄉】1068 ブンセンブキヤウ　文武兩道の盛な喩。南齊の范柏年が宋の明帝に見え、廣州の貪泉に言及し、卿の州に斯の如き泉ありやと問はれた時、梁州には唯、文川武鄉・廉泉讓水ありと答へた故事。〔南史、胡諧之傳〕范柏年、本梓潼人、云云、初爲二州將劉亮使一、出レ都諮レ事、見二宋明帝一、帝言次及二廣州貪泉一、因問二柏年一、卿州復有二此水一不、答曰、梁州唯有二文川武鄉、廉泉讓水一、又問、卿宅在二何處一、曰、臣所レ居、廉讓之間、帝嗟二其善答一。

【文泉子集】1070 ブンセンシシフ　書名。一卷。唐、劉蛻撰。自序に覃以二九流之旨一曰レ文、配以二不及之源一曰レ泉、故命曰二文泉一といふ。原本は十卷、今は散佚して一卷となる。今本は明の崇禎庚辰、韓錫の編に係る。文は多く揚雄を摹仿し、大旨は元結と相出入する。〔四庫提要、集、別集類〕。

【文當レ學レ遷】1072 ブンハマサニセンヲマナブベシ　文章は司馬遷を學ぶべきである。〔事文類聚別集、文章部、文當レ學レ遷〕六經以後、便有二司馬遷一、三百五篇之後、便有二杜子美一、文當レ學レ遷、詩當レ學二杜子美一。

【文端公集】1073 ブンタンコウシフ　書名。清、尹繼善撰。

【文智大師】1074 ブンチダイシ　後唐、可止(2－3245‥50)の號。

【文直先生】1075 ブンチヨクセンセイ　明、趙訥(10－37171‥302)の私諡。

【文東武西】1076 ブントウブセイ　文官は天子の左に、武官は右に坐す。〔漢書、尹翁歸傳〕田延年爲二河東守一、行レ縣至二平陽一、悉召二故吏一、云云、令二有レ文者東、有レ武者西一、閱二數十人一、次到二翁歸一、獨伏不レ肯レ起、對曰、翁歸文武兼備、唯所二施設一。〔通俗編、武功、文東武西〕史記叔孫通傳、功臣列侯諸將軍軍吏、以レ次陳二西方一、文官丞相以下陳二東方一。

【文統先生】1077 ブントウセンセイ　明、鄧元錫(11－39630‥146)の私諡。

【文不レ加レ點】1078 ブンテンヲクハヘズ　文章が成つて後、一點も加筆しない。文章の完全無缺なのをいふ。〔通俗編、文學、文不レ加レ點〕文選鸚鵡賦序、筆不二停綴一、文不レ加レ點、北史杜銓傳、杜正元、文不レ加レ點、盧文偉傳、盧絢祖爲二二十餘人一作レ表、文不レ加レ點、梁書蕭介傳、武帝置酒賦レ詩、介染レ翰便成、文不レ加レ點、隋書許善心傳、帝稱二其文不レ加レ點、筆不レ停レ毫、摭言、李白奉レ詔草二白蓮花序一、文不レ加レ點。〔書言故事、學問類〕作レ文全美、曰二文不レ加レ點。〔故事成語考、文事〕文章全美曰二文不レ加レ點。

【文不對題】1079 wen^2 pu^2 tuei^4 t'i^2　答が問と符合しない。話がくひちがふ。

【文福茶釜】1080 ブンブクチヤガマ　㊀上野國館林の茂林寺の僧、守鶴が所持したといふ茶釜。一度水を入れて沸騰すれば汲んでも盡きないと傳へ、又、狸の化けたものを守鶴が調伏したものと傳へられる。守鶴は元龜・天正頃の人。㊁海膽類に屬する一種の棘皮動物。

【文鳳陳人】1081 ブンポウチンジン　多湖宜の號。多湖松江(3－

5756・・323)を見よ。

【文郎馬神】1082（ブンラウバシン） 明代の國名。ボルネオ南岸。Banjermassin の音譯。〔明史、外國四、文郎馬神傳〕文郎馬神、以レ木爲レ城、其半倚レ山。

【文論詩論】1083（ブンロンシロン） 書名。一卷。太宰春臺撰。〔日本詩話叢書、第四冊〕。

【以レ文爲レ詩】1084（ブンヲモツテシヲツクル） 文章の作り方で詩を爲る。〔後山詩話〕黄魯直云、云云、詩文各有レ體、韓以レ文爲レ詩、杜以レ詩爲レ文、故不レ工爾。

【以レ文會レ友】1085（ブンヲモツテトモヲクワイス） 學問を以て友を集める。〔論語、顏淵〕曾子曰、君子以レ文會レ友、以レ友輔レ仁。

【移レ文奏請】1086（ブンヲウツシテソウセイス） 甲の官廳から乙の官廳に文書で通照し、乙の官廳から其の事件の奏請をすること。〔淸律、官員襲廕〕。

【因レ文得レ錢】1087（ブンニヨツテゼニヲウ） 學問の力で財貨を得て富貴になる。〔後漢書、桓榮傳〕(建武十九年)顯宗始立爲二皇太子一、云云、帝卽召レ榮令レ說二尙書一、甚善レ之、云云、入使レ授二太子一、云云、以レ榮爲二少傅一、賜以二輜車乘馬一、榮大會二諸生一、陳二其車馬印綬一、曰、今日所レ蒙、稽古之力也、可レ不レ勉哉。〔故事成語考、文事〕因レ文得レ錢、乃曰二稽古之力一。

【咬レ文嚼レ字】1088（ブンヲカミジヲカム） ぐづぐづいふ。色々にいふ。〔紅樓夢、二十七回〕咬レ文嚼レ字、拏二着腔兒一。〔通俗編、文學、咬レ文嚼レ字〕見二元人楊氏勸夫曲一。

【綴レ文績レ學】1089（ブンヲツヅリガクヲツムグ） 文章を巧に綴り、學問を成就すること。〔蔡襄、文〕自二秦滅漢興一、綴レ文績レ學、德業彬然、獨董仲舒而已。

【望レ文生レ義】1090（ブンヲノゾミテギヲシヤウズ）（バウブンセイギ） 古書を解釋するに精密なる考證を加へずして己の勝手な推定で判斷すること。學者の尤も戒むべきこととされる。〔輶軒語、通經〕訓詁有二四忌一、一、望レ文生レ義、古書多有二一字數義之字一、有二假借字一、有二譌脫字一、若不レ加二詳考一、姑就二本文一串レ之、此名二望レ文生ノ義一。〔經解入門、不レ可三望レ文生ノ訓〕古書一字一句皆有二精義一、若不レ加二詳考一、就レ文說レ之、如三王介甫以レ波爲二水皮一、蘇東坡不レ知二鳲字从レ鳥九聲之義一、而云下詩曰、鳲鳩在レ桑、其子七矣、合二一父一母一則爲レ九、故其文從乙九之類甲、此爲三望レ文生ノ訓、又凡經文數語、必與二全篇大義一相屬、解者不レ審二全篇之義一、姑就二本文一串レ之、似レ爲レ近レ理、亦爲三望レ文生ノ訓、初學切宜二深戒一前人成レ說、如犯二此弊一、亦必細心爲二之糾正一。

【望レ文生レ訓】1090′（ブンヲノゾミテクンヲシヤウズ） 望レ文生レ義に同じ。

【飛レ文染レ翰】1091（ブンヲトバシカンヲソム） 勢よく文章を書くさま。〔梁昭明太子、文選序〕詞人才子、則名溢二於縹囊一、飛レ文染レ翰、則卷盈二乎緗帙一。

【舞レ文弄レ法】1092（ブンヲマハシハフヲモテアソブ） 法文に自分勝手の解釋を下して適用すること。〔史記、汲黯傳〕(張湯)好興レ事、舞二文法一。〔史記、貨殖傳〕吏士舞レ文弄レ法、刻レ章僞レ書。

【臨レ文不レ諱】1093（ブンニノゾンデハイマズ） 官府の文書や國史の記載には、何人の名も忌まないこと。〔禮、曲禮上〕詩書不レ諱、臨レ文不レ諱。〔注〕爲三其失二事正一。〔禮、玉藻〕士於二君所一言、大夫沒矣、則稱二諡若字一、名レ士、與二大夫一言、名レ士、字二大夫一、於二大夫所一、有二公諱一、無二私諱一、凡祭不レ諱、廟中不レ諱、教學臨レ文不レ諱。〔注〕爲レ惑二未レ知者一。

【文鏡祕府論】1094（ブンキヤウヒフロン） 書名。六卷。空海撰。文の手鏡、祕書の府の義を以て書名とす。六朝及び唐時代の諸家の詩文の評論・格式を論じたもので、梁の沈約の四聲譜、隋の劉善經の四聲指歸、唐の王昌齡の詩格、皎然の詩式・詩評・詩議、崔融の唐朝新定詩格、元兢の詩髓腦・古今詩人秀句、作者未詳の文筆式・筆札・帝德錄、又は晉の陸機の文賦、梁の劉勰の文心雕龍、唐の殷璠の河岳英靈集等に就いて異同を勘し、重複を去り、其の樞要を取つて評論したもの。其の目は、(天)卷一、調四聲譜・調聲・用聲法式・八種韻・四聲論。(地)卷二、十七勢・十四例・十體・六義・八階・六志・九意。(東)卷三、論對・二十九種對・筆札・七種言句例。(南)卷四、論文意・定位・文賦。(西)卷五、論病・文二十八種病・文筆十病得失。(北)卷六、論對屬・句端・帝德錄。この中、聲譜・調聲・用聲法式・八種韻・論病・文二十八種病・文筆十病得失等は四聲及び其の文學上の運用を論じ、論對・二十九種對・論對屬論等は對屬を論じ、其の他は詩の格式・文の體裁等を論じたものである。尙、この書の引用書物中、已に湮滅して今日見ることが出來ず、此の書によつて原書の面目を窺ひ知ることの出來るものが多い。〔參考書〕【文教祕府論箋】十六卷 高野山金蓮院維寶編。【文教祕府論冠注】十五卷 小野寶持院行願編。

【文氏五家詩】1095（ブンシゴカノシ） 書名。十四卷。明の長洲の文氏、三世五人の詩を輯めたもの。文洪の括囊稾詩一卷・文一卷、其の孫、徵明の甫田集詩四卷、徵明の長子彭の博士詩二卷、次子嘉の和州詩一卷、彭の子、肇祉の詩五卷。其の中、徵明の詩が最も盛である。〔四庫提要、集、總集類〕。

【文所二以載一レ道】1096（ブンハミチヲノスルユエン） 文章は先王の道を載せて千載に傳へるものである。道は必ず文を假りて始めて後に傳へられる。〔通書、文辭章〕文所二以載一レ道也、輪轅飾而人弗レ庸、徒飾也、況虛車乎。〔注〕朱子曰、文所二以載一レ道、猶三車所二以載一レ物、故爲レ車者、必飾二其輪轅一、爲レ文者、必善二其詞說一、皆欲二人之愛而用一レ之。〔元史、儒學傳序〕六經者斯道之所レ在、而文則所三以載二夫道一者也。

【文起二八代之衰一】1097（ブンハハチダイノスイヲオコス） 唐の韓愈が久しく振はなかつた文運を盛にしたこと。八代、卽ち、東漢・魏・晉・宋・齊・梁・陳・隋時代の四六文を古文に復したことをいふ。〔蘇軾、潮州韓文公廟碑〕文起二八代之衰一、而道濟二天下之溺一。〔箋解〕愈傳贊云、貞元元和間、愈以二六經之文一、爲二諸儒倡一、八代謂二東漢・魏・晉・宋・齊・梁・陳・隋一也。

【文死諫武死戰】1098 wen^2 ssŭ^3 chien^4 wu^3 ssŭ^3 chan^4 文官は諫めて死し、武官は戰つて死す。

【文者愛之徵也】1099（ブンハアイノチヨウナリ） 文は愛の表徵である。〔呂覽、召類〕文者愛之徵也、武者惡之表也。

【文信公集杜詩】1100（ブンシンコウシフトシ） 書名。四卷。宋、文天祥撰。一名、文山詩史。五言絶句二百篇を載せる。執へられて燕に赴き、獄中に於て作つたもので、皆杜句を集めて之を成す。每篇の首、悉く標目次第あり、題下に時事を敍次して、史傳の闕を補ふに足るものが多い。〔四庫提要、集、別集類〕。

【文者貫レ道之器也】1101（ブンハミチヲツラヌクノキナリ） 文章は道を永久に記し傳へる器である。〔李漢、唐吏部侍郎昌黎先生諱愈文集序〕文者貫レ道之器也、不レ深二於斯道一、有レ至レ焉者、不也。

【文怕翰林武怕轄】1102 wen^2 p'a^4 han^4 lin^2 wu^3 p'a^4 hsia^2 文官は試驗に合格して高官の役所翰林に入らんことを願ひ、武官は軍を取締る轄に入らんことを願ふ。翰林(9－28780・・47)及び轄(10－38482)を見よ。

【文生二於情一情生二於文一】1103（ブンハジヤウニシヤウジジヤウハブンニシヤウズ） 文章は情によつて生まれるものであるが、情は又文章によつて發動させられる。〔晉書、孫楚傳〕初楚除二婦服一、作レ詩以示レ濟、濟曰、未レ知下文生二於情一、情生中於文上、覽レ之悽然、增二伉儷之重一。

二畫

【齐】13451 セイ 齊(12－48560)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕齊、通俗小說作レ齐。

三畫

【夆】13452 キョ 擧(5－12863)の俗字。〔篇海〕夆、與レ擧同、俗字。

【斈】13453 ガク 學(3－7033)の俗字。〔篇海〕學、俗作レ斈。

四畫

【斉】13454 セイ 齊(12－48560)の略字。〔正字通〕斉、按、齊或作㆑⿱𠂊月、俗作㆑亝、省作㆑斊、卽斉之譌。

【斈】13455 ガク 學(3－7033)の俗字。〔中華大字典〕斈、學俗字、見㆓字彙擧隅㆒。

五畫

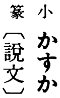
【⿰必文】13456 ヒツ 義未詳。〔海篇〕⿰必文、音弼。

六畫

【⿰舟文】13457 ハン ヘン 〔集韻〕逋閑切 删

㊀まだら。色が純一でない。斒(5－13471)に同じ。〔集韻〕斒、色不㆑純也、或从㆑弁。㊁辬(5－13483)の俗字。〔正字通〕⿰舟文、俗辬字。

【𢼸】13458 ビ ミ 〔集韻〕無非切 微


小篆

かすか。微(4－10203)に同じ。〔說文〕𢼸、眇也、从㆑人从㆑攴、豈省聲。〔段注〕眇、各本作㆑妙、今正、凡古言㆓𢼸眇㆒者、卽今之微妙字、微行而𢼸廢矣。

參考 說文によれば攴に從ふべきであるが、六書正譌は文に作るべしといふ。今姑く康熙字典に從つて此處に置く。〔六書正譌〕𢼸、从㆑人从㆓耑省㆒、耑、物初生、會意、文聲、舊从㆑攴非。

【斊】13459 セイ 〔篇海〕音齊

㊀ひとしい。〔篇海〕斊、等也。㊁あたる。〔篇海〕斊、中也。㊂はやい。〔篇海〕斊、疾也。㊃齊の俗字。齊(12－48560)を見よ。

【斋】13460 サイ 齋(12－48565)に同じ。〔篇海〕斋、同㆑齋。

【⿱文米】13461 サイ 齋(12－48565)に同じ。〔篇海〕⿱文米、與㆑齋同。

七畫

【⿱文言】13462 ヨ 譽(10－36066)の俗字。〔篇海〕⿱文言、俗譽字。

【⿰余文】13463 ジョ 敘(5－13205)の譌字。〔康熙字典〕⿰余文、按、說文从㆑攴、周伯琦六書正譌、改从㆑文。

【⿰牛文】13465 シ 〔字彙補〕舂思切 支

㊀施(5－13629)の譌字。〔康熙字典〕⿰牛文、按、卽古文施字之譌。㊁姓。〔字彙補〕⿰牛文、姓也。

【斍】13466 カク 覺(10－34973)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕覺、金瓶梅作㆑斍。

八畫

【斎】13467 サイ 齋(12－48565)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕齋、通俗小說作㆑斎。

【斌】13468 ヒン 〔集韻〕悲巾切 眞 ㄅㄧㄣ pin^1

㊀あやときぢとがそろふ。文と質とが調和してあやあるさま。份(1－418)・彬(4－9996)に同じ。〔集韻〕份、說文、文質備也、引㆓論語文質份份㆒、古从㆓彡林㆒、俗作㆑斌、非。〔廣韻〕彬、文質雜半、說文云、古文份也、斌、上同。〔玉篇〕斌、文質貌、亦作㆓份・彬㆒。㊁いりみだれるさま。〔潘岳、藉田賦〕士女頒斌而咸戾。〔注〕善曰、頒斌、相雜之皃也。

【斌卿】1 ヒンケイ 唐、杜勝(6－14477‥157)の字。

【斌籀】2 ヒンチウ 隋、楊綸(6－15112‥392)の字。

【斌斌】3 ヒンヒン 文と質とが互に相雜はつて適度にそなはりととのふさま。彬彬。〔史記、儒林傳贊〕公卿大夫士吏、斌斌多㆓文學之士㆒矣。〔蔡邕、荅㆓卜元嗣㆒詩〕斌斌碩人、貽㆑我以㆑文。〔晉書、衞恆傳〕粲斌斌其可㆑觀。

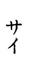
【斌良】4 ヒンリヤウ 清、滿洲正紅旗人。姓は瓜爾佳氏。字は備卿。又、笠耕。號は梅舫・抱沖齋。嘉慶中、蔭生より刑部侍郎駐藏大臣に歷官す。著に抱沖齋詩集がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔國朝耆獻類徵、一百十三〕。

【斐】13469

㈠ヒ 〔集韻〕妃尾切 ㄈㄟˇ fei^3 尾

㈡ヒ 〔集韻〕匪微切 微

㈢ヒ 〔集韻〕逋眉切 支


小篆

㈠㊀うるはしい。あやあるさま。〔說文〕斐、分別文也、从㆑文非聲、易曰、君子豹變、其文斐也。〔段注〕許云㆓分別㆒者、渾㆓言之㆒則爲㆑文、析㆓言之㆒則爲㆓分別之文㆒、以㆓字从㆑非知㆒之也、非、違也。〔爾雅、釋訓〕有㆓斐君子㆒。〔注〕斐、文貌。〔禮、大學〕有㆓斐君子㆒。〔注〕斐、有㆓文章㆒貌也。〔論語、公冶長〕斐然成㆑章。〔皇疏〕斐然、文章貌也。㊁かるいさま。斐斐(12)を見よ。㊂あきらかなさま。聲の盛なさま。斐韡(1)を見よ。㊃なびく。靡(12－42612)に通ず。㊄地名。〔公羊、文、十三〕鄭伯會㆓公于斐㆒。㊅匪(2－3629)に通ず。〔大學〕有㆓斐君子㆒。〔詩、衞風、淇澳〕有㆓匪君子㆒。㊆棐(6－14927)に通ず。〔公羊、文、十三、釋文〕斐、本又作㆑棐。㊇蜚(10－33138)に通ず。〔公羊、宣、元〕斐林。〔春秋繁露、滅國〕蜚林。㈡㈢姓。〔通志、氏族略〕斐氏、音非、左傳有㆓斐豹㆒。

名乘 アヤ。ナカ。ヨシ。アキラ。

【斐韡】1 ヒキ 明かなさま。美しく光明あるさま。一說に、こゑの繁く盛なさま。〔嵆康、琴賦〕豐融披離、斐韡奐爛。〔注〕善曰、斐韡、明貌、銑曰、斐韡奐爛、聲繁盛貌。

【斐士】3 ヒシ 明、黃章(12－47926‥449)の字。

【斐爾】4 ヒジ うるはしいさま。〔高士傳贊〕碩矣王生、道研㆓軒李㆒、斐爾張公、素交㆓一臂㆒。

【斐如】5 ヒジョ あやあるさま。〔太玄經、文〕次四、斐如邠如、虎豹文如。

【斐成】6 ヒセイ あやが美しいこと。〔左思、蜀都賦〕貝錦斐成、濯㆓色江波㆒。〔注〕濟曰、斐、文貌。

【斐瞻】7 ヒセン 清、朱仕琇(6－14424‥815)の字。

【斐然】8 ヒゼン ㊀あやがあつて美しいさま。斐然成㆑章を見よ。〔漢書、禮樂志〕九歌畢奏斐然殊、鳴琴竽瑟會㆓軒朱㆒。〔論衡、超奇〕詔書斐然、郁郁

好文之明驗也。❷なびき向ふさま。靡然。斐然嚮レ風を見よ。〔史記、太史公自序〕使二諸侯之士、斐然爭入事レ秦。

【斐然集】9 ヒセンシフ 書名。三十卷。宋、胡寅撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【斐然嚮レ風】10 ヒセントシテフウニムカフ 德風・威風などになびきむかふこと。〔史記、秦始皇紀〕天下之士、斐然嚮レ風、若レ是者何也。〔魏志、袁渙傳〕海內斐然向レ風。

【斐然成レ章】11 ヒセントシテシヤウヲナス 學問・修養が一通り成就して立派なこと。〔論語、公冶長〕子在レ陳、曰、歸與、歸與、吾黨之小子、狂簡、斐然成レ章、不レ知三所二以裁一レ之。〔劉寶楠正義〕斐然者、禮記大學、有二斐君子一、鄭注、斐有二文章一貌也、爾雅釋訓注、斐、文貌、言下弟子居レ魯、所レ學已就、能成二文章一可上レ觀也。

【斐斐】12 ヒヒ ❶あやがあつて美しいさま。〔韓詩外傳、五〕斐斐文章、大哉關雎之道也。〔楊戲、贊二輔元弼劉南和一文〕藻麗辭理、斐斐有レ光。〔傅玄、玄棗賦〕斐斐素華、離離朱實。❷輕いさま。〔謝惠連、泛レ湖歸出二樓中一翫レ月詩〕斐斐氣幕レ岫、泫泫露盈レ條。〔注〕善曰、斐斐、輕貌、翰曰、斐斐、山氣貌。

【斐尾】13 ヒビ 文彩あるさま。〔嵆康、琴賦〕紛文斐尾、綝縿離纚。〔注〕善曰、紛文斐尾、文彩貌。

【斐亹】14 ヒビ 文彩あるさま。〔孫綽、遊二天台山一賦〕彤雲斐亹以翼レ櫺。〔注〕善曰、斐亹、文貌。

【斐文】15 ヒブン うつくしくあやあること。〔王融、贈二族叔衛軍一詩〕不レ器其德、有二斐斯文一。

【斐炳】16 ヒヘイ うつくしく立派なさま。〔論衡、案書〕賦頌記奏、文辭斐炳。

【斐豹】17 ヒヘウ 春秋、晉の人。悼公の時、罪を以て奴隸となり、丹書に著はされた。時に欒盈、曲沃の甲を帥ゐて亂を作し、范宣子、悼公を奉じて固宮に行く。欒氏の力臣に督戎といふものあり、國人皆之を懼れた。是に於て斐豹は宣子に、若し丹書を焚かば督戎を殺さんと言ひ、宣子、之を許すや、果して督戎を殺し、欒盈は遂に敗れた。〔左氏、襄、二十三〕。

【斐林】18 ヒリン 地名。棐林(6－14927・・8)に同じ。

【斐遼】19 ヒレウ 唐、裴遼(10－34362・・98ˋ)の一名。

【斐律賓】19' フイリピン 群島の名。又、國名。臺灣の南方、マレイ群島の北部にある三千餘の島嶼群より成る。菲律賓。Philippinese の音譯。

【斐雅斯哈】20 フエイヤスハ 清、滿洲正黃旗人。姓は富察氏。一に費雅思哈に作る。謚は僖恪。天聰・崇德の間、朔州を攻略し、密雲に戰ひ、松山杏山の援兵を敗つて皆功あり。順治中、初めて關に入り、李自成を武昌に勦伐し、屢〻戰つて皆勝つ。四川の征討に從ひ、又、孫可望を辰州に敗り、功により爵、三等男を賜はる。〔清史列傳、六〕。

【斐克圖河】21 ヒコクトガ 川の名。滿洲吉林省賓縣の西。源は縣南の石洞山。松花江に注ぐ。

【斑】13470 ハン 〔集韻〕逋還切 刪 ㄅㄢ pan¹

❶**まだら**。ぶち。辬(**5－13483**)に同じ。〔說文〕辬、駁文也、从レ文辡聲。〔段注〕斑者、辬之俗、今乃斑行而辬廢矣。〔玉篇〕辬、駁文也、亦作レ斑。〔韻會〕斑、周禮王制、雜色曰レ斑。〔禮、王制〕斑白者不二提挈一。〔注〕雜色曰レ斑。〔禮、祭義〕斑白者不下以二其任一行中乎道路上。〔注〕斑白者、髮雜色也。〔曹植、七啓〕拉レ虎摧レ斑。〔注〕翰曰、斑、虎文也。〔司馬相如、上林賦〕被二斑文一。〔注〕善曰、斑文、虎豹之皮也。❷**みだれるさま**。〔楚辭、離騷〕斑陸離其上下。〔注〕斑、亂貌。❸**わける**。班(**7－20976**)に通ず。〔廣雅、釋詁一〕斑、分也。〔疏證〕說文、班、分二瑞玉一、班與レ斑通。❹頒(**12－43378**)に通ず。〔禮、檀弓下、不レ獲二二毛一、注〕斑白。〔釋文〕斑、本又作レ頒。❺賁(**10－36737**)・斒(**5－13471**)・玢(**7－20863**)に通ず。〔說文、辬、段注〕辬之字、多二或體一、易卦之賁字、上林賦之斒字、史記璸斒、漢書・文選玢幽、皆是。〔易、賁、釋文〕賁、古斑字、文章貌。

參考 班(**7－20976**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕班、列也、行也。斑、斑文。

【斑衣】1 ハンイ 模樣のある派手な衣。斑爛の衣。斑衣之戲を見よ。〔史記、司馬相如傳、被二幽文一、注〕集解曰、郭璞曰、著二斑衣一。〔錢起、小園招隱詩〕斑衣在二林巷一、始覺レ無二羈束一。

【斑衣之戲】2 ハンイノタハムレ 孝養の喩。老萊子が年七十で斑爛の衣を着け、童子の姿をして老親の膝下に戲れ、親に年を忘れしめんとした故事。〔蒙求、下、老萊斑衣〕高士傳、老萊子、楚人、少以二孝行一養レ親極二甘脆一、年七十、父母猶存、萊子服二荊蘭之衣一、爲二嬰兒戲於親前一、言不レ稱レ老、爲レ親取レ食上レ堂、足跌而偃、因爲二嬰兒啼一、誠至發レ中、楚室方亂、乃隱耕二於蒙山之陽一、著レ書號二老萊子一、莫レ知レ所レ終、舊注云、著二五色斑爛之衣一、出二列女傳一、今文無レ載。

【斑筠】3 ハンキン 斑竹で造つた扇の夾骨。〔桃花扇、逢舟〕摺二宮紗一、夾二在斑筠一、題レ詩定レ情、催レ妝分レ韻。

【斑駁】4 マダラツキゲヒバリ トラツキゲ 馬の毛色の名。〔一話一言、八、百馬圖名〕斑駁。

【斑閒】5 ハンカン まだらのあひだ。〔何晏、景福殿賦〕斑閒賦レ白、疎密有レ章。〔注〕向曰、斑白相閒。

【斑鳩】6 ハンキウ ❶小鳥の名。鳩の一種で、小形。羽は淡白色。頭頸及び下面は灰白微紅、肩脊から尾に至る閒は皆灰褐色で、後頸に黑色の斑輪環がある。しらこばと。じゆずかけばと。鶻鳩。〔本草、斑鳩〕釋名、斑隹、錦鳩、鵓鳩、祝鳩、時珍曰、鳩也、鵓也、其聲也、斑也、錦也、其色也、佳者尾短之名也、古者庖人以二尸祝一登二尊俎一、謂二之祝鳩一、此皆鳩之大而有レ斑者、其小而無レ斑者曰レ隹、曰レ鵻、音葵、曰二荊鳩一、曰二楚鳩一也、鳩之子曰二鵓鳩一、曰二役鳩一、曰二糠鳩一、曰二郎皐一、曰二辟皐一、揚雄方言、混二列諸鳩一、不レ足レ據、集解、宗奭曰、斑鳩有二有レ斑者一、有二無レ斑者一、有二灰色者一、有二大者一、有二小者一、雖レ有二此數色一、其用則一也、嘗養レ之數年、並不レ見二春秋分變化一。❷イカルガ ㋑鳥の名。いかるが。鶍。㋺姓氏。〔姓林全書〕。

【斑鳩宮】7 イカルガノミヤ ❶推古天皇の九年、聖德太子の造營された宮殿。❷聖德太子をいふ。

【斑鳩寺】8 イカルガデラ ❶法隆寺の異稱。❷聖德太子の居られた寺院。

【斑魚】9 ハンギヨ 魚の名。一名、鯛魚。その形は河豚に類して小さく、背は青色で蒼黑の斑紋があり、腹は白く刺がある。鱗無く、尾鰭が分裂しない。〔本草、河豚〕集解、時珍曰、然有二二種一、其色淡黑、有二文點一者名二斑魚一、毒最甚、或云、三日後則爲二斑魚一、不レ可レ食也。〔魏志、東夷、濊貊傳〕其海出二斑魚皮一。

【斑菌】10 ハンキン 蟲の名。斑蝥の一名。斑蝥(47)を見よ。

【斑駒】11 ブチゴマ まだらうま。ぶちうま。ぶちのうま。斑馬。〔日本書紀、神代紀、上〕又見下天照大神、方織二神衣一、居中齋服殿上、則剝二天斑駒一、穿二殿甍一而投納。

【斑罽】12 ハンケイ 斑紋のある毛織物。班罽。〔事物異名錄、布帛、氍毹〕丹鉛總錄、斑罽、今之雜色罽。

【斑劍】13 ハンケン 虎の皮で飾つた劍。又、其の劍を持つた兵士。葬式の儀衞に用ひる。又、班劍に作る。〔任昉、王文憲集序〕增二斑劍一爲二六十人一。〔注〕善曰、漢官儀曰、斑劍者、以二虎皮一飾レ之、銑曰、羽葆・斑劍、幷葬之儀衞、增二於常儀一、爲二六十人一也。

【斑穀】14 ハンコク 楮の一種。〔本草、楮〕集解、恭曰、此有二二種一、一種皮有二斑花文一、謂二之斑穀一。

【斑采】15 ハンサイ まだらの模樣。〔謝靈運、嶺表賦〕斑采類レ繡、明白若レ月。

【斑犀】16 ハンサイ 雌犀をいふ。〔本草、犀〕集解、恭曰、牸是雌犀、文理膩、細斑白分明、俗謂二之斑犀一、服用爲レ上、入レ藥不レ如二雄犀一。

【斑子】17 ハンシ ❶虎の異名。〔廣異記〕開元初、巴人百餘輩、伐二太白廟前松樹一、有二老人一、謂曰、此神樹、何故伐レ之、羣巴不レ輟、老人乃登レ山呼二斑子一、有レ虎相繼而至、噬二巴人一殆盡。❷河豚の異名。〔錄異記〕鯸鮧魚文斑如レ虎、俗云、煮レ之不レ熟、食レ之必死。〔石林詩話、上〕歐陽文忠公記、梅聖兪河豚詩、云云、謂下河豚出二于暮春一、食二柳絮一而肥上、殆不レ然、今浙人食二河豚一、始二于上元前一、常州江陰最先得、云云、柳絮時、人已不レ食、謂二

之斑子一。

【斑蚝】18（ハンシ） 蟲の名。斑蝥の一名。斑蝥(47)を見よ。

【斑兒】19（ハンジ） 河豚の小さなもの。〔事物異名錄、水族、河豚〕臨海記、鯸鮐、卽河豚之大者、戒菴漫筆、大者名二青郎君一、小者名二斑兒一。

【斑晶】20（ハンシヤウ） 火成岩の緻密な部分、卽ち石基の中に散在する大きな結晶。

【斑筍】21（ハンジユン） 斑竹のたけのこ。〔梅堯臣、詩〕牡丹開盡桃花紅、斑筍迸レ林犀角豐。

【斑如】22（ハンジヨ） 清、史嗣彪(2―3249‥221)の字。

【斑疹】23（ハンシン） 皮膚にできる發疹の類をいふ。猩紅熱。〔活法機要、斑論〕斑疹之病、其爲レ證各異、瘡法焮二腫於外一者、屬二少陽三焦相火一也、謂二之斑一、小紅點二行皮膚之中一不レ出者、屬二少陰君火一也、謂二之疹一。

【斑隹】24（ハンスイ） 斑鳩の一名。〔本草、斑鳩〕釋名、斑隹、錦鳩、鵓鳩、祝鳩、時珍曰、小而無レ斑者曰レ隹。

【斑石】25（ハンセキ） 滑石の異名。〔本草、滑石〕集解、頌曰、南城志云、膋成縣出二膋石一、卽滑石也、土人以爲二燒器一、烹レ魚食、是也、萊濠州出者、理粗質青有二黑點一、亦謂二之斑石一。

【斑然】26（ハンゼン） まだらなさま。〔禮、檀弓下〕原壤登レ木、云云、歌曰、貍首之斑然、執二女手之卷然一。〔疏〕斲二椁材一、文采似二貍之首一。

【斑題】27（ハンダイ） まだらなひたひ。〔張協、七命〕乃有二圓文之豣、斑題之豵一。〔注〕銑曰、斑題、斑額也。

【斑竹】28（ハンチク） 幹の表面に紫褐色等の斑紋のある竹の總稱。まだら竹。湘妃竹。舜が南巡して蒼梧の野に崩じた時、其の二妃が後を追つて湘水に至り、涙を竹に濺いだので、斑紋が出來たと傳へられる。〔博物志、史補〕堯之二女、舜之二妃、曰二湘夫人一、舜崩、二妃啼、以レ涕揮レ竹、竹盡斑。〔述異記、上〕湘水、去レ岸三十里許、有二相思宮・望帝臺一、昔舜南巡而葬二於蒼梧之野一、堯之二女、娥皇・女英、追レ之不レ及、相與協哭、涙下沾レ竹、竹文上爲レ之斑斑然。〔唐書、地理志五〕虔州南康郡上二土貢一、云云、斑竹。〔劉禹錫、泰娘歌〕如何將レ此千行涙、更灑湘江斑竹枝。〔羣芳譜〕斑竹卽吳地稱二湘妃竹一者、其斑如二涙痕一、世傳、二妃將レ沈二湘水一、望二蒼梧一而泣、灑レ涙成レ斑、出二峽州宜都縣飛魚口一、鮮美可レ愛、杭產者不レ如、亦有二二種一、出二古辣一者佳、出二陶虛山一者次レ之。〔臨漢隱居詩話〕竹有二黑點一、謂二之斑竹一、非也、湘中斑竹方生時、每點上苔錢封レ之甚固、土人斫レ竹浸二水中一、用二草穰一洗二去苔錢一、則紫暈爛斑可レ愛、此眞斑竹也。

〖斑竹筆〗29（ハンチクヒツ） 斑竹の軸の筆。〔權記、長保四年八月十三日〕奉二圍碁負物・斑竹筆州管一。

【斑杖】30（ハンヂヤウ） ❶こんにやくの異名。蒻。〔古今注、草木〕揚州人謂レ蒻爲二斑杖一、不レ知レ食レ之。❷藥草の名。虎杖の別名。天南星と同類の植物。〔本草、虎杖〕釋名、苦杖、大蟲杖、斑杖、酸杖、時珍曰、杖言二其莖一、虎言二其斑一也、或云、一名二杜牛膝一者非也、一種斑杖似二蒻頭一者、與レ此同レ名異レ物。❸斑竹の杖。〔杜甫、曉望二白帝城鹽山一詩〕徐步移二斑杖一、看レ山仰二白頭一。

【斑點】31（ハンテン） まだらに散在する點。まだら。〔王惲、番禺杖詩〕花藤昏二玳暈一、斑點慘二湘娥一。

【斑禿】32（ハントク） 頭髮がまだらにはげる。〔唐書、后妃下、吳皇后傳〕肅宗在二東宮一、宰相李林甫、陰構二不測一、太子內憂、鬢髮斑禿。

【斑犢】33（ハントク） まだら色の小牛。〔范成大、秦樓詩〕欄街看幕似二春遊一、斑犢雕車碧畫油。

【斑馬】34（ハンバ） ❶縞馬。❷（ブチウマ） まだらうま。ぶちうま。ぶちの馬。斑駒。〔古事記、上〕天照大御神、坐二忌服屋一而、令レ織二神御衣一之時、穿二其服屋之頂一、逆二剝天斑馬一剝而所二墮入一時、天衣織女見驚而、於レ梭衝二陰上一而死。

【斑白】36（ハンパク） 頭髮の黑白相雜つた者。ごましほ頭。老人をいふ。班白。頒白。〔禮、王制〕斑白者、不二提挈一。〔注〕雜色曰レ斑。〔禮、祭義〕斑白者、不下以二其任一行中乎道路上、而弟子達二乎道路一矣。〔注〕斑白者、髮雜色也。〔韓非子、外儲說左下〕斑白者多徒行。〔史記、循吏、子產傳〕斑白不二提挈一、僮子不レ犂レ畔。〔左思、魏都賦〕斑白不レ提、行旅讓レ衢。

【斑剝】37（ハンパク） まだらにはげる。〔周湞、池口舟中見二九華山一詩〕嵁霞上斑剝、石乳下淪硱。

【斑駁】38（ハンパク） ぶち。色どりの相雜るさま。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕雜三斑駁與二闒茸一。〔注〕斑駁、雜色也。〔白居易、睡後茶興憶二楊同州一詩〕婆娑綠陰樹、斑駁青苔地。〔一切經音義、五〕斑駁、又作レ辨、同、補顏反、蒼頡篇、斑、文貝、雜色爲レ斑也。

【斑髮】39（ハンパツ） 白髮まじりの髮。斑白の頭髮。

【斑斑】40（ハンパン） ❶相雜はるさま。班班。〔論語、雍也、文質彬彬、集注〕彬彬、猶二班班一、物相雜而適均之貌。❷涙痕などが點點とあるさま。〔李白、閨情詩〕織レ錦心草草、挑レ燈涙斑斑。〔紅樓夢、三十四回〕枕上袖邊難二拂拭一、任他點點與二斑斑一。

【斑尾】41（ハンビ） 斑點ある尾。〔潘岳、射雉賦〕斑尾揚翹、雙角特起。〔梁書、沈約傳〕或斑尾而綺翼。

【斑鬢】42（ハンビン） 鬢の毛の白黑相雜はるもの。〔潘岳、秋興賦〕斑鬢髟以承レ弁兮、素髮颯以垂レ領。〔江總、山水納袍賦〕嗟二斑鬢之已颯一、愧二治袖之爲レ姸。

【斑布】43（ハンプ） 布の名。木綿の布。さらさの類。班布。〔魏志、東夷、倭人傳〕班布二匹二丈以到。〔農政全書、木綿〕元扈先生曰、吉貝之名、獨昉二於南史一、相傳至レ今、不レ知二其義意一、是海外方言也、小說家所謂木綿、其爲レ布、曰レ城、曰二文繻一、曰二烏驎一、曰二斑布一、曰二白氎一、曰レ緤、曰二屈眴一者、皆此。

【斑毛】44（ハンマウ） さまざまの色の毛。まだらげ。〔摯虞、鴳鶉賦〕斑毛頳膺、駮羽朱掖。

【斑幕】45（マダラマク） 斑幔(49)に同じ。

【斑猫】46（ハンメウ） 斑貓(48)に同じ。

【斑蝥】47（ハンメウ） 蟲の名。長さ五六分から一寸許りに至る。多く豆葉上に生ずる。甲は紫綠色で金屬の光澤を帶び、よく人前を飛行する。有毒で、藥用に供する。其の幼蟲は、頭甚だ大で、成蟲と形を異にし、皆生蟲を捕食して農作に益する。鄕導蟲。斑猫。盤蝥。斑蚝。斑菌。〔本草、斑蝥〕釋名、斑猫、盤蝥蟲、龍蚝、斑蚝、時珍曰、斑、言二其色一、蝥、刺、言三其毒如二矛刺一也、亦作二盤蝥一、俗訛爲二斑猫一、又訛二斑蚝一爲二斑尾一也、吳普本草、又名二斑菌一、曰二腃髮一、曰二晏青一。

【斑貓】48（ハンメウ） ❶䳗鵑の異名。ふくろふの屬。〔山海經、北山經〕北囂之山、有レ鳥焉、其狀如レ烏、人面、名二䳗鵑一、宵飛而晝伏、食レ之已レ暍。〔釋義〕䳗鵑、一作二斑貓一。❷蟲の名。毒を有す。斑蝥の異名。斑蝥を見よ。

【斑幔】49（マダラマク） 一幅每に異つた色の布で作つた幕。〔和名類聚抄、屛障具〕幔、斑幔、萬多良萬久。〔儀式、二、踐祚大嘗祭儀〕其門內外屛、懸二斑幔一。

【斑文】50（ハンモン） まだらの模樣。又、其の皮。虎豹の皮。〔司馬相如、上林賦〕被二斑文一跨二野馬一。〔注〕善曰、郭璞曰、斑文、虎豹之皮也。

【斑紋】51（ハンモン） まだらの模樣。とらふ。〔歙硯說〕棗心青潤可レ愛、中有二小斑紋一、中廣、上下皆銳、形若二棗核一。

【斑駱】52（マダラカゲヒバリ・トラカハラゲ） 馬の毛色の名。〔一話一言、八、百馬圖名〕斑駱。

【斑爛】53（ハンラン） 模樣があつて派手なこと。まだらで美しい。〔拾遺記、十、岱輿山〕玉梁之側有二斑爛自然、雲霞龍鳳之狀一。〔孝子傳、老萊子〕萊子常服二斑爛之衣一、爲二嬰兒戲一。

【斑蘭】54（ハンラン） あや模樣があつてきらびやかなこと。斑爛に同じ。班蘭。〔後漢書、南蠻傳〕昔高辛氏、云云、以レ女配二槃瓠一、生二子一十二人一、云云、衣裳班蘭、語言侏離。〔太平御覽、人事〕老萊子者、楚人、行年七十、常著二斑蘭之衣一、爲レ親取レ飮。〔南史、張敬兒傳〕既得二開府一、又望二班劍一、語レ人曰、我車邊猶レ少二斑蘭物一。

【斑龍】55（ハンリヨウ） ❶まだら模樣の龍。〔抱朴子、祛惑〕向者爲二老君一牧二數頭龍一、一斑龍、五色最好。〔漢武內傳〕王母乘二紫雲之輦一、駕二九色斑龍一。❷鹿の異名。〔本草、鹿〕釋名、斑龍、時珍曰、斑龍名出二澹寮方一、按、乾寧記云、鹿與二遊龍一相戲、必生二異角一、則鹿得レ稱レ龍、或以レ此與、梵書謂二之密利迦羅一。❸pan¹ lung² 前世紀の動物。恐龍の一種。齒長一寸半許り、體長三丈餘、前肢は後肢より短い。今其の化石を發見する。

【斑璘】56（ハンリン） あやあるさま。〔晉書、皇甫謐傳〕忽二金白之輝曜一、忘二青紫之斑璘一。

【斑枝花】57（ハンシクワ） 植物の名。木綿科の常綠喬木。熱帶地方に產し、高さ百尺に達する。花は白色。種子に絮のやうな長軟毛があり、布團などに入れて綿の代用とする。木材は輕く、丸木舟を作るのに適す。ぱんや。〔本草、木綿〕集解、時珍曰、木綿有二草木二種一、交廣木綿樹、大如レ抱、其枝

似レ桐、其葉大如二胡桃葉一、入レ秋開レ花、紅如二山茶花一、黃蕊、花片極厚、爲レ房甚繁、短側相比結レ實、大如レ拳、實中有二白綿一、綿中有レ子、今人謂二之斑枝花一、訛爲二攀枝花一、李延壽南史所謂、林邑諸國出二古貝一、花中如二鵝毳一、抽二其緒一、紡爲レ布、張勃吳錄所謂、交州永昌木綿樹、高過レ屋、有二十餘年不レ換者一、實大如レ盃、花中綿軟白、可レ爲二緼絮及毛布一者、皆指二似レ木之木綿一也。〔農政全書、木綿〕南史所謂林邑吉貝、吳錄所謂永昌木綿、皆指二木本之木綿一、可レ爲レ布、意卽娑羅木、然與二斑枝花一絕不レ類。

【斑袖根】58 ハンシウコン　虎杖の根のこと。〔本草、虎杖〕集解、斅曰、凡使勿三誤用二天藍及斑袖根、二一味根形味皆相似也。

【斑珠藤】59 ハンシュフヂ　藤の一種。〔本草、附錄、諸藤、斑珠藤〕藏器曰、生二山谷中一不レ凋、子如レ珠而斑、冬月取レ之、味甘溫無レ毒、浸レ酒服、主二風血羸瘦、婦人諸疾一。

【斑節蝦】60 ハンセツカ　くるまえびの異名。〔閩書、閩產〕蝦有二赤蝦・黃蝦・沙蝦・水港・蝦・斑節蝦一。

【斑道人】61 ハンダウジン　海螺（**6－17503**··556）の異名。〔淸異錄、文用、發光地菩薩〕舒雅得二海螺一、甚奇、宜レ用滑レ紙、以レ簡獻二于熙載一云、海中有二無心斑道人一、往詣二門下一、若書材糙澀、可レ使二道人訓一レ之。

【斑騮騜】62 マダラカゲヒバリトラカゲ　馬の毛色の名。〔一話一言、八、百馬圖名〕斑騮騜。

【斑寅將軍】63 ハンインシヤウグン　虎の異名。斑特處士を見「よ。

【斑特處士】64 ハントクシヨシ　牛の異名。〔山莊夜怪錄〕大中年、有二寧茵秀才一、假二大寮莊於南山下一、夜聞レ叩レ門、稱二桃林斑特處士相訪一、俄又叩レ關曰、南山斑寅將軍奉謁、茵延入圍レ棋飲レ酒賦レ詩而別、明視二其門外一、唯虎跡牛蹤而已。

九畫

【斒】13471　ハン　ヘン　〔集韻〕逋閑切　ㄅㄢ　pan¹　刪

❶斒斕・斕斒は、色が純一でない。まだらがあつて美しい。〔集韻〕斒、斒斕、色不レ純也。〔玉篇〕斒、斕斒、文也。❷斑に同じ。斑（**5－13470**）の㊄を見よ。❸或は敘（**5－13457**）・豳（**10－36448**）に作る。〔集韻〕斒、或从レ幷、亦作レ豳。

【斒斕】1 ハンラン　❶まだらで美しい。斑斕。斕斒。字解㊀㊁の❶を見よ。❷文章をいふ。〔通俗文〕文章、謂二之斒斕一。

【奐】13472　クワン　〔集韻〕呼玩切　翰

あや。いろどり。奐斕。通じて奐（**3－5916**）に作る。〔集韻〕奐、奐斕、文采、通作レ奐。

【嵌】13473　㊀タン　〔集韻〕他案切　翰　㊁タン　〔集韻〕儻旱切　旱

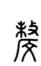
㊀㊁**文采のないさま。**嵌斅。〔集韻〕嵌、嵌斅、無二文采一皃。

【葼】13474　キン　錦（**11－40569**）に同じ。〔字彙補〕葼、同レ錦。

【颩】13475　シン　颯（**12－43775**）に同じ。〔字彙補〕颩、同レ颯。

十一畫

【棱】13476　リ　〔集韻〕陵之切　支


小篆

淡彩のあや。〔說文〕棱、微畫文也、从レ文𢻰聲。〔段注〕文、各本奪、今補。〔集韻考正〕案、棱、入二九篇文部一、類篇、文・攴兩部竝收、此引二許書一、字當レ从レ文。

【斅】13477　バン　マン　〔集韻〕莫半切　翰

嵌斅は、文采のないさま。〔集韻〕嵌、嵌斅、無二文采一。

十二畫

【敉】13478　サイ　彩（**4－9992**）に同じ。〔六書統〕敉、同レ彩。

【埶】13479　ネツ　蓺（**7－19542**）の譌字。〔正字通〕埶、蓺字之譌。

【嫳】13480　ヘイ　ベイ　〔集韻〕毗祭切　霽

獸の名。〔集韻〕嫳、獸名、似レ犬有レ文、故从レ文。

十四畫

【敥】13481　ラン　斕（**5－13486**）に同じ。〔集韻〕斕、敥、或作レ燓。

【斌】13482　ハン　義未詳。〔海篇〕斌、音槃。

【辬】13483　ハン　斑（**5－13470**）の本字。〔正字通〕斑、本作レ辬。

十五畫

【斔】13484　㊀ユ　〔集韻〕勇主切　麌　㊁シヨウ　シユ　〔集韻〕諸容切　冬

㊀**容量の名。**斞（**5－13516**）に同じ。〔集韻〕斞、說文、量也、引二周禮麥三斞一、或作レ斔。〔莊子、田子方〕斔斛不三敢入二於四境一。〔釋文〕斔、音庾。㊁**容量の名。**鍾（**9－28160**）に同じ。通じて鍾（**11－40672**）に作る。〔集韻〕鍾、量名、六斛四斗曰レ鍾、或作レ斔、通作レ鍾。〔莊子、田子方、釋文〕李云、六斛四斗曰レ斔、司馬本作二斔斞一云、斔、讀曰レ鍾、斞、讀曰レ臾。

十六畫

【憂】13485　イウ　ウ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕憂、於鳩切。

十七畫

【斕】13486　ラン　レン　〔集韻〕離閑切　ㄌㄢˊ　lan²　刪

❶媥爛は、あや。文采のあるさま。〔玉篇〕爛、媥爛、文也。〔集韻〕爛、媥爛、色不レ純也。〔拾遺記、十、岱輿山〕玉梁之側、有二斑爛自然、雲霞龍鳳之狀一。❷或は斕(5－13481)に作る。〔集韻〕爛、或从レ粦。

【爛斑】1 ラン ハン あやあるさま。〔皮日休、石榴歌〕玉刻冰壺含レ露濕、爛斑似レ帶二湘娥泣一。〔蘇軾、月華寺詩〕高巖夜吐金碧氣、曉得二異石一青爛斑。

【爛媥】2 ラン ハン まだらで美しい。媥爛(5－13471・・1)に同じ。〔柳宗元、酬下韶州裴曹長史君寄二道州呂八大使一因以見上示二十韻詩〕食レ貧甘二莽鹵一、被レ褐謝二爛媥一。

十九畫

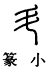
【斖】13487 ミ ビ 〔集韻〕武斐切 ［尾］ **うるはしい。又、つとめる。**亹(1－342)に同じ。〔廣韻〕亹、美也、爾雅、亹亹、勉也、斖、俗。〔集韻〕亹、亹亹、勉也、或从レ文。

【斖斖】1 ビ ビ 力めて止まないさま。亹亹。〔漢書、王莽傳中〕斖斖在二左右一之不レ得レ從レ意。〔注〕師古曰、斖斖、自勉之意、左右、助也。〔蜀志、郤正傳〕粲乎斖斖、尙二此忠益一。

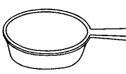
【〓】13488 ビ 亹(1－342)に同じ。〔龍龕手鑑〕〓、同レ亹。

斗部

【斗】13489 ㈠ トウ ツ 〔集韻〕當口切 ㄉㄡˇ tou³ ［有］ ㈡ シュ 〔集韻〕腫庾切 ［麌］ ［慣］ ト


小篆

㈠❶**容量の名。**十升。民國現行制度の一斗は我が國の五、七三五升に當る。〔說文〕斗、十升也、象レ形有レ柄。〔段注〕上象二斗形一、下象二其柄一也。〔漢書、律歷志上〕十升爲レ斗、斗者、聚レ升之量也。❷**とます。**十升をいれるます。〔淮南子、時則訓〕角二斗桶一。〔注〕斗、稱量器也。❸**ます。**量器の總稱。〔史記、李斯傳〕平二斗斛度量一。❹**ひしやく。**柄があつて、酒などを酌む器。〔詩、大雅、行葦〕酌以二大斗一。〔疏〕大斗、長三尺、謂二其柄一也、蓋從二大器一挹二之於樽一、用二此勺一耳。〔穆天子傳、六〕佐者承レ斗而哭。〔注〕斗、酌レ水杓也。❺**ひさご。**〔太平御覽、器物、勺〕通俗文曰、木瓢爲レ斗。❻**重量の名。**二斤半。〔正字通〕斗、斤數、吳中市レ魚以レ斗數、一斗爲二二斤半一、松陵倡和詩、一斗霜鱗換二濁醪一。❼**星宿の名。**南斗・北斗・小斗の三座がある。單に斗と稱するときは多く北斗をいふ。〔說文通訓定聲〕斗、按、北斗七星、南斗六星、又天市垣小斗五星、皆象二斗形一、故以爲レ名。〔易、豐〕日中見レ斗。〔詩、小雅、大東〕維北有レ斗。〔疏〕維此天上、其北則有二斗星一。〔漢書、五行志下之上〕斗、天之三辰、綱二紀量一也。❽**柱の上のますがた。**〔釋名、釋宮室〕斗在二欒兩頭一、如レ斗也、斗負二上員檼一也。❾**とがる。**つき出る。〔史記、封禪書〕成山斗入レ海。〔注〕索隱曰、斗入レ海、謂二斗絕曲入一レ海也。❿**けはしい。**きりたつ。〔後漢書、竇融傳〕河西斗絕、在二羌胡中一。〔注〕斗、峻絕也。〔水經、穀水注〕二壁爭高、斗聳相亂。〔宋史、劉子羽傳〕山形斗拔、其上寬平。⓫**たちまち。**にはかに。〔韓愈、答二張十一一詩〕斗覺霜毛一半加。⓬小さいこと・少ないことをいふ接頭語。〔釋名、釋床帳〕小帳曰二斗帳一、形如レ覆レ斗也。⓭**斗の形の器。**威斗・刁斗の類。〔正字通〕斗、漢王莽作二威斗一、若二北斗一、長二尺五寸、欲二以厭勝一。⓮**つまづく。**阧(11－41558)に通ず。〔正字通〕阧、古借用レ斗。⓯抖(5－11888)の略字。斗藪(82)を見よ。⓰**姓。**〔正字通〕姓、宋斗蓋。㈡**ひしやく。**〔周禮、春官、鬯人〕大喪之大渳設レ斗。〔注〕斗、所二以沃一レ尸也。〔釋文〕斗、依レ注音主。〔詩、大雅、行葦、釋文〕斗、都口反、徐又音主。［邦］❶**とます。**漢字偏旁の名。❷**箏の第十一弦。**斗爲巾(127)を見よ。❸鬭(12－45657)の當て字。


漢素斗（西淸續鑑）

［名乘］マス。ホシ。

［解字］象形。枡目を量る器で柄のあるもの。上部は枡の形に象り、下部はその柄に象る。蓋し、北斗七星に象つたものであらう。十升を容れる器。引伸して量器の總稱。又、酒などを酌む器。升(2－2702)の字、勺(2－2494)の字の解字を見よ。〔說文、斗、段注〕上象二斗形一、下象二其柄一、斗有レ柄者、蓋象二北斗一。

【斗菴】1 ト アン 明、韓鼎(12－43159・・175)の號。

【斗椅】2 tou² i³ よりかかりのない腰掛。

【斗挹】3 ト イフ 清、盛謨(8－23005・・178)の字。

【斗概】4 ト カキ 枡に米などを盛つた後、緣と平均になす器。概。〔壒嚢抄〕。

【斗香】5 ト カウ ❶星斗に禮するために燒く香。俗に紗絹を以て糊で固めて斗形を作り、中に諸香を雜へて燒く。〔雲仙雜記、斗盆燒二乳頭香一〕曹務光見下趙州以二斗盆一燒中乳香十斤上、曰、財易レ得、佛難レ求。❷tou³ hsiang¹ 江蘇六合地方で、中秋各種の食品を桝形に積み重ね、小旗二本を插すこと。

【斗耗】6 tou³ hao⁴ 初めにはかり過ぎて終に量の不足すること。はかりべり。

【斗綱】7 ト カウ 斗杓(110)に同じ。〔漢書、律歷志上〕斗綱之端、連二貫營室一。〔後漢書、律曆志下〕景之長短、斗綱之建。〔黃裳天文圖〕十二辰斗綱所レ指、謂二之月建一。

【斗衡】8 ト カウ 北斗の第五星。〔廣雅、釋天〕北斗七星、五爲レ衡。〔史記、天官書〕夜半建者衡、衡殷二中州河濟之閒一。〔注〕集解曰、徐廣曰、第五星、正義曰、衡、北斗衡也、言下北斗夜半建、用二斗衡一指上寅也。〔歲華紀麗譜〕雁序南迴、斗衡東指。

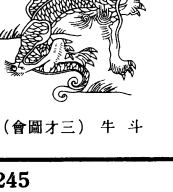
【斗格】9 tou³ kê² とかき。ますかき。ますかけ。

【斗覺】10 ト カク たちまちおぼえる。〔韓愈、答二張十一功曹一詩〕吟二君詩一罷看二雙鬢一、斗覺霜毛一半加。〔張謂、早春陪二崔中丞浣花溪宴一得二暄字一詩〕旌節臨二溪口一、寒郊斗覺レ暄。

【斗箕】11 ト キ 二十八宿中の斗星と箕星。〔爾雅、釋天〕箕斗之間、漢津也。〔蘇軾、出レ都來レ陳所レ乘船上有レ題二小詩八首一不レ知二何人一有下感二於余心一者上聊爲和レ之詩〕喧豗瞬息間、還挂斗與レ箕。

【斗獻】12 ト ギ 北斗星の形をした飾物。〔漢書、王莽傳下〕建二華蓋一、立二斗獻一。〔注〕師古曰、獻音義、謂三斗魁及杓末如二勺之形一也。

【斗牛】13 ト ギウ ❶北斗星と牽牛星。又、南斗星と牽牛星。〔晉書、張華傳〕初吳之未レ滅也、斗牛之間、常有二紫氣一、乃邀二雷煥一仰觀、煥曰、寶劍之精、上徹二於天一耳。〔庾信、哀江南賦〕路已分二於湘漢一、星猶看二於斗牛一。〔蘇軾、赤壁賦〕少焉月出二於東山之上一、徘二徊於斗牛之間一。❷虬の屬。明代、內臣勳戚に賜はる服の繡に此


斗牛（三才圖會）

の獸形を用ひた。〔宸垣識略〕西內海子中有二斗牛一、卽虬螭之類、遇二陰雨一作二雲霧一、常蜿二蜒道旁及金鰲玉蝀坊之上一、後徙去。

【貫二斗牛一】14 トギウヲツラヌク　北斗星と牽牛星との間をつらぬく。壯心が盛で天を貫く氣象のある喩。〔岳飛、題二青泥市寺壁一詩〕雄氣堂堂貫二斗牛一、誓將二眞節一報二君讐一。

【斗級】15 トキフ　官名。宋以後置く。倉庫務場局院等の庶吏で、租穀などの枡目を掌る。〔明律、戶律、倉庫、多收稅糧斛面〕若倉官斗級、不レ令二納戶行一レ槩。〔六部成語、戶部、斗級、注解〕掌二量斗一之官役也。

【斗筐】16 トキヤウ　ますがたのかご。〔論衡、說日〕彼從レ下望二見其形一、若二斗筐之狀一。

【斗拱】17 トキヨウ　❶柱上のますがた。斗栱に同じ。〔論語、公冶長、山レ節、疏〕此言レ山レ節者、謂下刻二鏤柱頭一爲二斗拱一、形如上山也。❷斗拱斜山を見よ。

【斗拱斜山】18 トキヨウシヤザン　斗拱は正殿の屋脊に雕刻して星斗の形を作つたもの、斜山は殿旁の垣を斜に八字形に分つたもの。〔六部成語、工部、斗拱斜山、注解〕正殿屋脊、彫作二星斗之象一、曰二斗拱一、殿旁之垣、斜分二八字一、曰二斜山一。

【斗栱】19 トキヨウ　柱上のますがた。梁棟を支持する木材。ますがた。枓栱。〔禮、禮器、山レ節藻レ梲、疏〕山レ節、謂下刻二柱頭一爲二斗栱一、形如上山也。〔論語、公冶長、山レ節藻レ梲、集注〕節、柱頭斗栱也。〔靈鬼志、唐晅〕往日常弄二一金鏤合子一、藏二于堂屋西北斗栱中一。

【斗胸】20 トキヨウ　胸の張り出たもの。〔史記、高祖紀、高祖爲レ人隆準而龍顏、注〕正義曰、河圖云、帝劉季口角戴勝、斗胸龜背龍股、長七尺八寸。

【斗極】21 トキヨク　北斗星と北極星。又、北斗星をいふ。極は中の意。〔爾雅、釋地〕北戴二斗極一爲二空桐一。〔疏〕斗、北斗也、極者、中宮天極星、其一明者泰一之常居也、以三其居二天之中一、故謂二之極一、極、中也、北斗拱レ極、故云二斗極一。〔淮南子、齊俗訓〕夫乘レ舟而惑者、不レ知二東西一、見二斗極一則寤矣。〔揚雄、長楊賦〕上帝眷二顧高祖一、高祖奉レ命、順二斗極一、運二天關一。〔後漢書、杜篤傳〕推二天時一、順二斗極一、排二閶闔一入二函谷一。〔注〕極、北極星也、言下順二斗建及斗極北星一、運轉而行上也。

【斗魁】22 トクワイ　北斗星の第一星から第四星に至る樞・璇・璣・權の四星をいふ。北斗のますがた。〔春秋緯運斗樞〕第一天樞、第二璇、第三璣、第四權、第五衡、第六開陽、第七搖光、第一至二第四一爲レ魁、第五至二第七一爲レ杓、合而爲レ斗。〔史記、天官書〕斗魁戴匡六星、曰二文昌宮一。〔漢書、天文志〕斗魁戴筐六星、曰二文昌宮一。〔杜甫、秋日荊南述懷詩〕數見銘鐘鼎、眞宜レ法二斗魁一。

【斗君】23 トクン　斗星の神。〔雲笈七籤〕丹元星天之斗君、主二命祿籍一、上法二九天譜籙一、中統二鬼神部目一、下領二學眞兆民命籍一。

【斗雞】24 トケイ　時計。其の形北斗に似、雞のやうに時を報ずることからいふ。〔東雅、七、器用〕。

【斗建】25 トケン　斗柄が左旋して指す辰をいふ。斗柄の指す十二辰を十二箇月に配するのを月建といひ、大の月を大建、小の月を小建といふ。又、夏曆では正月は寅を指すから建寅の月、二月は卯を指すから建卯の月とする。〔漢書、律歷志上〕斗建下爲二十二辰一、視二其建一而知二其次一。〔後漢書、律曆志下〕晦朔合離、斗建移レ辰。〔晉書、天文志〕斗建之間、三光道也。〔宋書、禮志〕諸若レ此者、皆以二正歲斗建一爲レ節、此曆數之序。〔庾信、齊王憲神道碑〕斗建麾レ兵、天離轉レ戰。

【斗檢】26 トケン　方形の函で中に書牘などを入れ、他人の妄披を防ぐために其の上に表署するもの。斗檢封を見よ。〔宋史、輿服志六〕中興之後、后寶用レ金、方二寸四分、高下隨レ宜、鼻紐以レ龜、斗檢以レ銀、塗以レ金。

【斗檢封】27 トケンフウ　書牘を入れた方形の函の上に表識して封印したもの。〔周禮、地官、司市〕凡通二貨賄一、以二璽節一出二入之一。〔注〕璽節、印章、如二今斗檢封一矣。〔疏〕案、漢法、斗檢封、其形方、上有二封檢一、其內有レ書、則周時印章。

【斗源】28 トケン　淸、戴大昌(**10－38309**‥87)の字。

【斗口】29 トコウ　斗柄をいふ。〔漢書、天文志〕前列直二斗口三星一、隨二北耑銳一、若レ見若レ不レ見曰二陰德一。

【斗虹】30 トコウ　淸、沈筠(**6－17189**‥24)の號。

【斗斛】31 トコク　ます又はますめの名。斗は十升、斛は十斗。轉じて、僅少の意。〔儀禮、聘禮〕十斗曰レ斛。〔莊子、胠篋〕爲二之斗斛一以量レ之、則幷二與斗斛一而竊レ之。〔荀子、君道〕斗斛敦槩者、所二以爲レ嘖也。〔管子、七法〕繩墨也、規矩也、衡石也、斗斛也。〔漢書、律歷志上〕斛者角二斗平多少之量一也、夫量者躍二於龠一、合二於合一、登二於升一、聚二於斗一、角二於斛一也、職在二太倉一、大司農掌レ之。

【斗斛之祿】32 トコクノロク　一斗又は一斛の祿。僅かの祿。〔韓愈、祭二十二郎一文〕故捨レ汝而旅二食京師一、以求二斗斛之祿一。

【斗斛上多來】33 tou^3 hu^2 shang^4 tuo^1 lai^2　枡目のよいこと。

【斗齋】34 トサイ　明、朱多熲(**6－14424**‥903)の號。

【斗筲】35 トサウ トセウ　斗は一斗ます。筲は一斗二升入りの竹器。皆僅かの分量を容れる具。❶人の器量の小さくて取るに足らぬ喩。〔論語、子路〕子曰、噫、斗筲之人、何足レ算也。〔疏〕斗、量名、容二十升一、筲、竹器、容二斗二升一。〔集注〕斗、量名、容二十升一、筲、竹器、容二斗二升一、斗筲之人、言二鄙細一也。〔漢書、外戚下、孝成昭皇后傳〕豈當世庸庸斗筲之臣所二能及一哉。〔後漢書、周章傳論〕如令下君器易以二下議一、卽二斗筲一必能叨中天業上、狂夫豎臣亦自奮矣。〔陸機、豪士賦序〕庸夫可三以濟二聖賢之功一、斗筲可三以定二烈士之業一。❷俸祿の少ない喩。

【斗筲之役】36 トセウノエキ　俸祿の少ない勞役。〔後漢書、郭太傳〕林宗曰、大丈夫焉能處二斗筲之役一乎。〔潘岳、閑居賦序〕尙何能違二膝下色養一、而屑二從斗筲之役一乎。

【斗筲之器】37 トセウノキ　取るに足らぬ小さい器量。〔李綱、詩〕顧二茲斗筲器一、何以動二堯禹一。

【斗筲之材】38 トセウノサイ　器量小さく取るに足らぬ才能。〔漢書、谷永傳〕永奏レ書謝レ鳳曰、永、斗筲之材、質薄學朽。〔蘇軾、論二商鞅一文〕至二於桑弘羊一、斗筲之才、穿窬之智、無二足レ言者一。

【斗筲之子】39 トセウノシ　取るに足らぬ小さい器量の人。器量の小さい平凡な人。〔漢書、敍傳上〕棨梲之材、不レ荷二棟梁之任一、斗筲之子、不レ秉二帝王之重一。〔郝名遠、大厦賦〕懿二其棟梁之任一、固非二斗筲之子一。

【斗筲之人】40 トセウノヒト　器量の小さいつまらぬ人物。斗筲之子に同じ。〔論語、子路〕子曰、噫、斗筲之人、何足レ算也。〔後漢書、何敞傳〕臣雖二斗筲之人一、誠竊懷レ怪。

【斗筲之徒】41 トセウノト　取るに足らぬ器量の小さいやから。斗筲之子に同じ。〔漢書、公孫劉車王楊蔡陳鄭傳贊〕斗筲之徒、何足レ選也。

【斗筲穿窬才】42 トセウセンユノサイ　取るに足らぬ小さい才能。穿窬は壁に穴をあけて人家に忍び入り財物を盜むこと。斗筲之材に同じ。〔蘇軾、呂惠卿責レ授二建寧軍節度副使本州安置一不レ得簽書公事〕以二斗筲之才一、挾二穿窬之智一。

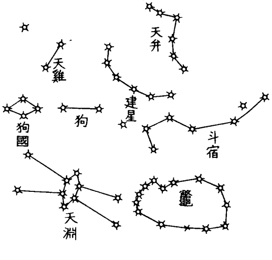
【斗山】43 トザン　❶山名。㋑安徽省盱眙縣の東北。〔太平寰宇記〕斗山與二都梁山一相連、枕二淮水一。㋺陝西省城固縣の西北。〔漢中府志〕斗山脈自二三嵎山一迤邐而南、迴轉東向、聳起一峯、與二三嵎山一對峙、形似二斗杓一、因名。㋩甘肅省武山縣の南。❷淸、顧升(**12－43689**‥106)の號。

【斗子】44 シト　官米を司る小吏。宋以來置かる。〔夷堅志〕淳熙十一年、溧陽倉斗子、坐レ盜二官米一黥配。

【斗子鹽】45 tou^2 tzŭ^3 yen^2　山西省の鹽池から產する天然の鹽。

【斗兒】46 ジト　明、朱素娥(**6－14424**‥896)の名。

【斗宿】47 トシウ トシユク　二十八宿の一つ。玄武七宿の首宿。牛宿の西南、箕宿の東宿。斗宿・建星・天弁・天雞・狗・狗國・天淵・鼈の八星座から成る。斗宿



斗宿（新法曆書）

六星は俗に南斗といふ。ひつき。〔詩、小雅、大東〕維北有斗不可以挹酒漿。〔疏〕案、二十八宿連四方爲名者、唯箕・斗・井・壁四星而已、云云、推此則箕・斗並在南方之時、箕在南而斗在北、故言南箕・北斗也。〔史記、天官書〕南斗爲廟。〔注〕正義曰、南斗六星在南也。〔晉書、天文志上〕北方南斗六星、天廟也、一曰天機。〔丹元子、步天歌〕斗、六星其狀如北斗、魁上天建六相守、天弁河中建上九、斗下圓安十四星、雖然名鼈貫索形、天雞建背雙黑星、天籥柄前八黃精、狗國四方雞下生、天淵十星鼈東邊、更有兩狗斗魁前、農家文人斗下眠、天淵色黃狗色玄。〔考古質疑〕四方列宿、隨時迭運、姑以春言之、井鬼柳星見於南方、則斗牛女虛爲北方之宿爾、以其正當北斗之衡、故彼既曰北斗、則此曰南斗、所以別也。

【斗室】48 トシツ　一斗ますほどの大きさの室。極めて小さい家をいふ。〔盧琦、宿眞教巖詩〕欣然坐我斗室底、滿室嵐氣生清秋。

【斗城】49 トジヤウ　㊀小城。小邑の意。〔資治通鑑、宋紀〕（順帝、昇明元年）裴子野論曰、區區斗城之裏、出萬死而不辭。〔注〕斗城、言城如斗大也。㊁地名。㋑河南省陳留縣の南。〔左氏、襄、三十〕伯有死於羊肆、子產襚之、枕之股而哭之、云云、既而葬諸斗城。㋺漢の長安の故城。陝西省長安縣の西北。もと秦の離宮。漢初、都を此處に建て、惠帝更に築く。城南は南斗の形をなし、城北は北斗の形をなす。よつて後世、漢の舊城をいふ。〔三輔黃圖、一、漢長安故城〕至今人呼漢京城爲斗城。〔琅琊代醉編、斗城〕長安故城、城南爲南斗形、城北爲北斗形、故號斗城。㋩浙江省永嘉縣の治。附近の諸山が北斗に似るからいふ。

【斗錫】50 トシヤク　錫が自然に塊狀をなしてゐるもの。〔本草、錫〕集解、時珍曰、星槎勝覽言、滿剌加國、於山溪中淘沙取錫、不假煎鍊成塊、名曰斗錫也。

【斗酒】51 トシユ　一斗のさけ。多量の酒。又、少量の酒をいふ。〔古詩十九首〕斗酒相娛樂、聊厚不爲薄。〔卓文君、白頭吟〕今日斗酒會、明旦溝水頭、躞蹀御溝上、溝水東西流。〔楊惲、報孫會宗書〕烹羊炰羔、斗酒自勞。

【斗酒堂】52 トシユダウ　明、貢修齡(**10－36665**··70)の室名。

【斗酒學士】53 トシユガクシ　唐の王績の號。王績が門下省に待詔してよく飲酒した故事。〔唐書、王績傳〕績待詔門下省、故事、官給酒日三升、或問、待詔何樂耶、答曰、良醞可戀耳、侍中陳叔達聞之、日給一斗、時稱斗酒學士。〔實賓錄〕斗酒學士、唐待詔門下省王績也。

【斗酒雙柑】54 トシユサウカン　一斗の酒と二つの蜜柑。〔世說新語補、言語〕戴仲若、春日攜雙柑斗酒、人問何之、答曰、往聽黃鸝聲、此俗耳針砭、詩腸鼓吹。

【斗酒隻雞】55 トシユセキケイ　一斗の酒と一羽の鷄。魏の曹操が己の知己なる橋玄の墓を祭つた時の語。後世、亡友を感懷するにいふ。〔後漢書、橋玄傳〕（曹）操常感其知己、及後經過玄墓、輒悽愴致祭奠、自爲其文曰、云云、承從容約誓之言、徂沒之後、路有經由、不以斗酒隻雞過相沃酹、車過三步、腹痛勿怨、雖臨時戲笑之言、非至親之篤好、胡肯爲此辭哉。

【斗酒百篇】56 トシユヒヤツペン　一斗の酒を飲み、其の間に詩百篇を作る。唐の李白が酒を愛し、其の飲酒中に善く詩を作つた故事。〔杜甫、飲中八仙歌〕李白一斗詩百篇、長安市上酒家眠。

【斗出】57 トシユツ　土地などのけはしくつき出ること。〔青山鐵槍齋、大八洲遊記、筥崎八幡宮〕斗出爲大灣。

【斗初】58 トシヨ　清、沙維杓(**6－17212**··252)の字。

【斗升】59 トシヨウ　ます又はますめの名。斗と升。轉じて、僅少の意。〔王灣、秋夜寓直卽事云云詩〕卑吏夙驅策、微涓效斗升。〔劉禹錫、送張盥赴擧詩〕乞取斗升水、因之雲漢津。

【斗升活】60 トシヨウクワツ　少しばかりの惠によつて命がたすかること。斗升之水を見よ。

【斗升之水】61 トシヨウノミヅ　少しばかりの水。〔莊子、外物〕周昨來有中道而呼者、周顧視車轍中、有鮒魚焉、周問之曰、鮒魚來、子何爲者耶、對曰、我東海之波臣也、君豈有斗升之水而活我哉。

【斗升之利】62 トシヨウノリ　僅かばかりの利益。〔齋藤竹堂、猿說〕其節變于斗升之利者。

【斗升之祿】63 トシヨウノロク　僅かばかりの祿。〔蘇轍、上樞密韓太尉書〕轍之來、非有取於斗升之祿。

【斗枡】64 トマス　一斗を入れるます。〔書言字考節用集、七、器財門〕斗升、升之大者。

【斗秤】65 tou^3 ch‘êng^4　ますとはかり。斗稱。

【斗稱】66 トシヨウ　ますとはかり。〔淮南子、時則訓〕令官市、同度量、鈞衡石、角斗稱、端權槩。

【斗聳】67 トシヨウ　けはしくそばだつ。〔水經、穀水注〕穀水又東逕缺門山、云云、二壁爭高、斗聳相亂、西瞻雙阜、右望如砥。

【斗食】68 トシヨク　一日に一斗あまりの食祿をうける卑い職。小祿のもの。卑しい役人。賤吏。〔戰國、秦策〕且今邑中自斗食以上、至尉內吏及王左右、有非相國之人者乎、國無事則已、國有事、臣必見王獨立於庭也。〔史記、秦始皇紀〕翦將十八日、軍歸斗食以下、什推二人從軍。〔漢書、百官公卿表上〕百石以下、有斗食佐史之秩、是爲少吏。〔注〕師古曰、漢官名秩簿云、斗食月奉十一斛、云云、一說、斗食者、歲奉不滿百石、計日而食一斗二升、故云斗食也。〔漢書、薛宣傳〕大司農斗食屬。〔注〕師古曰、斗食者、祿少一歲不滿百石、計日以斗爲數也。〔漢書、外戚傳序、斗食、注〕師古曰、斗食、謂佐史也、謂之斗食者、言一歲不滿百石、日食一斗二升。

【斗水】69 トスイ　少しばかりの水。斗升之水(61)を見よ。〔魏書、李騫傳〕監河愛斗水、蘇子惜餘明。〔孟郊、贈主人詩〕斗水瀉大海、不如瀉枯池。〔剪燈新話、三山福地志〕但願捐斗水而活涸轍之枯。

【斗樞】70 トスウ　北斗の第一星。〔劉允、濟天賦〕橫「斗樞以旋運。

【斗星】71 トセイ　星の名。〔易、豐、日中見斗、疏〕處日中盛明之時、而斗星顯見。〔星經〕斗五星在宦星西南、主稱量度。〔晉書、天文志上〕斗星盛明。

【斗稅】72 tou^3 shuei^4　穀物の桝稅。

【斗陗】73 トセウ　きりたつてけはしい。斗絕。峻絕。

【斗照】74 tou^3 chao^4　御覽を乞ふ意の敬語。台鑒(**2－3246**··14)に同じ。

【斗折】75 トセツ　北斗星の折れ曲つてゐること。斗折蛇行を見よ。

【斗折蛇行】76 トセツダカウ　北斗星のやうに折れまがり、蛇の行くやうにうねりまがる。〔柳宗元、至小邱西小石潭記〕潭西南而望、斗折蛇行、明滅可見。

【斗絕】77 トゼツ　かけはなれてつきでる。懸絕する。きりたてたやうにけはしい。〔史記、封禪書、成山斗入海、注〕索隱曰、斗入海、謂斗絕曲入海。〔後漢書、竇融傳〕今天下擾亂、未知所歸、河西斗絕、在羌胡中。〔注〕斗、峻絕也。〔後漢書、西南夷、白馬氐傳〕仇池方百頃、四面斗絕。〔蜀志、譙周傳〕阻險斗絕、易以自守。

【斗泉】78 トセン　清、陳栻(**11－41698**··364)の號。

【斗瞻】79 トセン　清、盧崇興(**8－23050**··238)の字。

【斗漱】80 トソウ　斗擻・斗藪に同じ。〔通俗編、行事、斗漱〕公羊疏、無垢加功曰漱、若里語曰斗漱、揚雄方言、東齊曰鋪頒、猶秦晉言抖藪也、法苑珠林、抖擻煩惱、去離貪著、如衣抖擻能去塵垢、按、三書用字各不同、唐宋人詩、多从法苑作抖擻、或作斗藪、而斗漱字、未見用者。

【斗擻】81 トソウ　斗藪に同じ。㊀ふりはらふ。〔玄應音義、十八〕斗擻、又作藪、郭璞注方言曰、斗擻、擧之也。㊁おそれをののくさま。〔一切經音義、十四〕難字曰、斗擻、觳觳也、江南言斗擻、北人言觳觳。

【斗藪】82 トソウ　㊀梵語、頭陀の譯。ふりはらふ。けがれをさる。振ひおとす。衣食住の欲望・執着をはらひ落すをいふ。斗擻。抖擻。〔玄應音義、七〕頭陀、此應訛也、正言杜多、譯云洮汰、言大灑也、舊云斗藪、一義也。〔王巾、頭陀寺碑文、注〕善曰、天竺言頭陀、此言斗藪、斗藪煩惱、故曰頭陀。〔皮日休、寺鐘暝詩〕百緣斗藪無塵土、寸地章煌欲布金。〔湘山野錄〕也須抖擻老精神。㊁死をおそれるさま。斗擻。觳觫。〔通俗文〕斗藪、謂之觳觳。

【斗粟】83 トゾク　僅かの粟。斗粟尺布を見よ。〔晉書、王沉等傳論〕斗粟興謠、踰里成詠。〔戴表元、

喜友堂賦〕下至二漢文一、淮南斗粟。

【斗粟尺布】84トゾクシヤクフ　一斗の粟と一尺の布。❶僅かな粟と布。〔唐書、牛僧孺傳〕尺帛斗粟入二天府一、俄復失レ之。〔宋史、食貨志上二〕凡無名苛細之斂、常加二剗革一、尺縑斗粟、未レ聞レ有レ所二增益一。❷兄弟仲の善くないのを譏つた語。漢の淮南厲王の故事。〔史記、淮南厲王長傳〕民有レ作レ歌、歌二淮南厲王一曰、一尺布、尚可レ縫、一斗粟、尚可レ舂、兄弟二人、不レ能二相容一。〔注〕集解曰、漢書音義曰、尺布斗粟、猶尚不レ棄、況於二兄弟一而更相逐乎、瓚曰、一尺布尚可二縫而共衣一、一斗粟尚可二舂而共食一也、況以二天下之廣一而不レ能二相容一。〔世說新語、方正〕武子曰、尺布斗粟之謠、常爲二陛下一恥レ之。

【斗大】85トダイ　一斗ますほどの大きさ。〔蜀志、姜維傳、注〕世語曰、維死時、見二剖膽如二斗大一。

【斗大金印】87トダイノキンイン　一斗ますほどの大いさのある金の印。〔晉書、周顗傳〕顗不二與言一、顧二左右一曰、今年殺二諸賊奴一、取二金印如二斗大一繫レ肘。

【斗膽】88トタン　一斗ますのやうに大きなきもだま。大膽なこと。蜀の姜維の膽が斗の如く大きかつた故事から出た語。〔蜀志、姜維傳、注〕世語曰、維死時、見二剖膽如二斗大一。〔梁簡文帝、七勵〕牽鉤壯氣、斗膽豪心。〔胡曾、謝レ賜レ錢啓〕推二葛亮之秤心一、負二姜維之斗膽一。

【斗帳】89トチヤウ　小さいとばり。とますを伏せたやうな形をしてゐるからいふ。小帳。〔釋名、釋牀帳〕小帳曰レ斗、形如レ覆レ斗也。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕紅羅複斗帳、四角垂二香囊一。〔魏志、東夷傳、注〕五色斗帳。〔鄴中記〕石虎冬月施二熟錦流蘇斗帳一。〔顧況、棄婦詞〕瑠璃作二斗帳一、四角金蓮花。〔書言故事、器物類、帳〕斗帳、小帳也、形如二覆斗一。

【斗儲】90トチヨ　一斗のたくはへ。少しのたくはへ。わづかの財產。〔晉書、王歡傳〕雖二家無二斗儲一、意怡如也。〔左思、詠史詩〕外望無二寸祿一、內顧無二斗儲一。〔注〕濟曰、寸祿斗儲、雖二至少一、此皆無レ之。〔高適、苦雪詩〕且喜潤二群物一、焉能悲二斗儲一。

【斗刁】91トテウ　どら。〔蘇轍、乞二禁軍日一教一狀〕弓弩斗勺、比レ舊皆倍。

【斗店】92 tou³ tien⁴　穀物問屋。天津の方言。

【斗粘】93 tou³ nien²　煙管の雁首に附着した鴉片のかす。

【斗頓】94トトン　つまづく。〔李覯、詩〕翟公門下時飛入、全勝交情斗頓人。

【斗南】95トナン　❶北斗星の南。北斗星以南。〔晉書、天文志上〕相一星、在二北斗南一、相者、總二領百司一、而掌二邦教一、以佐二帝王一安二邦國一、集二衆事一也。❷天下をいふ。斗南一人を見よ。〔迺賢、贈二趙祭酒一詩〕輦下懇二辭郎署一久、斗南爭望使二星移一。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕你道是飛虎將、聲名播二斗南一。❸字號。㋑宋、吳仁傑（2−3365‥685）の字。㋺明、胡奎（9−29400‥106）の號。㋩明、凌漢（2−1669‥26）の字。㋥谷立悳の號。谷斗南（10−36182‥81）を見よ。㋭細合方明の號。細合斗南（8−27344‥330）を見よ。

【斗南一人】96トナンイチニン　北斗星以南に唯一人の人。天下第一の人。東西獨步の人。〔唐書、狄仁傑傳〕每曰、狄公之賢、北斗以南一人而已。〔陸游、賀二葉樞密一啓〕北斗以南一人、誰其倫儗。

【斗南先生】97トナンセンセイ　明、胡奎（9−29400‥106）の尊稱。

【斗南老人集】98トナンラウジンシフ　書名。六卷。明、胡奎撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【斗入】99トニフ　かどだち尖つて突き入る。くひこむ。〔史記、封禪書〕成山斗入レ海。〔注〕索隱曰、斗入レ海、謂二斗絕曲入一レ海。〔漢書、匈奴傳下〕匈奴斗二入漢地一。

【斗入地】100 tou³ ju⁴ ti⁴　甲の地が乙の地內に突入して、其の三方を乙の地に圍まれたものをいふ。

【斗方】101トハウ　❶新年などに吉祥の文字を書いて門戶に帖りつけた方形の紙。斗方字兒を見よ。❷tou³ fang¹　書畫に用ひる冊子。一二尺四方の書畫をいふ。又、詩箋。

【斗方字兒】102 tou³ fang¹ tzŭ⁴ êrh　一尺四方ばかりある文字。緣起に用ひ、又、風習で壁などにはる。例へば春風駘蕩の如きもの。〔紅樓夢、八回〕前兒在一處看見二爺寫的斗方字兒、益發好了。

【斗望】103トバウ　明、楊文岳（6−15112‥772）の字。

【斗伯】104トハク　明、沈維耀（6−17189‥414）の字。

【斗拔】105トバツ　山などのするどく峙つこと。〔宋史、劉子羽傳〕子羽以二潭毒山形斗拔、其上寬平有一レ水、乃築二壁壘一、十六日而成。

【斗柄】106トヘイ　北斗七星の杓子形の柄にあたる部分。第五から第七に至る三星。斗杓。斗魁（22）を見よ。〔易、說卦、巽東南也齊也者言二萬物之絜齊一也、疏〕斗柄指二東南一之時、萬物皆絜齊也。〔國語、周語下〕辰在二斗柄一。〔高適、別二張少府一詩〕馬頭向二春草一、斗柄臨二高城一。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕竹梢風擺、斗柄雲橫。

【斗柄指レ東】107トヘイヒガシヲサス　立春の節をいふ。〔鶡冠子、環流〕斗柄指レ東、而天下知レ春。

【斗米】108トベイ　一斗の米。斗米肉十斤を見よ。〔宋史、食貨志三〕可レ致二斗米於京師一。

【斗米肉十斤】109トベイニクジツキン　米一斗と肉十斤。轉じて、人の大食するにいふ。〔史記、廉頗藺相如傳〕使者既見二廉頗一、廉頗爲レ之一飯、斗米肉十斤、被レ甲上レ馬、以示二尚可一レ用。〔唐書、張興傳〕張興者東鹿人、長七尺、一飯至二斗米肉十斤一。

【斗杓】110トヘウ　❶北斗七星の第五から第七に至る三星。斗魁（22）を見よ。斗柄。〔淮南子、天文訓〕斗杓爲二小歲一。〔晉書、天文志上〕攝提六星、直二斗杓之南一。〔梁昭明太子、謝二敕賚レ看レ講啓〕均二斗杓一以命二四時一、等二太陽一而照二萬國一。❷清、劉元化（2−2224‥882）の字。

【斗辟】111トヘキ　かけはなれた偏僻の地をいふ。〔漢書、匈奴傳上〕漢亦棄二上谷之斗辟縣造陽地一以予レ胡。〔注〕師古曰、斗、絕也、縣之斗曲入二匈奴界一者、其中造陽地也、辟、讀曰レ僻。

【斗篷】112 tou³ p'êng²　中國人が冬季着用する長いマント。〔紅樓夢、三十一回〕老太太的一個簇新的大紅猩猩毡斗篷、放在那裡。

【斗溟】113トメイ　明、王士昌（7−20823‥1512）の號。

【斗門】114トモン　❶水をだしいれする樋の口。水門。堰堤の閘。〔舊唐書、職官志三〕水田斗門灌漑。〔韓愈、唐故江西觀察使韋公墓誌銘〕疏爲二斗門一、以走二潦水一。〔福惠全書、教養部、修水利〕築二堤堰一建二斗門一。❷北斗の門。〔雲笈七籤〕乘二魁綱一入二斗門一。

【斗餘】115トヨ　一斗あまり。〔南齊書、徐孝嗣傳〕少能飮二酒藥一、至二斗餘一方卒。〔宋史、宋琪傳〕每レ人給二麪斗餘一。

【斗甬】116トヨウ　ます。又、ますめの名。甬は斛。斗桶。斗斛（31）に同じ。〔禮、月令〕同二度量一鈞二衡石一、角二斗甬一、正二權概一。〔注〕甬、今斛也。〔呂覽、仲秋〕一二度量一、平二權衡一、正二鈞石一、齊二斗甬一。

【斗桶】117トヨウ　ます。斗甬に同じ。〔呂覽、仲春〕角二斗桶一、正二權概一。〔史記、商君傳〕賦稅平、平二斗桶權衡丈尺一。〔注〕集解曰、鄭玄曰、音勇、今之斛也。

【斗力】118トリキ　膂力を較べ量る概數をいふ。〔宋史、兵志六〕斗力出レ等。

【斗立】118′トリツ　けはしくそびえ立つ。〔方輿勝覽〕此閣石壁斗立、虛鑿二石竅一、而架二木其上一。

【斗笠】119 tou³ li⁴　廣い雨笠。

【斗量】120トリヤウ　斗ますではかる。多くある喩。〔吳志、吳主孫權傳、孫權遣二趙咨一使レ魏、注〕〔魏文帝〕又曰、吳如二大夫一者幾人、咨曰、聰明特達者八九十人、如二臣之比一、車載斗量、不レ可二勝數一。〔徐陵、在二吏部尚書一答二諸求レ官人一書〕四軍五校、車載斗量。〔隋唐嘉話〕至レ有二車載斗量之詠一。

【斗量帚掃】121トリヤウサウサウ　ますではかりはうきではきすてること。物の澤山ある喩。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕如レ臣者、斗量帚掃、不レ足レ數耳。

【斗粮】122トリヤウ　僅かな糧食。〔戰國、秦策〕不レ費二斗粮一、未レ煩二一兵一、未レ戰二一士一、未レ絕二一弦一、未レ折二一矢一、諸侯相親、賢二於兄弟一。

【斗糧】123トリヤウ　斗粮に同じ。〔漢書、王莽傳下〕或言不レ持二斗糧一、服二食藥物一、三軍不レ飢。〔後漢書、袁紹傳〕將二強弩萬人一屯二孟津一云云、〔注〕英雄記曰、云云、袁本初軍無二斗糧一。

【斗曆】124トレキ　陰曆のこと。斗建によつて定めるからいふ。斗建（25）を見よ。〔宋書、禮志〕諸若レ此者、皆以二正歲斗建一爲レ節、此曆數之序。〔唐書、藝文志三〕黃帝斗曆一卷。

【斗祿】125トロク　すこしのふち。斗升之祿（63）に同じ。〔歐陽脩、送二鄭革先輩賜レ第南歸一詩〕試問塵埃勒二斗祿一。

【斗威儀】126トヰギ　禮緯の一種。現在佚し、其の佚文

を古微書に輯載する。

【斗爲巾】127 トキン　斗と爲と巾。卽ち箏の第十一弦と第十二弦と第十三弦。箏の十三弦は、低音の方から順に一・二・三・四・五・六・七・八・九・十・斗・爲・巾と呼び、教訓抄に據れば、これを仁・智・禮・義・信・文・武・翡・蘭・商・斗・爲・巾と呼んだといふ。〔和名類聚抄、調度部、音樂具〕箏、箏形似㆑瑟而短、有㆓十三絃㆒、今案、箏譜云、一二三四五六七八九十斗爲巾是、十三絃名也。

【斗十千】128 トジフセン　美酒一斗で一萬錢の價がある。價の貴いこと。十千は一萬。〔曹植、名都篇〕歸來宴㆓平樂㆒、美酒斗十千。〔注〕濟曰、言㆓酒美、故價貴㆒。

【斗野亭】129 トヤテイ　亭の名。江蘇省江都縣の邵伯埭。宋の熙寧二年建つ。〔揚州府志〕斗野亭、在㆓江都邵伯鎭梵行院側㆒、宋熙寧二年建、按㆓輿地志㆒、揚州於㆓天文㆒屬㆓斗分野㆒、故名。

【不㆑滿㆑斗】130 トニミタズ　太平が十年に至らぬこと。斗は十升で十年をあらはす。升平との緣語。〔晉書、五行志中〕哀帝隆和初、童謠曰、升平不㆑滿㆑斗、隆和那得㆑久、桓公入㆓石頭㆒、陛下徒跣走、朝廷聞而惡㆑之、改㆑年曰㆓興寧㆒、人復歌曰、雖㆔復改㆓興寧㆒、亦復無㆓聊生㆒、哀帝尋崩、升平五年而穆帝崩、不㆑滿㆑斗、升平不㆑至㆓十年㆒也。

【斗息肉捐】131 tou^3 hsi^1 jou^4 chüan^1　斗息は米に對する課稅、肉捐は豚に對する課稅。

【斗轉參橫】132 トテンシンワウ　あかつき。曉に斗星が廻轉し參星が斜になることをいふ。〔宋史、樂志十六〕斗轉參橫將㆑旦、天開地闢如㆑春。

【斗田先生】133 トデンセンセイ　淸、劉斯組（**2－2224**‥1013）の尊稱。

【斗府星宮】134 トフセイキウ　斗牛宮をいふ。〔長生殿、慫合〕斗府星宮、歲歲今宵會。

【掊㆑斗折㆑衡】135 トヲサキカウヲヲル　桝をさきはかりを折る。度量衡を廢止して、民をして多少得失の爭を止めしめること。斗はます、衡ははかり。〔莊子、胠篋〕掊㆑斗折㆑衡、而民不㆑爭。

【⿰彐十】13490 ト　斗（**5－13489**）の本字。〔正字通〕⿰彐十、斗本字。

三畫

【⿰夕斗】13491 シヨウ　〔中華大字典〕識蒸切　蒸

のぼる。〔篇韻〕⿰夕斗、登也。

【⿰丬斗】13492 キウ　義未詳。〔字彙補〕⿰丬斗、音鳩、出㆓道經㆒。

四畫

【⿰元斗】13493 カツ　ケチ　〔篇海〕訖黠切　黠

はかる。〔篇海〕⿰元斗、量也。

【⿰斗元】13494 クワ　〔搜眞玉鏡〕古禾切　歌

義未詳。

【⿰斗斤】13495 レウ　義未詳。〔五音篇海〕⿰斗斤、音寮。

五畫

【⿰半斗】13496 ハン　〔集韻〕博漫切　翰

小篆

❶**ものを半々に量り分ける。**〔說文〕⿰半斗、量㆑物分㆑半也、从㆓斗半㆒、半亦聲。❷**五升。**〔廣韻〕⿰半斗、五升。❸**五斗。**〔集韻〕⿰半斗、一曰、升五十謂㆓之⿰半斗㆒。

解字　會意形聲。斗と半とを合はせ、半は又聲。物を半々に量り分ける意。

【⿰申斗】13497 シン　斟（**5－13517**）に同じ。〔篇韻〕⿰申斗、與㆑斟同。

六畫

【⿰百斗】13498 コク　斛（**5－13508**）に同じ。〔集韻〕斛、或作㆑⿰百斗。

【⿰舌斗】13499

🈩ワツ　ワチ　〔集韻〕烏括切　曷

🈔クワツ　クワチ　〔集韻〕呼括切　曷

🈪ワツ　ヱチ　〔集韻〕烏八切　黠

🈩🈔**くむ。**〔集韻〕⿰舌斗、抒也。🈪**斗で物をすくひ取る。**〔集韻〕⿰舌斗、斗取㆑物也。

【⿰合斗】13500 カフ　ケフ　〔集韻〕乞洽切　洽

いれる。〔集韻〕⿰合斗、入也。

【料】13501

🈩レウ　〔集韻〕憐蕭切　蕭　ㄌㄧㄠˋ liao^4

🈔レウ　〔集韻〕力弔切　嘯

小篆

🈩🈔❶**はかる。**㋑ますめをはかる。〔說文〕料、量也、从㆔米在㆓斗中㆒、讀若㆑遼。〔段注〕稱㆓其輕重㆒曰㆑量、稱㆓其多少㆒曰㆑料、其義一也。〔史記、孔子世家〕嘗爲㆓季氏吏㆒、料量平。㋺かぞへる。〔玉篇〕料、數也。〔增韻〕料、計也。〔國語、周語上〕王料㆓民於太原㆒。〔注〕料、數也。㊇おし計る。考へる。〔廣韻〕料、料度、量也。〔諸葛亮、後出師表〕凡事如㆑是、難㆑可㆓逆料㆒。㊁くらべる。〔史記、李斯傳〕君侯自料、能孰㆓與蒙恬㆒。〔史記、淮陰侯傳〕大王自料、勇悍仁彊、孰㆓與項王㆒。㋭しらべる。〔左思、蜀都賦〕神農是甞、盧跗是料。❷**をさめる。**はからふ。あつかふ。〔廣雅、釋詁二〕料、理也。〔蜀志、龐統傳〕當㆔與㆑卿共料㆓四海之士㆒。❸**なでる。**取る。〔正字通〕料、捋也。〔莊子、盜跖〕料㆓虎頭㆒、編㆓虎鬚㆒。〔注〕料、捋也。❹**てあて。**給與。〔增韻〕料、祿料也。〔唐書、食貨志五〕乾元元年、給㆓外官半料及食田㆒。〔唐書、楊收傳〕廩料但受㆓刺史俸㆒。❺**しろ。**たね。もとで。資材。〔正字通〕料、材質也。〔宋史、河渠志二〕奈何起㆓數千萬物料・兵夫㆒云云。〔錢舜、選吟社賀詩〕靜搜㆓吟料㆒六橋邊。❻**かて。**飼糧。〔唐書、李林甫傳〕立仗馬、食㆓三品料㆒。〔皮日休、悼鶴詩〕菰米正餘三日料、筠籠休礙九霄程。〔五代史、北漢世家〕歸爲㆓黃騮㆒治㆑廐、飾以㆓金石㆒、食以㆓三品料㆒。❼**小さな振りつづみ。**〔爾雅、釋樂〕大鼗謂㆓之麻㆒、小者謂㆓之料㆒。〔注〕料者、聲淸而不㆑亂。❽**定めた量。**相當數量。〔玉海、兵制、刀、乾道雁翎刀〕乾道元年十一月二日、命㆓軍器所㆒、造㆓雁翎刀㆒、以㆓三千柄㆒爲㆓一料㆒。❾**現**硝子で造った模造の珠玉。**邦れう。**ある代償としてさしだす金員。手數料・使用料・保險料・過料など。

名乘　カズ。

解字　會意。米と斗との合字。米が斗の中にある義。はかる意。米がますの中にあつて、ますに滿ちてゐない。その淺深を見て多少をはかる。輕

重をはかるを量といひ、多少をはかるを料といふが、その義は同じ。〔說文、料、段注〕米在㆓斗中㆒、非㆑盈㆑斗也、視㆓其淺深㆒、而可㆑料㆓其多少㆒、此會意。

【料校】1 レウカウ はかり考へる。〔晉書、秦獻王柬傳〕武帝嘗幸㆓宣武陽㆒、以㆓三十六軍兵簿㆒、令㆔柬料㆓校之㆒。

【料膏】2 liao^{4} kao^{1} 藥用鴉片。

【料揀】3 レウカン はかりえらぶ。料簡。〔漢薛君碑〕料揀貞實。〔韓愈、和㆓侯協律詠㆑笋詩〕婦懦恣㆓料揀㆒、兒癡謂㆓盡髡㆒。

【料簡】4 レウカン ❶はかりえらぶ。はかりしらべる。料揀。料檢。〔後漢書、呂強傳〕大赦㆓黨人㆒、料㆓簡刺史二千石能否㆒。〔蔡邕、太尉楊秉碑〕沙㆓汰虛冗㆒、料㆓簡貞實㆒。〔魏志、倉慈傳〕慈躬往省閱、料㆓簡輕重㆒。〔晉書、佛圖澄傳〕季龍下㆑書料簡。〔張湛、列子序〕今將㆑不㆑能㆜盡㆓全所㆑載、且共料㆛簡世所㆚希有㆙者。〔劍南集〕雨後極涼、料㆓簡篋中舊書㆒有㆑感。❷レウケン ㋑かんがへ。意見。〔謠曲、放下僧〕げに是は面白き料簡にて候。㋺かんべん。堪免。堪忍。得心。了簡。〔三世相、四〕。

【料記】5 レウキ 數へて記憶する。〔近古史談、織篇、森蘭丸〕臣嘗料㆓記其數㆒矣。

【料器】6 liao^{4} ch'i^{4} 硝子器。硝子製品。

【料鋸】7 liao^{4} chü^{4} 鋸を仕かける。

【料玉】8 リヨウギヨク 藥草の名。五芝(1－257··445)の❷を見よ。

【料貨】9 liao^{4} huo^{4} 硝子製品。

【料檢】10 レウケン はかりしらべる。料簡。〔晉書、周顗傳〕導後料㆓檢中書故事㆒、見㆓顗表救㆑己、殷勤款至㆒、導執㆑表流涕。

【料估】11 liao^{4} ku^{1} 想像する。推量する。推し揣る。

【料材】12 liao^{4} ts'ai^{2} 原料。材料。

【料想】13 liao^{4} hsiang^{3} 豫想する。推し料る。

【料棧】14 liao^{4} chan^{4} 材料置場。

【料是】15 liao^{4} shi^{4} 積つてみれば。

【料紙】16 レウシ 所用のかみ。使用した紙。用紙。材料とした紙。〔土佐日記考證、提要〕京極黃門本奧書云、云云、料紙白紙。

【料試】17 レウシ 學生に學問料を下賜するための試驗。〔江家次第、十七、弓場殿試〕料試。

【料兒】18 liao^{4} êrh 材料。

【料事】19 レウジ 事をはかり考へる。〔南齊書、沈憲傳〕以㆑憲帶㆓山陰令㆒、政聲大著、孔稚珪請㆑假東歸、謂㆑人曰、沈令料㆑事、特有㆓天才㆒。

【料取】20 レウシユ はかりとる。〔吳志、陳武傳〕空枉㆓此勁銳㆒、以爲㆓僮僕㆒、非㆓表志㆒也、皆輒料取、以充㆓部伍㆒。

【料珠】21 liao^{4} chu^{1} 硝子玉。

【料人】22 レウジン 材能の士を選拔する。〔吳子、圖國〕武侯問曰、願聞㆓治㆑兵料㆑人固㆑國之道㆒。

【料峭】23 レウセウ 春風の膚ざはりのつめたい形容。料は撫で觸れる、峭はきびしい。〔陸龜蒙、開元寺詩〕料峭入㆑樓于闐風。〔蘇軾、送㆓范德孺㆒詩〕漸覺東風料峭寒、青蒿黃韭試㆓春盤㆒。

【料錢】24 レウセン 唐代の制で、職官の俸祿以外、別に給する食料等の加俸をいふ。〔唐書、食貨志五〕至德初、以㆓用物不㆑足、內外官不㆑給㆓料錢㆒。

【料足】25 レウソク 錢の異名。料は物の代、足は運り步く義。料脚。〔大乘院寺社雜事記〕康正二年五月二十一日、爲㆓御禮㆒榼五荷、料足五貫文進㆑之。

【料袋】26 レウタイ 食物を容れる袋。〔水滸傳、七十三回〕便叫㆑煮㆓下乾肉㆒、做㆓起蒸餠㆒、各把㆓料袋㆒裝了。

【料度】27 レウタク はかりかんがへる。忖度。〔史記、蘇秦傳〕料㆓度諸侯之卒㆒、十㆓倍於秦㆒。〔風俗通、過譽〕實宜㆔料度以爲㆓後圖㆒。〔曹植、求㆑通㆓親親㆒表〕竊自料度、不㆑後㆓於朝士㆒矣。

【料地】28 レウチ 使用に供する土地。用地。

【料持】29 liao^{4} ch'ih^{2} 用意する。準備する。

【料中】30 レウチユウ 想像。推測。

【料敵】31 レウテキ ❶敵をしらべ考へる。〔孫子、行軍〕惟無㆓武進㆒、足㆓以併㆑力料㆑敵、取㆑人而已。〔孫子、地形〕夫地形者、兵之助也、料㆑敵制㆑勝。〔尉繚子、獸威〕講㆑武料㆑敵。〔論衡、效力〕夫知德百人者、與㆘彼扛㆓鴻鼎㆒揭㆓華旗㆒者㆖、爲㆑料㆑敵也。❷吳子の篇名。

【料擿】32 レウテキ はかりあばく。〔蜀志、姜維傳〕以㆑是貶削、不㆓復料擿㆒。

【料豆】33 レウトウ 牛馬に食はせる豆。〔正字通〕豆、黑豆中最細者曰㆓穭豆㆒、一曰㆓料豆㆒、北人以飼㆑馬。

【料得】34 レウトク おしはかる。〔杜甫、杜鵑行〕蒼天變化誰料得。〔劉禹錫、懷㆑妓詩〕料得夜來天上鏡、只應㆔偏照㆓兩人心㆒。〔邵雍、淸夜吟〕一般淸意味、料得少㆓人知㆒。

【料德】35 レウトク 德をはかる。〔論衡、須頌〕上與㆓百代㆒料㆑德、湖地相與比也。

【料板】36 liao^{4} pan^{3} ❶製材。建築用の角材。❷硝子板。

【料瓶】37 liao^{4} p'ing^{2} 硝子瓶。

【料蒲】38 レウブ 木の名。山茶科の異名。〔和漢三才圖會、灌木類〕山茶科、俗云㆓料蒲㆒、是乎、生㆓山野中㆒。

【料舖】39 liao^{4} p'u^{4} 硝子器店。硝子屋。

【料俸】40 レウホウ 給料。俸給。〔唐書、李泌傳〕所㆑收料俸、乃多㆓於減員㆒矣。

【料民】41 レウミン 人民の數をはかる。〔國語、周語上〕宣王既喪㆓南國之師㆒、乃料㆓民于太原㆒。〔注〕料、數也。

【料理】42 レウリ ❶物事をはかりをさめる。きりもりする。處置する。〔晉書、王徽之傳〕卿在㆑府日久、比當㆓相料理㆒。〔白居易、對㆑鏡偶吟贈㆓張道士抱元㆒詩〕眼昏久被㆓書料理㆒、肺渴多因㆓酒損傷㆒。❷世話する。〔世說新語、德行〕韓康伯時爲㆓丹陽尹㆒、母殷在㆑郡、每聞㆓二吳之哭㆒、輒爲㆓悽惻㆒、語㆓康伯㆒曰、汝若爲㆓選官㆒、當㆔好料㆓理此人㆒。❸食物を煮やきして口に適するやうに調へつくる。又、調理した食物。又、其の膳部。〔儀式、三、踐祚大嘗祭儀中〕內膳司率㆓諸氏伴㆒、各供㆓其職㆒、料㆓理御膳㆒。〔摩島松南、娛語〕吾邦市井閒、酒店食樓、必以㆓料理字㆒爲㆑標、猶㆑言㆓調烹㆒也、料理字、雖㆑出㆓諸書㆒、其義大異、不㆑知㆓其所㆑由、偶讀㆓游仙窟㆒、有㆘料㆓理中堂㆒將㆓少府㆒安置之語㆖、按、中古以來、漢土小說未㆑來、人人以㆓此書㆒爲㆓新奇㆒、學士大夫、亦往往誦㆑之、當時錯㆓會料理中堂之字㆒、爲㆓調烹之義㆒、俗閒相傳到㆑今耳。

【料理屋】43 レウリヤ 食物の料理を供へ客をあしらふ家。料理茶屋。〔寛天見聞記〕享和の頃、云云、八百善といふ料理茶屋流行す、云云、田川屋是等は文化の頃より流行せし料理屋也。

【料量】44 レウリヤウ ますではかる。又、はかり。計量。會計。又、ますめ。〔史記、孔子世家〕嘗爲㆓季氏史㆒、料量平。〔白居易、行簡初授㆓拾遺㆒同早朝入㆑閤因示㆓十二韻㆒詩〕老去何僥倖、時來不㆓料量㆒。

【料力】45 レウリヨク ちからをはかる。〔史記、仲尼弟子傳〕勾踐頓首再拜曰、孤嘗不㆑料㆑力、以與㆑吳戰、困㆓於會稽㆒、痛入㆓于骨髓㆒。

【料戾】46 レウレイ 聲が小さくて徹る。〔潘岳、射雉賦〕束料戾以徹鑒、表厭躡以密緻。〔注〕爰曰、料戾、小而徹也、翰曰、料戾、小窓隙也、其裏則有㆓小隙㆒、可㆔以徹㆓鑒於外㆒。

【料高兒】47 liao^{4} kao^{1} êrh 瞭高兒(8－23697··10)に同じ。

【料絲燈】48 レウシトウ 瑪瑙や石英などを粉末とし、之に天花菜を加へて凝結せしめ、之をくりとつて糸とし、之を以て布を織り燈用の具とするもの。もと雲南の金齒衞に產したが、後、丹陽の人、潘鳳が其の法を得て歸り、丹陽に傳へた。〔薛蕙、詠㆓丹陽料絲燈㆒詩〕淮南玉爲㆑盌、西京金作㆑枝、未㆑若茲燈麗、擅㆑巧昆明池。〔陔餘叢考、料絲〕料絲燈、見㆓李西涯詩㆒、而詩用㆓繚絲字㆒、郞瑛謂、誤也、料絲出㆓于滇南㆒、以㆓金齒衞者㆒爲㆑勝、用㆓瑪瑙紫石英諸藥㆒搗爲㆑屑、煮腐如㆑粉、必市㆓天花菜㆒點㆑之方凝、然後取以爲㆑絲、極晶瑩可㆑愛、蓋以㆓煮料成㆑絲、故名㆓料絲㆒耳、王文路海月菴觀燈詩、有㆘新樣驚看出㆓洱河㆒、天機文斷水微波等句㆖、蓋亦詠㆓料絲㆒者、則此者前明時僅出㆓於滇㆒也、韻石齋筆談亦謂、絲燈始㆓於雲南㆒、有㆓丹陽人潘鳳者㆒、隨㆓楊文襄公㆒至㆑滇、得㆓其法㆒歸、而煉㆑石成㆑絲、於㆑是丹陽之料絲燈、達㆓於海內㆒、而鳳實造㆑燈鼻祖云。

【料手鐲】49 liao^{4} shou^{3} chuo^{2} 硝子玉製の腕輪。

【料半紙】50 liao^{4} pan^{4} chih^{3} 畫仙紙の一つ。稍〻赤みを帶びたもの。

【料件子活】51 liao^{4} chien^{4} tzŭ huo^{2} 手間仕「事。

【斚】13502 カ 斝(5－13512)の俗字。〔正字通〕斚、俗斝字。

【料】 13503 トウ ツ 〔中華大字典〕當口切 有

ひしやく。〔篇韻〕料、用以斟酌。

【⿰兆斗】 13504 テウ ⿸广斛(5－13518)に同じ。〔篇海類編〕⿰兆斗、同レ⿸广斛。

七畫

【⿰寽斗】 13505 レツ レチ 〔篇海〕力輟切 屑

はかる。〔篇海〕⿰寽斗、量也。

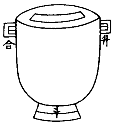
【将】 13506 レツ ⿰寽斗(5－13505)に同じ。〔五音篇海〕将、同レ⿰寽斗。

【⿰豆斗】 13507 トウ 斗(5－13489)の俗字。〔玉篇〕⿰豆斗、俗斗字。

【斛】 13508 コク ゴク 〔集韻〕胡谷切 ㄏㄨˊ hu^2 屋

小篆

❶**容量の名。**十斗。現制では五斗を一斛とする。〔說文〕斛、十斗也、从レ斗角聲。〔儀禮、聘禮記〕十斗曰レ斛。〔正字通〕斛、今制、五斗曰レ斛、十斗曰レ石。❷**ます。**量器の總稱。〔史記、李斯傳〕平二斗斛度量一。❸**はかる。**〔太玄經、玄掜〕日月相斛。〔注〕斛、量也。❹**姓。**〔正字通〕斛、姓、宋斛繼善、紹興間判汀州事。❺或は⿰吕斗(5－13498)に作り、通じて觳(10－35144)に作る。〔集韻〕斛、或作レ⿰吕斗、通作レ觳。



斛（三禮圖）

【斛口】1 hu^2 k'ou^3 ますめ。枡目。

【斛子】2 hu^2 tzŭ ます。枡。

【斛斯】3（コクシ） 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕斛斯氏、其先居二廣牧一、世襲二莫弗大人一、號二斛斯部一、因氏焉。

【斛斯政】4（コクシセイ） 隋の人。椿の子。明悟にして器幹あり。開皇中、軍功により儀同となる。楊玄感等の反に通じ、極刑に處せらる。〔隋書、七十〕・〔北史、四十九〕。

【斛斯徵】5（コクシチョウ） 北周の人。椿の子。字は士亮。博學にして三禮に精通す。直諫の士。周の武帝の時、皇太子の師となり、隋の文帝の時、太子太傅となる。著に樂典がある。〔周書、二十六〕。

【斛斯椿】6（コクシチン） 後魏、廣牧富昌の人。字は法壽。謚は文宣。出帝の時、侍中となる。狡滑にして亂を好んだ。〔魏書、八十〕。

【斛二】7（コクジ） 一石二斗の略。斛二瘕を見よ。

【斛二瘕】8（コクジカ） 甚だしく多量の茶をのむ病。斛二は一石二斗。又、斛茗瘕といふ。〔搜神後記、三〕桓宣武時、有二一督將一、因二時行病後虛熱一、更能飲二複茗一、必一斛二斗乃飽、纔減二升合一、便以爲レ不レ足、非二復一日一、家貧、後有レ客造レ之、正遇三其飲二複茗一、亦先聞三世有二此病一、仍令三更進二五升一、乃大吐、有二一物出一、如二升大一、有レ口、形質縮縐、狀如二牛肚一、客乃令下置二之於盆中一以二一斛二斗複茗一澆上レ之、此物噏レ之、都盡而止、覺二小脹一、又加二五升一、便悉混然從二口中一湧出、既吐二此物一、其病遂差、或問レ之、此何病、答云、此病名二斛二瘕一。〔注〕二、或作レ茗。

【斛薛】9（コクセツ） 複姓。一に斛薩に作る。〔唐書、回鶻上、回紇傳〕斛薛爲二高闕州一。

【斛粟】10（コクゾク） 複姓。〔孔至姓氏錄〕斛粟氏、後改爲二斛斯氏一。

【斛斗】11（コクト） ます、又はますめの名。斗は十升、斛は十斗。〔宋書、律曆志上〕器有二大小一、故定以二斛斗一。〔宋史、職官志二〕七曰、斛斗案。

【斛斗秤度】12（コクトショウド） 唐代、度量衡の名稱。其の量法は、北方秬黍の中大のものを擇び、一千二百粒を容れるを龠とし、十龠を合とし、十合を升とし、十升を斗とし、三斗を大斗一斗とし、十斗を斛とする。秤權衡は秬黍の中大のもの百粒の重さを銖とし、二十四銖を兩とし、三兩を大兩一兩とし、十六兩を斤とする。度は秬黍の中大のもの一粒の廣さを分とし、十分を寸とし、十寸を尺とし、一尺二寸を大尺一尺とし、十尺を丈とする。〔太平御覽、器物、斛〕雜令曰、諸量以三秬黍中者一、容二一千二百一爲レ龠、二龠爲レ合、十合爲レ升、十升爲レ斗、十斗爲レ斛。〔注〕三斗爲二一大斗一。〔唐律、雜律、校斛斗秤度〕諸私作斛斗秤度不レ平、而在レ市執用者、笞五十、因レ有二增減一者、計レ所二增減一準二盜論一。

【斛夫】13（コクフ） 斛を執つて米を量る役夫。〔六部成語、戶部、斛夫、注解〕執レ斛量レ米之役夫也。

【斛峯】14（コクホウ） 宋、李伯玉(6－14459・・1861)の號。

【斛面】15（コクメン） ますめ。〔明律、戶律、倉庫〕多收二稅糧斛面一。

【斛律】16（コクリツ） 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕斛律氏、代人、世爲二部落統帥一、號二斛律部一、因爲レ氏焉。

【斛律金】17（コクリツキン） 北齊の人。平の弟。字は阿六敦。謚は武。第一領民酋長。秋、京師に朝し、春、部落に還る。世に雁臣といふ。爵は咸陽郡王。〔北齊書、十七〕・〔北史、五十四〕。

【斛律光】18（コクリツクワウ） 北齊の人。金の子。字は明月。屢 周兵を敗る。天統中、咸陽王を襲爵す。左丞相となり、後、祖珽等に譖せられて死す。〔北齊書、十七〕・〔北史、五十四〕。

【斛律羨】19（コクリツセン） 北齊の人。金の次子。字は豐樂。武平の初、驃騎大將軍となる。爵は荊山郡王。數帝に歷事した。〔北齊書、十七〕・〔北史、五十四〕。

【斛律羌擧】20（コクリツキヤウキヨ） 北齊、太安の人。若くして驍勇あり。永安中、爾朱兆に從つて入洛し戰功あり。高祖の兆を敗るや之に服す。天平中、大都督となり、夏州を襲うて之を敗る。興和の初、東夏州刺史となる。〔北齊書、二十〕・〔北史、五十三〕。

【斛瑟羅】21（コクシツラ） 複姓。〔通志、氏族略、代北三字姓〕斛瑟羅氏、改爲二羅氏一。

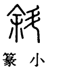
【斛茗瘕】22（コクメイカ） 斛二瘕(8)に同じ。

【斜】 13509

〘一〙シャ ジャ 〔集韻〕徐嗟切 ㄒㄧㄝˊ hsieh^2 麻

〘二〙ヤ 〔集韻〕余遮切 ㄧㄝˊ yeh^2 麻

〘三〙ダ タ 〔集韻〕直加切 麻


小篆

〘一〙❶**くむ。くみだす。**〔說文〕斜、抒也、从レ斗余聲、讀若レ茶。〔段注〕凡以レ斗挹二出之一謂二之斜一、故字从レ斗、音轉義移、乃用爲レ衺、俗人乃以二人之衺正一作レ邪、物之衺正爲レ斜、茶、當レ作レ余。❷**ななめ。**㋑かたむく。〔王延壽、魯靈光殿賦〕枝掌扠枒而斜據。〔白居易、芍藥詩〕低斜力不レ支。㋺さがる。〔南史、陶侃傳〕白日西斜。㋩はすかひ。すぢかひ。〔陸龜蒙、和二胥口卽事一詩〕綠倒紅飄欲レ盡、風斜細雨相逢。❸**まがる。うねる。**〔梁簡文帝、行雨山銘〕紫水廻斜。〔溫庭均、題二盧處士山居一詩〕一逕入レ雲斜。〔夢溪筆談、象數一〕方圓端斜、定形也。❹**方正でない。**〔玉篇〕斜、不レ正也。❺**ちる。**〔玉篇〕斜、散也。❻**單于の名。**〔集韻〕斜、伊雅斜、單于名。❼**姓。**〔萬姓統譜〕斜、見二姓苑一。〘二〙**地名。**今の陝西省褒城縣の東北。〔班固、西都賦〕右界二褒斜隴首之險一。〔注〕善曰、梁州記曰、萬石城泝レ漢上七里有二褒谷一、南口曰レ褒、北口曰レ斜、長四百七十里。〘三〙**單于の名。**〔集韻〕斜、匈奴、單于名。〘邪〙**ななめ。**斜ならずと

打消して、大方でない・ひととほりでないの意に用ひる。

【斜印】1 シヤイン 印をよこにおす。〔福惠全書、錢穀部、解給〕用二騎縫斜印一收貯。

【斜雨】2 シヤウ ななめに降る雨。横ぶりの雨。〔林逋、西湖詩〕細風斜雨不レ堪レ聽。〔楊萬里、寓二倅廳一寒夜不レ寐詩〕不レ堪三斜雨打二虛窓一。

【斜映】3 シヤエイ 日又は月光などの斜にうつること。

【斜影】4 シヤエイ ななめになつてゐるかげ。〔王僧孺、春日寄二鄉友一詩〕翠枝結二斜影一、綠水散二圓文一。

【斜縈】5 シヤエイ ななめにまつはる。〔梁簡文帝、美人晨妝詩〕北窗向二朝鏡一、錦帳復斜縈。

【斜掩】6 シヤエン ななめにおほふ。〔溫庭筠、春夢宴罷寄二宋壽先輩一詩〕斜掩二朱門一花外鐘、曉鶯時節好相逢。

【斜柯】7 シヤカ ななめによりかたむく。〔古樂府、豔歌行〕夫壻從レ門來、斜柯西北眄。〔梁簡文帝、遙望詩〕斜柯插二玉簪一。〔畢曜情人、玉清歌〕善踏斜柯能獨立。〔段成式、小小寫眞聯句〕斜柯欲レ近レ人。

【斜街】8 hsieh² chieh¹ 横町。ななめに通ずる「街。

【斜行】9 シヤカウ ななめの列。〔白居易、江樓夜吟二元九律詩一成二三十韻一詩〕斜行題二粉壁一、短卷寫二紅箋一。

【斜高】10 シヤカウ 正圓錐の頂點から底周に至る直線。又、正角錐の頂點から底面の一邊に至る垂線。

【斜角】11 シヤカク 直角に對してそれ以外の角をいふ。卽ち鋭角と鈍角との稱。

【斜桷】12 シヤカク あふぎたるき。屋根の四隅に斜に垂れ下つたたるき。

【斜漢】13 シヤカン 天の河。〔謝莊、月賦〕斜漢左界、北陸南躔。〔注〕善曰、漢、天漢也。〔謝朓、離夜同二江丞王常侍一作詩〕玉繩隱二高樹一、斜漢耿二層臺一。

【斜眼】14 hsieh² yen³ よこめ。やぶにらみ。斜視。

【斜雁】15 シヤガン ななめに列をなして飛ぶ雁。〔李群玉、九日詩〕晴山低畫レ浦、斜雁遠書レ天。〔倭漢朗詠集、眺望〕一行斜雁雲端滅、二月餘花野外飛。

【斜敧】16 シヤキ ななめにかたよる。かたむく。傾斜。傾敧。〔陳陶、泉州刺桐花詠兼呈二趙使君一詩〕今來樹似二離宮色一、紅翠斜敧十二樓。

【斜暉】17 シヤキ 夕日のひかり。斜曛。斜照。斜輝。〔梁簡文帝、序愁賦〕玩二飛花之入一レ戶、看二斜暉之度一レ寮。〔徐陵、春日詩〕岸水帶二斜暉一。〔劉得仁、送二友人下第歸覲一詩〕到レ家調膳後、吟苦送二斜暉一。

【斜輝】18 シヤキ 夕日のひかり。斜暉に同じ。〔杜牧、懷二鍾陵舊遊一詩〕斜輝更落西山影、千步虹橋氣象兼。

【斜窺】19 シヤキ ななめにうかがふ。〔孫翊仁、朝元閣賦〕斜窺二渭北笑玉樹一而徒空、俯對三終南與二金闕一而相抗。

【斜據】20 シヤキヨ ななめによる。〔王延壽、魯靈光殿賦〕芝栭攢羅以戢孴、枝牚杈枒而斜據。〔注〕善曰、毛萇詩傳云、據、依也。

【斜貫】21 シヤクワン ななめにつらぬく。ななめにうがつ。〔北戶錄〕金義嶺之西南、有二盤龍山一、山有二乳洞一、斜二貫一溪一、號曰二靈水溪一。

【斜曛】22 シヤクン 夕日のひかり。斜暉(17)に同じ。〔陳旅、題二韓伯淸所藏郭天錫畫一詩〕歲晚懷レ人增二感慨一、晴窗展玩到二斜曛一。

【斜徑】23 シヤケイ ななめのこみち。〔楊炯、和二石侍御山莊一詩〕澗塹防二斜徑一、平隄夾二小渠一。

【斜景】24 シヤケイ ❶ななめのかげ。〔白居易、步二東坡一詩〕綠陰斜景轉、芳氣微風度。❷夕日。轉じて、老年の喩。斜景朽邁之日を見よ。

【斜景朽邁之日】25 シヤケイキウマイノヒ 老朽して事に耐へない時。邁は行。〔本朝文粹、五、大江朝綱、爲二貞信公一請二致仕一第二表〕斜景朽邁之日、彌增二布遽之情一。

【斜傾】26 シヤケイ ななめにかたむく。傾斜。〔溫庭筠、題二李衞公一詩〕千巖萬壑應二惆悵一、流水斜傾出二武關一。

【斜睨】27 シヤゲイ 横目で睨みつける。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏中〕斜二睨少弼一曰、可レ去矣。

【斜橋】28 シヤケウ 鎭の名。❶江蘇省靖江縣の東、夏仕港の濱。又、陳阜鎭・善因鎭ともいふ。❷浙江省海寧縣の東北。滬杭鐵路に沿ふ。

【斜月】29 シヤゲツ ❶西方に傾いた月。入りかかる月。〔晉、子夜歌〕涼風開レ窓寢、斜月垂レ光照。〔沈約、爲二鄰人一有レ懷不レ至詩〕影逐二斜月一來、香隨二遠風一入。〔張仲素、秋閨思詩〕碧窗斜月藹二深暉一、愁二聽寒螿一淚溼レ衣。〔張若虛、春江花月夜詩〕斜月沈沈藏二海霧一、碣石瀟湘無レ限路。❷香の名。伽羅を質とし、香は尋常でなく、立田の趣がある。〔名香目錄〕。

【斜巷】30 シヤコウ いろざと。遊女まち。長安の大道の裏通りにあるななめに狹い遊里の稱から出た語。遊郭。遊里。花街。狹斜の巷。〔柳永、玉蝴蝶詞〕是處小街斜巷、爛二遊花館一、連二醉瑤卮一。

【斜谷】31 ヤコク 谷の名。陝西省郿縣の西南。褒斜谷の北口。又、褒斜谷の總稱。谷口に斜谷關がある。〔蜀志、諸葛亮傳〕建興六年春、揚聲由二斜谷道一取レ郿、云云、十二年春、亮悉二大衆一、由二斜谷一出。〔元和志〕褒斜道、一名二石牛道一。〔郿縣志〕斜谷、在二縣西南三十里一、入二谷口一二百二十里、抵二鳳縣界一、出二連雲棧一、復百五十里、出レ谷、抵二褒城一。

【斜鑿】32 シヤサク ななめにうがつ。〔墨子、備穴〕以二斜鑿一而求レ通レ之。

【斜插】33 シヤサフ ❶ななめにさしこむ。〔南史、王儉傳〕解二散幘一、斜二插簪一。〔白居易、新小灘詩〕石淺沙平流水寒、水邊斜插一漁竿。❷漢文で文意を補足するため、前後兩節の間に他の句を入れること。又、其の文句。

【斜插法】34 シヤサフハフ 文章法の名。文中に他の事柄を插んで其の主意を助けるもの。

【斜子】35 ナナコ ❶金屬の細工物の面などに小粒を密かに刻んで魚の鰤の狀にしたもの。魚子。❷斜子織の略。〔萬金產業、袋〕。

【斜子織】36 ナナコオリ 一種の絹織物。織目がこまかくて斜に行き違ひ、魚の子の狀をなしたもの。魚子織。

【斜視】37 シヤシ ❶ながし目にみる。よこ目にみる。〔何遜、七召〕託斜二視於遺簪一、寄二含情一而擧レ扇。❷hsieh² shih¹ やぶにらみ。斜眼。斜視眼。

【斜日】38 シヤジツ ゆふひ。夕日。夕陽。灰日。傾日。斜照。斜陽。〔梁簡文帝、納涼詩〕斜日晚駸駸。〔杜甫、題二張氏隱居一詩〕澗道餘寒歷二冰雪一、石門斜日到二林丘一。〔宋之問、奉三和幸二長安故城未央宮一應制詩〕樂思迴二斜日一、歌詞繼二大風一。

【斜斜】39 シヤシヤ ❶ななめなさま。傾いたさま。〔杜牧、臺城曲〕整整復斜斜、隨レ旗簇二晚沙一。❷雨や雪などの降るさま。〔朱熹、古梅詩〕不レ須レ煩二驛使一、正耐雪斜斜。❸月影などの斜にさすさま。〔蘇轍、開窓詩〕開レ窓風細細、窺レ戶月斜斜。

【斜酒】40 シヤシユ くむ。酒を注ぐ。〔新方言、釋言〕今浙江謂下自二壺口一注レ酒抒中之他器上曰二斜酒一、讀如レ賒。

【斜竪】41 シヤジユ ななめにたつ。斜豎。〔沈約、早發二定山一詩〕傾壁忽斜竪、絕頂復孤圓。

【斜豎】42 シヤジユ ななめにたつ。斜竪に同じ。〔梁簡文帝、神山寺碑銘〕石砌危橫、崖階斜豎。

【斜絨】43 hsieh² jung² カシユミヤ。毛織物の名。

【斜縮】44 シヤシユク ななめに短い。〔晉書、石勒載記下〕劉奧坐下營二建極殿一、井木斜縮上、斬二于殿中一。

【斜簪】45 シヤシン ななめにさしたかんざし。〔沈約、携手曲〕斜簪映二秋水一、開レ鏡比二春妝一。

【斜水】46 ヤスイ 川の名。源は陝西省岐山縣の西嶅山。又、桃川・斜谷河ともいふ。渭河に注ぐ。〔史記、河渠書〕斜水通レ渭。〔漢書、地理志上、注〕斜水、出二衙領山一、北至レ郿、入レ渭。

【斜照】47 シヤセウ ❶ななめに照す。〔魏書、孝文昭皇后高氏傳〕后幼、曾夢在二堂內一立、而日光自二窗中一照レ之、灼灼而熱、后東西避レ之、光猶斜照不レ已。❷ゆふひ。いりひ。殘照。〔上官儀、奉二和秋日卽目一應制詩〕晚雲含二朔氣一、斜照蕩二秋光一。

【斜川】48 ヤセン ❶地名。㋑宋の蘇過が居住した所の名。今、河南省許昌縣治。〔宋史、蘇過傳〕過家二潁昌一、營二湖陰水竹數畝一、名曰二小斜川一、自號二斜川居士一。㋺江西省星子・都昌二縣の閒の湖渚中。〔陶潛、遊二斜川一序〕辛丑正月五日、天氣澄和、風物閑美、與二二三鄰曲一、同游二斜川一、云云、有下愛二嘉名一、欣對不上レ足、率爾賦レ詩。❷宋、蘇過(9－3242 7・・41)の號。

【斜川集】49 ヤセンシフ 書名。六卷。宋、蘇過撰。宋史に二十卷とあつて、久しく佚してゐたが、淸

朝になつてから、翁方綱・趙懷玉等が永樂大典・宋文鑑・東坡全集・播芳大全集等から增補闕遺し釐めて六巻とした。〔四庫未收書目提要、三〕。

〖斜川居士〗50（ヤセンコジ） 宋、蘇過(**9**－**32427**··41)の號。

【斜閃】51（シヤセン） hsieh^2 shan^3 家などが傾いてすきがある。

【斜剪】52（シヤセン） ななめにたちきる。〔梁洽、金剪刀賦〕貪二寸美一而寬裁、避二一花一而斜剪。

【斜線】53（シヤセン） 或る直線に對して斜角をなす直線。

【斜瞻】54（シヤセン） ななめに見る。斜窺。斜視。〔劉峻、自二江州一還入二石頭一詩〕前望二蒼龍門一、斜瞻二白鶴館一。

【斜簽】55 hsieh^2 ch'ien^1 椅子の端。〔紅樓夢、四回〕方告了坐、斜簽着坐了。

【斜鬌】56（シヤタ） 片髮のくづれおちたさま。〔岑安卿、題二太眞春睡圖一詩〕丹腮融潤珊瑚溫、寶釵斜嚲烏雲綰。

【斜對】57 hsieh^2 tuei^4 筋向ひ。向ふ側。

〖斜對面〗58 hsieh^2 tuei^4 mien^4 筋向ひ。

【斜塘】59（シヤタウ） 鎭の名。❶江蘇省呉縣の東。南北二鎭がある。❷浙江省嘉善縣の北。又、西塘・平川ともいふ。

【斜灘】60（シヤタン） 鎭の名。福建省壽寧縣の東南。魚頭溪・擧溪匯芹溪・平溪の諸水の合する處。

【斜長】61（シヤチヤウ） ななめに長い。

〖斜長石〗62（シヤチヤウセキ） 長石の一種。斜柱狀をなして多量に曹達を含有するもの。曹達長石。

【斜矗】63（シヤチヨク） ななめにそびえる。〔孫覿、和二何襲明一詩〕村遠微明漁舍火、樓高斜矗酒旗風。

【斜通】64（シヤツウ） ななめに通ずる。〔崔日用、奉三和聖制春日幸二望春宮一應制詩〕鳳閣斜通平樂觀、龍旂直逼望春亭。

【斜度】65（シヤド） 傾斜地面と水平面との作る角度。

【斜挑】66（シヤテウ） すぢかひにほる。〔福惠全書、保甲部、建築、柵濠〕兩傍宜二斜挑而下一。

【斜燈】67（シヤトウ） ななめに照らす燈火。〔梁簡文帝、倡婦怨情十二韻詩〕斜燈入二錦帳一、微煙出二玉房一。

【斜卯】68（シヤバウ） 複姓。〔金史、斜卯阿里傳〕斜卯阿里父渾坦、穆宗時內附、數有二戰功一。

〖斜卯阿里〗69（シヤバウアリ） 金の人。諡は智敏。舟楫に習ひ、常に水戰に從ふ。順義・泰寧軍・歸德・濟南尹の諸官を歷任す。爵は韓國公。〔金史、八十〕。

〖斜卯愛實〗70（シヤバウアイジツ） 金の人。字は正之。正大の間、翰林直學士となる。〔金史、一百十四〕。

【斜廡】71 hsieh^2 wu^3 ひさし。屋の廂。

【斜風】72（シヤフウ） ななめに吹きつける風。橫から吹きつける風。〔蘇軾、戲二子由一詩〕斜風吹レ帷雨注レ面、先生不レ愧旁人羞。〔呉景果、鴛湖竹枝詞〕就中最是難レ忘處、細雨斜風鴛脰湖。

〖斜風細雨〗73（シヤフウサイウ） ななめに吹く風と細かな雨。〔張志和、漁父詩〕斜風細雨不レ須レ歸。〔蘇軾、西寒風雨詩〕斜風細雨到來時、我本無レ家何處歸。

【斜瞥】74（シヤベツ） よこめにちらりとみる。〔張炎、惜二紅衣一詞〕倚二銀屛一斜瞥。

【斜邊】75（シヤヘン） ❶傾斜した側邊。❷直角三角形の直角に對する邊。

【斜封】76（シヤホウ） ななめに手紙をふうじる。唐代、請謁によつて官に除する時の辭令書に用ひる。〔唐書、選擧志下〕中宗時、韋后及太平安樂公主等用レ事、於二側門一降二墨敕斜封一授レ官、號二斜封官一。

〖斜封官〗77（シヤホウクワン） 奧向からとりたてられる官。唐の中宗の時、安樂・長寧諸公主及び上官昭容等が勢力に依附し、大いに貨賂を收め、墨勅斜封を降して官を授け之を斜封官と號した。一に斜封別敕官といふ。斜封を見よ。〔唐書、安樂公主傳〕與二太平等七公主一皆開レ府、而主府官屬尤濫、皆出二屠販納貲售官一、降二墨敕斜封一授レ之、故號二斜封官一。

【斜面】78（シヤメン） ❶水平でない面。水平面に對して傾斜をなす平面。勾配ある表面。❷角錐又は截頭角錐の側面。

【斜也】79（シヤヤ） ❶金、完顏杲(**3**－**7079**··19)の本名。❷金、徒單恭(**4**－**10121**··71)の本名。

【斜陽】80（シヤヤウ） ゆふ日。夕陽。斜照。〔杜牧、憶二朱坡一詩〕秋草樊川路、斜陽覆二盎門一。〔韓偓、半醉詩〕西樓悵望芳菲節、處處斜陽草似レ苔。〔白居易、江上逢二王將軍一詩〕惟有二桓伊江上笛一、臥吹二三弄一送二斜陽一。

【斜用】81（シヤヨウ） 判をすぢかひにおす。〔福惠全書、蒞任部、文移諸式〕正用斜用上中下番用之處。

【斜廊】82（シヤラウ） ななめのわたどの。〔唐太宗、初秋夜坐詩〕斜廊連二綺閣一、初月照二宵幃一。

【斜稜】83（シヤリヨウ） ❶角錐又は截頭角錐の相鄰る二つの斜面の交はり。❷hsieh^2 lêng^2 傾斜。

【斜臨】84（シヤリン） ななめにのぞむ。〔溫庭筠、偶遊詩〕曲巷斜臨一水間、小門終日不二開關一。

【斜烈】85（シヤレツ） 複姓。〔萬姓統譜〕斜烈鼎、字周端、壽泗元帥。

【斜歪】86 hsieh^2 wai^1 斜な。歪んだ。

【斜橫】87 hsieh^2 hêng^2 ななめな。傾斜。勾配。

【斜圓柱】88（シヤヱンチユウ） 圓柱の底面が軸線に垂直でないもの。斜圓壔。

【斜圓壔】89（シヤヱンタウ） 斜圓柱に同じ。

【斜古丹】90（シヤコタン） 北海道千島の地名。

【斜對門】91 hsieh^2 tuei^4 men^2 筋向。

【斜方形】92（シヤハウケイ） 直方形に對して平行四邊形の角の直角でないかたち。

【斜紋呢】93 hsieh^2 wen^2 ni^2 綾羅紗。ヘル。

【斜紋布】94 hsieh^2 wen^2 pu^4 綾綿布。

【斜枝大士】95（シヤシタイシ） 草龍膽(**9**－**30945**··352)の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕斜枝大士、草龍膽。

【斜地羽紗】96 hsieh^2 ti^4 yü^3 sha^1 綾絹の一種。

【斜方晶系】97（シヤハウシヤウケイ） 互に直角に交はつた不等長の三軸から成る晶系。

【斜方段帽】98（シヤハウダンバウ） 烏帽子(**7**－**18898**··275)の異名。

【䣶】13510

カク 義未詳。〔搜眞玉鏡〕䣶、音角。

【斛】13511

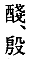
ハウ 斛(**5**－**13513**)に同じ。〔龍龕手鑑〕斛、同レ斛。

八畫

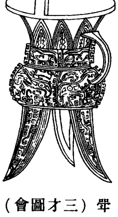
【斝】13512

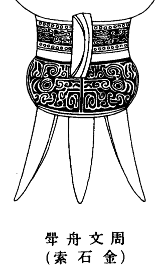
カ 〔集韻〕擧下切 馬 ㄐㄧㄚˇ chia^3

ケ


小篆

❶**禮器の一つ**。玉のさかづき。夏に醆、殷に斝、周に爵といふ。〔說文〕斝、玉爵也、夏曰レ醆、殷曰レ斝、周曰レ爵、从レ斗、冂象形、與レ爵同意、或說、斝受二六升一。〔段注〕考工記、爵、受二一升一。〔說文通訓定聲〕斝、按受二一升一。〔正字通〕斝、鬱鬯之尊玉爵也、中受二六升一、云云、三器之名殊、其實一也、以二三足象レ戈、故曰レ琖、兩柱交似二禾稼一、故曰レ斝、形如二飛爵一、故曰レ爵。〔詩、大雅、行葦〕洗レ爵奠レ斝。〔傳〕斝、爵也、夏曰レ醆、殷曰レ斝、周曰レ爵。〔箋〕用二殷爵一者、尊二兄弟一也。〔禮、明堂位〕爵、夏后氏以レ琖、殷以レ斝、周以レ爵。〔注〕斝、畫二禾稼一也。〔禮、郊特牲〕擧二斝角一。〔疏〕斝角、是爵名、天子曰レ斝、諸侯曰レ角。❷**さきはふ**。神に祈つて福を願ふ。嘏(**2**－**4190**)に通ず。〔說文通訓定聲〕斝、叚借爲レ嘏。〔周禮、夏官、量人〕與二鬱人一受レ斝、歷而皆飮レ之。〔注〕斝、讀如二嘏尸之嘏一。❸稼(**8**－**25217**)に通ず。〔說文通訓定聲〕斝、叚借爲レ稼。〔周禮、春官、司尊彝〕祼用二斝彝黃彝一。〔注〕斝、讀爲レ稼。

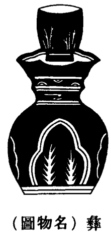

斝（三才圖會）


周文舟斝
（金石索）

解字 會意。斗と冂との合字。斗は酒を酌む。冂はその器の象形。禮器の一つ。玉のさかづき。

夏では醆といひ、殷では斝といひ、周では爵といふ。皆、玉で飾つた。一說に、六升を容れるから斗に從ふといふ。〔說文、从㆑斗冂象形、段注〕从㆑斗、而上象㆓其形㆒也。

【斝彝】1カイ　六彝の一つ。彝に禾稼の圖を刻して飾とするから名づける。斝は稼。〔周禮、春官、小宗伯〕辨㆓六彝之名物㆒。〔注〕六彝、雞彝・鳥彝・斝彝・黃彝・虎彝・蜼彝。〔周禮、春官、司尊彝〕秋嘗冬烝、祼用㆓斝彝黃彝㆒。〔注〕斝、讀爲㆑稼、稼彝、畫㆓禾稼㆒也。


彝（名物圖）

【斝耳】2カジ　玉の杯。〔左氏、昭、七〕賂以㆓瑤甕・玉櫝・斝耳㆒、不㆑克而還。〔注〕斝耳、玉爵也。〔疏〕斝、爵名、以㆑玉爲㆑之、旁有㆑耳、若㆓今之杯㆒、故名耳。

【斝歷】3カレキ　玉の杯の餘瀝をいふ。歷は瀝。一說に、斝中の酒。〔周禮、夏官、量人〕凡宰祭、與㆓鬱人㆒受㆓斝歷㆒而皆飲㆑之。〔孫詒讓正義〕云㆘與㆓鬱人㆒受㆓斝歷㆒而皆飲㆑之者、此與㆓鬱人㆒爲㆓官聯㆒也、陸佃・鄭鍔、並以㆓斝歷㆒爲㆓擧斝之餘瀝㆒、李鐘倫・姜兆錫・孫希旦・蔣載康・莊有可・林喬蔭・黃以周說並同、俞樾云、楚辭大招篇曰、吳醴白蘖、和㆓楚瀝㆒只、王逸注曰、瀝、淸酒也、廣雅釋器亦曰、瀝、酒也、受㆓斝瀝㆒而皆飲㆑之者、謂㆘量人與㆓鬱人㆒受㆓卒爵之酒㆒而皆飲㆑之也、因段㆑歷爲㆑瀝、遂失㆓其義㆒耳、案陸・鄭・俞諸說是也、說文水部云、瀝、漉也、歷、同聲叚借字、又說文酉部云、䤈、酮也、段玉裁謂、卽此歷字、亦通。

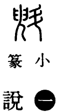
【⿰匋斗】13513　ハウ　⿰缶斗(5―13523)の本字。〔正字通〕⿰缶斗、俗⿰匋斗字。

【⿰斗⿸厂兆】13514　テウ　⿸广⿰兆斗(5―13518)に同じ。〔篇海類編〕⿰斗⿸厂兆、同㆑⿸广⿰兆斗。

【⿰其斗】13515　シン　斟(5―13517)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰其斗、同㆑斟。

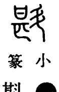
九畫

【斞】13516　ユ　〔集韻〕勇主切　麌


小篆

❶**容量の名**。その容積は不明。一說に、六斛四斗、卽ち庾と同量といふ。〔說文〕斞、量也、从㆑斗臾聲、周禮曰、桼三斞。〔段注〕考工記弓人文、鄭注、斞、輕重未㆑聞、許亦但云㆓量也㆒、一弓之膠甚少、與㆓論語・攷工記之庾㆒絕異。〔正字通〕斞、一云、言㆔其輕㆓重之㆒、則通作㆑庾。〔廣雅、釋器〕鍾十曰㆑斞。❷或は⿰夾臾(5―13484)・匬(2―2637)に作る。〔集韻〕斞、或作㆓⿰夾臾・匬㆒。

【斟】13517　シン　〔集韻〕諸深切　ㄓㄣ chen¹　侵


小篆

❶**くむ**。酒などをつぐ。〔說文〕斟、勺也、从㆑斗甚聲。〔段注〕勺、玉篇・廣韻作㆑酌。〔廣雅、釋詁四〕斟、酌也。〔楚辭、天問〕彭鏗斟㆑雉帝何饗。〔補注〕斟、勺也。〔顧況、遊子吟〕太行何艱哉、北斗不㆑可㆑斟。❷**給仕**。酒をつぐこと。〔史記、趙世家〕食㆓代王及從者㆒行㆑斟。❸**くみかはす**。さかもり。〔劉楨、九老會詩〕玉杯斟處綵霞鮮。❹**のみもの**。酒・羹の類。〔方言、三〕斟、汁也、北燕朝鮮洌水之閒曰㆑斟。〔說文、段注〕勺㆑之謂㆓之斟㆒、引㆓伸之㆒、盛㆓於勺㆒者、亦謂㆓之斟㆒。〔史記、張儀傳〕廚人進㆑斟、因反㆑斗以擊㆓代王㆒。❺**とる**。〔國語、周語上〕而後王斟酌焉。〔注〕斟、取也。❻**おしはかる**。人の意中をくみとる。〔玉篇〕斟、計也。〔後漢書、鄭興傳〕莫㆑不㆓斟酌㆒焉。〔注〕謂㆑取㆓其意指㆒也。❼**處分する**。處置する。〔說文、段注〕凡處分曰㆓斟勺㆒、今多用㆓斟酌㆒。❽**ます**。〔方言、三〕斟、益也、南楚凡相益而又少、謂㆓之不㆑斟、凡病愈而加㆑劇、亦謂㆓之不㆑斟、或謂㆓之何斟㆒。❾**したたる**。勺んだ水のこぼれることの轉義。〔范成大、次㆓韻子永夜雨㆒詩〕漏屋踈踈滴、空檐細細斟。〔范成大、宜齋雨中詩〕垂檐一線斟。❿**姓**。〔史記、夏紀贊〕太史公曰、禹爲㆓姒姓㆒、其後分封、用㆑國爲㆑姓、云云、有㆓斟氏㆒。〔通志、氏族略、以㆑國爲㆑氏〕斟氏、曹姓、亦作㆓斟尋氏㆒、亦作㆓斟灌氏㆒、亦作㆓斟戈氏㆒、亦作㆓介斟氏㆒、並夏諸侯、以㆑國爲㆑氏、皆祝融之裔、國語注曰、曹姓之別也、姓纂云、斟尋・斟灌、並姒姓、斟戈、禹後、亦姒姓、介斟、杜預云、夏同姓。

【斟誨】1シンクワイ　くみはかりをしへる。〔蜀志、陳震傳〕幸必斟誨、示㆓其所㆑宜。

【斟灌】2シンクワン　❶古の國名。夏の同姓の諸侯の國。故城は山東省壽光縣の東北。又、斟灌店・東壽光といふ。〔左氏、襄、四〕使㆔澆用㆑師滅㆓斟灌及斟尋氏㆒。〔注〕二國夏同姓諸侯、仲康之子后相所㆑依、樂安壽光縣東南有㆓灌亭㆒、北海平壽縣東南有㆓斟亭㆒。❷複姓。字解の❿を見よ。

【斟勺】3シンシャク　斟酌に同じ。❶おしはかる。〔風俗通、聲音〕周公作㆑勺、勺、言㆔能斟㆓勺先祖之道㆒也。❷處分する。〔說文、斟、段注〕凡處分曰㆓斟勺㆒、今多用㆓斟酌㆒。

【斟酌】4シンシャク　❶酒などをくみかはす。〔淮南子、繆稱訓〕聖人之道、猶㆓中㆑衢而置㆑尊邪、過者斟酌多少不㆑同、各得㆓其所㆑宜。〔蘇武、詩四首〕我有㆓一尊酒㆒、欲㆔以贈㆓遠人㆒、願子留斟酌、敘㆓此平生親㆒。〔班固、西都賦〕陳㆓輕騎㆒以行㆑炰、騰㆓酒車㆒以斟酌。〔左思、吳都賦〕仰㆓南斗㆒以斟酌、兼㆓二儀之優渥㆒。〔注〕向曰、南斗、星名、將㆔仰取以用㆑酌㆑酒。〔陶潛、移居詩〕過㆑門更相呼、有㆑酒斟㆓酌之㆒。❷くみはかる。事の心をくみわける。又、手心を加へること。參酌。斟勺。〔國語、周語上〕耆艾修㆑之、而後王斟酌焉。〔注〕斟、取也、酌、行也。〔韓非子、揚權〕至㆓於羣生㆒、斟酌用㆑之、萬物皆盛、而不㆑與㆓其寧㆒。〔史記、樂書〕斟㆓酌飽滿㆒、以飾㆓厥性㆒。〔漢書、律歷志上〕斟㆓酌建指㆒、以齊㆓七政㆒。〔後漢書、鄭興傳〕莫㆑不㆓斟酌㆒焉。〔注〕謂㆑取㆓其意指㆒也。〔白虎通、禮樂〕周公曰、酌者、言㆘周公輔㆓成王㆒、能斟㆓酌文武之道㆒而成㆑之也。〔諸葛亮、出師表〕斟㆓酌損益㆒、進盡㆓忠言㆒。❸處分する。字解の❼を見よ。❹控へ目にする。辭退。遠慮。〔連理秘抄〕但、外人など上手おほからむ座にては聊か斟酌すべし。

【斟酒】5シンシュ　酒をくむ。〔鮑照、答㆑客詩〕歡至獨斟㆑酒、憂來輒賦㆑詩。

【斟尋】7シンジン　❶古の國名。又、斟鄩に作る。夏の同姓の諸侯の國。今、山東省濰縣の西南。〔左氏、襄、四〕使㆔澆用㆑師滅㆓斟灌及斟尋氏㆒。〔注〕二國夏同姓諸侯。〔會箋〕今斟灌城在㆓山東靑州府壽光縣東北㆒、斟尋城在㆓萊州府濰縣西南㆒。〔楚辭、天問〕覆㆓舟斟尋㆒、何道取㆑之。〔注〕斟尋、國名也。❷複姓。〔史記、夏紀贊〕太史公曰、禹爲㆓姒姓㆒、其後分封、用㆑國爲㆑姓、故有㆓夏后氏・有扈氏・有男氏・斟尋氏・彤城氏、云云㆒。

【斟愖】8シンジン　ぐずぐずするさま。ためらふさま。〔後漢書、馮衍傳下〕意斟愖而不㆑澹兮、俟㆓回風㆒而容與。〔注〕斟愖、猶㆓遲疑㆒也。

【斟鄩】9シンジン　古の國名。斟尋に同じ。〔左氏、哀、元〕昔有過澆殺㆓斟灌㆒、以伐㆓斟鄩㆒。〔注〕二斟、夏同姓諸侯也。

【斟水】10シンスイ　川の名。廣東省陽山縣の北。〔水經、洭水注〕洭水又東南流而右、與㆓斟水㆒合、水導源近出㆓東巖下㆒、穴口若㆑井、一日之中、十溢十竭、信若㆓潮流㆒、而注㆓洭水㆒。

【斟雉】11シンチ　雉の羹を酌み薦める。彭祖が雉の羹を堯帝に薦めた故事。〔楚辭、天問〕彭鏗斟㆑雉

帝何饗、壽命永多夫何長。〔注〕言、彭祖進二雉羹於堯一、堯饗二食之一以壽考、彭祖至二八百歲一。〔集注〕彭鏗、彭祖也、舊說、鏗好和二滋味一、善斟二雉羹於堯一、堯饗レ之、而錫以二壽考一、至二八百歲一。

【斟滿】12 chen^1 man^3 なみなみと注ぐ。

【斟問】13 chen^1 wen^4 問ひ合せる。たづねる。

【斟量】14 シンリヤウ くみはかる。酌量。〔顏氏家訓、省事〕比二較材能一、斟二量功伐一。〔資治通鑑、梁紀〕〔武帝、中大通六年〕佞臣一二人願斟量廢出。〔注〕斟、酌也、量、度也、斟量、猶三今人言二酌量一也。

【⿸广⿰兆斗】13518

［一］テウ 〔集韻〕他彫切 蕭

［二］セウ 〔集韻〕千遙切 蕭

小篆

［一］㊀十斗を容れるます。斛のますの內側をくりひろげて造つたます。〔說文〕⿸广⿰兆斗、斛旁有レ庣也、从レ斗庣聲。〔段注〕庣、各本作レ⿸广⿰兆斗、今正、斛旁有レ庣、謂下斛中有中寬二於方尺一之處上云云、漢律歷志曰、量者龠合升斗斛也、其法用レ銅、方尺而圜二其外一、旁有レ庣焉、鄭氏曰、庣、過也、算方一尺所レ受一斛、過二九釐五毫一、然後成レ斛、云云、按、庣旁者謂三方一尺而又寬二九釐五毫一也、不レ寬二九釐五毫一、則不レ容二十斗一、故製レ字从二斗庣一、會意。㊁つく。趒(10－37137)に通ず。〔說文〕⿸广⿰兆斗、一曰、突也。〔段注〕卽鄭氏過也之意也。〔說文通訓定聲〕⿸广⿰兆斗、叚借爲レ趒。㊂するどい。うがつ。〔說文〕⿸广⿰兆斗、一曰、⿸广⿰兆斗利也。〔廣雅、釋詁三〕⿸广⿰兆斗、穿也。㊃すき。銚(11－40387)に通ず。〔說文〕⿸广⿰兆斗、爾雅曰、⿸广⿰兆斗謂二之疀一、古田器也。〔段注〕⿸广⿰兆斗者、銚之叚借字。〔說文通訓定聲〕⿸广⿰兆斗、叚借爲レ銚。〔爾雅、釋器〕⿸广⿰兆斗、謂二之疀一。〔注〕皆古鍬鍤字。［二］［一］の㊃に同じ。

【斣】13519 クワ 〔篇海類編〕音戈

なべの類。〔篇海類編〕斣、溫器。

十畫

【⿰⿱文虫斗】13520 ユ

斞(5－13516)に同じ。〔康熙字典〕⿰⿱文虫斗、集韻、斞、或作レ⿰⿱文虫斗。

【斠】13521

［一］カク 〔集韻〕古岳切 ㄐㄧㄠˋ chiao^4 覺

［二］カウ ケウ 〔集韻〕居效切 效

小篆

［一］［二］はかる。斗斛が正しいか否かをはかる。角(10－35003)・較(10－38297)・校(6－14713)・榷(6－15283)・搉(5－12451)に通ず。〔說文〕斠、平二斗斛量一也、从レ斗冓聲。〔段注〕月令、角二斗甬一、云云、角卽斠叚借字、今俗謂二之校一。〔說文通訓定聲〕斠、凡較量・校讎・榷酤・揚搉字、疑皆當三作レ此爲二正文一。

【斡】13522

［一］ワツ ワチ 〔集韻〕烏括切 ㄨㄛˋ wo^4 曷

［二］クワン 〔集韻〕古緩切 ㄍㄨㄢˇ kuan^3 旱

慣アツ

小篆

［一］㊀ひしやくの柄。〔說文〕斡、蠡柄也、从レ斗倝聲。㊁軺車の輪。〔說文〕斡、揚雄・杜林說、皆目爲軺車輪斡也。〔段注〕軺車者、小車也、小車之輪曰レ斡。㊂めぐる。めぐらす。〔廣雅、釋詁四〕斡、轉也。〔增韻〕斡、旋也、運也。〔史記、屈原賈生傳〕斡二棄周鼎一。〔注〕集解曰、斡、轉也。〔張華、勵志詩〕大儀斡運。〔注〕善曰、斡、轉也。㊃姓。〔奇姓通〕斡道仲、靈武人、其先從二夏主一遷二興州一、世掌二夏國史一。［二］㊀めぐる。めぐらす。〔匡謬正俗、七〕斡、義亦訓レ轉、音管。〔漢書、賈誼傳〕斡流而遷。〔注〕師古曰、斡、音管、斡、轉也。㊁つかさどる。世話する。幹(6－15257)に通ず。〔說文通訓定聲〕斡、叚借爲レ幹。〔漢書、食貨志下〕欲三擅二斡山海之貨一。〔注〕師古曰、斡、謂二主領一也、讀與レ管同。㊂轂のきせがね。輨(10－38397)に同じ。〔集韻〕輨、說文、轂端沓也、或作レ斡。

名乘 ハル。

【斡維】1 クワンヰ ぐるぐると旋轉するものをつなぎとめる中軸。斡はめぐる、一に車のこしきの內側。〔楚辭、天問〕斡維焉繫、天極焉加。〔注〕斡、轉也、維、綱也、言、天晝夜轉旋、寧有二維綱繫綴一、其際極安所レ加乎、斡、一作レ筦。〔補注〕說文云、斡、轂端沓也、揚雄・杜林云、軺車輪斡也、顏師古匡謬正俗云、聲類字林並音管、賈誼服鳥賦云、斡流而遷、張華勵志詩云、大儀斡運、皆爲レ轉也、楚辭云、筦維焉繫、此義與レ斡同、字卽爲レ筦、故知二斡管一二音不レ殊、近代流俗、音烏活切、非也。〔集注〕斡、說文曰、轂端沓、則是車轂之內、以レ金爲レ筦、而受レ軸者也、維繫レ物之際也。

【斡運】2 アツウン めぐり行く。旋轉運行。〔張華、勵志詩〕大儀斡運、天迴地游。〔注〕善曰、斡、轉也。

【斡棄】3 アツキ うちやりすてる。斡は轉。〔漢書、賈誼傳〕斡二棄周鼎一、寶二康瓠一兮。〔注〕師古曰、斡、轉也。

【斡官】4 クワンクワン 官名。漢、置く。初、少府に屬し、後、大司農に屬す。治粟內史の屬。均輸の事を主る。斡官。〔漢書、百官公卿表上〕治粟內史、秦官、掌二穀貨一、有二兩丞一、景帝後元年、更二名大農令一、武帝太初元年、更二名大司農一、屬官有二太倉・均輸・平準・都內・籍田・五令丞一、斡官・鐵市・兩長丞一。〔注〕如淳曰、斡、音筦、或作レ幹、幹、主也、主二均輸之事一、所謂幹二鹽鐵一而榷二酒酤一也。「名。

【斡出】5 アツシユツ 金、完顏宗弼(3－7079‥116)の本名。

【斡准】6 アツチユン 複姓。〔金史、國語解〕斡准曰レ趙。

【斡旋】7 アツセン ㊀めぐる。又、めぐらせる。旋斡。〔鶴林玉露、天、詩用字〕作レ詩要二健字撐拄一、要二活字斡旋一云云、斡旋如二車之有一レ軸。㊁事勢を挽回し、缺失を彌縫する。〔范成大、兩木詩〕斡旋不レ作レ難。〔朱子全書、論語〕今也哀痛之深、固有地所丁斡乙旋改丙移於不レ動二聲氣一之中甲者天矣。㊂とりもつ。世話をする。周旋。奔走。〔蘇轍、代二三省一祭二司馬相如一文〕一二卿士、代レ天斡旋、事勢如レ絲、衆比如レ櫛、治亂之幾、間不レ容レ髮。

【斡遷】8 アツセン めぐりうつる。〔盧諶、蟋蟀賦〕俟二日月之代謝一、知二時運之斡遷一。

【斡啜】9 アツテツ 金、完顏宗弼(3－7079‥116)の本名。

【斡本】10 アツホン 金、完顏宗幹(3－7079‥103)の本名。

【斡流】11 アツリウ めぐりながれる。〔賈誼、鵩鳥賦〕斡流而遷兮、或推而還。〔注〕善曰、如淳曰、斡、轉也。〔班固、幽通賦〕斡流遷其不レ濟兮、故遭羅而贏縮。

【斡烈】12 アツレツ 金、楊沃衍(6－15112‥800)の一名。

【斡勒】13 ロオ 複姓。〔金史、國語解〕斡勒曰レ石。〔金史、斡勒忠傳〕斡勒忠、本名宋浦、蓋州人也。

【斡勒忠】14 オロチユン 金、蓋州の人。性、敦慤。法律に通ず。官は武寧軍節度使。〔金史、九十七〕。

【斡勒合打】15 オロカタ 金、蓋州の人。本得山猛安の人。官は河間府知・權元帥右都監。〔金史、一百四〕。

【斡論】16 アツロン 金、完顏晏(3－7079‥13)の本名。

【斡骨剌】17 アツコツラ 金、唐括辯(2－3709‥85)の本名。

【斡道沖】18 アツダウチユウ 宋、靈武の人。其の先祖、夏主に從つて興州に遷り、世〻夏國の史を掌る。道沖、五經に通じ蕃漢教授となる。論語注を譯し、別に解義二十卷を作る。又、周易卜筮斷を著は

す。尚友錄には斡道沖に作る。今、奇姓通に從ふ。〔新元史、一百五十六〕。

【斡難河】19（オノンガ）川の名。又、敖嫩河・鄂諾河・俄儂河に作る。卽ち今の黑龍江の上流。源を外蒙古車臣汗部の西北の肯特山の西、小肯特山麓に發する。元の成吉思汗は此の河畔に崛起した。

【斡羅思】20（オロス）元の人。康里氏。桑哥に忤つて譖せられた。官は四川行省平章政事。〔元史、一百三十四〕。

【斡里衍】21（アツリエン）金、完顏婁室(**3**－**7079**‥138)の字。

【斡里端】22（アツリタン）遼、蕭撻不也(**9**－**32012**‥551)の字。

【斡離不】23（オリブ）金の太祖の第二子。又、斡魯補に作る。一名は宗望。江南呼んで二太子といふ。謚は桓肅。道教佛教を喜び、菩薩太子と稱せられた。〔金史、七十四〕。

【斡魯古】24（アツロコ）金、唐括安禮(**2**－**3709**‥86)の本「名。

【斡耳朶】25（オルト）蒙古語。番士に守られた宮殿・營舍・營幕の類。元史には行帳、行宮と譯す。

【斡魯朶】26（オルタ）蒙古の人。元の太祖の孫、朮赤の子。太宗の時、其の弟拔都の西征に從ひ、歐洲諸侯王の聯合軍を擊ち敗り、後、中央亞細亞阿拉海の東北を領有し、白帳汗と稱し、子孫世〻其の地を治め、白張汗といふ。〔新元史、一百六〕。

【斡魯補】27（アツロホ）金、完顏宗望(**3**－**7079**‥115)の本名。

【㪵】13523　🈩ハウ　〔集韻〕鋪郎切　陽　🈔ハウ ビヤウ　〔集韻〕蒲庚切　庚

🈩🈔**はかりあふれる。** 斛(**5**－**13513**)に同じ。〔說文〕㪵、量旁溢也、从㆑斗旁聲。

【𣂑】13524　セウ　〔搜眞玉鏡〕七遙切　蕭

義未詳。

十一畫

【𣂼】13525　ロウ ル　〔集韻〕朗口切　有

うばふ。 かすめる。おびやかす。兵器で人の物を奪ふ。斢𣂼。〔廣韻〕𣂼、斢𣂼、兵奪㆓人物㆒、出㆓新字林㆒。

【𣂮】13526　テキ チヤク　〔集韻〕丁歷切　錫

ます。〔廣雅、釋詁三〕𣂮、量也。〔集韻〕𣂮、量器。

十二畫

【𣂗】13527　ヰ　熨(**7**－**19346**)に同じ。〔篇海〕𣂗、與㆑熨同。

【斢】13528　トウ ツ　〔集韻〕他口切　有

うばふ。 かすめる。斢𣂼。〔廣韻〕𣂼、斢𣂼、兵奪㆓人物㆒、出㆓字書㆒。

十三畫

【斣】13529　🈩シユク　〔集韻〕昌六切　屋　🈔トウ ツ　〔集韻〕丁候切　宥　🈪シヨク ソク　〔集韻〕樞玉切　沃

小篆

🈩🈔🈪❶**ひとしい。** 互に物を交易しあつて等しい。〔說文〕斣、相易㆑物俱等爲㆑斣、从㆑斗蜀聲。❷**くらべる。** 競走して力をくらべる。〔玉篇〕斣、競走角㆑力也。❸**はかる。**〔類篇〕斣、斠也。

【𣃂】13530　シヨク　斣(**5**－**13529**)に同じ。〔篇海〕𣃂、同㆑斣。

【斞】13531　🈩ク　〔集韻〕恭于切　虞　🈔コウ ク　〔集韻〕墟侯切　尤

小篆

🈩❶**くむ。**〔說文〕斞、挹也、从㆑斗臾聲。〔段注〕挹、亦抒也、詩箋・禮注皆用㆑斞、皆謂㆑挹㆓酒於尊中㆒。〔玉篇〕斞、酌也。〔詩、小雅、大東、不㆑可㆔以挹㆓酒漿㆒、傳〕挹、斞也。〔儀禮、士冠禮、實㆓勺觶角柶㆒、注〕勺、尊升、所㆓以斞㆑酒也。❷或は鄭(**11**－**39689**)・仇(**1**－**355**)に作る。〔集韻〕斞、或作㆓鄭・仇㆒。〔詩、小雅、賓之初筵、賓載手仇、箋〕仇、讀曰㆑斞。❸**姓。**〔萬姓統譜〕斞、見㆓直音幷氏族通志㆒。🈔🈩の❶に同じ。

十五畫

【𣂷】13532　ク　斞(**5**－**13531**)の譌字。

十九畫

【𣄃】13533　🈩ハン ホン　〔集韻〕孚萬切　願　🈔ケン クワン　〔廣韻〕居願切　願

小篆

🈩**はかる。**〔集韻〕𣄃、量也。🈔**くみながす。** くみとる。〔說文〕𣄃、抒扇也、从㆑斗䜌聲。〔段注〕扇、各本作㆑滿、誤、玄應作㆑漏、爲㆑是、云云、謂㆘抒而扇㆑之有㆗所㆑注也㆖。〔一切經音義、四〕汲取曰㆑𣄃。〔廣雅、釋詁二〕𣄃、抒也。〔廣韻〕𣄃、𣄃㆑物也。

斤部

【斤】13534　🈩キン コン　〔集韻〕擧欣切　文　ㄐㄧㄣ chin¹　🈔キン コン　〔集韻〕居焮切　問

小篆

🈩❶**をの。** まさかり。木を切るをの。釿(**11**－**40203**)に同じ。〔說文〕斤、斫㆑木斧也、象形。〔王注〕斤之刃橫、斧之刃縱、其用與㆓鋤钁㆒相似、玄應引㆓賈逵國語注㆒、斤、钁也。〔段注〕凡用斫㆑物者皆曰㆑斧、斫㆑木之斧、則謂㆓之斤㆒。〔集韻〕斤、或从㆑金。〔孟子、梁惠王上〕斧斤以㆑時入㆓山林㆒。❷**きる。**〔馬融、長笛賦〕擩揉斤械。〔注〕銑曰、斤械者、以㆑斧理㆑之。〔南史、宋測傳〕橫斤㆓山木㆒。❸**衡量の名。** 十六兩。民國の現行制は我が國の百五十二匁強。〔漢書、律歷志上〕二十四銖爲㆑兩、十六兩爲㆑斤。❹**はかり。**〔集韻〕斤、一曰、權㆓輕重㆒之器。❺**いつくしむ。つつしむ。** 又、**明らか。** 斤斤(1)を見よ。❻**姓。**〔姓

解〕帝嚳子亡斤、後以レ爲レ氏。〔萬姓統譜〕斤望出二代郡一。［三］**あきらかなさま**。斤斤（一）を見よ。［邦］❶**きん**。貫目の名。古は十六兩。四十八兩を大一斤といふ。今は常に百六十匁をいひ、これを唐目といふ。其の他、藥品等、物に因つて、差多く、百匁より、多きは二百五十匁に至る。大和目百八十匁、大目二百匁、沈香目二百十匁、白目二百三十匁、山目二百五十匁、其の他種々ある。今、又、英國のポンドに因つて、舶來品は大抵、百二十匁とする。又、酒一升を一斤といふ。❷**をのづくり**。漢字の旁。

［解字］象形。横畫は斧の頭に象り、直畫は柄に象り、その下にあるは切つた木に象る。木を切るをの。又、字音を假借して量目の名とする。〔說文、斤、段注〕横者象二斧頭一、直者象レ柄、其下象二所レ斫木一。〔漢書、律歷志上〕十六兩爲レ斤。▽ （甲骨文）象形。曲がつた柄の先に刃をつけたおの形に象る。

［參考］斤（5－13536）は別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似、斤、音筋、斫レ木也。斤、古斗字。

【斤斤】1（キンキン）❶あきらかに察するさま。〔爾雅、釋訓〕斤斤、察也。〔釋文〕舍人云、斤斤、精詳之察、孫炎云、重愼之察也。〔詩、周頌、執競〕斤斤其明。〔傳〕斤斤、明察也。〔漢書、敍傳下〕平津斤斤。〔注〕師古曰、斤斤、明察也。〔後漢書、吳漢傳〕斤斤謹質、形二於體貌一。〔注〕李巡曰、斤斤、精詳之察也。❷いつくしむ。仁。〔集韻〕斤、斤斤、仁也。

【斤械】2（キンカイ）きりつくらふ。〔馬融、長笛賦〕撟揉斤械。〔注〕善曰、說文曰、斤、斫レ木也、又曰、械、治也、銑曰、斤械者、以レ斧理レ之。

【斤江】3（キンカウ）川の名。源を故交州府の東北に發し、鬱江に注ぐ。〔水經、斤江水注〕斤江水、出二交阯龍編縣東北一、至二鬱林領方縣一、東注二于鬱一。

【斤鑿】4（キンサク）まさかりとのみ。〔酉陽雜俎、天咫〕開レ襆有二斤鑿數事玉屑飯兩裹一。

【斤稅】5（キンゼイ）昔の田租の一つで、斤を以て納める稅をいふ。斤は稻束をいふ語で、三斤を大一斤と稱し、大十斤は稻一束卽ち籾一斗に當る。〔延喜式、四、大神宮〕斤稅一千二百二十二束。

【斤斲】6（キンタク）きる。けづる。〔歐陽脩、壽樓詩〕昨日丁丁斤且斲、今朝朱欄橫二翠幕一。

【斤重】7（キンヂュウ）重さ。〔魏志、鄧哀王沖傳〕鄧哀王沖字倉舒、少聰二察岐嶷一、生五六歲、智意所レ及、有レ若二成人之智一。時孫權曾致二巨象一、太祖欲レ知二其斤重一、訪二之羣下一、咸莫三能出二其理一。沖曰、置二象大船之上一、而刻二其水痕所一レ至、稱レ物以載レ之、則校可レ知矣。太祖大悅卽施行焉。

【斤欘】8（キンチョク）斧の柄。又、斧。〔國語、齊語〕惡金以鑄二鉏夷斤欘一。〔注〕斤形似レ鉏小、欘、斫也。〔管子、小稱〕匠人有三以感二斤欘一。〔纂詁〕欘、斲斧柄、讀當レ爲レ钃、钃、斲斧也。

【斤斗】9（キント）とんぼがへり。もんどり。筋斗。〔祖庭事苑、七〕斤斫レ木具也、頭重而柄輕、用レ之則斗轉、爲二此技一者似レ之。

【斤斧】10（キンフ）をの。まさかり。斧斤。〔逸周書、文傳解〕不レ升二斤斧一。〔莊子、逍遙遊〕不レ夭二斤斧一、物無二害者一、無レ所レ可レ用。〔管子、乘馬〕斤斧得レ入焉。〔晏子、不合經術者〕澤人之非二斤斧一。〔淮南子、氾論訓〕譬若二斤斧椎鑿之各有一レ所レ施也。〔新書、制不定〕主之斤斧也。

【斤目】11（キンメ）斤で重さをはかる時にいふ語。

【斤兩】12（キンリャウ）重さの名。兩は二十四銖、斤は十六兩。轉じて、重さ。目方。〔晉書、愍懷太子傳〕手揣二斤兩一、輕重不レ差。〔通俗編、數目、斤兩〕抱朴子、我之涯畔無レ外、而彼之斤兩有レ限。

【斤量】13（キンリャウ）❶はかりめ。めかた。斤目。❷ちきり。杠秤。

【斤九梨】14（キンキウリ）重さ一斤九兩ある大きな梨の名。轉じて、智慧のたけた人をいふ。〔松江府志〕弋陽德興間、產梨頗大、有下至二一斤九兩一者上、土人謂二之斤九梨一、猶二芋言一レ魁也、今用以目二時人之積レ慧者一。

【斤竹嶺】15（キンチクレイ）地名。陝西省藍田縣に在り。〔王維、輞川集序〕余別業在二輞川山谷一、其遊止有二孟城坳・華子岡・文杏館・斤竹嶺云云等一。

【操レ斤客】16（キンヲトルノキャク）をのをとる人。運レ斤成レ風を見よ。〔江淹、雜體、許徵君詢自序詩〕至哉操レ斤客、重明固已朗。

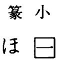
【斤車御史】17（キンシャギョシ）宋の仁宗の御史、席平の綽名。嘗て詔獄を鞫し終つて昇殿し、仁宗に其の事を問はれた時、已に車邊の斤に從ふと答へたからいふ。車邊の斤は斬の字をいふ。〔東軒筆錄〕御史席平、因下鞫二詔獄一畢上、上レ殿、仁宗問二其事一、平曰、已從二車邊斤一矣、時謂二之斤車御史一。

【運レ斤成レ風】18（キンヲメグラシテカゼヲナス）極めて巧妙な工匠の形容。郢人が其の鼻端に白土を塗つた時、匠石が斤を振つて風を卷き起し、之をけづり取り、而も鼻を傷つけなかつた故事。後世、後進の徒が先輩の人に詩文などの添削を乞ふ時、郢斧を乞ふ、成風、などの語を用ひるのは、惡しきところを斲り去つて善くせられたいといふ意。〔莊子、徐無鬼〕郢人堊二漫其鼻端一、若二蠅翼一、使二匠石斲一レ之、匠石運レ斤成レ風、聽而斲レ之、盡レ堊而鼻不レ傷、郢人立不レ失レ容。

一畫

【斥】

13535



小篆

［一］セキ　シャク　〔集韻〕昌石切　ㄔˋ　ch'ih⁴　［陌］

［二］タク　チャク　〔集韻〕恥格切　［陌］

［三］タク　〔集韻〕闥各切　［藥］

［四］シャ　〔正字通〕之夜切　［禡］

［一］❶**しりぞける**。おひはらふ。とほのける。すてる。㡿（4－9306）に同じ。〔說文〕㡿、卻レ屋也、从レ广屰聲。〔說文通訓定聲〕㡿、今字作レ斥、謂下卻二退其屋一不上レ居。〔集韻〕斥、疏也。〔正字通〕斥、黜擯也。〔史記、天官書〕斥レ小疏レ弱。〔注〕集解曰、斥、遠也。〔史記、淮南王安傳〕王使二郎中令斥免一。〔注〕正義曰、言丁屛二斥免郎中令官一、而令丙後人不乙敢效甲也。〔漢書、武帝紀〕無レ益二於民一者斥。〔注〕師古曰、斥、謂三棄二逐之一。〔漢書、江都易王非傳〕擊レ吉斥レ之。〔注〕師古曰、斥、謂三退二棄之一。〔張衡、思玄賦〕斥二西施一而弗レ御兮。〔注〕衡曰、斥、卻也。❷**こばむ**。〔左氏、昭、十六〕大國之求、無二禮以斥一レ之。❸**もちひない**。廢棄する。〔漢書、郊祀志上〕斥二車馬帷帳器物一。〔注〕師古曰、斥、不レ用者也。❹**おす**。〔廣雅、釋詁三〕斥、推也。〔素問、調經論〕勿二之深斥一。〔注〕斥、推也。❺**さす**。〔集韻〕斥、指名。〔正字通〕斥、指而言レ之也。〔詩、周頌、雝、假哉皇考、箋〕嘉哉皇考、斥二文王一也。〔穀梁、僖、五〕目二晉侯一斥殺。〔注〕斥、指斥。〔後漢書、孔融傳〕擬二斥乘輿一。〔注〕斥、指也。❻**うかがふ**。〔左氏、襄、十八〕晉人使三司馬斥二山澤之險一。〔注〕斥、候也。〔史記、李將軍傳〕亦遠斥候。〔注〕索隱曰、斥、度也、候、視也、望也。❼**ものみ**。偵察。〔史記、白起傳〕趙士卒犯二秦斥兵一。❽**ひらく**。ひらける。ひろい。庛（4－9352）に通ず。〔說文通訓定聲〕㡿、段借爲レ庛。〔小爾雅、廣詁〕斥、開也。〔正字通〕斥、開拓也。〔禮、王制、公侯田方百里、云云、注〕周公攝政致二太平一、斥二大九州之界一。〔疏〕斥大、謂二開斥廣大一。〔史記、貨殖傳〕塞之斥也。〔注〕正義曰、孟康云、邊塞主二斥候一卒也。〔漢書、司馬相如傳下〕除二邊關一、邊關益斥。〔注〕師古曰、斥、開廣也。❾**あらはれる**。〔左氏、襄、三十一〕寇盜充斥。〔注〕充、滿也、斥、見也、言二其多一。❿**みちる**。〔玉篇〕斥、充滿也。⓫**さは**。澤（7－18383）・潟（7－18247）に通ず。〔說文通訓定聲〕㡿、段借爲レ澤、字亦作レ潟。〔莊子、逍遙遊〕斥鴳笑レ之。〔釋文〕

斥、司馬云、小澤也。⑫ひがた。〔書、禹貢〕海濱廣斥。〔鄭注〕斥、謂二地鹹鹵一。〔管子、地員〕乾而不レ斥。〔注〕斥、瀉鹵。⑬いけ。〔廣雅、釋地〕斥、池也。⑭きし。〔廣雅、釋地〕斥、厓也。〔張衡、西京賦〕絶レ阬踰レ斥。〔注〕綜曰、斥、澤崖也。⑮小さい。尺(4－7632)に通ず。〔莊子、逍遙遊〕斥鷃笑レ之。〔集釋〕慶藩案、斥鷃、釋文引崔本作二尺鷃一、是也、斥・尺、古字通。⑯大きい。〔集韻〕斥、一曰、大也。〔後漢書、馬融傳〕暴二斥虎一。〔注〕蒼頡篇曰、斥、大也。⑰あかい。赤(10－36993)に通ず。⑱たるき。榱(6－15276)に通ず。〔路史、陶唐氏紀〕斥題不レ枅、土階不レ戚。㊁さく。さける。ひらく。坼(3－5246)に同じ。〔集韻〕坼、說文、裂也、亦作レ斥。㊂ほしいまま。揮斥。〔集韻〕斥、揮斥、放縱也、司馬彪說。〔正字通〕斥、揮斥、縱肆奮迅也。〔莊子、田子方〕揮二斥八極一。〔注〕揮斥、猶二放縱一也。㊃姓。〔萬姓統譜〕斥、音柘、蔡州有二此姓一、出二姓纂一。

解字 會意形聲。篆文は、广と屰との合字、屰は聲を兼ねる。しりぞける意。广は厂(がけ)に作った屋。屰は逆、しりぞける。朽廢した屋を退けて居住せぬ義。除卻すべき屋。今、俗に厈(㡿の省文か)に作り、又、斥に作ってゐるが、殆ど字を成さぬ。〔說文、斥、段注〕俗作レ厈作レ斥、幾不レ成レ字。

【斥鷃】1 セキアン 小鳥の名。澤中のふなしうづら。斥は澤、鷃はふなしうづら。一說に、斥は尺、尺鷃をいふ。尺は弱小の義。〔莊子、逍遙遊〕斥鷃笑レ之曰、彼且二奚適一也。〔疏〕斥、小澤也、鷃、雀也、鷃雀、小鳥、縱二任斥澤之中一、騰擧踊躍、自二得蓬蒿之內一。〔集釋〕慶藩案、斥鷃、釋文引崔本作二尺鷃一是也、斥・尺、古字通、文選曹植七啓注、鷃雀飛不レ過二一尺一、言二其劣弱一也、云云、文選宋玉對二楚王問一、尺澤之鯢、注、尺澤言レ小也。〔淮南子、精神訓〕鳳凰不レ能二與レ之儷一、而況斥鷃乎。〔曹植、七啓〕山鷄斥鷃。

【斥鷃笑】2 セキアンノワラヒ 己の分を知らないで妄りに人を笑ふ喩。莊子の寓話に本づく。斥鷃を見よ。

【斥闉】3 セキイン うかがひふさぐ。〔淮南子、兵略訓〕相二斥闉要遮一者。〔注〕斥、候也、闉、塞也。

【斥遠】4 セキエン しりぞけ遠ざける。〔漢書、郊祀志下〕斥二遠方士之虛語一。〔風俗通、皇霸〕斥二遠忠臣一。〔魏志、齊王芳傳〕斥二遠君子一、引二近小人一。

【斥革】5 chʻih^4 kê^2 免職する。放逐する。

【斥棄】6 セキキ しりぞけすてる。〔韓愈、陸渾山火和二皇甫湜一用二其韻一詩〕斥二棄輿馬一背二厥孫一。

【斥騎】7 セキキ ものみの騎兵。斥候騎兵。〔日本外史、足利氏後記、武田氏上杉氏〕遇二武田氏斥騎十七人一、盡斬レ之。

【斥丘】8 セキキウ 縣名。漢、置く。河北省成安縣の東南。〔漢書、地理志上〕魏郡、縣十八、斥丘。〔注〕應劭曰、斥丘、在二西南一也、師古曰、闞駰云、地多二斥鹵一、故曰二斥丘一。〔讀史方輿紀要、直隸、廣平府、成安縣〕斥丘城、春秋時、晉之乾侯邑、昭二十八年、公如レ晉、次二于乾侯一、卽此、漢爲二斥丘縣一、闞駰曰、地多二斥鹵一、故曰二斥丘一、應劭曰、有二斥丘一在二其西南一也、高帝六年、封二功臣唐厲一、爲二侯邑一、後漢仍爲二斥丘縣一、初平二年、袁紹屯二于斥丘一、卽此。

【斥去】9 セキキョ しりぞけさる。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕宰相不レ悅、斥二去之一。

【斥遣】10 セキケン しりぞけはなつ。しりぞける。〔後漢書、李固傳〕黃門宦者、一皆斥遣。〔晉書、光逸傳〕令大怒、除二逸名一、斥二遣之一。〔韓愈、元和聖德詩〕斥二遣浮華一、好二此綈紵一。

【斥譴】11 セキケン しりぞけとがめる。はねつけしかる。

【斥言】12 セキゲン 指さし言ふ。事物の得失を指さしていふ。〔後漢書、蔡邕傳贊〕斥二言金商一、南徂北徙。〔注〕謂下對二事於金商門一、指斥而言無中隱諱上。

【斥虎】13 セキコ 大きな虎。〔後漢書、馬融傳〕暴二斥虎一、搏二狂兕一。〔注〕蒼頡篇曰、斥、大也。

【斥候】14 セキコウ 敵のやうすをさぐること。ものみ。又、其の者。斥堠。斥兵。〔書、禹貢、五百里侯服、傳〕斥候而服レ事。〔疏〕斥候、謂下檢二行險阻一、伺中候盜賊上。〔左氏、襄、十一〕納二斥候一、禁二侵掠一。〔六韜、虎韜、必出〕斥候常戒、險塞盡守。〔史記、李將軍傳〕然亦遠二斥候一。〔注〕索隱曰、斥、度也、候、望也。〔漢書、西域下、渠犂傳〕假二司馬一爲二斥候一。〔魏志、賈逵傳〕逵明二斥候一。〔吳志、孫韶傳〕常以下警二疆場一、遠中斥候上爲レ務。〔虞羲、詠二霍軍北伐一詩〕玉門罷二斥候一。

【斥候戰】15 セキコウセン 敵味方の斥候兵の衝突から生ずる戰鬪。

【斥候兵】16 セキコウヘイ 斥候の兵士。ものみの兵。

【斥堠】17 セキコウ とほみする番所。〔李衞公問對、上〕凡置レ驛、六十六處、以通二斥堠一。

【斥塞】18 セキサイ 邊境を開いて土地を廣める。〔史記、平準書〕斥塞卒六十萬人戍田レ之。〔漢書、食貨志下〕斥塞卒六十萬人戍田レ之。

【斥山】19 セキザン 山名。山東省榮成縣の南。〔爾雅、釋地〕東北之美者、有二斥山之文皮一焉。〔淮南子、墬形訓〕東北方之美者、有二斥山之文皮一焉。

【斥竄】20 セキザン しりぞけられて遠方に流されること。〔遼史、耶律石柳傳〕斥二竄邊郡一。

【斥疵】21 セキシ 惡いものをしりぞける。疵は、きず。〔謝靈運、山居賦〕驅レ妖而斥レ疵。

【斥章】22 セキシヤウ 縣名。漢、置く。河北省曲周縣の東南。〔漢書、地理志下〕廣平國、縣十六、斥章。

【斥埴】23 セキショク 赤い黏土。斥は赤に誤り通ず。〔管子、地員〕斥埴、宜二大菽與レ麥。〔纂詁〕斥、讀爲レ赤、聲之誤也、埴、黏土也。

【斥斥】24 セキセキ 廣く大きいさま。〔左思、魏都賦〕原隰畇畇、墳衍斥斥。〔注〕向曰、斥斥、廣大貌。

【斥責】25 chʻih^4 tsê^2 しりぞけせめる。

【斥絶】26 セキゼツ しりぞけて交を絶つ。〔史記、天官書〕尾爲二九子一、曰、君臣斥絶不レ和。

【斥仙】27 セキセン 仙人の名。項寧都をいふ。〔水經、涑水注〕項寧都學レ道升仙、忽復還二此河東一、號曰二斥仙一。

【斥然】28 セキゼン しりぞけるさま。〔新書、階級〕猶未二斥然以呼レ之也。

【斥踈】29 セキソ しりぞけうとんずる。斥疏に同じ。〔戰國、秦策〕而羣臣妬以レ功、諛諂用レ事、良臣斥疏。

【斥疏】30 セキソ しりぞけうとんずる。斥疎。排斥疎外。〔史記、韓長孺傳〕後稍斥疏下遷。

【斥退】31 セキタイ しりぞける。おひやる。〔論衡、定賢〕無二斥退之患一。〔後漢書、伏湛傳〕微過斥退。

【斥帶】32 セキタイ 廣い帶。〔說苑、奉使〕賜二之斥帶一、則不レ更二其造一。

【斥題】33 セキダイ たるきのこぐち。榱題。〔路史、陶唐氏紀〕都二於平陽安邑一、居二於明堂一、斥題不レ枅、土階不レ戚。

【斥澤】34 セキタク 鹽分をふくんださは。〔管子、輕重乙〕菹菜鹹鹵斥澤。

【斥地】35 セキチ 土地をひらく。又、ひらけた土地。〔漢書、燕剌王劉旦傳〕遠方執レ寶而朝、增レ郡數十、斥レ地且レ倍。〔注〕師古曰、斥、開也。〔漢書、韋玄成傳〕斥二地遠境一、起二十餘郡一。〔鹽鐵論、結和〕聖主斥レ地、非レ私二其利一、用レ兵非二徒奮レ怒一也。

【斥逐】36 セキチク しりぞけおふ。追ひはらふ。〔史記、秦始皇紀〕西北斥二逐匈奴一。〔楚辭、東方朔、七諫、初放〕斥二逐鴻鵠一兮、近二習鴟梟一。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕斥逐又非二其愆一。

【斥黜】37 セキチュツ しりぞけすてる。はねつけて採用せぬ。斥棄。斥罷。〔後漢書、陳蕃傳〕簡二練清高一、斥二黜佞邪一。

【斥除】38 セキヂョ しりぞけのぞく。〔漢書、趙廣漢傳〕擅斥二除騎士一、乏二軍興一。

【斥土】39 セキド 土地をひらく。又、ひらけた土地。〔漢書、惠帝紀〕視二作斥土一者。〔注〕如淳曰、斥、開也、開二土地一爲二冢壙一。〔曹植、盤石篇〕蒹葭彌斥レ土、林木無レ分レ重。

【斥罵】40 chʻih^4 ma^4 罵る。辱める。

【斥賣】41 セキバイ 斥け去つて賣る。投げ賣りする。〔史記、貨殖傳〕烏氏倮、畜レ牧及レ衆、斥賣、求二奇繒物一、間獻二遺戎王一。〔注〕索隱曰、謂畜レ牧及レ至二衆多之時一、斥而賣レ之、以求二奇物一也。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕悉斥二賣上林鷹犬一。

【斥非】42 セキヒ 書名。一卷。附錄一卷。太宰春臺撰。世上の文字を弄ぶものが、古來の用例を誤つて居るのを正したもの。〔日本詩話叢書、三〕・〔日本儒林叢書、四〕。

【斥罷】43 セキヒ 退け廢する。〔漢書、召信臣傳〕府縣吏家子弟、云云、不下以二田作一爲中事者、輒斥二

罷之一。

【斥謬】44 セキビウ あやまちを指さす。あやまちを指摘して注意すること。〔抱朴子、交際〕朋友也者、必取二乎直諒多聞一、拾レ遺斥レ謬、生無二請言一、死無二託辭一。

【斥兵】45 セキヘイ 敵の動靜を伺ふ兵。ものみ。斥候。〔史記、白起傳〕趙軍士卒、犯二秦斥兵一。

【斥免】46 セキメン しりぞける。いとまをやる。〔史記、淮南王安傳〕王使二郎中令斥免一、欲二以禁一レ後。〔後漢書、陳蕃傳〕皆斥免禁錮。

【斥邏】47 セキラ うかがひみまはること。〔唐書、范希朝傳〕希朝度二要害一置二屯保一、斥邏嚴密、鄙民以安。

【斥落】48 セキラク しりぞけおとす。〔論衡、程材〕斥落不レ習。〔風俗通、愆禮〕或擧者名位斥落。

【斥鹵】49 セキロ しほつち。地に鹽分を含んだ所で耕種に堪へず、其の土を煑て鹽を作り得られる土地。荒蕪地の一種。澤鹵。舃鹵。〔呂覽、樂成〕終古斥鹵。〔史記、夏紀〕海濱廣潟、厥田斥鹵。〔注〕集解曰、鄭玄曰、斥、謂二地鹹鹵一、索隱曰、說文、鹵、鹹地、東方謂二之斥一、西方謂二之鹵一。〔唐書、裴識傳〕靈武地斥鹵無レ井。

【斥鹵之地】50 セキロノチ しほち。〔六韜、豹韜、鳥雲澤兵〕吾居二斥鹵之地一。

【斥蠖】51 セキワク 尺取蟲。尺蠖(4－7632‥17)に同じ。〔周禮、考工記、弓人〕麋筋斥蠖。〔注〕斥蠖、屈蟲也。〔孫詒讓正義〕案、斥・尺、聲近字通。

【厈】13536 ト 斗(5－13489)の古字。〔字彙補〕厈、古文斗字。

参考 斤(5－13534)は別字。〔康熙字典、辨字、二字相似〕斤、音筋、斫木也。厈、古斗字。

二畫

【𣂔】13537 ロク 〔五音篇海〕力得切 職。義未詳。

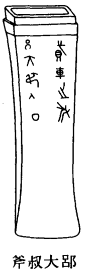
四畫

【所】13538 [一]ギン ゴン 〔集韻〕魚斤切 文。 [二]シツ シチ 〔六書本義〕職日切 質。

小篆 [一]❶二ふりのをの。〔說文〕所、二斤也、闕。〔段注〕言レ形而義在二其中一。❷あきらか。〔說文、段注〕爾雅・毛傳曰、斤斤、明也、葢其義與、闕者言三其義其音未二之聞一也。❸きぬた。〔增韻〕所、砧也。[二]ものをきる臺。櫍。〔說文通訓定聲〕所、按、此字當二讀如一レ質、卽椹櫍之櫍、質从レ之得レ聲。

【斧】13539 フ 〔集韻〕匪父切 ㄈㄨˇ fǔ 麌。

小篆 ❶をの。まさかり。㋑木の柄が横につき、刃幹が厚く、末が廣がり、刃は弧狀をなすもの。伐木にも、儀仗にも、兵器にも、刑具にも用ひる。〔說文〕斧、所二以斫一也、从レ斤父聲。〔段注〕斧之爲レ用廣矣、斤則不レ見二於他用一也、葢其制有レ異矣。〔易、旅〕得二其資斧一。〔注〕斧、所下以斫二除荆棘一、以安中其舍上者也。〔詩、豳風、破斧〕既破二我斧一。〔傳〕隋銎曰レ斧。〔國語、周語上〕有二斧鉞刀墨之民一。〔注〕斧鉞、大刑也。〔國語、魯語上〕其次用二斧鉞一。〔注〕斧鉞、軍器也。〔太玄經、衆〕斧刃缺、其柯折。〔注〕斧柯者、征伐之柄也。㋺木を荒ぎりする大をの。〔釋名、釋用器〕斧、甫也、甫、始也、凡將レ制レ器、始用レ斧伐レ木、已乃制レ之也。❷きる。きりさく。〔魏武帝、苦寒行〕斧レ冰持作レ糜。❸斧形の模樣。斧の形に、刃を白く、幹を黑く、模樣にゑがき、又、ぬひとりした布。又、この布を張った屛風。〔爾雅、釋器〕斧謂二之黼一。〔周禮、考工記、畫繢之事〕白與レ黑謂二之黼一、其文如二斧形一也。〔禮、檀弓上〕加二斧於椁上一。〔注〕斧、謂二之黼一、白與レ黑也。〔禮、明堂位〕天子負二斧依一。〔注〕斧依、爲二斧文屛風於戶牖之間一。❹斧形のもの。〔曹植、蟬賦〕苦二黃雀之作一レ害兮、患二螳螂之勁一レ斧。❺物をそこなふもの。〔枚乘、七發〕皓齒蛾眉、命曰二伐レ性之斧一。❻通じて鈇(11－40213)に作る。〔正字通〕斧、通作レ鈇。



部大叔斧（攀古瘻彝器款識）

【斧依】1 イフ 斧の模樣をぬひとりした屛風。斧扆に同じ。〔儀禮、覲禮記〕天子設二斧依於戶牖之間一。〔注〕依、如二今綈素屛風一也、有二繡斧文一、所二以示一レ威也、斧謂二之黼一。〔疏〕案、爾雅、牖戶之間謂二之扆一、以二屛風一爲二斧文一、置二於依一也。〔儀禮、覲禮〕天子衮冕負二斧依一。〔禮、曲禮下〕天子當レ依而立。〔疏〕依狀如二屛風一、以レ絳爲レ質、高八尺、東西當二戶牖之間一、繡爲二斧文一也、亦曰二斧依一。〔禮、明堂位〕天子負二斧依一、南鄉而立。〔釋文〕依、本又作レ扆。

【斧扆】2 イフ 柄のない斧をぬひとりした赤地の屛風。戶牖の間に東西に立てる。天子は之を背後にして南面し、以て諸侯に對する。斧は威を示し、柄のないのは設けて用ひない義。斧依。扆(5－11742)の字解を見よ。〔爾雅、釋宮〕牖戶之間、謂二之扆一。〔注〕禮云、斧扆者、以二其所レ在處一名レ之。〔逸周書、明堂解〕負二斧扆一南面。〔張衡、東京賦〕要二干將一負二斧扆一。〔孔子家語、觀周〕抱レ之負二斧扆一。

【斧戉】3 フエツ をのとまさかり。斧鉞に同じ。〔漢書、天文志〕伏二斧戉一謝レ罪。

【斧鉞】4 フエツ をのとまさかり。人を刑する具。又、征伐の大將に賜はつて誅殺を專にするしるしとした。轉じて、軍器・刑戮の意に用ひる。鈇鉞。斧戉。〔連文釋義〕戚爲レ斧、揚爲レ鉞、斧小二于鉞一、鉞大二于斧一。〔左氏、昭、四〕王弗レ聽、負二之斧鉞一。〔國語、周語上〕有二斧鉞刀墨之民一。〔注〕斧鉞、大刑也。〔國語、魯語上〕大刑用二甲兵一、其次用二斧鉞一。〔注〕斧鉞、軍器也。〔國語、晉語六〕司寇之刀鋸日弊、而斧鉞不レ行。〔戰國、秦策〕今臣之胸不レ足三以當二椹質一、要不レ足三以待二斧鉞一。〔莊子、胠篋〕斧鉞之威弗レ能レ禁。〔呂覽、具備〕斧鉞在レ後。〔漢書、蘇武傳〕斧鉞湯鑊。

【斧鉞之人】5 フエツノヒト 刑罪を受くべき人。〔管子、小匡〕管仲曰、斧鉞之人也。

【斧鉞之誅】6 フエツノチユウ 斧鉞を以て刑戮されること。〔莊子、至樂〕亡國之事、斧鉞之誅。〔史記、李斯傳〕不三敢避二斧鉞之誅一。〔漢書、馬宮傳〕當レ伏二斧鉞之誅一。〔漢書、諸葛豐傳〕使三四方明知二爲レ惡之罰一、然後卻就二斧鉞之誅一。

【斧柯】7 フカ ❶斧の柄。又、斧。〔六韜、文韜、守土〕兩葉不レ去、將レ用二斧柯一。〔史記、蘇秦傳〕將レ用二斧柯一。〔新書、審微〕且折二斧柯一。〔說苑、敬愼〕將レ尋二斧柯一。〔孔子家語、觀周〕毫末不レ札、將レ尋二斧柯一。❷政權の喩。〔孔子、龜山操〕予欲レ望レ魯兮、龜山蔽レ之、手無二斧柯一、奈二龜山一何。❸地名。端溪硯を產す。〔硯譜〕端溪有二斧柯茶園將軍地一、同是一溪、惟斧柯出者、大不レ過二三四指一、一兩呵汗津滴瀝、眞得之物。❹山名。廣東省高要縣の爛柯山。

【斧斤】8 フキン をの。まさかり。山林に入つて材木を伐る器。斤は木をきるをの。〔周禮、考工記、輈人〕謂二之斧斤之齊一。〔左氏、哀、十五〕天或者以二陳氏一爲二斧斤一。〔孟子、梁惠王上〕斧斤以レ時入二山林一、材木不レ可二勝用一也。〔荀子、勸學〕林木茂而斧斤至焉。〔後漢書、蔡茂傳〕斧斤廢而不レ擧。〔班固、答賓戲〕般輸摧二巧於斧斤一。

〖斧斤齊〗9（フキンセイ） 古の合金の割合。〔周禮、考工記、輈人〕五二分其金一而錫居レ一、謂二之斧斤之齊一。

〖斧斤考擊〗10（フキンカウゲキ） 斧斤を以て打ち叩く。〔蘇軾、石鐘山記〕乃以二斧斤考擊一而求レ之。

〖斧斤之風〗11（フキンノカゼ） をのやまさかりの音。〔芳野金陵、新建二新田公祠堂一記〕于喁之聲、斧斤之風。

【斧鑊】12（フクワク） 斧で首を斬られることと釜で煑られること。斬首と釜うで。重刑。極刑。〔宋書、殷琰傳〕自求二齏膾一、身膏二斧鑊一。〔徐陵、在二北齊一與二揚僕射一書〕甘從二斧鑊一。

【斧藻】13（フサウ） けづりかざる。修飾する義。〔法言、學行〕吾未レ見下好三斧二藻其德一、若三斧二藻其楶一者上歟。〔注〕斧藻、猶三刻桷丹楹之飾二楶櫨一也。〔司馬光集注〕斧、斲削也、藻、文飾也。〔王融、三月三日曲水詩序〕斧二藻至德一。〔注〕良曰、斧藻、謂二修飾一也。

【斧鑿】14（フサク） ❶をのとのみ。〔魏志、鍾繇傳〕不レ待三遠假二斧鑿於彼肉刑一。❷文章を添削する意。斧鑿痕を見よ。

〖斧鑿痕〗15（フサクノコン） をのとのみとのあと。詩文書畫を作るに自然に由らず、彫斲を加へて其のあとをあらはすをいふ。鑿はのみ。小刀細工のあと。〔韓愈、調二張籍一詩〕徒觀二斧鑿痕一、不レ矚二治水航一。〔宣和畫譜〕邊鸞長二于花鳥一、精二于設色一、如三良工之無二斧鑿之痕一。〔曲洧舊聞〕古語云、大匠不レ示レ人以レ璞、蓋恐三人見二其斧鑿痕跡一也。

【斧殺】16（フサツ） 斧をもつてうち殺す。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕兼任脫走、踰二龜山一、爲二樵夫一斧殺。

【斧子】17（フシ） をの。〔唐書、五行志〕鎌柯不レ鑿レ孔、斧子不レ施レ柯。

【斧始】18（ヲノハジメ） てうなはじめ。

【斧資】19（フシ） 旅費。〔福惠全書、蒞任部、待游客〕斧資告レ竭、進退維艱、則恨極謗生、毀言横出。

【斧繡】20（フシウ） ❶斧の形のぬひとり。繡黼。〔漢書、賈誼傳、美者黼繡、注〕師古曰、黼者織爲二斧形一、繡者刺爲二衆文一。❷斧を杖つき、繡を衣る。古の法を執る者の儀制。〔漢書、武帝紀〕遣二直指使者暴勝之等一、衣二繡衣一、杖レ斧、分部逐捕。〔范梈、寄二福建杜廉訪使君一詩〕斧繡飄二秋隼一、泉阿達二夜蛩一。

【斧質】21（フシツ） 人を斬る器と人を斬る臺。斧は斬る刃物、質は斬られる者を載せる臺。轉じて、刑戮。誅戮。斧鑕。鈇鑕。〔戰國、秦策〕悉二其士民一、張レ軍數千百萬、白刃在レ前、斧質在レ後、而皆去走不レ能二死罪一也、其上不レ能レ殺也。〔說苑、立節〕加二斧質其上一。

〖伏斧質〗22（フシツニフクス） 斬罪に處せられるをいふ。〔史記、梁孝王世家〕伏二斧質於闕下一、謝レ罪。〔史記、廉頗藺相如傳〕君不レ如下肉袒伏二斧質一請上罪。〔漢書、項籍傳〕孰下與身伏二斧質一、妻子爲上戮乎。〔注〕師古曰、質、謂レ鍖也、古者斬レ人加二於鍖上一而斫レ之也。〔漢書、黥布傳〕使三何等二十人伏二斧質淮南市一。〔潘岳、馬汧督誄〕身伏二斧質一。

【斧櫍】23（フシツ） 人を刑する具。斧質に同じ。斧鑕。〔廣韻〕櫍、椹、行レ刑、用二斧櫍一。

【斧鑕】24（フシツ） 人を刑する具。斧質に同じ。斧櫍。〔韓非子、初見秦〕白刃在レ前、斧鑕在レ後、而卻走不レ能レ死也。〔韓非子、外儲說左下〕豹自請曰、願請レ璽、復以治レ鄴、不レ當、請伏二斧鑕之罪一。〔晏子、問、下〕嬰無二斧鑕之罪一。〔新序、節士〕伏二斧鑕一命在レ君。〔後漢書、耿弇傳〕肉袒負二斧鑕於軍門一。

〖斧鑕之刑〗25（フシツノケイ） 死刑をいふ。〔元稹、加二裴度招討使一制〕斧鑕之刑坐迫、椒蘭之氣外薰。

【斧車】26（フシヤ） 大使車の先導をする斧を載せた車。〔後漢書、輿服志上〕大使車立乘、駕レ駟赤レ帷、持レ節者重二導從一、賊曹車・斧車・督車・功曹車皆兩。

【斧斨】27（フシヤウ） をの。柄の穴の楕圓なるを斧といひ、方形なるを斨といふ。〔詩、豳風、七月〕取二彼斧斨一、以伐二遠揚一。〔傳〕斨、方銎也。〔左思、魏都賦〕斧斨以レ時。

【斧斫】28（フシヤク） をのできる。〔白居易、東澗種レ柳詩〕乘レ春持レ斧斫、裁截而樹レ之。

【斧正】29（フセイ） 文章の訂正を乞ふ謙辭。斧政。郢政。運レ斤成レ風（**5－13534**‥18）を見よ。〔莊子、徐無鬼〕郢人堊二慢其鼻端一、若二蠅翼一、使二匠石斲レ之、匠石運レ斤成レ風、聽而斲レ之、盡レ堊而鼻不レ傷、郢人立不レ失レ容。

【斧政】30（フセイ） 人に文章の訂正を乞ふ謙辭。斧正。

【斧削】31 fu^3 hsiao^1 削る。刪正する。添作する。

【斧石】32（フセキ） 鑛物の名。三斜晶系に屬す。結晶は扁平または柱狀で著しく結晶面に富み、且つ各面に條線がよく發達する。褐色・灰・綠・青・赤等を呈し、多色性が強い。玻璨光澤で透明乃至半透明。化學成分は硼素・鐵・滿俺・アルミナ等の珪酸鹽とされる。我が國では釜石鑛山・尾平鑛山等に美晶を產する。

【斧跡】33（フセキ） をののあと。をので切つたあとかた。〔水經、淮水注〕株根猶存、伐レ之積載、而斧跡若レ新。〔范成大、離堆行〕殘山狼石雙虎臥、斧跡鱗皴中鑿破。

【斧螗】34（フタウ） 螳螂の斧。己の力を揣らないで強敵に當る喩。〔柳宗元、獻下平二淮夷一雅上表〕鋒蜎斧螗。

【斧蟲】35（フチユウ） 蟲の名。螳螂の異名。かまきり。〔事物異名錄、昆蟲下、螳螂〕七修類藁、螳螂捕レ蟬而食、故名二殺蟲一、又曰二斧蟲一、以二前二足如一レ斧也。

【斧頭】36 fu^3 t'ou^2 をの。

【斧伐】37（フバツ） 斧できる。〔淮南子、主術訓〕夫火熱而水滅レ之、金剛而火銷レ之、木強而斧伐レ之、水流而土遏レ之、唯造化者、物莫二能勝一也。

【斧冰】38（フヒヤウ） 氷を斫る。〔魏武帝、苦寒行〕擔レ囊行取レ薪、斧レ冰持作レ糜。

【斧劈】39（フヘキ） 畫法の一つ。山又石の皺を畫くに、斧で木を削つた痕の如く筆を用ひるもの。〔妮古錄〕皴法、董源麻皮皴、范寬雨點皴、李將軍小斧劈皴、李唐大斧劈皴。〔龔安節先生畫訣〕皴法名色甚多、惟披麻豆瓣小斧劈爲二正經一。〔齋藤拙堂、下二岐蘇川一記〕皴率作二大小斧劈一。

【斧木】40（フボク） けづつたままの木。〔南齊書、劉善明傳〕善明身長七尺九寸、質素不レ好二聲色一、所レ居茅齊斧木而已、牀榻几案、不レ加二剗削一。

【投レ斧】41（ヲノヲトウズ） 學問に志すこと。投斧（**5－11887**‥162）の❷を見よ。

【揭レ斧入レ淵】42（ヲノヲカカゲテフチニイル） 斧を持つて淵に木を伐りに行く。物を用ひるに其の所を得ない喩。〔淮南子、說山訓〕以二其所一レ脩、而游二不用之鄉一、譬若下樹二荷山上一、而畜二火井中一、操レ釣上レ山、揭レ斧入上淵。

【斨】13540

シヤウ サウ 〔集韻〕千羊切 ㄑㄧㄤˉ ch'iang^1 陽

柄をさす孔が正方形なをの。〔說文〕斨、方銎斧也、从レ斤爿聲、詩曰、又缺二我斨一。〔段注〕豳風破斧文、按、許不レ稱二七月一、稱二此者一、明二斧斨之用不一レ專レ伐レ木也。〔釋名、釋用器〕斨、戕也、所レ伐皆戕毀也。〔詩、豳風、七月〕取二彼斧斨一。〔傳〕方銎曰レ斨。

參考 ⿰片斤（**5－13541**）は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕斨、音鏘、斧也。⿰片斤、音昔、分剖也。

【⿰片斤】13541

セキ 析（**6－14538**）の古字。〔玉篇〕⿰片斤、古文析。

參考 斨（**5－13540**）は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕斨、音鏘、斧也。⿰片斤、音昔、分剖也。

【⿰亓斤】13542

シ 斯（**5－13563**）の古字。〔集韻〕斯、古作レ⿰亓斤。

【⿰冊斤】13543

シ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰冊斤、音斯。

【⿰丰斤】13544

キン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰丰斤、音欣。

五畫

【⿰斥斤】13545

タク チヤク 〔篇海〕丑格切 陌

❶ひらく。〔篇海〕所、開也。❷坼(3-5006)の譌字。〔康熙字典〕所、按㆓音義㆒、卽坼字之譌。

【听】13546 カ 〔集韻〕口我切 哿

ひく。〔類篇〕听、掣也。〔集韻〕听、郎听、掣也。

【斪】13547 ㈠ク グ 〔集韻〕權俱切 虞 ㈡コウ ク 〔集韻〕居侯切 尤

小篆

㈠㈡❶すき。くは。斪斸。〔說文〕斪、斪斸、所㆓㠯斫㆒也、从㆑斤句聲。〔段注〕斤斧所㆓以斫㆑木、斪斸所㆓以斫㆑地。〔爾雅、釋器〕斪斸謂㆓之定㆒。〔注〕鋤屬。❷斸(5-13618)に通ず。〔正字通〕斪、與㆑斸通。

【斫】13548 シャク 〔集韻〕職略切 藥 ㄓㄨㄛˊ chuo²

❶うつ。〔說文〕斫、擊也、从㆑斤石聲。❷きる。〔玉篇〕斫、刀斫。〔後漢書、呂布傳〕拔㆑戟斫㆑机。❸大きいすき。〔爾雅、釋器〕斫謂㆓之鐯㆒。〔疏〕斫、一名鐯、郭云、钁也、說文云、钁、大鋤也。❹おろか。無知。〔方言、十〕揚越之郊、凡人相侮以爲㆑無㆑知、謂㆓之眲㆒、或謂㆓之斫㆒。〔注〕斫、郄斫、頑直之貌、今關西語亦皆然。〔集韻〕斫、碏斫、不㆓解悟㆒皃。❺斮(5-13562)に同じ。〔正字通〕斫、同㆑斮。

【斫營】1 シャクエイ 不意を襲って敵營中にきりこむ。〔吳志、甘寧傳〕曹公出㆓濡須㆒、寧爲㆓前部督㆒、受㆑敕出斫㆓敵前營㆒。〔魏書、傅永傳〕永量㆓吳楚之兵㆒、好以㆓斫營㆒爲㆑事。

【斫開】2 シャクカイ きりひらく。〔魏志、王昶傳〕斫㆓開荒萊㆒、勤㆓勸百姓㆒、墾田特多。

【斫却】3 シャクキャク きってしまふ。きりすてる。きる。〔杜甫、一百五日夜對㆑月詩〕斫㆓却月中桂㆒、清光應㆓更多㆒。

【斫鱠】4 シャククワイ なます。又、なますをつくる。〔酉陽雜俎、物革〕進士段碩、常識㆓南孝廉者㆒、善斫㆑鱠、云云、操㆑刀響捷、若㆑合㆓節奏㆒。〔梅堯臣、戲酬㆓高員外鯽魚㆒詩〕冷氣射㆑屋汗收㆑額、便教㆔斫鱠傾㆓大白㆒。〔蘇軾、題跋〕徐彥和送㆓此本㆒來云、是王右軍斫鱠圖。〔西湖志餘〕張俊封㆓清河郡王㆒、高宗幸㆓其第㆒、供㆓進御筵㆒、有㆓御寶畫十軸・杜庭睦明皇斫鱠圖㆒。

【斫擊】5 シャクゲキ きりうつ。〔史記、孟嘗君傳〕俱者下、斫擊殺㆓數百人㆒、遂滅㆓一縣㆒以去。

【斫莝】6 シャクザ きりわらをきる。〔漢書、尹翁歸傳〕使㆑斫㆑莝、責以㆓員程㆒。

【斫殺】7 シャクサツ きり殺す。〔吳志、朱桓傳〕知㆓左右所㆑爲、因斫㆓殺之㆒。

【斫斬】8 シャクザン きる。〔枚乘、七發〕於㆑是背㆑秋涉㆑冬、使㆓琴摯斫斬以爲㆑琴。

【斫傷】9 シャクシャウ きづつける。〔漢書、原涉傳〕奴乘㆓涉氣㆒、與㆑屠爭言、斫㆓傷屠者㆒亡。

【斫樹】10 シャクジュ 樹を切る。〔史記、孫子傳〕孫子度㆓其行㆒、暮當㆑至㆓馬陵㆒、馬陵道狹、旁多㆓阻隘㆒、可㆑伏㆑兵、乃斫㆓大樹㆒、白而書㆑之曰、龐涓死㆓于此樹之下㆒。〔晉書、范喬傳〕初喬邑人、臘夕盜斫㆓其樹㆒。〔韓愈、病中贈㆓張十八㆒詩〕廻㆑軍與角逐、斫㆑樹收㆓窮龐㆒。

【斫樹摧花】11 シャクジュサイクワ 阮宣の妻武氏は性甚だ嫉妬深く、宣が桃花の美盛を歎稱するのを怒つて樹を切り花を摧いた故事。妻の嫉妬の甚だしい喩。〔潛確類書〕武陽女嫁㆓阮宣㆒、性絕妒忌、家有㆓桃樹一株㆒、花葉灼燿、宣歎㆓美之㆒、卽便大怒、令㆔奴取㆑刀斫㆑樹、摧㆓折其花㆒。

【斫胥】12 シャクショ 複姓。〔廣韻〕斫、漢複姓有㆓斫胥氏㆒、何氏姓苑云、今平陽人。

【斫水】13 シャクスイ 刀で水をきる。不能な事の喩。〔韋應物、難言詩〕持㆑索捕㆑風幾時得、將㆑刀斫㆑水幾時斷。

【斫刺】14 シャクセキ きりころす。斫斬。〔後漢書、臧洪傳〕何罪復見㆓斫刺㆒。〔晉書、楊駿傳〕大呼曰、斫斫刺刺、旬日託㆑疾詐死。

【斫賊】15 シャクゾク 賊をきりころす。〔賴山陽、蒙古來〕直前斫㆑賊不㆑許㆑顧。

【斫撻】16 シャクタツ きることとうつこと。〔列子、黃帝〕入㆑火不㆑熱、斫撻無㆓傷痛㆒。

【斫斷】17 シャクダン たちきる。截斷。切斷。〔西京雜記、五〕在㆑船者斫㆓斷其纜㆒、船復漂蕩。

【斫地】18 シャクチ 地をうつ。〔杜甫、短歌行贈㆓王郎司直㆒〕王郎酒酣、拔㆑劍斫㆑地歌㆓莫哀㆒。〔戴叔倫、女耕田行〕無㆑人無㆑牛不㆑及㆑犁、持㆑刀斫㆑地翻作㆑泥。

【斫破】19 シャクハ きりやぶる。〔漢書、張延壽傳〕縛㆓束長吏子弟㆒、斫㆓破器物㆒。

【斫父】20 シャクフ 蟷蜋の異名。〔爾雅、釋蟲、莫貈蟷蜋、蛑、釋文〕蟷蜋、說文曰、名斫父。

【斫木】21 シャクボク きつた木。〔史記、孫子傳〕龐涓果夜至㆓斫木下㆒、見㆓白書㆒。

【斫手】22 シャクシュ 拳法の手法の一つ。兩手の指をのばし、掌をひらき伸ばして、左手は後に、右手は下に向かってうつ方法。

【斫桂刀】23 シャクケイタウ 桂をきる刀。〔吳萊、泊㆓道隆觀㆒詩〕將㆑施㆓攻城火㆒、尚見㆓斫桂刀㆒。

【⿰戸斤】13549 ショ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰戸斤、音所。

六畫

【⿰各斤】13550 ㈠ラク 〔集韻〕歷各切 藥 ㈡カク キャク 〔集韻〕各額切 陌

㈠けづる。⿰各刂(2-1959)に同じ。〔集韻〕⿰各刂、剝也、或从㆑斤。㈡とらへる。たたかふ。⿰各戈(5-11583)に同じ。〔集韻〕⿰各戈、捕也、鬭也、或从㆑斤。

【⿰向斤】13551 カウ 義未詳。〔五音篇海〕⿰向斤、音向。

【⿰臣斤】13552 キン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰臣斤、音忻。

【⿰辵斤】13553 キン 近(11-38752)の本字。〔說文長箋〕⿰辵斤、近本字。

【⿰𠂭斤】13553′ セツ 折(5-11890)の本字。〔中華大字典〕折、本作㆑⿰𠂭斤。

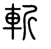
七畫

【⿰良斤】13554 ラ 〔集韻〕朗可切 哿

小篆

❶うつ。たたく。〔說文〕⿰良斤、柯擊也、从㆑斤良聲。❷或は剆(2-1992)・⿰良刃(2-2263)に作る。〔集韻〕⿰良斤、或作㆓剆・⿰良刃㆒。

【斬】13555 ㈠サン セン 〔集韻〕阻減切 豏 ㄓㄢˇ chan³ ㈡サン セン 〔集韻〕莊陷切 陷 慣ザン


小篆

㈠❶刑罰の名。うちくび。こしきり。古の車裂に法つた極刑。〔說

文〕斬、截也、从㆓車斤㆒、斬、法㆓車裂㆒也。〔釋名、釋喪制〕斫㆑頭曰㆑斬、斬㆑要曰㆓要斬㆒、斬、暫也、暫加㆑兵即斷也。〔正字通〕斬、斷㆑首也。〔周禮、秋官、掌戮〕斬㆓殺賊諜㆒。〔注〕斬以㆓斧鉞㆒、若㆓今之要斬㆒也。❷きる。㋑きりころす。〔史記、司馬穰苴傳〕對曰、當㆑斬。㋺かる。きりはなす。〔廣雅、釋詁二〕斬、裁也。〔禮、曲禮下〕爲㆓宮室㆒、不㆑斬㆓於丘木㆒。❸ころす。〔爾雅、釋詁〕斬、殺也。❹さく。〔廣雅、釋詁二〕斬、裂也。❺うつ。〔國語、齊語〕斬㆓孤竹㆒。〔注〕斬、伐也。❻たつ。たえる。つきる。〔廣雅、釋詁一〕斬、斷也。〔正字通〕斬、盡也。〔詩、小雅、節南山〕國既卒斬。〔傳〕斬、斷。〔集傳〕斬、絕。〔孟子、離婁下〕君子之澤、五世而斬。❼甚だ。斬新(28)を見よ。❽喪服の一つ。裳をたちはなして、ふちぬひせぬもの。〔釋名、釋喪制〕三年之縗曰㆑斬、不㆑緝㆓其末㆒、直翦斬而已。〔儀禮、喪服傳〕斬者何、不㆑緝也。〔左氏、襄、十七〕晏嬰麤縗斬。〔注〕斬、不㆑緝㆑之也。〔太平御覽、禮儀部、衰冠〕禮記外傳曰、斬衰者、以㆓六寸之布、廣四寸㆒爲㆑衰、帖㆓于心前㆒、剪而不㆑緝也。㈡かる。〔集韻〕斬、芟也。

解字 會意。車と斤(をの・まさかり)との合字。本義は首をきる、腰をきる刑。引伸して絕つ意。後人は、古の車裂の極刑に法つて、をの・まさかりを用ひたから車と斤とを合せた。〔說文、斬、段注〕蓋古用㆓車裂㆒、後人乃法㆓車裂之意㆒、而用㆓鈇鉞㆒、故字亦从㆓車斤㆒者、鈇鉞之類也。

【斬焉】1 ザンエン 哀痛のさま。〔左氏、昭、十〕孤新斬焉在㆓衰絰之中㆒。〔會箋〕斬、謂㆓哀痛之深如㆓斬截㆒也。

【斬刈】2 ザンガイ ❶草や木をきり除く。かり去る。芟除。〔論衡、量知〕山野草茂、鉤鎌斬刈、乃成㆓道路㆒也。❷きりころす。〔孔子家語、六本〕斬㆓刈黎民㆒、如㆓草芥㆒焉。〔金史、移剌成傳〕成整㆑兵奮擊、斬刈甚衆。❸きりつくす。とりのぞく。〔左氏、昭、二十〕斬㆓刈民力㆒。〔林注〕盡用㆓民力㆒、如㆑刈㆓草菅㆒。〔晏子、重而異者〕斬㆓刈民力㆒。〔易林、坤之第二、蠱〕斬㆓刈宗社㆒、失㆓其邦域㆒。

【斬艾】3 ザンガイ ❶草木をかりきる。〔墨子、備穴〕斬㆓艾與㆑柴長尺。❷きりころす。きりつくす。斬刈。〔左氏、哀、二〕范氏中行氏、反㆓易天明㆒、斬㆓艾百姓㆒。〔史記、天官書〕爲㆓斬艾事㆒。〔說苑、善說〕亦不㆔斬㆓艾其民㆒。

【斬絞】4 ザンカウ 斬罪と絞罪。〔大學衍義補、愼㆓刑憲㆒、制㆓刑獄之具㆒〕自㆓隋唐㆒以來、除㆓去前代慘刻之刑㆒、死罪惟有㆓斬絞二者㆒。

【斬蛟】5 ザンカウ 蛟を斬る。〔水經、河水注〕昔澹臺子羽、齎㆓千金之璧㆒渡㆑河、陽侯波起、兩蛟夾㆑舟、子羽曰、吾可㆓以㆑義求㆒、不㆑可㆓以㆑威劫㆒、操㆑劍斬㆑蛟、蛟死波休、乃投㆓璧于河㆒、示㆑無㆓吝意㆒。

【斬奸】6 ザンカン 惡人をきる。奸惡をきり殺す。斬姦。

『斬奸狀』7 ザンカンジヤウ 惡人を殺すに至つた趣意を認めたかきつけ。斬姦狀。

【斬姦】8 ザンカン 惡人をきる。斬奸に同じ。

『斬姦狀』9 ザンカンジヤウ 惡人をころすにいたつた趣意を認めたかきつけ。斬奸狀。

【斬級】10 ザンキフ くびをきり取る。しるしをあげる。級は首級。〔宋史、徽宗紀二〕西邊用㆑兵、能招㆓納羌人㆒者、與㆓斬級㆒同㆑賞。

【斬袪】11 ザンキヨ 袖をきる。〔左氏、僖、五〕晉獻公使㆓寺人披伐㆑蒲、重耳云云、踰㆑垣而走、披斬㆓其袪㆒。

【斬獲】12 ザンクワク 斬首といけどり。〔左氏、襄、十三〕用㆓大師㆒焉曰㆑滅、注〕斬獲俘馘、用㆑力難重。〔魏志、曹仁傳〕斬獲頗多。〔後漢書、吳漢傳〕轉㆓戰千里㆒、所在斬獲。

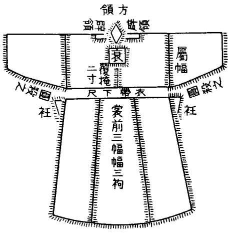
【斬馘】13 ザンクワク 敵人の首をきる。くびを取る。〔陸游、南唐書〕被㆑堅執㆑銳、提㆑戈斬馘。

【斬關】14 ザンクワン 關門を斬り拔ける。春秋、魯の臧紇が鹿門の關を斬つて脫け出た故事。〔左氏、襄、二十三〕臧紇斬㆓鹿門之關㆒、以出㆓奔邾㆒。

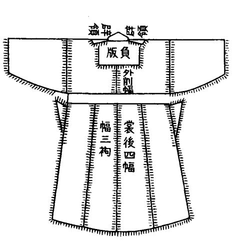
【斬脛】15 ザンケイ はぎをきる。〔韓非子、難、一〕崇侯惡來又曰、斬㆓涉者之脛㆒也。

【斬決】16 ザンケツ ❶きりやぶる。たちきる。〔揚雄、博士箴〕秦作㆓無道㆒、斬㆓決天紀㆒。❷chan^3 chüeh^2 斬首する。

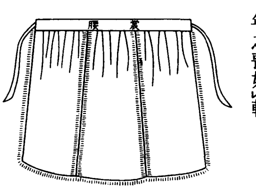
【斬衰】17 ザンサイ 喪服の名。五服の中で最も重いもの。粗痲布を以て製し、下邊を裁つたままでふち縫ひしない喪服。衰は裳に對して上衣をいひ、斬はたちはなしたままでふちぬひせぬから名づけ、又、哀痛の甚だしいこと斬罪に遇ふが如くであるに取つて名づけるといふ。子が父のために、臣が君のために、諸侯が天子のために、妻が夫のために、妾が君のために三年の喪に服するに用ひる。〔周禮、春官、司服〕凡喪爲㆓天王㆒斬衰、爲㆓王后㆒齊衰。〔儀禮、喪服〕喪服斬衰裳。〔胡培翬正義〕斬衰裳、先言㆑斬者、李氏云、斬㆑之而後成㆓衰裳㆒也、不㆑言㆓裁割㆒而言㆑斬者、取㆓痛甚之意㆒、雜記曰、三年之喪如㆑斬、春秋傳曰、孤斬焉在㆓衰絰之中㆒、今案、斬與㆑齊對、斬是斬㆓截布㆒斷㆑之、斷㆑之而不㆑緝爲㆑斬、緝㆑之則爲㆑齊也。〔禮、喪服小記〕斬衰括㆑髮以㆑麻。〔孔子家語、五儀解〕斬衰菅菲杖而歠粥者。



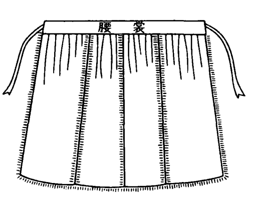
斬衰前（禮器圖）



斬衰後（禮器圖）

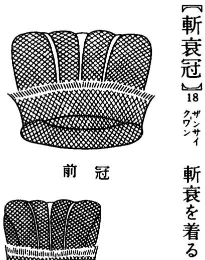


斬衰裳後（禮器圖）



斬衰裳前（禮器圖）

【斬衰冠】18 ザンサイクワン 斬衰を着るときの冠。〔禮器圖、斬衰冠〕喪服記、斬衰、冠六升、受冠七升、則視㆓衰之數㆒爲㆑倍㆑之、蓋用㆑布二尺二寸、布以爲㆑冒、其布太廣、故作㆓三辟㆒、積以攝㆑之。



斬衰冠(禮器圖)

『斬衰齊衰』19 ザンサイシサイ 喪服で下邊を裁つたままでふちぬひせぬものを斬衰、ふちぬひしたものを齊衰といふ。齊衰(**12**-**48560**‥**90**)を見よ。〔儀禮、喪服〕喪服斬衰裳、傳曰、斬者何、不㆑緝也。〔儀禮、喪服〕疏衰裳齊、傳曰、齊者何、緝也。〔故事成語考、疾病死喪〕不㆑緝曰㆓斬衰㆒、緝㆑之曰㆓齊衰㆒、論㆔喪之有㆓輕重㆒。

【斬縗】20 ザンサイ 喪服の名。斬衰に同じ。〔唐律、職制、釋文〕斬縗、父服也、齊縗、上音咨、母服也、縗音猗、哭聲兩曲也。

【斬罪】21 ザンザイ 首をはねる刑。うちくび。〔六部成語、刑部、斬罪、注解〕斬首之刑也。〔御成敗式目追加〕可㆑被㆑行㆓斬罪㆒也。

【斬殺】22 ザンサツ 刑罰の名。斬は鈇鉞を以て斬るもの、要斬の類。殺は刀刃を以て殺すもの、棄市の類。〔周禮、秋官、掌戮〕斬㆓殺賊諜㆒。〔注〕斬以㆓鈇鉞㆒、若㆓今要斬㆒也、殺以㆓刀刃㆒、若㆓今棄市㆒也。〔禮、月令〕申㆓嚴百刑㆒、斬殺必當。

【斬斬】23 ザンザン ❶嚴格なさま。整肅のさま。〔韓愈、曹成王碑〕持㆑官持㆑身、內外斬斬。❷ほさきの露はれるさま。〔劉炎、邇言〕願預㆓黨人㆒斬斬出㆓鋒稜㆒。

【斬死】24 ザンシ きりころす。〔史記、秦始皇紀〕軍吏「皆斬死。」

【斬將】25 ザンシヤウ 敵將を斬る。〔史記、項羽紀〕爲㆓諸君㆒潰㆑圍、斬㆑將刈㆑旗。

【斬斫】26 ザンシャク　きる。殺戮する。斫斬。〔晉書、衞瓘傳〕一時之閒、便皆斬斫。

【斬首】27 ザンシュ　くびをきりおとす。うちくび。斷首。馘首。又、きつた首。くび。〔戰國、秦策〕韓魏相率、興兵甚衆、君所將之卒、不能半之、而與之戰伊闕、大破二國之軍、流血漂鹵、斬首二十四萬。〔史記、秦紀〕斬首四萬。〔史記、樊噲傳〕攻城先登、斬首二十三級。

【斬新】28 ザンシン　はなはだあたらしい。唐代の方言。斬はきはだつて甚だしい意。俗に嶄新に作るは誤用。極新。〔杜甫、三絶句〕斬新花蘂未應飛。〔注〕禪家有斬新日月之語。〔盧儲、官舍迎內子有庭花開詩〕芍藥斬新栽、當庭數朶開。〔通俗編、狀貌、斬新〕唐音癸籤、非斬字、不能形容其新、然在可解不可解之閒。

【斬截】29 ザンセツ　きりたつ。首を斬り手足をたちきる。〔淨住子、滌除三業門〕傷毀斬截、殘害剝裂。

【斬絶】30 ザンゼツ　きり絶つ。崖の嶮しいさま。〔蘇洵、上歐陽內翰書〕孟子之文、語約而意盡、不爲巉刻斬絶之言、而其鋒不可犯。

【斬送】31 ザンソウ　きりころして身がらをおくる。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕宗繁欲斬送萬壽。

【斬蛇】32 ザンダ　蛇をきる。漢の高祖が白蛇を斬つた故事。〔史記、高祖紀〕高祖被酒、夜徑澤中、令一人行前、行前者還報曰、前有大蛇當徑、願還、高祖醉曰、壯士行、何畏、乃前拔劒斬蛇、云云、有一老嫗夜哭、人問何哭、嫗曰、人殺吾子、云云、嫗曰、吾子白帝子也、化爲蛇當道、今爲赤帝子斬之、故哭。

【斬蛇劍】33 ザンダケン　漢の高祖が白蛇を斬つた名劍。〔西京雜記、一〕漢帝相傳、以秦王子嬰所奉白玉璽、高祖斬白蛇劍、云云、十二年一加磨瑩、刃上常若霜雪。

【斬蛇寶劒】34 ザンダハウケン　斬蛇劍に同じ。〔後漢書、禮儀志下〕斬蛇寶劒授太尉。

【斬憻】35 ザンダ　きりやぶる。〔漢書、五行志中之下〕爲越人所斬憻。

【斬撻】36 ザンタツ　きることとうつこと。〔蘇洵、審勢〕斬撻平民。

【斬斷】37 ザンダン　たちきる。きる。きりころす。〔詩、魯頌、閟宮、是斷是度、疏〕於是斬斷之、於是量度之。〔荀子、正論〕斬斷枯磔。〔杜甫、後苦寒行〕天兵斬斷青海戎、殺氣南行動坤軸。

【斬致】38 ザンチ　首を切つて持つて來る。〔日本外史、新田氏正記、新田氏〕敵中必有斬致義貞者。

【斬除】39 ザンヂョ　きりのぞく。〔六韜、豹韜、林戰〕斬除草木。〔岳飛、題青泥市寺壁詩〕斬除頑惡還車駕、不問登壇萬戶侯。

【斬馬】41 ザンバ　名劍の名。斬馬劍を見よ。〔庾信、自古聖帝名賢畫讚、朱雲折檻贊〕先求斬馬、遂請魚文。

【斬馬劍】42 ザンバケン　漢の名劍の名。馬を斬るほどのするどい劍の義。轉じて、佞臣を斬る劍にいふ。〔漢書、朱雲傳〕願賜尙方斬馬劍、斷佞臣一人。〔注〕師古曰、尙方、少府之屬官也、作供御器物、故有斬馬劍、劍利可以斬馬也。〔漢書、王莽傳下〕使虎賁以斬馬劍挫忠。〔事物紀原、戎容兵械部、斬馬刀〕漢成帝時、朱雲請上方斬馬劍、斷張禹頭、以厲其餘、則斬馬刀之名、已見於漢代矣、宋朝神宗熙寧中、又製斬馬刀、其犀利則莫比、蓋亦取漢氏舊名爲稱也。

【斬伐】43 ザンバツ　❶伐ち滅ぼす。征伐する。〔詩、小雅、雨無正〕降喪饑饉、斬伐四國。❷罪あるものをきりころす。誅戮する。〔史記、尹齊傳〕所斬伐不避貴戚。〔漢書、尹齊傳〕斬伐不避貴勢。❸樹をきる。〔禮、月令〕入山行木、毋有斬伐。〔荀子、王制〕斬伐養長、不失其時。〔呂覽、季夏〕命虞人、入山行木、無或斬伐。〔晏子、問、上〕不敢大斬伐。〔説苑、辨物〕斬伐田獵。

【斬板】44 ザンバン　土を積むに用ひる板。〔晏子、諫、下〕于是令勿委壞餘財、勿收斬板、而去之。

【斬冰】45 ザンピョウ　氷をきる。〔周禮、天官、淩人〕正歲十有二月、令斬冰。

【斬捕】46 ザンポ　きりとらへる。〔史記、吳王濞傳〕能斬捕大將者、賜金五千斤、封萬戶。

【斬木】47 ザンボク　木をきる。〔周禮、地官、山虞〕春秋之斬木不入禁。

【斬戮】48 ザンリク　きりころす。〔魏志、董昭傳〕曹偉則斬戮。

【斬剡哀】49 ザンエンノカナシミ　身をきられるやうなせつないかなしみ。喪中の悲哀。斬は三年の喪にいひ、要斬の義。剡は期年の喪にいひ、身をけづられる義。〔禮、雜記下〕三年之喪如斬、期之喪如剡。〔注〕言其痛之惻怛有淺深也。

【斬黃袍】50 ザンクワウハウ　二簧劇の一つ。又、斬鄭恩といふ。宋の趙匡胤が河北の人韓龍の妹素梅を寵して國を紊した事を脚色したもの。

【斬泰洪】51 ザンタイコウ　二簧西皮劇の一つ。忠孝全の別名。

【斬鄭文】52 ザンテイブン　西皮劇の一つ。又、戰北原といふ。蜀の諸葛孔明の故事を脚色したもの。

【斬釘截鐵】53 ザンテイセツテツ　毅然たる態度をいふ。決斷ある喩。〔朱子全書、孟子、梁惠王上〕孟子大綱、都剖析得分明、如說義利等處、如答宋牼處、見得事只有箇是非、不通去說利害、看來、惟是孟子說得斬釘截鐵。

【斬鐵截釘】54 ザンテツセツテイ　毅然たる態度をいふ。斬釘截鐵に同じ。

八畫

【斱】13556　セツ　折(5－11890)に同じ。〔廣韻〕折、又作斱。

【断】13557　ダン　斷(5－13611)の俗字。〔玉篇〕断、同斷、俗字。

【𣂪】13558　タク　斲(5－13585)に同じ。〔集韻〕斲、或作𣂪。

【㫁】13559　ダン　斷(5－13611)の古字。〔玉篇〕㫁、古文斷。

【𣃂】13560　ダン　斷(5－13611)の譌字。〔正字通〕𣃂、古文斷之譌。

【𣃁】13561　ホウ　〔集韻〕悲朋切　蒸

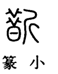
くは。〔玉篇〕𣃁、劚也。〔集韻〕𣃁、劚也。

【斮】13562

一 サク　〔集韻〕側角切　覺　ㄓㄨㄛˋ chuo4

二 シャク サク　〔集韻〕側略切　藥

三 チャク ヂャク　〔集韻〕士略切　藥



小篆

一二三❶きる。もと斵(5－13594)に作る。〔篇海〕斵、斮本字。〔説文〕斵、斬也、从斤昝聲。〔段注〕斬者截也、截者斷也、斫用衺、斮截用正。〔公羊、成二〕曰法斮。〔注〕斮、斬也。〔史記、魯仲連傳〕因齊後至則斮。❷たつ。たちきる。〔書、泰誓下〕斮朝涉之脛。〔傳〕斬而視之。〔疏〕斮、斫也。〔楚辭、東方朔、七諫〕羌兩足以畢斮。〔注〕斮、斷也。❸うつ。〔張衡、東京賦〕斮猾狂。〔注〕薛曰、斮、擊也。❹けづる。そぐ。〔爾雅、釋器〕魚曰斮之。〔注〕謂削鱗也。〔郝懿行義疏〕按、斮訓擊、蓋謂敲擊其鱗甲、與內則作之、皇侃以爲搖動之義近。

【斮脛】1 サクケイ　はぎをきる。殷の紂王が冬水を涉る者を見て、其のはぎを切つて視た故事。〔書、泰誓下〕斮朝涉之脛。〔傳〕冬月見朝涉水者、謂其脛耐寒、斬而視之。〔蔡傳〕斮、斫也。〔水經、淇水注〕老人晨將渡水、而沈吟難濟、紂問其故、左右曰、老者髓不實、故畏寒也、紂乃于此斮脛而視髓也。

【斮趾】2 サクシ　足をきる。〔後漢書、董卓傳論〕夫

以二剗レ肝斮レ趾之性一、則羣生不レ足三以厭二其快一。

【斮足】3 サクソク 足をきる。斮脛に同じ。〔春秋繁露、王道〕斮二朝涉之足一、察二其拇一。

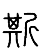
【斮陳】4 サクチン きり施く。〔史記、張釋之傳〕用二紵絮一斮陳、蕠二漆其閒一。

【斯】13563

㊀シ 〔集韻〕相支切 支 sǔ ム-

㊁シ 〔集韻〕斯義切 寘

㊂ソ 〔集韻〕山於切 魚



小篆

㊀**❶事物をさし示す代名詞。**柴(6－14858)に通ず。〔說文通訓定聲〕斯、叚借爲レ柴。㋑この。これ。〔詩、大雅、抑〕斯言之玷。〔箋〕斯、此也。〔論語、雍也〕何莫レ由二斯道一也。〔皇疏〕斯、此也。〔禰衡、鸚鵡賦〕故每言而稱レ斯。〔注〕善曰、斯、此也。㋺ここ。〔禮、檀弓下〕歌二於斯一、哭二於斯一。〔論語、述而〕不レ圖爲レ樂之至二於斯一也。〔疏〕斯、此也。㋩かく。〔論語、子罕〕逝者如レ斯夫、不レ舍二晝夜一。〔疏〕斯、此也。**❷これ。ここに。**㋑則ちの意を表はす助辭。〔經傳釋詞、八〕斯、猶レ則也。〔論語、公冶長〕再斯可矣。〔荀子、哀公〕敢問、何如斯可レ謂二庸人一矣。〔大戴禮、哀公問五義〕何如則可レ謂二庸人一矣。㋺乃ちの意を表はす助詞。〔經傳釋詞、八〕斯、猶レ乃也。〔詩、小雅、賓之初筵〕大侯既抗、弓矢斯張。**❸これ。其れ。**強意の助辭。〔經傳釋詞、八〕斯、猶レ其也。〔詩、小雅、斯干〕如レ矢斯棘、如レ鳥斯革。**❹語調をととのへる助辭。**句中、又は句末に用ひる。〔詩、周南、螽斯〕螽斯羽、詵詵兮。〔詩、小雅、湛露〕湛湛露斯。**❺語の終にそへる助辭。**然に同じ。〔經傳釋詞、八〕斯、猶レ然也。〔詩、大雅、皇矣〕王赫斯怒。〔禮、玉藻〕二爵而言言斯。〔孫希旦集解〕言言與二誾誾一同、和敬貌、斯、語助詞。**❻さく。**〔說文〕斯、析也、从レ斤其聲。〔詩、陳風、墓門〕墓門有レ棘、斧以斯レ之。〔傳〕斯、析也。〔書、酒誥〕有二斯明一享。〔鄭注〕斯、析也。〔通俗編、雜字、斯〕按、今皆以レ手析レ物曰レ斯、集韻、或从レ手作レ撕。**❼わる。**わける。〔廣雅、釋詁一〕斯、分也。**❽はなす。**はなれる。〔爾雅、釋言〕斯、離也。〔列子、黃帝〕不レ知下斯二齊國一幾千萬里上。〔注〕斯、離也。**❾つきる。**澌(7－18328)に通ず。〔說文通訓定聲〕斯、叚借爲レ澌。**❿ことごとく。**〔禮、檀弓下〕我喪也斯沾。〔注〕斯、盡也。〔呂覽、報更〕斯食レ之。〔注〕斯、猶レ盡也。**⓫やぶれる。**廝(7－22503)に通ず。〔說文通訓定聲〕斯、叚借爲レ廝。〔廣雅、釋詁三〕斯、敗也。**⓬はたをり。**蟲の名。蜤(10－33156)に通ず。〔說文通訓定聲〕斯、叚借爲レ蜤、詩七月、斯螽動レ股、卽爾雅之蜤螽。**⓭しろい。**あざやか。鱻(12－46632)に通ず。〔說文通訓定聲〕斯、叚借爲レ鱻、〔詩、小雅、瓠葉〕有二兔斯首一。〔箋〕斯、白也、今俗諸斯白之字作レ鮮、齊魯之間、聲近レ斯。〔陳奐傳疏〕有二兔斯首一、與下有二鷺其羽一、有二捄其角一句上同、斯、猶レ其也、古斯・其同聲。**⓮かみつつみ。**纚(8－28092)に通ず。〔說文通訓定聲〕斯、叚借爲レ纚。〔禮、問喪〕雞斯徒跣。〔注〕雞斯、當レ爲二笄纚一、聲之誤也。**⓯いやしいもの。**厮(2－3026)・廝(4－9487)に通ず。〔說文通訓定聲〕斯、漢書嚴助傳、廝輿之卒、注、析レ薪者也、葢以レ廝爲レ之、字又誤作レ廝。**⓰いやしい。**〔後漢書、左雄傳〕郎官部吏、職斯祿薄。〔注〕斯、賤也。〔王先謙集解〕惠棟曰、斯、謂二廝賤一也。**⓱しばらく。**斯須(19)を見よ。**⓲姓。**〔通志、氏族略〕斯氏、姓苑云、吳志、剡縣吏斯從、望出三東陽與二敎海一、南齊書、東陽郡有二斯氏一。㊁**ことごとく。**〔集韻〕斯、盡也、詩、王赫斯怒、鄭康成說。㊂㊀の❼に同じ。

名乘 ツナ。ノリ。コレ。

【斯菴】1 シアン 字號。❶宋、任希夷(1－416‥205)の號。❷清、沈光文(6－17189‥480)の字。

【斯引】2 シイン 複姓。〔通志、氏族略〕斯引氏、西秦錄、乞伏氏與二斯引氏一、自二漢北一出二陰山一。

【斯遠】3 シエン 宋、徐文卿(4－10110‥619)の字。

【斯界】4 シカイ 其の道の社會。この道の範圍。

【斯洨】5 シカウ 河の名。源は河北省獲鹿縣の西南の井陘山。今湮滅す。又、洨河・童水・鹿泉水・井陘水といふ。〔漢書、地理志下、緜蔓縣〕斯洨水、首受二大白渠一、東至レ鄡入レ河。

【斯學】6 シガク ❶この學。特に儒學をいふ。〔言志後錄〕如二斯學一、卽當下事、卽急務實用事。❷佛明の僧。字は悅支(悅之)。號は痩山。海鹽の慈會寺に居る。詩を能くす。著に幻華集がある。〔明人小傳、五〕・〔明詩綜、九十二〕。

【斯干】7 シカン ❶澗水をいふ。〔詩、小雅、斯干〕秩秩斯干。〔傳〕干、澗也。〔箋〕宣王之德、如二澗水之源一。〔王融、三月三日曲水詩序〕幽幽叢薄、秩秩斯干。〔注〕良曰、秩秩、水流貌、斯干、澗水也。❷この水涯。〔詩、小雅、斯干、集傳〕斯、此也、干、水涯也。❸詩經、小雅鴻鴈之什の篇名。宣王が室を築いて其の落成を詠じたもの。〔詩、小雅、斯干序〕斯干、宣王考レ室也。

【斯咸】8 シカン 清、衞周允(10－34074‥142)の字。

【斯翬】10 シギ 雉をいふ。翬は雉の一種。斯は助辭。〔南史、褚炫傳〕從二宋明帝一射レ雉、帝至二日中一無レ所レ得、甚猜羞、召二問侍臣一曰、吾旦來如レ皐、遂空行可レ笑、坐者莫レ答、炫獨曰、今節候雖レ適、而雲霧尙凝、故斯翬之禽、驕心未レ警、但得二神駕游豫一、羣情便可二載驩一、帝意解。

【斯儀】11 シギ 清、梁上國(6－14825‥270)の字。

【斯擧】12 シキョ 宋、何頡之(1－511‥236)の字。

【斯勤】13 シキン 唐、姚勖(3－6202‥35)の字。

【斯禁】14 シキン 尊を承ける器で足のないもの。〔儀禮、鄕飲酒禮〕尊二兩壺于房戶閒一、斯禁有二玄酒一在レ西。〔注〕斯禁、禁切レ地無レ足者。〔疏〕斯、澌也、澌、盡之名、故知二切レ地無一レ足。〔胡培翬正義〕吳氏澄云、斯禁、一名棜、長四尺、廣四尺二寸、深五寸、無レ足。

【斯觀】15 シクヮン 桀の佞臣の名。一に斯は斟の誤といふ。斟觀(5－13517‥2)を見よ。〔荀子、解蔽〕桀蔽二於末喜斯觀一。〔注〕韓侍郎云、斯、或當レ爲レ斟、斟觀、夏同姓國、蓋其君當時爲二桀佞臣一也。

【斯頃】16 シバラク 暫く。〔類聚名義抄〕。

【斯士】17 シシ 宋、陳鏞(11－41698‥553)の字。

【斯時】18 シジ この時。〔孟子、萬章上〕於二斯時一也、天下殆哉、岌岌乎。

【斯須】19 シシュ しばらく。須臾。暫時。〔禮、祭義〕禮樂不レ可二斯須去一レ身。〔注〕斯須、猶二須臾一也。〔孟子、告子上〕斯須之敬在二鄕人一。〔莊子、田子方〕彼直以循二斯須一也。〔荀子、非相〕斯須之言而足レ聽。

【斯螽】20 シシュウ 蟲の名。はたをり。蚣蝑。〔詩、豳風、七月〕五月斯螽動レ股。〔傳〕斯螽、蚣蝑也。

【斯食】21 シショク ことごとく食ふ。〔呂覽、報更〕宣孟曰、斯食レ之、吾更與レ女。〔注〕斯、猶レ盡也。

【斯人】22 シジン この人。親しみの意を持つ。〔論語、微子〕吾非二斯人之徒與一、而誰與。〔魏志、王烈傳〕斯人之徒。〔稱謂錄、泛稱、斯人〕晉書、稱二謝安一云、斯人不レ出、如二蒼生一何、稱二殷浩一亦然。

【斯人而有二斯疾一】23 コノヒトニシテコノヤマヒアリ このやうな立派な心掛の人でどうしてこのやうな惡質の病になつたのであらうか。孔子が伯牛の病にかかつたのを深くいたんだ言葉。〔論語、雍也〕伯牛有レ疾、子問レ之、自レ牖執二其手一曰、亡レ之、命矣夫、斯人也而有二斯疾一也、斯人也而有二斯疾一也。

【斯世】24 シセイ 此の世。現世。〔蜀志、郤正傳〕欣二環堵一以恬娛、免二咎悔于斯世一。

【斯道】25 シダウ このみち。❶仁義の道。儒道。孔孟の敎。〔禮、檀弓下〕斯道也、將レ亡矣。〔論語、雍

也〕子曰、誰能出不レ由レ戸、何莫レ由二斯道一也。〔孟子、萬章上〕予將下以二斯道一覺中斯民上也。〔孔叢子、巡狩〕非レ不レ悅二斯道一。〔後漢書、方術傳序〕斯道隱遠。❷我が國、太古以來自ら行はれた人倫の大道。皇道をいふ。〔德川齊昭、弘道館記〕弘道者何、人能弘レ道也、道者何、天地之大經、而生民不レ可二須臾離一者也、弘道之館、何爲而設也、恭惟、上古神聖、立レ極垂レ統、天地位焉、萬物育焉、其所下以照二臨六合一、統中御宇內上者、未三嘗不レ由二斯道一也。❸明、姚廣孝(3-6202··152)の字。

【斯調】26 シテウ 南海の國の名。〔太平御覽、四夷部、南蠻、斯調國〕康泰、扶南土俗曰、斯調洲、灣中有二自然監一、累如二細石子一、國人取レ之、一車輸レ王、餘自入。

【斯寧】27 シネイ 遼、耶律斡臘(9-29008··70)の字。

【斯年】28 シネン 清、李繩遠(6-14459··1507)の字。

【斯薄】29 シハク 賤しくうすい。〔後漢書、左雄傳〕鄉官部吏、職斯祿薄。〔注〕斯、賤也。

【斯彌】30 シビ 蟲の名。〔莊子、至樂〕蝴蝶、胥也、化而爲レ蟲、生二於竈下一、其狀若レ脫、其名爲二鴝掇一、鴝掇千日爲レ鳥、其名爲二乾餘骨一、乾餘骨之沫爲二斯彌一、斯彌爲二食醯一。〔釋文〕斯彌、李云、蟲也。〔列子、天瑞〕乾餘骨之沫爲二斯彌一。

【斯文】31 シブン ❶この文。この學。この道。儒道の學問道義をいふ。〔論語、子罕〕子畏二於匡一、曰、文王既沒、文不レ在レ茲乎、天之將レ喪二斯文一也、後死者不レ得レ與二於斯文一也、天之未レ喪二斯文一也、匡人其如レ予何。〔孔子家語、觀周〕孔子既讀二斯文一也。〔班固、答賓戲〕密爾自娛二於斯文一。〔後漢書、儒林傳贊〕斯文未レ陵。❷儒者。學者。〔福惠全書、涖任部、謁廟行香〕侮二辱斯文一。〔福惠全書、錢穀部、催徵、別二儒宦一〕若二夫執レ法賢侯一、毀二破斯文情面一、輒騰二衆謗一。❸ssŭ^1 wen^2 優雅な。文雅な。

【斯文會】32 シブンクワイ 學會の名。はじめは斯文學會といふ。明治十三年六月の創立。風教を振肅し、學術を興隆するを目的とする。大正七年九月、一時解散し、更に研學會・東亞學術研究會・漢文學會等を併合して財團法人とし、以て今日に至る。

【斯文源流】33 シブンゲンリウ 書名。一卷。河口子深撰。江戶時代に於ける儒家の道統及び諸學說を略記したもの。〔溫知叢書〕・〔輪池叢書〕。

【斯文掃地】35 ssŭ^1 wen^2 sao^3 ti^4 ❶文人・學者の墮落してゐること。❷文章・文學の廢れてゐること。

【斯謀】36 シボウ このはかりごと。〔書、君陳〕斯謀斯猷、惟我后之德。

【斯民】37 シミン ❶この民。親しみの意を含む。〔論語、衞靈公〕子曰、吾之於レ人也、誰毀誰譽、如有二所レ譽者一、其有レ所レ試矣、斯民也、三代之所二以直道而行一也。〔孟子、萬章上〕予將下以二斯道一覺中斯民上也。〔管子、侈靡〕斯民之良也。〔漢書、元帝紀〕豈斯民異哉。〔漢書、景帝紀贊〕孔子稱、斯民三代之所二以直道而行一也。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕濟二斯民一之時也。〔謝靈運、述二祖德一詩〕尊レ主隆二斯民一。❷清、柏古(6-14617··25)の字。

【斯榆】38 シユ 漢代、西夷の名。〔史記、司馬相如傳〕司馬長卿、便略二定西夷一、邛筰・冉駹・斯榆之君、皆請爲二內臣一。

【斯褕】39 シユ 斯榆に同じ。〔王褒、上庸公陸騰勒功碑〕板楯酋豪、斯褕君長。

【斯熊】40 シユウ 清、邵應闓(11-39343··92)の字。

【斯懶】41 シラン 遼、耶律滑哥(9-29008··68)の字。

【斯立】42 シリフ 字號。❶唐、崔立之(4-8178··330)の字。❷宋、劉跂(2-2224··148)の字。❸明、崔植(4-8178··105)の字。

【如レ斯】43 カクノゴトシ この如くである。〔論語、子罕〕子在二川上一、曰、逝者如レ斯夫、不レ舍二晝夜一。

【斯香堂】44 シカウダウ 清、劉暐澤(2-2224··675)の室名。

【斯馨堂】45 シケイダウ 清、劉權之(2-2224··878)の室名。

【斯坦因】46 スタイン 匈牙利人。考古學者。西曆一千九百年、新疆省の第一回學術探險を試み、和闐地方の諸遺跡等を發掘して佛像・壁畫等を得、又、ロプノール湖畔に漢代の植民地の址を發見して漢代の文獻を得、次いで一千九百六―八年第二回の探險を行ひ、タリム盆地、甘肅省燉煌遺物數千點を發見す。一千九百十三―六年、第三回探險を試み、前回探險の地方を再調の上、西はパミール山中の諸遺跡、タリム盆地の南北路から內蒙古の西部に涉り、特に高昌に於ては唐代の墓地を發掘して多くの副葬品等を得た。其の行程は前後二萬五千哩に及び、中亞探險史上第一に位する。其の後一千九百三十年更に第四回探險を試みた。其の蒐集品は大英博物館、竝にデリー其の他の印度博物館に藏せられる。

【斯巴達】47 スパルタ 古代希臘、拉哥尼亞州の首府。

【斯賓國】48 シヒンコク 漢代、西域の國名。〔後漢書、西域傳〕從二阿蠻一西行三千六百里、至二斯賓國一。

【斯樂堂】49 シラクダウ 清、錢侗(11-40563··160)の室名。

【斯翁之後】50 シヲウノノチ この翁の子孫。〔海錄碎事、文學、書札〕李陽冰自言、斯翁之後、直至二小生一、國史補。

【斯未信齋】51 シビシンサイ 清、徐宗幹(4-10110··535)の號。

【斯芬居士】52 スフィンクス Sphinx の音譯。❶ギリシヤ神話中の怪物。上半身は女子、下半身は翼のある獅子の形をし、テーベ市付近の岩に踞して、行人に「朝は四足、晝は二足、夕は三足のものは何か」と謎をかけ、解き得ない者を殺してゐたが、英雄オイディポスに「人間だ」と答へられ、海に投じて死んだといふ。❷上古、エジプトやアッシリヤ等で、王宮・神殿・墳墓などの入口に裝飾として設けた人面獅身の石像。獅身人頭像。

【厮】13564

㊀テウ 〔集韻〕他彫切 蕭

㊁セウ 〔集韻〕千遙切 蕭

㊀㊁すき。⿸厂斛(5-13518)に同じ。〔集韻〕⿸厂斛、田器、或作レ厮。

【⿰奇斤】13565 キ 剞(2-2054)に同じ。〔六書統〕⿰奇斤、同レ剞。

【⿰亥斤】13566 サン 刻(2-2036)に同じ。〔六書統〕⿰亥斤、同レ刻。

【⿰易斤】13567 テイ ⿰亭斤(5-13576)に同じ。〔篇韻〕⿰易斤、同レ⿰亭斤。

【⿰豸斤】13568 クヮク 虢(9-32742)に同じ。〔字彙補〕⿰豸斤、唐避二虎字一、改二虢州一爲二⿰豸斤州一。

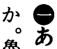
【⿰豖斤】13569 タク 斲(5-13585)に同じ。〔川篇〕⿰豖斤、同レ斲。

【⿰目斤】13570 テイ 鼎(12-48315)に同じ。〔搜眞玉鏡〕⿰目斤、同レ鼎。

【⿱斤缶】13571 カウ 義未詳。〔字彙補〕⿱斤缶、音校。

九畫

【新】13572 シン 〔集韻〕斯人切 ㄒㄧㄣ hsin^1 眞


小篆

❶あたらしい。あらた。あざやか。鱻(12-46632)に通ず。もと、木をきりとることから來たもの。⓫を見よ。〔說文通訓定聲〕新、叚借爲レ鱻。〔正字通〕對レ舊之稱。〔太玄經、務〕新鮮自求レ珍。〔注〕新鮮、清絜之貌也。❷あらたにする。改更する。〔左氏、莊、二十九〕春新二延廐一。

〔注〕言㆑新者、皆以㆓物不㆒㆑可㆑用更造之辭。〔公羊、莊、二十九〕新㆓延廐㆒者何。〔注〕繕㆑故曰㆑新。〔詩、魯頌、閟宮〕新廟奕奕。〔箋〕修㆑舊曰㆑新。㊂**あらたまる**。〔書、胤征〕咸與惟新。㊃**あらたに**。あたらしく。はじめて。〔廣雅、釋言〕新、初也。〔公羊、僖、二十〕新作㆓南門㆒。〔淮南子、齊俗訓〕而刀如㆓新剖硎㆒。〔注〕新剖、始製也。〔李商隱雜纂、隔壁聞語〕新娶㆑婦。㊄**あら**。にひ。あたらしいこと。又、あたらしいもの。〔禮、月令〕〔孟秋之月〕農乃登㆑穀、天子嘗㆑新。〔論語、爲政〕溫㆑故知㆑新。〔莊子、刻意〕吐㆑故納㆑新。㊅**あたらしい年**。〔唐書、禮樂志〕正旦羣臣、上㆓千秋萬歲壽㆒、制曰、履新之慶。㊆**あたらしい知り合ひ**。〔國語、周語中〕禮㆑新親㆑故。㊇**はりた**。開墾して二年又は三年を經た田畝。〔爾雅、釋地〕二歲曰㆓新田㆒。〔詩、周頌、臣工〕如㆓何新畬㆒。〔傳〕田二歲曰㆑新。〔韻會〕菑、禮記引㆓易不㆓菑畬㆒、鄭云、云云、三歲曰㆑新。㊈**したしく。したしい**。したしむ。親(**10－34918**)に通ず。〔說文通訓定聲〕新、叚借爲㆑親。〔書、金縢〕惟朕小子其新迎。〔釋文〕新迎、馬本作㆓親迎㆒。㊉**木をきりとる**。もと新(**5－13587**)に作る。〔正字通〕新、本作㆑新。〔說文〕新、取㆑木也、从㆑斤亲聲。〔段注〕引㆓伸之㆒、爲㆓凡始基之稱㆒。⑪**蔕を切り取る**。疐(**7－22006**)に通ず。〔說文通訓定聲〕新、叚借爲㆑疐。〔禮、內則〕棗曰㆑新之。〔注〕新、治擇之名也。⑫**國號**。王莽が漢を奪つて建てた國。一世、十五年で滅んだ。〔漢書、王莽傳〕卽㆓眞天子位㆒、定㆘有㆓天下㆒之號㆖曰㆑新。〔文獻通考、帝系考〕王莽以㆓己巳㆒簒㆑位、稱㆓新室㆒十五年、癸未、爲㆓漢兵所㆒㆑誅。⑬**姓**。〔通志、氏族略〕新氏、晉大夫新稚穆子之後、見㆓國語㆒。

名乘 ニヒ。ヨシ。アヲ。アラタ。

解字 會意形聲。斤と木との合字、辛は聲。斤(をの)で木を切り取る義。引伸して、凡そ始基の稱。もののはじめ。あたらしい意。說文には从㆑斤亲聲とあるが、段注は之を誤としてゐる。〔說文、新、段注〕當㆑作㆘从㆓斤木㆒辛聲㆖、非㆑從㆓亲聲㆒也。

【新秧】1 シンアウ 新しいなへ。〔劉子翬、懷㆓新亭㆒詩〕寂寂農家春、新秧滿田綠。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按、日下舊聞考、蓋京師之菊種亟繁、有㆓陳秧・新秧・粗秧・細秧之別㆒。

【新鶯】2 シンアウ 初春に啼く鶯。〔李白、侍㆓從宜春苑㆒奉㆑詔賦㆓龍池柳色初青聽㆓新鶯百囀㆒歌〕始向㆓蓬萊㆒看㆓舞鶴㆒、還過㆓茝若㆒聽㆓新鶯㆒。

【新堊】3 シンアク 新しくしつくひをぬる。〔日本外史、德川氏正記、德川氏〕以㆓白紙㆒糊㆑壁、如㆓新堊者㆒。

【新幄】4 シンアク 新しい幄舍。〔盧照鄰、芳樹詩〕結翠成㆓新幄㆒、開紅滿㆓故枝㆒。

【新安】5 シンアン ㊀地名。㋑廣東省台山縣の南。㋺廣東省化縣の西。㊁郡名。㋑晉、置く。浙江省淳安縣の西。〔讀史方輿紀要、浙江、嚴州府〕淳安縣、漢丹陽郡歙縣葉郡地、後漢建安十三年、孫吳析置㆓始新縣㆒、爲㆓新都郡治㆒、晉爲㆓新安郡治㆒、齊以後因㆑之、隋廢㆑郡改㆑縣、曰㆓新安㆒、仁壽中、又爲㆓睦州治㆒。㋺晉、置く。安徽省歙縣治。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府〕歙縣、郭秦置、屬㆓鄣郡㆒、縣南有㆓歙浦㆒、因名、漢屬㆓丹陽郡㆒、爲㆓都尉治㆒、後漢因㆑之、三國吳屬㆓新都郡㆒、晉屬㆓新安郡㆒。㋩南朝梁、置く。四川省達縣の西南。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府〕新甯縣、漢宕渠縣地、梁置㆓新安縣㆒、幷置㆓新安郡㆒、西魏郡縣俱改曰㆓新甯㆒。㋥北周、置く。河南省鐵門縣の東。㋭後魏、置く。河南省汲縣。〔讀史方輿紀要、河南衞輝府、汲縣〕汲城在㆓府城西南二十五里㆒、魏收志、時置㆓義州於汲縣陳城內㆒、領㆓伍城・義甯・新安・澠池・恆農・宣陽・金門等七郡二十八縣㆒。㋬東魏、置く。河南省新安縣治。〔讀史方輿紀要、河南、河南府〕新安縣、秦曰㆓新安㆒、漢置㆑縣、屬㆓宏農郡㆒、云云、東魏天平初、置㆓新安郡㆒。㊂縣名。㋑漢、置く。河南省鐵門縣の東。古の新安城。項羽は秦の卒二十萬人を此の城の南に坑した。〔漢書、地理志上〕弘農郡、縣十一、新安。〔讀史方輿紀要、河南、河南府〕新安縣、府西七十里、戰國時西周地、秦曰㆓新安㆒、漢置㆑縣、屬㆓宏農郡㆒。㋺後漢、置く。浙江省衢縣の境。〔讀史方輿紀要、浙江、衢州府〕西安縣、後漢初平三年、分㆓立新安縣㆒、仍屬㆓會稽郡㆒。㋩東晉、置く。廣東省合浦縣の境。㋥南朝宋、置く。湖北省の境。㋭南朝宋、置く。湖北省舊鄖陽府の境。㋬南朝宋、置く。四川省の境。㋣南朝宋、置く。雲南省の境。㋠南齊、置く。湖南省章縣治。㋷南齊、置く。湖北省舊襄陽府の境。㋦南齊、置く。湖北省南漳縣の西北。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府、南漳縣〕新安城、齊置㆓安定郡㆒、治㆓新安縣㆒。㋸後魏、置く。河南省汲縣。㊁の㋭を見よ。㋾後魏、置く。山西省翼城縣。㋻後魏、置く。山東省曹縣の境。㋕後魏、置く。河南省舊南陽府の境。㋵隋、置く。河南省河洛道。㋑を見よ。〔清史稿、地理志〕河南、河南府、新安。㋟唐、置く。貴州省舊思南府の境。㋹遼、置く。滿洲遼寧省の境。㋞金、置く。河北省舊廣平府の境。㋡元、置く。河北省安新縣の東北の新安鎭。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、安州〕新安縣、本容城縣地、金主璟泰和四年、析置㆓渥城縣㆒、八年、移㆓安州治㆒焉、元至元二年、廢㆑州改㆑縣、爲㆓新安鎭㆒、九年升爲㆓新安縣㆒、屬㆓保定路㆒、明洪武七年、省入㆓安州㆒、尋復置。㋤明、置く。廣東省寶安縣。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府〕新安縣、本東莞縣地、隆慶六年、析㆓置新安縣㆒。〔清史稿、地理志〕廣東、廣州府、縣十四、新安。㊃鎭の名。㋑河北省寶坻縣の東北。㋺河北省安新縣の東北。元、縣を置く。㊂の㋡を見よ。㋩金、置く。河北省肥鄉縣の西。又、辛安に作る。㋥滿洲吉林省長嶺縣の西南。㋭金、置く。山東省禹城縣の北。㋬江蘇省灌雲縣の南。㋣江蘇省宿遷縣の北。又、中馬鎭といふ。㋠江蘇省無錫縣の東南。㋷江西省吉安縣の東南。㊄千戶所の名。雲南省蒙自縣の南。〔雲南通志〕本安南長官司、地名㆓補瓦寨㆒、明廢㆑司、改置㆓千戶所於此㆒、清裁。㊅hsin̄ an̄ 新年のよろこび。

【新安江】6 シンアンカウ 川の名。浙江の上流。古の漸江水。又、歙港・徽江ともいふ。源を安徽省婺源縣の西北の率山に發し、建德縣の東南に至り蘭溪と合し、東北流して浙江となる。〔讀史方輿紀要、浙江、大川〕浙江之源有㆑三、一曰㆓新安江㆒、或謂㆓之徽港㆒、源出㆓徽州府西北百二十里之黟山㆒、經㆓府南㆒東流、至㆓竹節磯㆒、而入㆓嚴州府淳安縣界㆒、經㆓縣南㆒東流六十里、而遂安縣境之水流合焉、又東九十里、而經㆓府城南㆒、東陽江流合焉、此浙江西出之源也。

【新安志】7 シンアンシ 書名。十卷。宋羅願撰。州郡・物產貢賦、屬する所の歙・休甯・祁門・婺源・績溪・黟の六縣、先達・進士題名・牧守・雜錄等の七門に就いて記す。〔四庫提要、史、地理類〕。

【新安平】8 シンアンペイ 縣名。漢、置く。今、河北省灤縣の西。〔漢書、地理志下〕遼西郡、縣十四、新安平。

【新安居士】10 シンアンコジ 宋、汪伯彥(**6－17154‥324**)の號。

【新安文獻志】11 シンアンブンケンシ 書名。一百卷。明、程敏政編。凡そ南北朝以後の文章事蹟で新安に關するものを旁搜博採して分類輯錄したもの。前六十卷は先達の詩文をのせ、後四十卷は先達の行實をのせる。〔四庫提要、集、總集類〕。

【新按】12 シンアン あらたにまさぐる。あらたまつてなではじめる。〔雍陶、少年行〕覓㆑匠重裝燕客劍、對㆑人新按越姬箏。

【新案】13 シンアン あたらしい工夫。しんきな思ひつき。新意匠。新機軸。

【新案特許】14 シンアントクキョ 特許局で實用新案の特許を登錄許可すること。又、其のもの。

【新菴】15 シンアン 菅震孟の號。菅新菴(**9－31142‥27**)を見よ。

【新夷】16 シンイ 香草の名。辛夷(**10－38630‥1**)・留夷(**7－21808‥2**)に同じ。〔後漢書、馮衍傳下〕攓㆓木蘭與㆓新夷㆒。〔宋玉、風賦〕離㆓秦衡㆒槩㆓新夷㆒。〔注〕善曰、顏師古曰、新夷、一名留夷。〔楚辭、東

方朔、七諫、自悲〕列二新夷與二椒楨一。〔補注〕新夷、卽辛夷。

【新衣】17 シンイ あたらしい着物。したておろしの着物。〔儀禮、既夕禮〕徹二褻衣一加二新衣一。〔禮、喪大記〕徹二褻衣一加二新衣一。〔嵆康、琴賦〕新衣翠粲。〔李商隱雜纂、酸寒〕村夫著二新衣一。

【新意】18 シンイ 新しいこころ。新しい意義。〔杜預、春秋左氏傳序〕亦有二史所レ不レ書、卽以爲レ義者一、此蓋春秋新意。〔唐書、徐曠傳〕文遠說レ經、徧擧二先儒異論一、分二明是非一、乃出二新意一以折衷、聽者忘レ勞。〔蘇軾、孫莘老求二墨妙亭一詩〕顏公變レ法出二新意一、細筋入レ骨如二秋鷹一。

【新異】19 シンイ あたらしくて異なつてゐること。新奇な。めづらしい。〔顏氏家訓、兄弟〕所レ得甘旨新異、非二共聚食一、必不二先嘗一。

【新猷】20 シンイウ あたらしいはかりごと。〔桃花扇、迎駕〕遷二舊秩一、壯二新猷一。

【新邑】21 シンイフ あたらしい都邑。〔書、召誥〕周公至二于洛一、達二觀于新邑營一。

【新陰】22 シンイン あたらしい木かげ。〔白居易、首夏詩〕春禽餘哢在、夏木新陰成。

【新院】23 シンヰン 上皇が二人以上御座のとき、其のあたらしい御方の稱。本院・中院等に對して申上げる。〔日本外史、源氏前記、平氏〕保元之變、我宗族大半赴二新院一。

【新筠】24 シンヰン 今年生えた竹。ことしたけ。〔韋應物、將レ往二滁城一戀二新竹一簡二崔都水示端一詩〕停レ車欲レ去繞二叢竹一、偏愛二新筠一十數竿。

【新雨】25 シンウ あらたに雨がふる。又、あらたにふつたあめ。〔魏略〕時天新雨、地有二泥潦一。〔江總、侍二宴玄武觀一詩〕詰曉三春暮、新雨百花朝。〔岑參、六月三十日水亭送二華陰王少府還レ縣詩〕殘雲收二夏暑一、新雨帶二秋嵐一。〔白居易、贈二江客一詩〕江柳影寒新雨地、塞鴻聲急欲レ霜天。

【新英】26 シンエイ ❶あらたに咲いた花。さきたての花。〔鄭谷、峽中嘗レ茶詩〕簇簇新英摘二露光一、小江園裏火煎嘗。❷港の名。廣東省儋縣の西北。

【新郢】27 シンエイ 城の名。湖北省鍾祥縣の西南。宋末、築く。〔宋元通鑑〕咸淳十年、屯張世傑將レ兵、郢在二漢北一、新郢在二漢南一、橫二鐵絙一鎖二戰艦一、凡要津皆施レ杙設二攻具一。

【新詠】28 シンエイ 近作の詩。〔徐鉉、和下印先輩及第後獻二座主朱舍人一郊居之作上詩〕獨坐二公廳一正煩レ暑、喜吟二新詠一見二玄微一。

【新銳】30 シンエイ あたらしくてするどいこと。新進氣銳。〔方回、送二劉都事一詩〕莊重異二新銳一、詳緩蔑二虛譽一。

【新窰】31 シンエウ 宋代の窰の名。政和の間、都の地に窰を設けて陶器を造つたのを官窰といひ、南渡後新たに設けたものを舊窰に對して新窰といふ。〔輟耕錄、窰器〕政和閒、京師自置レ窰燒造、名曰二官窰一、中興渡レ江、有二邵成章提擧後苑一、號二邵局一、襲二故京遺製一、置二窰於修內一、司レ造二靑器一、名二內窰一、澄泥爲レ範、極二其精製一、油色瑩徹、爲二世所レ珍、後郊壇下、別立二新窰一、比二舊窰一、大不レ侔矣。

【新謠】32 シンエウ あたらしいうた。〔陶潛、讀二山海經一詩〕高酣發二新謠一、寧效二俗中言一。

【新醳】33 シンエキ あたらしいさけ。新酒。〔周禮、天官、酒正、一曰事酒、疏〕事酒爲二新醳一。

【新葉】34 シンエフ あたらしい葉。草木の若葉。〔謝朓、詠二落梅一詩〕新葉初冉冉、初蘂新菲菲。〔劉孝威、登二覆舟山一望二湖北一詩〕荇蒲浮二新葉一、漁舟繞二落花一。

【新葉子】35 hsin¹ yeh⁴ tzŭ ❶あたらしい葉。❷「新茶。

【新堰】36 シンエン あたらしく築いたせき。〔庾信、喜レ晴詩〕河堤崩二故柳一、秋水高二新堰一。

【新燕】37 シンエン 春、あらたに來る燕。〔古樂府〕新燕弄二初調一、杜鵑競二晨鳴一。〔杜牧、崔常侍自二少常亞列一出二領麾幢一詩〕野水差二新燕一、芳郊哢二夏鶯一。

【新簷】38 シンエン 新殿をいふ。〔顧況、宮詞〕金吾持レ戟護二新簷一、天樂聲傳萬姓瞻。

【新垣】39 シンエン ❶あらたに築いたかき。〔徐陵、廣州刺史歐陽頠德政碑〕新垣既築、外戶無レ扃。❷複姓。〔萬姓統譜〕新垣氏、風俗通、魏將新垣衍、畢公高之後。

〖新垣衍〗40 シンエンエン 戰國、魏の人。魏の客將軍となる。趙に使し、平原君に因つて趙王に說き、秦の昭王を帝とし、以て秦の兵を解かんとしたが、魯仲連がこれを退けた。戰國策には辛垣衍に作る。〔戰國、趙策〕。

〖新垣平〗41 シンエンペイ 漢の文帝の時の人。神氣を望むの術を以て帝に用ひられ、官、上大夫に至る。後、詐を以て誅せらる。〔前漢書、二十五〕。

【新屋】42 シンヲク あたらしく造つた家。〔韓非子、外儲說左上〕虞慶爲レ屋、謂二匠人一曰、屋太尊、匠人對曰、此新屋也。〔徐陵、與二王吳郡僧智一書〕新屋方華、故田斯墾。〔白居易、西原晚望詩〕新屋五六閒、古槐八九樹。

【新音】43 シンオン あたらしい音。新しい音樂。〔後漢書、曹褒傳論〕且樂非二夔襄一、而新音代起。〔邵謁、古樂府〕對レ酒彈二古琴一、絃中發二新音一。〔蘇軾、小鬟詩〕趁二著春衫一游二上苑一、要二求國手一教二新音一。

【新恩】44 シンオン ❶あたらしいめぐみ。〔舊唐書、李渤傳〕詔曰、特降二新恩一。❷宋、鄭夢協(**11－3964**7··561)の字。

【新河】45 シンカ ❶川の名。㋑江蘇省江寧縣の西南の老鸛河。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕新河、南志云、在二白鷺州西一、西南流二十餘里、通二大江一、舊名蕃人河、今亦謂二之新開河一、又上元東北六十里、有二蘆門河一、亦曰二蕃人河一、志云、河在二黃天蕩南蘆場內一、兀朮爲二韓世忠一扼二於黃天蕩一、或教下之於二蘆場地一鑿中大渠二十餘里上、上接二江口一、出二世忠之上一、兀朮從レ之、又傍二治城西南一、鑿レ渠成、金人悉趣二建康一、欲三越レ江而北一、爲二世忠所レ覺、尾擊敗レ之、汪藻云、敵於二建康抱城一開二兩河一、謂二此兩蕃人河一也、亦作二老鸛河一、宋史、建炎四年、韓世忠扼二兀朮於江中一、兀朮自二京口一沿二南岸一而西、將レ至二黃天蕩一、卒不レ得レ濟、或曰、老鸛河故道、今雖二堙塞一、若鑿レ之、可レ通二秦淮一、兀朮從レ之、一夕渠成、凡五十里、遂趣二建康一、爲二岳武穆所レ敗而還。㋺安徽省無爲縣の東北。下河ともいふ。清の乾隆の時、尹繼善開く。❷縣名。宋、置く。河北省冀縣の西南。寧晉泊の西北。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、冀州〕新河縣、漢堂陽縣地、五代時、爲二南宮縣之新河鎭一、宋皇祐四年、升爲二新河縣一、六年、復廢爲レ鎭、元初復置二新河縣一、屬二冀州一。〔清史稿、地理志〕直隸、冀州直隸州、縣五、新河。

〖新河莊〗46 シンカサウ 地名。河北省寧河縣の南海河の北岸。京山鐵路に沿ふ。〔畿輔通志〕道光二十二年、夷人犯レ順、列二營於新河莊西一、咸豐八年、夷人入寇、復列二營於莊南一。

〖新河浦〗47 シンカホ 高麗壹越調の樂の名。

【新柯】48 シンカ あたらしいえだ。〔劉基、枯樹圖歌〕新柯荏苒舊柯壯。

【新家】49 シンカ ❶あたらしい大夫。〔國語、魯語上〕勝レ敵而歸、必立二新家一。〔注〕大夫稱レ家、立二新家一、謂下立二所レ幸胥童之屬一爲中大夫上。❷シンヤ あたらしく造つた家。㋑新築の家。㋺分家。❸㋑ニイノミ 姓氏。㋺ニノミ 伊勢國の地名。

【新荷】50 シンカ あたらしく芽を出した蓮。〔謝朓、遊二東田一詩〕魚戲新荷動、鳥散餘花落。

【新廈】51 シンカ 新築の大きな家。

【新嫁】52 シンカ あらたに嫁ぎ來ること。又、其のよめ。〔司馬扎、蠶女詩〕東鄰女新嫁、照レ鏡弄二蛾眉一。

〖新嫁娘〗53 シンカヂヤウ はなよめ。〔王建、新嫁娘詞〕三日入二廚下一、洗レ手作二羹湯一、未レ諳姑食性、先遣二小姑嘗一。

【新歌】54 シンカ あたらしい歌。あたらしく作つた歌。〔楚辭、宋玉、招魂〕陳レ鐘按レ鼓、造二新歌一些。

【新霞】55 シンカ あらたにかかつた霞。〔孟郊、懷二南岳隱士一詩〕古路無二人跡一、新霞吐二石稜一。

【新我】56 シンガ 清、陳文在(**11－41698**··1232)の「字。

【新芽】57 シンメ 草木の新しいめばえ。

【新蛾】58 シンガ 生れたての蛾。轉じて、婦女の細く畫いた眉の喩。〔楊師道、初宵看レ婚詩〕洛城花燭動、戚里畫二新蛾一。

【新戒】59 シンカイ 佛始めて僧となつた者の受ける階級の稱。〔禪林象器箋、六、稱呼門〕新戒、忠曰、沙彌新受レ戒、故稱二新戒一。

【新開】60 シンカイ ❶あらたに開墾すること。又、其の土地。新開地。❷シンガイ 姓氏。

〖新開河〗61 シンカイガ ❶川の名。㋑淶河の下流。山東省單縣の東北から流れ南陽湖に注ぐ。㋺上流を扣河といふ。源は熱河省淩東縣の西南。柳邊に入り更に柳河といふ。遼河に注ぐ。❷鎭の名。㋑滿洲遼寧省遼中縣の西南。㋺江蘇省崇明縣の東南。

〖新開口〗62 シンカイコウ ❶鎭の名。㋑河北省寶坻縣の西南。㋺河北省樂亭縣の南。㋩湖北省黃海縣の

西南。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、蘄州、黃梅縣〕新開口鎭、又有二清江嘴鎭一、在二縣東南百里一、皆有二巡司一、濱江戍守處也。❷堡の名。河北省萬全縣の西北。明の宣德の閒、築く。〔邊防考〕堡逼二近外境一、向來屢被二侵犯一、俗稱二東馬營一、比二於北路之馬營堡一。

【新街】63シンガイ 地名。❶江蘇省江陰縣の西。❷江蘇省松江縣の東南。❸廣東省花縣の西南。粤漢鐵路に沿ふ。❹雲南省彌渡縣の北。❺雲南省建水縣の西南。

【新蓋】64 hsin^1 kai^4 新築。

【新巧】65 hsin^1 ch'iao^3 新機軸を出す。嶄新巧妙。

【新交】66シンカウ あらたな交はり。あらたな交際。〔詩、小雅、伐木序、疏〕舊則不レ可三更釋二新交一。〔劉子翬、觀二二劉題レ壁詩一〕故山終勝二他山好一、新交不レ如二舊交樂一。

【新江】67シンカウ 川の名。源は廣東省新興縣の南。西江に注ぐ。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、高要縣〕新江、府南六里、源出二新興縣亂山中一、北流百四十里、入二於大江一、謂二之新江口一。

〔新江口〕68シンカウコウ 地名。❶湖北省松滋縣の東南。❷湖南省郴縣の南。

【新行】69 hsin^1 hsing^2 あらたに行はれる。新流行。

【新香】70シンカウ あたらしいつけもの。

【新康】71シンカウ 縣名。晉、置く。湖南省寧鄕縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、長沙府、寧鄕縣〕新康城、吳置二新陽縣治此一、晉爲二新康縣治一、唐初亦因レ之、今縣治、本長沙縣之玉潭鎭也、五代漢乾祐三年、馬希萼侵二潭州一、希廣遣三其將崔洪連屯二玉潭一、爲二希萼所一レ敗、宋初、改爲二縣治一、明萬歷三年、始城レ之。

【新港】72シンカウ 鎭の名。❶江蘇省川沙縣の東北。❷江蘇省南通縣の東南。營船港の內。❸江蘇省靖江縣の東北。

【新絳】73シンカウ 縣名。民國、置く。山西省汾城縣の南。汾水の北岸にあり、南に橫關嶺、東に沙谷口がある。

【新腔】74シンカウ あたらしい歌の調子。新曲。〔黃庭堅、以二酒渴愛一江淸一作二五小詩一寄二廖明略學士一兼簡二初和父主簿一詩〕時時能度レ曲、秀句入二新腔一。〔長生殿、舞盤〕按二新腔一度二新腔一。

【新格】75シンカク ❶新しくきめたおきて。〔唐書、刑法志〕高祖入二京師一、約二法十二條一、武德二年、頒二新格五十三條一。〔宋史、眞宗紀二〕景德四年十月乙巳、頒二考試進士新格一。❷あたらしい格調。〔殷文圭、寄二賀杜荀鶴及第一詩〕九子舊山增二秀絕一、二南新格變二風騷一。〔王安石、次二韻陸定遠以レ謫往來求詩一詩〕行吟強欲レ偸二新格一、自笑安能到二萬分一。

【新閣】76シンカク あらたに造つたたかどの。〔鄭愔、奉三和幸二三會寺一應制詩〕鳥籀遺二新閣一、龍旂訪二古臺一。

【新覺】77シンカク いましがためざめたばかり。〔白居易、睡起晏坐詩〕新覺眼猶昏、無思心正住。

【新蕚】78シンガク 新生の花蕚。〔元稹、表レ夏十首詩〕裁レ紅起二高焰一、綴レ綠排二新蕚一。

【新樂】79シンガク ❶あたらしい音樂。〔禮、樂記〕魏文侯問二於子夏一曰、吾端冕而聽二古樂一、則唯恐レ臥、聽二鄭衛之音一、則不レ知レ倦、敢問、古樂之如レ彼何也、新樂之如レ此何也。❷シンラク 縣名。㋑晉、置く。河北省寧津縣の北。㋺南朝宋、置く。今缺く。江蘇省の境。㋩南朝宋、置く。今缺く。山東省の境。㋥隋、置く。河北省正定縣の東北。京漢鐵路に沿ふ。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定附、定州〕新樂縣、漢新市縣地、隋開皇十六年、置二新樂縣一、屬二定州一、唐宋因レ之。〔清史稿、地理志〕直隸、正定府、縣十三、新樂。❸城の名。㋑河北省新樂縣の西。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、定州〕新樂城、宋白曰、漢成帝時、中山王母馮昭儀、隨レ王就レ國、建二宮於西鄕之樂里一、因呼爲二西樂城一、俗譌爲二新樂一。㋺河南省新鄕縣。〔晉書、慕容暐載記〕暐遣二慕容臧一、率レ衆救レ之、云云、臧遂城二新樂一而還。

【新樂府】80シンガフ あたらしい樂府。唐代の新歌を古の樂府に對していふ。歌辭のみで、必ずしも音樂に合はせては歌はない。〔資治通鑑、唐紀〕（憲宗元和二年）白居易作二樂府及詩百餘篇一、規二諷時事一、流二聞禁中一、上見而悅レ之、召入二翰林一爲二學士一。〔樂府詩集、新樂府辭〕新樂府者、皆唐世之新歌也、以二其辭一實二樂府一、而未三常被二於聲一、故曰二新樂府一也。

【新學】81シンガク ❶あたらしいがくもん。しんきな學。〔文心雕龍、定勢〕新學之銳、則逐レ奇而失レ正。❷うひまなび。初學。〔朱熹、跋二李參仲行狀一文〕是時年少新學、未三能有二以扣一也。❸漢の王莽時代の學をいふ。〔清代學術概論〕有爲最初所レ著書、曰二新學僞經考一、僞經者、謂二周禮・逸禮・左傳、及詩之毛傳一、凡西漢末、劉歆所三力爭立二博士一者、新學者、謂二新莽之學一、時清儒誦二法許鄭一者、自號曰二漢學一、有爲以爲、此新代之學、非二漢代之學一、故更二其名一焉。

〔新學小生〕82シンガクセウセイ 初學の書生。〔漢書、張禹傳〕新學小生、亂レ道誤レ人。

〔新學僞經考〕83シンガクギケイカウ 書名。十四卷。清、康有爲撰。新學僞經とは、前漢の末、劉歆が經書を粉飾して、王莽の簒を佐けたのをいふ。書中十四篇に分つて、各〻之を辯じ、劉歆の僞を排して孔子の眞相を顯はした。其の考證該博、古經を攻むるものの一讀すべき書である。十四篇の目は秦焚六經未嘗亡缺考・史記經說足證僞經考・漢書藝文志辨僞(上下)・漢書河閒獻王魯共王傳辨僞・漢書儒林傳辨僞・漢書劉歆王莽傳辨僞・漢儒憤攻僞經考・僞經傳於通學成於鄭玄考・後漢書儒林傳糾謬(附、說文序糾繆)・經典釋文糾謬・隋書經籍志糾繆・僞經傳授表(上下)・書序弁僞(附、尙書篇目異同眞僞表)・劉向經說足證僞經考。

〘參考書〙【新學僞經考辨】一卷 莊原和撰。

【新刊】84シンカン 書籍などをあらたに刊行する。又、あらたに刊行された書籍。

〔新刊紹介〕85シンカンセウカイ 新刊物を新聞・雜誌などで世間に披露すること。

【新柑】86シンカン はしりのみかん。〔清異錄、茗荈、苦口師〕皮光葉最耽二茗事一、一日中表前嘗二新柑一。

【新淦】87シンカン 縣名。漢、置く。江西省清江縣の南。〔讀史方輿紀要、江西、臨江府〕新淦縣、本秦舊縣、以二淦水一爲レ名、屬二九江郡一、漢屬二豫章郡一、晉宋以後、因レ之、皆治二今清江縣東一、隋遷二縣治南市村一、屬二吉州一、唐因レ之、宋初亦屬二吉州一、淳化三年、改屬二臨江郡一、元元貞初、升爲二新淦州一、明初、復爲レ縣。〔清史稿、地理志〕江西、臨江府、縣四、新淦。

【新閑】88シンカン あたらしい馬小屋。〔蘇洵、御將〕絜二其羈絡一、居二之新閑一。

【新銜】89シンカン あたらしい官位。あらたに授かる位階。銜は位階。〔元稹、送二崔侍御之二嶺南一詩〕蕭何歸二舊印一、鮑永授二新銜一。〔長生殿、罵賊〕搖尾受二新銜一。

【新騂】90シンカン わかいあらうま。〔王令、寄二滿子權一詩〕子方勇自樹、解レ轡縱二新騂一。

【新莟】91シンガン あたらしいつぼみ。〔楊萬里、初夏卽事詩〕芍藥晚花終是小、戎葵新莟許來多。

【新顏】92シンガホ 在來の人の外にあらたに加はつた者。

【新巖】93シンガン 清、兪企賢(**1－1437**・・86)の字。

【新奇】94シンキ あたらしくめづらしい。〔宋史、帳嵲傳〕進レ言者多矣、今皆以爲二陳腐一、而別取二新奇之說一。

【新鬼】95シンキ 最近に死んだ人。あらたに鬼籍に入つた人。新佛。新鬼故鬼を見よ。〔桃花扇、會獄〕牆角新鬼帶レ血來分辯。

〔新鬼故鬼〕96シンキコキ あらたに死んだものと其の以前に死んだものとの魂。〔左氏、文、二〕秋八月丁卯、大二事于大廟一、云云、吾見二新鬼大、故鬼小一。

〔新鬼煩冤舊鬼哭〕97シンキハンエンキウキコクス 幾度もの征戰のため前後數多の人民が死んで、其の靈魂のもだえ哭すること。鬼は人の死んだ魂。〔杜甫、兵車行〕君不レ見青海頭、古來白骨無二人收一、新鬼煩冤舊鬼哭、天陰雨濕聲啾啾。

【新規】98シンキ ❶あらたに出來たおきて。新律(55・・4)に同じ。〔白居易、策林二十六、達二聰明一致二理化一〕夫欲下達二聰明一致中理化上、則在三乎奉二成式一、不三必乎創二新規一也。❷すべて物事をあたらしくすること。あらた。さら。〔憲教類典、三十三〕正德三年五月二十九日、新規之屋敷寺社。

【新祺】99 hsin^1 ch'i^2 新年のよろこび。新春の福祉。

【新器】100シンキ あたらしい器械。〔陸倕、新漏刻銘〕草二創新器一。

【新禧】101シンキ 新年のよろこび。〔福惠全書、稟啓

附、賀㆓學臺新正㆒〕三陽廻㆓谷黍之春㆒始和、而誦㆓新禧椒花㆒。〔北平歲時志、正月〕一日、除夕三次、夜子初交、云云、路過㆓親友㆒、則降㆑輿、長揖而祝㆑之、曰㆓禧納㆑福㆒。

【新羈】102 シンキ　あらたにおもがいを加へる。〔李陵、答㆓蘇武㆒書〕當㆓新羈之馬㆒。

【新義】103 シンギ　あたらしい說。王安石に周官新義等の著がある。〔晉書、王接傳〕接乃更注㆓公羊春秋㆒、多有㆓新義㆒。〔宋史、王安石傳〕初安石訓㆓釋詩書周禮㆒既成、頒㆓之學官㆒、天下號曰㆓新義㆒。

【新義派】104 シンギハ　〔佛〕僧覺鑁の說を奉ずる眞言宗の一派。豐山派と智山派の二派に分れる。

【新儀】105 シンギ　あたらしいきまり。新しいおきて。新しい儀法。〔梁書、鮑泉傳〕鮑泉於㆓儀禮㆒尤明、撰㆓新儀四十卷㆒、行㆓於世㆒。〔曾鞏、禮閣新儀目錄序〕禮閣新儀三十篇、韋公肅撰、記㆘開元以後至㆓元和㆒之變禮㆖。

【新儀象法要】106 シンギシャウハフエウ　書名。三卷。宋、蘇頌撰。一に紹聖儀象法要といふ。凡そ六十圖がある。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【新丘】107 シンキウ　地名。滿洲熱河省建平の俗稱。

【新舊】108 シンキウ　あたらしいのとふるいの。新古。〔晉書、張華傳〕撫㆓納新舊㆒、戎夏懷㆑之。

【新菊】109 シンキク　あらたに芽を出したきく。〔許渾、早秋詩〕殘桃閒墮㆑井、新菊亦侵㆑籬。

【新麴】110 シンキク　あたらしい酒。新酒。〔范成大、詩〕醅香新麴嫩、茗和小春輕。

【新汲】111 シンキフ　縣名。㊀漢、置く。河南省扶溝縣の西南。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、洧川縣〕新汲城、春秋時、曲洧也、成十七年、公會㆓諸侯㆒伐㆑鄭、自㆓戲童㆒至㆓於曲洧㆒、神爵三年、置㆓新汲縣㆒、以㆓河內汲縣㆒、故曰㆓新汲㆒、後漢章帝封㆓馬防㆒爲㆓侯邑㆒、晉仍屬㆓潁川郡㆒、後魏因㆑之、東魏改屬㆓許昌郡㆒、北齊廢、唐初復置、屬㆓洧州㆒、貞觀初廢。㊁南朝宋、置く。今、缺く。安徽省の境。

【新京】112 シンキャウ　市名。もと滿洲國首府。長春。長春（11－41100‥428）の㊅㋺を見よ。

【新鄉】113 シンキャウ　縣名。㊀晉、置く。甘肅省安西縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、沙州衞、宜禾城〕新鄉城、在㆓廢瓜州南㆒、晉置㆓新鄉縣㆒、屬㆓敦煌郡㆒。㊁南朝宋、置く。今缺く。湖北省舊施南府の境。㊂隋、置く。河南省汲縣の西南。もと漢の獲嘉縣の地。〔讀史方輿紀要、河南、衞輝府〕新鄉縣、本漢河內郡之獲嘉・汲二縣地、隋於㆓古新樂城㆒置㆓新鄉縣㆒、唐初屬㆓義州㆒、以後屬㆓殷州㆒、貞觀初、屬㆓衞州㆒、宋因㆑之、熙甯中、省入㆓汲縣㆒、元祐初、復置。〔淸史稿、地理志〕河南、衞輝府、縣九、新鄉。

【新疆】114 シンキャウ　省名。古、雍州の外地。漢の時、始めて中國に通じ、西域と號す。全境は天山によつて山南・山北の兩路に分たれる。漢代、山南は三十六國に分ち都護を設けて統轄し、山北は匈奴、烏孫諸國の地となる。唐代、山北に北庭大都護府、山南に安西大都護府を置き、中葉以後、盡く吐番に入り、宋代は盡く遼に入る。淸初、山北は準噶爾部、山南は回部となる。淸の乾隆の閒、次第に版圖に入れ、伊犂將軍及び副都統領隊大臣等の官を置き、新疆と號す。光緒十年、改めて行省を設く。東北は外蒙古科布多、東は甘肅、東南は青海、南は西藏、西南は克什米爾、西は帕米爾、西北は露西亞と界す。今のタリム盆地。道五、縣四十五、及び額魯特蒙古烏訥恩素珠克圖・巳啓色特啓勒圖等の二盟五部十三旗を領す。治は迪化縣。

【新鏡】115 シンキャウ　あたらしいかがみ。〔盧多遜、詩〕誰家玉匣開㆓新鏡㆒、露出淸光些子兒。

【新客】116 シンカク シンキャク　あらたにきた客。〔左氏、昭、十八〕使㆘司寇出㆓新客㆒、禁㆓舊客㆒勿㆗出㆓於宮㆒。

【新宮】117 シンキュウ　㊀あたらしい宮殿。又、新しく位牌を入れたばかりの廟。〔春秋、成、三〕（二月）甲子、新宮災。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕既下㆓新宮㆒、不㆑復㆓故庭㆒兮。〔左思、蜀都賦〕營㆓新宮於爽塏㆒。〔蘇軾、游㆓羅浮山㆒一首示㆓兒子過㆒詩〕負㆑書從㆑我盍㆓歸去㆒、羣仙正草新宮銘。〔自注〕唐有㆓夢書新宮銘者㆒、其略曰、新宮宏宏、崇軒轔轔。㊁詩經、小雅の逸篇の名。〔儀禮、燕禮〕升歌㆓鹿鳴㆒、下管㆓新宮㆒。〔注〕新宮、小雅逸篇也。〔左氏、昭、二十五〕宋公享㆓昭子㆒、賦㆓新宮㆒、昭子賦㆓車轄㆒。㊂シングウ　㋑あたらしい神殿。㋺紀伊の地名。

【新居】118 シンキョ　㊀新築した住家。〔蘇軾、次㆓韻子由所㆑居六詠㆒詩〕新居已覆㆑瓦、無㆓復風雨憂㆒。㊁あらたに移轉した住居。

【新渠】119 シンキョ　あたらしいみぞ。〔蘇軾、新渠詩〕新渠之水、其來舒舒、溢㆓流於野㆒、至㆓於通衢㆒。

【新墟】120 シンキョ　地名。㊀江西省吉安縣の東北。㊁福建省龍溪縣の北、九龍江の東岸。㊂福建省同安縣の東。㊃廣東省合浦縣の東。㊄廣東省高明縣の西。㊅廣西省北流縣の西北。㊆廣西省蒙山縣の西北。

【新蕖】121 シンキョ　あたらしいはす。〔蘇舜欽、遊㆓南內九龍宮㆒詩〕新蕖露下紅。

【新魚】122 シンギョ　あたらしい魚。〔丘遲、侍㆓宴樂游苑㆒送㆓張徐州㆒應詔詩〕荇亂新魚戲。

【新曲】123 シンキョク　音樂のあたらしいしらべ。新作の音曲。新しい歌曲。新調。新聲。〔漢書、李延年傳〕延年輒承㆑意、弦㆓歌所㆑造詩㆒、爲㆓之新聲曲㆒、由㆑是爲㆓協律都尉㆒。〔魏文帝、於㆑譙作詩〕絃歌奏㆓新曲㆒、遊響拂㆓丹梁㆒。〔唐書、禮樂志十二〕因奏㆓新曲㆒、未㆑有㆑名。

【新曲歌辭】124 シンキョクカジ　樂府の歌辭の一つ。舊題によらず、聲調の古樂府に似たもの。陳子昂の登幽州臺歌、李白の蛾眉山月歌等の類。

【新玉】125 アラタマノ　年・月・日・夜・春等の枕詞。

【新玉章】126 ニヒタマツサ　始めて其の人にやる書狀。

【新近】127 hsin^1 chin^4　近來。近頃。

【新禽】128 シンキン　うまれたてのとり。〔庾信、奉㆓和法筵㆒應詔詩〕新禽解㆓雜囀㆒、春柳臥㆓生根㆒。

【新禁】129 シンキン　あたらしい禁制。〔宋書、顏竣傳〕民懲㆓大錢之改㆒、兼畏㆓近日新禁㆒、市井之閒、必生㆓喧擾㆒。

【新錦】130 シンキン　あたらしい錦。〔陰鏗、詩〕砌石披㆓新錦㆒。〔薛維翰、詩〕美人閉㆓紅燭㆒、獨坐截㆓新錦㆒。

【新句】131 シンク　前人が未だ言つたことのない新しい句。〔張籍、使㆑回留㆓別襄陽李司空㆒詩〕回㆑首吟㆓新句㆒、霜雲滿㆓楚城㆒。

【新駒】132 シンク　未だ乘りなれない新しい馬。〔韻府引、黃溍、詩〕野鵲疑㆓秋樹㆒、新駒怯㆓暝途㆒。

【新化】133 シンクワ　㊀縣名。㋑南齊、置く。河南省潢川縣。㋺南齊、置く。湖北省の境。㋩南齊、置く。湖北省舊襄陽府の境。㋥後魏、置く。湖北省黃梅縣の地。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨州〕光化城、本楚子城也、左傳桓八年、楚子伐㆑隨、軍㆓於漢淮之閒㆒、蓋築㆓城於此㆒、以逼㆑隨也、蕭齊置㆓安化縣㆒、西魏改㆓新化縣㆒。㋭宋、置く。湖南省邵陽縣の北。縣城は資水の西岸に瀕す。〔讀史方輿紀要、湖廣、寶慶府〕新化縣、漢長沙國益陽縣地、自㆑晉以後、皆爲㆓蠻地㆒、云云、熙寧五年、始置㆓新化縣㆒、屬㆓邵州㆒。〔淸史稿、地理志〕湖南、寶慶府、縣四、新化。㊁府名。明、置く。尋いで黎平府に併入す。故治は貴州省黎平縣の西北。㊂土司の名。明、置く。貴州省黎平縣の西北。

【新火】134 シンクワ　周時代には四時燧を鑽つて火を改め、舊火を禁じて新火を出した。唐宋の時には淸明節に百官に新火を賜ふ制があつたが、元明以後此の制を廢した。〔周禮、夏官、司爟〕掌㆘行火之政令、四時變㆓國火㆒、以救㆗時疾㆖、季春出㆑火、民咸從㆑之、季秋內㆑火、民亦如㆑之。〔注〕鄭司農說以㆓鄹子㆒曰、春取㆓楡柳之火㆒、夏取㆓棗杏之火㆒、季夏取㆓桑柘之火㆒、秋取㆓柞楢之火㆒、冬取㆓槐檀之火㆒。〔北史、王劭傳〕新火舊火、理應㆑有㆑異。〔曹松、南海陪㆓鄭司空㆒遊㆓荔園㆒詩〕葉中新火欺㆓寒食㆒、樹上丹砂勝㆓錦州㆒。〔蘇軾、徐使君分㆓新火㆒詩〕臨臯亭中一危坐、三月淸明改㆓新火㆒。

【新瓜】135 シンクワ　はしりのうり。〔北齊書、蘇瓊傳〕五月初得㆓新瓜一雙㆒、云云、人遂競貢㆓新果㆒。

【新果】136 シンクワ　はしりの果實。〔權德輿、酬㆓裴傑秀才新櫻桃㆒詩〕新果眞瓊液、來應㆑宴㆓紫蘭㆒。

【新花】137 シンクワ　あらたに咲いた花。〔梁簡文帝、採桑樂府〕細萍重疊長、新花歷亂開。〔秦觀、春日偶題呈㆓錢尙書㆒詩〕三年京國鬢如㆑絲、又見新花發㆓故枝㆒。

【新科】138 シンクワ　㊀あたらしい罰則。〔魏志、何夔傳〕太祖始制㆓新科㆒下㆓州郡㆒、云云、乃上言曰、若一切齊以㆑科禁、恐或有㆓不㆑從㆑教者㆒。㊁あたらしい科目。〔宋史、選擧志一〕又立㆓新科㆒明法試㆓律令㆒、刑統大義斷按、所㆘以侍㆗諸科之不㆑能㆑業㆓進士㆒者㆖。

【新貨】139 シンクワ　あらたに造つた貨幣。新貨幣。

【新寡】140 シンクワ　あらたに夫を亡つて寡婦となつたもの。〔史記、司馬相如傳〕是時卓王孫有㆓女文君㆒、新寡、好㆑音、故相如、云云、以㆓琴心㆒挑㆑之。

【新課】141 シンクワ 次の試驗。〔項斯、送二友人遊一レ邊詩〕自可レ資二新課一、還期振二盛名一。

【新會】142 シンクワイ 縣名。隋、置く。廣東省台山縣の東北。西江の支派の西岸に瀕す。橙を產し、新會橙といふ。新寧鐵路に沿ふ。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府〕新會縣、漢番禺縣地、晉末置二盆允縣一、云云、隋平陳郡廢、置二新會縣一、幷置二封州治一焉。〔淸史稿、地理志〕廣東、廣州府、縣十四、新會。

【新槐】143 シンクワイ 明、張煥(**4－9812**・・241)の號。

【新光】144 シンクワウ あたらしい光。〔劉孝威、望レ雨詩〕交レ枝含二曉潤一、雜レ葉帶二新光一。

【新篁】145 シンクワウ 新生の竹。笋。〔王筠、奉二和皇太子懺悔一應詔詩〕早蒲欲レ抽レ葉、新篁向レ舒レ[illegible]。〔蘇軾、霜筠亭詩〕解レ籜新篁不二自持一、嬋娟已有二歲寒姿一。

【新壙】146 シンクワウ あたらしい墓穴。〔元稹、恭王故太妃挽歌詞〕文衞羅二新壙一、仙娥掩二暝山一。

【新冠】147 ニヒカツプ 北海道日高國の郡名。

【新官】148 シンクワン あたらしい役人。〔福惠全書、莅任部、總論〕新官看レ到レ任。

【新館】149 シンクワン あらたに建てたやかた。〔晉書、五行志上〕皓初遷二都武昌一、尋還二建鄴一、又起二新館一、綴二飾珠玉一。〔潘岳、西征賦〕展二名京之初儀一、卽二新館一而莅レ職。

【新關】150 hsin¹ kuan¹ 通商條約の關係であらたに設けた稅關。

【新歡】151 シンクワン あたらしいよろこび。〔謝靈運、道路憶二山中一詩〕懷レ故叵二新歡一。

【新君】152 シンクン あたらしい君。〔左、昭、二十七〕吳有二新君一、疆場日駭。〔呂覽、恃君〕爲二故君一、賊二新君一矣。

【新軍】153 シングン ❶あたらしい軍勢。〔左氏、成、十六〕郤至佐二新軍一。〔杜甫、曲江對レ雨詩〕龍武新軍深駐レ輦、芙蓉別殿漫焚レ香。❷淸の光緒三十八年八月、練兵處で議定した奏定陸軍營制餉章に據り洋式を以て訓練した軍隊。

【新形】154 シンガタ 今までのものとは異なつた形。新形模樣。

【新硎】155 シンケイ あたらしいてぎは。〔福惠全書、莅任部、親查閱〕方見二新硎之利一。

【新涇】156 シンケイ 地名。江蘇省青浦縣の東。又、新涇浦といふ。黃浦捍海塘を貫き、北、淞江に入る。〔讀史方輿紀要、江南、松江府、婁縣〕新涇塘、華亭瀕海塘浦之一也、亦曰二新涇浦一、北通二吳淞江一、南絕二黃浦一至二捍海塘一。

【新莖】157 シンケイ あらたに生じたくき。〔韓愈、蒲萄詩〕新莖未レ徧半猶枯、高架支離倒復扶。

【新溪】158 シンケイ 川の名。湖北省蒲圻縣の西南。古の大蟠水。今、新店河又は新店湖といふ。

【新螢】159 シンケイ はつほたる。〔賈島、夏夜登二南樓一詩〕一點新螢報二秋信一、不レ知何處是菩提。

【新藝】160 シンゲイ あたらしいわざ。〔潘岳、楊仲武誄〕舊文新藝。

【新教】161 シンケウ 基督教の一派。羅馬舊教に反對して、獨逸のルーテル等が提唱したもの。Protestant〔北京指南、雜錄、教派、耶蘇教〕耶蘇有二新舊之分一、舊卽習二稱之天主教一、新卽習二稱之耶蘇教一。

【新橋】162 シンケウ 鎭の名。❶金、置く。河北省樂亭縣の西南。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、灤州、樂亭縣〕新橋營、縣西南三十里、有レ城、周二里、郡志、新橋口舊有二巡司一、萬歷二十年、倭犯二朝鮮一、因設二新橋營一、與二昌黎赤洋營・撫寧牛頭崖營一、爲二海口三營一。❷金、置く。河北省蠡縣の東北。❸山東省東平縣の北。大淸河の西岸。又、舊城といふ。❹江蘇省松江縣の東北。淸初、徐基、兵を此處に避く。滬杭甬鐵路に沿ふ。民國十三年の江浙戰爭の地。❺江蘇省江都縣の南。❻福建省龍溪縣の東南。❼福建省泰寧縣の北。❽湖南省衡山縣の西北。

【新橋集】163 シンケウシフ 地名。❶河南省項城縣の東。❷安徽省靈璧縣の西南。津浦鐵路に沿ふ。

【新橋塘】164 シンケウタウ 地名。❶福建省漳平縣の東北。❷廣東省高要縣の西南、槎頭水の濱。

【新橋先生】165 シンケウセンセイ 莊田允益の號。莊田子謙(**9－31035**・・114)を見よ。

【新劇】166 シンゲキ あたらしい演劇。近代生活に卽した劇。

【新結】167 シンケツ ❶あらたに親愛の情を結ぶ。〔後漢書、皇甫嵩傳〕敵非二秦項一、新結易レ散、難二以濟一レ業。❷ニヒムスビ 始めてむすぶ。又、其のもの。

【新潔】168 シンケツ あたらしくて汚れのないこと。〔蘇軾、浚レ井詩〕云何失二舊穢一、底處來二新潔一。

【新月】169 シンゲツ ❶あざやかなつき。〔白居易、八月十五日夜禁中獨直對レ月憶二元九一詩〕三五夜中新月色、二千里外故人心。❷陰曆三四日頃のつき。みかづき。朏。〔江總、秋日登二廣州城南樓一詩〕新月半輪空。〔何遜、詠二娼婦一詩〕夜花枝上發、新月霧中生。〔花蕊夫人、宮詞〕玉宇無レ人雙燕去、一灣新月上二金樞一。〔王涯、秋思贈レ遠二首詩〕不レ見二鄕書一傳二鴈足一、唯看新月吐二蛾眉一。

【新篋】170 シンケフ あたらしいはこ。〔左氏、哀、十二〕寘二之新篋一。

【新欠】171 hsin¹ ch'ien⁴ あたらしい貸金、又は借金。

【新見】172 ニヒミ 姓氏。

【新建】173 シンケン ❶あらたにたてる。〔後漢書、禰衡傳〕是時許都新建、賢士大夫、四方來集。❷縣名。㋑三國吳、置く。江西省崇仁縣の西南。〔讀史方輿紀要、江西、撫州府、崇仁縣〕新建廢縣、三國吳置二新建縣一、蓋治レ此、晉以後因レ之。㋺南齊、置く。廣東省の境。㋩宋、置く。江西省南昌縣の地。〔讀史方輿紀要、江西、南昌府〕新建縣、太平興國六年、置二新建縣於郭內一。〔淸史稿、地理志〕江西、南昌府、縣七、新建。

【新縣】174 シンケン 鎭の名。河北省鹽山縣の西南。

【新元】175 シンゲン あたらしい年號。〔後漢書、律曆志中〕及レ用二四分一以來、考二之行度一、密二於太初一、是又新元、效二於今一者也。〔陸游、春晴登二小臺一詩〕誰家老子癡頑甚、看改二新元一十一回。

【新元史】176 シンゲンシ 書名。二百五十七卷。民國、柯劭忞撰。元史が短期間に成つて杜撰多きを遺憾とし、數十年に亙つて元朝祕史を始め、汎く蒙古方面の資料をも十分に尋索し、西洋學者の著書を參考して中亞及び歐洲との關係をも研究敍述す。本紀二十六卷・表七卷・志七十卷・列傳一百五十四卷。民國政府は之を正史に加へた。但、未だ考證不備の點もあり、元史と參照して始めて價値あるものである。

【新戶】177 シンコ あたらしい世帶もち。〔北史、魏道武帝紀〕詔給二內徙新戶耕牛一、計レ口受レ田。

【新古】178 シンコ あたらしいのとふるいの。新故・新舊(108)に同じ。

【新股】179 hsin¹ ku³ 新株。

【新故】180 シンコ あたらしいのとふるいの。新古。〔淮南子、要略〕新故相反、前後相繆。〔北史、何妥傳〕先生姓顧、是眷顧之顧、爲二新故之故一。〔孫綽、三月三日蘭亭詩序〕往復推移、新故相換、今日之迹、明復陳矣。

【新語】181 シンゴ 書名。二卷。漢、陸賈撰。其の述べる所の大旨は王を尊び霸を卑しみ、己を修め人を知るに在る。純然たる儒家の旨で、言皆孔子を以て宗とする。書中多く論語春秋の語を引く。其の目は道基・術事・輔政・無爲・辯惑・愼微・資執・至德・懷慮・本行・明誠・思務の十二篇。〔四庫提要、子、儒家類〕・〔百子全書、第五冊〕・〔漢魏叢書、第三十三冊〕・〔四部叢刊、第三百二十一冊〕・〔湖北先生遺書、第四十一冊〕。

【新工】182 hsin¹ kung¹ あらたな工事。又、あらたな土工。

【新功】183 シンコウ あたらしい勳功。〔素書、遵義章〕念二舊惡一而棄二新功一者凶。

【新溝】184 シンコウ ❶地名。湖北省夏口縣の西北。溳水の漢水に入る口に當り、又、溳口といふ。❷鎭の名。㋑江蘇省江陰縣の西。㋺安徽省望江縣の東北。大江の濱。

【新興】185 シンコウ ❶あらたに興ること。❷郡名。㋑後漢、置く。山西省忻縣治。〔讀史方輿紀要、山西〕忻州、春秋屬レ晉、戰國屬レ趙、秦爲二太原郡地一、漢因レ之、後漢末爲二新興郡地一、晉因レ之、北魏兼二置肆州一、永安中又改レ郡爲二來安郡一。㋺晉、置く。湖北省江陵縣の東。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府、江陵縣〕安興城、在二府西北一、江左僑二立新興郡一、領二廣牧定襄雲中九原宕渠新豐六縣一。㋩南朝宋、置く。湖北省竹溪縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府、竹溪縣、吉陽城〕東關城在二縣北五里一、宋屬二新興郡一。㋥南齊、置く。四川省の境。㋭南朝梁、置く。四川省南充縣の南。㋬後魏、置く。安徽省の境。㋣唐、置く。廣東省新興縣。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府〕新興縣、漢合浦郡臨允縣地、晉初析二置新寧縣一、屬二蒼梧郡一、永和七年、分二立新寧郡一、改レ縣爲二新興一、宋齊因レ之、云云、天寶初、曰二新興郡一、乾元初復レ古。❸州名。元、置く。民國、王

溪縣に改む。〔清史稿、地理志〕雲南、澂江府、州二、新興州。㊃縣名。㋑後漢、置く。甘肅省武山縣の西南。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、隴西縣〕新興城、後漢中平五年、析二置新興縣一、屬二南安郡一。㋺三國吳、置く。江西省萬安縣の西北。㋩晉、置く。雲南省玉溪縣の地。㋥東晉、置く。廣東省高要縣の西南。縣城は西江の支流の新興江の東南岸に瀕す。茘枝の名產地。㊀の㋣を見よ。〔清史稿、地理志〕廣東、肇慶府、縣九、新興。㋭南朝宋、置く。四川省舊敍州府の境。㋬南朝宋、置く。四川省舊寧遠府の境。㋣南齊、置く。湖北省の境。㋠南齊、置く。今缺く。陝西の境。㋷南齊、置く。今缺く。四川省緜陽縣の境。㋦後魏、置く。今缺く。安徽省の境。㋸唐、置く。貴州省思南縣の西。㋾金、置く。滿洲遼寧省鐵嶺縣。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、鐵嶺衞〕新興城、金皇統三年、州廢、更置二新興縣一。㊄鎭の名。㋑山東省臨沂縣の西。㋺江蘇省寶山縣の西。㋩江蘇省南匯縣の西北。又、揚家鎭といふ。㋥金、置く。陝西省汧陽縣の西。㊅シンキヨウ あたらしい興味。新たな興趣。〔韋應物、贈二蕭河南一詩〕對レ琴無二一事一、新興復何如。

【新興髻】186 シンコウケイ 髮の結び方の名。〔飛燕外傳〕趙合德、乃飛燕妹、與二合德一皆絕色、召入レ宮、新沐二沉水香一、爲二卷髮一、號二新興髻一。

【新興川】187 シンコウセン 川の名。又、廣吳河ともいふ。源は甘肅省岷縣の東。上流を良茶河といふ。渭水に注ぐ。〔水經、渭水注〕新興川水、出二西南鳥鼠山一、二源合注、東北流與二彰川一合、云云、又東北注二于渭水一。

【新興王】188 シンコウワウ 後趙、石祇（**8－24024**・・358）の封號。

【新刻】189 シンコク 圖書などをあらたに版木におこすこと。新板。新版。

【新國】190 シンコク ㊀あらたに建てた國。〔禮、曲禮下〕去レ國三世、爵祿無レ列二於朝一、出入無レ詔二於國一、唯興之日、從二新國之法一。㊁王莽の建てた國。字解の⓬を見よ。

【新國劇】191 シンコクゲキ 澤田正二郎が大正六年に創立した新劇團。

【新國史】192 シンコクシ 書名。四十卷。又は五十卷。藤原實頼・大江朝綱等撰。續三代實錄ともいふ。全本は傳はらないが、ただ釋日本紀・花鳥餘情・諸神記などに其の逸文を見る。今日、この名を以て傳はる二種の寫本があるが、一は、扶桑略記の拔書であり、一は類聚國史をまねたものである。

【新穀】193 シンコク あらたに出來た穀物。其の年に出來た穀類。〔論語、陽貨〕舊穀既沒、新穀既升。〔呂覽、博志〕新穀熟而陳穀虧。〔史記、仲尼弟子傳〕新穀既升。

【新鵠】194 シンコク わかいこふのとり。〔庾信、至二老子廟一應レ詔詩〕氄毛新鵠小、盤根古樹低。

【新昏】195 シンコン あらたに婚娶すること。昏は又、婚に作る。〔詩、邶風、谷風〕宴二爾新昏一、如レ兄如レ弟。

【新恨】196 シンコン あらたなうらみ。〔戴叔倫、賦二得長亭柳一詩〕送レ客添二新恨一、聽レ鶯憶二舊遊一。

【新婚】197 シンコン あらたに結婚すること。新昏。〔古詩十九首〕與レ君爲二新婚一、兎絲附二女蘿一。〔白虎通、嫁娶〕燕二爾新婚一。〔孔子家語、七十二弟子解〕覯二爾新婚一。〔劉琨、答二盧諶一詩〕嬿婉新婚。〔王祺雜纂、可惜〕新婚忽有レ病。

【新婚旅行】198 シンコンリヨカウ 新婚者が相攜へてするたび。西洋の風習で、英語 honey-moon の譯。

【新墾】199 シンコン ㊀あらたに土地をひらく。新田を開く。〔福惠全書、雜課部、新墾〕夫新墾之地。㊁ニヒバリノ 筑波の枕詞。

【新座】200 シンザ ㊀あらたに設けた座席。〔梅堯臣、次下韻景彝奉二慈廟一孟秋攝事上二十韻詩〕木主升二新座一、牙盤列二庶羞一。㊁新參（220）に同じ。㋑あらたに仕へること。又、其のもの。㋺あらたに仲間に入ること。又、其の人。〔太平記、二十一、鹽冶判官讒死〕新座の者にて候が。㊂ニヒクラ 武藏國の舊郡名。

【新采】201 シンサイ あたらしく取る。采は採。〔司馬光、蓮房詩〕脆美知二新采一、近レ根猶帶レ泥。

【新妻】202 ニヒツマ あらたに迎へた妻。

【新歲】203 シンサイ ㊀あたらしい年。新年。〔春秋繁露、郊義〕郊因二于新歲之初一。〔晉書、曹攄傳〕獄有二死囚一、歲夕攄行レ獄、愍レ之曰、卿等不幸致二此非所一、如何、新歲、人情所レ重、豈不レ欲二暫見レ家邪。〔宋之問、新年作詩〕鄕心新歲切、天畔獨潸然。㊁[佛]夏安居の終つた翌日、七月十六日をいふ。僧侶の新年元旦。夏安居は一夏九十日の安居をいふ。

【新蔡】204 シンサイ ㊀郡名。㋑晉、置く。河南省新蔡縣。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府〕新蔡縣、古呂國、春秋蔡平侯、徙二都于此一、故曰二新蔡一。漢置レ縣、屬二汝南郡一、云云、晉惠帝分二立新蔡郡一。㋺南朝宋、僑置す。河南省固始縣の東。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州〕固始縣、春秋時蓼國地、後滅二于楚一、謂二之寢縣一、漢亦置二寢縣一、云云、劉宋屬二新蔡郡一、齊因レ之、後魏亦屬二新蔡郡一。㊁縣名。㋑秦、置く。河南省上蔡縣の東南。洪河と汝河との會する處。春秋の蔡平侯、蔡より此に徙つて新蔡と名づく。〔左氏、昭、十三〕隱太子之子廬歸二于蔡一、禮也。〔注〕廬、蔡平公。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、新蔡。〔清史稿、地理志〕河南、汝寧府、縣八、新蔡。㋺南朝宋、置く。今缺く。湖北省の境。㋩南齊、置く。今、缺く。安徽省の境。㋥南朝梁、僑置す。安徽省霍山縣の東。〔讀史方輿紀要、江南、廬州府、六安州、霍山縣〕渒水廢縣、在二縣東一、梁置二北沛郡一、治二新蔡縣一。㋭後魏、置く。河南省固始縣の東。㋬隋、置く。湖北省黃梅縣の西北。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、蘄州〕黃梅縣、漢尋陽縣及蘄春縣地、云云、隋開皇初、復曰二新蔡一、屬二蘄州一、十八年、改レ縣曰二黃梅一。

【新蔡武哀王】205 シンサイブアイワウ 晉、司馬騰（**2－3257**・・299）の封號。

【新齋】206 シンサイ 字號。㊀清、凌如煥（**2－1669**・・140）の號。㊁篠本廉の號。篠本竹堂（**8－26328**・・28）を見よ。

【新刱】207 シンサウ あらたにはじめつくる。新創。〔沈亞之、題二侯仙亭一詩〕新二刱仙亭一覆二石壇一、雕梁峻宇入二雲端一。

【新倉】208 シンサウ 鎭の名。㊀河北省寶坻縣治。遼の時、新倉鎭を置く。〔讀史方輿紀要、直隷、順天府、通州〕寶坻縣、漢泉州縣地、後唐於レ此置二鹽倉一、金初爲二新倉鎭一。㊁浙江省平湖縣の東北。㊂浙江省海寧縣の東、備塘河の北岸。㊃安徽省太湖縣の東南、馬路河の南岸。㊄安徽省合肥縣の南。

【新草】209 シンサウ あらたに萠え出でた草。〔獨孤及、同二皇甫侍御齋中春望見レ示之作一詩〕甘比三流波辭二舊浦一、忍看二新草一遍二橫塘一。〔許渾、姑蘇懷古詩〕荒臺麋鹿爭二新草一、空苑鳧鷖占二淺莎一。

【新創】210 シンサウ あらたにはじめつくる。〔沈亞之、題二侯仙亭一詩〕新創二仙亭一覆二石壇一、雕梁峻宇入二雲端一。

【新喪】211 ニヒモ あたらしい喪。

【新裝】212 シンサウ あらたによそほふ。又、あたらしいよそほひ。〔吳志、吳主孫權傳、注〕江表傳曰、權於二武昌一新裝二大船一、名爲二長安一。

【新霜】213 シンサウ あたらしい霜。初霜。〔王涯、宮詞〕共怪滿衣珠翠冷、黃花瓦上有二新霜一。〔韓偓、邊上看レ獵贈二元戎一詩〕繡簾臨レ曉覺二新霜一、便遣移レ廚校獵場。

【新造】214 シンザウ ㊀あらたにつくる。又、其の物。新作。〔書、君奭〕厥亂明二我新造邦一。〔史記、項羽紀〕夫以二秦之彊一、攻二新造之趙一。㊁㋑人の妻をいふ。〔日次紀事〕俗謂二新婦一曰二新造一、言二新造レ宅使レ居之義一也。㋺未婚の處女の稱。㋩遊女に附き添つて日常の世話をする女。なかゐ。新艘。

【新造之國】215 シンザウノクニ あたらしく造られた國。〔川田甕江、國史擥要序〕雖三名爲二舊邦一、其實新造之國。

【新造未集】216 シンザウミシフ あたらしく作つて未だ大成しないこと。〔漢書、陸賈傳〕乃欲下以二新造未集之越一、屈中強于此上。〔說苑、奉使〕乃欲下以二新造未集之越一、屈中彊於此上。

【新作】217 シンサク ㊀あらたにつくり設ける。新造。〔春秋、僖、二十〕春新作二南門一。〔韓愈、處州孔子廟碑〕獨處州刺史鄴侯李繁、至レ官能以爲レ先、既新作二孔子廟一。㊁あらたに文章繪畫等をつくりなす。又、其の作品。〔張喬、再題二敬亭清越上人山房一詩〕久別多二新作一、長吟洗二俗愁一。〔歐陽脩、讀三張李二生文贈二石先生一詩〕先生示レ我何矜誇、手攜二文編一謂二新作一。

【新柵】218 シンサク 柵の名。河北省清河縣の西。晉の太元中、燕人の齊涉が、新柵に據つた。

【新搾】219 ニヒシボリ あらたに釀造した酒。

【新參】220 シンサン ㊀あらたに參政の官となつたも

の。〔東都事略〕袖中彈文、乃新參也。㊁（シンザン）㋑あらたにつかへる。又、其の者。今まゐり。古參の對。〔參考、太平記、十三、中前代蜂起事〕汝はいまだ新參の者にて。㋺あらたに仲間入りしたばかりで物事に不馴れなこと。又、其の者。しんまい。

〘新參舞〙221（シンザンマヒ） 昔時、大名・旗本等に行はれた儀式舞。新參者が舞つたのでいふ。

【新山】222（シンザン） 縣名。漢、置く。侯國。今、山東省莒縣の地。〔漢書、地理志上〕琅邪郡、縣五十一、新山。〔注〕侯國。

〘新山道人〙223（シンザンダウジン） 元、曹文晦（5－14297‥306）の號。

【新之】224（シンシ） 字號。㊀明、湯沐（7－17874‥132）の字。㊁清、錢鼎銘（11－40563‥393）の字。㊂清、李岸（6－14459‥168）の字。

【新仕】225（シンシ） あらたに仕へる。

【新司】226（シンシ） 新任の國司。〔後撰和歌集、十五、雜一〕新司はるかたがまうけに。

【新市】227（シンシ） ㊀地名。㋑湖南省攸縣の北。里攸水の西岸。㋺湖南省湘潭縣の東南、湘水の右岸。㊁縣名。㋑漢、置く。唐、廢す。河北省新樂縣の西南。〔漢書、地理志下〕中山國、縣十四、新市。㋺漢、置く。侯國。河北省藁城縣の地。〔漢書、地理志上〕鉅鹿郡、縣二十、新市。〔注〕侯國。㋩南朝宋、置く。楚の新市邑、後漢の南新市縣の地。劉伯升、新市平林の兵を此處に招く。故城は湖北省京山縣の東北。〔後漢書、光武紀上〕劉伯升招㆓新市平林兵㆒。〔讀史方輿紀要、湖廣、安陸府、京山縣〕南新市城、縣東北百里、楚新市邑、秦記昭襄八年、使㆔將軍芊戎攻㆑楚取㆓新市㆒、王莽時、王匡兄弟擧㆓兵於此㆒、劉伯升收㆓新市平林兵㆒討㆑莽是也、光武卽位、置㆓南新市縣㆒屬㆓江夏郡㆒、以㆔常山郡有㆓新市縣㆒也、云云、宋改曰㆓新市㆒、屬㆓竟陵郡㆒。㋥南齊、置く。今缺く。湖北省の境。㋭南齊、置く。今缺く。湖北省舊德安府の境。㊂鎭の名。㋑唐、置く。河北省新樂縣の西南。㋺金、置く。山東省濟陽縣の西。㋩浙江省壽昌縣の東。㋥浙江省德清縣の東北。交通便利、物產豐富。〔讀史方輿紀要、浙江、湖州、德清縣〕新市鎭、宋元時有㆓鎭將㆒守㆑此、幷㆓置杜家堡㆒、今爲㆓商民環聚處㆒。㋭湖南省湘陰縣の東北。附近の水中、金沙を產す。㋬金、置く。陝西省朝邑縣の南。㋣金、置く。陝西省渭南縣の北。又、辛市鎭に作る。㋠四川省緜竹縣の南。㋷四川省渠縣の東南。㋦貴州省天柱縣の北。

【新紙】228（シンシ） ㊀あたらしい紙。〔王建、寄㆓李益少監㆒兼送㆔張實遊㆓幽州㆒詩〕集卷新紙封、每㆑讀常焚㆑香。㊁新聞紙の略。

【新絲】229（シンシ） 今年あらたにとつた絲。にひいと。〔白居易、除㆓蘇州刺史㆒別㆓洛城東花㆒詩〕亂雪千花落、新絲兩鬢生。〔聶夷中、傷㆓田家㆒詩〕二月賣㆓新絲㆒五月糶㆓新穀㆒。

【新詩】230（シンシ） あらたに作つた詩。〔張華、答㆓何劭㆒詩〕良朋貽㆓新詩㆒。〔杜甫、解㆑悶十二首〕新詩改罷自長吟。〔白居易、祗㆓役駱口驛㆒喜㆓蕭侍御書至㆒兼覩㆓新詩㆒吟諷通宵因寄㆓八韻㆒詩〕忽驚㆓芳信至㆒、復與㆓新詩㆒幷。

【新誌】231（シンシ） あたらしい雜誌。

【新字】231′（シンジ） ㊀あらたに作製した文字。〔魏書、世祖太武帝紀〕始光二年、初造㆓新字千餘㆒、云云、頒㆓下遠近㆒、永爲㆓楷式㆒。㊁天武天皇の十一年に境部の連石積等に命じて作らしめた我が國最初の辭書。その字體は梵字に似たものであらうといふもの、朝鮮の吏道に示唆を得た新造の國字であらうといふもの、或は漢字體のものであらうといふものなどの諸說がある。〔日本書紀、天武紀下〕十一年三月丙午、命㆓境部連石積等㆒、更肇俾㆑造㆓新字一部四十四卷㆒。

【新收】232（シンシウ） あたらしくおさめたもの。〔六部成語、戶部、新收、注解〕新近所㆑收之項也。

【新州】233（シンシウ） 州名。㊀南朝梁、置く。廣東省新興縣。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府〕新興縣、漢合浦郡臨允縣地、云云、梁兼置㆓新州㆒、隋郡廢、州存、大業初、州廢、縣屬㆓新安郡㆒、唐武德四年、復置㆓新州㆒、仍治㆓新興縣㆒。㊁南朝梁の末、置く。湖北省京山縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、安陸府〕京山縣、梁置㆓北新州治㆒焉。㊂南朝梁の末、置く。四川省三台縣。〔讀史方輿紀要、四川〕潼川州、禹貢梁州地、云云、宋置㆓新城郡㆒、齊因㆑之、梁末置㆓新州㆒。㊃唐末、置く。察哈爾省涿鹿縣。〔讀史方輿紀要、直隸、保安州〕永興廢縣、本漢之涿鹿縣地、屬㆓上谷郡㆒、後漢因㆑之、晉屬㆓廣甯郡㆒、後廢、唐末置㆓永興縣㆒、爲㆓新州治㆒、五代晉沒㆓於契丹㆒、新州仍治焉。

【新洲】234（シンシウ） ㊀洲の名。㋑江蘇省江寧縣の北の大江の中。幕府山と對す。又、薛家洲といふ。上新洲・下新洲がある。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕新洲在㆓府北西十里㆒、一云、在㆓京口西大江中㆒、三國吳太平中、孫琳使㆔其黨孫慮襲執㆓朱據於新洲㆒。㋺福建省閩侯縣の東南。洲は新しく成つたもの。㋩廣東省治の東、黃埔の附近。㋥貴州省正安縣の東北。㊁鎭の名。㋑湖南省澧縣の東南。澧水の南岸。東に嘉山鋪がある。㋺湖北省黃岡縣の北。

【新秋】235（シンシウ） はつあき。初秋。〔庾信、擬㆓詠懷㆒詩〕殘月如㆓初月㆒、新秋似㆓舊秋㆒。〔張正見、和㆓衡陽王秋夜㆒詩〕高軒揚㆓麗藻㆒、卽㆑是賦㆓新秋㆒。〔張九齡、與㆑弟遊㆓家園㆒詩〕林烏飛㆓舊里㆒、園菓釀㆓新秋㆒。

【新修】236（シンシウ） 文書をあたらしくつくること。あらたに編纂すること。

【新愁】237（シンシウ） あらたにもよほすうれひ。〔鮑泉、和㆓湘東王春日㆒詩〕新枝雖㆑可㆑結、新愁誰解㆑顏。〔郎士元、湘夫人詩〕南有㆓涔陽路㆒、渺渺多㆓新愁㆒。〔薛能、一葉落詩〕客心空自比、誰肯問㆓新愁㆒。

【新篘】238（シンシウ） あたらしいさけこし。〔段成式、怯酒贈㆓周繇㆒詩〕太白東西飛正狂、新篘石凍雜㆓梅香㆒。〔蘇軾、和㆜子由聞㆛子瞻將㆚如㆓終南太平宮谿堂㆒讀㆙書詩〕近日秋雨足、公餘試㆓新篘㆒。〔范成大、夔門卽事詩〕竹枝舊曲元無㆑調、麴米新篘但有㆑聞。

【新柔】239（シンジウ） あらたに出た草木の芽。〔孟郊、遊㆓枋口㆒詩〕綠梢挂㆓新柔㆒。〔孫覿、礲巖寺詩〕野果拆㆓奇苞㆒、畦蔬剪㆓新柔㆒。

【新式】240（シンシキ） あたらしい法式。〔北史、周高祖武帝紀〕（建德六年）八月壬寅、議㆓權衡度量㆒、頒㆓於天下㆒、其不㆑依㆓新式㆒者、悉追㆓停之㆒。

【新室】241（シンシツ） ㊀王莽の建てた新の王室。〔漢書、元后傳〕皇天廢㆓去漢㆒、而命立㆓新室㆒。〔漢書、王莽傳中〕莽乃策㆓命孺子㆒曰、封㆑爾爲㆓安定公㆒、永爲㆓新室賓㆒。〔後漢書、公孫述傳〕天下同苦㆓新室㆒、思㆓劉氏㆒久矣。㊁㋑新たに娶つた妻。はなよめ。新婦。㋺（ニヒムロ）あらたに築いた室。あらたに作つた家。多く移居などにいふ。〔萬葉集、十一〕新室の壁草刈りに坐したまはね。

〘新室宴〙242（ニヒムロウタゲ） 新室の成つた時、神を祭つて行ふ祝宴をいふ。新築祝。新室祝。〔播磨風土記、美囊郡、志深里〕因㆓伊等尾新室之宴㆒、而二子等令㆑秉㆑燭。

〘新室祝〙243（ニヒムロウタゲ） 座敷開き。新築祝。「をいふ。

〘新室文母〙244（シンシツアンボ） 漢、元后（1－1340‥205）。

【新日】245（シンジツ） あらたな日。これからの日。〔李程、迎㆓長日㆒賦〕將㆑有㆑事㆓于新日㆒、以無㆑忘㆓乎舊章㆒。

【新實】246（シンジツ） あたらしい木の實。〔梁簡文帝、詠㆑橘詩〕故條襍㆓新實㆒、金翠共含㆑霜。

【新習】247（シンシフ） あらたに習ふ。又、あたらしいならはし。〔晉書、武帝紀論〕況以㆓新習易㆑動之基㆒、而無㆓久安難㆑拔之慮㆒。〔孟郊、擢㆑第後東歸書㆑懷獻㆓座主呂侍御㆒詩〕時文有㆓新習㆒。

【新集】248（シンシフ） ㊀地名。㋑河北省昌黎縣の西南。㋺河南省項城縣の西北。㋩河南省潢川縣の東北、潢河の北岸。㋥湖北省黃陂縣の東。㋭陝西省南鄭縣の西南。又、沙河集といふ。〔漢中府志〕沙河集卽新集。㊁城の名。河北省寶坻縣の西北。商業地で織布業が發達してゐる。

【新什】249（シンジフ） あたらしい器物。〔白居易、想㆓東遊㆒五十韻詩〕珠玉傳㆓新什㆒、鵷鸞念㆓故儔㆒。

【新車】250（シンシヤ） ㊀あたらしい車。〔南史、梁宗室下、南平元襄王偉子恪傳〕江千萬、蔡五百、王新車、庾大宅。㊁hsin^1 ch'ê^1 郵便車。

【新妝】251（シンシヤウ） つくりたてのけしやう。新粧（255）に同じ。〔徐陵、玉臺新詠序〕青牛帳裏、餘曲既終、朱鳥窗前、新妝已竟。〔長生殿、復召〕問新妝有㆑誰同倚。

【新尙】252（シンシヤウ） あたらしいこのみ。〔韓愈、岳陽樓別㆓竇司直㆒詩〕事多改㆓前好㆒、趣有㆑獲㆓新尙㆒。

【新昌】253（シンシヤウ） ㊀郡名。㋑三國吳、置く。安南の境。〔讀史方輿紀要、廣西附考、安南、太原府〕峯州城、漢交趾郡麊泠縣地、三國吳建衡三年、改爲㆓新昌郡㆒、治㆓嘉甯縣㆒。㋺南朝宋、置く。安徽省

滁縣。〔讀史方輿紀要、江南〕滁州、禹貢揚州之域、戰國時屬㆑楚、秦爲㆓九江郡地㆒、兩漢因㆑之、晉屬㆓淮南郡㆒、宋置㆓新昌郡㆒、晉元帝僑㆓置頓邱郡㆒、宋廢㆑郡爲㆑縣、元徽元年、割置㆓新昌郡㆒、齊因㆑之。㋩後魏、置く。今缺く。湖北省の境。㋥隋、置く。甘肅省靈武縣の東北。〔讀史方輿紀要、陝西、寧夏鎭、寧夏右屯衞〕新昌城、在㆓鎭東北㆒、唐志、靈州黃河外有㆓豐安・定遠・新昌等軍㆒。❷縣名。㋑漢、置く。侯國。河北省新城縣の東。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府〕新昌廢縣、漢舊縣、後廢、唐復置、屬㆓涿州㆒、李克用克㆓幽燕㆒、避㆓父諱㆒、省入㆓新城縣㆒、志云、縣有㆓古城㆒、或以爲㆓古燕城㆒也。㋺漢、置く。滿洲遼寧省海城縣の東。〔漢書、地理志下〕遼東郡、縣十八、新昌。㋩三國吳、置く。浙江省壽昌縣の西。〔讀史方輿紀要、浙江、嚴州府、壽昌縣〕新昌城、孫吳時、置㆓縣於此㆒、晉改曰㆓壽昌㆒、唐神龍初、移㆓縣於郭邑里㆒、尋又移㆓於縣西七里之白艾里㆒、築㆑城周一里有奇、後復還㆓今治㆒、故城遂廢。㋥後魏、置く。河北省盧龍縣。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、盧龍縣〕新昌城、卽今府治、漢置㆓新昌縣㆒、屬㆓遼東郡㆒、云云、後魏僑㆓置於此㆒、屬㆓北平郡㆒。㋭後魏、置く。河北省徐水縣の西。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、安肅縣〕遂城廢縣、劉昫曰、遂城卽後魏永熙中所㆑置城昌縣也。㋬隋、置く。安徽省滁縣。〔讀史方輿紀要、江南、滁州〕清流廢縣、隋開皇初郡廢、改㆑州曰㆓滁州㆒、縣曰㆓新昌縣㆒。㋣後魏、置く。今缺く。江蘇省舊徐州府の境。㋠隋、置く。安南の北境。㋷唐、置く。江西省浮梁縣の昌江の北。〔讀史方輿紀要、江西、饒州府〕浮梁縣、漢鄱陽縣地、唐武德四年、析置㆓新平縣㆒屬㆓饒州㆒、八年省、開元四年、復置曰㆓新昌縣㆒、天寶初、改㆓今名㆒、仍屬㆓饒州㆒、宋因㆑之、元元貞初、升爲㆑州、明初復爲㆑縣。㋦唐、置く。廣東省新興縣の東。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、新興縣〕新昌廢縣、縣東十餘里、唐武德四年、析置㆓新興縣㆒屬㆓新州㆒。㋸宋、置く。江西省宜豐縣。〔讀史方輿紀要、江西、瑞州府〕新昌縣、漢建成縣地、三國吳、析置㆓宜豐縣㆒、仍屬㆓豫章郡㆒、晉因㆑之、宋初廢、唐武德五年、復置㆓宜豐縣㆒屬㆓靖州㆒、八年廢入㆓高安縣㆒、南唐以㆓宜豐舊地㆒、爲㆓鹽步鎭㆒、宋太平興國六年、以㆓地廣勢險㆒、於㆓宜豐故城㆒置㆓今縣㆒、屬㆓筠州㆒、元元貞初、升爲㆓新昌州㆒、明初仍爲㆑縣。〔清史稿、地理志〕江西、瑞州府、縣三、新昌。㋾五代十國の吳越、置く。浙江省嵊縣の南。縣城は剡溪の支流、譚遏溪の西岸に瀕す。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府〕新昌縣、府東南一百二十里、本剡縣地、五代梁開平初、吳越始析㆓置今縣㆒、治㆓石牛鎭㆒。〔清史稿、地理志〕浙江、紹興府、縣八、新昌。

【新唱】254 シンシヤウ　あたらしく作曲された歌。〔蔡襄、寒食梨花小飮詩〕傍㆑花行㆑酒發㆓新唱㆒。

【新粧】255 シンシヤウ　あらたに裝ふ。又、つくりたての化粧。新妝。〔王訓、舞詩〕新粧本絕世。〔李白、清平調〕借問漢宮誰得㆑似、可㆑憐飛燕倚㆓新粧㆒。

【新嘗】256 シンシヤウ　❶新穀を廟にすすめて神を祭る。にひなめ。〔爾雅、釋天、秋祭曰㆑嘗、注〕嘗、嘗㆓新穀㆒也。〔禮、少儀〕未㆑嘗不㆑食㆑新。〔疏〕嘗、謂㆑薦㆓新物於寢廟㆒也、未㆑嘗則人子不㆑忍㆔前㆓食新㆒也。〔杜甫、豎子至詩〕山風猶滿㆑把、野露及㆓新嘗㆒。❷天子が新穀を食せられることをいふ。〔禮、月令〕（孟秋之月）農乃登㆑穀、天子嘗㆑新。❸（ニヒナメ）宮中で行はれる神事。新嘗祭を見よ。〔日本書紀、皇極紀〕元年十一月丁卯、天皇御㆓新嘗㆒、是日皇子大臣、各自新嘗。

【新嘗祭】257 ニヒナメサイ　其の年の新穀を天照大神並に諸神に饗せられ、天皇御躬らも聞しめされる式典。古は十一月、中の卯の日、今は十一月二十三日に行はれる。現在は勤勞感謝の日といふ。〔江家次第、十〕新嘗祭。

【新牆】258 シンシヤウ　❶鎭の名。湖南省岳陽縣の東南、新牆河の南岸。❷川の名。湖南省岳陽縣の南。源を相思山に發し、上流を乾沙港といひ、洞庭湖に注ぐ。支流は游江。湖に入る口を新牆河口といひ、又、灌口ともいふ。〔讀史方輿紀要、湖廣、岳州府、巴陵縣〕新牆河、發㆓源相思山㆒、自㆓灌口㆒、注㆓于洞庭湖㆒、又府東南有㆓雋水㆒、或曰、出㆓大雲山㆒、流入㆓武昌府通城縣㆒。

【新城】259 シンジヤウ　❶地名。㋑春秋、晉の地。山西省聞喜縣の東。〔左氏、僖、四〕太子奔㆓新城㆒。〔注〕新城、曲沃。㋺春秋、鄭の地。河南省密縣の東南。〔春秋、僖、六〕夏、公會㆓齊侯・宋公・陳侯・衞侯・曹伯㆒伐㆑鄭、圍㆓新城㆒。〔杜注〕新城、鄭新密。㋩春秋、宋の地。河南省商丘縣の西南。〔春秋、文、十四〕同盟㆓于新城㆒。〔杜注〕新城、宋地、在㆓梁國穀熟縣西㆒。㋥春秋、秦の地。陝西省澄城縣の東北。秦は新里といふ。〔左氏、文、四〕晉侯伐㆑秦、圍㆓邧・新城㆒。〔注〕邧・新城、秦邑也。❷城の名。㋑滿洲遼寧省興京縣の北。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、金州衞〕新城、在㆓衞西㆒、胡氏曰、新城西南傍山東北接㆓南蘇木底等城㆒。㋺山西省朔縣の西南。〔史記、秦紀〕莊襄王三年、蒙驁攻㆓新城㆒。㋩湖北省襄陽縣の東南。〔宋元通鑑〕咸淳三年、夏貴援㆓襄樊㆒、兀述謂㆜諸將宜㆛整㆓舟師㆒、以備㆚新城㆙、明日貴舟果趨㆓新城㆒。❸郡名。㋑三國魏、置く。湖北省房縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府〕房縣、秦爲㆓房陵縣㆒、漢因㆑之、屬㆓漢中郡㆒、後漢亦爲㆓房陵縣㆒、先生置㆓房陵郡于此㆒、曹丕改置㆓新城郡㆒、晉宋因㆑之、齊爲㆓南新城郡治㆒、梁仍曰㆓新城郡㆒、兼置㆓岐州㆒、西魏改㆑郡、爲㆓光遷國縣㆒。㋺南朝宋、置く。四川省三台縣。〔讀史方輿紀要、四川〕潼川州、禹貢梁州地、云云、宋置㆓新城郡㆒。㋩南齊、新城左郡を置く。今缺く。湖北省の境。㋥後魏、置く。河南省潢川縣の地。㋭東魏、置く。河南省洛陽縣の南。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、洛陽縣〕新城、古戎蠻子邑、戰國時、謂㆓之新城㆒、張儀曰、秦攻㆓新城㆒、以臨㆓周郊㆒、是也、又城渾言㆓於楚㆒、以㆓新城㆒爲㆓主郡㆒、史記、秦昭王七年、拔㆓新城㆒、十三年、白起攻㆓新城㆒、敗㆓韓魏之師於伊闕㆒、二十三年、與㆓魏王㆒會㆓宜陽㆒、與㆓韓王㆒會㆓新城㆒、二十五年、復與㆑韓會㆓新城㆒、又漢二年、漢王至㆓洛陽新城㆒、三老董公遮說處也、漢惠帝四年、置㆓新城縣㆒、屬㆓河南郡㆒、晉因㆑之、隆和初、桓溫遣㆔鄧遐救㆓洛陽㆒、進㆓軍新城㆒、後魏仍屬㆓河南郡㆒、東魏置㆓新城郡於此㆒、隋初郡廢。❹府名。清、置く。吉林省に屬し、楡樹縣を管轄す。民國、縣に改む。今、滿洲吉林省扶餘縣の地。〔清史稿、地理志〕吉林、新城府。❺縣名。㋑漢、置く。河南省洛陽縣の南。漢志には新成に作る。❸の㋭を見よ。㋺三國吳、置く。浙江省新登縣。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府〕新城縣、本富春縣地、吳置㆓新城縣㆒、屬㆓東安郡㆒、尋廢、晉太康末、復置屬㆓吳郡㆒、後又廢、咸和九年、復置㆓新城縣㆒。〔清史稿、地理志〕浙江、杭州府、縣八、新城。㋩南朝宋、置く。山東省臨淄縣の地。㋥南朝宋、置く。今缺く。河南省舊南陽府の境。㋭南朝宋、置く。四川省成都縣の地。㋬南齊、置く。今缺く。湖北省の境。㋣南齊、置く。今缺く。雲南省舊曲靖府の境。㋠後魏、置く。河南省鄧縣の西北。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、鄧州〕新城縣城、州西北七十里、漢冠軍縣地、後魏主宏太和中、析㆓置新城縣㆒、屬㆓南陽郡㆒。㋷陳、置く。湖南省耒陽縣の北。㋦後魏、置く。河南省潢川縣の地。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州光山縣、來安城〕豐安城亦在㆓縣西㆒、或曰、本後魏所㆑置永安郡也、治㆓新城縣㆒。㋸後魏、置く。河北省徐水縣の西南。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、安肅縣〕遂城廢縣、後魏曰㆓新城縣㆒、屬㆓高陽郡㆒。㋾後魏、置く。山西省孝義縣の西。㋻魏魂、置く。山西省隰縣の北。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、隰州〕溫泉城、州北二百里、後魏末、置㆓新城縣㆒、爲㆓南吐京郡治㆒。㋕後魏、置く。山西省代縣の西。㋵後魏、置く。今缺く。湖北省舊黃州府の境。㋟西魏、置く。四川省三台縣。㋹北周、置く。山西省汾西縣の西北。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、汾西縣〕新城廢縣、後周置、屬㆓汾西郡㆒、隋開皇中、省入㆓汾西縣㆒、義甯初復置、唐初屬㆓北溫州㆒、貞觀初州廢、縣仍省入㆓汾西㆒、一統志、新城東南三十里、有㆓故溫泉城㆒。㋞唐、置く。今缺く。四川省舊龍安府の境。㋡唐、置く。河北省涿縣の南。縣城は拒馬河の支流に瀕す。戰國、燕の督亢の地。宋の時、遼と界を此に分つ。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府〕新城縣、古督亢地也、漢置㆓新昌縣㆒、屬㆓涿郡㆒、後漢省、唐大歷四年、分㆓固安縣地㆒、置㆓新昌縣㆒、太和六年、又析㆓新昌地㆒、置㆓新城縣㆒、屬㆓涿州㆒、後唐同光二年、契丹寇㆓新城㆒、卽此、遼金亦曰㆓新城縣㆒、元升爲㆓新泰州㆒、尋復曰㆓新城縣㆒、至元二年、改屬㆓雄州㆒、明初因㆑之、洪武六年、改㆓今屬㆒。〔清史稿、地理志〕直隸、保定府、縣十四、新城。㋧宋、置く。江蘇省淮安縣の西。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府、山陽縣〕新城、宋咸淳五年、置㆓新城縣㆒、爲㆓控扼之處㆒、屬㆓楚州㆒。㋤宋、置く。江西省黎川

縣治。〔讀史方輿紀要、江西、建昌府〕新城縣、宋南城縣之黎灘鎮、紹興八年、析ㇾ鎮置㆓新城縣㆒、屬㆓建昌軍㆒。〔清史稿、地理志〕江西、建昌府、縣五、新城。㋶元、置く。山東省桓臺縣。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府〕新城縣、本長山縣地、元析㆓置新城縣㆒、屬㆓般陽路㆒、明初改㆓今屬㆒。〔清史稿、地理志〕山東、濟南府、縣十五、新城。㋰民國、置く。滿洲吉林省扶餘縣。㋒民國、置く。貴州省興仁縣。❻鎮の名。㋑山東省招遠縣の西北。㋺江蘇省儀徵縣の東。㋩江西省大庾縣の東章江の北岸。㋥浙江省嘉興縣の西北。唐の景雲中、居民、兵亂に遭ひ、土を築いて城をつくる。故にいふ。今俗に誤つて雲中鎮といふ。㋭宋、置く。甘肅省鎮原縣の西。❼地名。㋑河北省天津縣の東南、白河の南岸。もと砲臺があつた。㋺貴州省施秉縣の南。❽ニヒキ 姓氏。

【新城百子】260 シンジャウヒャクシ 清、胡賡善(**9**−**29400**··422)の號。

【新手】261 アラテ ❶まだ戰鬪に加はらない新鋭な兵士。❷其の仲間で事に從はずに控へてゐる者。

【新主】262 シンシュ あたらしい主君。〔史記、秦始皇紀〕天下之嗷嗷、新主之資也。〔後漢書、鮑永傳論〕斯可㆔以事㆓新主㆒矣。

【新主兒】263 hsin^1 chu^3 êrh 新參者。

【新酒】265 シンシュ 新釀の酒。〔儀禮、既夕禮〕若醴若酒、〔注〕或卒無ㇾ醴、用㆓新酒㆒。〔白居易、府中夜賞詩〕閑留㆓賓客㆒嘗㆓新酒㆒、醉領㆓笙歌㆒上㆓小舟㆒。

【新趣】266 シンシュ あたらしいおもむき。〔武少儀、鑿ㇾ山引ㇾ泉記〕不ㇾ易㆓舊所㆒、別成㆓新趣㆒。

【新樹】267 シンジュ 若葉の青々とした樹木。〔鮑泉、和㆓湘東王春日㆒詩〕新花滿㆓新樹㆒。

【新熟】268 シンジュク あたらしくうれること。〔陶潛、歸㆓園田居㆒詩〕漉㆓我新熟酒㆒、隻雞招㆓近屬㆒。

【新術】269 シンジュツ あたらしい方法。〔謝靈運、登㆓石門最高頂㆒詩〕來人忘㆓新術㆒。

【新春】270 シンシュン あらたに來たはる。はつはる。開春。早春。初春。新陽。新年。〔王褒、別㆓陸子雲㆒詩〕細柳發㆓新春㆒。〔李端、江上逢㆓司空曙㆒詩〕新春兩行淚、故國一封書。〔楊巨源、城東早春詩〕詩家清景在㆓新春㆒、柳嫩鶯黄色未ㇾ勻。

【新處】271 シンショ 縣名。漢、置く。河北省定縣の東北。〔漢書、地理志、下〕中山國、縣十四、新處。

【新序】272 シンジョ 書名。十卷。漢、劉向撰。唐以前の本は皆三十卷としてゐるが、宋以後今に傳はるものは皆十卷である。內容は雜事五篇、刺奢一篇、節士二篇、善謀二篇に分れ、春秋から漢初に至るまでの軼事の法戒と爲すべきものを集めてゐる。〔四庫提要、子、儒家類〕。〔百子全書、第七・八冊〕・〔漢魏叢書、第三十四冊〕・〔四部叢刊、第三百二十六・三百二十七冊〕・〔鐵華館叢書〕。

【新書】273 シンショ ❶あらたに著作された書籍。〔徐鉉、詩〕抄㆓得新書㆒自校讎。❷シンジョ 書名。㋑一卷。三國蜀、諸葛亮撰。〔說郛、第九冊〕・〔學海類篇、第二百十六冊〕。㋺十卷。漢、賈誼撰。漢書藝文志には單に賈誼といひ、隋以後は新書といふ。又、賈誼新書といひ、賈子新書と稱す。其の篇目は、過秦(上下)・宗首・數寧・藩傷・藩彊・大都・等齊・服疑・益壤・權重・五美・制不定・審微・階級・俗激・時變・瑰瑋・孽産子・銅布・壹通・屬遠・親疏危亂・憂民・威不信・匈奴・勢卑・淮難・無蓄・鑄錢・傳職・保傳・連語・輔佐・問孝(無)・禮・容經・春秋・先醒・耳痺・諭誠・退讓・君道・官人・勸學・道術・六術・道德說・大政(上下)・脩政語(上下)・禮容語(上下)・胎敎・立後義。原本は五十八篇であるが、今は其の三篇を佚する。就中、問孝篇は篇目のみあつて本文はない。〔四庫提要、子、儒家類〕。〔百子全書、第五・六冊〕・〔漢魏叢書、第三十五・三十六冊〕・〔四部叢刊、第三百二十二・三百二十三冊〕・〔唐宋叢書、第十二冊〕・〔抱經堂叢書、第十六・十七冊〕・〔昌平叢書、第六十三—五冊〕・〔浙江書局彙刻書、第二十四・二十五冊〕。

〔參考書〕【賈子新書纂註】六卷鈴木弘撰。【賈子新書校本】十卷岡本保孝撰。

【新升】274 シンショウ 清代、荒蕪地の開墾成熟を待つて租稅を科すること。〔清會典事例、戶部、新墾升科分攤〕四年覆准、河南丁銀攤㆓入地畝㆒、嗣後遇有㆓報墾升科㆒、將㆓丁銀㆒隨ㇾ年別行㆓均攤㆒、十一年議准、湖北於㆓雍正七八九年㆒各屬㆓開墾田地㆒、新升糧銀九千四百一兩四錢八分零、抵㆓減漢陽等八縣重丁銀㆒。

【新訟】275 シンショウ あたらしいうつたへ。〔隋書、辛公義傳〕受㆓領新訟㆒、皆不ㇾ立㆓文案㆒。

【新勝】276 シンショウ あらたに勝つ。勝つたばかり。かちたて。〔五代史、梁臣、敬翔傳〕新勝之兵、宜㆓持ㇾ重以養ㇾ威。

【新稱】277 シンショウ あたらしいはかり。〔隋書、律曆志上〕以㆓新稱㆒稱ㇾ之、重一百二十斤。

【新色】278 hsin^1 sê^4 新式。柄。新流行。

【新職】279 シンショク あたらしい官職。〔漢書、王莽傳上〕考㆓故官㆒、問㆓新職㆒、以知㆓其稱否㆒。

【新津】280 シンシン 縣名。北周、置く。四川省成都縣の西南。岷江の支流、錦江の東北岸。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕新津縣、漢犍爲郡武陽縣地、後周始㆓於新津市㆒、置㆓新津縣㆒、移㆓犍爲郡治㆒此、隋初郡廢、縣屬㆓益州㆒、唐屬㆓蜀州㆒、咸通十一年、南詔陷㆓邛州㆒、進改㆓成都㆒、犯㆓眉州㆒、進犯㆓新律㆒、尋自㆓雙流㆒而進、十四年、蠻復入寇、至㆓新津㆒而還、卽此、宋屬㆓崇慶府㆒、元屬㆓崇慶州㆒、今城周五里有奇。〔清史稿、地理志〕四川、成都府、縣十三、新津。

【新秦】281 シンシン 縣名。唐、置く。陝西省神木縣の北。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、葭州〕神木縣、舊爲㆓勝州地㆒、唐天寶初、割㆓連谷・銀城二縣地㆒、置㆓新秦縣㆒、爲㆓麟州治㆒、是年改ㇾ州爲㆓新秦郡㆒、乾元初、復爲㆓麟州㆒。

【新秦中】282 シンシンチュウ 地名。秦の始皇三十二年、蒙恬をして此の地の匈奴を逐ひ河南の地を略し、民を徙して新秦中と名づけた。漢、朔方郡とす。內蒙古鄂爾多斯の地。〔漢書、食貨志下〕充㆓朔方以南新秦中㆒。

【新進】283 シンシン あらたに其の場に出る。新規に顏を出す。新たに數に加はる。〔漢書、趙廣漢傳〕所ㇾ居好用㆓世吏子孫新進年少者㆒。〔元稹、上㆓令狐相公㆒啓〕江湘閒、多有㆓新進小生㆒、不ㇾ知㆔天下文有㆓宗主㆒。〔司馬光、論㆓風俗㆒劄子〕新進後生、未ㇾ知㆓臧否㆒。

【新進士】284 シンシンシ あらたに進士となつたもの。〔稱謂錄、進士、新進士〕郝經詩、佩玉長裾新進士、回視詩書等閒事。〔陔餘叢考、新進士赴㆓國子監㆒拜謁〕中式新進士、例赴㆓國子監㆒拜㆓祭酒司業㆒、其由來不ㇾ可ㇾ考。

【新進作家】285 シンシンサクカ あらたに世に進み出た、詩歌・小說・彫刻・繪畫などの藝術品の製作者。

【新新】286 シンシン 次第にあたらしくなるさま。〔戴復古、新年自唱自和詩〕年年仍歲歲、故故復新新。

【新親】287 hsin^1 ch'in^1 あらたに結婚して出來た親類。

【新人】288 シンジン ❶あらたに迎へた婦人。もとからの妻と區別していふ。〔古詩〕新人工㆓織縑㆒、故人工㆓織素㆒。〔杜甫、佳人詩〕夫壻輕薄兒、新人美如ㇾ玉、合昏尙知ㇾ時、鴛鴦不㆓獨宿㆒、但見㆓新人笑㆒、那聞㆓舊人哭㆒。〔白居易、母別ㇾ子詩〕新人迎來舊人棄、掌上蓮花眼中刺。〔剪燈餘話、連理樹記〕不ㇾ用同心雙結帶、新人元是舊相知。❷はなよめ。新婦。〔傳綷、雜曲〕新人新寵住㆓蘭堂㆒、翠帳金屛玳瑁牀。❸婦人が夫を指していふ。〔蔡琰、悲憤詩〕託㆓命於新人㆒、竭ㇾ心自勖勵。❹新進の人。又、新たに加入した人。又、新しい思想を持つた人。❺基督敎で從來の罪を除かれて新しい生命を得た人。

【新人物】289 シンジンブツ ❶あらたに其の仲間に加はつた人。❷常人に異なつた偉才。奇行のある人。

【新水】290 シンスイ ❶あたらしい水。〔儀禮、士虞禮、明齊・溲酒、注〕明齊、新水也、言㆘以㆓新水㆒溲㆗釀此酒㆖也。〔夏侯湛、大暑賦〕沃㆓新水㆒以達ㇾ夕、振㆓輕箑㆒以終ㇾ日。❷春の水。〔鮑泉、和㆓湘東王春日㆒詩〕新水新綠浮、新禽新音好。〔李孝光、詩〕雪消新水鴨頭綠、沙暖小桃猩血紅。

【新睡】291 シンスイ あらたなねむり。〔白居易、長恨歌〕雲鬢半偏新睡覺、花冠不ㇾ整下ㇾ堂來。〔姚合、莊居卽事詩〕斜月照ㇾ牀新睡覺、西風半夜鶴來聲。〔周伯琦、宮詞〕徙倚牙床新睡足、一瓶芍藥當㆓荷花㆒。

【新甄】292 シンスイ あたらしいかめ。〔墨子、備穴〕內㆓新甄井中㆒。

【新翠】293 シンスイ 初夏の頃の若葉のみどり。新綠(563)に同じ。〔宋之問、龍門應制詩〕河堤柳新翠、苑樹花先發。

【新穗】294 シンスイ にひぼ。新穀の穗。

【新正】295 シンセイ 新年の正月。改まつた年の始。〔嚴維、歲初喜㆓皇甫侍御至㆒詩〕湖上新正逢㆓故人㆒、

情深應レ不レ咲二家貧一。〔劉禹錫、歷陽書事七十韻詩〕好令三朝集使、結束赴二新正一。〔方干、新正詩〕毎レ見二新正雪一、長思二故國春一。

【新生】296シンセイ　㊀未熟な書生。〔風俗通、皇霸、三王〕俗儒新生、不レ能二採綜一、多共二辯論一、至二於訟閲一。〔稱謂錄、秀才、新生〕案、今新進レ學爲二新生一。㊁あらたに生れる。生れたばかり。新生之犢を見よ。㊂あたらしく芽を出す。〔爾雅、釋木、杻檍、注〕似レ棣、細葉、葉新生可レ飼レ牛。㊃ニヒフ　姓氏。

〖新生界〗297シンセイカイ　地質學上の名稱。第三系及び第四系の兩部に分れ、此處に發見される動植物は今と相類し、或は全く同じい。故に新生界は地球の過去及び現在間の段階である。又近世界。Cainozoic group

〖新生洲〗298シンセイシウ　洲の名。㊀湖北省黃岡縣の西北。又、新生磯といひ、今、姜家洲といふ。〔宋元通鑑〕景帝元年、蒙古張傑閻旺、作二浮橋於新生磯。〔明一統志〕新生洲、在二團風鎭下一。㊁湖南省岳陽縣の西。

〖新生命〗299シンセイメイ　新しく得た信仰によつて心境の一變したのをいふ。あたらしいいのち。

〖新生面〗300シンセイメン　あたらしい方面。

〖新生之犢〗301シンセイノトク　生れたばかりのこうし。犢は仔牛。〔莊子、知北遊〕汝瞳焉如二新生之犢一。

【新成】302シンセイ　㊀あたらしく成る。〔老子、十五〕故能レ敝不二新成一。㊁縣名。㋑漢、置く。侯國。山東省の境。〔漢書、地理志上〕北海郡、縣二十六、新成。〔注〕侯國。㋺漢、置く。河南省洛陽縣の南。後漢以後は新城といふ。〔漢書、地理志上〕河南郡、縣二十二、新成。

〖新制〗303シンセイ　あらたに設けた制度。〔洛陽伽藍記、城南〕景明寺、云云、乃敕三子才與二散騎常侍溫子昇一、撰二麟趾新制十五篇一。

【新政】304シンセイ　あたらしい政治。又、新しい政令。〔蘇軾、郊祀慶成詩〕化國安二新政一、孤臣返二舊耕一。

〖新政策〗305シンセイサク　現代社會に卽した、新しい施政上の方策。

〖新政府〗306シンセイフ　あらたに成立した政府。

【新星】307シンセイ　㊀あらたに現出して急激に輝き始め、後、次第に見えなくなる星。㊁あらたに發見した星。

【新郪】308シンセイ　縣名。漢、置く。安徽省大和縣の北。俗に訛つて宋王城といふ。〔史記、蘇秦傳〕蘇秦說二魏襄王一曰、大王之地、南有二新郪一。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、新郪。

【新壻】309シンセイ　はなむこ。〔全唐詩話、不知名〕姚家新壻是房郎、未レ解二芳顏一意欲レ狂。〔聞見錄〕文忠有下舊女壻爲二新女壻一、大姨夫作二小姨夫一之戲上。

【新晴】310シンセイ　あらたに晴れる。雨あがり。又、雨後の晴天。〔潘岳、閑居賦〕微雨新晴、六合淸朗。〔杜甫、晴詩〕久雨巫山暗、新晴錦繡文。〔白居易、窻中列二遠岫一詩〕碧愛二新晴後一。

【新製】311シンセイ　あらたに作る。〔陶潛、桃花源詩〕俎豆猶二古法一、衣裳無二新製一。〔宋史、太祖紀三〕詔減二湖南新製茶一。

【新聲】312シンセイ　新作の歌曲。〔國語、晉語八〕平公說二新聲一。〔韓非子、十過〕昔者衞靈公將レ之レ晉、至二濮水之上一、云云、夜分而聞下鼓二新聲一者上而說レ之、使三人問二左右一、盡報弗レ聞、乃召二師涓一而告レ之曰、有下鼓二新聲一者上、使三人問二左右一、盡報弗レ聞、其狀似二鬼神一、子爲聽而寫レ之、師涓曰、諾、因靜坐撫レ琴而寫レ之。〔史記、樂書〕今者來聞二新聲一。〔漢書、李延年傳〕延年善レ歌爲二新變聲一、是時上方興二天地諸祠一、欲レ造レ樂、令三司馬相如等作二詩頌一、延年輒承レ意弦歌所レ造詩爲二之新聲曲一。〔後漢書、陳元傳〕師曠不下爲二新聲一易上耳。〔論衡、紀妖〕夜聞下鼓二新聲一者上說レ之。〔嵆康、琴賦〕新聲憀亮。

【新霽】313シンセイ　雨があらたにはれる。〔宋玉、高唐賦〕遇二天雨之新霽一兮。〔王灣、奉二和賀監林月淸酌一詩〕淨林新霽入、規院小涼通。〔白居易、池上卽事詩〕久陰新霽宜二絲管一、苦熱初涼入二綺羅一。

【新脆】314シンゼイ　あたらしくて柔か。〔周邦彥、隔浦蓮近詞〕夏果收二新脆一。

【新梢】315シンセウ　樹木のあたらしいこずゑ。〔杜甫、嚴鄭公宅同詠レ竹詩〕綠竹半含レ籜、新梢纔出レ墻。〔馬臻、墨竹詩〕墨光浮潤拂二新梢一、尙憶二淸風一遶二銳毫一。

【新詔】316シンセウ　あたらしく出されたみことのり。〔劉禹錫、送三渾大夫赴二豐州一詩〕鳳銜二新詔一降二恩華一、又見旌旗出二漢家一。

【新設】317シンセツ　あたらしく設ける。舊設の對。

【新雪】318シンセツ　あらたにふつた雪。〔權德輿、送二淸洨上人一詩〕灘經二水瀨一逢二新雪一。〔白居易、冬夜詩〕策二策窓戶前一、又聞二新雪下一。

【新說】319シンセツ　㊀あたらしい意見。〔俗語錄〕務立二新說一。㊁宋の王安石の新法をいふ。〔蘇軾、送二程建用一詩〕十年困二新說一、兒女爭捕レ影。〔崔鶠、再論二馮澥一疏〕王安石用レ事、自爲二新說一以造レ士。

【新節】320シンセツ　㊀制をあらたにすること。〔呂覽、適威〕先王之使二其民一、若レ御二良馬一、輕レ任新レ節、欲レ走不レ得、故致二千里一。㊁あらたに始まる季節。〔潘岳、在二懷縣一作詩〕初伏啓二新節一、隆暑方二赫羲一。㊂あたらしいふし。〔梁簡文帝、晚春詩〕渚蒲變二新節一、巖桐長二舊圍一。㊃hsin¹ chieh²　一月十五日の燈節。

【新川】321シンセン　字號。㊀土肥元成の號。土肥霞洲(3－4867・・492)を見よ。㊁岡田宜生の號。岡田新川(4－7962・・55)を見よ。

【新尖】322シンセン　あたらしくて銳い。〔蘇轍、次二韻子瞻賦レ雪詩〕強付二酒樽一判二醉熟一、更尋二詩句一鬪二新尖一。

【新阡】323シンセン　あたらしい墓道。阡、一に仟に作る。〔杜甫、故武衞將軍挽詩〕新阡絳水遙。

【新穿】324シンセン　川の名。四川省新津縣附近。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、崇慶州、新津縣〕新穿水、與二雙流縣一接レ界、卽二江所レ經也、唐咸通十一年、南詔攻二成都一、不レ能レ陷、遁還、至二雙流一、阻二新穿水一、造レ橋未レ成、狼狽失レ度、乃僞請レ和、三日梁成、旣濟卽斷レ橋、按レ隊緩驅、又中和二年、西川將二高仁厚一討レ阡、能降二雙流西諸寨兵一、語レ之曰、籍二汝曹一爲二我前行一、過二穿口一、新津寨下告二諭之一、比レ至二延貢一可レ歸矣、尋至二穿口一、降二其衆一、進至二新津一、復降二其十二寨一、穿口卽新穿水口。

【新船】325シンセン　新造の船。〔薛道衡、秋日遊二昆明池一詩〕新船木蘭檝、舊宇豫章材。〔韓愈、柳州羅池廟碑〕宅有二新屋一、步有二新船一。

【新銓】326シンセン　あらたに人物をえらびはかる。〔日本政記、神武天皇論〕有二新銓者一、有下因二其故一用レ之者上。

【新撰】327シンセン　あらたに書物を作ること。又、あらたな著作。新編。〔舊唐書、武宗紀〕其舊本不レ得二注破一、候二新撰成一同進。

〖新撰組〗328シンセングミ　幕末佐幕黨の一團體の名。文久三年春、將軍德川家茂の上洛に當り、武道練達の士を招募して編した一團中の、歸東した新徵組に對して、殘留した近藤勇・芹澤鴨の組織した一隊。勤王の志士掃蕩に活躍したが、維新後潰滅した。

〖新撰字鏡〗329シンセンジキヤウ　書名。十二卷。昌住撰。昌泰年間に成る。漢字の音及び訓を注した字書で、漢字約二萬九百四十字、外に和字四百餘字を收める。天治本序文によれば、著者は始め玉篇を見ずに稿を起し、稿成つて後、玉篇を見て增補したといふ。其の體裁は、漢字の字形によつて、偏傍の類に從つて百六十部に分つてゐるが、中には、分類體字書の體裁や、同偏傍の字を四聲に分つなど、音引字書の體裁をも混じてゐる。本書に注せられた字音は、一切經音義・切韻・玉篇等による。本書は、空海の篆隸萬象名義について古く、我が古代並に中國古代の字音の研究に資する所が多い。羣書類從第四百九十七卷に收める。

〖新撰姓氏錄〗330シンセンシヤウジロク　書名。三十卷。嵯峨天皇の弘仁六年、萬多親王・藤原園人・藤原緒嗣・阿部眞勝・三原弟平・上毛野穎人等奉敕撰。當時畿內に貫してゐた諸氏の由來を調査判定して奉つた官府の姓氏臺帳。

〖新撰朗詠集〗331シンセンラウエイシフ　書名。二卷。藤原基俊撰。新撰朗詠ともいふ。公任の倭漢朗詠集を襲つて編纂したもので、目次・材料の如きも殆ど同じ。作者は白樂天が六十五首で唐人の作の大半を占め、邦人では、大江以言の四十餘首が一位を占め、紀齋名・菅原道眞等の二十餘首これに次ぎ、慶滋保胤・具平親王・兼明親王・紀長谷雄・藤原伊周・源順・藤原明衡・橘在列等が何れも十首以上を算する。和歌には著しいものがない。

【新錢】332シンセン　あらたに鑄造した錢。〔北史、齊文

宣帝紀〕自二魏末一用二永安錢一、又有二數品一、皆輕濫、己丑鑄二新錢一、文曰、常平五銖。〔舊唐書、肅宗紀〕初鑄二新錢一、文曰、乾元重寶、用レ一當レ十。

〖斷二新錢一〗333シンセンヲタツ　新錢の鑄造を禁斷すること。〔宋書、明帝紀〕泰治二年春三月壬子、斷二新錢一、專用二古錢一。

【新薦】334シンセン　あたらしいむしろ。〔晉書、陶侃母湛氏傳〕湛氏乃撤二所レ臥新薦一、自剉給二其馬一。

【新鮮】335シンセン　㊀あたらしい。又、其の物。〔太玄經、務〕新鮮自求レ珍。〔注〕新鮮、清絜之貌也。〔李咸用、謝二僧寄レ茶詩〕傾筐短甑蒸二新鮮一。〔紅樓夢、三十七回〕賦景咏物、雙關著、又新鮮、又大方。㊁肉類の生で新しいこと。腐敗せぬこと。㊂hsin^{1} hsien^{1} 珍しい。

〖新鮮曲兒〗336 hsin^{1} hsien^{1} chʻü^{3} êrh　はやりうた。〔紅樓夢、二十八回〕這是新鮮曲兒。

〖新鮮時樣曲子〗337 hsin^{1} hsien^{1} shih^{2} yang^{4} chʻü^{3} tzŭ　はやりうた。〔紅樓夢、二十八回〕酒面要唱一箇新鮮時樣曲子。

【新鐫】338シンセン　あらたに版にほる。新刻。〔郝經、趙州石橋詩〕蛟龍辟易、絳水伏二細紋參錯一、如二新鐫一。〔村上函峰、答三某生問二讀書作文一書〕百家之學、新鐫之書。

【新蟬】339シンセン　初夏に鳴く蟬。はつぜみ。〔白居易、六月三日夜聞レ蟬詩〕微月初三夜、新蟬第一聲。

【新疏】340シンソ　唐宋の十三經注疏を舊疏といふに對して、清朝考證家の新說による注釋を新疏といふ。梁啓超の清代學術概論に於て擧げた著名な新疏は下表の如くである。〔清代學術概論、十四〕清學自當下以二經學一爲中中堅上、其最有レ功二於經學一者、則諸經殆皆有二新疏一也、其在レ易、則有二惠棟之周易述・張惠言之周易虞氏義・姚配中之周易姚氏學一、其在レ書、則有二江聲之尙書集注音疏・孫星衍之尙書今古文注疏・段玉裁之古文尙書撰異・王鳴盛之尙書後案一、其在レ詩、則有二陳奐之詩毛氏傳疏・馬瑞辰之毛詩傳箋通釋・胡承珙之毛詩後箋一、其在二周官一、有二孫詒讓之周禮正義一、其在二儀禮一、有二胡承珙之儀禮今古文疏義・胡培翬之儀禮正義一、其在二左傳一、有二劉文淇之春秋左氏傳正義一、其在二公羊傳一、有二孔廣森之公羊通義・陳立之公羊義疏一、其在二論語一、有二劉寶楠之論語正義一、其在二孝經一、有二皮錫瑞之孝經鄭注疏證一、其在二爾雅一、有二邵晉涵之爾雅正義・郝懿行之爾雅義疏一、其在二孟子一、有二焦循之孟子正義一、云云、十三經除二禮記・穀梁一外、餘皆有二新疏一種或數種一。

	書名	卷數	撰者
易	周易述	二十三卷	惠棟
	周易虞氏義	九卷	張惠言
	周易姚氏學	十六卷	姚配中
書	尙書集注音疏	十二卷	江聲
	尙書今古文注疏	三十卷	孫星衍
	古文尙書撰異	三十二卷	段玉裁
	尙書後案	三十卷	王鳴盛
詩	詩毛氏傳疏	三十卷	陳奐
	毛詩傳箋通釋	三十二卷	馬瑞辰
	毛詩後箋	三十卷	胡承珙
周官	周禮正義	八十六卷	孫詒讓
儀禮	儀禮今古文疏義	十七卷	胡承珙
	儀禮正義	四十卷	胡培翬
左傳	春秋左氏傳正義	未成	劉文淇
公羊傳	公羊通義	十一卷敍一卷	孔廣森
	公羊義疏	七十六卷	陳立
論語	論語正義	二十卷	劉寶楠
孝經	孝經鄭注疏證	一卷	皮錫瑞
	孝經義疏	一卷	阮福
爾雅	爾雅正義	二十卷	邵晉涵
	爾雅義疏	二十卷	郝懿行
孟子	孟子正義	三十卷	焦循

【新蔬】341シンソ　あたらしい野菜。〔白居易、履道西門詩〕行竈朝香炊二早飯一、小園春暖掇二新蔬一。

【新艘】342シンソウ　遊女に添うてかれこれと斡旋する女。新造。〔壽門松、上〕。

【新息】343シンソク　縣名。㊀漢、置く。古の息國。河南省息縣の東。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州、息縣〕息城、古息國也、左傳隱十一年、息侯伐レ鄭、鄭伯敗レ之、莊十四年、滅二於楚一、漢初、於レ此置二息縣一、尋徙而南、因以二新息一爲レ名、劉宋置二北新息縣於此一、屬二汝南郡一、蕭齊及後魏因レ之、高齊以二北新息縣一、幷入二南新息縣一、復曰二新息一云。㊁後魏、置く。今缺く。安徽省舊潁州府の境。

〖新息侯〗344シンソクコウ　封號。㊀後漢、朱浮(**6－14424**‥517)の封號。㊁後漢、馬援(**12－44572**‥36)の封號。

【新卒】345シンソツ　㊀あら手の兵卒。又、事に熟せぬ兵卒。〔魏志、徐晃傳〕晃所レ將多二新卒一。〔資治通鑑、唐紀〕更募二新卒一、以益レ之。㊁あらたに業を卒へること。又、學校を卒業したばかりの者。

【新糯】347シンダ　あたらしくとれたもちごめ。〔蘇軾、詩〕家釀熟二新糯一。

【新苔】348シンタイ　あたらしいこけ。〔庾肩吾、新苔詩〕隨レ潮染二岸石一、逐レ沫聚二浮査一。〔唐太宗、首春詩〕碧林青舊竹、綠沼翠二新苔一。

【新胎】349シンタイ　はじめてはらむ。〔庾信、謝二滕王賚レ巾啓〕解レ角新胎、戴レ藤初孕。

【新泰】350シンタイ　㊀縣名。晉、置く。山東省泰安縣の東南。小汶河の北。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、泰安州〕新泰縣、漢東平陽縣地、屬二泰山郡一、後漢省、晉泰始中、改置二新泰縣一、仍屬二泰山郡一、後屬二東安郡一、劉宋因レ之。〔清史稿、地理志〕山東、泰安府、縣六、新泰。㊁後魏、置く。山東省蒙陰縣の東。〔讀史方輿紀要、山東、青州府〕蒙陰縣、府西南二百五十里、云云、高齊省入二新泰縣一。

【新體】351シンタイ　あたらしいていさい。しんきのふう。〔舊唐書、元白傳贊〕文章新體、建安永明、沈謝旣往、元白挺生。〔盧照鄰、南陽公集序〕鄴中新體共許、音韻天成、江左諸人、咸好二瓌姿豔發一。

〖新體詩〗352シンタイシ　あたらしい體裁の詩。明治の初期に西洋の詩風に擬して作り初めた長詩。後、單に詩といふ。

【新代】353シンダイ　㊀王莽の建てた新國の時代。新學(81)の㊂を見よ。㊁アラタヨ　あたらしい御代。〔萬葉集、一〕圖負留、神龜毛、新代登。

【新臺】354シンダイ　㊀臺の名。山東省濮縣の東。衞の宣公の建てたもの。㊁を見よ。〔水經、河水注〕河水又東逕二鄄城縣北一、云云、北岸有二新臺一。㊁詩經、邶風の篇名。衞の宣公は、其の子伋のために齊から婦を娶り、其の美なるを聞いて自ら之を娶らんと欲し、新臺を河上に作つて之を要したが、國人之を惡んでこの詩を作る。〔詩、邶風、新臺、序〕新臺、刺二衞宣公一也、納二伋之妻一、作二新臺於河上一而要レ之、國人惡レ之、而作二是詩一也。

【新題】355シンダイ　あらたに出した題。〔李商隱、獻二河東公一詩〕府公能入詠、聊且續二新題一。

【新刀】356シンタウ　㊀あらたに鍛へたかたな。あらみの刀。㊁慶長年代以後に作つたかたな。それ以前のものを古刀といふに對す。〔本朝虞初新誌、鍛工助弘傳〕人皆稱二新刀正宗一。

【新島】357シンタウ　あらたに發見した島。又、あらたに出來た島。

〖新島守〗358ニヒシマモリ　あらたに代つた島守。〔增鏡、二、新島守〕我こそは新島守よおきの海の荒き波風こころして吹け。

【新湯】359アラユ　わかしたての風呂の湯。

【新塘】360シンタウ　地名。㊀湖北省陽親縣の西南、富水の北岸。㊁湖南省湘陰縣の東北。

【新稻】361シンタウ　あらたにみのつたいね。〔鄭谷、送二進士許彬一詩〕何當レ食二新稻一、歲稔又時平。〔蘇軾、和二穆父新涼一詩〕淸風來旣雨、新稻香可レ飯。

【新道】362シンダウ　あらたに切り開いた道路。新路。〔史記、南越尉佗傳〕吾欲三興レ兵絕二新道一。〔漢書、西域傳〕車師後王國有二新道一。〔漢書、南粵傳〕興レ兵絕二新道一。

【新宅】363シンタク　㊀新築の住宅。新しい家。〔輟耕錄、假宅以死〕友人楊公道輿、疾至レ門曰、願假二君新宅一以死。㊁別家。分家。

【新籜】364シンタク　あたらしいたけのかは。〔李白、遊二水西一詩〕石蘿引二古蔓一、岸筍開二新籜一。

【新灘】365シンタン　灘の名。湖北省秭歸縣の東に當る。青灘ともいふ。〔入蜀記〕新灘南岸曰二官漕一、北曰二龍門一、龍門水湍激、多二暗石一、官漕差可レ行、故舟率由レ南上、然石多レ銳易レ穿レ船、爲二峽中最險處一。

【新地】366シンチ　㊀あらたに手に入れた土地。新しい領地。〔戰國、趙策〕不レ如三盡歸二中山之新地一。㊁あらたに切り開いた地。㊂轉じて、くるわ。遊廓。色里は新地に造るからいふ。〔心中天網島〕しんちへの御出でか、御せいが出まする。〔長阿

含經〕樂レ觀二新地一。㊃新しい知行。新知。〔狂言記、姫糊〕しんちをくわつと下された。

【新治】367（シンチ）㊀あらたに治め整へる。〔史記、梁孝王世家〕褚先生曰、刺レ之置二其劍一、劍著レ身、視二其劍一新治、問二長安中削厲工一、工曰、梁郎某子、來治二此劍一、以レ此知而發二覺之一。㊁（ニヒハリ）地名。常陸國十一郡の一。㊂（ニヒバリ）㋑あらたにきりひらいた田。新墾。〔萬葉集、十二〕新治今つくる路のさやかにも。㋺姓氏。㊃（ニヒハル）地名。

〔新治道〕368（ニヒバリミチ）あらたにひらいた道路。

【新知】369（シンチ）㊀あたらしくしる。初めて知る。又、あたらしいしりあひ。新知己。〔楚辭、九歌、少司命〕悲莫レ悲二兮生別離一、樂莫レ樂二兮新相知一。〔鮑照、詠二雙燕一詩〕悲歌辭二舊愛一、銜レ淚覓二新知一。〔駱賓王、帝京篇〕故人有二湮淪一、新知無二意氣一。㊁あたらしい知行。新地。〔柳營祕鑑、二〕。

〔新知識〕370（シンチシキ）あたらしい知識。從來より一層進歩した知識。又、新しい知識を有する人。

【新雉】371（シンチ）香草の名。又、辛夷といふ。〔揚雄、甘泉賦〕列二新雉於林薄一。〔注〕善曰、服虔曰、新雉、香草也、雉夷聲相近、云云、新雉、辛夷也。

【新稚】372（シンチ）複姓。〔萬姓統譜〕新稚狗、晉大夫、伐レ翟。

【新鑄】373（シンチウ）あらたに鑄て造ること。又、其の物。あらふき。〔舊唐書、食貨志上〕乾封新鑄之錢、今所司貯納、更不レ須レ鑄。

【新竹】374（シンチク）ことしだけ。わかたけ。〔謝朓、出二下館一詩〕紅蓮搖二弱荇一、丹藤繞二新竹一。〔張籍、寺宿齋詩〕晩到金光門外寺、寺中新竹隔レ簾多。〔朱熹、四時讀書樂詩〕新竹壓レ簷桑四圍、小齋幽敞明二朱曦一。

【新築】375（シンチク）㊀あたらしくきづく。又、其の家。〔戴叔倫、南野詩〕東山有二遺塋一、南野起二新築一。㊁地名。春秋、衞の地。河北省魏縣の南に新築城がある。衞の孫良夫が齊師と戰つた處。〔春秋、成、二〕衞孫良夫帥レ師、及二齊師一戰二于新築一。〔杜注〕新築、衞地。〔會箋〕今直隸大名府大名縣南有二新築城一。

【新茶】376（シンチヤ）あらたに製したちや。新茗。〔舊唐書、文宗紀下〕吳蜀貢二新茶一、皆于二冬中一作法爲レ之、上レ務二恭儉一、不レ欲レ逆二其物性一、詔所レ供新茶、宜下于二立春後一造上。〔顧況、焙茶塢詩〕新茶已上焙、舊架憂レ生レ醭。

【新張】377 hsin¹ chang¹ 商店があらたに開業すること。

【新娘】378 hsin¹ niang² 花嫁。新婦。新人。

〔新娘子〕379 hsin¹ niang² tzŭ 新娘に同じ。

【新場】380（シンチヤウ）鎭の名。㊀江蘇省南匯縣の西南。又、石笥灘といふ。〔讀史方輿紀要、江南、松江府、上海縣、下沙鎭〕新場鎭、在二下沙南九里一、一名、南下沙、元初置二鹽場於此一、場賦爲二兩浙最一、賈販甚盛、嘉靖三十二年、倭賊據二新場一、大爲二東南患一。㊁四川省墊江縣の東北。㊂貴州省黔西縣の東北、沙壩河の右岸。

【新仲】381（シンチユウ）宋、朱翌(**6－14424**‥583)の字。

【新注】382（シンチユウ）宋以後の經書の注をいふ。漢唐の注を古注といふに對す。

【新柱】383（シンチユウ）清、滿洲鑲黃旗人。姓は富察氏。諡は勤肅。乾隆の初、藍領侍衞から福州將軍となる。湖廣總督となり隄塍を修築して田廬を守り、頗る治績があつた。〔國朝耆獻類徵、二百八十七〕・〔從政觀法錄、十九〕・〔滿洲名臣傳、三十九〕。

【新著】384（シンチヨ）㊀あたらしい著作。㊁（シンチヤク）あらたに到着する。新着。

【新枕】385（ニヒマクラ）男女始めて同衾すること。〔伊勢物語〕ただ今宵こそ新枕すれ。

【新陳】386（シンチン）あたらしいのとふるいの。新舊。新古。新故。

〔新陳代謝〕387（シンチンタイシヤ）古い物は謝し去つてあたらしい物が來り代ること。新舊互に入りかはる。絶えずあたらしくなる。陳は舊。

【新鎭】388（シンチン）㊀縣名。民國、置く。河北省文安縣の西北。大清河の南。㊁鎭の名。㋑河南省濬縣の西南、衞河の南岸。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、濬縣〕新鎭、接二河南汲縣界一、爲二戍處一、元置二巡司於此一、明初革、洪武二十九年復置、又有二新鎭水驛一、亦在二縣西六十里一。㋺四川省屛山縣の西北。

【新丁】389（シンテイ）あたらしい壯年の男子。又、新しい僕役。〔宋史、吳芾傳〕芾捐レ之以二新丁一補二其額一。

【新定】390（シンテイ）㊀あらたに定める。又、あらたに定まる。〔史記、律書〕天下新定。〔漢書、諸侯王表序〕漢興之初、海內新定。㊁縣名。㋑三國吳、置く。浙江省遂安縣の西。〔讀史方輿紀要、浙江、嚴州府〕遂安縣、本歙縣南鄉之安定里、後漢建安十三年、孫氏析二置新定縣一、屬二新都郡一、晉改二今名一、屬二新安郡一。㋺晉、置く。今缺く。雲南省の境。㋩唐、置く。四川省長寧縣。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、長寧縣〕新定廢縣、唐志、久視元年、置二羈縻淯州一、治二新定縣一。

〔新定十二律京腔譜〕391（シンテイジフニリツケイカウフ）書名。十六卷。清、王正祥編。戲曲の京腔散齣の總集。

〔新定十二律崑腔譜〕392（シンテイジフニリツコンカウフ）書名。十六卷。清、王正祥編。崑曲の總集。曲文の傍に點板を加へるのみで樂譜はない。

【新亭】393（シンテイ）亭の名。㊀河南省商丘縣の城外。〔歸德府志〕王勝之建二新亭一、曰、流觴綠波、檜陰四合、昭碧妙峯、朝雨暮雲。㊁江蘇省江寧縣の南。又、勞勞亭といふ。李白に勞勞亭の詩がある。一名、臨滄觀。新亭淚を見よ。〔南史、宋孝武帝紀〕上至二新亭一、卽二皇帝位一、云云、改二新亭一爲二中興亭一。〔太平寰宇記〕臨滄觀、在二縣南勞勞山上一、有レ亭七間、名曰二新亭一、亦謂二之勞城一。㊂江蘇省江都縣の西北の蜀岡。

〔新亭淚〕394（シンテイノナミダ）時世を憂へる喩。東晉の名士等が江蘇省江寧縣の新亭で飮宴し、國運の衰へたのを嘆じて淚を流した故事。〔晉書、王導傳〕過レ江人士、每レ至二暇日一、相要出二新亭一飮宴、周顗中坐而嘆曰、風景不レ殊、擧レ目有二江山之異一、皆相視流涕、惟導愀然變レ色曰、當下共戮二力王室一、尅中復神州上、何至下作二楚囚一相對泣上邪。

〔新亭滿眼神州淚〕395（シンテイマンガンシンシウノナミダ）東晉の諸名士が新亭に宴飮し、淚を流して國家の衰運を嘆じ、神州の克復を誓つた故事。新亭淚を見よ。〔劉基、題二陳太初畫扇一詩〕一道滄江隔二戰塵一、白蘋風起浪鱗鱗、新亭滿眼神州淚、未レ識中流擊レ楫人。

【新帝】396（シンテイ）あらたに御卽位になつた天子。〔平家物語、十、藤戸〕同二十八日新帝の御卽位あり。

【新訂】397（シンテイ）あらたに訂正すること。

【新第】398（シンテイ）あたらしい屋敷。〔黃滔、陳侍御新居詩〕幕客開二新第一、詞人偏有レ詩。〔劉德仁、題二從伯舍人道正里南園一詩〕帝里餘二新第一、朱門面二碧岑一。

【新隄】399（シンテイ）㊀川の名。源は山東省曹縣の西北。上流は白花河。下流は八里河といひ、淶河に注ぐ。㊁鎭の名。湖北省沔陽縣の南、大江の北岸。漢口・岳陽の閒に當る。商業地。汽船の停泊所。

【新鄭】400（シンテイ）縣名。秦・漢、置く。周の宣王の弟の封地。春秋、鄭の都。又、戰國、韓の都。今、河南省開封縣の西南。雙泊河の北岸。京漢鐵路に沿ふ。〔左氏、隱、十一〕鄭莊公曰、吾先君新邑二于此一。〔漢書、地理志上〕河南郡、縣二十二、新鄭。〔清史稿、地理志〕河南、開封府、縣十一、新鄭。

【新泥】401（シンデイ）あら壁。〔桃花扇、閒話〕村店新泥壁。

【新調】402（シンテウ）㊀あたらしいみつぎもの。〔魏書、張普惠傳〕庫府空虛、宜レ待二新調一。㊁あらたにこしらへる。新規の調製。

【新條】403（シンデウ）㊀あらたに制定した法令。〔舊唐書、食貨志下〕一依二舊法一、不レ用二新條一。㊁あたらしい枝。新枝。〔謝朓、敬亭路中聯句〕新條日向レ抽、落花紛已委。〔姚合、楊柳枝詞〕江上東西離別饒、舊條折盡折二新條一。

【新典】404（シンテン）あたらしい法典。〔北史、高謙之傳〕乞行二新典一、更明二往制一、庶姦豪知レ禁、頗自屛レ心。〔歐陽詹、右街副使廳壁記〕天子外有二六合一、故內闢二六街一以達レ之、彼爲二庭除一、此爲二堂室一、欲レ靜二諸外一、必先二諸內一、乃置レ使以淸レ之、我唐新典也。

【新店】405（シンテン）㊀地名。㋑山東省益都縣の北。膠濟鐵路に沿ふ。㋺河南省信陽縣の南境、大別山脈の北、平靖武勝兩關の閒。京漢鐵路の隧道の北口。㋩河南省商城縣の南。㋥湖南省桃源縣の西南。㋭江西省萍鄉縣の北東、市水の南岸。㋬雲南省馬關縣の西南。越南の界に近い。㋣甘肅省洮沙縣の東南。㊁鎭の名。㋑河北省交河縣の東。又、東新店・東辛店ともいふ。㋺河北省任縣の

東。㋩湖北省蒲圻縣の西南。新店河に臨む。商業地。❸（シンミセ）あたらしく開業した店。

【新店口】406（シンテンコウ） 鎭の名。河南省沁陽縣の北。〔河內縣志〕唐武宗討㆓劉稹㆒、王茂元屯㆓軍萬善鎭㆒、鎭牙將劉公直潛㆑師過㆓萬善南五里㆒、焚㆓雍店㆒、父老相傳、新店、卽雍店、因㆓公直焚後更建㆒故名。

【新店子】407（シンテンシ） 地名。❶河北省遵化縣の南。❷四川省緜陽縣の西。又、永興場といふ。❸四川省三台縣の南。

【新添】408（シンテン） ❶衞の名。明、置く。貴州省貴定縣治。〔明一統志〕宋嘉泰初、土官宋允高、克㆓服麥新等處㆒、以㆓其子宋勝㆒守㆑之、乃改㆓麥新㆒爲㆓新添㆒。❷關の名。貴州省貴陽縣城の東南。圖雲(**3**−**4832**‥5)に同じ。〔讀史方輿紀要、貴州、貴陽軍民府、貴定縣〕新添關、府東南一里、貴州站在㆓其下㆒。

【新田】409（シンデン） ❶あらたに開いた田。にひばり。開墾して滿㆓一年㆒となつたもの。一說に、滿㆓三年㆒となつたものをいふ。〔爾雅、釋地〕田一歲曰㆑菑、二歲曰㆓新田㆒。〔郝懿行義疏〕新田者、耕㆑之二歲、彊壚剛土、漸成㆓柔壤㆒、采芑正義引㆓孫炎㆒曰、新田、新成柔田也、毛傳用㆓爾雅㆒、禮坊記注、三歲曰㆓新田㆒、與㆓爾雅毛傳㆒不㆑合、蓋異說也。〔韻會〕菑、田一歲曰㆑菑、始反㆑草也、二歲曰㆑畬、漸和柔也、三歲曰㆓新田㆒、謂㆓已成㆑田而尙新㆒也、四歲則曰㆑田矣。〔詩、小雅、采芑〕薄言采㆑芑、于㆓彼新田㆒。❷地名。㋑春秋、晉の地。晉の景公、都を此に遷す。山西省曲沃縣の西南。〔左氏、成、六〕晉遷㆓于新田㆒。〔水經、澮水注〕遂居㆓新田㆒、又謂㆓之絳㆒、卽絳陽也。㋺廣東省海豐縣の東北。❸縣名。明末、置く。湖南省常寧縣の南。春陵山の東南、春水の上流の東北岸。〔清史稿、地理志〕湖南、永州府、縣七、新田。❹字號。㋑清、徐養原(**4**−**10110**‥641)の字。㋺清、趙經畬(**10**−**37171**‥501)の字。

【新甸】410（シンデン） 鎭の名。❶滿洲吉林省雙城縣の東南。❷滿洲吉林省賓縣の東北。枷板河の口に當り、松花江の埠頭を爲す。

【新渡】411（シント） ❶あらたに出來た渡し場。〔蘇軾、送㆓歐陽季默赴㆑闕、詩〕莫㆑辭白首寫㆓香泉㆒、已覺扁舟掠㆓新渡㆒。❷あらたに渡來すること。〔太平記、三十九、大內介降參〕數萬貫の錢貨、新渡の唐物等。

【新渡戶】412（ニトベ） 姓氏。

【新都】413（シント） ❶あたらしい都。〔舊唐書、地理志一〕隋開皇二年、自㆓漢長安故城㆒、東南移㆓二十里㆒、置㆓新都㆒、今京師是也。〔李白、上皇西巡㆓南京㆒歌〕華陽春樹似㆓新豐㆒、行入㆓新都㆒若㆓舊宮㆒。❷王莽をいふ。嘗て新都侯に封ぜられたからいふ。〔陸機、五等諸侯論〕新都襲㆑漢。〔注〕善曰、漢書曰、封㆓王莽㆒爲㆓新都侯㆒。❸郡名。㋑三國吳、置く。晉、新安と更む。故城は浙江省淳安縣の西。㋺晉、置く。四川省廣漢縣治。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕漢州、秦蜀郡地、漢爲㆓廣漢郡㆒云云、晉改爲㆓新都郡㆒。❹縣名。㋑漢、置く。四川省成都縣の東北。〔漢書、地理志上〕廣漢郡、縣十三、新都。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、新都縣〕新都舊城、漢縣治㆑此、法正依㆓劉璋㆒爲㆓新都令㆒、卽此城也、唐咸通十一年、南詔圍㆓成都㆒、東川帥顏慶復馳救、次㆓新都㆒、別將曾元裕、擊敗㆓蠻兵㆒、文德元年、王建攻㆓陳敬瑄於成都㆒、軍㆓新都㆒以逼㆑之、大順二年、敬瑄黨楊晟、欲㆘自㆓彭州㆒餉㆗成都㆖、建據㆓新都㆒、彭州道絕、卽今縣也。〔清史稿、地理志〕四川、成都府、縣十三、新都。㋺漢、置く。侯國。王莽、新都侯として此處に封ぜらる。河南省新野縣の東。〔漢書、地理志上〕南陽郡、縣三十六、新都。〔注〕侯國。

【新都侯】414（シントコウ） 漢、王莽(**7**−**20823**‥993)の封號。

【新登】415（シントウ） ❶あらたにのぼる。あらたに登用される。〔左氏、哀、十六〕子伯季子、初爲㆓孔氏臣㆒、新登㆓于公㆒。❷あらたに試驗に及第する。〔姚合、寄㆓李頻㆒詩〕珍重君名字、新登㆓甲乙科㆒。❸縣名。五代十國の吳越、置く。浙江省富陽縣の西南に湘溪があり、錢塘江に通ず。

【新特】416（シントク） あたらしい配偶。新婦。特は匹。〔詩、小雅、我行其野〕不㆑思㆓舊姻㆒、求㆓爾新特㆒。〔傳〕新特、外昏也。〔疏〕故外來之婦、爲㆓外昏㆒也、特、謂㆔獨來㆓夫家㆒。〔集傳〕特、匹也。〔會箋〕新特、謂㆓新婦㆒云云、新特、猶㆓新昏㆒也、故傳以㆓外昏㆒釋㆑之、外昏者、對㆔妻爲㆓內子㆒言也。

【新納】417（ニヒロ）（シキニヒナフ） 姓氏。

【新入】418（シンニフ） 其の仲間にあらたに加はること。其の學校などに初めて入ること。

【新任】419（シンニン） あらたに官に任ぜられる。〔六部成語、吏部、新任、注解〕初到㆓此處㆒做㆑官。〔福惠全書、蒞任部、親查閱〕新任盤查時、先請㆓前任及佐貳等官㆒俱至。

【新寧】420（シンネイ） ❶州名。明、置く。民國、縣に改め、又、扶南縣と改む。〔清史稿、地理志〕廣西、南寧府、州二、新寧州。❷縣名。㋑三國吳、置く。湖南省常寧縣の西北。〔讀史方輿紀要、湖廣、衡州府、常寧縣、常寧舊城〕新平城、在㆓縣南㆒、三國吳析㆓耒陽縣㆒置㆓新平縣㆒、屬㆓湘東郡㆒、晉因㆑之、劉宋省入㆓新寧縣㆒。㋺晉、置く。今缺く。廣西省の境。㋩南朝宋、置く。今缺く。貴州省の境。㋥南齊、置く。今缺く。陝西省の境。㋭西魏、置く。四川省開江縣の西北。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府〕新寧縣、漢宕渠縣地、梁置㆓新安縣㆒、幷置㆓新安郡㆒、西魏郡縣俱改、曰㆓新寧㆒、隋初郡廢、幷㆑縣入㆓三江縣㆒、唐武德二年、復置㆓新寧縣㆒、屬㆓通州㆒、太和三年、改屬㆓開州㆒、明年、還屬㆓通州㆒、宋屬㆓達州㆒、元因㆑之、明洪武四年、省入㆓梁山縣㆒、十四年、復置㆑縣改㆓今屬㆒。〔清史稿、地理志〕四川、綏定府、縣六、新寧。㋬唐、置く。福建省長樂縣の南。〔讀史方輿紀要、福建、福州府〕長樂縣、隋閩縣地、唐武德六年、析㆓置新寧縣㆒。㋣宋、置く。湖南省邵陽縣の西南。縣城は夫夷水の北岸。〔讀史方輿紀要、湖廣、寶慶府、武岡州〕新寧縣、漢都梁縣地、唐邵陽縣地、宋紹興二十五年、析㆓置新寧縣㆒、屬㆓武岡軍㆒。〔清史稿、地理志〕湖南、寶慶府、縣四、新寧。㋠明、置く。廣東省臺山縣。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府〕新寧縣、本新會縣地、自㆓元季㆒以來、諸猺煽亂、屢征不㆑服、明弘治十一年、討平㆑之、因析㆓置今縣㆒、初築㆓磚城㆒、正德六年、改築、周三里有奇。〔清史稿、地理志〕廣東、廣州府、縣十四、新寧。

【新寧鐵路】421（シンネイテツロ） 鐵道の名。廣東省台山縣の斗山墟から北街に至る。清の光緒三十四年五月に竣工す。支線は台山縣から黎洞に至る。

【新年】422（シンネン） あたらしいとし。改つた年。明けた年。新歲。〔後漢書、百官志二〕太史令一人、掌㆓天時星曆㆒、凡歲將㆑終、奏㆓新年曆㆒。〔庾信、春賦〕新年鳥聲千種囀、二月楊花滿㆑路飛。〔駱賓王、晦日楚國寺宴序〕抱㆓古人之淸風㆒、翫㆓新年之淑景㆒。

【新年狀】423（シンネンジャウ） 新年の祝賀狀。

【迎㆓新年㆒】424（シンネンヲムカフ） あたらしい年を迎へる。〔荊楚歲時記〕歲暮家家具㆓肴蔌㆒、詣㆓宿歲之位㆒、以迎㆓新年㆒、相聚酣飮。

【新年宴會】425（シンネンエンクワイ） ❶もと一月五日、宮中に催された宴會で、羣臣に酒饌を賜はつたもの。❷新年のいはひに催す宴會。

【新巴】426（シンパ） 郡名。梁、置く。四川省廣元縣の西北。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、廣元縣〕葭萌城、梁天監十四年、云云、改㆑縣曰㆓晉安㆒、兼置㆓新巴郡㆒。

【新巴爾虎】427（シンパジコ） 部落の名。黑龍江省呼倫縣の東南、伊敏河の沿岸。世々游牧を業とし、清代、外興安嶺の南から遷つた。陳巴爾虎と相通ずる。

【新派】428（シンパ） ❶あたらしい流派。❷新派劇の略。壯士芝居・書生芝居とも呼ばれ、明治中期に興つた一種の風俗劇。在來の歌舞伎劇を舊劇・舊派といふに對して新演劇・新派といふ。

【新壩】429（シンパ） 鎭の名。❶江蘇省江都縣の南の新洲の上。❷江蘇省揚中縣の西北。❸江蘇省東海縣の南。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府、海州、石湫鎭〕新壩鎭、在㆓州南四十里㆒、新壩置㆓於此㆒、今爲㆓往來衝要㆒。

【新敗】430（シンパイ） あらたにやぶれる。敗れたばかり。〔蜀志、諸葛亮傳〕豫州新敗之後、安能抗㆓此難㆒乎。

【新輩】431（シンパイ） あたらしく知り合つた人々。新しい仲間。〔韓愈、東都遇㆑春詩〕舊遊喜㆓乖張㆒、新輩足㆓嘲評㆒。

【新梅】432（シンパイ） 始めて花を開いた梅樹。〔梁簡文帝、和㆓湘東王陽雲樓簷柳㆒詩〕曖曖陽雲臺、春柳發㆓新梅㆒。

【新醅】433（シンパイ） あらたに釀したもろみざけ。新釀の濁酒。〔陸游、舍北搖落景物殊佳偶作五首詩〕

東隣膰肉至、一笑擧㆓新酤㆒。

【新方】434シンパウ あたらしいしかた。又、しんきな調劑。〔耿湋、秋晚臥㆑疾寄㆓司空拾遺曙盧少府綸㆒詩〕老醫迷㆓舊疾㆒、朽藥誤㆓新方㆒。

【新報】435シンパウ ❶あたらしいしらせ。又、それをかきしるしたもの。新誌。〔伊洛淵源錄〕一人云有㆓新報㆒云。❷hsin^1 pao^4 新聞紙。

〖新報館〗436 hsin^1 pao^4 kuan^3 新聞社。

【新房】437 hsin^1 fang^2 新夫婦の閨房。又、新たに結婚した對手。

【新望】438シンバウ あたらしく望む。〔漢書、匈奴傳上〕六月中來、至㆓新望之地㆒。

【新麥】439シンバク 新熟の麥。〔左氏、成、十〕不㆑食㆑新矣、注〕言㆓公不㆑得㆑及㆑食㆓新麥㆒。〔東觀奏記〕臣恐㆓新麥未㆑登。

【新法】440シンパフ ❶あたらしい方式。新方。又、あらたに立てた法。〔韓非子、定法〕故利在㆓故法前令㆒、則道㆑之、利在㆓新法後令㆒、則道㆑之。〔唐書、食貨志四〕戶部侍郎判度支盧弘止以㆓兩池鹽法敝㆒、遣㆓巡院官司空輿㆒、更立㆓新法㆒。〔唐書、盧弘止傳〕條㆓上新法㆒。❷宋の神宗の時、王安石が時弊を救ふために政治・財政・社會・兵制の各方面に亙つて斷行した一大改革の諸法。卽ち均輸法・青苗法・保甲法・募役法・新貢擧法・太學生三舍法・市易法・保馬法・方田均稅法・免行法・手實法などの新法令をいふ。〔宋史、王安石傳〕農田水利・青苗・均輸・保甲・免役・市易・保馬・方田、諸役相繼並興、號爲㆓新法㆒。

〖新法算書〗441シンパフサンショ 書名。一百卷。明、徐光啓等及び西洋龍華民・羅雅谷・湯若望等撰。十一部に分れ、五部は曆の基本を明かにし、六部は曆の節次を明かにし、冠するに修曆緣起を以てする。〔四庫提要、子、天文算法類〕

【新版】442シンパン あらたにおこしたはんぎ。又、其のはんぎですつた印刷物。新板。新刻。

【新繁】443シンパン 縣名。三國蜀、置く。四川省成都縣の北。太平河の兩支流の閒。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕新繁縣、漢置㆓繁縣㆒、屬㆓蜀郡㆒、以㆓繁江㆒爲㆑名、後漢因㆑之、後蜀漢改曰㆓新繁㆒、晉仍爲㆓繁縣㆒、宋齊以後因㆑之、後周復改曰㆓新繁㆒、隋省入㆓成都㆒、唐初復置、屬㆓益州㆒。〔清史稿、地理志〕四川、成都府、縣十三、新繁。

【新板】444シンパン ❶あたらしいふだ。〔宋史、陳恕傳〕以㆓所㆑出榜㆒、別用㆓新板㆒、躬至㆓恕第㆒、請㆓判押㆒。❷新版に同じ。

【新番】445シンパン 德川時代、營中の警衞を掌り、將軍の御成りの時、其の先驅をつとめた役。

【新盤】446シンパン あたらしいさら。あたらしいはち。〔庾信、和㆔人日晚景宴㆓昆明池㆒詩〕小船行㆑釣罷、新盤待㆑摘㆑荷。

【新眉】447シンビ あらたにゑがいた眉。〔許月卿、眉子硯詩〕堪㆑笑石泉老居士、無㆑端渾沌畫㆓新眉㆒。

【新冰】448シンピヤウ あたらしいこほり。〔錢起、白石枕詩〕捧來太陽前、一片新冰清。

【新評】449シンピヤウ あたらしい批評。〔韻府引、戴昺、詩〕酒盞論㆑心疎㆓舊約㆒、詩筒到㆑眼快㆓新評㆒。

【新品】450シンピン あたらしい品。〔宋書、顏竣傳〕去春所㆑禁新品、一時施用。〔許渾、贈㆓茅山高拾遺㆒詩〕長覆㆓舊圖㆒碁勢盡、遍添㆓新品㆒藥名多。

【新賓】451シンピン 縣名。民國、置く。漢の元菟郡の地。今、滿洲遼寧省通化縣の西。渾河の上流。

【新鬢】452シンビン つやのある鬢の毛。〔杜牧、閨情詩〕娟娟却月眉、新鬢學㆓鴉飛㆒。

【新附】453シンプ あらたにつきしたがふ。又、其の者。〔後漢書、王梁傳〕鎭㆓撫新附㆒。〔魏志、梁習傳〕幷㆑土新附。

【新婦】454シンプ ❶子のよめ。息婦。〔後漢書、周郁妻傳〕沛郡周郁妻者、同郡趙孝之女也、字阿、少習㆓儀訓㆒、閑㆓於婦道㆒、而郁驕淫輕躁、多行㆓無禮㆒、郁父偉謂㆑阿曰、新婦賢者女、當㆓以㆑道匡㆑夫、郁之不㆑改、新婦過也。〔能改齋漫錄〕尊者斥㆓卑者之婦㆒曰㆓新婦㆒、卑對㆑尊稱㆓其妻㆒及婦人自稱亦然、不學者輒易㆑之曰㆓息婦㆒。❷弟のよめ。〔爾雅、釋親〕女子謂㆓兄之妻㆒爲㆑嫂、弟之妻爲㆑婦。〔注〕猶㆔今言㆓新婦㆒是也。❸はなよめ。新娘。新嫁娘。〔戰國、衞策〕衞人迎㆓新婦㆒。〔梁書、曹景宗傳〕閉㆓置車中㆒、如㆓三日、新婦遭㆑此、邑邑使㆓人無㆑氣。〔少室山房筆叢〕今俗以㆓新婚時㆒、男稱㆓新郎㆒、女稱㆓新婦㆒。❹若妻が謙遜して自ら呼ぶ言葉。わらは。〔晉書、列女、王渾妻鍾氏傳〕琰笑曰、若使㆘新婦得㆗配㆓參軍㆒生㆖子、故不㆓翅如㆑此。

〖新婦竹〗455シンプチク 竹の名。〔事物紺珠〕新婦竹、出㆓武林山陰㆒。〔筍譜〕其竹、圓直韌、可㆑爲㆑筏、筍則三月而生、可㆑食。

〖新婦子禪師〗456シンプシゼンジ ［佛］禪宗で柔弱な僧をいふ。卽ち意志の弱い僧を、自己の意志をまげても媚を夫にうらんとする新婦に譬へていふ。〔臨濟錄〕若似㆓新婦子禪師㆒、便卽怕㆘趁㆓出院㆒不㆓與㆑飯喫㆒不安不樂㆖。

【新膚】457アラハダ 未だ男に接しない女。始めて男に接する女。

【新服】458シンプク ❶あたらしく服從する。〔左氏、襄、四〕諸侯新服。❷あたらしい服。又、それを着る。〔唐書、高麗傳〕士皆敝衣、吾可㆓新服㆒耶。

【新物】459シンブツ あたらしい物。〔周禮、夏官、訓方氏〕訓㆓四方㆒、而觀㆓新物㆒。

【新墳】460シンプン あたらしい墓。〔權德輿、李晟挽詩〕河山封㆓故地㆒、金石表㆓新墳㆒。

【新文】461シンブン あらたに作つた文。〔孟郊、酬㆓友人見㆑寄㆓新文㆒詩〕覽㆓君郢曲文㆒、詞彩何沖融。

〖新文詩〗462シンブンシ 新作の詩文。〔孟郊、酬㆓友人見㆑寄㆓新文詩㆒詩〕爲㆑客棲未㆑定、況當㆓玄月中㆒。

【新聞】463シンブン ❶あらたにきく。耳あたらしい話。〔安得長者言〕吳俗、坐定、輒問㆓新聞㆒、此游閒小人、入㆑門之漸。〔桃花扇、設朝〕打㆓聽新聞㆒來。❷日々の出來事を記載して出版發行する印刷物。新聞紙の略。〔趙升、朝野類要、文書、朝報〕邊報、係㆔沿邊州郡、列日具㆓幹事人探報平安事宜㆒、實封申㆓尙書省樞密院㆒、朝報、日出事宜也、每日門下後省編定、請㆓給事判報㆒、方行㆓下都進奏院㆒、報㆓行天下㆒、其有㆓所謂內探・省探・衙探之類㆒、皆衷私小報、率有㆓漏泄之禁㆒、故隱而號㆑之曰㆓新聞㆒。

〖新聞紙〗464シンブンシ 日々の出來事を記載して出版發行する印刷物。〔朱孔彰、左文襄公別傳〕光緒三年、西洋新聞紙、載㆜俄國議願㆛得㆓俄元二百五十萬㆒交㆚還伊犂海上㆙、傳播未㆓必無㆑因。

〖新聞記者〗465シンブンキシヤ 新聞紙の記事の蒐集・執筆・編輯にあづかる人。

〖新聞政略〗466シンブンセイリヤク 新聞社又は新聞記者を味方とし、其の新聞紙を利用して自己に有利な言說報道をなさしめる政略。新聞政策。

〖新聞傳說〗467シンブンデンセツ 耳あたらしいうはさ。近ごろの評判。〔紅樓夢、一回〕當㆑作㆓一件新聞傳說㆒。

【新平】468シンペイ ❶郡名。㋑後漢、置く。陝西省邠縣。東晉の時、姚萇が新平を攻めたところ、苻堅が郡人を率ゐて固守したので、姚萇は圍んでこれを阬にした。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府〕邠州、古西戎地、云云、後漢興平元年、分㆓安定扶風㆒、置㆓新平郡㆒、魏晉因㆑之。㋺南朝宋、置く。今缺く。㋩南齊、新平左郡を置く。今缺く。江蘇省の境。㋥後魏、置く。今缺く。河南省の境。❷縣名。㋑漢、置く。河南省淮陽縣の東北。〔漢書、地理志下〕淮陽國、縣九、新平。㋺三國吳、置く。湖南省常寧縣の南。新寧（420）の❷を見よ。㋩隋、置く。陝西省邠縣。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、邠州〕新平廢縣、在㆓州治西㆒、漢漆縣地、云云、隋開皇四年、改爲㆓新平縣㆒。㋥唐、置く。江西省浮梁縣の東北。〔讀史方輿紀要、江西、饒州府、浮梁縣〕新平城、縣東三百二十里、唐初置㆓縣於此㆒。㋭唐、置く。廣西省馬平縣の南。〔讀史方輿紀要、廣西、柳州府、馬平縣、武熙廢縣〕新平廢縣、在㆓府南㆒、唐武德四年、析㆓馬平縣㆒置。㋬明、置く。雲南省元江縣の北。元江の支流、河底江の北岸。〔讀史方輿紀要、雲南、臨安府、寧州〕新平縣、本嶍峨部地、云云、萬曆十九年、夷酋普應春叛、討㆓平之㆒、置㆓新平縣㆒。〔清史稿、地理志〕雲南、元江直隸州、縣一、新平。㋣清、置く。新疆省尉犂縣。

〖新平民〗469シンペイミン 明治維新以後、あらたに平民の籍に入つた階級の者をいふ。

【新兵】470シンペイ ❶王莽の建てた新國の兵。〔溫子昇、寒陵山寺碑〕楚師之敗㆓于柏擧㆒、新兵之退㆓自昆陽㆒。❷あたらしい兵士。〔陸游、病臥詩〕邊頭定何似、頗說募㆓新兵㆒。❸あらたに入營した士卒。

【新柄】471シンガラ 衣服などの新しいがら。

【新蓱】472シンペイ あらたに生じたうきぐさ。蓱は水草の名。新萍。〔王融、三月三日曲水詩序〕新蓱泛㆑沚、華桐發㆑岫。

【新票】473 hsin¹ p'iao⁴ ❶あたらしい紙幣。❷あたらしい切手。

【新苗】474 シンベウ あたらしい苗。〔陶潛、時運詩〕有レ風自レ南、翼ニ彼新苗一。〔劉長卿、送三齊郎中赴ニ海州一詩〕直レ廬收ニ舊草一、行レ縣及ニ新苗一。

【新描】475 シンベウ あらたにゑがいた畫。〔韻府引、孫光憲、詞〕繡羅紋地粉ニ新描一、博山香炷旋ニ抽條一。

【新廟】476 シンベウ あらたにたてた廟。〔詩、魯頌、閟宮〕新廟奕奕、奚斯所レ作。〔蔡邕、胡太傅祠堂碑銘〕新廟奕奕、于以蒸嘗。

【新編】477 シンペン あらたにつづる。又、其の書物。〔李商隱、題ニ李上謩壁一詩〕舊著思玄賦、新編雜擬詩。

【新甫】478 シンポ ❶山名。山東省新泰縣の西北。今名は宮山。〔詩、魯頌、閟宮〕新甫之柏。〔傳〕新甫、山也。〔新泰縣志〕相傳、漢武封ニ禪於此一、見ニ仙人跡一、建ニ離宮其上一、故改名ニ宮山一、亦名ニ小泰山一。❷字號。㋑宋、毛鼎新（6－16772‥313）の字。㋺元、陳柏（11－41698‥509）の字。㋩明、薛己（9－32123‥28）の字。㋥明、馬維銘（12－44572‥684）の字。㋭明、王宗沐（7－20823‥1855）の字。㋬清、恩銘（4－10591‥146）の字。㋣清、何桂芬（1－511‥249）の字。㋠清、唐心柏（2－3709‥451）の號。

【新甫侯】479 シンポコウ 漢、王嘉（7－20823‥112）の封號。

【新保】480 シンポ 關の名。又、新堡關に作る。四川省理番縣の東南、岷江の東。保子關と江を隔てて相望み、漢夷雜居し、西路の要衝をなす。

〔新保安〕481 シンポアン 城の名。河北省涿鹿縣の東北。もと雷家站といふ。京綏鐵路に沿ふ。

【新蒲】482 シンポ 若葉の出たかはやなぎ。〔謝靈運、於ニ南山一往ニ北山一經ニ湖中一瞻眺詩〕新蒲含ニ紫茸一。〔杜甫、哀江頭〕江頭宮殿鎖ニ千門一、細柳新蒲爲レ誰綠。

【新牡】483 シンボ 若い男。元氣盛な男。〔春秋繁露、循天之道〕是故、新牡十日而一游ニ於房一、中年者倍ニ新牡一、始衰者倍ニ中年一、中衰者倍ニ始衰一、大衰者以レ月當ニ新牡之日一、而上與ニ天地一同レ節矣。

【新募】484 シンボ あらたにつのる。〔魏志、武帝紀〕乃罷ニ吏兵新募者一。

【新墓】485 シンボ あたらしい墓。

【新封】486 シンポウ あたらしい領地。〔韻府引、舊唐書、高宗紀〕甌脫頓空ニ于內地一、斥堠全據ニ于新封一。

【新豐】487 シンポウ ❶川の名。源は廣東省新豐縣の西北。東江に注ぐ。一名、小長江。又、南河といふ。❷湖の名。江蘇省丹徒縣の東南。〔晉書、張闓傳〕（元帝時、闓爲ニ晉內史一）立ニ曲阿新豐塘一、溉ニ田八百餘頃一。〔讀史方輿紀要、江南、鎭江府、丹徒縣〕新豐湖、府東南三十五里、亦曰ニ新豐塘一。❸縣名。㋑漢、置く。秦の驪邑。漢の高祖が、都を長安に定めた時、太上皇が豐に歸らんことを思つたので、高祖は、城寺街里を改め築いて豐に象り、豐の民を徙して新豐といふ。故城は陝西省臨潼縣の東北。〔漢書、地理志上〕京兆尹、縣十二、新豐。〔西京雜記、二〕高帝既築ニ新豐一、幷移ニ舊社一、衢巷棟宇、物色如レ舊。㋺南朝宋、置く。湖北省江陵縣の地。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府、江陵縣〕安興城、在ニ府西北一、江左僑ニ立新興郡一、領ニ廣牧・定襄・雲中・九原・宕渠・新豐六縣一。㋩南朝宋、置く。湖北省舊襄陽府の境。㋥南朝宋、置く。今缺く。雲南省の境。㋭梁、置く。湖北省竹山縣の東。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府、竹山縣〕上庸城、縣東四十里、云云、梁改レ縣曰ニ新豐一。㋬南齊、置く。今缺く。雲南省舊大理府の境。㋣後魏、置く。今缺く。安徽省宿縣の北の新豐集。㋠後魏、置く。今缺く。安徽省の境。㋷隋、置く。河北省蒿城縣の東南の新豐村。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、藁城縣、柏肆城〕新豐城、在ニ縣東北一、隋義寧初、置ニ新豐縣一、屬ニ鉅鹿郡一。㋦唐、置く。今缺く。雲南省舊曲靖府の境。㋸南齊、置く。廣東省連平縣の西南。新豐江の北岸。❹鎭の名。㋑江蘇省丹徒縣の東南。運河に臨む。滬寧鐵路に沿ふ。〔讀史方輿紀要、江南、鎭江府、丹徒縣〕新豐鎭、府東南四十五里、與ニ新豐塘一相近。㋺江蘇省太倉縣の南。㋩江西省南城縣の南。汝水の西岸。㋥浙江省嘉興縣の東。㋭湖北省大冶縣の西北。大冶鐵路に沿ふ。㋬安徽省太平縣の西北。㋣漢の新豐縣。陝西省臨潼縣の東北。

〔新豐酒〕488 シンポウシユ 酒の名。〔梁元帝、登ニ江州百花亭一懷ニ荊楚一詩〕試酌ニ新豐酒一、遙勸ニ陽臺人一。〔王維、少年行〕新豐美酒斗十千、咸陽遊俠多ニ少年一。

〔新豐折臂翁〕489 シンポウノセツピヲウ 新樂府の名。唐、白居易作。邊功を戒めたもの。〔白居易、新樂府、新豐折臂翁〕新豐老翁八十八、頭鬢眉鬚皆似レ雪、玄孫扶向ニ店前一行、左臂憑レ肩右臂折、問レ翁臂折來幾年、兼問致レ折何因緣、翁云貫屬新豐縣、生逢ニ聖代一無ニ征戰一、慣レ聽梨園歌管聲、不レ識旗槍與ニ弓箭一、無レ何天寶大徵レ兵、戶有ニ三丁一點ニ一丁一、點得驅將何處去、五月萬里雲南行、聞道雲南有ニ瀘水一、椒花落時瘴烟起、大軍徒涉水如レ湯、未レ過十人二三死、村南村北哭聲哀、兒別ニ爺孃一夫別レ妻、皆云前後征レ蠻者、千萬人行無ニ一回一、是時翁年二十四、兵部牒中有ニ名字一、夜深不三敢使ニ人知一、偸將ニ大石一槌折レ臂、張レ弓簸レ旗俱不レ堪、從レ茲始免レ征ニ雲南一、骨碎筋傷非レ不レ苦、且圖ニ揀退歸ニ鄕土一、此臂折來六十年、一肢雖レ廢一身全、至レ今風雨陰寒夜、直到ニ天明一痛不レ眠、痛不レ眠、終不レ悔、且喜老身今獨在、不レ然當時瀘水頭、身死魂孤骨不レ收、應下作ニ雲南望鄕鬼一、萬人塚上哭呦呦上、老人言、君聽取、君不レ聞開元宰相宋開府、不レ賞ニ邊功一防ニ黷武一、又不レ聞天寶宰相楊國忠、欲レ求ニ恩幸一立ニ邊功一、邊功未レ立生ニ人怨一、請問新豐折臂翁。

【新木】490 シンボク 若葉になつた木。〔李商隱、安平公詩〕時禽得レ伴戲ニ新木一、其聲尖咽如ニ鳴梭一。

【新盆】491 シンボン ❶あたらしいお盆。〔儀禮、士喪禮〕新盆槃瓶。❷ニヒボン 死後最初の盆。はつぼん。

【新米】492 シンマイ ❶今年收穫した米。新穀。古米の對。〔南齊書、劉懷慰傳〕民有下餉ニ其新米一斛一者上。〔白居易、自詠ニ老身一示ニ諸家屬一詩〕粥美嘗ニ新米一、袍溫換ニ故綿一。❷あらたに仲間入りした者。新參。

【新莽】493 シンマウ 王莽の建てた新國をいふ。

〔新莽六體〕493′ シンマウノロクタイ 王莽の時に出來た六つの書體、古文・奇字・篆書・佐書・繆篆・鳥蟲をいふ。〔許愼、說文解字敍〕秦書有ニ八體一、四曰ニ蟲書一、注〕新莽六體、有ニ鳥蟲書一、所三以書ニ旛信一也、此蟲書卽書ニ旛信一者。

【新蔓】494 シンマン あたらしく延びたつる。〔趙孟頫、詠ニ逸民一詩〕瓜田引ニ新蔓一、不レ見ニ桃與李一。

【新味】495 シンミ 其の年に始めてあぢはふもの。はつもの。時新。〔後漢書、鄧皇后紀〕凡供薦新味、多非ニ其節一。〔拾遺記、六、後漢〕爲レ客ニ人家一、得ニ新味一、則含レ懷而歸。〔王灣、晚夏馬嵬卿叔池亭卽事寄ニ京都一二知己一詩〕盛香蓮近拆、新味瓜初剖。

【新民】496 シンミン ❶民をあらたにする。民を教へて惡を去り善に遷つて面目をあらためしめること。又、其の民。作ニ新民一を見よ。〔商子、徠民〕以ニ故秦一事レ敵、而使三新民作ニ本兵一。❷府名。清、置く。鎭安・彰武の二縣を管轄す。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕奉天、新民府、領ニ縣二一、鎭安・彰武。❸縣名。民國、置く。滿洲遼寧省瀋陽縣の西北。遼河の右岸に當り、柳河が其の中を貫く。瀋山鐵路に沿ふ。交通甚だ便利。清の光緒三十一年の日支新條約により通商場となる。

〔新民會〕497 シンミンクワイ 中華民國臨時政府が大學の明ニ明德一新レ民をモットーとして昭和十二年十二月二十四日に結成した民衆教化團體。

〔新民子〕498 シンミンシ 民國、梁啓超（6－14825‥231）の號。

〔新民埠〕499 シンミンフ 埠の名。廣東省花縣の西南。民國元年、建つ。

〔作ニ新民一〕500 シンミンヲサクス 日に舊惡を去りあらたな善に遷る民を鼓舞作興すること。一に民を作新すと讀む。〔書、康誥〕汝惟小子、乃服惟弘レ王、應ニ保殷民一、亦惟助レ王、宅ニ天命一、作ニ新民一。〔傳〕爲ニ民日新之行一。〔大學、傳二章〕康誥曰、作ニ新民一。〔章句〕鼓レ之舞レ之、之謂レ作、言三振ニ起其自新之民一也。

【新明】501 シンメイ ❶縣名。唐、置く。四川省岳池縣。〔讀史方輿紀要、四川、順慶府、廣安州、岳池縣〕新明廢縣、劉昫曰、本石鏡縣地、唐武德三年、析ニ置新明縣一、屬ニ合州一、舊治在ニ今縣南七十里一、宋開寶二年、改屬ニ廣安軍一、六年移ニ治軍溪鎭一、卽今治也。❷設治局の名。察哈爾省商都縣の東。

【新茗】502 シンメイ あらたに製した茶。新茶（376）に同じ。〔趙師使、宴坐詩〕一縷水沈香散後、半甌新茗

味回時。

【新銘】503シンメイ　明、叢思湯(2－3220‥99)の字。

【新綿】504シンメン　あらたに出來た綿。〔詩、秦風、無衣、與レ子同レ袍、傳、袍襺也、疏〕純著二新綿一、名爲レ襺、雜用二舊絮一、名爲レ袍。

【新麫】505シンメン　新麥の粉。〔杜甫、槐葉冷淘詩〕青高槐葉、采掇付二中厨一、新麫來二近市一、汁滓宛相倶。〔陸游、村舍雜書詩〕五月新麫成、六月甘瓜熟。

【新沐】506シンモク　あらたに髮を洗ふこと。新沐者必彈レ冠を見よ。

〔新沐者必彈レ冠〕507アラタニモクスルモノハカナラズクワンヲハジク　髮を洗つたばかりの者は必ず冠の塵を拂つてから冠する。我が身を潔くせんと欲するものは外物に汚されることを懼れる喩。〔楚辭、屈原、漁父辭〕新沐者必彈レ冠、新浴者必振レ衣、安能以二身之察察一、受二物之汶汶者一乎。〔韓詩外傳、一〕新沐者必彈レ冠、新浴者必振レ衣。〔荀子、不苟〕新浴者振二其衣一、新沐者彈二其冠一、人之情也。〔史記、屈原傳〕新沐者必彈レ冠、新浴者必振レ衣、安能以二身之察察一、受二物之汶汶者一乎。〔新序、節士〕新浴者必振レ衣、新沐者必彈レ冠。〔困學紀聞、諸子〕楚辭漁父、吾聞レ之、新沐者必彈レ冠、新浴者必振レ衣、安能以二身之察察一、受二物之紋紋者一乎、荀子曰、新浴者振二其衣一、新沐者彈二其冠一、人之情也、其誰能以二己之僬僬一、受二人之掝掝者一哉、荀卿適レ楚、在二屈原後一、豈用二楚辭語一歟、抑二子、皆述二古語一也。

【新野】508シンヤ　縣名。㊀漢、置く。河南省南陽縣の南、白河の東岸。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、鄧州〕新野縣、漢縣、屬二南陽郡一、後漢因レ之、云云、唐武德四年、置二新州于此一、旋廢レ縣、仍屬二鄧州一、唐末省入二穰縣一、宋爲二新野鎭一、元復置レ縣、屬二鄧州一。〔淸史稿、地理志〕河南、南陽府、縣十、新野。㊁後魏、置く。今缺く。安徽省の境。

〔新野懷王〕509シンヤクワイワウ　南朝宋、劉夷父(2－2224‥669)の封謚號。

【新陽】510シンヤウ　㊀新春。新年。〔謝靈運、登二池上樓一詩〕新陽改二故陰一。〔注〕濟曰、春爲レ陽。㊁縣名。㋑漢、置く。安徽省太和縣の西北。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、新陽。㋺漢、置く。侯國。山東省舊兗州府の境。〔漢書、地理志上〕東海郡、縣三十八、新陽。〔注〕侯國。㋩三國魏、置く。甘肅省秦安縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、秦州、秦安縣、阿陽城〕新陽城、在二縣西一、漢略陽縣地、三國魏析二置新陽縣一、屬二漢陽郡一、晉屬二天水郡一。㋥三國吳、置く。湖南省寧鄕縣の北。〔讀史方輿紀要、湖廣、長沙府〕寧鄕縣、三國吳析二置新陽縣一。㋭南朝宋、置く。湖北省京山縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、安陸府〕京山縣、晉惠帝時、析二置新陽縣一、屬二竟陵郡一。㋬南齊、置く。今缺く。湖北省舊德安府の境。㋣南齊、置く。陝西省南鄭縣の地。㋠後魏、置く。今缺く。甘肅省の境。㋷淸、置く。江蘇省崑山縣。〔淸史稿、地理志〕江蘇、蘇州府、縣九、新陽。

【新樣】511シンヤウ　あたらしいかた。しんがた。新體。新樣式。〔張祜、送二走馬使一詩〕新樣花文配二蜀羅一、同心雙帶蹙二金蛾一。

〔新樣式〕512シンヤウシキ　あたらしい形式や方式。

〔新樣兒的曲子〕513 hsin^1 yang^4 êrh tê ch'ü^3 tzŭ　はやりうた。〔紅樓夢、二十八回〕備把那體己新樣兒的曲子、唱個我聽。

【新約】514シンヤク　新規の約束。あらたに締結した條約。

〔新約聖書〕515シンヤクセイショ　基督教の經典。舊約聖書に對して基督出現以後の記事を集めた書で、正經は四百年以後に制定され、四福音書・使徒行傳・使徒書翰・默示錄から成る。全二十七卷。原本は三篇の例外のほかはギリシヤ語で書かれ、筆者は數人である。

〔新約全書〕516シンヤクゼンショ　新約聖書に同じ。

【新藥】517シンヤク　あたらしく發明せられた藥。

【新譯】518シンヤク　㊀〔佛〕漢譯經典の唐代以下の諸譯を新譯とし、それ以前のものを舊譯とする。〔大部補注、五〕劉漢已來、謂二之舊譯一、李唐而下、謂二之新譯一。㊁あたらしい飜譯。又、其の書。

【新喩】519シンユ　縣名。三國吳、置く。漢の宜春縣の地。渝水に近いのでもと新渝を名づけ、唐の至つて渝を改めて喩とす。江西省淸江縣の西。〔讀史方輿紀要、江西、臨江府〕新喩縣、漢豫章郡宜春縣地、三國吳寶鼎二年、析二置新渝縣一、以二渝水一爲レ名、屬二安成郡一、晉因レ之、宋曰二新兪一、云云、元貞初、升爲二新喩州一、明朝仍爲レ縣。〔淸史稿、地理志〕江西、臨江府、縣四、新喩。

【新畬】520シンヨ　開墾して二歲を經た田を新といひ、三歲を經た田を畬といふ。〔詩、周頌、臣工〕嗟嗟保介、維莫之春、亦又何求、如二何新畬一。〔傳〕田二歲曰レ新、三歲曰レ畬。

【新鷹】521シンヨウ　あらたに獲た鷹。〔張籍、宮詞〕新鷹初放兎猶肥。〔雍陶、罷二還邊將一傳〕新鷹飽レ肉唯閑獵、舊劍生レ衣懶二更磨一。

【新浴】522シンヨク　あらたにゆあみすること。新浴者必振レ衣を見よ。

〔新浴者必振レ衣〕523アラタニヨクスルモノハカナラズイヲフルフ　入浴したばかりの者は必ず衣を振つて塵を拂つてから着る。我が身を潔くしようとする者は外物のために汚されることを懼れる喩。新沐者必彈レ冠(507)を見よ。

【新羅】524シンラ シラギ　㊀古代の朝鮮の一國。三韓の一つ。前漢の末に建國し、傳へて昔解脫に至り、國號を改めて雞林といひ、又、數傳して金氏となり、西晉の末に至つて辰韓・弁韓を併合した。我が神功皇后の征に服して任那府を設けたが、後漸く強く、任那府を取つた。尋いで百濟・高句麗に侵されて救を唐に乞ひ、これを滅ぼし、半島を統一して唐に臣事した。五代の時、又分裂し、高麗に滅ぼされた。〔南史、新羅國傳〕新羅在二百濟東南五十餘里一。〔李衞公問對、上〕高麗數侵二新羅一。㊁姓氏。

〔新羅琴〕525シラギコト　樂器の名。箏より稍〻小さく、十二絃で、絃の名に、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の十干及び天・地の名目を用ひる。初、新羅國から渡來したから名づけたといふ。〔倭名類聚抄、調度部、音樂具〕新羅琴、之良岐古度。〔雅樂寮式、凡樂器絃料絲〕新羅琴一面。〔注〕長五尺、料絲四兩。

〔新羅漆〕526シンラシツ　高麗・百濟の地方から産した黃漆。〔雞林志〕高麗黃漆、生搗、六月刺取、瀋色若レ金、日暴則乾、本出二百濟一、今浙人號二新羅漆一。

〔新羅山人〕527シンラサンジン　淸、華嵒の別號。華嵒(9－31214‥74)を見よ。

〔新羅白玉〕528シンラハクギョク　白附子(8－22678‥1393)の異名。〔淸異錄、藥、藥譜〕新羅白玉、白附子。

〔新羅陵王〕528′シンラリョウワウ　雅樂曲の一。唐樂に屬する壹越調の曲で、もとは沙陀調と稱した。破と急の二樂章がある。

〔新羅景哀王〕529シラギノケイアイワウ　朴魏膺(6－14428‥39)を見よ。

〔新羅惠恭王〕530シラギノケイキョウワウ　金乾運(11－40152‥1244)を見よ。

〔新羅敬順王〕531シラギノケイジュンワウ　金傅(11－40152‥974)を見よ。

〔新羅元聖王〕532シラギノゲンセイワウ　金敬信(11－40152‥1240)を見よ。

〔新羅眞興王〕533シラギノシンコウワウ　金彡麥宗(11－40152‥1423)を見よ。

〔新羅眞智王〕534シラギノシンチワウ　金金輪(11－40152‥1223)を見よ。

〔新羅眞平王〕535シラギノシンペイワウ　金白淨(11－40152‥1362)を見よ。

〔新羅宣德王〕536シラギノセントクワウ　金良相(11－40152‥1407)を見よ。

〔新羅智證王〕537シラギノチショウワウ　金智大路(11－40152‥1433)を見よ。

〔新羅法興王〕538シラギノハフコウワウ　金原宗(11－40152‥1250)を見よ。

〔新羅武烈王〕539シラギノブレツワウ　金春秋(11－40152‥1299)を見よ。

〔新羅文武王〕540シラギノブンブワウ　金法敏(11－40152‥1363)を見よ。

【新郎】541シンラウ　あらたにをつとなつた男子。はなむこ。新壻。新郎新婦を見よ。

〔新郎君〕542シンラウクン　唐代、あらたに及第した進士。新郎新婦を見よ。〔摭言〕薛逢戹二於宦途一、策二羸馬一赴レ朝、値二新進士綴行而出一、團師所レ由輦、斥令三回二避新郎君一、逢遣二价語レ之曰、莫レ乞レ相、阿婆三五少年時、也曾東塗西抹來。

〔新郎新婦〕543シンラウシンプ　あたらしく夫婦となつたもの。はなむことはなよめ。新郎と新婦。〔少室山房筆叢、莊嶽委談、上〕今俗以二新娶男一稱二新郎一、女稱二新婦一、云云、新郎君、唐人自稱二新獲レ第者一。

【新來】544シンライ あたらしく來る。〔左氏、襄、四〕諸侯新服、陳新來和。

〖新來子〗545シンライシ あたらしく來た女子。〔楊維楨、新來子樂府〕何處新來子、樊姬不レ妒レ人。

【新蘭】546シンラン 今年生えたあたらしい蘭。わかい蘭。〔李山甫、賀二邢州盧員外一詩〕北省諫書藏二舊草一、南宮郎署握二新蘭一。

【新吏】547シンリ あらたに任命された官吏。〔漢書、黃霸傳〕霸曰、所レ易新吏、又未二必賢一、或不レ如二其故一。

【新里】548シンリ ❶あたらしく移り住んだ里。未だ住みなれない里。〔杜審言、登二襄陽城一詩〕冠蓋非二新里一、章華即舊臺。❷ニヒサト 姓氏。

【新犂】549シンリ 漢代、匈奴の國名。〔漢書、匈奴傳上〕後北服二渾窳・屈射・丁零・隔昆・新犂之國一。

【新柳】550シンリウ あらたに芽を出した柳。〔歐陽詹、御溝新柳詩〕東風韶景至、垂柳御溝新。〔黎逢、望二宮池柳色一詩〕上宮新柳變、小苑暮天晴。

〖新柳堂〗551シンリウダウ 清、宗元鼎(**3－7106**‥297)の室名。

【新立】552シンリツ あらたに位につく。〔左氏、文、十二、杞桓公來朝、始朝レ公也、疏〕劉炫云、魯公新立、鄰國及レ時來朝、則曰二公即位而來朝一、晚則云二始朝レ公也、諸侯自新立、來及レ時者、則云二即位而來見一、晚則云三始見二霸王即位一、魯公往朝、則曰レ朝二嗣君一、魯君新立、往朝二大國一、則曰二即位而往見一也。〔漢書、高帝紀下〕詔曰、天下既安、豪傑有レ功者封レ侯、新立、未レ能三盡圖二其功一。〔注〕師古曰、新立、言三新即二帝位一也。

〖新立屯〗553シンリツトン 地名。❶滿洲遼寧省黑山縣の北。商業地。打通鐵路に沿ふ。❷滿洲吉林省長春縣の東南。❸滿洲吉林省楡樹縣の東南。往來の要衝。

【新律】554シンリツ あらたに出來たおきて。新規。新法。〔魏志、劉劭傳〕作二新律十八篇一、著二律略論一。

【新栗】555シンリツ 今年出來た栗の實。〔陸游、初冬詩〕蝟刺拆レ蓬新栗熟。

〖新栗履〗556ニクラバチ 北海道北見國の地名。

【新率】557シンリツ あたらしく作つた比率。〔隋書、律曆志上〕自二劉歆・張衡・劉徽・王蕃皮・延宗之徒一、各設二新率一、未レ臻二折衷一。

【新涼】558シンリヤウ 秋に入つて始めて感ずるすずしさ。新秋の涼味。新涼燈火を見よ。〔陸游、綠淨亭晚興詩〕新涼已似二雁來後一、微雨卻如二梅熟時一。

〖新涼燈火〗559シンリヤウトウクワ 初秋の涼氣が始めて生じた頃、燈火に對して讀書するに宜しいのをいふ。〔朱松、寄二陳陷元一詩〕新涼宜二燈火一、永夜勘二書軼一。

〖新涼入二郊墟一〗560シンリヤウカウキヨニイル あたらしい涼風が荒れた村里に訪れてくる。〔韓愈、符讀二書城南一詩〕時秋積雨霽、新涼入二郊墟一、燈火稍可レ親、簡編可二卷舒一。

【新糧】561シンリヤウ あたらしい年貢。〔福惠全書、清丈部、總論〕欲下認二新糧一以足中舊賦上也。

【新旅】562シンリヨ あらたに他國から來たもの。〔韓非子、孤憤〕以二新旅一與二習故一爭、其數不レ勝也。

【新綠】563シンリヨク 初夏の頃の若葉のみどり。又、其の青葉。〔白居易、長安早春旅懷詩〕風吹二新綠一草芽拆、雨灑二輕黃一柳條濕。〔陳與義、縱步至二董氏園亭一詩〕槐樹層層新綠生、客懷依レ舊不レ能レ平。〔李文淵、賦二得四月清雨乍晴一詩〕小圃香銷雨乍停、陰陰新綠遍二郊坰一。

〖新綠滿園還可レ人〗564シンリヨクマンヱンマタヒトニヨロシ 新綠が園中に滿ちて人の目を喜ばせる。〔張軾、春日詩〕花柳芳州十日晴、五更風雨送二殘春一、莫レ嫌紅紫都吹盡、新綠滿園還可レ人。

【新林】565シンリン ❶あたらしい林。〔呂覽、諭大〕新林之無二長木一也。❷地名。江蘇省南京市の西南。〔儲光義、寄二孫山人一詩〕新林二月孤舟還、水滿二清江一花滿レ山。

〖新林浦〗566シンリンポ 川の名。江蘇省江蘇縣の西南。〔建康志〕新林浦、在二縣西南二十里一、源出二牛頭山一、西流七里入二大江一。

【新令】567シンレイ あたらしい法令。〔弘道館記述義、下〕幕府嘗欲レ布二新令一、詢二於三藩之君一。

【新例】568シンレイ あたらしい例。〔經學歷史、經學開闢時代〕杜預乃謂、周公所レ作爲二舊例一、孔子所レ修爲二新例一矣。

【新嶺】569シンレイ 山名。安徽省休寧縣の西南。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府、休寧縣〕新嶺、高六百餘仞、周二十里、西合二婺源・芙蓉諸嶺一爲二五嶺一、往來通レ道、嶺南有レ地、名二黃茅一、可下繇二小徑一直達上、爲二防禦要地一。

【新隸】570シンレイ 新參の部下。

【新麗】571シンレイ あたらしく美しいこと。又、其のもの。〔唐書、李元愷傳〕吾軀不レ可レ服二新麗一。〔蘇軾、跋二歐陽帖一文〕歐陽公筆勢險勁、字體新麗、自成二一家一。

【新寮】572シンレウ 新家。又、新室。〔吳澄、次二韻靈興避暑一詩〕靈峰存二舊迹一、方士構二新寮一。

【新曆】573シンレキ ❶あたらしい方法によつて作つたこよみ。あらたに制定した曆。〔晉書、律曆志下〕以二今新曆一、施二于春秋之世一。〔唐書、歷志三上〕開元九年、詔二僧一行一作二新曆一、推二大衍數一、立レ衍以應レ之。〔宋史、律曆志十五〕廢二舊曆一、而用二新曆一。❷新歲の曆書。〔翰林志〕冬至歲酒、兔・野雞、其餘時果・新茗瓜・新曆、是爲二經制一。〔來鵬、早春詩〕新曆才將二半紙一開。❸太陽曆。太陰曆を舊曆といふに對す。

【新蓮】574シンレン あらたに開いたはちす。〔梁簡文帝、採蓮賦〕唯欲三迴渡輕船、共採二新蓮一。〔陳後主、採蓮曲〕低荷亂二翠影一、采レ袖新蓮香。

【新路】575シンロ あたらしいみち。あたらしくひらけた道路。新道(362)に同じ。〔段成式、題二谷隱蘭若一詩〕半陂新路畬纔了、一谷寒煙燒不レ成。

【新哢】577シンロウ 鳥が春あらたに囀ること。〔袁桷、春思詩〕凍樹迴二青陽一、羈禽競二新哢一。

【新錄】578シンロク あらたに書きしるしたもの。〔唐書、藝文志一〕謝靈運、新錄樂府集十一卷。

【新論】579シンロン ❶あたらしい所論。〔蘇轍、次二韻子瞻聞レ不レ赴二商幕一詩〕近成新論無二人語一、仰羨飛鴻兩翅差。❷書名。㋑二十九篇。漢、桓譚撰。桓譚新論(**6－14774**‥52)を見よ。〔後漢書、桓譚傳〕譚著レ書言二當世行事一、二十九篇、號曰二新論一。㋺十卷。撰者未詳。劉子(**2－2224**‥309)の❶を見よ。㋩一卷。明、湛若水撰。〔丘陵學山、第五冊〕。㋥二卷。會澤正志齋撰。雄健な筆致を以て、尊王攘夷の立場から國體を宣揚す。其の目は國體・形勢・虜情・守禦・長計の五篇。㋭一卷。山縣大貳撰。

【新嘉坡】580シンガポール 又、星加坡に作る。❶島の名。馬來半島南端の小島。❷地名。英領海峽植民地の首邑。新嘉坡島の南岸。東西航海の要路に當り、英國の東洋に於ける軍事上の要衝である。〔重野成齋、航海朱印船〕晉州者、蓋今新嘉坡也。

【新角度】581シンカクド あたらしい角度。新しい觀點。

【新記錄】582シンキロク あたらしいレコード。運動競技成績の更新せられた記錄。

【新機軸】583シンキヂク 在來の者と異なつた新しい工夫・企畫。

【新丘兒】584シンキウジ 地名。滿洲熱河省阜新縣の東南。瀋山鐵路の支線が厲家窩鋪から此處に至る。石炭を產す。

【新局面】585シンキヨクメン 事のあたらしい成行の有樣。

【新金山】586シンキンザン 濠洲のメルボルン。其の地に金鑛があるからサンフランシスコに對していふ。

【新皇帝】587シンクワウテイ あらたに天子の地位についた方。〔稱謂錄、天子古稱、新皇帝〕老學菴筆記、今上初登極、周丞相草二儀注一、稱二新皇帝一、蓋創爲レ文也。

【新官人】588 hsin^1 kuan^1 jen^2 はなむこ。新郎。〔桃花扇、眠香〕新官人到門了。

【新灌園】589シンクワンヱン 戲曲の名。明、馮夢龍作。張鳳翼の灌園記を改作したもの。灌園記(**7－18759**‥9)を見よ。〔墨憨齋定本傳奇十五種〕・〔新曲十種〕。

【新姑爺】590 hsin^1 ku^1 yeh^2 花婿。新郎。

【新吾長】591シンゴチヤウ 清、梁同書(**6－14825**‥306)の號。

〖新吾長翁〗592シンゴチヤウヲウ 清、梁同書(**6－14825**‥306)の號。

【新御番】592′シンゴバン 江戸幕府の職名。平素は交代で勤番し、將軍の出行には前驅・警衞を勤める。初め四組、後、八組。寬永二十年創設。新番。近習番。

【新相知】593シンサウチ 始めて相知るをいふ。又、新しいしりあひ。〔楚辭、九歌、少司命〕樂莫レ樂二兮新相知一。〔注〕言二天下之樂一、莫レ大二於男女始相知之時一也。

【新桑繭】594（ニヒクハマユ） あたらしい蠶の繭。

【新莊閘】595（シンサウアフ） 水門の名。江蘇省淮陰縣の西。明の永樂中、建てて運河の淮水に入る口とした。今は廢す。

【新收銀】596 hsin^1 shou^1 yin^2 ㊀あらたな收入。㊁本年度の收入。

【新所帶】597（シンジヨタイ） あらたにかまへた世帶。あらたに家をもつこと。

【新炊飯】598（シンスイハン） たきたての飯。

【新世界】599（シンセカイ） 南北亞米利加洲、及び濠太利洲の稱。後世に至つて發見せられたからいふ。舊世界の對。

【新少年】600（シンセウネン） 若い少年。〔曹植、送二應氏一詩〕不レ見二舊耆老一、但覩二新少年一。

【新蕉軒】601（シンセウケン） 熊谷立閒の號。熊谷茘墩(**7−19294**··49)を見よ。

【新媳婦】602 hsin^1 hsi^2 fu^4 花嫁。

【新先斗】603（シンポント） 京都市の地名。

【新先輩】604（シンセンパイ） 唐代、擧子の、先に登第したものを先輩と呼び、あらたに登第したものを新先輩といふ。〔韋莊、癸丑年下レ第獻二新先輩一詩〕五更殘月省牆邊、絳旆蜺旌卓曉煙。

【新素履】605（シンソリ） あたらしい白ぐつ。〔呂覽、離俗〕新素履黑劒室。

【新愼齋】606（シンタサイ） 清、朱彝尊(**6−14424**··631)の號。

【新唐書】607（シンタウジヨ） 書名。二百二十五卷。宋、嘉祐年間、歐陽脩・宋祁等奉勅撰。舊唐書を改修したものであるから新唐書といひ、後世單に唐書といふ。十本紀十卷、十三志五十卷、四表十五卷、百四十二列傳百五十卷から成る。而して本紀・志・表は脩、列傳は祁の手に成ると稱せられてゐるが、呂夏卿は世系表の作成に力あり、宋敏求は唐代故實の拾集に努め、王疇は禮儀志から兵志を分ち、劉義叟は天文・五行志を書いてゐる。其の編纂には所謂春秋の筆法を用ひ、かなり明瞭に國家意識が現はれてゐる。内容を舊唐書に比すれば、本紀は舊の半ばを削り、志は舊の禮儀・音樂を合はせて禮樂とし、新たに儀衞・兵の二志を設けてゐる。又、舊に缺けてゐる四表を加へ、諸外國傳に於ては倭國・日本二傳の重複を正して日本傳としてゐる。全般的に舊に比して事實を增加し、文章を省略し、糾謬補正する所が多いが、增加史實には小說を材料とした等の非難もある。〔四庫提要、史、正史類〕。〖參考書〗【新唐書糾謬】二十卷 宋、吳縝撰。二十門に分け、駁する所凡そ四百餘事、初めの名を糾謬、後改めて辯證と爲す。而して紹興の閒、長樂の吳元美が湖州で刊行し、題して糾謬といふ。故に今に至るも尙其の舊名に沿ふ。〔四庫提要、史、正史類〕。【唐書直筆】四卷 宋、呂夏卿撰。歐氏の新唐書を駁すること四百事。〔四庫提要、史、史評類〕。【新舊唐書雜論】一卷 明、李東陽撰。【新舊唐書互證】二十卷 清、趙紹祖撰。

【新到任】608 hsin^1 tao^4 jen^4 新任。新着任の官吏。

【新女婿】609 hsin^1 nü^3 hsü^4 花婿。新婿。

【新除官】610（シンヂヨクワン） あらたに任ぜられた官。〔任昉、奏二彈劉整一文〕請以二見事一免二整新除官一。

【新陟王】611（シンチヨクワウ） あたらしく帝位にのぼつた王。〔書、康王之誥〕惟新陟王、畢協二賞罰一。

【新鳥蘇】612（シントリソ） 雅樂舞曲。納序曲ともいふ。高麗樂。新樂、大曲。高麗壹越調曲に屬す。四大曲の一つ。四人又は六人で舞ふ。舞人は常裝束を着、特殊の大きな甲をかぶり、假面を用ひ、後參桴を持つ。番舞は皇帝。平安初期、高麗人笛師下春が傳へたといふ。

【新內節】613（シンナイブシ） 淨瑠璃節の一種。鶴賀新內のはじめたもの。しんない。

【新泡茶】614 hsin^1 p‘ao^4 ch‘a^2 いれたての茶。あらたに立てた茶。

【新防人】615（ニヒサキモリ） あらたに派遣せられた防人。〔萬葉集、二〇〕今かはる爾比佐伎母利がふなでする。

【新發意】616（シンボチ シボチ） 佛あらたに菩提を求める意を發した人。在家・出家に通じていふ。後、あらたに佛門に入つたものの稱。今道心。我が國では四位以下の者の出家をいふ。發意は上求菩薩・下化衆生の大心を起すこと。發心。〔法華經、序品〕新發意菩薩、供二養無數佛一。〔宋高僧傳〕釋鑒眞雖二新發意一、有二老成風一。

【新發田】617（シバタ） ㊀越後國の地名。㊁姓氏。

【新發明】618（シンハツメイ） あらたに發明すること。

【新頒律】619（シンハンリツ） あらたに發布した刑律。依二新頒律一を見よ。

【依二新頒律一】620（シンハンリツニヨル） 凡そ律は頒行の日から効力を生ずる。若し犯罪が頒行以前に判決を經ないものは、新頒布の律によつて擬斷するのを法とする。〔明律、名例、斷罪依二新頒律一〕凡律自二頒降日一爲レ始、若犯在二已前一者、竝依二新律一擬斷。

【新判例】621（シンハンレイ） あたらしい判決例。

【新比叡】622（イマヒエ） 姓氏。

【新別心】623（シンベツシン） あらたに別れる心。〔謝靈運、登二臨海嶠一初發二彊中一作與二從弟惠連一可下見二羊何一共和上之詩〕戚戚新別心。

【新崩灘】624（シンホウタン） 灘の名。湖北省巴東縣の西、四川省巫山縣の東。〔水經、江水注〕江水歷レ峽、東逕二新崩灘一、此山漢和帝永元十二年崩、晉太元二年又崩、當二崩之日一、水逆流百餘里、湧起數十丈、今灘上有レ石、或圓如レ簞、或方似レ屋、皆崩崖所レ隕、故謂二之新崩灘一。

【新靺鞨】625（シンマカ） 雅樂舞曲。高麗樂。新樂、中曲。高麗壹越調曲に屬す。舞人四人。二人は五位の袍を着、他の二人は六位の袍をつけ、唐冠をかぶり、石帶・靴沓をつけ笏を持つて舞ふ。番舞は採桑老。高麗を經て入る。

【新磨銅】626（シンマドウ） 磨きたての銅の鏡。〔蒲道源、詩〕恍若三面映二新磨銅一。

【新良貴】627（シラキ） 姓氏。

【新遼河】628（シンレウガ） 川の名。源は滿洲熱河省の西北境の蘇克斜魯山。上源を察爾河といふ。開魯縣の西に至り、達布蘇圖泊となり、下流は遼河に注ぐ。

【新和泉】629（ニヒノミ） 上總國の地名。

【就二新官一】630（シンクワンニツク） あたらしい官職につく。〔海錄碎事、人事、祿仕〕凡言レ除者、除二故官一就二新官一也。

【新哀之情】631（シンアイノジヤウ） あらたな哀しみの情。〔潘岳、哀二永逝一文〕此蓋新哀之情然耳。

【新淫之聲】632（シンインノセイ） あたらしいみだらな歌のふし。〔列女傳、孽嬖、殷紂妲己傳〕作二新淫之聲、北鄙之舞、靡靡之樂一。

【新易鐵路】633（シンエキテツロ） 鐵道の名。京漢鐵路の支線。高陴店から梁格莊に至る。又、西陵枝路・高易枝路ともいふ。

【新蘅主人】634（シンカウシユジン） 清、張景祁(**4−9812**··968)「の號。

【新五代史】635（シンゴダイシ） 書名。七十五卷。宋、歐陽脩撰。徐無黨注。正名は新五代史記、略して五代史・五代史記ともいふ。新は舊五代史に對する稱呼。其の内容は本紀十二卷・列傳四十五卷・考三卷・世家十卷・年譜一卷・附錄三卷・目錄一卷。後梁の太祖から後周の恭帝に至る五代の史事を錄す。而して列傳中、一朝に專事した者を純臣、數朝に歷事したものを雜傳に列する。其の書法・褒貶は春秋を祖として義例謹嚴、敍述は史記に倣つて文章高簡、每卷、嗚呼の二字を用ひて論贊の起句としてゐる。〔四庫提要、史、正史類〕。〖參考書〗【五代史補】五卷 宋、陶岳撰。〔四庫提要、史、雜史類〕。【五代史闕文】一卷 宋、王禹偁撰。〔四庫提要、史、雜史類〕。【五代史記纂誤】三卷 宋、吳縝撰。〔四庫提要、史、正史類〕。【五代史記纂誤補】四卷 清、吳蘭庭撰。【五代史志疑】四卷 清、楊陸榮撰。〔四庫提要、史、正史類〕。【五代史肪截】四卷 清、張篤慶撰。〔四庫提要、史、史評類〕。【新五代史補注】七十四卷 清、彭元瑞等撰。

【新出手兒】636 hsin^1 ch‘u^1 shou^3 êrh ㊀はじめて。㊁新米。

【新井雨窓】637（アラヰウサウ） 仙臺の人。本姓は戶板。名は誼道。字は子浩・希中。通稱は三太夫・儀右衞門。號は雨窓・萑園・退軒。明治八年四月二十二日歿す、年六十三。增島蘭畹に師事し、又、昌平黌に學ぶ。官は仙臺藩儒・養賢堂學頭。經學は程朱を宗とす。詩文に巧。著に雨窓詩文集・雨窓和歌集・海阮策・言行類證・皇統歌・朱子家訓がある。〔仙臺史傳〕。

【新井滄洲】638（アラヰサウシウ） 仙臺の人。佐久間洞巖の季子。名は義質。字は子敬。通稱は彥四郎。號は滄

洲。寛政四年四月十六日歿す、年七十九。游佐木齋・新井白石・服部南郭に師事す。官は仙臺藩儒・國學教授兼侍講。著に滄洲遺文稿・滄洲先生詩集がある。〔仙臺史傳〕。

【新井白蛾】639 アラヰハクガ　江戸の人。名は祐登。字は謙吉。通稱は織部・白蛾。號は句蛾・黄州・龍山・古易館。寛政四年五月十四日歿す、年六十八。菅野兼山に師事す。官は金澤藩儒。初、江戸神田紺屋街に塾を開く。後、易說を平易に唱へ、門戸を建つ。著に易學小筌・易學類編・孝經集傳・牛馬問・廣易學必讀・古易一家言・古易一家言補・古易斷・古易斷外編・古易斷時言・古易斷時言外編・古易精義・古易通・古文孝經發・滄溟尺牘兒訓・左國易說・周易啓蒙考・周易精蘊・周易抄・周易本義考・詩經解・詩書通攷國字箋・聖學自在・小學疏・唐詩選兒訓（律四・絶三）・唐詩選絶句解・同文通考・補校・日本國名解・梅花心易評・蒙求發・闇の曙・老子形氣・論語彙解がある。〔先哲叢談、後、八〕・〔近代名家著述目錄〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【新井白石】640 アラヰハクセキ　江戸の人。名は君美。初名は璵。字は在中・濟美。小字は勘解由。號は白石・錦屛山人・紫陽・勿齋・天爵堂。享保十年五月十九日歿す、年六十九。木下順庵に師事す。官は幕府儒官。從五位下筑後守。大政に參與し、將軍家宣を助け獻替する所頗る多かつた。其の學は洽聞多識、和漢古今の典故に精通す。正四位を贈らる。著に奥羽海運記・新井家系・新井家譜・一帆集・以酊菴事議草・岩松氏系譜考・蝦夷志・蝦夷事略・江戸遺聞・應接事議・和蘭紀事・和蘭風土記（一名、和蘭陀考）・折焼柴之記・改貨議・改貨後議・高子觀遊記・孝德天皇白雉圖・樂考・樂對・鎌倉事略・九州事略・癸巳三月議・鬼神論・畿內治河記・玉考・金幣事略・空華集・黄白問答（一名、新野問答）・黄白問答後編・花押叢（自撰）・火器事略・畫工便覽・經說・雞肋稿・經邦典例（樂舞考・貨幣考・冠服考・車輿考・職官考・田制考）・教諭諺解・決獄考・江關筆談・鴻臚筆談・古器圖・國郡字考・國書復號紀事・國書文通考・五十四郡考・五色筆・古史通・古史通或問・語助集解・五事略（高野山事略・外國通信事略・殊號事略・本朝寶貨通用事略・琉球事略）・骨董錄・五服圖・小牧戰話・紺珠・祭祀考・采覽異言・坐間筆語・三家考・珊瑚綱・室新詩評・集古圖說・史疑・詩經圖・市舶議・市舶新例・品革威考・將軍宣下三十一度儀不同次第・正德年號考辨・車服制度手記・萩園錄・准后考・殊方通信錄・舜水解疑・書契文談・書工便覽・史論・新安手簡・新安手簡續纂・新近問答・神祖法意解・紳書・眞珠船・進呈案・人名考・新令句解・說苑粹・西學考略・西學推問・聖像考・姓名考・西洋紀聞・西洋人物集・西洋圖說・續善隣國寶記・孫武兵法擇・孫武兵法擇副言・太極圖述・退私錄・陶情集・高倉殿白石問答・地名河川兩字通用考・停雲集・朝鮮冠服の事・朝鮮信使儀・朝鮮信使賜饗儀注・朝鮮信使辭見儀注・朝鮮信使進見儀注・朝鮮信書式・朝鮮之詰・朝鮮聘使詳解・朝鮮禮聘事・天爵堂壽言・天爵堂壽詩・天爵堂漫抄・東音譜・東雅・同文通考・讀史餘論・長崎御用書物・那須國造碑考・南島志・日本行程考・日本紀神代卷考・日本紀論・俳優考・方策合編・續方策合編・白石遺稿・白石遺文・白石遺文拾遺・白石建議・白石艸集・白石雜錄・白石詩草・白石手簡・白石先生學訓・白石餘稿・白石爛・藩翰譜・藩翰譜系譜・屛風贊・百家編・武家官位裝束考・文公家禮考・文廟遺命・聘事後議・聘事文案・辨疑錄・奉命教諭・木瓜考・本佐錄考・本朝河功略記・本朝軍器考・文字考・山科殿白石問答・義家朝臣古圖考・鎧直衣考・律尺考驗・列朝實錄・倭地形類等がある。〔先哲叢談、正、五〕・〔近代名家著述目錄〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕・〔新井白石全集〕。

【新鈔兩關】641 hsin¹ ch'ao¹ liang³ kuan¹　新關（海關）と鈔關。

【新符括責】642 シンプクワツセキ　古、無籍の人を官から勘出して、あらたに戸籍に編入すること。〔三代實錄〕新符括責之輩。

【新補地頭】642′ シンポヂトウ　承久の變後、新たに補せられた地頭。本補地頭（**6**－**14421**・・375）の對。地頭（**3**－**4890**・・341）の❸を見よ。

【新奉鐵路】643 シンホウテツロ　鐵道の名。滿洲遼寧省新民縣から奉天省城に至る。東は南滿に接し、西は關內外に連なる。もと日本の軍用輕便鐵道。清の光緒三十三年、銀百六十六萬元を以て購ひ、關內外鐵路と合して京奉鐵路と稱した。

【新和碩特】644 シンワセキトク　部落の名。金山額特部七部の一つ。新疆省阿山道の東境。東は科布多札哈沁部、南と西は新土爾扈特部、北は阿爾泰烏梁海部と界す。其の先を蒙袞といふ。所部は一旗。又、哈弼察克新和碩特部といふ。

【禮㆑新親㆑舊】645 シンニレイシキウニシタシム　あたらしく仕へた人を禮遇し、舊くから仕へた人を親しむ。〔國語、周語中〕富辰對曰、尊㆑貴、明㆑賢、庸㆑勳、長㆑老、愛㆑親、禮㆑新、親㆑舊。〔注〕新、新來過賓也、舊、君之故舊也。

【新五代史記】646 シンゴダイシキ　新五代史（635）に同じ。

【新土爾扈特】647 シントジコトク　部落の名。金山額特部七部の一つ。新疆省阿山道の東南境。東は新和碩特部、南は沙漠を越えて新疆に接し、西と北とは阿爾泰烏梁海と界す。又、布勒罕河新土爾扈特部といふ。所部二旗がある。

【新陽明學派】648 シンヤウメイガクハ　陽明學の一派。一に浙中王門學派といふ。明の王畿・王艮等の唱へたもの。其の主張する所は、修養の道は靜坐・澄心に在りとし、其の徹底を圖るためには窮理も讀書も不必要であると論じた。

【新理想主義】649 シンリサウシュギ　❶自然主義に對抗して二十世紀に起つた新カント學派・新ヘーゲル派・オイケン・ベルグソン等の現代の理想主義哲學。❷人間の精神を尊重するに止まらず、個人主義を通して科學を超越し、個人をして宇宙に融合させようとする主義。トルストイ等がこれを唱へた。

【新浪曼主義】650 シンロマンシュギ　自然主義文學運動に反對して、十九世紀末から二十世紀初頭にドイツに擡頭した新文學。藝術至上主義・唯美主義乃至神祕主義等の傾向を帶び、美の顯現及び情調に重きを置いたもの。ドイツのホフマンスタールは其の代表者。

【若㆔新發㆓於硎㆒】651 アラタニケイヨリハツスルガゴトシ　刀劍などのあらたに磨き立てたやうにするどいこと。硎は砥石。〔莊子、養生主〕今臣之刀十九年矣、所㆑解數千牛矣、而刀刃若㆔新發㆓於硎㆒。

【新增詞林要韻】652 シンゾウシリンエウヰン　書名。不分卷。撰者未詳。〔四庫未收書目提要、三〕。

【新篇水滸畫傳】653 シンペンスイコグワデン　書名。九十卷。曲亭馬琴（初篇卷之十まで）・高井蘭山（二篇卷之十一から九編卷之九十まで）作。插畫は葛飾北齋。讀本。中國小說、水滸傳を飜譯して畫を插んだもの。岡島冠山の通俗忠義水滸傳、鳥山石燕の水滸畫潛覽に對して新篇といひ、畫傳といふ。

【新本鄭氏周易】654 シンポンテイシシウエキ　書名。三卷。後漢、鄭玄撰。清、惠棟編。王應麟の本は採摭未だ備はらないところから、其の疏漏を病み、九十二條を增して補正を爲したもの。〔四庫提要、經、易類〕。

【不㆑經㆑新何由得㆑故】655 アタラシキヲヘズンバナニニヨリテカフルキヲエン　初めから新しくなくていきなり古くはなれない。晉の桓冲が新衣を著るを好まないので、其の夫人が之に新衣を著ることを勸めて言つた言葉。〔世說新語、賢媛〕桓車騎、不㆑好㆑著㆓新衣㆒、浴後婦故送㆓新衣㆒與、車騎大怒、催使㆓持去㆒、婦更持還、傳㆑語云、衣不㆑經㆑新何由而故、桓公大笑著㆑之。〔故事成語考、衣服〕不㆑經㆑新何由得㆑故、婦勸㆓桓冲㆒。

【新箋決科源流至論】656 シンセンケツクワゲンリウシロン　書名。前集・後集・續集・別集とあり、林駉・黄履翁の撰。源流至論（**7**－**17926**・・54）を見よ。

【𣂺】13573

㊀シヤク　㊁チヤク

㊀斫（**5**－**13548**）に同じ。㊁〔篇海〕𣂺、同㆑斫。㊂斲（**5**－**13615**）の譌字。〔正字通〕𣂺、斲字之譌。

【𣃖】13574

トウ　ツ　〔集韻〕當侯切　尤

❶すき。くは。〔集韻〕𣃖、斸𣃖、偃鉏也。❷𠟭（**2**－**2080**）に同じ。〔正字通〕𣃖、同㆑𠟭。

【⿰⿱止凵斤】13575 セイ 誓(10－35514)の古字。〔集韻〕誓、古作㆑⿰⿱止凵斤。

【⿰⿱日⿹勹冈斤】13576 テイ 〔篇韻〕音鼎 **かなへ**。鼎。〔篇韻〕⿰⿱日⿹勹冈斤、鎗也、三足兩耳。

【⿰⿷匚㡭斤】13577 ダン 斷(5－13611)に同じ。〔隸釋〕⿰⿷匚㡭斤、犍爲楊君頌、橋梁⿰⿷匚㡭斤絕、卽斷字。

【⿰豖斤】13578 テン 〔川篇〕音瑑 **きる**。〔川篇〕⿰豖斤、斫也。

【⿰甚斤】13579 セツ 斮(5－13556)に同じ。〔字彙補〕⿰甚斤、同㆑斮。

【⿸斤亭】13580 テイ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿸斤亭、音亭。

【⿰亭斤】13581 チヤウ 義未詳。〔篇韻拾遺〕⿰亭斤、亭匠切。

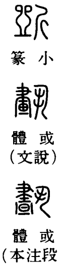
【⿰⿱目丌斤】13582 テイ ⿰⿱日⿹勹冈斤(5－13576)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰⿱目丌斤、同㆑⿰⿱日⿹勹冈斤。

【⿰皀斤】13583 ダン 断(5－13559)の譌字。〔中華大字典〕⿰皀斤、按、舊無㆓⿰皀斤字㆒、斷、古文作㆑⿰皀斤、斷、疑⿰皀斤之譌。

十畫

【⿰⿷匚米斤】13584 ダン 斷(5－13611)の俗字。〔篇海〕⿰⿷匚米斤、俗斷字。

【斲】13585 タク 〔集韻〕竹角切 覺 ㄓㄨㄛˊ chuo^2



小篆 或體（説文） 或體（段注本文）

❶**きる**。〔説文〕斲、斫也、从㆑斤𠁁聲。〔楚辭、九章、懷沙〕巧倕不㆑斲兮。〔注〕斲、斫也。❷**けづる**。〔穀梁、莊、二十四〕斲㆑之礱㆑之。〔釋文〕斲、削也。❸**ゑる**。ちりばめる。瑑(7－21058)に通ず。〔禮、檀弓上〕木不㆑成㆑斲。〔疏〕斲、彫飾也。〔淮南子、本經訓〕木工不㆑斲。〔注〕斲、或作㆑瑑、不㆓雕畫㆒也。❹或は斸(9－29233)・斵(5－13397)・劚(2－2114)・斱(5－13558)に作る。〔集韻〕斲、或从㆓丮・畫㆒、亦从㆑斤、或作㆓劚・斱㆒。

【斲割】1（タクカツ） けづりさく。斲削(7)を見よ。

【斲金】2（タクキン） 金をたちきる。〔淮南子、説林訓〕巧冶不㆑能㆑鑄㆑木、工匠不㆑能㆑斲㆑金者、形性然也。

【斲棺】3（タククワン） 棺をきる。〔魏志、王凌傳〕皆加㆓追戮㆒、陳㆑屍斲㆑棺。

【斲窓】4（タクサウ） 窓をきりやぶる。斲窓舍人を見よ。

〖斲窓舍人〗5（タクサウシヤジン） 唐の陽滔は、中書舍人となり、急遽命を受けて勅を制作したが、會〻令史が書庫の鑰を持つて他出し、舊本の檢尋すべきものがなかつたため、窓を破つて之を得た。時人之に因つて號して斲窓舍人といつた。〔朝野僉載〕陽滔爲㆓中書舍人㆒時、促命制㆑敕、令史持㆓庫鑰㆒他適、無㆓舊本檢尋㆒、乃斲㆑窓取得㆑之、時人號爲㆓斲窓舍人㆒。

【斲喪】6（タクサウ） けづりほろぼす。傷耗する。損傷する。精力を酒色につかひはたす。戕賊。〔左氏、哀、十五〕齊陳瓘過㆑衞、仲由見㆑之、曰、天或者以㆓陳氏㆒爲㆓斧斤㆒、既斲㆓喪公室㆒、而他人有㆑之、不㆑可㆑知也。〔陔餘叢考、斲喪〕人不㆓自愛惜㆒、耗㆓其精神於酒色㆒者、曰㆓斲喪㆒、語見㆓左傳㆒、齊陳瓘過㆑衞、仲由見㆑之曰、天或者以㆓陳氏㆒爲㆓斧斤㆒、既斲㆓喪公室㆒、而他人有㆑之、不㆑可㆑知也、其使㆓終享㆑之、亦不㆑可㆑知也、又唐書楊復恭傳、斲㆓喪天下㆒。

【斲削】7（タクサク） そぎけづる。轉じて、事を裁制する。〔荀子、儒效〕積㆓斲削㆒而爲㆓工匠㆒。〔韓非子、安危〕一曰、斲㆓削於繩之內㆒、二曰、斲㆓割於法之外㆒。〔呂覽、離俗〕然而以㆓理義㆒斲削。〔管子、形執〕奚仲之巧、非㆓斲削㆒也。

【斲彫】8（タクテウ） 文飾をけづり去る。斲雕に同じ。〔後漢書、皇后紀序〕及㆓光武中興㆒、斲㆑彫爲㆑朴。〔注〕彫、謂㆓刻鏤㆒也、史記、周漢興、破㆑觚而爲㆑圓、斲㆑彫而爲㆑璞。

【斲琱】9（タクテウ） 文飾をけづり去る。斲雕に同じ。〔漢書、酷吏傳序〕漢興、破㆑觚而爲㆑圜、斲㆑琱而爲㆑樸。〔注〕師古曰、琱、謂㆓刻鏤㆒也、琱、與㆑彫同。〔任昉、天監三年策㆓秀才㆒文〕斲㆑彫刓㆑方、經㆓綸草昧㆒。〔注〕善曰、漢書曰、漢興、破㆑觚而爲㆑圜、斲㆑琱而爲㆑樸。

【斲雕】10（タクテウ） 彫刻卽ち文飾をけづり去る。斲彫。斲琱。一説に、退廢した風俗を削り去る。〔史記、酷吏傳〕漢興、破㆑觚而爲㆑圜、斲㆑雕而爲㆑朴。〔注〕索隱曰、應劭云、削㆑雕爲㆑璞也、晉灼云、凋、弊也、斲㆓理凋弊之俗㆒、使㆑反㆓質樸㆒也。〔王褒、皇太子箴序〕改㆑文爲㆑質、斲㆑雕成㆑素。〔北史、蘇綽傳論〕周文提㆑劍而起、百度草創、施㆓約法之制於競逐之辰㆒、修㆓太平之禮於鼎峙之日㆒、終能斲㆑雕爲㆑朴、變㆑奢從㆑儉、風化既被、而下肅上尊、彊場屢動、而內安外附、斯蓋蘇綽之力也。

【斲破】11（タクハ） きりやぶる。斧がものを破るやうに事を破ること。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏下〕斲㆓破瑚璉㆒、殷商絕㆑後。

【斲鼻】12（タクビ） 鼻に塗つた白土を巧にけづること。巧妙な工人をいふ。轉じて、文章を巧みに作ることに用ふ。運㆑斤成㆑風(5－13534・・18)を見よ。〔莊子、徐無鬼〕郢人堊㆓漫其鼻端㆒、匠石運㆑斤成㆑風、聽而斲㆑之、盡㆑堊而鼻不㆑傷。〔孫覿、蜀婦新寡從㆓何純中㆒讀㆓左氏㆒戲呈㆓純中㆒詩〕一揮斲鼻斤。〔黃庭堅、黃穎州挽詩三首〕袖有㆓投㆑虛刃㆒、時無㆓斲㆑鼻工㆒。

【斲冰】13（タクヒヨウ） 氷をきる。〔楚辭、九歌、湘君〕斲㆑冰兮積㆑雪。

〖斲冰詞客〗14（タクヒヨウシカク） 清、孔繼涵(3－6933・・284)の號。

【斲目】15（タクモク） 木のけづりめ。〔周禮、考工記、弓人〕斲目不㆑荼、則及㆓其大修㆒也、筋代㆑之受㆑病。

【斲木】16（タクボク） 鳥の名。斲木鳥を見よ。〔淮南子、説山訓〕狸頭愈㆑鼠、雞頭已㆑瘻、䖟散㆓積血㆒、斲木愈㆑齲、此類之推者也。

〖斲木鳥〗17（タクボクテウ） 鳥の名。啄木鳥。きつつき。けらつつき。てらつつき。〔爾雅、釋鳥、鴷、斲木、注〕口如㆑錐、長數寸、常斲㆑樹食㆑蟲、因名云。〔疏〕斲木鳥、一名鴷。

【斲輪】18（タクリン） 木をけづつて輪をつくる。〔莊子、天道〕桓公讀㆓書於堂上㆒、輪扁斲㆓輪於堂下㆒。

【斲礱】19（タクロウ） きりみがく。礱斲。〔國語、晉語八〕趙文子爲㆑室、斲㆓其椽㆒而礱㆑之。〔注〕礱、磨也。〔魏志、齊王芳紀〕有㆓斲礱之制㆒。〔魏志、陳羣傳、注〕周禮、天子之宮有㆓斲礱之制㆒、然質文之飾、與㆑時推移。

〖斲硯山房〗20（タクケンサンバウ） 清、沈炳垣(6－17189・・638)の室名。

【⿰⿱止口斤】13586 セイ 誓(10－35514)の古字。〔集韻〕誓、古作㆑⿰⿱止口斤。

【新】13587 シン 新(5－13572)の本字。〔正字通〕新、本作㆑新。

【⿰⿱屮⿱仌屮斤】13588 セツ 折(5－11890)の籀文。〔説文〕⿰⿱屮⿱仌屮斤、斷、籀文⿰⿱屮⿱仌屮斤从㆔艸在㆓仌中㆒、仌寒故折。

十一畫

【𣃔】13589　［一］オウ　〔集韻〕烏侯切　尤　［二］コウ　〔集韻〕墟侯切　尤

［一］**すき**。𣃔剷。〔集韻〕𣃔、𣃔剷、偃鉏也。［二］**けづる**。剾(2-2163)に同じ。〔集韻〕剾、𠞊也、或作レ𣃔。

【𣃗】13590　ショ　〔集韻〕章恕切　御

きる。〔廣韻〕𣃗、斫也。

【斳】13591　［一］キン　ゴン　〔集韻〕渠巾切　文　［二］キン　コン　〔集韻〕几隱切　吻

［一］**せり**。菜の名。芹(9-30742)に同じ。〔集韻〕芹、說文、楚葵也、今水中芹菜、亦作レ斳。［二］**しなやかでつよい**。〔集韻〕斳、肕也。

参考 舊本、誤つて蘄に作る。今正す。

【𣃚】13592　クワク　〔篇韻〕音獲

きる。〔篇韻〕𣃚、斫也。

【𣃛】13593　音未詳

地名。〔字彙補〕𣃛地名、音未詳。〔穆天子傳、四〕天子至二於滐澤之上、𣃛多之汭一。

十二畫

【𣃜】13594　サク

❶斮(5-13562)の本字。〔篇海〕𣃜、斮本字。❷戠(5-11607)に同じ。〔集韻〕𣃜、或作レ戠。

【斴】13595　リン　〔篇海〕離珍切　眞

❶**石の間を流れる水の音**。〔篇海〕斴、水在二石澗中一響也。❷粼(2-2176)に同じ。〔正字通〕斴、同レ粼、水在二石間一、當レ作レ粼。

【𣃝】13596　チョク

劚(2-2284)の俗字。〔篇海〕𣃝、俗劚字。

【𣃞】13597　タク

斲(5-13585)に同じ。〔玉篇〕𣃞、同レ斲。

【𣃟】13598　タク

斲(5-13585)に同じ。〔五經文字〕斲、經典相受或作レ𣃟。

【𣃠】13599　タク

𣃟(5-13598)に同じ。〔龍龕手鑑〕𣃠、同レ𣃟。

【𣃡】13600　シン

義未詳。〔龍龕手鑑〕𣃡、音薪。

【毚】13601　ゼン

義未詳。〔搜眞玉鏡〕毚、音軟。

十三畫

【𣃣】13603　チャク　〔廣韻〕張略切　藥

❶**やぶる**。〔玉篇〕𣃣、破也。❷**くは**。钃(11-40928)に同じ。〔廣韻〕钃、钁也、𣃣、上同。

【𣃥】13604　タク

斲(5-13585)の俗字。〔篇海〕𣃥、俗斲字。

【斸】13605　ショク　ソク　〔集韻〕樞玉切　沃

人名。〔集韻〕斸、闕、人名、呂氏春秋、齊有二顏斸一。〔康熙字典〕斸、按、戰國策作レ斶、史記田單傳作レ蠋。

【𣃦】13606　タク

斲(5-13585)に同じ。〔川篇〕𣃦、同レ斲。

【𣃧】13607　テイ

鼎(12-48315)に同じ。〔搜眞玉鏡〕𣃧、同レ鼎。

【𣃩】13608　タウ　〔龍龕手鑑〕都浪切　漾

義未詳。

十四畫

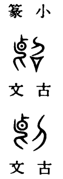
【斴】13609　リン

斴(5-13595)に同じ。〔篇韻〕斴、與レ斴同。

【𣃪】13610　［一］セイ　セ　〔集韻〕此芮切　霽　［二］サツ　セチ　〔集韻〕初轄切　黠

［一］［二］❶**たつ**。〔集韻〕𣃪、斷也。❷或は剸(2-2239)・剬(2-2222)に作る。〔集韻〕𣃪、或作二剸・剬一。

【斷】13611　［一］タン　ダン　〔集韻〕杜管切　旱　［二］タン　ダン　〔集韻〕徒玩切　翰　ㄉㄨㄢˋ　tuan⁴



［一］❶**たつ**。**斷絕する**。㋑たちきる。きりはなす。斷(5-13617)に同じ。〔正字通〕斷、斷字之譌。〔說文〕斷、截也、从二斤𢇍一。𢇍、古文絕。〔段注〕今人斷レ物讀二上聲一、物已斷讀二去聲一。〔釋名、釋言語〕斷、段也、分爲二異段一也。〔易、繫辭下〕斷レ木爲レ杵。〔釋文〕斷、斷絕。㋺たちわる。〔後漢書、蓋勳傳〕斷二盜數千萬一。〔注〕斷、謂二割截一。〔後漢書、杜茂傳〕斷二兵馬稟縑一。〔注〕斷、猶二割截一也。㋩きる。〔漢書、淮南厲王長傳〕大者立斷。〔注〕師古曰、斷、謂レ斬也。㋥たやす。すてる。〔禮、儒行〕不レ斷二其威一。〔釋文〕斷、絕也。㋭すてる。みかぎる。〔書、盤庚中〕乃祖乃父、乃斷二棄汝一。㋬やめる。〔梁書、劉杳傳〕長斷二腥膻一、持齋疏食。㋣ことわる。謝

絶する。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕自可レ斷二來信一。❷きれはし。たちきれ。片段。〔莊子、天地〕比二犧樽於溝中之斷一。❸うつ。腶(9－29718)に通ず。〔公羊、莊、二十四、腶脩云乎、釋文〕斷、本又作レ腶、鍛レ脯。❹岡の上の平石。碫(8－24340)に通ず。〔說文通訓定聲〕斷、叚借爲レ碫、孟子有二私龍斷一焉、按、岡壠平石也。❺きる。碁の手法の名。〔圍棋義例、詮釋〕斷、段也、段レ之爲レ二曰レ斷。㊁❶たつ。斷定する。㋑きめる。〔禮、樂記〕臨レ事而屢斷。〔注〕斷、猶レ決也。㋺さばく。〔正字通〕斷、按二曲直一決レ罪也。〔周禮、地官、大司徒〕聽而斷レ之。〔禮、月令〕(孟秋)審斷レ獄、嚴斷レ刑。㋩はからふ。〔淮南子、說林訓〕是而行レ之、謂二之斷一。〔注〕斷、猶レ治也。❷たえる。㋑きれる。〔江淹、別賦〕行子腸斷、百感悽惻。㋺わかれる。〔易、繫辭上〕剛柔斷矣。〔虞注〕斷、分也。㋩はなれる。ちぎれる。〔禮、王制〕瘖聾・跛躃・斷者。〔注〕斷、謂二支節絶一也。❸事がいりくむ。〔太玄經、玄衡〕斷、多レ事。❹きめ。さだめ。歸着。〔通典、禮〕禮之大斷。❺おもひきり。〔晉書、五行志中〕懦而少レ斷。❻おもひきつて。おして。〔史記、李斯傳〕斷而敢行。❼ひとしい。ととのへる。〔廣雅、釋詁四〕斷、齊也。❽物のさま。斷斷(152)を見よ。邦❶ことわる。㋑前以て告知して置く。㋺謝絶する。㋩あやまる。わびる。❷ことわり。以上の名詞。

名乘 サダ。タフ。

解字 會意。斤と㡭(古文の絶の字)との合字。斤(をの)で糸をたちきる義。たち切る。

【斷惡】1（ダンアク）佛惡業を斷絶し、或は之を調伏して惡に染まらしめぬこと。逆流十心の一つ。〔止觀、四之二〕。

【斷惡修善】2（ダンアクシユゼン）佛惡業を斷じ善業を修して善道に入ること。〔勝軍明王四十八使者祕密成就儀軌〕明王四弘願云、見二我身一者發二菩提心一、聞二吾名一者斷レ惡修レ善、聞二我說一者得二大智慧一、知二我心一者卽成佛。

【斷遏】3（ダンアツ）たちさへぎる。〔陸雲、答二車茂安一書〕斷二遏海浦一、隔二截曲隈一。

【斷押】4 tuan⁴ ya¹ 判決して禁錮する。

【斷案】5（ダンアン）❶判斷。斷定。〔近古史談、織篇、岩間大藏〕是或可三以爲二一公斷案一歟。❷三段論法で二段の前提によつて得る結論。

【斷衣】6（ダンイ）衣をたちきる。〔五代史、王鎔傳〕拔二佩刀一斷レ衣而盟。

【斷維】7（ダンイ）たつこととつなぐこと。

【斷癮】8 tuan⁴ yin³ 阿片の中毒を斷つ。

【斷雲】9（ダンウン）ちぎれたくも。片雲。〔朱超、詠レ石詩〕對レ影疑二雙闕一、孤生如二斷雲一。〔杜甫、別二房太尉墓一詩〕近レ淚無二乾土一、低レ空有二斷雲一。

【斷纓】10（ダンエイ）冠の紐をたちきる。〔左氏、哀、十五〕以レ戈擊レ之、斷レ纓。

【斷烟】11（ダンエン）ちぎれちぎれに立つ煙。〔賈島、雪晴晚望詩〕野火燒二岡草一、斷烟生二石松一。

【斷鹽】12（ダンエン）鹽を食はぬこと。しほだち。〔和漢三才圖會、造釀類〕斷鹽、凡食品不レ得レ鹽則失レ味、故斷レ鹽者、以爲レ難矣、佛氏斷レ鹽者、見二讓虞利童子經・婆娑論・正理論等一。

【斷猿】13（ダンエン）❶斷腸の猿。悲しいこゑで啼く猿。〔竇常、杏山館聽二子規一詩〕楚塞餘春聽漸稀、斷猿今夕讓レ霑レ衣。❷琴曲の名。〔琵琶記、琴訴二荷池一〕似三別雁孤鴻和二斷猿一。

【斷轅】14（ダンエン）車のながえをきる。又、ちぎれたながえ。〔杜甫、木皮嶺詩〕上有二廢閣道一、摧折如二斷轅一。

【斷音】15（ダンオン）子音の一。氣息が發音と共に斷絶するもの。破裂音と促音。

【斷恩】16（ダンオン）恩愛の情を棄てる。〔禮、喪服四制〕門外之治、義斷レ恩。〔疏〕既仕二公朝一、當下以二公義一斷中絶私恩上。

【斷崖】18（ダンガイ）きりたつたやうなけはしいがけ。斷岸。絶壁。〔周賀、寄二新頭陀一詩〕遠洞省穿二湖底一過、斷崖曾向二壁中一禪。〔陸龜蒙、奉二和襲美館娃宮懷古一次韻詩〕蒼翠無レ言空斷崖。

【斷交】19（ダンカウ）交際をたつ。絶交する。

【斷行】20（ダンカウ）❶おしきつて行ふ。決行。敢行。〔史記、李斯傳〕狐疑猶豫、後必有レ悔、斷而敢行、鬼神避レ之。❷列がきれぎれになる。〔庾信、奉三和趙王喜レ雨詩〕驚鳥灑レ翼度、濕雁斷レ行來。〔唐太宗、春日望レ海詩〕照岸花分レ彩、迷雲雁斷レ行。

【斷梗】21（ダンカウ）根をきられたいばら。ふらふらして定まらないさま。〔元好問、出レ京詩〕半生無二根著一、飄轉如二斷梗一。

【斷港】22（ダンカウ）ゆきづまりの川。堀どめ。港は、えだ堀。斷港絶潢を見よ。

【斷港絶潢】23（ダンカウゼツクワウ）ゆきどまりの支流と連なる所のない池。連絡の絶えた喩。港は支流、潢は池。〔韓愈、送二王塤一序〕學者必愼二其所レ道、道二於楊墨老莊佛之學一、而欲レ之二聖人之道一、猶下航二斷港絶潢一、以望上レ至二於海一也、故求レ觀二聖人之道一、必自二孟子一始。

【斷綆】24（ダンカウ）つるべのなはが切れる。轉じて、夫婦の緣の斷絶すること。〔長生殿、情悔〕又怎如三翻做二斷綆一。

【斷鼇】25（ダンガウ）大がめの足をきる。又、其の大がめ。〔列子、湯問〕然則天地亦物也、物有レ不レ足、故昔者女媧氏練二五色石一、以補二其闕一、斷二鼇之足一、以立二四極一。〔論衡、談天〕女媧銷二煉五色石一、以補二蒼天一、斷二鼇足一、以立二四極一。〔韻府引、陸游、詩〕起視二寒空一如二斷鼇一。

【斷隔】26（ダンカク）たちへだたる。〔後漢書、馮異傳〕道路斷隔、委輸不レ至。

【斷割】27（ダンカツ）たちさく。たちきる。又、物ごとをきりもりする。〔書、大禹謨、疏〕水能灌漑、火能烹飪、金能斷割、木能興作、土能生殖、穀能養育。〔淮南子、主術訓〕仁者雖レ在二斷割之中一、其所レ不レ忍之色可レ見也。〔鹽鐵論、周秦〕百官以二峭法一斷二割於外一。〔新序、難事四〕管仲善斷二害之一。〔後漢書、皇后紀序〕斷二割重器一。〔曹植、與二楊德祖一書〕乃可三以議二於斷割一。

【斷割之刑】28（ダンカツノケイ）罪人の身體をたちさく刑罰。〔源平盛衰記、十三、高倉宮廻宣〕猥取二斷割之刑一、所レ惡滅二三族一。

【斷割之勢】29（ダンカツノセイ）刀でたちさくやうに、止まる所を知らぬはげしい勢。〔越絶書、越絶外傳紀策考〕內無二柱石之堅一、外無二斷割之勢一。

【斷簡】30（ダンカン）きれぎれになつた書きもの。斷片の文書。零墨。斷篇・雜簡。〔李紳、南梁行〕故篋歲深開二斷簡一。〔宣和遺事、後集〕陳迹分明斷簡中。

【綴二斷簡殘編一】31（ダンカンザンペンヲツヅル）きれぎれになつた古書をとり集めて綴り合せる。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕綴二斷簡殘編一。

【斷岸】32（ダンガン）きりたつたやうなけはしいきし。がけ。絶壁。斷崖。斷厓。〔鮑照、蕪城賦〕崪若二斷岸一。〔劉長卿、行營酬二呂侍御一云云詩〕水歸餘二斷岸一、烽至掩二孤城一。〔蘇軾、後赤壁賦〕江流有レ聲、斷岸千尺。

【斷岩】33（ダンガン）いはほをたち切る。〔戴表元、宿二福海寺一詩〕斷レ岩蒼龍角、汲レ流紫雲根。

【斷弃】34（ダンキ）たちすてる。斷棄に同じ。〔史記、周紀〕斷二弃其先祖之樂一、乃爲二淫聲一。

【斷氣】35 tuan⁴ ch'i⁴ 氣絶する。息を引取る。

【斷棄】36（ダンキ）たちすてる。關係をたつて見すてる。斷弃。〔書、盤庚中〕乃斷二棄汝一、不レ救二乃死一。

【斷機】37（ダンキ）機をたちきる。斷機之誡を見よ。

【斷機之誡】38（ダンキノイマシメ）學問を中途で廢するのは織りかけた織物をたち切るやうなものだといふ教訓。❶孟子が中途で學を廢して歸つた時、其の母が機を斷ち切つて之を誡めた故事。孟母斷機(3－6960・・255)を見よ。〔列女傳、母儀、鄒孟軻母傳〕自二孟子之少一也、既學而歸、孟母方績、問曰、學何所レ至與、孟子曰、自若也、母以レ刀斷二其機一、孟子懼而問二其故一、孟母曰、子之廢レ學、若三吾斷二斯織一矣、云云、孟子懼、旦夕勤レ學不レ息、師二事子思一、遂成二天下之名儒一。❷戰國の時、樂羊子の妻が夫を誡めた故事。〔後漢書、列女、樂羊子妻傳〕樂羊子、遠尋レ師學、一年來歸、妻乃引レ刀趨レ機而言曰、此織二一絲一而累以至二於寸一、累レ寸不レ已、遂成二丈匹一、今若斷二斯織一也、則捐二

失成功㆒、夫子積㆑學、當㆔日知㆑所㆑亡、以就㆓懿德㆒、若中道而歸、何異㆑斷㆓斯機㆒乎、羊子感㆓其言㆒、復還終㆑業。

【斷疑】39（ダンギ） 疑問を解決する。疑を無くする。疑念を晴らす。〔易、繫辭上〕以斷㆓天下之疑㆒。

【斷給】40（ダンキフ） さばきわたす。〔福惠全書、刑名部、問擬〕當㆘以㆓撫憲之斷給㆒爲㆗鐵案㆖。

【斷祛】41（ダンキヨ） そでをきる。晉の文公が寺人に襲はれ身を以て逃れた故事。〔張衡、思玄賦〕文斷㆑祛而忌㆑伯兮。〔注〕善曰、國語曰、初獻公使㆔寺人勃鞮伐㆓文公於蒲城㆒、文公踰㆑垣、勃鞮斬㆓其祛㆒。

【斷金】42（ダンキン） 金屬をたち切る。二人の友情が金屬をもたち切る程堅いこと。極めて固い交。厚い交情。〔易、繫辭上〕二人同㆑心、其利斷㆑金。〔疏〕金是堅剛之物、能斷而截㆑之、盛㆓言利之甚㆒也。〔後漢書、桓帝紀〕勉同斷㆑金。〔趙至、與㆓嵇茂齊㆒書〕意存㆓斷金㆒。

【斷金契】43（ダンキンノチギリ） 友人間の極めて固いちぎり。〔水經、淯水注〕嵩、字仲山、宛人、與㆓山陽范式㆒有㆓斷金契㆒。〔晉書、簡文帝紀〕（咸安二年三月）癸丑詔曰、云云、賴㆓宰輔忠德㆒、道濟㆓伊望㆒、羣后竭㆑誠、協㆑契斷㆑金、內外盡㆓匡翼之規㆒、文武致㆓匪躬之節㆒、冀因㆓斯道㆒、終克弘濟。

【斷金侶】44（ダンキンノリヨ） 固いちぎりの友。〔吳澄、江西秋闈分㆑韻詩〕此中斷金侶。

【斷金之交】45（ダンキンノマジハリ） 友人間の固い交をいふ。

【斷金之利】46（ダンキンノリ） 金を斷つやうなするどさ。同心のつよさをいふ。〔後漢書、郎顗傳〕勤求㆓機衡之寄㆒、以獲㆓斷金之利㆒。

【斷金伐木契】47（ダンキンバツボクノチギリ） 朋友の交の親密で且つ美しいのをいふ。斷金・伐木（**1**－**439**・・41）の㊁を見よ。〔易、繫辭上〕二人同㆑心、其利斷㆑金、同心之言、其臭如㆑蘭。〔詩、小雅、伐木〕伐木丁丁、鳥鳴嚶嚶、出㆑自㆓幽谷㆒、遷㆓于喬木㆒、嚶其鳴矣、不㆑求㆓友生㆒、神之聽㆑之、終和且平。

【斷火】48（ダンクワ） 冬至後百五日目に火を斷つて冷食すること。寒食（**3**－**7239**・・217）を見よ。〔鄴中記〕鄴俗、冬至百五日、爲㆓介之推㆒斷㆑火、冷食三日、作㆓乾粥㆒、是今之糗。〔歲華紀麗〕寒食、是仲春之末、清明、當㆓三月之初㆒、禁㆓其煙㆒、周之舊制、不㆑斷㆑火、魏之新規。

【斷壞】49（ダンクワイ） きれくづれる。〔陸龜蒙、甫里先生傳〕有㆓編簡斷壞者㆒、緝㆑之。〔金史、歷志下〕璣衡斷壞、無㆘復知㆓其法制㆒者㆖。

【斷刑】50（ダンケイ） 刑を斷ずる。刑罰をさばきさだめる。〔後漢書、章帝紀〕無㆓鞠獄斷刑之政㆒。〔白虎通、攷黜〕乃能斷㆑刑。

【斷契】51（ダンケイ） 一枚の紙を兩斷して各〻一片を持ち契約のしるしとするもの。借用證の類。〔唐律、職制、貸㆘所㆓監臨㆒財物㆖〕卽斷契有㆑數、違負不㆑還、過㆓五十日㆒者、以㆑受㆘所㆓監臨㆒財物㆖論。

【斷霓】52（ダンゲイ） 切れ切れになつたにじ。〔杜牧、題㆓池州弄水亭㆒詩〕斷霓天帔垂、狂燒漢旗怒。

【斷橋】53（ダンケウ） ㊀こはれ落ちて渡れぬはし。〔杜甫、過㆓故斛斯校書莊㆒詩〕斷橋無㆓復板㆒、臥柳自生㆑枝。〔蘇軾、正月二十四日與㆓兒子過・云云㆒同游㆓羅浮道院及棲禪精舍㆒過作㆑詩和㆓其韻㆒寄㆓邁迨㆒詩〕斷橋尋㆓勝踐㆒、脫㆑屨欣㆓小揭㆒。〔趙秉文、莫歸詩〕行過㆓斷橋㆒沙路黑、忽從㆓電影㆒得㆓前村㆒。㊁橋をきりおとす。〔蜀志、張飛傳〕飛據㆑水斷㆑橋、瞋㆑目橫㆑矛曰、身是張益德也、可㆓來共決㆒㆑死。㊂橋の名。浙江省杭縣の孤山の側。もと寶祐橋といひ、唐時は斷橋、又、斷家橋といふ。前後湖の間に介在し、孤山に梅を探る者は此を過ぎる。斷橋の殘雪は西湖勝景の一つに數へられる。〔張祜、題㆓杭州孤山寺㆒詩〕斷橋荒蘚澀、空院落花深。

【斷決】54（ダンケツ） とりきめる。さばく。決定。決斷。〔禮、問喪〕是故聖人、爲㆑之斷決、以㆓三日㆒爲㆓之禮制㆒也。〔呂覽、孟秋〕斷㆓決獄訟㆒。〔後漢書、馮異傳〕時以㆓私心㆒斷決。〔白虎通、情性〕斷決得㆑中也。〔顏氏家訓、涉務〕取㆓其斷決有㆑謀。〔明律、刑律、斷獄、淹禁〕應㆓斷決㆒者、限㆓三日內㆒斷決。

【斷結】55（ダンケツ） ［佛］煩惱を斷つて覺に入ること。結は、煩惱の異名。〔四教儀、四〕三藏佛三十四心發㆑眞斷㆓三界結㆒盡。

【斷月】56（ダンゲツ） 正月・五月・九月の三月をいふ。三長月。〔容齋隨筆、三長月〕釋氏以㆓正・五・九月㆒爲㆓三長月㆒、故奉㆑佛者、皆茹㆑素、其說云、天帝釋以㆓大寶鏡輪㆒照㆓四天下㆒、寅・午・戌月、正臨㆓南瞻部洲㆒、故當㆓食㆑素以徼㆒㆑福、官司謂㆓之斷月㆒。

【斷見】57（ダンケン） ［佛］常住不滅の本性に反し、妄に空寂斷滅の見を懷くこと。卽ち人は此の世を沒すればそれで生命が斷絕するといふ見解。〔涅槃經、二十七〕衆生起㆑見、凡有㆓二種㆒、一者常見、二者斷見。

〔斷見外道〕58（ダンケンゲダウ） ［佛］外道六宗の一。富蘭那迦葉（**3**－**7230**・・194）をいふ。〔涅槃經、十九〕。

【斷縑】59（ダンケン） かとりぎぬの切れはし。又、それに畫いた畫。〔畫繼〕往往斷縑片紙、皆可㆓珍惜㆒。

【斷言】60（ダンゲン） きつぱりいひきめる。言ひきる。

【斷限】61（ダンゲン） ㊀くぎりをきめる。經界を定める。くぎりをつける。又、くぎり。きり。〔晉書、賈謐傳〕朝廷議立㆓晉書限斷㆒。㊁史通の篇名。

【斷絃】62（ダンゲン） ㊀きれたつる。〔元稹、夜閑詩〕孤琴在㆓幽匣㆒、時迸斷絃聲。㊁音聲のとだえること。又、とだえた音聲。〔庾信、怨歌行〕爲㆑君能歌㆓此曲㆒、不㆑覺心隨㆓斷絃㆒。㊂妻の死をいふ。〔徐彥伯、閨怨歎〕煖手縫㆓輕素㆒、嚬蛾續㆓斷絃㆒。〔事物異名錄、人事、喪妻〕山堂肆考、世俗夫喪㆑妻者曰㆓斷絃㆒、言㆑如㆔琴瑟之斷㆓其絃㆒也、復娶者謂㆓之續絃㆒。

【斷乎】63（ダンコ） きつぱりと事を行つて遲疑せぬさま。きつと。斷然。斷斷乎。〔蘇軾、晁釋先生詩集序〕斷斷乎如㆔藥石必可㆓以伐㆒㆑病。

【斷罟】64（ダンコ） あみをたちきる。〔國語、魯語上〕里革斷㆓其罟㆒、而棄㆑之。

【斷後】65（ダンゴ） ㊀後方をたつ。㊁退軍の殿をいふ。後方からの敵の追路を遮斷する意。〔六部成語、兵部、斷後、注解〕退㆑兵時、命㆓勁兵一遂㆒、防㆓護尾軍㆒、以斷㆓敵追路㆒。㊂子孫を絕やす。

【斷語】66（ダンゴ） 斷定のことば。〔國朝經師經義、詩〕妄下㆓斷語㆒。

【斷口】67 tuan^4 kʻou^3 鑛物の斷面。きりくち。

【斷肱】68（ダンコウ） 肱をたつ。〔左氏、昭、二十〕斷㆑肱以中㆓公孟之肩㆒。

【斷虹】69（ダンコウ） きれぎれになつた虹。〔韻府引、李白、詩〕斷虹天帔垂。

〔斷虹早挂有風不怕〕70 tuan^4 hung^2 tsao^3 kua^4 yu^3 fêng^1 pu^2 pʻa^4 朝きれぎれの虹が出れば風が有つても恐れるに足らぬ。江蘇崇明地方の時令歌諺。

〔斷虹晚見不明天變〕71 tuan^4 hung^2 wan^3 chien^4 pu^4 ming^2 tʻien^1 pien^4 夕方きれぎれの虹が出れば間もなく天氣が變る。江蘇崇明地方の時令歌諺。

【斷喉】72（ダンコウ） のどをたち切る。〔柳宗元、三戒、黔之驢〕跳踉大㘎、斷㆓其喉㆒、盡㆓其肉㆒、乃去。

【斷鴻】73（ダンコウ） 羣を失つた雁。〔趙秉文、廬州城下詩〕角聲寒水動、弓勢斷鴻驚。〔李嶠、送㆓光祿劉主簿之㆒㆑洛詩〕背㆑櫪嘶㆓班馬㆒、分㆑洲叫㆓斷鴻㆒。

【斷穀】74（ダンコク） 穀物を食はぬ。斷食。〔晉書、哀帝紀〕帝雅好㆓黃老㆒、斷㆑穀餌㆓長生藥㆒。

【斷獄】75（ダンゴク） 訴訟を裁判する。又、裁判。〔周禮、秋官、士師〕斷㆑獄弊㆑訟、致㆓邦令㆒。〔漢書、文帝紀贊〕斷獄數百、幾致㆓刑措㆒。〔後漢書、章帝紀〕致㆑令㆓自殺㆒者、一歲且㆑多㆓於斷獄㆒。〔白虎通、攷黜〕得㆓征伐專殺斷獄㆒。

【斷骨】76（ダンコツ） 骨を碎く。悲しみの甚だしい喩。〔徐彥伯、登㆓長城㆒賦〕試危坐以側聽、孰不㆓消㆑魂而斷㆑骨。〔韋莊、咸陽懷古詩〕莫㆑怪楚吟偏斷㆑骨、野煙蹤跡似㆓東周㆒。

【斷根】77（ダンコン） 根を絕つ。又、病氣を根切りにする。

【斷魂】78（ダンコン） たましひをたちきる。甚だいたましく悲しい喩。〔宋之問、江亭晚望詩〕望㆑水知㆑柔㆑性、看㆑山欲㆑斷㆑魂。〔高蟾、春詩〕明日斷魂淸靄靄、平蕪歸路綠迢迢。〔高啓、夜雨江館寫㆑懷詩〕靑燈畫角黃昏雨、客共㆓梅花㆒倂斷魂。

【斷槎】79（ダンサ） きれぎれになつたいかだ。〔陸游、冒㆑雨登㆓擬峴臺㆒觀㆓江漲㆒詩〕低昂泛㆓斷槎㆒。

【斷宰】80 tuan^4 tsai^3 殺生を禁制する。

【斷罪】81（ダンザイ） 罪を斷ずる。罪を判斷し決する。罪に處する。〔墨子、迎敵祠〕謹微㆓察之㆒、斷㆑罪不㆑赦。〔明律、刑律、斷獄、斷罪引㆓律令㆒〕凡斷㆑罪、皆須㆔具㆓引律令㆒、違者笞三十。

【斷勦】82（ダンサウ） たやし無くする。〔後漢書、何敞傳論〕斷㆓勦姦回之偪㆒。〔注〕勦、絕也。

【斷察】83（ダンサツ） よくしらべて決斷する。〔後漢書、王吉傳〕曉㆓達政事㆒、能斷㆓察疑獄㆒、發㆓起姦伏㆒。

【斷棧】84 ダンサン とぎれたかけはし。〔韻府引、陸游、詩〕馬經㆓斷棧㆒危無㆑路、風掠㆓枯茆㆒颯有㆑聲。

【斷山】85 ダンザン きりたつたやうなけはしい山。轉じて、きびしい人の喩。〔世說新語、賞譽〕世目㆓周侯㆒、嶷如㆓斷山㆒。〔注〕周侯、謂㆓周顗㆒也。

【斷斬】86 ダンザン たちきる。〔後漢書、董卓傳〕未㆑有㆘不㆓斷斬㆒、以示㆓武威㆒者㆖也。〔論衡、命義〕斷㆓斬人身㆒、無道甚矣。

【斷死】87 ダンシ 死を決する。決死。斷は決に同じ。〔戰國、秦策〕出㆓其父母懷袵之中㆒、生未㆓嘗見㆑寇也、聞㆑戰頓足徒裼、犯㆓白刃㆒蹈㆓煨炭㆒、斷㆓死於前㆒者、皆是也。〔韓非子、初見秦〕其頓首戴㆑羽爲㆓將軍㆒、斷㆓死於前㆒、不㆑至㆓千人㆒、皆以言㆑死。

【斷私】88 ダンシ 私慾をたつ。〔蜀後主、出軍詔〕斷㆑私降㆑意、以養㆓將士㆒。

【斷指】89 ダンシ ❶たちきつた指。〔管子、侈靡〕斷指滿㆑稽。❷指をきる。〔唐書、張巡傳〕因佩刀斷㆑指、一坐大驚、爲出㆑涕。❸修眞の法。〔宣和遺事、前集上〕大觀四年、禁㆓燃頂煉臂刺血斷指之類㆒。

〔斷指生〕90 ダンシセイ 清、侯度(**1**-**633**・・67)の號。

【斷趾】91 ダンシ あしをきる。古の刑罰の一。左趾を刖るは輕く、右趾を刖るは重い。〔唐書、刑法志〕太宗謂㆓侍臣㆒曰、肉刑、前代除㆑之久矣、今復斷㆓人趾㆒、吾不㆑忍也、於㆑是除㆓斷趾法㆒。

【斷葘】92 ダンシ たちがれた木。〔荀子、非相〕周公之狀、身如㆓斷葘㆒。

【斷詞】93 tuan^4 tzʻŭ^2 判斷の言葉。〔水滸傳、一百二回〕備的災難方興哩、有幾句斷詞、尊官須記著。

【斷澌】94 ダンシ たえつきる。〔范梈、奉㆔和王繼學懷㆓濟南舊遊㆒詩〕前輩風流逐㆓斷澌㆒、濟南舊錄故人詩。

【斷事】95 ダンジ 事をとり裁く。又、物事を斷定する。〔荀子、王霸〕三邪者在㆓匈中㆒、而又好以㆓權謀傾覆之人㆒、斷㆓事其外㆒、若㆑是則權輕名辱、社稷必危。〔漢書、藝文志〕春秋以斷㆑事。

〔斷事官〕96 ダンジクワン 官名。元初、置く。刑政を掌る。其の後、東宮及び王府に之を置き、明初、更に中書省・五軍都督府にも此の官を置く。後、廢す。〔元史、百官志三〕大宗正府、秩從一品、國初未㆑有㆓官制㆒、首置㆓斷事官㆒。

【斷辭】97 ダンジ 辭を繫けて吉凶を斷定する。〔易、繫辭下〕斷㆑辭則備矣。

【斷囚】98 ダンシウ 囚人を斷ちころす。〔論衡、譏日〕天下死罪、各月斷㆑囚、亦數千人。

【斷岫】99 ダンシウ けはしくきりたつた峯。〔皇甫松、大隱賦〕歷㆓斷岫㆒而崢嶸。

【斷袖】100 ダンシウ 袖を斷つ。寵愛の深い喩。漢の哀帝は深く董賢を寵愛したが、嘗て共に晝寢した處、賢は帝の袖を下に藉いてねて了つた。帝は起きようとして賢の眠を覺ますを氣遣ひ、袖をたち切つて起きたといふ故事。轉じて、男色をいふ。〔漢書、董賢傳〕常與㆑上臥起、嘗晝寢、偏㆓藉上褏㆒、上欲㆑起、賢未㆑覺、不㆑欲㆑動㆑賢、迺斷㆑褏而起。〔南史、蕭韶傳〕蕭韶爲㆓幼童㆒、庾信愛㆑之、有㆓斷袖之歡㆒、衣食所㆑資、皆信所㆑給。

〔斷袖癖〕101 ダンシウノヘキ 男色を好む癖。斷袖を見よ。

【斷脩】102 ダンシウ たたき延ばした乾肉。腶脩。〔公羊、莊、二十四〕棗栗云乎、腶脩云乎、〔釋文〕斷、本又作㆑腶、鍛㆑脯加㆓桂薑㆒曰㆑脩。

【斷就】103 tuan^4 chiu^4 斷定する。

【斷識】104 ダンシキ 決斷と識見のあること。〔魏志、明帝叡傳評〕明帝沈毅斷識。

【斷七】105 tuan^4 chʻi^1 人の死後四十九日に僧を招いて讀經すること。

【斷蛇】106 ダンジヤ ❶蛇をきる。又、切られた蛇。〔漢書、高帝紀贊〕漢承㆓堯運㆒、德祚已盛、斷蛇著㆑符、旗幟上㆑赤。〔揚雄、劇秦美新〕素魚斷蛇。❷劍の名。〔廣雅、釋器〕斷蛇、劍也。〔王念孫疏證〕西京雜記云、漢高帝斬蛇劍、劍上有㆓七采珠九華玉㆒、以爲㆑飾、刃上常若㆓霜雪㆒、光采射㆑人、蓋卽廣雅所謂斷蛇也。

【斷章】107 ダンシヤウ 詩文の中から、其の一章をきりとる。又、其の一章。〔左氏、襄、二十八〕賦㆑詩斷㆑章。〔注〕譬如㆔賦㆑詩取㆓其一章㆒而已。〔元稹、善歌如㆓貫珠㆒賦〕吟㆓斷章㆒而離離若㆑間、引㆓妙囀㆒而一一皆圓。

〔斷章取義〕108 ダンシヤウシユギ 章を斷じ義をとる。作者の本意、詩文全體の意味の如何にかかはらず、其の中から自分の用をなす章句のみを抜きだして用ひること。〔禮、中庸、詩云、相㆑在㆓爾室㆒、尙不㆑愧㆓於屋漏㆒、疏〕詩人意稱、王朝小人、不㆑敬㆓鬼神㆒、瞻㆔視女在㆓廟堂之中㆒、猶尙不㆔愧㆓畏於屋漏之神㆒、記者引㆑之、斷㆑章取㆑義、言、君子之人、在㆓室之中㆒、屋漏雖㆓無㆑人之處㆒、不㆓敢爲㆑非、猶㆔愧㆓懼於屋漏之神㆒、況有㆑人之處、君子愧懼可㆑知也。〔孝經、開宗明誼章、大雅云、亡㆑念㆓爾祖㆒、聿㆓修其德㆒、傳〕斷㆑章取㆑義、上下相成。

〔斷章截句〕109 ダンシヤウセツク 一章一句をきりはなして用ひる。〔宋史、選擧志二〕紹定三年、臣僚請㆕學校場屋、並禁㆔斷㆑章截㆑句、破㆓壞義理㆒。

【斷莊】110 tuan^4 chuang^1 品切れになる。

【斷裳】111 ダンシヤウ もをたちきる。〔王融、三月三日曲水詩序〕褰㆑帷斷㆑裳。

【斷償】112 tuan^4 chʻang^2 賠償を申渡す。斷繳。

【斷手】113 ダンシユ 凡て營造工事の終了するをいふ。〔通俗編、身體、斷手〕唐書、高祖敕云、使至知㆓元堂已成㆒、不㆑知㆘諸作早晚得㆓斷手㆒否㆖、杜甫題㆓江外草堂㆒詩、經營上元始、斷手寶應年、按、凡營造畢㆑工、謂㆓之斷手㆒。

【斷取】114 ダンシユ たちきつて取る。〔王安石、純甫出㆓釋惠崇畫㆒要㆑予作詩〕頗疑道人三昧力、異域山川能斷取。

【斷首】115 ダンシユ 首をきる。又、きつた首。斷頭。〔管子、侈靡〕斷㆑首滿㆑稽。

【斷酒】116 ダンシユ ❶酒をたつ。酒を禁じて飲まない。〔白居易、答㆓蘇庶子㆒詩〕偶作㆓關東使㆒、重陪㆓洛下遊㆒、病來從㆑斷㆑酒、老去可㆑禁㆑愁。❷酒を釀造することを禁止する。〔南史、齊武帝紀〕(永明十一年)以㆓旱故㆒、都下二縣朱方・姑熟、權斷㆑酒。

【斷種】117 ダンシユ たねをたやす。❶後嗣をたやす。〔通俗編、倫常、斷種〕大智度論、世人有㆑子、若不㆓繼紹㆒、則名㆓斷種㆒、爲㆓最可㆑恥。❷去勢・輸卵管閉塞等によつて、生殖機能を失はせること。

【斷樹】118 ダンジユ 木をきる。伐木。〔禮、祭義〕斷㆓一樹㆒、殺㆓一獸㆒、不㆑以㆓其時㆒、非㆑孝也。

【斷渚】119 ダンシヨ きれぎれに見えるなぎさ。〔李重華、湖天雜興詩〕斷渚平沙淨渺然、酒旗寒映晚炊煙。〔謝宗可、雁賓詩〕荒汀斷渚年年路、應㆘認㆓蘆花㆒作㆗主人㆖。

【斷訟】120 ダンシヨウ ❶うつたへを裁判する。〔韓非子、內儲說上〕李悝斷㆑訟以㆑射、宋崇門以㆑毀死。❷潛夫論の篇名。

【斷鐘】121 ダンシヨウ 斷續してひびいて來る鐘の聲。〔袁枚、詩〕斷鐘聲在夕陽西。

【斷食】122 ダンシヨク ❶食事をやめる。〔陸贄、奏議〕因㆑噎而斷㆑食。❷ダンジキ 食をたつ。食事を斷絶する。又、其のこと。祈願の筋があつて神佛を感動させる目的で行ふ苦行の一。〔佛本行集經〕若因㆓斷食㆒、當㆑得㆓大福㆒者。〔大唐西域記〕有㆓願㆑見者㆒、斷㆑食便覩。❸耶蘇教で四十日間或る食品を限つて食べない一つの儀式。

【斷織】123 ダンシヨク 織りかけてゐる布を斷ち切る。中途で學を廢するのを戒めるにいふ。斷機之誡(38)を見よ。

【斷心】124 ダンシン ❶心をたつ。悲痛の極をいふ。〔後漢書、安帝紀〕悲痛斷㆑心。❷tuan^4 hsin^1 斷念する。

【斷水】125 ダンスイ ❶水の流をさへぎる。〔魏志、夏侯惇傳〕惇乃斷㆓太壽水㆒作㆑陂。❷水を切る。〔楞嚴經、九〕如㆓風吹㆑光、如㆓刀斷㆑水、了不㆓相觸㆒。❸水道などの水の出がとまる。又、水の出をとめる。

【斷正】126 ダンセイ 裁決して是非をただす。〔晉書、庾純傳〕凡斷㆓正臧否㆒、宜㆔先稽㆓之禮律㆒。

【斷成】127 tuan^4 chʻêng^2 ❶すつかり斷つ。根絶する。❷話が纏るやうに判決する。

【斷制】128 ダンセイ さばきをさめる。裁治する。〔書、呂刑〕惟時庶威奪㆑貨、斷㆓制五刑㆒、以亂㆓無辜㆒。〔莊子、徐無鬼〕是以㆓一人之斷制㆒利㆓天下㆒。

〔斷制之柄〕129 ダンセイノヘイ 國家の大事をとりきめる權力。〔齋藤拙堂、諸葛亮比㆓管仲・樂毅㆒論〕操㆓斷制之柄㆒、而不㆑見㆑忌。

【斷席】130 ダンセキ 敷物をたちきる。後漢の許敬が惡人と同席しない意を表はした故事。〔謝承、後漢書〕許敬、字鴻卿、其吏有㆑誣㆓君者㆒、會㆓於縣令坐㆒、敬拔㆑刀斷㆓其席㆒曰、敬不㆑忍㆘與㆓惡人㆒同㆖㆑席。

【斷脊】131 ダンセキ 脊をきる。〔商子、賞刑〕吏遂斷㆓顚頡之脊㆒以殉。

【斷切】132 ダンセツ たちきる。切斷。

【斷截】133 ダンセツ たちきる。きりはなす。切斷。截斷。〔漢書、谷永傳〕發㆓人冢墓㆒、斷㆓截骸骨㆒。〔後

漢書、隗囂傳〕斷㆓截地絡㆒。〔魏書、高宗紀〕斷㆓截官物㆒、以入㆓於己㆒。

【斷截】134（ダンセツ） たちきる。斷截に同じ。〔後漢書、華佗傳〕斷截湔洗。

【斷舌】135（ダンゼツ） 舌をたちきる。〔漢書、刑法志〕又先斷㆑舌。〔大唐西域記、五〕外道聞、已欲㆓自斷㆑舌。

【斷絕】136（ダンゼツ） ❶たちきる。きりはなす。たやす。又、たえる。とぎれる。杜絕する。〔戰國、趙策〕常苦㆔出㆑辭斷㆓絕人之交㆒、願大王愼無㆑出㆓於口㆒也。〔管子、幼官〕刑則紹㆑昧斷絕。〔史記、蘇秦傳〕斷㆓絕人之交㆒也。〔論衡、死僞〕今死血脈斷絕。〔虞羲、詠㆓霍將軍北伐㆒詩〕羽書時斷絕。❷家のまつりが絕える。家がつぶれる。〔後漢書、王符傳〕不㆑能㆑使㆓其斷絕㆒。

【斷剸】137（ダンセン） 刀で切りはなす。たちきる。〔范梈、古干將詩〕豐城匣已空、龍亦久當㆑變、百怪日夜出、思㆓爾一斷剸㆒。

【斷箭】138（ダンセン） をれた矢。〔五代史、四夷附錄、契丹錄〕殺傷相半、陳閒斷箭遺鏃、布厚寸餘。

【斷線】139（ダンセン） ❶きれた絲。〔孟郊、汴州留㆓別韓愈㆒詩〕四時不㆑在㆑家、弊服斷線多。❷電線が切れること。

〔斷線疳〕140 tuan^4 hsien^4 kan^1 陰莖の下の筋が腐つて陰莖が落ちる梅毒。

【斷然】141（ダンゼン） きつぱりと決斷するさま。斷乎。〔協紀辨方書、利用一、論㆑用㆓盤針、羅經圖㆒〕丙午壬子之閒、爲㆓天地之中、南北之正㆒、其說相合、故斷然以㆓丙午壬子中正㆒爲㆑是。〔日本政記、正親町天皇論〕斷然廢㆓義昭㆒而不㆑顧者、知㆓時勢㆒也。

【斷礎】142（ダンソ） こはれたいしずゑ。〔周霆震、郡城高詩〕荒碑斷礎悉興致。〔于石、小石塘源詩〕荒丘奔㆓狐兔㆒、斷礎悲㆓蛩螿㆒。

【斷送】143（ダンソウ） ❶すて送る。うちやる。棒にふる。なげ出す。〔韓愈、遣㆑興詩〕斷㆓送一生㆒惟有㆑酒、尋㆓思百計㆒不㆑如㆑閑。〔元曲、金錢記〕這信物斷送了客多㆑愁、這信物欲㆑買春無㆑價。❷送り屆ける。〔侯鯖錄〕眞宗東封、訪㆓天下隱者㆒、得㆓杞人楊朴㆒、能爲㆑詩、召對、自言不㆑能、上問、臨㆑行有㆑人作㆑詩送㆑卿否、朴言、獨臣妻有㆓詩一首㆒云、更休㆔落魄貪㆓杯酒㆒、亦莫㆔猖狂愛㆓咏詩㆒、今日捉㆓將官裏㆒去、這回斷送老頭皮、上大笑、放還㆑山。❸葬る。〔長生殿、進果〕今怎麼斷送。❹宋代、雜劇の樂曲の奏法。素囃（スバヤシ）の義。歌舞の前後段の中間の休に用ひ、歌舞の伴はぬもの。もと動詞であつたが、後、雜劇に附隨して用ひられることが多くなり、或る種の樂曲が專用されることとなり、遂に一類の樂曲の總名となる。〔東京夢華錄〕且舞且唱、樂部斷㆓送採蓮㆒訖、曲訖復羣舞。〔都城紀勝〕其吹㆓曲破・斷送㆒、謂㆓之把色㆒。❺tuan^4 sung^4 殺す。

【斷層】144（ダンソウ） 地殼の收縮によつて地層の一部が移動し、他との連絡の絕えること。

〔斷層地震〕145（ダンソウヂシン） 斷層に伴つて起る地震。地辷り地震。

【斷足】146（ダンソク） 足をたちきる。又、たち切つた足。〔管子、侈靡〕斷足滿㆑稽。

【斷續】147（ダンゾク） きれることとつづくこと。又、きれたりつづいたりする。〔淮南子、說山訓〕神蛇能斷而復續、而不㆑能㆑使㆓人勿㆒㆑斷也。〔唐太宗、望㆓送魏徵葬㆒詩〕哀笳時斷續、悲旌乍卷舒。

【斷盗】148（ダンタウ） 盗をたつ。盗賊を根だやしにする。〔後漢書、孔融傳〕斷㆑盗貢㆑篚。

【斷道】149（ダンダウ） 地名。春秋、晉の地。山西省沁縣の西の斷梁城。〔春秋、宣、十七〕公會㆓晉侯・衞侯・曹伯・邾子㆒、同㆓盟于斷道㆒。〔杜注〕斷道、晉地。

【斷綻】150（ダンタン） ほころびる。又、ほころび。〔韓維、和㆓楊之美家琵琶妓㆒詩〕補㆓裝斷綻㆒搜㆓尺寸㆒。

【斷團】151 tuan^4 t'uan^2 絕える。仕舞になる。

【斷斷】152（ダンダン） ❶專一なさま。又、守つて變ぜぬさま。〔廣雅、釋訓〕斷斷、誠也。〔書、秦誓〕如有㆓一介臣㆒、斷斷猗無㆓他技㆒。〔傳〕如有㆓束脩一介臣、斷斷猗然、專一之臣㆒。〔疏〕斷斷、守㆑善之貌、無㆓他技能㆒、徒守㆑善而已。〔蔡傳〕斷斷、誠一之貌。〔公羊、文、十二〕惟一介斷斷焉、無㆓他技㆒。〔注〕斷斷、猶㆓專一㆒也。〔漢書、孔光傳〕斷斷之介。〔後漢書、卓茂傳論〕卓茂斷斷。〔柳宗元、懲咎賦〕猶斷㆓斷於所㆒㆑執。❷斷定して閒違のないこと。〔閻若璩、尚書古文疏證〕余是以知、予小子履一段、必非㆓眞古文湯誥之文㆒、蓋斷斷也、云云、余是以知、晚出古文泰誓、必非㆓當時安國壁中之所㆒㆑得、又斷斷也。

【斷斷乎】153（ダンダンコ） きつぱりと事を決するさま。〔蘇軾、鼂繹先生詩集序〕斷斷乎如㆔藥石必可㆓以伐㆒㆑病。

【斷竹】154（ダンチク） 竹をたち切る。〔韻府引、陸游、詩〕橫㆑木以爲㆑門、斷㆑竹作㆓短籬㆒。

〔斷竹續竹〕155（ダンチクゾクチク） 竹を切り竹を續ぐ。矢を作ること。〔吳越春秋、句踐陰謀外傳〕音曰、臣聞、弩生㆓於弓㆒、弓生㆓於彈㆒、彈起㆓古之孝子㆒、越王曰、孝子彈者奈何、音曰、古者人民朴質、飢食㆓鳥獸㆒、渴飲㆓霧露㆒、死則裹以㆓白茅㆒、投㆓於中野㆒、孝子不㆑忍㆑見㆔父母爲㆓禽獸所㆒㆑食、故作㆑彈以守㆑之、絕㆓鳥獸之害㆒、故歌曰、斷㆑竹續㆑竹、飛㆑土逐㆑害。〔古詩賞析、無名氏、彈歌〕斷㆑竹續㆑竹、飛㆑土逐㆑宍。

【斷腸】156（ダンチヤウ） ❶はらわたを絕ちきる。〔魏志、方伎、華佗傳〕若在㆓腸中㆒、便斷㆑腸、湔洗縫㆑腹。❷甚だしく心を痛める。又、甚だしい悲しみ。腹わたのちぎれる程の悲しみ。晉の桓溫が三峽を過ぎた時、其の從者が猿の子を捕へた。母猿が之を慕つて哀號し、追行すること百餘支里、遂に悶死した。其の腹を割いて見るに、腸が寸々に斷ちきれてゐたといふ。又、鶴にも之に類似した話がある。〔蔡琰、胡笳十八拍〕空斷腸兮思愔愔。〔世說新語、黜免〕桓公入㆑蜀、至㆓三峽中㆒、部伍中有㆘得㆓猨子㆒者㆖、其母緣㆑岸哀號、行百餘里不㆑去、遂跳上㆑船、至便卽絕、破㆓視其腹中㆒、腸皆寸寸斷、公聞㆑之怒、命黜㆓其人㆒。〔顏氏家訓、後娶〕傷心斷腸。〔李白、清平調〕一枝濃艷露凝㆑香、雲雨巫山枉斷腸。〔杜牧、池州春送㆓前進士蒯希逸㆒詩〕芳草復芳草、斷腸還斷腸。

〔斷腸花〕157（ダンチヤウノハナ） ❶人に悲哀の心を起さしめる花。〔劉廷芝、公子行〕可㆑憐楊柳傷心樹、可㆑憐桃李斷腸花。〔李白、古風詩〕天津三月時、千門桃與㆑李、朝爲㆓斷腸花㆒、暮逐㆓東流水㆒。❷（ダンチヤウクワ） 秋海棠の異名。〔錦字箋〕舊傳、昔有㆓女子㆒、懷㆑人不㆑至、淚灑㆑地、遂生㆓此花㆒、色如㆓美婦㆒而甚媚、名㆓斷腸花㆒。

〔斷腸草〕158（ダンチヤウサウ） ❶妖草の名。又、鉤吻・野葛・苦吻・苦藥・苦蔓公・胡蔓・大葉茶といふ。花は茶花に似、黃色で小さい。又、大葉茶と名づける。其の葉一枚でも口に入れば腸を斷つて死ぬといふ。〔南越筆記〕斷腸草、一名苦吻、亦曰㆓苦樂㆒、曰㆓苦蔓公㆒、然皆以爲㆓胡蔓㆒、花如㆓茶花㆒、黃而小、又名㆓大葉茶㆒、一葉入㆑口、腸斷而死、高雷人號爲㆓妖草㆒、近㆑之葉輒蠕動。〔嶺南雜記〕斷腸草、乃木本、高三四尺、結子如㆓羊角㆒。❷芙蓉の異名。〔聞見後錄〕按、陶弘景仙方注云、斷腸草不㆑可㆑食、其花美好、名㆓芙蓉㆒。❸相思草の異名。すぎな。〔事物異名錄、百草、惡草〕述異記、秦趙閒有㆓相思草㆒、狀如㆓石竹㆒、而節節相續、一名㆓斷腸草㆒、一名㆓愁婦草㆒、亦名㆓孀草㆒、人呼爲㆓寡婦莎㆒。

〔斷腸詞〕159（ダンチヤウシ） ❶詞牌の名。何滿子（1－511‥372）を見よ。❷書名。一卷。宋、朱淑眞撰。舊、李清照の漱玉詞と合刊す。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【斷追】160 tuan^4 chuei^1 判決して金を追徵する。

【斷定】161（ダンテイ） ❶さばき定める。〔魏志、衞覬傳〕斷㆓定刑罪㆒、其意微妙。❷さうにちがいないと考へる。〔裴夷直、漫作詩〕斷定今年不㆑看㆑花。❸判斷してきめる。又、判斷。

【斷隄】162（ダンテイ） 蘇東坡の築いた堤の名。〔剪燈新話、滕穆醉遊㆓聚景園㆒記〕斷隄楊柳搖㆑烟。

【斷屠】163（ダント） 牛馬の屠殺を禁斷する。〔北齊書、武成帝紀〕河清元年、詔斷㆓屠殺㆒以順㆓春令㆒。〔隋書、高祖紀下〕六月十三日、是朕生日、宜㆘令㆓海內㆒爲㆓武元皇帝元明皇后㆒斷㆖㆑屠。〔宋褧、詩〕明日放㆑生仍斷㆑屠。〔事物紀原、律令刑罰部、斷屠〕唐刑法志曰、武德二年詔、斷㆑屠日不㆑行㆑刑、會要曰、武德二年正月二十四日詔、自㆑今後、每年正月・五月・九月、及每月十齋日、並斷㆑屠、按、此則是斷㆑屠之制、起㆓於唐高祖㆒也、杜祐集㆓歷代沿革事㆒爲㆓通典㆒、前㆑此無㆑文、而首載㆓武后聖曆二年事㆒、驗㆑此可㆑知也、宋朝因㆑之、臨㆑時限㆑日云。

〔斷屠月〕164（ダントゲツ） 正月・五月・九月の三月をいふ。此の月には刑を行はないからいふ。〔唐朝新格〕正月・五月・九月不㆑行㆑刑、謂㆓之斷屠月㆒。

【斷渡】165（ダント） 渡船をとめる。川止め。〔冷齋夜話〕三月七日、偶與㆓瑩中㆒濟㆓湘江㆒、是日大風、當㆑斷㆑渡。〔蘇軾、大風留㆓金山㆒兩日詩〕塔上一鈴獨

自語、明日顚風當レ斷レ渡。

【斷頭】166 ダントウ ❶頭をきる。〔戰國、楚策〕有下斷レ頭決レ腹、一瞑而萬世不レ見、不レ知レ所レ益、以憂二社稷一者上。〔淮南子、脩務訓〕決レ腹斷レ頭。❷tuan⁴ t'ou² 絶える。仕舞になる。

【斷頭鬼】167 ダントウキ 首のない幽靈。〔海錄碎事、人事、前定〕子蓋果二于戮一、臨レ終、見三斷頭鬼爲二之厲一。〔通俗編、神鬼、無頭鬼〕北史、樊子蓋傳、臨終日、見三斷頭鬼前後重沓、爲二之厲一云。

【斷頭香】168 ダントウカウ 燒け殘りの線香。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕是前世燒二了斷頭香一。〔通俗編、釋道、燒斷頭香〕元王仲文救二孝子一曲、有二前生燒著斷頭香句一。

【斷頭臺】169 ダントウダイ 罪人の首を斬る臺。くびきり「だい。

【斷頭場】170 ダントウヂヤウ 罪人の首を斬る場所。

【斷頭將軍】171 ダントウシヤウグン 決死の將軍。後漢の劉璋の將の嚴顏が巴郡を守り、張飛に擒にされて、降を勸められた時、我が州には斷頭將軍あつて降將軍なしと答へた故事。〔蜀志、張飛傳〕顏答曰、卿等無狀、侵二奪我州一、我州但有二斷頭將軍一、無レ有二降將軍一也。〔桃花扇、劫寶〕都來看二斷頭將軍一呀。

【斷乳】172 tuan⁴ ju³ 小兒が乳ばなれする。又、小兒に乳の不足なこと。

【斷念】173 ダンネン おもひきる。あきらめる。

【斷坡】174 ダンパ 壞れたどて。〔韻府引、邊元鼎、詩〕隔浦行聞晚寺鐘、斷坡寂歷對二寒松一。

【斷梅】175 ダンバイ 梅雨をうちきる。つゆがあけること。つゆあけ。〔陸游、歸興詩〕輕雷轣轆斷梅初。〔自注〕鄉語謂二梅雨有レ雷、爲二斷梅一。

【斷方】176 ダンバウ 區切つて方形にする。井田の制を正しくするをいふ。〔管子、侈靡〕斷二方井田之數一。〔纂詁〕方里而井、是每レ井斷而方レ之也。

【斷亡】177 ダンバウ 絶え亡ぶ。〔荀子、富國〕故爲レ之出死斷亡。

【斷伐】178 ダンバツ たちきる。〔管子、輕重己〕趣二山人一、斷伐具二械器一。

【斷髮】179 ダンパツ ❶毛髮をたちきる。〔後漢書、王霸傳〕斷レ髮請レ戰。❷きりかみ。短く切つた毛髮。

【斷髮記】180 ダンパツキ 戲曲の名。明、李開先作。唐の李德武の妻、裴叔英が夫と離去すること十年、其の父之を再嫁せしめんとするや、斷髮絶食して志を示し、後、夫が歸つて家庭を營むに至ることを演じたもの。〔曲海提要、十三〕。

【斷髮文身】181 ダンハツブンシン 髮をきり身にいれずみをする。野蠻の風習。〔左氏、哀、七〕仲雍嗣レ之、斷レ髮文レ身、嬴以爲レ飾、豈禮哉。〔史記、周紀〕斷レ髮文レ身。〔莊子、逍遙遊〕越人斷髮文身、無レ所レ用レ之。

【斷碑】182 ダンピ 缺けたいしぶみ。こはれた石碑。〔黃庭堅、病起荆江亭卽事詩〕司馬丞相昔登庸、詔二用元老一超二羣公一、楊綰當レ朝天下喜、斷碑零落臥二秋風一。〔程文海、題二溫公墓老杏圖一詩序〕司馬溫公之葬也、敕二蘇文忠公一爲レ文表二其墓一、至尊親書二其額一曰、清忠粹德之碑、未レ幾仆二於羣僉之口一、而斷碑之罅、隨有二杏生一焉。

【斷臂】183 ダンピ ひぢをたちきる。〔史記、張儀傳〕此斷二趙之右臂一也。〔漢書、西域傳贊〕開二玉門一通二西域一、以斷二匈奴右臂一。〔淮南子、說山訓〕斷二右臂一而爭二一毛一、折二鏌邪一而爭二錐刀一。〔歐陽脩、尙書工部郎中歐陽公墓誌銘〕京師歲旱、有二浮圖人一、斷レ臂禱レ雨。

【斷臂貞妻】184 ダンピノテイサイ 五代周の王凝の妻李氏が臂を斷ちきつて貞節を示した故事。斷レ臂投レ地(**9－29944··36**)を見よ。〔剪燈餘話、鸞鸞傳〕斷臂之貞妻。

【斷鼻】185 ダンビ 鼻をきりおとす。魏の曹爽の妻が、夫の死んだ後、鼻を斬つて再嫁を斷つた故事。〔魏志、曹爽傳、注〕皇甫謐列女傳曰、爽從弟文叔妻、譙郡夏侯文寧之女、名令女、文叔早死、居止常依レ爽、及二爽被レ誅、令女叔彊迎二令女一歸、時文寧爲二梁相一、憐三其少執レ義、又曹氏無二遺類一、微使二人諷レ之、令女於レ是竊入二寢室一、以レ刀斷レ鼻、蒙レ被而臥。

【斷辟】186 ダンヘキ 罪を裁斷する。辟は罪。〔北堂書鈔〕決レ訟斷レ辟、興レ利除レ害。

【斷碧】187 ダンペキ きれぎれなみどり。〔范俊、首夏新晴詩〕行雲飛二斷碧一。

【斷表】189 ダンペウ ❶上表することを禁ずる。〔南史、梁孝元帝紀〕時巨寇尙存、帝未レ欲二卽位一、而四方表勸前後相屬、乃下レ令斷レ表。❷辭表を却下する。〔資治通鑑、唐紀〕(太宗、貞觀十三年)詔、斷レ表乃就レ職。〔注〕今之讓レ官者、奉表三讓、不レ許、勅斷二來章一、則閤門不三復受二其表一、卽唐制之斷表也。

【斷片】190 ダンペン ちぎれた一ひら。きれはし。破片。

【斷編】191 ダンペン きれぎれの文書。きれぎれの文章。零本。缺本。〔劉因、平惜詩〕人閒萬事思空遍、依レ舊西窻理二斷編一。

【斷編殘簡】192 ダンペンザンカン 書籍の殘缺して全からぬもの。〔宋史、歐陽脩傳〕(歐陽脩)好レ古嗜レ學、凡周漢以降、金石遺文、斷編殘簡、一切綴拾、研二稽異同一、立二說於左一、的的可二表證一、謂二之集古錄一。

【斷俸】193 ダンポウ 俸給を斷つて給與しないこと。〔宋書、明帝紀〕以二左衞將軍沈攸之一爲二郢州刺史一、以軍興已來、百官斷レ俸、竝給二生食一。

【斷峯】194 ダンポウ けはしく切り立つたみね。絶峯。〔江淹、江上之山賦〕臨二江上之斷峯一。

【斷蓬】195 ダンポウ 根のたち切れたよもぎ。ふらふらして定所のないさま。〔王之渙、九日送別詩〕今日暫同二芳菊酒一、明朝應下作二斷蓬一飛上。〔韋莊、將レ卜二蘭芷村居一留二別郡中在仕一詩〕蘭芷江頭寄二斷蓬一。

【斷木】196 ダンボク 木をきる。〔法言、吾子〕斷レ木爲レ「棋。

【斷沒】197 ダンボツ 所有者との關係を斷絶して沒收すること。〔大學衍義補、制二國用一、市糴之令〕漏レ稅者斷沒。

【斷霧】198 ダンム 斷ち切れた霧。〔隋煬帝、悲秋詩〕斷霧時通レ日、殘雲尙作レ雷。

【斷命】198′ ダンメイ いのちをたつ。〔大唐西域記、一〕王有二斷命之罪一、我懷二怨讎之心一。

【斷面】199 ダンメン 物のきりくち。こぐち。

【斷目】200 ダンモク 視力を失ふ。〔李賀、送二韋仁實一詩〕坐來壯膽破、斷レ目不レ能レ看。

【斷文】201 ダンモン 處刑の理由を記した文書。斷罪文の略。〔小野宮年中行事、十月〕四日、死刑斷文申レ官事。

【斷紋】202 ダンモン 木理等の裂けて紋狀をしたもの。主に琴のひびわれにいふ。〔洞天清錄〕漆器無二斷紋一、而琴獨有レ之者、蓋他器用二布漆一、琴則不レ用、他器安閒、而琴日夜爲二絃所一レ激。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕都在二你這神品・金徽・玉軫・蛇腹・斷紋・嶧陽・焦尾・冰絃之上一。

【斷紋琴】203 ダンモンキン 斷紋のある琴。古琴は斷紋あるを證とする。數百年を經なければ生じないからである。梅花斷は梅花に似て最古の證とし、牛毛斷は髮の如く、又、蛇腹斷・龍紋斷・龜紋・氷裂紋等の別がある。〔洞天清錄〕古琴以二斷紋一爲レ證、不レ歷二數百年一不レ斷、有二梅花斷一、其紋如二梅花一、此爲二最古一、有二牛毛斷一、其紋如レ髮、有二蛇腹斷一、其紋橫二截琴面一、有二龍文斷一、其紋圓大、有二龜紋・冰裂紋者一、未レ及レ見レ之。

【斷絡】204 ダンラク きれることとつながること。きれたりつながつたりすること。斷續。〔沈遼、奉二酬舜文一詩〕我生無レ庸如二斷絡一。

【斷落】205 ダンラク ❶たたれておちる。〔後漢書、西羌傳論〕頭顱斷二落於萬丈之山一。❷文章の一段のきれめ。文章の一くぎりの終。段落。〔品字箋〕篇章斷落亦曰レ節。❸物事のくぎり。

【斷爛】206 ダンラン たえただれる。きれぎれにやぶれる〔周必大、題跋〕斷爛不レ可レ解。〔范復、觀二異書一詩〕赫蹏斷爛千載書、靑燈照レ字驚二蟫魚一。

【斷爛朝報】207 ダンランテウハウ 宋の王安石が春秋を詆つた語。きれぎれになつた朝廷の記錄の意。王安石は初め自ら春秋を釋して天下に行はうとしたが、孫莘老の春秋經解已に出で、自ら其の右に出ることが出來ないのを知り、遂に聖經を詆つて之を廢し、此れ斷爛朝報なりと言つた故事。〔宋史、王安石傳〕黜二春秋之書一、不レ使レ列二於學官一、至三戲目爲二斷爛朝報一。〔周麟之、春秋經解跋〕王荆公、初欲下釋二春秋一以行中天下上、而孫莘老之書已出、一見而忌レ之、自知レ不レ能三復出二其右一、遂詆二聖經一而廢レ之曰、此斷爛朝報也、不レ列二於學官一、不レ用二於貢擧一。〔經義考、春秋〕林希逸曰、尹和靖言、介甫未三嘗廢二春秋一、廢二春秋一以爲二斷爛朝報一、皆後來無二忌憚一者、託二介甫一之言也。

【斷離】208 ダンリ 不法の婚姻に依る夫婦の關係を斷絶別離すること。〔元典章、戶部〕兄收二弟妻一斷離。

【斷流】209 ダンリウ ながれをたつ。河流を中斷するこ

と。〔六部成語、工部、斷流、注解〕河流中斷也。

【斷例】210（ダンレイ）　判決の準據。裁斷の基準。〔晉書、杜預傳〕法者、蓋繩墨之斷例、非二窮理盡性之書一也。

【斷路】211（ダンロ）　路をたつ。通行を妨げる。〔北史、車伊洛傳〕伊洛規欲レ歸レ闕、爲二沮渠無諱一斷レ路、伊洛連戰破レ之。〔梁武帝、責二西豐侯正德一詔〕及レ還二京師一、專爲二逋逃一、乃至レ江乘二要道一、湖頭斷レ路。

【斷漏】212（ダンロウ）　佛煩惱をたつ。漏は、煩惱の意。〔沈約、捨身願疏〕招二屈名僧一、賓二之虛室一、主人高臥、取二逸閒堂一、呼爲二八關一、去レ之實遠、雖レ有二供施之緣一、而非二斷漏之業一。

【斷腕】213（ダンワン）　うでをきりはなす。〔遼史、地理志一〕應天皇后、於二義節寺一斷レ腕、寘二太祖陵一、卽寺建二斷腕樓一樹レ碑焉。〔韓琦、蜂蠆詩〕包潛中良善、斷レ腕未レ足レ駭。

【斷畫居】214（ダングワキヨ）　明、何剛(**1**－**511**‥25)の室名。

【斷事司】215（ダンジシ）　官名。宋元以後置く。吏目(**2**－**3299**‥50)を見よ。〔續文獻通考、職官、工部〕元、大都留守司、斷事司、斷事、副斷事、吏目、各一人。

【斷石村】216（ダンセキソン）　地名。安徽省休寧縣の西南。今の名は落星臺。

【斷太后】217（ダンタイコウ）　二簧劇の一。又、趙州橋・天齊廟といふ。宋の辰州が飢饉の時、包拯が仁宗の命を奉じて李后との寃枉を伸べることを脚色したもの。

【斷代史】218（ダンダイシ）　一代のみを限つて記した歷史。漢書以下の正史は皆是である。

【斷頓兒】219　tuan^4 tuen^4 êrh　食物が無くなる。食物が出來なくなる。

【斷篷船】220（ダンホウノフネ）　おほひのやぶれた船。〔桃花扇、沈江〕撇二下俺斷篷船一。

【斷末摩】221（ダンマツマ）　佛臨終の苦。又、死ぬ刹那。息をひきとる際。しにぎは。末期。末摩に觸れて命が絕える義。末摩は梵語、支節・死穴と譯す。他物が之に觸れれば必ず死すといふ。〔俱舍論頌疏〕末摩、此云二支節一、然於二身中一有二百處異支節一、其量甚小、觸便致レ死、是謂二之末摩一、水等者等二取風火一、於二此三大一隨一增盛如二利刀一、觸二彼末摩一、因レ此命終、故名爲レ斷、此言レ斷者非レ如二斬レ薪令レ成二兩段一、但由三三大觸二彼末摩一、令二身無覺一、說名爲レ斷。

【斷末魔】222（ダンマツマ）　斷末摩に同じ。〔曾根崎心中〕斷末魔の四苦八苦、哀れといふもあまりあり。

【斷雨殘雲】223（ダンウザンウン）　降り續かぬ雨と殘りの雲。恩愛の中絕する喩。〔長生殿、獻髮〕豈知レ有二斷雨殘雲一。

【斷鶴續鳧】224（ダンカクゾクフ）　鶴の脛をたち鳧の脛をつぐ。鶴の脛が長いからとて之を斷ち、鳧の脛が短いからとて之をつげば、却つて其の性を害ふ結果となる。人工を以て自然を害ふをいふ。〔莊子、駢拇〕長者不レ爲レ有レ餘、短者不レ爲レ不レ足、是故鳧脛雖レ短、續レ之則憂、鶴脛雖レ長、斷レ之則悲。〔注〕各自有レ正、不レ可三以レ此正レ彼而損二益之一。

【斷際禪師】225（ダンサイゼンジ）　唐、希運(**4**－**8813**‥14)の謚。

【斷井頽垣】226（ダンセイタイエン）　水の絕えた井とくづれた垣。屋敷の荒れ果てたさま。〔桃花扇、傳歌〕都付二與斷井頽垣一。

【斷制之柄】227（ダンセイノヘイ）　政治上の大事をとりきめる權力。〔齋藤拙堂、諸葛亮比二管仲・樂毅一論〕操二斷制之柄一、而不レ見レ忌。

【斷齏畫粥】228（ダンセイクワクジユク）　宋の范仲淹が少時貧しく、粟粥を翌日まで置いて固まらせ、刀で四塊に區切り、朝晚二塊づつを食し、又、齏莖を數十塊に切つて食した故事。貧にして力學する喩。〔書言故事、苦學類、斷齏畫粥〕貧而力學、斷齏畫粥、范希文修學最貧、在二長白山僧舍一、煑二粟二升一、作二粥一器一、經レ宿遂凝、以レ刀畫爲二四塊一、早晚取二二塊一、斷二齏數十莖一、而啗レ之。〔故事成語考、飲食〕苦學仲淹、惟有二斷齏畫粥一。

【斷長補短】229（ダンチヤウホタン）　餘つたものを切つて足らぬものを補ふ。又、長所を採つて短所を補ふ。採長補短。〔禮、王制〕凡四海之內、斷レ長補レ短、方三千里、爲二田八十萬億一萬億畝一。

【斷難相允】230　tuan^4 nan^2 hsiang^1 yün^3　許可することは相ならぬ。

【斷而敢行鬼神避レ之】231（ダンジテカンカウスレバキシンモコレヲサク）　事は決斷を貴ぶもので、たとへ多少の障害があつても、之を斷行する時は鬼神も路を避けて人の意志の如くならしめるをいふ。〔史記、李斯傳〕顧レ小而忘レ大、後必有レ害、狐疑猶豫、後必有レ悔、斷而敢行、鬼神避レ之、後有二成功一。

【當レ斷不レ斷反受二其亂一】232（マサニダンズベクシテダンゼズンバカヘツテソノランヲウク）　處斷すべき時に躊躇して處斷しなければ後に反つて其の災害を招くに至る。〔史記、春申君傳贊〕語曰、當レ斷不レ斷、反受二其亂一。

【𣃏】13612　タイ　貸(**10**－**36709**)に同じ。〔字彙補〕𣃏、與レ貸同。

【斳】13613　キン　義未詳。〔五音篇海〕斳、音欣。

【斵】13614　タク　斵(**5**－**13585**)に同じ。〔川篇〕斵、同レ斲。

十五畫

【𣃕】13615　チヤク　櫡(**6**－**15826**)に同じ。〔集韻〕櫡、或作レ𣃕。

【𣃖】13616　テイ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕𣃖、音斷。

十六畫

【𣃔】13617　ダン　斷(**5**－**13611**)の本字。〔正字通〕𣃔、斷本字。

十八畫

【𣃗】13618　ク　斪(**5**－**13547**)に同じ。〔集韻〕斪、或作レ𣃗。

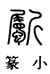
二十一畫

【斸】13619

㊀シヨク　ソク　〔集韻〕珠玉切　ㄓㄨˇ chu^3　沃

㊁チヨク　トク　〔廣韻〕陟玉切　沃

㊂サク　〔五音集解〕之角切　覺


小篆

㊀㊁㊂❶くは。又、きる。〔說文〕斸、斫也。从レ斤屬聲。〔集韻〕斸、說文、斫也。〔釋名、釋用器〕斸、誅也、主三以誅二除物根株一也。❷鐲(**11**－**41095**)に同じ。〔集韻〕斸、或从レ金。〔正字通〕斸、鐲同。❸欘(**6**－**15968**)に同じ。〔說文、段注〕木部有二欘字一、所二以斫一也、齊謂二之茲其一、蓋實一字。

【斸掘】1（シヨククツ）　くはでほること。〔白居易、贈レ賣二松者一詩〕斸掘經二幾日一、枝葉滿二塵埃一。

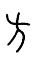
方　部

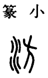
【方】13620

㊀ハウ　〔集韻〕分房切　ㄈㄤ fang^1　陽

㊁ハウ　〔集韻〕甫兩切　養

㊂バウ　マウ　〔集韻〕文紡切　養


小篆


或體

㊀❶ならべる。あはせる。〔爾雅、釋水〕大夫方舟。〔李注〕併二兩船一。〔儀禮、鄉射禮〕不レ足レ方。〔注〕方、猶レ並也。〔莊子、山木〕方レ舟而

濟二于河一。〔釋文〕方、倂也。〔史記、酈食其傳〕方レ船而下。〔注〕索隱曰、案、方レ船、謂レ竝レ船也、戰國策、方レ船積レ粟、循レ江而下也。〔漢書、揚雄傳上〕雖レ方三征僑與二偓佺一兮。〔注〕師古曰、方、謂二並行一也。〔班固、答賓戲〕侯伯方レ軌。〔注〕方、倂也。❷**もやひ舟。ならんだ舟。**舫(**9―30386**)に同じ。〔說文〕方、倂船也、象二兩舟省總一頭形一。〔段注〕通俗文、連舟曰レ舫、與二許說一字不レ同、蓋方正字、俗用レ舫。❸**いかだ。いかだする。**筏で渡る。〔詩、周南、漢廣〕江之永矣、不レ可レ方思。〔傳〕方、泭也。〔釋文〕小筏曰レ泭。〔集傳〕方、桴也。❹**くらべる。**〔論語、憲問〕子貢方レ人。〔集解〕孔安國曰、方、比二方人一也。〔孔稚圭、北山移文〕度二白雪一以方レ潔。❺**わける。**〔國語、楚語下〕不レ可レ方レ物。〔注〕方、猶レ別也。❻**たぐひ。**しな。とも。〔廣雅、釋詁三〕方、類也。〔禮、緇衣〕其惡有レ方。〔注〕方、喩二輩類一也。〔孟子、萬章上〕君子可三欺以二其方一。〔注〕方、類也。〔淮南子、精神訓〕以二萬物一爲二一方一。〔注〕方、類也。❼**たぐへる。**〔禮、檀弓上〕方喪三年。〔疏〕方、謂二比方一也。〔漢書、衞靑霍去病傳贊〕票騎亦方二此意一。〔注〕師古曰、方、比類也。❽**ひとしい。**〔詩、大雅、生民〕實方實苞。〔箋〕方、齊等也。〔周禮、考工記、梓人〕爲レ候、廣與レ崇方。〔注〕方、猶レ等也。❾**かく。**匚(**2―2595**)に通ず。〔說文通訓定聲〕方、段借爲レ匚。㋑四角。ましかく。正方形。〔周禮、考工記、輪人〕方者中レ矩。〔墨子、經上〕方、柱隅四讙也。〔國語、吳語〕爲二萬人一以爲二方陳一。〔注〕正曰レ方。㋺圓くない形。角のある形。〔淮南子、精神訓〕足之方也、象レ地。❿**地。**土地。〔大戴禮、曾子天圓〕下首之謂レ方。〔淮南子、本經訓〕戴レ圓履レ方。〔注〕方、地也。⓫**正しい。**直い。〔廣雅、釋詁一〕方、正也。〔韓非子、解老〕所謂方者、內外相應也、言行相稱也。〔呂覽、圜道〕必使二之方一。〔注〕方、正也。〔漢書、武帝紀〕詳延二天下方聞之士一。〔注〕師古曰、方、謂二方正一也。〔後漢書、鮑永傳〕居レ方以從レ義。〔注〕方、直也。⓬**いた。**ふだ。牘。〔儀禮、聘禮〕不レ及二百名一、書二於方一。〔注〕方、板也。〔周禮、秋官、硩蔟氏〕以レ方書二十日之號一。〔注〕方、版也。〔孫詒讓正義〕謂二木版一也。〔禮、曲禮下〕書レ方。〔注〕方、版也。〔禮、中庸〕布在二方策一。〔注〕方、版也。⓭**かど。**〔禮、儒行〕毀レ方而瓦合。〔注〕去二己之大圭角一、下與二衆人一小合。〔漢書、賈山傳〕使下皆務二其方一以高中其節上。〔注〕師古曰、一曰、方、謂二廉隅一也。⓮**四方。**よも。傍(**1―948**)に通ず。〔說文通訓定聲〕方、段借爲レ傍。〔廣雅、釋詁四〕方、表也。〔禮、表記〕以受二方國一。〔注〕方、四方也。〔孟子、梁惠王下〕文王之囿、方七十里。〔國語、周語下〕方不レ順レ時。〔注〕方、四方也。〔莊子、秋水〕吾長見レ笑二于大方之家一。⓯**かたはら。**わき。〔儀禮、大射儀〕左右曰レ方。〔注〕方、出旁也。〔史記、扁鵲傳〕視二見垣一方人一。〔注〕索隱曰、方、猶レ邊也。⓰**かた。**方位。方角。〔周禮、天官、冢宰〕辨レ方正レ位。〔釋文〕視二日景一以別二東西南北一、四方使レ有二分別一也。〔禮、內則〕教二之數與二方名一。〔注〕方名、如二東西一也。⓱**ところ。**〔易、繫辭上〕神無レ方。〔疏〕方、是處所之名。〔易、未濟〕辨レ物居レ方。〔疏〕各居二其方一、皆得レ安二其所一。⓲**くに。**邦國。〔書、湯誥〕誕告二萬方一。〔左氏、宣、三〕昔夏之方有レ德也、遠方圖レ物、貢二金九牧一。⓳**祭の名。**四方の氣を郊に迎へる祭。〔詩、小雅、甫田〕以社以方。〔傳〕方、迎二四方氣於郊一也。⓴**のり。**つね。みち。宜しいこと。法(**6―17290**)に通ず。〔說文通訓定聲〕方、段借爲レ法、方・法一聲之轉。㋑法。〔荀子、大略〕博學而無レ方。〔注〕方、法也。㋺義。〔廣雅、釋詁二〕方、義也。㋩則。〔詩、大雅、皇矣〕萬方之方。〔傳〕方、則也。㋥宜。〔左氏、襄、九〕官不レ易レ方。〔注〕方、猶レ宜也。〔左氏、閔、二〕授レ方。〔注〕方、百事之宜也。㋭禮。〔論語、先進〕知レ方。〔鄭注〕方、禮法也。〔太玄經、事〕小子知レ方也。〔注〕方、禮法也。㋬常。〔禮、檀弓上〕左右就レ養無レ方。〔注〕方、常也。〔論語、里仁〕遊必有レ方。〔鄭注〕常也。〔漢書、揚雄傳上、注〕晉灼曰、方、常也。〔太玄經、永〕非二永方一也。〔注〕方、常也。㋣道。〔易、恒〕君子以立、不レ易レ方。〔注〕方、猶レ道也。〔禮、樂記〕是先王立レ樂之方也。〔注〕方、道也。〔禮、樂記〕樂行而民鄉レ方。〔論語、雍也〕可レ謂二仁之方一也已。〔集解〕孔安國曰、方、道也。〔國語、鄭語〕具二萬方一。〔注〕方、道也。〔太玄經、交〕鳥獸同レ方也。〔注〕方、道也。㋠事。〔易、復〕后不レ省レ方。〔注〕方、事也。㋷あや。〔禮、樂記〕變成レ方、謂二之音一。〔注〕方、文章也。㉑**てだて。**術策。〔左氏、昭、二十九〕官脩二其方一。〔注〕方、術也。〔呂覽、必己〕如レ此其無レ方也。〔注〕方、術也。㉒**一派。**流儀。〔後漢書、獨行傳序〕一介之夫、能成レ名立レ方者、蓋亦衆矣。㉓**わざ。**㋑神仙の術。方術。方伎。〔史記、扁鵲傳〕問二中庶子喜レ方者一。〔注〕索隱曰、方、方伎之人也。〔素問、五藏別論〕余聞二方士一。〔注〕方士、明二悟方術一之士也。〔史記、秦始皇紀〕方士欲三煉以求二異藥一。㋺醫者の技術。〔史記、扁鵲傳〕夫子之爲レ方也。㋩まじなひ。〔後漢書、徐登傳〕趙炳、字公阿、東陽人、能爲二越方一。〔注〕善二禁咒一也。㉔**藥の調合。**處方。〔史記、扁鵲傳〕乃悉取二其禁方書一。〔漢書、郊祀志上〕少君者、故深澤侯人、主レ方。〔注〕如淳曰、主二方藥一也。㉕**むかふ。**向く。望(**5―14368**)に通ず。〔說文通訓定聲〕方、段借爲レ望。〔史記、天官書〕日方レ南。〔注〕正義曰、方、猶レ向也。㉖**歸するところ。**〔詩、大雅、皇矣〕萬邦之方。〔箋〕方、猶レ嚮也。㉗**出す。**〔淮南子、說山訓〕方レ車而蹠レ越。〔注〕方、出。㉘**さからふ。**妨(**3―6111**)に通ず。〔說文通訓定聲〕方、段借爲レ妨。〔書、堯典〕方レ命圮レ族。〔蔡傳〕方レ命者、逆レ命而不レ行也。〔孟子、梁惠王下〕方レ命虐レ民。〔注〕方、猶レ逆也。㉙**しばる。**〔孫子、九地〕方レ馬埋レ輪。〔注〕曹公曰、方、縛レ馬也。㉚**ほしいまま。**放(**5―13133**)に通ず。〔莊子、天地〕有レ人治レ道、若二相方一。〔釋文〕方、本亦作レ放。㉛**はびこる。**〔詩、大雅、生民〕實方實苞。〔傳〕方、極レ畝也。㉜**めばえ。**孚甲。房(**5―11714**)に通ず。〔說文通訓定聲〕方、段借爲レ房。〔詩、小雅、大田〕既方既阜。〔箋〕方、房也、謂二孚甲始生而未レ合時一也。㉝**よこ。**橫(**6―15594**)に通ず。〔說文通訓定聲〕方、段借爲レ橫。〔國語、齊語〕以方二行於天下一。〔注〕方、當レ作レ橫。㉞**行蟲。**〔禮、樂記〕方以レ類聚。〔注〕方、謂二行蟲一也。〔疏〕行蟲有三性識二道理一、故稱レ方。㉟**やうす。**有樣。〔陸機、五等諸侯論〕識二人情之大方一。㊱**つつみ。**隄

防。防(11－41576)に通ず。〔說文通訓定聲〕方、叚借爲レ防。㊲へや。いへ。坊(3－4924)に通ず。〔何晏、景福殿賦〕屯坊列署、〔注〕善曰、方與レ坊、古字通。〔漢書、張湯傳〕治二方中一。〔注〕師古曰、古謂三掘レ地爲レ坑曰レ方。㊳まさに。ちやうどいま。まさしく。當(7－21890)・將(4－7438)に通ず。〔說文通訓定聲〕方、叚借爲レ當爲レ將。〔詩、秦風、小戎〕方何爲レ期。〔箋〕方今以二何時一爲二還期一乎。〔詩、小雅、正月〕民今方殆。〔箋〕方、且也。〔張衡、東京賦〕方其用レ財取レ物。〔注〕綜曰、方、將也。〔孫綽、遊二天台山一賦〕方解二纓絡一。〔注〕善曰、方、猶レ將也。㊴**あたる**。〔莊子、人間生〕方二今之時一。〔漢書、文帝紀〕方二春和時一。㊵**大きい**。旁(5－13637)に通ず。〔說文通訓定聲〕方、叚借爲レ旁。〔廣雅、釋詁一〕方、大也。〔國語、晉語一〕今晉國之方。〔注〕方、大也。㊶**たもつ**。〔廣雅、釋詁一〕方、有也。〔詩、召南、鵲巢〕維鵲有レ巢、維鳩方レ之。〔傳〕方レ之、有レ之也。㊷**はじめ**。はじめて。〔廣雅、釋詁一〕方、始也。㊸**なす**。〔廣雅、釋詁三〕方、爲也。㊹**或る數の自乘**。〔夢溪筆談、技藝〕古法凡算法積レ之物、有二立方一、謂二六冪皆方一者、其法再自乘則得レ之。㊺仿(1－420)に通ず。〔荀子、禮論〕於レ是其中焉方皇周挾。〔注〕方皇、讀爲二仿偟一。㊻彷(4－10052)に通ず。〔莊子、達生〕野有二方皇一。〔釋文〕方、本亦作レ彷、同。㊼謗(10－35817)に通ず。〔論語、憲問〕子貢方レ人。〔釋文〕方、鄭本作レ謗。㊽**上代の地名**。今の陝西省の境。〔詩、小雅、六月〕侵レ鎬及レ方。㊾**姓**。〔通志、氏族略、以レ字爲レ氏〕方氏、周大夫方叔之後、以レ字爲レ氏、風俗通云、方雷氏之後、漢有二方賀一、唐有二詩人方干一、嚴州人、宋朝方姓爲二著姓一、閩中爲レ多、望出二河南一。[二]**ならふ**。〔集韻〕方、效也。[邦]**かた**。㋑他人をさして呼ぶ尊稱。㋺かかり。或る事を取扱ふ者。㋩ころ。時節。㋥多く書狀に用ひて、寄寓の意を表はす。[三]蛧(10－33032)に同じ。〔集韻〕蛧、或作レ方。

[名乘] スケ。ツネ。ナミ。タカ。ミチ。カタ。フサ。マサ。ヤス。ヨリ。ノリ。シゲ。ミ。

[解字] 象形。省文の象形である。下の𠃌は二つの舟を並べて一つとした形の省文、上の亠は二つの舟の頭を一處に總べくくつた形。說文に兩舟の省にて頭を總ぶるの形に象ると解してゐる所以である。併べた船。ならべる意。引伸して比方の方、方正・方圓・方向の方に用ひ、又、假借して防・旁・傍・甫・法・望・妨・房・橫・當等に用ひ、轉注・假借の用法が多い。〔說文、方、段注〕从二舟一省、而上有二竝頭之象一、故知三併船爲二本義一、編木爲二引伸之義一、云云、下象二兩舟併爲レ一、上象三兩船頭總二於一處一也。▽ （甲骨文） 象形。兩方に突き出た柄のあるすきの形に象る。

【方渥】1（ハウアク） まさにあつい。渥は厚。〔王融、三月三日曲水詩序〕桑楡之陰不レ居、草露之滋方渥。〔注〕濟曰、渥、厚也。

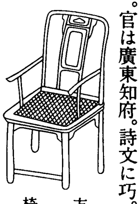
【方案】2 fang¹ an⁴ ㊀醫師の診斷書。㊁もくろみ。方法。

【方菴】3（ハウアン） 字號。㊀清、宋至(3－7078‥110)の號。㊁東條吉の號。東條方菴(6－14499‥861)を見よ。

【方夷】4（ハウイ） 古の九夷の一。〔後漢書、東夷傳序〕夷有二九種一、曰、畎夷・于夷・方夷・黃夷・白夷・赤夷・玄夷・風夷・陽夷。

【方怡】5（ハウイ） 清の人。履箋の孫。字は子順。號は韓廬。光緖の優貢副生。官は廣東知府。詩文に巧。著に韓廬文鈔がある。

【方椅】5′（ハウイ） うしろのよりかかりと臂かけとを四角に造つたこしかけ。〔三才圖會、器用、方椅〕。



方椅

（三才圖會）

【方貽】6（ハウイ） 清、嚴曾榘(2－4589‥300)の字。

【方頤】7（ハウイ） 廣く角ばつた頤（オトガヒ）。〔南史、梁簡文帝紀〕尊嚴若レ神、方頤豐下。

【方佑】8（ハウイウ） 明、桐城の人。字は建輔。天順の進士。監察御史となり、眞御史と稱せられた。次いで讒せられて攸縣の知に左遷され、桂林知府に終る。〔清史列傳、二百三十四〕・〔蘭臺法鑒錄、十〕・〔本朝分省人物攷、三十五〕。

【方印】9（ハウイン） 四角な印。〔蘇軾、焦千之求二惠山詩一詩〕赤泥開二方印一、紫餠截二圓玉一。

【方位】10（ハウヰ） 方角と位置。東・西・南・北の四方の位置。古來、方位を示すに四主點・四隅點を以てする外に、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の十二支、及び易の坎・震・離・兌・乾・坤・巽・艮が用ひられたが、今は三十二方位法が多く用ひられ、又、測地學・天文學上精密を要するものは方位角を用ひる。〔張衡、東京賦〕辨二方位一而正レ則。〔晉書、律歷志上〕從二其方位一、加二律其上一。〔朱子語錄〕孤虛以二方位一言、如下俗言二某方利某方不利一之類上。〔陳櫟、中星考〕今術家欲レ辨二方位一、必先定二子午針一以爲レ準。

【方位角】11（ハウヰカク） 磁針の指す方向が子午線となす角。

【方違】12（カタタガヘ） 陰陽家の語。外出に當つて天一神の在す方に向ふを忌み、前夜に別の方へ行き、其の方向を變更してから行くこと。〔赤染衛門集〕かたたがひにきたる人の、とのゐ物を出だしたれば。

【方寅】13（ハウイン） 清、馮勛(12－44579‥46)の字。

【方堙】14（ハウイン） 春秋、秦の人。よく馬を相す。又、方歅に作る。九方堙(1－167‥519)を見よ。〔張協、七命〕秦青不レ能レ識二其衆尺一、方堙不レ能レ覩二其若レ滅。〔注〕善曰、呂氏春秋、古者善相レ馬者、管青相二脣吻一、秦牙相レ前、皆天下良士也、若二趙之王良、秦之伯樂・九方堙一、尤盡二其妙一、濟曰、秦青・方堙、二人名、皆善相レ馬、知二其尺寸遲速衆相一也。

【方歅】15（ハウイン） 春秋、秦の人。方堙に同じ。〔玉篇〕歅、一辛切、人名、方歅、能相レ馬者。〔廣韻〕歅、秦穆公時有二方歅一、一名皐、善相レ馬也、或作レ諲。

【方域】16（ハウヰキ） 地方。區域。國內。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕今方域晏然、要荒無レ儆。〔左思、吳都賦〕樂滑衎二其方域一、列仙集二其土地一。〔庾信、秦州天水郡麥積崖佛龕銘〕方域芥盡、不レ變二天宮一。

【方瑛】17（ハウエイ） 明の人。政の子。諡は忠襄。官は都指揮同知。麓川の征討に從ひ、賊壘に突入して數百人を擊斬し、復、王驥に從つて貢章・沙壩・阿嶺諸蠻を平定す。景泰中、南和伯に封ぜられ、總兵官に充てられ、後、侯に進爵せられた。〔明史、一百六十六〕・〔萬斯同明史、三百十八〕・〔明史稿、一百五十七〕・〔國朝獻徵錄、九〕。

【方裔】18（ハウエイ） 邊遠の地。邊境。〔晉書、張寔傳〕(張)肅曰、云云、羯逆滔レ天、朝廷傾覆、肅宴二安方裔一、難至不レ奮、何以爲二人臣一。

【方曄】19（ハウエフ） 宋、永嘉の人。字は聖時。號は愚迂翁。力學篤行、大觀の初、行誼に擧げられたが固辭した。

【方淵】20（ハウエン） 明、淳安の人。字は宗源。號は龜鶴山人。尙書に明通す。官は鳳陽蒙城令。著に龜鶴山人吟稿・貽哂稿がある。

【方員】21（ハウエン） ㊀四角とまるがた。方圓に同じ。員は、圓の古字。〔孟子、離婁上〕離婁之明、公輸子之巧、不レ以二規矩一、不レ能レ成二方員一、云云、孟子曰、規矩、方員之至也。〔史記、禮書〕規矩誠錯、則不レ可三欺以二方員一。〔陸倕、新漏刻銘〕金筒方員之制、飛流吐納之規、變レ律改レ經。㊁明、永福の人。字は懋規。宣德の進士。行人・御史・廣西參政・廣東按察使に歷任す。〔明名臣傳、十二〕。

【方員叟】22（ハウエンソウ） 宋、道濟(11－39010‥194)の號。

【方員可レ施】23（ハウエンホドコスベシ） 四角にでもまるがたにでもあてはまる。多才で如何なる事務にも適する意。〔齊書、沈憲傳〕補二烏程令一、太守褚淵歎レ之曰、此人方員可レ施。

【方圓】24（ハウエン） 四角とまるがた。かくとまる。方員。〔荀子、王霸〕猶三規矩之於二方圓一也。〔管子、法法〕規矩者方圓之正也、雖レ有二巧目利手一、不レ如三拙規矩之正二方圓一也。

【方圓殊レ合鉤繩異レ態】25（ハウエンガフヲコトニシコウジヨウタイヲコトニス） 四角と圓と、曲と直とは、其の性が同じくない。轉

じて、物の相合はない喩。鉤は曲、繩は直。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕方圓殊而不㆑合兮、鉤繩用而異㆑態。

【方圓】26（ハウエン） 四角とまるがた。方圓(24)に同じ。〔禮、經解〕規矩誠設、不㆑可㆔欺以㆓方圓㆒。〔楚辭、離騷〕何方圓之能周兮、夫孰異㆑道而相安。

【方轅】27（ハウエン） 車のながえをならべる。方はならべる意。〔張衡、西京賦〕冠帶交錯、方㆑轅接㆑軫。〔注〕翰曰、方、並也。

【方應】28（ハウオウ） 定まつた應じ方。〔管子、幼官〕備具無㆑常、無㆓方應㆒也。〔纂詁〕應㆑之無㆓定方㆒。

【方翁】29（ハウヲウ） 清、李樹穀(6―14459‥1422)の號。

【方屋】30（ハウヲク） ❶四角な屋根。頂が四角なこと。〔宋史、陳希亮傳〕見㆓其所㆑著帽、方屋而高㆒。〔蘇軾、方山子傳〕見㆓其所㆑著帽㆒、方屋而高、曰、此豈古方山冠之遺像乎。❷（カタヤ） ㋑相撲の土俵の上を覆ふ屋根。㋺東西に分かれた力士の控所。

【方音】31（ハウオン） 土俗の音韻。方言。〔范汭、南唐宮詞〕女冠鳥爪解㆓方音㆒、識得蓬瀛路淺深。〔日知錄、方音〕金史國語解曰、序今文尙書辭、多㆓奇澀㆒、蓋亦當世之方音也、荀子每言㆑案、楚辭每言㆑羌、皆方音、文心雕龍云、張華論㆑韻謂、士衡多㆑楚、可㆑謂㆘銜㆓靈均之聲餘㆒、失㆗黃鍾之正響㆖也。〔輶軒語、語學〕近世一淆㆓於方音㆒、一誤㆓於俗師㆒。

【方可】32 fang^{1} k'ê^{3} それでよい。差支ない。丁度宜い。

【方夏】33（ハウカ） ❶四方と中夏。〔書、武成〕誕膺㆓天命㆒、以撫㆓方夏㆒。〔傳〕以撫㆓綏四方中夏㆒。〔後漢書、董卓傳贊〕方夏崩沸。❷明、長洲の人。字は南明。號は養春子。著に廣韻藻がある。〔四庫提要、一百三十八〕。

【方家】34（ハウカ） ❶有名な大家。〔稱謂錄、尊稱、方家〕莊子見㆑笑㆓於大方之家㆒、今人所㆑稱方家、蓋本㆓於此㆒。❷地名。㋑安徽省阜陽縣の西南、汝河の北岸。㋺湖北省黃陂縣の西北。

〖方家窯〗35（ハウカエウ） 鎭の名。江蘇省青浦縣の東。

【方舸】36（ハウカ） ふねをならべる。〔曾鞏、送㆓趙資政㆒詩〕魚鹽方㆑舸集、綺綉萬箱叢。

【方牙】37（ハウガ） 伏羲氏をいふ。〔路史、禪通紀〕太昊伏羲氏、方牙、一曰㆓蒼牙㆒、風姓、是爲㆓春皇㆒。

【方雅】38（ハウガ） ただしくみやびやかなこと。〔北史、婁昭傳〕昭方雅正直、有㆓大度深謀㆒。

【方駕】39（ハウガ） ❶車を竝べて行く。〔後漢書、馬防傳〕臨洮道險、車騎不㆑得㆑方㆑駕。〔張衡、西京賦〕酒車酌㆑醴、方㆑駕授㆑饔。〔注〕善曰、鄭玄儀禮注曰、方、併也。❷匹敵する。〔劉峻、廣絕交論〕遒文麗藻、方㆓駕曹王㆒。〔注〕善曰、鄭玄儀禮注曰、方、併也、銑曰、方、並也。〔陸倕、以㆑詩代㆑書別後寄㆓贈京邑僚友㆒詩〕李郭或同舟、僑夏時方駕。

【方价】40（ハウカイ） 宋の人。愼の從孫。初名は儼。熙寧の進士。官は侯官縣知。

【方偕】41（ハウカイ） 宋、莆田の人。字は齊古。大中祥符の進士。溫州軍事推官・御史臺推直官、後、光祿卿に歷任した。〔宋史、三百四〕。

【方楷】42（ハウカイ） 清の人。駿謨の子。原名は愷。字は子可。生れながらにして殘疾あり、終身仕へず。天算地輿に精しく、詩・古文詞に巧。著に易說・四裔古國考、三統曆算式・代數通藝錄・句婁全集がある。

【方澥】43（ハウカイ） 明、莆田の人。字は源深。學者、柳東先生と稱す。正統の進士。官は行人。禮經に精通す。〔本朝分省人物攷、七十四〕。

【方愷】44（ハウガイ） 清、方楷(42)の原名。

【方槩】45（ハウガイ） ただしいみさを。〔元經、五、永和二年春帝正月錄尙書事何充卒、傳〕王導、庾亮並鷹、充方槩、有㆓萬夫之望㆒。

【方向】46（ハウカウ） ❶方角。方嚮。〔紅樓夢、三十九回〕按㆓著劉姥姥說的方向地名㆒。❷めあて。方針。❸（ハウキヤウ） 明の人。佑の從子。字は與義。成化の進士。給事中に擢んでらる。弘治の初、大學士劉吉等十一人及び宦官陳祖生等を彈劾し、尋いで祖生に陷れられて下獄す。瓊州知府に終る。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百四十六〕・〔明史稿、一百六十九〕。

【方行】47（ハウカウ） ❶あまねくゆきわたる。旁行。〔書、立政〕方㆓行天下㆒、至㆓海表㆒、罔㆑有㆑不㆑服。〔傳〕方、四方。〔孫星衍、今古文注疏〕方與㆑旁通、說文云、溥也。〔淮南子、主術訓〕方行而不㆑流。❷橫行(6―15594‥29)に同じ。〔國語、齊語〕君有㆓此士也三萬人㆒、以方㆓行於天下㆒、以誅㆓無道㆒。〔注〕方、猶㆑横也。❸元の人。國珍の子。字は明敏。號は東軒。至正の間、江浙行中書省參知政事となる。博學。著に東軒集がある。〔新元史、一百二十七〕・〔明史、一百二十三〕・〔明詩綜、八十八〕。

【方庚】48（ハウカウ） 宋、淳安の人。字は彥通。官は承信郎。

【方昊】49（ハウカウ） 五代吳越、青溪の人。字は太初。唐末に生れ、唐亡ぶや、錢鏐に招かれたが往かず、巖谷中に隱れ、學を講じた。鄉人、靜樂先生といふ。

【方耕】50（ハウカウ） 清、莊存與(9―31035‥178)の字。

【方綱】51（ハウカウ） 宋、青陽の人。八世同居し、閒言なし。嘗て貧民を賑恤し、景德中、其の門に旌せられた。〔宋史、四百五十六〕。

【方剛】52（ハウガウ） 正しくつよい。〔吳志、陸凱傳〕禕體質方剛、器幹彊固。

【方豪】53（ハウガウ） 明、開化の人。字は思道。號は棠陵子。正德の進士。崑山縣知・刑部主事・湖廣副使に歷官し、平恕を以て稱せらる。書室を蓉溪書屋といふ。著に棠陵集・斷碑集・蓉溪書屋集がある。〔明史、二百八十六〕・〔萬斯同明史、三百八十七〕・〔明史稿、二百六十七〕・〔明詩綜、三十三〕。

【方客】54（ハウカク） 四方の賓客。〔太玄經、童〕次六、大開㆓帷幕㆒、以引㆓方客㆒。〔注〕六爲㆓宗廟㆒、春秋祭祀、以神㆓事之㆒、故開㆓帷幕㆒、延㆓要賓客㆒也。

【方格】55（ハウカク） ❶正しさ。標準となる程の正しさ。正しくて標準となる。〔後漢書、傅燮傳〕朝廷重㆓其方格㆒。〔注〕方、正也、格、猶㆓標準㆒也。❷fang^{1} kê^{2} 四角の格子罫。

〖方格紙〗56 fang^{1} kê^{2} chih^{3} 方眼紙。

【方愨】57（ハウカク） 宋、桐廬の人。字は性夫。宣和の進士。官は禮部侍郞。剛廉の士。著に禮記集解がある。〔宋元學案、九十八〕。

【方角】58（ハウガク） ❶東西南北などの稱。方位。❷進路。方向。❸手段。てだて。

【方岳】59（ハウガク） ❶四方の岳。東岳は岱宗、南岳は衡山、西岳は華山、北岳は恆山。方嶽。四岳。〔書、周官〕王乃時巡、考㆓制度于四岳㆒、諸侯各朝㆓于方岳之下㆒。〔孔叢子、巡狩〕然後觀㆓方岳之諸侯㆒。〔干寶、晉紀總論〕方岳無㆓鈞石之鎭㆒。〔孔穎達、周禮正義序〕尙書傳云、云云、堯始以㆓羲和㆒爲㆓六卿㆒、春夏秋冬者、幷掌㆓方岳之事㆒。❷宋、祁門の人。字は巨山。號は秋崖。紹定の進士。淳祐中、趙葵の參議官となり、又、南康軍知・袁州知を歷任したが、丁大全に忤つて退職す。駢體に巧。著に秋崖集がある。〔四庫提要、一百六十四〕。

【方額】60（ハウガク） 四角なひたひ。〔唐書、太平公主傳〕太平公主、則天皇后所㆑生、方額廣頤、多㆓陰謀㆒。

【方甲】61（ハウカフ） 其の土地のくみがしら。〔福惠全書、刑名部、姦情、總論〕許㆘方甲率㆓同父兄㆒戒㆗飭務㆖業。

【方匣】62 fang^{1} hsia^{2} はこ。四角な箱。

【方干】63（ハウカン） 唐、新定の人。字は雄飛。詩を善くす。性素朴、人を見る每に三拜し、識者、方三拜と稱す。會稽の鏡湖に隱れ、終身出でず。沒後、宰臣張文蔚が文人の不第者十五人を奏した時、干も、其の數に與り、及第を追賜さる。後進、玄英先生と稱す。〔唐才子傳、七〕。

【方函】64（ハウカン） 明、王與端(7―20823‥2149)の字。

【方漢】65（ハウカン） 明、淳安の人。字は孔殷。天順の間、山東道監察御史を授けられ、尋いで陝西・甘肅等の巡按となり、成化中、四川に遷り、後、南京太僕寺卿に陞る。〔國朝列卿記、八十六・一百五十一〕・〔蘭臺法鑑錄、十〕・〔明名人傳、十二〕。

【方簡】66（ハウカン） 後周、孫方諫(3―6987‥519)の本名。

【方眼】67（ハウガン） 四角なまなこ。又、四角な穴。〔老學庵筆記、十〕秦太師作㆑相時、裹㆑頭巾、當㆑面偶作㆓一摺㆒、謂㆓之太師錯摺樣㆒、第中窗、上下及中一二眼作㆓方眼㆒、餘作㆓疎櫺㆒、謂㆓之太師窗㆒。

〖方眼紙〗68（ハウガンシ） 一定の距離を定めて直角に交はる多くの縱横線を引いた紙。

【方忌】69 fang^{1} chi^{4} 方位の忌みをいふ。

【方起】70（ハウキ） ならび起る。〔荀子、致士〕莫㆑不㆓明通方起以尙㆑盡矣。〔注〕方起、並起。

【方軌】71（ハウキ） わだちを竝べる。二臺の車が竝んで行く。〔史記、蘇秦傳〕車不㆑得㆑方㆑軌、騎不㆑得㆓比行㆒。〔班固、東都賦〕豈特方㆑軌竝㆑跡、紛綸后辟、治㆓近古之所㆑務、蹈㆓一聖之險易㆒云爾。〔左思、吳都賦〕高闈有㆑閌、洞門方㆑軌。〔注〕向曰、

方レ軌、並レ車而行也。〔顏氏家訓、名實〕開二方レ軌之路一、廣二造レ舟之航一。

【方喜】72 ハウキ　宋、莆田の人。字は良翰。官は廣州通判。

【方暉】73 ハウキ　四角なひかり。戶は方形であるから、戶からさし込む光をいふ。〔沈約、應二王中丞思遠詠レ月詩〕方暉竟レ戶入、圓影隙中來。

【方煕】74 ハウキ　明、莆田の人。字は孟明。號は東軒。宣德の進士。庶吉士に選ばれ、翰林の試に屢〻優等となる。官は潮州府通判。著に東軒集がある。〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十〕・〔明詩紀事、乙、十一〕。

【方毅】75 ハウキ　ただしくつよい。正直でひるまない。〔唐書、李景讓傳〕李景讓、字後己、贈大尉憕孫也、性方毅有レ守。

【方畿】76 ハウキ　畿內をいふ。邦畿(11－39310・・16)の㊀に同じ。〔陳琳、爲二表紹一檄二豫州一文〕方畿之內、簡練之臣、皆垂レ頭搨レ翼、莫レ所二憑恃一。〔注〕銑曰、天子境內千里、曰二畿內一。

【方輝】77 ハウキ　靈獸の名。獐の如きもの。此の獸を見れば長生するといふ。〔集微〕弦超入二秦山一、遇二一物如レ獐、頭若二婦人一、鬒髻簪珥悉具、歸告二智瓊一、瓊曰、此方輝也、見者壽、弦超果二百餘歲。

【方蘄】78 ハウキ　馬銜をいふ。〔梅堯臣、詩〕方蘄建二春陌一。〔事物異名錄、舟車、馬具〕按、方蘄、馬銜也。

【方伎】79 ハウギ　方技に同じ。〔史記、倉公傳〕詔問、故太倉長臣意、方伎所レ長、及所二能治一病者、有二其書一無レ有、皆安受レ學。

【方技】80 ハウギ　又、方伎に作る。㊀醫術・神仙の類をいふ。漢書藝文志では醫經・經方・房中・神僊を合はせて方技といふ。〔漢書、藝文志〕方技者、皆生生之具、王官之一守也、大古有二岐伯兪拊一、中世有二扁鵲秦和一、蓋論レ病以及レ國、原レ診以知レ政、漢興有二倉公一、今其技術晻昧、故論二其書一、以序二方技一爲二四種一。〔姚振宗、漢書藝文志條理〕方技者、方士之技、故房中・神仙兩家亦以二其類一附レ之。㊁醫家及び卜家・占星家・相家等をいふ。〔漢書、王莽傳中〕是時有下用二方技一待二詔黃門一者上。〔後漢書、桓譚傳〕或驅二使醫巫一、外求二方技一。〔晉書、張華傳〕圖緯方技之書、莫レ不二詳覽一。㊂醫藥の書。〔漢書、藝文志〕侍醫李柱國、校二方技一。〔注〕師古曰、醫藥之書也。

【方技家】81 fang^{1} chi^{4} chia^{1}　醫師。

【方技傳】82 ハウギデン　醫家・卜家・占星家・相家等の傳を收錄したもの。唐書・宋史・遼史・金史・元史及び北齊書・舊唐書・明史等に見ゆ。猶、上揭諸史の中、後の三書は方伎に作る。

【方技略】83 ハウギリヤク　劉歆の七略の一。方技に關する書を集めたもの。〔漢書、藝文志〕歆於レ是總二羣書一、而奏二其七略一、故有二輯略一、有二六藝略一、有二諸子略一、有二詩賦略一、有二兵書略一、有二術數略一、有二方技略一。

【方祇】84 ハウギ　大地。天を圓精といふのに對す。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕圓精初爍、方祇始凝。〔注〕善曰、言二天地始分一也、呂氏春秋、說二天道之圓一也、精氣一上一下、圜周復雜、無レ所二稽留一、故曰二天道圓一、何以說二地之方一也、萬物殊レ類、形皆有二分職一、不レ能二相爲一、故曰二地道方一、濟曰、圓精、謂レ天也、方祇、謂レ地也。

【方誼】85 ハウギ　宋、嘉禾の人。字は賓王。朱熹の弟子。〔宋元學案、六十九〕。

【方儀】86 ハウギ　㊀地をいふ。〔盧諶、時興詩〕亹亹圓象運、悠悠方儀廓。〔注〕善曰、在レ天成レ象、故曰二圓象一、天地曰二兩儀一、故曰二方儀一也。㊁宋、黃巖の人。字は儀父。號は懋翁・侯樵。易に沈思し、老年に至るも倦まず。著に懋翁玩易・候樵存稿がある。〔宋元學案、六十六〕。

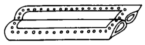
【方丘】87 ハウキウ　地の方に象り土を高くした祭壇。〔周禮、春官、大司樂〕夏日至、於二澤中之方丘一奏レ之。〔疏〕案二爾雅一、土之高者曰レ丘、云云、言二澤中之方丘一者、因レ高以事レ天、故於二地上一、因レ下以事レ地、云云、不レ可下以二水中一設上レ祭、故亦取二自然之方丘一、象二地方一故也。〔通典、禮、吉、方丘〕魏明帝景初元年、詔祀二方丘一。

【方丘壇】88 fang^{1} ch'iu^{1} t'an^{2}　北京に在る地壇の別稱。

【方麯】89 ハウキク　扇の一種。方麴に同じ。〔駢雅、釋器〕方麯、便面也。〔丹鉛總錄、物用類〕讀者不レ解三方麯爲二何語一、按、方言、簿謂二之曲一、此云二方麯障レ面、蓋竹織方扇也。

【方麴】90 ハウキク　扇の類。竹で四角にあみ顏をかくすもの。便面。〔北史、楊愔傳〕有二選人魯漫漢一、自言、猥賤獨不レ見レ識、愔曰、卿前在二元子思坊一、騎二禿尾草驢一、經見レ我不レ下、以二方麴一鄣レ面、我何不レ識レ卿、漫漢驚服。

【方釳】91 ハウキツ　乘輿の馬の頭の上につけて、翟尾を插すもの。五寸の鐵で作り、中が高く兩頭が低く、山形に似たもの。〔廣韻〕釳、乘輿馬上、插二翟尾一者、曰二方釳一、釳、鐵也、廣三寸。〔後漢書、輿服志上〕象鑣鏤錫、金鍐方釳、插二翟尾一。〔張衡、東京賦〕方釳左纛。〔注〕綜曰、方釳、謂、轅旁以二五寸鐵鏤錫一、中央低二兩頭一、高如二山形一而貫レ中、以二翟尾一結二著之轅兩邊一、恐二馬之相突一也。



漢方釳
（西清續鑑）

【方磬】92 ハウキヤウ　樂器の名。方響(97)に同じ。我が國では方響を方磬と書くのが普通であった。〔和名抄、調度部、音樂具〕方磬、律書樂圖云、磬、懸二十四、唐令云、王磬・方響各一架。〔箋注和名類聚抄、六〕方磬之名、於二西土書一無レ見、疑是方響之誤。

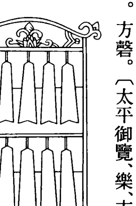
【方磬師】93 ハウキヤウシ　雅樂寮の屬官。唐樂師に屬し、方磬を教へる事を掌る。〔類聚三代格、四〕太政官符、定二雅樂寮雜樂師一事、云云、唐樂師十二人、云云、方磬師。

【方磬生】94 ハウキヤウセイ　雅樂寮の樂生の一。唐樂生の中に屬し、方磬を習ふ者。〔類聚三代格、四〕太政官符、應三減二定雅樂寮雜色生二百五十四人一事、云云、唐樂生六十八人、減二二十四人一、定二三十六人一、方磬生二人、元三人。

【方嚮】95 ハウキヤウ　進行の方角。むき。方向。方針。〔歐陽脩、重贈二劉原父一詩〕行迷二方嚮一但看レ日、度二盡山險一方行レ沙。

【方鏡】96 ハウキヤウ　四角な鏡。〔庾信、象戲賦〕剛柔卷舒、若二方鏡一而無レ影。〔西京雜記、三〕銘曰、昭華之琯有二方鏡一、廣四尺、高五尺九寸。

【方響】97 ハウキヤウ　樂器の名。鐵・銅を用ひるを常とするが、古くは石又は玉を以て造った。其の種類・形狀は一樣ではないが、普通は長さ九寸、廣さ二寸、上は圓く下は角で、之を二段の架に懸け、上下二段の架に磬板各〻八枚あり、下段は右を首とし、其の名を合・四・一・上・江・走・工・凡といひ、上段は左を首とし、其の名を上凡・六・五・卬・上卬・亡・斗・下といふ。擊つに兩桴を用ひる。方磬。〔太平御覽、樂、方響〕三禮圖、方響、梁有二銅磬一、蓋今方響也、方響以レ鐵爲レ之、脩九寸、廣二寸、圓レ上方レ下、架レ磬而不レ設レ業、倚二架上一、以代二鍾磬一、人間使用者、纔三四寸。〔文獻通考、樂考、金之屬、胡部、方響〕梁有二銅磬一、蓋今方響之類也、方響、以レ鐵爲レ之、修八寸、廣二寸、圓レ上方レ下、架如レ磬而不レ設レ業、倚二於架上一、以代二鐘磬一、人間所レ用者、纔三四寸、周正樂載西涼清樂、方響、一架十六枚、具二黃鐘大呂二均聲一、唐武宗朝、朱崖李太尉有二樂史廉郊一、嘗攜二琵琶於池上一、彈二蕤賓調一、忽聞芰荷間有レ物、躍出二其岸一、視レ之乃方響蕤賓鐵也、豈指撥精妙、能致二律呂之然一邪、和凝有二響鐵之歌一、蓋本二諸此一。〔杜陽雜編〕太和九年、宮人沈阿翹、進二白玉方響一。〔史官樂史、楊太眞外傳上〕馬仙期方響。〔長生殿、偸曲〕仙期方響鬼神驚。



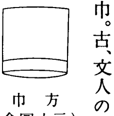
方響
（三才圖會）

【方桁】98 ハウギヤウ　㊀屋根の組み方で、棟の兩端から檐（ノキ）の四隅まで、下棟（クダリムネ）を垂れたもの。方形。㊁隅棟が一箇所に集まるやうに作つたもの。其の頂に露盤・寶頂などを冠せる。

【方虐】99 ハウギヤク　まさにそこなふ。〔詩、大雅、板〕天之方虐、無二然謔謔一。

【方渠】100 ハウキヨ　縣名。漢、置く。甘肅省環縣の南。〔漢書、地理志下〕北地郡、縣十九、方渠。〔讀史方輿紀要、陝西、慶陽府、環縣〕方渠城、本漢縣、屬二北地郡一、後漢廢、隋爲二慶州馬嶺縣地一、唐景龍元年、分置二方渠縣一、貞元十三年、以三方渠當二吐蕃要路一、命二邠寗一帥二楊朝晟一城レ之、元和十四年、吐蕃寇二慶州一、營二於方渠一、卽此、五代晉、徙二威州治此一、宋省爲二方渠寨一、屬二通遠縣一。

【方擧】101 ハウキヨ　唐、孔戢(3－6933・・124)の字。



方巾（三才圖會）

【方巾】102ハウキン　頭巾の一。一名、角巾。古、文人の冠つたもの。〔三才圖會、衣服一、方巾〕此卽古所謂角巾也、制同二雲巾一、特少二雲文一。

【方近】103 fang^1 chin^4　近傍。

【方金】104ハウキン　德川時代の貨幣の一。方形の金貨で、一兩の四分の一に當る。こつぶきん。一朱金・二朱金など。〔經濟纂要前集、五〕慶長四年、始鑄二方金一、六年後、改二造大楕金・小楕金・方金・鋌銀・銀豆一。

【方金印】105ハウキンイン　北京人の愛好する菊花の一。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按二日下舊文考一、云、蓋京師之菊、種亟繁、云云、桃花扇・方金印。

【方鈞】106ハウキン　淸、青浦の人。字は範斯。號は秋巖。山水・墨竹畫に巧。〔國朝畫識、九〕。

【方覲】107ハウキン　淸、江都の人。字は近雯。朱彝尊の弟子。康熙の進士。官は西安布政使。著に石川詩鈔がある。〔碑傳集、八十二〕。

【方誾】108ハウギン　宋、淳安の人。字は彥和。年十八にして從兄の閎、弟の聞と共に太學に學び、每試必ず迭に魁となる。時人語つて兩浙二三方、天下無雙といふ。官は金紫光祿太夫。致仕して龍亭居士の號を賜はる。

【方旴】109ハウク　明、蘇州の人。字は文明。後、大年と改名した。號は研山山人（硯山山人）。著に研山山人漫集がある。〔四庫提要、一百七十九〕。

【方矩】110ハウク　曲尺。かねざし。〔玉篇〕矩、員曰レ規、方曰レ矩。

【方具】111ハウグ　僧の禮拜に用ひる敷物。〔李孝先、詩〕方具跪合掌。

【方空】112ハウクウ　❶四角の穴。四角に空いた處。〔東觀餘論、上、漢漏壺說〕案、漢器有二丞相府漏壺一、與レ此形製同、而上有レ蓋、蓋有二方空一、所三以出二納箭一。〔楞嚴經〕譬如三方器見二方空一。❷織物の名。方空縠に同じ。〔騈雅、釋服食〕方空、細紗也。❸沙の異名。〔事物異名錄、坤輿、沙〕方空、丹鉛錄、沙名二方空一、按、漢書、方空、紗也、沙、疑紗誤。

【方空縠】113ハウクウコク　麻絲で粗く織つた布。もぢ。方目紗。〔後漢書、章帝紀〕癸巳、詔二齊相一、省二冰紈方空縠吹綸絮一。〔注〕釋名曰、縠、紗也、方空者、紗薄如レ空也、或曰、空、孔也、卽今之方目紗也。

【方隅】114ハウグウ　一方の隅。又、四方の隅。疆界。〔魏志、陳思王植傳〕疆埸騷動、方隅內侵。〔應貞、晉武帝華林園集詩〕區內宅レ心、方隅回レ面。〔晉書、唐彬傳〕詔曰、廣武將軍唐彬、受二任方隅一、東禦二吳寇一、南臨二蠻越一、撫二寧疆埸一、有二綏禦之績一。〔裴度、鑄二劍戟一爲二農器一賦〕方隅砥平。

【方回】115ハウクワイ　❶堯時代の仙人。雲母粉を鍊食し、五柞山に隱る。堯、招聘して閭士と爲し、夏啓の時、宦士と爲る。〔列仙傳〕。❷元、歙の人。字は萬里。號は虛谷・紫陽山人。宋、景定の進士。初、賈似道に諂ひ、提領池陽茶鹽となり、似道敗れて淸議に退けらる。後、嚴州知となり、元に入つて德路總管を授けらる。著に續古今考・桐江集・瀛奎律髓・文選顏鮑謝詩評がある。〔四庫提要、一百十八・一百六十六・一百八十六・一百八十八〕・〔四庫未收書目提要、三〕。❸字號。㋑晉、郗愔（**11－39413**‥1）の字。㋺宋、賀鑄（**10－36725**‥79）の字。

【方會】116ハウクワイ　❶宋、莆田の人。字は子元。熙寧の進士。官は越州の知。後、太子詹事。文安郡開國侯に封爵せらる。❷宋の高僧。宜春の冷氏の子。慈明の弟子。慶曆中、楊岐に居り、臨濟正脈を闡明す。〔五燈會元〕。

【方罫】117ハウクワイ　棋盤の四角な目。又、格子形。〔字彙〕罫、胡卦切、棊局線閒方目、韋曜博弈論、所レ志不レ出二一枰之上一、所レ務不レ過二方罫之閒一。〔韋昭、博弈論〕然其所レ志不レ出二一枰之上一、所レ務不レ過二方罫之閒一。〔注〕銑曰、罫、線之閒方目也。

【方潰】118ハウクワイ　草の名。青蒿（**12－42564**‥85）の異名。〔本草、青蒿〕釋名、草蒿、方潰、菣、犱蒿、香蒿、保昇曰、草蒿、江東人呼爲二犱蒿一、爲二其氣臭似一レ犱也、北人呼爲二青蒿一。

【方外】119ハウグワイ　❶區域の外。區劃の外。〔管子、幼官〕此居二於圖東方方外一。❷うき世の外。世俗を超越した世界。〔莊子、大宗師〕孔子曰、彼遊二方之外一者也、而丘遊二方之內一者也。〔疏〕方、區域也、彼之二人齊二一死生一、不レ爲二教跡所一レ拘、故遊二心寰宇之外一、而仲尼子貢、命世大儒、行二裁非之義一、服二節文之禮一、銳二意哀樂之中一、遊二心區域之內一、所二以爲一レ異也。〔集釋〕慶藩案、文選、謝靈運之レ郡初發レ都詩注、夏侯孝若東方朔贊注、並引二司馬一云、方、常也、言三彼遊二心于常教之外一也、釋文闕。〔淮南子、俶眞訓〕馳二於方外一、休二乎宇內一。〔曹植、七啓〕雍容暇豫、娛二志方外一。❸夷狄の地。中國の外の義。〔詩、商頌、長發〕方外大國是疆、幅隕既長。〔傳〕諸夏爲レ外。〔集傳〕方、四方也、外、大國遠諸侯也。〔司馬相如、難二蜀父老一文〕羣生霑濡、洋二溢乎方外一。〔注〕銑曰、方外、遠方也。〔漢書、路溫舒傳〕時詔二公卿一、選下可レ使二匈奴一者上、溫舒上書、願下給二斯養一暴二骨方外一、以盡中臣節上。❹京の外。〔東軒筆錄〕明肅太后、問二宰相一曰、福州陳絳、贓汙狼藉、不レ劾何也、王沂公曰、方外之事、須二本路監司發摘一。❺規則外れ。定則以外。❻字號。㋑後梁、鴻楚（**12－46874**‥109）の字。㋺桑原守雌の號。桑原空洞（**6－14772**‥50）を見よ。

【方外友】120ハウグワイノトモ　世俗の外の交を結ぶ友。〔唐詩紀事、陳子昂〕子昂・趙貞固・盧藏用・杜審言・宋之問・畢隆澤・郭襲微・司馬承禎・釋懷一・陸餘慶、號二方外十友一。〔冷齋夜話〕趙閱道休二官三衢一、與二鍾山佛慧禪師一爲二方外友一。

【方外學】121ハウグワイノガク　佛教をいふ。〔眞德秀、題跋〕雖三早從二方外之學一、而跬步不レ忘二君父一。〔葛長庚、日用記〕予年十有二、卽知レ有二方外之學一。

【方外地】122ハウグワイノチ　夷狄の地。中國の方域外に在る土地。〔漢書、嚴助傳〕越方外之地、劗髮文身之民也。

【方外侶】123ハウグワイノリヨ　世俗の外のともがら。僧などの稱。〔皎然、春夜期二裵都曹濟集心上人院一不レ至詩〕逍遙方外侶、荏苒府中情。

【方外高人】124ハウグワイカウジン　宋、黎仲吉（**12－47994**‥116）の時稱。

【方外之國】125ハウグワイノクニ　夷狄の國。〔漢書、文帝紀〕詔曰、朕既不明、不レ能レ遠レ德、使三方外之國或不二寧息一。

【方外司馬】126ハウグワイシバ　世俗の事に超然としてゐる司馬。晉の謝奕が桓溫に徵辟されて安西司馬と爲り、溫の坐に在つて笑詠すること常日と異らなかつたので、溫が稱した故事。〔晉書、謝奕傳〕謝奕、字無奕、桓溫辟爲二安西司馬一、在二溫坐一、岸幘笑詠、無レ異二常日一、桓溫曰、我方外司馬。

【方皇】127ハウクワウ　❶さまよふ。徬徨。〔荀子、禮論〕方皇周浹、曲得二其次序一、是聖人也。〔注〕方皇、讀爲二彷徨一、猶二徘徊一也、浹、讀爲レ挾、帀也、言、於二是禮之中一、徘徊周帀、委曲皆得二其次序一而不レ亂、是聖人也。❷動物の名。狀は蛇に類し、兩首で五采の文あるもの。〔莊子、達生〕野有二彷徨一、澤有二委蛇一。〔釋文〕司馬云、彷徨、狀如レ蛇、兩頭、五采文。❸樓臺の名。〔揚雄、甘泉賦〕溶二方皇於西青一。〔注〕善曰、晉灼曰、方皇、卽彷徨、觀名也。❹川の名。一說に、山名。〔淮南子、道應訓〕強臺者、南望二料山一、以臨二方皇一。〔注〕方皇、水名也、一曰、山名。

【方廣】128ハウクワウ　❶巖の名。上に石室があり、周圍二千丈、千人を容れる。福建省永泰縣の東北。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、永福縣〕方廣巖、縣東北二十里、峭拔千仞、上有二石室一、可レ容二千人一。❷寺の名。㋑浙江省天台縣の天台山。㋺福建省永泰縣の方廣巖の下。石室があり、千人を容れる。五代漢の時、建つ。〔福建通志〕宋黃飛熊、讀二書其中一、嘗摭二山口十奇一、刻二詩於石一、明謝肇淛、有二方廣志一。㋩湖南省湘潭縣の南、衡山の蓮花峯の下。嘗て、晦庵・南軒が遊んだ。故に寺の旁に二賢祠あり、朱・張二先生を祀る。㋥京都市の東南。天正十四年、豐臣秀吉、創建す。〔賴杏坪、方廣寺大佛詩〕曾費二黃金十萬馱一、造成百丈大沙那、佛與二檀越一倶灰滅、耳塚蕭條春草多。❸佛大乘經をいふ。又、十二部經の第十をいふ。方は理の方正なこと、廣は言詞の廣博なこと。又、佛をいふ。〔勝鬘寶窟、中末〕方廣者、是大乘經之通名也、理正爲レ方、文富爲レ廣。〔王巾、頭陀寺碑文〕既而方廣東被、教肆南移。〔注〕濟曰、方廣、佛號也。

【方适】129ハウクワツ　宋、莆田の人。字は彥周。元符の進士。崇寧中、元祐の黨籍に入れらる。

【方瓘】130ハウクワン　明、婺源の人。湛若水の弟子。意を仕進に絕ち、敦行を以て著はる。〔明史、二百八〕・〔萬斯同明史、三百四十一〕・〔明史稿、一百

九十二〕。

【方君】131 ハウクン 名刺入れ。拜匣。〔支廷訓、方函子傳〕方函子、字肅將、端方自處、無二圓融婉轉之態一、主人器レ之曰二方君一。〔注〕拜匣也。

【方薫】132 ハウクン 清、浙江石門の人。字は蘭士、又、蘭坻（蘭生）。號は樗盦・嬾儒・長青・井研齋。又、禦兒鄕農と稱す。詩書畫に巧。書室を山靜居といふ。著に山靜居稿・論畫がある。〔清史稿、五百九〕・〔國朝耆獻類徵、四百三十六〕・〔清畫家詩史、丁、下〕・〔國朝詩人徵略初編、四十二〕。

【方兄】133 ハウケイ 方外の兄。〔桂苑叢談〕甘露寺有レ僧、道行孤高、李德裕以二方竹杖一一贈焉、及三再鎭二浙右一、其僧尚在、問曰、方兄無レ恙否、對曰、已規圓而漆レ之矣、公嗟惋彌レ日。

【方形】134 ハウケイ ❶四角の形。〔杜甫、有レ事二於南郊一賦〕變二方形於動植一、聽二宮徵於砰礚一。❷ハウギヤウ 方桁(98)に同じ。

【方京】135 ハウケイ 四角な倉庫。〔說文〕囷、圜謂二之囷一、方謂二之京一。

【方坰】136 ハウケイ 清、平湖の人。字は思臧。號は子春・生齋。嘉慶の擧人。官は錢塘訓導。著に生齋詩文稿がある。〔清史列傳、六十七〕。

【方計】137 ハウケイ てだて。はかりごと。方略。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕子厚與設二方計一、悉令二贖歸一。

【方莖】138 ハウケイ ❶四角な莖。〔爾雅、釋草、萑、蓷、注〕今荒蔚也、葉似レ荏方莖、白華、華生二節間一。❷胡麻の異名。〔本草、胡麻〕釋名、巨勝、方莖、狗蝨、油麻、脂麻、時珍曰、方莖、以レ莖名。

【方炯】139 ハウケイ 元、莆田の人。字は用晦。號は杏翁・杏林布衣。詩に巧。醫術に精しく、著に杏林肘後方・傷寒書・脈理精微書がある。

【方經】140 ハウケイ さしわたし。〔紅樓夢、一回〕高經十二丈、方經二十四丈。

【方慶】141 ハウケイ 唐、王綝(**7**－**20823**・・813)の字。

【方輗】142 ハウゲイ 宋、平江の人。字は叔行。李燔に從學す。饒伯輿と親交あり、貧に安んじ道を樂しみ、招聘に應ぜず。魏了翁、其の學行を嘉して、其の室に學齋となづけた。

【方隙】143 ハウゲキ 方形の間隙。〔福惠全書、保甲部、保甲稽查〕宜下將二大門一塞砌、僅上留中方隙上。

【方僑】144 ハウケウ 宋、莆田の人。字は次山。景祐の進士。官は循州の知。

【方絜】145 ハウケツ 清、黃巖の人。字は矩平。號は治菴・石我齋。書・畫を善くし、詩に巧。著に石我齋詩稿がある。〔清畫家詩史、庚、上〕。

【方潔】146 ハウケツ ❶ただしくていさぎよい。方正潔白。〔後漢書、王丹傳〕丹資性方潔、疾二惡強豪一。❷紙の異名。〔傅咸、紙賦〕廉方有レ則、體潔性眞。

【方頰】147 ハウケフ 四角なほほ。〔梁書、簡文帝紀〕方頰豐下、鬚鬢如レ畫。

【方見】148 ハウケン 明の人。向の子。字は惟素。赤城に隱居す。著に南淙稿がある。

【方軒】149 ハウケン ならんだ窓。〔何晏、景福殿賦〕陰堂承レ北、方軒九戶。〔注〕善曰、方軒、併窓也。

【方乾】150 ハウケン 清、歙の人。字は又乾・希仙。畫に巧。

【方硯】151 ハウケン 四角なすずり。〔清異錄、文用、雪方池〕和魯公有二白方硯一。

【方絢】152 ハウケン 宋、莆田の人。字は君素。古文詞賦に巧。西山草堂に隱居し、門人、濯錦先生といふ。

【方檢】153 ハウケン 品行がただしくてしまりがある。〔北史、裴駿傳〕方檢有二禮度一、鄕里宗敬焉。

【方幰】154 ハウケン 車に垂れる四角な幕。〔王維、上二張令公一詩〕步簷靑瑣闥、方幰畫輪車。

【方顯】155 ハウケン 清、巴陵の人。字は周謨。號は敬齋。康熙の末、官は恭城知縣。雍正の初、鎭遠知府を授けられ、乾隆中、廣西巡撫に陞進す。〔清史稿、三百十四〕・〔國朝耆獻類徵、一百六十八〕。

【方元】156 ハウゲン 方秋客(535)を見よ。

【方言】157 ハウゲン ❶各地方の言語。又、一地方の特有のことば。くになまり。土語。〔王維、早入二榮陽界一詩〕因レ人見二風俗一、入レ境聞二方言一。❷書名。十三卷。漢、揚雄撰。晉、郭璞注。舊本題して輶軒使者絕代語釋別國方言といふ。或は單に別國方言、又は方言といふ。當時、各地から參覲する使者の方言を集錄し、一名一物について其の言語の異同を詳述したもの。唯〻漢志及び揚雄傳に其の名が見えないので、宋の洪邁以後疑ふ人が多いが、漢人の著たることに疑はない。〔郭璞、方言序〕蓋聞、方言之作、出二乎輶軒之使所下以巡二遊萬國一、采中覽異言上、車軌之所レ交、人迹之所レ蹈、靡レ不二畢載一、以爲二奏籍一、周秦之季、其業隳廢、莫レ有二存者一、暨二乎揚生一、沉二淡其志一、歷載構綴、乃就二斯文一、是以三五之篇著、而獨鑒二之功顯一、故可下不レ出二戶庭一、而坐照二四表一、不レ勞二疇咨一、而物來能名上、考二九服之逸言一、標二六代之絕語一、類二離詞之指韻一、明二乖レ途而同レ致、辨二章風謠一、而區分曲通、萬殊而不レ雜、眞洽見之奇書、不刊之碩記也。〔四庫提要、經小學類〕。

〘參考書〙【方言疏證】十三卷 清、戴震撰。【方言藻】二卷 清、李調元撰。【方言箋疏】四卷 清、錢繹撰。【續方言】二卷 清、杭世駿撰。【續方言補證】一卷 清、程際盛撰。

【方言館】158 ハウゲンクワン 外國語を講習する學校。〔周禮政要、通譯〕今宜下於二各省一廣開中方言館上。

【方源】159 ハウゲン 山名。もと黃土山といふ。唐の天寶六年、此の名を賜ふ。又、馬金嶺といふ。安徽省休寧縣の南。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府、休寧縣、白際山〕方源山、在二縣南百八十里一、高二二百五十仞、周三十里、本名二黃土山一、唐天寶六載、賜二今名一、一名、馬金嶺、舊志、方源・黃土爲二二山一、朱同云、方源卽黃土、自二婺源五嶺一分支而來、東運二白際一而雞籠則其支也。

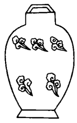
【方嚴】160 ハウゲン ただしくておごそかなこと。方正で謹嚴なこと。〔吳志、魯肅傳、注〕吳書曰、肅爲レ人方嚴、寡二於玩飾一。〔晉書、王雅傳〕王恭風神簡貴、志氣方嚴。〔李退溪、啓蒙篇〕必取二好レ學好レ善、方嚴直諒之人一。

【方儼】161 ハウゲン 方价(40)を見よ。

【方古】162 ハウコ 謹嚴で古にしたがふこと。〔通俗編、品目、方古〕北史司馬子如傳、子如性方古、不レ會レ俗。

【方虎】163 ハウコ 字號。❶清、徐倬(**4**－**10110**・・210)の字。❷清、邵齊熊(**11**－**39343**・・124)の字。

【方壺】164 ハウコ ❶腹が圓く口の四角な壺。〔儀禮、燕禮〕司宮尊二于東楹之西一、兩方壺。〔注〕尊二方壺一、爲二卿大夫士一也。〔公羊、昭、二十五、國子執二壺漿一、注〕壺、禮器、腹方口圓曰レ壺、反レ之曰二方壺一、有二爵飾一。❷島の名。渤海の東に在り、神仙が住むといふ五島中の一つ。一名、方丈。他の四島は、岱輿・員嶠・瀛洲・蓬萊。〔列子、湯問〕渤海之東、不レ知二幾億萬里一、有二大壑一焉、云云、其中有二五山一焉、一曰岱輿、二曰員嶠、三曰方壺、四曰瀛洲、五曰蓬萊。〔注〕史記曰、方丈・瀛洲・蓬萊、此三神山在二渤海中一。〔班固、西都賦〕濫二瀛洲與二方壺一、蓬萊起二乎中央一。〔左思、吳都賦〕疊二華樓一而島峙、時髣二髴於方壺一。〔拾遺記、一、高辛〕三壺則海中三山也、一曰方壺、則方丈也、二曰蓬壺、則蓬萊也、三曰瀛壺、則瀛洲也、形如二壺器一。❸字號。㋑元、方從義(546)の號。㋺元、方從義(546)の號。㋩明、楚煙(**6**－**15141**・・15)の字。㋥清、郜璉(**11**－**39429**・・5)の字。


方壺（名物圖）

【方壺外史】166 ハウコグワイシ 明、陸西星(**11**－**41708**・・371)の號。

【方壺居士】167 ハウコジ 宋、汪莘(**6**－**17154**・・78)の號。

【方壺存稿】168 ハウコソンカウ 書名。八卷。宋、汪莘撰。雜文一卷、賦及び詩六卷、詩餘一卷に分る。〔四庫提要、集、別集類〕。

【方午】169 ハウゴ 正午。〔李林甫外傳〕忽一日方午、有レ人扣レ門。

【方口】170 ハウコウ 四角な口。〔後漢書、明德馬皇后紀〕方口美髮。〔唐書、婁師德傳〕師德長八尺、方口博唇、深沉有二度量一。

【方口食】171 ハウコウジキ 佛 四邪命の一。豪勢に媚び四方に通じて巧言令色を以て自活するをいふ。〔智度論、三〕有二出家人一、曲二媚豪勢一、通二使四方一、巧言多求二不淨治命一者、是名二方口食一。

【方公】172 ハウコウ 清、倪正(**1**－**792**・・20)の字。

【方孔】173 ハウコウ 四角なあな。錢のあなをいふ。〔舊唐書、憲宗紀上〕得二古錢二千三百一、其形小、方孔、三足。

【方功】174 ハウコウ 方兆と功兆。方功義弓を見よ。

【方功義弓】175 ハウコウギキユウ 占方の名。方兆(367)・功兆(**2**－**2295**・・77)・義兆(**9**－**28504**・・196)・弓兆(**4**－**9692**・・122)をいふ。各條を見よ。〔周禮、春官、卜師〕掌レ開二龜之四兆一、一曰方兆、二曰功兆、三曰義兆、四曰弓兆。〔蘇洵、易論〕方功義弓、惟

其所レ爲。

【方后】176 ハウコウ　明、世宗の后。謚は孝烈。〔明史、一百十四〕。

【方侯】177 ハウコウ　明、湯芬(**7－17874**‥119)の字。

【方恆】178 ハウコウ　清の人。履籛の孫。字は子永。號は果齋。光緒の擧人。官は江西石城知縣。著に果齋文集・說文銓雅等がある。

【方貢】179 ハウコウ　四方の國のみつぎもの。〔周禮、夏官、懷方氏〕掌下來二遠方之民一、致二方貢一、致二遠物一、而送二迎之一、云云、治中其委積館舍飲食上。

【方媾】180 ハウコウ　まさに婚姻をむすばんとする人。〔沈約、奏二彈王源一文〕方媾之黨、革二心于來日一。〔注〕濟曰、方媾、謂二復如レ此婚姻一。

【方谷】181 ハウコク　山田球の號。山田方谷(**4－7869**‥825)を見よ。

【方告】182 ハウコク　あまねく告げる。方は旁と通ず。〔書、呂刑〕虐威庶戮、方告二無辜于上一、上帝監レ民、罔レ有二馨香德一。〔今古文注疏、注〕方、一作レ旁。〔同、疏〕方、與レ旁通、說文云、溥也、云云、論衡變動篇云、甫刑曰、庶僇旁告二無辜於天帝一、此言三蚩尤之民被レ冤、旁告二無罪于上天一也。

【方國】183 ハウコク　四方の國。〔詩、大雅、大明〕厥德不レ回、以受二方國一。〔箋〕方國、四方來附者。〔左氏、昭、二十六〕詩曰、厥德不レ回、以受二方國一。

【方轂】184 ハウコク　こしきをならべる。方轅。〔蔡邕、釋誨〕速速方レ轂、天天是加。〔注〕謂二小人乘レ寵、方レ轂而行一、方、猶レ並也。〔魏文帝、校獵賦〕列翠星陳、戎車方レ轂。

【方骨】185 ハウコツ　上顎と下顎との兩骨の端を連接した小骨。

【方今】186 ハウコン　ただいま。いま。當今。〔戰國、趙策〕方今唯秦雄二天下一、此非三必貪二邯鄲一、其意欲レ求レ爲レ帝。〔墨子、尙同中〕今天下之人曰、方今之時、天下之正長、猶未レ廢二乎天下一也。〔漢書、成帝紀〕方今世俗、奢僭罔レ極。〔魏志、齊王芳紀〕方今百姓不レ足。

【方鯤】187 ハウコン　清、桐城の人。字は羽南。著に易蘊がある。〔四庫提要、九〕。

【方才】188 fang^1 tsʻai^2　今し方。只今。方纔。

【方綵】189 ハウサイ　四方の色。綵はあや、いろどり。〔潘岳、藉田賦〕中黃曄以發レ暉兮、方綵紛其繁會。〔注〕善曰、謂三鹵簿之儀、車騎旌旗、各依二方色一也。

【方載】190 ハウサイ　❶四方の事。一說に、常の法則といふ。〔顏延之、赭白馬賦〕考二方載於往牒一。〔注〕善曰、方載、四方之事、翰曰、方、常、載、則也。❷地をいふ。〔孔穎達、禮記正義序〕上法二圓象一、下參二方載一。

【方齋】191 ハウサイ　字號。❶明、林文俊(**6－14551**‥424)の號。❷太田保世の號。太田方齋(**3－5834**‥565)を見よ。❸安原寬の號。安原方齋(**3－7072**‥136)を見よ。

【方纔】192 ハウサイ　今し方。只今。〔紅樓夢、二回〕正是方纔說這政公、已有二了一個啣レ玉之兒一。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕哀求打點、方纔釋放。

【方劑】193 ハウザイ　藥を調合する。藥の調劑。又、其の藥。配劑。處方。〔唐書、甄權傳〕虛著二方劑一、終無レ益二於世一。

【方喪】194 ハウサウ　臣が君の喪に服する時、父母の喪になぞらへて服すること。〔禮、檀弓上〕事レ君有レ犯而無レ隱、左右就養有レ方、服勤至レ死、方喪三年。〔注〕方喪、資二於事一レ父。〔疏〕方、謂二比方一也、謂下比二方父喪禮一以喪上レ君、故云レ資二於事一レ父、資、取也、取二事レ父之喪禮一以喪レ君、但居處飲食同耳、不レ能三戚容稱二其服一。〔朱熹、君臣服議〕曰、古之所謂方喪三年者、蓋曰三比二方於父母之喪一云爾、云云、事レ君者、君死而方喪三年、謂三其服如二父母一、而分有二親疏一、此義之至、而情或有下不レ至二於其盡一者上也。

【方槽】195 fang^1 tsʻao^2　通用銀の名。方形の銀塊。

【方箱】196 ハウサウ　車の、物を入れる四角なところ。〔周禮、春官、巾車、庶人乘二役車一、注〕役車方箱、可下載二任器一以共上レ役。〔玉海、車服、車輿〕陳祥道曰、爲レ車者、有二方箱一。

【方䃀】197 fang^1 tsʻao^2　山西に通用する銀の一種。方形の銀塊で、重さ五兩と十兩との二種がある。

【方顙】198 ハウサウ　四角なひたひ。〔新論、命相〕衛青方顙、黥徒明二其富貴一。〔五代史、東漢劉承鈞世家〕郭無爲、棣州人、方顙鳥喙、好レ學多聞。

【方冊】199 ハウサク　書物。方策に同じ。〔陸倕、新漏刻銘〕布在二方冊一、無レ彰二器用一。〔韓愈、與二孟尙書一書〕聖賢事業、具在二方冊一。〔演繁露〕方冊云者、書二之於版一、亦或書二之竹簡一也、通版爲レ方、聯簡爲レ冊。

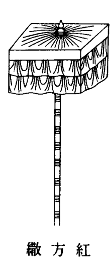
【方朔】200 ハウサク　漢、東方朔(**6－14499**‥547)をいふ。

【方策】201 ハウサク　木の板と竹簡。古、紙のなかつた時代、方策に書した。轉じて、記錄・文書をいふ。策は又、冊に作る。〔中庸〕文武之政、布在二方策一。〔章句〕方、版也、策、簡也。〔疏〕言三文王武王爲レ政之道、皆布列在二於方牘簡策一。〔後漢書、馬融傳〕然猶詠二歌於伶蕭一、載二陳於方策一、豈不レ哀哉。〔楊升菴外集〕聘禮、百名以上書二于策一、不レ及二百名一書二于方一、方小而策大也、方、木版也、策、編簡也、簡、是一片版、策、衆簡相連也。

【方筴】202 ハウサク　書物。方策に同じ。筴は冊と通じ、竹簡をいふ。〔宋書、後廢帝紀〕方筴所レ不レ書、振古所レ未レ聞。

【方錯】203 ハウサク　まつすぐなこととななめなこと。〔李尤、圍棊銘〕道爲二經緯一、方錯列張。

【方繖】204 ハウサン　傘の一種。柄の頂に四角に帛を張つて雨を避けるもの。〔事物紀原、旗旐釆章部、方繖〕宋朝會要曰、方繖、古張レ帛避レ雨之制、今有二方繖大繖一、則是繖之制、始二於古張一レ帛也。〔大清會典圖、五十四、輿衞圖、方繖、方繖、緞殊二紅紫二色一、皆方五尺、不レ施二繡紋一、四角出二銅龍首一、垂二五采流蘇一、直柄、頂及柄尺寸、俱如二九龍曲蓋之制一。



紅方繖
（三才圖會）

【方山】205 ハウザン　❶山名。㋑一名、靈巖山。下に靈巖寺がある。山東省長淸縣の東南。〔水經、濟水注〕其水西北流、逕二玉符山一。〔齊乘〕府西南龍洞山西南有二方山一、在二長淸縣界一、疑卽水經注之玉符山也。㋺山東省昌樂縣の東南。〔晏謨、齊記〕劇城東南、有二方山一、遠望正方。㋩古の浮戲山。河南省氾水縣の南。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、鄭州、氾水縣〕方山、在二縣南四十里一、山海經、浮戲之山、氾水出焉、是也、或謂二之玉僊山一。㋥一名、陸渾山。河南省嵩縣の東北。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、嵩縣〕陸渾山、在二縣東北四十里一、伊水經二其下一、一名、方山、隋大業十三年、李密掠二滎陽梁國諸縣一、說翟讓出二陽城北一、逾二方山一、自二羅口一襲二興洛倉一、蓋是時裴仁基守二虎牢一、密從二間道一西出二登封一、北逾二方山一也、水經注、羅水出二方山一、西北流爲二長羅川一、括地志、方山在二氾水縣東南三十二里一、氾水所レ出、蓋山接二兩縣界一云。㋭一名、方嶺。山西省大同縣の北。〔魏書、高祖紀上〕起二文石室靈泉殿於方山一、幸二方山一、起二思遠佛寺一。㋬山西省長子縣の西、發鳩山の西北。㋣山西省平定縣の西北。盂縣の界に接す。壁立千仞、其の頂は方形をなして池がある。㋠一名、天印山。江蘇省南京市の東南。秦淮水、其の麓を流る。〔元和志〕秦鑿二金陵一、以斷二其勢一、方山、是所レ鑿之地也、三國吳使下陳勳於二方山一立上埭、號二方山埭一。㋷江蘇省句容縣の東南の四平山。㋦江蘇省儀徵縣の西、六合縣と分界の處。山形四面方正、故に名づく。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、儀眞縣、城子山〕方山、在二縣西三十里一、其嶺四面平正、唐於レ此屯レ軍、置二方山府一、其並峙者曰二橫山一、高廣、與二方山一相埒、二山俱接二六合縣境一。㋸安徽省宣城縣の西北、青弋江の東岸。㋾浙江省青田縣の南。㋻唐代、甘果山といひ、又、五虎山といふ。福建省閩侯縣の南。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、侯官縣〕方山、府南五十里、端方如レ几、城南望レ之、勢若二五虎一、一名、五虎山、高千仞、四面如二城郭一、其峯曰二天柱峯一、跨二閩侯二縣界一、元末、陳友定遣レ兵駐。㋕浙江省長興縣の西。〔吳興掌故〕陳武帝爲二信武將軍一、自二長城一遣二二千人一、夜下二方山津一、卽此。㋵一名、迴峯山。四川省瀘縣の西。〔華陽國志〕江陽縣有二方山蘭祠一。〔太平寰宇記〕山形八角、唐改爲二迴峯山一。㋟四川省蒼溪縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、蒼溪縣、雲臺山〕方山、在二縣東八十五里一、遠望如二几案之狀一、志云、古方州城也、未レ知レ所レ據。㋹又、浮山・凝脂山といふ。四川省巴縣の東。〔輿地紀勝〕山去レ縣四十八里、一名凝脂山、堯時洪水不レ沒、故又名二浮

山一。㊁縣名。㋑隋、置く。山西省離石縣の北。離石水の西岸。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府、永寧州、定胡城〕方山城、在二州西北七十里一、隋義寧初、置二方山縣一、唐武德二年、置二方州一、貞觀三年、州廢、縣仍屬二石州一、宋因レ之、金志、貞祐三年、徙二縣於積翠山一、山蓋在二故縣北一、元省、郡志云、方山城、在二州北百四十里一。㋺北周、置く。江蘇省六合縣の東。〔隋書、地理志下〕開皇四年、改二尉氏一曰二六合一、省二堂邑・方山二縣一入焉。〔舊志〕蓋齊周時所レ置、在二六合縣方山下一。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、六令縣〕棠邑城、在二縣北一、漢縣也、云云、後周又改二横山一爲二方山縣一。㊂字號。㋑宋、杜知仁（**6－14477**・・369）の字。㋺清、周正（**2－3441**・・307）の號。㋩清、謝重輝（**10－35827**・・322）の號。

【方山巾】206 ハウザンキン　方山冠の㊁に同じ。〔李白、嘲二魯儒一詩〕足著二遠遊履一、首戴二方山巾一。

【方山冠】207 ハウザンクワン　㊀漢代、樂人の用ひた冠。〔後漢書、輿服志〕方山冠、似二進賢一、以二五采縠一爲レ之、祠二宗廟一、大予・八佾・四時・五行樂人服レ之、冠衣各如二其行方之色一而舞焉。㊁唐宋時代、隱士の用ひた冠。方山子を見よ。

【方山原】208 ハウザンゲン　地名。陝西省隴縣の西南。宋の紹興中、吳玠が金兵と戰つた處。〔讀史方輿紀要、陝西、鳳翔府、隴州〕方山原、州西南二百里、東西長四十里、晉隆安初、武都氏屠飛啖鐵等叛、殺二隴東太守姚回一、屯二據方山一、姚興遣二姚紹一討斬レ之、卽此原也、宋紹興中、吳玠與二金人一戰二於此一、又楊政嘗知二方山原軍一、儲二芻粟於其中一、宋會要、紹興十一年、割レ地界レ金、金人求二商州及和尚方山二原一、許レ之、於レ是遂以二大散關一爲レ界。

【方山子】209 ハウザンシ　㊀宋の陳慥の綽名。方山冠を著けて居たからいふ。〔宋史、陳希亮傳〕（希亮子）慥、字季常、少時使レ酒好レ劍、晩年遯二於光黃閒一、蔬食徒步往二來山中一、人莫レ識也、見二其所レ著帽一、方屋而高、曰、此豈古方山冠之遺像乎、因謂二之方山子一。〔蘇軾、方山子傳〕方山子、光黃閒隱人也。㊁字號。㋑宋、毛璞（**6－16772**・・201）の號。㋺明、鄭作（**11－39647**・・150）の號。

【方山堂】210 ハウザンダウ　元、陳駭（**11－41698**・・236）の室名。

【方山居士】211 ハウザンコジ　金、耿守直（**9－29026**・・52）の號。

【方士】212 ハウシ　㊀仙術を行ふ人。方術の士。神仙を求め、金丹を燒き、又、禁呪祈禳を行ふ人。道士。〔史記、秦始皇紀〕始皇聞レ亡、乃大怒曰、云云、悉召二文學方術士一甚衆、欲三以興二太平一、方士欲三練以求二奇藥一。〔後漢書、甘始傳〕甘始・東郭延年・封君達三人者、皆方士也。〔楊炯、和三劉侍郎入二隆唐觀一詩〕方士燒二丹液一、眞人泛二玉杯一。〔稱謂錄、術士、方士〕素問五臟別論、余聞二方士一、注、方士、謂下明二悟道術一之士上也。㊁周官の名。秋官の屬。裁判官の類。采地の獄を掌る。〔周禮、秋官、方士〕掌二都家一、聽二其獄訟之辭一、辨二其死刑之罪一。

【方子】213 ハウシ　㊀字號。㋑清、徐正誼（**4－10110**・・519）の字。㋺清、暴昭（**5－14137**・・102）の字。㊁fang¹ tzŭ 醫師の處方。〔紅樓夢、七回〕好生開個方子、認眞吃幾劑藥。

【方之】214 ハウシ　清、陶模（**11－41705**・・148）の字。

【方止】215 ハウシ　軍隊などが方形の隊形を以て止り居ること。〔荀子、議兵〕圜居而方止、則若二盤石一然。〔注〕圜居・方止、謂二不レ動時一也。

【方仕】216 ハウシ　明、鄞の人。字は梅崖。書畫に巧。著に續圖繪寶鑑がある。

【方志】217 ハウシ　地方の事柄を記した書。地方誌。宋・元以來澤山公刊せられた。但し、通志は多く清朝以來編刊される。宋代には、朱長文の吳郡圖經續記、范成大の吳郡志、元代には、潛說友の咸淳臨安志、于欽の齊乘、明代には、陳鎬の闕里誌、康海の武功縣志、韓邦靖の朝邑縣志、謝肇淛の滇略、清代には、阮元の浙江通志・廣東通志・雲南通志、謝啓昆の廣西通志等がある。〔周禮、地官、誦訓〕掌下道二方志一以詔中觀事上。〔注〕說二四方所レ識久遠之事一以告レ王。〔左思、三都賦序〕鳥獸草木、則驗二之方志一。〔注〕善曰、周禮曰、外史掌二四方之志一。〔左思、吳都賦〕方志所レ辨、中州所レ羨。〔注〕銑曰、方志、謂下四方物土所二記錄一者上。

【方志考稿】218 ハウシカウカウ　書名。民國、瞿宣穎編。方志の收藏家任鳳苞の藏本につき、各書の卷數・編纂年代・編者姓氏、及び舊志編纂の顚末、卷次・體例等を敍したもの。既刊甲集三本、凡て六編。　「丁度始め。

【方始】219 fang¹ shih³ そこで。今正に始まる。

【方祀】220 ハウシ　其の封土の方角の神を祭ること。〔禮、曲禮下〕諸侯方祀。〔注〕方祀者、各祭二其方之官一而已。〔孫希旦集解〕方祀、謂レ祭二四望之在二其方一者、若下魯祭二泰山一晉祭上レ河是也。

【方施】221 ハウシ　あまねくほどこす。旁施。〔書、益稷〕皐陶方祇二厥敍一、方施二象刑一惟明。〔馬注〕言下咎繇制二五常之刑一、無二犯レ之者一、但有二其象一、無中其人上也、方、一作レ旁。〔孫星衍、今古文注疏〕白虎通聖人篇云、何以言二皐陶聖人也一、皐陶聖人、而能爲レ舜陳レ道、朕言惠、可二底行一、又旁施二象刑一維明、方作レ旁者、說文、旁、溥也、新序節士篇云、書曰、象刑旁施惟明、及レ禹不レ能。〔墨子、天志上〕故使下貴爲二天子一、富有二天下一、業二萬世一、子孫傳二稱其善一、方施中天下上、至レ今稱レ之、謂二之聖王一。〔閒詁〕畢云、方、猶レ旁、或當レ爲二㫄字之壞一、詒讓案、方・旁古通、皐陶謨、方施二象刑一惟明、新序節士篇、方作レ旁、說文丄部云、旁、溥也、方施、言三施溥二偏於天下一也。

【方趾】222 ハウシ　四角な足。人の足をいふ。〔事物異名錄、形貌、足〕莊子、圓顱方趾、按、方趾、謂レ足也。

【方趾圓顱】223 ハウシエンロ　四角な足とまるい頭。人間をいふ。〔南史、陳高祖紀〕方趾圓顱、萬不レ遺レ一。〔徐陵、陳公九錫文〕方趾圓顱、萬不レ遺レ一。

【方笥】224 ハウシ　四角なはこ。〔後漢書、五行志一〕靈帝建寧中、京都長者、皆以二葦方笥一爲二粧具一。

【方字】225 fang¹ tzŭ⁴ 四角な文字。漢字。

【方事】226 ハウジ　㊀方士の道。〔史記、倉公傳〕意少時好二諸方事一。〔神仙傳〕李少君病困、帝使三人受二其方事一、未レ竟而卒。㊁地方の事。〔日本政記、後醍醐天皇論〕置二關東廂番奧州評定衆一、掌二其方事一。

【方兒】227 ハウジ　㊀藥などの處方。〔還魂記、診祟〕師父、可レ記二的毛詩上方兒一。㊁fang¹ êrh しかた。方法。工夫。

【方州】228 ハウシウ　㊀地をいふ。〔淮南子、覽冥訓〕背二方州一、抱二圓天一。〔注〕方州、地也。㊁帝都。〔班固、典引〕卓二犖乎方州一、洋二溢乎要荒一。〔注〕翰曰、方州、帝都也。㊂州をいふ。四方の州、一方の州の意。〔晉書、殷仲堪傳〕在二荆州一、每語二子弟一云、人物見三我受二任方州一、謂三我豁二平昔時意一、今吾處レ之不レ易。㊃州の刺史。〔資治通鑑、宋紀〕（順帝、昇明元年）訴以三其私用レ人爲二方州一。〔注〕古者、八州八伯、謂二之方伯一、後世遂以二州刺史一爲二方州一。〔韓愈、答二元侍御一書〕幸二於方州大臣一。㊄州名。㋑後魏、置く。四川省蒼溪縣の東北。㋺北周、置く。江蘇省六合縣。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府〕六合縣、後周曰二方州一、又改レ郡爲二六合郡一、云云、唐初復置二方州一、貞觀初罷。㋩唐、置く。廣西省上林縣の東。㊅清、吳舫（揚州の人）（**2－3365**・・349）の字。

【方舟】229 ハウシウ　㊀舟をならべる。舟をもやふ。又、もやひ舟。つなぎ併せた舟。〔爾雅、釋水〕天子造舟、諸侯維舟、大夫方舟、士特舟、庶人乘レ泭。〔注〕併二兩船一。〔方言、九〕方舟謂二之潢一。〔注〕揚州人呼レ渡レ津航一爲レ杭、荆州人呼レ潢、音橫。〔莊子、山木〕方レ舟而濟二於河一。〔釋文〕司馬云、方、並也。〔疏〕兩舟相並曰二方舟一。〔國語、齊語〕方レ舟設レ泭、乘レ桴濟レ河。〔注〕方、併也。〔楚辭、東方朔、七諫、沈江〕將二方レ舟而下一レ流兮、冀二幸君之發一レ矇。〔後漢書、班固傳上〕撫二鴻幢一御二矰繳一、方レ舟竝鶩、俛仰極レ樂。〔注〕方レ舟、並二兩舟一也。〔王粲、七哀詩〕方レ舟溯二大江一、日暮愁二我心一。〔唐書、食貨志三〕江湖・黔中・嶺南・蜀漢之粟、可二方レ舟而下一。㊁筏と舟。〔說苑、善說〕水游則連二方舟一。〔纂注〕詩之谷風云、就二其深一矣、方レ之舟レ之、註云、方、筏也。㊂清、桐城の人。苞の兄。字は百川。上元に寄籍す。諸生。詩文に巧。〔國朝耆獻類徵、四百三十〕・〔碑傳集、一百三十九〕・〔國朝先正事略、十四〕。㊃字號。㋑宋、李石（**6－14459**・・513）の號。㋺明、徐舫（**4－10110**・・252）の字。㋩清、吳舫（**2－3365**・・349）の字。㋥清、沈用濟（**6－17189**・・656）の字。

【方舟集】230 ハウシウシフ　書名。二十四卷。宋、李石撰。原本佚し、永樂大典より錄出す。詩文集。末に易十例略・互體例・衆統左氏・卦例・詩如例・

左氏君子例・聖語例・詩補遺等を附錄す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【方秀】231 ハウシウ　陳、胡穎（**9－29400**‥18）の字。

【方洲】232 ハウシウ　明、張寧（**4－9812**‥595）の號。

【方式】233 ハウシキ　形式。

【方實】234 ハウジツ　正しくてまことあること。〔後漢書、杜根傳〕根性方實、好二絞直一。

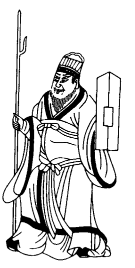
【方車】235 ハウシヤ　車をならべ出す。方は並べる意。〔淮南子、説山訓〕方レ車而蹠レ越、乘レ桴而入レ胡。〔注〕方、並、蹠、至。

【方社】236 ハウシヤ　四方の神と土地の神。〔詩、大雅、雲漢〕祈レ年孔夙、方社不レ莫。〔箋〕我祈二豐年一甚早、祭二四方與レ社、又不レ晩。

【方者】237 ハウシヤ　❶方術者。〔史記、太史公自序〕扁鵲言レ醫、爲二方者宗一。❷ハウナルモノ　四角なもの。〔莊子、徐無鬼〕曲者中レ鉤、方者中レ矩。

【方牀】238 ハウシヤウ　四角なとこ。〔南史、賀革傳〕革有二六尺方牀一。

【方相】239 ハウサウ ハウシヤウ　❶古の神に扮して疫を逐ふ者。方相氏を見よ。〔後漢書、馬融傳〕詔二靈保一召二方相一。〔北史、樊遜傳〕〔遜〕行遇二轜車一、嚬レ眉下レ涙、指二方相一曰、何日更相二煩君一到一、數日而卒、雇二方相一送葬・仍前所レ逢者。❷喪時に墓地で戈を執り、四隅を監護する者。其の數は四人。防喪。〔事物紀原、吉凶典制部、方相〕軒轅本紀曰、帝周游時、元妃嫘祖死二於道一、令三次妃姆嫫監二護一、因置二方相一、亦曰二防喪一、此蓋其始也、俗號二險道神一、抑由二此故一爾、周禮有二方相氏一、狂夫四人、大喪先レ匶、及レ墓入レ壙、以レ戈擊二四隅一、毆二方良一、故葬家以二方相一先馳。❸畏怖すべきさま。方相氏を見よ。



方相氏（三禮圖）

【方相氏】240 ハウシヤウシ ハウサウシ　周官の名。夏官の屬。古の神に扮して疫を逐ふを掌る。黄金作りの四つの目をつける者を方相といひ、兩目なるを倛といふ。〔周禮、夏官、序官、方相氏〕狂夫四人。〔注〕方相、猶レ言二放想一、可二畏怖一之貌。〔周禮、夏官、方相氏〕掌下蒙二熊皮一、黄金四目、玄衣朱裳、執レ戈揚レ盾、帥二百隸一而時難、以索レ室毆上レ疫。〔荀子、非相、面如二蒙倛一、注〕韓侍郎云、四目爲二方相一、兩目爲レ倛。〔後漢書、禮儀志中〕方相氏、黄金四目、蒙二熊皮玄衣朱裳一、執レ戈揚レ盾。

【方將】241 ハウシヤウ　❶まさに。〔莊子、田子方〕方將躊躇、方將四顧。❷四方に行ふ。〔詩、邶風、簡兮〕簡兮簡兮、方將二萬舞一。〔傳〕方、四方也、將、行也。

【方象】242 ハウシヤウ　四方をあらはす象徵。〔漢書、兒寬傳〕神樂四合、各有二方象一。〔注〕如淳曰、四方色、及五神祭祀、聲樂各有レ等。

【方上】243 ハウジヤウ　陵の柩を埋める穴の上部の四角なところ。方中。壙中。〔漢書、趙廣漢傳〕新豐杜建、爲二京兆掾一、護二作平陵方上一。〔注〕孟康曰、壙臧上也。〔漢書、張湯傳、治二方中一、注〕孟康曰、方中、陵上土作レ方也。〔漢書、田延年傳〕昭帝大行時、方上事暴起、云云、載二沙便橋下一、遠致二方上一。〔注〕師古曰、方上、謂二壙中一也。

【方城】244 ハウジヤウ　❶山名。㋑河南省方城縣の東北。葉縣の境に跨がる。〔左氏、僖、四〕楚屈完對二齊侯一曰、楚國方城以爲レ城。〔注〕方城山、在二南陽葉縣南一。〔荊州記〕葉東界有二故城一、始犫城、東至二瀙水一、達二泚陽界一、南北聯二數百里一、號爲二方城一、一謂二長城一。㋺唐代は王城山、宋代は方巖山といひ、今、方巖といふ。浙江省溫嶺縣の西北。〔讀史方輿紀要、浙江、台州府、太平縣〕王城山、縣西北三十五里、本名二方城山一、絕巘壁立如レ城、相傳、越王失レ國、嘗保レ此、唐天寶六載、改二今名一、山中峯巖絕勝、頂平曠約百餘畝、居人墾レ之、號二仙人田一、山下有レ溪、曰二桃溪一。㋩一名、望楚山。湖北省竹山縣の東南。〔左氏、文、十六〕使二楚廬戢黎侵レ庸、及二庸方城一。〔注〕上庸縣東有二方城亭一。〔括地志〕山南有レ城、長十餘里、名曰二方城一。〔輿地紀勝〕方城、又名二望楚山一、楚懷王二十八年、秦與二齊韓魏一、共發レ兵攻二楚方城一、秦軍登レ山、以望二楚國一、故名。❷縣名。㋑漢、置く。故城は河北省固安縣の南。〔漢書、地理志下〕廣陽國、縣四、方城。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、固安縣〕方城舊城、括地志、在二今縣東南十七里一、本燕舊邑、趙襄王初、李牧伐レ齊取二方城一、韓非子、燕以レ河爲レ境、以レ薊爲レ國、襲二涿方城一、殘二齊平山一、是也、漢因置二方城縣一。㋺後魏、置く。今、缺く。河北省密雲縣の境。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、昌平州、密雲縣、厗奚廢縣〕方城廢縣、在二縣東北一、魏主燾以二方城一幷入二密雲一、方城、蓋慕容燕所レ置縣、魏主宏、於二皇興二年一、置二安州治故方城一、其後魏主恭、普泰初、復置二方城縣一、屬二廣陽郡一、蓋卽二舊城一置、北齊廢。㋩後魏、置く。河南省南陽縣の東北。春秋の楚の方城の地。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、裕州〕方城廢縣、今州治、漢堵陽縣地、後魏置二方城縣一、爲二襄城郡一、西魏爲二襄邑郡治一、隋初郡廢、縣屬二淯州一、唐初置二北澧州一、貞觀八年、改置二魯州一、九年省、以レ縣屬二唐州一、宋亦曰二方城縣一、金爲二裕州治一、明初省。❸城の名。㋑唐の郭子儀の築く所と傳へる。湖北省當陽縣の東南。㋺一名、萬城。宋の趙葵が、父の諱を避けて改名したもの。湖北省江陵縣の東。〔水經、沔水注〕江堤北逕二方城西一、方城、卽南蠻府也。❹字號。㋑清、許楚（**10－35298**‥152）の字。㋺清、羅源漢（**9－28397**‥329）の字。

【方攘】245 ハウジヤウ　散りひろがる。渙散。〔揚雄、甘泉賦〕猋駭雲迅、奮以方攘。〔注〕善曰、晉灼曰、方攘、半散也、銑曰、方攘、分散貌。

【方驤】246 ハウジヤウ　ならびはしる。驤は、馬の疾くはしる意。〔後漢書、張衡傳〕雜沓叢顇、颯以方驤。

【方勺】247 ハウシヤク　宋、婺州の人。字は仁聲。號は泊宅翁・雲茅菴。著に靑溪寇軌・泊宅編がある。〔四庫提要、五十一・一百四十一〕。

【方尺】248 ハウシヤク　一尺平方のひろさ。〔新論、隨時〕救レ餓者、以二圓寸之珠一、不レ如レ與二之橡斗一、貽レ溺者、以二方尺之玉一、不レ如レ與二之短綆一。〔劉基、九難篇〕有二徑寸之珠、方尺之璧一。

【方若】249 ハウジヤク　民國、浙江省定海縣の人。字は葯雨。曾て天津國聞報主筆となり、北淸事變後は天津日日新聞社長兼主筆であつたが後辭す。其の他利津公司・新津公司支配人、同文倶樂部幹事等を兼ねた。畫を善くす。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【方守】250 ハウシユ　明、莆田の人。字は宜約。成化の進士。官は雲南參政。後、湖廣右布使に終る。〔國朝獻徵錄、八十八〕・〔本朝分省人物攷、七十四〕。

【方首】251 ハウシユ　四角なくび。〔六韜、虎韜、軍用〕方首鐵棓維朌、重十二斤、柄長五尺以上、千二百枚、一名二天棓一。

【方叔】252 ハウシユク　❶複姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕方叔、鼓方叔之後。❷周の宣王の賢臣。荊蠻を平定す。〔詩、小雅、采芑〕方叔涖止、其車三千。〔傳〕方叔、卿士也、受レ命而爲レ將也。❸字號。㋑晉、杜育（**6－14477**‥12）の字。㋺宋、顏直之（**12－43591**‥180）の字。㋩宋、郭黃中（**11－39474**‥276）の字。㋥宋、上官端義（**1－13**‥214）の字。㋭宋、常挺（**4－8955**‥256）の字。㋬宋、張榘（**4－9812**‥222）の字。㋣宋、趙萬年（**10－37171**‥849）の字。㋠宋、李正民（**6－14459**‥1556）の字。㋷宋、李鷹（**6－14459**‥581）の字。㋦明、殷仲春（**6－16627**‥193）の字。㋸明、周嬰（**2－3441**‥25）の字。

【方術】253 ハウジユツ　❶方士のする術。卜筮・占驗・星相・醫術等をいふ。方技。〔漢書、平帝紀〕徵下天下通二知逸經古記、云云、史篇方術本草一、及以二五經論語孝經爾雅一教授者上。〔後漢書、方術傳序〕仲尼稱三易有二君子之道四一焉、曰、卜筮者尙二其占一、占也者、先王所下以定二禍福一、決二嫌疑一、幽中贊於神明上、遂知中來物上者也、若夫陰陽推步之學、往往見二於墳記一矣、然神經怪牒玉策金繩關二扃於明靈之府一、封二縢於瑤壇之上一者、靡二得而闚一也、至二乃河洛之文、龜龍之圖、箕子之術、師曠之書、緯候之部、鈐決之符一、皆所下以探二抽冥賾一、參中驗人區上、時有二可レ聞者一焉、其流又有二風角・遁甲・七政・元氣・六日・七分・逢占・日者・挺專・須臾・孤虛之術一、及三望レ雲省レ氣、推二處祥妖一、時亦有三以效二於事一也、而斯道隱遠、玄奧難レ原、故聖人不レ語二怪神一、罕レ言二性命一、或開レ末而抑二其端一、或曲レ辭以章二其義一、所謂民可レ使レ由レ之、不レ可レ使レ知レ之。❷學藝技術。道術。方術。〔莊子、天下〕天下之治二方術一者多矣、皆以二其有レ爲、不レ可レ加矣。〔疏〕方、道也、自二軒頊一已下、迄二于堯舜一、治道藝術、方法甚多。〔荀子、堯問〕方術不レ用、爲二人所レ疑。〔呂覽、贊能〕説義以聽、方術信行、能令下人主上至二於王一、下

至中於霸上。〔北史、周澹傳〕多二方術一、尤善二醫藥一。

【方術士】254ハウジュツシ ㊀方士の術をよくする人。〔史記、秦始皇紀〕悉召二文學方術士一甚衆。㊁學藝技術ある人。道術の士。〔漢書、淮南王安傳〕招二致賓客方術之士一數千人、作二爲內書二十一篇一。〔枚乘、七發〕奏下方術之士有二資略一者、若中莊周魏牟楊朱墨翟便蜎詹何之倫上。〔注〕善曰、孔安國論語注曰、方、道也。

『方術傳』255ハウジュツデン 方士の傳を集めたもの。後漢書に方術傳がある。方術の㊀を見よ。

【方峻】256ハウシュン ㊀心がただしくたかい。〔唐書、楊於陵傳〕器量方峻、進止有二常度一、節操堅明、始終不レ失二其正一。㊁宋、莆田の人。字は景通。天聖の進士。卒するに及び、程顥はために行狀を作り、范祖禹はために墓道碑を作つた。〔宋元學案、十六〕。

【方順】257ハウジュン ㊀川の名。源は河北省完縣。上流を祁水といふ。下流は石橋河といひ、清苑河と合す。古の濡水。〔漢書、地理志下、曲逆縣、注〕張晏曰、濡水於二城北一曲而西流、故曰二曲逆一。〔元和志〕本名曲逆河、以二名不一レ美、乃改レ曲爲レ方、改レ逆爲レ順。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、滿城縣〕方順河、縣南五十里、其上源卽完縣之祁水也、東流入二縣境一曰二方順河一亦曰二順水一、又東入二清苑縣一爲二石橋河一。㊁橋の名。方順河の上に跨る。晉、永嘉中、建つ。京漢鐵路の沿線。河北省滿城縣の南。

【方且】258ハウショ ㊀まさに云云せんとす。將然の辭。〔莊子、天地〕方且二本レ身而異一レ形、方且二尊レ知而火馳一、方且レ爲二緒使一、方且レ爲二物絯一、方且二四顧而物應一、方且レ應二衆宜一、方且二與レ物化一。〔釋文〕凡言二方且一者、言二方將レ有レ所レ爲也。㊁fang^{1} ch'ieh^{3} 其の上。そこで。而して且つ云云の意。

【方沮】259ハウショ 方且の㊀に同じ。〔太玄經、玄數〕九事、一爲二規模一、二爲二方沮一。〔注〕沮、將也、將レ有レ事而自止也。

【方書】260ハウショ ㊀四方の書。各地方の記錄。〔漢書、張蒼傳〕張蒼、陽武人也、好二書律歷一、秦時爲二御史一、主二柱下方書一。〔注〕如淳曰、方、板也、謂下事在二板上一者上也、秦置二柱下史一、蒼爲二御史一主二其事一、或曰、主二四方文書一也、師古曰、下云、蒼自二秦時一爲二柱下御史一、明二習天下圖書計籍一、則主二四方文書一、是也、柱下、居二殿柱之下一、若二今侍立御史一矣。㊁神仙の靈法奇術を記載した書。方術の書。〔史記、倉公傳〕見二事數師一、悉受二其要事一、盡二其方書意一。〔唐書、李聽傳〕好二方書一、撰二其驗者一、題二於帷帟一、墻屋皆滿。㊂醫術の書。〔史記、倉公傳〕謂レ意曰、盡去二而方書一、非レ是也、慶有二古先道一、遺二傳黃帝扁鵲之脈書一、五色診病、知二人生死一、決二嫌疑一、定レ可レ治、及藥論書甚精、我家給富、心愛レ公、欲下盡以二我禁方書一、悉敎上レ公。〔劉恕、通鑑外紀〕民有二疾病一、未レ知二藥石一、炎帝始嘗二草木之滋味一、曾一日而遇二十二毒一、神而化レ之、遂作二方書一、以療二民疾一。〔事物紀原、伎術醫卜部、方書〕世諸方書藥法、雖二損益隨レ時、大抵祖二述黃帝一、如下脉訣之出二於晉王叔和一、病源之出二於隋巢元方一、湯液經之出二於商伊尹一、傷寒論之出二於漢張機一、千金備急出二於孫思邈一、外臺秘要出中於唐王燾上、宋朝太宗、求二天下名方一、集二太平聖惠一、其餘紛紛、無二代無レ之、高氏小史曰、炎帝作二藥方一、以救二時疾一。㊃ハウガキ 藥の配劑方を書いたもの。處方箋。

【方處】261ハウショ 場所。又、空閒。〔魏書、釋老志〕不レ得下以二方處一期上、不レ可下以二形量一限上。

【方翥】262ハウショ 宋の人。元寀の孫。字は次雲。紹興の進士。官は祕書省正字。書室を萬卷樓といふ。〔宋元學案、五十六〕。

【方諸】263ハウショ ㊀月から水をとる鏡。諸は珠、方は石で、銅盤を以て之を受けるといひ、又、杯に似て耳が無く、五石を以て鍊成したものともいふ。一說に、方諸は大蛤で、滿月の時之を月下に置けば水が生ずるからいふと。〔說文〕鑑、大盆也、一曰、鑑諸、可三以取二明水於月一。〔王筠句讀〕諸之與レ鐩皆一字爲レ名、一銅一鐵、一圓一方、一取二火於日一、一取二水於月一、皆以レ之供二祭祀一、且方諸者、對二鐩之圓一而言、方則其形、諸則其名、且諸是漢名、鑑乃古名、許君汝南人、其地單呼爲レ諸、鄭君北海人、其地累呼爲二方諸一。〔周禮、秋官、司烜氏〕以レ鑒取二明水於月一、〔注〕鑒、鏡屬、取レ水者、世謂二之方諸一。〔孫詒讓正義〕云三取レ水者世謂二之方諸一者、此亦以二漢時方言一爲レ說、淮南子天文訓云、方諸見レ月、則津而爲レ水、高注云、方諸、陰燧、大蛤也、熟摩令レ熱、月盛時、以向二月下一則水生、以二銅盤一受レ之、下水數滴、先師說然也、華嚴經音義、又引二許注一云、方諸、五石之精、作二圓器一似二杯坊一、向レ月則得レ水也、又御覽天部引二許注一云、諸、珠也、方、石也、以二銅盤一受レ之、下水數升、是許君淮南注有二二說一、其後說與二高誘一略同、蓋以二方諸一爲二別一物一、鑑、則受レ水銅盤也、又御覽地部引二淮南萬畢術一云、方諸取レ水、注云、方諸、形若レ杯、無レ耳、以二五石一合作治、以二十二月壬子夜半一作レ之、以承、水卽來、此與二許前說一同、鄭君之意、則以二方諸一爲レ鑑、鑑卽鏡、與二萬畢術及許高諸說一並異、舊唐書禮義志、戴二李敬貞議一、亦從二高誘說一、以二方諸一爲二大蛤一、云、考工記云、金有二六齊一、金錫半、謂二之鑑燧之齊一、鄭注云、取二水火於日月一之器也、準二鄭此注一、則水火之器、皆以二金錫一爲レ之、今司宰有二陽燧一、形如二圓鏡一、以取二明火一、陰鑑、形如二方鏡一、以取二明水一、但比年祠祭、皆用二陽燧一取レ火、應レ時得、以二陰鑑一取レ水、未レ有二得者一、周禮、金錫相半、自是造二陽燧一法、鄭玄錯解、以爲二陰鑑之制一、依下古取二明水一法上、合下用二方諸一、用中大蛤上也、又稱、曾八九月中、取二蛤一尺二寸者一、依レ法試レ之、自二人定一至二夜半一、得レ水四五斗、依二敬貞說一、大蛤取レ水、得二之目驗一、然與二考工記鑒燧同齊一、文迕、又與二陰鑒一名義不二相應一、恐非二古制一、今考、水爲二流質一、既非二光氣所レ生、又月繞レ地、映レ日成レ景、原二其光體一、亦非二積水一、承レ月得レ水、於レ理難レ通、但明水配齊、古祭祀所二通用一、必非二虛妄一、竊意、取二明水一、止是用レ鑒承レ露、淫潤烝騰、遇レ冷成レ露、月夜澄朗、更無二風雲一、露下尤多、因謂取二水於月一、以配二明火一、大蛤得レ水、亦同二茲理一、斯由二古人測レ天未レ精、沿習弗レ察、固不レ得三以レ此庰二鄭之誤解一矣、又案、依二許淮南注說一、則方諸爲二圓鏡一、而抱朴子云、水出二於方諸一、方諸方、而水不レ方也、此與二唐司宰方鏡制一同、亦不レ知二古制然否一。〔淮南子、天文訓〕方諸見レ月、則津而爲レ水。〔注〕方諸、陰燧、大蛤也、熟磨、拭令レ熱、月盛時、以向二月下一、則水生。〔晉書、天文志上〕方諸可三以取二水于月一。㊁宮殿の名。〔眞誥、九〕青君宮、在二東華山上方二百里中一、盡天仙上眞宮室也、有二大方諸・小方諸一。㊂曲調の名。〔謝燮、方諸曲〕望二仙室一仰二雲光一、繩二河裏一扇二月傍一、井公能六著、玉女善投レ壺、瓊醴和二金液一、還將二天地俱一。㊃鏡の異名。〔事物異名錄、器用、鏡〕山堂肆考、鑑鏡屬、世謂二之方諸一。

【方諸水】264ハウショスイ 月夜に大蛤から出る水。一說に、月夜に鏡で受けた露水。明水の異名。方諸を見よ。〔本草、明水〕釋名、方諸水、藏器曰、方諸、大蚌也、熟摩令レ熱、向レ月取レ之、得二水二三合一、亦如二朝露一、陽燧向レ日、方諸向レ月、皆能致二水火一也、周禮、明諸承二水於月一、陳饌爲二玄酒一、是也、時珍曰、明水者、取二其清明純潔一、敬之至也、周禮、司烜氏、以二夫燧一取二明火於日一、鑑取二明水於月一、以供二祭祀一、魏伯陽叅同契云、陽燧以取レ火、非レ日不レ生レ光、方諸、非二星月一、安能得二水漿一、淮南子云、方諸見レ月、則津而爲レ水、注者或以二方諸一爲レ石、或以爲二大蚌一、或以爲二五石鍊成一、皆非也、按、考工記云、銅錫相半、謂二之鑑燧之劑一、是火爲レ燧、水爲レ鑑也、高堂隆云、陽燧、一名陽符、取二火於日一、陰燧、一名陰符、取二水於月一、並以レ銅作レ之、謂二之水火之鏡一、此說是矣。

『方諸生』265ハウショセイ 明、王驥德（7−20823・・1296）「の號。

『方諸仙史』266ハウショセンシ 明、王驥德（7−20823・・1296）の號。

【方絮】267ハウジョ 紙の異名。〔通俗文〕方絮曰レ紙。〔吳淑、紙賦〕方絮之體、平滑如レ砥。

【方昇】268ハウショウ 明、臨湘の人。字は啓東。成化の進士。御史を授けられ、尋いで山東・四川・浙江に歷按す。權宦妖僧を劾奏して江西提學副使に左遷さる。〔明史、一百八十〕・〔蘭臺法鑒錄、十一〕・〔本朝分省人物攷、八十〕。

【方竦】269ハウショウ 唐、弋陽の人。字は仲成。景雲の進士。官は鸞臺侍郎。

【方勝】270 fang^{1} shêng^{4} ㊀菱形を二つ結び付けた形で、首飾りの一種。〔西廂記、張君瑞害相思雜劇〕把花牋錦字、疊做箇同心方勝兒。㊁方勝形をいふ。

『方勝形』271 fang^{1} shêng^{4} hsing^{2} 兩斜方形の

連なり合はさつたもの。

【方色】272 ハウショク　四方の色。〔後漢書、輿服志上〕各如方色。〔孔叢子、儒服〕衣服隨其方色。

【方食】272′ マサニショクス　食事をしてゐる最中。〔蜀志、先主劉備傳〕先主方食、失匕首。

【方心】273 ハウシン　ただしい心。方正の心。〔管子、霸言〕夫先王之爭天下也以方心、其立之也以整齊。〔纂詁〕爭天下、以方正之心、而不以力。

【方申】274 ハウシン　清、儀徵の人。字は端齋。道光中、縣學生に補せらる。虞氏易に精通し、著に諸家易象別錄・虞氏易象彙編・卦象集證・互體詳述・卦變擧要がある。これを易學五書といふ。〔清史稿、四百八十八〕・〔清史列傳、六十九〕・〔續碑傳集、七十三〕。

【方岑】275 ハウシン　明、江都の人。字は高伯。號は竹素齋。嘉靖の進士。官は杭州府知。著に竹素齋集がある。

【方神】276 ハウシン　四方の神。〔班固、東都賦〕山靈護野、屬御方神。〔注〕善曰、方神、四方之神也。〔曹植、社頌〕義與社同、方神北宇。

【方針】277 fang¹ chen¹　❶羅針盤の方位を示す針。❷ハウシン　進んで行く方向。目ざす方向。

【方診】278 ハウシン　處方と診察。〔後漢書、郭玉傳〕學方診六微之技、陰陽不測之術。

【方軫】279 ハウシン　宋の人。愼言の孫。字は叔時。又、克載。元符の進士。官は鄞縣令。

【方愼】280 ハウシン　ただしくてつつしみ深い。貞愼。〔北史、李孝伯傳〕性方愼忠厚。

【方新】281 ハウシン　明、青陽の人。字は德新。號は定溪。嘉靖の進士。官は監察御史。災變外患の事を奏し、逆鱗にふれて退職し、穆宗卽位するや官に復す。〔明史、二百七〕・〔萬斯同明史、三百五〕・〔明史稿、一百九十一〕・〔本朝分省人物攷、三十九〕。

【方震】282 ハウシン　明、楊廉（**6－15112**‥394）の字。

【方鍼】283 fang¹ chen¹　方針に同じ。

【方人】284 ハウジン　❶人をくらべる。人物を比較・評論する。方は比。一說、方は謗に通じ、人の過惡をそしること。〔論語、憲問〕子貢方人、子曰、賜也賢乎哉、夫我則不暇。〔集解〕孔安國曰、比方人也。〔劉寶楠正義〕釋文云、方人、鄭本作謗、謂言人之過惡。盧氏文弨攷證、古論、謗字作方、蓋以聲近通借、子貢言人過惡、故子曰、賜也賢乎哉、言、汝己身果皆賢乎、而謗人也、夫我則不暇謗人而自治。❷戎の別名。〔逸周書、王會解〕方人以孔鳥。〔注〕方人、戎別名。❸清、周西（**2－3441**‥310）の字。❹カタウド　㋑贔屓する人。荷擔する人。なかま。〔東鑑、一一〕治承四年九月七日、平家方人、有笠原平五頼直者。㋺相對する一方の人。

【方壬】285 ハウジン　宋の人。元寀の曾孫。字は若水。淳熙中、太學に游び、擢んでられて漳州長泰簿を拜命。當時守であつた朱熹に、徵せられて學を主る。〔宋元學案、六十九〕。

【方垂】286 ハウスイ　四方のはて。垂は陲。〔後漢書、明德馬皇后紀〕天下豐稔、方垂無事。〔後漢書、曹世叔妻傳〕以方垂未靜、拒而不許。

【方錐】287 ハウスイ　よつめぎり。

〖方錐形〗288 ハウスイケイ　共通の頂點を有する四個の平面と他の一平面とで圍まれた立體。

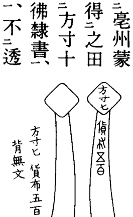
【方嵩】289 ハウスウ　明、咸平の人。字は中山。洪武の擧人。春秋に精通す。官は江陰教諭。

【方數】290 ハウスウ　❶醫術をいふ。〔史記、倉公傳〕出行游國中、問善爲方數者、事之久矣。❷fang¹ shu²　二乘の數。

【方寸】291 ハウスン　❶一寸四方の面積。轉じて、僅かな大きさ。〔漢書、食貨志下〕黃金方寸而重一斤。〔淮南子、說山訓〕視方寸於牛、不知其大於羊。❷心をいふ。心は胸中方寸の間に在るからいふ。〔蜀志、諸葛亮傳〕（徐）庶辭先主而指其心曰、本欲與將軍共圖王霸之業者、以此方寸之地也、今已失老母、方寸亂矣。〔袁宏、三國名臣序贊〕形器不存、方寸海納。〔注〕翰曰、方寸之心、如海之納百川也。〔白居易、與微之書〕形骸且健、方寸甚安。〔朱熹、中庸章句序〕二者雜於方寸之間。〔馮道、偶作詩〕莫爲危時便愴神、前程往往有期因、須知海嶽歸明主、未必乾坤陷吉人、道德幾時曾去世、舟車何處不通津、但教方寸無諸惡、狼虎叢中也立身。

〖方寸地〗292 ハウスンノチ　❶一寸四方ばかりの地。少しばかりの土地。〔蜀志、諸葛亮傳〕本欲與將軍共圖王霸之業、以此方寸之地也。〔唐書、員半千傳〕陛下何惜玉階方寸地、不使臣披露肝膽乎。❷心をいふ。存方寸地留與子孫耕（296）を見よ。〔列子、仲尼〕吾見子之心矣、方寸之地虛矣、幾聖人也。

〖方寸匕〗293 ハウスンヒ　❶藥劑の量の名。一茶匙といふに同じ。〔名醫別錄〕刀圭者十分方寸匕之一、准如梧桐子大也、方寸匕者、作匕正方一寸、抄散取不落爲度。❷貨幣の名。王莽の鑄造したもの。〔洪遵、泉志、二〕右蒙城古刀、宣和五年、郭僎爲亳州蒙城令、村人得之田中、柄端有方寸十三字、彷彿隸書、背有方孔、不透身、形如刀、文曰、貨布五百、疑、王莽所鑄。


方寸匕
貨布五百
方寸匕　貨布五百
背無文

方寸匕（金石索）

〖方寸亂〗294 ハウスンミダル　心の中がみだれる。〔通俗編、性情、方寸亂〕資暇錄、今人稍惑撓未決、則云方寸亂矣。

〖方寸之印丈二之組〗295 ハウスンノインヂヤウニノソ　一寸四方の印と一丈二尺の綬。官爵のしるしとして與へられるもの。〔漢書、嚴助傳〕陛下以方寸之印丈二之組、塡撫方外、不勞一卒、不頓一戟、而威德竝行。

〖存方寸地留與子孫耕〗296 ハウスンノチヲソンシシソンニリウヨシテタガヤサシム　ただ此の心の田をのこして、子孫に修め耕させる。〔鶴林玉露、人、方寸地〕俗語云、但存方寸地、留與子孫耕、指心而言也、三字雖不見於經傳、却亦甚雅、余嘗作方寸地說云。〔陔餘叢考、成語〕但存方寸地、留與子孫耕、羅鶴林玉露、但以此爲俗語、直方詩話謂、張嘉甫以此爲水部賀公所作、賀於天聖中、爲郎官云、郞瑛七修類稿、又以爲宋賀仙翁詩。

〖方寸之木可使高於岑樓〗297 ハウスンノキモシンロウヨリタカカラシムベシ　比較の標準を失ふときは、至つて低いものも非常に高いものより高いとされることがある喩。岑樓は、山のやうに高く聳えてゐる樓。〔孟子、告子下〕不揣其本、而齊其末、方寸之木、可使高於岑樓。〔集注〕方寸之木、至卑、喩食色、岑樓、樓之高銳似山者、至高、喩禮。

【方井】298 ハウセイ　家屋の天井。組天井。〔王延壽、魯靈光殿賦〕爾乃懸棟結阿、天窗綺疎、圓淵方井、反植荷蕖。〔注〕銑曰、又爲方井、圖以圓淵及芙容花葉、花葉向下、故云反植。

【方正】299 ハウセイ　❶行がきちやうめんでただしい。又、其の人。〔韓非子、姦劫弑臣〕其百官之吏、亦知方正之不可以得安也、必曰、我以淸廉事上而求安、若無規矩而欲爲方圓也、必不幾矣。〔管子、形勢解〕人主身行方正、使人有禮。〔賈誼、弔屈原文〕賢聖逆曳兮、方正倒植。〔後漢書、高詡傳〕在朝以方正稱。〔揚雄、解嘲〕策非甲科、行非孝廉、擧非方正。❷世說新語の篇名。❸縣名。清、置く。滿洲吉林省依蘭縣の西南。瑪蜒河が松花江に入る口。縣城の北門外に方正泡あり、金色の鯉魚を產す。〔清史稿、地理志〕吉林、方正縣。❹後漢、陽球（**11－41725**‥52）の字。

〖方正字〗300 ハウセイジ　文具の名。物指の一種。〔文房圖贊〕方正字、名端、字士直、號惡圓老皮。

〖方正之士〗301 ハウセイノシ　行のただしい人。〔史記、平準書〕招尊方正賢良文學之士。〔漢書、武帝紀〕建元元年、云云、擧賢良方正直言極諫之士。〔漢書、董仲舒傳〕擧賢良方正之士、論誼考問。〔漢書、鼂錯傳〕自行若此、可謂方正之士矣。

【方生】302 ハウセイ　相對のものが相因つて生ずること。〔莊子、齊物論〕彼出於是、是亦因彼、彼是方生之說也。

【方政】303 ハウセイ　明、全椒の人。謚は忠毅。濟陽衞千戶を襲ぎ、正統の初、右都督に累進。麓川を征して功あり、陣中に死す。〔明史、一百六十六〕・〔萬斯同明史、二百五〕・〔明史稿、一百四十五〕・〔明書、九十八〕。

【方整】304 ハウセイ　正しくととのふ。〔蜀志、蔣琬傳評〕蔣琬方整有威重。

【方枘】305 ハウゼイ　四角の柄。物の相合はない喩。方枘圓鑿を見よ。〔陸龜蒙、寄懷華陽道士詩〕我悲雌伏眞方枘、他騁雄材似建瓴。

〖方枘圜鑿〗306 ハウゼイエンサク　四角の柄に圓い穴。物の相合はない喩。枘は柄、鑿は穴。圜は又圓に作る。〔楚辭、宋玉、九辯〕圜鑿而方枘兮、吾固知二其鉏鋙而難一レ入。〔注〕五臣云、若鑿二圓穴一、斫二方木一內レ之、而必參差不レ可レ入、喩二邪佞在レ前、忠賢何由能進二。〔補注〕枘、柄也。〔史記、孟軻傳〕持二方枘一欲レ納二圜鑿一、其能入乎。〔注〕索隱曰、按、方枘、是筍也、圜鑿、是孔也、謂下工人斲レ木、以二方筍一而內二之圓孔一、不レ可レ入也、故楚詞云、以二方枘一而納二圜鑿一、吾固知二其齟齬而不一レ入、是也、謂下戰國之時、仲尼孟軻、以二仁義一干二世主一、猶二方枘圜鑿一然上也。

【方召】307 ハウセウ　明、宣城の人。字は虎鄰。唐王の時、官は知江山縣事。清兵至るや、井に投じて死す。〔明史、二百七十六〕・〔明史稿、二百五十七〕・〔明末忠烈紀實、十三〕・〔小腆紀年、十二〕。

【方石】308 ハウセキ　❶四角な石。❷長石の異名。〔本草、長石〕釋名、方石、直石、土石、硬石膏、集解、時珍曰、但與二方解一乃一類二種、故亦名二方石一。❸清、王式丹(**7**－**20823**‥1620)の字。

〖方石嶺〗309 ハウセキレイ　山名。宋の景炎二年、蒙古の將李恆が、文天祥を此處に破つた。江西省吉安縣の南。〔讀史方輿紀要、江西、吉安府、廬陵縣〕方石嶺、府南百里、層巒疊嶂、石崖峭聳、宋景炎二年、文天祥自二永豐一引レ軍還二興國一、蒙古將李恆追レ之、及二於方石嶺一、天祥敗績、嶺之南有二統石一、相傳、天祥統制鞏信、亦自二永豐一潰還至レ此、爲三李恆所二追及一、信短兵接戰、力不レ及死レ之、石因以名。

【方赤】310 ハウセキ　まごころ。方寸赤心の略。〔本朝文粹、二、後江相公大江朝綱、答下貞信公辭二攝政一表上敕〕縱瀝二方赤於公口一、何下二雖黃於朕脣一。

【方舃】311 ハウセキ　方形の單底の靴。〔蘇軾、次二韻王鞏南遷初歸一詩〕願爲二尙書郞一、還賜二上方舃一。

【方積】312 ハウセキ　四角な面の面積。

【方折】313 ハウセツ　四角にまがる。〔詩、周頌、噫嘻、十千維耦、疏〕且川者流水不レ得二方折而匝一レ之也。〔太平御覽、珍寶、玉〕尸子曰、水方折者有レ玉、圓折者有レ珠。〔白居易、玉水記二方流一詩〕短浮光灩灩、方折浪悠悠。〔蘇軾、次二韻錢穆父・王仲至同賞二田曹梅花一詩〕浮レ光風宛轉、照レ影水方折。

【方燮】314 ハウセフ　清、南安の人。字は子和。號は臺山。詩・古文に巧。行楷は二王を法とし、尤も大字を巧に書す。書室を第十四遷傳舍といふ。〔清畫家詩史、己下〕・〔國朝書人輯略、七〕。

【方恮】315 ハウセン　清の人。履錢の孫。字は子謹・退齋。李鴻章に命ぜられて、畿輔通志を纂輯す。著は多く散佚し、現存するのは唯〻退齋文集一卷だけである。〔續碑傳集、八十〕・〔碑傳集補、五十一〕。

【方泉】316 ハウセン　宋、周文璞(**2**－**3441**‥847)の號。

【方穿】317 ハウセン　四角な穴。〔史記、田敬仲完世家〕淳于髡曰、豨膏棘軸、所二以爲一レ滑也、然而不レ能レ運二方穿一。〔注〕索隱曰、然而穿レ孔若方、則不レ能二運轉一。

【方扇】318 ハウセン　あふぎの一種。翣をいふ。〔事物異名錄、禮制、翣〕說文、翣、卽方扇是也。〔晉書、輿服志〕次三卿、並騎吏四人、鈴下二人執二馬鞭一、辟車六人執二方扇一、羽林郞十人朱衣。〔薩都剌、題二四時宮人圖一詩〕藍衫一女髻垂レ耳、手持二方扇一立二坐傍一。

【方船】319 ハウセン　船をならべる。〔戰國、楚策〕方レ船積レ粟、起二於汶山一、循レ江而下、至レ郢三千餘里。〔史記、酈食其傳〕蜀漢之粟、方レ船而下。〔淮南子、詮言訓〕方レ船濟二乎江一、有二虛船一從二一方一來、觸而覆レ之、雖レ有二忮心一、必無二怨色一。

【方甎】320 ハウセン　四角な煉瓦。〔任孝恭、祭二雜墳一文〕遐年討二方甎一而不レ記。

【方暹】321 ハウセン　宋、平江の人。字は明甫。黃榦の高弟。學者、連雲先生と稱す。〔宋元學案、六十三〕。

【方漸】322 ハウゼン　宋、莆田の人。重和の進士。官は梅州の知。藏書數千卷。皆自ら纂定し、室を富文といふ。

【方疏】323 ハウソ　四角なまど。疏はまど。〔張協、七命〕方疏含レ秀、圓井吐レ葩。〔注〕向曰、疏、窻也。〔江總、詠二雙闕一詩〕象闕連二馳道一、天宇照二方疏一。

【方礎】324 ハウソ　四角ないしずゑ。〔元稹、江邊四十韻詩〕方礎荊山採、修椽郢匠鉤。

【方塞】325 カタフサガリ　陰陽家の語。方角の塞つたことで、行かうと思ふ方角に天一神があつて行かれないこと。

【方俗】326 ハウゾク　地方の風俗。〔南史、循吏傳序〕乃命二輶軒一、以省二方俗一。〔邢昺、爾雅注疏序〕一物多レ名、繫二方俗之語一、片言殊レ訓、滯二今古之情一。

【方村】327 ハウソン　地名。貴州省荔波縣の南。

【方太】328 ハウタイ　後晉、青州の人。字は伯宗。初、節度使楊光遠に事へ、戰功を以て安州防禦使を拜命し、尋いで鳳州に移る。後、武行德に害さる。〔舊五代史、九十四〕。

【方泰】329 ハウタイ　鎭の名。江蘇省嘉定縣の西南、鹽鐵塘の西岸。

【方內】330 ハウダイ ハウナイ　❶四方の內。國內。天下。〔史記、文帝紀〕朕賴二天地之靈、社稷之福一、方內安寧。〔注〕臣瓚曰、方、四方也、內、中也、猶レ云二中外一也。〔漢書、嚴助傳〕方內無二狗吠之警一。〔鍾會、移レ蜀檄〕邊境乂清、方內無レ事。❷常教の內。方外(119)を見よ。❸ハウゼイ　四角な柄。方枘(305)に同じ。〔新序、雜事二〕淳于髡曰、方內而員釭、如何。

【方塘】331 ハウタウ　❶四角な池。〔劉楨、贈二徐幹一詩〕細柳夾レ道生、方塘含二清源一。〔注〕濟曰、塘、池。〔劉楨、雜詩〕方塘含二白水一、中有二鳧與一レ鴈。❷字號。㋑元、楊維翰(**6**－**15112**‥415)の號。㋺明、林昺(**6**－**14551**‥219)の號。

【方糖】332 fang^1 t'ang^2　角砂糖。

【方宅】333 ハウタク　四角な宅地。〔陶潛、歸二田園居一詩〕方宅十餘畝、草屋八九間。

【方桌】334 fang^1 chuo^1　四角なテーブル。

【方澤】335 ハウタク　❶地壇をいふ。正方につくるから方といふ。周禮に夏至に地を澤中の方丘に祭るといふに本づく。明の嘉靖の間、地壇を初めて北京の安定門外にたてた。方丘(87)を見よ。〔廣雅、釋天〕圓丘大壇、祭レ天也、方澤大折、祭レ地也。〔韓愈、明水賦〕或將レ祀二圓丘於玄冬一、或將レ祭二方澤於朱夏一。〔通典、禮、吉、方丘〕晉武帝受レ禪、云云、十一月庚寅、帝親祀二於南郊一、自後方澤不二別立一。〔六部成語、禮部、方澤、注解〕地壇之祭、掘レ地爲二方池一、貯レ水以祭、謂二之方澤一。❷大澤をいふ。〔張衡、歸田賦〕爾乃龍吟二方澤一、虎嘯二山丘一。〔注〕良曰、方澤、大澤也。❸明の僧。嘉善の人。字は雲望。號は冬谿。秀水の精嚴寺に住む。詩偈に巧。著に華嚴要略・冬谿集がある。〔明人小傳、五〕・〔明詩綜、九十二〕・〔盛明百家詩、二〕・〔靜志居詩話、二十三〕。

【方榻】336 ハウタフ　四角な床。〔南史、長沙景王道憐傳〕士子自レ非二三署一、不レ得レ上二方榻一。

【方單】336′ ハウタン　地契をいふ。地契(**3**－**4890**‥132)を見よ。

【方鐔】337 ハウタン　刀の、四角なつば。鐔はつばで、刀劍の柄と刀身との間にはさむ金具。〔先哲叢談、五〕方鐔、大三寸許。

【方地】338 ハウチ　大地。圓天の對語。〔莊子、說劍〕上法二圓天一、以順二三光一、下法二方地一、以順二四時一。〔道德指歸論〕方地隨レ天、與化爲レ常。

【方池】339 ハウチ　❶池をいふ。〔江淹、雜體、劉文學感遇詩〕華月照二方池一、列二坐金殿側一。❷硯の名。〔遵生八牋、高似孫硯箋諸式〕方池硯、斧形硯。

【方智】340 ハウチ　梁、敬帝の名。蕭方智(**9**－**32012**‥497)を見よ。

【方墀】341 ハウチ　清、石廣均(**8**－**24024**‥915)の字。

【方疇】342 ハウチウ　宋、弋陽の人。字は耕道。困叟と自稱し、學者、困齋先生と稱す。建炎の進士。官は建康通判。文集がある。〔宋元學案、三十六〕。

【方竹】343 ハウチク　竹の一種。四方竹。四角竹。山東舊登州府境に產す。質堅勁で、杖を作るに適す。天臺山及び湖南岳陽の君山にも產するが登州產に及ばないといふ。方竹杖を見よ。〔陳鼎、竹譜〕產二山東舊登州府境一、堅勁可レ作レ杖、天台山中亦產、堅勁不レ如二登州一、而青翠過レ之、湖南岳陽君山亦產、則皆柔軟而長者、此竹實多虛少。

〖方竹杖〗344 ハウチクヂヤウ　四方竹で作つた杖。〔珊瑚鉤詩話〕李衞公鎭レ南、甘露寺僧道行孤高、公贈以二方竹杖一、公之所レ寶也、及二公再來一、問二杖無レ恙否一、僧對曰、已規圓漆レ之矣、嗟惋彌レ日。〔北戶錄、方竹杖〕澄州產二方竹一、體如二削成一、勁挺堪レ爲レ杖、亦不レ讓二張騫筇竹杖一也、其隔州亦出、大者數丈、又海晏出レ蘆、堪レ爲二拄杖一、高潘州出二千歲蕨一、拄杖之類具多、更有二竦節竹一、僧道多以爲レ杖、又按、最云、溱州通竹、直上無レ節空心也。

【方衵】345 ハウチヤウ　明、淳安の人。字は仲年。永樂の進

士。官は滁州同知。

【方丈】346 ハウヂヤウ ❶一丈四方のひろさ。〔孟子、盡心下〕食前方丈、侍妾數百人、我得㆑志弗㆑爲也。〔應璩、與㆓從弟君苗君胄㆒書〕扶寸肴脩、味踰㆓方丈㆒。〔張協、七命〕方丈華錯。〔宋書、宗慤傳〕方丈之膳、以待㆓賓客㆒。❷山名。㋑海中に在り、神仙之に住むといふ。方壺。三神山（1－12‥939）を見よ。〔史記、秦始皇紀〕海中有㆓三神山㆒、名曰㆓蓬萊・方丈・瀛州㆒、僊人居㆑之。〔揚雄、羽獵賦〕周㆓流方丈・瀛州・蓬萊㆒。㋺雲南省鶴慶縣の西南。〔楊愼、雲南山川志〕巍然峻拔、山半有㆑洞、中有㆑池、深不㆑可㆑測。❸［佛］㋑寺の正寢、卽ち表座敷。唐の顯慶年間、王玄策が印度に行き、淨名宅に過ぎり、其の基を量つた時、一丈四方あつたからいふ。〔法苑珠林、感通〕吠舍釐國宮城周五里、宮正北六里有㆓寺塔㆒、是說㆓維摩經㆒處、寺東北四里許有㆑塔、是維摩故宅基、尙多㆓靈神㆒、其舍疊㆑甎、傳云、積㆑石、卽是說㆑法現㆑疾處也、於㆓大唐顯慶年中㆒、敕使長吏王玄策、因㆑向㆓印度㆒、過㆓淨名宅㆒、以㆑笏量㆑基、止有㆓十笏㆒、故號㆓方丈之室㆒也。〔傳燈錄、禪門規氏〕長老既爲㆓化主㆒、卽處㆓于方丈㆒、同㆓淨名之室㆒、非㆓私寢之室㆒也。〔釋氏要覽〕方丈、蓋寺院之正寢也、唐顯慶年中、勑㆓王玄策㆒往㆓西域㆒、至㆓毗耶梨城東北四里許㆒、維摩居士宅、示㆑疾之室遺址、疊㆑石爲㆑之、玄策躬以㆓手板㆒縱橫量㆑之、得㆓十笏㆒、故號㆓方丈㆒。〔潛確類書〕唐王玄策使㆓西域㆒、有㆓維摩居士石室㆒、以㆓手板㆒縱橫量㆑之、得㆓十笏㆒、故云㆓方丈㆒、俗稱本㆑此、蓋就㆓其居室㆒而言、猶㆔儒師之稱㆓函丈㆒也。〔書言故事、釋教類〕長老所㆑歸室、曰㆓方丈・丈室㆒。㋺僧房の狹いことをいふ。唐の王玄策以前に此の語を使用して居る。〔王巾、頭陀寺碑文〕宋大明五年、始立㆓方丈㆒、茅茨以庇㆓經象㆒。〔注〕善曰、沈約宋書、孝武皇帝卽位、改元曰㆓大明㆒、淮南子曰、聖人處㆓環堵之室㆒、茨㆑之以㆓生茅㆒、高誘曰、堵長一丈、高一丈、面環一堵爲㆓方丈㆒、故曰㆓環堵㆒、言㆓其小㆒也、說文曰、茨、蓋也、爾雅曰、庇、廕也、銑曰、宋孝武皇帝時也、言㆘立㆓方丈之室㆒、覆以㆓茅茨之草㆒、以置㆗經象㆖也。㋩僧・住職をいふ。〔綦毋潛、宿㆓龍興寺㆒〕燈明方丈室、珠繫比丘衣。〔白居易、齋戒滿夜戲招㆓夢得㆒詩〕方丈若能來問㆑疾、不㆑妨㆔兼有㆓散花天㆒。

【方丈記】347 ハウヂヤウキ 書名。一卷。鴨長明撰。其の見聞した市井の雜事を記した隨筆。全篇、佛教思想による厭世觀に終始してゐる。

【食㆓方丈於前㆒、甘不㆑過㆓一肉㆒】348 ハウヂヤウヲマヘニクラヘドモアマキハイチニクニスギズ 一丈四方の廣さにもならべたたくさんの御馳走が前に在つても、口に入れて美味と稱するのは一つの肉片にすぎない。〔列女傳、賢明、楚於陵妻傳〕夫結㆑駟連㆑騎、所㆑安不㆑過㆑容㆑膝、食㆓方丈於前㆒、甘不㆑過㆓一肉㆒。

【方中】349 ハウチユウ ❶まさに中す。〔莊子、天下〕日方中方睨、物方生方死。❷中央をいふ。〔管子、幼官〕此居㆓圖方中㆒。❸陵の柩を藏める穴の內部。〔漢書、張湯傳〕調㆓茂陵尉㆒、治㆓方中㆒。〔注〕孟康曰、方中、陵上土作㆑方也、蘇林曰、天子卽位、豫作㆑陵、諱㆑之、故言㆓方中㆒、師古曰、古謂㆓掘㆑地爲㆑阬曰㆑方、今荊楚俗、土功築作、算㆓程課㆒者、猶以㆑方計、非㆑謂㆑避㆑諱也。〔後漢書、鄧皇后紀〕殤帝康陵方中祕藏、又諸工作、事事減約、十分居㆑一。〔資治通鑑、漢紀〕殤帝、延平元年、葬㆓孝殤皇帝于康陵㆒、以㆘連遭㆓大水㆒、百姓苦役㆖、方中祕藏、乃諸工作事、減約十分居㆑一。〔注〕賢曰、方中、陵中也、孔穎達曰、凡天子之葬、掘㆑地爲㆓方壙㆒、漢書謂㆓之方中㆒、方中之內、先累㆓椁於其方中㆒、南面爲㆓羨道㆒、以㆓蜃車㆒載㆑柩至㆑壙、說而載以㆓龍輴㆒、從㆓羨道㆒而入、至㆓方中㆒、乃屬㆓紼於棺之緘㆒、從㆑上而下㆑棺、入㆓於椁之中㆒、方上、謂㆓覆㆑坑方石上㆒。

【方忠】350 ハウチユウ 清、程學啓（8－25081‥168）の字。

【方椿】351 ハウチユン 清、歙の人。字は子橋。乾隆の舉人。書室を楚頌山房といふ。著に楚頌山房詩文集・歙藝文志がある。

【方樗】352 ハウチヨ 元の人。鳳の子。字は壽父。詩に巧。〔宋元學案、五十六〕。

【方儲】353 ハウチヨ 後漢の人。儕の弟。字は聖公。孟氏易を講じ、圖讖に精通す。官は洛陽令。

【方重】354 ハウチヨウ 行が正しくておもおもしい。方正嚴重。〔後漢書、牟融傳〕舉動方重、甚得㆓大臣節㆒。

【方徵】355 ハウチヨウ 明の人。大琮六世の孫。字は可久。洪武の進士。官は監察御史・懷慶府知。敢言の士。〔明史、一百三十九〕・〔萬斯同明史、一百八十一〕・〔明史稿、一百三十一〕・〔國朝獻徵錄、九十三〕。

【方直】356 ハウチヨク ❶正しい。方正。正直。〔後漢書、蔡邕傳〕光祿大夫橋玄、聰達方直。〔晉書、郭琦傳〕琦少方直有㆓雅量㆒。〔新語、愼微〕然後忠良方直之人、則得㆘容㆓於世㆒而施㆗於政㆖。❷明、崇安の人。字は孟周。洪武中の生員。官は監察御史・新喩令。〔本朝分省人物攷、七十二〕。

【方枕】357 ハウチン はこまくら。〔歐陽脩、試筆〕介甫嘗云、夏月晝睡、方枕爲㆑佳。

【方朕】358 ハウチン 方臘（450）を見よ。

【方鎭】359 ハウチン 兵事を統べて地方を鎭守する人。唐の節度使の類。又、其の駐在地。唐書に方鎭表がある。〔晉書、張華傳〕據㆓方鎭㆒總㆓戎馬之任㆒者、皆在㆓陛下聖慮㆒矣。〔唐書、賈耽傳〕耽常以、方鎭帥缺、當㆘自㆓天子㆒命㆖之。〔宋史、職官志〕復置㆓十六衞㆒、號㆓環衞官㆒、其法、節度使則領㆓左右金吾衞上將軍㆒、承宣使則領㆓左右衞上將軍㆒。

【方陳】360 ハウヂン 方形のぢんだて。陳は陣。〔國語、吳語〕爲㆓萬人㆒以爲㆓方陳㆒。〔李衞公問對、上〕諸葛亮以㆑石縱橫布爲㆓八行㆒、方陳之法、卽此圖也。

【方底】361 ハウテイ ❶書物を入れるふくろ。〔漢書、外戚下、趙皇后傳〕中黃門田客持㆓詔記㆒、盛㆓綠綈方底㆒。〔注〕綈、厚繒也、綠㆓其色㆒也、方底、盛㆑書囊、形若㆓今之筭幐㆒耳。〔後漢書、廣陵思王荊傳〕作㆓飛書㆒、封以㆓方底㆒。〔注〕方底、囊所㆓以盛㆑書也。❷四角な底。方底而圓蓋を見よ。

【方底而圓蓋】362 ハウテイニシテエンガイ 四角な底の器に圓いふた。物の相合はない喩。〔顏氏家訓、兄弟〕使㆔疎薄之人而節㆓量親厚之恩㆒、猶㆓方底而圓蓋㆒、必不㆑合矣。

【方定】363 ハウテイ 明、淳安の人。字は志安。號は止軒。聽松道人。官は泰縣教諭。著に止軒稿・聽松集がある。

【方貞】364 ハウテイ 正しい。又、其のこと。〔揚雄、反離騷〕正㆓皇天之清則㆒兮、度㆓后土之方貞㆒。

【方程】365 ハウテイ 九章算術の一。今日の多元一次方程式に當る。九章算術（1－167‥333）の❶を見よ。〔周禮、地官、保氏、九數、注〕九數、方田・粟米・差分・少廣・商功・均輸・方程・贏不足・旁要。〔孫詒讓正義〕方者、左右也、程者、課率也、左右課率、總㆓統羣物㆒、故曰㆓方程㆒。〔算經〕九章名義、八曰方程。〔算法統宗、方程章〕方、正也、程、數也。

【方程式】366 ハウテイシキ 未知數を含んだ等式。未知數に適當な値を與へてこれを眞の等式とすることができれば、此の値は此の方程式を滿足せしめるといふ。方程式を滿足せしめる未知數の値を方程式の根といひ、根を求めることを方程式を解くといふ。二つ又は二つ以上の方程式がいづれも二つ又は二つ以上の未知數の同じ値で同時に滿足されるときは、これらの一組の方程式を聯立方程式といふ。

【方兆】367 ハウテウ 四兆の一。〔周禮、春官、卜師〕卜師掌㆓開龜之四兆㆒、一曰方兆、二曰功兆、三曰義兆、四曰弓兆。〔注〕其云㆓方功義弓㆒之名未㆑聞。〔疏〕但名㆓之四部㆒、爲㆓方功義弓㆒、必有㆓其義㆒、但無㆑文、以㆓言疑事無㆑質、故云㆑未㆑聞也。

【方朝】368 ハウテウ 清、番禺の人。字は東華。號は寄亭・勺園・芬靈山人。太學生。兄の還と名を齊しくし、廣南の二方と稱せらる。著に勺園集がある。

【方田】369 ハウデン ❶田畑の縱橫の長さをひとしくすること。均田。方田均稅法を見よ。〔宣和遺事、前集、上〕罷㆓方田及諸國歲貢㆒。❷九章算術の一。邊線の長短で面積の多寡を求めるもの。田地の面積測定法。九章算術（1－167‥333）の❶を見よ。〔周禮、地官、保氏、九數、注〕方田・粟米・差分・少廣・商功・均輸・方程・贏不足・旁要。〔孫詒讓正義〕李籍音義云、諸田不㆑等、以㆑方爲㆑正、故曰㆓方田㆒。〔隋書、律歷志上〕所謂率者有㆓九流㆒焉、一曰方田、以御㆓田疇界域㆒。

【方田均稅法】370 ハウデンキンゼイハフ 宋の王安石がたてた新法の一。東西南北各〻千步を一方田とし、地味の良否によつて租稅を五等に分つ制。〔宋史、王安石傳〕市易・保馬・方田諸役、相繼並興、號爲㆓新法㆒。

【方甸】371 ハウデン 清、吳璜（2－3365‥130）の字。

【方途】372 ハウト てだて。方法。

【方都】373 ハウト 四縣をいふ。四縣を都といひ、正方

形をなしてゐる都の意。〔管子、輕重乙〕寡人欲下毋レ殺二一士一、毋レ頓二一戟一、而辟中方都二一上。〔纂詁〕四縣曰レ都、方都、其地正方中都也。

【方圖】374（ハウト）　かぎり。際限。〔益部方物略記、旄節花贊〕狀若二使節一、方圖實刊。

【方土】375（ハウド）　❶或る方向の土地。地方。〔書、旅獒〕畢獻二方物一。〔傳〕盡貢二其方土所レ生之物一。❷其の地方の地味・氣候。〔後漢書、王符傳〕古之葬者、厚衣レ之以レ薪、云云、後世聖人、易レ之以二棺槨一、桐木爲レ棺、云云、中世以後、轉用二楸梓槐柏杶樗之屬一、各因二方土一。〔吳志、薛綜傳〕方土寒埆、穀稼不レ殖。❸各地方の樣子。〔晉書、王渾傳〕詔問二方土異同、賢才秀異、風俗好尙、農桑本務一。❹山名。〔淮南子、墬形訓〕八紘之外、乃有二八極一、自二東北方一、曰二方土之山一、曰二蒼門一。

【方冬】376（ハウトウ）　十月の異名。初冬。〔杜甫、孟冬詩〕殊俗還多事、方冬變レ所レ爲。

【方等】377（ハウトウ）　❶唐、麗音の號。方等聲を見よ。❷〘佛〙（ハウドウ）　等は平等をいふ。方は方正とも、廣とも、方法ともいふ。〔觀無量壽經〕讀二誦大乘方等經典一。〔釋籤、六〕此以二理等一名二方等典一。〔閱藏知津、二〕方等、亦名二方廣一。〔止觀、二〕方等者、或言二廣平一、今言レ方者、法也、盤若有二四種方法一、謂、四門入二清涼地一、卽方也、所契之理平等大慧、卽等也。

【方等聲】378（ハウトウセイ）　方等の聲をいふ。方等は唐の尙書侯貴和の妾、麗音の號。音聲が善く、巧に行天の曲を歌つた。〔通典、樂、歌〕大唐貞觀中、有二尙書侯貴和妾名麗音一、特善唱二行天一、清暢舒雅、含嚼姿態、有二喉牙吐納之異一、後改二號方等一、女亦傳二其母伎一、方等卒後、有二郗三寶一、亦善歌二行天一、有レ人引二三寶一歌レ之、諸女隔レ簾聽レ之、發レ聲便笑、女曰、上客所レ爲、殊有二乖越一、請一聽レ之、始發二一聲一、三寶便拜伏曰、眞方等聲也、誠遠所レ不レ及也。

【方頭】379（ハウトウ）　時宜に通じない。氣轉がきかない。〔輟耕錄、方頭〕俗謂レ不レ通二時宜一爲二方頭一、陸魯望詩云、頭方不レ會王門事、塵土空緇白紵衣。

〖方頭魚〗380（アマダヒ）　鯛に似た海魚。〔水族志〕。

〖方頭字〗381　fang^1 t'ou^2 tzŭ^4　ゴジック活字。

【方瞳】382（ハウドウ）　四角なひとみ。長壽の徵。〔南史、陶弘景傳〕弘景善二辟穀導引之法一、自二隱處一四十許年、年逾二八十一而有二壯容一、仙書云、眼方者壽千歲、弘景末年、一眼有レ時而方。

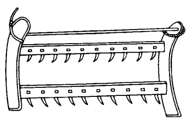
【方慝】383（ハウトク）　其の地方の惡む所の言語をいふ。〔周禮、地官、誦訓〕掌下道二方慝一以詔レ辟レ忌、以知中地俗上。〔注〕方慝、四方言語所レ惡也、不レ避二其忌一、則其方以爲レ苟二於言語一也。

【方鈍】384（ハウドン）　明、巴陵の人。字は仲敏。謚は簡肅。正德の進士。官は戶部尙書。〔明史、二百二〕・〔萬斯同明史、二百七十〕・〔明史稿、一百八十四〕・〔國朝獻徵錄、二十九〕・〔明名臣言行錄、五十七〕・〔蘭臺法鑒錄、十四〕。

【方囊】385（ハウナウ）　紙入れ。札入れの類。〔雲仙雜記〕富人賈二三折、夜以二方囊一盛二金錢於腰閒一、微二行市中一、買レ酒置レ宴。

【方任】386（ハウニン）　方疆の大吏の任務。〔晉書、阮仲傳〕受二方任一者、又非二其材一。〔資治通鑑、魏紀〕（明帝、太和五年）先レ是、（王）淩表、（滿）寵年過耽レ酒、不レ可レ居二方任一。〔注〕方任、方面之任也。

【方耙】387（ハウハ）　農具の名。まくは。馬鍬。〔農政全書、農器圖譜、耙圖說〕耙、又作レ爬、又謂二渠疏一、種蒔直說云、犁耙六、今日只知二犁深爲レ功、不レ知二耙細爲二全功一、耙功不レ到、則土麤不レ實、後雖レ見二苗立一、根、根不二倶著レ土、不レ耐レ旱、云云、前稍微昂、穿二兩木揭一、以繫二牛軛鉤索一、此方耙也。



方耙（農政全書）

【方馬】388（ハウバ）　馬をならべる。馬をならべて縛つて離れないやうにする。〔孫子、九地〕是故方レ馬埋レ輪、未レ足レ恃也。

【方槑】389（ハウバイ）　清の人。字は遜一。號は雪屏。別號は抱璞山人・白嶽山樵。好んで小詩を作り、行草書・蘭竹雜卉山水畫を善くす。生產を事とせず。晚歲、僧舍に卒す。〔清畫家詩史、丙上〕。

【方苞】390（ハウハウ）　清、江南桐城の人。舟の弟。字は靈皐。號は望溪・清漣漁父。康熙の進士。官は禮部侍郎。經學は宋儒を宗として程朱の學を推衍し、尤も春秋・三禮に力を致す。文は韓・歐を學び、桐城派の始祖となる。書室を抗希堂といふ。著に周官辨・周官集注・周官析疑・春秋通論・春秋直解・禮記析疑・喪禮或問・儀禮析疑・春秋比事目錄・左傳義法擧要・刪定管子荀子史記注・補正離騷正義・刪定通志堂宋元經解・望溪文集がある。〔清史稿、二百九十六〕・〔清史列傳、十九〕・〔國朝耆獻類徵、六十九〕・〔碑傳集、二十五〕・〔國朝先正事略、十四〕。

【方袍】391（ハウハウ）　❶比丘の着ける三種の袈裟。其の形が方形であるからいふ。〔僧寶傳〕作レ偈云、多年塵事漫騰騰、雖レ著二方袍一未二是僧一。〔宋史、沙門洪蘊傳〕太祖召見、賜二紫方袍一。❷僧。僧侶。〔金華子、下〕方袍且多、其中必有下妙二通易道一者上。

【方寶】392　fang^1 pao^3　方形の銀塊。重さ五兩・十兩の各種がある。方礴。

【方方】393（ハウハウ）　❶あちらこちら。〔書、呂刑〕方告二無辜於上一。〔傳〕方方各告二無罪於天一。❷（カタガタ）　人々。

【方望】394（ハウバウ）　近郊で四方の神を祭ること。又、其の祭。〔公羊、僖、三十一〕天子有二方望之事一、無レ所レ不レ通。〔注〕方望、謂二郊時所一レ望、祭二四方羣神一、日月星辰、風伯雨師、五嶽四瀆、及餘山川、凡三十六所。〔陳立公羊義疏〕按、注言二四方羣神一、言二其凡一、日月星辰以下、其目也、日月星辰以下、既四方之神、天子郊レ天時、望而祭レ之、四方羣神、不レ在二三十六所內一。〔顏延之、車駕幸二京口一侍二遊蒜山一作詩〕園縣極二方望一、邑社摠二地靈一。〔注〕向曰、方望、謂レ祭二四方羣神・地靈・地祇一也。

【方伯】395（ハウハク）　方土の長。諸侯。又、諸侯の長。後漢以來、刺史を、唐には采訪使・觀察使を、明・清は布政使を方伯と稱す。〔禮、王制〕天子使下其大夫爲二三監一、監中方伯之國上、國三人。〔公羊、莊、四〕上無二天子一、下無二方伯一。〔史記、秦始皇紀〕方伯分レ職、諸治二經易一。〔漢書、毋將隆傳〕隆遷二執金吾一、云云、隆奏言、古者諸侯方伯、得レ顓二征伐一、廼賜二斧鉞一、漢家邊吏、職在レ距レ寇、亦賜二武庫兵一。〔漢書、五行志下之下〕宋齊晉、天子方伯、中國綱紀、彗所二以除レ舊布レ新也。〔白虎通、號〕霸者、伯也、行二方伯之職一、會二諸侯一、朝二天子一、不レ失二人臣之義一、故聖人與レ之。〔韓愈、送二許郢州一序〕于公身居二方伯之尊一。〔事物異名錄、爵位、布政使〕啓儁職官志、布政司、古方伯、爲二一州之表師一。〔歷代職官表、總督巡撫、漢〕刺史、古之方伯。〔歷代職官表、司道、歷代建置〕今歷二攷前史一、自二唐之轉運使・觀察使一、始列二於表一、其前レ此者、如二成周之方伯、秦之監御史、漢以後之刺史、職掌相近、而品秩較易一、則並隨レ條疏二證於後一、以明二其同異分合之故一、而不三復列二於表一焉。〔歷代職官表、司道、三代〕謹案、布政使、稱曰二藩司一、亦稱二方伯一。

〖方伯卦〗396（ハウハククワ）　漢の京房の易說で震・兌・坎・離の卦をいふ。〔漢書、五行志下之上、蒙尊卦用レ事、注〕孟康曰、尊卦、乾坤也、臣瓚曰、京房謂二之方伯卦一、震兌坎離也、師古曰、孟說是也。

〖方伯三師〗397（ハウハクノサンシ）　方伯は三軍を率ゐる。〔三略、中略〕諸侯二師、方伯三師。

〖方伯之神〗398（ハウハクノカミ）　陰陽道で方位を掌る神をいふ。〔曆林問答集、上、釋二大將軍一第八〕大將軍者、太白之精、天之上客、太一紫微宮、方伯之神也。

〖方伯連帥〗399（ハウハクレンスイ）　周代、諸侯の上に位して一方を支配した官。方伯は一方面の諸侯を取締る者。連帥は十箇國の長官。唐代には節度使・觀察使をいふ。〔禮、王制〕千里之外設二方伯一、五國以爲レ屬、屬有レ長、十國以爲レ連、連有レ帥。〔詩、邶風、旄丘序〕衞不レ能レ修二方伯連率之職一、黎之臣子以責二於衞一也。〔疏〕公羊傳曰、上無二明天子一、下無二賢方伯一、方伯皆謂二州長一、則此方伯、亦州長矣、周謂二之牧一、而云二方伯一者、以二一州之中爲レ長、故云二方伯一。〔柳宗元、封建論〕諸侯之列、又就而聽レ命焉、以安二其封一、於レ是有二方伯連帥之類一、則其爭又有二大者一焉、德又大者、方伯連帥之類、又就而聽レ命、以安二其人一、然後天下會二於一一、是故有二里胥一、而後有二縣大夫一、有二縣大夫一、而後有二諸侯一、有二諸侯一、而後有二方伯連帥一、有二方伯連帥一、而後有二天子一、自二天子一至二於里胥一、其德在レ人者、死必求二其嗣一而奉レ之、故封建非二聖人意一也、勢也。

【方法】400 ハウハフ ㊀しかた。てだて。方便。事を行ふ條理。〔韓愈、送水陸運使韓侍御歸治所序〕相原隰宜、指授方法。㊁方形か否かを判定する標準。〔墨子、天志中〕中吾矩者、謂之方、不中吾矩者、謂之不方、是以方與不方、皆可得而知之、此其故何、則方法明也。㊂明、桐城の人。字は伯通。官は四川都司斷事。成祖の卽位するや、獨り表賀に署名せず、江に赴いて死す。〔明史、一百四十一〕・〔萬斯同明史、一百八十三〕・〔明詩紀事、乙〕。

【方板】401 ハウバン 木の板。方策(201)を見よ。〔論衡、須頌〕今方板之書、在竹帛、無主名。

【方比】402 ハウヒ くらべる。又、批評する。〔後漢書、孔僖傳〕臣恐、有司卒然見構、銜恨蒙枉、不得自敍、使後世論者擅以陛下有所方比。

【方轡】403 ハウヒ たづなをならべる。馬をならべて驅ける。轉じて、強國などの互に競ふこと。〔晉書、劉聰載記論〕伎人方轡、竝后載馳。

【方賓】404 ハウヒン ㊀藥草の名。石龍芻の異名。〔本草、石龍芻〕釋名、龍鬚、龍修、龍華、龍珠、懸莞、草續斷、縉雲草、方賓、西王母簪。㊁明、錢塘の人。成祖の時、兵部尙書となり、機密に參與す。後、事を以て帝の怒に觸れ、罪を懼れて縊死した。〔明史、一百五十一〕・〔萬斯同明史、一百九十七〕・〔明史稿、一百四十一〕・〔國朝獻徵錄、三十八〕。㊂明、巴陵の人。字は仲光。弘治の鄕貢。官は鳳陽通判。賊を破るの功により、知府に陞さる。

【方桴】405 ハコムネ 箱に組み横樋のやうにした大棟。箱棟(8－26209··10ヽ)に同じ。

【方趺】406 ハウフ 石碑の臺石の方形のもの。〔婉燧、墓碣銘〕有方其趺、有剡其首。

【方幅】407 ハウフク ㊀のり。おきて。規矩法度。〔南史、徐勉傳〕既失西廂、不復方幅。〔北史、樊子蓋傳〕宜選貞良宿德有方幅者教習之。㊁公然(2－1452··443)の㊀に同じ。晉・宋の方言。〔世說新語、賢媛〕絡秀語伯仁等、我所以屈節爲汝家作妾、門戶計耳、汝若不與我家作親親者、吾亦不惜餘年、伯仁等悉從命、由此李氏在世、得方幅齒遇。〔宋瑣語〕宋書吳喜傳、不欲方幅露其罪惡、又武三王義季傳、本無馳驅平原、方幅爭鋒理、按、方幅、當時方言、猶今語云公然也、史記呂后本紀、未敢訟言誅之、韋昭注、訟、猶公也、正與此同、世說賢媛編、李氏在世、得方幅齒遇、益知方幅之語、乃晉宋方言矣。

【方物】408 ハウブツ ㊀其の地方に產する物。〔書、旅獒〕無有遠邇、畢獻方物。〔傳〕盡貢其方土所生之物。〔左氏、僖、七〕齊侯脩禮於諸侯、諸侯官受方物。〔漢書、五行志下之上〕昔武王克商、通道百蠻、使各以方物來貢。〔六部成語、戶部、方物、注解〕本方所產所製之物品也。㊁常事をいふ。〔禮、內則〕四十始仕、方物出謀發慮。〔注〕方、猶常也、物、猶事也。㊂法術性行と物色。〔易、繫辭上〕方以類聚、物以羣分。〔疏〕方、謂法術性行、物、謂物色。㊃識別する。方は別、物は名。〔國語、楚語下〕民神雜糅、不可方物。〔注〕方、猶別也、物、名也。〔後漢書、張衡傳〕人神雜擾、不可方物。

【方芬】409 ハウフン 清、歙の人。康熙の歲貢。著に易經補義・濤浣亭詩集がある。〔四庫提要、八〕。

【方墳】410 ハウフン ㊀方形の墓。〔水經、濮水注〕陘山上有鄭祭仲冢、冢西有子產墓、累石爲方墳。㊁佛塔をいふ。〔事物異名錄、佛釋、佛塔〕法苑珠林、塔者、梵名塔婆、此云方墳。

【方文】411 ハウブン 清、桐城の人。字は爾止。號は明農。順治の時、金陵に隱居す。詩に巧。著に余山集がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十三〕・〔國朝名家詩鈔小傳〕。

【方聞】412 ハウブン 行がただしく智のひろいこと。方は有道、聞は博聞。〔漢書、武帝紀〕詳延天下方聞之士、咸薦諸朝。〔注〕師古曰、方、道也、聞、博聞也、言悉引有道博聞之士、而進於朝也。

【方聞科】413 ハウブンクワ 進士の試驗をいふ。漢の武帝が天下方聞の士を延引した故事に本づく。方聞を見よ。〔曾紆、李伯時五馬圖跋〕予以應方聞科至京。

【方表】414 ハウヘウ 四方の國々。〔後漢書、和帝紀〕文加殊俗、武暢方表。

【方便】415 ハウベン ㊀機會。〔北史、孟業傳〕業爲典籤、州中要職諸人、欲相賄贍、止患無方便耳。㊁［佛］佛が衆生を導くために施すかりの手段。轉じて、臨機の處置、便宜の方法をいふ。〔大藏法數〕方謂方法、便謂便宜、猶善巧也。無著論云、欲破衆生執著色身之相、故佛假喩、微細分析、善巧而說。〔法華文句、三〕方者、法也、便者、用也、法有方圓、用有差會、三權是矩是方、一實是規是圓、若智詣於矩、則善用偏法、逗會衆生、若智詣於規、則善用圓法、逗會衆生。

【方便囊】416 ハウベンナウ 唐末、王侯が外出の時に携へた手さげぶくろ。錦で作り、衣巾・篦鑑・香藥・詞冊などを入れたもの。〔淸異錄、器具、方便囊〕唐季、王侯競作方便囊、重錦爲之、每出行、雜置衣巾篦鑑香藥詞冊。〔事物異名錄、服飾、袋〕正字通、唐季有方便囊、蓋袋類也。

【方便門】417 ハウベンモン ［佛］㊀方便に同じ。〔王勃、捨利塔碑文〕維摩見病、蓋伸方便之門、道安謝歸、思遠朝廷之事。〔四十二章經〕視方便門、如化寶聚。〔法華文句、三〕又方便者門也、門名能通、通於所通、方便權略、皆是弄引、爲眞實作門、眞實得顯、功由方便、從能顯得名、故以門釋方便、如開方便門示眞實相。㊁佛教をいふ。〔事物異名錄、佛釋、佛教〕山堂肆考、方便門、佛教也。

【方勉】418 ハウベン 明、歙の人。字は懋卿。永樂の進士。庶吉士・監察御史・浙江按察使を歷任し、後、右參議に終る。〔國朝獻徵錄、八十八〕・〔本朝分省人物攷、三十六〕。

【方步】419 fang^1 pu^4 毎邊一步の正方をいふ。

【方鳳】420 ハウホウ ㊀元、浦陽の人。一名、景山。字は韶卿。又、韶文に作る。宋の滅後、退いて仕へず。詩を善くし、毛鄭二家に精しい。書室を存雅堂といふ。著に野服考・存雅堂稿がある。〔宋元學案、五十六〕。㊁明、崑山の人。字は時鳴。號は改亭。正德の進士。御史となり、武宗の南巡を諫め、世宗立つや、屢〻大禮を爭ひ、災異を以て弊政を指切す。後、廣東提學僉事に轉ず。著に方改亭奏草がある。〔萬斯同明史、二百八十二〕・〔蘭臺法鑒錄、十四〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、六十六〕。

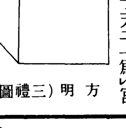
【方鵬】421 ハウホウ 明の人。鳳の兄。字は時擧。號は矯亭。正德の進士。官は南京太常卿。書室を待盡軒・逸我園・遠辱軒といふ。著に責備餘談・續觀感錄・崑山人物志・矯亭存稿がある。〔國朝獻徵錄、十七〕・〔國朝列卿記、一百三十三〕・〔嘉靖以來首輔傳、二〕・〔明詩綜、三十三〕。

【方樸】422 ハウボク 明、莆田の人。字は時擧。春秋詩書の三經に通ず。官は洪武の初、興化訓導。著に莆陽人物志、方壺集がある。〔福建通志〕。

【方名】423 ハウメイ 四方の名。〔禮、內則〕六年教之數與方名。〔注〕方名、東西也。

【方命】424 ハウメイ 王命を放棄する。方は放。一說に、王命にさからふ。上の命に遵はない。方は逆。〔書、堯典〕僉曰、於鯀哉、帝曰、吁咈哉、方命圮族。〔今古文注疏、注〕史遷、方作負、圮作毀、馬融曰、方、放也、鄭康成曰、方、放、謂放棄教命。〔同、疏〕史公方爲負者、方、負聲之轉、孟子梁惠王、方命虐民、注、方、猶逆也、逆意近負、圮爲毀者、釋詁文、馬注見釋文、鄭注見書疏、馬鄭俱以方爲放者、漢書傅喜傳、太后詔曰、放命圮族、注、應劭曰、放弃教令、毀其族類、又朱博傳曰、今傅晏放命圮族、皆用此經文、是漢時俱讀方爲放也。〔蔡傳〕方命者、逆命而不行也。〔孟子、梁惠王下〕方命虐民、飮食如流、流連荒亡、爲諸侯憂。〔注〕方、猶放也、放棄不用先王之命、但爲虐民之政。〔集注〕方、逆也、命、王命也。〔漢書、敍傳下〕孝景涖政、諸侯方命、克伐七國、王室以定。〔蜀志、許靖傳〕方命圮族、扇動羣逆。〔書言故事大全、評論類〕不從曰方命。

【方明】425 ハウメイ ㊀木で作った方形の物で、祭祀のとき神體の宿る所。上下四方の神明の象であるから方明といひ、東は青、西は白、南は赤、北は黑、上は玄、下は黃を以て畫き、各〻其の神に象つたもの。〔儀禮、覲禮〕諸侯覲于天子、爲宮方三百步、四門、壇十有二尋、深四尺、加方明于其上、方明者、木也、方四尺、設六色、東方青、南方赤、西方白、北方黑、上玄、下黃、設六玉、上圭、下璧、南方璋、西方琥、北方



方明（三禮圖）

璜、東方珪。〔注〕方明者、上下四方神明之象也、上下四方之神者、所謂明神也、六色、象二其神一、六玉以禮レ之、上宜レ以二蒼璧一、下宜レ以二黃琮一、而不レ以者、則上下之神、非二天地之至貴者一也、設レ玉者、刻二其木一而著レ之。〔胡培翬正義〕此節詳二方明之形制一、案二竹書紀年一、大甲十年、大饗二于大廟一、初祀二方明一、漢書律歷志、伊訓篇曰、伊尹祀二于先王一、誕資有二牧方明一、則祀二方明一之禮、殷已有レ之矣、方明、以二方四尺之木一爲レ之、上下四方、共有二六面一、設二六色一者、每面各設二一色一、以象二其神一、設二六玉一者、每面各設二一玉一、以爲二之飾一、方明不三必定二指日月山川一、蓋言二上下四方一、而六合以內之神、悉該レ之矣、會同特加二於壇一而祀焉、其典至重、其物至貴、飾以レ玉焉、宜也。〔漢書、律歷志下〕太甲元年、使三伊尹作二伊訓一、伊訓篇、曰、惟太甲元年十有二一月乙丑朔、伊尹祀二于先王一、誕資有二牧方明一、言雖レ有二成湯・太丁・外丙之服一、以二冬至一越茀、祀二先王於方明一、以配二上帝一。〔注〕如淳曰、觀禮、諸侯覲二天子一、爲二壇十有二尋一、加二方明于其上一、孟康曰、方明者、神明之象也、以レ木爲レ之、方四尺、畫二六采一、東青、西白、南赤、北黑、上玄、下黃。❷上下四方の事に通明すること。〔管子、宙合〕是以著業不レ得レ不レ多、人之名位、不レ得レ不レ殊、方明者察二于事一、故不レ官二于物一、而旁通二于道一。〔纂詁〕尹知章釋レ方爲二法術一、張榜以爲二令字一、讀屬二上句一、皆非、案、觀禮有二方明一、謂二上下四方通明一、則此方明、亦謂下士能通二明上下四方之事一者上。❸黃帝の時の人。黃帝が大隗を具茨山に見ようとした時、其の御となる。〔莊子、徐無鬼〕。❹南朝宋、河東の人。楊難當を平げて功あり、穎川・南平昌太守に歷任す。〔宋書、四十五〕。❺唐、柳識(**6－14662**‥125)の字。

【方面】426 ハウメン ❶一人で一面に當ることから、後には封疆の大吏をいふ。方面官。〔後漢書、馮異傳〕受二任方面一、以立二微功一。〔注〕謂二西方一面專以委レ之。〔後漢書、馮異岑彭傳論〕中興將帥、立二功名一者衆矣、唯岑彭・馮異、建二方面之號一。❷かくばつたかほ。〔河圖〕蒼帝方面。〔後漢書、高獲傳〕爲レ人尼首方面。❸一方のむき。方向。又、方土。〔史記、孔子世家〕使下各以二其方賄一來貢上。〔注〕集解曰、王肅曰、各以二其方面所レ有之財賄一而來貢。〔漢書、王莽傳中〕凡五師衣冠車服駕馬、各如二其方面色數一。〔後漢書、逢萌傳〕詔書徵レ萌、託以三老耄迷二路東西一、語二使者一云、朝廷所三以徵レ我者、以二其有レ益二於政一、尚不レ知二方面所レ在、安能濟レ時乎。〔後漢書、張衡傳〕一龍發レ機、而七首不レ動、尋二其方面一、乃知二震之所レ在。〔魏志、武帝紀〕若事不レ輯、則方面何所レ可レ據。〔魏志、梁習傳〕居處貧窮、無二方面珍物一。〔陸倕、石闕銘〕區宇乂安、方面靜息。〔注〕善曰、方面、四方面也。❹おもてを並べる。〔淮南子、泰族訓〕方レ面奮レ臂、而爲レ之鬭。

【方面寄】427 ハウメンノキ 一方をまもるべき任務を依賴する。一方をかためる寄託。〔後漢書、馬融傳〕方面重寄。〔名臣言行錄〕張詠自謂、當二方面寄一、不二敢辭一。〔于邵、送三王司議季友赴二洪州一序〕勉移二獨坐之權一、實專二方面之寄一。

【方面官】428 ハウメンクワン 一方面を治める官。地方官。方面大員。〔留青日札〕方者、面也、一方之面也、故今之方伯、曰二方面官一。〔六部成語、吏部、方面官、注解〕道臺知府、皆稱爲二方面大員一。

【方面勳】429 ハウメンノクン 一方面の敵を防いだいさを。〔後漢書、賈復傳〕復少二方面之勳一。

【方面委員】430 ハウメンヰヰン 舊制で、生活の困難な人を保護・指導した機關。名譽職で任期四年。昭和十一年、地方長官が地域每に設置。昭和二十一年、現在の民生委員に切替。

【方面大耳】431 ハウメンタイジ 四角な顏と大きな耳。〔愼夏漫筆〕周世宗忌二方面大耳者一殺レ之、按、南齊書李安民傳、明帝大會二新亭一、勞二接諸軍士一、樗蒲官賭、安民五擲皆盧、帝大驚、目二安民一曰、卿方面如レ田、封侯狀也、忌二方面一者久矣、方面脩用爲二田面一、亦似レ無レ害。

【方目】432 ハウモク ❶四角な目。〔王粲、遊レ海賦〕魚則橫尾曲頭、方目偃頷。〔嵇康、答レ難二養生論一文〕偓佺以二松實一方目。❷四角なあな。方孔。〔吳志、張昭傳〕孫權每二田獵一、常乘レ馬射レ虎、云云、乃作二射虎車一、爲二方目一、閒不レ置レ蓋、一人爲レ御、自於レ中射レ之。❸鳥の名。みぞこひ。〔本草、鵁鶄〕附錄、方目、一名旊、音紡、一名澤虞、俗名二護田鳥一、西人謂二之蝦蟇一、護レ水鳥也、常在二田澤中一、形似二鷗鷺一、蒼黑色、頭有二白肉冠一、赤足、見レ人、輒鳴喚不レ去、漁人呼爲二鳥鶏一、閩人訛爲二姑鶏一。❹fang^1 mu^4 ㋑碁盤などの目。㋺目次。目錄。

【方目紗】433 ハウモクサ 麁絲であらく織つた布。もぢ。〔漢書、江充傳〕冠禪纚步搖冠、〔注〕師古曰、纚織絲爲レ之、卽今方目紗是也。〔後漢書、章帝紀、省二冰紈方空縠吹綸絮一、注〕釋名曰、縠、紗也、方空者、紗薄如レ空也、或曰、空、孔也、卽今之方目紗也。

【方門】434 ハウモン ❶地方の門。〔庾肩吾、奉二使北徐州一參二丞御一詩〕枌楡諒二昔社一、方門有二舊墉一。❷fang^1 men^2 變壓器。

【方羊】435 ハウヤウ さまよふ。彷徉。〔左氏、哀、十七〕如二魚竀尾衡レ流而方羊一。〔注〕衡レ流方羊、不レ能二自安一。

【方洋】436 ハウヤウ かけりまはる。翺翔に同じ。〔漢書、吳王濞傳〕吳王內以二鼂錯一爲レ誅、外從二大王後車一、方二洋天下一。〔注〕師古曰、方洋、猶二翺翔一也。

【方揚】437 ハウヤウ ❶戎狄の名。西戎の一種。〔逸周書、王會解〕巴人以二比翼鳥一、方煬以二皇鳥一。〔注〕方揚、亦戎別名也、皇鳥、配二於鳳一者也。❷明、歙の人。字は思善。號は初菴。隆慶の進士。官は杭州知府に至る。著に方初菴集がある。〔國朝獻徵錄、八十五〕・〔明人小傳、三〕・〔本朝分省人物攷、三十七〕・〔明詩綜、五十一〕。

【方藥】438 ハウヤク 醫者の處方とくすり。〔漢書、杜延年傳〕徵二天下名醫一、延年典二領方藥一。〔後漢書、華佗傳〕精二於方藥一。

【方熊】439 ハウユウ 清、烏程の人。字は飛厓(飛崖)。諸生。書室を帶湖草堂といふ。著に帶湖草堂集・南潯文獻志がある。〔清畫家詩史、丁下〕。

【方與】440 ハウヨ 縣名。秦、置き、漢、之に因る。春秋、宋の方與邑。山東省魚臺縣の北。〔漢書、地理志上〕山陽郡、縣二十三、方與。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、魚臺縣〕方與城、在二縣城北一、春秋時宋之方與邑、戰國策、楚人說二頃襄王一、外擊二定陶一、則大宋方與二郡者擧矣、秦置二方與縣一、史記二世二年、秦嘉立二景駒一爲二楚王一、引レ兵之二方與一、欲レ擊二秦軍一、定陶下、又沛公取二湖陵方與一、漢仍置二方與縣一、云云、志云、城北舊有二小城一、卽故方與縣治。

【方輿】441 ハウヨ 大地。方は四角、輿は物を載せるもの。地は四角で萬物を載せるからいふ。坤輿。〔宋玉、大言賦〕方地爲レ車、圓天爲レ蓋。〔束皙、補亡詩、崇丘〕漫漫方輿、回回洪覆。〔注〕翰曰、方輿、地也。

【方輿紀要】442 ハウヨキエウ 書名。讀史方輿紀要(**10－36088**‥31)の略。

【方輿勝覽】443 ハウヨショウラン 書名。七十一卷。宋、祝穆撰。前集四十三卷、後集七卷、續集二十卷、拾遺一卷。詩文に益あり、宋元以來、操觚家に珍重された。其の目は郡名・風俗・形勝・館驛・土產・山川・學館・堂院・亭臺・樓閣・寺觀・古跡。〔四庫提要、史、地理類〕。

【方輿紀要簡覽】444 ハウヨキエウカンラン 讀史方輿紀要(**10－36088**‥31)の參考書を見よ。

【方用】445 ハウヨウ ❶或る地方だけで用ひるもの。〔管子、幼官〕定二方用一勝、定二論理一勝。〔注〕異方所レ用、各有レ不レ同、能審定者勝。❷元、望江の人。字は希才。許謙の弟子。揭傒斯・朱公遷・歐陽玄と共に許門の四傑と稱された。著に先儒宗旨・茗谷叢說がある。〔宋元學案、八十二〕。

【方鎔】446 ハウヨウ 宋、淳安の人。字は伯治。少時、詞章を以てあらはれ、後、心を知行の學に注いだ。官は兩淮制置使參謀官。〔宋元學案、八十二〕。

【方耒】447 ハウライ 宋の人。元宋の曾孫。字は耕道。乾道の進士。善化尉を授けらる。張栻、深く之を喜び、死生禍福を共にすべき者は耒一人のみといつたといふ。連江令に終る。〔宋元學案、四十三〕。

【方來】448 ハウライ ❶まさに來る。〔易、比〕不レ寧方來。❷將來。未來。〔越絕書、越絕外傳記吳王占夢〕博聞彊識、通二於方來之事一。〔後漢書、皇后紀序〕使下因設二外戚之禁一、編二著甲令一、改二正后妃之制一、貽中厥方來上。❸宋、永嘉の人。字は齊英。葉適・黃榦の弟子。開禧の進士。官は左司諫・兵部侍郎・漳州知。〔宋元學案、五十五〕。❹字號。㋑清、楊錫紱(**6－15112**‥654)の字。㋺清、劉青震(**2－**

2224・・1117）の號。

【方雷】449 ハウライ　太古の人の名。其の女は黃帝の妃となつた。〔國語、晉語四〕黃帝之子、二十五人、其同姓者二人而已、唯青陽與二夷鼓一皆爲二己姓一、青陽、方雷氏之甥也、夷鼓、彤魚氏之甥也。〔史記、五帝紀〕嫘祖爲二黃帝正妃一生二二子一〔注〕索隱曰、案、黃帝立二四妃一象二后妃四星一、皇甫謐云、元妃西陵氏女曰二嫘祖一、生二昌意一、次妃方雷氏女曰二女節一、生二青陽一。

【方臘】450 ハウラフ　宋、青溪の人。一說に、舊名を朕といひ、童貫により、臘と改めたといふ。左道に託して衆を惑はし、宣化二年、亂を作し、自ら聖公と號したが、後、童貫等に擒へられて誅さる。〔宋史、四百六十八〕。

【方瀾】451 ハウラン　元、莆陽の人。字は叔淵。吳中に隱居し、平生、吟咏を好む。著に叔淵遺稿がある。〔明史、三百二〕。

【方利】452 ハウリ　縣名。漢、置く。山西省舊汾州府の境。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、方利。

【方里】453 ハウリ　たてよこ一里の面積。一里四方。一里平方。〔孟子、滕文公上〕方里而井、井九百畝、其中爲二公田一、八家皆私二百畝一、同養二公田一。

【方鯉】454 ハウリ　明の人。大琮七世の孫。字は廷訓。永樂の進士。監察御史・彰德知・紹興知を歷任し、皆嚴明を以て稱された。〔本朝分省人物攷、七十四〕。

【方流】455 ハウリウ　❶直角に折れ曲るながれ。〔顏延之、贈二王太常一詩〕玉水記二方流一、琁源載二圓折一。〔注〕善曰、尸子曰、凡水其方折者有レ玉、其圓折者有レ珠也。❷あまねく流れる。旁流。〔文子、微明〕智圓者終始無レ端、方二流四遠一、淵泉而不レ竭。

【方陸】456 ハウリク　清、康績(**4**－**9376**・・104)の字。

【方立】457 ハウリフ　❶方正に道を守る人。〔晏子、重而異者〕若夫方立之人、維聖人而已。❷清、董祐誠(**9**－**31433**・・173)の字。❸（ハウダテ）㋑門柱の兩側に立てて扉をつける木。〔庭訓往來、三月〕方立。㋺篋の左右にある柱のやうなもの。㋩御所車の簾から外に差出した左右の處。〔源平盛衰記、三十三、木曾院參〕方立の穴に取り附かせ給へ。㊁しくみ。しかた。

【方良】458 ハウリヤウ　木石の怪。罔兩。蝄蜽。〔周禮、夏官、方相氏〕毆二方良一。〔注〕方良、罔兩也、云云、國語曰、木石之怪、夔罔兩。〔孫詒讓正義〕說文虫部云、蝄蜽、山川之精物也、案、罔兩卽蝄蜽之借字、與二方良一並疊韻字通。〔本草、罔兩〕集解、時珍曰、罔兩、一作二魍魎一、又作二方良一、周禮方相氏、執レ戈入レ壙、以驅二方良一、是矣、罔兩好食二亡者肝一、故驅レ之、其性畏二虎柏一、故墓上樹二石虎一植レ柏、國語云、木石之怪、夔罔兩、水石之怪、龍罔象、卽此、述異記云、秦時、陳倉人獵得レ獸、若レ彘若レ羊、逢二二童子一、曰、此名二弗述一、又名レ蝹、在二地下一、食二死人腦一、但以レ柏插二其首一則死、此卽罔兩也、雖下于二藥石一無上レ與、而于二死人一則關、故錄レ之。〔張衡、東京賦〕斬二蜲蛇一、腦二方良一。〔注〕綜曰、方良、草澤之神也。

【方領】459 ハウリヤウ　❶方形のえり。〔漢書、廣川惠王越傳〕時愛爲レ去刺二方領繡一。〔注〕服虔曰、如二今小兒卻襲衣一也、頸下施二衿領一、正方直、晉灼曰、今之婦人直領也、繡爲三方領上、作二黼黻文一。〔漢書、韓延壽傳〕延壽衣二黃紈方領一。❷堂上家が局住（ツボネズミ）に勤仕する時、家領外に受ける知行。

【方領矩步】460 ハウリヤウクホ　四角なえりの衣をきて、正しく步く。學者の態度をいふ。〔後漢書、儒林傳序〕建武五年、迺修二起太學一、服二方領一、習二矩步一者、委二它乎其中一。〔注〕方領、直領也。〔後漢書、馬援傳〕(朱)勃年十二、衣二方領一、能二矩步一。〔注〕頸下施レ衿、領正方、學者之服也、矩步者、回旋皆中二規矩一。〔隋書、儒林傳序〕方領矩步之徒、亦多轉二死溝壑一。

【方略】461 ハウリヤク　❶はかりごと。手段。方計。〔韓詩外傳、四〕總二方略一、壹二統類一。〔荀子、非十二子〕總二方略一、齊二言行一。〔荀子、王霸〕鄉二方略一、審二勞佚一。〔史記、封禪書〕言多二方略一。〔漢書、霍去病傳〕顧二方略何如一耳、不レ至レ學二古兵法一。〔漢書、趙充國傳〕百聞不レ如二一見一、兵難隃度、臣願馳至二金城一、圖上二方略一。〔注〕師古曰、圖二其地形一、并爲二攻討方略一、俱奏上也。❷軍功・武功をいふ。又、其の事を記した書。方略館を見よ。〔四庫提要、史、紀事本末類〕平定三逆方略、六十卷、康熙二十一年、大學士勒德洪奉敕撰。

【方略館】462 ハウリヤククワン　清、置く。開國以來の歷代の武功及び政治の大事を編纂記錄した所。〔清會典、辦理軍機處〕方略館總裁、掌レ脩二方略一、凡書有レ旨交輯者、各編錄以候二欽定一、提調、滿洲二人、漢二人、收掌、滿洲二人、漢二人。〔注〕每次軍功告蕆、及遇レ有二政事之大者一、奉レ旨纂輯成レ書、紀二其始末一、或曰二方略一、或曰二紀略一、皆由レ館承辦。

【方略策】463 ハウリヤクサク　方略に關する策文。〔考課令〕凡秀才試二方略策二條一、文理俱高者爲二上上一。

【方類】464 ハウルイ　たぐひ。なかま。〔李邕、海州大雲寺禪院碑〕藥草寓二其根莖一、雲雷感二其方類一。

【方廉】465 ハウレン　ただしくていさぎよい。方潔。方正廉潔。〔韓詩外傳、八〕使二人方廉而好一レ義。〔李虞仲、授二崔羣右僕射一制〕清貞不レ撓、方廉自持。

【方漣】466 ハウレン　清、吳雯清(**2**－**3365**・・864)の字。

【方輦】467 ハウレン　輦をならべる。〔資治通鑑、陳紀〕(宣帝、太建十二年)后輒與レ帝方レ輦而進。〔注〕方レ輦、並二兩輦一也。

【方魯】468 ハウロ　清、鄒喆(**11**－**39562**・・38)の字。

【方賄】469 ハウワイ　其の地方に產する財貨。方物。〔國語、魯語下〕使下各以二其方賄一來貢上。〔注〕方賄、各以二所レ居之方所レ出貨賄一爲レ貢也。〔史記、孔子世家〕使下各以二其方賄一來貢上。〔孔子家語、辨物〕使下各以二其方賄一來貢上。

【居レ方】470 ハウニヲル　それぞれ相當の所に居る。〔易、未濟〕君子以愼、辨レ物居レ方。〔注〕辨レ物居レ方、令三物各當二其所一也。

【省レ方】471 ハウヲカヘリミル　地方を巡回する。〔班固、東都賦〕省レ方巡狩。〔注〕翰曰、省レ方、觀二四方一也。

【方以智】472 ハウイチ　清の人。孔炤の子。字は密之。號は鹿起。明末四公子の一人。明の崇禎の進士。檢討を受けられ、清に入りて僧となる。名は宏智(弘智)。字は無可。別號を藥地和尙・無道人・浮山愚者・墨歷・昌公といふ。著に通雅・易衲・古今性說合觀・一貫問答・物理小識・藥地炮莊がある。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【方頤孫】473 ハウイソン　宋、福州の人。理宗の時、太學篤信齋長となる。著に大學黼藻文章百段錦がある。〔四庫提要、一百九十七〕。

【方惟深】474 ハウヰシン　宋の人。龜年の子。字は子通。官は興化軍助教。王安石に其の詩を愛せらる。著に方祕校集がある。

【方維翰】475 ハウヰカン　清、大興の人。字は藕堂。號は種園。別號、藕船主人。詩に巧。官は浙江布政使經歷。〔清畫家詩史、己、下〕・〔飛鴻堂印人傳、五〕。

【方維儀】476 ハウヰギ　明の人。姚孫棨の妻。字は仲賢。孫棨が卒するや、清芬閣に守志し、文事に專心す。著に清芬閣集がある。〔明人小傳、五〕・〔明詩綜、八十六〕・〔靜志居詩話、二十三〕。

【方維甸】477 ハウヰデン　清の人。觀承の子。字は南耦。號は葆巖。謚は勤襄。乾隆の進士。官は吏部主事・河南布政使。川楚の教匪を平定して高宗に嘉せられ、閩浙總督に拔擢さる。書室を心蘭室といふ。著に心蘭室稿がある。〔清史稿、三百六十三〕・〔清史列傳、三十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百七十五〕・〔國朝先正事略、十八〕。

【方有開】478 ハウイウカイ　宋、淳安の人。字は躬明。紹興の進士。官は戶部侍郎。

【方有執】479 ハウイウシツ　明、歙の人。字は仲行。醫學に精通す。著に傷寒論條辨・本草鈔・或問・痙書がある。〔四庫提要、一百四〕。

【方一夔】480 ハウイツキ　宋の人。逢辰の孫。字は時佐。號は知非子。門人、富山先生と稱す。推薦されて郡庠を領教し、後、富山に退隱して講學す。著に富山遺稿がある。〔宋元學案、八十二〕。

【方一桂】481 ハウイツケイ　明、莆田の人。字は世芬。嘉靖の進士。官は直隸督學。冢宰汪鋐の奸を上疏し、削籍さる。〔蘭臺法鑒錄、五〕。

【方蔭華】482 ハウインクワ　清、武進の人。趙仁基の後妻。字は季嫻。書室を雙清閣といふ。著に雙清閣集がある。

【方于魯】483 ハウウロ　明、歙の人。初名は大激。後、字を以て行はれ、建元と改む。初、詩を學び、汪道昆に招かれて豐干社に入る。後、程君房の墨法を得、更に新法を發明す。著に方氏墨譜・方建元詩集がある。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十四〕・〔明詞綜、五〕・〔靜志居詩話、十八〕。

【方雲槐】484 ハウウンクワイ　明、遂安の人。字は慕庭。幼に

にして孤、母に事へて至孝。其の門に旌表さる。

【方鉛鑛】485（ハウエンクワウ） 鉛と硫黄との化合物。鉛を取る原料として主要なもの。

【方演孫】486（ハウエンソン） 宋の人。大琮の子。字は景行。官は大司農。

【方應選】487（ハウオウセン） 明、松江華亭の人。字は眾甫。號は明齋。萬曆の進士。官は盧龍兵備副使に至る。詩文に巧。著に方衆甫集がある。〔四庫提要、一百七十九〕。

【方應發】488（ハウオウハツ） 宋の人。字は君節。淳祐の進士。官は禮部尙書。

【方解石】489（ハウカイセキ） 鑛物の名。石灰質で、粉碎しても常に斜方體をなし、又光線を二重に屈折する特質を有する。〔本草、方解石〕釋名、黃石、志曰、敲㆓破塊塊㆒方解、故以爲㆑名、集解、時珍曰、方解石、與㆓硬石膏㆒相似、皆光潔如㆓白石英㆒、但以敲㆑之、段段片碎者、爲㆓硬石膏㆒、塊塊方稜者、爲㆓方解石㆒、蓋一類二種、亦可㆓通用㆒、唐宋諸方、皆以㆑此爲㆓石膏㆒、今人又以爲㆓寒水石㆒、雖㆓俱不㆑是、而其性寒、治㆑熱之功、大抵不㆓相遠㆒、惟解㆑肌發㆑汗、不㆑能㆑如㆓硬石膏㆒爲㆑異爾。

【方蓋軺】490（ハウカイセウ） 車の名。梁代、三公開府及び中丞に給したもの。〔海錄碎事、服用、車〕方蓋軺、梁制、三公開府・中丞給㆑之。〔李孝光、送㆔志能之㆓京師㆒詩〕鳳曹合引金闌彥、驄馬尙隨方蓋軺。

【方亨咸】491（ハウカウカン） 清の人。拱乾の子。字は吉偶。號は邵村。順治の進士。官は御史。書・山水畫を善くす。江南科場の案を以て寧古塔に流され、後釋さる。〔國朝耆獻類徵、一百三十三〕・〔清畫家詩史、甲下〕・〔國朝書畫家筆錄、一〕・〔國朝書人輯略、二〕。

【方孝友】492（ハウカウイウ） 明の人。孝孺の弟。孝孺と俱に死す。〔明史、一百四十一〕・〔萬斯同明史、一百八十三〕。

【方孝孺】493（ハウカウジュ） 明の人。克勤の子。字は希直・希古。號は遜志齋。謚は文正。學者、正學先生と稱す。宋濂の弟子。洪武中、漢中府教授を授けらる。蜀の獻王の世子の師に招聘され、其の廬を名づけて正學といふ。建文の時、侍講學士。燕師入るや捕へられ、成祖に詔を草することを強ひられて聽かず、市に磔せらる。宗族親友誅に坐する者數百人に至つた。著に遜志齋稿・侯成集・希古堂稿がある。〔明史、一百四十一〕・〔萬斯同明史、一百八十三〕・〔明史稿、一百三十二〕・〔國朝獻徵錄、二十〕・〔明詩綜、十六〕・〔明儒學案、四十三〕。

【方孝復】494（ハウカウフク） 明の人。克勤の從子。燕師の入るや、從兄孝孺が殺され、宗族の死する者多數に及んだが、唯〻孝復は、軍籍にあるを以て免る。〔明史、一百四十一〕・〔遜國諸臣傳、一〕。

【方孝聞】495（ハウカウブン） 明の人。孝孺の兄。力學篤行。孝孺に先んじて死す。〔明史、一百四十一〕・〔明書、一百二〕・〔遜國諸臣傳、一〕。

【方孝標】496（ハウカウヘウ） 清の人。拱乾の長子。本名は玄成。後、諱を避け、字を以て行はる。號は鈍齋。別號は樓岡。順治の進士。官は弘文院侍讀學士。事に坐して寧古塔に流さる。後、釋されて滇に入る。書室を光啓堂といふ。著に鈍齋文集・滇黔紀聞がある。

【方岳貢】497（ハウガクコウ） 明、穀城の人。字は四長。天啓の進士。崇禎の初、松江知府を拜命し、尋いで左都御史・兼東閣大學士に擢んでらる。李自成反くや難に死す。著に國瑋集がある。〔明史、二百五十一〕・〔萬斯同明史、三百五十七〕・〔明史稿、二百三十八〕・〔小腆紀年、三〕。

【方學漸】498（ハウガクゼン） 明、桐城の人。字は達卿。諸生。祭酒たること二十年。著に心學宗・邇訓・桐彝がある。〔萬斯同明史、三百六十一〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、五十〕・〔明儒學案、三十五〕。

【方希哲】499（ハウキテツ） 明の人。從哲の兄。字は敬涵。諸生。從哲、國に當るや、隱居して學を講じ、城市に入らず。學者、恬節先生と私謚す。

【方龜年】500（ハウキネン） 宋、莆田の人。景祐の進士。官は屯田郎中に至る。著に經史解題・記室新書がある。〔四庫提要、一百三十七〕。

【方九敍】501（ハウキウジョ） 明、錢塘の人。字は禹績。嘉靖の進士。官は承天知府に至る。巨奄に忤つて退職す。著に方承天遺稿がある。〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十三〕・〔列朝詩集小傳、丁、上〕。

【方拱乾】502（ハウキョウケン） 清、桐城の人。字は坦菴。後、甦菴と改む。號は甦老人。明の天慶の進士。官は左諭德・兼侍讀。李自成、北京に入るや、執へらる。清に入り少詹事を授けらる。其の五子章鉞に坐して寧古塔に流され、後釋さる。著に寧古塔志・方詹事集がある。〔小腆紀年、四〕。

【方宏靜】503（ハウクワウセイ） 明、歙の人。字は定之。號は素園。嘉靖の進士。官は南京戶部右侍郎。水寨寇を平定す。著に素園存稿がある。〔四庫提要、一百七十八〕。

【方觀承】504（ハウクワンショウ） 清の人。式濟の子。字は遐穀。號は問亭・宜田。謚は恪敏。雍正の間、平郡王福彭に從つて準噶爾を征す。乾隆の間、直隸總督となる。治水に長じ、大青・滹沱・子牙等の河堤を修築す。詩・書に巧。書室を述本堂といふ。著に五禮通考・述本堂詩・薇香集・燕香集・問亭集がある。〔清史稿、三百三十〕・〔清史列傳、十七〕・〔國朝耆獻類徵、七十五〕・〔碑傳集、七十二〕・〔國朝先正事略、十八〕。

【方啓蒙】505（ハウケイモウ） 清、徽州の人。字は凡菴。書畫に巧。

【方景山】506（ハウケイザン） 元の人。方鳳(420)を見よ。

【方堯相】507（ハウゲウシャウ） 明、黃岡の人。字は紹虞。崇禎の間、成都同知となる。張獻忠に執へられ、屈せずして死す。〔明史、二百九十五〕・〔萬斯同明史、三百八十二〕・〔明史稿、二百七十七〕・〔小腆紀年、七〕。

【方獻夫】508（ハウケンフ） 明、南海の人。字は叔賢。號は西樵。謚は文襄。弘治の進士。官は吏部員外郎となり、世宗の時、小詹事・吏部尙書となる。著に周易傳義約說・西樵遺稿がある。〔明史、一百九十六〕。

【方元寀】509（ハウゲンサイ） 宋の人。峻の子。字は道輔。嘗て程頤と交游す。官は威武軍節度推官。〔宋元學案、十六〕。

【方元修】510（ハウゲンシウ） 宋、桐廬の人。字は時敏。官は濬州通判。

【方元鹿】511（ハウゲンロク） 清、儀徵の人。字は竹樓。號は苹友・紅香詞客。書・墨竹畫を善くし、詩詞に巧。〔清畫家詩史、丁、上〕・〔墨香居畫識、七〕・〔國朝書人輯略、四〕。

【方玄成】512（ハウゲンセイ） 方孝標(496)を見よ。

【方公權】513（ハウコウケン） 宋の人。蒙仲の子。字は道立。官は黃州教授・太常寺主簿。時人石巖先生といふ。

【方公袞】514（ハウコウコン） 宋、仙遊の人。字は汝補。元豐の進士。官は諸王宮教授。

【方弘智】515（ハウコウチ） 方以智(472)を見よ。

【方孔炤】516（ハウコウセウ） 明、桐城の人。字は潛夫。號は仁植。萬曆の進士。崇禎の間、右僉都御史・巡撫湖廣となる。著に周易時論合編がある。〔明史、二百六十〕・〔萬斯同明史、三百六十一〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十一〕。

【方功惠】517（ハウコウケイ） 清、巴陵の人。字は柳橋。光緒中、廣東道員となる。粵城の北に館舍を築き、碧琳琅館といふ。藏書二十萬卷。碧琳琅館叢書を輯刊す。

【方貢孫】518（ハウコウソン） 元の人。岳の從子。字は去言。進士。官は建德路府判。

【方克勤】519（ハウコクキン） 明、寧海の人。字は玄矜。洪武の間、濟寧知府となる。著に汗漫集がある。〔明史、二百八十一〕・〔萬斯同明史、三百八十九〕・〔明史稿、二百六十二〕。

【方國儒】520（ハウコクジュ） 明、歙の人。字は道醇。幼にして孤。母に事へ至孝を以て聞ゆ。天慶の初、官は保康知縣。崇禎の時、賊至るや、國儒の官服を著けて堂上に坐し、賊を罵つて死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕・〔明史稿、二百七十二〕。

【方國珍】521（ハウコクチン） 明、黃巖の人。元の至正の初、怨家に誣ひられ、之を殺して亡命す。元、招くに官を以てし、後、江浙行省左丞相・衢國公に累進す。後、明に降り、廣西行省左丞を授けらる。祿を食んで官に行かず、數歲にして京師に卒す。〔明史、一百二十三〕・〔萬斯同明史、一百五十八〕・〔明史稿、一百十四〕。

【方國棟】522（ハウコクトウ） 清の人。希哲の孫。字は干霄。號は艾賢。順治の舉人。官は蘇松常道。〔清史稿、二百五十三〕・〔清史列傳、七十四〕・〔國朝耆獻類徵、二百五十〕・〔碑傳集、七十九〕。

【方三拜】523ハウサンパイ　唐、方干(63)をいふ。

【方士穎】524ハウシエイ　清、淳安の人。字は伯陽。順治末の諸生。著に恕齋偶存がある。〔國朝書畫家筆錄、三〕。

【方士繇】525ハウシエウ　宋の人。豐之の子。一名は伯休。學者遠菴先生と稱す。字は伯謨。朱熹の弟子。易に精通す。著に遠菴集がある。〔宋元學案、六十九〕。

【方士庶】526ハウシシヨ　清、江都の人。字は循遠(洵遠)。號は環山、又、小師道人(小獅道人)。山水畫を善しく、詩に巧。著に環山詩鈔がある。〔清史稿、五百九〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十八〕・〔碑傳集補、五十六〕。

【方士亮】527ハウシリヤウ　明、歙の人。崇禎の進士。給事中に累官、擧劾避くる所なし。周延儒出でて師を督するや、其の軍務を贊せしむ。〔明史、二百五十八〕・〔萬斯同明史、三百七十〕・〔明史稿、二百四十七〕。

【方之泰】528ハウシタイ　宋の人。壬の孫。字は嚴仲。紹定の進士。方大琮の幕賓となり、洪天錫、徐明叔と三賢幕と號さる。官は袁州通判。

【方司格】529ハウシカク　魏の太和の時、諸郡の中正の官に詔し、其の本土の姓族次第を列ねて作つた擧選格をいふ。〔唐書、柳冲傳〕魏太和時、詔二諸郡中正一、各列二本土姓族次第一、爲二擧選格一、名曰二方司格一、人到二於今一稱レ之。

【方次彭】530ハウジハウ　宋、興化の人。字は公述。皇祐の進士。官は梅州の知。

【方時化】531ハウジクワ　明、歙の人。字は伯雨。萬曆の擧人。官は敍州府同知。著に易引・周易頌・學易述談・易指要繹・易疑・易通・中庸點綴・陰符經質劑がある。〔四庫提要、八・三十七・一百四十七〕。

【方侍郎】532ハウジラウ　清、方苞(390)をいふ。

【方洲集】533ハウシウシフ　書名。二十六卷。明、張寧撰。外に讀史錄四卷を附す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【方秋崖】534ハウシウガイ　秋崖は宋の方岳の號。方岳(59)の❷を見よ。

【方秋客】535ハウシウカク　清、宜興の人。名は元。父、銀匠たり。故に時人、小方銀匠といふ。弈を善くし、國手に敵す。

【方秋白】536ハウシウハク　清、南海の人。字は希文。又、寄村。歷遊を好む。著に萍跡草がある。〔國朝詩人徵略初編、三十三〕。

【方茱如】537ハウジウジヨ　清の人。士穎の子。字は藥房。著に周易通義・毛詩通義・尙書通義がある。〔四庫提要、九・十四・十八〕。

【方式玉】538ハウシキギヨク　清、歙の人。字は玉如。順治中、明經を以て崑山訓導を授けらる。畫を善くし、詩に巧。杜詩一百二十首を撰集す。著に涉江・醉翁・石頭・晒齋等集がある。〔國朝畫識、二〕。

【方式濟】539ハウシキセイ　清の人。登嶧の子。字は沃園。康熙の進士。官は中書舍人。父の朋友の罪を以て、父と共に邊戍に牽連せられ、倶に塞外に沒す。詩格廉悍、尤も樂府を善くす。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、四十三〕・〔國朝詩人徵略初編、十九〕。

【方日升】540ハウジツシヨウ　明、永嘉の人。字は子謙。著に韻會小補がある。〔四庫提要、四十四〕。

【方實孫】541ハウジツソン　宋の人。字は端仲。布衣を以て史局に入る。著に淙山讀周易記がある。〔四庫提要、三〕。

【方昌翰】542ハウシヤウカン　清、桐城の人。字は宗屛。官は新野知縣。書堂を虛白堂といふ。著に虛白室集がある。〔續碑傳集、四十五〕。

【方象瑛】543ハウシヤウエイ　清、遂安の人。字は渭仁。號は金門大隱。健松齋・艮堂悼叟。康熙の進士。鴻博に擧げられ、編修を授けられ、侍講に歷任す。詩に巧。著に健松齋集・封長白山記がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、一百十九〕・〔國朝先正事略、三十九〕。

【方若徽】544ハウジヤクキ　清の人。維甸の女。字は仲惠(仲蕙)。汪元炳の妻。詩・畫・篆刻に巧。〔清畫家詩史、癸、下〕・〔清代閨閣詩人徵略、八〕・〔國朝書家筆錄、四〕。

【方受疇】545ハウジユチウ　清の人。觀承の從子。乾隆中、監生を以て鹽大使を授けらる。嘉慶中、河南教匪李文成を禦ぎ、河南巡撫・直隸總督にいたる。〔清史列傳、三十二〕・〔國朝耆獻類徵、七十五〕。

【方從義】546ハウジユウギ　元、貴溪の人。字は無隅。號は方壺・金門羽客・不芒道人。上清宮の道士。畫に巧。

【方從哲】547ハウジユウテツ　明の人。其の先は德清の人。京師に住居す。字は中涵。謚は文端。萬曆の進士。官は禮部尙書・兼東閣大學士。相たること七年、匡正する所なし。熹宗立つや、廷臣連りに從哲を劾す。尋いで中極殿大學に陞る。〔明史、二百十八〕・〔萬斯同明史、三百四十二〕・〔明史稿、二百二〕。

【方濬頤】548ハウシユンイ　清、安徽定遠の人。字は子箴。號は夢園・寶米齋・待月簃。道光の進士。官は四川按察使。書室を二知軒といふ。著に二知軒文集がある。

【方濬益】549ハウシユンエキ　清、安徽定遠の人。字は子聽。號は綴遺齋。官は金山知縣。著に吉金錄がある。

【方叔淵】550ハウシユクエン　叔淵は元の方瀾の字。方瀾(451)を見よ。

『方叔淵遺稿』550'ハウシユクエンキカウ　書名。一卷。元、方瀾撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【方濬師】551ハウシユンシ　清、安徽定遠の人。字は子嚴。咸豐の擧人。官は直隸永定河道。書室を退一步齋といふ。著に退一步齋文集がある。

【方駿謨】552ハウシユンボ　清の人。履錢の子。字は元徵。官は安徽直隸州の長官。書室を敬業述事室といふ。著に敬業述室文稿・徐州志がある。

【方振文】553ハウシンブン　明、婺源の人。字は尙質。著に積善字訓がある。

【方愼言】554ハウシンゲン　宋、莆田の人。字は應之。咸平の進士。官は朝請大夫知廣州。

【方愼從】555ハウシンジユウ　宋の人。愼言の弟。字は惟之。景德の進士。官は都官郎中。

【方信孺】556ハウシンジユ　宋の人。崧卿の子。字は孚若。番禺縣尉を授けらる。數〻金に使し、口舌を以て強敵を折き、淮東轉運判官に終る。〔宋史、三百九十五〕。

【方振武】557ハウシンブ　民國、安徽省壽縣の人。字は叔平。第一革命に南京・徐州を攻略し、第二革命失敗後我が國に亡命。後第四軍團總指揮として北伐に從ひ、孫傳芳軍を破つて濟南に入り、遂に濟南事件を起して失敗、銃殺に遇ふ。中央執行委員・國民政府委員等であつた。

【方深道】558ハウシンダウ　宋、晉江の人。官は奉議郎・知泉州。著に老杜詩評がある。〔四庫提要、一百九十七〕。

【方震孺】559ハウシンジユ　明、壽州の人。字は孩未。號は念道人。萬曆の進士。官は御史・監軍巡按、崇禎の時、右僉都御史・巡撫廣西。〔明史、二百四十八〕・〔萬斯同明史、三百六十一〕・〔明史稿、二百四十一〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十〕。

【方崧卿】560ハウスウケイ　宋の人。廷實の從子。字は季申。隆興の進士。官は京西轉運判官。至る所惠政を施す。其の祿賜の半は抄書の費に充て、書四萬卷を藏す。嘗て韓昌黎文集を校正す。著に韓詩編年・韓集擧正がある。〔四庫提要、一百五十〕。

【方世擧】561ハウセイキヨ　清、桐城の人。字は扶南・息翁。仕進を求めず。晚年、韓詩に注す。乾隆の初、鴻博に薦擧されて就かず。書室を春及堂といふ。著に春及堂集がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十五〕・〔碑傳集補、四十五〕・〔國朝先正事略、四十一〕。

【方世泰】562ハウセイタイ　方貞觀(594)を見よ。

【方正珠】563ハウセイシユ　清の人。中通の子。字は浦選。康熙中、歲貢生を以て君對し、旨に稱ふ。其の父の著の度數衍と自著の乘除新法を進む。

【方正化】564ハウセイクワ　明、山東の人。崇禎中、司禮太監となる。畿輔、兵を被るや、保定の軍務を總監す。〔明史、三百五〕・〔萬斯同明史、四百六〕・〔明史稿、二百八十四〕。

【方成珪】565ハウセイケイ　清、瑞安の人。字は國憲。號は雪齋。嘉慶の擧人。官は寧波教授。著に集韻考正がある。〔清史列傳、六十九〕。

【方雪齋】566ハウセツサイ　清、何道生(**1**－**511**‥333)の號。

【方千里】567ハウセンリ　宋、信安の人。官は舒州簽判。著に和淸眞詞がある。〔四庫提要、一百九十八〕。

【方泉集】568ハウセンシフ　書名。四卷。宋、周文璞撰。其の詩を收錄したもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【方詹事】569ハウセンジ　清、方拱乾(502)をいふ。

【方宗誠】570ハウソウセイ　清、桐城の人。字は存之。學者、柏堂先生と稱す。族兄、東樹の弟子。宋學を修め、古文辭に巧。同治中、官は棗強知縣、位は五品卿銜。著に柏堂全集がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔清史列傳、六十七〕・〔續碑傳集、八十〕。

【方宗秩】571ハウソウチツ　明、巴陵の人。字は伯序。春秋に精通す。試に及第せず、歸國して隱居す。天順の間、知縣袁綱が經明行修を以て擧げたが、就かなかつた。〔本朝分省人物攷、八十〕。

【方足布】572ハウソク　古代の貨幣。刀布の一種。

【方太古】573ハウタイコ　明、蘭溪の人。字は元素。號は一壺生・寒溪子。正德の時、白雲源に隱居す。會〻宸濠叛くや、輿に乘じて南狩し、慨然として曰く、此れ一壺千金の日なり、吾其れ不才の瓠とならんやと。乃ち一壺主傳を作る。〔萬斯同明史、三百九十六〕・〔明人小傳、二〕・〔續吳先賢讚、十五〕・〔明詩綜、二十六〕。

【方大猷】574ハウダイイウ　清、烏程の人。字は歐虞（歐餘・允升）。號は崦藍（唵藍）。明、崇禎の進士。書を善くし詩に巧。官は直隸井陘道。李自成に降り、順治の初、復た清に降る。官は山東巡撫・河南管河道。科歛婪取を以て免職され、獄中に死す。〔清史列傳、七十九〕・〔清畫家詩史、甲上〕。

【方大激】575ハウタイガウ　方于魯(483)を見よ。

【方大壯】576ハウダイサウ　宋の人。适の從孫。字は履之。號は履齋。朱熹の門人。〔宋元學案、六十九〕。

【方大淳】577ハウタイジュン　清、巴陵の人。字は澹生。號は稼軒。道光の進士。官は兵部主事。著に稼軒文集がある。

【方大琮】578ハウダイソウ　宋の人。愼從七世の孫。字は德潤。號は壺山・鐵菴。謚は忠惠。開禧の進士。官は淳祐中、直學士となり、後、隆興知府となる。著に壺山四六・鐵菴集がある。〔四庫提要、一百六十三〕。

【方大鎭】579ハウダイチン　明、桐城の人。字は君靜。號は野同翁。萬曆の進士。官は大理寺少卿。著に荷薪義・田居乙記がある。〔萬斯同明史、三百六十一〕・〔蘭臺法鑒錄、二十〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、五十五〕・〔四庫提要、九十六・一百三十二〕。

【方大年】580ハウタイネン　方旴(109)を見よ。

【方道叡】581ハウダウエイ　元の人。逢辰の曾孫。字は以愚。號は愚泉。至順の進士。翰林編修を授けらる。后妃功臣諸傳を撰輯す。尋いで江南行省員外郞に累遷す。著に春秋集釋・愚泉集詩稿がある。〔宋元學案、七十四〕。

【方道章】582ハウダウシヤウ　清の人。苞の子。字は用安。號は定思。鄉薦に擧げらる。古文辭を善くす。苞の直言を以て罪を得るや、道章も亦當道に畏忌され、顯れるを得ず。〔國朝耆獻類徵、四百三十〕・〔顏李師承記、三〕。

【方道彰】583ハウダウシヤウ　風の神。〔事物異名錄、神鬼、風神〕道經、風伯、方道彰。

【方道輔】584ハウダウホ　宋、方元寀(509)をいふ。

【方長宜】585ハウチヤウギ　肺臟の神。〔事物異名錄、神鬼、肺神〕雲笈七籤、肺神名二青龍一、亦名二方長宜一、字子元、又名素靈生、字道平。

【方頂車】586ハウチヤウシヤ　清代、大官の乘つた馬車。

【方中通】587ハウチユウツウ　清の人。中德の弟。字は位伯、號は浮山。家學を承け、博綜を以て稱さる。著に度數衍・喝方問答・浮山文集がある。〔清史稿、五百十一〕・〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、四百十七〕・〔碑傳集、一百三十二〕・〔國朝先正事略、三十二〕。

【方中德】588ハウチユウトク　清の人。以智の子。字は田伯。隱居して仕へず、年八十にしてなほ讀書を輟めず。書室を遂上居といふ。著に古事比・遂上居集がある。〔清史稿、五百五〕・〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、四百七十三〕。

【方中履】589ハウチユウリ　清の人。中通の弟。字は素伯。晚年、稻花齋を湖上に築き、力を著述に專にす。又、書室に汗青閣あり。著に汗青閣集・古今釋疑がある。〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、四百七十三〕・〔國朝先正事略、三十二〕。

【方澄孫】590ハウチヨウソン　方蒙仲(622)を見よ。

【方廷玉】591ハウテイギヨク　明、巴陵の人。字は致美。永樂の進士。庶吉士に選ばる。官は浙江右布政使。

【方廷實】592ハウテイジツ　宋、莆田の人。字は公美。政和の進士。官は監察御史。秦檜に忤ひ、福建提刑に出さる。

【方亭侯】593ハウテイコウ　碁盤の異名。〔事物異名錄、玩戲、圍棋〕清異錄、明皇因對二寧王一問、卿近日棋神威力何如、王奏、臣憑二托陛下聖神一、庶或可レ取、上喜、呼將二方亭侯一來、二宮人以二玉界局一進、遂與レ王對手。

【方貞觀】594ハウテイクワン　清、桐城の人。世擧の從弟。名は世泰。字を以て行はる。又の字、履安。號は南堂（南塘）。詩に巧。鄉人に牽連して旗籍に入り、十年を歷て放歸さる。著に南堂詩鈔がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十四〕・〔國朝先正事略、四十一〕・〔國朝詩人徵略初編、二十三〕・〔國朝書人輯略、四〕。

【方天戟】595ハウテンゲキ　武具の名。鎗・薙刀に類するもの。〔水滸傳、三十五回〕使二一條朱紅畫桿方天戟一。

【方頭魚】596ハウトウギヨ　魚の名。くずな。あまだひ。〔和漢三才圖會、魚〕方頭魚、狀似レ鯛而扁、狹口尖小鱗、鬐淺紅、大一尺許、肉脆白、味甘美、病人食レ之無レ妨。

【方殿元】597ハウデンゲン　清、番禺の人。字は蒙章。號は九谷。康熙の進士。官は江寧知縣。著に九谷集がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十一〕・〔國朝詩人徵略、初編、七・二編、七〕。

【方東樹】598ハウトウジユ　清、桐城の人。字は植之。號は儀衞老人。諸生。經史を博覽し、詩文に巧。後、義理を攻究し、朱熹を宗とす。書室を儀衞堂といふ。著に漢學商兌・大意尊聞・書林揚觶・一得拳膺錄・儀衞堂文集等がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔清史列傳、六十七〕。

【方登嶧】599ハウトウエキ　清、桐城の人。字は鳧宗。號は屛垢。康熙の貢生。官は工部郞中。朋友の罪を以て牽連されて黑龍江に謫戍された。著に述本堂があり、三方集中に收藏す。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、一百四十三〕・〔國朝詩人徵略、初編、二十〕。

【方同翁】600ハウドウヲウ　明、鄞の人。字は希元。元に仕へず。

【方德順】601ハウトクジユン　宋、莆陽の人。早くより文行を以て知らる。紹興の初、召問に對へ、講和の不便を極論し、合はずして去る。〔宋元學案、四十三〕。

【方德初】602ハウトクシヨ　明、寧波奉化の人。字は孟仁。四世同居す。

【方波羽】602′カタバミ　姓氏。

【方望溪】603ハウバウケイ　望溪は清の方苞の號。方苞(390)を見よ。

【方望溪先生全集】604ハウバウケイセンセイゼンシフ　書名。清、方苞撰。程崟編。一名、抗希堂十六種。苞の古文・雜著は多く散佚し、後、門弟子によつて始めて集錄されたが、大抵得るに隨つて上梓したため雜駁を免れない。其の目は、周官集注十二卷・周官辨一卷・周官析疑四十卷・考工記析疑四卷・春秋通論四卷・春秋比事目錄四卷・春秋直解十二卷・禮記析疑四十八卷・儀禮析疑十七卷・喪禮或問一卷・離騷正義一卷・刪定管子一卷・刪定荀子一卷・左傳義法擧要一卷・史記注補正一卷・望溪文集（無卷數）。

【方祕校】605ハウヒカウ　宋、方惟深(474)をいふ。

【方必壽】606ハウヒツジユ　明、巴陵の人。洪武の進士。官は宛平知・北平太守・陝西按察使。〔本朝分省人物攷、八十〕。

【方敏中】607ハウビンチユウ　元、巴陵の人。張栻の學に私淑し、年十二にして春秋に精通し、高尙にして仕へず。〔宋元學案、五十〕。

【方阜鳴】608ハウフメイ　宋の人。秉の子。字は子默。官は泉州僉判。

【方沸石】609　fang^{1} fei^{4} shih^{2}　沸石の一種。

【方聞一】610ハウブンイツ　宋、舒州の人。淳熙中、郡博士と爲る。著に大易粹言がある。〔四庫提要、三〕。

【方秉白】611ハウヘイハク　宋の人。字は直甫。號は草堂。弟の秉俟と隱居教授し、著に草堂文集がある。

【方逢時】612ハウホウジ　明、嘉魚の人。字は行之。嘉靖の進士。隆慶の初、右僉都御史に擢んでられ、萬曆の初、宣大山西軍務を總督。王崇古と軍國の大計を決し、兩廣を平定して少保に陞る。書室を大隱樓といふ。〔明史、二百二十二〕・〔萬斯同明史、三百十三〕・〔明史稿、二百五〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十三〕。

【方逢辰】613ハウホウシン　宋の人。鎔の子。字は君錫。淳

祐中、廷對第一。官は兵部侍郎・國史修撰。宰相鄭清之・賈似道の專權を力詆す。尋いで吏・禮二部の尙書に除せられ、俱に拜せず。學者、蛟峯先生と稱した。著に孝經解・易外傳・尙書釋傳・學庸注釋・蛟峯文集がある。〔尙友錄〕。

【方逢振】614 宋の人。逢辰の弟。字は君玉。景定の進士。太府寺簿に歷官。宋の亡後、隱棲して石峽書院に講學し、學者、山房先生と稱した。〔萬姓統譜〕。

【方逢年】615 明の人。雲槐の孫。字は書田。號は雪滌齋。萬曆の進士。官は崇禎中、禮部尙書・東閣大學士。後、淸に降り、魯王明と通じて殺さる。著に雪滌齋集がある。〔明史、二百五十三〕・〔明史稿、二百三十八〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十六〕・〔小腆紀年、十二・十三〕。

【方豐之】616 宋、莆田の人。字は德亨。呂本中の弟子。官は監鎭に至る。詩に巧。〔宋元學案、三十六〕。

【方黎如】617 淸の人。士穎の子。字は若文。一字、文輈。號は樸山(璞山)・藥房。康熙の進士。官は豐潤縣の長官。經學に精通し、古文に巧。方舟・方苞と俱に三方と稱さる。著に集虛齋集がある。〔淸史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、二百二十五〕・〔國朝先正事略、四十〕・〔文獻徵存錄、五〕。

【方孟式】618 明の人。大鎭の女。字は如耀(如曜)。山東布政使張秉文に適く。詩書を學び婦德あり。崇禎中、秉文が濟南城上に死するや、孟式も池に投じて死す。繪を善くし、詩に巧。書室を紉蘭閣といふ。著に紉蘭閣前後集がある。〔明史、二百九十一〕・〔明人小傳、五〕・〔明末忠烈紀實、十九〕・〔明詩綜、八十六〕。

【方墁磚】619 fang^1 man^1 chuan^1 敷瓦。

【方民悅】620 明、麻城の人。嘉靖の進士。官は廣東按察副使に至る。著に交黎撫勦事略がある。〔四庫提要、五十三〕。

【方民懷】621 明、黃安の人。字は懋元。官は林縣令。

【方蒙仲】622 宋、莆田の人。名は澄孫。字を以て行はる。淳祐の進士。官は祕書丞。

【方問考】623 明、歙の人。字は胥成。號は蒼耳齋。著に蒼耳齋詩集がある。〔明詩紀事、庚、二十九〕・〔明畫錄、四〕。

【方履籛】624 淸の人。國棟の玄孫。字は彥聞、號は富衡齋・江左僑民。嘉慶の擧人。官は閩縣の長官。詩詞及び駢體文に巧。隸書を善くし、志乘學に精通す。著に金石粹編補正・萬善花室文集・河內武陟永定諸縣志等がある。〔淸史稿、四百九十一〕・〔淸史列傳、七十三〕・〔國朝耆獻類徵、二百四十八〕。

【方良永】625 明、莆田の人。字は壽卿。謚は簡肅。弘治の進士。剛直の士。浙江左布政使となり、世宗の朝、右副都御史となる。著に方簡肅文集がある。〔明史、二百一〕・〔萬斯同明史、二百七十一〕・〔明史稿、一百八十〕・〔國朝獻徵錄、四十八〕・〔明名臣言行錄、四十七〕。

【方量官】626 fang^1 liang^4 kuan^1 田地を測量する官吏。測量官。

【方麓集】627 書名。十六卷。明、王樵撰。詩文十四卷・說部二卷を收錄す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【方出之日】628 今のぼらうとする朝日。勢の盛なる喩。〔佐藤一齋、言志耋錄〕人生二十至㆓三十㆒、如㆓方出之日㆒。

【方太字印】630 馬に用ひる燒印の名。牧場に放養する馬の混亂を防ぐために用ひた。〔嘉慶會典事例、兵部〕。

【方平九友】631 宋、李覺(**6**－**14459**‥**143**)の號。

【方屛山樵】632 淸、奚疑(**3**－**5930**‥**4**)の號。

【方峯先生】633 明、程粹(**8**－**25081**‥**79**)の尊稱。

【方梁石洫】634 石の水門。〔後漢書、鮑昱傳〕拜㆓汝南太守㆒、郡多㆓陂池㆒、歲歲決壞、年費常三千餘萬、昱乃上作㆓方梁石洫㆒、水常饒足、溉㆑田倍多、人以殷富。〔注〕洫、渠也、以㆑石爲㆑之、猶㆓今之水門㆒也。

【刓㆑方爲㆑圜】635 かどだつたものを削つてまるいものとする。圜は圓。〔楚辭、九章、懷沙〕刓㆑方以爲㆑圜兮、常度未㆑替。〔注〕刓、削也。

【隨㆑方就㆑圓】636 四角にも圓形にも相手の形に從つて如何やうにでも變化する。多才で施すとして可ならざるなきをいふ。〔通俗編、品目、隨㆑方就㆑圓〕齊書沈憲傳、補㆓烏程令㆒、太守褚淵嘆㆑之曰、此人方員可㆑施、按、馬致遠青衫泪曲所㆑云、隨㆑方就㆑圓本㆑此。

【辨㆑方正㆑位】637 國都建立に當つて、先づ四方を辨別し祖社朝市の位置を正しくすることをいふ。〔周禮、天官、序官〕惟王建㆑國、辨㆑方正㆑位。〔注〕辨、別也、鄭司農云、別㆓四方㆒、正㆓君臣之位㆒、君南面、臣北面之屬、玄謂、考工匠人、建㆑國水㆑地以㆑縣、置㆑槷以㆑縣、視以㆑景爲㆑規、識㆔日出之景與㆓日入之景㆒、晝參㆓諸日中之景㆒、夜考㆓之極星㆒、以正㆓朝夕㆒、是別㆓四方㆒、召誥曰、越三日戊申、太保朝至㆓于雒㆒卜㆑宅、厥既得㆑卜、則經營、越三日庚戌、太保乃以㆓庶殷㆒攻㆓位於雒汭㆒、越五日甲寅位成、正㆑位、謂㆔此定㆓宮廟㆒。〔疏〕謂㆓建國之時㆒、辨、別也、先須㆘視㆓日景㆒以別㆓東西南北四方㆒、使㆖有㆓分別㆒也、正㆑位者、謂㆘四方既有㆓分別㆒、又於㆑中正㆓宮室朝廷之位㆒、使㆖得㆑正也。

【方簡肅文集】638 書名。十卷。明、方良永撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【方齋詩文集】639 書名。十卷。明、林文俊撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【方是閒居士】640 宋、劉學箕(**2**－**2224**‥**754**)の號。

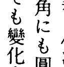
【方是閒居士小稿】641 書名。二卷。宋、劉學箕撰。上卷は詩、下卷は雜文及び詞。〔四庫提要、集、別集類〕。

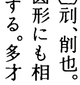
二畫

【㫃】13621

㊀エン　オン　〔集韻〕隱幰切　阮

㊁エン　〔集韻〕於蹇切　銑


小篆


古文

㊀㊁ **㊀はたあしが風にひるがへるさま。**〔說文〕㫃、旌旗之游、㫃蹇之皃、从㆑屮曲而垂下、㫃相出入也、讀若㆑偃、古人、名㫃、字子游。〔徐灝說文解字注箋〕㫃者、旌旗飛揚之貌、非㆓旗游之名㆒。㊁通じて偃(**1**－**830**)に作る。〔說文、㫃、段注〕晉有㆓籍偃・荀偃㆒、鄭有㆓公子偃・駟偃㆒、孔子弟子有㆓言偃㆒、皆字游、今之經傳、皆變作㆑偃、偃行而㫃廢矣。

解字 象形。旗の游(はたあし・はたのながれ)がひらひらと上り、又、下り舞ふさまの象形。說文に从㆑屮とある屮は旗竿の首の上に出たものの形、曲而下垂とは、はたあしのさま、㫃相出入也とは風に從つて往復して、或は出、或は入ることをいふ。〔說文、㫃、段注〕从㆑屮者、云云、謂㆓杠首之上見者㆒、曲而下垂者、象㆑游、游相出入者、謂㆘从㆑風往復如㆓一出一入㆒然㆖、云云、玉裁謂、从㆑屮、謂㆓竿首下垂㆒、謂㆑游也。

【㫄】13622

ロク　〔五音篇海〕力得切　職

義不詳。

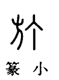
三畫

【於】13623

㊀テン　〔集韻〕丑展切　銑

㊁タウ　ダウ　〔集韻〕傳江切　江

㊂チョウ　〔集韻〕知陵切　蒸


小篆

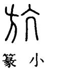
㊀㊁㊂ **はたざをのさま。**〔說文〕於、旌旗杠皃、从㆓丨㫃㆒、㫃亦聲。

【〓】13624 バウ 旁(5−13637)の古字。〔說文〕旁、〓、亦古文旁。

四畫

【斺】13625 カイ ガイ 〔篇海〕下戒切 卦 ㊀ひざかけ。〔玉篇〕斺、補膝也。㊁むすぶ。〔玉篇〕斺、結也。

【斻】13626 カウ ガウ 〔集韻〕寒剛切 陽


小篆

㊀わたる。舟で水をわたる。〔說文〕斻、方㆑舟也、从㆑方亢聲、禮、天子造舟、諸侯維舟、大夫方舟、士特舟。〔後漢書、杜篤傳〕北斻㆓涇流㆒。〔注〕斻、舟度也。㊁航(9−30385)に通ず。〔說文繫傳〕斻、徐鉉曰、今俗別作㆑航、非㆑是。㊂杭(6−14494)に通ず。〔說文、斻、段注〕衞風、一葦杭㆑之、毛曰、杭、渡也、杭、卽斻字。

【㫄】13627 バウ 旁(5−13637)の本字。〔字彙〕㫄、旁本字。

【於】13628 ㈠ヲ ウ 〔集韻〕汪胡切 ㄨ wu¹ 虞 ㈡ヨ オ 〔集韻〕衣虛切 ㄩ yü² 魚

㈠㊀ああ。歎息のこゑ。烏(7−18998)に同じ。〔說文〕烏、孝烏也、象形、孔子曰、烏亐呼也、取㆓其助㆒㆑气、故㠯爲㆓烏呼㆒、於、象㆓古文烏省㆒。〔書、堯典〕僉曰、於、鯀哉。〔鄭注〕於者、烏聲也。〔詩、大雅、文王〕於昭㆓于天㆒。〔傳〕於、歎辭。〔史記、夏紀〕皋陶曰、於。〔注〕正義曰、於、歎美之辭也。㊁虎の異名。於菟(36)を見よ。㈡㊀助辭。于(1−252)に通ず。〔說文通訓定聲〕於、叚借爲㆑于。〔廣雅、釋言〕於、于也。〔正字通〕於、語辭、與㆑于同、易・詩、於皆作㆑于。㋑に。句中にあつて、對向・方向・位置・時などを表はす助辭。〔論語、八佾〕哀公問㆓社於宰我㆒。〔論語、述而〕竊比㆓於我老彭㆒。〔論語、八佾〕八佾舞㆓於庭㆒。〔論語、子罕〕子畏㆓於匡㆒。〔論語、里仁〕苟志㆓於仁㆒矣、無㆑惡也。㋺に。より。句中にあつて、所發・原因を表はす助辭。〔論語、八佾〕獲㆓罪於天㆒、無㆑所㆑禱也。〔史記、齊世家〕召㆓小白於莒㆒。〔史記、貨殖傳〕禮生㆓於有㆒。㋩より。よりも。句中にあつて、比較を表はす助辭。〔論語、先進〕季氏富㆓於周公㆒。〔史記、魏其武安侯傳〕枝大㆓於本㆒、脛大㆓於股㆒。〔史記、平原君傳〕使㆔趙重㆓於九鼎大呂㆒。㋥おいて。句の上にあつて、對向・位置・時相などを表はす助辭。〔大學〕於㆑止知㆓其所㆒㆑止。〔論語、鄕黨〕於㆑我殯。〔論語、公冶長〕於㆑予與何誅。〔論語、先進〕於㆓吾言㆒無㆑所㆑不㆑說。〔論語、述而〕子於㆓是日㆒哭、則不㆑歌。〔孟子、梁惠王上〕於㆑傳有㆑之。〔孟子、梁惠王下〕於㆑是始興發補㆓不足㆒。㋭を。目的を表はす助辭。〔論語、學而〕三年無㆑改㆓於父之道㆒。〔論語、雍也〕君子博學㆓於文㆒。㋬おける。關係する。〔論語、里仁〕子曰、君子之於㆓天下㆒也、無㆑適也。〔論語、先進〕先進於㆓禮樂㆒野人也。〔史記、韓王信盧綰傳贊〕於㆑人也深矣。〔韓愈、送㆓高閑上人㆒序〕秋之於㆑弈、伯倫之於㆑酒。㋣おいてする。〔論語、里仁〕造次必於㆑是、顚沛必於㆑是。㋠ここに。〔戰國、秦策〕於魏王聽㆓此言㆒也甚詘。㋷ここにおいて。〔易、繫辭下〕於稽㆓其類㆒、其衰世之意邪。〔詩、大雅、靈臺〕於論㆓鼓鍾㆒、於樂㆓辟廱㆒。〔疏〕於㆑是思㆓念鼓鍾㆒、使㆓之和諧㆒、於㆑是作㆑樂在㆓此宮中㆒。㋦發語の助辭。接頭語として用ひる。〔左氏、定、十四〕於越敗㆓吳於檇李㆒。〔疏〕於越、卽越也、夷言發聲。㊁をる。〔廣韻〕於、居也。〔呂覽、期賢〕衞有㆓士十人㆒、於㆓吾所㆒。〔注〕於、猶㆑在也。㊂よる。〔曹植、當來日大難〕心相於。〔韓愈、示㆑兒詩〕前榮饌㆓賓親㆒、冠昏之所㆑於。㊃なす。〔經傳釋詞、一〕於、猶㆑爲也、禮記郊特牲曰、祭㆑天、掃㆑地而祭焉、於㆓其質㆒而已矣、孟子離婁篇曰、寇至、則先去以爲㆓民望㆒、寇退則反、殆於㆓不可㆒。㊄かはる。〔爾雅、釋詁〕於、代也。㊅ゆく。〔集韻〕於、往也。㊆姓。〔通志、氏族略〕於氏、出㆓姓苑㆒、唐初、宇文化及將於澄、以㆓魏州㆒降、今餘杭有㆑之、望出㆓廣陵京兆㆒。

名乘 オ。ウヘ(姓)。

解字 象形。象形の烏の字の古文の省文であつて、烏と同一字である。說文、〓は烏の古文。この古文の省文は扵で、卽ち於の字である。烏は善く氣を舒べて自ら叫ぶから、その叫聲に擬して烏と言つた。此の字の發音が氣を助ける所から、その發音を假借して亏呼・烏呼等とした。古は短言すれば於、長言すれば烏呼で、於と烏とは同字である。於戲(今文尙書)・烏呼(古文尙書)・於乎(毛詩)などと用ひ、中古以來の文籍は皆烏呼の字を用ひた。唐の石經中に嗚の字を用ひたものがあり、近今の學者は嗚の字を用ひるやうになつた。烏(7−18998)の解字を併せ見よ。

【於安】1 ヨアン 安穩に居る。居安(4−7663‥1)に同じ。〔戰國、楚策〕虞卿謂㆓春申君㆒曰、臣聞㆑之、春秋於㆑安思㆑危、危則慮㆑安。〔逸周書、程典解〕於㆑安思㆑危、於㆑始思㆑終。〔陳琳、檄㆓吳將校部曲㆒文〕以㆑是大雅君子、於㆑安思㆑危、以遠㆓咎悔㆒。〔注〕翰曰、言㆔其能居㆑安思㆑危、故能遠㆓離咎悔㆒也。

【於邑】2 ヲイフ かなしみむすぼれる。煩悶愁苦する。於悒。〔楚辭、九章、悲回風〕傷㆓太息之愍憐㆒兮、氣於邑而不㆑可㆑止。〔注〕氣逆憤懣、結不㆑下也。〔補注〕顏師古云、於邑、短氣。〔史記、刺客傳〕乃於邑曰。〔注〕索隱曰、劉氏云、煩寃愁苦也。〔漢書、中山靖王勝傳〕雍門子壹微吟、孟嘗君爲㆑之於邑。〔注〕師古曰、於邑、短氣貌。〔班彪、北征賦〕攬㆓余涕㆒以於邑兮。〔魏文帝、與㆓吳質㆒書〕東望於邑、裁㆑書叙㆑心。〔注〕向曰、於邑、謂㆑不㆑得㆑志也。〔曹植、求㆓自試㆒表〕是以於邑而竊自痛者也。〔注〕善曰、楚辭曰、長呼吸以於悒、王逸曰、於悒、啼貌也、銑曰、於邑、猶㆓歎息㆒也。

【於悒】3 ヲイフ かなしみむすぼれる。於邑に同じ。〔楚辭、東方朔、七諫、哀命〕念㆓女嬃之嬋媛㆒、涕泣流乎於悒。〔注〕於悒、增歎貌也、已解㆓於離騷經㆒、悒、一作㆑邑。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕長噓吸以於悒兮、涕橫集而成行。〔注〕噓吸・於悒、皆啼泣貌也。〔晉鈕滔妻孫氏、悼艱賦〕頓㆓於悒之當春㆒、望㆓峻陵㆒而鬱靑。〔北史、孫紹傳〕功名之所、實懷㆓於悒㆒。

【於于】4 ヨウ ㊀ほこるさま。〔莊子、天地〕博學以擬㆑聖、於于以蓋㆑衆。〔釋文〕於于、本或作㆓吘吁㆒、司馬云、夸誕貌。〔王先謙集解〕郭嵩燾云、應帝王篇、其覺于于、說文、于、於也、象㆓氣之舒㆒、是於于字同、於于、猶㆓于于㆒也。㊁仁恩を行ふさま。〔莊子、天地、釋文〕於于、一云、行㆓仁恩㆒之貌。㊂こびへつらふさま。〔莊子、天地、疏〕於于、佞媚之謂也。

【於越】5 ヨエツ 越の國をいふ。於は發語の聲。吳を勾吳といふ類。于越。〔春秋、定、五〕於越入㆑吳。〔杜注〕於、發聲也。〔春秋、定、十四〕五月於越敗㆓吳于檇李㆒。〔杜注〕於越、越國也。

【於於】6ヲヲ ㊀おお。笑ふ聲。又、嘆息の詞。〔陸游、詩〕臺閣尊顯來於於。㊁多歡のさま。于于(1－252··4)の㊁を見よ。

【於下】7ウシタ 常陸國の地名。

【於荷】8ヨカ 宋の於青年が畫いた荷花をいふ。〔圖繪寶鑑〕於青年專畫二荷花草蟲一、世號二於荷一。

【於敖】9ヨガウ 明、岷州の人。字は伯度。正德の進士。嘉靖中、冀南に分守し、外城及び四方の堡塞を築いて盜寇を防ぐ。官は巡撫都御史に至る。〔國朝列卿記、一百十九〕。

【於赫】10ヲカク 歎美の詞。〔漢書、韋玄成傳〕於休厥德、於赫有レ聲。〔後漢書、光武帝紀贊〕於赫有レ命、系二隆我漢一。〔注〕於赫、歎美之詞、音烏。

【於岐】11ヲキ 明、周鳳鳴(2－3441··860)の字。

【於歸】12ヨキ 婦人の嫁すること。于歸(1－252··21)に同じ。

【於戲】13アア ㊀歎美の聲。於乎(18)に同じ。〔禮、大學〕詩云、於戲前王不レ忘。〔疏〕於戲、猶レ言二嗚呼一矣。〔說苑、辨物〕黃帝曰、於戲盛哉。㊁歎息の聲。〔史記、三王世家〕於戲、保レ國艾レ民、可レ不レ敬與、王其戒レ之。〔漢書、董賢傳〕於戲傷哉。〔東方朔、非有先生論〕先生曰、於戲可乎可乎哉、談何容易。〔注〕善曰、於戲、歎辭也、於音烏、戲音呼。〔匡謬正俗〕今文尙書、悉爲二於戲字一、古文尙書、悉爲二烏呼字一、而詩皆云二於乎一、中古以來文籍、皆爲二烏呼字一。

【於丘】14ヨキウ 複姓。〔萬姓統譜〕於丘、其先家二於丘一、因氏焉。

【於今】15ヨキン 今に。今に於て。〔左氏、襄、三十〕其季於レ今三之一也。〔漢書、武帝紀〕稽二諸往古一、制二宜於今一。

【於皇】16ヲクワウ ㊀ああうるはしい。感歎の辭。〔詩、周頌、臣工〕於皇來牟。〔箋〕於美乎。〔詩、周頌、武〕於皇武王。〔陳奐詩毛氏傳疏〕於、歎詞、皇、美也。㊁ああ君なるかな。〔詩、周頌、武〕於皇武王。〔箋〕皇、君也、於乎君哉、武王也。

【於顯】17ヨケン 明、長樂の人。謚は襄武。騎射を善くす。太祖に歸附し、征伐に從つて數〻功あり、官は前軍都督僉事。英山侯に追封せらる。〔國朝名世類苑、四十二〕・〔明名人傳、三〕。

【於乎】18ヲコ ああ。感歎の聲。嗚呼。於皇。〔爾雅、釋詁、爰粵于那都繇於也、注〕於乎、皆語之韻絕。〔疏〕歎辭也。〔詩、大雅、抑〕於乎小子、未レ知二臧否一。〔中庸〕於乎不レ顯、文王之德之純。〔荀子、仲尼〕於乎、夫齊桓公、有二天下之大節一焉、夫孰能亡レ之。〔注〕於乎、讀爲二嗚呼一、歎美之聲。〔越絕書、越絕請糴內傳〕於乎、嗟下君王不レ圖二社稷之危一、而聽中一日之說上。

【於呼】19ヲコ ああ。感歎の聲。〔史記、滑稽傳〕武帝大笑曰、於呼、安得二長者之語一而稱レ之。

【於忽】20ヲコツ 速かなさま。〔龐德公、於忽操〕於忽乎不レ可二以爲一、其又奚爲。

【於齋】21ウサイ 大隅國の地名。

【於是】22ヨシ ここに於て。そこで。この時に當つて。〔經傳釋詞、一〕於是、承レ上之辭、常語也、又、猶レ言レ當二是時一也。

【於茲】23ココニ 此處に。〔天錄閣外史〕蜀國有二名山大川一、賢豪明智之士、悉產二於茲一。〔元田東野、幼學綱要序〕使三天下之民志、一二定於茲一。

【於鵲】24ヲジャク 烏鵲(7－18998··159)に同じ。〔穆天子傳、三〕比徂二西土一、爰居二其野一、虎豹爲レ群、於鵲與處。〔注〕於、讀曰レ烏。

【於石】25ヲセキ 明、溫璜(7－17968··52)の字。

【於朮】26ヲヂュツ 藥の名。をけら。白朮の浙江省於潛縣に產するものをいふ。

【於牣】27アアミツ 滿ちふさがる。〔詩、大雅、靈臺〕王在二靈沼一、於牣魚躍。〔傳〕牣、滿也。

【於昔】28ヲセキ 古をいふ。於は歎辭。〔漢書、韋賢傳〕於昔君子、庶顯二于後一。〔注〕師古曰、於、歎辭也、言、昔之君子、庶二幾善道一、所三以能光二顯於後世一也、宋祁曰、昔、一作レ赫。

【於朁】29ヲセン 縣名。於潛を見よ。〔漢書、地理志上〕丹陽郡、縣十七、於朁。

【於潛】30ヲセン 縣名。漢、於朁縣を置き、後漢、於潛と改め、以後之に因る。浙江省臨安縣の西。分水港支流の上。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府〕於潛縣、漢縣、屬二丹陽郡一、三國吳屬二吳興郡一、晉宋因レ之、陳屬二錢塘郡一、隋屬二杭州一、唐武德七年、置二潛州一、八年州廢、縣還屬二杭州一、縣城吳越時築、後廢。〔清史稿、地理志〕浙江、杭州府、縣八、於潛。

【於單】31ヨゼン 漢の人。武帝の時、匈奴單于太子を以て降り、涉安侯に封爵せらる。〔史記、一百十〕・〔前漢書、四十九上〕。

【於宋】32ヲソウ 清、本光(6－14421··57)の字。

【於則】33ヨソク 上古、黃帝の臣。始めて履を作る。〔急就篇、補注〕。

【於擇】34ヲタク 虎の異名。於菟(36)に同じ。〔虎薈〕於䖘、於擇、伯都、李父、山君、虎也。

【於中】35ヲチュウ 明、夏良勝(3－5720··366)の字。

【於菟】36ヲト ㊀虎の異名。春秋時代、楚國の方言。〔左氏、宣、四〕楚人謂二乳穀一、謂二虎於菟一。〔左思、吳都賦〕於菟之族。〔注〕劉曰、於菟、虎也、江淮閒謂レ虎爲二於菟一。㊁地名。湖北省雲夢縣の西。〔太平寰宇記〕於菟村、卽楚鬬伯比外家處、生二鬬穀菟一、爲二楚令尹子文一、是也。

【於䖘】37ヲト 虎の異名。於菟に同じ。〔方言、八〕虎、陳魏宋楚之閒、或謂二之李父一、江淮南楚之閒、謂二之李耳一、或謂二之於䖘一、自レ關東西、或謂二之伯都一。〔注〕於、音烏、今江南山夷、呼レ虎爲レ䖘。〔獸經〕虎、於䖘。

【於𩳐】38ヲト 虎の異名。於菟に同じ。〔廣雅、釋獸〕於𩳐、李耳、虎也。〔王念孫疏證〕於𩳐、虎文貌、說文、𤙖、黃牛虎文、讀若レ涂、䖘𤙖聲義竝同、虎有レ文謂二之於䖘一、故牛有二虎文一謂二之𤙖一、春秋傳、楚鬬穀於菟字子文、是其證也、說文亦云、虍、虎文也、於䖘與レ虍聲近而義同、單二言之一則爲レ虍、重二言之一則爲二䖘一耳。

【於檡】39ヲト 虎の異名。於菟(36)に同じ。〔漢書、敍傳上〕楚人謂二乳穀一、謂二虎於檡一。〔注〕師古曰、檡、字或作レ菟、並音塗。

【於保】40オウノ 遠江國の地名。

【於穆】41ヲボク ㊀ああ美はしい。贊歎の辭。〔詩、周頌、清廟〕於穆清廟。〔傳〕於、歎辭也、穆、美。〔後漢書、和帝紀、於穆清廟、注〕於穆、歎美之詞。〔後漢書、章帝紀贊、注〕於穆、歎美也。㊁梁の鼓吹曲の名。沈約の作。〔隋書、音樂志上〕第十一漢曲芳樹、改爲二於穆一、言二大梁闡運、君臣和樂、休祚方遠一也。

〖於穆猗那〗42ヲボクイダ 音樂の美を形容する語。〔班固、典引〕亦猶於穆猗那、翕純皦繹、以崇二嚴祖考一、殷薦レ宗配レ帝。〔注〕蔡邕曰、周頌曰、於穆清廟、商頌曰、猗歟那歟、翰曰、此商頌周頌、美三殷周用二樂於宗廟之中一也、於穆猗那、皆美也。

〖於穆不レ已〗43アアウルハシクシテヤマズ 王者の天命のきはまりなきを褒めた語。於は歎美の辭。穆は美。〔詩、周頌、維天之命〕維天之命、於穆不レ已、於乎不レ顯、文王之德之純。〔箋〕天之道、於乎美哉、動而不レ止、行而無レ已。

【於陸】44ヲリク 百濟で王妃をいふ。〔海錄碎事、地、夷狄〕百濟王妻號二於陸一、夏言レ妃也。

【於陵】45ヲリョウ ㊀縣名。漢、置く。戰國、齊の於陵邑。山東省長山縣の西南。陳仲子、此に隱れて於陵子といふ。〔漢書、地理志上〕濟南郡、縣十四、於陵。〔齊記〕於陵城西三里、有二長白山一、陳仲子夫妻所レ隱也。㊁複姓。〔萬姓統譜〕於陵、姜姓、風俗通云、陳仲子居二於陵一、因氏焉。

〖於陵子〗46ヲリョウシ ㊀戰國、齊の陳仲子の異稱。名は子終。於陵に隱居したからいふ。一說に、楚人に作る。於陵に居る。楚王其の賢を聞き、使者をして禮を厚くして聘せしめたが、子終、其の妻の諫言によつて之を辭し、相與に逃れて人のために園に灌ぎ、以て自ら給した。於陵辭聘を見よ。〔孟子、滕文公下〕匡章曰、陳仲子、豈不二誠廉士一哉、居二於陵一、三日不レ食、耳無レ聞、目無レ見也。〔集注〕於、音烏、匡章・陳仲子、皆齊人。〔劉向、上二於陵子一序〕於陵子齊之廉士、名子終、世稱二陳仲子一是也、爲レ人灌レ園、著二書十二篇一。〔張協、雜詩〕取二志於陵子一、比二足黔婁生一。㊁書名。一卷。舊本、齊、陳仲子撰と題す。實は明、姚士麟の僞作。大旨は老莊に近く、神を沖虛の表に寓して退を以て用となしてゐる。其の目は、畏人・貧居・辭祿・遺蓋・人問・先人・辨窮・大盜・夢葵・巷之人・未信・灌園。〔四庫提要、子、雜家類存目〕。㊂山梨治憲の號。山梨稻川(4－7869··1056)を見よ。

〖於陵辭聘〗47ヲリョウジヘイ 蒙求の標題。戰國の時、楚王、於陵の子終の賢を聞き、宰相に聘したが、子終、其の妻と謀つて辭し逃れた故事。〔列女傳、賢明、楚於陵妻傳〕楚於陵子終之妻也、楚王聞二於陵子終賢一、欲二以爲レ相、使下使者持二金百鎰一往

聘迎シテ之、於陵子終曰、僕有二箕箒之妾一、請入與計レ之、卽入謂二其妻一曰、楚王欲三以レ我爲ヿ相、遣二使者一持レ金來、今日爲レ相、明日結レ駟連レ騎、食二方丈于前一、可乎、妻曰、夫子織レ屨以爲レ食、非二與レ物無ヿ治也、左レ琴右レ書、樂亦在二其中一矣、夫結レ駟連レ騎、所レ安不レ過レ容レ膝、食二方丈於前一、甘不レ過二一肉一、今以二容膝之安、一肉之味一、而懷二楚國之憂一、其可レ樂乎、亂世多レ害、妾恐二先生之不ヿ保レ命也、于レ是子終出謝二使者一、而不レ許也、遂相與逃而爲レ人灌レ園。

【於倫】48 ヲリン　明、黃岡の人。字は惇之。萬曆の進士。官は右通政。著に智品がある。

【於惟一】49 ヲヰイツ　明、懷寧の人。字は德夫。嘉靖の進士。官は陝西按察副使。

【於止齋】50 ヲシサイ　清、朱蘭泰(6－14424・・1018)の號。

【於緝熙】51 アアシフキ　王者の道德の盛なことを贊した語。於は歎美の辭、緝は繼續、熙は光明の意。〔詩、大雅、文王〕穆穆文王、於緝熙敬止。〔箋〕穆穆乎文王、有二天子之容一、於美乎、又能敬二其光明之德一。〔詩、周頌、昊天有成命〕於緝熙單二厥心一、肆其靖レ之。

【於竹屋】52 ヨチクヲク　明の人。墨梅畫を善くす。〔明畫錄、七〕。

【於仲完】53 ヨチユウクワン　明、黃巖の人。一に仲寬に作る。洪武の閒、永新縣の知となる。〔浙江通志〕・〔江西通志〕。

【於仲寬】54 ヨチユウクワン　於仲完を見よ。

【於微閭】55 ヲビリヨ　山名。醫無閭をいふ。〔楚辭、遠遊〕朝發二軔於太儀一兮、夕始臨二乎於微閭一。〔集注〕於微閭、周禮東北曰二幽州一、其山鎭曰二醫無閭一。

【於變時雍】56 アアカハリコレヤハラグ　人民が善道に赴き相和睦して、天下の善く治まつたことをいふ。於は歎美の辭、變は惡を變じて善となる、時は是れ、雍は和らぐ。〔書、堯典〕百姓昭明、協二和萬邦一、黎民於變時雍。〔蔡傳〕於、歎美辭、變、變レ惡爲レ善也、時、是、雍、和也。

【於胡海苔】57 ヲゴノリ　海藻の名。うご。をご。しらも。そうな。をごのり科に屬する暗褐色の海藻で、稍〻淡水の混じてゐる內海の岩礁・貝殼・木片などに附着する。

【於鑠王師】58 アアシヤクナルワウシ　王者の軍の盛なのを褒めていふ。於は歎美の辭、鑠は盛なこと。〔詩、周頌、酌〕於鑠王師、遵養二時晦一、時純熙矣、是用大介。〔傳〕鑠、美。〔箋〕於美乎文王之用レ師。

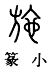
【於除鞬單于】59 ヲヂヨケンゼンウ　漢代、北匈奴の單于。永元三年、北單于、耿夔に逐はれて所在を知らず。其の弟右谷蠡王於除鞬自ら單于の位に卽く。使聘を漢に通じ、印綬玉劍を賜ふ。後、畔いて北庭に歸らんとし、漢、逐うてこれを斬る。在位三年。〔後漢書、一百十九〕。

【於保美多訶良】60 オホミタカラ　人民をいふ。大御寶。〔弘道館記述義、上〕上古指二人民一曰二於保美多訶良一、於保者大也、美者御也、多訶良者寶也。

五畫

【施】
13629

[一] シ　〔集韻〕商支切　ㄕ shih^1　支
[二] シ　〔集韻〕施智切　寘
[三] イ　〔集韻〕以豉切　ㄧˋ i^4　寘
[四] シ　〔集韻〕賞是切　紙
[五] イ　〔集韻〕余支切　支
慣 セ


小篆

[一]❶**旗のなびくさま**。旎(5－13660)に同じ。〔說文〕施、旗旖施也、从レ㫃也聲、齊欒施、字子旗、知二施者旗一也。〔徐鍇注〕旗之逶迤也。〔說文通訓定聲〕施、字亦作レ旎。❷**ほどこす**。攱(5－13112)に通ず。〔說文通訓定聲〕施、叚借爲レ攱。㋑まうける。〔廣韻〕施、施設。〔史記、韓世家〕施二三川一而歸。〔注〕正義曰、施、猶レ設也。㋺はる。〔史記、田敬仲完世家〕而王以施二三川一。〔注〕正義曰、施、張設也。〔漢書、司馬相如傳〕微矰出、纖繳施。㋩もちひる。〔禮、禮器〕施則行。〔疏〕施、用也。〔淮南子、氾論訓〕譬若二斤斧椎鑿之各有ヿ所レ施。〔漢書、西南夷傳〕智勇無レ所レ施。㋥おこなふ。〔中庸〕施二諸己一而不レ願、亦勿レ施二於人一。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕妾不レ堪二驅使一、徒留無レ所レ施。㋭をしへる。〔禮、學記〕不レ陵レ節而施之爲レ孫。〔注〕施、猶レ敎也。㋬あらはす。〔禮、祭統〕勤二大命一施二于烝彝鼎一。〔注〕施、猶レ著也。㋣くばる。〔周禮、天官、內宰〕施二其功事一。〔注〕施、賦也。㋠わかれる。〔大戴禮、曾子天圓〕陽施而陰化也。〔注〕施、賦也。㋷くはへる。〔增韻〕施、加也。〔左氏、昭、十四〕施レ生戮レ死。〔注〕施、行レ罪也。㋦おしおよぼす。〔論語、爲政〕施二於有政一。〔集解〕施、行也。㋸しく。〔潘岳、閒居賦〕陰謝陽施。〔注〕善曰、施、猶レ布也。㋾のびる。ひろがる。ゆきわたる。〔淮南子、脩務訓〕名施二後世一。〔注〕施、延也。〔淮南子、脩務訓〕聲施二千里一。〔注〕施、行也。〔史記、蔡澤傳〕利施二三川一。〔注〕正義曰、施、猶レ展也。㋻かざる。〔逸周書、王會解〕樓煩以星施。〔注〕施、所三以爲二旄羽珥一。❸**はびこる**。蕃殖する。〔管子、地員〕鳥獸安施。〔注〕施、謂レ有二以爲ヿ生也。❹**さらす**。〔國語、晉語九〕秦人殺二冀芮一而施レ之。〔注〕陳レ尸曰レ施。❺**せめる**。〔左氏、昭、十四〕乃施二邢侯一。〔疏〕施、猶レ劾也。❻**ものさしの大きいもの**。七尺ざし。〔管子、地員〕夫管仲之匡二天下一也、其施七尺。〔注〕施者、大尺之名也、其長七尺。❼**ひく**。拕(5－11960)に通ず。〔說文通訓定聲〕施、叚借爲レ拕。❽**蛙**。鼁(12－48312)に通ず。〔說文通訓定聲〕施、叚借爲レ鼁。〔詩、邶風、新臺〕得二此戚施一。〔傳疏〕薛君章句云、戚施、蟾蜍。❾**進みにくいさま**。**又、喜ぶさま**。施施(42)を見よ。❿**發語の助辭**。〔孟子、公孫丑上〕孟施者之所レ養勇也。〔注〕施、發音也。⓫**姓**。〔通志、氏族略、以レ字爲レ氏〕施氏、姬姓、姬惠公之公子尾、字施父、其子因以爲レ氏。

[二]❶**ほどこす**。㋑あたへる。めぐむ。〔爾雅、釋詁〕施、予也。〔集韻〕施、與也、惠也。〔易、乾〕德施普也。〔釋文〕與也。〔論語、雍也〕博施二於民一。㋺つとめる。勤勞する。〔左氏、僖、二十四〕施者未レ厭。〔注〕施、功勞也。❷**ほどこし**。〔國語、晉語二〕夫齊侯好示レ務レ施。〔注〕施、惠也。

[三]❶**うつる**。迻(11－38833)に通ず。〔說文通訓定聲〕施、叚借爲レ迻。〔詩、周南、覃葛〕葛之覃兮、施二於中谷一。〔傳〕施、移也。〔陳奐傳疏〕施・移雙聲、移亦延也。❷**ひく**。〔莊子、在宥〕夫施及二三王一。〔釋文〕施、延也。〔列子、天瑞〕施及二州閭一。〔釋文〕施、延也。❸**およぶ**。およぼす。〔儀禮、喪服〕絕族無二施服一。〔注〕在レ旁而及曰レ施。❹**あなどる**。敡(5－13259)に通ず。〔說文通訓定聲〕施、叚借爲レ敡。〔廣雅、釋詁三〕施、敡也。〔禮、孔子閒居〕施二其四國一。〔注〕施、易也。

[四]❶**かへる**。〔論語、微子〕君子不レ施二其親一。〔集解〕孔安國曰、施、易也。❷**ゆるす**。ゆるめる。さしおく。弛(4－9724)に通ず。〔說文通訓定聲〕施、叚借爲レ弛。〔周禮、地官、遂師〕辨三其施舍與二其可レ任者一。〔注〕施、亦讀レ弛也。〔楚辭、天問〕夫何三年不レ施。〔注〕施、舍也、言下堯放二鯀於羽山一、三年不シテ舍二其罪一也。❸

ほこる。誇張する。侈(1−583)に通ず。〔說文通訓定聲〕施、叚借爲レ侈。〔論語、公冶長〕無レ施レ勞。〔集注〕施、亦張大之意。❹ほしいまま。〔詩、大雅、卷阿、伴奐爾游矣、箋〕自縱施之意。〔釋文〕施、本又作レ弛。五❶ななめに行く。迆(11−38785)に通ず。〔說文通訓定聲〕施、叚借爲レ迆。〔孟子、離婁下〕施從二良人之所一レ之。〔注〕施者、邪施而行、不レ欲レ使二良人覺一也。〔焦循正義〕錢大昕云、施、古斜字、史記賈誼傳、庚子日施兮、漢書作レ斜、施斜音義同也、按、施與レ迆通、淮南子要略、接徑直施、注云、施、衺也、故趙氏以レ邪釋レ施。❷ななめ。まがる。〔淮南子、要略〕接徑直施。〔注〕施、衺。❸かたむく。暆(5−14035)に通ず。〔說文通訓定聲〕施、叚借爲レ暆。〔史記、屈原賈生傳〕庚子日施兮。〔注〕索隱曰、施、猶二西斜一也。❹よこしま。わるい。〔淮南子、齊俗訓〕去レ非者非レ被二邪施一。〔注〕施、微曲也。

名乘 ハル。モチ。ノブ。マス。トシ。

【施夷】1 シイ 臺の名。施惠(26)に同じ。〔韓非子、十過〕晉平公觴二之於施夷之臺一。

【施醫】2 shih¹ i¹ 施療する。醫療をほどこす。

【施爲】3 シヰ ほどこしなす。事を行ふ。又、しわざ。施行。〔列子、周穆王〕莫レ知三其所二施爲一。〔蜀志、孟光傳〕正曰、世子之道、在三於承レ志竭レ歡、既不レ得二妄有レ所二施爲一。

【施昱】4 シイク 明、廣南の人。字は子貞。嘉靖の進士。官は光祿寺少卿。

【施易】5 イエキ うつりかはる。又、うつしかへる。移易。〔荀子、儒效〕若夫充虛之相施易也、堅白同異之分隔也、是聽耳之所レ不レ能レ聽也。〔注〕施、讀曰レ移、移易、謂レ使二實者虛、虛者實一也。〔史記、衞綰傳〕劍人之所二施易一、獨至レ今乎。〔注〕集解曰、如淳曰、施、讀曰レ移、言三劍者人之所レ好、故多數移二易貿三換之一也。

【施延】6 イエン ❶つたはりおよぼす。〔詩、大雅、皇矣、施二于孫子一、箋〕施、猶レ易也、延也。❷シエン 後漢、蘄の人。字は子君。五經に明かに、兼ねて星官風角に通ず。官は太尉。

【施恩】7 シオン 恩をほどこす。めぐみを施す。〔左氏、昭、六、民知レ有レ辟、疏〕民知下在レ上不二敢越一レ法以罪上レ己、又不下能二曲一レ法以施上レ恩。

【施行】8 シカウ ❶ほどこし行ふ。又、政を行ふ。〔荀子、性惡〕起而可レ設、張而可二施行一。〔墨子、明鬼下〕雖レ有二深谿博林、幽閒毋レ人之所一、施行不レ可二以不一レ董。〔史記、蕭相國世家〕便宜施行。〔史記、張釋之傳〕卑之毋二甚高論一、令三今可二施行一也。〔漢書、賈誼傳贊〕誼之所レ陳略施行矣。〔後漢書、章帝紀〕其科二條制度所一レ宜二施行一、在レ事者備爲二之禁一。〔新書、道術〕施行得レ理、謂二之德一。❷法律を實際に適用する。❸佛 セギヤウ 僧侶が貧者などに金品をほどこし與へること。〔大法句經〕雖二復施行一、爲レ身招レ患。

〖施行規則〗9 シカウキソク 法令の施行に關する事柄の規則。

【施效】10 シカウ ほどこしいたす。〔漢書、王褒傳〕進士不レ得二施效一、斥逐又非二其愆一。

【施鶴】11 シカク 道の名。民國、置く。湖北省に屬し、恩施・宣恩・建始・利川・來鳳・咸豐・鶴峯七縣を管轄する。

【施侃】12 シカン 明、歸安の人。字は邦直。嘉靖の進士。年十四にして毛詩に精通す。詩・古文に巧。著に菁陽集がある。〔明史、二百九十八〕・〔列朝詩集小傳〕。

【施淦】13 シカン 清、浙江山陰の人。字は秋水。官は睢寧典史。畫に巧。

【施翰】14 シカン 明、鄞の人。字は季鷹。萬曆の武進士。官は都督僉事。

【施宜】15 シギ 時世に適つたほどよい所を施す。〔漢書、禮樂志〕順レ時施レ宜。

【施救】16 shih¹ chiu⁴ 救助する。

【施及】17 シキフ しきおよぼす。のべおよぼす。〔漢書、禮樂志〕衆庶熙熙、施二及夭胎一。〔注〕師古曰、施、延也。

【施貺】18 shih¹ k'uang⁴ 施與する。惠み與へる。

【施鉅】19 シキヨ 宋、武康の人。字は大任。官は參知政事。

【施御】20 シギヨ 馬を御する。〔班固、東都賦〕由基發レ射、范氏施レ御。

【施衿】21 シキン えりをつける。娘が嫁入る時、母が衿を施すこと。〔儀禮、士昏禮〕母施レ衿結レ帨曰、勉レ之敬レ之、夙夜無レ違二宮事一。〔沈約、奏二彈王源一文〕施レ衿之費、化二充牀第一。

〖施衿結褵〗22 シキンケツリ えりをつけ香纓をむすぶ。女が嫁入る時、母の施し與へるもの。褵は香纓、にほひぶくろ。〔後漢書、馬援傳〕所二以復言一者、施衿結褵、申二父母之戒一、欲レ使二汝曹不一レ忘レ之耳。〔注〕說文曰、衿、交衽也、詩云、親結二其褵一、毛萇注云、褵、婦人之褘也、女施レ衿結レ帨、爾雅曰、褵、緌也、郭璞注曰、即今之香纓也、儀禮、父戒レ女曰、戒レ之敬レ之、夙夜無レ違レ命、母戒レ之曰、戒レ之敬レ之、夙夜無レ違二宮事一也。

【施化】23 シクワ 萬物をそだてる。萬物の化生を助ける。〔韓詩外傳、二〕十六精通、而後能施レ化。〔淮南子、泰族訓〕天地之施レ化也、嘔レ之而生、吹レ之而落。〔白虎通、情性〕精者靜也、太陰施化之氣也。

【施璜】24 シクワウ 明、休寧の人。字は虹玉。號は誠齋。舉業を棄てて躬行を力め、同州の吳愼等と紫陽書院に會講し、後、高世泰に師事す。著に思誠錄・小學近思錄發明・誠齋文集がある。〔小腆紀傳、補遺、三〕・〔淸史稿、四百八十六〕・〔淸史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百二〕・〔碑傳集、一百二十八〕・〔國朝先正事略、二十八〕。

【施刑】25 シケイ 罪をゆるす。施は弛。〔後漢書、光武紀〕將二衆部一、施レ刑屯二北邊一。〔注〕施、讀曰レ弛、弛、解也、前書音義曰、謂下有二赦令一、去中其鉗鈦赭衣上、謂二之弛刑一。

【施惠】26 シケイ ❶恩惠をほどこす。〔周禮、地官、鄉師〕賙二萬民之囏阨一、以二王命一施レ惠。〔禮、祭統〕凡餕之道每レ變以衆、所下以別二貴賤之等一、而興中施惠之象上也。〔淮南子、人閒訓〕聖王布レ德施レ惠、非レ求二其報於百姓一也。❷臺の名。晉の平公の築いたもの。韓非子、十過篇には施夷に作る。〔史記、樂書〕平公置二酒於施惠之臺一。❸元、杭州の人。字は君美。一に姓は沈といふ。樂府に巧。著に南曲拜月亭(一名幽閨記)・古今砌話がある。

【施坰】27 シケイ 宋、武進の人。字は林宗。崇寧の進士。官は禮部侍郎・敷文閣待制。

【施敬】28 シケイ 敬意をほどこす。〔禮、檀弓下〕社稷宗廟之中、未レ施二敬於民一。

【施教】29 シケウ 教をしく。教訓する。〔漢書、禮樂志〕敕レ身齊戒、施レ教申申。

【施原】30 シゲン 清、揚州の人。字は民牧。畫に巧。時好んで驢を養ひ、驢を畫いて神品を成した。時人、施驢兒といふ。

【施源】31 シゲン 清、吳縣の人。字は實君。號は蒙泉。乾隆の舉人。官は舒隆知縣。著に愛靜詞、一吷集・浮湘前後集がある。

【施顯】32 シケン 明、常熟の人。字は孟微。洪武中、鄉會試に皆第一に及第す。官は監察御史。〔蘭臺法鑒錄、二〕・〔續吳先賢讚、一〕。

【施罟】33 シコ あみをはる。〔摯虞、庖羲贊〕施レ罟設レ網、人用不レ匱。

【施工】34 shih¹ kung¹ 工事設計。

【施鞚】35 シコウ おもがいをつける。〔陸游、觀二英惠王像一詩〕披レ雲激レ電從レ天來、赤手騎レ鯨不レ施レ鞚。〔林光朝、癡頑不レ識レ字歌〕如二生馬不レ施レ鞚而馳一。

【施鴻】36 シコウ 清、邵武の人。字は則威。康熙の歲貢。官は奉天府經歷。書室を澂景堂といふ。著に澂景堂史測がある。〔四庫提要、九十〕。

【施齋】37 セサイ 佛食物を僧にほどこすこと。〔韋蟾、岳麓道林詩〕他方居士來施齋、彼岸上人投二結夏一。

【施索】38 shih¹ suo³ 繩の一種。ぬきなは。

【施策】39 シサク 明、無錫の人。字は勵菴。隆慶の進士。官は太僕寺卿。著に崇正文選・唐詩類選・勵菴詩集がある。

【施山】40 シサン 清、會稽の人。初名は學宜。後、山と更む。字は子山。書室を薑露菴・通雅堂といふ。著に薑露菴詩集及び雜記がある。

【施散】41 シサン 財物などをほどこしちらす。〔孔子家語、曲禮子貢問〕聚如二孔氏一、而後循レ禮施散焉。

【施施】42シシ ❶進みがたいさま。又、徐行のさま。〔廣雅、釋訓〕施施、行也。〔詩、王風、丘中有麻〕彼留子嗟、將其來施施。〔傳〕施施、難レ進之意。〔箋〕施施、舒行伺レ間、獨來見レ己之貌。〔柳宗元、始得二西山一宴游記〕施施而行、漫漫而遊。❷イイ 自得するさま。又、喜悅のさま。〔孟子、離婁下〕施施自レ外來、驕二其妻妾一。〔注〕施施、猶二扁扁一、喜悅之貌。〔孔叢子、答問〕武臣叉手跪謝、施施而退。

【施視】43シシ 四方を視る。〔柳宗元、桂州訾家洲亭記〕施視俱宜。

【施寺】44ジセ 寺に施與すること。〔國史略、孝謙天皇〕幸二東大寺一、施レ寺以二戸四千奴婢各百人一。

【施事】45ジシ 物事をほどこし行ふ。〔史記、太史公自序〕立レ俗施レ事。

【施州】46シシウ 州名。北周、置く。湖北省恩施縣。〔讀史方輿紀要、湖廣〕施州衞軍民指揮使司、禹貢、荊梁二州之域、春秋爲二巴國境一、戰國爲二楚巫郡地一、秦屬二南郡一、兩漢因レ之、三國吳、屬二建平郡一、晉以後因レ之、後周置二清江郡一、併置二施州一、隋亦爲二清江郡一、義寧二年、復置二施州一、唐因レ之、天寶初、改曰二清化郡一、乾元初、復曰二施州一、五代時、爲二前後蜀所一レ據、宋平レ蜀、仍曰二施州一、元因レ之、屬二夔州路一、至正十七年、沒二于僞夏一、明洪武四年、仍置二施州一、十四年、兼置二施州衞一、二十三年、幷レ州入レ衞、改爲二施州衞軍民指揮使司一、屬二湖廣都指揮使司一、領二軍民千戸所一、宣撫司八、長官司八、蠻夷長官司五一、而容美宣撫司、亦在二境內一、今仍置二施州衞一。

【施讐】47シシウ 漢、沛の人。字は長卿。孟喜・梁丘賀と共に田王孫に易を學ぶ。博士。甘露中、諸儒と五經の同異を石渠閣に論ず。其の學を張禹に授け、禹之を彭宣に傳へ、これより、施氏の易に張・彭の學がある。〔前漢書、八十八〕。

【施食】48セジキ 佛施餓鬼の食をいふ。又、齋食を僧に供養すること。又、食物に向つて咒願を施すこと。〔佛說賢者五福德經〕佛言人持レ食施レ僧、有二五種利一、一色、二力、三命、四安、五辯。〔禪苑清規〕首座施食、粥云、粥有二十利一、云云、齋云、三德六味、云云、施食已行者喝レ食。

【施舍】49シシャ ❶恩惠をほどこし勞役をゆるす。又、恩惠を施し負債をゆるす。〔周禮、天官、小宰〕治二其施舍一、聽二其治訟一。〔注〕施二舍不レ給レ役者一也。〔左氏、宣、十二〕老有二加惠一、旅有二施舍一。〔注〕旅客來者、施レ之以レ惠、舍不二勞役一。〔呂覽、原亂〕文公施舍振二廢滯一、匡二乏困一。〔逸周書、王佩解〕施舍在レ平レ心、不幸在レ不レ聞。〔管子、四時〕其德施舍修レ樂。〔纂詁〕施レ恩舍レ債。❷布きほどこす。恩德を施す。舍は施。〔左氏、昭、十三〕施舍不レ倦。〔注〕施舍、猶レ布二恩德一。〔墨子、非攻中〕於レ是退不レ能三賞レ孤施二舍羣萌一。❸旅客の荷物をおろす所。はたご。〔國語、周語中〕縣無二施舍一。〔注〕施二舍賓客負任一之處。❹與へることと與へないこと。〔國語、周語中〕聖人之施舍也議レ之。❺興ることと廢すること。興廢。〔後漢書、王充等傳論〕施舍之道、宜レ無二殊典一。〔注〕施舍、猶二興廢一也。

【施捨】50シシャ 喜捨する。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕留待レ作二遺施一。〔注〕待三異日施二捨於人一也。

【施瀉】51 shih^1 hsieh^4 精液を出す。

【施嬙】52シシヤウ 古の美人。西施と毛嬙。〔敖陶孫、詩〕正如三嫫母嚬二施嬙一。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕施嬙在レ側、好色者寧無レ動レ情。

【施賞】53シシヤウ 賞をほどこす。〔論衡、譴告〕施レ賞違レ節、賞氣溫而天宜レ爲レ寒。

【施主】54セシユ 佛布施を行ふ主人。自ら財を投じて法會を開き或は僧を供養する人。又、葬式の當主。檀越。陀那鉢底。〔南海寄歸內法傳、一〕必須下誦二一兩陀那伽他一報中施主恩上。〔注〕梵云二陀那鉢底一、譯爲二施主一、陀那是施、鉢底是主、而云二檀越一者、本非二正譯一、略二去那字一、取二上陀音一、轉名爲レ檀、更加二越字一、意道、行由二檀捨一、自可三越二渡貧窮一、妙釋雖レ然、終乖二正本一。

〖施主恩〗55セシユオン 佛僧侶が布施を行つて我が佛法を信仰し扶養して行く者に對する恩。四恩(3−4682‥69)を見よ。〔釋氏要覽〕恩有レ四焉、云云、四、施主恩。

【施儒】56シジユ 明、歸安の人。字は聘之。正德の進士。初、御史を授けられ、出でて南畿に按となり、直諫の故を以て職を免ぜらる。嘉靖の初、廣東兵備副使に起用され、疏して惠來・大埔二縣を立て、屢〻黠寇を平定した。〔明史、一百八十六〕・〔國朝獻徵錄、九十九〕・〔蘭臺法鑒錄、十四〕。

【施聚】57シシユウ 明、順天通州の人。謚は威靖。父蔭を以て指揮使を授けらる。後、功を以て懷柔伯に封ぜらる。〔明史、一百七十四〕・〔萬斯同明史、二百十八〕・〔明史稿、一百五十七〕。

【施從】58シジユウ ななめにあとにつき從ふ。〔孟子、離婁下〕蚤起施二從良人之所一レ之。〔注〕施者、邪施而行。

【施宿】59シシユク 宋の人。元之の子。字は武子。官は紹興府通判。著に嘉泰會稽志・東坡年譜がある。

【施粥】60ジシユク 粥をほどこし與へる。施糜(100)を見よ。〔四庫提要、六十八・一百五十四〕。

〖施粥廠〗61 shih^1 chou^1 ch'ang^3 每年冬季に際して貧民に粥をほどこす所。古來、中國各地に設けらる。

【施術】62ジシユツ 醫者が手術を施す。

【施峻】63シシユン 明、歸安の人。字は平叔。嘉靖の進士。官は青州知府。詩に巧。書室を甲秀樓といふ。著に璉川詩集がある。〔國朝獻徵錄、九十六〕・〔皇明詞林人物考、八〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十二〕。

【施屬】64シシヨク のべる。〔韓非子、八姦〕示レ之以二利勢一、懼レ之以二患害一、施二屬虛辭一、以壞二其主一。

【施賑】65シシン ほどこしすくふ。〔後漢書、馬援傳〕凡殖二貨財產一、貴二其能施賑一也、否則守レ錢虜耳。

【施縉】66シシン 清、定邊の人。乾隆の間、緬甸・安南の征討に從ひ、嘉慶中、黔楚苗を征し、功を以て雲南臨元鎭總兵に至る。又、教匪の平定に從つて、竹子山に陣歿し、提督を追贈さる。〔清史稿、三百五十五〕・〔國朝耆獻類徵、三百六十五〕。

【施鍼】67シシン からだにはりをする。〔宋史、王克明傳〕魏安行妻風痿、十年不レ起、克明施レ鍼、而步履如レ初。

【施人】68シジン 人にほどこす。〔崔瑗、座右銘〕施レ人愼勿レ念。

【施仁】69シジン 仁政をしきほどこす。〔弘道館記述義、上〕此神皇發レ政施レ仁之大略也。

【施水】70シスイ 川の名。肥水の分流の一つ。安徽省合肥縣の東。一名、斗河。〔水經、施水注〕施水、受二肥于廣陽鄉一、東南流逕二合肥縣一、云云、蓋夏水暴長、施合二于肥一、故曰二合肥一、云云、東注二巢湖一、謂二之施口一也。

【施樞】71シスウ 宋、丹徒の人。字は知言。號は芸隱。嘉熙の時、浙東轉運司幕屬、及び越州府僚と爲る。詩に巧。著に芸隱橫舟稿がある。〔四庫提要、一百六十四〕。

【施生】72シセイ ❶人に刑罰を行ふ。〔左氏、昭、十四〕叔向曰、三人同レ罪、施レ生戮レ死可也。〔注〕施、行レ罪也。❷物を生育させる。〔白虎通、五行〕陽者施レ生。〔白虎通、情性〕仁者不レ忍也、施レ生愛レ人也。〔風俗通、皇霸〕天立二五帝一以爲レ相、四時施レ生。❸恩惠をほどこし生を全うする。〔漢書、楚元王傳〕德寬厚、好二施生一。〔注〕言レ好下施二恩惠於人一而生中全之上。

【施政】73シセイ 政令をしく。政治を行ふ。〔書、君奭〕迪惟前人光、施二于我冲子一。〔傳〕欲下蹈二行先王光大之道一、施中政于我童子上。〔呂覽、愼大〕庶士施レ政去レ賦。〔注〕施二之於政事一、去二其繇賦一也。

〖施政方針〗74シセイハウシン 政治をほどこし行ふ方針。

【施清】75シセイ 清、錢塘の人。字は伯仁。拔貢。官は永州通判。詩文に巧。著に十三經異同解、及び攬雲・懷新等集がある。〔鶴徵錄、六〕・〔己未詞科錄、七〕。

【施濟】76 shih^1 chi^4 救濟する。施與する。

【施設】77シセツ こしらへまうける。〔史記、孫子吳起傳贊〕吳起兵法世多有、故弗レ論、論下其行事所二施設一者上。〔漢書、尹翁歸傳〕文武兼備、惟所二施設一。〔吳志、孫堅傳〕親率二將士一、施二設方略一。

【施洗】78 shih^1 hsi^3 洗禮を授ける。

【施全】79シゼン 宋、錢塘の人。紹興中、殿司小校となる。秦檜を刺さうとして果さず、市に磔せらる。〔宋史、四百七十三〕・〔瑯琊代醉編、十七〕。

【施僧】80セソウ 佛僧侶に財食などを施す。〔白居易、衰病詩〕祿食分供レ鶴、朝衣減施レ僧。

【施罾】81シソウ あみをしく。〔元稹、紀レ懷贈二李戶曹一詩〕雪中方覩レ柱、木上莫レ施レ罾。

【施村】82シソン 地名。浙江省樂清縣の雁蕩山の中

に在り、下に施溪、上に施巖がある。唐の施肩吾の煉丹の處と傳へる。

【施男】83 シダン　清、吉水の人。字は偉長。順治の初、從つて廣西を征し、功を以て廣西按察副使を授けらる。著に笻竹杖がある。〔四庫提要、一百四十三〕。

【施張】84 シチャウ　張りひろげる。開く。擴張する。施展。〔孔融、離合作二郡姓名字一詩〕與レ時進止、出行施張。〔晉書、韓友傳〕更作二皮嚢二枚一、沓張レ之、施張如レ前。

【施陳】85 シチン　ほどこしのべる。〔柳宗元、懲咎賦〕施陳以繫縻兮、邀二堯舜一與レ之爲レ師。

【施髢】86 シテイ　そへがみを加へる。〔莊子、天地〕禿而施レ髢、病而求レ醫。〔釋文〕司馬云、髢、髮也。

【施條】87 シデウ　彈丸の飛行力を強大にするために、銃身又は砲身の內壁に螺旋狀のすぢをつけること。

【施展】88 シテン　ほどこしのべる。ひろげる。發展する。〔白居易、和二微之一詩、和レ寄二樂天二〕平生賞心事、施展十未レ一。〔元稹、竹簟詩〕憶昨初來日、看レ君自施展。〔清會典事例、兵部、軍器〕險仄之地、不レ能二應レ手施展一。

【施甸】89 シデン　土司の名。元、石甸長官司を置く。後、訛して施甸といふ。土官は蒙氏。雲南省保山縣の南。〔明史、地理志七〕施甸長官司、府南、元石甸長官司。

【施屠】90 シト　複姓。〔史記、絳侯世家〕燕王盧綰反、勃以二相國一代二樊噲一、將二擊下レ薊、得二綰御史大夫施屠渾都一。〔注〕姓、施屠、名、渾都。

【施德】91 シトク　德をほどこす。德をしく。〔鬼谷子、中經〕施レ德者依レ道。

【施南】92 シナン　府名。清、置く。恩施・宣恩・來鳳・咸豐・利川・建始の六縣を管轄す。民國、廢す。故治は湖北省恩施縣。〔清史稿、地理志〕湖北、施南府、領二縣六一、恩施・宣恩・來鳳・咸豐・利川・建始。

【施放】93 シハウ　❶發砲する。〔清會典事例、兵部、大閱〕俟二藤牌舞畢一、卽進步連環施放。❷ほどこす。

【施報】94 シハウ　ほどこしむくいる。〔禮、曲禮上〕太上貴レ德、其次務二施報一。〔管子、版法〕愼二施報一。〔新書、禮〕古之蓄二其下一者、其施報如レ此。

【施伯】95 シハク　春秋、魯の人。大夫。莊公の時、齊は管仲を魯に求めた。施伯は、齊が將來管仲を用ひることは、魯の患と爲らんとすることを指摘して諫めたが、莊公はこれを聽かなかつた。〔戰國、齊策〕。

【施博】96 シハク　ほどこすことがひろい。〔孟子、盡心下〕守約而施博者善道也。〔列子、說符〕吾祿益厚、吾施益博。

【施法】97 シハウ　おきてを布く。〔周禮、天官、大宰〕施二法于官府一。〔史記、秦紀〕鞅之初爲レ秦施レ法、法不レ行。

【施槃】98 シハン　明、吳縣の人。字は宗銘。門人、莊僖先生と私諡す。正統の進士。官は修撰。〔國朝獻徵錄、二十一〕・〔本朝分省人物攷、十九〕・〔續吳先賢傳、一〕・〔明詩紀事、乙〕。

【施鞶】99 シハン　大帶をつける。〔儀禮、士昏禮〕庶母及二門內一施レ鞶、申レ之以二父母之命一。

【施糜】100 シビ　糜粥をほどこすことを主る神。〔漢書、郊祀志上〕荊巫祠二堂下巫先司命施糜之屬一。〔注〕施糜、其先常施二設糜粥一者也。

【施靡】101 シビ　長くつらなる。つづく。〔史記、司馬相如傳〕隱轔鬱𡾊、登降施靡。〔注〕正義曰、郭璞云、施靡、猶二連延一。〔司馬相如、上林賦〕隱轔鬱𡾊、登降施靡。〔注〕翰曰、皆山勢高峻長遠之貌。

【施父】102 シフ　春秋、魯の人。大夫。桓公の時、曹の太子來朝して、享宴の席上に歎ずるや、これを見て、曹太子其れ憂あるかと豫言したが、明年、曹伯卒した。〔左氏、桓、九〕。

【施布】103 シフ　ほどこししく。〔釋名、釋綵帛〕女工之始、始二於是一施二布其法一使二民盡用レ之也。〔後漢書、郎顗傳〕未レ見二仁德有レ所二施布一。

【施溥】104 シフ　❶明、醴陵の人。性至孝。母病むや、股を刲いて羹を作り、以て母に奉じた。〔小腆紀年、四〕・〔勝朝殉節諸臣錄、六〕。❷清、錢塘の人。字は子博。畫に巧。

【施賦】105 シフ　租稅。〔逸周書、程典解〕差二其施賦一。

【施服】106 シフク　旁系の親戚で喪に服するもの。〔儀禮、喪服〕傳曰、絕族無二施服一。〔注〕在レ旁而及曰レ施。

【施物】107 セモツ　❶[佛]僧寺にほどこす物。施行に供する品物。〔五代史、趙鳳傳〕是時宮中施物已及二數千一。〔著聞集、五〕天王叡感ありて、勅をくだして施物有りけり。❷ホドコシモノ　施し與へる物の總稱。

【施粉】108 シフン　白粉をつけること。けしやうすること。〔何遜、和二司馬博士詠レ雪詩〕暫蔽二紈質一、復慚二施粉人一。〔陸游、雪中尋レ梅詩〕楚人原未レ知二眞色一、施粉何曾太白來。

【施秉】109 シヘイ　縣名。明、置く。貴州省鎭遠縣の西。〔讀史方輿紀要、貴州、鎭遠府〕施秉縣、通志、元至元二十年、置二施秉前江等處、蠻夷軍民長官司一、屬二思州安撫司一、元志不レ載、明朝洪武五年、置二施秉蠻夷長官司一、授二土酋楊氏一、屬二思州宣慰司一、永樂十年、長官楊政麒、從二宣慰田琛之亂一、官廢、正統九年、改置二今縣一。〔清史稿、地理志〕貴州、鎭遠府、縣三、施秉。

【施米】109′ セマイ　❶米をほどこす。又、その米。❷王朝時代、山寺の貧僧に米鹽をほどこした儀式。〔公事根源、六月、施米〕方便なき法師原に米鹽を施さるる事なり。

【施孟】110 シマウ　漢の施讐と孟喜。ともに易を傳へた人。〔漢書、藝文志〕及二秦燔レ書、而易爲二筮卜之事一、傳者不レ絕、漢興、田何傳レ之、訖二于宣元一、有二施孟梁丘京氏一、列二於學官一。

【施藥】111 セヤク　藥をほどこし與へる。又、其の藥。〔韓偓、騰騰詩〕烏帽素餐兼施藥、前身多恐是醫僧。〔陸游、騰騰詩〕我遊二成都一不レ得レ意、佯狂施二藥成都市一。

〖施藥院〗112 セヤクヰン　❶古、貧者或は旅行者などの病に罹つたものに、藥を與へ、又は治療を施すために置かれた所。施と死が音通のため省いて讀まないのを例とする。〔聖德太子傳曆、上〕施藥院、是令下植二一切芝草藥草之類一、順レ方合レ藥、隨二各所レ樂、以施與上。❷養生所の異稱。〔江都管鑰祕鑑、九〕。

〖施藥院使〗113 セヤクヰンシ　施藥院の長官。施藥院を見よ。〔式部省式、上〕施藥院使四人。

【施予】114 シヨ　ほどこしあたへる。施與に同じ。〔韓非子、外儲說左上〕故人行事施予、以レ利之爲レ心、則越人易レ和、以レ害之爲レ心、則父子離且怨。〔漢書、蘇武傳〕武所レ得賞賜、盡以施二予昆弟故人一、家不レ餘レ財。

【施與】115 シヨ　ほどこしあたへる。又、ほどこし。〔韓非子、姦劫弒臣〕夫有三施二與貧困一、則無レ功者得レ賞、不レ忍二誅罰一、則暴亂者不レ止。〔漢書、王嘉傳〕孝宣皇帝、賞罰信明、施與有レ節。〔吳志、魯肅傳〕家富二于財一、性好二施與一。

【施用】116 シヨウ　ほどこしもちひる。ほどこしおこなふ。〔史記、封禪書〕始皇聞二此議一、各乖異難二施用一。〔後漢書、祭祀志上〕議三封禪所二施用一。〔顏氏家訓、文章〕牧レ民建レ國、施用多レ途。

【施溶】117 シヨウ　土司の名。五代の時、置く。土官は田氏。湖南省永順縣の東南。〔讀史方輿紀要、湖廣、永順軍民宣慰使司〕施溶州、蠻地、宋爲二羈縻州一、元爲二會溪施溶地一、屬二思州軍民安撫司一、後廢、洪武二年、置二施溶州一、改二今屬一。

【施浪】118 シラウ　地名。唐、南蠻六詔の一つ。居城は雲南省洱源縣蒙次和山の下。

【施琅】119 シラウ　清、晉江の人。字は尊侯。號は琢公。諡は襄壯。初、鄭芝龍の部將。後、清に歸し、鄭成功を敗り、同安副將を授けらる。康熙の間、水師提督に擢んでられ、臺灣を平定し、功を以て靖海侯に封ぜらる。著に靖海紀事がある。〔清史稿、二百六十六〕・〔清史列傳、九〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十六〕・〔碑傳集、十五〕・〔國朝先正事略、十二〕。

【施勞】120 シラウ　❶勞役の事を人におしつける。〔論語、公冶長〕無レ施レ勞。〔集解〕孔安國曰、不下以二勞事一置中施於人上也。〔疏〕不三置二施勞役之事於人一也。❷自ら其の功に誇る。〔論語、公冶長、集注〕施、亦張大之意、勞、謂レ有レ功、易曰、勞而不レ伐、是也。

【施瑮】121 シリツ　清の人。閏章の孫。字は質存。號は隨村。歲貢生。詩文を善くし、著に隱村遺集がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【施璘】122 シリン　後周、藍田の人。字は仲寶。畫に巧。

【施霖】123 シリン　明、江寧の人。字は雨咸。一に雨若に作る。畫に巧。

【施療】124 シレウ　無料で人の病氣を治療する。

【施維翰】125 シヰカン　清、上海の人。字は及甫・研山（硯山）。諡は清惠。順治の進士。康熙中、浙江總

督となり、後、福建に調せられ路に卒す。〔清史稿、二百七十九〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十四〕・〔國朝先正事略、五〕。

【施一鼇】126 シイツガウ　明、江寧の人。字は士選。官は泗陽州學正。

【施允成】127 シインセイ　明、福清の人。字は造仲。官は松潘遊擊。

【施何牧】128 シカボク　清、崇明の人。字は虞贊。康熙の進士。官は吏部員外郎。詩に巧。著に一山詩鈔・明詩去浮・韻雅・史聲がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十二〕・〔國朝詩人徵略初編、十五〕・〔四庫提要、四十四〕。

【施餓鬼】129 セガキ　佛 餓鬼にほどこし與へる。無緣の亡者の靈を弔つて、讀經供養をすること。〔釋門正統、四〕若夫施食之法、亦非二一切人天所一レ知、惟如來以二大慈普覆一不レ忍三一切含靈受二其饑餓苦惱一、故假二面然兎王緣起一、令下阿難尊者以二一摶食一誦レ咒施上之、今緇素通行、謂二之施餓鬼食一。〔釋氏要覽〕施食有二二種一、若施二曠野鬼神一者、即是同食二寺院一、佛令レ設二一供養位一、一、曠野鬼神、一、鬼子母、並取二僧食一、呼レ名施レ之、若比丘各自備二一斛食一施者、即依二集面大士經一、施二與餓鬼一也。

【施孝叔】130 シカウシユク　春秋、魯の人。公族。初、魯の聲伯の外妹を娶る。晉の郤犨が婦を聲伯に求めるや、聲伯は施氏より奪つて之に與へた。後、二子生れて郤氏卒し、晉人は之を施氏に歸し、施氏は其の二子を殺した。婦人は怒つて遂に再び其の婦と爲らなかつた。〔左氏、成、十一・十七〕。

【施學宜】131 シガクギ　施山(40)を見よ。

【施合德】132 シガフトク　元、漳州の人。農家の子。孝子。〔元史、一百九十七〕・〔新元史、二百三十九〕。

【施寒衣】133 shih^1 han^2 i^1　每年十月に紙製の衣を施すこと。河南の行事。

【施宜生】134 シギセイ　金、邵武の人。字は明望。號は三住老人。宋、政和中、潁州教授を拜命し、後、金に入り翰林學士と爲り、宋に使して私かに之に通じ、金人に烹らる。〔金史、七十九〕。

【施禹山】135 シグウサン　清の人。施閏章(156)を見よ。

【施君美】136 シクンビ　元の人。施惠(26)を見よ。

【施敬本】137 シケイホン　唐、丹陽の人。開元中、四門官助教を授けらる。封禪の典禮に於て、頗る舊制の同異を辨ず。後、集賢院修撰を歷、右補闕秘書郎にいたる。〔唐書、二百〕。

【施堯臣】138 シゲウシン　明、青陽の人。嘉靖の進士。蕭山知縣を授けられ、倭寇を防いで順天府尹に累擢さる。〔國朝獻徵錄、八十七〕・〔本朝分省人物攷、三十九〕。

【施肩吾】139 シケンゴ　唐、洪州の人。字は希聖。詩に巧。元和の進士。洪州の西山に隱れ、終身仕へず。著に西山羣仙會眞記がある。〔四庫提要、一百四十七〕。

【施顯卿】140 シケンケイ　明、無錫の人。字は純甫。嘉靖の擧人。官は新昌縣の長官。著に古今奇聞類記がある。〔四庫提要、一百四十四〕。

【施元之】141 シゲンシ　宋、吳興の人。字は德初。號は坐嘯齋。官は司諫。著に施注蘇詩がある。〔四庫提要、一百五十四〕。

【施彥士】142 シゲンシ　清、崇明の人。字は楚珍。道光の擧人。萬全・南皮・正定に歷任す。書室を求己堂といふ。著に海運芻言・讀孟質疑・孟子外書集證・歷代編年大事紀・宗賢考・求己堂詩文集がある。

【施孤墳】143 shih^1 ku^1 fen^2　清明節に無緣墓地へ參り施餓鬼をすること。江蘇省泰縣地方の俗風。

【施公案】144 シコウアン　書名。八卷。作者不詳。一名、百斷奇觀。凡て九十七回から成り、康熙年間の漕運總督施世倫の事績を述べたもの。

【施侯租】145 シコウソ　清の施琅が臺灣を平定して清朝から靖海侯を授けられ、且世業として廣大な埔地を賜はつたので、漳州の民を招き、土地を開墾せしめて大租を徵收した。之を施侯租といふ。〔臺灣私法、一〕。

【施國祁】146 シコクキ　清、烏程の人。字は非熊。號は北研。諸生。詩詞古文に巧。書室を禮耕堂・吉貝吉といふ。著に禮耕堂文集・元遺山詩注・金源劄記がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔清史列傳、七十三〕・〔碑傳集補、四十七〕。

【施子安】147 シシアン　施耐庵(166)を見よ。

【施士匄】148 シシカイ　唐、吳の人。毛詩・左氏春秋に精通す。大曆中、四門助教より博士となる。著に春秋傳がある。〔唐書、二百〕。

【施之常】149 シシジヤウ　春秋、魯の人。一に子常に作る。字は子恆。孔子の弟子。〔史記、六十七〕。

【施氏易】150 シシエキ　漢の施讎の傳へた易。〔後漢書、劉昆傳〕劉昆、平帝時、受二施氏易於沛人戴賓一。

【施氏鄰】151 シシノトナリ　時を失すれば功を成し難い喩。魯の施氏に二人の子があり、齊侯と楚王に仕へて、富榮となつた。鄰に孟氏といふものがあり、同じく二人の子があり、其の富榮を羨んで、秦王と衞侯とに仕へたところ、一人は放たれ一人は刖せられたといふ故事。〔列子、說符〕魯施氏有二二子一、其一好レ學、其一好レ兵、好レ學者以レ術干二齊侯一、齊侯納レ之、爲二諸公子之傅一、好レ兵者之レ楚、以レ法干二楚王一、王悅レ之、以爲二軍正一、云云、施氏之鄰人孟氏、同有二二子一、所レ業亦同、而窘二於貧一、云云、孟氏之一子之レ秦、以レ術干二秦王一、云云、遂宮而放レ之、其一子之レ衞、以レ法干二衞侯一、云云、遂刖レ之而還二諸魯一、既反、孟氏之父子、叩レ胷而讓二施氏一、施氏曰、凡得レ時者昌、失レ時者亡、子道與レ吾同、而功與レ吾異、失レ時者也、非二行之謬一也。

【施是式】152 シシシキ　清、婁の人。字は志學。號は梓霞・道園。監生なり。書畫及び詩に巧。著に道園稿がある。

【施師點】153 シシテン　宋、上饒の人。字は聖與。十歲にして六經に精通す。假翰林學士を以て金に使し、禮を執つて辱めず。參知政事となる。著に易說・史識・文集及び奏議數十卷がある。〔宋史、三百八十五〕。

【施而寬】154 シジクワン　清、仙遊の人。字は容臣。官は狼山鎭總兵。

【施昌言】155 シシヤウゲン　宋、靜海の人。字は正臣。進士。龍圖閣學士に累官し、州郡に歷典す。〔宋史、二百九十九〕。

【施閏章】156 シジユンシヤウ　清、宣城の人。字は尙白。號は愚山(愚道人)・蠖齋・矩齋・愧蘿居士。順治の進士。官は刑部主事・湖西道參議。康熙中、侍講に起用さる。明史を纂修し、侍讀に陞進す。詩文に巧。王士禛と名を齊しくす。書室を學餘堂といふ。著に學餘堂詩文集・試院冰淵・青原志略補輯・矩齋雜記・蠖齋詩話がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、一百十八〕・〔碑傳集、四十三〕・〔國朝先正事略、二十九〕・〔清代學者象傳、一〕。

【施心傳】157 シシンデン　清、寧化の人。字は結如。古文詞に巧。其の山水畫は雲林の筆法を得た。〔國朝書畫家筆錄、二〕・〔國朝畫識、九〕。

【施世瑛】158 シセイエイ　唐、安吉の人。字は玉華。官は洮州刺史。

【施世驃】159 シセイヘウ　清の人。琅の第六子。謚は勇果。康熙の間、定海總兵、福建水師提督となり、朱一貴を臺灣に平定す。〔國朝先正事略、十二〕。

【施世綸】160 シセイリン　清の人。琅の次子。字は文賢。號は南堂。蔭を以て泰州の知となり、尋いで戶部侍郎に累官し、漕運を總督して功を立つ。著に南堂集がある。〔清史稿、二百八十三〕・〔清史列傳、十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百六十三〕・〔國朝先正事略、十二〕。

【施清臣】161 シセイシン　宋、淳祐閒の人。號は東洲。赤城散吏と自稱す。著に几上語・枕上語がある。〔四庫提要、一百二十四〕。

【施聖揆】162 シセイキ　清、新喩の人。孝子。〔國朝先正事略、三十八〕。

【施紹闇】163 シセウアン　施定庵(170)を見よ。

【施紹莘】164 シセウシン　明、松江華亭の人。字は子野。號は峯泖浪仙。詞曲に巧。書室を春雨堂・語花軒・三影齋・眾香亭・秋水菴・泖上新居といふ。著に花影集がある。〔明詞綜、五〕。

【施昭庭】165 シセウテイ　清、吳縣の人。字は筠瞻・寄篁。康熙の進士。官は萬載縣の長官。溫尙貴を平定して功を立つ。〔清史稿、四百八十三〕・〔清史列傳、七十五〕・〔國朝耆獻類徵、二百二十六〕・〔國朝先正事略、五十二〕。

【施耐庵】166 シタイアン　元、淮安の人。名は子安。字を以て行はれ、元末、進士出身を賜はる。志餘・三國志演義・隋唐志傳・三遂平妖傳・水滸傳の著者と傳へられる。〔西湖遊覽志〕。

【旋大經】167 シダイケイ　明、上海の人。字は天卿。號は

獲閣・谷陽野父。萬曆の擧人。官は崇府審理正。著に澤谷農書がある。

【施端敎】168 シタンケウ 清、泗州の人。字は匪莪。號は嘯閣。官は東城兵馬司。好んで唐人の成句を集めて詩を作る。著に唐詩韻匯・識史漢翹・集唐・六書指南・嘯閣文集がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十二〕・〔四庫提要、六十五・一百九十三〕。

【施廷琫】169 シテイホウ 清、無錫の人。字は黼雯。康熙の諸生。性孝友。晚年、宋の五子書に潛心す。書室を鞭鶴軒といふ。著に五經彙解・通鑑集論・鞭鶴軒集がある。〔國朝耆獻類徵、三百八十三〕。

【施定庵】170 シテイアン 清、海寧の人。名は紹闇。字は襄夏。號は定庵。著に弈理指歸がある。

【施霆亨】171 シテイカウ 宋、邵武の人。字は榮南。趙章泉に師事し、道學を鄉里に教授す。時人、其の坊を尊道といふ。

【施兆昂】172 シテウカウ 明、福清の人。字は顒昆。萬曆の進士。書畫に巧。書室を天尺樓といふ。著に館課西江集・天尺樓稿がある。

【施朝幹】173 シテウカン 清、儀徵の人。字は培叔・鐵如。號は小鐵・六義齋。乾隆の進士。官は宗人府府丞。詩文を善くし、著に六義齋・正聲・一勺等集がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、九十七〕・〔國朝詩人徵略初編、四十〕。

【施肇基】174 シテウキ 民國。浙江省杭縣の人。字は植之。上海聖約翰大學に學び、後渡米コーネル大學を卒業、加奈陀、米國の各大學より法學博士號を贈らる。前清時代、外務部右丞・左丞等を經て駐米公使に任ぜられると共に、第一革命に遇ふ。民國成立後最初の交通總長となり、巴里・華府兩會議に中國全權として活躍した。著に“Addresses ‘Geneva Opium Conferences” 其の他がある。〔現代滿州帝國人名鑑〕。

【施天章】175 シテンシヤウ 清、江蘇嘉定の人。字は煥文。官は鴻臚寺序班。刻竹に巧。

【施天德】176 シテントク 明、新喩の人。字は象尼。萬曆の進士。官は武選郞中。

【施德華】177 シトククワ 明、烏程の人。號は城南小隱。詩を善くす。洪武中、有司に明經を以て累薦せられたが、就かず。〔明名人傳、一〕。

【施德操】178 シトクサウ 宋、鹽官の人。字は彥執。學者、持正先生と稱し、其の學は孟子を主として楊墨を排擊す。著に孟子發題・北窗炙輠錄がある。〔四庫提要、三十七・一百四十一〕。

【施念曾】179 シネンソウ 清の人。閏章の曾孫。字は得仍・得齋。號は蘖齋。乾隆の拔貢。知廣東興寧を授けられ、浙江に轉じて聲績あり。禹州の知に陞進し、未だ赴かずして前縣尉に誣ひられ退職した。著に蘖心集・宛雅がある。〔國朝耆獻類徵、二百三十〕・〔鶴徵後錄、九〕・〔四庫提要、一百九十三〕。

【施邦曜】180 シハウエウ 明、餘姚の人。字は爾韜。謚は忠介。萬曆の進士。官は工部郞中・福建布政・南京通政使。入覲して學術・吏治・用兵・財賦の四事を陳して納れられ、左副都御史に陞進す。流賊城を陷れるや、藥を仰いで死す。〔明史、二百六十五〕・〔萬斯同明史、三百八十二〕・〔明史稿、二百五十二〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十二〕・〔小腆紀年、四〕。

【施文慶】181 シブンケイ 陳、後主の倖臣。後主の初、中書舍人となり、後、機密を掌る。隋兵陳に入るに及んで、石闕の前に斬らる。〔南史、七十七〕。

【施文銓】182 シブンセン 清、安吉の人。字は壽民。號は怡雲山人。貢生。書室を靜學廬といふ。著に靜學廬遺文がある。

【施補華】183 シホクワ 清、烏程の人。字は均甫。同治の擧人。官は山東道員。著に澤雅堂文集がある。〔續碑傳集、三十九〕。

【施鳳來】184 シホウライ 明、平湖の人。萬曆の進士。官は翰林・禮部尙書。魏忠賢に阿附し、崇禎の初、言官に糾彈されて退職す。〔明史、三百六〕・〔萬斯同明史、三百五十四〕・〔明史稿、二百二十五〕。

【施妙手】185 shih^1 miao^4 shou^3 妙手をほどこす。

【施養浩】186 シヤウカウ 清、錢塘の人。字は靜波(靜怡)。號は茗柯。別號、西髯。乾隆の擧人。官は四川滎經縣の長官。書畫に巧。著に出塞入塞詩がある。〔清畫家詩史、丁、上〕。

【施餘澤】187 シヨタク 清、順天の人。字は溥霖。畫に巧。

【施浴升】188 シヨクシヨウ 清の人。文銓の子。字は旭臣。同治の擧人。著に金鐘山房詩文集がある。

【施驢兒】189 シロジ 清、施原(30)をいふ。

【施王屯】190 シワウトン 地名。湖北省恩施縣の南。〔讀史方輿紀要、湖廣、施州衞〕施王屯、衞南十五里、東晉末、桓誕自稱二施王一、屯二據於此一、因名。

【施而不レ費】191 ホドコセドモツヒヤサズ 恩惠をほどこすけれども財を費さない。〔左氏、襄、二十九〕廣而不レ宣、施而不レ費。

【施注蘇詩】192 シチユウソシ 書名。四十二卷。宋、施元之撰。清、邵長蘅・李必恒補。馮景續注。外に東坡年譜一卷・王注正譌一卷・蘇詩續補遺一卷を附す。元之注は宋代にあつて善本と稱されたが傳本少く、康熙の時、宋犖が其の殘帙十二卷を得、其の闕卷を補つた。〔四庫提要、集、別集類〕。

【施愚山先生文集】193 シグサンセンセイブンシフ 書名。九十卷。清、施閏章撰。其の詩は深穩、其の文は歐、曾に倣つて矩度を失してゐない。文集二十八卷・詩集五十卷・別集四卷・遺集六卷・外集二卷。文集の目は、賦一卷、志・譜共一卷、書・集序共一卷、詩文序四卷、贈送序一卷、壽序二卷、記三卷、遊記二卷、傳・行狀共二卷、碑文一卷、墓誌銘・墓表・墓志・墓碣共四卷、祭文二卷、雜著二卷、書二卷。詩集の目は、四言一卷、樂府一卷、五言古十二卷、七言古九卷、五言律十卷、七言律九卷、五言排律二卷、七言排律一卷、五言絕句四卷、七言絕句四卷。別集の目は、蠖齋詩話二卷、矩齋雜記二卷、附、王阮亭先生摘句圖。外集の目は、五古・七古・五律・七律・五排、各〻一卷、五絕・七絕共一卷。

【旆】13630 ハイ 旆(**5**－**13646**)の譌字。〔五經文字〕旆、旆从レ市、从レ巾者譌。

【⿰方夬】13631 ヤウ アウ 〔篇海〕倚兩切 養 **はたあし**。〔篇海〕⿰方夬、旗⿰方夬也。

【斿】13632 [一] イウ ユ 〔集韻〕夷周切 尤 [二] リウ ル 〔集韻〕力求切 尤

[一]❶**はたあし**。游(**7**－**17792**)に同じ。〔說文〕游、旌旗之流也、从レ㫃汓聲。〔段注〕此字省作レ斿。〔玉篇〕斿、旌旗之末垂者、一作レ游。〔周禮、春官、巾車〕建二大常十有二斿一以祀。〔注〕正幅爲レ縿、斿則屬焉。〔漢書、五行志下之下〕君若二綴斿一。〔注〕應劭曰、斿、旌旗之流、隨レ風動搖也。❷旒(**5**－**13676**)に通ず。〔禮、明堂位、旂有二十二旒一、釋文〕旒、本又作レ斿。

【斿卿】1 イウケイ 漢、徐良(**4**－**10110**・・310)の字。

【斿貢】2 イウコウ 九貢の一つ。羽毛の類を貢すること。一說に、珠玉の類を貢すること。〔周禮、天官、大宰〕以二九貢一致二邦國之用一、云云、八曰斿貢。〔注〕鄭司農云、斿貢、羽毛、玄謂、斿、讀如二囿游之游一、斿貢、燕好珠璣琅玕也。〔阮元校勘記〕先鄭云、游貢羽旄、游之本義也、後鄭云、游貢燕好珠璣琅玕、游之引申假借之義也、易二其字之本義一、故曰二讀爲一。

【斿車】3 イウシヤ 車の名。王者が田獵等に乘る木車。〔周禮、春官、司常〕道車載レ旞、斿車載レ旌。〔注〕斿車、木路也、王以田以鄙。

【斿旐】4 イウテウ はたあしのあるはた。〔後漢書、輿服志序〕建二其斿旐一、尊卑上下、各有二等級一。

【斿旆】5 イウハイ はたあし。〔宋史、樂志八〕游旆羽紛、昭鑒翊翊。

【⿸厂方】13633 バウ 房(**5**－**11714**)に同じ。〔字彙補〕⿸厂方、音義與レ房同。

【⿱丙方】13634 バウ 旁(**5**－**13637**)の古字。〔說文〕旁、⿱丙方、古文旁。

【於】 13635

セイ 旌(5－13658)に同じ。〔字彙補〕於、同レ旌。

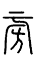
六畫

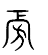
【旁】 13637

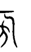
［一］ハウ バウ 〔集韻〕蒲光切 ㄆㄤˊ p‘ang^{2} 陽

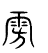
［二］ハウ ヒヤウ 〔集韻〕晡横切 ㄅㄤ pang$^{1\cdot4}$ 庚

［三］ハウ バウ 〔韻會〕蒲浪切 漾


小篆


古文


古文


籀文

［一］❶**あまねし**。あまねく。ゆきわたる。㫄(5－13627)の俗字。古は㫄(5－13624)・旁(5－13634)に作り、籀文は雱(12－42233)に作る。〔正字通〕旁、俗㫄字。〔説文〕㫄、溥也、从レ二、闕、方聲、旁、古文旁、㫄、亦古文旁、雱、籀文。〔説文通訓定聲〕旁、按、从二古文二勹一、象二旁達形一。〔書、太甲上〕旁求二俊彥一。〔禮、聘儀〕孚尹旁達。❷**ひろい**。〔廣雅、釋詁二〕旁、廣也。❸**おほきい**。〔廣雅、釋詁一〕旁、大也。❹**ちかい**。ちかづく。傍(1－948)に通ず。〔説文通訓定聲〕旁、叚借爲レ傍。〔書、武成〕旁二死魄一。〔傳〕旁、近也。❺**かたはら**。わき。〔玉篇〕旁、猶レ側也、非二一方一也。〔漢書、黃霸傳〕食二於道旁一。❻**えだ**。〔莊子、人閒世〕其可二以爲一レ舟者、旁十數。〔釋文〕旁、旁枝也。❼**たすけ**。そへ。榜(6－15241)に通ず。〔説文通訓定聲〕旁、叚借爲レ榜。〔楚辭、九章、惜誦〕曰有二志極一而無レ旁。〔注〕旁、輔也。❽**かたよる**。趽(10－37402)に通ず。〔説文通訓定聲〕旁、叚借爲レ趽。〔荀子、議兵〕旁辟曲私之徒。〔注〕旁、偏頗也。❾**みだりに**。妄(3－6063)に通ず。〔説文通訓定聲〕旁、叚借爲レ妄。〔禮、少儀〕不二旁狎一。〔疏〕旁、猶レ妄也。❿**わかれみち**。〔爾雅、釋宮〕二達謂二之岐旁一。⓫**つくり**。漢字の構成上、多く形聲文字の右側の音符字をいふ。〔林罕、字源偏旁小説序〕有二文下作レ子爲レ學、更旁作レ生爲レ蘇、凡數十百字一、謂二之野書一。［二］❶**草の名**。旁勃(160)を見よ。❷**物のさま**。旁旁(147)を見よ。［三］❶**よる**。つく。そふ。徬(4－10200)に通ず。〔説文通訓定聲〕旁、叚借爲レ徬。〔莊子、齊物論〕旁二日月一。〔釋文〕旁、司馬云、依也。〔逸周書、王會解〕旁二天子一而立二于堂上一。〔注〕旁、謂二差在レ後也。❷**行き交ふ**。まじはる。〔漢書、霍光傳〕使者旁午。〔注〕師古曰、一從一横爲二旁午一、猶レ言二交横一也。［國］**かたがた**。㋑次手に。かねて。がてら。㋺いづれにもせよ。何はともあれ。どのみち。

【旁愛】1 バウアイ あまねく愛する。〔白居易、和二微之一詩、和レ寄二樂天一詩〕旁愛及二弟兄一、中權避二家室一。

【旁委】2 バウヰ ひろくすてる。〔晉書、王戎王衍傳論〕戎則取レ容二於世一、旁委二貨財一、衍則自保二其身一、寧論二宗稷一。

【旁游】3 バウイウ そばであそぶ。道草を食ふ。〔宋史、杜生傳〕性質甚淳厚、不二妄言一、不二敢嬉一、唯間一至レ縣買二鹽酪一、可下數二行跡一以待中其歸上、徑往徑還、未三嘗旁二游一步一也。

【旁溢】4 バウイツ そばに溢れる。〔吳融、沃焦山賦〕渾沌死乾坤始、東西傾川澤委、帝乃慮二海旁溢一、俾二山中峙復孕一、以レ火用銷二其水一。

【旁邑】5 バウイフ そばの邑。近くの村邑。〔史記、孝武帝紀〕濟北王以爲、天子且二封禪一、乃上書獻二泰山及其旁邑一、天子受レ之、更以二他縣一償レ之。〔宋史、朱勔傳〕父沖狡獪有二智數一、家本賤微、庸二於人一、梗悍不レ馴、抵レ罪鞭レ背、去之二旁邑一乞貸。

【旁引】6 バウイン あまねく引き出す。つぶさに考證する。博引。旁搜。〔杜牧、與レ人論レ諫書〕旁引曲釋、亹亹繹繹。

【旁要】8 バウエウ 九章算術の一つ。三角法をいふ。句股。〔周禮、地官、保氏、九數、注〕九數、方田・粟米・差分・少廣・商功・均輸・方程・贏不足・旁要。〔疏〕今九章、以二句股一替二旁要一、則旁要句股之類也。

【旁緣】9 バウエン ❶よる。憑依。〔漢書、食貨志下〕吏用二苛暴一立レ威、旁二緣莽禁一、侵二刻小民一。〔漢書、趙充國傳〕是後羌人旁二緣前言一、抵二冒渡湟水一、郡縣不レ能レ禁。❷あまねく手づるにしあふ。相率ゐて。〔宋史、刑法志一〕太平興國六年、下レ詔曰、諸州大獄長吏不二親決一、胥吏旁緣爲レ姦、逮捕證佐、滋蔓踰レ年、而獄未レ具、自レ今長吏每二五日一一慮二囚情一、得者卽決レ之。〔宋史、趙開傳〕今長吏旁緣爲レ姦、不二時歸一レ貨、以二空券一給二夷人一、使レ待二資次一、夷人怨恨、必生二邊患一。

【旁恩】10 バウオン ひろくゆきわたる恩惠。あまねき恩澤。〔南齊書、皇后傳論〕歲費旁恩、足レ使レ充レ物、事由二私蓄一、無レ損二國儲一。

【旁家】11 バウカ そばの家。〔宋史、兵志五、環慶路、注〕永和砦、旁家一族計六標、強人一千二百五十五、壯馬二百二、爲二四十四隊一。

【旁開】12 バウカイ あまねく開く。〔劉邵、趙都賦〕九衢交錯、三門旁開。〔韓伯庸、幽蘭賦〕嫩葉旁開、浮香外襲。

【旁蟹】13 バウカイ 蟹。螃蟹。〔埤雅〕蟹旁行、故里語謂二之旁蟹一。〔鄭明選、蟹賦〕粵惟旁蟹、厥形瓌詭、二螯如レ傲、八足如レ跪。

【旁駭】14 バウガイ あまねくうごかす。〔陸機、皇太子宴二元圃宣猷堂一詩〕協風旁駭、天晷仰澄。

【旁行】15 バウカウ ❶あまねくゆきわたる。あまねく行きめぐる。方行。〔易、繫辭上〕旁行而不レ流、樂レ天知レ命、故不レ憂。〔姚配中、周易姚氏學〕周而復始、故旁行、旁、溥也。〔漢書、地理志序〕昔在二黃帝作二舟車一、以濟レ不レ通、旁二行天下一。〔注〕師古曰、旁行、謂二四出而行一レ之。❷横書きの文字。〔史記、大宛傳〕安息在二大月氏西一、可二數千里一、其俗土著、耕レ田、田二稻麥一、蒲陶酒、城邑如二大宛一、其屬小大數百城、云云、以レ銀爲レ錢、錢如二其王面一、王死、輒更レ錢效二王面一焉、畫レ革旁行、以爲二書記一。〔注〕集解曰、漢書音義曰、横行爲二書記一、索隱曰、韋昭云、外夷書皆旁行、今南方林邑徒書、皆旁行不二直下一也。❸横に行く。〔唐書、陸羽傳〕幼時、其師教以二旁行書一。〔墨子、經上〕讀二此書一旁行。〔閒詁〕此擧例、下篇讀亦旁行。❹步行の正しくないこと。〔宋玉、登徒子好色賦序〕旁行踽僂。

【旁行書】15′ バウカウショ 横書きの文字。外國の文字。旁行の❷を見よ。

【旁行邪上】16 バウカウジヤジヤウ 横に行きななめにのぼる。系譜を縱横に書きつらねること。〔史記、十二諸侯年表、太史公讀二春秋曆譜諜一、注〕索隱曰、劉杳云、三代系表、旁行邪上、並效二周譜一、譜起二周代一。

【旁行斜上】17 バウカウシヤジヤウ ❶縱横に書きつらねること。〔國朝漢學師承記、賈田祖〕旁行斜上、朱墨爛然。❷pang^{4} hsing^{2} hsieh^{2} shang^{4} 歐文をいふ。

【旁格】18 バウカク あまねく至る。あまねくきはめる。〔南史、齊太祖紀〕昔我祖宗英叡、旁二格幽明一、末葉不レ造、仍世多レ故。

【旁狎】19 バウカフ みだりになれる。〔禮、少儀〕不レ窺レ密、不二旁狎一。〔注〕妄相服習、終或爭訟。

【旁洽】20 バウカフ あまねし。〔魏志、陳留王奐傳〕流風邁化、則旁洽無レ外。〔李逢吉、拜レ相制〕誠明二一貫一、聞望旁洽。

【旁艦】21 バウカン そばの艦船。〔宋史、五行志一下〕紹興十八年、漳浦縣崇照鹽場海岸、連有二巨魚一、高數丈、割二其肉一數百車、剜レ目乃覺、轉レ鬣、而旁艦皆覆。

【旁其】22 バウキ 烏蘗の異名。〔本草、烏蘗〕釋名、旁其、鰟魮、矮樟、時珍曰、烏以レ色名、其葉狀似二鰟魮鯽魚一、故俗呼爲二鰟魮樹一、拾遺作二旁其一、方音訛也、南人亦呼爲二矮樟一、其氣似レ樟也。

【旁期】23 バウキ 旁親のために服する期の喪。〔周禮、春官、司服〕凡凶事服二弁服一、注、其服斬衰齊

衰、疏〕天子諸侯絶㆓旁期㆒、正統之期、猶不㆑降、故兼云㆓齊衰㆒、其正服大功、亦似㆑不㆑降也。〔儀禮經傳通解〕天子諸侯絶㆓旁期㆒、尊同則不㆑降、正統之期、不㆑降㆓于衆子㆒、絶而無㆑服。〔北史、劉炫傳〕吏部尙書牛弘、建議以爲、禮諸侯絶㆓旁期㆒、大夫降㆓一等㆒、今之上柱國、雖㆑不㆑同㆓古諸侯㆒、比㆓大夫㆒可也、官在㆓第二品㆒、宜㆘降㆓傍親㆒一等㆖。

【旁騎】24 バウキ 一方の騎兵。偏騎。〔唐書、南蠻中、南詔傳〕吾能以㆓旁騎㆒略㆓爾樵采㆒、我日出以㆓一部㆒與㆑爾戰。

【旁求】25 バウキウ あまねくもとめる。おちなくさがしたづねる。〔書、太甲上〕旁㆓求俊彦㆒、啓㆓迪後人㆒。〔國語、楚語上〕如㆑是而又使㆓以㆑象夢旁㆓求四方之賢聖㆒。〔後漢書、文苑下、禰衡傳〕旁㆓求四方㆒、以招㆓賢俊㆒。

【旁救】26 バウキウ そばから救ふ。〔晉書、五行志上〕元康中、天下始相傚爲㆓烏杖㆒、以㆓柱掖㆒、杖者扶㆑體之器、烏㆓其頭㆒者、尤便㆑用也、必旁㆓柱掖㆒者、旁救之象也。

【旁及】27 バウキフ あまねくゆきわたる。よくゆきわたる。〔宋史、禮志六〕臘者接也、新故相接、畋獵禽獸、以享㆓百神㆒、報㆓終成之功㆒也、王者因㆑之、上享㆓宗廟㆒、旁及㆓五祀㆒、展㆓其孝心㆒、盡㆑物示㆑恭也。〔宋史、何涉傳〕汎覽㆓博古㆒、上自㆓六經諸子百家㆒、旁及㆓山經地志醫卜之術㆒、無㆑所㆑不㆑學、一過㆑目不㆓復再讀㆒、而終身不㆑忘。

【旁鄕】28 バウキヤウ 近傍のむらざと。旁邑。〔史記、龜策傳〕邦福重寶、聞㆓于旁鄕㆒。

【旁境】29 バウキヤウ 邊土の國境。〔宋史、王擧正傳〕以㆓資政殿學士、尙書禮部侍郎㆒、知㆓許州㆒、光化軍叛、卒轉㆓寇旁境㆒。〔宋史、李衡傳〕知㆓溧陽縣㆒、專以㆓誠意㆒化㆑民、盜蝟㆓起旁境㆒、而溧陽靖晏自如。

【旁極】30 バウキヨク 果てまでもゆきわたる。あまねくきはめる。〔左思、魏都賦〕爾其疆域、則旁㆓極齊秦㆒、結㆓湊冀道㆒。〔張淵、觀象賦〕爾乃縱㆑目遠覽、旁極㆓四維㆒、北鑒㆓機衡㆒、南覩㆓太微㆒。

【旁近】31 バウキン 近所。そば。傍近。〔史記、平準書〕卒牽掌者、關中不㆑足、乃調㆓旁近郡㆒。

【旁臥】32 バウグワ かたはらにふす。〔王襃、僮約〕入㆑市不㆑得㆓夷蹲旁臥、惡言醜罵㆒。

【旁光】33 バウクワウ 膀胱（9－29748··1）に同じ。〔淮南子、說林訓〕旁光不㆑升㆑俎。〔注〕旁光、胞也、俎豆之實、唯肩髀而脇肋不㆑得㆑升也。

【旁皇】34 バウクワウ ㊀さまよふ。たちもとほる。徘徊。彷徨。〔史記、禮書〕旁皇周浹、曲直得㆓其序㆒、聖人也。〔注〕索隱曰、旁皇、猶㆓徘徊㆒也。㊁あらい風。強い風。颮風。〔莊子、天運、彷徨、釋文〕司馬本作㆓旁皇㆒云、旁皇、颮風也。

【旁遑】35 バウクワウ あはただしくたちまはる。尊大に構へないこと。〔南齊書、王敬則傳〕海陵王立進㆓位太尉㆒、敬則名位雖㆑達、不㆘以㆓富貴㆒自遇㆖、危拱旁遑、略不㆓矜踞㆒、接㆓士庶㆒、皆吳語、而殷勤周悉。

【旁貫】36 バウクワン あまねく貫通する。〔後漢書、班固傳上〕探㆓撰前紀㆒、綴㆓集舊聞㆒、以爲㆓漢書㆒、起㆓元高祖㆒、終㆓於孝平王莽之誅㆒、十有二世、二百三十年、綜㆓其行事㆒、旁㆓貫五經㆒、上下洽通、爲㆓春秋考紀表志傳、凡百篇㆒。〔晉書、司馬彪傳〕彪討㆓論衆書㆒、綴㆓其所㆑聞、起㆓于世祖㆒、終㆓于孝獻㆒、編年二百、錄世十二、通㆓綜上下㆒、旁㆓貫庶事㆒、爲㆓紀志傳凡八十篇㆒、號曰㆓續漢書㆒。

【旁觀】37 バウクワン ㊀あまねくみる。〔史記、三皇紀〕旁觀㆔鳥獸之文與㆓地之宜㆒、近取㆓諸身㆒、遠取㆓諸物㆒。㊁わきからみる。はたで見物する。手だししない。關係しない。傍觀（1－948··12）に同じ。〔劉克莊、柬陳寺丞築城詩〕斷無㆔餘力謀㆓蒸土㆒、頗有㆔旁觀哂㆓眞薪㆒。

【旁觀者審當局者迷】38 バウクワンシヤツマビラカニシテタウキヨクシヤマヨフ わきから見てゐるものにはよく狀勢がわかり、そのことに當つてゐるものは迷ふ。〔通俗編、政治、旁觀者審當局者迷〕鹽鐵論、從㆑旁議者易㆑是、其當㆑局則亂、唐書元行沖傳、當局稱㆑迷、旁觀必審。

【旁訓】39 バウクン 經文の傍らに小注するもの。小注。〔援鶉堂集〕。

【旁郡】40 バウグン 近傍の郡。〔漢書、黥布傳〕陰令㆔人部㆓聚兵㆒、候㆓伺旁郡㆒。〔唐書、竇建德傳〕鳴㆑鼓建㆑旗、踰㆓太行㆒入㆓上黨㆒、傳㆓檄旁郡㆒。〔張耒、寓陳雜詩〕故人在㆓旁郡㆒、書信不㆑能㆑屢。

【旁系】41 バウケイ わかれたちすぢ。直系から分れ出た系統。傍系。

【旁徑】42 バウケイ わきみち。傍道。〔晉書、阮籍傳論〕通㆓其旁徑㆒、必雕㆓風俗㆒。

【旁啓】43 バウケイ あまねくひらく。〔歐陽詹、新都堂記〕陽軒遐引、陰室旁啓。〔韋肇、沙堤賦〕洞㆓萬戶㆒兮旁啓、紛㆓九門㆒兮爭赴。

【旁稽】44 バウケイ あまねくかんがへる。〔宋史、呂祖謙傳〕祖謙學以㆓關洛㆒爲㆑宗、而旁稽㆓載籍㆒、不㆑見㆓涯涘㆒、心平氣和、不㆑立㆓崖異㆒、一時英偉卓犖之士、皆歸㆑心焉。

【旁繼】45 バウケイ わかれ出た血統。旁系。傍系。〔唐書、鬱林王子褘傳〕開元時、亦以㆓旁繼㆒徙㆓信安郡王㆒、累爲㆓州刺史㆒、治嚴辨。

【旁睨】46 バウゲイ そばから横目でにらむ。〔齊東野語、五〕趙南仲嘗過㆓靈壁縣㆒、道旁奇石林立、一峰巍然嶒崪秀潤、南仲立㆑馬旁睨、撫玩久㆑之。〔王准、瑤臺月賦〕九成由㆑其直上、八表可㆓以旁睨㆒。〔盧肇、湖南觀㆓雙柘枝舞㆒賦〕旁睨兮如㆑慵、俛視兮如㆑引。

【旁激】47 バウゲキ 流がはげしく怒り狂ふ。〔宋史、河渠志序〕呑㆓納小水㆒、以㆑百數、勢益雄放、無㆔崇山巨磯、以防㆓閑之㆒、旁激奔潰、不㆑遵㆓禹蹟㆒。

【旁擊】48 バウゲキ 橫に薙ぐ。〔墨子、節用中〕旁擊而不㆑折。〔宋史、吳玠傳〕敵稍却則以㆓奇兵㆒旁擊。

【旁決】49 バウケツ 水が河流から溢れ出ること。〔六部成語、工部、旁決、注解〕水橫流而溢也。

【旁孽】50 バウゲツ わきの枝。轉じて、妾腹の子。庶子。〔資治通鑑、宋紀〕（明帝、泰始七年）夫危亡之君、未㆜嘗不㆛先弃㆓本枝㆒、嫗㆚煦旁孽㆙。〔注〕旁孽、旁枝之庶子也。

【旁脅】51 バウケフ おびやかす。〔史記、主父偃傳〕今外郡之地、或幾㆓千里㆒、列城數十、形束壤制、旁㆓脅諸侯㆒、非㆓公室之利㆒也。

【旁縣】52 バウケン 近傍の縣。〔後漢書、光武帝紀上〕信都太守任光、開㆑門出迎、世祖因發㆓旁縣㆒、得㆓四千人㆒、先擊㆓堂陽貰縣㆒、皆降㆑之。〔馬光、交阯獻㆓奇獸㆒賦〕降㆓軺車之使㆒、發㆓旁縣之民㆒、除㆓塗于林嶺之險㆒、引㆓舟于江淮之濱㆒。〔宋史、洪遵傳〕楚地旱、旁縣振贍者、慮㆘不㆓早施置㆒、失㆗後先㆖。〔劉克莊、開壕行〕傳聞又起㆓旁縣夫㆒、鑿教㆓四面皆成㆑水。

【旁言】53 バウゲン かたはらの人のことば。〔管子、白心〕無㆘以㆓旁言㆒爲㆗事成㆖。〔纂詁〕無㆘以㆓㫄人言㆑成爲㆗事成㆖。

【旁戶】54 バウコ 他戶の下に隸屬するもの。〔宋史、劉師道傳〕川陝豪民多㆓旁戶㆒、以㆓小民役㆑屬者㆒爲㆓佃客㆒、使㆔之如㆓奴隸㆒、家或數十戶、凡租調庸斂、悉佃客承㆑之。

【旁跨】55 pʻang^2 kʻua^4 馬の鞍に腰掛ける。婦人などの橫乘りをいふ。

【旁午】56 バウゴ ㊀入り交る。ゆきかふ。往來の繁多なさま。〔漢書、霍光傳〕受㆑璽以來二十七日、使者旁午。〔注〕如淳曰、旁午、分布也、師古曰、一從一橫爲㆓旁午㆒、猶㆑言㆓交橫㆒也。〔柳宗元、招㆓海賈㆒文〕垂㆑涎閃㆑舌兮、揮霍旁午。〔皮日休、桃花賦〕或幽柔而旁午、或擣冶而倒披。〔五代史、唐太祖家人、莊宗皇后劉氏傳〕是時皇太后及皇后、交㆓通藩鎭㆒、太后稱㆓誥令㆒、皇后稱㆓敎命㆒、兩宮使者、旁㆓午於道㆒。㊁事の煩雜なこと。〔黃庭經〕至道不㆑煩無㆓旁午㆒。〔剪燈餘話、秋夕訪㆓琵琶亭㆒記〕旁午紛紜。〔故事成語考、人事〕曰㆓倥傯㆒、曰㆓旁午㆒、皆言㆓人事之紛紜㆒。㊂pang^1 wu^3 小晝時。正午に近い時刻。

【旁午搆扇】57 バウゴコウセン あちこちから色々と罪をつけられること。〔柳宗元、寄㆓許京兆孟容㆒書〕以㆑此大罪之外、詆訶萬端、旁午搆扇、便爲㆓敵讎㆒。

【旁午走急】58 バウゴソウキフ あちらこちらに走り赴く。〔新書、匈奴〕旁午走急、數十萬之衆、積㆓於北方㆒、天下安得㆑食而餽㆑之。

【旁忤】59 バウゴ みだりにさからふ。〔唐書、李絳傳〕陛下憐㆓臣愚㆒、處㆓之腹心之地㆒、而惜㆑身不㆑言、乃臣負㆓陛下㆒、若上犯㆓聖顏㆒、旁忤㆓貴倖㆒、因而獲㆑罪、乃陛下負㆑臣。

【旁迕】60 バウゴ 競ひ出てたがひに相さからふ。〔王襃、洞簫賦〕氣旁迕以飛射兮、馳散渙以遝律。〔注〕善曰、旁迕、言㆓氣競旁出、遞相逆迕㆒也。

【旁谷】61 バウコク そばの谷。近くの谷間。〔史記、韓長孺傳〕單于穿㆑塞、將㆓十餘萬騎㆒、入㆓武州塞㆒、當㆓是時㆒、漢伏㆓兵車騎材官三十餘萬㆒、匿㆓馬邑旁谷

中二。〔宋史、李孝基傳〕閬中江水、齧レ城幾レ沒、郡吏多引避、孝基率二其下一、決レ水歸二旁谷一、城賴以全。

【旁國】62 バウコク 近傍の國。〔漢書、馮奉世傳〕莎車與二旁國一共攻二殺漢所レ置莎車王萬年一。〔南史、扶南國傳〕范蔓勇健有二權略一、復以二兵威一攻伐、旁國咸服二屬之一、自號二扶南大王一。〔北史、西域傳序〕始琬等使還二京師一、具言下凡所二經見及傳聞一旁國上云。

【旁佐】63 バウサ そばからたすける。傍にゐてたすける。〔馬融、廣成頌〕驍騎旁佐、輕車橫厲。

【旁坐】64 バウザ ㊀罪の親族に連坐するものをいふ。〔唐書、蔣乂傳〕故罪止二錡及子息一、無二旁坐者一。㊁pʻang^2 tsuo^4 そばに坐る。

【旁采】65 バウサイ あまねくとり用ひる。多方面に亙つて廣く採用する。又、側から採る。〔五代史、十國世家年譜序〕旁采二閩楚南漢諸國之書一。〔宋史、趙普傳〕伏望陛下旁采二群議一、俯察二物情一。

【旁妻】66 バウサイ 妾。側室。傍妻。〔宋史、劉昌言傳〕委二母妻鄉里一十餘年、不二迎侍一、別娶二旁妻一。〔稱謂錄、妾、旁妻〕漢書元后傳、王禁好二酒色一多取二旁妻一。

【旁殺】67 バウサイ 旁親の親疏遠近によつて服喪の期間を漸減すること。世叔の類をいふ。〔禮、喪服小記〕親親以レ三爲レ五、以レ五爲レ九、上殺下殺、旁殺而親畢矣。〔疏〕旁殺者、世叔之屬是也。〔孫希旦集解〕旁殺者、謂下由レ己而殺二己之昆弟一、由二父祖一而殺二父祖之昆弟一、由二子孫一而殺中子孫之昆弟上也。

【旁作】68 バウサク あまねくなす。〔書、洛誥〕惟公德、明光二于上下一、勤施二于四方一、旁作二穆穆一、迓レ衡、不レ迷二文武勤教一。〔蔡傳〕旁、無二方所一也。〔宋書、樂志二一、正德舞歌〕文武旁作、慶流二四表一。

【旁贊】69 バウサン そばからほめる。〔宋史、柴禹錫傳〕上因訪二琪及禹錫一曰、延範何如人、延範與二琪妻一爲二疎屬一、甚言二其忠勤一、禹錫亦旁二贊之一、上意二其交通滋一、不レ悅。

【旁至】70 バウシ あまねく行きわたる。〔書、益稷〕帝光二天之下一、至二于海隅蒼生一、〔疏〕又言當下擇レ人充二滿大天之下一、旁中至四海之隅、蒼蒼然生二草木一之處上。

【旁枝】71 バウシ わきから出たえだ。〔莊子、駢拇〕此皆多駢旁枝之道、非二天下之至正一也。〔何遜、贈二族人稜陵兄弟一詩〕旁枝實紛亂、領袖寄二親姻一。〔姚合、送レ別二友人一詩〕泉落二林梢一多二碎滴一、松生二石底一足二旁枝一。

【旁枝旁葉的】72 pʻang^2 chih^1 pʻang^2 yeh^1 tê 餘計な。枝葉の。

【旁施】73 バウシ あまねくほどこす。〔白虎通、聖人〕朕言惠可二底行一、又旁施、象刑維明。〔魏志、武帝紀〕旁施二勤教一、恤二愼刑獄一、吏無二苛政一、民無二懷慝一。〔張華、晉宗親會歌〕降禮崇二親戚一、旁施協二族姻一。

【旁視】74 バウシ わきみをする。傍視。〔論語、鄉黨、車中不二內顧一、集解〕包曰、車中不二內顧一者、前視不レ過二衡阨一、旁視不レ過二輢轂一。〔五代史、司天考〕天勢之昇降度、仰視旁視之分數。〔宋史、曹彬傳〕公府讌集、端簡終日、未二嘗旁視一。

【旁資】75 バウシ ㊀あまねくとる。〔隋書、李德林傳〕上稟二睿后一、旁資二羣傑一、牧二商鄙賤一、屠二釣幽微一、化爲二侯王一、皆由レ此也。㊁ひろくたすける。〔唐書、權德輿傳〕江淮田一善熟、則旁資二數道一。

【旁諮】76 バウシ あまねく人々に問ふ。〔曾鞏、送二江任一序〕旁諮久察。

【旁寺】77 バウジ そばの寺。近くの寺。〔宋史、吳師禮傳〕兄師仁、篤學厲志、不レ事二科擧一、喪レ親廬二墓下一、日倩二旁寺一僧造二飯一鉢一、以充レ饑、不下復置二庖爨一及蓄中僮僕上。

【旁侍】78 バウジ そばに侍る。近侍。〔晉書、食貨志〕李傕郭汜等、追敗二乘輿於曹陽一、夜潛渡レ河、六宮皆步、初出二營欄一、后手持二縑數匹一、董承使三符節令孫徽以レ刃脅二奪之一、殺二旁侍者一、血濺二后服一。

【旁州】79 バウシウ 近傍のくに。〔唐書、孫儒傳〕有二騎七千一、因三略二定旁州一、不レ淹レ旬兵數萬。

【旁收】80 バウシウ あまねく取り用ひる。〔晉書、孫惠傳〕宣二喩青徐一、啓二示羣王一、旁收二雄俊一、廣延二秀傑一、糾二合攜貳一、明二其賞信一。

【旁室】81 バウシツ わきに附屬して設けた部屋。傍室。〔宋史、高麗傳〕又以三父母垂レ老、在二海外一、旦暮思念、恨二祿不レ及、令三工圖二其像一、置二正寢一、與二妻史氏一、居二旁室一、晨夕定省上レ食、未二嘗少懈一。

【旁集】82 バウシフ 四方から集る。〔張載、濛汜池賦〕幽瀆旁集、潛流獨注、仰承二河漢一、吐二納雲霧一。

【旁緝】83 バウシフ あまねくあつめる。〔顏延之、爲二皇太子一侍レ宴餞二衡陽南平二王一應詔詩〕旁緝二民紀一、仰緯二天經一。

【旁車】84 バウシヤ 車にそふ。〔史記、商君傳〕持レ矛而操二闟戟一者、旁レ車而趨。

【旁舍】85 バウシヤ かたはらの小屋。〔史記、高祖紀〕高祖適從二旁舍一來。〔杜甫、夏日李公見レ訪詩〕旁舍頗淳樸、所レ願亦易レ求。〔秦觀、田居詩〕孤榜旁二橫塘一、暄春起二旁舍一。

【旁射】86 バウシヤ 光などがあまねくさす。あまねく照らす。〔王起、鑽レ燧改レ火賦〕影旁射而曜レ威、氣上騰而作レ苦。〔韓愈、明水賦〕持レ鑑而精氣旁射、照レ月而陰靈潛下。〔王履貞、冰池照二寒月一賦〕水采旁射、蟾輝下映。

【旁省】87 バウシヤウ かたはらの役所。〔傳綷、雜曲〕此殿笑語長相共、旁省歡娛不二復同一。

【旁聚】88 バウシユウ あまねくあつめる。〔史記、五帝紀〕讙兜曰、共工旁聚布レ功、可レ用。〔逸周書、大武解〕四聚、一、酌レ之以レ仁、二、懷レ之以レ樂、三、旁聚二封人一、四、設レ圍以レ信。

【旁出】89 バウシユツ ㊀わきから出る。〔史記、五帝紀〕後瞽叟亦使二舜穿レ井、舜穿レ井、爲二匿空一旁出。〔注〕正義曰、言下舜潛匿穿レ孔、旁從二他井一而出上也。〔漢書、終軍傳〕又得二奇木一、其枝旁出。㊁多く出る。〔參同契〕水旱相伐、風雨不レ節、蝗蟲湧沸、羣異旁出。㊂ひろくゆきわたる。〔梁昭明太子、文選序〕事美二一時一、語流二千載一、槩見二墳籍一、旁出二子史一。

【旁潤】90 バウジユン あまねくうるほふ。又、あまねくうるほす。〔潘尼、後園頌〕和氣四充、惠澤旁潤。

【旁處】91 pʻang^2 chʻu^4 そば。傍。近處。

【旁訟】92 バウシヨウ そばから訟へる。〔唐書、李磎傳〕磎上言因レ事告レ事、旁二訟他人一者、咸通詔語也。

【旁竦】93 バウシヨウ そばにそびえたつ。〔周鍼、登二吳獄一賦〕嵽嵲旁竦、岧嶤上干、碧草春含、淸風夏寒。

【旁燭】94 バウシヨク あまねくてらす。〔漢書、揚雄傳下〕明哲煌煌、旁燭無レ疆。〔郭璞、山海經圖贊、西山經、榣木〕重根增レ駕、流光旁燭。

【旁矚】95 バウシヨク あまねくみる。〔蘇軾、延和殿奏二新樂一賦〕延レ英旁矚、念二故老之不レ來。

【旁進】96 バウシン あまねく至りとどく。盡く通達する。〔朱熹、中庸章句序〕而凡諸說之同異得失、亦得三以曲暢旁進、而各極二其趣一。

【旁震】97 バウシン 四方にひびく。〔張衡、東京賦〕撞二洪鐘一、伐二靈鼓一、旁二震八鄙一。〔注〕綜曰、旁、四方也。

【旁臻】98 バウシン あまねくいたる。〔李白、明堂賦〕神休旁臻、瑞物咸薦。

【旁親】99 バウシン 傍系の親族。〔禮、喪服小記、其餘以レ麻終二月數一者、注〕其餘、謂二旁親一也。〔晉書、河閒王洪傳〕俱承二一國不絕之統義一、不レ得下替二其本宗一、而先中後旁親上。〔宋書、禮志二二〕禮、天子止降二旁親一、外舅緦麻、本在二服例一、但衰絰不レ可三以臨二朝饗一、故有二公除之議一。〔隋書、禮儀志四〕禮、世子絕二旁親一、世子冠二于阼一。

【旁人】100 バウジン かたはらの人。傍人。他人。第三者。〔鮑照、代別鶴操〕心自有レ所レ存、旁人那得レ知。〔梁簡文帝、妾薄命〕妾心徒自苦、傍人會見レ嗤。〔樂府詩集、黃淡思歌辭〕與レ郎相知時、但恐二旁人聞一。〔江總、雜曲〕但願私情賜二斜領一、不レ願傍人相比並。〔魏收、看二柳上鵲一詩〕何獨離妻意、傍人但未レ聽。〔李白、襄陽歌〕旁人借問笑何事、笑殺山翁醉似レ泥。〔韋應物、行路難〕旁人見環環可レ憐、不レ知中有二長恨端一。

【旁訊】101 バウジン あまねくとひ求める。傍訊。〔陸機、文賦〕其始也、皆收視反聽、耽思傍訊。〔注〕濟曰、訊、求也。

【旁生】102 バウセイ ㊀あまねく生ずる。萬物の生成すること。〔宋書、樂志二二〕雲覆雨施、德洽無レ疆、旁生穆穆、仁化翔。㊁かたはらに生える。〔宋史、五行志二上、火〕（明道）五年八月、洪州章江禪院堂柱、芝草生、高一尺三寸、葉二十一層、色白黃、有二紫暈一、旁生二小芝一、葉九層、上有レ氣如レ煙。㊂佛 バウシヤウ 畜生をいふ。傍生（**1**－**948**··33）の㊁を見よ。

【旁生魄】103 バウセイハク 陰曆十七日をいふ。既死魄（**5**－**13724**··27）・旁死魄（175）を見よ。〔逸周書、世俘解〕維一月丙辰旁生魄。〔注〕旁、近也、生魄、望也。

【旁請】104（バウセイ）そばからねがふ。〔晉書、刑法志〕出法賞罰、唯人主專㆑之、非㆓奉職之臣所㆒㆑得㆓擬議㆒、然後情求旁請之跡絕。

【旁濟】105（バウセイ）あまねくすくふ。〔張華、晉四廂樂歌、食擧東西廂樂歌〕克開㆓洪緖㆒、誕篤㆓天慶㆒、旁濟㆓彝倫㆒、仰齊㆓七政㆒。

【旁招】106（バウセウ）四方からまねく。あまねくまねく。〔書、說命下〕旁招㆓俊乂㆒、列㆓于庶位㆒。〔周禮、春官、男巫〕旁招以㆑茅。

【旁照】107（バウセウ）あまねく照らす。〔南齊書、豫章文獻王嶷傳〕丞相獨秀㆓生民㆒、旁照㆓日月㆒。〔南方草木狀〕刺桐其木爲㆑材、三月三時、布葉繁密、後有㆑花、赤色、間生㆓葉間㆒、旁照㆓他物㆒、皆朱殷。〔趙蕃、隙塵賦〕亭亭旁照、冪冪斜飛。

【旁脊】108（バウセキ）南蠻八種族の一つ。〔禮、王制〕南方曰㆑蠻、雕㆑題交㆑趾。〔疏〕南方曰㆑蠻者、風俗通云、君臣同㆑川而浴、極爲㆓簡慢㆒、蠻者慢也、其類有㆑八、李巡注㆓爾雅㆒云、一曰天竺、二曰咳首、三曰僬僥、四曰跂踵、五曰穿胸、六曰儋耳、七曰狗軹、八曰旁脊。

【旁說】109（バウセツ）世間に傳はつてゐる說。傳聞の說。〔北史、齊文宣紀〕或親奉㆓音旨㆒、或承㆓傳旁說㆒、凡可㆑載㆓之文籍㆒、悉條封上。

【旁浹】110（バウセフ）あまねくうるほふ。あまねくゆきわたる。〔李東陽、奉㆑詔育㆑材賦〕禮門廓開、德化旁浹。

【旁穿】111（バウセン）あまねく通ずる。〔陸龜蒙、太湖石詩〕旁穿參㆓洞穴㆒、內竅均㆓環釧㆒。〔楊弘貞、溜穿㆑石賦〕始則泠泠、觸㆓泓澄㆒而或躍、旣而決決、窅㆓洞達㆒而旁穿。

【旁瞻】112（バウセン）そばからみる。横からみる。横をみる。〔元稹、松鶴詩〕俯瞰㆓九江水㆒、旁瞻㆓萬里壑㆒。

【旁宗】113（バウソウ）傍系の宗族。〔北史、邢巒傳〕族五世祖嘏石勒頻徵不㆑至、嘏無㆑子、巒高祖、蓋自㆓旁宗㆒入㆑後。

【旁搜】114（バウソウ）四方をあまねくさがす。あちこちと搜す。〔韓愈、進學解〕尋㆓墜緖之茫茫㆒、獨旁搜而遠紹。

【旁綜】115（バウソウ）あまねくすべあつめる。あまねくすべくくる。傍綜。〔晉書、虞喜傳〕加以㆓旁綜廣深、博聞彊識㆒。

【旁仄】116（バウソク）わき。そば。かたはら。旁側に同じ。仄は側の古字。〔漢書、鮑宣傳〕罷㆓退外親及旁仄素餐之人㆒。

【旁側】117（バウソク）わき。そば。かたはら。近邊。又、そば近く侍る者。近習。近侍。〔漢書、元后傳〕莽云云、又內媚㆓事旁側長御以下㆒、賂遺以㆓千萬數㆒。〔春秋繁露、仁義法〕危者愛及㆓旁側㆒、亡者愛及㆓獨身㆒。〔論衡、變虛〕魚長一尺、動㆓於水中㆒、振㆓旁側之水㆒、不㆑過㆓數尺㆒。

【旁屬】118（バウゾク）傍系の親屬。〔宋史、兵志五〕自㆓西夏不㆑臣、種落叛散、分㆓寓南北㆒、爲㆓首領㆒者、父死子繼、兄死弟襲、家無㆓正親㆒、則又推㆓其旁屬之強者㆒、以爲㆓族首㆒。

【旁尊】119（バウソン）近い親戚をいふ。㊀昆弟の子。〔儀禮、喪服傳〕然側昆弟之子何以亦期也、旁尊也、不㆑足㆓以加㆑尊焉、故報㆑之也。㊁伯叔父。傍尊。〔宋書、禮志四〕晉景帝之於㆓世祖㆒、肅祖之於㆓孝武㆒、皆傍尊也。

【旁貸】120 p'ang^2 tai^4 罪や責任を他人に轉嫁すること。

【旁唐】121（バウタウ）㊀際限なくひろがりはびこる。磅唐。〔司馬相如、上林賦〕珉玉旁唐。〔注〕善曰、郭璞曰、旁唐、言㆓盤礴㆒也。〔馬融、長笛賦〕酆琅磊落、駢田旁唐。〔注〕善曰、磅唐、廣大盤礴也。㊁玉の名。〔漢書、司馬相如傳上〕珉玉旁唐。〔注〕師古曰、旁唐、文石也、唐字本作㆑碭。〔司馬相如、上林賦、注〕濟曰、珉玉旁唐、皆玉名。

【旁道】122（バウダウ）わきみち。〔漢書、鮑宣傳、以㆑令行㆓馳道中㆒、注〕如淳曰、令㆓諸使有㆑制、得㆑行㆓馳道中㆒者、行㆓旁道㆒、無㆑得㆑行㆓中央三丈㆒也。

【旁磔】123（バウタク）儺祭の一種。神に供へる牲を四方の門にはりつけて陰氣をはらひ除くこと。〔禮、月令〕季冬之月、命㆓有司㆒大難旁磔。〔注〕旁㆓磔於四方之門㆒、磔、禳也。〔疏〕旁磔者、旁謂㆓四方之門㆒、皆披㆓磔其牲㆒、以禳㆓除陰氣㆒。

【旁澤】124（バウタク）そばの澤。近くの沼澤。〔唐書、竇建德傳〕隋右翊衞將軍薛世雄、督㆓兵三萬㆒討㆑之、屯㆓河間七里井㆒、建德以㆓勁兵㆒伏㆓旁澤中㆒、悉拔㆓諸城㆒僞遁。

【旁達】125（バウタツ）あまねく達する。四方に行きわたる。〔禮、聘義〕孚尹旁達信也。〔疏〕旁者、四面之謂也、達者、通顯之名也。〔史記、秦始皇紀〕威燀旁達、莫㆑不㆓賓服㆒。

【旁地】126（バウチ）そばの土地。〔五代史、四夷附錄〕距㆓幽州㆒北七百里有㆓楡關㆒、東臨㆑海、北有㆓兔耳・覆舟山㆒、山皆斗絕、云云、狹僅通㆑車、其旁地可㆓耕植㆒。

【旁紐】127（バウチウ）㊀字音が同じく雙聲で、韻を同じくしないものに、他字をかりて轉展聯屬するのをいふ。正紐（**6－16255‥322**）の㊀・同紐（**2－3294‥287**）を見よ。〔佩觿〕敦厚之爲㆓敦弓㆒、書卷之爲㆓龍卷㆒、又依㆓旁紐㆒。〔神珙、四聲五音九弄反紐圖序〕旁紐者、皆是雙聲、正在㆓一紐之中㆒、旁㆓出四聲之外㆒、傍正之目、自㆑此而分㆓清濁㆒也。㊁詩の八病の一つ。八病（**2－1450‥487**）の㊀を見よ。〔唐音癸籤〕詩家論㆓聲病㆒者、亦用㆓此說㆒、如㆘十字中已用㆓田字㆒、不㆖㆑得㆔更著㆓寅延字㆒。

【旁暢】128（バウチヤウ）あまねくのびる。〔史記、秦始皇紀〕武威旁暢、振㆓動四極㆒、禽㆓滅六王㆒。

【旁聽】129（バウチヤウ）そばできく。傍聽（**1－948‥44**）に「同じ。

【旁注】130（バウチユウ）㊀本文の側に書入れする。又、其の注釋文。旁註。傍注。〔東觀餘論〕本行旁注、故字差小。㊁あまねくそそぐ。又、傍に注ぎ流れる。〔潘尼、東武舘賦〕潛流旁注、飛渠脉散。〔邢邵、景明寺碑〕香雨旁注、甘露上懸。

【旁註】131（バウチユウ）旁注の㊀に同じ。

【旁通】132（バウツウ）㊀つぶさに盡す。あまねく通ずる。〔易、乾〕六爻發揮、旁㆓通情㆒也。〔周易虞氏義〕當㆓爻交錯㆒、謂㆓之發揮㆒、全卦對易、謂㆓之旁通㆒。〔朱子本義〕旁通、猶㆑言㆓曲盡㆒。〔周易姚氏學〕旁、溥也、往來不㆑窮、謂㆓之通㆒。〔管子、宙合〕不㆑官㆓于物㆒而旁㆓通于道㆒。〔法言、問明〕問㆑行、曰、旁㆓通厥德㆒。〔注〕動靜不㆑能㆑由㆓一塗㆒、由㆓一塗㆒不㆑可㆔以應㆓萬變㆒、應㆓萬變㆒而不㆑失㆓其正㆒者、惟旁通乎。〔宋書、樂志二〕文教旁通、篤以㆓淳素㆒。㊁蒺蔾の異名。〔本草、蒺蔾〕釋名、茨、旁通、屈人、止行、休羽、升推。

【旁眺】133（バウテウ）㊀あまねくながめる。〔魏志、武帝紀〕君龍驤虎視、旁眺㆓八維㆒。〔周朗、與㆓主簿羊生㆒書〕敬觀㆓邪鄲㆒、肅尋㆓伊鄗㆒、旁眺㆓燕隴㆒、邪履㆓遼衞㆒。㊁傍にながめる。〔潘岳、懷舊賦〕前瞻㆓太室㆒、旁眺㆓嵩丘㆒。〔謝朓、和㆓蕭中庶直石頭㆒詩〕九河亘㆓積岨㆒、三嵕鬱旁眺。〔謝朓。遊山詩〕旁眺㆓鬱篻簩㆒、還望㆓深柟㮍㆒。

【旁朝】134（バウテウ）小國が大國に朝すること。諸侯が天子に朝するのを正朝といふに對していふ。〔公羊、僖、七、夏、小邾婁子來朝、注〕至㆑是所㆔以進㆓稱爵㆒者、時附㆓從霸者㆒朝㆓天子㆒、旁朝罷行㆑進、齊桓公白㆓天子㆒進㆑之、固因㆓其德禮著㆒、其能以㆑爵通㆒。〔疏〕今朝㆑魯而謂㆓之旁朝㆒者、正以㆘諸侯之法、五年一朝㆓天子㆒、但是常事㆖故不㆑書㆑之、欲㆑對㆔朝㆑王爲㆓正朝㆒、故謂㆓之旁朝㆒。

【旁嘲】135（バウテウ）とほまはしにさとす。諷諭の意。〔桃花扇、投轅〕能㆓直諫㆒、會㆓旁嘲㆒。

【旁的】136（バウテキ）他の。外の。

【旁剔】137（バウテキ）驚き恐れる。剔は惕に通ず。〔潘岳、射雉賦〕亦有㆑目不㆑步㆑體、邪眺旁剔、靡㆑聞而驚、無㆑見自鷩。〔注〕爰曰、邪眺旁剔、視瞻不㆑正、常驚惕也、善曰、剔、與㆑惕古字通。

【旁跌】138（バウテツ）横につきでること。〔史記、高祖紀、北有㆓勃海之利㆒、注〕索隱曰、崔浩云、勃、旁跌也、旁跌出者、横在㆓濟北㆒、故齊都賦云、海旁出爲㆑勃、名曰㆓渤海郡㆒。

【旁疊】139（バウデフ）合せてかさねとる。〔李白、大獵賦〕金鏃一發、旁疊㆓四五㆒。

【旁轉】140（バウテン）あまねくめぐる。ひろく轉ずる。〔晉書、天文志上〕周髀家云、天員如㆓張蓋㆒、地方如㆓棊局㆒、天旁轉如㆓推㆑磨而左行㆒、日月右行、隨㆑天左轉、故日月實東行、而天牽㆑之以西沒、譬㆔之於蟻行㆓磨石之上㆒、磨左旋而蟻右去、磨疾而蟻遲、故不㆑得㆑不㆓隨㆑磨以左迴㆒焉。〔任公叔、通天臺賦〕白日旁轉、青雲上浮。

【旁覩】141（バウト）あまねくみる。ひろくみる。〔沈約、郊居賦〕開㆓閤室㆒以遠臨、闢㆓高軒㆒而旁覩。

【旁洞】142（バウドウ）そばの洞穴。〔張祜、遊㆓天台山㆒詩〕旁洞窟㆓神仙㆒、中巖宅㆓龍虎㆒。

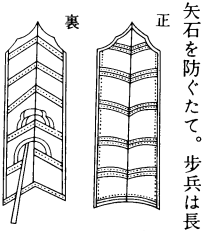
【旁囊】143（バウナウ）古、印章などを入れて腰に佩びたふくろ。又、綬囊といふ。〔晉書、輿服志〕漢世著㆓鞶囊㆒者、側在㆓腰間㆒、或謂㆓之旁囊㆒、或謂㆓之綬

囊一。〔隋書、禮儀志七〕班固與レ弟書、遺二仲升獸頭旁囊一、金錯鉤也、古佩レ印、皆貯懸レ之、故有二囊稱一、或帶二于旁一、故班氏謂爲二旁囊一、綬、印鈕也。

【旁入】144 バウニフ ❶大いに入る。〔韓非子、顯學〕今夫與レ人相善也、無二豐年旁入之利一、而獨以完給者、非レ力則儉也。❷そばから入る。〔管子、禁藏〕布帛麻絲、旁入奇利、未レ在二其中一也。

【旁排】145 バウハイ 楯。旁牌。〔後漢書、袁紹傳〕蒙レ楯而行、〔注〕楯、今之旁排也。〔宋史、儀衞志六〕盾、旁排也。

【旁牌】146 バウハイ 兵刃矢石を防ぐたて。步兵は長形を用ひて全身を蔽ひ、騎兵は圓形を用ひて左臂に著ける。楯。標牌。又、旁排、彭排に作る。傍牌。〔宋史、兵志十一〕康定元年、詔二陝西一製二柳木旁牌一。



步兵旁牌（武備志）

【旁旁】147 バウバウ ❶馬の馳驅してやまないさま。〔詩、鄭風、淸人〕駟介旁旁。〔釋文〕旁旁、彊一也。〔疏〕北山傳云、旁旁然不レ得レ已、則此言旁旁、亦爲二不レ得レ已之義一。〔集傳〕旁旁、馳驅不レ息之貌。❷さかんなさま。傍傍。〔廣雅、釋訓〕旁旁、盛也。

【旁魄】148 バウハク みちひろがる。又、混同の意。旁薄。磅礴。〔荀子、性惡〕雜能旁魄而毋レ用。〔注〕旁魄、廣博也。〔王先謙集解〕郝懿行曰、旁魄卽旁薄、皆謂レ大也。大也。〔司馬相如、封禪文〕旁魄四塞。〔注〕善曰、張揖曰、旁魄、布衍也。〔左思、吳都賦〕旁魄而論二都邑一。〔注〕向曰、旁魄、混同也。

【旁薄】149 バウハク ❶混同する。又、みちひろがる。旁魄。旁礴。〔淮南子、俶眞訓〕旁薄爲レ一、而萬物大優。〔漢書、揚雄傳下〕陶二治大鑪一、旁二薄羣生一。〔注〕師古曰、旁薄、猶レ言二蕩薄一也。❷地の形の形容。〔太玄經、玄告〕天穹隆而周二乎下一、地旁薄而向二乎上一。〔注〕旁薄、地之形也。〔陸機、挽歌詩〕旁薄立二四極一、穹隆放二蒼天一。〔注〕銑曰、旁薄、地之形也。

【旁礴】150 バウハク まじる。混同する。又、みちひろがる。旁魄。旁薄。磅礴。〔集韻〕旁礴、混同也。〔莊子、逍遙遊〕將下旁二礴萬物一以爲上レ一。〔釋文〕司馬云、旁礴、猶二混同一也。〔郭慶藩集釋〕李楨曰、漢司馬相如傳、旁魄四塞、注、旁魄、廣被也、魄與レ礴通、揚雄傳、旁二薄羣生一、注、旁薄、猶レ言二蕩薄一也、蕩薄卽廣被之意。

【旁晚】151 pang^1 wan^3 夕方。晚方。日暮時。

【旁費】152 バウヒ 餘計な費用。傍費(1−948··54)に同じ。

【旁靡】153 バウヒ あまねくなびく。〔郭璞、元皇帝哀策文〕駿命再廓、仁風旁靡。

【旁評】154 pʻang^2 pʻing^2 かたはらから批評する。

【旁賓】155 バウヒン そばの賓客。〔楊循吉、摺扇賦〕兼二鄰座一而飂飂、及二旁賓一而歘歘。

【旁婦】156 バウフ 妾をいふ。〔李商隱、行次二西郊一作一百韻詩〕健兒庇二旁婦一、衰翁舐二童孫一。

【旁風】157 バウフウ 橫から吹いて來る風。〔韓愈、南海神廟碑〕故明宮齋廬、上雨旁風、無レ所二蓋障一。

【旁辟】158 バウヘキ かたよる。一說に、人意に迎合すること。便辟。〔荀子、議兵〕旁辟曲私之屬、爲レ之化而公。〔注〕旁、偏頗也。〔集解〕先謙案、旁辟、猶二便辟一、旁・便、雙聲字。

【旁邊】159 バウヘン そば。かたはら。〔徐陵、雜曲〕二八年時不二憂度一、旁邊得レ寵誰相妒。〔范成大、櫻桃花詩〕玉梅一見憐二凝小一、敎下向二旁邊一自在開上。

【旁勃】160 バウボツ 草の名。白蒿(8−22678··156)に同じ。〔集韻〕旁、旁勃、白蒿也、兔食レ之、壽八百歲。〔左氏、隱、三〕蘋蘩蕰藻之菜、〔疏〕蘩、白蒿也、春始生、及レ秋香美、可二生食一、又可レ烝、一名二遊胡一、北海人謂二之旁勃一。

【旁明】161 バウメイ あまねく明かにする。〔法言、問明〕旁明二厥思一。

【旁鳴】162 バウメイ 蜩蜺の屬をいふ。〔周禮、考工記、梓人〕以旁鳴者。〔注〕旁鳴、蜩蜺屬。

【旁羅】163 バウラ あまねくしく。〔史記、五帝紀〕旁二羅日月星辰、水波土石金玉一。〔注〕索隱曰、旁、非二一方一、羅、廣布也、今按、大戴禮作二曆離一、離卽羅也、言下帝德旁二羅日月星辰水波一、及中至土石金玉上、謂二日月揚レ光、海水不レ波、山不レ藏レ珍、皆是節德廣被一也、正義曰、旁羅、猶二遍布一也、日月、陰陽時節也、星、二十八宿也、辰、日月所レ會也、水波、瀾漪也、言下天不二異災一、土無二別害一、水少二波浪一、山出中珍寶上。〔陸倕、新刻漏銘〕爰命二日官一、草二創新器一、於レ是俯察二旁羅一、登レ臺升レ庫。〔注〕善曰、史記曰、黃帝順二天地之紀一、旁二羅日月星辰一。

【旁睞】164 バウライ 廣くかたはらをみる。〔潘岳、射雉賦〕奮二勁骹一以角槎、瞬二悍目一以旁睞。〔注〕爰曰、睞、視也。

【旁落】165 バウラク かたおち。〔福惠全書、筮仕部、延幕友〕庶事權不レ致二旁落一、而弊竇亦無二從生一矣。

【旁吏】166 バウリ そばの役人。〔唐書、陸贄傳〕初若レ不レ經レ思、逮レ成皆周二盡事情一、衍繹孰復、人人可レ曉、旁吏承寫不レ給。

【旁里】167 pʻang^2 li^3 近在。鄰り在所。

【旁流】168 バウリウ あまねく流れうるほす。〔南齊書、衡陽元王道度等傳論〕太祖膺レ期御レ世、二昆風殞、慶命旁流、追序蕃胙。〔蔣防、政不レ忍レ欺賦〕一德旁流齊二是非于衆庶一、三無合則混二情性于高卑一。〔范仲淹、從レ諫如レ流賦〕威王之三賞屢行、恩波下施、晏子之一言見レ用、德澤旁流。

【旁立】169 バウリツ そばに立つ。〔宋史、職官志二〕元祐七年、詔邇英閣講讀罷、有二留身奏事一者、許二侍立一、紹聖元年、中丞黃履言、所レ奏或干二機密一、難レ令二旁立一、仍依二先朝故事一。

【旁鄰】170 バウリン 近鄰。傍鄰。〔說苑、權謀〕旁鄰窺レ墻而問レ之曰、子何故而哭悲若レ此乎。

【旁戾】171 バウレイ 四方にいたる。戾は至る。〔張衡、東京賦〕於レ是孟春元日、羣后旁戾。〔注〕綜曰、旁四方也、戾、至也。

【旁蠡】172 バウレイ あまねくしく。旁羅(163)に同じ。〔古微書、尙書考靈曜〕取二六頃一加レ三、旁蠡順二除之一。〔注〕蠡、猶レ羅也。

【旁錄】173 バウロク あまねくうつし記す。〔唐書、柳公綽傳〕旁二錄仙佛書一甚衆、皆楷小精眞、無二行字一。

【旁插話】174 pʻang^2 chʻa^1 hua^4 枝葉の話。

【旁死魄】175 バウシハク 陰曆二日をいふ。死魄は朔日。魄は月の光る部分、死は其の消滅すること。一說に、魄は月光の無い部分をいふ。旁死霸。旣死魄(5−13724··27)を見よ。〔書、武成〕惟一月壬辰、旁死魄。〔傳〕旁、近也、月二日近二死魄一。〔疏〕此月辛卯朔、朔是死魄、故月二日死魄、魄者、形也、謂二月輪郭無レ光之處一、朔後明生而魄死、望後明死而魄生。

【旁岔兒】176 pʻang^2 chʻa^4 êrh ❶傍枝。❷橫道。

【旁帳兒】177 pʻang^2 chang^1 êrh 車窗の日蔽。

【旁敲側擊】178 pʻang^2 chʻiao^1 tsʻê^4 chi^2 直接に本意を言はずそれとなく側面攻擊をすること。

【旁見側出】179 バウケンソクシュツ そばにあらはれ側から出る。〔蘇軾、書二吳道子畫後一〕道子畫二人物一、如二以レ燈取レ影、逆來順往、旁見側出、橫斜平直、各相乘除。

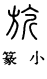
【旁若無人】180 バウジャクブジン かたはらに人なきが如し。人を人とも思はない。人もなげな振舞をする。傍若無人。〔史記、刺客傳〕荊軻嗜レ酒、日與二狗屠及高漸離一、飮二於燕市一、酒酣以往、高漸離擊レ筑、荊軻和而歌二於市中一、相樂也、已而相泣、旁若二無レ人者一。〔晉書、王猛載記〕捫レ蝨而言、旁若レ無レ人。

【旁得二香氣一】181 カタハラモカウキヲウ 一人が香をもつてゐるとわきの人までそのよい香氣を得る。〔通俗編、交際、旁得二香氣一〕大智度論、譬如下一人賣二妙香一、一人買、旁人在レ邊、亦得中香氣上。

【旁不相干】182 pʻang^2 pu^4 hsiang^1 kan^1 傍人とは何等の關係がない。他人には無關係。

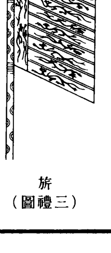
【旂】13638

キ ゲ 〔集韻〕渠希切 ㄑㄧ chʻi^2 微。



小篆

❶はた。のぼり龍とくだり龍とを畫いた赤色の旗で、端に鈴を附けたもの。諸侯の建てるもの。〔說文〕旂、旗有二衆鈴一、㠯令レ衆也、从レ㫃斤聲。〔爾雅、釋天〕有レ鈴曰レ旂。〔注〕縣二鈴於竿頭一、畫二交龍於旒一。〔釋名、釋兵〕交龍曰レ旂、



旂（三禮圖）

旂、倚也、畫㆓作兩龍相依倚㆒、通以㆓赤色㆒爲㆑之、無㆓文彩㆒、諸侯所㆑建也。〔詩、小雅、出車〕旂旐央央。〔傳〕交龍爲㆑旂。〔周禮、春官、司常〕諸侯建㆑旂。〔注〕諸侯畫㆓交龍㆒、一象㆓其升㆑朝、一象㆓其下復㆒也。〔周禮、考工記、輈人〕龍旂九斿。〔注〕交龍爲㆑旂、諸侯之所㆑建也。〔孟子、萬章下〕庶人以㆑旃、士以㆑旂。❷**はたの汎稱**。〔廣雅、釋器〕凡旗之名雖㆑異、旌旂爲㆓之總稱㆒。〔楚辭、離騷〕鳳皇翼其承㆑旂兮。〔注〕旂、旗也。❸**姓**。〔萬姓統譜〕旂、見㆓氏族志㆒。

【旂旗】1 キキ　旂と旗。はたの類をいふ。〔左氏、桓、二〕三辰旂旗、昭㆓其明㆒也。〔注〕三辰、日月星也、畫㆓于旂旗㆒、象㆓天之明㆒。

【旂章】2 キシヤウ　はたじるし。〔韓非子、外儲說左下〕夫爵祿旂章、所㆘以異㆓功伐㆒、別㆗賢不肖㆖也。〔柳宗元、道州文宣王廟碑〕宿燎設懸、罇俎旂章。

【旂常】3 キジヤウ　はた。常は日月を畫いたもの、旂は交龍を畫いたもの。〔周禮、春官、司常〕日月爲㆑常、交龍爲㆑旂。〔謝朓、爲㆓宣城公㆒拜章〕銘㆓彼旂常㆒、勒㆓斯鐘鼎㆒。〔唐書、楊收傳〕所㆔以藏㆓天子之旂常㆒、今旂常因㆓車飾㆒隷㆓太僕㆒、非㆑是。

【旂叟】4 キソウ　宋、范應鈴（**9**－**30834**‥**147**）の字。

【旂旎】5 キヂ　風になびく。旗がなびくこと。

【旂旐】6 キテウ　はた。旂は龍を描いたもの、旐は龜蛇を描いたもの。〔詩、小雅、出車〕出車彭彭、旂旐央央。

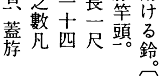
【旂頭】7 キトウ　兵卒の頭。〔稱謂錄、勇頭、旂頭〕羅濬寶慶四明志、引戰教頭二十二人、旂頭百二十二人。

【旂幢】8 キドウ　はた。幢ははたぼこ。旌幢。〔韓愈、送㆔鄭尙書赴㆓南海㆒詩〕蓋㆑海旂幢出、連㆑天觀閣開。

【旂柄】9 ch'i^2 ping^4　はたざを。

【旂鸞】10 キラン　交龍を畫いたはたと鸞車。〔漢書、郊祀志下〕賜㆓爾旂鸞黼黻琱戈㆒。〔注〕師古曰、交龍爲㆑旂、鸞、謂㆓有㆑鸞之車㆒也。

【旂鈴】11 キレイ　旂の竿頭に附ける鈴。〔爾雅、釋天〕有㆑鈴曰㆑旂。〔注〕縣㆓鈴於竿頭㆒。〔西清古鑑、鈴、漢旂鈴〕右長一尺一寸六分、徑一寸二分、重一十四兩、博古圖載㆓漢旂鈴㆒、鈴之數凡七、內府所㆑藏、有㆓三鈴者㆒、蓋斿有㆓七五三之不㆑同、而如㆑之、茲惟二鈴。



漢旂鈴
（西清古鑑）

【建㆑旂】12 キタツ　旂をたてる。旂は交龍を畫いたはたで、諸侯が用ひるもの。之をたてて諸侯が其の位を示すこと。〔周禮、春官、司常〕王建㆓大常㆒、諸侯建㆑旂。

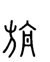
【旂夾板】13 ch'i^2 chia^2 pan^3　旗竿ばさみ。

【旂火二踢脚】14 キクワジテキキヤク　北京で正月燈節に放つ爆竹花火の一種。〔燕京歲時記、燈節〕花炮棚子製造、各色烟火、競㆑巧爭㆑奇、有㆓盒子花盆・烟火杆子・線穿牡丹・水澆蓮・金盤落月・葡萄架・旂火二踢脚・飛天十响・五鬼鬧判兒・八角子炮・打襄陽城・匣炮・天地燈等名目㆒、富室豪門、爭相購買、銀花火樹、光彩點㆑人、車馬喧闐、笙歌聒㆑耳。

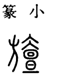
【㫱】13639　ブツ　モチ　〔集韻〕文拂切　物

❶**はた**。のぼり。州里に建てるしるしばた。勿（**2**－**2501**）に同じ。〔說文〕勿、州里所㆑建旗、象㆔其柄有㆓三游㆒、襍帛、幅半異、所㆓㠯趣㆑民、故遽偁㆓勿勿㆒、㫱、勿或从㆑㫃。❷通じて物（**7**－**19959**）に作る。〔說文、㫱、段注〕經傳多作㆑物、蓋㫱之誤也。〔周禮、春官、司常〕雜帛爲㆑物。〔注〕物、以㆓白素㆒飾㆓其側㆒。〔詩、鄘風、干旄〕孑孑干旄、〔箋〕周禮、孤卿建㆑旃、大夫建㆑物、首皆注㆑旄焉。

【旃】13640　セン　〔集韻〕諸延切　先　ㄓㄢ-　chan^1



小篆



或體

❶**はた**。㋑柄の曲った目じるしの赤旗。衆人に示すもの。旜（**5**－**13705**）に同じ。〔說文〕旃、旗曲柄也、所㆔㠯旃㆓表士衆㆒、从㆑㫃丹聲、旜、旃或从㆑亶。〔段注〕旃表之旃、當㆑作㆑展、以㆓疊韻㆒爲㆑訓。〔孟子、萬章下〕庶人以㆑旃。㋺周代、諸侯・九卿の建てた旗。赤地の帛のままで模樣を畫かないもの。〔說文〕旃、周禮曰、通帛爲㆑旃。〔段注〕司常職文、注云、通帛謂㆓大赤㆒、從㆓周正色㆒、無㆑飾。〔爾雅、釋天〕因㆑章曰㆑旃。〔注〕因㆓帛練㆒爲㆑旒、因㆓其文章㆒、不㆓復畫㆒㆑之、周禮云、通帛爲㆑旃。〔釋名、釋兵〕通帛曰㆑旃、旃、戰也、戰戰恭㆑己而已、通以㆓赤色㆒爲㆑之、無㆓文采㆒、三孤所㆑建、象㆓無事㆒也。〔詩、鄘風、干旄〕孑孑干旄、〔傳〕注㆓旄於干首㆒、大夫之旃也。〔箋〕周禮、孤卿建㆑旃。〔周禮、春官、司常〕孤卿建㆑旜。〔注〕孤卿不㆑畫、言㆘奉㆓王之政教㆒而已㆖。㋩はたの汎稱。〔張衡、東京賦〕樹㆓修旃㆒。〔注〕綜曰、旃、謂㆑旜也。〔陸機、飲馬長城行〕收㆓功單于旃㆒。〔注〕善曰、旃、旌旗。❷**とばり**。〔南齊書、謝朓傳〕契㆓闊戎旃㆒。❸**けおりもの**。氈（**6**－**16982**）に通ず。〔說文通訓定聲〕旃、叚借爲㆑氈。〔史記、匈奴傳〕被㆓旃裘㆒。〔漢書、王褒傳〕荷㆑旃被㆑毳。❹**これ**。**これを**。之焉二字の合聲。〔經傳釋詞、九〕旃、之也、焉也、之・旃聲相轉、旃・焉聲相近、旃又爲㆓之焉之合聲㆒。〔小爾雅、廣訓〕旃、焉也。〔廣雅、釋言〕旃、之也。〔詩、魏風、陟岵〕上愼㆑旃哉。〔傳〕旃、之。〔詩、唐風、采苓〕舍㆑旃舍㆑旃。〔箋〕旃、之也。〔左氏、桓、十〕虞公求㆑旃。〔注〕旃、之也。❺**姓**。〔萬姓統譜〕旃、見㆓姓苑㆒。

【旃茵】1 センイン　けおり物のしとね。〔韓詩外傳、五〕天子居㆓廣厦之下、帷帳之內、旃茵之上㆒、被㆓躧舃㆒、視不㆑出㆑閫、莽然而知㆓天下㆒者、以㆓其賢左右㆒也。〔淮南子、原道訓〕夫建㆓鍾鼓㆒、列㆓管弦㆒、席㆓旃茵㆒、傅㆓旄象㆒。〔鹽鐵論、鹽鐵取下〕坐㆓旃茵之上㆒、按㆓圖籍之言㆒。

【旃裘】2 センキウ　けおりものの衣服。けおりのころも。氈裘。〔史記、蘇秦傳〕君誠能聽㆑臣、燕必致㆓旃裘狗馬之地㆒。〔史記、匈奴傳〕自㆓君王㆒以下、咸食㆑肉、衣㆓其皮革㆒、被㆓旃裘㆒。〔漢書、司馬遷傳〕旃裘之君長咸震怖。〔王先謙補注〕文選旃作㆑氈、注、氈裘、匈奴所㆑服也、故曰㆓氈裘之君㆒、案君下當㆑有㆓長字㆒。〔孔叢子、陳士義〕夷狄之貨、唯牛馬旃裘弓矢之器。〔鹽鐵論、本議〕燕齊之魚鹽旃裘。

【旃旝】3 センクワイ　旗の類をいふ。〔後漢書、馬融傳〕旃旝摻其如㆑林。〔注〕旝、亦旃也。

【旃車】4 センシヤ　旃をたてた車。〔韓愈、畫記〕旃車三兩。

【旃蒻】5 センジヤク　しきもの。旃はけおりもの、蒻は蒲のおりもの。〔鹽鐵論、散不足〕古者皮毛草蓐、無㆓茵席之加、旃蒻之美㆒。

【旃旌】6 センセイ　はた。旃は赤地の帛に模樣を畫かないもの、旌は析いた五采の羽毛を竿首に垂らしたもの。〔左氏、定、四〕分㆓康叔㆒以㆓大路少帛綪茷旃旌大呂㆒。〔注〕通帛爲㆑旃、析羽爲㆑旌。〔班固、南巡頌〕運㆓天官之法駕㆒、建㆓日月之旃旌㆒。〔庾信、周大將軍云云鄭常墓誌銘〕文軌既同、旃旌已偃。

【旃招】7 センセウ　旃で招きよせること。旃以招㆓大夫㆒（26）を見よ。

【旃席】8 センセキ　けおりものの敷物。〔漢書、貨殖、巴寡婦清傳〕旃席千具、它果采千種。〔鹽鐵論、鹽鐵取下〕同牀旃席、侍御滿㆑側者、不㆑知㆓負㆑輅輓㆑船、登㆑高絕㆑流者之難㆒也。

【旃然】9 センゼン　川の名。河南省滎陽縣の索河。〔左氏、襄、十八〕右師城㆓上棘㆒、遂涉㆑潁、次㆓于旃然㆒。〔注〕旃然水、出㆓滎陽成皐縣㆒、東入㆑汴。〔開天傳信記〕上封㆓泰山㆒、進次㆓滎陽旃然河上㆒、見㆓黑龍㆒、命㆓弧矢㆒射㆑之、矢發龍潛、自㆑爾旃然伏㆑流、按、旃然卽濟水也、溢而爲㆑滎、遂名㆓旃然㆒。

【旃然漁隱】10（センゼンギョイン） 明、張民表（4－9812・・1533）の號。

【旃廗】11（センタイ） 毛でおつた幕。〔鹽鐵論、論功〕織㆑柳爲㆑室、旃廗爲㆑蓋。

【旃檀】12（センダン） ［佛］㊀印度・交趾等の熱地に產する香木。又、其の香。栴檀那。栴檀。栴檀。〔本草、檀香〕釋名、旃檀、眞檀。〔法苑珠林〕漢明帝時、天竺國竺法師、將㆑畫㆓釋迦像㆒、是優塡國旃檀師第四作也。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕木五香根、旃檀、節、沈香、花雞舌、膠、薰陸。㊁楝（アフチ）（6－15148）の異名。

【旃檀佛】13（センダンブツ） ［佛］旃檀で作つた佛像。佛在世の時製したものといふ。〔程鉅夫、旃檀瑞像殿記〕佛升忉利天說法、優闐王欲㆑見無㆑從、乃刻㆓旃檀㆒爲㆑像、佛摩頂授記曰、我滅度千年之後、汝從㆓震旦㆒、廣利㆓人天㆒、由㆑是西土、一千二百八十五年、龜茲六十八年、涼州十四年、長安十七年、江南一百七十三年、淮南三百六十七年、復至㆓江南㆒二十一年、汴梁一百七十七年、北至㆓燕京㆒、居㆓聖安寺㆒。〔天咫偶聞〕檀旃寺、本名㆓宏仁㆒、以㆓旃檀佛像所㆑在、俗呼爲㆓檀旃㆒云、其像元代供㆓大內㆒、明代供㆓鷲峯寺㆒、乾隆間移㆑此、此像與㆓石鼓㆒、皆起㆓於周代㆒、至㆑今三千年、巍然無㆑恙、庚子之亂、寺燬、像不㆑知㆑所㆑在。

【旃檀從㆓二葉㆒香】14（センダンハフタバヨリカンバシ） 旃檀樹は細小の頃から香氣がある。人の幼くて聰慧な喩。〔觀佛三昧海經〕牛頭旃檀、生㆓伊蘭叢中㆒、未㆑及㆓長大㆒、在㆓地下㆒時、芽莖枝葉、如㆓閻浮提竹筍㆒、云云、仲秋滿月、卒從㆑地出、成㆓旃檀樹㆒、衆皆聞㆓牛頭旃檀上妙之香㆒、永無㆓伊蘭臭惡之氣㆒。

【旃帳】15（センチヤウ） 毛氈の類で作つた帳幕。穹廬。氈帳。〔漢書、蘇武傳〕賜㆓武馬畜服匿穹廬㆒。〔注〕劉德曰、服匿、如㆓小旃帳㆒、孟康曰、穹廬、旃帳也。

【旃那】15′（センナ） 木の名。きだちせんな。まめ科の外來の半灌木で、夏、黃色の花を開く。

【旃旆】16（センパイ） はたの類をいふ。〔後漢書、袁譚傳〕旃旆交㆓於中原㆒。

【旃旄】17（センバウ） はたぼこ。〔戰國、楚策〕王抽㆓旃旄㆒而抑㆓兕首㆒、仰㆑天而笑。

【旃表】18（センペウ） 旃で表示する。あらはし示す。〔說文〕旃、旗曲柄也、所㆔以旃㆓表士衆㆒。

【旃毛】19（センマウ） 毛織物の衣服のけ。〔漢書、蘇武傳〕齧㆔雪與㆓旃毛㆒、竝咽㆑之、數日不㆑死。

【旃蒙】20（センモウ） 太歲の乙にあるをいふ。十干の乙（キノト）の異稱。端蒙。〔爾雅、釋天〕太歲在㆑乙曰㆓旃蒙㆒。〔淮南子、天文訓〕卯在㆑乙曰㆓旃蒙㆒。〔注〕言、萬物遏蒙㆑甲而出、故曰㆓旃蒙㆒也。

【勉㆑旃】21（コレヲツトメヨ） 勉めよと勵ます語。旃は之。〔楊惲、報㆓孫會宗㆒書〕方當㆓盛漢之隆㆒、願㆓勉旃㆒無㆓多談㆒。

【愼㆑旃】21′（コレヲツツシメ） このことをつつしめよ。〔詩、魏風、陟岵〕上愼㆑旃哉。

【旃育迦】22（センイクカ） ［佛］印度國王の名。釋迦の死後七百年に出て祇園精舍を再建す。〔法苑珠林、三十九〕經律大明㆓祇桓寺之基址㆒、多云、八十頃地、一百二十院、准約㆓東西㆒、近有㆓十里㆒、南北七百餘步、祇陀須達二人、共造㆑成之、已後經㆓二百年㆒、被㆑燒迨盡、於㆓後五百年㆒、有㆓旃育迦王㆒、依㆑地而起、十不㆑及㆑一。

【旃陀羅】23（センダラ） ［佛］屠者・嚴熾・執暴惡人・下姓などをいふ。四姓の外に在つて屠殺を業とするもの。男を旃陀羅といひ、女を旃陀利といふ。〔玄贊、九〕旃陀羅、云㆓屠者不律儀㆒也、正言㆓旃茶羅㆒、此云㆓嚴熾㆒、惡業自嚴、行持標幟、搖㆑鈴持㆑竹、爲㆓自標㆒故。〔法顯傳〕旃茶羅、名爲㆓惡人㆒、與㆑人別居、若入㆓城市㆒、則擊㆑木以自異、人則識而避㆑之、不㆓相搪揬㆒。〔阿育王經、三〕旃陀利女、翻㆓下姓㆒。

【旃茶羅】24（センダラ） ［佛］旃陀羅に同じ。〔佛國記〕擧國人民、悉不㆑殺㆑生、不㆑飮㆑酒、不㆑食㆓葱蒜㆒、唯除㆓旃茶羅㆒、旃茶羅、名爲㆓惡人㆒、與㆑人別居。

【旃鳳堂】25（センホウダウ） 淸、陸圻（11－41708・・52）の室名。

【旃以招㆓大夫㆒】26（センモツテタイフヲマネク） 田獵をする時、大夫の官にあるものを招くには小旗を以てする。一說に、旃を用ひるといふ。〔左氏、昭、二十〕昔我先君之田也、旃以招㆓大夫㆒、弓以招㆑士、皮冠以招㆓虞人㆒。〔孟子、萬章下〕敢問、招㆓虞人㆒何以、曰、以㆓皮冠㆒、庶人以㆑旃、士以㆑旂、大夫以㆑旌。

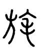
【旃】13641 セン 旃（5－13640）に同じ。〔字彙補〕旃、同㆑旃。

【旄】13642

🈩バウ モウ 〔集韻〕謨袍切 ㄇㄠˊ mao² 豪

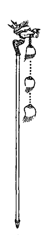
🈔バウ モウ 〔集韻〕莫報切 ㄇㄠˋ mao⁴ 號

🈪ブ ム 〔集韻〕亡遇切 遇



小篆

🈩㊀**はたかざり**。旗竿のさきに牛尾、又は鳥羽を垂らして飾としたもの。旄ある旗を旌・旞といふ。〔說文〕旄、幢也、从㆑㫃毛聲。〔說文通訓定聲〕旄、按、旌旞竿飾也、本用㆓犛牛尾㆒、注㆓于旗之竿首㆒、故曰㆑旄、後又用㆑羽、或兼㆓用氂與㆑羽焉。〔三才圖會、器用、旄〕旄似㆑旌、但旌析㆓翟羽㆒爲㆑之、而設㆓于旗之首㆒。㊁**さしばた**。**はたぼこ**。もと竿首の飾であつた牛尾羽毛を、指揮棒のさきに垂らして行兵の具とし、更に舞者が執持する具とする。〔書、牧誓〕右秉㆓白旄㆒以麾。〔傳〕白旄、白牛尾。〔周禮、春官、序官〕旄人。〔注〕旄、旄牛尾、舞者所㆓持以指麾㆒。㊂**かざし**。牛尾を器具の飾としたもの。〔漢書、禮樂志〕庶旄翠旌。〔注〕張晏曰、旌、鍾之旄也。㊃**からうしの尾毛**。氂（6－16952）に通ず。〔說文通訓定聲〕旄、叚借爲㆑氂。〔國語、晉語四〕羽旄齒革。〔注〕旄、旄牛尾也。㊄**からうし**。やく。〔左氏、襄、十〕騂旄之盟。〔注〕騂旄、赤牛也。〔呂覽、本味〕旄象之約。〔注〕旄、旄牛也。㊅**木の名**。楙（6－15140）に通ず。〔說文通訓定聲〕旄、叚借爲㆑楙。〔爾雅、釋木〕旄、澤柳。〔注〕柳、生㆓澤中㆒者別名。〔爾雅、釋木〕旄、冬桃。〔注〕子冬熟。🈔㊀**毛が長い**。〔爾雅、釋獸〕麔、大麢、旄毛狗足。〔注〕旄毛、猥長。㊁**としより**。**おいぼれ**。八、九十歲の老人をいふ。耋（9－32167）・耄（9－28848）に通ず。〔說文通訓定聲〕旄、叚借爲㆑耋。〔禮、射義〕旄期稱㆑道不㆑亂者不。〔注〕八十九十曰㆑旄。〔釋文〕旄、本又作㆑耄。〔孟子、梁惠王下〕反㆓其旄倪㆒。〔注〕旄、老耄也。🈪**山名**。嵍（4－8280）に同じ。旄丘。〔集韻〕嵍、說文、山名、或作㆑旄。



旄（三才圖會）

【旄羽】1（バウウ） 毛羽（6－16772・・4）に同じ。羽旄。〔鹽鐵論、本議〕隴蜀之丹漆旄羽。〔晉書、食貨志〕秦邪旄羽、迴帶琅玕。

【旄鉞】2（バウエツ） 天子の命を受けた大將のもつもの。旄ははたぼこ、鉞はまさかり。〔書、牧誓〕王左杖㆓黃鉞㆒、右秉㆓白旄㆒以麾。〔蔡傳〕鉞、斧也、以㆓黃金㆒爲㆑飾、王無㆓自用㆑鉞之理㆒、左杖以爲㆑儀耳、旄、軍中指麾、白則見㆑遠、麾非㆓右手㆒不㆑能、故右秉㆓白旄㆒也。〔蜀志、諸葛亮傳〕親秉㆓旄鉞㆒以厲㆓三軍㆒。

【旄罕】3（バウカン） はたの類。〔徐彥伯、南郊賦〕祥光熠㆓綸干旄罕㆒。

【旄期】4（バウキ） 耄と期。八十歲九十歲を旄といひ、百歲を期といふ。耄期。〔禮、射義〕旄期稱㆑道不㆑亂者、不。〔注〕八十九十曰㆑旄、百年曰㆓期頤㆒。〔釋文〕旄、本又作㆑耄、莫報反、八十九十曰㆑耄、期、本又作㆑旗、音其、如㆑字、百年曰㆑期。

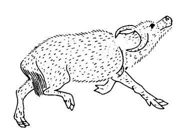
【旄麾】5（バウキ） はた。旄旗（5－13658・・16）に同じ。〔吳志、孫權傳〕江表傳、載㆓曹公與㆑權書㆒曰、近者奉㆑辭伐㆑罪、旄麾南指、劉琮束㆑手。〔韓愈、南海神廟碑〕旗纛旄麾、飛揚晻藹。

【旄騎】5′（バウキ） 漢代の騎士の名。旄頭の騎士。旄頭（19）の㊂を見よ。〔後漢書、公孫述傳〕鑾旗旄騎。〔注〕旄頭之騎也。

【旄丘】6（バウキウ） ㊀丘の前方の高く後方の低いも

の。〔爾雅、釋丘〕前高旄丘、後高陵丘。〔郝懿行義疏〕詩傳云、前高後下曰二旄丘一、釋文引二字林一作レ堥、云、堥丘也、爾雅釋文、引二字林一作レ嵍、又作レ堥、文選荅賓戲注引二爾雅一、正作二前高堥丘一、可レ知二今本作レ旄、叚借字一耳、釋名作レ髦、因云、前高曰二髦丘一、如二馬擧レ頭垂レ髦也、殆望レ文生レ訓矣。〔詩、邶風、旄丘〕旄丘之葛兮、何誕之節兮。〔傳〕前高後下曰二旄丘一。❷詩經、邶風の篇名。黎侯が狄人に逐はれて衞に寓した時、衞が方伯の職を修めながら黎侯を其の國に復すことの出來ないのを、黎侯の臣下が責めて作つた詩。〔詩、邶風、旄丘序〕旄丘、責二衞伯一也、狄人迫二逐黎侯一、黎侯寓二于衞一、衞不レ能レ修二方伯連率之職一、黎侯之臣子、以責二於衞一也。

【旄牛】7 バウギウ ❶牛の一種。長い毛のあるもの。からうし。犛牛。牦牛。〔書、牧誓〕右秉二白旄一以麾、〔釋文〕白旄、旄牛尾。〔周禮、春官、序官、旄人、注〕旄、旄牛尾、舞者所二持以指麾一。〔山海經、北山經〕又北二百里、曰二潘侯之山一、有レ獸焉、其狀如レ牛、而四節生レ毛、名曰二旄牛一。〔注〕背膝及胡尾、皆有二長毛一。〔漢書、西南夷傳〕巴蜀民、或竊出商賈、取二其莋馬僰僮旄牛一。❷縣名。漢、置く。古の羌の地。故城は四川省漢源縣の南。〔後漢書、西羌傳〕子孫分別、各自爲レ種、或爲二犛牛種一、越巂羌是也。〔讀史方輿紀要、四川、黎州守禦千戶所〕旄牛城、在二所南一、漢縣、初屬二沉黎郡一、後屬二蜀郡一、范曄曰、天漢四年、省二沉黎郡一、屬二蜀郡一、爲二西部一、立二兩都尉一、一居二旄牛一、主二徼外夷一、是也。


旄牛
(三才圖會)

【旄戈】8 mao² kē¹ 旗付きの戈。

【旄倪】9 バウゲイ 老人と小兒。旄は老人、倪は小兒。〔孟子、梁惠王下〕王速出レ令、反二其旄倪一、止二其重器一。〔集注〕旄、老人也、倪、小兒也。

【旄象】10 バウザウ ❶からうしとざう。〔韓非子、喩老〕象箸玉杯、必不レ羹二菽藿一、必旄象豹胎。〔呂覽、本味〕述蕩之掔、旄象之約。〔注〕旄、旄牛也、象、象獸也、約、飾也。❷毛の垂れた大旄に象牙の飾を施したもの。〔淮南子、原道訓〕席二旃茵一、傳二旄象一。〔注〕旄、旌也、象、以二象牙一爲レ飾也。

【旄車】11 バウシャ 旄をたてた車。旄車之族を見よ。

〔旄車之族〕11′ バウシャノゾク 官名。公の路車を掌る。一說に、公の旄車に屬する族類をいふ。〔左氏、宣、二〕冬趙盾爲二旄車之族一、使下屛季以二其故族一爲中公族大夫上。〔注〕旄車、公行之官。〔洪亮吉左傳詁〕服虔云、旄車、戎車之倅。〔會箋〕鄘詩、孑孑干旄、言二德車一、小雅建レ旐設レ旄、言二武車一、是公車必建レ旄也、族是中軍公族中軍王族之族、卿大夫之餘子屬二旄車一、故曰二旄車之族一、猶レ曰下屬二旄車一之族類上也、云云、行則屬レ徒、周禮輿司馬・行司馬、分二別二職一、知二行與レ車本是不レ同、毛傳、公行從二公之行一也、此說可レ據、公行非二車屬一、則旄車之族、明非二公行一、而餘子之爲二旄車之族一可レ定、公路之卽爲二餘子一、亦可レ定、旄車之族、其官則有二爲レ卿者一、有下爲二大夫一者上、有下爲レ士爲レ尉爲二司馬一爲二宰夫一者上、貴賤不レ定、隨レ才授レ之、杜混二官族一而一レ之、故以二旄車一爲二公行之官一、又合二公行公路一爲レ一、而餘子一族、懸二於無レ證、皆誤矣。

【旄麈】12 バウシュ 旄牛と麈。麈は鹿の一種。〔左思、蜀都賦〕屠二麖麋一、剪二旄麈一。〔注〕劉曰、皆獵之所レ得也、旄麈有レ尾、故翦レ之。

【旄人】13 バウジン 周官の名。春官の屬。舞を教へることを掌る。〔周禮、春官、旄人〕掌レ教下舞二散樂一舞中夷樂上。〔注〕旄、旄牛尾、舞者所二持以指麾一。

【旄星】14 バウセイ 星の名。〔儲光羲、觀二范陽遞俘一詩〕北河旄星隕、鬼方獮林胡。〔輟耕錄、角端〕耶律文正王進曰、此名二角端一、乃旄星之精也、聖人在レ位、則斯獸奉レ書而至。

【旄節】15 バウセツ 使臣又は、武將がそのしるしとして持つ、羽毛を以て飾つた節。〔史記、秦始皇紀、衣服旄旌節旗皆上レ黑、注〕正義曰、旄節者、編レ毛爲レ之、以象二竹節一、漢書云、蘇武執レ節、在二匈奴一牧レ羊、節毛盡落、是也。〔唐書、楊汝士傳〕開成初、繇兵部侍郎爲二東川節度使一、時嗣後鎭二西川一、乃族昆弟、對二擁旄節一、世榮二其門一。〔李嘉祐、送三從弟歸二河朔一詩〕諸將矜二旄節一、何人重二布衣一。

【旄氈】16 バウセン 毛織物。〔後漢書、西南夷、冉駹傳〕其人能作二旄氈・班罽・青頓・毞毲・羊羧之屬一。

【旄端】17 バウタン 尾のはし。〔劉俊、廣絕交論〕附二騏驥之旄端一、軼二歸鴻於碣石一。〔注〕翰曰、亦猶下蠅附二驥旄一以過、歸鴻之飛而及中碣石上。

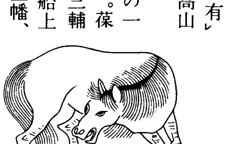
【旄狄】18 バウテキ さしばた。はたぼこ。舞者の執つて舞ふもの。狄は毛。〔禮、樂記〕夫肅肅、敬也、雍雍、和也、夫敬以和、何事不レ行、爲二人君一者、謹三其所二好惡一而已矣、君好レ之、則臣爲レ之、上行レ之、則民從レ之、詩云、誘レ民孔易、此之謂也、然後聖人作二爲鞉鼓椌楬壎篪一、此六者、德音之音也、然後鍾磬竽瑟以和レ之、干戚旄狄以舞レ之、此所三以祭二先王之廟一也。〔疏〕狄、羽也。

【旄頭】19 バウトウ ❶星宿の名。二十八宿の一つ。スバル又はプレアデスに當る。髦頭。〔史記、天官書〕昴曰二髦頭・胡星一也、爲二白衣會一。〔注〕正義曰、昴七星爲二髦頭・胡星一、亦爲二獄事一、明、天下獄訟平、暗、爲二刑罰濫一、六星明與二大星一等、大水且レ至、其兵大起、搖動若二跳躍一者、胡兵大起、一星不レ見、皆兵之憂也。〔漢書、天文志〕昴曰二旄頭一、胡星也、爲二白衣會一。❷旗の屬。〔後漢書、袁譚傳〕九旒旄頭羽騎。〔魏志、武帝紀〕天子命レ公置二旄頭一、宮殿設二鍾虡一。❸先驅の騎士。髦頭。旄頭騎を見よ。〔漢書、王莽傳上〕苟有二一策一必爵レ之、是故公孫戎、位在レ充二郎選一、繇三旄頭壹明二樊噲一、封二二千戶一。

〔旄頭騎〕20 バウトウキ 先驅の騎士の名。〔後漢書、光武帝紀下〕賜二東海王彊虎賁旄頭鍾虡之樂一。〔注〕魏文帝列異傳曰、秦文公時、梓樹化爲レ牛、以レ騎擊レ之、騎不レ勝、或墮レ地髻解被レ髮、牛畏レ之入レ水、故秦因レ是置二旄頭騎一使二先驅一。〔漢官儀〕秦選二羽林一爲二旄頭一、被髮先驅、漢亦選二羽林一爲二旄頭騎一。

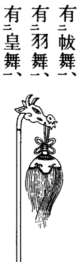
【旄敦】21 バウトン 旄丘と敦を覆した形の丘。敦は黍稷を盛る器。旄丘(6)を見よ。〔漢書、敍傳上〕欲下從二旄敦一而度二高虖泰山一、懷二氿濫一而測中深虖重淵上、亦未レ至也。〔注〕應劭曰、爾雅、前高曰二旄丘一、如二覆敦一者敦丘。

【旄馬】21′ バウバ 山海經の獸の名。馬に似て、脚に四節あり、毛を垂れる。〔山海經、海內南經〕旄馬、其狀如レ馬四節、有レ毛、在二巴蛇西北高山南一。


旄馬 (山海經圖)

【旄葆】22 バウハウ はたの一種。旄ははたぼこ。葆ははねかざり。〔三輔黃圖、四、池沼〕船上建二戈矛一、四角悉垂幡、旄葆麾蓋。

【旄舞】23 バウブ ❶舞の名。旄牛の尾をとつてさしづしながら舞ふもの。〔周禮、春官、樂師〕凡舞有二帗舞一、有二羽舞一、有二皇舞一、有二旄舞一、有二干舞一、有二人舞一。〔注〕鄭司農云、旄舞者、氂牛之尾、云云、社稷以レ帗、宗廟以レ羽、四方以レ皇、辟廱以レ旄、兵事以レ干、星辰以二人舞一。❷旄舞の時に持つてさしづする旄牛の尾。〔禮器圖、旄舞〕案、陳氏祥道曰、羽舞、析二衆羽一爲レ之、皇舞、以二皇羽一爲レ之、旄舞、以二旄牛尾一爲レ之。


旄舞
(禮器圖)

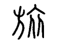
【旄表】24 バウヘウ 表彰すること。〔晉書、荀崧傳〕苟有二一介之善一、宜レ在二旄表之例一。

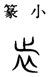
【旄旒】25 バウリウ はたのながれ。〔周禮、春官、司常、九旗、疏〕旞旌之下、亦有二旄旒一。

【⿸㫃白】13643 エン オン 〔廣韻〕於广切 琰

かざし。〔廣韻〕⿸㫃白、⿸㫃白翳。

【旅】13644 ㊀ リョ ロ 〔集韻〕兩擧切 ㄌㄩˇ lü³ 語 ㊁ リョ ロ 〔集韻〕凌如切 魚


小篆


古文

㊀❶**軍制の名**。㋑五百人一隊の名。〔說文〕旅、軍之

五百人、从レ㫃从レ从、从、倶也。〔周禮、夏官、小司徒〕五卒爲レ旅。〔注〕旅、五百人。〔左氏、哀、元〕夏少康有二田一成一、有二衆一旅一。〔注〕五百人爲レ旅。〔論語、鄕黨〕軍旅之事。〔集解〕五百人爲レ旅也。㋺二千人一隊の名。〔國語、齊語〕故二千人爲レ旅。❷**旅の長官**。〔左氏、成、十八〕旅不レ偪レ師。〔注〕旅、五百人之帥也。❸**軍隊**。軍事。〔詩、大雅、皇矣〕爰整二其旅一。〔傳〕旅、師也。〔書、大禹謨〕班レ師振レ旅。〔史記、天官書〕主二葆旅事一。〔注〕索隱曰、旅、猶二軍旅一也。❹**もろもろ**。衆人。〔爾雅、釋詁〕旅、衆也。〔書、武成〕受率二其旅一若レ林。〔傳〕旅、衆也。〔詩、大雅、大明〕殷商之旅。〔傳〕旅、衆也。❺**おほい**。おほく。〔周禮、天官、掌次〕凡祭祀張二其旅幕一。〔注〕旅、衆也。❻**子弟**。〔詩、周頌、載芟〕侯亞侯旅。〔傳〕旅、子弟也。❼**下士**。〔周禮、天官、宰夫〕使下其旅帥二有司一而治上レ之。〔注〕旅、家宰下士。〔禮、檀弓上〕使三旅歸二四方布一。〔注〕旅、下士也。❽**よび出しの令**。〔周禮、天官、小宰〕掌二官府之徵令一、云云、四曰旅。〔注〕旅、辟二下士一也。❾**ともに**。ともども。〔國語、越語上〕欲二其旅進旅退一也。〔注〕旅、倶也。❿**つらねる**。〔爾雅、釋詁〕旅、陳也。〔詩、小雅、賓之初筵〕殽核維旅。〔傳〕旅、陳也。〔逸周書、作雒解〕旅レ楹。〔注〕旅、列也。⓫**ついでる**。〔儀禮、大射儀〕請旅二諸臣一。〔注〕旅、序也。〔儀禮、鄕飲酒禮〕司正升相旅曰、某子受レ酬。〔注〕旅、序也。⓬**ならび**。列。〔儀禮、特牲饋食禮〕衆賓長自レ左受レ旅。〔注〕旅、行也。⓭**居る**。おく。〔周禮、地官、序官〕旅師。〔注〕旅、猶レ處也。⓮**ほどこす**。〔孔子家語、曲禮子貢問〕旅レ樹而反坫。〔注〕旅、施也。⓯**みち**。〔爾雅、釋宮〕旅、道也。〔禮、郊特牲〕臺門而旅樹。〔注〕旅、道也。⓰**たび**。**たびする**。廬（4－9535）に通ず。〔說文通訓定聲〕旅、叚借爲レ廬。〔廣雅、釋詁四〕旅、客也。〔易、旅、疏〕旅者、客寄之名、羈旅之稱、失二其本居一、而寄二他方一、謂二之爲レ旅。〔左氏、莊、二十二〕羈旅之臣。〔注〕旅、客也。〔管子、小匡〕衞人出旅二於曹一。〔注〕旅、客也。⓱**たびびと**。たびあきうど。〔周禮、考工記、總目〕通二四方之珍異一以資レ之、謂二之商旅一。〔呂覽、仲秋〕來二商旅一。〔注〕旅者、行商也。〔范仲淹、岳陽樓記〕商旅不レ行。⓲**野生する**。穭（8－25364）に通ず。〔後漢書、光武紀上〕至レ是野穀旅生。〔注〕旅、寄也、不レ因二播種一而生、故曰レ旅、今字書作レ穭、音呂、古字通。⓳**易、六十四卦の一つ**。䷷（艮下離上）。所を去つて居らない象。〔易、旅〕山上有レ火、旅。⓴**祭祀の名**。上帝天神、或は山川を祭ること。臚（9－30027）・祣（8－24686）に通ず。〔說文通訓定聲〕旅、叚借爲レ臚、字亦作レ祣。〔周禮、天官、掌次〕王大旅二上帝一。〔注〕大旅二上帝一、祭二天於圜丘一。國有レ故而祭、亦曰レ旅。〔周禮、春官、大宗伯〕則旅二上帝一。〔書、禹貢〕蔡蒙旅平。〔傳〕祭レ山曰レ旅。〔論語、八佾〕季氏旅二於泰山一。〔集注〕禮、諸侯祭二封內山川一。㉑**せぼね**。膂（9－29755）に通ず。〔說文通訓定聲〕旅、叚借爲レ膂。〔正字通〕旅、脊骨曰レ旅、書、呂刑、旅力既愆。〔周禮、考工記、函人〕權三其上旅與二其下旅一。〔注〕鄭司農云、上旅、謂二要以上一、下旅、謂二要以下一。〔呂飛鵬補注〕先鄭以レ要釋レ旅、旅當レ爲レ膂、脊骨也、要以上、要以下、猶レ言二膂以上、膂以下一也、經文蓋省レ膂作レ旅。㉒**よろひのさね**。甲札。〔周禮、考工記、函人〕權三其上旅與二其下旅一。〔疏〕謂二札葉一爲レ旅者、以二札衆多一故言レ旅。㉓**すゑ**。緒（8－27633）に通ず。〔說文通訓定聲〕旅、叚借爲レ緒。〔方言、十三〕旅、末也。㉔**やしなふ**。租（8－24988）に通ず。〔說文通訓定聲〕旅、叚借爲レ租。〔廣雅、釋詁一〕旅、養也。㉕莒（9－31046）に通ず。〔詩、大雅、皇矣〕以按二徂旅一。〔孟子、梁惠王下〕以遏二徂莒一。㉖呂（2－3386）に通ず。〔左氏、宣、十八〕楚子旅卒。〔穀梁、宣、十八〕楚子呂卒。㉗古は炏（6－16271）に作る。魯（12－46013）に通ず。〔說文〕旅、炏、古文旅、古文㠯爲二魯衞之魯一。㉘**姓**。〔萬姓統譜〕旅、周大夫子旅之後、望出二南安一、又云、亞旅、官名、以レ官爲レ氏。[二]**つらねる**。〔集韻〕旅、陳也。

名乘 モロ。タカ。タビ。

解字 會意。㫃（はたあし）と从（二人）との合字。从は或は㐺（三人、音ギン、人があつまる意）の省文ともいふ。旌旗の下に集まつた軍五百人。旅團。引伸して凡そ衆の稱とし、陳の意等となる。〔說文、旅、段注〕大司徒、五人爲レ伍、五伍爲レ兩、四兩爲レ卒、五卒爲レ旅、云云、引伸爲二凡衆之稱一。

【旅衣】1 リョイ たびごろも。客衣。征衣。〔崔湜、襄陽早秋寄二岑侍郎一詩〕落葉驚二哀鬢一、清霜換二旅衣一。

【旅逸】2 リョイツ 旅人となつて放浪する。又、ただひとり世を隱れのがれる。〔謝靈運、會吟行〕東方就二旅逸一、梁鴻去二桑梓一。〔注〕善曰、旅逸、謂下爲レ客而放逸上也、向曰、旅、獨也、言三獨爲二隱逸一。

【旅揖】3 リョイフ 大勢一緒に揖する。旅は衆。〔周禮、夏官、司士〕大夫以二其等一旅揖。〔注〕旅、衆也、大夫爵同者衆揖レ之。

【旅飮】4 リョイン 大勢で共に飮む。旅は衆。〔鹽鐵論、散不足〕其後鄕人飮酒、老者重豆、少者立食、一醬一肉、旅飮而已。

【旅烏】5 タビガラス 他鄕から來つた者を罵つていふ語。

【旅楹】6 リョエイ 多くの楹。旅は衆。楹ははしら。〔詩、商頌、殷武〕松桷有レ梴、旅楹有レ閑。〔集傳〕旅、衆也。〔左思、魏都賦〕旅楹閈列、暉二鑒挟振一。

【旅賈】7 lü^{2} ku^{3} 旅商人をいふ。

【旅歌】8 リョカ たびの歌。〔李賀、客遊詩〕旅歌屢彈レ鋏、歸問時裂レ帛。

【旅稼】9 タビカセギ 他鄕に行つてかせぐこと。

【旅行】10 リョカウ ❶連れ立つて行く。侶行。〔說文〕麗、旅行也、鹿之性、見二食急一則必旅行。〔廣雅、釋獸〕鮥、不二羣居一、不二旅行一。〔埤雅〕鮒、小魚也、即今之鯽魚、此魚旅行、吹レ沫如レ星。〔說苑、辨物〕不二羣居一、不二旅行一。〔蘇軾、凌虛臺記〕見下山之出二於林木之上一者上、纍纍如下人之旅二行於墻外一而見中其髻上也。❷たび。みちゆき。逆旅。羈旅。

【旅行券】11 リョカウケン 旅行免狀に同じ。

【旅行支票】12 lü^{3} hsing^{2} chih^{1} p'iao^{4} 旅行者が旅行の先々で受取られる小切手。

【旅行免狀】13 リョカウメンジヤウ 海外へ旅行する者に對し外務大臣が與へる許可證。旅行券。旅券。

【旅獒】14 リョガウ ❶西戎に產する犬の一種。〔書、旅獒序〕西旅獻レ獒、〔傳〕西戎遠國貢二大犬一。❷書經、周書の篇名。僞古文。西旅が獒を獻じた時、太保召公奭が是れは受くべきものにあらずとして、書を作つて武王を戒めたもの。〔書、旅獒序〕西旅獻二厥獒一、太保作二旅獒一。〔疏〕西方之戎有二國名レ旅者一、遣二獻其大犬一、其名曰レ獒、於レ是太保召公因陳レ戒、史敍二其事一、作二旅獒一。

【旅客】15 リョカク たびびと。遊子。旅人。〔易林、遯之第三十三、艮〕路多二枳棘一、前刺二我足一、不レ利二旅客一。

【旅翮】16 リョカク 遠方の地に飛び去る鳥。翮は鳥の羽、轉じて、鳥をいふ。〔謝朓、拜二中軍記室一辭二隋王一牋〕渤澥方春、旅翮先謝。〔注〕翰曰、翮、鳥羽也。

【旅鴈】17 リョガン 遠方の地に飛び去るかり。ゆくかり。征鴈。〔沈約、詠二湖中鴈一詩〕白水滿二春塘一、旅鴈每迴翔。〔張均、岳陽晚景〕晚景寒鴉集、秋

風旅鴈歸。

【旅葵】18 リヨキ　おほあふひの異名。〔阮瑀、失題詩〕自知百年後、堂上生二旅葵一。

【旅舊】19 リヨキウ　㊀故舊の人を以て軍隊とする。〔國語、齊語〕政不二旅舊一、則民不レ偸。〔注〕舊、君之故舊也、偸、苟且也、不下以二故人一爲中師旅上、則民相與不二苟且一也、孔子曰、故舊不レ遺、則民不レ偸。㊁僑戶と故舊。〔管子、小匡〕正二旅舊一、則民不レ惰。〔纂詁〕旅、蓋後世所謂僑戶、舊、故舊也、是二者、多待以二寬典一、今亦正レ之以二政刑一、則民畏二其嚴正一、不二敢怠惰一。

【旅況】20 リヨキヤウ　旅のありさま。〔高啓、送二丁孝庶之二錢塘一云云詩〕若見三故人詢二旅況一、知君解說不レ煩レ書。

【旅居】21 リヨキヨ　㊀滯留する。寄寓する。㊁タビヰ　たびのすみか。旅先に假寓する。

【旅拒】22 リヨキヨ　旅距に同じ。〔周書、異域傳論〕強則旅拒、弱則稽服。〔梁元帝、職貢圖序〕漢氏以來、南羌旅拒、西域憑陵。

【旅距】23 リヨキヨ　したがはないさま。一說に、羣衆の相距るさま。旅拒。〔後漢書、馬援傳〕若大姓侵二小民一、黠羌欲二旅距一、此乃太守事耳。〔注〕旅距、不レ從之貌。〔王先謙集解〕旅距、聚衆相距耳。

【旅銀】24 リヨギン　旅行の費用。旅費。路銀。

【旅窶】25 タビヤツレ　旅行の疲勞のために顏などのやつれ衰へること。

【旅寓】26 リヨグウ　やどや。たびのやどり。〔司空圖、寄二永嘉崔道融一詩〕旅寓雖レ難レ定、乘レ閑是勝遊。

【旅懷】27 リヨクワイ　旅路のおもひ。旅心。〔祖詠、過二鄭曲一詩〕旅懷勞自慰、淅淅有二涼風一。〔許渾、旅懷詩〕征軍何軋軋、南北極二天涯一。

【旅艎】28 リヨクワウ　旅の船。〔海錄碎事、服用、舟〕澤國旅艎銜レ雨黑、都門祖廟照レ堤紅、送二元厚之歸二吳中一、王禹玉。

【旅宦】29 リヨクワン　遊學すること。〔王僧達、和二琅邪王依レ古詩〕少年好二馳俠一、旅宦遊二關源一。〔注〕良曰、言下少好二遊俠一、旅中學關源上。

【旅館】30 リヨクワン　たび人をやどす家。はたごや。やどや。旅人宿。旅宿。旅舍。旅亭。旅寓。客亭。逆旅。旅店。〔謝靈運、遊二南亭一詩〕久痗二昏墊苦一、旅館眺二郊岐一。〔夷堅志〕遇二生日於旅館一。

【旅館寒燈獨不レ眠】31 リヨクワンノカントウヒトリネムラレズ　旅先のやどやに獨りやどつて寒々とした淋しい燈にねつかれぬこと。旅愁を詠じたもの。〔高適、除夜作詩〕旅館寒燈獨不レ眠、客心何事轉悽然、故鄉今夜思二千里一、霜鬢明朝又一年。

【旅館誰相問寒燈獨可レ親】32 リヨクワンタレカアヒトフカントウヒトリシタシムベシ　旅先のやどやに獨りやどり、寒々とした燈以外には相親しむべき者もない意。旅愁を詠じたもの。〔戴叔倫、除夜宿二石頭驛一詩〕旅館誰相問、寒燈獨可レ親、一年將レ盡夜、萬里未レ歸人、寥落悲二前事一、支離笑二此身一、愁顏與二衰鬢一、明日又逢レ春。

【旅京】33 lü³ ching¹　首都に在留する。在京する。

【旅憩】34 リヨケイ　旅路でやすむ。〔李白、冬夜醉宿二龍門一覺起言レ志詩〕醉來脫二寶劍一、旅憩高堂眠。

【旅見】35 リヨケン　多勢で見える。旅は衆。〔禮、曾子問〕諸侯旅二見天子一、入レ門、不レ得レ終レ禮而廢者幾。〔注〕旅、衆。

【旅券】36 リヨケン　旅行免狀(13)に同じ。

【旅硯】37 タビスズリ　旅行に携帶する硯。

【旅滬】38 lü³ hu⁴　上海に滯在する。

【旅魂】39 リヨコン　たびにある心もち。羈旅の情緒。旅思。旅情。〔張鼎、江南遇レ雨詩〕旅魂驚處斷、鄉信意中微。〔杜甫、夜詩〕空山獨夜旅魂驚。〔李商隱、淮陽路詩〕荒村倚二廢營一、投宿旅魂驚。

【旅瑣】40 リヨサ　旅に在つて賤役をし困窮すること。〔易、旅〕旅瑣瑣、斯其所レ取レ災。〔注〕最處二下極一、寄旅不レ得レ所レ安、而爲二斯賤之役一、所レ取致レ災、志窮且困。〔疏〕瑣瑣者、細小卑賤之貌、寄旅不レ得レ所レ安、而爲二斯卑賤之役一。〔宋史、度宗紀〕以下文武官在レ選、困二于部吏一、隆寒旅瑣可上レ閔、詔二吏部長貳郎官日趣銓注一、小有レ未レ備、特與放行。

【旅裝】41 リヨサウ　たびのしたく。たびしやうぞく。

【旅裝束】42 タビシヤウゾク　たびのしたく。旅行する時の衣服。旅裝。〔宇治拾遺物語、九〕旅裝束しながら手洗ひて。

【旅姿】43 タビスガタ　旅行のすがた。旅裝した姿。

【旅思】44 リヨシ　旅路のおもひ。客心。旅魂。〔謝朓、之二宣城一出二新林浦一向二版橋一詩〕旅思倦二搖搖一、孤游昔已屢。〔王勃、羈遊餞別詩〕寧竟山川遠、悠悠旅思難。

【旅師】45 リヨシ　周官の名。地官の屬。野の耡粟・屋粟・閒粟を聚め用ひることを掌る。〔周禮、地官、旅師〕掌下聚二野之耡粟・屋粟・閒粟一而用上レ之。

【旅次】46 リヨジ　たびのやどり。とまり。旅宿。旅泊。〔易、旅〕旅卽レ次、懷二其資一、得二童僕貞一。〔杜甫、毒熱寄二簡崔評事十六第一詩〕老夫轉不レ樂、旅次兼二百憂一。

【旅事】47 リヨジ　軍旅の事。〔史記、天官書〕主二葆旅事一。〔注〕索隱曰、姚氏案、宋均云、葆、守也、旅、猶二軍旅一也。

【旅愁】48 リヨシウ　たびのうれひ。旅情のせつなさ。羈愁。客愁。〔李商隱、送二崔珏往二西川一詩〕年少因レ何有二旅愁一、欲レ爲二東下更西遊一。〔杜甫、曉望二白帝城鹽山一詩〕日出清江望、喧和散二旅愁一。

【旅酬】49 リヨシウ　古、祭畢つて燕飮するとき各〻盃を擧げて長者に獻じ衆人が順序をもつて相酬いるをいふ。旅は順序。酬は主人側が先づ一杯飮んで賓客に杯を勸め、又其の杯を受けて、之を飮むことをいふ。〔儀禮、燕禮〕賓以旅二酬於西階上一。〔注〕旅、序也、以二次序一勸二鄉大夫一飮レ酒。〔禮、曾子問〕曾子問曰、祭如レ之何、則不レ行二旅酬之事一矣。〔疏〕三獻之賓作二尸所一止レ爵、尸飮卒爵酢レ賓、賓飮卒爵獻二祝及佐食一、致二爵于主人主婦一畢、主人降二阼階一、升酌二西階上一、獻二賓及衆賓一訖、主人洗二觶于西階前一、北面酬レ賓、酬レ賓訖、主人洗二爵于阼階上一、獻二長兄弟及衆兄弟及內兄弟于房中一、獻畢、賓乃坐取二主人所レ酬之觶於阼階前一、酬二長兄弟一、長兄弟受二觶於西階前一、酬二衆賓一、衆賓酬二衆兄弟一、所謂旅酬也。〔中庸〕旅酬下爲レ上、所二以逮レ賤也。〔章句〕旅、衆也、酬、導飮也、旅酬之禮、賓弟子兄弟之子、各擧二觶於其長一、而衆相酬。

【旅醻】50 リヨシウ　旅酬に同じ。〔詩、小雅、小弁、如二或醻レ之、箋〕醻、旅醻也。〔疏〕至二三爵之後一、乃擧二嚮者所レ奠之爵一、以行二之於後一、交錯相酬、名曰二旅酬一、謂二衆相酬一也。

【旅社】51 リヨシヤ　旅館。

【旅舍】52 リヨシヤ　やどや。はたごや。旅館。〔後漢書、侯覽傳〕京兆尹袁逢、於二旅舍一閱二參軍一、二三百餘兩。〔溫庭筠、上二首座相公一啓〕通津加レ嘆、旅舍傷レ懷。

【旅舍備要方】53 リヨシヤビエウハウ　書名。一卷。宋、董汲撰。應急の處方を記したもの。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【旅商】54 リヨシヤウ　たびあきなひ。諸國を廻り歩いて商賣すること。又、其の人。

【旅商人】55 タビアキンド　諸國を廻り歩いて商賣する者。行商人。

【旅情】56 リヨジヤウ　たびごころ。旅魂。旅思。〔白居易、自二江陵一之二徐州一路上作寄二兄弟一詩〕夕宿勞二鄉夢一、晨裝慘二旅情一。〔祖詠、江南旅情詩〕楚山不レ可レ極、歸路但蕭條。

【旅樹】57 リヨジユ　門道に設けた屛。旅は道、樹は屛。〔禮、郊特牲〕臺門而旅樹反坫、繡黼丹朱中衣、大夫之僭禮也。〔注〕旅、道也、屛、謂二之樹一、樹、所三以蔽二行道一、管氏樹塞レ門、塞、猶レ蔽也。〔疏〕而旅樹者、旅、道也、樹、立也、人君當二門道一立レ屛、蔽二內外一爲レ蔽也。

【旅宿】58 リヨシユク　たびのやどり。旅館。旅次。〔張籍、宿二臨江驛一詩〕旅宿今已遠。〔李商隱、寒食行次二冷泉驛一詩〕歸途仍近レ節、旅宿倍思レ家。

【旅順】59 リヨジユン　地名。遼東半島の南。旅順口を見よ。

【旅順口】60 リヨジユンコウ　港の名。古來、山東から廟島列島を經て遼東に至る者の旅程の順路に當るので名づける。清の光緒六年、要塞を設け、北洋艦隊の軍港とす。日清戰爭後、馬關條約によつて遼東半島を我が國に割讓したが、尋いで所謂三國干涉のため中國に還付す。光緒二十四年、露西亞は旅順港を占領し、旅順・大連灣を租借し、二十五年を期とした。後、日露戰爭により、我が國は此の租借權を得、關東都督府を設けて管轄し、大正四年、日支新條約により租期を九十九年とした。遼東半島の南端。現在は旅大市の中に編入されてゐる。〔讀史方輿紀要、山東、遼東部指揮使司、金州衞〕旅順口關、衞南百二十里、海運舟達二金州衞一者、至レ此登レ岸、有二旅順

口南北二城・金州衞中左千戸所一、在レ此備禦。

【旅所】61（タビショ）❶祭禮の時、神輿の假りに鎭坐する所。おたびしよ。旅の宮。〔桂川地藏記、下〕於二西七條松尾御旅所、北野伏拜之邊一而。❷（タビドコロ）旅行中のやどり。たびやどり。

【旅食】62（リョショク）❶多勢で食すること。轉じて、庶人で官にあるものをいふ。〔儀禮、燕禮〕士旅食者、立二乎門西一東上。〔儀禮、大射儀〕尊二士旅食于西鑮之南一北面、兩圜壺。〔注〕旅、衆也、士衆食、未レ得二正祿一、謂二庶人在レ官者一。〔晏子、雜、上〕貴富無レ力二于民一而旅食不レ惡二貧賤一。❷他鄕に飲食する。たびでくらす。客となる。客處。〔杜甫、奉二贈韋左丞丈一二十二韻詩〕騎驢三十載、旅食京華春。〔韓愈、祭二十二郎一文〕捨レ汝而旅二食京師一、以求二斗斛之祿一。〔戴復古、秋夜旅中詩〕旅食思二鄕味一、砧聲起二客愁一。

【旅心】63（タビゴコロ）旅にある思ひ。

【旅津】64（リョシン）旅人の渡し場。〔水經、濁漳水注〕水上有レ梁、謂二之旅津渡一、商旅所レ濟故也。

【旅進】65（リョシン）衆人と共にすすむ。旅進旅退を見よ。

【旅進旅退】66（リョシンリョタイ）❶俱に進み俱に退く。揃つて進み揃つて退く。〔禮、樂記〕今夫古樂、進旅退旅。〔注〕旅、猶レ俱也、俱進俱退、言二其齊一一也。〔國語、越語上〕欲二其旅進旅退一也、進則思レ賞、退則思レ刑。〔注〕旅、俱也。❷一定の節操や見識が無くてただ附和雷同する。〔王禹偁、待漏院記〕復有二無レ毀無レ譽、旅進旅退、竊レ位而苟レ祿、備レ員而全レ身者一、亦無レ所レ取焉。

【旅寢】67（タビネ）旅行先でねること。旅のやどり。旅宿。

【旅櫬】68（リョシン）鄕里に歸葬するを得ないで旅中に在る柩。〔鄭還古、杜子春傳〕遷二祔旅櫬一。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕夫主京師祿命終、子母孤孀途路窮、因レ此上旅櫬在二梵王宮一。

【旅人】69（リョジン）❶古の官名。雍人の屬。庶人で官に在るもの。〔儀禮、公食大夫禮〕旅人南面、加二匕于鼎一退。〔注〕旅人、雍人之屬、旅食者也。〔疏〕鄭云、士旅食者、所謂庶人在レ官者也。〔胡培翬正義〕儀禮釋官云、案、周禮外饔職曰、掌二外祭祀之割亨一、陳二其鼎俎實之牲體魚腊一、凡賓客之飧饔食之事、亦如レ之、天子有二內饔外饔之官一、諸侯唯有二饔人一而已、襄二十八年左傳云、饔人竊更レ之以レ鶩、是也、雍、與レ饔通、亦作レ雝、國語、佐レ雝者嘗焉、韋注、雝、亨煎之官、旅人蓋其下府史之屬、如三少牢之有二雍府一也。❷旅行する人。〔易、旅〕上九、鳥焚二其巢一、旅人先笑後號咷、喪二牛于易一、凶。〔陳祐、雜詩〕無定河邊暮笛聲、赫連臺畔旅人情。〔戴叔倫、早行寄二朱山人放一詩〕山曉旅人去、天高秋氣悲。〔杜甫、與二嚴二郎奉禮一別詩〕諸將歸應レ盡、題レ詩報二旅人一。

【旅人宿】70（リョジンヤド）やどや。はたごや。旅館。

【旅炊】71（リョスイ）たびでかしぐ。〔陸游、書二逆旅壁一詩〕旅炊雜二沙土一、得レ飽何暇レ擇。

【旅帥】72（リョスイ）旅の長。周の軍制で、五百人を統率する者。〔周禮、夏官、序官〕五百人爲レ旅、旅帥皆下大夫。〔孫詒讓正義〕江永云、黨出二五百人一爲レ旅、旅帥、卽黨正也。

【旅生】73（リョセイ）種を蒔かずに生える。野生。自生。〔後漢書、光武紀上〕野穀旅生。〔注〕旅、寄也、不レ因二播種一而生、故曰レ旅、今字書作レ穭、音呂、古字通。〔王先謙集解〕釋詁、旅、衆也、穀不レ因二播種一而生、故曰レ野、衆多、故曰レ旅也。〔梁書、武帝紀下〕九月、南兗州大饑、是月、北徐州境內、旅二生稻稗一二千許頃。

【旅仙】74（リョセン）明、顧壽潛(**12－43689**··286)の字。

【旅占】75（リョセン）多くのトひ方で吉凶を判ずること。多人數で占ふ。又、之を掌る者。〔儀禮、士喪禮〕東面旅占。〔注〕旅、衆也、反與二其屬一共占レ之、謂下掌二連山歸藏周易一者上。

【旅前】76（リョゼン）群をなしてすすむ。〔易林〕蒼鸞羣行、相得二旅前一。

【旅退】77（リョタイ）俱に退く。旅進旅退(66)を見よ。〔鄭谷、前寄二左省張起居一百言二云云詩〕旅退慙レ隨レ衆、孤飛怯レ向レ前。

【旅堂】78（リョダウ）清、胡介(**9－29400**··43)の號。

【旅道】79（リョダウ）lü³ tao⁴ 道路。旅程。

【旅道人】80（リョダウジン）清、胡介(**9－29400**··43)の「號。

【旅團】81（リョダン）舊陸軍編制上の名稱。

【旅長】83 lü² chang³ 民國、陸軍の官名。我が旅團長に相當す。

【旅中】84（リョチユウ）旅に出てゐる閒。旅行中。〔杜甫、遣レ興詩〕生涯能幾何、常在二羇旅中一。

【旅枕】85（リョチン）❶旅の枕。〔蘇軾、二十七日自二陽平一至二斜谷一宿二於南山中蟠龍寺一詩〕板閣獨眠驚二旅枕一、木魚曉動隨二僧粥一。❷（タビマクラ）たびね。たびのやどり。〔新古今和歌集、雜上〕ほととぎす其の神山のたびまくら、ほのかたらひし空ぞわすれぬ。

【旅亭】86（リョテイ）やどや。客亭。客舍。逆旅。旅館。〔東鑑、一〕治承四年九月四日、參二入于御旅亭一。

【旅程】87（リョテイ）たびの道のり。たびのみち。〔韓愈、陪二杜侍御一遊二湘西兩寺一獨宿有レ題一首因獻二楊常侍一詩〕旅程愧二淹留一、徂歲嗟二荏苒一。

【旅店】88（リョテン）やどや。旅館。〔項斯、曉發二昭應一詩〕旅店開偏早、鄕帆去未レ收。

【旅途】89（リョト）たびのみち。たびぢ。旅途。〔劉滄、秋日寓懷詩〕旅途誰見客青眼、故國幾多人白頭。

【旅囊】90（リョナウ）旅行に携帶する囊。うちがひ。行「囊。

【旅農】91（リョノウ）師旅の農を營むもの。一說に、旅は衆で、旅農は多くの農、卽ち田農・山農・澤農の類をいふ。〔管子、四時〕愼二旅農一、趣二聚收一。〔注〕師旅營レ農、當二愼收一レ之。〔纂詁〕旅、衆也、云二衆農一者、有二田農・山農・澤農一也、趣旨促、謹二愼衆農一、促レ之、令三速收二聚禾稼一。

【旅拜】92（リョハイ）ならびつらなつてをがむ。一緒に拜す。〔宋史、种師傳〕見者皆旅拜。

【旅抱】93（リョハウ）たびのこころ。〔李商隱、自二桂林一奉二使江陵一途中感懷寄二獻尙書一詩〕歸期無二雁報一、旅抱有二猿侵一。

【旅苞】94（タビヅト）旅行のみやげ。

【旅望】95（リョバウ）旅の眺望。〔崔曙、途中曉發詩〕旅望因レ高盡、鄕心遇レ物悲。

【旅百】96（リョハク）おほくの品をならべる。百品をならべる。旅は陳。〔左氏、莊、二十二〕庭實旅百、奉レ之以二玉帛一。〔注〕旅、陳也、百言二物備一也。〔左氏、宣、十四〕於レ是有二庭實旅百一。

【旅泊】97（リョハク）たびやどり。ふなどまり。〔博異志、許漢陽〕諸女郎曰、欣二此旅泊一、接奉不レ得二鄭重一耳、恨恨而別。

【旅幕】98（リョバク）多くのまく。旅は衆。〔周禮、天官、掌次〕凡祭祀張二其旅幕一、張二尸次一。〔注〕旅、衆也。

【旅費】99（リョヒ）旅行の費用。路用。

【旅寐】100（タビネ）たびのやどり。旅路にねること。旅枕。〔萬葉集、二〕旅宿かもする。

【旅擯】101（リョヒン）聘禮で一方が君の位であり一方が臣の位である場合には交擯の場合の如く擯と介と互に相傳へることなく、直ちに賓が上擯と相對して語るをいふ。此の時には餘の擯介はただ擯位に列なつて辭を傳へない。〔周禮、秋官、司儀〕主二國五積三問一、皆三辭拜受、皆旅擯、再勞、三辭三揖、登、拜受拜送。〔注〕玄謂、旅、讀爲二鴻臚之臚一、臚陳レ之也、賓之介九人、使者七人、皆陳二擯位一不レ傳レ辭也、賓之上介、出請二使者一、則前對位皆當二其末擯一焉、三揖謂二庭中時一也。〔義疏〕鄭鍔曰、旅擯者不二上下相傳一、直賓及上賓、相對而語、不二交擯一也。

【旅服】102（リョフク）旅の衣。〔張南史、陸勝宅秋暮雨中探韻同作詩〕歸心莫レ問三江水、旅服從レ沾九月霜。

【旅賁】103（リョホン）周官の名。夏官、司戈盾の屬。武勇を以て災害を禦ぐ。諸侯にも置く。〔周禮、夏官、司戈盾〕授二旅賁及虎士戈盾一。〔國語、魯語下〕天子有二虎賁一、習二武訓一也、諸侯有二旅賁一、禦二災害一也。

【旅賁氏】104（リョホンシ）周官の名。夏官の屬。戈盾を執つて王車に從ふ者。〔周禮、夏官、旅賁氏〕掌下執二戈盾一、夾二王車一而趨上、左八人、右八人、車止則持レ輪。

【旅平】105（リョヘイ）治功を畢へて山の祭をすること。旅は山祭の名。〔書、禹貢〕蔡蒙旅平。〔蔡傳〕蔡蒙、二山名、云云、祭レ山曰レ旅、旅平者、治功畢而旅祭也。

【旅夢】106（リョム）旅路にむすぶゆめ。〔張喬、荊楚道中詩〕春宵多二旅夢一、夏閏遠二秋期一。〔韓偓、午睡夢二江外兄弟一詩〕空庭日午獨眠覺、旅夢天涯相見廻。

【旅夜】107（リョヤ）旅の夜。〔杜甫、旅夜書懷詩〕細草微風岸、危檣獨夜舟。〔周紫芝、旅夜詩〕棲棲羈客眼

常開、簌簌青燈落二曉灰一。

【旅立】108 タビダチ 旅に立つこと。かどで。發足。

【旅力】109 リョリョク ㊀もろもろの力。多くの力。すべての力。衆力。〔書、秦誓〕番番良士、旅力既愆。〔傳〕勇武番番之良士、雖二衆力已過一者、我今庶幾欲下有二此人一而用上レ之。〔詩、小雅、北山〕旅力方剛、經二營四方一。〔傳〕旅、衆也。〔國語、周語中〕四軍之帥、旅力方剛。〔注〕旅、衆也。㊁力をのべる。力をつらねる。〔詩、大雅、桑柔〕靡レ有二旅力、以念二穹蒼一。〔箋〕朝廷曾無下有レ同レ力諫諍、念中天所レ爲レ下二此災害一者上與。〔漢書、翟方進傳〕烏虖害其可レ不二旅レ力同レ心戒レ之哉。〔注〕師古曰、旅、陳也。〔後漢書、班固傳下〕宜下亦勤恁旅レ力、以充中厥道上。〔注〕旅、陳也。㊂せぼねのちから。旅は膂。〔魏志、典韋傳〕旅力過レ人。〔晉書、吾彥傳〕手格二猛獸一、旅力絶レ羣。

【旅路】110 タビヂ たびさき。たび。

【旅籠】111 ハタゴ ㊀道中馬のかひばを盛るかご。〔和名抄、調度部、行旅具〕篼、唐韻云、篼、當侯反、漢語抄云、波太古、俗用二旅籠二字一。㊁食物・雜品を容れる旅行用のかご。又、其の食物。〔今昔物語、二十六〕旅籠・干物など食ひて寄り臥したる。㊂料理屋。㊃はたごやの略。旅館。

【旅籠屋】112 ハタゴヤ やどや。旅舍。旅館。旅人宿。〔牧民金鑑、十八〕貞享四年七月、宿宿旅籠屋共、銘銘呼寄可二申渡一候。

【旅役者】113 タビヤクシャ 旅興行の芝居役者。

【旅藝者】114 タビゲイシャ 旅かせぎの藝者。

【旅興行】115 タビコウギャウ 各地を巡廻して演藝などを興行すること。

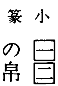
【旅相撲】116 タビスマウ 旅興行の相撲。

【旅芝居】117 タビシバヰ 旅興行の芝居。

【旅雲山人】118 リョウンサンジン 字號。㊀清、高簡(**12－45313**・・130)の號。㊁清、王岡(**7－20823**・・134)の號。

【㫌】13645 リョ 旅(**5－13644**)の古字。〔玉篇〕㫌、古文旅。

【旆】13646 ㈠ハイ バイ 〔集韻〕蒲蓋切 ㄆㄟ p'ei^4 泰 ㈡ハツ バチ 〔集韻〕蒲撥切 曷


小篆

㈠㈡ ㊀**はた。**㋑黑地の旗に雜色の帛でふちかざりをし、末端はさけて燕尾に似たはた。多く將帥が軍前に建てて一軍の標とする。〔說文〕旆、繼レ旐之旗也、沛然而垂、从レ㫃𣎵聲。〔爾雅、釋天〕繼レ旐曰レ旆。〔注〕帛續二旐末一爲二燕尾一者。〔釋名、釋天〕雜帛爲レ旆、以二雜色一綴二其邊一爲二翅尾一也、將帥所レ建、象二物雜一也。〔詩、小雅、六月〕白旆央央。〔傳〕白旆、繼レ旐者也。〔左氏、僖、二十八〕亡二大旆之左旃一。〔注〕繼レ旐爲レ旆。㋺はたの汎稱。〔詩、商頌、長發〕武王載レ旆。〔傳〕旆、旗也。〔左氏、宣、十二〕拔レ旆投レ衡。〔注〕旆、大旗也。㊁**はたあし。**旗につける帛。〔說文通訓定聲〕旆、繼レ旐之帛也、按、繼二旐末一、如二燕尾一、旐用二緇帛一、旆仍用二絳帛一、旐長八尺、旆亦長八尺。㊂**はたがひらめく。**〔左氏、昭、十三〕建而不レ旆。〔注〕旆、旍。㊃**さきがけ。**〔左氏、哀、二〕以二兵車之旆一、與二罕駟兵車一先陳。〔注〕旆、先驅車也。〔張衡、東京賦〕旆已反二乎郊畛一。〔注〕善曰、旆、前軍也。㊄**とばり。まく。**〔易、豐、豐其沛、釋文〕沛、本或作レ旆、謂二幡幔一也。㊅**垂下するさま。又、長いさま。**旆旆(2)を見よ。㊆沛(**6－17216**)に通ず。〔易、豐、豐其沛、釋文〕沛、本或作レ旆。㊇發(**7－22669**)に通ず。〔詩、商頌、長發〕武王載レ旆。〔荀子、議兵〕武王載レ發。㊈末(**6－14420**)に通ず。〔說文、旆、段注〕旆、亦有二與レ末通用者一、士喪禮、書二銘於末一、曰二某氏某之柩一、注曰、今文銘皆爲レ名、末爲レ旆。

【旆旌】1 ハイセイ はた。〔詩、小雅、車攻〕蕭蕭馬鳴、悠悠旆旌。〔左思、吳都賦〕悠悠旆旌者、相與聊二浪乎昧莫之垌一。〔唐太宗、飲馬長城窟行〕悠悠卷二旆旌一、飲馬出二長城一。

【旆旆】2 ハイハイ ㊀旗の垂れ下るさま。一說に、飛び揚るさま。〔詩、小雅、出車〕彼旟旐斯、胡不二旆旆一。〔傳〕旆旆、旒垂貌。〔集傳〕旆旆、飛揚之貌。㊁長いさま。〔詩、大雅、生民〕蓺二之荏菽一、荏菽旆旆。〔傳〕旆旆然長也。〔疏〕其旆旆・穟穟・幪幪、皆言二生長茂盛之貌一。

【旆旍】3 ハイセイ はた。旆旌(1)に同じ。旍は旌に同じ。〔左思、魏都賦、反旆悠悠、注〕善曰、毛詩曰、悠悠旆旍。

【旋レ旆】4 ハイヲカヘス はたをかへす。軍旗を後にかへす。轉じて、軍隊をひきかへすこと。〔晉書、王濬傳〕卿旋レ旆之日、角二巾私第一、口不レ言二平レ吳之事一。〔顏延之、請レ立二渾天儀一表〕値二大軍旋レ旆、渾儀在レ路。

【斺】13647 キ 旗(**5－13687**)に同じ。〔字彙補〕斺、與レ旗同。

【斾】13648 ハイ 旆(**5－13646**)の譌字。〔五經文字〕斾、旆从レ朩者譌。

【㫄】13649 バウ 滂(**7－18003**)に同じ。〔篇海類編〕㫄、與レ滂同。

七畫

【旇】13650 ㈠ヒ 〔集韻〕攀糜切 支 ㈡ビ ミ 〔集韻〕母被切 紙 ㈢ヒ ビ 〔集韻〕平義切 寘

小篆

㈠㈡㈢ ㊀**はたがなびくさま。**〔說文〕旇、旌旗披靡也、从レ㫃皮聲。㊁**衣服がひるがへるさま。**〔廣韻〕旇、又衣服皃。㊂**はた。**〔集韻〕旇、埤蒼云、旌旗。

【旈】13651 リウ 旒(**5－13676**)に同じ。〔集韻〕旒、或作レ旈。

【㫊】13652 ㈠エン 〔集韻〕衣檢切 琰 ㈡エフ 〔集韻〕益涉切 葉

㈠**車をおほふ網。**〔集韻〕㫊、覆車罔也。㈡**手あみ。**〔集韻〕㫊、手網也。

【𣄃】13653 エン 㫊(**5－13652**)の俗字。〔康熙字典〕𣄃、正字通、俗㫊字。

【旉】13654 フ 敷(**5－13359**)の古字。〔篇海〕旉、古文敷字。

【旉布】1 フフ しきのびる。〔易、說卦、震爲レ旉、疏〕取二其春時氣至、草木皆吐、旉布而生一也。

【旉與】2 フヨ しきのべる。〔漢書、禮樂志〕朱明盛長、旉二與萬物一。〔注〕師古曰、旉、古敷字、敷與言二開舒一也。〔王先謙補注〕旉與、猶二敷施一、書皐陶謨、翕受二敷施一、夏紀作二翕受二普施一、此謂二陽氣盛長、普二施萬物一耳。

【旊】13655 ㈠ハウ 〔周禮釋文〕甫罔切 養 ㈡フ 〔周禮釋文〕音甫 麌

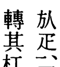
㈠㈡**すゑもの師。**瓬(**7－21457**)に同じ。〔周禮、考工記、總目〕搏埴之工陶旊。〔注〕旊、鄭司農云、讀爲二甫始之甫一、康成謂、讀

如㆘放㆓於此㆒乎之放㆖。〔釋文〕旊、甫罔反、又音甫。〔校勘記〕釋文嘉靖本、旊、作㆑瓬、案、說文瓦部云、瓬、周家搏埴之工也、从㆑瓦方聲、讀若㆓抵破之抵㆒、當㆘依㆑此訂正㆖、今本從㆑㫃非。

【旋】13656

［一］セン ゼン 〔集韻〕旬宣切 ㄒㄩㄢˊ hsüan$^{2\cdot4}$ 先

［二］セン ゼン 〔集韻〕隨戀切 霰


小篆

［一］㊀**はた竿を回轉させる。**〔說文〕旋、周旋、旌旗之指麾也、从㆓㫃疋㆒、疋、足也。〔段注〕旗有㆑所㆑鄉、必運㆓轉其杠㆒、是曰㆓周旋㆒。㊁**めぐらす。めぐる。**㋑まはす。まはる。〔史記、日者傳〕旋㆑式正㆑棊。〔注〕索隱曰、旋、轉也。〔素問、天元紀大論〕七曜周旋。〔注〕旋、謂㆘左循㆓天度㆒而行㆖。㋺かへす。かへる。〔小爾雅、廣言〕旋、還也。〔易、履〕視㆑履考㆑祥、其旋元吉。〔疏〕旋、謂㆓旋反㆒也。〔詩、小雅、黃鳥〕言旋言歸。〔集傳〕旋、回也。㋩まがる。うねる。〔王延壽、魯靈光殿賦〕旋室㛹娟以窈窕。〔注〕善曰、旋室、曲屋也。㋥たちもとほる。〔列子、黃帝〕鯢旋之潘爲㆑淵。〔釋文〕旋、謂㆓盤旋㆒也。㋭圓をかく。〔莊子、達生〕工倕旋而蓋㆓規矩㆒。〔釋文〕旋、圓也。㊂**かへつて。**また。〔史記、秦始皇紀〕旋遂之㆓瑯邪㆒。㊃**ふるまひ。**〔國語、周語中〕周旋序順。〔注〕周旋、容止也。㊄**かけひき。**周旋。せわ。〔左氏、僖、二十三〕與㆑君周旋。㊅**かねの取手。**〔周禮、考工記、鳧氏〕鍾縣謂㆓之旋㆒。〔注〕旋、屬㆓鍾柄㆒、所㆓以縣㆑之也。〔孫詒讓正義〕王引之云、鍾縣者、縣鍾之環也、環形旋轉、故謂㆓之旋㆒、旋環古同聲、環之爲㆑旋、猶㆓還之爲㆑旋也。㊆**水がめぐる。又、ふち。**淀(**6－17531**)に通ず。〔說文通訓定聲〕旋、叚借爲㆑淀、楚辭、招魂、旋入㆓雷淵㆒、列子、黃帝、鯢旋之潘爲㆑淵、淮南、俶眞、湍瀨旋淵、注、深淵也。㊇**ゆばり。**小便。〔左氏、定、三〕夷射姑旋焉。〔注〕旋、小便。㊈**すみやか。たちまち。**還(**10－37316**)に通ず。〔說文通訓定聲〕旋、叚借爲㆑還。〔史記、天官書〕殃還至、注、索隱曰、旋、疾也。〔史記、倉公傳〕病旋已。〔張九齡、奉㆕和聖製送㆔尚書燕國公說赴㆓朔方軍㆒詩〕歌鐘旋可㆑望。㊉**果穀が早熟する。**〔方言、六〕秦晉、凡物樹㆑稼早成熟、謂㆓之旋㆒。⓫**たま。**琁(**7－21008**)に通ず。〔淮南子、墬形訓〕傾室旋室。〔注〕旋室、以㆓旋玉㆒飾㆑室也、一說、室旋機闕可㆓轉旋㆒、故曰㆓旋室㆒。〔漢書、律歷志〕佐㆓助旋璣㆒。〔後漢書、安帝紀〕據㆓琁璣玉衡㆒。⓬還(**11－39174**)に通ず。〔禮、玉藻〕周旋中㆑規、折還中㆑矩、釋文、還、本亦作㆑旋。⓭**姓。**〔江西通志〕旋政、新喻人。⓮現㋑しきりに。續いて。㋺次に。尋いで。［二］**めぐる。**〔集韻〕旋、繞也。

解字 會意。㫃(旌旗の字の省文)と疋(足)との合字。足とは旗竿の下部の地に立てる部分。旗で指圖するに、旗の向ふ方向に其の旗竿の足をめぐらすから、めぐらす(周旋)意。引伸して凡べて轉運する義とする。〔說文、旋、段注〕杠之柱㆑地者、是旌旗之足也。

【旋斡】1 セン アツ めぐらす。又、めぐる。〔陸游、夜登㆓城樓㆒詩〕上天何蒼蒼、四序浩旋斡。

【旋暈】2 hsüan^{2} yün^{1} めまひする。

【旋淵】3 セン エン ふかくうづまくふち。深いふち。〔淮南子、俶眞訓〕湍瀨旋淵。〔注〕深淵也。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕蛟龍潛㆓於旋淵㆒兮。〔補注〕淮南云、藏㆓志乎九旋之淵㆒、注云、九迴之淵至深也。

【旋圜】4 セン エン うねる。〔墨子、經說上〕免蚓還園去就也。〔閒詁〕園、疑當㆑作㆑圓、亦形之誤、還、與㆑旋同、蛇蟥皆蜿蟺屈曲而行。

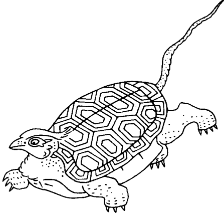
【旋溫】5 セン ヲン 酒を溫める。〔宣和遺事、前集下〕逡逐㆓旋溫㆒來喫得過。

【旋行】6 セン カウ めぐり行く。

【旋機】7 セン キ 旋璣に同じ。〔尙書大傳、虞夏傳〕正月上日、受㆓終于文祖㆒、在㆓旋機玉衡㆒、以齊㆓七政㆒、云云、旋機者何也、傳曰、旋者、還也、機者、幾也、微也、其變幾微、而所㆑動者大、謂㆓之旋機㆒、是故旋機謂㆓之北極㆒、受、謂㆑舜也、上日、元日。

【旋璣】8 セン キ 天文を觀測する機械。渾天儀。一說に、北斗星をいふ。旋機及び璿璣(**7－21311・・4**)を見よ。〔漢書、律歷志上〕佐㆓助旋璣㆒、斟㆓酌建指㆒、以齊㆓七政㆒。〔漢書、天文志〕北斗七星、所謂旋璣玉衡、以齊㆓七政㆒。

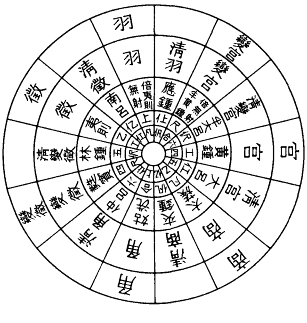
【旋龜】9 セン キ 山海經の獸の名。鳥首で虺鼈の尾をなすといふ。〔山海經、南山經〕杻陽之山、云云、怪水出㆑焉、而東流注㆓于憲翼之水㆒、其中多㆓玄龜㆒、其狀如㆑龜而鳥首虺尾、其名曰㆓旋龜㆒、其音如㆑判㆑木、佩㆑之不㆑聾、可㆓以爲㆑底。〔山海經、中山經〕曰㆓密山㆒、云云、豪水出㆑焉、而南流注㆓于洛㆒、其中多㆓旋龜㆒、其狀鳥首而鼈尾、其音如㆑判㆑木。


旋龜（山海經圖）

【旋歸】10 セン キ めぐりかへる。〔詩、小雅、黃鳥〕言旋言歸、復㆓我邦族㆒。〔集傳〕旋、回也。〔古詩十九首〕客行雖㆑云㆑樂、不㆑如㆓早旋歸㆒。〔蔡琰、胡笳十八拍〕不㆑謂殘生兮、卻得㆓旋歸㆒。〔阮籍、詠懷詩〕晨鷄鳴㆓高樹㆒、命㆑駕起旋歸。

【旋鄉】11 hsüan^{2} hsiang^{1} 故鄉へかへる。歸鄉する。旋里。

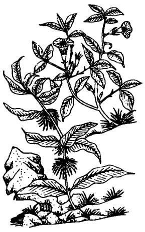
【旋宮】12 セン キュウ 秦漢以前、諧音の法。十二律・七聲を相配して衆調を成すもの。〔舊唐書、祖孝孫傳〕武德七年始命㆓孝孫及秘書監竇璡㆒、修㆓定雅樂㆒、孝孫斟㆓酌南北㆒、考以㆓古音㆒、作㆓大唐雅樂㆒、以㆓十二月㆒各順㆓其律㆒、旋相爲㆑宮、制㆓十二樂㆒合三十二曲、八十四調、旋宮之義、亡絕已久、世莫㆓能知㆒、一朝復㆑古、自㆓孝孫㆒始也。〔唐樂章〕旋宮扣㆑律仰承㆑雲。〔冊府元龜〕十二律旋迭爲㆑均、均有㆓七調㆒、合八十四調、自㆑秦以下、旋宮聲廢、故十二律有㆓五律㆒爲㆓啞鐘㆒、唐太宗考㆓正雅樂㆒、而旋宮八十四調、復見㆓於時㆒。



旋宮起調（大淸會典圖樂律圖）

【旋曲】13 セン キョク めぐりまがる。〔列子、湯問〕是故能進退履㆑繩、而旋曲中㆓規矩㆒。〔淮南子、主術訓〕能進退履㆑繩、而旋曲中㆑規。

【旋花】14 セン クワ 蔓草の名。山野に自生する。晝顏。はやひと草。〔本草、旋花〕釋名、旋葍、筋根、續筋根、鼓子花、㹠腸草、美草、天劍草、纏枝牡丹、時珍曰、其花不㆑作㆑瓣、狀如㆓軍中所㆑吹鼓子㆒、故有㆓旋花鼓子之名㆒、一種千葉者、色似㆓粉紅牡丹㆒、俗呼爲㆓纏枝牡丹㆒。


旋花（三才圖會）

【旋花科】15 セン クワ クワ 植物分類法で、花又は蕾が螺旋狀に卷く植物の總稱。朝顏の類。

【旋渦】16 セン クワ 水がうづを卷く。うづまき。轉じて、事の波瀾あり紛糾を極める喩。〔韻府引、袁桷、詩〕教㆑民風偃㆑草、撫㆑俗水旋㆑渦。

【旋回】17 センクワイ ㊀かへること。㊁めぐる。又、めぐらす。旋廻。

【旋廻】18 センクワイ めぐらす。又、めぐる。〔說苑、尊賢〕旋二廻十萬之師一、擅二斧鉞之誅一。〔庾信、周祀二圜丘一歌、皇夏〕旋二廻外壝一、蹕二靜郊門一。

【旋環】19 センクワン めぐらす。又、めぐる。〔司馬相如、上林賦〕旋二環乎後宮一。〔班婕妤、擣素賦〕或旋環而紆鬱。

【旋觀】20 センクワン めぐりみる。〔傳亮、爲二宋公一求三加二贈劉前軍一表〕旋二觀終始一。

【旋軍】21 センクン 軍をかへす。〔國史略、淳仁天皇〕會逆風旋二軍三尾埼一。

【旋京】22 hsüan^2 ching^1 歸京する。

【旋眩】23 センゲン 目がまはりくらむ。〔柳宗元、序飮〕旋眩滑汨、若レ舞若レ躍。

【旋胡】24 センコ 舞の名。胡旋舞をいふ。〔楊維楨、城東宴詩〕客狂起舞作二旋胡一、主亦擊レ缶呼二嗚嗚一。

【旋工】25 hsüan^2 kung^1 挽物師。施匠。

【旋葬】26 センサウ 還り葬ること。一說に、疾く葬る。〔顏延之、陶徵士誄〕遭壤以穿、旋葬而窆。〔注〕善曰、禮記、孔子曰、斂二首足形一、還葬而無レ椁、稱二其財一、斯之謂レ禮、銑曰、使二逢レ地卽穿、疾葬而下レ棺也。

【旋子】27 センシ ㊀小羊の異名。〔事物異名錄、獸畜、羊〕刊謬正俗、問小羊爲二旋子一何、曰、字林、羜、未晬羊、言レ旋者、語訛耳、當レ言二羜子一也。㊁モトホリ 鷹のおほ緒につける金具。〔倭名抄、調度、鷹犬具〕旋子、新撰六帖歌、毛止保之、是也、按、毛度保利訓義。

【旋止】28 センシ かへりきたる。〔曹植、朔風詩〕今我旋止、素雲云飛。〔注〕銑曰、旋、還、止、至也。

【旋時】29 センジ 僅かの時間。〔魏志、臧洪傳〕故旋時之間、不レ蒙二觀過之貸一、而受二夷滅之禍一。

【旋式】30 センシヨク 栻をめぐらし使ふ。式は栻、陰陽を推して吉凶を占ふ盤。〔史記、日者傳〕旋式正棊。〔注〕索隱曰、式、卽栻也、旋、轉也、栻之形、上圓象レ天、下方法レ地、用レ之則轉二天綱一、加二地之辰一、故云二旋式一。

【旋室】31 センシツ ㊀曲屋をいふ。〔王延壽、魯靈光殿賦〕旋室㛹娟以窈窕。〔注〕善曰、徐幹七喩曰、連觀飛榭、旋室廻房、旋室、曲屋也、㛹娟、廻曲貌。㊁機關があつて轉回しうる室。一說に、旋玉を以てかざつた室。琁室。〔淮南子、墬形訓〕傾宮旋室。〔注〕旋室、以二旋玉一飾レ室也、一說、室旋二機關一可二轉旋一、故曰二旋室一。

【旋日】32 センジツ 日をめぐらす。一日を經過すること。〔漢書、李尋傳〕子孫之福、不レ旋レ日而至。

【旋匠】33 hsüan^2 chiang^4 挽物師。

【旋踵】34 センシヨウ くびすをめぐらす。足を向けかへす。轉じて、すぐさま、暫時。〔史記、吳起傳〕其父戰不レ旋レ踵、遂死二於敵一。〔漢書、霍光傳〕今日之議、不レ得レ旋レ踵。〔後漢書、陳蕃傳〕禍不レ旋レ踵。

【旋軫】35 センシン くるまをかへす。〔潘岳、西征賦〕驚二横橋一而旋レ軫、歷二敝邑之南垂一。〔注〕良曰、旋レ軫、還レ車也。

【旋濟】36 センセイ 始めに戻つて中止する。濟は止。一說に、濟は渡し場で、渡しを渉つて歸る意。〔詩、鄘風、載馳〕既不二我嘉一、不レ能二旋濟一。〔傳〕濟、止也。〔集傳〕濟、渡也。

【旋泉】37 センセン うづまくいづみ。〔水經、湘水注〕山下有二旋泉一、深不レ可レ測。

【旋旋】38 センセン やや。稍〻。〔白居易、和下薛秀才尋二梅花一同飮見上レ贈詩〕歌聲怨處微微落、酒氣醺時旋旋開。

【旋卽】39 hsüan^2 chi^2 直きに。やがて。すぐに。

【旋臺】40 センダイ めぐりのぼつた臺。〔張協、七命〕旋臺九重。〔注〕濟曰、旋、曲也。

【旋蟲】41 センチユウ 鐘紐の名。鐘の掛ける部分で獸形をなしたもの。把手。龍頭。〔周禮、考工記、鳧氏〕鐘縣謂二之旋一、旋蟲謂二之幹一。〔注〕鄭司農云、旋蟲者、旋以レ蟲爲レ飾也、玄謂、今時旋有二蹲熊盤龍辟邪一者。〔孫詒讓正義〕鄭司農云、旋蟲者、旋以レ蟲爲レ飾也者、王引之云、此以二旋與レ幹爲二一物一也、若然、則記文但言下鍾縣謂二之旋一、旋謂中之幹上可矣、何以次句又加二蟲字一乎、幹所二以銜レ旋、而非三所二以縣一、幹爲二蟲形一、而旋則否、不レ得二以レ旋爲レ幹也、又云、旋蟲爲二獸形一、獸亦稱レ蟲、月令、其蟲毛、謂レ獸也、儒行、鷙蟲攫搏、鄭注、鷙蟲、猛鳥猛獸也、案、王說亦是也、漢時縣鍾之制、蓋已與レ古異、故先鄭之說如レ此、云三玄謂今時旋有二蹲熊盤龍辟邪一者、此擧二漢法一、證二先鄭以レ蟲飾レ旋之義一、賈疏云、辟邪亦獸名、案、王氏經義述聞所レ圖紀侯鍾、旋蟲爲レ獸、首有レ角、如二牛形一、疑卽辟邪也。

【旋濘】42 センデイ 泥中で進退の自由を失ふこと。還濘(**11－39174‥108**)に同じ。

【旋轉】43 センテン ぐるぐるめぐる。又、ぐるぐるまはす。廻轉。旋回。〔淮南子、原道訓〕與二萬物一回周旋轉。〔論衡、說日〕儒者論曰、天左旋、日月之行、不レ繫二於天一、各自旋轉。〔北史、斛律光傳〕雲表見二一大鳥一、射レ之、正中二其頸一、形如二車輪一、旋轉而下、乃鵰也。

【旋轉圍繞】44 センテンヰゼウ ぐるぐるとまはつてとりかこむ。〔依田學海、日本海之戰〕以二我駛力優快一、忽出二其右一、忽回二其左一、旋轉圍繞。

【旋馬】45 センバ 馬のむきをかへす。〔宋史、李沆傳〕沆爲レ相、廳事前、僅容二旋馬一。〔李東陽、賀二彭閣老一詩〕文靖舊無二旋レ馬地一、敏中元有二耐レ官心一。

【旋背】46 センバイ ひるがへりそむく。ねがへる。〔資治通鑑、宋紀〕文帝、元嘉元年、與レ人共計議、如何旋背卽賣二惡於人一邪。〔注〕旋背、猶三今人言二轉背一也。

【旋旆】47 センバイ はたをめぐらす。轉じて、軍をかへすこと。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕故且觀レ兵旋レ旆、復整二六師一。〔顏延之、請レ立二渾天儀一表〕値二大軍旋レ旆、渾儀在レ路。

【旋反】48 センパン めぐらしかへす。めぐりかへる。〔詩、鄘風、載馳〕既不二我嘉一、不レ能二旋反一。〔傳〕不レ能三施二反我思一。〔向秀、思舊賦〕遂旋反而北徂。〔潘岳、爲二賈謐一作贈二陸機一詩〕旋二反桑梓一。

【旋盤】49 センバン 旋轉させて圓い器物を造る機械。木工用・金工用の兩種があり、金工用には普通旋盤・鏡旋盤・轉倒旋盤・自動旋盤・特殊旋盤・精密旋盤等がある。

【旋盤工】50 センバンコウ 旋盤を取扱つて仕事をする職工。

【旋辟】51 センピ しりごみする。逡巡する。還辟(**11－39174‥118**)に同じ。〔蘇洵、仲兄字文甫說〕揖讓旋辟。

【旋避】52 センピ めぐりさける。〔裴度、神龜負レ圖出レ河賦〕神魚鼓舞而旋避。

【旋轡】53 センピ 馬をひきかへす。轡はたづな。〔閻復、駙馬高唐忠獻王碑〕邊塵不レ清、義不レ旋レ轡。

【旋風】54 センプウ つむじかぜ。つじかぜ。旋飆。〔後漢書、王忳傳〕被レ隨二旋風一、與レ馬俱亡。〔白居易、凶宅詩〕蒼苔黃葉地、日暮多二旋風一。

【旋風葉】55 センプウエフ 書物の裝釘の一種。折本の前後の表紙を一枚で作り、中味の折紙の部をつまめば、全體がばらばらと旋風のやうに開かれるもの。又、其の相離れないところから囊草子・葉子ともいふ。〔墨莊漫錄、三〕今世間所レ傳唐韻、猶有二旋風葉一、字畫清勁、人家往往有レ之。

【旋風筆】56 センプウヒツ 文詞を從横自在に作る才筆。〔文鎭編年〕田承嗣簽二治文案一如二流水一、吏人相謂曰、世罕レ有二此旋風筆一。

【旋風舞】57 センプウノマヒ 旋風のやうにぐるぐるまはつて舞ふこと。〔珍珠船〕安祿山晚年益肥、自秤三百五十斤、於二上前一旋舞如レ風。

【旋復】58 センプク めぐりかへる。旋復廻皇を見よ。〔傳毅、迪志詩〕日月逾邁、豈云二旋復一。〔曹植、九愁賦〕顧二旋復之無軌一。

【旋復廻皇】59 センプククワイクワウ 去留の定まらないこと。〔馬融、長笛賦〕長韾遠引、旋復廻皇。〔注〕翰曰、旋復廻皇、皆聲去住不レ定、高下不レ常貌。

【旋葍】60 センプク 蔓草の名。ひるがほの異名。旋花(14)を見よ。

【旋飆】61 センペウ つむじかぜ。〔宋褧、朝元宮白牡丹詩〕瑤圃廓落崑崙高、霓旌豹節淩二旋飆一。

【旋磨】62 センマ 磨をめぐる。蟻磨(**10－33672‥5**)を見よ。

【旋毛】63 センマウ つむじ。毛のうづまきの形に生えてゐる部分の稱。又、うづまいた毛。〔埤雅、釋鳥、鵰〕旋毛欲レ深。〔聞見後錄〕碧雲霞廐馬也、莊憲太后、臨レ朝以賜二荊王一、王惡二其旋毛一。

【旋毛蟲】64 hsüan^2 mao^2 ch'ung^2 蟲の名。蠕形動物の一つ。豚肉を食べる人の體に生ずる寄生蟲。

【旋網】65 センマウ とあみ。〔文雲孫、詩〕少船旋網鱖魚肥。

【旋沫】66 センマツ めぐるあわ。〔李泌、賦レ棊詩〕旋沫

鰷成二碧玉池一、添酥散出二琉璃眼一。

【旋目】67 センモク 鳥の名。ほしごひ。鷿目。〔漢書、司馬相如傳上〕交精旋目。〔注〕師古曰、今荊・郢閒有二水鳥一、大二於鷺一而短尾、其色紅白、深目、目旁毛皆長而旋、此其旋目乎。〔司馬相如、上林賦〕交精旋目。〔注〕善曰、司馬彪曰、旋目、鳥名也。

【旋門】68 センモン 關の名。漢の靈帝が黃巾の賊に備へた八關の一つ。河南省汜水縣の西南。〔班昭、東征賦〕望二河洛之交流一兮、看二城皐之旋門一。〔輿地廣記〕後漢中平初、置二八關都尉一、以備二黃巾一、旋門其一也。

【旋紋】69 センモン ひだ。卷皺。卷目。漩紋。

【旋螺】70 センラ 螺ナニの殼の線のやうにめぐつた筋。うづまき。螺旋（**10－33512**‥18）に同じ。〔古器評〕周虬鈕鐘銘文、磨滅不レ可レ識、作二旋螺之狀一。

【旋嵐】71 センラン 速い風。〔正字通〕嵐、旋嵐、梵云二迅猛風一。

【旋里】72 センリ 鄕里に歸る。家鄕に戾る。〔福惠全書、涖任部、查交代〕除二一官物故一、三官相繼旋レ里。

【旋流】73 センリウ めぐり流れる。渦まき流れる。又、深い淵。〔孫綽、遊二天台山一賦〕蕩二遺塵於旋流一。〔注〕善曰、高誘淮南子注曰、旋流、深淵也。〔應璩、與二廣川長岑文瑜一書〕言未レ發而水旋流。

【旋律】74 センリツ 高さの異なる幾つかの樂音がリズム的に連續したもの。音樂のふし。

【旋菴子】75 センアンシ 明、朱廷旦（**6－14424**‥931）の號。

【旋中レ規】76 センキニアタル 規コンパスで畫いたやうに巧に圓くまはること。〔莊子、達生〕東野稷以レ御見二莊公一、進退中レ繩、左右旋中レ規。

【旋頭歌】77 セドウカ センドウカ 和歌の一體。上句も下句も五七七の三句から成る。本かと思へば末となり末かと思へば本にかへるからいふ。一名、雙本歌。

【旋覆花】78 センプククワ 草の名。多年生草。をぐるま。のぐるま。〔本草、旋覆花〕釋名、金沸草、金錢花、滴滴金、盜庚、夏菊、戴椹、集解、宗奭曰、旋覆、葉如二大菊一、又如二艾蒿一、秋開レ花、大如二梧桐子一、花淡黃色、其香過二於菊一、別有二旋花一、乃鼓子花非二此花一也。

【旋物家】79 サシモノヤ さしもの師。〔和漢三才圖會、人倫〕工匠有二數品一、造二家室一者名二大工一、作二櫃箱匣盒等器物一者名二旋物家一。

【旋乾轉坤】80 センケンテンコン 乾をめぐらし坤を轉ずる。天地を回轉する。轉じて、天下を一新すること。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕陛下卽位以來、躬親聽斷、旋レ乾轉レ坤。〔宋史、游似傳〕人主一念之烈、足二以旋レ乾轉レ坤。〔阪谷朗廬、春窓記〕旋レ乾轉レ坤、亦唯歸二諸春生之德一而已。〔賴山陽、謁二楠河州墳一有レ作〕旋レ乾轉レ坤答二知遇一。

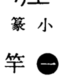
【旑】13657

㊀イ 〔集韻〕隱綺切 紙

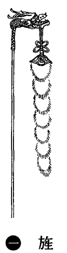
㊁ア 〔集韻〕倚可切 哿

●一はたのなびくさま。旖（**5－13685**）に同じ。〔集韻〕旖、旖旎、旌旗從レ風皃、或省。**●二はた。**〔集韻〕旑、旑㫊、旌旂也。

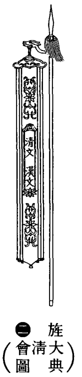
【旌】13658


小篆

セイ シヤウ 〔集韻〕咨盈切 庚 ㄐㄧㄥ ching¹


●一 旌（禮器圖）

●一はた。㋑析いた五采の羽毛を竿首に垂らした旗。天子が士氣を鼓舞するに用ひる。〔說文〕旌、游車載レ旌、析羽注二旄首一也、所三以精二進士卒一也、从レ㫃生聲。〔爾雅、釋天〕注二旄首一曰レ旌。〔詩、鄘風、干旄〕孑孑干旌。〔傳〕析羽爲レ旌。〔周禮、春官、司常〕全羽爲レ旞、析羽爲レ旌。〔注〕全羽析羽皆五采、繫二之於旞旌之上一、所謂注二旄於干首一也。〔孫詒讓正義〕蓋日月交龍等爲二縿章一、全羽析羽爲二杠飾一、常旂旜旗旐五旗、各有下不レ注レ羽及注二全羽一注二析羽一二者上、隨レ所レ用而異レ制。〔公羊、宣、十二〕莊王親自手レ旌。〔注〕注二旄首一曰レ旌。㋺鈴を掛けた旗。〔楚辭、東方朔、七諫、自悲〕載二雌霓一而爲レ旌。〔注〕旌、旗也、有レ鈴爲レ旌。㋩はたの汎稱。〔儀禮、鄕射禮記〕旌各以二其物一。〔注〕旌、總名也。〔史記、文帝紀〕朝有二親善之旌一。〔注〕集解曰、旌、旛也。**●二清代、鹵簿に用ひるはた。**旛に似て罩がなく、旁に彯帶が垂れてゐる。竿首は矛形で朱の羽で飾る。〔大清會典圖、輿衞〕旌、用二紅緞一、長七尺三寸、闊六寸五分、通繡二金花草文一、下剡二緞金鈴三一、中銜二黃緞一、綠緣、荷首蓮趺、長一尺三寸、闊四寸、繡二金清漢文一、蓋二鈒銅朶雲三一、高五寸五分、闊九寸、中豐下斂、旁垂二青緞帶二一、各綴二鈴三一、杵・攢竹髹朱、長一丈、圍四寸五分、上爲二矛形一、木質塗レ金、下注二朱旄一、飾二塗金龍首一、銜レ鐶繫レ旌、鐓以二銅鋄銀一、高五分、通高一丈一尺一寸、其清漢文、曰二教孝表節一、曰二明刑弼教一、曰二行慶施惠一、曰二褒功懷遠一、曰二振武一、曰二敷文一、曰二納言一、曰二進善一、皆上二清文一、下二漢文一。**●三使臣のしるし。節。**〔周禮、地官、掌節〕道路用二旌節一。〔注〕今使者所レ擁節是也。**●四あらはす。**㋑ほめる。表彰する。〔廣雅、釋詁四〕旌、表也。〔左氏、僖、二十四〕且旌二善人一。〔注〕旌、表也。㋺惡を明かにする。〔左氏、定、元〕生不レ能レ事レ死、又離レ之、以自旌也。〔注〕旌、章也。㋩はつきりさせる。〔後漢書、張衡傳〕旌二性行一以製レ佩兮。〔注〕旌、明也。㋥別をつける。〔書、畢命〕旌二別淑慝一。㋭しるす。表示する。〔國語、周語上〕故爲二車服旗章一以旌レ之。〔注〕旌、表也。**●五をさめる。**〔任昉、百辟勸二進今上一牋、太公不二以爲一レ讓、注〕善曰、宋均曰、旌、理也。**●六神に薦める草の斷切しないもの。**〔公羊、宣、十二〕左執二茅旌一。〔注〕茅旌、祀二宗廟一所レ用、迎二道神一指二護祭一者、斷曰レ藉、不レ斷曰レ旌。●七珪（**7－20972**）の誤字。〔莊子、讓王〕延レ之以二三旌之位一。〔釋文〕三旌、三公位也、司馬本作二三珪一。**●八姓。**〔萬姓統譜〕旌、見二姓苑一。


●二 旌（大清會典圖）

【旌帷】1 セイヰ はたととばり。〔徐陵、陳文帝哀策文〕容車晚駕、幄殿晨張、旌帷具列、綍翿成行。

【旌引】2 セイイン あらはして引き上げる。〔宋書、戴顒傳〕前太尉參軍戴顒、辟士韋元、秉レ操幽遁、守レ志不レ渝、宜下加二旌引一以弘中止退上、並可二散騎侍郎一。

【旌羽】3 セイウ はねをつけたはた。卽ち旌。〔宋書、樂志二〕鏗二金石一、揚二旌羽一。〔江淹、爲二蕭太傅一讓二前部羽葆鼓吹一表〕臣聞、國容軍禮、旌羽昭二其華一、品騎第乘、鸞蕤藹二其飾一。〔許景先、奉三和聖製送二張尚書巡一レ邊詩〕郊雲駐二旌羽一、邊吹引二金鉦一。

【旌枻】4 セイエイ はたとかい。〔司馬相如、子虛賦〕浮二文鷁一揚二旌枻一、張二翠帷一建二羽蓋一。〔注〕善曰、張揖曰、析レ羽爲レ旌、建二於船上一也、郭璞曰、枻、船舷樹二旌於上一。

【旌搖】5 セイエウ はたがゆれ動くこと。〔王翰、奉三和聖製送二張尚書巡一レ邊詩〕騎歷二河南樹一、旌搖二塞北沙一。

【旌鉞】6 セイエツ はたとまさかり。共に大將軍の執るもの。〔魏書、任城王澄傳〕澄謂レ亮曰、公在レ外見二旌鉞既張一、而有二憂色一。〔白居易、戲和三微之答二竇七行軍之作一詩〕旌鉞從二櫜鞬一、賓僚禮數全。〔湘山野錄〕時新榜一巍峩者出、倅二巨藩牙兵一、寶轡旌鉞、導從呵擁特盛。

【旌延】7 セイエン　あらはしひく。あらはし招きよぶ。〔宋書、孝武帝紀〕今息㆓警夷嶂㆒、恬㆓波河渚㆒、棧㆑山航㆑海、嚮㆑風慕㆑義、化㆑民成㆑俗、茲時篤矣、來歲可㆘修㆓葺庠序㆒、旌㆗延國冑㆖。〔宋書、禮志三〕匡㆓飾墳序㆒、引㆓無題之外㆒、旌㆓延寶臣㆒、盡㆓盛德之範㆒。

【旌夏】8 セイカ　行列のしるしの大旗。〔左氏、襄、十〕舞師題以㆓旌夏㆒。〔注〕師、樂師也、旌夏、大旗也、題、識也、以㆓大旗㆒表㆓識其行列㆒。〔疏〕謂、舞初入之時、舞師建㆓旌夏㆒、以題㆓識其舞人之首㆒、謂㆓之旌夏㆒、蓋形制大而別爲㆓之名㆒也。〔後漢書、馬融傳〕建㆓雄虹之旌夏㆒。〔注〕左傳云、舞師題以㆓旌夏㆒、杜預注云、旌夏、大旗也。

【旌蓋】9 セイガイ　はたときぬがさ。〔南齊書、宗室遙昌傳〕旌蓋飄颻、遠涉㆓淮泗㆒。〔李嶠、奉㆔和幸㆓韋嗣立山莊㆒應制詩〕松門駐㆓旌蓋㆒、薜幄引㆓簪裾㆒。

【旌孝】10 セイカウ　孝行を旌表すること。〔唐書、李源傳〕旌孝所㆔以激㆓人倫㆒也。〔劉因、哭㆓張之傑㆒詩〕傷㆑心墓頭字、旌㆑孝看㆓他年㆒。

【旌甲】11 セイカフ　はたと甲。〔魏志、陳登傳、注〕賊初到、旌甲覆㆑水。〔晉書、庾翼傳〕大會㆓僚佐㆒、陳㆓旌甲㆒。〔鮑照、代出自薊北門行〕簫鼓流㆓漢思㆒、旌甲被㆓胡霜㆒。

【旌罕】12 セイカン　はたをいふ。罕も又、はた。〔趙彥昭、奉㆘和幸㆓韋嗣立山莊㆒侍㆖燕應制詩〕六龍駐㆓旌罕㆒、四牡耀㆓旂常㆒。

【旌竿】13 セイカン　はたざを。〔鄭愔、塞外詩〕邊聲入㆓鼓吹㆒、霜氣下㆓旌竿㆒。〔常建、客有㆓自㆑燕而歸㆒哀㆓其老㆒而贈㆑之詩〕寸心漁陽興、落日旌竿懸。〔杜甫、虎牙行〕壁立石城橫塞起、金錯旌竿滿雲書。

【旌簡】14 セイカン　あらはしえらぶ。表彰して拔擢する。〔韋昭、博弈論〕博選㆓良才㆒、旌㆓簡旄俊㆒。

【旌旂】15 セイキ　はたの總稱。〔爾雅、釋天、旌旂、疏〕旌旂者、九旗之名雖㆑異、旌旗爲㆓之總稱㆒。〔應瑒、奕勢文〕旌旗既列、權慮蜂起。〔江表志〕旌旂絡驛、凡數千里。

【旌旗】16 セイキ　はたの總稱。旗幟。旗旆。旗麾。旌旄。〔說文〕㫃、旌旗之游。〔段注〕旌旗者、旗之通偁、旌有㆑羽者、旗未㆑有㆑羽者、各擧㆓其一㆒以該㆓九旗㆒也。〔初學記、武部、旌旗〕黃帝與㆓炎帝㆒戰、以㆓鵰鶡鷹鳶㆒爲㆓旗幟㆒、蓋旌旗之始也。〔孫子、作戰〕賞㆓其先得者㆒、而更㆓其旌旗㆒。〔孫子、軍爭〕故夜戰多㆓火鼓㆒、晝戰多㆓旌旗㆒、所㆔以變㆓人之耳目㆒也。〔吳子、論將〕旌旗麾幟、所㆓以威㆑目。〔韓非子、大體〕車馬不㆔疲㆓弊於遠路㆒、旌旗不㆑亂㆓於大澤㆒。〔戰國、楚策〕旌旗蔽㆑天。〔漢書、梁孝王武傳〕賜㆓天子旌旗㆒。〔後漢書、輿服志上〕旌旗章表、以尊㆓嚴之㆒。

【旌旗卷舒】17 セイキケンジヨス　軍のはたをまいたりのべたりする。戰の續くこと。〔魏志、傅嘏傳〕埽㆓除凶逆㆒、芟㆓夷遺寇㆒、旌旗卷舒、日不㆑暇㆑給。

【旌旗蔽㆑空】18 セイキソラヲオホフ　はたが天をおほふ程ならび建つ。軍容の盛な形容。〔蘇軾、前赤壁賦〕舳艫千里、旌旗蔽㆑空、釃㆑酒臨㆑江、橫㆑槊賦㆑詩、固一世之雄也。

【旌麾】19 セイキ　はた。統帥官の旗じるし。麾はさしづばた。〔魏志、夏侯淵傳〕大破㆓遂軍㆒、得㆓其旌麾㆒。〔江總、三日侍㆓宴宣猷堂曲水㆒詩〕北宮命㆓簫鼓㆒、南館列㆓旌麾㆒。〔虞世南、從軍行〕結髮早驅馳、辛苦事㆓旌麾㆒。

【旌騎】20 セイキ　はたをたてた騎士。〔宗楚客、正月晦日侍㆓宴滻水㆒應制詩〕日斜旌騎轉、休氣滿㆓林塘㆒。

【旌裘】21 セイキウ　はたとかはごろも。〔張說、送㆔郭大夫元振再使㆓吐蕃㆒詩〕容髮徂㆑邊歲、旌裘敝㆑海色。

【旌弓】22 セイキユウ　はたとゆみ。〔劉琨、答㆓盧諶㆒詩〕旌弓騂騂、輿馬翹翹。〔魏書、高允傳〕屬㆓休延之會㆒、應㆓旌弓之擧㆒。

【旌擧】23 セイキヨ　あらはしあげる。〔宋書、前廢帝紀〕可㆘甄㆓訪郡國㆒、招㆓聘閭部㆒、其有㆓孝性忠節、幽居遯棲、信誠義行、廉正表㆑俗、文敏博識、幹㆑事治㆑民、務加㆓旌擧㆒、隨㆑才引擢㆖。

【旌旝】24 セイクワイ　はた。〔王安石、見㆓遠亭㆒上㆓王郎中㆒詩〕夾㆑砌陳㆓旌旝㆒、褰㆑簾進㆓佩環㆒。

【旌揭】25 セイケイ　あらはしてかかげる。衆人に示すために書いてはり出す。公示。揭示。〔丁謂、大蒐賦〕限㆓田防㆒而蘭織、志㆓轅門㆒而旌揭。

【旌棨】26 セイケイ　はた。〔謝朓、始出㆓尙書省㆒詩〕趨㆑事辭㆓宮闕㆒、載㆑筆陪㆓旌棨㆒。

【旌戟】27 セイゲキ　はたとほこ。〔儲光羲、貽㆔王侍御出㆑臺掾㆓丹陽㆒詩〕旌戟儼成㆑行、雞人傳發㆑煦。〔姚合、送㆔裴大夫赴㆓亳州㆒詩〕寒日嚴㆓旌戟㆒、晴風出㆓管弦㆒。〔杜牧、送㆔張判官歸兼謁㆓鄂州大夫㆒詩〕今君拜㆓旌戟㆒、凜凜近㆓霜臺㆒。

【旌軒】28 セイケン　はたをたてた車。〔唐玄宗、送㆓張說巡㆑邊詩〕鼓吹威㆓夷狄㆒、旌軒溢㆓洛陽㆒。

【旌賢】29 セイケン　賢人をあらはす。〔後漢書、胡廣傳〕德以旌㆑賢、爵以建㆑事。〔宋書、武帝紀下〕旌㆑賢擧㆑善、問㆑所㆓疾苦㆒。

【旌懸】30 セイケン　はたのやうにかかる。あきらかにかかる。〔王融、淨行頌、滌除三業篇頌〕惑端風緖、愛境旌懸。

【旌顯】31 セイケン　あらはす。人の善行を世にあらはし示す。〔後漢書、公孫述傳〕忠節志義之士、竝蒙㆓旌顯㆒。〔唐書、朱敬則傳〕以㆓孝義㆒世被㆓旌顯㆒。

【旌鼓】32 セイコ　はたとつづみ。〔後漢書、董卓傳〕明旦乃大陳㆓旌鼓㆒而還。〔晉書、輿服志〕陳㆓乘輿車輦旌鼓於其殿庭㆒。

【旌功】33 セイコウ　勳功を表彰する。〔續通志、列傳、唐、秦叔寶〕陪㆓葬昭陵㆒、詔㆓有司㆒、琢㆑石爲㆓人馬㆒立㆓墓前㆒、以旌㆓戰功㆒。

【旌使】34 セイシ　召使をねぎらふ。〔故事成語考、人事〕犒㆓僕夫㆒、謂㆓之旌使㆒。

【旌幟】35 セイシ　はたじるし。はた。のぼり。〔後漢書、劉盆子傳〕悉拔㆓赤眉旌幟㆒、更立㆓己幡旗㆒。〔唐書、令狐綯傳〕僞建㆓淮南旌幟㆒誘㆑之。

【旌毦】36 セイジ　はたにつける羽毛の節。〔梁簡文帝、往㆓虎窟山寺㆒詩〕藹藹車徒邁、飄飄旌毦懸。

【旌車】37 セイシヤ　賢士を招くこと。古は大夫を招くに旌を用ひ、漢代は旌帛蒲車で賢士を招いた。〔後漢書、左周黃傳論〕天子急㆓登㆑賢之擧㆒、虛㆓降㆑己之禮㆒、於㆑是處士鄙生、忘㆓其拘儒㆒、拂巾衽褐、以企㆓旌車之招㆒矣。

【旌奬】38 セイシヤウ　里の門に善行を表彰する。〔琵琶記、一門旌奬〕寂寞誰憐㆑我、空對㆓孤墳㆒珠淚墮。

【旌賞】39 セイシヤウ　表彰しほめる。人の善行功績をあらはしほめる。旌褒。〔宋書、孝武帝紀〕下㆓四方㆒、旌㆓賞茂異㆒。

【旌書】40 セイシヨ　あらはし書く。〔常袞、授㆓張謂太子左庶子㆒制〕旌㆓書課第之目㆒、參㆓相春坊之重㆒。

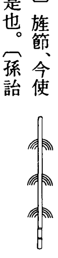
【旌敍】41 セイジヨ　あらはしついづる。世にあらはしすすめあげる。〔孫綽、喩道論〕國無㆓違民㆒、而賢善之流、必見㆓旌敍㆒矣。〔宋書、劉懷肅傳〕宜㆘蒙㆓旌敍㆒、榮㆗慰存亡㆖。

【旌色】42 セイシヨク　はたのいろ。〔中論、爵祿〕登㆑高而建㆑旌、則其所㆑視者廣矣、順㆑風而振㆑鐸、則其所㆑聞者遠矣、非㆓旌色之益㆑明、鐸聲之益㆒㆑遠也、所㆑託者然也。

【旌信】43 セイシン　まことをあらはす。〔劉峻、廣絕交論〕援㆓青松㆒以示㆑心、指㆓白水㆒而旌㆑信。

【旌招】44 セイセウ　旌を以て招く。古は大夫を招くに旌を以てした。〔孟子、萬章下〕敢問招㆓虞人㆒何以、曰以㆓皮冠㆒、庶人以㆑旃、士以㆑旂、大夫以㆑旌。〔潘岳、爲㆓賈謐㆒作贈㆓陸機㆒詩〕爰應㆓旌招㆒、撫㆓翼宰庭㆒。〔注〕翰曰、旌、招㆑賢之飾。

【旌節】45 セイセツ　㊀使者が持つてゆく旗じるし。〔周禮、地官、掌節〕道路用㆓旌節㆒。〔注〕旌節、今使者所㆑擁節是也。〔孫詒讓正義〕後漢書光武紀、李注云、節、所㆓以爲㆑信也、以㆑竹爲㆑之、柄長八尺、以㆓旄牛尾㆒爲㆓其毦㆒三重、蘇鶚演義引㆓三禮義宗㆒云、節長一尺二寸、秦漢以還、易㆓之旌幢旌之形㆒、其制、漸長數尺餘、案、李崔所㆑言、皆秦漢節之制也、古玉節爲㆓圭璋㆒、金節符爲㆑符、璽節爲㆓印章㆒、形制不㆑一、亦不㆓皆以㆑竹爲㆒㆑之、惟旌節與㆓漢節㆒形制相近、而度較短、司常云、析羽爲㆑旌、旌節、蓋卽以㆑竹爲㆑幢、又析羽綴㆑幢以爲㆑節、其異㆓於九旗㆒者、無㆓縿斿㆒也、漢節、卽放㆓古旌節㆒爲㆑之、故鄭擧以相況。〔周禮、秋官、布憲〕正月之吉、執㆓旌節㆒以宣㆓布于四方㆒。㊁旌と節。〔唐書、百官志四下〕節度使辭日、賜㆓雙旌雙節㆒。〔宋史、輿服志二〕旌節、凡命㆓節度使㆒、有司給㆓門旗二㆒・龍虎各一・旌一・節一・麾槍二㆒・豹尾二㆒、旌用㆓塗金㆒、銅螭頭、髹杠、綢以㆓紅繒㆒、畫㆓白虎㆒、頂設㆓髹木盤㆒、周用㆓塗金飾㆒、節亦用㆓髹杠㆒、飾以㆓金塗銅葉㆒、上設㆓髹圓盤三層㆒、以㆓紅綠㆒裝釘爲㆑旄、并綢以㆓紫綾複囊㆒、又



旌節（名物圖）

加二碧油絹袋一。〔事物紀原、旗旐采章部、旌節〕呂氏春秋曰、墨者田鳩見二楚王一、王悅レ之、得二將軍之節一、將軍賜レ節、戰國已然、周禮六節、道路用二旌節一、孟詵錦帶前書云、以レ竹爲レ之、使二人執導一レ之、又周使節四、旌節其一也、隋書禮儀志曰、後周制有二旌節一、畫二白獸一而拆二羽於其上一、唐車服志曰、高祖初、大將出、賜レ旌以顓レ賞、賜レ節以顓レ殺、旌以二絳帛五丈一、粉畫レ虎、銅龍一首、纏二緋旛一、紫縑爲レ袋、油囊爲レ表、節懸二畫木盤三一、相去數寸、隅垂二赤麻一、餘與レ旌同、此蓋唐制也。

【旌節花】46 セイセツクワ　落葉灌木の一種。山地に自生するもの。高さ一丈ばかり、葉は楕圓形で端尖り鋸齒がある。きぶし。〔野人閒話〕王侍中處レ回、嘗於二私第一延二接布素之士一、蓋亦尋二藥術神仙之道一、一旦有二道士一造謁、王公於二竹葉上一大書、道士挑レ杖奉謁、王公從容置酒、觀二其言論一、清風颯然甚仰レ之、因曰、弟子有レ志、請問思下於二青城山下一置二小道院一居住上、道士曰、未也、偶喚二山童一取レ劒細點、階前土廣尺餘、囊中取二花子二粒一種レ之、令三以レ盆覆二於上一、逡巡去レ盆、花已生矣、漸隨レ日長大、頗長五尺、以來層層有レ花、爛然可レ愛者兩苗、道士曰、聯以寓レ目適レ性、此仙家旌節花也、言訖而去不レ知レ所レ之、後王公果除二一節鎭一。〔黎州漢源縣圖經〕黎州漢源縣有二旌節花一、去レ地二三尺、行行皆如二旌節一也。

【旌旃】47 セイセン　はた。〔後漢書、劉玄傳論〕旌旃之所二援及一、書文之所二通被一、莫レ不下折レ戈頓レ顙、爭受中職命上。〔蕭至忠、送三張亶赴二朔方一應制詩〕中衢橫二鼓角一、曠野蔽二旌旃一。

【旌善】48 セイゼン　善行を旌表すること。〔左氏、僖、二十四〕晉侯求レ之不レ獲、以二緜上一爲二之田一、曰、以志二吾過一、且旌二善人一。〔傳亮、爲三宋公一求三加二贈劉前軍一表〕崇レ賢旌レ善、王教所レ先。〔南史、劉穆之傳〕臣聞崇レ賢旌レ善、王教所レ先。

【旌幢】49 セイタウ　はたをいふ。幢ははたの一種。〔漢書、韓延壽傳、建二幢棨一、注〕晉灼曰、幢、旌幢也、棨、戟也。〔盧綸、送二王尊師一詩〕旌幢天路晚、桃杏海山春。〔趙嘏、送三薛耽先輩歸二謁漢南一詩〕幾日旌幢延二駿馬一、到時氷玉動二華堂一。

【旌幢之貴】50 セイタウノキ　旗を立てる貴い身分。高位高官をいふ。〔北夢瑣言〕梁劉仁恭微時、曾夢下佛旛於二手指一飛出上、占者曰、君年四十九、必有二旌幢之貴一、後如二其說一、果爲二幽帥一焉。

【旌纛】51 セイタウ　旗と大旗。纛は大旗。〔宋史、馮拯傳〕拜二武勝軍節度使、檢校太尉一、兼二侍中一判二河南府一、卽臥レ內賜告及二旌纛一。〔陳造、淮海樓賦〕揮二旌纛一而少弭、肅二賓僚之濟濟一。〔馬戴、送二和北虜使一詩〕刀鐶向レ月動、旌纛冒レ霜懸。

【旌擢】52 セイタク　あらはしてぬき用ひる。〔北齊書、辛術傳〕其所二旌擢一、後亦皆致二通顯一。〔葉適、上二執政一書〕未レ蒙二旌擢一。

【旌智】53 セイチ　智識をあらはす。〔中論、藝紀〕藝者所二以旌レ智飾レ能統レ事御一レ羣也、聖人之所レ不レ能已也。

【旌忠】54 セイチユウ　忠義をあらはす。臣下の忠義を表彰する。〔唐書、狄仁傑傳〕賜二紫袍龜帶一、后自製二金字十二於袍一、以旌二其忠一。〔明史、英宗後紀〕賜二王振祭葬一、立レ祠曰二旌忠一。

【旌寵】55 セイチヨウ　あらはしめでる。〔後漢書、朱穆傳〕守レ死善レ道、宜レ蒙二旌寵一。

【旌直】56 セイチヨク　直臣をあらはす。〔漢書、朱雲傳〕雲曰、臣願賜二尙方斬馬劍一、斷二佞臣一人一、以厲二其餘一、上問誰也、對曰、安昌侯張禹、上大怒、御史將レ雲下、雲攀二殿檻一、檻折、及三後當レ治レ檻、上曰、勿レ易、因而輯レ之、以旌二直臣一。〔柳宗元、國子司業陽城遺愛碣〕旌レ直優レ賢、道二光師儒一。

【旌飭】57 セイチヨク　あらはしいましめる。〔國朝漢學師承記、紀昀〕予旌飭交二各督撫一。

【旌旐】58 セイテウ　はた。〔禮、月令〕咸駕載二旌旐一。〔隋煬帝、秦孝王誄〕旌旐飄颻而從レ風。

【旌德】59 セイトク　❶德をあらはす。有德者を旌表する。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕旌レ德禮レ賢。〔周書、邵惠公顥傳〕旌レ德樹レ善、有二國常規一。❷縣名。唐、置く。安徽省太平縣の東。〔明一統志〕旌德縣、在二寧國府、城南二百四十五里一、本唐太平縣地、寶應二年、析二置旌德縣一、屬二宣州一、宋元仍レ舊。〔清史稿、地理志〕安徽、寧國府、縣六、旌德。

【旌旆】60 セイハイ　はた。のぼり。旌旗。旆旌。〔陸機、飲馬長城窟行〕戎車無レ停レ軌、旌旆屢徂遷。〔宋書、鄧琬傳〕旌旆掩レ雲、舳艫咽レ海。〔南齊書、高帝紀上〕旌旆所レ臨、一麾必捷。

【旌褒】61 セイハウ　あらはしほめる。善行を表彰する。旌賞。〔柳宗元、壽州安豐縣孝門銘〕宜下加二旌褒一合中于上下上。

【旌旄】62 セイバウ　指揮する旗。さしづばた。又、はたの總稱。〔書、禹貢、羽畎夏翟、傳〕夏翟、翟、雉名、羽中二旌旄一。〔史記、孔子世家〕旌旄羽祓。〔說苑、權謀〕王擧二旌旄一、而使二善射者射一レ之。〔杜甫、喜レ聞三官軍已臨二賊境一詩〕秦山當二警蹕一、漢苑入二旌旄一。

【旌帛】63 セイハク　賢士を招くこと。旌車(37)を見よ。〔後漢書、逸民傳序〕光武側二席幽人一、求レ之若レ不レ及、旌帛蒲車之所二徵賁一、相二望於巖中一矣。〔魏書、李靈崔鑒傳論〕李以二儒俊之風一、當二旌帛之擧一。

【旌幡】64 セイハン　はたとのぼり。旗幟。單にはたをもいふ。〔穀梁、莊、二十五、天子救レ日置二五麾一陳二五兵五鼓一、注〕麾、旌幡也、五兵、矛戟鉞楯弓矢。〔雍陶、贈二金河戍客一詩〕戍遠旌幡少、年深帳幕低。〔方干、侯郎中新置二西湖一詩〕煙霧未レ應藏二島嶼一、鳧鷖亦解避二旌幡一。

【旌繁】65 セイハン　車馬の飾。旌旃。車飾。繁纓。馬飾。〔左氏、哀、二十三〕有二不腆先人之產馬一、使三求薦二諸夫人之宰一、其可三以稱二旌繁一乎。〔注〕稱、擧也、繁、馬飾、繁纓也。

【旌拂】66 セイフツ　はたが地などをはらふ。はたがひらめくこと。〔張協、七命〕躡二堅冰之津一、旌拂二霄堮一、軌出二蒼垠一。

【旌幣】67 セイヘイ　旗の禮物。旗を禮物として人を招くこと。賢者を求める禮。〔南齊書、明僧紹傳〕太祖爲二太傅一、教下辟二僧紹及顧歡・臧榮緒一、以二旌幣之禮一、徵爲中記室參軍上、不レ至。

【旌表】68 セイヘウ　人の善行を公表して衆人に知らせる。孝義貞節の人などに坊を建て、扁を賜うて世に知らせること。旌顯。〔國語、周語上〕故爲二車服旗章一以旌レ之。〔注〕旌、表也。〔晉書、荀菘傳〕苟有二一介之善一、宜レ在二旌表之例一、而況國之元老。〔北史、隋煬帝紀〕義夫節婦、旌二表門閭一。〔隋唐嘉話〕朱正諫敬則、代著二孝義一、自二宇文周一至二國家一、並令三旌二表門標六闕一。〔六部成語、禮部、旌表、注解〕旌者、奬也、表者、揭也、忠義節孝、例由二禮部一奏二請旌表一。

【旌別】69 セイベツ　善人と惡人とを區別すること。〔書、畢命〕旌二別淑慝一、表二厥宅里一。〔傳〕言當下識二別頑民之善惡一、表二異其居里一、明二其爲一レ善、病二其爲一レ惡、立二其善風一、揚中其善聲上。〔蔡傳〕旌レ善別レ惡。〔六韜、文韜、盈虛〕旌二別淑慝一、表二其門閭一。

【旌蒲】70 セイホ　旌旗と蒲車。賢者を招くに用ひる。〔梁元帝、薦二鮑幾一表〕旌蒲出レ魯、賁帛歸レ齊。

【旌命】71 セイメイ　❶賢士を招き、人材を任用すること。〔後漢書、陳紀傳〕紀子羣・弟諶、竝著二高名一、時號二三君一、每二宰府辟召一、常同時旌命、羔雁成レ羣。〔晉書、山濤傳〕搜二訪賢才一、旌二命三十餘人一、皆顯二名當時一。❷賢士を招く使者をいふ。〔陸機、辨亡論上〕束帛旅二於丘園一、旌命交二於塗巷一。〔注〕翰曰、言、以二束帛旌命一招レ之、將レ用二於朝一、而使者交二乎道路閭巷一也、旌、旗類也、求レ賢使者、執レ之爲二君信一也。

【旌銘】72 セイメイ　死者の名をしるしたはた。又、葬送の時、はたにしるす死者の姓名官位等をいふ。銘旌。明旌。〔後漢書、趙咨傳〕重以二牆翣之飾一、表以二旌銘之儀一。〔注〕禮記曰、銘、明旌也、以二死者爲一レ不レ可レ別、故以二其旌一識レ之。

【旌門】73 セイモン　❶祭祀宴會などの時に設けるはたでつくった門。假の宿舍の門。〔周禮、天官、掌舍〕爲二帷宮一設二旌門一。〔注〕謂下王行晝止、有レ所二展肆若食息一、張レ帷爲レ宮、則樹レ旌以表中門上。〔疏〕云二若食息一者、非三直有二展習一、亦有二食息之時一、則張レ帷爲レ宮、樹二立旌旗一以表レ門、案、司常云、會同賓客、置二旌門一、注引下此掌舍爲二帷宮一設中旌門上、則旌門司常置レ之、掌舍主當レ之、若然則轅門之等、皆彼他官置レ之。〔周禮、春官、司常〕凡祭祀各建二其旗一、會同賓客亦如レ之、置二旌門一。〔宋書、禮志二〕設二南北左右四行旌門一、建二獲旗一以表二獲軍一。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕旌門洞立、延レ帷接レ枑。〔注〕銑曰、旌門、以レ旗爲レ門。❷善行のあつた人などに對し、國家が表彰すること。〔南史、甄恬傳〕表二其行狀一、詔旌二表門閭一、加以二爵位一。〔陔餘叢考、旌門法式〕五代史李自倫傳、戶部奏、前登州義門王仲昭、六世同居、其聽事步欄

前、列二屏樹烏頭一、正二閥閾一丈二尺一、烏頭二柱端、冒以二瓦桷一、築二雙闕一丈一、在二烏頭之南三丈七尺夾樹槐柳十有五步一、今李白倫旌表請レ如之、敕曰、此故事也、今式無レ之、其量二地之宜一、高二其外門一、門安二綽楔一、左右建レ臺、高一丈二尺、廣狹方正稱レ焉、圬以レ白、而赤二其四角一、使三不孝不悌者、可二以悛一レ心而易レ行焉、然則旌門之式、舊最繁重、至二五代一、始改從二簡易一。

【旌揚】74（セイヤウ）　あらはしあげる。ほめる。稱揚。〔王昂、對二沈謀祕略科策一第一道〕垂二旌揚之期一、崇二奬激之道一。

【旌陽】75（セイヤウ）　縣名。三國呉、置く。湖北省枝江縣の北。〔宋書、州郡志三〕旌陽、文帝元嘉十八年、省併二枝江一、二漢無二旌陽一、見二晉太康地志一、疑是呉所レ立。

【旌輿】76（セイヨ）　はたとこし。賢者を招くに用ひる。〔晉書、虞喜傳〕方今聖德欽明、思恢遐烈、旌輿整レ駕、俟レ賢而動。

【旌庸】77（セイヨウ）　いさををあらはす。庸は功。〔庾信、請二功臣襲一レ封表〕崇レ德旌レ庸、興レ亡繼レ絶。

【旌勞】78（セイラウ）　功勞をあらはして襃賞する。〔元史、順帝紀五〕右丞相脱脱、治レ河功成、宜レ有二異數以旌二其勞一。

【旌旒】79（セイリウ）　はたとふきながし。〔王筠、昭明太子哀冊文〕昭二撰德于旌旒一、永傳二徽于舞綴一。

【旌閭】80（セイリヨ）　善行の人の名を里門にかきあらはす。旌門。〔宋書、余齊民傳〕旌レ閭表レ墓、允出在レ玆。〔南齊書、孝義傳論〕旌閭變レ里、問レ餼存レ牢。〔唐書、李迥秀傳〕所レ居堂、產二芝草一、犬乳二鄰貓一、中宗以爲二孝感一、旌二大門閭一。

【旌禮】81（セイレイ）　禮をあらはす。〔左氏、昭、九〕晉侯飲レ酒樂、饍宰屠蒯趨入、云云、又飲二外嬖嬖叔一曰、女爲二君目一、將レ司レ明也、服以旌レ禮、禮以行レ事、事有二其物一、物有二其容一、今君之容、非二其物一也、而女不レ見、是不明也。

【旌錄】82（セイロク）　人の功勳をあらはしほめてかきしるす。〔魏志、高貴鄕公髦傳、注〕魏名臣奏、載太尉華歆表曰、伏見二故漢大司農北海鄭玄一、當時之學、名冠二華夏一、爲二世儒宗一、文皇帝旌二錄先賢一、拜二玄適孫小同一、以爲二郎中一、長假在レ家。〔顏延之、陽給事誄序〕光二昭茂緒一、旌二錄舊勳一。

【抗レ旌】83（セイヲアグ）　はたを揚げる。〔漢書、終軍傳〕票騎抗レ旌、昆邪右レ衽。

【旌儒廟】84（セイジュベウ）　唐の玄宗が、秦の始皇の儒者を坑にした所に建てた廟。〔唐書、地理志一〕京兆府昭應、有二旌儒鄕一、有レ廟、故坑儒、玄宗更レ名。〔賈至、旌儒廟頌〕開元末、天子在二驪山之宮一、登二集靈之臺一、考二驗圖記一、周二覽原隰一、見三鄕名二坑儒一、頽塹猶在、乃詔二有司一、是作二新廟一、牲幣有レ數、以レ時饗祀、因祀命レ鄕、號曰二旌儒一、人神和悅、怨氣銷散。

【縣二旌萬里之外一】85（ハタヲバンリノソトニカク）　我が旌旗を萬里の外に樹て懸ける。遠國を征すること。縣は懸。〔漢書、陳湯傳〕遂蹈二康居一、屠二五重城一、搴二歙侯之旗一、斬二郅支之首一、縣二旌萬里之外一、揚二威昆山之西一。

【旍】13659

［一］セイ　［一］旌(**5**−13658)に同じ。〔廣韻〕旌、旍、上同。〔爾雅、釋天、注二旍首一曰レ旌、釋文〕旌、本又作レ旍。［二］旂(**5**−13638)に同じ。〔說文通訓定聲〕旂、按、帛上畫レ龍、旍端著レ鈴也、云云、字亦作レ旍。

［二］キ

【旎】13660

［一］ヂ　ニ　〔集韻〕乃倚切　ㄋㄧˇ　ni³　［紙］

［二］ヂ　ニ　〔集韻〕女夷切　［支］

［三］ヂ　ニ　〔集韻〕女利切　［寘］

［四］ダ　ナ　〔集韻〕乃可切　［哿］

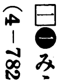
［一］［二］［三］［四］旖旎と熟して用ひる。❶**はたの風になびくさま**。施(**5**−13629)に同じ。〔說文通訓定聲〕施、字亦作レ旎。〔集韻〕旎、旖旎、旌旗從レ風皃。〔史記、司馬相如傳〕旖旎從レ風。❷**雲のたなびくさま**。〔漢書、揚雄傳上〕乘二雲蜺之旖旎一兮。〔注〕師古曰、旖旎、雲貌也。❸**盛なさま**。〔楚辭、宋玉、九辯〕紛旖二旎乎都房一。〔注〕旖旎、盛貌。❹**しなやかなさま**。〔王粲、柳賦〕覽二茲樹之豐茂一、紛旖旎以修長。

【旎旎】1（ヂヂ）　盛なさま。旖旎。〔楊基、詩〕鑑湖五月涼風起、荷葉荷花香旎旎。〔剪燈餘話、鳳尾草記〕娟娟旎旎猶貞靜。

【族】13661

［一］ソク　ゾク　〔集韻〕昨木切　ㄗㄨˊ　tsu²　［屋］

［二］ソウ　ス　〔集韻〕千候切　［宥］


小篆

［一］❶**みうち。みより**。うから。屬(**4**−7821)に通ず。〔說文通訓定聲〕族、叚借爲レ屬。㋑ちすぢ。直系の親屬。〔書、堯典〕九族既睦。〔鄭注〕上自二高祖一、下至二玄孫一、凡九族。〔禮、仲尼燕居〕故三族和也。〔注〕三族、父子孫也。〔國語、晉語四〕天祚將レ在二武族一。〔注〕族、嗣也。㋺同一の祖先から出て同一の姓を冒す親屬。〔詩、周南、麟之趾〕振振公族。〔傳〕公族、公同祖也。〔詩、魏風、汾沮洳〕殊異二乎公族一。〔箋〕公族、主二君同姓昭穆一也。〔國語、楚語上〕子木曰、彼有二公族甥舅一。〔國語、楚語上〕在二中軍王族一而已。〔注〕唐云、族、親族同姓也。㋩近いみうち。同祖同姓の親屬で、己と緦麻三月の親ある者を呼ぶとき、族の字を冠する。〔爾雅、釋親〕父之從祖晜弟爲二族父一、族父之子、相謂爲二族晜弟一、父之從祖晜弟之母、爲二族祖王母一、父之從祖晜弟之妻、爲二族祖母一。〔儀禮、喪服〕緦麻三月者、傳曰、族曾祖父母、族祖父母、族父母、族昆弟。㋥姻戚。父・母・妻の親屬。外親。〔大戴禮、保傳〕三族輔レ之。〔注〕三族、父族母族妻族。❷**家すぢ**。姓の分れを氏とし、氏の分れを族とする。姓氏。〔左氏、隱、八〕羽父請二謚與一レ族、公問二族於衆仲一、衆仲對曰、天子建レ德、因レ生賜レ姓。胙二之土一而命二之氏一、諸侯以レ字爲レ謚、因以爲レ族、官有二世功一、則有二官族一、邑亦如レ之。〔戰國、秦策〕有下與二曾子一同二名族一者上。〔注〕族、姓也。〔後漢書、羊陟傳〕家世衣冠族。❸**やから**。ゆかりの者。親戚、緣者。〔左氏、襄、八〕謀之多レ族。〔注〕族、家也。❹**罰を一族に及ぼす極刑**。〔書、泰誓上〕罪レ人以レ族。〔蔡傳〕一人有レ罪、刑及二親族一也。❺**百家をいふ**。周代、百家を一組とした保聚の稱。〔周禮、地官、大司徒〕四閭爲レ族。〔注〕族、百家也。❻**あつまる**。むらがる。〔爾雅、釋木〕木族生爲レ灌。〔注〕族、叢也。〔廣雅、釋言〕族、湊也。〔莊子、在宥〕雲氣不レ待レ族而雨。〔釋文〕司馬云、族、聚也。❼**ふし**。結聚の箇所。〔正字通〕族、肉骨會湊處。〔莊子、養生主〕每レ至二於族一、吾見二其難一レ爲。〔注〕交錯聚結爲レ族。❽**ともがら**。〔詩、魏風、汾沮洳〕殊異二於公族一。〔傳〕公族、公屬也。〔左氏、襄、二十四〕必取二其族一。〔注〕族、類也。〔國語、楚語上〕王族而已。〔注〕族、部屬也。❾**たぐひ**。しな。〔禮、祭法〕非二其族一也。〔注〕族、猶レ類也。〔淮南子、俶眞訓〕萬物百族。〔注〕族、類也。❿**おほい**。〔說文〕族、矢鏠也、束レ之族族也、从レ㫃从レ矢、㫃、所二以標一レ衆、衆矢之所レ集。〔禮、祭法〕曰二族厲一。〔疏〕族、衆也。⓫**なみ**。普通。雜多。〔莊子、養生主〕族庖月更レ刀、折也。〔釋文〕司馬

云、族、雜也。⓬やじり。鏃(11－40772)の古字。〔說文〕族、矢鏠也、束レ之族族也、从レ㫃从レ矢、㫃、所二吕標一レ衆、衆矢之所レ集。〔段注〕今字用レ鏃、古字用レ族。⓭滅ぼす。滅ぶ。〔正字通〕族、滅レ國亦曰レ族、杜牧之、阿房宮賦、族レ秦者秦也、非二天下一也、言三秦自取二滅亡一也。〔大戴禮、曾子制言上〕族人之讐、不二與聚鄰一。〔注〕族人、謂二絶屬者一。⓮せまる。きびしい。促(1－664)に通ず。〔正字通〕族、與二促・蹙一通、史、齊太公五月報レ政、周公曰、何族也、注、急也。⓯姓。〔萬姓統譜〕族、見二姓苑一。🈔❶樂をかなでる。奏(3－5915)に通ず。〔尙書大傳、虞夏傳〕貢二正聲一而九族具成。〔注〕族、當レ爲レ奏。〔漢書、嚴安傳〕調二五聲一使レ有二節族一。〔注〕蘇林曰、族、音奏。❷音律の名。蔟(9－31815)に通ず。〔正字通〕族、亦作レ蔟。〔漢書、律歷志〕二曰、太族。❸犬をけしかける。嗾(2－4155)に同じ。〔集韻〕嗾、使レ犬聲、或省。

名乘 ツグ。エダ。ツギ。

解字 會意。㫃(旌・旗の省文)と矢との合字。軍旗の下に澤山の矢が集まる意を表し、本義はやじり。旌旗のある所には、どこでも矢があるので、衆多の意。むらがる。あつまる。假借して屬とし、族類の稱とする。〔說文、族、段注〕毛傳云、五十矢爲レ束、引伸爲二凡族類之稱一云云、㫃所二以標レ衆者、亦謂、旌旗所三以屬二人耳目一、旌旗所レ在而矢咸在焉、衆之意也。

【族夷】1 ゾクイ 其の一族を平げる。族類を絶やす。〔史記、田儋傳〕人馬從者、敢動搖者致二族夷一。〔韓愈、烏氏廟碑銘〕事發族夷。

【族姻】2 ゾクイン むこ。又、よめの家族。姻戚の關係ある家族。〔左氏、襄、二十六〕子木曰、夫獨無二族姻一乎。〔張華、宗親會歌〕隆禮崇二親戚一、旁施協二族姻一。

【族鹽】3 ソウエン 音樂の曲の一種。鹽は吟・行・曲・引の類。主として、龜茲樂系統の俗曲につけられた名稱。〔唐書、五行志二〕武后時、民飮酒謳歌、曲終而不レ盡者、謂二之族鹽一。

【族夏】4 ゾクカ 周代、朝廷で奏する九つの大歌の一つ。族人の侍する時に奏するもの。〔周禮、春官、鐘師〕凡樂事以二鐘鼓一奏二九夏一、王夏・肆夏・昭夏・納夏・章夏・齊夏・族夏・祴夏・驚夏。〔注〕以奏二九夏一、夏、大也、樂之大歌有レ九、云云、杜子春云、族人侍、奏二族夏一。

【族居】5 ゾクキョ あつまり居る。〔逸周書、程典解〕工不二族居一。〔呂覽、辯土〕樹レ墝不レ欲二專生一而族居。〔司馬相如、上林賦〕族居遞奏。〔注〕翰曰、聚居衆樂。

【族擧】6 ゾクキョ あつまり居る。族居に同じ。〔史記、司馬相如傳〕族擧遞奏。〔注〕集解曰、徐廣曰、擧、一作レ居。

【族兄】7 ゾクケイ 三從兄をいふ。族兄弟の❶を見よ。〔後漢書、劉玄傳〕劉玄字聖公、光武族兄也。

【族兄弟】8 ゾクケイテイ ❶高祖を同じうする兄弟。みいとこ。いやいとこ。〔爾雅、釋親〕族父之子、相謂爲二族晜弟一。〔儀禮、喪服、族昆弟、疏〕己之三從兄弟、皆名爲レ族、族、屬也、骨肉相連屬、以三其親盡恐二相疏一、故以レ族言レ之耳。〔新書、六術〕人之戚屬、以レ六爲レ法、人有二六親一、六親始曰レ父、父有二二子一、二子爲二昆弟一、昆弟又有レ子、子從レ父而爲二昆弟一、故爲二從父昆弟一、從父昆弟又有レ子、子從レ祖而昆弟、故爲二從祖昆弟一、從祖昆弟又有レ子、子從二曾祖一而昆弟、故爲二曾祖昆弟一、曾祖昆弟又有レ子、子爲二族兄弟一。〔釋親考〕會典、族兄弟、及族姊妹、謂下三從兄弟姊妹同二高祖一者上。❷一族中で同輩の通稱。族弟(40)を見よ。〔梁書、蕭介傳〕介性高簡、少二交遊一、惟與二族兄琛・從兄眎素、及洽從弟淑等一、文酒賞會。

【族系】9 ゾクケイ 家すぢの系統。〔通志、氏族略〕以二「族系一爲レ氏。

【族姑】10 ゾクコ 父のまたいとこにあたる女。ふたいとこをば。〔明律集解、名例、服制〕緦麻三月、爲二族姑在レ室者一、卽父之再從兄弟。〔釋親考〕會典、族姑、謂二父之再從姊妹一。

【族罪】11 ゾクザイ 罪が三族(父母・妻・子)に及ぶこと。又、一族すべてに罪が及ぶこと。〔新書、數寧〕無二族罪一、兵革不レ動。

【族葬】12 ゾクサウ 同じ墓に、同族を昭穆を以て序次して葬ること。〔周禮、春官、墓大夫〕令二國民族葬一。〔注〕族葬、各從二其親一。

【族殺】13 ゾクサツ みうちを殘らずころす。一族を皆殺しにする。この場合の族は、概ね三族、卽ち父母・妻・子をさすが、時にはその範圍が更に擴大されることもある。族滅。〔五代史、司空頲傳〕以レ謂レ通二書於梁一、莊宗族二殺之一。

【族子】14 ゾクシ ❶親類のこども。同族の子。〔漢書、嚴助傳〕嚴助、會稽吳人嚴夫子子也、或言、族家子也。❷兄弟、又は族兄弟の子。〔韻會〕今謂二兄弟之子一爲レ姪、葢取二字林音義作二丈乙切一、如下狄仁傑諫二武后一、云中姑姪與二子母一孰親上、猶下指二武姓人一爲中姪也、姪字惟可下施二之書問一以便中俗呼上、或有二著述一、不レ若下稱二兄之子・弟之子・從子・族子一之爲上レ雅也。〔史記、五帝紀〕高辛於二顓頊一爲二族子一。〔魏志、張繡傳〕張繡、武威祖厲人、驃騎將軍濟族子也。〔南子、謝琨傳〕謝琨與二族子靈運・瞻・晦・曜一、以二文義一賞會。〔韓愈、送三水陸運使韓侍御歸二治所一序〕吾族子重華、適當二其任一。〔朱子全書、禮、儀禮〕據レ禮、兄弟之子、當下稱二從子一爲上レ是、自二曾祖一而下、三代稱二從子一、自二高祖一四世而上、稱二族子一。

【族死】15 ゾクシ 一族が皆死ぬこと。〔史記、田叔傳〕長陵令車千秋上二變仁一、仁族死。

【族師】16 ゾクシ 周官の名。地官の屬。黨正の次に位し、其の族の戒令政事を掌る。周制で一族は百家、五族で一黨をなす。〔周禮、地官、族師〕各掌二其族之戒令政事一。〔注〕鄭司農云、百家爲レ族。〔疏〕先鄭云二百家爲レ族者、亦約二五家一爲レ比、五比爲レ閭、四閭爲レ族、故知二族百家一也。

【族嗣】17 ゾクシ あとつぎ。〔左氏、襄、十〕使三周內史選二其族嗣一。

【族將】18 ゾクシヤウ 一族のかしら。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕秀元族將、勸二秀元一歸二東軍一。

【族叔】19 ゾクシユク 父より年少な族父。又、同宗中、父と同輩で、父よりも年少なもの。又、宗叔といふ。〔晉書、顧和傳〕和二歲喪レ父、總角便有二淸操一、族叔榮雅重レ之。〔王融、贈二族叔衞軍一詩〕台曜澄レ華、鉉岳裁レ峻。

【族稱】20 ゾクシヨウ 日本に於て行はれた階級的身分の稱呼。卽ち華族・士族・平民の稱。

【族人】21 ゾクジン 親族關係のなくなつた遠い同宗のもの。族宗。〔禮、雜記下〕夫黨無二兄弟一、使三夫之族人主レ喪。〔大戴禮、曾子制言上〕族人之讎、不二與聚鄰一。〔注〕謂二絶レ屬者一。〔墨子、公孟〕夫欲二富貴一者、豈曰下我族人莫二之欲一故不上レ欲哉。〔白虎通、三綱六紀〕六紀者、謂二諸父・兄弟・族人・諸舅・師長・朋友一也。〔顏氏家訓、風操〕凡宗親世數、有二從父一、有二從祖一、有二族祖一、江南風俗、自レ茲已往、高秩者、通呼爲レ尊、同二昭穆一者、雖二百世一、猶稱二兄弟一、若對二他人一稱レ之、皆云二族人一。

【族人炊】21′ ゾクジンスイ 神の名。前漢の高祖の時、晉巫に祀らせた神の一。〔漢書、郊祀志上〕長安置二祠祀官女巫一、云云、晉巫祠二五帝・東君・雲中君・巫社・巫祠・族人炊之屬一。〔注〕服虔曰、東君以下、皆神名也、師古曰、云云、族人炊、古主二炊母一之神也、炊謂二饎爨一也。

【族世】22 ゾクセイ 父祖代々をいふ。〔班固、西都賦〕商修二族世之所一レ鬻、工用二高曾之規矩一。

【族正】23 ゾクセイ 清代、地方の村莊で、同族の者が集居し、百人以上になつても保甲に編成し得ないときは、族中から名望ある者一人を選んで族正とし、これを監察せしめた。〔淸會典事例、戶部、戶口、保甲〕又議准、聚族而居、丁口衆多者、擇下族中有二品望一者一人上、立爲二族正一、該族良莠、責令二查擧一。

【族生】24 ゾクセイ むらがりはえる。叢生。族は叢。〔爾雅、釋木〕木族生爲レ灌。〔注〕族、叢也。

【族制】25 ゾクセイ 家族に關する制度。家族制度。

【族制政治】26 ゾクセイセイジ 家職を世襲して政治を行ふこと。我が國上古の社會組織。

【族姓】27 ゾクセイ ❶同族と異姓。〔書、呂刑〕官伯族姓。〔傳〕族、同族、姓、異姓也。❷族と姓。ひろく氏族を指す。〔左氏、襄、三十一〕公孫揮能知二四國之爲一、而辨二於其大夫之族姓班位、貴賤能否一。❸一族の尊卑貴賤。門閥。族望。〔後漢書、張堪傳〕堪、南陽宛人也、爲二郡族姓一。〔晉書、諸葛恢傳〕王導嘗與レ

恢戲爭二族姓一、曰、人曰二王葛一、不レ言二葛王一。

【族戚】28 ゾクセキ 親戚と姻族。一門の人。一族の人。族人(21)に同じ。

【族籍】29 ゾクセキ 族稱と人別。又、族稱と本籍。

【族宗】30 ゾクソウ 親屬關係のなくなつた遠い同宗のもの。族人(21)に同じ。

【族屬】31 ゾクゾク 其の姓の親屬。親戚。〔禮、大傳〕同レ姓從レ宗、合二族屬一。〔論衡、順鼓〕重二罪刑一及二族屬一、罪二父母子弟一乎、罪二其朋徒一也。

【族孫】32 ゾクソン 族兄弟の孫。〔因話錄〕柳尙書公權與二族孫璟一、開成中、同在二翰林一。

【族黨】33 ゾクタウ 一族徒黨。同じやから。みうちや家人ども。族類。〔周禮、地官、大司徒〕五族爲レ黨、使二之相救一。〔左氏、襄、二十三〕盡殺二欒氏之族黨一。〔荀子、彊國〕無レ僇二乎族黨一。

【族談】34 ゾクダン あつまつて語る。〔周禮、秋官、朝士〕禁二慢朝錯立族談者一。〔疏〕族、聚也。

【族長】35 ゾクチヤウ ❶一族の長。族人の親疏を掌るもの。〔儀禮、士喪禮〕族長涖レ卜。〔注〕族長有司、掌二族人親疏一者也。〔疏〕以三其言二族長一、故知レ掌二族人親疏一也。〔胡培翬正義〕族長涖レ卜、謂三臨二視卜事一也、儀禮釋官云、案、左傳、卿置二側室一、大夫有二貳宗一、皆主二宗族之事一、士之族長、亦其類也、敖氏云、族長、族人之尊者、蓋望レ文生レ義耳。❷周代、村里をいふ。凡そ百家を族とし五族を黨とする。長は黨。〔禮、樂記〕在二族長鄕里之中一、長幼同聽レ之、則莫レ不二和順一。〔疏〕鄕里主レ順、故云レ莫レ不二和順一。❸一族の長。一族中で行輩の最も尊い者。〔嘉慶會典、八旗都統〕設二族長一、以敎二其族人一。

【族帳】36 ゾクチヤウ 遊牧の部落で、常に一族聚つて帳幕を張り生活を共にするものをいふ。又、その帳幕。〔宋史、眞宗紀一〕環慶部署張凝襲二諸蕃一、焚二族帳二百餘一。

【族中】37 tsu^2 chung^1 一族中。

【族誅】38 ゾクチユウ 一人の罪によつて三族を誅する。一人の罪によつて父母・妻・子を殺すこと。又、一族をすべて誅すること。春秋の時、秦の文公は初めて三族の誅を定めたが、後世になると、亂世の暴主はその權威を逞しくして、九族・十族まで誅戮するに至つた。〔書、泰誓上〕罪レ人以レ族。〔傳〕一人有レ罪、刑及二父母兄弟妻子一、言二淫濫一。〔疏〕秦政酷虐、有二三族之刑一、云云、經言二罪レ人以レ族、故以二三族一解レ之、父母、前世也、兄弟及妻、當世也、子孫、後世也、一人有レ罪、刑及二三族一、言二淫濫一也。

【族女】39 ゾクヂヨ 族兄弟のむすめ。〔遼史、天祚帝紀一〕乾統五年三月、以二族女南仙一封二成安公主一、下二嫁夏國王李乾順一。

【族弟】40 ゾクテイ 一族中で己より年若い男子。族兄弟(8)を見よ。〔南史、劉歊傳〕不レ娶不レ仕、與二族弟許一、並隱居求レ志、遨二遊林澤一。〔杜甫、敬寄二族弟唐十八使君一詩〕與レ君陶唐後、盛族多二其人一。

【族姪】41 ゾクテツ 三從兄弟の子。〔高適、又送二族姪式顏一詩〕惜二君才未一レ遇、愛二君才若一レ此。〔韓愈、贈二族姪一詩〕我年十八九、壯氣起二胷中一。

【族庖】42 ゾクハウ 凡庸の料理人。〔莊子、養生主〕良庖歲更レ刀、割也、族庖月更レ刀、折也。〔釋文〕司馬云、族、雜也、崔云、族、衆也。

【族望】43 ゾクバウ 氏族の名望あるもの。門望。〔南史、周敷傳〕迪素無二簿閥一、又失二衆心一、倚二敷族望一、深求二交結一。〔李商隱、贈二趙協律一詩〕更共二劉盧一族望通。〔事物紀原、公式姓諱部、族望〕筆談曰、世人以二氏族一相高、雖レ從二古有一レ之、然未二著盛一、自二魏氏銓二總人物一、以二氏族一、亦不三專任二門地一、唯四夷則全以爲二貴賤一、如下天竺以二刹利婆羅門一爲二貴種一、自餘爲中庶姓上、是也、國主大臣、各有二種姓一、苟非二貴種一、國人莫二肯歸一レ之、庶姓雖レ有二勞能一、亦自甘居二大姓之下一、後魏據二中原一、此俗遂盛二於中國一、唐末方衰息也。

【族伯】44 ゾクハク 父の年上のふたいとこ。ふたいとこをぢ。同宗中、父と同輩で、父よりも年長の者。〔明律集解、服制〕爲二族伯叔父母一、卽父再從兄弟、及再從兄弟之妻。

【族譜】45 ゾクフ 一族の系圖。氏族の譜錄。家譜。〔南史、賈希鏡傳〕凡十八州士族譜、合百帙、七百餘卷。〔雜纂新續、無憑據〕族譜始祖。〔書言故事、宗族類〕敍二宗族長幼之名一曰二族譜一。

【族父】46 ゾクフ 祖父母の兄弟。父のふたいとこをぢ。おほおほぢをぢ。從堂伯叔。父の年上を族伯・族伯父といひ、年下を族叔・族叔父といふ。〔爾雅、釋親〕父之從祖昆弟爲二族父一。〔漢書、翟方進傳〕亦惟在二帝宮一、諸侯宗室於二小子一族父、敬不レ可レ征。〔後漢書、泗水王歙傳〕泗水王歙、字經孫、光武族父也。〔釋親考〕胤按、吾高祖之子、與二曾祖一兄弟者、爲二族曾祖一、其子爲二族祖父一、其孫爲二族父一、其曾孫爲二族兄弟一、與レ吾同二輩行一者、凡稱レ族者、自二己之族兄弟一推而上レ之爲レ稱、父之從祖昆弟爲二族父一、則其妻當レ稱二族母一、其姊妹當レ稱二族姑一。〔和名抄、人倫部、父母類〕族父、和名、於保於奉知乎知。

【族父母】47 ゾクフボ 族父と族母。〔儀禮、喪服〕族曾祖父母・族祖父母・族父母・族昆弟。〔疏〕族父母者、己之父從祖昆弟也。

【族別】48 ゾクベツ ❶親族のわかち。〔周禮、春官、小宗伯〕掌二三族之別一。❷類によつて分つこと。〔道德指歸論〕物以レ族別。

【族母】49 ゾクボ 父の從祖昆弟の妻。父のふたいとこをば。父の年上を族伯母といひ、年下を族叔母といふ。從堂伯叔母。〔儀禮、喪服〕族曾祖父母・族祖父母・族父母・族昆弟。〔釋親考〕父之從祖昆弟爲二族父一、則其妻當レ稱二族母一。

【族味】50 ゾクミ 鶉の異名。〔淸異錄、禽、族味〕鶉捕レ之者、多論二網而獲一、故雌雄羣子、同被二鼎俎一、世人文二其名一、爲二族味一。

【族滅】51 ゾクメツ 一族をほろぼす。一族のこらず殺したやす。族は三族(父母・妻・子)をさすこともあり、又、一族すべてをさすこともある。〔史記、郅都傳〕景帝乃拜レ都、爲二濟南太守一、至則族二滅瞷氏首惡一、餘皆股栗。〔漢書、孝武李夫人傳〕其後李延年弟季、坐三姦二亂後宮一、廣利降二匈奴一、家族滅矣。〔後漢書、來歙傳〕用二佞惑之言一、爲二族滅之計一。

【族約】52 ゾクヤク 一族の規約。淸の李塨が社會改良の實行として制定した三助・六禁・四戒の規約。三助とは貧を助け、困を助け、葬を助く。六禁とは祖宗を敬せざるを禁じ、不孝を禁じ、不弟を禁じ、奸を禁じ、盜を禁じ、強酒を禁ず。四戒とは賭を戒め、訟を戒め、左道を戒め、尊卑相戲れるを戒める。

【族老】53 ゾクラウ 一族中の年長者。

【族絫】54 ゾクルイ 小腫をいふ。小さな腫物。〔說文〕痤、小腫也、一曰、族絫病。

【族類】55 ゾクルイ ❶同じやから。親族一門。同族をいふ。〔左氏、成、四〕史佚之志有レ之、曰、非二我族類一、其心必異。〔國語、晉語八〕鬼神之所レ及、非二其族類一、則紹二其同位一。〔新序、善謀上〕族類離散流亡。〔後漢書、隗囂傳〕族類滅亡。❷同類をいふ。〔詩、大雅、既醉〕孝子不レ匱、永錫二爾類一。〔箋〕永、長也、孝子之行、非レ有二竭極之時一、長以錫二與女之族類一、謂三廣レ之以敎二道天下一也。

【族纍】56 ゾクルイ 神の名。〔史記、封禪書〕秦巫祠二社主・巫保・族纍之屬一。〔注〕索隱曰、巫保・族纍、二神名。

【族厲】57 ゾクレイ 古の大夫の後なきもの。〔禮、祭法〕大夫立二三祀一、曰二族厲一、曰レ門、曰レ行。〔疏〕族、衆也、大夫衆多、其鬼無レ後者衆、故言二族厲一。

【族隸】58 ゾクレイ 一族郎黨をいふ。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕苟使三我之族隸而有二一人存者一、則率以守二金剛山舊址一、以レ身徇レ國、有レ死無レ他。

【合レ族】59 ゾクヲアハス 族人を會合する。〔禮、大傳〕旁治二昆弟一、合レ族以レ食。

【收レ族】60 ゾクヲヲサム 一族を收合し、離散せぬやうにする。〔禮、大傳〕敬レ宗故收レ族、收レ族故宗廟嚴。

【族外弟】61 ゾクグワイテイ 族姑の子。〔釋親考續編〕杜氏通典、丙以レ丁爲二族外弟一、按、族外弟者、族姑之子也。

【族昆弟】62 ゾクコンテイ 父方のみいとこ。三從弟。族兄弟(8)に同じ。〔爾雅、釋親〕族父之子、相謂爲二族昆弟一。〔儀禮、喪服〕族父母、族昆弟。〔疏〕族昆弟者、己之三從兄弟。

【族姊妹】63 ゾクシマイ 女みいとこ。父方の女みいとこ。〔明律集解、名例、服制〕細麻三月、爲二族兄弟及族姊妹在レ室者一、卽己三從兄弟姊妹、所三與同二高祖一者。

【族祖姑】64 ゾクソコ いとこおほをば。祖父のをんないとこ。從堂叔母。祖父より年長者を族伯祖姑・堂伯祖姑・堂伯婆といひ、年少者を族叔祖姑・堂叔祖姑・堂叔婆ともいふ。〔爾雅、釋親〕父之從祖姊妹、爲二族祖姑一。〔釋親考〕會典、族祖姑、卽

祖之同堂姊妹、卽堂姑婆。

【族祖父】65 ゾクソフ いとこおほをぢ。祖父のいとこ。祖父の年長者を族伯祖父・堂伯公といひ、年少者を族叔祖父・堂叔公ともいふ。族祖父母(68)を見よ。〔釋親考〕祖之從父晜弟爲二族祖父一、其妻爲二族祖母一。

【族祖母】66 ゾクソボ いとこおほをぢよめ。從堂伯姑母。祖父のいとこよめ。祖父の年長者を族伯祖母・堂伯婆といひ、年少者を族叔祖母・堂叔婆ともいふ。〔爾雅、釋親〕父之從祖晜弟之妻、爲二族祖母一。〔郝懿行義疏〕父之從祖晜弟之妻爲二族祖母一者、上云二父之從祖晜弟一爲二族父一、故其妻爲二族母一也、本爲二族母一、言レ祖者、亦如下從母言二從祖母一之例上。

【族外兄弟】67 tsu² wai⁴ hsiung¹ ti⁴ ふたいとこをばの子。他姓のみいとこ。

【族祖父母】68 ゾクソフボ 族祖父と族祖母。〔儀禮、喪服〕族曾祖父母・族祖父母・族父母・族昆弟。〔注〕族祖父者、亦高祖之孫。〔疏〕族祖父母者、己之祖父・從父昆弟也。

【族祖王母】69 ゾクソワウボ 從堂伯叔祖母。〔爾雅、釋親〕父之從祖晜弟之母、爲二族祖王母一。

【族曾祖父】70 ゾクソウソフ ひおほをぢ。曾伯叔父。族曾祖父母(74)を見よ。

【族曾祖母】71 ゾクソウソボ ひおほをば。曾祖父の姉妹。曾伯叔母。族曾祖父母(74)を見よ。

【族曾王父】72 ゾクソウワウフ ひおほをぢ。父のおほをぢ。父の從祖祖父。曾伯叔祖。〔爾雅、釋親〕父之從祖祖父、爲二族曾王父一。

【族曾王母】73 ゾクソウワウボ ひおほをぢよめ。父のおほをぢよめ。父の從祖祖母。曾伯叔祖母。〔爾雅、釋親〕父之從祖祖母、爲二族曾王母一。

【族曾祖父母】74 ゾクソウソフボ ひおほをぢとひおほをぢよめ。族曾祖父と族曾祖母。〔儀禮、喪服〕族曾祖父母・族祖父母・族父母・族昆弟。〔注〕族曾祖父者、曾祖昆弟之親也。〔疏〕族曾祖父母者、己之曾祖親兄弟也。〔釋親考〕會典、族曾祖父母、謂二曾祖之兄弟及妻一、卽大伯公・伯婆・叔公・叔婆。

【旃】13662 ㊀チン ㊁シン ㊀陳(**11－41698**)の古字。〔正字通〕旃、古文陳。㊁紳(**8－27348**)に同じ。〔康熙字典〕旃、石鼓文、其邋又旃、釋音、鄭作レ紳、潘云、未レ詳。

【旃】13663 チン 陳(**11－41698**)に同じ。〔六書索隱〕旃、同レ陳。

【旃】13664 セン 旃(**5－13640**)の俗字。〔字學擧要〕旃、旃俗字。

八畫

【旃】13665 セン 旃(**5－13640**)の俗字。〔正字通〕旃、俗旃字。

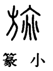
【旃】13666 ダ ナ 〔集韻〕乃可切 哿

旃旃は、はためくさま。或は旎(**5－13660**)に作る。〔集韻〕旃、旃旃、旌旗皃、或作レ旎。

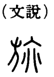
【旃】13667 エン 〔篇海〕於鹽切 鹽

物の長短をくらべる。〔篇海〕旃、比二物之長短一也。

【旐】13668 テウ デウ 〔集韻〕直紹切 篠 ㄓㄠˋ chao⁴

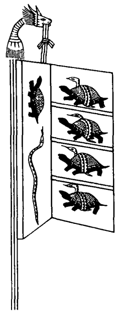


小篆（說文）



小篆（段注本）

❶**龜と蛇とを畫いて、赤いはたあしを長く延いた黑旗。**郷遂の長の旗。郷遂の大夫がたてる大旗。〔說文〕旐、龜蛇四游、已象二營室一、攸攸而長也、从レ㫃兆聲、周禮曰、縣鄙建レ旐。〔說文通訓定聲〕九旗之帛、皆用レ絳、惟旐用レ緇、長八尺、續レ旐又有レ旆、旆帛用レ絳、亦長八尺、故旐獨長。〔爾雅、釋天〕緇廣充幅長尋曰レ旐。〔注〕帛全幅、長八尺。〔郝懿行義疏〕旐、畫二龜蛇一、屬二北方宿一、是當三以レ黑爲レ主、檀弓云、設レ旐殷也、然則旐从二夏制一、知二色尙一レ黑也。〔釋名、釋兵〕龜蛇爲レ旐、旐、兆也、龜、知二氣兆吉凶一、建二之於後一、察二事宜之形一也。〔詩、小雅、出車〕設二此旐一矣。〔傳〕龜蛇曰レ旐。〔周禮、春官、司常〕龜蛇爲レ旐、云云、縣鄙建レ旐。〔注〕州里縣鄙、鄉遂之官、互約二言之一、云云、龜蛇象二其扞レ難辟一レ害也。〔周禮、夏官、大司馬〕野載レ旐。〔注〕野、謂二公邑大夫一、載レ旐者、以三其將二羨卒一也。〔孔子家語、終記〕綢練設レ旐。❷**柩に先行する旗。**〔潘岳、寡婦賦〕飛旐翩以啓レ路。〔注〕濟曰、旐、引柩幡也、善曰、旐、喪柩之旌也。



（三禮圖）　旐

【旐】13669 テウ 旐(**5－13668**)に同じ。〔五經文字〕旐、石經作レ旐。

【旌】13670 セイ 旌(**5－13658**)に同じ。〔篇韻〕旌、同レ旌。

【旃】13671 ジュ 受(**2－3159**)に同じ。〔康熙字典〕旃、東觀餘論、㠯仲医銘、用盛諸旃レ糕、按、鍾鼎款識作レ受。

【旑】13672 イ 旖(**5－13685**)に同じ。〔日月燈〕旑、旖字省文。

【旃】13673 ハウ 義未詳。〔五音篇海〕旃、音訪。

九畫

【旃】13674 キ 旗(**5－13690**)の俗字。〔正字通〕旃、俗旗字。

【旃】13675 ㊀エン ㊁エフ ㊀〔廣韻〕衣險切 琰 ㊁〔玉篇〕於業切 葉

㊀㊁**光をおほひかくす。**〔玉篇〕旃、掩レ光也。

【旒】13676 リウ ル 〔集韻〕力求切 尤 ㄌㄧㄡˊ liu²

❶**はたあし。**旗の垂れ。多く赤帛を用ひるが、時には白、或は雜帛をも用ひる。〔玉篇〕旒、旌旗垂者。〔公羊、襄、十六〕君若二贅旒一然。〔注〕旒、旂旒。❷**たまだれ。**冕の前後にたれ下げる玉。〔正字通〕旒、以二絲繩一貫レ玉、垂二冕前後一也。〔禮、玉藻〕天子玉藻、十有二旒。〔注〕天子以二五采一爲レ旒。〔禮、禮器〕天子之冕、朱綠藻十有二旒。〔注〕朱綠似二夏・殷禮一也、周禮、天子五采

藻。〔疏〕十二、謂二旒數一也。〔後漢書、蔡茂傳〕賜以二三公之服黼黻冕旒一。〔注〕旒、謂二冕前後所レ垂玉一也、天子十二旒、上公九旒。❸あや。〔詩、商頌、長發〕爲二下國綴旒一。〔傳〕旒、章也。❹或は斿(5－13632)・游(7－17792)・統(8－27519)・㐬(1－296)に作る。〔集韻〕旒、或作二斿・游・統・㐬一。〔禮、明堂位〕旂有二十二旒一。〔釋文〕旒、本又作レ斿。❺流(6－17431)に通ず。〔禮、樂記〕龍旂九流。〔釋文〕流、本又作レ旒。邦ながれ。旗の數を數へるにいふ語。〔兵庫寮式、大射〕凡大射建二羅幡一者、烏羅十二旒。

【旒旗】1 リウキ たれのあるはた。〔潘岳、楊荊州誄序〕敢託二旒旗一、爰作二斯誄一。〔注〕良曰、旒旗、謂レ銘二旌幡一也、古人用以書二德行一。

【旒纊】2 リウクワウ 冕の前のたれと耳を塞ぐ黈纊。〔任昉、爲二蕭揚州一作レ薦二士表一〕道隱二旒纊一、信充二符璽一。〔注〕善曰、大戴禮曰、孔子曰、古者絻而前レ旒、所二以蔽一レ明也、黈紞塞レ耳、所二以掩一レ聽也、濟曰、旒以蔽レ視、纊以塞レ聽。

【旒縿】3 リウサン はたあし。〔詩、鄘風、干旄、素絲紕レ之、箋〕素絲者、以爲レ縷、以縫二紕旌旗之旒縿一。〔疏〕縿、謂レ繫二於旌旗之體一、旒、謂二縿末之垂者一。〔禮、明堂位、有虞氏之綏、疏〕但注二旄竿首一、末有二旒縿一。

【旒旌】4 リウセイ 十二のふきながしのついたはた。〔宋玉、高唐賦〕駟二蒼螭一垂二旒旌一。〔注〕善曰、旒旌、謂レ建二太常十二旒一。〔顏延之、拜二陵廟一作詩〕萬紀載二紘吹一、千載託二旒旌一。

【旒翣】5 リウセフ 棺のおほひ。棺罩。〔晉書、元四王、琅邪悼王煥傳〕棺槨・輿服・旒翣之屬、禮典舊制、不レ可二廢闕一。

【旒蘇】6 リウソ はたのふさ。流蘇。〔北史、薛琡傳〕喪車不レ加二彫飾一、但用レ麻爲二旒蘇繩網絡一而已。

【旒綴】7 リウテイ はたあし。〔杜甫、贈二祕書監江夏李公邕一詩〕忠貞負二冤恨一、宮闕深二旒綴一。

【旒旐】8 リウテウ ふきながしのついた長さ八尺あるはた。〔晉書、顧愷之傳〕桓玄時與二顧愷之一同在二仲堪坐一、共作二了語一、愷之先曰、火燒二平原一無二遺燎一、玄曰、白布纏レ根樹二旒旐一。〔庾公歌〕庾公還二揚州一、白馬牽二旒旐一。〔張說、惠文太子挽歌〕旒旐飛二行樹一、帷宮宿二野煙一。

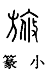
【旒冕】9 リウベン 絲で貫いた玉を前後にたれた、貴人のかんむり。〔隋書、音樂志中〕穆穆旒冕、蘊レ誠畢レ敬。

【⿰方攸】13677

一 イウ ユ 〔集韻〕夷周切 尤

二 エウ 〔集韻〕餘招切 蕭

三 エウ 〔集韻〕伊鳥切 篠


小篆

一二**はたあし**。〔說文〕⿰方攸、旌旗之流也、从レ㫃攸聲。三**旗の屬。又、旗のさま**。⿰方要(5－13691)に同じ。〔集韻〕⿰方要、說文、旗屬、一曰、旗皃、或从レ攸。

【旓】13678 サウ セウ 〔集韻〕師交切 肴

はたあし。〔玉篇〕旓、旌旗之斿。〔漢書、揚雄傳上〕建二光耀之長旓一。〔注〕師古曰、旓、旗之旒也、一曰、燕尾。

【旔】13679 ケン コン 〔廣韻〕居万切 願

かつ。〔廣韻〕旔、捷也。

【⿰方烏】13680 ヨ 旟(5－13709)に同じ。〔字彙補〕⿰方烏、與レ旟同。

【⿰方是】13681 テイ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰方是、音提。

十畫

【⿰方尃】13682 ハク 〔集韻〕拂縛切 藥

姓。〔集韻〕⿰方尃、姓也。

【⿰方畚】13683 ホン ボン 〔韻會〕部本切 阮

舟のとま。〔韻會〕⿰方畚、舟篷也。

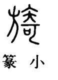
【⿰方帝】13684 クワウ ⿰方鬼(5－13693)に同じ。〔篇海〕⿰方帝、與レ⿰方鬼同。

【旖】13685

一 イ 〔集韻〕於宜切 支

二 イ 〔集韻〕隱綺切 一ˇ i³ 紙

三 イ 〔集韻〕於義切 寘


小篆

一二三❶**旗のなびくさま**。〔說文〕旖、旖施、旗皃、从レ㫃奇聲。〔段注〕許於レ旗曰二旖施一、於レ木曰二檹施一、於レ禾曰二倚移一、皆讀如二阿那一。檜風、猗儺其枝、傳云、猗儺、柔順也、楚辭九辯・九歎、皆作二旖旎一、上林賦、旖旎從レ風、張揖曰、旖旎、猶二阿那一也、文選作二猗狔一、漢書作二猗柅一、考工記則作二倚移一、本謂二旌旗柔順之貌一、引伸爲二凡柔順之偁一。❷**盛なさま**。〔集韻〕旖、一曰、旖旎、盛皃。❸旑(5－13657)に同じ。〔楚辭、宋玉、九辯〕紛旖二旎乎都房一。〔集注〕旖、一作レ旑、於可切。

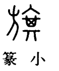
【旖旎】1 イヂ ❶旗の風に從ふさま。旗の風になびくさま。〔正字通〕旎、旖旎、旗從レ風貌。〔史記、司馬相如傳〕旖旎從レ風。〔注〕索隱曰、張揖云、旖旎、猶二阿那一也。〔史記、司馬相如傳〕又旖旎招以搖。❷雲のたなびくさま。〔漢書、揚雄傳、反離騷〕乘二雲蜺之旖旎一兮。〔注〕旖旎、雲貌也。❸盛なさま。〔楚辭、九辯〕竊悲夫蕙華之曾敷兮、紛旖二旎乎都房一。〔注〕旖旎、盛貌也。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕橘柚萎枯兮、苦李旖旎。〔注〕旖旎、盛貌也。〔白居易、夜宴惜レ別詩〕笙歌旖旎曲終頭、轉作二離聲一滿二坐愁一。

【旖旎山】2 イジサン 山名。〔清異錄、薰燎、旖旎山〕高麗舶主王大世、選二沈水近二千片一、疊爲二旖旎山一、象二衡嶽七十二峯一。

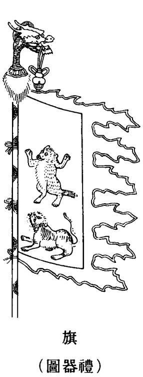
【⿰方奄】13686 エン 〔集韻〕衣檢切 琰

はたのさま。〔集韻〕⿰方奄、旌旗皃。

【旗】13687 キ ギ 〔集韻〕渠之切 くㄧˊ ch'i² 支


小篆

❶**はた**。㋑熊と虎とを畫いた赤はた。軍將が建てる。その斿は、五、或は六。〔說文〕旗、熊旗五游、㠯象二伐星一、士卒㠯爲レ期、从レ㫃其聲、周禮曰、率都建レ旗。〔釋名、釋兵〕熊虎爲レ旗、旗、期也、言三與レ衆期二於下一、軍將所レ建、象三其猛如二熊虎一也。〔周禮、春官、司常〕師都建レ旗。〔注〕師都、六鄕六遂大夫也、謂二之師都一、都民所レ聚也、畫二熊虎一者、鄕遂出二軍賦一、象三其守猛莫二敢犯一也。〔周禮、夏官、大


旗

（圖器禮）

司馬〕司馬以レ旗致レ民。〔注〕以レ旗者、立レ旗期二民於其下一也。〔周禮、考工記、輈人〕熊旗六斿、以象レ伐也。〔公羊、莊、三十一〕旗獲而過レ我也。〔注〕旗、軍幟名、各有レ色、與二金鼓一倶擧、使三士卒望而爲レ陳者。㋺はた・のぼりの汎稱。〔周禮、春官、司常〕掌二九旗之物名一。〔史記、秦始皇紀〕下可三以建二五丈旗一。〔管子、任法〕旗、所三以立レ兵也、所二以利レ兵也、所二以偃レ兵也。〔呂覽、愼大〕釁二鼓旗甲兵一。〔注〕旗、軍械也。㊁**しるし**。表識。〔左氏、閔、二〕佩、衷之旗也。〔注〕旗、表也。㊂**おほふ**。〔呂覽、諭大〕昔舜欲レ旗二古今一而不レ能。〔注〕旗、覆也。㊃**星の名**。㋑北方玄武宿の內、左旗と右旗。〔史記、天官書〕東宮蒼龍房心東北曲十二星曰レ旗。〔注〕正義曰、兩旗者、左旗九星、在二河鼓左一也、右旗九星、在二河鼓右一也、皆天之鼓旗、所三以爲二旌表一。㋺箕(8−26143)に通ず。〔說文通訓定聲〕旗、叚借爲レ箕。〔荀子、富國〕壽二於旗翼一。〔注〕旗、讀爲レ箕。㊄旂(5−13638)に通ず。〔說文通訓定聲〕旗、叚借爲レ旂、河圖握矩記、東方法二青龍一曰レ旗、旗・旂雙聲。㊅**清代、滿洲蒙古の行制區劃の一つ**。內地の縣と同じ。每旗に旗公署を設け、札薩克を置いて一旗の行政事務を辦理せしめた。〔皇朝通志、地理略〕新藩蒙古喀爾喀四部八十二旗、康熙三十年、編二審旗一、分定爲二後部東部西部、共三十七旗一、後遞增設二四十五旗一、又設二賽因諾顏部一、共四部合八十二旗。〔清國行政法汎論、藩部、內蒙古部落之最小者爲レ旗、合レ旗爲レ部、合レ部爲レ盟。㊆**清代、旗色に因つて區分した軍隊の部署**。管區。〔說文通訓定聲〕旗、按、本朝以二八旗將士一平二定海內一、鑲黃・正黃・正白三旗、皆天子所二自將一、爲二上三旗一、正紅・鑲白・鑲紅・正藍・鑲藍、爲二下五旗一。〔皇朝文獻通考、兵考〕國初先編二玄四旗一、以統二人衆一、尋以二歸服益廣一、乃增建爲二八旗一、然猶統二滿州蒙古漢軍之衆一、而合二于一一也、迨二其後戶口日繁一、又編二蒙古八旗一、設レ官與二滿州一等、繼編二漢軍八旗一、設レ官與二滿洲蒙古一等、合爲二二十四旗一、其制以レ旗統レ人、卽以レ旗統レ兵、凡隸二于旗一者、皆可二以爲レ兵、洎二乎中外一統一、復設二綠旗營一、以統二漢兵一、蓋本朝建レ旗辨レ色、以二相勝一爲レ用。㊇**姓**。〔通志、氏族略、以レ字爲レ氏〕旗氏、風俗通、齊卿公孫竈之孫、欒施、字子旗、子孫以二王父字一爲レ氏。

解字 形聲。㫃をもととし、其の聲。熊虎を畫いて六つの游(はたあし)があるはた。說文に士卒以爲レ期とあり、期と旗とは疊韻。軍將が建てるもので猛きこと熊虎の如きに象り、勇猛を軍の衆と旗下に期するのである。伐星に象る。伐星は六星であるから六游をつけた。周禮の司常に九旗の物名を掌るとあり、旗の字が九種に通じて用ひられ、はたの統稱になつた。

【旗襖】1 キアウ 廢旗で作つた衣服。後魏の于景の妻が拘へられて紅色旗の襖を着た故事。〔北史、于忠傳〕鎭人遂執二縛景及其妻一、拘二守別室一、皆去二其衣服一、令下景著二皮裘一、妻著中故絳旗襖上。

【旗斿】2 キイウ はたあし。風にゆらめく旗。〔傅毅、洛都賦〕被二五路之時副一、攬二三辰之旗斿一。

【旗印】3 ハタジルシ 旗にしるして目標とする紋所。旗章。

【旗員】4 キヰン 八旗の部員。〔清會典事例、吏部滿洲銓選〕旗員向例百日期滿。

【旗雲】5 ハタグモ 旗の靡へるやうに棚引く雲。〔文德實錄、十〕天安二年六月庚子、早旦有二白雲一、自レ艮亘レ坤、時人謂二之旗雲一。

【旗影】6 キエイ はたのかげ。〔孟郊、獻二漢南樊尙書一詩〕旗影卷二赤電一、劍鋒匣二靑鱗一。〔劉禹錫、步出二武陵東亭一臨レ江寓望詩〕戍遙旗影動、津晚櫓聲促。

【旗營】7 キエイ 八旗兵の部落。〔清會典事例、八旗都統、兵制、旗營建置〕康熙十二年諭、漢軍每旗、應下設二一營一操中練火器上。

【旗餤】8 キエン 旗のひらめくさま。〔溫庭筠、過二華淸宮一詩〕劍鋒揮二太皡一、旗餤拂二蚩尤一。〔貫休、古塞下曲〕地使二人心惡一、風吹二旗餤一荒。

【旗下】9 カキ ㊀旗の下。大將の居る本陣。又、其の部下。麾下。〔後漢書、耿弇傳〕令下步兵各以二郡人一詣中旗下上。㊁八旗の下に隸屬する人民。〔清會典事例、八旗都統、戶口、旗人買賣奴僕〕國初定、旗下賣買人口、赴二各城鎭市一交易、若越至二他旗市一被レ執者、身價二分入レ官、一分給二拏獲之人一。㊂ハタモト 旗本(105)に同じ。

【旗下人】10 キカジン 清代、八旗下に屬す滿人。旗人。〔清會典事例、八旗都統、公式、旌表〕康熙十三年題准、文武官員帶二有軍器一出レ京者、係旗下人、該都統給二予印文一、若無二印文一、兵部不レ准レ給レ票。

【旗械】11 キカイ はたと兵器。〔宋史、仇悆傳〕俘馘甚衆、獲二旗械一數千。

【旗蓋】12 キガイ はたときぬがさ。〔潘岳、關中詩〕旗蓋相望、偏師作レ援。〔南史、任昉傳〕夢有二五色采旗蓋一。〔李商隱、漫成詩〕借問琴書終一世、何如旗蓋仰二三分一。

【旗鎧】13 キガイ はたとよろひ。〔唐書、唐璿傳〕臨レ高望レ之、見二賊旗鎧鮮明一。〔唐書、康承訓傳〕帝遣二中人康道隱一、宣二尉徐州一、勛郊迎、旗鎧矛戟、亙二三十里一、使三騎鳴二鞞角一、聲動二山谷一。

【旗高】14 キカウ はたがたかい。〔李商隱、歸レ墅詩〕渠濁村春急、旗高社酒香。

【旗號】15 キガウ 旗じるし。〔李衞公問對、上〕若二天地一者本二乎旗號一、風雲者本二乎旛名一。

【旗學】16 キガク 清代、八旗の子弟教育のための學校をいふ。八旗官學・八旗義學・八旗學堂の三種がある。世祖の順治元年に八旗官學を立て、八旗が四處に分れてゐたため各處に設けた。聖祖の康熙三十年に八旗義學を設け、八旗の子弟十歲以上のものを佐領內で各一人を選んで教育し、世宗の雍正二年に八旗學堂を設け、恩詔を以て人材を養育した。八旗官學生は、滿學內に於ては滿書を講讀し、漢學內に於ては滿漢兩書を講讀し、又、馬步箭を習ひ、文武兩道に心掛け、八旗義學生は、滿洲幼童には滿書滿語を、蒙古幼童には滿蒙兩書滿蒙兩語を、漢軍幼童には滿書滿語を教育し、並に馬步箭を教練し、各佐領の饒騎校に檢閱させた。八旗學堂生は漢學堂に入れば漢書を學習し、滿漢學堂に入れば滿漢兩書を學習した。〔清會典事例、禮部、學校、旗學事宜〕康熙六年題准、八旗有下願レ作二漢文考試一者上、各都統開二送禮部一、移二送順天學院一、滿洲蒙古、別編二一號一、漢軍與二漢人一、同場考試、丈優者卽入二順天府漢生員額數內一。

【旗甲】17 キカフ ㊀旗と甲。〔宋書、索虜傳〕船艦蓋レ江、旗甲星燭。〔唐書、呂元膺傳〕留守賜二旗甲一。㊁兵糧船乘組員の長。〔六部成語、戶部、旗甲、注解〕甲、長也、旗丁百餘人爲二一甲一、設レ長以管レ之。

【旗杆】18 ch‘i^{2} kan^{1} はたざを。旗竿。

【旗竿】19 キカン はたを結びつけるさを。はたざを。杠。〔後漢書、袁紹傳〕到二瓚營一、拔二其牙門一、注〕牙門、旗竿、軍之精也。〔幸蜀記〕有三羣鴉泊二於旗竿上一、其鳴甚哀。〔杜甫、復愁十二首詩〕金絲鏤二箭鏃一、皁尾製二旗竿一。

【旗幹】20 キカン はたざを。〔宋史、儀衞志三〕殿前司仗內、金鎗銀鎗旗幹、易以レ漆飾、而拂扇坐褥、以レ珠飾者去レ之。

【旗艦】21 キカン 司令長官、又は司令官の坐乘してゐる軍艦。艦隊を率ゐるおやぶね。〔依田學海、日本海之戰〕露國第三艦隊旗艦、傳二信號於各艦一曰、期三疾合二第二艦隊一。

【旗旂】22 キキ はた。旗には熊虎をゑがき、旂には交龍をゑがく。〔江淹、爲レ蕭拜二相國齊公十郡九錫一章〕鑾輅旗旂、方幸二於臣府一。〔劉攽、和二王正仲熙寧郊祀一詩〕風霆齊二命令一、龍虎會二旗旂一。

【旗器】23 キキ 旗に關する器物。〔宋史、儀衞志三〕

朝服法物庫、出㆓旗器名物衣冠幮蓋㆒、軍器庫、出㆓箙弩矢内㆒、弓箭庫、出㆓戎裝雜仗㆒。

【旗腳】24（キキャク） はたのあし。又、はたもと。〔蘇軾、泗州僧伽塔詩〕舟人共勸禱㆓靈塔㆒、香火未㆑收旗腳轉。

【旗去】25（キキョ） はたがすぎさること。〔杜牧、秋岸詩〕數帆旗去疾、一艇箭迴初。

【旗魚】26（キギョ） 魚の名。かぢきまぐろの異名。長さ一丈餘り。口端鋭く尖つて角狀を爲し、よく船の舵木を穿つといふ。

【旗廻】27（キクワイ） はたがめぐる。〔姚合、聞㆓魏州破㆑賊詩〕旗廻㆓海眼㆒軍容壯、兵合㆓天心㆒殺氣多。

【旗旝】28（キクワイ） いくさばた。〔傅亮、封㆓劉裕㆒爲㆓宋公㆒詔〕旗旝首㆑塗、則八表響震、偏師先㆑路、則多壘雲徹。〔唐書、僕固懷恩傳〕懷恩陣㆓西原㆒、多張㆓旗旝㆒。

【旗獲】29（キクワク） 旗を建て獲物を懸ける。威嚇すること。〔公羊、莊、三十一〕其威㆑我奈何、旗獲而過㆑我也。〔注〕旗獲、建㆑旗懸㆑所㆓獲得㆒以過㆑魯也。

【旗戟】30（キゲキ） はたのつけてあるほこ。はたぼこ。幢戟。〔韓愈、孟生詩〕晶光蕩相射、旗戟翩以森。

【旗缺】31（キケツ） 八旗の官職。〔清會典、兵部〕分㆓武職官之缺㆒、一曰旗缺、二曰營缺、三曰衞缺、四曰門缺。

【旗鼓】32（キコ） ❶戰場で兵士を指揮するに用ひるはたと太鼓。〔周禮、地官、縣師〕會㆓其車人之卒伍㆒、使㆔皆備㆓旗鼓兵器㆒。〔左氏、成、二〕師之耳目、在㆓吾旗鼓㆒、進退從㆑之。〔六韜、虎韜、軍用〕車上立㆓旗鼓㆒。〔史記、淮陰侯傳〕平旦信建㆓大將之旗鼓㆒、鼓行出㆓井陘口㆒。〔漢書、李廣傳〕力戰奪㆓左賢王旗鼓㆒。〔後漢書、臧洪傳〕登㆑城臨㆑兵、觀㆓主人之旗鼓㆒。〔呉志、朱桓傳〕桓因偃㆓旗鼓㆒、外示㆓虛弱㆒、以誘㆓致仁㆒。❷軍令。軍事。奸㆓旗鼓㆒を見よ。

〖奸㆓旗鼓㆒〗33（キコヲヲカス） 軍令に從はぬこと。〔左氏、定、十四〕臣奸㆓旗鼓㆒、不㆑敏㆓於君之行前㆒。〔注〕犯㆓軍令㆒也。〔山堂肆考〕軍士犯㆓將令㆒者、謂㆔之奸㆓旗鼓㆒、左傳、臣奸㆓旗鼓㆒、不㆑敏㆓於君之行前㆒、不㆓敢逃㆒㆑刑。

〖旗鼓相當〗34（キコアヒアタル） 兩軍が敵對すること。又、彼我の軍勢が相匹敵すること。〔後漢書、隗囂傳〕如令㆔子陽到㆓漢中三輔㆒、願因㆓將軍兵馬㆒、鼓旗相當。〔魏志、管輅傳、注〕管輅別傳曰、云云、酒盡之後、問㆓子春㆒、今欲㆓與㆑輅爲㆑對者、若㆓府君四坐之士㆒邪、子春曰、吾欲㆓自與㆑卿旗鼓相當㆒。

〖旗鼓相望〗35（キコアヒノゾム） 大軍の連なるさま。〔資治通鑑、晉紀〕（孝武帝、太元八年）八月甲子、堅發㆓長安㆒、戎卒六十餘萬、騎二十七萬、旗鼓相望、前後千里。

【旗語】36 chʻi^{2} yü^{3} 旗信號。

【旗紅】37（キコウ） はたがくれなゐである。くれなゐのはた。〔元稹、送㆔客遊㆓嶺南㆒詩〕電白雷山接、旗紅賊艦新。

【旗差】38（ハタサシ） 陣中で大將の旗を馬に乘りながら持つ役。又、其の人。旗指。

【旗裝】39 chʻi^{2} chuang^{1} 滿洲貴族の服裝。

【旗槍】40（キサウ） ❶極上等の茶。茶の葉を旗に、其の嫩莖を槍に喩へていふ。〔茶錄〕茶芽如㆓鷹爪・雀舌㆒爲㆑上、一旗一槍次㆑之。❷旗と槍。〔王建、秋日送㆓杜虔州㆒詩〕山樓添㆓鼓角㆒、村柵立㆓旗槍㆒。

【旗稍】41（キサク） はたとほこ。稍は槊。〔唐書、兵志〕毎歲季冬、折衝都尉、率㆓五校兵馬之在㆑府者㆒、置㆓左右二校尉㆒、位相距百步、毎校爲㆓步隊十騎隊一㆒、皆卷㆓稍旛㆒展㆓刃旗㆒、散立以俟㆔角手吹㆓大角㆒、一通、諸校皆斂㆓人騎㆒爲㆑隊、二通、偃㆓旗稍㆒解㆑旛、三通、旗稍擧、左右校擊㆑鼓、二校之人、合譟而進。

【旗山】42（キザン） 山名。福建省閩侯縣の西、閩江の西岸。又、水西山といふ。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、侯官縣〕雲峯山、旗山亙㆓十餘里㆒、高數百仞、與㆓鼓山㆒東西相望、郭璞建州記、右旗左鼓、全閩二絶、是也。

【旗士】43（キシ） 戰場などで旗をもつ兵士。旗卒。又、廣く旗を持つものの稱。

【旗子】44 chʻi^{2} tzŭ ❶はた。旗類の通稱。❷（ハタゴ） 旗頭の麾下の兵士。〔籾井日記、毛利丹羽兩家遣㆓使者㆒〕旗下の樣にも一旗子方の樣にも致し。

【旗志】45（キシ） はたじるし。戰陣に於けるはたやのぼり。旗幟（48）に同じ。〔史記、叔孫通傳〕設㆑兵、張㆓旗志㆒、傳言㆑趨。〔集解〕徐廣曰、一作㆑幟。〔漢書、陸賈傳〕戍卒衞官、設㆑兵張㆓旗幟㆒。

【旗指】46（ハタサシ） 軍陣で馬に乘りながら大將の旗を持つ侍。旗差。

〖旗指者〗47（ハタサシモノ） 江戸幕府の職名。旗差の事を掌るもの。〔吏徵、下〕御旗指之者、役米十五俵。

【旗幟】48（キシ） ❶はた。はたのぼり。幟は旗じるし。軍旗。〔列子、黄帝〕黄帝與㆓炎帝㆒戰㆓於阪泉之野㆒、云云、鵰・鶡・鷹・隼爲㆓旗幟㆒。〔史記、高祖紀〕旗幟皆赤。〔漢書、高帝紀贊〕旗幟上㆑赤、協㆓於火德㆒。〔漢書、張良傳〕益張㆓旗幟諸山上㆒、爲㆓疑兵㆒。〔後漢書、光武帝紀上〕列營百數、旗幟蔽㆑野。❷墨子の篇名。❸態度。立場。旗色。

〖旗幟鮮明〗49（キシセンメイ） 旗色が明かなことで、己が主義を明かならしめること。

〖旗幟彌㆑天〗50（キシテンニワタル） 旗がたくさん立ち並んでゐるさまをいふ。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕望㆓見東軍㆒、旗幟彌㆑天。

【旗織】51（キシキ） はた。はたのぼり。旗幟。〔漢書、食貨志下〕治㆓樓船㆒、高十餘丈、旗織加㆓其上㆒。〔注〕師古曰、織、讀曰㆑幟。

【旗濕】52（キシツ） はたがうるほふ。はたがしめる。〔李賀、追㆓賦畫江潭苑㆒詩〕旗濕金鈴重、霜乾玉鐙空。

【旗日】53（ハタビ） 國民のすべてが國旗を揭げて奉祝する日。國民の祝日をいふ。

【旗章】54（キシヤウ） はたのもやう。はたじるし。旗標。〔禮、月令〕以爲㆓旗章㆒、以別㆓貴賤等級之度㆒。〔尉繚子、兵令上〕陳㆓之斧鉞㆒、飾㆓之旗章㆒。〔呂覽、季夏〕以爲㆓旗章㆒、以別㆓貴賤等級之度㆒。〔晉書、禮志下〕諸侯覲㆓天子㆒、各建㆓其旗章㆒。〔說苑、指武〕太公兵法曰、分爲㆓五選㆒、異㆓其旗章㆒、勿㆑使㆓冒亂㆒。

【旗餉】55（キシヤウ） 清代、滿洲旗人の俸祿をいふ。〔清會典、戸部〕凡旗俸、春秋則頒焉、截㆑俸定㆓其限㆒、隨㆑甲則各辨㆓其等㆒而給㆑之、凡旗餉、月給以㆑銀、季給以㆑米。〔清會典事例、八旗都統、公式、關支俸餉〕康熙元年奏准、八旗俸餉冊、毎季以㆓上月初十日㆒送㆓戸部㆒。

【旗氅】56（キシヤウ） 旗と鳥の羽のはた。〔宋史、儀衞志二〕兩制同㆓禮官議㆒、略準㆓小駕制度㆒、添㆓清道馬罕罼旗氅等物㆒。

【旗手】57（キシユ） ❶はたもち。❷軍旗を捧持する者。

【旗色】58（ハタイロ） 戰場に旗のひるがへるさま。轉じて、軍の氣勢。又、ひろく樣子。形勢。〔甲陽軍鑑、一〕旗色を御覽じて。

【旗心】59（キシン） 旗の中央。〔海錄碎事、服用、旌旗〕旗心展㆓緑字㆒、樓影轉㆓繪花㆒。李相侍宴。

【旗人】60（キジン） 清代、武士階級としての一身分。旗人は清國成立の歴史的事情に本づいたもので、滿洲族の種族的な優越支配關係に本づくものではない。卽ち清國成立の功勞者として滿洲族は總て旗人に編入されてゐるが、此の軍役に參加した漢人・蒙古人は勿論、朝鮮人をも含み、征明の役に清朝に忠誠を示し、其の軍役に參加し、所謂八旗に編成されたものが旗人たる待遇を得た。清朝の初、四旗を編立したが、其の後增して八旗となし、又、蒙古及び漢人の軍各八旗を編んで合はせて二十四旗とし、旗を以て人を統べた。八旗（**2**－1450··73）を見よ。〔清會典事例、八旗都統、戸口、旗人撫養嗣子〕國初定、無㆓嗣人㆒撫㆓養他人之子㆒、許㆘報㆓明本王貝勒該旗都統㆒、送㆑部註㆑冊、增㆗入本佐領壯丁數內㆖。若私自撫養者、斷歸㆓本宗㆒。

【旗姓】61（キセイ） 滿人は本姓以外に己の名の上の字を以て姓とする。これを旗姓といふ。

【旗星】62（キセイ） 星の名。〔史記、封禪書〕有㆑星茀㆓于三能㆒、望氣王朔言、候獨見㆓旗星出㆒、如㆑瓜、食頃復入焉、有司皆曰、陛下建㆓漢家封禪㆒、天其報㆓德星㆒云。〔注〕索隱曰、符瑞圖云、旗星之極、芒豔如㆑旗。〔後漢書、桓帝紀〕八月乙丑有㆑星孛㆓于天市㆒。〔注〕前書曰、旗星中四星、名曰㆓天市㆒。

【旗旌】63（キセイ） はた。旗幟。〔南史、謝晦傳〕至㆓于破㆑家、旗旌相照㆒。〔宋之問、扈從登封告㆑成頌〕和風吹㆓鼓角㆒、佳氣動㆓旗旌㆒。

【旗聲】64（キセイ） はたのおと。はたのひびき。〔曹唐、送㆔康祭酒赴㆓輪臺㆒詩〕霜黏㆓海眼㆒旗聲凍、風射㆓犀文㆒甲縫開。

【旗籍】65（キセキ） 滿洲蒙古漢軍各旗人の戸籍。旗人

(60)を見よ。〔清會典事例、八旗都統、戶口、旗人撫養嗣子〕道光元年諭、八旗抱二養他人之子一、冒二入旗籍一、挑二補錢糧一、本干二禁令一、著二該都統等一、嚴密查訪、立限三箇月、責下令二自行呈報一、一概免中其治罪上、其現食二錢糧一、及已經二入仕一者、准二照乾隆二十一年之例一。

【旗籍司】66 キセキシ 官名。清、置く。理藩院に屬し、內蒙古諸部落の封爵・會盟・軍旅・郵傳等の事を掌る。〔清國行政法汎論、理藩院〕旗籍清吏司、專掌二內蒙古諸部落之封爵・會盟・軍旅・郵傳等事一。

【旗節】67 キセツ 使者の持つてゆく旗じるし。君命を以て往來するものでがたとしてのはたじるし。〔唐書、韓愈傳〕愈曰、田公以二魏博六州一歸二朝廷一、官二中書令一、父子受二旗節一、劉悟李祐、皆大二鎭此一爾、軍所二共聞一也。〔王昌齡、變行路難〕前驅引二旗節一、千里陣雲帀。〔尙書故實〕王內史借船帖、書之尤工者也、故山北盧尙書匡、寶惜有レ年、公致レ書借レ之不レ得、云三只可二就看一、未二嘗借一レ人也、公除二潞州一、旗節在レ途纔數程、忽有レ人將二書帖一就レ公求レ售、閱レ之、乃借船帖也、公驚異問レ之、云、盧家郎君要レ錢遺賣耳、公歎異移レ時、不レ問二其價一還レ之、後不レ知レ落二於何人一。

【旗船】68 ch'i² ch'uan² 外國人に傭はれたじやんく。

【旗足】69 ハタアシ はたの末に垂れるもの。はたて。

【旗卒】70 キソツ 戰場などで旗を持つ兵士。

【旗隊】71 キタイ はたを持つた隊列。〔李洞、贈三永崇李將軍充二襄陽制置使一詩〕九城王氣生二旗隊一、萬里寒風入二箭瘡一。

【旗幢】72 キタウ はた。〔韓非子、大體〕車馬不三疲二弊於遠路一、旌旗不レ亂二於大澤一、萬民不レ失二命於寇戎一、雄駿不レ創二壽於旗幢一。

【旗檔】73 キタウ 旗人の籍。旗籍(65)に同じ。〔清會典事例、八旗都統、戶口、旗人撫養嗣子〕雲騎尉札普善、恩騎尉五聖保特保、倶著銷二除旗檔一、改入二民籍一。

【旗纛】74 キタウ はた。羽毛を飾つた大旗。〔韓愈、南海神廟碑〕旗纛旄麾、飛揚晻藹。〔唐書、張仲武傳〕獲二馬牛橐駝旗纛一、不レ勝レ計。〔名畫錄〕旗纛旌旄、車輅法物。

【旗地】75 キチ 清代、河北・奉天等の諸省に於て宗室以下旗人に分給した世襲の土地。〔清會典、戶部〕盛京十四城旗人所レ種之地、及近京圈地徵二收旗租一者、皆曰二旗地一、奉天・山西有二先係旗地一、後給二民種一者、曰二退圈地一。

【旗帳】76 キチヤウ はたととばり。〔鮑溶、憶二郊天一詩〕憶向二郊壇一望二武皇一、九天旗帳下二南方一。

【旗張】77 キチヤウ はたをはる。旗をまうける。〔杜牧、題二茶山一詩〕溪盡停二蠻棹一、旗張卓二翠苔一。

【旗仗】78 キヂヤウ はたと武器。〔宋史、符彥卿傳〕時晉師居二下風一、將レ戰弓弩莫レ施、彥卿謂二張彥澤・皇甫遇一曰、與二其束レ手就一レ擒、曷二若死戰一、然未二必死一、彥澤等然レ之、遂潛レ兵尾二其後一、順レ風擊レ之、契丹大敗、其主乘二橐駝一以遁、獲二其器甲旗仗數萬一以歸、少帝嘉レ之。

【旗丁】79 キテイ 運漕の軍人。清代には綠旗兵を以て之に充てた。〔清會典事例、八旗都統、戶口、旗人買賣好僕〕十八年覆准、旗丁赴二市買一人、註レ冊時、該翼查明、給以二印照一。〔六部成語、戶部、旗丁、注解〕運船之水手人丁、皆世二襲其業一、官給二田糧一、如二八旗兵丁一然、故謂二之旗丁一、各船有二一定之旗號一。

【旗亭】80 キテイ 料理店。酒樓。旗を門外に掲げて標識とするからいふ。〔史記、三代世表〕會二旗亭下一。〔張衡、西京賦〕旗亭五重。〔注〕綜曰、旗亭、市樓也、善曰、史記褚先生曰、臣爲レ郎與二方士一會二旗亭下一。〔左思、魏都賦〕抗二旗亭之嶢嶭一。〔集異記〕開元中、詩人王昌齡・高適・王之渙、齊レ名、一日天寒微雪、三詩人共詣二旗亭一、貰レ酒小飲。〔山堂肆考〕旗亭、市樓也。

【旗旐】81 キテウ はた。龜蛇を畫いた旗。〔潘岳、京陵女公子王氏哀辭〕僕馬迴脊、旗旐旋飛、夕陽失レ映、晴鳥忘レ歸。

【旗的】82 キテキ はたを立ててまとにする。旗をめじるしとすること。目標。〔南齊書、張敬兒傳〕治レ舟試レ艦、恒以二朝廷一爲二旗的一、秣レ馬按レ劍、常願三天下有二風塵一。

【旗田】83 キデン 清代、其の譜代の臣たる滿洲旗人に與へた土地。

【旗頭】84 キトウ ❶旗手。〔宋史、儀衞志四〕旗頭三人、槍手五人。❷はたのさき。〔李山甫、兵後尋レ邊詩〕旗頭指處見二黃埃一。❸ハタガシラ 一地方、又は一部隊の長。〔太平記、十九、追二奧勢跡一道道合戰〕清の黨旗頭。

【旗旆】85 キハイ はた。旗は熊虎をゑがいたはた、旆は種々の色の帛でつくつたはた。〔沈約、桐柏山金庭館碑〕雲車萬乘、載二旗旆之逶迤一。〔唐書、禮樂志十二〕咸通間、云云、藩鎭、稍復舞二破陣樂一、然舞者衣二畫甲一、執二旗旆一、纔十人而已。

【旗旄】86 キバウ はた。犛牛の尾をつけた旗。〔獻帝起居注〕距二冬至一四十六日、則天子迎二春於東堂一、距レ邦八里、堂高八尺、堂階一等、青稅八乘、旗旄尙レ青、田車載レ矛、號曰レ助二天生一、唱レ之以レ角、舞レ之以二羽翟一、此迎レ春之樂也。〔韓愈、送三李愿歸二盤谷一序〕其在レ外、則樹二旗旄一、羅二弓矢一、武夫前呵、從者塞レ途、供給之人、各執二其物一、夾レ道而疾馳。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕旗旄導レ前、而騎卒擁レ後。

【旗旄劍戟】87 キバウケンゲキ はた・やり・かたな等のいくさ道具。又、武裝。〔十八史略、春秋戰國、魯〕旗旄劍戟、鼓譟而至。

【旗薄】88 ハタススキ ❶穗が高く出て旗のやうに見えるすすき。❷穗・うら・しの・久米の枕詞。

【旗幕】89 キバク はたとまく。〔何禎、許都賦〕旗幕峨峨、檐宇弘深。

【旗法】90 キハフ はたのきまり。旗を作る制度。〔握奇經〕續圖旗法八、一、天元、二、地黃、三、風赤、四、雲白、五、天前上元下赤、六、天後上元下白、七、地前上黃下青、八、地後上黃下赤。

【旗幡】91 キハン はた。〔禮、曲禮上、武車綏旌、疏〕旌、謂二車上旗幡一也。〔劉禹錫、武陵書懷詩〕王正會二夷夏一、月朔盛二旗幡一。

【旗費】92 ch'i² fei⁴ 船稅を納付した船には一隻ごとに旗一面を交付する、其の手數料をいふ。

【旗尾】93 キビ はたのはし。はたのすゑ。〔杜甫、奉二和嚴中丞西城晚眺一詩〕旗尾蛟龍會、樓頭燕雀馴。〔劉禹錫、飛鳶操〕旗尾飄揚勢漸高、箭頭砉騞聲相似。

【旗靡】94 キビ はたがなびきふす。轉じて、敗走する意。〔左氏、莊、十〕夫大國難レ測也、懼有レ伏焉、吾視二其轍亂一、望二其旗靡一、故逐レ之。〔陸倕、答二釋法雲一書〕昔者異學爭レ途、孟子抗二周公之法一、小乘亂レ道、龍樹陳二釋迦之教一、於レ是楊墨之黨、舌擧口張、六師之徒、轍亂旗靡。

【旗婦】95 キフ 旗人の婦をいふ。〔清會典事例、八旗都統、戶口、閱選秀女〕四十年奉レ旨、旗婦一耳帶二三鉗一者、原係二滿洲舊風一、斷不レ可レ改、昨朕選二看包衣佐領之秀女一、皆帶二一墜子一、並相沿至二於一耳一鉗一、則竟非二滿洲一矣。

【旗風】96 キフウ はたかぜ。はたが風にひるがへること。〔李紳、渡二西陵一詩〕弓日韔囊動、旗風虎豹爭。〔無可、送三李騎曹之二武寧一詩〕縱獵旗風卷、聽レ笳帳月生。〔項斯、邊遊詩〕天寒明二堠火一、日晚裂二旗風一。

【旗服】97 ch'i² fu² 滿洲旗人の服。

【旗物】98 キブツ はた。はたじるし。はたの類のもの。〔周禮、春官、司常〕贊二司馬一、頒二旗物一。〔周禮、夏官、大司馬〕辨二旗物之用一。〔管子、幼官〕旗物尙レ青。

【旗僨】99 キフン 軍旗がたふれる。敗軍をいふ。〔呂覽、召類〕賢主之擧也、豈必旗僨將斃、而乃知二勝敗一哉。

【旗標】100 ch'i² piao¹ はたじるし。

【旗飄】101 キヘウ はたがひるがへる。〔羅隱、送二朗州張員外一詩〕旗飄峴首嵐光重、酒奠湘江杜魄哀。

【旗邊】102 キヘン はたのほとり。〔黃滔、贈二明州霍員外一詩〕海日旗邊出、沙禽角外歸。

【旗瓣】103 キベン 豆科に屬する花冠の中央にある大花瓣。

【旗鉾】104 ハタボコ 上に小旗を附けたほこ。寺社などで祭の時に建てるもの。幡幢。

【旗本】105 ハタモト ❶大將の居る陣。又、其の部下。旗下。〔太平記、二十六、四條繩手合戰〕將軍の御旗本に輪違の旗打立て。❷德川時代、將軍家直參の士で知行一萬石以下のもの。〔書言字考節用集、四、人倫門〕旗下、將軍家麾下諸士之通稱。

【旗民】106 キミン 旗人と漢人。旗人(60)を見よ。〔清會典事例、八旗都統、田宅、官兵莊田〕嗣後有二旗民互爭之案一、檢冊查對、不レ難二勘大訊斷一。

【旗民交產】107（キミンカウサン） 旗人と漢人と土地財産の賣買授受を許すこと。〔清會典事例、八旗都統、田宅、官兵莊田〕又議准、變通旗民交產章程、一、査出ニ私買旗地一、免ニ追花利一。

【旗門】108（キモン） ❶はたをたてた門。木戸口。〔李頎、送ニ李回一詩〕千巖曙雪旗門上、十月寒花輦路中。〔蘇頲、人日重宴ニ大明宮一恩ニ賜綵縷人勝一應制詩〕疏龍磴道切ニ昭回一、建鳳旗門繞ニ帝臺一。〔李華、詠レ史詩〕魏闕心猶在、旗門首已懸。❷陳、駱牙（12－44734・・3）の字。

【旗揚】109（ハタアゲ） 兵をあげる。又、新たに事を起すこと。〔常山紀談、十八〕天下に旗揚げんとは、思ひもよらずと。

【旗旟】110（キヨ） はた。鳥隼を畫いた旗。〔詩、大雅、江漢〕既出ニ我車一既設ニ我旟一、〔疏〕我征伐之戎車、既已張設、我將帥之旗旟、以往對レ陣戰。

【旗翼】111（キヨク） 星の名。箕翼。一說に、百年をいふ。〔荀子、富國〕國安ニ于盤石一、壽ニ於旗翼一。〔注〕旗、讀爲レ箕、旗翼、二十八宿名、言ニ壽比ニ於星一也、莊子曰、傅說得レ之、乘ニ東維一、騎ニ箕尾一、而比ニ於列宿一、亦其類也、或曰、禮記、百年曰ニ期頤一、鄭云、期、要也、頤、養也。

【旗裏】112（キリ） はたのうち。〔薛能、清河汎レ舟詩〕城中覩望皆丹雘、旗裏驚飛盡白鷗。

【旗旒】113（キリウ） はたとふきながし。〔宋書、樂志三〕采旄蔽レ日、旗旒翳レ天。

【旗禮】114 chʻi^2 li^3 滿洲旗人の禮式。

【搴レ旗】115（ハタヲトル） 敵に勝つて旗を拔き取ること。〔史記、欒布傳贊〕身覆レ軍搴レ旗者數矣。〔左思、吳都賦〕搴レ旗若ニ顧指一。

【搴レ旗斬レ將】116（ハタヲトリシヤウヲキル） 敵旗をとり敵將を斬殺する。〔吳子、料敵〕力輕ニ扛鼎一、足輕ニ戎馬一、搴レ旗斬レ將、必有ニ能者一。

【旗行列】117（ハタギヤウレツ） 多人數が各〻手に小旗を持ち行列をつくつてねりあるくこと。祝意を表するときに行ふ。

【旗牌官】118（キハイクワン） 旗手。傳令使。〔桃花扇、哭主〕一箇旗牌官的便是。

【旗奉行】119（ハタブギヤウ） ❶古、武家で、大將の旗をつかさどつた職。戰時に老功者を用ひる。旗大將。〔甲陽軍鑑、十五〕六本の御旗奉行。❷江戸幕府の職名。德川氏家傳の諸旗・馬標等を掌。

【旗扁銀】120（キヘンギン） 清代、鄕試會試の優等成績を得た者に給する手當金。鄕試には旗扁銀二十兩を給し、會試には三十兩を與へ、以て匾を立て旗杆を樹てる費となさしめた。又、牌坊銀といふ。〔清會典事例、禮部、貢擧、宗室鄕會試〕將ニ試卷一交ニ順天府禮部一存儲備查、鄕會中式人員、應レ得ニ旗扁銀兩、及表裏緞疋一、應下照ニ擧人進士例一給予上。

【偃レ旗臥レ鼓】121（ハタヲフセツヅミヲフス） はたをふせつづみを鎭める。ひそかに行軍するさま。〔南史、王僧辯傳〕分命ニ衆軍一、乘レ城固守、偃レ旗臥レ鼓、安若レ無レ人。

【⿰方笔】13688 キ 義未詳。〔五音篇海〕⿰方笔、音揮。

十一畫

【⿰方票】13689 ヘウ ⿸㫃㶾（5－13714）の俗字。〔正字通〕⿰方票、俗⿸㫃㶾字。

【⿸㫃軍】13690 〘一〙キ 〔集韻〕吁韋切 〘微〙 〘二〙コン 〔集韻〕古本切 〘阮〙

〘一〙❶**しるし。**徽（**4－9041**）に同じ。〔集韻〕徽、說文、幟也、以ニ絳徽帛一著ニ於背一、云云、或作レ⿸㫃軍。❷**うごかす。**揮（**5－12394**）に通ず。〔玉篇〕⿸㫃軍、動也、亦作レ揮。〘二〙**はたの名。**〔集韻〕⿸㫃軍、旗名。

【⿸㫃要】13691 エウ 〔集韻〕伊鳥切 〘篠〙

小篆 ❶**旗の一種。**〔說文〕⿸㫃要、旗屬、从レ㫃要聲。❷**はたのさま。**〔集韻〕⿸㫃要、一曰、旗皃。❸⿸㫃攸（**5－13677**）に同じ。〔集韻〕⿸㫃要、或从レ攸。

十二畫

【⿸㫃胥】13692 ヨ オ 〔集韻〕歐許切 〘語〙

肩の骨。⿰骨於（**12－45202**）・⿱於骨（**12－45203**）に同じ。〔集韻〕⿰骨於、肩骨、或省、亦書作レ⿱於月。

【⿸㫃晃】13693 クワウ 〔篇海〕呼廣切 〘養〙

酒みせののぼり。さかばやし。さかはた。⿸㫃帝（**5－13684**）に同じ。〔篇海〕⿸㫃晃、酒家之望子也、亦作レ⿸㫃帝。

【⿰方戠】13694 シ 幟（**4－9080**）に同じ。〔正字通〕⿰方戠、同レ幟。

【⿰方遂】13695 スイ 旞（**5－13707**）の俗字。〔正字通〕⿰方遂、同レ旞、俗省。

【⿰方貴】13696 キ 義未詳。〔篇海類編〕⿰方貴、音貴。

十三畫

【⿸㫃僉】13697 ゲン 〔廣韻〕魚窆切 〘豔〙

しるし。譣（**10－36005**）に同じ。〔廣韻〕⿸㫃僉、證也。〔集韻〕譣、或作レ⿸㫃僉、通作レ驗。

【旚】13698 ヘウ 〔集韻〕紕招切 〘蕭〙

小篆 ❶**はたがひるがへる。**もと⿸㫃㶾（**5－13714**）に作る。〔正字通〕旚、⿸㫃㶾本字。〔說文〕⿸㫃㶾、旌旗⿸㫃㶾繇也、从レ㫃㶾聲。❷或は⿸㫃麃（**5－13710**）に作る。〔集韻〕旚、或从レ麃。

十四畫

【⿸㫃戠】13699 シ 幟（**4－9080**）に同じ。〔集韻〕幟、或作レ⿸㫃戠。

【旛】13700 〘一〙ハン ホン 〔集韻〕孚袁切 〘元〙 ㄈㄢ fan¹ 〘二〙ハン ボン 〔集韻〕符袁切 〘元〙 〘慣〙ハン・バン

小篆 〘一〙〘二〙❶**はたのほんはばのもの。**〔說文〕旛、旛胡也、謂ニ旗幅之下垂者一、从レ㫃番聲。〔段注〕凡旗正幅謂ニ之縿一、亦謂ニ之旛胡一。❷**のぼり。**はたの汎稱。〔釋名、釋兵〕旛、幡也、其皃幡幡也。〔廣韻〕旛、旌旗總名。〔後漢書、禮儀志〕立ニ青旛一。❸**清代、鹵簿に用ひたもの。**繡帛を以て長幅とし、下に鈴をつけ、上に圓罩を圍み、曲柄によつて建てる。信旛（**1－707・・205**）を見よ。❹幡（**4－9086**）に同じ。〔說文通訓

定聲〕旛、今字以レ幡爲レ之。

【旛旂】1（ハンキ）はた。〔韓愈、辛卯年雪詩〕波濤何飄揚、天風吹二旛旂一。〔王令、古廟詩〕我來安知二神所一レ依、穹堂窸窣風旛旂。

【旛勝】2（ハンシヨウ）金・銀・羅・綵などで作つた飾ものはた。〔東京夢華錄、立春〕春日、宰執親王百官、皆賜二金銀幡勝一、入賀訖、戴歸二私第一。〔夢粱錄、立春〕宰臣以下、皆賜二金銀幡勝一、懸二于幞頭上一、入朝稱レ賀。〔武林舊事、立春〕是日賜二百官春旛勝一、宰執親王以レ金、餘以二金裹銀及羅帛一爲レ之、係二文思院造進一、各垂二於幞頭之左一、入謝。

【旛幢】3（ハンタウ）旗仗。〔桃花扇、閒話〕冠帶騎馬、旛幢細樂。

【旛麾】4（ハンキ）旛は軍旗、麾は軍麾。〔吳子、應變〕晝以二旌旗旛麾一爲レ節。〔李衛公問對、中〕方色五旗爲レ正乎、旛麾折衝爲レ奇乎。

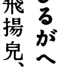
【旛旛】5（ハンハン）はたなどの飛揚するさま。〔石鼓文〕左驂旛旛。

【旛名】6（ハンメイ）はたの名。〔李衛公問對、上〕風雲者本二乎旛名一。

【⿸㫃虛】13701　コ　〔篇海〕音胡

山名。〔篇海〕⿸㫃虛、山也。

【⿸㫃焱】13702　ヘウ　〔集韻〕卑遙切　蕭


小篆

はたのひるがへるさま。〔說文〕⿸㫃焱、旌旗飛揚皃、从レ㫃焱聲。

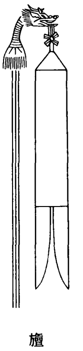
【⿸㫃炎】13703　ヘウ　⿸㫃焱(5-13702)に同じ。〔篇海〕⿸㫃焱、或作レ⿸㫃炎。

【⿸㫃童】13704　タウ　幢(4-9087)に同じ。〔轉注古音〕⿸㫃童、與レ幢同。

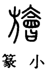
十五畫

【旜】13705　セン　〔集韻〕諸延切　先　ㄓㄢ chan¹

旗の名。旃(5-13640)に同じ。〔說文〕旃、旜、或从レ亶。〔周禮、春官、司常〕通帛爲レ旜。〔注〕通帛謂二大赤一、從二周正色一無レ飾。〔孫詒讓正義〕旜、卽常旂旟旗旐之純色者、通帛者、謂下縿斿通以二一色之帛一爲上レ之。〔儀禮、旣夕禮〕載レ旜。〔注〕通帛爲レ旜、孤卿之所レ建。

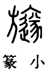

旜
（圖禮三）

【旝】13706　クワイ　ケ　〔集韻〕古外切　泰


小篆

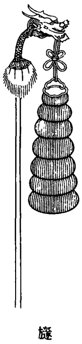
❶はたの一種。赤地のさしづ旗。旃に類するもの。〔說文〕旝、旌旗也、从レ㫃會聲、詩曰、其旝如レ林、春秋傳曰、旝動而鼓。〔說文通訓定聲〕旝、旃也。〔左氏、桓、五〕旝動而鼓。〔注〕旝、旃也、通帛爲レ之、蓋今大將之麾也、執以爲二號令一。〔後漢書、馬融傳〕旃旝摻其如レ林。〔注〕旝、亦旃也。**❷いしゆみ。**〔說文〕旝、一曰、建二大木一、置二石其上一、發吕レ機、吕槌レ敵。〔左氏、桓、五、疏〕賈逵以レ旝爲二發石一、一曰、飛石。〔唐書、南蠻傳〕又爲二大旝連弩一。

【旞】13707　スイ　ズイ　〔集韻〕徐醉切　寘


小篆

或體

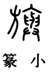
はたの一種。旌に似て旄の上に五采の全羽をつけて飾つたもの。何れの旗にもつける。天子の用ひるもの。⿸㫃遺(5-13711)に同じ。〔說文〕旞、導車所レ載、全羽吕爲レ允、允、進也、从レ㫃遂聲、⿸㫃遺、或从レ遺作。〔說文通訓定聲〕旞、全羽曰レ旞、按、竿首飾有二犛牛毛一曰レ旄、復以二五采全羽一注二于上一者曰レ旞、其析羽者曰レ旌、周禮司常、道車載レ旞、蓋象レ路也、旞與レ旌、卽常旂旜物旗旟旐七旗之加以二羽旄一者、左襄十四傳、范宣子假二羽旄于齊一、是也、天子所レ建、齊私有レ之。〔周禮、春官、司常〕全羽爲レ旞。〔注〕全羽、五色、象二其文德一也。


旞
（圖器禮）

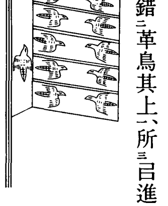
【⿸㫃魯】13708　ヨ　⿸㫃胥(5-13692)に同じ。〔字彙補〕⿸㫃魯、同レ⿸㫃胥。

十六畫

【旟】13709　ヨ　〔集韻〕羊諸切　魚　ㄩ yü²


小篆

❶はた。隼を畫いた赤旗。行軍に建てて急速に事に趨く意をあらはす。〔說文〕旟、錯二革鳥其上一、所三吕進二士衆一、旟旟、衆也、从レ㫃與聲、周禮曰、州里建レ旟。〔段注〕按、此八字、當レ作二从レ㫃从レ與、與亦聲十一字一。〔爾雅、釋天〕錯二革鳥一曰レ旟。〔釋名、釋兵〕鳥隼爲レ旟、旟、譽也、軍吏所レ建、急疾趨レ事、則有二稱譽一也。〔詩、鄘風、干旄〕孑孑干旟。〔傳〕鳥隼曰レ旟。〔箋〕周禮、州里建レ旟、謂二州長之屬一。〔周禮、考工記、輈人〕鳥旟七斿。〔注〕鳥隼爲レ旟、州里所レ建。**❷あがる。**〔詩、小雅、都人士〕髮則有レ旟。〔傳〕旟、揚也。


（圖禮三）　旟

【旟旝】1（ヨクワイ）はた。〔曾鞏、送三人移二知賀州一詩〕君子往守東南圻、旟旝綵錯如二翔翬一。

【旟隼】2（ヨシユン）はやぶさを畫いた旗。〔王灣、秋夜寓直卽事懷贈二蕭令公裴侍郎兼通簡南省諸友人一詩〕旟隼當レ朝立、臺驄發レ郡乘。

【旟旞】3（ヨスイ）旟は朱鳥と隼とを畫いた旗。旞は鳥羽を竿頭の飾とした旗。〔柳宗元、嶺南節度使饗軍堂記〕十月甲子、元成公命饗二于新堂一、幢牙茸纛、金節析羽、旂旗旟旞、咸飾二于下一、鼓以二鼖晉一、金以二鐸鐃一。

【旟旐】4（ヨテウ）鳥隼を畫いた旗を旟といひ、龜蛇を畫いた旗を旐といふ。〔詩、小雅、出車〕彼旟旐斯、胡不二旆旆一。〔傳〕鳥隼曰レ旟。〔集傳〕龜蛇曰レ旐。〔揚雄、甘泉賦〕騰二清霄一而軼二浮景一兮、夫何旟旐郅偈之旖旎也。〔柳道倫、進二善旌一賦〕寧同二旟旐之翩翩一、奚貴二干旄之孑孑一。

【旟旟】5（ヨヨ）高くあがるさま。〔海錄碎事、地、廳堂〕李翱新堂銘、乃作二斯堂一、高巖旟旟。

【旟旆成レ陰】6（ヨハイカゲヲナス）はたの多い形容。〔海錄碎事、人事、世家〕韋氏自レ居二京兆一、代有二人物一、朱輪接レ軫、旟旆成レ陰。

十七畫

【⿸㫃⿱票灬】13710　ヘウ　旚(5-13698)に同じ。〔集韻〕旚、或从レ⿱票灬。

十八畫

【〓】13711 ㊀スイ ズイ〔集韻〕徐醉切 寘 ㊁ヰ ユイ〔集韻〕夷隹切 支

㊀旞(5-13707)に同じ。〔說文〕旞、〓、或从㆑遺作。〔釋名、釋兵〕全羽爲㆑〓、〓、猶㆑滑也、順滑之貌也。㊁**はた**。〔集韻〕〓、旌謂㆓之〓㆒。

【〓】13712 キ 祈(8-24640)に同じ。〔正字通〕〓、祈蘄並通。

十九畫

【〓】13713 ㊀キ〔玉篇〕居起切 紙 ㊁イ〔集韻〕於宜切 支

㊀**とりみだす**。〔玉篇〕〓、失㆑容也。㊁**美しい姿。又、流し目のさま**。〔集韻〕〓、美容也、一曰、睇皃。

二十畫

【〓】13714 ヘウ 旚(5-13698)の本字。〔正字通〕〓、旚本字。

二十一畫

【〓】13715 イ 〓(5-13713)に同じ。〔龍龕手鑑〕〓、同㆑〓。

无部

【无】13716 ㊀ブ ム〔集韻〕微夫切 虞 ㄨˊ wu^2 ㊁ボ モ〔廣韻〕莫胡切 虞

奇字

㊀**ない**。亡。無(7-19113)に同じ。〔說文〕無、无、奇字無也、通㆓於无㆒者、虛无道也、王育說、天屈㆓西北㆒爲㆑无。〔段注〕今六經、惟易用㆓此字㆒。〔易、乾〕无㆑咎。〔釋文〕无、音無、易內皆作㆓此字㆒。〔藝苑、雌黃〕无、亦作㆑亡、古皆用㆓亡无㆒、秦時始以㆓蕃橆之橆㆒、爲㆓有無之無㆒、詩・書・春秋・禮記・論語、本用㆓无字㆒、變㆑篆者、改爲㆑無、惟易・周禮、盡用㆑无、然論語亡而爲㆑有、我獨亡、諸無字、蓋變㆑隸時、誤讀爲㆓存亡之亡㆒、故不㆑改也。㊁佛を拜するときの發聲の詞。〔廣韻〕无、南无、出㆓釋典㆒、又音無。

名乘 ヨリ。

解字 說文に、此の字の義は無、古文の奇字で、元の字に通じ、虛無の道であるとし、字形については解がない。段注には孝經緯の「上通㆓元莫㆒」を引き、元莫を顏師古の定本には无莫に作るから、說文はそれに依つて虛無の道と解したとし、蓋し、その義は上通㆓元始㆒の意であるから、字形は元の篆體を用ひて、上に一を貫いたものであらうといふ。今の六經ではただ易經だけが、此の字を無の意に用ひ、又、佛典に南無を南无と書く。無の解字參照。

參考 旡(5-13717)・兂(1-1339)は別字。〔康熙字典、辨似〕无、音巫、妄也。旡、音寄、飲食氣逆不㆑得㆑息。兂、古簪字。

【无位】1ムヰ 定まつた身分がない。〔易、乾〕子曰、貴而无㆑位。

【无崖】2ムガイ 明、酈琥(11-39753··9)の號。

【无咎】3ムキウ ❶とがめがない。とがめを免れる。〔易、乾〕九三、君子終日乾乾、夕惕若厲无㆑咎。〔注〕竭㆓知力㆒而後免㆓於咎㆒也。❷うらみとがめる所がない。自ら禍を招いたものは怨むところが無い。〔易、節〕不㆓節若㆒則嗟若、无㆑咎。〔注〕自㆑己所㆑致、无㆑所㆓怨咎㆒、故曰㆑无㆑咎也。❸字號。㋑宋、韓元吉(12-43159··277)の字。㋺宋、晁補之(5-13889··34)の字。㋩宋、厲元吉(2-3041··73)の字。㋥明、何白(1-511··174)の字。㋭清、張尹(4-9812··30)の字。

【无疆】4ムキヤウ かぎりがない。永遠。無窮。〔易、坤〕坤厚載㆑物、德合㆓无疆㆒。〔疏〕凡言㆓无疆㆒者、其有㆓二義㆒、一是廣博无㆑疆、二是長久无㆑疆也。〔易、益〕彖曰、益、損㆑上益㆑下、民說无㆑疆。

【无窮】5ムキユウ きはまりない。無窮を見よ。〔易、臨〕君子以敎思无㆑窮、容㆓保民㆒无㆑疆。〔孔穎達、周易正義序〕宗社所㆓以无窮㆒、風聲所㆓以不朽㆒。

【无垢】6ムク **佛**煩惱の垢穢のないこと。けがれがない。きよい。無垢(7-19113··205)に同じ。

【无莊】7ムサウ 古の美人の名。〔莊子、大宗師〕无莊之失㆓其美㆒。〔疏〕无莊、古之美人、爲㆑聞㆑道故、不㆓復莊飾㆒、而自忘㆓其美色㆒。〔釋文〕司馬云、无莊、人名、李云、无㆓莊飾㆒也。

【无錯】8ムサク 清、范當世(9-30834··231)の號。

【无眚】9ムセイ わざはひがない。〔易、訟〕九二、不㆑克㆑訟、歸而逋、其邑人三百戶、无㆑眚。〔本義〕言、自處㆓卑約㆒、以免㆓災患㆒、占者如㆑是、則无㆑眚矣。

【无擇】10 wu^1 tsê^2 隔てがない。差別がない。無擇(7-19113··596)に同じ。

【无妄】11ムバウ ❶易六十四卦の一つ。䷘（乾上震下）。眞實でいつはりがない象。邪心がない象。〔易、无妄〕无妄、元亨利貞、其匪㆑正有㆑眚、不㆑利㆑有㆑攸㆑往。〔程傳〕无妄者、至誠也。❷故なくして得る災。わざはひの外から來るもの。无妄之災に同じ。〔易、雜卦〕无妄、災也。〔本義〕无妄而災自㆑外至。〔漢書、谷永傳〕陛下承㆓八世之功業㆒、當㆓陽數之標季㆒、涉㆓三七之節紀㆒、遭㆓无妄之卦運㆒、直㆓百六之灾阸㆒。〔注〕應劭曰、无妄者、無㆑所㆑望也、萬物无㆑所㆑望㆓於天㆒、灾異之最大者也、師古曰、取㆓易之无妄卦㆒爲㆑義。〔易林〕喪㆓我金罌㆒、无妄失㆑位。

【无妄遽罹】12 wu^1 wang^4 chü^4 li^2 故無くして災禍に遭ふ。

【无妄之災】13ムバウノサイ 故なくして得る災。〔易、无妄〕六三、无妄之災、或繫㆓之牛㆒、行人之得、邑人之災。〔本義〕六三、處不㆑得㆑正、故遇㆓其占㆒者、无㆑故而有㆑災、如㆓行人牽㆑牛以去、而居者反遭㆓詰捕之擾㆒也。

【无妄先生】14ムバウセンセイ 宋、曹建(5-14297··73)の尊稱。

【无聞】15ムブン 無聞(7-19113··773)を見よ。

【无輔】16ムホ たすけがない。〔易、乾〕賢人在㆓下位㆒、而无㆑輔。〔注〕賢人雖㆑在㆑下、而當㆑位不㆑爲㆓之助㆒。

【无悶】17ムモン うれひがない。〔易、乾〕遯世无㆑悶、不㆑見㆑是而无㆑悶。

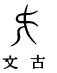
【无悶居士】18ムモンコジ 清、陸鼎翰(11-41708··397)の號。

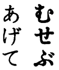
【无悶道人】19ムモンダウジン 清、張遠(4-9812··76)の號。

【无譽】20ムヨ ほまれがない。〔易、大過〕九五、枯楊生㆑華、老婦得㆓其士夫㆒、无㆑咎无㆑譽。

【无悔齋】21ムクワイサイ 清、周京(2-3441··138)の號。

【旡】13717 キ ケ〔集韻〕居氣切 未 ㄐㄧˋ chi^4


小篆


古文

むせぶ。飲食の氣がこみあげていきづまる。〓(1-1354)に同じ。〔說文〕旡、飲食屰气不㆑得㆑息曰㆑旡、从㆓反欠㆒。〔徐鉉注〕今變㆑隸作㆑旡。

解字 象形。欠（ 、あくび、口が張つて氣が出る

形）の字をうら反した形。むせぶ。いきつまる。飲食の逆氣で、息することができない義。欠の象形を原形として、その反對を象つたのであるから、轉注の意を兼ねる。▽ （甲骨文）象形。坐つた人が顏をそむけるさまに象る。

參考 无（5－13716）・兂（1－1339）は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕无、音巫、妄也。旡、音寄、飲食氣逆不㆑得㆑息。兂、古簪字。

三畫

【⿱旡口】13718 シ ジ 〔篇海〕疾二切 寘 **口の小さいさま。**〔篇海〕⿱旡口、口小貌。

【⿸厂旡】13719 キ 義未詳。〔篇韻〕⿸厂旡、音旡。

五畫

【⿰旡可】13720 バ マ 〔五音篇海〕無可切 哿 義未詳。

六畫

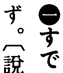
【既】13721 キ 既（5－13724）の略字。

【⿱旡圭】13722 ケイ 〔篇韻〕音計 **たま。**〔篇韻〕⿱旡圭、璧也。

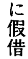
七畫

【⿺旡危】13723 クヮイ 〔篇韻〕音傀 **かた足をそばだてる。**〔篇韻〕⿺旡危、側㆓一足㆒也。

【旣】13724 キ ケ 〔集韻〕居氣切 未 ㄐㄧˋ chi^4


小篆

❶**すでに。**訖（10－35242）に通ず。〔說文通訓定聲〕既、段借爲㆑訖。㋑はや。もはや。〔廣雅、釋詁四〕既、已也。〔書、堯典〕九族既睦。〔鄭注〕既、已也。〔詩、周南、汝墳〕既見㆓君子㆒。〔傳〕既、已也。㋺もとより。〔詩、大雅、鳧鷖〕爾酒既清、爾殽既馨。❷**すでにして。**さるほどに。やがて。〔左氏、隱、元〕既而悔㆑之。〔公羊、宣、元〕既而曰。〔注〕既、事畢。〔論語、憲問〕既而曰。〔皇疏〕既而、猶㆓既畢㆒也。❸**さだまる。**〔方言、六〕既、定也。❹**みな。**まつたく。ことごとく。〔易、既濟、注〕既濟者、以㆓皆濟㆒爲㆑義也。❺**つきる。**つくす。汔（6－17127）に通ず。〔說文通訓定聲〕既、段借爲㆑汔。〔廣雅、釋詁一〕既、盡也。〔書、舜典〕既㆑月。〔傳〕既、盡也。〔儀禮、鄉射禮〕不㆑拜既㆑爵。〔注〕既、盡也。〔左氏、桓、三〕日有㆑食㆑之、既。〔注〕既、盡也。〔左氏、宣、十二〕董澤之蒲、可㆓勝既㆒乎。〔注〕既、盡也。〔莊子、應帝王〕既㆓其文㆒未㆑既㆓其實㆒。〔釋文〕既、盡也。〔淮南子、原道訓〕富澹㆓天下㆒而不㆑既。〔注〕既、盡也。❻**をはる。**をへる。〔韓愈、進學解〕言未㆑既、有㆘笑㆓於列㆒者㆖。❼**月ごとの給米。**餼（12－44316）に通ず。〔禮、中庸〕既廩稱㆑事。〔注〕既、讀爲㆑餼。❽**うしなふ。**〔方言、六〕既、失也。❾**少し食べる。**〔說文〕既、小食也、从㆑皀旡聲。〔段注〕此與㆓口部嘰㆒音義皆同。〔徐灝注箋〕此小食指㆓食物㆒言、口部嘰亦云㆓小食也㆒、則以㆓人事㆒言。❿而（9－28871）に通ず。〔古書虛字集釋〕既、猶㆑而也、易說卦傳、然後能變化、既成㆓萬物㆒也。⓫**姓。**〔尙友錄〕既、吳王夫槩之後、因㆑避㆑仇、改爲㆓既氏㆒。

解字 會意。皀（穀皮や糠を去つたかんばしい穀物）と旡（むせぶ）との合字。うまい飯粒があつても、喉がつまつて十分食ふことができない義。少し食べる意。訖・汔等に假借し、盡・已等に引伸する。▽（甲骨文）會意形聲。皀と旡とを合はせ、旡は又聲。器に盛つた食物（皀）を食べ盡くして脇を向く（旡）の意。

【既已】1 キイ すでに。とくに。〔列子、天瑞〕吾既已行、年九十矣。

【既以】2 ステニ すでに。以は已と音通。〔蘇軾、李氏山房藏書記〕既以涉㆓其流㆒、探㆓其源㆒。

【既降】3 キカウ すでにくだる。〔楚辭、九歌、雲中君〕靈皇皇兮既降、猋遠擧㆓兮雲中㆒。

【既刊】4 キカン すでに刊行したこと。又、其の刊行物。未刊の對。

【既勤】5 キキン 清、錢東垣（11－40563‥403）の字。

【既過】6 キクワ 從來。〔張華、答㆓何劭㆒詩〕忝荷㆓既過任㆒、白日已西傾。

【既灌】7 キクワン ❶すでに灌し終つたこと。灌は先祖の祭の時、鬱鬯の酒を灌いで神を降す禮をいふ。〔論語、八佾〕禘自㆓既灌㆒而往者、吾不㆑欲㆑觀㆑之矣。❷見たくないこと。論語の語に本づく。❶を見よ。〔蘇軾、往在㆓東武㆒與㆑人往反作㆓粲字韻詩四首㆒今黃魯直亦次韻見㆑寄復和答㆑之詩〕世豈無㆓作者㆒、於㆑我如㆓既灌㆒。〔注〕謂㆑不㆑欲㆑觀㆑之也。

【既決】8 キケツ ❶すでに決定したこと。❷判決の既に確定したこと。未決（6－14419‥24）の對。

【既決囚】9 キケツシウ 裁判して有罪と決定した囚人。

【既月】10 キゲツ 一箇月を終ること。〔書、舜典〕輯㆓五瑞㆒既㆑月。〔傳〕既、盡。

【既婚】11 キコン すでに結婚したこと。未婚（6－14419‥35）の對。

【既座】12 chi^4 tsuo^4 座席につく。

【既濟】13 キサイ ❶易六十四卦の一つ。䷾離下坎上。萬事がみなよくなる象。水（坎）・火（離）相交はつて用を爲すからいふ。〔易、既濟〕既濟亨、小利㆑貞、初吉、終亂。〔本義〕既濟、事之既成也、爲㆑卦水火相交、各得㆓其用㆒、六爻之位、各得㆓其正㆒、故爲㆓既濟㆒。❷すでに事柄のすんだこと。未濟（6－14419‥39）の對。❸渡りをはる。〔左氏、僖、二十二〕宋人既成㆑列、楚人未㆓既濟㆒。

【既濟公】14 キサイコウ 升麻の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕既濟公、升麻。

【既在】15 chi^4 tsai^4 すでに。

【既作】16 キサク ❶作りをはること。〔杜預、春秋左氏傳序〕聖人包㆓周身之防㆒、既作之後、方復隱諱以避㆑患、非㆑所㆑聞也。❷以前作つた作品。

【既朔】17 キサク 二日。朔日の翌日。

【既死】18 キシ すでに死す。死んでしまふ。〔賴山陽、高山彥九郎傳〕正之既死、事傳㆓三都㆒、莫㆑知㆔其所㆓以死㆒。

【既死魄】19 キシハク ❶陰曆朔日をいふ。魄は又、霸に作り、月の光る部分をいふ。朔には月光が全く見えないから死魄といふ。既はことごとくの意。〔逸周書、世俘解〕二月既死魄、越五日甲子。〔注〕朔後爲㆓死魄㆒。〔漢書、律歷志下〕周書武成篇、粵若來、三月既死霸、云云、死霸、朔也、生霸、望也。❷月の二十三日以後から晦に至るまでをいふ。〔王國維、觀堂集林〕余覽㆓古器物銘㆒、名㆑日者凡四、曰初吉、謂㆘自㆓一日㆒至㆗七八日㆖、曰既生霸、謂㆘自㆓八九日㆒至㆗十四五日㆖、曰既望、謂㆔十五六日以後至㆓二十二三日㆒、曰既死霸、謂㆘自㆓二十三日以後㆒至㆖晦、八九日以降、月雖㆑未㆑滿、而未㆑盛之明、生已久、二十三日以降、月雖㆑未㆑晦、而始生之明、固已死矣、此卽後世上弦・下弦之所㆓

由分二、亦卽古代一月四分之術也。

【既死霸】20キシハク 既死魄に同じ。

【既而】21キジ すでにして。〔論語、憲問〕既而曰、鄙哉硜硜乎。

【既祥】22キシヤウ 大祥の祭を行ひ終ること。大祥は三周忌。〔禮、玉藻〕縞冠素紕、既祥之冠也。〔注〕既祥之冠也、已祥祭而服レ之也、閒傳曰、大祥素縞麻衣。〔疏〕若二既祥之後一、微レ申二孝子哀情一、故加以二素紕一、以三素重二于縞一也、故此文云二既祥之冠一。

【既且】23キシヨ ❶すでに行く。〔詩、鄭風、溱洧〕士曰既且。〔箋〕既、已也。〔釋文〕且、音徂、往也。❷終と始。〔阮元、揅經室集、釋且〕且、始也、且既與レ祖、同字同音、則其誼亦同、爾雅釋詁、祖、始也、經傳言二既某且某一者、皆言二終如レ此始又如一レ此。

【既齔】24キシン 悉く歯が抜けかける。〔國語、鄭語〕府之童妾、未二既齔一而遭レ之。

【既遂】25キスイ ❶すでになし遂げる。未遂(6－14419‥58)の對。❷犯罪が其の構成要件を充實したこと。

【既醉】26キスイ 詩經、大雅、生民之什の篇名。周の成王が宗廟を祭り、旅酬が偏く群臣に及び、皆太平の德に浴したことをうたつた詩。一說に、父兄が行葦の詩に答へた詩で、其の飲食恩意の厚きをうけて、其の福を受けることを願つたもの。〔詩、大雅、既醉序〕既醉、太平也、醉レ酒飽レ德、人有二士君子之行一焉。〔箋〕成王祭二宗廟一、旅醻下遍二羣臣一、至二于無算爵一、故云レ醉焉。〔集傳〕此父兄所三以答二行葦一之詩、言下享二其飲食恩意之厚一、而願中其受レ福如上レ此也。

【既成】28キセイ すでに出來上つたこと。又、すでに作り終へたこと。未成(6－14419‥61)の對。〔易、既濟、本義〕既濟、事之既成也。〔詩、小雅、六月〕維此六月、既成二我服一、我服既成。

【既成政黨】29キセイセイタウ 新興政黨に對して既に以前からある政黨。

【既夕】30キセキ ❶死者を葬る前二日の夕、死者を哭する時をいふ。〔儀禮、既夕禮〕既夕哭、請二啓期一、告二于賓一。〔注〕既、已也、謂下出レ門哭止復二外位一時上。〔疏〕夕哭者、是主人朝夕哭在二殯宮阼階之下一禮。❷日が暮れる。夕方になる。〔張華、勵志詩〕星火既夕、忽焉素秋。

【既夕禮】31キセキレイ 儀禮の篇名。〔儀禮、既夕禮、疏〕鄭目錄云、士喪禮之下篇也、既、已也、謂二先レ葬二日已夕哭時、與レ葬閒一日、凡朝廟日、請二啓期一必容焉、此諸侯之下士一廟、其上士二廟、則既夕哭、先レ葬前三日、大戴第五、小戴第十四、別錄名二士喪禮下篇第十三一。

【既設】32キセツ すでに設けてあること。未設(6－14419‥69)の對。〔詩、大雅、江漢〕既出二我車一、既設二我旟一。

【既然】33 chi^4 jan^2 すでに。もはや。既に何々したからには。何々した以上は。

【既然如此】34 chi^4 jan^2 ju^2 tzʻŭ^3 それなら。さういふわけなら。

【既倒】35キタウ すでにたふれた。たふれきつてしまふ。〔韓愈、進學解〕障二百川一而東レ之、廻二狂瀾於既倒一。

【既堂】36キダウ 清、沈業富(6－17189‥497)の字。

【既知】37キチ すでに知つたこと。未知(6－14419‥80)の對。

【既知數】38キチスウ 代數學ですでに値の知れてゐる數をいふ。未知數(6－14419‥81)の對。

【既墜】39キツイ すでにおちる。おちきつてしまふ。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕故能以二赤手一障二江河一、回二天日於既墜一、何其壯也。

【既定】40キテイ すでに定まつたこと。未定(6－14419‥86)の對。〔佐藤一齋、日光山行記〕欲レ觀二中禪寺湖一、約二若干人一、既定。

【既庭】41キテイ 清、宋實穎(3－7078‥301)の字。

【既同】42キドウ 清、盛禾(8－23005‥49)の字。

【既得】43キトク すでに取得したこと。〔禮、雜記下〕既得レ之、而又失レ之、君子恥レ之。〔孟子、告子上〕既得二人爵一、而棄二其天爵一、則惑之甚者也。

【既得權】44キトクケン 正當の手段ですでに得てゐる權利。先取得權。

【既方】45キハウ 清、嚴有穀(2－4589‥264)の字。

【既報】46キハウ すでに報告し、又は報道したこと。

【既望】47キバウ ❶陰曆十六日。又、其の夜。又、其の夜の月。いざよひ。哉生魄。既は既往。望は十五夜。〔書、召誥〕惟二月既望。〔蔡傳〕日月相望、謂二之望一、既望、十六日也。〔法言、五百〕既望則終二魄于東一。〔何晏、景福殿賦〕越六月既望、林鐘紀レ律。〔蘇軾、赤壁賦〕壬戌之秋、七月既望。❷陰曆十五六日以後、二十二三日までをいふ。既死魄(19)の❷を見よ。

【既白】48キハク 清、吳亮(2－3365‥402)の號。

【既白山人】49キハクサンジン 明、陳元贇(11－41698‥822)の號。

【既發】50キハツ ❶ことごとく行ふ。〔詩、商頌、長發〕率レ履不レ越、遂視既發。〔箋〕發、行也。❷すでに起つたこと。未發(6－14419‥100)の對。

【既平】51キヘイ 悉くたひらか。〔易、坎〕祇二既平一无レ咎。

【既明】52キメイ 清、畢宏述(7－21829‥89)の字。

【既約】53キヤク 分數、又は分數式の兩項に公約數なく、更に簡單にすることの出來ないこと。

【既約分數】54キヤクブンスウ 分母分子に公約數なく、簡單にすることが出來ない分數。

【既用】55キヨウ 用ひたのち。物事を行つたのち。〔日本政記、後陽成天皇論〕夫用レ兵者、決二其勝於既用一、不レ如レ決二之於未用一也。

【既廩】56キリン 毎月支給する米。ふちまい。既は餼。〔中庸、二十章〕既廩稱レ事、所三以勸二百工一也。〔章句〕既、讀曰レ餼、餼廩、稍食也。

【既往】57キワウ すでに過ぎ去つたこと。すんだこと。過去。已往。既往不レ咎を見よ。〔漢書、西域傳〕深陳二既往之悔一。〔後漢書、馮衍傳論〕義直所三以見二屈於既往一、守レ節故亦彌阻二於來情一、嗚呼。〔左思、魏都賦〕揆二既往之前跡一。〔魏志、張旣傳〕以慰二既往一、以勸二將來一。

【既往不レ咎】58キワウハトガメズ すでにすぎ去つた事はとがめ立てしない。〔論語、八佾〕成事不レ說、遂事不レ諫、既往不レ咎。

【既生魄】59キセイハク 陰曆十六日。又、其の夜。既望。一說に、陰曆十七日。又、其の夜。魄は又、霸に作る。〔書、武成〕既生魄、庶邦冢君暨百工、受二命于周一。〔傳〕魄生明死、十五日之後、諸侯與二百官一、受二政命於周一、明二一統一。

【既生霸】60キセイハク 既生魄に同じ。

【既判力】62 chi^3 pʻan^4 li^4 すでに判決を經て生じた效力。

【既署一月】63スデニシヨシテイチゲツ すでに辭令を出してから一箇月經つたこと。署は名を官簿に表記すること。〔柳宗元、段太尉逸事狀〕既署一月、晞軍士十七人、入レ市取レ酒。

【既富方穀】64スデニトマシマサニヨクス 生活を富饒にすれば自ら善心を完うすることが出來る。〔書、洪範〕凡厥正レ人、既富方穀、汝弗レ能レ使レ有レ好二于而家一、時人斯其辜。〔蔡傳〕在レ官之人、有二祿可一レ仰、然後可レ責二其爲一レ善、廩祿不レ繼、衣食不レ給、不レ能レ使三其和二好于而家一、則是人將レ陷二於罪戾一矣。

【既明且哲】65スデニアキラカニシテカツテツナリ すでに事理に明かで且つ物事をよく察する。〔詩、大雅、烝民〕既明且哲、以保二其身一。〔集傳〕明、謂レ明二於理一、哲、謂レ察二於事一。

【既雕既琢復二歸於朴一】66スデニテウシステニタクシボクニフクキス 木を彫刻し盡くせば元の無地になる。物は極度に達すれば又元へ返る喩。〔莊子、山木〕奢聞レ之、既雕既琢、復二歸於朴一、侗乎其無レ識、儻乎其怠疑、萃乎芒乎、其送レ往而迎レ來。〔莊子、應帝王〕雕琢復レ朴。

【既醮之婦從二夫家之戮一】67スデニセウスルノフハフカノリクニシタガフ 既に他に嫁した女は、實父母が大罪を犯しても緣坐せず、夫家の犯罪に緣坐する。魏代に始まつた制。〔大學衍義補、愼二刑憲一、謹二詳讞之議一〕在レ室之女、可レ從二父母之刑一、既醮之婦、則從二夫家之戮一、朝廷從レ之、著二於律令一。

【既讀二孔聖書一必達二周公禮一】68スデニコウセイノシヨヲヨムカナラズシウコウノレイニタツセン 孔子の書を讀めば必ず周公の制定した禮に通達する。〔通俗編、文學、既讀二孔聖書一必達二周公禮一〕見二元曲選、吳昌齡斷風花雪月・賈仲名蕭淑蘭二劇一。

【既】13725 キ 既(5－13724)の俗字。〔正字通〕既、俗既字。

八畫

【⿰旡京】13726　㊀リヤウ　〔集韻〕力讓切　漾　㊁リヤウ　〔集韻〕呂張切　陽

小篆　㈠㈡㊀うすい。てあつくない。〔說文〕⿰旡京、事有㆑不㆑善言㆑⿰旡京也、爾雅、⿰旡京、薄也、从㆑旡京聲。㊁かなしむ。いたむ。〔玉篇〕⿰旡京、悲也、酸楚也。㊂通じて涼（7－17606）に作る。〔集韻〕⿰旡京、通作㆑涼。

【⿰京旡】13727　リヤウ　⿰旡京（5－13726）に同じ。〔集韻〕⿰旡京、或作㆑⿰京旡。

九畫

【⿰京旡】13728　リヤウ　⿰旡京（5－13726）に同じ。〔篇海〕⿰京旡、或作㆑⿰旡京。

【⿺旡京】13729　リヤウ　⿰旡京（5－13726）に同じ。〔篇海〕⿺旡京、亦書作㆑⿰旡京。

【⿰冎旡】13730　クヮ　禍（8－24766）の古字。〔漢書、五行志上〕數㆓其⿰冎旡福㆒。〔注〕師古曰、⿰冎旡、古文禍字。

【旤】13731　クヮ　ワ　〔集韻〕戶果切　哿

小篆　㊀おどろくこゑ。禍惡の事にであつておどろくこゑ。〔說文〕旤、屰㆑惡驚詈也、从㆑旡咼聲、讀若㆓楚人名多夥㆒。㊁わざはひ。禍（8－24766）に通ず。〔晉書音義、上〕旤、與㆑禍同。

十二畫

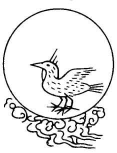
【⿺旡爲】13732　キ　〔五音篇海〕于皈切　微

義未詳。

日部

【日】13733　㊀ジツ ニチ　〔集韻〕入質切　質　日　jih^4　㊁ジョク ニキ　〔集韻〕而力切　職

小篆　古文　㈠㈡㊀ひ。㋑にちりん。太陽。恒星の一つ。〔說文〕日、實也、太陽之精不㆑虧、从㆓○一㆒、象形。〔釋名、釋天〕日、實也、光明盛實也。〔易、乾〕與㆓日月㆒合㆓其明㆒。〔易、繫辭上〕縣㆑象著明、莫㆑大㆓乎日月㆒。〔禮、祭義〕日出㆓於東㆒。㋺陰陽で陽にあたる。〔管子、白心〕化㆑物多者、莫㆑多㆓於日月㆒。〔注〕日、陽也。㋩五行で火に配する。〔淮南子、天文訓〕火氣之精者爲㆑日。〔論衡、感虛〕日、火也。〔後漢書、荀爽傳〕在㆑地爲㆑火、在㆑天爲㆑日。㋥人道で君に配する。〔詩、邶風、柏舟〕日居月諸。〔傳〕日、君象也。〔詩、小雅、十月之交〕此日而微。〔傳〕日、君道也。〔左氏、哀、六〕日爲㆓人君㆒。㋭德。〔漢書、天文志〕星傳曰、日者德也、月者刑也。㋬太陽の光。〔後漢書、竇憲傳〕玄甲耀㆑日。㋣ひかげ。ひざし。〔詩、豳風、七月〕春日遲遲。㋠ひとひ。一日二十四時間の稱。〔書、洪範〕五紀、云云、三曰日。〔疏〕從㆓夜半㆒以至㆓明日夜半㆒、周十二辰爲㆓一日㆒。〔穀梁、文、六〕閏月者附㆓月之餘日㆒也積㆑分而成㆓於月㆒者也、注〕一歲三百六十日。〔疏〕日之行㆑天、一日一夜行㆓一度㆒、故謂㆓一度㆒爲㆓一日㆒。〔漢書、郊祀志上〕合㆓時月㆒正㆑日。〔注〕日、三百六十日。〔周髀算經、下、注〕從㆑旦至㆑旦爲㆓一日㆒也。㋷ひる。日出から日沒まで。〔詩、唐風、葛生〕夏之日、冬之夜。〔禮、郊特牲〕迎㆓長日之至㆒也。〔注〕迎㆓長日㆒者、建㆑卯而晝夜分、分而日長也。〔孟子、離婁下〕夜以繼㆑日。㋦ひにち。ひどり。〔禮、曲禮上〕外事以㆓剛日㆒、內事以㆓柔日㆒。〔禮、內則〕九年教㆓之數㆑日。〔注〕日、朔望與㆓六甲㆒也。〔大戴禮、易本命〕日數十。㋸つきひ。光陰。〔南史、徐勉傳〕不㆑宜㆓忽略以棄㆑日也。㋾とき。をり。時期。〔孟子、梁惠王上〕壯者以㆓暇日㆒修㆓其孝悌忠信㆒。㋻ひぎり。期限。〔國語、楚語上〕不㆑日成㆑之。〔注〕不㆑日、不㆔程課以㆓期日㆒。㋕ひかず。多くの日。〔漢書、郊祀志〕曠㆑日經㆑年。㋵天子十二章の一つ。十二章（2－2695··376）を見よ。〔書、益稷〕予欲㆑觀㆓古人之象㆒、日月星辰、云云。㊁ひび。ひに。ひごとに。〔大學〕又日新。〔史記、司馬相如傳〕日往而朝㆓相如㆒。㊂さきに。〔左氏、文、七〕日衞不㆑睦。〔注〕日、往日也。〔國語、晉語四〕日吾來㆑此也。〔注〕日、往日也。㊃あけて。のちに。別の日。〔列子、湯問〕日與偕來。〔注〕日、謂㆓別日㆒。㊄こよみ。〔左氏、昭、七〕天子有㆓日官㆒、諸侯有㆓日御㆒。〔注〕日官・日御、典㆓麻數㆒者。㊅日の吉凶などをうらなふ。〔史記、日者傳、注〕卜㆓筮占㆔候時日㆒、通名㆓日者㆒。〔劉峻、辯命論〕豈日者卜祝之流乎。〔注〕善曰、占㆓候時日㆒、謂㆓之日者㆒。㊆ふし。のり。〔廣雅、釋言〕日、節也。㊇二つ。〔廣雅、釋詁四〕日、二也。㊈星の名。〔隋書、天文志〕房中道一星曰㆑日。㊉國の名。㋑日本の略稱。〔清史稿、邦交志〕日本、値㆓日俄戰起㆒、中國慮㆓於局外中立㆒。㋺日斯巴尼亞。卽ち西班牙の略稱。〔清史稿、邦交志〕日斯巴尼亞、張蔭桓由㆑美赴㆓日都馬得利㆒。(十一)注音符號の聲符の一つ。舌葉音。舌葉部を上升させて、硬口蓋の前部と輕く接觸し、一時氣息の通路を阻閉するやうにし、次いで、舌前部の邊緣を少し捲起する心持で、氣息を舌葉の兩邊に沿つて、摩擦の情態で洩出させると此の音になる。jih り。注音符號の形はㄖ。邦㊀ひ。皇祖天照大御神が日の神で在すから、天皇の御事を申し奉るに用ひる語。日の御子・日嗣・日の御位など。㊁ひへん。にちへん。漢字偏の名。



日（四書引蒙略圖解）

解字　象形・指事。○と一とからできた形。ひ。太陽。○は太陽の完全に圓形なる輪廓に象り、一はその中の缺けないことを示す。太陽の精氣が缺けないで、光明が盛實であることを示してゐるから、指事の意を兼ねてゐる。說文に、日、實也、と疊韻で解してゐるのはこれに本づく。

【日壓】1 ニチアツ　日が照りつけて壓倒するやうに見

えること。〔溫庭筠、湖陰曲〕虎鬚拔レ劒欲レ成レ夢、日壓二賊營一如レ血鮮。

【日安】2 ニチアン ㊀日に日に安らかになる。〔呂覽、貴當〕觀二人主一也、其朝臣多レ賢、左右多レ忠、主有レ失、皆交爭証諫、如レ此者、國日安、主日尊、天下日服、此所謂吉主也。㊁jih⁴ an¹ 書翰の末尾に用ひる語。先方の其の日の幸福平安を祝福する意。日祉。日祺。

【日晏】3 ニチアン ひぐれ。〔呂覽、愼小〕明日有レ人、僨二南門之外表一者、仕二長大夫一、明日日晏矣、莫レ有二僨レ表者一。〔史記、張湯傳〕湯毎レ朝奏レ事、語二國家用一、日晏、天子忘レ食。〔漢書、東方朔傳〕久レ之伏日、詔賜二從官肉一、大官丞日晏不レ來。〔揚雄、羽獵賦〕於レ是天清日晏、逢蒙列レ眥。〔後漢書、郭憲傳〕今正臨二講業一、且當レ訖レ事、仲子從レ之、日晏乃往。

【日闇】4 ニチアン ㊀日の暮方。〔禮、禮器、季氏祭逮レ闇而祭、疏〕言下季氏祭二于宗廟一、逮二至日闇一而行中祭禮上。〔後漢書、祭祀志、注〕日闇出二北闈一視二帝節一。㊁日がくらい。太陽が晦冥になること。〔後漢書、黃瓊傳〕時連有二災異一、瓊上二疏順帝一曰、閒者以來、卦位錯謬、寒燠相干、蒙氣數興、日闇月散、原二之天意一、殆不レ虛。

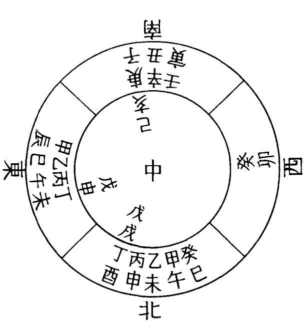
【日以】5 ヒニモッテ 日に日に。以は而。〔蘇洵、送二石昌言使レ北引〕吾日以壯大。

【日移】6 ニチイ ひかげがうつる。時がたつこと。〔潘岳、笙賦〕酒酣徒擾、樂闋日移。

【日圍】7 ニチヰ 帝京をいふ。日畿。〔海錄碎事、地、京都〕天子之畿方千里、象二日月徑圍一、故曰二日畿一、又曰二日圍一。

【日游】8 ニチイウ 日々游ぶ。毎日あそび廻る。〔漢書、食貨志上〕商賈大者、積貯倍レ息、小者坐列販賣、操二其奇贏一、日游二都市一、乘二上之急一、所レ賣必倍。

〖日遊神〗9 ニチイウシン ㊀日夜奔走する人をいふ。〔事物異名錄、人事、奔競〕編珠集、嘉祐中、未レ有二謁禁一、士人爭馳騖請託、有二一人一、號二望火馬一、有二一人一、號二日遊神一、言二日夜奔競一也。㊁俗にあるき神といふもの。凶神が其の居座の方位を犯すを忌む。癸巳から戊申に至る十六日は房内五方に在り、己酉から壬辰に至る四十四日は出遊する。〔協紀辨方書、三、日遊神〕曆例曰、癸巳至二丁酉一、日在二房內北一、戊戌己亥、日在二房內中一、庚子辛丑壬寅、日在二房內南一、癸卯日在二房內西一、甲辰至二丁未一、日在二房內東一、戊申日又在レ中、己酉日出遊四十四日、遊神所レ在之方、不レ宜下安二屋室一掃二舍宇一設中床帳上、其義未レ明。



日遊神（協紀辨方書）

【日域】10 ニチヰキ ㊀日が出る處。東隅。暘谷。朝鮮をさして日域といひ、日本をさして日東といふ。〔揚雄、東楊賦〕東震二日域一。〔注〕日域、日初出之處也。〔盧照鄰、病梨樹賦〕挺二芳桂於月輪一、橫二扶桑於日域一。㊁日が照らす域內。天が下。〔魏書、李孝伯傳〕世祖太武皇帝、英叡自レ天、籠二罩日域一。

【日昱】11 ニチイク 日がかがやく。日煜。〔太玄經、玄告〕日以昱二乎晝一、月以昱二乎夜一。〔注〕昱、明也。

【日煜】12 ニチイク 日がかがやく。日昱。〔正字通〕煜、惠卿曰、日煜二乎晝一、月煜二乎夜一。〔張養浩、贈二劉仲憲一詩〕孟氏古稱王佐方、照世格言星日煜。

【日引】13 ニチイン 日に伸びる。日々に發展する。〔國語、齊語〕是以國家不二日引一、不二月長一。〔應璩、與二劉文達一書〕入作二納言一、出臨二京任一、富民之術、日引月長。〔唐書、張柬之傳〕減二耗國儲一、費調日引。

【日印】14 ニチイン 日本と印度。

【日胤】15 ニチイン 天照大神の御子孫の意。〔會澤正志齋、三器傳二皇統一〕日胤承二天位一。

【日淫】16 ニチイン 日に淫する。毎日度を過して歡樂すること。〔史記、中山王勝世家〕中山王、徒日淫、不レ佐二天子一、拊二循百姓一、何以稱爲二藩臣一。

【日飲】17 ニチイン 日に飲む。毎日酒を飲む。〔史記、陳丞相世家〕陳平爲レ相、非レ治レ事、日飲二醇酒一、戲二婦女一、陳平聞日益甚。〔史記、袁盎傳〕南方卑濕、君能日飲、毋レ何、時說レ王曰レ毋レ反而已。〔蘇軾、和二劉道原詠レ史詩〕名高不レ朽終安用、日飲無レ何計亦良。

〖日飲二天酒五斗一〗18 ヒニテンシュゴトヲノム 毎日天酒五斗を飲む。天酒は天國で作った酒。〔神異記、西北荒經〕西北海外有レ人、長二千里、兩腳相去千里、腹圍一千六百里、但日飲二天酒五斗一。

【日蔭】19 ヒカゲ 日のかげ。日の光をさへぎるもののかげ。

〖日蔭葛〗20 ヒカゲノカヅラ 深山の喬木に生ずる苔の名。さるをかせ。女蘿。

〖日蔭草〗21 ヒカゲグサ ㊀日蔭葛の異名。㊁二葉葵の異名。

〖日蔭者〗22 ヒカゲモノ 世を忍ぶ人。又、世に現れぬ人。〔本朝二十不孝、四〕日かげ者といはれて。

〖日蔭鬘〗23 ヒカゲノカヅラ 古、新嘗・大嘗會などの神事に、冠の左右に掛けたもの。〔大嘗會祭式〕親王以下、女孺以上、皆日蔭鬘。

【日隱】24 ニチイン ㊀日がかくれる。〔謝朓、和二王著作八公山一詩〕日隱澗疑レ空、雲聚岫如レ複。〔昭明太子、開善寺法會詩〕澗斜日欲レ隱、煙生樓半藏。〔何遜、學レ古詩〕日隱龍城霧、塵起玉關風。〔王維、淇上卽事詩〕日隱桑柘外、河明閭井閒。㊁ヒカクシ 日よけ。日覆ひ。〔十訓抄、中〕日隱の閒に小桶に杓を具して水を入置て。

【日宇】25 ニチウ 太陽の居る處。日の光り輝く處。又、日の照らすところ。あめが下。〔陸倕、天光寺碑〕日宇奪レ暉、月宮掩レ麗。〔薛稷、慈恩寺九日應制詩〕日宇開二初景一、天詞掩二大風一。〔馬懷素、奉下和人日讌二大明宮一恩中賜綵縷人勝上應制詩〕日宇千門平旦開、天容萬象列二昭回一。

【日羽】26 ニチウ 太陽に象つて雉の尾で作つたかざしの羽。〔王融、侍二遊方山一應詔詩〕日羽鏡二霜潯一、雲旗落二風甸一。〔梁簡文帝、南郊頌序〕石鎧犀衣之士、連二七萃一而雲屯、珠旗日羽之兵、亘二五營一而星列。〔梁元帝、藩難未レ靜述レ懷詩〕霜戈臨二塹白一、日羽映二流紅一。

【日烏】27 ニチウ 太陽をいふ。〔徐陵、與二齊尙書僕射楊遵彥一書〕日烏流レ災、風禽騁レ暴。〔方干、感レ時詩〕日烏往返無二休息一、朝出二扶桑一暮卻廻。〔杜荀鶴、與二友人一話レ別詩〕月兔走入レ海、日烏飛出レ山。

【日暈】28 ニチウン ひがさ。雲氣が太陽をとりまいて環狀になる現象。〔史記、天官書〕兩軍相當、日暈、暈等力鈞、厚長大、有レ勝、薄短小、無レ勝。〔晉書、天文志中〕〔海西公太和〕六年三月辛未、白虹貫レ日、日暈五重。〔庾信、象戲賦〕月輪新滿、日暈初圓。

〖日暈主レ雨〗29 ニチウンアメヲツカサドル 太陽の周圍に光氣があれば雨となる。〔田家五行、雜占論日〕日暈則雨、諺云、月暈主レ風、日暈主レ雨。

【日運】30 ニチウン 日がめぐる。〔方言、十二〕日運爲レ躔、月運爲レ逡。〔王勃、上二劉右相一書〕星廻日運、御二洪荒一者貞夫一。

【日永】31 ニチエイ ㊀ひがながい。〔書、堯典〕日永星火、以正二仲夏一。〔郭璞、夏詩〕閒宇靜無レ娛、端坐愁二日永一。〔韋應物、立夏日憶二京師諸弟一詩〕改序念二芳辰一、煩襟倦二日永一。㊁清、王杲（**7－20823‥790**）の字。

【日映】32 ニチエイ 日光がうつる。日暎。〔梁簡文帝、元圃園講頌〕日映二金雲一、風搖二銀草一。〔戴叔倫、奉レ酬下盧端公飲後贈二諸公一見レ示之作上詩〕風吹二楊柳一漸拂レ地、日映二樓臺一欲レ下レ山。

【日英】33 ニチエイ 日本と英國。

〖日英同盟〗34 ニチエイドウメイ 我が國と英國との間に締結された攻守同盟條約。露西亞の極東進出を抑へ、英領印度の平和維持を目的とするもの。明治三十五年一月三十日締結、大正十一年華府會議の結果廢棄す。

【日暎】35 ニチエイ 日光がうつる。日映。〔元稹、憶二楊十二一詩〕日暎含煙竹、風牽臥柳絲。

【日影】36 ニチエイ 日のかげ。日のひかり。〔詩、鄘風、定之方中、揆レ之以レ日、箋、度二日出日入一以知二東西一、疏〕度レ之以二日影一、度三日出之影與二日入之影一、以知二東西一。〔列子、湯問〕欲レ追二日影一、逐二之於隅谷之際一。〔向秀、思舊賦序〕顧二視日影一、索レ琴而彈レ之。〔王昌齡、長信秋詞〕玉顏不レ及二寒鴉色一、猶帶二朝陽日影一來。

〖日影兒〗37 jih⁴ ying³ êrh ひあし。〔紅樓夢、九回〕故意整整衣服、看了看日景兒、說是時候

了。

【日要】38（ニチエウ）　一日のしめくくり。一日の統計。〔庾信、周隴右總管長史贈少保豆盧公神道碑〕事總歳成、功參日要。

【日曜】39（ニチエウ）　㊀日が照らして光がある。〔詩、檜風、羔裘〕羔裘如膏、日出有曜。〔傳〕日出照耀。〔集傳〕日出有曜、日照之則有光也。㊁日曜日の略。七曜日の第一日。

〖日曜日〗40（ニチエウビ）　七曜の第一日。七曜日(1－6「‥17」)を見よ。

【日耀】41（ニチエウ）　㊀太陽の光。日のかがやき。〔南齊書、天文志上〕星月同體、倶兆日耀、當月之蝕、星不必亡。㊁日とかがやく。日のやうにかがやく。〔潘岳、關中詩〕素甲日耀、玄幕雲起。

【日易】42（ニチエキ）　日にかへる。毎日取り易へる。〔元史、吳萊傳〕嘗往族父家、日易漢書一帙以去、族父迫扣之、萊琅然而誦、不遺一字。

【日益】43（ニチエキ）　日に益す。毎日益し加へる。〔呂覽、貴當〕其友皆孝悌純謹、畏令如此者、其家必日益、身必日榮矣、所謂吉人也。〔大戴禮、文王官人〕其禮先人、其言後人、見其所不足、曰、日益者也。

【日閲】44（ニチエツ）　日に閲する。㊀毎日書を讀む。〔唐書、徐曠傳〕兄文林、鬻書于肆、文遠日閲之、因博通五經。㊁毎日視てしらべる。〔宋史、王庶傳〕日閲於縣、月閲於州。

【日延】45（ヒノベ）　定めた日をのばすこと。

【日煙】46（ニチエン）　日がくもる。〔李賀、題趙生壁詩〕冬暖拾松枝、日煙坐蒙滅。

【日宛】47（ヒナタ）　周防國の地名。

【日灎】48（ニチエン）　太陽の光が水波にただよひ動く。〔白居易、宅西有流水墻下構小樓云云詩〕日灎水光搖素壁、風飄樹影拂朱欄。

【日圓】49（ニチエン）　太陽が圓い。〔王維、使至塞上詩〕大漠孤煙直、長河落日圓。

【日遠】50（ニチエン）　㊀日が遠い。太陽が遠い。〔新論、愼獨〕謂天蓋高而聽甚卑、謂日蓋遠而照甚近。〔宋史、高麗傳〕屢卜雲祥、雖美聖辰於中國、空知日遠、如迷舊路於長安。㊁日に遠ざかる。毎日遠ざかる。〔韓愈、與鳳翔刑部尚書書〕賢者莫不至、而愚者日遠矣。

【日翁】51（ニチヲウ）　太陽をいふ。〔李頎、贈蘇明府詩〕采藥傍梁宋、共言隨日翁。

【日憶】52（ニチオク）　日におもふ。毎日憶ふ。〔李白、魯中送從弟赴舉之西京詩〕霜凋逐臣髮、日憶明光宮。

【日下】53（ジツカ ニツカ）　㊀日が照らす下。天下。〔爾雅、釋地、日下、疏〕日下者、謂日所出處、其下之國也。㊁京師をいふ。〔四庫提要、史、地理類〕欽定日下舊聞考、云云、皇上御製、凡涉於神京風土者、悉案門恭載、云云、古來誌都京者、前莫善於三輔黃圖、後莫善於長安志、云云。㊂遠い處。日の下。〔王勃、滕王閣序〕望長安於日下、指吳會於雲閒。㊃東方の荒遠の國をいふ。〔爾雅、釋地〕觚竹・北戶・西王母・日下、謂之四荒。〔注〕觚竹在北、北戶在南、西王母在西、日下在東、皆四方昏荒之國、次四極者。㊄日が下る。〔庾信、三月三日華林園馬射賦〕既而日下澤宮、筵闌相圃、悵徒蹕之留歡、眷迴鑾之餘舞。〔李嶠、奉教追赴九成宮途中口號詩〕雨餘林氣靜、日下山光夕。〔白居易、和夢遊春詩一百韻詩〕月流春夜短、日下秋天速。㊅山本鸞の號。山本日下(4－7869‥989)を見よ。㊆（クサカ）　地名。㋑河內國の地名。㋺越後國の地名。㋩伯耆國の地名。㋥出雲國の地名。㋭土佐國の地名。㋬姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【日下部】54（クサカベ）　㊀地名。㋑攝津國の地名。㋺尾張國の地名。㋩三河國の地名。㋥甲斐國の地名。㋭因幡國の地名。㊁姓氏。

〖日下野〗55（クサカノ）　信濃國の地名。

〖日下雲閒〗56（ジツカウンカン）　日の下に於ては、雲閒に於てはの意。晉の陸雲・荀隱の故事により、共に天下に隱れのない名士の喩。日下荀鳴鶴を見よ。〔晉書、陸雲傳〕雲與荀隱、素未相識、嘗會張華坐、華曰、今日相遇、可勿爲常談、雲因抗手曰、雲閒陸士龍、隱曰、日下荀鳴鶴。

〖日下開山〗57（ヒノシタカイザン）　武藝又は相撲道に於て天下無敵の者に與へる稱。日下は天下、開山は草創、過去現在に類の無い意。

〖日下舊聞〗58（ジツカキウブン）　書名。四十二卷。清、朱彝尊撰。北京に關係の古事舊聞を、各種の書中から選集したもの。星土・世紀・形勝・宮室・城市・郊垧・京畿・僑治・邊障・戶版・風俗・物產・雜綴・石鼓考の十四門に分ち、毎條原書の名を錄し、時に按語を加へて其の所見を敍す。卷首には序目の外、別に引用參考書目を附す。〔清史稿、藝文志〕。

〖日下勺水〗59（クサカシヤクスイ）　下總の人。名は寬。漢學者。川田甕江・重野成齋に學び、史料編纂係・東京帝國大學講師となる。文章に長ず。昭和元年歿す、年七十五。著に鹿友莊文集がある。

〖日下生駒〗60（クサカセイク）　河內の人。名は文雄。字は世傑。通稱は直藏。號は生駒山人・鳴鶴陳人・愚拙農夫。略稱は孔文雄。寶曆二年十二月晦日歿す、年四十一。初、宋學を學び、後、古文辭を研究して李王を主張したが、自ら任ずる所は時務經濟に在つた。著に生駒山人遺集・慶延史斷・聖楠舍文稿・鳴鶴隨筆がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔國書解題〕。

〖日下無雙〗61（ジツカムサウ）　天の下にならぶものがない。〔南史、伏挺傳〕(伏挺)博學有才思、爲五言詩、善效謝康樂體、父友樂安任昉深相歎異、常曰、此子日下無雙。

〖日下舊聞考〗62（ジツカキウブンカウ）　書名。一百二十卷。清、乾隆帝勅撰。朱彝尊の日下舊聞を原本として、缺を補ひ、繁を刪つたもの。星土・世紀・形勝・宮室・城市・風俗・物產等の舊部門に、苑囿・官署の二門を增して北京の狀況を悉く記述す。〔四庫提要、史、地理類〕。

〖日下荀鳴鶴〗63（ジツカノジユンメイカク）　天下に其の名の隱れない荀鳴鶴。鳴鶴は荀隱の字。晉の荀隱が陸雲に對した時、陸雲が先づ自らを雲閒陸士龍といつたのに對し、それに應へて荀鳴鶴が自らを稱していつた語。日下雲閒を見よ。〔世說新語、排調〕荀鳴鶴・陸士龍二人未相識、倶會張茂先坐、張令其語、以其並有大才、可勿作常語、陸舉手曰、雲閒陸士龍、荀答曰、日下荀鳴鶴、陸曰、既開青雲、覩白雉、何不張爾弓、布爾矢、荀答曰、本謂雲龍騤騤、定是山鹿野麋、獸弱弩彊、是以發遲、張乃撫掌大笑。

〖日下五色雲見〗65（ジツカゴシキノクモアラハル）　太陽の輝いてゐる下に五色の雲が現はれる。瑞雲が現はれるのをいふ。〔宋史、韓琦傳〕琦風骨秀異、弱冠舉進士、名在第二、方唱名、太史奏、日下五色雲見、左右皆賀、授將作監丞、通判淄州。

【日家】66（ニツカ）　星占ひの人。人の生年月日を天體の諸現象にあてて、運勢を推算する星命家。〔輟耕錄、日家安命法〕日家者流、以日月五星及計羅炁孛四餘氣躔度過宮遲留伏逆、推人之生年月日時、可以知休咎定壽夭、其書曰百中經。

【日笳】67　jih^4 chia^1　日暈。太陽の笠。

〖日笳風月笳雨〗68　jih^4 chia^1 fêng^1 yüeh^4　日暈は風、月の笠は雨。江蘇崇明地方に行はれる占候歌諺。

【日俄】69（ニチガ）　日本と露西亞。〔清史稿、邦交志〕日本值日俄戰起、中國處於局外中立、有礙擬阻止。

〖日俄戰爭〗70　jih ê chan chêng　日露戰爭。

【日哦】71（ニチガ）　毎日歌ふ。〔韓愈、藍田縣丞廳壁記〕庭有老槐四行、南墻鉅竹千挺、儼立若相持、水㶁㶁循除鳴、斯立痛掃漑、對樹二松、日哦其閒。

【日戒】72（ニツカイ）　日に戒める。毎日いましめる。〔詩、小雅、采薇〕豈不日戒、玁狁孔棘。〔箋〕言君子小人、豈不日相警戒乎、誠日相警戒也。

【日改】73（ニツカイ）　日々あらたまりかはる。日改月化を見よ。

〖日改月化〗74（ヒニアラタマリツキニクワス）　日に月に移り變ること。〔莊子、田子方〕一晦一明、日改月化、日有所爲。

【日界】75（ニツカイ）　日本租界。日本人居留地。

【日駭】76（ニチガイ）　日におどろく。毎日驚く。〔左氏、昭、十九〕今宮室無量、民人日駭、勞罷死轉、忘寢與食、非撫之也。

【日交】77（ヒマゼ）　一日おき。隔日。

【日向】78（ニツカウ）　㊀日が向ふ。〔熊曜、瑯琊臺觀日賦〕日向濛汜、雲橫麗譙。㊁毎日向ふ。〔戴叔倫、古意寄呈王侍郎詩〕日向江湖老、此心誰爲論。㊂（ヒウガ）　國の名。九州の一つ。㊃（ヒナタ）　日が照る所。日隱(24)の對。㊄姓氏。

【日向山】79（ヒナタヤマ）　相模國の地名。

【日向堪】80 ヒゴタヘ　草の名。ひごたへ。〔和漢三才圖會、濕草類〕日向堪、俗稱、本名未レ詳、高三四尺、葉似二牛蒡葉一而小、六七月著レ花、似二楊梅形一而圓大硬。

【日考】81 ニッカウ　日々考へしらべる。〔國語、晉語三〕郭偃曰、夫衆口禍福之門也、是以君子省レ衆而動、監戒而謀、謀度而行、故無レ不レ濟、內謀外度、考省不レ倦、日考而習、戒備畢矣。〔注〕考、校也。

【日行】82 ニッカウ　㊀太陽の運行。ひあし。〔書、堯典、曆二象日月星辰一、疏〕日行遲、月行疾。〔淮南子、天文訓〕日行十二分度之一。〔白虎通、日月〕日行遲、月行疾。〔後漢書、律歷志下〕日行之數也。㊁日がめぐる。〔呂覽、有始〕日行二遠道一、周二行四極一。㊂一日の行程。〔禮、奔喪〕日行百里。

【日降】83 ニッカウ　日に日に降る。〔宋史、藝文志序〕書契以來、文字多而世代日降、秦火而後、文字多而世教日興。

【日耕】84 ニッカウ　日に耕す。每日耕作する。〔明一統志〕松潘司風俗、日耕二野壑一、夜宿二碉房一。

【日高】85 ニッカウ　日が高い。太陽が高く昇る。日中をいふ。〔北史、王順傳〕雍聞レ之大怒、昧爽坐二都聽一、欲下待二順至一於レ衆挫上レ之、順日高方至。〔丘爲、尋二廬山崔徵君一詩〕日高鷄犬靜、門掩向寒塘。〔白居易、春眠詩〕況因二夜深坐一、遂成二日高眠一。〔宋史、樂志十六〕望二扶桑一日漸高、陰霾霜雪、底處不二潛消一。

【日講】86 ニッカウ　日に講ずる。每日講義する。〔明史、禮志九〕嘉靖六年定レ制、月三八日、經筵日講官二員、講二大學衍義一。〔四庫提要、易類〕日講易經解義十八卷。

【日講所】87 ニッカウジヨ　江戶時代、大成殿の外門仰高門の東舍で、每日四書を講じ、陪臣・浪人・町人・百姓、所謂士農工商の別なく聽講させた所。〔重野成齋、帝國史談〕又開二日講所一、許二庶民參聽一。

【日講易經解義】88 ニッカウエキキヤウカイギ　書名。十八卷。清、康熙帝撰。周易(2－3441··29)の㊁の參考書を見よ。

【日講四書解義】89 ニッカウシシヨカイギ　書名。二十六卷。清、康熙帝撰。四書(3－4682··428)の參考書を見よ。

【日講春秋解義】90 ニッカウシユンジウカイギ　書名。六十四卷。清、雍正帝撰。春秋(5－13844··333)の參考書を見よ。

【日講書經解義】91 ニッカウシヨキヤウカイギ　書名。十三卷。清、康熙帝撰。尙書(4－7493··85)の參考書を見よ。

【日講禮記解義】92 ニッカウライキカイギ　書名。二十六卷。禮記(8－24844··31)の參考書を見よ。

【日號】93 ニチガウ　日々に號令する。〔禮、月令〕季春之月、百工咸理、監工日號、毋レ悖二於時一、毋下或作二爲淫巧一以蕩中上心上。〔注〕工師則監レ之、日號二令之一、戒レ之以二此二事一也。〔疏〕監工之官、日日號令之言。

【日角】94 ニッカク　㊀額の中央の骨が日の形に隆起して居ること。貴人の相。〔後漢書、光武紀上〕隆準日角。〔注〕日角、謂二中庭骨起、狀如一レ日。〔南史、梁武紀上〕生而有二異光一、狀貌殊特、日角龍顏。〔劉峻、辨命論〕龍犀日角、帝王之表、河目龜文、公侯之相。〔注〕善曰、朱建平相書、額有二龍犀入髮一、左角日、右角月、王二天下一也。㊁相術家の語。左額をいふ。天庭の左にあり。流年運氣(6－17431··307)を見よ。

【日角之相】95 ニッカクノサウ　貴人の相。日角の㊀を見よ。〔後漢書、朱祐傳〕公有二日角之相一、此天命也。

【日角偃月相之極貴】96 ニッカクエンゲツハサウノキヨクキ　骨相上、額の上に日月の形があらはれた相は極めて貴いとされること。〔後漢書、梁皇后紀〕再拜賀曰、此所謂日角偃月、相之極貴、臣所レ未二嘗見一也。

【日恪】97 ニッカク　每日つつしむ。〔國語、周語上〕大夫士日恪二位著一、以儆二其官一。

【日隔】98 ニッカク　日にへだたる。日々に疏遠になること。〔韓愈、與二陳給事一書〕夫位益尊、則賤者日隔、伺二候於門牆一者日益進、則愛博而情不レ專。

【日赫】99 ニッカク　日がかがやく。〔曾布、范忠宣公墓誌銘〕有二澤在レ民、有二謀在レ國、惟其卓偉、山高日赫。

【日額】100 ニチガク　一日に割當てたたか。〔宋史、食貨志下五〕大中祥符元年詔、瀘州南井竈戶、遇三正至二寒食一、各給假三日、所レ收日額、仍與二除放一。

【日割】101 ヒワリ　仕事などを、日數にわりあてること。又、賃金などを日割で勘定すること。

【日干】102 ニッカン　㊀日の干支。干は卽ち幹。日に十幹、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸がある。干支(4－9165··41)を見よ。㊁ヒボシ　日光にさらして乾すこと。又、其のもの。〔運步色葉集〕日干。

【日刊】103 ニッカン　其の日其の日に版に刷つて發行すること。又、其の印刷物。

【日旰】104 ニッカン　日が暮れる。旰は晚。〔左氏、襄、十四〕皆服而朝、日旰不レ召。〔注〕旰、晏也。〔漢書、張湯傳〕湯每レ朝奏レ事、語二國家用一、日旰。〔晉書、郗超傳〕謝安嘗與二王文度一共詣レ超、日旰未レ得前。

【日旰君勤】105 ヒクレテキミツトム　日暮れになつて君主が疲勞すること。〔左氏、昭、十二〕日旰君勤、可二以出一矣。〔會箋〕旰、晚也、勤、勞也。

【日旰忘レ餐】106 ヒクレテサンヲワスル　天子が職務に勵精して晚食を忘れること。〔後漢書、尹敏傳〕日旰忘レ食、夜分不レ寢。〔長孫無忌、進二律疏一表〕日旰忘レ餐、心存二於哀矜一。

【日乾】107 ニッカン　㊀日がかわかす。〔皮日休、奉レ和二魯望早秋吳體一次韻詩〕日乾二陰蘚一厚堪レ剝、藤把二欹松一牢似レ繩。㊁ジッケン　字號。㋑明、熊德陽(7－19294··166)の字。㋺清、魏方泰(12－45872··272)の字。㊂ヒボシ　日でかわかしたもの。日干。

【日閒】108 jih^4 chien^1　㊀此の頃。近頃。㊁ヒアヒ　㋑ひかず。日數。㋺日步。

【日監】109 ニッカン　每日かんがみる。〔詩、周頌、敬之〕無レ曰二高高在一レ上、陟二降厥士一、日監在レ茲。〔傳〕監、視也。

【日簡】110 ジッカン　唐、李全略(6－14459··1609)の名。

【日韓】111 ニッカン　日本と韓國。

【日韓倂合】112 ニッカンヘイガフ　我が國が、韓國を倂合したこと。明治四十三年八月二十二日條約の調印をなした。

【日含】113 ニチガン　日に含む。日舍(375)を見よ。〔說苑、脩文〕黃帝詔二伶倫一、作二爲音律一、伶倫自二大夏之西一、乃之二崑崙之陰一、取二竹於嶰谷一、以二生竅厚薄均者一、斷二兩節閒一、其長九寸、而吹レ之以爲二黃鍾之宮一、日含少次制二十二管一、以二崑崙之下一、聽二鳳之鳴一、以別二十二律一。〔晉書、律歷志上〕斷二兩節閒一、長三寸九分、而吹レ之以爲二黃鍾之宮一、日含少次制二十二竹筩一、寫二鳳之鳴一。

【日軌】114 ニッキ　太陽が通過する途。太陽の軌道。黃道。〔唐書、曆志三上〕望與二日軌一相會。〔五代史、司天考〕黃道者、日軌也。

【日氣】115 ニッキ　太陽の氣。〔詩、小雅、角弓、雨雪瀌瀌見レ晛曰消、傳〕晛、日氣也。〔箋〕至二日將レ出其氣始見一。〔論衡、說日〕儒者曰、日中有二三足烏一、月中有二兔蟾蜍一、夫日者天之火也、與二地之火一無二以異一也、云云、夫烏兔蟾蜍、日月氣也。〔蘇轍、超然臺賦〕東海之濱、日氣所レ先、巋二高堂之陵空一兮、溢二晨景之絜鮮一。〔杜審言、夏日過二鄭七山齋一詩〕日氣含二殘雨一、雲陰送二晚雷一。

【日記】116 ニッキ　日にしるす。其の日其の日の出來事を記す。又、其の書きもの。又、其の帳面。日誌。日乘。日曆。日錄。〔新序、雜事一〕周舍事二趙簡子一曰、願爲二諤諤之臣一、墨レ筆操レ牘、隨二君之後一、司二君之過一而書レ之、日有レ記也、月有レ效也、歲有レ得也。〔老學庵筆記、三〕黃魯直有二日記一、謂二之家乘一。〔清波雜志〕雖二數日程、道路倥偬之際一、亦有二日記一。

【日記帳】117 ニッキチヤウ　日記の帳面。

【日記故事】118 ニッキコジ　宋の楊億の家訓に、童子は每日古今の故事を記すべしといふ。清の村塾では故事を纂めて一書とし、これを日記故事といつた。〔通俗編、文學、日記故事〕小學引楊文公家訓、童稚日記二故事一、不レ拘二古今一、如二黃香扇枕、陸績懷橘、叔敖陰德、子路負米之類一、只如二俗說一、便曉二此道理一、按、今村塾閒、卽纂二黃香等事一爲二一書一、取二用楊文公言一、題曰二日記故事一。

【日記故事大全】119 ニッキコジタイゼン　書名。七卷。舊本、明、張瑞圖校と題す。

【日晞】120 ニッキ　日の出。夜あけ。〔戴叔倫、暮春沐髮晦日書レ懷云云詩〕朝沐歛二南闈一、盤跚待二日晞一。

【日規】121 ニッキ　太陽。日輪。〔柳宗元、晉問〕日規爲レ小、鑠レ雲破レ霄。〔馮翼翁、陽燧賦〕日規亭亭而下照、爛二沉淵之赤珠一。

【日揮】122 ニッキ　日にふるふ。每日揮ふ。〔劉長卿、潁川留二別司倉李萬一詩〕且知投レ刃皆若レ虛、日揮二案牘一常有レ餘。

【日晷】123ニッキ ❶日かげ。太陽のかげ。日光の影。日景。〔左思、魏都賦〕揆二日晷一、考二星耀一。〔宋書、律曆志下〕冬至南極、日晷最長。〔隋書、天文志上〕祖暅造二八尺銅表一、其下與レ圭相連、圭上爲レ溝、置レ水以取二平正一、揆二測日晷一、求二其盈縮一。❷日時計。

〖日晷儀〗124ニッキギ 日時計。日影に因つて時刻を「測定する器。

〖日晷書〗125ニッキショ 書名。曆書。〔漢書、藝文志〕日晷書三十四卷。

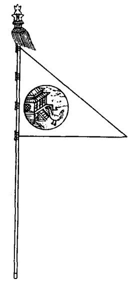
【日期】126ニッキ 定めた日取。期日。日限。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕凡告期、必以二三六九日一爲レ定、或謂、州縣非二憲司比一、不レ宜三拘二定日期一。

【日熙】127ニッキ 日のひかり。又、日がかがやく。〔宋史、樂志十四〕天開地闢、日熙春煥。〔李東陽、後東山草堂賦〕乾清坤夷、風恬日熙。

【日暉】128ニッキ 日のひかり。日がかがやく。〔梁元帝、南岳衡山九貞館碑〕日暉二石瓦一、東眺二靈壽之峰一、月蔭二玉牀一、西瞻二華蓋之嶺一。〔虞世南、凌レ晨早朝詩〕日暉青瑣殿、霞生結綺樓。

【日祺】130 jih^4 ch'i^2 其の日の御幸福。書翰文用語。

【日旗】131ニッキ 日の象を畫いたはた。其の制は宋の大祖の時、始めて定まる。〔三才圖會、儀制三、日旗月旗圖考〕周官司常、掌二九旗之物名一、其一曰、日月爲レ常、左氏曰、三辰旂旗、昭二其明一也、按、揚子太玄經曰、日以煜二乎晝一、月以煜二乎夜一、登二日月於旗一、以象レ天也、宋太祖始置二日月旗各一一、天聖鹵簿圖、日旗赤質、畫二日中一以レ雞、月旗青質、畫二月中一以レ兔、元制、日旗一、青質赤火焰脚、繪二日于上一、月旗一、青質赤火焰脚、繪二月于上一、今制、日旗月旗各一、俱青質黃襴、赤火焰間綵脚、繪レ日以レ赤、繪レ月以レ白。〔杜牧、雲夢澤詩〕日旗龍旆想二飄揚一、一索功高縛二楚王一。


日旗（三才圖會）

【日畿】132ニッキ 太陽の照すかぎり。轉じて、帝王の領地、帝畿をいふ。帝京。日圍。〔馬祖常、都門詩〕天樞夾二杓垣一、日畿絡二雄莫一。〔明一統志〕鎭江府形勝、內連二天塹一、外蔽二日畿一。〔事物異名錄、郡邑、京師〕山堂肆考、帝京曰二日畿一、言四帝畿千里、象三日所二經廻一也。〔類說拾遺〕帝畿千里、象二日月徑圍一、故曰二日畿一。

【日輝】133ジッキ ニッキ ❶日のひかり。日暉に同じ。❷後晉、劉昫(**2－2224**‥193)の字。

【日歸】134ニッキ ❶月日が過ぎ去る。〔陸機、猛虎行〕日歸功未レ建、時往歲載レ陰。❷日が西山に入ること。〔溫庭筠、奉天西佛寺詩〕星背紫垣終掃レ地、日歸黃道卻當レ天。❸ヒガヘリ 其の日に往つて其の日に歸ること。

【日虧】135ニッキ 日がかける。日蝕(443)に同じ。〔漢書、鮑宣傳〕正月朔日蝕、宣復上書言、今日蝕二於三始一、誠可二畏懼一、小民正月朔日、尙恐三毀二敗器物一、何況於二日虧一乎。

【日騎】136ニッキ 宋代、武官の名。〔宋史、趙延溥傳〕殿前白進超卒、卽日以二延溥一爲二日騎天武左右廂都指揮使一。

【日曦】137ジツギ 明、徐日炅(**4－10110**‥472)の後名。

【日久】138ジツキウ 時日が久しく經過すること。〔禮、三年問〕創鉅者其日久、痛甚者其愈遲。〔司馬相如、喩二巴蜀一檄〕蠻夷自擅、不レ討之日久矣。〔後漢書、鄭太傳〕光武以來、中國無レ警、百姓優逸、忘レ戰日久。

【日休】139ニッキウ ❶日々に憩ひ休む。〔書、周官〕作レ德心逸日休、作レ僞心勞日拙。〔蔡傳〕作レ德、則中外惟一、故心逸而日休休焉。❷日々に名聲がよくなる。休は美。〔書、周官〕作レ德心逸日休、作レ僞心勞日拙。〔傳〕爲レ德直レ道而行、於レ心逸豫、而名日美。

【日乞】140ヒゴヒ 晴天を祈ること。雨乞の對。

【日吉】141ニッキツ 日がよい。吉日。〔後漢書、陰皇后紀〕卽案レ歷、明旦日吉、遂率二百官及故客一上レ陵。〔論衡、譏日〕擧レ事日凶、人畏レ凶有レ效、日吉、人冀レ吉有レ驗。〔韓愈、送レ窮文〕日吉時良、利レ行二四方一。

【日及】142ニッキフ ❶木槿の別名。むくげ。〔爾雅、釋草、椵木槿櫬木槿、郭注〕或呼二日及一、亦曰二王蒸一。〔本草、木槿〕釋名、椵、櫬、蕣、日及、朝開暮落花、藩籬草、花奴玉蒸、時珍曰、此花朝開暮落、故名二日及一。〔南方草木狀〕朱槿花、深紅色、五出、大如二蜀葵一、有二蘂一條一、上綴二金屑一、日光所レ爍、疑レ若二焰生一、一叢日開二數百朶一、朝開暮落、插レ枝卽活、出二高涼郡一、一名日及。〔潘尼、朝菌賦序〕朝菌者、蓋朝華而暮落、世謂二之木槿一、或謂二之日及一、詩人以爲二舜華一、宣尼以爲二朝菌一。〔陸機、歎逝賦〕譬二日及之在レ條、恒雖レ盡而弗レ悟。〔注〕翰曰、日及、木槿華也。❷扶桑の異名。〔本草、扶桑〕釋名、佛桑、朱槿、赤槿、日及、時珍曰、乃木槿別種、故日及諸名、亦與レ之同。

〖日及園〗143ニッキウエン 清、朱樟(**6－14424**‥365)の室名。

【日汲】144ニッキフ 每日くむ。〔陶宏景、吳太極左仙公葛公碑〕半尋石井、日汲莫レ測二其源一。

【日急】145ニッキフ 日々にせまる。〔史記、灌夫傳〕及レ繫、灌夫罪至レ族、事日急、諸公莫三敢復明二言於上一。〔宋史、王素傳〕今西夏畔渙、契丹要求、縣官之須、且日急矣。

【日給】146ニッキフ ❶日に給する。每日支給する。〔鹽鐵論、通有〕日給月單、朝歌暮戚。〔杜預、論二水利一疏〕令三飢者盡得二水產之饒一、百姓不レ出二境界之內一、旦暮野食、此目下日給之益也。〔王羲之、十七帖〕青李來レ禽、櫻桃日給、藤子皆囊盛爲レ佳、函封多不レ生。〔隋遺錄〕殿腳女爭レ效爲二長蛾眉一、司宮吏日給二螺子黛五斛一、號二爲蛾綠一。❷其の日の當直。〔古今著聞集、十九〕內裏にて日給はて。❸一日間の手當。一日を單位とする給料。日當。日俸。

〖日給簡〗147ニッキフノフダ につきふのふだ。殿上の間に置かれてあつて、昇殿を許された人の名前が貼られてある木札。其の姓名の下に紙を貼り、出仕・宿直、又は不參の旨を記すもの。〔名目抄〕日給簡ニッキフノフダ 宿居物袋。

〖日給華〗148ニッキフクワ 木槿の別名。〔埤雅〕木槿朝開暮落、篤論曰、日給之華。

【日強】149ニッキヤウ 日に強くなる。日々にしつかりして來る。〔禮、表記〕子曰、君子莊敬日強、安肆日偸、君子不下以二一日一使中其躬儳焉、如上不レ終レ日。

【日鏡】150ニッキヤウ ❶太陽をいふ。〔魏書、彭城王勰傳〕仰成二陛下日鏡之明一、下念二愚臣忘退之禍一。〔王僧孺、爲二臨川王一讓二太尉一表〕陛下海涵春育、日鏡雲伸。〔唐太宗、執レ契靜二三邊一詩〕玉彩輝二關燭一、金華流二日鏡一。❷日のやうに明かなこと。太陽の如く照らす。〔北齊、享廟樂辭〕國圖日鏡、家曆天長。

【日競】151ニッキヤウ 日々にきそふ。〔晉書、郤詵傳〕人之於レ利、如レ蹈二水火一焉、前人雖レ敗、後人復起、如彼此無レ已、誰止レ之者、風流日競、誰憂レ之者。

【日卻】152ニッキヤク 月と日の距離が少ないことをいふ。〔後漢書、律歷志中〕月行多而日月相去反少、謂二之日卻一。

【日腳】153ニッキヤク ❶日の進む早さ。ひかげ。ひあし。〔岑參、送二李司諫歸レ京詩〕雨過風頭黑、雲開日腳黃。〔杜甫、羌村詩〕日腳下二平地一。〔倭漢朗詠集、下、平佐幹〕日腳波平孤島暮、風頭岸遠客帆寒。❷jih^4 chiao^3 日子。日時。吳の地方の方言。❸ヒナシ 石見國の地名。

【日宮】154ニッキユウ ❶太陽をいふ。日のみやこ。太陽の世界。又、日の中にあるといふ御殿。〔唐高宗、謁二大慈恩寺一詩〕日宮開萬仞、月殿聳千尋。〔唐則天后、從レ駕幸二少林寺一詩〕日宮疏二澗戶一、月殿啓二巖扉一。〔周利用、奉三和九月九日登二慈恩寺浮圖一應制詩〕出レ豫乘二金節一、飛レ文煥二日宮一。〔鄭畋、題二緱山王子晉廟一詩〕衣從二星渚一浣、丹就二日宮一燒。❷ヒノミヤ 天上にあつて天照大神のいます宮。又、其の後裔のいます宮。天子の座す御殿。〔續日本後紀、十九、嘉祥二年三月〕あま照る國の日宮のひじりのみこぞ。

〖日宮人〗155ヒノミヤビト 宮中に奉仕する人。大宮人をいふ。〔古事記、下〕多加比加流比能美夜比登。

【日去】156ニッキヨ 日が去つて行く。〔列子、力命〕日去日來、孰能知二其故一。

【日居】157ニッキヨ 太陽をいふ。居は語勢を助ける助辭。日居月諸を見よ。

〖日居月諸〗158ニッキヨゲッショ ヒヤツキヤ ❶日よ月よ。君と臣、又、國君と其の夫人、又、父母に喩へる。居・諸は助辭。〔詩、邶風、柏舟〕日居月諸、胡迭而

微。〔箋〕日、君象也、月、臣象也、微、謂二虧傷一也、君道當二常明如一レ日、而月有二虧盈一、今君失レ道、而任二用小人一、大臣專恣、則日如レ月然。〔詩、邶風、日月〕日居月諸、照二臨下土一、乃如レ之人兮、逝不二古處一、胡能有レ定、寧不二我顧一。〔傳〕日乎月乎、照二臨之一也。〔箋〕日月、喩二國君與二夫人一也。〔集傳〕日居月諸、呼而訴レ之也。〔詩、邶風、日月〕日居月諸、東方自出、父兮母兮、畜レ我不レ卒。〔箋〕父兮母兮者、言二己尊レ之如レ父、又親レ之如一レ母。❷日月の過ぎ去ること。〔剪燈新話、天台訪隱錄〕寒往暑來、日居月諸、但見二花開爲レ春、葉脱爲レ秋、不レ知二今日是何朝代、是何甲子一也。

【日擧】159 ニツキヨ ❶日々食事に當つて、音樂を擧行して食を侑めるのをいふ。〔禮、王制〕以二三十年之通一、雖レ有二凶旱水溢一、民無二菜色一、然後天子食日擧以レ樂。〔宋祁、省レ斂頌〕外饔獻二彘嘗之膳一、太師侑二日擧之奏一。❷王と后と一日に一度犧牲を殺して、盛饌の朝食を共にすることをいふ。〔周禮、天官、膳夫〕王日一擧。〔注〕殺牲盛饌曰レ擧、王日一擧以朝食也、后與レ王同レ庖。❸日々の課程。〔曹植、社頌〕克明二播植一、農正二日擧一。

【日御】160 ニチギヨ ❶諸侯に附屬して曆數を掌る役人。〔左氏、桓、十七〕天子有二日官一、諸侯有二日御一。〔注〕日官・日御、典二歷數一者也。〔漢書、律歷志上〕傳曰、不レ書レ日、官失レ之也、天子有二日官一、諸侯有二日御一、日官居レ卿、以底レ日、禮也、日御不レ失レ日、以授二百官於朝一、言レ告レ朔也。❷日をいふ。〔江總、芳林園天淵池銘〕曉川漾碧、如三日御之在二河宿一。❸日を御する神。〔顏延之、赤槿頌〕日御北至、夏德南宣。

【日御蔭】161 ヒノミカゲ ❶日の蔭をうける御舍。殿舍。〔延喜式、祝詞、祈年祭〕天御蔭日御蔭登隱坐氏。❷日の光。日の神の御神德。〔新古今和歌集、神祇〕つゆも曇らぬ日の御影かな。

【日御旗】162 ヒノミハタ 日の丸の旗。日章旗をいふ。

【日御子】163 ヒノミコ 日の神の御末の意。❶天皇の御異稱。〔萬葉集、一〕たか光る日の御子。❷皇太子の御異稱。〔古事記、中〕多迦比迦流比能美古。

【日御門】164 ヒノミカド 日の宮。禁中。內裏。御所。皇居。〔萬葉集、一〕わが造る日の御門に。

【日駁】165 ニチギヨ 車をいふ。日の形は輪のやうであるから、車の速いことに喩へる。〔隋書、音樂志下〕騰二日駁一、鼓二雷鞭一。〔盧思道、從レ駕經二大慈照寺一詩〕日駁非レ難レ假、雲師本易レ憑。

【日興】166 ニツキヨウ ❶日々のたのしみ。〔杜甫、飲中八仙歌〕左相日興費二萬錢一、飲如三長鯨吸二百川一。❷ニツコウ 日々に興る。〔陳叔寶、勸農詔〕詐僞日興、簿書歲改。

【日極】167 ニツキヨク 太陽が西のはてに傾くこと。〔管子、白心〕貴二其無レ成也、日極則仄、月滿則虧。

【日近】168 ニツキン 太陽が近い。日近長安遠を見よ。〔徐陵、河東康簡王墓誌〕月生之對、曾何用二於擬議一、日近之言、亦無レ階二於等級一。

【日近長安遠】169 ヒチカクシテチヤウアントホシ 晉の明帝が幼時、元帝に太陽と長安と孰れが遠いか問はれた時、長安からは人が來るけれども太陽からは人の來るのを聞かないから長安が近いと答へた。明日、元帝が再び問うたところ、明帝答へて、太陽は見えるけれども長安は見えないから太陽が近いと言つた故事。〔晉書、明帝紀〕幼而聰哲、爲三元帝所二寵異一、年數歲、嘗坐置二膝前一、屬二長安使來一、因問レ之曰、汝謂下日與二長安一孰遠上、對曰、長安近、不レ聞下人從二日邊一來上、居然可レ知也、元帝異レ之、明日宴二羣僚一、又問レ之、對曰、日近、元帝失レ色曰、何乃異二閒者之言一乎、對曰、擧レ頭則見レ日、不レ見二長安一、由レ是益奇レ之。

【日欽】170 ニツキン 日に日に尊敬する。〔書、多方〕亦惟有夏之民、叨懫日欽、劓二割夏邑一。

【日勤】171 ニツキン 每日役所などへ仕事に出ること。其の日通ひのつとめ。〔明良帶錄、前〕御側衆、云云、本番、詰番、加番伺出とて、大抵日勤之場也。

【日禁】172 ニツキン 日を忌みきらふ。〔論衡、譏日〕小則謂二之不一レ避二日禁一、歲月之傳既用、日禁之書亦行。

【日槿】173 ニツキン 日々に咲くあさがほ。〔陸敬、游二清都觀一詩〕宮槐散二綠穗一、日槿落二青柎一。

【日銀】174 ニチギン 日本銀行の略稱。

【日吁】175 ニツク 每日歎き憂へる。〔杜牧、感懷詩〕累聖但日吁、閫外將誰寄。

【日昫】176 ニツク 太陽があたため養ふ。〔沈約、梁宗廟登歌〕悠悠億兆、天臨日昫。

【日禺】177 ニチグウ 佛巳の時。午前十時。日禺中を見よ。

【日禺中】178 ヒノグウチユウ 佛巳の時。午前十時。天台宗ではこれを五時の中の般若時に配す。〔法華經科注〕如二日禺中時一。

【日屈】179 ニツクツ 日々に盡きる。〔宋史、呂大忠傳〕養レ兵猥衆、國用日屈。

【日窟】180 ニツクツ 日が初めて出る處。〔陶弘景、水仙賦〕東卷長桑日窟。〔陳樵、月庭賦〕被二羣陰之宗光一、覽二餘暉於日窟一。

【日化】181 ニツクワ 太陽のはぐくみ。太陽の化育。〔參同契〕坎男爲レ日、離女爲レ月、日以燿レ月、月以智レ光、月受二日化一、體不二虧傷一。

【日火】182 ニツクワ 太陽の火。〔金丹龍虎經〕日火月金、晦夜合交、精氣相紐、生二成萬物一。〔李翶、答二朱載言一書〕浩乎若二江海一、高乎若二丘山一、赫乎若二日火一、包乎若二天地一。

【日貨】183 ニツクワ 日本品。日本製の商品。日本から輸入された貨物。

【日貨排斥】184 ニツクワハイセキ 日本の商品を排斥すること。外國市場において我が商品を排斥し、我が國に經濟的打擊を與へようとする外國官民の運動。

【日華】185 ニツクワ ❶日の光。日の光華。〔謝朓、和二徐都曹一詩〕日華川上動、風光草際浮。〔江淹、山中楚辭〕日華粲二於芳閣一、月金披二於翠樓一。〔杜甫、暮春題二瀼西新賃草屋一詩〕波亂日華遲。〔李程、日五色賦〕德動二天鑒一、祥開二日華一。❷道家の語で、日光流霞をいふ。〔黃庭經、注〕暝目握固、存二想日中五色流霞來繞一、于レ是日光流霞、俱入二口中一、名曰二日華一。〔韻府引、列仙傳、關令尹贊〕尹喜抱關、含レ德爲レ務、挹二漱日華一、仰二玩玄度一。〔皎然、贈二張道士一詩〕玉京眞子名太一、因レ服二日華一心如レ日。❸唐の宮門の名。〔杜甫、奉レ答二岑參補闕見一レ贈詩〕君隨二丞相後一、我往二日華東一。❹漢の河閒獻王の築いた宮殿の名。〔三輔黃圖、三〕河閒獻王德、築二日華宮一、置二客館二十餘區一、以待二學士一。❺日本と中國。❻字號。㋑宋、歐陽曄(**6**－**16185**・・51)の字。㋺宋、朱元昇(**5**－**14424**・・760)の字。㋩宋、邵曄(**11**－**39343**・・8)の字。㋥元、王曄(**7**－**20823**・・74)の字。

【日華胎】187 ニツクワノタイ 筍をいふ。〔雲笈七籤〕服二日月之精華一者、欲レ得三常食二竹筍一、竹筍者、日華之胎也。

【日華門】188 ニツクワモン 紫宸殿の御門。月華門に對す。

【日課】189 ニツクワ ❶每日割當てる。〔宋史、張繼能傳〕繼能日課二卒截レ竹。〔元稹、敍レ詩寄二樂天一書〕不二數年一、與二詩人楊巨源一友善、日課爲レ詩。❷一日一日に割當てた仕事。又は學業。日々のつとめ。〔陸游、悶極有レ作詩〕老人無二日課一、有レ興卽題レ詩。〔李漁、題二王安節畫一詩〕道人日課無二餘事一、了二却彈琴一便讀レ書。〔周伯琦、上京紀レ事詩〕吾伊日課繙二青簡一、揮染還看寫二赫蹏一。〔林下清錄〕晁景迂曰、吾晚年日課識二十五字一、凡爲レ文者、宜二略識一レ字。

【日課表】190 ニツクワヘウ 日課を記した表。

【日課二一詩一】191 ヒニイツシヲクワス 一日のつとめとして一つの詩を作ること。〔劉克莊、仲弟詩題跋〕昔梅聖兪日課二一詩一、云云、七月十一日至二九月二十九日一計七十八日、得二詩百首一、陸之日課、尤勤二於梅一。

【日灰】192 ニツクワイ 日に日に滅び盡きる。〔梁元帝、蠲二免力田一詔〕一廛曠レ務、勞心日灰、一夫廢レ業、舄鹵無レ遺。

【日廻】193 ニツクワイ ❶日がめぐる。〔薛逢、題二上皇觀一詩〕雲駐二壽宮一三洞啓、日廻二仙仗一六龍歸。❷㋑ヒマハリ 菊科に屬する草。花は黃色で俗に常に日の方向に向ふといふ。向日葵。㋺ヒマハシ 日步貸。日廻金を見よ。

【日廻金】194 ヒマハシガネ 每日日步を拂ふ約束で貸借する金。からす金。日金。

【日掛】195 ヒガケ 日々に掛金すること。又、其の金。

【日晦】196 ニツクワイ ❶日が入つてくらくなる。日暮になる。〔戰國、楚策〕昔令尹子文、緇布之衣以朝、鹿裘以處、未レ明而立二于朝一、日晦而歸食、朝不レ謀レ夕、無二一日之積一、故彼廉二其爵一、貧二其身一、以憂二社稷一者、令尹子文是也。❷みそかになる。〔後漢書、盧植傳〕植上二封事一諫曰、臣聞、五行傳、日晦而月見、謂二之朓一、王侯其舒、此謂二君政舒緩、故日食一レ晦也。〔杜審言、晦日宴遊詩〕日

晦隨二蓂莢一、春晴著二杏花一。

【日會】197ニックワイ　諸遊星が日を環つて運行する天空の一區をいふ。

【日外】198ニチグワイ　㊀日の照らす外。王化の及ばない地。〔元勰、聯句〕願從二聖明一兮登二衡會一、萬國馳レ誠混二日外一。㊁イツソヤ　かつて。前日。

【日光】199ニックワウ　㊀日の光。太陽の光線。天光。陽光。〔詩、陳風、月出〕月出皎兮、〔疏〕大車云、有レ如二皦日一、則皦亦日光、言二月光一者、皦是日光之名耳。〔新語、道基〕潤レ之以二風雨一、曝レ之以二日光一。〔漢書、五行志下之上〕蒙濁奪二日光一、公不レ任レ職。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕金甲耀二日光一。〔魏書、孝文昭皇后高氏傳〕初后幼、曾夢在二堂內一立、而日光自二窗中一照レ之、灼灼而熱。〔李華、弔二古戰場一文〕日光寒兮草短。〔劉長卿、感懷詩〕水近偏逢二寒氣一早、山深常見二日光一遲。㊁栃木縣上都賀郡の町。東照宮・大猷廟・輪王寺等がある。

〖日光山〗200ニックワウザン　二荒山ともいふ。栃木縣上都賀郡にある同縣第一の高山。最高峯を男體山(黑髮山)と稱し、標高二千四百八十四米あり、其の東北に標高二千四百六十四米の女貌山が峙立し、他の諸峯がこれに連なつてゐる。男體山の中腹には中宮祠があり、其の正南に中禪寺湖(幸の湖)があり、其の水は東に流れて華嚴瀧となる。

〖日光室〗201ニックワウシツ　日光浴をするために特に設備された特殊硝子張りの室。

〖日光浴〗202ニックワウヨク　身體を日光にさらして健康の增進を計ること。

〖日光學問所〗203ニックワウガクモンジョ　德川幕府が下野の日光に設置した學校。

〖日光天子生日〗204ニックワウテンシセイジツ　太陽の生日。明末の遺老が故國を忘れずに、明の莊烈帝殉國の日を日光天子の生日として祀つた故事。〔談薈〕十一月十九日、日光天子生日。

【日荒】205ニックワウ　日にあれる。日々にすさみあれる。〔宋史、食貨志上一〕國朝駐二蹕錢塘一、百有二十餘年矣、外之境土日荒、內之生齒日繁。

【日廣】206ニックワウ　日々に廣大になる。〔杜預、論二水利一疏〕頭數雖レ多、其費日廣。〔宋史、食貨志下四〕于レ時、御府用度日廣、課入欲レ豐、再申二歲較季比之令一。

【日曠】207ニックワウ　日々おろそかにする。〔宋史、王疇傳〕苟爲二謙抑一而未レ皇、則國家萬務、日曠月廢、其勢將レ趨二於禍亂一、無レ疑也。

【日完】208ニックワン　日々に事を全くする。〔國語、周語中〕歲飫不レ倦、時宴不レ淫、月會旬修、日完不レ忘。

〖日完二其朔一〗209ヒハソノサクヲマツタウス　太陽が朔日に蝕しない。日に蝕のないこと。天下太平の兆。朔は一日。〔顏延之、應レ詔讌二曲水一作詩〕日完二其朔一、月不レ掩レ望。〔注〕善曰、漢書曰、天下太平、日不レ蝕レ朔、月不レ掩レ望、向曰、完、全也、日蝕在レ朔、月蝕在レ望、言二今日月朔望皆全一也。

【日官】210ニックワン　天子に屬する曆の官。曆數干支を掌る官。天文の官吏。天官。日御(160)を見よ。〔左氏、桓、十七〕天子有二日官一、諸侯有二日御一、日官居レ卿、以底レ日、禮也、日御不レ失レ日、以授二百官于朝一。〔注〕日官日御、典二曆數一者也。〔後漢書、張衡傳〕曩滯二日官一、今又原レ之。〔注〕日官、史官也、左傳曰、天子有二日官一。

【日冠】211ニックワン　ひがさ。日暈の上半分。形が冠のやうであるからいふ。半暈。〔雜占書〕日冠者、如二半暈一也、法當下在二日上一有上レ冠、又有二兩珥一者尤吉。

【日款】212ニックワン　日々に至る。〔後漢書、西域傳論〕馳レ命走レ驛、不レ絕二於時月一、商胡販客、日款二於塞下一。

【日煥】213ニックワン　日がかがやく。〔沈約、內典序〕聖迹彪炳、日煥二于閻浮一、神光陸離、星繁二于淨刹一。

【日環】214ニックワン　日がめぐる。〔李賀、瑤華樂〕高門左右日月環、四方錯鏤稜層殿。

【日觀】215ニックワン　㊀峯の名。山東省泰安縣の泰山の頂の東巖。又、東山といふ。日出を觀るを得。王世貞は日觀・秦觀・越觀を一峯とする。〔應劭、漢官儀〕泰山東南山頂、名曰二日觀一、鷄一鳴時、見二日始欲レ出、長二丈許、故以名焉。〔顏延之、車駕幸二京口一侍二遊蒜山一作詩〕元天高二北列一、日觀臨二東溟一。㊁宋、子溫(**3**－**6930**··82)の號。「の號。

〖日觀子〗216ニックワンシ　清、朱邇邁(**6**－**14424**··826)

〖日觀峯道人〗217ニックワンホウダウジン　清、劉墉(**2**－**2224**··633)の號。

【日丸】218ヒノマル　太陽の象。日章。

〖日丸旗〗219ヒノマルノハタ　日章旗。我が國の國旗。

【日君】220ニックン　古、日を人君の象とした。君のこと。天子をいふ。人君。帝王。〔韓愈、元和聖德詩〕日君月妃、煥赫婐妸。

【日訓】221ニックン　日々をしへる。〔宋史、選擧志一〕日訓月察、立レ賞告レ訐、而士行自美矣。

【日曛】222ニックン　日が暮れる。日がくらむ。〔李華、弔二古戰場一文〕黯兮慘悴、風悲日曛。〔王勃、採蓮賦〕悲二時暮愁日曛一、鳴二鐶釧一兮響窈窕、艷珠翠兮光繽紛。

【日軍】223ニチグン　日本軍。

【日兄】224ニッケイ　天子の弟妹に對して天子を日兄といふ。〔陸暢、雲安公主下降奉レ詔作催粧詩〕天母親調レ粉、日兄憐賜レ花。

〖日兄月姊〗225ニッケイゲッシ　日を兄、月を姊とすること。天子についていふ。〔海錄碎事、帝王〕春秋感精符曰、人主、兄レ日姊レ月。

【日圭】226ニッケイ　日の影を測る器。日時計。〔宋史、禮志一〕感生帝四圭有レ邸、朝日日圭、夕月月圭、皆五寸。〔清會典、欽天監、天文科〕曰、日圭、則陳二於室一、而竅以承レ日焉。〔注〕圭表、設二觀象臺下晷影堂一、平二置銅圭於石臺一、長一丈六尺二寸、闊二尺七寸、南端立二銅表一、高一丈、上施二銅葉一、曲嚮レ外、上屬二屋梁一、屋開二方孔一、表開二圓孔一、午正日影、自二圓孔一射二圭面一成二橢圓形一、南界爲二日體上邊之界一、北界爲二日體下邊之界一、中心爲二中影一。

【日系】227ニッケイ　㊀太陽系。㊁日本の系統をひくこと。又、その人。

【日契】228ニッケイ　每日物を給與するわりふ。〔晉書、山濤傳〕帝以二濤清儉、無三以供レ養、特給二日契一、加二賜牀帳茵褥一、禮秩崇重、時莫レ爲レ比。

【日烱】229ニッケイ　日の光が明かなこと。〔袁桷、善之僉事兄南歸述懷詩〕霧深沐二玄豹一、日烱粲二文雉一。

【日計】230ニッケイ　日々に計る。日々計算する。又、日の計算。日々の會計。〔周禮、天官、宰夫、三曰司掌二官灋一以治レ目、注〕治レ目、若二今日計一也。〔周禮、天官、宰夫、終則令レ正二日成一、疏〕日成、謂二日計一曰レ成也。〔後漢書、章帝紀〕安靜之吏、悃愊無レ華、日計不レ足、月計有レ餘。

〖日計不レ足歲計有レ餘〗231ニッケイタラズサイケイアマリアリ　日々の計算は不足でも、一年に見つもれば利益がある。目前には損失があつても、結局は利益がある。〔文子、精誠〕是故聖人象レ之、其起レ福也、不レ見二其所一レ以而福起、其除レ禍也、不レ見二其所一レ由而禍除、稽レ之不レ得、察レ之不レ虛、日計不レ足、歲計有レ餘、寂然無レ聲、一言而大動。〔莊子、庚桑楚〕吾日計レ之而不レ足、歲計レ之而有レ餘、庶幾其聖人乎。〔淮南子、泰族訓〕日計無レ算、歲計有レ餘。

【日徑】232ニッケイ　㊀太陽の軌道。〔吳徐整長曆、日徑〕衆陽之精、上合爲二日徑千里一、周圍三千里、下二于天一七千里。㊁東西に通ずる道路。

【日啓】233ニッケイ　日にひらく。日に日にひらける。〔宋書、武帝紀中〕編戶歲滋、疆宇日啓。

【日傾】234ニッケイ　日が傾く。〔李紳、趨二翰苑一遭二誣搆一詩〕日傾烏掩レ魄、星落斗摧レ樞。

【日景】235ニチエイ　ひかげ。日晷。日影(36)に同じ。〔周禮、地官、大司徒〕以二土圭之法一、測二土深一、正二日景一、以求二地中一。〔班固、西都賦〕激二日景一而納レ光。〔楊桓、授二時曆一序〕迎二天道一、揆二日景一。

【日敬】236ニッケイ　日々に敬ひつつしむ。〔陸雲、吳故丞相陸公誄〕我后日敬、上帝臨レ予。

【日繼】238ニッケイ　日を追つてつぎ行ふ。〔唐書、辛替否傳〕營レ寺造レ觀日繼。

【日僑】239　jih^4 ch'iao^2　外國に居留してゐる日本人。日本居留民。

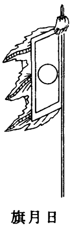
【日曉】240ニチゲウ　あけ方。〔杜牧、茶山下作詩〕春風最窈窕、日曉柳村西。〔吳萊、次二韻柳博士五洩山紀遊一詩〕日曉行呼野鶴羣、山溪五級洗二巖氛一。

【日闋】241ニッケツ　日に日に盡きる。又、其の日に盡きる。〔漢書、王莽傳上〕物物卬レ市、日闋亡レ儲。〔注〕師古曰、闋、盡也、日闋、言三當日卽盡、不二蓄積一也。〔漢書、王莽傳下〕有二城邑一、轉掠求レ食、日闋而已。〔注〕師古曰、闋、盡也、隨レ日盡也。

【日月】242ジツゲツ ニチゲツ　㊀日と月。太陽と月。〔易、乾〕與二日月一合二其明一。〔書、益稷〕日・月・星辰・山・龍・華蟲。〔中庸〕日月星辰繫焉。〔孟子、盡心上〕日月有レ明、容光必照焉。〔荀子、不苟〕名聲若二日

月一。〔史記、天官書〕察二日月之行一、以揆二歲星順逆一。〔漢書、五行志下之上〕日月亂行、星辰逆行。❷君后に喩へる。〔禮、昏義〕天子之與レ后、猶二日之與一レ月。〔史記、魏其武安傳贊〕武安之貴、在二日月之際一。❸聖賢に喩へる。〔論語、子張〕仲尼、日月也、無二得而踰一焉。〔集注〕日月、喩二其至高一也。❹一日又は一月。〔論語、雍也〕其餘則日月至焉而已矣。〔集注〕日月至焉者、或日一至焉、或月一至焉。❺つきひ。光陰。〔楚辭、離騷〕日月忽其不レ淹兮。❻月日。婦を娶る期。〔禮、曲禮上〕故日月以告レ君、齋戒以告二鬼神一。〔疏〕既男女須レ辨、故婦來則書二取レ婦之年月日一、以告二國君一也。❼詩經、邶風の篇名。衞の莊姜が先君莊公に禮遇されず、困窮するやうになつたのを傷んだもの。〔詩、邶風、日月序〕日月、衞莊姜傷レ己也、遭二州吁之難一、傷下己不レ見レ答二於先君一、以至中困窮上之詩也。❽白虎通の篇名。❾山名。青海省西寧縣治の西。番名は納喇薩喇。金の大定の時、柱日山と改む。金語では捏里塞山といふ。元の憲宗が天を祭つた所。〔元史、憲宗紀〕四年云云、是歲會二諸王于顆顆腦兒之西一、乃祭二天于日月山一。❿湖の名。江西省進賢縣の北。水が涸れれば分れて二つとなり、漲れば合して一つとなる。其の水は北流して鄱陽湖に注ぐ。〔讀史方輿紀要、江西、南昌府、進賢縣〕日月湖、縣東二十里、水涸則分爲レ二、張則合爲レ一、云云、志云、縣境之水、二湖最大、而總歸二於鄱陽湖一。⓫jih^4 yüeh^4 北京で行はれる瓜の一種。

【日月旗】243（ジツゲツキ） 旗に日月の繪のあるもの。古は天子のみこれを建てるを得た。〔穆天子傳、六〕日月之旗、七星之文。〔注〕言二旗上畫二日月及北斗星一也。〔戎昱、辰州聞二大駕還レ宮詩〕自慚出守二辰州畔一、不レ得三親隨二日月旗一。



日月旗（三才圖會）

【日月相】244（ジツゲツノサウ） 日月の相。天子となる相。〔南齊書、江祏傳〕高宗胛上有二赤誌一、云云、晉壽太守王洪範、罷レ任還、上袒示レ之曰、人皆謂二此是日月相一。

【日月帶】245（ジツゲツタイ） 唐代、寶とした犀帶で、石晉の少主が耶律氏に獻じたもの。後、金主に傳はる。〔揮麈錄〕韓似夫使二金國一、見二其主所レ繫犀帶一、如二圓鏡一、光采絢レ目、曰、此石晉少主歸獻二耶律氏一者、唐世所レ寶日月帶也。

【日月遲】246（ジツゲツオソシ） 月日の過ぎることが遲い。〔倭漢朗詠集、祝、慶滋保胤〕長生殿裏春秋留、不老門前日月遲。

【日月桃】247（ジツゲツタウ） 桃の一種。源平桃。

【日月燈】248（ニチゲツトウ） 佛日と月と燈との光。佛光の喩。〔法華經〕世尊放二眉間白毫相光一、照二東方萬八千世界一、慈氏發レ問、文殊決レ疑、以爲日月燈明、佛瑞光本如レ此。

【救二日月一】249（ジツゲツヲスクフ） 日食月食の時には、王が親ら太鼓を打つて陽氣陰氣を助けること。〔周禮、地官、鼓人〕救二日月一、則詔レ王鼓。〔注〕救二日月食一、王必親擊レ鼓者、聲大異、春秋傳曰、非二日月之眚一不レ鼓。〔疏〕謂下日月食時、鼓人詔二告于王擊一レ鼓、聲大異、以救上レ之。〔周禮、夏官、大僕〕救二日月一、亦如レ之。〔疏〕云二亦如一レ之者、大僕亦贊二王鼓一、佐擊二其餘面一、但日食、陰侵レ陽、當下與レ鼓二神祀一同用中雷鼓上也、若然、月食當レ用二靈鼓一、但春秋記二日食一、不レ記二月者一、以下日食、陰侵レ陽、象二臣侵一レ君、非上常、故記レ之、月食、陽侵レ陰、象二君侵一レ臣、故不レ記、此云二日月食時亦擊一レ鼓、救可レ知。〔荀子、天論〕日月食而救レ之。

【攀二日月一】250（ジツゲツヲヨヅ） 高山に登ること。〔李白、登二瓦官閣一詩〕杳出二霄漢上一、仰攀二日月一行。

【日月運行】251（ジツゲツウンカウ） 日月が互に東西からめぐり行くこと。〔易、繫辭上〕日月運行、一寒一暑。

【日月合璧】252（ジツゲツガツペキ） 七曜星が北斗牽牛の分度に會聚するさまを形容して、日月合璧、五星連珠といふ。〔漢書、律歷志上〕復覆太初曆、晦朔弦望皆最密、日月如レ合レ璧、五星如レ連レ珠。〔注〕謂下太初上元甲子夜半朔旦冬至時、七曜皆會二聚斗牽牛分度一、夜盡如中合璧連珠上也。

【日月其除】253（ジツゲツソレサラン） 歲月は人を待たず直ちに過ぎ去るをいふ。除は去る。〔詩、唐風、蟋蟀〕蟋蟀在レ堂、歲聿其莫、今我不レ樂、日月其除。〔傳〕除、去也。〔箋〕今不二自樂一、日月且二過去一、不二復暇レ爲レ之。

【日月光華】254（ジツゲツクワウクワアリ） 日や月にかがやきがある。太平の象。〔尙書大傳、虞夏傳〕卿雲爛兮、糺縵縵兮、日月光華、旦復旦兮。

【日月護身】255（ジツゲツゴシン） 劍の名。節刀として賜はるもの。一名、守護劍。〔桃華蘂葉〕節刀者雜劍也、其中靈劍有二二柄一、二柄百濟國所二貢進一、日月護身劍・破敵將軍劍等也、納二幸櫃一合一、行幸之時、相二副賢所一、被二奉遷一也。

【日月告レ凶】256（ジツゲツキヨウヲツグ） 月が日の行道を犯して天下に凶亡の徵を告げる。〔詩、小雅、十月之交〕日月告レ凶、不レ用二其行一、四國無レ政、不レ用二其良一。〔箋〕告レ凶、告二天下一以二凶亡之徵一也、行、道度也、不レ用レ之者、謂二相干犯一也。

【日月之光】257（ジツゲツノヒカリ） 日と月の光。〔莊子、在宥〕日月之光益以荒矣。

【日月之食】258（ジツゲツノショク） 日蝕と月蝕。〔左氏、宣、十二〕夫其敗也、如二日月之食一焉、何損二於明一。〔論語、子張〕君子之過也、如二日月之食一焉、過也、人皆見レ之、更也、人皆仰レ之。

【日月之眚】259（ジツゲツノセイ） 月が日を侵す災。一說に、日蝕月蝕をいふ。眚は災に同じ。救二日月一(249)を見よ。〔左氏、莊、二十五〕非二日月之眚一不レ鼓。〔注〕眚、猶レ災也、月侵レ日爲レ眚、陰陽逆順之事、賢聖所レ重、故特鼓也。〔會箋〕日月之眚、謂二日月有レ蝕、若二目有一レ翳也、月是帶言耳、非二月侵一レ日之謂一也。

【日月之明】260（ジツゲツノメイ） 日や月のやうに明かなこと。〔莊子、胠篋〕故上悖二日月之明一、下爍二山川之精一。

【日月自明】261（ジツゲツジメイ） 日や月が自然にかがやいて明かなこと。〔莊子、田子方〕若二天之自高、地之自厚、日月之自明一。

【日月相推】262（ジツゲツアヒオス） 日と月と代る代る照る。〔易、繫辭下〕日往則月來、月往則日來、日月相推、而明生焉。〔疏〕日往則月來至、相推而歲成者、此言下不レ須二憂慮一、任レ運往來、自然明生、自然歲成上也。

【日月如梭】263 jih^4 yüeh^4 ju^2 suo^1 光陰の速かに過ぎ去る喩。

【日月星辰】264（ジツゲツセイシン） 日・月・星の天體。又、其の交會する處。〔書、堯典〕曆象二日月星辰一。〔周禮、春官、大宗伯〕以二實柴一祀二日月星辰一。〔漢書、五行志下之上〕日月亂行、星辰逆行。

【日月入レ懷】265（ジツゲツフトコロニイル） 日月が人の懷中に入ること。❶瑞祥の一つ。〔吳志、孫破虜吳夫人傳、注〕搜神記曰、初、夫人孕、而夢三月入二其懷一、既而生レ策、及二權在一レ孕、又夢三日入二其懷一、以告レ堅、云云、堅曰、日月者、陰陽之精、極貴之象、吾子孫其興乎。❷明朗な形容。〔世說新語、容止〕時人目二夏侯太初一、朗朗如二日月入一レ懷。

【日月逾邁】266（ジツゲツユマイス） 月日の過ぎ行くことをいふ。年齒が已に衰へて死期の近づくこと。〔書、秦誓〕我心之憂、日月逾邁、若レ弗二云來一。〔傳〕言、我心之憂、欲二改レ過自新一、如二日月並行過一、如レ不二復云來一、雖レ欲二改悔一、恐死及レ之、無レ所レ益。〔蔡傳〕已然之過不レ可レ追、未レ遷之善猶可レ及、憂二歲月之逝一、若レ無三復有二來日一也。

【日月麗レ天】267（ジツゲツテンニツク） 日月の天に在るをいふ。麗は附。〔易、離〕彖曰、離、麗也、日月麗二乎天一、百穀草木麗二乎土一。

【日月爲二連璧一】268（ジツゲツヲレンペキトナス） 日と月とを連ねて璧とする。莊子が當時の厚葬を譏つた語。〔莊子、列禦寇〕吾以二天地一爲二棺槨一、以二日月一爲二連璧一、星辰爲二珠璣一、萬物爲二齎送一。〔疏〕莊子妙二達元道一、逆二旅形骸一、故棺二槨天地一、云云、資送備矣、門人厚葬、深乖二造物一也。

【日月光二天地一】269（ジツゲツテンチヲテラス） 日月が天地を照らす。轉じて、天子の德の喩。〔陳後主、入レ隋侍レ宴應詔詩〕日月光二天地一、山河壯二帝居一、太平無二以報一、願上二東封書一。

【日月大綉旗】270（ジツゲツダイシウキ） 左右に日月を刺繡した大旗。これを建てて尊卑同席を表はす。〔金志、旗幟〕金國以二水德一王、凡用二師行征旗一、皆尙レ黑、雖二五色皆具一、必以レ黑爲レ主、尋常車出入、止用二一日旗一、與レ后同乘、則加二月旗一、二旗相間而陳、或數百隊、或千餘隊、日旗卽以二紅綃一爲レ日、刺二於黃旗上一、月旗卽以二素帛一爲レ月、刺二於紅旗上一、近御則又有二日月大綉旗二一、如二大禮祫享冊

封二、一循二古制一、旗無二大小一皆備焉。

【日月無二私照一】271 ジツゲツシセウナシ　日月は私に照らすことはない。恩を施すことの公平な喩。〔禮、孔子閒居〕天無二私覆一、地無二私載一、日月無二私照一。

【依二日月末光一】272 ジツゲツノマツクワウニヨル　日月の光の末に依存する。天子の恩澤を蒙つて居る喩。〔漢書、蕭何曹參傳贊〕蕭何・曹參、皆起二秦刀筆吏一、當時錄錄、未レ有二奇節一、漢興、依二日月末光一、二人同レ心、遂安二海內一。

【與二日月一爭レ光】273 ジツゲツトヒカリヲアラソフ　日月と光を爭ふ。道德功業の盛な喩。〔史記、屈原傳〕推二此志一也、雖下與二日月一爭上レ光可也。

【日月爲レ之奪レ明】274 ジツゲツコレガタメニメイヲウバハル　日月もこのために其の光を奪はれる。天子出御の盛大な喩。〔班固、東都賦〕焱焱炎炎、揚レ光飛レ文、吐レ爓生レ風、欱レ野歕レ山、日月爲レ之奪レ明、丘陵爲レ之搖震。

【日月之不レ可レ踰】275 ジツゲツノコユベカラズ　日月を踰えることは出來ない。企及することの出來ぬ喩。〔後漢書、孔融傳〕何者、萬乘至重、天王至尊、身爲二聖躬一、國爲二神器一、陛級縣遠、祿位限絕、猶二天之不レ可レ階、日月之不レ可レ踰也。

【日月不レ照二曲穴一】276 ジツゲツハキヨクケツヲテラサズ　日月は、曲つた所やあなをてらさない。日月は、正しきもののみに恩惠を與へる喩。〔葛稚川外篇、二、備闕十七〕日月不レ能レ摛二光於曲穴一、衝風不レ能レ揚二波於井底一。

【畫二日月於大常一】277 ジツゲツヲタイジヤウニエガク　日月の象を大旗に畫く。〔子華子、晏子問黨〕舜遊二於巖廊之上一、被二袗衣一而鼓二五絃之琴一、畫二日月於大常一、備二十有二章一、黼黻玄黃爛如也。

【與二日月一合二其明一】278 ジツゲツトソノメイヲアハス　聖人は其の明德が日月と合致する。日月のやうに照臨する。〔易、乾〕夫大人者、與二天地一合二其德一、與二日月一合二其明一。〔疏〕與二日月一合二其明一者、謂二照臨一也。

【日月逝矣歲不二我與一】279 ジツゲツユケリトシワレトトモニセズ　月日が用捨なく過ぎ去つて暫くも人を待たぬ。月日が徒らに過ぎ去つて、人事が思ふやうに運ばないのをいふ。〔論語、陽貨〕（陽貨曰、）日月逝矣、歲不二我與一、孔子曰、諾、吾將レ仕矣。〔集解〕馬融曰、年老歲月已往、當二急仕一。〔疏〕此陽貨勸二孔子求一レ仕之辭、逝、往也、歲月已往、不二復留待一レ我也、當二急求一レ仕。

【日月得レ天而能久照】280 ジツゲツテンヲエテヨクヒサシクテラス　日月は天の恒久にして窮まらざる道理に從ふが故に、よく久しく照して無窮に明かである。〔易、恒〕日月得レ天、而能久照。

【日月欲レ明浮雲蔽レ之】281 ジツゲツアキラカナラントホツスレドモフウンコレヲオホフ　日月が明かに輝かうとしても、雲が蔽へば暗くなる。人の本性は本來明善であることを欲するが、情欲のために害せられる喩。又、姦邪の臣が君の明をおほふ喩。〔文子、上德〕日月欲レ明、浮雲蔽レ之、河水欲レ清、沙土穢レ之、人性欲レ平、嗜欲害レ之。〔淮南子、齊俗訓〕日月欲レ明、浮雲蔽レ之、河水欲レ清、沙土濊レ之、人性欲レ平、嗜欲害レ之。

【日月不下爲二一物一晦中其明上】282 ジツゲツハイチブツノタメニソノメイヲクラクセズ　日月は唯一つの物のために其の明かさを止めない。明王は一人のために法を枉げない喩。〔孝經、三才章、傳〕日月不下爲二一物一晦中其明上、明王不下爲二一人一枉中其法上。

【日軏】283 ニチゲツ　太陽の橫の端。〔鮑照、蒜山被二始興王命一作詩〕升レ嶠眺二日軏一、臨迥望二滄州一。

【日見】284 ニツケン　毎日見る。常に見る。〔淮南子、氾論訓〕今夫圖工好レ畫二鬼魅一、而憎レ圖二狗馬一者何也、鬼魅不二世出一、而狗馬可二日見一也。

【日見二於甲一】285 ヒカフニアラハル　太陽が東方にあらはれる。妻が其の夫を喩へていふ。〔唐律、戶婚、釋文〕日見二於甲一、謂三日出二於東一、象レ夫也、月見二於庚一、謂三月出二於西一、象レ婦也。

【日烜】286 ジツケン　日でかわかす。〔易、說卦〕雷以動レ之、風以散レ之、雨以潤レ之、日以烜レ之。

【日軒】287 ニツケン　日がさすのき。〔劉禹錫、吏隱亭詩〕日軒漾二波影一、月砌鏤二松陰一。

【日黔】288 ニツケン　日々に黑くする。〔莊子、天運〕夫鵠不二日浴一而白、烏不二日黔一而黑。

【日懸】289 ニツケン　日光がふりかかる。〔沈佺期、侍二宴安樂公主新宅一應制詩〕妝樓翠幌教二春住一、舞閣金鋪借二日懸一。〔劉希夷、江南曲〕日懸二滄海闊一、水隔二洞庭深一。

【日限】290 ニチゲン　日を限る。ひぎり。何日間と限ること。〔梁書、張率傳〕率年十二、能屬レ文、常日限爲二詩一篇一。〔宋史、選擧志二〕時場屋士子日盛、卷軸如レ山、有司不レ能二偏覩一、迫二於日限一、去取不レ能二皆當一。〔宋史、選擧志三〕諫官余靖、極二言非便一、遂罷二聽讀日限一。〔燕翼貽謀錄〕立二定日限一。

【日減】291 ニチゲン　日にへる。一日一日とへる。〔素問、疏五過論〕身體日減、氣虛無レ精。

【日嚴】292 ニチゲン　日々にきびしくする。〔書、皐陶謨〕日嚴祇二敬六德一、亮レ采有レ邦。〔傳〕日日嚴二敬其身一、敬行二六德一。〔南齊書、沈驎士傳〕年踰二七十一、業行無レ改、元嘉以來、聘召仍疊、玉質踰レ潔、霜操日嚴。

【日戶】293 ニツコ　日あたりのよい家。〔孟郊、投二贈張端公一詩〕日戶晝輝靜、月杯夜景幽。

【日鼓】294 ニツコ　日にうつ。日々にうつ。〔劉禹錫、砥石賦〕彼屠者之刀兮、獵者之鋋、不レ灌不レ淬兮、糅二錯銜鉛一、日鼓月揮兮、刲レ腴擊レ鮮。

【日午】295 ニチゴ　まひる。正午。日中。亭午。〔唐書、選擧志下〕初諸司官兼二知政事一者、至二日午後一、乃還二本司一視レ事。〔柳宗元、夏晝偶作詩〕日午獨覺無二餘聲一、山童隔レ竹敲二茶臼一。〔林逋、筆詩〕空山日午南窗暖。

【日後】296 jih^4 hou^4　後ほど。後來。後日。〔水滸傳、八回〕日後也有照顧俺處。〔長生殿、埋玉〕待二日後一改葬。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕庶免二日後易レ銀起解之累一。

【日語】297 ニチゴ　日本語。「一日。

【日工】298 jih^4 kung^1　❶日傭仕事。ひかせぎ。❷

【日功】299 ニツコウ　日々の手間料。〔三代實錄、十〕諸司諸衞府仕丁衞士日功、收二長年錢二十文一。

【日弘】300 ニツコウ　日々にひろくなる。〔宋書、後廢帝紀〕體識日弘、社稷有レ寄。

【日虹】301 ニツコウ　にじ。〔李賀、賈公閭貴壻曲〕燕語踏二簾鉤一、日虹屏二中碧一。

【日厚】302 ニツコウ　日々に厚くなる。〔王維、與二盧員外象一過二崔處士興宗林亭一詩〕綠樹重陰蓋二四鄰一、青苔日厚自無レ塵。

【日貢】303 ヒノミツギ　毎日奉るみつぎ。

【日國】304 ニツコク　日斯巴尼亞の略。西班牙國のこと。イスパニヤ。〔淸會典、總理各國事務衙門、注〕日國噸數、乘以二一百一、除以二一百一、與二英噸一同。

【日轂】305 ニツコク　日輪。太陽をいふ。〔范成大、丙戌閏七月九日與二王必大一登二姑蘇臺一云云詩〕炎官扶二日轂一、輝赫不レ停レ運。〔柳貫、次二韻魯參政觀一レ潮詩〕日轂行レ天淪二左界一、地機激レ水出二東溟一。

【日困】306 ニツコン　日が其の行道を往き盡くす。〔國語、越語下〕范蠡曰、臣聞、云云、陽至而陰、陰至而陽、日困而還、月盈而匡。〔注〕困、窮也。

【日昏】307 ニツコン　日がくらくなる。日暮。〔孟郊、藍溪元居士草堂詩〕日昏各命レ酒、寒蛩鳴二蕙叢一。

【日痕】308 ジツコン　太陽の光。〔杜牧、朱坡詩〕日痕絙二翠巘一、陂影墮二晴霓一。

【日魂】309 ニツコン　日の精。太陽の氣。〔參同契〕陽神日魂、陰神月魄、魄之與レ魂、互爲二宅室一。〔雲笈七籤〕日中五帝魂精內神、名二珠景赤童一。〔注〕能知二日魂名一、終身無レ疾、萬災不レ犯。

【日佐】310 サヲ　❶姓氏。❷地名。

【日差】311 ニツサ　毎日の日影の長短の差。古は、表を立て影を測つて時刻を定めた。〔元史、曆志一〕劉宋祖沖之、嘗取二至前後二十三四日間晷景一、折二取其中一、定爲二冬至一、且以二日差一比課、推二定時刻一、宋皇祐間、周琮則取二立冬・立春二日之景一、以爲レ去レ至既遠、日差頗多、易レ爲二推攷一。

【日蹉】312 ニツサ　太陽が沒する。蹉は過ぎる。〔劉長卿、岳陽樓詩〕行盡淸溪日已蹉、雲容山影兩嵯峨。

【日晒】313 ヒザラシ　日光にさらすこと。日曝。

【日彩】314 ニツサイ　太陽の光。〔沈約、爲二南郡王一捨身疏〕弟子樹二因曠劫一、嚮二報茲生一、託二景中璇一、聯二華日彩一。〔虞世南、奉三和獻レ歲讌二宮臣一詩〕春光催二柳色一、日彩泛二槐煙一。〔李白、觀妓詩〕粉色豔二日彩一、舞袖拂二花枝一。

【日祭】315 ニツサイ　毎日まつる。卽ち祖考を祭ること。〔國語、周語上〕祭公謀父諫曰、日祭月祀、時享歲貢、終王、先王之訓也。〔注〕日祭、祭二於祖考一、謂レ上レ食也、近漢亦然、月祀二於曾高一、時享二二祧一、歲貢二於壇墠一。〔荀子、正論〕日祭月祀、時享歲貢。〔漢書、韋玄成傳〕祖禰則日祭、曾高則月祀。

【日際】316ニッサイ　太陽のほとり。日邊。〔顏延之、宋郊祀歌〕月竁來賓、日際奉レ土。〔何遜、南還道中送二贈劉諮議一別詩〕天末靜二波浪一、日際斂二烟霞一。〔劉希夷、江南曲〕晝舫煙中淺、青陽日際微。

【日在】317ニチザイ　❶時日があること。〔李端、古別離詩〕後事忽差池、前期日空在。❷太陽が在ること。〔李俊、獨坐詩〕地偏無二俗客一、日在掩二柴扉一。〔賀鑄、薄倖詞〕厭厭睡起、猶有二花梢日在一。

【日葬】318ニッサウ　死んだ其の日に葬ること。〔穀梁、隱、三〕(冬十有二月癸未)葬二宋繆公一、日葬故也、危不レ得レ葬也。〔注〕天子七月而葬、諸侯五月而葬、大夫三月而葬、傳例曰、諸侯時葬正也、月葬故也、日者憂危最甚、不レ得レ備二禮葬一也。

【日冊】319　jih^{4} tsʻê^{4}　日本領事館で登記した租界內に於ける永代借地權の證書。

【日作】320ニッサク　❶日々用ひる。毎日使ふ。〔漢書、陳湯傳〕郅支單于自以、大國威名尊重、云云、發レ民作レ城、日作二五百人一、二歲迺已。❷日々に起る。〔素問、瘧論〕衞氣者、晝日行二於陽一、夜行二於陰一、此氣得レ陽而外出、得レ陰而內薄、內外相薄、是以日作。

【日削】321ニッサク　日々にけづられ弱くなる。〔史記、屈賈傳〕屈原既死之後、楚日以削。

【日削月割】322ヒニケヅラレツキニサカル　日々にけづられ月々に切取られる。〔六國論〕日削月割、以趨二於亡一。

【日削月朘】323ニッサクゲッセン　日々にけづられ月々に縮む。人民が苛稅に苦しめられることをいふ。〔漢書、董仲舒傳〕民日削月朘、寖以大窮。

【日昨】324　jih^{4} tsuo^{2}　昨日。きのふ。

【日朔】325ニッサク　ついたち。〔後漢書、律曆志中〕又以二新曆一、上考二春秋一、中有二日朔一者、二十四事、失不レ中者、二十三事、天道參差不レ齊、必有レ餘、餘又有二長短一、不レ可二以等齊一。

【日殺】326ニッサツ　日に殺す。日々に殺す。〔史記、伯夷傳〕盜跖日殺二不辜一、肝二人之肉一、暴戾恣睢、聚レ黨數千人、橫二行天下一、竟以レ壽終、是遵二何德一哉。

【日三】327ジッサン　淸、吳晉(安徽の人)(**2－3365**··247)の字。

【日參】328ニッサン　❶毎日役所へ出仕すること。〔唐書、百官志三〕文官五品以上、及兩省供奉官・監察御史・員外郎・太常博士、日參、號二常參官一。〔宋史、禮志十九〕元豐官制、朝參班序、有二日參・六參・望參・朔參一。❷毎日、神社又は佛寺へまゐること。ひまゐり。〔蟬丸、四〕坂本の山王へ日參遊ばし。

【日傘】329ヒガサ　日光を遮るに用ひるかさ。パラソル。

【日算】330ニッサン　❶日の計算。〔唐書、曆志一〕日算依二月大小一。❷jih^{4} suan^{4}　商家で日々の損益計算をすること。

【日慘】331ニッサン　日がうすぐらくさびしい。〔蔣凝、望思臺賦〕煙昏日慘、全非二望月之中一、鶴唳猿驚、不レ在二通天之上一。

【日子】332ニッシ　❶ひにち。日附。年月日。〔南史、劉之遴傳〕今本無二上書年月日子一。〔隋書、袁充傳〕(充)因上表曰、今與レ物更新、改二年仁壽一、歲月日子、還共二誕聖之時一並同、明合二天地之心一、得二仁壽之理一。〔孔平仲、珩璜新論〕俗所謂日子、亦有レ所レ出、文選曹公檄二吳將校部曲一文、年月朔日子、注、發レ檄時也、然則日子、日時也。〔日知錄、藝文、年月朔日子〕今人謂レ日、多曰二日子一、日者、初一初二之類是也、子者、甲子乙丑之類是也、周禮職內注曰、若言二其月某日某甲一、詔書或言レ甲、或言レ子、一也、文選陳琳檄二吳將校部曲一文、年月朔日子、李周翰注曰、子發レ檄時也、漢人未レ有下稱二夜半一爲二子時一者上、誤矣、古人文字年月之下、必繫以レ朔、必言二朔之第幾日一、而又繫二之干支一、故曰二朔日子一也、如下魯相瑛孔子廟碑、云二元嘉三年三月丙子朔二十七日壬寅一、又云二永興元年六月甲辰朔十八日辛酉一、史晨孔子廟碑、云二建寧二年三月癸卯朔七日己酉一、樊毅復二華下民租一碑、云中光和二年十二月庚午朔十三日壬午上是也、此日子之稱、所二自起一。❷太陽の子。〔北史、高句麗傳〕朱蒙告レ水曰、我是日子、河伯之外孫。❸ひかず。日數。❹jih^{4} tzŭ　暮す。暮し向。❺ヒコ　日のむすこの義。男子の美稱。普通には、彥の字をあてる。

【日支】333ニッシ　❶毎日支給する。〔宋史、兵志八〕人日支錢二百、米二升。❷日本と中國。

【日孜】335ジッシ　明、李孜(**6－14459**··384)の字。

【日至】336ニッシ　冬至と夏至。日が赤道の南北に往き、冬至に極南に至り、夏至に極北に至るをいふ。又、夏至は長至、冬至は短至といふ。〔禮、雜記下〕孟獻子曰、正月日至、可二以有レ事二於上帝一、七月日至、可二以有レ事二於祖一、七月而禘、獻子爲レ之也。〔疏〕正月、周正月、建子之月也、日至、冬至日也、云云、七月、周七月、建午之月也、日至、夏至日也、云云、以二兩月日至一相對。〔左氏、莊、二十九〕日至而畢。〔注〕日南至、微陽始動、故土功息。〔會箋〕日至而畢、則夏之十一月、而周之正月也、謂二日至而畢一、則周之春、不レ宜レ興二土功一矣。〔孟子、離婁下〕天之高也、星辰之遠也、苟求二其故一、千歲之日至、可二坐而致一也。〔注〕知三其日至在二何日一也。〔集注〕雖二千歲之久一、其日至之度、可二坐而得一、云云、必言二日至一者、造レ曆者、以二上古十一月甲子朔夜半冬至一、爲二曆元一也。〔管子、侈靡〕其冬厚則夏熱、其陽厚則陰寒、是故王者謹二於日至一、故知二虛滿之所レ在、以爲二政命一。〔纂詁〕謹候二二至之至不至一、至則寒暑從レ時、不レ至則四氣乖戾。〔史記、天官書〕正月上甲、風從二東方一、宜レ蠶、風從二西方一、若旦黃雲、惡、冬至短極、縣二土炭一、炭動、鹿解レ角、蘭根出、泉水躍、略以知二日至一。〔注〕集解曰、孟康曰、先二冬至一三日、縣二土炭於衡兩端一、輕重適均、冬至日陽氣至、則炭重、夏至日陰氣至、則土重、晉灼曰、蔡邕律曆記、候二鐘律一權二土炭一、冬至陽氣應、黃鐘通、土炭輕而衡仰、夏至陰氣應、蕤賓通、土炭重而衡低。

【日至時】337ニッシノトキ　成熟すべき時期。一說に、夏至の時といふ。〔孟子、告子上〕今夫麰麥播種、云云、浡然而生、至二於日至之時一、皆熟矣。〔集注〕日至之時、謂下當二成熟一之期上也。

【日至之景】338ニッシノエイ　冬至夏至の日のかげ。〔周禮、地官、大司徒〕以二土圭之灋一、測二土深一、云云、日至之景、尺有五寸、謂二之地中一。

【日志】339ニッシ　毎日しるす。日々の出來事を記す。又、其の帳面。日記。〔荀子、彊國〕王者之功名、不レ可レ勝二日志一也。〔注〕日記二識其政事一。

【日始】340ニッシ　日が始めて出ること。〔詩、邶風、日月、日居月諸出レ自二東方一傳〕日始月盛、皆出二東方一。

【日祀】341ニッシ　毎日まつる。日祭。日祭(315)を見よ。〔後漢書、章帝紀〕除二日祀之法一、省二送終之禮一。〔注〕春秋外傳曰、日祭月祀、時享、祖禰則日祭、高曾則月祀、云云、今此除二日祀之法一、從二時月之祭一。

【日施】342ニッシ　日が西に傾く。日暮日晚。日斜(382)に同じ。〔史記、賈誼傳〕單閼之歲兮、四月孟夏、庚子日施兮、服集二予舍一、止二于坐隅一、貌甚閒暇。〔注〕集解曰、徐廣曰、施、一作レ斜、索隱曰、施、音矢移反、猶二西斜一也、漢書作レ斜。

【日使】343ニッシ　日本大公使。

【日祉】344　jih^{4} chih^{4}　其の日の福祉。日安。書翰文用語。

【日恣】345ニッシ　毎日ほしいままにする。〔袁桷、素軒賦〕羌若人之好修兮、姤二芳澤之日恣一。

【日翅】346ニッシ　日に輝いたつばさ。〔杜牧、鴉鶻詩〕日翅閑二張錦一、風池去二罥羅一。

【日紫】347ニッシ　太陽の色が紫。紫色の太陽。〔隋書、天文志下〕或天氣下降、地氣未レ升、厚則日紫、薄則日赤。

【日絲】348ニッシ　太陽の光線。〔李賀、洛姝眞珠詩〕八驄籠晃臉差移、日絲繁散曛二羅洞一。

【日嗣】349ヒツギ　日神の詔命で大業をつぎつぎに知ろし召す意。天皇の御位の尊稱。天つ日嗣。天位。〔萬葉集、十八〕高御座あまの日つぎと。

【日嗣御子】350ヒツギノミコ　皇位を繼承し給ふべき皇子。皇太子。儲君。

【日肆】351ニッシ　日々にほしいままにする。〔唐書、張宿傳〕宿怨二執政不レ與レ己、乃日肆二讒恚一、與二皇甫鎛一相附離、多中二傷正人君子一。

【日誌】352ニッシ　日志(339)に同じ。誌は志。

【日賜】353ニッシ　日にたまふ。毎日賜ふ。〔後漢書、馮衍傳上〕百里之內、牛酒日賜。

【日次】354ニチジ　❶ひなみ。又、日のやどり。〔樂府詩集、北齊五郊樂歌、黑帝高明樂〕日次月紀、方極二九州一。❷ヒナミ　出雲國の地名。

【日字】355ニチヂ　日の字。〔南齊書、崔慰祖傳〕父梁州之資家、財千萬、散與二宗族一、漆レ器題爲二日字一、日字之器、流二乎遠近一。

【日侍】356ニチジ　日に侍す。毎日はべる。〔宋史、王存

傳〕元豐元年、神宗察二其忠實無一レ黨、以爲二國史編修一、官二修起居注一、時起居注雖二日侍而奏一レ事、必稟二中書一俟レ旨、存乞レ復下唐貞觀左右史、執レ筆隨二宰相一入レ殿故事上。

【日時】357 ニチジ　其の日と時刻。〔莊子、外物〕春雨日時、草木怒生。〔後漢書、樊英傳〕因含レ水西向漱レ之、乃令レ記二其日時一。

【日時計】358 ヒドケイ　日のかげで時間を知る器。盤に針を立て、時の進むに隨つて移る針の影を見て時刻を知るもの。

【日珥】359 ニチジ　日の旁の赤い雲氣が冠耳のやうなのをいふ。〔周禮、春官、眡祲〕掌二十煇之灋一、云云四曰監、注、監冠珥也、疏〕謂下有二赤雲氣一、在二日旁一、如中冠耳上珥、卽耳也、今人猶謂二之日珥一。

【日滋】360 ニチジ　日に日にしげくなる。〔顏氏家訓、教子〕年登二婚宦一、暴慢日滋。〔宋史、選擧志四〕姦弊日滋、寒士困苦、甚可レ憫焉。

【日州】361 ニッシウ　日向の國の略稱。〔岡本韋庵、大日本中興先覺志〕送出二日州關外一。

【日收】362 ニッシウ　㊀毎日をさめる。又、其のもの。日收簿を見よ。㊁日々の收入。

【日收簿】363 ニッシウボ　日々の收入を記錄する帳面。〔福惠全書、錢穀、流水日報簿〕日報簿與二日收簿一同レ時印發、櫃吏將二毎日各櫃收某里銀錢若干一、照二流水日收一彙塡、某日共收過銀錢若干、連レ前結二一總數一云云、其簿毎二日戾一同三流水日收與二用過票根幷未レ用串票一、一齊送レ宅以憑二查對一。

【日秀】364 ヒヒル　下總國の地名。

【日岫】365 ニッシウ　日が照つて居る山の頂。〔唐太宗、秋日詩〕日岫高低影、雲空點綴陰。

【日臭】366 ニッシウ　日々惡いにほひがする。〔梁鴻、適レ吳詩〕哀二茂時兮逾邁一、愍二芳香兮日臭一。

【日售】367 ニッシウ　毎日賣れる。〔韓非子、說林下〕伯樂教三其所レ憎者相二千里之馬一、教三其所レ愛者相二駑馬一、千里之馬時一售、其利緩、駑馬日售、其利急。

【日脩】368 ニッシウ　㊀日がながい。日永。日長。〔淮南子、天文訓〕陽氣勝、則日脩而夜短。〔注〕脩、長也。㊁日々に修理する。〔禮、王制〕九十日脩。〔疏〕九十日脩者、至二九十一、棺衣皆畢、但日日脩二理之一、爲レ近二於終一故也。

【日就】369 ヒニナル　日々に成就する。日就月將を見よ。

【日就月將】370 ヒニナリツキニススム　日に月に學業が進歩する。又、總て物事が日進月歩によくなることをいふ。〔詩、周頌、敬之〕日就月將、學有三緝二熙于光明一。〔傳〕將、行也。〔疏〕日就、謂四學レ之使三毎日有二成就一、月將、謂下至二於一月一、則有上可レ行、言レ當二習レ之以積一レ漸也。〔集傳〕將、進也、庶幾日有レ所レ就、月有レ所レ進。〔禮、孔子閒居〕無體之禮、日就月將。

【日失】371 ニッシツ　日々にうしなふ。〔韓愈、答二殷侍御一書〕日失月亡、以至二於老一。

【日習】372 ニッシフ　日に習ふ。毎日習ふ。〔中論、治學〕子夏曰、日習則學不レ忘、自勉則身不レ墮、亟聞二天下之大言一、則志益廣。〔宋史、兵志九〕訓練之制、禁軍月奉五百以上、皆日習二武技一、三百以下、或給レ役、或習レ技。

【日緝】373 ジッシフ　淸、梁熙(**6－14825**・・45)の字。

【日車】374 ニッシャ　太陽をいふ。〔莊子、徐無鬼〕若乘二日之車一、而遊二於襄城之野一。〔釋文〕司馬云、以レ日爲レ車也。〔劉潛、平等刹下銘序〕釋梵奪二其身光一、日車貶二其輪照一。〔王僧孺、禮佛唱導發願文〕尺波寸景、大力所レ不レ能レ駐、月御日車、雄才莫二之能遏一。〔任昉、禪二位梁王一策〕文教與二鵬翼一齊擧、武功與二日車一並運。〔李兀、九曲歌〕年歲晚暮時已斜、安得二力士一翻二日車一。

【日舍】375 ニッシャ　日がやどる。日含(113)を見よ。〔呂覽、古樂〕昔黃帝令三伶倫作二爲律一、伶倫自二大夏之西一、乃之二阮隃之陰一、取二竹於嶰谿之谷一、以二生空竅厚鈞者一、斷二兩節間一、其長三寸九分、而吹レ之、以爲二黃鐘之宮一、吹曰舍少、次制二十二筒一、以之二阮隃之下一、聽二鳳皇之鳴一、以別二十二律一。〔注〕六律六呂、各有レ管、故曰二十二筒一、舍成レ舍矣。〔畢沅注〕說苑、無二吹字一、舊本、曰作レ日、說苑作レ日、又舍作レ含、今曰字已據改正、其舍字亦訛、注舍成舍矣四字、亦不レ可レ曉、因レ有二此注一、舍字姑仍レ之、考二晉書及御覽五百六十五一、竝作二含少一。〔太平御覽、樂、律呂〕呂氏春秋曰、黃帝、云云、斷二兩節閒一、其長九寸、而吹レ之、以爲二黃鍾之宮一、日含少次制二十二管一、以二崑崙之下一、聽二鳳之鳴一、以別二十二律一。

【日者】376 ニッシャ　㊀占候卜筮する人。日の吉凶を見てうらなひする人。〔史記、日者傳、注〕集解曰、古人占候卜筮、通謂二之日者一、索隱曰、案名二卜筮一曰二日者一、以下墨所三以卜筮占二候時日一、通名中日者上故也。〔後漢書、方術傳序〕其流又有二風角・遁甲・七政・元氣・六日・七分・逢占・日者・挺專・須臾・孤虛之術一。〔注〕日者、卜二筮掌日一之術也、史記司馬季主爲二日者一、梃專折レ竹卜也。〔墨子、貴義〕子墨子北之レ齊遇二日者一。〔名義考〕日者、占二候時日一者也。〔事物紀原、伎術醫卜部、日者〕史記日者傳注云、古人通二卜筮一、則謂二之日者一、其事則周太卜之職也、墨子將二北之レ齊、過二日者一、注謂、當二是周末語一、然也。㊁さきには。さきの日。曩者。曩日。往者。乃者。先日。前日。迺者。〔戰國、趙策〕日者樓緩坐レ魏三月。〔漢書、高帝紀下〕日者荊王兼二有其地一。〔注〕師古曰、日者、猶二往日一也。〔漢書、卜式傳〕日者北邊有レ興。〔注〕師古曰、日者、往日也。〔漢書、韓延壽傳〕日者燕王無道。〔注〕師古曰、日者、猶レ言二往日一也。

【日者傳】377 ニッシャデン　日者の列傳。史記列傳の一つ。〔史記、太史公自序〕齊楚秦趙、爲二日者一、各有レ俗、所レ用欲三循觀二其大旨一、作二日者列傳第六十七一。

【日者衆陽之宗】378 ヒハシユウヤウノソウ　太陽は多くの陽のもとである。〔漢書、外戚下、孝成許皇后傳〕夫日者、衆陽之宗、天光之貴、王者之象、人君之位也。

【日射】379 ニッシャ　日が照る。日がさす。日が當る。〔杜甫、宣政殿退朝晚出二左掖一詩〕天門日射黃金牓、春殿晴曛赤羽旗。〔李商隱、日射詩〕日射二紗窗一風撼レ扉、香羅掩レ手春事違。

【日射病】380 ニッシャビャウ　炎暑の候に日光の熱に當り、腦充血を起して卒倒する病。あつさあたり。

【日斜】381 ニッシャ　日が斜にかたむく。日施。〔魏書、崔光傳〕旦及二日斜一、接對不レ憩。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕情盤景遽、歡洽日斜。〔鄭愔、銅雀妓詩〕日斜漳浦望、風起鄴臺寒。

【日昌】382 ジッシャウ　日のあきらかなこと。〔管子、小匡〕夫鳳皇之文、前二德義一後二日昌一。〔注〕前包二德義一、後有二日昌明一、先二德義一、乃可二以日昌一也。

【日斜二庚子一】383 ヒカウシニナナメナリ　かのえねの日の夕日がかたむく。漢の賈誼の舍に、四月孟夏、かのえねの日の夕方、服鳥があつまり、賈誼の死の前兆となつた故事。〔史記、賈誼傳〕有レ鴞飛入二賈生舍一、止二於坐隅一、楚人命レ鴞曰レ服、賈生既以レ適居二長沙一、長沙卑溼、自以爲二壽不レ得レ長、傷二悼之一、乃爲レ賦以自廣、其辭曰、單閼之歲兮、四月孟夏、庚子日施兮、服集二予舍一、止二于坐隅一、貌甚閒暇、異物來集兮、私怪二其故一、發レ書占レ之兮、策言二其度一曰、野鳥入處兮、主人將レ去。〔注〕集解曰、徐廣曰、施、一作レ斜。〔精註雅俗故事讀本、下、疾病死喪〕日斜二庚子一、知二賈誼之隕一レ生。

【日相】384 ニッシャウ　占法の一つ。日辰王相の法。〔後漢書、王景傳〕初景以爲、六經所レ載、皆有二卜筮一、作事擧止、質二於蓍龜一、而衆書錯糅、吉凶相反、乃參二紀衆家數術文書、冢宅禁忌、堪輿日相之屬一。〔注〕日相、謂二日辰王相之法一也。

【日商】385 ニッシャウ　日本商人。

【日章】386 ニッシャウ　㊀日々に明らか。〔中庸〕君子之道、闇然而日章。㊁太陽を畫いた旗。〔管子、兵法〕九章、一曰、擧二日章一則晝行、二曰、擧二月章一則夜行。㊂字號。㋑宋、竇偁(**8－25695**・・36)の字。㋺明、曾爟(**5－14297**・・42)の字。

【日章旗】387 ニッシャウキ　日の丸のはた。日のみはた。旭日旗。我が國の國旗。

【日彰】388 ジッシャウ　唐、敬晦(**5－13303**・・65)の字。

【日晶】389 ニッシャウ　日が明るく光る。〔柳宗元、渾鴻臚宅聞レ歌效二白紵一詩〕下沈秋水激二太淸一、天高地迥凝二日晶一。

【日上】390 ニチジャウ　日が上る。〔韓愈、石鼎聯句詩序〕及レ覺日已上、驚顧覓二道士一不レ見。〔唐彥謙、蒲津河亭詩〕煙橫博望乘二槎水一、日上文王避二雨陵一。〔翁承贊、題二壺山一詩〕秋高巖溜白、日上海波紅。〔六一詩話〕日上故陵煙漠漠、春歸空苑水潺潺。

【日上三竿】391 ヒノボルコトサンカン　日が出て三竿の高さに至ること。午前八九時頃をいふ。〔南齊書、天文志上〕日出高三竿。〔蘇軾、寄二題潭州徐氏春暉亭一詩〕曈曈曉日上三竿、客向二東風一競倚レ欄。〔張養浩、登二泰山一詩〕萬古齊州煙九點、五更滄海日三竿。

【日狀】392ニチジヤウ　日のかたち。日のありさま。〔南齊書、天文志下〕漢史云、西北有二三大星一、如二日狀一、名曰二天狗一。天狗出、則人相食。〔蘇軾、日喩〕生而眇者不レ識レ日、問二之有レ目者一、或告レ之曰、日之狀如二銅盤一、扣レ盤而得二其聲一、他日聞レ鐘、以爲レ日也。

【日常】393ニチジヤウ　❶太陽は恒常で變らない。永遠に變ることのない喩。〔宋史、樂志十四〕乾健坤順、羣生首資、日常月升、四時叶熙、帝嗣二天歷一、后崇二母儀一、黼黻承レ暉、王化是基。❷つねひごろ。ふだん。平常。〔狂言、武惡〕汝は日常の口程にもない。

【日常生活】394ニチジヤウセイクワツ　日頃のくらし。平素の生活。

【日常茶飯事】395ニチジヤウサハンジ　日常の食事。轉じて、普通のこと。何でもない平凡の事柄。

【日爍】396ニツシヤク　日が光りかがやく。〔江淹、雜詩、愛遠山〕臨二星胐一兮樹闇、看二日爍一兮霞淺。

【日雀】397ヒガラ　小鳥の名。

【日主】398ニツシユ　日の神。天主以外八神の一つ。〔漢書、郊祀志上〕七曰、日主祠二盛山一、盛山斗二入海一。

【日取】399ニツシユ　❶日々にとる。又、日々に折る。日取二其半一萬世不レ竭を見よ。❷ヒドリ　日を定めること。期日。〔戀八卦柱曆、道行乘合豹〕元服よしの日取りもよしや。

【日取草】400ヒドリグサ　つつじの異名。躑躅。

【日取二其半一萬世不レ竭】401ヒニソノナカバヲトレババンセイツキズ　短い杖でも言葉通りに半分半分と折り取つて行くならば、毎日折り取つても永久に盡きる時がない。〔莊子、天下〕一尺之棰、日取二其半一、萬世不レ竭。〔釋文〕司馬云、若其可レ折、則常有レ兩、若其不レ可レ折、其一常存、故曰、萬世不レ竭。〔疏〕棰、杖也、取、折也、問曰、一尺之杖、今朝折レ半、逮二乎後夕一、五寸存焉、兩日之閒、棰當二窮盡一、此事顯著、豈不レ竭之義乎、答曰、夫名以應レ體、體以應レ名、故以レ名求レ物、物不レ能レ隱也、是以執レ名責レ實、名曰二尺棰一、每於レ尺取、何有二窮時一、若於二五寸一、折レ之、便虧二名理一、乃曰二半尺一、豈是一尺之義耶。

【日首】402ニツシユ　日のはじめ。朔日の首。〔後漢書、律曆志下〕歲首至也、月首朔也、至朔同レ日、謂二之章一、同在二日首一、謂二之蔀一。

【日珠】403ニツシユ　太陽をいふ。〔皇甫湜、出世篇〕西摩二月鏡一、東弄二日珠一。

【日種】404ニツシユ　甘蔗の莖から生れ出た童子。〔本行經〕甘蔗王城、爾時彼地生二一甘蔗芽一、漸漸高大、至二熱日炙一開、剖二一莖蔗一、出二一童子一、更一莖蔗、出二一童女一、此童子者、以三日炙二甘蔗一生、故名二日種一、時彼諸臣卽灌二其頂一、立以爲レ王、其女至二年長一、卽拜爲二王第一妃一。

【日衆】405ニツシユウ　日におほし。日々に衆くなる。〔唐書、陸贄傳〕聚兵日衆、供費日博、常賦不レ給、乃議蹙限而加レ斂焉。

【日縱】406ヒノタタシ　東西に通ずる路筋。日のたて。〔日本書紀、成務紀〕五年秋九月、因以二東西一爲二日縱一、南北爲二日橫一。

【日宿】407ニツシユク　日のやどり。〔宋書、律歷志中〕候者皆知三日宿差二五度一、冬至之日、在二斗二十一度一、晦朔弦望、先レ天一日。

【日縮】408ニツシユク　日々にちぢまる。〔宋史、呂夏卿傳〕出知二潁州一、得二奇疾一、身體日縮、卒時纔如二小兒一。

【日蹙】409ニツシユク　日々にちぢまる。〔詩、大雅、召旻〕昔先王受レ命、有レ如二召公一、日辟レ國百里、今也日蹙レ國百里。〔傳〕蹙、促也。〔周書、晉蕩公濩傳〕季孟勢窮、伯珪日蹙、坐待二滅亡一、鑒二之愚智一。

【日出】410ニツシユツ　❶太陽が現れる。又、ひので。あさ。〔詩、檜風、羔裘〕日出有レ曜。〔史記、封禪書〕以迎二日出一云。〔孔子家語、五儀解〕日出聽レ政。〔元史、曆志一〕日出爲レ晝、日入爲レ夜。❷地名。㋑ヒイ　三河國の地名。㋺ヒヂ　豐後國の地名。

【日出國】411ヒイヅルクニ　我が國の美稱。中國を日入國といふに對す。〔大窪詩佛、皇統歌〕如何日出國、相傳自綿綿。

【日出山】412ヒヂヤマ　姓氏。

【日出生】413ヒヂフ　豐後國の地名。

【日出入】413′ニツシユツニフ　漢の郊祀歌十九章の一。人壽の短を歎き、六龍に駕して遊仙する志をのべたもの。〔漢書、禮樂志〕日出入安窮、時世不二與レ人同一、故春非二我春一、夏非二我夏一、秋非二我秋一、冬非二我冬一、泊如四海池、偏觀是耶謂レ何、吾知レ所レ樂、獨樂二六龍一、六龍之調、使二我心若一、訾黃其何不二徠下一。

【日出里】414ヒダチ　常陸國の地名。

【日出三竿】415ヒイヅルコトサンカン　日が出て三竿の高さに至る。午前八時頃をいふ。〔南齊書、天文志上〕日出高三竿、朱色赤黃。〔劉禹錫、竹枝詞〕日出三竿春霧消、江頭蜀客駐二蘭橈一。

【日出之鄉】416ニツシユツノクニ　我が國の美稱。東にあつて太陽の出る處にある國。〔弘道館記述義、上〕夫日出之鄉、陽氣所レ發、地靈人傑、食饒兵足。

【日出之光】417ニツシユツノヒカリ　日の出の輝き。勢のよいこと。〔顏氏家訓、勉學〕幼而學者、如二日出之光一、老而學者、如二秉レ燭夜行一。

【日出之邦】418ニツシユツノクニ　❶東方にある國。梯二航日出之邦一、冠二帶月支之域一を見よ。❷我が國の美稱。

【日出事還生】419ヒイヅレバコトマタシヤウズ　夜が明けると事件も亦隨つて生ずるをいふ。〔全唐詩話〕武元被レ刺前一日、作レ詩云、無レ因レ駐二清景一、日出事還生、遂爲二詩讖一。

【日出處天子】420ヒイヅルトコロノテンシ　我が國の天子をいふ。日本の天子。〔隋書、倭國傳〕大業三年、遣レ使朝貢、其國書曰、日出處天子、致二書日沒處天子一、無レ恙、帝覽レ之不レ悅。

【日出東南隅行】420′ニツシユツトウナングウカウ　樂府相和歌相和曲に屬する一曲。一に陌上桑ともいひ、又、艷歌羅敷行ともいふ。秦の一女子羅敷の貞潔のさまを歌ふもので、首句が「日出二東南隅一、照二我秦氏樓一」に始まることから、日出東南隅行と稱される。後、樂府題となり、陸機・謝靈運・沈約・張率・蕭子顯・陳後主・徐伯陽・殷謀・王褒・盧思道・蕭撝・李白・李賀などに、日出東南隅行と題する作品がある。陌上桑（**11－41617**‥5）を見よ。

【日出而作日入而息】421ヒイデテナシヒイリテイコフ　夜が明けると起出て働き、日が暮れると休む。自然に隨ひ安んじて無理をしない。〔莊子、讓王〕日出而作、日入而息、逍二遙於天地之閒一、而心意自得。〔擊壤歌〕日出而作、日入而息、鑿レ井而飮、耕レ田而食、帝力于レ我何有哉。〔逸士傳〕堯時、有二八九十老人一、擊レ壤歌曰、日出而作、日入而息、鑿レ井而飮、耕レ田而食、帝力何有二於我一哉。

【梯二航日出之邦一冠二帶月支之域一】422ニツシユツノクニニテイカウシゲツシノヰキニクワンタイス　東は日出づる邦に航海し、西は月支の國に冠帶すといふので、天子の德の廣く四方に及ぶをいふ。〔元史、伯顏傳〕表曰、恭惟皇帝陛下、道光二五葉一、統接二千齡一、梯二航日出之邦一、冠二帶月支之域一、際二丹崖一而述レ職、奄二瀚海一而爲レ家。

【日潤】423ニチジユン　❶日光のうららかなこと。〔劉禹錫、成都府新脩二福成寺一記〕雲鮮日潤、輝二映前後一。❷日々に照りかがやくこと。〔宋祁、玉津園省斂頌〕皇襟兌悅、帝暉日潤。

【日初】424ジツシヨ　清、王昱（**7－20823**‥31）の字。

【日如】425ジツジヨ　清、諸昇（**10－35743**‥159）の字。

【日舒】426ニチジヨ　❶日の運行がゆるやかなこと。〔後漢書、律曆志下〕日月相推、日舒月速、當二其同一、謂二之合朔一。❷日の如く舒べる。〔韓愈、魏博節度觀察使沂國公先廟碑銘〕風揮日舒、咸順二指令一。

【日升】427ニツシヨウ　❶日が出る。日升月恒を見よ。〔魏書、張彝傳〕壽保二南嶽一、德與レ日升。❷宋、鄧旦（**11－39630**‥80）の字。

【日升月恒】428ニツシヨウゲツコウ　日の出と月の上弦。勢の益〻盛になること。物事が進步發展する。〔詩、小雅、天保〕如二月之恒一、如二日之升一。〔傳〕恒、弦、升、出也、言二俱進一也。〔箋〕月上弦而就レ盈、日始出而就レ明。〔疏〕言、王德位日隆、有レ進無レ退、如三月之上弦、稍就二盈滿一、如三日之出稍益二明盛一、王既德位如レ是。

【日昇】429ジツシヨウ　明、黃暐（**12－47926**‥23）の字。

【日誦】430ニツシヨウ　每日唱へ讀む。〔南史、范雲傳〕六歲就二其姑夫袁叔明一、讀二毛詩一、日誦二九紙一。

【日衝】431ニツシヨウ　日がつき當る。又、日光がつき當る。〔元史、曆志一〕月道出二入日道一、兩相交値、當レ朔則日爲二月所一レ掩、當レ望則月爲二日所一レ衝、故皆有レ食。〔李紳、早渡二揚子江一詩〕日衝二海浪一翻二銀屋一、江轉二秋波一走二雪山一。

【日乘】432ニチジヨウ　❶陽氣が陰氣を凌ぎ壓へる。人君の勢力が強い喩。乘は凌ぐ意。〔後漢書、郎顗傳〕占曰、日乘則有二妖風一、日蒙則有二地裂一。❷日

記(116)に同じ。

【日繩】433 ニチジョウ 日々にただす。〔史記、商君傳〕君又南面而稱二寡人一、日繩二秦之貴公子一。

【日色】434 ニッショク ❶太陽のいろ。〔宋書、五行志〕後廢帝、元徽三年三月乙亥、日未レ沒數丈、日色紫赤無レ光。〔王維、和下賈舍人早朝二大明宮一之作上詩〕日色纔臨二仙掌一動、香煙欲下傍二衮龍一浮上。〔顧況、湖中詩〕青草湖邊日色低、黃茅嶂裏鷓鴣啼。❷（ヒイロ）姓氏。

【日昃】435 ニッショク ニッソク ひるすぎ。未の刻。午後の二時頃。日晡。過午。日仄。〔書、無逸〕自レ朝至二于日中昃一、不三遑二暇食一。〔傳〕從レ朝至二日昳一、不レ暇レ食。〔疏〕昃、亦名レ昳、言二日蹉跌而下一、謂二未時一也、故日之十位、食時爲レ辰、日昳爲レ未。〔荀子、哀公〕君平明而聽レ朝、日昃而退。〔漢書、董仲舒傳〕周文王至二於日昃一不レ暇レ食。〔韋昭、博奕論〕猶有二日昃待レ旦之勞一。

〖日昃之勞〗436 ニッショクノラウ 晝食を食べずに晝過ぎまで働くほねをり。〔後漢書、陳元傳〕文王有二日昃之勞一、周公執二吐握之恭一。〔注〕尙書曰、文王自レ朝至二于日中昃一、不三遑二暇食一。

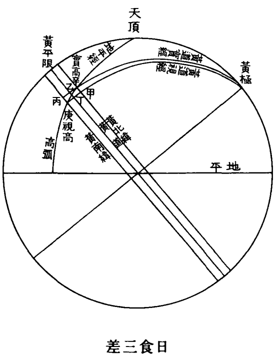
〖日昃之離〗437 ニッショクノリ 日が既に傾き、日沒にならうとして居る。久しくないこと。〔易、離〕日昃之離、不二鼓レ缶而歌一、則大耋之嗟、凶。〔注〕處二下離之終一、明在レ將レ沒、故曰二日昃之離一也、象曰、日昃之離、何可レ久也。

【日食】438 ニッショク 月が太陽と地球との閒に來て、太陽をおほふによつて生ずる現象。太陽が全部蔽はれる時を皆既食、太陽の面が月の周りに環狀にはみ出す時を全環食、月が太陽の一部を蔽ふ時を部分食といふ。日蝕。〔詩、小雅、十月之交〕十月之交、朔日辛卯、日有レ食レ之。〔集傳〕蘇氏曰、日食、天變之大者也。〔禮、昏義〕是故日食、則天子素服而脩二六官之職一、蕩二天下之陽事一。〔春秋、隱、三〕春王二月己巳、日有レ食レ之。〔左氏、昭、七〕誰將レ當二日食一。〔論語、子張〕子貢曰、君子之過也、如二日月之食一焉、過也、人皆見レ之、更也、人皆仰レ之。〔日知錄、天象術數、月食〕日食、月揜レ日也、月食、地揜レ月也、今西洋天文說如レ此、自二其法未レ入二中國一、而已有二此論一。

〖日食修レ德〗439 ニッショクトクヲヲサム 日食には德を修める。〔漢書、天文志〕星傳曰、日者德也、月者刑也、故曰、日食修レ德、月食脩レ刑。〔後漢書、桓帝紀〕傳不レ云乎、日食修レ德、月食修レ刑。

〖日食萬錢〗440 ニッショクバンセン 一日の食物に萬錢を費す。非常に豪奢なことをいふ。〔晉書、何曾傳〕性奢豪、務有二華侈一、帷帳車服、窮二極綺麗一、廚膳滋味、過二于王者一、每二燕見一不レ食二太官所一レ設、帝輒命取二其食一、蒸餠上不三拆作二十字一不レ食、食日萬錢、猶曰レ無二下レ箸處一。

〖日食三差圖〗441 ニッショクサンサノヅ 見る處によつて生ずる日食の三つの差を示した圖。高下・東西・南北の三差あり。〔曆象圖說舊本、日食三差圖、二〕設二太陰一、實高在レ乙、視高在レ庚、高弧上乙庚之距爲二高下差一、從二黃極一出二經線一、至二太陰實度乙一、又從二黃極一出二經線一、至二視度庚一、必過レ丁、黃道上乙丁之距爲二東西差一、實度乙正當二黃道一、視度庚在二黃道南一、其距二丁庚一緯度與二乙丙一等、是爲二南北差一。



日食三差
（曆象圖說舊本）

【日稷】442 ニッショク ひぐれ時。申の時。午後四時頃。〔穀梁、定、十五〕戊午、日下稷、乃克葬。〔注〕稷、昃也、下昃謂二晡時一。〔尙書中候〕禮備、至二於日稷一。〔古微書、孝經鉤命決〕日稷而赤光起。

【日蝕】443 ニッショク 月が太陽と地球の閒に來て太陽を蔽ふこと。日食。〔史記、天官書〕蓋略以二春秋二百四十二年之閒一、日蝕三十六。〔漢書、李尋傳〕日蝕有二背鄉一。〔晉書、天文志中〕日蝕、陰侵レ陽臣掩レ君之象。〔陽瑪諾天問略、日蝕問答〕問二日蝕所以一、曰、日蝕非三日失二其光一、乃月掩二其光一也、月之天在二日天之下一、朔時月輪正、過二日輪之下一、南北同經、東西同緯、故掩二其光一、若レ有レ失レ之耳。

【日燭】444 ニッショク 日々にかがやく。〔後漢書、班固傳下〕宣二二祖之重光一、襲二四宗之緝熙一、神靈日燭、光被二六幽一。

【日辰】445 ニッシン 日月星晨をいふ。〔周禮、春官、占夢〕掌二其歲時一、觀二天地之會一、辨二陰陽之氣一、以二日月星辰一、占二六夢之吉凶一。〔注〕天地之會建、厭二所レ處之日辰一。〔史記、歷書〕至二今上卽一レ位、招二致方士唐都一、分二其天部一、而巴落下閎、運レ算轉歷、然後日辰之度、與二夏正一同。

【日侵】446 ニッシン 日々に侵される。又、日々に侵す。〔呂覽、君守〕守レ職者舍レ職、而阿二主之爲一矣、有レ過則主無二以責一レ之、則人主日侵。〔宋史、張知白傳〕體素羸、憂畏日侵、在二中書一忽感レ風眩、輿歸レ第。

【日津】447 ニッシン 日が出る所。〔歐陽玄、辟雍賦〕東踰二若木之日津一、西探二崦嵫之月窟一、南窮二火維之阪一、北際二冰天之澨一。

【日神】448 ニッシン ❶佛 日をいふ。蘇利耶。〔翻譯名義集〕蘇利耶、此云二日神一、起世經云、日天宮縱廣五十一由旬、上下亦爾。❷ひのかみ。天照大神をいふ。〔日本書紀、神代紀、上〕於レ是共生二日神一、號二大日孁貴一。

【日深】449 ニッシン 日々に深くなる。〔素問、寶命全形論〕形之疾病、莫レ知二其情一、留レ淫日深、著二於骨髓一、心私慮レ之。〔宋史、寇準傳〕參政國之大臣、乃爲二官長一拂レ鬚邪、謂甚愧レ之、由レ是傾搆日深。

【日清】450 ニッシン 日本と清國。

〖日清戰爭〗451 ニッシンセンサウ 明治二十七、八年、我が國と清國との閒に行はれた戰。明治二十七年七月二十五日の豐島沖の海戰、同二十七日の牙山の戰から、同八月一日、宣戰の大詔煥發となり、明治二十八年四月十七日、下關に於て媾和す。

【日進】452 ニッシン ❶日々にすすむ。日增しによくなる。月步。〔荀子、天論〕君子敬二其在レ己者一、而不レ慕二其在レ天者一、是以日進也。〔謝靈運、辨宗論、答二僧維問一〕有二日進之功一。❷唐、渾瑊(**7**-**17800**・・14)の本名。

〖日進月步〗453 ニッシンゲツポ 日に月に進步すること。日を追うて進步發達すること。

【日新】454 ニッシン ❶日々に新しくなる。日々に舊非を改める。日毎に其の德を增新する。〔易、大畜〕象曰、大畜剛健篤實、輝光日新二其德一。〔易、繫辭上〕富有之謂二大業一、日新之謂二盛德一。〔疏〕其德日日增新。〔書、仲虺之誥〕德日新、萬邦惟懷。〔傳〕日新、不二懈怠一。〔蔡傳〕德日新者、日新二其德一、而不二自已一也。〔大學〕湯之盤銘曰、苟日新、日日新、又日新。〔章句〕言、誠能一日有下以滌二其舊染之汙一而自新上、則當下因二其已新者一而日日新レ之、又日新上レ之、不レ可三略有二閒斷一也。〔張衡、西京賦〕瑰異日新、殫所レ未レ見。〔張華、勵志詩〕進レ德脩レ業、暉光日新。❷北宋徽宗の時、後理(南詔)憲宗宣仁帝(段正嚴、一に段和譽に作る)の年號。(1108-1146)。❸字號。㋑後周、鄭仁誨(**11**-**39647**・・459)の字。㋺宋、趙德昭(**10**-**37171**・・820)の字。㋩宋、慕容德豐(**4**-**11088**・・78)の字。㋥宋、李澣(**6**-**14459**・・161)の字。㋭金、程輝(**8**-**25081**・・32)の字。㋬明、歐陽銘(**6**-**16185**・・103)の字。㋣明、蔡新(**9**-**31818**・・71)の字。㋠明、湯盤(**7**-**17874**・・111)の字。

〖日新館〗455 ニッシンクワン もと會津藩の學館。

〖日新志〗456 ニッシンノココロザシ 日に其の德を新たにする志。〔謝靈運、鄰里相二送方山一詩〕各勉二日新志一、音塵慰二寂蔑一。

〖日新堂〗457 ニッシンダウ 明、程啓南(**8**-**25081**・・188)の室名。

〖日新二其德一〗458 ヒニソノトクヲアラタニス 毎日舊習の惡德を去り、自ら良德につく。日新を見よ。〔管子、心術下〕正靜不レ失、日新二其德一。

〖日新月盛〗459 ニッシンゲッセイ 日を追うて新しいものが出來、月を重ねて盛になる。〔朱熹、中庸章句序〕異端之說、日新月盛。

〖日新不レ息〗460 ヒニアラタニシテヤマズ 時變に應じて、絕えず施設を新たにすること。〔重野成齋、大日本維新史序〕乾綱廣運、日新不レ息。

【日人】461 ニチジン ❶日本人。〔清史稿、邦交志〕日本、日人自設二巡捕一。❷西班牙人。

【日甚】462（ニチジン）　日に日に甚だしくなる。〔魏書、源懷傳〕肆二厥淫昏一、月滋日甚。

【日甚二一日一】463（ヒイチニチヨリハナハダシ）　一日一日と甚だしくなる。〔六部成語、戸部、日甚二一日一、注解〕言下逐日逐年、漸形衰敗、無レ有二起色一之意上。

【日盡】464（ニチジン）　❶日限が盡きる。〔戰國、燕策〕荆軻、云云、太子遲レ之、疑二其改悔一、乃復請レ之曰、日已盡矣、荆卿豈無レ意哉。❷日が暮れる。〔許棠、過二中條山一詩〕日盡行難レ盡、千重復萬重。

【日衰】465（ニッスイ）　日々に衰える。〔呂覽、序意〕福日衰、災日隆。〔越絶書、越絶計倪内經〕父子不レ和、兄弟不レ調、雖レ欲レ富也、必貧而日衰。

【日睟】466（ニッスイ）　日の光につやがあること。〔宋史、樂志十〕天清日睟、展二容玉庭一。

【日醉】467（ニッスイ）　毎日醉ふ。日々に醉ふ。〔呂覽、貴公〕人之少也愚、其長也智、故智而用レ私、不レ若二愚而用レ公、日醉而飾レ服、私利而立レ公、貪戾而求レ王、舜弗レ能レ爲。〔李頎、九月九日劉十八東堂集詩〕淹留悵爲レ別、日醉秋雲光。

【日瘁】468（ニチスイ）　日々にうれへる。〔詩、小雅、雨無正〕戎成不レ退、饑成不レ遂、曾我暬御、憯憯日瘁。〔傳〕瘁、病也。

【日瑞】469（ニチズイ）　日のめでたいしるし。〔韻府引、李商隱、賀二日抱レ戴表一〕日者衆陽之宗、人君之表、由レ是天降二日瑞一。

【日數】470（ニッスウ）　日かず。日の經過した數。〔詩、邶風、旄丘〕何多日也、〔箋〕與レ女期下迎二我君一而復上之、可レ來而不レ來、女日數何其多也。〔管子、地圖〕故將二出レ令發レ士、期有二日數一矣。

【日生】471（ジッセイ）　❶日が生ずる。〔無名氏、測景臺賦〕圭植二於臺一、日生二於海一、當二呈レ象以委レ照、必澄レ霞而賦レ彩。❷字號。㋑明、吳易（吳江の人）（2-3365・・26）の字。㋺清、張烺（4-9812・・717）の字。

【日西】472（ニッセイ）（ナヒセ）　❶日の西。賈疏に據れば、中表及び東西南北の四表の中の西表のある地の位置をいふ。〔周禮、地官、大司徒〕日南則景短多レ暑、日北則景長多レ寒、日東則景夕多レ風、日西則景朝多レ陰、日至之景、尺有五寸、謂二之地中一、天地之取レ合也、四時之取レ交也、風雨之取レ會也、陰陽之取レ和也。〔注〕玄謂、晝漏半而置二土圭一、表二陰陽一、審二其南北一、景短二於土圭一、謂二之日南一、是地於レ日爲レ近レ南也、景長二於土圭一、謂二之日北一、是地於レ日爲レ近レ北也、東二於土圭一、謂二之日東一、是地於レ日爲レ近レ東也、西二於土圭一、謂二之日西一、是地於レ日爲レ近レ西也、如レ是、則寒暑陰風、偏而不レ和、是未レ得二其取レ求也。〔疏〕周公度二日景一之時、置二五表一、五表者、於二潁川陽城一置二一表一、爲二中表一、中表南千里、又置二一表一、中表北千里、又置二一表一、中表東千里、又置二一表一、中表西千里、又置二一表一、云云、云二日西則景朝多レ陰者、爲二中表之西表一而言、是地於レ日爲レ近レ西、亦於二晝漏半一、中表景得レ正時、西表日未レ中、乃得二朝時之景一、故云二日西則景朝多レ陰。❷日が西に傾く。日暮。〔素問、生氣通天論〕平旦人氣生、日中而陽氣隆、日西而陽氣已虛、氣門乃閉。〔王昌齡、留二別岑參兄弟一詩〕日西石門嶠、月吐二金陵洲。〔柳宗元、雨晴至二江渡一詩〕江雨初晴思二遠步一、日西獨向二愚溪渡一。〔王建、題二渭亭一詩〕一片蔡州青草色、日西鋪在二古臺邊一。

【日成】473（ニッセイ）　日々の會計。〔周禮、天官、宰夫〕歲終則令三羣吏正二歲會一、月終則令レ正二月要一、旬終則令レ正二日成一、而以攷二其治一。〔疏〕日成、謂二日計一曰レ成也。〔周禮、天官、司會〕以二參互一考二日成一、以二月要一考二月成、以二歲會一考二歲成一。

【日制】474（ニッセイ）　日々におさへとどめる。〔晉書、劉寔傳〕聞、老者不下以二筋力一爲上禮、寔年踰二九十一、命在二日制一、遂自扶レ輿冒レ險而至、展二哀山陵一、致二敬闕庭一、大臣之節備矣。

【日姓】475（ニッセイ）　日の姓。〔雲笈七籤〕老子曆藏中經云、日月者、天地之司徒司空也、日姓張、名表、字長史、月姓文、名申、字子光。

【日青】476（ニッセイ）　太陽の色が青い。〔漢書、于定國傳〕永光元年、春霜夏寒、日青亡レ光。〔南史、侯景傳〕將レ登レ壇、白虹貫レ日三重、日青無レ色。〔宋史、劉摯傳〕摯因二久旱一上言、比日日青無レ光、風霾昏曀、上天警告、皆非二小變一、願進二忠良一、通二壅塞一、以答二天戒一。

【日星】477（ニッセイ）　日と星。〔禮、禮運〕故天秉レ陽垂二日星一。〔謝朓、爲二宣城公一拜章〕惟天爲レ大、日星度二其象一、謂地益厚、河岳宣二其氣一。〔文天祥、正氣歌〕下則爲二河嶽一、上則爲二日星一。

【日星隱レ曜】478（ニッセイヒカリヲカクス）　日月星辰も光をとざす。〔范仲淹、岳陽樓記〕陰風怒號、濁浪排レ空、日星隱レ耀、山岳潛レ形。

【日省】479（ニッセイ）　日々に我が身をかへりみる。〔論語、學而〕曾子曰、吾日三省二吾身一。〔大戴禮、主言〕使二有司日省一。〔魏書、李彪傳〕日省月課、實勞二神慮一。〔唐書、姚南仲傳〕陛下將二日省而時望一焉。

【日省月試】480（ニッセイゲッシ）　日に省視し月に試みる。毎日毎日其の働き振りを視察すること。〔禮、中庸〕官盛任使、所三以勸二大臣一也、忠信重レ祿、所二以勸レ士、時使薄斂、所三以勸二百姓一也、日省月試、既稟稱レ事、所三以勸二百工一也、送レ往迎レ來、嘉レ善而矜二不能一、所三以柔二遠人一也。〔注〕日省月試者、考二校其成功一也。〔孔子家語、王言解〕使二有司日省而時考一レ之。

【日旌】481（ニッセイ）　日々にあらはれる。〔謝翱、附庸畢詩〕間道遣二進表一、九門望二日旌一。

【日淒】482（ニッセイ）　日光が寒くすずしい。〔王炎、竹賦〕雪慘兮冰堅、風號兮日淒。

【日逝】483（ニッセイ）　日がゆき過ぎる。〔魏志、王烈傳〕日逝月除、時方已過。〔鮑照、望レ水詩〕東歸難二忖惻一、日逝誰與賞。

【日晴】484（ニッセイ）　空が晴れて日が明かなこと。〔唐德宗、三日書レ懷因示二百僚一詩〕風輕水初綠、日晴花更新。〔柳宗元、零陵春望詩〕日晴瀟湘渚、雲斷岣嶁岑。〔杜牧、醉倒詩〕日晴空樂下二仙雲一、俱在二涼亭一送二使君一。

【日棲】485（ニッセイ）　日が木にかかる。〔謝朓、遊二後園一賦〕日棲二榆柳一、霞照二夕陽一。

【日盛】486（ヒザカリ）　日が照る最中。夏の午後等をいふ。

【日靖】487（ニッセイ）　日々にはかる。又、日々に安んずる。〔詩、周頌、我將〕儀式二刑文王之典一、日靖二四方一。〔疏〕王肅云、善用法二文王之常道一、日謀二四方一、維天乃大二文王之德一、既佑助而歆二饗之一。〔集傳〕言、我儀式二刑文王之典一、以靖二天下一。

【日精】488（ニッセイ）　❶日の精光。〔晉書、天文志上〕陽燧可三以取二火于日一、而無下取二日于火一之理上、此則日精之生レ火明矣。❷日の精。〔雲笈七籤〕梁陶弘景傳、吳荊牧陶濬七代孫、名弘景、字通明、丹陽秣陵人也、母娠夢下日精在レ懷、幷一二天人降、手執中金香爐上、覺語二左右一曰、當レ孕二男子一、非二凡人一也、然恐レ無レ後、及レ生標異、幼而聽識、成而博達。❸菊の異名。〔爾雅、釋艸〕蘜、治蘠。〔注〕今之秋華菊。〔說文〕蘜、日精也、以二秋華一。〔段注〕許君剖二析菊一、爲二大菊蘧麥一、蘜爲二治蘠一、蘜爲二日精一、分二廁三所一、則許意治蘠別爲二一物一、與三郭注二爾雅一全殊、名醫別錄、秋華有二九名一、而無二治蘠一、則治蘠之非二秋華一可レ見。〔抱朴子、仙藥〕仙方所レ謂日精更生周盈、皆一菊而根莖花實異レ名。〔四民月令〕治蘠、日精、菊根之名也。〔藝林伐山〕菊有二兩種一、花大氣香莖紫者、爲二甘菊花一、此日精也。❹元の殿門の名。〔元史、禮樂志一〕分二左右一入二日精月華門一。❺霞をいふ。道家の語。〔黃庭經、注〕服二食日精一、金華充盈。〔宋之問、詠二王子喬一詩〕乘二騎雲氣一吸二日精一。〔事物異名錄、乾象、霞〕十洲記、霞者日精。❻ゆすらうめ。楊梅。〔雲仙雜記〕陸展郎中見二楊梅一歎曰、此果恐是日精、卽以二竹絲籃一貯二千枚一、幷二茶花蜜一、送二衡山道士一。❼雲母をいふ。〔海錄碎事、百工、藥名〕日精、雲母也、太上老君經。

【日精草】489（ニッセイサウ）　菊の異名。〔運步色葉集〕日精草、菊名。

【日靜】490（ニッセイ）　日々に靜か。〔宋書、禮志三〕弘二日靜之勤一、立二烝民之極一。

【日霽】492（ニッセイ）　日が輝き出て居る。〔岑羲、奉三和春日幸二望春宮一應制詩〕花笑鶯歌迎二帝輦一、雲披日霽俯二皇川一。〔盧綸、舟中寒食詩〕日霽開二愁望一、波喧警二醉眠一。

【日躋】493（ニッセイ）　日々に進む。〔詩、商頌、長發〕聖敬日躋。〔傳〕躋、升也。〔箋〕其聖敬之德日進。〔孔子家語、弟子行〕成湯恭而以恕、是以日躋。〔資治通鑑、晉紀〕（成帝、咸康元年）陛下春秋已長、聖敬日躋。〔注〕日躋、猶二日進一也。

【日少】494（ニッセウ）　❶日數がすくない。〔管子、霸言〕智者善謀、不レ如レ當レ時、精レ時者、日少而功多。❷日にすくなくなる。〔史記、大宛傳〕窺知二申生軍日少一。〔魏書、韓麒麟傳〕耕者日少、田有二荒蕪一。

【日抄】495（ニッセウ）日々ぬきがきする。又、其の書名。〔宋史、黃震傳〕所レ著日抄一百卷。

【日消】496（ニッセウ）日々に消えてなくなる。〔莊子、齊物論〕其殺如二秋冬一、以言二其日消一也。

【日昭】497（ニッセウ）宋、陳如晦(11－41698・・998)の字。

【日照】498（ニッセウ）㊀日が照らす。〔儲光義、秦中初霽獻二給事一詩〕雲開天地色、日照山河春。㊁縣名。金、置く。今、山東省諸城縣の南。東は黃海に臨む。〔讀史方輿紀要、山東、青州府、莒州〕日照縣、漢爲二海曲縣地一、置二鹽官於此一、名曰二日照一、魏晉以後、俱爲二莒縣地一、金始置二日照縣一、屬二莒州一、今編戶八十三里。〔淸史稿、地理志〕山東、沂州府、縣六、日照。㊂㋑唐の僧。中印度の人。呪術に巧。高宗の時、中國に來る。譯に大乘顯識經・大乘五蘊論等十八部がある。〔宋高僧傳、二〕。㋺唐の僧。岐下の人。姓は劉氏。衡山に至り、昂頭峯に登る。庵居すること先後三十餘年、咸通中、示寂す。年一百八歲。〔宋高僧傳、十二〕。

【日夕】499（ニッセキ）㊀夕方。晡時より黃昏に至る閒。〔詩、王風、君子于役〕日之夕矣、羊牛下來。〔史記、倉公傳〕臣意復診レ之曰、當二旦日日夕死一。〔陶潛、飮酒詩〕山氣日夕佳、飛鳥相與還。㊁ひるとよる。日夜。旦夕。〔列子、湯問〕將レ旦昧爽之交、日夕昏明之際。〔王粲、從軍詩〕日夕涼風發、翩翩漂二吾舟一。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕毒霧瘴氛、日夕發作。〔裴迪、鹿柴詩〕日夕見二寒山一、便爲二獨往客一。

【日迹】500（ニッセキ）日の運行したあと。〔南齊書、樂志〕聲正涵二月軌一、書文騰二日迹一。

【日積】501（ニッセキ）日々につみかさねる。〔南齊書、紀僧眞等傳論〕賄賂日積、苞苴歲通、富擬二公侯一、威行二州郡一。〔宋史、張致遠傳〕日積月聚、惟軍須二是慮一。

【日籍】503（ニッセキ）日本の戶籍に入ってゐる。

【日拙】504（ニッセツ）日々につたない。日々に仕事がうまくゆかない。日休(139)を見よ。〔書、周官〕作レ德、心逸日休、作レ僞、心勞日拙。〔傳〕爲レ僞、飾巧百端、於レ心勞苦、而事日拙、不レ可レ爲。〔蔡傳〕作レ僞則揜護不レ暇、故心勞而日著二其拙一矣。

【日絶】505（ニチゼツ）日々に絶つ。〔國語、周語下〕視遠日絶二其義一、足高日棄二其德一、言爽日反二其信一。〔注〕言三日日絶二其宜一也。

【日涉】506（ニッセフ）日が經過して行くこと。一日一日と。〔陶潛、歸去來辭〕園日涉以成レ趣、門雖レ設而常關。

〖日涉園〗507（ジッセフエン）室名。㊀宋、李彭(6－14459・・659)の室名。㊁明、陳所蘊(11－41698・・993)の室名。

【日千】509（ジッセン）明、吳騏(2－3365・・97)の字。

【日川】510（ジッセン）明、傅瀚(1－939・・22)の字。

【日宣】511（ニッセン）日々にあきらかにする。〔書、皐陶謨〕日宣二三德一、夙夜浚明、有レ家。

【日扇】512（ニッセン）日が照りあふぐこと。〔蕭子顯、詠二苑中遊人一詩〕迴レ身隱二日扇一、却レ步斂二風裾一。

【日淺】513（ニッセン）日數がすくない。〔漢書、外戚下、孝成許皇后傳〕元帝悼三傷母恭哀后居レ位日淺、而遭二霍氏之辜一。〔唐書、房玄齡杜如晦傳贊〕任レ事日淺。

【日遷】514（ニッセン）㊀日がうつる。〔宋書、律曆志中〕若使二日遷次留一、則無レ事。㊁日々にうつる。〔晁補之、北渚亭賦〕事以日遷而山不レ改、則物之可レ樂、固不レ可二得而留一也。

【日鮮】515（ニッセン）日本と朝鮮。日韓。

【日瞻】516（ニッセン）日々に足りてゆたか。〔宋史、兵志八〕職田日瞻、不レ足レ差レ兵。

【日前】517（ニチゼン）㊀太陽の前方。〔漢書、天文志〕太白出二西方一、進在二日前一。〔宋書、律曆志中〕木晨與レ日合、云云、在二日前一、夕伏二西方一。㊁jih⁴ ch'ien² ㋑一昨日。㋺いつぞや。日外。㋩數日前。先日。㊂（ヒクマ）周防國の地名。

【日漸】518（ニチゼン）日々にすすむ。〔莊子、人閒世〕夫以レ陽爲レ充孔揚、采色不レ定、常人之所レ不レ違、因案二人之所一レ感、以求三容二與其心一、名レ之曰二日漸之德不一レ成、而況大德乎。〔宗欽、贈二高允一詩〕林崇日漸、明升斯進。

〖日漸之德〗519（ニチゼンノトク）日に日に進む德。〔莊子、人閒世〕名レ之曰二日漸之德不一レ成、而況大德乎。〔疏〕日將二漸漬之德一、尚不レ能レ成、況乎鴻範聖明、如何可レ望也。

【日膳】520（ニチゼン）毎日食膳にそなへる食物。〔庾信、周柱國大將軍拓跋儉神道碑〕一室之中、未レ免二虛白一、日膳之資、三杯而已。〔唐書、張孝忠傳〕貞元二年河北蝗、孝忠與二其下一同二粗淡一、日膳裁二豆踖一而已、人服二其儉一、推爲二賢將一。〔梅堯臣、使者自二隨州一來知三尹師魯寓二止僧舍一云云詩〕日膳或雞㹠、時蔬多二筍芋一。

【日蘇】521（ニッソ）日本とソヴイエトロシア。

【日奏】522（ニッソウ）中古、禁中で宿直者の姓名を日々奏上すること。〔內藏寮式〕凡日奏者、允已上一人、升二南殿東階一進、內侍臨二東檻一轉取奏レ之。

【日送】523（ニッソウ）日々に送る。〔魏志、張遼傳〕疾未レ瘳、帝迎レ遼就二行在所一、車駕親臨、執二其手一、賜以二御衣一、太官日送二御食一。

【日瘦】524（ニッソウ）日々にやせる。〔杜甫、無家別詩〕人行見二空巷一、日瘦氣慘淒。〔黃庭堅、夜宿二歌羅驛一夢二李白一詩〕命輕人鮓甕頭船、日瘦鬼門關外天。

【日增】525（ニチゾウ）日々に增す。〔杜預、論二水利一疏〕往者、東南草創人稀、故得二水田之利一、自レ頃戶口日增、而陂堨歲決。〔宋史、職官志五〕比年上內舍人日增。

〖日增月盛〗526 jih⁴ tsêng¹ yüeh⁴ shêng⁴ ㊀日に月に盛大となる。㊁資產負債表と損益對照表とを混同したやうな一種の報告書。

【日仄】527（ニッソク）ひるすぎ。日昃(435)に同じ。〔漢書、蕭望之傳〕遂行日仄、至二周召一乃留乎。

〖日仄之勞〗528（ニッソクノラウ）晝食を食べずに晝過ぎまで働くほねをり。日昃之勞(436)に同じ。〔漢書、薛宣傳〕躬有二日仄之勞一、而亡二佚豫之樂一。

【日息】529（ニッソク）日々にそだちふえる。〔易林〕桃李花實、纍纍日息。〔張子正蒙〕益レ物必誠、如二天之生レ物、日進日息一、自益必誠、如二川之方至一、日增日得。

【日側】530（ニッソク）日が西に入らうとする時。〔儀禮、既夕禮〕有司請二祖期一、曰、日側。〔後漢書、光武帝紀下〕每旦視レ朝、日側乃罷。

【日損】531（ニッソン）日々にへる。日々に損する。〔宋書、天竺迦毗黎國傳〕所謂積漸者、日損之謂也、當下先遺二其所一レ輕、然後忘二其所一レ重、使中利欲日去、淳白自生上耳。

〖日損齋〗532（ニッソンサイ）元、黃溍(12－47926・・521)の號。

〖日損齋筆記〗533（ニッソンサイヒッキ）書名。一卷。元、黃溍撰。經史子集を夫〻辨訂す。論史の十六條は尤も根據がある。附錄一卷・攷證一卷は淸、陳熙晉の撰。〔四庫提要、子、雜家類〕・〔守山閣叢書、第九十一冊〕・〔金華叢書、第九十六冊〕。

【日墮】534（ニチダ）日が墮ちる。日が暮れる。〔李白、出二妓金陵子一呈二盧六一詩〕相逢不レ覺レ醉、日墮歷陽川。〔高啓、周謝國史遊二鍾山一云云詩〕莫レ嫌痴客暮未レ返、日墮江水鴉飛還。

【日待】535（ヒマチ）日を祭ること。大抵、正月・五月・九月の吉日を擇んで行ふ。この夜寢ねずして連歌・楊弓・圍碁などをする。〔日次紀事、正月〕凡良賤、正五九月涓二吉日一、主人齋戒沐浴、自レ暮至レ朝不二少寢一、其閒、親戚朋友、聚二其家一雜遊、令レ醒二主人睡一、或倩二僧侶陰陽師一、令レ誦二經咒一、待二朝日出一、而獻二供物一、祈二所願一、是謂二日待一、云云、待月、其式粗同、凡日待之遊。

【日退】536（ニッタイ）㊀太陽があとじさりする。〔淮南子、覽冥訓〕魯陽公與レ韓搆レ難、戰酣日暮、援レ戈而撝レ之、日爲レ之退三舍。㊁日々に退歩する。日々に其の勢力が衰へる。〔史記、衞將軍傳〕自レ是之後、大將軍青日退、而驃騎日益貴、擧二大將軍故人門下一多去レ事、驃騎輒得二官爵一、唯任安不レ肯。

【日替】537（ニッタイ）㊀日々に換へる。〔宋書、周朗傳〕然習慧者、日替二其修一、束誡者、月繁二其過一。㊁日々にすたる。〔江淹、爲二蕭太尉一上二便宜一表〕自レ頃政教日替、敦教月虧。

【日戴】538（ニッタイ）ひがさ。日の周圍をとりまく雲氣。日暈(28)に同じ。〔晉書、天文志中〕日戴者、形如二直狀一、其上微起、在二日上一爲レ戴、戴、德也、國有レ喜也。

【日體】539（ニッタイ）太陽の本體。〔禮、月令、題疏〕日體在二婁星之東一、去レ婁二萬里一。〔宋書、禮志一〕合朔之時、或有二日掩一レ月、或有二月掩一レ日、月掩レ日則蔽二障日體一、使二光景有一レ虧、故謂二之日蝕一。〔元史、天文志一、日薄食珥及日變〕至元二十九年正月、甲午朔、日有レ蝕之、有レ物漸侵二入日中一、不レ能レ既二日體一、如二金環一。

【日當】540（ヒアタリ）㊀日光がさすこと。又、其の場所。

㊁（ニツタウ）一日幾何と定めて給する給金。㊂（ヒナタ）美濃國の地名。

〖日當レ午〗541（ヒゴニアタル）　まひるになる。午は眞南の方角。太陽の正午に當る最も熱い時をいふ。〔李紳、憫レ農詩〕鋤レ禾日當レ午、汗滴禾下土、誰知盤中飧、粒粒皆辛苦。

【日堂】542（ジツダウ）　淸、盧軒（**8－23050**··56）の號。

【日幢】543（ニツタウ）　日に兩耳が生じ、長く下垂して地に通ずるものをいふ。久晴の兆。〔婁元禮、田家五行〕日生レ耳、主二晴雨一、諺云、云云、日生二雙耳一、斷レ風截レ雨、若是長而下垂通レ地、則又名二日幢一、主二久晴一。

【日道】544（ニチダウ）　太陽の通過する道。赤道の南北二十四度の間。今は二十三度半。〔禮、月令、題疏〕赤道之北二十四度、爲二夏至之日道一、去二北極一六十七度也、赤道之南二十四度、爲二冬至之日道一、去二南極一六十七度。〔後漢書、律曆志下〕日道發レ南、去レ極彌遠。〔唐書、曆志三上〕日道表曰二陽曆一、其裏曰二陰曆一。〔李白、明堂賦〕掩二日道一、遏二風路一。

【日擇】545（ヒエリ）　よい日をえらぶこと。吉日をえらぶ。

【日脫】546（ニチダツ）　日々に脫する。〔素問、疏五過論〕精華日脫、邪氣乃幷、此治之二過也。

【日丹】547（ニツタン）　仙藥の名。〔黃庭內景經〕攝レ魂還レ魄、永無レ傾。〔注〕若有二飢渴一、聽レ飮二月黃日丹一。

【日旦】548（ニツタン）　あさ。〔大戴禮、曾子立事〕日旦就レ業、而夕自省思、以歿二其身一、亦可レ謂レ守レ業矣。〔史記、龜策傳〕常以二日旦一祓レ龜。

【日啖】549（ニツタン）　毎日くらふ。日瞰。〔蘇軾、食二荔支一詩〕日啖二荔支三百顆一、不レ妨三長作二嶺南人一。

【日短】550（ニツタン）　日が短い。冬至の節をいふ。〔書、堯典〕日短星昴、以正二仲冬一。〔傳〕日短、冬至之日、昴白虎之中星。〔陸雲、九愍、考志〕景彌修而日短、時愈促而夜長。

〖日短至〗551（ニツタンシ）　冬至をいふ。〔禮、月令〕日短至、則伐レ木取二竹箭一。

【日端】552（ニツタン）　あした。あかつき。旦。〔呂覽、疑似〕明日端、復飮二於市一、欲三遇而刺二殺之一、明旦之レ市而醉、其眞子恐二其父之不一レ能レ反。

【日瞰】553（ニツタン）　毎日くらふ。〔蘇轍、子瞻和二陶淵明詩集一引〕東坡先生謫二居儋耳一、寘二家羅浮之下一、獨與二幼子一過、負擔渡レ海、葺二茅竹一而居レ之、日啗二蓀芋一。〔曹蕃、荔枝譜〕荔枝出二長樂縣六都一者佳、余留省、士紳陸續見レ貽、可二五千顆一、日瞰不レ能レ盡。

【日澹】554（ニツタン）　日の光の靜かなこと。〔李咸用、塘上行〕橫塘日澹秋雲隔、浪織輕飂羅羃羃。〔陳泰、遊二定林寺一詩〕山空鐘自響、日澹鶴將レ回。

【日黮】555（ニツタン）　日が照りかがやく。日曜。〔啇子、禁使〕今夫幽夜、山陵之大、而離婁不レ見、淸朝日黮、則上別二飛鳥一、下察二秋毫一。

【日暖】556（ニチダン）　日があたたかい。〔岑參、山房春事詩〕風恬日暖蕩二春光一、戲蝶遊蜂亂入レ房。〔杜甫、奉レ和二賈至舍人早朝大明宮一詩〕旌旗日暖龍蛇動、宮殿風微燕雀高。〔李嘉祐、與二鄭錫一遊レ春詩〕日暖臨二芳草一、天晴憶二故鄉一。

【日壇】557（ニチダン）　淸代、毎年春分の日に天子が太陽を禮拜する處。北京朝陽門外に在る。〔淸會典事例、禮部、中祀、春分朝〕順治八年題准、大明之神、從二祀圜丘外一、更於二朝陽門外一建二立日壇一、每年於二春分日卯時一、致レ祭。〔北京指南、名勝、壇廟〕日壇、在二朝陽門外東郊一、制方、西嚮。

【日地】558　jih^4 ti^4　滿洲で一頃の地をいふ。

【日知】559（ニツチ）　日々に知る。〔論語、子張〕日知二其所一レ亡、月無レ忘二其所一レ能、可レ謂レ好レ學也已矣。

〖日知堂〗560（ニツチダウ）　室名。㊀淸、郭沛霖（**11－39474**··394）の室名。㊁淸、鄭端（**11－39647**··214）の室名。

〖日知錄〗561（ニツチロク）　書名。三十二卷。淸、顧炎武撰。此の書は炎武が書を讀んで得る所があれば、隨つて筆記したものであるから日知と名づけた。故に書中門目を分たないが、略〻類を以て編集してある。一事每に必ず其の始末を明かにし、異同を究め、考證極めて精確、三十四年を費して成るといふ。一卷—七卷は經義、八卷—十二卷は政事、十三卷は世風、十四・十五卷は禮制、十六・十七卷は科擧、十八卷—二十一卷は藝文、二十二卷—二十四卷は名義、二十五卷は古事眞妄、二十六卷は史法、二十七卷は注書、二十八卷は雜事、二十九卷は兵及び外國の事、三十卷は天象術數、三十一卷は地理、三十二卷は雜考證。黃汝成は諸家の說を集めて集釋三十二卷を作り、又、刊誤二卷・續刊誤二卷を撰す。〔四庫提要、子、雜家類〕。

〖日知薈說〗562（ニツチワイセツ）　書名。四卷。淸、乾隆帝撰。其の自作の論說を集めたもの。〔四庫提要、子、儒家類〕。

〖日知錄之餘〗563（ニツチロクシヨ）　書名。四卷。淸、顧炎武撰。〔風雨樓叢書、第二十三・二十四冊〕。

【日致】565（ニツチ）　一日で到達する。〔韓非子、難勢〕夫良馬固車、五十里而一置、使二中手御一レ之、追レ速致レ遠、可二以及一也、而千里可二日致一也。

【日置】566（ヘキ）　㊀地名。㋑長門國の地名。㋺若狹國の地名。㋩丹波國の地名。㋥但馬國の地名。㋭肥後國の地名。㋬日向國の地名。㋣（ヘギ）尾張國の地名。㊁姓氏。

〖日置田〗567（ヒオキダ）　雜色田の一つ。每日の祭祀に供すべき料田といはれるべきだ。〔民部省式、上〕出雲國、置二內外日置田二町一。

【日遲】568（ニツチ）　日の運行が遲い。〔詩、小雅、天保〕如二月之恆一如二日之升一。〔疏〕日月在レ朔交會、俱右二行於天一、日遲月疾。〔元史、曆志二〕日月俱東行、而日遲月疾、月追及レ日、是爲二一會一。

【日晝】569（ニツチウ）　晝閒。〔戴叔倫、桂陽北嶺偶過二野人所一レ居聊書二卽事一呈二王永州邕・李道州圻一詩〕日晝風煙靜、花明草樹繁。

【日鑄】570（ニツチウ）　㊀茶の名。草茶の一種。浙江紹興に產し、絕品と稱せらる。日注。〔宋史、食貨志下六〕茶之產二于東南一者、雪川顧渚、生二石上一者、謂二之紫筍一、毗陵之陽羨、紹興之日鑄、婺源之謝源、隆興之黃龍・雙井、皆絕品也。〔會稽志〕日鑄嶺、在二會稽縣東南五十五里一、嶺下有レ寺、名二資鑄一、其陽坡、朝暮常有二日色一、產レ茶絕奇、日鑄、他書及士人、皆用二此鑄字一、惟歸田錄則書爲二日注一。㊁嶺の名。浙江紹興府城の東南。古、歐冶子が劍を鑄た所といふ。〔明一統志〕日鑄嶺、在二紹興府城東南五十里一、昔歐冶子鑄二劍于此一。

【日逐】571（ニツチク）　匈奴の國名。日逐王を見よ。〔後漢書、南匈奴傳〕薁鞬日逐、夙來欲レ爲二不善一。〔王褒、四子講德論〕今聖德隆盛、威靈外覆、日逐擧レ國而歸レ德、單于稱レ臣而朝賀。〔注〕向曰、日逐・單于、皆匈奴名。〔晉書、匈奴傳〕呼延氏最貴、則有二左日逐右日逐一、世爲二輔相一。〔虞羲、詠二霍將軍北伐一詩〕日逐次亡レ精。〔通鑑輯覽注〕日逐、匈奴屬王號、居二西邊一、領二西域諸國一。

〖日逐王〗572（ニツチクワウ）　匈奴の爵名。匈奴の西邊の西域諸國を管領する。左右賢王及び左右谷蠡王を四角といひ、左右日逐王・左右溫禺王及び左右斬將王を六角となし、合はせて十角と總稱した。皆單于の子弟を封じ、次を以て單于となり得るものである。〔漢書、鄭吉傳〕神爵中、匈奴乖亂、日逐王先賢撣、欲レ降レ漢。〔漢書、匈奴傳上〕左賢王病死、其子先賢撣不レ得レ代、更以爲二日逐王一、日逐王者、賤二於左賢王一。〔後漢書、南匈奴傳〕其大臣貴者、左賢王、次左谷蠡王、次右賢王、次右谷蠡王、謂二之四角一、次左右日逐王、次左右溫禺鞮王、次左右斬將王、是爲二六角一、皆單于子弟、次第當レ爲二單于一者也。

【日秩】573（ニツチツ）　每日の食物。禮記王制には九十歲の者には每日珍美な食物を贈つて養ふとある。〔禮、王制〕九十、日有レ秩。〔注〕秩、常也、有二常膳一也。〔魏志、孫資傳、位特進、注〕置二舍人官騎一、加以二日秩肴酒之膳一焉。

【日長】574（ニツチヤウ）　㊀夏至の節。〔禮、月令〕是月也、日長至、陰陽爭、死生分。〔疏〕長至者、謂二此月之時日長之至極一、大史漏刻、夏至晝漏六十五刻、夜漏三十五刻、是日長至也。㊁日が長い。日永。〔國語、吳語〕年穀時孰、日長炎炎。〔白居易、日長詩〕日長晝加レ飱、夜短朝餘レ睡。〔陸游、晨起詩〕新春猶一月、已覺二日微長一。㊂年月がながい。〔晉書、李密傳〕臣盡二節於陛下一之日長、而報レ劉之日短也。㊃日々に長ずる。〔左氏、昭、十八、夫學殖也、疏〕夫學如レ殖、殖二草木一也、令二人日長月進一、猶三草木之生二枝葉一也。〔宋史、孫升傳〕正道日長、而邪慝日消。

〖日長至〗575（ニツチヤウシ）　夏至。日長の㊀を見よ。

〖日長一線〗576（ニツチヤウイツセン）　冬至後は日々日影が一線づつ長くなる。日に日に日永になるをいふ。〔唐雜錄〕唐宮中以二女工一揆二日之長短一、冬至後、日晷漸長、比二常日一增二一線之工一。〔荊楚歲時記〕

晉魏間、宮中以二紅線一量二日影一、冬至後、日影添二長一線一。〔杜甫、至日遣興云云詩〕何人錯憶窮愁日、愁日愁隨二一線一長。

【日長如二小年一】577 ヒナガクシテセウネンノゴトシ　一日が一年程長いやうに思はれる。〔鶴林玉露、人、山靜日長〕唐子西詩云、山靜似二太古一、日長如二小年一。

【日張】578 ニッチャウ　日に日に騰貴する。

【日中】579 ニッチュウ　❶日が中天に至る時。正午。〔左氏、宣、十二〕卒偏之兩、右廣初駕、數及二日中一、左則受レ之、以至二于昏一。〔史記、司馬穰苴傳〕旦日日中會二於軍門一。〔史記、平原君傳〕日出言レ之、日中不レ決。〔漢書、原涉傳〕至二日中一奴不レ出。❷日のある間。ひるま。白晝。〔易、繫辭下〕日中爲レ市、致二天下之民一、聚二天下之貨一、交易而退、各得二其所一、蓋取二諸噬嗑一。〔說苑、建本〕壯而好レ學、如二日中之光一。〔梁簡文帝、移市教〕日中總會、交易遷移。❸日夜等しいとき。春分。秋分をいふ。〔書、堯典〕日中星鳥、以殷二仲春一。〔傳〕日中、謂二春分之日一。〔疏〕於レ日晝夜中分、刻漏正等。〔蔡傳〕日中者、春分之刻、於二夏永冬短一爲二適中一也、晝夜皆五十刻、擧レ晝以見レ夜、故曰レ日。〔左氏、莊、二十九〕凡馬日中而出、日中而入。〔注〕日中、春秋分也。〔疏〕中者、謂二日之長短與レ夜中分一、故春秋二節、謂二之春分秋分一也、釋例曰、春秋分而晝夜等、謂二之日中一。❹日本と中國。

【日中始】580 ニッチュウシ　上古の人。肩吾の師。〔莊子、應帝王〕肩吾見二狂接輿一、狂接輿曰、日中始何以語レ女。〔疏〕日中始、賢人姓名、卽肩吾之師也。

【日中昃】581 ニッチュウショク　日の正午と暮。一日中。終日。〔書、無逸〕自レ朝至二于日中昃一、不レ遑二暇食一、用和二萬民一。〔傳〕從レ朝至二日昳一不レ暇レ食。〔疏〕或至二於日中一、或至二於日昃一。〔蔡傳〕自レ朝至二于日之中一、自レ中至二于日之昃一、一食之頃、有レ不二遑暇一。

【日中之日】582 ニッチュウノヒ　正午頃の太陽。盛なものの喩。〔佐藤一齋、言志耋錄〕四十至二六十一、如二日中之日一。

【日中則移】583 ヒチュウスレバスナハチウツル　太陽も正午になればそれからだんだん傾く。盛な者は必ず衰へる喩。盈つれば缺ける。日中則移月滿則虧を見よ。

【日中則昃】584 ヒチュウスレバスナハチカタムク　盛な者は必ず衰へる喩。日中則移。日中則昃月盈則食を見よ。

【日中費用】585 jih^4 chung^1 fei^4 yung^4　雜用。雜費。

【日中則移月滿則虧】586 ヒチュウスレバスナハチウツリツキミツレバスナハチカク　盛極まれば必ず衰へる喩。日中則昃月盈則食。〔史記、蔡澤傳〕日中則移、月滿則虧。

【日中則昃月盈則食】587 ヒチュウスレバスナハチカタムキツキミツレバスナハチショクス　盛な者は必ず衰へる喩。〔易、豐〕彖曰、日中則昃、月盈則食、天地盈虛、與レ時消息、而況於レ人乎、況於二鬼神一乎。〔疏〕此孔子因レ豐設レ戒、以上言下王者以二豐大之德一照二臨天下一、同中於日中上、然盛必有レ衰、自然常理、日中至盛、過レ中則昃、月滿則盈、過レ盈則食。〔孔子家語、六本〕日中則昃、月盈則食、天地盈虛、與レ時消息。

【日中必熭操レ刀必割】588 ヒチュウスレバカナラズエイシタウヲトレバカナラズサク　日が中天に至れば必ず日にさらしかわかし、刀を手にとれば必ず人を殺す。機會を失はぬ喩。熭は曝乾、さらす、一に彗に作る。〔六韜、文韜守土〕日中必熭、操レ刀必割、執レ斧必伐。〔漢書、賈誼傳〕黃帝曰、日中必熭、操レ刀必割、今令二此道順而全安一甚易、不レ肯二早爲一、已乃墮二骨肉之屬一而抗二剄之一、豈有レ異二秦之季世一虖。〔注〕孟康曰、日中盛者必暴熭也、臣瓚曰、太公曰、日中不レ熭、是謂レ失レ時、操レ刀不レ割、失二利之期一、言レ當レ及レ時也。

【日注】589 ニッチュウ　茶の名。草茶の一種。浙江省紹興縣の日鑄嶺附近に產するもの。日鑄。〔歸田錄、上〕臘茶出二於劍建一、草茶盛二於兩浙一、兩浙之品、日注爲二第一一、云云、以二常茶十數斤一養レ之、用辟二暑濕之氣一、其品遠出二日注上一、遂爲二草茶第一一。

【日女】590 メヒ　日のむすめの義。普通には姬・媛の字をあてる。

【日重】591 ニッチョウ　日に日に重くなる。〔後漢書、東平憲王傳〕自以二至親一輔レ政、聲望日重、意不二自安一。〔唐書、食貨志二〕貨日重而錢日輕矣。

【日重光】592 ニッチョウクヮウ　漢の明帝が太子の時、之を贊した歌詩の名。〔古今注、音樂〕漢明帝爲二太子一、樂人作二歌詩四章一、以贊二太子之德一、其一曰二日重光一。

【日重光行】593 ニッチョウクヮウカウ　樂府、相和歌辭、瑟調曲の名。羣臣が漢の明帝の德を贊して作つたもの。晉の陸機に歌辭がある。〔樂府詩集、相和歌辭、瑟調曲、日重光行〕古今樂錄曰、王僧虔技錄、有二日重光行一、今不レ傳、崔豹古今注曰、日重光月重輪、羣臣爲二漢明帝一作也、明帝爲二太子一、樂人作二歌詩四章一、以贊二太子之德一、一曰日重光、二曰月重輪、三曰星重輝、四曰海重潤、漢末喪亂、後二章亡、舊說云、天子之德、光明如レ日、規輪如レ月、衆輝如レ星、霑潤如レ海、太子比レ德、故云レ重也。〔陸機、日重光行〕日重レ光、奈何天回薄、日重レ光、冉冉其遊如二飛征一、日重レ光、今我日華華之盛、日重レ光、倏忽過亦安停、日重レ光、盛往衰亦必來、日重レ光、譬如二四時固恒相催一、日重レ光、惟命有二分營一、日重レ光、但惆悵才志、日重レ光、身沒之後無二遺名一。

【日直】594 ニッチョク　毎日交代して當直勤務に服すること。日々の宿直。

【日飭】595 ニッチョク　日々にいましめただす。〔道德指歸論〕身日飭而德日消、智逾多而迷益深。

【日沈】596 ニッチン　日が沈む。〔賈島、鄭尙書新開二涪江一詩〕日沈源出レ海、春至草生レ灘。〔杜牧、長安雜題詩〕傖釣二侯家一池上雨、醉吟二隋寺一日沈鐘。〔杜荀鶴、舟行晚泊二江上寺一詩〕日沈山虎出、鐘動寺禽歸。

【日通】597 ニッツウ　日々に通ずる。〔後漢書、廉范傳〕遷爲二雲中太守一、會匈奴大入レ塞、烽火日通、自率二士卒一拒レ之。

【日墜】598 ニッツイ　日が墜ちる。〔宋史、寧宗紀一〕光宗第二子也、母曰二慈懿皇后李氏一、光宗爲二恭王一、慈懿夢下日墜二于庭一、以レ手承上レ之、已而有レ娠。

【日低】599 ニッテイ　日がひくくたれる。〔岑參、首春渭西郊行云云詩〕秦女峰頭雪未レ盡、胡公陂上日初低。

【日帝】600 ニッテイ　日の天子。天帝。〔雲笈七籤〕廣霞者、玉清天中山名、乃九日之所レ出、日帝之所レ司也。

【日貞】601 ニッテイ　日の運行が正しい。〔楊炯、庭菊賦〕日之貞矣、于二彼重陽一、菊之榮兮、于二彼華坊一。

【日程】602 ニッテイ　❶毎日する仕事の見つもり。其の日に爲すべき仕事のほど。日課。〔元史、選擧志一、科目〕考試以二論及經義詞賦一、分爲二三科一、作二三日程一、專治二一科一、能兼者聽。❷一日に步く道のり。〔賈島、送二耿處士一詩〕萬水千山路、孤舟幾日程。

【日程曆】603 ニッテイレキ　其の日の仕事の豫定を書き記した帳簿。〔師友談記〕蔣穎叔爲二江淮發運一、嘗于二所レ居公署前一立二一旗一、曰二占風旗一、使二人日候レ之、置レ籍焉、令三諸漕日程亦各紀二風之便逆一、每レ有二運至一、取二其日程曆一以合レ之、責二其稽緩者一。

【日聽】604 ニッテイ　日々にきく。〔戰國、齊策〕靖郭君謂二齊王一曰、五官之計、不レ可レ不二日聽一也。

【日朝】605 ニッテウ　毎日の常朝。平常の參朝。〔儀禮、聘禮〕使者既受行、日朝同レ位。〔義疏〕敖氏繼公曰、日朝、每日常朝也、經惟見三夕幣與二受命之位一、故記明レ之。〔胡培翬正義〕蔡氏云、使者有レ卿、有二大夫一、有レ士、常時朝位各異、此則朝位並同北面東上、以別二於臣之處一者也。

【日愓】606 ニッテキ　日々におそれつつしむ。〔國語、楚語下〕夫誰無二疾眚一、能者蚤除レ之、猶恐二其至一也、是之爲二日愓一。

【日糴】607 ニッテキ　毎日米を買入れること。〔杜甫、醉時歌〕日糴大倉五升米、時赴鄭老同襟期。

【日昳】608 ニッテツ　日がかたむく。未の刻。午後二時をいふ。日跌。日仄。日昃。日稷。〔書、無逸、自レ朝至二于日中昃一傳〕從レ朝至二日昳一。〔疏〕昃、亦名レ昳、言二日蹉跌而下一、謂二未時一也、故日之十位、食時爲レ辰、日昳爲レ未。〔史記、天官書〕食至二日昳一爲レ稷、昳至レ餔爲レ黍。〔漢書、原涉傳〕食至二日昳一皆會。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕謂二范蠡一曰、今三月甲辰、時加二日昳一、孤蒙二上天之命一、還二歸故鄉一。〔注〕日昃也、梁元帝纂要、日在レ未曰レ昳。〔魏志、典韋傳〕自レ旦至二日昳一數十合。

【日跌】609 ニッテツ　❶日がかたむく。日昳に同じ。〔漢書、天文志〕旦至レ食爲レ麥、食至二日跌一爲レ稷、跌至レ晡爲レ黍、晡至二下晡一爲レ叔、下晡至二日入一爲レ麻。❷日に日に下落する。

【日天】610 ニチテン　❶地球から見た太陽の軌道。〔陽

瑪諾、天問略、日天本動及日距赤道度分問答〕赤道則第十一重、宗動天之分中也、周天三百六十度、去㆓南極㆒九十度、去㆓北極㆒亦九十度、爲㆓赤道㆒所謂天之中、而其南北二極、天之極也、黃道則第四重、日天之分中也、周天三百六十度、南北亦各距㆓九十度㆒爲㆓黃道㆒所謂日天之中也、日天本動、自㆑西而東、其南北二極、離㆓宗動天赤道之極㆒二十三度半、黃道以南以北、離㆓赤道㆒二十三度半、爲㆓冬夏至㆒黃道以東以西、與㆓赤道㆒相交、爲㆓春秋分㆒。❷佛日天子の略。〔祕藏記末〕日天赤肉色、左右手持㆓蓮華㆒並乘㆓四馬車輪㆒。❸太陽。日輪。〔薩摩歌、中〕今日の日天御照覽。

【日天子】611 ニチテンシ　❶佛觀世音菩薩の化身で、太陽の中に住むといふ。蘇利耶（Sūrya）の異名。寶光天子。寶意天子。日宮天子。〔法華義疏、二〕寶光天子者、謂㆓日天子㆒也、云云、復有㆑經云、觀世音名㆓寶意㆒作㆓日天子㆒。❷日。太陽。お日樣。

〔日天衆〕612 ニチテンシュ　佛胎藏界曼茶羅釋迦院の一衆。〔大日經、一〕左置㆓日天衆㆒在㆓於與輅守㆒勝無妃等、翼從而侍衞。

【日忝】613 ニツテン　日々にかたじけなくする。〔宋之問、爲㆓楊許州㆒讓㆓右羽林將軍㆒表〕隼旟廻復、日忝㆓恩榮㆒熊軾往還、多慙㆓道路㆒。

【日轉】614 ニチテン　太陽がめぐる。〔新論、惜時〕天回日轉、其謝如㆑矢、騕褭迅足、神馬弗㆑能㆑追也。〔徐彥伯、南郊賦〕禮畢功成、天旋日轉。〔郭汭、同㆓崔員外㆒溫泉宮卽事詩〕天廻紫微座、日轉羽林旗。

【日躔】615 ニツテン　日のやどり。〔方言、十二〕日運爲㆑躔。〔漢書、律歷志上〕日月初躔、星之紀也。〔注〕躔、舍也、二十八舍列在㆓四方㆒日月行焉、起㆓於星紀㆒而又周㆑之。〔唐書、曆志三上〕以㆓日躔月離、先後屈伸之變㆒皆損㆓益之㆒。〔元史、曆志一〕非㆓日躔㆒無㆔以校㆓其度㆒。

【日殿】616 ニチデン　日の宮殿。宮殿の壯大美麗な形容。〔梁元帝、元覽賦〕齊之仁壽、用擬㆓舟航㆒長爲㆓稱首㆒日殿月宮、金池珠叢、七重迢遞、千柱玲瓏、虹橋左跨、鴈苑南通。

【日度】617 ニチド　日々にわたる。〔劉向、九歎、惜賢〕年忽忽而日度。〔陸機、歎逝賦〕川閱㆑水以成㆑川、水滔滔而日度。

【日東】618 ニツトウ　❶日の東。日西（472）を見よ。❷日は東。〔蔡琰、胡笳十八拍〕日東月西兮徒相望。❸我が國の異稱。日出國。〔和爾雅、一、日本國異名〕日東、華人稱㆓日本㆒爲㆓日東㆒自㆑古而然。

【日涷】619 ニツトウ　陰曆十一月の異稱。

【日偷】620 ニツトウ　日々になほざりになる。〔禮、表記〕子曰、君子莊敬日強、安肆日偷。〔注〕偷、苟且也。〔疏〕安肆日偷者、言㆔小人安樂放恣、則其情性日爲㆓苟苴㆒。

【日頭】621 ニツトウ　太陽をいふ。吳の方言。〔七修類稿〕。

〔日頭錢〕622 ニツトウセン　日々上前をはねること。日々賃金などの頭をはねる。

【日鬬】623 ニツトウ　❶日々たたかふ。〔史記、春申君傳〕臣之所㆑觀者、見㆓秦楚之日鬬㆒也。❷日がたたかふ。〔晉書、元帝紀〕太興四年春二月癸亥、日鬬。

【日得】624 ニツトク　日々に得る。〔呂覽、貴當〕夫事無㆓大小㆒固相與通、田獵馳騁、弋射走狗、賢者非㆑不㆑爲也、爲㆑之而智日得焉、不肖主、爲㆑之而智日惑焉。〔史記、李牧傳〕邊士日得㆓賞賜㆒而不㆑用、皆願㆓一戰㆒。

【日德】625 ニツトク　❶日の德。君德の廣大著明な喩。〔陸贄、東郊朝日賦〕和氣旁通、帝德與㆓日德㆒並遠、淸光相對、帝心與㆓日心㆒齊明。〔袁司直、寅賓出日賦〕君德與㆓日德㆒俱遠、道光與㆓日光㆒齊明。❷生成をいふ。〔管子、四時〕時雨乃降、五穀百果乃登、此謂㆓日德㆒。〔注〕日氣不㆑至、物不㆓生成㆒故謂㆓生成㆒爲㆓日德㆒也。

【日獨】626 ニチドク　日本と獨逸。

〔日獨戰爭〕627 ニチドクセンサウ　世界大戰に關聯して我が國とドイツとの間に行はれた戰爭。大正三年八月二十三日宣戰布告、海軍は南洋に於けるドイツ領土の諸島を占領し、陸軍は中國山東省のドイツ租借地靑島を攻落した。

【日讀】629 ヒヨミ　❶曆（コヨミ）をいふ。❷十二支の異稱。

【日嫩】630 ニチドン　雨後、日が初めてはればれしたこと。〔元稹、登㆓臨湘樓㆒詩〕雨餘憐㆓日嫩㆒歲閏覺㆓春長㆒。

【日內】631 jih⁴ nei⁴　❶一兩日中に。近日中。❷ウツヒ　姓氏。

〔日內瓦〕632 ジュネーブ　Geneva の音譯。地名。又、給尼發に作る。瑞西の最西端の州。ジュネーブ湖畔に在る。

〔日內瓦條約〕633 ジュネーブデウヤク　❶又、赤十字條約ともいふ。西曆千八百六十四年、各國が瑞西のジュネーブに於て結んだ條約。❷補助艦制限問題を主題として米國の提議によりジュネーブで開かれた第二回軍縮會議。

【日南】634 ニチナン　❶日の南。日西（472）を見よ。❷日が南による。〔後漢書、蔡邕傳〕且我聞㆑之、日南風至、則黃鐘應、融風動而魚上㆑氷。❸郡名。漢、置く。もと秦の象郡の地。漢は朱吾城に置き、後漢は西捲縣に移した。今、佛領印度支那の廣德Quang tri・廣南Quang nam・廣義Quang nai・平定Binh dinh 地方一帶の地域。〔漢書、地理志下〕日南郡、縣五、朱吾・比景・盧容・西捲・象林。〔注〕言㆔其在㆓日之南㆒所謂開㆓北戶㆒以向㆑日者。〔水經、溫水注〕區粟建㆓八尺表㆒日影度㆑南八寸、自㆑此影以南、在㆓日之南㆒故以名㆑郡。〔讀史方輿紀要、州域形勢、漢〕日南郡、秦象郡地、後屬㆓南越㆒元鼎六年、置㆑郡領㆓朱吾等縣五㆒今占城國是其地、漢紀、武帝開㆓南越㆒置㆓南海・鬱林及朱崖・儋耳凡九郡㆒昭帝始元五年、罷㆓儋耳㆒元帝初元三年、罷㆓朱崖㆒今廣東瓊州府之儋州崖州卽其地也、又、通典、昭帝元鳳五年、罷㆓象郡㆒分㆓屬鬱林・牂河㆒而史不㆑書、建置之始、蓋闕文也。❹城の名。梁から唐に至るまで故淸化府の西にあつた。今の河南省沁陽縣の東北。豫晉の襟要の地である。〔讀史方輿紀要、廣西附考、安南淸化府〕日南城、在㆓府西㆒漢居風縣地、梁置㆓日南縣㆒隋屬㆓愛州㆒唐武德五年、置㆓積州㆒兼置㆓積善・津梧・方載三縣㆒九年、改曰㆓南陵州㆒貞觀元年、曰㆓後眞州㆒十年、州廢縣屬。

〔日南至〕635 ヒミナミニイタル　冬至。日至（336）を見よ。〔左氏、僖、五年〕春王正月辛亥朔、日南至、公既視㆑朔、遂登㆓觀臺㆒以望而書、禮也。〔注〕周之正月、今十一月也、冬至之日、日南極也。〔左氏、昭、二十〕春王二月己丑、日南至。〔注〕是歲朔旦冬至之歲也、當㆑言㆓正月己丑朔、日南至㆒時史失㆑閏。〔漢書、律歷志上〕生民之道、於㆑是乎在矣、不㆑告㆓閏朔㆒棄㆓時正㆒也、何以爲㆑民、故魯僖公五年、春王正月辛亥朔、日南至、公既視㆑朔、遂登㆓觀臺㆒以望而書、禮也。

〔日南川〕636 ヒナタカハ　紀伊國の地名。

【日日】637 ニチニチ　ひび。每日。其の日其の日。日日新又日新を見よ。〔漢書、李尋傳〕禹死之後、日日以衰。〔漢書、賈山傳〕直與㆑之日日獵射。〔漢書、鄧通傳〕尊㆓幸之㆒日日異。

〔日日新又日新〕638 ヒビニアラタニシテマタヒニアラタナリ　日々に新たにする。日を逐うて絕えず進步すること。〔大學〕湯之盤銘曰、苟日新、日日新、又日新。

【日入】639 ニチニフ　❶日が暮れる。〔詩、鄘風、定之方中〕揆㆑之以㆑日作㆓于楚室㆒〔傳〕揆、度也、度㆓日出日入㆒以知㆓東西㆒。〔周禮、考工記、匠人〕爲㆑規識㆔日出之景與㆓日入之景㆒。〔穀梁、莊、七〕日入至㆓于星出㆒謂㆓之昔㆒。〔陸厥、奉㆓答內兄希叔㆒詩〕平㆓旦上林苑㆒日㆓入伊水濱㆒。❷酉の刻をいふ。午後六時頃。

〔日入而息〕640 ヒイリテイコフ　日出而作日入而息（421）を見よ。

【日濃】641 ニチノウ　日々に濃くなる。〔杜甫、傷春詩〕天下兵雖㆑滿、春光日自濃。

【日波】643 ニチハ　日本と波蘭。

【日拜】644 ニチハイ　日々に拜する。〔南齊書、禮志上〕漢改㆓周法㆒旦夕常於㆓殿下㆒東向拜㆑日、其禮太煩、今採㆓周春分之禮㆒損㆓漢日拜之儀㆒。

【日背】645 ニチハイ　太陽の光にそむく。〔元稹、南昌灘詩〕畬餘粟麥黃山腹、日背殘花白水湄。

【日方】646 ニツパウ　❶日が向く。〔史記、天官書〕日方㆑南、金居㆓其南㆒日方㆑北、金居㆓其北㆒曰㆑贏。〔注〕正義曰、鄭玄云、方、猶㆑向也、謂㆘晝漏半而置㆓土圭㆒表㆓陰陽㆒審㆗其南北㆖也。❷ジツパウ　淸、顧昉（**12**―**43689**・・160）の號。❸ヒカタ　西南の風。未申の風。

【日報】647 ニツパウ　日々にしらせる。又、日々のしらせ。〔漢書、食貨志下〕雖㆓黥罪日報㆒其埶不㆑止。〔福惠全書、錢穀部、催徵、流水日報簿〕日報簿與㆓日收簿㆒同時印發、云云、仍置㆓日報底簿㆒照㆓櫃送日報式㆒登記、以便㆘與㆓日報㆒不時查對㆖。

〖日報簿〗648 ニッパウボ　日報の帳面。日報を見よ。

【日忘】649 ニチバウ　日に日に忘れる。〔後漢書、獻帝紀〕孔子歎㆓學之不㆑講、不㆑講則所㆑識日忘。

【日旁】650 ニチバウ　太陽のかたはら。〔周禮、春官、眂祲、掌㆓十煇之灋㆒云云三日鐫、注〕鄭司農云、鐫、謂㆔日旁氣、四面反鄉、如㆓煇狀㆒也、云云、玄謂、鐫、讀如㆓童子佩鐫之鐫㆒、謂㆓日旁氣刺㆑日也。〔史記、天官書〕王朔所㆑候、決㆓於日旁㆒、日旁雲氣、人主象。

【日望】651 ニチバウ　日にのぞむ。日々にねがひのぞむ。〔南齊書、劉祥傳〕卿年齒已大、能自感厲、日望㆓悛革㆒。

【日白】652 ニチハク　日光が白い。〔劉攽、鴻慶宮三聖殿賦〕夫既天行、而日白矣。

【日博】653 ニチハク　日に日にひろくなる。〔論衡、自紀〕充書日進、又無㆓過失㆒云云、所㆑讀文書亦日博。

【日薄】654 ニッパク　㊀日が黃黑の氣におほはれて光が薄黃色になること。晦朔の日以外に生ずる日蝕。卽ち日月同宿でなくても、時に陰氣が盛で日光を掩薄するをいふ。〔宋書、五行志五〕永嘉元年十一月乙亥、黃黑氣掩㆑日、所㆑炤皆黃、案、河圖占曰、日薄也、其說曰、凡日蝕皆於㆓晦朔㆒、有㆘不㆑於㆓晦朔㆒者㆖、曰㆓日薄㆒、雖㆑非㆓日月同宿㆒、時陰氣盛、掩㆓薄日光㆒也。㊁日がせまる。夕方。〔江淹、爲㆓蕭驃騎㆒讓㆓封第二表㆒〕日薄星廻、昊天無㆔以爽㆓其節㆒、山盈川沖、厚地不㆑能㆑虧㆓其度㆒。〔唐書、王琚傳〕時號、內宰相每㆑見㆓閤中㆒、視㆓日薄㆒乃得㆑出。〔歐陽脩、黃楊樹子賦〕日薄雲昏、煙飛露滴。㊂日に日にうすくなる。〔宋史、選擧志二〕監察御史陳大方言、士風日薄、文場多弊。

〖日薄年〗655 ニッパクノトシ　老いて死期に近づいた年齡。〔海錄碎事、道釋、養生〕閑存㆓三氣㆒、研㆓諸妙精㆒、故能廻㆓日薄之年㆒、反爲㆓童嬰月㆒。

【日薄㆓西山㆒】656 ヒセイザンニセマル　年老いて死に垂んとするをいふ。〔揚雄、反離騷〕臨㆓汨羅㆒而自隕兮、恐㆔日薄㆓于西山㆒。〔宋史、趙普傳〕臣已日薄㆓西山㆒、餘光無㆑幾、酬㆑恩報㆑國、正在㆓斯時㆒。〔李密、陳情表〕但以劉日薄㆓西山㆒、氣息奄奄、人命危淺、朝不㆑慮㆑夕。〔注〕向曰、日迫㆓西山㆒、喩㆓劉年老暮㆒也。

【日暴】657 ニチバク　㊀日にさらす。〔元稹、蝱詩〕汗粘瘡痏痛、日暴苦辛行。㊁ニチバウ　日々にそこなひしひたげる。〔元史、董文炳傳〕縣貧重以㆓旱蝗㆒、而徵斂日暴、民不㆑聊㆑生。

【日發】658 ニッパツ　日々にひらきすすむ。〔元史、吳澄傳〕三歲穎悟日發、教㆓之古詩㆒、隨㆑口成㆑誦、五歲日受㆓千餘言㆒、夜讀㆑書至㆑旦。

【日法】659 ニッパウ　日が行く所の分。元始は黃鐘の長さ九寸を自乘して得た八十一の數をいふ。權衡・度量・禮樂・建曆の規準單位。通法。〔漢書、律歷志上〕傳曰、天六地五、數之常也、天有㆓六氣㆒、降生㆓五味㆒、夫五六者、天地之中合、而民所㆓受以生㆒也、故日有㆓六甲㆒、辰有㆓五子㆒、十一而天地之道畢、言㆓終而復始㆒、太極中央元氣、故爲㆓黃鐘㆒、其實一龠、以㆓其長㆒自乘、故八十一爲㆓日法㆒、所㆔以生㆓權衡度量㆒、禮樂之所㆓繇出㆒也。〔評林〕盧舜治曰、建曆之本、必先立㆑元、元正、然後定㆓日法㆒、日法定、然後度㆓周天㆒、以定㆓分至㆒、三者有㆑程、則曆可㆑成也、此班氏之所㆘以論㆓日法㆒而結㆗權衡度量于篇端㆖云。〔漢書、律歷志下〕統母日法、八十一、元始黃鐘初九、自㆓乘一龠之數㆒得㆓日法㆒。〔注〕孟康曰、分㆓一日㆒爲㆓八十一分㆒、爲㆓三統之本母㆒也。〔後漢書、律曆志中〕建曆之本、必先立㆑元、元正然後定㆓日法㆒、法定然後度㆓周天㆒、以定㆓分至㆒、三者有㆑程、則曆可㆑成也。〔後漢書、律曆志中〕日法者、日之所㆑行分也、日垂令㆔明行有㆓常節㆒、日法所㆑該、通㆑遠無㆑已、損益毫釐、差以㆓千里㆒、自㆑此言㆑之、數無㆓緣得㆑有㆓虧棄之意㆒也。〔晉書、律歷志中〕日法千四百五十七。〔唐書、歷志三上〕積算曰㆓演紀㆒、日法曰㆓通法㆒、日氣曰㆓中朔㆒。〔元史、曆志二〕世代綿遠、馴積㆓其數㆒至㆑踰㆓億萬㆒、後人厭㆓其布算繁多㆒、互相推考、斷㆓截其數㆒、而增㆓損日法㆒、以爲㆑得㆓改憲之術㆒、此歷代積年日法、所㆓以不㆑能㆓相同㆒者也。

【日泛】660 ニチハン　日々にうかべる。〔李羣玉、重經㆓巴丘㆒詩〕昔年高接李膺歡、日泛㆓仙舟㆒醉㆓碧瀾㆒。

【日斑】660′ ニッパン　太陽の黑點。

【日晚】661 ニチバン　日が晚れる。日暮。〔庾信、春賦〕三日曲水向㆓河津㆒、日晚河邊多㆓解神㆒。〔李白、天馬歌〕鹽車上㆓峻坂㆒、倒行逆施畏㆓日晚㆒。〔杜甫、陪㆓王使君㆒晦日泛㆑江詩〕日晚煙花亂、風生錦繡香。

【日蕃】662 ニチバン　日々にふえる。〔唐書、食貨志四〕私錢犯㆑法日蕃、有㆘以㆓舟筏㆒鑄㆓江中㆒者㆖。〔宋史、胥偃傳〕後宮外戚、恩澤日蕃。

【日非】663 ニッピ　日々にわるくなる。〔孔叢子、抗志〕君之國事、將㆓日非㆒矣。

【日費】664 ニッピ　毎日費す。又、日々の費用。〔文子、微明〕起㆑師十萬、日費㆓千金㆒。〔魏書、南安王楨子英傳〕賊城險固、卒難㆓攻屠㆒、冬春之交、稍非㆓勝便㆒、十萬之衆、日費無㆑貲、方圖㆓後擧㆒、不㆑待㆓今事㆒。

【日轡】665 ニッピ　太陽をいふ。〔庾信、周譙國公夫人步陸孤氏墓誌銘〕星機北轉、日轡西廻。

【日美】666 ニチビ　日米。日本とアメリカ。

【日微】667 ニチビ　㊀日の光がかすかである。〔漢書、息夫躬傳〕虹蜺曜而日微。㊁日々におとろへる。〔道德指歸論〕聖人釋㆑仁去㆑義、歸㆓于大道㆒、絕㆑智廢㆑教、求㆓之於己㆒、所㆑言日微、所㆑爲日寡。

【日馮】668 ニッピョウ　木の先。こずゑ。〔淮南子、墬形訓〕日馮生㆓陽閼㆒、陽閼生㆓喬如㆒、喬如生㆓幹木㆒、幹木生㆓庶木㆒。〔注〕日馮、木之先也。

【日賓】669 ジッピン　清、文撝（**5**－**13450**‥58）の字。

【日附】670 ヒヅケ　文書などに差出又は作成の日を記すこと。又、其の月日。日付。

【日符】671 ニチフ　太陽の瑞應。夢に日が懷に入ったといふ瑞應。〔漢書、外戚上、孝景王皇后傳〕孝景王皇后、云云、生㆓三女一男㆒、男方在㆑身時、王夫人夢、日入㆓其懷㆒、以告㆓太子㆒、太子曰、此貴徵也、云云、又耳㆓曩者所㆑夢日符㆒。〔注〕師古曰、耳常聽聞、而記㆑之也、符、猶㆓瑞應㆒。

【日富】672 ニチフ　日にとむ。日一日と富む。〔詩、小雅、小宛〕彼昏不㆑知、壹醉日富。〔箋〕童昏無知之人、飮㆑酒一醉、自謂㆓日益富㆒、夸淫自恣、以㆑財驕㆑人。〔陳書、徐陵傳〕今衣冠禮樂日富、年華何可。〔陶潛、榮木詩〕志㆓彼不㆑舍、安㆑此日富。〔陸龜蒙、對酒詩〕且須㆑謀㆓日富㆒、不㆑要㆓道家貧㆒。

【日譜】673 ニチフ　日々に序を追うてしるす。又、其の簿籍。日錄。〔唐書、藝文志二〕李匡文天潢源派譜一卷、又唐偕日譜一卷。

【日賦】674 ニップ　㊀梁の顧野王が少時作った文章の名。〔南史、顧野王傳〕九歲能屬㆑文、嘗制㆓日賦㆒、領軍朱异、見而奇㆑之。㊁ヒブ　借金などを毎日少しづつ返すこと。日濟。月賦（**5**－**14330**‥316）・年賦（**4**－**9168**‥234）の對。

【日舞】674′ ニチブ　日本舞踊の略。

【日覆】675 ヒオホヒ　日光をおほひ遮るもの。

【日佛】676 ニチフツ　日本と佛蘭西。

【日分】677 ニチブン　日の運行の分度。春分秋分をいふ。〔史記、歷書〕紬㆓績日分㆒、率應㆓水德之勝㆒、今日順㆓夏至㆒。〔唐書、歷志二〕高宗時戊寅歷益疎、淳風作㆓甲子元歷㆒以獻、詔㆓太史㆒起㆓麟德二年㆒頒用、謂㆓之麟德歷㆒、古曆有㆓章蔀㆒、有㆓元紀㆒、有㆓日分㆒、度分參差不㆑齊、淳風爲㆓總法千三百四十㆒以一㆑之、損㆓益中晷術㆒以考㆓日至㆒、爲㆓木渾圖㆒以測㆓黃道㆒。

【日文】678 ヒフミ　㊀神代文字の一つ。いろはと同じく四十七文あるものもあり、出雲大社の左側文島窟中の石面に刻すものは五十字、五音順に讀み、形は篆書に似て、數字もあるといふ。又、阿比留文字の類は其の形態組織が諺文に酷似し、諺文とも僞作ともいはれる。神代文字。〔神字日文傳〕對馬卜部阿比留氏所㆑傳日文、出雲國大社所㆑傳日文。㊁アヒミ　毎日送る手紙。日々送る艷書。〔長町女腹切〕日文・血文の附屆け。㊂ニチブン　日本文學、又は日本文學科の略。

【日聞】679 ニチブン　日々に聞える。又、日々に聞く。〔禮、孔子閒居〕無聲之樂、日聞㆓四方㆒。〔史記、信陵君傳〕魏王日聞㆓其毀㆒、不㆑能㆑不㆑信。〔杜甫、有感詩〕日聞㆓紅粟腐㆒、寒待㆓翠華春㆒。〔宋史、韓琦傳〕琦與㆓范仲淹富弼㆒、皆以㆓海內人望㆒、同時登用、中外跂㆓想其勳業㆒、仲淹等亦以㆓天下㆒爲㆓己任㆒、羣小不㆑便㆑之、毀言日聞。

〖日聞錄〗680 ニチブンロク　書名。一卷。元、李翀撰。此の書は多く歷代の掌故を考證し、略〻蔡邕の獨斷、崔豹の古今注の體に似る。又、閒〻元代の雜事に及び、史志と相參するに足るといふ。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【日並】681 ヒナミ　日次。㊀毎日。〔庭訓往來、十二月〕在廳人等、日並出仕。㊁日の順序。日々の次第。㊂日のよしあし。日のぐあひ。日がら。〔東鑑、二十八〕寬喜四年三月三日、上古當日奏㆑慶、中古

三箇日中用二宜日一、殊擇二日次一者、近代之法也。

【日柄】682 ヒガラ 其の日の吉凶。〔狂言、素襖落〕明日は日柄もよう御座るによつて。

【日閉】683 ニチヘイ 日の光がとざされる。〔張融、海賦〕風沫相排、日閉雲開、浪散波合、岳起山隤。

【日弊】684 ニチヘイ 日々にやぶれる。日々に惡い。〔國語、晉語六〕今吾司寇之刀鋸日弊、而斧鉞不レ行。〔宋史、尹洙傳〕朝政日弊、而陛下不レ寤。

【日蔽】685 ニチヘイ 日々におほひかくされる。〔逸周書、史記解〕好二貨財珍怪一則邪人進、邪人進則賢良日蔽而遠。

【日表】686 ニツペウ ㊀日晷を度る槷。ひかげばしら。之によつて時刻を定める。又、史官の日々の記錄。日曆。〔後漢書、律曆志上〕記稱大橈作二甲子一、隷首作レ數、二者既立、以比二日表一、以管二萬事一。〔注〕表卽晷景。㊁帝王の儀表。〔楊宗瑞、辟雍賦〕萬乘戾止、六龍馳馭、日表淵穆、天顏冲邃。㊂日の外。極めて遠い喩。〔宋書、符瑞志下〕日表地外、改レ服請レ教。

【日辟】687 ニツペキ 日々に開く。日闢。〔詩、大雅、召旻〕昔先王受レ命、有レ如二召公一、日辟レ國百里、今也日蹙レ國百里。〔傳〕辟、開。〔集傳〕辟音闢、所謂日辟レ國百里云者、言、文王之化、自レ北而南、至二於江漢之閒一、服從之國、日以益衆。

【日闢】688 ニツペキ 日々にひらく。日辟に同じ。〔宋史、樂志十四〕舊疆來歸之曲、太簇宮、於穆我皇之德之純、涵二濡羣生一、剏我遺民、連レ齊跨レ晉、輸レ貢效レ珍、土宇日闢、一視同仁。

【日變】689 ニチヘン ㊀太陽に變事があること。日食の類をいふ。〔史記、天官書〕水火金木塡星、此五星者、天之五佐、爲二經緯一、見伏有レ時、所二過行一贏縮有レ度、日變修レ德、月變省レ刑、星變結レ和、凡天變過レ度乃占。〔注〕劉向以爲、日月蝕及星逆行、非二太平之常一、自二周衰一以來、人事多亂、故天文應レ之遂變耳。㊁日々に變る。〔後漢書、隗囂傳〕政令日變、官名月易、貨幣歲改。

【日邊】690 ニツペン ㊀日のほとり。太陽のあるところ。〔晉書、明帝紀〕明帝、幼而聰哲、屬長安使來、因問レ帝曰、汝謂二長安與レ日孰遠一、對曰、長安近、不レ聞下人從二日邊一來上、居然可レ知也、元帝異レ之、明日宴二群僚一、又問レ之、對曰、日近、元帝失レ色曰、何乃異二間者之言一乎、對曰、擧レ頭則見レ日、不レ見二長安一、元帝益奇レ之。〔李白、望二天門山一詩〕兩岸青山相對出、孤帆一片日邊來。〔李白、行路難詩〕閑來垂レ釣碧溪上、忽復乘レ舟夢二日邊一。〔注〕宋書、伊摯將レ應二湯命一、夢乘レ船過二日月之旁一。〔岑參、登二總持閣一詩〕高閣逼二諸天一、登臨近二日邊一。㊁王城の近く。禁近の地。〔趙嘏、送三裴延翰下第歸二覲滁州一詩〕江上詩書懸二素業一、日邊門戶倚二丹梯一。〔高蟾、下第後上二永崇高詩郞一詩〕天上碧桃和レ露種、日邊紅杏倚レ雲栽。〔書言故事大全、都邑類〕問二人自レ京回一、曰レ歸レ自二日邊一。㊂天子の左右。〔郤掃編〕先公守二南都一、使傳絡繹不レ絕、嘗有二謝表一曰、日邊人至、常聞二念舊之言一。

【日餔】691 ジツポ ひぐれ。申の刻。午後の四時。日晡に同じ。〔史記、呂后紀〕日餔時、遂擊レ產。〔漢書、高后紀〕日餔時、遂擊レ產。

【日晡】692 ジツポ ひぐれ。晡は申の刻。今の午後四時。日餔。晡時。〔南齊書、垣崇祖傳〕至二日晡時一、決二小史埭一。〔杜甫、除步詩〕整履步二青蕪一、荒庭日欲レ晡。〔注〕洙曰、晡、向午也。〔白居易、宿二杜曲花下一詩〕但惜二春將レ晚、寧愁二日漸晡一。

【日步】693 ヒブ 元金百圓に對する一日の利率。日割できめる利息。

【日母】694 ニチボ 日。太陽。日は陽德の母。〔枚乘、七發〕流攬無窮、歸二神日母一。〔注〕善曰、春秋內事云、日者陽德之母。〔雲笈七籤〕日母者、玉淸之老母、主二胞胎於尊神一也。

【日莫】695 ニチボ ひぐれ。日暮に同じ。〔禮、聘義〕日莫人倦、齊莊正齊、而不二敢解惰一。〔疏〕日暮人倦、齊莊正齊者、謂二日暮晚、人斯懈倦一。

【日暮】696 ニチボ ㊀ひぐれ。ひくれがた。夕方。日莫。〔六韜、豹韜、少衆〕敵人已至、不レ適二日暮一。〔顏延之、秋胡詩〕日暮行采歸。〔杜甫、登樓詩〕可レ憐後主還祠レ廟、日暮聊爲二梁甫吟一。〔陳子昂、晚次二樂鄉縣一詩〕故鄉杳無レ際、日暮且孤征。〔王維、臨二高臺一詩〕日暮飛鳥還、行人去不レ息。〔孟浩然、晚泊二潯陽一望二香爐峯一詩〕東林精舍近、日暮坐聞レ鐘。㊁ヒグラシ ㋑其の日一日をくらすこと。㋺朝から晚まで。一日中。日ねもす。〔伊勢物語〕暮れがたき夏の日ぐらし眺むれば、その事となく物ぞかなしき。㋩蟲の名。蜩。㊁姓氏。

『日暮途遠』697 ヒクレテミチトホシ 日がくれて前途がまだ遠い。轉じて、年老いて尙目的が容易に達せられぬ喩。途は或は塗・路・道に書く。〔吳子、治兵〕凡馬不レ傷二於末一、必傷二於始一、不レ傷二於飢一、必傷二於飽一、日暮道遠、必數上下、寧勞二於人一、愼勿レ勞レ馬。〔尉繚子、兵敎下〕日暮路遠、還有レ剉レ氣。〔史記、主父偃傳〕吾日暮途遠、故倒行暴二施之一。〔史記、伍子胥傳〕伍子胥曰、吾日莫塗遠、吾故倒行而逆二施之一。〔庾信、哀江南賦序〕日暮塗遠、人間何世。〔唐書、白居易傳〕日暮道遠、吾生已蹉跎。

【日模】698 ニチボ 日々にまねする。〔梅堯臣、雷逸老以倣二石鼓文一見レ遺因呈二祭酒吳公一詩〕雷氏有レ子胡而長、日模月倣志慕レ強。

【日峯】699 ジツホウ 淸、丁一焯(**1**－**2**··219)の字。

【日奉】700 ヒマツリ 姓氏。

【日豐】701 ニチホウ 日々にゆたかになる。〔宋史、宋祁傳〕後宮錦綉珠玉、不レ得二妄費一、則天下嚮應、民業日豐。

【日俸】702 ニツポウ 毎日の給料。日給。〔通典、職官、戶部〕日俸一百八也。

【日北】703 ニチホク ㊀日の北。日西(472)を見よ。㊁日が北による。〔孟郊、送三盧汀侍御歸二天德幕一詩〕旌旗防二日北一、道路上二雲巓一。

【日沒】704 ニチボツ 日が西にしづむ。ひがくれる。日の入り。又、其の時。〔禮、月令、題疏〕日沒之時、去二昏中之星一、近校十度。〔隋書、倭國傳〕日出處天子、致二書日沒處天子一、無レ恙。〔李益、野田行〕日沒出二古城一、野田何茫茫。

『日沒胭脂紅』705 ニチボツエンシコウ 日沒に日燒がする。風雨の兆。〔婁元禮、田家五行〕日沒胭脂紅、主二風雨一。〔崔寔、四民月令〕日沒胭脂紅、無レ雨也有レ風。

【日賁】706 ニチホン 日々にはしる。賁は奔に通ず。〔梁元帝、薦二鮑機一表〕叶龜登夢之客、日賁二於丘園一、韋轂投釣之臣、相二望於魏闕一。

【日本】707 ニツポン ニホン ㊀我が國の名。外國に對していふ我が國の稱。やまと。おほやまと。大日本。〔唐書、日本國傳〕日本、古倭奴也、去二京師一萬四千里、在二海中一、云云、隋開皇末、始與二中國一通、云云、惡二倭名一、更號二日本一、使者自言、國近二日所一レ出、以爲レ名。〔宋史、日本國傳〕日本國、本倭奴國也、自以三其國近二日所一レ出、故以二日本一爲レ名。〔李白、哭二晁卿一詩〕日本晁卿辭二帝都一、征帆一片繞二蓬壺一。〔歐陽脩、日本刀歌〕寶刀近出二日本國一、越賈得二之滄海東一。〔日本書紀纂疏、一〕日本、吾國之大名、在二東海中一、近二於日所一レ出也。〔弘道館記述義、上〕日本之大號、起二於中世一、而其所二由來一、蓋亦尙矣、何以知レ之、維昔天孫降二臨下土一也、相三朝暾夕暉之所二照曜一、以爲二此地甚佳一、乃始營二皇居一、景行帝幸二子湯縣一也、以爲三是國直二向日所一レ出、因命レ之曰二日向一、成務帝定二國郡一也、東西爲二日縱一、南北爲二日橫一、神皇愛二純陽光明之域一、既已如レ此、且夫以二天日一經二緯國郡一、而我處二其根本一、凡四夷百蠻、皆仰二我末光一、則日本之大號、實胚二胎於此一矣。㊁ヤマト 姓氏。

『日本一』708 ニツポンイチ ㊀日本で第一なこと。天下一。〔大鏡、上〕日本一の御手のおぼえはとり給へりし。㊁この上もないこと。絕對無類の喩。〔謠曲、鉢木〕それこそ日本一の事にて候。

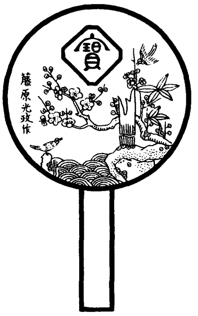
『日本歌』709 ヤマトウタ 三十一文字の和歌。大和歌。〔古今和歌集、序〕やまと歌は人の心を種として。

『日本海』710 ニツポンカイ 亞細亞大陸の東、我が本土と朝鮮半島及び露領沿海州の閒に在る海。

『日本考』711 ニツポンカウ 書名。五卷。明、李言恭・都杰共撰。

『日本紀』712 ニホンギ 日本書紀の略稱。

『日本鏡』713 ニホンキヤウ 日本製の鏡。〔金石索、鏡鑑之屬、日本鏡〕此鏡有レ柄、篆二一寶字一居レ中、邊款二藤原光政作一、有二竹梅雙鵲之飾一。



日本鏡（金石索）

【日本琴】714 ヤマトコト　やまとこと。和琴。〔倭名類聚抄、調度部、音樂具、日本琴〕日本琴、體似レ箏而短小、有二六絃一、俗用二倭琴二字一、夜萬度古度。

【日本錦】715 ヤマトニシキ　五彩の絲で種々の模様を織り出した美しい絹布。大和錦。

【日本畫】716 ニホングワ　日本に於て發達した畫の總稱。主として支那畫の影響によるものであるが、形象に於ては寫實的であるよりは裝飾的の趣を有し、運筆に於ては輕爽の度多く、表現はやや明快で、情趣に富むを特色とする。〔五雜組、人部三〕高麗日本畫、皆精絶、不レ類二中國一。

【日本硯】717 ニツポンケン　日本製のすずり。〔宋濂、日本硯銘〕夷而華、四海一家、此非二文明之化一邪。

【日本魂】718 ヤマトダマシヒ　❶漢才に對して漢學の力によらず、獨り自ら活動するを得る心。又、日本の學問。〔源氏物語、廿一、少女〕やまとだましひの世に用ひ。❷我が國民固有の精神。大和魂。大和心。〔神道學則〕弟令下儒生釋徒異端殊道之頑、村甿野夫賈販奴隷之愚、悃悃款款、祈二國祚之永命一、護中紫極之靖鎭上者、此謂二之日本魂一。

【日本人】719 ニツポンジン ニホンジン　❶日本國の人。〔假名垣魯文、世界都路、二〕舜天は日本人源の爲朝の子なる事彼國史中山傳信錄に記せり。❷日本の國籍を持つ人。日本國民。❸アジア系黄色人種（モンゴロイド）の一つ。皮膚は黄色、毛髪は黑色。日本の土地における居住は數十萬年前に遡るといはれ、廣く東洋各地からの渡來説がある。

【日本晴】720 ニツポンバレ　一點の雲もない好日和。轉じて、疑念が全く解けた喩。〔兩吟一日千句〕山科も日本晴となりにけり。

【日本刀】721 ニツポンタウ　我が國固有の法で鍛へた刀。〔歐陽脩、日本刀歌〕寶刀近出二日本國一、越賈得二之滄海東一。〔阪田警軒、日本刀説〕日本刀之利、赫二然於萬國一矣。

【日本膽】722 ニツポンタン　日本特有の氣概ある精神。大和魂。〔阪田警軒、日本刀説〕磨二日本刀一、不レ如レ磨二日本膽一也。

【日本府】723 ニホンフ　古、我が國から韓國の任那國中に建てて置かれた官府。やまとみこもち。〔日本書紀、雄略記〕八年二月、新羅王、云云、使二人於任那王一、云云、伏請二救於日本府行軍元帥等一。

【日本逸史】724 ニホンイツシ　書名。四十卷。鴨祐之撰。日本後紀の闕を補ふために編纂されたもので、桓武天皇の延暦十一年正月に始まり、淳和天皇の天長十年二月に終るまで、年によつて卷を分ち、事實を記載してある。

【日本音樂】725 ニツポンオンガク　日本國民の間に行はれて來た音樂。和樂ともいふ。神樂・雅樂・猿樂・田樂・能樂・平曲・聲明・尺八・箏・曲樂・琵琶・三味線等。

【日本樂府】726 ニホンガフ　書名。一卷。頼山陽撰。明の李東陽の擬古樂府に倣つて國史中の好題目を選び、六十六箇國の數に合はせて作つた六十六首の樂府體の漢詩を集めた書。門人、牧輗の注がある。

【日本紀局】727 ニホンギノツボネ　紫式部の異稱。

【日本外史】728 ニホングワイシ　書名。二十二卷。頼山陽撰。史記の世家の體に倣つて源平二氏以後、德川氏に到る迄の武門十三氏の興亡盛衰の迹を敍したもので、源氏四卷・新田氏二卷・足利氏六卷・德川氏十卷から成り、更に其の各を前記・正記・後記に細別し、平氏・北條氏・楠氏・後北條氏・武田氏・上杉氏・織田氏・豐臣氏等の諸氏を巧みに配合して前後の形勢を包括してゐる。此の書を一貫して流れてゐる尊王賤霸の精神は、明治維新の大業に參畫した人々の思想を激發して奮起せしめた點に大功がある。

【日本後紀】729 ニホンコウキ　書名。四十卷。藤原緒嗣等奉敕撰。六國史の一つ。桓武天皇の延暦十一年正月から、天長十二年二月淳和天皇の讓位に至るまで、四朝四十二年間の國史。續日本紀に次ぎ、體裁はすべて同じく、天皇の御動靜を初として社會萬般の事件を敍す。此の書は古くは全く亡佚したが、今其の殘缺本がある。

【日本國志】730 ニツポンコクシ　書名。四十卷。清、黄遵憲撰。

【日本詩紀】731 ニホンシキ　書名。五十卷。外集一卷・別集一卷・首集一卷。市河寛齋撰。平治以前に於ける我が國人の漢詩を年代順に蒐集したもの。

【日本詩史】732 ニホンシシ　書名。五卷。江村北海撰。我が國の漢詩の變遷を漢文で列傳體に記述したもの。〔日本詩話叢書、卷一〕・〔日本儒林叢書、第三冊〕。

【日本詩選】733 ニホンシセン　書名。十卷。江村北海撰。我が國古來の漢詩を選集した書。

【日本釋名】734 ニホンシヤクミヤウ　書名。三卷。貝原益軒撰。劉熙の釋名に倣つて著はし、國語の語源を説明した辭書で、天象・時節・地理・宮室・地名・水火土石金玉・人品・形體・人事・鳥・獸・蟲・魚・介・米穀・草・木・飲食・衣服・文具・武具・雜器・虛字の二十三類に分つ。〔益軒全集、卷一〕。

【日本主義】735 ニツポンシユギ　日本固有の國體に源を發する精神原理の總稱。佛教・儒教・基督教等外來思想の影響を蒙らざる以前の神ながらの道を其の內容とする。

【日本種族】736 ニツポンシユゾク　我が國の本土に繁殖した人種。

【日本書紀】737 ニホンシヨキ　書名。三十卷。舍人親王等奉敕撰。古くは日本紀といはれたものである。神代の初から持統天皇に至るまでの天皇の御系統及び其の御動靜を中心として記された編年體の歷史書で、我が建國の歷史、國體の尊嚴を最も詳細、明確に記述した書である。文章は概して純粹な漢文で書かれてあるが、古くから國語を以て訓讀されてゐる。〔參考書〕【日本書紀纂疏】八卷一條兼良撰。【日本書紀通證】三十五卷谷川士清撰。【日本書紀集解】三十卷河村秀根撰。【日本書紀通釋】七十卷飯田武鄉撰。

【日本政記】738 ニホンセイキ　書名。十六卷。頼山陽撰。神武天皇から御陽成天皇に至る百八代、二千年間の編年史。綱紀の弛張、教化の隆替を記述し、自家の論斷を附す。日本外史と共に尊王斥霸の精神を鼓舞した名著である。〔參考書〕【日本政記考證】林正躬撰。

【日本精神】739 ニツポンセイシン　我が國體の尊嚴に對する自覺に根ざし、皇室尊崇・忠君愛國・敬神崇祖・國體明徵・國運の隆昌を重んずる傳統的國民精神。

【日本刀歌】740 ニツポンタウノウタ　宋の歐陽脩の作つた歌。一説に、司馬光の作といふ。〔歐陽脩、日本刀歌〕昆夷道遠不二復通一、世傳切玉誰能窮、寶刀近出二日本國一、越賈得二之滄海東一、魚皮裝貼香木鞘、黄白閒雜鍮與レ銅、百金傳入好事手、佩服可三以禳二妖凶一、傳聞其國居二大島一、土壤沃饒風俗好、其先徐福詐二秦民一、採レ藥淹留丱童老、百工五種與レ之居、至レ今器玩皆精巧、前朝貢獻屢往來、士人往往工二詞藻一、徐福行時書未レ焚、逸書百篇今尚存、令嚴不レ許レ傳二中國一、擧レ世無三人識二古文一、先王大典藏二夷貊一、蒼波浩蕩無レ通レ津、令二人感激坐流レ涕、鏽澁短刀何足レ云。

【日本智囊】741 ニホンチナウ　書名。四卷。中村和撰。賢君名子の事蹟中、智略に關するものを上智・明智等の十項に分つて輯錄したもの。

【日本圖纂】742 ニツポンヅサン　書名。一卷。明、鄭若曾撰。

【日本武尊】743 ヤマトタケルノミコト　景行天皇の皇子。御名は小碓（ヲウス）尊。敕を奉じて熊襲を平げ給ひ、後、東國の蝦夷を御鎭定。歸途、病のため、伊勢の野褒野に薨去。御年三十二。

【日本文庫】744 ニホンブンコ　叢書の名。十二冊。岸上操編。江戸時代の日誌・隨筆・史傳・考證・論説・講義の類の著作九十三部を收む。第一冊、正學指掌（尾藤二洲）・閑散餘錄（南川金溪）・熊澤事跡考（清水臥遊隱士）・常山樓筆餘（湯淺常山）・東潜夫論（帆足萬里）・年成錄（中井履軒）。第二冊、太平策（荻生徂徠）・救急或問（安井息軒）・戊戌夢物語（高野長英）・夢夢物語（佐藤元海）・愼機論（渡邊崋山）・鴃舌或問（渡邊崋山）・鴃舌小記（渡邊崋山）・初學課業次第（佐藤一齋）・實用館讀例（平山子龍）・文會雜記（湯淺常山）。第三冊、詩文國字牘（荻生徂徠）・形影夜話（杉田玄白）・經世祕策（佐藤信淵）・仁義略説（朝川善庵）・夜舟物語（殿村常久）・千代のためし・授業編（江村綬）。第四冊、幼學問答（伊勢貞丈）・問合早學問（大江玄圃）・聲文私言（吉田令世）・齋庭之穗・燃犀錄（服部天游）・本與錄（岡白駒）・雲室隨筆（釋雲室）・蘐園談餘（荻生徂徠）・四言教講義（三輪希賢）・新蘆面命。第五冊、松平豆州言行錄・白河樂翁公傳（廣瀨蒙齋）・大學或問（熊澤蕃山）・徂

徠先生問答書（荻生徂徠）・詩學逢源（祇園南海）・魯西亞志（桂川甫周）・鎖國論（檢夫爾）。第六冊、學問源流（那波師曾）・葬祭辨論（熊澤蕃山）・漁村文話（海保漁村）・漁村文話續（海保漁村）・講習餘筆（中村明遠）・正享問答（三輪執齋）・湯土問答（湯淺常山・土肥經平）。第七冊、知止小解（中井原）・文會雜記附錄（湯淺常山）・伊勢貞丈家訓・貝原益軒家訓・作文志彀（山本信有）・作詩志彀（山本信有）・樂言錄（中山精）・北地危言・名家年表（川喜多眞彥）。第八冊、白鹿洞學規集注講義（山崎闇齋・淺見絅齋）・遡遊從之（太田南畝問・木村孔恭答）・時文摘紕（村田春海）・南海詩訣（祇園南海）・經世祕策補遺（本多利明）・經世祕策後編（本多利明）・蝦夷行記・夢語。第九冊、聖學問答（太宰春臺）・知命記（中村成昌）・文章之指南・東江先生書話（澤田鱗）・仕學問答・先哲年表。第十冊、幼學指要（岡田寒泉）・神學承傳記（岡田正利）・改元物語（林春齋）・獻芹微衷（松本微衷）・駁朱度考（荻生徂徠）・翹楚編（莅戸鵬）・長頭丸隱筆（松永貞德）・天竺渡海物語（天竺德兵衞）・光臺一覽（伊達隱士）。第十一冊、足土根記（若林新七）・たむけの說（若林新七）・作文初問（山縣孝孺）・書學筌（平東郊）・三餘叢談（長谷川宣昭）・釣舟物語（深潛隱居）・海道くたり（菅沼貞俊）・南北開拓意見・焉庾篇（莅戸鵬）。第十二冊、無鬼論辨（山片子蘭）・秋齋閒話（多田義俊）・秋齋閒話評（伊勢貞丈）・田園地方紀原（朝川善庵）・江戸文學志略（內藤耻叟）。

【日本料理】745（ニツポンレウリ）　日本風の料理。

【日本書籍考】746（ニツポンシヨセキカウ）　書名。二卷。林羅山撰。上卷は國書數十種。下卷は經典題說。

【日本訪書志】747（ニツポンハウシヨシ）　書名。十六卷。淸、楊守敬撰。守敬が光緖六年（明治十三年）から同十年迄の五年間我が國駐在中、中國に亡佚して我が國にだけ傳はる古書類を訪求して後、其の解題をしたもの。卷一から四まで經類、七經一種、易經三種、尙書三種、詩・周禮・儀禮各一種、春秋七種、論語四種、中庸二種、孝經三種、爾雅四種、小學書類三十三種を收む。卷五・六は史類。國語二種、晉書・五代史・史略・帝範・臣軌各一種、政書四種、地理書六種、雜史六種を收む。卷七から十一まで子類、諸子九種、隨筆六種、數字書二種、書畫書二種、靈棋經一種、小說九種、醫書二十八種、類書十七種を收む。卷十二から十四まで集類、楚辭一種、文選四種、其の他總集二十三種、別集二十九種を收む。卷十五・十六は雜書類、大藏經以下十六種を收む。文字の異同、版式の差異等に於て考證頗る辨明、學者に資する所が多い。〔淸史稿、藝文志〕。

【日本靈異記】748（ニホンリヤウイキ）　書名。三冊。僧景戒撰。詳しくは日本國現報善惡靈異記、略して靈異記ともいふ。中國の冥報記、般若驗記の例に倣つて撰述されたもので、和臭ある漢文で書かれてゐる。〔羣書類從、卷四百四十七〕。〖參考書〗【日本異靈記攷證】狩谷棭齋撰。

【日本藝林叢書】749（ニホンゲイリンソウシヨ）　叢書の名。十二冊。池田四郎次郎・三村淸三郎・濱野知三郎共編。近世儒者の著作を中心として國學者のものも加へた隨筆類を主とする叢書。凡て六十七種、一百四十七卷。其の目は、第一冊、驅睡錄（猪飼敬所）・薈瓚錄（津坂東陽）・作詩志彀（山本北山）・討作詩志彀（佐久間熊水）・討作詩志彀附錄（杉友子孝）・唾作詩志彀（失名氏）・詩訟蒲鞭（雨森牙卿）・駁詩訟蒲鞭（何忠順）・詞壇骨鯁（松村九山）。第二冊、蛻巖答問書（梁田蛻巖）・歲在歲次龍集考（大橋訥庵）・孟子養氣章解（山田方谷）・鹿門隨筆（望月三英）・辨譯文要訣（城山道人）・文章薰蕕辨（旭道一）・竄正名家敍事（猪飼敬所）・時文刊誤（松本愚山）・刪潤海谿遊記（賴山陽）・春山倚杖（森田節齋）・葛原詩話糾繆（津阪東陽）。第三冊、好古小錄（藤原貞幹著、狩谷棭齋注）・好古日錄（藤原貞幹著、狩谷棭齋注）・迷庵雜記（市野迷庵）・靜齋隨筆（河口靜齋）・詩經名物辨解正誤（小野蘭山）・說文新附字考攷正合編（岡井愼吾）・轉注說（狩谷棭齋著、岡本保孝注）・周尺說（森約之）丈山夜譚（失名氏）。第四冊、泰山遺說（小川泰山）・彼此合符（岡田新川）・和漢駢事（虞淵外史）・大和行日記（菅茶山）・拙堂文話評（齋藤拙堂著、山本積善評）・殘叢小話（松崎慊堂）・猪飼敬所先生書柬集（猪飼敬所）・書經蔡傳渾天儀圖攷（日尾荊山）・五倫名義辨證（曾我耐軒）。第五冊、雅遊漫錄（大枝流芳著、淸田儋叟標記）・聖藩羝觸（山梨稻川）・蟄居紀談（河崎淸窩）・伊勢の家苞（足代弘訓）・春宵秋夜談（失名氏）・相識人物志（岡本況齋）・昌平茗談（失名氏）・廉齋閒話（失名氏）・杏柳傳語（太田南畝）・細推物理（太田南畝）。第六・七冊、嬉遊笑覽・附錄（喜多村信節）。第八冊、見聞談叢（伊藤梅宇）・後輶軒小錄（新庄柏園）・柏園獨語（新庄柏園）・さし出の磯（新見茅山）・異本名家略傳（山崎美成）・鈴屋消息（本居宣長）・歎の下露（青木茂房）・棭齋華牋（狩谷棭齋）・後素手簡（大鹽中齋）・一枝餘芳（村田了阿）・錢譜（藤原貞幹）・錢貨譚叢（酒井鶯亭）・新校正珍貨圖鑑凡例（狩谷了叟）。第九冊、曲亭書簡集（瀧澤馬琴）・無佛手簡（藤原貞幹）・藤垣內消息（本居大平）・全齋墨叢（大田全齋）。第十冊、耳囊（根岸鎭衞）・羽澤隨筆（岡田助方）。第十一・十二冊、慊堂日歷上下（松崎慊堂）。

【日本古刻書史】750（ニホンココクシヨシ）　書名。一冊。朝倉龜三撰。我が國に於ける刻書の始まりから慶長末年に及ぶ、古版本の沿革を述べたもので、奈良朝・平安朝・鎌倉・室町・桃山・江戸の五期に大別して敍述し、各章の終に開版書跋を附す。

【日本詩話叢書】751（ニホンシワソウシヨ）　叢書の名。十冊。池田四郎次郎編。近世以降、德川末期に至る間の邦人の詩話を收めたもの。其の內容は、第一冊、詩訣（祇園南海）・白石先生詩範（新井白石）・南郭先生燈下書（服部南郭）・唐詩平一人考（鱸松江）・日本詩史（江村北海）・史館茗話（林梅澗）・作詩質的（冢田大峰）・詩格刊誤（日尾省齋）。第二冊、詩學逢原（祇園南海）・孝經樓詩話（山本北山）・談唐詩選（市河寬齋）・詩學還丹（源春川）・夜航詩話（津阪東陽）・丹丘詩話（芥丹丘）。第三冊、夜航餘語（津阪東陽）・詩律初學抄（梅室雲洞）・斥非・附錄（太宰春臺）・初學詩法（貝原益軒）・詩學新論（原田東岳）・詩格集成（長山樗園）・詩聖堂詩話（大窪天民）・詩山堂詩話（小畑詩山）。第四冊、葛原詩話（釋六如）・葛原詩話標記（猪飼敬所）・淡窓詩話（廣瀨淡窓）・綵巖詩則（奧綵巖）・詩論・附錄（太宰春臺）・松陰快談（長野豐山）・詩律（赤澤一堂）・弊帚詩話・附錄（西島蘭溪）。第五冊、葛原詩話後篇（釋六如）・葛原詩話糾繆（津阪東陽）・淇園詩話（皆川淇園）・鉏雨亭隨筆（東夢亭）・東人詩話（朝鮮、徐居正）・竹田莊詩話（田能村竹田）。第六冊、藝苑譜（淸田儋叟）・詩轍（三浦梅園）・滄溟近體聲律考（澁川南谷）・幼學詩話（東條琴臺）・濟北詩話（釋虎關）・柳橋詩話（加藤善庵）・全唐詩逸（市河寬齋）。第七冊、詩轍（三浦梅園）・文鏡祕府論（弘法大師）・老圃詩膎（安積澹泊）・詩史顰（市野迷庵）・木石園詩話（久保善敎）。第八冊、作詩志彀（山本北山）・詞壇骨鯁（松村九山）・詩訟蒲鞭（雨森牛山）・藝園鉏莠（松村九山）・辨藝園鉏莠（絲井榕齋）・錦天山房詩話（友野霞舟）。第九冊、藝苑譚（淸田儋叟）・太冲詩規（滕荷澤）・詩窓閑話（中根香亭）・話則（林東溟）・錦天山房詩話（友野霞舟）・五山堂詩話（菊池五山）。第十冊、葛原詩話糾繆（津阪東陽）・詩律兆（中井竹山）・詩法正義（石川丈山）・梧窓詩話（林蓀坡）・社友詩律論（小野泉藏）五山堂詩話（菊池五山）。

【日本儒林叢書】752（ニツポンジユリンソウシヨ）　叢書の名。正編六冊。續編三冊。續續編三冊。關儀一郎編。近世儒家の著作を編したもの。其の目は【正編】第一冊、隨筆部一。閒居筆錄（伊藤東涯）・瑣語（五井蘭洲）・擇言（尾藤二洲）・隨意錄（冢田大峰）・解慍（冢田大峯）・娯語（摩島松南）・淸暑閒談（西島蘭溪）・藝苑談（淸田儋叟）・閑窓自適（三浦瓶山）・追思錄（廣瀨旭莊）・卜夜快語（田能村竹田）。第二冊、隨筆部二。閒窓雜錄（中村蘭林）・晚年謾錄（久米訂齋）・閒窓瑣言（西山拙齋）・靜寄餘筆（尾藤二洲）・冬讀書餘（尾藤二洲）・嶲燕偶記（增島蘭園）・秋堂閒語（西島蘭溪）・續秋堂閒語（西島蘭溪）・南柯餘編（安積艮齋）・九桂草堂隨筆（廣瀨旭莊）・塗說（廣瀨旭莊）・睡餘漫筆（安井息軒）。第三冊、史傳書簡部。南學傳（大高坂芝山）・南學遺訓（大高坂芝山）・先達遺事（稻葉默齋）・墨水一滴（稻葉默齋）・吾學源流（渡邊豫齋）・史館茗話（林梅洞）・

日本詩史（江村北海）・文苑遺談（青山拙齋）・文苑遺談續集（青山拙齋）・尾張名家誌初編（細野忠陳）・石川丈山年譜（人見竹洞）・丈山遺墨由來記（豐藤熟之）・山崎闇齋年譜（山田思叔）・紀平洲年譜（神野世猷）・及門遺範（會澤正志齋）・我昔詩集（龜井南冥）・師友志（賴春水）・在津紀事・春水遺稿別錄（賴春水）・先儒三子評（服部栗齋）・儒林評（廣瀨淡窓）・當世名家評判記前編（未詳）・秋雨談（未詳）・都下名流品題辨（未詳）・攝西六家詩評（廣瀨青邨）・近世名家文評（川田甕江）・學寮了簡（荻生徂徠）・寬政異學關係文書（栗山・春水・滄洲・拙齋・大峯・岡鼎・諸氏論）・村雨夕（赤崎海門）・申聞錄（廣瀨淡窓）・上明山公書（安井息軒）・榮觀錄（藤澤東畡）・丙辰紀行（林羅山）・東奧紀行（長久保赤水）・遊松山記（西山拙齋）・僑居日記（佐藤一齋）・紫芝園國字書（太宰春臺）・燈下書（服部南郭）・拙齋遺文鈔俗簡焚餘（佐藤一齋）・猪飼敬所書柬集（猪飼敬所）・慊堂遺墨（松崎慊堂）。第四冊、論辨部。適從錄（大高坂芝山）・辨大學非孔氏之遺書辨（淺見絅齋）・辨送浮屠道香師序（佐藤直方）・辨伊藤維楨仁齋（鈴木貞齋）・辨道（荻生徂徠）・非徂徠學（蟹養齋）・辨道解蔽（石川麟洲）・燃犀錄（服部蘇門）非物氏（平瑜）・閑距餘筆（中井竹山）・讀辨道（龜井昭陽）・徂徠學則及附錄（荻生徂徠）・徂徠學則附錄問答（谷口大雅）・徂徠學則辨（上月專庵）・讀學則（井上金峨）・梧窓客談（山內退齋）・時學鍼焫（高泉溟）・讀書正誤（石川香山）・集義和書顯非（西川季格）・理氣辨論（中江岷山）・非聖學問答（高瀨學山）・斥非（太宰春臺）・駁斥非（深谷公幹）・崇孟（藪孤山）・思問錄（藤澤東畡）・湯武論（伊藤藍田）・和漢明辨（佐久間太華）・王學辨集（豐田信貞）・王學駁議（山口菅山）・洗心洞學名學則（大鹽中齋）・豈好辨（會澤正志齋）・辨妄（安井息軒）・隔靴論（鹽谷宕陰）・養子辨證（淺見絅齋）・同姓爲後稱呼說（三宅尚齋）・養子辨辨（三輪執齋）・朱學辨（鎌田柳泓）・俗儒辨（蟹養齋）・逸史糾繆（猪飼敬所）・抱腹談（高松芳孫）・抱腹談の抱腹（海保漁村）・讀直毘靈（會澤正志齋）・讀葛花（會澤正志齋）・讀末賀能比連（會澤正志齋）・讀級長戶風（會澤正志齋）。第五冊、解說部一。易經古義（伊藤仁齋）・大象解（伊藤仁齋）・易道撥亂（太宰春臺）・易道撥亂辨（森東郭）・繫辭答問（東條一堂）・讀詩要領（伊藤東涯）・讀詩要領（中村蘭林）・經義掫說（山本北山）・孝經餘論（豐島豐洲）・孝經兩造簡孚（東條一堂）・古文孝經私記、敬所批校本（朝川善庵）・三經小傳（大田晴軒）・極論（伊藤仁齋）・讀近思錄鈔（伊藤仁齋）・大極圖說管見（伊藤東涯）・大極圖說十論（伊藤東涯）・通書管見（伊藤東涯）・性命答問（東條一堂）・一齋先生雅言（村士玉水）・理學祕訣（鎌田柳泓）・理氣鄙言（櫻田虎門）・性理鄙說（大橋訥菴）・天民遺言（並河天民）・學論（松宮觀山）・學論二編（松宮觀山）・學派辨解（松宮觀山）・管仲非仁者辨（日尾荊山）・古學指要（伊藤東涯）・古學辨疑（富永滄浪）。第六冊、解說部二。語孟字義、敬所批校本（伊藤仁齋）・語孟字義辨（木山楓谿）・大疑錄、敬所批校本（貝原益軒）・聖語述（伊藤東涯）・三才辨義（田中麗山）・豐子仁說（豐島豐洲）・豐子筆談（豐島豐洲）・聖道辨物（冢田大峯）・新論（村田庫山）・敬義內外說（淺見絅齋）・敬義內外考（友部安崇）・敬義內外考論（佐藤直方）・問學擧要（皆川淇園）・三教要論（松宮觀山）・師門問辨錄（山田方谷）・愚聞漫鈔（富春山人）・約言、昭陽批校本（廣瀨淡窓）・約言或問（廣瀨淡窓）・聖學私言（岡田煌亭）・聖學或問（森省齋）・性論（森省齋）・老子雕題（中井履軒）・莊子解（照井一宅）・九經談、敬所批校本（大田錦城）・冬の日影（菅茶山）・家學小言（龜井昭陽）・朱學管窺、批評附（安積艮齋）・經義字義古訓（海保漁村）・翁の文（富永仲基）。【續編】第一冊、隨筆部一。蘐園隨筆（荻生徂徠）・蘐園十筆（荻生徂徠）・桂館野乘及漫筆（原雙桂）・讀書會意（澁井太室）・水哉子（中井履軒）・近聞寓筆（吉田篁墩）・代奕雜鈔（石川香山）・坤齋日抄（西島蘭溪）・侗菴筆記（古賀侗菴）・學資談（田中大壯）・國字示蒙附錄（村上中所）・鉏雨亭隨筆（東夢亭）。第二冊、解說部一、及雜部。儒門思問錄（林羅山）・太極圖述（室鳩巢）・經義緖言（井上金峨）・霞城講義（井上金峨）・聖教類語和解及附錄（宇佐美灊水）・原子（原狂齋）・孔子家語考（西島蘭溪）・晏子春秋考（西島蘭溪）・正論（村田庫山）・源源論（村田庫山）・經史博論（伊藤東涯）・經史論苑（伊藤東涯）・史論（安積艮齋）・讀史贅議（齋藤竹堂）・讀史贅義逸編（齋藤竹堂）・逢原記聞（廉義齋）・刊謬正俗附作文眞訣（伊藤東涯）・稱謂私言批評附（尾藤二洲）・操觚正名（猪飼敬所）・師辨（井上金峨）・學範初編（東條一堂）・辨復古（蟹養齋）・非辨道辨名（森大年）。第三冊、隨筆部二、及詩文部。劉子上篇（古賀侗菴）・蘐園錄稿（荻生徂徠）・日本詩選（江村北海）・履軒弊帚（中井履軒）・弊帚續編（中井履軒）・弊帚季編附補遺（中井履軒）・山子遺文（片山兼山）。第四冊、解說部二、及隨筆部三、荀子略說（安積艮齋）・荀子述（朝川善庵）・韓非子考（荻原大麓）・劉子下篇附補遺（古賀侗菴）・霞關掌錄（賴春水）。【續續篇】第一冊、解說部。辨疑錄（伊藤東涯）・西銘詳義（室鳩巢）・朱氏詩傳膏肓（太宰春臺）・古文尙書總辨（宮田五溪）・七經劄記（崗田煌亭）・聖道合語（冢田大峯）・聖道得門（冢田大峰）・講學筆記（中村惕齋）・學半樓十干集（伊藤鳳山）・教學辨（堤它山）・名義錄（佐藤敬菴）・正學指要（高松貝陵）・正學指要鞭妄（日尾荊山）。第二冊、隨筆部及雜部。湖亭涉筆（安積澹泊齋）・霞亭涉筆（北條霞亭）・抱關休暇漫筆（矢部騰谷）・鳩居語（尾崎稱齋）・知非編（三浦淸陰）・蟻亭摭言（大井雪軒）・學範後編（東條一堂）・一堂讀書法（東條一堂）・視志緖言（鹽谷宕陰）・續三教要論（松宮觀山）・三之逕（瀧鶴臺）・管仲孟子論（松村九山）・朱王學辨（二山時習堂）・啓蒙辨（源敏通）・封建論（伊藤鳳山）・士太夫節儉論（龍草廬）・貧政（勝田半齋）・傳疑小史（中井履軒）・寤眠錄（中村栗園）・東征稿（中井竹山）・西上記（中井竹山）・報桑錄（齋藤竹堂）・俟采擇錄（久坂江月齋）・文論詩論（太宰春臺）・夜航詩話（津坂東陽）・詩史顰（市野迷庵）・律詩天眠（熊坂臺州）・學問所創置心得書（佐藤一齋）。第三冊、詩文部。金峩先生文集（井上金峩）・樂古堂文集（仁井田南陽）・采蘋詩集（原采蘋）・鼓缶子文草（櫻田虎門）。

〔日本倫理彙編〕753（ニッポンリンリイヘン）　叢書の名。全十冊。井上哲次郎・蟹江義丸共編。學派別に彙輯す。凡て三十六家、七十七部、二百七卷。【陽明學派】第一冊、翁問答・藤樹遺稿・藤樹先生書翰雜著・藤樹先生學術定論（中江藤樹）・集義和書（熊澤蕃山）・集義外書（熊澤蕃山）・王學名義（三重松菴）・日用心法・四言教講義・雜著（三輪執齋）・東里遺稿・東里外集（中根東里）。第二冊、言志錄・言志後錄・言志晚錄・言志耋錄（佐藤一齋）・古本大學刮目・儒門空虛聚語・增補孝經彙注（大鹽中齋）。【古學派】第四冊、聖教要錄・山鹿語錄・武教小學・配所殘筆（山鹿素行）。第五冊、語孟字義・童子問・仁齋日札（伊藤仁齋）・學問關鍵・天命或問・復性辨・古今學變・訓幼字義（伊藤東涯）。第六冊、辨道・辨名・學則・答問書（荻生徂徠）・辨道書・聖學問答・六經略說（太宰春臺）・爲學初問（山縣周南）。【朱子學派】第七冊、惺窩文集抄錄・千代もと草（藤原惺窩）・講學筆記（中村惕齋）・駿臺雜話（室鳩巢）・橘窓茶話（雨森芳洲）・闢異・經名考・仁說問答（山崎闇齋）・學談雜錄（佐藤直方）・聖學圖講義・六經編考（淺見絅齋）・默識錄（三宅尙齋）・柳子新論（山縣大貳）。第八冊、愼思錄・大疑錄・五常訓（貝原益軒）・素餐錄・正學指掌（尾藤二洲）・原古編（賴杏坪）。【折衷學派】第九冊、嚶鳴館遺草（細井平洲）・山子垂統前編・後編（片山兼山）・經義折衷・匡正錄（井上金峨）・疑問錄・仁說三書（大田錦城）。【獨立學派】第十冊、贅語・敢語・寓意・梅園叢書・梅園拾葉（三浦梅園）・入學新論（帆足萬里）・報德外記・二宮先生語錄（二宮尊德）。【老莊學派】喰囈錄（盧草拙）・道學正要（有木雲山）・鷹起子（阿部漏齋）・析玄・義府（廣瀨淡窓）。

〔日本國現在書目錄〕754（ニホンコクゲンザイショモクロク）　書名。一卷。藤原佐世奉敕撰。日本見在書目錄、又は單に見在書目錄ともいふ。當時我が國に現存した漢籍を著錄した書籍目錄で、部門別にして書名と卷數を擧げ、著者名をも記してゐるものがある。其の部門は易・尙書・詩・禮・樂・春秋・孝經・論語・異說・小學・正史・古史・雜史・霸史・起居注・舊事・職官・儀注・刑法・雜傳・土地・譜

系・籍錄・儒・道・法・名・墨・縱橫・雜・農・小說・兵・天文・曆數・五行・醫方・楚辭・別集・總集の四十家で、著錄された典籍の實數は千五百七十九部、一萬六千七百九十卷に達し、其の編述の體裁は隋書經籍志に似る。當時に於ける我が國の漢學の狀態を窺ひ知られるのみでなく、支那正史に於ける經籍志・藝文志の缺を補ふに足り、この書によつて、名を知る事の出來る逸書も少くない。〔續羣書類從、卷八百八十四〕。〖參考書〗【日本現在書目證注稿】狩谷棭齋撰。〔日本古典全集〕。

【日米】755 ニチマイ ❶王朝時代、日々大炊寮から飯を賜はること。日粮。〔大炊寮式〕雅樂寮番樂人。〔注〕日米一斗六升。❷ニチベイ 日本と米國。

【日邁】756 ニチマイ 日々に行ふ。日々にすすむ。〔書、召誥〕王先服二有殷御事一、比二介于我有周御事一、節レ性惟日其邁。〔傳〕則道化惟日其行。〔蔡傳〕則日進二於善一而不レ已矣。〔詩、小雅、小宛〕我日斯邁、而月斯征。〔箋〕我、我王也、邁征、皆行也、王日此行、謂二日視レ朝也、而月此行、謂二月視レ朔也。

【日末】757 ニチマツ 日の暮方。〔謝靈運、登二上戍石鼓山一詩〕日末澗增レ波、雲生嶺逾レ疊。

【日滿】758 ニチマン ❶日といふ文字の形が滿ちて虧けた所がないこと。〔晉書、衞恒傳〕夫指事者、在レ上爲レ上、在レ下爲レ下、象形者、日滿月虧、效二其形一也。❷期日が來るをいふ。❸日本と滿洲。

〘日滿議定書〙759 ニチマンギテイショ 昭和七年九月、日本と滿洲國との間に締結された議定書。滿洲國は其の領域內に於ける日本國及び日本國臣民が從來有した一切の權益を確認尊重すること、兩國は其の一方の領土、治安に對する脅威に對し共同して其の防衞に當るべきこと等を內容とする。

【日蔓】760 ニチマン 日々にはびこりひろがる。〔宋書、周朗傳〕檐中山木、時華月深、池上海草、歲榮日蔓。

【日密】761 ヒニミツナリ 日に日に親密の度を加へる。〔蜀志、諸葛亮傳〕與レ亮情好日密、關羽張飛等不レ悅。

【日名】762 ニチメイ ❶太陽の名。老子曆藏中經に、日の姓は張、名は表、字は長史とある。〔雲笈七籤〕老子曆藏中經云、日月者天地之司徒司空也、日姓張、名表、字長史、月姓文、名申、字子光。❷日附の名。〔禮、月令、孟春之月云云其日甲乙、注〕乙之言軋也、日之行、春東從二青道一、發二生萬物一、月爲二之佐一、時萬物皆解二孚甲一、自抽軋而出、因以爲二日名一焉。

【日明】763 ニチメイ ❶日の光の明かなこと。〔素問、八正神明論〕是故天溫日明、則人血淖液、而衞氣浮、故血易レ寫、氣易レ行。〔盧綸、綸與二吉侍郎一云云詩〕沴氣既風散、皇威如二日明一。〔常達、山居詩〕日明庭砌暖、霜苦樂苗衰。❷ヒヤリ 遠江國の地名。

【日盟】764 ニチメイ 日にちかふ。毎日むすびちかふ。〔左氏、哀、十二〕公會二吳于橐皐一、吳子使二太宰嚭請レ尋レ盟、公不レ欲、使二子貢對一曰、盟所二以周レ信也、故心以制レ之、玉帛以奉レ之、言以結レ之、明神以要レ之、寡君以爲、苟有レ盟焉、弗レ可レ改也、已若猶可レ改、日盟何益、今吾子曰、必尋レ盟、若可レ尋也、亦可レ寒也、乃不レ尋レ盟。

【日茂】765 ニチモ 日にしげる。日に日にしげり盛になる。〔漢書、禮樂志〕玄氣之精回復、此都蔓蔓日茂、茂成二靈華一。〔晉書、劉琨傳〕琨疏曰、陛下龍姿日茂、叡質彌光。〔南齊書、武帝紀〕太孫進德日茂、社稷有レ寄。〔陳書、始興王伯茂傳〕淸輝美譽、日茂月升。

【日蒙】766 ニチモウ 陽氣が陰氣に蔽はれること。臣下の勢が強い喩。〔後漢書、郎顗傳〕占曰、日乘則有二妖風一、日蒙則有二地裂一、如レ是二年、則致二日食一、陰侵二其陽一、漸積所レ致。

【日門】767 ニチモン 太陽をいふ。〔梁元帝、揚州梁安寺碑〕日門見二羲和之色一、月殿望二奔娥之象一。

【日問】768 ニチモン 日にとふ。毎日問ふ。〔元史、董文炳傳〕比レ至帝日問二來期一、及レ至卽召入。

【日夜】769 ニチヤ ❶ひるとよる。ひるもよるも。よるひる。日夕。始終。平常。〔周禮、夏官、挈壺氏〕皆以二水火一守レ之、分以二日夜一。〔孟子、告子上〕是其日夜之所レ息、雨露之所レ潤、非レ無二萌蘖之生一焉。〔史記、秦紀〕日夜哭泣。〔漢書、黥布傳〕日夜會二戰彭城下一。〔後漢書、馮衍傳下〕幷二日夜一而幽思兮。〔張華、勵志詩〕逝者如レ斯、曾無二日夜一。〔左思、詠史詩〕朋友日夜疏。〔陸機、贈二尙書郞顧彥先一詩〕音聲日夜闊。❷ヒクラシ ヒグラシ 姓氏。

〘日夜食〙770 ヒヨルショクス 日が夜蝕する。臣が其の罪惡を掩ふ喩。〔海錄碎事、天、災異〕莊公十八年日食、穀梁傳曰、不レ言レ日、不レ言レ朔、夜食也、史推二合朔一在レ夜、明旦日食而出、出而解、是爲二夜食一、劉向以爲、象下晉文行二伯道一、召二天王一而朝上之、日食者、臣之惡也、夜食者、掩二其罪一也。

〘日夜分〙771 ニチヤヒトシ 晝と夜と長さが等しい。分は等しい。〔禮、月令〕仲春之月、云云、是月也、日夜分、雷乃發レ聲、始電、蟄蟲咸動、啓レ戶始出、云云、日夜分、則同二度量一。〔注〕因二晝夜等而平一、當レ平也。〔疏〕日夜分、謂二晝夜漏刻一、馬融云、晝有二五十刻一、夜有二五十刻一、據二日出日入一、爲レ限。〔淮南子、時則訓〕是月也、日夜分、雷始發レ聲、蟄蟲咸動蘇。〔注〕分、等也。〔淮南子、時則訓〕日夜分壹二度量一、平二權衡一、正二鈞石一。

〘日夜出租〙772 ニチヤシュツソ jih^4 yeh^4 ch'u^1 tsu^1 晝夜の別なく貸出に應ずる。

〘日夜不レ絕〙773 ニチヤタエズ 晝も夜もたえない。晝夜を通し續ける。〔左氏、定、四〕立依二於庭牆一而哭、日夜不レ絕レ聲。

〘日夜無レ閒〙774 ニチヤカンナシ 晝夜絕え閒がない。〔呂覽、聽言〕亂世之民、其去二聖王一亦久矣、其願レ見レ之、日夜無レ閒。

【日陽】775 ニチヤウ 太陽をいふ。君道に喩へる。〔詩、大雅、卷阿、梧桐生矣于二彼朝陽一、疏〕既以二梧桐一比レ君、不レ言レ生二於他處一、而云レ生二於朝陽一者、以下其早見二日陽一被中溫仁之氣上。〔宋書、天文志二〕星傳曰、日陽、君道也、星陰、臣道也。

【日暘】776 ニチヤウ ひなた。〔白居易、飽食閑坐詩〕箕踞擁レ裘坐、半身在二日暘一。

【日喩】777 ニチユ 文章の名。宋、蘇軾の作。道は自ら致すべきもので、求むべきものではない。人に求めれば、其の要領を得難く、自ら致せば、能く其の本體を捉へることが出來る。之を喩へるに、盲者の日に於けるが如くであるといふ。故に日喩といふ。〔蘇軾、日喩〕生而眇者不レ識レ日、問二之有レ目者一、或告レ之曰、日之狀如二銅盤一、扣レ盤而得二其聲一、他日聞レ鐘、以爲レ日也、或告レ之曰、日之光如レ燭、捫レ燭而得二其形一、他日揣レ籥、以爲レ日也、日之與二鐘籥一亦遠矣、而眇者不レ知二其異一、以下其未二嘗見一而求中之人上也。

【日融】778 ニチユウ ❶日々にやはらぎたのしむ。〔宋書、禮志一〕雖二聖化日融一、而王道未レ備。❷日の光がとける。〔潘炎、淸如二玉壺冰一詩〕日融光乍散、雪照色逾鮮。

【日餘】779 ニチヨ ❶沈みかかつた太陽。〔何遜、落日前墟望二贈范廣州雲一詩〕輕煙澹二柳色一、重霞映二日餘一。❷日のあまり。㋑夜をいふ。〔魏志、王肅傳、注〕魏略曰、云云、夜者日之餘。㋺一日未滿をいふ。〔晉書、律曆志中〕得二一日一、不レ盡爲二日餘一。

【日用】780 ニチヨウ ❶毎日用ひる。又、毎日の入用。〔易、繫辭上〕百姓日用而不レ知。〔詩、小雅、天保〕民之質矣、日用飮食。〔後漢書、西羌傳〕信二其馴服之情一、計二日用之權一。〔左思、魏都賦〕世業之所二日用一、耳目之所二聞覺一。❷宋、扈蒙（**5－11746**・・20）の字。

〘日用帳〙781 ニチヤウチヤウ 賄方費用及び日用の買物等を記入する帳簿。

〘日用品〙782 ニチヨウヒン 衣食住に關して毎日用ひる實用品。

〘日用文〙783 ニチヨウブン 手紙の文。書翰文。

〘日用開支〙784 jih^4 yung^4 k'ai^1 chih^1 雜費。日用花費ともいふ。

【日容】785 ジツヨウ 淸、張大受（**4－9812**・・1322）の字。

【日傭】786 ヤトヒ 其の日限り傭ふこと。或は日限を定めて傭ふこと。又、其の傭はれる人。ひよう。〔好色一代男〕日雇ひの取揚婆。

〘日傭取〙787 ヒヨウトリ 日雇の人夫。日傭稼。

【日浴】788 ニチヨク 日々ゆあみする。〔莊子、天運〕夫鵠不二日浴一而白、烏不二日黔一而黑。

【日來】789 ニチライ ❶日々に來る。〔漢書、董仲舒傳〕善治則災害日去、福祿日來。❷日が出て來る。〔易、繫辭下〕日往則月來、月往則日來。〔列子、力命〕日去日來、孰能知二其故一。〔上官遜、松柏有レ心賦〕葉離離而日來冬暖、枝梢梢而風至夏涼。❸ひごろ。數日このかた。來は助語。

【日浪】791 ニチラウ 日の光を受けた浪。〔唐太宗、春日

登二陝州城一云云詩〕煙峰高下翠、日浪淺深明。

【日朗】792（ニチラウ）　日がほがらかに照ること。〔李紳、渡二西陵一詩序〕雨收雲息、日朗者、三旬有五日。〔寒山詩〕閑遊華頂上、日朗晝光輝。

【日落】793（ニチラク）　❶日が落ちる。夕日が入る。〔鮑照、日落望レ江贈二荀丞一詩〕日落嶺雲歸、延レ頸望二江陰一。〔王維、送二邢桂州一詩〕日落江湖白、潮來天地青。〔孟浩然、采樵作〕日落伴將レ稀、山風拂二羅衣一。〔杜甫、送三舍弟頻赴二齊州一詩〕江通一柱觀、日落望鄉臺。❷日に落ちる。毎日落ちる。〔宋書、符瑞志上〕有レ草夾レ階而生、月朔始生二一莢一、月半而二十五莢一、十六日以後、日落二一莢一、及レ晦而盡。

【日覽】794（ニチラン）　日々にみる。〔宋史、田錫傳〕爲二日覽之書一、資二日新之德一。

【日蘭】795（ニチラン）　日本と和蘭。

【日利】796（ニチリ）　日に計算する利息。

【日裏】797（ニチリ）　日の照らす所。〔李義府、詠レ烏詩〕日裏颺二朝彩一、琴中伴二夜啼一。

【日離】798（ニチリ）　日にはなれる。日一日と離れる。〔國語、周語下〕聽レ淫日離二其名一。〔尹文子、大道上〕善人之與二不善人一、名分日離、不レ待二審察一而得也。

【日柳】799（クサナギ）　姓氏。

【日流】800（ニチリウ）　日光の光りかがやくこと。〔王僧孺、中寺碑銘〕日流閃爍、風度清鏘。

【日律】801（ニチリツ）　複姓。〔魏略〕鮮卑有二此姓一。

【日粮】802（ニチリヤウ）　王朝時代、日々大炊寮から飯を賜はること。〔三代實錄、十八〕貞觀十二年六月二十七日、松尾神社物忌一人充二日粮一、立爲二永例一。

【日隆】803（ニチリユウ）　❶日々に盛になる。〔呂覽、序意〕智不レ公、則福日衰、災日隆、以二日倪而西望一知レ之。〔漢書、谷永傳〕小人日銷、俊艾日隆。❷室町時代の僧。法華宗本門流の派祖。初名は日立、字は深圓、精進院と號した。日朝と並ぶ日蓮宗の學僧。

【日龍】804（ニチリユウ）　日を指して上つた龍。〔張說、舞馬詞〕天鹿遙徵二衞叔一、日龍上借二羲和一。

【日力】805（ニチリヨク）　日出から日沒まで。一日中の時間。光陰をいふ。〔孟子、公孫丑下〕去則窮二日之力一、而後宿哉。〔後漢書、王符傳〕功之所二以能建一者、以二日力一也。〔韋昭、博弈論〕經レ之以二歲月一、累レ之以二日力一。〔宋史、李綱傳〕四曰、愛二惜日力一。

〖窮二日力一〗806（ニチリヨクヲキハム）　日出から日沒に至るまで勞する。日力を見よ。〔柳宗元、故殿中侍御史柳公墓表〕自レ少耽レ學、頗工爲レ文、既窮二日力一、又繼以レ夜。

【日林】807（ニチリン）　❶仙人の住む國の名。〔述異記〕日林國、有二神藥數千種一、其西南有二石鏡方數百里一、光明瑩徹、可レ鑒二五藏六府一、亦名二仙人鏡一。❷清、黃河（**12―47926**‥91）の字。

【日輪】808（ニチリン）　❶日。太陽をいふ。〔庾信、鏡賦〕天河漸沒、日輪將レ起。〔梁簡文帝、謝三勅賚レ銅供二造善覺寺塔露盤一啓〕陽燧含レ景、還譬二日輪一。〔高適、塞下曲〕日輪駐二霜戈一、月魄懸二琱弓一。〔宋史、李賢妃傳〕妃嘗夢二日輪逼レ己、以レ裾承レ之、遂生二眞宗一。❷jih^4 luen^2　日本汽船。❸火をいふ。〔虛實柳巷方言、中〕火日　日りん。

〖日輪草〗809（ニチリンサウ）　ひまはり草の異名。向日葵。

【日廩】810（ニチリン）　每日支給する。又、每日の給與。其の日の糧食。〔晉書、會稽王道子傳〕于レ時軍旅荐興、國用虛竭、自二司徒一以下、日廩二七升一。

【日臨】811（ニチリン）　日の光がさしこむ。〔杜甫、嚴公廳宴同詠二蜀道畫圖一詩〕日臨二公館一靜、畫列二地圖一雄。〔劉禹錫、麻姑山詩〕雲蓋二青山一龍臥處、日臨二丹洞一鶴歸時。

【日鱗】812（ジツリン）　清、王濟（**7―20823**‥666）の字。

【日冷】813（ニチレイ）　日光が冷かなこと。〔皎然、送二祕上人遊レ京詩〕日冷行人少、時清古鎭空。

【日麗】814（ニチレイ）　❶晴天で日がうららかなこと。〔謝靈運、從二遊京口北固一應詔詩〕遠巖映二蘭薄一、白日麗二江皐一。〔唐太宗、芳蘭詩〕日麗參差影、風傳輕重香。❷jih^4 li^4　スマトラ北岸の地。又、的里に作る。

【日靈】815（ニチレイ）　太陽をいふ。靈も日をいふ。〔薛曜、舞馬篇〕承雲嘈囋駭二日靈一、調露鏗鉱動二天駟一。

【日曆】816（ニチレキ）　❶史官が日々の事を記した簿冊。〔大戴禮、千乘〕凡民之藏貯、以及二山川之神明一、加二于民一者、發二國功一謀、齋戒必敬、會時必節二日曆巫祝一。〔注〕日歷、太史馮相之屬。〔揮麈後錄〕凡史官記事、所レ因者有レ四、一曰時政記、則宰執朝夕議政、君臣之間奏對之語也、二曰起居注、則左右史所レ記言動也、三曰日曆、則因二時政記起居注一、潤色而爲レ之者也、四曰臣僚墓碑行狀、則其家之所レ上也。〔劉因、新居詩〕年來日曆無二多事一、只有三求方與二借書一。❷日々の出來事を書き記す。又、其の物。〔宋史、藝文志三〕唐天祐二年日曆一卷。❸jih^4 li^4　日記。カレンダー。

【日歷】817（ニチレキ）　日曆に同じ。

【日烈】818（ニチレツ）　日がはげしい。太陽の光が烈しいこと。〔李商隱、春深脫レ衣詩〕日烈憂レ花甚、風長奈レ柳何。〔唐彥謙、春深獨行馬上有レ作詩〕日烈風高野草香、百花狼籍柳披猖。

【日蓮】819（ニチレン）　安房國小湊の人。幼名、善日麻呂。貫名重忠の子。十二歲で清澄山で出家し、建長五年、南無妙法蓮華經の題目を唱へて日蓮宗を始めた。後、幕府のため伊豆國に流され、又、龍ノ口に斬に處せられようとし、又、佐渡に配せられた。弘安五年、武藏池上で寂す、年六十一。大正十三年、立正大師の諡號を賜ふ。著に立正安國論・開目抄等がある。

〖日蓮宗〗820（ニチレンシユウ）　日蓮を祖とする佛教の一派。法華經一部を所依とするから、俗に法華宗ともいふ。

【日路】821（ニチロ）　太陽の運行する道。〔西京雜記、六〕魯恭王得二文木一枚一、伐以爲レ器、意甚玩レ之、中山爲レ王賦曰、麗木離披、生二彼高崖一、拂二天河一而布レ葉、橫二日路一而擢レ枝。〔張融、海賦〕翔歸棲去、連陰日路、瀾張波渚、陶元浴素。〔王勃、梓州郪縣靈瑞寺浮圖碑〕飛廉按レ轡定二樞泉於風衢一、羲和頓レ策揆二鉤繩於日路一。

【日露】822（ニチロ）　日本と露西亞。

〖日露戰爭〗823（ニチロセンサウ）　明治三十七、八年に日本とロシアとの間に行はれた戰爭。三十七年二月五日國交斷絕以來、旅順攻圍・奉天大會戰・日本海大海戰等で我が國の連捷に歸し、三十八年九月米國のルーズヴエルト大統領の斡旋によつてポーツマス條約成立し、我が國の勝利を以て戰を終つた。

【日勒】824（ニチロク）　縣名。漢、置く。故城は甘肅省山丹縣の東南。今、古城窪と名づける。〔漢書、地理志下〕張掖郡、縣十、日勒。

【日錄】825（ニチロク）　❶日々の出來事をしるす。又、其の帳面。日記。日誌。〔宋史、周常傳〕若著爲二定令一、則必記二於日錄一、傳二之史筆一、使二後人觀レ之。〔王氏類苑〕王安石既罷レ相、悔三其執政日無二善狀一、乃撰二神宗日錄一、歸二過于上一、掠二美于己一。陳瓘於レ是著二尊堯集一、專辨二日錄之非一。❷事件を錄するに其の日附を幷せ書する法。春秋の書法。〔公羊、隱、元、公子益師卒何以不レ日、注〕大夫卒、有レ罪無レ罪、皆日二錄之一、丙申、季孫意如卒、是也。

〖日錄論文〗826（ニチロクロンブン）　書名。一卷。清、魏禧撰。〔昭代叢書、第十九冊〕。

【日和】827（ニチワ）　❶日光がうららかなこと。〔歐陽詹、魯山令李胄宴二僚府一序〕風恬日和、川晴野媚。❷（ヒヨリ）　㋑晴れ和いだ空合。靜かに照る空模樣。㋺天氣模樣。空もやう。〔物類稱呼、五、言語〕日和の定らぬを尾張にて一雨日和と云。

〖日和見〗828（ヒヨリミ）　❶空の氣色をうかがふ。天氣模樣を見る。晴雨を豫測すること。❷船の舳に立つて天候の一切を觀測する役。〔好色一代男、三〕日和見に起され、帆を卷く音。❸心に兩端を抱き、形勢を觀望して去就を決せんとすること。首鼠兩端。

〖日和下駄〗829（ヒヨリゲタ）　齒の低い下駄。晴天の日に用ひるからいふ。〔辰巳之園〕日和下駄をはき。

【日往】830（ジツワウ）　❶日が過ぎ去ること。〔易、繫辭下〕日往則月來、月往則日來、日月相推、而明生焉。〔李益、置酒行〕日往不二再來一、茲辰坐成レ昔。❷日々にゆく。〔史記、司馬相如傳〕於レ是相如往舍二都亭一、臨卭令繆爲二恭敬一、日往朝、相如初尚見之後、稱レ病、使二從者謝レ吉、吉愈益謹肅。

〖日往則月來〗831（ヒユケバスナハチツキキタル）　日と月とが代る代る來往する。〔易、繫辭下〕日往則月來、月往則日來、日月相推而明生焉。

【日橫】832（ジツワウ）　❶日に日に勢が盛でわがままになる。〔史記、武安侯傳〕武安侯雖レ不レ任レ職、以二王太后故一親幸、數言、事多レ效、天下吏士、趨二勢利一者、皆去二魏其一、歸二武安一、武安益日橫。❷（ヒノヨコシ）　南北に通ずる路筋。日のよこ。〔日本書紀、成務

紀〕五年秋九月、因以二東西一爲二日縱一、南北爲二日橫一。

【移レ日】833 ヒヲウツス　時間を經過すること。日は日晷。〔史記、夏侯嬰傳〕與二高祖一語、未三嘗不二レ移レ日。〔史記、魏其武安侯傳〕坐語移レ日。

【撝レ日】834 ヒヲサシマネク　太陽をさしまねく。魯陽之戈（**12**—**46013**‥134）を見よ。

【曠レ日】835 ヒヲムナシウス　空しく日を過ごす。〔曹冏、六代論〕曠レ日若レ彼、用レ力若レ此。

【曠レ日持レ久】836 ヒヲムナシクシヒサシキヲヂス　幾日も幾日も久しく保つ。長くもちこたへる。〔戰國、趙策〕今得三強趙之兵一、以杜二燕將一、曠レ日持レ久數歲。〔新書、連語〕夫薄可三以曠レ日持二レ久者、殆未レ有也。〔吳志、華覈傳〕如三但固守曠レ日持二レ久、則軍糧必乏、不レ待二接刃一、而戰士已困矣。

【曠レ日經レ年】837 ヒヲムナシクシトシヲフ　空しく日を過して年を經る。〔漢書、郊祀志下〕曠レ日經レ年、靡レ有二毫釐之驗一。

【曠レ日彌レ久】838 ヒヲムナシクシヒサシキニワタル　空しく日を過して久しきにわたる。むだに月日をすごす。積日累久。〔戰國、燕策〕太子丹曰、太傅之計、曠レ日彌レ久、心惛然恐レ不レ能二須臾一、且非二獨於一レ此也。〔史記、刺客、荊軻傳〕太子曰、太傅之計、曠レ日彌レ久、心惛然、恐不レ能二須臾一。

【迎レ日】839 ヒヲムカフ　豫め日を數へることをいふ。〔漢書、郊祀志上〕皇帝迎レ日推レ策。〔注〕臣瓚曰、日月朔望、未レ來而推レ之、故曰レ迎レ日。

【尅レ日】841 ヒヲコクス　日限を定める。日時を約束する。尅は刻。〔晉書、羊祜傳〕每下與二吳人一交上レ兵、尅レ日方戰、不レ爲二掩襲之計一。

【指レ日】842 ヒヲサス　㊀日を指す。〔潘岳、西征賦〕坐二積薪一以待レ然、方指レ日而比レ盛。〔庾肩吾、爲二武陵王一拜二儀同一章〕地均指レ日、既無レ迹而成レ高、仕若レ乘レ風、故不レ行而自遠。㊁日を定める。〔長生殿、二十八齣、罵賊〕指レ日天兵到來誅戮、還說二什麼太平筵宴一。

【指レ日遄征】843 ヒヲサシテセンセイス　日限を定めて急いで旅行する。〔曹植、應詔詩〕弭レ節長騖、指レ日遄征。

【如レ日】844 ヒノゴトシ　太陽の如くである。威光のあるさま。〔史記、五帝紀〕放勳其仁如レ天、其知如レ神、就レ之如レ日、望レ之如レ雲。

【擇レ日】845 ヒヲエラブ　よい日をえらぶ。擇吉。〔史記、晉世家〕史佚因請三擇レ日立二叔虞一。

【吠レ日】846 ヒニホユ　蜀の地は霧深く日を見ることが少いから、犬は日を見て怪しみほえる。見識狹き小人が君子の嘉言善行に接して驚き誹る喩。蜀犬吠レ日。〔柳宗元、答二韋中立一論二師道一書〕僕往聞二庸蜀之南、恆雨少レ日、日出則犬吠一。

【彌レ日】847 ヒニワタル　幾日にもわたるをいふ。〔世說新語、賞譽上〕遂留共語、彌レ日累レ夜。

【賓レ日】848 ヒヲヒンス　日出を導き迎へる。〔書、堯典〕分命二羲仲一、宅二嵎夷一、曰二暘谷一、寅賓二出日一、平二秩東作一。〔傳〕寅敬、賓導、云云、敬導二出日一。〔蔡傳〕賓、禮二接之一如二賓客一也、亦帝嚳曆二日月一、而迎送之意。

【不レ日】849 ヒナラズ　㊀日數が多くかからぬ。又、日限をきめぬ。不レ日成レ之を見よ。㊁一日も終へぬ。日が暮れぬ。又、日を見ない。〔詩、邶風、終風〕終風且曀、不レ日有レ曀。〔箋〕既竟日風且復曀、不レ見レ日矣、而又曀。〔集傳〕不レ日有レ曀、言二既曀矣、不レ施レ日而又曀一也。

【不レ日成レ之】850 ヒナラズシテコレヲナス ヒセズシテコレヲナス　幾日もかからないで出來あがらせる。又、期日を設けないで出來あがらせる。又、一說に、一日中に出來あがらせる。〔詩、大雅、靈臺〕庶民攻レ之、不レ日成レ之。〔箋〕不レ設二期日一而成レ之。〔集傳〕不レ日、不レ終レ日也。〔嚴粲、詩緝〕不レ日、不二多日一也。〔會箋〕不レ日成レ之者、毛意蓋言下不二一日一而已有レ成、似中神靈爲上レ之、文選東京賦、經始勿レ亟、成之不レ日、薛注、不レ用二一日一即成レ之、義本二毛傳一、至二賈誼一引二此詩一而釋レ之曰、弗レ期而成、趙岐孟子注云、不三與レ之相二期日限一、自來成レ之也、韋昭注二國語一云、不三課程以二時日一、均與二鄭箋一合、王風君子于役、不レ日不レ月、彼言二不レ日不一レ月者、言二其久一、此言レ不レ日者、言二其速一、言三其成也、不二以レ日計一也、皆以レ不レ日爲レ不レ立二期限一、而以レ成レ之有二成功一、以見二其成之速一也、古者工必計レ日、宣十一年左傳、蔿艾獵城レ沂、量レ功命レ日、昭二十三年、士彌牟營二成周一、量二事期一、皆於二事前一預立二期日一、文王使二民不一レ勞、不三急二急于求一レ成、未三嘗限二レ日、而民樂趨レ之、故曰二不レ日成一レ之、鄭說極細穩切レ事、今從レ之、嚴緝不レ日不二多日一也、以二邶風不レ日有一レ曀例レ之、亦通。〔國語、楚語上〕庶民攻レ之、不レ日成レ之。〔注〕不レ日、不三程レ課以二時日一也。

【不レ日不レ月】851 ヒナラズツキナラズ　日月が計れない。月日を算へるまでもなく。〔詩、王風、君子于役〕君子于役、不レ日不レ月、曷其有レ佸。〔箋〕行役反無二日月一。〔通俗編、時序、不レ日不レ月〕管子白心篇、不レ日不レ月、而事以從、注云、不レ計二日月一。

【幷レ日】852 ヒヲアハス　日數のかかる事を、短時日で仕上げる。二日分を一日でする類。〔禮、儒行〕易レ衣而出、幷レ日而食。

【日一日】853 ヒヒトヒ　其の日一日。朝から夕まで。一日中。ひねもす。〔土佐日記〕日一日夜すがら。

【日下﨟】854 ヒゲラフ　六位の藏人が、毎日交替で一人づつ朝夕の供御に伺候し、其の他の御用を勤めるものの稱。〔職原抄、下〕六位藏人、奉二行禁中細細公事、朝夕御膳等事一、稱二之日下﨟一也、四人分レ日令二奉行一故也。

【日喀則】855 ジツカクソク　城の名。西藏、後藏の首府。大寺あり、札什倫布といふ。班禪額爾德尼坐床の所、拉薩の西南に在り。明の永樂年間、黃教喇嘛の初祖宗喀巴の大弟子根報敦珠巴の建てたもの。

【日鑑堂】856 ジツカンダウ　明、史鑑（**2**—**3249**‥29）の室名。

【日黃簿】857 ニックワウボ　元代、私家の計簿をいふ。〔至正直記〕私記謂二之日黃簿一、又曰二帳目一。

【日雇稼】858 ヒヤトヒカセギ　其の日限り雇はれて働くこと。又、それを稼業とするもの。〔寶曆集成絲綸錄、二十九〕延享元年九月、町町日雇稼之者、人別帳爲二差出一候。

【日三分】859 ヒサンブス　太陽が三つに分れる。〔海錄碎事、人事、夢寐〕談藪、魏文帝爲レ王時、夢日墜レ地、分爲二三分一、己得二一分一、而內二懷中一。

【日之車】860 ヒノクルマ　太陽を車に喩へていふ。いつになつたら歸つてくるかわからない意。〔莊子、徐無鬼〕有二長者一、教レ予曰、若乘二日之車一、而遊二於襄城之野一。〔釋文〕乘二日之車一、司馬云、以レ日爲レ車也。

【日仕事】861 ヒシゴト　晝する仕事。又、其の日其の日の仕事。

【日耳曼】862 ゼルマン　Germanの音譯。獨逸國の稱。

【日尚高】863 ヒナホタカシ　日沒まではまだ餘程間がある。〔齋藤拙堂、下二岐蘇川一記〕比レ醒、達二於桑名一、日尚高。

【日所作】864 ニツシヨサ　日々の所作。每日の所作。〔源平盛衰記、三十九、維盛於二粉川寺一謁二法然房一〕日所作に奉二讀經一御座す。

【日如レ燭】866 ヒシヨクノゴトシ　太陽は喩へば燭のやうである。日喩（7777）を見よ。

【日如レ盤】867 ヒバンノゴトシ　太陽の形は盤（タラヒ）のやうである。〔列子、湯問〕日初出時、大如二車輪一、及レ中纔如二盤盂一。

【日不レ足】868 ヒタラズ　時間が足らぬ。終日爲すもなほ足りない。〔禮、禮器〕季氏祭、逮レ闇而祭、日不レ足、繼レ之以レ燭。

【日平西】869 jih^4 p'ing^2 hsi^1　太陽が西に傾く。

【日返塢】870 ニツペンヲ　日沒時の反照。照り返し。夕燒け。〔婁元禮、田家五行〕日沒照返、俗名爲二日返塢一、主レ晴。

【貫レ日忠】871 ヒヲツラヌクノチユウ　太陽を貫かんばかりの忠義の心。〔朱舜水、楠公贊〕自レ非二精忠貫一レ日、能如レ是整而暇乎。〔菅茶山、備後三郎題二詩櫻樹一圖詩〕中興誰旌首レ事功、一門猶懷貫レ日忠。

【日亦不レ足】873 ヒモマタタラズ　時間が足らぬ。終日爲しても爲し盡くすことが出來ない。〔書、泰誓中〕我聞、吉人爲レ善、惟日不レ足、凶人爲二不善一、亦惟日不レ足、今商王受、力行無レ度。〔傳〕言、吉人竭レ日以爲レ善、凶人亦竭レ日以行レ惡、行無二法度一、竭レ日不レ足、故曰二力行一。〔蔡傳〕惟日不レ足者、言二終日爲一レ之、而猶爲レ不レ足也。〔詩、小雅、天保〕降二爾遐福一、維日不レ足。〔箋〕汲汲然如二日且不一レ足也。

【日繫二於月一】874 ヒツキニツナガル　日附は何月何日と月にかけて記す。春秋の筆法。〔穀梁、僖、二十八〕冬、云云、壬申、公朝二于王所一、云云、日繫二於月一、月繫二於時一、壬申、公朝二于王所一、其不レ月、失二其所一レ繫也、以爲晉文公之行事、爲二已傎一矣。〔注〕以爲レ召レ君傎二倒上下一、日不レ繫レ月、猶二諸侯不一レ宗二于

天子一。

【日湖漁唱】875（ニツコギョシャウ）　書名。一卷。宋、陳允平撰。允平の詩を集めたもの。〔四庫未收書目提要、一〕。

【日五色賦】876（ジツゴシキフ）　唐代、試驗の課題。〔書言故事、不捷類、日五色賦〕唐李程試二日五色賦一、破題云、德動二天監一、祥開二日華一、擢爲二狀元一、後浩虛舟應二宏詞一、復試二此題一、程虞三浩愈二於己一、馳レ价取レ本、觀二破題一云、麗日焜煌、中含二瑞光一、程喜曰、李程在レ裏。

【日之夕矣】877（ヒセキス　ヒノユフベナリ）　日が夕方に向ふ。〔詩、王風、君子于役〕鷄棲二于塒一、日之夕矣、羊牛下來。

【日試二萬言一】878（ヒニマンゲンヲココロム）　毎日一萬言もの多くの言葉をためす。〔舊唐書、張涉傳〕張涉嘗請三有司日試二萬言一、時呼二張萬言一。〔李白、與二韓荊州一書〕請日試二萬言一、倚レ馬可レ待。

【日炙潮浸】879（ヒアブリウシホヒタス）　太陽がやき、潮水がひたす。日にやかれ、海水にひたされる。〔鹽谷青山、記二沖島廻游事一〕日炙潮浸、皮膚如二銅鐵一。

【日如二銅盤一】880（ヒドウバンノゴトシ）　太陽の形は喩へてみれば銅盤のやうである。日喩(777)を見よ。

【日愼二一日一】881（ヒイチニチニツツシム）　日増に謹愼すること。〔淮南子、主術訓〕然而戰戰慄慄、日愼二一日一、由レ此觀レ之、則聖人之心小矣。〔後漢書、光武帝紀上〕戰戰慄慄、日愼二一日一。〔注〕太公金匱曰、黃帝居二人上一、惴惴若レ臨二深淵一、舜居二人上一、矜矜如レ履二薄冰一、禹居二人上一、慄慄如レ不レ滿、曰、敬勝レ怠則吉、義勝レ欲則昌、日愼二一日一、壽終無レ殃。

【日親以察】882（ヒニシタシミモツテサツス）　毎日來り親しみ近づいて明察する。〔漢書、禮樂志〕象載昭庭、日親以察。

【日疎月遠】883（ヒニウトクツキニトホザカル）　交が日月と共に疎遠になること。〔尾藤二洲、習說〕稍長、各異二趨舍一、日疎月遠。

【日尾荊山】884（ヒヲケイザン）　武州秩父の人。名は瑜。字は德光。號は荊山。又、至誠堂。通稱は多門・宗右衞門。安政六年八月十二日歿す、年七十一。學は龜田鵬齋に師事す。經學は折衷を主とし、國學にも通じた。塾を江戸に開く。著に韻鏡往來・反切私說・燕居雜話・講餘隨筆・解環錄・管仲非仁者辨・訓點復古・公家諸法度諺解・左傳折衷・至誠堂三十六番歌合・四十八番歌合・四書折衷・至誠堂詩文集・至誠堂百咏・至誠堂類聚雜鈔・至誠堂和歌集・七夕考・尙書折衷・鵲橋隨筆・書經蔡傳渾天儀圖考・世諺問答考證・直哉舘隨筆・八十番歌合・萬柳濃竹・品生說・日尾子・日尾點四書・利運談・論孟二大疑辨がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔埼玉名家著述目錄〕。

【日尾省齋】885（ヒヲセイサイ）　江戸の人。名は約。字は省三。號は省齋。嘉永年間の人。學は日尾荊山に師事す。家學を奉ず。著に詩格刊誤がある。

【日不レ移レ晷】886（ヒキヴヲウツサズ）　日影が動かぬ。時がたたぬ。速かなことの喩。〔漢書、王莽傳上〕是故董賢喪二其魂魄一、遂自絞殺、人不レ還レ踵、日不レ移レ晷。〔注〕師古曰、言二其速疾一。

【日不二暇給一】887（ヒカキフセズ）　事が繁多で日時が足らぬ。〔史記、封禪書〕洽矣、而日有レ不二暇給一、是以卽レ事用希。〔漢書、高帝紀下〕又與二功臣一剖レ符作レ誓、丹書鐵契、金匱石室、藏二之宗廟一、雖三日不二暇給一、規摹弘遠矣。〔注〕師古曰、給、足也、日不二暇足一、言二衆事繁多常汲汲一也。

【日復二一日一】888（ヒニイチニチヲフクス）　毎日一日を二度くりかへす。一日に二日分努めること。〔後漢書、光武帝紀下〕天下重器、常恐レ不レ任、日復二一日一、安敢遠期二十歲一乎。

【日返二三舍一】889（ヒサンシャヲカヘス）　沈みかけた日がかへる。一舍は一星宿の距離。春秋、魯の陽公が韓と戰つて日が暮れ、戈をとつて日をまねき返した故事。〔淮南子、覽冥訓〕魯陽公、與レ韓構レ難、戰酣日暮、援レ戈而撝レ之、日爲レ之反二三舍一。〔精註雅俗故事讀本、上、天文〕魯公戈揮、日返二三舍一。

【日歟月歟】890（ジツヨゲツヨ）　日月をいふ。歟は助辭。〔張華、勵志詩〕日歟月歟、荏苒代謝。

【日陵月替】891（ニチリヨウゲツタイ）　日に日に衰へ行くこと。〔貞觀政要〕日陵月替、以至二危亡一。

【窮二日之力一】892（ヒノチカラヲキハム）　朝から暮まで精一ぱいつとめる。〔孟子、公孫丑下〕去則窮二日之力一、而後宿哉。

【計レ日而待】893（ヒヲハカリテマツ）　日を數へて待つ。〔蜀志、諸葛亮傳〕漢室之隆、可二計レ日而待一也。

【視レ日不レ眩】894（ヒヲミルモクラマズ）　日光を見ても目がくらまない。〔世說新語、容止、裴令公目二王安豐一眼爛爛如二巖下電一注〕王戎形狀短小、而目甚清炤、視レ日不レ眩。

【除レ日无レ歲】896（ヒヲノゾキトシナシ）　日も歲もない。死生があるから歲日があることになるが、死生がなくなれば歲日もない。〔莊子、則陽〕容成氏曰、除レ日无レ歲、無レ內無レ外。〔注〕今所三以有レ歲而存レ日者、爲レ有二死生一故也、若無レ死無レ生、則歲日之計除。〔疏〕歲日者、時敍之名耳、爲計二於日時一、故有二生死一、生死無矣、故歲日除焉。

【轉レ日回レ天】897（ヒヲテンジテンヲメグラス）　日や天を回轉する。勢力の甚だ大きい喩。〔琵琶記、官媒議レ婚〕只怕他轉レ日回レ天、那時須レ有二箇決裂一。

【倍レ日幷レ行】898（ヒヲバイシカウヲアハス）　晝夜つづけざまに疾く行く。倍レ道兼レ行。〔孫子、軍爭〕卷レ甲而趨、日夜不レ處、倍レ道兼レ行、百里而爭レ利、則擒二三將軍一。〔史記、孫子傳〕棄二其步軍一、與二其輕銳一、倍レ日幷レ行逐レ之。

【非レ日非レ月】899（ヒニアラザランヤツキニアラザランヤ）　日と月とをいふ。〔荀子、賦篇〕非レ日非レ月、爲二天下明一。〔徐陵、爲二貞陽侯一與二王僧辯一書〕非レ日非レ月、蒼生仰二其照臨一。

【幷レ日而食】900（ヒヲアハセテシヨクス）　二日で僅かに一日の食物を食ふこと。貧の甚だしい喩。〔禮、儒行〕易レ衣而出、幷レ日而食。〔注〕幷レ日而食、二日用二一日食一也。〔魏志、王烈傳〕飯鬻餬口、幷レ日而食。〔南史、劉訏傳〕劉訏家甚貧苦、幷レ日而食。

【夢二日入レ懷】901（ヒフトコロニイルトユメム）　太陽が懷中に入つた夢を見る。婦人が王者を生む前兆をいふ。〔史記、外戚世家〕男方在レ身時、王美人夢三日入二其懷一、以告二太子一、太子曰、此貴徵也、云云、孝景帝卽レ位、王夫人生レ男。

【無二日忘レ之】902（ヒトシテコレヲワスルルナシ）　一日として忘れることはない。〔左氏、昭、三十二〕余一人無二日忘レ之。

【日喀爾公喀】903（ジツカクジコウカク）　城の名。西藏、拉薩の西南。番民二萬餘家あり、前藏最大の城市。

【日斯巴尼亞】904（イスパニア）　國の名。又、西班牙とも書く。スペインをいふ。〔淸會典、總理各國事務衙門〕凡有レ約之國十有六、曰、日斯巴尼亞。〔注〕又名二西班牙一。

【日不錯影的】905　jih^4 pu^2 tsuʻo^4 ying^3 tê　毎日間違なく。

【日綠長江水】906　jih^4 lü^4 chʻang^2 chiang^1 shuei^3　太陽の周圍に一道の白光があれば大雨がある。湖北地方の農家の俚諺。

【可二同レ日道一哉】907（ヒヲオナジウシテイフベケンヤ）　日を同じくしていふことは出來ない。同一には論じられない。比較にはならない。〔漢書、陳餘傳〕夫臣之與レ主、豈可二同レ日道一哉。

【不二同レ日而論一】908（ヒヲオナジウシテロンゼズ）　日を同じくしては論じない。同じ狀態の下にあつては語らない。比較にならない。〔史記、游俠傳〕誠使下鄉曲之俠、予二季次原憲一、比レ權量レ力、効中功於當世上、不二同レ日而論一矣。

【問二日之早晏一】909（ヒノサウアンヲトフ）　日の早晚を尋ねる。〔儀禮、士相見禮〕問二日之早晏一。〔禮、曲禮上〕侍二坐於君子一、君子欠伸、撰二杖屨一、視二日蚤莫一、侍者請レ出矣。

【繞レ日夢レ月之家】910（ヒヲメグリツキヲユメミルノイヘ）　めでたいしるしのあつた家。吉兆のあつた家。吉瑞あつて高貴になつた家。〔拾遺記、殷湯〕傅說賃爲二赭衣者一、舂二於深巖一以自給、夢乘レ雲繞レ日而行、筮得二利レ建レ侯之卦一、歲餘湯以二玉帛一聘爲二阿衡一也。〔漢書、元后傳〕孝元皇后、王莽之姑也、云云、母適妻、云云、夢三月入二其懷一、及二壯大一婉順、得二婦人道一、云云、立爲二皇后一。〔本朝文粹、八、大江匡衡、夏夜守二庚申一侍二淸涼殿一同賦三避レ暑對二水石一應製〕繞レ日夢レ月之家、冠二靑雲一以從レ事。

【日之過レ河也有レ損】911（ヒノカハヲスグルヤソンスルコトアリ）　日が河を照らすときは、水蒸氣を立ち昇らせて互に損傷を蒙る。形氣あるものは自然に互に累をなし合ふ喩。〔莊子、徐無鬼〕故曰、風之過レ河也有レ損焉、日之過レ河也有レ損焉、請只風與レ日相與守レ河、而河以爲レ未二始其攖一也、恃レ源而往者也。〔注〕有レ形者自然相與爲レ累、唯外二乎形一者、

磨レ之而不レ磷。〔疏〕風日是氣、河有二形質一、凡有二形氣一者、未レ能レ無レ累也、而風吹日累、必有二損傷一。

【礙レ日暮山青簇簇】912（ヒヲササヘテボザンセイソウソウ）　日の光をさへぎつて暮方の山が青々としてゐる。〔白居易、登二西樓一憶二行簡一詩〕每下因二樓上一西南望上、始覺人間道路長、礙レ日暮山青簇簇、浸レ天秋水白茫茫、風波不レ見三年面、書信難レ傳萬里腸、早晚東歸來下レ峽、穩乘二船舫一過二瞿唐一。

【日枷漲水月枷井枯】913 jih^{4} chia^{1} chang^{4} shui^{3} yüeh^{4} chia^{1} ching^{3} k'u^{1}　日が笠をかぶれば洪水となり、月が笠をかぶれば旱魃となる。湖南津市地方に行はれる俚諺。

【日鑿二一竅一七日而渾沌死】914（ヒニイツケウヲウガチナヌカニシテコントンシス）　渾沌に、一日每に一つの穴をほつたら、七日目に死んだ。自然に背くものは、皆禍敗を招く喩。〔莊子、應帝王〕南海之帝爲レ儵、北海之帝爲レ忽、中央之帝爲二渾沌一、儵與レ忽、時相與遇二於渾沌之地一、渾沌待レ之甚善、儵與レ忽謀レ報二渾沌之德一、曰、人皆有二七竅一、以視聽食息、此獨無レ有、嘗試鑿レ之、日鑿二一竅一、七日而渾沌死。

【瑩レ日瑩レ風高低千顆萬顆之玉】915（ヒニミガキカゼニミガクカウテイセンクワバンクワノタマ）　爛漫たる花の影が池水に浮んでゐるさまは、日にみがかれ風にみがかれて、或は高く枝にあり、或は低く水面に列なつてゐる千萬箇の玉のやうである。〔倭漢朗詠集、花、菅原文時、花光水上浮序〕瑩レ日瑩レ風、高低千顆萬顆之玉、染レ枝染レ浪、表裏一入再入之紅。

一畫

【旦】13734

小篆

タン　〔集韻〕得案切　翰　ㄉㄢˋ　tan^{4}

❶**よあけ。**あけがた。あかつき。ひきあけ。〔說文〕旦、朙也、从三日見二一上一、一、地也。〔爾雅、釋詁〕旦、早也。〔玉篇〕旦、曉也。〔公羊、哀、十三〕冬十有一月、有レ星孛二于東方一、孛者何、慧星也、其言レ于二東方一何、見二于旦一也、何以書、記レ異也。〔注〕旦者、日方レ出。〔疏〕旦者、日方レ出レ地、未二相去離一之辭。〔詩、小雅、庭燎〕夜未レ央、傳、央、旦也、疏、旦、是夜屈之限。❷**あかす。**夜をあかす。〔詩、唐風、葛生〕誰與獨旦。〔箋〕旦、明也。❸**あける。**夜があける。〔甯戚、飯牛歌〕長夜漫漫何時旦。❹**あさ。**あした。〔玉篇〕旦、朝也。〔柳宗元、種樹郭橐駝傳〕旦視暮撫。❺**刑の名。**朝早く勞働を課するもの。〔漢書、惠帝紀〕當レ爲二城旦舂一者。〔注〕應劭曰、城旦者、旦起治レ城、云云、皆四歲刑也。❻**おやま。**女形。戲劇で女に扮裝する者。〔通俗編、俳優〕觀二安節樂府雜錄一、稱二范傳康等弄二假婦人一、則唐末未レ有二旦名一、宋雜劇名、惟武林舊事足レ徵、每甲八人者、有二戲頭一、有二引戲一、有二次淨一、有二副末一、有二裝旦一、五人者第有二前四色一、而無二裝旦一、蓋旦之色目、宋已有レ之、而未レ盛、元雜劇、多用二妓樂一、名妓如下李嬌兒爲二溫柔旦一、張奔爲中風流旦上、時旦色直以二婦人一爲レ之也。〔楊恩壽、詞餘叢話〕自二北劇興一、名レ男曰レ末、女曰レ旦、遼史樂志、大樂有二七聲一、謂二之七旦一、凡一旦司二一調一、所謂旦者、乃司樂之總名、金元相沿、遂命二歌伎一領レ之、後改爲二雜劇一、不下皆以二倡伎一充上レ旦、則以二優之少者一假扮爲レ女、漸失二其眞一。〔世事通考〕梨園子弟、有二生・旦・丑・淨・末・貼旦・小生・老旦、外八樣腳色一。〔稱謂錄、優、旦〕生旦諸名、自レ宋已稱、然武林舊事所レ載、亦多不レ可レ解、惟莊岳委談云、傳奇以レ戲爲二稱謂一、顚倒而無レ實耳、故曲欲レ熟而命以レ生也、婦宜レ夜而命以レ旦也、開場始レ事而命以レ末也、塗汙不レ潔而命以レ淨也。❼**やはらぐ。まこと。あきらか。**旦旦(40)を見よ。❽**怛**(**4－10458**)に通ず。〔詩、衞風、氓〕信誓旦旦。〔疏〕旦旦、猶二怛怛一。❾**神**(**8－24673**)に誤り通ず。〔禮、郊特牲〕交二於旦明一之義也。〔注〕旦、當レ爲レ神、篆字之誤也、音神。❿**姓。**〔萬姓統譜〕旦、見二姓苑一。〔姓氏辯證〕宋紹興三年、以二國諱一、改レ桓爲二旦氏一。

名乘　アキ。アケ。

解字　指事。日が地上に現はれた象。一は大地。あした。象形の日をもととし、一を以て地として性質を指示してゐる。說文の旦、朙也を段注は明は朝の誤としてゐる。〔說文、旦、段注〕明當レ作レ朝、下文云、朝者旦也、二字互訓。

【旦雨】1 タンウ　夜あけの雨。又、朝早く雨が降る。〔新論、類感〕天將レ風也、纖塵不レ動、而鵁日鳴、旦且レ雨也、寸雲未レ布、而蟻蚓移矣。

【旦雲】2 タンウン　あかつきの雲。〔許敬宗、奉レ和下聖製登二三臺一言上レ志應制詩〕旦雲生二玉舃一、初月上二銀鉤一。

【旦開】3 タンカイ　❶あしたに開く。〔劉峻、廣絕交論〕高門旦開、流水接レ軫。❷アサケ　信濃國の地名。

【旦溉】4 タンガイ　朝早く水をそそぐ。〔玉海、辭學指南、作文法〕野處洪公曰、文章有二淵源一、有二機杼一、有二關鍵一、有二本根一、用二其文一、如二老農之用レ禾、旦溉、中而芸、深耕而熟耰レ之。

【旦號】5 タンガウ　朝早くよびさけぶ。〔魏書、韓子熙傳〕旦號二白日一、夕泣二星辰一、叩レ地寂寥、呼レ天無レ響。

【旦角】6 tan^{4} chiao^{3}　役者の女形。旦兒。

【旦氣】7 タンキ　あけ方の氣。夜明け方のすがすがしい大氣。〔錢宰、過二城南田余一詩〕冷然旦氣淸、逍遙散二塵緖一。

【旦起】8 タンキ　朝早く起きる。〔後漢書、齊武王縯傳〕使下長安中官署、及天下鄉亭、皆畫二伯升像於塾一、旦起射上レ之。〔庾信、行雨山銘〕翠幔朝開、新妝旦起。

【旦飢】9 タンキ　朝空腹で食を思ふこと。人を慕ひ思ふ喩。朝饑。調饑。輖饑。〔易林、兌之二噬嗑一〕南循二汝水一、茂樹斬レ枝、過レ時不レ遇、惆如二旦飢一。〔注〕詩汝墳篇云、遵二彼汝墳一、伐二其條枚一、未レ見二君子一、惄如二調飢一。

【旦輝】10 タンキ　朝早くかがやく。〔梁元帝、曠野寺碑〕圓瑠旦輝、方諸夜朗。

【旦脚】11 tan^{4} chiao^{3}　女形の役者。

【旦拱】12 タンキョウ　朝までにひと抱へ程の大きさになる。〔說苑、君道〕殷太戊時、有二桑穀一、生二於庭一、昏而生、比レ旦而拱、史請レ卜二之湯廟一、太戊從レ之。

【旦過】13 タンクワ　佛朝早く去る。朝早く旅立つ。旦過寮を見よ。

【旦過僧】14 タンクワソウ　佛行脚僧をいふ。旦過寮を見よ。

【旦過寮】15 タンクワレウ　佛行脚僧の宿泊處をいふ。夕に來り宿して旦に過ぎ去るからいふ。〔禪林象器箋、二二〕。

【旦會】16 タンクワイ　元旦の朝會。〔南齊書、禮志上〕秦人以二十月旦一爲二歲首一、漢初習以大饗會後用二夏正一、饗會猶未レ廢二十月旦會一也。

【旦卷】17 タンクワン　朝早く卷き納まる。〔梁簡文帝、馬寶頌序〕縉雲旦卷、南風晚扇。

【旦警】18 タンケイ　朝早く警戒する。〔南齊書、高帝紀上〕晚世多レ難、姦宄實繁、鼖鼓宵聞、元戎旦警。

【旦見】19 タンケン　朝早く見る。又、朝早くまみえる。〔宋史、禮志六〕唐柳宗元論云、夕之名者、朝拜之偶也、古者旦見曰レ朝、暮見曰レ夕。

【旦昏】20 タンコン　あけくれ。朝と夕。朝晚。旦暮。〔李嶠、大周降禪碑〕旦昏交謝、文質遞遷。

【旦彩】21 タンサイ　あかつきの時のいろどり。〔許敬宗、侍二宴莎冊宮一應制得二情字一詩〕暖日晨光淺、飛煙旦彩輕。

【旦至】22 タンシ　朝早く來る。〔左思、蜀都賦〕晨鳧旦至、候雁銜レ蘆。〔南史、侯景傳〕貞陽旦至、侯景夕反。

【旦視】23 タンシ　朝早く視る。〔柳宗元、種樹郭橐駝傳〕旦視而暮撫、已去而復顧。

【旦兒】24 タンジ　宋元の雜劇で、裝旦を一に、旦兒と

いふ。今の旦角。女形。〔稱謂錄、優、旦兒〕毛奇齡西河詞話、元人造曲、毎㆑入㆑場以㆓四折㆒爲㆑度、唱者止㆓一人㆒、末泥主㆓男唱㆒、旦兒主㆓女唱㆒。

【旦時】25（タンジ）夜明けの時。〔禮、月令、月令第六、疏〕日與㆓星辰㆒四遊相反、云云、旦時日極㆓于東㆒、去㆓旦中之星㆒、遠校十度。

【旦日】26（タンジツ）❶夜明けの太陽。〔左氏、昭、五〕食日爲㆑二、旦日爲㆑三。❷あくるあさ。明朝。又、明日。翌日。〔戰國、齊策〕旦日、客從㆑外來、與坐談、問㆑之曰、吾與㆓徐公㆒孰美。〔史記、項羽紀〕旦日、饗㆓士卒㆒、爲㆔擊㆓破沛公軍㆒。〔後漢書、孫程傳〕旦日、令㆘侍御史收㆓顯等㆒送㆖獄。

【旦日日夕】27（タンジツニツセキ）明日の夕。〔史記、倉公傳〕臣意復診㆑之曰、當㆓旦日日夕死㆒、卽死。〔注〕索隱曰、案、旦日、明日也、言㆓明日之夕死㆒也。

【旦聚】28（タンシユウ）朝早くあつまる。〔梁簡文帝、大愛敬寺刹下銘〕惠雲旦聚、浸㆓澤灑於遐外㆒、法炬夜明、揚㆓光燭於梵頂㆒。

【旦出】29（タンシユツ）朝早く出る。〔魏書、封回傳〕旦出暮往、詣㆑回、坐未㆑定。〔宋史、易延慶傳〕旦出守㆑墓、夕歸侍㆑母。

【旦食】30（タンシヨク）朝食事をする。又、其の時刻。朝餔。朝鋪。蚤食。〔素問、腹中論〕黃帝問曰、有㆑病、心腹滿、旦食則不㆑能㆓暮食㆒、此爲㆓何病㆒、岐伯對曰、多爲㆓鼓腹㆒、帝曰、治㆑之奈何、岐伯曰、治㆑之、以㆓雞矢醴一劑知二劑㆒已。〔後漢書、堅鐔傳〕鐔與㆓建義大將軍朱祐㆒、乘㆑朝而入、與㆑鮪大戰㆓武庫下㆒、殺傷甚衆、至㆓旦食㆒乃罷、朱鮪由㆑是遂降。

【旦醉】31（タンスイ）朝早く酒に醉ふ。〔易林〕旦醉病㆑酒、暮卽瘳愈、猶不㆑及㆑咎。

【旦正】32（タンセイ）あさがたの正しい氣。〔新論、貴農〕衣食者民之本也、民者國之本也、云云、先王知㆓其如㆑此、而給㆓民衣食㆒、故農祥㆓旦正㆒、晨集㆓娵訾㆒、陽氣憤盈、土木脈發、天子親耕㆓於東郊㆒、后妃躬桑㆓於北郊㆒。

【旦生】33（タンセイ）清、吳景旭(2－3365‥519)の字。

【旦夕】34（タンセキ）❶あさとばん。あさゆふ。朝夕。日夕。旦昔。〔史記、聶政傳〕旦夕得㆓甘毳㆒以養㆑親。〔漢書、哀帝紀〕旦夕奉㆓問起居㆒。〔左思、雜詩〕柔條旦夕勁。〔江淹、雜體、陸平原機羈官詩〕旦夕見㆓梁陳㆒。〔白居易、南湖晚秋詩〕旦夕秋風多、衰荷半傾倒。❷ふだん。つねづね。しじゅう。平生。〔書、冏命〕罔㆑匪㆓正人㆒、以旦夕承㆓弼厥辟㆒。〔漢書、東平思王傳〕旦夕講誦、足㆓以正㆑身虞㆒㆑意。〔漢書、孔光傳〕與㆑帝旦夕相近。〔蜀志、法正傳〕旦夕偸㆑幸、求㆑容取㆑媚。❸事の切迫したこと。まもないこと。〔古詩、爲㆓焦仲卿妻㆒作〕東家有㆓賢女㆒、云云、阿母爲㆑汝求、便復在㆓旦夕㆒。❹極めて短い時間をいふ。〔古詩、爲㆓焦仲卿妻㆒作〕蒲葦一時韌、便作㆓旦夕間㆒。

【旦夕之危】35（タンセキノキ）極く切迫した危いこと。〔蜀志、孟光傳〕旦夕之危、倒懸之急。

【旦夕之費】36（タンセキノヒ）朝夕の㸑たきなどするための骨折。〔南史、隱逸、陶潛傳〕汝旦夕之費、自給爲㆑難、今遣㆓此力㆒、助㆓汝薪水之勞㆒、此亦人子也、可㆓善遇㆒㆑之。

【旦昔】37（タンセキ）あしたとゆふべ。昔は夕。朝夕。旦夕。〔管子、小匡〕旦昔從㆓事於此㆒。

【旦奭】38（タンセキ）周公旦と召公奭とをいふ。倶に文王の子で、周初の功臣。〔曹植、求㆓自試㆒表〕旦奭不㆑讓㆓燕魯之封㆒、其功大也。〔注〕翰曰、周公旦封㆓於魯㆒、召公奭封㆓於燕㆒、而不㆓辭讓㆒者、亦以㆑有㆓平㆑殷之功㆒也。〔沈約、齊太尉王儉碑〕瞻㆓旦奭㆒而齊㆑軫、軼㆓夔龍㆒而長鶩。

【旦宅】39（タンタク）暫く寄寓する。居宅。人生に喩へていふ。或は怛咤に作り、驚くさまをいふ。綴宅。〔莊子、大宗師〕彼有㆓形駭㆒而無㆓損心㆒、有㆓旦宅㆒而無㆓情死㆒。〔疏〕旦、日新也、宅者、神之舍也、以㆓形骸之改變㆒、爲㆓宅舍之日新㆒耳。〔釋文〕李本作㆓怛咤㆒、云㆓驚惋之貌㆒、崔本作㆓靼宅㆒、靼、怛也。

【旦旦】40（タンタン）❶ねんごろで誠あるさま。悍悍。〔詩、衞風、氓〕信誓旦旦、不㆑思㆓其反㆒。〔箋〕言㆓其懇惻款誠㆒也。❷明かなさま。〔詩、衞風、氓、集傳〕旦旦、明也。〔北齊享廟樂辭〕離光旦旦、載煥載融。❸やはらぐさま。〔爾雅、釋訓〕晏晏・旦旦、悔㆓爽忒㆒也。❹あさなあさな。毎朝。日日。〔莊子、外物〕投㆓竿東海㆒、旦旦而釣。〔後漢書、烏桓傳〕旦旦拜㆑之。〔柳宗元、捕蛇者說〕豈若㆓吾鄕鄰之旦旦有㆒㆑是哉。

【旦旦伐㆑之】41（タンタンコレヲキル）日々之を伐る。〔孟子、告子上〕旦旦而伐㆑之、可㆓以爲㆒㆑美乎。

【旦晝】42（タンチウ）ひるま。日中。晝間。又、明日。〔孟子、告子上〕其旦晝之所㆑爲、有㆔梏㆓亡之㆒。〔注〕旦晝、晝日也。〔焦循正義〕旦、明也、晝、日之出入、與㆑夜爲㆑界、旦晝、猶㆑云㆓明日㆒、謂㆘今日夜所㆑息平旦之氣、才能不㆑遠㆓於人㆒、及㆔明日出見㆓紛華所㆒㆑悅、而所㆑息者乃梏亡㆖矣。

【旦朝】43（タンテウ）あさ。あした。〔宋玉、高唐賦〕旦朝視㆑之如㆑言、故爲立㆑廟、號曰㆓朝雲㆒。〔韓詩外傳、二〕莊王、旦朝、以㆓樊姬之言㆒、告㆓沈令尹㆒。〔庾信、周兗州刺史廣饒公鄭常神道碑〕況復郊門致㆑騎、先迎㆓內史之賓㆒、南宮旦朝、獨識㆓尙書之履㆒。

【旦潮】44（タンテウ）あさしほ。朝みちて來る潮。〔鮑照、送㆓從弟道秀㆒別詩〕浸淫旦潮廣、瀾漫宿雲滋。

【旦那】45（ダンナ）❶［佛］檀那(6－15632‥47)の❸に同じ。㋑布施。梵語 dana の音譯。（甲）法や物を惠み與へること。又、其の物。（乙）僧に施與する金品。㋺僧侶に財物を施與する人。施主。檀家。梵語 dana-pati (陀那鉢底)の略音譯。❷㋑家人・僕婢が主人を呼ぶ稱。㋺妻が夫を呼ぶ稱。㋩商人が得意客を呼ぶ稱。〔續狂言記、一、居杭〕算置きと侮っても方方に旦那があるぞ。㊁賤者が尊者を呼ぶ稱。㋭妾や圍者の主人。

【旦那寺】46（ダンナデラ）［佛］我が家の歸依する寺。檀那寺。菩提寺。

【旦拜】47（タンパイ）朝早く官を受ける。〔陳書、蔡景歷傳〕舊式、拜㆑官在㆓午後㆒、景歷拜日適値㆔輿駕幸㆓玄武觀㆒、在位皆侍㆑宴、帝恐㆓景歷不㆒㆑豫、特令㆓旦拜㆒。

【旦望】48（タンバウ）❶朔日と望日。一日と十五日。〔宋史、禮志十二〕一遇㆓旦望諸節序㆒、下㆓降香表㆒、薦㆓獻行禮㆒。❷周公旦と太公望。〔魏志、高柔傳〕成湯仗㆓阿衡之佐㆒、文武憑㆓旦望之力㆒。

【旦晚】49（タンバン）旦暮(53)の❶に同じ。〔福惠全書、涖任部、稟帖贅說〕旦晚將㆑去之時、復自蹈㆓嫌怨㆒。

【旦風】50（タンプウ）朝の風。夜明けに吹く風。曉風。晨風。〔周捨、詠㆓春幡㆒詩〕逶遲乘㆓旦風㆒、葱翠揚㆓朝旭㆒。

【旦晡】51（タンポ）朝と晚。あけくれ。旦夕。〔白居易、東南行、一百韻詩〕氣序涼還熱、光陰旦復晡。

【旦莫】52（タンボ）朝と夕。旦暮に同じ。〔國語、齊語〕旦莫從㆑事、施㆓於四方㆒。

【旦暮】53（タンボ）夜明け方と日ぐれ方。又、あさゆふ。朝夕。❶一日をいふ。〔荀子、儒效〕旦暮積謂㆓之歲㆒。〔沈約、梁鼓吹曲、期運集〕千載猶㆓旦暮㆒。❷あけくれ。つねづね。平常。〔墨子、明鬼下〕旦暮以爲㆔教㆓悔乎天下㆒。〔韓非子、孤憤〕當塗之人、乘㆓五勝之資㆒、而旦暮獨說㆓於前㆒。〔謝靈運、初發㆓石首城㆒詩〕欽㆑聖若㆓旦暮㆒。〔白居易、琵琶行〕其間旦暮聞㆓何物㆒、杜鵑啼㆑血猿哀鳴。❸まもなく。やがて。たちまち。〔莊子、齊物論〕旦暮得㆔此其所㆓由以生㆒乎。〔戰國、魏策〕魏且㆓旦暮亡㆒矣。〔史記、晉世家〕君老矣、旦暮之人、曾不㆑能㆑待、而欲㆑弑㆑之。〔漢書、張耳傳〕今王與㆑耳、旦暮死。

【旦暮遇㆑之】54（タンボコレニアフ）朝夕これに遇ふ。遇ふことのしばしばなのをいふ。〔莊子、齊物論〕萬世之後、而一遇㆘大聖知㆓其解㆒者㆖、是旦暮遇㆑之也。

【旦暮之期】55（タンボノキ）朝や暮の時期。〔莊子、列禦寇〕天猶有㆓春秋冬夏旦暮之期㆒。

【旦暮之業】56（タンボノゲフ）朝夕の仕事。〔莊子、徐無鬼〕農夫无㆓草萊之事㆒則不㆑比、商賈无㆓市井之事㆒則不㆑比、庶人有㆓旦暮之業㆒則勸、百工有㆓器械之巧㆒則壯。

【旦本】57（タンポン）全劇に正旦の唱を用ひる劇本をいふ。一に旦本兒ともいふ。

【旦明】58（タンメイ）❶よあけがた。旦日質明の略。平明。朝明。〔儀禮、少牢饋食禮〕宗人曰、旦明行㆑事、主人曰、諾、乃退。〔注〕旦明、旦日質明。〔淮南子、天文訓〕至㆓于曲阿㆒、是謂㆓旦明㆒。〔注〕平旦。❷旦は神の誤。神明。〔禮、郊特牲〕所㆔以交㆓於旦明㆒之義也。〔注〕旦、當㆑爲㆑神、篆字之誤也。〔疏〕所㆔以交㆓接神明㆒之義也。

【旦暘】59（タンヤウ）あかつきの空が晴れてゐること。〔論衡、寒溫〕旦雨氣溫、旦暘氣寒。

【旦倈】60（タンライ）北曲に於ける俳優の一つの役名。一に沖旦といひ、南曲では貼旦といふ。〔西廂記、張君瑞鬧㆓道場㆒雜劇、楔子〕旦倈扮㆑紅見科。

【旦露】61（タンロ）池の名。〔洞冥記〕旦露池、西有㆓靈池㆒、方四百步、有㆓連錢荇・浮根菱・倒枝藻㆒。

【待レ旦】62（タンヲマツ） 夜の明けるのをまつ。〔書、太甲上〕先王昧爽丕顯、坐以待レ旦。〔孟子、離婁下〕周公思下兼二三王一以施中四事上、其有二不レ合者一、仰而思レ之、夜以繼レ日、幸而得レ之、坐以待レ旦。

【旦警嚴】63（タンケイゲン） あけがた太鼓を鳴らして衆を警めること。又、其の時刻。〔資治通鑑、唐紀〕（代宗、大曆三年）期下以二辛酉旦警嚴一而發上。〔注〕旦警嚴者、將レ旦嚴レ鼓、以警レ衆也、周禮謂二之發昫一、今人謂二之攢點一。

【旦只兒】64（タンシジ） 元、蒙古答答帶人。數〻宋人を破る。官は平陽等の路の萬戸府達魯花赤。〔元史、一百三十三〕。

【失レ旦雞】65（タンヲウシナフトリ） 朝鳴くのを忘れた雞。初に失敗する喩。〔吳志、周瑜傳〕使下失レ旦之雞、復得二一鳴一、抱レ罪之臣、展中其後效上。〔魏武帝、選擧令〕諺曰、失レ晨之雞、思レ補更鳴。

【旦不レ保レ夕】66（アシタニユウベヲホセズ） 今晩が保證出來ない。病の危篤や人命の脆さに言ふ。

【旦復旦兮】67（タンマタタン） あさなあさな。日日。每日。〔卿雲歌〕日月光華、旦復旦兮。

【旦末淨丑】68（タンマツジヤウチウ） 俳優の名稱。生旦淨末丑（**7－21670**··493）を見よ。

【旦爲二朝雲一暮爲二行雨一】69（アシタニテウウントナリクレニカウウトナル） 楚の襄王が晝寢して夢に見た一婦人が言ひ殘したことば。〔宋玉、高唐賦序〕妾在二巫山之陽、高丘之岨一、旦爲二朝雲一、暮爲二行雨一、朝朝暮暮、陽臺之下、旦朝視レ之如レ言。

【𣅀】13735

タク チョク 〔集韻〕竹角切 覺

したたる。 涿（**7－17609**）の奇字。〔說文〕涿、流下滴也、𣅀、奇字涿。

【日】13736

コン 昏（**6－13806**）の古字。〔字彙補〕日、古文昏字。

【旧】13737

キウ ❶舊（**9－30249**）の俗字。〔宋元以來俗字譜〕舊、金瓶梅作レ旧。❷臼（**9－30173**）の俗字。〔宋元以來俗字譜〕臼、通俗小說作レ旧。❸舅（**9－30208**）の俗字。〔宋元以來俗字譜〕舅、古今雜劇・目連記・金瓶梅・嶺南逸事、作レ旧。

二畫

【旨】13738

シ 〔集韻〕軫視切 紙 ㄓˇ chih³

小篆

古文

❶**うまい。** 味がよい。旨に同じ。〔正字通〕旨、从レ甘、云云、舊本知レ从レ甘、不レ收二甘部一、謬附二日部一。〔說文〕旨、美也、从レ甘匕聲。〔詩、邶風、谷風〕我有二旨蓄一。〔傳〕旨、美也。〔詩、小雅、頍弁〕爾酒既旨。〔箋〕旨、美也。〔禮、學記〕雖レ有二嘉肴一、弗レ食不レ知二其旨一也。〔注〕旨、美也。❷**うまいもの。**〔論語、陽貨〕食レ旨不レ甘。〔集解〕旨、美也。❸**よい。** 麗はしい。〔書、說命中〕王曰、旨哉。〔傳〕旨、美也。〔太玄經、居〕凡家不レ旨。〔注〕旨、美也。❹**むね。** 指（**5－12034**）・恉（**4－10532**）に通ず。〔說文通訓定聲〕旨、叚借爲レ指、爲レ恉。㋑こころ。こころざし。〔玉篇〕旨、意也、志也。㋺わけ。おもむき。〔易、繫辭下〕其旨遠矣。〔禮、王制〕有レ旨無レ簡不レ聽。〔注〕有レ旨、有二其意一。〔韓愈、答二陳商一書〕語高而旨深。❺**天子のおぼしめし。** 上意。〔正字通〕旨、凡天子諭二告臣民一曰二詔旨一、下承レ上曰二奉旨一。〔漢書、孔光傳〕奉レ使稱レ旨。❻**命令。** 上官の意向。〔陔餘叢考、旨〕旨字、古人亦不三專以爲二君上之稱一、後漢書曹褒傳、褒爲二圉令一、有二他郡盜入一、捕得レ之、太守馬嚴諷レ縣殺レ之、褒敕レ吏曰、皐陶不三爲レ盜制二死刑一、今承レ旨而殺レ之、是逆二天心一順二府意一也、三輔決錄、游殷以二其子一託二張既一、既難レ違二其旨一、宋書、江夏王義恭請、以二庶人義一宣還二其屬籍一、文帝答詔曰、以二公表一付レ外、依レ旨奉行、是上於二臣下所レ云、亦謂二之旨一矣、梁溪漫志、記三宋時士大夫名刺末稱二裁旨一、龔牖閒評云、本朝君相曰二聖旨・鈞旨一、太守而下曰二台旨一、又次曰二裁旨一、則宋時旨字、猶上下通用。❼**助辭。** 語調をととのへるに用ひる。只（**2－3239**）に通ず。〔詩、小雅、南山有臺〕樂只君子。〔左氏、襄、二十四〕詩云、樂旨君子。❽或は旨（**5－13739**）に作る。〔集韻〕旨、或作レ旨。

名乘 ムネ。ヨシ。

【旨意】1（イシ） むね。わけ。かんがへ。おもむき。旨趣。指意。〔易、繫辭下、其旨遠、疏〕旨意深遠。〔趙岐、孟子題辭〕旨意合同、若レ此者衆。〔論衡、卜筮〕天地安能知二其旨意一。

【旨遠】2（ムネトホシ） 意味が深く遠い。指遠。〔易、繫辭下〕其旨遠。〔杜預、春秋左氏傳序〕言高則旨遠、辭約則義微。

【旨嘉】3（カシ） 味のよいもの。うまいもの。〔論衡、明雩〕故共二馨香一、奉二進旨嘉一。

【旨肴】4（シカウ） うまいさかな。よい料理。嘉肴。〔劉仔肩、詩〕旨肴陳二海陸一。

【旨甘】5（シカン） うまい食べもの。美食。美味。人の子が親を養ふ食物。甘旨。〔禮、內則〕由二命士一以上、父子皆異レ宮、昧爽而朝、慈以二旨甘一、日出而退、各從二其事一、日入而夕、慈以二旨甘一。〔漢書、張敞傳〕口非レ惡二旨甘一、耳非レ憎二絲竹一也。〔宋史、劉恕傳〕家素貧、無三以給二旨甘一。

【旨歸】6（キシ） おもむき。旨趣。〔太平記、十五、園城寺戒壇〕戒壇立、而可レ無二國家之危一者、悟二其旨歸一。

【旨義】7（ギシ） おもむき。意味。旨趣。意義。〔唐書、選擧志上〕今試二學者一、以二帖字一爲二精通一、不レ窮二旨義一、豈能知二遷レ怒貳レ過之道一乎。

【旨鷊】8（シゲキ） 美しいもぢずり草。美しいねぢ花。綬草。〔詩、陳風、防有鵲巢〕中唐有レ甓、邛有二旨鷊一。〔傳〕鷊、綬艸也。〔集傳〕鷊、小草、雜色如レ綬。〔疏〕陸機疏云、鷊、五色作二綬文一、故曰二綬草一。

【旨哉】9（ウマイカナ） 其の事の宜しきに叶ふのを賞美する辭。旨は美。〔書、說命中〕王曰、旨哉說、乃言惟服。〔傳〕旨、美也、美二其所レ言、皆可二服行一。

【旨酒】10（シシユ） うまいさけ。うまざけ。美酒。〔詩、小雅、鹿鳴〕我有二旨酒一、嘉賓式燕以敖。〔左氏、桓、六〕奉二酒醴一以告曰、嘉栗旨酒。〔孟子、離婁下〕禹惡二旨酒一、而好二善言一。〔班固、東都賦〕於レ是庭實千品、旨酒萬鍾。〔潘岳、藉田賦〕旨酒嘉栗。

【旨酒嘉殽】11（シシユカカウ） うまい酒とよい肴。〔詩、小雅、正月〕彼有二旨酒一、又有二嘉殽一。

【雖レ有二旨酒嘉殽一不レ嘗不レ知二其旨一】12（シシユカカウアリトイヘドモナメザレバソノウマキヲシラズ） うまい酒よい肴があつても、なめてみないでは其のうまさを知ることはできない。實際に經驗して見なければ、本當の所はわからぬ喩。〔韓詩外傳、三〕雖レ有二旨酒嘉殽一、不レ嘗不レ知二其旨一、雖レ有二善道一、不レ學不レ達二其功一。〔禮、學記〕雖レ有二嘉肴一、弗レ食不レ知二其旨一也、雖レ有二至道一、弗レ學不レ知二其善一也。

【旨趣】13（シシユ） 事のおもむき。わけがら。旨意。指趣。趣旨。〔嵇康、琴賦序〕覽二其旨趣一、亦未レ達二禮樂之情一也。〔北史、王頍傳〕勤レ學累レ載、遂徧二通五經一、究二其旨趣一。〔隋書、天文志上〕古法簡略、旨趣難レ究。〔唐玄宗、孝經註序〕擧二六家之異同一、會二五經之旨趣一、約レ文敷暢、義則昭然。

【旨授】14（シジユ） 六品以下の官の任命。唐代、六品以下の官は天子の旨を體して授けるからいふ。〔大學衍義補、正二百官一、公二銓選之法一〕唐制、庶品五品以上、制敕命レ之、六品以下、則並旨授、旨授者、吏部銓レ才授レ職、然後上言、詔旨但畫聞以從レ之、而不二可否一者也。

【旨蓄】15（シチク） 乾燥野菜の類の如く、貯藏して冬時の食物となすべきもの。〔詩、邶風、谷風〕我有二旨蓄一、亦以御レ冬。〔傳〕旨、美。〔箋〕蓄二聚美

栞一者、以禦二冬月乏無時一也。

【旨苕】16（シテウ） うつくしいはきぐさ。〔詩、陳風、防有鵲巣〕防有二鵲巣一、邛有二旨苕一。〔傳〕苕、艸也。〔箋〕邛之有二美苕一。〔集傳〕旨、美也、苕、苕饒也、莖如二勞豆一而細、葉似二蒺藜一而青、其莖葉綠色、可二生食一、如二小豆藿一也。

【旨統】17（シトウ） 旨趣の正統。趣意の本筋。〔晉書、向秀傳〕莊周著二内外數十篇一、歷世方士、雖レ有二觀者一、莫三適論二其旨統一也。

【旨否】18（シヒ） うまいこととうまくないこと。うまいとまづい。〔詩、小雅、甫田〕攘二其左右一、嘗二其旨否一。

【旨符】19（シフ） 古の官文書の名。〔唐書、食貨志二〕歲爲二旨符一、遣レ使一告、費二紙五十餘萬一。

【旨味】20（シミ） うまい味。又、其のもの。〔張敏頭、責二子羽一文〕旨味弗レ嘗、食レ粟茹レ菜。

【得旨】21（シヲウ） 天子の許しを得る。〔五代史、郭崇韜安重誨傳論〕宰相有下非三其見一レ時而事當二上決一者上、與中其被レ旨而有レ所二復請一者上、則具記レ事而入、因二崇政使一聞、得レ旨則復宣而出レ之。

【請旨取問】22（シヲコウテシユモンス） 軍官卽ち將校の犯罪に對しては、其の所屬官廳から一定の順序を經て奏請し、勅許を得て犯人を收召推問することをいふ。〔明律、名例、軍官有犯條〕凡軍官犯レ罪、從二本管衙門一開二具事由一、申二呈五軍都督府一奏聞、請レ旨取問。

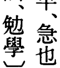
【㫖】13739　シ

旨(5－13738)に同じ。〔集韻〕旨、或作レ㫖。

【旫】13740　シ

旨(5－13738)に同じ。〔篇韻〕旫、與レ旨同。

【𣅊】13741　エウ　〔集韻〕伊鳥切　篠



小篆

はるか。ほのか。〔説文〕𣅊、望レ遠合也、从二日匕一、匕、合也、讀若二窈窕之窈一。〔段注〕合者、望レ遠則其形不レ分、其色不レ分、其小大高下不レ分、是也、與二杳字一義略相近。

解字 會意。日と匕との合字。はるか。ほのか。匕は比の省文で合ふ意。(昆(5－13792)の解字參照)。合ふとは、日暮に遠きを望めば、萬物冥合して見分けがたいこと。杳の字と意味が近い。

【早】13742　サウ　ソウ　〔集韻〕子皓切　皓　ㄗㄠˇ　tsao^{3}

小篆

❶**朝**。あした。もと皁(5－13872)に作る。〔集韻〕皁、隷作レ早。〔説文通訓定聲〕早、按、甲者首鎧、从レ甲、猶レ从レ首也、擧レ首見レ日爲レ早。〔詩、召南、小星〕夙夜在レ公、〔箋〕或早或夜。〔疏〕晨初爲レ早。〔方干、採蓮曲〕採蓮女兒避二殘熱一、隔夜相期侵レ早發。❷**はやい**。㋑時期がまだ來ない。〔左氏、宣、二〕盛服將レ朝、尙早、坐而假寐。〔李白、太原早秋詩〕霜威出レ塞早。㋺いそぐ。すみやか。〔莊子、齊物論〕汝亦大早計。〔杜甫、遣悶詩〕疇昔論レ詩早、光輝仗レ鉞雄。〔方干、送二相里燭一詩〕泛レ湖乘レ月早、踐レ雪過レ山遲。㋩わかい。〔岑參、送三王七錄事赴二虢州一詩〕早歲卽相知、嗟君最後時。㋥はじめ。〔雍陶、崔少府池鷺詩〕數聲相叫早秋時。❸**はやく**。㋑つとに。時期が來ないうちに。〔李白、白雲歌〕早臥早行君早起。㋺あらかじめ。まへもつて。〔字彙〕早、先也。〔易、坤〕由三辨レ之不二早辨一也。㋩すみやかに。急に。〔戰國、齊策〕早救レ之。〔注〕早、急也。㋥まへに。若い時に。〔顏氏家訓、勉學〕早迷而晚寤。❹**どんぐり**。草(9－30945)・皁(8－22684)に通ず。〔説文通訓定聲〕早、叚借爲レ草。〔周禮、地官、大司徒〕其植物宜二早物一。〔注〕早物、柞栗之屬。〔釋文〕早、本或作レ皁。〔禮、曲禮下、棗栗、疏〕棗、早也。❺蚤(10－32893)に通ず。〔儀禮、士相見禮〕問二日之早晏一。〔注〕古文、早作レ蚤。〔漢書、文帝紀、有司請三蚤建二太子一、注〕師古曰、蚤、古以爲二早晚字一也。❻**姓**。〔萬姓統譜〕晉早衍、將軍。　邦　❶**はや**。はやうち。はやおひの略稱。❷**さ**。接頭語。わかい意を表はす。早苗・早乙女の類。

解字 會意。日と甲との合字。日が甲(人頭。説文に甲は人頭腔、段注に髑髏)の上に在り。あした。あけがた。はやい。日が人頭の上にあり、卽ちはやい意。引伸して凡そ先を爭ふ稱となる。甲を首鎧とし、或は東方の孟、陽氣萌動等とする諸説がある。今、段注に從ふ。〔説文、早、晨也、段注〕晨者、早、昧爽也、二字互訓。

名乘 ハヤ。サキ。

【早鴉】1（サウア） 夜あけに鳴くからす。あけがらす。〔李白、扶風豪士歌〕東方日出啼二早鴉一、城門人開掃二落花一。〔薛逢、長安夜雨詩〕壓レ樹早鴉飛不レ散、到レ窓寒鼓濕無レ聲。

【早秧】2（サウアウ） さなへ。早苗。〔田家雜事〕五月曬二早秧一、若四月所レ插秧已發生者、放レ水乾曜十餘日、田坼秧枯、方放レ水浸レ之、則科旺多結レ穀。

【早晏】3（サウアン） ❶早いことと晚いこと。又、早いか晚いか。早晚。〔儀禮、士相見禮〕問二日之早晏一。〔李衛公問對、中〕早晏以順二天道一。❷早曉や深夜に通行すること。〔管子、八觀〕早晏不レ禁、則攘奪・竊盜・攻擊・殘賊之民、毋二自勝一矣。

【早安】4 tsao^{3} an^{1} 朝の安否。朝の御機嫌。又俗にお早うといふ語。

【早已】5 tsao^{2} i^{3} 既に。もはや。早速。〔紅樓夢、三十七回〕我替薛大妹妹也早已想了個好的、也只三個字。

【早印】6（サウイン） 初期に印刷する。

【早印本】6′（サウインボン） 同一版木を用ひて印刷した書の中、初めに印刷した書物をいふ。

【早賓】7（サウヒン） 早く死ぬ。〔史記、太史公自序〕惠之早賓、諸呂不レ台。

【早雨】8（ハヤアメ） 俄かに降る雨。急雨。

【早夭】9（サウエウ） 早く死ぬ。わかじに。蚤夭。〔左氏、昭、二十六〕穆后及二大子壽一、早夭卽レ世。〔史記、貨殖傳〕江南卑濕、丈夫早夭。

【早夏】10（サウカ） 初夏。陰曆四月の頃。〔枚乘、梁王兔園賦〕晚春早夏、邯鄲襄國。

【早歌】11（サウカ） ❶小歌のやうに曲節の早い謠物。❷（ハヤウタ）神樂歌の一種。音節の促迫した歌曲。

【早霞】12（サウカ） 朝燒け。朝霞。〔何遜、曉發詩〕早霞麗二初日一、清風消二薄霧一。

【早霞不出門】13 tsao^{3} hsia^{2} pu^{4} chʻu^{1} men^{2} 朝霞のある時は、降雨の兆で、外出しない。

【早霞陰晚霞晴】14 tsao^{3} hsia^{2} yin^{1} wan^{3} hsia^{2} chʻing^{2} 朝霞は曇りの兆、夕霞は晴天の兆。

【早衙】15（サウガ） 朝に行ふ官署の禮式。舊時の官府では早晚二次、衙に坐して事を治め、羣吏の參謁を受ける。故に早衙・晚衙の稱がある。朝衙。〔李洞、江干卽事詩〕病臥四更後、愁聞報二早衙一。〔蘇軾、興龍節侍宴前一日云云訪二示王定國一云云詩〕天風淅淅飛二玉沙一、詔恩歸沐休二早衙一。

【早駕】16（サウガ） 朝早くのる。夙駕。肅駕。星駕。〔漢書、韓延壽傳〕卒曰、今旦明府早駕、久駐未レ出。

【早好】17（ハヤズキ） 輕々しく好むこと。

【早行】18（サウカウ） 朝はやく出立する。早朝に起きて出發する。早發。〔書言故事、送行類、戴星〕早行、曰二戴レ星而往一。〔李白、白雲歌送二友人一〕早臥早行君早起。〔劉駕、早行詩〕馬上續二殘夢一、馬嘶時復驚。〔郭良、早行詩〕早行星尙在、數里未二天明一。

【早行星尙在數里未天明】19（サウカウホシナホアリスウリイマダテンアケズ） 星を戴いて出發し、數里行つてもまだ天は明けない。〔郭良、早行詩〕早行星尙在、數里未二天明一、不レ辨二雲林色一、空聞二流水聲一、月從二山上一落、河入二斗閒一橫、漸至二重門外一、依稀見二洛城一。

【早香】20（サウカウ） 朝たく香。〔桃花扇、閏二十齣、閒話〕想是該レ上二早香一了。

【早粳】21 サウカウ わせ。早稻。〔本草、粳〕發明、時珍曰、粳稻六七月收者爲二早粳一、止可レ充レ食、八九月收者爲二遲粳一、十月收者爲二晚粳一。

【早槁】22 サウカウ はやく枯れる。蚤落。早落。〔呂覽、孟春〕孟春行二夏命一、則風雨不レ時、草木早槁、國乃有レ恐。〔注〕故使二草木槁落一、不レ待二秋冬一。

【早合】23 ハヤガフ 火藥を塡めた小さい紙筒で、舊式の小銃にこめて彈を發射するに用ひたもの。今の藥莢。早具。

〖早合點〗24 ハヤガテン ハヤガツテン 物事をよく領解もせずに直ちに承知すること。はやのみこみすること。〔好色一代男、六〕早合點して少しも氣やぶらず。

【早寒】25 サウカン 寒さが他所よりも早く來ること。又、例年より早く寒くなること。〔晉書、郄超傳〕超又進二策于桓溫一曰、北土早寒、三軍裘褐者少、恐不レ可二以涉一レ冬。〔南齊書、芮芮傳〕芮芮土氣早寒、所レ居爲二穹廬氈帳一。〔顏延之、秋胡詩〕春來無二時豫一、秋至恒早寒。

【早間】26 サウカン ❶先き程。〔長生殿、復召〕早間問二高力士一、他說、妃子出去、淚眼不レ乾。❷朝の內。今朝程。今し方。〔水滸傳、一回〕道童笑道、我早間在二草庵中一、伏二侍天師一、聽二得天師說道一。〔福惠全書、刑名部、監禁〕早間除二放風一。

【早雁】27 サウガン 秋早く來る雁。〔南史、齊高帝諸子上、豫章王嶷子子顯傳〕風動春朝、月明秋夜、早雁初鶯。

【早起】28 サウキ ❶はやおき。朝早く起き出ること。晨起。蚤起。夙起。夙興。〔李白、白雲歌送二友人一〕早臥早行君早起。❷tsao^2 ch'i 朝。

〖早起三朝當二一工一〗29 サウキサンテウ イツコウニアタル 三日早起きすれば一人前の仕事に相當する。〔通俗編、時序、早起三朝當二一工一〕宋樓鑰詩。

【早歸】30 サウキ 早くかへる。はやがへり。〔海錄碎事、臣職、簿書〕古云、伏日當二早歸一、況今著レ令許二休暇一。

【早韭】31 サウキウ 野菜の名。わけぎ。〔南史、周顒傳〕文惠太子問レ顒、菜食何味最勝、顒曰、春初早韭、秋末晚菘。〔宣和畫譜〕灌園學、昔人所レ講、而早韭晚菘、來禽青李、皆入二翰林子墨之美談一。

【早急】32 サウキフ サツキフ はなはだいそぐこと。急速。火急。迅速。迅急。至急。

【早蛩】33 サウキョウ 初秋に鳴くこほろぎ。〔白居易、夜雨詩〕早蛩啼復歇、殘燈滅又明。

【早局】34 tsao^3 chü^2 朝飯に人を招く。午前の「宴會。

【早具】35 サウグ ❶早くそなへる。〔荀子、君道〕卿相輔佐、人主之基杖也、不レ可レ不二早具一也。❷ハヤゴ 舊式の小銃に裝塡する火藥の小包。ぱとろん。早合。

【早瓜】36 ハヤウリ 普通より早く熟した瓜。

【早寡】37 サウクワ 年若くして夫に別れた婦。やもめ。〔論衡、偶會〕丈夫有二短壽之相一、娶必得二早寡之妻一、早寡之妻嫁、亦遇二夭折之夫一也。

【早臥】38 サウグワ 早く寢に就く。はやくねる。はやね。〔李白、白雲歌送二友人一〕水上女蘿衣白雲、早臥早行君早起。〔高適、登二子賤琴臺一賦レ詩詩〕早臥常晏起。

【早完】39 サウクワン はやく完納する。〔福惠全書、蒞任部、忍性氣〕以二歷年之逋欠一、速爲二早完一。

【早鰥】40 サウクワン 年若くして妻を失つた男。やもを。〔沈遼、走レ筆奉二酬正夫一卽次二元韻一詩〕一身蕭然念二早鰥一、髭鬚憔悴半已斑。

【早計】41 サウケイ はやまること。十分に思慮をつくさず急いで事をなすこと。〔莊子、齊物論〕且汝亦大早計、見レ卵而求二時夜一、見レ彈而求二鴞炙一。

【早惠】42 サウケイ 幼少の時から智慧のあること。早慧(44)に同じ。〔後漢書、孔融傳〕煒曰、夫人小而聰了、大未二必奇一、融應レ聲曰、觀二君所一レ言、將不二早惠一乎。

【早經】43 tsao^3 ching 既に。もはや。

【早慧】44 サウケイ 幼くて知慧がさとい。夙慧。〔北史、王紘傳〕紘進曰、國家龍二飛朔野一、雄二步中原一、五帝異レ儀、三王殊レ制、掩二衣左右一、何足二是非一、景奇二其早慧一、賜以二名馬一。〔庾信、周兗州刺史廣饒公鄭常神道碑〕公弱齡早慧、幼學夙成。〔唐書、張鷟傳〕早慧絕倫。

【早雞】45 サウケイ 朝早く鳴く雞。〔王紳、早行詩〕薄曙欺二殘月一、哀猿和二早雞一。

【早曉】46 サウゲウ よあけがた。拂曉。

【早決】47 サウケツ 早のみこみしてきめる。あわてて決める。〔愼思錄、五〕輕率早決。

【早蕨】48 サワラビ 芽の出たばかりのわらび。

【早月】49 サウゲツ 三日月の異名。〔李頻、送三劉山人歸二洞庭一詩〕半湖乘二早月一、中路入二疎鍾一。

【早業】50 ハヤワザ 手早く行ふ技藝。敏捷なわざ。すばやいわざ。〔源平盛衰記、四十三、平家亡虜人人〕早業、人に勝れたり。

【早言】51 ハヤゴト 早口のこと。

【早孤】52 サウコ 早くからみなしごになる。幼少にして父を亡ふ。〔後漢書、淮陽頃王昞傳〕和帝憐二章早孤一、數加二賞賜一。

【早鼓】53 ハヤツヅミ 能樂で早打などの出る時の鼓の打方。

【早興】54 サウコウ はやく起き出る。蚤興。〔吳子、料敵〕一曰、疾風大旱、早興寤遷。

【早鴻】55 サウコウ 秋早く來る雁。早雁。〔李白、陪二族叔刑部侍郎曄及中書賈舍人至一遊二洞庭一詩〕洞庭湖西秋月輝、瀟湘江北早鴻飛。

【早婚】56 サウコン 年わかくして結婚する。晚婚の對。〔詩、召南、摽有梅序、疏〕文王十五、生二武王一、武王有二兄伯邑考一、故知四人君早昏所三以重二繼嗣一。〔文中子、魏相〕早昏少娉、教レ人以レ偸。

【早歲】57 サウサイ 若いとき。としわか。青年。弱年。蚤歲。〔嚴維、贈二別至弘上人一詩〕最稱弘偃少、早歲草茆居。〔岑參、送三王七錄事赴二虢州一詩〕早歲卽相知、嗟君最後レ時。〔宋史、西蜀孟昶世家〕早歲會奉二尺書一。〔陸游、書憤詩〕早歲那知世事艱、中原北望氣如レ山。

【早早】58 サウサウ ❶はやばや。〔杜甫、南楚詩〕南楚青春異、暄寒早早分。❷手紙の文のとめことばに用ひる語。とり急いで意を盡さぬ意。草草。匆匆。

〖早早兒〗59 tsao^3 tsao êrh 早く。早くから。

〖早早兒的〗60 tsao^3 tsao êrh tê 早々と。はやく。

【早操】61 tsao^3 ts'ao^1 朝の體操。朝の教練。

【早霜】62 サウサウ 早く降りたしも。又、朝の霜。〔易林、需之第五、咸〕早霜晚雪、傷二害禾麥一。

【早作】63 サウサク 早く起きる。蚤作。〔後漢書、曹世叔妻傳〕晚寢早作、勿レ憚二夙夜一。

【早醋】64 ハヤズ 糯や粟などで作つた酢。こんず。

【早參】65 サウサン ❶はやく參上すること。早く參詣すること。〔宋史、禮志十九〕乾德六年九月初、以二旬假日一御二講武殿一、近臣但赴早參。❷佛禪門で朝早く行ふ說法をいふ。又、早朝の參禪。〔祖庭事苑〕詰旦升レ堂、謂二之早參一、日暮念誦、謂二之晚參一。

【早產】66 サウザン 豫定期日よりも早くお產すること。妊娠第二十九週より第三十八週までの間に於ける分娩。其の以前を流產、以後を正產と晚產に區別する。

【早散】67 サウサン 早く退ける。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕倘起數多、不レ能二早散一。

【早爨】68 サウサン 朝飯。晝飯。〔廼賢、詩〕拾レ薪供二早爨一、抱レ甕灌二春畦一。

【早矢】69 ハヤ 一手二本の矢の中、初に射る矢。甲矢。乙矢（オトヤ）の對。

【早些】70 tsao^3 hsie^1 早目に。

【早死】71 サウシ はやじに。わかじに。蚤死。

【早耳】72 ハヤミミ 物事を早く聞きつけること。又、其の耳。

【早秀】73 サウシウ 早咲きの花。又、早く出る芽や穗。蚤秀。〔殷仲文、南州桓公九井作詩〕歲寒無二早秀一、浮榮甘二夙殞一。

【早秋】74 サウシウ 秋のはじめ。初秋。〔雍陶、崔少府池鷺詠二雙白鷺一詩〕一足獨拳寒雨裏、數聲相叫早秋時。〔王勃、秋江送別詩〕早是他鄉値二早秋一。

【早就】75 サウシウ ❶早く出來上る。年若くして事を能くする。早成。〔梁書、簡文帝紀〕太宗、六歲便屬レ文、高祖驚二其早就一、弗二之信一也。❷tsao^3 chiu^4 疾くに。はやくから。既に。

【早日】76 サウジツ ❶既に。以前に。〔韓愈、送三李六協律歸二荊南一詩〕早日羈遊所、春風送二客歸一。❷tsao^3 jih^4 一日も早く。至急に。

【早車】77 tsao^3 ch'ê^1 ❶朝の汽車。❷一番列車。

【早謝】78 サウシヤ 早く辭し去る。早く凋み落ちる。〔徐寅、菊花詩〕籬槿早榮還早謝、澗松同德復同心。

【早上】79 tsao^3 shang 朝。早朝。

〖早上晚下〗80 tsao^3 shang wan^3 hsia 早晚。いつか。

【早取】81ハヤトリ ㊀手早く取る。㊁早取寫眞の略。

〔早取寫眞〕82ハヤトリシャシン 短時間に寫眞を仕上げること。又、其の寫眞。

【早宿】83サウシュク 早目に宿をとる。〔杜甫、宿二鑿石浦一詩〕早宿賓從勞、仲春江山麗。

【早熟】84サウジュク ㊀早く成熟する。又、其の物。わせ。〔北史、高頻傳〕江南土熱、水田早熟。㊁身心が普通よりも早期に發育して、成人の風のあること。ませること。

【早出】85サウシュツ ㊀朝早く出て行くこと。蚤出。〔史記、天官書〕早出者爲レ贏、贏者爲レ客。㊁デハヤ 定刻より早く出勤すること。遲出の對。

〔早出暮入〕86サウシュツボニフ 朝はやく出て行き、日が暮れてかへる。〔墨子、尚賢中〕賢者之治レ邑也、早出暮入。

【早春】87サウシュン ㊀春のはじめ。はつはる。初春。孟春。〔花蘂夫人、宮詞〕早春楊柳引二長條一、倚レ岸沿レ堤一面高。㊁茶の名。七八月に摘む茶。品質が佳いといふ。〔茶疏〕往日無二秋日摘レ茶者一、近乃有レ之、七八月重摘一番、謂二之早春一、其品甚佳。

【早鐘】89ハヤガネ 火災の時などに劇しく打鳴らすかね。急事を報ずる鐘。警鐘。〔運歩色葉集〕早鐘。

【早嗇】90サウショク 物事をすばやく考へ解決し、何時までもぐづぐづと心を勞しないやうにすること。〔呂覽、情欲〕論早定、則知早嗇、知早嗇、則精不レ竭。〔注〕嗇、愛、愛二精神一、故不レ竭。

【早晨】91サウシン ㊀あけがた。早朝。〔鮑照、舞鶴賦〕感二寒雞之早晨一、憐二霜鴈之違一レ漠。㊁tsao^{3} chʻen お早う。朝の挨拶。

〔早晨發霞等水燒茶〕93 tsao^{3} chʻen fa^{1} hsia^{2} têng^{2} shuei^{3} shao^{1} chʻa^{2} 朝燒があると間もなく雨が降る。湖南津市地方に行はれる俚諺。

【早寢】94サウシン はやくねる。はやね。早寢晏起を見よ。

〔早寢晏起〕95サウシンアンキ はやくね、おそくおきる。蚤寢晏起（**10－32893**‥36）を見よ。

【早衰】96サウスイ はやくおとろへる。〔蘇轍、爲二兄軾下一レ獄上書〕軾早衰多病、必死二於牢獄一。

【早穗】97サウスイ わせのほ。早く實つた穗。〔范成大、寒亭詩〕早穗已垂垂、晩苗猶剪剪。

【早世】98サウセイ 若い時。又、わかじにする。はやじに。夭死。蚤死。蚤世。〔左氏、昭、三〕則又無祿、早世隕レ命、寡人失レ望。〔後漢書、桓帝紀〕詔曰、曩者遭二家不造一、先帝早世。〔韓愈、祭二十二郎一文〕吾上有二三兄一、皆不幸早世。

〔早世卽レ冥〕99サウセイメイニツク 夭死してあの世へ行く。〔海錄碎事、政事、死亡〕誰謂レ不レ痛、早世卽レ冥、誰謂レ不レ傷、葉繁中レ零、曹子建詩。

【早成】100サウセイ はやく大人じみる。おとなびる。ねびる。ませる。又、ませ。夙成。蚤成。〔蜀志、諸葛瞻傳〕亮與二兄瑾一書曰、瞻今已八歲、聰慧可レ愛、嫌二其早成一、恐レ不レ爲二重器一耳。

【早接】101ハヤツギ これ物を早くつぎ合はすこと。又、其の藥。早繼。

【早雪】102サウセツ 時候よりはやく降つたゆき。

【早川】103ハヤカハ 早く流れる川。流の早い川。

【早先】104 tsao^{3} hsien^{1} 以前に。

【早尖】105 tsao^{3} chien^{1} 旅行の途中でしたためる朝飯。

【早船】106ハヤブネ ㊀早く走る船。急ぎ漕ぐ船。㊁兵船の一つ。打櫂と櫓とを用ひ迅速に走るもの。舸。

【早膳】107サウゼン 朝食。あさめし。晝飯。早饍。〔宋史、禮志二十四〕乾道二年十一月二十四日、幸二候潮門外大教場一、進二早饍一。〔水滸傳、四十七回〕兩箇隨進二裏面一、就具二早膳一相待、飯罷、喫二了茶一。

【早足】108ハヤアシ ㊀歩くことの速かなこと。速歩。〔平治物語、一、信頼信西不快事〕馳せ引き・早足・力持。㊁急ぎゆくこと。急ぎ足。

【早速】109サッソク サソク ㊀すぐに。直ちに。いそいで。すみやかに。〔保元物語、一、朝敵宿所燒拂事〕朝敵追討、早速に其の功を致す。㊁事にのぞんで。卽座。

【早卒】110サウソツ 早く死ぬ。〔水經、渭水注〕上曰、世豈有二此人一乎、平陽主曰、延年女弟、上召二見之一、妖麗善歌舞、得レ幸、早卒、上憫二念之一。

【早打】111ハヤウチ 馬・駕籠等を馳せて急報すること。又、其の人。早打馬。早追。〔曾我會稽山、一〕二の宮は富士野へ早打。

〔早打肩〕112ハヤウチガタ 肩が俄かに充血して痛む病。〔浮世風呂、一上〕それこそ早打肩だあ。

【早退】113サウタイ ㊀早く退く。早く退隱する。〔白居易、九年十一月二十一日感レ事而作詩〕禍福茫茫不レ可レ期、大都早退似二先知一。〔蘇軾、和三劉長安題二薛周逸老亭一周善飲レ酒未二七十一而致仕詩〕近聞薛公子、早退驚二常流一。㊁はやびけ。〔聖德太子、十七條憲法〕遲朝不レ逮二于急一、早退必事不レ盡。

【早桃】114サモモ 桃の一種。なつもも。早く實る桃。麥桃。

【早稻】115サウタウ はや出來のいね。わせ。〔本草、秈〕釋名、早稻、集解、時珍曰、云云、其熟最早、六七月可レ收。〔白居易、春題二湖上一詩〕碧毯線頭抽二早稻一、青羅裙帶展二新蒲一。

〔早稻田〕116ワサダ ワセダ ㊀早稻を作る田。㊁地名。㋑東京都の地名。㋺武藏國の地名。㋩岩代國の地名。

【早堂】117サウダウ 朝の役所。午前の法廷。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕拘二到人犯一、于二早堂一帶齊。

【早道】118ハヤミチ ㊀早く達し得る道路。近路。㊁簡便な方法。速成法。

【早達】119サウタツ はやく出世する。年少にして榮達する。蚤達。〔南史、張纘傳〕纘年二十三、累二遷尚書吏部郎一、俄而長兼二侍中一、時人以爲二早達一。〔徐陵、與二王僧智一書〕早達未レ可レ同レ功。〔呂溫、鏡中歎二白髮一詩〕縱使他時能早達、定知不レ作二黑頭人一。

【早旦】120サウタン 朝早い時。早朝。早晨。〔書、牧誓、時甲子昧爽、傳〕昧爽、謂二早旦一也。

【早知】121サウチ 早く知る。以前に知る。昔から知つて居る。〔李益、江南曲〕嫁得二瞿塘賈一、朝朝誤二妾期一、早知二潮有一レ信、嫁二與弄潮兒一。〔林洪、釣臺詩〕三聘殷勤起二富春一、如何一宿便辭レ君、早知三閑腳無二伸處一、只合三青山臥二白雲一。

〔早知二窮達有一レ命恨レ不二十年讀一レ書〕122ハヤクキユウタツメイアルヲシラバジフネンシヨヲヨマザルヲウラマンヤ 人生に於ける困窮と通達とには自ら天命のあることを早く知つてゐたならば、今に至つて十年書を讀まなかつたことを殘念に思ふこともなかつたであらうに。書を讀んではじめて人生の窮達は天命によるを知つたといふ意。〔南史、沈攸之傳〕攸之晩好レ讀レ書、手不レ釋レ卷、史漢事、多レ所二記憶一、嘗歎曰、早知二窮達有一レ命、恨レ不二十年讀一レ書。

【早智】123サウチ 年のわりあひに智慧が早く發達すること。早熟。〔人物志、七繆〕人材不レ同、成有二早晩一、有二早智而速成者一、有二晩智而晩成者一。

【早茶】124サウチャ 新芽を摘んで作る茶。〔補茶經〕芽茶、只作二早茶一、馳奉二萬乘一、嘗レ之可矣。〔白居易、不出詩〕簷前新葉覆二殘花一、席上餘杯對二早茶一。

〔早茶晩嫁粧〕125 tsao^{3} chʻa^{2} wan^{3} chia^{4} chuang^{1} 婚禮の時、茶は早く送つて來るが、嫁入道具は晩くなる。

【早追】126ハヤオヒ 德川時代、宿驛の駕籠に乘り、晝夜兼行した火急の使者。早打。〔碁盤太平記〕。

【早定】127サウテイ 早くさだまる。〔呂覽、情欲〕古人得レ道者、生以壽長、聲色滋味、能久樂レ之、奚故、論早定也、論早定、則知早嗇。

【早朝】128サウテウ ㊀はやいあさ。あさまだき。又、あさはやく。つと。早旦。昧旦。早晨。〔白居易、早朝賀レ雪寄二陳山人一詩〕長安盈レ尺雪、早朝賀二君喜一。〔五燈會元〕金果早朝猿摘去、玉華晩後鳳銜來。㊁朝の政務。〔漢宮秋、四折〕今日早朝散後、有三番國差二使命一、綁二送毛延壽一來說。㊂朝早くから政務をみる。〔白居易、長恨歌〕春宵苦レ短日高起、從レ此君王不二早朝一。

〔早朝晏罷〕129サウテウアンピ 早く參朝しおそくしりぞく。〔呂覽、禁塞〕早朝晏罷、以告二制レ兵者一。

【早潮】130サウテウ ㊀あさしほ。〔韋應物、酬下柳郎中春日歸二揚州南郭一見レ別之作上詩〕南北相過殊不レ遠、暮潮歸去早潮來。㊁早い流の海潮。〔陶翰、乘レ潮至二漁浦一詩〕艤棹乘二早潮一、潮來如二風雨一。

【早笛】131ハヤブエ 能樂で鬼神や戰士などに扮した役者が舞臺にあらはれる時、笛を早調子に吹くこと。

【早天】132サウテン あけのそら。あけがた。早旦。早朝。〔儲光羲、洛潭送二人覲省一詩〕細草生二春岸一、明霞

散早天。

【早點】133 tsao^{2} tien^{3} ❶朝の茶うけ。朝の輕い食事。❷少しはやく。

〔早點兒〕134 tsao^{2} tien^{3} êrh 少し早く。

【早田】135 但馬國の地名。

【早桶】136 死骸を斂める棺の最も簡單粗末なもの。棺桶に代用する大きな桶。〔男色大鑑、三〕對馬といふ女郎を早桶に入れて。

【早頭】137 tsao^{3} t'ou 前に。以前に。

【早藤】138 紀伊國の地名。

【早年】139 若いとき。早歲。晚年の對。〔晉書、陸機陸雲傳論〕挺珪璋於秀實、馳英華于早年。〔庾信、周大將軍上開府廣饒公鄭常誌銘〕髫齔知禮、早年馳譽。〔宣和書譜〕顏眞卿自其早年、書于佛寺碑、已與歐虞徐沈暮年之筆相上下。

〔早年間〕140 tsao^{3} nien^{2} chien^{1} 以前。前年。昔。

【早馬】141 早く走る馬。早打に乘る馬。急報の馬。〔東鑑、五十〕文應二年二月二十五日、早馬事、宿宿被定置二疋之處。

【早梅】142 はやざきのうめ。〔唐太宗、春池柳詩〕縈雪臨春岸、參差間早梅。

【早放】143 早く花の開くこと。〔齊東野語〕花之早放者、名曰堂花。〔陔餘叢考、窨菜唐花〕凡花之早放者、名堂花。

【早白】144 いそいで申しあげる。〔漢書、黃霸傳〕公不早白、與俱受戮矣。

【早泊】145 旅などで普通の時刻より早く宿泊すること。

【早麥】146 早く熟する麥。〔方夔、溪上詩〕早麥熟隨芹菜餉、晚茶香和樹芽蒸。

【早發】147 朝早く出發する。早行。〔姚鵠、曉發詩〕旅行宜早發、況復是南歸。

【早飯】148 朝飯。早膳。〔白居易、履道西門詩〕行竈朝香炊早飯、小園春暖掇新蔬。

【早晚】149 ❶はやいとおそい。早晏。蚤晚。〔韓非子、難二〕擧事愼陰陽之和、種樹節四時之適、無早晚之失、寒溫之災、則入多。〔後漢書、左慈傳〕驗問增錦之狀及時日早晚。〔魏志、王朗傳〕蓋生育有早晚。〔晉書、劉毅傳〕器有大小、達有早晚。〔南史、程靈洗傳〕刈穫早晚。❷おそかれはやかれ。いつか。近いうち。〔詩語解〕早晚雲門去、此中多逸興。〔李白、長干行〕早晚下三巴、預將書報家。〔劉長卿、行營酬呂侍御云詩〕孔璋才素健、早晚檄書成。❸此の間。先日。昨今。〔白居易、除夜詩〕潯陽來早晚、明日是三年。❹あさばん。あさゆふ。朝夕。旦暮。〔白居易、和弟行簡望郡南山詩〕試聽腸斷巴猿叫、早晚驪山有此聲。❺つひに。しまひに。〔源平盛衰記、三十五、沛公入咸陽宮〕義仲早晚奢りつつ。❻tsao^{3} wan^{3} ㋑今頃。こんなときに。㋺どうせ。どうせは。

【早帔】150 鳥の名。翟雀の異名。〔廣雅、釋鳥〕早帔、翟雀也。

【早尾】151 姓氏。

【早服】152 老子の教で、はやく天道を得ること。〔老子、五十九〕治人事天、莫若嗇、夫唯嗇、是謂早服、早服謂之重積德。

【早物】153 どんぐりの類をいふ。又、皁物に作る。〔周禮、地官、大司徒〕一曰、山林、云云、其植物宜早物。〔釋文〕早、本或作皁。

【早分】154 早く會得すること。さとりの早いこと。

【早苗】155 苗代から田に移植する頃の稲の苗。〔嵆康、養生論〕是猶不識一漑之益、而望嘉穀於早苗者也。

【早變】156 ❶早く變化すること。❷演劇役者が敏捷に扮裝をとりかへること。

【早便】157 ❶火急のたより。❷割合に早く達するたより。江戸時代、飛脚屋が京阪と江戸との間で、發した日から七日目に先方へ届けた書狀をいふ。〔仕法帳、上方筋早幸便並幸便飛脚定目〕正月云云、十七日早便・並便とも差立て申し候。

【早米】158 早く收穫した米。わせ米。〔東鑑、八〕文治四年七月二十八日、去年分早米者、進納領家、後米者或雖令積載、未承著否。

【早眠】159 早く就眠する。普通の時刻よりも早く寢る。はやね。〔晉書、范甯傳〕夜早眠六。〔蘇軾、徐大正閑軒詩〕早眠不見燈、晚食或欺午。

【早霧】160 あさぎり。朝霧。〔馬戴、楚江懷古詩〕蘆洲生早霧、蘭隰下微霜。

〔早霧晴晚霧陰〕161 tsao^{3} wu^{4} ch'ing^{2} wan^{3} wu^{4} yin^{1} 朝霧は晴天の兆、夕霧は曇天の兆。

【早明】162 はやいあさ。早朝。

【早茂】163 幼くて材德が秀でてゐること。〔後漢書、桓帝紀〕孝質皇帝、聰敏早茂。

【早目】164 定刻より幾分か早いこと。

【早夜】165 ❶早い夜。暮れて間も無い時。〔史記、齊悼惠王世家〕及魏勃少時、欲求見齊相曹參、家貧無以自通、乃常獨早夜掃齊相舍人門外。❷朝早くから夜おそくまで。蚤夜。〔韓愈、原毀〕早夜以思、去其不如舜者、就其如舜者。

【早老】166 年齡に不相應に早く老人じみること。

【早良】167 ❶筑後國の郡名。❷姓氏。

【早涼】168 初秋の涼氣。又、早く涼氣がたつ。〔陸倕、以詩代書別後寄贈京邑僚友詩〕葭葦日蒼蒼、親知愼早涼。〔韋應物、夜直省中詩〕河漢有秋氣、雨宮生早涼。〔沈佺期、酬蘇員外味道夏晚寓直省中見贈詩〕小池殘暑退、高樹早涼歸。

【早零】169 早く死ぬこと。〔後漢書、馮衍傳下〕顧鴻門而歔欷兮、哀吾孤之早零。

【早路】170 早朝の途。〔鮑照、上潯陽還都道中詩〕侵星赴早路、畢景逐前儔。

【早漏】171 性交の際、精液射出の異常に早い症狀。

【早乙女】172 ❶早苗をとる少女。田植女。〔夫木和歌抄、七〕さをとめの山田のしろにおり立ちて。❷轉じて、少女をいふ。〔山家集、下〕いそな摘む蜑のさをとめ心せよ。❸姓。

【早火繩】173 火急の用に供する火繩。

【早些兒】174 tsao^{3} hsieh êrh 少し早く。

【早裝束】175 能樂で、爲手が一度樂屋に入り、敏捷に他の裝束を着替へて舞臺にあらはれること。

【早松茸】176 茸の一種。六七月頃生ずる松茸。

【早少女】177 早乙女(172)の❶❷に同じ。

【早剃刀】178 ❶他の刃物を卽座に剃刀に代用すること。又、其の物。〔國姓爺合戰〕是も當座の早剃刀。❷剃刀の用ひ方の早いこと。

【早半天】179 tsao^{3} pan^{4} t'ien 午前。ひるまへ。

【早忙的】180 tsao^{3} mang^{2} tê 急いで。

【早綠月】181 陰曆正月の異稱。

【早崎巖川】182 伊勢の人。本姓は森田。名は勝任。字は士信。通稱は門太夫。號は巖川・南涯。明治十九年歿す、年八十二。古賀侗庵に師事す。官は津藩儒。著に巖川詩文集・巖川詩話・經解・登岳紀行・東征集・南巡名勝志・遊名勝記がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【早收去處】183 早稻米の穫入。〔明律、戶律、倉庫、收糧違限〕秋糧十月初一日開倉、十二月終齊足、如早收去處、預先收受者、不拘此律。

【早閉晏開】184 早く閉ぢて晚く開く。〔漢書、嚴助傳〕邊境之民、爲之早閉晏開。

【早迷晚寤】185 年若い時に迷ひ晚年に悟る。〔顏氏家訓、勉學〕曾子七十乃學、名聞天下、荀卿五十、始來游學、猶爲碩儒、公孫弘四十餘、方讀春秋、以此遂登丞相、朱雲亦四十、始學易論語、皇甫謐二十、始授孝經論語、皆終成大儒、此並早迷而晚寤也。

【早野橘隧】186 大阪の人。名は正己。字は子發。通稱は三太郎・義二。號は橘隧・反求・反堂・流水。天保二年三月二十九日歿す、年五十四。中井竹山・中井履軒に師事す。抑齋の子。兼ねて箕裘をつぎ、南堀江吉野屋町に教授す。著に橘隧骨董・橘隧先生詩集・浴風雜詠がある。〔大阪名家著述目錄〕。

【早來晚去】187 tsao^{3} lai^{2} wan^{3} ch'ü^{4} 朝來て晚に歸る。

【早寢以當富】188 貧亡人でも早寢をすれば金持と同じだ。晚食以當肉。〔隱逸傳〕一曰、無事以當貴、二曰、早寢以當富。

【早笳風夜笳雨】189 tsao^{3} chia^{1} fêng^{1} yeh^{4} chia^{1} yü^{3} 朝鳴きは風、夜鳴きは雨。笳は羣鴨の鳴く聲。江蘇省崇明地方の時令歌諺。

【早不起晚不起】190 tsao^{3} pu^{4} ch'i^{3} wan^{3} pu^{4} ch'i^{3} 丁度間に合ふ程に起きる。

【早看東南晩看西北】191 tsao^3 k'an^4 tung^1 nan^2 wan^3 k'an^4 hsi^1 pei^3　朝若し東南に雲があれば常に雨が降り、晩若し西北に雲があれば常に雨がある。河北地方の俚諺。

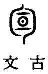
【叶】13743　ケフ　協(**2**－**2742**)に同じ。〔字彙〕叶、與㆑協同。

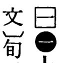
参考　此の字は會意文字で、十・曰に從ひ、十人の言ふ所の同じ義にとる。故に字形當に曰に從ひ、曰之部に入れるべきであるが、康熙字典は誤つて日之部に入れた。今、姑らく之に從ふ。〔說文〕叶、叶、或从㆑曰。〔段注〕口・曰一也。

【⿱日二】13744　コン　昏(**5**－**13806**)の古字。〔集韻〕昏、古作㆑⿱日二。

【旫】13745　テウ　〔玉篇〕他調切　蕭　**日がくらい。**〔篇海〕旫、日晦也。

【旬】13746


小篆


古文

㊀シユン ジユン　〔集韻〕松倫切　眞　ㄒㄩㄣˊ hsün^2
㊁キン　〔集韻〕規倫切　眞

㊀❶**十日。**一まはり。〔說文〕旬、偏也、十日爲㆑旬、从㆓勹日㆒。〔徐灝注箋〕十日爲㆑旬、乃旬之本義、日自㆑甲至㆑癸而偏、故從㆓勹日㆒、引㆓申之㆒爲㆓凡偏帀之偁㆒。〔書、堯典〕朞三百有六旬有六日。〔釋文〕十日爲㆑旬。〔書、五子之歌〕十旬弗㆑反。〔傳〕十日曰㆑旬。〔禮、曲禮上〕凡卜㆓筮日㆒、旬之外曰㆓遠某日㆒、旬之內曰㆓近某日㆒。〔注〕旬、十日也。〔孟子、梁惠王下〕五旬而擧㆑之。〔注〕五旬、五十日也。❷**とたび。**十回。〔魏志、劉廙傳〕修㆑之旬年。❸**十年。**〔白居易、呈㆓劉夢得㆒詩〕且喜同年滿㆓七旬㆒。❹**あまねし。**徇(**4**－**10091**)に通ず。〔詩、大雅、江漢〕來旬來宣。〔傳〕旬、偏也。〔疏〕旬、偏、釋言文、彼旬作㆑徇、音義同。❺**みちる。**〔後漢書、翟方進傳〕旬歲閒免㆓兩司隷㆒。〔注〕旬、偏也、滿也。❻**とき。**〔左思、魏都賦〕量㆓十旬㆒。〔注〕劉曰、旬、時也。❼**をさめる。**⿲亻由攵(**5**－**13222**)に通ず。〔說文通訓定聲〕旬、叚借爲㆑⿲亻由攵。〔小爾雅、廣詁〕旬、治也。❽**めぐる。**彴(**4**－**10053**)に通ず。〔說文通訓定聲〕旬、叚借爲㆑彴。〔管子、入國〕入㆑國四旬。〔注〕旬、卽巡也。❾**となへる。**徇(**4**－**10091**)に通ず。〔太玄經、昆〕奚足㆑旬也。〔注〕旬、猶㆑徇也。❿**ひとしい。**〔易、豐〕雖㆑旬无㆑咎。〔注〕旬、均也。⓫**いとなむ。**營(**7**－**19457**)の誤字。〔詩、大雅、江漢〕來旬來宣。〔箋〕旬、當㆑爲㆑營。⓬古は㫬(**2**－**2521**)に作る。〔說文〕旬、㫬、古文。⓭**姓。**〔路史〕晉逝遨之後、有㆓旬氏㆒。㊁**ひとしい。**勻(**2**－**2496**)・均(**3**－**4916**)に通ず。〔說文通訓定聲〕旬、叚借爲㆑勻。〔周禮、地官、均人〕豐年則公旬用㆓三日㆒焉。〔注〕旬、均也、讀如㆓畇畇原隰之畇㆒。〔禮、內則〕旬而見。〔注〕旬、當㆑爲㆑均、聲之誤也。邦**しゆん。**㋑中古、禁中で行はれた年中行事の一。旬儀(3)を見よ。㋺旬儀(3)の賜物が季節に適つた物であつたことから、野菜・魚鳥等の味の最もよい時期をいふ。㊇又轉じて、其の事をするに最も適當な時。

名乘　ヒラ。マサ。タダ。トキ。

解字　會意。勹(包。つつむ意)と日との合字。本義はあまねし。日は甲から癸に至る十日で一めぐりするから、勹と日とは勹と十と同義。故に十日を旬といふ。あまねしが本義で十日の義は、偏き中の一義である。均の字と同義で、旬・勻の二篆は互に假り用ひられる。十日を旬とするを本義とし、引伸して偏とする說(徐灝の段注箋)もあるが、今、段注に從ふ。〔說文、旬、段注〕古旬勻二篆、相假爲㆑用、云云、十日爲㆑旬、此偏中之一義也、云云、勹日猶㆓勹十㆒也。▽ (金文)形聲。日に從ひ、勻の聲。

【旬液】1 ジユンエキ　十日に一度降る雨。適度の雨。〔舊唐書、音樂志三〕旬液應㆑序、年祥叶㆑慶。

【旬宴】2 ジユンエン　❶群臣に賜はる宴。又、それに列した人々。旬は偏。〔張說、三月二十日詔宴㆓樂遊園㆒賦㆓得佩字㆒詩〕皇恩貸㆓芳月㆒、旬宴美㆓成功㆒。❷シユンエン　旬儀を見よ。〔類聚國史、七十五〕延曆十六年十月十六日、旬宴、賜㆓侍臣物㆒有㆑差。

【旬儀】3 シユンギ　旬の儀式。旬政。禁中で行はれた。もと毎旬の初、及び月の後半の初(十六日)に行はれたからいふ。中古以後、四月朔日を孟夏の旬、十月朔日を孟冬の旬(併せて二孟旬)と稱して、特別な行事となる。此の日、天皇が紫宸殿に臨御して政をみそなはし、群臣に賜宴・賜物がある。出御のない時は、平座（ヒラザ）と稱し、略儀を行ふ。又、內裏の新造後初めてのを新所の旬、御卽位後初めてのを萬機の旬といふ。〔江次第抄、六、二孟旬儀〕今按、始自㆓二月㆒、毎月朔・十一・十六・二十一日、有㆓旬儀㆒、但除㆓廢務日㆒、云云、二孟月有㆓出御㆒。〔續後紀、三〕承和元年七月十一日、是中旬之初也、上御㆓紫宸殿㆒、賜㆓侍臣酒㆒。

【旬休】4 ジユンキウ　十日に一度の休暇。〔李建勳、薔薇詩〕綵箋蠻榼旬休日、欲㆑召㆓親賓㆒看㆓一場㆒。〔薛能、北都題㆓崇福寺㆒詩〕長老多相識、旬休暫一來。〔宋史、丁度傳〕時西疆未㆑寧、二府三司、雖㆓旬休㆒不㆑廢㆑務。

【旬虛】5 ジユンキヨ　十日毎にかける。又、旬は偏。晦朔の時に月が暗くなること。〔管子、侈靡〕若㆔旬虛期㆓於月㆒、津若㆑出㆓於一明㆒。〔注〕毎旬之虛。〔纂詁〕旬、偏也、偏虛、謂㆓晦朔之時、月暗黑無㆑光。

【旬課】6 ジユンクワ　十日に一度づつ出來たものを差出し調查すること。〔宋史、兵志十一〕器甲之制、云云、京師所㆑造、十日一進、謂㆓之旬課㆒。〔揮麈餘話〕中都二防、製㆓造兵器㆒、旬一進視、謂㆓之旬課㆒。

【旬外】7 ジユングワイ　旬日の外。十日以上の意。〔禮、曲禮上〕凡卜㆓筮日㆒、旬之外曰㆓遠某日㆒、旬之內曰㆓近某日㆒。

【旬關】8 ジユンクワン　關の名。陝西省洵陽縣の東。〔戰國、楚策〕啇別將攻㆓旬關㆒、西定㆓漢中㆒。

【旬月】9 ジユンゲツ　まる一箇月。又、十箇月。又、十日か一箇月の閒。わづかの日數。〔論衡、講瑞〕蓂莢朱草、亦生在㆑地、集㆓於衆草㆒、無㆓常本根㆒、暫時產出、旬月枯折、故謂㆓之瑞㆒。〔表異錄〕揚雄疏、近不㆑過㆓旬月之役㆒、謂㆓滿月㆒也、車千秋旬月取㆓宰相㆒、又謂㆓十閱㆑月也。

【旬月之閒】10 ジユンゲツノカン　十日か一箇月の閒。わづかの日數の閒。一說に、一箇月。又、十箇月の閒。〔後漢書、楊賜傳〕旬月之閒、並各拔擢。〔魏志、涼茂傳〕旬月之閒、繦負而至者千餘家。〔北史、趙修傳〕旬月閒、頻有㆓轉授㆒。

【旬歲】11 ジユンサイ　滿一年閒。〔漢書、翟方進傳〕方進旬歲閒、免㆓兩司隷㆒。〔注〕師古曰、旬、偏也、滿也、旬歲猶㆑言㆓滿歲㆒也、若㆓十日之一周㆒。

【旬朔】12 ジユンサク　十日とついたち。又、十日閒。〔南史、謝靈運傳〕偏㆓歷諸縣㆒、動踰㆓旬朔㆒。〔應璩、與㆓尙書諸郎㆒書〕壁立之室、無㆓旬朔之資㆒。〔曹攄、思㆓友人㆒詩〕自㆔我別㆓旬朔㆒、微言絕㆓于耳㆒。

【旬始】13 ジユンシ　❶星の名。北斗の傍から現れ、狀は雄雞の如くである。蚩尤。〔史記、天官書〕旬始出㆓於北斗旁㆒、狀如㆓雄雞㆒。〔漢書、天文志〕旬始出㆓於北斗傍㆒。〔漢書、司馬相如傳下〕垂㆓旬始㆒以爲㆑慘兮。〔說苑、辨物〕五曰、辰星、欃槍、彗孛、旬始、枉矢、蚩尤之旗。❷皇天の名。〔楚辭、遠遊〕造㆓旬始㆒而觀㆓清都㆒。〔注〕遂至㆓天皇之所㆑居也、旬始、皇天名也、一云、旬始、星名。❸妖氣。〔張衡、東京賦〕欃槍旬始、羣凶靡㆑餘。〔注〕綜曰、旬始、妖氣也。

【旬時】14 ジユンジ　十日閒。旬日。〔吳質、答㆓東阿王㆒書〕伏念五六日、至㆓于旬時㆒。

【旬日】15 ジユンジツ　とをか。十日閒。又、十日ばかり。〔周禮、地官、泉府〕凡賖者、祭祀無㆑過㆓旬日㆒。〔莊

子、應帝王〕期以二歳月旬日一若レ神。〔南史、宋武帝紀〕爭レ之旬日乃從。

【旬政】16ジユンセイ　旬儀(3)に同じ。

【旬浹】17ジユンセフ　あまねくゆきわたること。轉じて、こびへつらふこと。〔南唐近事〕後堂旬浹之間、李怒未レ解。〔蘇轍、詩〕一言苟合意、富貴出二旬浹一。

【旬宣】18ジユンセン　偏く四方ををさめて王命を布くこと。王家が經營に勤勞することをいふ。一說に、偏く功德を四方に示すこと。徇宣。侚宣。勤宣。急宣。班宣。或は旬は營の誤字といふ。〔詩、大雅、江漢〕王命二召虎一、來旬來宣、文武受レ命、召公維翰。〔傳〕旬、偏也。〔箋〕來、勤也、旬、當レ作レ營、宣、偏也、召康公、名奭、召虎之始祖也、王命二召虎一、女勤三勞於經二營四方一、女勤三勞於偏疆二理衆國一。〔疏〕來旬、謂四勤三勞於經二營四方一、來宣、謂四勤三勞於偏二理衆國一。〔陳奐傳疏〕旬、偏、爾雅釋言文、今爾雅作レ徇、徇、今巡字、鴻雁傳、宣、示也、來旬來宣、言三偏示二功德於四方一也。

【旬呈】19ジユンテイ　出勤簿に出勤の符號を付けること。〔大雲山房雜記〕程史、王瀘溪在二貶所一、太守不レ禮、至レ不レ免二旬呈一、按、旬呈、今畫卯也。

【旬內】20ジユンナイ　旬日の內。十日以內。〔禮、曲禮上〕凡卜二筮日一、旬之外曰二遠某日一、旬之內曰二近某日一。

【旬年】21ジユンネン　❶一年。〔後漢書、何敞傳〕復以二愚陋一、旬年之閒、歷二顯位一、備二機近一。❷十年。〔魏志、劉廙傳〕廣二農桑一、事從二節約一、修レ之旬年、則國富民安矣。

【旬陽】22ジユンヤウ　縣名。漢、置く。陝西省洵陽縣の北。史記は郇陽に作る。〔漢書、地理志上〕漢中郡、縣十二、旬陽。

【旬餘】23ジユンヨ　旬日の餘。十日あまり。十餘日。〔史記、田齊世家〕秦韓之兵、毋レ東旬餘。

【旬有五日】24ジユンイウゴジツ　十有五日。十五日。〔莊子、逍遙遊〕夫列子御レ風而行、冷然善也、旬有五日而後反、彼於レ致レ福者、未二數數然一也。

【旬有餘日】25ジユンイウヨジツ　十日あまり。旬餘。〔菊池三溪、本朝虞初新誌〕旬有餘日、得二巨萬之利一。

【旭】13747

㊀キヨク　コク　〔集韻〕吁玉切　ㄒㄩ hsü4　沃
㊁ケン　クワン　〔集韻〕許元切　元
㊂カウ　コウ　〔集韻〕許皓切　皓
㊃キウ　ク　〔說文段注引詩釋文〕許九切　有

小篆

㊀㊁㊂㊃❶日がさしのぼるさま。〔說文〕旭、日旦出皃、从レ日九聲、讀若レ好。〔集韻〕旭、日始出也。❷あきらか。〔說文〕旭、一曰、明也。〔段注〕此別義也、明謂二日之明一、引伸爲二凡明之偁一。❸あさひ。〔劇談錄〕初旭纔照。❹得意のさま。鼓動の音。旭旭(6)を見よ。❺美しい。又、はやい。旭卉(2)を見よ。❻旴(5−13761)に通ず。〔詩、邶風、匏有苦葉〕旭日始旦。〔陳奐傳疏〕姚信、易豫卦、旴字注云、日始出、引二詩旴日始旦一、旴・旭、一聲之轉。❼姓。〔萬姓統譜〕旭、見二姓苑一。

［名乘］　アキラ。

【旭影】1キヨクエイ　朝日の光。あさひかげ。

【旭卉】2キヨクキ　❶美しく多いさま。一說に、知り難いことをいふ。〔揚雄、甘泉賦〕上天之縡、杳旭卉兮。〔注〕銑曰、旭、美、卉、衆也、言二上天之事高遠、故其美衆多一也、善曰、旭卉、難レ知也。❷すみやか。はやい。〔漢書、揚雄傳上〕上天之縡、杳旭卉兮。〔注〕師古曰、旭卉、速疾也。

【旭暉】3キヨクキ　朝日の光。旭光。

【旭旗】4キヨクキ　日の丸のはた。ひのみはた。日章旗。我が國の國旗。

【旭輝】5キヨクキ　朝日のひかり。旭暉に同じ。

【旭旭】6キヨクキヨク　❶日の初めて出るさま。〔太玄經、從〕次二、方出旭旭。〔注〕旭旭、未明之閒。❷朝日の上るさま。勢のよい喩。〔新書、修政語下〕君子將レ入二其職一、則其於レ民也、旭旭然如二日之始出一也。❸鳴り響く聲。〔揚雄、羽獵賦〕洶洶旭旭、天動地岌。〔注〕善曰、旭旭、鼓動之聲也。❹小人の威張るさま。好好。〔爾雅、釋訓〕旭旭・蹻蹻、憍也。〔注〕小人得レ志驕蹇之貌。❺自得のさま。〔漢書、揚雄傳上〕嘻嘻旭旭、天地稠𥡴。〔注〕師古曰、嘻嘻旭旭、自得之貌也。❻自失するさま。〔莊子、天地、子貢卑陬失レ色項項然不二自得一、釋文〕項項、本又作二旭旭一、李云、自失貌。

【旭光】7キヨククワウ　あさひのひかり。旭暉。旭日(12)を見よ。

【旭月】8キヨクゲツ　朝日と月。〔林琨、駕二幸溫泉宮一賦〕旭月齊レ野、慶雲靄レ天。

【旭齋】9キヨクサイ　清、凌去盈(2−1669··133)の號。

【旭山】10キヨクザン　字號。❶明、金忠士(11−40152··1341)の號。❷平澤元愷の號。平澤旭山(4−9167··430)を見よ。

【旭莊】11キヨクサウ　廣瀨謙の號。廣瀨旭莊(4−9493··396)を見よ。

【旭日】12キヨクジツ　あさひ。煦日。旰日。朝陽。晨曦。初旭。靈暉。曙日。朝暾。〔詩、邶風、匏有苦葉〕雝雝鳴鴈、旭日始旦。〔傅玄、日昇歌〕逸景何晃晃、旭日照二萬方一。〔傅咸、神泉賦〕朱明紀レ運、旭日馳レ光。

【旭日旗】13キヨクジツキ　旭日を描いた旗の意。我が國のもとの聯隊旗、又は軍艦旗をいふ。

【旭日章】14キヨクジツシヤウ　顯著な勳勞ある男子に與へられる勳章の一種。勳一等から勳八等まである。

【旭日將軍】15アサヒシヤウグン　木曾義仲をいふ。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕除二義仲伊豫守、行家備前守一、並聽二院昇殿一、收二平氏五百餘邑一、賜二其百四十于義仲一、留二衞京師一、世呼曰二旭日將軍一。

【旭祥】16キヨクシヤウ　明、蕭日高(9−32012··402)の字。

【旭初】17キヨクシヨ　清、杜曙(6−14477··154)の字。

【旭臣】18キヨクシン　清、施浴升(5−13629··188)の字。

【旭瑞】19キヨクズイ　清、郭景昌(11−39474··278)の字。

【旭霽】20キヨクセイ　雨後の太陽のあざやかにてつてゐること。〔韋應物、和下吳舍人早春歸二沐西亭一言上志詩〕陽春美二時澤一、旭霽望二山暉一。

【旭旦】21キヨクタン　あさひのさす時。日出。〔劉孝綽、詠二百舌一詩〕山人惜二春暮一、旭旦坐二花林一。〔任昉、苦熱詩〕旭旦烟雲卷、烈景入二東軒一。

【旭亭】22キヨクテイ　清、韓崶(12−43159··212)の字。

【旭東】23キヨクトウ　清、江昉(6−17140··374)の字。

【旭臨】24キヨクリン　清、吳烜(2−3365··158)の字。

【旭華堂】25キヨククワダウ　清、王奐曾(7−20823··1358)の室名。

【旭烈兀】26フラグ　元の人。蒙古太祖の孫。拖雷イツルの子。憲宗の弟。憲宗の時、命を受けて西域諸國を征し、八年にして之を平げ、其の王を擒にし、遂に其の地に鎭し、阿母河畔の忽里模子に帳を設け、伊兒汗國を建てた。〔元史、三〕

【旭窗居士】27キヨクサウコジ　清、徐國麟(4−10110··429)の號。

【旮】13748

㊀キヨク
㊁カ　ㄍㄚ ka1

㊀旭(5−13747)の俗字。〔正字通〕旮、俗旭字。㊁［現］すみ。隅の方。

【𣅀】13749

テイ　チヤウ　〔集韻〕他頂切　迥

むなしい。〔集韻〕𣅀、空也。

【𣅅】13750

タイ　袋(10−34171)の俗字。〔滇南新語〕雲南採二寶石一者、以二狗皮一爲レ袋、一袋謂二之一𣅅一。

三畫

【旰】13751

㊀カン　〔集韻〕居案切　ㄍㄢ kan4　翰
㊁カン　〔集韻〕居寒切　寒

小篆 [一] ❶**くれる。くれがた。**〔說文〕旰、晩也、从レ日干聲、春秋傳曰、日旰君勞。〔左氏、襄、十四〕日旰不レ召。〔注〕旰、晏也。〔左氏、哀、十三〕日旰矣。〔注〕旰、晩也。〔漢書、張湯傳〕日旰、天子忘レ食。〔注〕師古曰、旰、晩也。❷**光のさかんなさま。**旰旰(1)を見よ。[二]**くれる。**日が行く。〔集韻〕旰、日行也、晩也。

參考 旴(**5－13761**)・盱(**8－23124**)・盰(**8－23120**)は別字。〔字彙、辨似、四字相似〕旴、音虛、日始出。旰、音幹、日晩。盱、音吁、張レ目望也。盰、音幹、目多レ白。

【旰旰】1（カンカン） 光明の盛なさま。〔史記、河渠書〕皓皓旰旰兮、閭殫爲レ河。〔王延壽、魯靈光殿賦〕皓皓旰旰、流離爛漫。〔注〕善曰、皓皓旰旰、光明盛貌。

【旰昃】2（カンショク） ひぐれ。又、ひぐれまで職務にせい出すことをいふ。〔常袞、久旱讓レ相表〕發二勤閔之慮一、躬二旰昃之勞一。〔齊書、明帝紀〕永言古昔、無レ忘二旰昃一。

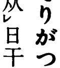
【旰食】3（カンショク） 晩く食事をする。人君が政事に勤勞して晩く食するをいふ。後世は專ら天子に就いていふ。〔左氏、昭、二十〕楚君大夫其旰食乎。〔注〕將下有二吳憂一、不上レ得二早食一。〔漢書、張湯傳〕日旰天子忘レ食。〔風俗通、過譽〕早朝旰食、夕惕若レ厲。〔後漢書、鮮卑傳〕方今本朝爲レ之旰食乎。〔吳志、韋曜傳〕竭レ命以納レ忠、臨レ事且猶旰食。〔潘岳、關中詩〕旰食晏寢。

〖旰食宵衣〗4（カンショクセウイ） 天子が政治に精勵されるさまをいふ。宵衣旰食(**3－7168‥4**)を見よ。

【旱】
13752

[一] カン ガン 〔集韻〕侯旰切 翰 ㄏㄢˋ han⁴

[二] カン ガン 〔集韻〕下罕切 旱



小篆 [一][二] ❶**ひでり。てりがつづく。**〔說文〕旱、不レ雨也、从レ日干聲。〔書、說命〕若歲大旱、用レ汝作二霖雨一。〔詩、大雅、雲漢〕旱既太甚。〔穀梁、僖、十一〕得レ雨曰レ雩、不レ得レ雨曰レ旱。〔論衡、明雩〕久暘爲レ旱。❷**日でりのききん。**〔墨子、七患〕二穀不レ收、謂二之旱一。〔閒詁〕俞云、按、旱者、不レ雨也、不レ得レ爲二二穀不レ收之名一。❸**かわく。**〔洪範五行傳〕旱之爲レ言、乾也。❹**をか。**陸。〔願林集〕旱道車馬、水路舟楫。❺**山名。**〔詩、大雅、旱麓〕瞻二彼旱麓一。〔傳〕旱、山名也。❻**たけし。**悍(**4－10643**)に通ず。〔說文通訓定聲〕旱、叚借爲レ悍、鵩鳥賦、水激則旱兮。〔賈誼、鵩鳥賦〕水激則悍兮。〔注〕善本作レ旱。❼**百六韻の一つ。**上聲第十四。❽現 水の對稱。旱煙の類。

【旱殃】1（カンアウ） ひでりのわざはひ。〔呂覽、愼大〕盡行二伊尹之盟一、不レ避二旱殃一。

【旱湛】2（カンイン） ひでりとながあめ。湛は霪。〔論衡、案書〕陰陽相渾、旱湛相報。

【旱雲】3（カンウン） ひでりのくも。〔呂覽、應同〕旱雲煙火、雨雲水波。〔後漢書、和帝紀〕今秋稼方穗、而旱雲雨不レ霑。〔趙元、大暑詩〕旱雲飛レ火燎二長空一、白日渾如レ墮二甑中一。

【旱運】4 han⁴ yün⁴ 陸路運送。

【旱疫】5（カンエキ） ひでりと疫病。〔日本政記、宇多天皇〕京師屢災、又多二旱疫一。

【旱煙】6 han⁴ yen¹ 普通の煙管で喫煙する煙草。旱烟。水煙の對。

【旱海】7（カンカイ） 地名。寧夏省靈武縣の東南。鹽夏淸遠軍閒の沙磧地の俗稱。〔讀史方輿紀要、陝西、靈州守禦千戶所〕旱海、在二所東南一、宋張洎曰、自二威州一抵二靈州一、有二旱海七百里一、斥鹵枯澤、無二谿澗川谷一、張舜民曰、今旱江平卽旱海、在二淸遠軍北一、趙珣曰、鹽夏・淸遠軍閒、並係二沙磧一、俗謂二之旱海一。

【旱害】8（カンガイ） ひでりの災害。旱災。

【旱渴】9（カンカツ） ひでり。〔沈與求、詩〕墻陰旱渴休無レ賴、自有三鳴鳩解二喚晴一。

【旱乾】10（カンカン） ひでりで水がないこと。旱魃。〔孟子、盡心下〕犧牲既成、粢盛既絜、祭祀以レ時、然而旱乾水溢、則變二置社稷一。

【旱暵】11（カンカン） ひでり。又、雨乞の祭。雩。〔周禮、地官、舞師〕舞二旱暵之事一。〔注〕旱暵之事、謂レ雩也、暵、熱氣也。〔疏〕故知三旱暵謂二雩祭一也。〔周禮、地官、稻人〕旱暵共二其雩斂一。

【旱岸】12 han⁴ an⁴ 陸地。海岸。

〖旱岸兒〗13 han⁴ an⁴ êrh 岸。陸。

【旱岐】14（カンキ） 新羅の官名。又、旱支に作る。〔南史、新羅傳〕其官名有二子賁旱支・壹旱支・齊旱支一。〔日本書紀、神后紀〕五年春癸卯朔己酉、云云、時新羅使者毛麻吒智等、竊分二船及水手一、載二微吒旱岐一、令レ逃二於新羅一。

【旱氣】15（カンキ） ひでり。〔漢書、食貨志上〕恐下生二旱氣一、民被中其災上。

【旱凶】16（カンキョウ） ひでりのわざはひ。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕頻年旱凶、田無二秋實一。

【旱芹】17（カンキン） 草の名。みつば。〔本草、堇〕釋名、苦堇、爾雅、堇葵、唐本、旱芹、集解、恭曰、堇菜野生、非二人所レ種、葉似二蕺菜一、花紫色、時珍曰、此旱芹也。

【旱藕】18（カングウ） 藥草の名。つくばねさう。片栗。かたこゆり。王孫。長孫。海孫。白功草。蔓延。〔本草、王孫〕釋名、旱藕、普曰、楚名二天孫一、齊名二長孫一、又名二海孫一、吳名二白功草一、又名二蔓延一。〔唐書、姜撫傳〕姜撫又言、終南山有二旱藕一、餌レ之延レ年、狀類二葛粉一、帝作二湯餅一賜二大臣一、右驍衛將軍甘守誠、能銘二藥石一、曰、旱藕、杜蒙也、方家久不レ用、撫易レ名以神レ之。

【旱禍】19（カンクワ） ひでりのわざはひ。〔論衡、案書〕或雨至、亢陽不レ改、旱禍不レ除。

【旱懷】20 han⁴ huai⁴ 旱魃でだめになる。

【旱荒】21 han⁴ huang¹ ひでりの災害。

【旱蝗】22（カンクワウ） ひでりといなむし。旱魃螟蝗。〔漢書、武帝紀〕元光六年夏、大旱蝗。〔後漢書、光武紀上〕初王莽末、天下旱蝗、黃金一斤、易二粟一斛一。〔魏志、辛毗傳〕介胄生二蟣蝨一、加以二旱蝗一。

【旱儉】23（カンケン） ひでりで作物が實らぬこと。儉は飢饉。〔北史、魏孝文帝紀〕以二西北州郡旱儉一、遣二侍臣一巡察、開レ倉賑恤。

【旱災】24（カンサイ） ひでりの災害。旱魃の災害。〔詩、大雅、雲漢、旱魃爲レ虐、疏〕神異經曰、南方有レ人、長二三尺、袒身而目在二項上一、走行如レ風、名曰レ魃、所レ見之國大旱、赤地千里、一名二旱母一、遇者得レ之、投二溷中一卽死、旱災消。

【旱祭】25（カンサイ） 雨乞の祭。雩。〔周禮、春官、司巫〕若國大旱則帥レ巫而舞レ雩、注、雩、旱祭也、天子於二上帝一、諸侯於二上公之神一。〔公羊、桓、五〕大雩者何、旱祭也、然則何以不レ言レ旱、言レ雩則旱見、言レ旱則雩不レ見。

【旱歲】26（カンサイ） ひでりのとし。〔陸游、跋二吳夢子詩編一〕子嘗見二旱歲之雲一乎、嵯峨突兀、起爲二奇峯一、足三以悅二人之目一、而不レ見三於用二此雲之不幸一也。

【旱寨】27（カンサイ） 陸上のとりで。〔水滸傳、六十回〕聚義廳今改爲二忠義堂一、前後左右、立二四箇旱寨一。

【旱草】28（カンサウ） 藥草の名。はまびし。蒺藜。〔齊民要術、雜說〕歲欲レ旱、旱草先生。〔注〕蒺藜。

【旱神】29（カンシン） ひでりの神。〔詩、大雅、雲漢、旱魃爲レ虐、傳〕魃、旱神也。

【旱傘】30 han⁴ san³ 日傘。

【旱水】31（カンスイ） 旱損と水損。旱魃の害と水害。〔東鑑、十〕建久元年九月十五日、今年諸國、旱水共相侵、民戶皆無レ安。〔庭訓往來〕十一月、旱水雨損、檢二田不熟一。

〖旱水晶〗32（カンスイシヤウ） 硼砂の異稱。〔淸異錄、藥〕藥譜、旱水晶、硼砂。

【旱石】32′（カンセキ） 礪石。〔說文〕厲、旱石也。〔徐鍇注〕旱石、麤悍石也。〔段注〕剛二於柔石一者也。

【旱租】33 han⁴ tsu¹ 乾燥した質の極く好い米を小作料として納めること。江西省の方言。

【旱損】34（カンソン） ひでりいたみ。ひでりのために被つた田畑の損害。水損の對。〔運步色葉集〕旱損。

【旱島】35 han⁴ tao³ 陸島。島國。

【旱稻】36（カンタウ） 陸田に產するいね。をかぼ。陸稻。〔齊民要術、旱稻〕旱稻用二下田一、白土勝二黑土一。

【旱道】37 han⁴ tao⁴ 水のない道路。くがぢ。陸路。旱路。水路の對。

〖旱道燈〗38 han⁴ tao⁴ têng¹ 順天地方で、七

月十五日に燈籠を路上や軒にともすこと。

【旱獺】39 han^4 t'a^4 獸の名。タルバガン。貧齒類で、形狀は略獺に似てゐるが、水に入らず、穴居を好む。滿洲に多く産する。

【旱獺皮】40 han^4 t'a^4 p'i^2 滿洲産タルバガンの皮。

【旱地】41 han^4 ti^4 陸地をいふ。

【旱地金蓮】42（カンチキンレン） 北京人の愛養する菊花の一種。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按、日下舊聞考、云云、蓋京師之菊種亟繁、云云、旱地金蓮。

【旱天】43（カンテン） 夏の空。又、ひでりの時。ひでり。〔運步色葉集〕旱天。

【旱田】44 han^4 t'ien^2 はたけ。畑。陸田。

【旱稗】45（カンハイ） 穀物の名。くろきび。〔本草、稗〕集解、時珍曰、周憲王曰、稗有二水稗・旱稗一云云、旱稗、苗葉似二穇子一、色深綠、根下葉帶二紫色一、梢頭出二扁穗一、結レ子如二黍粒一、茶褐色、味微苦、性溫、以煮レ粥炊レ飯磨レ麪食レ之、皆宜。

【旱魃】46（カンバツ） ひでり。魃は、ひでりの神。〔詩、大雅、雲漢〕旱魃爲レ虐、如レ惔如レ焚。〔傳〕魃、旱神也。〔疏〕神異經曰、南方有レ人、長二三尺、袒身而目在二頂上一、走行如レ風、名曰レ魃、所レ見之國大旱、赤地千里、一名二旱母一、遇者得レ之、投二溷中一、卽死、旱災消。〔後漢書、皇甫規傳〕地震之後、霧氣白濁、日月不レ光、旱魃爲レ虐。〔魏志、毛玠傳〕成湯聖世、野無二生草一、周宣令主、旱魃爲レ虐。

【旱筆】47 han^4 pi^2 白毛で作つた刷毛の一種。乾筆。

【旱苗】48（カンベウ） ひでりで枯れかかつたなへ。〔嵇康、養生論〕是猶下不レ識二一溉之益一、而望中嘉穀于旱苗上者也。

【旱鼈】49（カンベツ） 山上に居る鼈。〔本草、鼈〕氣味、藏器曰、在二山上一者、名二旱鼈一、並有レ毒殺レ人、不レ可レ食。

【旱母】50（カンボ） ❶ひでりの神。此の神の現れる所には必ず大旱があるといふ。旱魃(46)を見よ。❷梁の蕭推の綽名。〔南史、梁宗室下、安成康王子推傳〕梁蕭推歷二淮南晉陵吳郡太守一、所レ臨、必赤地大旱、吳人號二旱母一焉。

【旱蒲】51（カンボ） まき菖蒲。かきつばた。ねぢあやめ。かほよばな。〔本草、蠡實〕釋名、荔實、旱蒲。

【旱眠】52（カンミン） 夏季に乾燥のため生活活動が非常に鈍る生物の習性。夏眠。冬眠の對。

【旱澇】53（カンラウ） 旱魃と水災。ひでりとながあめ。〔說文、澇、段注〕今用爲二旱澇字一。〔福惠全書、庶政部、條二陳興革一〕其文申報云、郯地負レ山瀕レ河、旱澇頻臻、昔日老荒、瀰漫砂磧、已不レ可レ耕。

【旱潦】54（カンラウ） ひでりと降雨。旱魃と水害。〔唐書、泥婆羅傳〕阿耆婆瀰池、廣數十丈、水常溢沸、共傳、旱潦未二始耗溢一。〔宋史、汪立信傳〕雨雪旱潦、軍民皆有レ給。

【旱稜】56（カンリョウ） 稻の一種。陸稻をいふ。〔六書故〕稻、澤土所レ生、芒種也、亦有二同類而陸種者一、謂二之陸稻一、記曰、煎醢加二於陸稻上一、今人謂二之旱稜一。

【旱龍】57（カンリョウ） 虹をいふ。〔丹鉛總錄〕虹有二形質一、俗謂二之旱龍一。

【旱龍潭】58（カンリョウタン） 潭の名。河北省房山縣の西南、上方山の象王峰の南面の峭壁の下。夏日大雨が降つて、水が俄かに滿ちてもしばらくして乾くから名づけた。古、毒龍の居た所と傳へる。

【旱烈】59（カンレツ） ひでりがはげしい。〔後漢書、方術上、任文公傳〕百姓或聞、頗有二爲レ防者一、到二其日一旱烈。

【旱蓮】60（カンレン） 草の名。❶鱧腸の別名。うまきたし。たかさぶらう。〔本草、鱧腸〕釋名、蓮子草、旱蓮草。〔庾信、和二迴文一詩〕旱蓮生二竭鑊一、嫩菊養二秋鄰一。❷小蓮翹をいふ。おとぎりさう。〔本草、鱧腸〕集解、時珍曰、旱蓮有二二種一、一種苗似二施覆一、而花白細者、是鱧腸、一種花黃紫、而結レ房如二蓮房一者、乃是小蓮翹也。〔本草、連翹〕釋名、連異翹、旱蓮子。

【旱路】61（カンロ） をかみち。旱道。水路に對して陸路をいふ。〔龍圖公案、龜入二廢井一〕有二七日一旱路、方下レ船。〔願林集〕出レ外者、旱道車馬、水路舟楫、俱要レ知二保レ身之道一。〔水滸傳、十一回〕卻是水路、全無二旱路一。

【旱麓】62（カンロク） ❶旱山のふもと。〔詩、大雅、旱麓〕瞻二彼旱麓一、榛楛濟濟。〔傳〕旱、山名也、麓、山足也。❷詩經、大雅、文王之什の篇名。この詩は文王が福を其の祖に受けた事を歌つたものといふ。一說に、文王の德を歌ふといふ。〔詩、大雅、旱麓序〕旱麓、受レ祖也、周之先祖、世修二后稷・公劉之業一、大王・王季、申以二百福干祿一焉。〔集傳〕此亦以詠二歌文王之德一。

【旱金墜】63（カンキンツイ） 北京で五月下旬に出る甜瓜の一種。〔燕京歲時記、甜瓜〕五月下旬、則甜瓜已熟、沿街吆賣、有二旱金墜・青皮脆一云云、各種一。

【旱瓜兒】64 han^4 kua^1 êrh 眞桑瓜。

【旱珍珠】65（カンチンシュ） 鳳仙花の異名。〔事物異名錄、花卉、鳳仙〕羣芳譜、鳳仙、一名旱珍珠。

【旱碼頭】66 han^4 ma^3 t'ou 船舶の便がない奧地で他國との通商を目的として開放した土地。

【旱甜瓜】67 han^4 t'ien^2 kua^1 北京人の愛食する甘瓜の一種。

【旱瓜潦棗】68 han^4 kua^1 lao^4 tsao^3 瓜はひでりがよく、棗は雨の多いのを好む。

【旱得二蹇卦一】69（カンニケンクヮヲウ） 旱天に筮して蹇卦を得る。蹇は山上有水の卦。旱天に雨を得る象をいふ。〔海錄碎事、天、水旱〕漢明帝時、大旱、御二雲臺之上一、筮得二蹇卦一、帝以問二沛王輔一、輔曰、蹇者、坎上艮下、此山上有レ水、雨卽至矣、果如二其言一。

【旱則資レ舟水則資レ車】70（ヒデリニハスナハチフネヲシシミヅニハスナハチクルマヲシス） ひでりには舟を用意し、洪水には車を用意する。不時に備ふべきをいふ。一說に、旱天の後には洪水があり、洪水が極まれば則ちひでりする。故に商業者は、旱時に豫め舟を蓄へ、洪水の時に豫め車を蓄へ、其の價の騰貴するのを待つて其の利を收めるをいふといふ。〔國語、越語上〕臣聞二之賈人一、夏則資レ皮、冬則資レ絺、旱則資レ舟、水則資レ車以待レ乏也。〔史記、貨殖傳〕計然曰、知レ鬭則修レ備、時用則知レ物、二者形、則萬貨之情、可二得而觀一已、故歲在レ金穰、水毀、木饑、火旱、旱則資レ舟、水則資レ車、物之理也。〔注〕索隱曰、國語、大夫種曰、賈人旱資レ舟、水資レ車以待也。

【旲】13753

㊀タイ ダイ 〔玉篇〕徒來切 灰

㊁エイ 〔篇海〕音影

㊀**ひかげ**。ひざし。日の光。〔玉篇〕旲、日光也。㊁**おほきい**。〔篇海〕旲、大也。

【昋】13754

キ 期(**5**−**14378**)の古字。〔玉篇〕昋、古文期。

【昇】13755

キョウ ク 〔集韻〕居容切 冬

❶**こまぬく**。手を斂める。廾(**2**−**2698**)に同じ。〔集韻〕廾、竦レ手也、或作レ昇。❷**たすける**。〔玉篇〕昇、扶也。

【㫂】13756

バウ マウ 〔集韻〕謨郎切 陽

あつさ。晄(**5**−**13907**)に同じ。〔集韻〕晄、暑熱也、或省。

【𣅃】13757

サウ 皂(**8**−**22685**)に同じ。〔龍龕手鑑〕𣅃、舊藏作二皂字一。

【㫕】13758

トウ 冬(**2**−**1610**)の古字。〔玉篇〕㫕、古文冬。

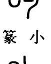
【㫐】13759

ジン ニン 〔篇海〕而振切 震

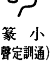
くらみもだえる。〔篇海〕㫐、眩懣也。

【旳】13760

テキ チャク 〔集韻〕丁歷切 錫



小篆



小篆（聲定訓通）

❶**あきらか**。的(**8**−**22692**)の本字。〔說文〕

旳、明也、从レ日勹聲。〔集韻〕旳、或作レ的。〔正字通〕旳、今从レ白。❷或は暺(8−22780)に作る。〔集韻〕旳、或作レ暺。

【旳旳】1 テキテキ　明かなさま。〔淮南子、說林訓〕旳旳者獲、提提者射。〔注〕旳旳、明也、爲二眾所一レ見、故獲。

【旴】13761　ク　〔集韻〕匈于切　虞

❶**あさ**。夜があける。日がてる。晇(5−13896)に同じ。〔集韻〕旴、日始旦也、或作レ晇。❷旭(5−13747)に通ず。〔易、豫、旴豫、釋文〕旴、姚作レ旴、云、日始出、引二詩旴日始旦一。〔詩、邶風、匏有苦葉〕旭日始旦。

参考　旰(5−13751)・盱(8−23124)・盰(8−23120)は別字。〔字彙、辨似、四字相似〕旴、音虛、日始出。旰、音幹、日晚。盱、音吁、張レ目望也。盰、音幹、目多レ白。

【旴江】1 クカウ　江の名。一に建昌江と名づけ、又、汝水と名づける。源は江西省廣昌縣の南、血木嶺。東北流して廣昌・南豐二縣の南を繞り、又東北、南城縣の南を經、西に折れて北流し、臨川を經て贛江に注ぐ。〔讀史方輿紀要、江西、建昌府、南城縣〕旴江、在二府城東一、一名建昌江、源出二廣昌縣南血木嶺一、流六十里爲二旴水一、又二十里爲二巴溪一、又十五里爲二小勳溪一、又七十里至二廣昌縣前一、又三十里入二南豐縣界一、東北流百餘里、至二府城東南一、會二新城縣飛猿諸水一、又東北流、折而西二百餘里、入二撫州境一、至二臨川縣石門一、亦名二汝水一。

【旴江驛】2 クカウエキ　驛の名。江西省南城縣の東。〔讀史方輿紀要、江西、建昌府、南城縣〕旴江驛、在二府城東一、宋康定二年、於二城南一作二新亭一、謂二之集賓亭一、俗謂二之旴江館一、後改爲レ驛、移二於城東一、一云、城東旴水上、舊有二旴江亭一、南唐所レ置也、驛因以名。

【旴江集】3 クカウシフ　書名。三十七卷。年譜一卷、外集三卷。宋、李覯撰。旴江は地名。因つて其の書院に名づける。一名、泰伯公文集。內容は論四卷・內治一卷・國用三卷・軍衞一卷・刑禁一卷・官人二卷・教道二卷・圖序一卷・富國策一卷・強兵策一卷・安民策三卷・慶曆民言二卷・記二卷・序一卷・表啓一卷・書二卷・雜文一卷・墓碑二卷・常語一卷・賦一卷・古體一卷・五言近體一卷・七言近體二卷。外集三卷には告詞・劄子・薦章等を載せる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【旴水】4 クスイ　旴江(1)を見よ。

【旵】13762　タン テン　〔玉篇〕丑減切　豏

日が照る。〔玉篇〕旵、日光照也。

【㫓】13763　ケイ　〔正字通〕笥計切　霽

日の氣。〔正字通〕㫓、日氣也。

【昌】13764　シヤウ　昌(5−13803)の籀文。〔說文〕昌、昌、籀文。

【𣅍】13765　トウ　豆(10−36245)の古字。〔玉篇〕𣅍、古文豆。

【㫖】13766　シ　旨(5−13738)の古字。〔集韻〕旨、古作レ㫖。

【回】13767　ヒヨウ　義未詳。〔字彙補〕回、方臏切、出二大宗地元文本論一、義闕。

【㫗】13768　ゴ　晤(5−13956)の古字。〔字彙補〕㫗、古文晤字。

【𣅀】13769　コン　艮(9−30596)に同じ。〔篇韻〕𣅀、與レ艮同。

【𣅆】13770　クワウ　光(1−1350)に同じ。〔字彙補〕𣅆、同レ光。

【殂】13771　ジウ　義未詳。〔龍龕手鑑〕殂、日又切。

四畫

【时】13772　ジ　時(5−13890)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕時、取經詩話作レ时。

【旹】13773　ジ　時(5−13890)の古字。〔說文〕時、旹、古文時、从二日之一作。

【旺】13774　ワウ　〔集韻〕于放切　漾　ㄨㄤˋ wang^4

❶**輝きうつくしい**。暀(5−14058)・暀(5−14014)に同じ。〔集韻〕暀、說文、光美也、或省。〔說文〕暀、光美也、从レ日往聲。❷**さかん**。盛なさま。〔爾雅、釋詁〕暀暀、美也。〔注〕暀暀、美盛之貌。❸**ひがさ**。〔玉篇〕旺、日暈也。❹通じて王(7−20823)に作る。〔孟子、公孫丑下、天時不レ如二地利一、注〕謂二孤虛旺相之屬一。〔校勘記〕音義本・廖本・孔本・韓本・考文古本、旺、作レ王。❺通じて皇(8−22701)に作る。〔詩、魯頌、泮水、烝烝皇皇、箋〕皇皇、當レ爲二暀暀一。❻往(4−10073)に通ず。〔詩、魯頌、泮水、箋〕暀暀、猶二往往一也。❼**姓**。〔萬姓統譜〕旺斌、宣德間任二福州衞千戶一。

【旺運】1 wang^4 yün^4　運命の盛なこと。盛運。幸運。

【旺興】2 ワウキヨウ　さかんに興じたのしむ。〔牛僧孺、李蘇州遺二太湖石一云云詩〕旺レ興添二魔力一、消レ煩破二宿醒一。

【旺月】3 wang^4 yüeh^4　收入の多い月。

【旺實】4 wang^4 shih^2　盛に成長する。

【旺相】5 ワウシヤウ　❶陰陽家の語。又、王相に作る。五行の氣の消長を旺・相・死・囚・休といひ、其の旺盛なるに旺相といふ。之を四時に配して春三月は木旺・火相・土死・金囚・水休、夏三月は火旺・土相・金死・水囚・木休といふの類。事を行ふには旺相の氣に乘ずるを要す。俗に時を得るを旺相、時を失ふを休囚といふ。〔孟子、公孫丑下、天時不レ如二地利一、注〕天時、謂二旺相孤虛之屬一。〔疏〕金旺在二巳午未申酉一、木旺在二亥子丑寅卯一、水旺在二申酉戌亥子一、火旺在二寅卯辰巳午一、土旺在二申酉戌亥一。〔論衡、命祿〕春夏囚死、秋冬旺相、非二能爲一レ之也、天道自然。〔通俗編、祝誦、旺相〕按、陰陽家書二五行一、遞二旺于四時一、凡動作宜レ乘二旺相之氣一、如二春三月一則木旺・火相・土死・金囚・水休、夏三月則火旺・土相・金死・水囚・木休・故俗語以二凡得一レ時爲二旺相一、失レ時爲二休囚一也。❷江蘇地方で正月元日に親戚鄰里を饗應し、春餅を燒く行事。〔杭州府志〕武林志餘曰、正月朔日、官府望レ闕遙賀畢、卽盛服詣二衙門一、往來交慶、民間則設二奠於祠堂一、次拜二家長一、爲二椒柏之酒一、以待二親戚鄰里一、以二春餅一爲二上供一、爇二栗炭堂中一、謂二之旺相一。

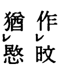
【旺處】6 ワウシヨ　賑やかな處。〔通俗編、識餘、集對〕鵓鴿只揀二旺處一、燕子不レ入二愁門一。

【旺盛】7 ワウセイ　物事の甚だしかんなこと。盛大。

【旺地】8 wang^4 ti^4　繁盛する土地。

【旺旺】9 ワウワウ　美しく盛なさま。〔爾雅、釋詁〕暀暀、美也。〔注〕皆、美盛之貌。〔郝懿行義疏〕暀・旺同。

【旻】13775　ビン ミン　〔集韻〕眉貧切　眞　ㄇㄧㄣˊ min^2



小篆 ❶秋のそら。或は旼(5−13776)・閔(11−41251)に作る。〔說文〕旻、秋天也、从レ日文聲、虞書說、仁覆二閔下一、則稱二旻天一。〔說文通訓定聲〕旻、字亦作レ旼。〔爾雅、釋天〕秋爲二旻天一。〔注〕旻、猶レ愍也、愍二萬物彫落一。〔李注〕秋萬物成熟、皆有二文章一、故曰二旻天一。〔釋名、釋天〕秋曰二旻天一、旻、閔也、物就枯落、可二閔傷一也。〔集韻〕旻、或作レ閔。❷そら。あめ。天の汎稱。〔書、大禹謨〕日號二泣于旻天一。〔傳〕仁覆二愍下一、謂二之旻天一。〔詩、大雅、召旻〕旻天疾威。〔薛能、除夜詩〕和吹度二穹旻一。❸うれひ。閔(11−41251)に通ず。〔說文通訓定聲〕旻、叚借爲レ閔、平輿令薛君碑、遘二此竺旻一。❹姓。〔萬姓統譜〕旻、見二姓苑一。

名乘 アキラ。

參考 清代、宣宗の諱を避けて旻に作る。〔淸國行政法汎論、皇室、御名敬避〕宣宗成皇帝、廟諱曰二旻寧一、旻省レ筆作レ旻、寧以レ甯代レ之。

【旻序】1 ビンジョ 秋の節をいふ。〔李嶠、八月奉レ教作詩〕淸尊對二旻序一、高宴有二餘歡一。

【旻天】2 ビンテン ❶秋のそら。四天(3−4682‥603)を見よ。〔爾雅、釋天〕秋爲二旻天一。〔注〕旻、猶レ愍也、愍二萬物彫落一。〔疏〕旻、愍也、言、秋氣肅殺、萬物彫落、故曰二旻天一、又李巡注レ此云、秋萬物成熟、皆有二文章一、故曰二旻天一。〔白虎通、四時〕秋曰二旻天一。❷廣く天をいふ。〔書、大禹謨〕日號二泣于旻天一。〔傳〕仁覆二愍下一、謂二之旻天一。〔詩、小雅、小旻〕旻天疾威。〔左氏、哀、十六〕孔丘卒、公誄レ之曰、旻天不レ弔。〔孟子、萬章上〕舜往二于田一、號二泣于旻天一。

【旻寧】3 ビンネイ 淸、宣宗(7−17695‥888)の本名。

【旼】13776 ビン ミン 〔集韻〕眉貧切 眞

❶旼旼はやはらぐさま。〔集韻〕旼、旼旼、和也。❷旻(5−13775)に同じ。〔六書故〕旻、或作レ旼。

【旼旼】1 ビンビン やはらぐさま。〔集韻〕旼、旼旼、和也。〔史記、司馬相如傳〕旼旼睦睦、君子之能。〔注〕集解曰、徐廣曰、旼旼、和貌。〔左思、魏都賦〕旼旼率土、遷レ善罔レ匱。〔注〕良曰、旼旼、和樂貌。

【旽】13777 🈩トン 〔集韻〕他昆切 元 🈔シュン 〔集韻〕朱閏切 震

🈩あさひ。夜があける。暾(5−14160)に同じ。〔玉篇〕暾、日欲レ出、旽、同レ上。🈔旽旽はねんごろなさま。てあついさま。〔集韻〕旽、旽旽、懇誠。

【旾】13778 シュン 春(5−13844)の古字。〔集韻〕春、古作レ旾。

【㫐】13779 ドツ ノチ 〔玉篇〕奴骨切 月

ゆふやけ。〔篇海〕㫐、日入色也。

【旿】13780 🈩ゴ 〔集韻〕阮古切 麌 🈔ゴ 〔集韻〕五故切 遇

🈩🈔❶あきらか。〔玉篇〕旿、明也。〔正韻〕旿、日當レ午而盛明爲レ旿。❷晤(5−13956)に同じ。〔集韻〕晤、說文、明也、或从レ午。

【昀】13781 イン 〔集韻〕俞倫切 眞

日の光。〔玉篇〕昀、日光也。

【昁】13782 ハイ 〔集韻〕博蓋切 泰

くらい。昁(8−23185)に同じ。〔集韻〕昁、不レ明也、或从レ日。

【昂】13783 🈩ガウ 〔集韻〕魚剛切 陽 尢 ang² 🈔ギャウ ガウ 〔集韻〕魚向切 漾 慣カウ

小篆 🈩❶あがる。㋑のぼる。日があがる。〔說文新附〕昂、擧也、从レ日卬聲。〔類篇〕昂、日升也。㋺あふぐ。頭があがる。〔正字通〕昂、有二仰意一。〔蘇軾、和三子由次二王鞏韻如レ囊之句一可レ爲二一噱一詩〕簡書見レ迫身今老、尊酒聞レ呼首一昂。〔談藪〕黍孰頭低、麥孰頭昂。㋩たかまる。高くなる。〔葬經〕勢止形昂。〔唐書、崔神基傳〕俄而物價踴昂。㋥たかぶる。氣があがる。〔柳宗元、上二權德輿一啓〕慷慨激昂。❷たかい。〔正字通〕昂、高也。〔張籍、祭二退之一詩〕其道誠巍昂。❸馬の行くさま。昂昂(一)を見よ。❹あきらか。〔類篇〕昂、一曰、明也。❺卬(2−2845)・仰(1−400)に通ず。〔韻會〕昂、通作二卬・仰一。〔禮、曲禮上〕奉レ席如二橋衡一。〔注〕令二左卬右低一。〔釋文〕卬、本又作レ昂。❻姓。〔通志、氏族略〕昂、見二姓苑一。〔雲南通志〕彌勒州土官昂氏、初有二普德者一、率レ衆向レ化。🈔君の德の高いさま。〔集韻〕昂、昂昂、君之德也。

名乘 タカ。アキラ。

【昂昂】1 カウカウ ❶馬の行くさま。〔楚辭、卜居〕寧昂昂若二千里之駒一乎。〔注〕昂昂、馬行貌。❷志行のすぐれて高いさま。高くぬきんでるさま。〔晉書、嵆紹傳〕昨於二稠人中一、始見二嵆紹一、昂昂然如三野鶴之在二雞羣一。〔袁宏、三國名臣序贊〕昂昂子敬、拔二跡草萊一。〔注〕向曰、昂昂、出羣貌。〔劉基、賣柑者言〕峩二大冠一、拖二長紳一者、昂昂乎廟堂之器也。❸君の德の高い形容。〔集韻〕昂、昂昂、君之德也。

【昂昂溪】2 カウカウケイ 地名。又、昂昂奇に作る。滿洲黑龍江省龍江縣の西南。嫩江の東岸。濱洲鐵路の幹線に沿ふ。此の地から又、平齊鐵路を分岐する。

【昂昂之鶴】3 カウカウノカク 鷄羣から高くぬきんでてゐる野鶴をいふ。昂昂の❷を見よ。〔剪燈新話、龍堂靈會錄〕霸レ越平レ吳、扁二舟五湖一、昂昂之鶴、泛泛之鳧、功成身退、辭レ榮避レ位。

【昂昂千里之駒】4 カウカウセンリノコマ 人の志行の高い喩。昂昂は馬のいさみ行くさま。〔梁書、袁昂傳〕昂本名二千里一、齊永明中、武帝謂レ之曰、昂昂千里之駒、在レ卿有レ之、今改二卿名一爲レ昂、字二千里一。

【昂貴】5 カウキ 價格が騰貴する。高價な。卬貴(2−2841‥3)に同じ。

【昂吉】6 カウキツ 元の人。字は啓文。本、唐兀氏。世〻西夏に居る。昂吉に至り、吳中に留まる。性廉直。詩文に巧。至正の進士。官は池州錄事。著に啓文集がある。〔新元史、一百五十八〕。

【昂屹】7 カウキツ 高く聳えるさま。〔柳宗元、晉問〕良久、乃始昂屹涌溢、挺拔而出レ林立レ峯。

【昂藏】8 カウザウ 意氣のさかんなさま。氣字の軒昂たるさま。〔北史、高昂傳〕昂字敖曹、幼時便有二壯氣一、及レ長俶儻、膽力過レ人、其父曰、以二其昂藏敖曹一、故以レ字名レ之。〔李白、贈二潘次御論二錢少陽一詩〕繡衣柱史何昂藏、鐵冠白筆橫二秋霜一。〔白居易、病中對二病鶴一詩〕難下將二俗貌一對中昂藏上。

【昂首】9 カウシュ 頭を上げる。卬首(2−2841‥8)に同じ。

【昂聳】10 カウショウ たかくそびえる。〔高啓、偃松行〕

無心昂聳上二霄漢一。

【昂千】11（カウセン） 清、金惟駿(11－40152・・1186)の字。

【昂然】12（カウゼン） 元氣のさかんなさま。自負する所があつて心が高まりおごるさま。〔韓愈・孟郊、鬭鷄聯句〕大雞昂然來、小雞竦而待。

【昂黛】13（カウタイ） 美しいまゆ。昂は、彎曲して中央が高くなつてゐること。黛は眉墨。〔白居易、渭村退居寄二禮部崔侍郎翰林錢舍人一詩〕窪銀中貴帶、昂黛內人粧。

【昂低】14 ang² ti¹ 高いと低い。價などの上がり下がり。高低。

【昂騰】15（カウトウ） たかまりあがる。物のねだんがあがる。騰貴。上騰。

【昂邦】16（カウハウ） 大臣。滿洲語。按班(5－12038・・61)の❶に同じ。

【昂邦章京】17（カウハウシヤウケイ） 清、子爵をいふ。〔稱謂錄、各等封爵、昂邦章宗〕小知錄、天聰八年、論功增二轄五備禦之總兵官一、稱爲二一等公一、其餘總兵官稱二昂邦章京一、仍分二三等一、謂二今子爵一也、案、皇朝通攷、昂邦章京、作二案班章京一。

【昂鼻】18（カウビ） 仰向いた鼻。獅子鼻。印鼻。〔新序、雜事二〕昂鼻結喉、肥項少髮。

【昂威赫】19（カウヰカク） 古、肅愼氏から貢した石の矢のね。松脂が水に入ること千年で化したものといふ。木質のやうな紋理があり、紺碧色で鐵より堅く、寧古塔人は刀を礪ぐに用ひたといふ。〔寧古塔紀略〕。

【昂哥拉】20（アンゴラ） アフリカ西岸にある地名。Angolaの音譯。安加拉とも書く。

【昂吉兒】21（カウキツジ） 元、張掖の人。姓は野蒲氏。戰功多し。官は行尙書省右丞。〔元史、一百三十二〕。

【⿸厂百】13784 シヨク 昃(5－13785)に同じ。〔集韻〕⿸厂百、或作レ昃。〔正字通〕⿸厂百、同レ昃、說文、本作レ⿸厂百。

【昃】13785 シヨク シキ 慣ソク 〔集韻〕札色切 ［職］ ㄗㄜˋ tsê⁴

小篆

❶かたむく。日が西に傾く。日が午をこえる。⿸厂百(5－13784)に同じ。〔集韻〕⿸厂百、或作レ昃。〔說文〕⿸厂百、日在二西方一時、側也、从レ日仄聲、易曰、日⿸厂百之離。〔易、豐〕日中則昃。〔周禮、地官、司市〕大市日昃而市。〔注〕日昃、昳レ中也。〔左氏、定、十五〕日昃乃克レ葬。❷こえる。すぎる。〔廣雅、釋言〕昃、昳也。❸ひるすぎ。㋑午後。〔宋書、武帝紀〕日向レ昃。㋺午後二時頃。〔書、無逸〕自レ朝至二于日中昃一。〔疏〕昃、亦名レ昳、言二日蹉跌而下一、謂二未時一也。㋩午後四時頃。〔公羊、定、十五〕日下昃。〔注〕昃、日西也、下昃、蓋晡時。❹仄(1－352)に通ず。〔易、離〕日昃之離。〔釋文〕昃、王嗣宗本作レ仄、音同。❺通じて稷(8－25207)に作る。〔左氏、定、十五〕日下昃。〔穀梁、定、十五〕日下稷。

【昃晷】1（シヨクキ） 日がかたむく。午を過ぎる。〔王融、三月三日曲水詩序〕猶且具レ明廢レ寢、昃晷忘レ餐。

【昃食】2（シヨクシヨク） 夕飯。晚食。〔王融、永明九年策二秀才一文〕明發動レ容、昃食興レ慮。〔注〕濟曰、昃食、晚食也。

【⿸厂⿱日乀】13786 シヨク 昃(5－13785)に同じ。

【⿱日夨】13787 シヨク 昃(5－13785)に同じ。〔篇海〕⿱日夨、同レ昃。

【昦】13788 シヨク 昃(5－13785)に同じ。〔海篇〕昦、同レ昃。

【昄】13789

［一］ハン 〔集韻〕補綰切 ［潸］
［二］ハン バン 〔集韻〕披班切 ［刪］ ㄅㄢˇ pan³
［三］ハン 〔集韻〕補滿切 ［旱］
［四］ハン 〔集韻〕博漫切 ［翰］
［五］ヘン 〔集韻〕匹見切 ［霰］

小篆

［一］［二］［三］［四］［五］❶おほきい。〔說文〕昄、大也、从レ日反聲。〔爾雅、釋詁〕昄、大也。〔詩、大雅、卷阿〕爾土宇昄章。〔傳〕昄、大也。❷版(7－19817)に通ず。〔詩、大雅、卷阿、集傳〕或曰、昄、當レ作レ版、版章、猶二版圖一也。

【昅】13790 ケフ ゴフ 〔集韻〕極業切 ［葉］ かわく。〔集韻〕昅、日乾也。

【旮】13791 ビツ ミチ 〔集韻〕莫筆切 ［質］

小篆

見えない。くらい。〔說文〕旮、不レ見也、从レ日否省聲。

【昆】13792

［一］コン 〔集韻〕公渾切 ［元］ ㄎㄨㄣ k'uen¹
［二］コン ゴン 〔集韻〕戶衮切 ［阮］

小篆

［一］［二］❶おなじ。ともに。〔說文〕昆、同也、从レ日从レ比。〔太玄經、玄攡〕理生昆羣。〔注〕昆、同也。〔漢書、揚雄傳〕噍噍昆鳴。〔注〕師古曰、昆、同也。❷おほい。〔大戴禮、夏小正〕昆小蟲抵蚳。〔注〕昆者、衆也。❸あきらか。〔禮、王制〕昆蟲未レ蟄。〔注〕昆、明也。❹ゆたか。ひろい。〔太玄經、玄錯〕昆、寬裕。❺さかん。焜(7－19103)に通ず。〔說文通訓定聲〕昆、叚借爲レ焜。〔廣雅、釋詁二〕昆、盛也。〔揚雄、甘泉賦〕樵蒸昆上。❻まざる。いりくむ。〔太玄經、中〕昆侖旁薄幽。〔注〕昆、渾也。❼のち。㋑のちほど。〔爾雅、釋言〕昆、後也。〔書、大禹謨〕昆命二于元龜一。〔傳〕昆、後也。㋺子孫。遠い子孫。〔釋名、釋親屬〕來孫之子曰二昆孫一、昆、貫也、恩情轉遠、以レ禮貫二連之一耳。〔書、仲虺之誥〕垂二裕後昆一。〔左思、魏都賦〕虞魏之昆、顧陸之裔。〔注〕劉曰、昆・裔、皆後世也。❽あに。罤(8－23714)に通ず。〔說文通訓定聲〕昆、叚借爲レ罤。〔詩、王風、葛藟〕謂二他人昆一。〔傳〕昆、兄也。〔論語、先進〕人不レ間二於其父母昆弟之言一。〔皇疏〕昆、兄也。❾むし。昆蟲。蚰(10－33034)に通ず。〔說文通訓定聲〕昆、叚借爲レ蚰。〔正字通〕昆、與レ蚰同。〔禮、郊特牲〕昆蟲毋レ作。〔注〕昆蟲、暑生寒死、螟蟲之屬、爲レ害者也。❿えびすの名。犬(7－20234)に通ず。〔說文通訓定聲〕昆、叚借爲レ犬、孟子、文王事二昆夷一、詩采薇序、西有二昆夷之患一、箋、西戎也、大荒南經、白淵昆吾之師所レ浴也、注、古王者號、海內經、昆吾之邱、注、此山出二名金一也、列子湯問、西戎獻二昆吾之劍一、後漢杜篤傳、昆彌、注、西域國也、按、昆吾、猶二犬牙一也。⓫山名。崑(4－8173)・崐(4－8172)に通ず。〔正字通〕昆、山名、西方之山、隤狀渾敦、故謂二之昆侖一、別作二崑崙一。〔說文新附考〕崑崙、通作二昆侖一、玉篇作二崐崘一。⓬混(7－17694)・緄(8－27597)に通ず。〔漢書、匈奴傳上、伐二畎夷一、注〕

師古曰、又曰㆓昆夷㆒、昆字、或作㆑混、又作㆑緄。⓭渾(7－17800)に通ず。〔史記、惠景閒侯者年表〕侯公孫昆邪。〔漢書、景武昭宣元成哀功臣表〕渾邪。⓮姓。〔萬姓統譜〕昆、己姓、夏諸侯昆吾之後。

名乘 ヒデ。ヤス。

解字 會意。日と比との合字。本義は、おなじ。比は親密。日は明、明であれば同。故に合して、親密の度が厚く、合同し混一して見分けがつかぬ義。昆の字が匕に從ふのより密著の度が多い。〔說文、昆、段注〕从㆑日者、明之義也、亦同之義也、从㆑比者同之義、今俗謂㆓合同㆒曰㆑渾、其實當㆓用㆑昆用㆑梱。 ▽ （金文） 象形。足の多い蟲に象る。

【昆夷】1コンイ 古の西戎の國。混夷。串夷。昆吾(16)の❷の㋺に同じ。〔孟子、梁惠王下〕文王事㆓昆夷㆒。〔阮元校勘記〕音義・石經、作㆓混夷㆒。〔漢書、匈奴傳上〕周西伯昌伐㆓畎夷㆒〔注〕師古曰、畎夷、卽畎戎也、又曰㆓昆夷㆒、昆字、或作㆑混、又作㆑緄、二字竝音工本反、昆・緄・畎、聲相近耳、亦曰㆓犬戎㆒也。〔後漢書、西羌傳序〕西有㆓昆夷之患㆒、北有㆓玁狁之難㆒。〔潘岳、關中詩〕周人之詩、寔曰㆓采薇㆒、北難㆓玁狁㆒、西患㆓昆夷㆒。〔歐陽脩、日本刀歌〕昆夷道遠不㆓復通㆒、世傳㆓切玉㆒誰能窮。

【昆友】2コンイウ 人の兄弟の敬稱。昆玉(10)に同じ。〔南史、王銓傳〕時人以爲㆓銓錫㆒二王可㆑謂㆓玉昆金友㆒。〔李乂、餞㆓許州宋司馬赴㆑任詩〕從來昆友事、咸以㆓佩刀㆒傳。

【昆裔】3コンエイ 血統。子孫。後裔。轉じて、後世。〔國語、晉語二〕使㆘寡君之紹㆓續昆裔㆒、隱悼播越、託㆓在草莽㆒、未㆖有㆑所㆑依。〔注〕昆、後也、裔、末也。

【昆岳】4コンガク 宇津木久純の號。宇津木昆岳(3－7067··104)を見よ。

【昆腔】5コンカウ 劇曲の名。崐腔(4－8173··7)に同じ。〔雨村曲話〕。

【昆干】6コンカン ものが判らぬこと。汗漫の義。〔說文〕歟、昆干、不㆑可㆑知也。〔六書索隱〕鰍、昆干、不㆑可㆑知也、禹父名、今作㆑鯀。

【昆卉】7コンキ もろもろの草。庶卉。〔宋書、周續之傳〕留㆓愛昆卉㆒、誠著㆓桃李㆒。

【昆季】8コンキ 兄弟をいふ。昆は長兄。季は末弟。又、單に弟をいふ。〔徐陵、爲㆓梁貞陽侯㆒與㆓王太尉僧辯㆒書〕孤二三昆季、方可㆔戴㆑天被㆓此慈恩㆒。〔盧思道、北齊興亡論〕孝㆓于太后㆒、篤㆓于昆季㆒。〔唐書、李密傳〕昔蕭何擧㆑宗從㆑漢、今不㆓昆季盡行㆒以爲㆑愧。

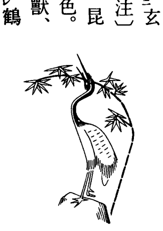
【昆蚑】9コンギ 昆蟲。〔張協、七命〕于㆑時昆蚑感㆑惠。〔注〕向曰、昆蚑、昆蟲也。

【昆玉】10コンギョク ❶人の兄弟の敬稱。崑玉。〔南史、王份傳〕銓雖㆓學業不㆑及㆓弟錫㆒、而孝行齊焉、時人以爲、銓錫二王、可㆑謂㆓玉昆金友㆒。〔通俗編、倫常、昆玉〕按、今稱㆓人弟兄㆒曰㆓昆玉㆒、義應㆑本㆑此。❷清、陳璘(11－41698··602)の字。

【昆虞】11コング 山名。昆吾(16)に同じ。〔太平御覽、皇王部、黃帝軒轅氏〕苻子曰、黃帝將㆑適㆓昆虞之丘㆒、中路逢㆓容成子㆒。

【昆羣】12コングン 共に羣居する。〔太玄經、玄攡〕理生昆㆑羣兼愛、之謂㆑仁也。〔注〕昆、同也。

【昆雞】13コンケイ 鳥の名。鶴に似て黃白色。〔司馬相如、上林賦〕蠲㆓玄鶴㆒亂㆓昆雞㆒。〔注〕善曰、張揖曰、昆雞似㆑鶴、黃白色。〔三才圖會、鳥獸、昆雞〕昆雞、似㆑鶴黃白色、長頷赤喙、九辯曰、昆雞啁哳而悲鳴。



昆雞（三才圖會）

【昆湖】14コンコ 明、瞿景淳(8－23747··33)の號。

【昆吳】15コンゴ 地名。鼎を造る處。昆吾の❷の㋺に同じ。〔張協、七命〕銘㆓德於昆吳之鼎㆒。〔注〕翰曰、昆吳、地名、作㆑鼎之處。

【昆吾】16コンゴ ❶圓いうつは。圓器。圓渾。〔說文〕壺、昆吾、圜器也。〔毛際盛、說文解字述誼〕昆吾、卽康瓠、昆、康音轉、吾、瓠疊韻。〔通雅〕昆吾、謂㆓圓渾㆒。❷國の名。㋑夏の昆吾國。己姓。夏伯となり殷の湯王に滅ぼさる。今の河北省濮陽縣の東の地。〔詩、商頌、長發〕韋顧既伐、昆吾夏桀。〔傳〕有㆓昆吾國㆒。〔陳奐傳疏〕昆吾國卽衞帝丘、今直隸大名府開州州治、是其地。〔左氏、昭、十八〕毛得必亡、是昆吾稔之日也。〔注〕昆吾、夏伯也。〔漢書、地理志下〕〔濮陽〕本顓頊之虛、夏后之世、昆吾氏居㆑之。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、開州〕昆吾城、州東二十五里、其地有㆓古顓頊城㆒、城中有㆓古昆吾臺㆒、相傳、夏昆吾氏所㆑築、春秋時屬㆑衞、左傳哀十七年、衞侯夢㆓于北宮㆒、見㆔人登㆓昆吾之觀㆒、是也、漢爲㆓濮陽縣地㆒、隋開皇十六年、析㆓置昆吾縣㆒屬㆓滑州㆒。㋺周の昆吾國。穆王、昆戎を伐つや、昆吾赤刀を獻ず。後、伊吾といふ。美金を出し、名刀を出す。今の新疆省哈密縣の地。〔元和志〕禹貢九州之外、古戎地稱㆓昆吾㆒、周穆王伐㆓昆戎㆒、昆吾獻㆓赤刀㆒、後轉爲㆓伊吾㆒。❸地名。陝西省藍田縣の東北。〔揚雄、羽獵賦序〕武帝廣開㆓上林㆒、東南至㆓宜春・鼎湖・御宿・昆吾㆒。〔注〕昆吾、地名也、有㆑亭。❹山名。〔山海經、中山經〕〔昆吾之山〕其上多㆓赤銅㆒。〔山海經、大荒南經、注〕昆吾、山名、谿水內出㆓善金㆒。〔司馬相如、子虛賦〕其石則赤玉玫瑰、琳瑉昆吾。〔注〕善曰、張揖曰、昆吾、山名、出㆓美金㆒、尸子曰、昆吾之金。〔海內十洲記〕流洲在㆓西海中㆒、多㆓積石㆒、名爲㆓昆吾㆒、治㆓其石㆒成爲㆑鐵、作㆑劍、光明洞照、如㆓水精狀㆒、割㆓玉物㆒如㆑割㆑泥。❺南方にあるといふ丘。太陽が正午に此處を經過するといふ。此の時を正中といふ。〔淮南子、天文訓〕日出㆓于暘谷㆒云云、至㆓于昆吾㆒、是謂㆓正中㆒。〔注〕昆吾丘、在㆓南方㆒。〔張衡、思玄賦〕躋日中㆓于昆吾㆒兮、憩㆓炎天之所㆑陶。❻劍の名。〔摯虞、思遊賦〕感㆓昆吾之易㆑越兮。昆吾劍を見よ。〔楊炎、大唐河西平北聖德頌〕載㆓火旗㆒兮耀㆓昆吾㆒。❼姓。〔姓氏急就篇、上〕來昆仍雲世孝敬。〔注〕昆氏、夏諸侯昆吾之後、戰國有㆓賢者昆詳㆒。❽人名。祝融の子孫。陸終の第二子。夏伯となる。〔國語、鄭語〕昆吾爲㆓夏伯㆒矣。〔注〕昆吾、祝融之孫、陸終第一子。〔呂覽、君守〕昆吾作㆑陶。〔注〕昆吾爲㆓夏伯㆒、制㆓作陶冶㆒。

【昆吾瑤】17コンゴノエウ 昆吾國から產するたま。銅をいふ。〔梁簡文帝、謝㆔勅賚㆑銅供㆓造善覺寺塔露盤㆒啓〕是稱㆓邪陽之珍㆒、實亦昆吾之瑤。〔事物異名錄、珍寶、銅〕昆吾瑤、按、謂㆑銅也。

【昆吾丘】18コンゴノキウ 昆吾の國のやま。〔山海經、海內經〕有㆓九丘㆒云云、昆吾之丘。〔淮南子、墬形訓〕凡海外有㆓三十六國㆒云云、昆吾丘在㆓南方㆒、軒轅丘在㆓西方㆒。

【昆吾瓦】19コンゴノグワ 昆吾氏の作つた瓦。〔古史考〕夏時、昆吾氏作㆑瓦。

【昆吾劍】20コンゴノケン 昆吾の國で作つた名劍。よく玉を切り鐵を削るといふ。錕鋙劍。昆吾の❷の㋺を見よ。〔黃眉故事〕周穆王有㆓昆吾劍㆒、削㆑鐵如㆑泥。

【昆吾刀】21コンゴノタウ 昆吾劍に同じ。〔海內十洲記〕周穆王時、西胡獻㆓昆吾割玉刀㆒、長一尺、切㆑玉如㆑切㆑泥。

【昆吾鼎】22コンゴノテイ 昆吾の國で鑄た鼎。〔蔡邕、銘論〕呂尙作㆓周太師㆒、封㆓於齊㆒、其功銘㆓于昆吾之冶㆒、獲㆓寶鼎於美陽㆒。

【昆吾之虛】23コンゴノキヨ 夏の昆吾の地の丘。昆吾の❷の㋑を見よ。虛は墟で、大きい丘の意。〔左氏、哀、十七〕登㆓此昆吾之虛㆒、緜緜生之瓜。

【昆吾之觀】24コンゴノクワン 昆吾の虛のものみ。たかどの。〔左氏、哀、十七〕人登㆓昆吾之觀㆒、被㆑髮北面而譟。

【昆後】25コンコウ する。子孫。後昆。後裔。又、後世。〔蔡邕、太傅胡廣碑〕仰㆓邃古㆒、耀㆓昆後㆒。

【昆左】26コンサ 清、胡作傳(9－29400··469)の字。

【昆山】27コンザン ❶山名。崑崙山(4－8173··59)の❶に同じ。〔史記、趙世家〕昆山之玉不㆑出。〔淮南子、詮言訓〕昆山之玉瑱。〔注〕昆山、昆侖也。〔新序、雜事一〕夫劍產㆓于越㆒、珠產㆓江漢㆒、玉產㆓昆山㆒、此三寶者、皆無㆑足而至。❷縣名。漢、置く。侯國。山東省諸城縣の西南の昆山の西。〔漢書、地理志上〕琅邪郡、縣五十一、昆山。〔注〕侯國。❸明、畢本(7－21829··69)の號。

【昆山之玉】28コンザンノギョク 崑崙山に產する名玉。〔鹽鐵論、通有〕是以遠方之物不㆑交、而昆山之玉不㆑至。

【昆水】29コンスイ 川の名。❶又、渾河・萬泉河ともいひ、今、輝河といふ。源を河南省葉縣の西、青山の西麓に發し、北汝河に注ぐ。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、裕州、葉縣〕昆水、源出㆓魯山縣界㆒、東南流入㆓縣境㆒、又東至㆓舞陽界㆒、合㆓于沙河㆒。❷湖北省棗陽縣の東南。西流して白水に注ぐ。

【昆孫】30コンソン 來孫の子。玄孫の孫。晜孫(5－1394

4‥1)に同じ。又、遠い子孫の汎稱。〔釋名、釋親屬〕昆孫、昆、貫也、恩情轉遠、以レ禮貫二連之一耳。〔左氏、昭、十六〕孔張君之昆孫、子孔之後也。〔稱謂錄、遠孫、昆孫〕案、昆孫又爲二遠孫之統稱一。

【昆臺】31（コンダイ） ㊀漢代、甘泉宮中に置いた官名。〔漢書、百官公卿表上〕甘泉居室爲二昆臺二云云、太官七丞、昆臺五丞一。〔後漢書、百官志三、昆臺、注〕昆臺、本名二甘泉居室一、武帝改。㊁仙人の住む臺の名。〔仙傳拾遺〕燕昭王好二神仙之道一、仙人甘需臣二事之一、爲レ王述二昆臺登眞之事一。㊂宇津木謙の號。宇津木昆臺(3－7067‥105)を見よ。

【昆刀】32（コンタウ） 昆吾國で作った利刀。昆吾刀(21)を見よ。

【昆刀切レ玉】33（コンタウタマヲキル） 昆吾の國から出る利刀は堅い玉をも切る。昆吾刀(21)を見よ。〔本朝虞初新誌、鍛工助弘傳〕銳利堅剛、不二惟昆刀切レ玉。

【昆澤】34（コンタク） 縣名。漢、置く。今の雲南省宜良縣の地。〔漢書、地理志上〕益州郡、縣二十四、昆澤。

【昆池】35（コンチ） 昆明池(54)の㊀をいふ。〔江總、秋日侍二宴婁苑湖一應詔詩〕玉軸昆池浪、金舟太液張。

【昆蟲】36（コンチユウ） ㊀多くの蟲類。昆は衆。一說に、昆は明、明蟲とは陽に生じて陰に藏（カク）れる意。轉じて、天地間の微物をいふ。〔禮、王制〕昆蟲未レ蟄、不二以火レ田。〔注〕昆、明也、明蟲者得レ陽而生、得レ陰而藏。〔禮、郊特牲〕昆蟲毋レ作。〔注〕昆蟲、暑生寒死、螟蟲之屬、爲レ害者也。〔禮、祭統〕昆蟲之異、艸木之實、陰陽之物備矣。〔注〕昆蟲謂二溫生寒死之蟲一也。〔荀子、富國〕然後昆蟲萬物生二其閒一。〔管子、小稱〕中國諸夏、蠻夷之國、以及二禽獸昆蟲一。〔漢書、成帝紀〕草木昆蟲、咸得二其所一。〔注〕師古曰、昆、衆也、昆蟲、言二衆蟲一也、鄭康成以二昆蟲一爲二明蟲一、失レ之矣。〔說苑、復恩〕夫禽獸昆蟲、猶知二比假而相有レ報也。〔陸機、豪士賦序〕物之相レ物、昆蟲皆有二此情一。㊁節足動物の中の一綱目で、頭・胸・腹の三部が明瞭に分れ、六足を有するもの。

【昆弟】37（コンテイ） あにとおとうと。兄弟。〔書、五子之歌序〕昆弟五人、須二于洛汭一。〔儀禮、喪服傳〕妻之父母昆弟、昆弟之子。〔禮、檀弓上〕請問、居二昆弟之仇一、如レ之何。〔禮、檀弓下〕妻之昆弟爲二父後一者死、哭二之適室一。〔左氏、僖、二十四〕我請二昆弟仕一焉。〔論語、先進〕孝哉閔子騫、人不レ間二於其父母昆弟之言一。〔中庸〕父子也、夫婦也、昆弟也。〔戰國、秦策〕所二以然一者、以三秦與レ楚爲二昆弟國一。〔韓非子、說林下〕吾不三與レ子爲二昆弟一矣。〔管子、問〕問、宗子之收二昆弟一者、以レ貧從二昆弟一者、幾何家。〔史記、吳王濞傳〕昔高帝初定二天下一、昆弟少諸子弱。〔漢書、天文志〕諸昆弟賓婚爲二侍中一。

【昆弟語】38（コンテイノゴ） 相親愛する言葉。〔漢書、衡山王賜傳〕元朔六年、過二淮南一、淮南王乃昆弟語、除二前隙一、約二束反具一。〔注〕師古曰、爲二相親愛之言一。

【昆弟一體】39（コンテイハイツタイ） 兄弟は同じからだ。離れるべからざるものの意。〔儀禮、喪服〕傳曰、父子一體也、夫妻一體也、昆弟一體也。

【昆蹏】40（コンテイ） 馬の名。騉蹏。〔漢書、百官公卿表上〕昆蹏令丞。〔注〕應劭曰、昆蹏、好馬名也。

【昆駼】41（コント） 獸の名。馬に似て跂蹄、善く高山に登る。騉駼。〔張衡、西京賦〕陵二重巘一、獵二昆駼一。〔注〕綜曰、昆駼如レ馬、跂蹄善登レ高、言下能升二重巘之嶺一、而獵中取昆駼之獸一。

【昆德】42（コントク） 漢の臺の名。〔張衡、西京賦〕西有二玉臺一、聯以二昆德一。〔注〕良曰、玉臺・昆德、皆臺殿之名。

【昆彭】43（コンハウ） 夏の昆吾と商の大彭。皆霸者として名あり。〔梁書、武帝紀上〕望二昆彭一以長想。

【昆莫】44（コンビ） ㊀漢代、西域の烏孫王の號。昆彌(45)に同じ。〔史記、大宛傳〕張騫曰、臣居二匈奴中一、聞二烏孫王號二昆莫一、昆莫之父、匈奴西邊小國也。㊁漢、獵驕靡(7－20768‥51)をいふ。

【昆彌】45（コンビ） 漢の西域の烏孫王の號。昆莫。〔漢書、烏孫國傳〕昆莫、王號也、名獵驕靡、後書二昆彌一云。〔注〕師古曰、昆、取二昆莫一、彌、取二驕靡一、靡・彌、音有二輕重一耳、蓋本一也、後遂以二昆彌一爲二其王號一也。〔漢書、匈奴傳〕烏孫昆彌、復上書言。

【昆彌川】46（コンビセン） 湖の名。洱海をいふ。雲南省大理縣城の東。洱海(6－1742‥1)を見よ。〔通典、邊防〕西洱河、一名昆彌川、漢武象二其形一、鑿レ池以習二水戰一、非二滇池一也、古有二昆彌國一、亦以レ此名。

【昆布】47（コンブ） 海草の名。こぶ。ひろめ。狹い者を海帶といふ。〔本草、昆布〕釋名、時珍曰、按、吳普本草、綸布、一名昆布、則爾雅所謂綸似レ綸、東海有レ之者、卽昆布也。

【昆布卷】48（コブマキ） 料理の一種。燒鮒などを昆布に卷いて煮たもの。

【昆甫】49（コンホ） 清、郭焌(11－39474‥121)の字。

【昆苗】50（コンベウ） 遠地の苗族。苗は、南方蠻族の名。〔蔡邕、汝南周勰碑〕名振二華夏一、光耀二昆苗一。

【昆明】51（コンメイ） ㊀漢代、西南夷の國の名。今の雲南省昆明縣のあたり。〔史記、衞將軍驃騎傳〕還擊二昆明一無レ功。〔漢書、夏侯勝傳〕昆明・甌駱・兩越。㊁池の名。昆明池(54)の㊀に同じ。〔班固、西都賦〕集二乎豫章之宇一、臨二乎昆明之池一。〔張衡、西京賦〕昆明靈沼、黑水玄阯。㊂縣名。㋑唐、置く。後、吐蕃に沒す。四川省鹽源縣。〔讀史方輿紀要、四川、鹽井衞軍民指揮使司〕昆明城、在二衞西南一、唐置二昆明縣一、蓋以二漢昆明地一而名。㋺元、置く。雲南省治。佛國の築いた滇越鐵路の終點。清の光緒三十一年開放して通商場とした。〔讀史方輿紀要、雲南、雲南府〕昆明縣、漢爲二滇池縣地一、隋爲二昆明境一、唐爲二晉寧縣地一、元初立二二千戶所一、後改置二善州一、領二昆明・官渡二縣一、州尋廢、又併二官渡一入レ焉、明朝因レ之。〔清史稿、地理志〕雲南、雲南府、縣七、昆明。㊃市名。民國、置く。雲南省城及び商阜地。滇越鐵道の終點。

【昆明灰】52（コンメイクワイ） 漢の武帝が昆明池で掘り出した灰。〔庾信、奉三和闡二弘二教一應詔詩〕無二勞問待詔一、自識二昆明灰一。

【昆明湖】53（コンメイコ） 湖の名。河北省宛平縣の西、萬壽山の下。清の乾隆の時、西山の玉泉の水を導き、もとの西湖を廣く疏濬し、今の名を賜ふ。湖邊に銅牛があり、高宗の御製の金牛銘がある。孝欽后は頤和園を修めて此の湖を園內に入れた。〔清會典、內務府〕凡苑囿之水、西出二玉泉山一、瀦爲二昆明湖一。

【昆明池】54（コンメイチ） ㊀池の名。陝西省長安縣の西南。漢の武帝は、印度に通ぜんとして昆明夷に妨げられ、因つて之を伐たんがため昆明池を穿ち水戰を習はしめた。周圍四十支里、雲南の昆明池に象り、中に豫章臺・漢宮闕を設く。今、湮る。〔漢書、武帝紀〕元狩三年春、發二謫吏一穿二昆明池一。〔注〕臣瓚曰、西南夷傳、有二越嶲昆明國一、有二滇池一、方三百里、漢使求二身毒國一、而爲二昆明所レ閉、今欲レ伐レ之、故作二昆明池一象レ之、以習二水戰一、在二長安西南一、周回四十里。〔三秦記〕昆明池中有二靈沼一、名二神池一、云、堯時治レ水、嘗停二船於此池一。㊁湖の名。㋑滇池(7－18010‥10)㊀の㋺の別稱。雲南省雲南府城の南。〔元史、地理志四〕昆明。〔注〕其地有二昆明池一、五百餘里、夏潦必冒二城郭一、張立道爲二大理等處勸農使一、求三泉源所二自出一、洩二其水一、得二地萬餘頃一。㋺雲南省大理縣の洱海をいふ。洱海(6－17412‥1)を見よ。

【昆明路】55（コンメイロ） 鷺の名。〔王僧孺、朱鷺〕願識昆明鷺、乘レ流飮復棲。

【昆明池障子】56（コンメイチノシヤウジ） 昔、清涼殿の二間と上御局との間に立てた障子。中國の昆明池を畫いたから名づけた。〔禁祕御抄、上、清涼殿〕弘廂、云云、二間與二上御局一之際、立二昆明池障子一。

【昆鳴】57（コンメイ） ともに鳴く。羣り鳴く。〔漢書、揚雄傳上〕噍噍昆鳴。〔注〕師古曰、昆、同也。

【昆邪】58（コンヤ） 漢代、匈奴の屬部。右部の一。今の甘肅省の張掖・山丹・武威・鎭番・永昌・古番・酒泉・高臺の諸縣の地。又、渾邪・混邪に作る。〔漢書、匈奴傳上〕昆邪王殺二休屠王一。

【昆陽】59（コンヤウ） ㊀州名。清、置く。雲南省に屬す。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕雲南、雲南府、州四、昆陽州。㊁縣名。㋑漢、置く。戰國魏の邑。後、秦に屬す。北齊、廢す。今、河南省葉縣治。後漢の初、光武帝が王莽の兵百萬を破つたところ。〔史記、蘇秦傳〕蘇秦說二魏襄王一曰、大王之地、南有二昆陽一。〔漢書、地理志上〕潁川郡、縣二十、昆陽。㋺唐、置く。今缺く。安南の北境。㋩民國、置く。漢の昆澤縣の地。雲南省玉溪縣の北。滇池の西南岸。㊂青木敦書の號。青木昆陽(12－42564‥568)を見よ。㊃（コヤ） 攝津國の地名。

【昆陽山人】60（コンヤウサンジン） 山梨治憲の號。山梨稻川(4－7869‥1056)を見よ。

【昆陽漫錄】61（コンヤウマンロク） 書名。正編六卷、續編二

卷。青木敦書撰。正編には周易家語序以下三百二十八條、續編には細馬以下百七十六條を收める。和漢の事物名義に關する考案解釋が主で、和蘭・朝鮮に關する記事もある。

【昆弋】62（コンヨク） 劇曲の名。昆腔と高腔。

【昆龍】63（コンリヨウ） 漢代、匈奴の國名。〔漢書、匈奴傳上〕後比服二渾窳屈射丁零隔昆龍新犂之國一。〔注〕師古曰、五小國也。〔補注〕王念孫曰、五小國者、一渾窳、二屈射、三丁零、四隔昆、五新犂、龍字蓋涉二上文龍城一而衍。

【昆鄰】64（コンリン） 昆明池のほとり。〔揚雄、羽獵賦〕東延二昆鄰一、西馳二閶闔一。〔注〕善曰、張晏曰、東至二昆明之邊一也。

【昆侖】65（コンロン） ㊀物の區別が無く不明なさま。渾沌。濁り沈むさま。渾淪。〔太玄經、中〕初一、昆侖旁薄幽。〔注〕昆、渾也、侖、淪也。㊁山名。崑崙（4－8173··59）の㊀に同じ。〔淮南子、原道訓〕蹈二騰昆侖一。〔注〕昆侖、山名、河之所レ出。

〖昆侖道〗66（コンロンダウ） 漢の武帝の時、濟南の人、公玉帶が上つた明堂圖の中の複道。其の堂を名づけて昆侖といふのは昆侖山の五城十二樓に似てゐる事による。〔史記、封禪書〕濟南人公玉帶、上二黃帝時明堂圖一。明堂圖中有二一殿一、四面無レ壁、以レ茅蓋、通レ水圜二宮垣一、爲二複道一、上有レ樓、從二西南一入、命曰二昆侖一、云云、天子從二昆侖道一入、始拜二明堂一。〔注〕索隱曰、玉帶明堂圖、中爲二複道一、有レ樓、從二西南一入、名二其道一曰二昆侖一、言三其似二昆侖山五城十二樓一、故名レ之也。

【昆崙】67（コンロン） 昆侖（65）の㊁に同じ。〔山海經、西山經〕西南四百里曰二昆崙之丘一。

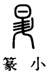
〖昆崙井〗68（コンロンセイ） 昆崙山に在る井戸。〔呂覽、本味〕水之美者、三危之露、昆崙之井。〔溫庭筠、生禖屛風歌〕玉墀暗接昆崙井、井上無レ人金索冷。

【昆連氏】69（コンレンシ） 上古の帝名。〔路史、禪通紀〕昆連氏、一曰二蠭連氏一、一曰二蠭蓄氏一、昆連者、昏晦之謂也。

【昆脚皆頭】70（コンキヤクカイトウ） 昆字の下部と皆字の上部。卽ち比字をいふ。唐の杜牧が夢に人からこの語を告げられ、後、比部員外となつた故事。〔尙書故實〕杜紫微頊於二宰執一求二小儀一、不レ遂、請二小秋一、又不レ遂、嘗夢、人謂曰、辭レ春不レ及レ秋、昆脚與二皆頭一、後果得二比部員外一。

【皆】13793 カイ 皆（8－22699）に同じ。〔集韻〕皆、或作レ皆。

【昇】13794 シヨウ 〔集韻〕書蒸切 ㄕㄥ shêng 蒸


小篆

㊀**のぼる**。㋑日が上る。〔說文新附〕昇、日上也、从レ日升聲、古只用レ升。〔紇干兪、海日照二三神山一賦〕影搖二林樹一、漸昇二桑野之躔一。㋺高處に上る。〔李嶠、寶劍篇〕東皐提昇紫微座。〔韓愈、送二侯參謀一詩〕嶺壁窮レ晨昇。㋩官位が上る。〔舊唐書、李道古傳〕便佞巧宦、早昇二朝籍一。㊁**のぼせる**。位階を進める。〔舊唐書、馬周傳〕擢二昇宰相一。㊂升（2－2702）に通ず。〔正字通〕昇、同レ升。㊃或は階（11－41716）に作る。〔集韻〕昇、或作レ階。㊄**姓**。〔奇姓通〕昇元中、撰二海外使臣程記三卷一。

名乘 ノリ。カミ。ノボル。

【昇逸】1（シヨウイツ） 梁、周捨（2－3441··247）の字。

【昇遐】2（シヨウカ） 崩御をいふ。登遐。升遐（2－2702··12）の㊁に同じ。

【昇霞】3（シヨウカ） 人が死んだ時、柴を聚めて之を焚き、其の煙が天を燻すをいふ。轉じて、人の死をいふ。升遐。登遐。〔新論、風俗〕秦之西有二義渠之國一、其人死、則聚レ柴而焚レ之、煙上燻レ天、謂二之昇霞一。

【昇降】4（シヨウカウ） のぼることとくだること。あがりおり。あがりさがり。升降（2－2702··16）の㊀に同じ。

〖昇降器〗5（シヨウカウキ） 人を載せて高處・低處にあがりおりする器械。エレベーター。

〖昇降口〗6（シヨウカウグチ） 昇降する出入口。

【昇高】7（シヨウカウ） 高い所にのぼること。

【昇格】8（シヨウカク） 資格をのぼらすこと。格式をあげること。

【昇級】9（シヨウキフ） ㊀等級が進む。進級。㊁官位が高くなる。昇任。昇進。

【昇給】10（シヨウキフ） 給料が上ること。俸給が增すこと。

【昇華】11（シヨウクワ） ㊀榮華權貴の地位にのぼる。升華（2－2702··33）に同じ。㊁固體が液體を經ないで直に氣體となる現象。而して此の氣體は溫度の低い所に至れば凝集して細い結晶となつて物に附着する。sublimation の譯語。

【昇卿】13（シヨウケイ） 宋、呂陟（2－3386··126）の字。

【昇元】14（シヨウゲン） 五代十國の一、齊（南唐）烈祖（李昇、一に李昇）の年號。（937－943）

〖昇元帖〗15（シヨウゲンテフ） 法帖の名。四卷。南唐の李後主が祕府の珍藏を、徐鉉に命じて石に刻せしめて摹したもの。終りに昇元二年三月、建業文房摹勒上石と刻す。又、建業帖といふ。〔輟耕錄、淳化祖石刻〕嘗觀二褚伯秀所レ記、江南李後主命二徐鉉一以二所レ藏古今法帖一入レ石、名二昇元帖一、此則在二淳化之前一、當レ爲二法帖之祖一。

【昇汞】16（シヨウコウ） 藥の名。水銀と鹽素との化合物。白色で光澤ある斜方晶系柱狀の結晶。劇しい毒性を有する。

〖昇汞水〗17（シヨウコウスイ） 昇汞に食鹽を加へて水に溶し、フクシンを加へて桃色とした液。消毒に用ひる。

【昇國】18（シヨウコク） 唐の肅宗・代宗の時、袁晁の僭年號。（761－763）

【昇山】19（シヨウザン） 山名。㊀浙江省吳興縣の東。又、歐餘山・歐亭山ともいふ。〔太平寰宇記〕一名二歐餘山一、一名二歐亭山一、王羲之爲二太守一、嘗昇二此山一、顧謂二賓客一曰、百年之後、誰知下王逸少與二諸卿一遊上此乎、因有二昇山之號一。㊁福建省閩侯縣の北。〔太平寰宇記〕昇山、在二閩縣西北十四里一、越王句踐時、一夕從二會稽一飛來、舊名二飛山一、臨海人任敦、於レ此昇仙、唐改爲二昇山一。

【昇之】20（シヨウシ） 字號。㊀唐、盧照鄰（8－23050··260）の字。㊁後梁、裴迪（10－34362··80）の字。㊂宋、黃旦（12－47926··631）の字。㊃宋、嚴晃（2－4589··66′）の字。

【昇州】21（シヨウシウ） 州名。唐、置く。故治は江蘇省南京市。〔讀史方輿紀要、江南〕江寧府、禹貢揚州之域、春秋時吳地、戰國屬レ越、後屬レ楚、楚威王初置二金陵邑一、秦改曰二秣陵一屬二鄣郡一、漢初屬二荊國一、後屬レ吳、又屬二江都國一、元封初、屬二丹陽郡一、後漢因レ之、云云、唐武德三年、置二揚州一、七年改爲二蔣州一、八年復爲二揚州一、置二大都督府一、九年揚州移二治都一、至德二載置二江寧郡一、乾元元年改爲二昇州一。

〖昇州道士〗22（シヨウシウダウシ） 明、張風（4－9812··650）の號。

【昇車】23（シヨウシヤ） 車にのる。升車。〔楚辭、王逸、九思、哀歲〕昇レ車兮命レ僕、將レ馳二兮四荒一。

【昇初】24（シヨウシヨ） 宋、朱象先（6－14424··835）の字。

【昇敍】25（シヨウジヨ） 官位をのぼせる。官位を進め任ずる。〔元稹、授二劉泰淸左武衞將軍一制〕文武竝用、必推二其才一、久次不レ遷、則有二昇敍一。

【昇進】26（シヨウシン） 官位又は地位があがる。升進（2－2702··55）に同じ。〔平治物語、一、信賴信西不快事〕昇進に拘らず。

【昇躋】27（シヨウセイ） 高いところにのぼる。〔孟郊、與二王二十一員外涯一遊二枋口柳溪一詩〕鑿出幽隱端、氣象皆昇躋。

【昇仙】28（シヨウセン） ㊀天にのぼつて仙人になる。登仙。升仙。〔抱朴子、明本〕黃帝旣治レ世、致二太平一、而又昇仙。㊁山名。四川省成都縣の北。星宿（5－13837··164）の㊁を見よ。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、成都縣〕武擔山、五代梁開平二年、蜀王建講二武於星宿山一、步騎三十萬、卽城北之昇仙山矣。

〖昇仙橋〗29（シヨウセンケウ） 橋の名。四川省成都縣の北。又、昇遷橋・駟馬橋といふ。秦の李冰の建てたものと傳へる。〔華陽國志〕城北十里有二昇仙橋一、司馬相如初入二長安一、題二市門一曰、不レ乘二赤車駟馬一、不レ過二汝下一、故亦名二駟馬橋一。

〖昇仙峽〗30（シヨウセンケフ） 山梨縣甲府市の北數里に在る名勝。

【昇堂】31（シヨウダウ） 堂にのぼる。官吏が役所で廳事に

臨むこと。〔通俗編、居處、昇堂〕定命錄、張文瓘少時、曾有㆑人、相㆑之云、當㆑爲㆑相、然不㆑得㆓堂食㆒、及㆑在㆓此位㆒、每㆓昇㆑堂欲㆒㆑食、卽腹脹痛、按、凡州縣臨㆓廳事㆒、今皆謂㆓之昇堂㆒。

【昇段】32（ショウダン） 武道や碁・將棋などの有段者の昇格をいふ。

【昇陟】33（ショウチョク） のぼる。升陟（2－2702··77）に同じ。

【昇沈】34（ショウチン） うきしづみ。升沈（2－2702··78）に同じ。

【昇天】35（ショウテン） ❶天にのぼる。上天。升天。〔楚國先賢傳〕弄玉乘㆑鳳、蕭史乘㆑龍、昇天去。〔後漢書、虞延傳〕延初生、其上有㆑物、若㆓一匹練㆒、遂上㆓昇天㆒、占者以爲㆑吉。〔南史、張融傳〕自㆑地升㆑天、理不㆑得㆑速。❷基督教で信者の死をいふ。

〔昇天眞人〕36（ショウテンシンジン） 近藤守重の號。近藤正齋（11－38752··196）を見よ。

【昇殿】37（ショウデン） 昔、五位以上及び六位の藏人が許されて、清涼殿の殿上の間に昇ること。〔日本外史、源氏前記、平氏〕鳥羽上皇建㆓得長壽院㆒、以㆓忠盛㆒董㆑役、役竣、除㆓但馬守㆒、聽㆓昇殿㆒。

【昇等】38（ショウトウ） 等級の昇ること。

【昇任】39（ショウニン） 役目がのぼること。陞任（11－41658··21）に同じ。

【昇平】40（ショウヘイ） ❶世が平かでしづか。太平。升平（2－2702··96）に同じ。〔品字箋〕升平猶㆑言㆓成平㆒、云云、又昇平也、日漸上升也、又昇平、皦日當㆑空、六宇昇平也。〔藤田東湖、和㆓文天祥正氣歌㆒〕昇平二百歲、斯氣常獲㆑伸。❷三國魏、高堂隆（12－45313··622）の字。

〔昇平樂〕40′（ショウヘイガク） 詞牌の名。〔宋史、樂志十七〕教坊都知李德昇、作㆓萬歲昇平樂曲㆒。

〔昇平之符〕41（ショウヘイノフ） 世の泰平なしるし。〔韓愈、賀㆓慶雲㆒表〕昇平之符既兆、仁壽之域以躋。

〔昇平人瑞〕42（ショウヘイジンズイ） 清朝で男子百歲に達すれば天子から此の四字の額を賜ひ旌表せられた。〔清會典、禮部、燕禮〕所有老民、熊國沛年一百六才、邱家龍年一百歲、尤屬㆓昇平人瑞㆒、倶著加㆓恩賞㆒、給㆓六品頂戴㆒。〔清國行政法汎論、皇室、旌表、高齡〕凡人民壽躋㆓百歲㆒者、男女並許㆑建坊、男子則給㆓與昇平人瑞字樣㆒、女子則貞壽之門。

〔昇平寶筏〕43（ショウヘイハウバツ） 戲曲の名。清、張照作。唐の玄奘三藏が天竺へ經を取りに至つたことを演ずる。

【昇甫】44（ショウホ） 清、張曜孫（4－9812··816）の號。

【昇名】45（ショウメイ） 天子に名を申し上げる。奏名。〔事文類聚〕草澤之士、昇㆑名者十七人、猶㆑言㆓奏名㆒也。

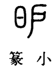
【昇明】46（ショウメイ） 南朝宋、順帝（劉準）の年號。（477－479）

【昇交點】47（ショウカウテン） 天文學用語。遊星が南から北に向つて黃道を通過する點。升交點。正交點。

【昇日南】48（ショウジツナン） 明の僧。浙江の人。號は照菴。畫に巧。音律を善くす。

【昇菴詩話】49（ショウアンシワ） 書名。一卷。明、陳元贇撰。問答體を以て詩に關する問題を篇法・句法・字法等の目に分つて論述する。

【旿】 13795 ゴ コ 〔集韻〕後五切 麌

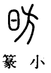

小篆

❶**あきらか**。〔說文新附〕旿、明也、从㆑日戶聲。❷**あや**。あやのあるさま。〔方言、十二〕旿、文也。〔注〕文彩貌。❸**赤いあやのあるさま**。〔集韻〕旿、一曰、赤文。

【旿旿】1（ココ） 赤いあやのあるさま。〔張衡、西京賦〕赫旿旿以弘敞。〔注〕善曰、埤蒼曰、旿、赤文也。

【旿分】2（ゴフン） あきらかにわかれる。〔揚雄、羽獵賦〕羽騎營營、旿分殊㆑事。〔注〕善曰、旿分、謂㆔羽騎分別、各殊㆓其事㆒也。

【昉】 13796 ハウ 〔集韻〕甫兩切 養 ㄈㄤˇ fang^3


小篆

❶**あきらか**。〔說文新附〕昉、明也、从㆑日方聲。❷**まさに**。たま。〔玉篇〕昉、適也。〔公羊、隱、二〕始滅、昉於㆑此乎。〔注〕昉、適也、齊人語。❸**はじめて**。〔列子、黃帝〕眾昉同疑。〔注〕昉、始也。❹古、昞（5－13835）に作る。〔集韻〕昉、古作㆑昞。❺**姓**。〔萬姓統譜〕昉、見㆓姓苑㆒。

〔名乘〕 アキラ。

【昉思】1（ハウシ） 清、洪昇（6－17402··108）の字。

【昘】 13797 ハウ 訪（10－35284）に同じ。〔海篇〕昘、同㆑訪。

【昮】 13798 トツ トチ 〔篇海〕他骨切 月

水中に出沒するさま。〔篇海〕昮、入㆑水又出貌。

【昊】 13799 カウ ゴウ 〔集韻〕下老切 皓 ㄏㄠˋ hao^4

❶**そら**。あめ。㋑大空。天の汎稱。もと昦（5－13845）に作る。〔正字通〕昊、本作㆑昦。〔書、堯典〕乃命㆓羲和㆒、欽若㆓昊天㆒。〔傳〕昊天、言㆓元氣廣大㆒。〔詩、周頌、昊天有成命〕昊天有㆓成命㆒。〔箋〕昊天、天大號也。㋺春の空。〔說文〕昦、春爲㆓昦天㆒、元气昦昦也、从㆓日夰㆒、夰亦聲。〔詩、王風、黍離、悠悠蒼天、傳〕元氣廣大、則稱㆓昊天㆒。〔疏〕春曰㆓昊天㆒。㋩夏の空。〔爾雅、釋天〕夏爲㆓昊天㆒。〔楚辭、王逸、九思、傷時〕惟昊天兮昭靈。〔注〕昊天、夏天也。㋥秋の空。〔楚辭、王逸、九思、哀歲〕昊天兮清涼。〔注〕秋天爲㆓昊天㆒。㋭西の空。〔淮南子、天文訓〕西方曰㆓昊天㆒。〔注〕西方、金白色、故曰㆓昊天㆒。㋬東の空。〔廣雅、釋天〕東方、昦天。❷**おほきい**。さかん。〔詩、王風、黍離、傳〕則稱㆓昊天㆒。〔疏〕昊、大貌。❸皓（8－22732）に通ず。〔說文通訓定聲〕昊、荀子賦、皓天不㆑復、憂無㆑疆也、以㆑皓爲㆑之。❹皞（8－22771）に同じ。〔正字通〕皞、昊本字。❺**姓**。〔正字通〕昊、姓。

【昊英】1（カウエイ） 太古の帝名。〔路史〕丹壺書、倉頡一世、柏皇二十世、中央四世、大庭五世、栗陸五世、麗連十一世、軒轅三世、赫胥一世、葛天四世、中盧五世、祝融二世、昊英九世、有巢七世、朱襄三世、陰康二世、無懷六世、凡八十有八世、是爲㆓蟬通之紀㆒。

【昊窯】2（カウエウ） 窯の名。明の萬曆年間に昊十九（浮梁の人）の作つたもの。

【昊昊】3（カウカウ） おほきいさま。さかんなさま。〔爾雅、釋天、昊天、疏〕夏萬物盛壯、其氣昊昊。〔劉禹錫、問大鈞賦〕健而垂㆑精者昊昊。

【昊穹】4（カウキユウ） 上天。〔司馬相如、封禪文〕伊上古之初肇、自㆓昊穹之生㆒㆑民。〔注〕善曰、張揖曰、昊穹、春夏天名、銑曰、昊穹、天也。〔蔡邕、陳太丘碑文〕如何昊穹、既喪㆓斯文㆒。

【昊蒼】5（カウサウ） 大空。天。〔班固、答賓戲〕超㆓忽荒㆒而躐㆓昊蒼㆒。〔注〕善曰、項岱曰、昊蒼、皆天名也。〔嵇康、琴賦〕鬱紛紜以獨茂兮、飛㆓英蕤於昊蒼㆒。〔陸機、演連珠〕明主聿興、不㆑降㆓佐於昊蒼㆒。

【昊天】6（カウテン） ❶天の汎稱。そら。天空。元氣の廣大な意。〔書、堯典〕乃命㆓羲和㆒、欽若㆓昊天㆒。〔傳〕昊天、言㆓元氣廣大㆒。〔詩、周頌、昊天有成命〕昊天有㆓成命㆒。〔箋〕昊天、天大號也。〔荀子、賦〕皓天不㆑復、〔注〕皓、與㆑昊同、昊天、元氣昊大也。〔後漢書、明帝紀〕敬若㆓昊天㆒。❷春の空。〔說文〕昦、春爲㆓昦天㆒。〔詩、王風、黍離、疏〕今尙書歐陽說、春曰㆓昊天㆒、夏曰㆓蒼天㆒。❸夏の空。〔爾雅、釋天〕夏爲㆓昊天㆒。〔注〕言㆓氣皓旰㆒。〔疏〕皓旰、日光出之貌也、言㆓昦日光明皓旰㆒、因名曰㆓昊天㆒也、李巡云、夏、萬物盛壯、其氣昊大、故曰㆓昊天㆒。〔楚辭、王逸、九思、傷時〕惟昊天兮昭靈。〔注〕昊天、夏天

也。〔白虎通、四時〕春曰㆓蒼天㆒、夏曰㆓昊天㆒。❹西方の空。〔淮南子、天文訓〕西方曰㆓昊天㆒。〔注〕西方金白色、故曰㆓昊天㆒。❺東方の空。〔廣雅、釋天〕東方、昊天。

〔昊天塔〕7（カウテンタフ）　元曲選百種中の一。元、朱凱撰。楊延昭が幽州の昊天塔に在り、父の骨を盜み、回つて五台に在つて六郎に遇ふ事を記したもの。其の題目を瓦橋關令公顯神、正名を昊天塔孟良盜骨といふ。〔曲海總目提要〕。

〔昊天上帝〕8（カウテンジヤウテイ）　上帝。天帝。神。宇宙の主宰者。〔周禮、春官、大宗伯〕以㆓禋祀㆒祀㆓昊天上帝㆒、以㆓實柴㆒祀㆓日月星辰㆒。〔左氏、成、十三〕昭告㆓昊天上帝・秦三公・楚三王㆒。

〔昊天大帝〕9（カウテンダイテイ）　道家の神。宋の徽宗は之を尊崇して昊天玉皇上帝と稱した。〔宣和遺事、前集下〕此昊天大帝玉皇之城。

〔昊天罔極〕10（カウテンキハマリナシ）　天は廣大で際限がない。父母の恩德の廣大な喩。〔詩、小雅、蓼莪〕欲㆑報㆓之德㆒、昊天罔㆑極。〔集傳〕言㆓父母之恩如㆑此、欲㆓報㆑之以㆑德、而其恩之大、如㆓天無㆑窮、不㆑知㆔所㆓以爲㆑報也。

〔昊天有成命〕11（カウテンイウセイメイ）　詩經、周頌、清廟之什の篇名。天地を郊祀する歌。一說に、成王を祀る詩。〔詩、周頌、昊天有成命序〕昊天有成命、郊㆓祀天地㆒也。〔集傳〕此詩多道㆓成王之德㆒、疑祀㆓成王㆒之詩也。

【昚】13800

㊀ケイ　ケ　〔集韻〕涓惠切　霽
㊁ケイ　キヤウ　〔集韻〕畎迥切　迥

㊀**姓**。〔通志、氏族略〕昚氏、今臨海有㆓此姓㆒、望出㆓弘農虢略㆒。㊁**あらはれる**。炅(**7－18896**)に同じ。〔集韻〕炅、說文、見也、或作㆑昚。

【⿸𠂆日】13801

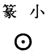
ケツ　厥(**2－2992**)の古字。〔集韻〕厥、⿸𠂆日、厥古作㆑⿸𠂆日。

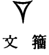
【⿰日亅】13802

ケツ　厥(**2－2992**)の古字。〔集韻〕厥、古作㆑⿰日亅。

【昌】13803

㊀シヤウ　〔集韻〕蚩良切　陽　ㄔㄤ　ch‘ang¹
㊁シヤウ　〔集韻〕尺亮切　漾


小篆


籀文

㊀❶**日の光**。〔說文〕昌、一曰、日光也、詩曰、東方昌矣。〔段注〕齊風、東方明矣、朝既昌矣。〔廣雅、釋言〕昌、光也。❷**あきらか**。〔春秋元命苞〕代㆑殷爲㆓姬昌㆒。〔注〕昌、兩日重見、言㆓明貌㆒。❸**さかん**。〔廣雅、釋詁二〕昌、盛也。〔書、仲虺之誥〕邦乃其昌。〔傳〕國乃昌盛。〔詩、鄭風、丰〕子之昌兮。〔傳〕昌、盛壯貌。〔國語、鄭語〕戎狄必昌。〔注〕昌、盛也。〔楚辭、大招〕人阜昌只。〔注〕昌、熾也。❹**さかえる**。生を遂げる。〔大戴禮、虞戴德〕地事曰㆑昌。〔荀子、禮論〕萬物以昌。〔注〕昌、謂㆔各遂㆓其生㆒也。❺**みめよい**。〔詩、齊風、還〕子之昌兮。〔箋〕昌、佼好貌。〔詩、齊風、猗嗟〕猗嗟昌兮。〔箋〕昌、佼好貌。❻**よろこび**。慶喜。〔左思、蜀都賦〕天帝運㆑期而會㆑昌。〔注〕劉曰、昌、慶也。❼**よいことば**。美言。讜(**10－36168**)に同じ。〔說文〕昌、美言也、从㆑日从㆑曰。〔說文通訓定聲〕昌、字亦作㆑讜。〔書、大禹謨〕禹拜㆓昌言㆒。〔蔡傳〕昌言、盛德之言。〔漢書、王莽傳中〕或貢㆓昌言㆒。〔注〕師古曰、昌、善也。❽**あたる**。當(**7－21890**)に通ず。〔說文通訓定聲〕昌、叚借爲㆑當。〔爾雅、釋詁〕昌、當也。〔書、大禹謨〕禹拜㆓昌言㆒。〔傳〕昌、當也。❾**はじめ**。唱(**2－3765**)に通ず。〔說文通訓定聲〕昌、叚借爲㆑唱。〔廣雅、釋詁一〕昌、始也。❿閶(**11－41367**)に通ず。〔說文通訓定聲〕昌、叚借爲㆑閶。〔白虎通、八風〕昌盍風至、戒㆓收藏㆒也。⓫**みだす**。**みだれる**。襄(**10－34556**)に通ず。〔說文通訓定聲〕昌、叚借爲㆑襄。〔楚辭、離騷〕何桀紂之昌披兮。〔注〕昌披、衣不㆑帶貌。⓬**草の名**。あやめ。昌蒲。〔周禮、天官、醢人〕昌本麋臡。〔注〕昌本、昌蒲根、切㆑之四寸爲㆑菹。〔左氏、僖、三十〕饗有㆓昌歜㆒。〔注〕昌歜、昌蒲菹。⓭**もの**。〔莊子、在宥〕百昌皆生㆓於土㆒。〔釋文〕百昌、猶㆓百物㆒也。⓮**姓**。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕昌氏、風俗通云、黃帝子昌意之後、今嶺南多㆓昌族㆒、望出㆓汝南東海㆒。㊁**となへる**。唱(**2－3765**)に同じ。〔集韻〕唱、說文、導也、亦作㆓倡・昌㆒。

名乘　スケ。ヨ。マサ。ヨシ。アツ。アキ。

解字　會意。日と曰(言ふ)との合字。本義は、よいことば(美言)。日のやうに永久に傳はるよいことばの義。說文が曰の部に入れないで、日の部に入れたのは、日の尊さを重んじたのである。美言が本義で、黨・讜・唱などに假借し、又、光盛の稱に引伸する。段玉裁は、說文の一曰日光也の五字は、恐く魏の時代に妄りに加へたものであらうといふ。▽

（金文）　象形。光を放つ太陽に象り、あきらか・さかん等の意を表はす。

【昌安】1（シヤウアン）　縣名。漢、置く。山東省安丘縣治。〔漢書、地理志下〕高密國、縣五、昌安。

〔昌安堂〕2（シヤウアンダウ）　明、袁褒(**10－34152**‥128)の室名。

【昌意】3（シヤウイ）　黃帝の子。母は正妃、嫘祖。蜀山氏を娶り、顓頊を生む。〔史記、五帝紀〕黃帝娶㆓於西陵之女㆒、是爲㆓嫘祖㆒、嫘祖爲㆓黃帝正妃㆒、生㆓二子㆒、其後皆有㆓天下㆒、其一曰㆓玄囂㆒、云云、其二曰㆓昌意㆒、降居㆓若水㆒、昌意娶㆓蜀山氏女㆒、曰㆓昌僕㆒、生㆓高陽㆒。〔華陽國志〕蜀之先、肇㆓於人皇之際㆒、黃帝爲㆓子昌意㆒娶㆓蜀山氏㆒、後子孫因封焉。

【昌邑】4（シヤウイフ）　❶縣名。㋑秦・漢、置く。故城は山東省金鄕縣の西北。〔漢書、地理志上〕山陽郡、縣二十三、昌邑。㋺宋、置く。漢の都昌縣の地。山東省濰縣の東北。濰河の西岸。〔讀史方輿紀要、山東、萊州府、平度州〕昌邑縣、漢都昌縣地、屬㆓北海郡㆒、晉初屬㆓齊國㆒、尋廢、劉宋復置、仍屬㆓北海郡㆒、後魏因㆑之、隋開皇中、屬㆓濰州㆒、大業初、仍屬㆓北海郡㆒、唐初亦屬㆓濰州㆒、武德六年廢、宋建隆三年、置㆓昌邑縣㆒、屬㆓北海軍㆒、尋屬㆓濰州㆒、金元因㆑之、明洪武九年、改屬㆓萊州府㆒、二十一年、改㆓今屬㆒。〔清史稿、地理志〕山東、萊州府、縣三、昌邑。❷城の名。㋑江西省永修縣の北。〔讀史方輿紀要、江西、南康府、建昌縣〕昌邑城、志云、在㆓縣北六十里㆒、漢昌邑王改㆓封海昏侯㆒時所㆑築城也。㋺江西省新建縣の西北の慨口。遊塘城。〔讀史方輿紀要、江西、南康府、新建縣椒邱城〕昌邑城、在㆓府西北六十里㆒、預章記、漢昌邑王賀、封㆓海昏侯㆒、就㆑國築㆓城於此㆒。❸製鹽場の名。山東省昌邑縣。海鹽を產す。もと富國場といふ。

〔昌邑王〕5（シヤウイフワウ）　漢、劉賀(**2－2224**‥81)の封號。

〔昌邑哀王〕6（シヤウイフアイワウ）　漢、劉髆(**2－2224**‥554)の封諡號。

【昌運】7（シヤウウン）　さかんなまはりあはせ。さかんな時勢。隆世。〔顏延之、拜㆓陵廟㆒作詩〕勑㆑躬慙㆓積素㆒、復與㆓昌運㆒幷。〔白居易、黑龍飮㆑渭賦〕符㆓聖人之昌運㆒、飛而在㆑天。〔蘇軾、郊祀慶㆑成詩〕帝出乘㆓昌運㆒、天心予㆓太平㆒。

【昌英】8（シヤウエイ）　清、鄭杰(**11－39647**‥110)の字。

【昌裔】9（シヤウエイ）　宋、句延慶(**2－3234**‥104)の字。

【昌應】10（シヤウオウ）　清、陳梁(**11－41698**‥595)の號。

【昌翁】11（シヤウヲウ）　元、李思衍(**6－14459**‥1311)の字。

【昌娥】12（シヤウガ）　車螯の異名。おほはまぐり。海蛤。〔正字通〕螯、車螯、海蛤也、殼色紫有㆓斑點㆒、肉可㆑食、俗謌呼㆓昌娥㆒。

【昌江】13（シヤウカウ）　❶川の名。㋑江西省舊浮梁縣の南門外。一名、大河・北河。安徽省祁門縣の天共水の下流、樂安江と會し、やがて鄱江となる。〔讀史方輿紀要、江西、饒州府、浮梁縣〕昌江、源出㆓縣東北婺源・休寧兩縣界山谿中㆒、流經㆓縣東八十里㆒、又西合㆓祁門境內諸溪水㆒、遶㆓城東㆒而南、又

西經二景德鎭北一、而西南流合二樂安江一、入二鄱陽縣境一、爲二鄱江之上游一。㋺源は四川省巫溪縣の北界。東南流して巫山縣の東に至り大江に入る。巫溪（4－8728‥16）に同じ。㋩古の南崖江。上流は樂安河。源は廣東省陵水縣の西北の五指山。海に注ぐ。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府、儋州、昌化縣〕昌江、源出二五指山一、西北流匯二羣川水一、至二縣東南侯村一、分二南北二流一、南江西流經二赤坎村一而南出、會二海潮一成レ港、一名二南崖江一、又名二三家港一、北江北流繞二縣南一、又西流至二泥浦一、與二潮水一會而成レ港、一名二北港一、並入二於海一。㊁縣名。㋑唐、置く。故城は湖南省平江縣の東。〔讀史方輿紀要、湖廣、岳州府〕平江縣、本春秋羅國地、秦爲二羅縣一、漢因レ之、屬二長沙國一、云云、唐又省二羅縣一、入二湘陰一、神龍二年、復分置二昌江縣一、仍屬二岳州一、五代唐、諱二昌爲レ氏、因改曰二平江一、宋因レ之、元元貞初、升爲二平江州一、明洪武二年、復爲レ縣、今僅有二城址一、未レ築レ城。㋺民國、置く。隋の昌化縣の地。廣東省海南島の西邊。

【昌盍】14 シヤウカフ 秋風をいふ。閶闔。〔白虎通、八風〕四十五日、昌盍風至、戒二收藏一也。

【昌岐】15 シヤウキ 清、黃翼升（12－47926‥1339）の字。

【昌其】16 シヤウキ 清、單隆周（2－3993‥327´）の字。

【昌姬】17 シヤウキ 文王をいふ。昌は名。姬は周の姓。〔晉書、烈女傳序〕有娥有婺、廣二隆殷之業一、大姙大姒、衍二昌姬之化一。〔王融、三月三日曲水詩序〕跨二躔昌姬一、韜二軼炎漢一。

【昌期】18 シヤウキ ㊀盛な時期。〔舊唐書、音樂志三〕堂堂聖祖興、赫赫昌期泰。〔盧照鄰、登封大酺歌〕千年聖主應二昌期一、萬國淳風王化基。㊁字號。㋑明、汪廷訥（6－17154‥311）の字。㋺清、李文來（6－14459‥1922）の字。

【昌暉】19 シヤウキ さかんなひかり。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕昌暉在レ陰、柔明將レ進。

【昌祺】20 シヤウキ 明、李禎（廬陵の人）（6－14459‥607）の字。

【昌九】21 シヤウキウ 菖蒲の異名。〔清異錄、草、昌九〕宜春太守虞杲、郡齋植二菖蒲五檻一、次子夢髯翁、自號二昌九一、言三願賜二保養一。

【昌丘】22 シヤウキウ 北側に道の在る丘。道の南にある丘。〔爾雅、釋丘〕途出二其後一、昌丘。〔注〕道出二丘北一。〔疏〕謂下道過二丘北一者上、名二昌丘一。〔郝懿行義疏〕昌、當也、謂二途與一レ丘相當一。

【昌吉】23 シヤウキツ 縣名。清、置く。新疆省迪化縣の西北。昌吉河があるので名づける。

【昌狂】24 シヤウキヤウ みだれくるふ。倡狂。娼狂。〔漢書、趙充國傳〕先零昌狂、侵二漢西疆一。

【昌寓】25 シヤウグウ 上古の人。黃帝の臣。莊子、徐無鬼に擧げる七聖の一人。〔莊子、徐無鬼〕。

【昌化】26 シヤウクワ ㊀筆の神の名。〔瑯嬛記〕筆神又曰二昌化一。〔致虛閣雜俎〕筆神曰二佩阿一、硏神曰二淬妃一、墨神曰二回氏一、紙神曰二尙卿一、筆神又曰二昌化一。㊁縣名。㋑隋、置く。故治は廣東省昌江縣の南。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府、儋州〕昌化縣、漢爲二至來縣一、屬二儋耳郡一、後廢、隋置二昌化縣一、屬二崖州一、唐屬二儋州一、宋因レ之、熙寧六年、省入二宜倫縣一、元豐三年復置、屬二昌化軍一、尋屬二南寧軍一、明屬二儋州縣一、無レ城。〔清史稿、地理志〕廣東、崖州直隸州、縣四、昌化。㋺宋、置く。浙江省於潛縣の西。天目溪の東北岸。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府〕昌化縣、本於潛縣地、唐垂拱二年、爲二紫溪縣地一、云云、宋更二名昌化一、仍屬二杭州一、縣無レ城。〔清史稿、地理志〕浙江、杭州府、縣八、昌化。

【昌化石】27 シヤウクワセキ 昌化縣から產する圖書石。硃砂の如き紅點があり、青紫色で玳瑁の如きものは殊に愛玩される。〔浙江通志〕昌化縣產二圖書石一、紅點如二硃砂一、石有三青紫如二玳瑁一、良可二愛玩一、近則罕得矣。

【昌化郡王】28 シヤウクワグンワウ 唐、白孝德（8－22678‥1262）の封號。

【昌光】29 シヤウクワウ 瑞氣の名。〔河圖稽命徵〕昌光出レ軫、五星聚レ井。〔晉書、天文志〕瑞氣、一曰慶雲、二曰歸雅、三曰昌光。

【昌慶】30 シヤウケイ よろこぶ。よろこび。〔左思、蜀都賦〕天帝運レ期而會レ昌。〔注〕劉曰、昌、慶也。

【昌縣】31 シヤウケン 縣名。漢、置く。侯國。山東省諸城縣の東北。〔漢書、地理志上〕琅邪郡、縣五十一、昌。

【昌言】32 シヤウゲン ㊀ためになるよいことば。誡となるべき語。又、理に當つた言葉。金言。美言。善言。〔書、大禹謨〕禹拜二昌言一曰、俞。〔傳〕昌、當也、以二益言一爲レ當、故拜受而然レ之。〔蔡傳〕昌言、盛德之言。〔陸機、文賦〕患二挈瓶之屢空一、病二昌言之難一レ屬。〔楊炯、老人星賦〕獻二仙壽一兮祝レ堯、奏二昌言一兮拜レ禹。㊁後漢、仲長統が古今及び時俗の行事を論じて著はした書。今、玉函山房輯佚書第八十三冊に採錄する。〔後漢書、仲長統傳〕每下論二說古今一、及中時俗行事上、恆發憤歎息、因著レ論、名曰二昌言一。㊂字號。㋑宋、石揚休（8－24024‥1043）の字。㋺宋、張諤（4－9812‥136）の字。㋩宋、張問（4－9812‥694）の字。㋥宋、梅詢（6－14830‥158）の字。㋭宋、潘鯁（7－18236‥13）の字。㊃ ch'ang^1 yen^2 直言して憚る所なきをいふ。

【昌乎】33 サカンナルカナ さかんなことを歎美する辭。〔呂覽、愼大〕趙氏其昌乎。〔注〕昌、盛也。

【昌湖】34 シヤウコ 明、劉爵（2－2224‥348）の號。

【昌公】35 シヤウコウ 清、方以智（5－13620‥472）の號。

【昌侯】36 シヤウコウ 魚の名。錩魚。諸種の魚と交尾することが宛も娼婦の如くであるからいふ。〔山堂肆考〕錩魚、一名昌侯魚、以下其與二諸魚一匹如レ娼然上、故名。

【昌谷】37 シヤウコク ㊀谷の名。河南省宜陽縣の西。又、昌澗といふ。唐の李賀、此處に居る。〔李賀、昌谷詩〕昌谷五月稻、細青滿二平水一。㊁字號。㋑唐、李賀（6－14459‥101）の號。㋺宋、曹彥約（5－14297‥226）の號。㊂ サカヤ 姓。

【昌谷集】38 シヤウコクシフ 書名。㊀四卷。外集一卷。唐、李賀撰。李長吉歌詩（6－14459‥1718）を見よ。〔四庫提要、集、別集類〕・〔四唐人集、第一冊〕。㊁二十二卷。宋、曹彥約撰。昌谷は其の居た巷の名。〔四庫提要、集、別集類〕。

【昌谷精溪】39 サカヤセイケイ 備中の人。名は碩。字は子儼。號は清溪・無二三道人・莫知其齋・寄々園主人。通稱は五郎。官は津山藩儒・世子侍讀。安政五年歿す、年六十七。著に周易音訓・書集傳音釋・書集傳纂疏・小學書合纂・精溪日記がある。〔佐藤一齋と其門人〕・〔國書解題〕。

【昌國】40 シヤウコク ㊀縣名。㋑漢、置く。古、齊の邑。又、昌城といふ。後、燕に屬し、昭王、樂毅を此に封ず。故城は山東省淄川縣の東北。〔史記、趙世家〕惠文王二十五年、燕周將攻二昌城・高唐一取レ之。〔史記、樂毅傳〕燕昭王封二樂毅於昌國一、號爲二昌國君一。〔漢書、地理志上〕齊郡、縣十二、昌國。㋺後魏、置く。今、山東省臨朐縣。㋩南齊、置く。江蘇省舊江寧府の境。㋥南齊、置く。安南の境。〔讀史方輿紀要、廣西、附考、安南、乂安府、浦陽廢縣〕昌國廢縣、在二府東北一、齊志、宋平郡領二昌國・義懷・綏寧三縣一。㋭後魏、置く。山西省代縣の境。㋬宋、置く。今、浙江省定海縣。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、定海縣〕翁山城、春秋時、越之甬東也、左傳哀二十二年、越滅レ吳、請レ使三吳王居二甬東一、杜預曰、勾章縣東海洲、是也、國語、寡人其達二王于甬勾東一、卽此、唐開元二十六年、始置二翁山縣一、因レ山爲レ名、大歷六年廢、宋熙寧六年、改置二昌國縣一、高宗建炎三年、航レ海幸レ此、金人來追、縣爲レ所レ陷。㊁字號。㋑宋、謝諤（10－35827‥35）の字。㋺元、李邦瑞（6－14459‥1848）の字。

【昌國君】41 シヤウコククン 戰國燕、樂毅（6－15399‥49）の封號。

【昌穀】42 シヤウコク 明、徐禎卿（4－10110‥589）の字。

【昌作】43 シヤウサク さかんにおこる。〔國語、楚語下〕土氣含收、天明昌作。

【昌歜】44 シヤウサン 菖蒲のあへもの。菖蒲葅。〔左氏、僖、三十〕饗有二昌歜白黑形鹽一。〔注〕昌歜、昌蒲葅。〔阮元校勘記〕葉抄・釋文、葅作レ菹。〔疏〕周禮醢人、昌本麋臡、鄭玄云、昌本、昌蒲根、切レ之四寸爲レ菹、彼昌本可二以爲一レ菹、知二此昌歜卽是昌本菹一也、云云、說文云、歜、盛氣怒也、彼檢二書傳一、昌蒲之草無二此別名一、未レ知二其所一レ由也。〔顧炎武杜解補正〕顧氏玉篇有二歡字一、徂敢切、昌蒲葅也、然則傳之昌歡、正合二此字一、而唐人已誤爲レ歜、廣韻亦誤。〔韓愈、送三無本師歸二范陽一詩〕來尋吾何能、無三殊嗜二昌歜一。

【昌山】45 シヤウザン 山名。㊀江西省分宜縣の西。〔袁州府志、山川考、分宜縣〕昌山、在二縣西二十里一、山勢雄踞、橫二鎖江流一、而袁山出、峽間險、嘗覆レ

舟、舊名傷山、後改㆓今名㆒、又名㆓昌山峽㆒。❷廣東省樂昌縣の東。〔讀史方輿紀要、廣東、韶州府、樂昌縣〕昌山、有㆓二石山㆒相連、上小下大、如㆓昌字㆒、舊產㆓磬石及紫竹㆒、可㆑爲㆓樂器㆒、縣以㆓此山㆒名。

【昌士】46 シヤウシ 五代閩、鄭良士(**11－39647**‥572)の初名。

【昌之】47 シヤウシ 字號。❶宋、趙昌(**10－37171**‥199)の字。❷明、吳昌(**2－3365**‥211)の字。

【昌志】48 シヤウシ 壯んな心。〔鮑照、苦熱行〕生軀蹈㆓死地㆒、昌志登㆓禍機㆒。

【昌熾】49 シヤウシ さかんなこと。昌盛。〔詩、魯頌、閟宮〕俾㆓爾昌而熾㆒、俾㆓爾壽而富㆒。〔說苑、建本〕夫穀者、國家所㆓以昌熾㆒、士女所㆓以姣好㆒。〔後漢書、西南夷、莋都夷傳〕願㆓主長壽、子孫昌熾㆒。

【昌時】50 シヤウジ ❶太平の世。文明の世。明時。〔劉攽、知㆓亳州㆒謝上表〕粤塵㆓仕路㆒、不㆑棄㆓昌時㆒。❷字號。㋑唐、李拯(**6－14459**‥462)の字。㋺遼、楊晳(**6－15112**‥250)の字。

【昌辭】51 シヤウジ 立派な文章。〔揚雄、反離騷〕圖㆑纍承㆓彼洪族㆒兮、又覽㆓纍之昌辭㆒。

【昌州】52 シヤウシウ 州名。❶西魏、置く。河南省泚源縣。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府〕唐州、漢置㆓比陽縣㆒、屬㆓南陽郡㆒、後漢因㆑之、晉屬㆓南陽國㆒、後漢亦曰㆓比陽縣㆒、屬㆓新野郡㆒、尋置㆓東荊州治㆒焉、西魏改㆓昌州㆒。❷唐、置く。四川省大足縣の東南。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府〕大足縣、本合州巴川縣地、唐乾元二年、置㆓大足縣㆒、屬㆓昌州㆒、光啓初、移㆓昌州治此㆒、宋因㆑之。❸唐、置く。羈縻州。舊京兆の境。❹金、置く。河北省舊宣化府の境。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、開平故衞〕寶昌城、金置㆓昌州㆒、尋改爲㆓建昌縣㆒、屬㆓桓州㆒、明昌七年、復置㆓昌州㆒、屬㆓德興府㆒、元曰㆓寶昌州㆒、屬㆓隆興路㆒、明初廢。❺元、置く。四川省西昌縣の南。〔讀史方輿紀要、四川〕昌州長官司、漢卭都縣地、云云、元至元九年降附、十二年、改㆓屈部㆒爲㆓昌州㆒、屬㆓定昌路㆒。〔清史稿、地理志〕四川、寧遠府、土司十一、昌州長官司。❻元、置く。朝鮮平壤の西北。

【昌昌】53 シヤウシヤウ さかんなさま。〔李商隱、春風詩〕春風雖㆓自好㆒、春物太昌昌。

【昌城】54 シヤウジヤウ 縣名。❶漢、置く。河北省灤縣の西南。〔漢書、地理志下〕右北平郡、縣十六、昌城。❷漢の昌成縣の訛。❸西魏、置く。四川省三台縣。〔讀史方輿紀要、四川、潼川州〕廢郪縣、今州治、梁始置㆓新州㆒、併㆓郪縣㆒入㆓武城縣㆒、西魏又改曰㆓昌城㆒。

〔昌城村〕55 シヤウジヤウソン 地名。山東省諸城縣の東北。昌縣の故城。〔青州府志〕昌城、在㆓諸城縣東北二十五里㆒、今昌城村也。

【昌壽】56 シヤウジユ ❶北宋の哲宗の時、遼の道宗(耶律洪基)の年號「壽昌」の一稱。一に盛泰に作り、遼史は誤って壽隆に作る。(1095－1101) ❷金、時立愛(**5－13890**‥473)の字。

【昌儒】57 シヤウジユ 宋、蕭世京(**9－32012**‥417)の字。

【昌叔】58 シヤウシユク 宋、穆衍(**8－25251**‥5)の字。

【昌緒】59 シヤウシヨ 明、蕭纘(**9－32012**‥141)の字。

【昌松】60 シヤウシヨウ 縣名。後涼、置く。甘肅省古浪縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、莊浪衞〕蒼松廢縣、漢縣屬㆓武威郡㆒、後漢作㆓倉松㆒、晉因㆑之、云云、志云、張氏置㆓昌松郡㆒、後涼呂光、因㆓郭麐之讖㆒、改爲㆓東張掖郡㆒、後魏復置㆓昌松郡㆒、後周郡廢、爲㆓昌松縣㆒、隋開皇初、改㆑縣曰㆓永世㆒、後復曰㆓昌松㆒、屬㆓涼州㆒。

【昌水】61 シヤウスイ 川の名。源は湖南省平江縣の東北、幕阜山の西。汨水に注ぐ。又、梅仙水といふ。〔讀史方輿紀要、湖廣、岳州府、平江縣〕昌水、出㆓幕阜山㆒、西南流、山澗中有㆓巨石㆒、水繞㆓其旁㆒、形類㆓昌字㆒、因名、又南合㆓汨水㆒。

【昌瑞】62 シヤウズイ 盛になるしるし。〔論衡、訂鬼〕國且㆑昌、昌瑞到矣。

【昌世】63 シヤウセイ ❶榮えるみよ。昌平の世。盛世。〔江淹、蕭驃騎讓㆓太尉增封㆒第二表〕臣官逢㆓昌世㆒、運漸時明。❷字號。㋑宋、魏衍(**12－45872**‥5)の字。㋺明、王越(**7－20823**‥72)の字。

【昌成】64 シヤウセイ 縣名。漢、置く。もと趙の邑。河北省冀縣の西北。昌城。〔史記、趙世家〕孝成王十年、燕攻㆓昌壯㆒、五月拔㆑之。〔注〕集解曰、徐廣曰、一作㆑祉、正義曰、壯字誤、當㆑作㆑城、括地志云、昌城故城、在㆓冀州信都縣西北五里㆒、此時屬㆑趙、故攻㆑之也。〔漢書、地理志下〕信都國、縣十七、昌成。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、冀州〕昌成城、故趙邑、史記趙孝成王十年、燕攻㆓昌城㆒拔㆑之、漢置㆑縣屬㆓信都國㆒、宣帝封㆓廣川繆王子元㆒爲㆓侯邑㆒、後漢初、昌成人據㆑城、以迎㆓光武㆒、永平初、改爲㆓阜城縣㆒、晉省入㆓信都㆒、水經注、堂陽縣北三十里、有㆓昌成城㆒、杜佑曰、今城在㆓信都縣北㆒。

【昌盛】65 シヤウセイ さかん。隆盛。繁昌。〔書、仲虺之誥〕邦乃其昌。〔傳〕國乃昌盛。〔詩、齊風、雞鳴〕朝既昌矣。〔傳〕朝已昌盛、則君聽㆑朝。〔後漢書、襄楷傳〕孝文使㆓趙談參乘㆒、而子孫昌盛。〔南史、齊高帝紀〕子孫當㆓昌盛㆒。

【昌紹】66 シヤウセウ 明、蕭纘(**9－32012**‥141)の字。

【昌祖】67 シヤウソ 金、石抹榮(**8－24024**‥737)の字。

【昌鼠】68 シヤウソ 魚の名。鯧魚の異名。〔本草、鯧魚〕釋名、鯧魚・鯸魚・昌鼠、時珍曰、昌美也、以㆑味名。

【昌宗】69 シヤウソウ 宋、李餘慶(**6－14459**‥1971)の字。

【昌泰】70 シヤウタイ 年號。❶元初、世祖の時、陳弔眼の僭年號。(1281) ❷第六十代醍醐天皇の御時。(898－901)

【昌大】71 シヤウダイ さかんで大きい。盛大。〔詩、魯頌、閟宮〕俾㆓爾昌而大㆒、俾㆓爾耆而艾㆒。〔國語、楚語上〕以㆓金石匏竹之昌大囂庶㆒爲㆑樂。

【昌代】72 シヤウダイ 昌世(63)に同じ。

【昌達】73 シヤウタツ 唐の高祖の時、楚の朱粲の僭年號。(618－619)

【昌朝】74 シヤウテウ ❶當代の朝廷をいふ。熙朝。〔鮑照、爲㆓柳令㆒讓㆓驃騎㆒表〕夙當㆓昌朝㆒、早值㆓恩洽㆒。〔張說、皇帝降誕日集賢殿賜宴詩〕陰風吹㆓大澤㆒、夢日照㆓昌朝㆒。❷宋、陽枋(**11－41725**‥213)の初名。❸明、汪廷訥(**6－17154**‥311)の字。

【昌都】75 シヤウト 縣名。民國、置く。西康省察雅縣の西北。古名を喀木といひ、三藏の頭藏である。

【昌圖】76 シヤウト ❶府名。清、置く。遼源州及び奉化・懷德・康平の三縣を管轄す。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕奉天、昌圖府、領㆓州一、縣三㆒、遼源州、奉化、懷德、康平。❷縣名。民國、置く。滿洲遼寧省開源縣の北。遼河の東。❸晉、梅盛(**6－14830**‥172)の字。

【昌寧】77 シヤウネイ ❶湖の名。又、昌寧海といふ。寧夏省古阿拉善額魯特旗の境內。蠻名は沙拉泊。❷縣名。雲南省順寧縣の西北。瀾滄江の西岸。

【昌年】78 シヤウネン 榮えゆく年。太平の年。〔舊唐書、音樂志三〕已奏㆓黃鐘㆒歌㆓大呂㆒、還符㆓寶歷㆒祚㆓昌年㆒。〔閻朝隱、夜宴㆓安樂公主新宅㆒詩〕鳳凰鳴舞樂㆓昌年㆒、蠟炬開㆑花夜管絃。

【昌伯】79 シヤウハク 字號。❶明、吳昌(**2－3365**‥211)の字。❷清、郭世隆(**11－39474**‥350)の字。

【昌披】80 シヤウヒ 昌被に同じ。

【昌被】81 シヤウヒ 衣服を著て帶をしめない形容。だらしのないさま。猖披。倡披。裮被。昌被。〔楚辭、離騷〕何桀紂之昌被兮、夫唯捷徑以窘步。〔注〕昌被、衣不㆑帶之貌。〔集注〕昌、一作㆑猖、被、一作㆑披。

【昌阜】82 シヨウフ さかえる。〔左氏、襄、二十六〕韓氏其昌㆓阜于晉㆒乎、辭不㆑失㆑舊。〔注〕阜、大也。〔潘尼、釋奠頌〕純嘏自㆑晉、永世昌阜。

【昌符】83 シヤウフ ❶未來記。昌籙(114)に同じ。〔蕭子雲、玄圃園講賦〕惟玉帛之光盛、信昌符之在焉。❷明初、太祖の時、越(安南)廢帝(陳晛)の年號。(1377－1388)

【昌富】84 シヤウフ さかえとむ。〔易林、乾之第一、離〕充㆓滿帝室㆒、家國昌富。

【昌武】85 シヤウブ ❶五胡十六國の夏(大夏)の世祖武烈帝(赫連勃勃)の年號。(418－419) ❷縣名。漢、置く。〔漢書、地理志下〕膠東國、縣八、昌武。❸宋、李宗諤(**6－14459**‥1621)の字。

【昌蒲】86 シヤウブ 草の名。菖蒲(**9－31174**‥2)に同じ。〔周禮、天官、醢人、昌本、注〕昌本、昌蒲根。

【昌文】87 シヤウブン 清、丘士任(**1－33**‥141)の字。

【昌平】88 シヤウヘイ ❶國運がさかんで世のたひらかなこと。承平(**5－11852**‥192)・升平(**2－2702**‥96)の❶に同じ。❷州名。明、置く。民國、縣に改む。河北省に屬す。〔清史稿、地理志〕直隸、順天府、州五、昌平州。❸縣名。㋑漢、置く。河北省北京市の北。居庸關の南口に當り、北京北面第一の要隘なり。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、昌平

州〕昌平廢縣、本漢舊縣、屬二上谷郡一、後漢初、寇恂至二昌平一、襲二殺邯鄲使者一、奪二其軍一、又耿弇走二昌平一、就二其父況一、建武中、盧芳入朝、南及二昌平一、是也。㋺三國吳、置く。廣西省横縣。〔讀史方輿紀要、廣西、南寧府、横州〕寧浦廢縣、今州治、漢鬱林郡廣鬱縣地、吳置二昌平縣一。❹城の名。山東省曲阜縣の東南。孔子の生れた處。〔左氏、僖、二十九〕介葛盧來朝、舍二于昌衍之上一。〔注〕魯縣東南有二昌平城一。〔史記、孔子世家〕孔子生二魯昌平鄉陬邑一。❺東晉の時代、五胡十六國の一、西燕の段隨の年號。(386)

【昌平學】89 シヤウヘイガク 昌平黌に同じ。〔鹽谷宕陰、送二安井仲平東遊一序〕歲之甲申、來入二昌平學一。

【昌平黌】90 シヤウヘイクワウ 昌平坂學問所の一名。江戸湯島に在り、德川幕府の學問所。元祿三年、忍岡から移し、孔子の鄉の名に因んで昌平と改む。茗黌。昌平坂學問所を見よ。

【昌平紋】91 シヤウヘイモン 切附け紋をいふ。

【昌平叢書】92 シヤウヘイソウシヨ 叢書の名。二百四十六冊。目錄一冊。昌平坂學問所に於て刊行した書籍中、板木の殘存してゐるものを刊行したもの。第二—四冊、周易本義辯證五卷（清、惠棟）。第五—十冊、書集傳纂疏六卷（元、陳櫟）。第十一—十五冊、書傳輯錄纂注六卷（元、董鼎）。第十六—二十三冊、詩集傳名物鈔八卷（元、許謙）。第二十四—三十二冊、禮記集說補正三十八卷（清、納蘭成德）。第三十三—三十六冊、大戴禮記十三卷（漢、戴德）。第三十七—四十冊、大戴禮記補注十三卷（清、孔廣森）・春秋年表。第四十一冊、春秋名號歸一圖二卷（五代、馮繼先）。第四十二—四十四冊、春秋左氏傳補注十卷（元、趙汸）。第四十五冊、四書章句集注附攷四卷（清、吳志忠）。第四十六・四十七冊、字學七種二卷（李祕園）。第四十八—五十一冊、伊洛淵源錄十四卷（宋、朱熹）。第五十二冊、自號錄一卷（宋、徐光溥）。第五十三—五十六冊、平山堂圖志十卷（清、趙之壁）。第五十七冊、漢官舊儀二卷（漢、衞宏）。第五十八—六十一冊、救荒活民補遺書二卷（宋、董煟）。第六十二冊、石經考一卷（清、萬斯同）。第六十三—六十五冊、新書十卷（漢、賈誼）。第六十六冊、傅子一卷（晉、傅玄）。第六十七冊、迂書一卷（宋、司馬光）。第六十八冊、晁氏儒言一卷（宋、晁說之）。第六十九冊、童蒙訓三卷（宋、呂本中）。第七十・七十一冊、程氏家塾讀書分季日程三卷（元、程端禮）。第七十二冊、大明仁孝皇后內訓一卷（明、仁孝后）。第七十三冊、女訓一卷（明、蔣后）。第七十四・七十五冊、六韜一卷（周、呂望）。第七十六冊、孫子三卷（周、孫武）。第七十七冊、吳子二卷（周、吳起）。第七十八冊、司馬法三卷（齊、司馬穰苴）。第七十九冊、晁氏客語一卷（宋、晁說之）。第八十冊、洞天清祿集一卷（宋、趙希鵠）。第八十一—九十冊、文選錦字錄二十一卷（明、淩廸知輯）。第九十一冊、方言藻一卷（清、李調元）。第九十二・九十三冊、老子道德經攷異二卷（清、畢沅）。第九十四冊、朱子周易參同契考異一卷（宋、朱熹）。第九十五—九十八冊、學蔀通辨十二卷（明、陳建）。第九十九・一百冊、太平清話二卷（明、陳繼儒）。第一百一—一百三冊、訂譌雜錄十卷（清、胡鳴玉）。第一百四—一百七冊、韋蘇州集十卷（唐、韋應物）。第一百八—一百十九冊、事物異名錄十二卷（清、厲荃輯）。第一百二十—一百二十五冊、韓文五十卷（唐、韓愈）。第一百二十六—一百三十一冊、柳文四十七卷（唐、柳宗元）。第一百三十二—一百三十六冊、毘陵集二十卷（唐、獨孤及）。第一百三十七—一百三十九冊、唐李長吉歌詩四卷（唐、李賀）。第一百四十—一百四十三冊、李文十八卷（唐、李翺）。第一百四十四—一百四十六冊、唐皮日休文藪十卷（唐、皮日休）。第一百四十七—一百五十四冊、王荆文公詩五十卷（宋、李壁）。第一百五十五—一百六十一冊、王荆公唐百家詩選二十卷（宋、王安石編）。第一百六十二冊、衆妙集一卷（宋、趙師秀編）。第一百六十三冊、藏海詩話一卷（宋、吳可）。第一百六十四冊、誠齋詩話一卷（宋、楊萬里）。第一百六十五—一百七十一冊、昭代選屑三十卷（明、李本緯輯）。第一百七十二冊、琴操一卷（漢、蔡邕）。第一百七十三冊、文選心訣一卷（元、虞集）。第一百七十四—一百七十八冊、宋大家曾文定公文抄十卷（明、茅坤編）。第一百七十九—一百八十八冊、元詩自攜二十一卷（清、姚廷謙輯）。第一百八十九—二百二冊、宋大家歐陽文忠公文抄三十一卷（明、茅坤編）。第二百三—二百六冊、宋大家蘇文公抄十卷（明、茅坤編）。第二百七—二百十八冊、宋大家蘇文忠公文抄二十八卷（明、茅坤編）。第二百十九—二百二十六冊、宋大家蘇文定公文抄二十卷（明、茅坤編）。第二百二十七冊、孝經鄭注一卷（漢、鄭玄）。第二百二十八冊、黃山領要錄二卷（清、汪洪度）。第二百二十九・二百三十冊、宋高僧詩選四卷（宋、陳起編）。第二百三十一—二百四十冊、彙刻書目十卷（清、顧修）。第二百四十一—二百四十六冊、彙刻書目外集六卷（松澤老泉）。

【昌平坂學問所】93 シヤウヘイザカガクモンジヨ 元祿三年、德川綱吉が、湯島臺に大成殿を造營して、忍岡の聖堂を遷さしめ、同七月、林家にあつた孔子の像、四配の像を之に遷し、新に十哲の神主を設け、狩野洞雲をして七十二賢及び先儒の像を畫かしめ、綱吉自身も殿額を書き、同時に弘文館を此の傍へ移し、幕府初めての官立學校とした。公には昌平坂學問所或は昌平坂聖堂と稱し、普通には湯島聖堂・昌平黌・茗黌、又は單に聖堂と稱した。同年十二月、孔廟も作つた。後屢〻火災に遭つて其の規模が縮小され、林家にも人物無く衰微の極に達した。家齊の時、白河樂翁が柴野栗山・古賀精里・尾藤二州を擧用して、學制を一變し、全然面目を新にして時勢に適應せしめることとした。目的は勿論官吏養成にある。學生は總て旗本・家人等の武士階級に屬するもの、並に林氏以下の儒者の子弟たることを要し、定員は七十四人で、寄宿寮に收容し、總ての學費は官給、課目は四書・五經・三禮を教へる經科、中國の正史・編年・記事本末等を教へる漢土史科、六國史・三鏡・日本史、德川家の記錄等を教へる本朝史科、唐律・明律・本朝の律令格式等を教へる刑政科、並に詩文科の五がある。素讀・釋義・輪講・質問等に依つて講義をし、入學試驗の外、毎月、春秋、夏冬それぞれ異つた試驗を行つた。

【昌父】94 ホシヤウ 宋、趙蕃（**10－37171**・・311）の字。

【昌輔】95 ホシヤウ 宋、王佐才（**7－20823**・・415）の❷㋑の字。

【昌僕】95′ シヤウボク 上古の人。顓頊の母。帝王世紀には景僕に作り、路史は景嫫に作る。〔史記、五帝紀〕昌意娶二蜀山氏女一、曰二昌僕一、生二高陽一。〔注〕正義曰、帝顓頊高陽氏、黃帝之孫、昌意之子、母曰二昌僕一、亦謂二之女樞一。河圖云、瑤光如レ蜺、貫レ月正白、感二女樞于幽房之宮一、生二顓頊一。

【昌本】96 シヤウホン しやうぶの根。藥用に供す。〔周禮、天官、醢人〕朝事之豆、其實韭菹醓醢、昌本麋臡。〔注〕昌本、昌蒲根、切レ之四寸爲レ菹。〔儀禮、公食大夫禮〕韭菹、以東醓醢昌本。〔後漢書、馬融傳〕昌本深蒲。〔注〕昌本、昌蒲根也。

【昌明】97 シヤウメイ ❶蜀茶の名。〔白居易、春盡日詩〕醉對二數叢紅芍藥一、渴嘗二一盌綠昌明一。〔注〕蜀茶之名也。❷晉、孝武帝の字。司馬曜（**2－3257**・・220）を見よ。

【昌明童子】98 シヤウメイドウシ 川烏頭の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕昌明童子、川烏頭。

【昌門】99 シヤウモン 吳王闔閭が、天の閶闔門に象つて立てた門。閶門。〔國語、越語下、以上二姑蘇一注〕姑蘇、宮之臺也、在二吳昌門外一、近レ湖。〔陸機、吳趨行〕吳趨自有レ始、請從二閶門一起。〔韋應物、送二豆盧策秀才一詩〕子有二京師遊一、始發吳昌門。

【昌羊】100 シヤウヤウ しやうぶ。〔淮南子、說林訓〕昌羊去二蚤蝨一而來二蛉窮一。〔注〕昌羊、昌蒲也。〔淮南子、泰族訓〕昌羊去二蚤虱一而人弗レ席者、爲三其來二蛉窮一也。

【昌陽】101 シヤウヤウ ❶菖蒲の一種。白菖。久しく之を服用すれば、身が輕くなつて齡を延べるといふ。〔廣雅、釋草〕昌陽、菖蒲也。〔韓愈、進學解〕訾下醫師以二昌陽一引上年、欲レ進二其豨苓一也。❷縣名。㋑漢、置く。山東省文登縣の西南。晉初廢し、元康八年、復置く。山東省萊陽縣の東南。〔漢書、地理志上〕東萊郡、縣十七、昌陽。〔讀史方輿紀要、登州府〕萊陽縣、漢昌陽縣地、屬二東萊郡一、後漢因レ之、晉初廢、元康八年、復置屬二長廣郡一、劉宋及後魏因レ之、高齊郡廢屬二東萊郡一、隋屬二萊州一、唐因レ之、五代唐諱レ昌、改曰二萊陽縣一、仍屬二萊州一、明洪武九年、改二今屬一。㋺漢、置く。侯國。安

徽省の境。〔漢書、地理志上〕臨淮郡、縣二十九、昌陽。〔注〕侯國。

【昌容】102 シヤウヨウ ❶古の仙人の名。又、常山道人といふ。自ら殷王子と稱し、蓬虆の根を食うて、上下に往來すること二百餘年、顏色壯者の如くであつたといふ。〔列仙傳〕昌容者、常山道人也、自稱殷王子、食蓬虆根、見之者二百餘年、而顏色如二十許人。〔左思、魏都賦〕昌容練色。❷唐、蘇瓌(**9－32427**‥42)の字。

【昌樂】103 シヤウラク ❶さかえたのしむ。〔史記、匈奴傳〕寢兵休卒養馬、世世昌樂。❷縣名。㋑後魏、置く。故城は河北省南樂縣の西北。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、南樂縣〕昌樂城、後魏昌樂縣治也、隋省、唐武德五年、太子建成等、擊劉黑闥於魏州、至昌樂。㋺唐、置く。故城は四川省宣漢縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府、達州、東鄉縣、宣漢廢縣〕下蒲廢縣在縣西、唐武德三年、析東鄉縣、置下蒲昌樂二縣。㋩宋、置く。山東省濰縣の西。古の營丘。縣城は瀰河の上流に瀕す。〔讀史方輿紀要、山東、青州府〕昌樂縣、古營丘地、漢爲營陵縣地、北海郡治焉、云云、宋乾德二年、置安仁縣、尋改昌樂縣、屬濰州、金因之、元至元三年、縣省、明初復置、屬青州府。〔清史稿、地理志〕山東、青州府、縣十一、昌樂。

【昌慮】104 シヤウロ 縣名。漢、置く。隋、廢す。故城は山東省滕縣の東南。〔漢書、地理志上〕東海郡、縣三十八、昌慮。〔注〕師古曰、慮、音盧。

【昌隆】105 シヤウリユウ さかんなこと。隆昌(**11－41746**‥67)の❶に同じ。

【昌陵】106 シヤウリヨウ ❶縣名。漢、置く。陝西省臨潼縣の東。〔關中記〕成帝初、延陵城邑已成、言事者以爲不便、乃更造昌陵、取土東山、與粟同價、數年不成、谷永等議仍延陵。❷清の仁宗の陵名。河北省易縣の永寧山。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制一〕泰陵・泰東陵・昌陵・昌西陵・慕陵・慕東陵爲西陵、在易州永寧山。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制二〕仁宗睿皇帝陵爲昌陵。

【昌黎】107 シヤウレイ ❶唐の韓愈の封號。〔宋史、禮志八〕熙寧七年、詔如禮部議、韓愈封昌黎伯。❷郡名。㋑三國魏、置く。滿洲熱河省淩源縣の境。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、大寧衞〕昌黎城、漢置交黎縣、屬遼西郡、東部都尉治焉、後漢曰昌黎縣、安帝置遼東屬國都尉治此、魏正始五年、鮮卑內附、置昌黎郡、晉因之、又爲平州治。㋺隋、置く。河北省易縣。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府〕易州、隋初曰昌黎郡。❸縣名。㋑後漢、置く。滿洲熱河省淩源縣。❷の㋑を見よ。〔漢書、地理志下〕遼西郡、交黎。〔注〕應劭曰、今昌黎。〔補注〕昌遼、卽昌黎、遼黎雙聲變轉、後漢書安帝紀、作夫黎、鮮卑傳作扶黎、夫扶一字、明天乃夫之誤、交黎改夫黎、又改昌黎、遼黎一字、故續志云、昌遼、故夫遼。㋺唐、置く。河北省盧龍縣の東南。京山鐵路に沿ふ。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府〕昌黎縣、漢置交黎縣、屬遼西郡、後漢改曰昌黎、其地在今廢營州境、五代梁末、契丹以定州俘戶、置廣甯縣於故柳城縣境、兼置營州鄰海軍、後徙縣治此、屬平州、金大定二十九年、改爲昌黎縣、元至元七年省、十二年、復置屬灤州、尋屬永平路。〔清史稿、地理志〕直隸、永平府、縣六、昌黎。

【昌黎集】108 シヤウレイシフ 書名。四十卷。外集十卷。唐、韓愈撰。一に韓文ともいふ。詩文集。〔四部叢刊、第六百七十八－六百八十五冊〕。

【昌黎史禍】109 シヤウレイシクワ 唐の韓愈が史官の職に居つて、天刑人禍を懼れ、歷史を書かなかつた故事。〔柳宗元、與韓愈論史官書〕又言不有人禍、則有天刑、若以罪夫前古之爲史者、然亦甚惑、凡居其位、思直其道、道苟直、雖死不可回也、如回之、莫若亟去其位、孔子之困于魯衞陳宋蔡齊楚者、其時暗、諸侯不能以也、其不遇而死、不以作春秋故也、當其時、雖不作春秋、孔子猶不遇而死也、若周公史佚、雖紀言書事、猶遇且顯也、又不得以春秋爲孔子累、范曄悖亂、雖不爲史、其族亦赤、司馬遷觸天子喜怒、班固不檢下、崔浩沽其直、以鬭暴虜、皆非中道、左丘明以疾盲、出於不幸、子夏不爲史亦盲、不可以是爲戒、其餘皆不出此、是退之宜守中道、不忘其直、無以他事自恐、退之之恐、唯在不直不得中道、刑禍非所恐也。〔千百年眼、八〕昌黎之避史筆也、柳州諍之是矣、然其時故有說焉、淮西碑則以爲失實而陪、而段文昌改撰之、順宗實錄則以爲不稱而廢、而常處厚續選之、毛穎傳、足繼太史、迺當時誚其滑稽、裴晉公書、後世訾其紕繆、使退之而任史、其禍變當有甚此者。

【昌黎先生】110 シヤウレイセンセイ 唐、韓愈(**12－43159**‥220)の尊稱。

【昌齡】111 シヤウレイ ❶清、錢寶甫(**11－40563**‥419)の原名。❷字號。㋑宋、孫錫(**3－6987**‥195)の字。㋺元、蘇大年(**9－32427**‥259)の字。

【昌曆】112 シヤウレキ 盛な時運。昭代。昌歷。〔張仲素、稼如雲賦〕運璿衡之冥數、煥玉燭而昌歷。〔謝朓、鼓吹曲〕二儀啓昌歷、三陽膺慶期。〔王融、聖君曲、元會曲〕聖君應昌曆、景祚啓休期。

【昌歷】113 シヤウレキ 昌曆に同じ。〔韓愈、爲裴相公讓官表〕啓中興之宏圖、當太平之昌歷。

【昌籙】114 シヤウロク 豫言を書いたもの。未來記。〔沈佺期、移禁司刑詩〕天子開昌籙、羣生偶大爐。

【昌義之】115 シヤウギシ 梁、烏江の人。謚は烈。魏軍と戰つて功をたつ。官は護軍將軍。〔梁書、十八〕・〔南史、五十五〕。

【昌五城】116 シヤウゴジヤウ 城の名。滿洲黑龍江省肇東縣治。民國、改めて肇東縣とす。

【昌潤渠】117 シヤウジユンキヨ 運河の名。甘肅省平羅縣の東。

【昌西陵】118 シヤウセイリヨウ 清の孝和睿皇后の陵の名。河北省易縣の永寧山。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制一〕泰陵・泰東陵・昌陵・昌西陵・慕陵・慕東陵爲西陵、在易州永寧山。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制二〕孝和睿皇后陵、爲昌西陵。

【昍】13804

ケン クワン 〔集韻〕許元切 元

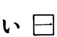
【明】13805

㊀メイ ミヤウ 〔集韻〕眉兵切 ㄇㄧㄥˊ 庚 ming²

㊁マウ ミヤウ 〔集韻〕莫更切 敬

唐ミン

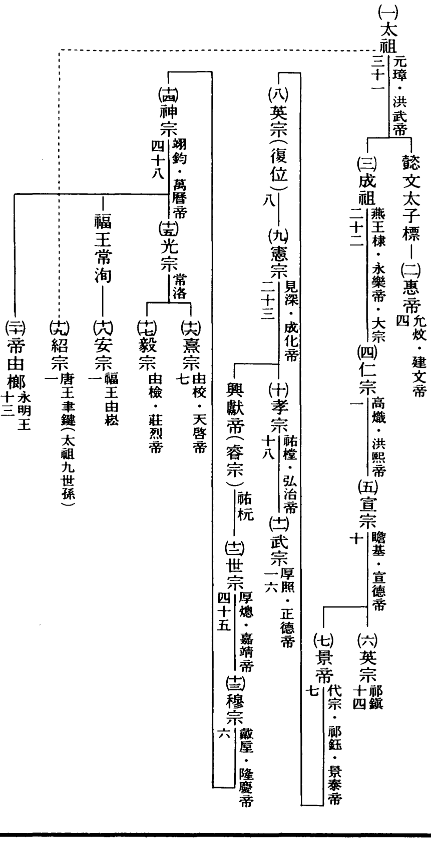
小篆



古文

㊀❶あきらか。あかるい。㋑てる。かがやく。朙(**5－14366**)に同じ。〔說文〕朙、照也、从月囧、明、古文从日。〔書、堯典〕欽明文思。〔鄭注〕照臨四方、謂之明。〔詩、大雅、皇矣〕其德克明。〔傳〕照臨四方曰明。〔周禮、考工記、函人〕擧之而豐則明。〔注〕明、有光耀。〔禮、樂記〕其德克明。〔注〕照臨四方曰明。〔左氏、昭、二十八〕照臨四方曰明。㋺あらはれる。顯著。〔易、繫辭下〕以通神明之德。〔九家注〕著見謂之明。〔禮、中庸〕明則著。〔注〕明、著之顯著也。㋩はつきりする。〔陳琳、爲袁紹檄豫州文〕此則大臣立權之明表也。〔注〕善曰、明表、謂明白之表儀也。㋥きよい。いさぎよい。〔禮、曲禮下〕稷曰明粢。〔疏〕明、白也。〔禮、中庸〕齊明盛服。〔注〕明、猶潔也。㋭たしか。〔戰國、齊策〕此不叛寡人明也。〔注〕明、審也。㋬秩序がある。すぢがたつ。〔爾雅、釋詁〕明、成也。〔淮南子、時則訓〕天地乃明。〔注〕明、理也。〔魏志、汪式傳〕萬品以明。㋣そなはる。〔詩、小雅、楚茨〕祀事孔明。〔箋〕明、猶備也。㋠めざとい。よく見える。〔書、洪範〕視曰明。〔莊子、外物〕目徹曰明。〔管子、宙合〕見察謂之明。〔淮南子、兵略訓〕見人所不見、謂之明。㋷さとい。かしこい。〔廣雅、釋詁一〕明、通

也。〔易、大有〕明辨晳也。〔注〕明、猶㆑才也。〔左氏、文、十八〕明允篤誠。〔疏〕明者、達也、曉㆓解事務㆒、照㆓見幽微㆒也。〔韓非子、難四〕知㆑微之謂㆑明。❷**あきらかにする。**㋑あらはす。〔禮、郊特牲〕郊所㆔以明㆓天道㆒也。〔注〕謂㆓則㆑之以示㆑人也。〔禮、大學〕在㆑明㆓明德㆒。〔注〕明㆓明德㆒、謂㆔顯㆓明其至德㆒也。〔國語、晉語四〕明㆓賢良㆒。〔注〕明、顯也。㋺たつとぶ。〔禮、大傳〕明㆓大宗㆒也。〔注〕明、猶㆑尊也。〔禮、禮運〕故君者所㆑明也。〔注〕明、猶㆑尊也。㋩しる。さとる。きはめる。〔易、乾〕大明㆓終始㆒。〔呂覽、盡數〕因㆑智而明㆑之。〔注〕明、智也。㋥わかつ。〔禮、祭法〕黃帝正㆑名、百物以明。〔注〕明、謂㆑使㆓之衣服有㆑章也。〔禮、明堂位〕明堂也者、明㆓諸侯之尊卑㆒也。❸**あきらかに。**はつきりと。〔左氏、桓、二〕以明㆓示百官㆒。❹**あける。**夜がしらむ。〔詩、齊風、雞鳴〕東方明矣。❺**よあけ。**あけがた。〔書、堯典〕日中星鳥以殷㆓仲春㆒、疏〕日未㆑出前二刻半爲㆑明。〔陸倕、新漏刻銘序〕昏旦之刻、注〕善曰、日出前漏三刻爲㆑明。〔漢書、梁丘賀傳〕待㆑明而入。❻**あけて。**つぎ。〔論語、微子〕明日子路行以告。❼**ひる。**日中。〔禮、祭義〕以別㆓幽明㆒。〔注〕幽明、謂㆓日照㆑晝、月照㆑夜。〔左氏、昭、元〕明淫心疾。〔注〕明、晝也。❽**あかるみ。**〔易、說卦〕嚮㆑明而治。〔呂覽、仲夏〕可㆔以居㆓高明㆒。〔注〕明、顯也。〔呂覽、孟夏〕天子居㆓明堂㆒。〔注〕明堂、南向堂。❾**おもて。**そと。うはべ。〔史記、樂書〕明則有㆓禮樂㆒。〔注〕正義曰、明、猶㆑外也。❿**ほがらか。**〔爾雅、釋言〕明、朗也。⓫**おこる。**ひらく。〔廣雅、釋詁四〕明、發也。⓬**大きい。**〔詩、小雅、車舝、景行行止、箋〕景、明也。〔疏〕明、亦大也。⓭**さかん。**〔淮南子、說林訓〕長而愈明。〔注〕明、猶㆑盛也。⓮**陽。**陰の對。〔釋名、釋丘〕明、陽也。〔小爾雅、廣言〕明、陽也。〔史記、五帝紀〕幽明之占。〔注〕正義曰、明、陽也。⓯**雄。**雌の對。〔史記、歷書〕幽明者、雌雄也。⓰**有形。**形而下。〔易、繫辭上〕知㆓幽明之故㆒。〔韓注〕幽明者、有形无形之象。⓱**この世。**現世。〔韓愈、題㆓炭谷湫祠堂㆒詩〕萬生都陽明、幽暗鬼所㆑寰。⓲**かみ。**神靈。〔釋名、釋喪制〕送㆑死曰㆓明器㆒、神明之器、異㆓於人㆒也。〔禮、檀弓上〕其曰㆓明器㆒、神㆓明之㆒也。〔禮、檀弓上〕夫明器、鬼器也。〔漢書、五行志中之下〕使㆑至㆓于爭㆑明。〔注〕師古曰、明、謂㆓神靈㆒。⓳**日。月。星。**〔禮、禮器〕大明生㆓于東㆒。〔注〕大明、日也。〔詩、小雅、大東〕東有㆓啓明㆒。〔傳〕日且出、謂㆓明星㆒爲㆓啓明㆒、日既入、謂㆓明星㆒爲㆓長庚㆒。〔管子、內業〕觀㆓於大明㆒。〔注〕大明、日月也。〔荀子、勸學〕天見㆓其明㆒。〔注〕明、謂㆓日月㆒。〔淮南子、天文訓〕明者吐㆑氣者也。⓴**天。**〔易、繫辭上〕仰以觀㆓於天文㆒、俯以察㆓於地理㆒、是故知㆓幽明之故㆒。〔史記、五帝紀〕天地之紀、幽明之占。〔史記、田敬仲完世家〕易之爲㆑術、幽明遠矣。〔王融、三月三日曲水詩序〕幽明獻㆑期、雷風通㆑饗。〔注〕善曰、曾子、夫子曰、天道曰㆑圓、地道曰㆑方、方曰㆑幽、圓曰㆑明。㉑**賢人の述作をいふ。**〔禮、樂記〕述者之謂㆑明。〔疏〕明者辨㆓說是非㆒、故脩述者之謂㆑明、則子游・子夏之屬是也。㉒**よく治まる。**ひらけた國。〔逸周書、本典解〕智能親㆑智、仁能親㆑仁、義能親㆑義、德能親㆑德、武能親㆑武、五者昌㆓于國㆒、曰㆑明。㉓**視力。**〔禮、檀弓上〕子夏喪㆓其子㆒、而喪㆓其明㆒。〔注〕明、目精。〔史記、太史公自序〕左丘失㆑明、厥有㆓國語㆒。㉔**たぐふ。**〔廣雅、釋詁三〕明、類也。㉕**水道。**水の流れみち。〔漢書、五行志中之下〕滑㆓夫二川之神㆒、而使㆑至㆓于爭㆑明。〔注〕臣瓚曰、明、水道也。㉖**ちかふ。**盟(**8−23024**)に通ず。〔說文通訓定聲〕明、段借爲㆑盟。〔詩、小雅、黃鳥〕不㆑可㆓與明㆒。〔箋〕明、當㆑作㆑盟。㉗萌(**9−31265**)に通ず。〔漢書、地理志上〕廣漢郡、葭明。〔注〕師古曰、明、音萌。㉘孟(**3−6960**)に通ず。〔大戴禮、誥志〕明、孟也。〔史記、歷書〕明者、孟也。〔周禮、夏官、職方氏、其澤藪曰㆓望諸㆒、注〕望諸、明都也。〔釋文〕明都、禹貢作㆓孟豬㆒。㉙猛(**7−20498**)に通ず。〔續文獻通考、兵考、兵制〕七穆昆至㆓十穆昆㆒、置㆓一明安㆒。〔金史、兵志〕七謀克至㆓十謀克㆒、置㆓一猛安㆒。㉚望(**5−14368**)に通ず。〔周禮、夏官、職方氏、其澤藪曰㆓望諸㆒、注〕望諸、明都也。〔孫詒讓正義〕案、望諸、鄭釋爲㆓明都㆒、史記・水經、同書作㆓孟豬㆒、或作㆓盟豬㆒、漢志作㆓盟諸㆒、爾雅作㆓孟諸㆒云云、孟・望・明・盟、聲類並相近。㉛**朝代の名。**みん。朱元璋が元を滅ぼして建てた國。始、南京に都し、成祖に至つて北京に遷る。其の盛時の版圖は、東は朝鮮、南は安南北部、西は新疆東部に及び、北は蒙古に連なる。二十帝、二百九十四年にして、淸に滅ぼさる。〔明史、太祖紀〕洪武元年春正月乙亥、祀㆓天地於南郊㆒、卽㆓皇帝位㆒、定㆘有㆓天下㆒之號㆖曰㆑明。〔續文獻通考、帝系考〕右明十五帝、起㆓太祖洪武元年戊申㆒、止㆓莊定帝崇禎十七年甲申㆒、凡二百五十七年。㉜**諡。**〔逸周書、諡法解〕昭㆓臨四方㆒、譖訴不㆑行曰㆑明。㉝**姓。**〔通志、氏族略、以㆑字爲㆑氏〕明氏、姬姓、虞仲之後也、有㆓百里奚者㆒、爲㆓虞之公族大夫㆒、晉獻公滅㆑虞、擄㆓虞公及其大夫百里奚㆒、以媵㆓



(一)太祖 元璋・洪武帝 三十一
懿文太子標
(二)惠帝 允炆・建文帝 四
(三)成祖 燕王棣・永樂帝・大宗 二十二
(四)仁宗 高熾・洪熙帝 一
(五)宣宗 瞻基・宣德帝 十
(六)英宗 祁鎭 十四
(七)景帝 代宗・祁鈺・景泰帝 七
(八)英宗(復位) 八
(九)憲宗 見深・成化帝 二十三
(十)孝宗 祐樘・弘治帝 十八
(十一)武宗 厚照・正德帝 十六
興獻帝(睿宗) 祐杬
(十二)世宗 厚熜・嘉靖帝 四十五
(十三)穆宗 載垕・隆慶帝 六
(十四)神宗 翊鈞・萬曆帝 四十八
(十五)光宗 常洛
(十六)熹宗 由校・天啓帝 七
(十七)毅宗 由檢・莊烈帝
福王常洵
(十八)安宗 福王由崧 一
(十九)紹宗 唐王聿鍵(太祖九世孫) 一
(二十)帝由榔 永明王 十三

秦穆姬、自レ此遂爲二秦大夫一、奚生二孟明視一、視名也、明字也、以レ字爲レ氏。〔姓氏急就篇〕明氏、山公集有二平源明普一、晉荀晞從事明預。**西** **佛** 眞言の異名。持明（5－12019・・106）を見よ。㈡盟（8－23024）・孟（3－6960）に通ず。〔集韻〕盟、盟津、地名、或作レ明、通作レ孟。**邦** ❶あく。㋑すきまができる。㋺ひまになる。㋩からになる。㋥はじまる。㋭をはる。㋬ひらく。❷あき。㋑すきま。㋺ひま。㋩から。

名乘 アキラ。トシ。ノリ。アキ。テル。ハル。ヨシ。ヒロ。ミツ。

解字 會意形聲。月と囧（窗からきらきらあかりがさす意の象形字）との合字。囧（ケイ）はまた聲。あきらか。あかるい。說文には明は昭也、又、昭は日明也として明と昭とを互訓してゐる。月は日の光をうけて光とする。故に月の光が、居室の窗からさすのでは昭昭の明とするに足らぬ。說文では、朙の下に古文◑として、日に從ふとする。この古文ならば、日と月との會意で、昭昭の意が十分である。そこで段注は、朙は增繁した籒文で、小篆と隸とがこれに從つたのであらうとする。〔說文、朙、古文从レ日、段注〕云二古文作レ明、朙非二古文一也、蓋籒作レ朙、而小篆隸从レ之、干祿字書曰、明通レ朙、正。

【明安】1（メイアン） ❶金の官名。金國の語で、千戸長の意。淸の都統と略〻同じ。金史には猛安に作り、七穆昆乃至十穆昆に一明安を置く。猛安（7－20498・・3）を見よ。〔續文獻通考、兵考、兵制〕十五年十月、遣二吏部郎中富察烏琿等十人一、分二行天下一、再定二明安穆昆戸一、毎二穆昆一、戸不レ過二三百一、七穆昆至二十穆昆一、置二一明安一。❷元の人。姓は康里氏。定遠大將軍・貴赤親軍都指揮使司・達魯花赤を歷官し、大德中、北征して、軍中に歿す。〔元史、一百三十五〕・〔新元史、一百七十八〕。❸淸、滿洲正黃旗人。姓は博爾濟吉特氏。天聰の間、察哈爾大淩河に戰つて功あり。封は一等侯。加號は恭順。〔淸史稿、二百三十五〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十五〕・〔滿洲名臣傳、十二〕。

【明暗】2（メイアン） ❶あきらかなこととくらいこと。明闇。〔漢書、劉向傳〕明暗之效、葬之吉凶、昭然可レ見矣。❷潛夫論の篇名。

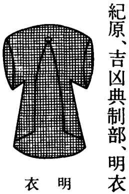
【明闇】3（メイアン） あきらかなこととくらいこと。明暗。〔漢書、終軍傳〕夫明闇之徵、上亂二飛鳥一、下動二淵魚一。〔張華、答二何劭一詩〕明闇信異レ姿、靜躁亦殊レ形。

【明夷】4（メイイ） ❶六十四卦の一。䷣（離下坤上）。夷は傷。明にして傷はれる義で、賢者が志を得ずして讒を憂ひ譏を畏れる象。〔易、明夷〕箕子之明夷利レ貞。❷民國、康有爲（4－9376・・159）の號。

【明夷軒】5（メイイケン） 野中良繼の號。野中兼山（11－40133・・237）を見よ。

【明夷待訪錄】6（メイイタイハウロク） 書名。一卷。淸、黃宗羲撰。二十一篇。治平の法を論じ、大旨は君を抑へ、臣を重んずるにある。其の目は原君・君臣・原法・買相・學校・取士・建都・方鎭・田制・兵制・財計・胥吏・奄官。〔小山石房叢書、第五冊〕。

【明衣】7（メイイ） ❶神明に奉仕し、又、ものいみする者が沐浴の後に著る衣。布を以て作る。唐以後は生絹を用ひる。明潔な衣の義。淨衣。〔論語、鄕黨〕齊必有二明衣一布。〔注〕孔曰、以レ布爲二沐浴衣一。〔疏〕浴意而著二明衣一、所三以明二絜其體一也。〔劉寶楠正義〕御覽引鄭注云、明衣、親レ身衣、所二以自潔淸一也、以レ布爲レ之、案、親レ身衣、因二其潔淸一、故稱二明衣一。〔事物紀原、吉凶典制部、明衣〕三代以來、襲有二明衣一、唐改用二生絹單衣一、今但新衣而已、段成式酉陽雜俎曰、明衣、起二於左伯桃一也。❷死者の浴後に着せる衣。喪衣。〔儀禮、士喪禮〕明衣裳用レ布。〔注〕所二以親レ身、爲二圭潔一也。〔疏〕下浴訖、先設二明衣一、故知レ親レ身也、明者、絜淨之義、故知レ取二圭絜者一也。〔胡培翬正義〕論語、齊必有二明衣一布、是明衣爲二平日齊居之服一也、古者有レ疾則齊、故襲時近レ體、著二此衣裳一、言レ明者、取二明潔之義一、其制詳二下記一、用レ布、謂下用二帷幕一之事上、亦見二下記一。〔淮南子、兵略訓〕乃爪鬋設二明衣一也。〔注〕明衣、喪衣也、在二於闇冥一、故言レ明。〔陶方琦、淮南許注異同詁〕御覽引許注、明衣、送レ終衣也、按、此文言下將軍受二君命一而將レ兵、示以中必死上、故設二明衣一、以備二戰死浴後所レ服、許云二送レ終衣一、是也。❸死者に贈る衣。神明の衣の義。〔穆天子傳、六〕贈用二文錦明衣九領一。〔注〕謂二之明衣一、言二神明之衣一。



明衣（三禮圖）

【明扆】8（メイイ） 遼景宗（11－39137・・46）の小字。

【明敭】9（メイイ） 唐、王播（7－20823・・871）の字。

【明位】10（メイヰ） 古、位階の一。天武天皇十四年正月制定せられた位階八級中最高のもの。〔日本書紀、天武紀下〕十四年正月丁卯、明位二階、淨位四階、毎レ階有二大廣一、竝十二階、以前諸王已上之位。

【明畏】11（メイヰ） 善を顯はし惡を威すこと。賞罰。〔書、皐陶謨〕天明畏、自二我民明威一。〔蔡傳〕威、古文作レ畏、二字通用、云云、天之明威、非レ有二好惡一也、因二民之好惡一、以爲二明畏一。〔今古文注疏〕明畏、言二賞罰一。

【明威】12（メイヰ） 恩賞刑罰。明畏に同じ。〔書、皐陶謨〕天明畏、自二我民明威一。〔書、湯誥〕將二天命明威一、不二敢赦一。〔傳〕行二天威一、謂レ誅レ之。〔書、多士〕我有周佑レ命、將二天明威一。〔管子、霸言〕以二明威之振一、合二天下之權一。〔陸機、答二賈長淵一詩〕孰云レ匪レ懼、仰肅二明威一。〔劉琨、勸進表〕抗二明威一以攝二不類一。

【明由】13（メイイウ） 上古、燧人氏の四佐の一。〔玉海、官制〕明由・必育・成博・隕丘、右燧人四佐。〔繹史、太古、開闢原始〕論語擿輔象、燧人四佐、明由曉二升級一。

【明幽】14（メイイウ） あらはで見えることとかすかで見えぬこと。あかるいとくらい。❶雄と雌。〔大戴禮、誥志〕虞史伯夷曰、明、孟也、幽、幼也、明幽、雌雄也、雌雄迭興、而順二至正之統一也。❷この世とよみぢ。現世と冥土。鬼神と人。〔韓愈、赴二江陵一途中寄二贈王二十補闕・李十一拾遺・李二十六員外翰林三學士一詩〕病妹臥二牀褥一、分知隔二明幽一。❸賢者と愚者。〔柳貫、文子方寓二直翰林一云云詩〕聖人御レ世具、黜陟用二明幽一。❹長と幼。❶を見よ。❺天の理と人間の事。有形と無形。又、日と月。晝と夜。幽明（4－9205・・425）の❺を見よ。

【明允】15（メイイン） ❶あきらかでまことのあること。〔左氏、文、十八〕高陽氏有二才子八人一、云云、齊聖廣淵、明允篤誠、天下之民、謂二之八愷一。〔魏志、崔琰傳〕聰哲明允、剛斷英跱。〔何晏、景福殿賦〕先識博覽、明允篤誠。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕明允篤誠、感二乎朕思一。❷字號。㋑梁、蕭圓正（9－32012・・306）の字。㋺唐、李賢（6－14459・・314）の字。㋩宋、蘇洵（9－32427・・97）の字。

【明尹】16（メイイン） 賢明な長官。〔王維、京兆尹張公德政碑〕錫二汝明尹張公之力一也。

【明印】17（ミンイン） 明時代の印刷。〔書林淸話、八〕宋刊元修明印本國語二十一卷。

【明淫】18（メイイン） 晝の氣が度を過すこと。〔左氏、昭、元〕晦淫惑疾、明淫心疾。〔注〕明、晝也、思慮煩多、心勞生レ疾。

【明隱】19（メイイン） 遼、耶律劉哥（9－29008・・144）の「字。

【明禋】20（メイイン） けがれ無くつつしむ。神に事へる禮。明は潔、禋は敬。〔書、洛誥〕明禋、拜手稽首休享。〔蔡傳〕明、潔、禋、敬也、以二事レ神之禮一事レ公也。

【明宇】21（メイウ） 明、殷體信（6－16627・・188）の字。

【明烏】22（アケガラス） 夜あけに鳴く烏。

【明雩】23（メイウ） 論衡の篇名。

【明睿】24（メイエイ） 明、江夏の人。字は作聖。崇禎の時、城破れ、井に赴いて死す。時人其の井を明井といふ。〔明史、二百九十四〕・〔萬斯同明史、三百八十〕・〔明史稿、二百七十五〕。

【明瑩】25（メイエイ） あきらかで淸らかなこと。〔述異記、上〕搗衣山、一名靈山、云云、昔有二神女一、於レ此擣レ衣、其石明瑩、謂二之玉女擣練礁一。〔羯鼓錄〕花奴姿質明瑩、肌髮光細。

【明銳】26（メイエイ） ❶あきらかでするどい。〔唐書、元稹傳〕性明銳、遇レ事輒擧。❷金、焦旭（7－19119・・21）の字。

【明叡】27（メイエイ） あきらかでさとい。〔後漢書、趙壹傳〕惟君明叡、平二其夙心一。〔張衡、南都賦〕且其君子、弘懿明叡。〔蜀志、諸葛亮傳〕惟君體資文武、明叡篤誠。

【明穎】28（メイエイ） あきらかでさとい。〔宋書、武三王、江夏文獻王義恭傳〕幼而明穎、姿顏美麗。

【明要】29（メイエウ） あきらかに大切なこと。〔史記、主

父偃傳〕此二體者、安危之明要也。

【明曜】30 メイエウ かがやき。又、かがやく。明耀。〔晉書、樂志上〕明曜參二日月一、功化侔二四時一。

【明耀】31 メイエウ かがやき。又、かがやく。明曜。〔述異記、下〕（漢武）帝問二方朔一、何謂二洞穴珠一、朔曰、河底有二一穴一、深數百丈、中有二赤蚌一、蚌生二此珠一、徑寸、明耀絶レ世。

【明豔】32 メイエン あかるくうるはしい。〔顏延之、秋胡詩〕峻節貫二秋霜一、明豔侔二朝日一。

【明圓】33 メイエン かがやきとまるさ。〔福惠全書、典禮部、救二護日月一〕庶民皆鼓二于衢巷一、俟レ復二明圓一、乃已。

【明遠】34 メイエン ❶あきらかで深遠なこと。昭遠。〔晉書、賈充傳〕雅量弘高、達見明遠。〔殷仲遠、南州桓公九井作詩〕景氣多二明遠一、風物自凄緊。❷唐の人。顏眞卿が江淮の間に糧を絶たれた時、之に糧食を送つて其の危難を救つた。〔蘇軾、題跋〕余謫二居惠州一、諸子不レ聞二餘耗一、憂愁無聊、蘇州定彗院學レ佛者卓契順、躉足至二惠州一、得レ書徑還、余問二其所一レ求、答曰、顏魯公絶二糧江淮之間一、明遠載レ米以周レ之、魯公憐二其意一、遺以二尺書一、天下至レ今、知レ有二明遠一也、今契順雖レ無レ米、然區區萬里之勤、儻可レ援二明遠例一、得二數字一乎、故爲書二淵明歸去來辭一以遺レ之。❸明、沈鳴遠（6－17189‥651）の一名。❹字號。㋑南朝宋、鮑照（12－46074‥54）の字。㋺後魏、陸子彰（11－41708‥333）の字。㋩唐、鄧光布（11－39630‥134）の字。㋥唐、馮盎（12－44579‥1）の字。㋭後梁、杜曉（6－14477‥93）の字。㋬後周、安審暉（3－7072‥553）の字。㋣五代吳越、危德昭（2－2849‥165）の字。㋠宋、丘奐（1－33‥31）の字。㋷宋、沈作喆（6－17189‥509）の字。㋦宋、晁迥（5 13889‥3）の字。㋸宋、馮久照（12－44579‥192）の字。㋾宋、李昉（6－14459‥657）の字。㋻宋、劉如愚（2－2224‥1065）の字。㋕宋、廖正古（4－9464‥57）の字。㋵宋、汪澈（6－17154‥112）の字。㋟元、黃景昌（12－47926‥1062）の字。㋹元、蘇照（9－32427‥122）の字。㋞元、張康（4－9812‥112）の號。㋡元、李存（6－14459‥542）の字。㋧明、蔣鑛（9－31820‥34）の字。㋤明、張顯宗（4－9812‥1002）の字。㋶明、楊照（6－15112‥248）の字。㋰明、李鑑（6－14459‥166）の字。㋒明、王樵（7－20823‥676）の字。

〖明遠車〗35 メイエンシヤ 車の名。宋以後皆有り。太子の乘るもの。古の四望車。〔續通典、禮、嘉、明遠車〕宋明遠車、卽古四望車、駕以レ牛、太祖乾德元年、改仍用二四馬一、赤質、制如レ屋、重欄句闌、上有二金龍一、四角垂二銅鐸一、上層四面垂レ簾、下層周以二花板一、三轅、駕士四十人、服レ繡對レ鳳。〔潛確類書〕明遠車、古四望車、乃太子之車、名曰二皁輪車一。

〖明遠樓〗36 メイエンロウ ❶南宋の宮中にある樓の名。〔西湖志餘〕禁中賞レ雪、御二明遠樓一。❷清代、各省試院の至公堂の前に置いた高樓の名。〔淸會典事例、禮部、貢舉、試院關防〕十一年覆准、湖南貢院、係二雍正三年通省士子公捐廩膳銀建造一、彼時因二場期已近一、工程簡略、自應下照二各省式樣一、改二建號舍一、並添二建轅門・照牆・鼓樓・瞭樓・明遠樓一、以符中體制上、所レ有丁卯年科舉盤費・及廩膳銀兩、俱捐出爲二修改之需一。

【明應】37 メイオウ ❶あきらかな瑞應。〔史記、孝武紀〕鼎宜下見二於祖禰一、藏二於帝廷一、以合中明應上。❷瑞應のあつたことを明示する。〔漢書、郊祀志上〕宜下因二此地光域一、立二泰時壇一、以明上レ應。❸年號。㋑北宋の初、南詔の昭明帝（段素英）の時。㋺ミヤウオウ 第百三代後土御門天皇の御時。（1492－1501）

【明翁】38 メイヲウ 宋、趙汝鐩（10－37171‥687）の字。

【明屋】39 メイヲク ❶あかるい家。〔姚合、病中書レ事寄二友人一詩〕多睡憎二明屋一、慵行待二煖天一。❷空屋（8－25415‥18）に同じ。

【明恩】40 メイオン 立派なめぐみ。〔謝莊、月賦〕味レ道懵レ學、孤奉二明恩一。

【明可】41 メイカ 字號。❶宋、吳芾（2－3365‥370）の字。❷宋、趙汝述（10－37171‥686）の字。

【明蝦】42 メイカ えび。蟳蝦。螟蝦。〔赤溪雜志〕明蝦、一作二螟蝦一、肉色明透、其首有二紅膏凝結一、最鮮美。

【明罅】43 メイカ あかりを取るあな。〔方鳳、金華三洞詩〕天光一道燭二扉內一、知此明罅從レ何穿。

【明河】44 メイガ ❶あまのがは。銀河。天漢。〔宋之問、明河篇〕明河可レ望不レ可レ親、願得二乘レ槎一問レ津。〔戴叔倫、早行寄二朱山人放一詩〕明河川上沒、芳草露中衰。〔歐陽脩、秋聲賦〕明河在レ天、四無二人聲一。〔事物異名錄、乾象、天河〕山堂肆考、天河、一名絳河、曰明河、曰銀河、曰銀漢、曰斜漢、曰金漢、曰星河、曰傾河、言二天漢將レ曉而斜一也、繩河、言レ如二繩之直一也。❷川の名。又、西洺河といふ。源は河南省淮陽縣の北境。茨河に注ぐ。古の沙水。又、蔡河といふ。〔淸一統志〕明河、今分爲二東西明河一、西明河、自二汲塚集北一至二傳家集一、入二刺河一、東明河、自二刺河之張胖店一入二淝河一、東西止二一水一、中逕二刺河一、因分爲レ二。

【明霞】45 メイカ 南朝梁、陸杲（11－41708‥42）の字。

〖明霞軒〗46 メイカケン 宇野鼎の號。宇野明霞（3－7067‥101）を見よ。

【明戒】47 メイカイ あきらかないましめ。明誡。〔後漢書、荀爽傳〕故周公之戒曰、云云、惟耽樂之從、時亦罔レ或二克壽一。是其明戒。〔阮侃、答二嵆康一詩〕神龜實可レ樂、明戒在二刳腸一。

【明開】48 メイカイ 北宋、徽宗の時、後理（南詔）の中宗（一に中宗文安帝。段正湻）の年號「開明文安」の一稱。又、開明とも文安ともいふ。（1105－1107）

〖明開天政〗49 メイカイテンセイ 北宋、徽宗の時、後理（南詔）の中宗（一に中宗文安帝。段正湻）の時の私年號。一に天授にも作る。（1106）

【明解】50 メイカイ あきらかにしる。又、あきらかにときあかす。又、あきらかなときあかし。〔後漢書、胡廣傳〕達二練事體一、明二解朝章一。

【明誡】51 メイカイ ❶あきらかないましめ。明戒。〔漢書、谷永傳〕皇天所三以譴二告人君過失一、猶二嚴父之明誡一。〔魏志、蔣濟傳〕夫作レ威作レ福、書之明誡。❷新語の篇名。

【明江】52 メイカウ ❶江の名。源は廣西省上思縣の南の十萬大山。南北に分流し、北流は上思縣の南から西流し、寧明縣の東に至つて北流、左江に入る。南流は東京灣に入り、ヴエトナムと境界を成す。〔讀史方輿紀要、廣西、南寧府、上思州〕明江、州南一里、源出二十萬山一、東北流至二州西南五里一、匯爲二葫蘆潭一、亦曰二龍跳溪一、一名板龍溪、江流兩分、一、西流入二思明府界一、一、東流經二州南一、又東至二古萬寨一、與二小江一合。❷縣名。民國、置く。廣西省思樂縣の西。明江の北岸。

【明行】53 メイカウ 明、周孔敎（2－3441‥651）の字。

【明缸】54 メイカウ 燈盞の異名。〔事物異名錄、器用、燈〕孔武仲詩、青羅掩映千明缸。

【明降】55 メイカウ あきらかに下す。〔淸會典、辦理軍機處〕諭旨明降、既述、則下二於內閣一。

〖明降諭旨〗56 メイカウユシ 明かに諭旨を下す。明降を見よ。

【明效】57 メイカウ あきらかなしるし。〔漢書、五行志下之上〕不レ畏二天威一之明效也。〔魏志、傅嘏傳〕有レ始不二必善終一、古之明效也。〔曹植、上疏陳二審擧之義一〕伯樂馳二千里一、明君致二太平一、誠任レ賢使レ能之明效也。

〖明效大驗〗58 メイカウタイケン あきらかで大きな效驗。〔漢書、賈誼傳〕是非二其明效大驗一邪。

【明港】59 メイカウ 川の名。河南省信陽縣の北。〔汝寧府志〕明港河、源出二天目山白龍潭一、東流至二杜家灣一入レ淮。

【明溝】60 ming^{2} kou^{1} ふたのないみぞ。

【明膠】61 ming^{2} chiao^{1} 晒しにかわ。牛の皮膠の提練潔淨して透明なもの。又、獸類の蹄角から製す。廣東產のものを廣膠といつて良質であり、其の粗惡なものを水膠といふ。

【明鎬】62 メイカウ 宋、安丘の人。字は化基。諡は文烈。進士。仁宗の時、京東益州陝西河東轉運使となり、王則を貝州に討ち、後、參知政事となる。〔宋史、二百九十二〕

【明斆】63 メイカウ あきらかなしるし。明效。〔大戴禮、禮察〕是非二明斆大驗一乎。〔補注〕斆、漢書作レ效。

【明號】64 メイガウ 天子の大號。命號。〔啇子、君臣〕是以聖人、列二貴賤之制一、節二爵位一、立二明號一。〔揚雄、甘泉賦〕擁二神休一、尊二明號一。

【明角】65 ming^{2} chiao^{3} 晒しにかは。明膠（61）に同じ。

〖明角罩〗66 ming^{2} chiao^{3} chao^{4} 眼球の外殼。角膜をいふ。

【明搉】67 メイカク あきらかにはかる。〔程琳、子奇賦〕天載悠藐、無レ容二明搉一。

【明確】68 メイカク あきらかでたしかなこと。確かで

紛れぬこと。明瞭確實。

【明覈】69（メイカク） あきらかにしらべる。〔白居易、爲レ人上ニ宰相一書〕但在下乎明ニ覈是非一、必行中賞罰上。

【明覺】70（メイカク） あきらかにさとる。又、院の名。〔湖山勝概〕明覺院、舊名ニ報先有虛心軒一。

〖明覺禪師〗71（メイカクゼンジ） 清、性聰(**4－10478**‥52)の號。

【明玕】72（メイカン） 竹をいふ。〔陶潛、讀ニ山海經一詩〕亭亭明玕照、落落清瑤流。〔竹坡詩話〕士大夫學ニ淵明作詩一、往往故爲ニ平淡之語一、而不レ知ニ淵明制作之妙一、如下讀ニ山海經一云中亭亭明玕照、落落清瑤流上、明玕謂レ竹、清瑤謂レ水也、豈無ニ雕瑑之功一耶。

【明桿】73 ming^2 kan^3 麻雀用語。

【明幹】74（メイカン） 才智のすぐれてゐること。〔歐陽脩、再論ニ按察官吏一狀〕莫レ若下精ニ選明幹朝臣十人許一、分中行天下上。

【明韓】75（ミンカン） 明朝と韓國。〔日本政記、後陽成天皇〕慶長二年冬十二月、明將邢玠麻貴楊鎬、將ニ明韓兵數十萬一、攻ニ清正一。

【明鑑】76（メイカン） あきらかなかがみ。又、明鑒に作る。明鏡(100)に同じ。❶すぐれた鑑識。識見の高い人をいふ。〔魏志、楊俊傳〕其明鑑行義、多此類也。〔孫楚、鴈門太守牽府君碑〕明鑑達ニ于世變一、弘毅足ニ以致レ遠。❷心の虛明な喩。〔莊子、德充符〕鑑明則塵垢不レ止、止則不レ明也。❸あきらかな手本。〔後漢書、陳蕃傳〕明鑒未レ遠、覆車如レ昨。〔張衡、週天大象賦〕昭晰兮爲ニ人主之明鑑一。

〖明鑑所ニ以照レ形〗77（メイカンハカタチヲテラスユエンナリ） 明鏡は姿を映して見るに役立つものである。〔新書、胎教〕明鑑所ニ以照レ形、往古所ニ以知レ今也。〔唐書、魏元忠傳〕明鑑所ニ以照レ形、往事所ニ以知レ今。

【明眼】78（メイガン） 眼をあきらかにする。又、はつきり物を見る眼。〔歲華紀麗〕採ニ栢露一以明レ眼、用ニ朱墨一以點レ頭。

〖明眼人〗79 ming^2 yen^3 jen^2 眼のきく人。具眼者。

【明巖】80（メイガン） 巖の名。浙江省天台縣の西南。舊名は暗巖山。

【明忌】81（メイキ） あきらかにいむ。〔魏志、陳思王植傳〕干レ時求レ進者、道家之明忌也。

【明紀】82（ミンキ） 書名。六十卷。清、陳鶴撰。末の八卷は其の子克家の續成にかかる。この書は明史・明史稿及び諸家の記載に本づいて明一代の事を撰次して編年體としたもので、元の至元十一年に筆を起し、莊烈帝の崇禎元年に至る。其の目は太祖紀六卷・惠帝紀一卷・成祖紀三卷・仁宗紀一卷・宣宗紀一卷・英宗紀二卷・景帝紀二卷・英宗後紀一卷・憲宗紀三卷・孝宗紀三卷・武宗紀四卷・世宗紀九卷・穆宗紀二卷・神宗紀十卷・熹宗紀二卷・莊烈紀六卷・福王始末一卷・唐王始末一卷・桂王始末一卷。首に吳縣の馮桂芬の序、克家の原序及び目錄がある。

【明記】83（メイキ） あきらかに記す。

【明起】84（メイキ） 明、黃汝良(**12－47926**‥1162)の字。

【明基】85（メイキ） 南齊、蕭寶義(**9－32012**‥502)の本名。

【明鬼】86（メイキ） 墨子の篇名。上・中・下の三篇があり、今、上中の二篇を闕く。〔墨子、明鬼、孫詒讓閒詁〕淮南氾論作ニ右鬼一、注、右、猶レ尊也、明、謂レ明ニ鬼神之實有一也。

【明規】87（メイキ） あきらかなのり。〔阮瑀、駕出ニ北郭門一行〕傳ニ告後代人一、以レ此爲ニ明規一。

【明暉】88（メイキ） 明輝に同じ。〔范成大、淳熙四年六月二十七日登ニ大峨之巓一詩〕圓景明暉倚レ雲立。

【明毅】89（メイキ） 知識があきらかで意志が強い。〔唐書、吐蕃傳上〕性明毅、用レ兵有ニ節制一。

【明輝】90（メイキ） あきらかにかがやく。又、あきらかなひかり。明暉。〔禰衡、鸚鵡賦〕體ニ金精之妙質一、合ニ火德之明輝一。

【明器】91（メイキ） ❶死者に用ひる器。明とは之を神明にする義。死者が生前用ひた物等を模作して、冢中に埋めるもの。又、凶器・藏器といひ、漢以後は祕器といふ。〔儀禮、既夕禮〕陳ニ明器于乘車之西一。〔注〕明器、藏器也。〔禮、檀弓上〕孔子曰、之レ死而致レ死之、不仁、而不レ可レ爲也、之レ死而致レ生レ之、不知、而不レ可レ爲也、是故、竹不レ成レ用、瓦不レ成レ味、木不レ成レ斲、琴瑟張而不レ平、竽笙備而不レ和、有ニ鐘磬一而無ニ簨虡一、其曰ニ明器一、神ニ明之一也。〔注〕言三神ニ明死者一也、神明者非ニ人所レ知、故其器如レ此。〔列子、楊朱〕不レ陳ニ犧牲一、不レ設ニ明器一。〔荀子、禮論〕生器文而不レ功、明器貌而不レ用。〔後漢書、范冉傳、注〕禮送ニ死者一衣曰ニ明衣一、器曰ニ明器一。〔雲麓漫鈔〕古之明器、神ニ明之一也、今以レ紙爲レ之、謂ニ之冥器一、錢曰ニ冥財一、冥之爲レ言、本三於漢武紀用ニ冥羊馬一、不レ若下用ニ明字一爲上レ近レ古云。❷明德の分器。諸侯が王室から受け子孫に傳へて以て寶となすもの。〔左氏、昭、十五〕諸侯之封也、皆受ニ明器於王室一。〔注〕謂ニ明德之分器一。〔漢書、五行志中之上〕皆受ニ明器於王室一。

〖明器婢子〗91′（メイキヒシ） 明器として用ひる人形。〔剪燈新話、牡丹燈記〕燈下立ニ一明器婢子一。

【明璣】92（メイキ） あきらかなたま。璣は珠に似た小さいたま。〔左思、吳都賦〕其琛賂、云云、赬丹・明璣、金革・銀樸、紫貝・流黃、縹碧・素玉。

【明概】93（メイキ） あきらかでしげく多い。〔韓愈、南海神廟碑〕天地開除、月星明概。

【明祇】94（メイギ） あきらかな神。〔舊唐書、音樂志三〕何以契ニ明祇一。

【明義】95（メイギ） ❶道理をあきらかにする。〔書、武成〕惇レ信明レ義、崇レ德報レ功。❷あきらかな義理。〔新書、匈奴〕擧ニ明義一博示ニ遠方一。〔魏志、崔琰傳〕周孔之格言、二經之明義。

【明吉】96（メイキツ） 清、金永熙(**11－40152**‥1198)の字。

【明糾】97（メイキウ） あきらかにただす。〔後漢書、章帝紀〕明ニ糾非法一、宣ニ振威風一。

【明貺】98（メイキヤウ） 立派な贈物の意。他人から贈與せられたものに對する敬稱。〔宋史、樂志八〕敢拜ニ明貺一、永清ニ世氛一。

【明彊】99（メイキヤウ） あきらかでつよいこと。〔唐書、戴冑傳〕冑性堅正、幹局明彊。

【明鏡】100（メイキヤウ） 明鑑(76)に同じ。❶あきらかなかがみ。〔淮南子、俶眞訓〕莫レ窺ニ形於生鐵一、而窺ニ於明鏡一者、以ニ其易一也。〔漢書、韓安國傳〕清水明鏡、不レ可ニ以レ形逃一。〔南史、陶弘景傳〕心如ニ明鏡一、遇レ物便了。〔張九齡、照レ鏡見ニ白髮一詩〕誰知明鏡裏、形影自相憐。〔何氏語林、識鑒〕蓋聖人者、心如ニ明鏡一、遇レ物便了、豈有ニ議擬一。❷あきらかにかんがみる。〔漢書、外戚下、中山衛姬傳〕深說ニ經義一、明ニ鏡聖法一。

〖明鏡高懸〗101 ming^2 ching^4 kao^1 hsüan^2 上に公明な判官のあること。

〖明鏡止水〗102（メイキヤウシスイ） あきらかなかがみとしづかな水。心の本體の虛明な喩。〔莊子、德充符〕仲尼曰、人莫レ鑑ニ於流水一、而鑑ニ於止水一云云、申徒嘉曰、聞レ之、曰、鑑明則塵垢不レ止、止則不レ明也。〔清暑筆談〕明鏡止水、喩ニ心體一也、然常明常照常應常止、依レ體有レ用、用不レ乖レ體、故曰ニ體智寂寂、照用如如一、若レ曰三觸レ事生レ心、依無ニ息念一、則是隨レ塵動靜、非ニ具足體一。

〖明鏡照レ形〗103（メイキヤウカタチヲテラス） 明鏡に姿を映じて、容貌を整へるをいふ。〔說苑、尊賢〕明鏡所ニ以照レ形也、往古所ニ以知レ今也。〔吳志、吳主五子、孫奮傳〕孫奮數越ニ法度一、諸葛恪上レ牋諫曰、云云、里語曰、明鏡所ニ以照レ形、古事所ニ以知レ今、大王宜下深以ニ魯王一爲上レ戒。

〖明鏡不レ疲〗104（メイキヤウツカレズ） あきらかな鏡は幾度人の姿を照らしても疲勞しない。明智は多く用ひても傷はれることの無い喩。〔世說新語、言語中〕孝武將レ講ニ孝經一、謝公兄弟、與ニ諸人一私庭講習、車武子難ニ苦問レ謝、謂ニ袁羊一曰、不レ問則德音有レ遺、多問則重勞ニ二謝一、袁曰、必無ニ此嫌一、車曰、何以知レ爾、袁曰、何嘗見下明鏡疲ニ於屢照一、清流憚中於惠風上。

〖明鏡爲ニ醜婦之寃一〗105（メイキヤウハシウフノアダトナル） 明鏡は醜婦のみにくさを照らすから醜婦は之を讎とする。寃は讎。邪惡の人が正善の人を忌む喩。〔二程全書〕。

【明弓】106（メイキユウ） 月の異名。〔李賀、春懷引〕蟾蜍碾レ玉挂ニ明弓一、捍撥裝レ金打ニ仙鳳一。

【明渠】107 ming^2 ch‘ü^2 地上に設けて惡水を流すみぞ。ふたのないみぞ。暗渠の對。

【明擧】108（メイキヨ） 字號。❶宋、黃夷簡(**12－47926**‥983)の字。❷宋、鄭少微(**11－39647**‥476)の字。❸明、黃光昇(**12－47926**‥1055)の字。

【明據】109（メイキヨ） あきらかな根據。又、明かな證據。明證。〔吳志、張昭傳、注〕經有ニ明據一、傳有ニ徵案一。

〔曹植、王仲宣誄〕子猶懷レ疑、求二之明據一。

【明恭】110 メイキョウ ❶北周、蕭圓肅（**9**－**32012**‥305）の字。❷ミヤウキョウ 隋の僧。鄭州會善寺に住す。大力あり、食能く二百人の料を盡したといふ。〔續高僧傳、二十五〕。

〔明恭王皇后〕111 メイキョウワウクワウゴウ 南朝宋、王后（**7**－**20823**‥390）の謚。

【明曲】112 ミンキョク 明代の戲曲をいふ。其の詞曲に吳派と皖派とがあり、前者は梁辰魚の浣紗記の如く、敍事的美文を用ひ、後者は沈璟の義俠記の如く、自然を尊ぶ。元の北曲に對して南曲といひ、琵琶記は其の祖といはれる。明の毛晉の編した六十種曲があつて南曲を集めてゐる。

【明局】113 ming² chü² 公然と開場した賭場。

【明殛】114 メイキョク 嚴明な罰。〔孫樵、大明宮賦〕吾則勵二陰刀一翦二其翼一、俾レ不レ得レ逃二明殛一。

【明玉】115 メイギョク あきらかな玉。美玉をいふ。〔劉祥、演連珠〕明玉黜二于楚岫一、章甫窮二于越人一。

〔明玉峯〕116 メイギョクホウ 峯の名。浙江省平陽縣の西南。南雁蕩山の最高峯。

【明嶷】117 メイギョク さとい。嶷は、兒童の聰明なこと。〔南史、江夏文獻王義恭傳〕幼而明嶷、姿顏端麗。

【明近】118 メイキン あきらかでちかい。〔史記、天官書〕輔星明近、輔臣親彊、斥レ小疏レ弱。

【明謹】119 メイキン あきらかにし注意深くする。〔荀子、成相〕參伍明謹、施二賞刑一。

【明煦】120 メイク あきらかな光。〔元稹、夢遊春七十韻詩〕池光漾二霞影一、曉日初明煦。

【明空】121 メイクウ ❶あかるい空。❷唐の武后をいふ。武后は名を曌といひ、之を分つて二字としたもの。〔詩〕六郎酣戰明空笑。

【明火】122 メイクワ ❶日光からとつた火。古、祭祀に供す。〔周禮、春官、菙氏〕凡卜以二明火一爇燋。〔注〕杜子春云、明火、以二陽燧一取二火於日一、燋、謂レ灼二龜炬一。〔周禮、秋官、司烜氏〕以二夫遂一取二明火於日一、以レ鑒取二明水於月一。〔注〕夫遂、陽遂也、云云、取二日之火、月之水一、欲レ得二陰陽之潔氣一也。❷あかるい火。〔荀子、致士〕今人主有三能明二其德一、則天下歸レ之、若三蟬之歸二明火一也。❸凶器・炬火を持つ強盜。明火執仗を見よ。

〔明火執仗〕123 メイクワシツチヤウ 強盜をいふ。〔六部成語、補遺、刑部、明火執仗、注解〕凡於二夜間一、公然膽敢、持レ火自照、手執二器仗一、入二人家一搶劫者、謂二之強盜一。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕至二于強盜一、重在二明火執仗一。

【明果】124 メイクワ ものの道理にあきらかで決斷に富むこと。〔蜀志、張嶷傳評〕張嶷識斷明果。〔五代史、周世宗家人、皇后符氏傳〕爲レ人明果有二大志一。

【明科】125 メイクワ 明白な法律の條文。〔沈約、奏二彈王源一文〕宜下寘以二明科一、黜中之流伍上。

【明夥】126 ming² huo³ 明火（122）の❸に同じ。

【明瓦】127 メイグワ 蠣の殼を磨いて半透明とし、竹片に挾んで窗に嵌め玻璃に代用したもの。又、印度諸島及び暹羅から輸入した貝殼の薄く透明なものを方片としたもの。〔直省志書、肇慶府〕蠔光出二陽江海中一、另共蠔一種無二肉片一、薄而光明、牕槅用レ之、卽謂二之明瓦一。

【明快】128 メイクワイ 明るくて氣もちがよい。又、はつきりする。又、議論などのすぢみちのはつきりしてゐること。〔蘇軾、又次二韻二守一同訪二新居一詩〕數畝蓬蒿古縣陰、曉窗明快夜堂深。〔程氏遺書、十八〕人思慮始皆溷濁、久自明快。

【明晦】129 メイクワイ あきらかなこととくらいこと。晝と夜。〔詩、大雅、蕩〕既愆二爾止一、靡レ明靡レ晦。〔傳〕使二晝爲レ夜也。〔梁武帝、擬明月照高樓樂府〕相去既路迥、明晦亦殊懸。

【明光】130 メイクワウ ❶あきらかにひかる。又、あきらかなひかり。明輝。〔班固、西都賦〕北彌二明光一、而亙二長樂一。〔謝靈運、入二彭蠡湖口一作詩〕金膏滅二明光一、水碧綴二流溫一。❷鎧の名。〔曹植、上レ鎧表〕先帝賜二臣鎧一、黑光明光各一領、兩當鎧一領、今代以昇平、兵革無レ事、乞悉以付二鎧曹一自理。❸地名。明光集。安徽省盱眙縣の西南。

〔明光隘〕131 メイクワウアイ 土司の名。雲南省騰衝縣の北。龍川江の支流明光河の濱。騰越九隘の一。

〔明光宮〕132 メイクワウキユウ 漢の宮殿の名。武帝が建てたもの。〔漢書、武帝紀〕（太初四年）秋、起二明光宮一。〔注〕師古曰、三輔黃圖云、在二城中一、元后傳云、成都侯商避レ暑、借二明光宮一、蓋謂レ此。〔三輔黃圖、甘泉宮〕明光宮、武帝求レ仙、起二明光宮一、發二燕趙美女二千人一充レ之。〔雍錄〕漢有二明光宮三一、一在二北宮一、與二長樂一相連、一在二甘泉宮中一、一爲二尙書奏事之所一。

〔明光錦〕133 メイクワウキン 光り輝く錦。〔世說新語、文學〕曹輔佐才、如二白地明光錦一、裁爲二負販袴一、非レ無二文采一、酷無二裁製一。

〔明光殿〕134 メイクワウデン 漢の宮殿の名。未央宮の西にあり、金玉珠璣を以て簾箔とし、晝夜光明があつたといふ。〔三輔黃圖、漢宮〕三秦記、未央宮漸臺西有二桂宮一、中有二明光殿一、皆金玉珠璣爲二簾箔一、處處明月珠、金陛玉階、晝夜光明。

【明皇】135 メイクワウ 唐の玄宗は、謚して至道大聖大明孝皇帝といひ、俗に明皇といふ。〔唐書、玄宗紀〕玄宗至道大聖大明孝皇帝、諱隆基、睿宗第三子也。〔薛逢、金城宮詩〕憶昔明皇初御レ天、玉輿頻此駐二神仙一。

〔明皇帝〕136 メイクワウテイ 後趙、石勒（**8**－**24024**‥865）の謚。

〔明皇雜錄〕137 メイクワウザツロク 書名。二卷。補遺一卷。唐、鄭處誨撰。唐の玄宗の事蹟を雜錄したもの。雜錄は二十六條、補遺は十二條。〔四庫提要、子、小說家類〕。

『參考書』**【明皇雜錄校勘記】**一卷 清、錢熙祚撰。

〔明皇十七事〕138 メイクワウジフシチジ 書名。一卷。唐、李德裕撰。唐の玄宗の逸事十七條を記す。

【明黃】139 メイクワウ 正黃色。〔蜀箋譜〕謝公有二十色箋一、曰、深紅・粉紅・杏紅・明黃・深青・淺青・深綠・淺綠・銅綠・淺雲。

【明嫿】140 メイクワク あきらかで美しいさま。〔嵇康、琴賦〕輕行浮彈、明嫿瞭惠。〔注〕翰曰、嫿、好。

【明冠】141 メイクワン 令制、冠位の一。親王に賜ふもの。〔續日本紀、二〕大寶元年三月甲午、始依二新令一、改二制官名位號一、親王明冠四階。

【明煥】142 メイクワン あきらか。〔晉書、劉毅傳〕今龍彩質明煥。

【明觀】143 メイクワン 富田安實の號。富田育齋（**3**－**7230**‥136）を見よ。

【明丸】144 ming² wan² 記名投票。

【明君】145 メイクン ❶賢明な君。〔孟子、梁惠王上〕是故明君制二民之產一、必使下仰足三以事二父母一、俯足三以畜二妻子一、樂歲終身飽、凶年免中於死亡上。〔戰國、秦策〕或爲二中期一說二秦王一曰、悍人也中期、適遇二明君一故也、向者遇二桀紂一、必殺レ之矣。〔韓非子、愛臣〕是故明君之蓄二其臣一也、盡レ之以レ法、質レ之以レ備。〔王粲、詠史詩〕結髮事二明君一、受レ恩良不レ訾。〔張說、遙同二蔡起居偃松篇一詩〕不レ惜二流膏助二仙鼎一、願將二楨幹一捧二明君一。❷王昭君をいふ。〔石崇、王昭君辭序〕王明君者、本爲二王昭君一、以レ觸二文帝諱一故改レ之、匈奴盛請二婚於漢一、元帝以二明君一配焉、昔公主嫁二烏孫一、令三琵琶馬上作レ樂、以慰二其道路之思一、其送二明君一、亦必爾也、故序レ之云耳。〔野客叢談〕石崇明君詞曰、匈奴請二婚於漢一、元帝一。

〔明君之制賞重罰輕〕146 メイクンノセイハシヤウオモクバツカルシ 賢明な君主の制度では、賞を重くし、刑罰を輕くする。〔說苑、談叢〕明君之制、賞從レ重、罰從レ輕、食レ人以レ壯爲レ量、事レ人以レ老爲レ程。

【明訓】147 メイクン 明かな教。立派な教。明教。明戒。明誡。〔國語、晉語四〕君君臣臣、是謂二明訓一。〔後漢書、王暢傳〕府君不レ希二孔聖之明訓一、而慕二夷齊之末操一。〔潘岳、寡婦賦〕遵二義方之明訓一兮、憲二女史之典戒一。

〔明訓在威權〕148 メイクンハキケンニアリ 明訓は權力の確立によつて行はれる。〔國語、晉語八〕圖在二明訓一、明訓在二威權一、威權在レ君。

【明刑】149 メイケイ ❶立派な法則。〔詩、大雅、抑〕罔四敷求三先王、克共二明刑一。〔後漢書、皋陵質王延傳〕經有二正義一、律有二明刑一。❷刑罰をあきらかにする。〔書、大禹謨〕明二于五刑一、以弼二五教一、期二于予治一。〔僧一行、起義堂頌〕明レ刑弼レ教、道尊二老氏一。❸冠飾を去り其の罪惡の狀を書して背につける刑。〔周禮、地官、司救〕凡民之有二衺惡者一、三讓三罰、而士加二明刑一。〔注〕加二明刑一者、去二其冠飾一、而書二其衺惡之狀一、著二之背一也。〔周禮、秋官、大司寇〕以二明刑一恥レ之。〔注〕明刑、書二其罪惡於大方版一、著二其背一。〔荀子、議兵〕縣二明刑大辱於其後一。

【明啟】150 メイケイ 北宋の時、南詔の敬明帝（一に宣肅帝。段素廉）の年號。一に啟明・啟明天聖に作る。

(1009－1017)

【明卿】151（メイケイ） 字號。㊀嚴粲(2－4589‥111)の字。㊁元、呉亮(2－3365‥402)の字。㊂元、林廣發(6－14551‥296)の字。㊃元、王鑑(7－20823‥176)の字。㊄明、呉國倫(2－3365‥575)の字。㊅明、周嘉謨(2－3441‥569)の字。㊆明、常倫(4－8955‥370)の字。㊇明、陳仁錫(11－41698‥1023)の字。㊈明、馮皐謨(12－44579‥186)の字。

【明惠】152（メイケイ） ㊀あきらかで惠みある政。〔商子、徠民〕今王發㆓明惠㆒。㊁あきらかで智惠がある。〔禰衡、鸚鵡賦〕明惠聰善、羽族之可㆑貴。

【明惠后】153（メイケイコウ） 金宣宗妃(11－40152‥1318)の諡。

【明溪】154（メイケイ） 縣名。福建省清流縣の東北。もと歸化といひ、民國二十二年、今の名に改む。

【明經】155（メイケイ） ㊀擧士の科目の一。聖人の經書をあきらめ知る義。漢の武帝、郡國に詔して四科を以て士を試み、學通じ行修り、經、博士に中る者を選んで任用し、唐は秀才・明經・進士・明法・書・算の六科を設けて士を擧用した。宋の神宗に至り、改めて經義論策を以て進士を試み、明經廢す。科擧(8－24950‥13)を見よ。〔漢書、劉向傳〕薦㆓更生宗室忠直、明經有㆑行、擢爲㆓散騎宗正給事中㆒。〔漢書、平當傳〕以㆓明經㆒爲㆓博士㆒。〔後漢書、章帝紀〕元和二年、令㆘郡國上㆗明經者㆖、口十萬以上五人、不㆑滿㆓十萬㆒三人。〔通典、選擧、歷代制上〕武帝元光元年、擧㆓賢良㆒云云、又制㆓郡國㆒口二十萬以上、歲察㆓一人㆒、四十萬以上二人、六十萬三人、八十萬四人、百萬五人、百二十萬六人、不㆑滿㆓二十萬㆒、二歲一人、不㆑滿㆓十萬㆒、三歲一人、限以㆓四科㆒、一曰、德行高潔、志節清白、二曰、學通行修、經中㆓博士㆒、三曰、明㆓習法令㆒、足㆓以決㆑疑、能按㆑章覆問、文中㆓御史㆒、四曰、剛毅多略、遭㆑事不㆑惑、明足㆓決斷㆒、材任㆓三輔縣令㆒。〔唐書、選擧志上〕唐設㆓取㆑士之科㆒、其科之目有㆓明經㆒、而明經之別、有㆓五經㆒、有㆓三經㆒、有㆓二經㆒、有㆔學究㆓一經㆒、有㆓三禮㆒、有㆓三傳㆒、有㆓史科㆒。〔宋史、選擧志一〕嘉祐二年、增㆓設明經試法㆒、凡明㆓兩經或三經五經㆒、各問㆓大義十條㆒、兩經通㆑八、三經通㆑六、五經通㆑五爲㆓合格㆒。〔事物紀原、學校貢擧部、明經〕漢始以㆓明經㆒射策取㆑人、以㆓通經多寡㆒補㆓文學長㆒、故唐乃置㆓明經之科㆒、開元中、崔元瓘上言、問㆓大義十道・時務策三道㆒、宋朝定㆓業三經義三十道㆒也。㊁清代、貢生をいふ。〔日知錄、明經〕今人但以㆓貢生㆒爲㆓明經㆒、非也、云云、今之進士、迺唐之明經也。㊂（ミヤウギヤウ）王朝時代、大學寮で經書を講究した科。周易・尙書・三禮・詩經・左傳及び論語・孝經を修めるもの。〔令義解、選敍〕明經取㆘學通㆓二經以上㆒者㆖。

【明經生】156（ミヤウギヤウセイ） 大學寮の學生の一。明經道を修めるもの。〔三代實錄、四〕貞觀二年九月二十六日、元明經生、後學㆓律令㆒、號㆓別敕生㆒。

【明經道】157（ミヤウギヤウダウ） 四道の一。經書を講究する學問。〔玉葉〕壽永二年十一月十四日、於㆓明經道㆒、不㆑恥㆓上古㆒之名士也。

【明經典閣】158（メイキヤウテンカク） 清水嘉英の號。清水江東(7－17695‥468)を見よ。

【明經博士】159（ミヤウギヤウハカセ） 大學寮で明經道のことを學生に教へた博士。〔續日本紀、八〕養老五年正月甲戌、明經第一博士、從五位上鍛冶造大隅。

【明經得業生】160（ミヤウギヤウトクゲフセイ） 明經生の試問を經て及第したもの。〔大學寮式〕得業生者、明經四人。

【明慧】161（メイケイ） あきらかでさとい。〔說苑、叢談〕辯智明慧、不㆑如㆑遇㆑世。

【明慶】162（メイケイ） 唐、高宗(李治)の年號、顯慶の一稱。又、一に光慶に作る。(656－661)

【明瓊】163（メイケイ） 骰子の別名。〔列子、說符〕樓上博者、射㆓明瓊張中㆒。

【明教】164（メイケウ） ㊀あきらかな教。又、教を明かにする。明訓。〔戰國、魏策〕魏王曰、寡人不肖、未㆓嘗得㆑聞㆓明教㆒、今主君以㆓趙王之詔㆒詔㆑之、敬以㆑國從。〔史記、蘇秦傳〕魏王曰、寡人不肖、未㆓嘗得㆑聞㆓明教㆒。㊁邪教の一種。〔老學庵筆記、十〕閩中有㆘習㆓左道㆒者㆖、謂㆓之明教㆒、亦有㆓明教經㆒、云云、燒必乳香、食必紅蕈、故二物皆翔貴、至㆑有㆔士人宗子輩、衆中自言、今日赴㆓明教齋㆒、予嘗詰㆑之、此魔也、奈何與㆑之遊、則對曰、不㆑然、男女無㆑別者爲㆑魔、男女不㆓親授㆒者爲㆓明教㆒、明教遇㆓婦人所㆑作食㆒則不㆑食、然嘗得㆓所謂明教經㆒觀㆑之、誕謾無㆑可㆑取、云云、偶讀㆓徐常侍稽神錄㆒云、有㆘善㆓魔法㆒者㆖、名曰㆓明教㆒、則明教亦久矣。〔稱謂錄、邪教、明教〕陸游、條對狀、妖幻邪人、平時誑㆓惑良民㆒、結連素定、待㆑時而發、此色人處處皆有、云云、福建謂㆓之明教㆒。

【明曉】165（メイゲウ） あきらかにさとる。通曉する。明達。〔宋書、孔覬傳〕明㆓曉政事㆒。

【明決】166（メイケツ） はつきりと決斷する。〔魏書、崔亮傳〕廉愼明決。

【明潔】167（メイケツ） あきらかでけがれの無いこと。〔顏延之、祭㆓屈原㆒文〕物忌㆓堅芳㆒、人諱㆓明潔㆒。

【明月】168（メイゲツ） ㊀あきらかなつき。晴れた夜の月。十五夜の月。もちづき。又、特に陰曆八月十五夜の月をいふ。〔荀子、解蔽〕明月而宵行。〔宋玉、神女賦〕其少進也、皎若㆔明月舒㆓其光㆒。〔班婕妤、怨歌行〕裁成合歡扇、團團似㆓明月㆒。〔阮籍、詠懷詩〕薄帷鑒㆓明月㆒、清風吹㆓我衿㆒。〔南史、謝南傳〕入㆓吾室㆒者、但有㆓清風㆒、對㆓吾飮㆒者、唯當㆓明月㆒。〔南史、謝莊傳〕隔㆓千里㆒兮共㆓明月㆒。〔張若虛、春江花月夜詩〕春江潮水連㆑海平、海上明月共㆑潮生。㊁玉の名。明月之玉を見よ。〔班固、西都賦〕隨侯明月、錯㆓落其間㆒。〔注〕善曰、李斯上書曰、有㆓隨和之寶㆒、垂㆓明月之珠㆒。㊂（ミヤウゲツ）來月をいふ。翌月。〔左氏、昭、七〕其明月、子產立㆓公孫洩及良止㆒以撫㆑之。〔楊升菴外集〕左傳、齊燕平之月、公孫段卒、國人愈懼、其明月、子產立㆓公孫洩㆒、古事傳及俗稱謂、曰㆓明年明日㆒、則有㆑之矣、明月僅見㆑此耳。〔陔餘叢考、明月去月〕次年曰㆓明年㆒、次日曰㆓明日㆒、而次月未㆑有㆘稱㆓明月㆒者㆖、左傳、鄭人相驚、以㆓伯有㆒爲㆑厲、齊平㆑燕之月、公孫段卒、國人愈懼、其明月、子產立㆓公孫洩㆒、然則次月亦可㆑稱㆓明月㆒矣。㊃北齊、斛律光(5－13508‥18)の字。

【明月環】169（メイゲツノクワン） 明月のやうに圓い環。刀の柄の環を形容した語。〔李白、從軍行〕從㆑軍玉門道、逐㆑虜金微山、笛奏㆓梅花曲㆒、刀開㆓明月環㆒。

【明月峽】170（メイゲツケフ） 峽の名。㊀四川省廣元縣の北。宋江の經る所。又、朝天峽といふ。㊁四川省巴縣の東北。〔水經、江水注〕江水又左逕㆓明月峽㆒、東至㆓梨鄕㆒。〔李膺、益州記〕峽首西岸壁高四十丈、其壁有㆓圓孔㆒、形若㆓滿月㆒、因以爲㆑名。㊂湖北省宜昌縣の西。扇子峽(5－11743‥32)に同じ。

【明月砂】171（メイゲツシヤ） 兔の屎の異名。藥用となる。〔本草、兔〕屎、釋名、明月砂、翫月砂、兔蕈。

【明月珠】172（メイゲツシユ） 明月之珠(184)に同じ。〔神異經、西北荒經〕西北荒中、有㆓二金闕㆒云云、上、有㆓明月珠㆒、徑三丈、光照㆓千里中㆒。〔後漢書、西域、大秦傳〕有㆓夜光璧・明月珠㆒。

【明月吹】173（メイゲツスイ） 琴曲の名。〔海錄碎事、文學、樂府〕悽悽明月吹・惻惻廣陵散、皆琴曲。

【明月泉】174（メイゲツセン） 泉の名。安徽省當塗縣の姑熟溪中にある。唐の李白は嘗て姑熟十詠の詩を作つたが、其の中に明月泉を詠ぜず、後、張端公伯玉が此に至り、太白此に題せざるは以て我を待つなりと言つたといふ處。〔墨客揮犀〕張端公伯玉、大科成㆑名、篇什豪邁、過㆓姑熟㆒、見㆓李太白十詠㆒、嘆羨久㆑之、周㆓流泉石間㆒、後見㆓一水清澈㆒、詢㆓地人㆒云、此水名㆓明月泉㆒、公曰、太白不㆑題㆓此泉㆒、以待㆑我也。

【明月池】175（メイゲツチ） 池の名。㊀湖南省澧縣の西南。〔輿地紀勝〕李羣玉遊息之所。㊁湖南省桃源縣の西南。〔水經、沅水注〕沅水又東歷㆓臨沅縣西㆒、爲㆓明月池、白璧灣㆒、灣狀半月、清潭鏡澈。㊂四川省蓬溪縣の西、明月山の下。〔讀史方輿紀要、四川、潼川州、蓬溪縣〕明月山、其下有㆓明月池㆒、五代唐天成中、孟知祥・董璋、連㆓兵十萬㆒、侵㆓遂州㆒、突次㆓明月池㆒。㊃陝西省城固縣の境。〔水經、沔水注〕七女池東有㆓明月池㆒、狀如㆓偃月㆒、皆相通注、謂㆓之張良渠㆒、蓋良所㆑開也。

【明月店】176（メイゲツテン） 地名。河北省定縣の南。又、寨西店といふ。

【明月樓】177（メイゲツロウ） ㊀樓の名。江蘇省江都縣の東北。〔何氏語林、捷悟〕揚州有㆓一趙氏㆒、富而好㆑客、家有㆓明月樓㆒、一時諸名公題詠多、未㆑當㆓其意㆒、後趙子昂過㆑揚、主人知㆑之、迎致㆓樓上㆒、盛筵相欵、所㆑用皆銀器、酒半出㆓紙筆㆒、求㆑作㆓春題㆒、子昂援㆑筆書曰、春風閬苑三千客、明月揚州第一樓、主人得㆑之甚喜、撤㆓酒器㆒爲㆑贈。㊁明、呉統持(2－3365‥811)の室名。

【明月灣】178（メイゲツワン） 江蘇省の太湖の中に在る洞庭西山の麓。呉王が月を玩賞した所。〔皮日休、

明月灣詩〕試問最幽處、號爲二明月灣一。〔清一統志〕明月灣、在二吳縣洞庭西山一、吳王嘗玩二月於此一。

〖帶二明月一〗179 メイゲツヲオブ 明月の光をあびる。〔歐陽脩、和二聖兪百花洲一詩〕暮角起二城頭一、歸橈帶二明月一。

〖彎二明月一〗180 メイゲツヲハル 弓の形容。〔李白、送下白利從二金吾董將軍一西征上詩〕劍決浮雲氣、弓彎明月輝。

〖明月爲レ燭〗181 メイゲツヲショクトナス 明月を以て燈火に代へる。〔唐書、張志和傳〕陸羽常問、孰爲二往來一者、對曰、太虛爲レ室、明月爲レ燭、與二四海諸公一共處、未二嘗少別一、何有二往來一。

〖明月之光〗182 メイゲツノヒカリ あきらかな月の光。〔淮南子、說林訓〕明月之光、可二以遠望一。〔江淹、別賦〕春闥閟二此青苔色一、秋帳含二茲明月光一。

〖明月之詩〗183 メイゲツノシ 詩經、陳風の月出の詩をいふ。一說に、明月をよんだ詩。〔詩、陳風、月出〕月出皎兮、佼人僚兮、舒窈糾兮。〔蘇軾、赤壁賦〕誦二明月之詩一、歌二窈窕之章一。〔箋解〕指二詩陳風月出篇一也。

〖明月之珠〗184 メイゲツノタマ 暗夜にも光を發する寶珠。〔淮南子、說山訓〕明月之珠、出二於蛖蜄一。〔李斯、上書諫二逐客一書〕垂二明月之珠一、服二太阿之劍一。〔鄒陽、於レ獄上書自明書〕明月之珠、夜光之璧。〔張衡、四愁詩〕美人贈二我貂襜褕一、何以報レ之明月珠。

〖明月不常圓〗185 ming^{2} yüeh^{4} pu^{4} chʻang^{2} yüan^{2} 月は何時も圓いとは限らない。人生の行路は終始平坦であるとは限らない喩。

〖明月與レ礫同レ囊〗186 メイゲツトレキト フクロヲオナジウス 明月と小石とが同じ囊に在る。良い物と惡い物とが同じ處に在る喩。〔論衡、自紀〕垂棘與レ瓦同レ櫝、明月與レ礫同レ囊。

〖明月好同二三徑夜一〗187 メイゲツハヨシ サンケイノヨルヲトモニスルニ 明月の夜は、共に庭中を逍遙するによろしい。明徑は漢の蔣詡が庭中に三徑を作り、各〻松・菊・竹を植ゑた故事。〔白居易、欲下與二元八一卜上レ鄰先有二是贈一詩〕平生心迹最相親、欲レ隱二牆東一不レ爲レ身、明月好同二三徑夜一、綠楊宜レ作二兩家春一、每因二暫出一猶思レ伴、豈得三安レ居不レ擇レ鄰、可二獨終レ身數相見一、子孫長作二隔レ牆人一。

【明劫】188 メイケフ 臣が私道を行ひ公忠を致さないで祿を貪ること。〔韓非子、三守〕羣臣持レ祿養レ交、行二私道一而不レ效二公忠一、此謂二明劫一。

【明絢】189 メイケン かがやく。又、きらびやか。絢は、あやのあるさま。〔蘇軾、自二淨土寺一至二功臣寺一詩〕岡巒蔚回合、金碧爛明絢。

【明嫌】190 メイケン まぎらはしいのをあきらかにする。〔禮、燕義〕不下以二公卿一爲上レ賓、而以二大夫一爲レ賓、爲レ疑也、明レ嫌之義也。

【明賢】191 メイケン ㊀賢者を顯はす。〔國語、周語中〕尊レ貴明レ賢。〔注〕明、顯也。㊁賢い人。〔後漢書、宦者傳序〕搆二害明賢一、專樹二黨類一。

【明憲】192 メイケン あきらかなのり。〔蔡邕、太尉喬玄碑陰〕(王)悝畏二怖明憲一、檢二於靜息一。

【明謙】193 メイケン 新論の篇名。

【明權】194 メイケン 新論の篇名。

【明顯】195 メイケン あきらかにあらはれる。〔後漢書、西域傳論〕感驗明顯、則事出二天外一。〔淨住子、皇覺辨德門〕洞二達三世一、了二照萬有一、卓然明顯、英聖超羣。

【明驗】196 メイケン あきらかなしるし。〔後漢書、袁安傳〕先往案レ獄、理下其無二明驗一者上、條上出レ之。〔魏志、杜恕傳〕古人之明驗。〔吳志、陸凱傳〕目前之明驗也。〔法苑珠林〕譬二六趣之明驗一。

【明言】197 メイゲン はつきりといふ。明瞭に斷言する。〔戰國、秦策〕明言章理、兵甲愈起、辨言偉服、戰攻不レ息。

【明嚴】198 メイゲン あきらかで嚴しいこと。明察で威嚴のあること。〔韓非子、難四〕臣之忠詐、在二君所レ行也、君明而嚴、則羣臣忠、君懦而闇、則羣臣詐、知レ微之謂レ明、無二救赦一之謂レ嚴。

【明鉉】199 メイゲン 元、衞九鼎(10－34074・・125′)の字。

【明古】200 メイコ 明、史鑑(2－3249・・29)の字。

【明湖】201 メイコ 湖の名。雲南省澂江縣の東北。又、彝休湖・陽宗湖ともいふ。羅藏山に發源して盤江に注ぐ。〔讀史方輿紀要、雲南、澂江府、陽宗縣〕明湖、一名、夷休湖、一名、陽宗湖、源出二羅藏山下一、流二入盤江一、周七十餘里、兩岸陡絕、山水赤色、產レ魚甚佳。

【明吾】202 メイゴ 字號。㊀明、董盡倫(9－31433・・224)の字。㊁明、陸嘉穎(11－41708・・270)の字。

【明悟】203 メイゴ あきらかにさとる。又、さとい。朗悟。〔晉書、傅咸傳〕風格峻整、識性明悟。

【明公】204 メイコウ 名譽地位ある人に對する尊稱。〔後漢書、鄧禹傳〕明公雖レ建二藩輔之功一、猶恐レ無レ所二成立一。〔後漢書、楊彪傳〕瞻二仰明公一。〔吳志、孫堅傳〕堅時在二坐前一、耳語謂レ溫曰、云云、明公親率二王兵一、威震二天下一。

【明侯】205 メイコウ ㊀賢明な君侯。明公に同じ。〔北史、張晉惠傳〕中山杜弼、遺二書張晉惠一曰、明侯深儒碩學、身負二大才一。㊁北宋の時、南詔の世宗(段思廉)の私年號。

【明候】206 メイコウ 物見を十分にする。警戒を嚴にすること。候は、邊疆の展望所のものみ。〔後漢書、南匈奴傳〕嚴レ塞明レ候、大兵擁護。

【明刻】207 ミンコク 明代の刻本。〔書林清話、七〕明刻書用二古體字之陋一。〔書林清話、八〕吾所レ藏者、明刻三國志演義。

【明梏】208 メイコク 罪狀と姓名とをかせにしるして示す刑罰。〔周禮、秋官、掌囚〕士加二明梏一、以適レ市而刑二殺之一。〔注〕卿士加二明梏一者、謂下書二其姓名及其罪于梏一而著上レ之也、囚時雖レ有二無レ梏者一、至二於刑殺一皆設レ之、以適レ市就レ眾也。〔孫詒讓正義〕此明梏、與二大司寇圜明刑之義一略同。

【明國】209 ミンコク 明の國。明の字解の㉛を見よ。〔青山延于、明徵錄〕然則鄭氏之有二成巧一、不二翅明國之光一、亦我神州之華也。

【明佐】211 メイサ 明、王逢年(7－20823・・2103)の字。

【明紗】212 メイサ あかるい窓かけ。〔長生殿、製譜〕愛三風來一弄二明紗一。

【明才】213 メイサイ 事理にあきらかな才能。〔魏志、管輅傳、注〕輅別傳曰、既有二明才一、遭二朱陽之運一、于レ時名勢赫奕、若二火猛風疾一。

【明彩】214 メイサイ あきらかな光。〔弘道館記述義、上〕天祖之御二高天原一也、光華明彩、照二徹六合一、盛德大業、至矣盡矣。

【明細】215 メイサイ あきらかでこまかなこと。はつきりとしてくはしいこと。精細。明瞭。綿密。

〖明細書〗216 メイサイシヨ メイサイガキ 明細に書くこと。又、明細に書いたもの。

【明犀】217 メイサイ 角のひかる犀。古、吠勒國から貢した犀に名づけた。〔洞冥記〕吠勒國貢二犀四頭一、狀如二水兕一、角表裏有レ光、因名二明犀一。

【明歲】218 メイサイ 豐作を豫言する。〔謝朓、擬風賦奉二司徒教一作〕新虹明レ歲、高月照レ秋。

【明齋】219 メイサイ 字號。㊀明、方應選(5－13620・・487)の號。㊁明、毛一公(6－16772・・253)の號。

【明早】220 メイサウ 明朝早く。〔曹植、與二楊德祖一書〕明早相迎、書不レ盡レ懷。

【明爽】221 メイサウ あきらかでさわやかなこと。爽か「なこと。

【明窗】222 メイサウ ㊀あかるいまど。〔元稹、嘉陵江詩〕今日嘉川驛樓下、可レ憐如レ練繞二明窗一。㊁アカリマド 室內に光線を取るために設けたまど。

〖明窗塵〗223 メイサウチン 丹砂の妙藥。道家の隱語。〔許彥周詩話〕李太白作二草創大還詩一云、髣髴明窗塵、死灰同至寂、初不レ曉二此語一、後得二李氏鍊丹法一云、明窗塵、丹砂妙藥也。

〖明窗淨几〗224 メイサウジヤウキ あかるい窓ときよらかな机。日當りの善い明かな窓の下に机の塵を拂つて清淨にすること。〔歐陽脩、試筆、學レ書爲レ樂〕蘇子美嘗言、明窗淨几、筆硯紙墨、皆極二精良一、亦自是人生一樂、然能得二此樂一者甚稀、其不下爲二外物一移中其好上者、又特稀也、余晚知二此趣一、恨字體不レ工、不レ能レ到二古人佳處一、若以爲レ樂、則自足レ有レ餘。〔謝枋得、菖蒲歌〕明窗淨几有二宿契一、花林草砌無二交情一。

【明搶】225 ming^{2} chʻiang^{4} 公然と盜む。

【明燥】226 メイサウ 日當りがよく乾燥してゐる。〔左氏、昭、三、湫隘囂塵可二以居一請更二諸爽塏者一、注、爽、明、塏燥、疏〕以二所レ居下濕塵埃一故、欲レ更二於明燥之處一。

【明察】227 メイサツ 物事の奥そこまであきらかにみぬく。明細に視察する。〔左氏、昭、六〕猶求二聖哲之上、明察之官、忠信之長、慈惠之師一。〔孝經、感應章〕天地明察。〔莊子、盜跖〕秉二人之知謀一、以爲二明察一。〔韓非子、孤憤〕智術之士、必遠見而明察。〔墨子、尙同上〕甚明察以審信。〔史記、平準書〕長吏益慘急、而法令明察。〔漢書、黃霸傳〕爲レ人明察內敏。

【明算】228 メイサン ㊀はかりごとをあきらかにする。〔夏侯湛、東方朔畫贊序〕合レ變以明レ算、幽贊以知レ來。㊁唐代、擧士の科目の一。算學に明通する者を試みる科。明字(255)を見よ。

【明燦】229 メイサン あきらかにかがやく。〔雲谷雜記〕是夕果晴、星斗明燦。

【明山】230 メイサン ㊀山名。湖南省芷江縣の北。〔讀史方輿紀要、湖廣、辰州府、沅州〕明山、周廻二百里、岡巒層疊、環二遶州城一。㊁清、滿洲正藍旗人。姓は伊爾根覺羅氏。謚は勤毅。乾隆の間、佐領から浙江巡撫となる。〔國朝耆獻類徵、一百七十三〕・〔滿洲名臣傳〕。

〔明山先生〕231 メイザンセンセイ 明、馬元吉(**12**－**44572**‥766)の尊稱。

【明槧】232 ミンザン 明代に刻した木版書籍。明刻。明版。

【明之】233 メイシ 字號。㊀金、李杲(**6**－**14459**‥118)の字。㊁元、濮鑑(**7**－**18526**‥4)の字。㊂明、陳大章(**11**－**41698**‥1094)の字。㊃明、藍智(**9**－**32258**‥60)の字。㊄明、白雲霽(**8**－**22678**‥1246)の字。㊅明、廝溶(**12**－**47887**‥123)の字。㊆清、汪元亮(**6**－**17154**‥219)の字。

【明史】234 ミンシ 書名。三百三十六卷。清、世宗の時、保和殿大學士張廷玉等奉敕撰。明朝一代の史。康熙十八年、其の編纂を始め、雍正二年更に諸臣に詔して其の事を續がしめ、乾隆四年に至つて完成す。其の中考究の未だ詳かならざる所は、其の後、更に敕命を承けて刊正した。其の目は十六本紀二十四卷・十五志七十五卷・五表十三卷・一百八十列傳二百二十卷・目錄四卷。其の材料は多く明史稿に取つて居る。〔四庫提要、史、正史類〕。

〔明史稿〕235 ミンシカウ 書名。三百十卷。目錄三卷。清、王鴻緒撰。明一代の史で、十六本紀十九卷・十五志七十七卷・三表九卷・一百七十三列傳二百五卷より成り、帝紀は未完成である。全くの正史であるが、勅定を經ないために稿と名付ける。故に張廷玉等が勅を奉じて明史を撰するに當つては、此の書に因つて增減を加へたといふ。

〔明史紀事本末〕236 ミンシキジホンマツ 書名。八十卷。清、谷應泰撰。張岱の石匱藏書によつて排纂編次し、八十篇に分つ。每篇の論斷は皆晉書の例に傚ふ。〔四庫提要、史、紀事本末類〕。

【明示】237 メイシ あきらかにしめす。〔左氏、桓、二〕今滅レ德立レ違、而寘二其賂器於大廟一、以明二示百官一。〔漢書、朱博傳〕以明二示下一、爲二不レ可レ欺者一。

【明旨】238 メイシ あきらかなむね。明指(244)に同じ。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕不レ足下以塞二厚望一應中明旨上。〔注〕濟曰、明旨、謂二宣帝命一也。

【明志】239 メイシ 志を明潔にする。正しい志をもつ。〔諸葛亮、誡レ子書〕非二澹泊一、無二以明レ志、非二寧靜一、無二以致レ遠。

〔明志道人〕240 メイシダウジン 清、萬壽祺(**9**－**31339**‥596)の號。

【明使】241 ミンシ 明國の使者。〔賴山陽、下二筑後河一過二菊池正觀公戰處一感而有レ作詩〕嘗却二明使一壯二本朝一、豈與二恭獻一同レ日語、丈夫要貴レ知二順逆一、少貳大友何狗鼠。

【明刺】242 メイシ あきらかなそしり。露骨なそしり。〔後漢書、朱樂何傳贊〕公叔辟レ梁、允納二明刺一、絕二交面朋一、崇二厚浮僞一。

【明祀】243 メイシ 神明のまつり。〔左氏、僖、二十一〕崇二明祀一、保二小寡一、周禮也。〔蜀志、郤正傳〕肅二明祀一以礿祭。〔陸機、答二張士然一詩〕駕言巡二明祀一、致レ敬在レ祈レ年。〔江淹、雜體、袁太尉淑從駕詩〕恭潔由二明祀一、肅駕在二祈年一。

【明指】244 メイシ あきらかなむね。はつきりしてよくわかる趣旨命令。明旨。〔漢書、王褒傳〕不レ足下以塞二厚望一應中明指上。

【明師】245 メイシ 學に明かな師。〔漢書、董仲舒傳〕興二太學一、置二明師一、以養二天下之士一。〔說苑、臣術〕擇二明師一選二良友一。

【明粢】246 メイシ 宗廟の祭に供する清淨なきび。明は、きよらかの意。明齍。〔禮、曲禮下〕凡祭二宗廟一之禮、云云、稷曰二明粢一。〔疏〕明、白也、言二此祭祀明白粢一也。〔集解〕明、潔白也。

【明視】247 メイシ ㊀はつきりと視る。はつきりと視拔く。又、あきらかな視力。〔大戴禮、少閒〕粒食之民、昭然明視。〔漢書、五行志中之上〕明視作レ威。㊁兎の異名。兎は肥えれば、目が明かになるからいふ。古、宗廟の祭に供する兎を明視と稱した。明眎。〔禮、曲禮下〕雉曰二疏趾一、兎曰二明視一。〔疏〕兎肥則目開、而視明也。〔韓愈、毛穎傳〕毛穎者、中山人也、其先明視、佐レ禹治二東方土一、養二萬物一有レ功、因封二於卯地一。

〔明視距離〕248 メイシキヨリ 眼を普通の狀態に保つて、物體をあきらかにみられ得る距離。健眼で約二十五糎。

【明試】249 メイシ あきらかにこころみる。〔左氏、僖、二十七〕夏書曰、賦納以レ言、明試以レ功。〔史記、五帝紀〕徧告以レ言、明試以レ功。〔後漢書、章帝紀〕明試以レ功、則政有二異迹一。〔應貞、晉武帝華林園集詩〕登庸以レ德、明試以レ功。

【明詩】250 メイシ ㊀詩によく通ずる。〔史岑、出師頌〕允文允武、明レ詩悅レ禮。㊁ミンシ 明代の詩。明詩選を見よ。

〔明詩選〕251 ミンシセン 書名。十三卷。明、陳子龍・李雯・宋徵輿共撰。原名は皇明詩選といふ。其の目は、古樂府一卷・五言古詩三卷・七言古詩二卷・五言律詩・五言排律共三卷・七言律詩・五言絕句共三卷・七言絕句一卷。明初から萬曆・天啓に至る作家の詩を錄す。作者每に小傳を擧げ、詩每に評を加へる。陳子龍は明末に正雅の音の衰へたのを憂ひ、詩を言ふ者に其の歸嚮する所を知らしめんとしてこの書を撰した。從つて其の主張する所は格調にある。

〔明詩綜〕252 ミンシソウ 書名。一百卷。清、朱彝尊撰。明の洪武年間から崇禎に至るまで、上は帝后から下は僧尼道流に至り、近くは宗親から遠くは蕃服に至るまでの詩を集め、選に入るものは三千四百餘家に及ぶ。明の詩派屢變じて諸家の選本は各門戶異同の見を持したが、惟だ此の書は衆有を網羅して一家を主とせず、人每に皆始末を略敍して備さに諸家の評論を載せて居る。〔四庫提要、集、總集類〕。

〔明詩九變〕253 ミンシキウヘン 明代の詩風の九度の變遷。洪武・永樂の諸人は元末の氣風を脫しないが、宣德の十子に至り一變して晚唐となり、成化の諸人は再變して宋風となる。弘治・正德には三變し、李・何の諸子は盛唐の音を唱へた。嘉靖には四變して初唐となり、皇甫諸子は五變して中唐となり、萬曆には六變して修辭派となり、三袁出でて七變して南宋となり、鍾・譚に至り、八變して纖仄枯槁、明詩大いに壞れ、其の後、陳子龍出でて雅音を唱へ、九變して清婉雄麗となる。

〔明詩別裁集〕254 ミンシベツサイシフ 書名。十二卷。清、沈德潛・周準共撰。明朝の陳子龍等の明詩選、錢謙益の列朝詩集、朱彝尊の明詩綜等から其の輕浮なるもの、其の類似せるものを删つて別に之を裁したもの。凡て三百十四人、詩、一千餘首を載せる。五朝詩別裁集(**1**－**257**‥866)を見よ。

【明齍】254′ メイシ 神に供へる清淨なきび。明は、きよらかの意。齍は粢。明粢。明齊。〔周禮、秋官、司烜氏〕以共二祭祀之明齍一、明燭共二明水一。〔注〕鄭司農云、明粢、謂下以二明水一修二滌粢一盛中黍稷上。〔釋文〕齍、音資、注作レ粢、音同。〔孫詒讓正義〕詩小雅甫田云、以二我齊明一、毛傳云、器實曰レ齊、彼釋文云、齊、本又作レ齍、按、詩齊明、卽此明齍、又士虞禮祝辭亦有二明齊一、注云、今文曰二明粢一、王引之謂、卽經之明齍、其說甚塙、齍・齊・粢三字並通也。

【明字】255 メイジ 唐代擧士の科目の一。文字にあきらかな者を考取する科。〔唐書、選擧志上〕唐制、取レ士之科、其科之目有二秀才一、有二明經一、有二俊士一、有二進士一、有二明法一、有二明字一、有二明算一。

【明兒】256 ming^{2} êrh 明日。華北・京津附近を中心とする地方で行はれる語。明兒個。

〔明兒個〕257 ming^{2} êrh ko 明日。明兒に同じ。

【明時】258 メイジ ㊀あきらかに治まつてゐる世。昭代。〔後漢書、班固傳上〕如得下及二明時一、秉中事下僚上。〔曹植、求二自試一表〕志欲下自效二於明時一、立中功於聖世上。〔張九齡、酬下趙二侍御史西軍贈二兩省舊寮一之作上詩〕明時獨匪レ報、嘗欲レ退二微躬一。〔杜甫、詩〕罷歸無二舊業一、老去戀二明時一。㊁ミンジ 明の時代。〔書林清話、七〕明時官刻書、只准二翻刻一、不レ准二另刻一。

〔明時何用畫二麒麟一〕259 メイジナンゾモチヒンキリンニエガカルルヲ 漢の宣帝は戰功の臣十一人の肖像を麒麟閣に畫いたが、只今は太平の世であるから、我が肖像を麒麟閣に畫かれる事を望まぬ。文事をもつて國に盡すだけであるをいふ。〔新井白石、題二肖像一〕

詩〕蒼顏如レ鐵鬢如レ銀、紫石稜稜電射レ人、五尺小身渾是膽、明時何用畫二麒麟一。

【明磁】260 ミンジ　明代に焼いた陶磁器。

【明州】261 メイシウ　州名。唐、置く。浙江省鄞縣の東。四明山によつて名づける。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府〕鄞縣、秦置二鄮縣一、屬二會稽郡一、漢以後因レ之、隋平レ陳、省レ縣入二句章一、唐復置二鄮縣一、爲二鄞州治一、州尋廢、以レ縣屬二越州一、開元中、復置二明州一治焉、五代時、吳越改二鄮縣一爲二鄞縣一。

〖明州野史〗262 メイシウヤシ　明、林時對(**6**—**14551**・・346)の號。

【明秀】263 メイシウ　❶さとくひいでる。〔晉書 王衍傳〕神情明秀、風姿詳雅。〔歐陽脩、吉州學記〕皆道德明秀、而可レ爲二公卿一。❷ミヤウシウ　明の僧。海鹽の王氏の子。字は雪江。號は石門子。天寧寺に祝髮す。詩に巧。著に雪江集がある。〔新續高僧傳、三十九〕。

【明周】264 メイシウ　梁、蕭圓照(**9**—**32012**・・307)の字。

【明洲】265 メイシウ　明、池浴德(**6**—**17141**・・68)の號。

【明識】266 メイシキ　❶あきらかにしる。〔孔叢子、陳士義〕明識二窮達一、則不可。❷あきらかな見識。〔晉書、荀勖傳〕擧世伏二其明識一。〔孫逖、授二楊仲昌吏部員外郞李巖兵部員外郞一制〕雅才明識、敏行能文。

【明室】267 ミンシツ　明の皇室。明の朝廷。〔靑山延于、明徵錄〕當二此之時一、明室既亡、冠帶之國、變爲二左衽一。

【明悉】268 メイシツ　あきらかにしりつくす。知りつくす。〔南史、袁樞傳〕樞博學、明二悉舊章一。

【明瑟】269 メイシツ　あざやかなさま。〔水經、濟水注〕左右楸桐、負レ日俯仰、目對二魚鳥一、水木明瑟。

【明質】270 メイシツ　德をあきらかにして民をして信ぜしめる。質は信。〔國語、魯語上〕及二前哲令德之人一、所三以爲二明質一也。〔注〕質、信也。

【明習】271 メイシフ　よくよく習得する。明細に習得する。〔史記、陳丞相世家〕孝文皇帝、既益明二習國家事一。〔史記、張蒼傳〕明二習天下圖書計籍一。〔漢書、劉歆傳〕宣帝時、詔レ向受二穀梁春秋一十餘年、大明習。〔漢書、王陵傳〕上益明二習國家事一。〔蔡邕、袁滿來碑〕明二習易學一。

【明社】272 ミンシヤ　明の社稷。明の國家。〔近古史談、豐篇、征韓之役〕明社之覆、未二必不一レ在二覺羅氏之先一也。

【明者】273 メイシヤ　明智ある人。〔易、蒙、匪三我求二童蒙一、童蒙求レ我、注〕闇者求レ明、明者不レ諮二於闇一。

【明床】274 アカリドコ　床の間の脇の、窓付で緣側の方へ出張つた所。昔、机の代用とした。明書院。

【明粧】275 メイシヤウ　うるはしくさつぱりとしたよそほひ。〔鮑照、代堂上歌行〕雖レ謝二侍レ君閑一、明粧帶二綺羅一。

【明昌】276 メイシヤウ　南宋の孝宗の時、金の章宗(完顏璟)の年號。(1190—1196)

【明將】277 メイシヤウ　事理にあきらかな大將。〔六韜、龍韜、兵徵〕勝負之徵、精神先見、明將察レ之。〔六韜、犬韜、戰車〕拙將之所二以見レ擒、明將之所二以能避一也。〔漢書、宣帝紀〕詔曰、朕以二眇身一奉二承祖宗一、夙夜惟念、孝武皇帝躬履二仁義一、選二明將一討二不服一。

【明章】278 メイシヤウ　❶あきらかにあらはす。〔禮、昏義〕聽二天下之内治一、明二章婦順一。❷宗廟の祭に用ひる樂歌。〔韓愈、曹成王碑〕文被二明章一、武薦二畯功一。

【明粧】279 メイシヤウ　明妝(275)に同じ。

【明詳】280 メイシヤウ　あきらかでつまびらかなこと。〔國史略、圓融天皇〕每レ有二帝問一、應對明詳、覈二據典故一。

【明賞】281 メイシヤウ　豫め示してある賞。又、賞を明かにする。〔韓非子、姦劫弑臣〕故善爲レ主者、明賞設レ利以勸レ之。〔後漢書、傅燮傳〕不レ若三息レ軍養レ德、明レ賞必レ罰、其功可二坐而待一也。

【明鯗】282 メイシヤウ　するめ。〔本草、烏賊魚〕釋名、瑞曰、鹽乾者名二明鯗一、淡乾者名二脯鯗一。

【明上】283 メイシヤウ　❶聰明な君主。又、君に對する敬稱。〔晏子、問、下〕有二明上一可二以爲一レ下、遭二亂世一不レ可二以治一レ亂。〔魏志、呂布傳、注〕英雄記曰、布遣二許汜王楷一、告二急於袁術一曰、明上今不レ救レ布、爲二自敗一耳、布破、明上亦破也、術時僭レ號、故呼爲二明上一。❷眼の神の名。〔事物異名錄、神鬼、目神〕黃庭經、眼神、明上、字英元。

【明情】284 ming^2 chʻing^2　あきらかに。たしかに。

【明淨】285 メイジヤウ　けがれなくきよい。〔晉書、桓玄傳〕見下流星墜二銅盆水中一、忽如二二寸火珠一、冏然明淨上。〔南史、齊西陽王子明傳〕子明風姿明淨。

【明酌】286 メイシヤク　澄んだ酒。明は清明の意。一說に、神明の意といふ。〔禮、郊特牲〕縮酌用レ茅、明酌也。〔注〕明酌者、事酒之上也、名曰レ明者、神二明之一。〔疏〕明、謂二清明一、故知二是事酒之上清明者一也。

【明若】287 メイジヤク　明、張汝霖(**4**—**9812**・・1206)の字。

〖明若レ觀レ火〗288 メイヒヲミルガゴトシ　間違なく事の眞相を見極める喩。〔書、盤庚上〕予若レ觀レ火。〔蔡傳〕我視二汝情一、明若レ觀レ火。〔故事成語考、人事〕見レ事極レ眞、曰二明若一レ觀レ火。

【明主】289 メイシユ　賢明な主君。〔戰國、秦策〕今楚王明主也、而昭陽賢相也。〔戰國、秦策〕夫徒處而致レ利、安坐而廣レ地、雖三古五帝三王五霸明主賢君、常欲二坐而致一レ之、其勢不レ能。〔荀子、君道〕明主急レ得二其人一、而闇主急レ得二其勢一。〔韓非子、有度〕故明主使二法擇一レ人、不二自擧一也。〔史記、主父偃傳〕明主不レ惡二切諫一、以博觀。〔漢書、地理志下〕以レ德輔レ之、則明主也。

〖明主愛二一嚬一笑一〗290 メイシユハイツピンイツセウヲヲシム　明君は群臣にその心中を推測せしめることを欲せぬから、群臣に對して、絶えて喜憂の色を示さない。申韓刑名家の說。嚬は憂へて顏をしかめること。〔韓非子、内儲說上〕韓昭侯使三人藏二弊袴一、侍者曰、君亦不仁矣、弊袴不三以賜二左右一而藏レ之、昭侯曰、非二子之所一レ知也、吾聞、明主之愛二一嚬一笑一、嚬有二爲嚬一、而笑有二爲笑一、今夫袴豈特嚬笑哉、袴之與二嚬笑一遠矣、吾必待二有功者一、故收二藏之一、未レ有レ予也。

〖明主不レ掩二人之義一〗291 メイシユハヒトノギヲオホハズ　賢明な君は臣下の功績を掩ひかくさずしてあらはす。〔戰國、趙策〕豫讓曰、臣聞、明主不レ掩二人之義一、忠臣不レ愛レ死以成レ名。

〖明主不二敢以一レ私愛一〗292 メイシユハアヘテワタクシヲモツテアイセズ　賢明な主君は私情を以て敢て臣下を愛することをしない。〔潛夫論、忠貴〕明主不二敢以レ私愛一、忠臣不二敢以レ誣能一。

【明取】293 アカリトリ　明窗(222)に同じ。

【明珠】294 メイシユ　❶ひかるたま。寶珠。〔漢書、西域傳下〕自レ是之後、明珠文甲通犀翠羽之珍、盈二於後宮一。〔白虎通、封禪〕江出二大貝一、海出二明珠一。〔左思、魏都賦〕明珠兼レ寸、尺璧有レ盈。〔何晏、景福殿賦〕明珠翠羽。〔木華、海賦〕豈徒積三太顚之寶貝、與二隨侯之明珠一。❷すぐれた人をいふ。〔晉書、衞玠傳〕嘗語レ人曰、與レ玠同遊、冏若二明珠之在一レ側、朗然照レ人。〔梁書、劉孺傳〕孺、字孝稚、七歲能屬レ文、年十四居二父喪一、毀瘠骨立、宗黨咸異レ之、服闋、叔父瑱爲二義興郡一、攜以之レ官、常置二坐側一、謂二賓客一曰、此兒吾家之明珠也。❸すぐれた詩文をいふ。〔韓愈、奉二酬盧給事雲夫四兄曲江荷花行見レ寄并呈二上錢七兄閣老・張十八助敎一詩〕遺レ我明珠九十六、寒光映レ骨睡二驪目一。〔注〕盧汀詩九十六字、借レ珠喩レ詩也。❹目の異名。〔黃庭內景經〕眉號二華蓋一覆二明珠一。❺清、滿洲正黃旗人。姓は納喇氏。官は兵部尙書・吏部尙書・武英殿大學士。太祖太宗實錄の重修及び三朝聖訓・政治典訓・平定三逆方略・大清會典・一統志・明史等の編纂に總裁官となる。太子太傅・太子太師を加へらる。〔淸史稿、二百七十五〕・〔淸史列傳、八〕・〔國朝耆獻類徵、九〕・〔滿洲名臣傳、十四〕。

〖明珠記〗296 メイシユキ　戲曲の名。明、陸天池作。其の兄の粲、之を助成す。唐代劍俠小說、劉無雙傳に本づいて作る。一名、王仙客無雙傳奇。六十種曲の内。

〖明珠暗投〗297 メイシユアントウ　明珠を暗夜に人に投げ與へる。何如に貴重なものも人に贈るに道を以てせねば却つて怨を招く喩。又、才を懷いて知己に遇はぬ喩。〔史記、鄒陽傳〕臣聞、明月之珠、夜光之璧、以レ暗投二人於道路一、人無下不二按レ劍相眄一者上、何則無レ因而至レ前也。〔書言故事大全、事物譬類〕不レ遇二識者一、明珠暗投。

〖明珠之類〗298 メイシユノライ　明珠の疵。立派な珠の疵。〔顏氏家訓、文章〕明珠之類、美玉之瑕。

〖明珠文犀〗299 メイシユブンサイ　あきらかな珠とあやある犀角。〔後漢書、馬援傳〕前所二載還一、皆明珠文犀。

〖明珠出二老蚌一〗300 メイシユラウバウニイツ　子が父より優れる喩。蚌は河川又は湖沼に生ずるどぶがひ。父

を老蚌に擬し、子を明珠に擬す。〔三輔決錄〕韋康、字元將、弟誕、字仲將、孔融與二其父一書曰、前日元將來、淵材亮茂、雅度宏毅、偉世之器也、昨日仲將來、文敏篤誠、保家之主也、不レ意雙珠近出二老蚌一。〔北齊書、陸卬傳〕嘗謂二子彰一曰、吾以、卿老蚌、遂出二明珠一。

〖明珠兼乘未レ若二一言一〗301 馬車に幾輌も積んだ明珠も、一言の諫めの價値には及ばない。諫言の尊ぶべきをいふ。乘は車。〔唐書、薛收傳〕嘗上書諫レ王、止二畋獵一、王答曰、覽レ所レ陳、知レ成レ我者卿也、明珠兼乘、未レ若二一言一、今賜二黃金四十挺一。

【明儒】302 明代の儒者。明儒學案を見よ。

〖明儒學案〗303 書名。六十二卷。清、黃宗羲撰。明一代の講學諸家の文集語錄を參考し、師承を條析し、以て宗派を辨別したもので、諸儒の源流分合に於ては頗る詳かである。其の目は崇仁學案・白沙學案・河東學案・三原學案・姚江學案・（附浙中王門學案・江右王門學案・南中王門學案・北方王門學案・粵閩王門學案）・止修學案・泰州學案・甘泉學案・諸儒學案・東林學案・蕺山學案。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【明受】305 南宋の初、高宗の代、元懿太子趙旉の年號。（1128）

【明叔】306 字號。❶宋、賈易（**10**－**36755**··8）の字。❷宋、郭知章（**11**－**39474**··377）の字。❸宋、周晉（**2**－**3441**··289）の字。❹宋、朱夢炎（**6**－**14424**··1004）の字。❺宋、徐兢（**4**－**10110**··84）の字。❻元、孫道明（**3**－**6987**··492）の字。

【明淑】307 明潔で且つ貞淑。淑は良。〔後漢書、馮衍傳上〕大將軍以二明淑之德一、秉二大使之權一。〔謝眺、新安長公主墓銘〕誕二茲明淑一、玉振蘭芬。〔顏延之、始安郡還レ都與二張湘州一登二巴陵城樓一作詩〕存沒竟何人、炯介在二明淑一。

【明肅】308 ❶公明で且つ嚴肅。〔南史、江革傳〕爲レ政明肅、豪彊憚レ之。❷宋、張炳（**4**－**9812**··662）の字。

【明春】309 ❶明年のはる。來春。〔先哲叢談、林羅山〕請先生以二明春一爲レ余講レ之。❷清、蒙古正紅旗人。姓は巴羽特氏。武功多く、哈密辨事大臣となる。〔清史稿、四百六十〕。

【明初】310 ❶明代の初期。〔陔餘叢考、明初用レ人不レ拘二資格一〕古來破格用レ人、或一言契合、立擢二卿相一、如下漢武帝之於二公孫弘一、唐太宗之於中馬周上、固史不レ絕レ書、然未レ有下如二明太祖之不レ測者上。〔書林清話、七〕至二明初一吳中四傑、云云。❷明、張恆（**4**－**9812**··310）の字。

【明緖】311 清、滿洲鑲黃旗人。同治の閒、伊犂將軍となる。回部と戰ひ、敗れて焚死す。〔清史列傳、五十〕・〔續碑傳集、六十七〕。

【明處】312 あかるい場所。〔洞天清錄〕就二明處一圈二卻字畫一。

【明恕】313 自分の本心を隱さないこと。〔左氏、隱、三〕明恕而行、要レ之以レ禮。

【明升】314 宋、曾庠（**5**－**14299**··80）の字。

【明昇】315 明の人。玉珍の子。十歲の時、父を嗣いで帝を僭稱し、太祖諭し降さんとするも從はず。兵敗れて、高麗に徙さる。〔明史、一百二十三〕・〔萬斯同明史、一百五十八〕・〔明史稿、一百十四〕。

【明證】316 あきらかなあかし。明かな證據。〔潛夫論、考績〕諺曰、曲木惡二直繩一、重罰惡二明證一。〔晉書、紀瞻傳〕此應同之至驗、不偏之明證也。

〖明證菴〗317 高內寬剛の號。高內松陰（**12**－**45313**··1374）を見よ。

【明燭】318 ❶あかるいともしび。又、ともしびをあかるくする。〔抱朴子、疾謬〕慕レ之者、猶三宵蟲之赴二明燭一。〔張協、雜詩〕蜻蛚吟二階下一、飛蛾拂二明燭一。〔謝惠連、雪賦〕燎二薰鑪一兮炳二明燭一。❷祭に用ひる清淨なともしび。〔周禮、秋官、司烜氏〕以共二祭祀之明齍明燭一、共二明水一。〔注〕明燭以照二饌陳一。

【明心】319 ❶あきらかな心。〔鮑照、舞鶴賦〕鍾二浮曠之藻質一、抱二清迥之明心一。❷［佛］心性をあきらかにする。明心見性（322）を見よ。

〖明心單〗320 ming^2 hsin^1 tan^1 寄附金などの決算書。

〖明心榜〗321 ming^2 hsin^1 pang^3 寄附者・義捐者の姓名を書いた揭示。

〖明心見性〗322 心性の本源に徹見すること。〔宋仁宗、文〕明心見性、佛教爲レ深、修身治國、儒道爲レ切。

【明信】323 ❶心のあきらかで誠あること。〔左氏、隱、三〕苟有二明信一、澗谿沼沚之毛、蘋蘩薀藻之菜、云云、可レ薦二於鬼神一、可レ羞二於王公一。❷たしかなおとづれ。〔朱熹、文〕亦不レ得二明信一、令二人懸レ心耳。❸梁、劉沼（**2**－**2224**··436）の字。

〖明信片〗324 ming^2 hsin^4 p‘ien^4 郵便はがき。

〖明信公子〗325 印章の異名。〔事物異名錄、文具、圖章〕文房圖贊、印書記、名篆、字少章、號二明信公子一。

【明眞】326 あきらかでまことあること。又、あきらかな眞理。〔阮瑀、隱士詩〕何患處二貧苦一、但當レ守二明眞一。

【明神】327 ❶あきらかなかみ。あらたかなかみ。〔詩、大雅、雲漢〕敬二恭明神一、宜レ無二悔怒一。〔周禮、秋官、司盟〕北面詔二明神一。〔注〕明神、神之明察者、謂二日月山川一也。〔左氏、莊、三十二〕國之將レ興、明神降レ之。〔左氏、襄、十一〕名山名川、羣神羣祀、先王先公、七姓十二國之祖、明神殛レ之。〔國語、周語上〕肅二恭明神一而敬二事耇老一。〔史記、魯周公世家〕肅二恭明神一、敬二事耇老一。❷神を崇んでいふ。❸天皇を稱へる語。〔續日本紀、三十六〕天應元年四月詔、明神止大八州所知天皇詔旨。❹阿波國の地名。

【明晨】328 ❶朝。〔曹植、雜詩〕明晨秉二機杼一、日昃不レ成レ文。❷明朝。あすあさ。

【明愼】329 あきらかに觀察し且つ愼しむ。〔易、旅〕君子以明愼、用レ刑而不レ留レ獄。〔程傳〕火之在レ高、明无レ不レ照、君子觀二明照之象一、則以二明愼一用レ刑、明不レ可レ恃、故戒二於愼一、明而止、亦愼象、觀二火行不レ處之象一、則不レ留レ獄、獄者不レ得レ已而設、民有レ罪而入、豈可二留滯淹久一也。〔潘岳、楊荊州誄〕庶獄明愼、刑辟端詳。

【明審】330 あきらかでつまびらかなこと。〔後漢書、呂強傳〕就二外草一自屛、有レ姦明審。〔吳志、吳範傳〕終皆如レ言、其占驗明審如レ此。

【明箴】331 あきらかないましめ。良箴。明戒。〔高允、答二宗欽一詩〕敬承二嘉誨一、永佩二明箴一。

【明震】332 梁の人。山賓の子。字は興道。父業を傳ふ。官は餘姚令。〔梁書、九十七〕。

【明人】333 ❶明朝の民。〔書林清話、五〕明人刻書之精品。❷ming^2 jen^2 ㋑正しい人。㋺博識の人。

【明水】334 ❶祭祀に供へる水。鑑で月から取る水。明は、きよらかな意。〔周禮、秋官、司烜氏〕以レ鑒取二明水於月一。〔注〕明水以爲二玄酒一。〔疏〕明者、潔也、云三明水以爲二玄酒一者、鬱鬯・五齊以二明水一配二三酒一云云。〔禮、明堂位〕夏后氏尙二明水一。〔史記、周紀〕毛叔鄭奉二明水一。〔史記、齊太公世家〕羣公奉二明水一。〔唐書、禮樂志二〕凡祀五齊之上尊、必皆實二明水一、山罍之上尊、必皆實二明酒一、小祀之上尊、亦實二明水一。❷川の名。又、氾陽河・范陽河といふ。古の萠水。源は山東省淄川縣の西南の滴水泉。孝婦河に注ぐ。❸縣名。㋑後魏、置く。陝西省略陽縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、寧羌州、略陽縣〕鳴水城、漢沮縣地、後魏置二落叢郡一、魏收志、落叢郡領二武都・明水二縣一、明水卽鳴水矣、西魏改置二落叢縣一、隋開皇初郡廢、六年改レ縣曰二廚谷一、屬二興州一、八年又改曰二鳴水一、唐因レ之、寶歷初縣廢。㋺民國、置く。滿洲黑龍江省拜泉縣の西南。❹城の名。四川省蓬溪縣の西南の明月山。元末、明玉珍築く。今、鎭とす。又、明水寨といふ。❺鎭の名。山東省章丘縣の南。金時の舊鎭。❻字號。㋑明、陳九川（**11**－**41698**··742）の號。㋺清、龔鑑（**12**－**48837**··6）の字。

〖明水火〗335 明水と明火。明水の❶・明火（122）の❶を見よ。〔周禮、春官、大祝〕凡大禋祀、肆享祭示、則執二明水火一而號祝。

〖明水泉子〗336 泉の名。滿洲黑龍江省拜泉縣の南。土名は白色泉といふ。東南流して通肯河に注ぐ。

【明推】337 ming^2 t‘uei^1 あきらかにおしはかる。

【明粹】338 あきらかで純粹なこと。〔宋史、黃祖舜傳〕其書詞義明粹、乃令二國子監板行一。

【明瑞】339 清、滿洲鑲黃旗人。姓は富察氏。字は筠亭。諡は果烈。乾隆中、伊犂及び緬甸を征

す。官は將軍・管雲貴總督事。爵は一等誠嘉毅勇公。後、緬を征し、敗れて自縊す。〔清史稿、三百三十三〕・〔清史列傳、二十二〕・〔國朝耆獻類徵、三百五十一〕・〔國朝先正事略、二十九〕。

【明世】340 メイセイ 公明な政治の行はれてゐる世の中。〔蜀志、孟光傳〕夫赦者、偏枯之物、非㆓明世所㆒ㇾ宜ㇾ有也。

【明正】341 メイセイ ❶あきらかにし正す。〔管子、七法〕兵必勝㆓敵國㆒矣、而不㆔明㆓正天下之分㆒、猶之不可、故曰、治ㇾ民有ㇾ器、爲ㇾ兵有ㇾ數、勝㆓敵國㆒有ㇾ理、正㆓天下㆒有ㇾ分。❷土司の名。打箭爐土司。明元、長河西・魚通・寧遠の三安撫司を置く。明初、長河西魚通寧遠宣慰司とす。所管の部落は縱橫千餘支里に亙り、東は咱里土司の界から、西は鴉龍江裏塘土司の界に至る。今、西康省の康定、雅江・道孚等の縣の地。〔清會典、戶部〕四川、土司二百六十九。〔注〕明正土司。❸年號。㋑明政の一稱。(969－984) ㋺明の武宗の正德年中、順秦王の僭年號。年次不明。〔歷代紀元編、上〕。❹ミヤウシヤウ 第百九代の帝諡。

【明成】342 メイセイ 明、張位(**4－9812**・・9)の字。

【明制】343 メイセイ 公明な制度。〔漢書、刑法志〕建㆓立明制㆒、爲㆓一代之法㆒。〔申鑒、政體〕王之政、云云、五曰、明制。

【明政】344 メイセイ ❶あきらかなまつりごと。〔王粲、從軍詩〕外參㆓時明政㆒、內不ㇾ廢㆓家私㆒。❷年號。㋑唐の高祖の時、吳の李子通の僭年號。(619－621) ㋺北宋の初、南詔の應道帝(段素順)の時。一に明正に作る。(969－984)

【明星】345 メイセイ ミヤウジヤウ ❶あきらかに輝く星。金星をいふ。〔詩、鄭風、女曰鷄鳴〕子興視ㇾ夜、明星有ㇾ爛。〔莊子、盜跖〕目如㆓明星㆒、髮上指ㇾ冠。〔史記、秦始皇紀〕明星出㆓西方㆒。〔法言、淵騫〕明星皓皓。〔鮑照、詠史詩〕明星晨未ㇾ稀、軒蓋已雲至。〔樂府詩集、近代曲辭、水調歌〕平沙落日大荒西、隴上明星高復低。❷萬人に仰がれる輝かしい存在の人。偉人。❸人氣を集めた女優などをいふ。スター。花形。

〖明星橋〗346 メイセイケウ 橋の名。江蘇省松江縣の東北。民國十三年の江浙戰爭の地。

【明旌】347 メイセイ ❶あきらかにあらはす。〔子華子、孔子贈〕明㆓旌善類㆒、而誅㆓鋤醜屬㆒。❷喪具の一。死者の官職姓名を書くはた。銘旌。〔禮、檀弓下〕銘、明旌也、以㆓死者爲㆒ㇾ不ㇾ可ㇾ別已、故以㆓其旗㆒識ㇾ之。〔書言故事、葬類〕銘旌、丹旐曰㆓明旌㆒。

【明清】348 メイセイ ❶あきらかできよい。〔書、呂刑〕明㆓清于單辭㆒。〔禮、緇衣〕詩云、昔吾有㆓先正㆒、其言明且清。❷ミンシン 明朝と清朝。

【明盛】349 メイセイ あきらかで盛なこと。〔班固、典引〕不ㇾ足㆓雍容明盛、萬分之一㆒。

〖明盛之世〗350 メイセイノヨ 道のあきらかで盛な世。〔揚雄、解嘲〕遭㆓明盛之世㆒、處㆓不諱之朝㆒。〔王融、永明樂〕幸哉明盛世、壯矣帝王居。

【明聖】351 メイセイ ❶聰明で德の高いこと。主として天子の智德をいふ。又、其の人。〔莊子、說劍〕聞㆓夫子明聖㆒、謹奉㆓千金㆒、以幣㆓從者㆒。〔管子、霸言〕國在㆓危亡㆒而能壽者、明聖也。〔史記、秦始皇紀〕賴㆓陛下神靈明聖㆒、平㆓定海內㆒。〔漢書、谷永傳〕陛下誠肯發㆓明聖之德㆒。❷聖賢の述作をいふ。〔禮、樂記〕明聖者、述作之謂也。❸北宋の初、南詔の昭明帝(段素英)の時の年號。年次不明。〔歷代紀元編、上〕。

〖明聖湖〗352 メイセイコ 西湖の舊名。〔錢唐記〕明聖湖、在㆓縣南三里㆒、父老相傳、湖有㆓金牛㆒。〔山堂肆考〕杭州西湖、故明聖湖也、漢時金牛見㆓湖中㆒、人言㆓明聖之瑞㆒、遂稱㆓明聖湖㆒、以㆔其界㆓於錢塘㆒也。

【明靖】353 メイセイ 清、劉武元(**2－2224**・・1284)の諡。

【明誓】354 メイセイ あきらかにちかふ。又、其のちかひ。〔阮籍、詠懷詩〕丹青著㆓明誓㆒、永世不㆓相忘㆒。〔潘岳、寡婦賦〕蹈㆓恭姜兮明誓㆒、詠㆓栢舟兮清歌㆒。

【明齊】355 メイセイ ❶新しい水。〔儀禮、士虞禮〕明齊溲ㇾ酒。〔注〕明齊、新水也、言㆘以㆓新水㆒溲㆗釀此酒㆖也。❷メイシ 神に供へる清淨なきび。齊は粢。明粢。〔儀禮、士虞禮、明齊、注〕今文曰㆓明粢㆒、粢、稷也。

【明濟】356 メイセイ あきらかにすくふ。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕明濟開豁、包含弘大。

【明竁】357 メイセイ 罪人を誅した時、其の法を明書して知らしめるふだ。〔周禮、秋官、司烜氏〕邦若屋誅、則爲㆓明竁㆒焉。〔注〕明竁、若㆓今楬頭㆒、明㆓書其罪法㆒也、司烜掌㆓明書㆒、則罪人夜葬與。

【明霽】359 メイセイ はれてあきらかなこと。〔常建、西山詩〕渚日遠陰映、湖雲尙明霽。

【明劭】360 メイセウ あきらかでうつくしい。〔南齊書、樂志〕皇烈載挺㆓明劭㆒。

【明昭】361 メイセウ あきらかに示す。〔詩、周頌、時邁〕明㆓昭有周㆒、式ㇾ序在ㇾ位。〔箋〕昭、見也、王巡守而明㆔見天之子有㆓周家㆒也。

【明詔】362 メイセウ あきらかなみことのり。又、立派な詔勅。〔史記、蘇秦傳〕承㆓大王之明詔㆒。〔史記、酈生傳〕臣請、得ㇾ奉㆓明詔㆒、說㆓齊王㆒、使㆔爲ㇾ漢而稱㆓東藩㆒。〔漢書、劉向傳〕發㆓明詔㆒、吐㆓德音㆒。〔董仲舒、賢良對策〕陛下發㆓德音㆒、下㆓明詔㆒。〔曹植、應詔詩〕肅承㆓明詔㆒、應ㇾ會㆓皇都㆒。

〖明詔使〗363 メイセウシ 燈の異名。〔事物異名錄、器用、燈〕文房圖贊續、明詔使、名光、字德耀、號㆓開晦公子㆒。

〖格㆓明詔㆒〗364 メイセウヲカクス みことのりに從はぬこと。〔漢書、淮南王安傳〕淮南王安、雍㆘閼奮㆓擊匈奴㆒者雷被等㆖、格㆓明詔㆒、當㆓弃市㆒。〔注〕師古曰、格、音閣、謂㆓攱閣不㆒ㇾ行ㇾ之。

【明照】365 メイセウ あきらかにてらす。〔禮、經解〕明㆓照四海㆒、而不ㇾ遺㆓微小㆒。〔韓非子、姦劫弑臣〕故身在㆓深宮之中㆒、而明㆓照四海之內㆒、而天下弗ㇾ能ㇾ蔽弗ㇾ能ㇾ欺者、何也。

【明夕】366 メイセキ ミヤウセキ あすのばん。〔儀禮、士冠禮〕厥明夕、爲㆓期于廟門之外㆒。

【明石】367 アカシ ❶播磨國の地名。❷姓氏。

〖明石玉〗368 アカシダマ まがひ珊瑚で、一種の煉物。播磨の明石町から多く產する。

【明責】370 メイセキ 責任をあきらかにする。〔潘岳、西征賦〕甄㆓大義㆒以明ㇾ責、反㆓初服于私門㆒。

【明晰】371 メイセキ あきらかではつきりしてゐること。明晳。〔古賀侗庵、題㆓富士山圖㆒〕詳確明晰、瞭然如㆓曾躋攀者㆒。

【明切】372 メイセツ 明瞭で適切。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕在㆓源委清楚、詞意明切㆒。

【明晳】372′ メイセツ 明かなこと。明晰。〔易、大有〕明辨「晳也。

【明說】373 ming² shuo¹ 明白に陳述する。あからさまにいふ。

【明節】374 メイセツ ❶みさをの正しい者を表彰する。〔晉書、周虓傳〕臣聞、旌ㇾ善表ㇾ功、崇ㇾ義明ㇾ節、所㆘以振㆓揚聲教㆒、垂㆗美來葉㆖。❷自己のみさををあつらかにする。〔夏侯湛、東方朔畫贊序〕正諫以明ㇾ節、明ㇾ節不ㇾ可㆓以久安㆒也。

【明先】375 メイセン 明、饒天民(**12－44400**・・76)の字。

【明宣】376 メイセン あきらかにし示す。〔崔瑗、東觀箴〕辛尹顧訪、文武明宣。〔蜀志、馬超傳〕明㆓宣朝化㆒、懷㆓保遠邇㆒。

【明線】377 ming² hsien⁴ 電信・電話・電燈線などの露出線。

【明選】378 メイセン 公明な選任。賢者を用ひ不肖者を退けること。〔潛夫論、本政〕是故國家存亡之本、治亂之機、在㆓於明選㆒而已矣。

【明薦】379 メイセン きよくして神にすすめる。〔禮、祭統〕明薦ㇾ之而已矣。〔注〕明、猶ㇾ潔也。

【明鮮】380 メイセン あきらかであざやかなこと。〔錢起、瑪瑙杯歌〕良工雕飾明且鮮。〔韋應物、夏花明詩〕夏條綠已密、朱萼綴㆓明鮮㆒。

【明瞻】381 ミヤウセン 唐の高僧。石邑の杜氏の子。隋の開皇中、大興善寺に住す。〔續高僧傳、二十四〕。

【明蟾】382 メイセン 明月をいふ。蟾は月中に在るといふひきがへる。〔劉基、十六夜月詩〕永夜涼風吹㆓碧落㆒、深秋白露洗㆓明蟾㆒。

【明前】383 メイゼン 清明節の前に採つた茶。寒食には火を禁ずるから火前ともいふ。〔學林新編〕茶之佳者、造在㆓社前㆒、其次火前。

【明善】384 メイゼン ❶善にあきらか。何が善かを明知する。〔中庸〕不ㇾ明㆓乎善㆒、不ㇾ誠㆓乎身㆒。〔二程遺書、入關語錄〕人患㆓事繫累思慮蔽㆒、固只是不ㇾ得㆓其要㆒、要在ㇾ明ㇾ善、明ㇾ善、在㆓乎格ㇾ物窮㆒ㇾ理。❷字號。㋑宋、羅尙友(**9－28397**・・349)の字。㋺元、韓性(**12－43159**・・140)の字。

〖明善堂〗385 メイゼンダウ 室名。❶明、徐禎稷(**4－10110**・・590)の室名。❷清、奕繪(**3－5922**・・12)の室名。❸清、胡統虞(**9－29400**・・586)の室名。

【明宗】386 メイソウ 廟號。❶五代後唐、第二代の帝。李嗣源(**6－14459**・・1338)を見よ。❷元、第八代の

帝。元、明宗（1－1340・・738）を見よ。㊂高麗、第十九代の王。仁宗の第三子。在位二十七年。㊃朝鮮李朝、第十三代の王。中宗の第二子。在位二十二年。㊄安南陳朝、第五代の王。英宗の第四子。名は奣。

【明叟】387 メイソウ 字號。㊀宋、馬永易（**12－44572**・・695）の字。㊁宋、王覿（**7－20823**・・837）の字。

【明聰】388 メイソウ ㊀目のあきらかなことと耳のさといこと。知德のすぐれた人にいふ。聰明。㊁ミヤウソウ 明の高僧。光澤の奚氏の子。字は無聞。號は絶學。隨州關子嶺の龍泉寺に住す。

【明則】389 メイソク 宋、趙像之（**10－37171**・・572）の字。

【明駝】390 メイダ 健脚な駱駝。健脚な駱駝は、臥した時、其の腹が地に貼せず、足を屈して明を漏らすからいふ。一說に、眼下に毛があつて夜も良く見えるからいふ。明駝千里足を見よ。

〔明駝使〕391 メイダシ 唐代、驛遞の一。駱駝を以て之に充て、急使に用ひる。〔楊太眞外傳、下〕妃私發二明駝使一、持二三枚一、遺二祿山一。〔升菴外集〕唐置驛有二明駝使一、哥舒翰以二白駝一遞。

〔明駝千里足〕392 メイダセンリノアシ 健脚な駱駝。〔木蘭辭〕願馳二明駝千里一、送レ兒還二故鄕一。〔酉陽雜俎、廣動植、毛篇〕明駝千里脚、多誤作二鳴字一、駝臥腹不レ貼レ地、屈レ足漏レ明、則行二千里一。

【明泰】393 メイタイ 淸、滿洲鑲紅旗人。姓は吳札庫氏。金川を征し、敎匪を討ち、皆功あり。官は正定鎭總兵・鑲黃旗漢軍副都統。〔國朝耆獻類徵、三百七〕・〔國史列傳、三十六〕。

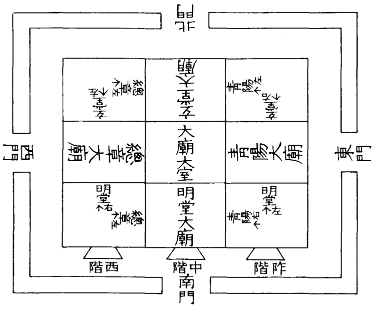
【明代】394 メイダイ ㊀あきらかに治まつた世。〔張嘉貞、恩二勅尙書省寮一宴二昆明池一應制詩〕昔人徒習レ武、明代此聞レ詔。㊁ミンダイ 明の時代。〔書林淸話、八〕元槧則未二之見一、明代最爲二工細一。

〔明代儒學〕395 ミンダイジユガク 儒學（**1－1220**・・16）を見よ。

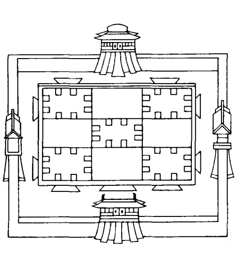
〔明代文學〕396 ミンダイブンガク 支那文學（**5－13061**・・120）を見よ。

【明臺】397 メイダイ 天子が政を行ふ臺。明堂。〔管子、桓公問〕黃帝立二明臺之議一者、上觀二於賢一也、堯有二衢室之問一者、下聽二於人一也。〔魏志、文帝紀〕軒轅有二明臺之議一、放勛有二衢室之問一、皆所三以廣詢二於下一也。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕思二政明臺一、訪二道宣室一。

【明璫】398 メイタウ 明珠で作つた耳飾。〔曹植、洛神賦〕獻二江南之明璫一。〔江總、宛轉歌〕宿處畱レ嬌墮二黃珥一、鏡前含レ笑弄二明璫一。〔劍俠傳、崑崙奴〕悞到二蓬嶺上一遊、明璫玉女動二星眸一。〔王士禎、再過二露筋祠一詩〕翠羽明璫尙儼然、湖雲祠樹碧二於烟一。



明堂（禮器圖）



明堂（三禮圖）

【明堂】399 メイダウ ㊀王者の太廟で、政教を行ふ堂をいふ。古代、上帝を祀り、先祖を祭り、諸侯を朝せしめ、老を養ひ、賢を尊ぶ等の國家の大典禮に關するものは皆此の堂に於て行ふ。時代によつて稱呼を異にし、夏には世室といひ、殷には重屋といひ、周には明堂又は淸廟といふ。其の制は諸書によつて異り、考工記に據れば五室を平列し、月令に據れば中に太室を建て、四方に靑陽・明堂・總章・玄堂各三室を建て、明堂は專ら南面の堂を指し、三室の中央の一室を太廟といひ、兩側を左右个といふ。大戴禮に據れば明堂は九室、三十六戶、七十二牖にして茅で屋根を葺き、上圓下方、其の外に水があつて辟雍といひ、卽ち太學であるといふ。〔周禮、考工記、匠人〕夏后氏世室、堂修二七、廣四修一、五室九階、殷人重屋、堂修七尋、崇三尺、四阿重屋、周人明堂度二九尺之筵一、東西九筵、南北七筵、堂崇一筵、五室、凡室二筵。〔注〕明堂者、明二政敎一之堂。〔禮、明堂位〕昔者周公朝二諸侯于明堂一之位、天子負二斧依一南鄕而立、三公中階之前、北面東上、諸侯之位、阼階之東、西面北上、諸伯之國、西階之西、東面北上、諸子之國、門東北面東上、諸男之國、門西北面東上、九夷之國、東門之外、西面北上、八蠻之國、南門之外、北面東上、六戎之國、西門之外、東面南上、五狄之國、北門之外、南面東上、九采之國、應門之外、北面東上、四塞世告レ至、此周公明堂之位也、明堂也者、明二諸侯之尊卑一也。〔左氏、文、二〕瞫曰、周志有レ之、勇則害レ上、不レ登二於明堂一。〔孝經、聖治章〕宗二祀文王於明堂一。〔孟子、梁惠王下〕夫明堂者、王者之堂也。〔荀子、彊國〕爲レ之築二明堂一。〔史記、太史公自序〕天曆始改、建二於明堂一。〔史記、樂書〕天子躬於二明堂一臨觀。〔素問、著至敎論〕黃帝坐二明堂一。〔注〕明堂、布政之堂也、八窗四闥、上圓下方、在二國之南一、故稱二明堂一。〔淮南子、本經訓〕古者明堂之制。〔注〕明堂、王者布政之堂、上圓下方、堂四出、各有二左右房一、謂二之个一、凡十二所、王者月居二其房一、告朔朝歷、頒二宣其令一、謂二之明堂一、其中可三以敍二昭穆一、謂二之太廟一、其上可下以望二氛祥一書中雲物上、謂二之靈臺一、其外圓似二辟雍一。〔三禮圖、明堂〕周人明堂度二九尺之筵一、東西九筵、南北七筵、堂崇一筵、五室凡室二一筵、賈釋注云、明堂者、明二政敎一之堂、又夏度以レ步、殷度以レ尋、周度以レ筵、是王者相改也、周堂高九尺、殷三尺、以相二參之數一、而禹卑二宮室一、則夏堂高一尺、又上注云、堂上爲二五室一、象二五行一、以三宗廟制如二明堂一、明堂中有二五天帝五人神之坐一、皆法二五行一、以三五行先起二於東方一、故東北之室爲レ木、其實兼レ水矣。〔事物紀原、禮祭郊祀部、明堂〕尸子曰、黃帝曰二合宮一、有虞曰二總章一、商曰二陽館一、周曰二明堂一、管子曰、黃帝有二明堂之議一、通典曰、黃帝拜二祀上帝於明堂一、唐虞祀二五帝於五府一、夏后享二祖宗於世室一、商人曰二重屋一、周人宗二祀文王於明堂一、以配二上帝一、周禮又曰、夏后世室、商人重屋、漢時玉帶畫二黃帝明堂圖一、則明堂要自二黃帝一始也、而孟詵錦帶前書紀二鄭康成匠人夏世室注一云、上五室法二五行一、木室處二東北一曰二靑陽一、火室東南曰二明堂一、金室西南曰二總章一、水室西北曰二玄堂一、土室中央曰二太室一、蓋夏以レ不レ毀爲レ名、故曰二世室一、商加二重檐一、故曰二重屋一、周以三明布二政令一、故曰二明堂一、餘見二禮記月令一也。㊁古、醫家で鍼又は灸點を施す穴を示した偶人をいふ。〔事物紀原、伎術醫卜部、明堂〕今醫家記二鍼灸之穴一、爲二偶人一、點二誌其處一、名二明堂一、按、銅人腧穴圖序曰、黃帝問二岐伯一、以二人之經絡一、窮二妙於血脈一、參二變乎陰陽一、盡書二其言一、藏二於金蘭之室一、洎二雷公請問一、乃坐二明堂一以授レ之、後世之言二明堂一者以レ此。㊂墓前の水の聚る處。風水家の語。〔靑囊海角經、葬法〕三要二明堂惜水一、四要二交合分明一。㊃心宿の三星の中星をいふ。〔史記、天官書〕東宮蒼龍房心、心爲二明堂一。〔注〕索隱曰、春秋說題辭云、房心爲二明堂一、天王布レ政之宮。〔晉書、天文志上〕心三星、天王正位也、中星曰二明堂一、天子位爲二大辰一、主二天下之賞罰一。㊄篇名。㋑大戴禮の篇名。㋺逸周書の篇名。

〔明堂位〕400 メイダウヰ 禮記の篇名。〔禮、明堂位、疏〕鄭目錄云、名曰二明堂一者、以下其記中諸侯朝二周公於明堂一之時、所二陳列一之位上也、在二國之陽一、其制、東西九筵、南北七筵、堂崇一筵、五室、凡室二一筵、此於二別錄一屬二明堂陰陽一。

〔明堂川〕401 メイダウセン 川の名。陝西省米脂縣の西北。〔宋史、神宗紀三〕元豐五年、曲珍等敗二夏人於明堂川一。〔陝西通志〕卽楡林西河、自二楡林一流入二無定河一。

〔明堂圖〕402 メイダウヅ 明堂の作り方を書いた圖。〔史記、孝武紀〕濟南人公玉帶、上二黃帝時明堂圖一。

〔明堂灸經〕403 メイダウキウケイ 書名。八卷。宋、西方子撰。灸法を論ず。〔四庫提要、子、醫家類〕。

〔明堂通釋〕404 メイダウツウシヤク 書名。淸、汪中撰。明堂に關する自說を述ぶ。

〘明堂鍼灸圖〙405 メイダウシンキウヅ　書名。撰者未詳。唐書藝文志に黃帝十二經脈明堂五臟圖一卷、黃帝十二經明堂偃側人圖十二卷があるが、皆同類のもので、鍼灸の腧穴を詳かに記したものである。唐の太宗は嘗て此の圖を見て、人の五臟は皆背に近く、鍼灸に其の適當な所を失へば、其の害は死を致すを知り、鞭背の刑を廢止した。〔唐書、刑法志〕太宗嘗覽二明堂針灸圖一、見二人之五臟皆近一レ背、針灸失レ所、則其害致レ死、歎曰、夫箠者五刑之輕、死者人之所レ重、安得下犯二至輕之刑一而或致上レ死、遂詔、罪人無レ得二鞭背一。

〘明堂大道錄〙406 メイダウダイダウロク　書名。八卷。清、惠棟撰。明堂に關する新說を收む。

【明道】407 メイダウ　❶あきらかなみち。〔老子、四十一〕明道若レ昧、進道若レ退。❷道をあきらかにする。〔史記、禮書〕明レ道而均レ分之。〔漢書、董仲舒傳〕明二其道一不レ計二其功一。❸年號。㋑北宋、仁宗（趙禎）の時。（1032－1033）㋺北宋、仁宗の時、大瞿越（安南）の太宗（李佛馬）の時。（1042－1044）❹字號。㋑唐、玄覺（7－20814‥51）の字。㋺宋、何述（1－511‥103）の字。㋩元、孔思晦（3－6933‥313）の字。㊁元、孛求魯遠（3－6949‥19）の字。

〘明道館〙408 メイダウクヮン　德川時代、秋田に設置された藩立學校。

〘明道學派〙409 メイダウガクハ　北宋の程顥（明道）が唱道した儒學の一派。濂溪より出でて益〻之を光大にした。其の學は仁を識るに本づき、仁を識れば以て性を定むべく、仁を識るには存養の功を要とすると說く。〔宋元學案、明道學案〕祖望謹案、大程子之學、先儒謂三其近二顏子一、蓋天生之完器、然哉然哉、故世有レ疑二小程子之言一、若レ傷レ我者、而獨無レ所レ加二于大程子一、述二明道學案一。

〘明道先生〙410 メイダウセンセイ　宋儒、程顥の尊稱。程顥（8－25081‥23）を見よ。〔宋元學案、明道學案〕文潞公採二衆議一、而爲レ之表二其墓一、曰二明道先生一。

〔十駕齋養新錄〕程伯淳之歿也、文潞公題二其墓一、曰二大宋明道先生程君之墓一。

〘明道正覺禪師〙411 ミヤウダウシヤウガクゼンジ　清、行森（10－34029‥271）の追封號。

【明達】412 メイタツ　❶あきらかに事理に通ずる。〔大戴禮、哀公問五義〕思慮明達、而辭不レ爭。〔荀子、富國〕雖レ欲レ無二明達一得乎哉。〔荀子、君道〕明達周二天地一、理二萬變一而不レ疑。〔漢書、高帝紀下〕性明達好レ謀能聽。❷字號。㋑隋、楊爽（6－15112‥163）の小字。㋺唐、晉陽公主（5－13898‥89）の字。

〘明達貴妃〙413 メイタツキヒ　宋、劉貴妃（2－2224‥782）の謚。

【明答】414 メイタフ　はつきりこたへる。

【明旦】415 メイタン　❶あくるあさ。翌朝。明朝。〔史記、鄭當時傳〕夜以繼レ日、至二其明旦一。〔漢書、鄭當時傳〕夜以繼レ日至二明旦一、常恐レ不レ徧。〔漢書、王莽傳下〕其明旦既乙未、立春之日也。❷あけがた。よあけ。〔揚雄、劇秦美新〕旁作穆穆、明旦不レ寐。

【明灘】416 メイタン　激流の將に澄まうとするところ。〔宋史、河渠志二〕水猛驟移、其將レ澄處、望レ之明白、謂二之拽白一、亦謂二之明灘一。

【明暖】417 メイダン　あかるくあたたかい。〔白居易、自在詩〕杲杲冬日光、明暖眞可レ愛。〔東坡別集〕東坡云、遇二天色明暖一、筆硯和暢。

【明斷】418 メイダン　あきらかで果斷なこと。明かな判斷。又、明かに斷ずる。〔後漢書、孔奮傳〕爲レ政明斷、甄二善疾一レ非、見レ有二美德一、愛レ之如レ親。〔蜀志、劉璋傳〕明斷少而外言入。〔李白、古風〕明斷自レ天啓、大略駕二羣才一。

【明地】419 アカラサマ　❶物事をつつみかくさぬこと。❷アキチ　建物のない地。空地。

【明知】420 メイチ　❶あきらかにしる。〔禮、祭義〕雖レ有二明知之心一、必進二斷其志一焉。〔墨子、公孟〕先生以二鬼神一爲二明知一、能爲二人禍福一哉。〔漢書、河間獻王傳〕明知深察。❷アケチ　㋑美濃國の地名。㋺三河國の地名。

〘明知故問〙421 ming² chih¹ ku⁴ wen⁴　知つたことをわざと尋ねる。

〘明知故犯〙422 ming² chih¹ ku⁴ fan⁴　承知の上で罪を犯す。

【明智】423 メイチ　❶あきらかなちゑ。〔管子、法法〕故雖レ有二明智高行一、倍レ法而治、是廢二規矩一而正二方圓一也。〔墨子、耕柱〕鬼神孰二與聖人明智一。〔漢書、項籍傳贊〕皆明智而忠信、寬厚而愛レ人。〔後漢書、蓋勳傳〕此人明智有レ餘。〔崔駰、達旨〕求二鏌鋣於明智一。〔潘岳、西征賦〕壯二當レ熊之忠勇一、深二辭レ輦之明智一。❷梁、蕭方諸（9－32012‥496）の字。❸アケチ　姓氏。

【明治】424 メイヂ　❶あきらかにをさまる。又、明かにをさめる。又、政治を明かにする。〔易、說卦〕離也者、明也、萬物皆相見、南方之卦也、聖人南面而聽二天下一、嚮レ明而治、蓋取二諸此一也。〔鹽鐵論、相刺〕天設二三光一、以照レ記、天子立二公卿一、以明レ治。〔魏書、世宗紀〕任レ賢明レ治、自レ昔通レ規。❷年號。㋑メイチ　北宋の初、南詔の昭明帝（段素英）の時。玉海は明統に作る。年次不明。〔歷代紀元編、上〕。㋺メイヂ　第百二十二代明治天皇の御時。（1868－1912）❸第百二十二代の帝諡。

〘明治節〙425 メイヂセツ　四大節の一。明治天皇の大業・遺德を傳へ奉るために昭和二年三月三日設定せられた祝日で、明治天皇の御生誕日十一月三日をこれに定む。第二次大戰後、廢止となる。

〘明治維新〙426 メイヂヰシン　慶應三年、十月十四日、征夷大將軍德川慶喜政權を奉還し、明治天皇これを嘉納せられ、十二月九日王政復古の大詔を煥發し給ひ、依つて萬機を親裁し、尋いで明治と改元さる。世にこれを明治維新といふ。〔重野安繹、大日本維新史序〕明治中興、世人稱曰二復古又維新一、復古者、謂二大政歸レ朝、維新者、謂二百度更張一。

【明簫】427 メイチウ　隋、楊溫（6－15112‥36）の字。

【明暢】428 メイチヤウ　聲音、又は論旨がはつきりとのびて通つてゐること。明快流暢。〔宋史、王沔傳〕音吐明暢。

【明聽】429 メイチヤウ　はつきりと民のうつたへをきくこと。〔漢書、刑法志〕今明主躬垂二明聽一。

【明中】430 メイチユウ　❶占象に精しいもの。〔陸倕、石闕銘序〕乃命二審曲之官一、選二明中之士一。〔注〕善曰、明中、謂三四時昏明、各有二中星一也。❷ミヤウチユウ　清の僧。桐鄉の施氏の子。字は大恆。號は烎虛・嘯崖。乾隆中、西湖天竺淨慈の諸道場に主席となる。高宗、紫を賜ふ。著に烎虛詩鈔がある。〔新續高僧傳、十〕。

〘明中正矪〙431 メイチユウセイケイ　まつすぐなしようもん。〔福惠全書、刑名部、欸犯〕以二明中正矪之物產一虛二塡霸占強諫一。

【明仲】432 メイチユウ　字號。❶唐、喩陟（2－3979‥13）の字。❷宋、郭附（11－39474‥194）の字。❸宋、胡寅（9－29400‥12）の字。❹宋、曾公亮（5－14299‥187）の字。❺宋、戴述（5－11685‥75）の字。❻宋、李誠（6－14459‥104）の字。❼金、張暐（4－9812‥14）の字。❽明、奚世亮（3－5930‥57）の字。❾明、曹昭（5－14297‥130）の字。❿明、王鑑之（7－20823‥1274）の字。

【明忠】433 メイチユウ　潛夫論の篇名。

【明柱】434 ming² chu⁴　露出した柱。

【明著】435 メイチヨ　あきらか。又、明らかに示す。著明。〔管子、水地〕文理明著。〔韓非子、六反〕聖人之治也、審二於法禁一、法禁明著、則官法必二於賞罰一、賞罰不レ阿、則民用レ官。〔漢書、梅福傳〕明二著三統一、示レ不二獨有一也。〔說苑、至公〕是吾不公之心、明二著於國一也。〔晉書、王沈傳〕功勳明著、然後賞勸隨レ之。

【明徵】436 メイチヨウ　あきらかに證明する。明かな證據。明證。〔書、胤征〕聖有二謨訓一、明徵定保。〔傳〕徵、證。〔左氏、襄、二十一〕書曰、聖有二謩勳一、明徵定保。

〘明徵錄〙437 メイチヨウロク　書名。十卷。青山延于撰。

【明澄】438 メイチヨウ　くもりないこと。すみわたること。〔雲笈七籤〕凡皆取二天景明澄之時一。

【明敕】439 メイチヨク　あきらかに誡める。又、明かないましめ。敕語をいふ。〔漢書、平帝紀〕明二敕百寮一。〔後漢書、和帝紀〕故先帝明敕在所。〔後漢書、黃瓊傳〕明二敕近臣一、使レ遵二法度一。

【明通】441 メイツウ　❶あきらかに通ずる。〔荀子、不苟〕知則明通而類。〔荀子、哀公〕思慮明通、而辭不レ爭。〔韓非子、飾邪〕凡智能明通、有レ以則行、無レ以則止、故智能單道、不レ可レ傳二於人一、而道法萬全、智能多失。〔史記、五帝紀〕明二通四方耳目一。〔新書、數寧〕以二陛下之明通一、因使下少知二治體一者、得下佐二下風一。❷文理は明白で議論の通達すること。〔六部成語、禮部、明通、注解〕文理明白、議論通達。❸北宋の時、南詔、秉義帝（段素隆）の年號。明通天聖の一稱。（1018－1025）

【明通榜】442 メイツウバウ 清の雍正乾隆年間、雲南・貴州・廣東・廣西・四川・福建の六省は路遠きを以て、特に會試の落第、擧子の落第中から文理明通なものを揀選して、正榜の外に別に一榜を出し、學正教諭に用ひたのをいふ。〔邵齊燾、碭山縣教諭謝先生晉行狀〕雍正甲辰科、順天第五名擧人會試、取二明通榜一、歸教二授於家一。

【明通天聖】443 メイツウテンセイ 北宋の時、南詔、秉義帝（段素隆）の年號。一に明通に作る。（1018－1025）

【明廷】444 メイテイ ❶古、神靈に朝見する地。〔史記、封禪書〕黃帝接二萬靈明廷一、明廷者甘泉也。❷太守縣令などを稱する語。明府(516)に同じ。〔後漢書、黨錮、張儉傳〕篤曰、篤雖レ好レ義、明廷今日載二其半一矣。〔注〕明廷、猶二明府一。〔稱謂錄、知縣、明廷〕表異錄、唐人稱レ縣曰二明府一、漢人謂二之明廷一。❸明君のいます朝廷。〔文天祥、正氣歌〕皇路當二清夷一、含レ和吐二明廷一。

【明帝】445 メイテイ 帝謚。❶後漢、第二代の帝。劉莊(2－2224··295)を見よ。❷三國魏、第三代の天子。曹叡(5－14297··12)を見よ。❸東晉、第三代の王。司馬紹(2－3257··281)を見よ。❹南朝宋、第六代の帝。劉彧(2－2224··16)を見よ。❺南齊、第五代の高宗をいふ。蕭鸞(9－32012··270)を見よ。❻北周、第二代の世宗。宇文毓(3－7067··36)を見よ。❼前秦、苻健(9－30825··2)の謚。❽後趙、石勒(8－24024··865)の謚。

【明亭】446 メイテイ 清、舒赫德(9－30300··99)の字。

【明庭】447 メイテイ 明廷の❶に同じ。〔史記、孝武紀〕黃帝乃治二明庭一、明庭甘泉也。〔漢書、郊祀志上〕黃帝接二萬靈明庭一、明庭者甘泉也。

【明朝】448 ミャウテウ ❶あすの朝。〔杜甫、春宿二左省一詩〕明朝有二封事一、數問夜如何。〔朱熹、次二韻擇之鉛山道中一詩〕行盡江湘萬疊山、家山猶在二有無間一、明朝漸喜登二閩嶺一、澗水分流響二珮環一。❷ミンテウ 明の朝廷。〔清國行政法汎論、內閣〕清朝踏二襲明朝遺制一。❸我が國で、木版又は活字に用ひる書體。縱畫の太く橫畫の細いもの。宋代に起つたが、明代に渡來したからいふ。

【明朝典彙】449 ミンテウテンヰ 書名。二百卷。明、徐學聚撰。一名、明典彙。此の書は洪武から隆慶に至るまでの典故を分類編纂したもの。初、學聚此の書を編し、殆ど緒に就いて卒し、其の子與稽・與參、これを繼ぎ勒す。凡て朝端大政・吏部・戶部・禮部・兵部・刑部・工部の七門に分ち、毎門、亦細目に分ち、合して二百目に分敍す。〔四庫提要、史、政書類存目〕。

【明朝四十家小說】450 ミンテウシジフカセウセツ 叢書の名。十冊。明、顧元慶編。其の目は、第一冊、賢識錄一卷（陸釴）・遵聞錄一卷（梁億）・守溪長語一卷（王鏊）。第二冊、損齋備忘錄一卷（梅純）・平夏錄一卷（黃標）・平吳錄一卷・北平錄一卷。第三冊、平胡錄一卷（陸深）・平定交南錄一卷・青溪暇筆一卷（姚福）・桑榆漫志一卷（陶輔）。第四冊、正學編一卷（陳琛）・明斷編一卷（程楷）・蘿山雜言一卷（宋濂）・蒙泉雜言一卷。第五冊、平夷錄一卷（趙輔）・東征紀行錄一卷・江海殲渠記一卷（祝允明）・醫閭漫記一卷（賀欽）・比事摘錄一卷。第六冊、菽園雜記一卷（陸文量）。第七冊、雙溪雜記一卷（王瓊）・讕言編一卷（曹安）・演連珠編一卷（王子充）・擬連珠編一卷（劉基）・璅語編一卷（楊愼）。第八冊、未齋雜言一卷（黎久）・南山素言一卷（潘府）・松窗寤言一卷（崔銑）・井觀瑣言一卷（鄭瑗）。第九冊、西軒客談一卷・詢蒭錄一卷・拘虛晤言一卷（陳沂）・竹下寤言一卷（王文祿）・撫安東夷記一卷（馬文升）・興復哈密記一卷（馬文升）・西征石城記一卷。第十冊、林泉隨筆一卷（張綸）・石田雜記一卷（沈周）・蘇談一卷（吉謙父）。

【明笛】451 ミンテキ 明樂に用ひる橫笛の名。長さ一尺二寸餘の竹管に六つの孔を穿ち、別に開端に近く調律のために二孔を設く。其の調子は第一孔から第六孔迄を一々明けて吹く時は凡・工・尺・上・乙・四の音を出し、全孔を閉ぢて吹く時は合の音を出す。又、歌口と第一指孔の間に響孔を穿ち、これに竹紙の類を張つて用ひる。

【明哲】452 メイテツ ❶聰明で事理にあきらかなこと。智がすぐれてさとい。又、其の人。〔書、說命上〕知レ之曰二明哲一、明哲實作レ則。〔蔡傳〕有二先知之德一者、謂二之明哲一。〔管子、宙合〕明乃哲、哲乃明、奮乃苓、明哲乃大行。〔法言、問明序〕明哲煌煌、旁燭無レ疆。〔魏志、李通傳〕曹公明哲、必定二天下一。❷宋、趙元傑(10－37171··515)の字。

【明哲保レ身】453 メイテツミヲタモツ 智がすぐれてさとく、理に順つて事に處し、身を全うするをいふ。〔詩、大雅、烝民〕既明且哲、以保二其身一。〔柳宗元、箕子碑並序〕是用保二其明哲一、與レ之俯仰。〔白居易、杜佑致仕制〕明哲保レ身、進退始終、不レ失二其道一。

【明悊】453′ メイテツ あきらかな智慧。明哲に同じ。〔漢書、刑法志〕聖人既躬二明悊之性一。

【明轍】454 メイテツ 明德者の行つた業績。〔沈佺期、枉繫詩〕今代多二秀士一、誰能繼二明轍一。

【明天】455 メイテン ❶あかるい空。〔元稹、和二樂天別レ弟後月夜作一詩〕聞君別二愛弟一、明天照二夜寒一。❷ming^{2} t'ien あす。明日。

【明天見】456 ming^{2} t'ien chien^{4} 明日拜顏します。さよなら。

【明天子】457 メイテンシ 聰明な天子。明德ある天子。〔公羊、莊、四〕古者有二明天子一、則紀侯必誅。〔漢書、嚴安傳〕逢二明天子一、人人自以爲二更生一。

【明天子在レ上】458 メイテンシカミニアリ 聰明な天子が朝廷に在す。〔史記、建元以來侯者年表序〕況乃以二中國一統明天子在レ上、兼二文武一、席二卷四海一、內輯二億萬之衆一。〔韓愈、送二董邵南一序〕爲レ我謝曰、明天子在レ上、可二以出而仕一矣。

【明店】459 アキミセ 人の居ない店。

【明顚】460 メイテン 宋、惠明(4－10822··130)をいふ。

【明傳】461 メイデン 六韜、文韜の篇名。

【明殿】462 メイデン 國君が死んだ時、其の墓側に建てるごてん。〔五代史、契丹錄〕明殿若二中國陵寢下宮之制一、其國君死葬、則於二其墓側一起レ屋、謂二之明殿一、置二官屬職司一、歲時奉表起居如レ事レ生、置二明殿學士一人一、掌二答書詔一。

【明都】463 メイト ❶南方をいふ。南方は陽に向つてあきらかであるからいふ。〔尙書今古文注疏、堯典、宅二南交一注〕鄭康成曰、夏不レ言下曰二明都一三字上、摩滅也。❷藪澤の名。望諸をいふ。〔周禮、夏官、職方氏〕其藪澤曰二望諸一。〔注〕望諸、明都也、在二睢陽一。〔疏〕明都、卽宋之孟諸也。❸清の高宗の乾隆中、越（安南）鄭朝の恩王（鄭楹）の年號。（1740－1767）

【明度】464 メイド 聰明な才器。あきらかな度量。〔晉書、山濤傳〕君之明度、豈當レ介レ意邪。

【明東】465 メイトウ 清、劉開(2－2224··85)の字。

【明統】466 メイトウ 北宋の初、南詔の昭明帝（段素英）の年號。年次不明。

【明透】467 メイトウ すきとほる。明蝦(42)を見よ。

【明燈】468 メイトウ ❶あきらかな燈火。〔劉爍、擬古詩〕臥覺二明燈晦一、坐見二輕紈緇一。❷燈をあきらかにする。〔潛夫論、遏利〕知二脂臘之可一レ明レ燈也。

【明鐙】469 メイトウ あきらかな燈火。明燈。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕衆賓會二廣座一、明鐙熺二炎光一。〔注〕善曰、鐙、與レ燈音義同。

【明瞳】470 メイドウ あきらかなひとみ。〔元稹、閨晚詩〕素臆光如レ研、明瞳豔凝溢。

【明忒】471 メイトク 惡をあきらかにする。〔法言、重黎〕天胙二光德一、而隕二明忒一。〔注〕明二乎秦楚忒惡之所一レ致。

【明得】472 ミャウトク 明の僧。烏程の周氏の子。號は月亭・千松。嘉興東禪寺に住す。萬曆中、示寂す。〔大明高僧傳、四〕。

【明稔】473 ミャウネン 明年。來年。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕邑人去歲貸二籽種一、約二明稔償一レ之、而不レ稔也。

【明德】474 メイトク ❶聰明な德。人の心にもつくもりのないあきらかな德性。〔詩、大雅、皇矣〕帝遷二明德一、串夷載路。〔書、梓材〕先王既勤用二明德一。〔左氏、隱、八〕敢不三承二受君之明德一。〔大學〕大學之道、在レ明二明德一。〔左氏、襄、十九〕昭二明德一而懲二無禮一也。〔國語、楚語上〕爲レ之昭二明德一而廢二幽昏一焉。〔墨子、天志中〕予懷二明德一、不レ大二聲以一レ色。〔史記、陳杞世家〕舜重レ之以二明德一、至二於遂一。〔孔叢子、論書〕周書所謂、明德愼レ罰、陳子明德也、罰レ人而有レ辭、非レ不レ愼矣。❷年號。㋑五代、十國の一、後蜀、高祖（孟知祥）・後主（孟昶）の時。（934－937）㋺五代、南詔の至道廣治帝（段思聰）の時。（953－968）一說に、（952－968）㋩北宋の初、南詔の昭明帝（段素英）の時。㋥明世宗の代、越、莫登庸の時。（1527

－1529）㋭第百代後小松天皇の御時。（1390－1394）㊂清、滿洲正紅旗人。姓は輝和氏。江蘇巡撫となり、河を治め、田數萬頃を拓く。官は雲貴總督。〔清史列傳、二十三〕・〔國朝耆獻類徵、一百七十六〕・〔滿洲名臣傳、四十〕。㊃清、滿洲正黃旗人。姓は伊爾根覺羅氏。各地に征戰に從ひ、功多し。官は領催・墨爾根城副都統。〔國朝耆獻類徵、三百九〕。㊄字號。㋑元、慶童（4－11145・・108）の字。㋺元、鄭元祐（11－39647・・364）の字。㋩明、衞青（10－34074・・74）の字。㋥明、季本（3－6965・・235）の字。㋭明、沈宣（6－17189・・258）の字。㋬清、張文炳（4－9812・・1497）の字。

〖明德堂〗475（メイトクダウ）　明、呂維祺（2－3386・・159）の室名。

〖明德惟馨〗476（メイトク コレカンバシ）　神に供する黍稷の香しいのに對し、君の明德の馨しいことをいふ。〔書、君陳〕我聞曰、至治馨香、感二于神明一、黍稷非レ馨、明德惟馨。〔傳〕所レ聞上古聖賢之言、政治之至者、芬芳馨氣、動二於神明一、所謂芬芳、非二黍稷之氣一、乃明德之馨、勵レ之以レ德。

〖明德目錄〗477（メイトク モクロク）　書目の名。京都東福寺內普門院書庫に藏する典籍の目錄。明德二年、知有禪師が從前の常樂目錄を改編したもの。中國から將來した典籍を知る有要の資料である。今、內閣文庫・帝國圖書館に狩谷棭齋が京都から採訪したものの寫本を藏す。

〖明德馬皇后〗478（メイトクバクワウゴウ）　後漢、馬后（12－44572・・207）をいふ。

〖明德李皇后〗479（メイトクリクワウゴウ）　宋、李后（6－14459・・332）の謚。

【明日】480（ミヤウニチ）　あす。あくるひ。翌日。〔左氏、定四〕明日或二旆以會一。〔論語、衞靈公〕明日遂行。〔孟子、公孫丑下〕明日出弔二於東郭氏一。〔管子、乘馬〕今日不レ爲、明日亡レ貨。

〖明日黃花〗481（ミヤウニチクワウクワ）　物の時期を過ぎたこと。俗に十日の菊、後の祭などいふに同じ。〔蘇軾、九日次二韻王鞏一詩〕相逢不レ用忙歸去、明日黃花蝶也愁。〔蘇軾、南鄕子詞〕萬事到頭都是夢、休休、明日黃花蝶也愁。〔書言故事、花木類〕過レ時之物、曰二明日黃花一。

【明南】482（メイナン）　明、王道行（7－20823・・1890）の字。

【明年】483（メイネン ミヤウネン）　あくるとし。來年。〔左氏、昭、七〕明年壬寅。〔戰國、魏策〕華陽之戰、魏不レ勝レ秦、明年將レ使二段干崇割レ地而講一。〔史記、萬石傳〕其明年、上廢二太子一。〔漢書、王商傳〕明年商代二匡衡一爲二丞相一。〔劉廷芝、代下悲二白頭一翁上詩〕明年花開復誰在。

〖明年對月〗484（ミヤウネンタイゲツ）　來年の今月。〔中夏俗語藪、三〕。

〖明年此會知誰健〗485（ミヤウネンコノクワイシルタレカケンナルヲ）　明年は此の會で誰が健在であらうか。〔杜甫、九日藍田崔氏莊詩〕老去悲秋強自寬、興來今日盡二君歡一、羞將二短髮一還吹レ帽、笑倩二旁人一爲正レ冠、藍水遠從二千澗一落、玉山高竝二兩峰一寒、明年此會知誰健、醉把二茱萸一子細看。

【明農】486（メイノウ）　清、方文（5－13620・・411）の號。

〖明農隱士〗487（メイノウインシ）　明、王象晉（7－20823・・1639）の號。

【明寶】488（メイハウ）　五代吳越、錢元瓘（11－40563・・297）の字。

【明望】489（メイバウ）　字號。㊀宋、邵知柔（11－39343・・135）の字。㊁金、施宜生（5－13629・・134）の字。

【明白】490（メイハク）　㊀はつきりとよくわかる。あきらか。明瞭。〔老子、十〕明白四達、能無レ知乎。〔莊子、天地〕明白入レ素、無爲復レ朴。〔史記、淮南王安傳〕謀反明白、當レ伏レ誅。〔漢書、景十三王、趙敬肅王彭祖傳〕罪名明白。〔淮南子、說林訓〕見レ之明白、處レ之如二玉石一。〔說苑、權謀〕以二明白之乘六一、先以二一璧一。〔論衡、偶會〕罪法明白。㊁宋、姚坦（3－6202・・90）の字。

〖明白回奏〗491（メイハククワイソウ）　清代、大官が他から彈劾せられた場合、皇上が特に該大官に對し、其の事件に關して明白に回答せしめること。〔皇朝政治學問答〕大官被レ參、或辨レ事有二私見一、使二人可レ疑者、皇上命二其明白回奏一。

〖明白先生〗492（メイハクセンセイ）　明、王桓（7－20823・・306）の尊稱。

〖明白了當〗493　ming^2　pai　liao^3　tang^1　甚だ明瞭な。

【明發】494（メイハツ）　㊀夕から旦まで。夜どほし。又、夜あけがた。あかつき。〔詩、小雅、小宛〕明發不レ寐、有レ懷二二人一。〔傳〕明發、發レ夕至レ旦。〔禮、祭義〕祭之明日、明發不レ寐。〔楚辭、招魂〕娛レ酒不レ廢。〔注〕或曰、娛レ酒不レ發、發、旦也。〔曹大家、東征賦〕明發曙而不レ寐兮、心遲遲而有レ違。〔顏延之、秋胡詩〕明發動二愁心一、閨中起長歎。〔王融、永明九年策二秀才一文〕明發動レ容、昃食興レ慮。〔注〕濟曰、明發、謂二夜待レ明也。㊁あきらかに發する。〔後漢書、循吏傳序〕明發二姦伏一、吏端禁止。㊂宋、趙士暕（10－37171・・577）の字。

〖明發上諭〗495（メイハツジヤウユ）　機密事件に關して特別官廳に發下する寄信上諭に對して、中外臣民に公示する上諭をいふ。〔清國行政法、一〕。

【明罰】496（メイバツ）　㊀ばつをあきらかにする。〔易、噬〕先王以明レ罰勅レ法。㊁あきらかなばつ。〔任昉、奏二彈曹景宗一文〕爰自二古昔一、明罰在レ斯。

【明法】497（メイハフ）　㊀掟をあきらかにする。〔史記、秦始皇紀〕皇帝臨レ位、作レ制明レ法、臣下脩飭。〔晉書、王猛載記〕明レ法峻レ刑、澄二察善惡一。㊁あきらかに定まつてゐる法律。〔莊子、知北遊〕天地有二大美一而不レ言、四時有二明法一而不レ議。〔史記、太史公自序〕采二儒墨之善一、撮二明法之要一。㊂漢の武帝が郡國に詔し、四科の目を立てて士を擧用し、法令に明習する者を任用したのに始まり、唐代には六科の一に明法を置いた。明經（155）を見よ。〔唐書、選擧志上〕其科之目、有二秀才一、有二明經一、有二俊士一、有二進士一、有二明法一、有二明字一、有二明算一、有二史科一。〔事物紀原、學校貢擧部、明法〕漢新有レ國、詔二明レ法者、遣レ詣二相府一、此明法之始也、唐始設二明法科一。㊃管子の篇名。㊄北宋の初、南詔昭明帝（段素英）の時の年號。年次不明。㊅（ミヤウバフ）　王朝時代の大學寮にあつた學科。法律科。〔令義解、選敍〕明法、取下通二達律令一者上。

〖明法道〗498（ミヤウバフダウ）　大學寮の學科の一。律令格式を講求する學問。〔職原抄、太學寮〕。明法博士二人、明法道之極官也。

〖明法曹司〗499（ミヤウバフザウシ）　法律を講習する所。〔延曆交替式〕明法曹司解。

〖明法博士〗500（ミヤウバフハカセ）　大學寮で律令格式を授けた官。明法道を見よ。

【明範】501（メイハン）　隋、道成（11－39010・・281）の字。

【明版】502（ミンパン）　明代に刻した書板。洪武・永樂の間に刻したものは多く古意を存してゐるが、それ以後は前時に及ばない。〔袁恬、書隱叢說〕官書之風、至レ明極盛、內而南北兩京、外而道學兩署、無レ不三盛行二雕造一、官司至レ任、數卷新書、與二土儀一並充二餽品一、稱爲二書帕本一。〔書林淸話、明人刻書載二寫書生姓名一〕孫記明版論衡三十卷、板心有二通津草堂四字一、末卷後有二周慈寫陸奎刻六字一。

【明晚】503（ミヤウバン）　明日の晚。

【明盤】504　ming^2　p'an^2　問屋邊で賣手と買手とが公然と其の値段を言ひ出して取引すること。

【明礬】505（ミヤウバン）　藥の名。アルミニウム及びカリウムの硫酸鹽。無色透明の結晶體で藥品工業上に使用せられる。〔本草、礬石〕集解、時珍曰、礬石析而辨レ之、不レ止二于五種一也、白礬方土、謂二之白君一、出二晉地一者上、靑州吳中者次レ之、潔白者爲二雪礬一、光明者爲二明礬一、亦名二雲母礬一。

〖明礬石〗506（ミヤウバンセキ）　明礬製造の原料とする硫酸及び礬土の化合物。明礬を見よ。

【明妃】507（メイヒ）　前漢、元帝の妃、王昭君をいふ。晉の文帝の時、文帝の諱（司馬昭）を避けて昭を明に作り、明妃と呼び習はしめた。明君。王嬙（7－20823・・535）・王昭君（7－20823・・1790）の㊀を見よ。〔江淹、恨賦〕若夫明妃去時、仰レ天太息。〔注〕翰曰、王昭君、齊國王襄女也、年十七獻二漢元帝一、會匈奴遣レ使、請二一女子一、帝謂、後宮欲下至二單于一者起上、昭君喟然而歎、越レ席而起、乃賜二單于一、後爲レ觸二晉文帝諱一、改爲二明妃一。〔杜甫、詠二懷古跡一詩〕羣山萬壑赴二荊門一、生二長明妃一尚有レ邨。

〖明妃怨〗508（メイヒエン）　樂府、琴曲歌辭の名。唐、楊凌作。王昭君を詠じたもの。〔楊凌、明妃怨〕漢國明妃去不レ還、馬馱弦管向二陰山一、匣中縱有二菱花鏡一、羞下對二單于一照中舊顏上。

〖明妃曲〗509（メイヒキヨク）　樂府の名。前漢元帝の妃、王昭君の事を詠ず。宋の歐陽脩・王安石等に歌辭

がある。〔歐陽脩、再和㆓明妃曲㆒〕漢宮有㆓佳人㆒、天子初未㆑識、一朝隨㆓漢使㆒、遠嫁單于國、絕色天下無、一失難㆓再得㆒、雖㆔能殺㆓畫工㆒、於㆑事竟何益。

〖明妃變文〗510（メイヒヘンブン）　燉煌出土書の一。漢の元帝の妾、明妃が匈奴の單于に嫁する物語を散文と韻文とを交へて敍す。首卷を闕く。今、巴里博物館に藏す。一に王昭君變文ともいふ。〔燉煌遺書、第一集〕。

【明眉】511（メイビ）　あざやかに美しい。明媚。〔杜甫、清明詩〕翠柳豔明眉。

【明備】512（メイビ）　はつきりとしてととのひそなはる。〔先哲叢談、伊藤蘭嵎〕音吐朗暢、辯論明備。

【明媚】513（メイビ）　あざやかに美しい。鮮美。鮮媚。〔鮑照、芙蓉賦〕爍㆓彤輝之明媚㆒。〔隋煬帝、望㆓江南㆒詩〕宿霧洗開明媚眼。〔李德裕、靈泉賦序〕冬溫夏寒、明媚可㆑鑒。〔劇談錄〕曲江池、花卉環周、烟水明媚。〔李成、山水訣〕春山明媚、夏木繁陰。

【明微】514（メイビ）　❶微をあきらかにする。かすかなものをあきらかにする。〔禮、禮運〕夫禮者君之柄也、所㆘以別㆑嫌明㆑微、儐㆓鬼神㆒、考㆓制度㆒、別㆗仁義㆖。❷宋、彭衞（**4－10003**··3）の字。

【明敏】515（メイビン）　❶物事にあかるく才智がさとい。〔北齊書、文宣帝紀〕內雖㆓明敏㆒、貌若㆑不㆑足。❷元、方行（**5－13620**··47）の字。❸清、碩詹（**8－24338**··30）の諡。

【明府】516（メイフ）　❶明法を藏する所。大府。〔管子、君臣上〕君發㆓其明府之法瑞㆒、以稽㆑之。〔纂詁〕變㆓大府㆒言㆓明府㆒者、取㆓明法所㆑藏。❷太守・縣令をいふ。府君。明府君。〔漢書、孫寶傳〕明府素著㆓威名㆒。〔漢書、龔遂傳〕明府且止、願有㆑所㆑白。〔後漢書、張湛傳〕王莽時、歷㆓太守・都尉㆒、建武初、爲㆓左馮翊㆒、在㆑郡、修㆓典禮㆒、設㆓條教㆒、政化大行、後告㆑歸㆓平陵㆒、望㆓寺門㆒而步、主簿進曰、明府位尊德重、不㆑宜㆓自輕㆒。〔注〕郡守所㆑居曰㆑府、明府者尊高之稱、前書韓延壽爲㆓東郡太守㆒、門卒謂㆓之明府㆒、亦其義也。〔魏志、臧洪傳〕明府歷世受㆑恩、兄弟並據㆓大郡㆒。〔類書纂要〕稱㆓太守縣令㆒、皆曰㆓明府㆒。〔三餘偶筆〕漢人稱㆓太守㆒爲㆓明府㆒、其見㆓于前後漢書諸傳㆒者、不㆑可㆓枚擧㆒、章懷注㆓後漢書張湛傳㆒、明府位尊德重、不㆑宜㆓自輕㆒云、郡守所㆑居曰㆑府、府者、尊高之稱、前書、韓延壽爲㆓東郡太守㆒、門卒謂㆓之明府㆒、亦其義也、今按、唐人以㆑此爲㆓縣令之稱㆒、縣令何府之有。〔容齋四筆、官稱別名〕御史拾遺爲㆓院長㆒、下至㆓縣令㆒曰㆓明府㆒、丞曰㆓贊府・贊公㆒、尉曰㆓少府・少公・少仙㆒。

【明復】517（メイフク）　字號。❶宋、孫復（**3－6987**··260）の字。❷宋、劉忱（**2－2224**··396）の字。

【明物】518（アキモノ）　不用な物。

【明分】519（メイブン）　❶分を明かにする。分限をあきらかにする。〔商子、修權〕故立㆑法明㆑分、而不㆓以㆑私害㆑法則治。❷當然の職分。〔班彪、王命論〕收㆓陵嬰之明分㆒、絕㆓信布之覬覦㆒。〔通俗編、境遇、明分〕列女傳、龐娥親曰、讎塞身死、妾之明分也、治獄制刑、君之常典也。

【明文】520（メイブン）　❶法典にあきらかに記された文言。轉じて、筋の通つた立派な文章をいふ。〔漢書、韋玄成傳〕經傳無㆓明文㆒。〔漢書、王莽傳上〕今制㆑禮作㆑樂實考㆑周爵五等、地四等、有㆓明文㆒。〔顏氏家訓、風操〕禮無㆓明文㆒、則吾不㆑取。〔朱子全書、易、綱領上〕乾之爲㆑馬、坤之爲㆑牛、說卦有㆓明文㆒矣。❷上役からのさしづのかきつけ。〔福惠全書、涖任部、看須知〕置㆓辦軍需㆒、槽劄車船等物、于㆓某年月日㆒、奉㆓某處明文㆒、動㆓何項錢糧㆒。

〖明文海〗521（ミンブンカイ）　書名。四百八十二卷。清、黃宗羲編。明代の文章を蒐輯す。其の子主一が宗羲の歿後に自意を以て排纂したもの。〔四庫提要、集、總集類〕。

〖明文衡〗522（ミンブンカウ）　書名。九十八卷。補二卷。明、程敏政編。明文の權衡となるべきものを集め四十類に分つ。其の目は、檄・詔・制・誥・冊・遺祭文・賦・騷・樂府・琴操・表箋・奏議・議・論・說・解・辯・原・箴・銘・頌・贊・七・策問・問對・書・記・序・題跋・雜著・傳・行狀・碑・神道碑・墓碑・墓誌・墓表・哀誄・祭文・字說。補二卷は補遺で別に類を別たない。〔四庫提要、集、總集類〕。

〖明文在〗523（ミンブンザイ）　書名。一百卷。清、薛熙編。明の文章を集めたもので次の七十二類に分つ。賦・朝會郊社樂章・鐃歌鼓吹・琴操・古詩・律詩・騷・七・演聯珠・詔・制・誥・祝冊諭祭文・策問・檄・露布・頌・表・箋・啓・奏疏・贊・箴・銘・原・議・論・辯・說・書・經史序・應制序・文集序・詩集序・樂府序・志譜序・志孝序・紀遊序・贈賀序・送行序・壽序・節壽序・學宮記・書院記・應制記・德政記・圖像記・寺廟記・書齋記・山水記・工作記・敕建碑・聖廟碑・精忠碑・勳德碑・神道碑・墓碑・墓表・墓誌銘・傳・行狀・錄・書事・雜志・銘・冠詞・字詞・哀詞・誄詞・祭文・公移・題跋。〔四庫提要、集、總集類存目〕。

【明聞】524（メイブン）　あらはれきこえる。〔國語、吳語〕今天王既封殖、越國以明㆓聞於天下㆒。〔注〕明、顯也。

【明表】525（メイヘウ）　❶あきらかなしるし。〔漢書、五行志中之下〕此天人之明表也。❷宋、淨端（**7－17669**··81）の字。

【明辟】526（メイヘキ）　賢明な君。明君。又、其の位。辟は君。周公が成王の幼時に政を攝し、其の成人となつて後これに政を還した故事から、政を君に還すことをいふ。〔書、洛誥〕朕復㆓子明辟㆒。〔傳〕周公盡㆑禮致㆑敬言、我復㆓還明君之政於子㆒、子成王、年二十成人、故必歸㆑政、而退老。〔蔡傳〕明辟者、明君之謂。〔漢書、王莽傳上〕成王加㆓元服㆒、周公則致㆓政書㆒曰、朕復㆓子明辟㆒。〔後漢書、杜根等傳贊〕鄧不㆓明辟㆒。〔注〕尙書曰、朕復㆓子明辟㆒、孔安國注云、復㆓還明君之政於成王㆒也、言㆓鄧后臨㆑朝、不㆑還㆓政於安帝㆒也。〔後漢書、和熹鄧皇后紀論〕身闕㆓明辟之義㆒。〔注〕辟、君也。

【明辨】527（メイベン）　あきらかにわきまへる。はつきり見わける。又、明かに分別する。〔中庸〕愼思㆑之、明辨㆑之。〔管子、明法解〕竟內明辨、而不㆓相踰越㆒也。

【明辯】528（メイベン）　❶あきらかな辯舌。又、明かに辯ずる。〔隋書、李子雄傳〕子雄、明辯有㆓器幹㆒、帝甚任㆑之。❷明かに分別する。辯は辨。〔韓非子、有度〕則君臣之閒、明辯而易㆑治。〔翼毳〕辯・辨通。

【明父】529（メイホ）　宋、陳元晉（**11－41698**··828）の字。

【明甫】530（メイホ）　❶いか。するめ。明蜅・明脯に同じ。❷字號。㋑宋、霍暐（**12－42321**··1）の字。㋺宋、方暹（**5－13620**··321）の字。㋩宋、凌哲（**2－1669**··91）の字。㋥明、黃昭（**12－47926**··552）の字。㋭明、邵德（**11－39343**··56）の字。㋬明、詹事講（**10－35458**··51）の字。㋣元、白景亮（**8－22678**··1292）の字。㋠元、耶律希亮（**9－29008**··61）の字。㋷清、祝嘉（**8－24672**··17）の字。

【明保】531（メイホ）　❶あきらかにたもつ。〔書、洛誥〕公明㆓保予沖子㆒、公稱㆓丕顯德㆒。❷長官が其の所屬官吏の才能ある者を明かに保證して推薦すること。〔大學衍義補、正㆓百官㆒、崇㆓推薦之道㆒〕臣愚以爲、宜㆑令㆘擧主於㆓初擧之時㆒、明具㆗保任連坐之狀㆖。

【明脯】532（メイホ）　いか。するめ。明脯鯗を見よ。

〖明脯鯗〗533（メイホシヤウ）　するめ。いか。鹽乾しを明鯗、生乾を脯鯗といふ。〔本草、烏賊魚〕釋名、瑞曰、鹽乾者名㆓明鯗㆒、淡乾者名㆓脯鯗㆒。

【明蜅】534（メイホ）　いか。するめ。明脯に同じ。

【明輔】535（メイホ）　❶證據とする。〔通俗編、交際、明輔〕元曲選、張國賓薛仁貴劇、有㆘做㆓箇明輔㆒語㆖、猶㆑云㆑作㆓證見㆒也。❷字號。㋑宋、吳子良（**2－3365**··600）の字。㋺明、黃斌卿（**12－47926**··1302）の字。

【明暮】536（アケクレ）　朝に夕に。つねに。

【明眸】537（メイボウ）　あきらかなひとみ。〔傅玄、豔歌行有女篇〕蛾眉分㆓翠羽㆒、明眸發㆓清揚㆒。

〖明眸皓齒〗538（メイボウカウシ）　あきらかなひとみと白い齒。美人の形容。〔杜甫、哀江頭詩〕明眸皓齒今何在、血汙遊魂歸不㆑得。〔蘇軾、虢國夫人夜游圖詩〕明眸皓齒誰復見、只有丹青餘㆓淚痕㆒。

〖明眸善睞〗539（メイボウゼンライ）　明眸善くかへりみる。美人の顧盼をいふ。〔曹植、洛神賦〕丹脣外朗、皓齒內鮮、明眸善睞、輔靨承㆑權。

【明懋】540（メイボウ）　あきらかでさかんなこと。公明盛大。〔顏延之、應㆑詔觀㆓北湖田收㆒詩〕蓄軫豈明懋、善遊皆聖仙。

【明牧】541（メイボク）　公明な地方長官。〔謝瞻、王撫軍庾西陽集別作詩〕方㆑舟析㆓舊知㆒、對㆑筵曠㆓明牧㆒。〔謝朓、和㆓王著作八公山詩㆒詩〕阽㆑危賴㆓宗袞㆒、微㆑管寄㆓明牧㆒。

【明本】542（メイホン）　❶浙江省明州出版の本をいふ。明本排字九經直音（544）を見よ。❷元、陶復初（**11

—41705‥227）の字。❸ミンポン 明時代の版本。❹ミヤウホン 元の高僧。錢塘の人。號は中峯。天目山の高峯妙和尚に學び、大悟徹底す。仁宗から、佛慈圓照廣慧禪師の號を賜はる。著に中峯廣錄・中峯雜錄がある。〔峯和尚行錄〕。

【明本釋】543 メイホンシャク 書名。三卷。宋、劉荀撰。講學には其の本を求むべきをいひ、其の切要なるもの二十三條を擧げ、各 標目として論じたもの。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【明本排字九經直音】544 メイホンハイジキウケイチヨクオン 書名。二卷。撰者未詳。宋人の作るところといふ。九經の文字を釋したもので明本といふは明州の刻本の義。反切を用ひないから直音といふ。陸氏の釋文をもととし宋の諸儒の說を交へ頗る精確である。〔四庫提要、經、五經總義類〕。

【明昧】545 メイマイ 曖昧（5—14206‥9）に同じ。〔還魂記、診祟〕全無謂、把二單相思一害得忒明昧。

【明盲】546 アキメクラ 文字を知らないものを卑しめていふ。

【明密】547 メイミツ あきらかでこまかなこと。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕章程明密、品式周備。〔宋書、謝靈運傳論〕靈運之興會標擧、延年之體裁明密。

【明民】548 メイミン 民を明かにする。民の分際をあきらかにする。〔禮、祭法〕黃帝正二名百物一、以明レ民共レ財。〔注〕明レ民、謂レ使二之衣服有レ章也。

【明命】549 メイメイ ❶あきらかな命令。㋑天から授かつてゐる命令。休命。天命。〔書、太甲上〕先王顧二諟天之明命一、以承二上下神祇一。〔書、咸有一德〕克享二天心一、受二天明命一。〔大學〕顧二諟天之明命一。㋺君主の命令。〔史記、李斯傳〕臣請奉二太子之明命一、以報二丞相一。〔孔叢子、陳士義〕敢不三敬受二君之明命一。❷尊び名づける。〔禮、祭義〕明二命鬼神一。〔注〕明命、猶二尊名一也。❸清、宣宗成皇帝の時、大南（越）聖祖仁皇帝（阮福晈、一に阮福担）の年號。（1820—1840）

【明明】550 メイメイ ❶大いにあきらかなさま。〔爾雅、釋訓〕明明、察也。〔疏〕孫炎曰、明明、性理之察也。〔書、五子之歌〕明明我祖、萬邦之君。〔書、胤征〕百官修二輔厥后一、惟明明。〔書、呂刑〕穆穆在レ上、明明在レ下。〔詩、小雅、小明〕明明上天、照二臨下土一。〔詩、大雅、大明〕明明在レ下、赫赫在レ上。〔傳〕明明、察也。〔論衡、超奇〕乃夫漢朝明明之驗也。〔魏武帝、短歌行〕明明如レ月、何時可レ掇。❷明德の人を明かに擧げる。一說に、顯位に在る者をあらはす。〔書、堯典〕明レ明揚二側陋一。〔傳〕堯知二子不肖一、有二禪位之志一、故明擧下明人在二側陋一者上、廣求レ賢也。〔疏〕汝當三明二擧其明德之人於僻隱鄙陋之處一。〔蔡傳〕明レ明、上明、謂三明二顯之一、下明、謂下已在二顯位一者上。

【明明是】551 ming² ming² shih あきらかに。明白に云々する。

【明明窓】552 メイメイサウ 龍公美の號。龍草廬（12—48818‥674）を見よ。

【明明星】553 アケノミヤウジヤウ 金星（11—40152‥641）をいふ。曉明星。

【明明兒】554 ming² ming² êrh あきらかに。

【明明地】555 ming² ming² tê あからさまに。明かに。

【明明赫赫】556 メイメイカクカク 光明のかがやくこと。〔詩、大雅、大明〕明明在レ下、赫赫在レ上。〔傳〕明明、察也。〔陳奐傳疏〕明明赫赫、皆是形二容文王之德一。〔詩、大雅、常武〕赫赫明明、王命二卿士一。

【明明白白】557 メイメイハクハク 少しも疑ふべき餘地のないこと。甚だ明白なこと。

【明明廟謨】558 メイメイベウボ あきらかな朝廷のはかりごと。〔後漢書、光武紀贊〕明明廟謨、糾糾雄斷。

【明名】559 メイメイ あきらかな名。〔管子、五輔〕取二明名廣譽、厚功大業一。

【明滅】560 メイメツ あかるくなつたりくらくなつたりする。〔韋應物、自二鞏洛一舟行入二黃河一卽事寄二府縣寮友一詩〕寒樹依微遠天外、夕陽明滅亂流中。〔杜甫、北征詩〕回レ首鳳翔縣、旌旗晩明滅。

【明滅可レ見】561 メイメツミルベシ 見えがくれする。見えたりかくれたりする。〔柳宗元、至二小丘西小石潭一記〕斗折蛇行、明滅可レ見。

【明茂】562 メイモ あきらかにさかんなこと。〔後漢書、順帝紀〕聖德明茂、早棄二天下一。

【明目】563 メイモク ❶あきらかなめ。能く見える眼。〔荀子、儒效〕明目之所レ不レ能レ見也。〔管子、制分〕聽耳明目、不レ爲レ愛二金財一。〔墨子、兼愛下〕是以聽耳明目、相與視聽乎。〔商子、錯法〕夫離朱見二秋毫百步之外一、不レ能下以二明目一賜上人。❷眼を明かにする。良く見ること。〔禮、孔子閒居〕是故正明レ目而視レ之、不レ可二得而見一也。

【明目達聽】564 メイモクタツソウ 四方の視聽を廣めて天下の壅蔽を開き達せしめること。〔書、舜典〕明二四目一、達二四聰一。〔傳〕廣二視聽於四方一、使三天下無二壅塞一。〔長生殿、獻飯〕斟量、明目達聽、原是爲レ君的、理當二察訪一。

【明目張膽】565 メイモクチヤウタン 目をあきらかにし膽を張る。畏れる所なく奮發して事に當るをいふ。〔唐書、韋思謙傳〕丈夫當二敢言一地、須レ要三明目張膽以報二天子一、焉能碌碌保二妻子一耶。〔宋史、劉安世傳〕初除二諫官一、未レ拜レ命、入白レ母曰、朝廷不レ以二安世不肖一、使レ在二言路一、倘居二其官一、須二明目張膽、以レ身任レ責。

【明揚】566 メイヤウ ❶あきらかにあげる。明明（550）の❷に同じ。〔書、堯典〕明レ明揚二側陋一。〔魏志、武帝紀〕明二揚仄陋一、唯才是擧。〔沈佺期、答二魑魅一代書寄二家人一詩〕宰臣更獻納、郡守各明揚。❷梁、宗夬（3—7106‥84）の字。

【明敭】567 メイヤウ 明揚に同じ。〔沈約、恩倖傳論〕明二敭仄陋一、唯才是與。〔注〕敭、五臣本作レ揚。

【明約】568 メイヤク あきらかな約束。〔史記、蘇秦傳〕使下臣效二愚計一、奉中明約上。〔漢書、黥布傳〕背二明約一而殺二義帝一。

【明喩】569 メイユ あきらかなたとへ。〔元稹、捉捕歌〕畏二君聽未レ詳、聽三客有二明喩一。

【明諭】570 メイユ ❶さとしをあきらかにする。又、明かなさとし。〔穀梁、桓、六〕脩レ教明レ諭國道也。❷上諭。

【明譽】571 メイヨ あきらかな榮譽。〔大戴禮、主言〕天下之士說、則天下之明譽興。

【明朗】572 メイラウ あきらかにほがらかなこと。〔淮南子、泰族訓〕翡翠玳瑁、文彩明朗。〔晉書、何曾傳〕詔曰、太傅明朗高亮。〔左思、悼レ離贈レ妹詩〕才麗漢班、明朗楚樊。

【明吏】573 メイリ あきらかな官吏。〔史記、李斯傳〕稅レ民深者爲二明吏一。

【明利】574 ミヤウリ 佛聽明で鋭利なこと。〔無量壽經、下〕神通無礙、諸根明利。

【明理】575 メイリ 呂氏春秋、孟春紀の篇名。

【明立】576 メイリフ 明、黃居中（12—47926‥1042）の字。

【明律】577 ミンリツ 書名。三十卷。明、洪武の時、刑部尙書劉惟謙奉勅撰。一に大明律といふ。唐律に擬して編纂す。名例律四十七條・吏律三十三條・戶律九十五條・禮律二十六條・兵律七十五條・刑律百七十一條・工律十三條・通計四百六十條がある。〔四庫提要、史、政書類〕。〖參考書〗【唐明律合編】清、薛允升撰。【明律譯解】三十六卷補遺、十卷榊原篁洲撰。【大明律諺解】三十一冊榊原篁洲撰。【明律譯義】十三卷高瀨學山撰。【明律詳解】三十卷、補三十一卷高瀨學山撰。【明律國字解】三十七卷荻生徂徠撰。【明律考】八卷荻生徂徠撰。【明律會典譯解】荻生徂徠撰。【詳說明律譯義】三十二卷三浦竹溪撰。【明律疑義】一卷荻生金谷撰。【明律譯注】九卷、補遺一卷岡白駒撰。

【明良】578 メイリヤウ 賢明な君主と忠良な臣下。明君良臣。〔書、益稷〕元首明哉、股肱良哉。〔唐書、房玄齡・杜如晦傳贊〕君臣明良、志叶議從。

【明良際會】579 メイリヤウサイクワイ 賢明な君と忠良の臣とが同じ時に出遇ふこと。〔重野成齋、大日本維新史序〕明良際會、隨レ時設レ制、以不レ失二舊物一。

【明良相遇】580 メイリヤウアヒアフ 明君と良臣とが同じ世に出遇ふこと。〔林鶴梁、東湖遺稿序〕其明良相遇、世稱三蛟龍之得二雲雨一也。

【明兩】581 メイリヤウ 二つのあきらかなもの。日と月。又、二人の賢明な人。又、君臣の德の共に明かなこと。〔易、離〕象曰、明兩作レ離。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一詩〕不レ謂息レ肩願、一旦値二明兩一。〔注〕濟曰、武帝既明、而太子又明、故謂二太子一爲二明兩一也。〔謝瞻、張子房詩〕明兩燭二河陰一、慶霄薄二汾陽一。〔注〕善曰、明兩者、取下君明レ上、下明レ德相承、其於二天下之事一、無上レ不レ見也。

【明亮】582 メイリヤウ ❶こゑのはつきりしてただしいこと。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕便二仵

作噶報明亮云云一。❷後魏、平原の人。字は文德。延昌中、陽平太守・勇武將軍となる。〔魏書、八十八〕・〔北史、十六〕。❸清、滿洲鑲黃旗人。李榮保の孫。姓は富察氏。號は寅齋。謚は文襄。烏什回・緬甸・金川・甘肅の撒拉爾回・川楚の教匪等を征し功あり。伊犁領隊大臣・武英殿大學士・太子太保に歷官す。封は三等襄勇侯。〔清史稿、三百三十六〕・〔清史列傳、二十九〕・〔國朝耆獻類徵、三十〕。❹ming^{2} liang^{4} あかるい。明か。

【明略】583 メイリャク ❶あきらかなはかりごと。〔後漢書、北海靜王興傳〕爲レ人有二明略一、善聽レ訟。〔後漢書、黃琬傳〕性抗厲有二明略一。〔張衡、歸田賦〕遊二都邑一以永久、無二明略以佐レ時。❷宋、廖正一(4－9464‥56)の字。

【明慮】584 メイリョ あきらかなかんがへ。〔鮑照、放歌行〕明慮自レ天斷、不レ受二外嫌猜一。

【明陵】585 メイリョウ 陵の名。❶三國、吳の孫皓の父、和の陵。浙江省吳興縣の西陵山。〔吳志、孫和傳〕其年追二謚父和一曰二文皇帝一、改二葬明陵一。❷陳の文帝の父、始興王道談の陵。浙江省長興縣の西北。〔通志、地理畧〕明陵在二縣西北五里一、始興昭烈王道談墓、陳高祖之兄、文帝之父也、文帝嗣レ位、尊爲二明陵一。❸ミンリヤウ 明の太祖の陵。江蘇省江寧縣の東北、鍾山の南麓。孝陵(3－6952‥235)を見よ。❹明の諸帝の陵。河北省昌平縣の北の天壽山。陵は十三區に分れる。一、成祖の長陵、天壽の中峯筆下山の下。二、仁宗の獻陵、西峯の下。三、宣宗の景陵、東峯の下。四、英宗の裕陵、石門山の東。五、憲宗の茂陵、聚寶山の東。六、孝宗の泰陵、史家山の東南。七、武宗の康陵、金嶺山の東北。八、世宗の永陵、十道嶺。九、穆宗の昭陵、大峪山の東北。十、神宗の定陵、小峪山の東。十一、光宗の慶陵、天壽山の西峯の右。十二、熹宗の德陵、雙鎖山檀子峪の西南。十三、懷宗の思陵、景屛山の昭陵の西。なほ景帝の陵は宛平縣の西金山口にある。〔昌平州志〕明諸陵、明太宗永樂七年五月己卯、營二山陵於昌平縣一。

【明龍】586 ミヤウリョウ 明の高僧。宿遷の姚氏の子。俗名は東陽。萬曆の初、示寂す。〔大明高僧傳、四〕。

【明倫】587 メイリン 人倫をあきらかにすること。〔孟子、滕文公上〕夏曰レ校、殷曰レ序、周曰レ庠、學則三代共レ之、皆所三以明二人倫一也、人倫明二於上一、小民親二於下一。

【明倫館】588 メイリンクワン 天保年間、德川幕府が備中倉敷に設置した學校。山口・大野・村岡・宇和島・丸龜・柳本・高取・田原本にあつた明倫館は藩立の學校。

【明倫堂】590 メイリンダウ ❶孔子廟側に設けた學校の名。中國ではもと儒教を以て國教としたので、各地の學宮に孔子を祀り、其の大殿を明倫堂といつた。〔順天府志〕宣德二年、府尹李庸修理、于レ是大成殿明倫堂祠廡齋舍庖湢之所、煥然如レ新、大學士建安楊榮爲レ記。❷正保四年、德川幕府が長崎に設置した學校。高鍋・新莊・小諸・上田・名古屋・金澤にあつた明倫堂は藩立の學校。

【明倫正名】591 メイリンセイメイ 人倫・道德をあきらかにし名分を正しくすること。〔弘道館記述義、上〕誠宜下體二周孔之本意一、資二明倫正名之大義一、以光中隆神皇之道上。

【明綸】592 メイリン 天子のおほせ。〔福惠全書、教養部、擇二鄉約一〕庶于下有司恪二奉明綸一、遵中行講讀上、似レ爲レ得レ體矣。

【明令】593 メイレイ ❶あきらかに示した命令。〔晉書、戴逵傳〕逵疏曰、臣以二闇淺一、不レ能三遠識二格言一、奉二誦明令一、慷二慨下風一。❷ミンレイ 明の太祖の洪武年間、刑律と共に李善長等命を受けて編成し、洪武元年頒布す。凡そ六篇百四十五條、第一篇は吏令、第二篇は戶令、第三篇は禮令、第四篇は兵令、第五篇は刑令、第六篇は工令。〔明通紀〕洪武元年正月、定二大明令百四十五條一、頒二行天下一、又定二眞犯死罪、雜犯死罪、及一切賦稅・朝儀・鹽茶等律令一。

【明麗】594 メイレイ あきらかでうるはしい。〔碧雞漫志〕時春雨始晴、景色明麗。

【明靈】595 メイレイ あきらかなみたま。〔揚雄、趙充國頌〕明靈惟宣、戎有二先零一。〔後漢書、方術傳序〕關二局於明靈之府一、封二縢於瑤壇之上一。

【明了】596 メイレウ はつきりとしたこと。あきらかなこと。〔後漢書、華佗傳〕魯女生數說二顯宗時事一、甚明了、議者疑二其時人一也。〔北史、魏宗室獻文六王、廣陵王羽傳〕朕親受二人訟一、知二廣陵之明了一。〔蘇軾、思聰名說〕應對明了如二成人一。

【明瞭】597 メイレウ あきらか。〔郭熙、山水訓〕高遠者明瞭、深遠者細碎。

【明燎】598 メイレウ あきらかなかがり火。〔潘岳、哀二永逝一文〕揚二明燎一兮援二靈輴一。

【明曆】599 メイレキ ❶曆をあきらかにする。〔漢書、律曆志上〕箕子言、大法九章、而五紀明二曆法一。❷第百十一代、後西天皇の年號。(1655－1658)

【明廉】600 メイレン 春秋、齊の桓公の琴の名。鳴廉(12－46672‥168)に同じ。〔太平御覽、樂部、琴下〕大周正樂曰、明廉・脩況・藍脅・自鳴・空中・號鍾、齊桓公琴。

【明練】601 メイレン 聰明で熟練して居る。〔任昉、王文憲集序〕明二練庶務一、鑒二達治體一。〔魏志、田豫傳評〕居身清白、規略明練。〔顏氏家訓、涉務〕藩屛之臣、取下其明二練風俗一、清白愛上レ民。

【明樓】602 メイロウ 中國北方で盜賊防禦のために設けた樓。〔閱微草堂筆記〕北方鄉居者、率有二明樓一、以防レ盜、上爲二城堞一、云云、北方以二覆瓦一者爲二暗樓一、上層作二雉堞形一、以備二禦寇一者爲二明樓一。

【明和】603 メイワ 第百十七代後櫻町天皇・第百十八代後桃園天皇の年號。(1764－1772)

【明王】604 メイワウ ❶かしこいきみ。聰明な君。明德ある君。聖王。〔書、說命中〕明王奉二若天道一。〔書、旅獒〕明王愼レ德。〔書、周官〕明王立レ政、不レ惟二其官一、惟二其人一。〔孝經、孝治章〕故明王之以レ孝治二天下一也如レ此。〔莊子、應帝王〕學レ道不レ勧、如レ是者可レ比二明王一乎。〔荀子、非相〕上不レ足三以順二明王一。〔管子、五輔〕明王之務、在下於強二本事一、去中無用上。〔墨子、節用中〕明王聖人。❷神佛の封號。〔通俗編、神鬼、明王〕北魏書地形志、東彭城郡渤海縣有二東海明王神一、按、今社神封號、概曰二明王一、已見二于此一。❸明の世宗の時、安南の鄭朝の明康王(鄭檢)の年號。(1545－1569)❹佛 ミヤウワウ 三寶及び國土人民等を護る天部の神。〔眞僞雜記、十三〕明者光明義、卽象二智慧一、所謂忿怒身、以二智慧力一摧二破煩惱業障一之主、故云二明王一。

【明王夢】605 メイワウノユメ 明天子の夢。殷の高宗が夢に傳說の存在を知つた故事。〔書、說命上〕夢帝賚二予良弼一。〔李乂、奉下和幸二韋嗣立山莊一侍上レ宴應制詩〕秪應三感二發明王夢一、遂得三邀二迎聖帝遊一。

【明王之制】606 メイワウノセイ 賢い君のきまり。明王の制度。〔左氏、昭、十三〕明王之制、使下諸侯歲聘以志レ業、間朝以講レ禮、再朝而會以示レ威、再會而盟、以顯中昭明上。

【明王之道】607 メイワウノミチ 賢い君のふみ行ふみち。〔孔子家語、始誅〕孔子顧謂二曾子一曰、參、汝可レ語二明王之道一與。

【明王之使レ人如二巧匠制一レ木】608 メイワウノヒトヲツカフヤカウシヤウノキヲセイスルガゴトシ 賢明な君の人を使ふのは、巧な匠人の木を制するが如く、各〻其の長所を採り用ひる。〔帝範、賓客篇〕明王之使レ人、如二巧匠制一レ木、直者以爲レ轅、曲者以爲レ輪、長者以爲二棟梁一、短者以爲二栱桷一、無二曲直長短一、各有レ所レ施、明王之使レ人、亦猶如レ是、智者取二其謀一、愚者取二其力一、勇者取二其威一、怯者取二其愼一、無二愚智勇怯一、兼而用レ之、故良匠無二棄材一、明君無二棄士一、不下以二一惡一忘中衆善上、勿下以二小瑕一掩中其功上。

【明惑】609 メイワク あきらかなまどひ。〔後漢書、馮異等傳論〕豈幾慮自有二明惑一、將期數使二之然一乎。

【嚮レ明】610 メイニムカフ あかるい方にむかふ。天子が羣臣を朝見する時、南に向つて坐することをいふ。〔易、說卦〕聖人南面而聽二天下一、嚮レ明而治。

【繼レ明】611 メイヲツグ 明德をつぐ。〔易、離〕大人以繼レ明、照二于四方一。

【喪レ明】612 メイヲウシナフ 盲目となる。〔依田學海、塙檢校傳〕七歲喪レ明。

【明阿特】613 メイアトク 聚落の名。金山額魯特七部の一。外蒙古科布多の中部。西北東の三面は皆杜爾伯特部、南は科布多牧場及び額魯特部と界する。其の先は烏梁海族で、所部は一旗。〔清史稿、地理志〕外蒙古、明阿特部一旗、乾隆三十年、撤出設二一旗一、隸二科布多大臣轄一、牧地在二科布多城西一。

【明安圖】614 メイアント 清、蒙古正白旗人。數學に精しい。儀象考成編修に預る。官は欽天監監正。著に割圓密率捷法がある。〔清史稿、五百十一〕・〔清史列傳、七十一〕。

【明會典】615　書名。一百八十卷。明、弘治年間、李東陽等奉勅撰。明一代の制を集めたもので、吏部・禮部・兵部・工部・戸部・刑部を以て綱となし諸官制を分載す。其の一百七十八卷は文職の事、末の二卷は武職の事を記す。〔四庫提要、史、政書類〕。

【明英宗】616　朱祁鎭（**6－14424**‥708）を見よ。

〖明英宗陵〗617　裕陵（**10－34305**‥33）の❷を見よ。

【明耀光】618　清、江蘇の人。字は亮甫。官は四川軍標副將。善く地雷を製した。

【明霞館】619　仙人の居るところ。〔海錄碎事、道釋、道〕元始天王、於㆓明霞之館㆒下教以授㆓三天玉童㆒。

【明孝宗】620　朱祐樘（**6－14424**‥658）を見よ。

〖明孝宗陵〗621　泰陵（**6－17325**‥158）の❷を見よ。

【明監本】622　萬曆本をいふ。明の萬曆年間、北京の國子監で刊行したもの。又、北監本ともいふ。

【明毅宗】623　朱由檢（**6－14424**‥648）を見よ。

【明熹宗】624　朱由校（**6－14424**‥647）を見よ。

〖明熹宗陵〗625　成陵（**5－11544**‥314）を見よ。

【明宮史】626　書名。五卷。明、呂毖撰。宮闈の雜事を記したもの。〔四庫提要、史、政書類〕。

【明玉珍】627　元末、隨州の人。身長八尺、目に重瞳子あり、初、徐壽輝に從つて元兵と戰ひ、一目を失ふ。後、重慶・成都を陷れ、全蜀を定有して帝を僭稱し、國を大夏と號し、天統と建元す。五年にして卒す。子昇嗣ぎ、廟號を太祖と上る。〔明史、一百二十三〕・〔萬斯同明史、一百五十八〕・〔明史稿、一百十四〕。

【明外日】628　ming^2 wai^4 jih^4　明後日。

【明光宗】629　朱常洛（**6－14424**‥841）を見よ。

〖明光宗陵〗630　慶陵（**4－11145**‥139）の❼を見よ。

【明郭宗】631　地名。四川省懋功縣の北。小金川の北部の要隘。

【明莖草】632　草の名。夜、明光を發するといふ。又、洞冥草といふ。〔洞冥記〕北極火種之山、日月所㆑不㆑照、有㆓明莖草㆒、夜如㆓金燈㆒、折㆑枝爲㆑炬、照㆓見鬼物之形㆒、亦名㆓洞冥草㆒、帝命剉㆓此草㆒爲㆑泥、塗㆓雲明之館㆒、夜坐不㆑加㆓燈燭㆒、以藉㆑足、履㆑水不㆑沈、仙人寧封、常服㆓此草㆒、於㆓夜暝時㆒、轉覺㆓腹光通㆑外。

【明惠勝】633　南齊の人。僧胤の子。元徽中、平南主簿・驃騎中兵となる。建元の初、巴州の刺史となり、蠻蜑を歸順せしむ。益州の刺史に任ぜられて卒す。〔南齊書、五十四〕。

【明惠帝】634　朱允炆（**6－14424**‥667）を見よ。

【明景帝】635　朱祁鈺（**6－14424**‥707）を見よ。

【明憲宗】636　朱見深（**6－14424**‥745）を見よ。

〖明憲宗陵〗637　茂陵（**9－30833**‥142）の❶を見よ。

【明元帝】638　後魏、拓跋嗣（**5－11958**‥41）の諡。

【明故宮】639　宮殿の名。明の太祖の皇宮で、江蘇省江寧縣の舊紫禁城內に在る。

【明公遐】640　梁の人。字は處約。簡文帝に尙書に拔擢さる。

【明克讓】641　隋の人。山賓の子。字は弘道。三禮に精しく、又、龜筴曆象に妙を得た。梁及び周に仕へ司調大夫となる。文帝立つや、率更令となり、侯爵に進む。牛弘等と禮樂を議し裁正する所が多かつた。著に孝經義疏・古今帝代記・續名僧記がある。〔隋書、五十八〕・〔北史、八十三〕。

【明冊書】642　明國で出した辭令書。〔賴山陽、裂㆓封冊㆒詩〕史官讀到㆓日本王㆒、相公怒裂㆓明冊書㆒、欲㆑王則王吾自了、朱家小兒敢爵㆑予、吾國有㆑王誰覬覦、叱咤再蹀八道血、鴨綠之水鞭可㆑絕、地上阿鈞不㆓相見㆒、地下空唾恭獻面。

【明山賓】643　梁の人。僧紹の子。字は孝若。諡は質子。官は東宮學士兼國子祭酒。著に吉禮儀注・禮儀・孝經喪禮服儀がある。〔梁書、二十七〕・〔南史、五十〕。

【明之君】644　歌曲の名。漢代の鞞曲の一。梁、その曲詞を改める。〔海錄碎事、音樂、歌曲〕明之君、漢代鞞曲也、梁改㆓其曲詞㆒、以歌㆓君德㆒。

【明謚考】645　書名。三十卷。明、葉秉敬撰。〔四庫提要、史、政書類〕。

【明集禮】646　書名。五十三卷。明、洪武三年、徐一夔等奉勅撰。原本は五十卷、嘉靖中重修し、增して五十三卷とす。吉・凶・軍・賓・嘉の五禮を綱とし、二十六子目に分ち、別に冠服・車輅・儀仗・鹵簿・字學・鍾律・雅樂・俗樂を載せる。〔四庫提要、史、政書類〕。

【明障子】647　今の障子。古は襖唐紙を障子といひ、今の紙障子を明障子といつた。あかりさうじ。〔山槐記、二〕治承三年十二月十六日、濕㆓御指㆒、令㆑通㆓穴於明障子㆒給。

【明書院】648　室の一邊、緣側にはみ出させて作つた棚の如きもの、其の下の方に机の高さに板を渡し、外面に明障子を設けて讀書した。つけしよゐん。だししよゐん。いだしふづくゑ。明床。

【明庶風】649　東方からふくかぜ。東風。〔史記、律書〕明庶風居㆓東方㆒、明庶者、明㆓衆物盡出㆒也。〔淮南子、天文訓〕條風至、四十五日、明庶風至。〔注〕明庶風、震卦之風也。〔易緯、通卦驗〕春分明庶風至。〔白虎通、八風〕四十五日明庶風至、明庶者迎㆑衆也。

【明新館】650　安政年間、德川幕府が駿府に設置した學校。

【明眞齋】651　道士の齋名。七齋の一。〔唐六典、尙書禮部、祠部郎中〕道士齋有㆓七名㆒、其一曰㆓金籙大齋㆒、調㆓和陰陽㆒、消㆑災伏㆑害、爲㆓帝王國主㆒、延㆑祚降㆑福、其二爲㆓黃籙齋㆒、普爲㆓一切㆒拔㆓度先祖㆒、其三曰㆓明眞齋㆒、學者自齋㆓齊先緣㆒、其四曰㆓三元齋㆒、正月十五日天官爲㆓上元㆒、七月十五日地官爲㆓中元㆒、十月十五日水官爲㆓下元㆒、皆法身自懺㆓愆罪㆒焉、其五曰㆓八節齋㆒、修㆑生求㆑仙之法、其六曰㆓塗炭齋㆒、通㆓濟一切急難㆒、其七曰㆓自然齋㆒、普爲㆓一切㆒祈㆑福。

【明神宗】652　朱翊鈞（**6－14424**‥1013）を見よ。

〖明神宗陵〗653　定陵（**3－7109**‥271）の❹を見よ。

【明仁宗】654　朱高熾（**6－14424**‥694）を見よ。

〖明仁宗陵〗655　獻陵（**7－20783**‥123）の❷を見よ。

【明崇儼】656　唐、偃師の人。山賓五世の孫。諡は莊。官は正諫大夫。奇技を以て名がある。〔唐書、二百四〕・〔舊唐書、一百九十一〕。

【明世宗】657　朱厚熜（**6－14424**‥773）を見よ。

〖明世宗陵〗658　永陵（**6－17088**‥262）の❷を見よ。

【明成祖】659　朱棣（**6－14424**‥469）を見よ。

〖明成祖陵〗660　長陵（**11－41100**‥890）の❶㊇を見よ。

【明宣宗】661　朱瞻基（**6－14424**‥888）を見よ。

〖明宣宗陵〗662　景陵（**5－13983**‥322）の❹を見よ。

【明僧胤】663　南朝宋、平原の人。玄言を能くす。官は冀州刺史。〔南史、五十〕。

【明僧暠】664　南朝宋の人。僧紹の弟。學を好み、泰始の初、青州の刺史となる。〔南齊書、五十四〕。

【明僧紹】665　南齊の人。僧胤の弟。字は承烈。宋の元嘉中、秀才明經に擧げらる。徵辟せられても皆就かず、長廣郡嶗山に隱居す。〔南齊書、五十四〕・〔南史、五十〕。

【明太祖】666　朱元璋（**6－14424**‥759）を見よ。

〖明太祖陵〗667　孝陵（**3－6952**‥235）を見よ。

〖明太祖文集〗668　書名。二十卷。明、太

祖の文集。國史經籍志に見えるもの二部、黃虞稷千頃堂書目に見えるもの四部がある。〔四庫提要、集、別集類〕。

【明唐王】669（ミンノタウワウ）　朱聿鍵（6－14424··666）を見よ。

【明湯湯】670（メイタウタウ）　あきらか。湯湯は語助。〔桃花扇、入道〕明湯湯大路、勸レ你早奔逃。

【明擺着】671 ming^2 pai^3 chê　あきらかに。明かな。

【明武宗】672（ミンノブソウ）　朱厚照（6－14424··772）を見よ。

〖明武宗陵〗673（ミンノブソウノリヨウ）　康陵（4－9376··152）の❷を見よ。

【明福王】674（ミンノフクワウ）　朱由崧（6－14424··649）を見よ。

【明穆宗】675（ミンノボクソウ）　朱載垕（6－14424··792）を見よ。

〖明穆宗陵〗676（ミンノボクソウノリヨウ）　昭陵（5－13855··196）の❷の㊁を見よ。

【明夜月】677（メイヤゲツ）　月見の夜。中秋の明月。〔琵琶記、中秋望レ月〕未レ審明年明夜月、此時此景何如。

【明路兒】678 ming^2 lu^4 êrh　世間に知られた私通・密通。

【明安達哩】679（メイアンタツリ）　清、蒙古正白旗人。姓は西魯特氏。諡は敏果。順治崇德の頃、各地に轉戰して功あり、嘗て李自成・鄭成功等を破る。官は安南將軍・吏部尙書。〔清史稿、二百三十四〕・〔清史列傳、五〕・〔國朝耆獻類徵、四十三〕・〔滿洲名臣傳、十三〕。

【明永明王】680（ミンノエイメイワウ）　朱由榔（6－14424··650）を見よ。

【明一統志】681（ミンイツトウシ）　書名。九十卷。明、天順年間、李賢等奉敕撰。體例は元の岳鉉等の大一統志により、京師・南京・中都・興都の四大門に分ち、都毎に地理・建置・沿革・風土・人物を記す。〔四庫提要、史、地理類〕。

【明季北略】682（ミンキホクリヤク）　書名。二十四卷。清、計六奇撰。明末、北方の禦寇事迹を述べる。

【明欺暗騙】683 ming^2 chʻi^1 an^4 pʻien^4　外面はよく見せかけ人を騙す。

【明懷先生】684（メイクワイセンセイ）　清、陸宇爗（11－41708··258）の號。

【明晃晃的】685 ming^2 huang^2 huang^3 tê　非常にあきらかな。輝き渡ること。

【明見二萬里一】686（メイバンリヲミル）　萬里の外のことまでも見拔く。極めて聰明な喩。〔後漢書、竇融傳〕璽書既至二河西一、咸驚以爲三天子明見二萬里之外一。

【明見無レ値】687（アキラカニミレバアフコトナシ）　道は本來形體がないから顯著なものに求めても相會遇することなく、却つて闇に於て至り得るものである。至道を體得するには顯著多聞を棄て靜默を求めることによつて得られるのを謂ふ。〔莊子、知北遊〕明見無レ値、辯不レ若レ默、道不レ可レ聞、聞不レ若レ塞、此謂二大得一。

【明五才子】688（ミンノゴサイシ）　明代、共に詩社を結んだ五人の詩人。李攀龍・王世貞・謝榛・宗臣・梁有譽をいふ。〔明史、李攀龍傳〕攀龍之始官二刑曹一也、與二濮州李先芳・臨清謝榛・孝豐吳維岳輩一、倡二詩社一。王世貞初釋レ褐、先芳引入レ社、遂與二攀龍一定レ交、明年、先芳出爲二外吏一、又二年、宗臣・梁有譽入、是爲二五子一。

【明查暗訪】689 ming^2 chʻa^1 an^4 fang^3　色々の手段をもつて明白に取調べる。

【明莊烈帝】690（ミンノサウレツテイ）　朱由檢（6－14424··648）を見よ。

〖明莊烈帝陵〗691（ミンノサウレツテイノリヨウ）　思陵（4－10462··253）の❶の㋺を見よ。

【明察二秋毫一】692（メイハシウガウヲサツス）　眼力は秋毫の末をあきらかに見分ける。眼力のすぐれた形容。秋毫は細毛、獸毛は秋季に極めて微細となるからいふ。〔孟子、梁惠王上〕明足三以察二秋毫之末一。

【明瓚禪師】693（ミヤウサンゼンジ）　唐、懶殘（4－11455··5）をいふ。

【明七暗七】694 ming^2 chʻi^1 an^4 chʻi^1　酒令の一種。座客が順次に七の數字を唱へ、暗七に當る者は數字を唱へず、卓を敲いて合圖をなし、其の合圖を誤るときはこれを罰するを規則とする。明七とは七・十七・二十七等の數、暗七とは十四・二十一・二十八等の數。

【明七才子】695（ミンノシチサイシ）　明代の七人の詩人。李攀龍・王世貞・吳國倫・徐中行・宗臣・梁有譽・謝榛をいふ。〔明史、李攀龍傳〕攀龍之始官二刑曹一也、與二濮州李先芳・臨清謝榛・孝豐吳維岳輩一、倡二詩社一。王世貞初釋レ褐、先芳引入レ社、遂與二攀龍一定レ交、明年、先芳出爲二外吏一、又二年、宗臣・梁有譽入、是爲二五子一、未レ幾、徐中行・吳國倫亦至、乃改稱二七子一、諸人多少年才高氣銳、互相標榜、視二當世一無レ人、七才子之名播二天下一。〔學山錄〕隆萬間、李于鱗・王世貞・吳國倫・徐中行・宗臣・梁有譽・謝茂秦、號二七才子一、見二錢謙益所レ記。

【明十才子】696（ミンノジフサイシ）　明代に共に詩社を結んだ十人の詩人。李夢陽・何景明・徐禎卿・邊貢・顧璘・鄭善夫・陳沂・朱應登・康海・王九思をいふ。〔明史、李夢陽傳〕弘治時、宰相李東陽主二文柄一、天下翕然宗レ之、夢陽獨譏二其萎弱一、倡二言文必秦漢、詩必盛唐、非レ是者弗レ道、與二何景明・徐禎卿・邊貢・朱應登・顧璘・陳沂・鄭善夫・康海・王九思等一、號二十才子一。〔學山錄〕李夢陽、與二同レ時者、何景明・徐禎卿・邊貢・顧璘・鄭善夫・陳沂・朱應登・康海・王九思、號二十才子一、見二李夢陽傳一。

【明唱大賣】697 ming^2 chʻang^4 ta^4 mai^4　廣告して大賣出しをする。

【明尙二夙達一】698（メイハシユクタツヲタツトブ）　さとくあきらかなものは、はやく物事に通ずるのをたつとぶ。〔蜀志、劉封傳〕智貴レ免レ禍、明尙二夙達一。

【明初四傑】699（ミンシヨシケツ）　明初の詩人。高啓・楊基・張羽・徐賁の倂稱。又、吳中四傑といふ。

【明所先生】700（メイシヨセンセイ）　元、朱公遷（6－14424··766）の尊稱。

【明臣奏議】701（メイシンソウギ）　書名。二十卷。乾隆四十六年奉敕撰。大旨は史傳を研究して、其の前言を效驗し、情形を考證し、以て衆論を一是に歸するに在る。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【明悼毛后】702（メイタウマウコウ）　三國魏、毛后（6－16772··72、）の諡。

【明鬯詳悉】703（メイチヤウシヤウシツ）　はつきりとあきらかでつまびらかなこと。〔土屋鳳洲、廣瀨中佐傳〕明鬯詳悉、條理秩然。

【明僮合錄】704（メイドウガフロク）　書名。二卷。清、餘不釣徒・殿春生合撰。俳優の小傳と品評を錄す。

【明能正レ俗】705（メイナレバヨクゾクヲタダス）　官に在るものが公明なれば民の俗を正すことが出來る。〔忠經、守宰章〕平則不レ曲、明能正レ俗。

【明媒正娶】706 ming^2 mei^2 chêng^4 chʻü^3　正式に結婚した。

【明疲暗漲】707 ming^2 pʻi^2 an^4 chang^3　市場で、表面疲れ氣味に見えて其の實は案外底値のつよいこと。

【明麓逸叟】708（メイロクイツソウ）　明、李國標（6－14459··1251）の號。

【明元郭皇后】709（メイゲンクワククワウゴウ）　三國魏、郭后（11－39474··92）の諡。

【明敬劉皇后】710（メイケイリウクワウゴウ）　南齊、劉后（2－2224··276）の諡。

【明謚記彙編】711（ミンシキヰヘン）　書名。二十五卷。明、郭良翰撰。諸謚を分類編載し、各〻子目を分つ。〔四庫提要、史、政書類〕。

【明象二乎日月一】712（メイハジツゲツニカタドル）　あきらかなことは日や月にかたどる。〔漢書、景帝紀〕明象二乎日月一、而廟樂不レ稱。

【明臣謚彙考】713（ミンシンシヰカウ）　書名。二卷。明、鮑應鼇撰。各謚の釋義をのせる。〔四庫提要、史、政書類〕。

【明季稗史彙編】714（ミンキハイシヰヘン）　書名。二十七卷。編者未詳。凡そ十六種の稗史を收む。其の中、四王合傳・嘉定屠城紀略の二書には齋藤蠡が校注を加へ文化年間に版行す。

【明穆庾皇后】715（メイボクユクワウゴウ）　晉、庾后（4－9398··17）の諡。

【明名臣琬琰錄】716（ミンメイシンエンエンロク）　書名。二十四卷。續錄二十二卷。明、徐紘編。洪武から弘治にいたるまでの名臣の碑傳を錄し、前錄は凡そ一百十七人、後錄は凡そ九十五人を載す。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【明名臣言行錄】717（ミンメイシンゲンカウロク）　書名。九十五卷。明、徐開任撰。朱子の宋名臣言行錄に倣つて作る。主として品行有るものを載せて官爵を論ぜず。故に小吏布衣と雖も品行の卓として觀るべき

者はすべてこれを收める。

【明一統名勝志】718（ミンイツトウメイシヨウシ） 書名。二百九卷。明、曹學佺撰。各省の名勝を府州縣別に歷史的に敍述したもの。北直隸（十二卷）・南直隸（二十卷）・山西（八卷）・陝西（十三卷）・河南（十二卷）・山東（九卷）・江西（十三卷）・浙江（十一卷）・福建（十卷）・湖廣（十七卷）・四川（三十五卷）・廣東（十卷）・廣西（十卷）・雲南（二十四卷）・貴州（四卷）。外に目一卷がある。明史藝文志に著錄さる。

【明六大家文粹】719（ミンロクダイカブンスイ） 書名。二十七卷。村瀨誨輔編。其の目は宋學士（三卷）・方正學（六卷）・王陽明（四卷）・王遵巖（五卷）・唐荊川（四卷）・歸震川（五卷）。

【明唐桂二王本末】720（ミンタウケイニワウホンマツ） 書名。三卷。淸、乾隆帝敕撰。御批通鑑輯覽に附す。〔四庫提要、史、編年類〕。

【明槍易躱暗箭難防】721 ming^2 ch'iang^1 i^4 tuo^3 an^4 chien^4 nan^2 fang^2 目に見える槍は避け易いが暗中の箭は防ぎ難い。目に見える禍は避け易いが暗々裡の禍は避け難い喩。

【昏】13806

小篆

［一］コン 〔集韻〕呼昆切 ［元］ ㄏㄨㄣ huen^1

［二］コン 〔集韻〕呼困切 ［願］

［一］❶**くれ**。くれがた。ひぐれ。日沒時。〔說文〕昏、日冥也、从㆓日氐省㆒、氐者、下也、一曰、民聲。〔段注〕一曰民聲、此四字蓋淺人所㆑增、非㆓許本書㆒、宜㆑刪、凡全書內昏聲之字、皆不㆑从㆑民、有㆓从㆑民者㆒譌也。〔太玄經、裝〕裝㆓于昏㆒。〔注〕昏、日入也。〔陸倕、新刻漏銘序〕昏旦之刻。〔注〕善曰、五經要義曰、昏、闇也、云云、日入後漏三刻爲㆑昏。❷**よる**。〔劉琨、勸進表〕昏明迭用。〔注〕善曰、昏明、謂㆓晝夜㆒也。❸**くらい**。〔謝惠連、雪賦〕時既昏。〔注〕善曰、昏、冥也。❹**くらむ**。まよふ。〔呂覽、誣徒〕昏㆓於小利㆒。〔注〕昏、迷也。❺**おろか**。惛（**4−10812**）に通ず。〔說文通訓定聲〕昏、叚借爲㆑惛。〔國語、晉語四〕僮昏不㆑可㆑使㆑謀。〔注〕昏、闇亂也。〔老子、二十〕我獨若㆑昏。〔河上公注〕若㆑昏、如㆓闇昧㆒也。❻**みだす**。みだれる。〔書、牧誓〕昏㆓棄厥肆祀㆒弗㆑答。〔傳〕昏、亂也。❼**しぬ**。たふれる。しづむ。殙（**6−16507**）に通ず。〔說文通訓定聲〕昏、叚借爲㆑殙。〔書、益稷〕下民昏墊。〔鄭注〕昏、沒也。❽**わかじに**。名を附けないうちにしぬこと。〔左氏、昭、十九〕札瘥夭昏。〔注〕短折曰㆑夭、未㆑名曰㆑昏。〔郭慶藩、說文經字正誼〕昏當㆑作㆑殙。❾**をかす**。かすめる。うばふ。敃（**5−14030**）に通ず。〔說文通訓定聲〕昏、叚借爲㆑敃。〔左氏、昭、十四〕己惡而掠㆑美爲㆑昏。〔孔子家語、正論解〕己惡而略㆑美爲㆑昏。❿**つとめる**。敃（**5−13159**）に通ず。〔說文通訓定聲〕昏、叚借爲㆑敃。〔爾雅、釋詁〕昏、勉也。〔書、盤庚上〕不㆓昏作㆑勞。〔傳〕昏、勉也。⓫**もんばん**。閽（**11−41383**）に通ず。〔說文通訓定聲〕昏、叚借爲㆑閽。〔詩、大雅、召旻〕昏椓靡㆑共。〔箋〕昏・椓、皆奄人也。⓬**めとる**。**つまどる**。婚（**3−6418**）に通ず。一說に、昏時を以て嫁娶する故に昏といふ。〔說文通訓定聲〕昏、叚借爲㆑婚。〔儀禮、士昏禮、疏〕士娶㆑妻之禮、以㆑昏爲㆑期、因以名焉、必以㆑昏者、陽往而陰來。〔禮、經解〕昏姻之禮。〔注〕昏姻、謂㆓嫁取㆒也、壻曰㆑昏、妻曰㆑姻。⓭**しうと**。妻の父。〔左氏、昭、二十五〕爲㆓父子兄弟姑姊甥舅昏媾姻亞。〔注〕妻父曰㆑昏。⓮**かはる**。〔爾雅、釋詁〕昏、代也。⓯俗に昬（**5−13853**）に作る。〔正字通〕昏、俗作㆑昬。⓰古は旦（**5−13744**）に作る。〔集韻〕昏、古作㆑旦。［二］❶**くらい**。〔集韻〕昏、暗也。❷**姓**。〔集韻〕昏、亦姓也。

［解字］ 會意。日と氐（氐の省文）との合字。氐は、たれる・下る。故に本義は、日が西に下る意。日が西に降下してくらくなる義。ひぐれ。說文、昏に一曰民聲として一說をあげてゐるが、段注は、此の四字は淺人の增すもの、刪るべし、形聲ではないとする。〔說文、昏、段注〕字从㆓氐省㆒爲㆓會意㆒、絕非㆘从㆓民聲㆒爲㆗形聲㆖也、云云、此四字、蓋淺人所㆑增、非㆓許本書㆒宜㆑刪。▽ （甲骨文） 指事。人の足元に日の落ちたさまを示す。

［參考］ 熟語は婚（**3−6418**）を倂せ見よ。

【昏鴉】1（コンア） 日暮に飛ぶ鴉。〔杜甫、野望詩〕獨鶴歸何晚、昏鴉已滿㆑林。〔杜甫、復愁詩〕釣艇收㆑緡盡、昏鴉接㆑翅歸。

【昏壒】2（コンアイ） ちり。惡人をいふ。〔謝莊、爲㆓八座太宰江夏王㆒請㆓封禪㆒表〕親翦㆓凶逆㆒、躬淸㆓昏壒㆒。

【昏暗】3（コンアン） 愚か。くらい。昏闇に同じ。〔左思、魏都賦〕昏情爽曙、箴規以顯之也。〔注〕向曰、昏暗之情、所㆓以明曉㆒者、先生戒使㆑然也。

【昏闇】4（コンアン） くらいこと。みだれてくらいこと。又、おろかなこと。昏暗。〔後漢書、范冉傳〕吾生㆓於昏闇之世㆒、値㆓乎淫侈之俗㆒。〔蜀志、後主劉禪傳評〕惑㆓閹豎㆒、則爲㆓昏闇之后㆒。

【昏憂】5（コンイウ） くらくておちつかない。〔逸周書、商誓解〕商紂昏憂、天下弗㆑顯。

【昏黝】6（コンイウ） 暗いこと。〔魏了翁、詩〕白晝變㆓昏黝㆒。

【昏姻】7（コンイン） ❶夫婦のちぎりを結ぶ。えんぐみ。夫婦に就いて言へば夫を昏といひ婦を姻といひ、親に就いて言へば婦の父を昏といひ壻の父を姻といふ。一說に、昏時を以て嫁娶するから昏といひ、婦人は夫に因つて成るから姻といふ。婚姻（**3−6418‥3**）を見よ。〔詩、小雅、我行其野〕昬姻之故。〔箋〕婦之父、壻之父、相謂㆓昬姻㆒、我乃以㆓此二父之命㆒言就㆑女居。〔詩、唐風、綢繆序〕國亂則昏姻不㆑得㆓其時㆒焉。〔周禮、春官、大宗伯〕以㆓賀慶之禮㆒親㆓異姓之國㆒。〔注〕異姓王昏姻甥舅。〔疏〕若據㆓男女身㆒、則男曰㆑昏、女曰㆑姻、若以㆑親言㆑之、則女之父曰㆑昏、壻之父曰㆑姻。〔儀禮、士昏禮記、昏姻、注〕女氏稱㆑昏、壻氏稱㆑姻。〔禮、經解〕昏姻之禮、所㆔以明㆓男女之別㆒也。〔注〕昏姻、謂㆓嫁取㆒也、壻曰㆑昏、妻曰㆑姻。〔疏〕爾雅釋親云、婿之父爲㆑姻、婦之父爲㆑婚、此云㆓婿曰㆑昏、妻曰㆑姻者、爾雅據㆓男女父母㆒、此據㆓男女之身㆒、婿則昏時而迎、婦則因而隨㆑之、故云㆓婿曰㆑昏、妻曰㆑姻。〔白虎通、嫁娶〕昏時行㆑禮、故謂㆓之婚㆒也、婦人因㆑夫而成、故曰㆑姻。❷一家一門一族をいふ。〔詩、小雅、正月〕洽㆓比其鄰㆒、昏姻孔云。〔集傳〕以合㆓比其鄰里㆒、怡㆓懌其昬姻㆒。〔左氏、僖、二十二〕詩曰、協㆓比其鄰㆒、昏姻孔云。

【昏飮】8（コンイン） くれがたにのむ。〔管子、輕重丁〕宜㆓昏飮㆒、此水上之樂也。

【昏暈】9 huen^1 yün^4 目まひする。目がくらむ。

【昏曀】10（コンエイ） くもつてくらい。〔陳子昂、感遇詩〕昏曀無㆓晝夜㆒、羽檄復相驚。

【昏醟】11（コンエイ） 酒に醉うてくるひみだれること。醟は醉ひ狂ふ義。〔晉書、桓尹傳〕會稽王道子、昏醟尤甚。

【昏幼】12（コンエウ） おろかでをさない。又、其の者。〔後漢書、宦者傳論〕回㆓惑昏幼㆒、迷㆓瞀視聽㆒。

【昏援】13（コンエン） 嫁娶のことから得たたすけ。〔左氏、隱、七〕鄭公子忽在㆓王所㆒、〔注〕爲㆘鄭忽失㆓齊昏援㆒以至㆗出奔㆖傳。

【昏嫁】14（コンカ） えんぐみする。婚嫁（**3−6418‥7**）を見よ。

【昏狡】15（コンカウ） 心が亂れてわるがしこい。〔丘遲、與㆓陳伯之㆒書〕僞孽昏狡、自相夷戮。

【昏渴】16（コンカツ） くらくかわくこと。〔劉言史、與㆓孟郊㆒洛北野泉上煎茶詩〕滌盡昏渴神。

【昏漢】17 huen^1 han^4 おろかな人。又、身元の暗い者。後暗い人。

【昏季】18（コンキ） 亂れた末の世。〔隋書、王韶傳〕臣昔在㆓昏季㆒、猶且用㆑心、況逢㆓明聖㆒、敢不㆓罄竭㆒。

【昏棄】19（コンキ） 心暗くみだれて事をなげやる。〔書、牧誓〕昏㆓棄厥肆祀㆒弗㆑答。〔傳〕昏、亂。

【昏義】20（コンギ） 禮記の篇名。〔禮、昏義、題疏〕鄭目錄云、名曰㆓昏義㆒者、以㆕其記㆔娶㆑妻之義、內敎之所㆓由成㆒也、此於㆓別錄㆒屬㆓吉事㆒也。

【昏虐】21（コンギヤク） おろかでてあらいこと。〔陸倕、

石闕銘〕在二齊之季一、昏虐君臨。〔注〕向曰、季、末也、昏、闇、虐、暴也、謂三齊東昏侯爲レ君、臨レ人不道、專爲二暴虐一也。

【昏逆】22（コンギャク） おろかで理にさからふ。又、其の者。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕所下以懲二昏逆一而章中武功上。

【昏昕】23（コンキン） 暮と朝。〔儀禮、士昏禮〕凡行事、必用二昏昕一。〔注〕用レ昕使者、用レ昏壻也。〔疏〕昕卽明之始、君子擧レ事尙レ早、故用二朝旦一也。

【昏鼓】24（コンク） 寺院で夕刻に打つ太鼓。日沒後二刻半に打つ。曉鼓(**5－14176**・48)の對。〔敕修清規、法器章〕鼓早晚平擊二三通。

【昏愚】25（コング） 道理にくらくて愚かなこと。闇愚。

【昏花】26（コンクワ） 眼がかすんで目の前に斑點のちらつくこと。模糊。飛蚊症。眼花。〔韓愈、與二崔羣一書〕目視二昏花一、尋常閒便不レ分二人顏色一。〔燕子箋、誤畫〕晚上一同住宿、又曛曛醉得二昏花一。

【昏華】27（コンクワ） 目がかすむ。昏花に同じ。

【昏臥】28（コングワ） 夜床につく。〔吳志、吳主權潘夫人傳〕伺二其昏臥一、共縊二殺之一。

【昏晦】29（コンクワイ） くらい。〔風俗通、窮通〕易稱レ懸レ象著明、莫レ大二乎日月一、然時有二昏晦一。〔馬臻、德清夜泊詩〕遠色變二昏晦一、卸帆依二淺沙一。「に同じ。

【昏會】30（コンクワイ） 婚禮の儀式。婚會(**3－6418**・・12)

【昏憒】31 huen^1 k'uei^4 心のくらくみだれてゐること。〔紅樓夢、二十七回〕他但忒昏憒的不像了。

【昏聵】32（コンクワイ） くらいこと。〔福惠全書、刑名部、人命中、圖賴〕其昏聵之官、不レ能二覺察一。

【昏黃】33（コンクワウ） 月色の朦朧としてゐること。又、たそがれ。黃昏。曛黃。纁黃。〔韓偓、曲江晚思詩〕水冷鷺鷥立、煙月愁昏黃。

【昏冠】34（コンクワン） 昏姻の禮と冠笄の禮。〔周禮、地官、黨正〕祭祀喪紀、昏冠飲酒。〔周禮、春官、大宗伯〕以二昏冠之禮一、親二成男女一。

【昏君】35（コンクン） huen^1 chün^1 暗愚の君主。昏主。

【昏曉】36（コンゲウ） ❶夕ぐれと夜あけ。ゆふべとあかつき。朝夕。朝暮。〔南齊書、東昏侯紀〕干戈鼓譟、昏曉靡レ息。〔杜甫、望嶽詩〕造化鍾二神秀一、陰陽割二昏曉一。❷くらいとさとる。おろかとさとい。〔晉書、曹毗傳〕大人達觀、任二他昏曉一、出不レ極レ勞、處不レ巢レ皓。

【昏眩】37（コンゲン） 目がくらむ。〔桂海虞衡志、志草木〕風膏藥、葉如二冬青一、治二太陽疼・頭目昏眩一。

【昏媾】38（コンコウ） 親類緣者をいふ。婦の父を昏といひ、重緣を媾といふ。婚媾(**3－6418**・・15)を見よ。〔左氏、隱、十一〕如二舊昏媾一、其能降以相從也。〔左氏、昭、二十五〕昏媾姻亞。〔注〕妻父曰レ昏、重昏爲レ媾。

【昏黑】39（コンコク） 天のくらいこと。日が暮れてくらいこと。〔杜甫、茅屋爲二秋風所レ破歌〕俄頃風定雲墨色、秋天漠漠向二昏黑一。〔歐陽脩、憎レ蚊詩〕翾翾伺二昏黑一。

【昏困】40（コンコン） 目がくらんで氣力がつかれる。〔甲申雜錄〕未レ幾馬方坐二堂上一、忽昏困如レ夢。

【昏昏】41（コンコン） ❶くらいさま。物の分らぬさま。又、おろかなさま。又、くらいこと。〔孟子、盡心下〕今以二其昏昏一、使二人昭昭一。〔集注〕昏昏、闇也。〔列子、力命〕昏昏昧昧、紛紛若若。〔李涉、題二鶴林寺僧舍一詩〕終日昏昏醉夢閒、忽聞二春盡一強登レ山。❷huen^1 huen^1 ㋑熟睡のさま。㋺醉ひつぶれたさま。

【昏昏沈沈】42 huen^1 huen^1 ch'en^2 ch'en^2 朦朧たる。薄暗いさま。

【昏昏默默】43（コンコンモクモク） くらくてこゑのないこと。微にして見得ぬこと。〔莊子、在宥〕至道之極、昏昏默默。

【昏作】44（コンサク） 勤めて働く。昏はつとめる。〔潘勗、冊二魏公九錫一文〕君勸レ分務レ本、嗇レ民昏作。〔潘岳、藉田賦〕情欣二樂乎昏作一兮、慮レ盡二力乎樹蓺一。〔注〕翰曰、昏、彊也。

【昏札】45（コンサツ） わかじにと疫死。昏は未だ名づけぬ中に死んだもの。一說に、くるひまどふ意。字解㊀の❽を見よ。〔國語、周語下〕無二夭昏札瘥之憂一。〔注〕狂惑曰レ昏、疫死曰レ札。〔柳宗元、興州江運記〕飢饉昏札。

【昏撒】46（コンサツ） 目がくらむ。撒は放散するさまで、接頭語、又は接尾語の如くに用ひる。〔水滸傳、二十一回〕只一掌、打二箇滿天星一、那婆子昏撒了、只得放レ手。

【昏恣】47（コンシ） 心がくらくてほしいままなこと。〔元結、亂風詩、至虐〕忍行二昏恣一、獨樂二其身一。

【昏祠】48（コンシ） 夜まつる。正月初辛の夜、宮中で童男女七十名に徹宵踊らせる行事。〔漢書、禮樂志〕以二正月上辛一、用二事甘泉園丘一、使三童男女七十人俱歌昏祠至二明夜一。

【昏時】49（コンジ） くらい時。夜。〔禮、祭義、夏后氏祭二其闇一、疏〕夏后氏祭二其闇一者、以二夏后氏尙レ黑、故祭在二于昏時一。〔史記、樂書〕以二昏時一夜祠、到レ明而終。

【昏識】50（コンシキ） 凡夫の無知をいふ。昏昧の心識。〔萬善同歸集、五〕驚二昏識一之迅雷。

【昏日】51（コンジツ） 暮れ方の日。夕日。〔後漢書、律曆志下〕求二昏日所レ入度一。

【昏上】52（コンジヤウ） おろかな君主。上に居る者の愚かなこと。〔莊子、山木〕今處二昏上亂相之閒一、而欲レ無レ憊、奚可レ得乎。〔疏〕主昏二於上一、臣亂二於下一。

【昏狀】53（コンジヤウ） 夜のありさま。〔後漢書、五行志六〕日有レ蝕之幾盡、地如二昏狀一。

【昏情】54（コンジヤウ） 心のくらいこと。〔左思、魏都賦〕昏情爽曙、箴規以顯レ之也。〔注〕向曰、昏暗之情、所二以明曉一者、先生戒使レ然也。

【昏弱】55（コンジヤク） おろかで弱い。又、おろかで年わかいもの。〔范曄、宦者傳論〕曹騰說二梁冀一、竟立二昏弱一。

【昏主】56（コンシユ） おろかな君主。〔後漢書、皇甫嵩傳〕昏主之下、難二以久居一。〔潘岳、西征賦〕義二桓友之忠規一、竭二股肱于昏主一。

【昏娶】57（コンシユ） めとる。えんぐみする。昏嫁。婚娶。〔王建、自傷詩〕四授二官資一元七品、再經二昏娶一尙單身。

【昏夙】58（コンシユク） くれとあさ。又、終日。〔張養浩、贈二劉仲憲一詩〕承レ務酬レ官在二昏夙一。

【昏曙】59（コンシヨ） ゆふべとあした。朝夕。昏曉。昏旦。〔謝靈運、登二永嘉綠嶂山一詩〕殘夕忽昏曙、蔽翳皆周悉。〔楊浚、曉次二荆江一詩〕孤舟大江水、水涉無二昏曙一。

【昏鐘】60（コンシヨウ） ひぐれのかねの音。晚鐘。夕鐘。〔籟紀、昏鐘〕昏鐘者、節二蚤夜一之鐘聲也。〔盧綸、詶二李端病中見レ寄詩〕野寺昏鐘山正陰、亂藤高竹水聲深。

【昏鐘鳴】61（コジメ） [佛]昏鐘の鳴る時をいふ。禪林の語。〔敕修清規、達磨忌〕昏鐘鳴、再鳴二僧堂鐘一、集レ衆。

【昏昃】62（コンシヨク） 黃昏。又、午後をいふ。〔南齊書、海陵王紀〕靜言多レ慍、無レ忘二昏昃一。〔劉峻、與二擧法師一書〕蒼星昏昃、涼雲送レ秋。

【昏心】63 huen^1 hsin^1 心をくらます。

【昏晨】64（コンシン） あさばん。昏曙。〔韓非子、解老〕時雨降集、曠野閒靜、而以二昏晨一犯二山川一、則風露之爪角害レ之。〔管子、宙合〕日有二朝暮一、夜有二昏晨一。〔後漢書、劉平等傳序〕廬二於里門一、昏晨不レ廢積歲餘。〔顏氏家訓、後娶〕乃廬二於里門一、昏晨不レ廢。

【昏睡】65（コンスイ） よくねいる。正體なくねむる。〔南史、劉峻傳〕時或昏睡、爇二其鬚髮一。〔顏氏家訓、雜藝〕爲レ之猶勝二飽食昏睡一。

【昏醉】66（コンスイ） 前後の見分けもつかないほどゑふこと。正體なく醉ふこと。〔吳志、賀邵傳〕偶有二逆迕一、昏醉之言耳。〔晉書、劉曜載記〕曜昏醉奔退、馬陷二石渠一。

【昏正】67（コンセイ） 夕方に中すること。〔詩、鄘風、定之方中、傳〕定、營室也、方中、昏正二四方一。〔左氏、莊、二十九〕水昏正而栽。〔注〕謂下今十月定星昏而中、于レ是樹二板幹一而興作上。〔魏書、崔楷傳〕十月昏正、立レ匠表レ度。

【昏鈔】68（コンセウ） 古い紙幣。文字の不明瞭になった紙幣。〔元典章、戶部昏鈔〕江南鎭店、買賣輳集、每レ倒二昏鈔一、直須下遠赴二立庫處一倒換上、不二惟鈔法澁滯一、或被二盜失一、事於レ民不レ便。

【昏夕】69（コンセキ） 夕方をいふ。〔魏志、管輅傳〕或因三漢末之亂、兵馬擾攘、軍屍流血、汙二染丘山一、故因二昏夕一、多有二怪形一也。

【昏絕】70（コンゼツ） 息絕えて目のくらむこと。人事不省。昏倒。

【昏僭】71（コンセン） 心のくらくて物におごること。〔後漢書、孔融傳〕雖二昏僭惡極一、罪不レ容レ誅。

【昏譫】72 huen^1 chan^1 氣が狂つてたはことをいふ。

【昏然】73（コンゼン） くらいさま。〔列子、黃帝〕昏然五

情爽惑。

【昏阻】74 コンソ　くらましこばむ。〔福惠全書、荒政部、總論〕何有㆓昏阻之憂㆒哉。

【昏俗】75 コンゾク　わるい風俗。無知盲昧の凡俗。〔後漢書、崔駰傳贊〕子眞持㆑論、感起㆓昏俗㆒。〔行事鈔、下三〕昏俗多㆑務、慧觀難㆑修。〔行事鈔資持記、下三之三〕塵網所㆑縈、故云㆓昏俗㆒。

【昏惰】76 コンダ　心がくらくておこたる。昏怠。闇惰。〔宋史、宋庠傳〕御史言㆓庠昏惰㆒。

【昏怠】77 コンタイ　心がくらくておこたる。なまける。台慢。昏惰。〔五代史、四夷附錄、第二論〕世宗南平㆓淮甸㆒、北伐㆓契丹㆒、乘㆓其勝威㆒、擊㆓其昏殆㆒。

【昏倒】78 コンタウ　精神がぼける。又、目まひがしてたふれる。目がくらんで氣絕する。昏眩。昏絕。〔陸龜蒙、告㆓白蛇㆒文〕人老而毛髮皓白、耗眊昏倒、不㆑能㆑記㆓子孫名字㆒。

【昏椓】79 コンタク　奄人をいふ。門番。昏は閽で、もんばんをいひ、椓は宮刑をうけたものをいふ。〔詩、大雅、召旻〕天降㆓罪罟㆒、蟊賊內訌、昏椓靡㆑共。〔箋〕昏椓、皆奄人也、昏、其官名也、椓、椓㆓毀陰㆒者也。

【昏旦】80 コンタン　暮と朝。〔禮、月令、仲春之月、疏〕餘月昏旦中星、皆擧㆓二十八宿㆒。〔謝靈運、石壁精舍還㆓湖中㆒詩〕昏旦變㆓氣候㆒、山水含㆓清暉㆒。〔陸倕、新漏刻銘〕夫自㆑天觀㆑象、昏旦之刻未㆑分。〔注〕善曰、昏、闇也、旦、明也、日入後漏三刻爲㆑昏、日出前漏三刻爲㆑明。〔岑參、酬㆓成少尹駱谷行見㆑呈詩〕深林迷㆓昏旦㆒、棧道淩㆓空虛㆒。

【昏晝】81 コンチウ　よるとひる。晝夜。〔杜甫、九日寄㆓岑參㆒詩〕沈吟坐㆓西軒㆒、飲食錯㆓昏晝㆒。〔曹組、艮嶽賦〕銷㆓煙霞於杳冥㆒、留㆓風雨於昏晝㆒。

【昏蟲】82 コンチユウ　蚊の異名。夕方出るから名づける。〔事物異名錄、昆蟲、蚊〕內典、比邱患㆓草蟲㆒、佛聽作㆓佛子㆒、注、草蟲、昏蟲也。

【昏寵】83 コンチヨウ　亂れた朝廷に於て位の貴いこと。〔殷仲文、解㆓尙書㆒表〕宴㆓安昏寵㆒、叨㆓昧僞封㆒。〔注〕翰曰、宴安、謂㆔晏然自安㆓昏亂之朝㆒、寵、貴也。

【昏第】84 コンテイ　冠昏の禮を行ふところ。〔南史、始興王伯茂傳〕六門之外有㆓別館㆒、以爲㆓諸王冠昏之所㆒、名爲㆓昏第㆒。

【昏朝】85 コンテウ　暮と朝。朝夕。〔長生殿、絮閣〕愛㆓清幽西閣㆒、暫息㆓昏朝㆒。

【昏墊】86 コンテン　みだれおぼれる。みだれくるしむ。水害に遭つて苦しむこと。〔書、益稷〕下民昏墊。〔傳〕言㆔天下民昏瞀墊溺、皆困㆓水災㆒。〔孫奭、孟子正義序〕時盡昏墊。〔魏志、高貴鄕公髦紀〕汨㆓陳五行㆒、民用昏墊。〔張協、雜詩〕洪潦浩方割、人懷㆓昏墊情㆒。〔謝靈運、遊㆓南亭㆒詩〕久痗㆓昏墊苦㆒、旅館眺㆓郊岐㆒。

【昏墊之戹】87 コンテンノヤク　水害に遭つて苦しむなやみ。〔後漢書、崔駰傳〕人有㆓昏墊之戹㆒、主有㆓疇咨之憂㆒。

【昏頭】88 huen¹ t'ou²　ぼんやり。愚昧。

【昏瞳】89 コンドウ　あきらかでないひとみ。老いて目のかすむこと。〔梅堯臣、詩〕細書刺㆓昏瞳㆒。

【昏德】90 コントク　くらくみだれた行。道德に背いた行。不德。〔書、仲虺之誥〕有夏昏德、民墜㆓塗炭㆒。〔蔡傳〕桀爲㆓民主㆒、而反行㆓昏亂㆒。〔左氏、襄、十三〕上下無㆑禮、亂虐並生、由㆑爭㆑善也、謂㆓之昏德㆒。

【昏腦】91 huen¹ nao³　愚痴。愚昧。昏頭。　［德㆒。

【昏憊】92 コンバイ　心がくらくつかれる。憊は疲。〔列子、周穆王〕晝則呻吟而卽㆑事、夜則昏憊而熟寐。

【昏忘】93 コンバウ　おろかで物忘れする。〔南史、劉顯傳〕老夫昏忘不㆑可㆑受㆑策。

【昏眊】94 コンバウ　目がくらい。目がかすんで物が見えない。〔歐陽脩、謝㆑賜㆓漢書㆒表〕兩目昏眊。

【昏暴】95 コンバウ　道理に暗く行がらんばうなこと。又、其の人。〔書、仲虺之誥〕殖㆓有禮㆒、覆㆓昏暴㆒。〔史記、周紀〕昏㆓暴商邑百姓㆒。

【昏莫】96 コンバク　くらい。昏漠。〔荀子、成相〕門戶塞、大迷惑、悖亂昏莫不㆓終極㆒。〔注〕莫、冥寞、言㆑闇也。

【昏煩】97 コンバン　心がくらくてわづらはしい。〔白居易、松聲詩〕一聞滌㆓炎暑㆒、再聽破㆓昏煩㆒。

【昏微】98 コンビ　くらくかすか。〔楚辭、天問〕昏微遵㆑迹、有㆑狄不㆑寧。〔注〕昏、闇也。

【昏謬】99 コンビウ　心が暗くみだれること。〔魏志、曹爽傳、注〕宣王仍復陽爲㆓昏謬㆒。

【昏風】100 コンプウ　夕風。〔謝朓、始出㆓尙書省㆒詩〕宸景厭㆓照臨㆒、昏風淪㆓繼體㆒。

【昏蔽】101 huen¹ pi⁴　鈍い。暗い。愚鈍。

【昏暮】102 コンボ　ひぐれ。ゆふぐれ。〔孟子、盡心上〕昏暮叩㆓人之門戶㆒、求㆓水火㆒、無㆓弗㆑與者㆒。

【昏眸】103 コンボウ　くらいひとみ。目のかすむこと。昏瞳。〔張耒、讀㆓中興頌碑㆒詩〕使㆓我一見昏眸開㆒。〔樓鑰、催老融墨戲詩〕洗㆓我昏眸十年病㆒。

【昏瞀】104 コンボウ　無知で事理にくらい。昏瞢。昏盲。〔書、益稷、下民昏墊、傳〕言㆔天下民昏瞀墊溺、皆困㆓水災㆒。

【昏瞢】105 コンボウ　くらい。瞢は昧。昏盲(110)・昏瞀に同じ。〔劉基、詩〕使㆔我一見開㆓昏瞢㆒。

【昏墨】106 コンボク　昏は自分が惡でありながら美名を掠めること、墨は利を貪つて官を敗ること。〔左氏、昭、十四〕己惡而掠㆑美爲㆑昏、貪以敗㆑官爲㆑墨、殺㆑人不㆑忌爲㆑賊、夏書曰、昏墨賊殺、皐陶之刑也。〔梁武帝、定律銘〕殺傷有㆑法、昏墨有㆑刑。

【昏昧】107 コンマイ　❶くらい。〔左思、吳都賦〕歊霧漨浡、雲蒸昏昧。〔宋史、五行志一下〕山氣遇㆑夜輒昏昧、蛇斃始明。❷おろか。正しくない。蒙昧。昏愚。〔潘岳、螢火賦〕猶㆓賢哲之處㆑時、時昏昧而道緒㆖。

【昏邁】108 huen¹ mai⁴　老年で耄碌する。　［明㆒。

【昏霾】109 コンマイ　世のみだれること。〔顏延之、和㆓謝監靈運㆒詩〕徒遭㆓良時詖㆒、王道奄昏霾。〔注〕善曰、昏霾、喩㆓世亂㆒也。

【昏盲】110 コンマウ　くらい。無智で事理に暗い。昏瞀。昏瞢。昏闇。〔沈與求、水母詩〕浮埃沈滓溷㆓九清㆒、結㆓成此物㆒宜㆓昏盲㆒。

【昏耄】111 コンマウ　おいぼれる。又、其の人。〔吳志、甘寧傳〕祖今年老昏耄已甚。〔宋史、魏咸信傳〕年已昏耄。

【昏瞙】112 コンマク　見えなくなつた眼膜。〔韻府引、歐陽脩、詩〕偶來玩㆓茲事㆒、塵眼刮㆓昏瞙㆒。

【昏嫚】113 コンマン　心のくらくおごること。〔漢書、刑法志〕施㆓於暴亂昏嫚之國㆒。

【昏夢】114 コンム　はつきりしない夢。又、夕のまどろみ。〔溫庭筠、郭處士擊甌歌〕玉晨冷磬破㆓昏夢㆒、天露未㆑乾香著㆑衣。

【昏霧】115 コンム　くらいきり。〔柳宗元、寄㆓許京兆孟容㆒書〕卑濕昏霧、恐㆘一日塡㆓委溝壑㆒、曠㆗墜先緒㆖。

【昏明】116 コンメイ　❶くらいとあかるい。〔左氏、襄、二十七〕廢興存亡昏明之術、皆兵之由也。❷晝と夜。〔周禮、秋官、司寤氏、禦㆓晨行者㆒、疏〕日入三刻爲㆑昏、不㆑盡㆓三刻㆒爲㆑明。〔列子、湯問〕將旦昧爽之交、日夕昏明之際。〔劉琨、勸進表〕臣聞、昏明迭用。〔注〕善曰、昏明、謂㆓晝夜㆒也。

【昏冥】117 コンメイ　くらいこと。〔風俗通、怪神〕時亦昏冥、遂上㆑樓與㆓婦人㆒棲宿。

【昏迷】118 コンメイ　心がみだれくらむ。惑ふ。又、くらます。迷はす。〔書、大禹謨〕昏迷不㆑恭、侮慢自賢。〔書、胤征〕昏㆓迷于天象㆒、以干㆓先王之誅㆒。〔張協、雜詩〕流俗多昏迷、此理誰能察。

【昏蒙】118′ コンモウ コンボウ　くらむ。又、暗黑をいふ。〔韓愈、獨孤申叔哀辭〕衆萬之生、誰非㆑天邪、明昭昏蒙、誰使㆑然邪。

【昏朦】119 huen¹ mêng²　くらむ。眼がくらむ。

【昏目】120 コンモク　目がくらくなること。又、くらんで見えぬ目。〔晉書、會稽王道子傳〕太元以後、爲㆓長夜之宴㆒、蓬首昏目、政事多㆑闕。

【昏悶】121 コンモン　たふれる。氣が遠くなる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕人氣閉昏悶。

【昏夜】122 コンヤ　よる。暮夜。〔漢書、陳萬年傳〕萬年獨留、昏夜迺歸。〔漢書、張禹傳〕鏗鏘極㆑樂、昏夜乃罷。〔魏志、王朗傳〕時帝頗出遊獵、或昏夜還㆑宮。

【昏逾】123 コンユ　亂し越える。〔書、顧命〕嗣㆓守文武大訓㆒、無㆓敢昏逾㆒。

【昏老】124 コンラウ　としより。おいぼれ。〔列子、楊朱〕孩抱以逮㆓昏老㆒、幾居㆓其半㆒矣。

【昏亂】125 コンラン　心がくらんでみだれること。分別の智に乏しく道理のわからぬこと。又、みだれた世。〔左氏、閔、元〕閒㆓攜貳㆒、覆㆓昏亂㆒、霸王之器也。〔左氏、宣、三〕德之休明雖㆑小重也、其姦回昏亂雖㆑大輕也。〔逸周書、武紀解〕雖㆑有㆓昏亂之君㆒、國未㆑亡也。〔老子、十八〕國家昏亂有㆓忠臣㆒。〔莊子、漁父〕廷無㆓忠臣㆒、國家昏亂。〔史記、楚世家〕其姦回昏亂、雖㆑大必輕。

【昏禮】126 コンレイ　婚姻の儀式。結婚式。華燭典。婚禮。〔禮、郊特牲〕昏禮萬世之始也。〔禮、曾子問〕

曾子問曰、昏禮、既納㆑幣有㆓吉日㆒、女之父母死、則如㆑之何。〔管子、八觀〕昏禮不㆑謹、則民不㆑修㆑廉。〔墨子、非儒下〕昏禮威儀、如㆑承㆓祭祀㆒。

【昏惑】127 コンワク 事理にくらくてまよふ。おろかで道理がわからない。昏迷。晦惑。〔張衡、思玄賦〕通人闇㆓於好惡㆒兮、豈昏惑而能剖。〔沈約、述㆓僧中食㆒論〕人所㆓以不㆑得㆑道者、由㆓於心神昏惑㆒、心神所㆓以昏惑㆒、由㆓於外物擾㆑之。

【昏過去】128 huen^1 kuo^4 chʻü 目まひする。卒倒する。

【昏慘慘】129 huen^1 tsʻan^2 tsʻan^3 暗い形容。〔西廂記、草橋店夢㆓鶯鶯㆒雜劇〕昏慘慘雲際穿窗月。〔紅樓夢、五回〕昏慘慘黃泉路近。

【昏鄧鄧】130 huen^1 têng^4 têng^4 黑ずんでくらいさま。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽㆑琴雜劇〕昏鄧鄧黑海來深。

【昏世之主】131 コンセイノシュ 世にくらい君主。愚かな君。〔魏志、和洽傳〕昏世之主、不㆑可㆓黷近㆒。

【昏定晨省】132 コンテイシンセイ 親に孝行すること。晩には父母の寢床を安定し、朝は早く御きげんを伺ふ。〔禮、曲禮上〕凡爲㆓人子㆒之禮、冬溫而夏凊、昏定晨省。〔注〕安㆓定其牀衽㆒也、省、問㆓其安否何如㆒。

【旽】13807

タン トン 〔玉篇〕丁含切 覃

日ぐれの色。〔篇海〕旽、日晚色也。

【昐】13808

フン 〔集韻〕方文切 文

日の光。〔玉篇〕昐、日光也。〔集韻〕昐、日光。

【⿰日夫】13809

フ ブ 〔玉篇〕附夫切 虞

日。〔玉篇〕⿰日夫、日也。

【⿰日气】13810

キ 暣(**5**－14096)の古字。〔集韻〕暣、日氣也、古作㆑⿰日气。

【昑】13811

キン 〔集韻〕丘甚切 寢

あきらか。〔玉篇〕昑、明也。〔集韻〕昑、明也。

【昒】13812

㈠コツ コチ 〔集韻〕呼骨切 月
㈡ブツ モチ 〔集韻〕文拂切 物

小篆 (說文)

小篆 (段注本)

㈠㈡❶**よあけ。**曶(**5**－13813)に同じ。〔韻會〕昒、書作㆑曶。〔說文〕曶、尚冥也、从㆑日勿聲。〔玉篇〕昒、旦明也。〔漢書、郊祀志上〕昒爽。〔注〕師古曰、謂㆓日尚冥㆒、蓋未㆑明之時也。❷**くらい。**〔廣雅、釋詁四〕昒、冥也。❸**かるい。**颮(**12**－43859)に通ず。〔說文通訓定聲〕昒、叚借爲㆑颮。❹**ゆるがせにする。**忽(**4**－10405)に通ず。〔說文通訓定聲〕昒、叚借爲㆑忽。〔漢書、揚雄傳贊〕於時人皆曶㆑之。〔注〕師古曰、曶、與㆑忽同、謂㆑輕也。❺**おこる。**肸(**9**－29326)に通ず。〔說文通訓定聲〕昒、叚借爲㆑肸。❻**はやいさま。**昒霍(2)を見よ。忽(**4**－10405)に通ず。〔揚雄、羽獵賦、響忽如㆑神、注〕善作㆓蠁曶㆒、善曰、蠁曶、疾也、蠁、與㆑響同、曶、與㆑忽同。❼或は⿰日忽(**5**－13985)に作る。〔集韻〕昒、或从㆑忽。

【昒昕】1 コツキン 夜明け。未明の時。〔班固、幽通賦〕昒昕寤而仰思兮、心矇矇猶未㆑察。〔注〕善曰、曹大家曰、昒昕、晨旦明也。〔蔡邕、青衣賦〕昒昕將㆑曙、雞鳴相催。

【昒霍】2 コツクワク 疾いさま。〔揚雄、甘泉賦〕翕赫昒霍、霧集而蒙合兮。〔注〕翕赫昒霍、盛疾貌。

【昒爽】3 コツサウ よあけ。爽は明。〔漢書、郊祀志上〕十一月辛巳朔旦冬至昒爽。〔注〕師古曰、昒爽、謂㆓日尚冥㆒、蓋未㆑明之時也。〔司馬相如、難㆓蜀父老㆒文〕昒爽闇昧、得㆑輝㆓乎光明㆒。

【昒穆】4 コツボク くらくかすかなさま。沕穆。〔說苑、指武〕迫則能應、感則能動、昒穆無㆑窮。

【曶】13813

コツ 昒(**5**－13812)に同じ。〔正字通〕昒、移㆑勿置㆓日上㆒作㆑曶、形別義一。

參考 曶(**5**－14287)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕曶、同㆑昒。曶、同㆑忽。

【易】13814

㈠エキ ヤク 〔集韻〕夷益切 陌
㈡イ 〔集韻〕以豉切 寘 i^4
㈢シ ジ 〔集韻〕是義切 寘

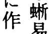
小篆

㈠❶**とかげ。やもり。**蜴(**10**－33190)に同じ。〔說文〕易、蜥易、蝘蜓、守宮也、象形、祕書說曰、日月爲㆑易、象㆓侌易㆒也、一曰、从㆑勿。〔段注〕上象㆑首、下象㆓四足㆒、尾甚微、故不㆑象、云云、今俗書㆓蜥易字㆒、多作㆑蜴、非也、云云、祕書、謂㆓緯書㆒。〔爾雅、釋魚、蜥蜴、釋文〕說文・字林作㆑易、云、在㆑壁曰㆓蝘蜓㆒、在㆑草曰㆓蜥蜴㆒。❷**かはる。**あらたまる。〔國語、齊語〕其事易。〔注〕易、變易也。〔束晳、補亡詩〕六氣無㆑易。〔注〕善曰、易、改也。❸**かへる。**㋑あらためる。〔周禮、考工記、玉人〕以易㆑行。〔注〕易、改也。〔儀禮、燕禮〕易㆑觶洗。〔注〕凡爵不㆓相襲㆒者、於㆓尊者㆒言㆑更、自㆑敵以下言㆑易、更作㆑新、易有㆑故之辭也。〔左氏、昭、元〕子常易㆑之。〔注〕易、猶㆑反也。〔國語、晉語八〕子常易㆑之。〔注〕易、變也。㋺とりかへる。交換。〔左氏、哀、八〕楚人圍㆑宋、易㆑子而食。㋩うつす。〔書、盤庚中〕易㆓種于茲新邑㆒。〔蔡傳〕移㆓其種于此新邑㆒也。㊁貿易。〔易、繫辭下〕日中爲㆑市、致㆓天下之民㆒、聚㆓天下之貨㆒、交易而退、各得㆓其所㆒、蓋取㆓諸噬嗑㆒。〔荀子、正名〕易者、以㆑一易㆑一。〔注〕易、謂㆓以㆑物相易㆒。❹**そむく。たがふ。**〔國語、晉語四〕好惡不㆑易。〔注〕易、反也。〔呂覽、禁塞〕古之道也、不㆑可㆑易。〔注〕易、猶㆑違。❺**ことなる。**〔國語、晉語五〕中外易矣。〔注〕易、猶㆑異也。❻**萬象の變化。**陰陽二氣の交感で天地間の事象が消長變化する現象。〔易、繫辭上〕生生之謂㆑易。〔注〕陰陽轉易、以成㆓化生㆒。❼**うらなひ。**龜をやいてその裂目により、或は蓍を數へて卦をおき、其の象によつて事の吉凶禍福・變化消長を知る伎。〔周禮、春官、大卜〕掌㆓三易之灋㆒、一曰連山、二曰歸藏、三曰周易。〔注〕易者、揲蓍變易之數、可㆑占者也。〔周禮、春官、簭人〕掌㆓三易㆒以辨㆓九簭之名㆒、一曰連山、二曰歸藏、三曰周易。〔疏〕此筮人掌㆓三易㆒者、若㆔卜用㆓三龜㆒。〔管子、山權數〕易者、所㆓以守㆓吉凶成敗㆒也。❽**易學。**周易。陰陽二氣を根元として萬象の變化を考へ、これに本づいて宇宙を統觀し、人事を窮治する學。伏羲・文王・周公・孔子に依つて大成されたもの。周易(**2**－3441‥29)の❶・八卦(**2**－1450‥11

2)の❶・六十四卦(**2**－**1453**・・292)を見よ。〔史記、孔子世家〕孔子晩而喜レ易、韋編三絶。❾**五經の一**。易經。周易(**2**－**3441**・・29)を見よ。〔禮、經解〕絜靜精微、易教也。〔漢書、丁寛傳〕初項生從二田何一受レ易。〔朱熹、易經本義序〕周、代名也、易、書名也、其卦本伏羲所レ畫、有二交易變易之義一、故謂二之易一、其辭則文王周公所レ繫、故繫二之周一、以二其簡一表二重大一、故分爲二上下兩篇一、經則伏羲之畫、文王・周公之辭也、幷二孔子所レ作之傳十篇一、凡十二篇、中閒頗爲二諸儒所一レ亂、近世晁氏、始正二其失一、而能盡合二古文一、呂氏又更定、著爲二經二卷傳十卷一、乃復二孔氏之舊一云。❿**卜占の官**。〔禮、祭義〕易抱レ龜南面。〔疏〕易、占易之官也。⓫**太虛無形の稱**。〔列子、天瑞〕故曰レ易也。〔注〕易、亦希爲之別稱也。⓬**はじめ**。〔方言、十三〕易、始也。⓭**いほり**。〔廣雅、釋室〕易、庵也。⓮**くにざかひ**。埸(**3**－**5194**)に通ず。〔說文通訓定聲〕易、叚借爲レ埸。〔管子、富國〕觀二國之治亂臧否一、至二於疆易一而端已見矣。〔注〕易、與レ埸同。〔漢書、禮樂志〕吾易久遠。⓯**わき**。亦(**1**－**293**)に通ず。〔素問、骨空論〕易髓無レ空。〔注〕易、亦也。⓰**姓**。〔尙友錄〕易、太原徵音、齊大夫易牙之後、卽雍巫也、善知レ味、又望出二濟陽一、今江東多二此姓一。⓱**謚**。〔逸周書、謚法解〕好更二改舊一曰レ易。

[二]❶**たひら**。たひらか。侇(**4**－**10096**)に通ず。〔說文通訓定聲〕易、叚借爲レ侇。〔易、繫辭下〕易者使レ傾。〔陸注〕易、平易也。〔淮南子、兵略訓〕易則用レ車。〔注〕易、平地也。〔枚乘、七發〕羈二堅轡一附二易路一。〔注〕易、平易也。❷**やすらか**。〔禮、中庸〕故君子居レ易以俟レ命。〔注〕易、猶二平安一也。❸**おだやか**。〔左氏、昭、四〕以二歲之不一レ易。〔注〕不レ易、言レ有レ難。❹**やはらぐ**。〔禮、樂記〕則易直子諒之心油然生矣。〔疏〕易、和易也。❺**よろこぶ**。〔詩、小雅、何人斯〕我心易也。〔傳〕易、說。❻**あなどる**。敡(**5**－**13259**)に通ず。〔說文通訓定聲〕易、叚借爲レ敡。〔禮、樂記〕易慢之心入レ之矣。〔注〕易、輕易也。〔左氏、襄、四〕貴レ貨易レ土。〔注〕易、猶レ輕也。❼**おろそか**。〔正字通〕易、忽也。〔左氏、襄、二十六〕欒范易レ行以誘レ之。〔注〕易レ行、謂三簡二易兵備一。〔說苑、脩文〕易野者無二禮文一也。❽**はぶく**。〔公羊、宣、六〕是子之易也。〔注〕易、省也。❾**たやすい**。〔論語、子路〕爲レ君難、爲レ臣不レ易。❿**をさめる**。をさまる。鬄(**12**－**45533**)に通ず。〔說文通訓定聲〕易、叚借爲レ鬄。〔詩、小雅、甫田〕禾易長レ畝。〔傳〕易、治也。〔禮、檀弓上〕易レ墓非レ古也。〔疏〕易、謂下芟二治草木一不上レ使二荒穢一。〔論語、八佾〕喪與二其易一也寧戚。〔集注〕易、治也。〔孟子、盡心上〕易二其田疇一。〔注〕易、治也。⓫**のびる**。弛(**10**－**36667**)に通ず。〔說文通訓定聲〕易、叚借爲レ弛、左氏隱六、商書曰、惡之易也、按、延也。[三]**あなどる**。或は偒(**1**－**731**)に作る。〔集韻〕易、輕也、或从レ人。

名乘 カヌ。カネ。ヤス。ヲサ。

解字 象形。蜥易（とかげ）の形に象る。とかげ。やもり。說文の蝘の字の下に、壁に在るを蝘蜓といひ、艸に在るを蜥易といふとある。鐘鼎の古文には・ 等に作る。上は首、下は四足に象り、尾は甚だ微であるから象らない。蜥易は色彩に變化が多い。よつて變易の義をあらはす。又、敡に假借して、難易の易とする。鄭氏が、周易を贊して、易の名は一言にて簡易・變易・不易の三義を兼ねると云ふはこれである。說文に祕書（緯書）を引いて、日月の會意とし、会易に象るといひ、更に一說として勿（旗の一）とする說を載せてゐるが、段注は非として從はない。

【易菴】1 エキアン 清、項聖謨(**12**－**43343**・・75)の號。

【易菴先生】2 エキアンセンセイ 明、吳自守(**2**－**3365**・・628)の尊稱。

【易衣】3 エキイ 衣をかへる。〔禮、儒行〕易レ衣而出、幷レ日而食。〔孔子家語、儒行解〕易レ衣而出、幷レ日而食。

【易易】4 イイ たやすいさま。わけもないさま。〔禮、鄕飮酒義〕故曰、吾觀二於鄕一、而知二王道之易易一也。〔荀子、樂論〕吾觀二於鄕一而知二王道之易易一也。〔孔子家語、觀鄕射〕吾觀二於鄕一、而知二王道之易易一也。

【易意】5 エキイ 意志をひるがへさせること。〔荀子、解蔽〕形可三劫而使二詘申一、心不レ可二劫而使一レ易レ意。

【易位】6 エキヰ 位置をかへる。〔左氏、成、二〕逢丑父與レ公易レ位。〔左氏、定、元〕將レ建二天子一、而易レ位以令、非レ義也。

【易緯】7 エキヰ 易の緯書をいふ。緯書は唐代にいたつて皆亡びたが、ただ易緯のみ存した。經義考に據れば垂皇策・萬形經・乾文緯・乾鑿度・乾坤鑿度・易考靈緯・易制靈圖・易含文嘉・易稽命圖・易含靈孕・易八墳文・易九厄讖・易稽覽圖・易是類謀・易辨終備・易通卦驗・易通統圖・易坤靈圖・易卦氣圖・易元命包・易萌氣樞・易歷・易運期・易內戒・易狀圖・乾元序制記・易傳太初篇等を錄してゐるが、今或は佚し、或は殘缺して完全ではない。易緯八種を見よ。〔經義考、毖緯〕易緯、隋志八卷、鄭玄注、佚・垂皇策、佚・萬形經、佚・乾文緯、佚・乾鑿度、宋均注、通志二卷存・乾坤鑿度、通志二卷存・易考靈緯、佚・易制靈圖、佚・易含文嘉、佚・易稽命圖、佚・易含靈孕、佚・易八墳文、佚・易九厄讖、佚・易稽覽圖、通志七卷・通考三卷、佚・易是類謀、鄭玄注、通考一卷佚・易辨終備、通考一卷佚・易通卦驗、通考二卷佚・易通統圖、佚・易坤靈圖、通考一卷佚・易卦氣圖、佚・易元命包、佚・易萌氣樞、佚・易歷、佚・易運期、佚・易內戒、佚・易狀圖一卷佚・乾元序制記、通考一卷佚・易傳太初篇、佚。

【易緯八種】8 エキヰハツシユ 易に關する八種の緯書。乾坤鑿度・周易乾鑿度・易緯稽覽圖・易緯辨終備・易緯通卦驗・易緯乾元序制記・易緯是類謀・易緯坤靈圖。易緯及び各條を見よ。

【易緯稽覽圖】9 エキヰケイランヅ 書名。二卷。鄭玄注。易緯八種の三。首に卦氣は中孚に起るといひ、坎離震兌を四正卦となす。其の六日七分消息徵應等は孟喜・京房の學のよつて出る所であり、軌筴の數等の日家推步の法に關するものは唐の一行が敷衍して大衍歷議を作つた。〔四庫提要、經、易類附錄〕。

【易緯坤靈圖】10 エキヰコンレイヅ 書名。一卷。鄭玄注。易緯八種の八。殘缺して今はない。僅かに論乾大畜旡妄卦詞及び史注の日月聯璧の數語を存するのみ。〔四庫提要、經、易類附錄〕。

【易緯是類謀】11 エキヰゼルイボウ 書名。一卷。鄭玄注。易緯八種の七。一に易緯筮類謀に作る。韻語を以て文をなし、多く禨祥推驗に及ぶ。〔四庫提要、經、易類附錄〕。

【易緯通卦驗】12 エキヰツウクワケン 書名。二卷。鄭玄注。易緯八種の五。宋史藝文志には二卷に作り、永樂大典には合して一としてゐる。上卷は稽應の理、下卷は卦氣の徵驗をのべてゐる。〔四庫提要、經、易類附錄〕。

【易緯辨終備】13 エキヰベンシユウビ 書名。一卷。鄭玄注。易緯八種の四。一に易緯辨中備に作る。永樂大典に僅かに數十言をのせるのみで完本ではない。〔四庫提要、經、易類附錄〕。

【易緯乾元序制記】14 エキヰケンゲンジヨセイキ 書名。一卷。鄭玄注。易緯八種の六。唐以前の書は著錄せず、陳振孫の書錄解題に始めて見える。後人が緯書を割裂して僞つてこの名を題したものである。〔四庫提要、經、易類附錄〕。

【易邑】15 エキイフ 邑をかへる。〔白虎通、號〕此改レ號爲レ周、易レ邑爲レ京也。

【易韻】16 エキヰン 書名。四卷。清、毛奇齡撰。

【易緼】17 エキウン 易の根源。乾卦・坤卦を指してい

ふ。〔易、繫辭上〕乾坤其易之縕邪。

【易英】18（エキエイ） 明、澧の人。字は以和。洪武の末、浙江布政司參政となり、政は寬平を旨とし、儒生を獎勵す。〔國朝獻徵錄、三十五〕・〔國朝列卿記、四十三〕・〔明名人傳、三十〕。

【易蜴】19（エキエキ） 蟲の名。蠑螈(10－33738・・2)の異名。〔方言、八〕守宮、秦晉西夏、謂二之守宮一、其在二澤中一者、謂二之易蜴一。

【易葉】20（エキエフ） 葉をかへる。木の葉が生えかはる。〔禮、禮器〕貫二四時一而不レ改レ柯易レ葉。

【易園】21（エキエン） 清、李林松(6－14459・・2000)の號。

【易音】22（エキオン） 書名。三卷。清、顧炎武撰。

【易家】23（エキカ） 易をさめる學者。〔後漢書、洼丹傳〕易家宗レ之、稱爲二大儒一。

【易牙】24（エキガ） 齊の桓公の宦者。又、狄牙に作る。名は巫。庖廚の事を以て桓公に說き、其の嬖人と爲り、親幸さる。桓公の卒後、其の黨、豎刁・開方と內寵によつて羣吏を殺し、齊國は大いに亂れた。易牙蒸レ子食レ君を見よ。〔孟子、告子上〕至二於味一、天下期二於易牙一。〔荀子、大略〕言レ味者予二易牙一。

〔易牙淄澠〕25（エキガシジョウ） 蒙求の標題。春秋、齊の大夫、易牙が善く物の味を知りわけ、淄水と澠水の二川の水の味を飲みわけたといふ故事。〔列子、說符〕孔子曰、淄澠之合、易牙嘗知レ之。

〔易牙蒸レ子食レ君〕26（エキガコヲムシテキミニクラハシム） 易牙が齊の桓公に美味を獻じて喜ばれんことを欲し、己の子を蒸して其の肉を進めたこと。〔管子、小稱〕管仲有レ病、桓公往問レ之、管仲對曰、臣願三君之遠二易牙一、夫易牙以二調和一事レ公、公曰、惟蒸二嬰兒一之未レ嘗、於レ是蒸二其首子一、而獻二之公一、人情非レ不レ愛二其子一也、於レ子之不レ愛、將何有二於公一。〔韓非子、二柄〕桓公好レ味、易牙蒸二其子首一而進レ之。〔韓非子、十過〕易牙爲レ君主レ味、君之所レ未二嘗食一、唯人肉耳、易牙蒸二其子首一而進レ之。〔說苑、權謀〕易牙解二其子一、以食レ君、其子之忍、將何有二於君一、若用レ之、必爲二諸侯笑一。

【易蓋】27（エキガイ） ふきかへる。修築する。

【易行】28（エキカウ） ❶古代の天文で五星の合すること。〔漢書、天文志〕五星若合、是謂二易行一。❷行ひをかへ改める。〔晏子、重而異者〕改レ過易レ行、而治二東阿一。❸（イカウ） 兵備を簡略にすること。〔左氏、襄、二十六〕欒范易レ行以誘レ之。〔注〕易レ行、謂三簡二易兵備一。❹佛（イギヤウ） 平易な行法。難行の反對。又、行き易い道。念佛の法をいふ。〔十住毘婆娑論、易行品〕以二信方便易行一、疾至二阿惟越致地一。

〔易行道〕29（イギヤウダウ） 佛念佛の功によつて得る阿彌陀如來の助力で佛となること。自力の修行で佛果を得る難行道の對。他力本願。〔毘婆娑論〕菩薩求二阿毘跋致一、有二二種道一、一者難行道、一者易行道。

【易綱】30（エキカウ） 易剛を見よ。

【易剛】31（エキガウ） 明、衡陽の人。萬姓統譜には易綱に作る。字は正道。官は武康縣知。〔湖南通志〕。

【易號】32（エキガウ） 天子の稱號をかへる。〔漢書、天文志〕當三改レ元易レ號增二漏刻一、號曰二陳聖劉太平皇帝一。

【易骼】33（エキカク） 骨をかへる。骨がまた生えること。〔感應經〕龍易レ骨、麋易レ骼。

【易學】34（エキガク） ❶易を研究する學問。〔漢書、儒林、高相傳〕繇レ是易有二高氏學一。〔和漢三才圖會、人倫、卜筮〕至二應神・仁德朝一、始用二易學一。❷書名。二卷。宋、王湜撰。

〔易學啓蒙〕35（エキガクケイモウ） 書名。二卷。宋、朱熹撰。

〔易學變通〕36（エキガクヘンツウ） 書名。六卷。元、曾貫撰。

〔易學辨惑〕37（エキガクベンワク） 書名。一卷。宋、邵伯溫撰。

〔易學濫觴〕38（エキガクランシヤウ） 書名。一卷。元、黃澤撰。

〔易學象數論〕39（エキガクシヤウスウロン） 書名。六卷。清、黃宗羲撰。

〔易學啓蒙意見〕40（エキガクケイモウイケン） 書名。五卷。明、韓邦奇撰。周易(2－3441・・29)の參考書を見よ。

〔易學啓蒙小傳〕41（エキガクケイモウセウデン） 書名。一卷。宋、稅與權撰。

〔易學啓蒙通釋〕42（エキガクケイモウツウシヤク） 書名。二卷。宋、胡方平撰。

〔易學啓蒙翼傳〕43（エキガクケイモウヨクデン） 書名。四卷。元、胡一桂撰。

【易簡】44（イカン） やさしく手數のかからぬこと。作爲せず繁勞を用ひぬこと。てがる。易直。簡易。〔易、繫辭上〕易簡而天下之理得矣。〔後漢書、郎顗傳〕易簡而天下之理得矣。〔應貞、晉武帝華林園集詩〕游二心玉虛一、同二規易簡一。

〔易簡齋〕45（イカンサイ） 清、和映(2－3490・・17)の號。

【易氣】46（エキキ） 古い氣を新しい氣とかへる。〔嵆康、養生論〕練レ骸易レ氣、染レ骨柔レ筋。

【易經】47（エキキヤウ） 周易(2－3441・・29)の❷を見よ。

〔易經存疑〕48（エキキヤウソンギ） 書名。十二卷。明、林希元撰。

〔易經衷論〕49（エキキヤウチユウロン） 書名。二卷。清、張英撰。

〔易經通注〕50（エキキヤウツウチユウ） 書名。四卷。清、大學士傅以漸等奉敕撰。

〔易經蒙引〕51（エキキヤウモウイン） 書名。十二卷。明、蔡清撰。周易(2－2441・・29)の參考書を見よ。

【易銀】52（エキギン） 米を銀にかへること。〔六部成語、戶部、易銀、注解〕以レ米易レ銀也。

【易卦】53（エキクワ） うらなひのけ。算木の面にあらはれたかたち。卦(2－3798)の字解を見よ。

【易宏】54（エキクワウ） 清、新會の人。字は渭遠。號は披亭・雲華子。詩詞に巧。書室を雲華閣といふ。著に雲華客詩略・披亭詞鈔がある。〔國朝詩人徵略初編、二十三〕・〔國朝詩人徵略二編、八〕。

【易換】55（エキクワン） かふ。かへる。〔金史、張萬公傳〕納レ粟易換、上皆從レ之。

【易京】56（エキケイ） ❶漢の京房をいふ。易に精通してゐたからいふ。〔海錄碎事、天、律呂〕君明識二音律一、京房字君明、精二於易一、故曰二易京一。❷地名。河北省雄縣の西北。漢の易縣の地。漢末、公孫瓚、幽州から鎭をこの地に移し、盛に營壘樓觀を修む。これを易京といふ。後、袁紹に破らる。〔魏志、公孫瓚傳〕瓚軍數敗、乃走還二易京一固守。

【易繫】57（エキケイ） 周易の繫辭をいふ。もと文王・周公の作る所の辭で、卦爻の下に繫けたもの。繫辭傳は孔子の述べる所で一經の大體を通論してゐる。十翼(2－2695・・597)の❶・繫辭(8－27940・・23)の❷を見よ。〔潛夫論、五德志〕故略依二易繫一、記二伏羲以來一、以遺二後賢一。

【易教】58（エキケウ） 易の教。〔孔子家語、問玉〕潔靜精微、易教也、恭儉莊敬、禮教也。

【易縣】59（エキケン） 縣名。❶漢、置く。河北省雄縣の西北。〔漢書、地理志上〕涿郡、縣二十九、易。❷隋、置く。河北省淶水縣の西。易水の發源の處。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府〕廢易縣、本漢之故安縣、屬二涿郡一、文帝封二申屠嘉一、爲二侯邑一、後漢仍屬二涿郡一、建安九年、袁譚敗二袁尙於中山一、尙走二故安一、依二袁熙一、晉屬二范陽國一、後魏屬二范陽郡一、北齊縣廢、隋開皇十六年、改置二易縣一、爲二易州治一、唐以後因レ之。

【易言】60（エキゲン） 宋の人。字は應之。官は樞府司戶參軍。嘗て排姦黨說を著して、崇寧人材の弊を極論した。

【易原】61（エキゲン） 書名。八卷。宋、程大昌撰。周易(2－3441・・29)の參考書を見よ。

〔易原奧義〕62（エキゲンアウギ） 書名。一卷。元、寶巴撰。

〔易原就正〕63（エキゲンシウセイ） 書名。十二卷。清、包儀撰。

【易湖】64（エキコ） 明、劉爵(2－2224・・348)の號。

【易骨】65（エキコツ） 骨をかへること。〔漢武帝內傳〕王母曰、一年易レ氣、二年易レ血、三年易レ精、四年易レ脈、五年易レ髓、六年易レ骨、七年易レ筋、八年易レ髮、九年易レ形。

【易齋】66（エキサイ） 字號。❶明、劉璟(2－2224・・235)の號。❷清、袁守定(10－34152・・209)の號。❸清、吳隆元(2－3365・・896)の號。❹清、馮溥(12－44579・・133)の字。

【易簀】67（エキサク） 曾參が病氣危篤の時、其の敷いてゐた簀を身分に相應せぬとて取り易へさせて死んだといふ故事。後、人の死をいふ。〔禮、檀弓上〕曾子寢レ疾病、云云、童子曰、華而睆、大夫之簀與、云云、曾子曰、然、斯乃季孫之賜也、我未二之能一易レ簀也、元起易レ簀、曾元曰、云云、夫子之病革矣、不レ可二以變一、幸而至二於旦一、請敬易レ之、曾子曰、云云、吾得レ正而斃焉、斯已矣、擧扶而易レ之、反レ席、未レ安而沒。

〔易簀之際〕67′（エキサクノサイ） 人の臨終をいふ。〔書言故事、凶事類〕言二人臨終一、曰二易簀之際一。

【易散】68（イサン） 散じやすい。〔老子、六十四〕其脆易レ破、其微易レ散。

【易之】69（エキシ） 字號。❶唐、李夷簡(6－14459・・829)の字。❷元、迺賢(11－38831・・3)の字。

【易氏】70（エキシ） 易牙(24)をいふ。〔梁昭明太子、七

契〕加以㆓伊公調和㆒、易氏燔爨㆒。

【易思】71 エキシ　明、夷陵の人。字は景善。官は懷柔縣丞。

【易資】72 エキシ　貨財を交易すること。〔左氏、僖、二十七〕民易㆑資者、不㆑求㆑豐焉、明徵㆓其辭㆒。

【易次】73 エキジ　うつりかはる。時節の順序をかへる。〔越絕書、越絕外傳枕中〕四時易次、寒暑失㆑常。

【易字】73′ エキジ　❶名字を改める。〔後漢書、傅燮傳〕傅燮、字南容、本字幼起、慕㆔南容三㆓復白圭㆒、乃易㆑字焉。❷文字を改める。〔經典釋文敍錄〕近代學徒、好生㆓異見㆒、改㆑音易㆑字。❸釋名の解の易字・疊易字・再易字・轉易字・省易字・省疊易字・易雙字の七例をいふ。〔顧廣圻、釋名略例〕釋名之例有㆑二、曰本字、曰易字、易字分爲㆑七、曰、易字・疊易字・再易字・轉易字・省易字・省疊易字・易雙字。易字者、如㆓天、顯也、在㆑上高顯也、以㆑顯釋㆑天是、疊易字者、如㆘雲、猶㆓云云㆒、衆盛意也、以㆓云云㆒釋㆖雲是、再易字者、如㆘腹、複也、富也、以㆓複也富也㆒再釋㆖腹是、轉易字者、如㆘兄、荒也、荒、大也、以㆑荒釋㆑兄、而以㆑大轉釋㆖荒是、省易字者、如㆘綈、似㆓⿰虫弟蟲之色綠而澤㆒也、以㆑⿰虫弟釋㆑綈、卽省㆑⿰虫弟也之云㆖是、省疊易字者、如㆘夏曰㆓昊天㆒、其氣布散皓皓也、以㆓皓皓㆒釋㆑昊而省㆗猶㆓皓皓㆒之云㆖是、易雙字者、如㆘摩娑、猶㆓末殺㆒也、以㆓末殺雙字㆒釋㆗摩娑雙字㆖是。

【易州】74 エキシウ　州名。隋、置く。清、直隸州とし、淶水・廣昌の二縣を管轄する。河北省易縣。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府〕易州、春秋戰國時、爲㆓燕地㆒、秦置㆓上谷郡㆒、漢屬㆓涿郡㆒、後漢因㆑之、晉屬㆓范陽國㆒、後魏亦爲㆓上谷郡㆒、隋初曰㆓昌黎郡㆒、旋改㆓易州㆒、煬帝初、復曰㆓上谷郡㆒、唐復爲㆓易州㆒。〔清史稿、地理志〕直隸、易州直隸州、領㆓縣二㆒、淶水・廣昌。

【易質】75 エキシツ　素質を易へること。粗野の風を改めて醇美の俗に化することをいふ。〔晉書、王導傳〕威之所㆑振、寇虐改㆑心、化之所㆑鼓、檮杌易㆑質。

【易者】76 エキシヤ　うらなひしや。八卦見。占者。卜者。

【易象】77 エキシヤウ　周易の象辭。〔左氏、昭、二〕見㆔易象與㆓魯春秋㆒曰、周禮盡在㆑魯矣。〔注〕易象、上下經之象辭也。

【易象正】78 エキシヤウセイ　書名。十六卷。明、黃道周撰。

【易象鈔】79 エキシヤウセウ　書名。四卷。明、胡居仁撰。

【易象意言】80 エキシヤウイゲン　書名。一卷。宋、蔡淵撰。

【易象鉤解】81 エキシヤウコウカイ　書名。四卷。明、陳士元撰。

【易象大意存解】82 エキシヤウタイイソンカイ　書名。一卷。清、任陳晉撰。

【易象圖說內篇】83 エキシヤウヅセツナイヘン　書名。三卷。元、張理撰。

【易常】84 エキジヤウ　つねをかへる。〔莊子、漁父〕好經㆓大事㆒、變更易㆑常、以挂㆓功名㆒、謂㆓之叨㆒。

【易酌】85 エキシヤク　書名。十四卷。清、刁包撰。周易（**2**－**3441**··29）の參考書を見よ。

【易種】86 エキシユ　種類をうつす。不善のものを善類の所に移す。〔書、盤庚中〕無㆑俾㆑易㆓種于茲新邑㆒。〔蔡傳〕毋㆑使㆑移㆓其種于此新邑㆒也。〔疏〕易種者、卽今俗語云相染易也、惡種在㆓善人之中㆒、則善人亦變易爲㆑惡。〔今古文注疏〕易種、轉㆓生種類㆒。〔左氏、哀、十一〕無㆑俾㆑易㆓種于茲邑㆒。〔疏〕易謂㆓轉易㆒、無㆑使㆔轉㆓生種類㆒、不㆑令㆔更有㆓惡子孫㆒也。

【易從】87 エキジユウ　字號。❶唐、殷懌（**6**－**16627**··9）の字。❷宋、李行簡（**6**－**14459**··935）の字。

【易充】88 エキジユウ　宋、分宜の人。字は正翁。年十六七にして易書詩に通じて三經處士と號し、著に中洲文集がある。

【易序】89 エキジヨ　❶易象の次序をいふ。〔易、繫辭上〕君子所㆑居而安者、易之序也。❷順序をかへる。〔韓非子、外儲說左下〕夫瑟以㆓小絃㆒爲㆓大聲㆒、以㆓大絃㆒爲㆓小聲㆒、是大小易㆑序、貴賤易㆑位。

【易茸】90 エキジヨウ　天子の車馬のかざり。〔後漢書、輿服志上〕朱兼樊纓、赤罽易茸、金就十有二。

【易色】91 エキシヨク イシヨク　賢者を尊ぶ心を以て女色を好む心にかへる。一說に、顏色を改めて賢者を禮遇する。又、易をイと讀み、女色を輕んずること。〔論語、學而〕賢㆑賢易㆑色、事㆓父母㆒能竭㆓其力㆒、事㆑君能致㆓其身㆒。〔集解〕孔安國曰、云云、言㆘以㆓好㆑色之心㆒好㆑賢則善㆖也。〔集說〕毛奇齡云、易㆑色有㆓二義㆒、一作㆓改易之易㆒、音亦、則色是顏色、謂㆓改㆑容而禮㆒之、程伊川云、變㆓易顏色㆒是也、一作㆓難易之易㆒、音異、則色是女色、謂㆔尊㆑賢則輕㆓女色㆒。

【易植】92 イシヨク　うゑつけやすい。〔管子、八觀〕壤地肥饒、則桑麻易㆑植也。

【易心】93 エキシン　❶心を取りかへる。〔韓詩外傳、六〕小人易㆑心、百姓易㆑俗。〔列子、湯問〕扁鵲謂㆓公扈㆒曰、汝志彊而氣弱、故足㆓於謀㆒寡㆓於斷㆒、齊嬰志弱而氣彊、故少㆓於慮㆒而傷㆓於專㆒、若換㆓汝之心㆒、則均㆓於善㆒矣、扁鵲遂飲㆓二人毒酒㆒、迷死三日、剖㆑胸探㆑心、易而置㆑之。❷あなどる心。〔言志晚錄〕不㆔敢生㆓易心㆒。

【易信】94 i⁴ hsin⁴　人の言を輕々しく信ずる。

【易新】95 エキシン　あたらしいものにかへる。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕每年出㆑陳易㆑新。

【易人】96 イジン　與しやすい人。〔唐書、李密傳〕關中四塞之地、彼留守衞文昇、易人耳。

【易水】97 エキスイ　川の名。三源あり。一は河北省易縣の西、定興縣の西南に源し、中易水といふ。古の武水。二は易縣の北に源し、定興縣の界で中易水と合す。これを北易水といふ。古の濡水。今、沙河といふ。三は易縣の西南に源し、これを南易水といひ、下流を雹河といふ。皆、拒馬河に入る。單に易水といへば、中易水を指す。〔周禮、夏官、職方〕正北曰㆓幷州㆒、其浸淶易。〔戰國、燕策〕蘇秦曰、燕南有㆓滹沱・易水㆒。〔讀史方輿紀要、直隸〕易水、源出㆓保定府易州西山谷中㆒、周禮職方、幷州浸淶易、戰國策、蘇秦曰、燕南有㆓滹沱易水㆒、又云、趙之攻㆑燕也、渡㆓滹沱㆒、涉㆓易水㆒、不㆑至㆓四五日㆒而距㆓國都㆒矣、史記、燕太子丹、使㆔荊軻刺㆓秦王㆒、祖㆓道易水上㆒、又始皇二十年、秦軍破㆓燕易水之西㆒、漢志、易水東至㆓范陽㆒入㆑濡、一云、至㆓范陽㆒入㆑淶、建安十一年、曹操伐㆓烏桓㆒、還至㆓易水㆒、上郡代郡烏桓皆來賀、晉永安初、幽州都督王浚入㆑鄴、還至㆓易水㆒、以㆔所㆑將鮮卑、多掠㆓鄴中婦女㆒、命敢有㆓挾藏者㆒、斬㆓於是㆒、沉㆓於易水㆒者八千人、二年、石勒襲㆑浚至㆓易水㆒、督㆓護孫緯㆒欲㆓拒戰㆒、勒給㆑浚至㆑薊奉戴、浚信㆑之、因禁㆓諸將㆒勿㆑擊、勒遂滅㆑浚、還渡㆓易水㆒、緯遮㆓擊之㆒、勒僅免、唐光化三年、汴將張存敬攻㆓定州㆒、幽州帥劉仁恭、遣㆓子守光救㆒㆑之、軍㆓於易水上㆒、存敬襲㆓擊守光㆒、殺獲甚衆、朱梁乾化二年、晉將周德威伐㆑燕、劉守光出㆓飛狐㆒、與㆓鎭定軍㆒會㆓於易水㆒、進㆓下祁溝關㆒、樂史云、易水有㆓三源㆒、流㆓經易州南二十里㆒者、曰㆓中易水㆒、出㆓州西北三十里窮獨山㆒者、謂㆓之濡水㆒、亦曰㆓北易水㆒、出㆓州西南六十里石獸岡㆒者、謂㆓之雹水㆒、亦曰㆓南易水㆒、中易水流㆓經定興縣西㆒、亦謂㆓之白溝河㆒、淶水縣之拒馬河流合焉。

【易水歌】98 エキスイカ　樂府琴曲歌辭の名。荊軻が秦王を刺しに行く途次、易水で知己故舊と別れる時にうたつたもの。〔史記、刺客、荊軻傳〕使㆔荊軻刺㆓秦王㆒、太子及賓客知㆓其事㆒者、皆白衣冠以送㆑之、至㆓易水之上㆒、旣祖取㆑道、高漸離擊㆑筑、荊軻和而歌、爲㆓變徵之聲㆒、士皆垂㆑淚涕泣、又前而歌曰、風蕭蕭兮易水寒、壯士一去兮不㆓復還㆒、復爲㆓羽聲㆒忼慨、士皆瞋㆑目、髮盡上指㆑冠、於㆑是荊軻就㆑車而去。〔王勃、上㆓明員外㆒啓〕懦夫增㆑氣、先歌㆓易水之風㆒、壯士投㆑心、思㆑赴㆓吳宮之火㆒。

【易水客】99 エキスイノカク　荊軻が易水で燕の太子丹と別れたことから、荊軻をさしていふ。〔駱賓王、詠懷詩〕徒歌易水客、空老渭川人。

【易數】100 エキスウ　易理によつて吉凶をわきまへ知る術。〔宋史、陳瓘傳〕通㆓于易數㆒、言㆓國家大事㆒、後多㆑驗。

【易數鉤隱圖】101 エキスウコウインヅ　書名。三卷。宋、劉牧撰。周易（**2**－**3441**··29）の參考書を見よ。

【易世】102 エキセイ　或る王室が亡び、新朝の興るをいふ。〔魏文帝、周成漢昭論〕使㆓夫昭成均㆑年而立、易㆑世而化、貿㆑臣而治㆒。

【易制】103 エキセイ　從來の制度を易へる。〔史記、秦始皇紀〕天下無㆓異意㆒、則安寧之術也。

【易姓】104 エキセイ　朝代のかはること。中國で古は國家を以て一姓の業としたから、新朝代が興るのを易姓といふ。革命。〔史記、歷書〕王者易㆑姓受㆑命、必愼㆓始初㆒。〔漢書、五行志中之上〕王者易㆑姓告㆑代之處。〔漢書、谷永傳〕如使㆓危亡之言輒上聞㆒、則商周不㆑易㆑姓而迭興。〔漢書、外戚下、孝成許皇后傳〕王者易㆑姓告㆑代之處。〔春秋繁露、

楚莊王〕今所謂新君必改レ制者、非レ改二其道一、非レ變二其理一、受二命於天一、易レ姓更王、非下繼二前王一而王上也。〔白虎通、號〕自克明易レ姓爲二子孫一制也。

〖易姓革命〗105 エキセイカクメイ 帝王は天命を受けて天下を統治するものであり、若し時の帝王の德が衰へ人心離叛すれば、別の有德者が天命を受けて新しい王朝を開くといふこと。中國での天命思想の現れの一つ。革命（**12**―42710‥68）の❶を見よ。

【易性】106 エキセイ ❶天賦自然の質をかへること。〔莊子、駢拇〕小惑易レ方、大惑易レ性。❷心神卽ち情欲才能等をかへること。〔嵇康、答レ難二養生論一書〕納レ所レ食之氣、還レ質易レ性、豈不レ能哉。〔道德指歸論〕鍊精易性、變化心竟。

【易靑】107 エキセイ 宋、歸善の人。紹興の閒、連南夫に隨つて曾衮を討つて執へられ、屈せずして焚殺された。〔宋史、四百四十九〕。

【易政】108 エキセイ 先王の政をかへる。〔管子、宙合〕聽明以知則博、博而不レ惛、所二以易一レ政也。

【易聖】109 エキセイ 易道にすぐれた人。〔唐書、衞太經傳〕邃二於易一、人謂二之易聖一。〔稱謂錄、卜、易聖〕海錄碎事、耳目記云、唐昭宗時、有二董賀者一、精二卜筮一、人謂二之易聖一。

【易精】110 エキセイ くりかへして精思する。〔漢書、鄒陽傳〕今臣盡レ智畢レ議、易レ精極レ慮、則無二國不一レ可レ奸。〔注〕如淳曰、改二易精思一、以極二盡謀慮一也。

【易筮】111 エキゼイ 易理によつてうらなふ。又、其のうらなひ。筮はうらなひに用ひるめどぎ。〔晉書、淳于智傳〕有二思議一、能二易筮一、善二厭勝之術一。

【易跡】112 エキセキ あとをかへる。〔蜀志、呂凱傳〕翻然改レ圖易レ跡。

【易說】113 エキセツ 書名。❶四卷。宋、趙善譽撰。❷六卷。淸、惠士奇撰。

【易節】114 エキセツ ❶節操をかへる。〔魏志、王烈傳〕經レ危蹈レ險、不レ易二其節一。❷明、萬載の人。字は時中。永樂の進士。官は貴州左布政使。

【易占】115 エキセン 易でうらなふ。うらなひ。〔雲笈七籤〕巨君傳二季山筮訣一、遂善二于易占一。

【易先】116 エキセン 明、湘陰の人。字は太初。謚は忠節。官は諒山知府。宣德中、黎利反し、城陷つて縊死した。〔明史、一百五十四〕・〔萬斯同明史、二百二〕・〔明史稿、一百二十六〕。

【易箋】117 エキセン 書名。八卷。淸、陳法撰。

【易戰】118 イセン 易地の戰。平地の戰鬪。〔六韜、犬韜、均兵〕易戰之法、一車當二步卒八十人一。

【易則】119 エキソク 法則をかへる。〔班固、兩都賦序〕因レ時而建レ德者、不下以二遠近一易上則。

【易俗】120 エキゾク 惡い風俗を改めかへる。〔禮、樂記〕移レ風易レ俗、天下皆寧。〔孝經、廣要道章〕移レ風易レ俗、莫レ善二於樂一。〔漢書、景帝紀贊〕移レ風易レ俗。〔說苑、脩文〕孔子曰、移レ風易レ俗、莫レ善二於樂一。〔孔子家語、致思〕移レ風易レ俗。

【易怠】121 イタイ 輕んじおこたる。〔公羊、文、十二〕俾二君子易怠一。〔注〕易怠、猶二輕惰一也。

【易代】122 エキダイ 朝代のかはること。〔蜀志、周羣傳〕私語レ人曰、歲在二庚子一、天下當二易代一、劉氏祚盡矣。

【易棠】123 エキタウ 淸、善化の人。字は念園。道光の進士。咸豐中、番回を平らぐ。官は陝甘總督。書室を貽芬書屋といふ。著に貽芬書屋詩文集がある。〔淸史列傳、四十八〕。

【易堂】124 エキダウ ❶堂の名。江西省寧都縣の翠微峯。淸の魏禧が南昌の彭士望・林時益、同邑の李騰蛟・丘維屛・彭任・曾燦及び兄の祥、弟の禮と易堂をつくつて學を講じた。世に易堂九子といふ。〔國朝先正事略、魏叔子先生事略〕彭士望躬庵・林時益確齋亦至、皆與二先生一立レ談定レ交、挈二妻子一來家二翠微一、世所レ稱易堂諸子也、云云、自下歐陽鄒魏宗二陽明一講中性學上、陳艾依復レ社、工二帖括一、其聲力氣燄、皆足レ動二一時一、易堂起、獨以二古文實學一爲レ歸、風氣一振、由三先生爲二之領袖一云。❷字號。㋑淸、吳鼎（**2**―3365‥322）の號。㋺淸、秦承業（**8**―24995‥234）の號。

〖易堂九子〗125 エキダウキウシ 淸初、易堂に會して學を講じた九人の學者。魏際瑞・魏禮・魏禧・彭士望・林時益・李騰蛟・丘維屛・彭任・曾燦。易堂を見よ。〔國朝先正事略、魏叔子先生事略〕其婦謝氏、絕レ食十三日、以レ身殉二彭躬庵一、及二其未一レ死時一、執レ贄拜二牀下一、奉爲二女師一、易堂九子、自二三魏及躬庵・確齋一外、曰二李騰蛟咸齋・丘維屛邦士・彭任中叔・曾燦青藜一、敦古友誼、如二骨肉子弟一、無恆父、師二高僧無可一、嘗至二山中一歎曰、易堂眞氣、天下無レ兩矣。

【易道】126 エキダウ ❶易の道。〔孔安國、尙書序〕讚二易道一、以黜二八索一。❷イダウ 平らな道。樂易なこと。〔說苑、修文〕樂之動二於內一、使二人易レ道而好レ良。

〖易道良馬〗127 イダウリヤウバ 平坦な道と良い馬。〔淮南子、說林訓〕易道良馬、使二人欲一レ馳。

【易斷】128 イダン ❶ちぎれやすい。〔陳後主、採桑曲〕柯新攀易レ斷。❷エキダン 易で判斷する。

【易地】129 エキチ ❶居る所の地位をかへる。〔孟子、離婁下〕禹・稷・顏子、易レ地則皆然。❷チイ 平らな土地。〔六韜、犬韜、戰車〕戰二於易地一、暮不レ能レ解、卽陷レ之。〔漢書、鼂錯傳〕若夫平原易地、輕車突騎、則匈奴之衆易二撓亂一也。

【易置】130 エキチ とりかへておく。〔史記、廉頗傳〕趙括旣代二廉頗一、悉更二約束一、易二置軍吏一。〔潘岳、西征賦〕故社易置、枌楡遷立。〔五代史、周臣傳贊〕使二善レ奕者視一焉、爲レ之易二置其處一、則勝矣。

【易疇】131 エキチウ 淸、程瑤田（**8**―25081‥159）の字。

【易張】132 エキチヤウ あらためはる。〔吳志、孫休傳評〕不レ能三拔二進良才一、改レ絃易レ張。

【易中】133 i^4 chung^1 上古、貨幣のない時代、物物交換をなしたが、民智漸く進むに從つて其の不便を知り、一物を定めて交易の媒介としたこと。英語の Medium of exchange の譯。

【易重】134 エキチヨウ 唐の人。字は鼎臣。會昌の進士。文千餘篇を著はす。官は大理評事。〔全唐詩、二十二〕。

【易直】135 イチヨク ❶めんだうでないこと。てがる。簡易。易簡。〔周禮、考工記、輪人〕取二諸易直一也。〔禮、樂記〕致レ樂以治レ心、則易直子諒之心、油然生矣。〔荀子、不苟〕君子能則寬容易直、以開二道人一。❷エキチヨク 明、宜春の人。字は子順。孝子。〔明史、二百九十六〕。❸宋、呂端（**2**―3386‥120）の字。

【易通】136 エキツウ 書名。六卷。宋、趙以夫撰。

〖易通變〗137 エキツウヘン 書名。四十卷。宋、張行成撰。

【易定】138 エキテイ 天の定命を改易する。〔漢書、翟義傳〕粵天輔レ誠、爾不レ得レ易レ定。〔注〕師古曰、爾不レ得三改二易天之定命一。

【易亭】139 エキテイ 淸、楊无咎（**6**―15112‥788）の號。

【易轍】140 エキテツ 車のわだちをかへる。施政の方針を改める喩。〔晉書、江統傳〕愛二易轍之勤一、而得二覆車之軌一。〔福惠全書、蒞任部、革陋規〕復易レ轍更レ弦、未レ免レ來二鮮終之誚一。

【易田】141 エキデン 土地がやせているために毎年耕作することが出來なくて一年おきにつくる田。〔漢書、食貨志上〕歲耕種者爲二不易一、上田休二一歲一者爲二一易一、中田休二二歲一者爲二再易一、下田三歲更耕レ之、自爰二其處一、農民戶人已受レ田、其家衆男爲二餘夫一、亦以レ口受レ田如レ比。〔令義解、田令〕凡給二口分田一者、云云、易田倍給、謂二易田一者、其地薄埆、隔レ歲耕種也。

【易傳】142 エキデン 書名。四卷。宋、陳頤撰。周易（**2**―3441‥29）の參考書を見よ。

〖易傳燈〗143 エキデントウ 書名。四卷。宋、徐總幹撰。

【易塗】144 エキト みちをかへる。〔蜀志、郤正傳〕綏レ衡緩レ轡、回レ軌易レ塗。

【易內】145 エキナイ 互に妻妾をとりかへること。〔左氏、襄、二十八〕齊慶封、云云、以二其內實一、遷二于盧蒲嫳氏一、易レ內而飮レ酒。

【易農】146 エキノウ 淸、董文驥（**9**―31433‥257）の號。

〖易農居士〗147 エキノウコジ 淸、顧王霖（**12**―43689‥375）の號。

【易貌】148 エキバウ かたちをかへる。〔張衡、西京賦〕易レ貌分レ形、吞レ刀吐レ火。

【易祓】149 エキハツ 宋、寧鄕の人。字は彥章。號は山齋。淳熙の進士。蘇師旦に諂事し、禮部尙書となる。著に周官總義・周易總義・禹貢疆理記・易學擧偶・周禮釋疑・漢南北軍制・山齋集がある。〔四庫提要、三〕。

【易發】150 イハツ ❶おこりやすい。發しやすい。〔漢書、地理志下〕其民至レ今好レ用レ劍、輕レ死易レ發。❷i^4 fa^1 ますます。いよいよ。

【易法】151 エキハフ 法をかへる。〔書、大誥〕爾時罔二敢易一レ法。

【易巫】153 エキフ 易牙（24）を見よ。

【易武】154 エキブ 土司の名。雲南省思茅縣の東南。車里宣慰司所轄の十二版納の一。伍姓の土官把

總。清の雍正七年置く。

【易墓】155（エキボ） 墓の草木を芟治する。〔禮、檀弓上〕易墓非レ古也。〔注〕易、謂三芟二治草木一、不レ易者、丘陵也。〔疏〕墓、謂二冢旁之地一、易、謂三刪二治草木一、不レ易者、使レ有二草木一如二丘陵一然、古者殷以前、墓而不レ墳、是不二治易一也。

【易貿】156（エキボウ） 形氣が變易する。〔史記、倉公傳〕年二十、是謂二易貿一。

【易卜】157（エキボク） 易でうらなふこと。又、其の書。〔晉書、杜不愆傳〕少就二外祖郭璞一、學二易卜一、屢有レ驗。〔漢書、劉歆傳〕漢興、天下惟有二易卜一、未レ有二他書一。

【易慢】158（イマン） かろんじあなどる。〔禮、樂記〕外貌斯須不レ莊不レ敬、而易慢之心入レ之矣。

【易民】159（エキミン） 明、歸起先（6―16349‥299）の號。

【易名】160（エキメイ） ㊀名をかへて謚を稱すること。死後に謚を賜ふをいふ。〔禮、檀弓下〕公叔文子卒、其子戌請二謚於君一、曰、日月有レ時、將レ葬矣、請下所三以易二其名一者上。〔庾信、周柱國楚國公岐州刺史慕容寧神道碑〕武彰二七德之義一、歌誦二九功之業一、迹紀二庸器之文一、行昭二易名之典一。〔韓愈、貞曜先生墓誌銘〕賢者故事有レ易レ名、況士哉。㊁名義をかへる。〔小名錄〕因易レ名爲二夜來一。

【易門】161（エキモン） ㊀縣名。元、置く。雲南省昆陽縣の西。元江の支流の綠汁河の東。〔讀史方輿紀要、雲南、雲南府、昆陽州〕易門縣、舊爲二烏蠻酋仲磨繇男所レ居地一、名二市坪村一、大理時高福世守レ此、元立二洟門千戸所一、隸二巨橋萬戸府一、至元中改置二今縣一。〔清史稿、地理志〕雲南、雲南府、縣七、易門。㊁清、趙繼序（10―37171‥503）の號。

【易野】162（ヤイ） ㊀平らな野。〔周禮、夏官、大司馬〕險野人爲レ主、易野車爲レ主。〔柳宗元、招二海賈一文〕上黨易野恬以舒。㊁忠信誠實の本質のみあつて禮文の無いこと。〔說苑、脩文〕孔子曰、可也簡、簡者易野也、易野者無二禮文一也、孔子見二子桑伯子一、不二衣冠一而處、弟子曰、夫子何爲見二此人一乎、曰、其質美而無レ文、吾欲三說而文二之、孔子去、子桑伯子門人不レ說曰、何爲見二孔子一乎、曰、其質美而文繁、吾欲三說而去二其文一、故曰、文質脩者謂二之君子一、有レ質而無レ文、謂二之易野一。

【易陽】163（エキヤウ） 縣名。漢、置く。故治は河北省永年縣の西。〔漢書、地理志下〕趙國、縣四、易陽。

【易雄】164（エキユウ） 晉、瀏陽の人。字は興長。孝廉に擧げらる。官は舂陵令。王敦の反を討つて魏乂に執へられ、屈せずして死す。〔晉書、八十九〕。

【易與】165（イヨ） くみしやすい。あたりやすい。いやしみうとんずる語。〔史記、燕世家〕龐煖易レ與耳。〔史記、項羽紀〕漢易レ與耳。〔漢書、韓信傳〕吾平生知二韓信爲一レ人易レ與耳。

【易用】166（エキヨウ） 書名。五卷。明、陳祖念撰。

【易羅】167（エキラ） 池の名。雲南省保山縣の南、九隆山の下。

【易剌】168（エキラツ） 庵をいふ。〔廣雅、釋宮〕廜𢋀、㢈廌、粗幕、易剌、庵也。

【易理】169（エキリ） ㊀易の理。〔孔穎達、周易正義序〕原二夫易理一難レ窮。㊁（リイ）をさめやすい。〔舊唐書、憲宗紀〕利廣而易レ求、官少而易レ理。

【易良】170（イリヤウ） 平易で溫良なこと。易諒。〔荀子、脩身〕智慮漸深、則一レ之以二易良一。〔孔子家語、問玉〕廣博易良樂教也。

【易諒】171（イリヤウ） 平易で溫良なこと。易良。〔韓詩外傳、二〕智慮潛深、則一レ之以二易諒一。

【易慮】172（エキリヨ） 思案をかへる。考へ直す。〔史記、張儀傳〕趙王曰、乃且願二變レ心易一レ慮。

【易龍】173（エキリヨウ） 鎭の名。雲南省尋甸縣の南、尋川江の濱。又、木密關・奕隆とも作る。

【易林】174（エキリン） 書名。十六卷。漢、焦贛撰。

【易綸】175（エキリン） 明の人。官は御史。權貴に忤ひ、宜川學教諭に謫せられる。〔蘭臺法鑒錄、七〕。

【易令】176（エキレイ） 法令をかへること。〔宋史、張敦禮傳〕元祐初疏言、變法易令、始二于王安石一、成二于蔡確一。

【易例】177（エキレイ） 書名。二卷。清、惠棟撰。周易（2―3441‥29）の參考書を見よ。

【易儷】178（イレイ） ならびやすいこと。〔法言、君子〕必進易レ儷也、必退易レ儷也、進以レ禮、退以レ義難レ儷也。

【易路】179（イロ） 平らなみち。〔枚乘、七發〕羈二堅轡一附二易路一。

【易籠】180（エキロウ） 縣名。元、置く。雲南省祿勸縣の北。〔元史、地理志四〕易籠。〔注〕易籠者、城名、在二州北一、地名二培場一、縣境有二二水一、蠻語謂レ洟爲レ水、籠爲レ城、因レ此爲レ名、昔羅婺部大酋居レ之、爲二羣酋會集之所一、至元二十六年立レ縣。

【易祿】181（イロク） 祿を得ることのやすいこと。〔孔子家語、儒行解〕難レ得而易レ祿也、易レ祿而難レ畜也。

【易往】182（イワウ） 佛淨土には往生しやすい。極樂へ行きやすい。易行。易往而無人を見よ。

〔易往而無人〕183（イワウニシテムニン） 佛極樂へは行きやすいけれども行く人がない。〔無量壽經、下〕橫截二五惡趣一、惡趣自然閉、昇レ道無二窮極一、易レ往而無レ人、其國不二逆違一、自然之所レ牽。

【易爲鼎】184（エキヰテイ） 明、黃岡の人。字は用玉。生まれながらにして手に汪といふ文あり、因つて汪來子と號す。明亡ぶや、室を白雲山に築き、生徒に教授す。著に四書尚書毛詩易說がある。

【易延慶】185（エキエンケイ） 宋、上高の人。重の孫。字は餘慶。世に純孝先生といふ。官は太宗の時、大理丞。〔宋史、四百五十六〕。

【易應昌】186（エキオウシヤウ） 明、臨川の人。字は瑞芝。萬曆の進士。官は熹宗の時、大理少卿。後、削籍され、崇禎中、左僉御史となり、福王の時、工部右侍郎となる。〔明史、二百五十四〕・〔明史稿、二百三十九〕。

【易學實】187（エキガクジツ） 清、雩都の人。字は去浮。號は犀厓。學を好み楊以任・劉日佺等と交游す。明の崇禎中、鄕薦を領す。後、母を奉じ山に入る。著に犀厓文集・雲湖堂集がある。〔四庫提要、一百八十二〕。

【易漢學】188（エキカンガク） 書名。八卷。清、惠棟撰。

【易奇際】189（エキキサイ） 明、新會の人。母に事へて孝。崇禎の鄕薦。亂後、祿仕せず。性命の旨を研究し、著に逸記・書詩傳會・拂劍草・僑梧集・吾豫漫筆がある。〔勝朝粵東遺民錄、三〕。

【易九戹】190（エキノキウヤク） 易の陽九の戹。陽九（11―41725‥48）を見よ。〔漢書、律歷志上〕易九戹曰、初入レ元百六陽九、次三百七十四陰九。

【易筋經】191（エキキンケイ） 書名。二卷。もと西竺達摩祖師撰、般刺蜜諦譯義と題す。古代の鍊身の法を說き、內外功に分ち、內功は靜を、外功は動を主とす。少林寺の僧多くこれを傳習す。上下兩卷に分れ、世に刻本が少ない。或は其の十二勢圖と十二段錦とをとり、合刻して內功圖說とする。

【易畫軒】192（エキグワケン） 清、王學浩（7―20823‥1265）の室名。

【易玩室】193（エキグワンシツ） 清、蔡廷治（9―31818‥225）の室名。

【易元吉】194（エキゲンキツ） 宋、長沙の人。字は慶之。寫生畫に巧。

【易元貞】195（エキゲンテイ） 明、桂林の人。字は正之。官は崇陽令。

【易言レ之】196（ヤスクコレヲイフ） 事もなげにいふ。輕々しく議論する。〔史記、廉頗藺相如傳〕兵死地也、而括易言レ之。

【易齋集】197（エキサイシフ） 書名。二卷。明、劉璟撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【易三接】198（エキサンセツ） 明、零陵の人。字は康侯。號は暇齋。學者康侯先生といふ。著に零陵山川志・永州野史略・忠鬼錄・暇齋詠古詩がある。

【易纂言】199（エキサンゲン） 書名。十卷。元、呉澄撰。

〔易纂言外翼〕200（エキサンゲングワイヨク） 書名。八卷。元、呉澄撰。

【易之貞】201（エキシテイ） 明、蘄水の人。字は忠甫。隆慶の擧人。官は戸部郎中。後、馬湖府知。著に易州詩集・三舍篇がある。

【易時中】202（エキジチユウ） 明、晉江の人。字は嘉會。蔡清の弟子。官は順天府推官。性至孝。〔明史、二百八十二〕・〔萬斯同明史、三百八十四〕・〔明史稿、二百六十三〕。

【易順鼎】203（エキジユンテイ） 清、龍陽の人。字は中實。又、實甫。一に碩父に作る。號は哭庵。王闓運・張之洞に從學する。光緒の擧人。官は廣東欽廉道。著に四魂集・詞集・詩集・經史雜著・盾鼻拾遺等がある。

【易舒誥】204（エキジヨカウ） 明、攸縣の人。字は欽之。弘治の進士。劉瑾擅權の時も阿附せず。官は檢討・南京戸部主事。後、翰林に入る。〔本朝分省人物攷、八十一〕・〔明詩紀事、丁、十〕。

【易小帖】205（エキセウテフ） 書名。五卷。清、毛奇齡撰。

【易小傳】206（エキセウデン） 書名。六卷。宋、沈該撰。

【易紹宗】207（エキセウソウ） 明、攸縣の人。倭を討ち、淖中に陷り、殺される。〔明史、二百八十九〕・〔萬斯同明史、三百七十六〕・〔明史稿、二百七十〕。

【易璇璣】208（エキセンキ） 書名。三卷。宋、呉沆撰。

【易祖師】209（エキソシ） 漢の丁寬をいふ。易の始祖の意。〔漢書、外戚傳〕定陶丁姬、哀帝母也、易祖師丁將軍之玄孫。〔注〕師古曰、祖、始也、儒林傳、丁寬、易之始祖。

【易宗瀛】210（エキソウエイ） 清の人。貞言の子。字は公仙。號は島民。詩文に巧。乾隆中、鴻博に擧げられ、浙江東江揚鹽大使となる。書室を翠濤書屋といふ。著に翠濤書屋昨非集詩文がある。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、二百三十〕・〔鶴徵後錄、九〕。

【易宗涒】211（エキソウトン） 清の人。貞言の次子。字は公中。號は實菴。乾隆中、鴻博に擧げらる。書室を半霞樓といふ。著に五經辨疑・四書繹註・性理精義・岸亭偶談・歷代名賢媛齒譜・半霞樓詩文集がある。〔清史列傳、七十一〕・〔鶴徵後錄、九〕。

【易足堂】212（エキソクダウ） 宋、章甫（鄱陽の人）(**8－25761**··154)の室名。

【易道暹】213（エキダウセン） 明、黃岡の人。字は曦侯。諸生。著に詩徵・四書內外傳がある。崇禎中、賊至り、屈せずして死す。〔明史、二百九十四〕・〔萬斯同明史、三百八十〕・〔明史稿、二百七十五〕。

【易著明】214（エキチヨメイ） 宋、宜春の人。字は晦之。石延年と詩友たり。官は左班殿直。

【易圖說】215（エキヅセツ） 書名。三卷。宋、呉仁傑撰。

【易貞言】216（エキテイゲン） 清、湘鄉の人。字は內美。號は湖湘野史・松堂。康熙の諸生。孝友にして讀書を好む。書室を愛日堂といふ。著に周易講議・五經精義・續史・易氏家訓・愛日堂集・松堂詩集がある。〔國朝耆獻類徵、三百七十五〕。

【易佩紳】217（エキハイシン） 清、龍陽の人。字は笏山。號は函樓。貢生なり。官は江蘇布政使。著に函樓文鈔がある。

【易裨傳】218（エキハイデン） 書名。二卷。宋、林至撰。

【易倣之】219（エキハウシ） 明、黃岡の人。字は惟倣。隆慶の進士。衢州府を治む。兄弟爭ふ者あり、これを偶坐せしめること累朝にして自然に解決す。四川涪州道に轉じ、楊應龍を招諭して功あり。大參に陞る。〔蘭臺法鑒錄、十八〕。

【易本義】220（エキホンギ） 書名。周易本義(**2－3441**··29)の略。

【易本命】220′（エキホンメイ） 大戴禮記の篇名。

【易无レ體】221（エキハタイナシ） 易の陰陽變化するには一定の形體がない。〔易、繫辭上〕故神无レ方、而易无レ體。

【易本烺】222（エキホンリヤウ） 清、京山の人。字は眉孫。號は一粟齋。道光の擧人。著に一粟齋集がある。

【易陽容】223（エキヤウヨウ） 易水北岸地方の美女。〔枚乘、梁王兎園賦〕邯鄲襄國易陽之容、麗人。〔左思、魏都賦〕易陽壯容。〔注〕銑曰、壯容、少年美麗之容、易陽、易水之陽、中多二美女一。

【易翼之】224（エキヨクシ） 明、騰越の人。字は孔章。官は正德中、長壽縣知。上官と合はず、龍川江に歸隱す。著に四書音義會編・春秋經傳會編・諸話類抄・古今詩評・騰司志稿等の書がある。

【易良翰】225（エキリヤウカン） 清、湘鄉の人。字は臨莊。咸豐の間、羅澤南に從つて南征に功あり。江西を援けて南昌城下に戰死す。〔中興將帥列傳、六下〕。

【易王噲】226（エキワウクワイ） 燕王噲(**7－19429**··254)に同じ。

【易安居士】227（エキアンコジ） 宋、李淸照(**6－14459**··1567)の號。

【易以東矣】228（エキモツテヒガシス） 易學が東方へ去つたことをいふ。漢の丁寬が、田何に易を受け、學成つて東に歸る時、何がこれを稱した語。〔漢書、儒林傳〕丁寬、字子襄、梁人、初梁項生從二田何一受レ易、時寬爲二項生從者一、讀レ易精敏、材過二項生一、遂事レ何、學成、何謝レ寬、寬東歸、何謂二門人一曰、易以東矣。〔淵鑑類函、文學部、周易〕前漢書丁寬傳曰、寬東歸、何謂二門人一曰、易已東矣。

【易奇而法】229（エキハキニシテハフアリ） 易の文體は奇であるが一定の法がある。〔韓愈、進學解〕左氏浮誇、易奇而法。

【易窮則變】230（エキキハマルトキハスナハチヘンズ） 易は窮まればすなはち變化する。〔易、繫辭下〕易窮則變、變則通、通則久。

【易外別傳】231（エキグワイベツデン） 書名。一卷。宋、兪琰撰。〔四庫提要、子、道家類〕。

【易載二羲農一】232（エキハギノウヲノス） 易の繫辭傳には太皞庖犧氏・炎帝神農氏のことが載せてある。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕易載二羲農一而皇德著。

【易之憂患】233（エキノイウクワン） 作レ易者其有二憂患一乎(257)に同じ。〔歐陽脩、送二楊寘一序〕易之憂患、詩之怨刺。

【易遷童初】234（エキセンドウシヨ） 易遷と童初。共に仙宮の名。〔海錄碎事、道釋、仙〕易遷童初、二宮名、是男女之堂館也、羣仙所レ居。

【易窗道人】235（エキソウダウジン） 清、強行健(**4－9815**··224)の號。

【易足居士】236（エキソクコジ） 宋、章甫（鄱陽の人）(**8－25761**··154)の號。

【易知由單】237（イチイウタン） 納稅告知書。官吏が錢糧を徵收する前に田地の等級、徵收すべき數量を列記したものを納糧者に交付して、容易に其の數目を知らしめるもの。〔六部成語、戶部、易知由單、注解〕公事緣由、簡便開二寫一單一、上レ官易二於明曉一。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕易知由單、尤必預爲二改刊一。

【易癡道人】238（エキチダウジン） 明、周之翰(**2－3441**··678)の號。

【易陳二負乘一】239（エキハフジヨウヲノブ） 易經の解卦の語で、小人が君子の器に乘じ、これを盜み奪はんことを思ふこと。負は小人の事。乘は君子の器。〔後漢書、明帝紀〕易陳二負乘一。〔注〕易曰、負且乘致二寇至一、負也者小人之事也、乘也者君子之器也、小人而乘二君子之器一、盜思レ奪レ之矣。〔易、解〕六三、負且乘、致二寇至一、貞吝。

【易圖通變】240（エキヅツウヘン） 書名。五卷。宋、雷思齊撰。

【易圖明辨】241（エキヅメイベン） 書名。十卷。清、胡渭撰。周易(**2－3441**··29)の參考書を見よ。

【易洞先生】242（エキドウセンセイ） 明、丁元吉(**1－2**··249)の號。

【易忘之臣】243（イバウノシン） 身分が微賤で記憶するに足らないけらい。〔漢書、谷永傳〕陛下聖德寬仁、不レ遺二易忘之臣一。

【易變體義】244（エキヘンタイギ） 書名。十二卷。宋、都絜撰。

【易翼述信】245（エキヨクジユツシン） 書名。十二卷。清、王又樸撰。

【舍レ易求レ難】246（ヤスキヲステカタキヲモトム） 容易な事はやらずに困難なことを求める。〔中論、脩本〕人有二大惑一而不レ能二自知一者、舍レ有而思レ無也、舍レ易而求レ難也。

【易以道二陰陽一】247（エキハモツテインヤウヲイフ） 易は陰陽の道理が述べてある。〔莊子、天下〕易以道二陰陽一、春秋以道二名分一。

【易義古象通】248（エキギコシヤウツウ） 書名。八卷。明、魏濬撰。

【易精蘊大義】249（エキセイウンタイギ） 書名。十二卷。元、解蒙撰。

【易變而爲レ一】250（エキヘンジテイツトナル） 太極が變じて一となる。一は陽氣の實現したもの。一說に、太初、卽ち氣の始めをいふ。〔列子、天瑞〕易變而爲レ一、一變而爲レ七。〔鬳齋口義〕變而爲レ一者、氣變之而後有二太極一也、有二太極一而後有二陰陽五行一、故曰、一變而爲レ七、陰陽二與二五行一、共爲レ七也。

【易六十四卦】251（エキロクジフシクワ） 六十四卦(**2－1453**··292)を見よ。

【居レ易以俟レ命】252（イニヲツテモツテメイヲマツ） 君子は現在の地位に安居して敢て僥倖を求めない。易は平易の地、現在の地位をいふ。〔中庸〕君子居レ易以俟レ命、小人行レ險以徼レ幸。

【多レ易必多レ難】253（イオホケレバカナラズナンオホシ） たやすい事が多ければ次にはきつと難儀の事が多い。〔老子、六十四〕夫輕諾必寡レ信、多レ易必多レ難。

【善レ易者不レ論レ易】254（エキヲヨクスルモノエキヲロンゼズ） 易を善く知つてゐる者は易について話さない。〔世說新語、規箴、何晏・鄧颺令二管輅作一レ卦云云、注〕輅別傳曰、云云、輅至二洛陽一、果爲二何尙書問二九事一、皆明、何曰、君論二陰陽一、此世無レ雙也、時鄧尙書在、曰、此君善レ易、而語初不レ論二易中辭義一、何邪、輅答曰、夫善レ易者、不レ論レ易也、何尙書含レ笑贊レ之曰、可レ謂二要言不一レ煩也。

【易本義附錄纂注】255（エキホンギフロクサンチユウ） 書名。十五卷。元、胡桂撰。

【易有二君子之道四一焉】256（エキニクンシノミチシアリ） 易には君子の行ふべき道が四つある。卽ち言には辭を

尙び、動には變を尙び、器を制するには象を尙び、卜筮には占を尙ぶ。〔後漢書、方術傳序〕仲尼稱、易有㆓君子之道四㆒焉、曰、卜筮者尙㆓其占㆒。〔注〕易繫辭曰、以㆑言者尙㆓其辭㆒、以㆑動者尙㆓其變㆒、以㆑制㆑器者尙㆓其象㆒、以㆓卜筮㆒者尙㆓其占㆒。

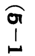
【作㆑易者其有㆓憂患㆒乎】257（エキヲツクルモノハソレイウクワンアルカ） 易を作つた者はうれひのあつた者であらうと想像していつた語。〔易、繫辭下〕易之興也、其於㆓中古㆒乎、作㆑易者其有㆓憂患㆒乎。

【映】13815 ケツ ケチ 〔玉篇〕古穴切 屑。

日食の色。〔玉篇〕映、日食色也。

【昔】13816 一セキ シャク 〔集韻〕思積切 陌。ㄒㄧˊ hsi² 三サク 〔集韻〕倉各切 藥。

小篆


籀文

一㊀**むかし**。いにしへ。昨(**5−13847**)に通ず。〔說文通訓定聲〕昔、叚借爲㆑昨。〔易、說卦〕昔者聖人之作㆑易也。〔疏〕據㆑今而稱㆓上世㆒、謂㆓之昔者㆒也。〔書、堯典序〕昔在帝堯。〔釋文〕昔、古也。〔何休、公羊傳序〕昔者孔子有㆑云。〔疏〕昔者、古也。〔老子、三十九〕昔之得㆑一者。〔河上公注〕昔、往也。㊁**ひさしい**。ふるい。〔詩、陳風、墓門〕誰昔然矣。〔傳〕昔、久也。〔周禮、天官、酒正〕二曰、昔酒。〔疏〕昔酒者、久釀乃熟。㊂**さき**。さきごろ。まへつかた。〔禮、檀弓上〕予疇昔之夜。〔注〕昔、猶㆑前也。㊃**きのふ**。〔孟子、公孫丑下〕昔者辭以㆑疾。〔注〕昔者、昨日也。〔莊子、齊物論〕今日適㆑越而昔至也。〔釋文〕向云、昔者、昨日之謂也。㊄**はじめ**。〔廣雅、釋詁一〕昔、始也。〔詩、小雅、采薇〕昔我往矣。〔釋文〕昔、始也。〔老子、三十九〕昔之得㆑一者。〔注〕昔、始也。㊅**ゆふべ**。よる。夕(**3−5749**)に通ず。〔說文通訓定聲〕昔、叚借爲㆑夕。〔廣雅、釋詁四〕昔、夜也。〔穀梁、莊、七〕日入至㆓於星出㆒、謂㆓之昔㆒。〔莊子、齊物論〕今日適㆑越而昔至也。〔釋文〕崔云、昔、夕也。〔莊子、天運〕則通昔不㆑寐矣。〔釋文〕昔、夜也。〔楚辭、大招〕以娛㆑昔只。〔注〕昔、夜也。㊆**ほし肉**。ほじし。もと㫺(**5−14008**)に作り、腊(**9−29614**)に同じ。〔正字通〕昔、本作㆑㫺。〔說文〕㫺、乾肉也、从㆓殘肉㆒、日㠯晞㆑之、與㆑俎同意、腊、籀文从㆑肉。㊇**姓**。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕昔氏、風俗通、周大夫封昔、因氏焉。〔廣韻〕昔、又姓、漢有㆓烏傷令昔登㆒。二**まじはる**。交錯する。錯(**11−40579**)・逪(**11−38925**)に通ず。〔說文通訓定聲〕昔、叚借爲㆑錯、實爲㆑逪。〔周禮、考工記、弓人〕老牛之角紾而昔。〔注〕昔、讀爲㆓交錯之錯㆒、謂㆓牛角觕理錯㆒也。

名乘 ツネ。トキ。ヒサ。フル。

解字 會意。𡿧(肉の筋目がしわんだ象形)と日との合字。昨日の殘肉(𡿧)を今日、日に晞かす義。ほし肉。後、肉を增して腊をほし肉としたのは、文字の成立には義を得てゐない。昔は肉は必ず一夕を經るから、假借して夕とする。又、之を引伸假借して昨とする。又、之を引伸して、今昔を今古の意とする。今古の義が盛行して、其の本義が遂に廢せられ、凡そ久しいことを昔といふ。〔說文、昔、段注〕昨之殘肉、今日晞㆑之、故从㆑日、云云、昔、肉必經㆓一夕㆒、故古叚㆑昔爲㆑夕、云云、又引㆓伸之㆒則叚㆑昔爲㆑昨、又引㆓伸之㆒則以㆓今昔㆒爲㆓今古㆒矣、今古之義盛行、而其本義遂廢、凡久謂㆓之昔㆒。

【昔遊】1（セキイウ） 以前に遊んだこと。〔魏文帝、與㆓吳質㆒書〕追㆓思昔遊㆒、猶在㆓心目㆒。〔杜審言、渡㆓湘江㆒詩〕遲日園林悲㆓昔遊㆒、今春花鳥作㆓邊愁㆒。

【昔宇】2（セキウ） 昔の家。〔顏延之、和㆓謝監靈運㆒詩〕采㆑茨葺㆓昔宇㆒、翦㆑棘開㆓舊畦㆒。〔注〕銑曰、言㆔采㆑茅修㆓昔時之屋㆒。

【昔園】3（セキエン） むかしのその。〔謝靈運、還㆓舊園㆒作見㆓顏范二中書㆒詩〕曾是反㆓昔園㆒、語㆑往實款然。

【昔戒】4（セキカイ） むかしのいましめ。〔何晏、景福殿賦〕想㆓周公之昔戒㆒、慕㆓咎繇之典謨㆒。

【昔幹】5（セキカン） 舊い幹。久しく乾かした弓の材をいふ。〔史記、田敬仲完世家〕弓膠昔幹、所㆓以爲㆑合也。〔注〕索隱曰、昔、久舊也、幹、弓幹也。

【昔賢】6（セキケン） 昔の賢者。〔國朝漢學師承記、黃宗羲〕又謂、昔賢闢㆑佛、不㆑檢㆓佛書㆒。

【昔言】7（セキゲン） 昔のことば。古人の言語。〔范雲、贈㆓張徐州謖㆒詩〕思㆑舊昔言有、此道今已微。

【昔彥】8（セキゲン） 前代のすぐれた士。前賢。元哲。〔王融、奉㆓和竟陵王郡縣名㆒詩〕端溪慙㆓昔彥㆒、測水謝㆓前脩㆒。

【昔歲】9（セキサイ） こぞ。昨年。去年。客歲。〔左氏、宣、十二〕昔歲入㆑陳、今茲入㆑鄭。〔戰國、趙策〕昔歲殽下之事、韓爲㆓中軍㆒、以與㆓諸侯㆒攻㆑秦。

【昔在】10（セキザイ） むかし。いにしへ。在昔。往者。在は助語。〔書、無逸〕昔在殷王中宗、嚴恭寅畏。〔書、冏命〕昔在文武、聰明齊聖。〔詩、商頌、長發〕昔在中葉、有㆑震且業。〔左氏、襄、二十二〕昔在晉先君悼公九年、我寡君於㆑是卽㆑位。〔揚雄、羽獵賦〕以爲昔在㆓二帝三王㆒。

【昔作】11（ムカシヅクリ） 昔風のつくりかた。

【昔刺】12（セキシ） 寨の名。雲南省鎭康縣の南境。〔讀史方輿紀要、雲南、鎭康禦夷州〕昔刺寨、正統六年、大軍討㆓麓川㆒、至㆓金齒鎭㆒、康酋悶孟乞㆑降、王驥命㆓別將冉保㆒、分㆑兵據㆓其城㆒、因其兵破㆓昔刺寨㆒、移攻㆓孟璉㆒是也。

【昔時】13（セキジ） むかし。いにしへ。〔謝靈運、登㆓臨海嶠㆒初發㆓彊中㆒作與㆓從弟惠連㆒云云詩〕淹㆓留昔時歡㆒、復增㆓今日歎㆒。〔駱賓王、於㆓易水㆒送㆑人詩〕昔時人已沒、今日水猶寒。

【昔愁】14（セキシウ） むかしの心配。昔年の憂愁。〔賀知章、送㆓人之㆑軍詩〕送㆑子成㆓今別㆒、令㆔人起㆓昔愁㆒。

【昔日】15（セキジツ） むかし。さきのひ。宿昔。昔時。〔列子、黃帝〕追㆔幸昔日之不㆓焦溺㆒也。〔阮籍、詠懷詩〕昔日繁華子、安陵與㆓龍陽㆒。〔侯鯖錄、七〕有㆓老婦㆒年七十、謂㆑坡云、內翰昔日富貴、一場春夢。

【昔日之言】16（セキジツノゲン） むかしのことば。〔列子、仲尼〕此吾昔日之言爾、請以㆓今言㆒爲㆑正也。

【昔者】17（セキシャ） ㊀（ムカシ）むかし。以前。往年。者は助語。〔易、說卦〕昔者聖人之作㆑易也。〔疏〕據㆑今而稱㆓上世㆒、謂㆓之昔者㆒也。〔論語、泰伯〕昔者吾友嘗從㆓事於斯㆒矣。〔孟子、公孫丑上〕昔者竊聞㆑之。㊁（キノフ）きのふ。昨日。者は助語。〔孟子、公孫丑下〕昔者辭以㆑病。〔注〕昔者、昨日也。〔孟子、離婁上〕曰、子來幾日矣、曰、昔者。㊂（ムカシモノ）昔の人。又、昔氣質の人。

【昔酒】18（セキシュ） 久しくかもして熟した酒。〔周禮、天官、酒正〕辨㆓三酒之物㆒、一曰事酒、二曰昔酒、三曰淸酒。〔注〕昔酒、今之酋久白酒、所謂舊醳者也。〔疏〕昔酒者、久釀乃熟、故以㆓昔酒㆒爲㆑名。

【昔樹】19（セキジュ） ふるいたちき。〔唐太宗、過㆓舊宅㆒詩〕昔樹發㆓今花㆒。

【昔人】20（セキジン） むかしの人。〔管子、小匡〕昔人之受㆑命者。〔漢書、敍傳上〕取舍者昔人之上務、著作者前列之餘事耳。〔李陵、答㆓蘇武㆒書〕昔人有㆑言。〔王粲、從軍詩〕昔人從㆓公旦㆒、一徂輒三齡。

【昔人已乘㆓白雲㆒去】21（セキジンスデニハクウンニジヨウジテサル） 昔、仙人が黃鶴に跨り白雲に乘じて去つたことをいふ。黃鶴樓(**12−47926‥138**)を見よ。〔崔顥、黃鶴樓詩〕昔人已乘㆓白雲㆒去、此地空餘黃鶴樓。

【昔昔】22（セキセキ） ㊀夜ごと。每夜。夜夜。〔列子、周穆王〕精神荒散、昔昔夢爲㆓國君㆒、云云、昔昔夢爲㆓人僕㆒。〔注〕昔昔、夜夜也。㊁（ムカシムカシ）はるか昔。昔を強めていふ語。

【昔昔鹽】23（セキセキエン） 樂府、近代曲辭の名。梁の樂府夜夜曲の別名。又、惜惜鹽に作る。昔は夜、鹽は詩詞中の吟行曲引のやうなもの。隋の薛道衡に歌辭あり、唐の趙嘏はこれを廣めて二十章とした。〔樂府詩集、近代曲辭、昔昔鹽〕隋薛吏部有㆓

昔昔鹽一、唐趙嘏廣レ之、爲二二十章一、樂苑曰、昔昔鹽羽調曲、唐亦爲二舞曲一、昔、一作レ析。〔趙嘏、昔昔鹽〕新年垂柳色、嫋嫋對二空閨一、不レ畏二芳菲好一、自緣二離別一啼、因レ風飄二玉戶一、向レ日映二金堤一、驛使何時度、還將レ贈二隴西一。

【昔談】24 セキダン すぎ去つた昔の話。〔顏延之、爲二竟陵王世子一臨二會稽郡一表〕使二琢レ玉成レ器、無レ爽二昔談一。〔隋書、宇文慶傳〕方悟二昔談一。

【昔董】25 セキトウ 寨の名。雲南省騰衝縣の西北界の外。今、鐵道あり、西大金沙江を經て緬甸(**8－27674‥9**)に通ず。

【昔年】26 セキネン まへのとし。むかし。前年。往年。〔沈佺期、再入二道場一紀レ事應制詩〕南方歸去再生レ天、內殿今年異二昔年一。

【昔年有二狂客一】27 セキネンキヤウカクアリ むかし狂人があつた。唐の杜甫が李白を稱した語。〔杜甫、寄二李十二白二十韻詩一〕昔年有二狂客一、號二爾謫仙人一、筆落驚二風雨一、詩成泣二鬼神一、聲名從レ此大。

【昔年辛苦地今日負二初心一】28 セキネンシンクノチコンニチシヨシンニソムク 昔年辛苦した地で、今日も亦初志にそむいてしまつた。唐代、試驗官の作つた七言の詩を落第者が五言として自ら其の境遇を述べたもの。〔邵氏聞見後錄〕唐人知二貢擧一者、有レ詩云、梧桐葉落井亭陰、鎖二閉朱門一試院深、曾是昔年辛苦地、不下將二今日一負中初心上、後爲二下レ第者一、裁作二五言一以誚レ之。

【昔年顧レ我長青眼今日逢レ君已白頭】29 セキネンワレヲカヘリミテナガクセイガンコンニチキミニアヘバステニハクトウ 昔年は青年であつたが、今日はすでに白頭となつた。友人の老年となるを嘆いたもの。〔許渾、贈二河東虞押衙一詩〕吳門風水落萍流、月滿花開懶二獨遊一、萬里山川分二曉夢一、四鄰歌管送二春愁一、昔年顧レ我長青眼、今日逢レ君已白頭、莫下向二尊前一更惆悵上、古來投レ筆摠封侯。

【昔馬】30 セキバ 寨の名。雲南省騰衝縣の西南、穆雷江の濱。今、印度に屬す。

【昔方】31 ムカシヘ 過去の方。むかし。いにしへ。〔古今和歌集、夏〕むかしへや今も戀しき郭公、ふる里にしもなきてきつらん。

【昔班】32 セキハン 元、畏吾の人。官は翰林承旨。〔元史、二百三十四〕。

【昔風】33 ムカシフウ むかしのさま。當世風でないこと。古風。〔新永代藏、六〕親の調へ置かれし器物、むかしふうにて當世にあはず。

【昔物】34 ムカシモノ 昔の物。又、昔に流行した物。

【昔物語】35 ムカシモノガタリ 昔にあつた事柄の物語。昔話。昔談。〔源氏物語、夕顏〕むかし物語にこそ、かかることは聞け。

【昔夢】36 セキム むかしのゆめ。すぎ去つた日のことども。〔張衡、思玄賦〕發二昔夢于木禾一兮、穀二崑崙之高岡一。

【昔邪】37 セキヤ 苔の一種。屋上に生ずるもの。烏韮。〔廣雅、釋草〕昔邪、烏韮也、在レ屋曰二昔邪一、在レ牆曰二垣衣一。

【昔陽】38 セキヤウ ㊀地名。春秋、鼓國の都。隋、縣を置く。河北省晉縣の治。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、晉州〕鼓城廢縣、今州治、春秋時爲二鼓子國一、云云、隋開皇十六年復置二昔陽縣一。㊁縣名。民國、置く。春秋、肥國の都。山西省平定縣の東南。沾嶺の東北。〔左氏、昭、十二〕晉荀僞下會二齊師一者上、吳假二道于鮮虞一、遂入二昔陽一、秋八月壬午、滅レ肥、以二肥子綿皋一歸。

【昔老】39 セキラウ 昔の老人。〔顏延之、車駕幸二京口一侍二遊蒜山一作詩〕周南悲二昔老一、留滯感二遺萌一。

【昔嶺】40 セキレイ 山名。四川省懋功縣の西北。

【昔氣質】41 ムカシカタギ 老人のかたくるしく律儀なこと。昔風で律儀なこと。昔堅氣。

【昔脫解】42 セキダツカイ 新羅第四代の王。姓は昔氏。第二代王南解の女壻。一には吐解。舊史に、倭の多婆那國王の子とし、又、卵生にして、脫解は孵化を意味するものとし、其の生まれるや鵲の鳴くあり、卽ち鵲字の鳥を省いて、昔を以て姓と爲すと。初、航して金官國に赴き、尋いで新羅の阿珍浦に至り、南解尼師今の女を娶つて其の國政を輔け、儒理卽位するやこれを輔けて功有り、儒理薨じて卽位す。時に百濟の來攻あり、これを防いで劫掠せしめず、九年、國號を雞林と改む。在位二十三年、年八十五。〔三國史記、一、新羅本紀・駕洛國記〕。

【昔馴染】43 ムカシナジミ ㊀昔の親友。㊁昔の戀人。

【昔都兒】44 シトール 元の人。欽察氏。鎭南王に從つて交趾を征す。官は砲手軍匠萬戶府達魯花赤。〔元史、一百三十三〕。

【昔里吉】45 シレキ 元の憲宗の第四子。世祖忽必烈に抗して捕へらる。〔新元史、一百十二〕。

【昔兒吉思】46 シールチシ 元の人。幼にして太祖・太宗に從つて回回河西の諸國を征す。世祖尤もこれを愛す。〔元史、一百二十二〕。

【昔耶居士】47 セキヤコジ 淸、金農(**11－40152‥912**)の號。

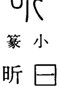
【昔里鈐部】48 シリチエンプ 元、唐兀の人。太祖の時、沙州を招諭し、又、從つて西域を征す。官は大名路達魯花赤。〔元史、一百二十二〕。

【昔爲二京洛聲華客一】49 ムカシケイラクセイクワノカクトナル 昔、繁華な洛陽の都に客となつて遊んだことがある。〔白居易、晏坐閑吟詩〕昔爲二京洛聲華客一、今作二江湖老倒翁一、意氣銷磨羣動裏、形骸變化百年中、霜侵二殘鬢一無二多黑一、酒伴二衰顏一只暫紅、賴學二禪門非想定一、千愁萬年一時空。

【自レ昔英雄有二屈信一】50 ムカシヨリエイユウクツシンアリ 昔から英雄には盛衰がある。〔陸游、劍門城北回二望劍閣諸峰一青入二雲漢一感二蜀亡事一慨然有レ賦詩〕自レ昔英雄有二屈信一、危機變化亦逡巡、陰平窮寇非レ難レ禦、如レ此江山坐付レ人。

【昔聞洞庭水今上岳陽樓】51 ムカシキクドウテイノミヅイマノボルガクヤウロウ 昔、洞庭の壯觀を話に聞いてゐたが、今始めて岳陽樓に登つて見た。〔杜甫、登二岳陽樓一詩〕昔聞洞庭水、今上岳陽樓、吳楚東南坼、乾坤日夜浮、親朋無二一字一、老病有二孤舟一、戎馬關山北、憑レ軒涕泗流。

【昕】13817


小篆

[一]キン コン 〔集韻〕許斤切 ㄒㄧㄣ hsin¹ 文

[二]キ 〔集韻〕虛其切 支

㊀**あさ**。ひのでごろ。〔說文〕昕、旦明也、日將レ出也、从レ日斤聲、讀若レ希。〔儀禮、士昏禮〕凡行レ事必用二昏昕一。〔疏〕昕、卽明之始、君子擧レ事尙レ早、故用二朝旦一也。〔禮、文王世子〕天子視レ學、大昕鼓徵。〔注〕大昕、早昧爽、擊レ鼓以召レ衆也。㊁**あきらか**。〔小爾雅、廣詁〕昕、明也。㊂軒(**10－38187**)に通ず。昕天(3)を見よ。

【昕昕】1 キンキン あきらかなこと。明察。〔一切經音義、四〕昕昕、察也。

【昕夕】2 キンセキ 朝夕。あさばん。〔唐肅、日觀賦〕出入以レ時、昕夕靡レ爽。

【昕天】3 キンテン 天をいふ。天は北が高く南が低くて車の軒のやうであるからいふ。昕は軒。〔爾雅、釋天、題疏〕四曰二昕天一、讀曰レ軒、言三天北高南下若二車之軒一、吳時姚信所レ說。

【⿰日卆】13818

サイ

晬(**5－13977**)に同じ。〔篇海〕晬、或作レ⿰日卆。

【昖】13819

エン

昭(**5－13861**)に同じ。〔字彙補〕昖、同レ昭。

【⿱日䒑】13820

トウ

豆(**10－36245**)の古字。〔說文〕豆、⿱日䒑、古文豆。

【昹】13821

キョ 〔篇韻〕音虛

よあけ。あさ。〔篇韻〕昹、日始旦也。

【⿰日互】13822

テイ 〔篇韻〕音低

日がしづむ。〔篇韻〕⿰日互、日下也。

【旹】13823

ジ

時(**5－13890**)に同じ。〔字彙補〕旹、與レ時同。

【昙】13824 ヨク　義未詳。〔篇海〕昙、音欲。

【⿰日欠】13825 クワン　義未詳。〔篇韻〕⿰日欠、音歡。

參考 欠部の欥(6－16017)は別字。

【⿰日冊】13826 タン　聃(9－29021)の俗字。〔中華大字典〕⿰日冊、聃俗字。

【亘】13827 チウ　晝(5－13948)の俗字。〔正字通〕晝、或作㆑亘。

五畫

【昚】13828 シン　愼(4－11024)の古字。〔說文〕愼、昚、古文。

【⿰日兄】13829 キヤウ クワウ　〔集韻〕古況切　漾

あきらか。〔集韻〕⿰日兄、明也。

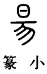
【⿱日兄】13830 ケイ キヤウ　〔玉篇〕許詠切　敬

日中の風。〔玉篇〕⿱日兄、日中風也。

【昛】13831 キヨ ゴ　〔集韻〕臼許切　語

あきらか。〔集韻〕昛、明也。

【昜】13832 ヤウ　陽(11－41725)・暘(5－14066)に同じ。〔說文〕昜、開也、



从㆓日一勿㆒、一曰、飛揚、一曰、長也、一曰、彊者衆皃。〔段注〕此陰陽正字也、陰陽行而侌昜廢矣、从㆑勿者取㆓開展意㆒。〔說文通訓定聲〕昜、按此卽古暘爲㆓侌昜字㆒、侌者見㆑雲不㆑見㆑日也、昜者雲開而見㆑日也、从㆑日、一者雲也、蔽翳之象、勿者旗也、展開之象、或曰、从㆑旦、亦通、經傳皆以㆓山南水北之陽㆒爲㆑之、揚・長・彊三訓、飛揚于㆑勿取㆑義、長彊于㆑日取㆑義。〔漢書、地理志下〕交趾郡、曲昜縣。〔注〕師古曰、昜、古陽字。

解字 會意。旦と勿（旗あしがひらひらしてゐる象）との合字。旦（あした）に旗あしが動いて日の出にきらきらする義。旗が開展して陽氣が出る象。開く意。陽の本字。說文には日と一と勿とに從ふとあつて、一の解がない。今、旦と勿との說に從ふ。〔說文、昜、段注〕此陰陽正字也、陰陽行而侌昜廢矣、云云、从㆑勿者、取㆓開展意㆒。〔說文、侌、段注〕黔（侌）者雲覆㆑日、昜者旗開見㆑日。▽ （甲骨文）象形。太陽が地上に昇り行くさまに象る。

參考 易(5－13814)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕易、音亦、易經从㆑日从㆑月、昜、音羊、古陽字。

【⿰日它】13833 ゲイ　〔玉篇〕牛禮切　薺

日がかたむく。又、明らか。晲(5－13989)に同じ。〔玉篇〕晲、日昳也、⿰日它、同㆑上。〔廣韻〕晲、明也、亦作㆑⿰日它。

【昝】13834 サン　〔集韻〕子感切　感

❶**姓。**〔集韻〕昝、姓也、出㆓蜀郡㆒。❷朁(5－14302)の譌字。〔說文繫傳〕朁、今俗有㆓昝字㆒、蓋朁之譌。

【昝商】1（サンシヤウ）唐の人。博士。著に心鑑五巻がある。

【昝學易】2（サンガクエキ）明、懷寧の人。字は心源。萬曆の擧人。官は金谿知縣。

【昝居潤】3（サンキヨジユン）宋、高唐の人。後唐に仕へ、後、晉・周に入り、檢校太傅となり、宋初、檢校太尉となる。

【昝如心】4（サンジヨシン）明、三原の人。字は子推。號は敬齋。著に敬齋集がある。

【昞】13835 ㊀ヘイ ヒヤウ　〔集韻〕補永切　梗

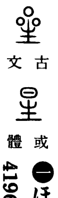
㊁ヘイ ヒヤウ　〔集韻〕陂病切　敬　ㄅㄧㄥˇ ping^3

㊂ハウ　〔集韻〕甫兩切　養

㊀㊁**あきらか。**炳(7－18960)に同じ。〔廣雅、釋詁四〕昞、明也。〔集韻〕炳、亮也、或从㆑日。㊂**あきらか。**昉(5－13796)の古字。〔集韻〕昉、說文、明也、古作㆑昞。

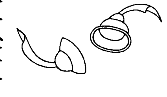
【昺】13836 ヘイ　昞(5－13835)に同じ。〔廣韻〕昞、亦作㆑昺。

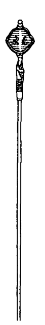
【星】13837 セイ シヤウ　〔集韻〕桑經切　青　ㄒㄧㄥ hsing^1



❶**ほし。**曐(5－14196)に同じ。〔說文〕曐、萬物之精、上爲㆓列星㆒、从㆑晶从㆓生聲㆒、一曰、象形从㆑〇、古〇復注㆑中、故與㆑日同、星、古文星、或省。〔詩、召南、小星〕嘒彼小星、三五在㆑東。❷**五星。**〔說文通訓定聲〕星、按、經星七百八十三座、大小一千八百七十八、緯星土木火金水五、散文則統謂㆓之星㆒、對文則五緯爲㆑星、二十八宿爲㆑辰。〔書、堯典〕日月星辰。〔鄭注〕星、五緯也。〔書、洪範〕四曰、星辰。〔鄭注〕星、五星也。〔周禮、春官、保章氏〕掌㆓天星㆒以志㆓星辰日月之變動㆒。〔注〕星、謂㆓五星㆒。❸**二十八宿の一。**七つの小星の名。ほとほり。七星。〔呂覽、制樂〕舍㆓行七星㆒。〔注〕星、星宿也。〔晉書、天文志上〕七星、一名天都。❹**星宿。**二十八宿の泛稱。〔書、堯典〕曆㆓象日月星辰㆒。〔傳〕星、四方中星也。〔疏〕四方中星、總稱㆓二十八宿㆒也。〔書、洪範〕四曰、星辰。〔傳〕星、二十八宿也。〔周禮、秋官、哲蔟氏〕二十有八星之號。〔注〕星、謂㆓從㆑角至㆑軫。〔公羊、莊、七、記㆑異也、注〕列星者、天之常宿、分㆓守度㆒、諸侯之象。❺**つきひ。**光陰。〔韋應物、送㆓褚校書歸㆓舊山㆒歌〕故山可㆑往薇可㆑採、一自㆓人間㆒星歲改。❻**天文。**天體の現象。〔漢書、天文志〕凡天文在㆓圖籍㆒、昭昭可㆑知者、經星常宿㆓中外宮㆒、凡百一十八名、積數七百八十三星、皆有㆓州國官宮物類之象㆒、其伏見蚤晚、邪正存亡、虛實濶陿、及五星所㆑行、合散犯守、陵歷鬭食、彗孛飛流、暈適背穴、抱珥虹蜺、迅雷風妖、怪雲變氣、此皆陰陽之精、其本在㆑地、而上發㆓于天㆒者也、政失㆓于此㆒、則變見㆓于彼㆒。〔後漢書、郎顗傳〕善㆓風角星算㆒。〔注〕星算、謂㆑善㆓天文算數㆒。❼**うらなひ。**人の生年と星の運行とを關係させて將來を占ふ術。星工(115)を見よ。❽**樞要の位置を占める官吏。**〔劉禹錫、和㆘令狐相公歸㆓京國㆒賦㆑詩言㆖懷詩〕相印昔辭㆓東閣㆒去、將星還拱㆓北辰㆒來。❾**ゆふべ。**よる。〔廣雅、釋詁

三〕星、晩也。〔宋書、周朗傳〕星晩驪然不レ覺。❿**ぽち**。小點。特に衡器の目盛の符識をもいふ。〔禮、內則、冢望視、注〕星、肉中如レ米者。〔拾得、詩〕銀星釘二稱衡一。〔北溪字義〕在レ衡有二星兩之不一レ齊。⓫**婦女のゑくぼ**。〔庾信、鏡賦〕靨上星稀。⓬**すこし**。些し。星寒(56)を見よ。⓭**めあて**。まと。〔經國雄略〕以レ目對二後星一、以二後星一對二前星一。⓮**早いこと**。星流(329)を見よ。⓯**ちる**。星散。〔釋名、釋天〕星、散也、列位布散也。〔說文通訓定聲〕星・散、雙聲。⓰**はれる**。星が見える。姓(**3**－**5765**)に通ず。〔說文通訓定聲〕星、段借爲レ姓、詩、定之方中、星言夙駕、韓詩說、星、晴也。⓱**清代、凱歌に用ひた樂器の名**。二つの杯のやうな笵銅より成り、これを左右から合はせ擊つ。星兒。碰鐘。〔清會典圖、樂器〕星、笵銅、左右合擊、口徑一寸八分、深一寸、厚一分、中隆起四分、腰圍三寸、各穿二圓孔一、以二白綿一紃二貫之一。⓲**清代、儀式用の武器の名**。雕木の六瓣交攢して、上は星のやうな圓頂を爲し、八尺餘の柄がある。〔清會典圖、輿衛〕星、雕木、首長六寸三分、圍五寸四分、六瓣交攢、鏤雲蝙蝠、上爲二圓頂一如レ星、高一寸四分、旁亦如レ之、差小、銎上銜以二龍首一、皆塗レ金、柄如二鉞之制一、通高八尺七寸。⓳**星命家の語**。星煞(130)を見よ。⓴**姓**。〔通志、氏族略〕星氏、見二姓苑一。邦**ほし**。㋑まだら。斑紋。㋺思ふつぼ。づぼし。


星⓱（大清會典圖）


星（大清會典圖）

㊇七曜星中の當人の生年に配した星。

解字 形聲、或は會意。晶(精光)の省文をもととし生の聲。これは形聲。ほし。萬物の精が上つて列星となる。段注に、星の言は散、引伸して碎け散る稱と爲すと。列星となつて上に散布する意。これは星と散と雙聲の解である。說文の古文曐によれば、三つの○は星の象形(晶)で列星。萬物土上に生じ、上つて列星となる。古は○は日に同じ。これは會意。〔說文、星、段注〕星之言、散也、引伸爲二碎散之稱一。

【星菴】1（セイアン） 宋、王清叔(**7**－**20823**‥1783)の號。

【星移】2（セイイ） 星の位置が移りかはる。年月がうつる。〔王勃、滕王閣詩〕閑雲潭影日悠悠、物換星移幾度秋。〔元稹、代二曲江老人一百韻詩〕星移逐二西顧一、風暖助二東巡一。

〔星移斗轉〕3 hsing^1 i^2 tou^2 chuan^3 夜が更ける。夜明方になる。〔中夏俗語藪、二〕。

【星位】4（セイヰ） ❶星のやどり。〔隋書、天文志上〕依二準三家星位一。❷星の位。人の貴賤尊卑の位は皆星に本づくをいふ。〔論衡、命義〕天施レ氣而衆星布レ精、人稟レ氣而生、含レ氣而長、貴或秩有二高下一、富或貲有二多少一、皆星位尊卑大小之所レ授也。〔楊浚、贈二李郎中一詩〕禮樂風流美、光華星位尊。

【星圍】5（セイヰ） 星がかこみめぐる。〔元稹、生春詩〕何處生レ春早、春生二曙火中一、星圍分二暗陌一、烟氣滿二晴風一。

【星緯】6（セイヰ） 星次の名。星紀(62)に同じ。〔後漢書、姜肱傳〕肱博通二五經一、兼明二星緯一。〔顏延之、車駕幸二京口一侍二遊蒜山一作詩〕宅道炳二星緯一、誕曜應二辰明一。〔注〕翰曰、言三帝所レ居之界、實光二星紀之緯一。

【星友】7（セイイウ） 清、徐遠(**4**－**10110**‥28)の字。

【星牖】8（セイイウ） 山の穴。洞。〔藝林伐山〕凡山洞岩穴、有レ竅通レ明、小者曰二星牖一、大者曰二月窗一。

【星一】9（セイイツ） 清、吳光悅(**2**－**3365**‥510)の字。

【星淫】10（セイイン） 星がみだれる。星が運行の序を失ふ。〔徐陵、陳文帝哀策文〕鉞斧將レ戒、璁珩未レ鳴、星淫去レ楚、日沴悲レ荆。

【星隱】11（セイイン） 星が隱れる。〔劉得仁、早行詩〕月沈平野盡、星隱曙空殘。

【星隕】12（セイヰン） ❶星のおちること。流星。〔左氏、莊、七〕星隕如レ雨、與レ雨偕也。〔史記、天官書〕宋襄公時、星隕如レ雨。❷聖賢將軍の死をいふ。星落(324)を見よ。〔庾信、柳霞墓誌銘〕智士石折、賢人星隕。

【星雨】13（セイウ） 星が雨のやうに降ること。星の雨。星隕(12)の❶を見よ。〔劉允濟、明堂賦〕下臨二星雨一、傍控二烟霜一。〔劉禹錫、武陵觀レ火詩〕火山摧二半空一、星雨洒二中衢一。

【星雲】14（セイウン） ❶湖の名。雲南省江川縣の南。〔明一統志〕星雲湖、在二澂江府江川縣治南一、周八十餘里。❷ぼんやりと光の雲のやうに見え、恒星に對して相對的位置を殆ど變じない天體。銀河系星雲・銀河系外星雲に二大別されてゐる。

〔星雲說〕15（セイウンセツ） 此の宇宙はもと星雲の瓦斯體であつたのが、漸次凝結して今日の狀態をなしたといふ說。佛蘭西のラプラースや獨逸のカント等によつて說かれた。

【星運】16（セイウン） 星の運行。〔魏書、明帝紀〕正光四年、詔曰、比雨旱愆レ時、星運舛錯、永尋夕惕、載恧二于懷一。

【星映】17（セイエイ） ❶星がひかりかがやく。〔謝莊、孝武帝哀策文〕修風曉逸、德星夕映。❷星のやうにひかりかがやく。〔孔稚珪、謝レ賜二生荔枝一啓〕綠葉雲舒、朱實星映。

【星影】18（セイエイ） 星のひかり。星のかげ。〔北史、齊樂陵王百年傳〕赤星見二帝於盆水一、承二星影一而蓋レ之、一夜盆自破。〔薛道衡、隋高祖頌〕占二揆星景一、移二建邦畿一、下憑二赤壤一、上叶二紫微一。〔李白、宿二白鷺洲一寄二楊江寧一詩〕波光搖二海月一、星影入二城樓一。〔劉禹錫、發二蘇州一後登二武丘寺一望二海樓一詩〕碧池涵二劒彩一、寶刹搖二星影一。〔方干、山井詩〕夜久卽疑二星影過一、早來猶見二石痕深一。

【星營】19（セイエイ） 星を戴いた陣營。夜の陣營。〔薩都剌、送三管十班監憲除二廣西宣慰使一詩〕露帳旌旗天接レ水、星營鼓角月連レ山。

【星翳】20 hsing^1 i^4 眼病。眼球の角膜上に白色の斑點を發生する病。

【星軺】21（セイエウ） ❶使者の乘る車をいふ。軺は小さい馬車。一說に、ものみぐるま。〔宋之問、奉レ和二梁王宴龍泓應敎一詩〕水府淪二幽壑一、星軺下二紫微一。〔張謂、別二韋郎中一詩〕星軺計レ日赴二岷峨一、雲樹連レ天阻二笑歌一。〔白居易、奉レ使途中云云詩〕早風吹レ土滿二長街一、駟騎星軺盡疾驅。〔李東陽、東山草堂賦〕江帆夜發、星軺晨騖、水宿風餐、冰行雪度。❷清、金檀(**11**－**40152**‥832)の字。

【星搯】22（セイエウ） 星がゆらぎうごく。國に大事あるの兆をいふ。搯は搖に同じ。〔漢書、天文志〕元光中、天星盡搯、上以問二候星者一、對曰、星搯者、民勞也、後伐二四夷一、百姓勞二於兵革一。〔庾信、周大將軍聞嘉公柳霞墓誌銘〕及二乎大盜移レ國、王室騷然一、月動星搯、雲平虹直。

【星耀】23（セイエウ） 星のかがやき。〔左思、魏都賦〕揆二日晷一、考二星耀一。〔注〕善曰、周禮曰、匠人建レ國、晝參二諸日中之景一、夜考二之極星一。

【星液】24（セイエキ） 液體の美稱。〔宋史、樂志七〕鼎煁陽燧、玉流星液。

【星驛】25（セイエキ） 星のやどり。〔張說、和二張監觀レ赦詩〕喜候開二星驛一、歡聲發二市人一。

【星壓】26（セイエフ） 美しいゑくぼ。星靨に同じ。〔海錄碎事、人事、婦人〕華岳三夫人媚二李湜一云、笑開二星壓一、花媚二玉顏一。

【星靨】27（セイエフ） 星のやうに美しいゑくぼ。〔杜審言、奉三和七夕侍二宴兩儀殿一應制詩〕斂レ淚開二星靨一、微步動二雲衣一。〔許敬宗、七夕賦詠成篇〕情催巧笑開二星靨一、不レ惜呈露解二雲衣一。

【星筵】28（セイエン） 星の世界の筵席。立派な宴席をいふ。〔李乂、奉二和七夕兩儀殿會宴一應制詩〕雲漢彌年阻、星筵此夕同。

【星苑】29（セイエン） 星の世界のその。星界の范圍。〔李義府、在二巂州一遙敍二封禪一詩〕肅駕移二星苑一、揚レ罕馭二風司一。

【星翁】30（セイヲウ） 天文を測る者。〔宋史、天文志一〕未レ可四以言三星翁日官之術、有二精觕敬怠之不一レ同也。

【星下】31（セイカ） 星のした。〔南史、韓懷明傳〕母患二尸疰一、每レ發輒危殆、懷明夜於二星下一稽顙祈禱、時寒甚切、忽聞二香氣一、空中有レ人、曰、童子母須臾永差、無レ勞二自苦一、未レ曉而母平復、鄕里以レ此

異レ之。

【星河】32 セイカ ㊀あまのがは。銀河。天漢。星漢。銀漢。〔河圖括地象〕川德布レ精、上爲二星河一。〔張融、海賦〕湍轉則日月似レ驚、浪動而星河如レ覆。〔杜甫、閣夜詩〕五更鼓角聲悲壯、三峽星河影動搖。〔方干、題二龍泉寺絕頂一詩〕中天氣爽星河近、下界時豐雷雨勻。〔李洞、送三僧遊二南海一詩〕島嶼分二諸國一、星河共二一天一。㊁清、丘永(1－33‥5)の字。

【星河槎】33 セイカノイカダ 漢の張騫がいかだに乘じて天河に至つた故事。或はそれ以前にもあつたといふ。星槎(119)を見よ。〔癸辛雜識、乘槎〕乘槎之事、自二唐諸詩人一以來、皆以爲二張騫一、雖二老杜用レ事不レ苟、亦不レ免レ有下乘槎消息近、無三處問二張騫一之句上、按、騫本傳、止曰三漢使窮二河源一而已、張華博物志云、舊說、天河與レ海通、有レ人齎レ糧乘レ槎而去、十餘月至二一處一、有下織女及二丈夫一飮中牛於渚上、因問此是何處、答曰、君還至レ蜀、問二嚴君平一、則知レ之、還問二君平一曰、某年月日、有三客星犯二牽牛宿一、然亦未三嘗指爲二張騫一也、及三梁宗懍作二荆楚歲時記一、乃言武帝使下張騫使二大夏一尋中河源上、乘レ槎見二所謂織女牽牛一、不レ知二懍何所レ據而云一、又王子年拾遺記云、堯時有二巨槎一、浮二於西海一、槎上有レ光若二星月一、槎浮二四海一、十二月周レ天、名二貫月槎掛星槎一、羽仙棲二息其上一、然則自二堯時一已有二此槎一矣。〔剪燈餘話、秋夕訪二琵琶亭一記〕窺レ紅問レ綠謝二遊冶一、與レ余共泛二星河槎一。

【星家】34 セイカ 占星家。又、天文學者。〔唐書、李德裕傳〕時天下已平、數上疏乞二骸骨一、而星家言、熒惑犯二上相一、又懇丐レ去レ位、皆不レ許。

【星娥】35 セイガ 美女をいふ。〔海錄碎事、人事、婦人〕星娥月姊、四六集。

【星駕】36 セイガ 星のある夜に車にのつてゆく。朝早く車に乘つて立つ。星發(267)に同じ。〔詩、鄘風、定之方中〕星言夙駕、說二于桑田一。〔箋〕文公於二雨下一、命二主レ駕者一、雨止爲レ我晨早駕。〔後漢書、袁紹傳〕臣卽星駕席卷、與レ瓚交レ鋒。〔潘岳、寡婦賦〕龍轜儼以星駕兮、飛旐翩以啓レ路。〔注〕星駕、早駕也。

【星海】37 セイカイ ㊀星と海。〔漢書、郊祀志上〕祀二四望一、祭二山川一、四望蓋謂二日月星海一也。㊁星の海。無限廣大の喩。〔張說、鄴公園池餞二韋侍郎神都留守一序〕元良賜レ服、被二星海之耀潤一。〔趙翼、詩〕燈火頓成星海沸。㊂明、朱眞淤(6－14424‥862)の號。

【星開】38 セイカイ 星のやうにひらく。數の多い喩。〔庾信、周上柱國云云辛威神道碑〕天道芒昧、年齡倏忽、上將星開、功臣鼎沒。

【星階】39 セイカイ 大臣・宰相の位。〔本朝文粹、二、紀齊名、答下入道前太政大臣辭二大臣幷章奏一表上敕〕公其爲二社稷一、爲二國家一、猶履二星階一、彌施二風化一。

【星街】40 セイガイ 街星。街は昴畢の間をいふ。〔謝朓、酬德賦〕歷二星街之熠燿一、浮二天潢之瀴溟一。

【星蓋】41 セイガイ 星の模樣あるかさ。〔許敬宗、奉三和登二陝州城樓一應制詩〕辰旂翻二麗景一、星蓋曳二雕虹一。

【星行】43 セイカウ ㊀流星の飛ぶやうにはやく行く。急いで行く。星行電征を見よ。㊁夜のうちにすみやかに行く。又、朝早く星のあるうちに行く。星を戴いて行く。〔後漢書、杜喬傳〕號泣星行到二洛陽一。〔魏志、高貴鄕公髦紀〕晨夜星行、遠致二本州一。〔晉書、盧志傳〕宜下更選二精兵一、星行倍レ道、出中賊不意上、此用レ兵之奇也。〔資治通鑑、漢紀〕(桓帝、建和元年)杜喬故掾陳留楊匡、號泣星行。〔注〕星行者、見レ星而行、見レ星而舍、或曰、星行者、言二戴レ星而行一、夜不レ遑レ息也。

【星行電征】44 セイカウデンセイ 流星又は電光のやうにゆく。急いではやく行くこと。〔風俗通、十反〕星行電征數日歸。

【星行夜歸】45 セイカウヤキ 朝早く家を出て、夜おそく家に歸る。〔晉書、夏統傳〕每採レ稆求レ食、星行夜歸。

【星缸】46 セイカウ 燈の油を盛る皿。〔事物異名錄、器用、燈盞〕事物紺珠、紅缸星缸、俱燈盞也、廣韻又名二月缸一。

【星皐】47 セイカウ 鷹見允の號。鷹見星皐(12－47377‥69)を見よ。

【星降】48 セイカウ 聖賢の生れること。古、聖賢豪傑は凡て天星の精であると信ぜられたからいふ。〔季玄成、策對〕嶽生維翰、星降士師。〔曹植、辨道論〕夫神仙之書、道家之言乃言、傳說上爲二辰尾宿一、歲星降下爲二東方朔一。

【星綱】49 セイカウ 星の列行。星のならび。〔元稹、開元觀閒居酬二吳士矩侍御一詩〕禹步星綱動、焚レ符竈鬼詹。

【星衡】50 セイカウ 星をいふ。又、星のちまた。〔楊炯、大唐益州大都督府新都縣學先聖廟堂碑文〕星衡入レ室、月準昇レ堂。〔張正見、秋河曙耿耿詩〕天路橫二秋水一、星衡轉二夜流一。

【星學】51 セイガク 天文學。

【星學大成】52 セイガクタイセイ 書名。十卷。明、萬民英撰。舊傳星學の書を取り、排纂編次し、注釋論斷を加へたもの。其の目は、一卷は星曜圖例、二卷は觀星節要宮度主用十二位論、三卷は諸家限例琴堂虛實、四卷は耶律祕訣、五卷より七卷は仙城望斗三辰通載、八卷は總龜紫府珍藏星經雜著、九卷は碧玉眞經鄧史喬廟、十卷は光喬淵微星曜格局。〔四庫提要、子、術數類〕。

【星額】53 ホシビタヒ 馬の毛色で、額の上に白斑のあるもの。星月。

【星合】54 セイガフ ㊀五星が五行に合すること。〔漢書、律歷志上〕五星之合二於五行一、水合二於辰星一、火合二於熒惑一、金合二於太白一、木合二於歲星一、土合二於塡星一。㊁ホシアヒ 七夕の夜、牽牛・織女二星の相會ふこと。

【星合空】55 ホシアヒノソラ ほしあひの夜の空。七夕のそら。〔風雅集〕明くるや惜しき、星合の空。

【星寒】56 セイカン 少し寒い。星は些少の義。〔張谷山、詩〕冬來未レ覺有二星寒一、山未二全癯一儘耐レ看。

【星漢】57 セイカン あまのがは。星河。〔魏文帝、燕歌行〕明月皎皎照二我牀一、星漢西流夜未レ央。〔潘岳、寡婦賦〕夜既分兮星漢廻。

【星漢神沙】58 セイカンシンシャ 珍寶の名。〔還魂記、謁遇〕這是星漢神沙、這是煑海金丹和鐵樹花。

【星眼】59 セイガン 星のやうにきらめくひとみ。美しい眼。〔王詔之、太淸記〕華嶽三夫人媚二李湜一云、笑開二星眼一、花媚二玉顏一。

【星龕】60 セイガン 星のやうに小さく點々と見える寺の塔。〔宋之問、龍門應制詩〕塔影遙遙綠波上、星龕奕奕翠微邊。

【星巖】61 セイガン 字號。㊀淸、蔣宗海(9－31820‥185)の字。㊁淸、馮汝騤(12－44579‥241)の字。㊂梁川孟緯の號。梁川星巖(6－14825‥347)を見よ。

【星紀】62 セイキ ㊀星次の名。斗宿及び牽牛星と相當するもの。黃道十二宮の摩羯宮に相當する。〔爾雅、釋天〕星紀、斗牽牛也。〔注〕牽牛斗者、日月五星之所二終始一、故謂二之星紀一。〔左氏、襄、二十八〕歲在二星紀一、而淫二於玄枵一。〔注〕歲、歲星也、星紀在レ丑、斗牛之次也、玄枵在レ子、虛危之次也。〔會箋〕歷書稱二木精曰二歲星一、火精曰二熒惑一、土精曰二鎭星一、金精曰二大白一、水精曰二辰星一、此五者皆右二行於天一、二十八宿則著レ天不レ動、故謂二二十八宿一爲レ經、五星爲レ緯、若二織之經緯一然也、天有二十二次一、地有二十二辰一、丑子亥北方之辰也、次之與レ辰上下相値、故杜云二星紀在レ丑、玄枵在一レ子、大歲左二行於地一、十二辰一歲移二一辰一、十二年而一周、左行自レ東而南、而西、而北、自レ寅而訖二於丑一、爾雅所謂歲陰卽地支也、歲星、人所レ見、大歲、人所レ不レ見、雖二右行左行不一レ同、要レ之行度不レ異也、釋天云、星紀、斗牽牛也、玄枵虛也、孫炎曰、星紀日月五星之所二終始一也、故謂二之星紀一、虛在二正北一、北方玄、故曰二玄枵一、枵之言耗、耗虛之意也。〔史記、天官書、婺女、注〕正義曰、須女四星、亦曰、婺女、天少府也、南斗・牽牛・須女、皆爲二星紀一、於レ辰在レ丑、越之分野、而斗・牛爲二吳之分野一也。〔漢書、王莽傳中〕歲纏二星紀一。〔晉書、天文志上〕自二南斗十二度一至二須女七度一爲二星紀一、於レ辰在レ丑、吳越之分野、屬二揚州一。〔左思、吳都賦〕故其經略、上當二星紀一。㊁hsing¹ chi⁴ 年數。

【星旂】63 セイキ 星を畫いたはた。〔唐太宗、還レ陝述レ懷詩〕星旂紛電擧、日羽肅天行。

【星氣】64 セイキ ㊀占星と望氣との術。吉凶を占候するもの。〔史記、天官書贊〕其祭二禨祥一、候二星氣一。〔史記、衡山王傳〕求下能爲二兵法一候二星氣一者上。㊁hsing¹ ch'i⁴ 星の極めて微かなもの。

【星期】65 セイキ ㊀婚禮の日どり。婚期。詩經、唐風、綢繆の婚姻の時機を失ふを歎いた詩から出た語。一說に、七夕の傳說から出た語といふ。〔詩、唐風、綢繆序〕綢繆、刺二晉亂一也、國亂則昏姻不レ

得㆓其時㆒焉。〔詩、唐風、綢繆〕綢繆束薪、三星在㆑天、今夕何夕、見㆓此良人㆒。〔書言故事、婚姻類、星期〕報㆓成㆑婚日㆒曰㆑請㆓星期㆒。㊁七月七日をいふ。〔王勃、七夕賦〕佇㆓靈匹於星期㆒、眷㆓神姿於月夕㆒。㊂清、葉夔（9－31387‥94）の字。㊃hsing^1 ch'i^2 ㋑七曜。一週間をいふ。㋺日曜日。

【星稀】66 セイキ 星の僅かに見えること。星數が少なく、その光の薄いこと。〔魏武帝、短歌行〕月明星稀、烏鵲南飛、繞㆑樹三匝、無㆓枝可㆑依。〔夏侯湛、長夜謠〕列宿兮皎皎、星稀兮月明。

【星暉】67 セイキ 星のひかり。〔王融、三月三日曲水詩序〕雲潤星暉、風揚月至。〔樂府詩集、郊廟歌辭、太廟樂章、崇德舞〕海溓星暉、遠安邇肅。

【星旗】68 セイキ ㊀星のやうに多くつらなる軍旗。星旗電戟を見よ。㊁hsing^1 ch'i^2 中華民國の陸軍旗。武昌で事を擧げた時にこれを用ひ、民國成立と共に陸軍旗に制定す。もと十八星で、其の後中央に一星を增繪して十九星となす。星の大きさは、皆同一で大小なく、衆星環繞の義を取つて作つたもの。

〖星旗電戟〗69 セイキデンゲキ 星のやうに多く連なる軍旗と、電光のやうに閃く戟。軍容の勇壯なるを譬へていふ語。〔源平盛衰記、三十、平家延曆寺願書〕爰魚鱗鶴翼之陣、官軍不㆑得㆑利、星旗電戟之威、逆類似㆑乘㆑勝。

【星輝】70 セイキ 星のひかり。星暉。

【星騎】71 セイキ 天子の騎馬の士。天子の使者をいふ。〔蔡襄、詔㆓貢士㆒詩〕星騎翩翩鶴詔來、旋聞㆓歡語㆒沸㆓春雷㆒。

【星球】72 hsing^1 ch'iu^2 星體をいふ。

【星宮】73 セイキュウ 星界の宮殿。〔武三思、奉㆔和春日游㆓龍門㆒應制詩〕星宮含㆓雨氣㆒、月殿抱㆓春輝㆒。〔盧僎、季冬送㆔戶部郎中使㆓黔府選補㆒詩〕還期鳳池拜、照耀列㆓星宮㆒。〔杜甫、寄㆓韓諫議㆒詩〕星宮之君醉㆓瓊漿㆒、羽人稀少不㆑在㆑旁。

【星居】74 セイキョ ㊀星のやうに點々としてつらなる。〔何晏、景福殿賦〕屯方列㆑署、三十有二、星居宿陳、綺錯鱗比。〔注〕濟曰、星居、言㆑如㆓星宿之陳布㆒。〔劉禹錫、莫徭歌〕星居占㆓泉眼㆒、火種開㆓山脊㆒。㊁散らばつて居る。散在する。〔隋書、令狐熙傳〕星居者勒爲㆓聚落㆒。

【星距】75 セイキョ 星のへだたり。〔唐書、歷志三上〕虞劇等、襲㆓冲之之誤㆒、爲㆓之說㆒云、夏時冬至日在㆓斗末㆒、以㆓歲差㆒考㆑之、牽牛六度、乃顓頊之代、漢時雖㆑覺㆓其差㆒、頓移㆓五度㆒、故冬至還在㆓牛初㆒、按㆓洪範㆒、古今星距、僅差四分之三、皆起㆓牽牛一度㆒、劇等所㆑說亦非㆑是。

【星魚】76 hsing^1 yü^2 海燕の類。其の形體が星芒に似てゐるからいふ。star fish

【星拱】77 セイキョウ 衆星が北極星に向つて拱手すること。論語、爲政篇の爲㆑政以㆑德、譬如㆘北辰居㆓其所㆒而衆星共㆖之に本づく。〔柳宗元、邕州柳中丞作㆓馬退山茅亭㆒記〕是山崒然起㆓於莽蒼之中㆒、馳奔雲矗、亘㆓數十百里㆒、尾蟠㆓荒陬㆒、首注㆓大溪㆒、諸山來朝、勢若㆓星拱㆒、蒼翠詭狀、綺綰繡錯、蓋天鍾㆑秀、於㆑是不㆑限㆓於遐裔㆒也。〔崔立之、南至郊壇有司書㆓雲物㆒賦〕環衞儼以星拱、簪裾列而雲攢。〔吳浩、石渠閣賦〕金華星拱、東觀珠聯。〔宋史、樂志十三〕儀鳳書㆓良史㆒、祥麟載㆓雅歌㆒、嘉辰資㆓宴喜㆒、星拱弁㆓峩峩㆒。

【星菫】78 セイキン 星やすみれ。

〖星菫派〗79 セイキンハ 星や菫に託して戀愛を歌ふ浪漫詩人の一派。明治三十五年前後、與謝野鐵幹・晶子夫妻を中心として活躍した人々をいふ。

【星禽】80 セイキン 術數家の語。五行と夫〻の禽とを以て二十八宿に配し、吉凶を占ふ法。禽星（8－24893‥30）を見よ。〔湘山野錄、下〕僧錄贊寧有㆓大學洞古博物㆒、著㆓書數百卷㆒、王元之禹偁・徐騎省鉉、疑則就而質焉、二公皆拜㆑之、柳仲塗開、因曰、余頃守㆓維楊郡㆒、堂後菜圃、纔陰雨則青燄夕起、觸近則散何邪、寧曰、此燐火也、兵戰血、或牛馬血、著㆑土則凝結爲㆓此氣㆒、雖㆓千載㆒不㆑散、柳遽拜㆑之曰、掘㆑之皆斷鎗折鏃、乃古戰地也、因贈以㆑詩、中有㆘空門今日見㆓張華㆒之句㆖、太宗欲㆑知㆓古高僧事㆒、撰㆓僧史略十卷㆒進呈、充㆓史館編修㆒、壽八十四、司天監王處訥推㆓其命㆒、孤薄不㆑佳、三命星禽晷祿壬遁俱無㆓壽貴之處㆒、謂㆑寧曰、師生時所㆑異者、止得㆓天貴星臨㆑門、必有㆓裂土侯王在㆑戶否、寧曰、母氏長謂㆑某曰、汝生時臥㆑草、云云。

【星供】81 ホシク 生年に當る本名星等を祀つて災難を除くこと。〔阿娑縛抄、百十三、星〕先蹤大師、依㆓宇治殿請㆒、於㆓平等院㆒、當年星供、被㆔勤㆓仕之㆒。

【星區】82 セイク 星のあるところ。星座。轉じて、飛白の字體の形容。〔梁簡文帝、答㆔蕭子雲上㆓飛白屛風㆒書〕冠㆓六書㆒而獨美、超㆓二篆㆒而擅㆑奇、乍寫㆓星區㆒、時圖㆓鳥翅㆒。

【星驅】83 セイク 速く走るさま。星馳。〔顏延之、宋郊祀歌〕月御案㆑節、星驅扶㆑輪。〔江淹、慰㆓勞雍州㆒詔〕刺史張敬、義氣雲騰、秣㆑馬星驅。

【星衢】84 セイク ㊀星のやどるところ。星區（82）に同じ。㊁清、李福泰（6－14459‥1892）の字。

【星火】85 セイクヮ ㊀流星のひかり。轉じて、事の急迫した喩。〔韓偓、開河記〕使命至急、如㆓星火㆒。〔李密、陳情表〕郡縣逼迫、催㆑臣上㆑道、州司臨㆑門、急㆓於星火㆒。〔眞德秀、江東漕到任謝表〕文移星火、不㆑勝㆓胥吏之誅求㆒。㊁小さい火。〔薛能、洛下寓懷詩〕氷霜谷口晨樵遠、星火爐邊夜坐寒。㊂心宿中で最も明かな星。大火。〔書、堯典〕日永星火、以正㆓仲夏㆒。〔傳〕火、蒼龍之中星、擧㆑中則七星見可㆑知。〔疏〕計㆓七宿㆒房在㆓其中㆒、但房心連體、心統㆓其名㆒、左傳言㆓火中火見㆒、詩稱㆓七月流火㆒、皆指㆓房心㆒爲㆑火、故曰㆓火蒼龍之中星㆒。〔張華、勵志詩〕星火既夕、忽焉素秋。㊃小人の喩。〔燕子箋、駝泄〕看棘圍星火森沈。

【星貨】86 hsing^1 huo^4 雜貨。星貨鋪を見よ。

〖星貨鋪〗87 セイクヮホ 雜貨店。星貨鋪に同じ。

〖星貨鋪〗88 セイクヮホ 雜貨店をいふ。衆星の羅列するやうに、貨物を店頭につらねるからいふ。〔海錄碎事、商賈、市廛、星貨鋪〕市肆、以㆓筐筥等㆒鱗㆓次其物㆒以鬻者、星貨鋪、羅列如㆓星繁密㆒、今鋪呼爲㆓星大鋪㆒、非也、資暇集。

【星華】89 セイクヮ ㊀星のひかり。〔駱賓王、遊㆓德州㆒贈㆓高四㆒詩〕林虛星華映、水澈霞光淨。㊁明、章可試（8－25761‥179）の字。

【星顆】90 セイクヮ 星のやうな玉。〔虞集、題㆑扇與㆓周幹臣㆒詩〕玉疊松花蜜餠香、龍珠星顆露盤涼。

【星回】91 セイクヮイ 一年を經過して星が再び原位にめぐり歸ることをいふ。星迴。〔禮、月令〕季冬之月、云云、是月也、日窮㆓于次㆒、月窮㆓于紀㆒、星回㆓于天㆒、數將㆑幾㆑終、歲且㆓更始㆒。〔李康、運命論〕天動星回、而辰極猶㆑居㆓其所㆒。〔陸機、演連珠〕日薄星回、穹天所㆓以紀㆑物。

〖星回節〗92 セイクヮイセツ 十二月十六日をいふ。一說に、十二月をいふ。雲南省南詔地方の語。〔玉雞編事〕南詔以㆓十二月十六日㆒爲㆓星回節㆒。〔事物異名錄、歲時、十二月〕太平廣記、南詔以㆓十二月十六日㆒爲㆓星回節㆒、又玉谿篇、以㆓十二月十六日㆒爲㆓星回節㆒。

【星迴】93 セイクヮイ 星回（91）に同じ。

【星光】94 セイクヮウ ほしのひかり。星輝。〔盧思道、在㆑齊爲㆓百官㆒賀㆓甘露㆒表〕夜宿朝雲、星光動色。〔沈佺期、夜遊詩〕月華連㆓晝色㆒、燈影雜㆓星光㆒。

〖星光在水〗95 セイクヮウザイスイ 北京に行はれる菊花の一種。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按㆓日下舊聞考㆒云云、蓋京師之菊種亟繁、云云、星光在水、楓林落照。

【星冠】96 セイクヮン きらきらと星のやうにひかる冠。轉じて、道士の冠。〔包佶、宿㆓廬山㆒詩〕漸恨流年筋力少、惟思露冕事㆓星冠㆒。〔戴叔倫、漢宮人入㆑道詩〕蕭蕭白髮出㆓宮門㆒、羽服星冠道意存。

【星官】97 セイクヮン ㊀星を占ふ官。天文を掌る官吏。〔韓愈、殿中侍御史李君墓誌銘〕其說汪洋奧美、關節開解、萬端千緒、參錯重出、學者就傳㆓其法㆒、初若㆑可㆑取、卒然失㆑之、星官曆翁、莫㆕能與㆔其校㆓得失㆒。〔宋史、南唐潘佑世家〕（潘佑）薦㆓星官楊熙澄㆒爲㆓樞密使㆒。㊁星の總稱。星に百官の名を配當したもの。天官。〔史記、天官書、注〕索隱曰、案、天文有㆓五官㆒、官者、星官也、星座有㆓尊卑㆒、若㆓人之官曹列位㆒、故曰㆓天官㆒。㊂星神の稱。〔圖畫見聞誌、一、論婦人形相〕歷㆓觀古名士畫金童玉女及神仙星官㆒、中有㆓婦人形相者㆒、貌雖㆓端嚴㆒、神必清古。

〖星官之書〗97′ セイクヮンノショ 天文のことを記した書物。〔後漢書、天文志上〕軒轅始受㆓河圖㆒、鬭苞授㆑規㆓日月星辰之象㆒、故星官之書、自㆓黃帝㆒始、云云、秦燔㆓詩書㆒、以愚㆓百姓㆒、六經典籍、殘爲㆓灰炭㆒、天官之書、全而不㆑毀。

【星管】98 セイクヮン 律管の名。星管は皆十二月にて一周し、以て節候をしるす。〔宋書、黃回傳〕李安民

述任二河濟一、星管未レ周。

【星環】99（セイクヮン） 星のやうにめぐる。〔白居易、明遠大師塔碑銘〕輪奐莊嚴、星環棊布。

【星還】100（セイクヮン） 星のやうにめぐる。〔閻寛、溫湯御毬賦〕銀鞍月上、華勒星還。

【星卿】101（セイケイ） 明、瞿汝説(8－23747‥38)の字。

【星溪】102（セイケイ） 清、汪佑(6－17154‥3)の號。

【星經】103（セイケイ） 書名。天文のことを記したもの。甘氏星經・石氏星經等がある。〔漢書、藝文志〕海中五星經雜事二十二卷。〔唐書、藝文志三〕石氏星經簿讚一卷。〔宋史、藝文志五〕甘石巫咸氏、星經一卷、劉表、星經一卷、陶隱居、天文星經五卷。

【星橋】104（セイケウ） ㊀銀河の橋。〔庾信、舟中望月詩〕天漢看二珠蚌一、星橋視二桂花一。〔張文恭、七夕詩〕星橋百枝動、雲路七香飛。㊁清、顧宗泰(12－43689‥312)の號。

【星月】105（セイゲツ） ㊀星と月。〔史記、匈奴傳〕舉レ事而候二星月一。〔淮南子、本經訓〕星月之行、可下以二歷推一得上也。〔許渾、題二飛泉觀宿龍池一詩〕雲開星月浮二山殿一、雨過風雷繞二石壇一。〔杜荀鶴、遊二茅山一詩〕松頭穿二破雲一、道人星月下。〔朱慶餘、湖中閑夜遣興詩〕風波不レ起處、星月盡隨レ身。㊁（ホシヅキ）馬の額に白班のあるもの。星額。白額。

【星月夜】106（ホシヅキヨ ホシヅクヨ） ㊀星の光が月のやうに見える夜。〔堀河百首〕星月夜こそ、うれしかりけれ。㊁ゆうがぎくの異名。㊂鎌倉山の枕詞。〔謠曲、調伏曾我〕明くるを待つや星月夜、かまくらやまを。

【星見】107（セイケン） 星があらはれる。星が見える。〔書、堯典、日中星鳥、疏〕天道左旋、日體右行、故星見之方、與二四時一相逆、春則南方見、夏則東方見、秋則北方見、冬則西方見、此則勢自當レ然。〔詩、鄘風、定之方中、星言夙駕、箋〕星、雨止星見。〔北史、崔浩傳〕日蝕滅レ光、晝昏星見、飛鳥墮落、宿當二斗牛一、憂在二危亡一也。〔白居易、司天臺詩〕明朝趨入明光殿、唯奏慶雲壽星見。〔劉方平、鄴城引〕隱隱都城紫陌開、迢迢分野黃星見。〔李商隱、夜出二西溪一詩〕月登新漲レ水、星見欲レ銷レ雲。

【星見草】108（ホシミグサ） 菊の異名。

【星軒】109（セイケン） 星の名。軒轅星。女主の象。轉じて、嫁女の車をいふ。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕坤則順成、星軒潤飾。〔注〕良曰、又得二軒轅星之光彩一而潤飾焉、軒轅星、女主之象也。〔山堂肆考〕軒轅星、女主之象、故嫁女之車、謂二之星軒一。

【星劍】110（セイケン） 星のひかりのほさき。星の光芒。〔法書要錄、行書贊〕星劍光芒、雲虹照爛。〔杜甫、暝詩〕正レ枕當二星劍一、收レ書動二玉琴一。〔杜牧、和下宣州沈大夫登二北樓一書懷上詩〕兵符嚴重辭二金馬一、星劍光芒射二斗牛一。

【星懸】111（セイケン） ㊀星が空にかかる。〔徐陵、廣州刺史歐陽頠德政碑〕若夫岳鎭龍蟠、星懸二鶉火一、衡山誕二其高德一、湘水降二其清輝一、千仞孤標、萬頃無レ度。〔劉禹錫、武陵書懷詩〕露變蒹葭浦、星懸橘柚村。㊁星のやうに數多くかかる。〔南齊書、蘇侃傳、塞客吟〕胡埃兮雲聚、楚旆兮星懸。〔王延壽、魯靈光殿賦〕浮柱岧嵽以星懸、漂嶢峴而枝柱。㊂星のやうに高くかかる。〔王筠、問善寺碑銘〕亭亭切レ漢、耿介凌煙、層甍霞聳、飛棟星懸。

【星言】112（セイゲン） 星を戴いて早く出發する。言は助辭。〔詩、鄘風、定之方中〕命二彼倌人一、星言夙駕。〔集傳〕星、見レ星也、云云、文公於レ是命二主駕者一、晨起駕レ車、亟往而勞二勸之一。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕公星言奔波、泣血千里。〔注〕銑曰、星言、早行侵レ星也。

【星五】113（セイゴ） 字號。㊀清、顧奎光(12－43689‥251)の字。㊁清、董福祥(9－31433‥254)の字。

【星語】114（セイゴ） 星占ひの語。〔漢書、王莽傳下〕臨妻愔、國師公女、能爲二星語一。

【星工】115（セイコウ） 星象に通じた學者。星家。〔後漢書、公孫瓚傳〕(袁)紹令三星工伺二望祥妖一。〔注〕星工、善レ星者。

【星公】116（セイコウ） 清、周燦(臨潼の人)(2－3441‥21「9」)の字。

【星虹】117（セイコウ） 大星が虹のやうに下ること。〔劉峻、辨命論〕星虹樞電、昭二聖德之符一。〔注〕善曰、春秋元命苞曰、大星如レ虹下流、華渚、女節夢意感生二朱宣一、宋均曰、華渚、渚名也、朱宣少昊氏、翰曰、大星如レ虹、下流二華渚一而生二少昊一。

【星查】118（セイサ） 星月のやうな光のある巨大な筏。堯登位の三十年、西海に浮び出て四海を繞り、十二年にして天を一周したといふ。又、貫月查・挂星查ともいふ。〔拾遺記、唐堯〕堯登レ位三十年、有三巨查浮二於西海一、查上有レ光、夜明晝滅、海人望二其光一、乍大乍小、若二星月之出入一矣、查常浮繞二四海一、十二年一二周於天一、周復レ始、名曰二貫月查一、亦謂二挂星查一。

【星槎】119（セイサ） ㊀星查に同じ。〔宋之問、宴二安樂公主宅一詩〕賓至星槎落、仙來月宇空。㊁某者がいかだに乘じて天河に至つた故事。星河槎(33)を見よ。〔博物志、雜說下〕舊說云、天河與レ海通、近世有下人居二海渚一者上、年年八月、有二浮槎去來一、不レ失レ期、人有二奇志一、立二飛閣于槎上一、多齎レ糧、乘レ槎而去、十餘日中猶觀二星月日辰一、自後芒芒忽忽、亦不レ覺二晝夜一、去十餘日、奄至二一處一、有二城郭狀一、屋舍甚嚴、遙望二宮中一多二織婦一、見二一丈夫牽レ牛渚次飮レ之、牽レ牛人乃驚問曰、何由至レ此、此人具說二來意一、並問此是何處、答曰、君還至二蜀郡一、訪二嚴君平一則知レ之、竟不レ上レ岸、因還如レ期、後至レ蜀問二君平一、曰、某年月日、有三客星犯二牽牛宿一、計二年月一、正是此人到二天河一時也。〔劉禹錫、逢三王二十學士入二翰林一因以レ詩贈詩〕廏馬翩翩禁外逢、星槎上レ漢杳難レ從。〔白居易、和三微之春日投二簡陽明洞天一詩〕洞穴何因鑿、星槎誰與刳。㊂字號。㋑清、魏銀河(12－45872‥184)の字。㋺清、王振聲(揚州の人)(7－20823‥1718)の字。

【星鎖】120（セイサ） 星のつながり。星の連鎖。〔韓愈、題二炭谷湫祠堂一詩〕妍英雜二豔實一、星鎖黃朱班。

【星座】121（セイザ） 星の位置を表はすための天球上の區劃。中國では三垣二十八宿に大別し、これを更に三百箇の星座に分ち、トレミーは四十八星座を作り、其の後一百十數箇に追加され、一千九百三十年、八十八星座に制限し、赤經赤緯を以て境界とした。星次。辰宿。星津。星宿。〔史記、天官書、注〕索隱曰、案、天文有二五官一、官者、星官也、星座有二尊卑一、若二人之官曹列位一、故曰二天官一。〔杜牧、送二容州唐中丞赴レ鎭詩〕交阯同二星座一、龍泉似二斗文一。〔水滸傳、楔子〕玉帝差二遣紫微宮中兩座星辰一下來。

【星采】122（セイサイ） 星のひかり。星彩。〔梁昭明太子、錦帶書十二月啓、無射九月〕金隄翠柳、帶二星采一而均レ調、紫塞蒼鴻、追二風光一而結レ陣。

【星彩】123（セイサイ） 星のひかり。星采。〔吳融、奉二和御製一詩〕日華偏照御、星彩迴二分台一。〔賈島、送二朱兵曹迴レ越詩〕星彩練中見、澄江豈有レ泥。〔杜荀鶴、旅舍遇レ雨詩〕月華星彩坐來收、嶽色江聲暗結レ愁。

【星齋】124（セイサイ） 字號。㊀宋、王清叔(7－20823‥1783)の號。㊁清、陳兆崙(11－41698‥1150)の字。㊂清、潘曾瑩(7－18236‥193)の字。㊃清、羅惇衍(9－28397‥352)の字。

【星祭】126（ホシマツリ） ㊀七夕祭。㊁眞言宗にて、七曜星の中で、其の年に當る星を當年星とて祭ること。

【星歲】127（セイサイ） としつき。星霜歲月の略。〔鮑照、謝三永安令解二禁止一啓〕孤慙二星歲一。〔喬知之、和二李侍郎古意一詩〕調絲獨彈聲未レ移、感二君行坐星歲遲一。

【星霜】128（セイサウ） 星と霜。歲星は十二年に天を一周し、霜は年每に降るから、轉じて、としつきをいふ。〔柳宗元、酬下婁秀才將レ之二淮南一見レ贈之作上詩〕風月歡寧間、星霜分益親。〔柳宗元、代二柳公綽一謝二上任一表〕歷二踐中外一、星霜屢移。〔溫庭筠、寄二崔先生一詩〕星霜荏苒無二音信一、煙水微茫變二姓名一。

【星錯】129（セイサク） ㊀星の如くにいりまじる。星の如くまじはる。〔陸雲、盛德頌序〕六合焱駕、八荒星錯。〔李白、明堂賦〕錦爛霞駁、星錯波沏。㊁星の如く點在する。〔楊炯、少室山少姨廟碑〕紫柱星錯、丹梁霞煥。

【星煞】130（セイサツ） 星命家の語。厄の一種。天星地煞をいふ。炁孛・羅計等の如きを天星といひ、又、星辰といふ。祿勳・歲駕等の如きを地煞といひ、又、地曜といふ。叢辰家では神煞といふ。〔張華星宗、入門起例、入門看法〕星、星者謂二日・月・木・火・土・金・水・炁孛・羅計・兼・文魁・名甲・官印・經緯・驛馬・三元・四元・催官・祿神・喜神・爵星・十干・化曜等星一。〔注〕此卽天星也、又名二星辰一。〔張華星宗、入門起例、入門看法〕煞、煞者謂二祿勳・歲駕・天乙・玉堂・斗杓・卦氣・唐符・國印・幷陽刃・劍鋒・天雄・地雌・飛廉・的殺・刦殺・亡神・四耗・四符等煞一。〔注〕此卽地煞也、亦名二地曜一。

【星三】131 セイサン 清、陸燦（**11－41708**··121）の號。

【星山】132 セイサン 清、陸燦（**11－41708**··121）の號。

【星散】133 セイサン 星の分布するやうに四方に散ずる。ちりぢりばらばらになる。〔蜀志、李嚴傳〕斬㆓秦勝等首㆒、枝黨星散。〔蜀志、王平傳〕馬謖大敗㆓于街亭㆒、衆盡星散。〔宋史、兵志四〕州縣承㆓朝廷之意㆒、止求㆓數多㆒、若遇㆑敵則瓦解星散、不㆑知㆑所㆑之矣。

【星粲】134 セイサン 星が明かにきらめく。〔曹植、贈㆓徐幹㆒詩〕圓景光未㆑滿、衆星粲以繁。〔注〕廣雅曰、粲、明也。

【星算】135 セイサン 天文と算數。〔後漢書、郎顗傳〕郎顗、字雅光、北海安丘人也。父宗、字仲綏、學㆓京氏易㆒、善㆓風角星算、六日七分㆒。〔注〕星算、謂㆑善㆓天文算數㆒也。〔梁書、陶弘景傳〕尤明㆓陰陽五行風角星算㆒。

【星燦】136 セイサン 星粲に同じ。〔何遜、苦熱詩〕臥思清露浥、坐待高星燦。

【星攢】137 セイサン 星のやうにむらがりあつまる。〔白居易、重題㆓別東樓㆒詩〕春雨星攢尋㆑蟹火、秋風霞颭弄㆑濤旗。〔鄭錫、正月一日含元殿觀㆓百獸率舞㆒賦〕其初進也、波委星攢、如㆑岡如㆑巒。

【星殘】138 セイザン 星がのこる。〔無名氏、登㆓天壇山㆒望㆓海日初出㆒賦〕氣澄霧卷、月落星殘。

【星士】139 セイシ 人の生年月日によつて天星を按じ、其の運命を豫言する者。豫言者。卜者。〔故事成語考、技藝〕推命之人、卽星士。

【星子】140 セイシ ㊀山名。陝西省西鄕縣の南。洋水の源。㊁縣名。宋、置く。南唐の星子鎭。落星石を以て名づく。江西省九江縣の南。縣城は鄱陽湖の西岸に瀕し、形勢險要。晉末、劉裕が盧循を破り、梁の王僧辯が侯景を破り、明の太祖が陳友諒を破り、清の洪秀全が曾國藩に困しめられたのは皆此地に在る。〔讀史方輿紀要、江西、南康府、星子縣〕附郭、漢彭澤縣地、屬㆓豫章郡㆒、宋以後因㆑之、五代時、楊吳以㆔境內有㆓落星石㆒置㆓星子鎭㆒、屬㆓德化縣㆒、宋太平興國三年、升爲㆓星子縣㆒屬㆓江州㆒。〔清史稿、地理志〕江西、南康府、縣四、星子。㊂清、曹垣（**5－14297**··16）の字。㊃ホシノゴ 姓氏。

【星子炭】141 セイシタン 水に入れて浮いた炭をいふ。〔清異錄、器具、星子炭〕唐宣宗命㆓方士㆒作㆑丹餌㆑之、病中熱、不㆓敢衣㆑綿擁㆑爐、冬月冷坐㆓殿中㆒、宮人以㆓金盆㆒置㆓麩炭火少許㆒進御、止㆓暖手㆒而已、禁闈因呼㆓麩炭㆒爲㆓星子炭㆒。

【星使】142 セイシ ㊀天子の御つかひ。勅使。後漢の和帝が二勅使を益州に派遣したところ、天象に應じて二星が益州の分野に向つた故事。〔後漢書、李郃傳〕和帝卽位、分㆓遣使者㆒觀㆓採風謠㆒、使者二人當㆑到㆓益部㆒、投㆓郃候舍㆒、郃因仰觀、問曰、二君發㆓京師㆒時、寧知㆔朝廷遣㆓二使㆒邪、云云、問何以知㆑之耳、郃指㆑星示云、有㆓二使星㆒、向㆓益州分野㆒、故知㆑之。〔高適、送㆘柴司戶充㆓劉卿判官㆒之㆗嶺外㆖詩〕月卿臨㆓幕府㆒、星使出㆓詞曹㆒。㊁hsing^1 shih^3 使臣に對する敬稱。

【星屎】143 ホシクソ 隕星の俗稱。また、星石。〔和漢三才圖會、天部〕星隕成㆑石、陸奧出羽中、夏月晴夜有㆓隕星㆒云云、名㆓星屎㆒。

【星施】144 セイシ 鳥の羽を著けたはたぼこ。羽旄。〔逸周書、王會解〕樓蘭以㆓星施㆒、星施者珥旄。〔注〕珥旄、所㆔以爲㆓旄羽耳㆒。

【星指】145 セイシ 清、張映辰（**4－9812**··811）の字。

【星徙】146 セイシ 星がうつる。星が移動する。〔謝靈運、曇隆法師誄〕朝迫景曛、夕忌星徙。〔隋書、天文志中〕南方東井八星、法令所㆑取平也、星徙人愁、政令急。

【星次】147 セイジ 星のやどり。星座。星宿。〔唐書、曆志三上〕考㆓正星次㆒、爲㆓一代之制㆒。〔事物紀原、天地生植部、星次〕帝王世紀曰、黃帝受㆑命、乃推㆓分星次㆒以定㆓律度㆒、劉昭補漢志亦曰、黃帝定㆓星次㆒、卽今爾雅所㆑記十二次、與㆓二十八舍之度㆒、皆自㆓黃帝㆒掓㆑之也。

【星洲】148 セイシウ ㊀小さな沙洲。〔盧照鄰、晚渡㆓渭橋㆒寄㆓示京邑遊好㆒詩〕長虹掩㆓釣浦㆒、落鴈下㆓星洲㆒。㊁新嘉坡の別稱。

【星質】149 セイシツ 石をいふ。〔事物異名錄、坤輿、石〕三略、石者星質也。

【星實】150 セイジツ 清、馮應榴（**12－44579**··176）の字。

【星沙】151 セイシヤ 地名。湖南省の長沙。〔廣陽雜記〕小葉麗含草、性同㆓肉桂㆒、有㆓引血歸經之功㆒、星沙在處有㆑之。

【星社】152 セイシヤ 結社の名。森春濤の晩年、漢詩人を糾合して結成したもので、一時中絕し、其の息、槐南が復興し、明治二十三年九月二十三日、其の大會を星ケ岡茶寮に開き、同三十二年瓦解した。

【星將】153 セイシヤウ 大將をいふ。〔秦觀、詩〕月卿秋抒㆑思、星將夜濡㆑翰。

【星章】154 セイシヤウ 星の形のしるし。我が陸軍の徽「章。

【星晶】155 セイシヤウ 星のひかり。〔雲笈七籤〕中黃紫君、厥諱規英、手把㆓星晶㆒、項生㆓日眞㆒。

【星象】156 セイシヤウ 星の總稱。象とは星の明暗薄蝕の類をいふ。〔後漢書、律曆志中〕願請太史官日月宿簿及星度課、與㆓待詔星象㆒考校。〔王融、永明十一年策㆓秀才㆒文〕上叶㆓星象㆒、下符㆓川嶽㆒。〔注〕濟曰、上合㆓星象㆒者、三台星主㆓三公位㆒也。〔晉書、地理志上〕星象麗㆑天、山河紀㆑地。

【星象學】156′ セイシヤウガク 天文學の一分科。天體の幾何學的相互關係、位置・距離・大小、表面の狀態、空間內の運動（眞運動）、地球上から見た運動（視動）等を研究する學。測天學ともいひ、Astrometry の譯語。

【星日】157 セイジツ 星と日。天文をいふ。〔水經、河水注〕龍城故姜賴之虛、胡之大國也、蒲昌海溢、盪㆓覆其國㆒、城基尙存而至大、晨發㆓西門㆒、暮達㆓東門㆒、澮㆓其崖岸㆒、餘溜風吹、稍成㆓龍形㆒、西面向㆑海、因名㆓龍城㆒云云、類㆓霧起雲浮㆒、寡㆑見㆓星日㆒、少㆑禽多㆓鬼怪㆒。〔魏志、公孫瓚傳、注〕瓚表㆓紹罪狀㆒曰、紹令㆔崔巨業候㆓視星日㆒、財貨賂遺、與共㆓飲食㆒、克期㆓會合㆒、攻㆓鈔郡縣㆒、此豈大臣所㆓當宜㆑爲。

【星尺】158 セイシヤク 星を測る器。〔和漢三才圖會、藝器藝才類〕按、星尺所㆓以測㆑星器、用㆑板作㆓四分圓之扇形㆒、爲㆓九十度之象㆒。

【星若】159 セイジヤク 字號。㊀清、吳學炯（**2－3365**··480）の字。㊁清、陳炳（青浦の人）（**11－41698**··542）の字。㊂清、劉燦（**2－2224**··305）の字。

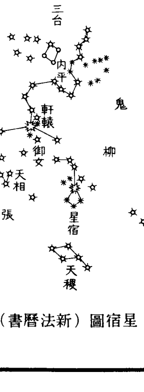
【星銖】160 セイシユ 僅かの金錢。〔宣和遺事、後集〕星銖無㆑餘。

【星衆】161 セイシユウ 星が多く見える。〔史記、天官書〕星者金之散氣、本曰㆑火、星衆國吉、少則凶。

【星聚】162 セイシユウ ㊀星があつまる。〔史記、高祖紀、注〕索隱述贊曰、龍變星聚、蛇分徑空。〔漢書、高帝紀上〕元年冬十月、五星聚㆓於東井㆒。㊁清、王毓賢（**7－20823**··1154）の字。

【星叔】163 セイシユク 字號。㊀清、許庚身（**10－35298**··250）の字。㊁清、周樹槐（**2－3441**··706）の字。

【星宿】164 セイシウ セイシユク ㊀星の位置を表はすための天球上の區劃。星のやどり。辰宿。星座（121）を見よ。〔漢書、劉向傳〕晝誦㆓書傳㆒、夜觀㆓星宿㆒、或不㆑寐達㆑旦。〔後漢書、臧國傳〕曉候㆓星宿㆒、豫知㆓年歲豐約㆒。〔玉海、天文、天文圖、日月交會圖〕周禮疏、指㆓星體㆒謂㆓之星㆒、日月所㆑會、名㆑宿、亦曰㆑辰、曰㆑次、曰㆑房。㊁二十八宿の一。朱鳥七宿の第四宿。七星あり。ほとほり。Alphard〔西步天歌、星宿〕星宿十星大小異、中間一巨首尾細、垂㆑頭曲㆑尾如㆓蛸形㆒、其上一白名㆓天紀㆒、紀下天稷五箇星、南隅一顆與㆑紀類。㊂山名。一名、昇仙山。四川省成都縣の北。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、成都縣、武擔山〕星宿山、在㆓城北㆒、唐咸通十一年、南詔寇㆓成都㆒、分㆑兵拒㆓援兵於新都㆒、將軍宋威大破㆑之、蠻退保㆓星宿山㆒。〔四川通志〕本名㆓星宿山㆒、唐咸通十一年、南詔寇㆓成都㆒、大將宋威敗㆑之、蠻退屯㆓星宿山㆒、梁開皇二年、王建講㆓武於星宿山㆒、卽此。㊃佛 シヤウシユク 印度の星占法。又、宿曜といふ。人界天界の一切の事實は恒に相反映して吉凶の相は宿曜に現はれ、且つ星宿の運行によつて人界の個人の運命が豫定されると信じて行はれたもの。二十八宿・十二宮・七曜の別があり、陰陽師・兵家・密教の占卜者等の間に傳播せらる。藏經中の宿命智陀羅尼經・宿命陀羅尼・文殊師利菩薩、及諸仙諸說吉凶時日善惡宿曜經・宿曜儀軌・七曜攘災決・七星如意輪



星宿圖（新法曆書）

祕要經・七曜星辰別行法等の諸經に記されて居る。㊄hsing^1 hsiu^4 運氣。

【星宿海】165 セイシュクカイ 湖の名。又、星宿川・鄂敦他拉・鄂端諸爾ともいひ、一に火敦腦兒に作る。青海省の境。〔宋史、河渠志二〕我世祖皇帝命二學士蒲察篤實一、西窮二河源一、始得二其詳一、今西番朶甘思南鄙曰二星宿海一者、其源也。〔元史、地理志六、河源附錄〕河源在二土蕃朶甘思西鄙一、有レ泉百餘泓、沮洳散煥、弗レ可二逼視一、方可二七八十里一、履二高山一下瞰、燦若二列星一、以レ故名二火敦腦兒一。

【星宿江】166 セイシュクカウ 川の名。一名、木奔江。源は雲南省羅次縣の南九湧山。元江に注ぐ。

【星宿劫】167 シャウシュクゴフ 佛未來大劫をいふ。此の劫中、佛の出興すること天の星宿のやうであるからかくいふ。〔雙槐歲鈔〕佛氏之書曰、過去名二莊嚴劫一、現在名二賢劫一、未來名二星宿劫一、謂二之三星一。〔佛祖統記、三十〕未來星宿劫、千佛出興、如二天星宿一。

【星宿菜】168 セイシュクサイ 草の名。こくせいさう。〔農政全書、三三、星宿菜考〕生二田野中一、作二小科一、苗生レ葉似二石竹子葉一而細小、又似二米布袋葉一微長、稍上開二五瓣小尖白花一、苗葉味甜。

【星宿川】169 セイシュクセン 星宿海の異稱。唐の侯君集が吐谷渾を討つた時、軍を次した所。

【星出】170 セイシュツ 星があらはれ出る。〔穀梁、莊、七〕恒星者、經星也、日入至二于星出一、謂二之昔一、不レ見者、可二以見一也。〔洞冥記、三〕帝常見二彗星一、東方朔折二指星之木一以授レ帝、帝以レ木指二彗星一、星尋則沒也、星出之夜、野獸皆鳴、別說謂二之獸鳴星一。〔庾信、周大將軍司馬裔神道碑〕既而雲生二伏龜一、星出二鯨魚一、太白經レ天、蚩尤映レ野。

【星術】171 セイジュツ 天文によつて吉凶を占ふわざ。占星術。〔五代史、南漢劉隱世家〕（周）傑恥下以二星術一事上レ人、常稱レ疾不レ起。

【星書】172 セイショ 天文に關するかきもの。〔南齊書、河南匈奴傳〕好二星文一、嘗求二星書一。

【星處】173 セイショ 星のやうにちりぢりばらばらにをる。〔南齊書、州郡志七〕凡諸流寓、本無二定憩一、十家五落、各自星處、一縣之民、散二在州境一、西至二淮畔一、東届二海隅一。

【星渚】174 セイショ ㊀星のなぎさ。天の河のなぎさ。〔蘇味道、詠レ虹詩〕紆餘帶二星渚一、窈窕架二天潯一。〔劉禹錫、和二樂天・微之深春一詩〕橋峻通二星渚一、樓暄近二日車一。〔王建、七夕曲詩〕流蘇翠帳星渚間、環珮無レ聲燈寂寂。〔鄭畋、題二王子晉廟一詩〕衣從二星渚一浣、丹就二日宮一燒。〔陸龜蒙、上雲樂〕便浮二天漢一泊二星渚一、回レ首笑君承露盤。㊁字號。㋑宋、趙景緯（**10－37171**‥496）の號。㋺永井襲の號。永井星渚（**6－17088**‥294）を見よ。

【星序】175 セイジョ 星の排列。轉じて、百官の位次。〔楊於陵、祭二權相公一文〕亟換二官榮一、屢移二星序一。

【星鍾】176 セイショウ 清、萬松齡（**9－31339**‥601）の字。

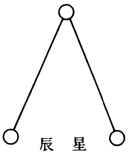
【星繩】177 セイジョウ 星の運行のみち。〔黃輝、日重光賦〕露渥晨疏、星繩漏轉。

【星色】178 セイショク 星の色。〔史記、天官書〕星色赤黃而沈、所レ居野大穰。

【星蝕】179 セイショク 月が星と地球との間に來つて、星が月のために掩隱されること。恒星が掩隱される時は恒星蝕といひ、遊星が掩隱される時は遊星蝕といふ。〔曆象圖說、舊本各天遠近次第圖說〕古志所レ稱星入レ月而不レ見レ星、爲二月蝕ㇾ星、是也、星入レ月而見レ星、爲二星蝕ㇾ月、非矣。

【星燭】180 セイショク 星のやうにてらす。〔張協、七命〕華草錦繁、飛采星燭。〔宋書、索虜傳〕船艦蓋レ江、旗甲星燭。〔江淹、爲レ蕭上二銅鐘芝草衆瑞一表〕臣以、祥緯雜沓、星燭波連。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕葉不二雲布一、華不二星燭一。

【星辰】181 セイシン ㊀ほしをいふ。又、其のやどり。辰宿。〔周禮、春官、保章氏〕志二星辰日月之變動一。〔禮、月令〕孟春、乃命二大史一、守レ典奉レ法、司二天日月星辰之行一、宿離不レ貸、毋レ失二經紀一、以レ初爲レ常。〔禮、祭法〕帝嚳能序二星辰一以著レ衆。〔中庸〕日月星辰繫焉。〔左氏、昭、元〕山川之神則水旱癘疫之災、於レ是乎禜レ之、日月星辰之神、則雪霜風雨之不レ時、於レ是乎禜レ之。〔孟子、離婁下〕天之高也、星辰之遠也、苟求二其故一、千歲之日至、可二坐而致一也。〔荀子、天論〕治亂天邪、曰、日月星辰瑞曆、是禹桀之所レ同也。〔管子、形勢解〕行二日月一、次二星辰一。〔淮南子、墬形訓〕昭レ之以二日月一、經レ之以二星辰一。㊁星は四方の中星、辰は日月の會する所。〔書、堯典〕曆二象日月星辰一、敬授二人時一。〔傳〕星、四方中星、辰、日月所レ會。〔疏〕四方中星、揔謂二二十八宿一也、日行遲、月行疾、毎月之朔、月行及レ日而與レ之會、其必在二宿分一、二十八宿是日月所レ會之處、辰、時也、集會有レ時、故謂二之辰一、日月所レ會與二四方中星一、俱是二十八宿、擧二其人目所ㇾ見、以レ星言レ之、論二其日月所ㇾ會以レ辰言レ之、其實一物、故星辰共レ文。㊂星命家の語。天星をいふ。星煞（130）を見よ。㊃天子十二章の一。十二章（**2－2695**‥376）を見よ。〔書、益稷〕日・月・星辰・山・龍・華蟲。〔傳〕日月星爲二三辰一。



（四書引蒙略圖解）

【星辰爲二珠璣一】182 セイシンハシュキタリ 星はたまである。珠は水中に產する圓い玉、璣は圓くない玉。〔莊子、列禦寇〕日月爲二連璧一、星辰爲二珠璣一。

【星辰固有レ列】183 セイシンハモトヨリレツアリ 星はもとから列をなしてゐる。〔莊子、天道〕日月固有レ明矣、星辰固有レ列矣。

【星津】184 セイシン 星のやどり。星次。〔陳叔寶、七夕宴玄圃各賦五韻詩〕星津雖レ可レ望、詎得レ似二人情一。〔溫庭筠、蓮花詩〕綠塘搖灩接二星津一、軋軋蘭橈入二白蘋一。

【星森】185 セイシン 星のやうにつらなりならぶ。森は多くつらなる意。〔李長春、經筵賦〕端揆趨蹌而鵠侍、百僚環拱而星森。

【星讖】186 セイシン 天文及び未來記。天文符讖の書。〔晉書、石季龍載記上〕不レ得三私學二星讖一。

【星數】187 セイスウ 星のかず。〔公羊、桓、八、祭公者何、天子之三公也、注〕天子置二三公・九卿・二十七大夫・八十一元士、凡百二十官一、下應二十二子一。〔疏〕宋氏云、十二次上爲レ星、下爲二山川一也、此言三天子立二百二十官一者、非三直上紀二星數一、亦下應二十二辰一、故曰三下應二十二子一也。〔唐書、歷志三上〕何承天、反覆相求、使三氣朔之母、合二簡易之率一、而星數不レ得二同元一矣。

【星樞】188 セイスウ 北斗の第一星。樞星。〔宋書、明帝陳貴妃傳〕伏惟貴妃含二和日晷一、表二淑星樞一、徽音峻レ古、柔光照レ世。

【星井】189 セイセイ 井の形をした星宿。〔鮑溶、聞レ蟬詩〕星井欲レ望レ河、月扇看二藏笥一。〔吳浩、石渠閣賦〕若稽二厥初一、赤帝啓造、星井應レ符、賁文斯兆。

【星星】190 セイセイ ㊀ぽつぽつと白いさま。〔左思、白髮賦〕星星白髮、生二于鬢垂一。〔謝靈運、遊二南亭一詩〕戚戚感レ物嘆、星星白髮垂。〔歐陽脩、秋聲賦〕宜其渥然丹者爲二槁木一、黟然黑者爲二星星一。〔琵琶記、高堂稱慶〕人老去星星非レ故、春又來年年依レ舊。㊁こまかいもの。ぽつぽつ。點點。〔皮日休、病孔雀詩〕盡日春風吹不レ起、鈿毫金縷一星星。

【星星峽】191 セイセイケフ 峽の名。甘肅省より新疆省に入る要害。俗に訛つて猩猩といふ。新疆省哈密縣の東南。

【星星點點】192 hsing^1 hsing^1 tien^2 tien^3 小さいものの列る形容。ぽつぽつ。

【星勢】193 セイセイ 星の樣子。星のありさま。〔李商隱、謝先輩防記二念拙詩一甚多、異日偶有二此寄一詩〕星勢寒垂レ地、河聲曉上レ天。

【星精】194 セイセイ 星の精。〔春秋緯運斗樞〕王衡星精散爲レ柏。〔春秋鉤命決〕蕭何爲二昴星精一。〔列仙傳、下、東方朔〕智者疑二其歲星精一也。〔庾信、周太子少保步陸逞神道碑銘〕祥符二雲氣一、慶合二星精一。〔宋書、符瑞志〕舜等升二首山一、遵二河渚一、有二五老一遊焉、蓋五星之精也。〔摭言〕賀知章謂二李白一曰、公非二人世人一、豈非二太白星精一耶。〔典術〕杏者東方歲星之精也。

【星沼】195 セイセウ 星のかがやく池。〔吳融、池上雙鳧詩〕不レ在二籠欄一夜仍好、月汀星沼剩徘徊。

【星川】196 セイセン 本莊一謙の號。本莊星川（**6－1442**1‥369）を見よ。

【星占】197 セイセン ほしうらなひ。星の光や位置でうらなふこと。〔後漢書、唐檀傳〕尤好二灾異星占一。

【星節】198 セイセツ 星の運行のみち。〔郝經、春夜詩〕歲月躔二星節一。

【星石】199 セイセキ 夜間などに空中から落下する石。隕石。〔梁簡文帝、答三湘東王上二王羲之一書〕似レ望二城扉一、如レ瞻二星石一。

【星箭】201 セイセン ㊀星の矢。卽ち流星をいふ。〔唐太宗、秋日卽事詩〕落野飛二星箭一、弦虛半月弓。㊁水時計の目盛を刻んだ矢。〔韓琦、再和レ題二休逸

臺一詩〕銅壺報レ刻綬二星箭一、金針送レ酒排二花行一。

【星俎】202セイソ　美しい牲を載せて薦める器。〔樂府詩集、漢宗廟樂舞辭、顯仁舞〕雲軿臨降久、星俎薦二陳豐一。

【星疎】203セイソ　星のまばらなこと。〔貫休、苦吟詩〕河薄星疎雪月孤、松枝清氣入二肌膚一。

【星宗】204セイソウ　多くの星の中心をなすもの。北極星をいふ。〔天象星圖〕北辰爲二星宗一。

【星叟】205セイソウ　清、吳農祥(**2**－**3365**··814)の號。

【星速】206セイソク　星の夜にいそいで行くこと。〔南齊書、始安王遙光傳〕使二遙欣便星速急下一、潛謀將レ發。

【星屬】207セイゾク　星のつらなりつづくこと。多いことをいふ。〔後漢書、南匈奴傳論〕孝武亟興二邊略一、有レ志二匈奴一、赫然命レ將、戎旗星屬。〔注〕如二衆星之相連屬一、言二其多一。

【星村】208セイソン　清、魯璸(**12**－**46013**··121)の字。

〖星村居士〗209セイソンコジ　清、魯璸(**12**－**46013**··121)の號。

【星墮】210セイダ　星がおちる。〔孟郊、躑躅詠〕迸火燒二閒地一、紅星墮二青天一。〔虞集、題レ畫詩〕老蛟欲レ起風雨來、星墮二天河一化爲レ石。

【星帶】211セイタイ　古器の飾。四方に星の形を飾りとすること。〔遊宦紀聞〕辨二古器製作一、有二篆帶星帶之類一。〔注〕篆帶、若二蚪結之勢一、星帶、四旁飾以二星象一。

【星替】212セイタイ　星がかはる。〔李商隱、李夫人詩〕慚愧白茅人、月沒教二星替一。

【星臺】213セイダイ　❶立派なうてな。役所の美稱。〔陳子昂、春臺引〕星臺秀士、月二旦諸子一。〔王諲、花萼樓賦〕擇二仙郎一爲二清選之官一、闢二星臺一爲二明試之所一。❷天文臺。觀象臺。〔嵩高志〕觀星臺在二測景臺北一、高五丈、闊三丈。

【星堂】214セイダウ　清、梁垣光(**6**－**14825**··214)の字。

【星道】215セイダウ　星の運行のみち。〔謝莊、七夕夜詠二牛女一應制詩〕容裔泛二星道一、逶迤濟二煙潯一。

【星坼】216セイタク　星のわれさけること。〔溫庭筠、王相林亭詩〕星坼悲二元老一、雲歸送二墨仙一。

【星闥】217セイタツ　朝廷をいふ。闥は宮中の小門。〔蘇頲、授二秦守一萬年縣令一制〕星闥副二於求レ郎、河東美二其爲レ宰。

【星淡】218セイタン　星のひかりのあはいこと。〔陸龜蒙、中秋待レ月詩〕最愛笙調聞二百里一、漸看二星淡一失二南箕一。〔郝經、聽角行〕疎星淡不レ芒、破月冷無レ色。

【星鐔】219セイタン　星の模樣があるつば。〔酉陽雜俎、器奇〕鄭雲逵、少時得二一劍一、鱗鋏星鐔、有レ時而吼。

【星灘】220セイタン　小さい早瀬。〔楊維楨、追三和鮮于公寄二山齋先生釣石一詩〕星灘分得小雙臺、不レ染東華半點埃。

【星團】221 hsing^1 t'uan^2　無數の小星が一片の白雲のやうに密接に簇り聚つたもの。大力天文鏡で其の無數の小星を觀測し得るもの。

【星壇】222セイダン　星を祭る壇。〔陶翰、望二太華一贈二盧司倉一詩〕蔥龍記二星壇一、明滅數二雲嶂一。〔蜀太妃徐氏、題二彭州陽平化一詩〕晩從二水潤一聽二松韻一、夜上二星壇一看二月明一。〔宣和書譜、六〕道士梁元一、云云、丹藥之暇、尤善二翰墨一、云云、然其法嚴、其氣逸、其格清、其嚴也若三秉レ簡而立二星壇一、其逸也若三御レ風而揮二八極一、其清也若三秋霄之飮二沆瀣一。

【星馳】223セイチ　❶星の飛ぶやうに急いで行く。〔潘岳、世祖武皇帝誄〕羽檄星馳、鉦鼓日戒。❷星の夜に急いで行く。〔張羽、曉過二淮陰一詩〕軍城鐵鎖曉開レ關、使節星馳未二敢閑一。

【星置】224セイチ　官名。主事の異稱。〔稱謂錄、主事、星置〕叩鉢齋集、主政亦稱二主曹一、又稱二星置一。

【星稠】225セイチウ　星のやうに美しく多い。〔宋書、謝靈運傳論〕縟旨星稠、繁文綺合。〔注〕星稠綺合、喩二文章秀媚一。

【星張】226セイチャウ　星宿の名。朱雀に屬する二十八宿中の張と星との二宿。〔成公綏、天地賦〕玄龜匿二首于女虛一、朱鳥奮二翼于星張一。

【星柱】227セイチユウ　星のやうに美しい柱。〔張良器、集靈臺賦〕其爲レ麗也、崢嶸郁煜、星柱浮兮、雲楣肅狀、靈光與二景福一。

【星駐】228セイチユウ　星がとどまる。〔薛逢、元日樓前觀レ仗詩〕星駐二冕旒一三殿曉、雲翻二珠翠一六宮來。

【星沈】229セイチン　星がしづむ。〔蕭子良、梧桐賦〕亦結二實於星沈一。〔李商隱、碧城詩〕星沈二海底一當レ牕見、雨過二河源一隔レ座看。〔曹唐、小遊仙詩〕樹下星沈月欲レ高、前溪水影濕二龍毛一。

【星陳】230セイチン　❶朝早く車をならべて出發の用意をすること。早朝に出發するをいふ。星駕。〔曹植、應詔詩〕星陳夙駕、秣レ馬脂レ車。〔注〕毛詩曰、星言夙駕。〔潘尼、贈三陸機出爲二吳王郎中令一詩〕星陳夙駕、載脂載轄。〔注〕良曰、星陳夙駕、言二早發一也。❷群臣が星のやうに並ぶこと。〔揚雄、甘泉賦〕星陳而天行。〔注〕良曰、星陳、謂二羣臣陳列如一レ星。

【星圖】231セイヅ　恒星の位置を記した圖。〔後漢書、律曆志中〕星圖有二規法一。

【星墜】232セイツイ　❶星がおちる。星隊。〔荀子、天論〕星隊木鳴、國人皆恐。〔史記、天官書〕星墜至レ地則石也、河濟之閒、時有二墜星一。❷聖賢將軍などの死をいふ。星隕(12)の❷・星落(324)を見よ。〔十八史略、三、三國、蜀、後皇帝〕亮病篤、有二大星一、赤而芒、墜二亮營中一、未レ幾亮卒。

【星鎚】233セイツイ　かなづちの形容。〔李華、含元殿賦〕星鎚電二交於萬堵一、霜鋸冰二解於千尋一。

【星鳥】234セイテウ　二十八宿中の鳥宿。春分の日の初昏の時、南に見はれる中星で、井・鬼・柳・星・張・翼・軫の朱鳥七宿をいふ。〔書、堯典〕日中星鳥。〔傳〕日中、謂二春分之日一、鳥南方朱鳥七宿、殷正也、春分之昏、鳥星畢見、以正二仲春之氣節一、轉以推二季孟一則可レ知。〔魏文帝、柳賦〕盛德遷而南移兮、星鳥正而司分。〔梁元帝、耕種令〕時惟星鳥、表二年祥於東秩一、春紀宿龍、歌歲取二於南畯一。

【星的】235セイテキ　婦人の面飾。華的。圓的。龍的。龍䵴。〔靚粧錄〕華的一作二圓的一、又曰二星的一。〔丹鉛總錄〕仙經云、鮑姑以レ艾灼二龍女額一、後人效レ之、謂二之龍的一、的亦作レ䵴、今婦人面飾曰二龍䵴一、蓋以二龍女一況レ之、又曰二星的一。

【星哲】236セイテツ　星のやうにあきらかなこと。〔南齊書、樂志〕凝馨煙颺、分照星哲。

【星綴】237セイテツ　星をつらねる。玉などの美しい形容。〔元稹、鎭圭賦〕映二冕旒一則璿樞星綴、閒二黼黻一而瓊枝花擁。

【星鰈】238ホシガレヒ　ほしがれひ。甘鰈。〔和漢三才圖會、江海無鱗魚、鰈〕星鰈、一名甘鰈、裏白、皮有二黑點一者、其大者尺余、小者五六寸。

【星點】239セイテン　星のやうに點々とあるをいふ。〔韓愈、陪二杜侍御一遊二湘西兩寺一云云詩〕山樓黑無レ月、漁火燦星點。〔賈島、題二戴勝一詩〕星點花冠道士衣、紫陽宮女化身飛。

【星轉】240セイテン　星が轉じ移ること。〔漢書、天文志〕日東行、星西轉。〔李嶠、大周降禪碑〕雷動海運、天迴星轉。〔徐彥伯、奉四和送三金城公主適二西蕃一應制詩〕星轉銀河夕、花移玉樹春。〔李商隱、當句有レ對詩〕三星自轉三山遠、紫府程遙碧落寬。〔宋史、樂志十六〕斗移星轉、一氣又環周。

【星纏】241セイテン　❶星のやうにまとひつく。〔顏延之、赭白馬賦〕寶鉸星纏、鏤章霞布。❷清、張應均(**4**－**9812**··834)の字。

【星躔】242セイテン　❶星の宿り。星度。〔駱賓王、帝京篇〕五緯連レ影集二星躔一、八水分レ流橫二地軸一。〔箋注〕躔、星之躔次也。〔宋史、韓顯符傳〕星躔曉然易レ辨。❷清、張應均(**4**－**9812**··834)の字。

【星傳】243セイデン　急な時に出す宿驛の馬。はやうちの馬。飛傳。〔權德輿、送三崔端公赴二度支江陵院一三韻詩〕星傳指二湘江一、瑤琴多二楚調一。

【星斗】244セイト　ほしをいふ。斗は星宿の名。〔晉書、元帝紀論〕馳レ章獻レ號、高蓋成レ陰、星斗呈レ祥、金陵表レ慶。〔方干、送三人遊二日本國一詩〕波濤含二左界一、星斗定二東維一。〔傳昂霄、江行詩〕燕子磯頭中夜起、一天星斗大江寒。

【星土】245セイド　中國の九州の地を其の位置に應ずる天の星座に配すること。〔周禮、春官、保章氏〕以二星土一辨二九州之地一、所レ封封域、皆有二分星一、以觀二妖祥一。〔注〕星土、星所レ主土也。〔疏〕此經論二北斗及二十八宿、所レ主九州及諸國封域之妖祥、所レ在之事一。

【星度】246セイド　星辰運行の度合。〔史記、歷書〕乃者、有司言二星度一之未レ定也。〔後漢書、謝夷吾傳〕推二考星度一、綜二校圖錄一。

【星兜】247ホシカブト　兜の鉢に霰のやうな粒の列つたかねかぶと。〔類聚名物考、武備部〕星兜、云云、星甲は地板と地板とを重ねて、其所を鋲にてしめたる、その釘の頭を外へ出したるをいふ也。

【星鬭】248セイトウ　星が相たたかふ。星と星とが互に其の座を侵すことをいふ。〔後漢書、襄楷傳〕夫

天子事レ天不レ孝、則日食星鬭、比年日食二於正朔一、三光不レ明、五緯錯戾。

【星動】249（セイドウ） 星がうごく。星が移動する。〔晉書、天文志上〕斗建之閒、三光道也、星動則衆勞。〔周書、武帝紀上〕民亦勞止、則星動二於天一、作レ事不レ時、則石言二於國一。〔杜牧、送二陸洿郎中東歸一詩〕少微星動照二春雲一、魏闕衡門路自分。〔羅隱、寄二制誥李舍人一詩〕門閑知二待詔一、星動想二濡毫一。〔方干、寄二李頻一詩〕思苦文星動、鄕遙釣渚閑。

【星德】250（セイトク） 萬物を生ずるを好む德をいふ。〔管子、四時〕東方曰レ星、其時曰レ春、其氣曰レ風、風生二木與レ骨、其德喜レ羸、而發二出節時一、其事號令修二除神位一、謹二禱弊梗一、宗レ正レ陽、治二隄防一、耕芸樹藝、正二津梁一、修二溝瀆一、甃レ屋行レ水、解レ怨赦レ罪、通二四方一、然則柔風甘雨乃至、百姓乃壽、百蟲乃蕃、此謂二星德一。〔纂詁〕此謂二好レ生之德一也。

【星訥】251（セイトツ） 清、滿洲正白旗人。姓は覺爾察氏。天聰の閒、察哈爾・黑龍江を征し、錦州を圍み、洪承疇の兵を擊破し、工部承政に擢んでらる。順治の初、關に入り李自成を破り、陝西・四川を平定し、後、工部尙書・兼議政大臣に累官した。〔清史稿、二百四十七〕・〔清史列傳、六〕・〔國朝耆獻類徵、四十一〕。

【星遯】252（セイトン） 星のやうにすみやかにのがれかくれる。〔李白、溧陽瀨水貞義女廟碑〕子胥始東二奔勾吳一、月涉星遯、或七日不レ火、云云、逼二迫於昭關一、匍二匐於瀨渚一。

【星南】253（セイナン） 清、查祥(**6－14643**・・33)の字。

【星坡】254（セイハ） 清、陸奎勳(**11－41708**・・303)の號。

【星孛】255（セイハイ） 星の名。はうきぼし。〔左氏、昭、十七〕冬有レ星孛二于大辰西一、及レ漢、申須曰、彗所二以除レ舊布レ新也。〔注〕今孛星出二辰西一、光芒東及二天漢一。〔漢書、王莽傳下〕星孛掃二宮室一、劉氏當二復興一。〔後漢書、馬融傳〕星二孛參畢一。

【星旆】256（セイハイ） 星の模樣を畫いた旗。〔梁書、高祖丁貴嬪傳〕策文曰、啓二丹旗之星旆一、振二容車之黼裳一。〔宇文炅、陪三駕幸二終南山一詩〕日旗迴二北鳳一、星旆轉二南鴻一。

【星背】257（セイハイ） 星がはなれ去る。〔溫庭筠、奉天西佛寺詩〕星背二紫垣一終掃レ地、日歸二黃道一却當レ天。

【星茀】258（セイハイ） 星孛に同じ。〔史記、天官書〕朝鮮之拔、星茀二于河戍一、兵征二大宛一、星茀二招搖一。〔注〕索隱曰、茀音佩、卽孛星也。

【星亡】259（セイバウ） ❶星が見えないこと。〔漢書、京房傳〕臣前白、九年不レ改、必有二星亡之異一、臣願出二任良一試二考功一、臣得レ居レ內、星亡之異可レ去。〔注〕孟康曰、晝食爲レ既、夜食爲レ盡、而星亡爲二星不レ見也。❷宰相・將軍等の死をいふ。〔庾信、周大將軍崔訦神道碑銘〕諸侯地裂、邊將星亡。

【星芒】260（セイバウ） 星の光。〔張正見、艷歌行〕彎レ弧貫二月影一、學レ劍動二星芒一。〔庾信、奉三報寄二洛州一詩〕星芒一丈燄、月暈七重輪。

【星房】261（セイバウ） 星の部屋。〔羅隱、七夕詩〕月帳星房次第開、雨情惟恐曙光催。

【星昴】262（セイバウ） 二十八宿中の昴星。冬至の日、初昏の時の中星。〔書、堯典〕日短星昴。〔傳〕日短、冬至之日、昴、白虎之中星、亦以二七星並見一、以正二冬之三節一。〔張說、安樂郡主花燭行〕星昴殷冬獻二吉日一、天桃穠李遙相匹。

【星旄】263（セイバウ） 旄牛の尾で作った旗に星文の飾りあるもの。〔揚雄、甘泉賦〕流二星旄一以電燭兮、咸翠蓋而鸞旗。〔注〕銑曰、旄以二旄牛尾一爲レ之、飾以二星文一。

【星甍】264（セイバウ） 星のやうに美しくしきつめたかはら。〔梁周翰、五鳳樓賦〕星甍櫛堵、我民之廬、海漕山廥、我田之祖。

【星白】265（セイハク） ❶明、錢應金(**11－40563**・・257)の字。❷（ホシジロ） ㋑星を銀で作った兜。ほしじるかぶと。〔庭訓往來、六月〕星白・龍頭・四方白甲。㋺鹿の上毛にある白い斑點。

【星伯】266（セイハク） 字號。❶明、畢拱辰(**7－21829**・・86)の字。❷清、徐松(**4－10110**・・167)の字。

【星發】267（セイハツ） 朝立ちする。星を戴いて出發する。早朝の出立。〔資治通鑑、晉紀〕(海西公、太和五年)吾當下親督二萬衆一、繼中卿星發上。〔注〕星發、謂二戴レ星而發行一也。

【星髮】268（セイハツ） 星のやうにまばらにある白髮。〔何遜、白髮詩〕惟此星星髮、獨與二衆中一殊。

【星泛】269（セイハン） 星がうかび映る。〔薛逢、夏夜宴二明月湖一詩〕月搖二天上桂一、星泛二浦中珠一。

【星畔】270（セイハン） 星のほとり。〔殷文圭、初秋留二別越中幕客一詩〕月中青桂漸看レ老、星畔白楡還報レ秋。

【星斑】271（ホシマダラ） ❶星のやうな斑點のあるもの。〔安法法師集〕大空にこめたる菊の籬かも、ほしまだらにて花の見ゆるは。❷星のやうな斑點のある牛馬の毛色。〔倭名抄、牛馬毛〕犴牛、保之萬太良、牛色駁如レ星也。

【星飯】272（セイハン） 夜晚く星が出てから食事をする。〔舊唐書、張廷珪傳〕朝驅暮役、勞レ筋苦レ骨、簞食瓢飲、晨炊星飯。〔李頎、晚歸二東園一詩〕樵者乘レ霽歸、野夫及レ星飯。

【星繁】273（セイハン） ❶星のやうに多い。〔張協、七命〕千鍾電釂、萬燧星繁。〔注〕翰曰、星繁、言二火多一也。❷星が多い。〔元稹、秋夕遠懷詩〕星繁河漢白、露逼衾枕淸。

【星晚】274（セイバン） 星のある夜。星夜(315)に同じ。〔宋書、周朗傳〕室閒軒左、幸有二陳書十篋一、席隅奧右、頗得二宿酒數壺一、按レ絃拭レ徽、讐方校石、時復陳レ局、露初奠爵、星晚驪然不レ覺、是羲軒後也。

【星盤】275 hsing^1 p'an^2 ❶磁石盤。❷方針。

【星妃】276（セイヒ） 織女星をいふ。〔李商隱、燕臺詩〕直教三銀漢墮二懷中一、未レ遣二星妃鎭來去一。〔王初、銀河詩〕猶殘仙媛湔二帬水一、幾見星妃度二襪塵一。〔歐陽脩、荷花賦〕迫而視レ之、靚若二星妃臨レ水、而脈脈盈盈、遠而望レ之、杳如二峽女行雲一、而朝朝暮暮。

【星飛】277（セイヒ） 星が飛ぶ。轉じて、すみやかに飛ぶこと。疾飛。〔張協、七命〕氣盛怒發、星飛電駭。〔庾信、周上柱國齊王憲神道碑〕公述二職巡御一、治二兵朔方一、馬邑星飛、龍城月動。〔金丹、柱杖詩〕杖頭活用向レ誰知、電走星飛已大遲。〔金丹、大要詩〕閉レ門塞レ兌得レ羸レ金、電掣星飛何處尋。〔韋應物、始建二射侯一詩〕星飛的屢破、鼓譟武更揚。

【星微】278（セイビ） 星のやうに小さい。〔王筠、蜀葵花賦〕既扶疎而雲蔓、亦灼爍而星微。

【星畢】279（セイヒツ） 二十八宿の一。雨降り星。月が畢星に附けば雨が降るといふ。〔左思、蜀都賦〕雖二星畢之滂沱一、尙未レ齊二其膏液一。〔高允、鹿苑賦〕祈二龍宮一以降レ雨、佇二膏液于星畢一。

【星謐】280（セイヒツ） 星が靜まる。〔王勃、拜二南郊一頌〕雲藏星謐、宇曠山明。

【星蹕】281（セイヒツ） 天子の行幸のみちすぢ。〔趙彥昭、奉三和幸二白鹿觀一應制詩〕雲驂驅二半景一、星蹕坐二中天一。

【星鬢】282（セイヒン） 白髮をいふ。星髮(268)に同じ。〔謝朓、詠風詩〕時拂二孤鸞鏡一、星鬢視二參差一。〔盧照鄰、宿二普安寺一詩〕泛豔月華曉、徘徊星鬢垂。〔盧照鄰、和二王奭秋夜有レ所レ思詩〕勞歌欲レ有レ和、星鬢已將レ垂。

【星布】283（セイフ） 星のやうにちらばりしく。星散。羅布。〔後漢書、張衡傳〕屯騎羅而星布。〔宋之問、上巳泛二舟昆明池一序〕翠幕星布、錦帆霞屬。

【星浮】284（セイフ） 星がうかぶ。〔庾信、周車騎大將軍賀婁公神道碑〕江波錦落、火井星浮、樽酒望レ帝、安歌二蜀侯一。

【星赴】285（セイフ） 星の飛ぶやうにすみやかにおもむく。〔宋書、臧質傳〕家國夷險、情事異常、豫是臣子、孰不三星赴而玩レ寇忘レ哀、曾無二奔拽一。

【星敷】286（セイフ） 星のやうにつらなる。〔申時行、瑞蓮賦〕星敷電發、霧變霞蒸、觸レ景而生レ態、隨レ物而賦レ形。

【星鶩】287（セイブ） 星のやうにはやくはしる。〔傅玄、晉宣武舞歌、短兵篇〕電發星鶩、若レ景若レ差。

【星佛】288（ホシボトケ） 日曜・月曜・木曜・水曜・火曜・羅睺・計都等を佛像のやうに刻んだもの。古、陰曆十二月十三日、之を買ひ、歸依の僧を請じて祭つた。之を星佛祭といふ。

【星沸】289（セイフツ） 星のやうにわく。〔張協、七命〕乃有二荆南烏程・豫北竹葉一、浮蟻星沸、飛華萍接。

【星噴】290（セイフン） 星のやうに點々とふき出る。〔劉禹錫、秋螢引〕紛綸暉映平明滅、金鑪星噴燈花發。

【星分】291（セイフン） 星の分布。〔顏延之、夏夜呈二從兄散騎車長沙一詩〕獨靜闕二偶坐一、臨レ堂對二星分一。〔注〕善曰、周禮曰、以レ星分レ夜。

【星分度】292（ホシノブンド） 星の分度。角は十二度、亢は九度等をいふ。〔淮南子、天文訓〕星分度、角十

二、亢九云云。

【星文】293 セイブン　星のあや。星の現象。〔南齊書、虞愿傳〕星文災變、不レ信二太史一、不レ聽二外奏一。〔顏氏家訓、雜藝〕世網嚴密、強負二此名一、便有二詿誤一、亦禍源也、及二星文風氣一、率不レ勞爲レ之。〔陸雲、吳故丞相陸公誄〕公侯作レ弼、煥炳星文。〔楊炯、出塞詩〕明堂占二氣色一、華蓋辨二星文一。〔王維、老將行〕試拂二鐵衣一如二雪色一、聊持二寶劍一動二星文一。〔李白、侍三從遊二宿溫泉宮一作詩〕羽林十二將、羅列映二星文一。

【星璧】294 セイヘキ　星のやうに點々とある美しい玉。〔龍鑄、山谷透絹帖詩〕清潭錯落印二星璧一、大澤縱橫散二龍蛻一。

【星變】295 セイヘン　星の變異。〔史記、天官書〕日變修レ德、月變省レ刑、星變結レ和。〔吳志、劉惇傳〕建安中、孫權在二豫章一時、有二星變一、以問レ惇、惇曰、災在二丹楊一。〔晉書、梁孝王彤傳〕趙王倫輔レ政、有二星變一、占曰、不レ利二上相一、孫秀懼二倫受一レ災、乃省二司徒一爲二丞相一、以授レ彤猥加二崇進一、欲二以應一レ之、或曰、彤無レ權不レ益也、彤固讓不レ受。〔張鏡、觀象賦〕尋二圖書之所一レ記、著二星變乎書契一。

【星步】296 セイホ　㊀星の運行。〔韋渠牟、步虛詞〕雲行疑レ帶レ雨、星步欲レ凌レ風。㊁星の運行によつて吉凶禍福を推測すること。步は推步、推測の意。天文を推算すること。〔唐書、紀王愼傳〕少好レ學、善二星步一、與二越王一齊レ名、當世號二紀越一。〔唐書、令狐楚傳〕客以二星步鬼神一進者、一不レ接。

【星甫】297 セイホ　元、黃庚（**12－47926**‥119）の字。

【星鋪】298 セイホ　星をならべたやうなもの。〔李那、與二徐陵一書〕麗藻星鋪、彫文錦縟。

【星眸】299 セイボウ　小さいひとみ。〔宣和遺事、前集下〕星眸與二秋水一爭レ光、素臉共二春桃一鬭レ艷。〔夏原吉、麒麟賦〕星眸眩兮焜燿、龜文燦兮煜熠。

【星卜】300 hsing¹ pu³　星を見て吉凶を卜ふ。

【星奔】301 セイホン　星の飛ぶやうに疾く走る。〔吳志、陸抗傳〕舳艫千里、星奔電邁。〔劉琨、答二盧諶一詩〕裹レ糧攜レ弱、匍匐星奔。

〖星奔川鶩〗302 セイホンセンブ　星の飛ぶやうに奔り、川の流れるやうに走る。〔劉峻、廣絕交論〕靡レ不二望レ影星奔、藉レ響川鶩一。

【星翻】303 セイホン　星がとぶ。〔張說、江路憶レ郡詩〕霧歛江早明、星翻漢將沒。

【星邁】304 セイマイ　星のやうにすみやかに行くこと。〔魏書、南安王楨孫熙傳〕臣親總二三軍一、星邁赴レ難、置二兵溫城一、伏聽二天旨一。〔魏明帝、善哉行〕兼レ塗星邁、亮茲行阻。

【星沫】305 セイマツ　星のやうな飛沫。〔王道昆、九龍池詩〕星沫縣二河鼓一、風吹動二石鯨一。

【星民】306 セイミン　宋、向拱（**2－3301**‥10）の字。

【星名】307 セイメイ　星の名。〔日知錄、星名〕今天官家所レ傳星名、皆起二於甘石一、如二郎將羽林三代以下之官、左更右更三代以下之爵、王良造父三代以下之人、巴蜀河間三代以下之國一、春秋時無二此名一也。

【星命】308 セイメイ　人の生年月日時を以て運命を推算し、吉凶を判斷する法。〔三命通會、總論星命〕星命之說、漢有二太乙星子等書一、推二數行一以論二吉凶一、見二於藝文志一。

〖星命淵源〗309 セイメイエンゲン　書名。五卷。編者不明。通元遺書・果老問答・元妙經解・觀星要訣・觀星心傳口訣補遺の五種あり。概して唐の張果の說を推衍したもので、五星を談ずるものはこの書を祖とする。〔四庫提要、子、術數類〕。

〖星命總括〗310 セイメイソウクワツ　書名。三卷。遼、耶律純撰。術數の書。〔四庫提要、子術數類〕。

【星明】311 セイメイ　星の光があかるい。星が明かに輝く。〔晉書、天文志上〕星明則王者行二五禮一、得二天之中一。〔宋書、禮志一〕月照星明、雖レ夜猶レ晝矣。

【星滅】312 セイメツ　星がきえる。〔謝惠連、詠レ冬詩〕七宿乘レ運曜、三星與レ時滅。〔李羣玉、君山看レ月詩〕氣射二繁星一滅、光籠二八表一寒。

〖星滅光離〗313 ホシホロビヒカリハナル　友人の間の不和になるをいふ。〔傅玄、昔思君篇〕昔君與レ我兮金石無レ虧、今君與レ我兮星滅光離。

【星門】314 セイモン　軍門。陣所の門。〔楊炯、送二劉校書從一レ軍詩〕天將下二三宮一、星門召二五戎一。〔事物異名錄、禮制、軍門〕山堂肆考、軍門曰二星門一、唐詩、星門列二五戎一。

【星夜】315 セイヤ　星のよく見える夜。ほしづきよ。夜間。〔吳志、呂岱傳〕岱自表輒行、星夜兼レ路。〔晉書、潘岳傳〕行者貪レ路、告レ糴炊爨、皆以二昏晨一、盛夏晝熱、又兼二星夜一。〔梁元帝、別二勅王僧辯一〕公宜下率二貔虎一星夜就レ路、倍レ道兼レ行、赴中倒懸上也。〔水滸傳、一回〕星夜臨レ朝、就二京師禁院一。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕人盡銜レ枚、馬皆勒レ口、星夜起發。

【星榆】316 セイユ　天に植ゑられてゐる榆。多くの星をいふ。〔劉憲、奉下和聖製登二驪山高頂一寓目上應制詩〕直城如二斗柄一、宮樹似二星榆一。〔王初、卽夕詩〕風幌涼生白袷衣、星榆纔亂絳河低。

【星翼】317 セイヨク　二十八宿の一。翼星。〔徐彥伯、南郊賦〕崇二泰壇一考二星翼一、畫二八卦一以通レ道、錯二五行一而辨レ域。

【星羅】318 セイラ　星のやうに列りならぶ。碁布。〔晉書、石季龍載記下〕烽炬星羅、光燭如レ晝。〔南齊書、孔稚珪傳〕今宜下早發二大軍一、廣張二兵勢一、徵二犀甲於岷嵯一、命二樓船於浦海一、使丙自レ青徂レ豫、候騎星羅、沿レ江入レ漢、雲乙陣萬里甲。〔陸機、從軍行〕胡馬如レ雲屯、越旗亦星羅。

〖星羅雲布〗319 セイラウンプ　星のやうに列り、雲のやうに並ぶ。物の並列してゐるさま。〔班固、西都賦〕列卒周匝、星羅雲布。

【星狼】320 セイラウ　狼をいふ。天界に狼星があるところからいふ。〔唐玄宗、校二獵義成一喜レ逢二大雪一云云詩〕月兔落二高矰一、星狼下二急箭一。

【星郎】321 セイラウ　郎官の異稱。郎官は天の星宿に應じてゐるとせられたからいふ。〔後漢書、明帝紀〕館陶公主爲レ子求レ郎、不レ許、而賜二錢千萬一、謂二羣臣一曰、郎官上應二列宿一、出宰二百里一、苟非二其人一、則民受レ殃。〔注〕史記曰、太微宮後二十五星、郎位也。〔岑參、送三李別將攝伊吾令充レ使赴二武威一便寄二崔員外一詩〕遙知竹林下、星使對二星郎一。

【星朗】322 セイラウ　星があきらかに輝く。〔淮南子、泰族訓〕天致二其高一、地致二其厚一、月照二其夜一、日照二其晝一、陰陽化、列星朗、正二其道一而物自然。〔李白、上二崔相百憂章一詩〕台星再朗、天綱重恢。〔夏言、瑞雲承月賦〕星朗周レ廬兮、元圭扣レ陛。

【星絡】323 セイラク　星のつながり。星をいふ。〔鮑照、爪步山揭文〕四二睨天宮一、窮二曜星絡一。

【星落】324 セイラク　㊀星の落ちること。〔庾信、思舊銘序〕麟亡星落、月死珠傷。〔杜甫、季秋蘇五弟纓江樓夜宴二崔十三評事・韋少府姪一詩〕星落黃姑渚、秋辭白帝城。〔李紳、趨二翰苑一遭二誣搆一詩〕日傾烏掩レ魄、星落斗推レ樞。㊁偉人の死をいふ。宰相・將軍等の死んだ時、相星又は將星が落ちるといふ。〔方干、哭二秘書姚少監一詩〕寒空此夜落二文星一、星落文留萬古名。

【星亂】325 セイラン　㊀星のやうにばらばらに亂れる。〔張協、七命〕圜案星亂、方丈華錯。㊁星が亂れる。螢の飛ぶさまをいふ。〔秦觀、摘星亭詩〕螢流二花苑一飛星亂、蕪滿二春城一綠髮齊。

【星闌】326 セイラン　星の盛に光りかがやくこと。〔謝靈運、夜發二石關亭一詩〕鳥歸息二舟楫一、星闌命二行役一。

【星爛】327 セイラン　星のきらきらとかがやくこと。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一陳琳詩〕夜聽極二星爛一、朝遊窮二曛黑一。

【星離】328 セイリ　星のやうにつらなる。離は陳。〔南齊書、王融傳〕天移雲動、勒二封岱宗一、咸五登三、追蹤七十、百神肅警、萬國具僚、璯弁星離、玉帛雲聚。〔韋應物、寇季膺古刀歌〕求レ之時代不レ可レ知、千痕萬穴如二星離一。

【星流】329 セイリウ　星の流れるやうに速かに行くこと。〔司馬相如、子虛賦〕雷動猋至、星流霆擊。〔後漢書、竇憲傳〕星流彗掃。〔注〕星流彗掃、言レ疾也。〔張衡、東京賦〕煌火馳而星流、逐二赤疫於四裔一。〔注〕翰曰、火馳星流、言レ急也、急二逐惡鬼一奔二於四方一。〔劉峻、廣絕交論〕嚶鳴相召、星流電激。〔潘岳、馬汧督誄〕彤珠星流、飛矢雨集。

〖星流景集〗330 セイリウエイシフ　星のやうに流れ、影のやうに集まる。疾いさま。速かなさま。〔陳琳、爲二曹洪一與二魏文帝一書〕星流景集、飈奮霆擊。

【星陸】331 セイリク　星界の陸地。〔李嶠、龍詩〕帶レ火移二星陸一、升レ雲出二鼎湖一。

【星律】332 セイリツ　年月をいふ。〔崔遠、授二蘇文建邠州節度使一制〕復茂二政能一、益堅二撫字一、未レ周二星律一、已播二謳謠一。〔羅隱、薛陽陶觱栗歌〕人間至藝難レ得レ主、懷抱差池恨二星律一。

【星淪】333 セイリン　星がしづむ。〔瞿景淳、覽輝樓賦〕

金張火滅、許史星淪。

【星麟】334セイリン 麒麟の形容。〔張說、玄武門侍射詩〕雪鶴來銜レ箭、星麟下集レ弦。

【星麗】335セイレイ 星がならび附く。麗は附。〔李華、木蘭賦〕華如二霜雪一、實若二星麗一。〔顧鼎臣、躬耕二帝籍一賦〕是月也、星麗二辰角一、日移二參尾一。

【星曆】336セイレキ 星度を考へて曆法を定める法。〔管子、五行〕經二緯星曆一、以視二其離一。天文曆法。〔漢書、司馬遷傳〕文史星曆、近二乎卜祝之閒一。〔司馬遷、報二任少卿一書〕文史星曆、近二乎卜祝之閒一。

【星曆考原】337セイレキカウゲン 書名。六卷。清、康熙五十二年、大學士李光地等奉敕撰。陰陽宜忌の準を定めたもの。象數考原・年神方位・月事吉神・凶神・日時總類・用事宜忌の六目に分つ。〔四庫提要、子、術數類〕。

【星歷】338セイレキ 星曆に同じ。〔史記、歷書〕黃帝考二定星歷一。〔注〕索隱曰、黃帝使下羲和占レ日、常儀占レ月、臾區占二星氣一、伶倫造二律呂一、大橈作二甲子一、隸首作二算數一、容成綜二此六術一而著中調曆上也。〔漢書、翟方進傳〕天文星歷。〔漢書、息夫躬傳〕或妄以レ意傳二著星歷一。

【星列】339セイレツ 星のやうにつらなる。〔後漢書、廉范傳〕三頭爇レ火、營中星列。〔陳漣、背山亭賦〕羣圉牧監、星列碁布。

【星連】340セイレン 星のやうにつらなる。〔張協、七命〕流綺星連、浮彩豔發。〔江淹、勑爲二朝賢一答二劉休範一書〕六師雲起、九軍星連。

【星聯】341セイレン 清、惲珠(**4－10857**··5)の字。

【星路】342セイロ 星のてらす路。〔薛能、長安送三友人之二黔南一詩〕琴書去二迢遞一、星路照二潺湲一。

【星露】343セイロ 星界に生ずる露。〔李孝先、久客寄二劉弘度一詩〕月明星露墜、愼莫レ倚二闌干一。

【星樓】344セイロウ ❶星をいふ。〔郭遵、初日見二朝元閣一賦〕司晨而見、異二星樓之麗一ロ宵、質明乃光、殊二日觀之生一ロ曉。❷星のやうに美しい樓。〔駱賓王、送二費六還一蜀詩〕星樓望二蜀道一、月破指二吳門一。〔劉威、七夕詩〕雲收二喜氣一星樓曉、香拂二輕塵一玉殿空。

【星櫳】345セイロウ 星のうつるまど。〔宋徽宗、宮詞〕星櫳月砌半二天下一。

【星祿】346セイロク 清、胡昌基(**9－29400**··490)の字。

【摘レ星】347ホシヲツム 星を摘み取る。樓の高いことをいふ。宋の楊億が幼時家人に連れられて高樓に登り詩を作った故事。〔竹坡詩話〕世傳、楊文公方離二襁褓一、猶未レ能レ言、一日家人攜以登レ樓、忽自語如二成人一、因戲問レ之、今日上レ樓、汝能作レ詩乎、卽應レ聲曰、危樓高百尺、手可レ摘二星辰一、不二敢高聲語一、怕二驚天上人一。

【星巖集】348セイガンシフ 書名。三十二卷。梁川星巖撰。漢詩集で、甲集二卷・乙集三卷・丙集十卷・丁集五卷・閏集一卷・戊集四卷・玉池吟社詩五卷・紅蘭小集二卷の八集に分れ、前五集を金石絲竹匏土革木の八冊とし、後三集を日月星辰の四冊としてゐる。「名。

【星研齋】350セイケンサイ 清、朱霞(**6－14424**··66)の室名。

【星司レ夜】351ホシヨルヲツカサドル 星は夜を司る。〔海錄碎事、天、星〕尸子曰、使二星司レ夜、月司ロ時、猶レ使二雞司一ロ晨也。

【星主レ虎】352ホシハトラヲツカサドル 星はとらをつかさどる。〔孔子家語、執轡〕星主レ虎、故虎七月而生。

【星中官】353セイチユウノクワン 星宮の官。天上界の役人。〔海錄碎事、道釋、仙〕爲復便作二星中官一、爲復且作二人閒官一。

【星條旗】354セイデウキ 北米合衆國の國旗。十三本の赤・白の橫線と四十八箇の白星とからなる。

【星鳳樓】355セイホウロウ 宋、曹彥約(**5－14297**··226)の室名。

【星野恒】356ホシノコウ 越後の人。號は豐城。幼名は七五三藏・恒太郎。大正六年、歿す。七十九。官は東京帝國大學文科大學教授・學士院會員。文學博士。著に國史纂要・史學叢說・竹內式部君事蹟考・豐城存稿・豐城賸稿・國史眼がある。

【星鹿毛】357ホシカゲ 馬の毛色の名。鹿毛に白點のあるもの。

【星燧貿遷】358セイスイボウセン 歲月のうつりかはるをいふ。〔海錄碎事、天、光景〕星燧貿遷、江山阻隔、段成式。

【戴レ星而出】359ホシヲイタダイテイヅ 星の未だ沒しない中に出て行く。朝早く行くこと。〔呂覽、察賢〕宓子賤治二單父一、彈二鳴琴一、身不レ下レ堂、而單父治、巫馬期以レ星出、以レ星入、云云、而單父亦治。〔書言故事大全、天文類〕早行曰二戴レ星而出一。

【星部地名】360セイブチメイ 星の分野の地名。〔淮南子、天文訓〕星部地名、角、亢鄭、氐、房、心宋。

【星鳳樓帖】361セイホウロウテフ 宋の曹彥約の刻した帖の名。十二卷。〔格古要論、古黑跡論下〕星鳳樓帖、宋尙書曹彥約刻二于南康一、雖二衆刻重摸一、而精善不レ苟。

【星野葛山】362ホシノカツザン 信濃の人。名は常富。字は伯有。號は葛山。略稱は平葛山。坂本天山に師事。官は高遠藩儒・側用人兼侍講。經史百家より律令・祀典・官制・家譜に至るまで博通す。特に時務に練達し、專ら實踐躬行を旨とし、忠孝の大節を以て子弟を勵ます。文化九年十二月四日、歿す。年四十。著に葛山隨筆・國郡管轄考・高遠軍記・高遠記集成・田制沿革考・武學拾粹がある。〔國書解題〕。

【星野東里】363ホシノトウリ 三河の人。名は龍。字は子雲。號は東里。通稱は小平太。官は宮津藩儒。著に諸學階梯・續詩學階梯・富有錄・淩雲樓集がある。〔近代著述目錄、後篇〕。

【星野熊嶽】364ホシノユウガク 伊勢の人。名は璞。字は子常。號は熊嶽。伊勢の儒者。著に四書考證・大學考證がある。〔近代名家著述目錄〕。

【星離雨散】365セイリウサン 分離することのはやいこと。〔李白、憶二舊遊一寄二譙郡元參軍一詩〕當筵意氣淩二九霄一星離雨散不レ終レ朝。

【映】13838

一 エイ ヤウ 〔集韻〕於慶切 ㄧㄥˋ ying⁴ 敬

二 アウ 〔集韻〕倚朗切 養

小篆

一 ❶**あきらか**。〔說文新附〕映、明也、从レ日央聲。❷**さらす**。〔小爾雅、廣言〕映、曬也。❸**ひざし**。ひかげ。或は暎(**5－14048**)に作る。〔集韻〕映、隱也、或从レ英。〔王粲、七哀詩〕山岡有二餘映一。〔注〕善曰、通俗文曰、日陰曰レ映。❹**てる**。**うつす**。**はえる**。**うつる**。〔華嚴經音義、上〕映、傍照也。〔晉書、左貴嬪傳〕車服暉映。〔郭璞、山海經圖贊、瑾瑜玉〕符彩流映、氣如二紅霞一。❺**おほふ**。おほはれる。〔顏延之、應詔觀二北湖田收一詩〕金鴐映二松山一。〔注〕善曰、映、猶レ蔽也。二 **あきらかでない**。映暸(36)を見よ。

名乘 アキラ。テル。アキ。

【映曖】1エイアイ あかるくなつたり、かげつたりすること。映は明るいこと、曖はかげること。〔江淹、蓮華賦〕旣翕二絶於洲漲一、亦映二曖於川潯一。

【映蔚】2エイウツ 青々と茂りうつつてうつくしい。〔謝靈運、石壁精舍還二湖中一詩〕芰荷迭映蔚、蒲稗相因依。〔注〕良曰、映蔚、其色鬱茂隱映也。

【映江】3エイカウ 清、錢綺(**11－40563**··44)の字。

【映蕚】4エイガク 清、陸敷樹(**11－41708**··417)の字。

【映輝】5エイキ うつりかがやく。〔陸佃、遊二南亭一記〕丹樓翠閣、映二輝湖山一。

【映琴】6エイキン 清、汪梅鼎(**6－17154**··322)の號。

【映空】7エイクウ そらにうつる。〔杜甫、陪二鄭公一秋晚北池臨眺詩〕獨鶴元依レ渚、衰荷且映レ空。

【映畫】8エイグワ 活動寫眞。撮影・現像・燒附・整理等の過程を經て出來上つたフイルムが、映寫機によつて、映寫幕上に廓大投映された一連の映像をいふ。十九世紀末、歐米で創められた映畫は最初から視覺に重点を置いたものであつたが、一九二六年發聲映畫の出現によつて聽覺にも訴へるに至り、娛樂・學術各方面に異常な勢力を得るに至つた。

【映紅】9エイコウ 寶石の一種。〔趙翼、粵滇雜記〕寶石有二紅藍諸色一、舊時質大而光厚、幷有二映紅・映藍二種一、貯二水缸一則滿缸如二其色一、近已不レ可レ得。

【映像】10エイザウ 光線の屈折・反射作用によつて物象の現出すること。又、其の像。映象。

【映之】11エイシ 清、陳焯(歸安の人)(**11－41698**··331)の字。

【映日】12エイジツ ❶日光。太陽。〔潘岳、射雉賦〕忌二上風之餮切一、畏二映日之儻朗一。❷日に照る。日に

はえる。〔謝朓、秋竹曲〕從ㇾ風旣裊裊、映ㇾ日頗離離。

【映日果】13 エイジツクワ　無花果の異名。〔本草、無花果〕釋名、映日果、優曇鉢、阿駔、時珍曰、無花果凡數種、此乃映日果也。

【映日荷花】14 エイジツカクワ　北京に行はれる菊花の一種。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按㆓日下舊聞考㆒、云云、蓋京師之菊種亟繁、云云、映日荷花。

【映寫】15 エイシヤ　㊀原圖のやうに精密に寫しとること。㊁映寫機又は幻燈機によりフイルムをスクリーンに投寫すること。

【映寫機】16 エイシヤキ　活動寫眞のフイルムをスクリーンに寫す機械。

【映書】17 エイシヨ　書物を雪あかりでてらす。〔李商隱、憶ㇾ雪詩〕映書孤志業、披氅阻㆓神仙㆒。

【映漘】18 エイシン　清、朱文藻(**6－14424**‥979)の字。

【映水】19 エイスイ　水にうつる。〔謝靈運、山居賦〕華映ㇾ水而增ㇾ光。

【映照】20 ying⁴ chao⁴　輝く。反射する。照り付ける。

【映雪】21 エイセツ　雪にうつし照らす。〔任昉、爲㆓蕭揚州㆒作薦ㇾ士表〕集ㇾ螢映ㇾ雪、編ㇾ蒲緝ㇾ柳。

【映雪齋】22 エイセツサイ　元、孫道明(**3－6987**‥492)の室名。

【映雪樓】23 エイセツロウ　清、莊仲方(**9－31035**‥180)の室名。

【映雪道人】24 エイセツダウジン　明、孫道易(**3－6987**‥488)の號。

【映雪讀書】25 エイセツドクシヨ　雪明りで書をよむ。〔孫氏世錄〕孫康家貧、嘗映ㇾ雪讀ㇾ書。

【映川】26 エイセン　清、楊洪(**6－15112**‥154)の字。

【映族】27 エイゾク　一族を光榮に浴させる。〔陸雲、晉故散騎常侍陸府君誄文〕冠蓋南徂、映ㇾ族輝ㇾ邦。

【映帶】28 エイタイ　色つや又は景色のいろどりが互にうつりあふ。はえる。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕有㆓清流激湍㆒、映㆓帶左右㆒。〔鹽谷宕陰、遊㆓墨水㆒記〕清流碧疇、左右映帶。

【映奪】29 エイダツ　光輝が目をうばふ。〔葉適、北村記〕甲觀㆓大囿㆒、照耀而映奪者、非㆔惟不㆓敢望㆒、亦不㆓敢羨㆒焉。

【映庭】30 エイテイ　清、葉士寬(**9－31387**‥191)の字。

【映徹】31 エイテツ　うつりとほる。てりかがやく。〔世說、賞譽下〕殷仲堪喪後、桓玄問㆓仲文㆒、卿家仲堪、定是何似人、仲文曰、雖ㇾ不ㇾ能㆔休㆓明一世㆒、足㆔以映㆓徹九泉㆒。

【映發】32 エイハツ　互にうつりきらめく。うつりあふ。〔宣和畫譜、山水三〕猶作㆓卵石松柏疎筠蔓草之類㆒、相與映發。〔齋藤拙堂、山房觀ㇾ楓記〕上下映發。

【映媚】33 エイビ　てりはえて趣を生ずる。〔南史、丘遲傳〕時有㆓鍾嶸㆒著㆓詩評㆒云、范雲婉轉清便、如㆓流風回雪㆒、遲點綴映媚、似㆓落花依㆒ㇾ草。

【映蔽】34 エイヘイ　つつみかくす。かくしおほふ。〔華嚴經〕無ㇾ畏㆘映㆓蔽一切㆒諸魔宮殿㆖。

【映碧】35 エイヘキ　字號。㊀清、秦日新(**8－24995**‥255)の字。㊁清、李清(**6－14459**‥499)の號。

【映⿰日莽】36 アウマウ　明らかでない。〔玉篇〕映、映⿰日莽、不ㇾ明也。

【映楡】37 エイユ　清、劉星煒(**2－2224**‥1121)の字。

【映簾】38 エイレン　すだれにうつる。〔李商隱、燕臺詩〕醉起微陽若㆓初曙㆒、映簾夢斷聞㆓殘語㆒。〔蘇軾、上巳日與㆓二三子㆒攜ㇾ酒出游云云詩〕映簾空腹小桃枝、乞ㇾ漿不ㇾ見膺門女。

【映山紅】39 エイザンコウ　木の名。きりしま。おほきりしま。山躑躅の異名。〔遵生八牋、燕閒清賞下〕映山紅、木名、山躑躅花、類㆓杜鵑㆒稍大。

【映然子】40 エイゼンシ　清、王端淑(**7－20823**‥1900)の號。

【映月讀書】41 エイゲツドクシヨ　月の光で書をよむ。〔宋史、陸佃傳〕居ㇾ貧苦學、夜無ㇾ燈、映ㇾ月讀ㇾ書。

【昡】13839

ケン
ゲン　〔集韻〕熒絹切　霰

㊀**ひの光**。〔集韻〕昡、日光。㊁**まどふ**。昡曜(1)を見よ。

【昡曜】1 ケンエウ　惑ひ亂れるさま。〔楚辭、離騷〕世幽昧以昡曜兮。〔注〕昡曜、惑亂貌、世、一作ㇾ時、昡、一作ㇾ眩、補曰、昡、日光也、其字從ㇾ日、眩、目無㆓常主㆒也、其字從ㇾ目、並熒絹切、淮南云、嫌疑肖象者、衆人之所㆓眩耀㆒。

【昢】13840

［一］ホツ ホチ　〔集韻〕普沒切　月
［二］ハイ　〔集韻〕普罪切　賄
［三］ハイ　〔集韻〕滂佩切　隊

［一］［二］㊀**よあけ**。〔集韻〕昢、日未ㇾ明。㊁**日の出るさま**。〔正字通〕昢、明旦、日出貌。［三］㊀**晴れそめる**。〔玉篇〕昢、向ㇾ晴也。㊁**明けそめる**。或は艴(**9－30606**)に作る。〔集韻〕昢、將ㇾ曙、謂㆓之昢㆒、或作ㇾ艴。

【昢昢】1 ホツホツ　よあけのさま。日の出て未だ明らかでないさま。朏朏。〔楚辭、王逸、九思、疾世〕時昢昢兮旦旦。〔注〕日月始出、光明未ㇾ盛爲ㇾ昢、昢、一作ㇾ朏。

【⿱日出】13841

ホツ　昢(**5－13840**)に同じ。〔篇海〕⿱日出、昢亦作ㇾ⿱日出。

【昣】13842

シン　〔集韻〕止忍切　軫

あきらか。〔集韻〕昣、明也。

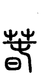
【昤】13843

レイ
リヤウ　〔集韻〕郎丁切　青

㊀**はれた日の光**。昤曨。〔廣韻〕昤、昤曨、日光、出㆓道書㆒。㊁或は⿰日靈(**5－14276**)に作る。〔集韻〕昤、或从ㇾ靈。

【春】13844

［一］シユン　〔集韻〕樞倫切　ㄔㄨㄣ ch'uen¹　眞
［二］シユン　〔集韻〕尺尹切　軫


小篆

［一］㊀**はる**。㋑四時の第一。立春から立夏に至るまでの期間の稱。もと萅(**9－31253**)に作る。〔篇海〕萅、古字春字。〔說文〕萅、推也、从㆓日艸屯㆒、屯亦聲。〔爾雅、釋天〕春爲㆓青陽㆒、春爲㆓發生㆒。〔釋名、釋天〕春、蠢也、萬物蠢然而生也。〔管子、四時〕其時曰ㇾ春。㋺方位で東に配する。〔太玄經、玄數〕爲㆓東方㆒爲ㇾ春。〔張衡、東京賦〕飛㆓雲龍於春路㆒。〔注〕綜曰、春路、東方道也。㋩五行で木に配する。〔呂覽、孟春〕孟春行㆓夏令㆒。〔注〕春、木也。〔春秋繁露、五行對〕木爲ㇾ春。㋥年の始め。〔公羊、隱、元〕春者何、歲之始也。㋭なさけ。男女の情感。多く女の男を思ふ心。〔詩、召南、野有死麕〕有ㇾ女懷ㇾ春、吉士誘ㇾ之。〔集傳〕當ㇾ春而有ㇾ懷也。〔詩、豳風、七月〕春日遲遲。〔箋〕春、女感㆓陽氣㆒而思ㇾ男、秋、士感㆓陰氣㆒而思ㇾ女、是其物化所㆓以悲㆒也。㋬としごろ。若い時。〔孔平仲、楡錢詩〕買㆓住青春㆒費幾錢。㋣たのしみ。〔承平舊纂〕進士不ㇾ第者、親知供㆓酒肉㆒、費號㆓買春錢㆒。㊁**酒**。唐代の通語。〔正字通〕春、唐人名ㇾ酒爲ㇾ春、國史補云、酒、有㆓郢之富水春・烏程之若下春・滎陽之上窟春・富平之石東春・劍南之燒春㆒、皆酒名。〔司空圖、二十四詩品〕五壺買ㇾ春賞ㇾ雨。㊂**卵**。廣東の方言。〔廣東新語〕粵方言、凡禽魚卵皆曰ㇾ春、唐時呉君貢㆓魚春子㆒、卽魚子也。㊃芚(**9－30695**)に同じ。〔說文通訓定聲〕春、字亦作ㇾ芚。㊄**姓**。〔通志、氏族略、以ㇾ邑爲ㇾ氏〕春氏、風俗通云、楚相黃歇春申君之後。［二］**うごく**。おこる。蠢(**10－33797**)に通ず。〔說文通訓定聲〕春、叚借爲ㇾ蠢。〔周禮、考工

記、梓人〕張二皮侯一而棲レ鵠、則春以レ功。〔注〕春、讀爲レ蠢、蠢、作也、出也、天子將レ祭、必與二諸侯羣臣一射以作二其容體一、出下其合二於禮樂一者上、與レ之事二鬼神一焉。

名乘 アツ。カス。

解字 會意形聲。日と艸と屯との合字。屯は聲を兼ねる。推し出す。めざす。はる。屯は艸木の芽が初めて出生せんとして、未だ十分に伸び難いのに象る字。故に本義は、艸が日を得て漸く萌え出ようとする義。說文には春、推也と雙聲で推し出す意を解してゐる。萅を漢人は初めは朁に作り、譌して春となつたのは、漢隷以後のことである。〔說文、萅、段注〕春之爲レ言蠢也、尙書大傳曰、春、出也、萬物之出也。

【春蛙】1 シユンア 春の蛙。〔歐陽脩、送三趙山人歸二舊山一詩〕聒レ耳春池蛙兩部、比封秋塢橘千頭。

【春蛙秋蟬】2 シユンアシウゼン 春の蛙と秋の蟬。無用の言論をいふ。〔物理論〕虛無之談、尙二其華藻一、無レ異二春蛙秋蟬聒レ耳而已。

【春靄】3 シユンアイ 春のもや。はるがすみ。〔高適、登二廣陵棲靈寺塔一詩〕遠思駐二江帆一、暮情結二春靄一。〔杜荀鶴、送二吳蛻下第入レ蜀詩〕鳥徑盤二春靄一、龍湫發二夜雷一。

【春靄堂】4 シユンアイダウ 清、陳奕禧（11－41698・・674）の室名。

【春盎】5 シユンアウ 春のやうなのどかな氣分が滿ちあふれること。盎は盛。〔薩都剌、溪行中秋翫レ月詩〕酌獻亦及二婢與一レ奴、熙熙春盎無二親疏一。

【春秧】6 シユンアウ 春のなへ。〔蘇軾、秧馬歌〕春雲濛濛雨凄凄、春秧欲レ老翠剡齊。

【春鶯】7 シユンアウ 春さきの鶯。〔謝莊、懷園引〕天桃晨暮發、春鶯旦夕喧。〔褚遂良、安德山池宴集詩〕花落春鶯晚、風光夏葉初。

【春鶯囀】8 シユンアウテン ❶曲調の名。唐の高宗、晨に坐して鶯聲を聞き、樂工白明達に命じて此の曲を作らしめたといふ。一說に、大春鶯轉は、唐の虞世南、及び蔡亮の作、又、小春鶯轉あり、並に商調曲である。〔張祜、春鶯囀詩〕內人已唱春鶯囀、花下傞傞軟舞來。〔崔令欽、教坊記〕春鶯囀、高宗曉二聲律一、聞二風葉鳥聲一、皆蹈以應レ節、嘗晨坐聞二鶯聲一、命二樂工白明達一、寫レ之、遂有二此曲一。〔樂苑〕大春鶯囀、唐虞世南及蔡亮作、又有二小春鶯囀一、竝商調曲也。❷雅樂の壹越調の曲名。〔和名抄、四〕壹越調曲、云云、春鶯轉大曲。

【春鸚】9 シユンアウ 春の鸚鵡。〔王義方、彈二李義府一文〕臣聞春鸚鳴二於獻歲一、蟋蟀吟二於始秋一。

【春鴨】10 シユンアフ 春のかも。〔梅堯臣、鴨雛詩〕春鴨日浮レ波、羽冷難レ伏レ卵。〔元好問、被レ檄夜赴二鄧州幕府一詩〕十里陂塘春鴨鬧、一川桑柘晚煙平。

【春安】11 ch'uen¹ an¹ 春日の安泰。書翰文用語。

【春暗】12 シユンアン 春の日に暮れ方になつて暗いこと。〔鄭谷、江上阻風詩〕水天春暗暮寒濃、船閉二篷窗一細雨中。

【春菴】13 シユンアン 字號。❶明、余泰（1－515・・42）の號。❷竹田定直の號。竹田春庵（8－25841・・287）を見よ。

【春衣】14 シユンイ はるごろも。春着。春服。〔庾信、春賦〕宜春苑中春已歸、披香殿裏作二春衣一。〔韓翃、贈二張千牛一詩〕急管晝催平樂酒、春衣夜宿杜陵花。〔厲鶚、春寒詩〕漫脫二春衣一浣二酒紅一、江南三月最多風。

【典二春衣一】15 シユンイヲテンス 春衣を質に入れる。〔杜甫、曲江詩〕朝回日日典二春衣一、每日江頭盡レ醉歸。〔秦觀、春日偶題呈二錢尙書一詩〕日典二春衣一非レ爲レ酒、家貧食レ粥已多時。

【春意】16 シユンイ 春ののどかな心もち。春めく心ばへ。春情。〔江淹、臥レ疾怨レ別二劉長史一詩〕始懷未レ及レ歎、春意秋方驚。〔崔櫓、山路見レ花詩〕春意自知レ無二主惜一、恣風吹逐馬蹄塵。〔杜甫、秋日寄二題鄭監湖上亭一詩〕碧草違二春意一、沅湘萬里秋。

【有二春意一】17 シユンイアリ 春ののどかな氣分がある。〔近思錄、存養〕靜後見二萬物一、自然皆有二春意一。

【春位】18 シユンヰ 春のくらゐ。〔書、堯典、分命二羲仲一宅二嵎夷一曰二暘谷一、疏〕以二春位在レ東、因治二於東方一。〔禮、月令、孟春之月、其祀戶祭先レ脾、疏〕所三以春位當レ脾者、牲位南首、肺祭在レ前而當レ夏也、腎最在レ後而當レ冬也、從レ冬稍前而當レ春、從レ腎稍前而當レ脾、故春位當レ脾。

【春威】19 シユンヰ 春の勢ひ。〔溫庭筠、陽春曲〕霏霏霧雨杏花天、簾外春威著二羅幕一。

【春闈】20 シユンヰ ❶春季の禮部の試驗場。會試（5－14306・・97）を見よ。〔宋史、趙安仁傳〕大中祥符八年、知貢擧、二典二春闈一、擇レ士平允。〔琵琶記、副末開場〕高堂嚴命、強赴二春闈一。〔紅樓夢、一回〕兄宜レ作二速入都一、春闈一戰、方不レ負二兄之所レ學也。❷太子の宮をいふ。春宮。〔陸贄、李勉太子太師制〕輔二翼春闈一、是資二教諭一。〔順宗實錄〕自レ膺二上嗣一、毓二德春闈一。

【春鮪】21 シユンヰ 春のしび。春のまぐろ。〔詩、周頌、潛序〕潛、季冬薦レ魚、春獻レ鮪也。〔箋〕冬魚之性定、春鮪新來、荐二獻之一者、謂レ於二宗廟一也。〔沈約、內典序〕雖二秋禽年至、春鮪時登一、而耿介長レ蔬、忡怛在レ念。

【春游】22 シユンイウ 春のあそび。〔陸機、日出東南隅行〕冶容不レ足レ詠、春游良可レ歎。〔儲光儀、漢陽即事詩〕春游歡レ有レ客、夕寢賦レ無レ衣。

【春遊】23 シユンイウ ❶春のあそび。春游に同じ。〔史記、秦始皇紀〕皇帝春遊。〔鮑溶、隋宮詩〕煬帝春遊古城在、壞宮芳草滿二人家一。〔白居易、長恨歌〕承レ歡侍レ宴無二閑暇一、春從二春遊一夜專レ夜。❷王者の出巡をいふ。〔崔駰、西巡頌〕昔既春遊、今乃秋稼。〔張衡、東京賦〕既春遊以發レ生、啟二諸蟄於潛戶一。〔注〕綜曰、春遊、謂三仲春巡二行岱岳一、是時蟄蟲皆開レ戶、帝乃東巡助二宣氣一也。

【春遊吟】24 シユンイウギン 樂府、雜曲歌辭の名。〔李章、春遊吟〕初春遍二芳甸一、千里藹盈矚、美人摘二新英一、步步玩二春綠一、所レ思杳何處、宛在二吳江曲一、可レ憐不レ得レ共二芳菲一、日暮歸來淚滿レ衣。

【春遊樂】25 シユンイウガク 樂府、雜曲歌辭の名。〔施肩吾、春遊樂詩〕一年三百六十日、賞心那似二春中物一、草迷二曲塢一花滿レ園、東家少年西家出。〔李端、春遊樂詩〕遊童蘇合帶、倡女蒲葵扇、初日映レ城時、相思忽相見、褰レ裳蹋二路草一、理レ鬢回二花面一、薄暮不レ同レ歸、留二情此芳甸一。〔李端、春遊樂詩〕柘彈連錢馬、銀鉤妥墮鬟、摘レ桑春陌上、踏レ草夕陽閒、意合辭先露、心誠貌卻閒、明朝若相憶、雲雨出二巫山一。

【春遊曲】26 シユンイウキヨク 樂府、雜曲歌辭の名。〔張仲素、春遊曲〕煙柳飛二輕絮一、風榆落二小錢一、濛濛百花裏、羅綺競二鞦韆一、騁望登二香閣一、爭レ高下二砌臺一、林閒踏レ青去、席上意レ錢來、行樂三春節、林花百和香、當年重二意氣一、先占二鬭雞場一。

【春牖】27 シユンイウ 春のまど。〔張協、玄武館賦〕陽扉南啓、陰軒北達、春牖左開、秋窗右豁。〔庾肩吾、奉二和春夜一應令詩〕春牖對二芳洲一、珠簾新上鉤。

【春育】28 シユンイク 春の萬物を生育する恩澤。〔王僧孺、爲二臨川王一讓二太尉一表〕陛下海涵春育、日鏡雲伸、追二大道之無レ私、惜二微臣之宜レ拯。

【春茵】29 シユンイン 清、夏駰（3－5720・・12）の字。

【春蚓】30 シユンイン 春蚓秋蛇を見よ。

【春蚓秋蛇】31 シユンインシウダ 春のみみず秋のへび。字體の細くまがりくねつて極めて拙いこと。〔晉書、王羲之傳論〕子雲近出、擅二名江表一、然僅得レ成レ書、無二丈夫之氣一、行行如レ縈二春蚓一、字字如レ綰二秋蛇一。〔蘇軾、和二流杯石上草書小一詩〕蜂腰鶴膝嘲二希逸一、春蚓秋蛇病二子雲一。〔蘇軾、和三人求二筆跡一詩〕從レ此剡藤眞可レ弔、半紆二春蚓一綰二秋蛇一。

【春飲】32 シユンイン 春の日に酒を飲むこと。〔白居易、遊二城南一留二元九李二十一晚歸詩〕老遊春飲莫二相違一、不二獨花稀一人亦稀。

【春陰】33 シユンイン 春のくもり。はるがすみ。はなぐもり。〔梁簡文帝、侍二遊新亭一應令詩〕沙文浪中積、春陰江上來。〔薛能、折楊柳詩〕和レ風煙雨九重城、夾レ路春陰十萬營。〔陸游、春雨詩〕春陰易レ成レ雨、客病不レ禁レ寒。

【春院】34 シユンヰン ❶春のやしき。〔田錫、楊花賦〕春院深嚴、書帷閒寂。〔薩都剌、題二寺監司所レ藏美人織レ錦圖一詩〕日長春院機聲動、梭影穿レ花飛二小鳳一。❷春の寺院。〔杜甫、大雲寺贊二公房一詩〕天黑閉二春院一、地清棲二暗芳一。❸牢獄をいふ。〔文天祥、正氣歌〕陰房闃二鬼火一、春院閟二天黑一。〔林西仲注〕囚繫之地、靜密而幽暗也。

【春雨】35 シユンウ ❶春のあめ。はるさめ。〔莊子、外物〕春雨日時、草木怒生。〔管子、四時〕五政苟時、春雨乃來。〔竇庠、陽宮詩〕薄暮毀垣春雨裏、殘華猶開萬年枝。〔陸游、臨安春雨初霽詩〕小樓一夜聽二春雨一、深巷明朝賣二杏花一。❷清、蔣元龍（9－31820・・147）の號。

【春雨堂】36 シユンウダウ 室名。❶明、施紹莘（5－1362

9‥164)の室名。❷明、陸深(11－41708‥154)の室名。

【春雨樓】37 シュンウロウ 清、張冕(4－9812‥668)の室名。

【春鳥】38 シュンウ 鳥の名。百舌の異名。江南の語。〔事物異名錄、禽鳥、百舌〕陸游詩、說與㆓春鳥㆒自在啼、自注、江南謂㆓百舌㆒爲㆓春鳥㆒。

【春雲】39 シュンウン 春のくも。〔晉書、阮籍等傳贊〕秋水揚㆑波、春雲斂㆑映。〔岑參、高官谷贈㆓鄭鄠㆒詩〕澗華燃㆓暮雨㆒、潭樹暖㆓春雲㆒。〔韓愈、奉㆓和庫部盧四兄曹長元日朝迴㆒詩〕天仗宵嚴建㆓羽旄㆒、春雲送㆑色曉鷄號。〔鮑溶、贈㆓楊煉師㆒詩〕紫煙衣上繡㆓春雲㆒、清隱山書小篆文。

【春暈】40 シュンウン 春の日のぼんやりくもつてゐること。〔高啓、紅梅詩〕春暈冰綃倚㆑竹低、羅浮却似㆓武陵溪㆒。

【春運】41 シュンウン 春季に荷物を運送すること。春季の運漕。〔金史、河渠志〕春運以㆓冰消㆒行、暑雨畢、秋運以㆓八月㆒行、冰凝畢。〔貢師泰、海歌詩〕願得㆓順風三四日㆒、早催㆓春運㆒到㆓燕京㆒。

【春醞】42 シュンウン 春の酒。〔王僧達、答㆓顏延年㆒詩〕寒榮共偃曝、春醞時獻斟。〔注〕良日、醞、酒也。

【春映】43 シュンエイ 春の日にてりはえること。〔李白、謝公亭詩〕池花春映日、窗竹夜鳴秋。

【春英】44 シュンエイ 春の花。〔晉書、王接傳〕渤海劉原爲㆓河東太守㆒、好㆑奇以㆑旌㆑才爲㆑務、同郡馮收薦㆓接於原㆒曰、不㆑患㆓元黎之不㆑啓、竊樂㆓春英之及㆑特。〔梁昭明太子、同泰僧正講詩〕學徒均㆓染疊㆒、遊士譬㆓春英㆒。〔孟郊、汴州留㆓別韓愈㆒詩〕遠客獨顚頷、春英落婆娑。

【春榮】45 シュンエイ ❶春の花。〔曹植、與㆓吳季重㆒書〕曄若㆓春榮㆒、瀏若㆓清風㆒。〔潘岳、金谷集作詩〕春榮誰不㆑慕、歲寒良獨希。❷世にときめき榮えること。〔木戶孝允、夜坐思㆓亡友㆒詩〕年如㆓流水㆒去不㆑返、人似㆓草木㆒爭㆓春榮㆒。

【春影】46 シュンエイ 春の日かげ。春の日のひかり。〔趙嘏、下第後歸㆓永樂里㆒自題詩〕公卿門戶不㆑知㆑處、立㆓馬九衢春影中㆒。〔鮑溶、東鄰女詩〕雙飛鷓鴣春影斜、美人盤金衣上花。〔陳基、題㆓管夫人竹㆒詩〕綺窗春影綠婆娑、夢作㆓輕雲㆒覆㆓碧波㆒。

【春穎】47 シュンエイ 春の稻穗。〔蘇軾、雲龍山觀燒得㆓雲字㆒詩〕細雨發㆓春穎㆒、嚴霜倒㆓秋蕡㆒。

【春營】48 シュンエイ 春の陣營。〔李賀、貴主征行樂〕春營騎將如㆓紅玉㆒、走馬捎㆑鞭上㆓空綠㆒。

【春妖】49 シュンエウ 春の花のなまめかしいこと。〔李紳、重臺蓮詩〕自含㆓秋露㆒貞姿結、不㆑競㆓春妖㆒冶態穠。

【春瑤】50 シュンエウ 清、沈甲(6－17189‥83)の字。

【春液】51 シュンエキ 春の水。〔顏延之、從軍行〕秋飈冬未㆑至、春液夏不㆑涓。

【春驛】52 シュンエキ 春の宿驛。〔施肩吾、榴花詩〕莫㆑言無㆔物堪㆓相比㆒、妖艷西施春驛中。

【春葉】53 シュンエフ 春の葉。春生じた葉。〔謝偃、踏歌詞〕春葉參差吐、新花重疊開。〔孟郊、上㆓達奚上人㆒詩〕常恐衆毀至、春葉成㆓秋黃㆒。〔崔翹、送㆔友人使㆓夷陵㆒詩〕開㆑襟春葉短、分㆑手夏條長。

【春饁】54 シュンエフ 春の田を耕す人に送る食物。〔高啓、郊野雜賦詩〕犬隨㆓春饁女㆒、雞喚㆓曉畊人㆒。

【春苑】55 シュンエン 春のその。春のには。春園。〔唐書、閻立本傳〕初太宗與㆓侍臣㆒泛㆓舟春苑池㆒、見㆔異鳥容㆓與波上㆒悅㆑之。〔虞世南、春夜詩〕春苑月徘徊、竹堂侵夜開。〔李商隱、柳詩〕曾逐㆓東風㆒拂㆓舞筵㆒、樂遊㆓春苑㆒斷腸天。〔韋莊、中渡晚眺詩〕千重碧樹籠㆓春苑㆒、萬縷紅霞襯㆓碧天㆒。

【春宴】56 シュンエン 春季の大宴。宋、太平興國三年三月、大明殿で大宴を開いたのに始まる。秋宴(8－24940‥22)を見よ。〔事物紀原、治理政體部、春宴〕太平興國三年三月、大宴㆓大明殿㆒、春宴自㆑茲始也、乾明節在㆓十月㆒、故太宗朝止設㆓春宴㆒、咸平三年九月、大宴㆓含光殿㆒、眞宗朝聖節外始備㆓設春秋二宴㆒、自㆑此爲㆓定制㆒。

【春淵】57 シュンエン 春のふち。〔劉基、送㆔姚伯淵之㆓清溪任㆒詩〕春淵潛㆑鱗陟負㆑冰、時哉罔㆑俾㆓虞人後㆒。

【春煙】58 シュンエン 春のけむりやもや。〔魏書、常景傳〕長卿有㆓豔才㆒、直致不羣、性鬱若㆓春煙舉㆒、皎如㆓秋月映㆒。〔范雲、閨思詩〕春草醉㆓春煙㆒、深閨人獨眠。〔張說、和㆔張監遊㆓終南㆒詩〕春煙生㆓古石㆒、時鳥戲㆓幽松㆒。〔李白、安陸白兆山桃花巖寄㆓劉侍御綰㆒詩〕芳草換㆓野色㆒、飛蘿搖㆓春煙㆒。〔元稹、閨晚詩〕夜色侵㆓洞房㆒、春煙透㆑簾出。

【春燕】59 シュンエン 春のつばめ。〔沈佺期、同獄者歎㆓獄中無㆑燕詩〕何許乘㆓春燕㆒、多知辨㆓夏臺㆒。〔袁暉、二月閨情詩〕更聽㆓春燕語㆒、妾亦不㆑如㆑他。〔杜牧、秋晚茅山石涵村舍詩〕簾前白艾驚㆓春燕㆒、籬上青桑待㆓晚蠶㆒。〔梅堯臣、依㆑韻答㆓淮南祝秘校初春見㆑寄詩〕客有㆓袖中書㆒、初憑㆓春燕㆒寄、春燕不㆓時來㆒、秋鴻今始至。

【春簷】60 シュンエン 春のひさし。〔王涯、宮詞〕時向春簷瓦溝上、散㆓開雙翅㆒占㆓朝光㆒。

【春豔】61 シュンエン 春の花などがあでやかなこと。〔范成大、初秋閒記㆓園池草木㆒詩〕薇帳半年春豔、桂叢四季秋香。

【春灧】62 シュンエン 春の花のあでやかなこと。春豔に同じ。〔袁易、題㆓畫黃葵㆒詩〕憶昔戎葵花下飮、金杯春灧綠鬟欹。

【春怨】63 シュンエン 春のうらみ。〔陳傅良、遊㆓雲頂院㆒和㆓徐叔子韻㆒詩〕老大生憎兒女態、更無㆔春怨與㆓秋悲㆒。

【春園】64 シュンエン 春のその。春苑。〔庾信、陝州弘農郡五張寺經藏碑〕春園柳路、變入㆓禪林㆒。〔王維、班婕妤詩〕揔向㆓春園裏㆒、花閒笑語聲。

【春猿】65 シュンエン 春の猿。〔惠崇、江行晚泊詩〕嶺暮春猿急、江行白鳥稀。

【春鷗】66 シュンオウ 春のかもめ。〔杜甫、行次㆓古城店㆒泛㆑江云云詩〕風蝶勤依㆑槳、春鷗嬾避㆑船。

【春恩】67 シュンオン 春の恩。春が萬物を生育する恩。〔張說、奉㆘和聖製爰因㆓巡省㆒途次㆗舊居㆖應制詩〕陽樂寒初變、春恩蟄更蘇。〔貫休、古意詩〕陽烏爍㆓萬物㆒、草木懷㆓春恩㆒。

【春溫】68 シュンヲン 春のあたたかなこと。〔史記、田敬仲完世家〕夫大絃濁以㆓春溫㆒者君也、小絃廉折以㆑清者相也、攫㆑之深、醳㆑之愉者政令也、鈞諧以鳴、大小相益、回邪而不㆓相害㆒者四時也。〔蘇軾、送㆔魯元翰少卿知㆓衞州㆒詩〕時於㆓冰雪中㆒、笑語作㆓春溫㆒。

【春夏】69 シュンカ 春と夏。〔禮、文王世子〕春夏學㆓干戈㆒、秋冬學㆓羽籥㆒、皆於㆓東序㆒。〔左氏、襄、二十六〕賞以㆓春夏㆒、刑以㆓秋冬㆒。〔莊子、天道〕春夏先、秋冬後、四時之序也。〔管子、形執解〕春夏生長、秋冬收藏、四時之節也。〔史記、天官書〕夫雷電蝦虹霹靂夜明者、陽氣之動者也、春夏則發、秋冬則藏、故候者無㆑不㆑司㆑之。〔乃木希典、法庫門營中作詩〕東西南北幾山河、春夏秋冬月又花。

【春假】70 chʻuen^1 chia^4 春の休暇。

【春荷】71 シュンカ 春のはちす。〔吳均、吳城賦〕不㆑見㆓春荷夏槿㆒、唯聞㆓秋蟬冬蝶㆒。

【春歌】72 シュンカ 春の歌。又、春に歌ふ。〔史記、樂書〕使㆓僮男僮女七十人俱歌㆒、春歌㆓青陽㆒、夏歌㆓朱明㆒、秋歌㆓西皞㆒、冬歌㆓玄冥㆒。〔杜甫、壯遊詩〕春歌㆓叢臺上㆒、冬獵㆓青丘旁㆒。

【春稼】73 シュンカ 春に禾穀のうゑつけをすること。〔周禮、春官、肆師〕社之日、涖㆓卜來歲之稼㆒。〔疏〕不㆑言㆑穡而言㆑稼者、秋穡由㆓於春稼㆒、故據㆑稼而言㆑之。〔韓維、南溪詩〕雨滋春稼繁、風動野花馥。

【春霞】74 シュンカ ❶春のかすみ。はるがすみ。〔張融、海賦〕筵㆓秋月於源潮㆒、帳㆓春霞於秀瀨㆒。〔耿湋、元日早朝詩〕微風傳㆓曙漏㆒、曉日上㆓春霞㆒。❷（ハルガスミ）春日（カスガ）・井の上・立田などの枕詞。〔萬葉集、四〕春霞春日の里の。〔萬葉集、七〕春霞井上ゆ直に道はあれど。〔古今集、離別〕春霞立ちわかれなば。

【春芽】75 シュンガ 春の草木のめ。〔梅堯臣、答㆔建州沈屯田寄㆓新茶㆒詩〕春芽研㆓白膏㆒、夜火焙㆓紫餠㆒。〔楊萬里、見㆓澹菴胡先生舍人㆒詩〕三歲別㆑公千里見、端能解㆑榻瀹㆓春芽㆒。

【春駕】76 シュンガ 春に馬車に乘つて出掛けること。〔薩都剌、觀駕春遊詩〕雙鳳曉開金羽扇、六龍春駕紫雲車。

【春鵝】77 シュンガ 春のがてう。〔鹽鐵論、散不足〕春鵝秋雛。

【春海】78 シュンカイ ❶春の海。〔姜公輔、白雲照㆓春海㆒賦〕白雲溶溶、曳㆓乎春海之中㆒、紛紜層漢、皎潔長空。〔駱賓王、海曲書情詩〕白雲照㆓春海㆒、青山橫㆓曙天㆒。❷清、程恩澤(8－25081‥161)の號。

【春開】79 シュンカイ 春に開く。〔李紳、寒松賦〕不㆑學㆓春開之桃李、秋落之梧桐㆒。〔李嶠、寒食清明日早赴㆓王門㆒率成詩〕槐煙乘㆑曉散、楡火應㆑春開。〔白居易、喜㆔錢左丞再除㆓華州㆒以㆑詩伸㆑賀詩〕彤襜經宿到、絳帳及㆑春開。

【春崖】81 シュンガイ 春のがけ。〔劉長卿、夜宴洛陽程九主簿宅送楊三山人往天台尋智者禪師隱居詩〕古寺暗喬木、春崖鳴細泉。

【春好】82 シュンカウ 春のこのましくよいこと。〔李白、侍從宜春苑詩〕東風已綠瀛洲草、紫殿紅樓覺春好。

【春江】83 シュンカウ ㊀春の川。〔顏延之、車駕幸京口侍遊蒜山作詩〕春江壯風濤、蘭野茂荑英。〔孟浩然、送杜十四之江南詩〕荊吳相接水爲鄉、君去春江正淼茫。〔張喬、送友人進士許棠詩〕夜火山頭市、春江樹杪船。〔蘇軾、惠崇春江晚景詩〕竹外桃花三兩枝、春江水暖鴨先知。㊁清、陸元鼎（**11－41708**··316）の字。

【春江夜月】84 シュンカウヤゲツ 歌曲の名。春江花月夜をいふ。〔長生殿、定情〕瓊花玉樹、春江夜月、聲聲齊唱。

【春江花月夜】85 シュンカウクワゲツヤ 樂府、清商曲辭、吳聲歌曲の一。陳、後主作。後主、常に宮中の女學士及び朝臣と相和して詩をつくる。太常令何胥、其の尤も艷麗な者を採つて此の曲をつくる。後世、之に倣ふ者が多い。隋の煬帝・唐の張若虛・溫庭筠等に歌辭がある。〔樂府詩集、清商曲辭、吳聲歌曲、春江花月夜〕晉書樂志曰、春江花月夜・玉樹後庭花・堂堂、竝陳後主所作、後主常與宮中女學士及朝臣相和爲詩、太常令何胥又善於文詠、採其尤豔麗者以爲此曲。〔隋煬帝、春江花月夜〕暮江平不動、春花滿正開、流波將月去、潮水帶星來。夜露含花氣、春潭漾月暉、漢水逢遊女、湘川値兩妃。〔諸葛穎、春江花月夜〕花帆渡柳浦、結纜隱梅州、月色含江樹、花影覆船樓。〔張子容、春江花月夜〕林花發岸口、氣色動江新、此夜江中月、流光花上春、分明石潭裏、宜照浣紗人。交甫憐瑤佩、仙妃難重期、沈沈綠江晚、惆悵碧雲姿、初逢花上月、言是弄珠時。〔張若虛、春江花月夜〕春江潮水連海平、海上明月共潮生、灩灩隨波千萬里、何處春江無月明。江流宛轉遶芳甸、月照花林皆似霰、空裏流霜不覺飛、汀上白沙看不見、江天一色無纖塵、皎皎空中孤月輪、江畔何人初見月、江月何年初照人、人生代代無窮已、江月年年望相似、不知江月照何人、但見長江送流水、白雲一片去悠悠、青楓浦上不勝愁、誰家今夜扁舟子、何處相思明月樓、可憐樓上月徘徊、應照離人妝鏡臺、玉戶簾中卷不去、擣衣砧上拂還來、此時相望不相聞、願逐月華流照君、鴻雁長飛光不度、魚龍潛躍水成文、昨夜閒潭夢落花、可憐春半不還家、江水流春去欲盡、江潭落月復西斜、斜月沈沈藏海霧、碣石瀟湘無限路、不知乘月幾人歸、落月搖情滿江樹。

【春行】86 シュンカウ 春に行くこと。又、春の行樂。〔韓愈、衢州徐偃王廟碑〕前碑所謂今戶部侍郎、其大父也、春行視農、至于龍丘。〔盧綸、送宋校書赴宣州幕詩〕春行板橋暮、應伴庾公還。〔白居易、有小白馬乘馭多時云云詩〕皀蓋春行日、驪駒曉從時。

【春岡】87 シュンカウ 春のをか。〔皎然、因遊支硎寺寄邢端公詩〕時應登古寺、佳趣在春岡。〔梅堯臣、陳繹越州從事詩〕恐傷爾心不敢泣、春岡細雨聞竹雞。

【春幸】88 シュンカウ 春に行幸する。〔唐書、李適傳〕凡天子饗會游豫、唯宰相及學士得從、春幸梨園、竝渭水祓除、則賜細柳圈辟癘。

【春庚】89 シュンカウ 春の黃鸝。庚は倉庚、黃鸝をいふ。〔南齊書、王融傳〕臣聞春庚秋蟀、集候相悲、露木風榮、臨年共悅。

【春巷】90 シュンカウ 春のちまた。〔王建、寄杜侍御詩〕春巷偶過同戶飲、暖窗時與對牀眠。〔羅鄴、自遣詩〕春巷摘桑喧姹女、江船吹笛舞蠻奴。〔貢師泰、題朱質夫東野草堂詩〕梨花春巷冷、楡葉夜窗虛。

【春郊】91 シュンカウ 春の野邊。春野。東郊。〔謝朓、杜若賦〕冒霜蹊以獨舊、當春郊而逕平。〔陸游、書歎詩〕春郊射雉朝盤馬、秋院焚香夜弄琴。

【春香】92 シュンカウ ㊀春の草。〔梁簡文帝、七勵〕瓊茅秋藹、綠蕙春香。〔李商隱、回中牡丹爲雨所敗詩〕水亭暮雨寒猶在、羅薦春香暖不知。〔劉得仁、禁署早春晴望詩〕御林聞有早鶯聲、玉檻春香九陌晴。㊁春のかをり。〔韋莊、南省伴直詩〕星分夜彩寒侵帳、蘭惹春香綠映袍。〔孟遲、閑情詩〕蘼蕪亦是王孫草、莫送春香入客衣。

〔春香荳蔻人〕93 シュンカウトウコウノヒト 處女をいふ。荳蔻は熱帶地方に生ずる草の名。づくといふ。〔燕子箋、駭像〕手持水月楊枝像、送與春香荳蔻人。

【春耕】94 シュンカウ 春、田を耕す。春の耕作。〔鼂錯、論貴粟疏〕春耕、夏耘、秋穫、冬藏。〔唐書、突厥上傳〕春耕夏蠶以資衣食。〔魏茘彤、馬陵道詩〕戰壘千秋沙草平、更無殘戟礙春耕。

【春皐】95 シュンカウ ㊀春の澤地。〔儲光羲、田家即事詩〕猗歟春皐上、無乃成秋興。〔梅堯臣、送張正臣赴泰州幕詩〕春皐蘭蕙茁、晚井魚鰕亂。㊁清、李品芳（**6－14459**··1882）の字。

〔春膏紙〕95′ シュンカウシ 紙の名。吳に產し、越竹で作つたもの。〔宋詩紀事引負暄野錄〕吳人取越竹、以梅天水淋、瀑令稍乾、反覆捶之、使浮茸去盡、筋骨瑩徹、是爲春膏、其色如蠟、其光可鑑、故吳箋近出、遂與蜀產抗衡、吳門孫生造春膏紙、尤極其妙、余嘗賦詩。

【春鶊】96 シュンカウ 春の黃鸝。春庚（89）に同じ。〔徐陵、司空徐州刺史侯安都德政碑〕春鶊始囀、必具籠筐、秋蟀載吟、競鳴機杼。

【春膏】97 シュンカウ ㊀春のあぶら。〔任士林、吉祥草賦〕方其根移露本、盆壅春膏、擬紫莖之逞瑞、伉蘭蕙於亭皐。㊁春の雨をいふ。〔李咸用、春晴詩〕檐滴春膏絕、馮欄晚吹生。

【春蘅】98 シュンカウ 春の杜蘅。蘅は杜蘅、香草の名。〔曹植、閒居賦〕冀芬芳之可服、結春蘅以延佇。

【春角】99 シュンカク 春に生えた角。〔新論、言苑〕春角可卷、夏條可結、秋霜可凝、冬木可折。

【春骼】100 シュンカク 春の動物の骼。骼は禽獸の骨。〔鮑照、河清頌〕饘酎秋羊、封墐春骼。

【春干】101 シュンカン 春にたてを持つて舞ふ。武の舞をいふ。干羽（**4－9165**··1）を見よ。〔任昉、求爲劉瓛立館啓〕春干秋羽、委曠而弗陳、西序東膠、寂寥而誰仰。〔隋書、潘徽傳〕春干秋羽、盛禮樂於膠庠、省俗觀風、採歌謠於唐衞。

【春旱】102 シュンカン 春のひでり。〔宋書、五行志二〕晉海西泰和四年十二月、涼州春旱至夏。〔杜甫、喜雨詩〕春旱天地昏、日色赤如血。〔陸游、晚雨詩〕春旱久閔雨、夏潦復望晴。

【春涵】103 シュンカン 明、車大任（**10－38172**··282）の號。

〔春涵堂〕103′ シュンカンダウ 清、周容（**2－3441**··493）の室名。

【春寒】104 シュンカン 春のさむさ。餘寒。〔杜甫、送孔巢父謝病歸遊江東兼呈李白詩〕深山大澤龍蛇遠、春寒野陰風景暮。〔張謂、杜侍御送貢物戲贈詩〕疲馬山中愁日晚、孤舟江上畏春寒。〔杜牧、池州貴池亭詩〕蜀江雪浪西江滿、強半春寒去卻來。

〔春寒多雨水〕105 シュンカンウスイオホシ 春寒ければ雨が多い。〔通俗編、時序、春寒多雨水〕見吳下田家志。

【春酣】106 シュンカン 春のたけなはなこと。〔歐陽脩、聖俞會飲詩〕更吟君句勝啖炙、杏花妍媚春酣酣。

【春閑】107 シュンカン 春ののどかなこと。〔薛能、下第後春日長安寓居詩〕草碧餘花落、春閑白日長。

【春澗】108 シュンカン 春のたにがは。春のたにみづ。〔晉書、禮志上〕酌玄流於春澗之右、焚封豕於秋林之外。〔李建勳、送李冠詩〕勻如春澗長流水、怨似秋枝欲斷蟬。〔王維、皇甫岳雲溪雜題、鳥鳴磵詩〕月出驚山鳥、時鳴春澗中。〔善住、陽山道中詩〕雨餘春澗水爭分、野雉雙飛過古墳。

【春岸】109 シュンガン 春の水邊。〔謝靈運、於南山往北山經湖中瞻眺詩〕海鷗戲春岸、天鷄弄和風。〔祖詠、陸渾水亭詩〕更憐春岸綠、幽意滿前楹。

【春眼】110 シュンガン 春の草木のめ。〔杜荀鶴、江下初秋寓泊詩〕也知柳欲開春眼、爭奈萍無入土根。

【春雁】111 シュンガン 春のかり。〔張說、南中別陳七李十詩〕何時似春雁、雙入上林中。〔常建、鄂渚招王昌齡張僨詩〕春雁又北飛、音書固難聞。〔儲光羲、采蓮詞〕春雁時隱舟、新萍復滿湖。〔杜甫、見王監兵馬使說近山有白黑二鷹羅者久取未得詩〕虞羅自各虛施巧、春雁同歸必見猜。〔白居易、雜興三首詩〕東風二月天、春雁正離離。

【春卉】113 シュンキ 春のくさ。〔梁簡文帝、長沙宣武

王北涼州廟碑銘〕秋條下レ葉、春卉含レ芳。

【春忌】114 シユンキ 春にいむ。春に忌服をすること。〔宋書、禮志二〕設有下人以二閏臘月一亡者上、若有二閏後月一爲二祥忌一、則祥忌應レ在二後年正月一、祥涉二三載一、既失二周朞之議一、冬亡而春忌、又乖二致レ感之本一。

【春季】115 シユンキ ㊀春のすゑ。〔班固、終南山賦〕三春之季、孟夏之初。㊁春の時節。春期。

〖春季皇靈祭〗116 シユンキクワウレイサイ 宮中大祭の一。春分の日（三月二十一日又は二十二日）に行はれる大祭。宮中で歷代の天子のみたまを祭られるもの。

【春祈】117 シユンキ 春にいのる。又、春の祈年祭。〔論衡、明雩〕春二月雩、秋八月亦雩、春祈二穀雨一、秋祈二穀實一。

〖春祈秋報〗118 シユンキシウハウ 春の祈年祭と秋の新嘗祭。〔詩、周頌譜、疏〕既謀レ事求レ助、致二敬民神一、春祈秋報、故次二載芟良耜一也。〔白虎通、社稷〕歲再祭何、春祈秋報之義也。

【春氣】119 シユンキ 春の氣。〔禮、月令〕季春之月、命レ國難二九門一、磔攘以畢二春氣一。〔莊子、庚桑楚〕夫春氣發而百草生。〔呂覽、義賞〕春氣至、則草木產。〔阮籍、詠懷詩〕遠望令二人悲一、春氣感二我心一。

〖春氣發動〗120 シユンキハツドウ 春意の起るをいふ。〔史記、歷書〕百草奮興、秭鴂先滜。〔注〕索隱曰、言下子鴂鳥、春氣發動、則先出二野澤一而鳴上也。

【春起】121 シユンキ 春になつた。春が來た。喚春鳥が春正月二月頃に鳴く聲。喚春（**2**－**3953**··11）を見よ。〔顧渚山、茶記〕每至二正二月一鳴曰二春起一。

【春嬉】122 シユンキ 春の氣分になつてうかれあそぶ。又、年少の時に陽氣にうかれあそぶ。〔安井息軒、三計塾記〕慮二諸生之晏起與二春嬉一也。

【春規】123 シユンキ 春のおきて。春の時節のきまり。〔陳櫟、春先亭賦〕早占魁二於春規一、忘二司令之執權一。

【春期】124 シユンキ ㊀春の時節。〔陸游、餘寒詩〕漠漠餘寒透二客衣一、江村倍覺失二春期一。㊁ chʻuen^{1} chʻi^{2} 春情發動の時期。さかりの時期。

【春暉】125 シユンキ ㊀春のひかり。春の日。〔屈洞仙、燕歌行〕燕支山下少二春暉一、黃沙磧裏無二流水一。〔戴叔倫、過二柳溪道院一詩〕溪上誰家掩二竹扉一、鳥啼渾似レ惜二春暉一。〔野田笛浦、八幡公過二勿來關一圖詩〕白旗風起亂二春暉一、邊境已驚貔虎威。㊁父母のおかげ。父母のめぐみ。〔孟郊、遊子吟〕誰言寸草心、報得三春暉。〔注〕春暉、陽春和氣也、所三以發二育草木一者、故比二慈母一。〔琵琶記、蔡公逼レ試〕到三得錦衣歸二故里一、怕春暉不レ可レ追。㊂字號。㋑清、杜煦（**6**－**14477**··74）の字。㋺清、陳邦彥（**11**－**41698**··1183）の號。

〖春暉軒〗126 シユンキケン 清、朱右曾（**6**－**14424**··646）の室名。

〖春暉堂〗127 シユンキダウ 室名。㊀清、周孝壎（**2**－**3441**··574）の室名。㊁清、徐渭仁（**4**－**10110**··326）の室名。㊂清、張廷枚（**4**－**9812**··1382）の室名。㊃清、陳邦彥（**11**－**41698**··1183）の室名。㊄清、王丕烈（**7**－**20823**··2052）の室名。

〖春暉樓〗128 シユンキロウ 室名。㊀清、許如蘭（**10**－**35298**··316）の室名。㊁清、汪芳藻（**6**－**17154**··323）の室名。

〖春暉老人〗129 シユンキラウジン 清、陳邦彥（**11**－**41698**··1183）の號。

【春熙】130 シユンキ ㊀春の日のひかり。〔李嶠、人日侍二宴大明宮一云云詩〕魚猜二水凍一行猶澀、鸎喜二春熙一弄欲レ嬌。〔劉聞、藺館賦〕當二時物之代遷一兮、撫二春熙之載陽一。㊁春の日に浴してやはらぎ樂しむ。〔白居易、賀レ雨詩〕萬心春熙熙、百穀青芃芃。〔歐陽脩、南獠詩〕狂孽久不レ聳、民物含二春熙一。

【春祺】131 シユンキ ㊀春のさいはひ。〔漢書、禮樂志〕惟春之祺。〔注〕如淳曰、祺、福也。㊁chʻuen^{1} chʻi^{2} 春の幸福。書翰文用語。

【春翬】132 シユンキ 春の鳥。〔梁簡文帝、雉朝飛操〕晨光照二麥畿一、平野度二春翬一。〔王褒、詠レ雁詩〕姤壟有二春翬一。

【春機】133 シユンキ ㊀春の日に織るはた。〔溫庭筠、錦城曲〕巴水漾情情不レ盡、文君織得春機紅。㊁いろけ。男女閒の情慾。

〖春機發動期〗134 シユンキハツドウキ 春情發動の時期。思春期。懷春期。

【春歸】135 シユンキ ㊀春が再び歸り來ること。〔李白、宮中行樂詞〕玉樹春歸日、金宮樂事多。〔杜甫、白帝樓詩〕臘破思二端綺一、春歸待二一金一。〔戴叔倫、贈二康老人洽一詩〕青門幾度見二春歸一、折レ柳尋レ花送二落暉一。㊁春が歸り去ること。〔松本奎堂、餞春詩〕欲レ迹二春歸處一、問レ春春不レ語。㊂春に歸ること。〔李白、南流二夜郎一寄レ內詩〕北鴈春歸看欲レ盡、南來不レ得二豫章書一。〔李嘉祐、送二張惟儉秀才入レ擧詩〕春歸定得レ意、花送到二東中一。

【春饑】136 シユンキ 春にあたつて食物に餓ゑること。〔鄭谷、詠懷詩〕溪鶯喧二午寢一、山蕨止二春饑一。

【春戲】137 シユンギ 春のたはむれ。〔劉希夷、江南曲〕歲游難レ極レ目、春戲易レ爲レ心。〔余靖、奉二寄觀文殿大學士戶部侍郎龐籍上一詩〕波通二龍口一春戲盛、雲入二山門一曉望開。〔王安石、送三張仲容赴二杭州孫公辟一詩〕綵船春戲城邊水、畫燭秋尋時外山。〔惠洪、鞦韆詩〕畫架雙裁翠絡偏、佳人春戲小樓前。

【春蟻】138 シユンギ 酒の名。〔庾信、蒲州刺史中山公許乞二酒一車一未レ送詩〕秋桑幾過落、春蟻未二曾開一。〔范成大、寄二題商華叔心遠堂一云云詩〕徽外夜絃語、甕頭春蟻生。

【春曦】139 シユンギ 春の日のひかり。〔田錫、楊花賦〕乍若二吳王江國、水殿春曦、梅花已老、零落交飛一。

【春韭】140 シユンキウ 春のやはらかいにら。〔杜甫、贈二衞八處士一詩〕夜雨翦二春韭一、新炊閒二黃粱一。〔陸游、自笑詩〕平章春韭秋菘味、拆補天吳紫鳳圖。

【春鳩】141 シユンキウ 春のはと。〔曹植、贈二徐幹一詩〕迎風高二中天一、春鳩鳴二飛棟一。〔韋應物、東郊詩〕微雨靄二芳原一、春鳩鳴二何處一。

【春牛】142 シユンギウ 葦で作つた高さ二四尺の牛。迎春の式に之を祭る。迎春（**11**－**38748**··44）の㊀・春牛花鞭費（145）を見よ。〔東京夢華錄、六、立春〕立春前一日、開封府進二春牛一、入二禁中一鞭レ春、開封・祥符兩縣、置二春牛於府前一、至日絕早、府僚打レ春如二方州儀一。〔李涪刊誤〕月令出二土牛一、以示二農耕早晚一、此其遺也。

〖春牛經〗143 シユンギウケイ 立春の日に祭る春牛と芒神との作り方、及び色彩・位置等の規定に就いて記したもの。〔協紀辨方書、公規、春牛經〕造二春牛芒神一、用二冬至辰日一、於二歲德方一取二水土一成造、用二桑柘木一爲二胎骨一、牛身高四尺、像二四時一、頭至二尾樁一長八尺、象二八節一。

〖春牛圖〗144 シユンギウヅ 二十四の小皇曆。清代、立春の日に、順天府より呈進したもの。〔清會典事例、欽天監、職掌〕分二送春牛圖一。〔燕京歲時記、打春〕立春日、禮部呈二進春山寶座一、順天府呈二進春牛圖一。

〖春牛花鞭費〗145 シユンギウクワベンヒ 清代、地方官の新春を迎へる禮典に關する費用をいふ。春牛花鞭とは、地方官が豫め荒神土牛を製し、立春の日、長官屬僚儒師耆老を率ゐ、春を東郊に迎へて花鞭を以て土牛を打ち、耕作の狀をなすにもとづく。

【春菊】146 シユンギク ㊀春に菊花を咲かせること。〔關尹子〕天不レ能二冬蓮春菊一、是以聖人不レ違レ時、地不レ能二洛橘汶貉一、是以聖人不レ違レ俗。㊁菊の一種。春又は秋、種を下す。葉は細くて白く、互生する。春の末、梢に白花を開く。きくな。しんぎく。茼蒿。

【春及】147 シユンキフ 春が來る。春になる。〔陶潛、歸去來辭〕農人告レ余以二春及一、將レ有レ事二乎西疇一。

〖春及堂〗148 シユンキフダウ 室名。㊀明、許豸（**10**－**35298**··169）の室名。㊁清、方世擧（**5**－**13620**··561）の室名。

〖春及草堂〗149 シユンキフサウダウ 清、伊秉綬（**1**－**432**··180）の室名。

【春宮】150 シユンキユウ トウグウ ㊀皇太子の御殿。はるのみや。春坊。東宮。轉じて、皇太子。五行說で、春は東にあたるから、春をトウと讀む。〔竹書紀年、下〕周穆王九年、築二春宮一。〔注〕王所レ居有二鄭宮春宮一。〔王褒、皇太子箴〕秋坊通レ夢、春宮養レ德。〔汪藻、賀二皇太子一箋〕顯膺二典冊一、升二位春宮一。〔初學記〕青宮、一名春宮、太子居レ之。㊁春の神の宮。〔楚辭、離騷〕溘吾遊二此春宮一兮、折二瓊枝一以繼レ佩。㊂猥褻な圖畫。春畫（186）を見よ。〔通俗編、婦女、春畫〕宋畫苑、有二春宮祕戲圖一、所レ畫蓋此類也、故亦謂二之春宮一。

〖春宮進〗151 トウグウノシン 春宮坊の屬官。大・少あり。〔職原抄〕春宮坊、大進一人、少進一人。

〖春宮屬〗152 トウグウノサクワン 春宮坊の屬官。大・少あり。

〔職原抄〕春宮坊、屬、大少。

〔春宮坊〕153（トウグウノバウ） 官署の名。春宮の一切の庶務を掌つた所。大夫・亮・進・屬等を置く。みこのみやのつかさ。唐名は春坊。〔職原抄〕春宮坊、唐名春坊、唐世置二詹事府一以統二衆務一、又置二左右春坊一宮中事一向坊官之所レ掌也。

〔春宮亮〕154（トウグウノスケ） 春宮坊の屬官。〔職原抄〕春宮坊、亮一人。

〔春宮大夫〕155（トウグウノダイブ） 春宮坊の長官。〔職原抄〕春宮坊、大夫。

〔春宮冊〕156 ch‘uen^1 kung^1 ts‘ê^4 枕草紙。春畫。春宮(150)を見よ。

〔春宮圖〕157（シユンキユウヅ） 枕草紙。春畫を見よ。

【春去】158（シユンキヨ） ㊀春に歸り去ること。〔魏略〕冬來春去、歲歲如レ是。〔李乂、招諭有レ懷贈二同行人一詩〕春去辭二國門一、秋還在二邊戍一。㊁春が過ぎ去ること。〔李白、望夫山詩〕春去秋復來、相思幾時歇。〔岑參、敷水歌送二竇漸入レ京詩〕春去秋來不二相待一、水中月色長不レ改。㊂喚春鳥が春三四月頃に鳴く聲。春が去つた。春が行つた。喚春(2―3953‥11)を見よ。〔顧渚山、茶記〕至二三四月一云二春去一也。

【春居】159（シユンキヨ） ㊀春のすまひ。〔周賀、春日山居寄二友人一詩〕春居無二俗喧一、時立澗前村。㊁戰國齊の人。一に香居・香車に作る。香居(12―44518‥63)を見よ。〔呂覽、驕恣〕春居問二於宣王一。

【春墟】160（シユンキヨ） 春のをか。墟は大阜。〔陸機、晉平西將軍孝侯周處碑銘〕春墟以綠、淸淮自流。

【春魚】161（シユンギヨ） 春の魚。〔張載、登二成都白菟樓一詩〕披レ林採二秋橘一、臨レ江釣二春魚一。

【春籞】162（シユンギヨ） 春のいけす。〔沈約、三日侍二林光殿曲水宴一應制詩〕帳殿臨二春籞一、帷宮繞二芳薈一。

【春興】163（シユンキヨウ） 春のなぐさみ。春のたのしみ。春のおもしろみ。〔皇甫冉、奉三和對二山僧一詩〕遠心馳二北闕一、春興寄二東山一。〔張蠙、和三崔監丞春遊二鄭僕射東園一詩〕春興隨レ花盡、東園自養閒。

〔春興殿〕164（シユンキヨウデン） ㊀平安京內裏十七殿の一。日華門の南。武具を納めた所。〔中務省式〕凡內舍人參二雷鳴陣一者、立二春興殿西廂一。㊁里內裏の御殿の名。日華門の北にあり、賢所を奉安した處。〔名目抄〕賢所、春興殿本號也、又內侍所也。㊂（シユンコウデン）京都皇宮中の一殿。溫明殿の舊址に建てられたもので、卽位式の時、賢所大前の儀を行はせられる所。

【春凝】165（シユンギヨウ） 春にこりかたまる。春に凝結する。〔宋書、符瑞志下〕誕降嘉種、呈祥初構、甘露春凝、禎穟秋秀。〔孟郊、看レ花詩〕玉立無二氣力一、春凝且徘徊。

【春旭】166（シユンキヨク） 春のあさひ。〔謝朓、詠二竹火籠一詩〕暫承君玉指、請謝陽春旭。

【春近】167（シユンキン） 春が近い。〔陸龜蒙、和二襲美寒日書齋卽事一詩〕春近帶レ煙分二短莧一、曉來衝レ雪撼二疎篁一。〔杜荀鶴、冬末同二友人一泛二瀟湘一詩〕猿到二夜深一啼二嶽麓一、鴈知二春近一別二衡陽一。〔陸游、微疾詩〕時時小雨知二春近一、處處閑身覺二日長一。

【春禽】168（シユンキン） 春のとり。春鳥。〔祖詠、蘇氏別業詩〕寥寥人境外、閒坐聽二春禽一。〔張蠙、送三董卿赴二台州一詩〕夜蚌侵二燈影一、春禽雜二櫓聲一。

【春禁】169（シユンキン） 春の禁裡。春の御所。〔梁簡文帝、上三皇太子玄圃園講頌一啓〕伏惟、殿下體高玄頤、養二道春禁一。

【春錦】170（シユンキン） 春のにしき。花の形容。〔蘇味道、詠レ井詩〕桐落秋蛙散、桃舒春錦芳。〔章孝標、玄都觀栽レ桃詩〕拜星春錦上、服食晚霞中。

〔春錦園〕171（シユンキンエン） 元、張士誠(4―9812‥1085)の室名。

【春襟】172（シユンキン） 春のものおもひ。春懷。〔崔塗、鸚鵡洲眺望詩〕悵望春襟鬱未レ開、重吟二鸚鵡一益堪レ哀。

【春吟】173（シユンギン） 春に詩歌をうたふこと。〔鄭谷、自貽詩〕飮筵博席與レ心違、野眺春吟更是誰。

【春煦】174（シユンク） 春の日のあたたかなこと。〔顏延之、陶徵士誄〕晨煙暮靄、春煦秋陰。〔注〕翰曰、煦、陽氣也。〔李中、己未歲冬捧二宣頭一離二下蔡一詩〕詔下如二春煦一、巢南志不レ違。〔劉子翬、建昌紙被詩〕素風含二混沌一、春煦回二呼吸一。

【春駒】175（シユンク） ㊀あげはのてふ。蛺蝶の異名。〔採蘭雜志〕蛺蝶、一名春駒。㊁（ハルゴマ）春の野邊に居る駒。〔堀河百首〕我が物としめ野に飼ひし春駒の手にもかからず荒れまさる哉。㊂小兒の初春の玩具の名。馬の頭の形をしたものに竹をさし、其の末端に車をつけたもの。㊃昔、年の始に馬の形を作つて頭に戴き、歌をうたひ舞などをし、又は三味線・太鼓で囃し、馬の首を手で操り踊らせなどして、金品を貰ひ歩いた一種の門附。又、其の歌。〔年中故事要言、二〕年の始に馬を作りて頭に戴き、歌ひ舞ふ者あり、是れを春駒と名づけて、都鄙ともに有る事なり、是れは禁中にて正月七日白馬を御覽の事あり、かかる事を下にも受けてし侍る事にや。㊄勇み逸るさま。

【春衢】176（シユンク） 春の路。〔張協、七命〕赴二春衢一、整二秋御一。

【春空】177（シユンクウ） 春のそら。〔李綱、含笑花賦〕默凝レ情而不レ語兮、猶含二笑於春空一。〔李白、陽春歌〕長安白日照二春空一、綠楊結煙垂二裊風一。〔張賁、悼レ鶴詩〕無レ端日暮東風起、飄散春空一片雲。

【春藕】178（シユングウ） 春の蓮根。藕は蓮根。〔杜甫、陪三鄭廣文遊二何將軍山林一詩〕棘樹寒雲色、茵蔯春藕香。

【春窟】179（シユンクツ） 春のほらあな。〔郝經、楷木杠笏行〕會當二立聖一、躅二祆昏一、鞭擊二魚龍一起二春窟一。

【春果】180（シユンクワ） 春の果樹。〔蕭子範、直坊賦〕春果餘レ英、夏條垂レ實。

【春花】181（シユンクワ） 春の花。春華。〔蘇武、詩四首其二〕努力愛二春花一、莫レ忘二歡樂時一。〔古詩、桃葉歌〕春花映何限、感二郎獨采一レ我。

【春華】182（シユンクワ） 春の花。轉じて、綺麗な文辭の喩。〔漢書、敍傳上〕雖下馳辯如二濤波一、摛藻如中春華上。〔鹽鐵論、遵道〕文繁二於春華一。〔曹植、贈二王粲一詩〕樹木發二春華一、淸池激二長流一。〔張華、答二何劭一詩〕穆如レ灑二淸風一、煥若二春華敷一。

〔春華秋實〕183（シユンクワシウジツ） 春の花と秋の實。轉じて、文藻と德行とをいふ。文質の優れてゐる喩。〔魏志、邢顒傳〕君侯採二庶子之春華一、忘二家丞之秋實一。〔顏氏家訓、勉學〕夫學猶レ種レ樹也、春玩二其華一、秋登二其實一、講論文章、春華也、修身利行、秋實也。

【春過】184（シユンクワ） ㊀春が過ぎ去ること。〔岑參、送三陳子歸二陸渾別業一詩〕種レ藥畏二春過一、出レ關愁二路賒一。〔李建勳、早春寄レ懷詩〕家山歸未レ得、又是看二春過一。〔羅鄴、洛水詩〕一道潺湲濺二暖莎一、年年惆悵是春過。〔方回、桐花詩〕等閒春過三分一、憑レ仗桐花報二與知一。㊁春によぎること。〔陸龜蒙、爲二新羅僧一撰レ碑詩〕春過二異國一人應レ寫、夜讀二滄州一怪亦聽。

【春臥】185（シユングワ） 春にねること。〔譚用之、幽居寄二李祕書一詩〕看二盡好花一春臥穩、醉殘紅日夜吟多。〔鄭谷、寄二贈楊夔處士一詩〕春臥二甕邊一聽二酒熟一、露二吟庭際一待二花開一。

【春畫】186（シユングワ） わらひゑ。まくらゑ。男女交合のさまなどをゑがいた畫。〔通俗編、婦女、春畫〕漢書景十三王傳、海陽畫屋、爲二男女贏交接一、置酒請二諸父姊妹一、飮令二仰視一レ之、春畫殆始レ此也、張衡同聲歌、衣解巾紛卸、列圖衾枕張、素女爲二我師一、儀態盈二萬方一、衆夫所二希見一、天姥敎二羲皇一、緯書言、黃帝得二房中之術于素女一、故詩云云、所謂列圖者、亦後世春畫之由漸乎、迷樓記、煬帝令三畫工繪二士女交合之圖數十幅一、懸二於閣中一、上官時自二江外一回、鑄二烏銅屛可レ環二寢所一、磨以爲レ鑑、詣レ闕投進、帝以納二迷樓一而御二女其間一、纖毫皆入二鑑中一、帝大喜曰、繪畫得二其象一耳、此得二人眞容一也、以二千金一賜二上官時一、宋畫苑、有二春宮祕戲圖一、所レ畫蓋此類也、故亦謂二之春宮一。

【春灰】187（シユンクワイ） 春のはひ。〔庾信、謝二滕王集序一啓〕卽日、金門細管、未レ動二春灰一、石壁輕雷、尙藏二冬蟄一。〔李賀、奉三和二二兄罷レ使遣レ馬歸二延州一詩〕笛愁翻二隴水一、酒喜瀝二春灰一。〔尙顏、除夜詩〕魚燈延二臘火一、獸炭化二春灰一。

【春回】188（シユンクワイ） ㊀春が再びめぐり來る。春廻。〔戴叔倫、巡二諸州一漸次二空靈戍一詩〕寒盡鴻先至、春回客未レ歸。〔陸游、雪晴行二益昌道中一頗有二春意一詩〕春回二柳眼梅鬚裏一、愁在二鞭絲帽影閒一。㊁春がめぐり去る。〔陸游、春晚書懷詩〕老客天涯心尙孩、惜レ春直欲レ挽二春回一。

【春會】189（シユンクワイ） 春に集る。春の會合。〔張翥、憶二會稽一詩〕山陰客已無二春會一、溪上風猶送二暮樵一。

【春懷】190（シユンクワイ） 春の日の思。春襟。〔皇甫松、抛毬樂〕幾回衝二蠟燭一、千度入二春懷一。

【春光】191（シユンクワウ） 春の日のひかり。又、春の景色。

〔沈約、鍾山詩、應二西陽王敎一〕春光發二隴首一、秋風生二桂枝一。〔王之渙、涼州詞〕羌笛何須怨二楊柳一、春光不レ度玉門關。〔林下淸錄〕春光且莫レ去、留與二醉人一看。

【春光好】192 シュンクヮウカウ　唐、曲調の名。〔碧雞漫志〕羯鼓錄云、明皇尤愛二羯鼓玉笛一、謂爲二八音之領袖一、時春雨始晴、景色明麗、帝曰、對レ此豈可レ不二與レ他判斷一、命取二羯鼓一縱擊、曲名二春光好一、回二顧柳杏一、皆已微坼、上曰、此一事不三喚レ我作二天工一可乎、今夾鍾宮春光好、唐以來多有二此曲一、或曰、夾鍾宮、屬二二月之律一、明皇依レ月用レ律、故能判斷如レ神、予曰、二月柳杏坼久矣、此必正月用二二月律一催レ之也。〔詞譜〕按、羯鼓錄載二春光好曲一、入二太簇宮一、本正月律也、豈明皇所レ作、乃太簇宮、而和凝等詞、入二夾鍾宮一耶、今明皇詞已不レ傳、所レ傳止花間尊前集中詞、因三晏幾道詞、有二抃卻一襟懷、遠淚倚レ闌看句一、改名二愁倚闌令一、或名二愁倚闌一、或名二倚闌令一。

【漏二洩春光一】193 シュンクヮウヲロウセツス　春の光をもらす。今、互に消息する意にも用ひる。〔杜甫、臘日詩〕侵二陵雪色一還二萱草一、漏二洩春光一有二柳條一。

【春皇】194 シュンクヮウ　庖犧氏の別名。〔拾遺記、一、春皇庖犧〕春皇者、庖犧之別號、以二木德一稱レ王、故曰二春皇一。

【春幌】195 シュンクヮウ　春のとばり。〔宋書、始平孝敬王子鸞傳〕寶羅暍兮春幌垂、珍簟空兮夏幬扃。〔劉禹錫、詶下令狐相公寄中賀二遷拜一之什上詩〕三花秀色通二春幌一、十字淸波遶二宅牆一。〔王易從、臨高臺〕汎豔春幌風、裵回秋戶月。

【春藿】196 シュンクヮク　春の豆の葉。〔謝靈運、山居賦〕寒葱標レ倩以陵レ陰、春藿吐レ苕以近レ陽。

【春官】197 シュンクヮン　㊀上古の官名。顓頊氏の時、五官の一。木正をいふ。〔史記、五帝紀、注〕集解曰、應劭曰、黃帝受レ命有二雲瑞一、故以レ雲紀レ事也、春官爲二青雲一、夏官爲二縉雲一、秋官爲二白雲一、冬官爲二黑雲一、中官爲二黃雲一。〔漢書、百官公卿表序、自二顓頊一以來爲二民師一而命以二民事一、注〕應劭曰、春官爲二木正一、夏官爲二火正一、秋官爲二金正一、冬官爲二水正一、中官爲二土正一。〔賈公彥、周禮正義序〕是以昭十七年服注、顓頊之下云、春官爲二木正一、夏官爲二火正一、秋官爲二金正一、冬官爲二水正一、中官爲二土正一、高辛氏因レ之。㊁周禮、六官の一。禮法・祭祀を掌る。大宗伯より家宗に至るまで、其の官屬凡て六十九。〔周禮、天官、小宰〕三曰、春官、其屬六十、掌二邦禮一、大事則從二其長一、小事則專達。〔周禮、春官、序官〕惟王建レ國、辨レ方正レ位、體レ國經レ野、設レ官分レ職、以爲二民極一、乃立二春官宗伯一、使下帥二其屬一、而掌二邦禮一、以佐レ王和中邦國上。〔漢書、百官公卿表序〕天官冢宰、地官司徒、春官宗伯、夏官司馬、秋官司寇、冬官司空、是爲二六卿一。㊂禮部の古名。〔劉禹錫、宣上人遠寄和二禮部王侍郎放榜後詩一因而繼和詩〕一日聲名遍二天下一、滿城桃李屬二春官一。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕明年赴二春官一、亦得レ捷。㊃唐、四時官の一。司天官の屬。春官正の類。〔唐書、百官志二〕春官・夏官・秋官・冬官・中官正各一人。〔宋史、律歷志三〕大中祥符三年、春官正韓顯符上二銅渾儀法要一。㊄明、四輔の一。太祖、春夏秋冬の官を置き、之を四輔と稱す。〔明史、職官志一〕九月置二四輔官一、以二儒士王本等一爲レ之。〔注〕置二四輔官一、告二太廟一、以二王本・杜祐・龔斅一爲二春官一。〔明史、安然傳〕以二王本・杜佑・龔斅一爲二春官一、杜斅・趙民望・吳源爲二夏官一、秋冬闕。㊅迎春の式に春官に扮し春牛を打つ人。〔浙江志書、餘姚縣〕立春前一日、迎二春于東郊一、裝二春官一。

【春喚】198 シュンクヮン　鳥の名。催歸。子規。其の聲甚だ淸亮で春曉に鳴く。〔唐詩紀事、韓愈〕喚起窗前曙、催歸日未レ西、乃二禽名也、喚起聲如二絡緯一、圓轉淸亮、偏鳴二於春曉一、江南謂二之春喚一、催歸、子規也。

【春換】199 シュンクヮン　春が古い年に換る。新春になる。〔歐陽脩、春帖子詞、溫成皇后閤四首、其一〕璅窻珠戶暖生レ煙、不レ覺新春換二故年一。

【春還】200 シュンクヮン　春が再びかへり來ること。〔劉希夷、故園置酒詩〕酒熟人須レ飮、春還鬢已秋。〔李白、早春寄二王李漢陽一詩〕聞道春還未二相識一、走傍二寒梅一訪二消息一。〔杜甫、奉先劉少府新畫二山水一障歌〕野亭春還雜花遠、漁翁暝蹋孤舟立。

【春關】201 シュンクヮン　姓名を登錄して省に入るをいふ。唐宋の頃、進士を擧げるときは、其の及第者の姓名を揭示し、正勅の下るを俟つて南曹都省御史臺に關報し、然るのち貢院で春關を書して散給するを例とした。〔摭言、進士〕籍而入レ選、謂二之春關一。〔宋史、選擧志一〕放榜唱レ名、既謝レ恩、詣二國學一謁二先聖先師一、俟二正敕下一、關二報南曹都省御史臺一、然後貢院寫二春關一散給。〔注〕籍而入レ省、謂二之春關一。〔齊己、送二人赴レ擧詩〕明年從二月裏一、滿握度二春關一。〔黃滔、送二人明經及第東歸一詩〕亦從二南院一看二新榜一、旋束二春關一歸二故鄕一。

【春徑】202 シュンケイ　春のこみち。〔杜甫、惠義寺送三王少尹赴二成都一詩〕騎馬行二春徑一、衣冠起二晚鐘一。

【春桂】203 シュンケイ　樹の名。沈丁花。〔本草、山礬〕釋名、芸香、椗花、柘花、瑒花、春桂、七里香。〔陸龜蒙、茶竈詩〕奇香襲二春桂一、嫩色淩二秋菊一。

【春卿】204 シュンケイ　㊀梁代、太常・宗正・司農の三卿をいふ。〔隋書、百官志上〕諸卿梁初猶依二宋齊一、皆無二卿名一、天監七年、以二太常一爲二太常卿一、加二置宗正卿一、以二大司農一爲二司農卿一、三卿是爲二春卿一、加二置太府卿一、以二少府一爲二少府卿一、加二置太僕卿一、三卿是爲二夏卿一、以二衞尉一爲二衞尉卿一、廷尉爲二廷尉卿一、將作大匠爲二大匠卿一、三卿爲二秋卿一、以二光祿勳一爲二光祿卿一、大鴻臚爲二鴻臚卿一、都水使者爲二大舟卿一、三卿是爲二冬卿一、凡十二卿皆置二丞及功曹主簿一。㊁禮部の長官をいふ。周代、春官が邦禮を掌つたからいふ。〔柳宗元、送二元秀才下第東歸一序〕獻藝春卿、當二三卿之辱一。〔孫逖、和下左司張員外自レ洛使入レ京、中路先赴二長安一、逢二立春日一、贈中韋侍御等諸公上詩〕秋憲府中高唱入、春卿署裏和レ歌來。㊂字號。㋑後漢、桓榮（6-14774··7）の字。㋺宋、吳育（2-3365··8）の字。㋩宋、周春年（2-3441··713）の字。㋥宋、周孟陽（2-3441··867）の字。

【春卿遺稿】204′ シュンケイヰカウ　書名。一卷。宋、蔣堂撰。宋史本傳には二十卷とあるが、世に傳本がない。此の本は、其の裔孫鑛の輯めたもので、賦一篇・詩三十一篇、其の尺牘は名筆とされてゐるが、今は一篇も傳らない。〔四庫提要、集、別集類〕。

【春畦】205 シュンケイ　春の田圃。春の田のうね。〔晉書、石崇傳論〕春畦藿靡、列二於凝沍之晨一、錦障逶迤、亙二於山川之外一。〔鮑溶、答レ客詩〕勞問圃人終二歲事一、桔槔聲裏雨二春畦一。〔鄭谷、潼關道中詩〕何年歸二故社一、披レ雨翦二春畦一。〔齊己、湖西逸人詩〕君能許二鄰並一、分レ藥劚二春畦一。

【春景】206 シュンケイ　はるげしき。春の景色。〔繁欽、贈二梅公明一詩〕遘二此春景一、既茂且長。〔盧綸、陳翃郎中北亭送二侯釗侍御一云云歌〕溪中鳥鳴春景旦、一派寒冰忽開散。

【春溪】207 シュンケイ　㊀春のたに。〔元稹、琵琶歌〕著作曾邀連夜宿、中碾春溪華新綠。〔鮑溶、采葛行〕春溪幾回葛花黃、黃麝引レ子山山香。〔朱慶餘、過二耶溪一詩〕春溪繚繞出無レ窮、兩岸桃花正好風。㊁明、狄沖（7-20290··21）の號。

【春禊】208 シュンケイ　上巳の節に行ふみそぎ。〔晉書、禮志下〕漢儀、季春上巳、官及百姓皆禊二于東流一、自レ魏以後、但用二三日一。〔江總、三日侍二宴宣猷堂曲水一詩〕上巳娛二春禊一、芳辰喜二月離一。〔王維、奉下和聖製與二太子諸王一三月應制三日龍池春禊上詩〕故事修二春禊一、新宮展二豫遊一。

【春閨】209 シュンケイ　春のねや。又、婦人のねや。轉じて、妻妾。〔李白、紫騮馬〕揮レ鞭萬里去、安得レ念二春閨一。〔溫庭筠、原隰荑綠柳詩〕腰肢弄二寒吹一、眉意入二春閨一。

【春閨夢裏人】210 シュンケイムリノヒト　空閨を守る妻の夢に入る人。多く戰死の夫にいふ。〔陳陶、隴西行〕誓掃二匈奴一不レ顧レ身、五千貂錦喪二故塵一、可レ憐無定河邊骨、猶是春閨夢裡人。

【春蕙】211 シュンケイ　春の蕙。蕙は蘭の一種。〔李白、獨不レ見詩〕春蕙忽秋草、莎雞鳴二西池一。

【春蹊】212 シュンケイ　春のこみち。〔盧綸、書レ情上二大尹十兄一詩〕芳室芝蘭茂、春蹊桃李開。

【春雞】213 シュンケイ　春のにはとり。〔溫庭筠、春曉曲〕油壁車輕金犢肥、流蘇帳曉春雞早。〔韋莊、尹喜宅詩〕濛濛暮雨春雞唱、漠漠寒蕪雪兎跳。

【春瓊】214 シュンケイ　春の瓊。瓊は采色美しい玉。物事の美稱に用ひる。〔梁簡文帝、玄圃園講頌序〕儲君德彰妙、象體睿春瓊。

【春喬】215 シュンケウ　淸、胡秉虔（9-29400··614）の字。

【春嬌】216 シュンケウ　春の花や美女などのなまめかしいこと。〔梁鍠、狷氏子詩〕憶レ事臨二妝笑一、春嬌滿二鏡臺一。〔元稹、連昌宮詞〕春嬌滿眼睡二紅綃一、

掠削雲鬟旋裝束。〔白居易、把酒思閑事詩〕把酒思閑事、春嬌何處多。〔陳樵、垂絲海棠賦〕挾春嬌而無力兮、色韡韡其可餐。

【春嶠】217 シュンケウ　春の高い山。〔李頻、送壽昌曹明府詩〕漲江晴漸淥、春嶠燒還青。

【春橋】218 シュンケウ　清、朱方藹(**6－14424**‥958)の號。

【春曉】219 シュンゲウ　春のあけぼの。〔孟浩然、春曉詩〕春眠不覺曉、處處聞啼鳥。〔趙存約、鳥散餘花落詩〕春曉游禽集、幽庭幾樹花。

〖春曉園〗220 シュンゲウエン　清、薛英(**9－32123**‥3)の室名。

【春翹】221 シュンゲウ　春の草木の茂り盛なこと。〔陸機、歎逝賦〕步寒林以悽惻、翫春翹而有思。〔注〕善曰、翹、茂盛貌。

【春結】222 シュンケツ　春に愁ひにむすぼれること。結は鬱結すること。〔梁元帝、春日詩〕春愁春自結、春結詎能申。

【春鳺】223 シュンケツ　春の鳺。鳺はみそさざい、又はほととぎす。〔陶弘景、尋山誌〕亟扈蘭而佩蕙、及春鳺之未鳴。

【春蕨】224 シュンケツ　春のわらび。〔陳與義、游峴山次韻詩〕酬山以快飲、春蕨正滋旨。〔倪瓚、題溪山春曉圖詩〕連舸載書煙渚泊、提壺入林春蕨肥。

【春纈】225 シュンケツ　少女の處々紅なる顏色。〔楊基、對雲詩〕脂凝香靨罷晨妝、臉暈微渦散春纈。

【春月】226 シュンゲツ　❶春の季節。〔宋書、禮志四〕是春月不用雌爾。❷春の夜の月。〔古樂府、子夜四時歌、春歌〕情人戲春月、窈窕曳羅裾。〔元稹、春月詩〕春月雖至明、終有靄靄光。

〖春月柳〗227 シュンゲツリウ　春の柳。〔晉書、王恭傳〕或目之曰、濯濯如春月柳。〔晁冲之、和十二兄詩〕孰云醉無度、婉婉春月柳。

【春見】228 シュンケン　❶春に天子に朝見すること。〔周禮、春官、大宗伯〕以賓禮親邦國、春見曰朝、夏見曰宗、秋見曰覲、冬見曰遇、時見曰會、殷見曰同。〔禮、曲禮下〕天子當宁而立、諸公東面、諸侯西面、曰朝。〔注〕諸侯春見曰朝、受摯於朝、受享於廟、生氣文也。❷春にあらはれる。〔後漢書、郎顗傳〕秋冬之政、行乎春夏、故白虹春見、掩蔽日曜。〔姚逖、五星同色賦〕或奎婁而春見、或角亢而秋呈。

【春姸】229 シュンケン　春のうるはしいこと。〔王休、清清堂賦〕公門沈沈兮晝靜、里閈熙熙兮春姸。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕玉人家在漢江邊、才貌及春姸。

【春暄】230 シュンケン　春のあたたかさ。春暖。〔詩、豳風、七月、春日遲遲、疏〕人遇春暄、則四體舒泰。〔謝莊、孝武帝哀策文〕雨零露湛、冬暖春暄。

【春臉】231 シュンケン　春のやうにうるはしい顏。〔蘇軾、送別詩〕鴨頭春水濃如染、水面桃花弄春臉。

【春繭】232 シュンケン　❶春のきぬ衣。〔皮日休、和魯望風人詩〕莫言春繭薄、猶有萬重思。❷春かけたまゆ。〔范成大、上元紀吳中節物云云詩〕桑蠶春繭勸、花蝶夜蛾迎。〔陸游、宿武連縣驛詩〕宦情薄似秋蟬翼、鄉思多於春繭絲。

【春蠒】233 シュンケン　食物の名。閒食に用ひるもの。俗に春捲といふ。〔夢粱錄、葷素從食店〕市食點心有薄皮春蠒生餡饅頭。

【春元】234 シュンゲン　❶春のはじめ。〔宋史、樂志十四〕涓辰協吉、時維春元、上冊三殿、曠古無前。❷明、林章(**6－14551**‥123)の本名。

【春原】235 シュンゲン　❶春の野原。〔隋書、音樂志下〕春原俶載、青壇致祀。〔李商隱、樂遊詩〕春夢亂不記、春原登已重。〔劉基、連珠〕春原之草、拔盡復生、夏廚之蠅、驅去還集。❷清、沈可培(**6－17189**‥441)の字。❸スンノハラ・スハラ・ハルハラ　姓氏。〔姓氏家系大辭典〕。

【春減】236 シュンゲン　春がだんだんに盡きること。〔歐陽脩、寄張至祕校詩〕柳緜飛後春應減、蘭徑荒時客倦游。〔蘇軾、次韻劉景文・周次元寒食同遊西湖詩〕絮飛春減不成年、老境同乘下瀨船。

【春枯】237 シュンコ　春に枯れること。〔庾信、思舊銘序〕雕殘殺翮、無所假乎風飆、零落春枯、不足煩於霜露。〔歐陽脩、奉使道中寄坦師詩〕塞垣春枯積雪溜、沙礫威怒黃雲愁。

【春扈】238 シュンコ　春鳸に同じ。〔獨斷、上〕至少昊之世、置九農之官如左、春扈氏、農正、趣民耕農。

【春壺】239 シュンコ　春の酒つぼ。〔杜甫、寄劉峽州伯華使君詩〕宴飲春壺酒、恩分夏簟冰。〔歐陽脩、逸老亭詩〕野鳥窺華袞、春壺勞耦耕。

【春湖】240 シュンコ　❶春のみづうみ。〔宋之問、謁禹廟詩〕氣清連曙海、雲白洗春湖。〔李紳、過吳門詩〕花寺聽鶯入、春湖看雁留。❷清、李宗瀚(**6－14459**‥1622)の字。

【春鳸】241 シュンコ　春扈に同じ。❶春のふなしうづら。〔爾雅、釋鳥〕春鳸鳻鶞。〔校勘記〕注疏本、扈改鳸。❷古、金天氏の時、耕稼を掌つたもの。春鳸氏。〔晉書、食貨志〕昔在金天、勤於民事、命春鳸以耕稼、召夏鳸以耘鋤、秋鳸以收斂、冬鳸於焉蓋藏。

【春後】242 シュンゴ　春の末。春の終。〔皮日休、西塞山泊漁家詩〕雨來蓴菜流船滑、春後鱸魚墜釣肥。〔劉得仁、初夏題段郎中脩竹里南園詩〕密樹繞春後、深山在目前。〔蘇軾、寄黎眉州詩〕瓦屋寒堆春後雪、峨眉翠掃雨餘天。

【春工】244 シュンコウ　造化の春のたくみ。〔楊愼、鴈來紅賦〕茲微生兮秋穎、乃借榮於春工。

【春紅】245 シュンコウ　べにいろ。化粧脂。〔李白、怨歌行〕十五入漢宮、花顏笑春紅。〔鄭谷、苕錢詩〕春紅秋紫繞池臺、箇箇圓如濟世財。

【春缸】246 シュンコウ　春の酒がめ。〔蘇軾、送楊孟容詩〕何以待我歸、寒醅發春缸。

【春侯】247 シュンコウ　清、莊應會(**9－31035**‥154)の字。

【春虹】248 シュンコウ　春のにじ。〔宣和書譜、十三〕世謂(張)芝書、云云、或以似春虹飲澗、落霞浮浦。

【春候】249 シュンコウ　春の氣候。春の時候。〔謝觀、初雷啓蟄賦〕啓一聲於春候、知萬類之奮迅。〔劉長卿、至德二年春正月時謬蒙差攝海鹽令聞王師收二京因書事寄上浙西節度李侍郎中丞行營五十韻詩〕煙水宜春候、褰關値晚晴。〔杜牧、雪中書懷詩〕且想春候暖、甕間傾一巵。〔梅堯臣、送張叔展北歸詩〕江南春候早、水暖野芹生。〔宋史、吳奎傳〕皇祐中、頗多災異、奎極言其徵、曰、今冬令反燠、春候反寒、太陽虧明、五星失度、水旱作沴、饑饉荐臻、此天道之不順也。

【春貢】250 シュンコウ　春のみつぎもの。〔蘇軾、次韻李公擇梅花詩〕永懷茶山下、攜妓修春貢。

【春溝】251 シュンコウ　春のみぞ。〔晁冲之、送惠純上人遊閩詩〕春溝水動茶花白、夏谷雲生荔子紅。

【春鴻】252 シュンコウ　春の鴻雁。〔易林、比之第八、中孚〕春鴻飛東、以馬貨金、利得十倍、重載歸鄉。〔徐陵、齊國宋司徒寺碑銘〕秋蓬四轉、春鴻五響、孤松獨秀、德音長往。〔戴叔倫、張評事涉秦居士系見訪郡齋云云詩〕古墻抽臘筍、喬木飄春鴻。

【春谷】253 シュンコク　❶春のたに。〔劉長卿、將赴江南湖上別皇甫曾詩〕綠水通春谷、青山過板橋。〔杜甫、登牛頭山亭子詩〕江城孤照日、春谷遠含風。〔李端、雲陽觀寄袁稠詩〕漱泉春谷冷、擣藥夜窗深。❷字號。㋑宋、趙孟奎(**10－37171**‥898)の號。㋺明、汪宗元(**6－17154**‥282)の號。㊇清、黃承吉(**12－47926**‥1164)の號。㊁清、鄒元斗(**11－39562**‥87)の號。

【春刻】254 シュンコク　春の時間。〔薛能、投杜舍人詩〕春刻幾分添禁漏、夏桐初葉滿庭柯。

【春穀】255 シュンコク　縣名。故治は安徽省繁昌縣の西北。〔漢書、地理志、上〕丹陽郡、縣十七、春穀。

【春轂】256 シュンコク　春のくるま。〔張喬、送南陵尉李頻詩〕晚霧看春轂、晴天見朗陵。

【春困】257 シュンコン　春に精神が倦怠すること。春日の睡氣。〔曾鞏、錢塘上元夜祥符寺陪咨臣郎中文燕席詩〕金地夜寒消美酒、玉人春困倚東風。

【春恨】258 シュンコン　春のもの思ひ。春愁。〔楊炯、梅花落詩〕行人斷消息、春恨幾徘徊。〔王昌齡、西宮春怨詩〕西宮夜靜百花香、欲捲珠簾春恨長。

【春魂】259 シュンコン　春のたましひ。〔鮑溶、送蕭世秀才詩〕心交別我西京去、愁滿春魂不易醒。

【春墾】260 シュンコン　春に土地を開きたがやす。〔宋書、徐爰傳〕臣以爲、方鎭所資、實宜且田且守、若使堅壁而春墾輟耕、淸野而秋登莫擬、私無生業、公成虛罄。

【春沙】261 シュンサ　春のみぎは。〔杜甫、遠遊詩〕竹風連野色、江沫擁春沙。〔李賀、昌谷北園新筍詩〕今年水曲春沙上、笛管新篁拔玉青。

【春紗】262 シュンサ　紗の一種。長さ二丈四尺、幅二尺

のもの。〔萬楚、五日觀レ妓詩〕西施謾道浣二春紗一、碧玉今時鬭二麗華一。

【春莎】263 シユンサ 春のはますげ。莎は、はますげ。〔李建勳、春詞〕日高閑步下二堂堦一、細草春莎沒二繡鞋一。

【春槎】264 シユンサ 清、王源(7―20823‥376)の字。

【春彩】265 シユンサイ 春のひかり。〔劉廷芝、代二閨人春日一詩〕珠簾的二曉光一、玉顏豔二春彩一。〔皮日休、奉三和魯望寄二南陽廣文一次韻詩〕春彩融融釋二凍塘一、日精閑嚥坐二巖房一。

【春祭】266 シユンサイ ❶古、天子・諸侯が宗廟を祭つた春の祭。夏殷の時、礿といひ、周代、祠と改む。只、諸侯は舊名のままに因つた。〔禮、祭統〕凡祭有二四時一、春祭曰レ礿。〔集解〕愚謂、礿禘嘗烝、夏殷四時之祭名也、天子別有二大禘之祭一、故周改二春夏祭名一以避レ之、春曰レ祠、夏曰レ禴、而諸侯之祭其名不レ改。❷春、里中の社で行つた報祭。〔管子、禁藏〕擧二春祭一、塞二久禱一。〔纂詁〕塞賽通、報祭也。

【春菜】267 シユンサイ 春の野菜。又、若菜。〔白居易、村居臥レ病詩〕望レ黍作二冬酒一、留レ薤爲二春菜一。

【春綵】268 シユンサイ 唐代、貢賦の名。〔唐書、食貨志二〕益州以二羅紬綾絹一供二春綵一。

【春賽】269 シユンサイ 春日、里中の社で報祭をすること。春祭りの一種。〔戴表元、林村寒食詩〕聞說舊時春賽罷、家家鼓笛醉成レ團。

【春齋】270 シユンサイ ❶巫覡が每歲民財を斂めて鬼を祭ることをいふ。火災よけの祭。〔宋史、陳希亮傳〕巫覡歲斂二民財一、祭レ鬼、謂二之春齋一、否則有二火災一。❷清、孫見龍(3―6987‥390)の號。

【春早】271 シユンサウ 早春。春の早いこと。〔歐陽脩、智蟾上人遊二南岳一詩〕到時春尙早、收レ茗綠巖前。〔陸游、梅花詩〕畫圖省識驚二春早一、玉笛孤吹怨二夜殘一。〔楊萬里、憶二秦娥一詞〕新春早春前、十日春歸了。

【春桑】272 シユンサウ 春のくは。〔梁簡文帝、箏賦〕春桑已舒、暄風晻曖。〔歐陽脩、與二謝三學士一唱和和レ遊二午橋莊一詩〕好駐城南馬、春桑徧二陌頭一。〔郝經、儀眞館中暑詩〕鴈霜彫二夏木一、鳩雨潤二春桑一。

【春草】273 シユンサウ ❶春に萌え出づる若草。〔謝靈運、登二池上樓一詩〕池塘生二春草一、園柳變二鳴禽一。〔王維、雜詩〕愁心視二春草一、畏下向二玉階一生上。〔溫庭筠、陳琳墓詩〕石麟埋沒藏二春草一、銅雀荒涼對二暮雲一。〔李頎、題二璿公山池一詩〕指二揮如意一天花落、坐二臥閑房一春草深。〔劉長卿、經二漂母墓一詩〕春草茫茫綠、王孫舊此遊。〔李洞、繡嶺宮詩〕春草萋萋春水綠、野棠開盡飄二香玉一。〔朱熹、偶成詩〕少年易レ老學難レ成、一寸光陰不レ可レ輕、未レ覺池塘春草夢、階前梧葉已秋聲。❷采色の名。〔廣雅、釋器〕春草、雞翹、綵也。〔急就篇、二〕春草雞翹鳧翁濯。〔注〕春草、象二其初生纖麗之狀一也、云云、既爲二春草雞翹之狀一、一曰、謂二染彩而色似一レ之。❸草の名。白微の異名。〔爾雅、釋草〕葞、春草。〔義疏〕本草衍義引孫炎云、藥草也。〔本草、白微〕釋名、時珍曰、微細也、其根細而白也、按爾雅葞春草也、微葞音相近、則白微又葞音之轉也、別錄以レ葞爲二莽草之名一、誤矣。❹後藤機の號。後藤松陰(4―10098‥751)を見よ。

【春草園】274 シユンサウヱン 清、趙昱(10―37171‥10)の室名。

【春草軒】275 シユンサウケン 元、金信(11―40152‥614)の室名。

【春草齋】276 シユンサウサイ 明、烏斯道(7―18998‥436)の號。

【春草堂】277 シユンサウダウ 賴惟柔の號。賴杏坪(10―36861‥32)を見よ。

【春草閒房】278 シユンサウカンバウ 室名。❶明、金俊明(11―40152‥1298)の室名。❷清、郭毓圻(11―39474‥237)の室名。

【春草齋集】280 シユンサウサイシフ 書名。十卷。附錄一卷。明、烏斯道撰。文五卷・詩五卷に分る。附錄一卷は傳讚の屬を載す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【春草堂詩鈔】281 シユンサウダウシセウ 書名。八卷。賴杏坪撰。古近體詩六百二十一首を收錄。菅茶山・賴山陽・篠崎小竹・後藤松陰の評を附す。

【春草碧色春水綠波】282 シユンサウヘキシヨクシユンスイリヨクハ 野には春草が碧色をなし、川には春水が綠波を漾はすをいふ。〔江淹、別賦〕春草碧色、春水綠波、送二君南浦一、傷如レ之何。

【春曹】283 シユンサウ 官名。禮部(8―24844‥192)の異稱。〔稱謂錄、禮部、春曹〕叩鉢齋官職攷、禮部稱二春曹一、亦稱二南省一。

【春巢】284 シユンサウ 春のす。〔梅堯臣、次韻和三永叔雨中寄二原甫舍人一詩〕賴二得春巢一燕未レ歸、高簷終日雨衰衰。

【春窗】285 シユンサウ 春のまど。〔李商隱、閨情詩〕春窗一覺風流夢、却是同袍不レ得レ知。

【春裝】286 シユンサウ 春のよそほひ。又、春衣の仕度。〔李山甫、蜀中寓懷詩〕春裝寶闕重重樹、日照仙州萬萬樓。〔皎然、送下德守二叔姪上人還二國清寺一覲上レ師詩〕古偈穿二花線一、春裝卷二葉衣一。

【春霜】287 シユンサウ 春の霜。〔漢書、于定國傳〕永光元年、春霜夏寒、日青亡レ光。〔庾信、周車騎大將軍贈小司空宇文顯墓誌銘〕草銜二秋火一、樹抱二春霜一。〔司空圖、牡丹詩〕主人猶自惜、錦幕護二春霜一。〔歐陽脩、送二黎生下第歸一レ蜀詩〕有司不レ見採、春霜滑二歸輈一。

【春藻】288 シユンサウ あやもやう。文章。〔溫子昇、司徒祖瑩墓銘〕言折二秋毫一、辭連二春藻一。〔許敬宗、奉三和執レ契靜二三邊一應詔詩〕充庭延二歓至一、絢簡敷二春藻一。

【春作】289 シユンサク 春に耕作すること。又、春の耕作。〔禮、樂記〕春作夏長、仁也、秋斂冬藏、義也、仁近二於樂一、義近二於禮一。

【春冊】290 ch‘uen^1 ts‘ê^4 まくらゑ。春畫。

【春殺】291 シユンサツ 春に草木を枯殺させること。四時の序を失ふこと。〔易、泰、后以財二成天地之道一、疏〕天地之道者、謂二四時一也、冬寒夏暑、春生秋殺之道、若氣相交通、則物失二其節一、物失二其節一、則冬溫夏寒、秋生春殺。

【春三】292 ch‘uen^1 san^1 季春。三月。

【春散】293 シユンサン 宋、王安石の青苗法で、青苗錢を春にわかちあたへること。〔宋史、王安石傳〕青苗法者、以二常平糴本一、作二青苗錢一、散二與人戶一、令レ出二息二分一、春散秋斂。

【春粲】294 シユンサン みめよく美しい。〔陸雲、爲二顧彥先一贈レ婦詩〕皎皎彼姝子、灼灼懷二春粲一。〔秦觀、春日雜興詩〕東方有二美人一、容華茂二春粲一。

【春算】295 シユンサン 春季に計算する。〔宋史、司馬光傳〕貧者無レ可レ償、則散而之二四方一、富者不レ能レ去、必責使三代二償數家之負一、春算秋計、展轉日滋、貧者既盡、富者亦貧、十年之外、百姓無二復存者一矣。

【春蠶】296 シユンサン 春まゆを作るかひこ。はるこ。〔沈約、三月三日率爾成レ篇詩〕寧憶春蠶起、日暮桑欲レ萎。〔李白、古風詩〕昔視二秋蛾飛一、今見二春蠶生一。

【如二春蠶吐一レ絲】297 シユンサンノイトヲハクガゴトシ 畫筆の輕妙な喩。〔圖繪寶鑑、二、顧愷之〕愷之博學有二才氣一、丹青亦造二其妙一、筆法如二春蠶吐一レ絲、初見甚平易、且形似時或有レ失、細見レ之、六法兼備、傳染以二濃色一、微加二點綴一、不レ求二暈飾一。

【春山】298 シユンザン ❶春の山。〔杜甫、題二張氏隱居一詩〕春山無レ伴獨相求、伐木丁丁山更幽。〔李華、春行寄レ興詩〕芳樹無レ人花自落、春山一路鳥空啼。〔張籍、寄二李渤一詩〕春山處處行應レ好、一月看レ華到二幾峯一。❷美人の眉の喩。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕春山低レ翠、秋水凝レ眸。〔桃花扇、偵戲〕憑レ君買レ黛畫二春山一。❸字號。㋑宋、蔡希點(9―31818‥149)の號。㋺清、郭善鄰(11―39474‥365)の號。㋩清、嚴果(2―4589‥62)の號。㋥小山朝弘の號。小山春山(4―7473‥518)を見よ。㋭川上廣樹の號。川上春山(4―8673‥86)を見よ。

【春山樵】299 シユンザンセウ 清、宋圻安(3―7078‥238)の號。

【蹙二春山一】300 シユンザンヲセマル 眉の秀でたさま。〔紅樓夢、三十回〕眉蹙二春山一、眼顰二秋水一。

【春山如レ笑】301 シユンザンワラフガゴトシ 春の山の溫雅なさま。〔郭熙、山水訓〕眞山之煙嵐、四時不レ同、春山澹冶而如レ笑、夏山蒼翠而欲レ滴、秋山明淨而如レ粧、冬山慘淡而如レ睡。

【春山八字】302 シユンザンハチジ 美人の眉の喩。〔剪燈餘話、江廟泥神記〕春山八字爭二妍媚一。

【春山寶座】303 シユンザンハウザ 春の神の座。清代、立春の日に禮部から呈進したもの。〔清會典事例、禮部、授時〕立春前一日、順天府官、豫設二春山寶座芒神土牛各案於禮部一、屆日各官倶朝服、生員倶頂二戴公服一、自レ部昇レ案、天文生導引、由二長安左門天安門端門各中門一入、至二午門前一、大興宛

平二縣令設二案於午門外正中一、奉恭進二皇帝皇后春山寶座芒神土牛一、各陳二於案一、禮部堂官及順天府府尹府丞率屬畢會、欽天監候時官報二屆時一、生員舁レ案、禮部官前引、禮部堂官順天府府尹暨府丞後隨、由二午門中門一入二昭德門一、至二後左門外一止、陳設畢、內監接舁、禮部官前引、禮部堂官及順天府府尹府丞從、至二乾清門一、各官止立、內監舁入二乾清宮一、內務府官恭候、將二上次春山等一奉出。

【春殘】304 シュンザン 春のをはり。殘春。〔崔塗、澗松詩〕南園桃李雖レ堪レ羨、爭奈春殘又寂寥。〔齊己、蝴蝶詩〕日晚來仍急、春殘舞未レ慵。〔陸游、南鄭馬上作〕南鄭春殘信レ馬行、通都氣象尙崢嶸。

【春塹】305 シュンザン 春のほり。〔林逋、湖山小隱詩〕晝岩松鼠靜、春塹竹雞深。

【春史】306 シュンシ 春の事を掌る役人。〔庾信、三月三日華林園馬射賦〕春史司レ職、靑旗效レ祥。

【春司】307 シュンシ ㊀春の神。〔皎然、送二李少賓赴レ擧詩〕春司遲二爾策一、方用靜二妖兵一。㊁禮部(8－24844‥192)の異稱。〔稱謂錄、禮部、春司〕張籍、賀二王起侍郎一詩、共賀春司能鑒職、今年端合有二公卿一。

【春市】308 シュンシ 春のいちば。〔范成大、立春日郊行詩〕日滿縣前春市合、潮平浦口暮帆多。

【春至】309 シュンシ ㊀春分。〔管子、輕重己〕以二冬日至一始數、九十二日、謂二之春至一。㊁春になる。春がやってくる。〔李白、桓公井詩〕秋來桐暫落、春至桃還發。〔李紳、柳詩〕人事推移無二舊物一、年年春至綠二垂絲一。

【春始】311 シュンシ 春のはじめ。〔禮、鄕飮酒義、四面之坐象二四時一也、疏〕主人東南象二夏始一、賓西北象二冬始一、僎東北象二春始一、介西南象二秋始一、其四時不レ離二天地陰陽之內一、而坐卽是賓主介僎之所レ象也。〔魏書、李沖傳〕朕將下巡二省方岳一、至レ鄴小停、春始便還上、未レ宜二遂不一レ歸レ北。

【春枝】312 シュンシ 春の草木の枝。〔王建、送二人遊レ塞詩〕初晴天墮レ絲、晚色上二春枝一。〔孟郊、和二錢侍郎甘露一詩〕春枝晨嫋嫋、香味曉翻翻。〔歐陽脩、希眞堂東手種二菊花一十月始開詩〕春枝滿レ園爛張レ錦、風雨須臾落顚倒。

【春祀】313 シュンシ 春にまつる。又、春のまつり。〔宋史、禮志六〕傳曰、春祀二司命一、秋祠レ厲、此所レ祀之位、所レ祀之時、所レ用之俎也。〔王儒眞、菁茅賦〕春祀秋嘗、備供二王祭一。

【春姿】314 シュンシ 春の美しいすがた。〔郝經、牡丹菊賦〕郁二霞腴之春姿一、斂二玉瀣之秋英一。〔溫庭筠、走馬樓三更曲〕春姿暖氣昏二神沼一、李樹拳枝紫芽小。

【春思】315 シュンシ 春ののどかな心もち。〔沈佺期、送二陸侍御餘慶北使一詩〕朔途際二遼海一、春思繞二轘轅一。〔元稹、上二楊白髮人一詩〕天寶年中花鳥使、撩レ花狎レ鳥含二春思一。

【春祠】316 シュンシ 春のまつり。祠(8－24676)の字解を見よ。〔周禮、春官、司尊彝〕春祠夏禴、祼用二雞彝鳥彝一、皆有レ舟。〔公羊、桓、八、何以書譏レ亟也、疏〕周之三月、乃是夏之孟月、自有二春祠之禮一、今周之五月、乃夏之三月也、猶與二上祠一同在二一時一、而復爲レ烝、故曰、與二上祀一同爲レ亟也。〔韋應物、白沙亭上逢二吳叟一歌〕冬狩春祠無二一事一、歡遊洽宴多二頒賜一。

【春耜】317 シュンシ 春のすき。又、春にすきで田を耕すこと。〔宋書、張永傳〕一歲之閒、四二馳遙路一、或失レ遽二春耜一、或違レ要二秋登一、致レ使下公替二堂儲一、家闕中舊粟上、考二定利害一、宜レ加二詳改一。

【春絲】318 シュンシ 柳のえだをいふ。〔皎然、擬長安春詞〕春絮愁偏滿、春絲悶更繁。〔徐夤、釣車詩〕軸磨二騂角一冰光滑、輪卷二春絲一水面平。〔歐陽脩、柳詩〕綠樹低昂不二自持一、河橋風雨弄二春絲一。

【春試】319 シュンシ 春の試驗。宋代、春秋貢試の制があり、後、清末に至るまで、春には會試、秋には鄕試を行つた。〔宋史、選擧志〕春考試、合格及第者、列レ名放二榜于尙書省一。〔宋史、選擧志二〕舊制秋貢春試、皆置二別頭場一、以待二擧人之避レ親者一。〔陔餘叢考、試期〕夷堅志、春試向例在二正月一、淳熙十四年庚戌、以三首春雪寒恐二遠方來者愆一レ期、特展二半月一、此宋時秋試在二八月一、春試在二二月一之源流也。〔淸會典事例、禮部、貢擧〕三年春二月擧二行會試一、三場試期、與二鄕試一同、二年奏准、江南・陝西二省鄕試、以二十月一擧行。

【春詩】320 シュンシ 春に詩をよみならふ。〔梁元帝、上二忠臣傳一表〕三握再吐、夙奉二紫庭之慈一、春詩秋禮、早蒙二丹扆之訓一。

【春澌】321 シュンシ 春に解けて流れる氷。〔張協、雜詩〕飛澤洗二冬條一、浮飈解二春澌一。〔韓愈、寄二崔二十六立之一詩〕還歸非レ無レ指、灞渭揚二春澌一。

【春寺】322 シュンジ 春の寺院。〔杜甫、上二牛頭寺一詩〕花濃春寺靜、竹細野池幽。〔元稹、寄レ僧詩〕落魄閑行不レ著レ家、徧尋二春寺一賞二年華一。〔歐陽衮、南澗寺詩〕春寺無レ人亂鳥啼、藤蘿陰磴野僧迷。〔賈島、王侍御南原莊詩〕春寺閒眠久、晴臺獨上多。

【春事】323 シュンジ ㊀春のしごと。農事をいふ。〔書、堯典、厥民析、傳〕春事既起、丁壯就レ功。〔管子、幼官〕十二地氣發、戒二春事一。㊁春の樂しいこと。〔范成大、泊二衡州一詩〕空江十日無二春事一、船到二衡陽一柳色深。㊂春興に同じ。〔岑參、山房春事詩〕梁園日暮亂飛鴉、極目蕭條三兩家。

【春時】324 シュンジ 春の時節。種蒔の時節。〔周禮、天官、食醫〕凡食齊眡二春時一。〔張侹、寄レ人詩〕酷憐風月爲二多情一、還到二春時一別恨生。

【春州】325 シュンシウ 州名。唐、置く。宋、廢す。廣東省陽春縣。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、陽春縣〕唐武德四年、乃置二春州一、天寶初、曰二南陵郡一、乾元初、復爲二春州一、宋熙寧六年、州廢、縣屬二恩州一。

【春秀】326 シュンシウ 春の花。〔謝朓、和二王著作八公山詩一詩〕春秀良已凋、秋場庶能築。

【春洲】327 シュンシウ ㊀春のす。〔謝朓、晚登二三山一還望二京邑一詩〕喧鳥覆二春洲一、雜英滿二芳甸一。〔庾信、詠二畫屛風一詩〕流水桃花色、春洲杜若香。㊁淸、彭泰來(4－10003‥184)の號。

【春愁】328 シュンシウ 春の日に物憂く何となく氣のふさがること。春困。〔顧況、洛陽早春詩〕何地避二春愁一、終年憶二舊遊一。〔李羣玉、送レ客詩〕定知行路春愁裏、故郢城邊見二落梅一。〔陸龜蒙、自遣詩〕爭知天上無二人住一、亦有二春愁鶴髮翁一。〔姚合、送二別友人一詩〕摘レ華浸レ酒春愁盡、燒レ竹煎レ茶夜臥遲。

〖春愁秋思〗329 シュンシウシウシ 春の日の物憂さと秋の日の物思ひ。〔白居易、陵園妾詩〕年月多、時光換、春愁秋思知二何限一。

【春蒐】330 シュンシウ 春季に行はれる獵。〔爾雅、釋天〕春獵曰レ蒐。〔白居易、續虞人箴〕鳥生二深林一、獸在二豐草一、春蒐冬狩、取レ之以レ道。

〖春蒐秋獮〗331 シュンシウシウセン 春のかりと秋のかり。蒐獮は竝に獸を狩りするをいふ。〔左氏、隱、五〕故春蒐・夏苗・秋獮・冬狩、皆於二農隙一以講レ事也。〔司馬法、仁本〕天子大愷、春蒐秋獮。

【春柔】332 シュンジウ ㊀春のやはらぎ。〔魏書、程駿傳〕仰歌二祖業一、俯欣二春柔一。㊁春の柔い草木の枝。〔宋史、樂志十五〕寶閣珠樓臨、上苑百卉弄二春柔一。〔陸游、早春新晴詩〕柳弄二春柔一拂二小潭一、山橫二霽色一卷二浮嵐一。

【春秋】333 シュンジウ ㊀春と秋。〔禮、王制〕春秋教以二禮樂一、冬夏教以二詩書一。〔中庸〕春秋脩二其祖廟一。〔左氏、襄、十三〕春秋窀穸之事。〔國語、吳語〕不レ失二春秋一、必率二諸侯一、以顧二在余一人一。㊁四時。春夏秋冬。〔詩、魯頌、閟宮〕春秋匪レ懈、享祀不レ忒。〔箋〕春秋、猶二四時一也。㊂としつき。歲月。轉じてよはひ、年齡。春秋高(335)・春秋富(339)を見よ。〔楚辭、宋玉、九辯〕春秋逴逴而日高兮。〔注〕年齒已老、將二晚暮一也。㊃時代の名。周の東遷より晉が韓・魏・趙の三國に分裂する迄の三百六十餘年間。孔子の春秋は、魯の隱公元年から哀公十四年に至る二百四十二年の記述であるが、此の時代の事が略〻記載されてゐるから、便宜上此の書名をとつて春秋時代といふ。春秋十二國(365)・春秋十二諸侯(372)を見よ。㊄新書の篇名。㊅書名。孔子が魯國の記錄に就いて筆削したもの。春秋とは、杜預の左傳の序に、以レ事繫レ日、以レ日繫レ月、以レ月繫レ時、以レ時繫レ年とあつて、事を記錄するに何月何日に某事あり、何年何時に某事ありと記す、故に四季の中、春秋の二字を採つて一年中の記錄たる意を表したものである。もと編年繫月史の名であるから、唯〻魯國ばかりでなく、夏殷春秋・周春秋・晉春秋・楚春秋・燕春秋・宋春秋・齊春秋・楚漢春秋・吳越春秋等、其の國の記錄を春秋といふ類は多い。孔子が筆削した春秋は、魯の隱公元年より哀公十四年に亙る隱公(十一年)・桓公(十八年)・莊公(三十二年)・閔公(二年)・僖公(三十三年)・

文公（十八年）・宣公（十八年）・成公（十八年）・襄公（三十一年）・昭公（三十二年）・定公（十五年）・哀公（十四年）の十二公二百四十二年間、列國に起つた天災・時變・征伐・會盟、及び國君卿大夫の死生等、種々の事跡に就いて善惡を辨じ、名分を正し、大義を揭げ、天下後世をして尊王の道を知らしめた。故に孔子著述の本意に就いて、左氏を說く者が周公の志を繼ぐに在りとし、公羊を說く者が周を黜けて魯を王とするに在りとし、穀梁を說く者が東周の微弱を救ふに在りとし、又、唐の啖助が周の弊を救ひ禮の薄を革むるに在りとし、宋の呂大奎が天理を扶けて人欲を遏むるものとする等は、皆一面の觀察たるにすぎず、孟子が世衰道微、邪說暴行有作、云云、孔子懼而作二春秋一といひ、又、孔子作二春秋一而亂臣賊子懼（滕文公、下）といつたのが、如實に其の本意を得たものといふべきである。又、孟子の此の言に因て褒貶論が起り、春秋三傳に端を發して盛行し、遂には一字褒貶論・春秋有貶無褒論、及び春秋無褒貶說等の諸說が出たが、何れも謬說たるを免かれず、要するに朱熹の所謂、聖人作二春秋一、不レ過三直書二其事一、而善惡自見、とするのを以て其の當を得たものと見るべきである。今、五經及び十三經の一に列す。此の書を解釋した者に左氏傳・公羊傳・穀梁傳・鄒氏傳・夾氏傳の五家があり、鄒夾二傳は今傳はらず、左・公・穀を春秋三傳といふ。漢代以來三傳のみ獨り行はれたが、唐の陸淳の微旨・纂例が三傳以外の自說を出してから、宋の春秋は殆ど之に倣つて各自の立說を恣にし、ことに時勢の影響を受けて尊王攘夷の士風を振起するに用ひられて、南宋に至つて胡瑗が傳を作る。之を胡氏傳と曰ふ。宋の南渡に憤慨して作つたもので、復讐を以て春秋の大義とす。三傳に合して春秋四傳といふ。今、朱子派の五經集注の一に列して居る。左氏傳（**4－8720**・・205）・公羊傳（**2－1452**・・733）・穀梁傳（**8－25221**・・94）を見よ。〔孟子、離婁下〕詩亡、然後春秋作。〔荀子、勸學〕春秋之微也。〔漢書、藝文志〕春秋古經十二篇、經十一卷、云云、凡春秋二十三家、九百四十八篇、古之王者世有二史官一、君擧必書、所下以愼二言行一、昭中法式上也、左史記レ言、右史記レ事、事爲二春秋一、言爲二尙書一、帝王靡レ不レ同レ之、周室既微、載籍殘缺、仲尼思レ存二前聖之業一、乃稱曰、夏禮吾能言レ之、杞不レ足レ徵也、殷禮吾能言レ之、宋不レ足レ徵也、文獻不レ足故也、足則吾能徵レ之矣、以二魯周公之國一、禮文備レ物、史官有レ法、故與二左丘明一、觀二其史記一、據二行事一、仍二人道一、因レ興以立レ功、就レ敗以成レ罰、假二日月一以定二歷數一、籍二朝聘一以正二禮樂一、有レ所二褒諱貶損一、不レ可二書見一、口二授弟子一、弟子退而異言、丘明恐下弟子各安二其意一、以失中其眞上、故論二本事一而作レ傳、明下夫子不中以二空言一說上經也、春秋所二貶損一、大人當レ世、君臣有二威權勢力一、其事實皆形二於傳一、是以隱二其書一而不レ宣、所三以免二時難一也、及二末世一口說流行、故有二公羊穀梁鄒夾之傳一、四家之中、公羊穀梁立二於學官一、鄒氏無レ師、夾氏未レ有レ書。〔四庫全書、經部、春秋類〕說經家之有二門戶一、自二春秋三傳一始、然迄三能竝二立於世一、其間諸儒之論、中唐以前、則左氏勝、啖助趙匡以逮二北宋一、則公羊穀梁勝、孫復劉敞之流、名爲レ棄レ傳從レ經、所レ棄者特左氏事跡、公羊穀梁月日例耳、其推闡譏貶、少レ可多レ否、實陰本二公羊穀梁法一、猶下誅二鄧析一用中竹刑上也、夫刪二除事跡一、何由知二其是非一、無レ案而斷、是春秋爲二射覆一矣、聖人禁二人爲レ非、亦予二人爲レ善、經典所レ述、不レ乏二褒詞一、而操レ筆臨レ文、乃無二人不レ加二誅絕一、春秋豈吉網羅鉗乎、至三於用二夏時一、則改二正朔一、削二尊號一、則貶二天王一、春秋又何僭以亂也、沿波不レ返、此類宏多、雖二舊說流傳、不レ能二盡廢一、要以二切實有レ徵、平易近レ理者一爲レ本、其瑕瑜互見者、則別白而存レ之、遊談臆說、以二私意一亂二聖經一者、則僅存二其目一、蓋六經之中、惟易包二衆理一、事事可レ通、春秋具二列事實一、亦人人可レ解、一知半見、議論易レ生、著錄之繁、二經爲レ最、故取レ之不レ敢不レ愼也。

〔參考書〕【春秋公羊傳注疏】公羊傳（**2－1452**・・733）を見よ。【春秋穀梁傳注疏】穀梁傳（**8－25221**・・94）を見よ。【春秋左氏傳正義】左氏傳（**4－8720**・・205）を見よ。【春秋決事】（一卷）漢、董仲舒撰。〔玉函山房輯佚書、第四十一冊〕。【春秋釋例】（十五卷）晉、杜預撰。春秋の義例を集め、己の意を以て釋いたもので、其の世族の譜、土地の名等は尤も精核である。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋微旨】（三卷）唐、陸淳撰。初めに三傳の異同を列ね、啖助・趙匡の說をまじへて、其の是非を斷じたもの。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋集傳纂例】（十卷）唐、陸淳撰。其の師啖助及び其の友趙匡の說を釋いたもの。三傳の得失を論じて相掊擊するの源は此の書に發す。陰に公穀を主とし、其の說に、左氏は序事多きも釋經殊に少く、公穀の經に密なるに如かずといふ。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋集傳辨疑】（十卷）唐、陸淳撰。啖助・趙匡兩家の三傳を攻駁するの言を述ぶ。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋名號歸一圖】（二卷）蜀、馮繼先撰。宋、岳珂重編。春秋經傳に見ゆる所の人名を取り、其の異稱を核して一に歸せしめたもの。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋年表】（一卷）撰者未詳。周より以下、魯・蔡・曹・衞・滕・晉・鄭・齊・秦・楚・宋・杞・陳・吳・越・邾・莒・薛・小邾の二十國を列ぬ。もと單行したが、宋の岳珂が九經を刊してから春秋の後に附して行はる。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋尊王發微】（十二卷）宋、孫復撰。其の說は上は陸淳を祖とし、下は胡安國の基を開く。宋の國運を啓くに與つて力あつたが、又、申韓の學を以て春秋を說いたのはこの人より始まるといはれた。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋皇綱論】（五卷）宋、王晳撰。凡そ二十二篇、筆削の旨を發明し、三傳乃び啖趙の是非を考辨し、頗る其の平を得。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋經解】（十三卷）宋、孫覺撰。尊王抑霸を主として穀梁を宗とし、其の是非褒貶の論には左氏・公羊の說を雜ふ。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋集解】（十二卷）宋、蘇轍撰。劉敞・孫復以後春秋を說くに三傳を廢するもの多く、王安石に至つては、斷爛朝報と爲して併せて經を廢するに至つたが、轍は當時經傳並びに亂れたので、乃ち此の書を作つて之を矯めた。其の說は左氏を以て主としてゐる。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋辨疑】（四卷）宋、蕭楚撰。門人胡銓等附注。其の大旨は尊王を說く。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋經解】（十二卷）宋、崔子方撰。其の旨は、經義を推本し、三傳を糾正するところが多い。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋本例】（二十卷）宋、崔子方撰。春秋の例は日月を本としてゐるので、故に日月時を推して本例一十六門とし、又、每門著例變例二目に分つ。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋五禮例宗】（七卷）宋、張大亨撰。春秋の事迹をとつて、吉凶軍賓嘉五禮に分類し、各〻總論をつくる。原本は十卷、今軍禮三卷を佚す。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋考】（十六卷）宋、葉夢得撰。其の大旨は、主として三傳を攻駁する所以を明らかにし、周の法度制作によつて、其の是非を斷定したもの。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋讞】（二十二卷）宋、葉夢得撰。是の書は、三傳の是非を抉して、經を信じ傳を信ぜざるを主としたもので、公穀兩家を排斥し、左氏の事跡も又、經義を誣ふる所あるを斷じて居る。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋傳】（三十卷）宋、胡安國撰。高宗の紹興十年、敕を奉じて奏上したもの。此の書は從來の三傳を捨て、專ら尊王攘夷の主張によつて解したもので、時事を經義によつて諷託したものが多い。朱子學者に尊重せられ、左傳・公羊傳・穀梁傳と併せて春秋四傳と稱せらる。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋集注】（四十卷）宋、高閌撰。程子の春秋傳を主とし、冠するに程子原序を以てす。其の說は諸家を雜採し、己の意を以て鎔貫文をなし、其の氏名を標擧してゐない。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋後傳】（十二卷）宋、陳傅良撰。三傳の說を貫通す。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋集注】（十一卷）綱領（一卷）宋、張洽撰。漢唐以來の諸儒の議論を考覈して、聖人の意を發明するに足るものを取る。朱熹の語孟集注に倣ふ。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋王霸列國世紀編】（三卷）宋、李琪撰。諸國を綱とし、春秋所載の事跡を目とし、前に序あり、後に論斷あり、一卷は王朝及び霸國、二卷は周の同姓の國、三卷は周の異姓の國を載す。其の說は多く時事のために發したもので、其の編次にも亦、寓意がある。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋通說】（十三卷）宋、黃仲炎撰。春秋は、聖人天下を教

戒するの書であつて、褒貶の書ではないと論じ、褒貶を以て春秋を説くを排斥して居る。明白正大の論が多い。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋大全】**七十卷 明、永樂中、翰林學士胡廣等奉勅撰。汪克寬の春秋胡傳纂疏によつて稍 之に點竄を加へたもので、採る所の諸説は、主として胡傳によつて去取を定め、また考論するところがない。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋胡氏傳辨疑】**二卷 明、陸粲撰。主として胡傳の失を攻む。明代二百七十餘年間、よく胡傳を糾正するものは、實にこの書より始まる。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【欽定春秋傳説彙纂】**三十八卷 清、聖祖敕撰。胡傳の經義に乖くものを駁正し、古學を闡明す。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【御纂春秋直解】**十五卷 清、高宗敕撰。十二公を以て十二卷とし、莊公・僖公・襄公は別に一子卷を析して十五卷とす。仲尼の本義を發明し、迂曲の説を除くを主とす。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋日食歷】**一卷 清、黃宗羲撰。天文曆算上より春秋に見ゆる日食を研究したもの。**【春秋稗疏】**三卷 清、王夫之撰。春秋の書法・儀象、及び典制の類を論ずることは、僅かに十分の一にして、地理を考證するものは十の九に居る。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋平義】**十二卷 清、兪汝言撰。多く舊文を引き、自ら論を立つるものは幾何もない。然し乍ら去取分明にして、經義の正を得。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋四傳糾正】**一卷 清、兪汝言撰。失明以後口授してなる。春秋三傳及び胡安國傳の失を摘列し、事に隨つて辨正し、六類計一百三條に分つ。末に春王正月辨一篇を附し、左氏周正の説を申ぶ。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋毛氏傳】**三十六卷 清、毛奇齡撰。改元・卽位・生子・立君・朝聘・盟會・侵伐・遷滅・昏覿・享唁・喪期・祭祀・蒐狩・興作・甲兵・田賦・豐凶・災祥・出國・入國・盜殺・形戮の二十二門に分ち、禮例・事例・文例・義例の四例に總括す。大旨は左氏を宗として、胡安國を攻む。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋占筮書】**三卷 清、毛奇齡撰。春秋傳所載の占筮をとつて、古人の易學を明かにす。實は易のために作つた書ではない。〔四庫提要、經、易類〕。**【春秋地名考略】**十四卷 清、高士奇撰。士奇が敕命を奉じて春秋講義を撰し、因て地理を考訂して此の書を作る。潛邱劄記によれば、秀水の徐勝の代作となす。此の書は春秋經傳の地名を國に分つて編次し、國都諸邑を列ね、其の下に經文傳文杜預注、及び諸書を博引す。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋管窺】**十二卷 清、徐廷垣撰。左傳の事實を以て經を質し、經の異同を以て公羊・穀梁以下の諸儒の説を辨例す。其の持論は最も正大、立義は頗る明坦である。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋宗朱辨義】**十二卷 清、張自超撰。朱子の春秋は事に據つて直書すの旨に本づく。經傳を參求して心得を求め、南宋以來の穿鑿附會の説を非とす。總論二十篇も亦深く比事屬詞の旨を得。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋通論】**四卷 清、方苞撰。孟子の其の文は則ち史、其の義は則ち某竊に之を取るの文に本づき、全經を通じて孰れが魯史の本書たり、孰れが孔子の筆削たるかを推究したもの。其の公・穀の説、孫・胡の論を掃ひ、經を以て經を求むるは、情理の平に適ふ所が多い。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋長歷】**十卷 清、陳厚耀撰。杜預の春秋長歷を補つて作り、歷證・古歷・歷編・歷存の四に分る。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋世族譜】**一卷 清、陳厚耀撰。杜預の世族譜を補ふ。顧棟高の春秋大事表の世系表二卷と互に詳略異同あり、相輔けて考證すべし。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋大事表】**五十卷・輿圖一卷・附錄一卷 清、顧棟高撰。春秋列國の事迹を排比して表を作る。其の目は、時令・朔閏・長歷拾遺・疆域・爵姓存滅・列國地理犬牙相錯・都邑・山川・險要・官制・姓氏・世系・刑賞・田賦・吉禮・凶禮・賓禮・軍禮・嘉禮・王迹拾遺・魯政下逮・晉中軍・楚令尹・宋執政・鄭執政・爭盟・交兵・城築・四裔・天文・五行・三傳異同・闕文・呑滅・亂賊・兵謀・引據・杜注正譌・人物・列女の四十篇。輿圖は朱書墨書を用ひて古今地名を列ね、附錄は諸表序論の遺を補ひ、併せて舊説の誤を辨訂す。凡て一百三十一篇。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋識小錄】**九卷 清、程廷祚撰。春秋職官考略三卷・春秋地名辨異三卷・左傳人名辨異三卷に分る。其の考證は頗る詳悉である。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋地理考實】**四卷 清、江永撰。春秋の山川・國邑・地名を悉く經傳の次に從つて辨證を加へ、皆、今の何の地たるかを指し、當時の疆域・會侵盟伐の迹を明かにして居る。〔四庫提要、經、春秋類〕。**【春秋大義微言考】**清、康有爲撰。**【春秋筆削大義微言考】**十六卷 清、康有爲撰。公羊學派の大義を主張したもの。**【春秋劈頭論説】**寫本四冊 林道春撰。春秋の春王正月の句について考證したもの。**【春秋命歷序考】**二卷 平田篤胤撰。唐土の春秋曆序を考證したもの。〔平田篤胤雜著、第八十四—八十六冊〕。**【春秋曆本術編】**寫本一卷 平田篤胤撰。春秋曆の本術を論じたもの。

〖春秋緯〗334 シユンジウヰ 書名。漢代に起つた春秋に關する緯書で、元命苞・演孔圖・合誠圖・文耀鉤・運斗樞・感精符・考異郵・潛潭巴・説題辭・漢含孳・佐助期・保乾圖・握誠圖・命歷序・春秋內事・錄圖・錄運法・孔錄法・璇璣樞・揆命篇・河圖揆命篇・玉版・瑞應傳・文義・含文嘉・句命決・考曜文・少陽篇の二十八篇をいふ。古微書及び玉函山房輯佚書に輯せらる。〔隋書、經籍志〕春秋災異十五卷。〔注〕郗萌撰、梁有㆓春秋緯三十卷、宋均注、春秋內事四卷・春秋包命二卷・春秋祕事十一卷・書易詩孝經春秋河洛緯祕要一卷・五帝鉤命決圖一卷㆒、亡。

〖春秋高〗335 シユンジウタカシ 年老いたのをいふ。老年。〔戰國、秦策〕(呂不韋)曰、王之春秋高、一日山陵崩、太子用㆑事、君危㆓於累卵㆒、而不㆑壽㆓於朝生㆒。〔史記、呂后紀〕高后用㆑事、春秋高。〔漢書、蘇武傳〕陛下春秋高。〔新序、雜事五〕楚丘先生行年七十、披㆑裘帶㆑索、見㆓孟嘗君㆒、欲㆑趨不㆑能㆑進、孟嘗君曰、先生老矣、春秋高矣。

〖春秋館〗336 シユンジウクワン 松永遐年の號。松永尺五(**6—14516**‥353)を見よ。

〖春秋淺〗337 シユンジウアサシ 春秋の自然界の印象が淺い。〔言志後錄〕余嘗有㆑句曰、城市春秋淺、田園進化忙。

〖春秋長〗338 シユンジウチヤウズ 春秋高に同じ。〔漢書、燕王劉澤傳〕太后春秋長。

〖春秋富〗339 シユンジウトム 將來がながい。年の少きをいふ。富とは餘年の多きを財の未だ盡きざるに喩へていふ。〔史記、齊悼惠王世家〕今高后崩、皇帝春秋富、未㆑能㆑治㆓天下㆒。〔漢書、辟彊傳〕今將軍當㆓盛位㆒、帝春秋富。

〖春秋癖〗339′ シユンジウヘキ 左傳癖(**4—8720**‥340)を見よ。〔杜甫、八哀詩、贈㆓司空王思禮㆒詩〕曉達兵家流、飽聞春秋癖。

〖春秋論〗340 シユンジウロン ㊀文章の名。春秋の事を論じたもの。宋、歐陽脩に春秋論上中下の三篇がある。春秋を講ずるには、專ら經に據るべきものであつて、傳は一々信憑するに難いものであることを論じてゐる。又、宋、蘇洵の六經論中に、春秋論一篇がある。孔子が周公の子孫、魯公を假りて褒貶したものであることを論じてゐる。又、清、錢大昕、及び我が國の室直清にも此の論がある。〔歐陽脩、春秋論上〕事有㆘不幸出㆓於久遠㆒、而傳㆗乎二説㆖、則奚從、曰、從㆓其一之可㆑信者㆒、然則安知㆓可㆑信者㆒而從㆑之、曰、從㆓其人㆒而信㆑之、可也、衆人之説如㆑彼、君子之説如㆑此、則捨㆓衆人㆒而從㆓君子㆒、君子博學而多聞矣、然其傳不㆑能㆑無㆑失也、君子之説如㆑彼、聖人之説如㆑此、則捨㆓君子㆒而從㆓聖人㆒、此擧世之人皆知㆓其然㆒、而學㆓春秋㆒者獨異㆓乎是㆒、孔子聖人也、萬世取㆑信一人而已、若㆓公羊高・穀梁赤・左邱明三子者㆒、博學而多聞矣、其傳不㆑能㆑無㆑失者也、孔子之於㆑經、三子之於㆑傳、有㆑所㆑不㆑同、則學者寧捨㆑經而從㆑傳、不㆑信㆓孔子㆒而信㆓三子㆒、甚哉其惑也。〔蘇洵、春秋論〕賞罰者天下之公也、是非者一人之私也、位之所㆑在、則聖人以㆓其權㆒爲㆓天下之公㆒、而天下以懲以勸、道之所㆑在則聖人以㆓其權㆒爲㆓一人之私㆒、而天下以榮以辱、周之衰也、位不㆑在㆓夫子㆒而道在焉、夫子以㆓其權㆒是㆓非天下㆒、可也、而春秋賞㆓人之功㆒、赦㆓人之罪㆒、去㆓人之族㆒、絕㆓人之國㆒、貶㆓人之爵㆒、諸侯而或書㆓其名㆒、大夫而或書㆓其字㆒、不㆓惟其法㆒、惟其意、不㆔徒曰㆓此是此非㆒、而賞罰加焉、則夫子固曰、我可㆔以賞㆓罰人㆒矣、賞㆓罰人㆒者天子諸侯事也、夫子

病㆔天下之諸侯大夫僭㆓天子諸侯之事㆒、而作㆓春秋㆒、而已則爲㆑之、其何以責㆓天下㆒、位公也、道私也、私不㆑勝㆑公、則道不㆑勝㆑位、位之權得㆓以賞罰㆒、而道之權不㆑過㆓於是非㆒、道在㆑我矣、而不㆑得㆑爲㆓有㆑位者之事㆒、則天下皆曰、位之不㆑可㆑僭也如㆑此、不㆑然天下其誰不㆑曰㆓道在㆑我、則是道者位之賊也、曰、夫子豈誠賞㆓罰之㆒邪、徒曰㆔賞㆓罰之㆒耳、庸何傷、曰、我非㆑君也、非㆑吏也、執㆓塗之人㆒、而告㆑之曰㆓某爲㆑善、某爲㆑惡可也、繼㆑之曰㆓某爲㆑善、吾賞㆑之、某爲㆑惡、吾誅㆑之、則人有㆓不㆑笑㆑我者㆒乎、夫子之賞罰何以異㆑此、然則何足㆔以爲㆓夫子㆒、何足㆔以爲㆓春秋㆒、曰、夫子之作㆓春秋㆒也、非㆑曰㆓孔子之書㆒也、又非㆑曰㆓我作㆑之也、賞罰之權、不㆓以自與㆒也、曰、此魯之書也、魯作㆑之也、有㆑善而賞㆑之、曰、魯賞㆑之也、有㆑惡而罰㆑之、曰、魯罰㆑之也、何以知㆑之、曰、夫子繫㆑易、謂㆓之繫辭㆒、言㆑孝謂㆓之孝經㆒、皆自名㆑之、則夫子私㆑之也、而春秋者魯之所㆓以名㆑史、而夫子託焉、則夫子公㆑之也、公㆑之以㆓魯史之名㆒、則賞罰之權、固在㆑魯矣、春秋之賞罰、自㆑魯而及㆓于天下㆒、天子之權也、魯之賞罰不㆑出㆑境、而以㆓天子之權㆒與㆑之何也、曰、天子之權在㆑周、夫子不㆑得㆑已而以與㆑魯也。❷書名。二卷。清、嚴穀撰。凡て九十九篇。〔四庫提要、經、春秋類存目〕。

【春秋遺旨】341（シュンジウノヰシ） 孔子が春秋中に書遺した所の大義名分を明かにせんとする趣旨。〔皇朝史略、北畠親房〕其顯㆑微扶㆑正、頗有㆑合㆓春秋遺旨㆒云。

【春秋謹嚴】342（シュンジウキンゲン） 春秋の書は、ふでづかひがつつしみぶかくきびしい。〔韓愈、進學解〕春秋謹嚴、左氏浮誇。

【春秋外傳】343（シュンジウグワイデン） 國語の異稱。〔釋名、釋典藝〕國語又曰㆓外傳㆒、春秋以㆑魯爲㆑內、以㆓諸國㆒爲㆑外、外國所㆑傳之事也。〔漢書、律歷志下〕春秋外傳曰、顓頊之所㆑建、帝嚳受㆑之。

【春秋後㆑倫】344（シュンジウリンニオクル） 諸侯が春秋の二季に入朝するに、同輩に後れる。〔莊子、漁父〕春秋後㆑倫、不㆑順㆓天子㆒、諸侯之憂也。

【春秋三傳】345（シュンジウサンデン） 春秋の❺及び三傳(1－12··1346)を見よ。

【春秋雜說】346（シュンジウザツセツ） 春秋及び雜家の說。〔史記、平津侯傳〕年四十餘、乃學㆓春秋雜說㆒。

【春秋之義】347（シュンジウノギ） 春秋の義法。〔後漢書、梁商傳〕春秋之義、功在㆓元帥㆒、罪止㆓首惡㆒。

【春秋戰國】348（シュンジウセンゴク） 周の平王以後を春秋の世といひ、威烈王以後秦の統一までを戰國の世といふ。春秋とは孔子の記述した春秋に、此の時代の事が略〻記載されてゐるからいふ。春秋(333)の❹と戰國(5－11667··46)を見よ。〔吳萊、讀戰國策〕春秋戰國之際、齊先霸、晉次㆑之、惟南方之楚最大、與㆓二霸㆒相出入、秦則眇然一變㆓於西戎㆒、終㆑之吞㆓二周㆒、併㆓六國㆒。

【春秋鼎盛】349（シュンジウマサニサカンナリ） 年齡の方に壯んなこと。鼎は方。〔漢書、賈誼傳〕天子春秋鼎盛、行儀未㆑過、德澤有㆑加焉。〔注〕應劭曰、鼎、方也。〔鹽谷青山、無聲堂記〕殿下春秋鼎盛。

【春秋冬夏】350（シュンジウトウカ） はる・あき・ふゆ・なつ。〔管子、形執〕春秋冬夏、不㆑更㆓其節㆒。

【春秋內事】351（シュンジウナイジ） 書名。春秋緯書の一種。其の書は既に佚したが、古微書の中に輯本がある。

【春秋繁露】352（シュンジウハンロ） 書名。十七卷。漢、董仲舒撰。繁、或は蕃に作る。蓋し古字相通ず。其の名義は不明。或は、繁露は冕の垂るるを聯貫する者で、春秋の比事屬辭に象つて名けたものといふ。書中述ぶる所は、春秋の旨を發揮し、多く公羊傳を主とす。而して往々陰陽五行の事に及ぶ。仲舒の傳に據れば、蕃露・玉杯・竹林等は皆著す所の書名である。今、此の書中に玉杯竹林あるを以て、或は仲舒の自著に非ずと疑ふものがあるが、其の文を觀るに、全部が仲舒の手に成るものではないが、書中道理精確の言多く、後人の能く依託し得る所のものではない。今、盧文弨の校本がある。〔四庫提要、經、春秋類〕。

〘參考書〙【春秋繁露校補】三卷 清、劉師培撰。逸文輯補一卷を附す。【春秋繁露注】十七卷 清、淩曙撰。〔皇清經解續編、第一百九十八・一百九十九冊〕。【春秋繁露義證】十七卷 清、蘇輿撰。董子年表を附す。【董子春秋發微】二十五卷 清、魏源撰。【春秋董子學】八卷 清、康有爲撰。

【春秋無㆑將】353（シュンジウシヤウナシ） 孔子が春秋を筆削して、其の人を罪する場合に、僅に其の意があれば則ち之を誅するをいふ。〔公羊、莊、三十二〕公子牙今將爾、辭曷爲與㆓親弑者㆒同、君親無㆑將、將而誅焉。

【春秋或問】354（シュンジウワクモン） 文章の名。宋、歐陽脩撰。春秋に就いて論じたもの。大旨は春秋論に同じ。〔歐陽脩、春秋或問〕或問、春秋何爲始㆓於隱公㆒、而終㆓於獲麟㆒、曰、吾不㆑知也、問者曰、此學者之所㆑盡㆑心焉、不㆑知何也、曰、春秋起止吾所㆑知也、子所㆑問者始終之義、吾不㆑知也、吾無㆑所㆑用㆓心乎此㆒、昔者孔子仕㆓於魯㆒不㆑用、去之㆓諸侯㆒、又不㆑用、困而歸、且㆑老始著㆑書、得㆑詩自㆓關雎㆒至㆓于魯頌㆒、得㆑書自㆓堯典㆒至㆓于費誓㆒、得㆓魯史記㆒、自㆓隱公㆒至㆓于獲麟㆒、遂刪㆓修之㆒、其前遠矣、聖人著㆑書、足㆓以法㆑世而已、不㆑窮㆓遠之難㆑明也、故據㆓其所㆑得而修㆑之、孔子非㆓史官㆒也、不㆔常識㆓乎史㆒、故盡㆓其所㆑得修㆑之而止耳、魯之史記則未㆓嘗止㆒也、今左氏經可㆓以見㆒矣、曰、然則始終無㆑義乎、曰、義在㆓春秋㆒、不㆑在㆓起止㆒、春秋謹㆓一言㆒而信㆓萬世㆒者也、予厭㆘衆說之亂㆓春秋㆒者㆖也、或問、子於㆓隱攝盾止之弑㆒、據㆑經而廢㆑傳、經簡矣、待㆑傳而詳、可㆑廢乎、曰、吾豈盡廢㆑之乎、夫傳之於㆑經、勤矣、其述㆓經之事㆒、時有㆑賴㆓其詳㆒焉、至㆓其失㆒、傳則不㆑勝㆓其戾㆒也、其述㆓經之意㆒、亦時有㆑得焉、及㆓其失㆒也、欲㆑大㆓聖人㆒而反小㆑之、欲㆑尊㆑經而反卑㆑之、取㆓其詳而得者㆒、廢㆓其失者㆒、可也、嘉㆓其尊大之心㆒、可也、信㆓其卑小之說㆒、不可也、問者曰、傳有㆑所㆑廢、則經有㆑所㆑不㆑通、奈何、曰、經不㆑待㆑傳而通者十七八、因㆑傳而惑者十五六、日月萬物皆仰、然不㆘爲㆓盲者㆒明㆖、而有㆑物蔽㆑之者、亦不㆑得㆑見也、聖人之意皎㆓然乎經㆒、惟明者見㆑之、不㆘爲㆓他說㆒蔽㆖者見㆑之也。

【富㆓於春秋㆒】355（シュンジウニトム） 將來がながい。年の若いこと。春秋富(339)に同じ。〔史記、秦始皇紀〕今陛下富㆓於春秋㆒。〔史記、李斯傳〕且陛下富㆓於春秋㆒、未㆔必盡通㆓諸事㆒。〔漢書、東平思王宇傳〕今王富㆓於春秋㆒、氣力勇武。〔後漢書、袁紹傳〕今上富㆓於春秋㆒。

【春秋有㆓三盜㆒】356（シュンジウニサンタウアリ） 春秋に三つの盜の名がある。大夫を微殺するを盜といひ、取る所に非ずして之を取るを盜といひ、中國の正道を避けて利を求むるを盜といふ。〔穀梁、哀、四〕春秋有㆓三盜㆒、微㆓殺大夫㆒、謂㆓之盜㆒、非㆑所㆑取而取㆑之、謂㆓之盜㆒、辟㆓中國之正道㆒以襲㆑利、謂㆓之盜㆒。

【春秋顏氏學】357（シュンジウガンシノガク） 漢の顏安樂の傳へた春秋公羊の學。〔後漢書、董鈞傳〕安樂爲㆓春秋顏氏學㆒。

【春秋嚴氏學】358（シュンジウゲンシノガク） 漢の嚴彭祖の傳へた春秋公羊の學。〔後漢書、董鈞傳〕彭祖爲㆓春秋嚴氏學㆒。

【春秋胡氏傳】359（シュンジウコシデン） 宋、胡安國撰。春秋胡傳・胡氏春秋とも呼ばれる。春秋三傳の外に傳を立て、專ら議論を主として、後世の學者に重んぜられたが、往々にして曲說もある。

【春秋胡氏傳私考】359′（シュンジウコシデンシカウ） 林恕撰。寫本八冊。春秋胡氏傳に註釋を加へた書。承應三年の跋がある。

【春秋公羊學】360（シュンジウクヤウガク） 公羊學(2－1452··732)を見よ。

【春秋公羊傳】361（シュンジウクヤウデン） 公羊傳(2－1452··733)を見よ。

【春秋穀梁傳】362（シュンジウコクリヤウデン） 穀梁傳(8－25221··94)を見よ。

【春秋左氏傳】363（シュンジウサシデン） 左氏傳(4－8720··205)を見よ。

【春秋三世說】364（シュンジウサンセイセツ） 清代、公羊學派の學說。公羊傳の所傳異辭・所聞異辭・所見異辭の三世を、衰亂・升平・太平を以て解し、隱公より僖公に至る五代は所傳時代で衰亂の世態を示し、文公より襄公に至る四代は所聞時代で漸く升平に向ひ、昭公より哀公に至る三代は所見時代で太平の世を現出したと爲すもの。又、禮記禮運篇の大同・小康・據亂をも此の三世に配してゐる。

【春秋十二國】365（シュンジウジフニコク） 春秋時代の十二國をいふ。周と同姓の者は魯・衞・晉・鄭・曹・蔡・燕、

異姓の者は齊・宋・陳・楚・秦。春秋十四列國(371)・春秋十二諸侯(372)を見よ。

【春秋八王日】366 シュンジウハチワウニチ 佛立春・春分・立夏・夏至・立秋・秋分・立冬・冬至の八日をいふ。蓋し、天地陰陽交代の日である。この八日に帝釋の輔臣が四天下を案行して、善惡を比較し、罪福を增減するから八王日といふ。〔法苑珠林、八戒篇〕何等八王日、謂二立春春分立夏夏至立秋秋分立冬冬至一、是爲二八王日一、天地諸神陰陽交代、故名二八王日一。

【春秋大二一統一】367 シュンジウイットウヲダイニス 春秋の隱公元年に春王正月とあるのは、諸侯は天子に統一せられて、自ら專らにするを得ないのを讚美した語とする。春秋公羊家の說。〔公羊、隱、元〕元年春王正月、元年者何、君之始年也、春者何、歲之始也、王者孰謂、謂二文王一也、曷爲先言レ王、而後言二正月一、王正月也、何言二乎王正月一、大二一統一也。〔漢書、董仲舒傳〕春秋大二一統一者、天地之常經、古今之通誼也。〔注〕師古曰、一統者萬物之統、皆歸二於一一也、春秋公羊傳、隱公元年、春王正月、何言二乎王正月一、大二一統一也、此言下諸侯皆繫二統天子一、不上レ得二自專一也。

【春秋以道二名分一】368 シュンジウハモッテメイブンヲイフ 春秋は褒貶によつて正しき分限を述べたものである。〔莊子、天下〕易以道二陰陽一、春秋以道二名分一。

【春秋一字褒貶】369 シュンジウハイチジハウヘンス 春秋の書は一字一字を以て褒貶の意を示したものである。〔范甯、春秋穀梁傳序〕一字之褒、寵踰二華袞之贈一、片言之貶、辱過二市朝之撻一。〔孔穎達、春秋正義序〕一字因三魯史之有二得失一、據二周經一以正二褒貶一、一字所レ嘉、有レ同二華袞之贈一、一言所レ黜、無レ異二蕭斧之誅一。

【春秋胡傳辨疑】369′ シュンジウコデンベンギ 書名。❶明、陸粲撰。二卷。胡傳の曲說を辨ず。比較的正しいと稱せられてゐる。❷伊藤東涯撰。二卷。未完書。

【春秋穀梁博士】370 シュンジウコクリヤウハカセ 春秋穀梁傳を講じた博士。〔魏志、文帝紀〕立二太學一、制二五經課試之法一、置二春秋穀梁博士一。

【春秋十四列國】371 シュンジウジフシレツコク 春秋時代の十四の強大な國。禹の時、塗山の會に玉帛を朝するもの萬國、殷湯の時、國を建つるもの三千あり、周の武王の時、尙ほ一千八百國あつたと傳へられるが、春秋時代に至るや、諸侯は互に呑噬して其の數を減じ、書に見ゆるもの僅かに一百四十餘國となる。然も其の多くは弱小國で記すべき事がなく、強大なものとしては齊・楚・晉・秦・魯・衞・曹・燕・鄭・宋・陳・蔡・吳・越の十四國が擧げられる。猶ほ春秋十二國とは、之より吳・越の二國を除いていふ。

國名	姓	爵	始祖	繼續世代	領地	都城	滅ぼした國及年	
燕	姬	伯	召公奭	三四	北京附近	薊（河北省宛平縣北）	秦	B.C.222
衞	姬	侯	康叔	四二	河南省衞輝府	衞（河南省淇縣東北）	秦	B.C.209
晉	姬	侯	唐叔虞	三九	山西省ノ南部	絳（山西省翼城縣東南）	韓・趙・魏	B.C.376
齊	姜	侯	太公望		山東省ノ大部	臨淄（山東省膠東道）	秦	B.C.221
魯	姬	侯	周公旦	三五	山東省兗州府	曲阜（山東省曲阜縣）	楚	B.C.249
曹	姬	伯	叔振鐸	二六	山東省曹州府地方	陶丘（山東省定陶縣西北）	宋	B.C.487
吳	姬	子	太伯ノ後	二五	江蘇省地方	姑蘇（江蘇省吳縣）	越	B.C.473
越	姒	子	少昊ノ後		浙江省地方	會稽（浙江省紹興府）	楚	B.C.334
楚	芈	子	熊繹	四一	湖南省・湖北省	郢（湖北省江陵縣北）	秦	B.C.223
鄭	姬	伯	桓公友	三三	河南省開封府	新鄭（河南省開封道）	韓	B.C.375
宋	子	公	微子	三二	河南省歸德府	商丘（河南省開封道）	田齊	B.C.286
陳	嬀	侯	閼父	二五	河南省陳州府地方	宛丘（河南省淮陽縣）	楚	B.C.478
蔡	姬	侯	蔡叔度	二四	河南省汝寧府地方	蔡（河南省上蔡縣西南）	楚	B.C.447
秦	嬴	伯	蜚康ノ後		陝西省	雍（陝西省鳳翔縣南）	漢	B.C.207

【春秋十二諸侯】372 シュンジウジフニシヨコウ 春秋時代の十二の強大な諸侯。齊・楚・晉・秦・魯・衞・宋・燕・鄭・曹・陳・蔡をいふ。春秋十二國。春秋十四列國を見よ。〔史記、十二諸侯年表〕太史公曰、儒者斷二其義一、馳說者聘二其辭一、不三務綜二其終始一、歷人取二其年月一、數家隆二於神運一、譜諜、獨記二世謚一、其辭略、欲三一觀二諸要一難、於レ是譜二十二諸侯一、自二共和一訖二孔子一、表二見春秋國語一、學者所レ譏、盛衰大指、著二于篇一、爲下成レ學治二古文一者上、要刪焉。〔注〕索隱曰、篇言二十二一、實敍二十三一者、賤二夷狄一不レ數レ吳。〔史記、太史公自序〕幽厲之後、周室衰微、諸侯專レ政、春秋有レ所レ不レ紀、而譜諜經略、五霸更盛衰、欲レ睹二周世相先後之意一、作二十二諸侯年表一。

【春秋先レ内後レ外】373 シュンジウハウチヲサキニシソトヲノチニス 春秋は自國の事を先きにし、外國の事を後まはしにする。〔後漢書、鍾離意傳〕入言二於太守一曰、春秋先レ内後レ外。〔注〕公羊傳曰、春秋内二其國一而外二諸夏一、内二諸夏一而外二夷狄一。

【春秋褒紀之義】374 シュンジウハウキノギ 春秋に於て、紀の國はもと子爵であつたが、天子の外戚となつたので、特に其の爵位を上げて侯爵となしたこと。春秋公羊家の說。〔公羊、桓、二〕七月紀侯來朝。〔注〕稱レ侯者、天子將下娶二於紀一、與レ之奉二宗廟一、傳中之無窮上、重莫レ大焉、故封二之百里一、月者當レ尊而不レ臣、所三以廣二孝敬一、蓋以爲、天子得レ娶二庶人女一、以二其得一レ專レ封也。〔疏〕解云、知二天子將一レ娶二於紀一者、正以下八年、冬遂逆二王后于紀一、九年春、紀季姜歸二于京師一之文上也、知三其元非二大國一者、正以下隱二年、紀子伯莒子盟二于密一、伯子並稱上レ之、故知三此侯非二本爵一也、知レ非三暫得二褒賞一而已、而知レ封二之百里一者、正以二自レ今以後、恒稱一レ侯故也、卽下六年、夏公會二紀侯于成一、十三年、春公會二紀侯鄭伯之屬一是也。〔漢書、外戚恩澤侯表序〕是後薄昭・竇嬰・上官衞霍之侯、以レ功受レ爵、其餘后父、據二春秋褒紀之義一。〔注〕應劭曰、春秋天子將レ納二后於紀一、紀本子爵也、故先褒爲レ侯、言二王者不一レ取二於小國一。

【春秋所謂一元之意】375 シュンジウノイハユルイチゲンノイ 春秋に一年を改めて元年と記してゐるのは、始を大にして、政治の根本を正さんとしたということ。春秋公羊家の說。〔漢書、董仲舒傳〕臣謹案二春秋所謂一元之意一、一者萬物之所二從始一也、元者辭之所レ謂大也、謂レ一爲レ元者、視二大レ始而欲一レ正レ本也。

【春秋孝經成赤虹化レ玉】376 シュンジウカウキヤウナリセキコウギヨクトクワス 孔子が孝經春秋を作つた時、赤虹が天より降り、化して黃玉となつた故事。天の神が、聖人の著作を感賞し給へる義。〔初學記、天部下、虹蜺、注〕干寶搜神記曰、孔子作二春秋一、制二孝經一、既成、齋戒向二北辰一而拜、告二備于天一、赤虹自レ上而下、化爲二黃玉一、長三尺、上有二刻文一、孔子跪受而讀レ之。

【春秋之義不下以二家事一廢中王事上】377 シュンジウノギカジヲモツテワウジヲハイセズ 春秋の法では、一家の事を以て王事を廢するやうなことはしない。衞の靈公が卒して孫の輒が立つた時、父の蒯聵が輒と國を爭つた事に對する公羊傳の語。〔公羊、哀、三〕輒者曷爲者也、蒯聵之子也、然則曷爲不レ立二蒯聵一而立レ輒、蒯聵爲二無道一、靈公逐二蒯聵一而立レ輒、然則輒之義可二以立一乎、曰可、其可二奈何一、不下以二父命一

辭中王父命上、以二王父命一辭二父命一、是父之行二乎子一也、不下以二家事一辭中王事上、以二王事一辭二家事一、是上之行二乎下一也。〔後漢書、丁鴻傳〕春秋之義、不下以二家事一廢中王事上、今子以二兄弟私恩一、而絶二父不滅基一、可レ謂レ智乎、鴻感悟垂レ涕歎息、乃還就レ國開レ門教授。

〖春秋之義選二人所レ長棄二其所レ短〗378 シュンジウノギヒトノチヤウトスルトコロヲエラビテソノタントスルトコロヲスツ　春秋の法では、他人の善い所はえらびとり、惡いところはすてる。〔後漢書、第五種傳〕春秋之義、選二人所レ長、棄二其所レ短、錄二其小善一、除二其大過一。

【春日】379 シュンジツ　㊀春の日。〔詩、豳風、七月〕春日載陽、有二鳴倉庚一。〔曹冏、六代論〕壅レ之以二黑墳一、暖レ之以二春日一。〔白居易、春晩詠レ懷贈二皇甫朗之一詩〕一歲中分春日少、百年通計老時多。㊁カスガ　地名。㋑大和國の地名。㋺河内國の地名。㋩近江國の地名。㋥信濃國の地名。㋭陸前國の地名。㋬越中國の地名。㋣越後國の地名。㋠出雲國の地名。㋷讚岐國の地名。㋦筑前國の地名。㋸筑後國の地名。㋾肥後國の地名。㊂姓氏。㋑カスガ　姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。㋺シュンニチ　姓氏。〔日用重寶記〕。

〖春日崎〗380 カスガザキ　佐渡國に在る崎。

〖春日山〗381 カスガヤマ　大和國奈良市の山。

〖春日野〗382 カスガノ　大和國の地名。

〖春日潜庵〗383 カスガセンアン　京都の人。名は仲襄。字は子贊。號は潜庵。五十君南山・鈴木恕平に師事。陽明學を奉ず。官は久我家の諸大夫、從五位下筑前守。後、奈良縣知事となる。明治十一年、歿す。年六十八。著に讀易抄・傳習錄評點・讀史論略評點・古本大學批點・王心齋全集・蕺山人譜・潜庵遺稿・潜庵偶筆・潜庵初集・潜庵晩年集・潜庵餘筆・丙寅錄がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕・〔春日潜庵傳〕。

〖春日遲遲〗384 シュンジツチチ　春の日の暮れることがおそいこと。春の日の麗かにしてしづかなこと。〔詩、豳風、七月〕春日遲遲、采レ蘩祁祁。〔詩、小雅、出車〕春日遲遲、卉木萋萋。

【春社】385 シュンシャ　㊀仲春、土神をまつつて農事を祈るをいふ。〔禮、明堂位〕夏礿、秋嘗、冬烝、春社、秋省而遂大蜡、天子之祭也。〔注〕春田祭レ社。〔孫希旦、集解〕省當レ作レ社、祈也、秋社、報也。㊁節候の名。春の社日。立春後五回目の戊の日をいふ。其の日村社に春の祭を行ふ。〔宋史、閻守恭傳〕在二幷州一、因二春社一會二賓客一。〔王駕、社日詩〕桑柘影斜春社散、家家扶二得醉人一歸。〔月令廣義〕立春五戊爲二春社一。〔陸游、遊二山西村一詩〕簫鼓追隨春社近、衣冠簡朴古風存。

【春畬】386 シュンシャ　春のやき田。畬は雜草をやきはらつて作る田。〔白居易、送二客南遷一詩〕春畬煙勃勃、秋瘴露冥冥。

【春麝】387 シュンジャ　春の麝香。〔晁冲之、墨詩〕秋麋折レ角膠與レ力、春麝入レ臍煤生レ香。〔薩都剌、送三訢上人笑隱住二龍翔寺一詩〕衲衣香暖留二春麝一、石鉢雲寒臥二夜龍一。

【春妝】388 シュンシャウ　春のよそほひ。春によそほふ。〔孟浩然、春情詩〕青樓曉日珠簾映、紅粉春妝寶鏡催。〔孟郊、搖柳詩〕時邀二詠花女一、笑輟二春妝鏡一。

【春傷】389 シュンシャウ　春のなげき。〔歐陽脩、小圃詩〕愁酲與レ消渴、容易爲二春傷一。

【春漿】390 シュンシャウ　春ののみもの。漿は液汁。〔盧思道、勞生論〕蟲惜二春漿一、鴟恡二腐鼠一。〔陳時中、碧瀾堂賦〕漱二金井之春漿一、消二浮玉之寒冰一。

【春賞】391 シュンシャウ　春をめでる。春の風光を賞美する。〔李乂、奉三和晦日幸二昆明池一應制詩〕玉輅尋二春賞一、金堤重二晦遊一。〔張九齡、上陽水牕旬宴得二移字韻一詩〕春賞時將レ換、皇恩歲不レ移。〔李白、楚江黃龍磯南宴二楊執戟治樓一詩〕故人楊執戟、春賞楚江流。〔陳傅良、己未上巳淸明詩〕酴醾雅欲レ延二春賞一、杜宇還能破二晝眠一。

【春瘴】392 シュンシャウ　春に發する瘴氣。〔蘇軾、再和二潜師一詩〕江南無レ雪春瘴生、爲二散冰花一除二熱惱一。

【春上】393 ハルウヘ　皇太子の稱。春の宮。東宮。

【春城】394 シュンジャウ　㊀春のしろ。〔王維、待二儲光羲一不レ至詩〕晚鐘鳴二上苑一、疎雨過二春城一。〔韋應物、月夜詩〕皓月流二春城一、華露積二芳草一。〔錢起、闕下贈二裴舍人一詩〕二月黃鶯飛二上林一、春城紫禁曉陰陰。㊁松山直藏の號。松山春城（**6－14516**・・147）を見よ。

〖春城無三處不二飛花一〗395 シュンジャウトコロトシテヒクワセザルナシ　春城いたるところ落花紛々たるをいふ。〔韓翃、寒食詩〕春城無三處不二飛花一、寒食東風御柳斜、日暮漢宮傳二蠟燭一、青烟散入二五侯家一。

【春情】396 シュンジャウ　㊀春ののどかな心もち。〔唐太宗、月晦詩〕披レ襟歡二眺望一、極レ目暢二春情一。〔李羣玉、盛春詩〕春情不レ可レ狀、艷艷令二人醉一。〔陳羽、伏翼西洞送二夏方慶一詩〕洞裏春情花正開、看レ花出レ洞幾時廻。㊁男女の春を懷ふ心もちをいふ。色情。浮氣。色氣。〔翁承贊、柳詩〕纏繞春情卒未レ休、秦娥蕭史兩相求。

【春酌】397 シュンシャク　春のさかづき。又、春のさかもり。〔王勃、聖泉宴詩〕蘭氣薰二春酌一、松聲韻二野絃一。〔杜甫、醉時歌詩〕淸夜沈沈動二春酌一、燈前細雨簷花落。

【春首】398 シュンシュ　春のはじめ。〔韓愈、爲二宰相一賀レ雪表〕去歲冬閒、雨雪頗多、今年春首、宿麥未レ滋。

【春酒】399 シュンシュ　㊀酒の名。嚴冬に釀す酒。又、春に造り冬になつて熟する酒。〔詩、豳風、七月〕爲二此春酒一、以介二眉壽一。〔傳〕春酒、凍醪也。〔疏〕春酒、凍醪者、醪、是酒之別名、此酒凍時釀レ之、故稱二凍醪一。〔張衡、東京賦〕因休レ力以息レ勤、致二歡忻於春酒一。〔注〕善曰、春酒、謂二春時作至レ冬始熟一也。〔陶潛、讀二山海經一詩〕歡然酌二春酒一、摘二我園中蔬一。〔岑參、首春渭西郊行呈二藍田張二主簿一詩〕聞道輞川多二勝事一、玉壺春酒正堪レ攜。〔許渾、晚自二東郭一留二一二遊侶一詩〕今夜西齋好二風月一、一瓢春酒莫二相違一。〔韓偓、惜レ華詩〕臨レ階一醆悲二春酒一、明日池塘是綠陰。㊁ch'uen^1 chiu^3　新年宴會。

〖春酒堂〗400 シュンシュダウ　清、周容（**2－3441**・・493）の室名。

【春娶】401 シュンシュ　春に妻をめとること。〔周禮、地官、媒氏〕中春之月、令レ會二男女一。〔疏〕詩易禮傳所レ載、咸泰歸妹之卦、國風、行露綢繆、有レ女懷レ春、倉庚于飛、熠熠其羽、春日遲遲、樂下與二公子一同歸上之歌、小雅、我行其野、蔽芾其樗之歎、此春娶之證也。

【春種】402 シュンシュ　春に種をまく。春にうゑる。〔李紳、古風詩〕春種一粒粟、秋成萬顆子。〔蘇軾、和三子由記二園中草木一詩〕不レ如レ種二叢篲一、春種秋可レ倒。

【春樹】404 シュンジュ　若芽をつけた春の木。〔張九齡、奉三和聖製早渡二蒲津關一詩〕長堤春樹發、高掌曙雲開。〔于武陵、友人南遊不二還回一因而有レ寄詩〕相思春樹綠、千里各依依。

〖春樹堂〗405 シュンジュダウ　清、陳遷鶴（**11－41698**・・1072）の室名。

〖春樹草堂〗406 シュンジュサウダウ　清、杜恆燦（**6－14477**・・316）の室名。

〖春樹暮雲〗407 シュンジュボウン　遠方の友人をおもふをいふ。〔杜甫、春日憶二李白一詩〕渭北春天樹、江東日暮雲、何時一樽酒、重與細論レ文。〔書言故事、瞻仰類〕誦二春樹暮雲之句一。

〖春樹暮雲情〗408 シュンジュボウンノジャウ　春樹暮雲に同じ。

【春菘】409 シュンシウ　春のたうな。菘は菜名。嚴冬もしぼまず、松のやうな操があるといふ。〔袁桷、舟中雜詠詩〕千年化二鑒魄一、豈比二春菘榮一。

【春螽】410 シュンシウ　春のいなご。〔列子、仲尼〕公儀伯曰、臣之力能折二春螽之股一、堪二秋蟬之翼一。

【春肅】411 シュンシュク　春に寒さがきびしい。〔淮南子、本經訓〕春肅、秋榮、冬雷、夏霜。〔越絕書、越絕外傳枕中〕春肅、夏寒、秋榮、冬泄。

【春熟】412 シュンジュク　春に熟すること。〔左思、蜀都賦〕朱櫻春熟、素柰夏成。〔鄭谷、將レ之二瀘郡一旅次二遂州一遇二裴晤員外一詩〕我拜二師門一更南去、荔枝春熟向二渝瀘一。

【春春】413 シュンシュン　春每に。每春。年每。〔海錄碎事、人事、離別〕陸瓊長相思、容貌春春減、書字朝朝減。

【春笋】414 シュンジュン　㊀春の筍。春筍。〔蕭琛、餞二謝文學一詩〕春笋方解レ籜、弱柳向二低風一。〔賴山陽、耶馬溪圖卷記〕群峰夾レ水攢竦、如二春笋矗出一。㊁細い手指。美人の指のさま。〔蘇軾、佳人、滿庭芳詞〕十指露、春笋纖長。

【春筍】415 シュンジュン　㊀春の筍。春笋。〔杜甫、三絕句詩〕無數春筍滿レ林生、柴門密掩斷二人行一。㊁細い手指。美人の指のさま。〔樊榭錄、十香詞〕歸來便攜レ手、纖纖春筍香。〔剪燈餘話、連理樹記〕秋波淺淺銀燈下、春筍纖纖玉鏡前。

【春潤】416 シュンジュン　㊀春に光澤を生ずる。〔庾信、謝二

趙王賚レ雉啓〕夏翟秋飛、江翬春潤。㊁春に費ひ殘した金錢。〔還魂記、驚夢〕晚妝銷二粉印一、春潤費二香篝一。

【春初】417 シュンショ　春のはじめ。春首。〔南齊書、周顒傳〕春初早韭、秋末晚菘。

【春書】418 シュンショ　㊀春帖子をいふ。〔酉陽雜俎、禮異〕北朝婦人、云云、立春進二春書一。〔張子容、除日詩〕拾樵供二歲火一、帖牖作二春書一。㊁ch'uen¹ shu¹ 淫書類。

【春渚】419 シュンショ　㊀春の水のなぎさ。〔謝朓、拜二中軍記室一辭二隨王一牋〕唯待青江可レ望、候二歸艎於春渚一。〔謝運靈、從游二京口北固一應詔詩〕鳴レ笳發二春渚一、稅レ鑾登二山椒一。㊁清、何琪(1—511‥35)の號。

〖春渚紀聞〗420 シュンショキブン　書名。十卷。宋、何薳撰。雜記五卷・東坡事實一卷・詩詞事略一卷・雜書琴事附墨說一卷・記研一卷・記丹藥一卷に分る。〔四庫提要、子、雜家類〕。

〖春渚草堂〗421 シュンショサウダウ　清、朱彭年(6—14424‥961)の室名。

【春墅】422 シュンショ　春のゐなかや。春の田廬。〔溫庭筠、秘書劉尙書挽歌〕壞陵殷浩謫、春墅謝安棊。

【春緖】423 シュンショ　春の心。春の情緖。〔秦觀、睡起詩〕睡起東軒下、悠悠春緖長。

【春曙】424 シュンショ　春のあけぼの。〔皮日休、桃花賦〕或開二故楚一、豔二豔春曙一、又若二息嬀一、含レ情不レ語。

【春序】425 シュンジョ　四季の中の春の季節。〔江淹、拜二正員外郞一表〕自過被二光私一、濫蒙二恩幸一、屢度二經冬一、亟移二春序一。〔隋煬帝、與二禪閣寺一書〕春序將レ謝、道體何如。〔韋應物、復理二西齋一寄二丘員外一詩〕海隅雨雪霽、春序風景融。

【春茹】426 シュンジョ　春の蔬菜。春に生ずる蔬菜。〔鄭畋、題二緱山王子晉廟一詩〕晚花珠弄レ蕊、春茹玉生レ苗。

【春絮】427 シュンジョ　㊀春の綿。〔李洞、寄二竇禪山薛秀才一詩〕白衫春絮暖、紅紙夏雲鮮。㊁柳の花。〔皎然、擬長安春詞〕春絮愁偏滿、春絲悶更繁。

【春耡】428 シュンジョ　春に田をすくこと。〔齊民要術、種穀〕春耡起レ地、夏爲二除草一、故春耡不レ用レ觸レ溼、六月已後、雖レ溼亦無レ嫌。

【春潡】429 シュンジョ　春の浦。潡は水浦。〔豐越人、春日東城詩〕柔櫓鳴二春潡一、繁花照二晚波一。

【春松】430 シュンショウ　㊀春の松。〔曹植、洛神賦〕榮曜二秋菊一、華茂二春松一。〔劉峻、與二擧法師一書〕葳蕤秋竹、照曜春秋。㊁清、魏成憲(12—45872‥239)の號。

【春勝】431 シュンショウ　立春の日にあやぎぬではなかづらを作ること。唐宋時代、士大夫の家で恒例として此の戲をなした。〔李商隱、驕兒詩〕請レ爺書二春勝一、春勝宜二春日一。

【春誦】432 シュンショウ　春に聲を出して詩歌をよむこと。春誦夏弦を見よ。

〖春誦夏弦〗433 シュンショウカゲン　春には口に歌樂の篇章を誦し、夏には琴瑟に合せて音節を習ふをいふ。古、中國の教學は時節によつて其の科目を變更した。弦は絃に同じ。弦誦。〔禮、文王世子〕凡學二世子一、及學レ士、必時、春夏學二干戈一、秋冬學二羽籥一、皆於二東序一、小樂正學レ干、大胥贊レ之、籥師學レ戈、籥師丞贊レ之、胥鼓レ南、春誦夏弦、大師詔二之瞽宗一。〔注〕誦、謂二歌樂一也、弦、謂二以レ絲播レ詩。〔陸倕、爲二豫章王一慶二太子出宮一表〕冬書秋記、夙表二睿資一、春誦夏絃、幼彰二神度一。

【春慵】434 シュンショウ　春にものういこと。〔范至能、眼兒媚詞〕春慵恰似二春塘一、水一片縠文愁。

【春色】436 シュンショク　㊀春の景色。〔沈約、泛二永康江一詩〕山光浮レ水至、春色犯レ寒來。〔陳羽、吳城覽古詩〕春色似レ憐二歌舞地一、年年先發館娃宮。〔薛能、漢南春望詩〕獨尋二春色一上二高臺一、三月皇州駕未レ回。〔岑參、和二中書賈至舍人早朝二大明宮一詩〕鷄鳴紫陌曙光寒、鶯囀皇州春色闌。㊁酒氣。〔紅樓夢、三十九回〕姑娘今日臉上有二些春色一。

〖春色滿二皇州一〗437 シュンショククワウシウニミツ　みやこ中、春の景色になる。〔謝朓、和二徐都曹一詩〕宛洛佳二遨游一、春色滿二皇州一、結二軫青郊路一、迴二瞰蒼江流一、日華川上動、風光草際浮、桃李成二蹊徑一、桑榆陰二道周一、東都已俶レ載、言歸望二綠疇一。〔注〕銑曰、皇州、帝都也。

〖春色惱レ人眠不レ得〗438 シュンショクヒトヲナヤマシネムリエズ　春景色のために、夜ねむられない。〔王安石、夜直詩〕金爐香盡漏聲殘、翦翦輕風陣陣寒、春色惱レ人眠不レ得、月移二花影一上二欄干一。

【春心】439 シュンシン　㊀春の風物を見て感傷を起すこと。春のものおもひ。〔楚辭、宋玉、招魂〕目極二千里一兮傷二春心一。〔枚乘、七發〕掩二青蘋一游二清風一、陶二陽氣一蕩二春心一。〔李商隱、錦瑟詩〕莊生曉夢迷二蝴蝶一、望帝春心託二杜鵑一。㊁女子が色心づくこと。春情。〔李白、江夏行〕憶昔嬌小姿、春心亦自持。

【春汛】440 シュンシン　二三月の頃、黃河の水が漲り溢れるのをいふ。桃花汛(6—14757‥48)を見よ。

【春岑】441 シュンシン　春のみね。〔杜甫、水閣朝霽奉二簡嚴雲安一詩〕東城抱二春岑一、江閣鄰二石面一。

【春信】442 シュンシン　春の來たしらせ。春のおとづれ。花がひらき鳥が鳴くこと等をいふ。〔鄭谷、梅詩〕江國正寒春信穩、嶺頭枝上雪飄飄。〔劉克莊、病後訪レ梅詩〕春信分明到二草廬一、呼兒沽レ酒買二溪魚一。

【春神】443 シュンシン　春の神。〔閻朝隱、望春宮應制詩〕勾芒人面乘二兩龍一、道是春神衞二九重一。

【春袗】444 シュンシン　春の着物。〔元稹、六年春遣レ懷詩〕重纊猶存孤枕在、春衫無レ復舊裁縫。

【春深】445 シュンシン　春が深い。春のたけなはなこと。〔儲光義、釣魚灣詩〕垂釣綠灣春、春深杏花亂。〔王涯、宮詞〕春深欲レ取黃金粉、繞レ樹宮娥著二絳裊一。〔白居易、和二春深二十首詩〕何處春深好、春深學士家。

【春人】446 シュンジン　春に遊ぶ人。〔庾信、望二美人山一銘〕禁苑斜通、春人常聚。

【春盡】447 シュンジン　春のをはり。〔書、堯典、疏〕春盡之日、與二立夏之初一、時相交也。〔杜牧、蘭溪詩〕蘭溪春盡碧泱泱、映水蘭花雨發レ香。

【春水】448 シュンスイ　㊀春の水。春の流水。〔魏文帝、臨渦賦〕荓藻生兮散二莖柯一、春水繁兮發二丹華一。〔李洞、繡嶺宮詩〕春草萋萋春水綠、野棠開盡飄二香玉一。㊁字號。㋑宋、張炎(4—9812‥66)の號。㋺清、張澹(4—9812‥542)の字。㋩賴惟寬の號。賴春水(10—36861‥38)を見よ。

〖春水園〗449 シュンスイエン　清、周濟(2—3441‥206)の室名。

〖春水翁〗450 シュンスイヲウ　清、周濟(2—3441‥206)の號。

〖春水滿二四澤一〗451 シュンスイシタクニミツ　四方の澤が春水でみちること。〔陶潛、四時詩〕春水滿二四澤一、夏雲多二奇峰一、秋月揚二明暉一、冬嶺秀二孤松一。

【春睡】452 シュンスイ　春の夜のねむり。春眠(715)に同じ。〔溫庭筠、春暮宴罷寄二宋壽先輩一詩〕牕間桃蘂宿粧在、雨後牡丹春睡濃。〔張詠、幽居詩〕滿屋煙霞春睡足、一谿風雨夜燈孤。

【春翠】453 シュンスイ　春のみどり。〔鄭谷、朝謁詩〕小松含二瑞露一、春翠易レ成レ陰。〔林逋、湖山小隱詩〕道著二權名一便絕レ交、一峰春翠濕二衡茆一。

【春醉】454 シュンスイ　春にゑふ。〔許渾、長安歲暮詩〕花暗楚城春醉少、月涼秦塞夜愁多。〔李商隱、哭二遂州蕭侍郞二十四韻詩〕秋吟小山桂、春醉後堂萱。〔許棠、旅懷詩〕夏游窮二塞路一、春醉負二秦花一。

【春蕊】455 シュンズイ　春の花。〔新論、言苑〕暄然而春榮華者不レ謝、悽然而秋凋零者不レ憾、榮凋有レ命、困遇有レ期、故春蕊雖レ茂、假二朝露一而抽レ翠、秋葉誠危、因二微風一而飄零。

【春正】456 シュンセイ　正月をいふ。〔李尤、平樂觀賦〕四表交會、抱珍遠弁、雜遝歸レ誼、集二於春正一。〔張駿、東門行〕勾芒御二春正一、衡紀運二玉瓊一。

【春生】457 シュンセイ　㊀春に萬物の生ずること。〔史記、太史公自序〕夫春生夏長、秋收冬藏、此天道之大經也。〔道德指歸論〕萬物青青、春生夏長、秋成冬熟、皆歸二於土一、非レ有二政教一、物自然也。〔韓愈、新修二滕王閣一記〕春生秋殺、陽開陰閉。㊁春になる。春が來る。〔崔顥、相逢行〕春生百子殿、花發五城樓。〔張喬、送三友人遊二湖南一詩〕春生二南嶽一早、日轉二大荒一遲。〔陳與義、除夜詩〕明日岳陽樓上去、島煙湖霧看二春生一。㊂字號。㋑清、姚椿(3—6202‥97)の字。㋺清、孫允中(3—6987‥324)の號。

〖春生秋殺〗458 シュンセイシウサツ　春は物を生じ、秋は物を殺す。〔韓愈、新修二滕王閣一記〕春生秋殺、陽開陰閉。

【春成】459 シュンセイ　元、陳煥章(11—41698‥773)の字。

【春青】460 シュンセイ　春に草木の青いこと。〔劉峻、東陽金華山棲志〕若其羣峰疊起、則接レ漢連レ霞、喬林布レ濩、則春青冬綠。〔張協、七命〕華草錦繁、飛采星燭、陽葉春青、陰條秋綠。〔韓琮、晚春江

晴寄二友人一詩〕春靑河畔草、不二是望鄕時一。

【春政】461（シユンセイ） 春に行ふまつりごと。〔書、堯典、分命二羲仲一宅二嵎夷一曰二暘谷一、疏〕以二春位在一レ東、因治二於東方一、其實本主二四方春政一。〔孝經鉤命訣〕春政不レ失、五穀蘖、初夏政不レ失、甘雨時、季夏政不レ失、地無レ菑、秋政不レ失、人民昌、冬政不レ失、少二疾喪一、五政不レ失、百穀惟熟、日月光明。

【春星】462（シユンセイ） ❶春の夜のほし。〔梁簡文帝、神山寺碑〕澄明離日、照影春星。〔杜甫、夜宴二左氏莊一詩〕暗水流二花徑一、春星帶二草堂一。❷中井敬義の號。中井董堂（1―73‥912）を見よ。

〖春星閣〗463（シユンセイカク） 淸、楊季鸞（6―15112‥464）の室名。

〖春星草堂〗464（シユンセイサウダウ） 淸、吳熙（2―3365‥90）の室名。

【春晴】465（シユンセイ） 春のはれた日。〔沈佺期、奉三和春日幸二望春宮一應制詩〕芳郊綠野散二春晴一、複道離宮煙霧生。〔王建、貽二小尼師一詩〕春晴堦下立、私地弄二花枝一。〔趙嘏、書齋雪後詩〕擁褐坐二茅簷一、春晴喜二初日一。〔陸游、戲遣二老懷一詩〕霜曉方驚羣木脫、春晴又喜一花新。

【春盛】466（シユンセイ） 春のさかり。〔詩、召南、摽有梅、其實七兮、箋〕謂女年二十、春盛而不レ嫁、至レ夏則衰。

【春精】467（シユンセイ） 春の日のひかり。〔支遁、四月八日讚佛詩〕圓光朗二東旦一、金姿艷二春精一。

【春靜】468（シユンセイ） 春の日の靜かなこと。〔元稹、早歸詩〕春靜曉風微、凌晨帶レ酒歸。

【春鮆】469（シユンセイ） 春の刀魚。鮆は刀魚。〔梅堯臣、寒食日過二荆山一詩〕春鮆橫二刀鱠一、何心更食レ鮮。

【春聲】470（シユンセイ） 鳥などの春に鳴く聲。のどかでやはらいだ聲。〔李白、侍二從宜春苑一奉レ詔賦三龍池柳色初靑聽二新鶯百囀一歌〕春風卷入二碧雲一去、千門萬戶皆春聲。〔杜甫、正月三日歸二溪上一有レ作簡二院內諸公一詩〕蟻浮仍臘味、鷗泛已春聲。〔元稹、早春詩〕雨香雲淡覺二微和一、誰送二春聲一入二櫂歌一。〔唐彥謙、無題詩〕錦箏銀甲響二鵾弦一、勾二引春聲一上二綺筵一。

【春薺】471（シユンセイ） 春生ずるなづな。〔陸游、買レ魚詩〕兩京春薺論レ斤賣、江上鱸魚不レ直レ錢。

【春霽】472（シユンセイ） 春に雨のはれること。〔羅鄴、洛陽春望詩〕洛陽春霽絕二塵埃一、嵩少煙嵐畫障開。

【春稅】473（シユンゼイ） 春の租稅。〔盧象、鄕試後自レ鞏還二田家一因謝二鄰友見一レ過之作詩〕且問二春稅苦一、兼陳二行路難一。〔梅堯臣、田家語詩〕誰道田家樂、春稅秋未レ足。

【春抄】474 ch'uen¹ ch'ao¹ 春の末。季春。

【春沼】475（シユンセウ） ❶春のぬま。〔馬祖常、楊花宛轉曲〕欲レ落不レ落春沼平、無レ根無レ蔕作二浮萍一。❷淸、張鑑（4―9812‥152）の字。

【春宵】476（シユンセウ） 春のゆふべ。春夜。〔唐彥謙、漢代詩〕鮮明臨二曉日一、迴轉度二春宵一。〔白居易、長恨歌〕雲鬢花顏金步搖、芙蓉帳暖度二春宵一。

〖春宵曲〗477（シユンセウキヨク） 詞牌の名。卽ち單調の南歌子をいふ。溫庭筠の詞に恨春宵といふ句があつて、春宵曲と名づけてゐる。南歌子（2―2750‥812）を見よ。

〖春宵宮〗478（シユンセウキユウ） 宮殿の名。周の穆王が東巡して到つた處。〔拾遺記、三、周穆王〕三十六年、王東巡二大騎之谷一、指二春宵宮一、集二諸方士仙術之要一、而螭鵠龍蛇之類、奇種憑レ空而出、時已將レ夜、王設二常生之燈一以自照、一名二恆輝一、又列二璠膏之燭一遍二于宮內一、又有二鳳腦之燈一、又有二冰荷者一、出二冰壑之中一、取二此花一以覆レ燈七八尺、不レ欲レ使二光明遠一也。

〖春宵一刻直千金〗479（シユンセウイツコクアタヒセンキン） 春の夜の一刻の間の景が千金に價ひする。春宵を極めて賞美した語。〔蘇軾、春夜詩〕春宵一刻直千金、花有二淸香一月有レ陰、歌管樓臺人寂寂、鞦韆院落夜沈沈。

〖春宵花月直千金〗480（シユンセウクワゲツアタヒセンキン） 春の夜の花と月とを極めて賞美した語。〔唐六如、花月吟〕春宵花月直千金、愛三此花香與二月陰一、月下花開春寂寂、花梢月轉夜沈沈、杯邀二月影一臨レ花醉、手弄二花枝一對レ月吟、明月易レ虧花易レ老、月中莫レ負賞レ花心。

【春消】481（シユンセウ） 春が過ぎ去つてゆく。〔可止、送別詩〕夜減當二晴影一、春消過二雪蹤一。

【春梢】482（シユンセウ） 春のこずゑ。〔杜牧、代レ人寄レ遠詩〕繡領任レ垂二蓬髻一、丁香閑結二春梢一。

【春椒】483（シユンセウ） 春の山椒。〔庾信、周譙國公夫人步陸孤氏墓誌銘〕九日登レ高、作銘二秋菊一、三元告レ始、或誦二春椒一。〔崔日用、奉下和人日重宴二大明宮一恩中賜綵縷人勝上應制詩〕金屋瑤筐開二寶勝一、花箋綵筆頌二春椒一。

【春照】484（シユンセウ） 春に日や月が照ること。春の日ざし。〔陸龜蒙、和二襲美見一レ訪不レ遇詩〕倚レ杖偏吟春照午、一池冰段幾多消。〔李咸用、煌煌京洛行〕周公舊跡生二紅蘚一、瀍澗波光春照晚。「9」の號。

〖春照齋〗485（シユンセウサイ） 明、王好問（7―20823‥124

【春韶】486（シユンセウ） 春のうるはしさ。〔蘇軾、再和三劉貢父春日賜二幡勝一詩〕記取明年江上郡、五更春枕夢二春韶一。

【春樵】487（シユンセウ） 春のたきぎ。〔韋莊、過二舊宅一詩〕朱檻翠樓爲二卜肆一、玉欄偎杏作二春樵一。

【春夕】488（シユンセキ） 春のゆふべ。春夜。〔王儉、春夕詩〕露華方照レ歲、雲彩復經レ春。

【春席】489（シユンセキ） 春の宴席。〔元稹、酒醒詩〕暗燈風餤曉、春席水牕寒。〔羅隱、商於驛樓東望有レ感詩〕歌繞二夜梁一珠宛轉、舞嬌二春席一雪朦朧。

【春磧】490（シユンセキ） 春のかはら。春のすなはら。〔張說、送下鄭大夫惟忠從二公主一入上レ蕃詩〕春磧沙連レ海、秋城月對レ關。

【春藉】491（シユンセキ） 春の藉田。藉田（9―32242‥41）を見よ。〔王禹偁、藉田賦〕耕二鉤盾之弄田一、但矜二兒戲一、修二建康之春藉一、未レ煥二農功一。

【春雪】492（シユンセツ） 春の雪。春さきに降る雪。〔嵇康、琴贊〕澡以二春雪一。〔梁元帝、鍾山飛流寺碑〕月如二秋扇一、花疑二春雪一。〔張籍、逢二賈島一詩〕十二街中春雪遍、馬蹄今去入二誰家一。

【春節】493（シユンセツ） ❶春の時節。〔後漢書、楊震傳〕冬無二宿雪一、春節未レ雨、百僚心焦、而繕修不レ止、誠致レ旱之象也。〔事物異名錄、歲時、春〕梁元帝纂要、春節曰二華節・韶節・淑節一。❷ch'uen¹ chieh² 舊曆元旦をいふ。

【春川】494（シユンセン） ❶地名。朝鮮、江原道の首邑。漢城の東北。❷川合孝衡の號。川合春川（4―8673‥25）を見よ。

【春先】495（ハルサキ） 春のはじめ。〔爲忠百首、上〕澤邊にあさる春さきの駒。

【春泉】496（シユンセン） ❶春のいづみ。〔梁昭明太子、與二何胤一書〕志與二秋天一競レ高、理與二春泉一爭レ溢。〔司馬禮、宮怨詩〕年年花落無二人見一、空逐二春泉一出二御溝一。〔杜荀鶴、贈二廬嶽隱者一詩〕古樹藤纏殺、春泉鹿過レ渾。❷淸、汪膺敏（6―17154‥327）の號。

【春扇】497（シユンセン） 春風があふぎ吹くこと。〔陳章、風不レ鳴レ條賦〕異二秋吟之推木一、同二春扇於微和一。

【春淺】498（シユンセン） 春が淺い。春さき。早春。〔張說、晦日詩〕晦日嫌二春淺一、江浦看二湔衣一。〔戴叔倫、早春曲〕靑樓昨夜東風轉、錦帳凝寒覺二春淺一。〔羅隱、早春巴陵道中詩〕遠雪亭亭望未レ銷、岳陽春淺似二相饒一。

【春選】499（シユンセン） 春季に行はれる科擧の試驗。〔舊唐書、職官志二〕凡大選終二於季春之月一、云云、亦有二春中下解而後集一、謂二之春選一。〔宋史、選擧志三〕次年公試二其春選一、升補推恩、依二大觀法一。

【春錢】500（シユンセン） ❶宋代、俸給の一種。春に賜はるもの。〔宋史、職官志十一〕奉祿、主書七千、守當官・書令史五千。〔注〕春冬絹各二匹、主書、書令史春錢三千、冬綿十二兩、錢一千、守當官春錢一千。❷あやぎぬを錢の形に切つたもの。〔東京夢華錄〕立春日、士夫家翦レ綵爲二小旛一、綴二於花枝之上一、或翦二春蝶春錢春勝一以爲レ戲。

【春薦】501（シユンセン） 春にそなへすすめる。〔許相卿、蘿補堂賦〕春薦二芳蕊一、可レ方二杞菊一、夏布二淸陰一、弗レ讓二修竹一。

【春蘚】502（シユンセン） 春のこけ。蘚は苔。〔錢起、題二樊川杜相公別業一詩〕古樹生二春蘚一、新荷卷二落花一。〔姚合、寒食詩〕堦前春蘚徧、衣上落花飄。

【春纖】503（シユンセン） 婦人の手指のさま。春葱。〔孝祥、詞〕借二春纖一縷レ鱠搗レ香。〔長生殿、窺浴〕春纖十個擂槌、玉體渾身糙漆。

【春前】504（シユンゼン） 春のまへ。〔海棠譜序〕梅花占二於春前一、牡丹殿二於春後一、騷人墨客特注意焉。〔張說、懷二驪山別業一詩〕歲後寒初變、春前芳未レ開。〔方干、送二王霖赴一レ擧詩〕郄詵可レ要眞消息、只向二春前一便得レ知。

【春膳】505（シユンゼン） 春の食膳。春の食物。〔宋書、王玄

謨傳〕嘗爲㆓玄謨㆒作㆓四時詩㆒、曰、菫荼供㆓春膳㆒、粟漿充㆓夏飡㆒、瓟醬調㆓秋菜㆒、白醝解㆓冬寒㆒。

【春蟬】506（シュンゼン） 春のせみ。〔元稹、春蟬詩〕我自㆓東歸日㆒、厭㆓苦春鳩聲㆒、作㆑詩憐㆓化工㆒、不㆑遣㆓春蟬生㆒。

【春素】507（シュンソ） 春の晝間。明るい春の日。〔吳文英、點絳脣詞〕行人去暗銷㆓春素㆒、橫笛空山暮。

【春酥】508（シュンソ） 春のちちしる。〔元稹、贈㆓雙文㆒詩〕曉月行看㆑墮、春酥見㆑欲㆑消。

【春蔬】509（シュンソ） 春のやさい。〔梁元帝、與㆓蕭諮議等㆒書〕困㆓於酒食㆒、未㆑若㆓過㆑中不㆑餐、螺蜓登㆑組、豈及㆓春蔬爲㆑淨。〔白居易、放魚詩〕曉日提㆓竹籃㆒、家童買㆓春蔬㆒。〔鄭谷、聞㆔瀨罷㆑舉歸㆓睦州㆒悵然懷寄詩〕煙舟撐㆓晚浦㆒、雨屐翦㆓春蔬㆒。

【春葱】510（シュンソウ） 春の葱。婦人の手指の形容。〔白居易、箏詩〕雙眸剪㆓秋水㆒、十指剝㆓春葱㆒。〔方干、采蓮詩〕指剝㆓春葱㆒腕似㆑雪、畫橈輕撥蒲根月。〔剪燈餘話、鸞鸞傳〕纖纖軟玉削㆓春葱㆒、長在㆓香羅翠袖中㆒。

【春叟】511（シュンソウ） 宋、邵大椿 (**11 − 39343**‥132) の字。

【春瘦】512（シュンソウ） 春に身體のやせること。〔李商隱、贈㆓歌妓㆒詩〕只知解道春來瘦、不㆑道春來獨自多。〔陳亞、藥名詩〕棊爲㆓臘寒㆒呵㆑子下、衣因㆓春瘦㆒縮㆓紗裁㆒。〔宋无、客㆑燕雨懷詩〕客愁萬斛添㆓杯量㆒、春瘦三分解㆓帶圍㆒。

【春叢】513（シュンソウ） 春先のくさむら。〔劉峻、廣絕交論〕論㆓嚴苦㆒、則春叢零㆑葉。〔陳子昂、魏氏園林人賦㆓一物㆒得㆓秋亭萱草㆒詩〕昔時幽徑裏、榮耀雜㆓春叢㆒。

【春藪】514（シュンソウ） 春のやぶ。〔支遁、八關齋詩〕寥寥神氣暢、欽若盤㆓春藪㆒。

【春俗】515（シュンゾク） 春のならはし。風俗。〔孟郊、奉㆓報翰林張舍人見㆑遺之詩〕孤韻恥㆓春俗㆒、餘響逸㆓零雰㆒。

【春蛇】516（シュンダ） 春のへび。〔范成大、秦淮詩〕至㆑今秦淮曲、宛若㆓春蛇遊㆒。

【春儺】517（シュンダ） 春のおにやらひ。〔孫頠、春儺賦〕我皇堯舜比㆑德、夔龍是扶、春儺㆓高門㆒、載馳載驅。

【春苔】518（シュンタイ） 春のこけ。春蘚。〔陶弘景、尋山誌〕爾乃荆門晝掩、蓬戶夜開、室迷㆓夏草㆒、徑惑㆓春苔㆒。〔江淹、別賦〕或春苔兮始生、乍秋風兮暫起。〔宋之問、太平公主山池賦〕秋葉飛兮散㆓紅樹㆒、春苔生兮覆㆓綠泉㆒。〔陸機、倢伃怨〕春苔暗㆓階除㆒、秋草蕪㆓高殿㆒。〔張正見、白頭吟〕春苔封㆓履跡㆒、秋葉奪㆓妝紅㆒。

【春帶】519（シュンタイ） ❶春のおび。〔謝朓、和㆓王主簿季哲怨情㆒詩〕徒使㆓春帶賒㆒、坐惜㆓紅妝變㆒。〔宋書、樂志四〕榮枯換㆓霜霧㆒、交綏㆓春帶㆒命㆓朋僚㆒。❷草名。〔月令廣義〕春帶、草名。

【春袋】520（ハルフクロ） 兒女などが初春に幸福を多く取り入れるやうにと上下を縫ひ合はせる祝ひ袋。春を張るに寄せて祝ふ。古のあめつちふくろの遺であらう。

【春貸】521（シュンタイ） 春季に貸すこと。〔淮南子、說山訓〕春貸秋賦民皆欣、春賦秋貸衆皆怨。〔宋史、食貨志上四〕今放㆓青苗錢㆒、凡春貸㆓十千㆒、半年之內、便令㆑納㆓利二千㆒、秋再放㆓十千㆒、至㆓歲終㆒、又令㆑納㆓利二千㆒。

【春態】522（シュンタイ） 春のさま。なまめかしいさま。〔杜牧、丹水詩〕恨聲隨㆑夢去、春態逐㆑雲來。〔韓琮、霞詩〕應是行雲未㆑擬㆑歸、變成㆓春態㆒媚㆓晴暉㆒。〔蘇軾、紅梅詩〕寒心未㆔肯隨㆓春態㆒、酒暈無㆑端上㆓玉肌㆒。〔向子諲、鷓鴣天詞〕朝雲無㆑限飄㆓春態、暮雨情知更可㆑憐。

【春黛】523（シュンタイ） 春のまゆ。黛は、まゆずみ。〔白居易、贈㆓同座㆒詩〕春黛雙蛾嫩、秋蓬兩鬢侵。

【春臺】525（シュンタイ） ❶春のうてな。はれやかな臺。盛な世の喩。〔老子、二十〕衆人熙熙、如㆑享㆓太牢㆒、如㆓春登㆑臺。〔潘岳、秋興賦〕登㆓春臺之熙熙㆒兮、珥㆓金貂之炯炯㆒。〔注〕善曰、老子曰、衆人熙熙如㆑享㆓太牢㆒、如㆑登㆓春臺㆒。〔張濛、登㆓春臺㆒賦〕達㆓萬類㆒者、莫㆑尙㆓於和氣㆒。❷禮部の異稱。〔事文類聚〕禮部稱㆓容臺㆒、亦曰㆓春臺㆒。❸餉臺。食事臺。〔水滸傳、四回〕春臺上放㆓下三箇盞子三雙筋㆒。❹字號。㋑清、孫永清 (**3 − 6987**‥330) の字。㋺太宰純の號。太宰春臺 (**3 − 5834**‥164) を見よ。

〖春臺戲〗526（シュンダイノギ） 蘇州地方で行はれる野芝居。農祥を祈るために、二三月中に行ふ。〔清嘉錄、二、春臺戲〕二三月間、里豪市俠、搭㆓臺曠野㆒、醵㆑錢演㆑戲、男婦聚觀、謂㆓之春臺戲㆒、以祈㆓農祥㆒。

〖春臺座〗527（シュンダイザ） 正月に親友を集めて春餠を食ふとき、其の客席をいふ。〔江西志書、建昌府〕新春、人家以㆓生菜㆒作㆓春盤㆒、茹㆓春餠㆒集㆓親友㆒、謂㆓之會春㆒、客席謂㆓之春臺座㆒。

〖春臺獨語〗528（シュンダイドクゴ） 書名。一卷。太宰春臺撰。蘐門の漢學者の見地から、漢詩・茶道・俳諧等を批評し、新古風俗の變移を敍したもの。〔百家說林〕・〔日本隨筆大成〕。

【春題】529（シュンダイ） 春に關する詩歌の題。〔林泉高致〕春有㆔早春雲景、早春雨景、殘雪、早春雪霽、早春雨霽、早春煙雨、早春寒雲、欲㆑雨春、早春晚景、曉日春山、春雲欲㆑雨、早春煙靄、春雲出㆑谷、滿溪春溜、春雨春風作、斜風細雨、春山明麗、春雲如㆓白鶴㆒、皆春題。

【春到】530（シュントウ） 春がいたる。春が來る。〔白居易、代書㆓詩一百韻㆒寄㆓微之㆒〕寒銷直城路、春到曲江池。〔杜牧、海榴花謝詩〕春到未㆔曾逢㆓宴賞㆒、雨餘爭解免㆓低徊㆒。〔万俟雅言、昭君怨詞〕春到㆓南樓㆒雪盡驚、動燈期㆓花信㆒。

【春桃】531（シュントウ） 春のもも。〔易林、師之第七、坤〕春桃生㆑花、季女宜㆑家。〔虞世南、門有㆓車馬客㆒詩〕夏蓮開㆓劍水㆒、春桃發㆓綬花㆒。〔孟郊、遊㆓枋口柳溪㆒詩〕春桃散㆓紅煙㆒、寒竹含㆓晚凄㆒。

【春棹】532（シュントウ） 春のさを。轉じて、春の舟。〔李頻、送㆔吳秘書歸㆓杭州㆒詩〕是處通㆓春棹㆒、無㆔村不㆓夜春㆒。

【春塘】533（シュントウ） 春のつつみ。〔沈約、詠㆓湖中鴈㆒詩〕白水滿㆓春塘㆒、旅鴈每迴翔。〔李嘉祐、送㆘王牧往㆓吉州㆒謁㆗王使君叔㆖詩〕野渡花爭發、春塘水亂流。

【春蕩】534（シュントウ） 春ののびやかなこと。〔杜甫、城上詩〕風吹花片片、春蕩水茫茫。

【春擣】535（シュントウ） 春に布帛や紙をつきうつこと。〔蘇軾、和㆓王鞏㆒六首並次韻詩〕敲㆑冰春擣㆑紙、刈㆑葦秋織㆑箔。

【春濤】536（シュントウ） ❶春の大きい波。〔孟郊、峽哀詩〕齏粉一閃間、春濤百丈雷。〔李商隱、哭㆓劉蕡㆒詩〕廣陵別後春濤隔、湓浦書來秋雨飜。❷森魯直の號。森春濤 (**6 − 14974**‥41) を見よ。

〖春濤詩鈔〗537（シュントウシセウ） 書名。二十卷。森春濤撰。卷一より卷四までを甲籤といひ、春濤の手定に係り、卷五より二十までは、門人森川竹溪が遺稿について鈔錄したもの。

【春餳】538（シュントウ） 春のしるあめ。餳は、米を煑て爛らしめた甜味あるもの。〔朱松、寒食詩〕粥冷春餳凍、泥開臘酒斟。

【春宅】539（シュンタク） 春のすまひ。〔杜甫、登㆑舟將㆑適㆓漢陽㆒詩〕春宅棄㆑汝去、秋帆催㆓客歸㆒。

【春澤】540（シュンタク） 春のさは。〔潘岳、西征賦〕弛㆓秋霜之嚴威㆒、流㆓春澤之渥恩㆒。

【春籜】541（シュンタク） 春の竹のかは。〔李紳、南庭竹詩〕煙惹㆓翠梢㆒含㆓玉露㆒、粉開㆓春籜㆒聳㆓琅玕㆒。〔陸游、城西接待院後竹下詩〕裊裊共看風枝舞、蔌蔌時聽春籜墮。

【春闥】542（シュンタツ） 春の門內。〔寇坦、夏晚初霽南省寓直詩〕月色搖㆓春闥㆒、香煙靄㆓暝廬㆒。

【春旦】543（シュンタン） 元旦。〔白居易、續古詩〕春旦日初出、曈曈耀㆓晨輝㆒。

【春湍】544（シュンタン） 春のはやせ。〔梅堯臣、送㆔崔主簿赴㆓睦州清溪㆒詩〕古祠鳴㆓野鳥㆒、亂石激㆓春湍㆒。

【春潭】545（シュンタン） 春の淵。春の深い川。〔隋煬帝、春江花月夜曲〕夜露含㆓花氣㆒、春潭漾㆓月暉㆒。〔李德裕、山桂詩〕影入春潭底、香凝月樹前。〔宋之問、初至㆓崖口㆒詩〕氣衝㆓落日㆒紅、影入㆓春潭㆒碧。〔李白、送㆔族弟襄歸㆓桂陽㆒詩〕春潭瓊草綠可㆑折、西寄㆓長安㆒明月樓。〔張籍、惜㆑花詩〕春潭足㆓芳樹㆒、水清不㆑如㆑素。〔元稹、寄㆓浙西李大夫㆒詩〕早渡㆓西江㆒好歸去、莫㆘拋㆓舟楫㆒滯㆗春潭㆖。

【春澹】546（シュンタン） 春のしづかなこと。〔白居易、東城春意詩〕晚來春澹澹、天氣似㆓京都㆒。

【春灘】547（シュンタン） 春のなだ。〔羅隱、送㆔沈光侍御赴㆓職闈中㆒詩〕夜浦吳潮亂、春灘建水狂。

【春㬉】548（シュンダン） 春のあたたかさ。春暖に同じ。〔謝靈運、道路憶㆓山中㆒詩〕憶㆑故叵㆓新歡㆒、含㆑悲忘㆓春㬉㆒。

【春暖】549（シュンダン） 春のあたたかさ。春暄。春㬉。〔白居易、和答詩、答㆓桐花㆒〕是時三月天、春暖山雨晴。

【春地】550 シュンチ 春の土地。〔薛能、贈二禪師一詩〕夜堂吹二竹雨一、春地落花風。

【春池】551 シュンチ ㊀春のいけ。〔王維、皇甫岳雲溪雜題、萍池詩〕春池深且廣、會待輕舟廻。〔韋應物、題二鄭弘憲遺愛草堂一詩〕疎松映二嵐晚一、春池含二苔綠一。㊁字號。㋑淸、謝邦翰（10－35827・・351）の字。㋺淸、駱騰鳳（12－44734・・30）の號。

【春祉】552 ch'uen^1 chih^3 春日の福祉を頌する語。書翰文用語。

【春雉】553 シュンチ 春のきじ。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕春雉未レ馴、秋螟不レ散。〔戴叔倫、桂陽北嶺偶過二野人所レ居云云詩〕畦葉藏二春雉一、庭柯宿二旅猨一。〔陸游、北園雜詠詩〕林際已看二春雉起一、屋頭還聽二歲豬鳴一。

【春遲】554 シュンチ ㊀春の來ることがおそい。〔孟浩然、人日登二南陽驛門亭子一懷二漢川諸友一詩〕剪レ花驚二歲早一、看レ柳訝二春遲一。〔杜甫、可レ惜詩〕花飛有二底急一、老去願二春遲一。〔盧綸、春日書レ情贈二別司空曙一詩〕臘近晴多レ暖、春遲夜却寒。〔陸游、羅江驛翠望亭云云詩〕蜀山地暖稀レ逢レ雪、閏歲春遲未レ見レ梅。㊁淸、馬樸臣（12－44572・・920）の字。

【春抽】555 シュンチウ 春に芽が出てのびること。〔束晳、補亡詩〕木以レ秋零、草以レ春抽。

【春酎】556 シュンチウ 春のさけ。酎は、重ねて釀した濃い酒。〔顧雲、池陽醉歌贈二匡廬處士姚巖傑一詩〕春酎香濃枝蓋黏、一醉有レ時三日病。〔韋莊、對レ酒詩〕何用巖棲隱二姓名一、一壺春酎可レ忘レ形。〔韋莊、出關詩〕正是灞陵春酎綠、仲宣何事獨辭レ家。

【春晝】557 シュンチウ 春のひなか。〔杜牧、舊遊詩〕重尋春晝夢、笑把淺花枝。〔溫庭筠、湖陰詞〕吳波不レ動楚山晚、花壓二闌干一春晝長。

【春竹】558 シュンチク 春の竹。〔杜甫、祠南夕望詩〕山鬼迷二春竹一、湘娥倚二暮花一。〔李賀、聽二穎師琴一歌〕誰看挾レ劍赴二長橋一、誰看浸レ髮題二春竹一。〔齊己、寄二懷江西徵岷二律師一詩〕院影連二春竹一、窗聲接二雨池一。

【春茶】559 シュンチャ 春のお茶。〔劉叉、冰柱詩〕不レ爲二雙井水一、滿レ甌泛泛烹二春茶一。

【春帳】560 シュンチャウ 春のとばり。〔李賀、石城曉詩〕春帳依微蟬翼羅、橫茵突金隱體花。

【春漲】561 シュンチャウ 春に水のみなぎること。〔司空圖、光啓四年春戊申詩〕孤嶼池痕春漲滿、小闌花韻午晴初。〔杜荀鶴、送三人歸二淝上一詩〕巢湖春漲喩二溪深一、纔過二東關一見二故林一。〔蘇軾、次二韻王定國南遷回見レ寄詩〕相逢爲レ我話二滯留一、桃花春漲孤舟起。〔陸游、白帝泊レ舟詩〕峽江春漲減、瀼岸夜燈疎。

【春仗】562 シュンヂャウ 天子の春の行幸の儀衞をいふ。〔蘇頲、扈二從溫泉一同二紫微黃門羣公一汎二渭川一得二齊字一詩〕虹旗映二綠荑一、春仗漢豐西。〔沈佺期、昆明池侍レ宴應制詩〕春仗過二鯨沼一、雲旗出二鳳城一。〔秦觀、次下韻宋履中近謁二大慶一退中食館上詩〕迎謁二曉廷一淸蹕近、退穿二春仗一綵旄閑。

【春場】563 シュンヂャウ 春のにはや空地。〔李商隱、公子詩〕春場鋪二艾帳一、下馬雉媒嬌。〔歐陽脩、公子詩〕下馬春場雞鬭レ距、鳴弦初日雉驚レ媒。

〖春場所〗564 ハルバショ 正月（今は三月）興行の大相撲「をいふ。

【春釀】565 シュンヂャウ 春に酒をかもすこと。又、其の酒。〔王績、贈二學レ仙者一詩〕春釀煎二松葉一、秋杯浸二菊花一。〔孟貫、贈二棲隱洞譚先生一詩〕石泉春釀レ酒、松火夜煎レ茶。

【春中】567 シュンチュウ 春のまんなか。中春。〔宋書、沈攸之傳〕上大怒詔二攸之一曰、卿春中求レ伐二彭城一、吾恐二軍士疲勞一、且去冬奔散、人心未レ宜二復用一、不レ許二卿所レ啓、今便不二肯爲レ我行一耶。〔北史、源賀傳〕督二三道諸軍一、屯二漠南一時、每歲秋冬、遣レ軍三道並出、以備二北寇一、至二春中一乃班レ師。〔歐陽脩、來鸞堂云云聯句〕是時春正中、來鸞音下上。

【春仲】568 シュンチュウ 春のなかば。二月をいふ。〔謝惠連、西陵遇レ風獻二康樂一詩〕我行指二孟春一、春仲尙未レ發。

【春廚】569 シュンチュウ 春のくりや。春のだいどころ。〔喩鳧、游二北山寺一詩〕藍峰露二秋院一、灞水入二春廚一。

【春蟲】570 シュンチュウ 春のむし。〔李遠、立春日詩〕釵斜穿二綵燕一、羅薄剪二春蟲一。〔方岳、繭窩賦〕其股躍不レ如二春蟲一、翼鳴不レ如二秋蟬一。

【春女】571 シュンヂョ 年頃の女。十七八の女子。春の女。〔淮南子、繆稱訓〕春女思、秋士悲。〔注〕春女感レ陽則思。

〖春女悲〗572 シュンヂョノカナシミ 少女が春に男子を慕ふをいふ。〔詩、豳風、七月〕女心傷悲。〔傳〕春女悲、秋士悲、感二其物化一也。〔箋〕春女感二陽氣一而思レ男、秋士感二陰氣一而思レ女、是其物化所二以悲一也。

【春直】573 シュンチョク 春の宿直。春のとのゐ。〔鄭谷、試筆偶書詩〕露花春直夜、燈鼓早朝時。

【春枕】574 シュンチン 春のまくら。春にねること。〔韓駒、送三黃若虛下第歸二湖南一詩〕長淮白浪搖二春枕一、故國青山接二夜航一。〔陸游、丙寅元日詩〕春枕方濃從二賣困一、社醅雖レ美倦二治聾一。〔張雨、遵道竹枝詩〕驚破幽人春枕夢、一牕斜月半梢橫。

【春丁】575 シュンテイ 中春卽ち二月の初めの丁（ヒノト）の日をいふ。此の日に釋奠の禮を行ふ。〔辭海、釋奠〕按舊時以二仲春・仲秋之上丁日一、祭二先聖先師一、卽沿二古釋奠之制一也。

【春汀】576 シュンテイ 春のなぎさ。春のみぎは。〔王勃、春思賦〕春水春魚樂、春汀春雁擧。〔唐彥謙、鸂鶒詩〕驚離二曉岸一銜レ花去、暖下二春汀一照レ影飛。

【春亭】577 シュンテイ 春のあづまや。〔梁簡文帝、馬槊譜序〕至レ如二春亭落景、秋皐晚淨一、靑霜且レ盡、密雨初晴。〔武元衡、春日酬二熊執易南亭花發見レ贈詩〕曾忝二陸機琴酒會一、春亭惟願二一淹留一。〔李咸用、遠公亭牡丹詩〕雁門禪客吟二春亭一、牡丹獨逞花中英。

【春帝】578 シュンテイ 春の神。〔陳陶、冬夜吟〕靑旗引二春帝一、展轉城烏啼。

【春庭】579 シュンテイ 春のには。〔梁簡文帝、答二張纘書一〕春庭落レ景、轉レ蕙承レ風、秋雨且晴、簷梧初下。〔孫逖、和二常州崔使君寒食夜一詩〕聞道淸明近、春庭向二夕闌一。〔賈至、長門怨〕獨坐思千里、春庭晚景長。〔杜甫、得二舍弟消息一詩〕風吹紫荊樹、色與春庭暮。〔李咸用、富貴曲〕編珠影裏醉二春庭一、團紅片下攢二歌黛一。

〖春庭樂〗580 シュンテイガク 雅樂の曲名。〔江家次第、元日節會〕先吹二調子一、次參音聲、多用二春庭樂一。

【春荑】581 シュンテイ 春のつばな。〔劉峻、相經序〕手無二春荑之柔一、髮有二寒蓬之悴一。〔陳樵、迎二華觀瑞蓮一賦〕鬱金在レ柳、丹入二春荑一、冶葉倡條、凌亂紛披。

【春堤】582 シュンテイ 春のつつみ。〔王維、晦日遊二大理韋卿城南別業一云云詩〕紆組上二春堤一、側弁倚二喬木一。〔孟浩然、江上寄二山陰崔少府國輔一詩〕春堤楊柳發、憶下與二故人一期上。〔劉禹錫、隄上行三首〕春堤繚繞水徘徊、酒舍旗亭次第開。

【春程】583 シュンテイ 春のみちのり。春の行程。〔王逢、得兒掖書詩〕寶氣空遺レ水、春程不レ見レ花。

【春禘】584 シュンテイ ㊀春禴の誤。禴は礿に同じ。春礿（735）を見よ。〔禮、郊特牲〕饗禘有レ樂、而食嘗無レ樂、陰陽之義也、凡飲養二陽氣一也、凡食養二陰氣一也、故春禘而秋嘗、春饗二孤子一、秋食二耆老一、其義一也。〔注〕此禘當レ作レ禴、字之誤也、王制曰、春禴夏禘。㊁古、春に行つた宗廟の祭。〔南齊書、禮志上〕右僕射王儉議、案禮記王制、天子先レ祫後二時祭一、諸侯先二時祭一後レ祫、春秋魯僖二年祫、明年春禘、自レ此以後、五年再殷、禮緯稽命徵曰、三年一祫、五年一禘、經記所レ論禘祫與二時祭一、其言詳矣。

【春酲】585 シュンテイ 春のふつかゑひ。春の宿醉。春のわるゑひ。〔元稹、襄陽爲二盧竇一紀レ事詩〕猶帶春酲懶二相送一、櫻桃花下隔レ簾看。〔陸游、春日詩〕春來日日困二春酲一、徂歲如レ馳得二我驚一。〔柳永、木蘭花慢詞〕拚却明朝永日、畫堂一枕春酲。

【春霆】586 シュンテイ ㊀春のいかづち。春の疾雷。〔左思、魏都賦〕抑若二春霆發レ響、而驚蟄飛競一。〔注〕善曰、二客聞レ言、朗然心悟、猶二春霆響、驚蟄紛然而競飛一。〔傅亮、喜雨賦〕春霆殷以遠響、興雲霈而載レ塗。〔王勃、上二劉右相一書〕不レ行而至、春霆仗二天地之威一、以レ息相推、時雨鬱二山川之兆一。㊁淸、鮑超（12－46074・・64）の字。

【春檉】587 シュンテイ 春の河柳。〔成公綏、芸香賦〕莖類二秋竹一、葉象二春檉一。

【春泥】588 シュンデイ 春のどろ。春のぬかるみ。〔杜甫、苦寒行〕玄猿口噤不レ能レ嘯、白鵠翅垂眼流レ血、安得二春泥一補二地裂一。〔杜甫、陪二裴使君登二岳陽樓一詩〕雪岸叢梅發、春泥百草生。〔元稹、留二呈夢得子厚致用一詩〕泉溜才通疑二夜磬一、燒煙餘暖有二春泥一。〔薛能、寄二李頻一詩〕環簷消二舊雪一、晴氣滿二春泥一。〔唐彥謙、春雨詩〕庾郞盤馬地、却怕有二春泥一。

【春鳥】589 シュンテウ 春のとり。黃雀の類。〔周禮、夏

官、羅氏〕中春羅二春鳥一。〔注〕春鳥、蟄而始出者、若二今南郡黃雀之屬一。〔古樂府、傷歌行〕春鳥翻南飛、翩翩獨翺翔。〔洛陽伽藍記、一〕景林寺、云云、西有レ園、多饒二奇果一、春鳥秋蟬、鳴聲相續。

【春朝】590（シユンテウ） ❶春來朝する。〔周禮、秋官、大行人〕春朝二諸侯一而圖二天下事一。❷春のあさ。〔新書、保傅〕三代之禮、天子春朝朝レ日、秋暮夕レ月、所二以明レ有レ敬也。〔沈約、與二約法師一書悼二周捨一〕春朝聽レ鳥、秋夜臨レ風。〔劉禹錫、秋詞〕自レ古逢レ秋悲二寂寥一、我言秋日勝二春朝一。

【春潮】591（シユンテウ） 春のうしほ。春の日にさしてくる潮水。〔王勃、早春野望詩〕江曠春潮白、山長曉岫青。〔王昌齡、送二郭司倉一詩〕明月隨二良掾一、春潮夜夜深。

【春潮帶レ雨晚來急】592（シユンテウアメヲオビテバンライキフナリ） 春の潮が雨を帶びて暮方急に流れる。國家の患難多きをいふ。〔韋應物、滁州西澗詩〕獨憐幽草澗邊生、上有二黃鸝深樹鳴一、春潮帶レ雨晚來急、野渡無レ人舟自橫。〔增注〕潮水本急、春潮而帶レ雨、其急可レ知、國家患難多也、晚來急、乃危國亂朝季世末俗、如三日色已晚不二復光明一也。

【春糶】593（シユンテウ） 春のうりよね。又、春に米を賣り出すこと。〔宋史、韓絳傳〕知二成都府一、張詠鎭レ蜀日、春糶レ米、秋糶レ鹽、官給レ券、以惠二貧弱一、歷レ歲久、權歸二豪右一、中人奉レ使至レ蜀、使三酒吏主二貿易一、因附益以取レ悅、絳悉奏罷レ之。

【春條】594（シユンデウ） ❶春のえだ。春の小枝。春梢。〔高適、苦雪詩〕窮巷獨無レ成、春條祇盈レ把。〔李商隱、柳枝詩〕本是丁香樹、春條結始生。〔歐陽脩、送二友人南下一詩〕河橋別柳減二春條一、隔浦挐音聽已遙。〔葉襄、秋海棠賦〕薄二春條之鬭豔一、樂二秋景之婆娑一。❷對聯の一種。除夜に紅紙に吉語を書いて室內の壁上に貼るもの。多く閨室生レ春・立春大吉等の句を用ひる。

【春帖】595（シユンテフ） 對聯の一種。除夜に、務尙吉祥の語を書いて柱に聯ねるもの。此の時、楣枋の閒に兼ねて宜春福祿壽喜等の文字を貼る。〔通俗編、祝誦、春帖〕月令廣義、除夜更春帖、柱聯二務尙吉祥之語一、楣枋閒兼貼二宜春福祿壽喜等字一、又以二五色紙一鐫爲二門綵一、又懸二麻𪎭色線一、及串二諸果一爲二吉利之名一、列二掛于戶市上一、以二楮鐫錢一封二其扉扇一、或掛二街衢一、郡國風俗大同小異、按、茅亭客話、後蜀歲除日、諸宮門各給二桃符一對一、俾レ題二元亨利貞四字一、今亦有下以二四字一貼二門楣一者上。

【春帖子】596（シユンテフシ） 宋代、翰林の諸子が春詞を書いて、立春の日に禁中の門帳に翦貼したもの。皇帝閤六篇・皇后閤五篇・夫人閤五篇等がある。又、歐陽脩の內制集、司馬光の文正公集に春帖子詞がある。帖子詞(**4－8849**··10)を見よ。〔名臣言行錄後集、歐陽脩〕公在二翰林一、仁宗一日見二御閤春帖子一、讀而愛レ之、問二左右一曰、歐陽脩之辭也、乃悉取二宮中諸帖一閱レ之、見二其篇篇有レ意、歎曰、舉レ筆不レ忘二規諫一、眞侍從之臣也。〔清波雜志、十〕翰林書二待詔請春詞一、以二立春日一翦二貼於禁中門帳一、皇帝閤六篇、其一曰、漠然天造與レ時新、根著浮流一氣均、萬物不レ須二彫琢巧一、正如三恭レ已布二深仁一、皇后閤五篇、其一曰、春衣不レ用二蕙蘭薰一、領緣無レ煩刺繡文、曾在二蠶宮一親織就、方知縷縷盡二辛勤一、夫人閤四篇、其一曰、聖主終朝勤二萬幾一、燕居專レ事養二希夷一、千門永晝春岑寂、不レ用車前插二柳枝一、春端帖子不下特詠二景物一爲上レ觀レ美、歐陽文忠公嘗寓二規諷其閒一、蘇東坡亦然、司馬溫公自著二日錄一、特書二此四詩一、蓋爲二玉堂之楷式一、自二政宣一以後、第形二容太平盛事一、語言工麗以相夸、殆若二唐人宮詞一耳、近時楊誠齋廷秀詩、有下玉堂著レ句轉二春風一、諸老從前亦寓レ忠、誰爲二君王一供二帖子一、丁寧綺語不レ須レ工之句上、是亦此意、頃得二玉堂集一、分爲二八帙一、或云、李漢老所レ編者、亦有二皇太子府春端帖子一。〔迂齋詩話〕翰苑作二春帖子一、往往秀麗可レ喜。

【春天】597（シユンテン） 春。〔吳志、周魴傳〕乞下降二春天之潤一、哀中拯其急上。〔杜甫、春日憶二李白一詩〕渭北春天樹、江東日暮雲。

【春典】598（シユンテン） 春に行ふしきたり。〔蘇頲、奉三和聖製途次二舊居一應制詩〕東陸行二春典一、南陽卽二舊居一。

【春田】599（シユンデン） ❶春の田獵。〔周禮、夏官、大司馬、注〕春田爲レ蒐。〔禮、曲禮下〕國君春田不レ圍レ澤。❷春の田。〔鄭谷、中年詩〕苔色滿レ墻尋二故地一、雨聲一夜憶二春田一。〔皎然、送二張孝廉赴レ舉詩〕春田休レ學稼、秋賦出二儒官一。❸字號。㋑清、徐志鼎(**4－10110**··453)の號。㋺清、汪爲霖(**6－17154**··158)の字。㋩清、李元開(**6－14459**··1155)の字。

【春田草堂】600（シユンデンサウダウ） 清、沈德潛(**6－17189**··618)の室名。

【春田橫塘】601（ハルタワウタウ） 和泉の人。本姓は土生。名は有則。字は有物。通稱は仁右衛門・尙平。號は橫塘・海老。昌平黌に學ぶ。大阪伏見町に塾を開いて教授す。文政十一年八月九日、歿す。年六十一。著に古詩筌・唐明詩類函・養生詩・橫塘遺稿がある。〔大阪名家著述目錄〕。

【春殿】602（シユンデン） 春の御殿。春の宮殿。又、全盛を極めた宮殿のさま。〔鄭愔、中宗降誕日長寧公主滿月侍宴應制詩〕春殿猗蘭美、仙階柏樹榮。〔王昌齡、甘泉歌〕乘レ輿執レ玉已登レ壇、細草霑レ衣春殿寒。〔李白、越中覽古詩〕宮女如レ花滿二春殿一、只今惟有二鷓鴣飛一。〔李益、宮怨詩〕露濕二晴花一春殿香、月明歌吹在二昭陽一。

【春渡】603（シユント） 春の渡場。〔皎然、別山詩〕採レ藥多二秋蓬一、汲レ泉有二春渡一。

【春土】604（シユンド） 春の土。〔國語、周語上、農祥晨正日月底二于天廟一、土乃脉發、注〕農書曰、春土冒レ撅、陳根可レ拔、耕者急發。

【春度】605（シユンド） 春がわたりすぎる。〔王勃、春思賦〕傷二紫陌之春度一、惜二青樓之望遠一。〔賀知章、采蓮曲〕莫レ言春度芳菲盡、別有三中流采二芰荷一。〔白居易、酬二盧秘書一詩〕倏忽青春度、奔波白石頹。〔盧仝、人日立春詩〕春度春歸無レ限春、今朝方始覺レ成レ人。

【春冬】606（シユントウ） 春と冬。〔陳書、宣帝紀〕對二揚璽紱一、非二止殷湯之三辭一、履二涉春冬一、何但代王之五讓。〔王褒、上二新定鐘一表〕周發聽レ聲、候二春冬之生殺一、師曠吹レ律、知二晉楚之衰亡一。〔杜甫、夔州歌〕瀼東瀼西一萬家、江南江北春冬花。〔岑參、劉相公中書江山畫障詩〕巖花不二飛落一、澗草無二春冬一。

【春凍】607（シユントウ） 春のこほり。春の氷。〔詩、小雅、出車、今我來思雨レ雪載塗、箋〕黍稷方華、朔方之地、六月時也、以二此時一始出レ壘、征二伐玁狁一、因伐二西戎一、至レ春凍始釋、而來反。

【春燈】608（シユントウ） 春の夜のともしび。〔王維、同二比部楊員外一十五夜游有レ懷二靜者季一詩〕由來月明如二白日一、共道春燈勝二百花一。〔杜甫、船下二夔州郭一宿雨濕不レ得レ上レ岸別二王十二判官一詩〕風起春燈亂、江鳴夜雨懸。

【春燈謎】609（シユントウメイ） 戲曲の名。明、阮大鋮作。一名、十錯認。韋節度と宇文生とが元宵に燈謎をなすことより、無限の波瀾を惹き起す。〔桃花扇、鬨丁〕春燈謎、誰不レ見、十錯認、無二人辯一。

【春櫈】610 chʻuen¹ tʻêng⁴ 安樂椅子。腰掛けの類。

【春藤】611（シユントウ） ❶春のふぢ。〔梁簡文帝、丞相長沙宣武王碑〕春藤絡レ戶、寒菊臨レ池。〔宋之問、早入二清遠峽一詩〕秋橘迎二霜序一、春藤礙二日輝一。❷姓氏。〔日用重寶記〕。

【春洞】612（シユンドウ） 春のほらあな。〔杜牧、朱坡詩〕乳肥二春洞一生二鵝管一、沼避二回巖一勢犬牙。

【春耨】613（シユンドウ） 春にくさぎる。春に田を耕す。〔陳書、後主紀〕詔曰、云云、今陽和在レ節、膏澤潤下、宜下展二春耨一、以望中秋坻上。〔方干、山中言レ事寄二贈蘇判官一詩〕隔レ岸雞鳴春耨去、鄰家犬吠夜漁歸。

【春曇】614（シユンドン） 清、程川(**8－25081**··86)の號。

【春入】615（シユンニフ） 春が來る。春になる。〔皇甫曾、奉二送杜侍御一詩〕寒生五湖道、春入萬年枝。〔白居易、洛陽春贈二劉李二賓客一詩〕雪銷洛陽堰、春入永通門。〔胡曾、交河塞下曲〕曉侵雉堞烏先覺、春入二關山一鴈獨知。〔蘇軾、再和二陽公濟梅花一詩〕春入二西湖一到處花、裠腰芳草抱二山斜一。

【春寧】616（シユンネイ） 清、滿洲正黃旗人。姓は赫舍哩氏。乾隆の閒、金川を征し石峯堡を平定し、尋いで臺灣の林爽文を擊破す。後、官は綏遠將軍に至る。〔國朝耆獻類徵、三百一〕・〔國史列傳、二十七〕。

【春熱】617（シユンネツ） 春にあついこと。〔韓詩外傳、二〕夏寒冬溫、春熱秋榮。〔杜甫、宿二花石戍一詩〕地蒸南風盛、春熱西日暮。

【春念】618（シユンネン） 春のおもひ。〔王勃、七夕賦〕鄙二塵情於春念一、擬二仙契於秋諾一。

【春農】619 シュンノウ ㊀春に農業をすること。〔後漢書、段熲傳〕熲以、春農百姓布㆑野、羌雖㆓暫降㆒、而縣官無㆑廩、必當㆓復爲㆓盜賊㆒、不㆑如㆓乘㆑虛放㆑兵、勢必殄滅。〔杜甫、諸將詩〕稍喜臨邊王相國、肯銷㆓金甲㆒事㆓春農㆒。〔杜甫、東屯月夜詩〕春農親異㆑俗、歲月在㆓衡門㆒。〔薛能、桃花詩〕風光新社燕、時節舊春農。㊁字號。㋑清、蔣宗海(9－31820‥185)の號。㋺清、汪承霈(6－17154‥266)の字。

【春濃】620 シュンノウ ㊀春に酒などのこいこと。〔曹唐、小遊仙詩〕酒釀春濃瓊草齊、眞公飲散醉如㆑泥。㊁春がたけなはなこと。〔蘇軾、越州張中舍壽樂堂詩〕春濃睡足午窗明、想見新茶如㆓潑乳㆒。〔陸游、春日詩〕春濃日永有㆓佳處㆒、睡味著㆑人如㆓蜜甜㆒。

【春波】621 シュンパ ㊀春のさざなみ。〔謝靈運、孝感賦〕蔑㆓柔葉於古木㆒、起㆓春波於寒川㆒。〔陸游、齋中夜坐有㆑感詩〕浣花江色綠如㆑黛、春波瀲瀲浮㆓輕舠㆒。㊁清、王霖(7－20823‥1083)の字。

【春波影】622 シュンパエイ 雜劇の篇名。清、徐士俊作。虞初新志の小青傳によつて、小青の事を演じたもの。小青(4－7473‥757)の㊄を見よ。

【春葩】623 シュンパ 春花をいふ。葩は、はなびら。〔左思、魏都賦〕擒㆑翰則華縱㆓春葩㆒。〔新論、言苑〕陽氣主㆑生、物所㆑樂也、陰氣主㆑殺、物所㆑憾也、故春葩含㆑日似㆑笑、秋葉泫㆑露如㆑泣。

【春馬】624 シュンバ 春の馬。〔沈約、爲㆓齊竟陵王㆒發講疏頌〕思馳㆓春馬㆒、理折㆓秋蟬㆒。〔白居易、洛中春游呈㆓諸親友㆒詩〕春娃無㆓氣力㆒、春馬有㆓精神㆒。

【春杯】625 シュンパイ 春のさかづき。〔羅鄴、巴南旅舍言㆑懷詩〕紅淚罷㆑窺連㆓曉燭㆒、碧波休㆑引向㆓春杯㆒。〔蘇軾、次㆓韻子由月季花再生㆒詩〕臘果綴㆓梅枝㆒、春杯浮㆓竹葉㆒。

【春梅】626 シュンバイ 春のうめ。〔張協、七命〕燀以㆓秋橙㆒、酤以㆓春梅㆒。〔白居易、寄㆑情詩〕灼灼早春梅、東南枝最早。

【春醅】627 シュンパイ 春のもろみ酒。春のにごり酒。〔蘇軾、西山詩和者三十餘人再用㆓前韻㆒爲㆑謝詩〕朱顏發過如㆓春醅㆒、胃中梨棗初未㆑栽。〔蘇軾、用㆓過韻㆒冬至與㆓諸生㆒飲詩〕凍醴寒初泫、春醅暖更饛。〔梅堯臣、依㆑韻和㆓春日偶書㆒詩〕甕面春醅壓㆓嫩藍㆒、盤中鵝肉亦肥甘。

【春方】628 シュンパウ ㊀東方。〔顏延之、車駕幸㆓京口㆒三月三日侍㆓遊曲阿後湖㆒作詩〕春方動㆓宸駕㆒、望㆑幸傾㆓五州㆒。〔注〕濟曰、春方、東方也。㊁ch'uen^1 fang^1 催春藥。春藥。

【春放】629 シュンパウ 春にはなたれる。〔白居易、偶作二首詩〕戰馬春放歸、農牛冬歇息。

【春芳】630 シュンパウ 春の香草。〔應璩、與㆓從弟君苗君胄㆒書〕結㆓春芳㆒以崇㆑佩、折㆓若華㆒以翳㆑日。〔陸機、悲哉行〕游客芳㆓春林㆒、春芳傷㆓客心㆒。

【春袍】631 シュンパウ 春の衣。春のうはぎ。〔李商隱、春游詩〕庾郎年最少、青草妬㆓春袍㆒。

【春菢】632 シュンパウ 春に鳥が卵を覆ふ。菢は鳥が卵をいだくこと。〔梅堯臣、西湖觀㆔新出㆓鶖兒㆒云云詩〕春菢畏㆓雷復㆒、鶵開形已完。

【春坊】634 シュンバウ ㊀皇太子の御殿。又、皇太子。東宮。春宮。〔晉書、愍懷太子傳論〕及㆘于繼㆓明宸極㆒、守㆗器春坊㆖。〔官僚備要〕太子宮曰㆓春坊㆒。㊁魏晉以來、太子の官の稱。唐には詹事府を置いて尚書省に比し、左右春坊を置いて門下・中書兩省に比す。清末、廢す。春宮坊。〔通典、職官〕隋分爲㆓左右庶子各二人㆒、分統㆓門下典書二坊事㆒、云云、大唐亦各二人、分掌㆓左右春坊事㆒。㊂ch'uen^1 fang^1 遊廊。

【春芒】635 シュンバウ 春ののぎ。〔王禹偁、藉田賦〕時也木德盛陽氣充、春芒甲坼、青青兮蔥蔥、春土脈起、油油兮溶溶。

【春望】636 シュンバウ 春のながめ。〔杜甫、春望詩〕國破山河在、城春草木深、感㆑時花濺㆑淚、恨㆑別鳥驚㆑心、烽火連㆓三月㆒、家書抵㆓萬金㆒、白頭搔更短、渾欲㆑不㆑勝㆑簪。〔劉禹錫、韓十八侍御見㆑示㆘岳陽樓別㆓竇司直㆒詩㆖云云詩〕多遊見㆓清淺㆒、春望多㆓洲沚㆒。〔徐鉉、春夜月詩〕幽人春望本多情、況是花繁月正明。〔朱熹、題㆓翠壁㆒詩〕杖藜徙倚凝㆓春望㆒、覓㆑句淹留到㆓晚衙㆒。

【春牓】637 シュンバウ 科擧の春試の成績を發表する掲札。〔齊己、送㆓劉蛻秀才赴㆑擧詩〕都人看㆓春牓㆒、韓字在㆓誰前㆒。〔宋史、哲宗紀二〕詔㆓大學合格上舍生㆒、推恩免㆓省試㆒、坿㆓科場春牓㆒。

【春榜】638 シュンバウ 春牓に同じ。〔捫蝨新話、畢壯元贈㆓子山㆒詩〕畢狀元漸使㆓福建㆒日、嘗按㆑部過㆓羅原㆒、時南華翁林子山致仕居㆓南華洞㆒、年已八十餘、以㆑詩迓㆑之、有㆘當年春榜首聞㆑名、對御如㆑君有㆓幾人㆒之句㆖。

【春貌】639 シュンバウ ㊀春のかたち。春のさま。〔沈約、長歌行〕春貌既移㆑紅、秋林豈停㆑蒨。㊁若く美しい顏。美人の容姿。〔鮑溶、怨詩〕秋心還移㆑愛、春貌無㆑歸㆑姸。

【春伯】640 シュンパク 字號。㊀宋、靳更生(12－42728‥24)の字。㊁宋、羅點(9－28397‥193)の字。㊂宋、雷應春(12－42245‥174)の字。㊃宋、王沂之(7－20823‥1297)の字。

【春陌】641 シュンパク 春のまち。春の市中の街路。〔陳後主、舞媚娘〕爭弄遊㆓春陌㆒、相邀開㆓繡戶㆒。〔溫庭筠、張靜婉采蓮歌〕麒麟公子朝㆓天客㆒、珂馬璫璫度㆓春陌㆒。〔韋莊、下第題㆓青龍寺僧房㆒詩〕馬嘶㆓春陌㆒金羈鬧、鳥睡㆓花林㆒繡羽香。〔韋莊、三堂早春詩〕獨倚㆓危樓㆒四望遙、杏花春陌馬聲驕。

【春雹】642 シュンパク 春のひよう。春のひさめ。〔王琢、雪詩〕冬雷怪㆓相似㆒、春雹冷應㆑同。

【春薄】643 ハルススキ 柳の異名。〔莫傳抄〕はるさめの露に亂るるはるすすき。

【春麥】644 シュンバク はる麥。春に實る麥。〔司空圖、書懷詩〕幾處馬嘶春麥長、一川人喜雪峰晴。〔蘇軾、和㆔子由送㆓將官梁左藏仲通㆒詩〕雨足誰言春麥短、城堅不㆑怕㆓秋濤卷㆒。

【春發】645 シュンパツ 春に花のひらくこと。〔王僧孺、吏部郎表〕秋成春發、必如㆓暄寒無㆑爽。〔梅堯臣、花塢詩〕雜芳春發淺深叢、曲塢逶迤紫間紅。

【春髮】646 シュンパツ 白髮を秋髮といふに對して綠髮・黑髮をいふ。〔孟郊、濟源寒食詩〕酒人皆倚㆓春髮綠㆒、病叟獨藏㆓秋髮白㆒。

【春半】647 シュンパン 春のなかば。〔張若虛、春江花月夜詩〕昨夜閒潭夢㆓落花㆒、可㆑憐春半不㆑還㆑家。〔柳宗元、柳州二月榕葉落盡偶題詩〕宦情羈思共淒淒、春半如㆑秋意轉迷。〔杜牧、惜春詩〕春半年已除、其餘強爲㆑有。

【春帆】648 シュンパン ㊀春の舟。〔杜牧、越中詩〕石城花鳥鷓鴣飛、征客春帆秋不㆑歸。㊁字號。㋑清、紀昀(8－27234‥3)の字。㋺清、陸費瑔(11－41708‥220)の號。

【春頒】649 シュンパン 春にわかつ。穀物等を春に頒ち秋に斂める。困窮の時に施し、豐饒の時に收めるをいふ。〔周禮、地官、旅師〕凡用㆑粟、春頒而秋斂㆑之。〔注〕困時施㆑之、饒時收㆑之。〔南齊書、武帝紀〕春頒秋斂、萬邦所㆓以惟懷㆒、柔㆑遠能㆑邇、兆民所㆓以允殖㆒。

【春幡】650 シュンパン あやぎぬをきつてつくつた幡。立春の日に士大夫の家で作る。〔歲時風土記〕立春之日、士大夫之家、翦㆑綵爲㆓小幡㆒、謂㆓之春幡㆒、或懸㆓於家人之頭㆒、或綴㆓於花枝之下㆒。

【春繁】651 シュンパン 春がさかんなこと。春のたけなはなこと。〔來鵠、子規詩〕雨恨花愁同㆓此冤㆒、啼時聞處正春繁。

【春晚】652 シュンバン 春の末。春のくれ。晚春。春暮。〔鄭谷、賀㆓進士駱用錫登第㆒詩〕春榜到㆓春晚㆒、一家榮㆓一鄉㆒。〔蘇軾、李鈐轄座上分題戴㆑花詩〕簾前柳絮驚㆓春晚㆒、頭上花枝奈㆑老何。〔陸游、自㆓芳華樓㆒過㆓瑤林莊㆒詩〕春晚江邊草過㆑腰、雨餘樓下水平㆑橋。

【春盤】653 シュンバン 唐代、立春の日に春餠・生菜を作ること。食ひ積み。〔宋史、禮志二十二〕立春賜㆓春盤㆒。〔通俗篇、飲食、春盤〕四時寶鏡、立春日、春餠生菜、號㆓春盤㆒、武林舊事、春前一日、後苑辦㆓造春盤㆒、翠縷紅絲、備極精巧。

【春坡】654 シュンピ 春のつつみ。春陂に同じ。〔徐璣、憑㆑高詩〕憑㆑高散㆓幽策㆒、綠草滿㆓春坡㆒。

【春陂】655 シュンピ 春のつつみ。〔鮑照、芙蓉賦〕會㆓春陂㆒乎夕張、搴㆓芙蓉㆒而水嬉。〔李嘉祐、赴㆓南中㆒云云詩〕種田東郭傍㆓春陂㆒、萬事無情把㆓釣絲㆒。〔姚合、遊春詩〕晴野花侵㆑路、春陂水上㆑橋。

【春被】656 シュンピ 春のよぎ。春の寢具。〔白居易、春眠詩〕春被薄亦暖、朝牕深更閑。

【春湄】657 シュンビ 清、溫純(7－17968‥124)の號。

【春薇】658 シュンビ 春のぜんまい。〔韋莊、題㆓吉澗盧拾遺莊㆒詩〕主人西游去不㆑歸、滿溪春雨長㆓春薇㆒。

【春冰】659 シュンピョウ ㊀春のこほり。〔庾信、周儀同松滋公拓拔競夫人尉遲氏墓誌銘〕春冰浴㆑鸞、秋機秉㆑杼。〔皇甫冉、送㆓普門上人㆒詩〕日光依㆓嫩草㆒、

泉響滴二春冰一。㊁危險の喩。履二春冰一を見よ。

【履二春冰一】660（シュンピョウヲフム） 春のとけやすい氷をふむ。危險の甚だしい喩。涉二于春冰一に同じ。〔南齊書、明帝紀〕猥以二虛薄一、纘二承大業一、仰繫二鴻丕一、顧臨二兆民一、永懷二先構一、若レ履二春冰一。〔舊唐書、李密傳〕羲農軒項之後、堯舜禹湯之君、馭二朽索一而同レ危、履二春冰一而是懼。

【春冰秋雲】661 ch'uen^{1} ping^{1} ch'iu^{4} yün^{2} 極めて薄い喩。

【涉二于春冰一】662（シュンピョウヲワタル） 春のとけやすい氷をわたる。危險の甚だしい喩。〔書、君牙〕心之憂危、若下蹈二虎尾一涉中于春冰一。〔傳〕虎尾畏レ噬、春冰畏レ陷、危懼之甚。

【春逼】663（シュンピョク） 春がせまる。〔孟浩然、歲除夜有レ懷詩〕漸看二春逼一芙蓉枕、頓覺二寒消一竹葉杯。

【春鬢】664（シュンビン） 春のびんの毛。〔溫庭筠、禁火日詩〕舞衫萱草綠、春鬢杏花紅。

【春府】665（シュンプ） 春の役所。〔皎然、送二穆寂赴レ擧詩〕春府搜レ才日、高科得二一人一。

【春賦】666（シュンプ） ㊀春に分ちあたへる。〔管子、國蓄〕春賦以斂二繒帛一。〔注〕方レ春蠶家闕乏、而賦二予之一約二收其繒帛一。㊁春に租稅をとりたてる。〔淮南子、說山訓〕春貸秋賦民皆欣、春賦秋貸衆皆怨。㊂賦の名。北周、庾信の作。〔庾信、春賦〕宜春苑中春已歸、披香殿裏作二春衣一、新年鳥聲千種轉、二月楊花滿路飛。

【春敷】667（シュンプ） ㊀春に草木の芽の生え出ること。〔潘岳、秋興賦〕感二冬索而春敷一兮、嗟二夏茂而秋落一。〔注〕善曰、孔安國尙書傳曰、索、盡也、又曰、敷、布也、又曰、已布而生也。㊁淸、王懿修（**7**-**2**0823‥1128）の字。

【春譜】668（シュンプ） 春の歌。春の樂。〔陸龜蒙、置酒行〕千筠擲レ毫春譜大、碧舞紅啼相倡和。〔陳陶、竹詩〕丘壑誰堪話二碧鮮一、靜尋二春譜一認二嬋娟一。

【春部】669（カスカベ） ㊀地名。尾張國春日井郡の舊稱。㊁（カスベ）姓氏。

【春蕪】670（シュンブ） ㊀春の雜草。〔劉長卿、登二遷仁樓一訓二子壻李穆一詩〕春蕪生二楚國一、古樹過二隋朝一。〔溫庭筠、雉場歌〕城頭却望幾含レ情、青畝春蕪連二石苑一。〔皎然、山居示二靈徹上人一詩〕晴明路出山初暖、行踏二春蕪一看レ茗歸。㊁香草の名。波祇國に產し、一つの根から多くの柔軟な枝が出る、其の皮で布を作る。一名、荃蘼。〔洞冥記、一〕波祇國、亦名二波弋國一、獻二神精香艸一、亦名二荃蘼一、一名二春蕪一、一根百條、其間如二竹節一柔軟、其皮如レ絲可レ爲レ布、所謂春蕪布、亦名二香荃布一、堅密如二紈冰一也。

【春蕪記】671（シュンブキ） 戲曲の名。明、汪錂作。楚の宋玉の情事を演じたもの。

【春風】672（シュンプウ） ㊀春の風。〔宋玉、登徒子好色賦〕寤二春風兮發二鮮榮一。〔漢書、揚雄傳上〕亡二春風之被離一兮、孰焉知二龍之所レ處。〔曹植、上二責レ躬應詔詩一表〕施暢二春風一、澤如二時雨一。〔李白、送三儲邕之二武昌一詩〕春風三十度、空憶武昌城。〔白居易、琵琶行〕今年歡笑復明年、秋月春風等閑度。㊁春風は和ぎ暖かであるから、恩惠の深い喩。〔宋書、樂志二〕威厲二秋霜一、惠過二春風一。㊂春風は萬物を發生するから、人を教育する喩。〔宋史、李侗傳〕至三於不レ言而飮人以和、與レ人並立而使二人化一、如二春風發レ物、蓋亦莫レ知三其所二以然一也。㊃嶺の名。〔明一統志〕春風嶺在二汝寧府光山縣西六十里一。㊄松村操の號。松村春風（**6**-**14516**‥376）を見よ。

【春風君】673（シュンプウクン） 紙鳶の異名。

【春風堂】674（シュンプウダウ） 室名。㊀宋、黃希（**12**-**47926**‥166）の室名。㊁明、趙銓（**10**-**37171**‥261）の室名。㊂明、陸深（**11**-**41708**‥154）の室名。

【春風亭】675（シュンプウテイ） 元、蘇天爵（**9**-**32427**‥275）の室名。

【春風面】676（シュンプウメン） 美貌をいふ。〔杜甫、詠二懷古跡一詩〕畫圖省識春風面、環佩空歸月夜魂。

【春風嶺】677（シュンプウレイ） 山名。一名、東界嶺。湖北省麻城縣の東。〔輿地紀勝〕其縣有二春風嶺一、多二梅花一、蘇軾自二新息一渡レ淮、道經二此嶺一。

【春風樓】678（シュンプウロウ） ㊀樓の名。湖北省漢陽縣治の西。〔明一統志〕知軍胡介在レ任、政和民安、乃卽建レ樓曰二熙春一、後守徐安民更名二春風一。㊁川北重熹の號。川北溫山（**4**-**8673**‥146）を見よ。

【坐二春風一】679（シュンプウニザス） 如レ坐二春風之中一（688）に同じ。

【斬二春風一】680（シュンプウヲキル） 北條時宗が招いて圓覺寺の開山とした宋の僧祖元が宋に在つた時、元兵が來り攻め、刃を揮つて其の頸に擬した處、祖元が神色自若として唱へた偈の句。其の偈は、乾坤無地卓孤筇、喜得人空法亦空、珍重大元三尺劍、電光影裡斬二春風一。

【春風膏雨】681（シュンプウカウウ） のどかな春の風と、物をうるほす雨。

【春風先生】682（シュンプウセンセイ） 明、烏本良（**7**-**18998**‥462）の尊稱。

【春風得意】683（シュンプウトクイ） 科擧で進士の試驗に及第すること。〔孟郊、登科後詩〕春風得意馬蹄疾、一日看盡長安花。

【春風中坐】684（シュンプウチュウザ） 如レ坐二春風之中一（688）に同じ。

【春風風人】685（シュンプウフウジン） 人に恩澤を施すこと。〔說苑、貴德〕管仲上レ車曰、云云、吾不レ能下以二春風一風上レ人、吾不レ能下以二夏雨一雨上レ人、吾窮必矣。

【繞二亂春風一】686（シュンプウヲゼウランス） 柳の枝が春風に吹かれるのをいふ。〔羅隱、柳詩〕明年更有二新條在一、繞二亂春風一卒未レ休。

【擾二亂春風一】687（シュンプウヲゼウランス） 人の手數をかけること。〔書言故事、敍擾類〕謝レ擾レ人云三擾二亂春風一。

【如レ坐二春風之中一】688（シュンプウノウチニザスルガゴトシ） 春風は能く萬物を發育することから、先生の指導の宜しきをいふ。〔近思錄、觀聖賢〕侯師聖云、朱公掞見二明道于汝一、歸謂レ人曰、光庭在二春風中一坐了一箇月。〔宋名臣言行錄〕朱光庭見二明道先生於汝州一、歸語レ人曰、某在二春風中一坐了一月。

【春風春水一時來】689（シュンプウシュンスイイチジニキタル） にはかに春めくをいふ。〔白居易、府西池詩〕柳無二氣力一枝先動、池有二波文一氷盡開、今日不レ知誰計會、春風春水一時來。

【春風桃李花開夜】690（シュンプウタウリハナヒラクノヨ） 桃李の花の咲いた春のおぼろよをいふ。〔白居易、長恨歌〕春風桃李花開夜、秋雨梧桐葉落時。

【春服】691（シュンプク） 春に著るきもの。はるぎ。〔論語、先進〕莫春者、春服既成。〔集注〕春服、單袷之衣。〔左思、魏都賦〕御二春服一而逍遙。〔潘岳、藉田賦〕襲二春服之萋萋一兮。〔熊孺登、贈二侯山人一詩〕來時玉女裁二春服一、剪二破湘山幾片雲一。

【春物】692（シュンブツ） 春の景物。春の萬物。〔謝朓、直二中書省一詩〕朋情以鬱陶、春物方駘蕩。〔韋莊、寄二園林主人一詩〕主人常不レ在、春物爲レ誰開。〔劉祁、贈二鮮于伯機一詩〕明月不下隨二春物一老上、碧山長帶二暮雲一愁。

【春分】693（シュンブン） 二十四氣の一。陽曆三月二十一・二日をいふ。今、春分の日で、俗に彼岸の中日といひ、此の日は晝夜が長短平均する。〔周禮、春官、典瑞、注〕天子常春分朝レ日、秋分夕レ月。〔史記、天官書〕仲春春分夕出二郊・奎・婁・胃・東五舍一。〔春秋繁露、陰陽出入上下〕至二於仲春之月一陽在二正東一、陰在二正西一、謂二之春分一。〔淮南子、氾論訓〕春分而生、秋分而成。

【春分點】694（シュンブンテン） 太陽が黃道上を運行して、天球上南半球から北半球に移るとき、赤道上を通過する。此の點を春分點といふ。故に春分點は黃道と赤道との交點の一つで、太陽が春分點にあるときは、其の赤緯は零度となり、且つ正東から昇つて正西に入る。

【春粉】695（シュンブン） 春に竹の皮から出る粉。〔李賀、昌谷北園新筍詩〕斫二取青光一寫二楚辭一、膩香春粉黑離離。

【春病】696（シュンペイ） 春のやまひ。春にやむ。〔素問、金匱眞言論〕冬病在レ陰、夏病在レ陽、春病在レ陰、秋病在レ陽。〔王渙、惆悵詩〕夜寒春病不レ勝レ懷、玉瘦花啼萬事乖。〔白居易、自問詩〕老慵難二發遣一、春病易二滋生一。

【春萍】697（シュンペイ） 春の浮草。〔陸游、夜雨遣レ懷詩〕心如二秋燕不レ安レ巢、迹似二春萍本無レ蔕。

【春餠】698（シュンペイ） 白麵を煎餠のやうに薄くして、それに鷄卵・肉などを卷き込んだ料理。立春の日に食するもの。麵團子の一種。〔燕都遊覽志〕凡立春日、於二午門一賜二百官春餠一。〔燕京歲時記、打春〕是日富家多食二春餠一、婦女等多買二蘿蔔一而食レ之、曰二咬春一。

【春飆】699（シュンペウ） 春のつむじかぜ。春のあらし。〔江淹、齊太祖高皇帝誄〕春飆方舞、秋鴻初分。

【春苗】700（シュンベウ） 春のなへ。〔劉長卿、過二鸚鵡洲王處士別業一詩〕古柳依レ沙發、春苗帶レ雨鋤。〔杜甫、鷗詩〕却思飜二玉羽一、隨レ意點二春苗一。

【春碧】701 シユンペキ　春のみどり。春にあをあをしてゐること。〔李賀、難忘曲〕蜂語繞㆓粧鏡㆒、拂蛾學㆓春碧㆒。〔溫庭筠、張靜婉采蓮曲〕掌中無㆑力舞衣輕、翦斷鮫綃破㆓春碧㆒。〔鄭谷、送㆓進士韋序赴㆑擧詩〕預想明年騰躍處、龍津春碧浸㆓仙桃㆒。

【春別】702 シユンベツ　春の別れ。春の別離。〔孟郊、壽安西渡奉㆑別㆓鄭相公㆒詩〕春別亦蕭索、況茲冰霜晨。

【春遍】703 シユンペン　春があまねし。春のたけなはなること。〔歐陽脩、舟中望㆓京邑㆒詩〕青門柳色春應㆑遍、猶自留連杜若洲。

【春步】705 シユンポ　春にあゆむ。春にあるく。〔鄭谷、峽中寓止詩〕夜舡歸㆓草市㆒、春步止㆓茶山㆒。

【春圃】706 シユンポ　❶春のその。春のはたけ。〔張衡、東京賦〕植㆓華平於春圃㆒、豐㆓朱草於中唐㆒。〔孫綽、竺道壹贊〕譬若㆓春圃載芬載敷、條柯猗蔚、枝榦扶疎㆒。〔王建、題㆓裴處士碧虛溪居㆒詩〕春圃紫芹長卓卓、暖泉青草一叢叢。❷字號。㋑清、何林(1－511‥206)の號。㋺清、祁寯藻(8－24634‥33)の號。㋩清、王安國(7－20823‥1110)の號。

【春浦】707 シユンポ　❶春のうら。春の海濱。〔魏收、櫂歌行〕雪溜添㆓春浦㆒、花水足㆓新流㆒。〔劉長卿、三月三日李明府後亭泛㆑舟詩〕處處紉蘭春浦淥、萋萋藉草遠山多。〔陸游、旅遊詩〕螺青點出暮山色、石綠染成春浦潮。❷字號。㋑明、曹煐曾(5－14297‥200)の號。㋺清、孫梅(3－6987‥239)の號。㋩清、彭三元(4－10003‥153)の字。

【春暮】708 シユンボ　春の末。晩春。〔李白、憶㆓舊遊㆒詩〕問㆑予別恨知多少、落花春暮爭紛紛。〔杜甫、奉㆓送蘇州李二十五長史丈之㆑任詩〕赤壁浮㆓春暮㆒、姑蘇落㆓海邊㆒。

【春木】709 シユンボク　❶春の木。〔法言、寡見〕春木之芚兮。〔嵇康、贈㆓秀才入㆑軍詩〕春木載榮、布㆑葉垂㆑陰。❷梧をいふ。〔新書、胎教〕懸孤之禮義、東方之弧以㆑梧、梧者、東方之草、春木也、云云、南方之弧以㆑柳、柳者南方之草、夏木也、云云、西方之弧以㆑棘、棘者西方之草、秋木也、云云、北方之弧以㆑棗、棗者北方之草、冬木也。❸清、姚椿(3－6202‥97)の字。

【春毛】710 シユンマウ　❶春の鳥。〔張融、海賦〕陰鳥陽禽、春毛秋羽、遠翅㆑風遊、高翮㆑雲舉。❷春の羊毛。〔齊民要術、養羊、作㆑氈法、注〕春毛秋毛、中半和用、秋毛緊強、春毛軟弱。

【春孟】711 シユンマウ　春のはじめ。孟春。〔宋史、刑法志一〕在京大辟人、既當㆓春孟之月㆒、亦行㆑慶施㆑惠之時、伏望萬幾之暇、臨㆑軒躬覽、情可㆑憫者、特從㆓末減㆒、亦所㆔以布㆓聖澤於無窮㆒。〔梅堯臣、依㆑韻和㆓丁元珍見㆑寄詩〕道路何邅迴、季秋越㆓春孟㆒。

【春末】712 シユンマツ　春のすゑ。春のをはり。晩春。〔詩、小雅、出車序、疏〕三章言、往㆓朔方㆒、營㆓築壘壁㆒、既以㆓春末㆒而行、當㆘以㆓夏初㆒至㆗朔方㆖也。〔魏書、田益宗傳〕季冬進㆑師迄㆓於春末㆒、弗㆑過㆓十旬㆒、尅㆑之必矣。〔宋史、胡旦傳〕今年春末至㆓來年㆒、歲在㆓宋分㆒、今年初秋至㆓六年㆒、鎭在㆓燕分㆒。

【春滿】713 シユンマン　春がみちみちる。春が酣になる。又、春にみつること。〔何遜、七召〕河柳垂㆑葉、山榴發㆑英、翫㆓奇花之春滿㆒、摘㆓甘實於夏成㆒。〔盧照鄰、首春貽㆓京邑文士㆒詩〕寒辭㆓楊柳陌㆒、春滿㆓鳳凰城㆒。〔張說、酬㆓韋祭酒㆒詩〕春滿河色媚、景斜嵐氣侵。〔李山甫、贈㆓徐三十㆒詩〕春滿㆓南宮㆒白日長、夜來㆓新値㆒錦衣郎。〔陳與義、除夜詩〕海內春還滿、江南硯不㆑冰。

【春味】714 シユンミ　春のあぢはひ。春のうまみ。〔薛能、題㆓漢州西湖㆒詩〕嘗㆑茶春味渴、斷㆑酒晩懷清。〔鄭谷、峽中嘗㆑茶詩〕鹿門病客不㆓歸去㆒、酒渴更知春味長。〔陳師道、寄㆓潭州張芸叟㆒詩〕秋盤堆㆓鴨脚㆒、春味薦㆓猫頭㆒。

【春眠】715 シユンミン　春の夜のねむり。〔元稹、別㆓東樓㆒詩〕朧鋪牀席春眠處、高捲㆓簾帷㆒月上時。〔白居易、新昌新居云云詩〕假歸思㆓晩沐㆒、朝志戀㆓春眠㆒。

〖春眠不㆑覺㆑曉〗716 シユンミンアカツキヲオボエズ　春の朝の眠りの心地よいこと。〔孟浩然、春曉詩〕春眠不㆑覺㆑曉、處處聞㆓啼鳥㆒、夜來風雨聲、花落知多少。

【春務】717 シユンム　春のつとめ。春の農事をいふ。〔宋書、孝武帝紀〕詔去歲東土多經㆓水災㆒、春務已及、宜㆘加㆓優課㆒、糧種所㆑須、以㆑時貸給㆖。

【春夢】718 シユンム　春の夜のゆめ。物事のはかないことの喩。〔裴說、春早寄㆓華下同人㆒詩〕市沽終不㆑醉、春夢亦無㆑憑。〔白居易、花非花詩〕來如㆓春夢㆒幾多時、去似㆓朝雲㆒無㆓覓處㆒。〔杜牧、簾詩〕沈沈伴㆓春夢㆒、寂寂侍㆓華堂㆒。〔蘇軾、正月二十日與㆓潘郭二生㆒出㆑郊尋㆑春云云詩〕人似㆓秋鴻㆒來有㆑信、事如㆓春夢㆒了無㆑痕。〔侯鯖錄、七〕東坡老人在㆓昌化㆒、嘗負㆓大瓢㆒、行㆓歌於田間㆒、有㆓老婦㆒年七十、謂㆑坡云、內翰昔富貴、一場春夢。

〖春夢婆〗719 シユンムバ　人の世のはかない喩。蘇東坡が昌化に在つて、或る日大瓢を背にして田野を行吟した時、年七十になる婆が、「內翰昔日の富貴は一場の春夢なり」といつたので、東坡は「その通りだ」と答へた。そこで、里人は此の婆を、春夢婆と呼んだといふ故事。〔侯鯖錄、七〕東坡老人在㆓昌化㆒、嘗負㆓大瓢㆒、行㆓歌於田間㆒、有㆓老婦㆒年七十、謂㆑坡云、內翰昔日富貴、一場春夢、坡然㆑之、里人呼㆓此媼㆒爲㆓春夢婆㆒。〔元好問、出都詩〕神仙不㆑到秋風客、富貴空悲春夢婆。

〖春夢居士〗720 シユンムコジ　青山延光の號。青山佩弦齋(12－42564‥245)を見よ。

【春霧】721 シユンム　春のきり。〔新論、託附〕騰蛇附㆓於春霧㆒。〔劉禹錫、竹枝詞〕日出三竿春霧消、江頭蜀客駐㆓蘭橈㆒。

【春明】722 シユンメイ　❶門の名。唐代、京城の東面の三門の一。後世、轉じて、京城をいふ。〔唐六典、尚書工部、郎中員外郎〕京城東面三門、中曰㆓春明㆒、北曰㆓通化㆒、南曰㆓延興㆒。〔唐書、黃巢傳〕巢入㆑自㆓春明門㆒、升㆓太極殿㆒。❷清、陸宇熀(11－41708‥258)の字。

〖春明退朝錄〗723 シユンメイタイテウロク　書名。三卷。宋、宋敏求撰。多く宋代の典制をのべ、其の間に雜說雜事をまじふ。〔四庫提要、子、雜家類〕。

〖春明夢餘錄〗724 シユンメイムヨロク　書名。七十卷。清、孫承澤撰。明代の典故を述べたもの。其の目は、建置・形勝・城池・畿甸・城坊・宮闕・宮宦・內官監・正殿・殿門・文華殿・文華傍室・武英殿・仁智殿・文淵閣・皇史宬・天壇・祈穀壇・神樂觀・犧牲所・山川壇・神祇壇・太歲壇・先農壇・旗纛壇・地壇・朝日壇・夕月壇・太廟・奉先殿・景神殿・玉芝宮崇先殿・社稷壇・先蠶壇・高隍壇・西海神祠・帝王廟・文廟・三皇廟・都城隍廟・漢壽亭侯廟・宋丞相文信國祠・于少保忠肅祠・內閣・大科・尙寶司・光祿寺・中書科・宗人府・五軍都督府・戎政府・翰林院・詹事府・吏部・戶部・禮部・兵部・刑部・工部・都察院・通政司・大理寺・太常寺・四譯館・大僕寺・國子監・府學・首善書院・太醫院・欽天監・鴻臚寺・行人司・上林苑・錦衣衛・名蹟・寺廟・石刻・巖麓・川渠・陵園。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【春茗】725 シユンメイ　春の茶。〔皎然、訪㆓陸處士羽㆒詩〕何山賞㆓春茗㆒、何處弄㆓春泉㆒。〔王禹偁、八絕詩、庶子泉詩〕味將㆓春茗㆒宜、光與㆓曉嵐㆒暝。〔陸游、閑門詩〕數簡隱書忘㆓世味㆒、半甌春茗過㆓花時㆒。

【春溟】726 シユンメイ　春の海。〔宋之問、景龍四年春祠㆑海詩〕肅事祠㆓春溟㆒、宵齋洗㆓蒙慮㆒。

【春鳴】727 シユンメイ　春に鳥がなく。〔張衡、東京賦〕鶬鶊秋棲、鶻鵃春鳴。

【春茂】728 シユンモ　元、陳煥章(11－41698‥773)の字。

【春目】729 シユンモク　春の眺め。〔謝朓、和㆓王著作融八公山㆒詩〕出沒眺㆓樓雉㆒、遠近送㆓春目㆒。〔李白、古風詩〕倚㆑劍登㆓高臺㆒、悠悠送㆓春目㆒。〔元稹、遣㆑春詩〕悠然送㆓春目㆒、八荒誰與羣。〔李程、春臺晴望詩〕曲臺送㆓春目㆒、景物麗㆓新晴㆒。

【春冶】730 シユンヤ　清、張鑑(4－9812‥152)の字。

【春夜】731 シユンヤ　春の夜。〔陶潛、雜詩〕愁人難㆑爲㆑辭、遙遙春夜長。〔王建、贈㆓陳評事㆒詩〕春夜酒醒初起坐、燈前一紙洞庭山。

〖春夜宴㆓桃李園㆒序〗732 シユンヤタウリエンニエンスルジヨ　文章の名。唐、李白作。四六騈儷の名言佳句より成り、春園夜宴のために作つたもの。唐文粹卷九十七・續文章軌範卷一・名文珠璣卷六・事文類聚前集卷六・古文眞寶後集卷三等に收錄されてゐる。〔李白、春夜宴㆓桃李園㆒序〕夫天地者、萬物之逆旅、光陰者、百代之過客、而浮生若㆑夢、爲㆑歡幾何、古人秉㆑燭夜遊、良有㆑以也、況陽春召㆑我以㆓煙景㆒、大塊假㆑我以㆓文章㆒、會㆓桃李之芳園㆒、序㆓天倫之樂事㆒、羣季俊秀、皆爲㆓惠連㆒、吾人詠歌、獨慚㆓康樂㆒、幽賞未㆑已、高談轉清、開㆓瓊筵㆒以坐㆑華、飛㆓羽觴㆒而醉㆑月、不㆑有㆓佳作㆒、何伸㆓雅懷㆒、如詩不㆑成、罰依㆓金谷酒數㆒。

【春野】733 シユンヤ　春の野邊。〔韋應物、送㆓李儋㆒詩〕春野百卉發、清川思無㆑窮。〔高適、奉㆓酬北海李太守丈人夏日平陰亭㆒詩〕春野變㆓木德㆒、夏天臨㆓火星㆒。

【春陽】734 シユンヤウ　❶春の日かげ。又、春の時節。〔古

詩〕蘭若生二春陽一、涉レ冬猶潤滋。〔晉書、樂志上〕經二春陽一而自喜、遇二秋彫一而不レ悅。〔潘岳、關中詩〕惴惴寡弱、如二熙春陽一。〔庾信、哀江南賦〕草木之際二春陽一、魚龍之逢二風雨一。❷字號。㋑明、歸子顧（**6－16349**‥310）の字。㋺明、吳弘濟（**2－3365**‥559）の字。

【春礿】735（シユン ヤク） 夏殷の時、天子・諸侯が春に行つた宗廟の祭。春祭（266）を見よ。〔禮、王制〕天子諸侯宗廟之祭、春曰レ礿、夏曰レ禘、秋曰レ嘗、冬曰レ烝。〔注〕此蓋夏殷之祭名、周則改レ之、春曰レ祠、夏曰レ礿、以レ禘爲二殷祭一、詩小雅曰、礿祠烝嘗、于二公先王一、此周四時祭二宗廟一之名。

【春藥】736 chʻuen^{1} yao^{4} 滋強丸。催春藥。

【春籥】737（シユン ヤク） 春のふえ。〔沈佺期、奉下和聖製同二皇太子一遊中慈恩寺上應制詩〕天歌應二春籥一、非三是爲二春風一。

【春楡】738（シユン ユ） 春のにれの木。〔歐陽脩、送二謝希深學士北使一詩〕塞草生レ磧、春楡綠滿レ關。

【春融】739（シユン ユウ） 春の氣ののびのびしたさま。春ののどかなさま。〔宋史、樂志十六〕春融日暖、四野瑞煙浮。〔趙麟、玉山草堂賦〕藍田日暖、元圃春融。

【春融堂】740（シユンユウダウ） 清、王昶（**7－20823**‥791）の室名。

【春餘】741（シユン ヨ） 春のすゑ。暮春。晚春。季春。〔梁元帝、採蓮賦〕夏始春餘、葉嫩花初。〔王僧孺、侍宴詩〕麗景屬二春餘一、清陰澄二夏首一。〔韓愈、柳巷詩〕柳巷還飛絮、春餘幾許時。

【春容】742（シユン ヨウ） ❶春のすがた。春げしき。〔張說、侍二宴滻水一賦二得濃字一詩〕雲霞交二暮色一、草樹喜二春容一。〔齊己、南歸舟中詩〕春容含二衆岫一、雨氣泛二平蕪一。❷女の晝姿。〔燕子箋、家門〕把二春容箋詠一、燕子啣將。

【春羅】743（シユン ラ） 絹織物の一種。〔唐書、地理志三〕鎭州常山郡、土貢二孔雀羅・瓜子羅・春羅梨一。〔韋應物、雜體詩〕春羅雙鴛鴦、出レ自二寒夜一女。

【春蘿】744（シユン ラ） ❶春のかづら。〔孔稚珪、北山移文〕秋桂遺レ風、春蘿罷レ月。〔陸雲、四言失題詩〕德馥二秋蘭一、容茂二春蘿一。❷清、沈容（**6－17189**‥381）の號。

【春來】745（シユン ライ） ❶春が來る。春になる。又、春からこのかた。〔陳書、馬樞傳〕春來秋去幾二三十年。〔戴叔倫、隄上柳詩〕垂柳萬條絲、春來織二別離一。〔張巡、守二睢陽一作詩〕接戰春來苦。❷魚の名。ぐち。石持。〔臨海異物志〕石首小者名二䠞水一、其次名二春來一、石首異種又有二石頭一、長七八寸、與二石首一同。

【春來遍是桃花水】746（ハルキタレバアマネクコレタウクワノミヅ） 春になつて見渡す限り桃花の咲きにほふのをいふ。〔王維、桃源行〕魚舟逐レ水愛二山春一、兩岸桃花夾二去津一、坐看二紅樹一不レ知レ遠、行盡二青溪一不レ見レ人、山口潛行始隈隩、山開曠望旋平陸、遙看一處攢二雲樹一、近入二千家一散二花竹一、樵客初傳漢姓名、居人未レ改秦衣服、居人共住武陵源、還從二物外一起二田園一、月明松下房櫳靜、日出雲中雞犬喧、驚聞二俗客一爭來集、競引還レ家問二都邑一、平明閭巷掃レ花開、薄暮漁樵乘レ水入、初因レ避レ地去二人間一、更問成レ仙遂不レ還、峽裏誰知有二人事一、世中遙望空二雲山一、不レ疑靈境難二聞見一、塵心未レ盡思二鄉縣一、出レ洞無レ論隔二山水一、辭レ家終擬長游衍、自謂經過舊不レ迷、安知峯壑今來變、當時只記入レ山深、青溪幾度到二雲林一、春來遍是桃花水、不レ辨仙源何處尋。

【春雷】747（シユン ライ） ❶春の雷。〔漢書、敍傳下〕上天下澤、春雷奮作。〔樊珣、春雷賦〕當二渙汗之初發一、聽二春雷之肇起一。〔錢蘀石、出二東林一六七里望二廬山一詩〕連峰出レ雲雲半開、奔渠捲レ雪響二春雷一。❷古琴の名。〔輟耕錄、古琴名〕冰清、春雷。

【春瀨】748（シユン ライ） 春のはやせ。〔杜牧、送二盧秀才一詩〕春瀨與レ煙遠、送レ君孤棹開。

【春老】749（シユン ラウ） 春が中ば過ぎて終りに近い頃。晚春。〔岑參、喜二韓樽相過一詩〕三月灞陵春已老、故人相逢耐二醉倒一。〔歐陽脩、仙意詩〕滄海風高愁燕遠、扶桑春老記二蠶眠一。

【春浪】750（シユン ラウ） 春のなみ。春波。〔盧綸、奉三陪渾侍中上巳日泛二渭河一詩〕晚鶯和二玉笛一、春浪動二金罍一。〔白居易、渡レ淮詩〕春浪棹聲急、夕陽帆影殘。

【春醪】751（シユン ラウ） ❶春に作つたにごり酒。〔陶潛、停雲詩〕靜寄二東軒一、春醪獨撫。❷酒の名。能く人を醉はしめるといふ。白墮（**8－22678**‥741）を見よ。〔洛陽伽藍記、四、城西〕河東人劉白墮、善能二釀酒一、云云、遊俠語曰、不レ畏二張弓拔刀一、唯畏二白墮春醪一。

【春卵】752（シユン ラン） 春に產んだたまご。〔盧思道、爲レ隋檄レ陳文〕運二岱山一而壓二春卵一、引二渤海一而濯二秋螢一。〔張衡、南都賦〕春卵夏筍、秋韭冬菁。

【春嵐】753（シユン ラン） 春のもや。春の山氣。〔韋應物、西郊遊宴云云詩〕西郊鬱已茂、春嵐重如レ積。〔宣和畫譜、山水二、許道寧〕春嵐曉靄圖一。

【春亂】754（シユン ラン） 廣東の風俗で、立春の日に婚嫁を畢ることが多い。これを春亂といふ。〔廣東志書、臨高縣〕立春日多畢二婚嫁一、謂二之春亂一。

【春闌】755（シユン ラン） 春のたけなはなこと。〔李白、涇谿東亭寄二鄭少府諤一詩〕杜鵑花開春已闌、歸向二陵陽一釣魚晚。

【春瀾】756（シユン ラン） 春のなみ。春のおほなみ。〔劉禹錫、送三韋秀才道沖赴二制擧一詩〕荊臺宿二暮雨一、漢水浮二春瀾一。

【春蘭】757（シユン ラン） ❶春の蘭。〔新論、殊好〕春蘭秋蕙、衆鼻之所レ芳也。〔宋史、鞠常傳〕常應レ擧時、爲二春蘭賦一、頗存二興託一。❷植物の名。Cymbidium virens 山蘭とも、草蘭ともいふ。蘭科の多年生草本で、高さ八九寸、香は清くして烈しくない。多く浙東に產する。

【春蘭秋菊】758（シユンランシウキク） 春の蘭と秋の菊。祭に供へるもの。〔楚辭、九歌、禮魂〕春蘭兮秋鞠、長無レ絕兮終古。〔注〕言、春祠以レ蘭、秋祠以レ菊。〔石貫、和二主司王起一詩〕絳帳青衿同日貴、青蘭秋菊異時榮。

【春蘭秋菊俱不レ可レ廢】759（シユンランシウキクトモニハイスベカラズ） 物には各〻特色があるから棄て難いこと。唐、雍州の長史陳崇業が、裴子餘・李朝隱・程行諶の三人の優劣の定め難いことを言つた故事。〔舊唐書、裴子餘傳〕子餘累補二鄠縣尉一、時同列李朝隱・程行諶、皆以二文法一著稱、子餘獨以二詞學一知レ名、或問下雍州長史陳崇業、子餘與二朝隱・行諶一優劣上、崇業曰、譬如二春蘭秋菊一、俱不レ可レ廢也。

【春巒】760（シユン ラン） 春のみね。春の峯巒。〔謝朓、杜若賦〕緣二春巒一以織レ布、蔭二涼潭一而影清。

【春李】761（シユン リ） 春のすもも。春に實の熟するすもも。〔鄴中記〕華林園有二春李一、冬華春熟。

【春柳】762（シユン リウ） 春のやなぎ。〔庾信、奉二和法筵一應レ詔詩〕新禽解二雜囀一、春柳臥二生根一。〔元稹、所レ思詩〕庾亮樓中初見時、武昌春柳似二腰肢一。〔李賀、贈二陳商一詩〕逢レ霜作二樸樕一、得レ氣爲二春柳一。〔李賀、花遊曲〕春柳南陌態、冷花寒露姿。〔伍輯之、柳花賦〕步二江皐一兮騁望、感二春柳之依依一。

【春柳草堂】763（シユンリウサウダウ） 清、陳澤泰（**11－41698**‥1120）の室名。

【春流】764（シユン リウ） ❶春の流れ。〔徐陵、報二尹義尚一書〕白溝浼浼、春流已清。〔李白、送二友人入レ蜀詩〕芳樹籠二秦棧一、春流遶二蜀城一。〔岑參、送二懷州吳別駕一詩〕春流飮二去馬一、暮雨濕二行裝一。❷清水春流（**7－17695**‥469）を見よ。

【春溜】765（シユン リウ） 春のながれ。春の水。〔陰鏗、渡二青湖一詩〕洞庭春溜滿、平湖錦帆張。〔弓嗣初、晦日重宴二高氏林亭一詩〕年華靄二芳隰一、春溜滿二新池一。〔白居易、溪中早春詩〕西澗冰已銷、春溜含二新碧一。〔秦觀、西池宴集詩〕春溜決決初滿レ池、晨光欲レ轉萬年枝。

【春立】766（ハツタウシ） 北海道日高國の地名。

【春律】767（シユン リツ） 春の氣候。春の時節。〔庾信、奉二和趙王西京路春旦一詩〕宜年動二春律一、御宿斂二寒氛一。〔隋煬帝、遣レ使入二天台參一書〕春律已謝、夏坐方結、敢違二經教一、涉レ暑出迎。〔張昱、送二天使僧一詩〕空谷行二春律一、餘生共二聖時一。

【春栗】768（シユン リツ） 春のくり。〔易林、否之第十二、漸〕春栗夏梨。

【春慮】769（シユン リヨ） 春のおもんぱかり。又、春のうれひ。〔無名氏、無三夫修二隄堰一判〕若不二冬成一、必貽二春慮一。〔張均、江上逢レ春詩〕離憂耿未レ和、春慮忽蹉跎。

【春陵】770（シユン リヨウ） ❶楚の春申君と魏の信陵君。〔班固、西都賦〕節慕二原嘗一、名亞二春陵一。〔注〕濟曰、原、平原君、嘗、孟嘗君、春、春申君、陵、信陵君。❷明、晁瑮（**5－13889**‥10）の號。

【春綾】771（シユン リヨウ） 春のあやぎぬ。〔宋史、職官志十一、奉祿副使五十千、注〕春綾三匹、冬綾五匹、春冬絹各十五匹、自二三師一以下、春各加二羅一匹一、冬綿五十兩。

【春力】772（シユン リヨク） 春のちから。春の勢ひ。〔司空圖、

柳詩〕漫說早梅先得㆑意、不㆑知春力暗分張。〔司空圖、南至詩〕却恨早梅添㆓旅思㆒、強偸㆓春力㆒報㆓年華㆒。〔可止、山居詩〕雪消春力展、花漫洞門垂。〔貫休、壽春節進㆓大蜀皇帝㆒詩〕春力遍時皆甲拆、王言聞者盡㆓光輝㆒。

【春綠】773（シュンリョク） 春のみどり。河水草木などが春に綠色を呈するのをいふ。〔李華、春遊吟〕美人摘㆓新英㆒、步步翫㆓春綠㆒。〔溫庭筠、會昌丙寅豐歲歌〕九重天子調㆓天下㆒、春綠將年到㆓西野㆒。〔歐陽脩、寄㆓大名程資政琳㆒詩〕冰開御水春應㆑綠、雲破淮天月自明。〔蘇軾、葉教授和㆓潯字韻詩㆒復次韻爲㆔戲記㆓龍井之遊㆒詩〕華堂鬧㆓絲管㆒、晬子漲㆓春綠㆒。

【春醁】774（シュンリョク） 春のよい酒。春のうま酒。〔溫庭筠、夜宴謠〕裂管縈弦共繁曲、芳樽細浪傾㆓春醁㆒。

【春林】775（シュンリン） ㊀春の林。〔劉琨、答㆓盧諶㆒詩〕茂㆓彼春林㆒、瘁㆓此秋棘㆒。〔陸機、吳趨行〕邦彥應㆑運興、粲若㆓春林葩㆒。㊁清、費椿(10－36717‥61)の號。

【春廩】776（シュンリン） 春の米ぐら。〔宋史、夏國傳下〕夏人李訛哆、以㆑書遺㆓其國統軍梁哆唛㆒曰、我居㆑漢二十年、每見春廩既虛、秋庾未㆑積、糧草轉輸、例給㆓空劵㆒、方㆑春未㆑秋、士有㆓饑色㆒、若捲㆑甲而趨、徑擣㆓定遠㆒、唾㆑手可㆑取。

【春霖】777（シュンリン） 春のながあめ。〔薛能、雨後早發㆓永寧㆒詩〕春霖朝罷客西東、雨足泥聲路未㆑通。〔貫休、春晚閑居云云詩〕春霖閉㆑門久、春色聚㆓庭木㆒。〔韓琦、春霖詩〕咫尺東郊路、春霖絕未㆑通。

【春淚】778（シュンルイ） 春のなみだ。〔孟郊・韓愈、有所思聯句〕年光坐婉娩、春淚銷㆓顏容㆒。

【春令】779（シュンレイ） 春の時に行ふべき政令。〔禮、月令〕孟夏云云、行㆓春令㆒、則蝗蟲爲㆑災、暴風來格、秀草不㆑實。〔史記、三皇紀〕木德王、注㆓春令㆒。〔管子、輕重己〕路有㆓行乞者㆒、則相之罪也、天子之春令也。〔淮南子、時則訓〕朝㆓於青陽左个㆒、以出㆓春令㆒。

【春冷】780（シュンレイ） 春のひややかさ。春寒。〔王建、原上新居詩〕家貧僮僕瘦、春冷菜蔬焦。〔薛能、春居卽事詩〕雨新臨㆓斷火㆒、春冷著㆓單衣㆒。〔鄭谷、早入㆓諫院㆒詩〕玉階春冷未㆑催㆑班、暫拂㆓塵衣㆒就㆑笏眠。

【春嶺】781（シュンレイ） 春のみね。春の山。〔杜牧、寄㆓澧州張舍人笛㆒詩〕髮勻肉好生㆓春嶺㆒、截玉鑽星送㆓使君㆒。〔雍陶、洛源驛戲題詩〕柳陰春嶺鳥新啼、暖色濃煙深處迷。〔廖凝、贈㆓史虛白㆒詩〕飯㆑僧春嶺蕨、醒㆑酒雪潭魚。

【春麗】782（シュンレイ） 花などが春にうるはしいさま。〔王僧孺、懺悔禮㆑佛文〕苐內少長、並膺㆓此多福㆒、若㆓百華之春麗㆒、譬㆓萬寶之秋成㆒、信解㆓堅深㆒、翹向㆑無㆑怠。

【春醴】783（シュンレイ） 春のあまざけ。春のうま酒。〔張衡、東京賦〕春醴惟醇、燔炙芬芬。〔潘尼、東武館賦〕春醴九醞、嘉豆百籩。

【春料】784（シュンレウ） 河の決潰にそなへるための材料。〔宋史、河渠志一〕舊制、歲虞㆓河決㆒、有司常以㆓孟秋㆒預調㆓塞治之物、梢芟・薪柴・楗橛・竹石・茭索・竹索、凡千餘萬㆒、謂㆓之春料㆒。

【春獵】785（シュンレフ） 春のかり。〔爾雅、釋天〕春獵爲㆑蒐、夏獵爲㆑苗、秋獵爲㆑獮、冬獵爲㆑狩。〔白居易、雜興三首詩〕雲夢春仍獵、章華夜不㆑歸。

【春斂】786（シュンレン） 春にをさめる。春にとりいれる。〔益部方物記〕佛豆豐粒茂苗豆別一類、秋種春斂、農不㆓常蒔㆒。

【春聯】787（シュンレン） 對聯の一種。除夜に硃箋又は紅紙に吉語を一句づつ書いて門上の左右に貼るもの。一名、門聯。桃符。〔燕子箋、入闈〕綵仗春聯白鼻騧、晴風御路踏㆓平沙㆒。〔簪雲樓雜說〕春聯之設、自㆓明太祖㆒始、帝都㆓金陵㆒、除夕忽傳㆑旨、公卿士庶家、門上須㆑加㆓春聯一幅㆒。〔燕京歲時記、春聯〕春聯者、卽桃符也、自㆑入㆑臘以後、卽有㆘文人墨客、在㆓市肆簷下㆒、書㆓寫春聯㆒以圖㆖潤㆑筆、祭㆑皀之後、則漸次粘㆓挂千門萬戶㆒、煥然一新、或用㆓硃箋㆒、或用㆓紅紙㆒、惟內廷及宗室王公等、例用㆓白紙㆒、緣以㆓紅邊藍邊㆒、非㆓宗室㆒者、不㆑得㆓擅用㆒。

【春路】788（シュンロ） 春のみち。〔張衡、東京賦〕飛㆓雲龍於春路㆒、屯㆓神虎於秋方㆒。〔荀雍、臨川亭詩〕目極依㆓春路㆒、披㆑褐懷㆓良辰㆒。〔孫逖、春日留別詩〕春路逶迤花柳前、孤舟晚泊就㆓人煙㆒。

【春輅】789（シュンロ） 天子の車。鸞輅。鸞の色の青いことから春輅といふ。〔後漢書、輿服志上、耕車、注〕車必有㆑鸞、而春獨鸞輅者、鸞鳳類而色青、故以名㆓春輅㆒也。

【春盧】790（シュンロ） 清、程同文(8－25081‥268)の號。

【春露】791（シュンロ） 春のつゆ。〔宋書、樂志四〕春露未㆑晞、嚴霜零。

【春露堂】792（シュンロダウ） 元、王惲(7－20823‥49)の室名。

【春露秋霜】793（シュンロシウサウ） ㊀春のつゆと秋のしも。〔鄭審、奉㆑使巡㆘檢兩京種㆓果樹㆒事㆖入㆑秦因詠歌〕春露條應㆑弱、秋霜果定肥。㊁恩澤と威嚴。〔北史、袁翻傳〕自㆘皇上以㆓叡明㆒纂㆖御、風清化遠、威厲㆓秋霜㆒、惠霑㆓春露㆒。〔文心雕龍、詔策〕眚災肆赦、則文有㆓春露之滋㆒、明㆑罰敕㆑法、則辭有㆓秋霜之烈㆒。㊂春秋の祭典は、凡て時に感じて爲すをいふ。〔禮、祭義〕春禘秋嘗、霜露既降、君子履㆑之、必有㆓悽愴之心㆒、非㆓其寒之謂㆒也、春、雨露既濡、君子履㆑之、必有㆓怵惕之心㆒、如㆑將㆑見㆑之。〔注〕皆爲㆓感㆑時念㆑親也。〔徐陵、陳公九錫文〕春露秋霜、允恭粢盛。

【春漏】794（シュンロウ） 春の漏刻。春の時計。春の時刻。〔韋應物、聽鶯曲〕還棲㆓碧樹㆒鎖㆓千門㆒、春漏方殘一聲曉。〔周賀、潯陽與㆓孫郎中㆒宴迴詩〕別酒已酣春漏前、他人扶上北歸船。〔鄭谷、送㆔水部張郎中彥回宰㆓洛陽㆒詩〕春漏懷㆓丹闕㆒、涼船泛㆓碧伊㆒。〔吳融、上陽宮辭〕景陽春漏無㆓人報㆒、太液秋波有㆓雁來㆒。

【春樓】795（シュンロウ） 春のたかどの。春の樓閣。〔鄭愔、奉㆔和春日幸㆓望春宮㆒詩〕晨蹕凌㆑高轉㆓翠旌㆒、春樓望㆑遠背㆓朱城㆒。〔李益、江南曲〕春樓不㆑閉葳蕤鎖、綠水回連宛轉橋。〔唐彥謙、春雨詩〕綺陌夜來雨、春樓寒望迷。

【春麓】796（シュンロク） 字號。㊀清、吳賡枚(2－3365‥478)の號。㊁清、李翩(6－14459‥142)の字。

【春麓山莊】797（シュンロクサンサウ） 清、陸琛(11－41708‥199)の室名。

【春和】798（シュンワ） ㊀春のなごやかなこと。〔漢書、文帝紀〕方㆓春和時㆒、草木羣生之物、皆有㆓以自樂㆒。㊁清、傅恆(1－939‥51)の號。

【春和堂】799（シュンワダウ） 清、允禮(1－1338‥109)の室名。

【春和景明】800（シュンワケイメイ） 春がなごやかで風景の明るいこと。〔范仲淹、岳陽樓記〕至㆑若㆓春和景明、波瀾不㆑驚、上下天光、一碧萬頃、沙鷗翔集、云云、靜影沈㆑璧、漁歌互答㆒、此樂何極。

【春和主人】801（シュンワシュジン） 清、允禮(1－1338‥109)の號。

【春灣】802（シュンワン） 春のいりえ。春のいりうみ。〔姜皎、龍池樂章〕日日芙蓉在㆓夏水㆒、年年楊柳變㆓春灣㆒。

【愛㆑春】803（ハルヲアイス） 春の景色風物を好むこと。〔韋莊、晚春詩〕萬物不㆑如㆑酒、四時唯愛㆑春。

【懷㆑春】804（ハルヲオモフ、ハルニオモフ） 女子が婚姻を懷ふこと。古、仲春に男女を會し、婚姻を定めさせたからいふ。〔詩、周南、野有死麕〕有㆑女懷㆑春、吉士誘㆑之。〔集傳〕懷㆑春、當㆑春而有㆑懷也。〔陸機、演連珠〕幽居之女、非㆑無㆓懷㆑春之情㆒。〔注〕翰曰、貞女豈不㆑知㆔懷㆑春而好㆓偶影㆒。

【迎㆑春】805（ハルヲムカフ） 春の來るのを迎へる。〔禮、月令〕某日立春、盛德在㆑木、天子乃齋、立春之日、天子親率㆓王公九卿諸大夫㆒、以迎㆓春于東郊㆒。

【尋㆑春】806（ハルヲタヅヌ） 春の氣色を探り求める。〔孟浩然、重酬㆓李少府見㆑贈詩〕五行將㆑禁㆑火、十步枉尋㆑春。〔戴益、探㆑春詩〕盡日尋㆑春不㆑見㆑春、芒鞵踏遍隴頭雲、歸來適過㆓梅花下㆒、春在㆓枝頭㆒已十分。

【餞㆑春】807（ハルヲセンス） 春を送る。〔松本奎堂、餞㆑春詩〕欲㆑迹㆓春歸處㆒、問㆑春春不㆑語、流水與㆓落花㆒、悠然背㆑人去。

【送㆑春】808（ハルヲオクル） 春の去るのを送る。〔白居易、酬㆓皇甫賓客㆒詩〕竹院君閑銷㆓永日㆒、花亭我醉送㆓殘春㆒。

【送㆑春唯有㆑酒】809（ハルヲオクルニタダサケアリ） 閑地にあつて酒を友として春日を過すをいふ。〔白居易、官舍閑題詩〕職散優閑地、身慵老大時、送㆑春唯有㆑酒、銷㆑日不㆑過㆑棊、祿米麞牙稻、園蔬鴨腳葵、飽餐仍晏起、餘暇弄㆓龜兒㆒。

【探㆑春】810（ハルヲサグル） 春の景色を探り尋ねる。〔開元天寶遺事、探春〕都人士女、每㆑至㆓正月之半后㆒、各乘㆑車跨㆑馬、郊野中、爲㆓探春之宴㆒。〔戴益、探㆑春詩〕盡日尋㆑春不㆑見㆑春、芒鞵踏遍隴頭雲、歸來適過㆓梅花下㆒、春在㆓枝頭㆒已十分。〔蘇軾、游㆓桓山㆒詩〕東郊欲㆑探㆑春、未㆑見鶯花迹。

【得㆑春】811（ハルヲウ） 春を得る。春の溫和な氣分を得

る。〔蘇軾、次二韻楊褒早春一詩〕窮巷淒涼苦未レ和、君家庭院得レ春多。〔戴復古、春日二首呈二黃子邁大卿一詩〕杏花時節偏饒レ雨、楊柳門墻易レ得レ春。

【春詠亭】812 シユンエイテイ 元、宋沂(**3**—**7078**・・51)の室名。

【春哥兒】813 シユンカジ 鵂鶹の異名。みみづく。蜀人の語。車載板。〔本草、鴟鵂〕集解、時珍曰、鵂鶹、江東呼爲二車載板一、楚人呼爲二快扛鳥一、蜀人呼爲二春哥兒一。

【春覺軒】814 シユンカクケン 清、莊宇逵(**9**—**31035**・・152)の室名。

【春岩子】814′ シユンガンシ 明、吳正倫(**2**—**3365**・・702)の號。

【春慶燒】815 シユンケイヤキ 陶器の一種。尾張國瀨戶村の陶工、加藤藤四郎入道春慶が燒き創めたもの。黃色の藥をかけて燒いたもの。〔和漢三才圖會、庖廚具、碾茶壺〕春慶。

【春慶塗】816 シユンケイヌリ 漆塗の一法。和泉國堺の漆工、春慶の發明にかかる塗方で、木地の見えるやうに塗るもの。〔日光山志、七〕春慶塗、指物細工・曲物類・挽物・栗山杓子並曲桶。

【春捲兒】817 ch'uen¹ chüan³ êrh 薄い饂飩粉の皮に、肉野菜などを包んで蒸した食物。

【春告鳥】818 ハルツゲドリ 鶯の別名。はるしらせどり。古今集、一、春、上の大江千里の、「鶯の谷より出づる聲なくば、春來ることを誰か知らまし。」の歌に本づいていふ。

【春在堂】819 シユンザイダウ 清、兪樾の書齋の名。兪樾は曾て花落春仍在の句を作り、曾國藩に激賞せられた。よつて廳事に名づけて春在堂といふ。江蘇省、吳縣城內。〔繆荃孫、清誥授奉直大夫誥封資政大夫重宴鹿鳴翰林院編修兪先生行狀〕道光丁酉科副榜貢生、甲辰恩科擧人、庚戌擧二禮部試一、覆試一等第一名、殿試二甲、賜二進士出身一、改二翰林院庶吉士一、覆試詩題爲二澹煙疏雨落花天一、首句云、花落春仍在、爲二曾文正公所一レ賞、謂詠二落花一而無二衰颯意一、與二小宋落花詩一意相類、言二於同閱卷諸公一置二第一一、此先生爲下知二文正公一之始上、後遂以二春在堂一名二其全書一、志二知遇一也。

【春在堂全集】820 シユンザイダウゼンシフ 書名。二百七十六卷。清、兪樾撰。此の書は自著數十種を集めて刻したもので、就中、群經平議・諸子平議各三十五卷には最も力を用ひた。古書疑義擧例七卷は、古書を讀むものに極めて鴻益がある。其の目は、羣經平議三十五卷・諸子平議三十五卷・易貫五卷・玩易篇一卷・論語小言一卷・春秋名字解詁補義一卷・古書疑義擧例七卷・讀書餘錄二卷・兒笘錄四卷・詁經精舍自課文二卷・湖樓筆談七卷・艮宧易說二卷・達齋書說一卷・達齋詩說一卷・達齋春秋論一卷・達齋叢說一卷・荀子詩說一卷・何劭公論語義一卷・士昏禮對席圖一卷・樂記異文考一卷・生霸死霸考一卷・春秋歲星考一卷・卦氣直日考一卷・七十二候考一卷・左傳古本分年考一卷・春秋人地名對一卷・邵易補原一卷・讀韓詩外傳一卷・讀吳越春秋一卷・讀越絕書一卷・讀鶡冠子一卷・讀鹽鐵論一卷・讀潛夫論一卷・讀論衡一卷・讀中論一卷・讀抱朴子一卷・讀文中子一卷・改吳一卷・說貢一卷・正毛一卷・評袁一卷・通李一卷・議郎一卷・訂胡一卷・日知錄小箋一卷・茶子一卷・小繁露一卷・韻雅一卷・小浮梅閒話一卷・續五九枝譚一卷・閩行日記一卷・吳中唱和詩一卷・梵珠一卷・百空曲一卷・十二月花神議一卷・銀瓶徵一卷・吳絳雪年譜一卷・五行占一卷・八卦葉子格一卷・隱書一卷・老圓一卷・易窮通變化論一卷・周易互體徵一卷・八卦方位說一卷・卦氣續考一卷・詩名物證古一卷・禮記鄭讀考一卷・禮記異文箋一卷・鄭康成駁正三禮考一卷・九族考一卷・玉佩考一卷・喪服私論一卷・左傳連珠一卷・論語鄭義一卷・續論語駢枝一卷・論語古注擇從一卷・孟子古注擇從一卷・孟子高氏學一卷・孟子纘義一卷・四書辨疑辨一卷・讀公孫龍子一卷・讀山海經一卷・讀楚辭一卷・羣經賸義一卷・讀文子一卷・讀漢碑一卷・讀昌黎先生集一卷・讀王觀國學林一卷・讀王氏稗疏一卷・莊子人名考一卷・楚辭人名考一卷・駢頴一卷・讀頴輯詞一卷・廣雅釋詁疏證拾遺一卷・著書餘料一卷・佚文一卷・佚詩一卷・銘篇一卷・玉堂舊課一卷・廣楊圓近鑑一卷・壺東漫錄一卷・百哀篇一卷・詠物詩二十一首一卷・五五一卷・枕上三字訣一卷・廢醫論一卷・九宮衍數一卷・金剛經訂義一卷・一笑一卷・說兪一卷・兪樓經始一卷・賓萌集五卷・附外集四卷・春在堂雜文二卷・附續五卷・三篇四卷・春在堂詩論九卷・春在堂詞錄三卷・春在堂隨筆八卷・春在堂尺牘五卷・楹聯錄存三卷・四書文一卷・太上感應篇纘義二卷・袖中書二卷・游藝錄六卷・右台仙館筆記十六卷。

【春相場】821 ハルサウバ 春の花見頃、人氣が他に散じて、沈滯し勝ちになる相場。

【春紫菀】822 ハルジヲン 草の名。菊科の宿根草。葉は黃綠色で柄無く、花は四・五月頃、白色又は淡紅色に開く。觀賞用。

【春女思】823 シユンジヨノオモヒ 春には婦人は物思ひの多いものである。〔淮南子、繆稱訓〕春女思、秋士悲。

【春申江】824 シユンシンカウ 春申浦のこと。今の黃浦江をいふ。上海を申江といふのは之に本づく。〔讀史方輿紀要、江南、松江府、華亭縣〕黃浦、府東南十八里、一名春申浦、蓋以二春申君一得レ名。

【春申澗】825 シユンシンカン 川の名。楚の春申君黃歇が其の馬に飲ませた處。一名、黃公澗。江蘇省無錫縣の慧山。

【春申君】826 シユンシンクン 戰國楚の相、黃歇の封號。楚に相たること二十餘年、食客三千餘人と傳へられる。後、李園に殺さる。黃歇(**12**—**47926**・・335)を見よ。〔史記、春申君傳〕考烈王元年、以二黃歇一爲レ相、封爲二春申君一、賜二淮北地十二縣一。〔唐書、李德裕傳〕周之衰、列國公子有二信陵平原孟嘗春申一、游談者以二四豪一爲二稱首一、亦各有二客三千一、務以二譎詭勢利一相高。〔張祜、感二春申君一詩〕春申還道三千客、寂寞無三人殺二李園一。〔杜牧、春申君詩〕烈士思レ酬二國士恩一、春申誰與快二寃魂一。

【春惜月】827 ハルヲシミヅキ 陰曆三月の異名。〔藏玉和歌集〕數ならぬ身とは思はず日を重ね暮れゆく頃のはるをしみづき。

【春待月】828 ハルマチヅキ 陰曆十二月の異名。〔倭訓栞〕はるまちづき、春待月の義、十二月を云へり。

【春端帖】829 シユンタンテフ 春帖子(596)に同じ。〔玉堂雜記〕翰苑歲進二春端帖子一、如二大內一、多及二時事一。〔楊萬里、端午獨酌詩〕一生幸免春端帖、可レ遣三漁歌譜二大章一。

【春丕峽】830 シユンヒケフ 峽の名。又、春碑に作る。西藏札什倫布の南。雪山の峽。

【春不老】831 シユンフラウ 野菜の名。河北省保定の名產で蕪に似たもの。〔譚吉璁、鴛湖櫂歌〕甕菜但攜二春不老一、匏尊莫レ問二夜何其一。

【春龍節】832 ch'uen¹ lung² chieh² 二月朔日に竈灰で龍蛇の狀を作ること。山東の行事。

【春龍堂】833 シユンリヨウダウ 清、王昶(**7**—**20823**・・791)の室名。

【春王囿】834 シユンワウイウ 園囿の名。晉代、洛陽宮に在つたといふ。〔陸機、荅二張士然一詩〕逍二遙春王囿一、躑二躅千畝田一。〔注〕善曰、晉宮閣銘曰、洛陽宮有二春王園一。

【春王月】835 シユンワウゲツ 正月・一月の異名。春王正月(844)を見よ。

【趁レ春人】836 ハルヲオフノヒト 春色を尋ね追ふ人。〔太田蘭香、小梅村矚目詩〕穿破菜花黃世界、一羣紅袖趁レ春人。

【不レ勝レ春】837 ハルニタヘズ 春の情思に堪へない。〔李白、蘇臺覽古詩〕舊苑荒臺楊柳新、菱歌清唱不レ勝レ春。只今惟有二西江月一、曾照吳王宮裏人。

【春搗秋凍】838 ch'uen¹ wu³ ch'iu¹ tung⁴ 春には厚着をし秋には薄着をする。健康法を述べた語。

【春回大地】839 ch'uen¹ huei² ta⁴ ti⁴ 春となる。春が來る。

【春之德風】840 ハルノトクハカゼナリ 春の德は風である。〔呂覽、貴信〕春之德風、風不レ信、其華不レ盛。

【春申珠履】841 シユンシンシユリ 蒙求の標題。趙の平原君が使を遣して楚に誇らうとし、瑇瑁の簪を作り、劍の室は珠玉で飾つた。ところが、楚の春申君は三千人の食客に皆珠の履物をはかせて會見させたので、趙の使は大いに恥ぢて歸つた故事。〔史記、春申君傳〕趙平原君使二人於春申君一、春申君舍二之於上舍一、趙使欲レ夸レ楚、爲二瑇瑁簪一、刀劍室以二珠玉一飾レ之、請二命春申君客一、春申君客三千餘人、其上客皆躡二珠履一以見二趙使一、趙使大慙。

【春衫輕笻】842 シユンシンケイキヨウ 春の單衣に輕い杖。身輕な出でたちのさま。

【春非二我春一】843 ハルモワガハルニアラズ 春も自分の春ではない。時に窮りなく、人命に限りあるをいふ。〔漢書、禮樂志〕日出入安窮、時世不二與レ人同一、故

春非二我春一、夏非二我夏一。

【春王正月】844（ハルワウノシヤウグワツ）　春正月と云ふに同じ。王の字は周の王をさし、周王の正朔を奉じ、王者大一統の義を示したもの。〔春秋、隱、元〕春王正月。〔杜注〕隱公之始年、周王之正月也、凡人君卽レ位、欲二其體レ元以居一レ正、故不レ言二一年一月一也。〔疏〕周以二建子一爲レ正、則周之二月三月、皆是前世之正月也。〔公羊、隱、元〕元年者何、君之始年也、春者何、歲之始也、王者孰謂、謂二文王一也、曷爲先言レ王而後言二正月一、王正月也、何言二乎王正月一、大二一統一也。〔注〕文王、周始受レ命之王。

【春王正月考】845（シユンワウシヤウグワツカウ）　書名。二卷。明、張以甯撰。經典によつて春秋が周の正朔を用ひたものであることを證したもの。〔四庫提要、經、春秋類〕。

【如二春登一レ臺】846（ハルダイニノボルガゴトシ）　春の日に臺に上つて眺望するやうに樂しい。〔老子、二十〕衆人熙熙、如レ享二太牢一、如二春登一レ臺。

【春無二三日晴一】847（ハルニミツカノセイナシ）　春の花時には、雨が多い。〔通俗編、時序、春無二三日晴一〕五燈會元、佛日智才擧二此語一。

【春在二枝頭一已十分】848（ハルハシトウニアツテステニジフブン）　枝頭の梅花によつて春の既に來れるを知ること。〔戴益、探レ春詩〕終日尋レ春不レ見レ春、杖レ藜踏破幾重雲、歸來試把二梅梢一看、春在二枝頭一已十分。

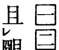
【春到二人閒一草木知】849（ハルジンカンニイタレバサウモククシル）　春が來ると草木も春めく。〔蘇軾、立春詩〕律回歲晚冰霜少、春到二人閒一草木知、便覺眼前生意滿、東風吹レ水綠差差。

【春之暮月之三朝】850（ハルノボゲツツキノサンテウ）　三月三日をいふ。〔倭漢朗詠集、三月三日、菅原道眞、花時天似レ醉序〕春之暮月之三朝、天醉二于花一、桃李盛也、我后一日之澤、萬機之餘、曲水雖レ遙、遺塵雖レ絕、書二巳字一而知二地勢一、思二魏文一以翫二風流一、蓋志之所レ之、謹上二小序一。

【留レ春春不レ住春歸人寂寞】851（ハルヲトドメテハルトドマラズハルカヘリテヒトセキバク）　晚春の寂寞を詠じたもの。〔白居易、落花詩〕留レ春春不レ住、春歸人寂寞、厭レ風風不レ定、風起花蕭索、既興二風前歎一、重命二花下酌一、勸レ君嘗二綠醅一、教三人拾二紅萼一、桃飄火焰焰、梨墮雪漠漠、獨有二病眼花一、春風吹不レ落。

【昦】13845　カウ　昊(5－13799)の本字。〔正字通〕昦、昊本字。

【昧】13846　㈠バイ マイ　〔集韻〕莫佩切　ㄇㄟˋ　mei^{4}　隊　㈡バイ マイ　〔集韻〕莫貝切　ㄇㄧˋ　mi^{4}　泰


小篆

㈠㈡❶よあけ。〔說文〕昧、昧爽、且レ明也、从レ日未聲。〔詩、鄭風、女曰雞鳴〕士曰昧旦。〔集傳〕昧旦、天欲レ旦。❷くらい。㋑あかるくない。〔說文〕昧、一曰、闇也。〔書、堯典〕曰二昧谷一。〔傳〕昧、冥也。〔素問、至眞要大論〕平野昧。〔傳〕昧、謂レ闇也。㋺おろか。まよふ。〔左氏、宣、十二〕兼レ弱攻レ昧。〔注〕昧、昏也。〔太玄經、聚〕狂作レ昧。〔注〕昧、迷也。㋩公道に明かでない。〔荀子、大略〕蔽レ公者、謂二之昧一。〔注〕掩二蔽公道一、謂二之暗昧一。❸をかす。むさぼる。冒(2－1538)に通ず。〔說文通訓定聲〕昧、叚借爲レ冒。〔左氏、襄、二十六〕楚王是故昧二於一來一。〔注〕昧、猶二貪冒一。〔左思、吳都賦〕相與昧二潛險一。〔注〕劉曰、昧、冒也。❹さく。務(2－2152)に通ず。〔說文通訓定聲〕昧、叚借爲レ務。〔公羊、襄、二十七〕昧レ雉彼視。〔注〕昧、割也。❺星の名。北斗の端の星。〔易、豐、日中見レ沫、釋文〕沫、字林作レ昧、云云、薛云、輔星也、斗杓後星。❻樂曲の名。夷の樂。〔禮、明堂位〕昧、東夷之樂也。〔公羊、昭、二十六、以舞二大夏一、注〕北夷之樂曰レ昧。〔白虎通、禮樂〕北夷之樂曰レ昧、云云、昧者、萬物衰老、取二晦昧之義一也。❼古は旪(5－13919)に作る。〔集韻〕昧、古作レ旪。

參考　昩(5－13848)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕昧、音妹、冥也。昩、音末、星也。

【昧菴】1（マイアン）　淸、鄒之麐(11－39562‥92)の號。

【昧幽】2（マイイウ）　くらい。〔漢書、外戚下、班倢伃傳〕白日忽已移レ光兮、遂晻莫而昧幽。

【昧焉】3（マイエン）　くらいさま。昧昧。〔新序、雜事四〕是以使三君王昧焉辱二到弊邑一。

【昧行】4（マイカウ）　くらいところを行く。轉じて、愚かな行ひをいふ。〔說苑、建本〕炳燭之明、孰二與昧行一乎。

【昧頑】5（マイグワン）　理にくらくて頑固。頑昧(12－433「74‥94)に同じ。

【昧谷】6（マイコク）　日の入る處。日が谷に入れば天下が冥いからいふ。〔書、堯典〕分命二和仲一宅レ西、曰二昧谷一。〔傳〕昧、冥也、日入二於谷一而天下冥、故曰二昧谷一。〔疏〕西方日所レ入處、名曰二昧冥之谷一、谷者日所レ行之道、日入二於谷一而天下皆冥、故謂二日入之處一爲二昧谷一、非三實有レ谷而日入一也。

【昧爽】7（マイサウ）　夜明け方。朝まだき。昧は晦、爽は明。〔書、太甲上〕先王昧爽丕顯、坐以待レ旦。〔蔡傳〕昧、晦、爽、明也、昧爽云者、欲レ明未レ明之時也。〔書、牧誓〕時甲子昧爽、王朝至二于商郊牧野一、乃誓。〔傳〕昧、冥、爽、明、早旦。〔釋文〕昧爽、謂二早旦一也。〔疏〕釋言云、晦、冥也、昧亦晦義、故爲レ冥也、冥是夜、爽是明、夜而未レ明、謂二早旦之時一、蓋雞鳴後也。〔禮、內則〕昧爽而朝、問二何食飲一矣。〔列子、湯問〕將レ旦昧爽之交、日夕昏明之際。〔史記、封禪書〕朔旦冬至昧爽。

【昧死】8（マイシ）　矇昧で死罪を犯すこと。先秦時代以來、上奏文に用ひて敬畏を表はす套語。〔戰國、秦策〕臣昧死望レ見二大王一、言下所三以云云朝二四鄰諸侯一之道上。〔韓非子、初見秦〕臣昧死、願望二見大王一。〔史記、三王世家〕臣去病昧死再拜、以聞二皇帝陛下一。〔史記、秦始皇紀〕臣等昧死、上二尊號一。〔史記、淮南厲王長傳〕備盜賊中尉臣福、昧死言。〔漢書、高帝紀下〕昧死再拜言二大王陛下一。〔漢書、鼂錯傳〕臣錯愚陋、昧死上二狂言一、唯陛下財擇。〔獨斷〕漢承二秦法一、羣臣上書皆言二昧死言一、王莽慕レ古、去二昧死一曰二稽首一。

【昧死以聞】9（マイシイブン）　昧死して申し上げる。〔戰國、趙策〕竊愛二憐之一、願令レ得下補二黑衣之數一、以衞中王宮上、昧死以聞。〔新書、數寧〕不三敢顧二レ身、敢不二昧死以聞一。

【昧視】10（マイシ）　暗中に視察する。〔易林、蠱之第十八、豫〕昧視無レ光、夜不レ見レ明。

【昧者】11　mei^{4} chê^{3}　暗愚の人。おろか者。

【昧心】12　mei^{4} hsin^{1}　後暗い。良心がくらむ。

【昧心錢】13　mei^{4} hsin^{1} ch'ien^{2}　不正の金。

【昧進】14（マイシン）　榮進をむさぼる。〔庾亮、讓二中書令一表〕偸レ榮昧レ進、日爾二一日一。

【昧然】15（マイゼン）　くらいさま。〔莊子、天道〕其自爲也、昧然無二不レ靜者一矣。〔疏〕自爲二晦迹韜一レ光、其猶二昧闇一。〔莊子、田子方〕臧丈人昧然而不レ應。

【昧旦】16（マイタン）　夜明け方。早朝。昧爽。黎明。〔詩、鄭風、女曰雞鳴〕女曰雞鳴、士曰昧旦。〔集傳〕昧、晦、旦、明也、昧旦、天欲レ旦、昧晦未レ辨之際也。〔陳奐、傳疏〕旦、明也、昧明、未二全明一也、昧旦後二於雞鳴時一。〔左思、吳都賦〕昧旦永日。

【昧旦丕顯】17（マイタンヒケン）　毎日早く起きて勉強する。〔左氏、昭、三〕讒鼎之銘曰、昧旦丕顯、後世猶怠。〔注〕昧旦、早起也、丕、大也、言夙興以務大顯、後世猶解怠也。〔潘岳、藉田賦〕今聖上昧旦丕顯、夕惕若慄。

【昧雉】18（マイチ）　雉をさく。盟を爲すこと。〔公羊、襄、二十七〕公子鱄挈二其妻子一而去レ之、將レ濟二于河一、攜二其妻子一、與レ之盟曰、苟有下履二衞地一食二衞粟一者上、昧レ雉彼視。〔注〕昧、割也、時割レ雉以爲レ盟、猶レ曰二視レ彼割一レ雉。

【昧揥】19（マイテイ）　暗に指す。〔說苑、辨物〕物故有下昧揥而中二蛟頭一、掩レ目而別二白黑一者上。

【昧冒】20（マイバウ）　むさぼる。むさぼりもとめる。〔晉書、卞壺傳〕於レ公無レ效如レ彼、私情艱苦如レ此、實無二情顏一、昧冒榮進。

【昧茫】21（マイバウ）　ひろくてあきらかでない。くらい。〔陶宗儀、詩〕或雨而或晴、至レ晚天昧茫。

【昧莫】22（マイバク）　廣大なさま。〔左思、吳都賦〕相與聊二浪乎昧莫之坰一。〔注〕劉曰、昧莫、廣大貌也。

【昧犯】23マイハン むさぼりをかす。〔吳志、華覈傳〕是以僂僂、昧二犯天威一。

【昧鄙】24マイヒ くらくいやしい。〔盧綸、太白西峯云云寄二呈鳳翔齊員外張侍御一詩〕弱齡誠昧鄙、遇レ勝惟求レ止。

【昧瞀】25マイボウ おろか。昧蒙。愚暗。〔權德輿、齊賓客相公進二所レ賜馬一表〕疏愚昧瞀。

【昧沒】26マイボツ 意味が解らない。〔柳宗元、答二韋中立一論二師道一書〕吾每レ爲二文章一、云云、未下嘗敢以二昏氣一出上レ之、懼二其昧沒而雜一也。

【昧昧】27マイマイ ❶よあけ。〔淮南子、俶眞訓〕而知乃始昧昧晽晽。〔注〕昧昧、欲レ明而未也。❷ふかくひそむ。〔書、秦誓〕昧昧我思レ之。〔蔡傳〕昧昧而思者、深潛而靜思也。〔王先謙孔傳參正〕昧昧、深思之意。❸くらい。〔列子、力命〕昏昏昧昧、紛紛若若。〔楚辭、九章、懷沙〕日昧昧其將レ暮。〔注〕昧、冥也。❹てあつい。純厚。〔淮南子、俶眞訓〕其道昧昧芒芒然。〔注〕昧昧、純厚也。〔淮南子、泰族訓〕芒芒昧昧、因二天之威一、與レ元同レ氣。

【昧明】28マイメイ よあけ。〔國語、吳語〕昧明、王乃秉レ枹親就。

【昧冥】29マイメイ くらい。〔易林、謙之第十五、乾〕喋囁處レ耀、昧冥相待。

【昧利】30マイリ 利をむさぼる。〔漢書、匈奴傳贊〕至二單于一、咸棄二其愛子一、昧レ利不レ顧。〔注〕師古曰、昧、貪也。

【昧良】31 mei^{4} liang^{2} 良心を暗ませる。自己の良心を欺く。

【昧其明】32マイニシテソレアキラカナリ 昧者と雖も明かとなる。〔管子、五行〕景鍾昧其明。〔纂詁〕昧其明者、雖二昧者一其將レ明也。

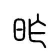
【昧起來】33 mi^{4} chʻi^{3} lai ごまかし始める。不正な事をする。

【昧銀子】34 mi^{4} yin^{2} tzŭ 金錢をごまかす。

【昧履支】35マイリシ 胡椒の別名。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕胡椒出二摩伽陁國一、呼爲二昧履支一、其苗蔓生、極柔弱、葉長寸半、有二細條一與レ葉齊、條上結レ子、兩兩相對。

【昨】13847

サク ザク 〔集韻〕疾各切 藥 ㄗㄨㄛˊ tsuo^{2}


小篆

❶**きのふ**。〔說文〕昨、絫日也、从レ日乍聲。〔廣韻〕昨、昨日、隔二一宵一。〔中原音韻〕昨、隔宵也。〔潘岳、悼亡詩〕念レ此如二昨日一。〔注〕善曰、蒼頡篇曰、昨、隔日也。❷**さき**。さきに。むかし。〔正字通〕昨、往日也。〔王安石、憶レ昨詩〕憶昨此地相逢時、春入二窮谷一多二葑菲一。❸**むくいる**。醋(**11－39911**)・酢(**11－39824**)に通ず。〔說文通訓定聲〕昨、叚借爲レ醋。〔周禮、春官、司尊彝〕諸臣之所レ昨也。〔注〕昨、讀爲レ酢、字之誤也。❹**姓**。〔正字通〕昨、姓。

【昨夏】1サクカ 去年の夏。

【昨軌】2サクキ 昨日車で來た跡。〔陸機、於二承明一作與二士龍一詩〕永安有二昨軌一、承明子弃レ予。〔注〕翰曰、言永安亭有二兄弟二人昨日之迹一。

【昨曉】3サクゲウ 昨日の朝。

【昨今】4サクコン きのふけふ。ちかごろ。近來。近日。

【昨兒】5 tsuo^{2} êrh 昨日をいふ。中國の北方の語。

【昨兒個】6 tsuo^{2} êrh kê 昨兒に同じ。

【昨兒晚上】7 tsuo^{2} êrh wan^{3} shang 昨晚。

【昨失】8サクシツ きのふの失敗。〔顏氏家訓、序致〕夜覺二曉非一、今悔二昨失一。

【昨日】9サクジツ きのふ。〔史記、灌夫傳〕吾昨日醉忽忘下與二仲孺一言上。〔潘岳、悼亡詩〕念レ此如二昨日一、誰知已卒レ歲。〔杜甫、送レ遠詩〕別離已昨日、因見二古人情一。

【昨日少年今白頭】10サクジツノセウネンイマハクトウ 歲月がはやくすぎゆくをいふ。〔許渾、秋思詩〕琪樹西風枕簟秋、楚雲湘水憶二同遊一、高歌一曲掩二明鏡一、昨日少年今白頭。

【昨宵】11サクセウ ゆうべ。昨夜。〔沈約、早行逢二故人一車中爲贈詩〕昨宵何處宿、今晨拂レ露歸。〔韓愈、送二張道士一序〕昨宵夢倚レ門、手取二連環一持。

【昨宵箇】12サクセウコ 昨宵に同じ。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕昨宵箇錦囊佳製明勾引。

【昨夕】13サクセキ きのふの暮。昨夜。〔唐書、李綱傳〕昨夕已許二臣留一。

【昨席】14サクセキ 主階に設ける席。王の坐席。昨は酢、又は阼。〔周禮、春官、司几筵〕祀二先王一昨席亦如レ之。〔注〕鄭司農云、昨席、於二主階一設レ席、王所レ坐也、玄謂、昨讀曰レ酢、謂二祭祀及王受レ酢之席一。〔孫詒讓正義〕段玉裁云、依二司農注一、似二昨本作レ阼、從レ自不レ從レ日也、丁晏云、唐石經原刻作二胙席一、先鄭云、主階、則讀爲レ阼、古胙與レ阼通、案段・丁兩說近レ是、公食大夫記云、不レ授レ几、無二阼席一、彼食禮輕、公不レ坐、故無二阼席一、若饗禮重、則當レ有二阼席一、故先鄭據以爲レ說。

【昨朝】15サクテウ 昨日の朝。〔高適、同二羣公一秋登二琴臺一詩〕靜然顧二遺塵一、千載如二昨朝一。

【昨天】16 tsuo^{2} tʻien きのふ。昨日。

【昨冬】17サクトウ 去年の冬。

【昨年】18サクネン きよねん。こぞ。昨歲。

【昨晚】19サクバン 昨日の晚。昨夜。〔崔顥、晚入二汴水一詩〕昨晚南行レ楚、今朝北泝レ河。〔王維、宿二鄭州一詩〕明當レ渡二京水一、昨晚猶二金谷一。

【昨非】20サクヒ 昔日のわるかつた事。以前の過失。前非。〔陶潛、歸去來辭〕寔迷レ途其未レ遠、覺二今是而昨非一。〔陸游、詩〕已築二茅茨一訟二昨非一。〔自注〕余築二小軒一、以二昨非一名レ之。

【昨非居士】21サクヒコジ 渡邊定靜の號。渡邊崋山(**7－17765‥49**)を見よ。

【昨暮】22サクボ 昨日のくれがた。〔陸游、寄二子坦一詩〕頗憂昨暮雲呑レ日、猶幸今朝雨壓レ風。

【昨暮兒】23サクボジ 年少のものをいふ。隋の何妥が蘇夔を罵つた語。〔資治通鑑、隋紀〕(文帝、開皇十二年)國子博士何妥與二尚書右僕射邳公蘇威一爭二議事一、積不二相能一、威子夔爲二太子通事舍人一、少敏辯有二盛名一、士大夫多附レ之、及レ議レ樂、夔與レ妥各有レ所レ持、詔二百僚一署二其所一レ同、百僚以二威故一、同レ夔者什八九、妥恚曰、吾席間函レ丈、四十餘年、反爲二昨暮兒之所一レ屈邪。

【昨夢】24サクム 昨夜のゆめ。過去のはかない喩。〔李白、書レ情寄二從弟邠州長史昭一詩〕昨夢見二惠連一、朝吟二謝公詩一。〔蘇軾、次二韻林子中王彥祖唱酬一詩〕昨夢已論二三世事、歲寒猶喜五人同。

【昨夢軒】25サクムケン 淸、彭泰來(**4－10003‥184**)の室名。

【昨夢錄】26サクムロク 書名。一卷。宋、康與之撰。北宋の軼聞を述べたもの。康與之は滑臺に生れ、嘗て汴都の盛をみたので昨夢と名づく。〔古今說海、說略部、第十二冊〕。

【昨夜】27サクヤ ゆふべ。昨宵。〔鮑照、還レ都道中作詩〕昨夜宿二南陵一、今旦入二蘆洲一。〔張若虛、春江花月夜〕昨夜閒潭夢二落花一、可レ憐春半不レ還レ家。〔李頎、送二魏萬之一レ京詩〕朝聞遊子唱二離歌一、昨夜微霜初渡レ河。〔朱熹、觀レ書有レ感詩〕昨夜江邊春水生、蒙衝巨艦一毛輕。

【昨和】28サクワ 複姓。〔通志、氏族略、關西複姓〕昨和氏。

【昨葉何草】29サクエフカサウ 草の名。瓦松の異名。つめれんげ。すぎごけ。〔本草、昨葉何草〕釋名、頌曰、瓦松如二松子一作レ層、故名。

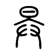
【昩】13848

バツ マチ 〔集韻〕莫葛切 曷

❶**くもる**。ほのぐらい。〔集韻〕昩、日中不レ明也。❷**星の名**。昧(**5－13846**)の譌字。〔廣韻〕昩、星也、易曰、日中見レ昩、案、音義云、字林作レ昧、斗杓後星、王肅音妹。

【昪】13849

ヘン ベン 〔集韻〕皮變切 霰


小篆

❶**たのしむさま**。〔說文〕昪、喜樂皃、从レ日弁聲。❷**あきらか**。かがやく。日の光のさま。〔廣韻〕昪、日光皃。〔玉篇〕昪、明也。❸或は忭(**4－10372**)に作る。〔集韻〕昪、或作レ忭。

【昪】13850

ベン

昪(**5－13849**)に同じ。〔字彙〕昪、與レ昪同。

【𣅝】13851

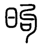
一タン 〔集韻〕儃旱切 旱

二タン ダン 〔集韻〕徒案切 翰

［一］［二］❶**あきらか**。〔集韻〕⿰日旦、明也。❷旦(**5－13734**)の譌字。〔正字通〕⿰日旦、旦字之譌。❸或は暺(**5－14151**)に作る。〔集韻〕⿰日旦、或从㆑單。

【昫】13852

［一］ク　〔集韻〕匈于切　虞
［二］ク　〔集韻〕吁句切　ㄒㄩˇ hsü³　遇
［三］ク　〔集韻〕火羽切　麌
［四］ク キョウ　〔集韻〕詡拱切　腫


小篆

［一］［二］［三］❶**あたたか**。日のぬくみ。〔說文〕昫、日出昷也、从㆑日句聲、北地有㆓昫衍縣㆒。〔段注〕昫、與㆓火部煦㆒義略同。〔正字通〕昫、溫也。❷煦(**7－19225**)に通ず。〔正字通〕昫、俗溷㆓用昫・煦㆒。［四］❶［一］の❶に同じ。〔集韻〕昫、日出溫也。❷發昫は、あけ方に打つ太鼓。〔集韻〕昫、司馬法、鼓旦明五通爲㆓發昫㆒。

【昫衍】1 クエン　縣名。漢、置く。甘肅省鹽池縣の境。〔史記、匈奴傳〕梁山涇漆之北、有㆓義渠・大荔・烏氏・昫衍之戎㆒。〔漢書、地理志下〕北地郡、縣十九、昫衍。〔括地志〕今鹽州、古昫衍戎也。

【昬】13853

コン　昏(**5－13806**)に同じ。唐の太宗の諱を避けて昬に作るといふ。〔正字通〕昬、同㆑昏、云云、戴侗曰、昬、唐本說文从㆓民省㆒、徐本从㆓氏省㆒、按、晁說之云、因㆓唐諱㆑民改从㆑氏、據㆓晁說㆒則戴言㆔唐本从㆓民省㆒、當㆓亦避㆑諱故㆒也、二說雖㆑別、昬非㆓俗譌㆒明矣。

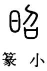
【⿰日氐】13854

テイ タイ　〔玉篇〕都黎切　齊

日。〔玉篇〕⿰日氐、日也。

【昭】13855

［一］セウ　〔集韻〕之遙切　ㄓㄠ chao¹　蕭
［二］セウ　〔集韻〕止少切　篠
［三］セウ　〔集韻〕之笑切　嘯


小篆

［一］❶**あきらか**。㋑かがやく。光る。〔說文〕昭、日明也、从㆑日召聲。〔爾雅、釋詁〕昭、光也。〔楚辭、大招〕白日昭只。〔注〕昭、明也。㋺あらはれる。いちじるしくあらはれる。〔爾雅、釋詁〕昭、見也。〔禮、中庸〕亦孔之昭。〔注〕昭、明也。❷**あきらかに**。〔書、益稷〕以昭受㆓上帝㆒。〔傳〕昭、明也。❸**あきらかにする**。あらはす。〔左氏、昭、十二〕式昭㆓德音㆒。〔注〕昭、明也。〔左氏、定、四〕以昭㆓周公之明德㆒。〔注〕昭、顯也。〔國語、晉語四〕昭㆓舊族㆒。〔注〕昭、明也。〔史記、范睢蔡澤傳〕無㆓以昭㆑姦。〔注〕正義曰、昭、明也。❹**廟の順位の名**。又、宗廟にまつる神位の次序。中央に置かれる太祖の廟に次いで左に置かれる廟を昭と呼ぶ。卽ち昭は太祖の子で、右に置かれる穆の父に當る。佋(**1－501**)に同じ。〔集韻〕昭、或作㆑佋。〔周禮、春官、小宗伯〕辨㆓廟祧之昭穆㆒。〔注〕父爲㆑昭、子爲㆑穆。〔禮、祭統〕昭穆者、所㆘以別㆓父子遠近長幼親疏之序㆒而無㆖亂也。〔國語、魯語上〕明者爲㆑昭、其次爲㆑穆。❺**謚**。〔逸周書、謚法解〕昭㆑德有㆑勞曰㆑昭、容儀恭美曰㆑昭、聖聞周達曰㆑昭。〔獨斷、下〕聲聞宣遠曰㆑昭。❻**樂の名**。韶(**12－43276**)に通ず。〔說文通訓定聲〕昭、叚借爲㆑韶。〔史記、李斯傳〕昭象武象。〔注〕索隱曰、昭、一作㆑韶。❼照(**7－19226**)に通ず。〔老子、二十〕俗人昭昭。〔釋文〕昭、一本作㆑照。❽炤(**7－18939**)に通ず。〔禮、中庸〕昭昭之多。〔釋文〕昭、本亦作㆑炤。❾**姓**。〔通志、氏族略、以㆑族爲㆑氏〕昭氏、楚辭云、昭屈景、楚之三族也、以㆑族爲㆑氏。［二］**あきらか**。德音の形容。〔集韻〕昭、明也。〔詩、魯頌、泮水〕其音昭昭。〔釋文〕昭、之繞反。［三］**てる**。照(**7－19226**)に同じ。〔集韻〕照、說文、明也、或省。

［名乘］アキ。テル。アキラ。イカ。

【昭惡】1 セウアク　惡をあきらかにあらはす。〔漢書、古今人表序〕顯㆑善昭㆑惡、勸㆓戒後人㆒。

【昭闇】2 セウアン　くらきをあきらかにする。又、愚かな心をさとく明かにする。〔傳毅、迪志詩〕誰能昭㆑闇、啓㆓我童昧㆒。

【昭懿】3 セウイ　唐、齊國公主(**12－48560**‥89)の諡。

【昭懿后】4 セウイコウ　後唐、夏后(**3－5720**‥90)の諡。

【昭逸】5 セウイツ　唐、王摶(**7－20823**‥768)の字。

【昭隱】6 セウイン　唐、王韶應(**7－20823**‥1802)の一名。

【昭燿】7 セウエウ　明かにかがやく。光明。〔漢書、王莽傳中〕昭燿章明、以著㆓黃虞之列㆒焉。

【昭衍】8 セウエン　かがやいてうつくしい。〔史記、武帝紀〕德星昭衍、厥維休祥。〔史記、封禪書〕德星昭衍、厥維休祥。〔漢書、郊祀志上〕德星昭衍、厥維休祥。

【昭媛】9 セウエン　女官の名。唐、置く。九嬪の一。〔唐書、后妃傳序〕唐制、皇后而下、昭儀・昭容・昭媛・修儀・修容・修媛・充儀・充容・充媛、是爲㆓九嬪㆒。〔事物紀原、嬪御命婦、昭媛〕唐百官志注曰、唐因㆓隋制㆒有㆑之、而隋志北史俱不㆑載、疑唐制也。

【昭遠】10 セウエン　宋、司馬里(**2－3257**‥318)の字。

【昭應】11 セウオウ　あきらかにこたへる。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕昬緯昭應、山瀆效靈。〔注〕翰曰、昭應、謂㆔明而不㆓錯亂㆒也。

【昭夏】12 セウカ　❶古、樂章の名。九夏の一。牲の出入の際に奏するもの。〔周禮、春官、大司樂〕牲出入則令㆑奏㆓昭夏㆒。〔周禮、春官、鍾師〕掌㆓金奏㆒、凡樂事以㆓鍾鼓㆒奏㆓九夏㆒、王夏・肆夏・昭夏・納夏・章夏・齊夏・族夏・祴夏・驁夏。〔注〕夏、大也、樂之大歌有㆑九、故書、杜子春云、牲出入奏㆓昭夏㆒。❷德が明かで大きいこと。昭は明、夏は大。〔史記、司馬相如傳〕續㆓昭夏㆒、崇㆓號謚㆒、略可㆑道者七十二君。〔注〕集解曰、駰案、漢書音義曰、昭、明也、夏、大也、德明大相繼、封㆓禪於泰山㆒者七十二人。❸淸、何文煌(**1－511**‥364)の字。

【昭假】13 セウカ　聰明で寬なこと。〔詩、商頌、長發〕昭假遲遲、上帝是祗。〔箋〕然而以㆓其德聰明㆒、寬㆓暇天下之人㆒。

【昭孝】14 セウカウ　孝行を明かにする。〔國語、楚語下〕祀所㆘以昭㆑孝息㆑民、撫㆓國家㆒定㆗百姓㆖也。

【昭皓】15 セウカウ　明かにかがやく日光。〔爾雅、釋詁〕緝熙烈顯昭皓熲光也。〔疏〕皓者、亦日光也。

【昭覺】16 セウカク　縣名。淸末、置く。四川省西昌縣の東南。雅礱江の支流の梁山河の上源で、苗族雜居の處。〔淸史稿、地理志〕四川、寧遠府、縣四、昭覺。

【昭姦】17 セウカン　姦惡を明かにする。〔史記、范睢傳〕終身迷惑、無㆓與昭㆑姦。〔注〕正義曰、昭、明也、無㆔與明㆓其姦惡㆒。

【昭諫】18 セウカン　五代吳越、羅隱(**9－28397**‥14)の字。

【昭鑒】19 chao¹ chien⁴　推量する。

【昭季】20 セウキ　明、張紞(**4－9812**‥537)の字。

【昭誋】21 セウキ　教へ導いて人を誡める。〔淮南子、繆稱訓〕日之精者可㆓以消澤㆒、而不㆑可㆓以昭誋㆒。〔注〕昭、道、誋、誡也、不㆑可㆓以教導戒㆑人。

【昭毅】22 セウキ　淸、許世亨(**10－35298**‥328)の諡。

【昭儀】23 セウギ　女官の名。漢、元帝、置く。位は丞相になぞらひ、爵は王侯に比すもの。魏、左右昭儀を置き大司馬になぞらひ、唐、九嬪を置き、其の一に居る。其の名號は宋に至るまで沿用した。〔漢書、外戚傳序〕昭儀位視㆓丞相㆒。〔張衡、西京賦〕是時後宮嬖人、昭儀之倫。〔注〕綜曰、昭儀、後宮官也。〔事物紀原、嬪御命婦部、昭儀〕漢元帝置㆓昭儀封㆒、後代或省、元魏置㆓左右昭儀㆒、視㆓大司馬㆒、北齊文宣時、比㆓丞相㆒、唐爲㆓九嬪㆒也。

【昭丘】24 セウキウ　❶陵の名。楚、昭王の陵。湖北省當陽縣の東南。〔水經、沮水注〕沮水南逕㆓楚昭王墓㆒、東對㆓麥城㆒、故王仲宣之賦㆓登樓㆒云、西接㆓昭丘㆒、是也。〔王粲、登樓賦〕北彌㆓陶牧㆒、西接㆓昭丘㆒。

〔注〕銑曰、昭丘、楚昭王墓也。〔謝朓、蹔使㆓下都㆒夜發㆓新林㆒至㆓京邑㆒贈㆓西府同僚㆒詩〕驅㆓車鼎門外㆒、思㆑見㆓昭丘陽㆒。〔荊州圖記〕當陽東南七十里有㆓楚昭王墓㆒、登㆑樓則見㆓所謂昭丘㆒。❷梁、卞華(**2－2778**··7)の字。

【昭舊】25（セウキウ） 舊をてらしあきらかにする。〔風俗通、窮通〕昭㆑舊以正㆓其禮㆒、抗㆑辭以拒㆓其侮㆒。

【昭仰】26（セウギヤウ） 明かにあふぎ見る。〔漢書、郊祀志下〕天文日月星辰、所㆓昭仰㆒也。〔風俗通、祀典〕天之三辰、所㆓昭仰㆒也。

【昭宮】27（セウキユウ） 宮殿の名。周の穆王が昭王を祀るために作つたもの。〔竹書紀年、下〕周穆王元年、作㆓昭宮㆒。云云、西王母來朝、賓㆓于昭宮㆒。〔統箋〕昭宮、穆王所㆔作以祀㆓昭王㆒也、陸佃稗雅曰、貝大者如㆑輪、穆王得㆓其殼㆒、懸㆓于昭觀㆒、卽昭宮也。

【昭虞】28（セウグ） 舜の樂。韶虞に同じ。〔史記、李斯傳〕鄭衞桑閒昭虞武象者、異國之樂也。〔注〕索隱曰、昭、一作㆑韶。

【昭化】29（セウクワ） 縣名。宋、置く。四川省劍閣縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、昭化縣〕宋初復曰㆓益昌㆒、開寶五年、改曰㆓昭化㆒。〔清史稿、地理志〕四川、保寧府、縣七、昭化。

【昭華】30（セウクワ） ❶玉の名。堯が舜に贈つたもの。或はいふ、西王母が舜に獻じたものと。〔淮南子、泰族訓〕（堯）贈以㆓昭華之玉㆒。〔王融、三月三日曲水詩序〕昭華之珍既徙、延喜之玉攸㆑歸。〔注〕善曰、尚書大傳曰、堯得㆑舜、推而尊㆑之、贈以㆓昭華之玉㆒、銑曰、舜時西王母獻㆓昭華玉㆒。❷古の樂器の名。〔晉書、律曆志上〕至㆓舜時㆒、西王母獻㆓昭華之琯㆒、以㆑玉爲㆑之。〔西京雜記、三〕高祖初入㆓咸陽宮㆒、云云、玉管長二尺三寸、二十六孔、吹㆑之則見㆓車馬山林隱轔相次㆒、吹息亦不㆓復見㆒、銘曰㆓昭華之琯㆒。❸女官の名。魏の明帝、置く。〔魏志、后妃傳序〕自㆓夫人㆒以下、世有㆓增損㆒、云云、明帝增㆓淑妃・昭華・脩儀㆒、除㆓順成官㆒。〔南史、后妃傳序〕昭華、魏明帝所㆑制。❹池の名。齊の景公が出でて弋した所。〔韓詩外傳、九〕齊景公出弋㆓昭華之池㆒。

【昭過】31（セウクワ） 他人の過ちを明かにする。〔後漢書、鍾皓傳〕昔國武子、好昭㆓人過㆒、以致㆓怨本㆒、卒保㆑身全㆑家、爾道爲㆑貴。

【昭回】32（セウクワイ） ❶光の轉運すること。〔詩、大雅、雲漢〕倬彼雲漢、昭回㆓于天㆒。〔傳〕回、轉也。〔箋〕昭、光也、云云、精光轉㆓運於天㆒。〔疏〕見㆓倬然而明大者㆒、彼天之雲漢、其水氣精光轉㆓運於天㆒、未㆑有㆓雨徵㆒。〔蘇軾、韓文公廟碑〕草木衣㆓被昭回光㆒。❷字號。㋑唐、李回(**6－14459**··235)の字。㋺宋、周啓明(**2－3441**··625)の字。

【昭光】33（セウクワウ） ❶明かにてりかがやくひかり。〔漢書、揚雄傳上〕昭光振耀、蠁曶如㆑神。❷あきらかにする。〔漢書、賈山傳〕昭㆓光洪業休德㆒。

【昭黃】34（セウクワウ） 清、程鵠(**8－25081**··50)の字。

【昭曠】35（セウクワウ） 明かでひろい。〔史記、鄒陽傳〕獨觀㆓乎昭曠之道㆒也。〔漢書、鄒陽傳〕獨觀㆓於昭曠之道㆒也。〔注〕師古曰、昭、明也、曠、廣也。〔謝靈運、富春渚詩〕懷抱既昭曠、外物徒龍蠖。

【昭廓】36（セウクワク） あきらかでひろい。〔喬潭、群王山賦〕覽㆑之而群聖會同、拔㆑之而萬古昭廓。

【昭煥】37（セウクワン） 明かにかがやく。炳煥。〔韻府引、宋史、陳王元僖傳〕宗祀延洪、史策昭煥。

【昭關】38（セウクワン） 山名。春秋の時、呉楚の往來の衝。伍子胥が楚を逃れて呉に奔つた時、道を此處に取る。宋の紹興の時、張浚が嘗て山に因つて城を築き、水櫃を置いて金兵を遏む。一名、小峴山。安徽省含山縣の西北。〔史記、范雎傳〕伍子胥橐載而出㆓昭關㆒。〔和州志〕宋紹興中、張浚嘗因㆑山築㆑城、置㆓水櫃㆒以遏㆓金兵㆒。〔讀史方輿紀要、江南、和州、含山縣〕昭關、縣北十里、小峴山西、崎嶇險仄、拒㆓守於此㆒、可㆔以當㆓盧濠之衝㆒。

【昭君】39（セウクン） ❶王昭君の略。王嬙(**7－20823**··535)を見よ。宋の歐陽脩・王安石などに明妃曲がある。〔崔塗、過㆓昭君故宅㆒詩〕以㆑色靜㆓胡塵㆒、名還異㆓衆嬪㆒。〔剪燈餘話、田洙遇㆓薛濤㆒聯句記〕若㆓昭君文君薛濤輩㆒、以㆓夫人㆒方㆑之、迨亦有㆓優劣㆒乎。❷漢、涿郡の人。王莽の時の方士。莽は常に昭君等と後宮に方術を考驗し、淫樂を縱にす。〔前漢書、九十九〕。❸北齊、神武帝の皇后婁の諱。〔北齊書、神武婁后傳〕神武明皇后婁氏、諱昭君。

【昭君怨】40（セウクンエン） ❶樂府、琴曲歌辭の一。齊國王の女の王嬙が漢の元帝に幸せられず、單于に嫁し、元帝を怨んだ歌。昭君は王嬙の字。〔樂府詩集、琴曲歌辭、昭君怨〕樂府解題曰、王嬙、字昭君、琴操載、昭君齊國王穰女、端正閑麗、未㆔嘗窺㆓門戶㆒、穰以㆓其有㆑異㆓於人㆒、求㆑之者皆不㆑與、年十七、獻㆓之元帝㆒、元帝以㆓地遠㆒不㆓之幸㆒、以備㆓後宮㆒、積五六年、帝每遊㆓後宮㆒、常怨不㆑出、後單于遣㆑使朝貢、帝宴㆑之、盡召㆓後宮㆒、昭君盛飾而至、帝問、欲㆘以㆓一女㆒賜㆗單于㆖、能者往、昭君乃越㆑席請㆑行、時單于使在㆑傍、驚恨不㆑及、昭君至㆓匈奴㆒、單于大悅、以爲㆓漢與㆑我厚㆒、縱㆑酒作㆑樂、遣㆑使報㆓漢白璧一隻、駿馬十匹、胡地珍寶之物㆒、昭君恨㆓帝始不㆑見㆑遇、乃作㆓怨思之歌㆒、單于死、子世達立、昭君謂㆑之曰、爲㆑胡者妻㆑母、爲㆑秦者更娶、世達曰、欲㆑作㆓胡禮㆒、昭君乃吞㆑藥而死。〔王嬙、昭君怨〕秋木萋萋、其葉萎黃、有㆔鳥處㆑山、集㆓于苞桑㆒、養㆓育毛羽㆒、形容生㆑光、既得㆑升㆑雲、上遊㆓曲房㆒、離宮絕曠、身體摧藏、志念抑沈、不㆑得㆓頡頏㆒、雖㆑得㆓委食㆒、心有㆓徊徨㆒、我獨伊何、改㆑往變㆑常、翩翩之鷰、遠集㆓西羌㆒、高山峩峩、河水泱泱、父兮母兮、道理悠長、嗚呼哀哉、憂心惻傷。〔琵琶記、琴訴㆓荷池㆒〕彈㆓一曲昭君怨㆒何如。❷詞牌の名。〔柳塘詞話〕昭君怨調本兩韻、如㆓蘇軾韓駒万俟雅言辛棄疾等㆒倶得㆑體、而明之陳繼儒強爲㆓一韻㆒曰、水上奏㆓琵琶㆒、一痕沙、遂名㆑之爲㆓一痕沙㆒、此老未㆑爲㆑知㆑詞。

【昭君村】41（セウクンソン） 地名。湖北省興山縣の南。〔太平寰宇記〕漢王嬙卽此邑之人、故曰、昭君之縣、村連㆓巫峽㆒、是此地。〔安陸府志〕昭君村在㆓荊門州㆒、有㆘杜甫詩、羣山萬壑赴㆓荊門㆒、生長明妃尚有㆖村、爲㆑證。

【昭君套】42（セウクンタウ） 婦人の額に當て套ふもの。〔集覽〕婦女冬月以㆑貂圍㆓髻下㆒、正當㆓額上㆒、謂㆓之昭君套㆒。

【昭君出㆑塞】43（セウクンサイヲイツ） ❶漢、元帝の宮人王昭君が匈奴に嫁したことをいふ。昭君怨(40)・王昭君(**7－20823**··1790)の❶を見よ。❷劇曲の名。明、陳與郊撰。王昭君が單于に嫁することを演ず。

【昭勳】44（セウクン） 清、圖賴(**3－4832**··96)の謚。

【昭景】45（セウケイ） 北齊、段榮(**6－16619**··2)の謚。

【昭揭】46（セウケイ） 明かに揭げる。〔王緯、詩〕羣經載㆓聖道㆒、昭揭如㆓日星㆒。

【昭教】47（セウケウ） をしへを明かにする。又、明かなをしへ。〔蔡邕、司空文烈侯楊公碑〕昭㆓教於辟雍㆒。

【昭曉】48（セウゲウ） あきらかなこと。〔禮、樂記〕蟄蟲昭蘇。〔疏〕言㆘蟄伏之蟲、皆得㆓昭曉㆒蘇㆖息也。

【昭潔】49（セウケツ） きよらか。〔逸周書、大匡解〕昭潔非㆑爲。

【昭業】50（セウゲフ） 南齊、鬱林王の名。蕭昭業(**9－32012**··430)を見よ。

【昭見】51（セウケン） 明かにあらはれる。〔漢書、郊祀志上〕淵耀光明、信星昭見。

【昭絢】52（セウケン） 明かであやがある。明絢。〔揭傒斯、送㆔李都事赴㆓湖廣省幕㆒詩〕乾坤再開闢、日月重昭絢。

【昭顯】53（セウケン） 明かにあらはれる。〔呉志、呉主權步夫人傳〕朕恨本意不㆓早昭顯㆒。〔干寶、晉記總論〕昔周之興也、后稷生㆓於姜嫄㆒、而天命昭顯。

【昭元】54（セウゲン） 字號。❶隋、高熲(**12－45313**··247)の字。❷南漢、楊洞潛(**6－15112**··731)の字。

【昭乎】55（セウコ） 明かなさま。〔呂覽、勿躬〕昭乎若㆓日之光㆒、變㆓化萬物㆒、而無㆑所㆑不㆑行。〔韓愈、伯夷頌〕昭乎日月、不㆑足㆑爲㆑明、崒乎泰山、不㆑足㆑爲㆑高。

【昭公】56（セウコウ） ❶春秋、齊の王。齊昭公(**12－48560**··303)を見よ。❷春秋、晉の王。晉昭公(**5－13898**··136)を見よ。❸春秋、魯の王。魯昭公(**12－46013**··176)を見よ。❹後漢、陳寵(**11－41698**··472)の字。

【昭后】57（セウコウ） 周の昭王を云ふ。〔楚辭、天問〕昭后成㆑游、南土爰底。〔注〕言、昭王背㆓成王之制㆒、而出遊㆑南至㆓於楚㆒、楚人沈㆑之而遂不㆑還也。

【昭告】58（セウコク） 明かに告げる。〔書、湯誥〕敢用㆓玄牡㆒、敢昭告㆓于上天神后㆒。〔左氏、成、十三〕昭告㆓昊天上帝、秦三公楚三王㆒。

【昭昏】59（セウコン） 明かなこととくらいこと。〔老子、二十〕俗人昭昭、我獨昏昏。

【昭沙】60（セウサ） 複姓。〔通志、氏族略、複姓〕昭沙氏、一作㆓昭涉㆒、史記功臣表、平州侯昭涉掉尾。

【昭哉】61（セウサイ） 明かなさま。〔後漢書、祭祀志下、

注〕謝沈書曰、大雅曰、昭哉來御、愼二其祖武一。

【昭洒】62 セウサイ 明かにあらふ。〔謝脁、始出二尙書省一詩〕中區咸已泰、輕生諒昭洒。〔注〕善曰、說文曰、洒、滌也、良曰、信可四昭二明洗三滌穢濁一也。

【昭察】63 セウサツ 明かにさつする。〔揚雄、劇秦美新〕疊聞罕漫、而不二昭察一。

【昭山】64 セウザン 山名。㊀一名、馬山。湖南省長沙縣の南。〔太平寰宇記〕昭山、以二周昭王至一レ此、故名。㊁別名、西山・印山。廣西省平樂縣の西。灕樂二水の合流地。唐が昭州を置いたのは、此の山の名によつたのである。〔讀史方輿紀要、廣西、平樂府、平樂縣〕在二城西灕樂二水合流處一、有三巨石屹二立水中一、方正如レ印、一名二印山一。

【昭子】65 セウシ ㊀明君(**5－13805**‥145)に同じ。子は親しんでいふ。〔書、洛誥〕考二朕昭子刑一、乃單二文祖德一。〔蔡傳〕昭子猶二所謂明辟一也、親レ之故曰レ子。㊁春秋魯、叔孫婼(**2－3154**‥180)の謚。㊂清、沈珩(**6－17189**‥76)の字。

【昭示】66 セウシ 明かにしめす。明示。〔越絕書、越絕外傳計倪〕思三昭二示於後王一。〔張衡、請下專事二東觀一收中檢遺文上表〕昭二示萬嗣一、永永不レ朽也。

【昭祀】67 セウシ 明かにまつる。〔國語、楚語下〕道二其順辭一、以昭二祀其先祖一。

【昭嗣】68 セウシ 字號。㊀唐、南卓(**2－2750**‥522)の字。㊁清、沈佳(**6－17189**‥54)の字。

【昭事】69 セウジ ㊀明かにつかへる。〔書、文侯之命〕亦惟先正、克左右、昭二事厥辟一。〔詩、大雅、大明〕昭二事上帝一、聿懷二多福一。〔箋〕昭、明。㊁神につかへること。祭祀。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕昭事是肅、俎實非レ馨。〔注〕善曰、左氏傳曰、以昭二事神一、翰曰、昭二事神祇一。

【昭時】70 セウジ をさまる御代。明時。〔漢書、終軍傳〕宜下因二昭時令日一、改定告上元。

【昭玆】71 セウジ 明かなさま。〔詩、大雅、下武〕昭玆來許、繩二其祖武一。〔集傳〕昭玆、承二上句一而言、玆哉聲相近、古蓋通用也。

【昭州】72 セウシウ 州名。唐、置く。元、廢す。廣西省平樂縣。〔讀史方輿紀要、廣西、平樂府〕唐武德四年、始置二樂州一、貞觀八年、改爲二昭州一。

【昭式】73 セウシキ 明かなのり。〔漢書、禮樂志〕顯明昭式、清明鬯矣。

【昭悉】74 セウシツ 明かにつくす。〔謝脁、閒坐聯句〕預藉二芳筵一賞、沾生信昭悉。

【昭質】75 セウシツ ㊀明かできよらかなうまれつき。天質。〔逸周書、大匡解〕昭質非レ樸、樸有レ不レ明。〔楚辭、離騷〕芳與レ澤其雜糅兮、唯昭質其猶未レ虧。〔注〕翰曰、唯獨守二其明潔之質一、猶未レ爲二自虧損一也。㊁よあけ。明旦。〔楚辭、大招〕昭質既設、大侯張只。〔注〕昭質、謂二明旦一也。〔補注〕記云、質明而始行レ事。㊂清、吳文柔(**2－3365**‥852)の字。

【昭章】76 セウシヤウ あきらか。〔後漢書、馮衍傳下〕光二明風化之情一、昭二章玄明之思一也。

【昭彰】77 セウシヤウ 明かにあらはす。〔魏文帝、祭二嵩高山一文〕昭二彰天地一、吐二納五精一。〔梁昭明太子、陶靖節集序〕跌宕昭彰、獨超二衆類一。

【昭襄】78 セウジヤウ 秦の昭襄王をいふ。嬴稷(**3－6834**‥14)を見よ。〔盧諶、覽古詩〕昭襄欲レ負レ力、相加二折其端一。〔注〕善曰、史記曰、秦武王死無レ子、立二異母弟一、是爲二昭襄王一。

〖昭襄王〗79 セウジヤウワウ 秦、惠文王の子。嬴稷(**3－6834**‥14)を見よ。

【昭灼】80 セウシヤク 明かにかがやく。色采あること。〔鮑照、行樂至二城東橋一詩〕尊賢永昭灼、孤賤長隱淪。〔王融、三月三日曲水詩序〕昭二灼甄部一、駔二駿函列一。〔注〕良曰、昭灼、光明也。〔文心雕龍、頌讚〕灼擧以盡レ情、昭灼以述レ文。

【昭肅】81 セウシユク 謚號。㊀宋、趙竑(**10－37171**‥122)の謚。㊁元、秦起宗(**8－24995**‥205)の謚。

【昭如】82 セウジヨ 明かなさま。〔太玄經、文〕次五、炳如彪如、尙レ文昭如、車服庸如。

【昭升】83 セウシヨウ 明かにのぼる。〔書、文侯之命〕昭升二于上一、敷聞在レ下。〔傳〕文王聖德、明升二于天一。

【昭信】84 セウシン ㊀明かなまこと。〔逸周書、大匡解〕昭信非レ展。㊁清、李侍堯(**6－14459**‥1350)の字。

〖昭信股票〗85 chao^1 hsin^4 ku^3 p'iao^4 公債。

【昭瑞】86 セウズイ 宋、孫翼鳳(**3－6987**‥550)の字。

【昭世】87 セウセイ 明かな世。〔楚辭、王褒、九懷、昭世〕世溷兮冥昏。〔鮑照、擬青青陵上栢詩〕浮生旅二昭世一、空事歎二華年一。　「名。

【昭正】88 セウセイ 唐、馮紹正(**12－44579**‥259)の一

【昭成】89 セウセイ 北燕、馮弘(**12－44579**‥70)の謚。

〖昭成后〗90 セウセイコウ 唐、睿宗の后、竇后(**8－25695**‥25)の謚。

〖昭成太子〗91 セウセイタイシ 宋、趙元僖(**10－37171**‥514)の謚。

【昭姓】92 セウセイ 祖先の姓名をあらはすこと。其の家柄をあきらかにすること。〔漢書、兒寬傳〕其封二泰山一禪二梁父一、昭レ姓考レ瑞、帝王之盛節也。

【昭星】93 セウセイ 星の名。黃彗の一。〔晉書、天文志中〕河圖云、鎭星散爲二五殘・獄漢・大賁・昭星・絀流・旬始・蚩尤・虹蜺・擊咎・黃彗一。

【昭晣】94 セウセイ あきらか。〔司馬相如、封禪文〕首惡鬱沒、晻昧昭晣。〔後漢書、張衡傳贊〕不レ有二玄慮一、孰能昭晣。〔注〕晣音制。〔何晏、景福殿賦〕雖二離朱之至精一、猶眩曜而不レ能二昭晣一也。

【昭晢】95 セウセイ 昭晣に同じ。〔後漢書、蔡邕傳〕覩二曖昧之利一、而忘二昭晢之害一。〔論衡、刺孟〕操見二於衆一、昭二晢議論一。

【昭靖】96 セウセイ 謚號。㊀唐、李邈(**6－14459**‥667)の謚。㊁明、沐英(**6－17201**‥4)の謚。

【昭齊】97 セウセイ 明、葉紈紈(**9－31387**‥179)の字。

【昭清】98 セウセイ 明かにきよい。〔漢書、禮樂志〕休德昭清。

【昭靜】99 セウセイ 明かにしづか。〔逸周書、大匡解〕昭靜非レ窮。

【昭昭】100 セウセウ ㊀明かなさま。〔詩、魯頌、泮水〕其馬蹻蹻、其音昭昭。〔老子、二十〕俗人昭昭、我獨若レ昏。〔孟子、盡心下〕賢者以二其昭昭一使二人昭昭一。〔注〕賢者治レ國、法度昭昭、明二於道德一。〔荀子、勸學〕是故無二冥冥之志一者、無二昭昭之明一。〔韓非子、解老〕以爲レ暗乎、其光昭昭、以爲レ明乎、其物冥冥。〔楚辭、九歌、雲中君〕爛昭昭兮未レ央、蹇將憺二兮壽宮一。〔注〕昭昭、明也。〔史記、天官書〕昭昭有レ光、利レ行レ兵。㊁少しく明かなもの。〔中庸、二十六章〕今夫天斯昭昭之多。〔章句〕昭昭、猶二耿耿一、小明也。

〖昭昭乎〗101 セウセウコ 明かなさま。〔韓詩外傳、二〕昭昭乎若二日月之光明一、燎燎乎若二星辰之錯行一。〔莊子、達生〕昭昭乎、若下揭二日月一而行上。〔荀子、賦〕昭昭乎其知之明也。

〖昭昭然〗102 セウセウゼン 明かなさま。〔荀子、非十二子〕昭昭然、蕩蕩然。〔孔叢子、論書〕昭昭然若二日月之代明一。

〖昭昭之宇〗103 セウセウノウ 明かな世界。〔淮南子、精神訓〕甘二瞑于太宵之宅一、而覺二視于昭昭之宇一。

〖昭昭生於冥冥〗104 セウセウハメイメイニシヤウズ 明かなことはくらい所から生じてくる。〔莊子、知北遊〕昭昭生二於冥冥一、有倫生二於無形一。

〖由昭昭於冥冥〗105 セウセウヲメイメイニモチフ 智慧の光を深く藏して一見愚者のやうに裝ふこと。和光同塵。〔淮南子、人閒訓〕人能由二昭昭於冥冥一、則幾二於道一矣。

【昭晰】106 セウセキ あきらか。明晰。〔風俗通、過譽〕既推二獨車一、復表二其上一、爲二其飾僞一、良亦昭晰。

【昭晳】107 セウセキ 昭晰に同じ。〔風俗通、皇霸〕自レ是以來、載籍昭晳。

【昭設】108 セウセツ 明かに設ける。〔史記、秦始皇紀〕作二立大義一、昭二設備器一。

【昭雪】109 セウセツ 冤罪をすすぐ。〔五代史、毛璋傳〕璋復下レ獄、鞫レ之無狀、中丞呂夢奇議曰、璋前經二推劾一、已蒙二昭雪一、而延祚以二責賂之故一復加二織羅一、乃稍宥レ璋。〔宋史、楊昭儉傳〕銜レ冤者固當二昭雪一。

【昭涉】110 セウセフ 複姓。〔通志、氏族略、複姓〕昭沙氏、一作二昭涉一、史記功臣表、平州侯昭沙掉尾。

【昭先】111 セウセン 字號。㊀三國魏、任嘏(**1－416**‥23)の字。㊁三國魏、畢軌(**7－21829**‥9)の字。

【昭宣】112 セウセン 明かにのべる。〔漢書、韋玄成傳〕左右昭宣、五品以訓。〔謝靈運、撰征賦〕降二俊明一以鏡鑑、迴二風猷一以昭宣。

〖昭宣帝〗113 セウセンテイ 唐の哀帝、李柷(**6－14459**‥435)の追謚。

【昭洗】114 セウセン 明かにあらふ。〔權德輿、封二不義侯一論〕昭二洗瑕穢一。

【昭闡】115 セウセン 明かにひらく。〔宋史、樂志十四〕二南聲詩、于レ時昭闡。

【昭前】116 セウセン 古の事實を明かにしあらはす。〔劉廙、謝二劉表一牋〕在昔既無二堂構昭前之績一、中レ規

不レ密、明神弗レ祐。

【昭然】117 セウゼン 明かなさま。〔戰國、魏策〕縣二賞罰於前一、使三民昭然信二之於後一者、王之明法也。〔禮、仲尼燕居〕昭然若レ發レ矇矣。〔莊子、知北遊〕昔日吾昭然、今日吾昧然。〔荀子、解蔽〕治亂可否、昭然明矣。〔漢書、劉向傳〕明暗之效、葬之吉凶、昭然可レ見矣。

【昭然著聞】118 セウゼンチョブン 明かにあらはれきこえる。〔後漢書、光武紀上〕符瑞之應、昭然著聞。

【昭祖】119 セウソ 先祖の功をあらはす。〔晉書、禮志下〕昭レ祖揚レ禰、封禪爲レ首。

【昭素】120 セウソ 明、黃輝（**12－47926**‥185）の字。

【昭蘇】121 セウソ いきかへる。よみがへる。昭は曉、蟄蟲が土中からあかるみに發出すること。回生。蘇醒。〔禮、樂記〕蟄蟲昭蘇。〔注〕昭、曉也、蟄蟲以二發出一爲レ曉、更息曰レ蘇。〔疏〕昭、曉也、蘇、息也、言三蟄伏之蟲、皆得二昭曉蘇息一也。

【昭宗】122 セウソウ 廟號。㊀唐の昭宗。李曄（**6－14459**‥74）を見よ。㊁元の昭宗。愛猷識理達臘（**4－10947**‥381）を見よ。㊂安南黎朝第九代の王。名は椅。在位十一年。

【昭速】123 セウソク まねきよせる。昭は招の誤。〔後漢書、鄭興傳〕昭二速禍患一、無二乃不可一乎。〔注〕劉攽曰、案レ文、昭、當レ作レ招。

【昭泰】124 セウタイ 明かにやすらか。〔王融、三月三日曲水詩序〕宮鄰昭泰、荒憬清夷。

【昭代】125 セウダイ よく治まつてゐる御代。聖代。聖世。明時。又、當代を頌する辭。〔崔塗、問卜詩〕不レ擬レ逢二昭代一、悠悠過二此生一。〔褚亮、傷二始平李少府正己一詩〕聲華滿二昭代一、形影委二窮塵一。

【昭代叢書】126 セウダイソウショ 書名。清、張潮編。清朝人の雜著を收錄したもの。甲・乙・丙の三集に分け、一集各〻五十卷、凡て一種一卷とし、或は文集より摘錄し、或は全書より割取したものが多い。後、楊復吉が丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の七集を增補し、體裁は張氏に倣ふ。又、沈維鎬は甲集より辛集に至るまで六十種を刪り、別に同數を補ふ。現行本は原本の上に刪補本を加へ、集每に五十種以上あり。其の目は【甲集】第一冊、更命文章九命（王晫）・天官考異（吳肅公）・五行問（吳肅公）・學曆說（梅文鼎）・改元考同（吳肅公）。第二冊、進賢說（張能鱗）・塾講規約（施璜）・夙興語（甘京）・家人子語（毛先舒）・語小（毛先舒）。第三冊、日錄雜說（魏禧）・竹溪襍述（殷曙）・松溪子（王晫）・讀莊子法（林雲銘）・謝皐羽年譜注（徐沁）・西華仙籙（王言）。第四冊、將就園記（黃周星）・歙問（洪玉圖）・黃山松石譜（閔麟嗣）・外國竹枝詞（尤侗）。第五冊、西方要紀（泰西安文思等）・安南襍記（李仙根）・秋星閣詩話（李沂）・而菴詩話（徐增）・製曲枝語（黃周星）・書法約言（宋曹）。第六冊、芥茶彙鈔（冒襄）・硯林（余懷）宣爐歌注（冒襄）・裝潢志（周嘉胄）・兵仗記（王晫）・荔枝譜（陳鼎）・蘭言（冒襄）・龍經（王晫）。第七冊、周易古義（惠棟）・周易大衍辨（吳鼐）。第八冊、尙書古義（惠棟）・毛詩古義（惠棟）。第九冊、周禮古義（惠棟）・儀禮古義（惠棟）・禮經釋例目錄（凌廷堪）。第十冊、禮記古義（惠棟）・公羊古義（惠棟）。第十一冊、穀梁古義（惠棟）・論語古義（惠棟）・讀東坡志林（尤侗）・淇泉摹古錄（趙希璜）・西征賦（李祖惠）。第十二冊、七釋（尤侗）・十國詞箋略（錢載）。【乙集】第十三冊、毛朱詩說（閻若璩）・春秋三傳異同考（吳陳炎）・讀禮問（吳肅公）。第十四冊、十六國年表（張愉曾）・江南星野辨（葉燮）・廣祀典議（吳肅公）・師友行輩議（魏禧）。第十五冊、國朝謚法考（王士禛）・旗軍志（金德純）・封長白山記（方象瑛）・紀琉球入太學始末（王士禛）・人瑞錄（孔尙任）・迎駕紀恩錄（王士禛）。第十六冊、恩賜御書紀（董文驥）・恭迎大駕紀（徐秉義）・暢春苑御試恭紀（狄億）・出山異數記（孔尙任）・塞程別紀（余寀）。第十七冊、西北水利議（許承宣）・廣州遊覽小志（王士禛）・隴蜀餘聞（王士禛）・東西二漢水辨（王士禛）・日錄裏言（魏禧）。第十八冊、偶言（魏際瑞）・漫堂說詩（宋犖）・燃脂集例（王士祿）・聲韻叢說（毛先舒）。第十九冊、伯子論文（魏際瑞）・日錄論文（魏禧）・韻問（毛先舒）・南曲入聲客問（毛先舒）・連文釋義（王言）。第二十冊、畫訣（孔衍栻）・焦山古鼎考（王士祿）・瘞鶴銘辯（張弨）・昭陵六駿贊辯（張弨）・漢甘泉宮瓦記（林佶）。第二十一冊、飯有十二合說（張英）・醫津一筏（江之蘭）・江邨草堂紀（高士奇）。第二十二冊、後觀石錄（毛奇齡）・石友贊（王晫）・畫眉筆談（陳均）・蛇譜（陳鼎）・竹譜（陳鼎）・箋卉（吳菘）。第二十三冊、禘祫問答（胡匡衷）・矦國職官表（胡匡衷）・漢水發源攷（王筠）。第二十四冊、汴水說（朱際虞）・山樵書外紀（張開福）・圖畫精意識（張庚）。【丙集】第二十五冊、漢魏石經考（萬斯同）・唐宋石經考（萬斯同）。第二十六冊、五經今文古文考（吳陳炎）・聖諭樂本解說（毛奇齡）・春秋日食質疑（吳守一）。第二十七冊、檀弓訂誤（毛奇齡）・三年服制考（毛奇齡）・讀史管見（王轂）・乾清門奏對記（湯斌）・松亭行紀（高士奇）。第二十八冊、扈從西巡日錄（高士奇）・塞北小鈔（高士奇）・北嶽歷祀考（劉師峻）。第二十九冊、聖節會約（郭存會）・荊園小語（申涵光）・荊園進語（申涵光）・格言僅錄（王士雲）・宗規（鐘干序）・戒淫錄（姚廷傑）・學語襍篇（沈思倫）。第三十冊、觀物篇（石龐）・古國都今郡縣合考（閔麟嗣）・周末列國有今郡縣考（閔麟嗣）・黃山史槩（陳鼎）・臺灣隨筆（徐懷祖）・寧古塔志（方拱乾）。第三十一冊、峒谿纖志志餘（陸次雲）・滇黔土司婚禮記（陳鼎）・身易（唐彪）・切字釋疑（方中履）・西河詩話（毛奇齡）。第三十二冊、南州草堂詞話（徐釚）・賓告（葉奕苞）・諺說（毛先舒）・醉鄉約法（葉奕苞）・練閱火器陣記（薛熙）・貫蝨心傳（紀鑑）・捕蝗考（陳芳生）。第三十三冊、文苑異稱（王晫）・思舊錄（靳治荆）・知我錄（梅庚）・瓊花志（朱顯祖）・徐園秋花譜（吳舒鳧）・吳蕈譜（吳林）・續蟹譜（褚人穫）。第三十四冊、春秋四傳糾正（俞汝言）・夏小正詁（諸錦）。第三十五冊、增訂歐陽文忠公年譜（華孳享）。第三十六冊、古今待問錄（朱楓）・齊山巖洞志（陳蔚）。【丁集】第三十七冊、五經讀法（徐與喬）。第三十八冊、經咫（陳祖范）。第三十九冊、書經地理今釋（蔣廷錫）。第四十冊、建文帝後記（邵遠平）・汰存錄（黃宗羲）・客窗偶談（陳僖）。第四十一冊、九諦解疏（王煒）・環書（方殿元）。第四十二冊、漁樵問答（釋成鷲）・五九枝譚（尤侗）・吳鰥放言（吳莊）。第四十三冊、哀江南賦注（徐樹穀）。第四十四冊、塵錄（曹宗璠）・西河襍箋（毛奇齡）・諸皐廣志（徐芳）。第四十五冊、石里襍識（張尙瑗）・香天談藪（吳雷發）・茶餘客話（阮葵生）。第四十六冊、吳語（戴延年）・粵西瑣記（沈日霖）・苗俗記（田雯）・譯史紀餘（陸次雲）・進藏紀程（王世睿）。第四十七冊、重集列女傳例（魏于雲）・古豔樂府（楊淮）・說詩菅蒯（吳雷發）・天啓宮詞（陳悰）。第四十八冊、璇璣碎錦（萬樹）。第四十九冊、西河詞話（毛奇齡）・琴況（徐谼）滋蕙堂法帖題跋（曾恒德）。第五十冊、小山畫譜（鄒一桂）。第五十一冊、繪事發微（唐岱）・烟譜（陸燿）・野菜贊（顧景星）・洋菊譜（鄒一桂）・識物（陳僖）。第五十二冊、昭代樂章恭記（張玉書）・讀史記劄記（潘永季）。第五十三冊、讀明史劄記（潘永季）・再生紀略（陳濟生）・籌餉卮言（唐夢賚）。第五十四冊、兵謀（魏禧）・兵法（魏禧）。第五十五冊、志壑堂雜記（唐夢賚）・東行述（趙之俊）・南行述（王心敬）・征西紀略（陸楣）。第五十六冊、使蜀日記（方象瑛）・自滇入都程記（揚名時）。【戊集】第五十七冊、周官辨非（萬斯大）。第五十八冊、春秋列國地形口號（顧棟高）。第五十九冊、閩難記（洪若皐）・海寇記（洪若皐）・制科雜錄（毛奇齡）・南巡扈從紀略（張英）。第六十冊、西征紀略（殷化行）・河圖洛書同異考（冉覲祖）・孔廟從祀末議（閻若璩）。第六十一冊、霜紅龕家訓（傅山）・恒產瑣言（張英）・漁談（郭欽華）。第六十二冊、讀戰國策隨筆（張尙瑗）。第六十三冊、復社紀事（吳偉業）・社事始末（杜登春）。第六十四冊、書事七則（陳貞慧）・山陽錄（陳貞慧）。第六十五冊、矩齋雜記（施閏章）・嗒史（王煒）。第六十六冊、積山雜述（汪惟憲）。第六十七冊、梅谷偶筆（陸烜）・秋燈叢話（戴延年）。第六十八冊、東城雜記（厲鶚）。第六十九冊、洱海叢談（釋同揆）・衡嶽遊記（黃周星）。第七十冊、海國聞見錄（陳倫炯）。第七十一冊、裨海紀遊（郁永河）・袖海篇（汪鵬）。第七十二冊、文章薪火（方以智）・江西詩社宗派圖錄（張泰來）。第七十三冊、崇禎宮詞（王譽昌）・衍琵琶行（曹秀先）。第七十四冊、續詩品（袁枚）・論文四則（楊繩武）・天文說（董以寧）・畫筌（笪重光）・畫語錄（釋元濟）。第七十五冊、畫羅漢頌（廖燕）・玉臺書史（厲鶚）。第七十六冊、賞延素心錄（周二學）・秋

園雜佩（陳貞慧）・談虎（趙彪詔）。第七十七冊、原善（戴震）・原象（戴震）。第七十八冊、儒行述（彭紹升）。第七十九冊、良吏述（彭紹升）・觀感錄（李容）。第八十冊、已畦瑣語（葉燮）・蠖齋詩話（施閏章）。【己集】第八十一冊、易說（查愼行）・治齋讀詩蒙說（顧成志）・禮記編（芮城）。第八十二冊、約喪禮經傳（吳卓信）・諸史然疑（杭世駿）・南唐拾遺記（毛先舒）。第八十三冊、南宋六陵遺事（萬斯同）。第八十四冊、庚申君遺事（萬斯同）・乙丙紀事（孫奇逢）。第八十五冊、蜀難敍略（沈荀蔚）。第八十六冊、代北姓譜（周春）・遼金元姓譜（周春）・文廟從祀弟子贊（盧存心）。第八十七冊、破邪論（黃宗羲）・山公九原（馮景）・邇言（勞史）。第八十八冊、蠟談（盧存心）・詹言（黃之雋）・說叩（葉抱菘）。第八十九冊、談書錄（汪師韓）。第九十冊、學海蠡測（沈謙）・思舊錄（黃宗羲）。第九十一冊、淥水亭雜識（納蘭成德）。第九十二冊、仁恕堂筆記（黎士宏）。第九十三冊、匡廬游錄（黃宗羲）。第九十四冊、清波小志（徐逢吉）・清波小志補（陳景鐘）。第九十五冊、九華日錄（周天度）・乾州小志（吳高增）・龍沙紀略（方式濟）。第九十六冊、異域錄（圖理琛）。第九十七冊、黎岐紀聞（張慶長）・說蠻（檀萃）。第九十八冊、江源記（查拉吳麟）・婦人集（陳維崧）。第九十九冊、金石要例（黃宗羲）・偶然欲書（方棨如）・比紅兒詩注（沈可培）。第一百冊、詩學纂聞（汪師韓）・遼詩話（周春）。第一百一冊、天啓宮詞（蔣之翹）・花草蒙拾（王士禎）・墨井畫跋（吳歷）・續三十五舉（桂馥）。第一百二冊、再續三十五舉（桂馥）・陽羨名陶錄（吳騫）。第一百三冊、原詩（葉燮）。第一百四冊、論學制備忘記（段玉裁）・釋骨（沈彤）。【庚集】第一百五冊、古文尙書考（陸隴其）・古文尙書辨（朱彝尊）・詩說（惠周惕）。第一百六冊、喪服翼注（閻若璩）・注疏瑣語（沈淑）。第一百七冊、劉豫事迹（曹溶）・補三史藝文志（金門昭）。第一百八冊、虎口餘生記（邊大綬）・庸言（魏象樞）。第一百九冊、志學會約（湯斌）・宗譜纂要（王鉞）・婦學（章學誠）・瀾堂夕話（張次仲）・山中問答（楊士美）。第一百十・第一百十一冊、蒿庵閒話（張爾岐）。第一百十二冊、寒燈絜語（汪惟憲）・牘外餘言（袁枚）・廣連珠（陳濟生）。第一百十三冊、說文凝錦錄（萬光泰）・七十二侯考（曹仁虎）・西臺慟哭記注（黃宗羲）。第一百十四冊、聞見偶錄（朱象賢）。第一百十五冊、東齋脞語（吳翊鳳）・定香亭筆談（阮元）。第一百十六冊、宸垣識餘（吳長元）。第一百十七冊、南漳子（孫子駼）・寧古塔紀略（吳振臣）・番社采風圖考（六十七）。第一百十八冊、維西見聞紀（余慶遠）・七招（洪亮吉）・七娛（沈清瑞）・選材錄（周春）・集世說詩（李鄴嗣）。第一百十九冊、宮詞（徐昂發）・皺水軒詞筌（賀裳）・書筏（笪重光）・畫論（張庚）。第一百二十冊、印文考略（鞠履厚）・新歷曉或（湯若望）・七頌堂識小錄（劉禮仁）・葯房心語（楊中訥）。第一百二十一冊、端溪硯譜記（袁樹）・竹連珠（鈕琇）・荔譜（陳定國）・木棉譜（褚華）。第一百二十二冊、北墅抱瓮錄（高士奇）。第一百二十三冊、宗法論（萬斯大）・明史十二論（段玉裁）。第一百二十四冊、車制圖解（阮元）・今韻古分十七部表（段玉裁）。【辛集】第一百二十五冊、讀易緒言（錢棻）・饗禮補亡（諸錦）・春秋五禮源流口號（顧棟高）。第一百二十六冊、經書巵言（范泰恒）・擬更季漢書昭烈皇帝本紀（黃中堅）・史略（蕭震）。第一百二十七冊、平臺紀略（藍鼎元）。第一百二十八冊、征緬紀略（王昶）。第一百二十九冊、蜀徼紀聞（王昶）・臨清寇略（俞蛟）。第一百三十冊、強聒錄（彭堯諭）・旅書（陳璜）・釋冰書（孫汧如）・雜言（鈕琇）。第一百三十一冊、蕉窗日記（王豫）・鐘山書院規約（楊繩武）・天問校正（屈復）・說文義例（王宗誠）。第一百三十二冊、說鈴（汪琬）・張氏巵言（張元賡）。第一百三十三冊、峽川志略（蔣宏任）・出塞紀略（錢良擇）。第一百三十四冊、從西紀略（范昭逵）。第一百三十五冊、藏行紀程（杜昌丁）・徵刻唐宋秘本書目（黃虞稷）。第一百三十六冊、藏書紀要（孫慶增）・金石史（郭宗昌）。第一百三十七冊、淳化閣帖跋（沈蘭先）・漢詩總說（費錫璜）・秋窗隨筆（馬位）。第一百三十八冊、詠物十詞（曹貞吉）・鈍吟書要（馮班）・畫麈（沈顥）・畫訣（龔賢）・秋水園印說（陳鍊）・紀聽松菴竹鑪始末（鄒炳泰）。第一百三十九冊、窯器說（程哲）・怪石錄（沈心）・岕茶牋（馮可賓）・茶史（余懷）。第一百四十冊、人葠譜（陸烜）。第一百四十一冊、亳州牡丹述（鈕琇）・牡丹譜（計楠）・菊說（計楠）。第一百四十二冊、唐述山房日錄（盛朝勳）。第一百四十三冊、忠文靖節編（張方湛）・憩游偶攷（華湛恩）・燕都志餘（聾道人）。第一百四十四冊、山齋客譚（景星杓）・外國紀（張玉書）。【壬集】第一百四十五冊、周易稗疏（王夫之）。第一百四十六冊、易漢學（惠棟）。第一百四十七冊、古文尙書攷（惠棟）。第一百四十八冊、毛鄭詩考正（戴震）。第一百四十九冊、春秋稗疏（王夫之）。第一百五十・一百五十一冊、考工記圖（戴震）。第一百五十二冊、孟子遊歷攷（潘眉）・續方言（杭世駿）。第一百五十三冊、聲韻攷（戴震）・音韻問答（錢大昕）。第一百五十四冊、史記天官書補目（孫星衍）・補續漢書藝文志（錢大昕）。第一百五十五・一百五十六冊、明季遺聞（鄒漪）。第一百五十七冊、守汴日志（李光壂等）。第一百五十八冊、隆平紀事（史冊）。第一百五十九冊、東槎紀略（姚瑩）・鄭康成年譜（沈可培）・水地記（戴震）。第一百六十冊、人海記（查愼行）。第一百六十一冊、柳邊紀略（楊賓）。第一百六十二冊、疏河心鏡（凌鳴喈）・三吳水利條議（錢中諧）。第一百六十三冊、鶴徵前錄（李集）。第一百六十四冊、鶴徵後錄（李富孫）。第一百六十五冊、錢函齋書跋（楊賓）。第一百六十六冊、義門題跋（何焯）・湛園題跋（差震英）・史論五答（施國祁）。第一百六十七冊、淑艾錄（祝淦）。第一百六十八冊、思問錄（顧道稷）・算術問答（錢大昕）。第一百六十九冊、新法表異（湯若望）・麓臺題畫稾（王原祁）・讀畫錄（王樑）・指頭畫說（高秉）。第一百七十冊、墨志（麻三衡）・甘藷錄（陸燿）・適來子（張潤貞）。第一百七十一冊、經史管窺（蕭雲）。第一百七十二冊、畏疊筆記（徐昂發）。第一百七十三冊、日貫齋塗說（梁同書）・老子解（吳鼐）・莊子解（吳峻）。第一百七十四冊、愚庵雜著（朱鶴齡）・春秋詠史樂府（舒位）。第一百七十五冊、十國宮詞（孟彬）・十國宮詞（吳省蘭）。第一百七十六冊、野鴻詩的（黃子雲）・寒廳詩話（顧嗣立）・貞一齋詩說（李重華）。【癸集】第一百七十七冊、周易尋問餘論（黃宗炎）。第一百七十八冊、易學辨惑（黃宗炎）。第一百七十九冊、尙書稗疏（王夫之）。第一百八十冊、正訛初稾（王麟趾）・毛詩日箋（秦松齡）。第一百八十一冊、春秋客難（龔元玠）・讀左瑣言（倪倬）。第一百八十二冊、周禮客難（龔元玠）。第一百八十三冊、二李經說（李光墺・李光型）・禮經學述（秦麗昌）。第一百八十四冊、甕天錄（柯汝鍔）。第一百八十五冊、駢字分箋（陳際盛）・後漢三公年表（華湛恩）。第一百八十六冊、三國志攷證（潘眉）。第一百八十七冊、五代春秋志疑（華湛恩）。第一百八十八冊、明季實錄（顧炎武）。第一百八十九冊、秋鐙錄（沈元欽）。第一百九十冊、綱目志疑（華湛恩）。第一百九十一冊、平海紀略（溫承志）・閩中紀略（許旭）。第一百九十二冊、西神叢語（黃蛟起）。第一百九十三冊、澳門記略（印光任）。第一百九十四冊、廬山紀遊（查愼行）・黝山紀游（汪淮）。第一百九十五冊、淳化祕閣法帖源流考（周行仁）。第一百九十六冊、金石小箋（葉奕苞）・農書（張履祥）。第一百九十七冊、漢氾勝之遺書（宋葆淳）・恒星說（江聲）。第一百九十八冊、三萬六千頃湖中畫船錄（迮朗）。第一百九十九冊、金粟箋說（張燕昌）・淄硯錄（盛百二）・邇語（熊賜履）。第二百冊、訂譌雜錄（胡鳴玉）。第二百一冊、直語補證（梁同書）。第二百二冊、夢闌瑣筆（楊復吉）。第二百三冊、松陰快談（長野確）。第二百四冊、六如居士外集（唐仲冕）・老子別錄（吳鼐）。第二百五冊、芯題上方二山紀遊集（查禮）・非老（吳鼐）・啓禎宮詞（高兆）・回疆雜詠（王曾翼）。第二百六冊、黔苗竹枝詞（舒位）・一瓢詩話（薛雪）。第二百七冊、蓮坡詩話（查爲仁）。第二百八冊、消寒詩話（秦朝釪）・搏沙錄（戴延年）。

【昭道】127（セウダウ） 明かに標準とする。〔墨子、天志中〕歷ニ爲日月星辰一以昭ニ道之ニ。〔閒詁〕說文日部云、昭、明也。

【昭旦】128（セウタン） 星の名。赤彗の一。〔晉書、天文志中〕河圖云、熒惑散爲ニ昭旦・蚩尤之旗・昭明・司危・天攙・赤彗一。

【昭潭】129（セウタン） 潭の名。❶湖南省湘潭縣の北の湘水の中。上に昭山あり、湘水の最も深いところ。〔湘中記〕昭潭、其下無レ底、湘水最深處也、或謂

周昭王南征不㆑復、沒㆓於此潭㆒、因名。❷廣西省平樂縣の西。〔元和志〕平樂溪在㆓平樂縣南三里㆒、水之西岸有㆓昭潭㆒、周迴一里、其深不㆑測。

【昭仲】130 セウチユウ 清、宗裕昆（3－7106‥308）の字。

【昭著】131 セウチヨ ❶明かでいちじるしい。〔南史、齊高帝紀〕驗㆑往揆㆑今、若㆑斯昭著、伏願順㆓天時㆒、膺㆓符瑞㆒。❷明かにあらはす。〔揚雄、劇秦美新〕昭㆓著新德㆒、光㆓之罔極㆒。

【昭通】132 セウツウ ❶府名。清、置く。雲南省に屬す。大關・魯甸の二廳、及び恩安・靖江の二縣を管轄す。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕雲南、昭通府、領㆓廳二㆒、縣二㆒、恩安・大關廳・魯甸廳・靖江。❷縣名。民國、置く。雲南省大關縣の南。縣城は八仙海の西岸に在り、蜀・滇・黔三省の交通の要衝に當る。

【昭定】133 セウテイ 唐、薛訥（9－32123‥110）の諡。

【昭帝】134 セウテイ 帝諡。❶漢の昭帝。劉弗陵（2－2224‥1287）を見よ。❷明、仁宗の諡號。朱高熾（6－14424‥694）を見よ。

【昭兆】135 セウテウ 寶龜のこと。龜甲を灼いて兆を出すに、兆文が分明であるから名づけたといふ。〔左氏、定、六〕文之舒鼎、成之昭兆。〔注〕寶龜。〔疏〕成公新得㆓此龜㆒、蓋以㆑灼㆑之出㆑兆、兆文分明、故名爲㆓昭兆㆒。

【昭哲】136 セウテツ 梁、許懋（10－35298‥205）の字。

【昭度】137 セウド 字號。❶唐、李回（6－14459‥235）の字。❷明、潘曾紘（7－18236‥195）の字。

【昭登】138 セウトウ 明かに成し上げる。明かにのぼす。〔班固、典引〕故夫顯定㆓三才㆒、昭登㆓之績㆒、匪㆑堯不㆑興。〔注〕良曰、昭、明、登、成。〔史記、晉世家〕能愼㆓明德㆒、昭登㆓於上㆒。

【昭統】139 セウトウ 清、高宗純皇帝の時、越の愍帝（黎維祁）の年號。（1787－1789）

【昭德】140 セウトク ❶明かな德。〔國語、鄭語〕唯荆實有㆓昭德㆒、若周衰、其必興矣。❷德を明かにする。〔左氏、桓、二〕君㆑人者將㆔昭㆑德塞㆑違、以臨㆓照百官㆒。❸行政區域の名。㋑唐の天雄軍。五代梁、分㆓天雄軍㆒、置㆓昭德軍節度使於此㆒、明年入㆑晉、仍合㆓於天雄㆒。㋺晉の昭義軍。宋、改めて昭德軍を置く。今、山西省長治縣。〔讀史方輿紀要、山西、潞安府〕晉復曰㆓昭義軍㆒、宋仍爲㆓潞州㆒、亦曰㆓上黨郡昭義軍㆒、太平興國初、改㆓軍號㆒曰㆓昭德㆒。❹縣名。唐、天寶の時、置く。今、四川省松潘縣の西南。〔讀史方輿紀要、四川、壘溪守禦千戸所、翼水廢縣〕唐天寶元年、改屬㆓翼州㆒、更㆓名昭德㆒。❺城の名。唐、置く。今、浙江省分水縣。〔讀史方輿紀要、浙江、嚴州府、分水縣〕昭德城、在㆓縣西北嘉德里㆒。❻字號。㋑宋、晁公武（5－13889‥16）の號。㋺元、皮湆（8－22823‥80）の字。

【昭德觀】141 セウトククワン 宮觀の名。❶西晉の邑人劉眞君の故宅。〔方外志〕。❷梁の武帝、築く。江西省奉新縣の西。〔名勝志〕昭德觀、在㆓南昌奉新縣西㆒、梁武帝剏。

【昭德后】142 セウトクコウ 諡號。❶唐、德宗の后、王后（7－20823‥390）の諡。❷金、世宗の后、烏林荅后（7－18998‥472）の諡。

【昭德舞】143 セウトクブ 雅舞の名。❶漢、孝景帝が太宗の廟に薦めた舞で、武德舞を採って作つたもの。〔漢書、景帝紀〕爲㆓孝文皇帝廟㆒、爲㆓昭德之舞㆒。〔漢書、禮樂志〕孝文廟奏㆓昭德・文始・四時・五行之舞㆒、孝景采㆓武德舞㆒以爲㆓昭德㆒、以尊㆓太宗廟㆒。❷晉、天福五年に制定した文舞。〔唐餘錄〕晉天福五年、詔㆓有司㆒復脩正、至㆓朝會二舞之制㆒、以㆓文舞㆒爲㆓昭德之舞㆒、武舞爲㆓成功之舞㆒、十一月冬至遂奏㆑之、於㆑時二舞久廢、衆喜㆓於復興㆒、而樂工舞員、雜㆓取教坊㆒以滿㆑之。

【昭德新編】144 セウトクシンペン 書名。三卷。宋、晁迥撰。大旨は人に善行をすすめに在り、その立言は佛氏に根柢を置く。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【昭南】145 セウナン 縣名。漢、置く。山東省舊青州府境。〔漢書、地理志上〕齊郡、縣十二、昭南。

【昭寧】146 セウネイ 後漢、少帝の年號。（189）

【昭熱】147 セウネツ 宋の程覃は京兆尹となつて、治聲は有つたが文字を知らず、照執と書くべきに昭執と書いたので、民が四つの點をもらしたと申すと、更に誤つて執の下に點を加へて昭熱とした故事。〔白獺髓〕程覃、乃文簡公琳之子、京尹日有㆓治聲㆒、唯不㆓甚知㆒㆑字、嘗有㆘道民投㆓詞牒㆒乞㆖執狀造㆖㆑橋、覃大㆓書昭執二字㆒、斯人見㆓其誤㆒、遂白㆑之、合㆓是照執㆒、今是昭執、乃漏㆓四點㆒爾、覃取㆑筆、忽於㆓執字下㆒加㆓四點㆒、乃爲㆓昭熱㆒。

【昭伯】148 セウハク ❶春秋魯、臧賜（9－30083‥33）をいふ。❷春秋魯、子服回（3－6930‥738）の諡。❸字號。㋑後漢、鄧騭（11－39630‥61）の字。㋺三國魏、曹爽（5－14297‥89）の字。

【昭法】149 セウハフ 清、徐枋（4－10110‥251）の字。

【昭範】150 セウハン 唐、王鐸（7－20823‥762）の字。

【昭美】151 セウビ 明かでうるはしい。〔呂覽、論人〕德行昭美、比㆓於日月㆒。

【昭布】152 セウフ 明かにしく。〔韓愈、與㆓孟尙書㆒書〕昭布森列、非㆑可㆑誣也。

【昭武】153 セウブ ❶舞の名。魏の文帝が漢の巴渝舞を改制したもの。〔通典、樂、歷代沿革上〕魏文帝受㆑禪、後改㆓漢巴渝舞㆒、曰㆓昭武舞㆒。❷清初、聖祖仁皇帝の時、吳三桂の僭年號。（1678）❸縣名。㋑漢、置く。甘肅省張掖縣の西北。〔漢書、地理志下〕張掖郡、縣十、昭武。㋺三國吳、置く。福建省邵武縣の西。〔讀史方輿紀要、福建、邵武府、邵武縣〕三國吳、始於㆑此置㆓昭武鎭㆒、永安三年、升㆓昭武縣㆒、屬㆓建安郡㆒。❹複姓。〔隋書、西域傳〕康國者康居之後也、云云、其王本姓溫、月氏人也、舊居㆓祁連山北昭武城㆒、因㆑被㆓匈奴所㆒㆑破、西踰㆓蔥嶺㆒、遂有㆓其國㆒、支庶各分王㆓故康國左右諸國㆒、並以㆓昭武㆒爲㆑姓、示㆑不㆑忘㆑本也。❺諡號。㋑後漢、郭鎭（11－39474‥169）の諡。㋺唐、李抱玉（6－14459‥1850）の諡。❻清、李文纘（6－14459‥1908）の字。

【昭武帝】154 セウブテイ ❶前趙、第三代の帝。劉聰（2－2224‥465）を見よ。❷後燕、第三代の帝。慕客盛（4－11088‥65）を見よ。

【昭武都尉】155 セウブトヰ 清代、正四品の武官が封典を受けた時の稱號。〔清會典事例、兵部、恩賜、封贈〕五十一年諭、云云、正四品原封㆓昭武大夫㆒、今改爲㆓昭武都尉㆒。

【昭文】156 セウブン ❶文を明かにする。〔左氏、桓、二〕火龍黼黻、昭㆓其文㆒也。〔張何、授衣賦〕帶裳表㆑儉、黻冕昭㆑文。❷縣名。清、置く。江蘇省常熟縣の地。〔清史稿、地理志〕江蘇、蘇州府、縣九、昭文。❸字號。㋑唐、王徽（7－20823‥210）の字。㋺宋、周克明（2－3441‥665）の字。㋩明、孔鏞（3－6933‥241）の字。❹南齊、海陵王の名。蕭昭文（9－32012‥434）を見よ。

【昭文館】157 セウブンクワン 館名。唐、神龍元年、門下省內の弘文館を改稱す。〔唐書、百官志二〕神龍元年、改㆓弘文館㆒曰㆓昭文館㆒。〔唐書、劉禕之傳〕劉禕之少與㆓孟利貞・高智周・郭正一㆒、俱以㆓文辭㆒稱、號㆓劉孟高郭㆒、並直㆓昭文館㆒。

【昭文帝】158 セウブンテイ ❶成漢の始祖。李壽（6－14459‥429）を見よ。❷後燕、第四代の帝。慕容熙（4－11088‥56）を見よ。

【昭平】159 セウヘイ ❶縣名。宋、置く。廣西省蒙山縣の東。縣城は桂江の西岸に瀕す。〔讀史方輿紀要、廣西、平樂府〕昭平縣、府南二百二十里、云云、宋宣和六年、改㆑縣曰㆓昭平㆒。〔清史稿、地理志〕廣西、平樂府、縣七、昭平。❷明、王道焜（7－20823‥1892）の字。

【昭平峽】160 セウヘイケフ 峽の名。灘凡そ三百六十。桂林より蒼梧に至る。廣西省昭平縣。

【昭辨】161 セウベン 明かにわきまへる。〔王融、爲㆓竟陵王㆒與㆓隱士劉虯㆒書〕緇林枯而重茂、昭㆓辨空有㆒。

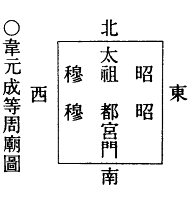
【昭甫】162 セウホ 字號。❶宋、蕭服（9－32012‥243）の字。❷宋、王昌世（7－20823‥1629）の字。❸明、劉子華（2－2224‥961）の字。

【昭輔】163 セウホ 後唐、劉岳（2－2224‥120）の字。

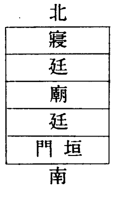
【昭懋】164 セウボウ 明かでさかん。公明盛大。〔宋史、樂志七〕天行徐謚、皇儀昭懋。

【昭穆】165 セウボク 廟の順位の名。古、宗廟の制、太祖の廟は中央に位し、二世・四世・六世は左に列してこれを昭といひ、三世・五世・七世は右に列して、之を穆といひ、廟次は遷るが、昭穆の班は一定して移らない。昭は明で、父を尊んで昭といひ、穆は敬で、子は父を敬すべきであるから穆といふ。一說に、合祭の時、北坐南面して明に向ふから昭といひ、南坐北面して暗に向ふから穆といふ。〔文獻通考、宗廟考〕王者始受㆑命、諸侯始封之君、皆爲㆓太祖㆒、以下五世、而迭毀㆓毀廟之主㆒、藏㆓於太祖㆒、五年而再殷祭。

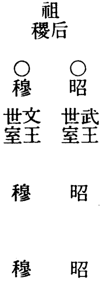
○韋元成王者五廟圖



廟制圖

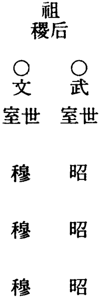


○韋元成等周廟圖



周之所㆓以七廟㆒者、以㆓后稷㆒始封、文王武王受㆑命而王、是以三廟不㆑毀、與㆓親廟四㆒而七。

○劉歆宗無數圖



七者其正法、數可㆓常數㆒者、宗不㆑在㆓此數中㆒、宗變也、苟有㆓功德㆒、則宗㆑之、不㆑可㆓預爲設㆒㆑數、故殷有㆓三宗㆒、周公擧㆑之、以勸㆓成王㆒、由㆑是言㆑之、宗無㆑數也。

〔正字通〕昭、決疑要錄曰、父南面曰㆑昭、明也、子北面曰㆑穆、順也。〔周禮、春官、小宗伯〕辨㆓廟祧之昭穆㆒。〔注〕自㆓始祖之後㆒、父曰㆑昭、子曰㆑穆。〔孫詒讓正義〕云㆘自㆓始祖之後㆒、父曰㆑昭、子曰㆖穆者、漢書韋玄成傳云、禮、王者始受㆑命、諸侯始封之君、皆爲㆓太祖㆒、以下五廟而迭毀、父爲㆑昭、子爲㆑穆、孫復爲㆑昭、古之正禮也、論語八佾皇疏、說㆓禘祫禮㆒云、列㆓諸主㆒在㆓太祖廟堂㆒、太祖之主、在㆓西壁㆒東向、太祖之子爲㆑昭、在㆓太祖之東㆒而南向、太祖之孫爲㆑穆、對㆓太祖之子㆒而北向、以㆑次東陳、在㆑北者曰㆑昭、在㆑南者曰㆑穆、所謂父昭子穆也、昭者、明也、尊㆑父、故曰㆑明也、穆、敬也、子宜㆑敬㆓於父㆒也、賈疏云、周以㆓后稷廟㆒爲㆓始祖㆒、特立㆑廟不㆑毀、卽從㆓不窋㆒已後爲㆑數、不窋爲㆑昭、鞠子爲㆑穆、從㆑此以後、皆父爲㆑昭、子爲㆑穆、至㆓文王十四世㆒、文王第稱㆑穆也、詒讓案、昭穆者、所㆔以辨㆓廟祧之序次㆒、不㆔以㆑此爲㆓尊卑㆒、凡廟及神位、並昭在㆑左、穆在㆑右、故冢人掌㆓公墓㆒云、先王之葬居㆑中、以㆓昭穆㆒爲㆓左右㆒、注云、昭居㆑左、穆居㆑右、廟位與㆓墓位㆒同也、宋史禮志、何洵直議云、古者葬祔以㆓其班㆒、祫以㆓其班㆒、爲㆑尸及賜㆑爵以㆓其班㆒、故昭常爲㆑昭、穆常爲㆑穆、廟次雖㆑遷、昭穆之班、一定不㆑移、左氏載㆓富辰之語㆒曰、管蔡郕霍魯衞毛聃郜雍滕畢原酆郇文之昭也、邘晉應韓武之穆也、宮之奇謂㆓太伯虞仲㆒爲㆓太王之昭㆒、虢仲虢叔、爲㆓王季之穆㆒、夫文王太王、其子對㆑父、皆稱㆑昭、武王王季、其子對㆑父、皆稱㆑穆、其爲㆑子一也、對㆑父或稱㆑昭、或稱㆑穆、知㆔昭穆爲㆓定班㆒、而廟次世次、未㆓始異㆒也、案、何說義據明塙、可㆑爲㆓昭穆之定論㆒矣。〔禮、王制〕天子七廟、三昭三穆、與㆓大祖之廟㆒而七、諸侯五廟、二昭二穆、與㆓大祖之廟㆒而五、大夫三廟、一昭一穆、與㆓大祖之廟㆒而三、士一廟、庶人祭㆓於寢㆒。〔中庸〕宗廟之禮、所㆔以序㆓昭穆㆒也。〔左氏、僖、五〕太伯虞仲、大王之昭也、太伯不㆑從、是以不㆑嗣、虢仲虢叔、王季之穆也。〔會箋〕夫昭穆之名、出㆓於合祭之時、北坐向㆑明、南坐向㆑暗之義㆒。〔國語、楚語下〕宗廟之事、昭穆之世。〔管子、山至數〕三世則昭穆同㆑祖、十世則爲㆑祏。〔文獻通考、宗廟考二〕陳氏禮書曰、廟所㆔以象㆓生之有㆒㆑朝也、寢所㆔以象㆓生之有㆒㆑寢也、建㆓之觀門之內㆒、不㆔敢遠㆓其親㆒也、位㆓之觀門之左㆒、不㆑忍㆑死㆓其親㆒也、家語曰、天子七廟、諸侯五廟、自㆑虞至㆑周之所㆑不㆑變也、是故虞書禋㆓於六宗㆒、以見㆓太祖㆒、周官守祧八人以兼㆓姜嫄之宮㆒、則虞周七廟可㆑知矣、伊尹言七世之廟、商禮也、禮記荀卿穀梁皆言㆓天子七廟㆒、不㆓特周制㆒也、則自㆑虞至㆑周七廟又可㆑知矣、然存㆑親立㆑廟、親親之至恩、祖㆑功宗㆑德、尊尊之大義、古之人思㆓其人㆒而愛㆓其樹㆒、尊㆓其人㆒則敬㆓其位㆒、況廟乎、法施㆓於民㆒則祀㆑之、以㆑勞定㆑國則祀㆑之、況祖宗乎、於㆑是禮以㆑義起、而商之三宗、周之文武、漢之孝文孝武、唐之神堯文皇、其廟皆在㆓三昭三穆之外㆒、歷世不㆑毀、此所謂不遷之廟、非㆑謂㆑祧也、鄭康成之徒、以㆕喪服小記言㆔王者立㆓四廟㆒、則謂周制七廟、文武爲㆓二祧㆒、親廟四而已、則文武不遷之廟在㆓七廟內㆒、是臆說也。

【昭穆尊卑】166（セウボクソンピ） 昭穆の尊卑の關係をいふ。〔後漢書、祭祀志下〕禘之爲㆑言諦、諦㆓提昭穆尊卑之義㆒。

【昭穆倫次】167（セウボクノリンジ） 世代の順次。昭穆倫序に同じ。〔桃花扇、阻奸〕昭穆倫次、立㆓福王㆒亦無㆓大差㆒。

【昭穆倫序】168（セウボクノリンジョ） 昭穆には各〻一定の次序あること。大宗を昭といひ、小宗を穆といふ。〔六部成語、刑部、昭穆倫序、注解〕大宗曰㆑昭、小宗曰㆑穆、各爲㆓次序㆒、不㆑可㆑亂也。

【昭穆相當之姪】169（セウボクサウタウノテツ） 清代、國法上養子となすことをゆるされた者の稱。家に男子がなく、祭祀繼承のために養子を必要とするときは、昭穆の列位に於て、其の子と同列位に在る姪を以て養子となすことをゆるす。〔清會典事例、刑部、戶律、戶役、立㆓嫡子㆒違法〕一、無㆑子者、許㆑令㆓同宗昭穆相當之姪承繼㆒、先儘㆓同父周親㆒、次及㆓大功小功緦麻㆒、如俱無、方許㆘擇㆓立遠房及同姓㆒爲㆖㆑嗣、若立㆑嗣之後、卻生㆑子、其家產與㆓原立子㆒均分、並不㆑許㆘乞㆓養異姓㆒爲㆑嗣、以亂㆗宗族㆖、立㆓同姓㆒者、亦不㆑得㆔尊卑失㆑序、以亂㆓昭穆㆒。

【昭繆】170（セウボク） 昭穆（165）に同じ。〔禮、大傳〕序以㆓昭繆㆒、別㆑之以㆓禮義㆒。〔注〕繆、讀爲㆑穆。〔荀子、王制〕分未㆑定也、則有㆓昭繆㆒也。〔注〕繆、讀爲㆑穆、父昭子穆。

【昭昧】171（セウマイ） あきらかなのとくらいの。明暗。〔鮑照、代㆓君子有㆑所㆑思詩〕智哉衆多士、服㆑理辨㆓昭昧㆒。

【昭夢】172（セウム） 五代閩、徐夤（**4**－10110‥10）の字。

【昭名】173（セウメイ） 明かな名。明かなほまれ。〔淮南子、人閒訓〕有㆓陰德㆒者、必有㆓陽報㆒、有㆓陰行㆒者、必有㆓昭名㆒。

【昭明】174（セウメイ） ❶物事の明かなこと。顯著。昭煥。昭著。〔書、堯典〕百姓昭明、協㆓和萬邦㆒。〔書、康王之誥〕底㆓至齊信㆒、用昭㆓明于天下㆒。〔詩、大雅、既醉〕君子萬年、介㆓爾昭明㆒。〔禮、祭義〕其氣發㆓揚于上㆒、爲㆓昭明焄蒿悽愴㆒。〔左氏、昭、十三〕再會而盟、以顯㆓昭明㆒。〔左氏、昭、三十一〕上之人、能使㆓昭明㆒、善人勸焉、淫人懼焉。〔國語、周語上〕昭㆓明物則㆒、以訓㆑之。〔史記、秦始皇紀〕天下和平、昭㆓明宗廟㆒。❷宮殿の名。吳の孫皓建つ。今、江蘇省江寧縣の地。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕昭明宮、吳志在㆓太初宮東㆒、後主皓甘露二年建、謂㆓之新宮㆒。❸縣名。漢、置く。朝鮮平壤の南。〔漢書、地理志下〕樂浪郡、縣二十五、昭明。❹契の子の名。〔荀子、成相〕契玄王、生㆓昭明㆒。❺梁、蕭統（**9**－32012‥230）の諡。❻明、王應電（**7**－20823‥1216）の字。

【昭明閣】175（セウメイカク） 清、王曇（**7**－20823‥866）の室名。

【昭明星】176（セウメイセイ） 星の名。〔史記、天官書〕昭明星、大而白、無㆑角、乍上乍下、所㆑出國、起㆑兵多變。

【昭明太子】177（セウメイタイシ） 梁、武帝の長子、名は統。生れながらにして聰睿、五歲にしてあまねく五經をよむ。讀書數行並び下り、一たび目をとほせば皆記憶したといふ。東宮の書三萬卷を賢士とともに商榷した。性至孝。中大通元年、卒す。年三十一。著に文選がある。蕭統（**9**－32012‥230）を見よ。

昭明太子
（三才圖會）

【昭明文選】178（セウメイモンゼン） 文選をいふ。文選は梁の昭明太子蕭統が編したから、世に昭明文選といふ。文選（**5**－13450‥618）の❹を見よ。

【昭明靈覺】179（セウメイレイカク） 明らかに知る。明智。〔傳習錄、中〕良知是天理之昭明靈覺處、故良知卽是天理。

【昭明閣內史】180（セウメイカクナイシ） 清、金禮嬴（**11**－40152‥1413）の號。

【昭明太子集】181（セウメイタイシシフ） 書名。梁、昭明太子撰。❶明、汪士賢の二十家集本は五卷。卷首に梁簡文帝の序・上昭明太子集・別傳等表・劉孝綽の序・蕭子範の求撰昭明太子集表がある。其の目は、卷一は賦・古樂府・詩、卷二は詩・贊等、卷三は啓・書、卷四は疏・議・序、卷五は令旨解二

諦義。❷明、張溥の百三名家本は一卷。其の目は、賦・疏・令・書・啓・序・七・贊・傳・議・樂府・詩。附錄に本傳がある。❸四庫提要著錄本は六卷。明、葉紹泰が遺篇を掇拾編輯したもので、賦一卷・雜文五卷がある。〔四庫提要、集、別集類〕。

〘昭明讀書臺〙182 セウメイドクシヨノダイ　江蘇省にある臺の名。二あり。一は江寧縣の鍾山の北高峯の上。一は句容縣の東南。昭明太子が嘗て陶隱居に學び、此處に臺を築いたといふ。〔江寧府志、古蹟考〕昭明讀書臺、一在二蔣山定林寺後北高峯上一、一在二湖熟鎭一、皆昭明讀書處、今遺址尙存。

【昭陽】183 セウヤウ　❶十干の癸の異稱。又、尙章に作る。〔爾雅、釋天〕太歲在レ癸曰二昭陽一。〔淮南子、天文訓〕子在レ癸曰二昭陽一。〔注〕言陽氣始萌、萬物含生、故曰二昭陽一。❷宮殿の名。漢、成帝築く。昭儀趙合德の居た所。昭陽殿。〔班固、西都賦〕昭陽特盛、隆二於孝成一。〔注〕向曰、昭陽殿名、成帝作也。〔張衡、西京賦〕後宮則昭陽飛翔。〔注〕綜曰、皆後宮別名。〔王昌齡、長信秋詞〕玉顏不レ及寒鴉色、猶帶二昭陽日影一來。❸山名。江蘇省興化縣の西。上に昭陽府君廟あり、楚の懷王の令尹昭陽と傳ふ。❹湖の名。又、山陽湖・刁陽湖といひ、今、微山湖といふ。江蘇省沛縣と山東省滕縣との閒。〔讀史方輿紀要、江南、徐州沛縣〕昭陽湖、縣東北八里、卽山陽湖、俗稱二刁陽湖一、鄒滕二縣之水、俱匯二于此一、周二十九里。❺縣名。後漢、置く。故城は湖南省邵陽縣の東南。〔讀史方輿紀要、湖廣、寶慶府、邵陽縣〕昭陽城、後漢析二昭陵縣一、置二昭陽縣一、屬二零陵郡一。❻龜井昱の號。龜井昭陽(**12－48847**・・93)を見よ。

〘昭陽宮〙184 セウヤウキユウ　宮殿の名。清、築く。皇后の御座所。

〘昭陽舍〙185 セウヤウシヤ　❶宮殿の名。昭陽殿に同じ。昭陽の❷を見よ。〔漢書、孝成趙皇后傳〕皇后弟絕幸、爲二昭儀一居二昭陽舍一。〔夜航詩話〕漢書、趙皇后女弟合德絕幸爲二昭儀一、居二昭陽舍一、西京雜記言、皇后女弟在二昭陽殿一、是昭陽爲二合德居處一、但三輔黃圖則云、趙皇后居二昭陽舍一、蓋燕未レ爲レ后時、亦嘗居二昭陽一歟、詩人所レ指專歸二飛燕一、亦猶二高唐雲雨轉訛而循用一也。❷古、禁中にあつたつぼねの名。五舍の一。梨壺。〔日本紀略、五〕安和二年二月十九日、昭陽舍火事。

〘昭陽殿〙186 セウヤウデン　宮殿の名。❶漢、武帝、築く。〔三輔黃圖、三、未央宮〕武帝時、後宮八區、有二昭陽・飛翔・云云等殿一。❷昭陽の❷を見よ。〔杜甫、哀江頭〕昭陽殿裏第一人、同レ輦隨レ君侍二君側一。

〘昭陽殿中人〙187 セウヤウデンチユウノヒト　明、趙麗華(**10－37171**・・944)をいふ。

【昭融】188 セウユウ　長くひかりかがやくさま。光融。〔詩、大雅、既醉〕昭明有レ融、高朗令終。〔傳〕融、長。〔錢珝、史館王相公進二和詩一表〕徒偶二昭融之運一、獲レ聞二雅正之音一。

【昭余】189 セウヨ　古の澤藪の名。昭餘祁(223)を見よ。〔淮南子、墬形訓〕趙之鉅鹿、燕之昭余。〔注〕昭余、今太原郡、是、古者屬レ燕也。

【昭譽】190 セウヨ　宋、陳執中(**11－41698**・・941)の字。

【昭容】191 セウヨウ　❶樂典の名。漢、高祖の六年に作る。〔漢書、禮樂志〕高祖六年、又作二昭容樂一、昭容者、猶二古之昭夏一也、主出二武德舞一。❷女官の名。漢、武帝、置く。南朝にも置かれ、唐には九嬪の一に居る。〔南史、后妃傳序〕昭儀、漢元帝所レ制、昭容、孝武所レ制、昭華、魏明帝所レ制。〔杜甫、紫宸殿退朝口號詩〕戶外昭容紫袖垂、雙二瞻御座一引二朝儀一。〔事物紀原、嬪御命婦部、昭容〕漢孝武所レ置、南朝亦或置レ之、唐以爲二九嬪一。〔琵琶記、丹陛陳レ情〕螭頭陛下、立二著一對妖妖嬈嬈、花容月貌、繡鸞袍、鴛鴦靴的、奉引昭容一。

【昭庸】192 セウヨウ　功有るものを明かにしあらはす。〔國語、周語中〕服物昭庸、采飾顯明。〔注〕庸、功也、冕服旗章、所三以昭二有功一、采色之飾、所三以顯二明德一也。

【昭朗】193 セウラウ　あきらか。〔唐高宗、冊二代王宏一爲二皇太子一文〕器業英遠、風鑒昭朗。

【昭爛】194 セウラン　明かにかがやく。〔後漢書、郞顗傳〕天文昭爛、星辰顯列。

【昭利】195 セウリ　人と物とを利するをいふ。明利。〔國語、楚語上〕明二昭利一、以道二之文一。〔注〕昭、明也、明利、言レ利二人及レ物。

【昭陵】196 セウリヨウ　❶縣名。漢、置く。今湖南省寶慶縣治。〔漢書、地理志下〕長沙國、縣十三、昭陵。❷陵の名。㋑北周、明帝の陵。今、其の地不詳。〔周書、明帝紀〕辛丑崩、五月辛未、葬二於昭陵一。㋺唐、太宗の陵。陝西省醴川縣の東北の九嵕山。〔唐書、高宗紀〕貞觀二十三年、八月庚寅葬二文皇帝於昭陵一。〔醴泉縣志〕昭陵、唐太宗陵也、在二九嵕山一、按二唐書一、貞觀十年十一月庚寅、葬二文德皇后于昭陵一、十一年二月丁巳、營二九嵕山一爲レ陵、則是陵未レ營、而后先葬、陵之營因レ后也、陵有二獻殿一、有二後殿一、有二閟宮一、山巓亦有二游殿一、今俱廢。〔陝西通志〕昭陵、在二醴泉縣東北四十里九嵕山之上一。〔長安志〕陵古蓬蒲村下、宮去レ陵十八里、封內周一百二十里、陪二葬諸王七、公主二十一、妃嬪八、宰相十二、丞郞三品等五十三人、功臣大將軍以下六十四人一、所レ乘六駿石像、在二陵後一。㋩南漢、劉晟の陵。〔五代史、南漢劉晟世家〕廟號二中宗一、陵曰二昭陵一。㊁明、穆宗の陵。河北省昌平縣の大峪山の東。〔明史、穆宗紀〕(隆慶六年)五月庚戌、崩二於乾清宮一、年三十有六、七月丙戌、上二尊謚一、廟號二穆宗一、葬二昭陵一。〔昌平山水記〕昭陵在二大峪山一、距二長陵一西南四里、自二七空橋北一二百許步分、西爲二昭陵一、神路長四里、路有二石橋五空一、德書口水逕焉、又西有二石橋一空一、陵東向、碑亭西有二橋三道一、皆一空、餘如二康陵一、榜曰二昭陵一、碑曰二大明穆宗莊皇帝之陵一、明樓爲二賊所一レ焚樹亡。〔畿輔通志〕昭陵在二昌平州大峪山一。㋭清、太宗の陵。北陵をいふ。滿洲遼寧省瀋陽縣西の隆業山。〔清會典事例、盛京工部、營造、陵寢規制〕太宗文皇帝之陵在二奉天府城西十里一、孝端文皇后祔焉、順治元年、尊稱爲二昭陵一。〔清會典事例、禮部、大祀〕盛京城西北十里、爲二太宗文皇帝陵一、稱二昭陵一。

【昭臨】197 セウリン　明かにのぞむ。〔史記、秦始皇紀〕遂登二之罘一、昭二臨朝陽一。

【昭禮】198 セウレイ　❶禮を明かにする。〔左氏、昭、三〕足二昭レ禮命レ事謀レ闕而已。❷宋、周煇(**2－3441**・・90)の字。

〘昭禮可汗〙198′ セウレイカカン　唐時、回鶻の可汗。名は曷薩特勒。〔唐書、二百十七下〕・〔舊唐書、一百九十五下〕。

【昭靈】199 セウレイ　漢代、宮殿の名。〔漢書、霍光傳〕築二神道一、北臨二昭靈一、南出二承恩一。〔注〕服虔曰、昭靈・承恩、皆館名也、李奇曰、昭靈、高祖母冢園也。

【昭列】200 セウレツ　明かにつらなる。〔王延壽、魯靈光殿賦〕承二明堂於少陽一、昭列顯二於奎之分野一。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文序〕皇塗昭列、神路幽嚴。

【昭烈】201 セウレツ　❶明かないさを。昭々たる功烈。〔魏武帝、表三糜竺一領二嬴郡一文〕偏將軍糜竺、素履二忠貞一、文武昭烈。❷謚號。㋑後魏、蕭正表(**9－32012**・・426)の謚。㋺後漢、劉寬(**2－2224**・・217)の謚。

〘昭烈帝〙202 セウレツテイ　蜀漢の始祖。劉備(**2－2224**・・565)を見よ。

〘昭烈后〙203 セウレツコウ　謚號。❶三國蜀、甘后(**7－21643**・・47)の謚。❷遼、肅祖の后、蕭后の謚。〔遼史、七十一〕。

【昭槤】204 セウレン　清の宗室。號は汲修主人。嘉慶中、禮親王を襲封し、後、事に坐して爵を奪はる。著に嘯亭雜錄がある。

【昭聾】205 セウロウ　明かなことと闇いこと。〔左氏、宣、十四〕鄭昭宋聾。〔注〕昭、明也、聾、闇也。〔國朝漢學師承記、朱均〕凡學術之異同、論說之是非、一見卽能分二黑白一、辨二昭聾一也。

【昭和】206 セウワ　❶天下が明かに和ぎ治まること。〔書、堯典〕百姓昭明、協二和萬邦一。〔傳〕昭亦明也。❷唐、雅樂の一。〔唐書、禮樂志十一〕初祖孝孫已定レ樂、乃曰、大樂與二天地一同レ和者也、製二十二和一、以法二天之成數一、號二大唐雅樂一、一曰二豫和一、二曰二順和一、三曰二永和一、四曰二肅和一、五曰二雍和一、六曰二壽和一、七曰二太和一、八曰二舒和一、九曰二昭和一、十曰二休和一、十一曰二正和一、十二曰二承和一、用二于郊廟朝廷一、以和二人神一。❸第百二十四代の帝謚。又、其の年號。(1926－1989)

【昭王】207 セウワウ　王號。❶周、第四代の王。姬瑕(**3－6230**・・5)を見よ。❷春秋楚の王。芈珍(**9－28428**・・2)を見よ。❸戰國魏の王。姬遬(**3－6230**・・72)を見よ。❹戰國燕の王、名は平。

【昭烏達】208 セウウタツ　地名。昭烏達盟を見よ。

〘昭烏達盟〙209 セウウタツメイ　內蒙古東六盟の一。盟地を昭烏達といふ。翁牛特左翼の境內。敖漢・奈

曼・巴林・札魯特・阿魯科爾沁・翁牛特・克什克騰・喀爾喀左翼の八部が會盟した。皆、熱河省特別區域の北境。〔清會典、理藩院〕凡内札薩克之盟六、各定二其所レ會之地一、三曰昭烏達、同明之旗十有一。〔注〕昭烏達盟地、在二翁牛特左翼旗境内一、敖漢一旗、柰曼一旗、巴林二旗、札魯特二旗、阿嚕科爾沁一旗、翁牛特二旗、克什克騰一旗、喀爾喀左翼一旗。〔清國行政法汎論、藩部、内蒙古之行政區劃〕昭烏達盟 Chao Uda Chogolgān 有二八部十一旗一。

【昭哈河】210（セウカフガ） 河の名。洋河（6－17363・・7）を見よ。

【昭義軍】211（セウギグン） 行政區劃の名。唐、上元の初、昭義節度を相州に置く。河北省大名道の南部・河南省河北道の西部の地を領す。今、河南省安陽縣治。〔讀史方輿紀要、山西〕潞安府、天寶初曰二上黨郡一、乾元初復レ故、尋置二昭義軍節度一、五代梁改二匡義軍一、唐曰二安義軍一、晉復曰二昭義軍一、宋仍爲二潞州一。

【昭惠后】212（セウケイコウ） 南唐、李後主の后、周后（2－3441・・194）の諡。

【昭肅后】213（セウシュクコウ） 金、景祖の后、唐括后（2－3709・・83）の諡。

【昭仁殿】214（セウジンデン） 宮殿の名。北京の舊紫禁城内の乾清宮の左。殿内に宋・金・元・明の舊版の書籍四百部を藏し、天祿琳琅の額を掲ぐ。第二の額に五經萃室とあり、岳珂の刊板の五經を藏す。民國十二年、燬かる。〔清會典事例、工部、宮殿、宮禁之制〕乾清宮、云云、宮之東爲二昭仁殿一、高宗純皇帝、敕二檢内府書善本一、先後排比、列架庋藏、扁曰二天祿琳琅一。

【昭西陵】215（セウセイリョウ） 清、孝莊文皇后の陵の名。河北省遵化縣西北の昌端山。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制〕昭西陵、孝陵、孝東陵、景陵、裕陵、定陵、普祥峪定東陵、惠陵爲二東陵一、在二遵化州昌端山一、云云、孝莊文皇后陵爲二昭西陵一。

【昭成帝】216（セウセイテイ） 帝諡。❶北燕、第二代の帝。馮弘（12－44579・・70）を見よ。❷後魏、什翼犍の諡。拓跋什翼犍（5－11958・・104）を見よ。

【昭聖后】217（セウセイコウ） 金、顯宗の后、劉后（2－2224・・276）の諡。

【昭聖王】218（セウセイワウ） 新羅、第三十九代の王。金俊邕（11－40152・・1298）を見よ。

【昭臺宮】219（セウダイキュウ） 宮殿の名。漢代、宣帝の霍后、成帝の許后の退居した所。陝西省長安縣の西の上林苑中。〔漢書、孝宣霍皇后傳〕五年廢、處二昭臺宮一。〔漢書、孝成許皇后傳〕許后坐廢處二昭臺宮一。

【昭忠祠】220（セウチュウシ） 清代、京師及び直省府縣に均しく昭忠祠を建てて文武官及び兵丁鄕勇を祀つた。文官三品武官二品以上は並に京師の昭忠祠に祭り、兵卒は五十名を一位牌に合はせて祀る。〔清會典事例、工部、廟規制、羣祠〕雍正二年、建二昭忠祠於崇文門内就日坊之西一。

【昭忠錄】221（セウチュウロク） 書名。一卷。撰者未詳。宋末の忠節の事跡を記し、宋史未載のものが多い。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【昭莫多】222（セウバクタ） 地名。清、康熙三十五年、噶爾丹を親征して大いに此處に大捷した。外蒙古土謝圖汗中旗の南、圖拉・搭魯倫二河の間。

【昭餘祁】223（セウヨキ） 古の澤藪の名。山西省祁・平遙・介休等の縣の界。周禮職方氏・漢書地理志は昭餘祁、爾雅・說文は昭宗祁、淮南子は昭余、呂氏春秋は大昭に作る。又、嘔夷の澤、祁藪ともいふ。〔周禮、夏官、職方氏〕正北曰二幷州一、云云、其澤藪曰二昭餘祁一。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、祁縣〕昭餘祁藪、縣東七里、其水久涸、元至元十一年、溪鑿得二細水一、溉レ田乃浸二隍下樹木一、周職方幷州藪曰二昭餘祁一、水經注、侯甲水又西北流徑二祁縣故城南一、自レ縣連延西按二鄔澤一、是爲二祁藪一、卽爾雅所謂昭余祁矣。

【昭夷先生】224（セウイセンセイ） 唐、趙元（10－37171・・150）の私諡。

【昭英皇帝】225（セウエイクワウテイ） 宋、李彝興（6－14459・・834）の諡。

【昭懷劉后】226（セウクワイリウコウ） 宋、劉后（2－2224・・276）の諡。

【昭慈皇后】227（セウジクワウゴウ） 元、太宗后（1－1340・・703）の諡。

【昭慈孟后】228（セウジマウコウ） 宋、孟后（3－6960・・92）の諡。

【昭睿順聖后】229（セウエイジュンセイコウ） 元、世祖后（1－1340・・690）の諡。

【昭憲杜太后】230（セウケントタイコウ） 宋、杜太后（6－14477・・361）の諡。

【昭獻元聖后】231（セウケンゲンセイコウ） 元、順宗后（1－1340・・679）の諡。

【昭氏之鼓レ琴】232（セウシノキンヲコス） 古の音樂家昭氏が琴をひく。成虧の偏見にとらはれること。〔莊子、齊物論〕有二成與レ虧、故昭氏之鼓レ琴也、無二成與レ虧、故昭氏之不レ鼓レ琴也。〔疏〕姓昭、名文、古之善鼓レ琴者也。

【昭若下掲二日月一而行上】233（セウトシテジツゲツヲカカゲテユクガゴトシ） 多くの人にあらはししめして隱藏しないことをいふ。〔莊子、達生〕今汝飾レ知以驚レ愚、修レ身以明レ汙、昭昭乎若下掲二日月一而行上也。

【昜】13856

シヨウ ジユ 〔玉篇〕才用切 宋

さいくをする人。〔玉篇〕昜、功人也。〔字彙〕昜、作工人。

【⿰日犮】13857

タウ トウ 〔集韻〕他刀切 豪

日の色。〔集韻〕⿰日犮、日色也。

【⿰日幼】13858

イウ ユ 〔集韻〕於九切 有

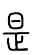
かはくさま。⿰火幼（7－18952）に同じ。〔集韻〕⿰火幼、⿰火幼⿰火丑、欲レ乾、或从レ日。

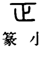
【是】13859

㊀シ ジ 〔集韻〕上紙切 紙 ㄕˋ shih⁴

㊁テイ ダイ 〔集韻〕田黎切 齊

慣ゼ


小篆


籒文

㊀❶**ただしい**。よい。なほい。〔說文〕是、直也、从二日正一。〔釋名、釋言語〕是、嗜也、人嗜二樂之一也。〔易、未濟〕有孚失レ是。〔虞注〕是、正也。〔淮南子、脩務訓〕立レ是廢レ非。〔注〕是、善也。〔說苑、說叢〕是、非之尊也。❷**よいとする**。よいとみとめる。〔荀子、富國〕其所レ是焉誠美。〔漢書、元帝紀〕是レ古非レ今。❸**ただす**。よくする。〔後漢書、安帝紀〕整二齊脫誤一、是二正文字一。❹**をさめる**。〔國語、楚語上〕王弗レ是。〔注〕是、理也。❺**のり**。〔爾雅、釋言〕是、則也。❻**まこと**。〔淮南子、脩務訓〕則貴レ是而同二今古一。〔注〕是、實也。❼**この**。かの。これ。かれ。ここ。かく。指示の代名詞。此（6－16259）に通ず。〔說文通訓定聲〕是、叚借爲レ此。〔廣雅、釋言〕是、此也。〔經傳釋詞、九〕是、猶レ夫也、禮三年問曰、今是大鳥獸、荀子禮論篇、今是作二今夫一、墨子天志篇曰、今是楚王、荀子榮辱篇曰、今是人之口腹、富國篇曰、今是士之生二五穀一也、竝與二今夫一同義、孟子公孫丑篇曰、予豈若二是小丈夫一然哉、是小丈夫、夫小丈夫也。〔論語、學而〕夫子至二於是邦一也。〔孟子、公孫丑上〕無レ是餒也。〔孟子、公孫丑上〕若レ是則弟子之惑、滋甚。〔史記、魯仲連傳〕今其人在レ是。❽**これ**。まことに。語調を強める助辭。〔書、金縢〕若爾三王、是有二丕子之責於天一。〔詩、魯頌、閟宮〕是生二后稷一。❾**ただ**。〔經傳釋詞、九〕是、猶レ祇也、論語爲政篇曰、今之孝者、是謂二能養一、是與レ祇同義。❿**時**（5－13890）に通ず。〔正字通〕是、與レ時通、云云、詩書凡是字皆作レ時、時、與レ是通、時播二百穀一、王肅作レ是、

斂二時五福一、馬融亦作レ是。⓫ここに。そこで。乃ち。接續の助辭。寔（3−7244）に通ず。〔說文通訓定聲〕是、叚借爲レ寔。〔書、禹貢〕桑土既蠶、是降レ邱宅レ土。⓬みる。眡（8−23156）に通ず。〔說文通訓定聲〕是、叚借爲レ眡。〔荀子、解蔽〕是二其庭一可二以搏一レ鼠。〔注〕是、當レ爲レ視。⓭氏（6−17026）に通ず。〔說文通訓定聲〕是、叚借爲レ氏。〔漢書、地理志、氏爲二莊公一、注〕氏、與レ是同、古字通用。⓮籀文は昰（5−13921）に作る。〔說文〕是、昰、籀文是、从二古文正一。⓯姓。〔通志、氏族略、以レ姓爲レ氏〕是氏、本氏氏、齊大夫之後也、吳志、北海是儀、本姓氏、孔融嘲レ之曰、氏者民無レ上、可二改爲一レ是、遂改焉、仕レ吳官至二侍中都亭侯一、又是云氏、改爲二是氏一。⓰現㋑すべて。あらゆる。㋺云云ではあるがしかし。三ふち。さかひ。はし。〔公羊、僖、十六〕是月者何、僅逮二是月一也。〔注〕是、月邊也、魯人語也。〔釋文〕是、如レ字、或一音徒兮反。邦萬葉集で是川を宇治川と訓ず。

名乘 ツナ。ヨシ。コレ。ユキ。

解字 會意。日と正との合字。ただしい。天下のもの日より正しいものはない。直の字が、十目で隱を見る義で、曲を正す意であるのと併せ見るがよい。假借して此・寔等とする。〔說文、是、段注〕十目燭レ隱、則曰レ直、以レ日爲レ正、則曰レ是、从二日正一會意、天下之物、莫レ正二於日一也。

【是啊】1 shih⁴ a 左樣です。其の通りです。左樣。然り。

【是菴】2（シアン） 字號。❶淸、程大中（8−25081··249）の號。❷淸、李因（6−14459··36）の號。

【是以】3（ココヲモツテ コノユヱニ） かやうなわけで。それで。そこで。是の故に。〔論語、公冶長〕子貢問曰、孔文子何以謂二之文一也、子曰、敏而好レ學、不レ恥二下問一、是以謂二之文一也。〔孟子、梁惠王上〕孟子對曰、仲尼之徒無下道二桓文之事一者上、是以後世無レ傳焉。

【是云】4（シウン） 複姓。〔魏書、官氏志〕是云氏後改爲二是氏一。〔通志、氏族略、代北複姓〕是云氏、改爲二是氏一、西魏有二是氏一。

【是應】5（シオウ） 論衡の篇名。

【是荷】6 shih⁴ hê⁴ 幸甚。感謝する。何卒。書翰文用語。

【是家】7（コノイヘ） 此の人といふに同じ。〔漢書、外戚下、趙皇后傳〕是家輕族レ人、得レ無レ不レ敢。〔注〕蘇林曰、是家、謂二成帝一也、不二敢斥一、故言二是家一。〔後漢書、明德馬皇后紀〕帝幸二濯龍中一、並召二諸才人一、請レ呼二皇后一、帝笑曰、是家志不レ好レ樂、雖レ來無レ歡、是以游娛之事、希二嘗從一焉。

【是幸】8 shih⁴ hsing⁴ 幸甚。有り難い。是荷。

【是儀】9（ギシ） 三國、吳の營陵の人。字は子羽。本姓は氏。後、劉繇に依り、江東に避難し、會稽に遷り、尋いで孫權に事へ、機密を掌る。官は尙書僕射に至る。〔三國志、六十二〕。

【是鏡】10（シキヤウ） 淸、陽湖の人。字は仲明。性至孝。聞達を求めず。

【是月】12（シゲツ テイゲツ） ❶日を指定しえない時、この月といふに此の語を用ひる。公羊傳は月盡と解し、何注は月邊と解し魯人の語といふ。これは公羊家の一種の古義で、左傳・穀梁傳にはともに見えない。提月（5−12344··54）を見よ。〔公羊、僖、十六〕是月六鷁退飛過二宋都一、云云、是月者何、僅逮二是月一也、何以不レ日、晦日也、晦則何以不レ言、春秋不レ書レ晦也、朔有レ事則書、晦雖レ有レ事不レ書。〔注〕是、月邊也、魯人語也。〔釋文〕是月、如レ字、一音徒兮反。❷此の月。〔禮、月令〕是月也、以二立春一、先二立春一三日、大史謁二之天子一曰、某日立春、盛德在レ木。

【是古】13（コセ） 古をよしとして今を非とすること。〔漢書、元帝紀〕且俗儒不レ達二時宜一、好是レ古非レ今、使三人眩二於名實一、不レ知レ所レ守、何足二委任一。〔劉歆、移二書讓太常博士一〕陵夷至二于暴秦一、焚二經書一殺二儒士一、設二挾書之法一、行二是古之罪一。

【是故】14（コノユヱニ） そこで。それで。だから。是以。〔大學〕湯之盤銘曰、苟日新、日日新、又日新、康誥曰、作二新民一、詩曰、周雖二舊邦一、其命維新、是故君子無レ所レ不レ用二其極一。〔論語、先進〕子路使三子羔爲二費宰一、子曰、賊二夫人之子一、子路曰、有二民人一焉、有二社稷一焉、何必讀レ書然後爲レ學、子曰、是故惡二夫佞者一。

【是歲】15（コトシ） 此の年。後から前を承けていふ。〔左氏、僖、十五〕是歲晉亦饑。〔蘇軾、後赤壁賦〕是歲十月之望。

【是齋】16（シサイ） 字號。❶宋、葉夢得（貴溪の人）（9−31387··271）の號。❷宋、王信（7−20823··622）の號。❸淸、兪瑅（1−1437··58）の號。

【是際】17（コノサイ） ❶此のあたり。〔大八洲記、吉野紀行〕是際櫻樹極多。❷此の時。

【是字】18（ジシ） 返事の「はい」に同じ。〔紅樓夢、三回〕邢氏夫人答應了一聲是字。

【是時】19（ジシ） 此の時。〔孟子、萬章上〕是時孔子當レ阨。〔元田永孚、幼學綱要序〕於二是時一、先教レ之以二仁義忠孝之道一。

【是定】20（ゼヂヤウ） 古、敍位の時に其の氏人の敍爵、特に橘氏の敍爵の事を申請する人。是は氏の義。〔江次第抄、二、敍位〕敍二橘氏一、是定者中納言橘澄淸、以二中關白一爲二是定一、令レ知二學館院學士事一、以來氏爵也。

【是是】21（ゼゼ セセ） ❶よいことをよいとする。是是非非を見よ。❷shih⁴ shih⁴ はいはい。然り。

〖是是非非〗22（ゼゼヒヒ） 是を是とし非を非とす。❶善い事を善いとし、惡い事を惡いとして道理に違はない。〔荀子、脩身〕是レ是非レ非、謂二之智一、非レ是是レ非、謂二之愚一。〔注〕能辨レ是爲レ是、非爲レ非、謂二之智一也。〔論衡、荅佞〕是レ是非レ非、實名倶立。❷定見のないこと。

【是正】23（ゼセイ） ただす。ただしなほす。誤否を審かにして校正する。諟正。〔後漢書、安帝紀〕整二齊脫誤一、是二正文字一。〔後漢書、劉陶傳〕推二三家尙書及古文一、是二正文字一、七百餘事。〔後漢書、劉珍傳〕整二齊脫誤一、是二正文字一。

【是體】24（コレテイ） このやうなさま。又、これしき。〔太平記、五〕是體のものこそ怪しけれ、あの大般若の櫃を開て見よとて、云云。

【是鱁】25（シチク） 海豚の異名。〔爾雅、釋魚〕鱀、是鱁。〔疏〕鱀、一名是鱁、鯌之屬也。

【是的】26 shih⁴ tê 左樣です。其の通りです。

【是奴】27（ドシ） 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕是奴氏、改爲二是氏一。

【是認】28（ゼニン） よいとみとめる。承知する。首肯する。ゆるす。又、其のこと。否認に對す。

【是否】29（ヒゼ） ❶是と否。善と惡。〔書、泰誓上〕有レ罪無レ罪、予曷敢有レ越二厥志一。〔傳〕言、己志欲レ爲レ民除レ惡、是與レ否、不三敢遠二其志一。❷shih⁴ fou³ 是か否か。然るや否や。

【是非】30（ヒゼ） ❶善と惡。正と不正。〔禮、曲禮上〕別二同異一、明二是非一。〔荀子、不苟〕推二禮義之統一、分二是非之分一。〔列子、仲尼〕心不三敢念二是非一。〔管子、君臣下〕是非之分、則賞罰行矣。〔史記、太史公自序〕明二是非一、定二猶豫一。❷善惡ともに。善かれ惡しかれ。なにとぞ。必ず。❸shih⁴ fei¹ もめごと。いざこざ。

〖是非波〗31（ゼヒノハ） いざこざ。もめごと。〔潘閬、詩〕紅塵三尺險、中有二是非波一。

〖是非之竟〗32（ゼヒノサカヒ） 善惡の區別。〔莊子、秋水〕且夫知不レ知二是非之竟一、而猶欲レ觀二於莊子之言一。

〖是非之彰〗33（ゼヒノアラハレ） 善い惡いのあらはれ。〔莊子、齊物論〕是非之彰也、道之所二以虧一也。

〖是非之心〗34（ゼヒノココロ） ❶善をよいとし惡をわるいとする心。善惡を辨別する本性。〔孟子、公孫丑上〕無二是非之心一非レ人也。〔孟子、公孫丑上〕是非之心、智之端也。〔孟子、告子上〕是非之心、人皆有レ之。❷世の出來事について、やたらによしあしと氣をもむ心。〔白居易、詠懷詩〕面上滅除憂喜色、胸中消盡是非心。

〖是非之塗〗35（ゼヒノト） 善い惡いのみち。〔莊子、齊物論〕仁義之端、是非之塗、樊然殽亂。

〖是非相閒〗36（ゼヒアヒカンス） 善と惡とがまじりあふ。〔白虎通、諫諍〕是非相閒、革二更其行一也。

〖是非頗謬〗37（ゼヒスコブルアヤマル） 事の善惡が甚だしく違ふこと。〔漢書、司馬遷傳贊〕又其是非頗謬二於聖人一、論二大道一則先二黃老一而後二六經一、序二遊俠一則退二處士一而進二姦雄一、述二貨殖一則崇二勢利一而羞二賤貧一、此其所レ蔽也。

〖是非之宗也〗38（ゼヒノソウナリ） 善い惡いを見分けるもと。〔呂覽、離謂〕理也者、是非之宗也。

〖是非不レ可レ爲レ分〗39（ゼヒハワカツコトヲナスベカラズ） 是非は一々

わけられない。〔莊子、秋水〕知二是非之不一レ可レ爲レ分、細大之不レ可レ爲レ倪。

【是非不レ得二於身一】40（ゼヒミニエズ） 善い惡いの區別が自分の身につかない。人情を超越すること。〔莊子、德充符〕無二人之情一、故是非不レ得二於身一。

【是非只爲二多開一レ口】41（ゼヒハタダオホククチヲヒラクガタメナリ） もめごとはすべて多言から起る。〔事林廣記〕是非只爲二多開一レ口、煩惱皆因二強出一レ頭。

【是孚】42（ゼフ） よしとして信ずる。孚は信。〔書、君奭〕若二卜筮一、罔レ不二是孚一。〔傳〕如二卜筮一無レ不二是而信一レ之。

【是賁】43（シホン） 複姓。〔魏書、官氏志〕是賁氏、後改爲二封氏一。

【是麼】44 shih⁴ ma さうですか。

【是也】45 shih⁴ yeh³ 尤もである。然り。其の通り。

【是用】46（ココヲモツテ） 是以(3)に同じ。〔論語、公冶長〕子曰、伯夷叔齊、不レ念二舊惡一、怨是用希。

【是用不レ集】47（ココヲモツテナラズ） このゆゑにできあがらない。〔詩、小雅、小旻〕謀夫孔多、是用不レ集。〔左氏、襄、八〕子駟曰、詩云、謀夫孔多、是用不レ集。〔注〕集、就也。

【是婁】48（シル） 複姓。〔魏書、官氏志〕是婁氏、改爲二高氏一。

【是了】49 shih⁴ la 然り。宜しい。

【是連】50（シレン） 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕是連氏、自二代北一隨レ魏南徙。

【以レ是】51（コレヲモツテ） これをもつて。〔孟子、萬章下〕曰、卻レ之、卻レ之爲二不恭一、何哉、曰、尊者賜レ之、曰二其所レ取レ之者、義乎不義乎一、而後受レ之、以レ是爲二不恭一、故弗レ卻也。

【由レ是】52（コレニヨル） これによつて。〔孟子、告子上〕由レ是則生、而有レ不レ用也、由レ是則可二以辟一レ患、而有レ不レ爲也。

【由レ是觀レ之】53（コレニヨリテコレヲミル） 上文を承けて其の判斷を述べる辭。由レ此觀レ之(6－16259‥54)に同じ。〔孟子、公孫丑上〕由レ是觀レ之、無二惻隱之心一非レ人也、無二羞惡之心一非レ人也、無二辭讓之心一非レ人也、無二是非之心一非レ人也。〔孟子、滕文公下〕由レ是觀レ之、則君子之所レ養可レ知已矣。〔莊子、繕性〕由レ是觀レ之、世喪レ道矣、道喪レ世矣。

【於レ是】54（ココニオイテ） ❶ここにおいてする。〔論語、里仁〕造次必於レ是、顚沛必於レ是。❷この時に及んで。そこで。〔孟子、離婁下〕逢蒙學二射於羿一、盡二羿之道一、思二天下惟羿爲一レ愈レ己、於レ是殺レ羿、孟子曰、是亦羿有レ罪焉、公明儀曰、宜レ若レ無レ罪焉、曰、薄乎云爾、惡得レ無レ罪。

【如レ是】55（カクノゴトシ） かやうである。このとほりである。如レ此。如レ斯。〔朱熹、中庸章句序〕而舜復益レ之以二三言一者、所四以明三夫堯之一言、必如レ是而後可二庶幾一。

【先レ是】56（コレヨリサキ） 以前に。嘗て。〔南史、齊武帝紀〕先レ是、立二商飆館於孫陵岡一。

【是程堂】57（シテイダウ） 清、屠倬(4－7761‥53)の室名。

【是勿兒】58（シコツジ） 何。如何した。什麼の對音。〔因話錄〕玄宗問二黃幡綽是勿兒得一レ憐、對曰、自家兒得二人憐一。〔注〕是勿兒、猶レ言二何兒一也。

【是不是】59 shih⁴ pu shih ❶さうではありませんか。さうでせう。❷そらごらんなさい。

【是不是的】60 shih⁴ pu shih tê ❶容易に云云出來ない。❷何かにつけて。とかく。

【是類謀】61（シルイボウ） 書名。凡そ一卷。易緯の一種。通體は韻語で文を成し、多く禨祥や推驗のことをいふ。乾鑿度の引く所と相發明してゐる。

【是亦因レ彼】62（コレマタカレニヨル） 是もやはり彼に原因してゐる。〔莊子、齊物論〕彼出二於是一、是亦因レ彼。

【是生滅法】63（ゼシヤウメツボフ） ［佛］雪山偈の第二句。諸行無常(10－35743‥69)を見よ。〔涅槃經、十四〕諸行無常、是生滅法。

【是長會的】64 shih⁴ ch'ang² huei⁴ tê 久し振り。〔紅樓夢、六回〕今日大遠的特來請安、當日太太是長會的。

【是父是子】65（コノチチニシテコノコアリ） 父子揃つて立派なことをいふ。〔書言故事、父母類〕稱二人父子一云二是父是子一。

【是耶非耶】66（ゼカヒカ） 是非にまよふこと。是非がよくわからないで疑ふことば。〔史記、伯夷傳〕儻所謂天道、是耶非耶。

【因レ是因レ非】67（ゼニヨリヒニヨル） 相對的な狹い一個の見解に捕はれて互ひに是非の論爭をすること。〔莊子、齊物論〕因レ是因レ非、是以聖人不レ由、而照二之于天一、亦因レ是也、是亦彼也、彼亦是也、彼亦一是非、此亦一是非矣。

【有二是父一斯有二是子一】68（コノチチアリテココニコノコアリ） 父子共に優れてゐることをいふ。〔通俗編、倫常、有二是父一斯有二是子一〕孔叢子、居衞篇、子思曰、有二此父一斯有二此子一、道之常也。

【不二是冤家一不二聚頭一】69（コレエンカナラザレバシユウトウセズ） かたき同志は出會ふもの。〔紅樓夢、二十九回〕眞俗語說的不二是冤家一不二聚頭一。

【不二是花中偏愛一レ菊】70（コレクワチユウヒトヘニキクヲアイスルニアラズ） 他に花がないから菊花をめでるのであつて、此の花だけを愛するのではない。〔元稹、菊花詩〕秋叢繞レ舍似二陶家一、遍繞二籬邊一日漸斜、不三是花中偏愛二レ菊、此花開盡更無レ花。

【是而非レ之非而是レ之猶レ非也】71（ゼニシテコレヲヒトシヒニシテコレヲゼトスルハナホヒナルガゴトシ） 善いものを惡いとし、惡いものを善いとすることは、惡いことである。〔晏子、不合經術者〕嬰聞レ之、是而非レ之、非而是レ之、猶レ非也、孔丘必據二處此一心一矣。

【昰】
13860

［一］ゼ ［二］カ ［一］是(5－13859)の本字。〔正字通〕是、本作レ昰。［二］夏(3－5720)の古字。〔集韻〕夏、古作レ昰。

【昖】
13861

エン 〔玉篇〕以專切 ［先］

日がめぐる。〔玉篇〕昖、日行也。

【昱】
13862

キク 〔集韻〕余六切 ㄩˋ yü⁴ ［屋］

［慣］イク

小篆

あきらか。かがやく。〔說文〕昱、日明也、从レ日立聲。〔廣韻〕昱、日光。〔太玄經、玄告〕日以昱二乎晝一、月以昱二乎夜一。

【昱昱】1（イクイク） 光りかがやくさま。燿燿。〔傅玄、紫華賦〕渙渙昱昱、而奪二人目精一。

【昱耀】2（イクエウ） 明かにかがやく。〔梁武帝、鳳臺曲〕羽衣昱耀、春吹去復留。

【昱奕】3（イクエキ） 明かにかがやく。昱耀。〔謝靈運、長歌行〕倏爍夕星流、昱奕朝露團。

【昱嶺】4（イクレイ） 山名。浙江省昌化縣の西。山勢險峻にして皖に入る要道。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府、昌化縣〕昱嶺山、縣西七十里、高七十五丈、山勢險阻、介二于徽杭兩州閒一。

【昲】
13863

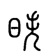
［一］ヒ 〔集韻〕芳未切 ［未］
［二］ヒ 〔集韻〕芳微切 ［微］
［三］フン 〔集韻〕芳問切 ［問］
［四］フツ フチ 〔集韻〕敷勿切 ［物］
［五］ハツ ハチ 〔集韻〕普活切 ［曷］

［一］［二］［三］［四］❶**さらす**。ほす。かわかす。〔方言、十〕昲、乾レ物也、揚楚通語也。〔廣雅、釋詁二〕昲、曝也。〔列子、周穆王〕酒未レ清、肴未レ昲。❷**かがやくさま**。〔集韻〕昲、日光皃。❸**物のさま**。昲悅(1)を見よ。［五］**ひかり**。〔集韻〕昲、光也。

【昲悅】1（エフツ） さかんなさま。拂鬱(5－11936‥3)に同じ。〔陸雲、南征賦〕曜靈翕赫以增レ熾、憤氣昲悅而淩レ煙。

【昳】
13864

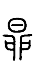
［一］テツ デチ 〔集韻〕徒結切 ㄉㄧㄝˋ tieh⁴ ［屑］
［二］イツ


小篆

［一］❶**かたむく**。日がかたむく。〔說文新附〕昳、日昃也、从レ日失聲。〔徐灝注箋〕昳・跌古通、言二日蹉跌而下一也。❷**ひるすぎ**。午後二時頃。〔書、無逸、自レ朝至二于日中昃一、疏〕昃亦名レ昳、言二

日蹉跌而下一、謂二未時一也。〔呉越春秋、句踐入臣外傳〕時加二日昳一。〔注〕昳、日昃也、梁元帝纂要、日在レ未曰レ昳。㊂跌（10－37450）に通ず。〔史記、天官書〕食至二日昳一爲レ稷。〔漢書、天文志〕食至二日昳一爲レ稷。㈡**すぎる。すぐれる。**逸（11－38951）に通ず。〔戰國、齊策〕鄒忌、修八尺有餘、而形貌昳麗。〔注〕昳、讀曰レ逸、美好也。

【昴】 13865


小篆

㈠バウ メウ 〔集韻〕莫飽切 ㄇㄠˇ mao^3 巧

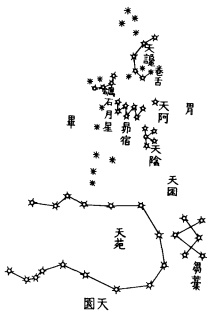
㈡バウ メウ 〔集韻〕謨交切 肴

㈢リウ ル 〔集韻〕力求切 尤

㈠㈡㈢**星宿の名。すばる。**二十八宿の一。もと昴（5－13964）に作る。〔正字通〕昴、昴本字。〔説文〕昴、白虎宿星、从レ日丣聲。〔爾雅、釋天〕大梁、昴也、西陸、昴也。〔注〕昴、西方之宿、別名二旄頭一。〔書、堯典〕日短星昴。〔傳〕昴、白虎之中星。

【昴降】1 バウカウ 緯書に漢の蕭何を昴星の精としたことから、貴顯の人の生れるに用ひる語。〔春秋緯佐助期〕漢將蕭何、昴星生二於豐一、通二於制度一。〔韋莊、饒州餘干縣琵琶州云云感レ舊因以和吟詩〕已覺地靈因二昴降一、更聞川媚有二珠生一。

【昴宿】2 バウシウ バウシユク 二十八宿の一。白虎七宿の第四宿。すばる。牡牛座の散開星團プレアデスをいふ。肉眼では六箇乃至十四箇見え、寫眞には二千箇以上感光する。昴星・二十八宿（1－247・・49）を見よ。〔書、堯典〕日短星昴、以正二仲冬一。〔爾雅、釋天〕大梁、昴也、西陸、昴也。〔史記、天官書〕昴曰二髦頭一、胡星也、爲二白衣會一。



昴宿（新法暦書）

【昴星】3 バウセイ 二十八宿の一。すばる。昴宿（2）を見よ。〔晉書、天文志七〕昴七星、天之耳也、主二西方一、主二獄事一。〔和名抄、天地部、景宿類〕昴星、宿耀經云、昴六星火神也。

【昴畢】4 バウヒツ 昴宿と畢宿とをいひ、冀州の分野にあたる。又、國境の守兵・獄事・天網とする。〔史記、天官書〕昴畢閒爲二天街一。〔漢書、地理志下〕趙地昴畢之分野。〔後漢書、天文志中〕昴畢爲二邊兵一、又爲二獄事一。〔蜀志、先主劉備傳〕昴畢爲二天網一、經曰、帝星處レ之、衆邪消亡。

【昴靈】5 バウレイ 昴星の精靈。漢の蕭何をいふ。昴降（1）を見よ。〔王儉、褚淵碑文〕辰精感レ運、昴靈發レ祥。〔注〕向曰、蕭何稟二昴星一而生。

【昵】 13866

㈠ヂツ ニチ 〔集韻〕尼質切 ㄋㄧˋ nì 質

㈡ジツ ニチ 〔集韻〕入質切 質

㈢デイ ナイ 〔集韻〕乃禮切 薺

㈣シヨク シキ 〔集韻〕質力切 職

㈠㈡㊀**ちかづく。**なれる。したしむ。暱（5－14132）に同じ。〔説文〕暱、日近也、从レ日匿聲、春秋傳曰、私降暱燕、昵、或从レ尼作。〔書、泰誓中〕昵二比罪人一。〔疏〕昵、親切也。㊁**ちかづき。**おもひもの。幸愛親近するもの。〔書、説命〕官不レ及二私昵一。㈢**なき父。**先考。亡父のたまや。〔書、高宗肜日〕典祀無レ豐二于昵一。〔傳〕昵、近也。〔釋文〕司馬云、昵、考也、謂二禰廟一也。㈣㊀**のり。ねばり。**䵒（12－47997）に通ず。〔説文通訓定聲〕昵、叚借爲レ䵒。〔周禮、考工記、弓人〕凡昵之類、不レ能レ方。〔注〕鄭司農云、謂二膠善戾一。㊁**すみやか。**亟（1－279）に通ず。〔説文通訓定聲〕昵、叚借爲レ亟。〔爾雅、釋言〕暱、亟也。

名乘 チカ。

參考 暱（5－14132）を併せ見よ。

【昵愛】1 ヂツアイ なれちかづき愛する。暱愛。〔謝惠連、七月七日夜詠二牛女一詩〕遐川阻二昵愛一、脩渚曠二清容一。

【昵友】2 ヂツイウ 親しい友。〔傅咸、芸香賦〕擕二昵友一以消搖兮、覽二偉草之敷英一。

【昵宴】3 ヂツエン 近親の人々と聲樂飲食すること。〔左氏、昭、二十五〕君若以二社稷之故一、私降二昵宴一、羣臣弗二敢知一。〔注〕昵、近也、降二昵宴一、謂レ損二親近聲樂飲食之事一也。

【昵交】4 ヂツカウ したしみなれた友人。最も親しい友達。暱交。〔陸機、歎逝賦序〕昵交密友、亦不二半在一。〔注〕善曰、爾雅曰、昵、近也、孫林曰、親レ之近也。

【昵狎】5 ヂツカフ なれしたしむ。〔北史、齊幼主恆紀〕自レ非二寵私昵狎一、未二嘗交一レ語。

【昵戲】6 ヂツギ ちかづきたはむれる。〔南史、蔡興宗傳〕蔡尚書常免二昵戲一。

【昵近】7 ヂツキン 親しみちかづく。なじむ。又、其の人。暱近。〔韓非子、難言〕上古有二湯至聖、伊尹至智一也、夫至智説二至聖一、然且七十説而不レ受、身執二鼎俎一爲二庖宰一、昵近習親、而湯乃僅知二其賢一而用レ之。〔北齊書、安德王延宗傳〕武成使レ撻レ之、殺二其昵近九人一。

『昵近衆』8 ヂツキンシユウ 貴人の側にめしつかはれるもの。御近侍。

【昵眷】9 ヂツケン 親しんで目をかける。〔北史、陸昕之傳〕孝文以二其主壻一、特垂二昵眷一。

【昵懇】10 ヂツコン 親しい。心やすい。懇意。

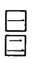
【昵道】11 ヂツダウ 近い道。〔墨子、備城門〕昵道近蹊。〔閒詁〕昵・近義同。

【昵藩】12 ヂツバン 王室に深いしたしみある諸侯。最も親しい藩封。又、其の國。〔十六國春秋〕晉王明德昵藩、先帝所レ屬。

【昵比】13 ヂツピ したしみちかづく。〔書、泰誓中〕播二棄犂老一、昵二比罪人一。〔傳〕昵二近罪人一。

【昵附】14 ヂツプ ちかづく。〔列女傳、辯通、齊威虞姬傳〕侍二明王之讌一、昵附王著。

【昶】 13867


小篆

㈠チヤウ 〔集韻〕丑兩切 養

㈡チヤウ 〔集韻〕丑亮切 漾

㈠㈡㊀**ながい。**久しい。日が長い。〔説文新附〕昶、日長也、从二日永一、會意。㊁**とほる。**〔廣雅、釋詁一〕昶、通也。〔嵆康、琴賦〕固以和昶而足レ耽矣。〔注〕善曰、廣雅曰、昶、通也。㊂**のびる。**〔廣韻〕昶、舒也。㊃**あきらか。**〔廣韻〕昶、明也。㊄**およぶ。**〔集韻〕昶、逮也。㊅**おんみら。**南詔で、王が卿に對していふ。〔唐書、南蠻傳上〕南詔、云云、王自稱曰レ元、猶レ朕也、謂二其下一曰レ昶、猶二卿爾一也。㊆暢（5－14095）に通ず。〔嵆康、琴賦〕雅二昶唐堯一。〔注〕善曰、昶、與レ暢同也。

名乘 トホ。

解字 會意。日と永との合字。日がながい。假借して暢と通ずる。暢は暘の俗字。

【昶衍】1 チヤウエン 蜀主孟昶と王衍。〔蘇軾、入レ峽詩〕遺民悲二昶衍一、舊俗接二魚鼉一。

【⿱日永】 13868

チヤウ 昶（5－13867）に同じ。〔字彙補〕⿱日永、同レ昶。〔宋史新編、世家敍〕江南則李煜、西蜀則孟⿱日永。

【昹】 13869

アイ 〔金鏡〕音藹 泰

星の名。〔金鏡〕昹、星名。

【昷】 13870 ヲン 𥁕(8−22978)に同じ。〔廣韻〕𥁕、今作㆑昷、同。

【⿱日冋】 13871 ケイ キヤウ 〔篇海〕古熒切 靑

あきらか。〔篇海〕⿱日冋、明也。

【⿱日干】 13872 サウ 早(5−13742)の本字。〔康熙字典〕早、說文作㆑⿱日干。

【⿰日半】 13873 音未詳 ⿰日半怯は、川の名。〔字彙補〕⿰日半、⿰日半怯、水名也、其水濯㆑之能腐㆑手、見㆓佛經㆒、音未㆑詳。

【⿱日冬】 13874 トウ 冬(2−1610)に同じ。〔字彙補〕⿱日冬、與㆑冬同。

【⿰日冬】 13875 トウ 冬(2−1610)に同じ。〔篇韻〕⿰日冬、同㆑冬。

【曺】 13876 サク 曹(5−14296)の譌字。〔康熙字典〕曺、按、卽曹字之譌。

【⿱冊日】 13877 サク シヤク 〔篇海類編〕楚革切 陌

告げる。〔篇海類編〕⿱冊日、告也。

【⿱夗日】 13878 音義未詳 〔字彙補〕⿱夗日、見㆓金光明經㆒。

【旾】 13879 シユン 春(5−13844)に同じ。〔龍龕手鑑〕旾、同㆑春。

【⿰日戉】 13880 クワツ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰日戉、音豁。

【⿰日尔】 13881 シン 昣(5−13842)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰日尔、同㆑昣。

【⿰日去】 13882 キヨ 義未詳。〔海篇〕⿰日去、音去。

【⿱丆日】 13883 ミツ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱丆日、音密。

【⿱日儿】 13884 テイ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱日儿、音頂。

【昻】 13885 カウ 昂(5−13783)の俗字。〔篇海〕昂、俗作㆑昻譌。

【昼】 13886 チウ 晝(5−13948)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕晝、通俗小說作㆑昼。

六畫

【⿰日戉】 13887 キツ キチ 〔集韻〕休必切 質

はやい。すみやか。〔集韻〕⿰日戉、急速。

【晀】 13888 テウ 〔篇韻〕他了切 篠

あきらか。〔篇韻〕晀、明也。

【晁】 13889 ㊀テウ デウ 〔集韻〕馳遙切 蕭 ㄔㄠˊ ch'ao² ㊁テウ デウ 〔集韻〕直紹切 篠

㊀**蟲の名。又、姓。** 鼂(12−48274)・朝(5−14374)に同じ。〔集韻〕鼂、說文、匽鼂也、揚雄說、匽鼂、蟲名、杜林以爲㆓朝旦㆒、非㆑是、或作㆑晁、亦姓。〔漢書、景帝紀〕御史大夫晁錯。〔注〕師古曰、晁、古朝字。〔司馬相如、上林賦〕晁采琬琰。〔注〕晁、五臣作㆑朝。〔通志、氏族略〕以㆑名爲㆑氏、晁氏亦作㆑朝、亦作㆑鼂、姬姓、周景王子王子朝之後、朝亦作㆑晁、一云、衞大夫史晁之後、望出㆓潁川京兆㆒。㊁晁陽は、縣名。〔集韻〕晁、晁陽、縣名、在㆓東陽㆒。

【晁菴】1 テウアン 明、胡廣(9−29400‥100)の號。

【晁懿】2 テウイ 後魏の人。崇の弟。北人の語を善くす。官は黃門侍郞。其の家奴に懿反すと告げられ死を賜はる。〔魏書、九十一〕。

【晁迥】3 テウケイ 宋、淸豐の人。字は明遠。諡は文元。太平興國の進士。官は眞宗の時、工部尙書・集賢院學士。後、太子少保を以て致仕す。詩をよくし、西崑體に通じ、又、吐納養生の術を善くす。書室を養素園といふ。著に翰林集・道院集・法藏碎金集・耆智餘書等がある。〔宋史、三百五〕。

【晁卿】4 テウケイ 安倍仲麻呂の唐名。晁は朝と同じ。〔李白、哭㆓朝卿衡㆒詩〕日本晁卿辭㆓帝都㆒、征帆一片遶㆓蓬壺㆒。

【晁顯】5 テウケン 元、巢の人。一に鄆城の人に作る。字は顯卿。諡は淸默。官は兵部尙書。

【晁采】6 テウサイ ❶玉の名。鼂采。〔司馬相如、上林賦〕晁采琬琰、和氏出焉。〔注〕善曰、司馬彪曰、晁采、玉名。❷唐、大曆中の女子。小字は試鶯。文才あり。室を窺雲室、館を期雲館といふ。

【晁崇】7 テウスウ 後魏、襄平の人。字は子業。家世〻史官。天文術數を善くし、道武の時、官は太史令・中書侍郞。後、其の家奴に謀反すと告げられ、死を賜はる。〔魏書、九十一〕・〔北史、八十九〕。

【晁淸】8 テウセイ 後魏、遼東の人。諡は忠。潁川公を嗣ぎ、梁城の戍將となる。梁師と戰ひ、節に死す。宣武帝の時、樂陵太守を贈らる。〔魏書、八十七〕・〔北史、八十五〕。

【晁錯】9 テウソ ❶鹽鐵論の篇名。❷漢の人。鼂錯(12−48274‥5)を見よ。

【晁瑮】10 テウリツ 明、開州の人。字は君石。號は春陵。嘉靖の進士。官は國子監司業。藏書を好む。書室を寶文堂といふ。著に寶文堂書目がある。〔本朝分省人物攷、十〕。

【晁維岳】11 テウヰガク 宋、穰の人。字は仲賢。官は朝奉郞。

【晁詠之】12 テウエイシ 宋の人。補之の從弟。字は之道。蘇軾其の詩文を稱す。進士に擧げられ、河中教授となる。元豐の末、詔に應じて事を論じ、官を罷めらる。後、官は提點崇福宮に至る。著に文集がある。〔宋史、四百四十四〕。

【晁貫之】13 テウクワンシ 宋の人。說之と兄弟の排行に當る。字は季一。官は嘗つて檢討となる。墨を好み、よく和膠の法に精究し、其の製作は皆犀璧の如し。著に墨經がある。〔四庫提要、一百十五〕。

【晁謙之】14 テウケンシ 宋、澶州の人。字は恭道。官は敷文閣直學士。

【晁公遡】15 テウコウサク 宋の人。公武の弟。字は子西。號は嵩山居士。紹興の進士。其の文は雄深にして雅健。名を一時に擅にす。官は朝奉大夫。著に嵩山居士集がある。〔四庫提要、一百五十八〕。

【晁公武】16 テウコウブ 宋、鉅野の人。字は子止。號は昭德。紹興の進士。官は初、四川の總財賦司。乾道中、敷文閣直學士を以て臨安府少尹となる。良吏の稱あり。著に昭德文集・昭德易詁訓傳・郡齋讀書志がある。〔四庫提要、八十五〕。

【晁公邁】17 テウコウマイ 宋の人。詠之の末子。字は伯皐。號は傳密居士。官は開封府刑曹。

【晁子眞】18 テウシシン 宋の人。詠の孫。字は點仲。號は

清谷居士。爵、迪功郎を賜はる。

【晁說之】19（テウエツシ）　宋の人。端彦の子。字は以道。號は景迂生。司馬光の人となりを慕ひ、自ら景迂と號す。元豐の進士。蘇軾に著述科を以て推薦さる。元祐中、黨籍を以て放斥さる。後、官は徽猷閣待制。博く群書を極め、詩・畫を善くし、六經に通じ、尤も易傳に精通す。建炎三年、卒す。年七十一。著に儒言・晁氏客語・景迂生集がある。〔宋史、四百四十四〕・〔宋元學案、二十二〕。

【晁宗恪】20（テウソウカク）　宋の人。迥の從子。字は世恭。官は信州の長官・光祿卿。

【晁宗慤】21（テウソウカク）　宋の人。迥の子。字は世良。諡は文莊。父の蔭を以て祕書省校書郎となる。召試されて進士及第を賜はる。天聖中、尙書祠部員外郎に累進し、制誥を知す。父子、誥を掌り、一夕にして將相の五制を草す。官は知制誥・資政殿學士・給事中。〔宋史、三百五〕。

【晁端有】22（テウタンイウ）　宋、鉅野の人。萬姓統譜には端友に作る。宗慤の孫。字は君成。詩文に巧。官は著作郎。〔宋史、四百四十四〕。

【晁端友】23（テウタンイウ）　宋の人。晁端有を見よ。

【晁端彦】24（テウタンゲン）　宋の人。端稟の弟。字は美叔。章惇と同生同榜にして又館職を同じくし、三同と呼ばる。官は祕書少監・開府儀同三司。

【晁端中】25（テウタンチユウ）　宋、鉅野の人。字は元升。官は雄州防禦推官。

【晁端稟】26（テウタンリン）　宋の人。宗慤の孫。字は大受。號は寂默居士。進士。官は堯山知縣。雜文數千言を著はす。

【晁端禮】27（テウタンレイ）　宋の人。端有の弟。字は次膺。熙寧の進士。官は大晟府協律郎。詞に巧。著に閒適集がある。

【晁仲熙】28（テウチユウキ）　宋の人。迥の孫。字は子政。官は判南京國子監。

【晁沖之】29（テウチユウシ）　宋、鉅野の人。字は叔用。號は具茨。呂居仁に知らる。江西詩派二十五人中の一。著に具茨集がある。

【晁東吳】30（テウトウゴ）　明の人。瑮の子。字は叔泰。嘉靖の進士。翰林院庶吉子に選ばれ、官は讀中祕書。文を作つては秦漢を法とし、尤も古碑を摹搨することを善くす。宰相以下、節を折りて與に交はり、黃叔度に比す。年二十三にして疾によつて歸り、卒す。〔國朝獻徵錄、二十二〕。

【晁百宇】31（テウヒヤクウ）　宋の人。字は瑱庭。官は封丘亟。著に封丘集がある。

【晁百談】32（テウヒヤクダン）　宋の人。詠之の曾孫。字は元默。號は帶川。淳熙の進士。經學に通じ、尤も春秋に精通す。官は知南康軍・知道州。著に帶川集がある。〔宋元學案、七十七〕。

【晁文淵】33（テウブンエン）　朝比奈去洲（**5**－**14374**‥533）を見よ。

【晁補之】34（テウホシ）　宋、鉅野の人。端有の子。字は无咎。號は歸來子・濟北詩人。少くして聰明強記、善く文を作る。十七歲にして父が杭州に官となるに從ひ、錢塘の山川風物の麗を萃めて七述を著す。蘇軾之を見て歎賞す。進士。開封及び禮部別院に試せられ、皆第一。官は禮部郎中・知河中府。家に還つて後、陶淵明を慕ひ、歸來園を修む。大觀の末、達泗二州の知に起用され、大觀四年卒す。才氣飄逸、嗜學倦まず。詩文書畫に巧。書室を歸來園といふ。著に七述・雞肋集・晁无咎詞がある。〔宋史、四百四十四〕・〔宋元學案、九十九〕。

【晁无咎】35（テウムキウ）　宋の人。晁補之を見よ。

【晁无咎詞】36（テウムキウシ）　書名。六卷。宋、晁補之撰。其の詞は神姿高秀、蘇軾と肩を比するを得。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

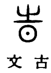
【晁具茨集】37（テウグシシフ）　書名。十五卷。宋、晁沖之撰。〔四庫未收書目提要、一〕。

【晁氏客語】38（テウシカクゴ）　書名。一卷。宋、晁補之撰。其の體、語錄に近く、間〻朝野の見聞を記し、元祐諸人の軼事を述べたるは史傳の遺を補ふに足る。〔四庫提要、子、雜家類〕。

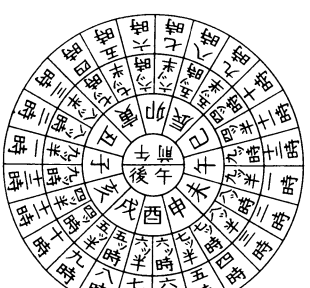
【時】

13890　シ　ジ　〔集韻〕市之切　ㄕˊ shih²　支

小篆


古文

❶**とき**。㋑一年の區分。春・夏・秋・冬。一時は三箇月。〔說文〕時、四時也、从㆑日寺聲。〔段注〕春秋冬夏之稱。〔釋名、釋天〕四時四方各一時、時、期也、物之生死、各應㆓節期㆒而止也。〔易、有〕應㆓乎天㆒而時行。〔虞注〕時、謂㆓四時㆒。〔書、堯典〕敬授㆓人時㆒。〔周禮、天官、宮正〕以㆑時比㆓宮中之官府、次舍之衆寡㆒。〔注〕時、四時也。〔左氏、桓、六〕謂㆓其三時不㆑害。〔注〕三時、春夏秋也。〔國語、晉語一〕非㆑謀不㆑卒㆑時。〔注〕三月一時。〔管子、山權數〕時者所㆓以記㆑歲也。〔漢書、匈奴傳下〕近不㆑過㆓旬月之役㆒、遠不㆑離㆓二時之勞㆒。〔注〕師古曰、三月爲㆓一時㆒。㋺一日の區分。昔は十二辰に、現今は二十四時に分ける。



〔韻會〕時、辰也、十二時也。〔周禮、天官、閽人〕以㆑時啓閉。〔注〕時、漏盡。〔太玄經、玄數〕時數辭遠。〔注〕時、謂㆓旦中夕㆒也。㋩日月の經過。光陰。〔呂覽、首時〕天不㆓再與㆒、時不㆓久留㆒。㋥世。代。〔班彪、北征賦〕故時會之變化兮。〔注〕善曰、時、世也。〔孟子、公孫丑下〕彼一時、此一時也。〔漢書、司馬相如傳上〕朕獨不㆑得㆘與㆓此人㆒同㆖時哉。㋭世のなりゆき。時勢。氣運。〔孟子、公孫丑下〕以㆓其時㆒考㆑之則可矣。㋬まはりあはせ。十干十二支が錯行して其のをりに應じて吉凶を生ずること。〔孟子、公孫丑下〕天時不㆑如㆓地利㆒。〔注〕天時、謂㆓時日支干五行王相孤虛之屬㆒也。㋣をり。しほ。機會。〔禮、學記〕當㆓其可㆒之謂㆑時。〔論語、陽貨〕好㆑從㆑事而亟失㆑時。㋠かぎり。刻限。〔禮、玉藻〕出不㆑易㆑方、復不㆑過㆑時。㋷一定の期。〔中庸〕朝聘以㆑時。〔孟子、梁惠王上〕斧斤以㆑時入㆓山林㆒。㋦そのころ。〔後漢書、天文志〕以佐㆓時政㆒。㋸大事なとき。危急のとき。秋。〔國語、鄭語〕時至而求㆑用。〔注〕時、難也。❷**ときに**。㋑ときどき。ときをり。〔論語、學而〕學而時習㆑之。㋺そのとき。をりしも。〔史記、張蒼傳〕時王陵見而怪㆓其美士㆒。❸**時あり**。時なり。然るべき時をたがへない。〔荀子、王制〕政令時。〔注〕時、謂㆑有㆑常。〔漢書、董仲舒傳〕風雨時。❹**時をえる**。時宜にかなふ。〔禮、禮器〕禮、時爲㆑大。〔孟子、萬章下〕孔子、聖之時者也。❺**よい**。〔廣雅、釋詁一〕時、善也。〔詩、小雅、頍弁〕爾殽既時。〔傳〕時、善也。❻**これ**。**この**。**ここ**。是（**5**－**13859**）に通ず。〔說文通訓定聲〕時、叚借爲㆑是、時・是雙聲。〔爾雅、釋詁〕時、是也。〔書、堯典〕黎民於變時雍。〔傳〕時、是也。〔書、湯誓〕時日曷喪。〔詩、秦風、駟鐵〕奉㆓時辰牡㆒。〔傳〕時、是也。〔詩、周頌、我將〕于㆑時保㆑之。〔箋〕時、是也。〔論語、鄕黨〕時哉時哉。〔義疏〕虞氏贊曰、時者、是也。❼**うかがふ**。**又、つかさどる**。司（**2**－**3257**）に通ず。〔說文通訓定聲〕時、叚借爲㆑司。〔廣雅、釋言〕時、伺也。〔論語、陽貨〕孔子時㆓其亡㆒也、而往拜㆑之。〔疏〕伺㆓虎不㆑在㆑家時㆒。〔莊子、齊物論〕見㆑

卯而求二時夜一。〔釋文〕崔云、時夜、司夜、謂レ鷄也。❽まく。蒔(9－31546)に通ず。〔說文通訓定聲〕時、叚借爲レ蒔。〔書、舜典〕播二時百穀一。〔鄭注〕時、讀曰レ蒔。❾つつしむ。恭竦する。峙(6－16293)に通ず。〔說文通訓定聲〕時、叚借爲レ峙、爾雅釋宮、室中謂二之時一、按、卽曲禮不レ翔意也。❿とぼそもち。戺(5－11703)に通ず。〔說文通訓定聲〕時、叚借爲レ戺、爾雅釋宮、樞達北方謂二之落時一、落時謂二之戺一、按、時、卽戺、落者、絡也。⓫まつ。待(4－10085)に通ず。〔說文通訓定聲〕時、叚借爲レ待、易、歸妹、遲歸有レ時、象傳、正作レ有レ待。⓬ひとしい。又、たひら。等(8－25992)に通ず。〔說文通訓定聲〕時、叚借爲レ等。〔周禮、秋官、司儀〕時二揖異姓一。〔注〕時揖、平推レ手也。⓭ねぐら。塒(3－5329)に通ず。〔詩、王風、君子于役〕雞棲二于時一。〔釋文〕時、本亦作レ塒。⓮姓。〔通志、氏族略〕時氏、齊有二賢人時子一、著レ書、見二孟子一、新論有二時農一。〔尙有錄〕時、隴西徽音、又望出二陳留一。邦❶じ。佛道の勤行の時刻をいふ。❷とき。㋑臨時。當座。㋺さかえる折。さかりの時分。

名乘 コレ。トキ。ヨシ。ユキ。チカ。ハル。モチ。ヨリ。

【時嚶】1ジアウ 時節に應じて鳥の鳴くこと。又、其の鳥。〔沈約、悲哉行〕時嚶起二稚葉一、蕙氣動二初蘋一。

【時鶯】2ジアウ 時にかなふ鶯。春の鶯。〔沈約、上巳華光殿詩〕時鶯顧慕聲合離、輕波微動漾二羽卮一。

【時惡】3ジアク 其の時代のよからぬこと。〔詩、曹風、鳲鳩序、疏〕經四章、皆美三用レ心均壹之人、擧レ善駁二時惡一。

【時安】4 shih^2 an^1 書翰文用語。其の時の安泰をいふ。

【時晏】5ジアン 時がおそい。年末。〔越絶書、越絶外傳記地傳〕禹知二時晏歲暮一。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕物謝時既晏、年往志不レ偕。

【時暗】6ジアン 不遇の時。又、暗君の時。〔班固、答賓戲〕時暗而久章者、君子之眞也。〔注〕善曰、項岱曰、時暗、未二顯用一時也、良曰、處二暗君之時一、久守二明道一也。

【時菴】7ジアン 字號。❶明、高鑑(12－45313‥132)の號。❷明、賽從儉(10－36886‥47)の字。❸清、許汝霖(10－35298‥318)の字。❹清、蔣元益(9－31820‥142)の號。

【時衣】8ジイ 其の時節に着る衣。四季折々に應じた衣服。時服。〔岑參、和三刑部成員外秋寓直寄二臺省知己一詩〕時衣天子賜、廚膳大官調。

【時移】9ジイ 時代がうつる。〔孔叢子、居衞〕時移世異、人有レ宜也。〔庾信、枯樹賦〕殷仲文者、風流儒雅、海內知レ名、代異時移、出爲二東陽太守一。

【時移事去】10トキウツリコトサル 歲月が流れ去り、諸事が變化する。〔陳鴻、長恨歌傳〕時移事去、樂極悲來。

【時移世換】11トキウツリヨカハル 歲月が經過して世の中がうつりかはる。世のはかないことをいふ。〔剪燈新語、滕穆醉遊二聚景園一記〕美人言曰、湖山如レ故、風景不レ殊、但時移世換、令三人有二黍離之悲一耳。

【時移俗易】12トキウツレバゾクカハル 年數を經れば風俗も自然に移りかはる。又、世の中が變化する。〔說苑、雜言〕今夫世異則事變、事變則時移、時移則俗易。

【時異】13ジイ 時が異なる。其のときをことにする。〔漢書、董仲舒傳〕勞逸異者、所レ遇之時異也。〔陸機、五等諸侯論〕遠績屈二於時異一、雄心挫二於卑勢一爾。

【時異事異】14トキコトナレバコトコトナル 時節が異なれば人の行事も之に隨つて異なる。〔漢書、東方朔傳〕使三蘇秦張儀與レ僕竝生二於今之世一、曾不レ得二掌故一、安敢望二常侍郎一乎、故曰、時異事異。

【時意】15ジイ 其の時の意見。其の時代の意向。〔王羲之、遺二謝安一書〕倉督監、耗二盜官米一、動以レ萬計、吾謂誅二剪一人一、其後便斷、而時意不レ同。

【時友】16ジイウ 其のときのとも。同じ時代の友。〔儲光羲、蘇十三瞻登二玉泉寺峰一入二寺中一見レ贈作詩〕逖聽多二時友一、招邀及二浮賤一。

【時遊】17ジイウ 其の時のあそび。時節の遊。〔孫逖、進レ船泛二洛水一應制詩〕禁園紆二睿覽一、仙櫂叶二時遊一。〔畢乾泰、奉三和九月九日登二慈恩寺浮圖一詩〕鷲林花塔啓、鳳輦順二時遊一。

【時育】18ジイク ❶時期に應じて育てる。又、時の宜しきを得て成長する。〔張衡、東京賦〕於レ是陽陰交和、庶物時育、卜レ征考レ祥、終然允淑。〔潘岳、秋興賦〕覽二花蒔之時育一兮、察二盛衰之所一レ託。❷明、王宗茂(7－20823‥1854)の字。

【時奧】19ジイク 時を得たあつさ。時燠に同じ。〔漢書、王莽傳中〕熒惑司レ愆、南嶽太傳、典レ致二時奧一。〔注〕應劭曰、厥罰常陽、陽、旱也。

【時燠】20ジイク 暑かるべき時に暑いこと。時を得たあつさ。〔書、洪範〕曰哲、時燠若。〔傳〕君能照哲、則時燠順レ之。〔穀梁、桓、十四〕無レ冰、時燠也。

【時揖】21ジイフ 兩手を胸の高さに組んで禮をする。又、其の禮。〔周禮、秋官、司儀〕土二揖庶姓一、時二揖異姓一、天二揖同姓一。〔注〕時揖、平推レ手也。〔孫詒讓正義〕云二時揖平推レ手也一者、平推レ手、適二當上下之中一、故謂二之時揖一、上法レ天、下法レ土、中法二四時一也、黃以周云、拱レ手當レ心曰二時揖一、時揖、平衡也。

【時因】22ジイン 時に乘じて敵に因る。〔管子、幼官〕時因、勝之終、無方、勝之幾。〔纂詁〕乘レ時因レ敵、勝レ敵之極也。

【時隱】23ジイン 宋、林霆(6－14551‥192)の字。

【時雨】24ジウ ❶時に應じて降る雨。程よいときに降るあめ。教化の行はれるに喩へる。〔書、洪範〕曰肅、時雨若。〔周禮、春官、小祝〕逆二時雨一寧二風旱一。〔禮、月令〕時雨將レ降、下水上騰。〔孟子、滕文公下〕如二時雨降一、民大悅。〔國語、齊語〕及レ耕深耕、而疾耰レ之、以待二時雨一。〔莊子、逍遙遊〕時雨降矣、而猶浸灌、其於レ澤也、不二亦勞一乎。〔荀子、議兵〕若二時雨之降一、莫レ不二說喜一。〔史記、晉世家〕孤臣之仰レ君、如三百穀之望二時雨一。❷明、范霖(9－30834‥130)の字。❸シグレ秋冬の頃斷續してふる雨。〔和漢三才圖會、天象類〕液雨、按、冬月乍降乍晴小雨、俗謂二之時雨（之久、禮）一、十月最多。

【時雨蛤】25シグレハマグリ 蛤のむきみを味噌のたまり汁で煮た食品。

【時雨羹】26シグレカン 赤小豆の餡をそぼろにし、蒸して製した菓子。

【時雨月】27シグレヅキ 陰曆十月の異名。〔藏玉抄〕時雨月冬のはじめに。

【時雨之化】28ジウノクワ 恩澤の偏く及ぶをいふ。草木の雨を得て發生するに喩へていふ。〔孟子、盡心上〕君子之所二以敎一者五、有下如二時雨化レ之者上。〔荀子、議兵〕所レ過者化、若二時雨之降一。

【時運】29ジウン ときのまはりあはせ。ときのうん。當世のなりゆき。時勢の消長。〔後漢書、荀彧傳論〕方二時運之屯邅一、非二雄才一無三以濟二其溺一。〔班彪、北征賦〕諒時運之所レ爲兮、永伊鬱其誰愬。

【時運多難】30ジウンタナン 晉、鼓吹曲の名。漢の擁離行に當る。傅玄、曲辭を作る。〔晉書、樂志下〕改二擁離一爲二時運多難一、言下宣帝致二討吳方一、有レ征無上レ戰也。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、晉鼓吹曲、時運多難〕古擁離行、古今樂錄曰、時運多難、言下宣皇帝致二討吳方一、有レ征無上レ戰也。〔傅玄、時運多難〕時運多難道敎痛、天地變化有二盈虛一、蠢爾吳蠻、虎二視江湖一、我皇赫斯致二天誅一、有レ征無レ戰弭二其圖一、天威橫被廓二東隅一。

【時英】31ジエイ ❶當世の賢俊。時彥。〔賀朝、從軍行〕騎射先鳴推二任俠一、龍韜決勝佇二時英一。❷字號。㋑後晉、高漢筠(12－45313‥1079)の字。㋺元、朱仕俊(6－14424‥816)の字。㋩明、陳俊(11－41698‥344)の字。

【時榮】32ジエイ 明、言芳(10－35205‥107)の字。

【時要】33ジエウ 時代の大切なこと。〔後漢書、崔寔傳〕指二切時要一、言辯而确。

【時疫】34ジエキ 流行病。はやり病。傳染病。〔柳筥、初〕。

【時繹】35 ジエキ 明、臨清の人。字は勉學。官は西安同知。

【時宴】36 ジエン 季節季節にするさかもり。〔國語、周語中〕歳飫不レ倦、時宴不レ淫。〔注〕一時之間、必有二宴禮一、不レ至二於淫湎一。

【時翁】37 ジヲウ 元、許天篪(**10**－**35298**‥369)の字。

【時下】38 ジカ この頃。このせつ。いま。ただいま。〔水滸傳、三回〕雖二然時下兇頑命下駁雜一、久後卻得二清淨一。

【時可】39 ジカ 字號。❶宋、呂中(晉江の人)(**2**－**3386**‥124)の字。❷宋、王鎡(**7**－**20823**‥478)の字。❸元、富大用(**3**－**7230**‥187)の字。❹明、周孟中(**2**－**3441**‥866)の字。

【時佳】40 ジカ 時節の良いこと。〔唐無名氏、黃雲捧日賦〕是日也、風不レ霾、時正佳、雲日輪盛、光陰克諧。

【時夏】41 ジカ ❶大いなる樂歌。肆夏をいふ。時は大、又發語の辭。〔詩、周頌、時邁〕我求二懿德一、肆二于時夏一。〔傳〕時、大也。〔箋〕我武王求下有二美德一之士上、而任二用之一、故陳二其功於是夏一而歌レ之、樂歌大者稱レ夏。〔集傳〕此詩卽所謂肆夏、以下其有中肆二于時夏一之語上而命レ之也。❷夏。夏の季節。〔韋應物、曇智禪師院詩〕時夏方新雨、果藥發二餘榮一。❸清、瞿元洙(**8**－**23747**‥35)の字。

【時家】42 shih² chia¹ をり。時。季節。

【時暇】43 ジカ 丁度其の時に當る休暇。〔顏延之、秋胡詩〕蠶月觀二時暇一、桑野多經過。〔韋應物、莊嚴精舍遊集詩〕良遊因二時暇一、乃在二西南隅一。

【時價】44 ジカ ❶其の時の相場。一定時の市價。〔魏志、王昶傳、注〕任昭先與レ人共買二生口一、各顧二八匹一、後生口家來贖、時價直六十匹、共買者欲下隨二時價一取上贖、嘏自取二本價八匹一、共買者慙、亦還取二本價一。〔名山藏〕有司市レ供二祀犧牲一、但準二洪武帝時價一。〔六部成語、戶部、時價、注解〕市中當時之行情也。❷shih² chia⁴ 音樂で、拍數の一定の時間をいふ。全音符は其の時價一拍、二分音符は其の時價二分の一となるの類。

【時稼】45 ジカ 其のときの耕種。其の時の農事。〔王維、宿二鄭州一詩〕主人東皐上、時稼遶二茅屋一。〔劉長卿、題二獨孤使君湖上林亭一詩〕老農持レ鍤拜、時稼捲レ簾看。〔韋應物、秋郊作詩〕登レ原忻二時稼一、采レ菊行二故墟一。

【時駕】46 ジガ ときに車に乘ること。〔魏文帝、與二吳質一書〕方今蕤賓紀レ時、景風扇レ物、天氣和暖、衆果具繁、時駕而遊、北遵二河曲一。〔徐陵、新亭送別應令詩〕風吹臨二伊水一、時駕出二河梁一。

【時戒】47 ジカイ いましめる。時は發語の辭。〔謝朓、校獵曲〕虞人昔有レ諭、明哲時戒哉。

【時乂】48 ジガイ ❶をさめる。民の亂れたるををさめる。時は是。〔書、仲虺之誥〕惟天生二聰明一時乂。〔傳〕言下天生二聰明一、是治中民亂上。❷其の時代がよくをさまること。〔隋書、樂志下〕道謐金科照、時乂玉條明。❸明、鄭文康(**11**－**39647**‥544)の字。

【時交】49 ジカウ 其の時のまじはり。〔越絕書、越絕計倪內經〕越王句踐曰、吾聞、先生明二於時交一、察二於道理一、恐二動而無レ功、故問二其道一。

【時好】50 ジカウ 當時のこのみ。其の時のはやり。當世の流行。〔漢書、貨殖傳序〕士設二反道之行一、以追二時好一而取二世資一。〔新論、隨時〕非二苟違レ性、隨二時好一也。

【時考】51 ジカウ 時にかんがへる。〔淮南子、主術訓〕月省時考、歲終獻レ功。〔孔子家語、王言解〕使二有司日省而時考一レ之。

【時行】52 ジカウ ❶時を量って行ふ。時をみて行ふ。〔易、坤〕文言曰、坤道其順乎、承レ天而時行。〔疏〕坤道從順、承二奉於天一、以量レ時而行、卽不三敢爲二物之先一、恒相レ時而動。❷時に應じて降る。〔禮、月令〕(季夏之月)大雨時行。〔疏〕蔡云、大雨時行、行、降也。❸明、張弘至(**4**－**9812**‥1034)の字。❹shih² hsing² 流行。

【時亨】53 ジカウ 字號。❶宋、嚴世父(**2**－**4589**‥298)の字。❷宋、王剛中(**7**－**20823**‥1263)の字。❸明、毛泰(**6**－**16772**‥153)の字。

【時幸】54 ジカウ 其の時の恩幸。〔宋書、謝晦傳〕臣昔因二時幸一、過蒙二天眷一、內聞二政事一、外經二戎旅一。〔北史、宇文愷傳論〕其起二仁壽宮一、營二建洛邑一、要二求時幸一、窮レ侈極レ麗。

【時效】55 ジカウ ❶法律で、一定の時間の經過によつて權利が生じ或は消滅すること。又は刑罰權が消滅すること。❷一般に、ある一定期間が經過したために、それまで持つてゐた權利や效力などがなくなること。

【時珩】56 ジカウ 清、魏耕(**12**－**45872**‥17)の一名。

【時耕】57 ジカウ 春の耕種の時。立春の後をいふ。〔國語、齊語〕及レ寒擊レ菒除レ田、以待二時耕一。〔注〕時耕、謂二立春之後一。

【時耗】58 ジカウ 劍の名。〔越絕書、越絕外傳記吳地傳〕闔廬冢在二閶門外一、名二虎丘一、云云、銅槨三重、墳池六尺、玉鳧之流、扁諸之劍三千、方圓之口三千、時耗・魚腸之劍在焉。

【時康】59 ジカウ 時世のよく治つてやすらかなこと。又、其の世。〔王粲、无射鐘銘〕休徵二時序一、人說二時康一。〔唐太宗、執レ契靜二三邊一詩〕循レ躬思レ勵已、撫レ俗媿二時康一。〔崔沔、奉二和聖製藥遊園一詩〕酒酣同抃躍、歌舞詠二時康一。〔杜甫、夏夜歎詩〕況復煩二促倦一、激烈思二時康一。

【時豪】61 ジガウ 其の時代の勢力ある者。時傑。〔晉書、王沈傳〕爲二時豪所一レ抑。

【時角】62 ジカク 星の赤緯圈と觀測地の經線の間の角。天體の時圈。

【時客】63 ジカク 木槿をいふ。〔西溪叢語、上〕予長兄伯聲、嘗得二三十客一、云云、木槿爲二時客一。

【時學】64 ジガク 宋、文及翁(**5**－**13450**‥976)の字。

【時寒】65 ジカン 時を得たさむさ。〔書、洪範〕曰謀、時寒若。〔傳〕君能謀、則時寒順レ之。〔漢書、王莽傳中〕辰星司レ謀、北嶽國將、典レ致二時寒一、元煒和平、考レ星以レ漏。

【時閑】66 ジカン 時世がしづかでよく治ること。〔劉長卿、同二諸公袁郞中一宴筵喜レ加二章服一詩〕世難常摧レ敵、時閑已息レ機。

【時間】67 ジカン ❶ひまなとき。〔漢書、曹參傳〕時間自二從其所一諫レ參。〔注〕師古曰、間、謂二空隙一也。❷㋑無始から無終に亘り、過去・現在・未來をなすもの。又、其の長さ。㋺時刻と時刻の間。又、其の長さ。

〖時間知覺〗68 ジカンチカク 時間表象を構成する知覺作用。

【時幹】69 ジカン 當時の才能ある人物。〔魏書、李安世傳讚〕安世識具通雅、時幹之良。

【時暵】70 ジカン 時のあつさ。ひでり。〔唐書、裴灌傳〕土木方興、時暵之孼、職爲レ此發。

【時艱】71 ジカン 時局の艱難。其の時代に於ける世の中のわづらひ。時患。時屯。〔顏延之、從軍行〕苦哉遠征人、畢力幹二時艱一。〔金史、韓玉傳〕世亂時艱、努力自護。

〖時艱克服〗72 ジカンコクフク 時局の難艱にうち勝つこと。

【時危】73 ジキ 時勢がけはしい。時勢が多難である。〔杜甫、暮春題二瀼西新賃草屋一詩〕時危人事急、風逆羽毛傷。〔杜甫、奉二待嚴大夫一詩〕身老時危思二會面一、一生襟抱向レ誰開。

【時起】74 ジキ 明、陳振(**11**－**41698**‥375)の字。

【時忌】75 ジキ 其の時の忌みはばかること。其のときのいみごと。〔後漢書、杜根等傳贊〕弼忤二宦情一、雲犯二時忌一、成レ仁喪レ己、同レ方殊レ事。〔唐書、劉蕡傳〕豈忍三姑二息時忌一。

【時季】76 ジキ とき。時節(275)に同じ。

【時氣】77 ジキ ❶時候。季節。〔漢書、食貨志下〕皆自占二司市錢府一、順二時氣一而取レ之。〔後漢書、明帝紀〕務順二時氣一、無レ使二煩擾一。❷病名。時候あたり。〔陶華全生集、時氣〕時氣者、乃天時暴厲之氣流二行人間一、凡四時之令不レ正者、則有二此氣行一也。〔醫學入門、疫厲〕疫疾如有二鬼癘相似一、故曰二疫癘一、又曰二時氣一。❸shih² ch'i⁴ 運命。運氣。

〖時氣病〗78 ジキビヤウ 疫病。流行病。時疫。〔山海經、西山經〕英山有レ鳥焉、曰二肥遺一、食レ之已レ癘。〔注〕無二時氣病一也。

【時既】79 ジキ 壽命を全くして死ぬこと。〔淮南子、俶眞訓〕是故傷死者、其鬼嬈、時既者、其神漠。〔注〕既、盡也、時既、當レ老者、則神寂漠也。

【時規】80 shih² kuei¹ 時計。

〖時規匠〗81 shih² kuei¹ chiang⁴ 時計師。

【時幾】82 ジキ 時と、事のきざし。〔書、益稷〕敕二天之命一、惟時惟幾。〔傳〕惟在レ順レ時、惟在レ愼レ微。

【時期】83 ジキ とき。をり。ころあひ。

【時器】84 ジキ ❶歲時の用に供する器具。農具をいふ。耒耜錢鎛の屬。〔周禮、地官、遂人〕以二時器一勸レ甿。〔注〕時器、鑄二作耒耜錢鎛之屬一。〔孫詒讓正義〕詩周頌臣工篇、庤乃錢鎛、毛傳云、錢銚鎛

鎒、此與二耒耜一皆田器、鑄レ金爲レ之、以供二歲時之用一、故謂二之時器一。㊁明、李鐩（6－14459‥492）の字。

【時祺】85 shih^4 ch'i^2 書簡文用語。其の時の幸福。時祉。

【時機】86 ジキ ころあひ。機會。〔魏徵、唐故邢國公李密墓誌銘〕應二時機一以鼓レ之、總二羣策一以決レ之。

【時諱】87 ジキ 其の時のいみはばかること。時忌。〔晉書、周嵩傳〕臣干二犯時諱一、觸二忤龍鱗一者何、誠念二社稷之憂一、欲レ報二之于陛下一也。

【時宜】88 ジギ 其の時に適中して都合のよいこと。其の場合にかなつて程よいこと。時中。不レ達二時宜一・不レ度二時宜一を見よ。〔沈約、恩倖傳論〕都正俗士、斟二酌時宜一、品二目少多一、隨レ事俯仰。〔元史、禮樂志一〕遂徵二儒生周鐸・劉允中・云云・大常卿徐世隆一、稽二諸古典一、參以二時宜一、沿レ情定レ制、而肆二習之一、百日而畢。

【不レ合二時宜一】89 ジギニアハズ 時の宜しきに合はない。〔漢書、哀帝紀〕違レ經背レ古、不レ合二時宜一。〔志林〕東坡坦腹問二諸婢一、我此中何所レ有、朝雲曰、一肚皮不レ合二時宜一。

【不レ達二時宜一】90 ジギニタツセズ 時勢の宜しきに通じてゐない。〔漢書、元帝紀上〕俗儒不レ達二時宜一、好是レ古非レ今、使下人眩二于名實一不上知レ所レ守。

【不レ度二時宜一】91 ジギヲハカラズ 時勢に適當することをはからない。〔漢書、食貨志〕動欲レ慕レ古、不レ度二時宜一。

【時義】92 ジギ 時の宜しきにかなふ。時宜。〔易、豫〕豫之時義大矣哉。〔南齊書、張緒傳〕緒常云、何平叔所レ不レ解、易中七事、諸卦中所レ有時義、是其一也。〔謝朓、三日侍二華光殿曲水宴一代レ人應レ詔詩〕作レ樂順レ動、實符二時義一。

【時儀】93 ジギ 時候の挨拶をのべること。又、其の挨拶。

【時議】94 ジギ 其の時の議論。時人の評論。〔王勃、別二盧主簿一序〕吾儕服二其精博一、時議稱二其典要一。〔杜甫、贈二韋左丞丈一詩〕時議歸二前烈一、天倫恨レ莫レ俱。〔劉長卿、送二薛據宰涉レ縣詩〕雄辭變二文名一、高價喧二時議一。

【時休】95 ジキウ 時世のやすらかなこと。めでたい時世。〔李嶠、晚秋喜レ雨詩〕九農歡二歲阜一、萬寓慶二時休一。〔蕭至忠、奉三和九月九日登二慈恩寺浮圖一詩〕堯年將二佛日一、同此慶二時休一。〔武平一、幸二黎園一觀二打毬一應制詩〕賞闌清景暮、歌舞樂二時休一。

【無二時休一】96 トキトシテヤムナシ 止む時がない。〔杜甫、同二諸公一登二慈恩寺塔一詩〕高標跨二蒼穹一、烈風無二時休一。

【時咎】97 ジキウ 時のとがめ。〔陸雲、九愍、修身〕逢二天怒一而離紛、遘二時咎於惟塵一。

【時球】98 ジキウ 波止場などに高く吊す球。船舶に正午を通知するもの。

【時菊】99 ジギク 秋時の菊。〔潘岳、河陽縣作詩〕鳴蟬厲二寒音一、時菊耀二秋華一。

【時享】100 ジキヤウ ㊀太廟の四時の祭。天子が四時に祖先を祭り供物を奉ること。春祠・夏禴・秋嘗・冬烝。〔周禮、春官、大宗伯〕以レ祠春享二先王一、以レ禴夏享二先王一、以レ嘗秋享二先王一、以レ烝冬享二先王一。〔孫詒讓正義〕通典吉禮引二高堂隆一云、天子諸侯月有二祭祀一、其孟則四時之祭也、其仲月季月、皆薦新之祭也、此並與二鄭、孔說一同。㊁臣民が四時に祖先の祭をすること。〔國語、楚語下〕百姓夫婦、云云、帥二其子姓一、從二其時享一、虔二其宗祝一、道二其順辭一、以昭二祀其先祖一。㊂遠方の諸侯が四時を以て來朝し、天子の享祭を助けるをいふ。〔國語、周語上〕日祭・月祀・時享・歲貢・終王、先王之訓也。〔注〕時享二於二祧一。〔荀子、正論〕日祭・月祀・時享・歲貢。〔漢書、韋玄成傳〕祖禰則日祭、曾高則月祀、二祧則時享、壇墠則歲貢、大禘則終王、德盛而游廣、親親之殺也。

【時饗】101 ジキヤウ 四時のまつり。時享に同じ。〔柳宗元、寄二許京兆孟容一書〕每常春秋時饗、孑立捧レ奠。〔淸會典、禮部〕四時之孟月、時二饗於太廟一。

【時擧】102 ジキヨ ㊀時期をあやまらずに政令を行ふ。〔周禮、天官、宰夫〕治不二以レ時擧一者、以告而誅レ之。〔注〕治不二時擧一者、謂下違二時令一、失中期會上。㊁時を以て擧用する。〔書、益稷〕萬邦黎獻、共惟帝臣、惟帝時擧。㊂字號。㋑宋、魯仕能（12－46013‥166）の字。㋺明、霍昂（12－42321‥10）の字。㋩明、顧時（12－43689‥88）の字。㋥明、佘鳴化（1－514‥13）の字。㋭宋、章元振（8－25761‥193）の字。㋬宋、蔣擧（9－31820‥25）の字。㋣明、段民（8－16619‥59）の字。㋠明、粘鵰（8－26901‥23）の字。㋷明、方楳（5－13620‥422）の字。㋦明、馮翮（12－44579‥32）の字。㋸明、王翰（7－20823‥172）の字。

【時曲】103 ジキヨク 地名。河南省商水縣の西南。又、洄曲といふ。唐の李光顏が吳元濟をここに敗る。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、陳州、商水縣〕時曲、在二縣西南五十里一、唐元和十年、李光顏敗二淮西兵於時曲湖一、三省曰、卽洄曲也、溵水于レ此洄曲、故名二洄曲一。

【時局】104 ジキヨク 時勢の局面。時事のなりゆき。

【時極】105 ジキヨク ちやうどよろしいとき。〔易、節〕象曰、不レ出二門庭一、凶、失二時極一也。〔疏〕極、中也、應レ出不レ出、失二時之中一、所二以爲一レ凶。

【時禽】106 ジキン 季節に應じて鳴く鳥。時鳥。〔陸機、悲哉行〕目感二隨レ氣草一、耳悲二詠レ時禽一。〔錢可復、鶯出レ谷詩〕玉律陽和變、時禽羽翮新。〔朱熹、還家卽事詩〕扶疎滿園陰、時禽互翻飛。

【時禁】107 ジキン 定められた時及び季節以外の出入をとどめること。〔周禮、天官、宮正〕辨二外內一而時禁。〔注〕鄭司農云、分二別外人・內人一、禁二其非時出入一。〔鬼谷子、中經〕動以二忌諱一、示以二時禁一。〔荀子、王制〕汙池淵沼川澤、謹二其時禁一。

【時空】108 ジクウ 時間と空間。

【時遇】109 ジグウ ㊀一時の恩遇。〔梁書、劉孝綽傳〕領軍臧盾・太府卿沈僧杲等、竝被二時遇一、孝綽尤輕レ之。〔資治通鑑、晉紀〕（孝武帝、太元二年）不レ應三妄自菲薄、以虧二時遇一。〔注〕時遇、謂二一時之恩遇一也。㊁元、陰時夫（11－41691‥355）の一名。

【時化】110 ジクワ ㊀時の變化。時勢。〔呂覽、決勝〕智則知二時化一、知二時化一則知二虛實盛衰之變一。㊁明、戴鰲（5－11685‥70）の字。㊂ケシ 暴風雨。風雨氣。

【時果】111 ジクワ 季節の果物。其の季節にみのる果實。〔北史、庾業延傳〕時果初熟。〔舊唐書、王琚傳〕時果珍味。〔鄭谷、劉神童詩〕時果曾沾レ賜、春闈不レ掛レ情。

【時花】112 ジクワ ㊀季節季節に咲く花。時華。㊁shih^2 hua^1 流行模樣。

【時貨】113 ジクワ 其の時々の財物。穀帛畜產等、時に從つて成るものをいふ。〔管子、八觀〕時貨不レ遂、金玉雖レ多、謂二之貧國一也。〔纂詁〕時貨、謂二穀帛畜產一、衡謂、凡從レ時而成者、謂二之時貨一。

【時華】114 ジクワ 時の花。四季折々の花。〔王勃、澗底寒松賦〕見二時華之屢變一、知二俗態之多浮一。

【時過】115 ジクワ 時がすぎる。時間が經過する。〔禮、學記〕時過然後學、則勤苦而難レ成。〔魏文帝、典論論文〕古人賤二尺璧一而重二寸陰一、懼二乎時之過一レ己。

【時晦】116 ジクワイ 暗昧無道なこと。一說に、時に應じて自分の才能を隱すこと。〔詩、周頌、酌〕於鑠王師、遵養二時晦一。〔傳〕養、取、晦、昧也。〔箋〕於美乎王之用レ師、率二殷之叛國一以事レ紂、養二是闇昧之君一、以老二其惡一。〔集傳〕退自循養、與レ時皆晦。〔左氏、宣、十二〕汋曰、於鑠王師、遵養二時晦一、耆レ昧也。

【時會】117 ジクワイ ㊀隨時に會合すること。常期の無い諸侯の會見。時見。〔周禮、秋官、大行人〕時會以發二四方之禁一。〔注〕時會、卽時見也、無二常期一。㊁其の時の運會。時運。〔班彪、北征賦〕故時會之變化兮、非二天命之靡一レ常。

【時外】118 ジグワイ 時世の外。〔夏侯湛、禊賦〕縈二香丸于素襟一、結二九齡乎時外一。

【時光】119 ジクワウ 其の時の光景。又、時候。季節。〔張祜、破陣樂〕千里不レ辭二行路遠一、時光早晚到二天涯一。〔韋應物、西郊燕集詩〕濟濟衆君子、高宴及二時光一。

【時皇】120 ジクワウ 梁春暉（6－14825‥273）の字。

【時藿】121 ジクワク 豆の葉。〔潘岳、閑居賦〕蘘荷依レ陰、時藿向レ陽。〔注〕善曰、鄭玄儀禮注曰、藿、豆葉也。

【時宦】122 ジクワン ㊀當時の宦官。〔後漢書、夏馥傳〕馥雖レ不レ交二時宦一、然以二聲名一爲二中官所一レ憚、遂與二范滂張儉等一、俱被二誣陷一。㊁ときに役人となる。ときに仕官する。〔王惲、送二王嘉父一詩〕時宦儘從二閑處一着、浩歌還愛二醉時眞一。

【時患】123 ジクワン 其の時世のわづらひ。時病。時弊。時難。時艱。〔元結、酬二孟武昌苦雪一詩〕不レ

能レ救二時患一、諷諭以全レ意。

【時欵】124 shih² kuan³ 流行の。當世風。

【時換】125（ジクワン） 時がかはる。時候のうつりかはり。〔張九齡、上陽水窗旬宴得二移字韻一詩〕春賞時將レ換、皇恩歲不レ移。〔李俊民、乙未冬至詩〕節物驚二時換一、年光有二底忙一。

【時觀】126（ジクワン） 時にみる。〔禮、學記〕時觀而弗レ語、存二其心一也。

【時願】127（ジグワン） ときのねがひ。〔蔡琰、悲憤詩〕邂逅徼二時願一、骨肉來迎レ己。

【時君】128（ジクン） ❶當時の君主。〔唐書、禮樂志四〕文中子曰、封禪非レ古也、其秦漢之侈心乎、蓋其曠世不二常行一、而於レ禮無レ所レ本、故自レ漢以來、儒生學官、議論不レ同、而至二於不レ能レ決、則出二於時君率レ意而行レ之爾。❷龜の異名。〔事物異名錄、水族、龜〕抱朴子、山中巳日、稱二時君一者、龜也。

【時訓】129（ジクン） 其の時々の上からのをしへ。〔王融、三月三日曲水詩序〕去レ肅表二平時訓一、行レ慶動二於天矚一。〔注〕銑曰、表二時訓一、謂二先王之教一也。

〖時訓解〗130（ジクンカイ） 逸周書の篇名。

【時計】131（トケイ） 時刻をはかる器械。土圭。時辰儀。鐘表。太陽によつて時刻を測定する日時計を原始的のものとし、それから水時計・砂時計・火時計等を經て現在の機械時計の發明を見た。〔和漢三才圖會、藝器〕自鳴鐘、俗云二時計一。

【時景】133（ジケイ） 其の時のありさま。當時の風景。〔後山詩話〕范文正公爲二岳陽樓記一、用二對語一說二時景一、世以爲レ奇、尹師魯讀レ之曰、傳二奇體一爾。

【時教】134（ジケウ） 時を以て教へるをしへ。又、其のときのをしへ。其の場合の實際にあたつての教。〔禮、學記〕大學之教也、時教必有二正業一。〔史記、主父偃傳〕壤長地進、至二于霸王一、時教使レ然也。

【時隙】135（ジゲキ） ときのひま。ひまな時。〔王粲、羽獵賦〕用二時隙之餘日一兮、陳二苗狩一而講レ旅。

【時檄】136（ジゲキ） 宋、崇德の人。字は傳之。官は和州の知。人を識るの明があつた。

【時傑】137（ジケツ） ❶其の時代に秀でた人物。時豪。〔牛弘、大射登歌〕揖讓皆時傑、升隆盡朝英。〔獨孤及、苦熱行〕明主命二使臣一、皇華得二時傑一。❷字號。㋑明、仵璪（**1－409**··1）の字。㋺明、朱英（**6－14424**··42）の字。

【時闕】138（ジケツ） 當時の闕けたところ。一時の不足。〔風俗通、十反〕補二察時闕一、言出二成謨一。

【時月】139（ジゲツ） ❶時と月。四時と十二箇月。〔書、舜典〕協二時月一正レ日。〔傳〕合二四時之氣節、月之大小、日之甲乙一、使二齊一一也。〔禮、王制〕命二典禮一、考二時月一定レ日。〔史記、五帝紀〕合二時月一正レ日、同二律度量衡一。❷數箇月。〔方孝孺、戇窩記〕雖下累二時月一不上食、未レ足レ爲レ病。

〖時月之閒〗140（ジゲツノアヒダ） 二三箇月の間をいふ。一時は三箇月。〔後漢書、黃憲傳〕陳蕃・周擧、常相謂曰、時月之閒、不レ見二黃生一、則鄙吝之萌、復存二乎心一矣。

【時協】141（ジケフ） 時節にかなふ。〔陸雲、吳故丞陸公誄〕康年屢登、惠風時協。

【時見】142（ジケン） ❶諸侯の會合の常期の無いものをいふ。國に事ある際等に諸侯が相會して王に見えること。〔周禮、春官、大宗伯〕春見曰レ朝、夏見曰レ宗、秋見曰レ覲、冬見曰レ遇、時見曰レ會、殷見曰レ同。〔注〕時見者、言レ無二常期一。〔孫詒讓正義〕時見合二當方諸侯一、殷見則六服四方、萃二於一年一、以レ此爲レ異耳。❷時期を定めた會見。〔左氏、昭、四〕寡君有二社稷之事一、是以不レ獲二春秋時見一。❸明、呂潛（**2－3386**··105）の字。

【時賢】143（ジケン） 當時の賢人。〔後漢書、韋彪傳〕中常侍曹節欲下借二寵時賢一以爲上名。〔晉書、索紞傳〕游二學京師一、交二結時賢一。

【時憲】144（ジケン） 天の法則にのつとる。時は是。清代、高宗の諱を避けて天文推步の意に用ひる。清時憲書を見よ。〔書、說命中〕惟天聰明、惟聖時憲、惟臣欽若、惟民從乂。〔傳〕憲、法也、言二聖王法レ天以立レ教。

〖時憲書〗145（ジケンシヨ） 曆書。清代、欽天監で作つたこよみ。清代、高宗の諱の弘曆を避けて曆書を時憲書といふ。清史稿に時憲志がある。〔清會典、欽天監、時憲科〕掌レ製二時憲書一、辨三御覽者與二頒行者一、而著以二其式一、凡日月食則掌二其推算一。〔清會典事例、禮部、授時〕康熙三十二年定、頒二時憲書於內札薩克科爾沁等二十四部落一。〔陔餘叢考、時憲書後列二兩甲子一〕向來時憲書後、止追二列一甲子六十年一、近日吾鄉劉文定公奏請下再列二一甲子一以便中檢閱上、遂著爲レ例、按、此本二宋初故事一也。

【時獻】146（ジケン） ❶ときどき獻ずる。〔蜀志、郤正傳〕矇冒瞽說、時有レ攸レ獻。〔張九齡、陪二王司馬一宴二王少府東閣一序〕旨酒時獻、清談閒發、歌二滄浪一以放レ言、詠二蟋蟀一而傷レ儉。❷明、衞英（**10－34074**··5）の字。

【時顯】148（ジケン） 明、陳用（**11－41698**··574）の字。

【時權】149（ジケン） 時に應じてはかる。〔星野豐城、大行天皇奉悼文〕採二長歐米一、克制二時權一。

【時元】150（ジゲン） 明、孟春（**3－6960**··138）の字。

【時言】151（ジゲン） ❶言ふべきときにいふ。〔論語、憲問〕夫子時然後言、人不レ厭二其言一。〔論衡、儒增〕夫公叔文子、實時言樂笑義取、人傳說稱レ之、言二其不レ言不レ笑不レ取也、俗言竟增レ之也。〔潛虛變圖〕時言之利、上下攸レ賴。❷明、李默（**6－14459**··758）の字。

【時彥】152（ジゲン） ❶當時のすぐれた士。時髦。時傑。〔晉書、庾冰傳〕廣引二時彥一、詢二於政道一。〔北史、魏彭城王勰傳〕時彥歸仰。〔白居易、除二韋貫之平章事一制〕歷選二周行一、乃獲二時彥一。❷宋、開封の人。字は邦美。進士。官は吏部尙書。嘗て開封府尹として政績あり。〔宋史、三百五十四〕。❸明、王英（**7－20823**··56）の字。

【時限】153（ジゲン） 時間のかぎり。時間の一定の限界。

【時諺】154（ジゲン） 其の時代の俚諺。〔圖畫見聞誌〕高道興、成都人、事レ蜀爲二內圖畫庫使一、用レ筆神速、觸類皆精、時諺云、高君墜レ筆亦成レ畫。

【時乎】155（トキナルカナ） 今はよい時なりと嗟歎する語。〔史記、淮陰侯傳〕功者難レ成而易レ敗、時者難レ得而易レ失也、時乎、時不二再來一。

【時鼓】156（ジコ） 時を報ずる太鼓。時太鼓。

【時功】157（ジコウ） ❶春時の功。百物を蓄息するをいふ。〔管子、禁藏〕所下以建二時功一施中生穀上也。〔纂詁〕建二春時之功一、謂三蓄二息百物一。❷四時のつとめ。〔管子、版法解〕四時之行、信必而著明、聖人法レ之、以事二萬民一、故不レ失二時功一、故曰、伍二於四時一。

【時候】158（ジコウ） ❶とき。時節。四時の變り目。〔禮、王制〕獺祭レ魚然後虞人入二澤梁一、〔注〕取レ物必順二時候一也。〔高適、別二王八一詩〕時候何蕭索、鄉心正鬱陶。❷shih² hou 時間。

【時興】159 shih² hsing⁴ 流行。時の流行。

【時刻】160（ジコク） ❶地球の一自轉に要する時間を或る數に等分したもの。漏刻の制では漏箭の幹に四十八の刻みあり、四刻を一時とし十二辰時に分つた。刻限。時間。時期。〔宋書、孝懿蕭皇后傳〕每旦入二朝太后一、未三嘗失二時刻一。〔唐書、百官志一〕晝題二時刻一、夜題二更籌一。❷shih² k'ê⁴ 一時一刻。

〖時刻表〗161 shih² k'ê⁴ piao³ 時間表。

〖時刻注想〗162 shih² k'ê⁴ chu⁴ hsiang³ 常に忘れぬ。

【時穀】163（ジコク） 時節の穀物。〔宋書、禮志四〕今皇風緬暢、輝レ祀通レ嶽、愚謂宜下使以二太常持節一、牲以二太牢之具一、羞用二酒脯時穀一、禮以中赤璋纁幣上。

【時昏】164（ジコン） 時がくらい。又、みだれた世。〔魏書、李諧傳〕思踴二躋於時昏一、獨沉二吟於運閉一。

【時佐】165（ジサ） 宋、方一夔（**5－13620**··480）の字。

【時差】166（ジサ） ❶眞太陽時と平均太陽時卽ち時計の時刻との差。❷地方時の差。經度の差十五度每に一時間の差を生ず。〔國朝漢學師承記、陳厚耀〕且東西測レ景有二時差一。

【時痧】167 shih² sha¹ 麻疹。

【時才】168（ジサイ） 當時の才能あるもの。〔朱熹、讀二十二辰詩卷一掇二其餘作一此聊奉二一笑一詩〕時才虎圈聽二豪夸一、舊業兎園嗟二莽鹵一。

【時哉】169（トキナルカナ） 今は善い時なりと嗟歎する語。〔書、泰誓上〕時哉弗レ可レ失。〔論語、鄉黨〕山梁雌雉、時哉時哉。

【時宰】170（ジサイ） 時の宰相。當時の執政。〔晉書、謝安傳論〕並階二時宰一、無レ墮二家風一。

【時祭】171（ジサイ） 四季のまつり。時祀。〔禮、曾子問〕望レ墓而爲レ壇、以レ時祭。〔左氏、昭、五〕公辭以二時祭一、衞侯辭以レ疾。

【時菑】172（ジサイ） 時のわざはひ。〔左氏、襄、二十八〕歲在二星紀一、而淫二於玄枵一、以有二時菑一。

【時際】173（ジサイ） 清、謝泰交（**10－35827**··316）の字。

【時歲】174（ジサイ） とき。とし。歲月。歲時。〔潘岳、秋興賦〕悟㆓時歲之遒盡㆒兮、慨俛㆑首而自省。〔潘岳、寡婦賦〕亡魂逝而永遠兮、時歲忽其遒盡。〔南齊書、高帝紀上〕春秋遞運、時歲之常序。

【時濟】175（ジサイ） 明、鄔景和(11−39570‥8)の字。

【時齋】176（ジサイ） 字號。❶宋、趙綸(10−37171‥375)の號。❷元、兪奕曾(1−1437‥82)の號。❸清、張允隨(4−9812‥788)の號。❹清、楊遇春(6−15112‥485)の字。❺清、汪承霈(6−17154‥266)の號。

【時裝】177（ジサウ） 其の時代流行のよそほひ。

【時策】178（ジサク） 時世に對處すべき計策。〔後漢書、獻帝伏皇后紀〕議郎趙彥、嘗爲㆑帝陳㆓言時策㆒。

【時札】179（トキノフダ） 平安時代、清涼殿の殿上の間の小庭に立てて時刻を示した札。時刻毎に內豎が立て代へた。時簡。

【時殺】180（ジサツ） 適當な時期に殺す。〔禮、祭義〕曾子曰、樹木以㆑時伐焉、禽獸以㆑時殺焉、夫子曰、斷㆓一樹㆒、殺㆓一獸㆒、不㆑以㆓其時㆒、非㆑孝也。

【時止】181（シジ） とどまるべき時。〔易、艮〕時止則止、時行則行、動靜不㆑失㆓其時㆒、其道光明。

【時司】182（トキツカサ） 陰陽寮の屬官。時刻を告げることを司る。又、其の事務を司る所。〔枕草子〕時司などはただかたはらにて。

【時祀】183（シジ） 四季のまつり、山川以下四方百物の祭。時祭。〔周禮、地官、牧人〕凡時祀之牲、必用㆓牷物㆒。〔注〕時祀、四時所㆓常祀㆒、謂㆔山川以下至㆓四方百物㆒。〔疏〕鄭惟據㆓之時祀㆒、若㆓天之時祀㆒、日月已下、亦在㆓此時祀中㆒也。

〖時祀盡㆑敬而不㆑祈㆑喜〗184（ジシニケイヲツクスモキヲイノラズ） 歲時のまつりは敬をつくすが福を祈らない。〔莊子、讓王〕昔者神農之有㆓天下㆒也、時祀盡㆑敬、而不㆑祈㆑喜。〔呂覽、誠廉〕昔者神農氏之有㆓天下㆒也、時祀盡㆑敬、而不㆑祈㆑福也、其於㆑人也、忠信盡㆑治、而無㆑求焉。

【時師】185（シジ） 當時の儒者。〔漢書、劉歆傳〕今其書見在、時師傳讀而已。

【時賜】186（シジ） 四時に諸賓客に賜ふ珍異なもの。〔禮、聘義〕燕與㆓時賜㆒無㆑數、所㆓以厚重㆑禮也。

【時而】187 shih² êrh² 時としては。時には。

【時似】188（ジジ） 時として似る。〔世說新語、排調〕桓豹奴、是王丹陽外甥、形似㆓其舅㆒、桓甚諱㆑之、宣武云、不㆓恒相似㆒、時似耳、恒似是形、時似是神、桓逾不㆑悅。

【時事】189（ジジ） ❶當時の社會の出來事。其の時代の出來事。〔周禮、地官、遂師〕巡㆓其稼穡㆒、而移㆓用其民㆒、以救㆓其時事㆒。〔注〕救㆓時急事㆒也。〔荀子、王制〕論㆓百工㆒、審㆓時事㆒。〔史記、六國表〕表㆓六國時事㆒。❷四時の貢職。〔左氏、襄、二十六〕晉士起將㆑歸㆓時事於宰旅㆒。〔注〕時事、四時貢職也。〔左氏、襄、二十八〕邾悼公來朝、時事也。❸申鑒の篇名。❹昨今の出來事。近時の社會事象。

〖時事問題〗190（ジジモンダイ） 近時の出來事で、國家的または社會的な關心事をいふ。

【時時】192（ジジ） ときどき。とりをり。又、その時その時に。又、いつも。常に。〔史記、酈食其傳〕沛公時時問㆓邑中賢士豪俊㆒。〔史記、楚元王世家〕時時與㆓賓客㆒過㆓巨嫂㆒食。〔漢書、張良傳〕常爲㆓畫策臣㆒、時時從。〔古詩、爲㆓焦中卿妻㆒作〕時時爲㆓安慰㆒、久久莫㆓相忘㆒。

〖時時刻刻〗193（ジジコクコク） 每時每刻。たえず。不斷。

【時秀】194（ジシウ） ❶其の時代の秀でた人物。當代のすぐれた人物。一代の秀才。〔晉書、文苑傳序〕至㆓於吉甫太沖㆒、江右之才傑、曹毗庾闡、中興之時秀、信乃金相玉潤、埜會川沖、埒㆓美前修㆒、垂㆓裕來葉㆒。〔江淹、爲㆓蕭驃騎㆒讓㆑封第㆓三表〕德非㆓時秀㆒、道乖㆓物宗㆒。〔韋應物、送㆔雲陽鄒儒立少府奉㆓還京師㆒詩〕昆弟倶時秀、長衢當㆓自伸㆒。❷明、楊榮(6−15112‥22)の字。

【時周】195（ジシウ） 明、陳茂烈(11−41698‥1277)の字。

【時羞】196（ジシウ） 其の時節の食物。又、祭に其れを供へること。〔魏書、崔光傳〕豐廚嘉醴、罄竭㆓時羞㆒。

〖時羞之奠〗197（ジシウノテン） 其の時節の食品を神に供へること。又、其の供物。〔韓愈、祭㆓十二郎㆒文〕乃能銜㆑哀致㆑誠、使㆘建中遠具㆓時羞之奠㆒、告㆗汝十二郎之靈㆖。〔韓愈、祭㆓女挐女㆒文〕使㆘汝妳以㆓清酒時果庶羞之奠㆒、祭㆗于第四小娘子挐子之靈㆖。

【時失】198（ジシツ） 時節がくるふ。〔左氏、隱、九〕春王三月癸酉、大雨霖以震、書㆑始也、庚辰大雨雪、亦如㆑之書㆓時失㆒也。〔注〕夏之正月、微陽始出、未㆑可㆓震電㆒、既震雷又不㆑當㆓大雨雪㆒、故皆爲㆓時失㆒。

【時疾】199（ジシツ） ❶流行病。時病。〔周禮、夏官、司爟〕四時變㆓國火㆒以救㆓時疾㆒。〔孫詒讓正義〕時疾者、疾醫云、四時皆有㆓癘疾㆒是也。❷時には速い。〔呂覽、本味〕凡味之本、水最爲㆑始、五味三材、九沸九變、火爲㆓之紀㆒、時疾時徐、滅㆑腥去㆑臊除㆑羶、必以㆓其勝㆒、無㆑失㆓其理㆒。

【時日】200（ジジツ） ❶時と日。〔禮、曲禮上〕卜筮者、先聖王之所㆜以使㆛民信㆓時日㆒、敬㆓鬼神㆒、畏㆚法令㆙也。〔禮、表記〕大事有㆓時日㆒、小事無㆓時日㆒。〔尉繚子、戰威〕擧㆑賢任㆑能、不㆓時日㆒而事利。〔司馬法、定爵〕時日不㆑遷。❷良時吉日をいふ。〔漢書、禮樂志〕練㆓時日㆒、侯有㆑望。❸（コノヒ） この日。是日。〔孟子、梁惠王上〕湯誓曰、時日害喪、予與㆑女皆亡。〔注〕時、是也、日、乙卯日也。

【時習】201（ジシフ） ❶時にあたつて復習する。又、常に練習する。〔論語、學而〕學而時習㆑之、不㆓亦說㆒乎。〔白居易、省試㆓性習相遠近㆒賦〕君子稽㆓古於時習之初㆒、辯㆓惑於成性之所㆒。❷其の時世のならはし。時俗。

〖時習翁〗202（ジシフヲウ） 渡邊之望の號。渡邊荒陽(7−17765‥50)を見よ。

〖時習館〗203（ジシフクワン） 德川時代、熊本・豐橋・大田原・大聖寺・笠間に設置された藩立學校。

【時集】205（ジシフ） ときどきあつまる。〔朱熹、冬日詩〕密雨有㆓時集㆒、寒雲無㆓定容㆒。

【時舍】206（ジシャ） 時に用ひられない。〔易、乾、文言〕見龍在㆑田、時舍也。〔本義〕言㆑未㆑爲㆓時用㆒也。

【時謝】207（ジシャ） 時がすぎ去る。〔張九齡、始興南山下有㆓林泉㆒常卜居焉荆州臥㆑病有㆑懷㆓此地㆒詩〕力衰在㆑所㆑養、時謝良不㆑任。

【時匠】208（ジシャウ） 時の大臣をいふ。匠は巨宰。世を治める工人の意。〔南史、范曄傳〕何尙之處㆓銓衡㆒、自謂天下無㆓滯才㆒、云云、(帝)又謂㆓尙之㆒曰、孔熙先有㆓美才㆒、地胄猶可㆑論、而翳㆓迹仕流㆒、豈非㆓時匠失㆒乎。

【時尙】209（ジシャウ） 時のこのみ。時の風尙。流行。

【時章】210（ジシャウ） 明、淩雯(2−1669‥116)の字。

【時症】211 shih² chêng⁴ 流行病。

【時祥】212（ジシャウ） 清、王慶麟(7−20823‥1389)の字。

【時唱】213（ジシャウ） ときにとなへる。〔白居易、看㆓採菱㆒詩〕時唱一聲新水調、傍人道是採菱歌。

【時粧】214（ジシャウ） 流行の粧ひ。時世粧。〔孫蕡、老妓行〕時粧無㆓復新妖嬈㆒、囊態猶存㆓舊嬌嫵㆒。

【時賞】215（ジシャウ） 其の時のおくりもの。〔張九齡、通化門外送別詩〕薄宦無㆓時賞㆒、勞生有㆓事機㆒。

【時上】216（ジジャウ） 其の時に申し上げる。すぐに申し上げる。卽上。〔後漢書、寒朗傳〕恐㆘海內別有㆗發㆓其姦㆒者㆖、故未㆓敢時上㆒。〔注〕時上、猶㆓卽上㆒也。

【時常】217 shih² ch'ang² つね。いつも。ふだん。常時。〔水滸傳、三十八回〕作鬧的是誰、過賣道、便是時常同院長走的、那箇喚呼鐵牛李大哥。

【時情】218（ジジャウ） 其の時の事情。其の時のありさま。〔魏書、崔亮傳〕亮外雖㆓方正㆒、內亦承㆓候時情㆒。〔柳宗元、弘農公以㆓碩德偉材㆒屈㆓於誣枉㆒云云詩〕世議排㆓張摯㆒、時情棄㆓仲翔㆒。

【時讓】219（ジジャウ） 明、劉遜(2−2224‥469)の字。

【時若】220（ジジャク） 字號。❶清、魁玉(12−45785‥11)の字。❷清、陳奉玆(11−41698‥1252)の字。

【時主】221（ジシュ） 其の時の君主。時君(128)に同じ。〔晉書、張忠傳〕苻堅遣㆑使徵㆑之、使者至、忠沐浴而起、謂㆓弟子㆒曰、吾餘年無㆑幾、不㆔敬以逆㆓時主之意㆒。

【時守】222（トキモリ） 陰陽寮の屬官。古、禁中で時刻の事を掌り、時を報じた官。守辰丁。〔萬葉集、十二〕時守の打鳴す鼓、數み見れば、時にはなりぬ逢はなくも恠し。

〖時守博士〗223（トキモリハカセ） 陰陽寮の官。守辰丁を指揮して、時刻を報ぜしめることを掌る。漏刻博士。

【時殊】224（ジシュ） 時世がことなる。〔宋書、徐羨之傳〕一國之事、本㆓之一人㆒、雖㆓世代不㆑同、時殊風異㆒、至㆓於主運臣贊㆒、古今一揆。

【時須】225（ジシュ） 其の時の大切な事。〔顏氏家訓、涉務〕並曉㆓習吏用㆒、濟㆓辨時須㆒。〔杜甫、入奏行詩〕竇氏檢察應㆓時須㆒。

【時趣】226（ジシュ） 其の時のおもむき。其の時の事情。〔晉書、范弘之傳〕比干處㆓三仁之中㆒、箕子爲㆓名賢之首㆒、後人用捨、參差不㆑同、各信㆑所㆑見、率應

而至、或榮名顯赫、或禍敗係踵、此皆不レ量二時趣一、以レ身嘗レ禍、雖レ有二硜硜之稱一、而非二大雅之致一、此亦下官所レ不レ爲也。

【時叔】227 ジシュク 元、程端學（**8－25081‥254**）の字。

【時宿】228 ジシュク ときにやどる。〔梁簡文帝、南郊頌序〕露禽乍聚、望二比翼之翺翔一、歸飛時宿、聞二同心之夜響一。

【時熟】229 ジジュク 時にあたつてみのる。季節に應じて成熟する。〔禮、樂記〕德盛而教尊、五穀時熟、然後賞レ之以レ樂。〔國語、呉語〕夫越王好レ信以愛レ民、四方歸レ之、年穀時熟、日長炎炎、及レ吾猶可二以戰一也、爲レ虺弗レ摧、爲レ蛇將二若何一。〔易林〕陰陽調和、年歲時熟。

【時出】230 ジシュツ 時に出す。又、時に出る。〔中庸〕溥溥淵泉、而時出レ之。〔韓愈、行難〕聖人不二世出一、賢人不二時出一。〔杜甫、三川觀二水漲一詩〕火雲無二時出一、飛電常在レ目。

【時俊】231 ジシュン ❶當代の俊傑。時雋。時儁。〔魏書、王遵業傳〕遵業兄弟、並交二遊時俊一、乃爲二當時所レ美。❷字號。㋑明、顧雄（**12－43689‥191**）の字。㋺清、張嵿（**4－9812‥574**）の字。

【時雋】232 ジシュン 當時のすぐれた人。時俊。〔魏志、何夔傳、注〕公府掾屬、古之造志也、必擢二時雋一、搜二揚英逸一。

【時儁】233 ジシュン 當代の俊傑。時俊。〔魏文帝、又與二呉質一書〕諸子但爲レ未レ及二古人一、亦一時之儁也。〔李綱、論レ治疏〕誠能博求二時儁一、上下同レ心、則三皇可二追而四一、五帝可二俯而六一。〔王灣、晚夏馬嵬卿叔池亭卽事寄二京都一二知己一詩〕忝二職畿甸淹一、濫陪二時儁後一。

【時巡】234 ジジュン 時を以て巡守する。周代、天子が十二年每に春は東、夏は南、秋は西、冬は北を巡り、其の制度禮法を四岳の下に考正するをいふ。〔書、周官〕六年王乃時巡、考二制度于四岳一。〔傳〕周制、十二年一巡守、春東、夏南、秋西、冬北、故曰二時巡一。

【時徇】235 ジジュン 時にしたがふ。時世にまかせる。〔唐書、穆寧傳〕寧性不レ能レ事二權右一、毅然寡レ合、執レ政者惡レ之、寧默然不レ樂、喟曰、時不二我容一、我不二時徇一、又可二以進一乎。

【時順】236 ジジュン 時節が順調である。〔左氏、成、十六〕用利而事節、時順而物成。

【時潤】237 ジジュン 時期にかなつた雨。〔北史、魏彭城王勰傳〕帝曰、昔聞國軍獲レ勝、每逢二雲雨一、今破二新野南陽一、及レ摧二此賊一、果降二時潤一、誠哉斯言、勰對曰、水德之應、遠稱二天心一。

【時暑】238 ジショ 其の時の暑さ。夏の暑さ。〔潘岳、在二懷縣一作詩〕我來冰未レ泮、時暑忽隆熾。〔白居易、題二盧祕書夏日新栽竹二十韻詩〕豈止消二時暑一、應三能保二歲寒一。

【時序】239 ジジョ 時候の順序。四季變遷の次第。〔史記、蘇秦傳贊〕列二其行事一、次二其時序一。〔陸機、贈二尚書郎顧彥先一詩〕凄風迕二時序一、苦雨遂成レ霖。

【時敍】240 ジジョ 時を以て次敍する。〔書、舜典〕納二于百揆一、百揆時敍。〔書、康誥〕越二厥邦厥民一、惟時敍。〔揚雄、河東賦〕靈祇既鄉、五位時敍。〔宋書、樂志四、洪業篇〕百事以レ時敍、萬幾有二常度一。

【時升】241 ジショウ 字號。❶明、鄢高（**11－39614‥2**）の字。❷明、曾翬（**5－14299‥26**）の字。❸明、李堂（**6－14459‥563**）の字。

【時承】242 ジショウ 明、夏寵（**3－5720‥210**）の字。

【時稱】243 ジショウ ときのほまれ。當時の名譽。時人の稱揚。時譽。〔全唐詩話、盧渥〕渥在二舉場一、甚有二時稱一。

【時鐘】244 トキガネ 時刻を知らせる鐘の聲。ときのかね。

【時乘】245 ジジョウ 時に乘る。時に六龍に乘ずは、王位につく象。〔易、乾〕時乘二六龍一以御レ天。

〖時乘之夢〗246 ジジョウノユメ 王位について勢を得ることを夢みた故事。〔南齊書、荀伯玉傳〕泰始七年、伯玉又夢、太祖乘レ船、在二廣陵北渚一、見二上兩腋下有レ翅不レ舒、伯玉問、何當レ舒、上曰卻、後三年、伯玉夢中自謂、是呪師向レ上唾二呪之一、凡六呪、有二六龍一出二兩腋下一、翅皆舒、還而復斂、元徽二年而太祖破二桂陽一、威名大震、五年而廢二蒼梧一、太祖謂二伯玉一曰、卿時乘之夢、今且レ効矣。

【時食】247 ジショク ❶四時の食物。春、羔豚を行ひ膏香を繕ふ類。〔中庸〕春秋脩二其祖廟一、陳二其宗器一、設二其裳衣一、薦二其時食一。〔章句〕時食、四時之食、各有二其物一、如下春行二羔豚一、膳二膏香一之類上是也。❷［佛］制規の時に食する食。正午前の食事。

【時植】248 ジショク 明、通許の人。字は良材。官は梁山の主簿。後、かりに縣事を知し、流賊に執らへられ殺さる。〔明史、二百八十九〕・〔萬斯同明史、三百七十六〕・〔明史稿、二百七十〕。

【時臣】249 ジシン ❶其の時代の臣。〔後漢書、何敞傳〕歷二觀世主時臣一、無レ不四各欲三爲レ化垂二之無窮一。❷明、胡獻（**9－29400‥122**）の字。

【時辰】250 ジシン とき。時刻。又、時辰儀。〔清會典事例、欽天監、候時〕內廷時辰房及各處候時所レ用、時辰香・油燭・煤炭、均於二內務府一支領。

〖時辰香〗251 ジシンコウ 時刻を知るために焚く線香。時辰を見よ。

〖時辰儀〗252 ジシンギ 時計の古名。

〖時辰雀〗253 shih^2 ch'ên^2 ch'iao^3 小鳥の名。カナリヤ。

〖時辰表〗254 shih^2 ch'ên^2 piao^3 懷中時計。

【時信】255 ジシン 常にかはらない信。〔陸機、擬蘭若生朝陽詩〕執レ心守二時信一、歲寒終不レ彫。

【時振】256 ジシン 字號。❶明、何廷矩（**1－511‥342**）の字。❷明、胡鐸（**9－29400‥255**）の字。

【時進】257 ジシン 四時の租稅。〔唐書、王鍔傳〕遷二嶺南節度使一、廣人與レ蠻雜處、地征薄、多牟二利於市一、鍔租二其廛一、榷所レ入與二常賦一、埒以爲二時進一、裒二其餘一悉自入。

【時新】258 ジシン 其の時新しく出た品。時節の蔬菜果物の類。はしり。〔隋書、許善心傳〕許善心母范氏、云云、有二高節一、高祖知レ之、勅尙レ食、每レ獻二時新一、常遣二分賜一。〔姑蘇志〕三四月賣二時新一、率五日而更二一品一、如二王瓜茄・諸色豆・諸海鮮・枇杷・楊梅一迭出、後レ時者、價下二三倍。

【時人】259 ジジン ❶其のときのひと。當時の人々。〔後漢書、宋弘傳〕潁川荀爽、深以爲レ美、時人亦服レ焉。〔魏志、夏侯玄傳〕與二曹爽一共興二駱谷之役一、時人譏レ之。〔南史、陸慧曉傳〕辭並雅麗、時人歎伏。〔岑參、鳳翔府行軍送三程使君赴二成州一詩〕拜命時人羨、能官聖主聞。❷この人。〔書、洪範〕時人、斯其惟皇之極。

【時水】260 ジスイ 川の名。今の烏河。色が黑いので、黑水・烏龍水ともいひ、又、形水・如水ともいふ。源は山東省臨淄縣の西南倭槐樹鋪。廝大湖に注ぐ。〔周禮、夏官、職方氏〕東北曰二幽州一、云云、其浸淄時。〔讀史方輿紀要、山東、青州府、博興縣〕時水、在二縣南一、自二臨淄縣一流入レ境、又東入二樂安縣界一、從征記、縣西南有二澠水一、自二臨淄縣北一、逕二博昌南界一入二時水一、自レ下通、謂二之澠水一云。

【時瑞】261 ジズイ ❶時の祥瑞。〔歐陽脩、賜三知建昌軍楊儀進二奉銀珠稻米一勅書〕勸二力農一而務レ本、惟汝之官、登二嘉穀一以告レ豐、乃時之瑞。〔周存、瑞龜游官沼賦〕雖二四靈一其必臻、懿雙龜以二時瑞一。〔王禹偁、對レ雪詩〕妻子不二饑寒一、相聚歌二時瑞一。❷明、袁鳳鳴（**10－34152‥247**）の字。

【時趨】262 ジスウ 其の時の人がおもむきしたがふ。〔白居易、秦中吟十首、議レ婚詩〕貧爲二時所レ棄、富爲二時所レ趨。

【時世】263 ジセイ ときよ。其の時代。時節。〔荀子、堯問〕時世不レ同、譽何由生、不レ得レ爲レ政、功安能成。〔淮南子、氾論訓〕文武更相非、而不レ知二時世之用一也。〔漢書、叔孫通傳〕因二時世人情一、爲二之節文一者也。

〖時世妝〗264 ジセイノヨソホヒ 其の時代のよそほひ。當時流行のよそほひ。時世粧。〔妝樓記〕崔樞夫人、治レ家整肅、婦妾皆不レ許二時世妝一。

〖時世粧〗265 ジセイノヨソホヒ 當時流行のよそほひ。時世妝。〔因話錄〕崔樞夫人、治レ家整肅、貴賤皆不レ許二時世粧一。〔白居易、時世粧詩〕時世粧、時世粧、出レ自二城中一傳二四方一、時世流行無二遠近一、顋不レ施朱面無レ粉、烏膏注レ脣脣似レ泥、雙眉畫作二八字低一、妍蚩黑白失二本態一、粧成盡似レ含二悲啼一、圓鬟無レ鬢堆髻樣、斜紅不レ暈赭面狀、昔聞被レ髮伊川中、辛有見レ之知レ有レ戎、元和粧梳君記取、髻堆面赭非二華風一。〔蘇軾、芍藥詩〕揚州近日紅千葉、自レ是風流時世粧。〔程俱、紫薇詩〕晚花如二寒女一、不レ識二時世粧一。

【時正】266 ジセイ 時に順つて施す政。時政。〔漢書、律歷志上〕不レ告二閏朔一、棄二時正一也、何以爲レ民。〔注〕師古曰、自レ此以上、皆左氏傳之辭也。

【時制】267 ジセイ ❶陰陽寒暑を適當に利用すること。時は、陰陽寒暑を指す。〔孫子、始計〕兵者、云

云、故經レ之以二五事一、云云、一曰道、二曰天、三曰地、四曰將、五曰法、云云、天者、陰陽寒暑、時制也。❷其の時節にかなつた制度。〔詩、鄘風、定之方中序〕始建二城市一、而營二宮室一、得二其時制一、百姓説レ之、國家殷富焉。〔庾信、爲二閻將軍一乞二致仕一表〕臣聞、禮云、大夫七十、致二仕於朝一、傳二家於子一、膳則二珍、衣稱二時制一。❸春夏秋冬の夫〻の季節に辨ずべき衣物。一説に、死を送る具を毎時作ること。時は四時の季節をいふ。〔禮、王制〕六十歲制、七十時制、八十月制、九十日脩。〔疏〕時制、謂二一時可レ辨、是衣物之難レ得者。〔孫希旦集解〕愚謂、歲制者、謂二送レ死之具一、於二每歲一有レ所レ制也、時制、於二每時一有レ所レ制也、月制、於二每月一有レ所レ制也、六十已衰、始制二爲送レ死之具一、至二七十八十一、而所レ制彌備、至二九十一、又於二所レ制者一日脩也。

【時青】268 ジセイ　宋の人。全の從子。初、全と倶に紅襖の賊となる。後、同じく金に歸し、濟州義軍萬戸となる。後、宋に歸し、金兵を淮に拒ぐ。〔金史、一百十七〕。

【時政】269 ジセイ　❶時に順つて施す政。時令。〔左氏、文、六〕閏以正レ時、時以作レ事、事以厚レ生、生民之道、於レ是乎在矣、不レ告二閏朔一、棄二時政一也、何以爲レ民。〔會箋〕時政、時之政也。〔漢書、成帝紀〕所二奏請一多違二時政一。〔注〕李奇曰、時政、月令也。〔後漢書、明帝紀〕有司勉遵二時政一、務平二刑罰一。〔青瑣詩話〕極二孔孟之淵源一、盡二時政之要道一。❷當代の政令。其の時の政治。〔後漢書、班超傳論〕時政平、則文德用、而武略之士、無レ所レ奮二其力能一。〔宋史、高宗紀四〕許三中外臣民、直二言時政一。

【時政記】270 ジセイキ　唐代、朝廷の政事及び奏對を宰相が撰錄したものをいふ。政治の日誌。唐の太宗が、每日、朝政の後、宰相・參議政事と共に起居郞をして記錄せしめたが、高宗の時、宰相一人に命じて專ら撰錄せしめ、每日、史館に封送せしめた。穆宗の時、歲終れば史館に付し、文宗の時、中書門下丞二人に分委し、隨時撰錄せしめ、每季、館に送らしめた。每日記載したから、亦日曆といふ。〔唐書、百官志二〕高宗臨レ朝不レ決レ事、有レ所レ奏惟辭見而已、許敬宗・李義府爲レ相、奏請多畏二人之知一也、命二起居郞舍人對仗承旨仗下一、與二百官一皆出、不三復聞二機務一矣、長壽中宰相姚璹議、仗下後宰相一人、錄二軍國政要一、爲二時政記一、月送二史館一、然率推美讓善事、非二其實一、未レ幾亦罷。〔近事會元〕唐則天長壽二年、姚璹奏以爲帝王謨訓不レ可三暫無二紀述一、若不三宣自二宰相一百官無二從得レ書、乃表請三仗下所レ言軍國政要、宰相一人專知二撰錄一、號曰二時政記一、每日封二送史館一、宰相之撰二時政記一、自レ璹始也。〔歷代職官表、經筵日講起居注官、唐〕謹案、唐以二起居郞舍人一、分二侍左右一、執レ筆記錄、記注官侍班之制、實起二於此時一、其季終以レ所二修錄一送二史館一、卽如下今每歲十二月以二起居注一進二內閣一之例上、而宰相所レ錄又名二時政記一、則如三今內閣之有二上諭檔及外紀檔一也。〔歐陽脩、內制集序〕時政記日歷、與二起居郞舍人一、有レ所二略而不レ紀。〔揮麈錄〕徐敦立云、凡史官記レ事有レ日、時政記則宰執朝夕議政、君臣之間奏對之語也。

【時逝】271 ジセイ　ときがすぎさる。〔蔡邕、釋誨〕時逝歲暮、默而無レ聞。〔陸機、擬東城一何高〕寒暑相因襲、時逝忽如レ頹。

【時勢】272 ジセイ　ときのいきほひ。時のなりゆき。世の有樣。時局の趨勢。〔莊子、秋水〕當二堯舜一而天下無二窮人一、非二知得一也、當二桀紂一而天下無二通人一、非二知失一也、時勢適然。〔戰國、齊策〕夫權藉者、萬物之率也、而時勢者、百事之長也、故無二權藉一倍二時勢一、而能事成者寡矣。〔陸機、豪士賦序〕蓋得二之於時勢一也。

【時折】273 トキヲリ　ときどき。をりをり。時には。

【時雪】274 ジセツ　降るべきときに降る雪。〔禮、月令〕時雪不レ降、冰凍消釋。

【時節】275 ジセツ　❶四時の氣候。四時の節序。又、とき。をり。季節。〔史記、天官書〕攝提者、直二斗杓所レ指、以建二時節一、故曰二攝提格一。〔國語、晉語八〕夫德廣遠而有二時節一。〔古詩十九首〕白露霑二野草一、時節忽復易、秋蟬鳴二樹閒一、玄鳥逝安適。〔班固、東都賦〕若乃順二時節一而蒐狩。〔注〕善曰、左傳、臧僖伯曰、春蒐・夏苗・秋獮・冬狩、皆於二農隙一以講レ事也。〔白居易、遊二大林寺一序〕山高地深、時節絕晚、於レ時孟夏月、如二正二月天一。❷時令。〔管子、君臣下〕能飾二大義一、審二時節一、上以禮二神明一、下以義二輔佐一者、明君之道也。〔漢書、魏相傳〕孝文皇帝時、以二二月一施二恩惠於天下一、賜二孝弟力田、及罷軍卒一、祠二死レ事者一、頗非二時節一。❸四時の佳節。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕襄陽記曰、亮初亡、所在各求二爲立レ廟、朝議以二禮秩一不レ聽、百姓遂因二時節一私祭二之於道陌上一。❹風雨が時に應じて調節することをいふ。〔漢書、地理志下〕吏民相親、是以其俗風雨時節、穀糴常賤、少二盜賊一、有二和氣之應一。

【待二時節一】276 ジセツヲマツ　時節の至るを待つ。〔大集經〕設二大方便一待二時節一。

【時舛】277 ジセン　ときどきそむく。ときどきたがふ。〔沈約、爲二南郡王一捨身疏〕不レ能下叶二調五氣一、綏中御六神上、霜暑或愆、風露時舛。

【時泉】278 ジセン　明、許潮(**10**−**35298**··181)の字。

【時洗】279 ジセン　ときにすすぎ清める。〔陸印、北齊郊廟歌詞〕孝心翼翼、率レ禮兢兢、時洗時薦、或降或升。〔王禹偁、青猿詩〕時洗塵侵レ硯、閒收雨滴レ圖。

【時遷】280 ジセン　ときがうつりかはる。〔李白、登二梅岡一望二金陵一贈二族姪高座寺僧中孚一詩〕時遷大運去、龍虎勢休歇。〔韋應物、同德精舍舊居傷懷詩〕時遷跡尙在、同去獨來歸。

【時選】281 ジセン　其のときの選任。當時の選拔。〔楊炯、王勃集序〕咸亨之初、乃參二時選一、三府交辟、遇レ疾辭焉。〔宋之問、郡宅中齋詩〕瑤水執二仙羈一、金閨負二時選一。〔高適、酬二別薛三一云云詩〕薛侯懷二直道一、德業應二時選一。

【時鮮】282 ジセン　其の時節の新鮮な食物。季節の鮮味。〔張華、遊獵篇〕鷹隼始擊レ鷙、虞人獻二時鮮一。

【時饌】283 ジセン　其の時の酒食。又、時節のそなへもの。〔唐書、崔沔傳〕大羹古食也、盛二於古器一、和羹常饌也、盛二於時器一、毛血盛二於盤一、玄酒盛二於尊一、未レ有下薦二時饌一而用二古器一者上、緜二古質而今文一便レ事也。

【時善】284 ジゼン　獸の名。よく山峯にのぼる。〔爾雅、釋獸〕時善、乘領。〔疏〕好登二山峯一之一獸也。

【時膳】285 ジゼン　其の時の料理。時節の膳部。〔唐書、崔沔傳〕太常議加二宗廟籩豆一、沔曰、國家清廟時享、禮饌具設、周制也、古物存焉、園寢上食、時膳備列、漢法也、他珍極焉。

【時蔬】286 ジソ　時節のやさい。季節季節の蔬菜。〔唐書、百官志二〕虞部郞中員外郞、各一人、掌二京都衢術苑囿、山澤草木、及百官蕃客、時蔬薪炭、供頓畋獵之事一。

【時宗】287 ジソウ　❶時人の尊敬を受ける人。〔袁宏、三國名臣序贊〕夫仁義不レ可レ不レ明、則時宗擧二其致一。〔注〕向曰、宗、尊也。❷佛 ジシュウ　淨土宗の一派で、一遍上人のはじめたもの。中世末期、武士・庶民に廣く信仰された。總本山は神奈川縣藤澤市の清淨寺。六時往生宗。遊行宗。

【時則】288 ジソク　四時の法則。時則訓を見よ。

【時則訓】289 ジソククン　淮南子の篇名。〔淮南子、時則訓、注〕則、法也、四時寒暑十二月之常法也、故曰二時則一。

【時息】290 ジソク　時にやむ。〔史記、鄭世家〕今又效レ之、是亂無二時息一也。

【時速】291 ジソク　一時間の速度。汽車・汽船・自動車・飛行機等にいふ。

【時蔌】292 ジソク　其の時の野菜。〔謝惠連、三月三日曲水集詩〕際レ渚羅二時蔌一、托レ波汎二輕爵一。

【時俗】293 ジゾク　其のときのならはし。當時の風俗。時風。時習。又、世人。俗世間。〔商子、算地〕不レ觀二時俗一、不レ察二國本一。〔楚辭、離騷〕固時俗之巧兮、偭二規矩一而改錯。〔說苑、至公〕挾二仁聖之德一、憫二時俗之汚泥一。〔後漢書、馮衍傳下〕悲二時俗之險阸一兮、哀二好惡之無レ常。〔張衡、西京賦〕美二往昔之松喬一、要二羨門乎天路一、想二升龍於鼎湖一、豈時俗之足レ慕。

【時卒】294 ジソツ　十二月の盡きる時をいふ。〔漢書、五行志中之上〕今命以二時卒一閟二其事一也。〔注〕應劭曰、卒、盡也、閟、閉也、謂二十二月盡時一也。

【時泰】295 ジタイ　❶時世が泰平である。〔束晳、玄居釋〕世亂則救二其紛一、時泰則扶二其隆一。❷字號。㋑明、伍文定(**1**−**435**··57)の字。㋺明、單宇(**2**−**3993**··21)の字。㋩明、羅安(**9**−**28397**··1)の字。

【時態】296 ジタイ　其の時のありさま。當時のもやう。〔趙嘏、自遺詩〕久客轉諳時態薄、多情只共レ酒淹

留。〔鄭谷、次二韻張補闕因二寒食一見レ寄之什一詩〕時態懶二隨レ人上下一、花心日被二蝶分張一。

【時代】297ジダイ ❶ときと年代。歲月。年時。又、其の世。時世。〔宋書、禮志〕歷レ晉至レ宋、時代移改。〔盧照鄰、羇二臥山中一詩〕臥レ壑迷二時代一、行歌任二死生一。❷時期。ころ。❸年代を經て古色を帶びること。さびがついたこと。

〖時代違〗298ジダイチガヒ ❶年代の一致しないこと。時代の相違。❷當代の風俗習慣に合はぬこと。

〖時代後〗299ジダイオクレ 今の時に不適當なこと。前時代には用ひられたが現時には不適當で用ひられない物事。時勢後れ。

〖時代物〗300ジダイモノ ❶古い物。年代の經つたもの。❷古の事柄を脚色した歷史的の小說や脚本。世話物の對。

〖時代錯誤〗301ジダイサクゴ 舊時代の主義政策、又は思想を、事情の異なる現時に應用せんとするあやまり。舊弊。

〖時代思想〗302ジダイシサウ 當時一般の思想を代表し得べき尤も勢力ある思想。

〖時代思潮〗303ジダイシテウ 當時の思想界の傾向。

〖時代精神〗304ジダイセイシン 當時一般の精神を代表すべき最も勢力ある精神。

【時臺】305ジダイ 古の氣象臺。天子に靈臺、諸侯に時臺といふ。〔公羊、莊、三十一、春築二臺于郎一、注〕禮天子有二靈臺一、以候二天地一、諸侯有二時臺一、以候二四時一。〔疏〕諸侯候二四時一、故謂二之時臺一。〔五經異義〕天子有二三臺一、靈臺以觀二天文一、時臺以觀二四時施化一、囿臺以觀二鳥獸魚鼈一、諸侯卑不レ得レ觀二天文一、無二靈臺一、但有二時臺・囿臺一。

【時道】306 shih² tao¹ 其の時の流行。

【時擇】307ジタク 宋、李時澤(6－14459··1354)の一名。

【時談】308ジダン 當時の輿論。〔魏書、崔休傳〕辭訟盈レ几、剖判若レ流、殊無二疑滯一、加レ之、公平清潔、甚得二時談一。〔世說新語、賞譽〕王長史與二大司馬一書、道二淵源識致一、安處足レ副二時談一。〔柳宗元、奏二薦從事一表〕況早登二科選一、夙洽二時談一。

【時値】309ジチ ❶時の相場。其の時の價。時價。〔福惠全書、刑名部、反叛、逆產變賣〕年有二遠近一、物有二時値一。❷時下云云の砌。

【時祉】310ジチ 書翰用語。現に貴下の享けつつある幸福の意。時祺。

【時張】311ジチヤウ ときにはる。〔史記、楚世家〕時張而射レ之。

【時聽】312ジチヤウ 當時の視聽。時の耳目の意。〔蔡邕、朱公叔謚議〕懼禮廢日久、將レ詭二時聽一。

【時中】313ジチユウ ❶時の宜しきに隨つて過不及のないこと。時に隨ひ變に處して其の宜しきに叶ふこと。〔易、蒙〕蒙亨、以レ亨行、時中也。〔中庸〕君子之中庸也、君子而時中。〔章句〕能隨レ時以處レ中也。〔逸周書、祭公解〕尙皆以二時中一乂二萬國一。❷明、常熟の人。字は大本。弘治の進士。絳州の知より南刑部員外郎に擢んでられ、劉瑾に忤つて官を奪はる。瑾、誅せられるや復職し、廣東副使に累官し、海南の兵備を領す。性、簡易、政、清嚴を尙び、至る所治聲があつた。〔昭代明良錄、十八〕。❸字號。㋑唐、竇參(8－25695··27)の字。㋺宋、馬伸(12－44572··330)の字。㋩元、丑閭(1－23··18)の字。㋥元、樊執敬(6－15414··96)の字。㋭明、易節(5－13814··114)の字。㋬明、徐節(4－10110··192)の字。㋣明、錢時(11－40563··112)の字。㋠明、田景暘(7－21723··366)の字。㋷谷素有の號。谷時中(10－36182··75)を見よ。㋦天木時中の號。天木時中(3－5833··1383)を見よ。

〖時中之聖〗313′ジチユウノセイ 孔子をいふ。孟子、萬章下篇の孔子、聖之時者也の語に本づく。

【時絀】314ジチユツ 時のかがみ衰へること。國家の時局多難をいふ。時絀擧嬴を見よ。

〖時絀擧嬴〗315ジチユツキヨエイ 時世が衰耗してゐるのに反つて奢侈をなすこと。〔史記、韓世家〕往年秦拔二宜陽一、今年旱、昭侯不下以二此時一卹中民之急上、而顧益奢、此謂二時絀擧嬴一。〔注〕集解曰、徐廣曰、時衰耗而作二奢侈一。

【時屯】316ジチユン 時世が險惡で平らかでないこと。〔宋書、劉穆之傳〕時屯世故、靡二歲暫寧一。〔唐書、陸贄傳〕人主重輕、不レ在二稱謂一、視二德何如一耳、若以二時屯一、當レ有二變革一、不レ若三引レ咎降レ名、以祇二天戒一。〔韋應物、傷逝詩〕提攜屬二時屯一、契闊憂二患災一。

【時女】317ジヂヨ 年頃のをんな。處女。〔莊子、逍遙遊〕是其言也、猶二時女一也。〔釋文〕司馬云、時女、猶二處女一也、向云、時女虛靜柔順、和而不レ喧、未二嘗求レ人、而爲二人所レ求也。〔疏〕時女、少年處レ室之女也。

【時重】317′ジヂヨウ 明、戴鰲(5－11685··33)の字。

【時寵】318ジチヨウ 其の時の寵愛。〔王維、息夫人詩〕莫下以二今時寵一、能忘中舊日恩上。

【時穠】319ジヂヨウ ときどきしげくなること。〔梁元帝、香爐銘〕時穠更薄、乍聚還分。

【時珍】320ジチン ❶時節の珍羞。其の時々の珍しい食物。〔張華、上巳篇〕伶人理二新樂一、膳夫然二時珍一。〔柳宗元、爲二武中丞一謝レ賜二櫻桃一表〕天睠特深、時珍洊降。〔王浚、從レ幸二洛水一餞二王公歸レ國詩〕八音以迭奏、蘭羞備二時珍一。❷當時のすぐれた人物。〔韋應物、送二陸侍御還レ越詩〕英聲頗藉甚、交辟迺時珍。❸字號。㋑明、鄭寶(11－39647··235)の字。㋺明、李奈(6－14459··550)の字。

【時陳】321ジチン 明、廖紀(4－9464··8)の字。

【時鎭】322ジチン 明、戴鰲(5－11685··17)の字。

【時帝】323ジテイ 春夏秋冬の四時の帝と中央の土帝。〔唐書、張齊賢傳〕時帝五、人帝也、玄於二時帝一包二天人一、故以二文武一作レ配、是並告二兩五帝一爲レ不レ疑、諸侯受二朔天子一、藏二於廟一、天子受二朔於天一、宜レ在二明堂一、故告二時帝一配二祖考一。

【時貞】324ジテイ ときのただしくよいこと。又、ただしくよい時。〔馮宿、星回二於天一賦〕律應二時貞一、昭回二上清一。

【時禎】325ジテイ 明、王蕡(7－20823··947)の字。

【時禘】326ジテイ 三禘の一。禘(8－24778)を見よ。

【時朝】327ジテウ 四時に順つて天子に朝すること。〔公羊、桓、元〕諸侯時二朝乎天子一。〔注〕時朝者、順二四時一而朝也。〔晏子、雜、上〕於レ是令二刖跪倍レ資無レ征、時朝無レ事也。

【時鳥】328ジテウ ❶時節に應じて鳴く鳥。〔陸機、悲哉行〕蕙草饒二淑氣一、時鳥多二好音一。〔南史、陶潛傳〕見二樹木交レ蔭、時鳥變レ聲、亦復歡爾有レ喜。〔蘇軾、答二李端叔一書〕譬二之候蟲時鳥自鳴自已一、何足レ爲二損益一。❷ホトトギス 鳥の名。杜鵑。〔和漢三才圖會、林禽、杜鵑〕郭公、霍公鳥、時鳥。

【時調】329ジテウ ❶其の時のおもむき。時勢。〔孟郊、勸善吟〕顧余昧二時調一、居止多二疎慵一。❷shih² tiao⁴ 流行歌。

【時適】330ジテキ 時期にかなふ。〔馬融、長笛賦〕取予時適、去就有レ方。

【時哲】331ジテツ 當時の賢者。又、一世の賢哲。〔謝靈運、九日從二宋公戲馬臺集一送二孔令一詩〕鳴葭戾二朱宮一、蘭巵獻二時哲一。〔顏延之、贈二王太常一詩〕歷聽豈多士、唯然覯二時哲一。〔王維、留二別山中溫古上人兄一云云詩〕解レ薜登二天朝一、去レ師偶二時哲一。

【時田】332ジデン 四時の田獵。〔周禮、天官、獸人〕時田則守レ罟。〔疏〕守レ罟者、謂二四時田獵一。〔大戴禮、夏小正〕十有一月王狩、狩者言二王之時田一、冬獵爲レ狩。

【時蠹】333ジト 其の時世に害毒を流すもの。其の時の弊害。時弊。〔後漢書、王充等傳贊〕詳二觀時蠹一、成二昭政術一。

【時度】334ジド 時節と法度。時にかなひ法度のあること。〔墨子、節葬下〕若苟亂、是祭祀不二時度一也。

【時東】335ジトウ 明、凌震(2－1669··71)の字。

【時棟】336ジトウ 時の棟梁。時世を救ふ人材。〔袁宏、三國名臣序贊〕釋二褐中林一、鬱爲二時棟一。〔注〕向曰、鬱然而起爲二棟梁之臣一也、言下其爲二國之要一、如中屋之有上棟。

【時登】337ジトウ 明、樊阜(6－15414··63)の字。

【時德】338ジトク ❶時と德。〔管子、宙合〕是唯時德之節。〔纂詁〕時德之節者、時與レ德相節通也。❷其の時代の德ある人。〔後漢書、和殤帝紀贊〕抑二沒祥符一、登二顯時德一。

【時毒】339ジドク 腫れものの一種。氣候不順のために起る病氣。〔醫案、時毒〕時毒者、爲三四時邪毒之氣感二之於人一也、其候發二於鼻面耳目一、焮赤腫痛重、則咽喉頸項亦腫、或漫腫無レ頭、或結レ核有レ根、令二人憎レ寒、發熱頭痛、或肢體痛、恍惚不レ寧、喉咽閉塞一。〔外科正宗、二〕夫時毒者、天行時氣之病也、春當レ溫而反寒、夏宜レ熱而反涼、時毒、此四時不正之氣、感二於人一、發二成斯疾一也。

【時難】340ジナン ❶時のなんぎ。當時の災難。〔漢書、

藝文志〕所三以免二時難一也。〔魏志、王烈傳〕避二時難一、乘レ桴越レ海。〔劉琨、勸進表〕社稷時難、則戚藩定二其傾一。❷ダジつゐな。おにやらひ。一定の季節に疫癘の鬼を追ひはらふ儀式。古は季春・仲秋・季冬の三時に行つた。〔周禮、夏官、方相氏〕帥二百隸一而時難。〔注〕時難、四時作。〔疏〕云二時難四時一者、按、月令惟有二三時一。〔孫詒讓正義〕云三時難、四時作、方相氏、以難二卻凶惡一也、月令季冬命二國難一者、賈疏云、按、月令季春云、命二國難一、命レ有二國者難一、仲秋云、天子乃難、惟天子得レ難、諸侯亦不レ得、季冬云、乃命二有司大難一、言レ大則及二民庶一亦難、惟有二此三時難一、鄭云二四時者一、雖二三時一亦得レ云二四時一、總二言之一也、若然、此經所レ難、據二十二月大難一而言、是以鄭引二季冬一爲レ證也。

【時任】341 ジニン 當時の重要な職務。〔王羲之、增運帖〕吾於レ時地甚卑、致レ言誠不レ易、然以レ在二大臣之末一、要爲レ居二時任一、豈可三坐視二危難一。

【時派】342 shih^2 p‘ai^4 流行。時めく。

【時背】343 ジハイ 時世にそむく。〔白居易、雪夜小飮贈二夢得一詩〕久將二時背一成二遺老一、多被二人呼一作二散仙一。〔皮日休、奉二和魯望秋日遣レ懷次韻詩〕高蹈爲二時背一、幽懷是事兼。

【時牌】344 ジハイ 時刻を示すために掲げる札。〔宋史、律歷志三〕國朝復二挈壺之職一、專司二辰刻一、其制有二銅壺・水稱・渴烏・漏箭・時牌・契之屬一。〔注〕牌有レ七、自レ卯至レ酉用レ之、制以レ牙、刻レ字塡レ金。〔王禹偁、有傷詩〕壁上時牌催二晝夜一、案頭朝報見二存亡一。

【時輩】345 ジハイ 其の當時の人々。又、當時の賢者。〔後漢書、竇章傳〕章謙虛下レ士、收進二時輩一、甚得二名譽一。

【時方】346 ジハウ ❶醫者の處方。宋元以來製する所の新藥方をいふ。古方(**2**−**3233**··412)の對。❷明、南昱(**2**−**2750**··19)の字。

【時芳】347 ジハウ 當時の若さ。又、當時の名聲。〔崔國輔、古意詩〕時芳不レ待レ妾、玉珮無レ處レ誇。〔沈佺期、覽レ鏡詩〕時芳固相奪、俗態豈恒堅。〔韋應物、歎二楊花一詩〕人意有二悲歡一、時芳獨如レ故。

【時報】348 ジハウ ❶をりをりの報知。❷時間のしらせ。

【時望】349 ジバウ ❶其の時の人望。當時のにんき。時人の歸向。〔晉書、楊珧傳〕得二幸於帝一、時望在二駿前一。〔王儉、褚淵碑文〕貽二厥之寄一、允屬二時望一。〔唐書、李虞仲傳〕時望歸重。❷字號。㋑明、賀霖(**10**−**36725**··112)の字。㋺明、郭汝霖(**11**−**39474**··331)の字。㋩明、盛顒(**8**−**23005**··43)の字。㊁明、王世名(**7**−**20823**··1766)の字。

【時髦】350 ジバウ ❶其の時代の俊傑。〔後漢書、順帝紀贊〕孝順初立、時髦允集。〔注〕爾雅曰、髦、俊也、郭璞注曰、士中之俊、猶二毛中之髦一、時張晧・王龔・龐參・張衡・李郃・李固・黃瓊之儔也。〔謝靈運、擬二魏太子業中集一、徐幹詩〕華屋非二蓬居一、時髦豈余匹。❷shih^2 mao^2 時代流行の風を追ふハイカラ者流。

【時法】351 ジハフ ❶當時の模範。〔韓愈、祭二裴太常一文〕動爲二時法一、言比二古經一、獨立二一朝一、高視二千古一。❷宋、汪大度(**6**−**17154**··298)の字。

【時乏】352 ジバウ 當時の缺乏。〔潘尼、贈二長安令劉正伯一詩〕疲憊充二時乏一、及レ余再同僚。

【時反】353 ジハン ❶天の時がめぐりかへる。〔國語、越語下〕蠡聞レ之、上帝不レ考、時反是守、彊索者不祥、得レ時不レ成、反受二其殃一、失レ德滅レ名、流走死亡。❷ときにかへる。〔王羲之、東書堂帖〕想佳卿以得二速還一、欲レ令二今早去時反一也。

【時發】354 ジハツ 字號。❶宋、楊庭顯(**6**−**15112**··711)の字。❷宋、楊文仲(**6**−**15112**··781)の字。

【時半】355 トキナカ はんとき。半時。〔大鏡、中〕さて時半ばかりありて。

【時帆】356 ジハン 清、法式善(**6**−**17290**··374)の號。

【時備】357 ジビ ときにそなはる。〔李庾、西都賦〕黼黻時備、粢盛告レ豐。

【時評】358 ジヒヤウ 時人のとりさた。當時の批評。

【時偪】359 ジヒヨク ときにせまる。〔後漢書、鄭孔荀傳贊〕公業稱レ豪、駿聲升騰、權詭時偪、揮二金僚朋一。

【時敏】360 ジビン 字號。❶宋、方元修(**5**−**13620**··510)の字。❷明、周憲(**2**−**34441**··167)の字。❸明、鄒來學(**11**−**39562**··126)の字。❹明、張悅(**4**−**9812**··64)の字。❺清、呂學(**2**−**3386**··24)の字。

〔時敏齋〕361 ジビンサイ 宋、蔣允升(**9**−**31820**··116)の號。

【時夫】362 ジフ 元、陰幼遇(**11**−**41691**··349)の字。

【時付】363 トキツキ ❶時刻を書きしるすこと。〔東鑑、四十〕建長二年四月二日、云二頭人一云二奉行人一、莫レ及二遲參一、且可三進二覽時付著到一。❷時刻を限ること。時間を定めること。〔信州川中島合戰、一〕時付の早飛脚。

【時溥】364 ジフ 唐、彭城の人。官は僖宗の時、武寧節度使。黃巢を破り、功、第一に敍せらる。後、同中書門下平章事に進められ、封は鉅鹿郡王。昭宗の時、朱全忠に破れ、自ら焚死す。〔唐書、一百八十八〕・〔舊唐書、一百八十二〕・〔舊五代史、十三〕。

【時舞】365 ジブ 其のときのつとめ。時務。〔楚辭、天問〕干協時舞、何以懷レ之。〔注〕舞、務也、言、少康幼小、復能求二得時務一、調二和百姓一、使二之歸一レ己、何以懷二來者一也。

【時風】366 ジフウ ❶時に應じて吹く風。時節に順應して吹く風。〔書、洪範〕曰聖、時風若。〔後漢書、黃瓊傳〕逆二和氣一以致二時風一。〔陸機、演連珠〕時風夕灑、程レ形賦レ音。❷shih^2 fêng^1 流行。

【時服】367 ジフク 四季をりをりのきもの。時季相應の衣服。〔禮、檀弓下〕其斂以二時服一。〔國語、楚語下〕牲器時服。〔漢書、劉向傳〕斂以二時服一。〔張衡、東京賦〕順二時服一而設レ副。〔張籍、酬三元尚書寄二綾素一詩〕便令三裁製爲二時服一、頓覺光榮上二病身一。

【時物】368 ジブツ 其の時の事。又、其の時節の物。〔易、繫辭下〕六爻相雜、唯其時物也。〔疏〕物、事也。〔後漢書、章帝紀〕宜下助二萌陽一以育中時物上。

【時紛】369 ジフン 其の時代のもつれ。〔袁宏、三國名臣序贊〕謀解二時紛一、功濟二宇內一。

【時分】370 ジブン ❶時刻。時間。〔宋書、律歷志中〕漏所下以節二時分一定中昏明上。❷わづかの時間。又、時期。〔朱慶餘、送三韋校書佐二靈州幕一詩〕共知二行處樂一、猶惜二此時分一。❸時に隨つて分ける。〔管子、幼官〕名實、勝之急、時分、勝之事。〔纂詁〕凡所二俘獲一、隨レ時分レ之、則人自爲レ戰。

【時文】371 ジブン ❶科擧の試驗に課する文章及び詩賦。古文(**2**−**3233**··438)の❹㋺の對。其の體は宋に始まり、元に行はれ、明に至つて大いに定まり、之を八股文といふ。八股(**2**−**1450**··172)を見よ。〔歐陽脩、記二舊本韓文後一〕是時天下學者楊劉之作、號爲二時文一、能者取二科第一、擅二名聲一以誇レ榮、當世未下嘗有中道二韓文一者上。〔隨園隨筆〕時文二字、初見二考工記量銘一、曰、時文思索、允臻二其極一、此二字斷章取義、實始二於此一、宋文鑑有二張庭堅經義一篇一、皆是尙書題、其文有レ似二乎論一、卽當日王荊公所レ定格式也、歐公云、天聖閒予擧二進士一、見下學者務以二言語聲偶摘裂一號曰中時文上、是時文者乃指二進士之詩賦一也、元仁宗皇慶二年、定二考試程式一、蒙古色目人第一場、經問五條、大學論語孟子中庸朱子章句、漢人第一場、與二蒙古一同、惟於二卷尾一作二一大結一、以二己意一結レ之、限二三百字一、第二二三場、增二古賦詔誥等賦樣一、蒙古人能二漢試一者加二一等用一、明太祖與二劉基一、又酌二定四子書文一、倣二宋經義方一、代二古人語氣一而爲二之體一、用二排偶一、謂二之八股一、考二兩朝選擧志一、則是時文之體、濫二觴於宋一、行二於元一、而大定二於明一。❷當時の文明。當時の禮樂。〔張協、七命〕羣萌反レ素、時文載郁。〔注〕向曰、文、謂二禮樂一也。❸現代普通に行はれてゐる文體。普通文。中國時文。❹字號。㋑唐、蕭瑀(**9**−**32012**··14)の字。㋺宋、吳可當(**2**−**3365**··458)の字。

〔時文摘紕〕372 ジブンテキヒ 書名。一卷。村田春海撰。作文通弊の初名。漢文家の用語の誤謬、稱呼の濫謂を指摘したもの。〔日本文庫、第八冊〕。

【時平】373 ジヘイ 時世がたひらかにをさまる。〔梁簡文帝、南郊頌序〕塵清世晏、蒼兕無レ用二其武功一、運謐時平、鵷鷺咸修二其文德一。〔張載、權論〕時平則才伏、世亂則奇用。〔高適、遇二盧明府一有レ贈詩〕時平俯二鵲巢一、歲熟多二人煙一。〔劉長卿、時平後春日思レ歸詩〕一尉何曾及二布衣一、時平卻憶二臥柴扉一。

【時柄】374 ジヘイ 時の政柄。時の權力。〔後漢書、鄧隲傳論〕悲哉、隲悝兄弟、委二遠時柄一、忠二勞王室一。

【時病】375 ジヘイ ❶當時の弊害。時弊。〔唐書、陸贄傳贊〕譏二陳時病一、皆本二仁義一、可レ爲二後世法一。〔宋史、陳騤傳〕騤疏二三十條一、皆切二於時病一。

程瑀傳〕苟且之習復成、黨與之私寢廣、最時病之大者。㊁四時の季候によつて生ずる病。〔雷豐、時病論〕。

【時聘】376ジヘイ 一定の常期が無く、事ある毎に天子が諸侯を聘する禮。〔周禮、春官、大宗伯〕殷見曰レ同、時聘曰レ問。〔注〕時聘者、亦無二常期一、天子有レ事乃聘レ之焉。〔周禮、秋官、大行人〕時聘以結二諸侯之好一。

【時弊】377ジヘイ 其の時の弊害。當時の弊害。時病。〔晉書、姚萇載記〕省二非急之費一、以救二時弊一。〔唐書、薛元賞傳〕能推二言時弊一。〔孫奭、孟子正義序〕導二王化之源一、以救二時弊一。

【時表】378 shih^2 piao^3 時計。

【時苗】379ジベウ ㊀時節の苗。〔潘岳、河陽縣作詩〕長嘯歸二東山一、擁レ耒耨二時苗一。㊁後漢、鉅鹿の人。字は德冑。官は典農中郎將。

〖時苗留犢〗380ジベウリウトク 蒙求の標題。後漢の時苗が、獻帝の時、壽春縣の令となつて赴任する時、一頭の牝牛を牽いて行つたが、これが在任中に犢を生んだ。任を去る時、任地で生れた犢だから、自分の所有とすべきものではないとして留め去つた故事。〔蒙求、上、時苗留犢〕魏略、時苗、字德冑、鉅鹿人、少清白、爲レ人疾レ惡、建安中爲二壽春令一、令行風靡、其始之レ官、乘二薄軬車一、黃牸牛、布被囊、歲餘牛生二一犢一、及レ去留二其犢一、謂二主簿一曰、令來時、本無二此犢一、犢是淮南所レ生、時人皆以爲レ激、然由レ是名聞二天下一、後遷二中郎將一。

【時變】381ジヘン ㊀四時のうつりかはり。時序の變移。〔易、賁〕觀二乎天文一、以察二時變一。〔史記、天官書〕終二始古今一、深觀二時變一。㊁時勢のうつりかはり。時局の變遷。〔史記、叔孫通傳〕若眞鄙儒也、不レ知二時變一。〔史記、貨殖傳〕李克務盡二地力一、而白圭樂レ觀二時變一、故人棄我取、人取我與。〔漢書、桑弘羊傳贊〕桑大夫據二當世一、合二時變一。〔漢書、竇嬰灌夫傳贊〕嬰不レ知二時變一、夫亡レ術而不レ遜。㊂新書の篇名。

〖時變之應〗382ジヘンノオウ 其の時の情勢の變化に應ずるもの。〔呂覽、簡選〕此四者、義兵之助也、時變之應也。

〖時變是守〗383ジヘンヲコレマモル 時のうつりかはりに順應する。〔史記、太史公自序〕聖人不レ朽、時變是守。

【時勉】384ジベン 字號。㊀宋、鈕釗(11－40228‥11)の字。㊁明、賀懋(10－36725‥94)の字。㊂明、葉釗(9－31387‥92)の字。

【時甫】385ジホ 字號。㊀明、章潤(8－25761‥100)の字。㊁明、陶滋(11－41705‥81)の字。㊂明、陳大中(11－41698‥1096′)の字。㊃明、汪若霖(6－17154‥255)の字。㊄清、林維源(6－14551‥259)の字。

【時暮】386ジボ 暮れがた。又、ときがおそい。〔江淹、金燈草賦〕既豔二溢於時暮一、方照二麗於霜分一。〔王勃、採蓮賦〕悲時暮愁日曛、鳴鐶釧兮響窈窕、豔珠翠兮光繽紛。〔儲光羲、敬酬二陳椽親家翁秋夜有レ贈詩〕豈不レ畏二時暮一、坎壈無二與鄰一。

【時豐】387ジホウ 其の時の豐作なこと。〔韋應物、驪山行〕時豐賦斂未レ告レ勞、海闊珍奇亦來獻。〔韋應物、酬二鄭戶曹驪山感懷一詩〕朝燕詠二無事一、時豐賀二國楨一。〔白居易、歸來二周歲詩〕時豐實二倉廩一、春暖葺二庖廚一。

【時謀】388ジボウ 時に應ずるはかりごと。〔王粲、從軍詩〕恨我無二時謀一、譬二諸具官臣一。

【時懋】389ジボウ これつとむ。つとめる。時は是。〔書、舜典〕咨禹汝平二水土一、惟時懋哉。

【時邁】390ジマイ 詩經、周頌、清廟之什の篇名。天子が時を以て邦國を巡行し、方岳の下に至つて封禪するを歌ふ。〔詩、周頌、時邁序〕時邁、巡守告祭柴望也。〔箋〕巡守告祭者、天子巡二行邦國一、至二于方嶽之下一而封禪也。

〖時邁齒載〗391ジマイシテツ 耄耋をいふ。載は耋に同じ。〔吳質、答二魏太子一牋〕時邁齒載、猶欲三觸レ冑奮レ首、展二其割裂之用一也。〔注〕良曰、邁、往、齒、年、載、大也。

【時網】392ジマウ 法網。〔曹植、責レ躬詩〕舉掛二時網一、動亂二國經一。〔陸機、於二承明一作與二士龍一詩〕牽世嬰二時網一、駕言遠徂征。

【時味】393ジミ 其のときの味のよいもの。時節の珍味。〔魏書、高允傳〕高祖文明太后、遣レ使備賜二御膳珍羞一、自二酒米一至二於鹽醢一、百有餘品、皆盡二時味一。〔元晏春秋〕衞倫過レ子、論二及于時味一、因命レ僕取レ糗、進曰、麥也、有二杏李奈味一。〔王禹偁、七夕詩〕海物雜二時味一、羅列繁且夥。

【時務】394ジム ㊀當世の務。時局に應ずるしごと。其の時の政治。〔史記、天官書〕皐唐甘石、因二時務一論二其書傳一。〔漢書、昭帝紀贊〕光知二時務之要一、輕レ繇薄レ賦、與レ民休息。〔漢書、梅福傳〕質二之先聖一而不レ繆、施二之當世一合二時務一。〔後漢書、馮衍傳下〕慮二時務一者、不レ能レ興二其德一。〔後漢書、杜林傳〕古文雖レ不レ合二時務一、然願二諸生無レ悔レ所レ學。〔班固、答賓戲〕李斯奮二時務一、而要二始皇一。〔魏志、王昶傳〕依二古制一而合二於時務一者二十餘篇。〔蜀志、郤正傳〕究二古今之眞僞一、計二時務之得失一。㊁時に應じた務。春夏秋三時の農務。〔國語、楚語上〕民不レ廢二時務一、官不レ易二朝常一。〔後漢書、章帝紀〕方春東作、宜レ及二時務一、二千石勉二勸農桑一、弘致二勞來一。〔陶潛、癸卯歲始春懷二古田舍一詩〕秉レ耒歡二時務一、解レ顏勸二農人一。

〖時務策〗395ジムサク 應試の文。施政の方策、政治上の考案を論ずるもの。〔唐書、選擧志上〕凡明經、云云、答二時務策三道一、亦爲二四等一、云云、凡進士試二時務策五道一、帖二一大經一。

〖時務學堂〗396ジムガクダウ 清の光緒二十三年、王先謙が長沙に在つて時務學堂を設け、梁啓超を聘して主講とした。十四歲から二十歲に至る青年を入學せしめ、課程は普通と專門との兩類に分けた。修學期は、三年から四年に至る。梁啓超は、學約十章を草し、立志・養心・治身・讀書・窮理・學義・樂羣・攝生・經世・傳敎を綱とし、別に南學會を設けて公開し、改革を鼓吹した。戊戌の政變に南學堂は封鎖せられ、時務學堂も停められた。

〖不レ識二時務一〗397ジムヲシラズ 當世の急務をしらない。〔後漢書、張霸傳〕鄧隲當レ朝貴盛、聞二霸名行一、欲二與爲レ交、霸逡巡不レ答、衆人笑二其不レ識二時務一。

〖識二時務一者在二乎俊傑一〗398ジムヲシルハシユンケツニアリ 時世の急務を知るのは俊傑である。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕襄陽記曰、劉備訪二世事于司馬德操一、德操曰、儒生俗士、豈識二時務一、識二時務一者、在二乎俊傑一。

【時名】399ジメイ 一時の名望。〔宋史、呂誨傳〕誨曰、安石雖レ有二時名一、然好執二偏見一、輕信二姦回一。

【時命】400ジメイ ㊀朝會の命令。〔左氏、襄、二十八〕共二其職貢一、從二其時命一。〔注〕從二朝會之命一也。㊁大國が小國に對して隨時に提出する要求。〔左氏、昭、三十〕事レ大在レ共二其時命一。〔注〕隨レ時共レ所レ求。㊂當時の政府の命令。〔晉書、杜夷傳〕夷雖レ逼二時命一、亦未二嘗朝謁一、國有二大政一、恆就レ夷諮訪焉。㊃時の命運。〔莊子、繕性〕當二時命一而大行二乎天下一、則返レ一無レ迹。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕哀二時命之不レ及二古人一兮。〔岑參、陪二狄員外一早秋登二府西樓一因呈二院中諸公一詩〕時命難二自知一、功業豈暫忘。

【時明】401ジメイ 明かに治る世。明時。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕操欲下迷二奪時明一、杜中絕言路上。〔注〕濟曰、言丁操將丙惑二明時一、絕乙忠諫甲。

【時銘】402ジメイ 清、嘉定の人。字は佩西。號は香雪・掃落葉齋。乾隆の進士。官は齊東知縣。著に掃落葉齋詩文稿・外集・隨筆・筆算籌算圖・六壬錄要・唐宋詩選がある。

【時鳴】403ジメイ 字號。㊀明、黃一鳳(12－47926‥90)の字。㊁明、鄒文盛(11－39562‥117)の字。㊂明、戴鯨(5－11685‥56)の字。㊃明、方鳳(5－13620‥420)の字。

【時茂】404ジモ 字號。㊀明、黃仲芳(12－47926‥1253)の字。㊁明、李森(6－14459‥478)の字。

【時門】405ジモン 鄭の城門の名。〔左氏、昭、十九〕鄭大水、龍鬭二于時門之外洧淵一。〔注〕時門、鄭城門也。

【時夜】406ジヤ 鷄が鳴いて夜の時をつげること。又、其の時。轉じて、雞をいふ。〔莊子、齊物論〕見レ卵而求二時夜一、見レ彈而求二鴞炙一。〔釋文〕崔云、時夜、司夜、謂レ雞也。〔莊子、大宗師〕浸假而化二予之左臂一以爲レ雞、予因以求二時夜一。

【時陽】407ジヤウ ㊀時のひでり。〔漢書、王莽傳中〕太白司レ艾、西嶽國師、典レ致二時陽一。〔注〕應劭曰、陽、旱也。㊁季節が陽になる。春になる。〔潘岳、笙賦〕若夫時陽初暖、臨レ川送レ離。〔注〕良曰、時陽、春時也。

【時暘】408ジヤウ 晴天の順調なこと。氣候が適當に

乾燥すること。〔書、洪範〕曰乂、時暘若、曰哲、時燠若。

【時養】409 ジヤウ 四時のやしなひ。〔白虎通、禮樂〕南夷之樂、持レ羽舞、助二時養一也。

【時樣】410 ジヤウ 其の時代のはやりのすがた。當時の流行のかた。又、其の品。〔陳師道、謝三寇十一惠二端硯一詩〕琢爲二時樣一供二翰墨一、十襲包藏百金貴。

【時雄】411 ジユウ 其の時代の英雄。當時の武勇ある人。〔後漢書、李恂等傳贊〕橋公識レ運、先覺二時雄一。

【時譽】412 ジヨ 當時のほまれ。時稱。〔晉書、傅玄傳〕以二時譽一選入二著作一、撰二集魏書一。〔魏書、陸暐傳〕與二弟恭之一並有二時譽一。〔高適、鉅鹿贈二李少府一詩〕李侯雖二薄宦一、時譽何籍籍。

【時豫】413 ジヨ 當時のあそび。其のときのたのしみ。〔虞世南、奉レ和レ幸二江都一應詔詩〕肆覲遵二時豫一、順動悅二來蘇一。〔武平一、奉三和幸二新豐溫泉宮一應制詩〕我皇順二時豫一、星駕動二軒轅一。〔李從遠、奉三和九月九日登二慈恩寺浮圖一應制詩〕九月從二時豫一、三乘爲二法開一。

【時用】414 ジヨウ ❶其の時代の要務。又、其の時代に役立つこと。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕不レ過レ欲三爲レ官得レ人、以益二時用一耳。〔潘岳、在二懷縣一作詩〕虛薄乏二時用一、位微名目卑。❷字號。㋑明、歐陽經(6−16185··62)の字。㋺明、郭師古(11−39474··312)の字。㋩明、郭璡(11−39474··139)の字。㋥明、謝澤(10−35827··161)の字。㋭明、徐溥(4−10110··271)の字。㋬明、潘辰(7−18236··58)の字。❸元、不忽木(1−19··1134)の一名。

【時邕】415 ジヨウ 太平のさま。時雍に同じ。〔晉書、沮渠蒙遜載記〕所下以能招二禮英奇一、致中時邕之美上。〔白居易、賀レ雨詩〕上思レ答二天戒一、下思レ致二時邕一。

【時雍】416 ジヨウ ❶これやはらぐ。太平のさま。民のやはらぎたのしむこと。時は、是で、發語の辭。一說に、時代。〔書、堯典〕黎民於變時雍。〔傳〕時、是、雍、和也、言二天下衆民皆變化從レ上、是以風俗大和一也。〔孫星衍今古文注疏〕潛夫論考績篇云、此堯舜所下以養二黎民一而致中時雍上也、云レ致二時雍一、疑又以レ時爲二時代之時一。〔漢書、刑法志〕順二稽古之制一、成二時雍之化一。〔後漢書、謝夷吾傳〕遷守二鉅鹿一、政合二時雍一。〔曹植、責レ躬詩〕武則肅烈、文則時雍。❷字號。㋑宋、黃皞(12−47926··128)の字。㋺明、丘霽(1−33··62)の字。㋩明、劉大夏(2−2224··1157)の字。

〖時雍之政〗417 ジヨウノセイ 民をしてやはらぎたのしましめる政。時雍を見よ。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕昔唐以二萬國一、致二時雍之政一。

〖時雍之世〗418 ジヨウノヨ 民のやはらぎたのしむ世。〔陸機、演連珠〕蒲密之黎、遺二時雍之世一。

【時庸】419 ジヨウ 字號。❶明、黃卿(12−47926··321)の字。❷明、徐瓚(4−10110··112)の字。❸明、牧相(7−19950··32)の字。

【時翊】420 ジヨク 明、左贊(4−8720··202)の字。

【時來】421 ジライ ❶たまたま來る。〔盧諶、答二魏子悌一詩〕遇レ蒙二時來會一、聊齊二朝彥跡一。❷地名。春秋、鄭の地。河南省滎澤縣の東。左傳は郲に作る。〔春秋、隱、十一〕公會二鄭伯于時來一。❸shih^2 lai^2 除夜に茹の煮たものを食ふこと。浙江省湖州地方の風習。

〖時來之運〗422 ジライノウン たまたま來る好運。〔魏志、劉廙傳〕遭二乾坤之靈一、值二時來之運一。

〖時來命卽通〗423 トキキタレバメイスナハチツウズ 功名富貴は必ずしも人力によらないで、時節が到來すれば運命も直ちに通達する。〔羅隱、王濬墓詩〕男兒未二必盡英雄一、但到二時來一命卽通。

〖時來先生醫病尾〗424 shih^2 lai^2 hsien^1 shêng^1 i^1 ping^4 wei^3 運のよい醫者は癒りかけた病人を引きうける。

〖時來運轉運敗時衰〗425 shih^2 lai^2 yün^4 chuan^3 yün^4 pai^4 shih^2 shuai^1 時が來れば運も向き、運が惡くなれば時機も惡くなる。

【時醪】426 ジラウ 時節のにごりざけ。〔陶潛、祭二從弟敬遠一文〕乃以二園果時醪一、祖二其將一レ行。

【時瀾】427 ジラン 宋、蘭溪の人。字は子瀾。號は南堂。兄、澐と同じく呂祖謙の弟子に師事す。淳熙の進士。官は朝散郎。祖謙、書說を輯し、秦誓から洛誥に泝り、畢らずして卒し、瀾、之を補完す。著に南堂集がある。〔宋元學案、七十三〕。

【時利】428 ジリ ❶天の時と地の利。〔列子、天瑞〕吾聞、天有レ時、地有レ利、吾盜二天地之時利一。❷其の時の利益。〔晉書、石苞傳〕(苞)徙レ鄴典二農中郎將一、時魏世王侯、多居二鄴下一、尙書丁謐、並較二時利一、苞奏二列其事一、由レ是益見レ稱。〔北史、魏文成帝紀〕詔曰、刺史牧人、爲二萬里之表一、自レ頃每因二發レ調逼レ人、假二貸大商富賈一、要レ射二時利一、云云、爲レ政之弊、莫レ過二於此一。〔韓愈、答二孟郊一詩〕規模背二時利一、文字覷二天巧一。

【時流】429 ジリウ ❶當時の人。時人。〔魏書、楊椿傳〕內外顯職、時流少レ比。〔南史、蔡廓傳〕年位並輕、而爲三時流所二推重一。〔桃花扇、偵戲〕遭二時流欺謾一、怎能得二高臥加餐一。❷其の時代の流行。當時の風潮。〔李咸用、同二友人一秋日登二庾樓一詩〕臂レ刀腰レ劍逐二時流一。

【時律】430 ジリツ 時候にかなつた音樂。孟春、律は太簇に中り、仲春、律は夾鐘に中る類。〔後漢書、明帝紀〕吹二時律一觀二物變一。〔注〕時律者、卽月令、孟春律中二太簇一、仲春律中二夾鐘一之類。

【時良】431 ジリヤウ 明、潘季馴(7−18236··138)の字。

【時亮】432 ジリヤウ 字號。❶明、戴欽(5−11685··41)の字。❷清、袁文揆(10−34152··239′)の字。

【時龍】433 ジリヨウ 四方の色に隨ふ馬。方色は、東は青、南は赤、西は白、北は黑。轉じて、時の英雄をいふ。〔後漢書、光武紀論〕何以能乘二時龍一而御レ天哉。〔班固、東都賦〕登二玉輅一乘二時龍一。〔注〕翰曰、時龍隨二方色一之馬、凡稱レ龍者、美レ馬之言也。

【時力】434 ジリヨク 強弩の名。春秋戰國の韓に產した。之を作るに時に適ひ、常の二倍の力を有するから名づける。距來。〔史記、蘇秦傳〕天下之強弓勁弩、皆從レ韓出、谿子少府時力距來者、皆射二六百步之外一。〔注〕集解曰、時力者、爲三作レ之得レ時、力倍二於常一、故名二時力一也。

【時吝】435 ジリン 時世がゆきなやむ。時の艱難なこと。〔晉書、孫惠傳〕竊慕二墨翟申包之誠一、跋二涉荊棘一、重レ繭而至、櫛風沐雨、來承二禍難一、思以二管穴一、毗二佐大猷一、道險時吝、未二敢自獻一。

【時倫】436 ジリン 當時の同列。〔韋應物、寄二令狐侍郎一詩〕羣公共然諾、聲問邁二時倫一。

【時霖】437 ジリン 字號。❶明、戴鯨(5−11685··56)の字。❷明、雷澤(12−42245··99)の字。❸明、王渙(7−20823··307)の字。❹清、朱澤生(6−14424··917)の字。❺清、張澍(4−9812··388)の字。

【時累】438 ジルイ 時のわづらひ。風雨をいふ。〔陸機、演連珠〕貞二於期一者、時累不レ能レ淫。〔注〕濟曰、時累、謂二風雨一也。

【時類】439 ジルイ 時々に事類を神に告げる祭。〔國語、楚語下〕古者先王、日祭月享、時類歲祀。〔注〕以二事類一曰レ類、云云、時類於二二祧一、歲祀於二壇墠一。

【時令】440 ジレイ ❶一年十二箇月の中に行ふべき政事儀式等の順序を記したもの。年中行事記。歲時記。〔禮、月令〕(季冬之月)天子乃與二公卿大夫一共飭二國典一、論二時令一、以待二來歲之宜一。〔孫希旦集解〕吳氏澄曰、時令、隨レ時之政令也。〔管子、君臣上〕時令不レ淫、而百姓肅給。〔漢書、王莽傳中〕班二時令一案二諸章一。〔後漢書、魯恭傳〕進二柔良一退二貪殘一、奉二時令一。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕時令盛春、農事不レ聚レ衆興レ功。❷時節。時候。〔四庫提要、子、類書類〕御定駢字類編二百四十卷、凡分二十有二門一、云云、曰時令。

〖時令症〗441 shih^2 ling^2 chêng^4 流行病。

〖時令風〗442 shih^2 ling^2 fêng^1 季候風。

〖讀二時令一〗443 ジレイヲヨム 讀時令(10−36088··101)を見よ。

【時曆】444 ジレキ こよみ。曆本。〔晉書、杜預傳〕預以二時曆差舛不レ應二晷度一、奏二上二元乾度曆一行二於世一。

【時路】445 ジロ ❶其の時のくるま。路は、輅に同じ。〔宋書、樂志四〕時路建二大麾一、雲旗翳二紫虛一。❷世わたりのみち。世の中。〔阮籍、詠懷詩〕時路烏足レ爭、太極可二翺翔一。

【時論】446 ジロン 當時の議論。時人の評論。〔魏志、常林傳〕時論以二林節操清峻一、欲レ致二之公輔一。〔白居易、牛僧孺監察御史制〕訪二諸時論一、宜レ當二朝選一。

【時和】447 ジワ ❶時が和す。四時の氣候が順調なこと。〔宋書、文帝紀〕四表無レ塵、時和歲稔。〔南齊書、高帝紀下〕關燧無レ虞、時和歲稔。❷元、姚應鳳(3−6202··133)の字。

〖時和歲豐〗448 トキワシトシユタカ 氣候が順調で年穀の豐かなこと。〔詩、小雅、華黍序〕華黍、時和歲豐、宜二黍稷一也。

【時王】449 ジワウ 其の時の天子。〔公羊、隱、元、王者孰謂、注〕欲レ言二時王一則無レ事、欲レ言二先生一又無レ謚、故問二誰謂一。〔穀梁、桓、二、春滕子來朝、注〕隱公十一年稱レ侯、今稱レ子、蓋時王所レ黜。

【時往】450 ジワウ 時がゆきすぎる。〔陸機、猛虎行〕日歸功未レ建、時往歲載陰。

【應レ時】451 トキニオウズ 其の時々の情勢に應ずる。〔史記、秦始皇紀〕應レ時動レ事。

【救レ時】452 トキヲスクフ 時代の弊をすくふ。又、時勢の衰運を恢復する。〔唐書、姚崇傳〕崇爲二救レ時宰相一。

【成レ時】453 トキヲナス 時を形成する。時は、春・夏・秋・冬の中の一をいふ。〔禮、鄉飲酒義〕月者、三日則成レ魄、三月則成レ時。

【銓レ時】454 トキヲハカル 時勢を考へる。〔陸機、漢高祖功臣頌〕指二明周漢一、銓レ時論レ道。

【得レ時】455 トキヲウ よい時機を得る。運が開ける。〔列子、說符〕施氏曰、得レ時者昌、失レ時者亡。〔淮南子、原道訓〕非レ爭二其先一也、而爭二其得一レ時也。

【得レ時則駕】456 トキヲウレバスナハチガス よい時機を得れば、直ちにこれに乘ずる。〔史記、老子傳〕君子得二其時一則駕、不レ得二其時一則蓬累而行。

〖得レ時無レ怠〗457 トキヲエテハオコタルコトナカレ 歲月は人を待たないから、よい時機を得たら怠ってはならない。〔國語、越語下〕得レ時無レ怠、時不二再來一、天予不レ取、反爲二之災一。

【不レ時】458 トキナラズ 其の時でない。ときはづれである。〔論語、鄉黨〕不レ時不レ食。

【時建亨】459 ジケンカウ 宋の人。光の子。小字は烏郎。畫に巧。

【時津鳥】460 トキツドリ ほととぎす。時鳥の異名。〔散木集、二、夏〕ときつどり鳴くね雲居にとどろきて星の林はうづもれぬらむ。

【時津風】461 トキツカゼ 滿潮の時に吹く風。又、時節に順應して吹く風。

【時晴齋】463 ジセイサイ 字號。❶清、汪田敦（**6－17154**‥160）の號。❷清、汪承霈（**6－17154**‥266）の號。

【時少章】464 ジセウシヤウ 宋、金華の人。字は天彝。號は所性。呂祖謙に師事す。博く羣書を究め、經を談じて多く新意を出し、子史に於て尤も精。鄉貢より大學に入り、年、五十を踰えて寶祐の進士に登る。諸教授山長を歷て史館檢閱に擢んでらる。忌む者あり、保寧節度掌書記を授けらる。著に易詩書論孟大義・所性集がある。〔宋元學案、七十三〕。

【時太鼓】465 トキダイコ 時を報ずるために打つ太鼓。〔好色一代男、四〕加賀の大正寺の時太鼓。

【時大彬】466 ジダイヒン 明、宜興の人。陶工。初、供春に倣うて大壺を作り、後、婁東に遊び陳眉公等が茶を論ずるを聞き、小壺を作る。前後の諸家、及ぶ能はず。皆、壺柄に拇痕を銘す。〔畫舫錄〕。

【時知顏】467 トキシリガホ 得意な顏色。時得顏。〔源氏物語、薄雲〕時しりがほなるもあはれにこそ。

【時得顏】468 トキエガホ 得意の時のほこりがほ。

【時無レ止】469 トキヤムコトナシ 時は移って止まることがない。〔莊子、秋水〕時無レ止、分無レ常。

【時茂先】470 ジモセン 金、日照の人。諸城に寓居す。紅襖の賊に殺さる。武節將軍を贈らる。〔金史、一百二十二〕。

【時樂鳥】471 ジラクテウ 唐の玄宗が飼つた五色の鸚鵡の名。〔酉陽雜俎、廣動植、羽篇〕玄宗時有二五色鸚鵡一能言、上令三左右試二牽帝衣一、鳥輒瞋レ目叱咤、云云、張燕公有二表賀一、稱爲二時樂鳥一。

【時裏白】472 ジリハク 魚の名。今、吳中で夏至節後の白魚をいふ。〔王鏊、洞庭兩山賦〕水族則時裏之白、鱠殘之銀。〔事物異名錄、水族、白魚〕避暑錄、太湖白魚冠二天下一、梅後最盛、謂二之時裏白一。

【時立愛】473 ジリツアイ 金、涿州の人。字は昌壽。遼の太康の進士。初、遼に仕ふ。後、金の開府儀同三司。爵は鄭國公。〔金史、七十八〕。

【詠レ時禽】474 トキノキンヲエイズル 時節に鳴く鳥。〔陸機、悲哉行〕目感二隨レ氣草一、耳悲二詠レ時禽一。〔注〕良曰、草色隨二氣序一而生、故目望而懷感也、禽聲亦應二時月一而變、故耳聞二其悲詠一。

【足レ染レ時】475 トキヲソムルニタル 時俗を感化するに十分な力がある。〔張協、雜詩〕至人不レ嬰レ物、餘風足レ染レ時。

【不レ遇レ時】476 トキニアハズ よい時節に出合はない。運が向かない。〔史記、李將軍廣傳〕文帝曰、惜乎子不レ遇レ時、如令三子當二高帝時一、萬戶侯豈足レ道哉。

【時有二終始一】477 トキニシウシアリ 時には終と始がある。〔莊子、則陽〕時有二終始一、世有二變化一。

【時去時來】478 ジキヨジライ 時去り時來る。時が去來する。〔漢書、郊祀志上〕時去時來、來則風肅然。

【時詘擧贏】479 ジクツキヨエイ 時世が衰へてゐるのに反って奢侈なこと。〔資治通鑑、周紀〕（顯王、三十五年）此所謂時詘擧レ贏者也。〔注〕徐廣曰、時衰耗而作二奢侈一、言下國家多難而勢詘、此時宜レ恤二民之急一、而擧レ事反若レ有二贏餘一者、失中其所二以爲レ國之道上矣。

【時殊風異】480 トキコトナリフウコトナル 時世が違ひ風俗が異なる。〔宋書、徐羨之傳〕一國之事、本二之一人一、雖二世代不一レ同、時殊風異、至二於主運臣贊一、古今一レ揆。

【時處諸緣】481 ジシヨシヨエン 佛 時は十二時、處は淨處・不淨處、諸緣は生活や人事等をいふ。時と處と出來事の意。卽ち時間と空間とに於て主觀的作用を發動せしむる諸種の客觀的現象。又、諸種の因緣。〔往生要集、下〕只是男女貴賤、不レ簡二行往坐臥一、不レ論二時處諸緣一、修レ之不レ難、願二求往生一、得二其便宜一、不レ如二念佛一。

【時置師神】482 トキオカシノカミ 伊邪那岐命が日向の橘小門の阿波岐原で禊祓の際、投げ棄てられた裳に成りませる神。神名は解き置き給ふ意。〔古事記、上〕次於二投棄御裳一所レ成神名、時置師神。

【時調詞曲】483 shih^2 tiao^4 tʻzŭ^2 chʻü^3 流行の歌曲。

【時不レ可レ失】484 トキハウシナフベカラズ よい時機をはづしてはならない。好機を逸してはいけない。〔書、泰誓上〕爾尙弼二予一人一、永淸二四海一、時哉弗レ可レ失。〔戰國、秦策〕臣聞、敵不レ可レ易、時不レ可レ失。

【時不二久留一】485 トキハヒサシクハトドマラズ 時は久しくはとどまらない。〔呂覽、首時〕天不二再與一、時不二久留一。

【時不二再來一】486 トキハフタタビハキタラズ 時は二度とは來ない。〔國語、越語下〕得レ時無レ怠、時不二再來一。〔史記、淮陰侯傳〕蒯通曰、云云、時者難レ得而易レ失也、時乎時不二再來一。

【時不常的】487 shih^2 pu^4 chʻang^2 tê 時ならぬ時。時々。思ひも寄らぬ時。

【時耶命耶】488 トキナルカメイナルカ 時の運り合はせによるのであらうか、天命によるのであらうか。〔李華、弔二古戰場一文〕嗚呼噫嘻、時耶命耶、從レ古如レ斯。

【以レ時爲レ先】489 トキヲモツテサキトナス 時を失はないことが先務である。〔書、舜典、咨二十有二牧一曰食哉惟時、蔡傳〕王政以レ食爲レ首、農事以レ時爲レ先、舜言、足レ食之道、惟在二於不レ違二農時一也。

【違レ時行レ刑】490 トキニタガヒテケイヲオコナフ 立春以後、秋分以前に死刑を行ふことをいふ。刑法は春生秋殺の理に本づくから、この間は死刑を禁ずる。〔唐律、斷獄、立春後不レ決二死刑一〕諸立春以後、秋分以前、決二死刑一者徒一年、其所レ犯雖レ不レ待レ時、若於二斷屠月及禁殺日一而決者、各杖六十、待レ時而違者加二二等一。〔明律、斷獄、死囚覆奏待報〕若立春以後、秋分以前、決二死刑一者杖八十。

【要レ時務レ民】491 トキヲエウシテタミヲツトメシム 時によって民を勞役につとめしめること。〔荀子、富國〕僡然要レ時務レ民。〔注〕要レ時、趨レ時也、務、勉強也、謂下以二勞役一彊上レ民也。

【邀レ時投レ隙】492 トキヲムカヘゲキニトウズ 時運に乘じすきまにつけこむ。〔海錄碎事、人事、兄弟〕賀拔允昆弟、並邀レ時投レ隙、展レ效立レ功。

【待レ時而動】493 トキヲマチテウゴク よいをりをまって始めて行動する。〔易、繫辭下〕君子藏二器於身一、待レ時而動。

【陳二時臬事一】494 コノゲツジヲノブ 法律は當世の時宜に適合するを要するをいふ。時は是、臬は法。〔書、康誥〕王曰、汝陳二時臬事一、罰蔽二殷彝一、用二其義刑義殺一、勿二庸以次二汝封一。〔傳〕陳二是法事一。

【廢レ時曠レ日】495 トキヲハイシヒヲムナシクス 時を無駄にすごす。無益に時日を費す。〔愼思錄〕豈可二廢レ時曠一レ日乎。

【與レ時俯仰】496 トキトフギヤウス 時世の風に從つて行動する。不二與レ時俯仰一を見よ。

〖不二與レ時俯仰一〗497 トキトフギヤウセズ 時世の風に從つては行動しない。時世に迎合しないこと。〔資治通鑑、宋紀〕許景衡得二程頤之學一、志慮忠純、不二與レ時俯仰一、帝思レ之曰、朕卽位以來、執レ政忠直、遇レ事敢言、惟景衡耳。

【與レ時浮沈】498（トキトフチンス） 時勢につれて浮きしづみする。與レ時俯仰に同じ。

【留レ時逆レ衆】499（トキヲトドメテシユウニサカラフ） 好機を利用せず、衆人の望にさからふ。〔後漢書、光武紀上〕大王留レ時逆レ衆、不レ正二號位一。

【時窮節乃見】500（トキキハマツテセツスナハチアラハル） 世が亂れて道義が衰微すると、其の時に節義がはじめて發現する。〔文天祥、正氣歌〕時窮節乃見、一一垂二丹青一。

【時還讀二我書一】501（トキニマタワガシヨヲヨム） 農事の餘暇に書物を讀む。晉の陶淵明の詩の句。〔陶潛、讀二山海經一詩〕孟夏草木長、遶レ屋樹扶疏、衆鳥欣レ有レ托、吾亦愛二吾廬一、既耕亦已種、時還讀二我書一、窮巷隔二深轍一、頗迴二故人車一、歡然酌二春酒一、摘二我園中蔬一、微雨從レ東來、好風與レ之俱、汎覽周王傳、流觀山海圖、俯仰終二宇宙一、不レ樂復何如。

【時衰鬼弄レ人】502（トキオトロフレバキヒトヲロウス） 運が惡くなれば種種の災厄があるをいふ諺。〔通俗編、神鬼、時衰鬼弄レ人〕杜荀鶴詩、勢敗奴欺レ主、時衰鬼弄レ人。

【非レ時燒二田野一】503（トキニアラズシテデンヤヲヤク） 定まつた時期以外に田野を燒く。非時とは陰曆二月一日以後十月三十日以前をいふ。但、地の南北、氣候の同異に依つて一樣でなく、各〻其の鄕法に依る。〔唐律、雜律、非レ時燒二田野一〕諸失火、及非レ時燒二田野一者、笞五十。〔注〕非レ時、謂二二月一日以後、十月三十日以前一、若鄕土異レ宜者、依二鄕法一。

【時既往而慕レ之】504（トキスデニユキテコレヲシタフ） 時が既に過ぎてしまへばそれをしたふ。〔呂覽、任地〕時未レ至而逆レ之、時既往而慕レ之。

【時矯レ首而遐觀】505（トキニカウベヲアゲテカクワンス） 時には眼をあげて遙かに遠くの方を眺める。〔陶潛、歸去來辭〕策扶レ老以流憩、時矯レ首而遐觀。

【時未レ至而逆レ之】506（トキイマダイタラザレバコレヲムカフ） 時がまだこないときにはそれを待ち望む。時既往而慕之(504)を見よ。

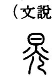
【時者難レ得而易レ失】507（トキハエガタクシテウシナヒヤスシ） よい時機は得がたく失ひやすい。〔史記、齊世家〕武王已平レ商而王二天下一、封二師尙父於齊營丘一、東就レ國、道宿行遲、逆旅之人曰、吾聞、時難レ得而易レ失、客寢甚安、殆非二就レ國者一也。〔史記、淮陰侯傳〕蒯通曰、夫功者難レ成而易レ敗、時者難レ得而易レ失也、時乎時不二再來一。〔淮南子、原道訓〕聖人不レ貴二尺之璧一、而重二寸之陰一、時者難レ得而易レ失也。

【時不レ至不レ可二彊生一】508（トキイタラザレバシヒテシヤウゼシムベカラズ） 春が來なければむりに草木を生ぜしめることは出來ない。時機の到來を待つべきにいふ。〔范蠡子〕時不レ至不レ可二彊生一、事不レ究不レ可二彊成一。

【時不レ利兮騅不レ逝】509（トキリアラズスイユカズ） 時運が不利で乘馬の騅は進まない。騅は項羽の愛馬の名。運命のよくないことをいふ。項羽が運窮まつて歌つた歌の句。〔史記、項羽紀〕項王則夜起飮二帳中一、有二美人一名虞、常幸從、駿馬名騅、常騎レ之、於レ是項王乃悲歌忼慨、自爲レ詩曰、力拔レ山兮氣蓋レ世、時不レ利兮騅不レ逝、騅不レ逝兮可二奈何一、虞兮虞兮奈レ若何、歌數闋、美人和レ之、項王泣數行下、左右皆泣、莫二能仰視一。

【晃】13891

クワウ ワウ 〔集韻〕戶廣切 ㄏㄨㄤˇˋ huang$^{3\cdot 4}$ 養



小篆（說文）

小篆（段注本）

㊀あきらか。かがやく。ひかる。〔說文〕晃、明也、从レ日光聲。〔段注〕各本、篆作レ晄、篇韻皆云、晃正、晄同、今正、晃者、動之明也。〔廣雅、釋詁四〕晃、明也。〔廣雅、釋言〕晃、暉也。〔正字通〕晃、日光耀也。㊁爌(7−19548)・熿(7−19387)に通ず。〔漢書、揚雄傳上、北爌二幽都一、注〕師古曰、爌、古晃字。〔一切經音義、四〕晃、古文熿、同。㊂姓。〔萬姓統譜〕晃華、文士。［邦］日・光の二字を合併して此の字を用ひ、日光山を特に晃山といふ。

［名乘］ テル。アキラ。

【晃昱】1（クワウイク） ひかりかがやく。〔拾遺記〕仙宮則晃昱明粲也。

【晃曜】2（クワウエウ） ひかりかがやく。〔曹植、宜男花頌〕光采晃曜、配二彼朝日一。

【晃耀】3（クワウエウ） ひかりかがやく。晃曜。〔宋書、樂志〕榮華相晃耀、光彩曄若レ神。〔楞嚴經〕爾時世尊、從二其面門一、放二種種光一、其光晃耀、如二百千日一。

【晃光】4（クワウクワウ） あきらかなひかり。〔何晏、景福殿賦〕晃光內照、流景外娫。

【晃晃】5（クワウクワウ） ひかりかがやくさま。燿燿。煌煌。〔釋名、釋天〕光、晃也、晃晃然也、亦言レ廣也、所レ照廣遠也。〔廣雅、釋訓〕晃晃、光也。〔郭璞、鹽池賦〕揚二赤波之煥爛一、光旰旰㠯晃晃。

【晃縣】6（クワウケン） 縣名。民國、置く。湖南省芷江縣の西。

【晃山】7（クワウザン） 日光山の異稱。晃は日と光との合字。〔小野湖山、華嚴瀑布歌〕晃山勝概甲二天下一。

【晃州】8（クワウシウ） 州名。㊀唐、置く。今、闕く。四川省の境に當る。㊁宋初、金、置く。故治は湖南省晃縣。

【晃然】9（クワウゼン） あきらかなさま。晃晃(5)を見よ。

【晃蕩】10（クワウタウ） 光の定まらないさま。あきらかでひろびろとしたさま。〔晉子夜冬歌〕何處結二同心一、西陵柏樹下、晃蕩無二四壁一、嚴霜凍二殺我一。〔蘇軾、過二宜賓一見二夷中亂山一詩〕朦朧含二高峯一、晃蕩射二峭壁一。〔蘇軾、巫山詩〕晃蕩天宇高、崩騰江水沸。

【晃朗】11（クワウラウ） 明かなさま。〔抱朴子、喩蔽〕守二燈燭之宵曜一、不レ識二三光之晃朗一。〔潘岳、秋興賦〕天晃朗以彌高兮。〔注〕善曰、晃朗、明貌。

【晃斡出】12（クワウアツシユツ） 金、完顏宗弼(3−7079‥116)の本名。

【晃離晃蕩的】13 huang^4 li^2 huang^4 tang^4 tê ゆらゆらとして。

【晄】13892

クワウ

晃(5−13891)に同じ。〔廣韻〕晃、亦作レ晄。

【晅】13893

［一］ケン クワン 〔集韻〕許元切 ㄒㄩㄢˇ hsüan^3 元

［二］ケン クワン 〔集韻〕火遠切 阮

［一］［二］㊀日の氣。〔集韻〕晅、日氣也。㊁かわかす。〔易、說卦〕日以晅レ之。〔釋文〕晅、京云、乾也。㊂あきらか。〔玉篇〕晅、明也。㊃或は暅(5−14091)・晒(5−14034)に作る。〔集韻〕晅、或作二暅・晒一。㊄烜(7−19018)に通ず。〔正字通〕晅、正韻烜注、引レ易改作レ烜、非、烜雖二與レ晅通一、易本文既云レ日、當レ从レ晅。

【晆】13894

クワイ 〔篇海〕音魁

わかれる。わける。〔篇海〕晆、別也。

【昵】13895

ヂツ

昵(5−13866)に同じ。〔正字通〕昵、同レ昵。

【晇】13896

［一］ク 〔集韻〕匈于切 虞

［二］コ ク 〔集韻〕荒胡切 虞

［三］クワ ケ 〔集韻〕枯瓜切 麻

［一］あさ。よあけ。旴(5−13761)に同じ。〔集韻〕旴、日始旦也、或作レ晇。［二］夜明のさま。〔集韻〕晇、日始出皃。［三］人名。〔漢書、古今人表〕邾婁叔術子晇。

【晈】13897

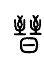
［一］ケウ 〔集韻〕吉了切 篠

［二］ケウ 〔集韻〕吉弔切 嘯

［一］［二］月のあきらかなさま。皎(8−22724)に同じ。〔集韻〕皎、說文、月之白也、引二詩月出皎兮一、或从レ日。

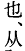
【晈晈】1（ケウケウ） 月のあきらかなさま。皎皎。〔楚辭、九歌、東君〕夜晈晈兮既明。〔集注〕晈、字從レ日、與レ皎同。

【晉】 13898 ㊀シン〔集韻〕卽刃切 震 ㊁セン〔集韻〕子賤切 霰 ㄐㄧㄣˋ chin⁴


小篆

㊀㊁ ❶**すすむ**。もと㬜(**5−14164**)に作る。〔正字通〕晉、本作㆑㬜。〔說文〕㬜、進也、日出而萬物進、从㆑日从㆑臸、易曰、明出㆓地上㆒㬜。〔爾雅、釋詁〕晉、進也。〔班固、幽通賦〕盍㆓孟晉以迨㆑羣兮。〔注〕濟曰、晉、進。❷**おさへる**。〔周禮、夏官、田僕〕凡田、王提㆑馬而走、諸侯晉、大夫馳。〔注〕晉、猶㆑抑也。❸**つつしむ**。〔尚書大傳、梓材〕梓木晉而俯。〔注〕晉、肅貌。❹**易の六十四卦の一**。䷢ 坤下離上。地上に明の出る象。〔易、晉〕明出㆓地上㆒晉。〔易、雜卦〕晉、晝也。❺**國の名**。㋑周の同姓。侯爵。成王が弟の叔虞を晉水の邊、堯の故墟、卽ち唐に封じて建てた國。今の山西省太原縣の北。子の燮父に至つて始めて晉に徙り、改めて國を晉と稱す。今の山西省太原縣の地。後、徙つて曲沃に都す。今の山西省聞喜縣。文侯仇の時、周の平王の亂を定め、文公に至つて諸侯に霸となり、冀州の大半を保ち、絳に都す。卽ち今の山西省舊平陽・太原以東及び河北省舊廣平・大名の諸府の地を領有す。文公の後、世々霸者となる。襄公・靈公・成公・景公・厲公を歷て悼公に至つて霸業復た盛となり、又、平公・昭公・頃公を歷て公室漸く弱く、春秋の末に及んで范氏・知氏・中行氏・趙氏・魏氏・韓氏の六卿が勢力を得、後、知氏が趙・韓・魏と共に范氏・中行氏を亡ぼして其の地を分けた。哀公に至つて趙・魏・韓の三氏が又、知氏を亡ぼしてその地を分け、幽公が立つた時には、僅かに絳と曲沃とを領有するのみで、餘は皆趙・韓・魏氏に配分された。之を三晉といふ。三晉は、烈公の時、周の威烈王の命に由つて侯となつたが、晉が孝公を經て靜公に至るや、遂に公を廢して家人とし、其の地を配分した。〔詩、唐譜〕成王封㆓母弟叔虞於堯之故墟㆒、曰㆓唐侯㆒、南有㆓晉水㆒、又至㆓子燮㆒、改爲㆓晉侯㆒。〔水經、晉水注〕呂氏春秋曰、叔虞與㆓成王㆒居、云云、時唐滅、乃封㆓之於唐縣㆒、有㆓晉水㆒、後改㆑名爲㆑晉。〔文獻通考、封建考、春秋列國傳授本末事迹〕晉、唐叔虞、周武王子、成王弟、成王封㆓叔虞於唐㆒、叔虞子燮傳㆓武侯・成侯・厲侯・靖侯・釐侯・獻侯・穆侯・殤叔・文侯・昭侯・孝侯・鄂侯・哀侯・小子侯・湣侯・武公・獻公・惠公・懷公・文公・襄公・靈公・成公・景公・厲公・悼公・平公・昭公・頃公・定公・出公・哀公・幽公・烈公・孝公・靜公㆒、凡三十八傳、而晉爲㆓韓・趙・魏所㆒㆑分。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、周〕晉、今自㆓山西平陽・太原㆒以東、至㆓直隸廣平・大名之閒㆒、皆晉分也。㋺唐末、李克用が晉王に封ぜられ、太原に據り山西地方を領有した。之を晉といふ。存勖の時、五代、梁に代つて北中國を統一し、改めて唐と號した。後唐(**4−10098**‥472)を見よ。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、五代〕晉、史略、中和二年、以㆓李克用㆒爲㆓雁門節度使㆒、乾寧三年、進㆓爵晉王㆒、云云、晉王尋稱㆑帝、仍國號曰㆑唐。❻**朝代の名**。㋑司馬炎が、魏の禪りをうけて建てた國。初、洛陽に都し、後、愍帝の時、徙つて長安に都した。今の中國本部及び遼寧・朝鮮の地を有し、四主五十二年で前趙に滅ぼされた。之を西晉といふ。西晉(**10−34763**‥344)を見よ。〔文獻通考、帝系考〕晉世祖武皇帝、姓司馬氏、名炎、以㆓乙酉㆒受㆓魏禪㆒卽㆓皇帝位㆒、云云、孝愍皇帝、以㆓癸酉㆒卽㆑位、丙子、劉曜陷㆓長安㆒、右西晉四帝、共五十二年、首㆓乙酉㆒盡㆓丙子㆒。㋺司馬懿の曾孫睿が西晉を繼いで建てた國。建康に都し、江南を領有し、十一帝百四年で宋に禪る。之を東晉といふ。東晉(**6−14499**‥407)を見よ。〔文獻通考、帝系考〕元皇帝名睿、宣帝曾孫、襲㆑封鎭㆓建鄴㆒、愍帝遇㆑害、以㆓丁丑㆒嗣立、云云、恭皇帝以㆓己未㆒嗣立、庚申禪㆓位於宋㆒、右東晉十一帝、共一百有四年、首㆓丁丑㆒盡㆓庚申㆒。㋩五代の時、石敬瑭が後唐を滅ぼして建てた國。洛陽に都し、二帝十一年で後漢に滅ぼされた。之を後晉といふ。後晉(**4−10098**‥395)を見よ。〔文獻通考、帝系考〕後晉高祖聖文章武明德孝皇帝、姓石氏、名敬瑭、丙申、以㆓北京留守㆒舉㆑兵入㆑洛、卽㆓皇帝位㆒、云云、出帝以㆓壬寅㆒嗣立、丙午、契丹入㆑汴、右後晉二帝、共十一年、首㆓丙申㆒盡㆓丙午㆒。❼**いしづき**。鐏(**11−40885**)に通ず。〔說文通訓定聲〕晉、叚借爲㆑鐏。〔周禮、考工記、廬人〕去㆑一以爲㆓晉圍㆒。〔注〕晉、謂㆓矛戟下銅鐏㆒也。❽**さす**。さしはさむ。搢(**5−12494**)に通ず。〔周禮、春官、典瑞〕王晉㆓大圭㆒。〔注〕晉、讀爲㆓搢紳之搢㆒。❾**地名**。山西省の簡稱。晉省(39)を見よ。❿**姓**。〔通志、氏族略、以㆑國爲㆑氏〕晉氏、晉、大夏之墟也、堯之所㆑都平陽、其國曰㆑唐、及㆔叔虞封㆓於唐㆒、其子燮父、嗣㆑封改爲㆑晉、以㆔其地有㆓晉水㆒也。

名乘 クニ。

解字 會意。日と臸(到る)との合字。日が地上に出てあたたかになり、萬物が進み出る義。すすむ。〔說文、晉、段注〕臸者到也、从㆓日出㆒而作、會意、隸作㆑晉。▽  (甲骨文) 象形。二本の矢を下向きに容器にさした形、さしはさむ意。進に通じ、すすむ意に用ひる。

【晉安】1 シンアン 縣名。❶晉、置く。今の福建省南安縣治。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府〕南安縣、漢治縣地、三國吳置㆓東安縣㆒、屬㆓建安郡㆒、晉改曰㆓晉安㆒、屬㆓晉安郡㆒、宋齊因㆑之、梁爲㆓南安郡治㆒、隋廢㆑郡改㆑縣曰㆓南安㆒。❷南朝宋、置く。四川省昭化縣の南。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、廣元縣〕葭萌城、秦置㆓葭萌縣㆒、漢因㆑之、先主初入㆑蜀屯㆓於葭萌㆒、既而西襲㆓成都㆒、留㆓霍峻㆒守㆓葭萌㆒、云云、晉壽太守以㆑城來降、益州刺史蕭恢遣㆓巴西梓潼二郡太守㆒、將㆑兵迎㆑之、敗㆓魏兵於葭萌㆒、屠㆓十餘城㆒、進圍㆓武興㆒、尋復敗還、既而改㆑縣曰㆓晉安㆒、兼置㆓新巴郡㆒。❸唐、置く。晉の西充國縣の地。四川省南部縣の西北。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、閬中縣〕晉安廢縣、在㆓府西北六十里㆒、梁置㆓金匱郡㆒、尋改㆓金遷郡㆒、隋廢㆑郡入㆓晉城㆒、唐武德中、改置㆓晉安縣㆒、宋初仍屬㆓閬州㆒、熙甯四年、省爲㆓晉安鎭㆒、屬㆓西水縣㆒。

【晉菴】2 シンアン 明、楊守陳(**6−15112**‥609)の號。

【晉圍】3 シンヰ いしづきのまはり。矛戟の下の銅鐏のかこみ。〔周禮、考工記、廬人〕參㆓分其圍㆒、去㆑一以爲㆓晉圍㆒。〔注〕晉、謂㆓矛戟下銅鐏㆒也。

【晉育】4 シンイク すすめ育てる。〔魏文帝、車渠椀賦〕惟二儀之晉育、何萬物之殊形。

【晉謁】5 シンエツ 貴人の前へすすみ出てまみえる。拜眉。面謁。拜顏する。

【晉翁】6 シンヲウ 元、戴焴(**5−11685**‥3)の字。

【晉霞】7 シンカ 清、林頤山(**6−14551**‥257)の字。

【晉江】8 シンカウ ❶川の名。古の南安江。桃溪・藍溪の二源あり、桃溪は福建省永春縣、藍溪は福建省安溪縣に發し、泉州灣に注ぐ。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、晉江縣〕晉江、府城南德濟門外、其上源承㆓永春安溪南安諸水㆒、匯㆓黃龍江㆒、東流至㆓城西臨漳門外㆒、曰㆓筍江㆒、江岸有㆑石、高二丈許、

卓立如レ筍、因名、岸傍一山俯瞰、江流有二大磐石一、從二山腰一至レ麓、與レ江相接、長百二十餘丈、其穿二伏於水底一者、尤不レ可レ測、云云、舊志、江之名以二晉南渡時、衣冠避レ地者、多沿レ江而居一、故名。❷縣名。唐、置く。又、鯉城・刺桐城といふ。福建省南安縣の東、泉州灣の內。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府〕晉江縣、附郭、晉爲二晉安縣地一、隋爲二南安縣地一、唐開元八年始析置二晉江縣一、爲二泉州治一。〔清史稿、地理志〕福建、泉州府、縣五、晉江。

【晉康】9シンカウ　郡名。❶東晉、置く。廣東省德慶縣の東。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、德慶州〕元溪廢縣、本端溪縣地、晉析置二元溪縣一、屬二蒼梧郡一、永和中、爲二晉康郡治一、宋屬二晉康郡一、齊梁因レ之。❷南齊、置く。廣東省鬱南縣の北。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、德慶州〕威城廢縣、蕭齊置爲二晉康郡治一。❸南齊の時、晉原郡の訛。晉原（24）の❶を見よ。

【晉紀】10シンキ　晉朝の本紀。〔干寶、晉紀總論、注〕向曰、此論自二宣帝一至二愍帝一、合二其善惡一而論レ之、是名二總論一矣。

【晉記】11シンキ　書名。六十八卷。清、郭倫撰。晉書の煩碎を厭うて改作したもの。原書中の諸志は舊に仍り、其の餘は冗瑣を刪り、舊文を更易し、世系一卷・本紀三卷・內紀一卷・志八卷・列傳四十一卷・十六國四十卷とし、十五年を積んで成つたといふ。

【晉熙】12シンキ　郡名。晉、置く。安徽省懷寧縣。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府〕懷寧縣、附郭、漢皖縣地、屬二廬江郡一、三國吳爲二皖城一、晉義熙中、改置二懷寧縣一、爲二晉熙郡治一、宋以後因レ之。

【晉棘】13シンキヨク　古の美玉。垂棘の地から產する璧。〔范縝、神滅論〕馬殊レ色而齊レ逸、玉異レ色而均レ美、是以晉棘荊和、等二價連城一、驊騮盜驪、俱致二千里一。

【晉光】14シンクワウ　宋、游烈（7−17792・・332）の字。

【晉京】15シンケイ　❶晉朝のみやこ。洛陽をいふ。〔潘岳、金谷集作詩〕朝發二晉京陽一、夕次二金谷湄一。〔注〕向曰、晉都二洛陽一、故云二晉京一。❷chin^4 ching^1 上京する。

【晉卿】16シンケイ　字號。❶南唐、盧絳（8−23050・・18）の字。❷宋、吳玠（2−3365・・52）の字。❸宋、石一鰲（8−24024・・880）の字。❹宋、潘預（7−18236・・95）の字。❺宋、王詵（7−20823・・632）の字。❻金、郝天挺（11−39430・・55）の字。❼金、楊達夫（6−15112・・682）の字。❽元、黃溍（12−47926・・521）の字。❾元、耶律楚材（9−29008・・97）の字。❿明、周愷（2−3441・・50）の字。⓫明、蘇從善（9−32427・・248）の字。⓬明、羅尙賓（9−28397・・349）の字。⓭明、劉同升（2−2224・・1236）の字。⓮清、董士錫（9−31433・・204）の字。⓯清、裴希度（10−34362・・111）の字。⓰清、費伯雄（10−36717・・104）の字。⓱清、李光地（6−14459・・1059）の字。⓲民國、王樹柟（7−20823・・1656）の字。

【晉溪】17シンケイ　宋、任山（1−416・・76）の號。

【晉傑】18シンケツ　宋、李昭（6−14459・・508）の字。

【晉軒】19シンケン　字號。❶明、劉戩（2−2224・・450）の號。❷林憲の號。林晉軒（6−14551・・362）を見よ。

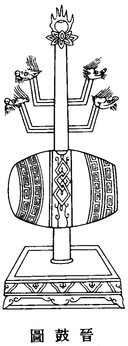
【晉硯】20シンケン　晉代のすずり。〔硯史〕晉硯見二於顧愷之書一。

【晉賢】21シンケン　清、汪森（6−17154・・79）の字。

【晉縣】22シンケン　縣名。民國、置く。春秋の鼓の國。河北省正定縣の東。縣の北を滹沱河が流れてゐる。

【晉彥】23シンゲン　宋、張祁（4−9812・・161）の字。

【晉原】24シンゲン　❶縣名。㋑晉、置く。南齊の時、訛して晉康となす。四川省崇慶縣の東。㋺北周、置く。四川省崇慶縣の東。隋、今の崇慶縣に移す。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、崇慶州〕晉原廢縣、今州治、漢置二江原縣一、屬二蜀郡一、云云、後周廢レ郡改レ縣曰二晉原一、隋屬二益州一、唐爲二蜀州治一、宋因レ之。❷清、高汾（平湖の人）（12−45313・・816）の字。



晉鼓圖
（三才圖會）

【晉鼓】25シンコ　鼓の一種。長さ六尺六寸。〔周禮、地官、鼓人〕以二晉鼓一鼓二金奏一。〔注〕晉鼓、長六尺六寸、金奏謂三樂作擊二編鍾一。〔疏〕凡樂作則先擊レ鍾、鄭云、先擊レ鍾、次擊レ鼓、金則鍾也、奏則擊也、則是擊レ鍾後卽擊レ鼓、故云三晉鼓鼓二金奏一。〔周禮、夏官、大司馬〕軍將執二晉鼓一。〔風俗通、聲音、鼓〕睪鼓晉鼓皆二面。

【晉語】26シンゴ　國語の篇名。九篇ある。

【晉公】27シンコウ　❶封號。㋑唐、韓滉（12−43159・・75）の封號。㋺唐、裴度（10−34362・・81）の封號。❷字號。㋑宋、范祥（9−30834・・48）の字。㋺清、翁運標（9−28635・・63）の字。㋩清、盧之頤（8−23050・・225）の號。

【晉功】28シンコウ　後晉、胡嚴徵（9−29400・・466）の號。

【晉興】29シンコウ　❶郡名。㋑前涼、置く。甘肅省碾伯縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、西寧鎭〕浩亹城、在二鎭東一、云云、永寧中、張軌置二晉興郡一、蓋治二浩亹一。㋺晉、置く。故城は廣西省邕寧縣の南。〔讀史方輿紀要、廣西〕南寧府、古百粤地、云云、晉大興初、分二置晉興郡一、宋齊以後因レ之。❷縣名。㋑晉、置く。故城は湖北省鄖西縣の西北。㋺晉、置く。江西省の境。㋩晉、置く。西魏、青石と改む。四川省蓬溪縣の南。〔讀史方輿紀要、四川、潼川州、遂寧縣〕青石廢縣、東晉置二晉興縣一、尋屬二遂寧縣一、云云、西魏改曰二始興縣一、尋又改曰二青石一。㋥晉、置く。四川省安縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、安縣〕龍安廢縣、縣東北九十里、隋志云、舊治二益昌晉興二縣於此一、西魏省二晉興一入二益昌一。㋭晉、置く。廣西省邕寧縣の南。〔讀史方輿紀要、廣西、南寧府〕宣化縣、附郭、漢領方縣地、屬二鬱林郡一、晉置二晉興縣一、爲二晉興郡治一、宋齊因レ之。㋬南朝宋、置く。四川省舊綏定府の境。㋣南朝宋、置く。四川省舊寧遠府の境。㋠隋、晉の晉寧縣を改め置く。故城は湖南省資興縣の南。〔讀史方輿紀要、湖廣、郴州〕興寧縣、漢郴縣地、云云、隋大業末、蕭銑復置二晉興縣一。㋷唐、置く。廣西省武鳴縣の故武緣縣治の南。〔讀史方輿紀要、廣西、思恩軍民府、武緣縣〕樂昌廢縣、在二縣東南一、劉宋時置二樂昌郡一、治二樂昌縣一、齊梁因レ之、隋廢、唐爲二晉興縣地一、屬二邕州一。

【晉齋】30シンサイ　字號。❶宋、袁肅（10−34152・・82）の號。❷元、陳天錫（11−41698・・1158）の號。❸清、吳廷康（2−3365・・785）の號。❹清、朱勳（6−14424・・250）の字。❺清、徐用錫（4−10110・・648）の號。❻清、宋筠（3−7078・・10）の號。❼清、趙魏（10−37171・・100）の號。❽清、余熙（1−515・・10）の字。❾田邊希文の號。田邊晉齋（7−21723・・434）を見よ。

【晉三】31シンサン　字號。❶清、童槐（8−25775・・28）の字。❷清、王子接（7−20823・・1538）の字。❸清、王照（7−20823・・673）の字。

【晉之】32シンシ　字號。❶宋、陳暘（11−41698・・570）の字。❷明、鄭階（11−39647・・35）の字。❸清、龔策（12−48837・・25）の字。

【晉師】33シンシ　晉國の軍隊。〔謝靈運、述祖德詩〕弦高犒二晉師一、仲連却二秦軍一。

【晉祠】34シンシ　祠の名。山西省太原縣の西南の懸甕山の麓、晉水の發源する處に在り、唐叔虞を祀る。唐の高祖、兵を起し祠に祈る。貞觀の時、太宗、晉祠の銘を作る。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、太原縣〕晉祠、志云、在二縣西南十里懸甕山南一、祠二叔虞一也、高齊天統五年、嘗改爲二大崇皇寺一、尋復レ故、宇文周建德五年、圍二齊晉州一、齊主高緯集二兵晉祠一、自二晉陽一趨救、又唐天復二年、汴將氏叔琮圍二晉陽營於晉祠一、攻二其西門一、宋熙寧八年、太原人史守一修レ祠、水利溉田六百有餘頃、蓋晉水源出二祠下一云。

【晉時】35シンジ　晉の世。晉の時代。〔南江、送僧遊二廬山一詩〕君去能聽虎溪水、潺湲尙有二晉時聲一。

【晉州】36シンシウ　❶州名。㋑前秦、置く。故治は甘肅省皋縣の西。㋺梁、置く。治は懷寧。今の安徽省潛山縣治。〔讀史方輿紀要、江南〕安慶府、禹貢揚州之域、春秋時爲二皖國一、戰國屬レ楚、秦屬二九江郡一、二漢屬二廬江郡一、云云、梁末嘗置二豫州一、尋改爲二晉州一、北齊曰二江州一、陳復曰二晉州一。㋩後魏、唐州を改め置く。後周及び唐之に仍る。治は白馬城。今の山西省臨汾縣治。〔讀史方輿紀要、山西〕平陽府、禹貢冀州地、卽堯舜之都、所謂平陽

也、云云、後魏亦爲二平陽郡一、兼置二東雍州一、太和中罷、孝昌中改二置唐州一、又改二晉州一、東魏北齊皆爲二重鎭一、後周亦曰二晉州一、云云、唐復曰二晉州一。㊁金、置く。故治は山西省壽陽縣の西北。㋭元、置く。明、之に因る。春秋の鼓國、後、晉の地となる。故治は河北省晉縣。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府〕晉州、春秋時晉地、戰國屬レ趙、漢屬二鉅鹿郡一、云云、元置二晉州一、屬二眞定路一、明仍曰二晉州一、以二州治鼓城縣一省入、領二縣三一。〔清史稿、地理志〕直隸、正定府、州一、晉州。❷朝鮮の地名。慶尙道の首邑。

【晉式】37 シンシキ 清、裴徫度(10－34362‥141)の字。

【晉昌】38 シンシャウ ❶郡名。㋑晉、置く。陝西省石泉縣の治。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、興安州〕石泉縣、本漢西城縣地、蕭齊置二安樂縣一、又置二晉昌郡於此一。㋺晉、置く。甘肅省安西縣の東。〔讀史方輿紀要、陝西、沙州衞〕瓜州城、漢敦煌郡地、魏晉因レ之、晉惠帝元康五年、分二置晉昌郡一、西涼時又爲二會稽常樂二郡地一、西魏亦置二晉昌郡一、隋初郡廢、屬二瓜州一、大業初、屬二敦煌郡一、唐武德五年置二瓜州一、治二晉昌縣一、天寶初曰二晉昌郡一、乾元初復レ故、後沒二於吐蕃一。㋩東晉、置く。湖北省竹谿縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府、竹溪縣〕吉陽城、縣西五十里、東晉初以二益州流民一置二吉陽縣一、又置二晉昌郡治一焉、宋初因レ之。㊁後魏、置く。陝西省洋縣の東。〔讀史方輿紀要、陝西漢中府、洋縣〕龍亭廢縣、本漢亭名、後漢元光二年、蔡倫封二龍亭侯一、是也、後魏時置二龍亭縣一、又置二晉昌郡治一焉。❷縣名。㋑晉、置く。山西省陽城縣の東。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、忻州、定襄縣〕定襄城、在二縣西南一、劉昫曰、漢陽曲縣故城也、後漢末移二陽曲於太原界一、於二故城一置二定襄縣一、屬二新興郡一、以處二塞下遺民一、晉因レ之、惠帝時所レ置晉昌縣、後魏眞君七年、省二晉昌一入二定襄一。㋺南朝宋、置く。四川省舊敍州府の境。㋩唐、置く。甘肅省安西縣の東。❶の㋺を見よ。

【晉省】39 シンシャウ 山西省をいふ。〔清會典事例、戶部、蠲恤〕十一年諭、晉省河東上年被レ旱成レ災各州縣、現需二將省北米石一、運二集平陽一、再分二撥各州縣一。

【晉城】40 シンジャウ 縣名。唐、置く。漢の高都縣の地。今の山西省晉城縣。〔讀史方輿紀要、山西、澤州〕晉城廢縣、今州治、本漢高都縣地、云云、唐武德三年、析二置晉城縣一爲二建州治一。

【晉襄】41 シンジャウ 清、趙蒼璧(10－37171‥571)の字。

【晉灼】42 シンシャク 晉、河南の人。官は尙書郞。著に漢書音義がある。〔前漢書敍例〕・〔尙友錄、十八〕。

【晉爵】43 シンシャク 明、長安の人。字は仲修。官は西城兵馬司副指揮。

【晉授】44 シンジュ 清代、官員の既に封典を得た者が、更に覃恩に遇ひ、給封を請ふを得る時、其の本人についていふ。曾祖父母・祖父母、及び妻の生存者に晉封、死沒者に晉贈といふ。

【晉壽】45 シンジュ ❶郡名。㋑南齊、置く。又、東晉壽ともいふ。四川省廣元縣。㋺を見よ。㋺晉、置く。漢の葭明縣の地。後魏、西晉壽と改む。四川省昭化縣の東南。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府〕廣元縣、秦葭萌縣地、漢屬二廣漢郡一、後漢因レ之、蜀漢曰二漢壽縣一、屬二梓潼郡一、晉太康初、改曰二晉壽縣一、太元中、又析二置興安縣一、屬二晉壽郡一、宋齊因レ之、梁爲二晉壽郡治一、西魏因レ之。㋩南朝宋、置く。四川省昭化縣の南。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕彭縣、周爲二彭國一、秦爲二蜀郡繁縣地一、漢晉因レ之、劉宋元嘉十二年、僑二置晉壽縣一、幷置二南晉壽郡一治レ焉。❷縣名。南朝宋、置く。今の四川彭縣治。❶の㋩を見よ。

【晉叔】46 シンシュク 字號。❶宋、歐陽獻可(6－16185‥116)の字。❷明、臧懋循(9－30083‥79)の字。❸明、馮觀(12－44579‥51)の字。❹明、楊旦(6－15112‥272)の字。❺清、徐煥然(4－10110‥388)の字。

【晉如】47 シンジョ 升り進む。〔易、晉〕晉如摧如。〔程傳〕晉如、升進也。

【晉書】48 シンジョ 書名。百三十卷。唐の太宗の時、房玄齡・李延壽等奉敕撰。晉から六朝の間に成つた晉史數十家の內、特に著名な十八家卽ち陸機・王隱・虞預・朱鳳・謝靈運・臧榮緒・蕭子雲・蕭子顯・鄭忠・沈約・庾銑・張緬・干寶・曹嘉・鄧粲・劉謙・何承天・崔鴻の晉史を集め、臧榮緒の晉書を主として編修す。西晉四代五十四年、東晉十一代一百二十年間の事を記す。十紀・二十志・七十列傳・三十載記。志の目は天文・地理・律歷・禮・樂・職官・輿服・食貨・五行・刑法の十。列傳中に初めて孝友・忠義の傳を立つ。載記は五胡十六國の事を記す。多く語林・世說・搜神記等の小說に采つて編輯したから、繁蕪誣談鄙褻の事に及ぶまで具に之を載せて甚だ史體を失ふ。〔四庫提要、史、正史類〕。

《參考書》【晉書音義】三卷唐、何超撰。〔經訓堂叢書、第八冊〕。【東晉疆域志】四卷清、洪亮吉撰。〔授經堂重刊遺集、第四十八・四十九冊〕。【十六國疆域志】十六卷清、洪亮吉撰。〔授經堂重刊遺集、第五十－五十三冊〕。【補晉兵志】一卷清、錢儀吉撰。〔廣雅彙刻、第四十七冊〕。【補晉書藝文志】四卷清、吳士鑑撰。

【晉書地道記】48′ シンジョチダウキ 書名。一卷晉、王隱撰。地道記とは地理志に同じ。早くから亡佚したが、清の畢沅は諸書中に引用されたものを輯めて一卷とし、黃奭は之を補訂して、漸く世に傳はる。〔漢學堂叢書〕。

【晉升】49 シンショウ 清、王相(7－20823‥524)の字。

【晉臣】50 シンシン ❶明の人。爵の子。字は孟蓋。萬曆の貢士。官は光祿寺署丞。❷字號。㋑後晉、安重阮(3－7072‥571)の字。㋺明、章廷瑗(8－25761‥222)の字。

【晉人】51 シンジン 清、賀隆錫(10－36725‥161)の號。

【晉水】52 シンスイ 川の名。源は山西省太原縣の西南の懸甕山。汾水に注ぐ。今、晉渠といふ。春秋の時、智伯が晉水を遏めて晉陽に灌いだ故瀆。山麓に晉祠がある。〔水經、晉水〕晉水出二晉陽縣西懸甕山一、〔注〕昔智伯遏二晉水一以灌二晉陽一、云云、沼水分爲二二派一、北瀆卽智氏故渠也、云云、南出逕二晉陽城南一、城在二晉水之陽一、故曰二晉陽一矣。〔元和志〕晉水泉初出處砌石爲レ塘、自二塘東一分爲二三派一、其二派卽酈道元所レ言者也、其南派、隋開皇四年開、東南流入二汾水一。

【晉生】53 シンセイ 元、陶宗暹(11－41705‥211)の字。

【晉樵】54 シンセウ 清、張柯(4－9812‥81)の字。

【晉接】55 シンセツ ❶貴人に進み接する。〔易、晉〕晉、康侯用錫レ馬蕃庶、晝日三接。〔疏〕此卦明二臣之昇進一、故謂二之晉一、云云、天子美レ之、賜以二車馬一、蕃多而眾庶、云云、又被二親寵一頻數、一晝之間、三度接見也。〔丁壽昌、讀易會通〕三接猶レ言二三覲一也、左傳僖二十八年、晉文公受レ策以出、出入三覲、是春秋時尙用二此禮一。〔曹植、班婕好贊〕在レ漢夷貞、在レ晉正接。〔書言故事、延接類〕謝二人延遇一曰三仰塵二晉接一。❷すすみむかへる。〔福惠全書、郵政部、應付大差〕此獨周旋晉接。❸chin^4 chieh^1 交接する。性交する。

【晉川】56 シンセン 字號。❶清、王會汾(7－20823‥1341)の號。❷清、陳汾(11－41698‥534)の字。

【晉仙】57 シンセン 宋、周文璞(2－3441‥847)の字。

【晉瞻】58 シンセン 清、周灝(2－3441‥62)の字。

【晉宋】59 シンソウ 晉と宋。〔宋書、律歷志中〕明帝時尙書郞楊偉制二景初曆一、施用至二于晉宋一。〔梁書、武帝紀中〕唐謝虞受、漢替魏升、爰及二晉宋一、憲章在昔。〔隋書、牛弘傳〕晉宋之際、學藝爲レ多、齊梁之間、經史彌盛。

【晉贈】60 シンゾウ 清代、死者に封典を與へること。晉授(44)を見よ。

【晉代】61 シンダイ 晉の時代。晉の世。〔駱賓王、四月八日題二七級一詩〕銘書非二晉代一、壁畫是梁年。〔李白、登二金陵鳳皇臺一詩〕吳宮花草埋二幽徑一、晉代衣冠成二古丘一。〔戴叔倫、贈二徐山人一詩〕漢陵帝子黃金盌、晉代神仙白玉棺。

【晉代文學】62 シンダイブンガク 支那文學(5－13061‥120)を見よ。

【晉瑭】63 シンタウ 五代、晉の主、石敬瑭(8－24024‥923)をいふ。

【晉堂】64 シンダウ 字號。❶清、姚學塽(3－6202‥138)の字。❷清、巴慰祖(4－8745‥109)の號。

【晉竹】65 シンチク ❶晉地に產する竹。〔吳越春秋、句踐歸國外傳〕越王乃使三大夫種索二葛布十萬、甘蜜九黨、文笥七枚、狐皮五雙、晉竹十廋一。❷清、梁紹壬(6－14825‥289)の號。

【晉秩】66 シンチツ 官位をすすめる。〔清國行政法汎

論、官吏權利、恩給〕會典卷六云、凡滿漢大臣引年乞レ休、得レ旨或以二原品一休致、或晉秩、或加銜。

【晉仲】67シンチユウ 字號。㊀宋、席旦（4―8926‥49）の字。㊁元、李桓（6―14459‥263）の字。

【晉呈】68シンテイ 差上げる。進呈（11―38943‥129）に同じ。

【晉典】69シンテン 晉の爵賞。〔任昉、爲二卞彬一謝レ脩二卞忠貞墓一啓〕加レ等之渥、近闕二於晉典一。

【晉寧】70シンネイ ㊀路名。元、置く。 山西省臨汾縣治。山西省河東道の全境及び冀寧道和順縣以南の地。〔讀史方輿紀要、山西〕平陽府、云云、元曰二平陽路一、大德九年改爲二晉寧路一、明初復曰二平陽府一。㊁郡名。㋑梁、置く。 江蘇省宿遷縣の東南。㋺晉、置く。雲南省昆明縣の西北。〔讀史方輿紀要、雲南、雲南府、昆明縣〕漢縣、屬二益州郡一、蜀漢屬二建寧郡一、晉因レ之、永安二年分二建寧一置二益州郡一治レ此、永嘉末改爲二晉寧郡一、宋因レ之。㊂州名。元、置く。雲南省に屬す。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕雲南、雲南府、州四、晉寧州。㊃縣名。㋑晉、置く。廣西省資興縣の南。〔讀史方輿紀要、湖廣、郴州〕興寧縣、漢郴縣地、後漢永和初、析二置漢寧縣一屬二桂陽郡一、三國吳改レ縣曰二陽安一、晉太康初、又改曰二晉寧縣一、仍屬二桂陽郡一、宋以後因レ之。㋺東晉、置く。 江蘇省宿遷縣の東。㋩唐、置く。雲南省昆陽縣の東。〔讀史方輿紀要、雲南、雲南府〕晉寧州、漢益州郡滇池縣地、晉隆安初、置二晉寧郡於此一、隋開皇中置二昆州一、尋廢、唐武德初、開二南中一、復置二昆州一、領二晉寧等縣一。

【晉望】71シンバウ 清、吳士模（2―3365‥595）の字。

【晉伯】72シンパク 字號。㊀宋、羅晉君（9―28397‥367）の字。㊁明、鄧藩錫（11―39630‥191）の字。

【晉藩】74シンパン 清、戴三錫（5―11685‥175）の字。

【晉蕃】75シンパン 字號。㊀清、彭進（4―10003‥71）の字。㊁清、汪光爔（6―17154‥205）の字。

【晉飛】76シンピ 清、程兆熊（8―25081‥266）の字。

【晉鄙】77シンピ 戰國、魏の將軍。秦が趙を伐つや、魏は晉鄙をして十萬の衆を率ゐて趙を救はしめたが、秦を憚り、人を遣して晉鄙を止め、鄴に留つて兩端を持せしめた。信陵君公子無忌が侯生の策を用ひ、符を矯めて晉鄙の軍を奪ひ、遂に力士朱亥をして鐵椎を以て之を殺さしめた。〔戰國、魏策〕。

【晉馮】78シンピヨウ 後漢、京兆の人。官は明帝の時、京兆祭酒。古を好み道を樂しむ。班固、馮を東平王蒼に薦む。〔後漢書、七十下〕。

【晉夫】79シンプ 清、李錫蕃（6―14459‥1599）の字。

【晉文】80シンブン 春秋、晉の文公をいふ。晉文公（151）を見よ。〔孟子、梁惠王上〕齊宣王問曰、齊桓晉文之事、可レ得レ聞乎。

【晉輔】81シンノホ 晉帝の輔佐役。〔通鑑綱目、二十四〕先世爲二晉輔一。

【晉朋】82シンボウ 明、吳炯（2―3365‥142）の字。

【晉封】83シンボウ 清代、生存せる曾祖父母・祖父母及び妻等に封典を與へること。晉授（44）を見よ。〔清會典事例、吏部、世爵、八旗世爵承襲〕又奏准、凡軍功賞有二世爵一官員、其原二立官襲職一後、又以二軍功賞一有二世爵一、准下其合二併一爵一承襲上、如レ奉二特旨晉封之爵一、照二晉封一承襲、即將二原爵一注銷、如三承二襲祖父世爵一人員、又因二軍功賞一有二世爵一、亦准下合二併一爵一承襲上、如レ奉二特旨晉封之爵一、仍准下其合二併一爵一承襲上。

【晉民】84シンミン 晉の民。〔潘岳、關中詩〕俾三我晉民、化爲二狄俘一。

【晉明】85シンメイ 元、史格（2―3249‥21）の字。

【晉問】86シンモン 文章の名。唐、柳宗元の作。枚乘の七發に倣つて作る。〔柳宗元、晉問、注〕枚乘七發、蓋以微二諷吳王濞毋反一、晉問亦七、蓋效二七發一以諷下時君薄二事役一而隆中道實上云。

【晉陽】87シンヤウ ㊀縣名。㋑秦、置き、以後之に因る。古の唐國。帝堯初めて此に都す。成王が其の弟、叔虞を封じた地。趙簡子が尹鐸をして晉陽を治めしめ、趙襄子は智伯に攻められるに及び、晉陽に走り、卒に智伯を滅す。後、唐の高祖は晉陽より、義兵を起して遂に天下を定む。故城は山西省太原縣治。〔春秋、定、十三晉〕趙鞅入二于晉陽一以叛。〔漢書、地理志上〕太原郡、縣二十一、晉陽。〔讀史方輿紀要、山西、太原府〕太原縣、周叔虞始封地、春秋戰國皆曰二晉陽一、秦置二晉陽縣一、爲二太原郡治一、漢晉以後因レ之。㋺梁、置く。安徽省東流縣の東北。〔讀史方輿紀要、江西、九江府、彭澤縣、太原城〕晉陽廢縣、亦梁所レ置、太原郡屬縣也。㊁清、陳汾（11―41698‥534）の字。

【晉陽武】88シンヤウブ 唐の鼓吹鐃歌十二曲の一。柳宗元、歌辭を作る。隋の亂既に極まり、唐師晉陽に起り、姦豪を平げて生民の義主と爲り、仁を以て武を興すを述ぶ。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、唐鼓吹鐃歌〕唐鼓吹鐃歌十二曲、柳宗元作、以紀二高祖太宗功德、及征伐勤勞之事一、一曰、晉陽武、云云、晉陽武言、隋亂既極、唐師起二晉陽一、平二姦豪一爲二生人義主一、以レ仁興レ武也。〔柳宗元、唐鐃歌鼓吹曲、晉陽武〕晉陽武、奮二義威一、煬之渝、德焉歸、氓畢屠、綏者誰、皇烈烈、專二天機一、號以レ仁、揚二其旗一、日之昇、九土晞、訴二田圻一、流二洪耀一、有二其二一、翼二餘隋一、斮二梟鷙一、連二熊螭一、枯以レ肉、勍者羸、后土蕩、玄穹彌、合之育、莽然施、惟德輔、慶無レ期。

【晉陽公主】89シンヤウコウシユ 唐の人。太宗の女。字は明達。幼字は兕子。未だ嘗て喜慍の色を見ず、帝、怒責するところあれば必ず顏を伺つて徐々に辯解す。故に省中多く其の惠を蒙る。帝の飛白書を臨摹し、人、辨別する能はず。卒する時、年十二。〔唐書、八十三〕。

【晉老】90シンラウ 宋、朱懷英（6―14424‥721）の字。

【晉樂】91シンラク 縣名。㊀晉、置く。四川省崇慶縣の西南。㊁南朝宋、置く。貴州省境。

【晉略】92シンリヤク 書名。六十六卷。清、周濟撰。晉書が蕪雜で久しく史家の譏る所と爲つたのを資治通鑑の旨に依つて改作したもの。本紀六篇・表五篇・列傳三十六篇・國傳十一篇・彙傳七篇。〔魏源、荊溪周君保緒傳〕最後乃成二晉略十冊一、則以寓二平生經世之學一。

【晉陵】93シンリヨウ ㊀郡名。晉、置く。治は晉陵縣。江蘇省武進縣の治。〔讀史方輿紀要、江南、常州府〕武進縣、附郭、本吳之延陵邑、季札所レ居、漢曰二毘陵縣一、屬二會稽郡一、後漢屬二吳郡一、晉初因レ之、屬二毘陵郡一、永嘉末改曰二晉陵縣一、屬二晉陵郡一、尋爲二郡治一。㊁縣名。㋑晉、置く。江蘇省武進縣治。㊀を見よ。㋺後魏、置く。安徽省靈璧縣の東北。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、虹縣〕晉陵城在二縣西北八十里一、魏收志、臨潼郡治二臨潼城一、孝昌中爲二梁所一レ陷、武定六年、改置二晉陵縣一、爲二臨潼郡治一。

【晉陵孝王】94シンリヨウカウワウ 南朝宋、劉子雲（2―2224‥956）の封諡號。

【晉陵下工】95シンリヨウカコウ 民國、丁福保（1―2‥302）の號。

【晉王】96シンワウ 三國魏、司馬昭（2―3257‥280）の「封號。

【晉哀公】97シンノアイコウ 戰國、晉の昭公の曾孫。名は驕。諡は哀。時に國政は知伯より出で、公、制する能はず。韓・魏・趙共に知伯を殺すに及びても公敢て問はず、遂に三晉の勢を成す。在位十八年。〔史記、三十九〕。

【晉哀侯】98シンノアイコウ 春秋、晉の孝侯の孫。名は光。諡は哀。立つて二年にして曲沃莊伯卒し、子稱代る、これを曲沃武公といふ。晉が陘廷を侵すや、陘廷、曲沃武公と晉を伐ち、哀公を殺す。 在位九年。〔左氏、桓、二〕・〔史記、三十九〕。

【晉哀帝】99シンノアイテイ 司馬丕（2―3257‥304）を見よ。

【晉哀帝陵】100シンノアイテイノリヨウ 安平陵（3―7072‥447）を見よ。

【晉安帝】101シンノアンテイ 司馬德宗（2―3257‥350）を見よ。

【晉安帝陵】102シンノアンテイノリヨウ 休平陵（1―440‥201）を見よ。

【晉幽公】103シンノイウコウ 戰國、晉の哀公の子。名は柳。諡は幽。韓趙魏を畏れ、反つて之に朝し、ただ絳と曲沃のみを保有し、餘は皆三晉に入る。公、婦人に淫し、夜、竊かに邑中に出で、盜に殺さる。在位十八年。〔史記、三十九〕。

【晉孝侯】104シンノカウコウ 周の時、昭侯の子。名は平。潘父、昭侯を殺し、曲沃桓叔を迎ふ。桓叔敗れ、國人共に平を立つ。平、卽位して潘父を誅殺す。桓叔の子、曲沃莊伯、帝を翼に弑す。 在位十五年。〔左氏、桓、二〕・〔史記、三十九〕。

【晉高祖】105シンノカウソ 石敬瑭（8―24024‥923）を見よ。

【晉康帝】106シンノカウテイ 司馬岳（2―3257‥234）を見よ。

【晉熙王】107（シンキワウ） 南朝宋、劉昶（**2－2224**‥494）の封諡號。

【晉恭帝】108（シンノキヨウテイ） 司馬德文（**2－3257**‥351）を見よ。

〖晉恭帝陵〗109（シンノキヨウテイノリヨウ） 沖平（**6－17209**‥94）を見よ。

【晉恭王】110（シンキヨウワウ） 明、朱棡（**6－14424**‥79）の封諡號。

【晉懷公】111（シンノクワイコウ） 春秋、晉の惠公の子。名は圉。諡は懷。秦に質となる。惠公の病を聞き、逃れ歸り、惠公卒して卽位す。秦、公を怨み、兵を發して、公子重耳を送つて晉に納る。公、高梁に奔り、重耳に殺さる。在位五月。〔左氏、僖、二十三・二十四〕・〔史記、三十九〕。

【晉懷帝】112（シンノクワイテイ） 司馬熾（**2－3257**‥265）を見よ。

【晉頃公】113（シンノケイコウ） 春秋、晉の昭公の子。名は去疾。諡は頃。時に六卿皆強く、晉、益〻弱し。在位十四年。〔史記、三十九〕。

【晉惠公】114（シンノケイコウ） 春秋、晉の獻公の第三子。名は夷吾。諡は惠。太子申生死し、夷吾、梁に奔る。獻公卒し、里克・奚齊、卓子を殺して夷吾を迎ふ。夷吾よつて秦に河西の地を賂して入らんことを求む。齊秦の師、夷吾を晉に入れ立てて晉侯とす。公、立つて里克を殺し秦に背く。故に秦伯、晉を伐つて韓原に戰ひ、秦、公を獲て歸り、後、歸す。在位十四年。〔史記、三十九〕。

【晉惠帝】115（シンノケイテイ） 司馬衷（**2－3257**‥295）を見よ。

〖晉惠帝陵〗116（シンノケイテイノリヨウ） 太陽陵（**3－5834**‥50）を見よ。

【晉景公】117（シンノケイコウ） 春秋、晉の成公の子。名は據。諡は景。時に鄭宋の故を以て楚と相惡む。楚、強くして晉軍、河上に敗らる。後、魯衞の軍と會して齊を伐ち、大いに齊の軍を鞌に敗る。晉これより始めて六軍を作る。在位十九年。〔左氏、成、十三〕・〔史記、三十九〕。

【晉景帝】118（シンノケイテイ） 司馬師（**2－3257**‥264）を見よ。

【晉獻公】119（シンノケンコウ） 春秋、晉の主。武公の子。名は詭諸。諡は獻。始めて絳に都す。公、賈より娶つて子なく、齊姜に烝して秦穆夫人及び太子申生を生み、又、二女を戎より娶つて重耳及び夷吾を生む。又、驪戎を伐つて驪姬を獲、奚齊を生み、其の娣、卓子を生む。驪姬嬖せられ、其の子を立てんとし、太子申生を殺し、重耳・夷吾を逐ふ。公、荀息をして奚齊に傅たらしめ、遂に晉國を亂る。在位二十六年。虞虢等の諸小國を滅ぼす。是の時、西、秦と境を接し、北、翟に邊し、東は河內に至る。〔史記、三十九〕。

【晉元帝】120（シンノゲンテイ） 司馬睿（**2－3257**‥217）を見よ。

〖晉元帝陵〗121（シンノゲンテイノリヨウ） 建平陵（**4－9574**‥149）の㊃を見よ。

【晉侯緡】122（シンコウビン） 戰國、晉の主。哀侯の弟。曲沃武公、既に哀侯の子、小子侯を殺し、周桓王、虢仲をして曲沃を伐たしむ。武公、曲沃に入り、緡を立てて晉侯とす。立ちて二十八年、武公、緡を伐つて晉を滅ぼす。〔史記、三十九〕。

【晉侯燮】123（シンコウセフ） 周、唐叔虞の子。徙つて晉水の傍に居り、因つて改めて晉侯と稱す。〔史記、三十九〕。

【晉國公】123′（シンコクコウ） 宋、丁謂（**1－2**‥5）の封號。

【晉國柱】124（シンコクチユウ） 明、長安の人。字は擊衡。流寇の亂に値ひ、隱居して學を講ず。明人、貞孝先生と私諡す。

【晉之權】125（シンノケン） 晉國の權力。〔穀梁、哀、十三〕因㆓魯之禮㆒、因㆓晉之權㆒。

【晉之乘】126（シンノジヨウ） 晉の歷史を記した書。乘は、田賦乘馬から名づける。一說に、載の義で、當時の行事を記載するに取つて名づける。〔孟子、離婁下〕孟子曰、王者之迹熄而詩亡、詩亡然後春秋作、晉之乘、楚之檮杌、魯之春秋一也。

【晉襄公】127（シンノジヤウコウ） 春秋、晉の文公の子。名は歡。諡は襄。數〻秦師を敗る。在位七年。〔史記、三十九〕。

【晉主惠】128（シンシユノメグミ） 晉の文公のめぐみ。〔鮑照、代東武吟〕願垂㆓晉主惠㆒、不㆑愧㆓田子魂㆒。

【晉出公】129（シンノシユツコウ） 戰國、晉の定公の子。名は鑿。知伯、韓・趙・魏と范・中行氏の地を分つて邑とす。公怒つて四卿を伐ち、却つて敗れて齊に奔り、道に死す。〔史記、三十九〕。

【晉出帝】130（シンノシユツテイ） 石重貴（**8－24024**‥992）を見よ。

【晉世寧】131（シンセイネイ） 晉の杯槃舞歌の名。杯槃舞（**6－14497**‥51）を見よ。〔宋書、五行志一〕歌曰、晉世寧、舞杯盤、云云、今接㆓杯盤於手上㆒而反㆓覆之㆒、至危也、杯盤者、酒食之器也、而名曰㆓晉世寧㆒者、言㆘晉世之士、偸㆓苟於酒食之間㆒、而其知不㆑及㆑遠、晉世之寧、猶㆗杯盤之在㆖手也。

【晉成公】132（シンノセイコウ） 春秋、晉の文公の少子。名は黑臀。諡は成。趙穿、靈公を弑して迎立す。公、楚莊と境を爭ひ、諸侯を扈に會す。陳、楚を畏れて會せず、公、荀林父をして陳を伐たしめ、楚と戰ひ、楚の軍を敗る。在位七年。〔史記、三十九〕。

【晉成帝】133（シンノセイテイ） 司馬衍（**2－3257**‥224）を見よ。

〖晉成帝陵〗134（シンノセイテイノリヨウ） 興平陵（**9－30226**‥148）を見よ。

【晉靜公】135（シンノセイコウ） 戰國、晉の烈公の孫。名は俱酒。諡は靜。立つて二年、魏の武侯・韓の哀侯・趙の敬侯、晉を滅ぼして其の地を三分し、公遷つて家人となる。〔左氏、宣、二。成、二〕・〔史記、三十九〕。

【晉昭公】136（シンノセウコウ） 春秋、晉の平公の子。名は夷。諡は昭。時に六卿強く、立つて六年にして卒す。〔左氏、昭、十六〕・〔史記、三十九〕。

【晉昭侯】137（シンノセウコウ） 周の時、晉の文侯の子。名は伯。諡は昭。卽位の後、文侯の弟成師を曲沃に封じ、桓叔と號す。立つて七年、大臣潘父、侯を弑し、桓叔を迎立す。〔史記、三十九〕。

【晉石菴】138（シンセキアン） 清、姚慰祖（**3－6202**‥125）の號。

【晉錫堂】139（シンセキダウ） 元、程鉅夫（**8－25081**‥174）の室名。

【晉宣帝】140（シンノセンテイ） 司馬懿（**2－3257**‥204）を見よ。

【晉悼公】141（シンノタウコウ） 春秋、晉の襄公の曾孫。名は周。諡は悼。欒書等厲公を弑して迎立す。不臣者七人を逐ひ、舊功を修め、德惠を施し、晉の霸を復す。在位十五年。〔左氏、襄、二十二。昭、三十〕・〔史記、三十九〕。

【晉蕩公】142（シンタウコウ） 北周、宇文護（**3－7067**‥52）の封諡號。

【晉定公】143（シンノテイコウ） 春秋、晉の頃公の子。名は午。諡は定。大夫趙鞅罪あり、韓魏之がために請ひ、赦して其の位に復す。中行寅・范吉射を討つて齊に奔らしむ。吳王夫差と黃池に會して長を爭ふ。在位三十七年。〔史記、三十九〕。

【晉調元】144（シンテウゲン） 明の人。臣の從孫。字は淑君。萬曆の擧人。官は兵科給事中。

【晉廢帝】145（シンノハイテイ） 司馬奕（**2－3257**‥221）を見よ。

【晉八王】146（シンノハチワウ） 晉の汝南王亮・楚王瑋・趙王倫・齊王冏・河間王顒・成都王穎・長沙王乂・東海王越。此の八人は交　起つて相爭ひ、骨肉の間、互に相殘害すること十六年の久しきに及ぶ。世に之を八王の亂といふ。八王之亂（**2－1450**‥533）を見よ。〔小學紺珠、氏族類、八王〕汝南王亮・楚王瑋・趙王倫・齊王冏・長沙王乂・成都王穎・河間王顒・東海王越。

【晉愍帝】147（シンノビンテイ） 司馬鄴（**2－3257**‥257）を見よ。

【晉武公】148（シンノブコウ） 春秋、晉の曲沃莊伯の子。名は稱。諡は武。哀公及び小子侯を殺し、又、晉侯緡を伐つて之を滅ぼし、盡く其の寶器を以て周に賂す。周釐王命じて晉君とし、諸侯に列せしむ。更に號して晉といひ、始めて晉國に都す。晉に代り二歲にして卒す。〔史記、三十九〕。

【晉武帝】149（シンノブテイ） 司馬炎（**2－3257**‥223）を見よ。

〖晉武帝陵〗150（シンノブテイノリヨウ） 峻陽陵（**4－8116**‥92）を見よ。

【晉文公】151（シンノブンコウ） 春秋、晉の侯。獻公の次子。太子申生の弟。名は重耳。諡は文。獻公、驪姬を嬖し、太子申生を殺すや、重耳狄に奔り、外に在ること十九年、獻公既に卒し、數傳して懷公圉に至る。秦穆公の力を假りて晉に歸る。時に年、六十二。狐偃・趙衰・賈佗・先軫等の賢臣を用ひ、王子帶を誅して周襄王を納れ、宋を救ひ、楚を破り、

齊桓公に繼いで諸侯に霸となる。在位九年。〔左氏、僖、九・二十四・二十八・三十三。文、七。宣、十二。成、十一・十三。襄、八・十四・二十五・三十一。昭、四・十三・十五・十七・二十九〕・〔史記、三十九〕。

【晉文侯】152（シンノブンコウ） 周の時、晉の穆侯の子。名は仇。諡は文。穆侯卒し弟殤叔自立す。仇、出奔し、殤叔立つて四年、仇、其の徒を率ゐて殤叔を襲うて自立す。在位三十五年。〔史記、三十九〕。

【晉文帝】153（シンノブンテイ） 司馬昭（**2－3257**‥280）を見よ。

【晉平公】154（シンノヘイコウ） 春秋、晉の主。悼公の子。名は彪。諡は平。欒盈、罪ありて齊に奔り、齊侯、盈を曲沃に遣し兵を以て之に隨ふ。盈、曲沃より絳を襲ふ。絳、警戒せず、公、自殺せんとす。范鞅、公を止め、其の徒を以て盈を撃ち、盈死して遂に欒氏の宗を滅ぼす。時に晉國の政、趙武・韓起・魏舒の三家に歸す。在位二十六年。〔左氏、襄、十六・二十三・二十六。昭、十・十二・二十八〕・〔史記、三十九〕。

【晉穆侯】155（シンノボクコウ） 周、晉の主。唐叔虞八世の孫。名は弗生。諡は穆。齊女姜氏を取つて夫人とす。條を伐つて太子を生み、仇と名づけ、千畝を伐つて少子を生み、成師と名づく。大夫師服、其の亂を兆さんことをいふ。在位二十七年。〔史記、三十九〕。

【晉穆帝】156（シンノボクテイ） 司馬聃（**2－3257**‥289）を見よ。

〔晉穆帝陵〕157（シンノボクテイノリヨウ） 永平陵（**6－17088**‥223）の❶を見よ。

【晉明帝】158（シンノメイテイ） 司馬紹（**2－3257**‥281）を見よ。

〔晉明帝陵〕159（シンノメイテイノリヨウ） 武平陵（**6－16273**‥340）を見よ。

【晉陽秋】159′（シンヤウシウ） 書名。晉、孫盛撰。詞直く理正しく、皆良史と稱した。桓溫が之を見て怒つて孫盛にいふ、枋頭では誠に利を失つた。しかし何ぞ君の言ふやうであらうや。若し此の史が行はるれば、君の門戸を關せんと。諸子恐れて竊かに之を改めた。太元中、孝武帝が其の定本を求めて考挍した。〔晉書、八十二、孫盛傳〕。

【晉厲公】160（シンノレイコウ） 春秋、晉の主。景公の子。名は壽曼。諡は厲。鄭が晉に背いて楚と盟ふや、公、自ら將として河を渡り、楚人來り救ふや、遂に之と戰ひ、楚の共王の目を射、楚兵を鄢陵に敗る。晉、これより諸侯に威あり。是に於て益々驕侈にして外嬖多く、盡く羣大夫を去つて諸姬の兄弟を立てんとし、胥童を立てて卿とし、三郤を殺す。欒書・中行偃、遂に其の黨を以て公を襲ひ、囚へて之を弑す。在位八年。〔史記、三十九〕。

【晉靈公】161（シンノレイコウ） 春秋、晉の君。襄公の子。名は夷皐。諡は靈。公、壯侈、厚く斂して牆に彫鏤し、臺上より人を彈じ、其の丸を避けるを觀る。宰夫、熊を烹て其の蹯熟せず、公怒つて之を殺し、婦人をして其の尸を持つて出でしむ。趙盾之を見て諫むるに、公、鉏麑をして盾を刺さしむ。鉏麑、忍びず、槐樹に觸れて死す。民、附かず、盾の弟穿、遂に襲うて公を桃園に殺す。在位十四年。〔史記、三十九〕。

【晉烈公】162（シンノレツコウ） 戰國、晉の幽公の子。名は止。諡は烈。立つて十九年、周の威烈王、趙・韓・魏を諸侯とす。在位二十七年。〔史記、三十九〕。

【晉王斜】163（シンワウシヤ） 街道の名。河南省靈寶縣の西。〔太平寰宇記〕晉王斜路、即古函谷關路、西接湖城、東至靈寶界、六十一里、舊塞、隋開皇九年、晉王自揚州回、復行此路、因名晉王斜。

【晉孝武帝】164（シンノカウブテイ） 司馬曜（**2－3257**‥220）を見よ。

〔晉孝武帝陵〕165（シンノカウブテイノリヨウ） 隆平陵（**11－41746**‥119）を見よ。

【晉簡文帝】166（シンノカンブンテイ） 司馬昱（**2－3257**‥210）を見よ。

〔晉簡文帝陵〕167（シンノカンブンテイノリヨウ） 高平（**12－45313**‥823）の❷㋺を見よ。

【晉惠聞蟆】168（シンケイブンバ） 蒙求の標題。晉の惠帝は暗愚の君で、嘗て蝦蟆の聲を聞き、此の鳴く者は官事のためにしてをるか、私事のためかと、左右に問ふ。或る人が對へて、官地に棲んでゐる者は官のためにし、私地の者は私のためにするといつた故事。〔晉書、惠帝紀〕帝之爲太子也、朝廷咸知不堪政事、武帝亦疑焉、云云、帝又嘗在華林園、聞蝦蟆聲、謂左右曰、此鳴者爲官乎、私乎、或對曰、在官地爲官、在私地爲私、及天下荒亂、百姓餓死、帝曰、何不食肉糜、其蒙蔽皆此類也。

【晉小子侯】169（シンノセウシコウ） 春秋、晉の哀公の子。立つて四年、曲沃武公に殺さる。〔史記、三十九〕。

【晉宣狼顧】170（シンセンラウコ） 蒙求の標題。晉の宣帝は、狼顧の相があり、反顧するに面が正しく後に向つて身は動かなかつた故事。〔晉書、宣帝紀〕帝內忌而外寬、猜忌多權變、魏武察帝有雄豪志、聞有狼顧相、欲驗之、乃召使前行、令反顧、面正向後而身不動。

【晉鑄刑鼎】171（シンケイテイヲイル） 魯の昭公二十九年、晉國が范宣子の作つた刑書を鼎に鑄刻して國民に公示したことをいふ。〔左氏、昭、二十九〕鑄刑鼎、著范宣子所爲刑書焉、仲尼曰、晉其亡乎、失其度矣、夫晉國、將守唐叔之所受法度、以經緯其民、卿大夫以序守之、民是以能尊其貴、貴是以能守其業、貴賤不愆、所謂度也、云云、今棄是度也、而爲刑鼎、民在鼎矣。

【晉中興書】172（シンノチユウコウシヨ） 書名。晉、何法盛撰。此の書は、實は郗紹の作。郗紹がこの書を何法盛に示すや、法盛は之を己のものにせんと思ひ、卿は既に名位貴達なれば、この上更に名譽を求める要なからん、我は寒士にして世に聞えず、著述を賜はつて、名を揚げたしと請ふも紹與へず。後、法盛、紹の不在に至つて書を竊む。これよりこの書、何法盛の作として世に傳はるといふ。〔南史、徐廣傳〕。

【晉武傷指】173（シンブシヤウシ） 蒙求の標題。晉の武帝には寵姬甚だ多く、最も胡貴嬪を愛した。嘗て樗蒲の遊をして勝負を爭ひ、胡貴嬪は遂に武帝の指を傷つけるに至つた故事。〔晉書、后妃、胡貴嬪傳〕芳最蒙愛幸、殆有專房之寵焉、侍御服飾亞于皇后、帝嘗與之樗蒲、爭矢遂傷上指、帝怒曰、此固將種也、芳對曰、北伐公孫、西距諸葛、非將種而何、帝甚有慚色。

【晉平刺王】175（シンヘイシワウ） 南朝宋、劉休祐（**2－2224**‥804）の封諡號。

【晉勿與知】176（シンアヅカリシルコトナシ） 晉は關係無く知ることが無い。〔左氏、昭、三十二〕雖有後事、晉勿與知可也。

【晉約秦盟】177（シンヤクシンメイ） 約束をいふ。〔剪燈餘話、鳳尾草記〕兼之晉約秦盟、遽然斷絕。

【晉安王子勛】178（シンアンワウシクン） 劉子勛（**2－2224**‥962）を見よ。

【晉安王方智】179（シンアンワウハウチ） 蕭方智（**9－32012**‥497）を見よ。

【晉徵士陶潛】180（シンノチヨウシタウセン） 晉の陶潛をいふ。其の曾祖から以下皆晉の宰輔であつたから、自ら身を屈して他姓に仕へるを恥ぢ、晉が衰へ、劉宋の高祖の王業が、漸く隆んとなるや、復た肯へて仕へず、斷じて徵に應じなかつたからいふ。〔顏延之、陶徵士誄序〕有晉徵士尋陽陶淵明、南岳之幽居者也。〔注〕銑曰、陶潛隱居、有詔禮徵、爲著作郎、不就、故謂徵士。〔通鑑綱目、丁卯、注〕宋元嘉四年、魏始光四年、晉徵士陶潛卒、曰、陶潛乃侃之孫、其初年、出處大致、已有可觀、至劉宋移國、遂不出仕、卒能保全名節、故綱目特以晉處士書之、明其獨得爲晉全人也。

【晉未可媮也】181（シンハイマダウスクスベカラザルナリ） 晉はまだ疎略に取り扱ふことはできない。〔左氏、襄、三十〕季武子曰、晉未可媮也、有趙孟以爲大夫、云云、其庸可媮乎。〔注〕媮、薄也。

【晉楚之富不可及】182（シンソノトミハオヨブベカラズ） 晉楚二國の富は企て及ぶべきものでない。〔孟子、公孫丑下〕曾子曰、晉楚之富、不可及也、彼以其富、我以吾仁、彼以其爵、我以吾義、吾何慊乎哉。

【晉唐小說六十種】183（シンタウセウセツロクジツシュ） 書名。八冊。民國、兪建卿編。晉唐の小說、凡て六十種を收める。

【晋】13899

シン

晉（**5－13898**）の俗字。〔正字通〕晉、俗晉字。

【晊】 13900 シツ シチ 〔集韻〕職日切 質 ❶**おほきい。**〔爾雅、釋詁〕晊、大也。❷**あきらか。**〔類篇〕晊、明也。

【杲】 13901 バウ 暴(**5－14137**)に同じ。〔篇海〕杲、與レ暴同。

【晭】 13902 シウ シユ 〔玉篇〕職救切 宥 **ひかり。**〔玉篇〕晭、光也。

【晌】 13903 シヤウ 〔篇海〕始兩切 養 ㄕㄤˇ shang^3 ❶**まひる。**正午。〔篇海〕晌、晌午也。❷**時間。**〔正字通〕晌、今俗謂二半刻一曰二半晌一。〔故事成語考、歲時〕片晌卽謂二片時一。❸**田の面積の名。**東三省で田地の面積を量るに用ひる語。一晌は九畝で、我が六反歩餘に當る。〔柳邊紀略〕寧古塔、地不レ計レ畝而計レ晌、晌者、盡二一日所レ種之謂也、約當二浙江田二畝零一、一夫種二二十晌一、晌收レ穀、自二一石一至二二石一。

【晌午】1 シヤウゴ 正午。晌は、ひるま。〔翠雨軒詩話〕漁洋詩、蜂聲滿レ院日卓午、淸閑供、晌午挾レ筴理二舊稿一。〔紅樓夢、八回〕過去看レ戲、至二晌午一、賈母便回來歇息了。

〖晌午錯了〗2 shang^3 huo ts'uo^4 la ひるすぎ。正午過ぎ頃の時刻。

【晌飯】3 shang^3 fan^4 晝飯。

【晑】 13904 キヤウ カウ 〔篇海〕香兩切 養 **あきらか。**〔篇海〕晑、明也。

【晍】 13905 メイ ミヤウ 〔集韻〕母迥切 迥 ❶**日がくらい。**〔集韻〕晍、日暗也。❷冥(**1－1588**)の俗字。〔正字通〕晍、俗冥字。

【𣆋】 13906 ㊀ケン 〔玉篇〕許驗切 豔 ㊁ケン コン 〔玉篇〕許嚴切 鹽 ㊀㊁**さまたげる。**〔玉篇〕𣆋、妨也。

【晆】 13907 ㊀クワウ 〔集韻〕虎晃切 養 ㊁クワウ 〔集韻〕呼光切 陽 ㊂カウ バウ 〔集韻〕呼浪切 漾 ㊃マウ 〔集韻〕謨郎切 陽 ㊀㊁㊂**あつい。**あつさ。〔集韻〕晆、日旱熱。〔類篇〕晆、旱氣。㊃㊀に同じ。或は旷(**5－13756**)に作る。〔集韻〕晆、暑熱也、或省。

【𣆓】 13908 トウ 曈(**5－14175**)に同じ。〔集韻〕曈、或作レ𣆓。

【倃】 13909 タウ トウ 〔集韻〕他刀切 豪 **日の色。**〔集韻〕倃、日色。

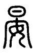
【㬈】 13910 サフ セフ 〔玉篇〕楚洽切 洽 **日が水をてらす。**〔玉篇〕㬈、日照レ水。

【𣅺】 13911 シ 〔玉篇〕色滓切 紙 **あきらか。**〔玉篇〕𣅺、明也。

【晘】 13912 カン 〔玉篇〕各汗切 翰 ❶**かわきかかる。**半ば乾く。〔玉篇〕晘、半乾也。❷涆(**6－17522**)の譌字。〔正字通〕晘、涆字之譌。

【晎】 13913 コウ ク 〔集韻〕虎孔切 董 **明けかかる。**〔集韻〕晎、晎晎、日欲レ明也。

【晏】 13914 ㊀アン エン 〔集韻〕於諫切 諫 ㄧㄢˋ yen^4 ㊁アン 〔集韻〕於旰切 翰


小篆

㊀㊁❶**はれる。**空が澄む。〔說文〕晏、天淸也、从レ日安聲。〔小爾雅、廣言〕晏、陽也。〔淮南子、繆稱訓〕暉日知レ晏。〔注〕晏、無レ雲也。〔漢書、揚雄傳上〕天淸日晏。〔注〕師古曰、晏、無レ雲也。〔漢書、郊祀志上〕中山晏溫。〔注〕如淳曰、三輔謂二日出淸濟一爲レ晏。❷**あたたかい。**〔正字通〕晏、日氣溫也。❸**あざやか。**うつくしい。〔詩、鄭風、羔裘〕羔裘晏兮。〔傳〕晏、鮮盛貌。❹**おそい。くれる。**旰(**5－13751**)に通ず。〔說文通訓定聲〕晏、叚借爲レ旰。〔小爾雅、廣言〕晏、晚也。〔論語、子路〕何晏也。〔皇疏〕晏、晚也。〔呂覽、愼小〕二子待レ君、日晏。〔注〕晏、暮也。〔楚辭、離騷〕及二年歲之未レ晏兮。〔注〕晏、晚也。〔素問、瘧論〕其作日晏。〔注〕晏、猶二日暮一也。❺**やすらか。**安(**3－7072**)に通ず。〔說文通訓定聲〕晏、叚借爲レ安。㋑安んずる。〔禮、月令〕以定二晏陰之所レ成。〔注〕晏、安也、陰稱レ安。〔漢書、諸侯王表〕海內晏如。〔注〕師古曰、晏如、安然也。㋺やはらぐ。〔爾雅、釋訓〕晏晏、柔也。〔詩、衞風、氓〕言笑晏晏。〔傳〕晏晏、和柔也。〔法言、孝至〕粲兮晏兮。〔注〕晏、和柔。❻**聲のさま。**晏衍(11)を見よ。❼宴(**3－7166**)に通ず。〔詩、衞風、氓〕總角之宴。〔校勘記〕宴、按、鄭羔裘作レ晏。❽**姓。**〔尙友錄〕晏、齊國宮音、齊公族之後。

名乘 ヲソ。サダ。ヤス。

【晏安】1 アンアン 安んずる。遊びたのしむ。宴安。〔魏志、鍾會傳〕豈晏二安酖毒一、懷レ祿而不レ變哉。

【晏晏】2 アンアン ❶和ぐさま。たのしく平和なさま。〔爾雅、釋訓〕晏晏、柔也。〔郝懿行義疏〕晏者、宴之叚借也、說文云、宴、安也、通作レ晏、晏晏猶二安安一。〔詩、衞風、氓〕總角之晏、言笑晏晏。〔傳〕晏晏、和柔也。〔風俗通、十反〕言笑晏晏。〔後漢書、馮衍傳下〕思二唐虞之晏晏一兮。〔論衡、恢國〕唐之晏晏、舜之烝烝。❷天性のままで少しも無理の無いさま。安安。〔書、堯典〕欽明文思安安。〔鄭注〕安安、一作二晏晏一。

【晏晏之化】3 アンアンノクワ やはらいで民を化する。〔後漢書、郅惲傳〕行二誹謗之誅一、以傷二晏晏之化一。

【晏晏之姿】4 アンアンノシ 柔和なすがた。〔後漢書、第五倫傳〕躬二天然之德一、體二晏晏之姿一。

【晏晏之政】5 アンアンノセイ 和ぎ樂しむまつりごと。

〔後漢書、鄧皇后紀〕崇二晏晏之政一、敷二在寛之教一。

【晏陰】6 アンイン ❶安らかに靜かなこと。一說に、夏至の日に初めて起る微かな陰の氣をいふ。〔禮、月令〕百官靜、事毋レ刑、以定二晏陰之所レ成。〔注〕晏、安也、陰稱レ安。〔孫希旦集解〕晏、安也、陰道靜、故曰二晏陰一、夏至之日、微陰初起、故致二其敬愼安靜一以養レ之、而定三此晏陰之所二成就一也。❷ひなたとひかげ。はれとくもり。〔列子、湯問〕晏陰之閒、跪而授二其下劍一。〔韓非子、外儲說左上〕晏客曰、人主欲レ觀レ之、必半歲不レ入レ宮、不二飮レ酒食レ肉、雨霽日出、視二之晏陰之閒一、而棘刺之母猴乃可レ見也。❸ものを殘ひ破る喩。〔呂覽、誣徒〕固無二恆心一、若二晏陰一。〔注〕晏陰、喩二殘害一也。

【晏嬰】7 アンエイ 春秋、齊の大夫。夷維の人。弱の子。字は平仲。靈公・莊公に事へ、景公の相となる。節儉力行。食は肉を重しとせず、妾は帛を衣ず、一狐裘三十年、名、諸侯に顯はる。後人其の行事及び諫諍の言を采り晏子春秋を作る。〔左氏、襄、十七・十八・二十二・二十三・二十六・二十八・二十九。昭、十〕・〔史記、六十二〕。

【晏嬰脫粟】8 アンエイダツゾク 蒙求の標題。戰國、齊の相、晏嬰が僅に糲を脫した米を食し、一汁一菜の儉約を旨とした故事。〔蒙求、上、晏嬰脫粟〕晏子春秋、晏嬰、字平仲、爲二齊相一、常食二脫粟米一、不レ重レ味。

【晏嬰之狐裘】9 アンエイノコキウ 極めて節儉な喩。齊の相晏嬰が一枚の狐裘を三十年間著用した故事。〔禮、檀弓下〕有若曰、晏子一狐裘三十年、遣車一乘、及レ墓而反、云云、晏子焉知レ禮。

【晏嬰不レ降二志於白刃一】10 アンエイハココロザシヲハクジンニクダサズ 齊の晏嬰は白刃に迫られても志を動かさない。晏子高節(27)を見よ。〔魏志、臧洪傳〕晏嬰不レ降二志於白刃一、南史不レ曲レ筆以求レ生。

【晏衍】11 アンエン 淫邪な樂聲。一說に、樂聲の雅正なこと。宴衍。〔揚雄、長楊賦〕抑二止絲竹晏衍之樂一、憎レ聞二鄭衞幼眇之聲一。〔注〕向曰、芬芳之氣、邪淫之聲、皆不二御聞一也、善曰、晏衍、雅聲也。〔楚辭、王逸、九思、傷時〕聲噭誂兮清和、音晏衍兮要婬。

【晏溫】12 アンヲン 淸く霽れ渡つて煖いさま。快晴で氣の溫かなこと。曣𥅊(5−14250‥1)に同じ。〔史記、武帝紀〕至二中山一、晏溫有二黃雲蓋一焉。〔注〕集解曰、如淳曰、三輔謂二日出淸濟一爲二晏、晏而溫也。〔漢書、郊祀志上〕至二中山一、晏溫有二黃雲一焉。〔注〕三輔謂二日出淸濟一爲レ晏、晏而溫乃有二黃雲一、故爲レ異也。〔王先謙補注〕錢大昕曰、說文、晏、天淸也、濟與レ霽同。

【晏駕】13 アンガ 天子の崩御を忌んでいふ語。晏は晚。靈柩車が日が暮れてから發引する意。一說に、天子は常に晨に起きて朝を視る。其の崩じて出御されぬのを、臣子の情として之を死せりとするに忍びず、晏く駕して出づべしといふ。〔戰國、秦策〕秦王老矣、一日晏駕、雖レ有二子異人一、不レ足二以結レ秦。〔注〕高誘曰、晏、晚也、日暮而駕、歸二太陰一也、謂二死亡一也、韋昭曰、凡初崩爲二晏駕一者、臣子之心、猶レ謂三宮車當二駕而出一也。〔史記、范雎傳〕宮車一日晏駕、是事之不レ可レ知者一也。〔注〕集解曰、應劭曰、天子當二晨起早作一、如二方崩殞一、故稱二晏駕一、韋昭曰、凡初崩爲二晏駕一者、臣子之心、猶レ謂三宮車當二駕而晚出一。〔史記、武安侯傳〕宮車晏駕、非二大王立一當レ誰哉。〔漢書、樊噲傳〕上一日宮車晏駕、則噲欲三以レ兵盡誅二戚氏趙王如意之屬一。

【晏開】14 アンカイ 晚く開く。晏開之警を見よ。

【晏開之警】14′ アンカイノケイ 四圍の情勢が不穩の時には、警戒して城門を晚く開くこと。〔後漢書、耿國傳〕率二厲四夷一、完二復邊郡一、使下塞下無二晏開之警一、萬世有中安寧之策上。〔注〕晏、晚也、有二警急一、則開レ門晚也。

【晏閒】15 アンカン ひま。のんびりとしてひまなこと。〔莊子、知北遊〕今日晏閒、敢問二至道一。

【晏起】16 アンキ 朝おそくおきる。又、おそおき。朝寢。〔禮、內則〕孺子早寢晏起、惟所レ欲、食無レ時。〔後漢書、皇后紀序〕宣后晏起、姜氏請レ愆。〔潘岳、射雉賦〕恐二吾游之晏起一、慮二原禽之罕至一。

【晏兮】17 アンケイ あんたり。あざやかで盛なさま。〔詩、鄭風、羔裘〕羔裘晏兮、三英粲兮。〔傳〕晏、鮮盛貌。

【晏怯】18 アンケフ 柔弱で意氣のないこと。晏は柔、怯は弱。〔南齊書、王晏傳〕高宗與レ晏宴二於東府一、語及二時事一、晏抵レ掌曰、公常言晏怯、今定何如。

【晏崓】19 アンコ 地名。山東省單縣の境。〔李白、送三弟凝至二晏崓一詩〕鷄鳴發二晏崓一。

【晏娛】20 アンゴ やすんじたのしむ。

【晏昏】21 アンコン ゆふ方。黃昏。晏は晚。

【晏齋】22 アンサイ 小野巻の號。小野湖山(4−7473‥1586)を見よ。

【晏歲】23 アンサイ 歲の暮。〔越絕書、越絕外傳記地傳〕晏歲暮年。〔剪燈餘話、至正妓人行〕晏歲荒村因二邂逅一、芳樽小酌且留連。

【晏子】24 アンシ ❶春秋齊、晏嬰の尊稱。晏嬰(7)を見よ。〔淮南子、道應訓〕晏子往見レ公。❷書名。晏子春秋の略。

【晏子金】25 アンシキン 晏子城の故趾から出る黃金。〔太平淸話〕晏子城、安吉西北二十里、吳地志云、晏子娶二吳王女一、築二城於此一、至レ今耕者得二黃金一、狀如二菱角一、中有二齊字一、名二晏子金一。

【晏子御】26 アンシノギヨ 春秋、齊の宰相晏嬰の御者が、己が宰相の御者であることに慢心し、馬を御して意氣揚々と自得してゐるのを見て、其の妻が去らんことを求めたので、大いに自ら恥ぢて抑損し、後、大夫に昇進した故事。晏御揚揚(74)を見よ。〔晏子、雜、上〕晏子之御感二妻言一、而自抑損。〔史記、管晏傳〕晏子爲二齊相一出、其御之妻、從二門閒一而闚二其夫一、其夫擁二大蓋一、策二駟馬一、意氣揚揚、甚自得也、既而歸、其妻請レ去、妻曰、晏子長不レ滿二六尺一、身相二齊國一、名顯二諸侯一、今者妾觀二其出一、志念深矣、常有二以自下者一、今子長八尺、乃爲二人僕御一、然子之意自以爲レ足、妾是以求レ去也、其後夫自抑損、晏子怪而問レ之、御以レ實對、晏子薦以爲二大夫一。

【晏子高節】27 アンシノカウセツ 春秋、齊の晏嬰が臣節を全うした故事。齊の崔杼が其の君莊公を弑し、公室に與する者を次々に殺戮し、晏子に及んだ。晏子は血の入つた杯を捧げ、天を仰いで、崔杼、汝は無道にして君を弑す、無道の崔杼に與するものは必ず天罰を蒙るであらうといつて、杯の血を歃つた。崔杼は晏子に向ひ、今の言葉を取消せば汝と共に齊の國に盡さう、取消さねば戟は汝の首に近づいてゐると迫つたが、晏子は刃を以て我を脅すのは卑怯である、且つ君に叛くものは不義である、天罰は立所に汝の上に降るであらうと叫び、遂に屈しなかつた。崔杼は晏子を殺さうとしたが、有道の士を殺すのはよくないと諫めるものあり、晏子は急を免れるを得た。〔晏子、雜、上〕崔杼既弑二莊公一、而立二景公一、杼與二慶封一相レ之、劫二諸將軍大夫、及顯士庶人於大宮之坎上一、令レ無二得不レ盟者一、爲レ壇三仞、埳二其下一、以二甲千一列二環其內外一、盟者皆脫レ劒而入、維晏子不レ肯、崔杼許レ之、有二敢不レ盟者一、戟拘二其頸一、劍承二其心一、令二自盟一曰、不レ與二崔慶一、而與二公室一者、受二其不祥一、言不レ疾、指不レ至レ血者死、所レ殺七人、次及二晏子一、晏子奉二桮血一、仰レ天嘆曰、嗚呼崔子、爲二無道一而弑二其君一、不レ與二公室一而與二崔慶一者、受二此不祥一、俛而飮レ血、崔杼謂二晏子一曰、子變二子言一、則齊國、吾與レ子共レ之、子不レ變二子言一、戟既在レ脰、劒既在レ心、維子圖レ之也、晏子曰、劫レ吾以レ刃、而失二其志一、非レ勇也、回レ吾以レ利、而倍二其君一、非レ義也、崔子、子獨不二爲レ天討一乎、詩云、莫莫葛藟、施二於條枚一、愷悌君子、求レ福不レ回、今嬰且可二以レ回而求レ福乎、曲刃鉤レ之、直兵推レ之、嬰不レ革矣、崔杼將レ殺レ之、或曰、不可、子以二子之君無道一而殺レ之、今其臣有道之士也、又從而殺レ之、不レ可二以爲レ教矣、崔子遂舍レ之、晏子曰、若二大夫一爲二大不仁一、而爲二小仁一、焉有レ中乎、趨出授レ綏而乘、其僕將レ馳、晏子撫二其手一曰、徐レ之、疾不二必生一、徐不二必死一、鹿生二於野一、命縣二于廚一、嬰命有レ繫矣、按レ之成レ節而後去、詩云、彼己之子、舍レ命不レ渝、晏子之謂也。

【晏子春秋】28 アンシシユンジウ 書名。八卷。春秋齊、晏嬰撰と傳ふ。單に晏子ともいふ。此の書は晏嬰が齊の靈公・莊公・景公に事へ、其の君を諫め、其の民を治めたことを敍す。漢の劉向いふ、書六篇、皆其の君を忠諫す、文章觀るべく、義理法るべく、六經の義に合すと。今、傳はるものは僞書たること疑ひなく、訛謬錯脫があつて讀み難いが、文章古雅簡潔、古書の面目を存してゐる。內篇六篇と諫上下、問上下、雜上下に分ち、外篇二篇を上下に合し凡て八篇。劉向・班固は儒家

に列し、柳宗元・晁公武・鄭樵等は墨家に列す。清の孫星衍、音義及び校勘記を作る。〔四庫提要、史、傳記類〕。

〖參考書〗【晏子春秋音義】二卷 清、孫星衍撰。〔經訓堂叢書、第二十六冊〕。【晏子春秋集解】八卷 大關惟孝撰。

【晏子之御者】29 アンシノギョシャ 晏子御(26)を見よ。

【晏子以二一心一事二百君一者也】30 アンシハイツシンヲモツテヒヤククンニツカフルモノナリ 晏子は一定不變の心で多くの君につかへるものである。堅固な操守を以て君に仕へ、君の如何によつて之を改變しないことを稱讚した語。〔晏子、問、下〕梁丘據問二晏子一曰、子事二三君一、君不レ同レ心、而子倶順レ焉、仁人固多レ心乎、晏子對曰、嬰聞レ之、順愛不レ懈、可三以使二百姓一、暴強不忠、不レ可三以使二一人一、一心可三以事二百君一、三心不レ可三以事二一君一、仲尼聞レ之曰、小子識レ之、晏子以二一心一事二百君一者也。

【晏之】31 アンシ 北齊、張宴之(**4**－**9812**··827)の一名。

【晏室】32 アンシツ 燕居の室。〔韓非子、難三〕晏室獨處、曾史之所レ慢也。

【晏日】33 アンジツ 一點の雲もない日。〔墨子、天志上〕於二此晏日一焉而得レ罪、將惡避二逃之一。〔史記、倉公傳〕當下調二飲食一、擇二晏日一、車步廣レ志、以適二筋骨肉血脈一、以瀉上レ氣。

【晏城】34 アンジャウ 城の名。山東省齊河縣の西北。黃河に臨み、津浦鐵路に沿ふ。〔金史、地理志中〕齊河鎭三、晏城・劉宏・新孫耿。〔齊河舊志〕晏嬰食二邑於此一、故名。

【晏弱】35 アンジャク 春秋、齊の大夫。卽ち桓子。魯の公孫歸父を見、之と魯の樂を語り、其の家を亡ぼさんことをいふ。後、歸父、齊に出奔す。〔左氏、宣、十七。襄、二・六〕。

【晏珠】35′ アンシュ 明、內江の人。字は朝用。正德の進士。灊山の知となり、清苦自ら勵み、心を民事に盡し、民大いに感歎す。母の喪を以て去り、後、戶部主事に陞る。

【晏殊】36 アンシュ 宋、臨川の人。字は同叔。謚は元獻。景德の初、神童を以て薦めらる。眞宗召して進士と與に廷中に試みるに、筆を執つて立どころに成り、直史館に命ぜられ、左庶子に遷る。官は仁宗の時、同中書門下平章事。殊、平居賢を好み、范仲淹・孔道輔・歐陽脩等皆其の門より出づ。宰相となるに及び、仲淹・韓琦・富弼等皆進用さる。性、剛簡にして奉養清儉、文章贍麗にして、尤も詩に巧。著に類要珠玉詞・文集等がある。〔宋史、三百十一〕。

【晏出】37 アンシュツ 時に後れておそく出る。〔金史、景祖昭肅后傳〕農月親課二耕耘刈獲一、遠則乘レ馬、近則策レ杖、勤二于事一者勉レ之、晏出蚤休者、訓二勵之一。

【晏處】38 アンショ やすんじてをる。やすらかにをる。安處(**3**－**7072**··228)に同じ。〔資治通鑑、晉紀〕(明帝、太寧二年)原二其私心一、豈遑二晏處一。〔注〕晏處、猶レ言二安處一。

【晏如】39 アンジョ ❶安んじおちつくさま。やすらかなさま。晏然。〔史記、南越尉佗傳〕今呂嘉・建德等反、自立晏如。〔漢書、揚雄傳上〕雄家產不レ過二十金一、乏二無儋石之儲一晏如也。〔漢書、諸侯王表〕高后女主攝レ位、而海內晏如。〔嵇康、幽憤詩〕與レ世無レ營、神氣晏如。〔陶潛、始作二鎭軍參軍一經二曲阿一作詩〕被レ褐欣二自得一、屢空常晏如。〔高適、漣上題二樊氏水亭一詩〕四時長晏如、百口無二飢年一。❷宋、楊澈(**6**－**15112**··293)の字。

〖晏如居士〗40 アンジョコジ 清、姜紹書(**3**－**6205**··105)の號。

【晏食】41 アンショク 日が桑野に至ることをいふ。〔淮南子、天文訓〕日至二于曾泉一、是謂二蚤食一、日至二于桑野一、是謂二晏食一。

【晏寢】42 アンシン 夜おそくねる。〔潘岳、秋興賦序〕夙興晏寢、匪レ遑二底寧一。〔潘岳、關中詩〕天子是矜、旰食晏寢。

【晏青】43 アンセイ 蟲の名。斑蝥(**5**－**13470**··47)の異名。〔本草、斑蝥〕釋名、時珍曰、吳普本草、又名二斑菌一、曰二腃髮一、曰二晏青一。

【晏清】44 アンセイ やすらかに清くをさまる。〔雲仙雜記、劍生二神芝一則天下清晏〕成都朱善存家、世寶一劍、每生二神芝一、則天下晏清。

【晏寂】45 アンセキ やすらかで靜かなこと。心が落著くやうなしづけさ。〔高僧傳〕智藏宿二靈曜寺一、夜見二金光照耀一、或問二其故一、答曰、晏寂之門、固有二妙喜吉祥一。

【晏然】46 アンゼン やすらかなさま。おちついてゐるさま。安閑。晏如。〔莊子、山木〕聖人晏然、體逝而終矣。〔疏〕晏然、安也。〔荀子、議兵〕國晏然不レ畏レ外。〔戰國、趙策〕梁王安得二晏然而已一乎。〔史記、魯仲連傳〕梁王安得二晏然而已一乎、而將軍又何以得二故寵一乎。〔漢書、宣帝紀〕北邊晏然靡レ有二兵革之事一。〔漢書、王吉傳〕布レ政施レ教、海內晏然。

【晏僧】47 アンソウ 宋、劉重進(**2**－**2224**··1197)の本名。

【晏息】48 アンソク やすんじいこふ。安息。

【晏退】49 アンタイ おそく退出する。〔聖德太子、十七條憲法〕羣卿百寮、早朝晏退、公事靡レ盬。

【晏鐸】50 アンタク 明、富順の人。字は振之。詩を以て名あり、景泰十子の一。永樂の進士。官は監察御史。著に青雲集がある。〔明史、二百八十六〕・〔萬斯同明史、三百八十七〕・〔明史稿、二百六十七〕。

【晏朝】51 アンテウ ❶おそく朝廷に出る。〔禮、禮器〕質明而始行レ事、晏朝而退。〔列女傳、賢明、周宣姜后傳〕至レ使二君王失レ禮而晏朝一。〔孔子家語、曲禮公西赤問〕質レ明而始行レ事、晏朝而徹。❷やすらかにをさまる朝廷。〔杜甫、寄二董卿嘉榮一十韻詩〕海內久戎服、京師今晏朝。

【晏荼】52 アント 晏孺子(66)を見よ。

【晏寧】53 アンネイ やすらかなこと。安寧。〔曹植、應レ詔詩〕將レ朝二聖皇一、匪二敢晏寧一。

【晏防】54 アンバウ 宋の人。殊の從子。字は宗武。幼にして王安石に學ぶ。官は崇仁主簿・萬載丞。寬厚にして學を好み、義命に安んじ、榮辱を意とせず。著に侯門倶胝二集がある。〔宋元學案、九十八〕。

【晏罷】55 アンピ おそく朝廷を退く。〔國語、越語下〕孰使二我蚤朝而晏罷一者、非レ吳乎。〔史記、越世家〕且夫君王蚤朝晏罷、非レ爲レ吳邪。〔任昉、天監三年策二秀才一文〕雖二一日萬機、早朝晏罷一、聽覽之暇、三餘靡レ失。

【晏溥】56 アンプ 宋の人。殊の孫。字は慧開。籀文に精通し、著に晏氏鼎彝譜がある。靖康の難に妻の趙氏と義士を率ゐて力戰して死す。

【晏平】57 アンペイ 晉代、五胡十六國の一、成蜀の太祖武帝、李雄の年號。又、太武・大武・宣平と稱す。(306－310)

【晏璧】58 アンペキ 明、廬陵の人。字は彥文。官は永樂中、徐州判官・山東按察司僉事。夙に文名あり、著に史鉞がある。〔續藏書、七〕・〔明詩紀事、己、二十〕。

【晏晡】59 アンポ 申の後九刻、昏に向ふ時。〔素問、標本病傳論〕冬大晨、夏晏晡。〔注〕晏晡、謂二申後九刻向レ昏之時一也。

【晏謨】60 アンボ 晉、臨淄の人。慕容德の時、秀才となる。齊の山川丘陵賢哲舊事を問はれ、歷對詳辨、地に畫いて圖を成す。德、深く之を嘉し、尙書郎を授く。著に齊記がある。〔尙友錄、十九〕。

【晏眠】61 アンミン 朝おそくまでねむること。朝ねばうをすること。〔曹松、長安春日詩〕塵中一丈日、誰是晏眠人。〔杜甫、遣レ興詩〕安得二廉頗將一、三軍同晏眠。〔王安石、祭二范潁州一文〕百城晏眠、吏士委蛇。

【晏鳴】62 アンメイ おそく鳴る。佩玉晏鳴は、君主の腰に佩びた玉の音が日が昇つてから鳴ることで、君主が朝寢をしておそく出御することにいふ。〔漢書、杜欽傳〕是以佩玉晏鳴、關雎歎レ之。

【晏暘】63 アンヤウ おそい日の出。〔論衡、佚文〕天晏暘者、星辰曉爛。

【晏幾道】64 アンキダウ 宋、臨川の人。殊の子。字は叔原。號は小山(小晏)。嘗て潁昌許田鎭を監す。文章を能くし、尤も樂府に巧。著に小山詞がある。〔四庫提要、一百九十八〕。

【晏斯盛】65 アンシセイ 清、新喩の人。字は一齋。康熙の進士。官は乾隆中、河北巡撫。書室を楚蒙山房といふ。著に楚蒙山易經解・禹貢解がある。〔清史稿、三百十五〕・〔國朝耆獻類徵、一百六十九〕。

【晏孺子】66 アンジュシ 春秋、齊の人。景公の少子。名は荼。其の母賤し。景公病むや、國惠子・高昭子に命じて荼を立てて太子とし、盡く羣公子を逐ふ。景公卒して、荼立ち、是を晏孺子といふ。田乞、高昭子を殺し、國惠子、莒に奔る。乃ち、公子陽生を魯に召す。陽生立ち、晏孺子を駘に遷し、之を

幕下に殺す。〔左氏、哀、六・八〕。

【晏叔原】67（アンシユクゲン）　晏幾道(64)を見よ。

【晏昵殿】68（アンヂツデン）　漢の宮殿の名。親戚の宴飲會同するところ。〔漢書、敍傳上〕召㆓見晏昵殿㆒。〔注〕張晏曰、親戚宴飲會同之殿。

【晏陀蠻】69（アンダバン）　國の名。今のベンガル灣南方の Andaman 諸島に在つた。〔三才圖會、人物十二、晏陀蠻國〕晏陀蠻國、自㆓蘭無里國㆒順風而去、其國周圍七千里、人身如㆓黑漆㆒、號㆓山蠻㆒、能食㆓生人㆒、船人不㆓敢近㆒㆑岸、地無㆑鐵、唯磨㆓蚌壳㆒爲㆑刄、其國有㆓一聖跡㆒、用㆓渾金㆒作㆑床、承㆓一死人㆒、經㆑代不㆑朽、常有㆓巨蛇㆒衞護、其蛇毛長㆓二尺㆒、人不㆓敢近㆒、有㆓一井㆒、一年兩次水溢流入㆑海、所㆑過沙石、經浸盡成㆑金。〔和漢三才圖會、外夷人物〕晏陀蠻、自㆓日本㆒凡八千餘里、三才圖會云、晏陀蠻國、自㆓蘭無里國㆒順㆑風而去、其國周圍七千里、人身如㆓黑漆㆒。

【晏天章】70（アンテンシヤウ）　宋の人。著に元元棋經がある。〔四庫提要、一百十三〕。

【晏敦復】71（アントンフク）　宋の人。殊の曾孫。字は景初。程頤に學ぶ。進士。官は紹興中、權吏部侍郞。給事中に除せらる。省に居る二箇月にして凡そ二十四事を論駁す。秦檜、和議を主とするや、敦復、廷爭甚だつとめ、檜が好餌を以て曲從せしめんとするも遂に屈せず。尙書に進められ、尋いで外任を請ひ、寶文閣直學士を以て衢州の知となり、亳州明道宮提擧となつて卒す。〔宋史、三百八十一〕。

【晏平仲】72（アンペイチユウ）　晏嬰(7)を見よ。

【晏平仲善與㆑人交】73（アンペイチユウヨクヒトトマジハル）　晏子の交際の仕方の當を得たことを孔子が稱讃した語。〔論語、公冶長〕子曰、晏平仲善與㆑人交、久而敬㆑之。

【晏御揚揚】74（アンギヨヤウヤウ）　蒙求の標題。春秋、齊の相、晏平仲の御者が意氣揚々として馬を御するや、其の妻之を見て離緣を求めた。これより御者が己の行を抑制して精勵したので、晏子が遂に之を大夫に薦めたといふ故事。晏子御(26)を見よ。〔蒙求、中、晏御揚揚〕史記、晏平仲嬰爲㆓齊相㆒出、其御之妻從㆓門閒㆒而闚㆓其夫㆒、其夫爲㆓相御㆒、擁㆓大蓋㆒策㆓駟馬㆒、意氣揚揚、甚自得也、既而歸、其妻請㆑去、夫問㆓其故㆒、妻曰、晏子長不㆑滿㆓六尺㆒、身相㆓齊國㆒、名顯㆓諸侯㆒、妾觀㆓其出㆒、志念深矣、常有㆓以自下者㆒、今子長八尺、乃爲㆓人僕御㆒、然子之意自以爲㆑足、妾是以求㆑去也、其後夫自抑損、晏子怪問㆑之、御以㆑實對、晏子薦以爲㆓大夫㆒。

【晏氏春秋】75（アンシシユンジウ）　書名。晏子春秋(28)に同じ。〔史記、管晏傳贊〕吾讀㆓管氏牧民・山高・乘馬・輕重・九府、及晏氏春秋㆒、詳哉其言㆑之也。

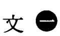
【晏元獻遺文】76（アンゲンケンヰブン）　書名。一卷。宋、晏殊撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【晍】13915

アン・チヤウ　義未詳。〔川篇〕晍、音安、女亮切。

【晐】13916

カイ　〔集韻〕柯開切　灰　ㄍㄞ　kai¹


小篆

❶日光があまねくてらす。〔說文〕晐、兼晐也、从㆑日亥聲。〔繫傳〕日之光兼覆也。**❷つつむ。**〔廣雅、釋言〕晐、包也。**❸みな。**すべて。〔廣雅、釋言〕晐、咸也。**❹そなはる。**〔小爾雅、廣言〕晐、備也。❺通じて該(10－35445)・賅(10－36746)に作る。〔說文、晐、段注〕按、此晐備正字、今字則該・賅行、而晐廢矣。

【晐姓】1（カイセイ）　多くの姓の女を取つて天子の後宮に備へるをいふ。〔國語、吳語〕越王許諾、乃命㆓諸稽郢㆒、行㆓成於吳㆒曰、云云、句踐請㆑盟、一介嫡女、執㆓箕箒㆒以晐㆓姓於王宮㆒、一介嫡男奉㆓槃匜㆒以隨㆓諸御㆒。〔注〕晐、備也、姓、庶姓也、曲禮曰、納㆓女於天子㆒曰㆑備㆓百姓㆒。

【𣆟】13917

シ　侈(1－583)に同じ。〔六書統〕𣆟、同㆑侈。

參考　𢂄(2－1541)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕𣆟同㆑𢂄。𢂄、同㆑侈。

【晋】13918

㊀アン　㊁バン　㊀暗(5－14065)の本字。〔正字通〕晋、暗本字。㊁晚(5－13940)の古字。〔古文奇字〕晋、古晚字。

【䀪】13919

バイ　昧(5－13846)の古字。〔集韻〕昧、古作㆑䀪。

【𣆀】13920

ダン　ナン　〔篇海類編〕奴管切　旱

あたたか。〔篇海類編〕𣆀、溫𣆀也。

【昰】13921

ゼ　是(5－13859)の籀文。〔說文〕是、昰、籀文是、从㆓古文正㆒。

【昝】13922

音未詳　昝卽兀該は元、順帝の時、禁中の私室の名。〔字彙補〕昝、音未詳、元史、哈嘛傳、元順帝、號㆑所㆑處曰㆓昝卽兀該㆒、言㆓事事無㆑礙也。

【𣆍】13923

キ　鬼(12－45758)の古字。〔篇韻〕𣆍、古文鬼字。

【晒】13924

サイ　ㄕㄞˋ　shai⁴

❶さらす。曬(5－14266)に同じ。〔字彙補〕晒、同㆑曬。❷[現]晒琴(1)の略稱。

【晒琴】1　shai⁴ chʻin²　露國の尺度の名。Sachine の音譯。晒射。

【晒首】2（サラシクビ）　罪人の首を斬り、其の首を獄門にさらして衆人に觀せること。又、其の首。梟首。

【晒殺】3　shai⁴ sha¹　天日に晒し殺す。天日で燒殺す。〔水滸傳、十六回〕這般天氣熱、兀的不晒殺人。

【旾】13925

シユン　春(5－13844)に同じ。〔六書統〕旾、同㆑春。

【㫥】13926

シヤウ　昌(5－13803)に同じ。〔字彙補〕㫥、與㆑昌同。

【昦】13927

カウ　昊(5－13799)に同じ。〔字彙補〕昦、同㆑昊。

【書】13928

チウ　晝(5－13948)の籀文。〔說文〕晝、書、籀文晝。

參考　日部の書(5－14294)は別字。中華大字典は書(9－29223)に作る。

【春】13929

シヨウ　舂(9－30195)の俗字。〔正字通〕舂、俗作㆑春。

【显】13930

ケン　顯(12－43726)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕顯、古今雜劇・三國志平話・太平樂府・嬌紅記・白袍記・目連記・金瓶梅、作㆑显。

七畫

【㬰】13931

シン　〔集韻〕千尋切　侵

日のひかり。〔玉篇〕㬰、日光也。

【晍】13932 カウ キヤウ 〔集韻〕古杏切 梗

㊀日のひかり。〔集韻〕晍、日光。㊁日がたかい。〔玉篇〕晍、日高也。

【晗】13933 カン ゴン 〔集韻〕胡南切 覃

明けかかる。〔玉篇〕晗、欲㆑明也。

【晘】13934 カン ゲン 〔集韻〕戸版切 潸

㊀日の出るさま。〔集韻〕晘、日出皃。㊁旱(5−13752)の俗字。〔正字通〕晘、俗旱字。

【〓】13935 セン 〔集韻〕戸連切 先

かはる。〔集韻〕〓、更也。

【〓】13936 ボク モク 〔集韻〕密北切 職

㊀つきすすむ。〔集韻〕〓、突前也。㊁覓(10−34803)の譌字。〔正字通〕〓、覓字之譌。

【〓】13936 ホ

晡(5−13953)の古字。〔正字通〕〓、〓字之譌、云云、楊愼曰、〓、古晡字。

【〓】13937 ㈠フ 〔玉篇〕附夫切 虞 ㈡ホ

㈠日のひかり。〔篇海〕〓、日光也。㈡〓(5−13936ˋ)の譌字。〔正字通〕〓、〓之譌字、云云、楊愼曰、〓、古晡字。

【〓】13938 ㈠ラウ 〔集韻〕里黨切 養 ㈡ラウ 〔集韻〕郎宕切 漾

㈠㊀あきらか。朖(5−14363)に同じ。〔集韻〕〓、說文、明也、亦姓、或从㆑日。㊁姓。㊀を見よ。㈡さらす。〔集韻〕〓、暴也。

【晙】13939 シユン 〔集韻〕祖峻切 震

小篆

㊀あきらか。〔說文新附〕晙、明也、从㆑日夋聲。㊁はやい。〔爾雅、釋詁〕晙、早也。

【晩】13940 バン マン 〔集韻〕武遠切 阮 ㄨㄢˇ wan³

小篆

㊀くれ。ひぐれ。ゆふがた。〔說文〕晩、莫也、从㆑日免聲。〔古詩、爲㆓焦仲卿妻㆒作〕朝成㆓繡裌裙㆒、晩成㆓單羅衫㆒。㊁おそい。又、おくれる。〔呂覽、不侵〕君從以難㆑之、未㆑晩也。〔注〕晩、後也。〔史記、主父偃傳〕何相見之晩。㊂すゑ。をはり。〔詩、周頌、臣工、維莫之春、箋〕晩春遣㆑之。〔漢書、郊祀志下〕雖㆓晩周㆒亦郊焉。〔注〕師古曰、晩、謂㆓末時㆒也。㊃のち。後時。〔廣雅、釋詁四〕晩、後也。〔曹植、棄婦篇〕晩穫爲㆓良實㆒。〔南史、王珍國傳〕晩代將家子弟、如㆓珍國㆒者少矣。㊄老年。〔史記、孔子世家〕孔子晩而喜㆑易、韋編三絶。㊅おそく。おもむろに。ゆるく。〔戰國、齊策〕孰㆓與晩救㆒㆑之。〔注〕晩、徐也。㊆あとから生れたもの。已の子。又、後輩。晩生(161)の㊁を見よ。㊇輓(10−38337)に通ず。〔史記、貨殖傳〕輓近世塗㆓民耳目㆒〔注〕索隱曰、輓・晩、古字通用。㊈姓。〔萬姓統譜〕晩、見㆓姓苑㆒。

【晩鴉】1 バンア 夕方のからす。夕暮にとぶからす。ゆふがらす。晩烏。〔錢起、送㆓崔十三東遊㆒詩〕丹鳳城頭噪㆓晩鴉㆒、行人馬首夕陽斜。〔劉長卿、送㆔常十九歸㆓嵩少故林㆒詩〕秋天蒼翠寒飛雁、古堞蕭條晩躁鴉。

【晩馤】2 バンアイ 時期に遲れた花の香氣。〔韓愈・孟郊、秋雨聯句〕園菊茂㆓新芳㆒、逕蘭銷㆓晩馤㆒。

【晩靄】3 バンアイ ゆふぐれのもや。夕靄。〔裴迪、春日與㆓王右丞㆒過㆓新昌里㆒訪㆓呂逸人㆒不㆑遇詩〕芙蓉曲沼春流滿、薜荔成㆑帷晩靄多。〔黃庭堅、書㆓文湖州山水後㆒〕吳君惠㆓示文湖州晩靄橫卷㆒。

【晩鶯】4 バンアウ 春の末のうぐひす。〔盧綸、奉㆓陪渾侍中㆒上巳日泛㆓渭河㆒詩〕晩鶯和㆓玉笛㆒、春浪動㆓金罍㆒。〔柳宗元、零陵春望詩〕平野春草綠、晩鶯啼㆓遠林㆒。

【晩安】5 wan³ an¹ 今晩の安泰。夕刻以後に認める書翰文用語。

【晩陰】6 バンイン 晩天の陰ること。〔宋之問、嵩山天門歌〕晩陰兮足㆑風、夕陽兮艷紅。

【晩院】7 バンヰン 暮方の寺院。〔錢謙益、香山寺詩〕天遠夕陽連㆓海色㆒、山空晩院聚㆓鐘聲㆒。

【晩雨】8 バンウ 晩に降る雨。〔韓愈、晩雨詩〕廉纖晩雨不㆑能㆑晴、池岸草閒蚯蚓鳴。〔孟郊、溧陽秋齋詩〕晩雨曉猶在、蕭寥激㆓前堦㆒。〔李咸用、投㆑所知詩〕挂㆑簷晩雨思㆓山閣㆒、拂㆑岸煙嵐憶㆓釣磯㆒。

【晩烏】9 バンウ 夕暮のからす。晩鴉。〔李百藥、秋晩登㆓古城㆒詩〕頹墉寒雀集、荒堞晩烏驚。

【晩雲】10 バンウン 夕方の雲。〔溫庭筠、咸陽値㆑雨詩〕還似洞庭春水色、晩雲將㆑入岳陽天。〔雍陶、蟬詩〕高樹蟬聲入㆓晩雲㆒、不㆓唯愁㆑我亦愁㆑君。〔趙嘏、春盡獨遊㆓慈恩寺南池㆒詩〕氣變㆓晩雲㆒紅映㆑闕、風含㆓高樹㆒碧遮㆑樓。〔李咸用、遣興詩〕蟬稀秋樹瘦、雨盡晩雲輕。〔盧汝弼、聞㆑雁詩〕蘆洲宿處依㆓沙岸㆒、榆塞飛時度㆓晩雲㆒。

【晩運】11 バンウン ㊀晩年の運。〔宋書、恩倖傳序〕及㆓太宗晩運㆒、慮經㆓盛衰㆒。㊁wan³ yün⁴ 晩年に好運に向ふこと。

【晩英】12 バンエイ 後れ咲きの花。〔王勃、春日宴㆓樂遊園㆒賦㆑韻得㆓接字㆒詩〕梅郊落㆓晩英㆒、柳甸驚㆓初葉㆒。〔劉禹錫、秋晩題㆓湖城驛池上亭㆒詩〕風蓮墜㆓故萼㆒、露菊含㆓晩英㆒。

【晩榮】13 バンエイ ㊀遲く花が咲く。〔素問、至眞要大論〕木廼晩榮、草廼晩生。㊁おそざきの花。〔陳叔達、詠㆑菊詩〕但令㆑逢㆓採摘㆒、寧辭㆓獨晩榮㆒。〔令狐峘、硤州旅舍奉㆓懷蘇州韋郎中㆒詩〕江山入㆓秋氣㆒、草木彫㆓晩榮㆒。㊂晩年の榮達。〔聶夷中、客有㆘追㆓歎後㆑時者㆖作㆑詩勉㆑之詩〕後達多㆓晩榮㆒、速得多㆓疾傾㆒。

【晩影】14 バンエイ 夕日の影。〔羅鄴、聞㆔友人入㆓越幕㆒因以㆑詩贈詩〕岸邊叢雪晴香老、波上長虹晩影遙。

【晩葉】15 バンエフ 晩秋の草木の葉をいふ。〔王勃、秋日宴㆓洛陽㆒序〕菊照㆓新花㆒、泛㆓輕香於遠次㆒、荷凋㆓晩葉㆒、翻㆓翠影於長波㆒。〔李頎、宋少府東谿泛㆑舟詩〕晩葉低㆓衆色㆒、濕雲帶㆓殘暮㆒。〔呂爲、岳陽樓詩〕晩葉紅殘㆑楚、秋江碧入㆑吳。

【晩煙】16 バンエン ゆふげのけむり。ゆふ煙。又、ゆふがすみ。暮煙。〔唐太宗、賦㆓得白日半西山㆒詩〕晩煙含㆓樹色㆒、棲鳥雜㆓流聲㆒。〔劉滄、與㆑僧話㆑舊詩〕莎徑晩煙凝㆓竹塢㆒、石池春色染㆓苔衣㆒。

【晩燕】17 バンエン 秋に來て未だ歸らない燕。〔晁冲之、夏室詩〕幽花時結㆑子、晩燕續開㆑巢。

【晩豔】18 バンエン ㊀菊をいふ。〔王建、野菊詩〕晩豔出㆓荒籬㆒、冷香著㆓秋水㆒。㊁おそざきの花。〔成廷珪、詩〕孤花餘㆓晩豔㆒、芳草亂㆓春愁㆒。

【晩下】19 バンカ ひとへ底のくつ。鞔下。〔釋名、釋衣服〕晩下、如㆑舃、其下晩晩而危、婦人短者著㆑之、可㆓以拜㆒也。〔疏證〕當㆑作㆓鞔下㆒、方言云、自㆑關而東謂㆓之複履㆒、其下單者謂㆓鞔下㆒、晩晩當㆑作㆓宛宛㆒。

【晩夏】20 バンカ なつのすゑ。陰暦の六月。〔駱賓王、晩泊㆓江鎭㆒詩〕荷香銷㆓晩夏㆒、菊氣入㆓新秋㆒。〔杜審言、和㆔韋承慶過㆓義陽公主山池㆒詩〕雨餘淸㆓

晩夏、共坐二北巖幽一。

【晩笳】21 バンカ　晩にひびく胡笳のこゑ。〔陸游、初到二荊州一詩〕斷岸添二新漲一、高城咽二晩笳一。

【晩歌】22 バンカ　夜きこえるさびしい歌。〔王建、北邙行〕夜唱晩歌山下宿、洛陽城北復城東。

【晩稼】23 バンカ　おそくうゑたいね。晩禾。〔張翥、喜雨詩〕快看一洗飛蝗盡、猶及二秋田晩稼靑一。

【晩霞】24 バンカ　㊀ゆふばえ。夕霞。曛霞。〔沈佺期、幸二白鹿觀一應制詩〕聖藻垂二寒露一、仙杯落二晩霞一。〔唐彥謙、曲江春望詩〕杏艷桃嬌奪二晩霞一、樂遊無レ廟有二年華一。〔盧照鄰、長安古意詩〕龍銜二寶蓋一承二朝日一、鳳吐二流蘇一帶二晩霞一。㊁夕暮のかすみ。

【晩衙】25 バンガ　夕刻に勤務を終つて官署を退出すること。早衙(5－13742・・15)を見よ。〔白居易、李十一舍人松園飮二小酎酒一得二元八侍御詩序一云在二臺中推院一有二鞫レ獄之苦一、卽レ事書レ懷因酬二四韻一詩〕早夏我當逃レ暑日、晩衙君是慮レ囚時。〔白居易、北亭招レ客詩〕能來盡日觀レ碁否、太守知レ慵放二晩衙一。

【晩駕】26 バンガ　天子の崩御をいふ。晏駕(5－13914・・13)に同じ。〔資治通鑑、周紀〕宮車晩駕。〔注〕晩、晏也、義與二晏駕一同。〔北史、祖珽傳〕珽私二於士開一曰、君之寵幸、振古無レ二、宮車一日晩駕、欲二何以克一レ終。

【晩開】27 バンカイ　おそく開く。〔白居易、晩桃花詩〕一樹紅桃亞拂レ池、竹遮二松蔭一晩開時。

【晩蓋】28 バンガイ　㊀後の善で前の惡を掩ふこと。〔國語、晉語一〕彼將二惡レ始而美レ終、以晩蓋一者也。〔注〕美、善也、晩、後也、蓋、掩也、言下以二後善一掩中前惡上。㊁凋みかかつた蓮の葉。〔庾信、上二益州上柱國趙王一詩〕穿荷低二晩蓋一、衰柳挂二殘絲一。

【晩行】29 バンカウ　夕方に行く。〔楊萬里、詩〕玉峯雲薄逗二斜明一、花徑泥乾得二晩行一。

【晩巷】30 バンカウ　夕暮のちまた。〔杜甫、晩詩〕杖レ藜尋二晩巷一、炙レ背近二牆暄一。

【晩香】31 バンカウ　㊀暮方の香。〔梁簡文帝、晩景出行詩〕細樹含二殘影一、春閨散二晩香一。㊁亭の名。宋、韓琦の九日水閣詩の慙レ老老圃秋容淡、且看寒花晩節香によつて名づく。河北省大名縣の舊大名府の後園。〔通志、都邑〕晩香亭在二舊府治一、宋韓琦留守時、重九日燕二諸監司於後園一詩中有二晩香一、亭故名。㊂字號。㋑錦織積の號。錦織晩香(11－40569・・113)を見よ。㋺江幡通寬の號。江幡晩香(6－17140・・524)を見よ。

【晩香玉】32 wan^3 hsiang^1 yü^4　草の名。夏水仙の類。莖の高さ二三尺、根と葉とは水仙に似、花は白色で六瓣。夏日花を開き、夜に入れば特に芳香を放つ。月下香。

【晩香堂】33 バンカウダウ　室名。㊀宋、趙葵(10－37171・・95)の室名。㊁明、陳繼儒(11－41698・・800)の室名。

【晩香坡】34 バンクーバー　地名。カナダ、コロンビヤ州の海港。Vancouver の音譯。

【晩香廬】35 バンカウロ　鹽谷世弘の號。鹽谷宕陰(12－47579・・208)を見よ。

【晩耕】36 バンカウ　夕方に耕す。〔文同、田舍詩〕石竇聞二寒碓一、煙波見二晩耕一。

【晩皐】37 バンカウ　清、顧昉(12－43689・・160)の號。

【晩粳】38 バンカウ　おくてのいね。晩稻。〔本草、粳〕發明、時珍曰、粳稻六七月收者爲二早粳一、止可レ充レ食、八九月收者爲二遲粳一、十月收者爲二晩粳一、北方氣寒、粳性多涼、八九月收者卽可レ入レ藥、南方氣熱、粳性多溫、惟十月晩稻氣涼、乃可レ入レ藥、遲粳・晩粳得二金氣一多、故色白者、入レ肺而解レ熱也。

【晩講】39 バンカウ　晩の講筵。〔宋史、輿服志三〕後殿早講、皇帝服二帽子紅袍玉束帶一、講讀官公服繫鞋、晩講、皇帝服二頭巾背子一、講官易二便服一、此嘉定四年講筵之制也。

【晩角】40 バンカク　暮に吹く角笛。〔杜牧、邊上晩秋詩〕風送二孤城一臨二晩角一、一聲聲入二客心一愁。〔章碣、旅舍早起詩〕晩角和レ人戰、殘星入レ漢流。

【晩萼】41 バンガク　散りぎはになつた花。しぼみかけた花。〔薛道衡、詠二石榴一詩〕新枝含二淺綠一、晩萼散二輕紅一。〔文同、惜花詩〕勸レ君直須レ爲二夜飮一、明日春歸空晩萼。

【晩學】42 バンガク　㊀あとから進む學者。後學。〔後漢書、蔡邕傳〕於レ是後儒晩學、咸取レ正焉。〔陳書、沈不害傳〕晩學鑽仰、徒深二倚席之歎一。㊁晩年になつて學をさめる。年老いて學問する。又、其のこと。〔顏氏家訓、勉學〕然人有二坎壈一、失二於盛年一、猶當二晩學一、不レ可二自棄一。〔蘇洵、送二石昌言使レ北引〕吾晩學無レ師、雖二日爲レ文、中甚自慙。〔張蠙、贈二鄭司業一詩〕晩學更求來世達。

【晩學齋】43 バンガクサイ　清、姚椿(3－6202・・97)の號。

【晩學生】44 バンガクセイ　㊀後學が先輩に對して用ひる自稱。〔錢大昕、恆言錄〕宋存理鐵網珊瑚、錄二貞溪諸名勝詞翰一、皆元時筆札、其紙尾署名、有下云二臨川晩學生郛堅肅呈一者上。㊁禮部の司官が、刺を內院大學士及び吏部都察院正堂官に投ずる時に稱する語。〔稱謂錄、同官謙稱、晩學生〕春曹儀式、載二投刺稱謂之文一、皆曲臺舊章、當日王漁洋先生、諳二練典章一、斟二酌體制一、不レ卑不レ亢、凡禮部司官、投二刺內院大學士及吏部都察院正堂官一、稱二晩學生一。

【晩學居士】45 バンガクコジ　清、吳熙載(2－3365・・494)の號。

【晩甲】46 バンカフ　新芽について出る種子のから。〔文同、山堂偶書詩〕劚レ石新稜出、澆レ蔬晩甲生。〔張耒、秋日曬二古城一詩〕老圃理二蔬畦一、晩甲瘦未レ開。

【晩刊】47 バンカン　夕刊。

【晩寒】48 バンカン　夕暮の寒さ。〔劉長卿、使還二七里瀨上一送三薛承規赴二江西貶官一詩〕遷客歸人醉二晩寒一、孤舟暫泊子陵灘。

【晩間】49 バンカン　夕方。晩。〔紅樓夢、一回〕至下晩間正待二歇息一之時上。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕晩間不レ可レ拆レ封。

【晩萏】50 バンガン　おくれて持つたつぼみ。〔楊萬里、詩〕人生畢意如何是、且看桃花晩萏開。

【晩岸】51 バンガン　夕暮の岸。〔褚載、南徐晩望詩〕芳草鋪レ香晩岸晴、岸頭含レ醉去來行。〔袁桷、送下文子方著作受二交趾一使中于武昌上長律二十韻詩〕鸂鶒寒汀遠、蒹葭晩岸敧。

【晩氣】52 バンキ　㊀夕暮の氣。又、夜の氣。〔謝莊、北宅秘園詩〕夕天霽二晩氣一、輕霞澄二暮陰一。〔陳子昂、峴山懷古詩〕野樹蒼煙斷、津樓晩氣孤。㊁晩秋の氣。〔崔善爲、九月九日詩〕菊花催二晩氣一、萸房辟二早寒一。

【晩起】53 バンキ　晩く起きる。朝寢する。〔素問、四氣調神大論〕早臥晩起、必待二日光一。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕臥喜二晩起一、而當關呼レ之不レ置。〔杜甫、屛跡詩〕晩起家何事、無二營レ地轉レ幽。

【晩暉】54 バンキ　夕日のひかり。ゆふひ。夕暉。斜暉。夕陽。〔吳融、新雁詩〕一字橫來背二晩暉一。〔李嘉祐、至二七里灘一作詩〕萬木迎二秋序一、千峯駐二晩暉一。

【晩旗】55 バンキ　夕空にたつてゐる旗。〔杜甫、陪二鄭公一秋晩北池臨眺詩〕萋萋露草碧、片片晩旗紅。

【晩歸】56 バンキ　おそくかへる。〔白居易、晩從レ省歸詩〕朝回二北闕一値二淸晨一。〔陳高、晩歸詩〕西崦日初沒、遠樹生二夕陰一。

【晩騎】57 バンキ　晩に馬に騎る。〔韋應物、廣陵行〕嚴城動二寒角一、晩騎踏二霜橋一。

【晩救】58 バンキウ　おそくなつて救助する。救助を急がない。〔史記、田敬仲完世家〕秦魏攻レ韓、韓求二救于齊一、齊桓公召二大臣一而謀曰、蚤救レ之孰二與晩救レ之、騶忌曰、不レ若レ勿レ救。

【晩菊】59 バンギク　歲晩に寒氣を冒して咲く菊花。〔庾信、山齋詩〕圓珠墜二晩菊一、細火落二空槐一。〔錢起、江行無題詩〕晩菊繞二江壘一、忽如レ開二古屛一。〔楊巨源、登二寧州城樓一詩〕晩菊臨レ杯思、寒山滿レ郡愁。

【晩橘】60 バンキツ　おそく熟するたちばな。〔梁簡文帝、大同十年十月戊寅詩〕晩橘隱二重屛一、枯藤帶二迴竿一。

【晩急】61 バンキフ　夕暮がせまる。〔劉禹錫、答三白刑部聞二新蟬一詩〕晴淸依二露葉一、晩急思二霞天一。

【晩境】62 バンキャウ　晩年の境遇。〔曹伯啓、述懷詩〕晩境難レ期博望侯。

【晩鏡】63 バンキャウ　夕暮の鏡のやうな水面。〔劉禹錫、白侍郎大尹自二河南一寄二示池北新葺水齋卽事一招レ賓云云詩〕潭心澄二晩鏡一、渠口起二晴雷一。

【晩炬】64 バンキョ　夜焚く炬火。〔張籍、拜二豐陵一詩〕寒更報レ點來二山殿一、晩炬分レ行照二柏城一。

【晩蛩】65 バンキョウ　晩秋頃のきりぎりす。〔賈島、酬二慈恩文郁上人一詩〕籬落罅間寒蟹過、莓苔石上晩蛩行。

【晩興】66 バンキョウ　おそくまで盡きない興趣。いつまでも續く興趣。〔杜甫、題二張氏隱居一詩〕之子時

相見、邀レ人晩興留。〔杜甫、暮春陪二李尚書李中丞一過二鄭監湖亭一泛レ舟詩〕玉尊移二晩興一、桂楫帶二酣歌一。

【晩局】67 wan^3 chü^2 晩の宴會。晩餐。

【晩槿】68 バンキン おそざきの槿花。〔韓維、晏相公湖上遇レ雨詩〕晩槿揚二朱花一、秋草含二碧滋一。

【晩煦】69 バンク 暖氣を催すことがおそいこと。〔張廷珪、論下置二監牧登萊一和中市牛羊奴婢上疏〕秋則早寒、春則晩煦。

【晩遇】70 バングウ 相逢ふことがおそい。〔李白、效レ古詩〕早達勝二晩遇一、羞レ比二垂釣翁一。〔白居易、曲江感レ秋詩〕晩遇何足レ言、白髮映二朱紱一。

【晩禾】71 バンクワ おくてのいね。晩稻。〔劉長卿、登二吳古城一歌〕白楊蕭蕭悲二故柯一、黃雀啾啾爭二晩禾一。〔劉禹錫、秋日送レ客詩〕雀噪晩禾地、蝶飛秋草畦。

【晩果】72 バンクワ おくれて實つた果實。〔耿湋、秋晩臥レ疾云云詩〕晩果紅低レ樹、秋苔綠徧レ牆。〔李建勳、小園詩〕晩果經レ秋赤、寒蔬近レ社青。

【晩花】73 バンクワ おそ咲きの花。〔梁簡文帝、南郊頌序〕朝葉與二密露一共鮮、晩花與二薰風一俱落。〔劉長卿、送三裴四判官赴二河西軍試一詩〕晩花對二古戍一、春雪含二邊洲一。

【晩檜】74 バンクワイ くれ方の檜樹。〔齊己、酬二微上人一詩〕晩檜清蟬咽、寒江白鳥飛。

【晩懷】75 バンクワイ 晩年のおもひ。〔劉禹錫、裴祭酒尙書見レ示下春歸二城南青松塢別墅一寄二王左丞高侍郎一之什上命同作詩〕早宦閱二人事一、晩懷生二道機一。〔薛能、題二漢州西湖一詩〕嘗レ茶春味渴、斷レ酒晩懷清。

【晩光】76 バンクワウ 夕日のひかり。〔董思恭、詠虹詩〕梁前朝影出、橋上晩光舒。〔許渾、陪三少師李相國・崔賓客宴二居守狄僕射池亭一詩〕羅綺留二春色一、笙竽送二晩光一。

【晩穫】77 バンクワク おそくとり入れる。又、おそい收穫。〔曹植、棄婦篇〕晩穫爲二良實一、願君且安寧。

【晩還】78 バンクワン 夜おそく還る。〔南齊書、竟陵文宣王子良傳〕今馳二騖外野一、交侍二疎闊一、晨出晩還、頓遺二清道一、此實愚臣最所二震迫一。〔江淹、山中楚辭〕忌二蟪蛄之蚤吟一、惜二王孫之晩還一。

【晩徑】79 バンケイ 夕暮の小みち。〔賀循、賦二得夾池修竹一詩〕來風韻二晩徑一、集鳳動二春枝一。〔周賀、晩題二江館一詩〕澄江月上見二魚擲一、晩徑葉多聞二大行一。

【晩桂】80 バンケイ 秋分後、寒露節頃に花を開く木犀。〔歲時瑣事〕俗呼二巖桂一爲二木犀一、有二早晩二種一、在二秋分節一開者曰二早桂一、寒露節開者曰二晩桂一。

【晩景】81 バンケイ ㊀夕暮の景色。ゆふげしき。〔杜甫、秦州雜詩〕秋花危石底、晩景臥鐘邊。〔張均、岳陽晩景詩〕晩景寒鴉集、秋風旅鴈歸。〔張何、蜀江春日文君濯錦賦〕晩景彌秀、晴江轉春。㊁晩年。老後。〔琵琶記、幾言諫レ父〕晩景之計如何。

【晩憩】82 バンケイ 夕方にやすむ。晩に憩ふ。〔孟浩然、同二王九一題二就師山房一詩〕晩憩支二公寺一、故人逢二右軍一。〔杜甫、溪漲詩〕我遊二都市閒一、晩憩二必村墟一。

【晩磬】83 バンケイ 夜聞える磬の聲。〔孟郊、遊二終南龍池寺一詩〕晩磬送二歸客一、數聲落二遙天一。〔陸龜蒙・皮日休、開元寺樓看レ雨聯句〕疎帆退二前渚一、晩磬分二涼殿一。

【晩螢】84 バンケイ 夜のほたる。〔王涯、宮詞〕深宮更有二何人到一、只曉金階吠二晩螢一。

【晩月】85 バンゲツ 宵の月。〔沈佺期、七夕曝衣篇〕朝霞散レ彩羞二衣架一、晩月分レ光劣二鏡臺一。〔錢衆仲、貢院樓北新栽二小松一詩〕晩月煙猶薄、當レ軒色轉新。

【晩妍】86 バンケン 夕方に特にあでやかなこと。〔蘇軾、座上賦二戴花一得二天字一詩〕清明初過酒闌珊、折二得奇葩一晩更妍。

【晩研】87 バンケン 清、楊中訥(**6－15112**‥695)の號。

【晩鼓】88 バンコ 夜聞える鼓の聲。〔杜牧、懷二鍾陵舊遊一詩〕城頭晩鼓雷霆後、橋上遊人笑語多。

【晩悟】89 バンゴ おそくさとること。又、晩年のさとり。〔蘇軾、雨中過二舒教授一詩〕飛鳶悔二前笑一、黃犬悲二晩悟一。

【晩寤】90 バンゴ 晩悟に同じ。〔顏氏家訓、勉學〕此並早迷而晩寤也。

【晩紅】91 バンコウ ㊀盛りを過ぎた花の色。〔呂溫、道州途中卽事詩〕戲鳥留二餘翠一、幽花怯二晩紅一。㊁荔枝の異名。〔事物異名錄、果蓏、荔枝〕陸游詩、北嶺空思劈晩紅、按謂二荔枝一也。

【晩虹】92 バンコウ 夕方の虹。〔賀知章、奉三和聖製送二張說巡レ邊詩一〕岐レ陌涵二餘雨一、離レ川照二晩虹一。〔盧綸、同二王員外雨後登二開元寺南樓一云云詩〕過雨開レ樓看二晩虹一、白雲相逐水相通。〔雍陶、晴詩〕晩虹斜日塞二天昏一、一半山川帶二雨痕一。

【晩谷】93 バンコク 日暮の谷。〔朱熹、觀二劉氏山館壁畫一詩〕夕陽在二西峯一、晩谷背二南嶺一。

【晩刻】94 バンコク ㊀ゆふぐれ。夕刻。㊁よる。夜分。

【晩穀】95 バンコク 晩熟の穀物。〔韓琦、再出行レ田詩〕子多宜二晩穀一、生拗就二新廡一。〔陳造、定海甲寅口號詩〕早秧未レ頷猶須レ插、晩穀無レ多不二更坤一。

【晩困】96 バンコン 夕方の苦しみ。〔党懷英、西湖芙蓉詩〕明妝炫二朝麗一、醉態羞二晩困一。

【晩婚】97 wan^3 huen^1 ㊀再婚する。再嫁する。㊁バンコン 年たけてから結婚する。中年後の結婚。早婚の對。

【晩沙】98 バンサ 日暮の沙漠。〔杜牧、臺城曲〕整整復斜斜、隨レ旗簇二晩沙一。

【晩莎】99 バンサ 枯れかけた莎草。〔羅隱、輕飆詩〕輕飆掠二晩莎一、秋物慘二關河一。

【晩坐】100 バンザ 夕方に坐る。〔白居易、對二琴酒一詩〕西窗明且暖、晩坐卷二書帷一。

【晩塞】101 バンサイ 日暮のとりで。〔庾信、故周大將軍趙廣墓誌銘〕更除二秦州刺史一、仍襲二父爵幽國公一、分流之嶺未レ登、晩塞之城空望。

【晩歲】102 バンサイ ㊀晩年(223)に同じ。〔唐書、裴寂傳〕公爲二宗臣一、我爲二太上皇一、逍二遙晩歲一、不二亦善一乎。〔宋史、晏殊傳〕閑雅有二情思一、晩歲篤學不レ倦。㊁とりいれのおそきにすぎること。時期おくれのとりいれ。〔曹植、贈二徐幹一詩〕良田無二晩歲一、膏澤多二豐年一。〔注〕良曰、良田雖レ晩無二不レ穫者一。〔北史、楊侃傳〕苟有二良田一、何憂二晩歲一。

【晩齋】103 バンサイ 午後の食事をいふ。ひじ。非時(**12－42585**‥58)の㊁㋺を見よ。

【晩窗】104 バンサウ 夕方の窗。〔丘爲、尋二西山隱者一不レ遇詩〕草色新雨中、松聲晩窗裏。

【晩造】105 wan^3 tsao^4 晩く實る木穀類。

【晩餐】106 バンサン 晩の食事。夕餉。晩餉。〔何景明、詩〕茗葉松花進二晩餐一。

〖晩餐會〗107 バンサンクワイ 客を招いて晩餐を饗すること。

【晩蠶】108 バンサン なつのかひこ。夏蠶。〔本草、原蠶〕釋名、晩蠶、魏蠶、夏蠶、熱蠶、集解、頌曰、原蠶東南州郡多養レ之、此是重養者、俗呼爲二晩蠶一。〔杜牧、秋晩懷二茅山石涵村舍一詩〕簾前白艾驚二春燕一、籬上青桑待二晩蠶一。〔宋史、孔維傳〕編民之內、貧窶者多、春蠶所レ成、止充二賦調之備一、晩蠶薄レ利、始及二卒歲之資一。

【晩爨】109 バンサン 晩の炊事。〔陸游、園中晩飯示二兒子一詩〕澗底束薪供二晩爨一、街頭糴米續二晨舂一。

【晩山】110 バンザン ㊀日暮の山。〔杜甫、晩行口號詩〕三川不レ可レ到、歸路晩山稠。㊁字號。㋑清、胡湄(**9－29400**‥313)の號。㋺安見元道の號。安見晩山(**3－7072**‥588)を見よ。

【晩市】111 バンシ 夕方の市。〔殷堯藩、酎二雍秀才一詩〕晩市人煙合、歸帆帶二夕陽一。〔范成大、歸州竹枝歌〕竹籬茅舍作二晩市一、青蓋黃旗稱二使君一。

【晩志】112 バンシ 晩年の志。〔鮑照、升天行〕窮途悔二短計一、晩志重二長生一。〔儲光義、秦中初霽獻二給事一詩〕夙心幸二清鑒一、晩志欣二良覿一。

【晩思】113 バンシ 暮方のおもひ。〔王眕、晩思詩〕薰風向レ晩急、吹二動一身愁一。

【晩寺】114 バンジ 夜の寺院。〔趙嘏、宿二楚國寺一有レ懷詩〕寒生二晩寺一波搖レ壁、紅墮二疎林一葉滿レ牀。

【晩秀】115 バンシウ 季節を過ぎて花が咲くこと。〔謝惠連、連珠〕春蘭早芳實忌二鳴鴂一、秋菊晩秀無レ憚二繁霜一。

【晩周】116 バンシウ 周の末葉。〔漢書、郊祀志上〕蓋黃帝時嘗用レ事、雖二晩周一亦郊焉。

【晩岫】117 バンシウ 夕方のみね。〔杜荀鶴、送三人遊二江南一詩〕晩岫無二雲蔽一、春帆有二燕隨一。

【晩秋】118 バンシウ 秋の末。秋のくれ。陰暦の九月。〔南史、劉之遴傳〕晩秋晷促、機事罕レ暇。〔盧綸、送三郭判官赴二振武一詩〕鳴雁飛二初夜一、羌胡正晩秋。

〖晩秋書屋〗119 バンシウシヨヲク 清、李巒(**6－14459**‥787)の室名。

【晩就】120 バンシウ ㊀晩成(162)に同じ。〔陸機、思レ親賦〕感二瑰姿之晩就一、痛二慈景之先違一。㊁おそくつ

く。〔白居易、壽安歇馬重吟詩〕垂レ鞭晩就二槐陰一歇、低倡閒銜二柳絮一行。

〔晩就則善レ終〕121オソクナレバスナハチヲハリヲヨクス 晩く出來上つたものは、最後まで立派である。〔魏志、王昶傳〕夫物速成則疾亡、晩就則善レ終。

【晩日】122バンジツ 夕日。〔劉禹錫、送三盧處士歸二嵩山別業一詩〕晩日華陰霧、秋風函谷塵。〔劉長卿、行營酬二呂侍御一云云詩〕晩日歸二千騎一、秋風合二五兵一。〔元稹、紅芍藥詩〕晴霞畏欲レ散、晩日愁將レ墮。

【晩實】123バンジツ 後れてみのる。又、晩熟の果實。〔謝朓、詠二墻北梔子一詩〕餘榮未レ能レ已、晩實猶見レ奇。〔梁簡文帝、謝二東宮賜レ柿啓〕安邑秋獻二靈關晩實一。〔夢溪筆談、藥議〕一畝之稼、則糞漑者先芽、一丘之禾、則後種者晩實、此人力之不レ同也。

【晩車】124 wan^3 ch'ê^1 ㊀夜行列車。㊁終列車。

【晩餉】125バンシヤウ ばんめし。夜食。夕飯。晩餐。〔朱熹、遊二蘆峯一云云詩〕歸途採二薇蕨一、晩餉雜二蔬筍一。

【晩上】126 wan^3 shang 夕方。夕暮。晩方。

【晩酌】127バンシヤク 夕方に飲むさけ。ねざけ。〔李白、待レ酒不レ至詩〕晩酌東窓下、流鶯復在レ茲。

【晩取】128バンシユ おそくとる。成長してから採取する。〔爾雅、釋木、檟苦荼、注〕早采者爲レ荼、晩取者爲レ茗。

【晩酒】129バンシユ 宵に飲む酒。〔白居易、郭虛舟相訪詩〕晩酒一兩杯、夜棊三數局。〔杜牧、題二池州弄水亭一詩〕孤歌倚二桂巖一、晩酒眠二松塢一。

【晩種】130バンシユ おそく種を蒔く。

【晩樹】131バンジユ ㊀年老いた樹。〔沈約、郊居賦〕晩樹開レ花、初英落レ蕊。〔李賀、惱公詩〕晩樹迷二新蝶一、殘蜺憶二斷虹一。㊁夕暮れの樹。〔韋莊、和二薛先輩見レ寄二初秋寓懷卽事之作一二十韻詩〕晩樹連二秋塢一、斜陽映二暮岑一。

〔晩樹樓〕132バンジユロウ 清、吳震方(**2**-**3365**‥683)の室名。

【晩菘】133バンシユウ ㊀おそ蒔きの白菜。〔南史、周顒傳〕文惠太子問レ顒、菜食何味最勝、曰、春初早韭、秋末晩菘。〔宣和畫譜〕灌園學圃、昔人所レ講、而早韭晩菘、來禽青李、皆入二翰林子墨之美談一。〔陸游、菘詩〕可レ憐遇レ事常遲鈍、九月區區種二晩菘一。〔事物異名錄、蔬穀、菘〕逸雅、菘亦菜之總名、周顒曰、秋末晩菘、卽今之白菜。㊁清、周鉞(**2**-**3441**‥31)の號。

【晩熟】134バンジユク おそくみのる。〔禮、月令〕仲夏之月、行二春令一則五穀晩熟、百螣時起、其國乃饑。〔獨孤及、送三何員外使二湖南一詩〕上田無二晩熟一、逸翮果先飛。

【晩出】135バンシユツ ㊀おそく出る。〔史記、天官書〕晩出者爲レ縮、縮者爲二主人一。〔白居易、晩從レ省歸詩〕朝迴二北闕一値二清晨一、晩出二南宮一送二暮春一。㊁天子の崩御をいふ。晩駕。晏駕。〔江淹、恨賦〕宮車晩出。〔注〕濟曰、天子崩謂二宮車晏駕一、晩出、晏駕也。㊂おくれて世にあらはれる。〔國朝漢學師承記、閻若璩〕今晩出書、無二汨作・九共・典寶等篇一。

〔晩出家〕136バンシユツケ 年老いて出家すること。又、其の人。

【晩春】137バンシユン 春の末。陰曆の三月頃。末春。〔詩、周頌、臣工、維莫之春、箋〕周之季春、於レ夏爲二孟春一、諸侯朝レ周之春、故晩春。〔枚乘、梁王菟園賦〕于レ是晩春早夏、邯鄲襄國易陽之容麗人、及其燕飾子、相與雜遝而往款焉。〔梁元帝纂要〕三月曰二末春・晩春一。

【晩渚】138バンシヨ 夕方のなぎさ。〔王建、秋日送二杜虔州一詩〕晩渚露荷敗、早衙風桂涼。

【晩墅】139バンシヨ 夕方の別莊。〔李端、雨後遊二輞川一詩〕看レ虹登二晩墅一、踏レ石過二春泉一。

【晩嶼】140バンシヨ 夕方の小島。〔韋莊、和二鄭拾遺秋日感レ事一百韻詩〕鷺眠依二晩嶼一、鳥浴上二枯楊一。

【晩鐘】141バンシヨウ 夕暮に撞くつりがねの音。夕暮をしらせるかねの音。いりあひのかね。〔韋應物、秋景詣二瑯琊精舍一詩〕蒼茫寒色起、迢遞晩鐘鳴。〔孟郊、堯歌〕往轍才晩鐘、還轍反晨雞。

【晩色】142バンシヨク 夕方の景色。晩景。〔杜甫、曲江對雨詩〕城上春雲覆二苑牆一、江亭晩色靜二年芳一。〔高蟾、金陵晩眺詩〕曾伴三浮雲歸二晩色一、猶陪三落日泛二秋聲一。

【晩食】143バンシヨク ㊀腹が空いて食する。晩く食ふ。晩食當レ肉を見よ。〔朱熹、公濟惠山蔬芹詩〕晩食寧論レ肉、知君薄二世榮一。㊁夕方の食事。晩餐。〔南史、齊明帝紀〕可二四片破レ之、餘充二晩食一。〔蘇軾、徐大正閑軒詩〕早眠不レ見レ燈、晩食或欺レ午。

〔晩食當レ肉〕144バンシヨクニクニアタル 晩く食事する時は腹が空くから、粗食も美肉のやうにうまくなること。〔戰國、齊策〕晩食以當レ肉、安步以當レ車、無罪而以當レ貴。〔隱逸傳〕顏斶嘗言、有二處レ窮方一、其名有レ四、一曰、無事以當レ貴、二曰、早寢以當レ富、三曰、安步以當レ車、四曰、晩食以當レ肉。

【晩飾】145バンシヨク 宵の裝飾。〔庾信、七夕賦〕嫌二朝粧之半故一、憐二晩飾之全新一。

【晩進】146バンシン 後進者。晩輩。新進の人。〔唐書、張薦傳〕大行二一時一、晩進莫レ不二傳記一。〔宋史、張浚傳〕高宗欲レ相二張浚一、浚以二晩進一不二敢當一。

【晩寢】147バンシン 夜おそく寢る。晩寢早作を見よ。

〔晩寢早作〕148バンシンサウサク おそくねて早くおきる。〔後漢書、曹世叔妻傳〕晩寢早作、勿レ憚二夙夜執務一、私事不レ辭二劇易一、所レ作必成二手迹整理一、是謂二執勤一也。

【晩水】149バンスイ 夕方の水邊。〔鄭谷、送二進士韋序赴レ擧詩〕秋山晩水吟情遠、雪竹風松醉格高。

【晩吹】150バンスイ 暮方の風。晩風。〔劉長卿、觀二校獵一上二淮西相公一詩〕笳隨二晩吹一吟二邊草一、箭沒二寒雲一落二塞鴻一。〔杜牧、傷猿詩〕無レ端晩吹驚二高樹一。

【晩炊】151バンスイ 夕方飯をたく。〔朱熹、邵武道中詩〕凌レ霜卽曉裝、落日命二晩炊一。〔李重華、湖天雜興詩〕斷渚平沙淨渺然、酒旗寒映晩炊煙。

【晩翠】152バンスイ ㊀草木が冬枯れの時にも綠の色を變へないこと。又、その綠の色。老後に至るも節操をかへないのに喩へる。〔千字文〕枇杷晩翠、梧桐早凋。〔李嶠、送二駱奉禮從レ軍詩〕笛梅含二晩翠一、營柳帶二餘春一。〔范質、戒二從子杲一詩〕遲遲澗畔松、鬱鬱含二晩翠一。㊁字號。㋑豐田亮の號。豐田松岡(**10**-**36304**‥241)を見よ。㋺青山延光の號。青山佩弦齋(**12**-**42564**‥245)を見よ。

〔晩翠園〕153バンスイエン 鹽谷誠の號。鹽谷簣山(**12**-**47579**‥206)を見よ。

〔晩翠軒〕154バンスイケン 清、林旭(**6**-**14551**‥68)の室名。

〔晩翠吟社〕155バンスイギンシヤ 結社の名。明治十一年九月、向山黃村が創立し、毎月一回、不忍池畔の湖心亭に漢詩の會を開く。明治三十九年七月、解散した。

〔晩翠老人〕156バンスイラウジン 清、張狆(青浦の人)(**4**-**9812**‥558)の號。

【晩醉】157バンスイ 夕方の醉ひ。夕方に醉ふ。〔韓翃、寄二武陵李少府一詩〕楚歌催二晩醉一、蠻語入二新詩一。〔李商隱、縣中惱二飮席一詩〕晩醉題レ詩贈二物華一、罷レ吟還醉忌レ歸レ家。〔李中、書二小齋壁一詩〕竹風醒二晩醉一、窗月伴二秋吟一。

【晩穗】158バンスイ 晩熟の穗。〔李嶠、晩秋喜レ雨詩〕晩穗萎還結、寒苗瘁復抽。

【晩蘂】159バンズイ おそ咲きの花。〔凌雲集、嵯峨天皇、重陽節神泉苑賜二宴群臣一云云詩〕晩蘂猶含レ露、衰枝不レ裊レ風。

【晩世】160バンセイ ㊀近世(**11**-**38752**‥120)に同じ。〔說苑、建本〕此上聖之所レ遊レ神也、然晩世之人莫三能閒居心思、鼓琴讀書、追二觀上古一。〔後漢書、馮衍傳下〕逮レ至二晩世一、董仲舒言二道德一、見レ妒二於公孫弘一。㊁末世。後世。〔淮南子、本經訓〕晩世之時、帝有二桀紂一。

【晩生】161バンセイ ㊀おそく生れる。おそく生ずる。〔素問、至眞要大論〕木廼晩榮、草廼晩生。〔孔子家語、七十二弟子解〕吾恐二子自晩生一耳。㊁あとから生れた者。㋑己の子をいふ。〔王獻之、違遠帖〕二女晩生皆佳。〔晉書、東海哀王沖傳〕成帝詔曰、哀王無レ嗣、國統將レ絶、朕所二哀怛一、其以二小晩生奕一繼二哀王一爲二東海王一。〔稱謂錄、子、晩生〕梁玉繩曰、晉時呼レ子爲二晩生一。㋺翰林の舊規で、先づ甲第七科に登る者、刺を投じて晩生といふ。同輩に對して己を卑下するの稱。宋に始まる。後、ひろく後輩をいふ。〔正字通〕晩、今俗謂二後生一曰二晩生一。〔聞見前錄〕吳內翰黯狀元及第歸、謁二范文正一曰、某晩生、偶得二科第一、願受レ教。〔觚不觚錄〕翰林舊規、凡入レ館而其人已拜二學士一者、卽不レ拜二學士一、而先登二甲第七科一者、投レ刺皆稱二晩生一、餘不レ爾也、余入レ朝見二分宜首揆一、而華亭次レ之、其登レ第相去六科、分宜又不レ爲二學士一、華亭首揆、而常熟新鄭次レ之、科第相去又六科、華亭又不レ爲二學士一、投レ刺稱二晩生一、已小變矣、至二江陵首揆一而蒲坂次レ之、相去僅二一科一、而

亦稱㆓晚生㆒、何也、聞局體自㆑此大變矣。〔阮葵生、茶餘客話〕翰・詹・編・檢以上、于㆓宰相・吏尙兩處㆒投㆑刺稱㆓晚生㆒、庚午・辛未以前、猶守㆓此規㆒、嗣㆑是則于㆓尙書・總督㆒均稱㆑晚矣、今則五品以上封翁及各署幕友名柬例稱㆓晚生㆒。〔剪燈餘話、慢亭遇仙錄〕晚生不㆑及㆑承㆓教訓㆒。〔稱謂錄、同官謙稱、晚生〕詞林典故、凡於㆓前輩之父母㆒稱㆓晚生㆒、於㆓後輩之父母㆒稱㆓侍生㆒、若㆓前輩父㆒亦係㆓前輩㆒、雖㆑在㆓七科以內㆒、亦稱㆓晚生㆒。

【晚成】162 バンセイ　おそく出來あがる。多くの時日を費して成就する。年老いて成功する。晚就。大器晚成(**3**－**5831**‥389)を見よ。〔老子、四十一〕大方無㆑隅、大器晚成。〔河上公注〕大器之人、若㆓九鼎瑚璉㆒、不㆑可㆓卒成㆒也。〔後漢書、馬援傳〕況曰、汝大才當㆓晚成㆒、良工不㆓示㆑人以㆑朴、且從㆑所㆑好。

【晚青】163 バンセイ　清、吳山秀(**2**－**3365**‥585)の號。

【晚星】164 バンセイ　宵の星。〔庾信、對燭賦〕晚星沒、芳蕪歇、還持㆑照夜遊、詎減㆓西園月㆒。

【晚砌】165 バンセイ　夕方の石だたみ。〔陸龜蒙、奉㆑和㆓襲美新秋言㆑懷三十韻㆒詩〕蘚乾黏㆓晚砌㆒、煙濕動㆓晨庖㆒。〔李中、訪㆓山叟㆒留題詩〕野雲生㆓晚砌㆒、病鶴立㆓秋庭㆒。

【晚凄】166 バンセイ　夕方のものさびしさ。〔孟郊、與㆓王二十一員外涯㆒遊㆓枋口柳溪㆒詩〕春桃散㆓紅煙㆒、寒竹含㆓晚凄㆒。

【晚晴】167 バンセイ　❶夕方にはれる。晚霽。〔杜甫、陪㆓裴使君㆒登㆓岳陽樓㆒詩〕湖闊兼㆓雲霧㆒、樓孤屬㆓晚晴㆒。〔劉商、春日臥㆑病詩〕晚晴江柳變、春暮寒鴻歸。〔雍陶、韋處士郊居詩〕門外晚晴秋色老、蕭條寒玉一溪烟。❷清、胡鍾(**9**－**29400**‥190)の號。

【晚晴樓】168 バンセイロウ　清、曹錫淑(**5**－**14297**‥274)の室名。

【晚靜】169 バンセイ　夕暮の靜けさ。夜の靜寂。〔梁簡文帝、馬槊譜序〕春亭落景、秋皐晚靜。〔曹組、艮嶽賦〕霽色晚靜、風光曉凝。

【晚聲】169′ バンセイ　夕暮に聞える物音。〔和漢朗詠集、上、立秋、保胤〕鷄漸散閒秋色少、鯉常趨處晚聲微。

【晚濟】170 バンセイ　夕方川をわたる。晚涉。〔羅鄴、春晚渡㆑河有㆑懷詩〕扁舟晚濟桃花浪、走馬晴嘶柳絮風。

【晚霽】171 バンセイ　夕方の雨あがり。夕霽。〔唐彥謙、詠㆓葡萄㆒詩〕西園晚霽浮嫩涼、開㆑尊漫摘葡萄嘗。

【晚笑】172 バンセウ　遲れ咲きの花。〔唐太宗、賦㆓得殘菊㆒詩〕露濃晞㆓晚笑㆒、風勁淺㆓殘香㆒。〔楊萬里、海棠詩〕初酣曉日紅㆓千滴㆒、晚笑東風淡㆓一渦㆒。

【晚笑堂】173 バンセウダウ　清、上官周(**1**－**13**‥197)の室名。

【晚照】174 バンセウ　ゆふひ。夕照。夕陽。〔王勃、白下驛餞㆓唐少府㆒詩〕浦樓低㆓晚照㆒、鄉路隔㆓風煙㆒。〔杜甫、贈㆓李八秘書㆒別詩〕杜陵斜㆓晚照㆒、潏水帶㆓寒淤㆒。

【晚夕】175 バンセキ　黃昏。夕方。〔劉威、題㆓許子正處士新池㆒詩〕那堪更到芙蓉拆、晚夕香聯桃李蹊。

【晚寂】176 バンセキ　夕暮の靜けさ。夜の靜寂。晚靜。〔李白、餞㆓校書叔雲㆒詩〕向㆑晚竹林寂、無㆑人空閉㆑關。

【晚接】177 バンセツ　晚年の交際。〔杜甫、寄㆓張十二山人彪㆒詩〕早通交契密、晚接道流新。〔蘇軾、和㆔陶答㆓龐參軍㆒詩〕雖㆑云㆓晚接㆒、數面自親。

【晚節】178 バンセツ　❶晚年。老年。〔漢書、景十三王、魯恭王傳〕初好㆓音樂輿馬㆒、晚節遴。〔注〕師古曰、晚節、猶㆑言㆓末時㆒也、遴、猶㆑言㆓貪嗇㆒也。〔石崇、思歸引序〕五十以㆑事去㆑官、晚節更樂㆓放逸㆒。〔袁宏、三國名臣序贊〕晚節曜㆑奇。〔張協、雜詩〕疇昔歎㆓時遲㆒、晚節悲㆓年促㆒。〔唐書、顏眞卿傳贊〕晚節偃蹇。❷すゑつかた。末年。〔史記、魏其武安傳〕及㆓孝景晚節㆒。〔鄒陽、上㆓書吳王㆒文〕至㆓其晚節末路㆒、張耳陳勝、連㆓從兵之據㆒、以叩㆓函谷㆒、咸陽遂危。〔唐書、選擧志上〕進士科、當㆓唐之晚節㆒、尤爲㆓浮薄㆒。❸晚年の節操。〔楊萬里、清虛子此君軒賦〕願堅㆓晚節於歲寒㆒、以無㆑忘㆓夫子之德㆒。〔蘇轍、爲㆓兄軾下㆑獄書〕效㆓尺寸於晚節㆒。

【晚節香】178′ バンセツカウ　菊の異名。〔韓琦、九日水閣詩〕不㆑羞老圃秋容淡、且看㆓寒花晚節香㆒。

【晚涉】179 バンセフ　夕方、川を涉る。晚濟。〔陸游、馬上微雨詩〕遠村有㆓歸人㆒、清溪爭㆓晚涉㆒。

【晚川】180 バンセン　夕方の川。〔戴叔倫、泊鴈詩〕泊鴈鳴㆓深渚㆒、收霞落㆓晚川㆒。

【晚扇】181 バンセン　夕方に風が吹くこと。〔梁簡文帝、馬寶頌序〕縉雲旦卷、南風晚扇。

【晚船】182 バンセン　夕方の船。〔杜荀鶴、登㆓石壁禪師水閣㆒詩〕漁父晚船分㆑浦釣、牧童寒笛倚㆑牛吹。

【晚饌】183 バンセン　夕食。夜食。晚膳。晚飧。〔蘇轍、詩〕生㆓長魚蝦㆒供㆓晚饌㆒、浮㆓沉鳧鴨㆒放㆓春聲㆒。

【晚膳】184 バンゼン　夕食。夜食。〔孔平仲、余以㆓一食之法㆒告㆓子由㆒、蒙㆑示㆓長篇㆒再用㆓元韻㆒奉寄詩〕一從屛㆓晚膳㆒、已覺㆑失㆓頤肉㆒。〔宋史、禮志二十四〕俟㆘進㆓晚膳㆒畢㆖、免㆑奏㆓萬福㆒。

【晚蟬】185 バンゼン　❶季節後れの蟬。〔杜甫、秋日夔府詠懷詩〕局促看㆓秋燕㆒、蕭疎聽㆓晚蟬㆒。❷夕暮に鳴く蟬。〔劉禹錫、和㆔令狐相公晚泛㆓漢江㆒云云詩〕古岸夏花發、遙林晚蟬清。

【晚走】186 wan^{2} tsou^{3}　再嫁する。

【晚村】187 バンソン　清、呂留良(**2**－**3386**‥275)の號。

【晚飧】188 バンソン　夕食。夕飯。晚めし。〔蘇軾、夜泊㆓牛口㆒詩〕煮㆑蔬爲㆓晚飧㆒、安識肉與㆑酒。

【晚樽】189 バンソン　晚酌にのむさけ。〔陸游、小園詩〕飧酪供㆓晨鉢㆒、葅芹薦㆓晚樽㆒。

【晚代】190 バンダイ　後世。〔沈約、恩倖傳論〕非㆘若㆔晚代分爲㆓二塗㆒者㆖也。〔南史、王珍國傳〕帝每歎曰、晚代將家子弟、如㆓珍國㆒者少矣。〔南史、循吏傳論〕降及㆓晚代㆒、情僞繁起。

【晚到】191 バンタウ　おそく來る。おくれて來る。遲刻。〔李涗、鄉立約條〕公會晚到者。

【晚唐】192 バンタウ　❶唐の晚年。〔宋史、食貨志上一〕昔晚唐民務㆓稼穡㆒、則增㆓其租㆒。❷晚唐詩を見よ。

【晚唐詩】193 バンタウシ　唐代詩人を分つて四期とし、初・盛・中・晚の稱がある。太和より唐末に至る八十餘年を晚唐といふ。此の閒の作者には、杜牧・李商隱・溫庭筠・許渾・趙嘏・段成式・于武陵・司馬禮・張喬・盧弼・李拯・崔魯・韋莊・薛瑩・李建勳・陳祐・王周・荆叔・虞默等がある。又、後世詩家を論ずるに初・盛・晚の三時期とし元和より以後を晚唐とする說もある。三唐(**1**－**12**‥1219)及び四唐(**3**－**4682**‥555)を見よ。

【晚唐體】194 バンタウタイ　晚唐の詩體。〔滄浪詩話、詩體〕晚唐體・本朝體、通㆓前後㆒而言㆑之。

【晚棹】195 バンタウ　夕方船に棹す。又、夜の船。〔羅隱、登㆓宛陵條風樓㆒寄㆓竇常侍㆒詩〕溪喧晚棹千聲浪、雲護㆓寒郊㆒數丈陰。

【晚稻】196 バンタウ　おくてのいね。晚禾。〔劉禹錫、歷陽書事七十韻詩〕場黃堆㆓晚稻㆒、籬碧見㆓冬青㆒。〔唐彥謙、蟹詩〕湖田十月清霜墮、晚稻初香蟹如㆑虎。〔事物異名錄、蔬穀、杭〕稻品、粳之小者、謂㆓之秈㆒、秈之熟也早、故曰㆓早稻㆒、粳之熟也晚、故曰㆓晚稻㆒。

【晚濤】197 バンタウ　日暮の大きい波。〔陶翰、南楚懷古詩〕倚㆑棹下㆓晴景㆒、迴㆑舟隨㆓晚濤㆒。〔許彬、寄㆓懷孫處士㆒詩〕鐘繁秋寺遠、岸闊晚濤深。

【晚籜】198 バンタク　落ち殘つた竹の皮。〔白居易、題㆓盧祕書夏日新裁㆑竹詩〕晚籜晴雲展、陰芽蟄虺蟠。

【晚達】199 バンタツ　晚年になつて通達して地位を得る。年老いて初めて仕官する。〔南史、袁昂傳〕昂對㆓武帝㆒曰、臣生四㆓十㆔七㆕年於㆓茲㆒矣、四十以前、臣之自有、七年以後、陛下所㆑養、七歲尙書、未㆑爲㆓晚達㆒。〔張喬、送㆔許棠及第歸㆓宣州㆒詩〕雅調一生吟、誰爲㆓晚達心㆒。〔方干、貽㆓錢塘縣路明府㆒詩〕前賢多㆓晚達㆒、莫㆑怕㆓鬢霜侵㆒。

【晚智】200 バンチ　智惠が晚く發達すること。〔人物志、七繆〕人材不㆑同、成有㆓早晚㆒、有㆓早智而速成者㆒、有㆓晚智而晚成者㆒。

【晚茶】201 バンチャ　摘み殘りの茶の葉。番茶の類。〔陸游、小㆓憩村舍㆒詩〕小婦簪㆓新麥㆒、羣童摘㆓晚茶㆒。〔方夔、溪上詩〕早麥熟隨芹菜餉、晚茶香和樹芽蒸。

【晚漲】202 バンチヤウ　夕方潮が滿ちて水が漲ること。〔惠洪、懷㆓道夫㆒詩〕半篙晚漲綠楊灣、接翅鷗歸霧雨殘。

【晚娘】202′ wan^{3} niang^{2}　繼母をいふ。

【晚砧】203 バンチン　夕方にきこえる砧。〔李頎、九月九日、劉十八東堂集詩〕清切晚砧動、東西歸鳥行。

【晚汀】204 バンテイ　夕方のみぎは。〔杜甫、軍中醉飮寄㆓沈八劉叟㆒詩〕酒渴愛㆓江清㆒、餘酣漱㆓晚汀㆒。

【晚亭】205 バンテイ　清、吳麟(**2**－**3365**‥407)の號。

【晚啼】206 バンテイ　夕方に鳥が鳴く。〔鄭谷、將㆑之㆓瀘郡㆒旅次㆓遂州㆒遇㆔裴晤員外謫㆓居於此㆒話㆑舊凄涼因寄詩〕黃鳥晚啼愁㆓瘴雨㆒、青梅早落帶㆓蠻煙㆒。

【晩彫】207（バンテウ） おそく凋む。晩節をいふ。〔陸機、園葵詩〕慶二彼晩彫福一、忘二此孤生悲一。

【晩眺】208（バンテウ） ゆふべのながめ。夕方の眺望。〔岑參、西亭送二蔣侍御還一レ京詩〕山河宜二晩眺一、雲霧待レ君開。〔李嘉祐、晩發二咸陽一云云詩〕征戰初休草又衰、咸陽晩眺淚堪レ垂。

【晩釣】209（バンテウ） 夕方の釣り。〔陸游、秋夜示二兒輩一詩〕縮項鯿魚收二晩釣一、長腰粳米出二新礱一。

【晩朝】210（バンテウ） ㊀朝おそく朝政を聽くこと。〔後漢書、皇后紀序〕故康王晩朝、關雎作レ諷。〔宋史、石守信傳〕乾德初、帝因二晩朝一、與二守信等一飲酒。㊁朝おそく。〔南史、朱异傳〕起二宅東陂一、窮二乎美麗一、晩朝來下、酣二飲其中一。

【晩潮】211（バンテウ） 夕方にさして來る潮。〔戴叔倫、送三崔拾遺峒江淮訪二圖書一詩〕關外逢二秋月一、天涯過二晩潮一。〔唐彥謙、翡翠詩〕莎草江汀漫晩潮、翠華香撲水光遙。〔皮日休、秋晩留二題魯望郊居一詩〕簷上落二鬪雀一、籬根生二晩潮一。〔羅隱、秋江詩〕秋江待二晩潮一、客思旆旌搖。

【晩笛】212（バンテキ） 夕暮の笛の音。〔晉書、阮籍等傳論〕愴神交二於晩笛一、或相思而動レ駕。〔元好問、八月并州鴈詩〕一聲驚二晩笛一、數點入二秋雲一。

【晩蝶】213（バンテフ） 夕方飛ぶ蝶。〔唐彥謙、秋晩高樓詩〕晩蝶飄零驚二宿雨一、暮鴉淩亂報二秋寒一。

【晩天】214（バンテン） 夕方のそら。〔張喬、江樓作詩〕晩天帆去疾、春雪燕來遲。〔李山甫、遷二居清谿一和二劉書記見レ示詩〕晩天吟望秋光重、雨陣橫レ空蔽二斷霓一。〔韋莊、對レ雪獻二薛常侍一詩〕瑤林瑤樹忽珊珊、急帶二西風一下二晩天一。

【晩田】215（バンデン） ㊀日暮の田。〔皮日休、奉レ和二魯望閑居雜題一五首、砌思步詩〕欐欐古薜綳二危石一、切切陰螿應二晩田一。㊁晩稻の田。〔六部成語、戶部、晩田、注解〕晩稻之田也。

【晩殿】216（バンデン） 年古りた宮殿。〔田錫、楊花賦〕滿二黃陵之古廟一、撲二蒼山之晩殿一。

【晩渡】217（バント） 日暮の渡場。〔張喬、題二廣信寺一詩〕晩渡明二村火一、晴山響二郡鞞一。〔韋莊、送三李秀才歸二荆溪一詩〕晩渡去時衝二細雨一、夜灘何處宿二寒煙一。〔高啓、泊二德清縣一前二望金鰲・玉麈二峰一詩〕寒城動二遙炊一、晩渡罷二孤市一。

【晩塗】218（バント） 晩年。〔晉書、簡文三王、會稽王道子傳〕桓玄嘗候二道子一、正遇二其醉一、賓客滿レ坐、道子張レ目謂レ人曰、桓溫晩塗欲レ作レ賊云何、玄伏レ地、流レ汗不レ得レ起。

【晩冬】219（バントウ） ふゆのすゑ。陰曆の十二月頃。

【晩登】220（バントウ） ㊀おそくみのる。〔鍾會、菊花賦〕早植晩登、君子德也。㊁夕方に高い處にのぼる。〔高啓、感レ舊訓二宋軍咨見一レ寄詩〕晩登臨滄觀、惻愴懷古情。

【晩入】221（バンニフ） おくれて入ること。遲刻すること。〔唐書、百官志一〕凡朝、晩入失レ儀、御史錄レ名奪レ俸、三奪者奏彈。

【晩熱】222（バンネツ） 秋になつて尚殘つてゐる暑熱。殘暑。〔王羲之、問慰諸帖上〕秋日感懷深、得二五日告一甚慰、晩熱盛、君比可レ不二遲復後問一、僕平平力及不二一一一。〔白居易、殘暑招レ客詩〕誰能淘二晩熱一、閑飲兩三盃。

【晩年】223（バンネン） 人の一生の末年。老年。老後。暮年。〔南史、夏侯亶傳〕晩年頗好二音樂一。〔盧思道、春夕經二行留侯墓一詩〕少小期二黃石一、晩年遊二赤松一。〔宋史、蒲宗孟傳〕嘗以レ書抵二蘇軾一云、晩年學レ道有レ所レ得。

【晩年定論】224（バンネンテイロン） 書名。明、王守仁撰。王陽明の致良知說は朱子の格物致知と趣を異にするため、當時大いに異議を招いた。是に於て朱子集注や或問等に見える窮理の說を朱子の中年に於ける未定の說となし、朱子は晩年に至り其の非を悟つて內省的になつたが、其の誤を訂正する遑がなかつたのだとして、文集中から己の致良知說と相近き者三十餘條を抄出して、之を其の晩年の定論とし、之に吳草廬の語一條を收錄して朱子晩年定論と名づけ、信を世に取らんとしたもので、之に對して朱子學者の羅整庵は長文の書を王陽明に送つて詰問してゐる。〔王文成公全書、三〕・〔日知錄、十八〕。

〖參考書〗【考正晩年定論】二卷。清、孫承澤撰。王陽明の朱子晩年定論が、晩年とは朱子の何歲よりなるかを言はざるを難じ、朱子年譜・行狀・文集・語類等の書より、晩年定論の誤りを考正したもの。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。

〖晩年未定〗225（バンネンミテイ） 朱子學派でいふ語。朱子の文集・語類等に、往往前後其の說を異にして、一致を缺くものがある。これを未定の說、又は晩年の說といふ。〔日知錄、藝文、朱子晩年定論〕何叔京氏卒二於淳熙乙未一、時朱子年方四十有六、後二年丁酉、而論孟集注或問始成、今有下取二於答レ何書者四通一、以爲二晩年定論一、至二於集注或問一、則以爲中中年未定之說上、竊恐攷レ之欠レ詳、而立論之太果也。

【晩婆】226 wan^3 p‘ê^2 後妻。のちぞひ。

【晩輩】227（バンパイ） 後進者。後輩。後生。〔蘇軾、過二廣愛寺一見三三學演師一觀二朱瑤畫一文殊普賢一詩〕朱瑤唐晩輩、得レ法尙雄深。〔稱謂錄、同官謙稱、晩輩〕聞見錄、賈黯以二狀元及第一謁二范文正公一、稱下晩輩偶得二科第一、願受上レ教。

【晩梅】228（バンバイ） ㊀晩く實を結ぶ梅。〔陸游、柴門詩〕晩梅摘得鹽共レ飣、濁酒沽來草塞レ缾。㊁おそ咲きの梅。早梅の對。〔史學、晩梅詩〕孤根春半恰春回。

【晩報】229 wan^3 pao^4 夕刊新聞。

【晩望】230（バンバウ） 日暮の眺望。〔陳潤、賦二得秋河曙耿耿一詩〕晩望秋高夜、微明欲レ曙天。〔楊萬里、秋興詩〕風煙聊晩望、山水入レ秋宜。

【晩泊】231（バンパク） 日暮に舟を停めて宿する。〔孔稚珪、白馬篇〕早出二飛狐塞一、晩泊二樓煩城一。〔劉長卿、嚴陵釣臺送三李康成赴二江東一詩〕灘聲山翠至レ今在、遲爾行舟晩泊時。〔殷堯藩、江行詩〕晩泊長江口、寒沙白似レ霜。

【晩麥】232（バンバク） 晩熟の麥。〔薛逢、題二白馬驛一詩〕晩麥芒乾風似レ秋、旅人方作蜀門遊。

【晩髮】233（バンパツ） 老人の髮。白髮。〔杜牧、贈二李給事敏一詩〕晩髮悶二還梳一、憶君秋醉餘。

【晩帆】234（バンパン） 日暮に見える舟のほ。〔姚合、送三喩鳧校書歸二毘陵一詩〕山春煙樹衆、江遠晩帆疎。〔盧象、永城使風詩〕夕鳥向レ林去、晩帆相逐飛。〔陰鏗、廣陵岸送二北使一詩〕海上春雨雜、天際晩帆孤。

【晩飯】235（バンパン） ゆふめし。〔杜甫、陪二鄭廣文一遊二何將軍山林一詩〕翻疑柂樓底、晩飯越中行。

【晩晩】236（バンバン） 俗語で自分の叔父をいふ。〔蕉軒隨錄〕吾皖桐城人、呼レ叔曰二椒椒一、按二史惇痛餘雜錄一、辰州俗呼レ叔曰二晩晩一、言二晩得一也、有下稱レ父爲二晩晩一者上、認爲二伯之子一、言下易二長養一無中刑尅上也。

【晩罷】237（バンピ） 夜おそくにやめる。おそくまで政務を執ること。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕有レ善必聞、有レ惡必見、早朝晩罷、兢兢業業、惟恐二四海之內、天地之中、一物不レ得二其所一。

【晩謬】338（バンビウ） 晩年のあやまち。〔唐書、蕭至忠傳〕後得二源乾曜一亟用レ之、謂二高力士一曰、若知三吾進二乾曜一遽乎、吾以三其貌言似二蕭至忠一、力士曰、彼不三嘗負二陛下一乎、帝曰、至忠誠國器、但晩謬爾、其始不レ謂二之賢一哉。

【晩風】239（バンプウ） 夕方の風。〔鮑照、上二潯陽一還レ都道中詩〕鱗鱗夕雲起、獵獵晩風遒。〔賈島、送二耿處士一詩〕川原秋色靜、蘆葦晩風鳴。〔陳子昂、和三陸明府贈二將軍重出一レ塞詩〕晩風吹二畫角一、春色耀二飛旌一。

【晩聞】240（バンブン） 晩年に道をきく。〔杜甫、秋日夔府詠懷詩〕晩聞多二妙教一、卒踐塞二前愆一。〔蘇軾、再遊二徑山一詩〕嗟我昏頑晩聞レ道、與レ世齟齬空多學。

〖晩聞翁〗241（バンブンヲウ） 清、沈元滄(**6**－**17189**・・499)の號。

〖晩聞堂〗242（バンブンダウ） 室名。㊀明、余紹祉(**1**－**515**・・102)の室名。㊁清、穆僖(**8**－**25251**・・12)の室名。

〖晩聞居士〗243（バンブンコジ） 清、王宗炎(**7**－**20823**・・1832)の號。

【晩米】244（バンベイ） おくての稻。おそく實る稻。〔本草、粳〕發明、宗奭曰、粳以二白晩米一爲二第一一、早熟米不レ及也。

【晩苗】245（バンベウ） おそまきのなへ。〔范成大、詩〕早穗已垂垂、晩苗猶剪剪。

【晩步】246（バンポ） 夕暮の散步。夕方步くこと。〔陳高、晩歸詩〕晩步草露濕、獨歸松徑深。〔曹文晦、晩步詩〕一筇循二野岸一、涼思集二衣襟一。

【晩浦】247（バンポ） 夕暮の入江。〔鄭谷、聞三進士許彬罷レ舉歸二睦州一悵然懷寄詩〕煙舟撐二晩瀨一、雨屐翦二春蔬一。〔歐陽脩、荷花賦〕晩浦煙霞、水亭風日、投二文竿一而餌垂、泳二萍莖一而波溢。

【晩母】248（バンボ） 繼母。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕女子自盡、非二晩母無一レ恩、則白璧之有レ玷乎。

【晩暮】249（バンボ） ❶年の暮。〔謝靈運、彭城宮中直感二歳暮一詩〕晩暮悲二獨坐一、鳴鶗歇二春蘭一。〔李尤、九曲歌〕年歳晩暮時已斜。❷年をとつたこと。老境。晩年。〔陸雲、九愍〕悲二年歳之晩暮一、殉二修名一而競レ心。〔嚴郢、不空三藏碑〕自二成童一至二于晩暮一。❸おそいこと。〔漢書、劉輔傳〕子孫之祥、猶恐二晩暮一。❹時宜に合はないこと。〔後漢書、楊震傳〕常客二居於湖一、不レ答二州郡禮命一數十年、衆人謂二之晩暮一、而震志愈篤。

【晩峰】250（バンポウ） 夕暮の峰。〔羅隱、送二汝州李中丞一詩〕關防秋草白、城壁晩峰青。〔韋莊、登二漢高廟一閑眺詩〕天畔晩峰青簇簇、檻前春樹碧團團。

【晩木】251（バンボク） 夕暮の木。〔張喬、遊二華山雲際寺一詩〕晩木蟬相應、涼天鴈並飛。

【晩明】252（バンミン） 明代の末年。〔經學歷史、經學復盛時代〕承二晩明經學極衰之後一、推二崇實學一、以矯二空疏一。

【晩夢】253（バンム） 夜の夢。〔羅隱、下第寄二張坤一詩〕蝴蝶有レ情牽二晩夢一、杜鵑無レ賴伴二春愁一。〔羅隱、倣二玉臺體一詩〕晩夢通二簾押一、春寒逼二酒罏一。

【晩霧】254（バンム） 夕もや。〔李賀、黃家洞詩〕山潭晩霧吟二白黿一、竹蛇飛蠹射二金沙一。〔張喬、送二南陵尉李頻一詩〕晩霧看二春轂一、晴天見二朗陵一。

【晩沐】255（バンモク） 晩に髮を洗ひ身を清める。〔沈約、和二謝宣城一詩〕晨趨游二建禮一、晩沐臥二郊園一。〔王維、詶下賀四贈二葛巾一之作上詩〕早朝方暫挂、晩沐復來簪。

【晩陽】256（バンヤウ） ゆふひ。夕陽。〔錢起、登二勝果寺南樓一云云詩〕微爾侵二晩陽一、連山半藏レ碧。〔羅鄴、柳絮詩〕處處東風撲二晩陽一、輕輕醉粉落無レ香。

【晩邏】257（バンラ） 夜の見廻り。夜警。〔高啓、送三潘巡檢之二閩中一詩〕曉衙雞應レ鼓、晩邏騎隨レ車。

【晩來】258（バンライ） ❶日ぐれがた。夕方。〔杜甫、喜レ雨詩〕晩來聲不レ絕、應レ得夜深聞。〔孟浩然、陪二張丞相一自二松滋江一東泊二渚宮一詩〕晩來風稍緊、冬至日行遲。〔賈至、初至二巴陵一與二李十二白一同泛二洞庭湖一詩〕楓岸紛紛落葉多、洞庭秋水晩來波。〔韋應物、滁州西澗詩〕春潮帶レ雨晩來急、野渡無レ人舟自橫。❷晩に來る。〔李益、漢宮少年行〕晩來二香街一經二柳市一、行過二倡舍一宿二桃根一。

【晩雷】259（バンライ） 夕方に鳴るかみなり。〔杜審言、夏日過二鄭七山齋一詩〕日氣含二殘雨一、雲陰送二晩雷一。

【晩瀨】260（バンライ） 夕暮の淺瀨。〔劉長卿、湘中紀行、浮石瀨詩〕石橫晩瀨急、水落寒沙廣。

【晩籟】261（バンライ） 夕暮の風の音。〔王禹偁、村行詩〕萬壑有レ聲含二晩籟一、數峯無レ語立二斜陽一。

【晩浪】262（バンラウ） 夕暮の波。〔陰鏗、觀レ釣詩〕澄江息二晩浪一、釣侶枻二輕舟一。〔杜牧、中秋詩〕紫鱗衝二晩浪一、白鳥背二秋山一。

【晩涖】263（バンリ） 晩年になつて官職に就く。〔沈約、早發二定山一詩〕夙齡愛二遠壑一、晩涖見二奇山一。

【晩籬】264（バンリ） 夕暮のまがき。〔元稹、痁臥聞二幕中諸公徵レ樂會飮一詩〕晩籬喧二鬬雀一、殘菊伴二枯荄一。

【晩柳】265（バンリウ） 春になつてまだ芽の出ない柳。〔溫庭筠、獵騎辭〕晩柳未レ如レ絲、春花已如レ霰。

【晩流】266（バンリウ） 夕方の川の流れ。〔蕭子範、詩〕晩流稍東急、暝景促二西輝一。〔安倍廣庭、秋日於二長王宅一宴二新羅客一詩〕山牖臨二幽谷一、松林對二晩流一。

【晩涼】267（バンリヤウ） 夕方のすずしさ。〔杜甫、與二任城許主簿一遊二南池一詩〕晩涼看二洗馬一、森木亂二鳴蟬一。〔盧綸、送二菊潭王明府一詩〕晩涼經二灞水一、清晝入二商山一。〔戴叔倫、南野詩〕茂樹延二晩涼一、早田候二秋熟一。〔王建、贈二華州鄭大夫一詩〕公退晩涼無二一事一、步行攜レ客上二南樓一。〔羅隱、九江早秋詩〕雨過晩涼生、樓中枕簟清。

【晩綠】268（バンリヨク） 夕空の綠色になること。〔戴表元、夢中作詩〕晴霞冠レ領朝紅潔、新漲連レ空晩綠酣。

【晩鱗】269（バンリン） 夕方の魚。〔李賀、昌谷詩〕晩鱗自遨遊、瘦鵠暝單跱。

【晩路】270（バンロ） 晩年。晩塗(218)に同じ。〔唐書、孟簡傳〕晩路殊躁急、佞レ佛過甚、爲二時所一レ誚。〔葛勝仲、西江月詞〕晩路交二游綠酒一、平生志趣二烟霞一。

【晩露】271（バンロ） 日暮に降りる露。〔王僧孺、寄二何記室一詩〕夜風入二寒水一、晩露拂二秋花一。〔王郭、詩〕花枝棲二晩露一、峯葉度二晴雲一。

【晩鷺】272（バンロ） 夕方に飛ぶ鷺。〔皮日休、奉レ和二魯望秋日遺懷一詩〕溪晴多二晩鷺一、池廢足二秋蟾一。

【晩漏】273（バンロウ） おそい時間。〔宋史、職官志二〕翰林學士院、凡拜二宰相一及事レ重者、晩漏上二天子御內一。〔楊維楨、詩〕晩漏壺中水聲遠。

【晩甘侯】274（バンカンコウ） 茶の異名。〔孫樵、送レ茶與二焦刑部一書〕晩甘侯十五人、遣二侍齊閣一、此徒皆請レ雷而摘、拜レ水而和、蓋建陽丹山碧水之鄉、月澗雲龕之品。

【晩盥堂】275（バンクワンダウ） 清、項奎(**12**－43343··12)の室名。

【晩莊稼】276 wan³ chuang¹ chia 二番植物。二毛作の農作物。

【晩芝曲】277（バンシキヨク） 宋の鼓吹鐃歌の名。〔宋書、樂志四〕今鼓吹鐃歌詞、云云、上邪曲・晩芝曲・艾如張曲、其一篇闕。〔古今樂錄〕晩芝曲九解、漢曲有二遠如期一、疑是也。

【晩侍生】278（バンジセイ） 禮部の司官が、刺を內院學士宗人府の各堂官に投ずる時、晩侍生と稱す。巡撫副僉都も同じ。〔觚不觚錄〕正德中、巡撫敕諭、尙云二重則參題、輕則發遣一、巡按御史及三司處、泊二其後一漸不二復然一、御史于二巡撫一、尙猶三投レ刺稱二晩生侍坐一也、辛卯以後、則僉坐矣、尋稱二晩侍生正坐一矣、又稱二侍教生一矣、已而與二巡按一彼此俱稱二侍教生一矣、已而與二撫巡一俱稱二侍生一矣、蓋由二南北一多レ警、遷擢旣驟、巡撫不二必耆宿一、御史多有二與レ之同レ台者一、又功罪勘報、其權往往屬二之御史一、積漸淩替、故非二一朝一也。

【晩半天】279 wan³ pan⁴ tʻien 午後。

【晩不晌】280 wan³ pu shang³ 夕暮。

【晩宜居士】281（バンギコジ） 明、曹時中(**5**－14297··247)の號。

【晩知居士】282（バンチコジ） 明、鍾惺(**11**－40672··74)の號。

【⿰免日】13941

バン

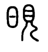
晩(**5**－13940)に同じ。〔正字通〕⿰免日、同レ晩。

【晛】13942

[一] ケン ゲン 〔集韻〕形甸切 霰 ㄒㄧㄢˋ hsien⁴

[二] ケン ゲン 〔集韻〕胡典切 銑

[三] デン ネン 〔集韻〕乃見切 霰


小篆

[一][二]❶**日があらはれる**。〔說文〕晛、日見也、从二日見一、見亦聲、詩曰、見レ晛曰消。❷**ひざし**。ひかげ。〔詩、小雅、角弓〕雨雪瀌瀌、見レ晛曰消。〔傳〕晛、日氣也。❸**あきらか**。〔玉篇〕晛、明也。〔正字通〕晛、明貌。[三]**日のひかり**。或は⿰日然(**5**－14149)に作る。〔集韻〕晛、日光也、或从レ然。

解字 會意形聲。日と見との合字。見は聲を兼ねる。日があらはれる意。

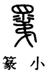
【晁】13943

テウ

晁(**5**－13889)に同じ。〔篇海〕晁、同レ晁。

【晜】13944

コン 〔集韻〕公渾切 元


小篆

❶**あに**。もと罤(**8**－23714)に作る。〔正字通〕晜、本作レ罤。〔說文〕罤、周人謂レ兄曰レ罤、从二弟眔一。〔爾雅、釋親〕晜、兄也。❷**のち**。あと。〔爾雅、釋親〕來孫之子、爲二晜孫一。〔注〕晜、後也。❸昆(**5**－13792)に通ず。〔說文、罤、段注〕晜弟字當レ作レ此、昆行而晜廢矣。

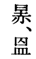
解字 會意形聲。弟と眔との合字。眔は聲を兼ねる。兄。眔は及ぶ。故に弟に及ぶ意。周人は兄を罤といつた。晜は罤の誤。昆の字が行はれて、罤の字が廢れた。〔說文、罤、段注〕昆弟字當レ作レ此、昆行而罤廢矣、云云、按、晜者罤之誤、云云、謂二兄罤一者、周人語也。

【晜孫】1（コンソン） 來孫の子。卽ち玄孫の孫。昆孫。〔爾雅、釋親〕來孫之子爲㆓晜孫㆒。〔駢雅、釋名稱〕孫之子、四世爲㆓晜孫㆒。

【晜弟】2（コンテイ） あにとおとうと。昆弟。〔爾雅、釋親〕母之晜弟爲㆑舅。

【⿰⿱彐日⿱コ又】13945 カン 敢(**5－13260**)の籀文。一説に、⿰⿱彐日殳(**6－16637**)の誤字といふ。〔字彙〕⿰⿱彐日⿱コ又、籀文敢字。〔正字通〕敢、籀作㆑⿰⿱彐日⿱コ又、ヨ下从㆑日、誤。

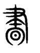
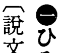
【㬎】13946 ㈠ダン ネン 〔集韻〕乃版切 潸 ㈡ダン ネン 〔集韻〕乃諫切 諫

小篆 

㈠**むす**。溫くてしめる。〔說文〕㬎、昷溼也、从㆑日赧省聲、讀與㆑赧同。〔段注〕昷、各本作㆑溫、今正。㈡**あかい**。〔玉篇〕㬎、赤也。〔類篇〕㬎、小赤。〔說文通訓定聲〕㬎、按、昷溼生㆑黴、有㆓色赤者㆒、或曰、从㆓日赤㆒、會意。

【曡】13947 デフ 疊(**7－21983**)に同じ。〔篇海〕曡、同㆑疊。

【晝】13948 チウ チユ 〔集韻〕陟救切 宥 ㄓㄡˋ chou^4

小篆  籀文 

❶**ひる**。ひるま。日中。〔說文〕晝、日之出入與㆑夜爲㆑介、从㆓畫省㆒从㆑日。〔徐灝段注箋〕自㆓日出㆒至㆓日入㆒通謂㆓之晝㆒、故云㆓日之出入與㆑夜爲㆑界也、今人但謂㆓日中㆒爲㆑晝、非㆓古義㆒。〔廣雅、釋詁四〕晝、明也。〔正字通〕晝、日中也。〔易、繫辭上〕晝夜之象也。〔太玄經、玄離〕一晝一夜。❷**地名**。齊の邑。今、山東省臨淄縣の西北。〔孟子、公孫丑下〕三宿而後出㆑晝。❸書(**5－13928**)は籀文。〔說文〕晝、書、籀文晝。❹**姓**。〔萬姓統譜〕晝、風俗通、齊大夫食㆓邑於晝㆒、因氏。

名乘 アキ。アキラ。

解字 會意。日と畫の省文との合字。日の出入は、夜との分界が畫然としてゐる義。あける。ひる。

【晝游】1（チウイウ） 晝閒に行游すること。晝行。〔魏書、甄琛傳〕除㆓征北將軍、定州刺史㆒、衣㆑錦晝游、大爲㆓稱滿㆒、治體嚴細、甚無㆓聲譽㆒。〔蘇頲、奉㆓和魏僕射秋日還㆑鄕有㆑懷之詩㆒〕南宮夙拜罷、東道晝遊初。

【晝陰】2（チウイン） 日中暗いこと。〔後漢書、王允傳〕自㆓歲末㆒以來、太陽不㆑照、霖雨積㆑時、月犯㆓執法㆒、彗孛仍見、晝陰夜陽、霧氣交侵、此期應㆓促盡㆒、內發者勝、幾不㆑可㆑後、公其圖㆑之。〔唐書、五行志三〕光啓元年秋、河東大雲霧、明年夏晝陰積㆓六十日㆒。〔王維、賦㆔得秋日懸㆓清光㆒詩〕晝陰殊㆓衆木㆒、斜影下㆓危樓㆒。〔韋應物、夏景園廬詩〕羣木晝陰靜、北窗涼風多。〔杜牧、綠蘿詩〕秋色寄㆓高樹㆒、晝陰籠㆓近山㆒。

【晝隱】3（チウイン） 日中隱れてゐること。〔郭璞、山海經圖讚、北山經、鷩鶘〕昏明是互、晝隱夜覿。

【晝雨】4（チウウ） 晝の雨。〔貫休、秋過㆓相思寺㆒詩〕晝雨先㆓花島㆒、秋雲挂㆓戍旗㆒。

【晝永】5（チウエイ） 晝閒の永いこと。〔梅堯臣、呂晉叔著作遺㆓新茶㆒詩〕會待嘉客來、侑談當㆓晝永㆒。〔林逋、病中謝㆓馬彭年見㆑訪詩〕山空門自掩、晝永枕頻移。〔王士熙、上京次㆓馬伯庸韻㆒詩〕含香晝永閑㆓青瑣㆒、視草堂幽濕㆓紫泥㆒。〔顧瑛、玉山佳處詩〕于焉奉㆓華觴㆒、聊以娛㆓晝永㆒。

【晝景】6（チウエイ） 晝閒の日光をいふ。景はひかげ。〔獨孤及、苦熱行〕晝景絶可㆑畏、涼飆何由發。〔師貞、秋露如㆑珠賦〕每祕㆓彩于晝景㆒、何流㆓形于夜風㆒。

【晝詠】7（チウエイ） 晝閒に詠ずる。〔柳宗元、謝㆓襄陽李夷簡尚書撫問㆒啓〕展轉欷歔、晝詠宵興、願爲㆓斷役㆒、以報㆓恩遇㆒。

【晝鳶】8（ヒルトビ） 晝盜人をいふ。〔物類稱呼〕須利、云云、攝州にてひるとんびといふ、とんびは鳶なり、ものをさらふと云ふ心かとかや。

【晝艷】9（チウエン） 日中に花が日に當つて艷美なこと。〔馬祖常、納涼詩〕露葵炫㆓晝艷㆒、霞藥敷㆓陽英㆒。

【晝下】10（チウカ） ❶晝閒天から下る。〔杜甫、玄都壇歌寄㆓元逸人㆒〕子規夜啼山竹裂、王母晝下雲旗翻。❷（ヒルサガリ）昔、午の刻を少しく過ぎた時。今の午後二時頃。

【晝開】11（チウカイ） ❶晝に窓などを開くこと。〔庾信、望美人山銘〕恰對㆓妝臺㆒、諸窗晝開。❷晝に宴を開くこと。〔戴叔倫、奉㆑酬㆘盧端公飲後贈㆓諸公㆒見㆑示之作㆖詩〕綺席晝開留㆓上客㆒、朱門半掩擬㆓重關㆒。

【晝開夜合】12（チウカイヤガフ） 花樹の名。晝閒花を開き夜はつぼむ故にいふ。〔瑯嬛記〕頓遜國有㆓淫樹㆒、花如㆓牡丹㆒而香、云云、晝開夜合、故又以㆓夜合㆒爲㆑名。

【晝慨】13（チウガイ） 晝になげく。晝慨宵悲を見よ。

【晝慨宵悲】14（チウガイセウヒ） 日夜悲歎すること。〔宋書、魯爽傳〕嵩霍咫尺、江河匪㆑遠、夷庚殲塞、隔同㆓天地㆒、痛㆑心疾㆑首、晝慨宵悲。

【晝行】15（チウカウ） 晝閒に行くこと。晝游。〔魏志、張既傳〕出爲㆓雍州刺史㆒、太祖謂㆑既曰、還㆓君本州㆒、可㆑謂㆓衣㆑繡晝行㆒矣。〔方岳、秀錦樓賦〕皇畀㆑予以㆓左竹㆒兮、豈錦衣之晝行。〔張謂、湖上對㆑酒行〕夜坐不㆑厭湖上月、晝行不㆑厭湖上山。〔宋史、于闐國傳〕大中祥符二年、其國黑韓王遣㆓回鶻羅斯溫等㆒、以㆓方物㆒來貢、斯溫跪奏曰、臣萬里來朝、獲㆑見㆓天日㆒、願聖人萬歲與㆓遠人㆒作㆑主、上詢以㆓在㆑路幾時去㆑此幾里㆒、對曰、涉㆑道一年、晝行暮息、不㆑知㆓里數㆒。

【晝耕】16（チウカウ） 晝閒に耕作する。〔相牛經〕此南方晝耕之法也。

【晝耕夜誦】17（チウカウヤシヨウ） 晝は田畑を耕し、夜は書を誦して勉める。〔魏書、崔光傳〕家貧好㆑學、晝耕夜誦、傭書以養㆓父母㆒。

【晝寒】18（チウカン） 晝の寒いこと。〔李白、王屋山人詩〕噴壁灑㆓素雪㆒、空濛生㆓晝寒㆒。

【晝閒】19（チウカン） ひるのあひだ。ひるま。日中。〔周必大、和㆓龍舒兄春日出㆑郊韻㆒詩〕庭東蒲鞭吏晝閒、禽聲人語兩關關。〔周權、詩〕茶香入㆑座午烟歇、花影壓㆑簾春晝閒。

【晝閒興行】20（チウカンコウギヤウ） 通常、土曜・日曜等の午後一時頃から開演するもの。マチネー。

【晝顏】21（ヒルガホ） 蔓草の名。旋花科に屬し、花は朝顏より小さく、淡紅色又は白色で、午前に開き、午後に萎む。

【晝氣】22（チウキ） 晝閒の氣。〔孫子、軍爭〕是故朝氣銳、晝氣惰、暮氣歸、故善用㆑兵者、避㆓其銳氣㆒、擊㆓其惰歸㆒。〔李衞公問對、下〕太宗曰、孫子言㆓三軍可㆑奪㆑氣之法㆒、朝氣銳、晝氣惰、暮氣歸。

【晝晷】23（チウキ） 晝閒の時間。晷はひかげ。〔韋應物、夏至避㆓暑北池㆒詩〕晝晷已云極、宵漏自㆑此長。〔宋史、竇貞固傳〕以㆓晝晷短㆒、難㆑盡㆓士材㆒。

【晝輝】24（チウキ） 晝閒の日の光。〔孟郊、投贈㆓張端公㆒詩〕日戸晝輝靜、月杯宵景幽。

【晝休】25（ヒルヤスミ） ❶晝食後暫時休憩すること。❷晝寢(76)に同じ。

【晝居】26（チウキヨ） 晝閒家の中に居ること。晝閒はじつとしてゐること。〔禮、檀弓上〕夫晝居㆓于內㆒、問㆓其疾㆒可也。〔莊子、山木〕夫豐狐文豹、棲㆓于山林㆒、伏㆓於巖穴㆒、靜也、夜行晝居、戒也、雖㆓飢渴隱約㆒、猶且胥㆓疏于江湖之上㆒、而求㆑食焉、定也、然且不㆑免㆓于罔羅機辟之患㆒、是何罪之有哉、其皮爲㆓之災㆒也。〔白居易、續古詩〕晝居不㆑踰㆑閾、夜行常秉㆑燭。

【晝錦】27（チウキン） ❶錦の衣を著飾つて晝行く。出世して故鄕に歸る喩。〔北史、毛鴻賓傳〕鴻賓爲㆓刺史㆒、詔曰、此以㆓晝錦㆒榮㆑卿也。❷堂の名。㋑宋の韓琦の故宅。昔、項羽に「富貴不㆑歸㆓故鄕㆒、如㆓衣㆑錦夜行㆒」の語があつた。韓琦は時に宰相で武康軍節度使として鄕里の相州に知となつたので、晝閒錦をきて故鄕に歸る意でなづけた。歐陽脩、晝錦堂記を作る。河南省安陽縣城の東南隅。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕公在㆓至和中㆒、嘗以㆓武康之節㆒、來治㆓於相㆒、乃作㆓晝錦之堂于後圃㆒。㋺宋の王綸、建つ。江蘇省江寧縣の舊江寧府治。〔明一統志〕晝錦堂在㆓江寧舊府西廳㆒、宋

紹興末、王綸以三建康人知二鄕郡一、故建二此堂一。㊂詞牌の名。此の調に平韻と仄韻との兩體がある、平韻は周邦彥の片玉集に見え、仄韻は陳允平の日湖漁唱に見えてゐる。又、曲牌の名にもある。

【晝錦堂記】28 チウキンダウキ　文章の名。宋、歐陽脩作。歐陽文忠公集卷四十及び古文眞寶後集に載す。晝錦の㊁㋑を見よ。

【晝吟】29 チウギン　㊀晝うたふこと。〔岑參、虢中酬二陝西甄判官見一レ贈詩〕晝吟庭花落、夜諷山月移。㊁晝うめく。晝吟宵哭を見よ。

【晝吟宵哭】30 チウギンセウコク　晝夜悲吟哭泣すること。〔戰國、楚策〕棼冒勃蘇、于レ是贏レ糧潛行、上二崢山一、踰二深溪一、蹠穿膝暴、七日而薄二秦王之朝一、雀立不レ轉、晝吟宵哭、七日不レ得レ告。

【晝過】31 ヒルスギ　正午を過ぎること。

【晝臥】32 チウグワ　ひるねをいふ。晝寢。〔越絕書、越絕外傳記吳王占夢〕晝臥二姑胥之臺一、覺寤而起、其心惆悵、如レ有レ所レ悔。〔南齊書、徐孝嗣傳〕初孝嗣在二率府一、晝臥二齊北壁下一、夢兩童子遽云、移二公牀一、孝嗣驚起、聞二壁有一レ聲、行數步、而壁崩壓レ牀。〔羅虬比、紅兒詩〕爭知晝臥紗窗裏、不レ見三神人覆二玉衣一。

【晝晦】33 チウクワイ　晝閒くらくなること。〔史記、天官書〕諸呂作レ亂、日蝕晝晦。〔漢書、高祖紀上〕大風從二西北一起、折レ木發レ屋、揚二砂石一晝晦、楚軍大亂、而漢王得下與二數十騎一遁去上。〔宋書、五行志五〕魏元帝景元三年十月、京都大震晝晦、此夜妖也。〔蘇軾、太白詞〕雷闐闐、山晝晦。

【晝會】34 チウクワイ　晝の宴會。〔南齊書、禮志上〕漏未レ盡七刻、羣臣入白レ賀、未レ盡五刻、就二本位一、至二漏盡一、皇帝出二前殿一、百官上レ賀、如二漢儀一、禮畢罷入、羣臣坐謂二之晨賀一、晝漏上三刻、更出、百官奉二壽酒一、大饗作レ樂、謂二之晝會一、別置二女樂三十人於黃帳外一、奏二房中之歌一。

【晝光】35 チウクワウ　日中の光。晝の時閒をいふ。〔孟郊、立德新居詩〕夜景臥難レ盡、晝光坐易レ消。

【晝扃】36 チウケイ　日中に門を閉ざすこと。〔鄭剛中、山齋賦〕寂無二人聲一、柴門晝扃。〔魏學洢、茅簷賦〕闉闍之北、酒帘之西、有レ扉晝扃、蟲吟鳥啼。

【晝啓】37 チウケイ　日中に門を開くこと。〔夏錄〕勃勃掠二取嶺北一、諸城門不三敢晝啓一。

【晝憩】38 チウケイ　晝にいこふこと。〔顏延之、陶徵士誄〕接閻鄰舍、宵盤晝憩。〔注〕善曰、毛萇詩傳曰、憩、息也。〔劉禹錫、送三李策秀才還二湖南一因寄二幕中親故一兼簡二衡州呂八郎中一詩〕晝憩命二金罍一、宵談轉二琁衡一。

【晝雞】39 チウケイ　晝のにはとり。〔唐彥謙、第三溪詩〕雲沙有レ徑縈二寒燒一、松屋無レ人聞二晝雞一。

【晝繫】40 チウケイ　晝閒しばられること。〔宋史、蘇頌傳〕知二杭州一、一日出遇二百餘人哀訴一、曰、某以二轉運司責レ逋二市易緡錢一、夜囚晝繫、雖レ死無二以償一。

【晝警】41 チウケイ　晝閒警戒すること。晝警暮巡を見よ。

【晝警暮巡】42 チウケイボジユン　晝夜警戒すること。〔戴少平、王粲神道碑〕公家之事、知無レ不レ爲、晝警暮巡、考課尤著。

【晝劫】43 チウケフ　晝閒奪掠をすること。〔宋史、向拱傳〕拱尹二河南一十餘年、專二治園林第舍一、好二聲妓一、縱レ酒爲レ樂、府政廢弛、羣盜晝劫、太宗聞レ之、怒移二鎭安州一。

【晝怯】44 チウケフ　晝閒おびえおそれること。〔方干、自二縉雲一赴レ郡云云敍事詩〕巢鳥夜驚離二島樹一、啼猿晝怯下二巖藤一。

【晝見】45 チウケン　㊀晝に見る。〔新論、鄙名〕野人晝見二蟢子一者、以爲レ有二喜樂之瑞一、夜夢見レ雀者、以爲レ有二爵位之象一、然見レ蟢者、未二必有一レ喜、夢雀者、未二必彈一レ冠、而悅レ之者、以二其名一利レ人也。㊁晝にあらはれる。〔史記、范雎傳〕鄭安平曰、臣里中有二張祿先生一、欲三見レ君言二天下事一、其人有レ仇、不二敢晝見一。〔漢書、高后紀〕三年夏、江水溢、流二民四千餘家一、秋、星晝見。

【晝卷】46 チウケン　晝閒卷いておくこと。〔夏允彝、垂絲海棠賦〕薇帳晨開、緗簾晝卷。

【晝喧】47 チウケン　晝かまびすしいこと。〔何遜、七召〕蜉蝣動而晝喧、熠燿飛而夜朗。

【晝暄】48 チウケン　晝あたたかなこと。暄は煖に通ず。〔魏書、崔光傳〕供レ頓候レ迎、公私擾レ費、廚兵幕士、衣履敗穿、晝暄夜淒、罔レ所二覆藉一、監帥驅捶、泣呼相望。

【晝減】49 チウゲン　㊀晝にへる。〔漢書、溝洫志〕李尋解光亦言、陰氣盛則水爲レ之長、故一日之閒、晝減夜增、江河滿溢。㊁晝にへらす。〔陸游、自二雲門一至二上竈一欲レ游二一僧菴一以レ雨不レ果詩〕道遠晨炊レ米、風和晝減レ衣。

【晝後】50 ヒルゴ　ひるすぎ。午後。

【晝紅】51 チウコウ　花が晝閒、日にあたつて紅なこと。〔朱熹、琴操、反招隱〕我愛二陽林一、春葩晝紅。

【晝哭】52 チウコク　晝閒哭すること。〔禮記、檀弓下〕穆伯之喪、敬姜晝哭、文伯之喪、晝夜哭、孔子曰、知レ禮矣。

【晝昏】53 チウコン　㊀晝閒くらいこと。〔漢書、中山靖王勝傳〕雲蒸列布、杳冥晝昏。〔漢書、鄭崇傳〕天爲二赤黃晝昏一、日中有二黑氣一。〔左思、吳都賦〕揮袖風飄、而紅塵晝昏。㊁晝に行ふ婚禮。〔唐書、城陽公主傳〕繇曰、二火皆食、始同レ榮末同レ戚、請二晝昏一則吉。

【晝坐】54 チウザ　晝閒坐つてゐること。〔魏書、崔光傳〕曾於二門下省一、晝坐讀レ經、有レ鴿飛集二膝前一、遂入二于懷一、緣レ臂上レ肩、久レ之乃去、道俗贊詠詩頌者數十人。

【晝灑】55 チウサイ　晝そそぎあらふ。〔元稹、神麴酒詩〕晝灑蟬將レ飮、宵揮鶴誤レ聆。〔沈封指、佞草賦〕薰風晝灑、湛露宵零。

【晝藏】56 チウザウ　日中かくれてゐること。〔宋書、自序、林子傳〕一門既陷二妖黨一、兄弟並應レ從レ誅、逃伏二草澤一、常慮レ及レ禍、而沈預家甚彊富、志相陷滅、林子與二諸兄一、晝藏夜出、卽貨二所レ居宅一、營レ墓葬二父祖諸叔凡六一、喪儉而有レ禮。

【晝餐】57 チウサン　ひるめし。晝食。午餐。晝餔。〔白居易、日長詩〕日長晝加レ餐、夜短朝餘レ睡。

【晝山】58 チウザン　晝の山。〔皎然、送三嚴明府入レ關謁二黎京兆一詩〕潮迴芳渚沒、花落晝山空。

【晝子】59 チウシ　劇曲の名。普通の曲の閒に時々非常に熱鬧な武戲を演ずるもの。芝居の將に果てんとする時に演ずるを晚晝子といひ、中程に演ずるを中晝子といふ。

【晝視】60 チウシ　晝閒に見る。晝見。〔飛燕外傳〕吾晝二視后一、不レ若二夜視之美一。〔博物志、異產〕晝視二孔中上一、狀如レ烟。

【晝試】61 チウシ　晝に試驗をすること。〔宋史、竇貞固傳〕少帝卽位、拜二工部尙書一、遷二禮部尙書一、知二貢擧一、舊制進士夜試、繼以二三燭一、長興二年、改レ令晝試、貞固以二晝晷短、難レ盡二士材一、奏復二夜試一、擇レ士平允、時論稱レ之。

【晝熾】62 チウシ　日中火炎のさかんなこと。〔白居易、香山寺石樓潭夜浴詩〕炎光晝方熾、暑氣宵彌毒。

【晝侍】63 チウジ　晝の閒君側にはべること。〔魏志、杜襲傳〕與二王粲・和洽一並用、粲彊識博聞、故太祖游觀出入、多得二驂乘一、至二其見一レ敬、不レ及二洽・襲一、襲嘗獨見至二于夜半一、粲性躁競、起坐曰、不レ知公對二杜襲一道何等也、洽笑答曰、天下事豈有レ盡邪、卿晝侍可矣、悒二悒於此一、欲レ兼レ之乎。

【晝繡】64 チウシウ　晝錦(27)に同じ。〔陳書、陳寶應傳〕朝廷尊養含弘、寵靈隆赫、起レ家臨レ郡、兼二晝繡之榮一、裂レ地置レ州、假二藩麾之盛一。

【晝日】66 チウジツ　㊀一日。晝日三接を見よ。㊁ひる。ひるま。〔韓非子、解老〕盲則不レ能レ避二晝日之險一。〔呂覽、審己〕晝日步足。〔墨子、明鬼下〕昔者秦穆公、嘗晝日中二處乎廟一。〔後漢書、邊韶傳〕韶口辯、曾晝日假臥、弟子私謿レ之曰、邊孝先、腹便便。〔王粲、從軍詩〕晝日處二大朝一、日暮薄言歸。㊂まひるの太陽。〔西京雜記、二〕武帝時、身毒國、獻二連環羈一、云云、鞍在二闇室中一、常照十餘丈、如二晝日一。〔沈佺期、上之回詩〕黃麾搖二晝日一、青幰曳二松風一。

【晝日三接】67 チウジツサンセツ　親愛されて一日の閒に三度接見するをいふ。〔易、晉〕晝日三接。〔疏〕晝日三接者、言下非二惟蒙レ賜蕃多一、又被二親寵一頻數、一晝之閒、三度接見上也。

【晝餉】68 ヒルゲ　ひるめし。晝餐。晝飯。

【晝出】69 チウシユツ　晝閒外へ出ること。〔莊子、秋水〕鴟鵂夜撮レ蚤察二毫末一、晝出瞋レ目而不レ見二丘山一。

【晝書】70 チウショ　晝閒書くこと。〔越絕書、越絕內經九術〕胥聞、越王句踐、晝書不レ倦、晦誦竟レ旦、聚二死臣數萬一、是人不レ死、必得二其願一。

【晝暑】71 チウショ　晝閒暑いこと。〔王僧孺、秋日愁居答二孔主簿一詩〕首秋雲物善、晝暑旦猶清。

【晝色】72 チウショク　㊀晝閒に色があらはれること。

〔梁簡文帝、七勵〕德星夜映、慶雲晝色、異草雙條、靈禽比翼。❷晝間の色。日中の明るさをいふ。〔沈佺期、夜遊詩〕月華連㆓晝色㆒、燈影雜㆓星光㆒。

【晝昃】73 チウショク 晝が傾く。午後をいふ。〔江淹、爲㆓蕭驃騎㆒錄㆓尙書事㆒到㆑省表〕臣自妄蒙㆓異寵㆒、輕荷㆓殊爵㆒、晝昃猶聳、夜艾方驚。

【晝食】74 チウショク ひるめし。晝飯。午餐。晝餐。晝餔。〔漢書、蕭望之傳〕時太官方上㆓晝食㆒。〔白虎通、禮樂〕平旦食、少陽之始也、晝食、太陽之始也、晡食、少陰之始也、暮食、太陰之始也。〔王安石、寄㆓曾子固㆒詩〕宵床連㆓衾幬㆒、晝食共㆓粗糲㆒。

【晝進】75 チウシン 晝が進む。日が永くなること。〔漢書、天文志〕日陽也、陽用㆑事則日進而北、晝進而長、陽勝故爲㆓溫暑㆒。

【晝寢】76 チウシン ひるね。午睡。晝臥。一說に、日出後に尙ほ寢てゐること。朝寢すること。一說に、晝は畫の字に作るとし、寢室に繪をかくことといふ。〔論語、公冶長〕宰予晝寢。〔集注〕晝寢、謂㆓當㆑晝而寢㆒。〔劉寶楠正義〕江氏聲論語竢質、說文、晝、日之出入、與㆑夜爲㆑界、是日出後爲㆑晝、凡人雞鳴而起、宰我日出後、尙寢寐未㆑起、故責㆑之、鄭注云、寢、臥息也、案說文、寢、臥也、其字從㆑宀、故所㆑臥室亦名㆑之、釋名釋宮室、寢、寢也、所㆓寢息㆒也、是也、晝非㆓寢時㆒、故禮言、君子不㆓晝居㆑內、若晝居㆑內、雖㆓問疾㆒焉可也、夫晝居㆑內且不㆑可、矧晝寢耶、韓李筆解謂、晝、舊文作㆓畫字㆒、所㆑云舊文、或有㆑所㆑本、李匡義資暇錄、寢、梁武帝讀爲㆓寢室之寢㆒、晝作㆓胡卦反㆒、且云當㆑爲㆓畫字㆒、言㆔其繪㆓畫寢室㆒、周密齊東野語、嘗見㆓侯白所㆑注論語㆒、謂㆔晝作㆓畫字㆒、侯白隋人、二讀與㆓舊文㆒合、李氏聯琇好雲樓集、漢書揚雄傳、非㆓木摩而不㆑彫、牆塗而不㆑畫、此正雄所㆑作甘泉賦、諫㆓宮觀奢泰之事㆒、暗用㆓論語㆒、可㆑證㆓畫寢之說、漢儒已有㆑之。〔韓詩外傳、六〕衛靈公晝寢而起、志氣益衰。〔列子、黃帝〕事㆓晝寢㆒而夢遊㆓於華胥氏之國㆒。〔宋玉、高唐賦序〕昔者先王嘗游㆓高唐㆒、怠而晝寢、夢見㆓一婦人㆒。

【晝水】77 チウスイ 晝の水。〔皮日休、所㆑居首夏水木尤淸適然有㆑作詩〕病來無事草堂空、晝水休㆑聞十二筒。

【晝睡】78 チウスイ ひるね。晝寢。午睡。〔宋史、周恭肅王元儼傳〕子允良好㆓酣寢㆒、以㆑日爲㆑夜、由㆑是一宮之人、皆晝睡夕興。〔陸游、舟行㆓蘄黃閒㆒雨霽得㆓便風㆒有㆑感詩〕江底魚龍貪㆓晝睡㆒、淮南草木借㆓秋聲㆒。

【晝生】79 チウセイ 晝に生れる。〔淮南子、墬形訓〕晝生者類㆑父、夜生者似㆑母。

【晝星】80 チウセイ 日中に見える星。〔南齊書、天文志七〕難曰、日之夜蝕驗㆓於夜星之亡㆒、晝蝕旣盡、晝星何故反不㆑見。

【晝晴】81 チウセイ 晝間晴れること。〔孫逖、同㆓邢判官㆒尋㆓龍湍㆒觀㆓歸湖中㆒詩〕星使下㆓仙京㆒、雲湖喜㆓晝晴㆒。

【晝靜】82 チウセイ 日中靜かなこと。〔徐陵、玉臺新詠序〕絳鶴晨嚴、銅蠡晝靜。〔元稹、晚春詩〕晝靜簷疎燕語頻、雙雙鬬雀動㆓堦塵㆒。〔朱熹、書㆑事詩〕重門掩晝靜、寂無㆓人境喧㆒。〔明太宗、賜㆓姚廣孝七十壽㆒詩〕晝靜槐陰合、秋清桂子香。

【晝宵】83 チウセウ ひるとよる。晝夜。〔淮南子、要略〕其喜怒、與㆓晝宵寒暑㆒竝明。

【晝詔】84 チウセウ 晝間に發せられた詔敕。〔李德祐、懷㆓京國㆒詩〕遙思禁苑青春夜、坐得㆓宮人晝詔㆒迴。

【晝樵】85 チウセウ 晝間たきぎを採ること。〔唐書、馬懷素傳〕馬懷素、字惟白、潤州丹徒人、客㆓江都㆒、師㆓事李善㆒、貧無㆑資、晝樵、夜輒然以讀㆑書、遂博通㆓經史㆒。

【晝夕】86 チウセキ 晝夜。〔四十二章經〕佛言吾視㆓禪定㆒如㆓須彌柱㆒、視㆓涅槃㆒如㆓晝夕寤㆒。〔李賀、相㆓勸酒㆒詩〕義和騁㆓六轡㆒、晝夕不㆓曾閑㆒。〔孟郊、遊㆓韋七洞庭別業㆒詩〕朶㆑翠奪㆓日月㆒、照㆑耀迷㆓晝夕㆒。

【晝寂】87 チウセキ 日中しづかなこと。晝靜。〔曹組、艮嶽賦〕花雖㆑芳而晝寂、鳥雖㆑啼而人靜。〔陸游、水亭偶題詩〕金井梧桐生㆓晝寂㆒、綠池蘋藻弄㆓風漪㆒。

【晝接】88 チウセツ 晝に接すること。〔易、晉〕彖曰、康侯用㆓錫馬蕃庶㆒、晝日三接也。〔賈餗、莊周夢爲㆓蝴蝶㆒賦〕六夢紛其夜動、七情忘㆓于晝接㆒。

【晝涉】89 チウセフ 日中わたりあるくこと。〔王維、投㆓道一師蘭若宿㆒詩〕晝涉松路盡、暮投蘭若邊。

【晝戰】90 チウセン 晝間の戰爭。〔國語、齊語〕夜戰聲相聞、足㆓以不㆑乖、晝戰目相視、足㆓以相識㆒。〔孫子、軍爭〕夜戰多㆓火鼓㆒、晝戰多㆓旌旗㆒。〔漢書、鼂錯傳〕夜戰聲相知、則足㆓以相救㆒、晝戰目相見、則足㆓以相識㆒。

【晝前】91 ヒルマヘ 午前をいふ。

【晝蟬】92 チウセン 晝間なくせみ。〔吳均、雜絶句〕晝蟬已傷㆑念、夜露復沾㆑衣。

【晝息】93 チウソク 日中やみをさまること。〔沈奎、烟雨樓賦〕更欲㆓鷗鱷夜遯、波濤晝息、嘉魚出游、翔鳧下集㆒。

【晝短】95 チウタン 日中が短いこと。〔古詩十九首〕生年不㆑滿㆑百、常懷㆓千歲憂㆒、晝短苦㆓夜長㆒、何不㆓秉㆑燭遊㆒。〔宋書、天文志一〕極之立時、日行㆓地中㆒淺、故夜短、天去㆑地高、故晝長也、極之低時、日行㆓地中㆒深、故夜長、天去㆓地下㆒淺、故晝短也。〔杜荀鶴、喜㆓從弟雪中遠至㆒有㆑作詩〕晝短夜長須㆓強學㆒、學成貧亦勝㆓他貧㆒。

〖晝短圈〗96 chou^4 tuan^3 chʻüan^1 南回歸線。

【晝長】97 チウチヤウ 晝間が長いこと。〔後漢書、張衡傳〕晝長則宵短、日南則景北、天且不㆑堪㆑兼、況以㆑人該㆑之。〔孟郊、立德新居詩〕夜高星辰大、晝長天地分。〔劉禹錫、送㆔李策秀才還㆓湖南㆒因寄㆓幕中親故㆒兼簡㆓衡州呂八郎中㆒詩〕深春風日淨、晝長幽鳥鳴。

〖晝長圈〗98 chou^4 chʻang^2 chʻüan^1 北回歸線。

【晝定】99 チウヂヤウ 晝の禪定をいふ。〔賈島、內道場僧弘紹詩〕夜閑同㆑像寂、晝定爲㆑吾開。

【晝中】100 ヒルナカ ひるま。晝間。〔紫式部日記〕ただかく曇りなきひるなかに。

【晝眺】101 チウテウ 晝にながめること。〔祖詠、陸渾水亭詩〕晝眺伊川曲、巖間霽色明。

【晝簟】102 チウテン 晝のたかむしろ。簟は夏の晝寢などに用ひるもので、竹や葦で編んだむしろ。〔惠洪、次㆓韻周達道運句㆒詩〕瘴痾蘇㆓晝簟㆒、小寢喧㆓鼻息㆒。

【晝殿】103 ヒルノドノ 晝間に居る殿。

【晝讀】104 チウドク 晝に讀むこと。〔南史、沈約傳〕篤㆑志好㆑學、晝夜不㆑釋㆑卷、母恐㆓其以㆑勞生㆑疾、常遣㆓減㆑油滅㆑火、而晝之所㆑讀、夜輒誦㆑之、遂博通㆓羣籍㆒。

【晝熱】105 チウネツ 晝間が暑いこと。〔潘岳、上客舍議〕行者貪㆑路、告糴炊爨、皆以㆓昏晨㆒、盛夏晝熱、又兼㆓星夜㆒。〔梅堯臣、夜泊㆓虹縣㆒同㆓施景仁太博㆒河上納涼書㆑事詩〕月落見㆓星繁㆒、星繁如㆓晝熱㆒。

【晝吠】106 チウハイ 晝間吠えること。〔淮南子、泰族訓〕君子之過也、猶㆓日月蝕㆒、何害㆓於明㆒、小人之可也、猶㆓狗之晝吠、鴟之夜見㆒、何益㆓於善㆒。

【晝霾】107 チウバイ 晝間風が烈しく砂塵を吹き散らすこと。霾は風が土を雨ふらすこと。〔蘇軾、泗州南山監倉蕭淵東軒詩〕北望飛塵苦㆓晝霾㆒、洗心聊復寄㆓東齋㆒。

【晝飯】108 チウハン 晝の食事。〔蘇轍、詩〕春寒燒㆓黃茅㆒、晝飯煑㆓青茹㆒。

【晝扉】109 チウヒ 晝のとびら。〔白居易、渭村退居寄㆓禮部崔侍郎翰林錢舍人㆒一百韻詩〕晝扉扃㆓白版㆒、夜碓擣㆓黃粱㆒。

【晝寐】110 チウビ ひるね。晝寢。〔陸游、眉州驛舍睡起詩〕雨餘古驛涼、晝寐無㆑錯㆑履。

【晝風】111 チウフウ 晝間のかぜ。〔孫子、火攻〕晝風久、夜風止。

【晝伏】112 チウフク 晝間かくれてゐる。〔唐書、馮元常傳〕夜掠㆑人、晝伏㆓山谷㆒。

〖晝伏夜行〗113 チウフクヤカウ 晝はかくれて夜にあるく。〔戰國、秦策〕伍子胥橐載而出㆓昭關㆒、夜行而晝伏、至㆓于蔆水㆒。〔後漢書、劉翊傳〕翊夜行晝伏、乃到㆓長安㆒。〔白虎通、誅伐〕人銜㆑枚、馬韁勒、晝伏夜行爲㆑襲也。〔元史、張晉亨傳〕跋㆓涉險阻㆒、晝伏夜行、僅免㆓于難㆒。

【晝分】114 チウブン ❶日の正中する時。晝間。〔曹植、上㆓責㆑躬應詔詩㆒表〕晝分而食、夜分而寢。❷晝に分かれる。〔神仙傳〕天地晝分而夜合。

【晝閉】115 チウヘイ 日中閉ぢること。晝間はしめること。〔後漢書、班勇傳〕恐河西城門、必有㆓晝閉之儆㆒矣。〔晉書、王彌傳〕有㆓衆數萬㆒、朝廷不㆑能㆑制、會㆓天下大亂㆒、進逼㆓洛陽㆒、京邑大震、宮城門晝閉。〔顏延之、贈㆓王太常㆒詩〕側同幽人居、郊扉常晝閉。〔隋煬帝、秦孝王誄〕琴臺夜開、書帷晝

閉。

【晝瞑】116（チウベイ チウメイ） 晝に眠る。又、晝間瞑目して死ぬこと。〔莊子、知北遊〕婀荷甘與㆓神農㆒同學㆓于老龍吉㆒、神農隱㆑几闔㆑戶晝瞑、婀荷甘日中奓㆑戶而入曰、老龍死矣、神農隱㆑几擁㆑杖而起、曝然投㆑杖而笑曰、天知㆓予僻陋慢訑㆒、故棄㆑予而死、已矣、夫子無㆓所㆑發㆑予之狂言㆒而死矣夫。

【晝餔】117（チウホ） ひるめし。晝食。〔莊子、盜跖〕我將㆘以㆓子肝㆒益㆗晝餔之膳㆖。

【晝暮】118（チウボ） 晝夜。〔後漢書、黃瓊傳〕竊見陛下遵㆓稽古之鴻業㆒、體㆓虔肅㆒以應㆑天、順㆑時奉㆑元、懷㆓柔百神㆒、朝夕觸㆓塵埃于道路㆒、晝暮聆㆓庶政㆒以郵㆑人。

【晝盲】119（チウマウ） 晝間眼の見えないこと。〔呂覽、明理〕有㆓晝盲㆒、有㆓霄見㆒。

【晝密】120（チウミツ） 晝間おくぶかくしづかなこと。〔張協、七命〕幽堂晝密、明室夜朗。〔注〕良曰、晝密、謂㆑深也。

【晝眠】121（チウミン） 晝間ねむる。〔南齊書、東昏侯紀〕晝眠夜起如㆓平常㆒。〔千字文〕晝眠夕寢。〔宋之問、玩㆓郡齋海榴㆒詩〕野禽宵未㆑囀、山蜚晝仍眠。

【晝霧】122（チウム） 晝間霧が立ちこめること。〔唐書、五行志三〕元和十五年正月、庚辰至㆓于丙申㆒、晝常陰晦微雨雪、夜則晴霽、占曰、晝霧夜晴、臣志得㆑申。

【晝明】123（チウメイ） 晝間のあかるさ。〔陸游、夜歸㆓塼街巷㆒書㆑事詩〕近坊燈火如㆑晝明、十里東風吹㆑市聲。

【晝冥】124（チウメイ） 晝間暗いこと。冥は昧と同じ。〔公羊、僖、十五、晦者何、疏〕欲㆑言㆓月晦㆒、例所㆑不㆑書、欲㆑言㆓晝冥㆒、亦非㆓常錄㆒、故執㆑不㆑知問。〔漢書、張敞傳〕方㆓其隆時㆒、感㆓動天地㆒、侵㆓迫陰陽㆒、月朓日蝕、晝冥宵光、地大震裂、火生㆓地中㆒、天文失㆑度、祅祥變怪、不㆑可㆓勝記㆒。

【晝夜】125（チウヤ） よるとひる。晝宵。日夜。〔易、繫辭上〕剛柔者、晝夜之象也。〔書、益稷〕傲虐是作、罔㆓晝夜㆒頟頟。〔禮、檀弓上〕非㆑疾也不㆔晝夜居㆓於內㆒。〔莊子、天道〕日月照而四時行、若㆓晝夜之有㆑經、雲行而雨施㆒矣。〔史記、伍子胥傳〕包胥立㆓於秦廷㆒、晝夜哭七日七夜、不㆑絕㆓其聲㆒。

【晝夜廻】126（チウヤマハリ） 江戶時代、番衆が晝夜の時を定め、交替して江戶市中を巡廻して警戒したこと。又、其の者。〔教令類纂、初、四十二〕寶永六年三月、御番衆晝夜廻之儀、被㆔仰㆓出之㆒。

【晝夜風】127（チウヤフウ） 夜と晝とによつて方向の異なる風。海風陸風の類。

【晝夜銀行】128（チウヤギンカウ） 夜も營業する銀行。

【晝夜兼行】129（チウヤケンカウ） 晝夜をわかたずに、急行すること。轉じて、仕事を急ぎ行ふことにもいふ。〔吳志、呂蒙傳〕使㆓白衣搖㆑櫓、作㆓商賈人服㆒、晝夜兼行、至㆓羽所㆑置江邊屯候㆒、盡收㆓縛之㆒。〔蒲生褧亭、近世偉人傳〕晝夜兼行、抵㆓木曾㆒。

【不㆑舍㆓晝夜㆒】130（チウヤヲオカズ） よるひるやすみがない。〔論語、子罕〕逝者如㆑斯夫、不㆑舍㆓晝夜㆒。〔孟子、離婁下〕原泉混混、不㆑舍㆓晝夜㆒。〔後漢書、章帝紀〕作㆓登歌㆒正㆓雅樂㆒、博㆓貫六蓺㆒、不㆑舍㆓晝夜㆒、聰明淵塞、著在㆓圖讖㆒。

【晝夜平分之時】131（チウヤヘイブンノトキ） 晝と夜とのながさが平均なとき。〔白居易、中和之日謝㆓恩賜尺㆒狀〕當㆓晝夜平分之時㆒、頒㆓度量合同之令㆒。

【晝來】132（チウライ） 晝に來る。〔蔡襄、慈竹賦〕或薰風晝來、或秋露宵墜。

【晝林】133（チウリン） 晝間の林。〔法振、病愈寄㆑友詩〕檮㆑藥晝林靜、汲㆑泉陰澗遲。

【晝獵】134（チウレフ） 晝間に狩獵をする。〔韓翃、送㆔康洗馬歸㆓滑州㆒詩〕臘雪夜看宜㆑縱㆑飮、寒蕪晝獵不㆑妨㆑行。

【晝斂】135（チウレン） 晝間に花がつぼむこと。〔埤雅〕荷花日舒夜斂、芡花晝斂宵放、此陰陽之異也。

【晝漏】136（チウロウ） 晝間の時間をいふ。漏は漏刻。〔書、堯典、日永星火、以正㆓仲夏㆒、疏〕於㆓日正長㆒、晝漏最多。〔後漢書、律曆志下、夏至、注〕月令章句曰、夏至之爲㆑極有㆓三意㆒焉、晝漏極長、去㆑極極近、晷景極短。〔宋書、禮志上〕晝漏上水六刻、諸蠻夷胡客以㆑次入。〔杜甫、紫宸殿退朝口號詩〕晝漏希㆑聞高閣報、天顏有㆑喜近臣知。〔元稹、春詩〕晝漏頻加㆑箭、宵暉欲㆓半弓㆒。〔宋史、律曆志九〕冬至晝漏四十刻、夜漏六十刻、夏至晝漏六十刻、夜漏四十刻。〔楊億、咸平六年二月十八日、扈㆓從宸遊㆒因成㆓紀事二十二韻㆒詩〕玉輅天行健、金壺晝漏長。

【晝往】137（チウワウ） 晝間に往くこと。〔晉書、霍原傳〕年十八、觀㆓太學行㆑禮、因留習㆑之、貴游子弟、聞而重㆑之、欲㆓與相見㆒、以㆓其名微㆒不㆑欲㆓晝往㆒、乃夜共造焉。

【晝行燈】138（ヒルアンドン） ぼんやりした者の喩。晝間の行燈は光がにぶいからいふ。うすぼんやりしているところから。愚かな人に喩へていふ。

【晝御座】139（ヒルノオマシ ヒルノオマシ・ヒノゴザ） 天子日中の御座所。〔西宮記、正月上、供御藥〕主上起㆓晝御座㆒、入㆑自㆓夜御殿南戶㆒。

【晝裝束】140（ヒノサウゾク） 日中の束帶。ひのよそひ。宿直裝束の對。束帶の一稱で、衣冠又は直衣を、とのゐ裝束といふに對す。〔蜻蛉日記、下〕春日祭、云云、うるはしうひのさうぞくに先駈あまた引きつれ。

【晝三更】141（ヒルサンカウ） 正午。夜三更に對應して、晝三更といふ。詩人の語。〔楊萬里、夏夜月下獨酌詩〕誰道今年熱、今宵分外清、竹風秋九夏、溪月晝三更、此景天慳㆑與、無㆑人酒自傾、明朝火繖上、別作㆓一經營㆒。

【晝如㆑錦】142（ヒルニシキノゴトシ） 花の咲き揃つた景色をいふ。〔李白、月下獨酌詩〕三月咸陽城、千花晝如㆑錦。

【晝盜人】143（ヒルヌスビト） 晝間、人の家の隙を伺つて物を盜む者。晝鳶。

【晝破子】144（ヒルワリゴ） 晝飯の破子。晝辨當。

【晝想夜夢】145（チウサウヤム） 晝の思が夜の夢となる。〔列子、周穆王〕晝想夜夢、神形所㆑遇。〔潛夫論、夢列〕晝有㆑所㆑思、夜夢㆓其事㆒。

【晝簾緒論】146（チウレンショロン） 書名。一卷。宋、胡太初撰。居官の道を論次したもの。〔四庫提要、史、職官類〕。

【俾㆓晝作㆑夜】147（ヒルヲシテヨルトナサシム） 白晝でも夜のやうに遊宴して政事を視ないこと。〔詩、大雅、蕩〕式號式呼、俾㆓晝作㆑夜。〔箋〕用㆓晝日㆒作㆑夜、不㆑視㆓政事㆒。

【卜㆑晝未㆑卜㆑夜】148（ヒルヲボクシイマダヨルヲボクセズ） 日を擇ぶのに、晝間の善いことは之を卜つて知つたが、夜間は未だ卜はない。〔左氏、莊、二十二〕飮㆓桓公酒㆒、樂、公曰、以㆑火繼㆑之、辭曰、臣卜㆓其晝㆒、未㆑卜㆓其夜㆒、不㆑敢。

【晝不㆑操㆑燭日有㆓餘光㆒】149（ヒルシヨクヲトラザルモヒヨクワウアリ） 日中は燭をともさなくても明るい。德あるものは名を求めなくても其の光の現はれる喩。〔蜀志、秦宓傳〕甫欲㆓鑿㆑石索㆑玉、剖㆑蚌求㆑珠、今乃隨和炳然有㆑如㆓皎日㆒、復何疑哉、誠知晝不㆑操㆑燭、日有㆓餘光㆒。

【晞】
13949

小篆

キ ケ 〔集韻〕香依切 ㄒㄧ hsi¹ 微

㊀**かわく**。かわかす。〔說文〕晞、乾也、从㆑日希聲。〔詩、秦風、蒹葭〕白露未㆑晞。〔傳〕晞、乾也。〔詩、小雅、湛露〕匪㆓陽不㆑晞。〔傳〕晞、乾也。〔禮、玉藻〕髮晞用㆓象櫛㆒。〔注〕晞、乾也。〔楚辭、九歌、少司命〕晞㆓女髮兮陽之阿㆒。〔注〕晞、乾也。㊁**さらす**。日にほす。〔方言、七〕晞、暴也、暴㆓五穀之類㆒、東齊北燕海岱之郊、謂㆓之晞㆒。㊂**きえる**。稀(**8**－**25058**)に通ず。〔說文通訓定聲〕晞、叚借爲㆑稀。〔楚辭、王逸、九思、疾世〕塵漠漠兮未㆑晞。〔注〕晞、消也。㊃**あける**。あきらか。朝日の光が始めてのぼる。闓(**11**－**41451**)に通ず。〔說文通訓定聲〕晞、叚借爲㆑闓。〔詩、齊風、東方未明〕東方未㆑晞。〔傳〕晞、明之始升。〔疏〕晞、謂㆔將㆑旦之時、日之光氣、始升㆓于上㆒。

【晞遠】1（キエン） 宋、吳駿(**2**－**3365**‥230)の字。

【晞幹】2（キカン） みきを日にさらす。木を日中にさらす。〔嵇康、琴賦〕夕納㆓景于虞淵㆒兮、旦晞㆓幹於九陽㆒。〔注〕善曰、晞、乾也、幹、木也。

【晞顏】3（キガン） ㊀宋の高僧。奉化の人。字は聖徒。號は雪溪。文藻高妙、詩に巧。〔新續高僧傳、二十七〕。㊁字號。㋑宋、張庶(**4**－**9812**‥418)の字。㋺宋、陳從吉(**11**－**41698**‥969)の字。

【晞顏齋】4（キガンサイ） 林恕の號。林鵞峰（6－14551‥277）を見よ。

【晞堁】5（キクワ） 乾いた土。堁は土塵。〔淮南子、說山訓〕螾無㆓筋骨之強、爪牙之利㆒、上食㆓晞堁㆒、下飮㆓黃泉㆒、用㆑心一也。〔注〕晞、乾也、堁、土塵也、楚人謂㆓之堁㆒。

【晞塊】6（キクワイ） 乾いた土。晞堁に同じ。〔文子、上德〕蚯蚓無㆓筋骨之強、爪牙之利㆒、上食㆓晞塊㆒、下飮㆓黃泉㆒、用㆑心一也。〔注〕塊、一本作㆑堁。

【晞古】7（キコ） 宋、李唐（6－14459‥551）の字。

【晞日】8（キジツ） 日にさらす。〔陸機、演連珠〕准㆑月稟㆑水不㆑能㆑加㆑涼、晞㆑日引㆑火不㆓必增㆑輝。

【晞稷】9（キシヨク） 宋、楊邦乂（6－15112‥741）の字。

【晞土】10（キド） 乾いた土。〔大戴禮、勸學〕蟥無㆓爪牙之利、葥脉之強㆒、上食㆓晞土㆒、下飮㆓黃泉㆒者、用㆑心一也。〔說苑、雜言〕夫蚯蚓內無㆓筋骨之強㆒、外無㆓爪牙之利㆒、然下飮㆓黃泉㆒、上墾㆓晞土㆒。

【晞髮】11（キハツ） 髮を散らして乾かす。〔禮、玉藻〕髮晞用㆓象櫛㆒。〔注〕晞、乾也。〔楚辭、九歌、少司命〕與㆑女沐㆓兮咸池㆒、晞㆓女髮兮陽之阿㆒。〔注〕晞、乾也。〔陸雲、九愍、悲郢〕朝彈㆑冠以晞㆑髮、夕振㆑裳而濯㆑足。〔齊東野語〕趙子固買㆓舟湖上㆒、飮酣脫㆑帽、以㆑酒晞㆑髮、旁若㆑無㆑人。

【晞髮子】12（キハツシ） 宋、謝翶（10－35827‥31）の號。

【晞髮集】13（キハツシフ） 書名。原書は二十八卷、今本は十卷。遺集二卷・遺集補一卷・天地間集一卷・西臺慟哭記注一卷・冬靑引注一卷。宋、謝翶撰。平湖の陸大業が刊行したもの。晞髮子は謝翶の號。〔四庫提要、集、別集類〕

【晞髮堂】14（キハツダウ） 清、楊賓（6－15112‥332）の室名。

【晞陽】15（キヤウ） 後魏、呂溫（2－3386‥15）の字。

【晞和】16（キワ） あたたかなこと。のどかなこと。〔元會大饗歌〕仰施如㆑雨、晞和猶㆑春。

【晟】13950

㊀セイ ジヤウ 〔集韻〕時正切 ㄕㄥˋ shêng⁴ 敬

㊁セイ ジヤウ 〔集韻〕時征切 庚

小篆

㊀㊁❶あきらか。或は晠（5－13951）に作る。〔說文新附〕晟、明也、从㆑日成聲。〔集韻〕晟、明也、或書作㆑晠。〔正字通〕晠、日光充盛也。❷さかん。盛（8－23005）に通ず。〔廣韻〕晟、熾也。〔正字通〕晠、熾也、古通㆓借盛㆒。〔楚辭、九章、思美人〕高辛之靈晟兮。〔集注〕晟、一作㆑盛。❸めしびつ。〔集韻〕晟、飯匱也。❹晶（5－14000）に同じ。〔集韻〕晶、說文、精光也、或作㆑晟。

名乘 アキラ。

【晠】13951

セイ

晟（5－13950）に同じ。〔正字通〕晠、同㆑晟。

【晡】13952

ホ フ 〔集韻〕奔模切 ㄅㄨ pu¹ 虞

❶ゆふがた。さるのとき。七つ。午後四時。〔玉篇〕晡、申時也。〔淮南子、天文訓〕日至㆓於悲谷㆒、是謂㆓晡時㆒。〔宋玉、神女賦〕晡夕之後。〔注〕善曰、晡、日昳時也。〔北齊書、王晞傳〕朝晡給㆓典御食㆒。❷餔（12－44173）に通ず。〔後漢書、王符傳、非㆓朝餔㆒不㆑得㆑通、注〕餔、謂㆓日加㆑申時㆒也、今爲㆓晡字㆒也。

【晡下】1 pu¹ hsia 午後四時すぎ。七つさがり。

【晡時】2（ホジ） 申の刻。今の午後四時。〔公羊、定、十五、戊午日下昃乃克葬、注〕下昃、蓋晡時。〔漢書、五行志下之下〕日中時食、從㆓東北㆒過半、晡時復。〔淮南子、天文訓〕日至㆓於悲谷㆒、是謂㆓餔時㆒。〔集解〕文典謹按、藝文類聚・初學記・御覽引、餔並作㆑晡。〔後漢書、皇甫嵩傳〕鷄鳴馳㆓赴其陳㆒、戰至㆓晡時㆒、大破㆑之。

【晡食】3（ホシヨク） 夕方の食事。晩餐。〔柳宗元、段太尉逸事狀〕太尉曰、吾未㆓晡食㆒、請假設㆓草具㆒。

【晡夕】4（ホセキ） ひぐれ。夕がた。薄暮。〔宋玉、神女賦序〕晡夕之後、精神怳忽、若㆑有㆑所㆑喜。〔注〕善曰、晡、日昳時也、銑曰、晡夕、晩夕也。

【晡天】5 pu¹ t'ien¹ 午後四時。晡時。

【晢】13953

㊀セツ セチ 〔集韻〕之列切 ㄓㄜˊ chê² 屑

㊁テツ テチ 〔書釋文〕丁列切 屑

㊂セイ 〔集韻〕征例切 霽

㊃セキ シヤク 〔集韻〕思積切 陌

小篆（說文）

小篆（段注本）

㊀㊁❶あきらか。さとい。〔說文〕晢、昭晢、明也、从㆑日斲聲、禮曰、晢明行㆑事。〔段注〕各本篆體誤、今正、斲、舊作㆑折、今正、按、昭晢皆从㆑日、本謂㆓日之光㆒、引㆓申之㆒爲㆓人之明哲㆒、云云、士冠禮、宰告曰、質明行㆑事、云云、許所㆑據作㆓晢明㆒。❷哲（2－3667）に通ず。〔書、洪範〕明作㆑哲。〔釋文〕徐、丁列反。〔校勘記〕定本作㆑哲、則讀爲㆑哲。❸晣（5－13954）に同じ。〔集韻〕晣、亦書作㆑晢。㊂❶白い。〔集韻〕晢、博雅、白也。❷星のひかるさま。晢晢(2)を見よ。㊃㊂の❶に同じ。

【晢菴】1（セイアン） 石原學魯の號。石原晢菴（8－24024‥1065）を見よ。

【晢晢】2（セイセイ） 星のひかるさま。又、光明のさま。明かなさま。〔詩、陳風、東門之楊〕昏以爲㆑期、明星晢晢。〔傳〕晢晢、猶㆓煌煌㆒也。〔張衡、東京賦〕夏正三朝、庭燎晢晢。

【晣】13954

㊀セツ ㊁セイ

㊀晢（5－13953）に同じ。〔集韻〕晣、說文、昭晣、明也、引㆓禮記晣明行㆑事、或書作㆑晢。㊁⿰日制（5－14012）に同じ。〔集韻〕晣、或从㆑制。

【晣晣】1（セイセイ） あきらか。〔詩、小雅、庭燎〕夜未㆑艾、庭燎晣晣。〔傳〕晣晣、明也。

【⿰日肖】13955

セウ

宵（3－7168）の古字。〔玉篇〕⿰日肖、古文宵。

【晤】13956

ゴ 〔集韻〕五故切 ㄨˋ wu⁴ 遇

小篆

❶あきらか。かしこい。〔說文〕晤、明也、从㆑日吾聲、詩曰、晤辟有㆑摽。〔段注〕晤者、启之明也、心部之悟、㝱部之寤、皆訓㆑覺、覺亦明也、同聲之義、必相近。〔唐書、李素立傳〕少秀晤。〔宋史、眞宗紀贊〕眞宗英晤之主。❷あふ。むかふ。對面する。遻（11－39136）に通ず。〔說文通訓定聲〕晤、段借爲㆑遻。〔正字通〕晤、人相見曰㆑晤。〔詩、陳風、東門之池〕可㆓與晤言㆒。〔傳〕晤、遇也。〔箋〕晤、猶㆑對也。❸さとす。〔字彙〕晤、又以㆑言曉㆑人。❹さめる。寤（3－7291）に通ず。〔說文通訓定聲〕晤、段借爲㆑寤。〔詩、邶風、柏舟〕寤辟有㆑摽。❺うちとける。〔詩、陳風、東門之池、集傳〕晤、猶㆑解也。❻ほがらか。〔廣韻〕晤、朗也。❼或は旿（5－13780）に作る。〔集韻〕晤、或从㆑午。

【晤恩】1（ゴオン） 宋の高僧。常熟の路氏の子。字は修己。雍熙中、示寂す。著に錢塘慈光院志・玄義文句止觀・金光明金錍論科總三十五帖がある。〔宋高僧傳、七〕。

【晤歌】2（ゴカ） むかひあって歌ふ。一說に、互にうちとけてうたふ。〔詩、陳風、東門之池〕彼美淑姬、可㆓與晤歌㆒。〔傳〕晤、遇也。〔箋〕晤、猶㆑對也、言、淑姬賢女、君子宜㆓與對歌相切化㆒也。〔集傳〕晤、猶㆑解也。

【晤期】3 wu⁴ ch'i² 面會の期日。

【晤會】4 wu⁴ huei⁴ 顔を合せる。面會。

【晤言】5 ゴゲン 向ひ合つて語る。相遇つて語る。對話。晤語。又、明かに言ふ。〔詩、陳風、東門之池〕彼美淑姬、可二與晤言一。〔傳〕言、道也。〔阮籍、詠懷詩〕日暮思二親友一、晤言用自寫。〔注〕善曰、鄭玄曰、晤、對也、翰曰、晤、明也。〔謝惠連、泛レ湖歸出二樓中一翫レ月詩〕晤言不レ知レ罷、從レ夕至二清朝一。〔韓愈、送三侯參謀赴二河中幕一詩〕策馬誰可レ適、晤言誰爲レ應。

【晤語】6 ゴゴ ❶向ひ合つて語る。又、互にうちとけて語る。晤言。〔詩、陳風、東門之池〕彼美淑姬、可二與晤語一。〔杜甫、大雲寺贊公房詩〕晤語契二深心一。〔書言故事、談論類〕敍二間闊一、云三疎奉二晤語一。❷書名。二卷。名島政方撰。神道・國語・國文學・國史等について考證したもの。

【晤謝】7 wu⁴ hsieh⁴ 面會の上で禮を述べる。

【晤商】8 wu⁴ shang¹ 面會の上で相談する。遇つて協議する。

【晤敍】9 wu⁴ hsü⁴ あつて話する。面會の上、申陳べる。

【晤對】10 ゴタイ あふ。面會する。〔謝靈運、酬二從弟惠連一詩〕晤對無二厭歇一、聚散成二分離一。〔張養浩、山中拜除自和詩〕何時晤對安心竟。

【晤談】11 ゴダン 面談する。面會の上打解けて物語る。睦まじく話す。〔福惠全書、筮仕部、延幕友〕晤談之中、微扣レ所レ學。

【晤明】12 ゴメイ あきらかなこと。〔說文〕晤、明也。

【晥】13957

㊀クワン ゲン 〔集韻〕戶版切 潸

㊁クワン グワン 〔集韻〕戶管切 旱

㊀**あきらか**。晥(**8－22736**)に同じ。〔集韻〕晥、明皃、或从レ日。㊁**縣名**。漢、置く。今、安徽省潛山縣。〔集韻〕晥、縣名在二廬江一。〔漢書、地理志上〕廬江郡、縣十二、晥。〔後漢書、馬援傳〕攻二沒晥城一。

名乘 キヨ。アキラ。

【晩】13958

クワン 晥(**5－13957**)に同じ。〔篇韻〕晩、同レ晥。

【㫲】13959

㊀ハイ バイ 〔集韻〕蒲昧切 隊

㊁ホツ ボチ 〔集韻〕薄沒切 月

㊀㊁**くらい**。〔集韻〕㫲、暗也。〔左思、吳都賦〕旭日晻㫲。〔注〕善曰、㫲、亦闇也。

【晦】13960

クワイ 〔集韻〕呼內切 隊 ㄏㄨㄟˋ huei⁴

小篆

❶**つごもり**。**みそか**。陰暦の一箇月の最終日。〔說文〕晦、月盡也、从レ日每聲。〔釋名、釋天〕晦、月盡之名也、晦、灰也、火死爲レ灰、月光盡似レ之也。〔左氏、成、十七〕陳不レ違レ晦。〔注〕晦、月終、陰之盡。❷**くらい**。くれる。くらむ。〔爾雅、釋言〕晦、冥也。〔詩、鄭風、風雨〕風雨如レ晦。〔傳〕晦、昏也。〔漢書、高帝紀〕是時雷電晦冥。〔注〕師古曰、晦冥、皆謂レ暗也。❸**やみ**。よる。〔易、隨〕君子以嚮レ晦入宴息。〔翟元注〕晦者、冥也。〔左氏、昭、元〕晦淫惑疾。〔注〕晦、夜也。〔國語、魯語下〕晦而休。〔注〕晦、冥也。❹**くらます**。〔詩、周頌、酌〕遵養時晦。〔傳〕晦、昧也。〔隋書、高祖紀〕深自晦匿。❺**おろか**。〔舊唐書、宣宗紀〕帝外晦而內明。❻**かすか**。〔左氏、成、十四〕志而晦。〔注〕晦、亦微也。❼**しばらく**。幾ばくもない。〔班固、幽通賦〕鮮二生民之晦在一。〔注〕善曰、曹大家曰、晦、亡レ幾也。❽**つきる**。おとろへる。なえる。しぼむ。〔江淹、雜體、王徵君養レ疾詩〕寂歷百草晦。〔注〕善曰、說文曰、晦、盡也、謂二彫盡一也、一曰、毛萇詩傳曰、晦、味也、凡草木華實榮茂、謂二之明一、枝葉彫傷、謂二之晦一。❾**きり**。〔爾雅、釋天〕霧謂二之晦一。❿現不幸。

【晦暗】1 クワイアン くらい。〔後漢書、桓帝紀〕閒者日食毀缺、陽光晦暗。

【晦菴】2 クワイアン ❶宋、朱熹の講學の室名。後人、朱熹を稱して晦菴先生といふはこれに本づく。今、福建省建陽縣の西北の雲谷山の傍。〔宋元學案、晦翁學案〕文公朱晦菴先生熹。〔陸游、寄二題朱元晦武夷精舍一詩〕有三方爲レ子換二凡骨一、來讀二晦菴新著レ書。❷宋、李處全(**6－14459**‥1469)の號。

【晦菴集】3 クワイアンシフ 書名。一百卷。宋、朱熹撰。其の子在の編と傳ふ。別集七卷は余師魯の編。續集五卷は編者不明。〔四庫提要、集、別集類〕。

【晦昱】4 クワイイク 夜と晝。〔李質、艮嶽賦〕割二陰陽於晦昱一。

【晦淫】5 クワイイン 晦氣が過ぎる。晦は六氣の一。〔左氏、昭、元〕六氣曰二陰陽風雨晦明一也、云云、晦淫惑疾。〔注〕晦、夜也、爲二宴寢過一レ節、則心惑亂。

【晦翁】6 クワイヲウ 宋、朱熹(**6－14424**‥108)の號。

【晦景】7 クワイエイ くらいかげ。〔周思鈞、晦日重宴詩〕綺筵乘二晦景一、高宴下二陽池一。

【晦巖】8 クワイガン 宋、沈清臣(**6－17189**‥567)の號。

【晦氣】9 クワイキ ❶腹立たしい。殘念至極。〔燕子箋、轟報〕這也有レ理、是我活晦氣。❷hui⁴ ch'i⁴ 不幸。不仕合。運が惡い。

【晦氣星】10 huei⁴ ch'i⁴ hsing¹ 不運の人。貧乏神。

【晦晦】11 クワイクワイ くらいさま。〔莊子、知北遊〕媒媒晦晦、無心而不レ可二與謀一、彼何人哉。

【晦卿】12 クワイケイ 字號。❶明、謝汝明(**10－35827**‥300)の字。❷明、李文燭(**6－14459**‥1912)の字。

【晦曉】13 クワイゲウ あけがたのくらいこと。〔陳黯詰、鳳說〕雞、常禽也、晦曉而不レ昧二其候一、鳳、靈鳥也、理亂而不レ知二其時一耶。

【晦缺】14 クワイケツ 晦日に月がかけること。〔劉清叟、醉月亭詩〕望圓晦缺秋復春、古時明月今時人。

【晦顯】15 クワイケン 世に知られないことと世にあらはれること。くらますこととあらはすこと。〔歐陽脩、晏公神道碑銘〕其世次晦顯、從遷不レ常。

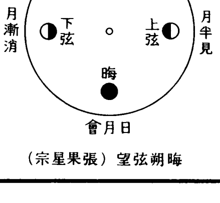
【晦黑】16 クワイコク くらいこと。〔王融、淨行頌、脩理六根篇頌〕晦黑滋レ生、昏囂競レ欲。

【晦在】17 クワイザイ 餘す所幾ばくもない。〔班固、幽通賦〕惟天地之無レ窮兮、鮮二生民之晦在一。〔注〕善曰、曹大家曰、晦、亡レ幾也。

【晦藏】18 クワイザウ くらましかくす。又、くらましひそむ。韜晦。〔歐陽脩、太常博士尹君墓誌銘〕爲レ人剛簡不二矜飾一、能自晦藏。

【晦朔】19 クワイサク ❶つごもりとついたち。晦日と朔日。〔春秋、桓、十七、十月朔、杜注〕晦朔者、日月之會也。〔郭璞、遊仙詩〕晦朔如二循環一、月盈已復魄。〔孟浩然、赴レ京途中遇レ雪詩〕窮陰連二晦朔一、積雪遍二山川一。❷晩と朝。〔莊子、逍遙遊〕朝菌不レ知二晦朔一。〔釋文〕晦、冥也、朔、旦也。

【晦朔弦望】20 クワイサクゲンバウ 晦はつごもり、朔はついたち、弦は上弦と下弦とあり、朔と望の中間の一日を上弦、望と晦の中間の一日を下弦といふ。望は十五日。〔後漢書、律曆志中〕晦朔弦望。〔張果星宗、晦朔弦望圖說〕日有二晦朔一、月有二弦望一、初一爲レ朔、十五爲レ望、朔望中一日爲二上弦一、望晦中一日爲二下弦一、日屬レ陽、月屬レ陰、陰常爲レ陽消剝、自二月初一月從二右行一、漸離二於日一、而明漸生、至二初七八一、明半見如二弓弦一、故謂二上弦一、至二十五一月去レ日最遠、故得レ全、其明日月相望、謂二之望一、月半後則漸近二日左畔一、而明漸消、至二二十二三一、僅存二半明一、亦如二弓弦一、故謂二之下弦一、至二三十日一日月相合、月爲レ日消盡、謂二之



晦朔弦望（張果星宗）

晦一。

【晦之】21 クワイシ 字號。❶宋、易著明(5－13814··214)の字。❷宋、張景(4－9812··253)の字。❸宋、陳炳(11－41698··542)の字。❹宋、李昭亮(6－14459··1589)の字。❺金、周嗣明(2－3441··694)の字。❻清、蔣師掄(9－31820··168)の字。❼清、聶芳聲(9－29179··38)の字。❽清、錢大昭(11－40563··376)の字。

【晦室】22 クワイシツ くらい室。〔說苑、政理〕人始入レ官、如レ入二晦室一。

【晦日】23 クワイジツ 月の最終日。みそか。〔公羊、僖、十六〕何以不レ日、晦日也。〔吳志、孫韶傳、注〕須二晦日設レ祭除レ服。〔晉書、韓友傳〕七月晦日。

【晦澀】24 クワイジフ 文章の意味があきらかにとほらない。すらすらと讀めない。

【晦賞】25 クワイシヤウ 晦日の賞宴。〔韋應物、月晦憶下去年與二親友一曲水遊宴上詩〕晦賞念二前歲一、京國結二良儔一。

【晦若】26 クワイジヤク 宋、蔣元(9－31820··45)の字。

【晦叔】27 クワイシユク 字號。❶唐、崔玄亮(4－8178··245)の字。❷五代、晉、鍾隱(11－40672··4)の字。❸宋、吳翌(2－3365··393)の字。❹宋、葉文炳(9－31387··259)の字。❺宋、丁焴(1－2··9)の字。❻宋、范致明(9－30834··234)の字。❼宋、呂公著(2－3386··203)の字。❽宋、王炎(7－20823··77)の字。❾宋、王曙(7－20823··596)の字。❿元、趙與票(10－37171··920)の字。

【晦誦】28 クワイシヨウ 夜に書を讀むこと。〔越絕書、越絕內經九術〕胥聞越王句踐晝書不レ倦、晦誦竟レ旦、聚二死臣數萬一、是人不レ死、必得二其願一。

【晦色】29 クワイシヨク くらい色。くらい景色。〔常袞、中書門下賀レ雨第一表〕紫陌揚レ塵、青郊晦色。〔文同、仙禽送三景遜赴二葭州監稅一詩〕晦色不二敢耀一、藏音豈能哀。

【晦溽】30 クワイジヨク くもつてしめつぽい。〔夢溪筆談、象數一〕熙甯中、京師久旱、祈禱備至、連日重陰、云云、衆以謂、頻日晦溽、尙且不レ雨。

【晦臣】31 クワイシン 清、張鏡心(4－9812··920)の號。

【晦仁】32 クワイジン 宋、和峴(2－3490··124)の字。

【晦迹】33 クワイセキ 隱居して匿れること。〔李白、題二元丹丘潁陽山居一詩〕卜レ地初晦レ迹、興レ言且成レ文。〔許渾、寄二隱者一詩〕渭濱晦レ迹南陽臥、若比二吾徒一更寂寥。

【晦磧】34 クワイセキ くらいかはら。〔呂潁、西域獻二徑寸珠一賦〕馳二輝於晦磧之中一、流二晶於白日之晚一。

【晦雪】35 クワイセツ くらく曇つて雪がふること。〔王肅、悲二平城一詩〕陰山常晦雪、荒松無レ罷レ風。

【晦節】36 クワイセツ ❶晦日の節會。〔宋之問、桂州陪二王都督一晦日宴二逍遙樓一詩〕晦節高樓望、山川一半春。〔岑參、晦日陪三侍御泛二北池一詩〕春池滿復寬、晦節耐レ邀レ歡。〔解琬、晦日宴二高氏林亭一詩〕歡娛屬二晦節一、酩酊未レ還レ家。❷晚年の節操。晚節。〔盧綸、東堂宴餞二河南趙少府一詩〕松篁難二晦節一、雨露不二私恩一。

【晦堂】37 クワイダウ ❶宋、祖心(8－24664··76)の室名。❷酒井泰光の號。酒井晦堂(11－39776··375)を見よ。

【晦濁】38 クワイダク くらくにごること。〔謝偃、影賦〕在二清明一而必朗、若晦濁而斯亡。

【晦仲】39 クワイチユウ 宋、衞炳(10－34074··106)の字。

【晦匿】40 クワイトク 己の才智などをくらましかくして人に知らさない。愚かな人の風を裝ふ。晦藏。韜晦。〔隋書、高祖紀上〕高祖甚懼、深自晦匿。

【晦望】41 クワイバウ つごもりと十五日。〔後漢書、祭祀志下〕自二雒陽諸陵一、至二靈帝一、皆以二晦望二十四氣伏臘一。〔宋書、桂陽王休範傳〕夙宵恭謹、散二心雲日一、晦望表驛、相二從江衢一。

【晦伯】42 クワイハク 字號。❶宋、劉掄(2－2224··622)の字。❷明、陳耀文(11－41698··673)の字。❸明、李日宣(6－14459··1373)の字。

【晦魄】43 クワイハク 晦日のかくれた月。〔唐太宗、月晦詩〕晦魄移二中律一、凝暄起二麗城一。〔周彥、晦日宴二高氏林亭一詩〕砌蓂收二晦魄一、津柳競二年華一。

【晦晚】44 クワイバン 晦日の夜。〔長孫正隱、晦日宴二高氏林亭一詩〕晦晚屬二煙霞一、遨遊重二歲華一。

【晦夫】45 クワイフ 字號。❶宋、歐陽闢(6－16185··101)の字。❷明、陳眞晟(11－41698··1019)の字。❸清、李明性(6－14459··1960)の號。

【晦甫】46 クワイホ 宋、焦炳炎(7－19119··140)の字。

【晦木】47 クワイボク 清、黃宗炎(12－47926··1207)の字。

【晦昧】48 クワイマイ ❶くらい。やみ。暗黑。〔吳均、送二柳吳興竹亭集一詩〕躑躅牛羊下、晦昧崦嵫色。❷おろか。愚昧。蒙昧。〔禮、明堂位、昧、東夷之樂也、疏〕白虎通云、西夷樂曰レ昧、昧、昧也、萬物衰老、取二晦昧之義一也。〔劉秉蘭、豎儒詩〕近日冰壺多二晦昧一、虎皮羊質也觀レ光。

【晦盲】49 クワイマウ 暗くて見えない。人に知られない。又、世がみだれてくらやみとなる。〔荀子、賦〕列星殞墜、旦暮晦盲。〔注〕旦暮晦盲、言レ無二暫明時一也。〔荀子、賦〕闇乎天下之晦盲也。〔注〕晦盲、言三人莫二之識一也。

【晦名】50 クワイメイ 名をくらます。〔錄異記〕草服素冠、晦レ名匿レ位、織レ屨自給。

【晦明】51 クワイメイ よるとひる。日夜。晝宵。晝夜。〔左氏、昭、元〕六氣曰二陰陽・風雨・晦明一也。〔國語、楚語上〕天有二晦明一、民有二君臣一。〔管子、宙合〕大揆二度儀一、若二覺臥一、若二晦明一、若二敖之在レ堯也。

【晦冥】52 クワイメイ くらい。まつくら。昏暗。晦暝。〔史記、高祖紀〕是時雷電晦冥。〔史記、龜策傳〕正晝無レ見、風雨晦冥。〔新語、愼微〕照二四方之晦冥一。〔淮南子、覽冥訓〕疾風晦冥。〔後漢書、許升妻傳〕是日疾風暴雨靁電晦冥。

【晦暝】53 クワイメイ くらい。晦冥。〔穀梁、莊、七〕其隕也如レ雨、是夜中與、注〕星既隕而雨必晦暝、安知二夜中一乎。〔板倉節山、甘雨亭叢書〕俄而風雨晦暝。

【晦滅】54 クワイメツ くらましほろぼす。〔呂延祚、進二文選集注一表〕宅二心隱微一、晦二滅其兆一。

【晦蒙】55 クワイモウ くらい。くらやみ。轉じて、亂世の清明でないことをいふ。昏暗。〔崔膺、金鏡賦〕宇宙晦蒙、我獨皎潔。

【晦紋】56 huei^4 wen^2 不運の相。

【晦夜】57 クワイヤ ❶あかつき。早曉をいふ。〔管子、小匡〕晦夜而至二禽側一。〔注〕言三夙興二晦夜之時一。❷やみよ。暗夜。〔海內十洲記〕晦夜卽見二此山林一。❸晦日の夜。〔皎然、晦夜李侍御萼宅集招二潘述湯衡海上人一飲レ茶賦詩〕晦夜不レ生レ月、琴軒猶爲開。

【晦惑】58 クワイワク 道理にくらくまどふ。昏惑。〔蔡邕、答二詔問災異八事一〕盜レ寵竊レ權、藏二晦惑之罪一。

【如レ晦】59 クワイノゴトシ 風雨のために天の暗いこと。〔詩、鄭風、風雨〕風雨如レ晦。〔傳〕晦、昏也。

【晦闇齋】60 クワイアンサイ 清、董沛(9－31433··140)の號。

【晦道堂】61 クワイダウダウ 元、商挺(2－3803··180)の室名。

【晦翁學派】62 クワイヲウガクハ 宋の朱熹の學派の稱。其の講學の室を晦菴と稱し、自ら晦翁と號す。朱子學派(6－14424··317)を見よ。

【晦村學人】63 クワイソンガクジン 清、石龐(8－24024··652)の號。

【晦往明來】64 クワイワウメイライ 晦蒙なものが明らかになる。虛往實歸(9－32709··393)に同じ。〔南齊書、高帝紀上〕惟德動レ天、玉衡所二以載レ序窮レ神知レ化、億兆所二以歸レ心用レ能、經二緯乾坤一、彌二綸宇宙一、闡二揚鴻烈一、大庇二生民一、晦往明來、積代同レ軌、前王踵レ武、世必由レ之。

【皓】13961

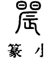
小篆

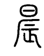
カウ ゴウ 〔集韻〕下老切 ㄏㄠ hao^4 皓

❶日の出るさま。〔說文〕皓、日出皃、从レ日告聲。**❷ひかる。**〔爾雅、釋詁〕皓、光也。〔楚辭、劉向、九歎、遠逝〕曳二彗星之皓旰一兮。〔注〕皓旰、光也。**❸あきらか。**〔玉篇〕皓、明也。**❹しろい。**皓(8－22732)に同じ。〔說文、皓、段注〕皓、謂二光明之皃一也、天下惟絜白者最光明、故引申爲二凡白之稱一、又改二其字一、从レ白作レ皓。**❺一百六韻の一。**上聲第十九。

【皓旰】1 カウカン 日光の出るさま。ひかりかがやくさま。〔爾雅、釋天、夏爲二昊天一、注〕言二氣皓旰一。〔疏〕皓旰、日光出之貌也。〔曹植、七啓〕丹旗燿野、戈殳皓旰。〔注〕皓旰、白色。

【晨】 13962 シン ジン 〔集韻〕乘人切 眞 ㄔㄣˊ ch'en²


小篆


或體

㊀**そひ。**二十八宿の一。曟（**5－14244**）に同じ。〔說文〕曟、房星、爲㆓民田時㆒者、从㆑晶辰聲、晨、曟或省。〔張衡、東京賦〕曟祥晨正。㊁**あさ。**つとめて。しののめ。晨（**10－38691**）に通ず。〔說文通訓定聲〕晨、叚借爲㆑晨。〔爾雅、釋詁〕晨、早也。〔郝懿行義疏〕晨、說文云、早昧爽也、詩庭燎箋、晨、明也、晉語、丙之晨、注、晨、早朝也。〔釋名、釋天〕晨、伸也、旦而日光復伸見也。〔集韻〕晨、早也、關中語。〔詩、小雅、庭燎〕夜鄕㆑晨。〔箋〕晨、明也。〔周禮、秋官、司寤氏〕禦㆓晨行者㆒。〔注〕晨、先㆑明也。〔禮、曲禮上〕昏定而晨省。〔疏〕辰、旦也。㊂**あしたする。**雞が夜明けを告げて鳴く。〔書、牧誓〕牝雞之晨、惟家之索。㊃**たか。**はやぶさの屬。鷐（**12－47239**）に通ず。〔說文通訓定聲〕晨、叚借爲㆑鷐。〔爾雅、釋鳥〕晨風、鸇。〔釋文〕晨、本或作㆑鷐。㊄通じて辰（**10－38682**）に作る。〔集韻〕晨、通作㆑辰。㊅或は昬（**5－13963**）に作る。〔集韻〕晨、或作㆑昬。

名乘 トキ。アキ。トヨ。

【晨遊】1 シンイウ 朝早く遊行すること。〔梁簡文帝、吳郡石像碑銘〕履㆑冰晨遊、陵㆑濤夜上。

【晨飮】2 シンイン 朝早く飮むこと。〔沈約、齊安陸昭王碑文〕邑居不㆑聞㆓夜吠之犬㆒、牧人不㆑覩㆓晨飮之羊㆒。〔宋史、樂志十四〕晨飮是汲、夕膳是嘗。

【晨烏】3 シンウ あかつきの烏。〔張融、海賦〕晨烏宿㆓於東隅㆒、落河浪㆓其西界㆒。

【晨映】4 シンエイ あかつきにてりはえる。〔鮑照、園葵賦〕春風夕來、秋日晨映、獨酌㆓南軒㆒、擁㆑琴孤聽。〔徐陵、勸㆓進梁元帝㆒表〕卿雲似㆑蓋、晨映㆓姚鄕㆒、甘露如㆑珠、朝垂㆓原寢㆒。

【晨曀】5 シンエイ あさくもること。〔李華、含元殿賦〕紫微晨曀、彤墀夜明。

【晨嬰】6 シンエイ 仙人の名。道教で右目童子をいふ。〔雲笈七籤〕左目童子名飛雲、右目童子名晨嬰。

【晨曜】7 シンエウ あかつきにかがやく。晨燿。〔唐太宗、詠㆑雪詩〕潔野凝㆓晨曜㆒、裝墀帶㆓夕暉㆒。

【晨燿】8 シンエウ 晨曜に同じ。〔宋史、樂志十〕四靈晨燿、五緯夕明。

【晨謁】9 シンエツ 朝早く謁見すること。〔杜甫、立秋雨院中有㆑作詩〕已費㆓清晨謁㆒、那成㆓長者謀㆒。〔宋史、呂祉傳〕召㆑瓊赴㆓行在㆒、瓊懼遂叛、諸將晨謁㆑祉、坐定、瓊袖出㆓文書㆒、示㆓中軍統制官張璟㆒。

【晨饁】10 シンエフ 朝に田野で食事すること。饁は田野の餉。〔孔武仲、汴河詩〕鳴㆑弓擊㆑柝驚㆓夜盜㆒、掘㆑茹撈㆑鰕佐㆓晨饁㆒。

【晨煙】11 シンエン ㊀朝のけぶり。あさがすみ。〔顏延之、陶徵士誄〕晨煙暮靄、春煦秋陰。㊁朝の炊事の煙。朝餐の炊煙。〔韋應物、園林晏起寄㆓昭應韓明府盧主簿㆒詩〕田家已耕作、井屋起㆓晨煙㆒。

【晨豔】12 シンエン 早朝につやつやしいこと。〔劉基、折枝山茶詩〕玄霜避㆓晨豔㆒、華月助㆓宵明㆒。

【晨猿】13 シンエン 朝の猿。〔何承天、鼓吹鐃歌、巫山高篇〕山禽夜響、晨猿相和鳴。

【晨轀】14 シンヲン 朝出る喪車。轀は轀輬車で、喪車をいふ。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕晨轀解㆑鳳、曉蓋俄㆑金。〔注〕濟曰、轀、轀輬、喪車也。

【晨霞】15 シンカ あしたのもや。〔郭璞、江賦〕霩如㆓晨霞孤征㆒。〔江淹、學㆓梁王兔園㆒賦〕朝日晨霞兮艷紅壁。〔杜甫、空囊詩〕翠柏苦猶食、晨霞朝可㆑餐。

【晨賀】16 シンガ 早朝に參內して天子に賀を白すこと。早朝の參賀。〔南齊書、禮志上〕漏未㆑盡七刻、羣臣入白㆑賀、未㆑盡五刻就㆓本位㆒、至㆓漏盡㆒、皇帝出㆓前殿㆒、百官上㆑賀、如㆓漢儀㆒、禮畢罷入、羣臣坐、謂㆓之晨賀㆒。

【晨衙】17 シンガ あかつきの役所。〔唐書、崔從傳〕寶曆初、爲㆓東都留守㆒、故事留司官、入㆓宮城門㆒、列㆓晨衙㆒見㆓留守㆒、吏誕傲久廢、至㆑是復行。

【晨駕】18 シンガ 朝出る車。〔王僧達、祭㆓顏光祿㆒文〕明發㆓晨駕㆒、瞻㆑廬望㆑路。〔韋應物、七夕詩〕夕衣淸露濕、晨駕秋風前。

【晨開】19 シンカイ 朝早く開くこと。〔沈約、彌勒贊〕慧日晨開、香雨宵墜。

【晨行】20 シンカウ 朝早くゆく。晨征。〔周禮、秋官、司寤氏〕禦㆓晨行者㆒、禁㆓宵行者夜遊者㆒。〔劉希夷、江南曲〕暮宿南洲草、晨行北岸林。

【晨香】21 シンカウ 朝の香煙。〔劉長卿、送㆓宣尊師醮畢歸㆑越詩〕晨香長日在、夜磬滿山聞。

【晨耕】22 シンカウ 朝早くたがやすこと。早朝の耕作。〔蘇軾、過㆓於海舶㆒得㆔邁寄㆓書酒㆒作㆑詩遠和㆑之皆粲然可㆑觀子由有㆑書相慶也因用㆓其韻㆒賦㆓一篇㆒幷寄㆓諸子姪㆒詩〕六子晨耕簞瓢出、衆婦夜績燈火共。

【晨客】23 シンカク 早朝の客人。〔李商隱、富平少侯詩〕當關不㆑報侵㆓晨客㆒、新得佳人字莫愁。

【晨樂】24 シンガク 早朝から音樂を奏する。〔管子、輕重甲〕端譟晨樂、聞㆓於三衢㆒。〔太平御覽、人事、奢〕管子曰、昔者桀之時、女樂三萬人、晨譟㆓於端門㆒、樂聞㆓於三衢㆒。

【晨渴】25 シンカツ あけがたの喉のかわき。〔錢惟演、再次㆓韻和大年㆒詩〕紅蘭受㆑露消㆓晨渴㆒、綠蕙翻㆑風析㆓夜酲㆒。

【晨刊】26 ch'en² k'an¹ 朝刊。

【晨寒】27 シンカン あけがたの寒さ。〔琴操、履霜操〕履㆓朝霜㆒兮採㆓晨寒㆒、考不㆑明㆓其心㆒兮聽㆓讒言㆒。

【晨檻】28 シンカン あけがたの欄干。〔董思恭、詠㆑日詩〕舜華發㆓晨檻㆒、菱彩翻㆓朝鏡㆒。

【晨鴈】29 シンガン 鳥の名。雁の一種。〔韓詩外傳、八〕魏文侯有㆑子、曰㆑擊、次曰㆑訴、訴少而立以嗣、封㆓擊中山㆒、三年莫㆓往來㆒、其傳趙蒼唐曰、父忘㆑子、子不㆑可㆑忘㆑父、何不㆑遣㆑使乎、擊曰、願㆑之而未㆑有㆑所㆑使也、蒼唐曰、臣請㆑使、擊曰、諾、於㆑是乃問㆓君之所㆑好與㆑所㆑嗜、曰、君好㆓北犬㆒、嗜㆓晨鴈㆒、遂求㆓北犬晨鴈㆒賫行。

【晨氣】30 シンキ あけがたの大氣。〔宋史、劉錡傳〕方晨氣淸涼、錡按㆑兵不㆑動、逮㆓未申閒㆒、敵力疲氣索、忽遣㆓數百人㆒出㆓西門㆒接戰。〔六一詩話〕龍圖趙學士師民、文章之外、詩思尤精、如㆓麥天晨氣潤㆑槐、夏午陰淸㆒前世名流、所㆑未㆑到也。

【晨起】31 シンキ 朝早くおきる。又、はやおき。蚤起。夙起。晨興。〔蘇武、詩〕寒冬十二月、晨起踐㆓嚴霜㆒。〔庾信、思舊銘序〕項羽之晨起㆓帳中㆒、李陵之徘㆓徊岐路㆒。〔柳宗元、與㆓蕭翰林俛㆒書〕忽遇㆓北風㆒、晨起薄㆑寒。

【晨晷】32 シンキ 朝日の光。晨光。〔謝莊、宋明堂歌、歌黑帝〕晨晷促夕漏延、太陰極微陽宣。

【晨暉】33 シンキ 朝日の光。晨光。晨晷。〔宋書、樂志二〕潔誠夕鑑、端服晨暉。〔梁元帝、梁安寺刹下銘〕雪宮月殿、晨暉夜圓。〔孟郊、列仙文詩〕太霞霏㆓晨暉㆒、元氣無㆓常形㆒。

【晨騎】34 シンキ 朝早く馬に乘ること。〔韋應物、晚歸㆓灃川㆒詩〕已想㆓平門路㆒、晨騎復言旋。

【晨曦】35 シンギ 朝日の光。旭日。〔白居易、白蘋洲五亭記〕翫㆓晨曦㆒者、謂㆓之晨霞亭㆒。〔皎然、效㆑古詩〕日出天地正、煌煌闢㆓晨曦㆒。

【晨汲】36 シンキフ 早朝に水を汲むこと。〔沈約、齊司空柳世隆行狀〕半㆑藏晚飧、負㆑戶晨汲。

【晨旭】37 シンキョク 朝日。〔李嶠、和㆓同府李祭酒休沐田居㆒詩〕庭幽引㆓夕霧㆒、簷迥通㆓晨旭㆒。

【晨禽】38 シンキン 朝のとり。〔鮑照、苦熱行〕飢猨莫㆓下食㆒、晨禽不㆓敢飛㆒。〔陸機、演連珠〕是以迅風陵雨、不㆑謬㆓晨禽之祭㆒。

【晨吟】39 シンギン 朝早く鳴く鳥の聲。〔潘岳、秋興賦〕聽㆓離鴻之晨吟㆒兮、望㆓流火之餘景㆒。

【晨火】40 シンクワ あけがたの火。〔陸游、曉枕詩〕熨斗生㆓晨火㆒、薰籠覆㆓縕袍㆒。

【晨光】41 シンクワウ 太陽の光。又、朝日の光。あさひかげ。晨晷。晨暉。〔何晏、景福殿賦〕晨光內照、流景外烻。〔注〕善曰、晨光、日景也、日光照㆓於室中㆒。〔陶潛、歸去來辭〕問㆓征夫㆒以㆓前路㆒、恨㆓晨光之熹微㆒。〔謝朓、京路夜發詩〕曉星正寥落、晨光復決漭。

【晨祼】42 シンクワン 祭の名。早朝に鬱鬯の酒を灌いで行ふもの。〔元史、祭祀志三〕親祀時享儀、其目有㆑八、云云、五曰晨祼、祀日丑前五刻、諸享陪位官、各服㆓其服㆒。

【晨關】43 シンクワン 早朝の關門。〔韋應物、觀㆓早朝㆒詩〕河漢忽已沒、司閽啓㆓晨關㆒。

【晨歡】44 シンクワン 朝の歡びの宴。〔謝莊、月賦〕君王乃厭㆓晨歡㆒、樂㆓宵宴㆒。

【晨景】45 シンケイ 朝日の光。あさひかげ。〔郭璞、蜜蜂賦〕吮㆓瓊液于懸峰㆒、吸㆓椴津乎晨景㆒。〔蘇轍、超然

臺賦〕歸二高臺之陵空一兮、溢二晨景之絜鮮一。

【晨雞】46（シンケイ） 朝早く鳴く雞。晨をつげる雞。〔阮籍、詠懷詩〕晨雞鳴二高樹一、命レ駕起旋歸。〔陳叔達、後渚置酒詩〕嚴關猶未レ逐、此夕待二晨雞一。

【晨月】47（シンゲツ） あけがたの月。〔張華、情詩〕清風動二帷簾一、晨月照二幽房一。

【晨嚴】48（シンゲン） ❶朝早く森嚴なこと。〔徐陵、玉臺新詠序〕絳鶴晨嚴、銅蠡晝靜。❷朝早くきびしくいましめる。〔隋煬帝、遺二陳尚書江總一檄〕邊烽夜動、照二彼都城一、戍鼓晨嚴、震二其宮殿一。

【晨鼓】49（シンコ） あかつきを知らせる太鼓。〔鮑照、從二臨海王一上レ荆初發二新渚一詩〕戻旦風力遒、嘈嘈晨鼓鳴。〔陳與義、雨詩〕聽レ雨披二夜襟一、衝レ雨踏二晨鼓一。

【晨午】50（シンゴ） 朝と晝。〔齊己、渚宮自勉詩〕晨午殊豐足、伊何撓二肺腸一。

【晨雊】51（シンコウ） 朝早く雉がなくこと。雊は雄雉の鳴くこと。〔法言、先知〕吾見二玄駒之步、雉之晨雊一也。

【晨興】52（シンコウ） 朝早くおきる。晨起。夙起。〔說苑、辨物〕夙夜晨興。〔孔子家語、顏回〕昧旦晨興。〔陸倕、新漏刻銘〕坐レ朝晏罷、每旦晨興。〔韋昭、博弈論〕晨興夜寐。

【晨哭】53（シンコク） 朝早く哭泣すること。〔嵇康、聲無二哀樂一論〕昔伯牙理レ琴而鍾子知二其所レ志、隸人擊レ磬而子產識二其心哀一、魯人晨哭而顏淵審二其生離一。

【晨鵠】54（シンコク） 鳥の名。みさごの一種。〔山海經、西山經〕鍾山之東曰二瑤崖一、欽䲹化爲二大鶚一、其狀如レ鵰、而黑文白首、赤喙而虎爪、其音如二晨鵠一。〔注〕晨鵠、鶚屬、猶レ云二晨鳧一耳。〔郭璞、江賦〕其羽族也、則有二晨鵠天雞鴢鶩鷗䲶一。

【晨昏】55（シンコン） あさばん。朝夕。旦暮。〔列子、周穆王〕其下趣役者、侵二晨昏一而弗レ息。〔任昉、上二蕭太傅一固二辭奪禮一啓〕限役廢二晨昏之半一。〔張九齡、奉レ使自二藍田玉山一南行詩〕匪三唯徇二行役一、兼得レ慰二晨昏一。

【晨坐】56（シンザ） 朝早く坐つてゐること。〔韋應物、酬二韓質舟行阻レ凍詩〕晨坐枉二嘉藻一、持レ此慰二寢興一。〔韋應物、答二馮魯秀才一詩〕晨坐枉二瓊藻一、知三子返二中林一。〔韓愈、同冠峽詩〕維二舟山水間一、晨坐聽二百鳥一。

【晨齋】57（シンサイ） 朝のとき。朝の食事。〔法照、送三無著禪師歸二新羅一詩〕夜宿依二雲色一、晨齋就二水聲一。〔齊己、題二眞州精舍一詩〕晨齋來二海客一、夜磬到二漁家一。

【晨窗】58（シンサウ） あかつきのまど。〔陸游、秋晴詩〕晨窗暖日烘二花氣一、午枕微風送二鳥聲一。

【晨裝】59（シンサウ） あけがたの旅のよそほひ。〔韋應物、酬下元偉過二洛陽一夜燕上詩〕晨裝復當レ行、寥落星已稀。〔劉長卿、送二顧長一詩〕晨裝林月在、野飯浦沙寒。〔白居易、江南喜レ逢二蕭九徹一因話二長安舊遊一戲贈詩〕離筵開二夕宴一、別騎促二晨裝一。

【晨霜】60（シンサウ） 朝のしも。〔王融、法樂辭、雙樹歌〕亭亭雙月流、朏朏晨霜結。〔李頎、送二劉四一詩〕行人飲二臘酒一、立馬帶二晨霜一。〔皮日休、橡媼歎〕傴傴黃髮媼、拾レ之踐二晨霜一。

【晨餐】61（シンサン） あさめし。晨食。〔束皙、補亡詩、南陔〕馨二爾夕膳一、絜二爾晨餐一。〔注〕良曰、相戒馨二絜其朝夕之食一也。〔韋應物、送二張侍御祕書江左覲省一詩〕晨餐亦可レ薦、名利欲二何如一。〔姚合、寄二默然上人一詩〕晨餐夜復眠、日與レ月相連。

【晨爨】62（シンサン） 朝早くかしぐこと。〔齊己、荆渚病中因思二匡廬一云云詩〕微烟動二晨爨一、細雨滋二園蔬一。〔梅堯臣、持國遺レ食詩〕晨爨不レ煖レ釜、朝飯亦輟レ匕。

【晨至】63（シンシ） 朝早く至ること。〔周書、武帝紀上〕保定四年十二月壬戌、齊師渡レ河晨至。〔梁元帝、南岳衡山九貞館碑〕杯傳二九醞一、隱淪之車晨至、堂開二四扇一、西楹之鍾夜響。

【晨事】64（シンジ） 早朝の祭。〔韓愈、南海神廟碑〕吾將下宿二廟下一、以供中晨事上。

【晨羞】65（シンシウ） 朝めし。羞は食。晨餐(61)に同じ。〔束皙、補亡詩、南陔〕馨二爾夕膳一、絜二爾晨羞一。〔注〕向曰、羞、食也。

【晨妝】66（シンシヤウ） 朝の化粧。〔韋莊、上春詞〕金樓美人花屛開、晨妝未レ罷車聲催。

【晨唱】67（シンシヤウ） 朝早くなくこと。〔陸游、遷二雞柵一歌〕吾孫初生畏二晨唱一、家人共議欲二汝捐一。

【晨翔】68（シンシヤウ） 朝早く鳥がかけること。〔程晉、東天竺賦〕天雞晨翔、銅枝夜照。

【晨樹】69（シンジユ） あかつきの木。〔蘇軾、鬱孤臺詩〕嵐氣昏二晨樹一、灘聲入二市樓一。

【晨粥】70（シンシユク） 朝のかゆ。〔蘇軾、過二湯陰市一得二豌豆大麥粥一示二三兒子一詩〕逆旅唱二晨粥一、行庖得二時珍一。〔陸游、寺居夙興詩〕晨粥香滿レ堂、粱肉坐可レ憎。〔虞集、次二韻國子監同官一詩〕乞二米西鄰一晨有レ粥、留二家南國一暑無レ絺。

【晨出】71（シンシユツ） 朝早く出ること。早朝に行くこと。〔晉書、劉聰載記〕聰游獵無レ度、常晨出晚歸。〔杜甫、陪二鄭廣文一遊二何將軍山林一詩〕野鶴清晨出、山精白日藏。

【晨鐘】72（シンシヨウ） 佛寺でならす朝の鐘。又、微妙な言を以て人を覺醒すること。〔杜甫、船下二夔州一郭宿雨濕不レ得レ上レ岸別二王十二判官一詩〕晨鐘雲岸濕、勝地石堂煙。〔劉禹錫、闕下待二傳點一呈二諸同舍一詩〕禁漏晨鐘聲欲レ絕、旌旗組綬影相交。〔溫庭筠、題二望苑驛一詩〕景陽寒井人難レ到、長樂晨鐘鳥自知。

【晨色】73（シンシヨク） あかつきの景色。〔陶潛、五日旦作和二戴主簿一詩〕神淵寫二時雨一、晨色奏二景風一。

【晨食】74（シンシヨク） 朝食。又、朝食を食べること。〔易林、同人之第十三、震〕楚亭晨食、韓子低頭。〔洛陽伽藍記、四〕臨淮王彧、性愛二林泉一、又重二賓客一、晨食二南館一、夜遊二後園一。〔宋史、王瞻傳〕晨食畢乃發。

【晨炊】75（シンスイ） 朝早くかしぐ。〔史記、淮陰侯傳〕寄食數月、亭長妻患レ之、乃晨炊蓐食、食時信往、不二爲具レ食。〔王維、晦日遊二大理韋卿城南別業一云云詩〕彫胡先晨炊、庖膾亦雲至。〔杜甫、行官張望補稻畦水歸詩〕玉粒足二晨炊一、紅鮮任二霞散一。

【晨醉】76（シンスイ） 朝醉ふこと。〔陸游、詩酒詩〕酒隱凌二晨醉一、詩狂徹二旦歌一。

【晨趨】77（シンスウ） 朝早くおもむくこと。〔杜甫、故祕書少監武功蘇公源明詩〕晨趨閶闔內、足蹋宿昔趼。〔韋應物、酬下豆盧倉曹題二庫壁一見上レ示詩〕宴罷常分レ騎、晨趨又比レ肩。〔包何、和二苗員外一詩〕夜宿分二曹閣一、晨趨接二武歡一。〔庫狄履、溫南省寓直詩〕晨趨當レ及レ早、復此戒二朝車一。

【晨正】78（シンセイ） 立春の日、房星が午に中するをいふ。一說に、正月に房星が南方に中するをいふ。〔國語、周語上〕農祥晨正。〔注〕農祥、房星也、晨正、謂三立春之日、晨中二於午一也。〔張衡、東京賦〕及レ至二農祥晨正、土膏脉起一。〔注〕綜曰、晨、時、正、中也、謂二正月初一也、銑曰、房星正月中晨見二南方一、農之祥候也。

【晨征】79（シンセイ） 朝早く行く。つとにゆく。晨出。晨行。〔南齊書、高帝紀上〕公奉レ辭伐レ罪、戒レ旦晨征。〔趙至、與二稽茂齋一書〕鳴雞戒レ旦、則飄爾晨征。〔柳宗元、送下濬上人歸二淮南一覲省上序〕杖錫東顧、振レ衣晨征。

【晨星】80（シンセイ） ❶あけ方のほし。曙星。〔韋應物、餞下雍聿之二潞州一謁中李中丞上詩〕絲竹促二飛觴一、夜讌達二晨星一。❷まばらで數の少い喩。晨星落落を見よ。

【晨星落落】81（シンセイラクラク） あけがたの空に星の僅に二三點見えるやうに、友人が次第に少なくなる喩。落落はまばら。〔劉禹錫、送二張盥赴レ舉詩引〕向所謂同年友、當二其盛時一聯レ袂齊レ鑣、亘二絕九衢一、若二屛風一然、今來落落、如二晨星之相望一。

【晨省】82（シンセイ） 早朝父母の安否をたづねる。〔禮、曲禮上〕昏定而晨省。〔注〕省、問二其安否何如一。〔魏志、武帝紀、注〕每每晨省、從容常言レ人。〔孫逖、送下李給事歸二徐州一覲省上詩〕共言晨省日、便是晝遊歸。

【晨躋】83（シンセイ） 朝早くよぢ登ること。〔韋應物、善福閣對レ雨寄二李儋幼遐一詩〕飛閣凌二太虛一、晨躋鬱崢嶸。

【晨霽】84（シンセイ） 朝雨がはれる。あさばれ。曉霽。〔韋應物、登二重元寺閣一詩〕時暇陟二雲構一、晨霽澄二景光一。

【晨宵】85（シンセウ） 朝と晚。晨と宵。朝夕。〔南齊書、文惠太子長懋傳〕晨宵惱懼、有レ若レ臨レ淵。〔唐太宗、正日臨レ朝詩〕晨宵懷二至理一、終媿レ撫二遐荒一。

【晨照】86（シンセウ） 朝日のひかり。〔宋武帝、傷二宣貴妃一擬二漢武帝李夫人一賦〕俟二玉羊之晨照一、正二金雞之夕臨一。〔江淹、別賦〕同二瓊珮之晨照一。

【晨夕】87（シンセキ） 朝夕。朝晚。〔宋書、自序傳〕深相寵待、晨夕兼侍。〔陶潛、移レ居詩〕聞レ多二素心人一、樂三與數二晨夕一。〔陳時中、碧淵堂賦〕佳氣晨二夕乎

軒墀、波光左右乎窗戸。

【晨洗】88 シンセン 朝早く洗ふこと。〔周昂、聞蟬詩〕迴露增晨洗、淸風借晚攜。

【晨饌】89 シンセン あさめし。朝食。晨食。晨餐。〔薛改齋漫錄〕家人備夫人晨饌。

【晨膳】90 シンゼン 朝の食膳。〔宋史、高登傳〕登事其母至孝、舟行至封康閒阻風、方念無以奉晨膳、忽有白魚躍于前。

【晨梳】91 シンソ 朝早く髮をくしけづること。〔陸游、自警詩〕墮髮滿晨梳、荒畦入晚鉏。

【晨飧】92 シンソン あさめし。朝食。〔陸游、詩〕暑服黃縑製、晨飧赤米炊。

【晨退】93 シンタイ 朝早く退くこと。〔韓維、和子華兄同永叔飮三班官舍兼約明日飮永叔家詩〕視草名臣潤色才、玉墀晨退共徘徊。

【晨旦】94 シンタン あした。あさ。晨朝。〔皮日休、賤貢士詩〕到京未晨旦、一見天子。〔梅堯臣、晚泊觀鬬鷄詩〕應當激猛毅、豈獨專晨旦。

【晨馳】95 シンチ 朝早く馬をはしらすこと。〔宋史、侯可傳〕可晨馳至富家、發櫝出券歸其主。

【晨聽】96 シンチヤウ 朝早く聽くこと。〔謝靈運、山居賦〕法音晨聽、放生夕歸。

【晨釣】97 シンテウ 朝早く魚釣りをすること。〔李華、寄趙七侍御詩〕渚烟見晨釣、山月聞夜舂。

【晨鳥】98 シンテウ 朝の鳥。〔江淹、被黜爲吳興令辭建平王牋〕淹迺梁昌、自投東極、晨鳥不蜚、遷骨何日。

【晨朝】99 シンテウ ❶あさまだき。晨旦。早朝。〔杜甫、與任城許主簿遊南池詩〕晨朝降白露、遙憶舊靑氈。〔韋應物、送中弟詩〕秋氣入疏戶、離人起晨朝。❷朝早く入朝する。〔史記、項羽紀〕項羽晨朝上將軍宋義。

【晨潮】100 シンテウ あさしほ。〔番禺記〕晨潮下、晚潮上。

【晨轉】101 シンテン 朝がめぐる。時の遷ることの早い喩。〔劉禹錫、傷往賦〕隙駟晨轉、窗蟾夜通。

【晨土】102 シンド 地名。淮南子、墬形訓に農土に作る。〔後漢書、張衡傳、越卬州而愉敖、注〕河圖曰、天有九部八紀、地有九州八柱、東南神州曰晨土。

【晨登】103 シントウ 朝早く登ること。〔李華、雲母泉詩〕晨登玄石嶺、嶺上寒松聲。〔韋應物、秋夕西齋與僧神靜遊詩〕晨登西齋望、不覺至夕曛。

【晨凍】104 シントウ 朝早く凍つてゐること。〔杜甫、空囊詩〕不爨井晨凍、無衣牀夜寒。

【晨燈】105 シントウ ❶あけがたのともしび。〔陸倕、天光寺碑〕法雲旦聚、則浸潤被乎重沙、慧日晨燈、則暉光燭於有頃。❷道家の語。〔雲笈七籤〕晨燈者、玉眞天中明氣之光、洞照於三元之臺也、若能存雌一於夙夜、誦洞章以萬變者、令變於三素之氣、得形於晨燈之光、則人無哭兆、終身不亡矣。

【晨暾】106 シントン あさひ。曉暾。晨曦。〔朱熹、寄題咸淸精舍淸暉堂詩〕千嵐蔽夕陰、百嶂明晨暾。〔唐庚、喜雨詩〕明朝引首望雲漢、屋上晨暾仍杲杲。

【晨葩】107 シンパ 朝の花。〔束晳、補亡詩、白華〕鮮侔晨葩、莫之點辱。〔劉禹錫、崔元受少府自貶所還遺山薑花答以詩詩〕雲濤潤孤根、陰火照晨葩。

【晨烹】108 シンパウ 朝早く煮ること。〔陸游、雜感詩〕晨烹山蔬美、午漱石泉潔。〔陸游、雜賦詩〕地爐夜爇麻䕸煖、瓦鬴晨烹豆粥香。

【晨報】109 ch'en^2 pao^4 朝刊新聞。

【晨望】110 シンバウ 夜明に望み見る。〔朱熹、奉同尤延之提擧廬山雜詠、落星寺詩〕晨望愛明滅、夕遊驚蕩磨。

【晨發】111 シンパツ 命令などを朝早く發すること。〔柳宗元、上權德輿補闕溫卷決進退啓〕言爲建瓴、晨發夕被、聲馳而響溢、風振而草靡。

【晨鉢】112 シンパツ 朝食の器。又、朝飯のこと。〔陸游、春晚雜興詩〕僧分晨鉢筍、客共午甌茶。〔陸游、小園詩〕飧酪供晨鉢、菹芹薦晚樽。〔周權、贈曙嵓上人詩〕夜龕貓占臥、晨鉢鶴分餐。

【晨飯】113 シンパン あさめし。朝食。晨飧。〔宋史、陳規傳〕兀朮至親循城、責諸酋用兵之失、衆跪曰、南兵非昔比、兀朮下令晨飯府庭、且折箭爲誓、幷兵十餘萬攻城。〔陸游、村舍雜興詩〕晨飯炊稊米、宵行點豆䕸。

【晨飛】114 シンピ 朝早く飛ぶこと。〔梁簡文帝、與劉孝綽書〕玉霜夜下、旅鴈晨飛。

【晨霏】115 シンピ あさぎり。〔洪邁、文〕晨霏夕靄。

【晨牝】116 シンピン 牝雞が朝に鳴いて時を報ずること。婦女子が政に與る喩。牝雞司晨(**7**－**19925**‥8)の略。〔陸機、愍懷太子誄〕如何晨牝、穢我朝聽。

【晨婦】117 シンプ 政事に與る婦人。晨を告げる牝鷄の義。牝雞司晨(**7**－**19925**‥8)を見よ。〔班婕妤、自悼賦〕悲晨婦之作戒兮、哀襃閻之爲郵。

【晨鳧】118 シンプ ❶野鴨。けり。鳧は常に朝飛ぶから晨鳧といふ。〔說苑、奉使〕侯嗜晨鳧、好北犬。〔後漢書、馬融傳〕遊雉羣驚、晨鳧輩作。〔張協、七命〕晨鳧露鵠、霜鶂黃雀。〔注〕向曰、晨、晨飛。❷船の名。三國、吳の諸葛恪の造つたもので、船首に鴨頭の裝飾を施したもの。〔太平御覽、舟部、舟下〕周處風土記曰、晨鳧卽靑桐、大船名、諸葛恪所造鴨頭船也。

【晨騖】119 シンプ 朝早く馬をはしらすこと。〔李東陽、東山草堂賦〕江驅夜發、星軺晨騖。

【晨風】120 シンプウ ❶朝の風。〔潘岳、懷舊賦〕晨風淒以激冷、夕雪暠以掩路。〔孫楚、征西官屬送於陟陽侯作詩〕晨風飄岐路、零雨被秋草。❷鳥の名。鸇の異名。〔爾雅、釋鳥〕晨風、鸇。〔注〕鷂屬。〔郝懿行義疏〕說文、鸇、鷐風也、詩作晨風、假借字耳、鸇隼聲相轉、詩鴥彼飛隼、與鴥彼晨風、獨此二文言鴥、說文、鴥、鸇飛貌、可知鸇卽隼矣。〔詩、秦風、晨風〕鴥彼晨風、鬱彼北林。〔傳〕晨風、鸇也。〔疏〕晨風、鸇、釋鳥文、郭璞曰、鷂屬、陸璣疏云、鸇似鷂、靑黃色、燕頷勾喙。〔庾信、三月三日華林園馬射賦序〕紅陽飛鵲、紫燕晨風。〔李陵、錄別詩〕晨風鳴北林、燿燿東南飛。❸詩經、秦風の篇名。秦の康公が穆公の業を忘れて、其の賢臣を棄てて顧みないのを刺つた詩。一說に、婦人が夫の不在を歎じた詩。〔詩、秦風、晨風序〕晨風、刺康公也、忘穆公之業、始棄其賢臣焉。〔集傳〕婦人以夫不在而言、云云、此與扊扅之歌同意、蓋秦俗也。

【晨風行】121 シンプウカウ 樂府、雜曲歌辭の一。後漢の楊終は北地の望松縣に左遷されたが、母が蜀で死ぬや、自ら罪せられて邊地に左遷せられたのを悲傷して作る。晨風とは、詩經、秦風、晨風篇の賢臣を棄てて顧みないのを刺つた故事による。猶ほ王循・沈氏にも晨風行があるが、之は唯〻晨朝の風を詠じたものに過ぎない。〔樂府詩集、雜曲歌辭、晨風行〕晨風、本秦詩也、晨風詩曰、鴥彼晨風、鬱彼北林、傳曰、鴥疾飛貌、晨風、鸇也、言、穆公招賢人、賢人往之疾、如晨風之入北林也、又曰、如何如何、忘我實多、蓋刺康公忘穆公之業而棄其賢臣焉、益部耆舊傳曰、後漢楊終徙於北地望松縣、而母於蜀物故、終自傷被罪充邊、乃作晨風之詩、以舒其憤也、若王循霧開九曲瀆、沈氏理檝令舟人、但歌晨朝之風爾。〔王循、晨風行〕霧開九曲瀆、風起千金隄、岸回分野徑、林際成牛蹊、鳧隨落潮去、日傍綺霞低、望日輕舟隱、瑟瑟遠蹇悽、還眺小平急、宴語方難齊。

【晨服】122 シンプク ❶朝早く車に馬をつけること。〔陸機、辯亡論上〕齊民免干戈之患、戎馬無晨服之虞、而帝業固矣。❷朝の衣服。〔周伯琦、紀行詩〕晨服增緜纊、寒鄉貴稻粱。

【晨炳】123 シンペイ 朝早くかがやくこと。〔南齊書、樂志〕四靈晨炳、五緯宵明。

【晨飄】124 シンペウ あけがたにひるがへること。〔沈佺期、紅樓院應制詩〕經聲夜息聞天語、爐氣晨飄接御香。

【晨飆】125 シンペウ 朝のつむじかぜ。〔許敬宗、遊淸都觀尋沈道士得淸字詩〕蕙帳晨飆動、芝房夕露淸。〔貢師泰、送劉子還江右詩〕晨飆起庭柯、落葉當階積。

【晨別】126 シンベツ 朝早く別れること。〔杜甫、新婚別詩〕暮婚晨告別、無乃太忽忙。

【晨步】127 シンポ 朝早く歩くこと。〔柳宗元、種木詩〕晨步佳色媚、夜眠幽氣多。

【晨浦】128 シンポ 朝の浦。〔唐太宗、秋日斅庾信體詩〕晨浦鳴飛鴈、夕渚集栖鴻。

【晨暮】129 シンボ 朝と夕方。晨昏。朝夕。〔顏延之、秋胡詩〕嗟余怨行役、三陟窮晨暮。〔謝靈運、游赤石進帆海詩〕水宿淹晨暮、陰霞屢興沒。

【晨牧】130 シンボク 朝早く馬に草をやること。〔李華、弔古戰場文〕沙草晨牧、河氷夜渡。

【晨梵】131 シンボン 僧侶の朝勤。〔妙聲、賞二靜村一詩〕香飄晨梵合、花落暮禪餘。

【晨霧】132 シンム あけがたのきり。曉霧。〔梁簡文帝、梅花賦〕挂二靡靡之遊絲一、雜二霏霏之晨霧一。〔宋史、种誼傳〕晨霧蔽レ野、跬步不レ可レ辨。

【晨明】133 シンメイ あけがた。黎明。〔淮南子、天文訓〕日出二于暘谷一、浴二于咸池一、拂二於扶桑一、是謂二晨明一。

【晨鳴】134 シンメイ あけがたに鳴くこと。〔說苑、辨物〕於レ是乃問二天老一曰、鳳儀何如、天老曰、夫鳳鴻前麟後、蛇頸魚尾、鶴植鴛鴦思、麗二化枯折所レ志、龍文龜身、燕喙鷄喝、駢レ翼而中注、首載レ德、頂揭レ義、背負レ仁、心信智、食則有レ質、飮則有レ儀、往則有レ文、來則有レ嘉、晨鳴曰二發明一、晝鳴曰二保長一、飛鳴曰二上翔一、集鳴曰二歸昌一。〔庾信、齊王進二白兎一表〕臣聞、輿圖欲レ遠則玉虎晨鳴、轍迹方開則銀甕入貢。〔子夜四時歌〕新燕弄二初調一、杜鵑競晨鳴。〔俳諧記〕雞九錫文維君、天姿英茂、乘機晨鳴。

【晨門】135 シンモン 朝早く門を開くことを掌る者。門番。閽人。閽人。〔論語、憲問〕子路宿二於石門一、晨門曰、奚自、子路曰、自二孔氏一。〔集注〕晨門、掌二晨啓レ門。〔後漢書、張晧王龔傳論〕故晨門有二抱關之夫一、柱下無二朱文之軫一也。

【晨夜】136 シンヤ ❶朝と夜。朝早くから夜遲くまで。〔史記、貨殖傳〕犯二晨夜一、冒二霜雪一。〔漢書、東平思王傳〕我見二尙書晨夜極苦一、使二我爲レ之不レ能也。〔後漢書、光武帝紀上〕晨夜兼行、蒙二犯霜雪一。〔李覯、袁州州學記〕工善吏勤、晨夜展レ力。❷時をつくる。時を報ずる。辰夜。時夜。〔淮南子、說山訓〕見レ彈而求二鴞炙一、見レ卵而求二晨夜一。〔注〕雞知二將旦一、鶴知二夜半一、見二其卵一、因望二其夜鳴一、故曰レ求二晨夜一。〔集解〕兪樾云、晨、當レ作レ辰、淺人誤謂二與レ夜對文一、故加レ日作レ晨、不レ知レ非二其義一也、辰者時也、詩東方未明篇、不レ能二辰夜一、毛傳曰、辰、時也、正義曰、不レ能三時節二此夜之漏刻一、然則辰夜卽時夜也、莊子齊物論篇、正作三見レ卵而求二時夜一、蓋皆本二於毛詩一、淮南用二其文一、莊子用二其義一耳。

【晨夜兼道】137 シンヤケンダウ 晝夜兼行(5-13948··129)に同じ。〔資治通鑑、漢紀〕(獻帝、建安十三年)聞三操已向二荊州一、晨夜兼道。

【晨野】138 シンヤ あけがたの野。〔梁簡文帝、三日侍二皇太子曲水宴一詩〕驤二騎晨野一、摐二金曉陸一。

【晨來】139 シンライ 朝早く來ること。〔陶潛、自祭文〕外姻晨來、良友宵奔。

【晨霤】140 シンリウ 朝のあまだれ。霤は軒端より流れ落ちる雨水。〔潘岳、悼亡詩〕春風緣レ隙來、晨霤承レ簷滴。〔注〕善曰、說文曰、霤、屋承レ水也、濟曰、霤、雨水注二引於屋簷垂滴一而下。

【晨旅】141 シンリヨ 朝の旅。あけがたに出かける旅。〔陶潛、始作二鎭軍參軍一徑二曲阿一作詩〕投レ策命二晨旅一、暫與二園田一疏。

【晨燎】142 シンレウ あけがたのかがり火。〔後漢書、祭祀志上〕晨燎祭二天於泰山下一、南方羣神皆從、用レ樂如二南郊一。

【晨路】143 シンロ あけがたの路。〔儲光羲、終南幽居獻二蘇侍郎一三首時拜二太祝一未レ上詩〕春巖松柏秀、晨路鶡雞鳴。

【晨露】144 シンロ 殷の湯王の樂歌。〔列子、周穆王〕奏二承雲六瑩九韶晨露一以樂レ之。〔呂覽、古樂〕湯乃命二伊尹一、作二爲大濩一、歌二晨露一。〔淮南子、齊俗訓〕其樂大濩晨露。〔注〕大濩・晨露、湯所レ作樂。

【晨漏】145 シンロウ あけがたの時を知らせる水時計。〔漢書、五行志下之下〕建始元年八月戊午、晨漏未レ盡三刻、有二兩月重見一。

【晨往】146 シンワウ 朝早く行くこと。〔左氏、宣、二〕宣子驟諫、公患レ之、使二鉏麑賊一レ之、晨往、寢門闢矣、盛服將レ朝、尙早坐而假寐。〔後漢書、廉范傳〕虜謂、漢兵救至大驚、待レ旦將レ退、范乃令二軍中一蓐食、晨往赴レ之。〔韓愈、燕喜亭記〕晨往而夕忘レ歸焉、乃立レ屋以避二風雨寒暑一。

【晨苑閣】147 シンエンカク 淸、林嘉楠(6-14551··276)の室名。

【晨去暮來】148 シンキヨボライ あしたに去り夕に來る。〔漢書、朱博傳〕府中列二柏樹一、常有三野烏數千棲二宿其上一、晨去暮來、號曰二朝夕烏一。〔顏氏家訓、文章〕漢書、御史府中列二柏樹一、常有三野鳥數千棲二宿其上一、晨去暮來、號二朝夕鳥一、而文士往往誤作二烏鳶一用レ之。

【晨入夜歸】149 シンニフヤキ 朝早く官舍に入り、夜家に歸る。〔韓愈、上二張僕射一書〕凡執事之擇二於愈一者、非レ爲二其能晨入夜歸一也。

【晨入夜出】150 シンニフヤシユツ 晨入夜歸に同じ。〔神仙傳〕淮南王劉安、每二宴見一、談二說得失一、及獻二諸賦頌一、晨入夜出。

【晨飛丹腴】151 シンピタンユ 仙藥の名。〔雲笈七籤、淸虛眞人王君內傳〕主仙道君、以二雲碧陽水、晨飛丹腴二升一、賜レ君、君拜服レ之。

【⿱辰日】13963 シン 晨(5-13962)に同じ。〔集韻〕晨、或作レ⿱辰日。

【⿱日丣】13964 バウ 昴(5-13865)の本字。〔正字通〕⿱日丣、昴本字。

【昪】13965 トウ 冬(2-1610)の古字。〔說文〕冬、昪、古文冬从レ日。

【⿱日射】13966 シヨク 〔篇韻〕音昃 **あきらか。**〔篇韻〕⿱日射、明也。

【⿰日孝】13967 カウ 哮(2-3659)に同じ。〔篇韻〕⿰日孝、同レ哮。

【昬】13968 コン 昏(5-13806)に同じ。〔篇韻〕昬、同レ昏。

【晙】13969 シユン 晙(5-13939)に同じ。〔龍龕手鑑〕晙、同レ晙。

八畫

【⿰日冊】13970 テン 義未詳。〔五音篇海〕⿰日冊、音典。

【⿰日⿹勹且】13971 タン 義未詳。〔五音篇海〕⿰日⿹勹且、音祖。

【⿰日亙】13972 ケン 晅(5-13893)の本字。〔正字通〕⿰日亙、晅本字。

【⿰日㒳】13973 ヘツ ヘチ 〔集韻〕必結切 屑 **さらす。**〔集韻〕⿰日㒳、暴乾也。

【晪】13974 テン 〔集韻〕他典切 銑 **あきらか。**〔集韻〕晪、明也。

【⿱典日】13975 テン 腆(9-29602)の古字。〔說文〕腆、⿱典日、古文腆。〔段注〕从レ日蓋誤。

【晫】13976 タク 〔集韻〕竹角切 覺 **あきらかなさま。**通じて卓(2-2741)に作る。〔玉篇〕晫、明盛貌。〔集韻〕晫、明皃、通作レ卓。

【晬】13977 サイ スイ 〔集韻〕祖對切 隊 ㄗㄨㄟˋ tsuei^{4}

小篆 **ひとまはり**。一周年。子の第一周年目の誕辰。〔說文新附〕晬、周年也、从㆓日卒㆒、卒亦聲。〔說文新附考〕爾雅、卒、盡也、四時周則歲盡、故詩曰、何以卒㆑歲、俗加㆑日爲㆓周年之稱㆒、至㆓廣韻㆒始訓爲㆓周年子㆒、今皆謂㆓子周㆑歲爲㆑晬、蓋非㆑古矣。

【晬時】1（サイジ） 一周年の誕生日。〔集韻〕晬、子生一歲也、一曰、晬時者、周時也。

【晬盤】2（サイバン） 兒の一周年の誕辰に物を兒の前に陳ねることで、其の兒が弓矢を弄すれば武官、筆墨を弄すれば文官、算盤を弄すれば商人となる兆として、其の立身を卜するをいふ。試兒(**10−35415**‥33)に同じ。〔顏氏家訓、風操〕江南風俗、兒生一期、云云、男則用㆓弓矢紙筆㆒、女則刀尺鍼縷、竝加㆓飲食之物及珍寶服玩㆒、置㆓之兒前㆒、觀㆓其發㆑意所㆑取、以驗㆓貪廉愚智㆒、名㆑之爲㆓試兒㆒。〔合璧事類〕周歲陳設曰㆓晬盤㆒、又名㆓試兒㆒。

【暃】13978

ヒ ビ 〔集韻〕符非切 微

はなれる。〔集韻〕暃、廣雅、離也。

【⿱日直】13979

チ 置(**9−28298**)の譌字。〔正字通〕⿱日直、置字之譌。

【⿰日帚】13980

シウ シユ 〔集韻〕止酉切 有

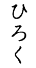
あきらか。或は晭(**5−13981**)に作る。〔集韻〕⿰日帚、明也、或作㆑晭。

【晭】13981

シウ ⿰日帚(**5−13980**)に同じ。〔集韻〕⿰日帚、或作㆑晭。

【普】13982

ホ フ 〔集韻〕頗五切 麌 ㄆㄨˇ p'u^3


小篆 ㊀**あまねし**。ひろい。おほきい。ひろくゆきわたる。溥(**7−17957**)に通ず。〔說文、普、段注〕今借爲㆓溥大字㆒。〔孟子、萬章上〕普天之下。〔注〕普、徧也。〔淮南子、本經訓〕普氾無㆑私。〔注〕普、大也。〔張衡、西京賦〕皇恩溥、〔注〕綜曰、普、博施也。㊁**なみ**。普通(58)を見よ。㊂**くらい**。普(**5−14082**)に同じ。〔說文〕普、日無㆑色也、从㆑日竝聲。〔說文通訓定聲〕普、竝者、旁也、旁者、雲旁溥也、今隸作㆑普。㊃**姓**。〔萬姓統譜〕後魏十姓、獻帝次兄爲㆓普氏㆒、今陝西安府有㆓普氏㆒。㊄現歐羅巴の國の名。普魯士の略稱。

名乘 ヒロ。ユキ。

【普安】1（フアン） ㊀郡名。西魏、置く。四川省劍閣縣。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府〕劍州、春秋戰國時蜀地、云云、漢屬㆓廣漢郡㆒、云云、西魏改爲㆓始州㆒、兼㆓置普安郡㆒。㊁縣名。㋑西魏、置く。明、省く。四川省劍閣縣。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、劍州〕普安廢縣、今州治、漢梓潼縣地、云云、西魏改曰㆓普安㆒、隋唐以來因㆑之、皆爲㆓州治㆒。㋺明、置く。廣東省普寧縣の東南。㋩清、置く。貴州省盤縣の東。北盤江の支流、岔水河の東。〔清史稿、地理志〕貴州、興義府、縣三、普安。㊂廳名。清、置く。貴州省盤縣。㊃後魏、元汎(**1−1340**‥510)の字。

【普菴】2（フアン） ㊀宋の高僧。名は印肅。普菴は字。臨濟十二世の孫、牧菴忠禪師の法嗣。袁州の南泉山に住す。元朝より大德慧慶の號を加贈されたので、慧慶禪師と號す。㊁元、保八(**1−702**‥207)の字。

【普宴】3（フエン） 世のあまねく安らかになること。〔傅玄、陽春賦〕樂㆓仁化之普宴㆒兮、異㆓鷹隼之變形㆒。

【普延】4（フエン） あまねく招き呼ぶ。〔魏略、儒宗傳序〕正始中有㆓詔議㆒、圜丘普㆓延學士㆒。

【普衍】5（フエン） ひろくゆきわたる。あまねくみちひろがる。〔潘岳、蓮花賦〕偉㆓玄澤之普衍㆒、嘉㆓植物之竝敷㆒。

【普恩】6（フオン） あまねくゆきわたるめぐみ。〔薛逢、元日樓前觀㆑仗詩〕欲㆑識普恩無㆓遠近㆒、萬方歡抃一聲雷。〔白居易、神策軍及諸道將士某等一千九百人各賜㆓上柱國勳㆒制〕何嘗蹔忘、而亟因㆓大慶㆒、思㆑洽㆓普恩㆒。

【普加】7（フカ） あまねくほどこすこと。〔南史、宋孝、武帝紀〕普加㆓霑賚㆒。〔蘇轍、文〕神明昭荅、膏澤普加。

【普荷】8（フカ） 明の僧。寧州の唐氏の子、唐泰。字は大來。號は檐當(擔當)・修園。明末の諸生。天啓中、明經を以て入對し、國變の後、薙髮して僧となり普荷と稱し、茅屋を雞鳴山下に結ぶ。書を善くし、詩に巧。著に修園集・撇菴草がある。〔清畫家詩史、壬、下〕・〔國朝書畫家筆錄、四〕・〔國朝畫識、十四〕。

【普覺】9（フカク） 宋、宗杲(**3−7106**‥32)の諡。

【普洽】10（フカフ） あまねし。ひろくゆきわたる。溥洽。〔後漢書、和帝紀〕德化普洽、垂㆓意黎民㆒。〔吳志、賀邵傳〕海內樂㆑業、大化普洽。〔顏延之、車駕幸㆓京口㆒三月三日侍㆓遊曲阿後湖㆒作詩〕德禮既普洽、川岳徧懷柔。

【普喜】11（フキ） 元の僧。山東の人。號は吉祥。慈恩宗を精究し、唯識・師地・因明等の論に精通。至元の間、鎭江の普照寺に住し、卒するに及んで、邑人、像を圖して祠り、吉祥佛となした。〔大明高僧傳、二〕。

【普暉】12（フキ） 明、垣曲の人。景德中、鄉擧に中る。官は白河知縣。後、山東按察僉事に遷る。大臣皆薦めて經濟の才ありといひ、將に大いに用ひられようとして卒し、時人之を惜しむ。〔蘭臺法鑒錄、十一〕。

【普救】13 p'u^3 chiu^4 あまねく救ふ。

【普及】14（フキフ） あまねくとどく。ひろくおよぶ。一般に行きわたる。又、あまねくおよぼす。〔大悲呪、甘露門〕願以㆓此功德㆒、普及㆓於一切㆒、我等與㆓衆生㆒、皆共成㆓佛道㆒。

【普及教育】14′（フキフケウイク） 初等教育を指していふ。あまねく何れの人民にも行きとどく教育の義。

【普光】15（フクワウ） ㊀唐の僧。玄奘が大小乘經律論を譯すや、普光之に預る。時に大乘光と號す。〔宋高僧傳、四〕。㊁元の僧。大同の李氏の子。字は元暉(玄暉)。號は雪菴(雪窗)。特に昭文館大學士に封ぜられ、玄悟大師の號を賜はる。書及び詩に巧。溥光(**7−17957**‥5)を見よ。㊂宋、滕中正(**7−18036**‥56)の字。

【普願】16（フグワン） 唐の僧。新鄭の王氏の子。貞元の間、池陽の南泉院に住す。故に世に南泉和尚と稱す。太和八年、年八十七にて示寂す。〔宋高僧傳〕。

【普惠】17（フケイ・フヱ） 元の僧。平定の人。號は洞雲。壽聖寺に住して、詩を能くし、戒行あり、中書左丞呂思誠と方外の友となる。後、獅子山の石岩下に徙り、年九十八にして示寂す。〔元詩紀事、二十四〕。

【普惠宗覺禪師】18（フケイソウカクゼンジ・フヱシユウカクゼンジ） 宋、德光(**4−10243**‥70)の諡。

【普現】19（フゲン） ひろくあらはれる。到る所にあまねく出現する。〔范成大、三月十五日華容湖尾看㆓月出㆒詩〕兜羅世界網、普現無㆓邊際㆒。

【普現色身】20（フゲンシキシン） 佛佛菩薩が普く種々の身を現じて衆生を濟度すること。〔大日經疏〕當㆑念我當㆘得㆓門證自然之慧㆒、然後普現㆓色身㆒而演㆗說之㆖。

【普賢】21（フゲン） ㊀佛菩薩の普く衆生を濟度するものの名。繪圖には常に白象に騎る所を描く。賢首。〔大日經疏〕普賢菩薩者、普是遍㆓一切處㆒義、賢最勝妙善義。〔嘉祥法華義疏、十二〕普賢者、外國名㆓三曼多跋陀羅㆒、三曼多者、此云㆑普也、跋陀羅、此云㆑賢也、此土亦名㆓遍吉㆒、遍猶是善、吉亦是賢也。㊁字號。㋑後魏、宋瓊(**3−7078**‥76)の字。㋺北齊、韓賢(**12−43159**‥88)の字。

【普公】22（フコウ） 宋、劉濤(**2−2224**‥476)の字。

【普弘】23（フコウ） あまねくひろめる。〔雲笈七籤〕八方諸天、普㆓弘大道㆒。

【普告】24（フコク） あまねくつげる。ひろく知らせる。播告。敷告。布告。廣告。〔魏志、陳留王奐傳〕可㆓普

告施行二。〔魏書、前廢帝廣陵王紀〕可二普告令レ知。

【普茶】25 フサ フチャ [佛]㊀黃檗宗で、法會の終つた後、大衆に茶を供すること。〔黃檗清規、節序〕下午小參藥石後、常住普茶。〔禪林象器箋、二十五、飮啖門〕點レ茶普及二一衆一、故曰二普茶一。㊁黃檗宗の寺で調理した一種の精進料理の稱。

【普茶會】26 フチャヱ フサヱ [佛]普茶料理を饗すること。

【普茶料理】27 フチャレウリ フサレウリ 中國式の精進料理。黃檗宗の寺院に於て古より行はれ、酒に代へて茶を用ひる。

【普濟】28 フサイ ㊀あまねくすくふ。〔陸機、演連珠〕德以二普濟一爲レ弘。㊁州名。元、置く。明、長官司とす。故治は四川省西昌縣の西南。〔清史稿、地理志〕四川、寧遠府、土司十一、普濟州長官司。㊂宋の僧。字は大川。靈隱寺に住し、著に五燈會元がある。〔新續高僧傳、三〕。

【普濟堂】31 フサイダウ 清代、老衰者・癈疾者等を收容した養育院。唐には飛田院あり、宋には福地院・福田院・廣惠倉等あり、元には濟衆院・惠民藥局あり、明には養濟院あり、清は歷朝の制を參酌して普濟堂を設けた。〔清會典事例、戶部、蠲恤、收羇窮〕康熙四十五年、京城廣寧門外、士民公二建普濟堂一、頒二發御製碑文、及御書膏澤回春扁額一、雍正二年諭、京師廣寧門外、向有二普濟堂一、凡老疾無依之人、每棲二息於此一、司二其事一者殊爲レ可レ嘉。

【普濟方】32 フサイハウ 書名。一百六十八卷。明の太祖の第五子、周定王朱橚撰。古今方劑を取つて輯めて編を成す。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【普市】33 フシ 鎭の名。四川省敍永縣の南。

【普施】34 フシ ㊀あまねくほどこす。〔晏子、問、上〕節二取於民一、而普施レ之。〔史記、五帝紀〕高辛普施利レ物、不レ於二其身一。〔漢書、杜欽傳〕唯陛下純レ德普レ施、無二欲是從一。㊁[佛]セフ ㋑dānaの譯。清淨な心で、人に法や物を惜しまずに施し惠むこと。又、そのもの。㋺僧に與へる金錢又は品物。

【普洱】35 フジ ㊀府名。清、置く。古の產里の地。諸蠻雜居し、宋以前は通ぜず、元の世祖、交趾を伐つた時、之を降し、威遠・思茅・他郞の三廳、寧洱縣、車司宣慰司を管轄した。治は雲南省寧洱縣。〔清會典、戶部〕雲南布政司所屬府十有四。〔注〕普洱府治在二甯洱縣一。〔清史稿、地理志〕雲南、普洱府、領二廳三、縣一、宣慰司一一、寧洱・威遠廳・思茅廳・他郞廳、車里宣慰司。㊁道名。民國、置く。雲南省治の西南。思茅・寧洱・墨江・景谷・元江・新平・瀾滄・鎭沅・景東・緬寧の十縣及び猛烈行政委員・扛哄・猛班・世襲轅門・猛角董・圈糯・黃草嶺・下允の七土千總、猛戞・世襲・東河・上允・幕廼兼賢官の五土把總、大山・蠻海の二土守備、猛濱・班中・西盟の三土目、孟連宣撫司・大雅口土都司を管轄す。

【普洱茶】36 フジチャ 雲南省の普洱府に產する茶。〔本草綱目、拾遺、木部、普洱茶〕出二雲南、普洱府一、成レ團、有二大中小三等一、大者一團五斤、云云、普洱茶膏黑如レ漆、醒レ酒第一、綠色者更佳、消レ食化レ痰、清レ胃生レ津、功力尤大也。

【普慈】37 フジ 縣名。北周、置く。四川省樂至縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川省、樂至縣〕普慈廢縣、縣東北三十五里、後周置二多業縣一、幷置二普慈郡一治レ焉、隋開皇初、郡廢、縣屬二普州一、十三年改レ縣曰二普慈一、大業初、縣屬二資陽郡一、唐仍屬二普州一、宋乾德五年廢、入二樂至縣一、郡志、普慈廢縣在二安岳西北百里一、境相接也。

【普州】38 フシウ 州名。北周、置く。宋に至つて廢す。四川省安岳縣。〔讀史方輿紀要、四川、潼川州〕安岳縣、漢爲二資中牛鞞墊江三縣地一、後周置二安岳縣一、幷置二普州一治レ焉、隋初因レ之、云云、唐武德二年復置二普州一、治二安岳縣一。

【普舍】39 フシャ 縣名。元、置く。雲南省玉溪縣の北。

【普勝】40 フショウ 宋の高僧。陸澤の張氏の子。五臺山の華嚴寺に於て超化大師に師事し、又、崇法大師に從つて唯識論を受く。太祖號を宣教大師と賜はる。〔宋高僧傳、二十八〕。

【普進】41 フシン あまねくすすむ。〔北史、魏紀五〕百官普進二一階一。

【普請】42 フシン [佛]㊀あまねく同志に請うて共に事を爲す。〔僧史略、上〕共作者謂二之普請一。〔傳燈錄、禪門規式〕行二普請之法一、上下均レ力也。〔法苑珠林〕一切聖凡、亦皆普請。㊁寺などで諸人に寄附を請うて堂塔を建築すること。轉じて、建築の義。〔釋氏要覽、下、普請〕佛令下鳴二犍椎一摠集共爲上レ之、此普請之始也。〔下學集、下、態藝門〕普請二諸人一作レ事、故云二普請一者也。㊂衆を集める。〔敕修清規、送亡〕白二大衆一、粥罷普請送亡。

【普請役】43 フシンヤク 武家時代、大名・諸士等に課する普請の夫役。〔見聞雜錄〕。

【普請奉行】44 フシンブギャウ 武家の職名。土木・建築、其の他の工事を掌る。作事奉行(**1－518‥86**)を見よ。〔信長公記、五〕元龜三年三月二十四日、御普請奉行村井民部、島田所助。

【普寂】45 フジャク 唐の僧。河東の馮氏の子。神秀に玉泉寺に從ひ六年にして盡く其の道を得、神秀に代り法衆を統ぶ。賜號は大照禪師。〔宋高僧傳、九〕。

【普照】46 フセウ ㊀あまねくてらす。〔梁簡文帝、大法頌序〕慧日普照、毒霜並消。㊁隱元禪師の謚號。隱元(**11－41891**‥64)を見よ。

【普浹】47 フセフ あまねくゆきわたる。〔狄仁傑、請三曲二赦河北諸州一疏〕昔董卓之亂、神器播遷、及二卓被レ誅、部曲無レ赦、事窮變起、毒害生人、京室邱墟、化爲二禾黍一、此由三恩不二普浹一、失在レ機。

【普選】48 フセン 普通選擧(66)の略。

【普薦】49 フセン 銂にもつた羹。〔儀禮、士虞禮記〕嘉薦、普淖、普薦、溲酒。〔注〕普薦、銂羹。

【普瞻】50 フセン あまねくみる。〔梁簡文帝、吳郡石像碑〕普瞻二色像一、遙覩二十方一。

【普率】51 フソツ 全天下。滿天下。普天率土(75)の略。〔宋史、樂志十五〕普率洽二恩榮一。

【普存】52 フソン あまねく十分にゆきとどく。〔左氏、桓、六〕博碩肥腯、謂二民力之普存一也、謂二其畜之碩大蕃滋一也。

【普陀】53 フダ 山名。㊀浙江省定海縣の東の海中。梵名は補陀落迦。又、梅岑といふ。著名な山峯に、錦屛・雪浪・蓮臺・青鼓・伏龍・天竺・梵・外梵・觀音跳・毛跳・長短・喇叭嘴・茶山の十三がある。著名な洞を潮音・梵音・朝陽といふ。著名な石を盤陀・說法臺・五三參・二龜聽法・桂空・八卦・馬鞍・雲扶・巫山・不二・一葉扁舟・仙掌・香爐・佛牙・鸚哥・天篦・水墨・點頭・無畏・疊子・蝦蟆・眞歇・靈芝・慈雲・鼓石といふ。著名な寺觀を普濟寺・法雨寺・長生禪院・磐陀庵・梅福庵・靈石庵といふ。〔古今圖書集成、山川典、普陀山部彙考〕普陀山、舊名梅岑山、漢梅福煉二丹於此一、故名二其名一、普陀又稱二補陀洛迦一、蓋梵語也、其山在二今浙江寧波府定海縣東南海中一。㊁廣東省惠來縣の西北。又、普陀巖山に作る。

【普泰】54 フタイ ㊀北朝、魏（元魏）の節閔帝（拓跋恭）の年號。(531)㊁明、陝西の人。字は魯山。號は野菴。禪に深く、儒學を嗜む。嘗て淮を泝り、江を涉り、書を鍾山寺に讀み、京師に還つて隆興寺に住す。著に魯山詩集がある。〔明詩綜、九十二〕。

【普淖】55 フタウ きび。黍稷。〔儀禮、士虞禮記〕嘉薦普淖。〔注〕嘉薦、葅醢也、普淖、黍稷也、普、大也、淖、和也、德能大和、乃有二黍稷一、故以爲レ號云。

【普覃】56 フタン あまねく及ぶ。ひろく及ぶ。普及。〔常袞、謝二讓加銀青福建觀察使一表〕德音頻降、霈澤普覃。〔元史、選擧志三〕蒙古儒學教授、一體普覃。

【普持】57 フヂ 明の高僧。字は寶藏。聖恩に住す。

【普通】58 フツウ ㊀よのつね。なみなみ。通常。通例。㊁梁の武帝（蕭衍）の年號。(520－527)㊂一般。全般。特別。專門等に對する語。㊃一般に。おしなべて。

【普通學】59 フツウガク 一般國民に必要な普通の知識を授ける諸種の學問。小・中學校等の學科。專門學に對する語。

【普通法】60 フツウハフ 一般の人又は事に通じて適用される法律規則。一般法。

【普通文】61 フツウブン 普通に使用せられる文體で書かれた文。現代文。

【普通感覺】62 フツウカンカク 人身の各種の感覺機關が同樣に感ずる感覺。快樂・疲勞等。一般感覺。

【普通教育】63 フツウケウイク 國民として必要な普通學の知識を授ける教育。初等教育と中等教育とをいふ。專門教育に對する語。

【普通股票】64 p'u^3 t'ung^1 ku^3 piao^4 普通株券。優先股票に對していふ。

【普通公理】65 フツウコウリ 數學用語。推理の基本とする命題。自然の定理。

【普通選擧】66（フツウセンキョ） 學識・納稅額・階級などの制限を選擧資格の要件とせぬ選擧制度。普選。制限選擧（**2－1961**‥36）の對。

〔普通文官〕67（フツウブンクワン） ❶特殊の文官である外交官・技術官以外の文官をいふ。❷もと高等文官に對して判任文官をいふ。普文。

〔普通名詞〕68（フツウメイシ） 人・馬などの如く同一部類の事物に適用せられる名詞。

〔普通名辭〕69（フツウメイジ） 多數の事物に共通な特徵を示す名辭。一般名辭。

【普定】71（フテイ） ❶縣名。元、置く。貴州省安順縣の西北。烏江の支流、三岔河の南岸。〔讀史方輿紀要、貴州、安順軍民府〕普定廢縣、西志云、元置レ縣、隸二普定路一、明初省入二安順州一。〔清史稿、地理志〕貴州、安順府、縣三、普定。❷城の名。貴州省鎭寧縣の廢十二營司の東南。明の洪武中、普定を定む。〔讀史方輿紀要、貴州、安順軍民府、鎭寧州、十二營長官司〕普定故城、志云、洪武十四年、大軍克二普定一、暫立二此城一爲二守禦一。

【普天】72（フテン） あまねく覆ふそら。あめがした。天下。溥天。〔漢書、王莽傳中〕普天下、迄二于四表一、靡レ所レ不レ至。〔揚雄、長楊賦〕普天所レ覆、莫レ不二沾濡一。

〔普天樂〕73（フテンノタノシミ） あまねく行きわたる樂。〔元稹、賀降誕日德音狀〕同沾二就日之榮一、實慶二普天之樂一。

〔普天之下〕74（フテンノモト） あまねく覆ふおほぞらの下、月日の照す限りの土地。天下殘りなく。あめがした。滿天下。敷天之下。〔史記、秦始皇紀〕普天之下、摶レ心揖レ志。

〔普天率土〕75（フテンソツト） 普天之下率土之濱（77）に同じ。〔班固、兩都賦、明堂詩〕普天率土、各以二其職一。

【普天同慶】76 p'u^3 t'ien^1 t'ung^2 ch'ing^4 一般の喜び。天下一同の喜び。

〔普天之下率土之濱〕77（フテンノモトソツトノヒン） 天の普く覆ふ所。地の連續せるかぎり。率は循、濱は涯。溥天之下率土之濱（**7－17957**‥20）を見よ。〔左氏、昭、七〕故詩曰、普天之下、莫レ非二王土一、率土之濱、莫レ非二王臣一。〔釋文〕普本或作レ溥、音同。〔孟子、萬章上〕普天之下、莫レ非二王土一、率土之濱、莫レ非二王臣一。

【普渡】78（フト） 川の名。一名は螳螂川。雲南省昆陽縣の北。金沙江に注ぐ。螳螂（**10－33503**‥5）の❷を見よ。

〔普渡衆生〕79（フドシュジャウ） 佛 あまねく一般民衆を救ひ彼岸に登らせる。

【普度】80（フド） ❶ひろく剃度させる。あまねく佛門に入れる。〔宋史、孔承恭傳〕請下於二征戰地一修レ寺、及普中度僧尼上。❷廣く法力を施して衆生を救濟すること。❸元の僧。俗姓は蔣氏。丹陽の人。丹の妙果寺に住し、大德九年、蓮宗寶鑑十卷を撰す。虎溪尊者の號を賜はる。至順元年に寂す。〔淨土聖賢錄、四〕。❹南宋の僧。字は虛舟。維楊江都の人。靈隱寺の鉄牛に參じ、金陵の半山に出世す。後、金山寺・中天竺寺・靈隱寺・徑山寺などに住す。至元三年四月、八十二歲にて寂す。〔增集續傳燈、四〕。

【普籐】81（フトウ） 土司の名。清、置く。車里宣慰司所轄の十二版納の一。刁姓の土千總。雲南省普文縣。

【普屯】82（フトン） 複姓。〔北史、辛威傳〕辛威、少慷慨有二志略一、初從二賀拔岳一征伐有レ功、云云、及三周文統二岳衆一、見レ威奇レ之、引爲二帳內一、云云、累二遷開府儀同三司一、賜二姓普屯氏一。

【普納】83（フナフ） 一般にひろく入りこます。〔左思、吳都賦〕開二市朝一而普納。

【普寧】84（フネイ） 縣名。❶西魏、置く。四川省仁壽縣の東。〔讀史方輿紀要、四川省、成都府〕仁壽縣、漢犍爲郡武陽縣之東境、云云、梁置二懷仁縣一、幷置二懷仁郡一治レ焉、西魏改レ縣曰二普寧一、幷置二陵州於此一。❷隋、置く。廣西省容縣。〔讀史方輿紀要、廣西省、梧州府、容縣〕普寧廢縣、今縣治、云云、天寶初改曰二普寧郡一、乾元初復レ古、元和中移二治普寧縣一。❸唐、置く。四川省の境。❹明、置く。廣東省揭陽縣の西南。〔讀史方輿紀要、廣東省、潮州府〕普寧縣、嘉靖四十三年析二潮陽縣之洋烏洑水黃坑三都地一、置二縣於貴嶼一、名二安普縣一、萬歷三年、改築二城基於後嶼一、十年以二一都一還二潮陽一、止存二黃坑一都一、改曰二普寧縣一、十四年城成、因移レ治焉、南去二舊治一二十里、城周三里有奇、編戶十四里。〔清史稿、地理志〕廣東、潮州府、縣九、普寧。❺兀菴禪師の名。兀菴（**1－1337**‥1）を見よ。

【普梅】85（フバイ） 川の名。雲南省廣南縣の南。二源あり。文山縣に發源す。一は那樓江、一は溫江河といふ。富良江に注ぐ。

【普氾】86（フハン） 風俗などの普く廣く行き届くをいふ。普汎。〔淮南子、本經訓〕秉二太一一者、牢二籠天地一、彈二壓山川一、含二吐陰陽一、伸二曳四時一、紀二綱八極一、經二緯六合一、覆露照導、普氾無レ私。〔注〕普、大也、氾、衆也、無二私愛惜一、言二皆公一也。〔王融、三月三日曲水詩序〕澤普氾而無レ私、法含弘而不レ殺。

【普汎】87（フハン） あまねくひろい。又、あまねくひろく。一般に。普偏。偏普。〔魏書、孝莊帝紀〕遷二肅祖文穆皇帝及文穆皇后神主于太廟一、內外百僚、普汎加二一級一。

【普淜】88（フヒョウ） 地名。雲南省姚南縣の西南。〔讀史方輿紀要、雲南省、姚安軍民府、姚州〕普淜驛、爲二往來必經之道一、兼設二巡司一、戍二守於此一。

【普佛】89（フフツ） 普魯西と佛蘭西。

【普文】90（フブン） ❶縣名。民國、置く。雲南省に屬す。❷普通文官の略。

【普偏】91（フヘン） あまねくゆきわたる。偏は遍に同じ。偏普。普汎。〔孔穎達、周易正義序〕既指二周代之名一、亦是普偏之義。

【普遍】92（フヘン） すべてのものにゆきわたる。ひろくゆきわたる。普偏に同じ。

〔普遍性〕93（フヘンセイ） すべてのものに通ずる性質。又、すべての場合にあてはまる可能性。

【普毛】94（フマウ） 複姓。〔周書、辛威傳〕十三年、遷二車騎大將軍、儀同三司、驃騎大將軍開府儀同三司一、賜二姓普毛氏一。

【普滿】95（フマン） 唐の高僧。放誕にして僧形に拘らず。後、言ふ所皆驗あり。〔宋高僧傳〕。

【普明】96（フミャウ） 元の僧。松江の曹氏の子。號は雪窗。吳中の承天寺に住す。

〔普明頭陀〕97（フミャウヅダ） 清、歸莊（**6－16349**‥107）の號。

【普門】98（フモン） 佛 ❶華嚴經の所明一門の中に一切法を攝入すること。又、普法といふ。〔探玄記、二〕入二緣起陀羅尼一、一門中卽攝二圓融法界一、故云二普門一、云云、一門有二一切門一名二普門一、又若依二普門一一位卽一切位。❷佛が神通力を開通して種々の身を示現し、一切衆生を圓通せしめること。〔法華經、普門品〕聞二是觀世音菩薩品自在之業、普門示現神通力一。

〔普門品〕99（フモンボン） 佛 經名。觀世音菩薩普門品の略。法華經二十八品中第二十五品。觀音菩薩が普門圓通の德を說いた。〔嘉祥法華義疏、十二〕普門者、普以二周普一爲レ義、門覺開通無滯之名、能通レ道令二物悟入一、故稱爲レ門。

【普羅】100（フラ） ❶西蕃及び陝甘地方より產する羅紗の類。〔格古要論〕。❷プロレタリヤ。普羅列搭利亞。proletarian

【普賚】101（フライ） あまねく賜ふ。〔梁書、武帝紀下〕普賚二內外從官軍主左右錢米一。

【普里】102（フリ） 地名。今の貴州舊安順府の地。宋時には普里部といふ。〔名勝志〕羅鬼犵狫可剛苗所レ居、號二普里部一。

【普律】103 p'u^3 lü^4 都て。一律に。

【普效方】104（フカウハウ） 書名。千卷。宋、太宗の勅撰。醫書。〔玉海、藝文、藝術、雍熙神醫普效方〕太平興國六年、詔二賈黃中等一、於二崇文院一編二錄醫書一、雍熙三年、十月纂二成千卷一、目錄十卷名二神醫普效方一、御製序。

【普化宗】105（フケシュウ） 佛 禪宗の一派。鎌倉時代に法燈國師の傳へたもので、唐の普化禪師が開いた宗旨。維新後は臨濟宗に合す。〔都名所圖會拾遺、四〕虛無僧、こもそうと音讀す、故に或は菰僧と云ふ歟、普化禪師を祖とす、故に普化僧とも云ふ。

【普化僧】106（フケソウ） 佛 普化宗の僧。一に、虛無僧ともいふ。尺八を吹いて托鉢するもの。〔守貞漫稿、六、雜業〕。

【普元理】107（フゲンリ） 元の人。其の先は高昌の人。公安に徙る。至正の進士。官は御史・江南湖北廉訪使。時に治むる所の郡縣の地皆寇に入る。遂に湘憲に詣りて分司の印を假り兵を徵して郡に屬す。幾ばくもなく嶺南參知政事を授けられたが、兵潰え、屈せずして死す。〔新元史、二百三

十二〕。

【普爾錢】108（フジセン） 西域の葉爾羌・喀叶噶爾等の地方で使用した錢の名。紅銅で造る。〔皇朝文獻通考、錢幣考〕回部之葉爾羌、喀叶噶爾和闐城、舊有二錢文一、市易通用名曰二普兒一、質以二紅銅一爲レ之、重二一錢一、制小而厚、外有二輪郭一、中無二方孔一、每錢五十文、謂二之騰格一。

【普爾泰】109（フジタイ） 清、蒙古正黃旗人。姓は額爾特肯氏。乾隆中、侍衞を以て金川に從征し、功により三等男を授けらる。臺灣の林爽之を勦伐するに隨ひ二等男に進めらる。〔清史稿、三百三十七〕・〔清史列傳、二十五〕・〔國朝耆獻類徵、二百九十二〕。

【普速完】110（フソククワン） 西遼、承天后（**5－11852**‥159）の名。

【普六茹】111（フリクジヨ） 複姓。普陋茹（114）に同じ。〔通志、氏族略、代北三字姓〕普六茹氏、周書、楊忠賜二姓普六茹一、疑與二普陋茹一同、茹、或作レ如。

【普魯士】112（プロシヤ） 獨逸聯邦を組織する共和國の一。

【普魯西】113（プロシヤ） 普魯士に同じ。

【普陋茹】114（フロウジヨ） 複姓。〔通志、氏族略〕代北三字姓、普陋茹氏、改爲二茹氏一。

【普應國師】115（フオウコクシ） 元、明本の謚。陶復初（**11－41705**‥227）を見よ。

【普香世界】116（フカウセカイ） 悟道の境地。〔法苑珠林〕莎升比丘、今在二普香世界一、作二辟支佛一。

【普顏不花】117（プエンプホア） 元の人。蒙古氏。字は希古。至正中、右榜進士第一。江南を經略するの功多く、官は知樞密院事・平章山東行省。徐壽輝・陳友諒を拒ぎ功を立て、明兵と戰ひて死す。〔元史、一百九十六〕・〔新元史、二百三十二〕。

【普會大師】118（フクワイダイシ フエダイシ） 唐、石霜（**8－24024**‥332）の謚。

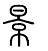
【普率大義】118′（フソツノタイギ） 普天率土の大義。忠君の大義。〔牧野藻洲、撤藩置縣〕普率大義、君公敎二群臣一久矣。

【普里茅斯】119（プリマス） Plymouth の音譯。❶イングランド南西部、デヴォンシヤの港市。❷米國マサチユセッツ州の港。

【普化帖木兒】120（プホアチムール） 元、答魯乃蠻氏。字は兼善。官は至正中、南行臺御史大夫。張士誠、既に達識帖睦邇を拘へ、行臺の印章を索む。普化帖木兒、其の印を封じて庫に置き、我が頭斷ずべくも、印は與ふべからず、死すべくも辱しむべからずと、從容として沐浴更衣し、妻子と訣別し、詩二章を賦し、藥を仰いで死す。〔新元史、二百十七〕。

【普裏普兒的】121 pʻu^{2} li^{3} pʻu^{3} êrh^{2} tê すべて。全部。みんな。普く。ことごとく。

【景】
13983


小篆

［一］ケイ キヤウ 〔集韻〕擧影切 ㄐㄧㄥˇ ching^{3} 梗

［二］エイ ヤウ 〔集韻〕於境切 ㄧㄥˇ ying^{3} 梗

［一］❶ひかり。ひざし。ひかげ。〔說文〕景、日光也、从レ日京聲。〔段注〕日字、各本無。〔釋名、釋天〕景、竟也、所レ照處有二竟限一也。〔廣雅、釋詁三〕景、照也。〔張衡、西京賦〕流二景曜之韡曄一。〔注〕善曰、景、光景也。〔後漢書、班固傳下〕吐二金景一兮歊二浮雲一。〔注〕景、光也。❷日。〔王融、三月三日曲水詩序〕揆二景緯一以裁レ基。〔注〕善曰、景、日也。〔陸機、樂府長安有狹邪行〕輕蓋承二華景一。〔注〕善曰、華景、日也。❸あきらか。〔詩、小雅、車舝〕景行行止。〔箋〕景、明也。❹白いさま。〔廣雅、釋訓〕景景、白也。❺やうす。かたち。〔廣韻〕景、像也。〔漢書、梅福傳〕此何景也。〔注〕師古曰、景、象也。❻けしき。風致。〔陳書、孫瑒傳〕每良辰美景。〔李商隱雜纂、不快意〕樹陰遮レ景。❼おもむき。風情。〔蘇軾、次二韻林子中一詩〕爲レ報二年來殺風景一、連レ江夢レ雨不レ知レ春。❽うちかけ。うはぎ。衣に塵のかかるのをふせぐためのおほひ。障（**11－41821**）に通ず。〔說文通訓定聲〕景、叚借爲レ障。〔儀禮、士昏禮〕姆加レ景。〔注〕景之制、蓋如二明衣一、加レ之、以爲二行道禦レ塵、令二衣鮮明一也、景、亦閒也。❾ちち。鐘の表面につけた飾りの小突起。〔周禮、考工記、鳧氏〕鐘帶謂二之篆一、篆閒謂二之枚一、枚謂二之景一。❿大きい。京（**1－299**）に通ず。〔說文通訓定聲〕景、叚借爲レ京。〔爾雅、釋詁〕景、大也。〔詩、小雅、楚茨〕以介二景福一。〔箋〕景、大也。〔揚雄、甘泉賦〕垂二景炎之炘炘一。〔注〕晉灼曰、景、大也。⓫つよい。勍（**2－2370**）に通ず。〔說文通訓定聲〕景、叚借爲レ勍。〔春秋考異郵〕景者、強也。⓬したふ。あこがれる。〔篇海〕景、慕也。〔後漢書、劉愷傳〕今愷景二仰前修一。〔注〕景、猶レ慕也。⓭あふぐ。〔篇海〕景、仰也。〔金史、熙宗紀〕萬世景仰。⓮めでたい。慶（**4－11145**）に通ず。〔瑞應圖〕景雲者、太平之應也、一曰二慶雲一。⓯山名。河南の景山の略。〔詩、商頌、玄鳥〕景員維河。〔集傳〕景、山名、商所レ都也。⓰風の名。〔爾雅、釋天〕四時和爲二通正一、謂二之景風一。〔廣雅、釋天〕南方、景風。⓱謚。〔逸周書、謚法解〕耆意大慮曰レ景、布レ義行レ剛曰レ景、由レ義而濟曰レ景。⓲姓。〔通志、氏族略、以レ族爲レ氏〕景氏、芈姓、楚公族也、漢初徙二山東豪族於關中一、今好時華陽諸景、是也。［二］❶かげ。影（**4－10019**）に同じ。〔集韻〕景、物之陰影也。〔顏氏家訓、書證〕尙書曰、惟影響、周禮云、土圭測レ影、影朝影夕、孟子曰、圖影失レ形、莊子曰、罔兩問レ影、如二此等字一、皆當レ爲二光景之景一、凡陰景者、因レ光而生、故卽謂爲レ景、淮南子呼爲二景柱一、廣雅云、晷柱挂景、並是也、至二晉世一、葛洪字苑、傍始加レ彡、音於景反、而世閒輒改二治尙書周禮莊孟一、從二葛洪字一、甚爲レ失矣。〔周禮、地官、大司徒〕以二土圭之灋一、測二土深一、正二日景一、以求二地中一。〔釋文〕景、本或作レ影。〔大戴禮、曾子天圓〕是乾外景。〔注〕景、古通以爲二影字一。〔詩、邶風、二子乘舟〕汎汎其景。〔疏〕汎汎然見二其影之去往而不レ辨。❷映（**5－13838**）に同じ。〔說文通訓定聲〕景、字亦作レ映。［邦］けい。風情を添へる義から轉じて、賣品に添へて客に進めるもの。景品。そへもの。景物。粗景など。

［名乘］ カゲ。

【景藹】1（ケイアイ） 南齊、蕭子廉（**9－32012**‥392）の字。

【景安】2（ケイアン） ❶陵の名。景安陵を見よ。❷清、滿洲鑲黃旗人。姓は鈕祜祿氏。乾隆中、官學生より、內閣中書に考取せられ、河南巡撫に累擢さる。嘉慶中、湖北敎匪の亂を禦いで功あり、伯爵に封ぜらる。官は湖廣總督。後、領侍衞內大臣に至る。〔清史稿、三百五十二〕・〔清史列傳、三十〕・〔國朝耆獻類徵、九十六〕。❸字號。㋑宋、趙彥衞（**10－37171**‥528）の字。㋺宋、林桷（**6－14551**‥45）の字。

【景安陵】3（ケイアンリヨウ） 陵の名。南齊、武帝の陵。江蘇省丹陽縣の東。〔南齊書、武帝紀〕九月丙寅、葬二景安陵一。〔鎭江府志〕景安陵、在二丹陽縣東三十二里尙德鄉一。

【景夷】4（ケイイ） 臺の名。〔枚乘、七發〕既登二景夷之臺一、南望二荊山一、北望二汝海一。〔注〕善曰、景夷、臺名也。

【景怡】5（ケイイ） 南齊、顧歡（**12－43689**‥57）の字。

【景彝】6（ケイイ） 宋、王疇（**7－20823**‥787）の字。

【景韋】7（ケイヰ） 宋、鄭厚（**11－39647**‥137）の字。

【景緯】8（ケイヰ） 日と星。〔王融、三月三日曲水詩序〕求二中和一而經處、揆二景緯一以裁レ基。〔注〕善曰、

景、日也、緯、星也。

【景幽】9 ケイイウ　しづかな景色。幽景。〔戴叔倫、題㆓横山寺㆒詩〕偶入㆓横山寺㆒、湖山景最幽。〔李中、庭葦詩〕品格清㆓於竹㆒、詩家景最幽。

【景祐】10 ケイイウ　北宋、仁宗（趙禎）の年號。（1030－1038）

〔景祐元寶〕10′ ケイイウゲンパウ　宋の仁宗の時に鑄た貨幣。〔宋史、仁宗紀二〕景祐元年春正月、云云、戊辰詔㆓三司㆒鑄㆓景祐元寶錢㆒。

【景游】11 ケイイウ　晉、摯瞻（**5－12632**・・10）の字。

【景猷】12 ケイイウ　字號。㊀晉、荀崧（**9－30929**・・38）の字。㊁北周、薛憕（**9－32123**・・103）の字。㊂唐、楊師道（**6－15112**・・579）の字。

【景逸】13 ケイイツ　光陰のやうにはやく走る。〔陸機、漢高祖功臣頌〕雲騖㆓靈丘㆒、景逸㆓上蘭㆒。〔注〕良曰、騖、馳、逸、疾也、雲馳景疾者、言㆓其用㆑兵之機速㆒也。

【景壹】14 ケイイツ　明、戴新（**5－11685**・・82）の字。

【景霱】15 ケイイツ　清、李霨（**6－14459**・・19）の字。

【景允】16 ケイイン　宋、鄭奕夫（**11－39647**・・306）の字。

【景胤】17 ケイイン　字號。㊀南朝宋、張敷（**4－9812**・・648）の字。㊁南齊、蕭昭冑（**9－32012**・・433）の字。

【景員】18 ケイヰン　政教が大いに公平である。景は大、員は均。一說に、王都の周圍の大勢をいふ。〔詩、商頌、玄鳥〕景員維河、殷受㆑命咸宜。〔傳〕景、大、員、均。〔疏〕傳解㆓維河之義㆒、既以㆓景員㆒爲㆓大均㆒、則維河者、當㆑謂㆘政教大均、如㆓河之潤㆑物然㆖、言㆓其霑潤無㆑所㆑不㆑及也。〔陳奐傳疏〕傳釋㆓景員㆒爲㆓大均㆒、與㆔長發幅隕爲㆓廣均㆒訓同義異、蓋高宗都㆓景亳㆒、在㆓冀州㆒、域內三面距㆑河、故詩言四海之朝貢、來至㆓於河㆒者、乃大均也。〔會箋〕景、大也、員、隔隕之隕、國之周圍也、景員、言㆓王都大勢㆒也。

【景于】19 ケイウ　清、徐是傚（**4－10110**・・455）の字。

【景雲】20 ケイウン　㊀めでたいくも。太平の世にあらはれるといふ瑞相を現してゐる雲。卿雲。慶雲。〔禮緯斗威儀〕景雲、言㆓雲氣光明㆒也。〔瑞應圖〕景雲者、太平之應也、一曰、慶雲、非㆑氣非㆑烟、五色絪縕。〔淮南子、天文訓〕龍擧而景雲屬。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕處嘯而谷風至、龍擧而景雲往。〔注〕景雲、大雲而有㆑光者。〔白虎通、封禪〕德至㆓山陵㆒、則景雲出、芝實茂、陵出㆓異丹㆒、阜出㆓蓮甫㆒、山出㆓器車㆒、澤出㆓神鼎㆒。〔後漢書、郎顗傳〕如㆑是則景雲降、集眚沴息矣。〔晉書、天文志中〕瑞氣、云云、是謂㆓慶雲㆒、亦曰㆓景雲㆒、此喜氣也、太平之應。㊁唐、睿宗（李旦）の年號。（710－711）㊂字號。㋑南朝宋、張永（**4－9812**・・47）の字。㋺宋、朱元龍（**6－14424**・・761）の字。㋩元、胡澂（**9－29400**・・67）の字。

【景運】21 ケイウン　明、許鯤（**10－35298**・・94）の字。

【景英】22 ケイエイ　宋、顏耆仲（**12－43591**・・141）の字。

【景叡】23 ケイエイ　後魏、梁覽（**6－14825**・・193）の字。

【景瑤】24 ケイエウ　清、汪體仁（**6－17154**・・290）の字。

【景曜】25 ケイエウ　㊀ひかり。景星の光。〔張衡、西京賦〕流㆓景曜之韡曄㆒。〔注〕善曰、景、光景也。〔揚雄、劇秦美新〕景曜浸潭之瑞潛。〔注〕善曰、景曜、景星有㆓光曜㆒也。㊁晉、司馬威（**2－3257**・・205）の字。

【景燿】26 ケイエウ　ひかり。景耀に同じ。〔後漢書、鄧皇后紀〕敷㆓宣景燿㆒。

【景耀】27 ケイエウ　㊀ひかり。〔漢書、敍傳上〕不㆑知㆜其將㆛含㆓景耀㆒、吐㆓英精㆒、曠㆓千載㆒而流㆚夜光㆙也。㊁三國蜀、後帝（劉禪）の年號。（258－263）

【景炎】28 ケイエン　㊀日をいふ。太陽。〔揚雄、甘泉賦〕且揚㆓光曜燎爥㆒兮、垂㆓景炎之炘炘㆒。〔注〕濟曰、景、日也。㊁大いなる光。明らかで盛なことにいふ。〔班固、典引〕揚㆓洪輝㆒奮㆓景炎㆒。〔注〕翰曰、景、明、炎、盛也。㊂南宋の末、端宗（趙昰）の年號。（1276－1278）

【景淵】29 ケイエン　字號。㊀宋、李思廣（**6－14459**・・1313）の字。㊁明、葉琛（**9－31387**・・110）の字。

【景垣】30 ケイエン　清、周煌（**2－3441**・・122）の字。

【景遠】31 ケイヱン　元、周馳（**2－3441**・・369）の字。

【景歐】32 ケイオウ　元、鄭滁孫（**11－39647**・・511）の字。

【景溫】33 ケイヲン　字號。㊀宋、葉康直（**9－31387**・・169）の字。㊁宋、李仲光（**6－14459**・・1732）の字。

【景何】34 ケイカ　清、鄒士隨（**11－39562**・・90）の字。

【景嘉】35 ケイカ　後漢、蕃嚮（**9－31906**・・25）の字。

【景崖】37 ケイガイ　明、鄭德普（**11－39647**・・519）の字。

【景行】38 ケイカウ　㊀大きい道路。おほぢ。大道。〔詩、小雅、車舝〕高山仰止、景行行止。〔集傳〕景行、大道也。〔史記、孔子世家贊〕景行行矣。〔曹丕、與㆓鍾大理㆒書〕高山景行、私所㆓慕仰㆒。〔後漢書、仇覽傳〕以㆓一月奉㆒爲㆑資、勉率㆓景行㆒。㊁立派な行。〔詩、小雅、車舝〕景行行止。〔傳〕景、大也。〔箋〕景、明也。〔疏〕有㆓遠大之行㆒者、則法而行㆑之。〔蔡邕、郭泰碑〕于㆑是樹㆑碑表㆑墓、昭㆓明景行㆒。㊂慕ひあふぐ。景仰。〔顏延之、直㆓東宮㆒答㆓鄭尚書㆒詩〕惜無㆓丘園秀㆒、景㆓行彼高松㆒。㊃第十二代の帝諡。㊄字號。㋑南齊、庾杲之（**4－9398**・・54）の字。㋺宋、薛珩（**9－32123**・・18）の字。㋩宋、鄭輪（**11－39647**・・280）の字。㋥宋、方演孫（**5－13620**・・486）の字。㋭明、莫維賢（**9－31078**・・93）の字。㋬清、丁思孔（**1－2**・・261）の字。

【景港】39 ケイカウ　川の名。湖南省安鄉縣の東。〔清一統志〕自㆓湖北公安縣四水口㆒分流、至㆓縣界靈石湖南㆒、逕㆓文田村東㆒、又右會㆓東田湖水㆒、而南爲㆓景公渡㆒、分㆓二流㆒、一西南流爲㆓中漸港㆒、又南爲㆓南漸江㆒、西南入㆑澧、其東一支入㆓華陽縣界㆒、亦入㆑澧、此三代以前水經流、禹貢道江所謂東至㆓於澧㆒是也。

【景高】40 ケイカウ　字號。㊀晉、沈陵（**6－17189**・・395）の字。㊁後魏、房亮（**5－11714**・・134）の字。㊂元、黎崱（**12－47994**・・49）の字。㊃明、夏升（**3－5720**・・163）の字。㊄明、沐昂（**6－17201**・・6）の字。

〔景高密齋〕41 ケイカウミツサイ　清、汪行恭（**6－17154**・・186）の號。

【景康】42 ケイカウ　明、邵宗元（**11－39343**・・129）の字。

【景衡】43 ケイカウ　清、劉光南（**2－2224**・・837）の字。

【景剛】44 ケイガウ　明、莫勝（**9－31078**・・41）の字。

【景岳】45 ケイガク　字號。㊀明、張介賓（**4－9812**・・855）の號。㊁橋本綱紀の號。橋本景岳（**6－15526**・・68）を見よ。

【景嶽】46 ケイガク　清、顧宗泰（**12－43689**・・312）の字。

【景罕】47 ケイカン　寨の名。雲南省隴陵縣の潞江司の西境。明の何福、景罕寨を擊つ。〔讀史方輿紀要、雲南、保山縣、潞江安撫司〕景罕寨、在㆓司西南㆒、洪武末、平㆓緬諸蠻㆒、刁幹孟叛、何福討㆓破之於南甸㆒、還㆑兵擊㆓景罕寨㆒、蠻乘㆑高據㆑險、堅守不㆑能㆑下、福糧垂㆑盡、沐春馳至、徑渡㆓怒江㆒、馳躪㆓寨下㆒、蠻出㆓不意㆒、遂降、乘㆑勝復擊㆓崆峒寨㆒、賊潰走、崆峒寨蓋亦在㆓司境㆒。

【景韓】48 ケイカン　金、李愈（**6－14459**・・766）の字。

【景翰】49 ケイカン　字號。㊀後魏、崔長文（**4－8178**・・305）の字。㊁明、葉儀（**9－31387**・・24）の字。

【景顏】50 ケイガン　清、丁桂（**1－2**・・52）の字。

【景希】51 ケイキ　宋、眞德秀（**8－23235**・・343）の字。

【景氣】52 ケイキ　㊀やうす。ありさま。けしき。〔殷仲文、南州桓公九井作詩〕景氣多明遠、風物自凄緊。〔白居易、秋寒詩〕雪鬢年顏老、霜庭景氣秋。㊁元氣。意氣。威勢がよい。〔賤芧環〕。㊂商賣上の狀況。貨物のさばけぐあひ。

【景熙】53 ケイキ　字號。㊀元、楊壽（**6－15112**・・203）の字。㊁明、江曉（**6－17140**・・101）の字。

【景輝】54 ケイキ　明、柯暹（**6－14658**・・16）の字。

【景毅】55 ケイキ　後漢、蜀郡の人。字は文堅。官は建寧中、侍御史。李膺が黨禁に坐して死すや、門生故吏皆、連及す。然るに毅の子顧、與らず。毅、慨然として、もと膺を賢と謂ひて子を遣して之を師とせしむ。今豈に苟安すべけんやといひ、遂に自ら表して罷め歸る。〔後漢書、九十七〕。

【景宜】56 ケイギ　字號。㊀明、裴綸（**10－34362**・・97）の字。㊁明、彭誼（**4－10003**・・20）の字。

【景儀】57 ケイギ　明、張度（**4－9812**・・587）の字。

【景撝】58 ケイギ　南齊、蔡約（**9－31818**・・121）の字。

【景曦】59 ケイギ　元、楊壽（**6－15112**・・203）の字。

【景牛】61 ケイギウ　山名。浙江省長興縣の境。太湖の西南。

【景況】62 ケイキヤウ　やうす。有樣。情況。狀趣。景氣。〔葉淑、題㆓閒情小品序㆒〕泉茗爲㆑朋、景況不㆑惡。

【景鄉】63 エイキヤウ　景響（65）に同じ。〔漢書、董仲舒傳〕夫善惡相從、如㆔景鄉之應㆓形聲㆒也。〔注〕師古曰、鄉、讀曰㆑響。

【景嚮】64 エイキヤウ　景響に同じ。〔漢書、劉向傳〕神明之應、應若㆓景嚮㆒。〔注〕師古曰、嚮、讀曰㆑響。

【景響】65 エイキヤウ　かげとひびき。關係の密接な喩。又、疾い喩。影響（**4－10019**・・11）に同じ。〔楚辭、九章、悲回風〕入㆓景響之無㆑應兮、聞㆓省想而不㆑可㆑得。〔集注〕響、作㆑嚮、古字借用。〔史記、禮書〕下應㆑之如㆓景響㆒。〔史記、張釋之傳〕且

下之化レ上、疾二於景響一。

【景仰】66（ケイギヤウ） 慕ひあふぐ。景慕。仰望。〔詩、小雅、車舝〕高山仰止、景行行止。〔後漢書、劉愷傳〕今愷景二仰前脩一。〔注〕景、猶レ慕也、詩云景行行止。〔顏氏家訓、慕賢〕儻遭二不世明達君子一、安可レ不四攀二附景三行之一乎。〔金史、熙宗紀〕孔子雖レ無レ位、其道可レ尊、使二萬世景仰一。

【景科】67（ケイクワ） 丙科（1－35‥7）をいふ。〔漢書、匡衡傳〕衡射二策甲科一、以レ不レ應レ令、除爲二太常掌故一。〔注〕儒林傳說、歲課甲科爲二郎中一、乙科爲二太子舍人一、景科補二文學掌故一。〔王先謙補注〕周壽昌曰、景科卽丙科、顏在二唐時一諱レ丙也、儒林傳自作二丙科一。

【景玉】68（ケイギヨク） 字號。❶宋、顏振仲（**12－43591**‥168）の字。❷明、周之翰（**2－3441**‥678）の字。

【景華】69（ケイクワ） 字號。❶宋、黃杞（**12－47926**‥167）の字。❷明、盛逮（**8－23005**‥135）の字。❸明、張中（**4－9812**‥553）の字。❹明、杜榮（**6－14477**‥18）の字。❺明、傅中（**1－939**‥95）の字。

【景回】70（ケイクワイ） 晉、司馬蕤（**2－3257**‥278）の字。

【景晦】71（ケイクワイ） 南朝宋、謝澹（**10－35827**‥166）の字。

【景光】72（ケイクワウ） ❶めでたいひかり。祥光。又、恩德。榮譽。〔史記、封禪書〕若レ有レ象二景光一、屑如レ有レ望。〔漢書、武帝紀〕夜若景光十有二明。〔後漢書、郎顗傳〕若還レ瓊徵レ固、任以二時政一、則可下垂二景光一致中休祥上矣。❷としつき。光陰。〔蘇武詩〕願君崇二令德一、隨レ時愛二景光一。❸字號。㋑梁、蕭子暉（**9－32012**‥370）の字。㋺清、趙秉忠（**10－37171**‥885）の字。

【景完】73（ケイクワン） 後漢、曹全（**5－14297**‥133）の字。

【景桓】74（ケイクワン） ❶字號。㋑清、邵錫榮（**11－39343**‥115）の字。㋺清、張榮（華亭の人）（**4－9812**‥52）の字。❷諡號。㋑漢、霍去病（**12－42321**‥52）の諡。㋺後魏、尉元（**4－7440**‥10）の諡。

〖景桓閣老人〗75（ケイクワンカクラウジン） 清、焦學漪（**7－19119**‥126）の號。

【景圭】76（ケイケイ） 唐、高元裕（**12－45313**‥1164）の字。

【景卿】77（ケイケイ） 後漢、士孫奮（**3－5638**‥142）の字。

【景惠】78（ケイケイ） 北齊、慕容紹宗（**4－11088**‥77）の諡。

【景溪】79（ケイケイ） 清、席鏊（**4－8926**‥8）の字。

【景喬】80（ケイケウ） 字號。❶梁、蕭子雲（**9－32012**‥365）の字。❷清、左宗植（**4－8720**‥468）の號。

【景教】81（ケイケウ） 唐代、中國に傳へられた基督教の名稱。一名、大秦景教。唐の太宗の貞觀九年、ネストル派の僧阿羅本が始めて經像を傳へて長安に至り、貞觀十二年、京師義寧坊に波斯寺を作り、高宗の時、諸州に景寺を置き、阿羅本を尊んで鎭國大法主とした。天寶四年、波斯寺を大秦寺と改め、德宗の建中二年、僧寧恕が景教碑を大秦寺に建てた。其の後、景教は武宗の會昌五年、異教禁斷によつて廢せられた。この碑も久しく埋沒されたが、明の萬曆中發掘された。大秦景教流行中國碑（**3－5831**‥1215）を見よ。

〖景教三威蒙度讚〗82（ケイケウサンヰモウドサン） 書名。一卷。唐代、景教の經典。西曆一千九百八年、佛國のペリオ敦煌石室に於て發見し、今、巴里圖書館に藏す。〔蔣斧氏敦煌石室遺書、三〕。

【景業】83（ケイゲフ） ❶大業。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕爰及二贊契一、協二升景業一。〔注〕翰曰、景、大也。〔白居易、得景有二志行一隱而不レ仕爲二郡守一所レ辟稱是巫家不レ當二選吏一功曹按二其詭詐一景不レ伏判〕彼何強二之維縶一、景業敦二道行一。❷字號。㋑南齊、蕭緬（**9－32012**‥249）の字。㋺後魏、趙脩（**10－37171**‥191）の字。㋩唐、李方玄（**6－14459**‥1841）の字。

【景建】84（ケイケン） 宋、曾極（**5－14299**‥33）の字。

【景賢】85（ケイケン） 字號。❶宋、唐震（**2－3709**‥195）の字。❷明、神英（**8－24673**‥26）の字。❸明、唐希介（**2－3709**‥375）の字。

【景憲】86（ケイケン） 宋、詹淵（**10－35458**‥3）の字。

【景縣】87（ケイケン） 縣名。民國、置く。河北省阜城縣の南。

【景獻】88（ケイケン） ❶諡號。㋑晉、羊后（**9－28425**‥62）の諡。㋺宋、趙詢（**10－37171**‥221）の諡。❷宋、王詔（**7－20823**‥672）の字。

【景元】89（ケイゲン） ❶三國、魏、元帝（曹奐）の年號。（260－264）❷宋の高僧。永嘉楠溪（浙江省）の張氏の子。號は此菴。十八歲にして靈山の希拱に受具し、後、天台教學を學び、更に圓悟克勤に參じて其の法を嗣ぐ。天台護國寺に住し、元布袋と稱す。紹興十六年、示寂。〔大明高僧傳、五〕・〔新續高僧傳、十三〕。❸字號。㋑南朝宋、王微（**7－20823**‥906）の字。㋺唐、周昉（**2－3441**‥413）の字。㋩宋、眞德秀（**8－23235**‥343）の字。㋥宋、張燾（**4－9812**‥527）の字。㋭宋、鄭伯英（**11－39647**‥531）の字。㋬宋、李甲（**6－14459**‥146）の字。㋣宋、劉從廣（**2－2224**‥1052）の字。㋠元、行端（**10－34029**‥351）の字。㋷元、蕭漢中（**9－32012**‥322）の字。㋦明、蔚春（**9－31805**‥27）の字。㋸明、陳宗契（**11－41698**‥1085）の字。㋾明、劉戩（**2－2224**‥450）の字。

〖景元皇帝〗91（ケイゲンクワウテイ） 晉、姚弋仲（**3－6202**‥214）の諡。

【景玄】92（ケイゲン） 後魏、李希宗（**6－14459**‥984）の字。

【景彥】93（ケイゲン） 字號。❶北周、蔡儁（**9－31818**‥65）の字。❷隋、王頍（**7－20823**‥898）の字。

【景源】94（ケイゲン） 明、袁業泗（**10－34152**‥191、）の字。

【景嚴】95（ケイゲン） 宋、洪遵（**6－17402**‥103）の字。

【景吳】96（ケイゴ） 明、江徵（**6－17140**‥308）の字。

【景公】97（ケイコウ） ❶諡號。㋑春秋、宋の君。姓は姬、名は頭曼。宋景公（**3－7078**‥258）を見よ。㋺春秋、晉の君。姓は姬、名は據。晉景公（**5－13898**‥114）を見よ。㋩春秋、齊の君。姓は姜。名は杵臼。齊景公（**12－48560**‥290）を見よ。❷後漢、陳重（**11－41698**‥471）の字。

【景弘】98（ケイコウ） 後漢、伏儼（**1－438**‥50）の字。

【景侯】99（ケイコウ） 諡號。❶春秋、蔡の君。姓は姬。名は同。蔡景侯（**9－31818**‥160）を見よ。❷戰國韓の君。姓は姬。名は虔。韓景侯（**12－43159**‥272）を見よ。

【景候】100（ケイコウ） 四時をりをりのありさま。時候。〔白居易、題二天竺南院一贈二閑元旻清四上人一詩〕山深景候晚、四月有二餘春一。〔圖畫見聞志〕畫二花竹一有二四時景候一、陰陽向背、筍篠老嫩。

【景興】101（ケイコウ） ❶清、高宗純皇帝の時、越の顯宗永皇帝（黎維祧）の年號。（1740－1786）❷字號。㋑三國魏、王朗（**7－20823**‥1048）の字。㋺晉、郗超（**11－39413**‥11）の字。㋩後魏、劉歆（**2－2224**‥189）の字。

【景鴻】102（ケイコウ） 清、葉舒璐（**9－31387**‥209）の字。

【景谷】103（ケイコク） ❶谷の名。四川省昭化縣の西北。魏、蜀を伐つや、鄧艾、景谷より入る。〔元和志〕隋景谷縣因二縣北景谷一爲レ名。❷縣名。㋑隋、置く。四川省昭化縣の西北。〔讀史方輿紀要、四川、昭化縣〕景谷廢縣、縣西百里、漢廣漢郡之白水縣地、云云、隋志、開皇初、平興郡廢、改二白水縣一曰二平興一、十八年、又改曰二景谷一、屬二利州一。㋺民國、置く。雲南省寧洱縣の西北。景谷江の西岸に瀕す。

【景刻】104（ケイコク） 日影のきざみ。時のきざみ。とき。時刻。時間。晷刻。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一詩〕愛レ客不レ告レ疲、飲讌遺二景刻一。〔注〕良曰、景刻、漏也、景夜一百刻。

【景國】105（ケイコク） 後秦、姚襄（**3－6202**‥65）の字。

【景昏】106（ケイコン） 影のくらいこと。〔李白、答下從弟幼成過二西園一見上贈詩〕一笑復一歌、不レ知夕景昏。

【景差】107（サケイ） 戰國、楚の人。差は又、瑳に作る。頃襄王に事へ、公族大夫となる。宋玉と同時。屈原を宗とし、楚辭を善くし、續騷・大招の二篇を作る。〔全上古三代秦漢三國六朝文、上古文、十〕。

【景濟】108（ケイサイ） 字號。❶南齊、蕭叡明（**9－32012**‥296）の字。❷明、蘇洹（**9－32427**‥11）の字。

【景載】109（ケイサイ） 漢、鄭產（**11－39647**‥151）の字。

【景齋】110（ケイサイ） 明、黃正（**12－47926**‥541）の字。

【景莊】111（ケイサウ） 宋、王嗣宗（**7－20823**‥1598）の諡。

【景山】112（ケイサン） ❶墳をいふ。又、仰ぎ見るやうな大きい山。〔任昉、爲二范始興一作求レ立二太宰碑一表〕瞻二彼景山一、徒然望慕。〔注〕善曰、景山、謂レ墳也、翰曰、景、謂二景行一、謂二高山仰止一也。❷山名。㋑北京神武門外の舊宮城の背。又、煤山といふ。明、萬歲山といふ。明の思宗此にて國に殉ず。清の聖祖の廟の壽皇殿がある。〔清會典、內務府、奉宸苑〕紫禁城之北曰二景山一、西爲二西苑一。〔注〕在二神武門北一、山前爲二北上門一、東曰二山左裏門一、山有二峯五一、各建以レ亭、直二中峯之北一爲二壽皇殿一、

池レ東爲二永思殿一、又東爲二關帝廟一。㋺河北省邯鄲縣の境。〔淮南子、墬形訓〕釜出二景山一。〔注〕景山、在二邯鄲西南一、釜水所レ出。㋩山東省曹縣の東南。〔詩、鄘風、定之方中〕望二楚與一レ堂、景山與レ京。〔水經、濟水注〕東南右、合二黃溝枝流一、俗謂二之界溝一也、北逕二巳氏縣故城西一、又北逕二景山東一。㋥河南省偃師縣の南。〔詩、商頌、殷武〕陟二彼景山一、松柏丸丸。〔集傳〕景、山名、商所レ都也。〔曹植、洛神賦〕經二通谷一、陵二景山一。〔注〕善曰、景山、緱氏縣南七里。㋭山西省聞喜縣の東南。中條の最高峯。又、湯寨山・湯王山ともいふ。上に湯廟あり。〔山海經、北山經〕景山南望二鹽販之澤一、北望二少澤一、其陰多レ赧、其陽多レ玉。㋬湖北省房縣の南。〔水經、沮水注〕沮水出二東汶陽郡沮陽縣西北景山一、卽荊山首也。❸字號。㋑漢、百里嵩(**8－22679**‥596)の字。㋺三國魏、徐邈(**4－10110**‥257)の字。㋩前燕、韓恆(**12－43159**‥96)の字。㋥南齊、張岱(**4－9812**‥519)の字。㋭唐、楊巨源(**6－15112**‥471)の字。㋬唐、陸亘(**11－41708**‥75)の字。㋣南唐、魏岑(**12－45872**‥88)の字。㋠宋、翁甫(**9－28635**‥59)の字。㋷宋、許逖(**10－35298**‥183)の字。㋦宋、吳申(**2－3365**‥245)の字。㋸宋、謝伯景(**10－35827**‥356)の字。㋾宋、孫奕(**3－6987**‥17)の字。㋻宋、張昷之(**4－9812**‥839)の字。㋕宋、張嶠(**4－9812**‥261)の字。㋵宋、馬元方(**12－44572**‥769)の字。㋟宋、李孝壽(**6－14459**‥946)の字。㋹宋、王開祖(**7－20823**‥1244)の字。㋞金、胡天作(**9－29400**‥579)の字。㋡金、完顏合達(**3－7079**‥65)の字。㋧元、李京(**6－14459**‥277)の字。㋤清、鄒文蘇(**11－39562**‥118)の號。㋶清、馬玉崑(**12－44572**‥736)の字。㋰堀正超の號。堀景山(**3－5205**‥16)を見よ。❹元、方鳳(**5－13620**‥420)の一名。

〖景山官學〗113 ケイザンクワンガク　清代、內務府佐領下の子弟が業を修めた所。〔清會典事例、內務府、官學、景山官學〕康熙二十四年奉レ旨、看二來內府一竟無下能二書射一之人上、應丙接二學房一、揀下選材堪二學習書射一者上、令乙其學習甲、視二其所一レ學、揀二選好者一錄用、頑劣不レ及者、卽行二革退一、其學房著在二朕常見處一設立、學習人等、自然盡レ心、應下在二何處一設立上、著卽議奏、欽レ此、遵レ旨議定、北上門兩旁、有二官房三十間一、設二立清漢書官學一、將二內務府佐領內管領下閒散幼童一、揀二選三百六十名一、分二定清書三房、漢書三房一、清書二房、每レ房各設二教習三人一、於二內務府執事人及閒散人內一選下取老成可レ爲二師範一者上、補授、漢書二閒、每レ房各設二教習四人一、移二咨禮部一、於二生員內一考二取文理優通者一補授、再委二府屬司官五人一、管二理學房事務一、督二率驍騎四名看二守六房一、設二服役人十二名一、以備二灑埽一、凡內務府人等、有下家貧不レ能二讀書一者上、聽二其入學肄レ業、應下用二器物一、於二各該處一支取上。

〖景山樵客〗114 ケイザンセウカク　明、段黼(**6－16619**‥57)の號。

【景之】115 ケイシ　明、趙士春(**10－37171**‥580)の字。

【景止】116 ケイシ　ひとがらを慕ふこと。止は助字。〔福惠全書、稟啓附、迎二東兗李道臺一〕品二崇嵩室一、合二九有一而景止依レ光。〔詩、小雅、車舝〕高山仰止、景行行止。

【景至】117 ケイシ　冬至の景。〔漢書、兒寬傳〕發レ祉闓レ門、以候二景至一。〔注〕蘇林曰、以候二景至一、冬至之景也。

【景芝】118 ケイシ　鎭の名。山東省安丘縣の東南。

【景思】119 ケイシ　❶北齊、高湝(**12－45313**‥18)の諡。❷字號。㋑晉、裴憲(**10－34362**‥34)の字。㋺後魏、司馬憲(**2－3257**‥258)の字。㋩宋、余元一(**1－515**‥81)の字。㋥宋、陸谿(**11－41708**‥19)の字。

【景時】120 ケイジ　明、林長懋(**6－14551**‥397)の字。

【景慈】121 ケイジ　南齊、蕭鳳(**9－32012**‥250)の字。

【景州】122 ケイシウ　州名。❶唐、置く。河北省景縣の東北。〔讀史方輿紀要、直隸、河閒府〕景州、春秋時齊晉二國之境、戰國齊趙二國之地、秦屬二鉅鹿郡一、漢屬二勃海郡一云云、貞元五年、始置二景州一、其廢置不レ一、五代周曰二定遠郡一、宋仍爲二景州一、景德初改曰二永靜軍一、金亦爲二景州一、後改曰二觀州一、元至元二年、復曰二景州一、明初以二州治蓨縣一省入。〔清史稿、地理志〕直隸、河閒府、州一、景州。❷遼、置く。河北省遵化縣。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、薊州〕遵化縣、本無終縣地、唐於レ此置二馬監及鐵治一、後唐始置二遵化縣一、遼置二景州及清安軍治一焉、宋宣和四年、仍曰二景州一、亦曰二灤州郡一、金州廢、縣隸二薊州一、元明因レ之。❸金、置く。河北省東光縣。

【景周】123 ケイシウ　字號。❶宋、鄭勳(**11－39647**‥100)の字。❷明、孫道易(**3－6987**‥488)の號。

【景修】124 ケイシウ　字號。❶宋、鄭思永(**11－39647**‥414)の字。❷明、俞孜(**1－1437**‥31)の字。

【景脩】125 エイシウ　日のかげの長いこと。〔淮南子、天文訓〕景脩則陰氣勝、景短則陽氣勝。

【景式】126 ケイシキ　仰ぎ慕つて法式とする。〔後漢書、劉愷傳〕百僚景式。〔注〕景慕以爲二法式一。

【景實】127 ケイジツ　明、史桂芬(**2－3249**‥195)の字。

【景襲】128 ケイシフ　後魏、元暉(**1－1340**‥109)の字。

【景昌】129 ケイシヤウ　明、朱永(**6－14424**‥40)の字。

【景祥】130 ケイシヤウ　宋、謝淳(**10－35827**‥117)の字。

【景章】131 ケイシヤウ　南朝宋、袁顗(**10－34152**‥18)の字。

【景翔】132 ケイシヤウ　字號。❶後魏、袁翻(**10－34152**‥144)の字。❷宋、鮑雲龍(**12－46074**‥78)の字。

【景象】133 ケイシヤウ　❶景色。〔鄭谷、中年詩〕漠漠秦雲淡淡天、新年景象入二中年一。❷ありさま。様子。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、土番點卯〕儼然太平景象。❸エイシヤウ　影と形。〔漢書、武帝紀〕著二見景象一、屑然如レ有レ聞。〔後漢書、西羌、羌無弋爰劒傳〕爰劒初藏二穴中一、秦人焚レ之有二景象一。

【景彰】134 ケイシヤウ　明、王景(**7－20823**‥324)の字。

【景狀】135 ケイジヤウ　有樣。景色。〔韓偓、冬日詩〕景狀入レ詩兼入レ畫、言レ情不レ盡恨レ無レ才。

【景城】136 ケイジヤウ　❶郡名。本の滄州。唐の天寶の初郡に改む。河北省、河閒府滄縣。〔讀史方輿紀要、直隸河閒府、滄州〕春秋戰國時、爲二燕齊二國之境一、秦屬二鉅鹿郡一、漢置二勃海郡一云云、唐初仍置二滄州一、天寶初亦曰二景城郡一、乾元初復レ故。❷縣名。隋、置く。河北省交河縣の東北。〔讀史方輿紀要、直隸、河閒府、獻縣〕景城廢縣、縣東南九十里、漢曰二景成縣一、屬二勃海郡一、宣帝封二河閒獻王子雍一爲二侯邑一、後漢省、後魏徙二成平縣一治レ此屬二章武郡一、隋開皇十八年改爲二景城縣一。

【景襄】137 ケイジヤウ　❶鐘の名。景鐘(164)を見よ。〔後漢書、崔駰傳〕銘二昆吾之治一、勒二景襄之鐘一。〔注〕國語曰、晉魏顆以二其身一退二秦師于輔氏一、其勳銘二於景鍾一、此兼二言襄一也。❷唐、王士眞(**7－20823**‥1515)の諡。

〖景襄帝〗138 ケイジヤウテイ　元、拖雷(**5－11961**‥22)の諡。

【景讓】139 ケイジヤウ　元、陳思謙(**11－41698**‥915)の字。

【景綽】140 ケイシヤク　南齊、沈沖(**6－17189**‥291)の字。

【景爍】141 ケイシヤク　梁、祖晅之(**8－24664**‥161)の字。

【景鑠】142 ケイシヤク　大きな美德をいふ。鑠は美。〔班固、東都賦〕鋪二鴻藻一、信二景鑠一。〔注〕銑曰、景、大也、鑠、美也。

【景若】143 ケイジヤク　後魏、宗欽(**3－7106**‥58)の字。

【景趣】144 ケイシユ　おもむき。ありさま。景色。風趣。風致。〔韓愈、河南令舍池臺詩〕規摹雖レ巧何足レ誇、景趣不レ遠眞可レ惜。〔宋史、魏野傳〕清泉環遶、旁對二雲山一、景趣幽絕。

【景從】145 ケイジユウ エイジユウ　影の形に於けるやうに就き從ふをいふ。景は古の影の字。又、景は景慕。したひしたがふこと。〔漢書、陳勝項籍傳贊〕天下雲合嚮應、贏レ糧而景從。〔注〕師古曰、嚮、讀曰レ響、景從、言レ如二影之隨一レ形也。〔賈誼、過秦論〕天下雲會而響應、贏レ糧而景從。〔注〕銑曰、景從、如二影之隨一レ形也。〔班固、東都賦〕天官景從、寖レ威盛レ容。〔注〕翰曰、景、影也、言レ如二影隨一、又景慕也。〔任昉、百辟勸二進今上一牋〕山戎孤竹、束レ馬景從。〔注〕良曰、景從、天下如二日景之從一レ人也。

〖景從雲集〗146 ケイジユウウンシフ　景の如く從ひ雲の如く集る。〔長生殿、收京〕昇平泰運、景從雲集。

【景叔】147 ケイシユク　字號。❶宋、游師雄(**7－17792**‥348)の字。❷宋、王祜(**7－20823**‥381)の字。

【景淑】148 ケイシユク　清、黃商衡(**12－47926**‥1132)の字。

【景宿】149 ケイシユク　めでたい星のやどり。列星をいふ。〔左思、吳都賦〕夫上圖二景宿一、辨二於天文一者也。〔陳書、宣帝紀〕上符二景宿一、下叶二人謀一。

【景春】150 ケイシユン　❶孟子時代の縱橫家。〔孟子、滕文公下〕景春曰、公孫衍張儀、豈不二誠大丈夫一哉、一怒而諸侯懼。〔枚乘、七發〕景春佐レ酒、杜連理レ音。〔注〕善曰、劉熙曰、景春、孟子時人、爲二縱橫

之術一者。㊁字號。㋑元、酒穆泰(**11**−**38831**‥9)の字。㋺明、柴震(**6**−**14664**‥54)の字。㋩明、張杲(**4**−**9812**‥551)の字。㋥明、沐春(**6**−**17201**‥22)の字。

【景儁】151（ケイシュン） ㊀後魏、崔逸(**4**−**8178**‥6)の初名。㊁後魏、蘇湛(**9**−**32427**‥141)の字。

【景荀】152（ケイジュン） 元、薛觀(**9**−**32123**‥43)の字。

【景純】153（ケイジュン） 字號。㊀晉、郭璞(**11**−**39474**‥186)の字。㊁宋、黃旹(**12**−**47926**‥434′)の字。㊂宋、郝質(**11**−**39430**‥16)の字。㊃宋、刁約(**2**−**1846**‥59)の字。㊄宋、呂希道(**2**−**3386**‥182)の字。㊅金、蕭永祺(**9**−**32012**‥294)の字。㊆金、鄭子聃(**11**−**39647**‥405)の字。

【景順】154（ケイジュン） 北周、蘇亮(**9**−**32427**‥200)の字。

【景初】155（ケイショ） ㊀三國魏、明帝(曹叡)の年號。(237−239)㊁字號。㋑唐、謝肇(**10**−**35827**‥180)の字。㋺唐、段文昌(**6**−**16619**‥103)の字。㋩宋、晏敦復(**5**−**13914**‥71)の字。㋥宋、朱象先(**6**−**14424**‥835)の字。㋭宋、鄒應龍(**11**−**39562**‥73)の字。㋬宋、孫昉(**3**−**6987**‥241)の字。㋣宋、傅伯成(**1**−**939**‥202)の字。㋠元、王旭(**7**−**20823**‥253)の字。㋷明、鄭旭(**11**−**39647**‥77)の字。㋦明、林旭(**6**−**14551**‥68)の字。㋸明、王杲(**7**−**20823**‥137)の字。㋾清、胡隆(**9**−**29400**‥363)の字。㊂唐、陸象先(**11**−**41708**‥356)の本名。

〔景初曆〕156（ケイショレキ） 魏の明帝の時、撰んだこよみ。建丑の月を正月としたもの。景初は其の年號。〔魏志、明帝紀〕景初元年、有司奏、以爲魏得二地統一、宜下以二建丑之月一爲上正、云云、改二太和曆一曰二景初曆一。

【景如】157（ケイジョ） 清、提橋(**5**−**12344**‥50)の字。

【景序】158（ケイジョ） 明、章庠(**8**−**25761**‥94)の字。

【景恕】159（ケイジョ） 北周、蘇讓(**9**−**32427**‥91)の字。

【景舒】160（ケイジョ） 宋、詹先野(**10**−**35458**‥55)の字。

【景升】161（ケイショウ） 字號。㊀後漢、劉表(**2**−**2224**‥594)の字。㊁宋、趙令俊(**10**−**37171**‥938)の字。㊂明、鮑旭(**12**−**46074**‥20)の字。㊃明、潘之恆(**7**−**18236**‥158)の字。㊄清、郭麟徵(**11**−**39474**‥429)の字。

【景昇】162（ケイショウ） 字號。㊀後魏、曹世表(**5**−**14297**‥269)の字。㊁五代南唐、譚峭(**10**−**35978**‥21)の字。

【景勝】163（ケイショウ） 景色のすぐれてよいこと。山水の景色のよい所。〔葉清臣、送三梵才歸二天台一詩〕景勝詩逾老、心冥語未レ稀。

【景鐘】164（ケイショウ） ㊀五鐘の一。景鐘。〔管子、五行〕昔者黃帝、以二其緩急一作二五聲一、以政二五鐘一、云云、四曰二景鐘一、味其明。〔纂詁〕景、明也、西方金、金主二光明一、故名二景鐘一、味其明者、雖二味者一其將レ明也。㊁大鐘をいふ。〔曹植、求二自試一表〕功銘著二於景鐘一、名稱垂二於竹帛一。〔注〕濟曰、身雖下爲二敵國一刳斬上、而功勳銘二於大鐘一。〔長孫無忌、進二律疏一表〕銘二之景鐘一、將二二儀而並久一。〔注〕言、此律書可下以銘二刻於國家重器之上一、與二天地一同中其久遠上矣。㊂晉の景公の鑄た鐘。〔國語、晉語七〕魏顆以二其身一卻二退秦師于輔氏一、親止二杜回一、其勳銘二於景鐘一。〔注〕景鐘、景公之鐘。

【景色】165（ケイショク ケシキ） 山川などのけしき。風致。景致。景趣。景物。〔宋之問、夜二飲東亭一詩〕岑壑景色佳、慰二我遠遊心一。〔張說、遙同二蔡起居偃松篇一詩〕名接二天庭一長二景色一、氣連二宮闕一借二氛氳一。

【景燭】166（ケイショク） 日光のやうにてらす。烽火の多くあがるさま。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕景二燭雲火一、風二馳羽檄一。〔注〕良曰、言、烽火照二天下一、如二日景之照一也。

【景辰】167（ケイシン） 清、陳經(**11**−**41698**‥210)の字。

【景晉】168（ケイシン） 明、滕康(**7**−**18036**‥9)の字。

【景眞】169（ケイシン） 字號。㊀晉、趙至(**10**−**37171**‥179)の字。㊁清、蔡顯(**9**−**31818**‥46)の字。

【景進】170（ケイシン） ㊀五代、唐の伶人。莊宗俳優を好む。進、史彥瓊・郭門高と共に軍機國政を決し、大いに國を亂る。官は上柱國に至る。〔五代史、三十七〕。㊁元、潘懷(**7**−**18236**‥23)の字。

【景新】171（ケイシン） 字號。㊀宋、汪元春(**6**−**17154**‥217)の字。㊁明、桑春(**6**−**14772**‥78)の字。

【景深】172（ケイシン） 宋、王回(**7**−**20823**‥283)の字。

【景仁】173（ケイジン） 字號。㊀後魏、崔寬(**4**−**8178**‥62)の字。㊁北周、楊寬(**6**−**15112**‥110)の字。㊂北周、盧光(**8**−**23050**‥42)の字。㊃唐、岑文本(**4**−**7937**‥49)の字。㊄宋、游似(**7**−**17792**‥164)の字。㊅宋、侯叔獻(**1**−**633**‥120)の字。㊆宋、趙屼(**10**−**37171**‥169)の字。㊇宋、范鎭(**9**−**30834**‥97)の字。㊈明、完顏瞻(**3**−**7079**‥34)の字。㊉明、趙時春(**10**−**37171**‥647)の字。

【景邃】174（ケイスイ） 宋、高談(**12**−**45313**‥640)の字。

【景瑞】175（ケイズイ） ㊀㋑北宋の初、大瞿越(安南)臥朝王(黎龍鋌)の年號。一に建瑞に作る。(1008−1009)㋺宋代、儂知高の年號。㊁字號。㋑明、盛鳳儀(**8**−**23005**‥233)の字。㋺明、楊璵(**6**−**15112**‥295)の字。

【景樞】176（ケイスウ） 宋、梁順孫(**6**−**14825**‥274)の字。

【景數】177（ケイスウ） 大きな歷數。天運をいふ。〔陸機、皇太子宴二玄圃宣猷堂一有レ令賦レ詩〕體二輝重光一、承二規景數一。〔注〕善曰、景、大也、數、歷數也、謂レ承二規法於天歷數一。

【景世】178（ケイセイ） 字號。㊀後魏、張熠(**4**−**9812**‥28)の字。㊁後魏、李奕(**6**−**14459**‥65)の字。

【景正】179（ケイセイ） 字號。㊀宋、顏頤仲(**12**−**43591**‥128)の字。㊁宋、史蒙卿(**2**−**3249**‥277)の字。

【景成】180（ケイセイ） ㊀縣名。漢、置く。侯國。後、景城といふ。〔漢書、地理志上〕勃海郡、縣二十六、景成。㊁漢、王商(**7**−**20823**‥526)の諡。㊂後漢、戴就(**5**−**11685**‥71)の字。

【景政】181（ケイセイ） 梁、褚向(**10**−**34457**‥13)の字。

【景星】182（ケイセイ） ㊀大きな星。めでたい時に出るといふ星。德星。瑞星。〔史記、天官書〕天精而見二景星一、景星者、德星也、其狀無レ常、出二於有道之國一。〔注〕孟康曰、有三赤方氣與二青方氣一相連、赤方中有二兩黃星一、青方中有二一黃星一、凡三星合爲二景星一。〔漢書、天文志〕景星者德星也。〔論衡、是應〕四氣和爲二景星一。〔白虎通、封禪〕景星者大星也。〔曹植、七啓〕故甘露紛而晨降、景星宵而舒レ光。〔晉書、天文志中〕瑞星、一曰二景星一。㊁漢の郊祀歌。元鼎五年に鼎を汾陰に得て作つたもの。一名、寶鼎歌。〔漢書、禮樂志〕景星十二、元鼎五年、得二鼎汾陰一作。〔樂府詩集、郊廟歌辭、漢郊祀歌、景星〕一曰寶鼎歌、漢書武帝紀曰、元鼎四年夏六月得二寶鼎后土祠旁一、作二寶鼎之歌一、禮樂志曰、景星、元鼎五年得二鼎汾陰一作、如淳曰、景星者、德星也、見無レ常、常出二有道之國一。㊂縣名。民國、置く。滿洲、黑龍江省龍江縣の西南。濟沁河の南。㊃明、餘姚の人。字は德輝。號は訥菴。洪武中、儒士保を以て杭州儒學訓導に陞る。其の學特に經に深く、尤も春秋に長ず。著に四書啓蒙がある。〔四庫提要、三十六〕。

〔景星鳳凰〕183（ケイセイホウワウ） めでたい星と鳳凰。賢人の喩。〔韓愈、與二少室李拾遺一書〕朝廷之士、引レ頸東望、若二景星鳳凰之始見一也、爭レ先覩レ之爲レ快。

〔景星麟鳳〕184（ケイセイリンホウ） 景星と麒麟と鳳凰。賢人の喩。〔元史、同恕傳〕自レ京還、家居十三年、縉紳望レ之若二景星麟鳳一、鄕里稱爲二先生一而不レ姓。

【景栖】185（ケイセイ） 南齊、明帝の字。蕭鸞(**9**−**32012**‥270)を見よ。

【景清】186（ケイセイ） 明、眞寧の人。本姓は耿。訛りて景といふ。洪武の進士。官は建文の初、御史大夫。燕の軍入るや、方孝孺等と國難に殉ぜんことを約す。獨り闕に詣りて自ら歸り、利刃を挾みて朝に入る。成祖、清を疑ひ、之を捜りて藏する所の刃を得て之を詰責す。清、奮起して故主のために讎を復せんのみといふ。成祖怒りて之を磔殺し、幷せて其の族を夷す。〔明史、一百四十一〕・〔萬斯同明史、一百八十五〕・〔明史稿、一百三十二〕・〔國朝獻徵錄、五十四〕。

【景盛】187（ケイセイ） 清、高宗純皇帝(弘曆)の時、越、阮光纘の僞年號。(1793−1801)

【景齊】188（ケイセイ） 南齊、杜京產(**6**−**14477**‥301)の字。

【景聲】189（ケイセイ） 晉、裴邈(**10**−**34362**‥82)の字。

【景召】190（ケイセウ） 宋、余祖奭(**1**−**515**‥105)の字。

【景昭】191（ケイセウ） ㊀字號。㋑宋、趙焯(**10**−**37171**‥208)の字。㋺宋、潘希宗(**7**−**18236**‥135)の字。㋩明、潘文奎(**7**−**18236**‥219)の字。㋥明、邊文進(**11**−**39216**‥202)の字。㊁前燕、可足渾氏(**2**−**3245**‥142)の諡。

〔景昭皇帝〕192（ケイセウクワウテイ） 前燕、慕容儁(**4**−**11088**‥62)の諡。

【景紹】193（ケイセウ） 宋、鄭昭先(**11**−**39647**‥479)の字。

【景韶】194ケイセウ 字號。㊀明、顧成(12－43689··117)の字。㊁清、張永祚(4－9812··808)の字。

【景蕭】195ケイセウ 字號。㊀宋、黃何(12－47926··82)の字。㊁金、曹望之(5－14297··299)の字。

【景石】196ケイセキ 宋、薛師石(9－32123··190)の字。

【景迹】197ケイセキ ㊀立派なおこなひ。〔夏侯湛、鮑叔像贊〕遙遙景迹、君子攸レ欽。㊁蠅の一種。〔事物異名錄、昆蟲蠅〕酉陽雜俎、蠅赤頭者號爲二景迹一。〔歐陽脩、憎二蒼蠅一賦〕尤忌二赤頭一、號爲二景迹一。

【景說】198ケイセツ 字號。㊀宋、翁夢得(9－28635··94)の字。㊁宋、徐霖(4－10110··313)の字。㊂明、莊際昌(9－31035··164)の字。

【景節】199ケイセツ 字號。㊀梁、蔡撙(9－31818··83)の字。㊁明、饒禮(12－44400··55)の字。

【景薛】200ケイセツ 宋、舒嶽祥(9－30300··100)の字。

【景千】201ケイセン 宋、鄭思忱(11－39647··416)の字。

【景川】202ケイセン 字號。㊀明、張澯(順德の人)(4－9812··333)の字。㊁清、程志道(8－25081··215)の字。

【景仙】203ケイセン 清、李美(6－14459··680)の字。

【景先】204ケイセン 字號。㊀晉、韓友(12－43159··5)の字。㊁南朝宋、謝述(10－35827··114)の字。㊂宋、張良裔(4－9812··1578)の字。㊃明、范祖幹(9－30834··224)の字。

【景宣】205ケイセン 字號。㊀北周、盧辯(8－23050··162)の字。㊁唐、羅讓(9－28397··137)の字。㊂清、陸圻(11－41708··52)の字。

〔景宣帝〕206ケイセンテイ 金、完顏宗峻(3－7079··111)の諡。

【景倩】207ケイセン 字號。㊀晉、荀顗(9－30929··14)の字。㊁南朝宋、袁粲(10－34152··66)の字。㊂明、沈德符(6－17189··619)の字。

【景綫】208ケイセン 地名。雲南省の南邊。暹羅の北境。

【景詹】209ケイセン 宋、林仲虎(6－14551··399)の字。

〔景詹閣〕210ケイセンカク 清、姚諶(3－6202··72)の室名。

【景潛】211ケイセン 元、鄭陶孫(11－39647··498)の字。

【景瞻】212ケイセン 字號。㊀宋、趙士隡(10－37171··589)の字。㊁宋、余嶸(1－515··19)の字。㊂明、于冕(1－252··88)の字。㊃明、賀仲軾(10－36725··145)の字。㊄明、田品(7－21723··48)の字。

【景善】213ケイゼン 字號。㊀明、易思(5－13814··71)の字。㊁明、魏元(12－45872··51)の字。

【景然】214ケイゼン 三國魏、韓宣(12－43159··154)の字。

【景祖】215ケイソ ㊀金の太祖の祖父。名は烏古迺。金景祖(11－40152··1238)を見よ。㊁朝鮮李朝、第二十代の王。李昀(6－14459··37)を見よ。

【景祚】216ケイソ おほいなるさいはひ。よいさいはひ。景福。〔晉書、樂志上〕流二景祚一顯二萬世一。

〔景祖翼皇帝〕217ケイソヨクグワウテイ 明、覺昌安(10－34973··62)の尊號。

【景宋】218ケイソウ 宋、王登(7－20823··855)の字。

【景宗】219ケイソウ 廟號。㊀五代、閩の王。王曦(7－20823··218)を見よ。㊁遼、第五代の王。遼景宗(11－39137··46)を見よ。㊂西夏、第一代の王。李元昊(6－14459··1158)を見よ。㊃高麗、第五代の王。名は伷、字は長兄。光宗の長子。西曆九百七十五年卽位、在位七年。〔高麗史、二〕

【景曾】220ケイソウ 字號。㊀明、畢自嚴(7－21829··97)の字。㊁明、李圻(6－14459··171ヽ)の字。

【景則】221ケイソク 字號。㊀梁、蕭子範(9－32012··382)の字。㊁後魏、楊儉(6－15112··135)の字。㊂後魏、李式(6－14459··405)の字。㊃元、應象翁(4－11330··262)の字。

【景泰】222ケイタイ ㊀明、代宗(一に景帝。朱祁鈺)の年號。(1450－1457)㊁縣名。民國、置く。甘肅省皋蘭縣北。土名は紅水堡。㊂宋、普州の人。字は周卿。進士。官は秦鳳路馬步軍總管。元昊を破つて功あり。〔宋史、三百二十六〕

〔景泰藍〕223ケイタイラン 七寶燒。明の景泰年間に創めたもの。其の製作精を極む。

【景倒】224エイタウ 影がさかしまに水中にうつる。〔杜甫、封二西嶽一賦〕忽風翻而景倒。

【景道】225ケイダウ 字號。㊀金、趙質(10－37171··195)の字。㊁明、陳迪(11－41698··483)の字。

【景達】226ケイタツ 元、王埏(7－20823··80)の字。

【景丹】227ケイタン 後漢、櫟陽の人。字は孫卿。少くして長安に遊學し、王莽の時、四科に擧げられ、言語を以て固德侯の相となる。光武の時、偏將軍に拜せられ、王郎の將、兒宏等を擊破し、建武中、櫟陽侯に封ぜられ、軍功頗る多い。〔後漢書、五十二〕

【景端】228ケイタン 明、吾㝷(2－3379··23)の字。

【景覃】229ケイタン 金、華陰の人。字は伯仁。號は渭濱野叟。文詞に巧。集あり。

【景治】230ケイチ 晉、司馬冏(2－3257··253)の字。

【景地】231ケイチ 景色のよい土地。勝景の土地。

【景治】232ケイチ 清初、聖祖仁皇帝(玄燁)の時、越の玄宗穆皇帝(黎維禑)の年號。(1663－1671)

【景致】233ケイチ 山水風物などのおもむき。風致。景趣。景色。〔高駢、途次內黃馬病寄二僧舍一呈二諸友人一詩〕紅葉寺多詩景致、白衣人盡酒交遊。

【景智】234ケイチ 後魏、刁整(2－1846··33)の字。

【景緻】235ケイチ ching^3 chih^4 景色。風景。

【景尼】236ケイヂ 北周、裴尼(10－34362··78)の字。

【景胄】237ケイチウ 立派な世嗣。嫡子の敬稱。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕祕二儀景胄一、圖二光玉蠅一。〔注〕翰曰、景、大、胄、胤也。〔長孫無忌、進二律疏一表〕景胄以レ之碩茂、寶祚於レ是克崇。

【景中】238ケイチユウ 明、侯庸(1－633··90)の字。

【景仲】239ケイチユウ 宋、林仲麟(6－14551··400)の字。

【景沖】240ケイチユウ 梁、蕭子恪(9－32012··367)の字。

【景忠】241ケイチユウ ㊀山名。河北省遷安縣の西北。山上に諸葛亮・岳飛・文天祥を祀り、因りて名づく。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、遷安縣〕景山、縣西北一百二十里、高八里、舊有二二名一、南曰二明山一、北曰二陰山一、郡志、山北爲二鹿兒嶺一、灤陽驛置二於此一、嶺東爲二三屯鎭城一、嘉靖初、帥臣馬永建二諸葛武侯及泰山寺於山上一、易二名景忠山一、遠近祈禱踵至、因設レ官收レ稅、以充二撫賞之費一。㊁元、陳顯曾(11－41698··819)の字。

【景柱】242ケイチユウ 日影を測る柱。〔淮南子、俶眞訓〕以二鴻濛一爲二景柱一、而浮下揚乎無二畛崖一之際上。〔注〕鴻濛、東方之野、日所レ出、故以爲二景柱一。

【景徵】243ケイチヨウ めでたいしるし。めでたいきざし。休徵。瑞徵。〔謝靈運、撰征賦序〕龜筮元謀、符瑞景徵。

【景重】244ケイヂユウ 字號。㊀晉、謝重(10－35827··173)の字。㊁宋、滕處厚(7－18036··51)の字。

【景澄】245ケイチヨウ けしきがすんできよい。〔支曇諦、廬山賦〕是澄則巖岫開レ鏡、風生則芳林流レ芬。

【景珍】246ケイチン 後魏、李琰之(6－14459··897)の字。

【景通】247ケイツウ ㊀五代南唐、李景(6－14459··283)の初名。㊁宋、方峻(5－13620··256)の字。

【景定】248ケイテイ 南宋、理宗(趙昀)の年號。(1260－1264)

〔景定元寶〕248′ケイテイゲンパウ 宋の理宗の時、鑄た貨幣。〔續文獻通考、錢幣考 宋〕開慶二年、改二元景定一、鑄レ錢曰二景定元寶一。

〔景定建康志〕249ケイテイケンカウシ 書名。五十卷。宋、周應合撰。景定中、建康府の知府事馬光祖が應合に屬して舊志を刪補して作らしめたもの。〔四庫提要、史、地理類〕

〔景定嚴州續志〕250ケイテイゲンシウゾクシ 書名。十卷。宋、鄭瑤方仁榮同撰。淳熙より咸淳に至る迄を記す、敍事頗る簡潔である。〔四庫提要、史、地理類〕

【景帝】251ケイテイ 諡號。㊀漢、第五代の帝。孝景帝。劉啓(2－2224··229)を見よ。㊁三國魏、司馬師(2－3257··264)の追尊號。㊂三國吳、第三代の帝。孫休(3－6987··63)を見よ。㊃五代吳の王。楊渥(6－15112··2)を見よ。㊄明、第七代の王。朱祁鈺(6－14424··707)を見よ。

【景程】252ケイテイ 宋、趙良淳(10－37171··928)の字。

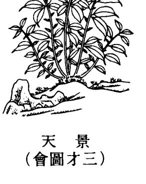
【景亭】253ケイテイ 清、馮桂芬(12－44579··203)の號。

【景兆】254ケイテウ 宋、鄭虎臣(11－39647··372)の字。

【景滌】255ケイデキ 梁、謝覽(10－35827··230)の字。

【景哲】256ケイテツ 明、趙迪(10－37171··295)の字。

【景天】257ケイテン ㊀螢の異名。〔廣雅、釋蟲〕景天、螢火、蟒也。〔古今注、魚蟲〕螢火、一名耀夜、一名景天。㊁草の名。辨慶草の異名。〔本草、景天〕集解、別錄曰、景天生二太山川谷一、四月四日、七月七日采陰乾、時珍曰、景天人多栽二于胡豆葉一、而不レ尖、夏開二小白花一、結レ實如二連翹一、而小



景天
（三才圖會）

中有黑子、如粟粒、其葉味微甘苦煉、熟水淘可食。

【景傳】258（ケイデン） 宋、陳堯道(11－41698・・810)の字。

【景度】259（ケイド） 字號。㊀晉、司馬保(2－3257・・309)の字。㊁宋、黃萬頃(12－47926・・1293)の字。

【景東】260（ケイトウ） ㊀雲南省にあり、邊地を司る役所。〔庸庵日記〕景東在湄公薩爾溫雨江中間、爲老撾最高處、山聳水陡、皆會於此云云、景東卽康東、法人游歷日記云、亦名孟艮、所屬三十二孟、其地久爲緬屬。㊁縣名。民國、置く。雲南省鎭沅縣の北。東北、把邊江に瀕す。㊂土司の名。孟艮(3－6960・・99)を見よ。

【景騰】261（ケイトウ） 後魏、袁躍(10－34152・・147)の字。

【景統】262（ケイトウ） 明、孝宗(朱祐樘)の時、越(安南)憲宗(黎暉、一に鏳)の年號。(1498－1504)

【景德】263（ケイトク） ㊀北宋、眞宗(趙恆)の年號。(1004－1007)㊁鎭の名。㋑金、置く。山東省東阿縣の西南。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、東平州、東阿縣〕安平鎭、縣西南六十里、宋曰景德鎭、元因之。㋺江西省浮梁縣の治。原名は昌南鎭。宋の眞宗の景德中、年號に依りて名を改む。中國第一の瓷器の產地。〔讀史方輿紀要、江西、饒州府、浮梁縣〕景德鎭、縣西南三十里、水土宜陶、宋景德中、置鎭於此、因以景德爲名、明初因元舊、置稅課局、正德初、始置御器廠於是、有官窰民窰之分、志云、瓷器出景德者最佳、鎭東南湖田市次之、麻倉洞又次之。㊂字號。㋑後魏、陽藻(11－41725・・108)の字。㋺陳、周文育(2－3441・・840)の字。㋩明、麴祥(12－47818・・18)の字。

【景德王】263′（ケイトクワウ） 新羅、第三十五代の王。金憲英(11－40152・・1244)を見よ。

【景德窯】264（ケイトクエウ） 景德鎭で製する瓷をいふ。唐初には其の地を昌南といつた。宋の眞宗の景德年間に地名を改めて景德といひ、官窯をおいた。景德窯の名はここに始まる。清代にも其の地に御窯を造り、窯業日に賑うた。民國の初めに窯が百數十座、窯工數萬人あり、出品精巧で世界市場に賣行きがあつた。景德の㊁の㋺を見よ。

【景南】265（ケイナン） 字號。㊀明、章适(8－25761・・57)の字。㊁明、葉顒(9－31387・・28)の字。㊂清、陳栻(11－41698・・364)の字。㊃清、王友亮(7－20823・・1144)の字。

【景寧】266（ケイネイ） ㊀縣名。明、置く。浙江省麗水縣の南。甌江の支流の小溪の南岸。〔讀史方輿紀要、浙江、處州府〕景寧縣、本青田縣之柔遠鄉、明初置沐溪巡司於此、景泰三年、改置今縣、縣無城、編戶六十六里。〔清史稿、地理志〕浙江、處州府、縣十、景寧。㊁陵の名。南朝宋、孝武帝の陵。江蘇省江寧縣の巖山。〔宋書、孝武帝紀〕大明八年、秋七月丙午、葬丹陽秣陵縣巖山景寧陵。

【景芳】267（ケイハウ） ㊀明、定陶の人。字は德馨。官は慶陽同知。㊁宋、謝升賢(10－35827・・301)の字。

【景望】268（ケイバウ） 字號。㊀唐、李磎(6－14459・・287)の字。㊁宋、鄭伯熊(11－39647・・535)の字。㊂宋、余崇龜(1－515・・97)の字。

【景伯】269（ケイハク） ㊀春秋魯、子服何(3－6930・・737)の謚。㊁春秋晉、士彌牟(3－5638・・240)をいふ。㊂字號。㋑後漢、种暠(8－24942・・1)の字。㋺後漢、賈逵(10－36755・・27)の字。㋩後魏、鄭懿(11－39647・・6)の字。㋥宋、洪适(6－17402・・62)の字。

【景亳】270（ケイハク） 地名。殷の三亳の一、北亳をいふ。三亳(1－12・・1482)の㊁を見よ。〔左氏、昭、四〕商湯有景亳之命。〔史記、楚世家〕商湯有景亳之命。〔史記、殷紀、湯始居亳、注〕正義曰、宋州北五十里大蒙城、爲景亳、湯所盟地、因景山爲名。〔水經、汳水注〕汳水又東逕大蒙城北、自古不聞有二蒙、疑卽蒙亳也、所謂景薄爲北亳矣、椒擧云、商湯有景亳之命者也。

【景范】271（ケイハン） 清、顧祖禹(12－43689・・309)の字。

【景範】272（ケイハン） 五代周、長山の人。官は世宗の時、中書侍郎平章事。人と爲り厚重剛正。〔舊五代史、一百二十七〕

【景繁】273（ケイハン） 字號。㊀宋、顧禧(12－43689・・47)の字。㊁宋、蔡承禧(9－31818・・195)の字。

【景微】274（ケイビ） 字號。㊀宋、黃晞(12－47926・・173)の字。㊁明、潘稹(7－18236・・60)の字。

【景靡】275（ケイビ） ひかげが走ること。疾い喩。〔漢書、王褒傳〕縱馳騁騖、忽如景靡。〔注〕師古曰、景靡者、如光景之從靡也。

【景品】276（ケイヒン） 賣品に添へて顧客に贈る品。

【景弼】277（ケイヒツ） 宋、向宗良(2－3301・・110)の字。

【景夫】278（ケイフ） 唐、呂元膺(2－3386・・200)の字。

【景孚】279（ケイフ） 明、江暉(6－17140・・79)の字。

【景附】280（ケイフ） したひなつく。影のやうにつく。〔漢書、敍傳上〕其餘猋飛景附、煜雪其間者、蓋不可勝載。〔列女傳、母儀、周室三母傳〕其知太王仁恕必可以比國人而景附矣。〔後漢書、袁譚傳〕凡我同盟、莫不景附。〔顏氏家訓、勉學〕何晏王弼、祖述玄宗、遞相誇尚、景附草靡。

【景傅】281（ケイフ） 清、劉晟基(2－2224・・1122)の字。

【景武】282（ケイブ） ㊀晉、張光(4－9812・・231)の字。㊁謚號。㋑隋、楊素(6－15112・・264)の謚。㋺唐、李靖(6－14459・・501)の謚。

【景部】283（ケイブ） 丙部をいふ。唐人は高祖の父の諱を避けて丙を改めて景とした。四部(3－4682・・689)の㊂を見よ。〔唐六典、祕書省〕祕書郎、掌四部之圖籍、分庫以藏之、以甲乙景丁爲之部目、云云、景部爲子、其類一十有四。

【景風】284（ケイフウ） ㊀四時和合したおだやかなかぜ。〔爾雅、釋天〕四時和爲通正、謂之景風。〔列子、湯問〕景風翔、慶雲浮。〔後漢書、盧植傳〕將有景風之祚。㊁八風の一。㋑南の風。景は陽氣の道の極。〔史記、律書〕景風居南方、景者言陽氣道竟、故曰景風。〔曹丕、與梁朝歌令吳質書〕蕤賓紀時、景風扇物。〔注〕善曰、易通卦驗曰、夏至則景風至。㋺東南の風。〔淮南子、墬形訓〕東南曰景風。〔淮南子、天文訓〕清明風至四十五日、景風至。〔白虎通、八風〕四十五日景風至、景、大也。㋩東風。〔任昉、王文憲集序〕望側階而容賢、候景風而式典。〔注〕良曰、景風、東風也。

【景復】285（ケイフク） 明、郭文周(11－39474・・406)の字。

【景福】286（ケイフク） ㊀大きなさいはひ。大福。景祚。〔詩、小雅、小明〕神之聽之、介爾景福。〔傳〕介・景、皆大也。〔儀禮、士冠禮〕壽考惟祺、介爾景福。〔左氏、襄、七〕神之聽之、介爾景福。〔荀子、勸學〕介爾景福。〔王融、三月三日曲水詩序〕上陳景福之賜。㊁年號。㋑唐、昭宗(李傑)の時。(892－893)㋺北宋の仁宗の代、契丹(遼)興宗(耶律宗眞)の時。(1033)㊂魏の宮殿の名。景福殿賦を見よ。㊃明、尚褫(4－7493・・120)の字。

【景福殿賦】287（ケイフクデンノフ） 文章の名。魏、何晏の作。文選十一卷に收む。〔何晏、景福殿賦、注〕善曰、洛陽宮殿簿曰、許昌宮、景福殿七間、典略云、何晏、字平叔、南陽人也、尚金鄉公主、有奇才、美容貌、魏明帝將東巡、恐夏熱、故許昌作殿、名曰景福、既成命人賦之、平叔遂有此作。

【景物】288（ケイブツ） ㊀けしき。風景。花鳥風月のやうに四季折々の景致を添へるもの。〔鮑照、舞鶴賦〕既而氛昏夜歇、景物澄廓。〔杜審言、望春亭侍遊應詔詩〕萬壽禎祥獻、三春景物滋。〔杜甫、奉觀嚴鄭公廳事岷山沱江圖詩〕秋成玄圃外、景物洞庭傍。〔洛陽名園記〕獨富鄭公園、最爲近闢、景物最勝。〔朱熹、次秀野極目亭韻詩〕不堪景物撩人甚、倒盡詩囊未許慳。㊁時に應じた珍しい食物酒肴などをいふ。〔明衡往來〕旨酒一樽景物少少相具。㊂商店等で賣品に添へて贈呈するもの。景品。

【景文】289（ケイブン） ㊀字號。㋑晉、元帝の字。司馬睿(2－3257・・217)を見よ。㋺晉、杜弢(6－14477・・191)の字。㋩南朝宋、王彧(7－20823・・34)の字。㋥後魏、李敷(6－14459・・703)の字。㋭後魏、陽尼(11－41725・・190)の字。㋬北齊、封詢(4－7426・・108)の字。㋣隋、王頍(7－20823・・200)の字。㋠唐、封絢(4－7426・・65)の字。㋷宋、翁采(9－28635・・23)の字。㋦宋、黃必昌(12－47926・・1299)の字。㋸宋、范晞文(9－30834・・156)の字。㋾宋、傅野(1－939・・122)の字。㋻宋、劉季孫(2－2224・・773)の字。㋕宋、王質(興國の人)(7－20823・・488)の字。㋵宋、王炳(7－20823・・945)の字。㋟元、淩緯(2－1669・・3)の字。㋹明、袁凱(10－34152・・15)の字。㋞明、溫純(7－17968・・124)の字。㋡元、郝彬(11－39430・・26)の字。㋧明、周順昌(2－3441・・715)の字。㋤明、孫如游(3－6987・・444)の字。㋶清、嚴可均(2－4589・・269)の字。㊁宋、宋祁(3－7078・・46)の謚。

【景平】290 ケイヘイ ❶南朝宋の少帝（營陽王、劉義符）の年號。(423－424) ❷字號。㋑梁、傅岐(1－939‥24)の字。㋺宋、李元白(6－14459‥1178)の字。

【景炳】291 ケイヘイ あきらかなこと。景明(299)に同じ。

【景父】292 ケイホ 明、周順昌(2－3441‥715)の字。

【景慕】293 ケイボ あふぎしたふ。景仰。仰慕。〔北史、楊敷傳〕敷少有二志操一、重二然諾一、人景二慕之一。〔梁簡文帝、圖二雍州賢能刺史一教〕矧彼前賢、寧忘二景慕一。〔柳宗元、零陵春望詩〕凝レ情空景慕、萬里蒼梧陰。

【景慕法効】294 ケイボハフカウ 仰ぎ慕つてまねする。〔川田甕江、報德記序〕使二海內守令、景慕法効、傳二惠澤於無窮一。

【景懋】295 ケイボウ 晉、謝純(10－35827‥116)の字。

【景邁】296 ケイマイ 地名。一に清邁・整賣に譯す。雲南省の南境。今、泰國に屬す。湄南河の上流、湄濱河の右岸に當り、古の大八百媳婦國なり。〔庸庵日記〕景邁爲二老撾、西部之最富者、城在二湄南江上游、湄濱江右岸一。

【景孟】297 ケイマウ 字號。❶宋、艾淑(9－30648‥38)の字。❷宋、王宗傳(7－20823‥1850)の字。❸清、胡承珙(9－29400‥506)の字。

【景命】298 ケイメイ 大命。大きな運命。大きな命令。〔詩、大雅、旣醉〕君子萬年、景命有レ僕。〔箋〕天之大命。〔班固、典引〕逢レ吉丁レ辰景命也。〔注〕蔡邕曰、言下逢二此吉一、當二此時一者、皇天之大命上也。〔晉書、元帝紀〕伏惟、高祖宣皇帝肇二基景命一、世祖武皇帝遂造二區夏一、三葉重レ光、四聖繼レ軌、惠澤侔二於有虞一、卜世過二於周氏一。〔陸機、答二賈長淵一詩〕先レ天創レ物、景命是膺。

【景明】299 ケイメイ ❶景色があきらかなこと。〔范仲淹、岳陽樓記〕春和景明、波瀾不レ驚。❷南嶽(2－2750‥124)の❶の異名。〔宋史、禮志五〕太平興國八年加二上五嶽帝后號一、東曰二淑明一、南曰二景明一、西曰二肅明一、北曰二靖明一、中曰二正明一。❸北朝、魏（元魏）の宣武帝（拓跋恪）の年號。(500－503) ❹字號。㋑三國魏、曹奐(5－14297‥64)の字。㋺宋、戴昺(5－11685‥124)の字。㋩明、瞿晟(8－23747‥18)の字。㋥明、胡昺(9－29400‥331)の字。㋭明、蔡一槐(9－31818‥136)の字。㋬明、秦昌遇(8－24995‥229)の字。㋣明、陳亮(11－41698‥594)の字。㋠清、虞黃昊(9－32723‥161)の字。㋷清、張時爲(4－9812‥1146)の字。

【景鳴】301 ケイメイ 明、羅玘(9－28397‥49)の字。

【景滅】302 ケイメツ かげが消える。〔陸機、文賦〕藏二若景滅一、行猶二響起一。〔注〕翰曰、若二形影之滅沒一也。

【景茂】303 ケイモ 字號。❶前燕、慕容暐(4－11088‥50)の字。❷後秦、姚萇(3－6202‥94)の字。❸南朝宋、阮長之(11－41569‥70)の字。❹明、沐晟(6－17201‥25)の字。

【景默】304 ケイモク 明、曾如春(5－14299‥202)の字。

【景陽】305 ケイヤウ ❶上古の人。淫を好む。〔新論、利害〕娍虎在レ前、地有二隋珠一、雖三貪如二盜蹠一、則手不レ暇レ拾、懸レ轂向レ心、路有二西施一、雖三淫如二景陽一、則目不レ暇レ視。❷陳の宮殿の名。故址は南京市の北、玄武湖畔。〔陳書、後主紀〕從二宮人十餘一、出二後堂景陽殿一、將三自投二於井一。〔許渾、金陵懷古詩〕玉樹歌殘王氣終、景陽兵合戍樓空。❸井の名。江蘇省江寧縣の北。陳の貞明の末、隋兵宮城に入るや、後主、張孔二妃と井中に匿れ、獲へらる。よつて又辱井と名づく。〔建康志〕一名、胭脂井、又名二辱井一、在二臺城內一。❹樓の名。江蘇省江寧縣の北。〔南史、宋文帝紀〕元嘉二十三年、興二景陽山於華林園一。❺山名。湖南省茶陵縣の東。山に茶樹多く一に茶山といふ。名勝志に炎帝の葬處といふ。❻字號。㋑晉、張協(4－9812‥267)の字。㋺梁、蕭子顯(9－32012‥375)の字。㋩宋、金葵(11－40152‥187)の字。㋥宋、吳葵(2－3365‥91)の字。㋭宋、薛映(9－32123‥2)の字。㋬宋、呂秉南(2－3386‥263)の字。㋣明、葉春(9－31387‥73)の字。㋠明、宋晟(3－7078‥147)の字。㋷明、馮昱(12－44579‥10)の字。㋦明、李春(6－14459‥439)の字。㋸明、劉昱(2－2224‥15)の字。

【景陽鐘】306 ケイヤウシヨウ 鐘の名。齊の武帝之を作らしめて景陽樓に置く。〔南齊書、后妃傳〕宮內深隱、不レ聞二端門鼓漏聲一、置二鐘於景陽樓上一、宮人聞二鐘聲一、早起裝飾、至レ今此鐘唯應二五鼓及三鼓一也。〔廣陽雜記〕江寧孝陵之側爲二靈谷寺大殿一、懸二齊景陽鐘一、鐘界爲二二十四方一、方懸二一杵一焉、界各爲レ律、清濁高下、各爲二一音一、略如二今之韻鑼一焉、而備二之於一鐘一、異哉。

【景暘】307 ケイヤウ ❶明、儀眞の人。字は伯時。正德の進士。編修を授けらる。時に劉瑾、朝士を陵轢するも、暘、屈せず。司業に進み、諸生と講說して寒暑を避けず。典簿、其の貧を念うて官廩を給するに私かに其の斛を益す。暘知つて益す所の米を歸す。中允に改められ、南京司業を掌つて卒す。詩文に巧で、鄕人蔣山卿・趙鶴・朱應登と共に江北の四子と稱せらる。著に前溪集がある。〔萬斯同明史、二百五十五〕・〔國朝獻徵錄、十九〕・〔明詩綜、三十三〕。❷字號。㋑明、姚旭(3－6202‥34)の字。㋺明、邢旭(11－39301‥16)の字。㋩明、莊昇(9－31035‥81)の字。㋥明、秦旭(8－24995‥51)の字。㋭明、雷復(12－42245‥134)の字。㋬明、冷曦(2－1622‥21)の字。

【景瑜】308 ケイユ 北周、皇甫璠(8－22701‥239)の字。

【景裕】309 ケイユウ 宋、宋昇(3－7078‥137)の字。

【景預】310 ケイヨ 明、杜博聞(6－14477‥379)の字。

【景豫】311 ケイヨ 南齊、虞悰(9－32723‥110)の字。

【景容】312 ケイヨウ 明、秦裕伯(8－24995‥271)の字。

【景庸】313 ケイヨウ 宋、薛昌朝(9－32123‥196)の字。

【景朗】314 ケイラウ 晉、羊鑒(9－28425‥29)の字。

【景鸞】315 ケイラン ❶後漢、梓潼の人。字は漢伯。少くして師に隨ひて經を學び、七州の地を涉り、遂に經術に明通す。著に河洛交集・禮略・興道・月令章句がある。〔後漢書、一百九〕。❷後魏、成霄(5－11544‥190)の字。

【景里】316 ケイリ 洲の名。又、郮里・景理に作る。湖北省江陵縣の西南。〔太平寰宇記〕州大洲有レ三、首曰二枚迴一、中名二景里一、下名二鷰尾一。

【景良】317 ケイリヤウ 元、汪漢卿(6－17154‥191)の字。

【景亮】318 ケイリヤウ 字號。❶後秦、尹緯(4－7631‥1)の字。❷宋、黃義明(12－47926‥1032)の字。

【景樑】319 ケイリヤウ 元、潘昂霄(7－18236‥134)の字。

【景略】320 ケイリヤク 字號。❶晉、王猛(7－20823‥991)の字。❷金、石抹世勣(8－24024‥746)の字。

【景龍】321 ケイリユウ ❶大きい龍。〔宋書、符瑞志上〕燧人氏沒、宓犧代レ之受二龍圖一、畫二八卦一、所謂河出圖者也、有二景龍之瑞一。❷唐、中宗（李顯）の年號。(707－710) ❸清、汪照(6－17154‥89)の初名。

【景龍燈】322 ケイリユウトウ 詞牌の名。探春令(5－12276‥50)の條を見よ。

【景龍飛】322′ ケイリユウヒ 晉の鼓吹曲の名。傅玄の作。〔晉書、樂志下〕改二戰城南一爲二景龍飛一、言、景帝克明二威敎一、賞レ順夷レ逆、祚隆無レ疆、崇二此洪基一也。

【景陵】323 ケイリヨウ 陵の名。❶後魏の宣武帝の陵。河南省洛陽縣の北邙山。又、宣武陵といふ。〔魏書、宣武帝紀〕延昌四年二月甲午、葬二景陵一。〔洛陽縣志〕景陵、在二洛陽北邙山一。❷唐の憲宗の陵。陝西省蒲城縣の金幟山。〔唐書、穆宗紀〕元和十五年五月庚申、葬二聖神章武孝皇帝于景陵一。〔蒲城縣志〕景陵在二豐山一、陵南下宮有二宋重修廟記一、橋陵泰陵光陵碑俱毀、惟景陵有下錄二其全文一者上、今猶傳。❸金の睿宗の陵。河北省房山縣の西北大房山。〔續文獻通考、王禮考、山陵〕世宗大帝二年正月、如二大房山享獻山陵一、九月改二葬睿宗皇帝一、奉二遷睿宗皇帝梓宮於盤寧宮一、十月如二山陵一、謁二睿宗皇帝梓宮一、哭盡レ哀葬二睿宗於景陵一大赦。❹明の宣宗の陵。河北省昌平縣の天壽山の東。〔明史、宣宗紀〕宣德十年、春正月乙亥、崩二於乾清宮一、年三十有八、遺三詔國家重務白二皇太后一、丁酉、上二尊諡一、廟號二宣宗一、葬二景陵一。〔昌平山水記〕景陵、在二天壽山東峯之下一、距二長陵一東少北一里半、自二北五空橋南一數步分レ東、爲二景陵神路一、至二殿門一三里、碑亭門廡如二獻陵一、殿五間、重簷階三道、其平刻爲二龍形一、殿有二後門一、不レ屬二垣殿一、後門三道、並如二獻陵一、甬道平、寶城長而狹、榜曰二景陵一、碑曰二大明宣宗章皇帝之陵一、周垣如二長陵一、寶城前存二樹十五株、冢上一株一。〔畿輔通志〕景陵在二昌平州黑山一。❺清の聖祖の陵。河北省遵化縣の西北。〔皇朝文獻通考、王禮考、山陵〕聖祖仁皇帝陵曰二景陵一。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制一〕昭西陵、孝陵、孝東陵、景陵、裕陵、定陵、普祥峪定東陵、惠陵爲二東陵一、在二

遵化州昌端山、云云、聖祖仁皇帝陵爲㆓景陵㆒。

【景林】325 ケイリン　後魏、李皦(**6―14459**‥298)の字。

【景倫】326 ケイリン　晉、石俊(**8―24024**‥408′)の字。

【景綸】327 ケイリン　宋、羅大經(**9―28397**‥382)の字。

【景烈】328 ケイレツ　北齊、庫狄干(**4―9330**‥42)の諡。

【景歷】329 ケイレキ　明、世宗(朱厚熜)の時、越の莫福源の年號。(1548―1553)

【景廉】330 ケイレン　清、滿洲正黃旗人。姓は顏札氏。字は儉卿。又、季泉。咸豐の進士。伊犂參贊大臣に累擢され、同治中、事に坐して落職し、寧夏軍營に發せられ、兵を領して甘肅新疆に轉戰して屢〻功あり、後、官は兵部尙書・內閣學士。〔清史稿、四百四十五〕・〔清史列傳、五十三〕。

【景濂】331 ケイレン　字號。❶明、宋濂(**3―7078**‥216)の字。❷明、孫三傑(**3―6987**‥405)の字。

【景魯】332 ケイロ　字號。❶宋、趙孟頫(**10―37171**‥903)の字。❷明、馮師孔(**12―44579**‥227)の字。❸明、李圻(**6―14459**‥196)の字。

【景盧】332′ ケイロ　宋、洪邁(**6―17402**‥193)の字。

【景廬】333 ケイロ　明、歐陽杲(**6―16185**‥52)の字。

【景和】334 ケイワ　❶南朝宋の前廢帝(劉子業)の年號。(465)❷字號。㋑北周、李弼(**6―14459**‥683)の字。㋺隋、梁毗(**6―14825**‥168)の字。㋩明、蕭鑾(**9―32012**‥269)の字。㋥明、童敍(**8―25775**‥64)の字。㋭明、楊塤(**6―15112**‥133)の字。㋬清、鄒士隨(**11―39562**‥90)の字。

【景王】335 ケイワウ　諡號。❶周、第二十四代の王。姬貴(**3―6230**‥13)を見よ。❷漢の城陽王。劉章(**2―2224**‥339)を見よ。❸南涼の王。禿髮傉檀(**8―24910**‥34)を見よ。❹渤海の王。大玄錫(**3―5831**‥2456)を見よ。❺宋、趙宗漢(**10―37171**‥756)の追封號。

【抱㆑景】336 カゲヲイダク　自分で自分の影を抱く。孤獨のさま。抱㆑影。〔後漢書、崔駰傳〕師友道德、合㆓符曩眞㆒、抱㆑景特立、與㆑士不㆑羣。〔褚亮、別㆓樂彥㆒詩〕抱㆑景同爲㆑客、傷情共㆓此時㆒。〔溫庭筠、病中書㆑懷呈㆓友人㆒詩〕銜㆑恩空抱㆑影、酬㆑德未㆑捐㆑軀。

【景哀王】336′ ケイアイワウ　新羅、第五十五代の王。朴魏膺(**6―14428**‥39)を見よ。

【景迂生】337 ケイウセイ　宋、晁說之(**5―13889**‥19)の號。

【景翳翳】338 カゲエイエイ　日かげが暗くなる。翳は明かでないさま。〔陶潛、歸去來辭〕景翳翳以將㆑入、撫㆓孤松㆒而盤桓。

【景延廣】339 ケイエンクワウ　五代、晉の陝州の　字は航川。官は高祖の時、馬步軍都指揮使。出帝立ち、大臣議して契丹に表を致して臣と稱さんとするも、延廣獨り肯かず、但〻書を致して孫と稱す。契丹の使者數〻晉を責む、延廣、契丹の使者に向ひ、晉に橫磨の大劍十萬口あり、翁、戰を要すれば來れ、他日、孫子が笑を天下に取るを禁ぜざれと言ふ。其の後、契丹入寇するや、延廣壁を閉ぢて敢て出でず、尋いで出でて河南尹となる。北騎急に至るや、執へられて自殺す。〔五代史、二十九〕・〔舊五代史、八十八〕。

【景恭王】340 ケイキヨウワウ　明、朱載圳(**6―14424**‥793)の封諡號。

【景皇帝】341 ケイクワウテイ　❶成漢、李特(**6―14459**‥637)の尊稱。❷清、德宗(**7―17695**‥898)の諡。

【景君碑】342 ケイクンヒ　漢の益州太守景君の碑。山東省濟寧縣にある。〔寰宇訪碑錄、漢〕景君碑陰、八分書。

【景言閣】343 ケイゲンカク　宋、惠疇(**4―10822**‥97)の室名。

【景思忠】344 ケイシチユウ　宋の人。泰の子。字は進之。官は西京左藏庫使、後、遂州駐泊都監。夷、淯井に寇するや、之と戰つて節に死す。〔宋史、四百五十二〕。

【景思立】345 ケイシリツ　宋の人。思忠の弟。官は知德順軍・河中團練使。後、賊と戰つて死す。〔宋史、四百五十二〕。

【景紫堂】346 ケイシダウ　清、夏炘(**3―5720**‥64)の室名。

【景日昣】347 ケイジツシン　清、登封の人。字は東陽。康熙の進士。官は戶部侍郎。著に說嵩・嵩嶽廟史・嵩陽學がある。〔四庫提要、七十六〕。

【景星杓】348 ケイセイシヤク　清、仁和の人。字は亭北。少くして任俠を好み、家產を傾けて友難を救ふ。後、節を折りて讀書す。菊を養ふに精しく、自ら菊公と號し、其の種を得た者、景氏菊と呼ぶ。詩文に巧。著に山齋客譚・文羹・蜨史・菊公拗堂醉翁諸集がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十二〕。

【景昭帝】349 ケイセウテイ　前燕の王。慕容儁(**4―11088**‥62)を見よ。

【景遷堂】350 ケイセンダウ　元、洪韋(**6―17402**‥3)の室名。

【景陶軒】351 ケイタウケン　宋、兪澹(**1―1437**‥53)の室名。

【景東井】352 ケイトウセイ　井鹽の名。雲南景東縣にある。〔清會典事例、戶部、鹽法〕雲南、轄鹽井二十有五、景東井。〔注〕屬㆓景東同知㆒。

【景坡堂】352′ ケイハダウ　宋、蔣璨(**9―31820**‥51)の室名。

【景白軒】353 ケイハクケン　宋、張鎡(**4―9812**‥361)の室名。

【景文王】353′ ケイブンワウ　新羅、第四十八代の金膺廉(**11―40152**‥1398′)を見よ。

【景翩翩】354 ケイヘンヘン　明、建昌の妓女。字は三妹(三味)。又、驚鴻。美色あり。詩に巧。誤りて建寧の丁長發に歸嫁し、自經して死す。著に散花吟がある。〔明人小傳、五〕・〔明詩綜、九十八〕。

【景豐街】355 ching³ fêng¹ chieh¹　上海繁昌の區域、廣東路の別稱。

【景迂生集】356 ケイウセイシフ　書名。二十卷。宋、晁說之撰、其の孫子健編。一名、嵩山集。〔四庫提要、集、別集類〕。

【景延精舍】357 ケイエンシヤウジヤ　明、李濂(**6―14459**‥811)の室名。

【景岳全書】358 ケイガクゼンシヨ　書名。六十四卷。明、張介賓撰。論ずる所の醫學は溫補を以て宗と爲し、主持すること太だ嚴であるがために、頗る後人に論難されてゐる。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【景固勒岱】359 ケイコロクタイ　清、滿洲正白旗人。世〻扎庫塔に居り、地を以て姓とす。諡は忠直。天聰中、東海瓦爾喀部を征し、丁壯及び馬牛を收獲すること甚だ多く、順治の初、二等男に封ぜらる。〔清史稿、二百三十三〕・〔清史列傳、二百六十五〕・〔滿洲名臣傳、十五〕。

【滅㆑景雲棲】360 カゲヲメツシテウンセイス　あとをくらまして隱棲する。〔海錄碎事、人事、隱逸〕褚伯玉滅㆑景雲棲、抗㆑高木食。

【景不㆘爲㆓曲物㆒直㆖】361 カゲキヨクブツノタメニナホカラズ　形が曲れば其の影も亦曲る。原因と結果と相離れることのない喩。〔管子、宙合〕景不㆘爲㆓曲物㆒直㆖、響不㆘爲㆓惡聲㆒美㆖。

【如㆓景之象㆑形響之應㆑聲㆒】362 カゲノカタチニカタドリヒビキノコヱニオウズルガゴトシ　影と形と、響と聲との如く、二つの物が極めてよく相應ずること。〔史記、樂書〕凡音由㆓於人心㆒、天之與㆑人有㆓以相通㆒、如㆓景之象㆑形、響之應㆑聲。〔莊子、在宥〕大人之教、若㆓形之於㆑影、聲之於㆑響。

【晾】13984

リヤウ　〔字彙補〕音亮　ㄌㄧㄤˋ liang⁴　漾

さらす。かわかす。〔字彙補〕晾、曬暴也。

【晾夏】1 リヤウカ　上巳の日に葛衣などをさらすこと。〔龍游縣志〕上巳日以㆓紗葛衣㆒出曝、謂㆓之晾夏㆒。

【晾開】2 liang⁴ k'ai　日光に晒らす。

【晾乾】3 liang⁴ kan¹　日光に乾かす。

【晾晒】4 liang⁴ shai⁴　乾かす。日に干す。

【晾鷹】5 リヤウヨウ　臺の名。北京永定門外の南海子の內に在る。〔帝京景物略〕海子中有㆑殿、殿旁晾鷹臺、臺臨㆓三海子㆒、築㆓七十二橋㆒以渡、元之舊也。

【晾經會】6 リヤウケイクワイ　書帙衣服等をさらしかわかす會。〔津門雜記〕六月六日、曝㆓曬書帙衣服等件㆒、鈴鐺閣作㆓晾經會㆒。

【曶】13985

コツ　昒(**5―13812**)に同じ。〔集韻〕昒、或作㆑曶。

【晱】13986

セン　〔正字通〕失冉切　琰

❶**いなびかり。**〔篇海〕晱、電也。❷**ひか**

る。光るさま。〔正字通〕晱、晶熒貌。

【朞】13987 キ 〔玉篇〕居其切 支

❶のち。〔玉篇〕朞、後也。❷期(5－14378)に同じ。〔正字通〕朞、期竝同。

【㫷】13988 キ 期(5－14378)・朞(5－14377)の古字。〔集韻〕棋、古作レ㫷、或作レ朞、亦書レ期。

【晲】13989 ゲイ 〔集韻〕吾禮切 薺

❶日がかたむく。〔玉篇〕晲、日昳也。〔淮南子、要略〕有レ符二曬晲一。❷あきらか。〔集韻〕晲、一曰、明也。❸或は㫰(5－13833)に作る。〔廣韻〕晲、亦作レ㫰。

【晰】13990 セキ 晳(5－13991)に同じ。〔正字通〕晰、同レ晳。

【晰齋】1 セキサイ 清、博明(2－2761・・178)の字。

【晰之】2 セキシ 清、博明(2－2761・・178)の字。

【晳】13991 セキ シヤク 〔正韻〕思積切 陌 ㄒㄧ hsi¹

❶あきらか。〔正字通〕晳、明也。❷皙(8－22748)に通ず。〔字彙〕晳、與レ皙同。❸姓。〔萬姓統譜〕晳、見二姓苑一。

【晳齋】1 セキサイ 清、博明(2－2761・・178)の號。

【晳之】2 セキシ 春秋衞、狄黑(7－20290・・10)の字。

【晳次】3 セキジ 清、梁熙(6－14825・・45)の號。

【晳庭】4 セキテイ 清、曹奕霞(5－14297・・203)の號。

【晢】13992 セキ 晰(5－13990)に同じ。〔篇海〕晢、同レ晰。

【睫】13993 セフ 〔集韻〕七接切 葉

日がくれかかる。〔集韻〕睫、睫曮、日欲レ沒也。

【晴】13994 セイ ジヤウ 〔集韻〕慈盈切 庚 ㄑㄧㄥˊ ch'ing²

❶はれる。㋑夜に入つて雨があがる。姓(3－5765)に同じ。〔說文〕姓、雨而夜除、星見也、从レ夕生聲。〔段注〕古姓・暒・精、皆今之晴。〔說文通訓定聲〕姓、字亦作レ晴、晝曰レ晏曰レ啓、夜曰レ姓。〔史記、天官書〕天晴而見二景星一。㋺雨がやむ。〔蒼頡篇〕姓、雨止而無レ雲也。〔玉篇〕晴、雨止也。〔正字通〕晴、雨霽日出也。〔潘岳、閑居賦〕微雨新晴、六合清朗。㋩空に雲がない。うららか。〔玉篇〕晴、精明也、無レ雲也。〔歐陽脩、西湖詩〕雪消門外千山綠、花發江邊二月晴。❷はれ。〔唐書、五行志〕以祈レ晴。〔余靖、番禺詩〕客聽二潮雞一迷二早夜一、人瞻二颶母一識二陰晴一。❸暒(5－14052)に同じ。〔說文通訓定聲〕姓、字亦作レ暒。邦❶はれ。㋑おほやけ。おもてむき。ひとまへ。㋺名譽。❷はれる。㋑心のうさが散ずる。㋺事のさはりが解ける。❸はらす。

名乘 ハル。ナリ。

解字 會意形聲。夕と生との合字。生は聲を兼ねる。夜、雨がふつて後、雲除き、星が生じ見はれる義。はれる。晴は後出の字。精・暒・星は皆今の晴の意に用ひた。啓は日中、雨があがる意に對し、姓は、夜、雨がはれるが本義。〔說文、姓、段注〕郭樸注、三倉云、暒者、雨止無レ雲也、古姓・暒・精皆今之晴、而詩作レ星。

【晴靄】1 セイアイ はれたもや。〔李咸用、富貴曲〕畫藻雕山金碧彩、鴛鴦疊翠眠二晴靄一。

【晴衣】2 ハレギヌ はれの時に著る衣服。晴着(57)に同じ。〔百合若大臣野守鏡、三〕父の殿御の晴衣。

【晴衣裳】3 ハレイシヤウ はれぎ。晴衣に同じ。

【晴陰】4 セイイン はれとくもり。晴曇。晴雲。〔白居易、大湖石詩〕形質冠二今古一、氣色通二晴陰一。

【晴雨】5 セイウ はれとあめふり。晴天と雨天。〔言志後錄〕人涉レ世、如二行旅一然、途有二險夷一、日有二晴雨一、畢竟不レ得レ避。

【晴雨計】6 セイウケイ 大氣の氣壓を計り晴雨をトする器械。晴雨儀。氣壓計。

【晴雲】7 セイウン はれた雲。〔張謂、九日宴詩〕秋葉風吹黃颯颯、晴雲日照白鱗鱗。

【晴雲秋月】8 セイウンシウゲツ 晴雲と秋月。胸中のけがれなく澄みとほる喩。〔宋史、文同傳〕操韻高潔、自號二笑笑先生一、善二詩文篆隸行草飛白一、文彥博守二成都一奇レ之、致二書同一曰、與可、襟韻灑落、如二晴雲秋月、塵埃不一レ到、司馬光・蘇軾尤敬二重之一。

【晴烟】9 セイエン はれたかすみ。〔韋莊、古別離詩〕晴烟漠漠柳毿毿、不レ那二離情一酒半酣。

【晴霞】10 セイカ はれたかすみ。〔隋煬帝、早渡レ淮詩〕晴霞轉二孤嶼一、錦帆出二長圻一。〔王勃、益州德陽縣善寂寺碑〕綠房丹鎖、彩綴二晴霞一。〔李白、天門山詩〕參差遠二天際一、縹緲晴霞外。

【晴海】11 セイカイ 山本逸の號。山本晴海(4－7869・・985)を見よ。

【晴厓】12 セイガイ 清、蔣炳(9－31820・・96)の字。

【晴好】13 セイカウ 空の晴れ渡つて天氣のよいこと。〔蘇軾、飲二湖上一初晴後雨詩〕水光瀲灩晴方好、山色空濛雨亦奇。

【清江】14 セイカウ 明、貝瓊(10－36656・・16)の號。

【晴江閣】15 セイカウカク 清、何絜(1－511・・64)の室名。

【清江酒民】15′ セイカウシユミン 元、彭鏞(4－1003・・118)の號。

【晴昊】16 セイカウ あをぞら。晴天。〔杜甫、蘇端薛復筵簡二薛華一醉歌〕安得下健步移二遠梅一、亂二插繁花一向中晴昊上。〔方岳、題二晦翁亭一詩〕諸郎表二章之一、三峯倚二晴昊一。〔胡文炳、星源八景詩〕非レ煙非レ霧騰二清晨一、五色祥光煥二晴昊一。

【晴間】17 ハレマ ❶雨・雪などの止んだ間。霽間。〔源氏物語、夕顏〕朝霧のはれまもまたぬけしきにて。❷心のはれやかな閒。〔蟬丸、二〕遂に思ひの晴れ間なき。

【晴岩】18 セイガン 清、吳肅公(2－3365・・658)の號。

【晴巖】19 セイガン ❶清、吳肅公(2－3365・・658)の號。❶清、丘峻(1－33・・51)の字。❸清、沈筠(6－17189・・24)の號。

【晴氣】20 セイキ はれやかな氣。はればれした空氣。〔溫庭筠、敬答二李先生一詩〕綠昏晴氣春風岸、紅漾輕綸野水天。〔戴表元、夢覺詩〕虛簷晴氣生二朝露一、遠樹寒聲過二夜潮一。

【晴暉】21 セイキ はれてかがやく。〔鄭畋、下直早出詩〕偏覺石臺清貴處、牓懸二金字一射二晴暉一。

【晴曦】22 セイギ ほがらかなあさひ。晴旭(24)に同じ。

【晴虛】23 セイキヨ はれわたつた大空。晴空。〔陸龜蒙、石窓詩〕石窓何處見、萬仞倚二晴虛一。

【晴旭】24 セイキヨク ほがらかなあさひ。くもりなくかがやく朝日。〔宋仁宗、詩〕晴旭輝輝禁禦開。

【晴空】25 セイクウ はれた空。晴天。青天。〔李白、秋登二宣城謝朓北樓一詩〕江城如二畫裏一、山曉望二晴空一。〔劉禹錫、秋詞〕晴空一鶴排レ雲上、便引二詩情一到二碧霄一。

【晴空朗月何天不レ可二翱翔一】26 セイクウラウゲツナンノテンカカウシヤウ スペカラザラン 晴れた空、澄み渡る月、明るい處はどこにもあるのに、夏の蛾ばかりは、わざわざ飛んで火に入り、我と我が身を燃やしてしまふ。〔菜根譚、後、七十〕晴空朗月何天不レ可二翱翔一、而飛蛾獨投二夜燭一。

【晴光】27 セイクワウ はれた日のけしき。〔杜審言、和二晉陵陸丞早春遊望一詩〕淑氣催二黃鳥一、晴光轉二綠蘋一。〔賈曾、奉二和春日出レ苑矚目一應令詩〕渭水晴光搖二草樹一、終南佳氣入二樓臺一。

【晴軍】28 ハレイクサ はれがましいいくさ。堂々と勝

負を決する戰。はなばなしい戰。〔國性爺合戰、一〕梅檀皇女緣の分け目の晴れ軍。

【晴景】29（セイケイ） はれたけしき。〔溫庭筠、詠二山雞一詩〕石罅動二晴景一、山禽淩二翠微一。

【晴溪】30（セイケイ） 淸、胡時顯(9－29400··487)の字。

【晴軒】31（セイケン） ㊀はれたのき。〔何遜、九日侍二宴樂游苑一詩〕晴軒連二瑞氣一、同惹御香芬。〔杜甫、憶二幼子一詩〕憶渠愁只睡、炙レ背俯二晴軒一。㊁大田敦の號。大田晴軒(3－5831··1734)を見よ。

【晴暄】32（セイケン） はれてあたたかい。空が晴れて暖い。〔韻府引、吳萊、詩〕九日晴暄未レ隕レ霜。

【晴原】33（セイゲン） ㊀はれた原。〔張蠙、過二蕭關一詩〕曉戍殘二烽火一、晴原起二獵塵一。㊁明、李同芳(6－14459··1815)の號。

【晴湖】34（セイコ） はれた湖水。〔賈島、送二人適レ越詩〕晴湖勝二鏡碧一、寒柳似二金黃一。〔陳師道、山口詩〕漁屋渾環レ水、晴湖半落レ東。〔袁桷、夕佳亭詩〕疎鐘息二萬籟一、晴湖淨二奩冰一。

【晴虹】35（セイコウ） 燈の異名。〔事物異名錄、器用、燈〕韻府、晴虹卽燈也。

【晴沙】36（セイサ） ㊀はれた沙。晴れた日の沙。〔杜甫、曲江陪二鄭八丈南史飮一詩〕雀啄江頭黃柳花、鵁鶄鸂鶒滿二晴沙一。〔錢起、同二嚴逸人一東溪泛レ舟詩〕寒花古岸旁、唳鶴晴沙上。㊁字號。㋑淸、顧光旭(12－43689··246)の號。㋺淸、李爔(6－14459··193)の字。

【晴山】37（セイザン） ㊀はれた山。〔李羣玉、寄レ友詩〕野水晴山雪後時、獨行二村路一更相思。〔孫逖、送下李給事歸二徐州一覲省上詩〕春水經二梁宋一、晴山入二海沂一。㊁淸、何鼎(1－511··162)の字。

【晴絲】38（セイシ） 微風。〔還魂記、驚夢〕裊晴絲吹二來閒庭院一。

【晴日】39（セイジツ） はれた日。晴天。〔蘇頲、奉三和春日幸二望春宮一應制詩〕東望二望春一春可レ憐、更逢二晴日一柳含レ烟。〔高啓、雨中曉臥詩〕閒人晴日猶無事、風雨今朝正合レ眠。〔王安石、初夏卽事詩〕晴日暖風生二麥氣一、綠陰幽草勝二花時一。

【晴日射レ背】40（セイジツハイヲイル） 晴れた日の太陽が背中を烈しくてりつけること。〔齋藤竹堂、書二插秧圖後一〕晴日射レ背、汗滴二禾下一。

【晴粧】41（セイシヤウ） はればれとしたよそほひ。うるはしいよそほひ。〔陳與義、夙興詩〕西湖已無二金碧麗一、雨抹晴粧尙娛レ客。

【晴嶂】42（セイシヤウ） 晴れた山。〔韻府引、陸游、詩〕絲黛染二晴嶂一、白雲如二玉城一。

【晴春】43（セイシユン） ほがらかなはる。はれた春の日。〔鄭谷、南遊詩〕山城多二曉瘴一、澤國少二晴春一。

【晴色】44（セイシヨク） はれた日のけしき。〔蘇頲、奉レ和下九日幸二臨渭亭一登高上應制得二時字一詩〕曉光雲外洗、晴色雨餘滋。〔李商隱、殘雪詩〕旭日開二晴色一、寒空失二素塵一。

【晴霽】45（セイセイ） はれた日。晴天。〔北史、皇甫遐傳〕復於二墓南一作二一禪窟一、陰雨則穿レ窟、晴霽則營レ墓、曉夕勤力、未二嘗暫停一。

【晴照】46（セイセウ） 晴れ光る。〔隋煬帝、望二江南一詩〕水殿春寒幽冷艷、玉軒晴照暖添レ華。

【晴霄】47（セイセウ） はれたそら。〔陳慥、都梁八首詩〕平淮剪二綠野一、白塔界二晴霄一。

【晴雪】48（セイセツ） 雪のはれたこと。〔錢起、和二王員外雪晴早朝一詩〕紫微晴雪帶二恩光一、繞レ仗偏隨鴛鷺行。

【晴雪樓主人】49（セイセツロウシユジン） 菊池純の號。菊池三溪(9－31153··95)を見よ。

【晴川】50（セイセン） ㊀雨がはれた時の川。あめあがりのかはづら。〔崔顥、黃鶴樓詩〕晴川歷歷漢陽樹、芳艸萋萋鸚鵡洲。㊁樓閣の名。湖北省漢陽縣の東北大別山の東麓。明の范之箴、建つ。㊂淸、鄒士隨(11－39562··90)の號。

【晴村】51（セイソン） ㊀はれた村。〔薛能、將レ赴レ鎭過二太康縣一有レ題詩〕晴村透日桑楡影、曉露濕レ秋禾黍香。㊁字號。㋑淸、慶霖(4－11145··140)の字。㋺淸、錢界(11－40563··26)の號。

【晴旦】52（セイタン） はれたあした。〔朱德潤、偕二張淸夫一登二道場何山一詩〕明朝煙雨開二晴旦一、折レ花臨レ水春將レ半。

【晴潭】53（セイタン） はれた淵。〔齊高帝、塞客吟〕斡二晴潭一而悵泗、枻二松洲一而悼情。

【晴灘】54（セイタン） 晴れたなだ。〔許渾、送三郭秀才遊二天台一詩〕暖眠鸂鶒晴灘草、高掛獼猴暮澗松。

【晴煖】55（セイダン） はれわたつてあたたかいこと。〔李商隱、和二張秀才落花有レ感詩〕晴煖感二餘芳一、紅苞雜二絳房一。

【晴晝】56（セイチウ） はれたひる。空のよくはれた日中。〔韓愈、南山詩〕昆明大池北、去覩偶二晴晝一。〔蘇軾、栖賢三峽橋詩〕玉淵神龍近、雨雹亂二晴晝一。

【晴着】57（ハレギ） 晴の場所に着て行く衣。公の場所に著て出る衣服。〔奧の細道、白川の關〕卯の花をかざしに關の晴着かな。

【晴泥】58（セイデイ） はれた日の雪解の泥濘。〔蘇軾、雪後書二北臺壁一詩〕城頭初日始翻レ鵶、陌上晴泥已沒レ車。

【晴天】59（セイテン） はれたそら。晴空。晴虛。〔杜甫、秦州雜詩〕落日激二雙鳥一、晴天卷二片雲一。〔杜牧、茶山詩〕欲レ開未レ開花、半陰半晴天。

【晴天白日】60（セイテンハクジツ） 青天白日(12－42564··437)に同じ。㊀よくはれた日和。〔韓愈、與二崔群一書〕青天白日、奴隸亦知二其淸明一。㊁心事の明白なこと。少しもうしろぐらく憚る所のないこと。〔朱熹、答二魏元履一書〕其爲レ漢復レ讎之志、如二青天白日一、人人得而知レ之。

【晴天白日樓主人】61（セイテンハクジツロウシユジン） 蒲生重章の號。蒲生褧亭(9－31611··90)を見よ。

【晴天霹靂】62（セイテンノヘキレキ） 晴天に急に雷の起ること。轉じて、急激に起る變動、又は打擊。意外な事變の起る譬。青天霹靂(12－42564··438)に同じ。

【晴甸】63（セイデン） はれた田の面。甸は田。〔韻府引、袁桷、詩〕河流露二枯沙一、桑木接二晴甸一。

【晴曇】64（セイドン） 晴天と曇天。晴陰(4)に同じ。

【晴波】65（セイハ） ㊀晴天の波。晴れた日の波。〔楊炯、浮漚賦〕狀若下初蓮出レ浦映二晴波一而未上開、又似下繁星落レ曙映二斜漢一而將上廻。〔陸龜蒙、雙矮檜詩〕更憶早秋登二北固一、海門蒼翠出二晴波一。㊁淸、鄭澐(11－39647··16)の字。

【晴風】66（セイフウ） 晴れた日の風。〔歐陽脩、豐樂亭遊春詩〕綠樹交加山鳥啼、晴風蕩漾落花飛。

【晴芬】67（セイフン） 淸、顧皐(12－43689··32)の字。

【晴碧】68（セイヘキ） 晴れてみどり色の空。〔溫庭筠、郭處士擊レ甌歌〕晴碧煙滋重疊山、羅屛半掩桃花月。

【晴峯】69（セイホウ） ㊀はれたみね。〔殷堯藩、和三趙相公登二鶴雀樓一詩〕晴峯聳レ日當二周道一、秋穀垂レ花滿二舜田一。㊁字號。㋑淸、闞嵐(11－41456··52)の號。㋺淸、程喬采(8－25081··156)の字。

【晴明】70（セイメイ） 晴れて明かなこと。空が晴れて物の明かなこと。〔李拯、退レ朝望二終南山一詩〕唯有二終南山色在一、晴明依レ舊滿二長安一。〔白居易、渭村雨歸詩〕近レ水風景冷、晴明猶寂寥。

【晴夜】71（セイヤ） 空の晴れた夜。〔白居易、題二遺愛寺前溪松一詩〕暑天風槭槭、晴夜露淒淒。

【晴朗】72（セイラウ） はれてほがらか。天氣のはれてうららかなこと。〔世說新語、排調〕天甚晴朗、祖參軍、如下從二屋漏中一來上。

【晴嵐】73（セイラン） ㊀はれた日に蒸發する山氣をいふ。〔鄭谷、華山詩〕峭仞聳巍巍、晴嵐染二近畿一。〔宣和畫譜〕御府所レ藏、有二李成夏景晴嵐圖一。㊁淸、張若靄(4－9812··1167)の字。

【晴巒】74（セイラン） 晴れた山。晴れた峯。〔陳孚、陽羅堡歌〕津鼓急催レ渡江去、又見曉日浮二晴巒一。

【晴麗】75（セイレイ） 晴れて明か。天氣が晴れてうるはしいこと。〔周必大、次二韻沈世得撫幹川泳軒一詩〕江山倏晴麗、雲月助二色澤一。

【晴籠】76（セイロウ） はれた日のふくませかご。籠は衣に香をたきこませるためのかご。〔舒元輿、牡丹賦〕宿霧宵裛、晴籠晝薰。

【晴和】77（セイワ） はれてのどかなこと。暄和。〔白居易、新昌新居書レ事四十韻因寄二元郎中張博士一詩〕虛潤冰銷レ地、晴和日出レ天。

【晴鶴齋】78（セイカクサイ） 淸、周體觀(2－3441··770)の號。

【晴霞亭】79（セイカテイ） 山中恕之の號。山中天水(4－7869··770)を見よ。

【晴御膳】80（ハレノゴゼン） 正月の三箇日に天子の召しあがる御膳。威儀の御膳。

【晴勝負】81（ハレノシヨウブ） 晴の場所で行ふ勝負。〔井筒業平河內通、五〕御位定めのはれ勝負。

【晴場所】82（ハレノバシヨ） 多人數の集る場所。

【晴偏好】83（セイヘンカウ） 詞牌の名。〔花草粹編〕西湖雖レ有二山泉一、而大旱亦嘗龜坼。嘉熙庚子水涸、茂草生焉、祈レ雨無レ應、李霜崖戲作二晴偏好詞一紀レ之、取二詞中結句一爲二調名一。

【晴好雨奇】84 山水の景色の晴雨共によいこと。〔蘇軾、飲㆓湖上㆒初晴後雨詩〕水光瀲灩晴方好、山色空濛雨亦奇。

【晴耕雨讀】85 晴れた日は出て耕し、雨が降れば入って書を讀む。

【晴洲釣者】86 明、程信(8—25081‥76)の號。

【晴初霜旦】87 空が晴れて霜のある朝の意。晴れた寒い朝。〔水經、江水注〕毎㆑至㆓晴初霜旦㆒、林寒澗肅。

【晴】13994′ セイ　晴(5—13994)に同じ。

【睡】13995 チ　ヂ　〔玉篇〕直韋切　微

地名。〔玉篇〕睡、地名。

【睒】13996 シヤ　〔集韻〕之夜切　禡

かがやく。〔集韻〕睒、日赫。

【晵】13997 ㊀ケイ　〔集韻〕遣禮切　霽　㊁ケン　〔集韻〕輕甸切　霰

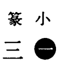
小篆

㊀はれる。日中雨があがる。〔說文〕晵、雨而晝姓也、从㆑日啓省聲。〔段注〕康禮切、按、集韻又輕甸切、語之轉也、今蘇州俗語云、晵晝不㆓是好晴㆒、正作㆓此音㆒。〔集韻〕晵、霽也。㊁或は啓(2—3820)に作る。〔廣韻〕晵、或作㆑啓。㊂姓。〔姓氏急就篇〕晵、後漢將軍晵倫。

【睫】13998 タイ　曃(5—14168)に同じ。〔集韻〕曃、或省。

【晋】13999 ア　晉(5—14107)に同じ。〔集韻〕晉、或作㆑晋。

【晶】14000 セイ　シヤウ　〔集韻〕咨盈切　庚　ㄐㄧㄥ ching¹


小篆

㊀ひかり。〔說文〕晶、精光也、从㆓三日㆒。〔晉書音義、下〕晶、光也。〔唐德宗、題㆓章敬寺㆒詩〕金風扇㆓微涼㆒、遠煙凝㆓翠晶㆒。〔喬備、出塞詩〕陰雲暮下雪、寒日晝無㆑晶。㊁あきらか。〔王維、瑤臺月賦〕遠而望也、浮㆓皎晶之精光㆒。㊂鑛石の名。水晶の略稱。〔王粲、七釋〕玉屑瓊晶。㊃精(8—26997)に通ず。〔讀書通〕晶、水精即水晶。〔正字通〕晶、精神亦作㆓晶神㆒、古通而今分也。㊄晟(5—13950)に通ず。〔集韻〕晶、說文、精光也、或作㆑晟。

名乘　アキ。アキラ。テル。

解字　會意。日を三つ重ねた字。ひかり。日の精光で、明の極である。同じ字を三つ重ねるは、その極盛をあらはす。焱・劦の類。

【晶瑩】1 さえてすきとほつてゐること。〔李之彥、硯譜〕硯圓暈相重、黃墨相間、翳精在㆑內、晶瑩可㆑愛、謂㆓之活眼㆒。〔姚希孟、日升月恆賦〕望㆓澄鮮於霄漢㆒兮、眺㆓晶瑩之未央㆒。

【晶耀】2 あきらかにひかる。〔宋之問、洞庭湖詩〕晶耀目何在、瀅瀅心欲㆑無。

【晶輝】3 ひかり。かがやく光。〔白居易、和㆓晨興㆒因報問㆓龜兒㆒詩〕冬旦寒慘澹、雲日無㆓晶輝㆒。

【晶化】4 ching¹ hua⁴　液體が結晶體になる。

【晶光】5 きらめくひかり。透明の光。光晶。〔韓愈、孟生詩〕晶光蕩相射、旗戟翩以森。

【晶晃】6 あきらかなひかり。〔蔣防、秋月懸㆓清輝㆒詩〕晶晃浮㆓輕露㆒、裴回映㆓薄帷㆒。〔鄭緡、詠㆓浮漚㆒詩〕晶晃明㆓苔砌㆒、參差繞㆓芥舟㆒。

【晶羣】7 鑛物學用語。結晶の集合して群を成したもの。晶簇。

【晶系】8 結晶の形象を其の通有の基本形式に隨つて區分した系統。結晶系。

【晶熒】9 ひかりかがやくさま。光明のさま。〔韓愈、華山女詩〕抽釵脫釧解㆓環佩㆒、堆金疊玉光晶熒。〔白居易、三游洞序〕晶熒玲瓏、象生㆓其中㆒。〔賈餗、太阿如㆓秋水㆒賦〕氣晶熒而不㆑息、質瑩徹而難㆑比。

【晶熒閃爍】10 明かにひらめき輝くこと。〔金昌協、自㆓萬瀑洞㆒至㆓摩訶衍㆒記〕晶熒閃爍、不㆑可㆓定視㆒。

【晶婚】11 西洋の風習で婚期記念の名稱。結婚十五年の記念をいふ。

【晶山】12 明、阮琳(11—41569‥47)の號。

【晶晶】13 きらめき光るさま。〔歐陽詹、秋月賦〕皎皎搖搖、晶晶盈盈。

【晶星】14 光りかがやく星。

【晶蟾】15 月をいふ。〔福惠全書、稟啓附、候㆓川撫劉〔公㆒〕九列光生、共指㆓晶蟾㆒。

【晶簇】16 雜然と集まつた鑛物結晶。晶羣。

【晶帶】17 Crystal zone　鑛物學用語。三箇以上の結晶面が一直線の方向に平行する時、これ等の結晶面を總稱して晶帶といひ、其の方向を晶帶軸といふ。同一晶帶中の各結晶面は、通稱して同晶帶面といふ。

【晶體】18 水晶體。結晶體。

【晶軸】19 結晶體の分子排列の方向假定の直線。結晶軸。

【晶盤】20 月をいふ。〔龔鼎孳、中秋得㆓南鴻詞㆒〕小字鴛鴦顚倒認、憑㆓仗晶盤㆒凝㆑碧。

【晶屛】21 玉の屛風。

【晶簾】22 玉のすだれ。水晶のすだれ。〔長生殿、製譜〕慢捲㆓晶簾㆒、散㆓朝霞㆒。〔紅樓夢、十七回〕見㆘水如㆓晶簾㆒一般奔入㆖。

【晿】14001 シヤウ　〔字彙補〕川張切　陽

人名。〔字彙補〕晿、人名、顧晿、蘇州人、見㆓馮少墟集㆒。

【炅】14002 エウ　曜(5—14227)の古字。〔集韻〕曜、古作㆑炅。

【昮】14003 シヨ　ソ　〔廣韻〕所去切　御

㊀あきらか。〔廣韻〕昮、明也。㊁あたたか。〔篇海〕昮、暖也。

【睬】14004 クワ　ワ　〔集韻〕鄔果切　哿

あきらか。〔玉篇〕睬、明也。

【晷】14005 キ　〔集韻〕矩鮪切　紙　ㄍㄨㄟ kuei³

小篆

㊀かげ。ひかげ。〔說文〕晷、日景也、从㆑日咎聲。〔段注〕此云㆓晷日景也㆒、不㆑云㆓日光㆒、析㆓言之㆒也、以㆓其陰㆒別㆓於陽㆒、即今之影字也、左傳謂㆓之蔭㆒。〔張衡、西京賦〕白日未㆑及㆑移㆑晷已。〔注〕綜曰、晷、景也。㊁はしらかげ。太陽の運行をはかるために樹てた竿が投射する陰影。〔釋名、釋天〕晷、規也、如㆓規畫㆒也。〔廣雅、釋天〕晷、柱景也。〔正字通〕晷、日景之差度也、晷者、歷數所㆓自出㆒、其法望㆓高處㆒爲㆑體、立㆓長短二竿㆒爲㆑用、二竿與㆑高齊等、度㆓三物兩間修短若干㆒、句股而求㆑之、寒暑短長、瞭然自見、云云、即考工記置㆑槷眡㆑景之法也。〔周髀算經、上〕夏至之日、晷一

尺六寸。〔注〕晷、影也。❸**日ざしをはかる柱**。今は日時計にいふ。〔玉篇〕晷、以レ表度レ日也。〔晉書、魯勝傳〕以二冬至之後一立レ晷測レ影。❹**日ざし**。日の光り。〔韓愈、進學解〕焚二膏油一以繼レ晷。❺**ひあし**。時。〔拾遺記、前漢下〕宣帝常以二季秋之月一、泛二衡蘭雲鷁之舟一、窮レ晷係レ夜、釣二于臺下一。❻**ひかり**。〔漢書、高帝紀贊〕五星同レ晷。〔注〕師古曰、晷、光景也。〔謝莊、舞馬賦〕月晷呈レ祥、乾維效レ氣。

名乘 カゲ。カズ。

【晷緯】1 キヰ 日と星。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕晷緯昭應、山瀆效レ靈。〔注〕翰曰、晷日、緯星也。〔陸倕、石闕銘〕晷緯冥合、天人啓惎。

【晷運】2 キウン 日の運行。〔謝惠連、擣衣詩〕衡紀無レ淹レ度、晷運倏如レ催。〔注〕善曰、說文曰、晷、日景也、周易曰、晷日月運行。

【晷景】3 キエイ ひかげ。日影に同じ。〔史記、天官書〕冬至短極、縣二土炭一、炭動、鹿解レ角、蘭根出、泉水躍、略以知二日至一、要二決晷景歲星所一レ在。〔漢書、天文志〕晷景者所三以知二日之南北一也。

【晷影】4 キエイ ひかげ。〔淸會典、欽天監〕凡天行晝測以晷影。

【晷曜】5 キエウ ひかげ。日のひかり。〔魏書、孝明帝紀〕推二步晷曜一、未レ盡二厥理一。

【晷儀】6 キギ 日影表。天象をゑがいて日月星辰の進行をはかる具。日時計の一種。〔漢書、律歷志、上〕議造二漢歷一、迺定二東西一、立二晷儀一、下二漏刻一、以追二二十八宿一。

【晷刻】7 キコク とき。光陰。時刻。〔梁書、賀琛傳〕每下見二高祖一與語上、常移二晷刻一。〔白居易、和二微之一詩二十三首、和レ望レ曉詩〕鷄行候二晷刻一、龍尾登二霄漢一。

【晷度】8 キド ひかげ。日かげの度數。〔後漢書、爰延傳〕意有二邪僻一、則晷度錯違。〔張華、雜詩〕晷度隨レ天運、四時互相承。〔注〕善曰、晷、景也、良曰、度、度數也。

【晷漏】9 キロウ 晷はしらかげによつて日をはかるもの。漏は水時計。日時計と水時計。轉じて、時刻をいふ。〔後漢書、律曆志中〕圖儀晷漏、與レ天相應、不レ可二復尙一。〔左思、魏都賦〕晷漏肅唱、明宵有レ程。〔注〕善曰、說文曰、晷景、故曰二晷漏一。〔舊五代史、曆志〕晷漏正、則日之所レ至、氣之所レ應、得レ之矣。

【晇】14006

キユウ ク 〔集韻〕去仲切 送

かわかす。〔集韻〕晇、日乾レ物。

【晸】14007

テイ チヤウ 〔集韻〕知領切 梗

日が出るさま。〔集韻〕晸、日出皃。

【晸甫】1 テイホ 清、邵昂霄(11－39343‥96)の號。

【晳】14008

セキ 昔(5－13816)の本字。〔正字通〕晳、昔本字。

【暘】14009

日 エキ ヤク 〔集韻〕夷益切 陌

目 セキ シヤク 〔集韻〕施隻切 陌

小篆

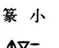
日目❶**かげる**。日が雲にかくれて、又、現はれること。〔說文〕暘、日覆レ雲暫見也、从レ日易聲。❷**ひざしがよわい**。〔廣韻〕暘、日無レ光。

參考 暘(5－14066)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕暘、音釋、日無レ光。暘、音陽、日出二暘谷一、又氣。

【智】14010

チ 〔集韻〕知義切 寘 ㄓˋ chih^4

小篆


古文

❶**ちゑ**。物事を知りわける能力。𥏼(8－24012)に同じ。〔集韻〕𥏼、說文、識詞也、一曰、知也、或作二智・知一。〔說文〕𥏼、識詞也、从二白亏知一。〔釋名、釋言語〕智、知也、無レ所レ不レ知也。〔孟子、公孫丑上〕是非之心、智之端也。〔老子、十九〕絕レ聖棄レ智。〔注〕聖智、才之善也。〔白虎通、情性〕智者、知也、獨見前聞、不レ惑二於事一、見レ微知レ著也。〔呂覽、當務〕知レ時、智也。〔韓詩外傳、七〕知レ賢、智也。〔法言、修身〕智、燭也。❷**さとい**。さかしい。かしこい。〔後漢書、桓彬傳〕夙智早成。❸**はかりごと**。たくらみ。謀略。巧術。〔淮南子、覽冥訓〕道德上通而智故消滅。〔注〕智故、巧詐也。❹**智者**。事理に通達した人。〔穀梁、僖、二〕中智以上、乃能慮レ之。❺**識る**。〔墨子、經說〕逃臣不レ智二其處一、吠狗不レ智二其名一。❻知(8－23935)に通ず。〔荀子、勸學〕則知明而行無レ過矣、注〕知、讀爲レ智。❼**姓**。〔尙友錄〕智、望出二天水一、姬姓、卽荀氏別食二知邑一、又爲二智氏一、望出二河東陳留一。

名乘 サト。トシ。トモ。ノリ。トミ。モト。

解字 會意形聲。白と亏と知との合字。知は聲を兼ねる。筋の通つた詞。白は自で鼻の象形字。鼻から口に通じて相助ける語氣。亏は氣ののびるに象つた字。知は識が敏で、口から出ること矢のやうに疾い意の字。智は知と音も義も同じであるが、智は口氣が語聲を助けた詞で、知は本原で、智は巧を加へた意がある。知は知能の知、智は智識の智。兩者會意であるが、智には作意が加はつてゐる。智・智は省略に從つた字。〔說文、智、段注〕此與二矢部知一音義皆同、故二字多通用、鍇曰、亏亦气也、按、从レ知會意、知亦聲。

【智意】1 チイ さとい心。ちゑ。〔魏志、鄧哀王沖傳〕生五六歲、智意所レ及、有レ若二成人之智一。〔蜀志、孟光傳〕今天下未レ定、智意爲レ先。

【智威】2 チヰ 唐の高僧。縉雲の蔣氏の子。徐陵の後身と傳ふ。沃洲石城寺に天台教を學び、嘗て桃巖寺碑と頭陀寺碑とを撰し、後、法眼を以て慧威に授く。時人、智威を大威、慧威を小威と稱す。〔宋高僧傳、八〕。

【智育】3 チイク 智能を啓發するために施す教育。知育。

【智一】4 チイツ 宋の高僧。錢塘の靈隱寺に居る。戒範を精守し、長嘯を善くし、聽く者悲涼し、之を哀松梵といふ。澗邊に於て一白猿を養ひ、逸去することあるも、呼べば卽ち至る、時人、白猿梵といひ、智一を猿父と稱す。後、群猿繼いで至り、衆僧の齋訖る每に飯を斂めて猿臺の所に送る。後人、名づけて飯猿臺といふ。〔宋高僧傳、二十九〕。

【智顗】5 チイン 唐の高僧。中山の人。元和中、五臺山都檢校守僧長となる。後、華嚴寺都供養主となり、大中の閒、示寂す。〔宋高僧傳、二十七〕。

【智永】6 チエイ 陳の僧。會稽の王氏の子。王羲之七世の孫。永欣寺に住す。號は永禪師。書に巧で、よく諸體を兼ね、草書尤も勝る。臨書三十年、眞草千文八百餘本を得、浙東の諸寺に各〻一本を施す、書をもとめるもの市の如く、居る所の戸限これがために穿たれ、よつて鐵葉で之を裹み、人之を鐵門限といふ。後、筆頭を取つて之を瘞め、退筆塚と號し、自ら銘誌を製す。隋の煬帝嘗て智永は右軍の肉を得、智果は右軍の骨を得といふ。〔米海嶽、書史〕。

【智永硯】7 チエイケン 古硯の一種。陳の智永の使用したもの。〔硯史〕今人有三收二得智永硯一、頭微圓、又類二箕象一、中亦成レ臼矣。

【智睿】8 チエイ 智慧。知能。知睿。〔鬼谷子、揣〕辨三地形之險易孰利孰害、謀慮孰長孰短、君臣之親疏孰賢孰否、與二賓客之智睿孰少孰多一。

【智瑤】9 チエウ 知瑤(8－23935‥18)を見よ。

【智淵】10 チエン 南齊、蕭寶源(9－32012‥505)の字。

【智緣】11 チエン 宋の僧。隋州の人。醫を能くす。

熙寧中、王韶に從つて番中に入り、諸番に歸化を勸說す。神宗乘傳を賜うて西せしめ、之を經略大師と稱す。〔新續高僧傳、六十〕。

【智圓】12チヱン　宋の僧。錢塘の徐氏の子。字は無外。號は中庸子。孤山瑪瑙院に住居、林逋と鄰友となる。著に閑居編がある。〔浙江通志〕。

〔智圓行方〕13チヱンカウハウ　智は知らない所なく、行は方正なことをいふ。智欲レ圓而行欲レ方(178)を見よ。〔淮南子、主術訓〕智圓者、無レ不レ知也、行方者、有レ不レ爲也。

【智遠】14チヱン　字號。❶南齊、樓惠明(6－15430‥92)の字。❷後魏、李遐(6－14459‥99)の字。❸北周、蕭岑(9－32012‥177)の字。

【智遐】15チカ　北周、蕭撝(9－32012‥65)の字。

【智牙】16チガ　親知らず齒。〔北史、徐之才傳〕武成生二齟牙一、問二諸醫一、尙藥典御鄧宣文以レ實對、武成怒而撻レ之、後以問二之才一、拜賀曰、此是智牙、生二智牙一者、聰明長壽。

【智愷】17チガイ　陳の高僧。俗姓は曹氏。楊都寺に住す。攝論、俱舍論及び文疏等八十三卷を譯す。〔續高僧傳〕。

【智巧】18チカウ　ちゑとたくみ。知慧と技巧。わるぢゑ。巧智。知巧。〔列子、黃帝〕是純氣之守也、非二智巧果敢之列一。〔韓非子、揚權〕聖人之道、去二智與ロ巧、智巧不レ去、難二以爲ロ常。〔史記、主父偃傳〕上三篤厚一下二智巧一。〔漢書、貢禹傳〕東西南北、各用二智巧一。〔范曄、逸民傳論〕異下夫飾二智巧一以逐二浮利一者上乎。

【智江】19チカウ　五代周の僧。幽州の單氏の子。淨名上生二典に精練す。後唐の時、宋州廣壽院に居り、顯德中、卒す。著に瑞應鈔がある。〔宋高僧傳、二十八〕。

【智行】20チカウ　❶中論の篇名。❷宋、莫表深(9－31078‥132)の字。

【智效】21チカウ　智の效果。〔莊子、逍遙遊〕夫知效二一官一、行比二一鄕一。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕徒愧二微冥一、終謝二智效一。〔王儉、褚淵碑文〕恪居二官次一、智效惟穆。

【智鑒】22チカン　さとくてよく物事をみわける力のあること。〔南史、宋高祖紀〕聰明有二智鑒一。

【智暉】23チキ　後唐の僧。咸秦の高氏の子。吟詠を善くし、畫に巧。嘗て五溪烟景圖を作る。〔宋高僧傳〕。

【智器】24チキ　智慧と器量。才器。〔王隱晉書〕華表子簡、字奉駿、有二智器文藻一、官至二中書郞一。

【智僞】25チギ　小智慧。わるぢゑ。〔文子、上禮〕各欲下行二其智僞一以容中於世上、而失二大宗之本一。

【智顗】26チギ　隋の高僧。荊州の陳氏の子。字は德安。湘州果願寺に出家し、後、天台山に入り、國淸寺に住す。陳帝に國師の禮を以て迎へられ、太極殿に入つて仁王經を講じ、煬帝最も之を禮遇して、智者大師の號を賜はる。著に法華疏・止觀門・修禪法・淨名疏・至佛道品等がある。〔續高僧傳、十七〕。

【智旭】26′チギヨク　明の高僧。字は蕅益。號は八不道人。初、儒を學び闢佛論數十篇を作る。十七歲にして蓮池大師の書を閱し、論稿を取つて焚く。徑山に入つて參禪し、晚年、靈峯に住す。著に毘尼集要等四十餘種がある。

【智局】27チキヨク　ちゑのはたらき。智力技能。〔吳志、顧雍傳評〕顧雍依二杖素業一而將二之智局一、故能究二極榮位一。〔晉書、石苞傳〕雅曠有二智局一。

【智禽】28チキン　雁の異名。〔抱朴子、詰鮑〕智禽銜レ蘆以扞レ網。〔事物異名錄、禽鳥、鴈〕智禽、按謂レ鴈也。

【智愚】29チグ　かしこいこととおろかなこと。智者と愚者。〔鬼谷子、捭闔〕夫賢不肖、智愚勇怯、仁義有レ差。〔魏收、枕中篇〕能剛能柔、重可レ負也、能信能順、險可レ走也、能智能愚、期可レ久也。〔莊子、在宥〕於レ是乎喜怒相疑、愚智相欺、善否相非、誕信相譏、而天下衰矣。

【智化】30チクワ　すぐれた智慧のはたらきあること。〔太平記、一、中宮御產御祈〕深慮智化之老臣。

【智果】31チクワ　隋の僧。會稽の人。頗る文學を愛して、書を善くし、煬帝が晉王であつた時、召して寫書させたが從はず、遂に江都に囚へられた。太子となるに及び揚越に出巡するや、智果、乃ち太子東巡頌を上つて釋され、召されて慧日道場に居る。〔續高僧傳、三十〕。

【智光】32チクワウ　〘佛〙智慧の光。智慧光明。智を以て無明の闇を破れば智光を得るからいふ。〔指月錄〕二十七祖至二南印度一、王施二無價寶珠一、王子菩提曰、此是世寶、未レ足レ爲レ上、於二諸寶中一法寶爲レ上、此是世光、未レ足レ爲レ上、於二諸光中一智光爲レ上。

〔智光居士〕33チクワウコジ　淸、杭世駿(6－14494‥23)の號。

【智君】34チクン　後魏、陸凱(11－41708‥35)の字。

【智計】35チケイ　かしこいはかりごと。〔吳志、諸葛恪傳〕雖レ有二智計之士一、未レ得二施用一。〔晉書、陶侃傳〕當下以二歲月智計一擒上レ之。

【智惠】36チケイ　チヱ　さとり。又、ちゑ。智慧。〔吳志、陸凱傳〕臣闇二於大理一、文不レ及レ義、智惠淺劣、無二復冀望一。

【智慧】37チケイ　チヱ　❶さとり。又、分別する心のはたらき。さとし。智惠。〔墨子、尙賢中〕此使下不二智慧一者治中國家上也。〔荀子、正論〕道德純備、智慧甚明。〔韓非子、解老〕疾生而智慧衰、智慧衰、則失二度量一。❷〘佛〙決斷を智といひ、簡擇を慧といふ。又、分別妄想を離れるはたらき。〔大乘義章、九〕照見名レ智、解了稱レ慧、此二各別、知二世諦一者、名レ之爲レ智、照二第一義一者、說以爲レ慧、通則義齊。❸エチ　唐の高僧。北天竺の人。梵名は般剌若。姓は憍答摩氏。大乘に通じ、建中の初、經を持つて中國に來る。譯に大乘理趣六波羅密多經・華嚴長者問佛那羅延力經・般若心經がある。〔宋高僧傳、二〕。

【智慧海】38チヱノウミ　〘佛〙如來の智慧の深廣なこと。〔無量壽經、下〕如來智慧海、深廣無二涯底一。

【智慧光】39チヱクワウ　〘佛〙阿彌陀佛十二光の一。佛の無礙の善根より生じ、一切衆生の無明の闇を照破するもの。〔讚阿彌陀佛偈〕佛光能破二無明闇一、故佛又號二智慧光一。

【智慧劍】40チヱノケン　銳利で決斷ある智力を劍に喩へていふ。〔維摩經、菩薩行品〕以二智慧劍一、破二煩惱賊一。

【智慧粥】41チヱガユ　日蓮宗の信徒が法華經全部を習得した時、祝ひに煮る赤小豆粥。〔草山集、十九〕凡、我俗終二法華全部一日、必煮二赤豆粥一祝レ之、名曰二智慧粥一。

〔智慧袋〕42チヱブクロ　❶智慧のすべての量。あらん限りの知慧。〔艶狩劍本地〕わし一代の知慧袋。❷知慧に富める人。物しり。智慧者。

〔智慧板〕43チヱバン　玩具の名。七巧板(1－6‥40)を見よ。

〔智慧出有二大僞一〕44チヱイデテタイギアリ　智慧のすすまない中は僞もないけれど智慧が出てくると大きな僞を行ふやうになる。〔老子、十八〕大道廢有二仁義一、智慧出有二大僞一。

〔雖レ有二智慧一不レ如レ乘レ勢〕45チヱアリトイヘドモイキホヒニジヨウズルニシカズ　智慧のある人も時勢に伴つて事をしなければ功を成すことができないのをいふ。〔孟子、公孫丑上〕齊人有レ言、曰、雖レ有二智慧一不レ如レ乘レ勢、雖レ有二鎡基一、不レ如レ待レ時。

【智瓊】46チケイ　仙女の名。〔搜神記、一〕魏濟北郡從事掾弦超、字義起、以二嘉平中夜一獨宿、夢有二神女一來從レ之、自稱、天上玉女、東郡人、姓成公、字智瓊、早失二父母一、天帝哀二其孤苦一、遣令二下嫁從レ夫、超當二其夢一也、精爽感悟、嘉二其美異非二常人之容一、覺寤欽想、若レ存若レ亡、如レ此三四夕、一旦顯然來遊、云云、遂爲二夫婦一。

【智譎】47チケツ　かしこくてたくらみあること。〔唐書、朱克融傳〕父泂號レ有二智譎一。

【智見】48チケン　〘佛〙ちゑ。又、さとり。智慧と見識と。「知見」。

【智劍】49チケン　〘佛〙智慧劍の略。淸淨の智慧の煩惱の絆を斷つ能力を劍に喩へた語。〔最勝王經、二〕生死羂網堅牢縛、願以二智劍一爲二斷除一。

【智賢】50チケン　晉の女僧。常山の趙氏の女。雅操あり。太守杜霸其の美を見、之を得ようとしたが屈せず、後、司州の西寺に住す。〔比丘尼傳〕。

【智騫】51チケン　隋の高僧。江表の人。字源に精しく、慧日道場に住す。著に衆經音・蒼雅字苑がある。〔續高僧傳、三十〕。

【智炫】52チゲン　隋の僧。益州の徐氏の子。學を以て名を京洛に擅にし、北周の武帝佛道を廢せんとした際、智炫抗辯し、武帝屈する能はず、隋に入つて、孝愛寺に住し、卒年百有二歲。〔續高僧傳、二十三〕。

【智源】53チゲン　宋の僧。遂寧の人。字は子豐。法を牛頭山に傳ふ。

【智眼】54チゲン ［佛］智をいふ。智はよく事物を見究めるから眼といふ。卽ち肉眼でないはたらき。〔成實論、十九〕智慧現在前猶二明眼見レ色。〔唐華嚴經、六十一〕善知識者、則是趣二向一切一智眼。

【智舷】55チゲン 明の僧。嘉興の人。字は葦如。號は秋潭。秀水金明寺に住す。行草書を善くし、詩に巧。自ら黃葉老人（黃葉頭陀）と稱す。著に黃葉菴集がある。

【智儼】56チゲン ❶隋唐の高僧。姓は陳氏。華嚴宗の第二祖となる。❷宋の僧。華亭の境の靜安寺に居る。嘗て蝦を食ひ、後、之を吐くに、蝦皆活く、故に、靜安寺を蝦子道場といふ。〔新續高僧傳、三十六〕。

【智故】57チコ 心のはたらき。才智。智巧。〔韓非子、解老〕諸夫飾二智故一、以至二於傷レ國者、其私家必富。〔淮南子、原道訓〕夫鏡水之與レ形接也、不レ設二智故一、而方圓曲直弗レ能レ逃也。〔蜀志、郤正傳〕智故萌生。

【智骨】58チコツ トに用ひる龜の甲をいふ。〔晉書、郭璞傳〕阮公昏酣而賣傲、翟叟遯形以倏忽、吾不レ能三幾韻二於數賢一、故寂然玩三此員策與二智骨一。

【智嚴】59チゴン 唐の高僧。姓は尉遲氏。名は樂。本と于闐國の質子。官は左領軍衞大將軍上柱國。爵は金滿郡公。神龍中、官を捨てて入道し、後、至相寺に住居す。譯に生無邊法門陀羅尼經がある。〔宋高僧傳、三〕。

【智哉】60チナルカナ 人の智識を感嘆していふ。〔宋書、樂志三、善哉行、武帝詞〕智哉山甫、相二彼宣王一、何用二杜伯一、累二我聖賢一。

【智藏】61チザウ ❶賢人が隱遁すること。智藏瘝在を見よ。❷梁の高僧。吳郡の顧氏の子。本名は淨藏。鍾山開善寺に住し、武帝之を敬重す。普通中、示寂す。著に涅槃・般若・法華・十地等の義疏がある。〔續高僧傳、五〕。❸唐の僧。虔州の廖氏の子。諡は大覺禪師。馬祖に師事す。❹唐の高僧。西印度の種族。世〻盧陵に居る。姓は皮氏。著に華嚴經妙義がある。❺淸の僧。安福の人。字は竺堂。盧陵の崇恩寺を重修す。著に崇恩志略がある。❻南齊の東昏侯、蕭寶卷(**9−32012**・・503)の字。

〔智藏瘝在〕62チザウクワンザイ 賢人は隱遁し、暴逆の臣が位にあるをいふ。良臣のない喩。〔書、召誥〕厥終智藏瘝在。〔傳〕賢智隱藏、瘝病者在レ位、言レ無二良臣一。〔疏〕鄭王皆以レ瘝爲レ病、小人在レ位、殘二暴在下一、故以レ病言レ之。

【智算】63チサン ちゑあるはかりごと。智謀。智計。智數。〔後漢書、荀彧傳論〕中賢以下、道無レ求備、智算有レ所二研疎一。〔晉書、賈模傳〕深沈有二智算一。

【智山】64チザン ［佛］智の高いことを山に譬へた語。〔唐華嚴經、二十二〕智山法華、悉已淸淨。

【智士】65チシ 智謀に富む人。智慧あるの士。智者。〔戰國、燕策〕然則王何不下務使中智士以二若レ此言一說上秦。〔六韜、武韜、文伐〕陰納二智士一、使レ圖二其計一。〔管子、法法〕既不レ知レ古而易二其功一者、無二智士一焉。〔新書、過秦下〕是以三主失レ道、而忠臣不レ諫、智士不レ謀也。〔孔子家語、五儀解〕夫智士仁人、將レ身有レ節、動靜以レ義、喜怒以レ時。

【智思】66チシ 智慧。〔後漢書、張衡傳論〕故智思引二淵微一、人之上術。

【智齒】67チシ 齒の一。最も奧にある臼齒で智識の發達する年頃になつて生えるもの。おやしらずば。

【智周】68チシウ 字號。❶唐、林傑(**6−14551**・・93)の字。❷宋、安俊(**3−7072**・・224)の字。❸宋、李防(**6−14459**・・661)の字。❹淸、陳浩(嘉定の人)(**11−41698**・・74)の字。

【智識】69チシキ 知識。❶考へ知るはたらき。ちゑ。智慧と見識。智力。〔韓非子、解老〕故視強則目不レ明、聽甚則耳不レ聰、思慮過レ度則智識亂。〔韓愈、答二陳商一書〕淺弊無二過レ人智識一。〔宋史、李庭芝傳〕少穎異、日能誦二數千言一、而智識恒出二長老之上一。❷朋友の異稱。知人。〔續日本紀、十七〕廣及二法界一、爲二朕智識一。❸［佛］佛道を悟つた名僧。善智識。〔法華文句、四〕聞レ名爲レ知、見レ形爲レ識、是人益二我菩提之道一、名二善知識一。

〔智識闇昧〕70チシキアンマイ 智識がくらいこと。〔中村栗園、練二心膽一論〕智識闇昧、骨力柔軟。

【智舍】71チシヤ 智のやどるところ。心をいふ。〔管子、心術上〕心也者智之舍也。

【智者】72チシヤ 智慧のある人。賢人。知者。〔孟子、梁惠王下〕惟智者爲二能以レ小事一レ大。〔管子、乘馬〕智者知レ之、愚者不レ知。〔鬼谷子、權篇〕是故智者不レ用二其所レ短、而用二愚人之所レ長。

〔智者一失〕73チシヤノイツシツ 智者も時には過失あること。智者千慮必有二一失一(79)を見よ。

〔智者大師〕74チシヤダイシ 天台大師の別號。智顗(26)を見よ。〔智者大師別傳〕・〔續高僧傳、十七〕。

〔智者見二未萌一〕75チシヤハミバウニミル 智者は事の未だ發しない以前にそれを察するをいふ。〔戰國、趙策〕愚者闇二於成事一、智者見二於未萌一。〔史記、司馬相如傳〕明者遠見二於未萌一、而智者避二危於無形一、禍固多藏二于隱微一、而發二于人之所一レ忽也。

〔智者觀二未形一〕76チシヤハミケイニミル 智者は事の未だ起らないうちにそれを察する。智者見二未萌一に同じ。〔史記、趙世家〕愚者闇二世事一、智者觀二未形一。

〔智者不レ失レ時〕77チシヤハトキヲウシナハズ 智慧ある者は好い時期を失はない。〔孔子家語、屈節解〕智者不レ失レ時、義者不レ絕レ世。

〔智者作レ法而愚者制〕78チシヤハノリヲツクリグシヤハセイセラル 天下の事は智者が法を作り、愚者は此の法で制せられる。〔商子、更法〕智者作レ法、愚者制焉、賢者更レ禮、而不肖者拘焉。〔戰國、趙策〕智者作レ教、而愚者制焉、賢者議レ俗、不肖者拘焉。

〔智者千慮必有二一失一〕79チシヤモセンリヨニカナラズイツシツアリ 智慧のある人でも多くの考へのうちには一つ位の失敗はある。〔史記、淮陰侯傳〕廣武君曰、臣聞、智者千慮、必有二一失一、愚者千慮、必有二一得一。

〔雖レ有二智者一不レ能レ善二其後一〕80チシヤアリトイヘドモソノノチヲヨクスルアタハズ 前計に失敗があるときは、後に智者が出ても後患を防ぐことができない。〔孫子、作戰〕夫鈍レ兵挫レ銳、屈レ力殫レ貨、則諸侯乘二其弊一而起、雖レ有二智者一不レ能レ善二其後一矣。

【智正】81チシヤウ 唐の僧。定州の白氏の子。終南山至相寺に住す。著に華嚴疏・律義疏・羯磨疏・菩薩戒疏がある。〔續高僧傳、十四〕。

【智相】82チシヤウ 梁、蕭方諸(**9−32012**・・496)の字。

【智將】83チシヤウ 智謀のすぐれた大將。〔吳子、論將〕如レ此將者、名爲二智將一、勿二與戰一也。〔心書、一〕奇變莫レ測、動應多レ端、轉レ禍爲レ福、臨レ危制レ勝、此謂二之智將一。〔東軒雜錄〕魏公曰、智將不レ如二福將一。

【智常】84チジヤウ 唐の高僧。元和中、廬山歸宗寺に住す。白居易が江州司馬に貶せられるや、智常を重んじ、刺史李渤と往いて之を訪ふ。諡は至眞禪師。〔宋高僧傳、十七〕・〔琅琊代醉編、三十一〕。

【智積】85チシヤク ［佛］❶大通智勝佛の時、出家した十六王子の第一の名。〔法華經、化城喩品〕其佛未二出家一時、有二十六王子一、其第一曰二智積一。❷多寶如來に從ふ菩薩の名。〔法華經、提婆品〕於レ時下方多寶世尊所レ從菩薩、名曰二智積一、啓二多寶佛一、當レ還二本土一、釋迦牟尼佛告二智積一曰、善男子且待二須臾一、此有二菩薩一名二文殊師利一、可二與相見一、論說妙法、可レ還二本土一。❸東晉の僧。印度より來り初めて伽藍を立つ。〔中吳紀聞〕靈巖寺乃智積開山之地、智積當二東晉末一、自二西土一來、刱二立伽藍一、泗洲僧伽至二無錫一、聞二智積在一レ蘇卽回曰、彼處已有レ人矣、由レ是名遂顯、有二貧嫗一持二角黍一爲レ獻、智積受レ之、嫗因得レ度、至レ今上巳日號二智積生日一、聚二數百嫗一爲二角黍會一。

【智首】86チシユ 唐の高僧。安定の皇甫氏の子。貞觀中、宏福寺に居り、上座となる。著に五部區分鈔がある。〔續高僧傳、二十二〕。

【智珠】87チシユ ❶本性のさとい喩。〔張祜、題二贈レ志凝上人一詩〕願爲二塵外契一、一就二智珠明一。❷淸、畢慧(**7−21829**・・21)の字。

【智術】88チジユツ ちゑの深いはかりごと。〔戰國、魏策〕如レ是其明耶、而羣臣之智術也、如レ是其同耶。〔韓非子、孤憤〕智術之士、必遠見而明察、不二明察一、不レ能レ燭レ私。〔蜀志、諸葛亮傳〕欲レ信二大義于天下一、而智術淺短。

【智舜】89チシユン 隋の高僧。趙州の孟氏の子。雲門の僧稠の弟子。後、贊皇山に入る。〔續高僧傳、十七〕。

【智初】90チシヨ 後漢、陸續(**11−41708**・・184)の字。

【智杵】91チシヨ 金剛杵の異名。〔性靈集〕實相智杵、摧二破邪山一。

【智昇】92チシヨウ 唐の高僧。長安西崇福寺に住し、

毘尼宗に通ず。著に開元釋教錄がある。〔宋高僧傳、五〕。

【智燭】93チショク　物事を明かに知る力。智力。智は人生をてらす燭であるからいふ。〔法言、脩身〕仁、宅也、義、路也、禮、服也、智、燭也、信、符也。〔注〕智如二燈燭一可二以照察一。〔參同契〕昏衢之智燭。

【智臣】94チシン　智慧のある臣。智謀のすぐれた臣。〔說苑、臣術〕明二察幽見成敗一、早防而救レ之、引而復レ之、塞二其閒一、絕二其源一、轉レ禍以爲レ福、使二君終以無レ憂、如レ此者智臣也。

【智深】95チシン　南齊、蕭寶玄(9－32012‥504)の字。

【智進】96チシン　梁、蕭推(9－32012‥183)の字。

【智仁】97チジン　五代吳越、錢弘儇(11－40563‥311)の字。

〖智仁堂〗98チジンダウ　宋、熊節(7－19294‥76)の室名。

【智刃】99チジン　智慧のはたらき。智力をやいばに喩へていふ語。〔王巾、頭陀寺碑文〕智刃所レ遊、日新月故。〔獨孤及、送二賀若員外歸朝一序〕電二發神機一、霜二淬智刃一。

【智水】100チスイ　佛智識の明かなこと。水の清澄な喻。〔大日經疏、八〕以三本性清淨智慧慈悲水具含二萬德一、而灌二其心一。

【智崇】101チスウ　宋、謝襲(10－35827‥99)の字。

【智數】102チスウ　智慧があつて謀に長ず。智術。智謀。〔後漢書、臧洪傳〕臧洪海內奇士、才略智數、不レ比二於超一矣。〔魏志、文德郭后傳〕后有二智數一、時時有レ所二獻納一。〔慮思道、後周興亡論〕周太祖文皇帝、幼而機警、智數過レ人。〔舊五代史、唐段凝傳〕少穎悟、多二智數一。

【智靖】103チセイ　南齊、蕭寶嵩(9－32012‥507)の字。

【智昭】104チセウ　南齊、和帝の字。蕭寶融(9－32012‥509)を見よ。

【智宣】105チセン　南齊、蕭寶攸(9－32012‥500)の字。

【智瑄】106チセン　明の高僧。俗姓は范。字は寶峯。金陵の高峯寺に住す。

【智僊】106′チセン　宋の僧。臨濟宗八世の宗師。〔歐陽脩、醉翁亭記〕作レ亭者誰、山之僧智僊也。

【智叟】107チソウ　智慧ある老人。愚公(4－10946‥42)の對。〔列子、湯問〕河曲智叟笑而止レ之曰、甚矣、汝之不惠。

【智態】108チタイ　智慧の狀態。〔列子、天瑞〕貌色智態、亡二日不一レ異。

【智達】109チタツ　才智があつて物の道理に明かなこと。〔後漢書、袁譚傳〕是以智達之士、莫レ不二痛レ心入一レ骨、傷二時人不一レ能二相忍一也。〔吳志、孫霸傳〕智達英茂。

【智脫】110チダツ　隋の高僧。考城の蔡氏の子。煬帝の時、惠日道場に住す。著に釋二乘名教・淨名疏がある。〔續高僧傳〕。

【智治】111チチ　清、孫士毅(3－6987‥406)の字。

【智杖】112チヂヤウ　佛錫杖をいふ。〔正字通〕錫、梵言二隙棄羅一、此云二錫杖一、錫杖經名二德杖一、又名二智杖一。

【智蟲】113チチユウ　龍の異名。〔事物異名錄、水族、龍〕左傳、蟲莫レ智二於龍一、故龍爲二智蟲一。

【智通】114チツウ　❶智識が通達する。智達。〔呂覽、審分〕夫說以二智通一、而實以二過悗一。❷唐の高僧。安邑の趙氏の子。貞觀中、翻經館に入り、梵僧と千臂千眼經を對譯す。譯は千轉陀羅尼觀世音菩薩呪・觀自在菩薩隨心呪・清淨觀世音菩薩陀羅尼等の經。〔續高僧傳、十八〕。❸梁、蕭機(9－32012‥67)の字。

〖智通禪師〗115チツウゼンジ　唐、慧寂(4－11116‥47)の謚。

【智亭】116チテイ　清、塔齊布(3－5332‥39)の字。

【智鳥】117チドリ　千鳥。〔和漢三才圖會、水禽類、鵆〕千鳥、萬葉集爲二乳鳥一、又爲二智鳥一。

【智調】118チテウ　才氣。〔蜀志、孟光傳〕吾今所レ問、欲レ知二其權略智調何如一也。

【智度】119チド　佛六度の一。實智を修習する行法で、般若波羅蜜をいふ。般若を智と譯し、波羅蜜を度と譯す。〔維摩經、佛國品〕善二於智度一、通二達方便一。

〖智度論〗120チドロン　佛書の名。百卷。龍樹菩薩撰。秦の羅什譯、大品般若經を釋す。大智度論。

【智得】121チトク　智慧によつて得る。〔列子、力命〕汝之達非二智得一也、北宮子之窮非二愚失一也、皆天也非レ人也。

【智德】122チトク　❶智と德。〔源平盛衰記、三十九、重衡請二法然房一〕道俗緇素、智德の秀でたる事を仰ぎければ。❷佛三德の一。一切法を照了し給へる如來の智德。般若德。❸唐、尙可孤(4－7493‥168)の名。

【智囊】123チナウ　❶ちゑぶくろ。ちゑの多い人をいふ。〔史記、樗里子傳〕樗里子、名疾、秦惠王之弟也、滑稽多智、秦人號曰二智囊一。〔史記、鼂錯傳〕詔以爲二太子舍人・門大夫・家令一、以二其辯一得二幸太子一、太子家號曰二智囊一。〔漢書、鼂錯傳〕太子家號曰二智囊一。〔注〕師古曰、言、其一身所レ有皆是智算、若二囊橐之盛一レ物也。〔後漢書、魯恭傳〕祖父匡、王莽時爲二義和一、有二權數一、號曰二智囊一。〔論衡、驗符〕賈誼智囊之臣。〔羣書札記〕干寶晉書、桓範出赴レ爽、宣王謂二蔣濟一曰、智囊往矣。〔大唐新語〕王德儉、許敬宗之甥也、癭而多レ智、時人號曰二智囊一。❷書名。二十八卷。明、馮夢龍撰。古來の賢人名士の智術計謀に涉るものを網羅輯錄し、上智・明智・察智・膽智・術智・捷智・語智・兵智・閨智・雜智の十項に分ち、閒〻評語を係く。〔四庫提要、子、雜家類存目〕。

【智能】124チノウ　ちゑのはたらき。智識能力。〔戰國、秦策〕竭二智能一、示二情素一、蒙二怨咎一、欺二舊交一。〔管子、明法解〕言二智能一者、必有レ見レ功而後舉レ之。〔史記、馮唐傳〕得レ盡二其智能一。

〖智能權〗125チノウケン　智識能力等を保護して他人に侵させない權利。著作・意匠等に關するもの。

〖智能犯〗126チノウハン　主として知能に本づいて爲される犯罪の概稱。詐欺・橫領・瀆職・僞造の類。

〖智能檢查〗127チノウケンサ　知的機能の檢查。一般と特殊の二檢查法がある。

【智防】128チバウ　さとくて能く退くべきときに退くをいふ。〔魏志、荀攸傳〕荀攸深密有二智防一、自レ從二太祖征伐一、常謀二謨帷幄一。〔吳志、張溫傳評〕溫才藻俊茂、而智防未レ備、用致二艱患一。

【智伯】129チハク　後漢、鄧彪(11－39630‥97)の字。

【智法】130チハフ　智術と法律と。又、はかりごとにたくみで法律を適切に用ひうること。〔韓非子、孤憤〕能法之士勁直、聽用、且矯二重人之姦行一、故智術能法之士用、則貴重之臣、必在二繩之外一矣、是智法之士、與二當塗之人一、不レ可二兩存一之仇也。

【智鄙】131チヒ　智と愚。〔列子、黃帝〕其俠客以二智鄙一相攻。

【智敏】132チビン　謚號。❶金、斜卯阿里(5－13509‥69)の謚。❷元、孟速思(3－6960‥323)の謚。

【智夫】133チフ　宋、吳擇仁(2－3365‥763)の字。

【智武】134チブ　陳、樊猛(6－15414‥68)の字。

【智文】135チブン　陳の僧。丹陽の陶氏の子。律學を專攻し揚都奉誠寺に住す。著に律義疏・羯磨疏・菩薩戒疏等がある。〔續高僧傳〕。

〖智文之輿〗136チブンノヨ　智は德を載せ行ふものである。〔國語、周語下〕智、文之輿也、勇、文之帥也。

【智辯】137チベン　才智と辯舌。又、賢い口まへ。知辯。〔韓非子、說難〕大意無レ所二拂忤一、辭言無レ所二繫縻一、然後極騁二智辯一焉。

【智甫】138チホ　宋、李謜(6－14459‥292)の字。

【智謀】139チボウ　智慧のある謀。たくみなはかりごと。〔列子、天瑞〕矜二巧能一修二名譽一、誇二張於世一而不レ知レ己者、亦何人哉、世必以爲二智謀之士一。〔管子、霸言〕德義勝レ之、智謀勝レ之。〔史記、廉頗傳〕臣竊以爲三其人勇士有二智謀一、宜レ可レ使。〔漢書、元后傳〕忠信質直、智謀有レ餘。

〖智謀淺短〗140チボウセンタン　智謀の淺いこと。〔漢書、孔光傳〕臣光智謀淺短、犬馬齒截、誠恐一旦顚仆、無二以報稱一。

〖智謀之士所レ見略同〗141チボウノシミルトコロホボオナジ　智慧の深い人の考は大抵一致してゐる。智慧思慮のある人は自ら見る所ほぼ相同じ。互に先見の明あるをいふ。〔蜀志、龐統傳注〕江表傳曰、先主與レ統從容宴語、問曰、卿爲二周公瑾功曹一、孤到レ吳、聞此人密有レ白レ事、勸二仲謀一相留、有レ之乎、云云、統對曰、有レ之、備歎息曰、云云、天下智謀之士、所レ見略同耳、時孔明諫レ孤莫レ行、其意獨篤、亦慮レ此也。

【智命】142チミヤウ　唐の高僧。榮陽の鄭氏の子。俗名

は頗。初、隋の羽騎郎。皇泰の初、官は御史大夫。亂世を憤つて出家す。〔續高僧傳、二十七〕。

【智名】143 チメイ　智慧があるといふ評判。〔孫子、軍形〕故善戰者之勝也、無二智名一無二勇功一。

【智名勇功】144 チメイユウコウ　智慧があるといふ評判と勇しい手柄。〔史記、太史公自序〕子房計二謀其事一、無二知名一、無二勇功一、作二留侯世家一。〔晉書、杜預傳〕南土歌レ之曰、後世無レ叛由二杜翁一、孰識三智名與二勇功一。

【智明】145 chih⁴ ming²　賢明な。智識ある。

【智妙】146 チメウ　佛實相の境地を證する智の微妙不可思議なことをいふ。法華迹門十妙の一。〔法華經、方便品〕我所レ得智慧、微妙最第一。

【智鑰】147 チヤク　智慧をいふ。鑰は錠前。智慧は萬事を知るかぎの如きものだからいふ。〔海錄碎事、道釋、經〕名相關鑰、非二智鑰一不レ能レ開。

【智勇】148 チユウ　❶智識と勇氣。智謀と武勇。〔列子、仲尼〕孔子曰、三王善任二智勇一者。〔後漢書、朱祐等傳論〕感二會風雲一、奮二其智勇一。〔吳志、朱桓傳〕今人既非二智勇一、加其士卒甚怯。〔李白、經二下邳圯橋一懷二張子房一詩〕潛匿遊二下邳一、豈曰レ非二智勇一。❷南齊、蕭寶義(**9－32012**‥502)の字。

【智勇兼】149 チユウカヌ　智謀と勇氣をあはせかねる。〔史記、藺相如傳贊〕其處二智勇一、可レ謂レ兼レ之矣。

【智勇兼備】150 チユウケンビ　智慧と勇氣とを兼ねそなへる。智勇兼に同じ。

【智融】151 チユウ　宋の僧。俗姓は邢。名は沚。號は草菴。自ら老牛と號す。世　京師に居り、醫を以て仕ふ。南渡の後、官を棄て、靈隱寺に祝髮す。畫に巧。〔新續高僧傳、六十一〕。

【智用】152 チヨウ　明、項伯藏(**12－43343**‥83)の字。

【智容】153 チヨウ　南齊の高帝の后、劉后(**2－2224**‥276)の名。

【智利】154 チリ　南亞米利加洲にある國名。Chili

【智亮】155 チリヤウ　後魏、蕭寶夤(**9－32012**‥501)の字。

【智量】156 チリヤウ　智識と度量。

【智略】157 チリヤク　ちゑとはかりごと。すぐれたはかりごと。才智計謀。〔六韜、文韜、上賢〕無二智略權謀一、而重二賞尊三爵之一。〔史記、魏彭傳贊〕魏豹彭越、雖二故賤一、云云、智略絕レ人、獨患レ無レ身耳。〔漢書、楚元王劉德傳〕修二黃老術一、有二智略一。〔鹽鐵論、相刺〕智略能明二先王之術一。

【智慮】158 チリヨ　智慧のあるかんがへ。かしこい思慮。知慮。〔荀子、榮辱〕德行致レ厚、智慮致レ明。〔戰國、趙策〕故寡人以二子之智慮一、爲下辨足二以道レ人、危足二以持レ難、忠可二以寫レ意、信可中以遠上期。〔呂覽、下賢〕鵠乎、其羞レ用二智慮一也。〔韓非子、難三〕不レ任二典成之吏一、不レ察二參伍之政一、不レ明二度量一、恃下盡二聰明一、勞二智慮一、而以知上姦、不二亦無術一乎。

【智稜】159 チリヨウ　隋、麥孟才(**12－47717**‥112)の字。

【智力】160 チリヨク　❶ちゑのはたらき。智と力。才智勇力。〔韓非子、姦劫弑臣〕國有二擅レ主之臣一、則羣下不レ得下盡二其智力一以陳中其忠上、百官之吏、不レ得三奉レ法以致二其功一矣。〔管子、形勢解〕能自去、而因二天下智力一起則身逸而福多。〔魏志、武帝紀〕吾任二天下之智力一、以レ道御レ之、無レ所二不可一。❷知ることと力めること。〔列子、天瑞〕故生レ物者不レ生、化レ物者不レ化、自生自化、自形自色、自智自力、自消自息、謂二之生化形色智力消息一者非也。

【智烈】161 チレツ　❶陳、樊毅(**6－15414**‥16)の字。❷金、完顏杲(**3－7079**‥19)の諡。

【智廉】162 チレン　智識と廉恥。〔韓非子、安危〕安則智廉生、危則爭鄙起。

【鬭レ智】163 チヲタタカハス　智慧くらべをする。鬭レ智鬭レ力を見よ。

【鬭レ智鬭レ力】164 チヲタタカハシチカラヲタタカハス　智慧くらべ力くらべをすること。〔史記、項羽紀〕漢王笑謝二項王一曰、吾寧鬭レ智、不レ鬭レ力。

【智貴レ卒】165 チハソツヲタツトブ　智謀は急疾を貴ぶ。〔呂覽、貴卒〕力貴レ突智貴レ卒。

【智之端】166 チノタン　智のいとぐち。又、智の本。四端(**3－4682**‥563)を見よ。〔孟子、公孫丑上〕是非之心、智之端也。

【智證王】167 チシヨウワウ　新羅、第二十二代の王。金智大路(**11－40152**‥1433)を見よ。

【智仁勇】168 チジンユウ　智と仁と勇の三德。知仁勇。〔史記、公孫弘傳〕智仁勇此三者、天下之通德。〔中庸〕知仁勇三者、天下之達德也。

【智無雙】169 チムサウ　智慧のならぶものがない。〔海錄碎事、人事、智〕華陽國志曰、任文公聞二武擔石折一曰、噫、方智者死、吾其應レ之、遂卒、益部爲レ之謠曰、任文公、智無雙。

【智覺禪師】170 チカクゼンジ　宋、延壽(**4－9569**‥107)の號。

【智貴レ免レ禍】171 チハワザハヒヲマヌカルヲタツトブ　智の貴ぶべきは禍を免れるにある。〔蜀志、劉封傳〕夫智貴レ免レ禍、明尚二夙達一。

【智過二萬人一】172 チマンニンニスグ　ちゑの非凡なるをいふ。〔淮南子、泰族訓〕智過二萬人一者謂二之英一、千人者謂二之俊一、百人者謂二之豪一、十人者謂二之傑一。

【智足レ飾レ非】173 チハヒヲカザルニタル　奸智は己の惡を飾つて善に見せることが出來る。〔說苑、臣術〕智足二以飾レ非、辯足二以行レ說。〔史記、殷紀〕知足二以距レ諫、言足二以飾レ非。

【智可二與徵レ謀】174 チハモツテハカリゴトヲチヨウスベシ　智慧は謀を立てるに足る。〔孔叢子、陳士義〕智可二與徵レ謀、仁可二與託レ孤、廉可二以寄レ財者、其郈成子之謂乎。

【智小而謀大】175 チセウニシテハカリゴトダイナリ　智慧が餘り無くて大事を謀る。仕事が大きくて力に應じない喩。〔易、繫辭下〕德薄而位尊、知小而謀大、力小而任重、云云、言不レ勝二其任一也。

【使レ智不レ使レ力】176 チヲツカヒテチカラヲツカハズ　智慧をつかつて力をつかはない。〔通俗編、行事、使レ智不レ使レ力〕梁書孫謙傳、高祖曰、朕使二卿智一、不レ使二卿力一。

【智莫レ大二於闕レ疑】177 チハウタガヒヲカクヨリダイナルハナシ　疑はしいことを妄りに臆斷しないのを大知とする。〔說苑、談叢〕智莫レ大二於闕レ疑、行莫レ大二於無レ悔。〔論語、爲政〕子曰、多聞闕レ疑、愼言二其餘一則寡レ尤。

【智欲レ圓而行欲レ方】178 チハヱンナランコトヲホツシオコナヒハハウナランコトヲホツス　智は圓轉活脫で萬事に應ずることを欲し、行は方正嚴格で禮に合はんことを欲す。〔淮南子、主術訓〕凡人之論、心欲レ小而志欲レ大、智欲レ圓而行欲レ方、智欲レ圓者、環復轉運、終始無レ端、旁流四達、淵泉而不レ竭、萬物並興、莫レ不二響應一也、行欲レ方者、直立而不レ撓、素白而不レ汙、窮不レ易レ操、通不レ肆レ志。〔太平廣記、醫一〕唐孫思邈謂二盧照鄰一曰、膽欲レ大、而心欲レ小、智欲レ圓、而行欲レ方、照鄰曰、何謂也、曰、心爲二五臟之君一、君以二恭順一爲レ主、故欲レ小、膽爲二五臟之將一、將以二果決一爲レ務、故欲レ大、智者動象レ天、故欲レ圓、仁者靜、象レ地、故欲レ方。

【智料二隱慝一者有レ殃】179 チイントクヲハカルモノハワザハヒアリ　事の隱慝をはかるほどのわる智慧のある者は禍を受けることをいふ。〔列子、說符〕周諺有レ言、察見二淵魚一者不祥、智料二隱慝一者有レ殃。

【挾レ智而問則不智者至】180 チヲハサンデトヘバスナハチフチノモノイタル　知りながらも知らぬ眞似して問ひただせば未だ知らないことも知ることが出來る。〔韓非子、內儲說上〕挾レ智而問、則不智者至。

【智如レ目也能見二百步之外一而不レ能三自見二其睫一】181 チハメノゴトシヨクヒヤクポノソトヲミルモミヅカラソノマツゲヲミルアタハズ　人の智慧は恰も目のやうなもので、能く遠い百步の外を見るも自ら其の睫を見ることができない。〔韓非子、喩老〕杜子曰、臣愚患二智之如レ目也、能見二百步之外一、而不レ能三自見二其睫一、王之兵自敗二於秦晉一、喪レ地數百里、此兵之弱也、莊蹻爲二盜於境內一、而吏不レ能レ禁、此政之亂也、王之弱亂、非二越之下一也、欲レ伐レ越、此智之如レ目也。

【⿰日侖】14011　コン　〔篇海〕古鈍切　願

日のひかり。〔篇海〕⿰日侖、日光也。

【⿰日制】14012　セイ　〔集韻〕征例切　霽

あきらか。晣(**5－13954**)に同じ。〔集韻〕晣、明也、或从レ制。〔後漢書、張衡傳〕雖二司命一其不レ⿰日制。〔注〕⿰日制、昭晣也。

【晻】14013

🈩 アン オン 〔集韻〕鄔感切 感
🈔 エン 〔集韻〕衣儉切 琰
🈪 アン オン 〔集韻〕烏紺切 勘
ㄢˇ an^3

小篆

🈩🈔🈪❶**くらい**。〔說文〕晻、不レ明也、从レ日奄聲。〔廣雅、釋詁四〕晻、冥也。〔漢書、元帝紀〕三光晻昧。❷**くらいさま**。〔集韻〕晻、晻晻、日無レ光也。❸**かさなる**。〔左思、吳都賦〕重葩晻葉。〔注〕善曰、晻、重也。❹**ささへる**。ふさぐ。おほふ。〔廣雅、釋詁二〕晻、障也。❺**雨**。雨ふる。湆(**7－17784**)に通ず。〔說文通訓定聲〕晻、叚借爲レ湆。〔呂覽、務本〕有レ晻淒淒。〔注〕晻、陰雨。❻**雲霧がたちこめる**。〔漢書、禮樂志〕晝晻濭。❼暗(**5－14065**)に通ず。〔荀子、不苟〕盜二名於晻世一。〔注〕晻、與レ暗同。〔漢書、元帝紀〕三光晻昧。〔注〕師古曰、晻、與レ暗同。❽闇(**11－41421**)に通ず。〔漢書、五行志下之下〕日光晻。〔注〕師古曰、晻、與レ闇同。❾奄(**3－5881**)に通ず。晻然(11)を見よ。❿或は陪(**11－41752**)に作る。〔集韻〕晻、或作レ陪。

【晻曖】1 アンアイ くらいさま。〔玉篇〕曖、晻曖、暗貌。〔王延壽、魯靈光殿賦〕遂排二金扉一而北入、宵藹藹而晻曖。〔注〕銑曰、晻曖、暝色。〔後漢書、盧植傳〕雲霧晻曖、比年地震。〔晉書、左貴嬪傳〕日晻曖而無レ光兮、氣瀏慄以冽淸。〔王維、送二友人歸レ山歌〕樹晻曖兮氛氳、猿不レ見兮空聞。

【晻濭】2 アンアイ ❶雲氣あるさま。〔漢書、禮樂志〕露夜零、晝晻濭。〔注〕師古曰、晻、音烏感反、濭、音靄、晻濭、雲氣之貌。❷ふさがりくもる。〔集韻〕濭、晻濭、鬱陰也。

【晻藹】3 アンアイ ❶盛なさま。〔曹植、王仲宣誄〕榮耀二當世一、芳風晻藹。〔注〕濟曰、晻藹、盛貌。❷多く盛なさま。〔潘岳、藉田賦〕瓊鈒入蘂、雲罕晻藹。〔注〕向曰、藹、繁也、晻、盛貌。❸樹木のしげつてくらいさま。〔玉篇〕藹、晻藹、樹繁茂貌。〔王安石、寄二曾子固一詩〕峯巒碧參差、木樹青晻藹。❹くらいさま。一に晻靄に作る。〔楚辭、離騷〕揚二雲霓之晻藹一兮、鳴二玉鸞之啾啾一。〔注〕晻藹、猶二蓊鬱一、蔭貌。

【晻靄】4 アンアイ くらいさま。晻藹。〔王粲、鸚鵡賦〕日晻靄以西邁、忽逍遙而既冥。〔徐陵、與二李那一書〕山澤晻靄、松竹參差。〔剪燈餘話、長安夜行錄〕晨光晻靄。

【晻晻】5 アンアン ❶光がだんだんうすらぐさま。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕日晻晻而下頹。〔補注〕晻、日無レ光也。〔漢書、五行志下之下〕厥食日失レ位、光晻晻月形見。〔班彪、北征賦〕日晻晻其將レ暮兮、覩二牛羊之下來一。〔注〕善曰、說文曰、晻、不レ明也。❷暗いさま。〔冥通記〕三更中間、一人扣レ戶云、范帥來、惟三人衣色黑、晻晻不レ可レ辨。

【晻曀】6 アンエイ 薄暗く陰るさま。曖曃。〔姚希孟、日昇月恆賦〕自晻曀而晃耀、又鑀靆而玲瓏。

【晻翳】7 アンエイ くらくくもるさま。掩翳。〔楚辭、王逸、九思、遭厄〕雲霓紛兮晻翳、參辰回兮顚倒。

【晻葉】8 アンエフ おほひ重なつた葉。〔左思、吳都賦〕重葩晻葉。〔注〕善曰、晻、重也。

【晻忽】9 アンコツ たちまち。にはか。〔漢武班碑〕晻忽徂逝。

【晻世】10 アンセイ 道理の明かでない世。昏闇の世。〔荀子、不苟〕是姦人將三以盜二名於晻世一者也、險莫レ大レ焉。〔注〕晻與レ暗同。

【晻然】11 アンゼン 同じで違はぬさま。奄然。〔荀子、儒效〕張レ法而度レ之、則晻然若レ合二符節一、是大儒者也。〔注〕晻、與レ暗同。〔集解〕王引之曰、晻然、同貌也、韓詩外傳作二奄然一、爾雅、弇、同也、郭引三詩奄二有龜蒙一、弇・奄・晻並通、楊云、晻與レ暗同。

【晻霮】12 アンタン 雲氣の黑いさま。〔謝偃、高松賦〕結二晻霮之愁雲一。

【晻⿰日孛】13 アンバイ くらいさま。〔左思、吳都賦〕宵露霮䨴、旭日晻⿰日孛。〔注〕善曰、⿰日孛、亦闇也、向曰、晻⿰日孛、昏暗貌。

【晻莫】14 アンバク くらいさま。〔班倢伃、自悼賦〕白日忽已移レ光兮、遂晻莫而昧幽。

【晻昧】15 アンマイ ❶くらいこと。やみ。暗昧。暗黑。〔漢書、元帝紀〕三光晻昧。〔注〕師古曰、晻、與レ暗同。〔漢書、楊惲傳〕一朝以二晻昧一語言見レ廢。〔蔡邕、筆賦〕綜二人事于晻昧一兮。❷おろか。愚昧。〔司馬相如、封禪文〕首惡鬱沒、晻昧昭晰。〔注〕善曰、喩二夷狄皆化一レ之也。〔漢書、谷永傳〕忽二天地之明戒一、聽二晻昧之瞽說一。

【暀】14014

🈩 ワウ 〔集韻〕羽兩切 養
🈔 ワウ 〔廣韻〕于放切 漾
🈪 キヤウ グワウ 〔集韻〕具放切 漾

小篆

🈩❶**かがやきうつくしい**。うつくしさかん。〔說文〕暀、光美也、从レ日往聲。〔爾雅、釋詁〕暀暀、美也。〔注〕暀暀、美盛之貌。❷**德**。〔廣韻〕暀、德也。🈔**美しく輝く**。旺(**5－13774**)に同じ。〔廣韻〕旺、美光、暀、上同。🈪❶**日の光**。〔集韻〕暀、日光。❷**あきらか**。〔廣韻〕暀、暀明。

【⿰日彔】14015

リヨク ロク 〔集韻〕龍玉切 沃

くらい。日ざしがよわい。〔集韻〕⿰日彔、日無レ光。〔正字通〕⿰日彔、暗也。

【晼】14016

エン ヲン 〔集韻〕委遠切 阮

ひがかたむく。〔集韻〕晼、景昳也。

【晼晚】1 エンバン 日がくれる。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕白日晼晚其將レ入兮、哀二余壽之弗一レ將。〔陸機、歎逝賦〕老晼晚其將レ及。〔注〕良曰、晼晚、日暮也、比二人年老一也。〔潘岳、懷舊賦〕日晼晚而將レ暮。〔謝靈運、善哉行〕景曜東隅、晼晚西薄。〔儲光羲、同二王十三維一偶然作詩〕暫過伊闕間、晼晚三伏時。

【⿱日戼】14017

バウ 昴(**5－13964**)に同じ。〔篇海〕⿱日戼、同レ昴。

【晽】14018

リン 〔淮南子注〕音林

しりたがるさま。晽晽。〔淮南子、俶眞訓〕乃始昧昧晽晽。〔注〕晽晽、欲レ知之貌。

【⿱日林】14019

リン 〔字彙補〕音林

國の名。〔字彙補〕⿱日林、國名、朱澤民、異域苑、景祐間有二佛⿱日林國一來朝、自言當二日沒之處一。

【替】14020

サウ 義未詳。〔五音篇海〕替、音曹。

【⿰日爾】14021

メイ 明(**5－13805**)に同じ。〔字彙補〕⿰日爾、與レ明同。

【⿰日昏】14022

コン 〔篇韻〕音昏

くらい。〔篇韻〕⿰日昏、闇也。

【⿱日具】14023

音未詳 人名。〔字彙補〕⿱日具、楊⿱日具、正德時人、音闋。

【⿰昜凡】14024

ヤウ 揚(**5－12355**)に同じ。〔古音駢字〕⿰昜凡、同レ揚。

【⿱日⿱夂廾】14025

ヘン ベン 〔川篇〕皮變切 霰

さき。さきだつ。〔川篇〕⿱日⿱夂廾、先也。

【⿺是丈】14026 テイ ダイ 〔集韻〕待禮切 齊

首が横に曲つた杖。〔廣韻〕⿺是丈、横首杖名。〔集韻〕⿺是丈、杖也。

【⿱日冝】14027 デフ 疊(**7－21983**)に同じ。〔篇海類編〕⿱日冝、同レ疊。

【⿱牧日】14028 ボク 義未詳。〔川篇〕⿱牧日、音木。

【⿱日来】14029 キ 義未詳。〔五音篇海〕⿱日来、音謂。

【敃】14030 ビン 暋(**5－14041**)に同じ。〔説文、段注〕按、説文、暋、作レ敃、冒也。

【晩】14030′ バン 晚(**5－13940**)に同じ。

【暁】14031 ゲウ 曉(**5－14176**)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕曉、通俗小説作レ暁。

【暑】14031′ ショ 暑(**5－14051**)の略字。

九畫

【⿱日洽】14032 サフ ⿱日合(**5－13910**)に同じ。〔篇海〕⿱日洽、與レ⿱日合同。

【暄】14033 ケン クワン 〔集韻〕許元切 元 ㄒㄩㄢ hsüan¹

㊀**あたたか。**〔廣韻〕暄、溫也。〔素問、五運行大論〕其性爲レ暄。〔注〕暄、溫也。㊁**春のすゑ。**〔玉篇〕暄、春晚也。㊂煖(**7－19196**)・煊(**7－19179**)に同じ。〔集韻〕煖、説文、溫也、或作二煊・暄一。

名乘 アツ。

【暄燠】1（ケンイク） あたたか。〔溫庭筠、上二蔣侍郎一啓〕言成二訓謨一、信比二暄燠一。

【暄寒】2（ケンカン） 時候の挨拶。又、それを述べること。暖かいとか寒いとかいふ意。寒暄。暄涼。〔南史、蔡撙傳〕及二其引進一、但暄寒而已、此外無二復餘言一。

【暄氣】3（ケンキ） あたたかな氣候。〔張協、雜詩〕龍蟄暄氣凝、天高萬物肅。〔注〕良曰、七月龍蛇蟄藏、而夏暄之氣、凝而爲二霜露一。

【暄煦】4（ケンク） あたたかなこと。〔薛能、桃花詩〕有レ影宜二暄煦一、無レ言自治容。

【暄妍】5（ケンケン） あたたかで景色がうつくしい。爽かで美しい。〔鮑照、詠二採桑一詩〕是節最暄妍、佳服又新爍。〔蕭穎士、清明日南皮泛レ舟序〕蕩二暄妍之氣色一、縱二魚鳥之游泳一。〔林逋、山園小梅詩〕衆芳搖落獨暄妍、占二盡風情一向二小園一。

【暄谷】6（ケンコク） 谷の名。〔水經、滱水注〕滱水、又東合二溫泉水一、水出二西北暄谷一、其水溫熱若レ湯、能愈二百疾一、故世謂二之溫泉一焉。

【暄之】7（ケンシ） 唐、高霽(**12－45313**··528)の字。

【暄濁】8（ケンダク） あたたかくにごつた氣。〔張協、雜詩〕秋夜涼風起、淸氣蕩二暄濁一。

【暄暖】9（ケンダン） あたたかい。溫暖。暄溫。〔杜甫、路逢二襄陽楊少府入レ城云云詩〕寄レ語楊員外、山寒少二伏苓一、歸來稍暄暖、當三爲劚二青冥一。〔宋无、懷二故里朋友一詩〕春寺尋二暄暖一、晴波泛二渺茫一。

【暄熱】10（ケンネツ） 日のあつさ。〔蘇轍、次二韻子瞻病中大雪一詩〕酒肴助二暄熱一、筆硯盡二霑涴一。

【暄風】11（ケンプウ） 溫和なかぜ。はるかぜ。〔梁元帝纂要〕春風曰二陽風・春風・暄風・柔風・惠風一。

【暄涼】12（ケンリヤウ） ㊀時候の挨拶。又、それを述べること。寒暄。〔南史、天竺迦毗黎國傳〕慧琳、云云、會稽孔顗嘗詣レ之、遇二賓客塡咽一、暄涼而已。〔舊五代史、世襲、錢鏐傳〕明宗卽位之初、安重誨用レ事、鏐嘗與二重誨一書云、吳越國王、謹致二書于某官執事一、不レ敍二暄涼一、重誨怒二其無禮一。㊁暖かなことと涼しいこと。〔楊萬里、四月十三日度二鄱陽湖一詩〕近歲六暄涼、此水三往返。〔楊萬里、己未春日山居雜興十二解詩〕半晴半雨半暄涼。

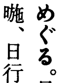
【暄和】13（ケンワ） あたたかくのどか。暖和。〔隋書、田德懋傳〕春日暄和、氣力何似。〔杜甫、曉望二白帝城鹽山一詩〕日出淸江望、暄和散二旅愁一。〔宋史、禮志十六〕春氣暄和、萬物暢茂。

【獻レ暄】14（ケンヲケンズ） 野人が背を日にさらして暖かであつたため、之を吾が君に獻ぜんといつた故事。微々たる忠義をいふ。〔列子、楊朱〕顧謂二其妻一曰、負二日之暄一、人莫二知者一、以獻二吾君一。

【暅】14034 〘一〙ケン クワン 〔集韻〕火遠切 阮 〘二〙コウ 〔集韻〕居鄧切 徑

〘一〙〘二〙㊀**かわく。**かわかす。〔玉篇〕暅、乾燥也。㊁**さらす。**〔集韻〕暅、博雅、曝也。㊂**日の氣。**晅(**5－13893**)に同じ。〔集韻〕晅、日氣也、或作レ暅。

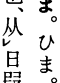
【暆】14035 イ 〔集韻〕余支切 支


小篆

㊀**日がめぐる。**日がうつるさま。〔説文〕暆、日行暆暆也、从レ日施聲、樂浪有二東暆縣一、讀若レ酏。〔段注〕暆、迆邐徐行之意、暆暆、猶二施施一、詩毛傳曰、施施、難レ進之意。〔正字通〕暆、日行皃。㊁**日がかたむく。**〔正字通〕暆、古語呼二日斜一曰レ暆、越絕書、伍胥逃レ楚、漁父與隱語云、日昭昭浸以暆、與レ子期二兮蘆之漪一、蓋欲下其藏二蘆中一俟中日斜上也。

【暆喩】1（トイ） 雨衣をいふ。〔事物異名錄、服飾、雨衣〕廣雅、暆喩、雨衣也、又類篇、暆喩、謂二之帹帕一。

【暇】14036 カ ゲ 〔集韻〕亥駕切 禡 ㄒㄧㄚ hsia²·⁴


小篆

㊀**いとま。**ひま。やすみ。〔説文〕暇、閒也、从レ日叚聲。〔段注〕各本作レ閑、俗字也、今正。〔左氏、成、十六〕好以レ暇。〔注〕暇、閒暇。〔孟子、梁惠王上〕壯者、以二暇日一修二其孝悌忠信一。〔莊子、在宥〕彼何暇レ安二其性命之情一哉。〔國語、楚語上〕官寮之暇。〔注〕暇、閒也。〔南史、江子一傳〕休暇之日、賓客輻湊。㊁**ゆつくりする。**おちつく。〔書、酒誥〕不二敢自暇自逸一。〔傳〕自寬暇。㊂**大きい。**〔方言、一〕凡物之壯大者、而愛二偉之一謂二之夏一、周鄭之閒謂二之暇一。㊃**よい。**〔集韻〕暇、一曰、嘉也。㊄假(**1－835**)に通ず。〔列子、黃帝〕試語之有レ暇。〔釋文〕暇、一作レ假。〘邦〙**いとま。**㋑えんきり。解職。解雇。免官。㋺わかれ。

〘參考〙 假(**1－835**)を參照せよ。

【暇逸】1（カイツ） ひまで遊んでゐる。無事で安閑としてゐる。寛閒。暇豫。〔書、酒誥〕不二敢自暇自逸一。〔傳〕不二敢自寬暇自逸豫一。〔謝靈運、書帙銘〕亮惟勤翫、無二或暇逸一。〔戴表元、八月十六張園翫レ月得二一字一詩〕不レ許レ私二暇逸一。

【暇乞】2（イトマゴヒ） 別を告げること。告別。〔謠曲、春日龍神〕御暇乞のために、春日の明神に參らばやと。

【暇給】3（カキフ） いとま。ひま。〔史記、封禪書〕至二梁父一矣而德不レ洽、洽矣而日有レ不二暇給一。〔漢書、諸侯王表序〕雖レ然高祖創業、日不二暇給一。〔揚雄、劇秦美新〕蓋受レ命、日不二暇給一。〔注〕向曰、營營不レ暇、惜二日不一レ足。

【暇遑】4 カクヮウ いとま。〔史記、曆書〕又升二至尊一之日淺、未二暇遑一也。〔史記、儒林傳〕未三暇二遑庠序之事一也。

【暇景】5 カケイ ひま。いとま。暇日。〔梁元帝、丹陽尹傳序〕求二瘼餘晨一、頗多二暇景一。〔唐太宗、臨二層臺一賦〕惟萬幾之暇景、屛二千慮于巖廊一。〔唐太宗、詠二司馬彪續漢志一詩〕粤予承二暇景一、談叢引二衆秘一。

【暇隙】6 カゲキ ひま。いとま。〔唐太宗、金鏡〕楚莊暇隙而懷レ憂、武侯罷レ朝而含レ喜。

【暇齋】7 カサイ 明、易三接(5－13814··198)の號。

【暇時】8 カジ ひまのとき。閑時。〔井上梧陰、岩倉村瘞髮碑〕暇時、談及二前日事一。

【暇日】9 カジツ ひまで無事の日。閑散な折。假日。〔孟子、梁惠王上〕壯者、以二暇日一修二其孝悌忠信一。〔荀子、脩身〕其爲レ人也、多二暇日一者、其出レ人不レ遠矣。〔淮南子、脩務訓〕偸慢懈惰、多二暇日一之故。〔說苑、建本〕偸慢懈墮、多二暇日一之故也。〔王粲、登樓賦〕登二茲樓一以四望兮、聊暇日以銷レ憂。〔注〕五臣作レ假。

【暇食】10 カショク ひまが有つて食事をする。〔韓愈、送二浮屠文暢師一序〕安居而暇食、優游以生死。

【暇適】11 カテキ 自適のひま。〔福惠全書、蒞任部、遠博飮〕有二何暇適一而爲二此山林隱逸之具一耶。

【暇文】12 イトマブミ 休暇を求める文書。病氣などの理由で出仕の暇を賜はらんことを願ふ文書。〔台記〕久安三年正月二十八日、暇文、近代絕不レ奉レ之。

【暇豫】13 カヨ ひまであそぶ。無事でのんびりしてゐること。暇逸。〔國語、晉語二〕主孟啗レ我、我教二茲暇豫事レ君。〔何晏、景福殿賦〕鳩二經始之黎民一、輯二農功之暇豫一。〔注〕善曰、韋昭曰、暇、閒也、豫、樂也。〔歐陽脩、羣玉殿賜レ宴詩〕九重多二暇豫一、八體極二研精一。

【暇餘】14 カヨ 時間のあまつた時。手すきの時。餘暇(12－44185··28)に同じ。

【偸レ暇】15 イトマヲヌスム ひまをもとめる。あぶらをうる。偸閑。〔歐陽脩、初伏日招二王幾道一小飮詩〕人生有レ酒復何求、官事無了須レ偸レ暇。〔曾鞏、漢廣亭詩〕治民務不レ煩、得レ意偸レ暇日。

【暈】14037 ウン 〔集韻〕王問切 問 ㄩㄣ yün$^{1\cdot4}$ ㄧㄣ yin^{4}

小篆 ❶かさ。㋑日・月の周邊に出來る淡光の雲氣。〔說文〕暈、兖也、从レ日軍聲。〔段注〕按、光也二字、當レ作二日光氣也四字一。〔說文新附〕暈、日月气也、从レ日軍聲。〔玉篇〕暈、日月旁氣也。〔釋名、釋天〕暈、捲也、氣在レ外捲二結之一也、日月倶然。〔呂覽、明理〕日有二暈珥一。〔注〕暈、氣圍二繞日一周匝、有レ似二軍營相圍守一、故曰レ暈也。〔漢書、天文志〕暈適背穴。〔注〕師古曰、暈、日旁氣也。〔晉書、天文志中〕日暈有二五色一。〔李白、橫江詞〕月暈天風霧不レ開。㋺火光の周邊に出來る淡い氣焰。〔韓愈、宿二龍宮灘一詩〕夢覺燈生レ暈、宵殘雨送レ涼。〔貢奎、燈火詩〕綠烟浮二小暈一、紅焰落二輕煤一。❷あや。くま。ぼかし。〔歙州硯譜〕青色綠暈。〔金漳蘭譜〕中多二紅暈一。〔梅堯臣、車螯蛤蜊詩〕嬌女巧收レ殼、燕脂合二眉暈一。〔蘇軾、墨花詩〕花心起二墨暈一、春色生二毫端一。❸目がくらむ。〔正字通〕暈、方書、有二暈眩一、證頭暈・昏暈是也。〔姚合、閑居詩〕眼暈夜書多。❹暉(5－14038)に同じ。〔說文通訓定聲〕暈、字亦作レ暉。❺現船・車などに醉ふ。邦❶くま。くらがり。かげ。❷ぼかす。㋑くまどる。㋺あいまいにする。

參考 暉(5－14038)の參考を見よ。

【暈圍】1 ウンヰ 日月の周圍に生ずるかさ。〔韓非子、備內〕故日月暈二圍於外一、其賊在レ內。

【暈蔭】2 ウンイン ぼんやりとついてゐる。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕新傷有二血暈蔭一而紅活。

【暈汚】3 ウンヲ 滲み擴がる。

【暈海】4 yün^{4} hai^{3} 船に醉ふ。

【暈氣】5 ウンキ 日光を蔽うて生ずる五彩の氣。ひがさ。〔爾雅、釋天、弇レ日爲二蔽雲一、注〕卽暈氣、五彩覆レ日也。

【暈裙】6 ウンクン 月の光のやうなもすそ。俗に月華裙といふ。〔宋史、樂志十七〕隊舞之制、女弟子隊、六曰、採蓮隊、衣二紅羅生色綽子一、繫二暈裙一、戴二雲鬟髻一、乘二彩船一、執二蓮花一。

【暈穴】7 ウンケツ 拳術の語。急所の名。相手をして目まひせしめるところ。〔寧波府志、松溪拳術〕內家之術爲二尤善一、其搏レ人必以二其穴一、有二暈穴一、有二啞穴一、有二死穴一、其敵レ人相二其穴一、而輕重擊レ之、或死或暈或啞、無二毫髮爽者一。

【暈月】8 ウンゲツ かさのかかつた月。〔薛道衡、出塞二首和二楊處道一詩〕妖雲墜二虜陣一、暈月遶二胡營一。

【暈繝】9 ウンケン 古、染色の名。色と色との界をぼかし染めたもの。くまどりまじへる意。〔齊院司式〕暈繝錦。

【暈珥】10 ウンジ 日の氣。ひがさ。暈は日を圍繞する氣、珥は兩旁に在つて內に向ふ氣。〔呂覽、明理〕其日有二鬭蝕一、有二倍僪一、有二暈珥一、有レ不レ光、有レ不レ及レ景。〔注〕暈、讀爲二君國子民之君一、氣圍二繞日一周匝、有レ似二軍營相圍守一、故曰レ暈也。〔宋史、天文志一〕東都舊史所レ書、天文禎祥・日月薄蝕・云云・暈珥・虹霓・精祲・雲氣等事。

【暈車】11 yün^{4} ch'ê^{1} 車に醉ふ。

【暈適】12 ウンタク 日の旁の變氣。〔漢書、天文志〕暈適、背穴。〔注〕孟康曰、暈、日旁氣也、適、日之將レ食先有二黑之變一也。〔王先謙補注〕占經引二石氏一云、日旁有二氣員一而周帀、內赤外青、名爲レ暈。〔左氏、昭、三十一〕庚午之日、日始有レ謫。〔注〕謫、變氣也。

【暈取】13 クマドリ ❶ぼかし。彩色。❷役者の顏の彩色。

【暈蝕】14 ウンショク 日月にかかつたかさと日蝕月蝕。〔侯圭、割鴻溝賦〕兩曜而寧休二暈蝕一。

【暈船】15 ウンセン ふなゑひ。船に醉ふ。〔通俗編、器用、苦船〕按、卽今所謂暈船。

【暈目】16 ウンモク 目をくらます。〔歐陽詹、智達上人水精念珠歌〕陸離電烻紛不レ常、凌レ眸暈レ目生二先芒一。

【暈過去】17 yün^{1} kuo^{4} ch'ü 卒倒する。目まひする。

【暈生レ臉】18 ウンレンニシヤウズ ほんのりと薄化粧のやうなぼかしが顏色にあらはれる。〔蘇軾、寓居定惠院之東雜花滿レ山有二海棠一株一土人不レ知レ貴也詩〕朱唇得レ酒暈生レ臉、翠袖卷レ紗紅映レ肉。

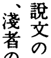
【節二暈粧一】19 ウンシヤウヲセッス 隋代、宮人の化粧法。〔中華古今注〕隋大業中、宮人梳二奉仙髻一、節二暈粧一。

【暈死復甦】20 yün^{1} ssŭ^{3} fu^{4} su^{1} 氣絕してまた蘇生する。

【暉】14038 キ 〔集韻〕吁韋切 微 ㄏㄨㄟ huei^{1}

小篆（說文） ❶ひかる。かがやく。〔說文〕暉、光也、从レ日軍聲。〔王融、曲水詩序〕雲潤星暉、風揚月至。〔梁元帝、與二蕭挹一書〕文藻相暉。❷ひかり。かがやき。〔南史、齊高帝紀〕景星垂二暉於清漢一。〔李白、惜餘春賦〕見二游絲之橫レ路、網二春暉一以留レ人。❸輝(10－38372)に通ず。〔易、未濟〕君子之光、其暉吉也。〔釋文〕暉、字又作レ輝。❹暈(5－14037)に同じ。〔說文、暈、兖也、段注〕按、光也二字、當レ作二日光氣也四字一、篆體暉當レ作レ暈。❺姓。〔萬姓統譜〕暉、見二直音一。

名乘 アキラ。アキ。テル。

參考 暈と暉とはもと同字であるが、今は暈はかさ、暉は光りで、混用しない。徐鉉は、說文の暉光也の外に、新附に於て暈を加へ、日月气也としたが、段玉裁は、說文の暉を暈に改め、說文が篆體をにするは、淺者の爲すところとして居る。

【暉煜】1 キイク ひかりかがやく。〔梁簡文帝、馬寶頌序〕暉煜金鑣、陸離寶勒。

【暉映】2キエイ　かがやきうつる。光彩の照り映ること。暉暎。耀映。〔晉書、左貴嬪傳〕我后戾止、車服暉暎。〔傅亮、芙蓉賦〕既暉二映於丹墀一。

【暉遠】3キエン　北周、權景宣(6－15926‥160)の字。

【暉暉】4キキ　日光のかがやくさま。空が晴れて明かなさま。煇煇。耀耀。〔江總、詠二燕燕于飛一應詔詩〕二月春暉暉、雙燕理二毛衣一。〔韓愈、贈二崔立之評事一詩〕暉暉簷日暖且鮮、摵摵井梧疎更殞。〔杜甫、寒食詩〕汀烟輕冉冉、竹日淨暉暉。

【暉光】5キクワウ　ひかりかがやく。かがやくひかり。煇光。輝光。〔張華、勵レ志詩〕進レ德脩レ業、暉光日新。

【暉章】6キシヤウ　晉の殿名。〔太平御覽、居處部、殿〕晉宮閣名曰二太極殿十二間、徽行殿、顯陽殿、暉章殿一。

【暉如】7キジヨ　❶文德あるさま。煇如。〔太玄經、視〕厥德暉如。〔注〕暉如、文德之貌也。❷清、錢熙(崑山の人)(11－40563‥42)の字。

【暉升】8キシヨウ　明、桑拱陽(6－14772‥158)の字。

【暉祚】9キソ　かがやかしい天子の位。〔陸機、述レ先賦〕仰二先后之顯烈一、懿二暉祚之允輯一。

【暉素】10キソ　白い光。月の光。〔何劭、雜詩〕閑房來二清氣一、廣庭發二暉素一。

【暉芒】11キバウ　ひかり。かがやき。光芒。〔新論、類感〕太白暉芒、雞必夜鳴。

【暉範】12キハン　女官の名。世婦の位號で從三品に比するもの。〔北史、后妃傳序〕河清新令、內命婦依二古制一、有二三夫人・九嬪・二十七世婦八十一御女一云云、正華・令則・云云・廣訓・暉範・云云・暉則・敬信爲二二十七世婦一、比二從三品一。

【暉茂】13キモ　北齊、韋子粲(12－43108‥187)の字。

【暉目】14キモク　鳩鳥の別名。〔淮南子、繆稱訓〕暉目知レ晏、陰諧知レ雨。〔注〕暉目、鳩鳥也、天將二晏靜一、則暉目先鳴。

【暉夜】15キヤ　螢火をいふ。〔初學記、蟲部、螢〕崔豹古今注曰、螢火、一名暉夜。〔宋饗神歌〕潔二粢酌一娛二大乙一、明二暉夜一黃二晳目一。

【暉麗】16キレイ　ひかりかがやいてうるはしい。〔左思、蜀都賦〕符采彪炳、暉麗灼爍。〔梁簡文帝、大法頌序〕氛氳四照、暉麗五色。

【旾】14039　シユン　春(5－13844)の古字。〔集韻〕春、古作レ旾。

【暊】14040　フ　〔玉篇〕孚武切　麌

あきらか。〔玉篇〕暊、明也。

【暋】14041　ビン・コン　敯(5－13318)に同じ。〔正字通〕敃、敯改作レ暋、附二日部一、亦非。

【⿰日兪】14042　ト　ツ　〔集韻〕通都切　虞

ひかげ。〔集韻〕⿰日兪、日陰也。

【⿰日禺】14043　グ　〔集韻〕元倶切　虞

人名。〔集韻〕⿰日禺、人名、漢有二周⿰日禺一。

【⿱日禺】14044　グ　⿰日禺(5－14043)に同じ。〔篇海〕⿱日禺、同レ⿰日禺。

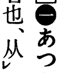
【暌】14045　ケイ　ケ　〔玉篇〕去圭切　齊　ㄎㄨㄟˊ　k‘uei^{2}

❶**日が入る。**〔正字通〕暌、日入也。〔韻會擧要〕暌、日入也、日月相違。❷**そむく。**たがふ。はなれる。睽(8－23532)の譌字。〔玉篇〕暌、違也。〔正韻牋〕暌、睽孤之睽从レ目、暌違之暌从レ日、俗多誤用。

【⿱日犮】14046　タイ　ダイ　〔篇海〕堂來切　灰

日がさしのぼる。〔篇海〕⿱日犮、日出也。

【暍】14047　㊀エツ　オチ　〔集韻〕於歇切　月　ㄏㄜˋ　hê^{4}
㊁アツ　アチ　〔集韻〕阿葛切　曷
㊂カツ　カチ　〔集韻〕許葛切　曷


小篆

㊀❶**あつさあたり。**〔說文〕暍、傷暑也、从レ日曷聲。〔玉篇〕暍、中レ熱也。〔荀子、富國〕夏不二宛暍一。〔注〕暍、傷暑也。〔淮南子、俶眞訓〕暍者望二冷風於秋一。❷或は⿰火曷(7－19176)・⿸疒曷(7－22350)に作る。〔廣韻〕暍、亦作二⿰火曷・⿸疒曷一。㊁**あたたかい。**〔廣雅、釋詁三〕暍、燸也。㊂**あつい。**〔集韻〕暍、熱也。

【暍暍】1エツエツ　病人の熱氣が極めて劇しいことをいふ。〔素問、刺瘧論〕先寒後熱、熇熇暍暍然。〔注〕暍暍、亦熱盛也。

【暍死】2エツシ　暑さにあたつて死ぬ。〔漢書、武帝紀〕夏大旱、民多暍死。〔注〕師古曰、中レ熱而死也。〔資治通鑑、後唐紀〕莊宗、同光元年、士卒遭二矢石一、溺レ水暍死者且二萬人一。

【暍疾】3エツシツ　あつさあたり。〔傷寒論、中暑有二三證一〕太陽中レ熱者、暍是也、其人汗出、惡寒身熱而渴也。

【暍者】4エツシヤ　暑氣に中つた人。〔莊子、則陽〕夫凍者假二衣於春一、暍者反二冬乎冷風一。〔淮南子、俶眞訓〕凍者假二兼衣于春一、而暍者望二冷風于秋一。

【暍暑】5エツシヨ　暑さにあたる。夏病みする。

【暍人】6エツジン　熱を病む人。〔淮南子、人閒訓〕武王蔭二暍人於樾下一、左擁而右扇レ之、而天下懷二其德一。〔注〕武王哀二暍者之熱一、故蔭二之於樾下一、樾下衆樹之虛也。

【暍⿰日難】7アツナン　暖いありさま。〔集韻〕⿰日難、暍⿰日難、暖狀也。

【暎】14048　エイ　映(5－13838)の俗字。〔正字通〕暎、俗映字。

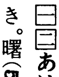
【暐】14049　ヰ　〔集韻〕羽鬼切　尾　ㄨㄟˇ　wêi^{3}

❶**日のひかり。**ひざし。ひかげ。⿰日爲(5－14154)に同じ。〔玉篇〕⿰日爲、日光也、暐、同レ上。❷**光のさかんなさま。**〔集韻〕暐、光盛皃。

【暐暐】1ヰヰ　ひかりの盛なさま。〔曹植、車渠椀賦〕豐二玄素之暐暐一、帶二朱榮之葳蕤一。

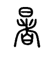
【暐曄】2ヰエフ　ひかりかがやく。〔左思、吳都賦〕崇二臨海之崔嵬一、飾二赤烏之暐曄一。〔注〕向曰、暐曄、光盛貌。〔白居易、讀レ史詩〕春華何暐曄、園中發二桃李一。

【暏】14050　㊀ト　ツ　〔集韻〕董五切　麌
㊁シヨ　ジヨ　〔集韻〕常恕切　御


小篆

㊀㊁**あけぼの。**よあけ。あかつき。曙(5－14220)に同じ。〔說文〕暏、且レ明也、从レ日者聲。〔段注〕各本作二旦明一、誤、今正作二且明一。〔廣韻〕暏、詰朝欲レ明。〔謝靈運、從二斤竹澗一越レ嶺溪行詩〕猨鳴誠知レ曙。〔注〕向曰、曙、曉也、善曰、說文曰、曙、旦明也。

【暑】14051 （シヨ）〔集韻〕賞呂切 語 ㄕㄨˇ shu³


小 篆

❶**あつい。**むしあつい。〔說文〕暑、熱也、从レ日者聲。〔段注〕暑與レ熱、渾言則一、故許以レ熱訓レ暑、析言則二、云云、暑之義、主レ謂レ溼、熱之義、主レ謂レ燥。〔釋名、釋天〕暑、煮也、熱如レ煮レ物也。〔正字通〕暑、夏日氣熱也。〔禮、月令〕土潤溽暑。❷**あつさ。**〔易、繫辭下〕寒往則暑來。❸**あつい季節。**夏。〔正字通〕暑、時令有二大暑・小暑一。〔禮、月令〕小暑至。〔論語、鄕黨〕當レ暑袗絺綌。邦**夏の土用十八日の名。**

名乘 アツ。ナツ。

【暑安】1 shu³ an¹ 暑中の御平安。書翰文用語。

【暑衣】2（シヨイ） 布の帷子。〔關八州古戰錄〕暑衣・道服を相副へて賜はり。

【暑雨】3（シヨウ） 炎暑に降る雨。むしあつい雨。暑雨祁寒を見よ。〔宋書、自序傳〕方涉二暑雨一、多有二死病一。〔鮑照、芙蓉賦〕當二融風之暄盪一、承二暑雨之平渥一。

【暑雨祁寒】4（シヨウキカン） むしあつい雨ときびしい寒さ。貧しい民のくるしみをいふ。〔書、君牙〕夏暑雨、小民惟曰怨咨、冬祁寒、小民亦惟曰怨咨。〔蔡傳〕暑雨祁寒、小民怨咨、自傷二其生之艱難一也。

【暑鬱】5（シヨウツ） むしあつい。〔抱朴子、博喩〕冰霜肅殺、不レ能レ凋二菽麥之茂一、熾暑鬱隆、不レ能レ消二雪山之凍一。

【暑耘】6（シヨウン） 暑いときにくさぎる。〔管子、臣乘馬〕農夫寒耕暑耘、力歸二於上一。

【暑暍】7（シヨエツ） あつさにあたる。暑氣にあたる。〔論衡、言毒〕盛夏暴行、暑暍而死、熱極爲レ毒也。〔宋史、陶弼傳〕課レ民植二木官道旁一、夾二數百里一、自レ是行者無二夏秋暑暍之苦一。

【暑夏】8（シヨカ） あついなつ。暑い夏の季節。〔魏志、田疇傳〕方今暑夏、道路不レ通。〔晉書、王鑒傳〕或以二當今暑夏一、非二出軍之時一。〔李商隱、李肱畫松詩〕是時方暑夏、座內若二嚴冬一。

【暑假】9 shu³ chia⁴ 暑中休暇。

【暑汗】10（シヨカン） あつくてあせのでること。〔史記、倉公傳〕熱病氣也、然暑汗、脈少衰、不レ死。

【暑寒】11（シヨカン） ❶あつさとさむさ。暑と寒。寒暑。〔漢書、天文志〕故日進爲レ暑、退爲レ寒、云云、故日爲二寒暑一。❷あつささむさを經ること。一年をいふ。〔文天祥、正氣歌〕如レ此再暑寒、百沴自辟易。

【暑寒平】12（シヨカンヒラ） 袴地の一種。絹絲に麻糸を交へ織り、夏・冬共に用ひるから此の名がある。

【暑氣】13（シヨキ） ❶夏のあつさ。暑熱。〔周禮、天官、凌人、夏頒レ冰掌レ事、注〕暑氣盛、王以レ冰頒賜、則主レ爲レ之。〔淮南子、墬形訓〕暑氣多レ夭、寒氣多レ壽。〔魏書、陸叡傳〕南土昏霧、暑氣鬱蒸。〔吳融、涼思詩〕松間小檻接レ波平、月澹煙沈暑氣清。❷暑氣に犯されて病むこと。中暑。

【暑綌】14（シヨゲキ） 夏に著るあらい葛布。〔范成大、中峯詩〕暑綌森有レ稜、瘁肌凄欲レ栗。

【暑月】15（シヨゲツ） 暑い月。夏の季節。又、陰曆六月の稱。夏月。〔左氏、襄、二十一、重レ繭衣レ裘、疏〕暑月多レ衣、所二以示レ疾。〔南齊書、州郡志上〕漢世交州刺史、每二暑月一輒避處レ高。〔南史、陸慧曉傳〕暑月亦有二霜氣一。〔李商隱雜纂、惱人〕暑月排レ筵久坐。

【暑歲】16（シヨサイ） ひでりどし。大旱魃の年。〔漢書、五行志中之下〕暑歲、羊多二疫死及爲レ怪、亦是也。

【暑日】17（シヨジツ） 夏のあつい日。〔紅樓夢、三十三回〕況且炎天暑日的、老太身上也不二大好一。

【暑濕】18（シヨシフ） あつくてしめる。暑くてじめじめする。濕、一に溼に作る。暑溽。〔史記、南越尉佗傳〕會二暑濕一、士卒大疫。〔漢書、西域上、烏弋山離國傳〕暑濕田稻、有二大鳥一、卵如レ甕。

【暑傷】19（シヨシヤウ） 暑さのために病氣になること。暑氣あたり。〔淮南子、人間訓〕冬則寒凍、夏則暑傷。

【暑鵲】20（シヨジヤク） 渡り鳥の一種。時節を識る鳥。〔易緯通卦驗〕立夏、淸風至、暑鵲鳴。

【暑蒸】21（シヨジヨウ） むしあつさ。〔秋月種樹、箱根浴二溫泉一雜詩〕嵐氣襲レ衣消二暑蒸一、水音如レ雨夜喧騰。

【暑溽】22（シヨジヨク） あつくむす。むしあつい。蒸溽。〔徐陵、答二族人梁東海太守長孺一書〕暑溽稍闌。

【暑中】23（シヨチユウ） 夏のあつい間。特に夏の土用十八日間の稱。「の挨拶。

【暑中見舞】24（シヨチユウミマヒ） 暑中に於ける時候見舞。

【暑天】25（シヨテン） 暑い天氣。暑熱の日。〔王轂刺、桐花詩〕林梢簇簇紅霞爛、暑天別覺生二精神一。〔羅鄴、題二水簾洞一詩〕每向二暑天一來往見。

【暑簟】26（シヨテン） 夏時に用ひるたかむしろ。〔蘇轍、和二鮮于子駿益昌官舍一八詠、巽堂詩〕暑簟臥二淸風一、寒樽對二佳客一。

【暑熱】27（シヨネツ） あつい。あつさ。炎熱。炎暑。〔史記、大夏傳〕其俗土著、大與二大夏一同、而卑濕暑熱云。〔漢書、西域上、烏弋山離國傳〕烏弋地暑熱莽平。〔淮南子、氾論訓〕夏日不レ勝二暑熱蟁䖟一。

【暑魃】28（シヨバツ） なつのひでり神。ひでり。〔范成大、嘲レ蚊四十韻詩〕暑魃方肆行。

【暑伏】29（シヨフク） 夏の土用中。暑月三伏の時。盛夏。〔水經、夷水注〕（楊溪）此水淸冷、甚二于大溪一、縱暑伏之辰、尙無三能澡二其津流一也。〔圖畫見聞誌、五、劉彥齊〕梁千牛將軍劉彥齊云云、其所レ藏名跡、不二啻千卷一、每二暑伏一曬曝、一親自卷舒、終日不レ倦。

【暑蟁】30（シヨブン） 蚊。蜚蝱。〔和漢三才圖會、化生類〕蚊、暑蟁。

【暑門】31（シヨモン） 南方のこと。南方は陽が盛で積溫の在る所からいふ。〔淮南子、墬形訓〕南方曰二南極之山一、曰二暑門一。〔注〕南方盛陽、積溫所レ在、故曰二暑門一。〔籟記〕景風、一曰二凱風一、又曰二薰風一、亦曰二巨風一、起レ自二赤天之暑門一、從二南方一來。

【暑夜】32（シヨヤ） 夏のあつい夜。暑夕。夏夜。〔戴叔倫、宿二城南盛本道一懷二皇甫冉一詩〕暑夜宿二城南一、懷レ人夢不レ成。

【暑吏】33（シヨリ） 暑熱を酷吏に譬へていふ。〔書言故事、夏〕畏レ熱曰レ爲二暑吏苦一、杜牧詩、大暑云二酷吏一、淸風來二故人一。

【暑涼】34（シヨリヤウ） あついこととすずしいこと。〔列子、天瑞〕能生能死、能暑能涼。

【暑涼紬】35 shu³ liang² ch'ou² 杭州に產する薄紬に漆を塗つた黑色の布。夏服地として用ひる。漆紬（**7**－**18108**・**60**）に同じ。

【暑痱子】36（シヨフツシ） 暑氣の時に發する腫物。俗にあせもといふ。〔帝城景物略〕立秋日相戒不レ飲二生水一、曰、呷二秋頭水一、生二暑痱子一。

【暑往則寒來】37（シヨユケバスナハチカンキタル） 夏の暑さが過ぎ去ると冬の寒さがやつてくる。〔易、繫辭下〕寒往則暑來、暑往則寒來、寒暑相推、而歲成焉。

【暑不レ信其土不レ肥】38（シヨシンナラザレバソノドコエズ） 夏の暑さが其の常を失へば土地が肥えない。〔呂覽、貴信〕夏之德暑、暑不レ信、其土不レ肥、土不レ肥、則長遂不レ精。

【暒】14052 セイ 晴（**5**－**13994**）・姓（**3**－**5765**）に同じ。〔集韻〕晴、或作レ暒。〔集韻〕暒、作レ姓。

【㬎】14053 ダン 㬎（**5**－**13946**）の譌字。〔正字通〕㬎、㬎字之譌。

【暓】14054 ボウ ム 〔玉篇〕莫候切 宥 **くらむ。**〔玉篇〕暓、亂レ明也。

【暔】14055 ㊀ダン ナン 〔集韻〕那含切 覃 ㊁ダン ナン 〔集韻〕乃感切 感 ㊀㊁**國の名。**〔集韻〕暔、國名、唐天寶中封二其王一、爲二懷寧王一。〔集韻〕暔、夷名、唐有二暔國一。

【㬅】14056 マン 曼（**5**－**14298**）の俗字。〔正字通〕㬅、俗曼字。

【暕】14057 🈩カン ケン 〔集韻〕賈限切 濟 🈔ラン 〔集韻〕郎干切 寒

🈩❶**久しぶりに晴れる**。〔廣韻〕暕、陰旦日明也。〔正字通〕暕、重陰積雨、後、忽見二日色一也。❷**あきらか**。〔集韻〕暕、明也。🈔**かげぼし**。〔集韻〕暕、陰乾也。

【睢】14058 ワウ

暀(**5—14014**)の本字。〔正字通〕睢、暀本字。

【昬】14059 ビン ミン 〔集韻〕美隕切 軫

諡。湣(**7—17854**)に同じ。〔集韻〕湣、謚也、史記、齊有二湣王一、或作レ昬。

【㬇】14060 クヮン 〔集韻〕呼玩切 翰

❶壐㬇は、古の國の名。〔玉篇〕㬇、古國名。〔山海經、海內東經〕埻端・壐㬇、在二崑崙墟東南一。❷或は𥈠(**8—23503**)に作る。〔集韻〕㬇、或从レ目。

【暛】14061 ヲン

㬈(**5—14087**)の俗字。〔正字通〕暛、俗㬈字。

【㬉】14062 ダン ナン 〔集韻〕乃管切 旱

あたたか。煗(**7—19197**)・煖(**7—19196**)・暖(**5—14064**)に同じ。〔集韻〕煗、說文、溫也、或作二煖・暖・㬉一。

【㬊】14063 クヮン グヮン 〔集韻〕戶管切 旱

❶**あきらか**。〔玉篇〕㬊、明也。❷**姓**。〔姓氏急就篇〕㬊、晉中郎將㬊清・宋朱子門人㬊淵。

【暖】14064 🈩ダン ナン 〔集韻〕乃管切 旱 ㄋㄨㄢˇ nuan³ 🈔ケン クヮン 〔集韻〕許元切 元 🈪ケン クヮン 〔集韻〕火遠切 阮 慣ノン・ノウ

🈩❶**あたたか**。**あたたかい**。あたたかな。煗(**7—19197**)・煖(**7—19196**)・㬉(**5—14062**)に同じ。〔集韻〕煗、說文、溫也、或作二煖・暖・㬉一。〔禮、月令〕暖風來至。〔楚辭、天問〕何所冬暖。〔注〕暖、溫也。〔晉書、丁貴嬪傳〕椒風暖兮猶レ昔。〔劉孝威、春宵詩〕花開人不レ歸、節暖衣須レ變。〔鄭谷、曲江春草詩〕花落江隄簇二暖烟一、雨餘草色遠相連。❷**あたたまる**。〔白居易、犬鳶詩〕鳶飽凌レ風飛、犬暖向レ日眠。❸**あたためる**。〔元稹、酬二樂天雪中見一レ寄詩〕敲二扶密竹一枝猶亞、煦二暖寒禽一日漸蘇。❹**あたたかさ**。〔顏氏家訓、勉學〕欲レ暖而惰二裁衣一也。〔王勃、別二洛中知己一序〕賓鴻逐レ暖、孤飛二萬里之中一。🈔🈪**やさしい**。やはらかなさま。〔集韻〕暖、柔婉皃。〔莊子、徐無鬼〕有二暖妹者一。〔釋文〕暖、柔貌。邦**あたたか**。㋑愛情がふかい。㋺資財がゆたか。

名乘 アツ。ハル。ヤス。

參考 ❶暖(**8—23529**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕暖、與レ煖同。暖、音喧、大目。❷熟語は煖(**7—19196**)をも併せ見よ。

【暖靄】1 ダンアイ 春のかすみ。あたたかな日和のかすみ。〔陳造、陪二盱眙王使君一東遊詩〕疏煙橫二暖靄一、碧溜漱二晴沙一。

【暖衣】2 ダンイ あたたかい衣服。又、あたたかい衣服を著る。あたたかに著る。煖衣(**7—19196‥1**)に同じ。〔說苑、臣術〕臣得三暖衣飽食、敝車駑馬、以奉二其身一。

【暖雨】3 ダンウ 暖かい雨。春の雨。〔新撰朗詠集、紅梅〕豈非二暖雨之染成一。

【暖雲】4 ダンウン あたたかいくも。〔羅隱、寄二渭北徐從事一詩〕暖雲慵墮柳垂レ條、驄馬徐郎過二渭橋一。〔虞謙、春曉曲〕暖雲含レ雨浮二碧空一、香霧如レ烟濕二瑤草一。

【暖烟】5 ダンエン あたたかいもや。あたたかいけむり。煖烟。〔吳融、東歸次二瀛上一詩〕暖烟輕淡草霏霏、一片晴山襯二夕暉一。〔鄭谷、曲江春草詩〕花落江堤簇二暖烟一、雨餘江色遠相連。

【暖屋】6 ダンヲク ❶新居に遷るを賀する酒宴。暖房。煖屋(**7—19196‥6**)の❶を見よ。〔陔餘叢攷、暖房〕新遷レ居者、鄰里送二酒食一過飲曰二暖房一、輟耕錄亦曰二暖屋一。❷nuan³ wu¹ 溫室。

【暖溫】7 ダンヲン あたたかなこと。溫暖。

【暖孝】8 ダンカウ 死者のあつた家で出殯の前夜、客を招いて宴會し歌舞するをいふ。暖喪(27)を見よ。〔知新錄〕宋宣仁太后上仙、忽有二旨下一、光祿供二羊酒若干一、爲二太后妃一皇后暖孝、東坡上疏、以三暖孝出二于俚俗一、不二敢奉一レ詔、有レ旨遂罷。

【暖坑】9 ダンカウ おんどる。室內をあたためる裝置。朝鮮に多い。溫炕。〔舊唐書、高麗傳〕冬月皆作二長坑一、下燃二熅火一以取レ暖。

【暖香】10 ダンカウ 暖かな氣のかをり。煖香。〔雲仙雜記〕寶雲溪有二僧舍一、盛冬若客至、則然二薪火一、暖香一炷、滿室如レ春。

【暖講】11 ダンカウ 酒食を出して、書物の講義を聽く者をねぎらふ。〔嬾眞子、一〕溫公之任二崇福一、春夏多在レ洛、秋冬在二夏縣一、每日與二本縣從レ學者十許人一講レ書、云云、公每二五日一作二一暖講一。

【暖赫】12 ダンカク 日光がかがやいてあついこと。〔繁欽、建章鳳闕賦〕當二蒸暑之暖赫一。

【暖閣】13 ダンカク 防寒設備のある室。煖閣。〔白居易、別二春爐一詩〕暖閣春初入、溫爐興稍闌。

【暖褐】14 ダンカツ 暖かい著物。〔張望、詩〕炎夏無二完絺一、玄冬無二暖褐一。

【暖寒】15 ダンカン 酒で寒氣を暖めること。冬に人に酒を飲ませること。〔開元天寶遺事、掃レ雪迎レ賓〕巨豪王元寶每レ至二冬月大雪一、令下僕夫自二本家坊巷口一掃レ雪爲中徑路上、躬親立二於坊巷前一、迎二揖賓客一、云云、爲二暖寒之會一。〔書言故事大全、豪奢類〕冬月飲二人酒一、謂二暖寒一。

【暖眼】16 ダンガン 好意ある眼。青眼(**12—42564‥103**)の❶に同じ。冷眼の對。〔杜甫、與二嚴二郎奉禮一別詩〕別レ君誰暖眼、將レ老病纏レ身。

【暖氣】17 ダンキ ❶あたたかさ。あたたかい氣候。煖氣。〔張華、雜詩〕重衾無二暖氣一、挾レ纊如レ懷レ冰。〔開元天寶遺事、辟寒犀〕暖氣襲レ人。❷ノンキ 氣ののんびりしたこと。ノンは暖の宋音。暢氣。〔運歩色葉集〕暖氣。

〔暖氣爐〕18 nuan³ ch'i⁴ lu² スチーム。

【暖汽】19 nuan³ ch'i⁴ スチーム。

【暖噓】20 ダンキヨ 暖かな息をすること。〔正韻〕蹙レ眉吐レ氣曰レ吹、虛レ口出レ氣曰レ噓、吹氣自レ肺出屬レ陰、故寒、噓氣自二丹田一出屬レ陽、故溫。

【暖玉】21 ダンギヨク 常にあたたかい氣を持つてゐる玉。煖玉。〔談薈〕唐岐王暖玉鞍、雖二天氣嚴寒一、溫溫有二火氣一、天寶時、內庫自暖盃、青玉色、取レ酒注レ之、溫溫有レ氣、相吹而沸湯。

【暖鍋】22 nuan³ kuo¹ 元旦に雜肴を一組に盛つたものをいふ。江蘇儀徵地方の風習。

【暖鞾】23 ダンクヮ 冬季に穿く暖かい靴。〔宋史、輿服志五〕校獵從官兼賜二紫羅錦旋欄暖鞾一。

【暖轎】24 ダンケウ 轎の一種。ぐるりにたれまくのある肩輿。煖轎。〔淸會典事例、禮部、儀衞〕親王世子郡王貝勒輿夫八人、貝子公四人、暖轎。

【暖紅】25 ダンコウ 太陽をいふ。〔事物異名錄、乾象、日〕皮日休詩、婆娑愛二暖紅一、按暖紅、謂レ日也。

〔暖紅室彙刻傳奇〕26 ダンコウシツイコクデンキ 叢書の名。民國、劉世珩編。元明淸の戲曲の名篇を總集したもの。其の目は、董西廂・西廂記及附錄・拜月亭記(元、施惠)・荊釵記(元、柯九思)・琵琶記及釋

義(明、高明)・殺狗記(明、徐畛)・金印合縱記(明、蘇復之)・白兔記・霞箋記・四聲猿(明、徐渭)・還魂記・紫釵記・南柯記・邯鄲記(明、湯顯祖)・紅拂記(明、張鳳翼)・春燈謎・燕子箋(明、阮大鋮)・綠牡丹(清、吳炳)・秣陵春・通天臺・臨春閣(清、吳偉業)・荷花蕩(清、馬佶人)・桃花扇・小忽雷・大忽雷(清、孔尚任)・長生殿(清、洪昇)。

【附錄】正續江東白苧(明、梁辰魚)・崑腔正律(明、王士祥)・錄鬼簿(元、鍾嗣成)・曲品(明、鬱藍生)・新傳奇品(明、高奕)。

【暖喪】27（ダンサウ） 死者のあつた家で出殯の前夜、客を招いて宴會すること。暖孝(8)に同じ。〔咫聞錄〕杭俗、出殯前一夕、大家則唱㆑戲宴㆑客、謂㆓之暖喪㆒、吳中小民家、亦用㆓鼓樂㆒竟㆑夜、新鄰畢集、謂㆓之伴大夜㆒。

【暖寺】28（ノンジ） ［佛］禪宗の僧が僧寮に入るときする饗應。暖寮(52)に同じ。〔塵添壒囊抄、四〕入院を賀するを暖寺といふ、其の席をかたむる心也。

【暖耳】29（ダンジ） 耳かくし。耳の冷たさを防ぐ袋。〔丹鉛總錄〕唐人邊塞曲、錦縫耳衣寒、耳衣、今之暖耳也。

【暖室】30（ダンシツ） ❶暖かい部屋。煖室。❷家うつりのさかもり。暖房(48)を見よ。

【暖日】31（ダンジツ） あたたかい日。〔陸游、冬晚山房書事詩〕凍雲傍㆑水封㆓梅萼㆒、暖日烘㆑窗釋㆓硯冰㆒。

【暖廠】32（ダンシヤウ） 清代、五十歳以上の貧民を收容して毎年十月から翌年三月まで此處に住まはせ粥を施與する處。〔清會典事例、戶部、恤獨〕東城南海會寺玉清觀粥廠、及興善煖廠、拘經㆓官紳捐辦㆒賑㆓漸貧民㆒。

【暖姝】33（ケンシユ） 柔かで媚びたさま。又、自ら許すさま。〔莊子、徐無鬼〕所謂暖姝者、學㆓一先生之言㆒、則暖暖姝姝、而私自說也。〔釋文〕暖、吁爰反、柔貌、姝、昌朱反、妖貌。〔疏〕暖姝、自許之貌。

【暖色】34（ダンシヨク） 物理學用語。稜鏡で太陽の光線を分散して光譜を成した場合、紅橙黃綠色の部は溫度計で驗すると暖感があるから、其の各色光を暖色といふ。warm colour の譯語。寒色(3−7239・・216)を見よ。

【暖處】35（ダンシヨ） 暖かなところ。〔皮日休、奉㆑和㆓魯望漁具㆒十五詠、罧詩〕遊魚趁㆓暖處㆒、忽爾來相聚。〔徐賁、燈花詩〕獨含㆓冬夜㆒寒光折、不㆑傍春風暖處開。

【暖翠】36（ダンスイ） 春の晴れた山の翠色。春に草木が暖氣を帶びて翠色をなしたさまをいふ。〔黃庭堅、追㆓和東坡壺中九華㆒詩〕有㆑人夜半持㆑山去、頓覺浮嵐暖翠空。〔吳景奎、春日詩〕江上數峯浮㆓暖翠㆒。

【暖霽】37（ダンセイ） 雨がはれて暖かなこと。〔許宗魯、春日園居雨中詩〕安得㆓東風㆒開㆓暖霽㆒、曲江走㆑馬恣㆓遊觀㆒。

【暖席】38（ダンセキ） ❶せきをあたためる。あたたかな席。煖席。〔班固、答賓戲〕孔席不㆑暖、墨突不㆑黔、〔注〕善曰、文子曰、墨子無㆓黔突㆒、孔子無㆓煖席㆒。❷［佛］（ノンセキ） 暖寮(52)に同じ。

【暖蓆】39 nuan³ hsi² 冬日使用する敷物。

【暖雪】40（ダンセツ） 暖かい雪。櫻花の喩。〔無名氏、櫻花詞〕滋賀浦荒翻㆓暖雪㆒、奈良都古簇㆓紅霞㆒。

【暖川】41（ダンセン） 泉の名。❶山西省萬泉縣の南、孤山の北。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、蒲州、萬泉縣〕孤山、又有㆓暖泉㆒、流爲㆓東谷澗㆒。❷甘肅省平涼縣の北。

【暖地】42（ダンチ） あたたかな土地。氣候の暖かい土地。〔吳融、紅樹詩〕自㆑是孤根非㆓暖地㆒、莫㆑驚他木耐㆓秋風㆒。

【暖塵】43（ダンヂン） 輕いほこり。輭塵(10−38412・・44)に同じ。〔虞集、次㆘韻朱本初訪㆓李溉之學士㆒不㆖㆑遇詩〕城南城北暖塵飛、伐木相求苦未㆑歸。

【暖潮】44（ダンテウ） あたたかい潮流。

【暖熱】45（ダンネツ） あたたかい。溫熱。〔韓愈・劉師服・侯喜・軒轅彌明、石鼎聯句詩序〕寧依㆓暖熱㆒弊、不㆘與㆓寒涼㆒幷㆖。〔蘇軾、和㆓柳子玉喜㆑雪次韻仍呈㆓述古㆒詩〕艷歌一曲回㆓陽春㆒、坐使㆔高堂生㆓暖熱㆒。

【暖婆】46（ダンバ） ゆたんぽ。湯婆(7−17874・・104)を「見よ。

【暖飽】47（ダンバウ） 暖かに衣物を着、腹一杯に食べる。何不足なく暮すこと。飽食暖衣。〔說苑、臣術〕臣得㆔暖衣飽食、敝車駑馬、以奉㆓其身㆒。

【暖房】48（ダンバウ） ❶家うつりのさかもり。引越祝ひ。煖房。暖屋(6)を見よ。〔陔餘叢考、暖房〕俗禮有㆓所謂暖壽暖房者㆒、生日前一日、親友治㆑具過飲曰㆓暖壽㆒、新遷㆑居者、鄰里送㆓酒食㆒過飲曰㆓暖房㆒、輟耕錄亦曰㆓暖屋㆒、又曰㆓暖室㆒、按、王建宮詞、太儀前日暖房來、五代史後唐同光二年、張全義及諸鎭進㆓暖殿物㆒、則暖房之名、由來久矣。❷部屋內を暖めること。又、暖めた部屋。

【暖帽】49（ダンバウ） ❶暖かい帽子。〔白居易、卽事重題詩〕重裘暖帽寬㆓氈履㆒、小閣低牕深㆓地爐㆒。❷清代、官吏が禮服を着用する時に戴く冬帽子。通常九月頃から翌年三月頃まで使用する。〔清會典事例、禮部、冠服〕九年議准、涼帽暖帽上圓月。

【暖風】50（ダンプウ） あたたかいかぜ。煖風。〔李中、春日野望詩〕暖風醫㆓病草㆒、甘雨洗㆓荒村㆒。〔韓愈、奉㆘和㆓兵部張侍郎酬㆓鄆州馬尙書㆒祗召途中見㆑寄云云之作㆖詩〕暖風抽㆓宿麥㆒、清雨卷㆓歸旗㆒。〔王安石、初夏卽事詩〕晴日暖風生㆓麥氣㆒、綠陰幽草勝㆓花時㆒。

【暖流】51（ダンリウ） ❶暖かい流れ。〔唐越王貞、奉㆑和㆔聖制過㆓溫湯㆒詩〕坎德疏㆓溫液㆒、山隈派㆓暖流㆒。❷海流の一種。一般に低緯度から高緯度に向ひ、藍色を呈して溫度高く鹹味強く、比較的透明である。寒流(3−7239・・387)の對。

【暖寮】52（ノンリヤウ） ［佛］禪宗の僧が新たに僧寮に入る時、茶菓などを古參の人に饗應すること。又は其の入寮を賀すること。ノンは暖の宋音。〔禪林象器箋、九〕入寮人辨㆓茶果等㆒、饗㆓先居人㆒曰㆓暖寮㆒、予聞大德寺亦曰㆓暖寮㆒、妙心寺此謂㆓暖席㆒。

【暖蔆】53（ダンリヨウ） 芡の異名。おにばす。雞頭。〔事物異名錄、果蓏、雞頭〕說文、芡、一名鴻頭、又名㆓暖蔆㆒。

【暖簾】54（ノレン ノンレン） ❶［佛］綿布簾面を覆て風氣を防ぐもの。〔敕修清規、月分須知〕四月候㆓天氣㆒、僧堂內下㆓暖簾㆒上㆓涼簾㆒。❷日光を避けるために張るもので、布帛で造り、商家などで屋號などを記すもの。ノウレンの約、ノウはノンの音便、ノンは暖の宋音。〔下學集、下〕暖簾、垂席也。

〖暖簾師〗55（ノレンシ） 粗惡な品を胡魔化して賣る商人。〔嬉遊笑覽、十一、商賈〕。

【暖爐】56（ダンロ） ❶火をたいて室內を溫める具。ゐろり。煖爐。〔歲時記〕十月朔、有司進㆓暖爐炭㆒。〔白居易、歲除夜對㆑酒詩〕醉依㆓香枕㆒坐、慵傍㆓暖爐㆒眠。❷ストーブ。西洋家具の一。

【暖和】57（ダンワ） ❶氣候があたたかい。暖和な。❷あたたまる。

【暖手筒】58 nuan² shou² tung³ 婦人が冬に用ひる防寒用の手入。マツフ。

【暖水瓶】59 nuan² shuei³ pʻing² 魔法瓶。

【暖暖姝姝】60（ケンケンシユシユ） 柔懦で物に逆はないさま。暖姝(33)を見よ。〔莊子、徐無鬼〕所謂暖姝者、學㆓一先生之言㆒、則暖暖姝姝、而私自說也、自以爲㆑足矣。

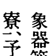
【送㆑暖偸㆑寒】61（ダンヲオクリカンヲヌスム） 閒をとりもつこと。〔西廂記、張君瑞害㆓相思㆒雜劇〕直待㆘我拄㆓著拐㆒幇㆑閑鑽㆑懶縫㆓合脣㆒送㆑暖偸㆖寒。

【欲㆑暖而惰㆓裁衣㆒】62（ダンヲホツシテサイイヲオコタル） 身體をあためることを欲しながら着物を作ることを怠る。〔顏氏家訓、勉學〕是猶求㆑飽而懶㆓營饌㆒、欲㆑暖而惰㆓裁衣㆒也。

【暗】
14065

［一］アン オン 〔集韻〕烏紺切 ［勘］ ㄢˋ an⁴

［二］アン オン 〔集韻〕鄔感切 ［感］


小篆

［一］［二］❶**くらい**。㋑日に光がない。くもる。〔說文〕暗、日無㆑光也、从㆑日音聲。㋺あきらかでない。さだかでない。〔玉篇〕暗、不㆑明也。〔何遜、臨㆑行與㆓故遊㆒夜別詩〕夜雨宿㆓空階㆒、曉燈暗㆓離室㆒。㋩おろか。〔晉書、烈女、周顗母李氏傳〕名重而識暗。〔歐陽建、臨終詩〕咨余沖且暗、抱㆑責守㆓微官㆒。〔注〕善曰、賈逵國語注曰、暗、不㆑明也。〔北史、蕭正表傳〕性理短暗。❷**くらがり**。やみ。〔江總、修心賦〕結暗生㆑陰。❸**よる**。〔晉書、職官志〕車駕逼㆑暗乃還。〔音義〕暗、夜也。〔李

商隱、鐙詩〕冷暗黃茅驛、暄明紫柱樓。㊃くもる。㋑くらむ。くろずむ。〔盧肇、病馬詩〕塵土臥多毛已暗、風霜受盡眼猶明。㋺眼が見えぬ。〔孔安國、尚書序、口以傳授、疏〕因二其習誦一、或亦目暗。〔沈炯、少年行〕涙盡眼方暗、髀傷耳自聾。㊄ふかい。〔廣雅、釋詁三〕暗、深也。〔揚雄、甘泉賦〕稍暗暗而靚深。〔注〕善曰、暗暗、深空之貌。〔歐陽脩、送二胡學士一詩〕都門春漸動、柳色綠將レ暗。㊅だまる。〔廣韻〕暗、又默也。㊆あんに。人知れず。それとなく。ひそかに。〔李商隱雜纂、相似〕京官似二冬瓜一、暗長。㊇そらんじる。諳（10－35736）に通ず。〔後漢書、應奉傳〕莫レ不二暗記一。㊈或は晻（5－14013）・闇（11－41421）・隌（11－41752）に作る。〔集韻〕暗、或从レ奄、通作レ闇。〔說文通訓定聲〕暗、經傳皆以レ闇爲レ之、字亦誤作レ隌。㊉姓。〔萬姓統譜〕暗、見二姓苑一。

【暗曖】1 アンアイ　くらいさま。〔張衡、思玄賦〕繽連翩兮紛暗曖、倏眩眃兮反二常閭一。〔注〕濟曰、紛暗曖、猶二恍忽閒一也。

【暗藹】2 アンアイ　うすぐらいさま。髣髴たるさま。又、衆くて盛なさま。〔揚雄、甘泉賦〕僾暗藹兮降二清壇一。〔注〕善曰、暗藹、衆盛也。〔漢書、揚雄傳上、注〕師古曰、暗藹、神之形影也。〔後漢書、張衡傳〕據二開陽一而頫眄兮、臨二舊鄉之暗藹一。

【暗暗】3 アンアン　㊀くらいさま。おくふかいさま。冥冥。〔揚雄、甘泉賦〕帷弸彋其拂汨兮、稍暗暗而靚深。〔注〕善曰、暗暗、深空貌。〔漢書、揚雄傳上、注〕師古曰、暗暗、幽隱貌。〔李商隱、菊詩〕暗暗淡淡紫、融融冶冶黃。㊁ひつそりとして靜かなさま。〔吳融、還俗尼詩〕空門付與悠悠夢、寶帳迎回暗暗春。

【暗暗然】4 アンアンゼン　暗いさま。暗くて。〔新書、修政語下〕君子既去二其職一、則其於レ民也、暗暗然如二日之已入一也、既去而暗暗者、民失二其敎一也。

【暗暗的】5 an^4 an^4 tə　ひそかに。內內で。

【暗暗裡】6 アンアンリ　知らず知らずのうちに。暗暗裏。

【暗暗裏】7 アンアンリ　それとなしに。人の知らぬうちに。

【暗欸】8 アンイ　なげく。〔廣韻〕欸、暗欸、歎也。

【暗牖】9 アンイウ　くらいまど。あかりのとれぬまど。〔薛道衡、樂府、昔昔鹽〕暗牖懸二蛛網一、空梁落二燕泥一。

【暗友】10 an^4 yu^3　秘密結社の仲間。

【暗雨】11 アンウ　暗がりに降る雨。〔韻府引、陳師道、詩〕暗雨來何急、寒房客自醒。

【暗雲】12 アンウン　眞黑な雲。不穩の形勢。黑雲。

【暗暈】13 アンウン　くらいかさ。〔王安石、秋夜詩〕殘燈生二暗暈一、重露集二寒條一。

【暗景】14 an^4 ching^3　赤外線影像。

【暗葉】15 アンエフ　古い葉。〔宋之問、經二梧州一詩〕青林換二暗葉一、紅蕊續二開花一。

【暗害】16 an^4 hai^4　暗殺する。

【暗海】17 アンカイ　海の名。〔拾遺記〕漢武帝詔二李少君一曰、朕思二李夫人一、其可レ得乎、少君曰、暗海有二潛英之石一、刻レ之爲二人像一、神悟不レ異二眞人一、乃至二暗海一、經二十年一得二此石一、卽命二工人一刻二作夫人形一、刻成置二於輕紗幕裏一、宛若二生時一。

【暗香】18 アンカウ　㊀どこからとなく來るかをり。暗にただよふ花の香。〔羊士諤、郡中卽事詩〕紅衣落盡暗香殘、葉上秋光白露寒。〔許渾、過二故友舊居一詩〕高竹動二疎翠一、早蓮飄二暗香一。〔元稹、三月二十四日宿二曾峰館一夜對二桐花一寄二樂天一詩〕夜久春恨多、風淸暗香薄。〔王安石、與二微之一同賦二梅花一得二香字一詩〕風亭把レ盞酬二孤豔一、雪徑回レ輿認二暗香一。〔紅樓夢、三十八回〕珍重暗香休二踏碎一。㊁陳郡の莊氏の女の名。琴に巧で、梅花曲を彈ずる每に暗香を發したといふ。又、其の琴を名づけて暗香といふ。〔瑯嬛記〕陳郡莊氏女好弄レ琴、有二琴一張一、名二駐電一、每レ弄二梅花曲一、聞者皆云レ有二暗香一、人遂稱レ女曰二莊暗香一、女更以二暗香一。㊂詞牌の名。〔詞譜〕暗香、宋姜夔自度レ曲、詠二梅花一作也、張炎以二此調一詠二荷花一、更名二紅情一。

【暗香蓊勃】19 アンカウヲウボツ　どこからともなく香が盛にただよつて來る。〔齋藤拙堂、月瀨紀勝〕暗香蓊勃襲レ人。

【暗香疎影】20 アンカウソエイ　どこからともなくくるかをりとまばらなかげ。姜夔の詞の名。轉じて、梅をいふ。〔姜夔、暗香序〕辛亥之冬、予載レ雪詣二石湖一、止既月、授レ簡索レ句、且徵二新聲一、作二此兩曲一、石湖把玩不レ已、使二工妓隸習一レ之、音節諧婉、乃名レ之曰二暗香疎影一。〔姜夔、暗香〕舊時月色、算幾番照二我梅邊一、吹笛喚起、玉人不レ管二清寒一、與攀摘何遜、而今漸老都忘卻、春風詞筆、但怪得竹外疎、花香冷入二瑤席一、江國正寂寂嘆、寄與路遙、夜雪初積、翠尊易レ泣、紅萼無レ言耿相憶、長記曾攜レ手處、千樹壓二西湖一寒碧又片片、吹盡也幾時見得。〔姜夔、疎影〕苔枝綴レ玉有二翠禽一小小枝上、同宿客裏相逢、籬角黃昏、無レ言自倚二脩竹一、昭君不レ慣二胡沙遠一、但暗憶二江南江北一、想二珮環一月夜歸來、化作二此花一幽獨、猶記深宮舊事、那人正睡裏、飛近レ蛾綠莫レ似、春風不レ管盈盈早、與安二排金屋一、還教二一片隨レ波去一、又却怨玉龍哀曲等、恁時重覓二幽香一、已入二小窓一橫幅。〔詞譜〕張肎自度レ曲、以二暗香調前段、疎影調後段一合而爲レ一、自注二夾鍾宮一、又按、姜夔暗香・疎影二曲入二仙呂宮一、此詞入二夾鍾宮一、雖三同屬二宮聲一、而聲之高下淸濁、畢竟不レ同。

【暗香浮動月黃昏】21 アンカウフドウツキクワウコン　梅花の香氣が何處からともなくにほひ來り、夕方の空に月が出てゐるといふこと。〔林逋、山園小梅詩〕衆芳搖落獨暄妍、占二盡風情一向二小園一、疎影橫斜水淸淺、暗香浮動月黃昏、霜禽欲レ下先偸レ眼、粉蝶如知合レ斷レ魂、幸有三微吟可二相狎一、不レ須二檀板共二金尊一。

【暗耗】22 アンカウ　ひそかにへらす。〔宋史、葛邲傳〕租稅有二定數一、而暗耗日增、折帛益多、民安得レ不レ窮乎。

【暗號】23 アンガウ　符牒で定めたあいづのしるし。〔堯山堂外紀〕蜀中類試主司多二私意一、與二士人一相約爲二暗號一。〔日本外史、足利氏後記、毛利氏〕元就令下諸將士人以二一條布一約レ袖、佩二一日糧一、約二暗號一、比レ暮上上船。

【暗號電報】24 アンガウデンパウ　符牒語で記した電信。

【暗合】25 アンガフ　無意識で爲したことが自然に合ふこと。詩歌などの甲者と乙者と期せずして同一に作つたものなどをもいふ。闇合。〔晉書、山濤傳〕與二盧欽一論二用兵之本一、以爲、不レ宜レ去二州郡武備一、其論甚精、于レ時咸以、濤不レ學二孫吳一、而暗與レ之合。〔陸機、文賦〕必所レ擬之不レ殊、乃暗二合乎曩篇一。〔李衛公問對、上〕孫吳暗合、卿實知レ言。

【暗合着】26 an^4 hê^2 chê　暗に。それとなしに。

【暗監】27 アンカン　くらい牢屋。黑獄。〔福惠全書、刑名部、監禁〕第四層最深邃者爲二暗監一。

【暗記】28 アンキ　そらでおぼえる。諳記。〔後漢書、應奉傳〕奉少聰明、自レ爲二童兒一及レ長、凡所二經履一、莫レ不二暗記一、讀レ書五行並下。

【暗鬼】29 アンキ　くらがりの鬼。實際には存しないが恐ろしく思はれるもの。妄想に起る恐れ。〔列子、說符、他日復見二其鄰人之子一云云、口義〕此章猶四諺言三疑心生二暗鬼一也。〔天台軌範〕心迷生二暗鬼一。

【暗喜】30 アンキ　人知れずよろこぶこと。〔韓偓、箇儂詩〕老大逢レ知少、襟懷暗喜多、因傾二一尊酒一、聊以慰二蹉跎一。

【暗窺】31 アンキ　ひそかにのぞき見る。〔白居易、代レ書詩一百韻、寄二微之一詩〕雲霄竊暗窺。

【暗器】32 アンキ　暗中で放射して人を傷つける武器。鏢・彈弓・袖箭・飛蝗石などの類。

【暗虛】33 アンキョ　月食の際の月の暗い部分をいふ。闇虛。〔隋書、律曆志下〕然月食、以下月行二虛道一、暗氣所上衝、日有二暗氣一、天有二虛道一、正黃道常與レ日對、如二鏡居一レ下、魄耀見レ陰、名曰二暗虛一、奄レ月則食。

【暗渠】34 アンキョ　地中を通るみぞ。地下溝。〔韻府引、梅堯臣、與二正仲屯田一遊二廣教寺一詩〕古寺入二深樹一、野泉鳴二暗渠一。

【暗蛬】35 アンキョウ　暗夜に鳴くこほろぎ。〔劉基、詩〕暗蛬寒蟬秋色老、丹楓紫菊夕陽斜。

【暗局】36 an^4 chü^2　竊に開いた賭場。

【暗愚】37 アング　事理に暗くおろかなこと。愚昧。闇愚に同じ。蒙昧。

【暗窟】38 アンクツ　いはや。岩窟。〔川田甕江、畫島鎌

倉遊記〕有二暗窟一焉、亦祀二辨財天一。

【暗化】39 アンクワ　それとなく化する。〔顏氏家訓、慕賢〕潛移暗化、自然似レ之。

【暗火】40 アンクワ　消えかかつた火。煽げば又燃える程度の殘り火。埋め火。伏火。〔白居易、郭虛舟相訪詩〕寒灰埋二暗火一、曉焰凝二殘燭一。

【暗花】41 アンクワ　㊀暗夜の花。〔梁簡文帝、夜遊二北園一詩〕暗花舒不レ覺、明波動見レ流。〔白居易、寒食夜詩〕無月無燈寒食夜、夜深猶立暗花前。㊁透し模樣。〔宋史、地理志二〕相州貢二暗花牡丹花紗一。

【暗光】42 an⁴ kuang¹　紫外線。

【暗換】43 アンクワン　人の知らない間にうつりかはる。人の知らない間にかへる。〔宋之問、經二梧州一詩〕青林暗換レ葉、紅藥續開レ花。〔白居易、答二尉遲少監水閣重宴一詩〕雞黍重回二千里駕一、林園暗換二四年春一。

【暗君】44 アンクン　おろかなきみ。暗愚な君主。明君の對。〔日本政記、伏見天皇論〕天之立レ君、爲レ民也、非レ爲レ君也、而暗君以爲レ己也。

【暗蜺】45 アンゲイ　うすくぼんやりとかかつた虹。蜺は霓。〔觀象玩占、總叙、虹〕明者爲レ虹、暗者爲レ蜺。

【暗激】46 アンゲキ　暗中で水がはげしくつきあたること。〔薛逢、上二中書李舍人一啓〕驚湍暗激、利觜潛傷。

【暗檄】47 アンゲキ　ひそかに告知する文書。檄は官府より發する木札の文書。〔蘇頲、奉二和馬常侍寺中之作一詩〕河嶽陰符啓、星辰暗檄傳。

【暗月】48 アンゲツ　もやなどがかかつて明かでない月。おぼろ月。〔蘇軾、石鼻城詩〕獨穿暗月朦朧裏、愁渡奔河蒼茫間。

【暗扣】49 an⁴ k'ou⁴　內內の割引。

【暗溝】50 アンコウ　外部に顯はれないで地下を通る溝。暗渠。

【暗黑】51 アンコク　まつくら。くらやみ。闇黑(11－41421‥16)に同じ。

〖暗黑面〗52 アンコクメン　社會または個人の外部に現れない惡い方の局面。公明正大でない方面。

〖暗黑時代〗53 アンコクジダイ　文物・道德の墮落した時代、又は戰亂の時代等をいふ。

【暗谷】54 アンコク　くらいたに。深くて暗い谷。〔江總、入二龍丘巖精舍一詩〕暗谷留二征鳥一、空林徹二夜鐘一。〔杜甫、奉二觀嚴鄭公廳事岷山沲江圖一詩〕暗谷非レ關レ雨、丹楓不レ爲レ霜。

〖暗谷非レ關レ雨〗55 アンコク アメニトザサルルニアラズ　谷の暗いのは雨の降るためでない。畫工の筆の巧な形容。〔杜甫、奉二觀嚴鄭公廳事岷山沲江圖一詩〕暗谷非レ關レ雨、丹楓不レ爲レ霜。

【暗恨】56 アンコン　人知れぬうらみ。〔白居易、琵琶行〕別有二幽愁暗恨生一、此時無レ聲勝レ有レ聲。

【暗鎖】57 an⁴ suo³　西洋風の戶につける錠前。盲錠。

【暗相】58 アンサウ　㊀其の顏を見ないで其の人を相すること。〔北史、齊神武帝紀〕神武獵二于沃野一、云云、澤中有二茅屋一、屋中乃有二一人一出、持二神武襟一甚急、其母兩目盲、曳レ杖呵二其二子一曰、何故觸二大家一、出二甕中酒一、烹レ羊以待レ客、因自言レ善二暗相一。㊁[佛]事物の表面にあらはれないすがた。〔楞嚴經〕佛告二阿難一、若在二暗時一不レ見二明相一、故名爲二不見一、今在二明時一不レ見二暗相一。

【暗想】59 an⁴ hsiang³　窃かに思ふ。

【暗藏】60 an⁴ ts'ang²　ひそかに隱す。隱匿する。

〖暗藏啞謎〗61 an⁴ ts'ang² ya³ mi²　それとなく謎をかける。

【暗索】62 アンサク　あてなくさがす。〔福惠全書、雜課部、雜徵餘論〕該胥不二敢暗索一。

【暗殺】63 アンサツ　人しれずころす。下手人の分らぬやうに殺す。やみうち。〔後漢書、宦者傳〕曹節王甫、暗二殺太后一。

【暗黲】64 アンサン　うすぐらい。又、うすぐろい。〔酉陽雜俎、肉攫部〕青斑唐、謂三斑上有二黑色一也、一變爲レ鶬、云云、臆前之色、仍常暗黲、此下色也。

【暗算】65 アンザン　㊀むなざん。算盤などを用ひないで心の中でかんぢやうする。暗數。〔杜荀鶴、旅寓詩〕暗算鄉程隔二數州一、欲レ歸無レ計淚空流。㊁陰謀する。窃かに謀る。密かに害する。暗殺する。〔長生殿、陷關〕終恐遭二其暗算一。

【暗指】66 an⁴ chih³　暗に。それとなく。

【暗示】67 アンジ　㊀それとなく示すこと。㊁心理學用語。㋑理窟や命令を含まない言語、またはその他の刺激によつて、或人が他の人に觀念・信念・決心・行動などを誘發すること。㋺或人が他の人の批判と統合との能力を奪つて、或行動を惹起させるために用ひる刺激。最も普通には言語。催眠術においては、言語は命令の形態をとる。

【暗事】68 an⁴ shih⁴　かけごと。

【暗收】69 an⁴ shou¹　ひそかに取る。

【暗室】70 アンシツ　㊀くらくて人の居らぬへや。〔梁書、武帝紀下〕性方正、雖レ居二小殿暗室一、恆理二衣冠一。㊁寫眞現像に使ふ光線の入らぬやうにした室。

〖不レ欺二暗室一〗71 アンシツヲアザムカズ　人の見てゐないところでも惡事をしない喩。不レ欺二闇室一(11－41421‥23)を見よ。〔駱賓王、螢火賦〕類二君子之有道一、入二暗室一而不レ欺。〔宋史、呂希哲傳〕其父常稱爲レ不レ欺二暗室一。

〖不レ侮二暗室一〗72 アンシツヲアナドラズ　人の見て居ない暗室でも侮らないで身を愼しむ。〔南史、阮長之傳〕爲二中書郎直省一、夜往二鄰省一、誤二著屐一出レ閤、依レ事自列二門下一、以二闇夜人不一レ知、不レ受レ列、長之因遣レ送曰、一生不レ侮二暗室一。

【暗疾】73 an⁴ chi²　持病。

【暗者】74 アンシヤ　愚か者。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕秀家雖レ少、非二暗者一也。

【暗射】75 アンセキ アンシヤ　㊀的なしに弓をいる。〔元好問、駈豬行〕孤犬無二猛噬一、長箭不二暗射一。㊁言ひあてる。明記してないことを中てる。〔近古史談、織篇、森蘭丸〕有下能暗二射鞘上欵數一者上、乃與二此刀一。

〖暗射地圖〗76 アンセキチヅ アンシヤチヅ　其の地の形勢のみを畫き、山川都市などの名稱を明記しない地圖。

【暗麝】77 アンシヤ　茉莉花の異名。もうりんくわ。〔格物叢話〕茉莉花、東坡目爲二暗麝一。

【暗唱】78 アンシヤウ　文字で記してあることをそらんじて述べいふこと。〔唐書、崔善爲傳〕善爲執レ板暗唱、無二一差謬一、素大驚。

【暗娼】79 an⁴ ch'ang¹　私娼。淫賣婦。

【暗將】80 アンシヤウ　おろかな大將。〔李衞公問對、下〕明將不レ法、暗將拘レ之。

【暗弱】81 アンジヤク　體よわく性おろかなこと。闇弱。〔蜀志、後主傳〕否德暗弱、竊貪二遺緒一。

【暗主】82 アンシユ　愚かな君主。闇主(11－41421‥31)に同じ。

【暗樹】83 アンジユ　くらい樹。夜の樹木。〔杜甫、夜詩〕暗樹依レ巖落、明河繞レ塞微。

【暗祝】84 アンシユク　心中に祈念する。〔韓偓、無題詩〕明言終未レ實、暗祝始應レ眞。

【暗筍】85 アンジユン　まだ土から出ないたけのこ。〔唐庚、雜詩〕翻レ泥逢二暗筍一、汲レ井得二飛梅一。

【暗處】86 アンシヨ　暗い處。影の方。

【暗誦】87 アンシヨウ　詩文などをそらおぼえでよむ。又、そらよみ。そらんじおぼえる。〔蜀志、楊洪傳、注〕祇悉已暗誦、答對解釋、無レ所二疑滯一。〔晉書、鳩摩羅什傳〕羅什多所二暗誦一、無レ不レ究二其義旨一。〔杜甫、可歎詩〕羣書萬卷常暗誦。

【暗證】88 アンシヨウ　なま悟りの意。禪僧が坐禪工夫の觀道のみをして教法を疎んじ、以て大悟せりとするを詰つていふ。〔徒然草〕文字の法師、暗證の禪師、互に推量りて、己れに若かずと思へる、共に當らず。

【暗色】89 アンシヨク　正色に較べて濃いか、或は暗い色。明色の對。

【暗刃】90 アンジン　かくし持つたやいば。

【暗水】91 アンスイ　暗中の水流。〔杜甫、夜宴二左氏莊一詩〕暗水流二花徑一、春星帶二草堂一。〔司空曙、送二曲山人之二衡州一詩〕茅洞玉聲流二暗水一、衡山碧色映二朝陽一。

【暗數】92 アンスウ　こころのうちでかぞへる。〔方回、春晚雜詩〕霏微小雨初晴處、暗數二青梅一立二樹陰一。

【暗礁】93 アンセウ　水面の下に隱れてゐる巖石。暗は見えぬ意。礁はかくれいは。〔訓蒙字會〕水底尖石、船行所レ忌、俗稱二暗礁一。〔臺灣紀略〕淡水城海中有二兩石一、雙起插レ天、謂二之旗竿石一、又有二圭礁與一、船遇レ之則碎。〔齋藤拙堂、下二岐蘇川一記〕有二暗礁一齧レ舟、砉然欲レ裂。

【暗笑】94 an⁴ hsiao⁴　ひそかに笑ふ。蔭で笑ふ。

【暗石】95 アンセキ　水の中にかくれてゐる石。〔入蜀記〕龍門水湍急多二暗石一。

【暗惜】96 アンセキ　人知れず惜しむこと。〔歐陽詹、春盤賦〕命闇可レ續、年知二暗惜一。

【暗磧】97 アンセキ くらやみのかはら。〔徐彥伯、胡無人行〕暗磧埋二沙樹一、衝飈卷二塞蓬一。

【暗設】98 an^4 shê^4 ひそかに設く。

【暗泉】99 アンセン 目に見えない泉。〔雍陶、韋處士郊居詩〕滿庭詩景飄二紅葉一、繞レ砌琴聲滴二暗泉一。

【暗線】100 アンセン スペクトル中にあらはれる暗黑な線。

【暗箭】101 アンセン かくれて人を傷つける矢。暗箭子を見よ。

【暗箭子】102 アンセンシ ひそかに人を中傷するもの。〔邵氏聞見後錄、三十〕客問二劉貢父一曰、某人有二隱過一否、中司將二鳴レ鼓而攻一レ之、貢父曰、中司自可レ鳴二鼓兒一、老夫難レ爲二暗箭子一。

【暗箭傷レ人】103 an^4 chien^4 shang^1 jen^2 密かに人を傷つける。窃かに人を中傷する。

【暗然】104 アンゼン くらい樣子をしてゐること。悲しくて心のふさぐさま。

【暗禪】105 アンゼン 禪僧が經文を疎かにするのを罵つた語。盲禪ともいふ。暗證(88)を見よ。〔止觀輔行〕暗禪多二增上慢一。

【暗疏】106 アンソ そらで書きうつす。〔唐書、虞世南傳〕暗二疏之一、無二一字謬一。

【暗懦】107 アンダ 愚かで懦弱なこと。

【暗體】108 アンタイ ❶漢詩の一體。詠物の詩で題目を用ひないもの。明體の對。❷自ら光を發せぬ物體。

【暗濤】109 アンタウ 暗く凄い波。〔謠曲、通盛〕暗濤月を埋んで淸光なし。

【暗探】110 アンタン 人に知られないやうにこつそりと探偵する。密偵すること。

【暗淡】111 アンタン ❶うすぐろくて鮮かでないさま。〔白居易、見二紫薇花一憶二微之一詩〕一叢暗淡將何比、淺碧籠レ裙襯二紫巾一。〔白居易、故衫詩〕暗淡緋衫稱二老身一、半披半曳出二朱門一。❷あさましくすさまじいさま。

【暗地】112 an^4 ti^4 窃かに。内々で。

【暗竹】113 アンチク 生ひ繁つたる竹。〔宋之問、春日鄭協律山亭陪レ宴餞二鄭卿一同用二樓字一詩〕暗竹侵二山徑一、垂柳拂二妓樓一。〔皇甫冉、河南鄭少尹城南亭送二鄭判官還二河東一詩〕泉聲喧二暗竹一、草色引二長堤一。

【暗築】114 アンチク 文字の書法の名。「〻」をいふ。〔翰林密論〕如二月・其字內之兩點一是。

【暗中】115 アンチュウ ❶くらやみのなか。暗中摸索(117)を見よ。❷ひそかに。人知れず。〔琵琶記、感格墳成〕暗中相護持。〔長生殿、權閧〕暗中包二藏計狡一。

【暗中飛躍】116 アンチュウヒヤク やみのなかでとびはねる。向ふ見ずの活動。人知れず活動する。暗躍。

【暗中摸索】117 アンチュウモサク ❶やみのなかで手さぐりに物をさがす。あて推量であてはめる。〔隋唐嘉話〕許敬宗性輕傲、見レ人多忘レ之、或謂二其不聰一、曰、卿自難レ記、若遇二何劉沈謝一、暗中摸索著、亦可レ識。〔朱子全書、易〕若在二今日一、則已不レ得二其法一、又不レ曉二其詞一、而暗中摸索、妄起二私意一。❷古人の語句等をわけもわからず引拔いて用ひること。〔元好問、論レ詩詩〕眼處心生句自神、暗中摸索總非レ眞、畫圖臨出秦川景、親到二長安一有二幾人一。

【暗中摸捉】118 アンチュウモサク くらやみの中を手さぐりする。暗中摸索に同じ。〔川田甕江、畫島鎌倉遊記〕暗中摸捉、頭觸足蹶。

【暗蟲】119 アンチュウ くらがりで鳴く蟲。〔白居易、聞レ蟲詩〕暗蟲喞喞夜綿綿、況是秋陰欲レ雨天。

【暗女】120 アンヂョ 私娼の一種。暗物。〔好色一代女、六〕暗女は晝の化物。

【暗通】121 アンツウ ❶ふかく理解する。〔韻府引、張九齡、詩〕至感潛達、靈心暗通。❷ひそかに連絡をとる。

【暗鳥】122 アンテウ やみに飛ぶ鳥。〔陳後主、晚宴二文思殿一詩〕螢光息復起、暗鳥去翻歸。

【暗潮】123 アンテウ ❶まだ表面にあらはれないしほのながれ。暗中の潮流。〔楊萬里、詩〕暗潮已到無二人會一、只有三篙師識二水痕一。❷表面にあらはれぬ勢力の起伏變化、及び衝突するをいふ。

【暗滴】124 アンテキ 夜の露。〔張繼、春夜皇甫冉宅對レ酒詩〕暗滴花垂レ淚、斜暉月過レ城。

【暗轉】125 アンテン ❶人の知らないうちに地位の進むこと。ひそかに運動して榮轉する。〔宋史、趙槩傳〕御藥院內臣、有下寄二資至二團練使一者上、謂二之暗轉一、槩請二明限以レ年、詔俟二出院一優二遷之一、毋レ得二累寄一。❷芝居用語。劇場の舞臺面を急に暗くして其の間に舞臺裝置を轉換すること。

【暗賭】126 an^4 tu^3 ひそかに賭博する。

【暗投】127 アントウ 暗中に物をおくこと。〔駱賓王、螢火賦〕均二火齊之宵映一、如二夜光之暗投一。〔高適、送二魏八一詩〕此路無二知己一、明珠莫二暗投一。

【暗燈】128 アントウ くらいともしび。〔元稹、酒醒詩〕暗燈風焰曉、春席水窓寒。

【暗竇】129 アントウ くらいあなぐら。〔唐書、羅弘信傳〕從周爲二暗竇一、每二克用兵至一、輒出二精卒一薄、戰必捷。

【暗鬭】130 アントウ 暗暗裏の鬭ひ。人に知れぬ内々の争ひ。

【暗同】131 アンドウ 期せずして一致する。〔世說新語、文學、庾子嵩讀二莊子一、注〕晉陽秋曰、今見レ之、正與二人意一暗同。〔南史、沈約傳〕帝然レ之、約出、召二范雲一告レ之、雲對略同二約旨一、帝曰、智者乃爾暗同。

【暗鈍】132 アンドン 道理に暗く事に鈍い。暗愚で遲鈍。〔魏武帝、陳二損益一表〕以二暗鈍之才一、而奉二明明之政一。〔雲笈七籤〕衆生暗鈍、直聞二聲教一、不レ能二解悟一。

【暗熱】133 an^4 jê^4 赤外線から生ずる熱。

【暗碼】134 an^4 ma^3 ❶暗號電報。❷商品の價格の符牒。

【暗砲】135 アンパウ 鐵砲で闇うちする。〔近古史談、織篇、光秀反形〕不レ免二於微卒之暗砲一。

【暗訪】136 an^4 fang^3 私かに調査する。内偵する。

【暗伯】137 アンパク 元、唐兀の人。諡は忠。世祖の時、乃顏を征するに從つて功あり。萬戶となる。諸王哈魯・駙馬禿綿答兒等叛するや、暗伯、身七創を被り、鏖戰愈〻力め、禿綿答兒を刺殺し、哈魯を生擒し、知樞密院事に累官す。〔元史、一百三十三〕・〔新元史、一百五十六〕。

【暗漠】138 アンバク 暗いこと。闇漠。〔楚辭、宋玉、九辯〕卒靡二蔽此浮雲一兮、下暗漠而無レ光。

【暗盤】139 アンバン 公開しない取引値段。

【暗謬】140 アンビウ 事理にくらくてあやまりの多いこと。〔宋史、河渠志二〕王孝先暗謬、望二別擇レ人。

【暗風】141 アンプウ くらやみを吹く風。〔元稹、聞三白樂天左二降江州司馬一詩〕垂死病中驚坐起、暗風吹レ雨入二寒窓一。

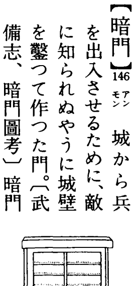
【暗壁】142 アンペキ くらい壁。〔崔塗、秋夕與二王處士一話レ別詩〕蟲聲移二暗壁一、月色動二寒條一。

【暗昧】143 アンマイ ❶おろかなこと。闇昧。晻昧。〔國語、鄭語〕今王棄二高明昭顯一、而好二讒慝暗昧一。〔漢書、五行志中之下〕暗昧蔽惑、則不レ能レ知二善惡一。〔漢書、王商傳〕天子以爲、暗昧之過、不レ足三以傷二大臣一。〔論衡、累害〕罪過有二累積一不レ除、聲名有二暗昧一不レ明。〔魏志、高貴鄕公髦紀〕吾以二暗昧一、愛二好文雅一。❷眞僞があきらかでない。あいまい。〔論衡、謝短〕上古久遠、其事暗昧、故經不レ載、而師不レ說也。❸an^4 mei^4 うしろぐらい。不正。

【暗埋】144 アンマイ 塵埃等で物が黑くなるまでうづもること。〔元稹、陪二諸公一游二故江西韋大夫舊居一云云詩〕塵壁暗埋悲二舊札一、風簾吹斷落二殘珠一。

【暗冥】145 アンメイ やみ。くらがり。冥暗。〔揚雄、羽獵賦〕漢女水潛、怪物暗冥、不レ可二殫形一。

【暗門】146 アンモン 城から兵を出入させるために、敵に知られぬやうに城壁を鑿つて作つた門。〔武備志、暗門圖考〕暗門更二於兵一、出入便處、潛鑿レ城爲レ門、外存二尺餘一勿レ透、以備二出レ兵襲レ敵、其制高七尺闊六尺、內施二排沙一、柱上施二橫木一、搭頭下施レ門、門闔、常俟レ敵開出。



暗門（武備志）

【暗門子】146′ an^4 men^2 tzŭ 淫賣宿。

【暗夜】147 アンヤ くらいよる。やみよ。闇夜。〔呂覽、精諭〕桓公雖レ不レ言、若二暗夜而燭燎一也。〔宋書、謝純傳〕兵敗衆散、時已暗夜。

【暗喩】148 アンユ 比喩法の一。事物を說明するときに、如し・似たり等の語を用ひずに直ちに其の物と斷定する比喩法。海山の恩の類。隱喩。

【暗廊】149 アンラウ くらい廊下。〔元稹、夜坐詩〕古城樓影橫二空館一、濕地蟲聲遶二暗廊一。

【暗流】150 アンリウ ❶夜流れる水。〔王勃、焦岸早行和二陸四一詩〕複嶂迷二晴色一、虛巖辨二暗流一。〔杜牧、猿詩〕月白煙靑水暗流。❷表面にあらはれぬ推移の機運。

【暗涙】151 アンルイ 人しれぬなみだ。忍んで泣く涙。袖に包む涙。〔賈島、秋暮詩〕白鬚相並出、暗涙兩行分。

【暗纍】152 アンルイ 煩悶を深くする。〔揚雄、反離騷〕紛纍以二其淟涊一兮、暗纍以二其繽紛一。

【暗令】153 アンレイ あいことば。符諜語。〔武備要略〕若近レ賊處欲レ行二暗令一、聽三中軍傳二遞一人一。〔紀效新書〕即是要レ行二暗令一。

【暗令子】154 an⁴ ling⁴ tzŭ 合圖。

【暗劣】155 アンレツ 事にくらくをろかなこと。闇劣。〔國史略、後光嚴天皇〕楠正成嘗評曰、尊氏庸愚不レ知二兵道一、暗劣不レ思二名義一、量不レ及二賴朝一、姦亦不レ如二賴朝一也。

【暗話】156 an⁴ hua⁴ 符牒語。あひことば。

【暗含着】157 an⁴ han² chê 暗に。それとなしに。

【暗劍殺】158 アンケンサツ 陰陽家の語。九星の最凶の方位。之を犯せば生命を失ふといふ。〔方鑑類要、附錄、暗劍殺大凶方之說〕。

【暗之中】159 an⁴ chih¹ chung¹ ひそかに。内々で。

【暗部屋】160 クラベヤ 禁中の局の稱。食部屋。〔權記〕長保二年八月二十日、退出之間、女御母氏在二暗戶屋曹司一、欲三纏二頭於予一。

【暗面子】161 an⁴ mien⁴ tzŭ 淫賣婦。

【暗路兒】162 an⁴ lu⁴ êrh 私通する。

【暗移默從】163 アンイモクジユウ 知らず知らずの間に移り從ひゆく。

【暗邀二人心一】164 アンニジンシンヲムカフ 人民の意をむかへて民心を己にひきよせる。〔六部成語、吏部、暗邀二人心一、注解〕爲レ官之道、辦レ事只求二公正一而已、不レ避二嫌怨一、若不レ顧二國法一、只求三民人心中喜二歡我一、謂三之暗邀二人心一。

【暗車汽船】165 an⁴ ch'ê¹ ch'i⁴ ch'uan² 推進機を裝置した汽船。

【暗裡算計】166 an⁴ li³ suan⁴ chi⁴ 暗打。〔紅樓夢、二十五回〕暗裡也就算計了。

【如二暗得一レ燈】167 アンニトウヲウルガゴトシ ㊀佛教の大法を喩へて燈とし、燈が暗夜に能く人を進ませるやうに佛法は能く人をして彼岸に渡らしめるをいふ。〔妙法蓮華經、藥王品〕如二暗得一レ燈、如二貧得一レ寶。

㊁一般に困却し切つた時、或る據り處を得た場合に用ひる。

【暗移二春色一上二花枝一】168 アンニシユンシヨクヲウツシテクワシニノボス 花木の枝はいつの間にやら春めいて、蕾もふくらんで來た。〔胡儼、被レ詔直二內閣一卽事詩〕浩湯東風雨散レ絲、暗移二春色一上二花枝一、雲陰半捲龍樓曉、正是詞臣退直時。

【暘】14066

ヤウ 〔集韻〕余章切 陽 一尢 yang²

小篆

㊀ひので。〔說文〕暘、日出也、从レ日昜聲、虞書曰、曰二暘谷一。〔段注〕各本少二一曰字一、今補、虞書當レ作二唐書一云云、此古文尙書堯典文也。㊁あきらか。〔書、堯典〕曰二暘谷一。〔傳〕暘、明也。㊂はれる。はれ。〔書、洪範〕曰雨、曰暘。〔傳〕暘以乾レ物。〔論衡、寒溫〕天晏暘者、星辰曉爛。㊃ひる。日中。〔禮、祭義、殷人祭二其陽一、注〕陽、讀爲二曰雨曰暘之暘一、謂二日中時一也。㊄かわく。かわかす。〔玉篇〕暘、日乾レ物也。㊅陽(11－41725)に通ず。〔書、洪範〕恒暘若。〔漢書、五行志中之上〕恒陽若。㊆湯(7－17874)に通ず。〔史記、五帝紀〕曰二暘谷一。〔注〕索隱曰、暘谷、舊本作二湯谷一。㊇昜(5－13832)に同じ。〔說文通訓定聲〕暘、按、此實昜字之別體。

参考 暘(5－14009)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕暘、音釋、日無レ光。暘音陽、日出暘谷、又日氣。

【暘夷】1 ヤウイ 鎧の名。〔左思、吳都賦〕干鹵殳鋋、暘夷勃盧之旅。〔注〕劉曰、越絕書曰、越王身披二暘夷之甲一、拔二勃盧之矛一。

【暘烏】2 ヤウウ 日の異名。陽烏。〔韓愈、訟二風伯一文〕暘烏之仁兮、念二此下民一、閟二其光一兮、不レ鬬二其神一。

【暘谷】3 ヤウコク ㊀むかし、東のはてに日の出る所があると想像した處の稱。〔書、堯典〕分命二羲仲一、宅二嵎夷一、曰二暘谷一、寅賓二出日一、平二秩東作一。〔傳〕宅、居也、東表之地稱二嵎夷一、暘、明也、日出二於谷一、而天下明、故稱二暘谷一、暘谷嵎夷一也。〔釋文〕暘谷、海嵎夷之地名。〔疏〕日所レ出處、名曰二暘明之谷一。〔王先謙孔傳參正〕曰二暘谷一、一作レ曰二崵谷一、一作レ曰二湯谷一、曰二暘谷一者、段云、說文暘下云、日出也、虞書曰、曰二暘谷一、許引二古文一也、一作レ曰二崵谷一者、說文崵下云、一曰二嵎銕崵谷一也、段云、許引二今文一也、一作レ曰二湯谷一者、索隱云、史記舊本作二湯谷一、淮南子曰、日出二湯谷一、浴二於咸池一、楚詞天問、出レ自二湯谷一、王逸注言、日出二東方湯谷之中一、皆作レ湯、與二史記一同。〔淮南子、墬形訓〕暘谷榑桑在二東方一。〔淮南子、說林訓〕日出二暘谷一、入二于虞淵一。〔張衡、東京賦〕左瞰二暘谷一、右睨二玄圃一。㊁字號。㋑明、董旭兆(9－31433‥19)の號。㋺清、許嵎(10－35298‥55)の字。㋩渡邊彝の號。渡邊暘谷(7－17765‥56)を見よ。

【暘谷先生】4 ヤウコクセンセイ 元、陳士元(11－41698‥888)の號。

【暘燥】5 ヤウサウ 日照りで乾燥すること。〔魏志、管輅傳〕輅曰、今夕當レ雨、是日暘燥、晝無二形似一。

【暘叔】6 ヤウシユク 宋、陳升之(11－41698‥1012)の字。

【晔】14067

カン 〔集韻〕居案切 翰

くれる。旰(5－13751)に同じ。〔集韻〕旰、說文、晚也、或作レ晔。

【𣅀】14068

シユウ 終(8－27372)の古字。〔集韻〕終、古作レ𣅀。

【曾】14069

ルイ 類(12－43636)に同じ。〔韻會小補〕曾、與レ類同。

【睺】14070

コウ 〔字彙補〕何樓切 尤 ㄏㄡˊ hou²

グ 羅睺は、星宿の名。又、人名。〔字彙補〕睺、月之交首尾曰二羅睺一、又人名、隋將二周羅睺一、封二義寧郡公一。

【暙】14071

シユン 〔字彙補〕樞倫切 眞

人名。〔字彙補〕暙、人名、元世祖至元十七年、高麗王暙來朝。

【景】14072

ケイ 〔川篇〕音境

日の色。〔川篇〕景、日色也。

【𣇶】14073

キウ 〔康熙字典〕音救

馬二百六十頭の稱。〔康熙字典〕𣇶、集韻、𣇶、二百六十疋馬也。

参考 康熙字典補遺に從ふ。集韻は𣇶に作る。

【畱】14074

コン 昏(5－13806)に同じ。〔搜眞玉鏡〕畱、同レ昏。

【睼】14075

テイ 義未詳。〔龍龕手鑑〕睼、音體。

【𣇵】14076

ソク 則(2－1994)に同じ。〔龍龕手鑑〕𣇵、舊藏作二則字一。

【暁】14077 ゲウ 曉(5-14176)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕曉、目連記作レ暁。

十畫

【暚】14078 エウ 〔集韻〕餘招切 蕭

❶日の光。〔玉篇〕暚、日光也。❷あきらか。〔集韻〕暚、明也。

【⿰日隺】14079 クワク 〔集韻〕忽郭切 藥

しばらくあきらか。〔集韻〕⿰日隺、暫明也。

【暛】14080 サ 〔集韻〕想可切 哿

あきらか。〔玉篇〕暛、明朗也。

【⿰日巠】14081 キフ コフ 〔集韻〕乞及切 緝

さらす。曝(5-14219)に同じ。〔集韻〕曝、曝也、或作レ⿰日巠。

【暜】14082 フ

普(5-13982)の本字。〔康熙字典〕說文、普、作レ暜。

【暝】14083 ㊀メイ ミヤウ 〔集韻〕忙經切 ㄇㄧㄥˊ ming^{2} 靑　㊁メイ ミヤウ 〔集韻〕莫定切 ㄇㄧㄥˋ ming^{4} 徑

㊀❶くらい。かすか。冥(2-1588)に同じ。〔集韻〕冥、說文、幽也、日數十六日而月始虧、幽也、亦姓、或从レ日。〔李華、台州乾元國淸寺碑〕杉栝晝暝。〔盧照鄰、葭川獨泛〕山暝行人斷。❷くれる。日がしづむ。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕晻晻日欲レ暝。❸ひろい。〔廣雅、釋詁二〕暝、廣也。❹姓。〔類篇〕暝、姓。㊁くれ。ひぐれ。又、よる。〔廣韻〕暝、夕也。〔玉篇〕暝、夜也。〔許敬宗、宴二懸圃一詩〕待レ暝合二神光一。

参考 冥(2-1588)を併せ見よ。

【暝煙】1（メイエン） 戰亂をいふ。暗煙。〔桃花扇、沈江〕仰レ天讀罷招魂賦、揚子江頭亂二暝煙一。

【暝槿】2（メイキン） 夕方のむくげ。花の散りかかつてゐるむくげ。〔白居易、偶詠詩〕暝槿無レ風落、秋蟲欲レ雨鳴。

【暝鐘】3（メイシヨウ） ひぐれのかね。〔賈島、送三可久歸二越中一詩〕石頭城下泊、北固暝鐘初。

【暝色】4（メイシヨク） 晚の景色。〔謝靈運、石壁精舍還二湖中一詩〕林壑斂二暝色一、雲霞收二夕霏一。

【暝雪】5（メイセツ） 夜半の雪。〔方干、滁上懷二周賀一詩〕暝雪細聲積、晨鐘寒韻疎。

【暝天】6（メイテン） 暗い夜の空。〔伍喬、晚秋溪上詩〕倒レ尊盡日忘二歸處一、山磬數聲敲二暝天一。

【暝途】7（メイト） くらい道。〔杜甫、行次二昭陵一詩〕松柏瞻二虛殿一、塵沙立二暝途一。

【暝投】8（メイトウ） 晚になつてやどる。〔李白、淮陰書レ懷寄二王宗城一詩〕暝投淮陰宿、欣得漂母迎。

【暝帆】9（メイハン） 遠方にくらく見える舟のほ。晚帆。〔孟浩然、下二灨石一詩〕暝帆何處宿、遙指落星灣。

【暝暝】10（メイメイ） さびしいさま。〔劉孝綽、春宵詩〕誰能對二雙燕一、暝暝守二空牀一。

【暞】14084 サウ ソウ 〔集韻〕蘇遭切 豪

日の色。〔集韻〕暞、日色。

【⿰日尃】14085 ハク 〔集韻〕伯各切 藥

❶さらす。〔集韻〕⿰日尃、暴也。❷曝(5-14239)に同じ。〔字彙〕⿰日尃、同レ曝。❸或は曓(5-14259)に作る。〔集韻〕⿰日尃、或作レ曓。

【⿰日臬】14086 ㊀ケウ ㊁カウ 〔集韻〕吉了切 篠

㊀❶あきらか。曒(5-14200)に同じ。〔玉篇〕曒、明也、⿰日臬、同レ上。❷はつきり別れるさま。〔類篇〕⿰日臬、淸別貌。㊁皡(5-14101)の譌字。〔正字通〕⿰日臬、皡字之譌。

【⿰日𥁕】14087 ヲン 〔集韻〕烏昆切 元

あたたかい。俗に⿰日昷(5-14061)に作る。〔集韻〕⿰日𥁕、日出而溫。〔正字通〕⿰日𥁕、俗⿰日昷字。

【暟】14088 ㊀カイ 〔集韻〕可亥切 賄　㊁カイ 〔集韻〕丘哀切 灰

㊀❶てらす。〔方言、十二〕暟臨、照也。〔疏證〕照、各本訛作レ昭。〔玉篇〕暟、昭也。❷うつくしい。〔方言、十三、注〕暟暟、美德也。〔玉篇〕暟、美也。㊁てらす。〔集韻〕暟、照也。

【暠】14089 カウ コウ 〔集韻〕古老切 ㄍㄠˇ kao^{3} 晧

❶あきらかに白いさま。〔集韻〕暠、明白皃。❷顥(12-43682)・皓(8-22732)・皜(8-22769)・皞(8-22787)に同じ。〔集韻〕顥、說文、白皃、或作二皓・皜・皞・暠一。❸翯(9-28778)に通ず。暠然(2)を見よ。

【暠暠】1（カウカウ） 白いさま。〔江淹、思二北歸一賦〕上暠暠以臨レ月、下淫淫而愁レ雨。

【暠然】2（カウゼン） 白くて鮮やかなさま。白髮のさま。〔漢書、司馬相如傳下、大人賦〕吾乃今日覩二西王母一、暠然白首、戴勝而穴處兮、亦幸有二三足烏一、爲二之使一。〔注〕張揖曰、蓬髮暠然白首、師古曰、暠、音工老反、字或作レ翯、音學。

【⿰日桑】14090 サウ 〔集韻〕四浪切 漾

眼⿰日桑は、かわかす。ほす。〔集韻〕⿰日桑、眼⿰日桑、暴㬥也。

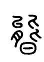
【暅】14091 ケン

晅(5-13893)の俗字。〔正字通〕暅、俗晅字。

【⿰日盍】14092 アウ 〔集韻〕於浪切 漾

くもる。日に光がない。〔集韻〕⿰日盍、⿰日盍⿱能日、日無レ光也。

【⿱能日】14093 ㊀ダイ ナイ 〔集韻〕乃代切 隊　㊁ダイ ナイ 〔集韻〕曩亥切 賄　㊂ダイ ナイ 〔集韻〕乃帶切 泰　㊃ドク ノク 〔集韻〕匿德切 職



小篆

㊀㊁㊂㊃くもる。日に光がない。〔說文〕⿱能日、埃⿱能日、日無レ光也、从レ

日能聲。〔段注〕埃曀、猶㆓靉靆㆒也、通俗文、雲覆㆑日、謂㆓之靉靆㆒。

【暡】14094 ヲウ ヲ 〔集韻〕鄔孔切 董

㊀**くもる**。〔玉篇〕暡、天氣不㆑明也。〔集韻〕暡、暡曚、日未㆑明。㊁雲氣の盛なさま。〔廣韻〕暡、氣盛皃。

【暡靉】1 ヲウアイ 薄暗いこと。〔寒山、詩〕獨臥㆓重巖下㆒、蒸雲晝不㆑消、室中雖㆓暡靉㆒、心裏絕㆓喧囂㆒。

【暢】14095 チヤウ 〔集韻〕丑亮切 漾 ㄔㄤˋ ch'ang^4

㊀**のびる**。のべる。〔宋玉、神女賦〕不㆑可㆓盡暢㆒。〔注〕善曰、暢、申也。〔淮南子、人閒訓〕故交畫不㆑暢。〔注〕暢、申也。〔張衡、西京賦〕美聲暢㆓於虞氏㆒。〔注〕善曰、暢、條暢也。㊁**やはらぐ**。〔晉書、簡文帝紀〕神識恬暢。㊂**のばす**。しく。〔孔安國、尙書序〕約㆑文申㆑義、敷㆓暢厥旨㆒。㊃**とほる**。とどく。とほす。〔史記、樂書〕四暢交㆓於中㆒。〔注〕正義曰、暢、通也。㊄**ゆきわたる**。〔漢書、司馬相如傳下〕暢㆓九垓㆒。〔注〕服虔曰、暢、達也。㊅**みちる**。〔禮、月令〕命㆑之曰㆓暢月㆒。〔注〕暢、猶㆑充也。㊆**ながい**。〔類篇〕暢、長也。〔詩、秦風、小戎〕文茵暢轂。〔傳〕暢轂、長轂也。㊇**琴曲の名**。〔風俗通、聲音〕其道行、和樂而作者、命㆓其曲㆒曰㆑暢、暢者言㆓其道之美暢㆒。㊈**祭に用ひる酒**。鬯(**12**-**45661**)に通ず。〔集韻〕暢、長也、通也、通作㆑鬯。〔大戴禮、夏小正、初歲祭㆑耒、傳〕暢也者、終歲之用祭也。〔補注〕暢、鬱鬯也。〔孟子、離婁上、祼㆓將于京㆒、注、執㆓祼鬯之禮㆒、校勘記〕鬯、閩・監・毛三本同、廖本・孔本・韓本作㆑暢、案、古鬯・暢通用。㊉**姓**。〔尙友錄〕暢、陳留風俗傳有㆓暢氏㆒、望出㆓魏郡㆒。

名乘 マサ。ノブ。ナガ。カド。

【暢菴】1 チヤウアン 清、曹耀珩(**5**-**14297**‥202)の號。

【暢飮】2 チヤウイン 愉快に酒を飮む。〔耶律楚材、和㆔黃華老人題㆓獻陵吳氏成趣園㆒詩〕悠然把㆑菊見㆓南山㆒、暢㆓飮東籬㆒醉㆓重九㆒。

【暢鬱】3 チヤウウツ のびしげる。〔許讚、華山賦〕故月無㆓棼次㆒、日無㆓逆行㆒、雲無㆓妄發㆒、雨無㆓妄晴㆒、禾稼不㆑得㆓過㆑時而暢鬱㆒、草木不㆑得㆓蘙㆑候而姸英㆒。

【暢運】4 チヤウウン 大いに運送する。自由に運送する。

【暢園】5 チヤウエン 岡田宜生の號。岡田新川(**4**-**7962**‥55)を見よ。

【暢行】6 ch'ang^4 hsing^2 暢消(25)に同じ。

【暢亨】7 チヤウカウ 明、河津の人。字は文通。成化の進士。官は御史・浙江巡按。惠政があつた。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百四十六〕・〔明史稿、一百六十九〕。

【暢洽】8 チヤウカフ 普ねく物にゆきわたる。〔薛道衡、隋高祖文皇帝頌序〕玄功暢洽、不㆑局㆓于形器㆒。

【暢氣】9 ノンキ 心配の無いこと。又、無頓著なこと。暖氣。呑氣。

【暢臼】10 チヤウキウ 鬯をつく臼。暢は鬯の借字。鬯は一種の香草で、之を黑黍に合はせ釀して宗廟に奉ずる酒を造る。〔禮、雜記上〕暢臼以㆑椈、杵以㆑梧。〔疏〕臼以㆑椈、杵以㆑梧者、謂㆓擣㆑鬯所㆒㆑用也。〔校勘記〕鬯・暢、古通用、爾雅注引㆓此文㆒正作㆑鬯。

【暢華】11 チヤウクワ 明、隴西の人。字は子實。正德の進士。岢嵐の賊を平らげて功あり。官は廣東僉事。〔國朝獻徵錄、九十七〕・〔本朝分省人物攷、一百五〕。

【暢快】12 ch'ang^4 k'uai^4 喜ばしい。愉快な。樂しい。

【暢懷】13 ch'ang^4 huai^2 喜ばしい。心がのんびりする。伸懷。

【暢外】14 チヤウグワイ 養生の一。常に手で肌膚を摩擦して温かにし、冷氣を取り除く法。〔天隱子、齋戒〕手常摩擦、皮膚溫熱、熨㆓去冷氣㆒、此所謂暢外也。

【暢教】15 チヤウケウ 教をしきひろげる。〔皮日休、文中子碑〕大道不㆑明、天地淪㆑精、俟㆓聖暢㆑教、乃出㆓先生㆒。

【暢月】16 チヤウゲツ 陰曆十一月の異名。暢は充實の義。此の月は萬物充實して發動せぬからいふ。〔禮、月令〕仲冬之月、云云、命㆑之曰㆓暢月㆒。〔注〕暢、猶㆑充也。〔疏〕此月爲㆓充實之月㆒、當㆑使㆔萬物充實、不㆓發動㆒故也。〔孫希旦集解〕暢、達也、時當㆓閉藏㆒而暢㆓達之㆒、故命㆑之曰㆓暢月㆒、言㆔其逆㆓天時㆒也。

【暢愜】17 チヤウケフ のびのびして心よい。〔李商隱、爲㆓滎陽公㆒與㆓浙東大夫㆒啓〕遐㆓想風姿㆒、無㆑不㆓暢愜㆒。

【暢見】18 チヤウケン ㊀のびあらはれる。〔論衡、恢國〕光氣暢見、呂后輒知、始皇望㆓見東南㆒、有㆓天子氣㆒。㊁のんびりと見ること。〔朴趾源、象記〕欲㆘俟㆓日出㆒暢㆗見之㆖。

【暢轂】19 チヤウコク 長い轂。兵車をいふ。〔詩、秦風、小戎〕文茵暢轂、駕㆓我騏馵㆒。〔傳〕暢轂、長轂也。〔疏〕暢訓爲㆑長、故爲㆓長轂㆒、言㆑長㆓於大車之轂㆒也。〔集傳〕大車之轂、一尺有半、兵車之轂、長三尺二寸、故兵車曰㆓暢轂㆒。〔王融、三月三日曲水詩序〕暢轂埋㆓轔轔之轍㆒、緌旌卷㆓悠悠之旆㆒。〔注〕良曰、暢、長也、長轂、兵車也。

【暢璀】20 チヤウサイ 唐、河東の人。官は諫議大夫・戶部尙書。〔舊唐書、一百十一〕。

【暢草】21 チヤウサウ 香がのびとほる一種の草。〔論衡、異虛〕周之時、天下太平、人來獻㆓暢草㆒、暢草亦草野之物也、與㆓彼桑穀㆒何異。

【暢操】22 チヤウサウ 琴曲の名。和樂して作るものを暢といひ、憂愁に因つて作るものを操といふ。〔風俗通、聲音、琴〕其道行和樂而作者、命㆓其曲㆒曰㆑暢、暢者、言㆜其道之美暢、猶不㆓敢自安㆒、不㆑驕不㆑溢、好㆑禮不㆛以暢㆚其意㆙也、其遇㆓閉塞憂愁㆒而作者、命㆓其曲㆒曰㆑操、操者、言㆘遇㆑菑遭㆑害、困厄窮迫、雖㆓怨恨失意㆒、猶守㆓禮義㆒、不㆑懼不㆑懾、道而不㆑失㆓其操㆒者㆖也。

【暢敍】23 チヤウジヨ のべあらはす。ゆるゆる話す。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕雖㆑無㆓絲竹管絃之盛㆒、一觴一詠、亦足㆔以暢㆓敍幽情㆒。

【暢遂】24 チヤウスイ 草木がのび長じて其の發育の性を遂げる。〔唐無名氏、律呂相召賦〕草木以㆑之而暢遂、乾坤於㆑焉而交接。

【暢消】25 ch'ang^4 hsiao^1 商品の賣行の良いこと。暢行。暢銷。

【暢銷】26 ch'ang^4 hsiao^1 暢消に同じ。

【暢宣】27 チヤウセン 明の人。官は泰安縣知。性至孝。〔明史、二百八十二〕。

【暢然】28 チヤウゼン 氣がのびのびするさま。喜ぶさま。〔莊子、則陽〕舊國舊都、望㆑之暢然、雖㆑使㆓丘陵草木之緡、入㆑之者十九㆒、猶之暢然、況見㆑見聞㆑聞者也。〔釋文〕暢然、喜悅貌。

【暢泰】29 チヤウタイ のびのびしてやすらか。〔顧夐、袁氏傳〕子之窮愁、我使㆓暢泰㆒、不㆑顧㆓恩德㆒、遂興㆓非爲㆒。

【暢滯】30 ch'ang^4 chih^4 膨脹と收縮。

【暢當】31 チヤウタウ 唐の人。璀の子。進士。官は貞元の初、太常博士。後、果州刺史。〔唐書、二百〕。

【暢達】32 チヤウタツ のび長ずる。流暢で行き屆いてゐること。伸長發達。文章などにも用ひる。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕今大王雖㆑在㆓危困之際㆒、孰知㆔其非㆓暢達之兆㆒哉。〔符載、謝㆓李巽常侍㆒書〕閣下道極㆓上才之美㆒、政布㆓中和之化㆒、凡在㆓草木㆒尙獲㆓暢達㆒、區區鄙懷、冀見㆓察納㆒。〔宋濂、送㆓東陽馬生㆒序〕撰㆓長書㆒以爲㆑贄、辭甚暢達。

【暢膽】33 ch'ang^4 tan^3 剛膽な。無遠慮な。

【暢暢】34 チヤウチヤウ 和らぎ樂しむさま。〔晉書、樂志下〕暢暢飛舞氣流芳、追念三五大綺黃。

【暢通】35 チヤウツウ 行きわたる。通暢。〔史記、樂書〕四暢交㆓於中㆒。〔注〕正義曰、暢、通也。

【暢適】36 チヤウテキ 心がのびやかにたのしむ。〔陸游、居室記〕讀書取㆔暢㆓適性靈㆒、不㆓必終㆑卷。

【暢美】37 チヤウビ のびのびと美しい。〔馮衍、顯志賦〕光扈扈而煬燿兮、紛郁郁而暢美。

【暢茂】38 チヤウモ ㊀草木がのびしげる。茂暢。〔孟子、滕文公上〕草木暢茂、禽獸繁殖。〔集注〕暢茂、長盛也。〔史記、封禪書〕草木暢茂、殷得㆓金德㆒。

〔漢書、武帝紀〕朕聞天地不レ變、不レ成レ施レ化、陰陽不レ變、物不二暢茂一。㊁ch'ang^4 mao^4 繁昌する。

【暢陽】39（チヤウヤウ） 氣持のよい時候。春陽。

【暢樂】40（チヤウラク） 心がのびやかで樂しい。

【暢聆】41 ch'ang^4 ling^2 愉快に聞く。

【暢聆雅教】42 ch'ang^4 ling^2 ya^3 chiao^4 書翰文などに用ひる句。御高教拜聽の意。

【暢旺】43 ch'ang^4 wang^4 さかん。旺盛な。繁昌する。

【暢師房】44（チヤウシバウ） 唐の白樂天の寓した家の名。〔白居易、香山避暑詩〕六月灘聲如二猛雨一、香山樓北暢師房、夜深起凭二欄干一立、滿耳潺湲滿面涼。

【暢師文】45（チヤウシブン） 元、南陽の人。字は純甫。諡は文肅。許衡の弟子。官は延祐の初、翰林學士。爵は魏郡公。著に農桑輯要がある。〔元史、一百七十〕・〔宋元學案、九十〕。

【暢春園】46（チヤウシユンエン） 園の名。清、聖祖・高宗駐蹕の地。北京西直門外の海淀に在る。〔畿輔通志〕暢春園、在二府西北一、卽海淀、明武清侯李氏園、景物略、高粱橋西北十里、平地出二泉四一、去レ北曰二北海淀一、南曰二南海淀一、或曰二巴溝水一也、水田龜坼、溝塍冊冊、遠樹綠以青青、遠風無レ聞而有レ色、巴溝自二青龍橋一東南入二於淀一、淀南五里曰二丹陵沜一、沜南陂者六、達二白石橋一、與二高粱水一併レ沜而西、廣可レ舟矣、武清侯李氏園レ之、方十里、正中挹海堂、堂北亭置二清雅二字一、明肅太后手書也。

【暢大隱】47（チヤウタイイン） 宋、洛陽の人。字は潛道。程頤の弟子。〔宋元學案、三十〕。

【暣】14096 ケキ 〔集韻〕丘既切 未

㊀**日の氣**。⿰日乞(**5**－**13810**)の俗字。〔集韻〕暣、日氣也、古作レ⿰日乞。〔正字通〕暣、俗⿰日乞字。㊁**姓**。〔萬姓統譜〕暣、古氣字、見二纂要一。

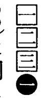
【倝】14097 カン 〔集韻〕居案切 翰

かわく。かわかす。〔類篇〕倝、乾也。

【⿰日𦍌】14098 ㈠ヤウ 〔集韻〕余章切 陽 ㈡シヤウ ザウ 〔集韻〕徐羊切 陽

㈠㈡㊀**あきらか**。或は⿰日羊(**5**－**14111**)に作る。〔集韻〕⿰日𦍌、明也、或从レ羊。㊁**こがす**。〔玉篇〕⿰日𦍌、焦也。

【㬎】14099 ㈠ケン 〔集韻〕呼典切 銑 ㈡ガフ ゴフ 〔集韻〕鄂合切 合 ㈢キン ゴン 〔集韻〕渠飮切 寑


小篆

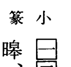
㈠㈡㈢㊀**あきらか**。顯(**12**－**43726**)に同じ。〔說文〕㬎、衆微杪也、从二日中視一レ絲、古文㠯爲二顯字一。〔段注〕㬎者本義、顯者叚借、載籍既皆作レ顯、乃謂三古文作レ㬎爲二叚借一矣、故曰、古文以爲二顯字一。〔廣韻〕㬎、明也。〔類篇〕㬎、著也、光也。㊁**かまびすしい**。品(**2**－**3975**)に通ず。〔說文通訓定聲〕㬎、叚借爲レ品。〔說文〕㬎、或曰、衆口皃、讀若二唫唫一。〔段注〕讀若二唫唫一、當レ作三讀若二口唫之唫一、轉寫譌奪耳。㊂**いとを紡いだくづ**。ふしいと。〔說文〕㬎、或㠯爲レ繭、繭者絮中往往有二小繭一也。〔段注〕此繭不レ同下糸部訓二蠶衣一之繭上也、亦蠶衣之義之引伸也、云云、按、此蓋繅絲之餘滓、亦可レ裝レ衣、而中有二纇結一、故云、絮中歷歷有二小繭一、繭之言、結也。㊃**髮かざり**。〔類篇〕㬎、頭明飾也。㊄**姓**。〔類篇〕㬎、姓也。

解字 會意。日と絲との合字。日中、絲を見る義。日中に微眇なる絲を察見し得るは、極めて明かなる義となる。あきらか。顯(本義は、うつくしい頭の飾)の字を光明彰著の義とするは、假借して㬎としたのである。〔說文、㬎衆微杪也从二日中視一レ絲、段注〕疑當レ作下衆明也、从二日中視一レ絲、絲、敚眇也上、敚者、今之微字、眇者、今之妙字。

【⿰日鬲】14100 レキ リヤク 〔集韻〕狼狄切 錫

あきらか。〔集韻〕⿰日鬲、明也。

【暤】14101 ㈠カウ ゴウ 〔集韻〕胡老切 ㄏㄠˋ hao^4 皓 ㈡カウ ガウ 〔集韻〕後到切 號


小篆

㈠㈡㊀**あきらか**。きよい。〔說文〕暤、皓旰也、从レ日皋聲。㊁**しろい**。白いさま。〔廣雅、釋訓〕暤暤、白也。㊂俗に皡(**8**－**22787**)に作る。〔說文通訓定聲〕暤、俗字作レ皡。㊃俗に皞(**8**－**22771**)に作る。〔說文、段注〕暤、俗从レ白作レ皞。㊄昊(**5**－**13799**)に通ず。〔說文通訓定聲〕暤、叚借爲レ昊。〔正字通〕暤、昊本字。

參考 俗に暭(**5**－**14123**)に作る。

【暥】14102 アン エン 〔集韻〕於諫切 諫

ひろくてとほい。〔集韻〕暥、廣遠也。

【⿰⿱日耳斤】14103 ソ 〔篇韻〕音疏

さらす。〔篇韻〕⿰⿱日耳斤、晒也。

【⿰日殺】14104 サツ 〔字彙補〕音殺

あきらか。〔易乾鑿度〕燭龍行レ南時太⿰日殺。

【⿰日晋】14105 シン 鄑(**11**－**39561**)に同じ。〔六書索隱〕⿰日晋、與レ鄑同。

【⿰易夫】14106 タウ 唐(**2**－**3709**)に同じ。〔字彙補〕⿰易夫、與レ唐同、見二扶風縣夫子廟碑一。

【⿱亞日】14107 ア 〔集韻〕衣駕切 禡

姓。或は晋(**5**－**13999**)に作る。〔集韻〕⿱亞日、說文義闕、一曰、姓也、或作レ晋。

【⿱昍⿱冖子】14108 セウ 照(**7**－**19226**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱昍⿱冖子、同レ照。

【⿱日⿱冖果】14109 ヰ 彙(**4**－**9936**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱日⿱冖果、舊藏作レ彙。

【⿱冡日】14110 モウ 蒙(**9**－**31555**)に同じ。〔海篇〕⿱冡日、同レ蒙。

【⿰日羊】14111 ヤウ ⿰日𦍌(**5**－**14098**)に同じ。〔集韻〕⿰日𦍌、或从レ羊。

【暦】14111′ レキ 曆(**5**－**14171**)の略字。

十一畫

【暩】14112 ケイ 〔篇海〕音桂

ひかり。〔篇海〕暩、光也。

【〓】14113 チ

智(5－14010)の古字。〔正字通〕〓、古文智字。

【〓】14114 アイ

〓(5－14221)の俗字。〔正字通〕〓、俗〓字。

【暞】14115 マウ 〔集韻〕母朗切 養

日に光がない。くらい。曭暞。〔玉篇〕暞、曭暞、日無レ光不レ明也。〔集韻〕暞、曭暞、不レ明也。

【〓】14116 チ

瞝(8－23646)の譌字。〔正字通〕〓、瞝字之譌。

【㬓】14117 ㊀ヘウ 〔集韻〕匹妙切 嘯 ㊁ヘウ ベウ 〔集韻〕紕招切 蕭

㊀㊁❶さらす。〔廣雅、釋詁二〕㬓、曝也。❷〓(5－14173)の俗字。〔正字通〕㬓、俗〓字。

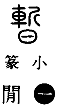
【〓】14118 カウ ゴウ 〔篇海〕胡刀切 豪

もとる。〔篇海〕〓、戾也。

【暪】14119 ボン モン 〔玉篇〕莫本切 阮

くらい。〔玉篇〕暪、暗。

【暫】14120 サン ザン 〔集韻〕昨濫切 勘 ㄓㄢˋ chan^4 ㄗㄢˋ tsan^4



小篆

❶しばらく。しばし。わずかの間。〔說文〕暫、不レ久也、从レ日斬聲。〔類篇〕暫、須臾也。〔書、盤庚中〕乃有二不吉不迪、顚越不恭、暫遇姦宄一。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕卿但暫還レ家。❷にはかに。〔廣雅、釋詁二〕暫、猝也。〔左氏、僖、三十三〕婦人暫而免二諸國一。〔注〕暫、猶レ卒也。❸現假の。假に。邦しばらく。㋑顏見世狂言等に出る荒事の臺詞。轉じて、その所作のある芝居。歌舞伎十八番の一。㋺久しぶり。久しい。

【暫移】1 ザンイ しばらくくりかへる。〔福惠全書、涖任部、詳文贅說〕有二暫移一亦必按追補二本倉之數一。

【暫遊】2 ザンイウ しばしのあそび。〔李中、宿二廬山白雲峰重道者院一詩〕絕頂松堂喜二暫遊一、一宵玄論接二浮丘一。

【暫延】3 chan^4 yen^2 暫く延期する。暫緩。

【暫行】4 ザンカウ 一時的に行ふ。臨時。〔六部成語訂正、吏部、暫行署理、注解〕暫時署二理之一也。

【暫擱】5 chan^4 kê^1 一時中止する。

【暫記】6 chan^4 chi^4 記憶に便するための一時的の控帳。

〖暫記簿〗7 chan^4 chi^4 pu^4 假貸借の款項を記入する會計簿。

〖暫記欠款〗8 chan^4 chi^4 ch'ien^4 k'uan^3 金融上の一時借替金。

〖暫記存款〗9 chan^4 chi^4 ts'uen^2 k'uan^3 特別預金。當座預金。

【暫寄】10 chan^4 chi^4 しばらく寄留する。

【暫寓】11 ザングウ しばらくの閒寄寓する。生命のはかなきをいふ。〔蘇軾、和三陶還二舊居一詩〕生レ世本暫寓、此身念念非。

【暫遇】12 ザングウ しばらく遇ふ。又、道路などでちよつと遇つた人。暫遇姦宄を見よ。

【暫遇姦宄】13 ザングウカンキ 道路などでちよつと遇つて姦惡を爲すもの。追剝などをいふ。宄はよこしま。〔書、盤庚中〕乃有二不吉不迪、顚越不恭、暫遇姦宄一、我乃劓二殄滅之一、無レ遺二育一、無レ俾レ易二種于茲新邑一。〔傳〕暫遇レ人、而劫二奪之一、爲二姦於外一、爲二宄於內一。〔蔡傳〕暫時所レ遇、爲レ姦爲レ宄、劫二掠行道一者。

【暫屈】14 ザンクツ しばらく屈する。〔陳書、虞寄傳〕文帝曰、所二以暫屈レ卿遊レ藩者、非下止以二文翰一相煩上、乃令下以二師表一相事上也。〔文天祥、送三曹大著知二廣德軍一詩〕暫屈瀛洲客、來臨汭水民。

【暫緩】15 chan^4 huan^3 暫時猶豫する。一時延期する。

【暫歡】16 ザンクワン しばらくのよろこび。〔劉琨、答二盧諶一詩序〕時復相與擧レ觴對レ膝、破レ涕爲レ笑、排二終身之積慘一、求二數刻之暫歡一。

【暫憩】17 ザンケイ しばらくいこふ。〔羅隱、登二瓦棺寺閣一詩〕暫憩已知須レ用レ意、漸來爭忍不レ回レ頭。〔稽神錄〕吾將三暫憩二於此一。

【暫見】18 ザンケン わづかの閒見える。しばらくの閒あらはれる。〔李德裕、振鷺賦〕映二楓葉一而暫見、入二蘆花一還失。

【暫候】19 chan^4 hou^4 しばらく待つ。

【暫齒】20 ザンシ 乳齒。temporary teeth の譯語。

【暫時】21 ザンジ しばらく。しばし。少時。暫且。〔高適、送下李少府貶二峽中一王少府貶中長沙上詩〕聖代卽今多二雨露一、暫時分レ手莫二躊躇一。〔高適、送三王李二少府貶二潭峽一詩〕聖代祇今多二雨露一、暫時分レ手莫二躊躇一。〔高啓、逢二吳秀才一復送レ歸二江上一詩〕暫時握レ手還分レ手、暮雨南陵水寺鐘。

〖暫時欠款〗22 chan^4 shih^2 ch'ien^4 k'uan^3 臨時の貸出金、又は立替金などをいふ。銀行の語。

〖暫時存款〗23 chan^4 shih^2 ts'uen^2 k'uan^3 銀行錢莊等に於ける臨時の當座預金。

【暫賒】24 chan^4 shê^1 當座貸。浮借。

【暫且】25 chan^4 ch'ieh^3 しばらく。暫時。

〖暫且支用〗26 chan^4 ch'ieh^3 chih^1 yung^4 金融上の當座凌ぎ。暫時應急。

【暫署】27 chan^4 shu^3 臨時代理する。

【暫星】28 ザンセイ 天文學用語。新星。變星の條を見よ。temporary star の譯語。

【暫峙】29 ザンヂ しばらく停る。〔列子、湯問〕上下往還、不レ得二暫峙一焉。

【暫駐】30 ザンチユウ 暫くとどまる。〔周禮、天官、掌舍、無レ宮則共二人門一、疏〕云二無レ宮及人門一、是暫駐之事、非二久停止一。

【暫住】31 ザンヂユウ 暫く逗留する。一時とどまる。〔吳志、鍾離牧傳〕故來暫住。

【暫定】32 ザンテイ ❶一時の安定。〔郞士元、贈二韋司直一詩〕烽火有レ時驚二暫定一、甲兵無三處可二安居一。❷かりにとりきめる。一時的の定め。

【暫輟】33 ザンテツ しばらくやめる。しばらく休息する。〔錢起、登二玉山諸峯一詩〕眞賞無二前程一、奇觀寧暫輟。

【暫等】34 chan^4 têng^3 しばらく待つ。

【暫騰】35 ザントウ 俄かに馬などにとびのること。〔史記、李將軍傳〕廣暫騰而上二胡兒馬一。

【暫費】36 ザンピ 僅かの閒、力を費やす。〔班固、封二燕然山一銘〕茲可レ謂二一勞而久逸、暫費而永寧一也。

【暫變】37 ザンペン 僅かの閒の變化。〔論衡、無形〕雨水暴下、蟲蛇變化、化爲二魚鼈一、離二本眞一暫變之蟲、臣子謹愼、故不二敢獻一。

【暫免】38 ザンメン たうざのがれ。〔福惠全書、刑名部、逃人、盜賊供旗〕有下奸黠懼レ刑、假供二旗人一、以圖二暫免一者上。

【暫面】39 ザンメン にはかに面會する。〔宗欽、與二高充一詩〕披レ衿暫面、定交二一言一。

【暫來】40 ザンライ わづかの閒來てゐる。生をいふ。暫往(47)を見よ。

【暫勞】41 ザンラウ わづかの閒骨折る。暫勞永逸を見よ。

〖暫勞永逸〗42 ザンラウエイイツ わづかの閒骨折つて永い閒樂しむ。〔張衡、西京賦〕暫勞永逸、無爲而治。〔注〕善曰、揚雄曰、不二一勞一者、不二久佚一。〔晉書、王羲之傳〕暫勞之弊、終獲二永逸一者也。〔抱朴子、廣譬〕久憂爲二厚樂之本一、暫勞爲二永逸之始一。〔任昉、爲二蕭揚州一作薦レ士表〕臣聞、求レ賢暫勞、垂拱永逸。

【暫理】43 ザンリ しばらく處理する。〔六部成語、吏部、暫理、注解〕暫理辦理。

【暫離】44 ザンリ しばらくはなれる。〔江淹、別賦〕詎能摹二暫離之狀一、寫二永訣之情一者乎。

【暫留】45 ザンリウ しばしとどまる。暫時の逗留。〔宋之問、秋晚遊二普耀寺一詩〕薄暮曲江頭、仁祠暫可レ留。〔李咸用、小雪詩〕壓レ松猶未レ得、撲レ石暫能留。

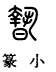
【暫殮】46 ザンレン かりのとむらひ。〔福惠全書、刑名部、人命上、印官親驗〕免二其暴露一以便レ備二棺暫殮一。

【暫往】47 ザンワウ わづかの閒往つてゐる。死をいふ。生死は存亡往復し絕えることのない意。〔列子、楊朱〕太古之人、知二生之暫來一、知二死之暫往一、故從レ心而動、不レ違二自然一所レ好當身之誤、非レ所レ去也。〔注〕生實暫來、死實長往、是世俗長談、而云二死復暫往一、卒然覽レ之、有レ似二字誤一、然此書大旨自以爲三存亡往復、形氣轉續、生死變化、未二始絕滅一也。

【暫爲押繳】48 chan⁴ wei² ya¹ chiao³ 假差押をする。

【⿰日斬】14121 ザン 暫(5−14120)に同じ。〔說文長箋〕⿰日斬、同レ暫。

【暬】14122 ㊀セツ セチ 〔集韻〕私列切 屑 ㄒㄧㄝˋ hsieh⁴ ㊁デフ ネフ 〔集韻〕諾叶切 葉


小篆 ㊀❶なれる。日ごとになれちかづく。もと暬に作る。〔正字通〕暬、本作レ暬。〔說文〕暬、日狎習相嫚也、从レ日埶聲。❷くらい。〔類篇〕暬、一曰、暝晦也。❸褻(10−34536)に通ず。〔說文、段注〕暬、與レ褻音同義異、今則褻行而暬廢矣。❹媟(3−6524)に通ず。〔正字通〕暬、與レ媟通。㊁くらい。〔集韻〕暬、晦也。

參考 熟語は褻(10−34536)を見よ。

【暤】14123 カウ 暭(5−14101)の俗字。〔正字通〕暤、俗暭字。

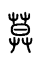
【⿰日祥】14124 シヤウ ザウ 〔字彙〕徐羊切 陽 ❶あきらか。〔字彙〕⿰日祥、明也。❷⿰日羊(5−14111)の譌字。〔正字通〕⿰日祥、⿰日羊字之譌。

【⿰日區】14125 オウ 熰(7−19356)に同じ。〔集韻〕熰、煖也、或从レ日。

【⿰日曹】14126 サウ ゾウ 〔集韻〕財勞切 豪 日が暮れる。〔集韻〕⿰日曹、日晚。

【⿱曹日】14127 サウ 曹(5−14297)に同じ。〔字彙補〕⿱曹日、與レ曹同、出二漢北海相碑一。

【暮】14128 ボ モ 〔集韻〕莫故切 遇 ㄇㄨˋ mu⁴


小篆 ❶くれ。㋑日ぐれ。ゆふがた。もと莫(9−31078)に作る。〔正字通〕暮、本作レ莫。〔說文〕莫、日且レ冥也、从三日在二茻中一、茻亦聲。〔戰國、齊策〕旦暮進レ食。〔注〕旦暮、朝夕也。〔論衡、明雩〕暮者晚也。㋺すゑ。をはり。〔素問、移精變氣論〕暮世之治レ病也、則不レ然。㋩よる。〔廣雅、釋詁四〕暮、夜也。〔楚辭、劉向、九歎、離世〕暮去レ次而敢止。〔注〕暮、夜也。❷くれる。日がくれる。〔玉篇〕暮、日入也。〔素問、著至教論〕惋惋日暮。〔注〕暮、晚也。❸おそい。〔呂覽、謹聽〕學德未レ暮。〔注〕暮、晚也。❹老いる。衰へる。〔南史、王筠傳〕不レ謂三疲暮復逢二於君一。❺死ぬ。〔莊子、至樂、若果養乎、釋文〕養、司馬本作レ暮、云レ死也。❻姓。〔萬姓統譜〕暮、見二姓苑一。邦❶くれる。まどひくるしむ。途方に暮れる。思案に暮れる。❷くらす。㋑一日を終へる。終日とほす。㋺月日を送る。年月を過ごす。㋩世わたりをする。生活する。❸くらし。生計。生活。

解字 會意形聲。日と茻との合字。茻は聲を兼ねる。日が茻(多くの草、くさはら)の中にある義。日まさに冥せんとする意。日ぐれ。茻と莫とは雙聲にて、一聲の轉。昏は日の冥する意。故に莫の時は昏より前である。莫の字、有無の無の意に引伸し、莫に更に日を加へて二日の暮とするは俗字で字義を成さないが、今では暮が通用するやうになつた。

【暮鴉】1 ボア 日ぐれに飛び鳴くからす。ゆふがらす。〔高適、重陽詩〕眞成獨坐空搔レ首、門柳蕭蕭噪二暮鴉一。〔李商隱、隋宮詩〕于レ今腐草無二螢火一、終古垂楊有二暮鴉一。〔唐彥謙、秋晚高樓詩〕晚蝶飄零驚二宿雨一、暮鴉凌亂報二秋寒一。〔陸翱、閑居卽事詩〕衰柳迷二隋苑一、衡門啼二暮鴉一。

【暮靄】2 ボアイ ゆふぐれのもや。〔顏延之、陶徵士誄〕晨煙暮靄、春煦秋陰。〔杜牧、題二揚州禪智寺一詩〕暮靄生二深樹一、斜陽下二小樓一。

【暮鶯】3 ボアウ ゆふぐれに鳴くうぐひす。〔唐彥謙、柳詩〕游客寂寥緘二遠恨一、暮鶯啼叫惜二芳時一。〔鄭谷、同志顧雲下第出レ京偶有二寄勉一詩〕吟聒暮鶯歸二廟院一、睡消遲日寄二僧家一。

【暮陰】4 ボイン ゆふぐれのかげ。ゆふかげ。〔謝莊、北宅秘園詩〕夕天霽二晚氣一、輕霞澄二暮陰一。

【暮羽】5 ボウ ゆふぐれの鳥。〔王僧孺、從子永寧令謙誄〕秋蟲相叫、暮羽來搏。

【暮雨】6 ボウ ゆふぐれに降る雨。〔梁元帝、曠野寺碑〕巘巘璇題、虹梁生二於暮雨一、璞璞銀牓、飛觀入二乎雲中一。〔儲光羲、秦中初霽獻二給事一詩〕渭水收二暮雨一、處處多二新澤一。〔孟遲、閨情詩〕山上有レ山歸不レ得、湘江暮雨鷓鴣飛。〔杜牧、暝投二雲智寺一詩〕古廟陰風地、寒鐘暮雨天。

【暮雲】7 ボウン くれがたの雲。ゆふぐも。〔江淹、雜詞、悅曲池〕暮雲兮十里、朝霞兮千尺。〔杜甫、薄遊詩〕遙空秋雁滅、半嶺暮雲長。〔王維、觀獵詩〕迴二看射鵰處一、千里暮雲平。〔溫庭筠、過二陳琳墓一詩〕石麟埋沒藏二春草一、銅雀荒涼對二暮雲一。〔許渾、洛陽城詩〕鴉噪二暮雲一歸二故堞一、雁迷二寒雨一下二空濠一。

〖暮雲春樹〗8 ボウンシユンジユ 暮雲と春樹。友を思ふ情の切な形容に用ひる語。〔杜甫、春日憶二李白一詩〕渭北春天樹、江東日暮雲、何時一樽酒、重與細論レ文。

〖暮雲落日〗8' ボウンラクジツ 暮雲と落日。國家の衰頽などを悲しむ情に用ひる。〔荆叔、題二慈恩塔一詩〕漢國山河在、秦陵草樹深、暮雲千里色、無二處不一レ傷レ心。〔薛瑩、秋日湖上詩〕落日五湖遊、煙波處處愁、浮沈千古事、誰與問二東流一。

【暮影】9 ボエイ 年老いたことをいふ。〔書言故事、耆老類〕年老云二桑楡暮影一、淮南子、日垂レ西影在二木端一、韓公孟生詩、桑楡日月侵。

【暮煙】10 ボエン くれがたに立つけむり。ゆふべのけむり。暮烟。〔劉禹錫、和二浙西李大夫霜夜對レ月云云一詩〕海門雙青暮煙歇、萬頃金波踴二明月一。〔王勃、秋日別二王長史一詩〕野色籠二寒霧一、山光

歛㆓暮煙㆒。〔杜牧、懷㆓呉中馮秀才㆒詩〕唯有㆓別時今不㆑忘、暮煙秋雨過㆓楓橋㆒。

【暮檐】11（ボエン）　夕暮のき。暮詹。〔梁簡文帝、有所思〕寂寂暮檐響、黯黯垂簾色。〔杜甫、大雪寺贊公房詩〕雨瀉㆓暮檐竹㆒、風吹㆓青井芹㆒。

【暮夏】12（ボカ）　夏のすゑ。晩夏。

【暮笳】13（ボカ）　ゆふぐれに吹く胡笳の聲。〔劉長卿、代㆓邊將㆒有㆑懷詩〕暮笳吹㆓寒月㆒、曉甲帶㆓胡霜㆒。〔崔櫓、春晩岳陽言㆑懷詩〕獨倚㆓闌干㆒意難㆑寫、暮笳嗚咽調㆓孤城㆒。〔殷堯藩、夜酌㆓溪樓㆒詩〕樓居溪上涼生早、坐對㆓城頭㆒起㆓暮笳㆒。

【暮歌】14（ボカ）　ゆふぐれに歌ふ。莫歌。〔孔子家語、曲禮子貢問〕魯人有㆓朝祥而暮歌者㆒。

【暮霞】15（ボカ）　ゆふぐれにたなびく霞。〔劉禹錫、和㆔令狐相公晩泛㆓漢江㆒書㆑懷寄㆓洋州崔侍郎云云㆒詩〕雨過遠山出、江澄暮霞生。

【暮江】16（ボカウ）　夕暮の大河。〔劉長卿、重送㆔裴郎中貶㆓吉州㆒詩〕猿啼客散暮江頭、人自傷㆑心水自流。〔杜甫、遣㆑興詩〕地卑荒野大、天遠暮江遲。

【暮角】17（ボカク）　ゆふぐれに吹く角笛の聲。角は軍中で用ひる樂器。つのぶえ。〔劉禹錫、洞庭秋月行〕岳陽城頭暮角絶、蕩漾已過君山東。〔方干、過㆓黃州㆒作詩〕暮角梅花怨、淸江桂影寒。

【暮寒】18（ボカン）　ゆふぐれの寒さ。〔祖詠、終南望㆓餘雪㆒詩〕林表明㆓霽色㆒、城中增㆓暮寒㆒。〔杜甫、暮寒詩〕沈沈春色靜、慘慘暮寒多。〔方干、殘秋送㆑友詩〕木葉怨㆓先老㆒、江雲愁㆓暮寒㆒。

【暮氣】19（ボキ）　❶ゆふぐれの氣分。精神のおとろへたことにいふ。朝氣（**5－14374**‥66）を見よ。〔孫子、軍爭〕朝氣銳、晝氣惰、暮氣歸、故善用㆑兵者、避㆓其銳氣㆒、擊㆓其惰歸㆒。〔李衞公問對、下〕朝氣銳、晝氣惰、暮氣歸。❷夕ぐれの氣。夕べのもや。〔陸游、訪㆓毛平仲㆒問疾云云詩〕林巒巉絶秋風瘦、樓堞參差暮氣昏。

【暮晷】20（ボキ）　ゆふぐれの日かげ。〔傅亮、感物賦〕在㆓西城之暮晷㆒、肅㆓皇命於禁中㆒。

【暮禽】21（ボキン）　ゆふぐれの鳥。暮鳥。〔王維、歸㆓嵩山㆒作詩〕流水如㆑有㆑意、暮禽相與還。〔杜牧、將㆑出㆓關宿層峰驛㆒詩〕數聲暮禽切、萬壑秋意歸。

【暮槿】22（ボキン）　夕方のむくげの花。衰滅に瀕したものの喩。〔江總、在㆑陳旦解醒共哭㆓顧舍人㆒詩〕人隨㆓暮槿㆒落、客共㆓晩鶯㆒悲。

【暮穫】23（ボクワク）　ゆふぐれにとりいれる。〔漢書、郊祀志下〕耕㆓耘五德㆒、朝種暮穫、與㆓山石㆒無㆑極。

【暮景】24（ボケイ）　❶日暮の景色。〔杜甫、送㆓李卿曄㆒詩〕暮景巴蜀僻、春風紅漢淸。〔劉禹錫、奉㆓和中書崔舍人八月十五日夜翫㆑月詩〕暮景中秋爽、陰靈既望圓。〔李商隱、陸發㆓荊南㆒始至㆓商洛㆒詩〕四海秋風闊、千巖暮景遲。〔杜牧、題㆓敬愛寺樓㆒詩〕暮景千山雪、春寒百尺樓。❷老境をいふ。暮歲。〔宋史、唐潾傳〕修途暮景、力不㆑逮㆑心。

【暮卷】25（ボケン）　ゆふぐれに卷き收まる。〔沈約、奉㆓和竟陵王藥名㆒詩〕合歡葉暮卷、爵林聲夜切。〔陸倕、新漏刻銘〕合昏暮卷、蓂莢晨生、尙辨㆓天意㆒、猶測㆓地情㆒。〔王勃、滕王閣詩〕畫棟朝飛南浦雲、珠簾暮卷西山雨。

【暮鼓】26（ボコ）　ゆふぐれにうつ鼓の聲。〔王貞白、長安道詩〕曉鼓人已行、暮鼓人未㆑息。

〖暮鼓晨鐘〗27（ボコシンシヨウ）　❶佛寺で朝夕鼓鐘をうつて時を報ずること。〔李咸用、山中詩〕朝鐘暮鼓不㆑到㆑耳、明月孤雲長挂㆑情。〔杜甫、遊㆓龍門奉先寺㆒詩〕欲㆑覺聞㆓晨鐘㆒、令㆔人發㆓深省㆒。❷mu^4 ku^3 ch'en^2 chung^1 微妙の言を以て人を覺醒せしめること。戒めの言葉。

【暮歲】28（ボサイ）　❶としのくれ。くれ。歲暮。年末。〔魏書、李諧傳〕迫㆓玄冬之暮歲㆒、歷㆓關山之遐阻㆒。〔謝靈運、撰征賦〕屆㆓盛績於平生㆒、申㆓遠期於暮歲㆒。❷老年をいふ。暮景。

【暮山】29（ボザン）　ゆふぐれの山。〔許渾、凌歊臺詩〕湘潭雲盡暮山出、巴蜀雪消春水來。

〖暮山紫〗30（ボザンノムラサキ）　ゆふぐれの山が霞んで紫色を呈すること。〔王勃、滕王閣序〕潦水盡而寒潭淸、煙光凝而暮山紫。

【暮子】31（ボシ）　晩年の子。〔爾雅、釋鳥〕雉之暮子爲㆑鷚。〔疏〕鷚、是雉晩生之子名也。

【暮四】32（ボシ）　日暮れに四つを與へる。目前の差別に拘泥して結果の同じなことを知らぬこと。又、同じことを言ひまぎらして人を欺く喩。詐欺を用ひて人を愚弄する喩。朝三暮四（**5－1437**4‥515）を見よ。〔莊子、齊物論〕勞㆓神明㆒爲㆑一、而不㆑知㆓其同㆒也、謂㆓之朝三㆒、何謂㆓朝三㆒、曰、狙公賦㆑芧曰、朝三而暮四、衆狙皆怒、曰、然則朝四而暮三、衆狙皆悅、名實未㆑虧、而喜怒爲㆑用、亦因㆑是也。

【暮志】33（ボシ）　晩年の志望。〔南齊書、豫章文獻王嶷傳〕豫章王、性不㆓貪聚㆒、自㆑幼所㆑懷政、以㆓汝兄弟累多㆒、損㆓吾暮志㆒耳。

【暮思】34（ボシ）　ゆふぐれに思ひかなしむ。〔劉長卿、湘妃詩〕帝子不㆑可㆑見、秋風來㆓暮思㆒。

【暮齒】35（ボシ）　老いた年。晩年。暮年（62）に同じ。〔庾信、哀江南賦序〕藐是流離、至㆓於暮齒㆒。〔隋書、王劭傳〕爰自㆓志學㆒、曁㆓乎暮齒㆒、篤好㆓經史㆒、遺㆓落世事㆒。〔方干、示㆓鄉叟㆒詩〕暮齒甘㆓衰謝㆒、逢㆑人惜㆓別離㆒。

【暮颸】36（ボシ）　ゆふぐれに吹く風。夕風。〔長生殿、密誓〕趁㆘碧落無㆓雲滓㆒、新涼暮颸㆖。

【暮洲】37（ボシウ）　夕方のす。暮方のしま。〔廣瀨淡窓、筑前城下作詩〕伏敵門頭浪拍㆑天、當時築石自依然、元兵沒㆑海蹤猶在、神后征㆑韓事久傳、城郭影浮春浦月、絃歌聲隱暮洲煙、昇平有㆑象君看取、處處垂楊繫㆓賈船㆒。

【暮秋】38（ボシウ）　秋のすゑ。陰曆九月をいふ。暮商。晩秋。〔曹植、迷迭香賦〕方㆓暮秋之幽蘭㆒兮、麗㆓崑崙之英芝㆒。〔梁元帝纂要〕九月季秋、亦曰㆓暮秋・末秋・暮商・季商・抄商㆒。〔江淹、別賦〕珠與㆑玉兮豔㆓暮秋㆒。〔杜牧、晩泊詩〕篷雨延㆓鄉夢㆒、江風阻㆓暮秋㆒。

【暮愁】39（ボシウ）　くれがたの寂しい物おもひ。〔李商隱、卽目詩〕細意經㆓春物㆒、傷醒屬㆓暮愁㆒。〔章碣、雨詩〕銷却暮愁終不㆑散、添成春醉轉難㆑醒。

【暮舍】40（ボシヤ）　夜宿する營舍。〔六韜、龍韜、奇兵〕因㆓其勞倦暮舍㆒者、所㆓以十擊㆑百也。

【暮商】41（ボシヤウ）　陰曆九月の異名。商の音は秋に屬するからいふ。暮秋。〔梁元帝纂要〕九月季秋、亦曰㆓暮秋・末秋・暮商・季商・抄商㆒。

【暮情】42（ボジヤウ）　夕方のおもむき。又、夕方の氣持。〔劉虬、答㆓竟陵王㆒牋〕暢㆓餘陰于山澤㆒、託㆓暮情於魚鳥㆒。〔劉長卿、長沙早春云云詩〕江山古思遠、猿鳥暮情多。

【暮春】43（ボシユン）　はるのすゑ。陰曆三月をいふ。晩春。季春。莫春。〔詩、周頌、臣工〕嗟嗟保介、維莫之春、亦又何求、如㆓何新畬㆒。〔論語、先進〕暮春者、春服既成、冠者五六人、童子六七人、浴㆓乎沂㆒、風㆓乎舞雩㆒、詠而歸。〔漢書、揚雄傳上〕伊年暮春、將㆑瘞㆓后土㆒。〔後漢書、明帝紀〕暮春吉辰、初行㆓大射㆒。〔何劭、贈㆓張華㆒詩〕暮春忽復來、和風與㆑節俱。〔杜甫、暮春詩〕暮春鴛鷺立㆓洲渚㆒、挾㆑子翻飛還㆓一叢㆒。

〖暮春三月〗44（ボシユンサングワツ）　陰曆三月。晩春。〔兵遲、與㆓陳伯㆒之書〕暮春三月、江南草長。〔杜甫、卽事詩〕暮春三月巫峽長、皛皛行雲浮㆓日光㆒。

〖暮春之初〗45（ボシユンノハジメ）　陰曆三月の初。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕暮春之初、會㆓於會稽山陰之蘭亭㆒。

【暮序】46（ボジヨ）　くれの時節。陰曆十二月をいふ。暮節。〔梁簡文帝、雪朝詩〕同雲凝㆓暮序㆒、嚴陰屯㆓廣隰㆒。〔杜甫、九日詩〕客心驚㆓暮序㆒、賓雁下㆓襄州㆒。

【暮鐘】47（ボシヨウ）　ゆふぐれにつく鐘の音。晩鐘。夕鐘。〔韋應物、淮上卽事詩〕秋山起㆓暮鐘㆒、楚雨連㆓滄海㆒。〔張祜、題㆓惠山寺㆒詩〕殷勤望㆓城市㆒、雲水暮鐘和。〔常達、山居詩〕少室遺㆓眞旨㆒、層樓起㆓暮鐘㆒。

【暮色】48（ボシヨク）　ゆふぐれのうすぐらいけしき。くれがたのけしき。〔李嘉祐、送㆔裴五歸㆓京口㆒詩〕暮色催㆓人別㆒、秋風待㆓雨寒㆒。〔劉得仁、宿㆓宣義池亭㆒詩〕暮色遶㆓柯亭㆒、南山幽竹靑。〔周賀、春喜㆔友人至㆓山舍㆒詩〕更欲㆓留深語㆒、重城暮色催。

〖暮色蒼然〗49（ボシヨクサウゼン）　夕暮の景色のくらくなりゆくさま。〔柳宗元、始得㆓西山㆒宴游記〕蒼然暮色自㆑遠而至。

【暮食】50（ボシヨク）　夕の食事。又、夕食をたべる。〔管子、弟子職〕暮食復㆑禮、昏將㆑擧㆑火。〔史記、天官書〕昏而出㆑陰、陰兵彊、暮食出、小弱。

【暮世】51（ボセイ）　末の世。輓近の世。〔素問、移精變氣論〕暮世之治㆑病也不㆑然、治不㆑本㆓四時㆒、不㆑知㆓日月㆒、不㆑審㆓逆從㆒。

【暮雪】52（ボセツ）　夕ぐれに降るゆき。又、其のけしき。〔沈約、桐賦〕枝封㆓暮雪㆒、葉映㆓晝虹㆒。〔令狐楚、從軍詞〕暮雪連㆓青海㆒、陰霞覆㆓白山㆒。〔高適、送㆓李少府㆒時在㆓客舍㆒詩〕相逢旅館意多違、暮雪初晴候雁飛。

【暮節】53 ボセツ ❶陰曆十二月の異名。〔初學記、歲時部上、冬〕十二月季冬亦曰㆓暮節㆒。❷九月九日の異名。重陽。〔謝靈運、九日從㆓宋公戲馬臺集㆒送㆓孔令㆒詩〕良辰感㆓聖心㆒、雲旗興㆓暮節㆒。〔司空圖、重陽山居詩〕詩人自㆑古恨難㆑窮、暮節登臨且喜同。❸晚年をいふ。〔唐書、白居易傳〕暮節惑㆓浮屠道㆒尤甚。

【暮蟬】54 ボセン ゆふぐれに鳴く蟬。〔王維、輞川閑居贈㆓裴秀才迪㆒詩〕倚㆑杖柴門外、臨㆑風聽㆓暮蟬㆒。〔賈島、送㆔田卓入㆓華山㆒詩〕幽深足㆓暮蟬㆒、驚覺石牀眠。〔劉滄、旅館書㆑懷詩〕雲低㆓遠塞㆒鳴㆓寒鴈㆒、雨歇㆓空山㆒噪㆓暮蟬㆒。〔郎士元、別㆓鄭蟻㆒詩〕暮蟬不㆑可㆑聽、落葉豈堪㆑聞。〔鄭巢、瀑布寺貞上人院詩〕林疎多㆓暮蟬㆒、師去宿㆓山煙㆒。

【暮砧】55 ボチン ゆふぐれにうつきぬた。暮夜の擣衣。又、其の音。〔杜甫、秋興詩〕寒衣處處催㆓刀尺㆒、白帝城高急㆓暮砧㆒。〔張喬、吳江旅次詩〕曠野鳴㆓流水㆒、空山響㆓暮砧㆒。

【暮程】56 ボテイ 日暮の道程。夜旅。〔李頻、南遊過㆓湘漢㆒卽事寄㆓友人㆒詩〕乘㆑涼探㆓暮程㆒。

【暮潮】57 ボテウ ゆふしほ。〔王維、闕題詩〕相看不㆑忍㆑發、慘淡暮潮平。〔韋應物、酬㆘柳郎中春日歸㆓楊州㆒南郭見㆑別之作㆖詩〕南北相過殊不㆑遠、暮潮歸去早潮來。〔錢謙益、留㆓題秦淮丁家水閣㆒詩〕苑外楊花待㆓暮潮㆒、隔㆑溪桃葉限㆓紅橋㆒。

【暮笛】58 ボテキ ゆふぐれに吹く笛の聲。〔陳祐、雜詩〕無定河邊暮笛聲、赫連臺畔旅人情。

【暮天】59 ボテン ゆふぐれのそら。〔戴叔倫、酬㆓盩厔耿少府湋見㆑寄詩〕方丈蕭蕭落葉中、暮天深巷起㆓悲風㆒。〔杜荀鶴、題㆓新鴈㆒詩〕暮天新鴈起㆓汀洲㆒、紅蓼花疎水國秋。

【暮途】60 ボト 日暮の道。夜の旅。〔杜甫、橋陵三十韻呈㆓縣內諸官㆒詩〕荒歲兒女瘦、暮途涕泗零。

【暮冬】61 ボトウ 冬のすゑ。陰曆十二月をいふ。晚冬。季冬。〔魏書、彭城王勰傳〕歲月易㆑遠、便迫㆓暮冬㆒、每㆑思聞㆑道、奉㆓承風教㆒。

【暮年】62 ボネン 老いた年。傾いた齡。老年。晚年。暮齒。暮齡。暮歲。〔魏武帝、碣石篇〕烈士暮年、壯心不㆑已。〔宋書、范泰傳〕暮年事㆑佛甚精。〔顏延之、北使㆑洛詩〕王猷升㆓八表㆒、嗟行方暮年。〔鄭巢、泊㆓靈溪館㆒詩〕已有㆓求㆑閑意㆒、相期在㆓暮年㆒。〔杜甫、詠㆓懷古跡㆒詩〕庾信平生最蕭瑟、暮年詩賦動㆓江關㆒。

【暮方】63 クレガタ 日の暮れる頃。夕方。

【暮帆】64 ボハン ゆふぐれの帆かけ舟。〔李頎、題㆓綦毋校書別業㆒詩〕行客暮帆遠、主人庭樹秋。〔高適、漣上別㆓王秀才㆒詩〕暮帆使㆓人感㆒、去鳥兼㆓離憂㆒。

【暮風】65 ボフウ ゆふぐれに吹く風。〔郭夔、九華山詩〕暮風飃送當㆑軒色、曉霧斜飛入㆑檻煙。

【暮雰】66 ボフン 夕方のもや。〔王仲旉、商都賦〕朝雨暮雰、暖風殘月。

【暮暮】67 ボボ 夕ぐれ毎に。每夕。〔宋玉、高唐賦序〕朝朝暮暮、陽臺之下。〔白居易、長恨歌〕蜀江水碧蜀山青、聖主朝朝暮暮情。

【暮夜】68 ボヤ 夜に入った時。よる。夜分。莫夜。〔晏子、諫、下〕每㆑有㆓風雨㆒、暮夜求必存。〔新序、雜事四〕於㆑是梁亭乃每㆓暮夜㆒、竊灌㆓楚亭之瓜㆒。〔後漢書、楊震傳〕王密爲㆓昌邑令㆒、謁見、至㆑夜、懷㆓金十斤㆒、以遺㆓楊震㆒。震曰、故人知㆑君、君不㆑知㆓故人㆒、何也、密曰、暮夜無㆓知者㆒。震曰、天知、神知、我知、子知、何謂㆑無㆑知、密愧而出。

〖暮夜金〗69 ボヤキン ひそかにおくる金。賄賂。〔石珤、暮夜金詩〕暮夜金光陸離、故人心君不㆑知。

【暮鷚】70 ボリウ おそく生れた子。晚年の子。暮子(32)を見よ。〔升庵外集〕老人自稱㆓少子㆒曰㆓暮鷚㆒。

【暮嶺】71 ボレイ ゆふぐれのみね。〔王昌齡、萬歲樓詩〕猿狖何曾離㆓暮嶺㆒、鸕鷀空自泛㆓寒洲㆒。

【暮齡】72 ボレイ 老いた年齡。暮年(62)に同じ。〔南齊書、劉善明傳〕惡㆑色憎㆑聲、暮齡尤甚。

【暮樓】73 ボロウ ゆふぐれの樓上の眺望。〔李商隱、潭州詩〕潭州官舍暮樓空、古今無㆑端入㆓望中㆒。

【暮田川】74 クダカハ 美濃國津山川の別稱。

【暮連鄉】75 ボレンキヤウ 地名。雲南省武定縣の北、大江の南岸。

【暮隨㆓肥馬塵㆒】76 クレニヒバノチリニシタガフ 夕暮れに肥馬に乘つた富貴の人のお伴をしてついて行く。肥馬は富貴の人の乘る肥えた馬。富貴の人にへつらふ喩。〔杜甫、奉㆓贈韋左丞丈㆒二十二韻詩〕朝扣㆓富兒門㆒、暮隨㆓肥馬塵㆒。

【暯】14129 バク マク 〔集韻〕末各切 ㄇㄛˋ mo⁴ 藥

❶くらい。〔集韻〕暯、冥也。❷ない。〔字彙〕暯、虛無也。❸漠(7－18149)・寞(3－7282)に通ず。〔正字通〕暯、與㆓漠・寞㆒並通。

【暰】14130 シヨウ シユ 〔廣韻〕七恭切 冬

いなびかり。〔玉篇〕暰、電光也。

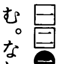
【㬻】14131 クワウ 〔集韻〕虎晃切 養

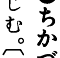
あつさ。あつい。或は⿰日巟(5－13907)に作る。〔集韻〕㬻、旱熱也、或省。

【暱】14132

🈩 ヂツ ニチ 〔集韻〕尼質切 ㄋㄧˋ ni⁴ 質

🈔 ジツ ニチ 〔集韻〕入質切 質


小篆


或體

🈩🈔❶ちかづく。したしむ。なじむ。〔說文〕暱、日近也、从㆑日匿聲。〔爾雅、釋詁〕暱、近也。〔注〕暱、親近也。〔左氏、閔、元〕諸夏親暱。〔注〕暱、近也。〔左氏、僖、二十四〕暱㆑近尊㆑賢。〔注〕暱、親也。❷ちかづき。みより。親幸する者。〔國語、晉語六〕大㆓其私暱㆒。〔注〕暱、近也。❸わたくし。〔列子、湯問〕以㆓暱嫌㆒殺㆓丘邴章㆒。〔注〕暱嫌、私恨。❹すみやか。亟(1－279)に通ず。〔說文通訓定聲〕暱、段借爲㆑亟。〔爾雅、釋言〕暱、亟也。❺昵(5－13866)に同じ。〔說文〕暱、昵、或从㆑尼。〔左氏、襄、二〕其誰暱㆑我。〔釋文〕暱、本又作㆑昵。

【暱愛】1 ヂツアイ したしみあいする。ちかづき愛する。昵愛。〔謝惠連、七月七日夜詠㆓牛女㆒詩〕遐川阻㆓昵愛㆒、脩渚曠㆓清容㆒。〔注〕昵、五臣作㆑暱。

【暱交】2 ヂツカウ 親しい交際。親しい友達。昵交。〔陸機、歎逝賦序〕暱交密友、亦不㆓半在㆒。

【暱近】3 ヂツキン ❶近きにある者をしたしむ。〔左氏、僖、二十四〕庸㆑勳親㆑親、暱㆑近尊㆑賢、德之大者也。❷したしみちかづく。昵近。〔爾雅、釋詁〕暱、近也。〔注〕暱、親近也。

【暱嫌】4 ヂツケン 私怨をいふ。〔列子、湯問〕魏黑卵以㆓暱嫌㆒殺㆓丘邴章㆒。〔注〕暱嫌、私恨。

【暱侍】5 ヂツジ 親しくはべる。近づき侍る。近侍。〔晏子、問、上〕昔吾先君桓公、身體惰懈、辭令不㆑給、則隰朋暱侍、右左多㆑過、獄讞不㆑中、則弦甯暱侍。

【暱就】6 ヂツシウ したしみつく。暱近。〔左氏、成、十三〕是用痛㆑心疾㆑首、暱㆓就寡人㆒。

【暲】14133 シヤウ 〔集韻〕諸良切 陽

❶日が上りすすむさま。〔集韻〕暲、日光上進皃。❷あきらか。〔玉篇〕暲、明也。❸章(8－25761)に通ず。〔正字通〕暲、通作㆑章。

【⿱敖日】14134 ガウ ゴウ 〔集韻〕牛刀切 豪

日の光。〔集韻〕⿱敖日、日光。

【暳】14135 ケイ ケ 〔集韻〕呼惠切 霽

❶衆くの星のさま。〔玉篇〕暳、眾星皃。❷小さい星のさま。〔類篇〕暳、小星也。〔正字通〕暳、小星皃。❸或は⿰日憲(5－14238)に

作る。〔集韻〕暳、或不レ省。❹通じて嘒(2－4196)に作る。〔正字通〕暳、一說、詩譌从レ口、當レ作レ暳。

【暳】14136

ケイ 熭(7－19353)に同じ。〔韻會〕暳、同レ熭。

【暴】14137

［一］ハウ ボウ 〔集韻〕薄報切 ㄅㄠˋ pao⁴ 號

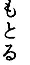
［二］ホク ボク 〔集韻〕步木切 ㄆㄨˋ p'u⁴ 屋

［三］ハク バク 〔集韻〕白各切 藥

［四］ハク 〔集韻〕北角切 覺

［五］ホク ボク 〔集韻〕蒲沃切 沃

［慣］バウ


小篆

［一］❶あらい。みだる。もとる。曓(5－14201)に通ず。〔說文〕曓、疾有レ所レ趣也、从二日出本廾レ之。〔段注〕會意、廾者、竦手也、薄報切、按、此與レ暴二篆形義皆殊、而今隸不レ別。〔正字通〕暴、橫也。〔孟子、滕文公下〕暴君代作。〔注〕暴、亂也。〔史記、伯夷傳〕暴戾恣睢。〔注〕索隱曰、暴戾、謂二兇暴而惡戾一也。❷つよい。たけだけしい。〔正字通〕暴、猛也。〔易、乾、保合大和、疏〕純陽剛暴。〔北史、魏孝文帝紀〕白狼猛暴。❸きびしい。ひどい。〔史記、平津侯主父傳〕故倒二行暴三施之一。〔注〕索隱曰、暴者、急也。❹しひたげる。〔孟子、萬章上〕豈得レ暴二彼民一哉。〔集注〕不レ得レ虐二有庳之民一也。〔淮南子、天文訓〕故誅暴則多二飄風一。〔注〕暴、虐也。❺そこなふ。やぶる。〔禮、王制〕田不レ以レ禮、曰レ暴二天物一。〔疏〕是暴二害天之所レ生之物一。〔孟子、公孫丑上〕持二其志一、無レ暴二其氣一。❻わるい。あばれる。あばれ者。〔孟子、告子上〕凶歲子弟多レ暴。〔注〕暴、惡也。❼はやい。はげしい。〔詩、邶風、終風〕終風且暴。〔傳〕暴、疾也。〔疏〕釋天云、日出而風曰レ暴、孫炎曰、陰雲不レ興而大風暴起、然則爲二風之暴疾一、故云レ疾也。❽にはか。たちまち。にはかに。〔廣雅、釋詁二〕暴、猝也。〔穀梁、宣、二〕靈公朝二諸大夫一而暴彈レ之。〔補注〕謂下出二其不意一、猝彈上之也。〔呂覽、察今〕今澭水暴溢。〔注〕暴、卒也。❾しのぐ。犯す。〔韓非子、八說〕人主輕レ下曰レ暴。〔呂覽、至忠〕何其暴而不敬也。〔注〕下陵二其上一、謂二之暴一。❿とぼしい。てうすい。〔禮、王制〕喪祭用不レ足曰レ暴。〔注〕暴、猶レ耗也。〔疏〕物被二殘暴一則虛耗、故云二暴猶レ耗也。⓫はやて。疾風。〔爾雅、釋天〕日出而風爲レ暴。⓬から手でうつ。てうちにする。〔詩、鄭風、大叔于田〕襢裼暴虎。〔傳〕暴虎、空手以搏レ之。⓭方六里の地。〔管子、乘馬〕方六里、命レ之曰レ暴。⓮五十家の部落。〔管子、乘馬〕十家而連、五連而暴。⓯地名。鄭の地。今の河南省舊開封府の境內。〔春秋、文、八〕公子遂會二雒戎一盟二于暴一。〔杜注〕暴、鄭地。⓰姓。〔尙友錄〕暴、魏郡商音、諸公暴辛公之後。

［二］［三］❶さらす。㋑日にかわかす。曓(5－14225)・曝(5－14239)に同じ。〔說文〕暴、晞也、从二日出廾レ米。〔說文段注箋〕暴之本義爲レ曬レ米、因レ之、凡暴二物於日一、謂二之暴一、俗增二日旁一作レ曝。〔集韻〕暴、日乾也、或作二暴・曝一。〔小爾雅、廣言〕暴、曬也。〔孟子、滕文公上〕秋陽以暴レ之。〔注〕言二暴レ之乾一也。〔史記、司馬相如傳〕暴二於南陵一。〔注〕索隱曰、暴、偃二臥日中一也。㋺野宿させる。〔穀梁、隱、五、久レ之也、注〕暴レ師經レ年。〔釋文〕暴、露也。㋩雨露にあてる。〔李華、弔二古戰場一文〕暴二骨沙礫一。❷あたためる。〔孟子、告子上〕一日暴レ之、十日寒レ之。〔集注〕暴、步卜反、溫レ之也。❸あらはす。あきらかに示す。〔孟子、萬章上〕暴二之於民一、而民受レ之。〔集注〕暴、顯也。〔漢書、中山靖王勝傳〕數奏暴二其過惡一。〔注〕師古曰、暴、謂三披二布之二。〔漢書、西域傳上〕因暴二兵威一。〔注〕師古曰、暴、謂二顯揚一也。❹あらはれる。知れる。〔漢書、淮陽憲王欽傳〕過惡暴列。〔注〕師古曰、暴、謂二章顯一也。〔後漢書、竇融傳〕皆近事暴著。〔注〕暴、露也。❺枯れる。かわく。〔荀子、勸學〕雖レ有二槁暴一。〔注〕暴、乾也。

［四］［五］❶もり上つて堅牢緻密でない。〔周禮、考工記、旊人〕髻墾薜暴不レ入レ市。〔注〕鄭司農云、暴、讀爲レ剝、玄謂、暴、墳起不二堅致一也。❷枝葉がまばら。暴樂(161)を見よ。❸かわいてゆがむ。歊暴。〔集韻〕暴、歊暴、乾橈也。❹しろい。白(8－22678)に通ず。〔說文通訓定聲〕暴、叚借爲レ白。〔管子、乘馬〕暴布百兩當二一鎰一。〔注〕暴布、白布也。

解字 曓と暴とは音義とも異なる別字であるが、今隸(楷書)では兩者を同じく暴とする。今、兩字の解字をこの項に併せ、熟語も亦この一項にまとめた。❶曓、會意。日と出と本(疾く走り進む)と廾(兩手をささげる)との合字。日出に疾く趨つて之をささげる義。一說(說文通訓定聲)に、「本に從ふ、暴の省聲」と。これは形聲となり解し易い。引伸して、凡そ疾い意。更に引伸して急猝厲疾、あらあらしい意。〔說文、曓、疾有レ所レ趣也、段注〕引申爲二凡疾之偁一、按、此與レ暴二篆形義皆殊、而今隸不レ別。❷暴、會意。日と出と廾と米との合字。日が出て、兩手で米をあげてさらす義。さらす。かわかす。引伸して表暴・暴露(あらはす)の意とする。凡そ暴疾・暴虐・暴虎の暴は皆、本部の曓とは義異なる。而るに今隸では之を一つにしてゐる。經典も兩者を暴にしてゐて、之を是正することは難しい。〔說文、暴晞也、段注〕攷工記、晝暴二諸日一、孟子、一日暴レ之、引伸爲二表暴暴露之義一、與二本部曓義一別、凡曓疾曓虐曓虎皆本部字也、今隸一レ之、經典皆作レ暴、難二於諟正一。

【暴惡】1 バウアク あらくれてわるい。又、其の者。〔漢書、刑法志〕凡制レ刑之本、將下以禁二暴惡一、且懲中其末上也。〔漢書、西域傳〕萬年初立暴惡、國人不レ說。〔柳宗元、段太尉逸事狀〕邠人偸嗜暴惡者。

【暴衣】2 バクイ ❶衣服を雨露等にさらす。身體を風雨にさらす。〔史記、蕭相國世家〕王暴レ衣露レ蓋、數使三使勞二苦君一者、有レ疑二君心一也。〔漢書、五武子、燕剌王劉旦傳〕今宗室子孫、曾無二暴衣露冠之勞一。❷衣裳をかわかす。土用干し。曝衣(5－14239・・1)に同じ。

【暴威】3 バウヰ 暴戾ないきほひ。無法な威勢。

【暴溢】4 バウイツ にはかにあふれる。又、はげしくあふれる。〔魏志、曹仁傳〕時漢水暴溢。〔南史、陳後主紀〕淮渚暴溢、漂二沒舟乘一。

【暴淫】5 バウイン 度を過ごして房事を行ふ。

【暴飮】6 バウイン むやみに酒をのむ。やけのみ。

【暴雨】7 バウウ はげしいあめ。又、にはかあめ。〔禮、月令〕(孟春之月)行二秋令一、則其民大疫、猋風暴雨總至。〔列子、湯問〕伯牙游二於泰山之陰一、卒逢二暴雨一、止二於巖下一。〔韓非子、用人〕夫人主不レ塞二隙穴一、而勞二力於赭堊一、暴雨疾風必壞。〔管子、小匡〕時雨甘露不レ降、飄風暴雨數臻、五穀不レ蕃、六畜不レ育。

【暴鳶】8 バウエン 戰國、魏の將軍。〔史記、穰侯傳〕走二魏將暴鳶一。

【暴加】9 バウカ にはかに加はる。俄に增加する。

【暴苛】10 バウカ あらくてきびしい。暴戾殘酷。〔宋史、陳希亮傳〕徐州守暴苛。

【暴害】12 バウガイ 亂暴して危害を加へる。〔說苑、貴

德㆑行不㆑從㆓周衞㆒、人莫㆓能暴害㆒。〔後漢書、任延傳〕其子弟賓客、爲㆓人暴害㆒。

【暴骸】13 バクガイ 死骸をさらす。〔晏子、重而異者〕袒㆑肉暴㆑骸、以望㆓君愍㆑之。〔淮南子、兵略訓〕流血千里、暴㆑骸盈㆑場。〔魏志、文帝紀〕暴㆓骸中原㆒。

【暴行】14 バウカウ ㊀あらあらしいおこなひ。てあらい行。又、亂暴な行をする。〔孟子、滕文公下〕世衰道微、邪説暴行有作、臣弑㆓其君㆒者有㆑之、子弑㆓其父㆒者有㆑之、孔子懼作㆓春秋㆒。〔淮南子、俶眞訓〕暴㆓行越㆔智於天下㆒、以招㆓號名聲於世㆒。〔論衡、言毒〕盛夏暴行、暑暍而死、熱極爲㆑毒也。㊁暴力を他人に加へること。又、強姦をいふ。

【暴抗】15 バウカウ あらあらしくて屈することなく正しい。暴猛抗直。〔史記、佞幸傳序〕至㆓漢興㆒、高祖至暴抗也。〔注〕索隱曰、抗、音苦浪反、言㆓暴猛抗直㆒。

【暴敖】17 バウガウ 暴傲に同じ。〔韓詩外傳、二〕有㆑勢尊貴者、不㆔以愛㆑民行㆓義理㆒、而反以㆓暴敖㆒。

【暴傲】18 バウガウ あらあらしくておごりたかぶる。亂暴で傲慢。暴敖。暴慠。〔管子、內業〕慢易生㆑憂、暴傲生㆑怨。〔韓非子、亡徵〕公壻公孫、與㆑民同㆑門、暴㆓傲其鄰㆒者可㆑亡也。〔集解〕說文、傲、倨也、从㆑人敖聲、古本作㆑敖、通作㆑慠。

【暴慠】19 バウガウ 暴傲に同じ。

【暴豪】20 バウガウ あらくてつよい。〔史記、游俠傳序〕余悲㆘世俗不㆑察㆓其意㆒、而猥以㆓朱家郭解等㆒、令㆗與㆓暴豪之徒㆒同㆑類、而共笑㆖之也。

【暴客】21 バウカク あばれもの。無法者。暴漢。盜賊。〔易、繫辭下〕重門擊柝、以待㆓暴客㆒。

【暴甲】22 バクカフ よろひを風雨にさらす。外征すること。〔尉繚子、兵談〕富治者、民不㆑發㆑軔、甲不㆓出暴㆒、而威制㆓天下㆒、故曰、兵勝㆓于朝廷㆒、不㆑暴㆑甲而勝者、主勝也。

【暴姦】23 バウカン あらあらしくて心のよこしまなこと。暴奸。

【暴悍】24 バウカン あらあらしくてたけしい。〔荀子、王制〕使㆓暴悍以變、姦邪不㆑作。〔顏氏家訓、勉學〕素暴悍者、欲㆔其觀㆓古人之小㆑心黜㆑己、云云、尊㆑賢容㆑衆。

【暴乾】25 バクカン さらしかわかす。〔鹽鐵論、散不足〕今富者韈耳銀鑷䩞、黃金琅勒、罽繡弁汗、垂珥胡鮮、中者染韋紹糸、采畫暴乾。

【暴漢】26 バウカン あばれもの。亂暴もの。

【暴眼】27 pao^4 yen^3 出目。でめ。

【暴肌】28 バクキ はだへをあらはしさらす。〔裴秀、詩〕沾㆑體暴㆑肌。

【暴起】29 バウキ ㊀俄かにおこる。暴興。〔杜陽雜編、中〕遂化爲㆓黑龍㆒、入㆓于池內㆒、俄而雲煙暴起。㊁俄かに昇進する。〔柳宗元、寄㆓許京兆孟容㆒書〕加以㆓素卑賤、暴起領㆑事、人所㆑不㆑信、射㆑利求㆑進者、塡㆑門排㆑戶。

【暴貴】30 バウキ ㊀急に高貴の身分になる。にはか長者。〔魏志、王淩傳〕斗中有㆑星、當㆑有㆓暴貴者㆒。㊁俄にたかくなる。暴騰。〔越絕書、越絕外傳枕中〕當㆑寒而不㆑寒者、穀爲㆑之暴貴。

【暴棄】31 バウキ ㊀自らそこなひすてる。自暴自棄。〔孟子、離婁上〕自暴者、不㆑可㆓與有㆒㆑言也、自棄者、不㆑可㆓與有㆒㆑爲也。〔集注〕暴、猶㆑害也。㊁にはかに棄てる。にはかに死ぬ。〔漢書、師丹傳〕先帝暴㆓棄天下㆒、而陛下繼㆑體、四海安寧、百姓不㆑懼、此先帝聖德、當㆑合㆓天人㆒之功也。

【暴毀】32 バウキ にはかにこはす。〔墨子、非攻下〕湯乃敢奉㆓率其衆㆒、是以鄕㆓有夏之境㆒、帝乃使㆔陰暴㆓毀有夏之城㆒。

【暴喫】33 バウキツ むやみに飲み食ひする。暴飮暴食。

【暴急】34 バウキフ ㊀にはか。急激。〔管子、治國〕上徵暴急無㆑時、則民倍貸以給㆓上之徵㆒矣。㊁あらくきびしい。〔漢書、五行志中之下〕誅㆓殺諫者㆒、暴急無道。

【暴狂】35 バウキヤウ あらあらしくて心の狂ふこと。狂暴(**7**−**20287**‥126)に同じ。

【暴強】36 バウキヤウ あらあらしくて強い。〔淮南子、詮言訓〕凡人之性、少則猖狂、壯則暴強、老則好㆑利。

【暴虐】37 バウギヤク そこなひしひたげること。又、むごくしひたげる。無慈悲で人をそこなふ。〔書、泰誓上〕敢行㆓暴虐㆒。〔書、牧誓〕俾㆘暴㆓虐于百姓㆒、以姦㆗宄于商邑㆖。〔左氏、宣、三〕商紂暴虐、鼎遷㆓于周㆒。〔韓非子、解老〕人君無道、則內暴㆓虐其民㆒、而外侵㆓欺其鄰國㆒。〔管子、形勢解〕使㆑人暴虐、遇㆑人不㆑信。〔史記、殷紀〕暴虐不㆑遵㆓湯法㆒、亂㆑德。〔漢書、宣帝紀〕耆老之人、髮齒墮落、血氣衰微、亦亡㆓暴虐之心㆒。〔楚辭、東方朔、七諫、沈江〕紂暴虐以失㆑位兮、周得㆓佐乎呂望㆒。〔注〕卒怒曰㆑暴、賊㆑善曰㆑虐。

【暴逆】38 バウギヤク あらあらしくて人道に背く。橫暴で理にさからふ。又、其の者。〔墨子、非命中〕暴㆓逆百姓㆒、使㆓下不㆑愼㆓其心志之僻㆒。〔史記、高祖紀〕誅㆓暴逆㆒、遂有㆓天下㆒。〔漢書、陸賈傳〕天子聞㆘君王王㆓南越㆒、而不㆛助㆓天下㆒誅㆚暴逆㆙。〔說苑、奉使〕天子聞㆘君王王㆓南越㆒、不㆛助㆓天下㆒誅㆚暴逆㆙。

【暴謔】39 バウギヤク 暴虐(37)に同じ。〔左思、吳都賦〕鄱陽暴謔。〔顏氏家訓、序致〕禁㆓童子之暴謔㆒、則師友之誡、不㆑如㆓傅婢之指揮㆒。

【暴擧】40 バウキヨ ㊀亂暴なふるまひ。無暴なくはだて。㊁一揆を起すこと。暴動。

【暴兇】41 バウキヨウ 亂暴で惡い。凶暴(**2**−**1803**‥109)に同じ。

【暴遇】42 バウグウ あらあらしくもてなす。〔管子、四稱〕獠獵畢弋、暴㆓遇諸父㆒。

【暴火】43 バウクワ はげしい火。猛火。〔管子、七臣七主〕大風漂㆑屋折㆑樹、暴火焚㆑地燋㆑草。

【暴寡】44 バウクワ 人數の少ないものをしひたげる。〔淮南子、脩務訓〕爲㆘天下強掩㆑弱、衆暴㆑寡、詐欺㆑愚、勇侵㆑怯、懷㆑知而不㆓以相敎㆒、積㆑財而不㆗以相分㆖。

【暴浣】45 バククワン 日にさらし水に洗ふ。惡を去つて立派にすること。〔說苑、復恩〕夫高明至賢、德行全誠、耽㆑我以㆑道、說㆑我以㆑仁、暴㆓浣我行㆒、昭㆓明我名㆒、使㆔我爲㆓成人㆒者、吾以爲㆓上賞㆒。

【暴君】46 バウクン 無道なきみ。民をしひたげる君。暴虐な君。〔孟子、滕文公上〕是故暴君汙吏、必慢㆓其經界㆒。〔荀子、臣道〕事㆓暴君㆒者、有㆓補削㆒。

【暴擊】47 バウゲキ にはかに擊つ。又、無暴な攻擊。〔六韜、豹韜、突戰〕其牛馬必不㆑得㆑食、士卒絕㆑糧、暴擊而前。

【暴桀】48 バウケツ あらあらしく道理にもとる。凶暴。亂暴。〔史記、孟嘗君傳贊〕吾嘗過㆑薛、其俗閭里、率多㆓暴桀子弟㆒、與㆓鄒魯㆒殊。〔唐書、李勉傳〕勉居㆑鎭八年、以㆓舊德方重㆒、不㆑威而治、東諸帥暴桀者、皆尊憚㆑之。

【暴犬】49 バウケン あばれまはる犬。

【暴顯】50 バウケン 北齊、斥丘の人。字は思祖。騎射を善くす。初、魏の孝莊に從ひ、後、高歡に從つて兵を擧ぐ。官は北徐州刺史。天統中、位は驃騎大將軍。爵は定陽王。〔北齊書、四十一〕・〔北史、五十三〕。

【暴言】51 バウゲン あらあらしくみだりなことば。亂暴なことば。

【暴虎】52 バウコ 虎を手打ちにする。暴虎馮河。〔爾雅、釋訓〕暴虎、徒搏也。〔疏〕暴虎、空手以搏㆑之。〔詩、鄭風、大叔于田〕襢裼暴㆑虎、獻㆓于公所㆒。〔傳〕暴㆑虎、空手以搏㆑之。〔陳奐傳疏〕暴・搏・捕、一語之轉。

【暴虎馮河】53 バウコヒヨウカ 虎を手打ちにし、黃河をかちわたりする。血氣の勇にはやつて無謀な冒險を敢へてする喩。〔詩、小雅、小旻〕不㆓敢暴虎㆒、不㆓敢馮河㆒。〔傳〕馮、陵也、徒涉曰㆓馮河㆒、徒搏曰㆓暴虎㆒。〔論語、述而〕暴虎馮河、死而無㆑悔者、吾不㆑與也。〔集解〕孔安國曰、暴虎、徒搏、馮河、徒涉。〔疏〕空手搏㆑虎爲㆓暴虎㆒、無㆑舟渡㆑河爲㆓馮河㆒。〔後漢書、郅惲傳〕暴虎馮河、未㆑至之戒、誠小臣所㆓竊憂㆒也。

【暴寇】54 バウコウ あらあらしいあた。惡者。仇敵。〔吳子、應變〕武侯問曰、暴寇卒來、掠㆓吾田野㆒、取㆓吾牛馬㆒、則如㆑之何、起對曰、暴寇之來、必慮㆓其強㆒、善守勿㆑應。

【暴興】55 バウコウ にはかにおこる。突然に發生する。突發。暴起。〔左思、吳都賦〕其吐㆑哀也、則淒風暴興。

【暴刻】56 バウコク あらあらしくむごい。暴酷。慘酷。〔後漢書、質帝紀〕將㆓二千石令長不㆑崇㆓寬和㆒、暴刻之爲乎。

【暴國】57 バウコク あらあらしくわるい國。〔荀子、王制〕脅㆓於暴國㆒而黨。

【暴酷】58 バウコク あらあらしくむごい。〔史記、酷吏、周陽由傳〕然由居㆓二千石中㆒、最爲㆓暴酷驕恣㆒。〔漢書、鼂錯傳〕刑罰暴酷、輕㆓絕人命㆒。

【暴獄】59 バウゴク 暴動が起り世が亂れて獄訟の多いこと。〔史記、天官書〕陽星多㆓暴獄㆒、太陽、大旱喪也。

【暴忽】60（バウコツ） たちまち。又、疾風をいふ。飄忽。〔孔平仲、秋夜舟中詩〕人言風怒未㆓渠央㆒、我觀㆓暴忽㆒勢不㆑長。

【暴骨】61（バクコツ） 骨を原野にさらす。戰死して屍を收めるものが無いのをいふ。〔左氏、宣、十二〕今我使㆓二國暴㆑骨、暴矣。〔戰國、秦策〕首身分離、暴㆓骨草澤㆒。〔漢書、溝洫志〕可㆘以省㆗隄防備㆑塞、士卒轉輸、胡寇侵盜、覆㆑軍殺㆑將、暴㆓骨原野㆒之患㆖。

【暴坐】62（バクザ） 身體を風雨にさらして坐する。〔史記、田叔傳〕相出、常暴坐、待㆓王苑外㆒。

【暴挫】63（バウザ） あらあらしくて人を挫く。〔史記、酷吏傳贊〕至㆑若㆓蜀守馮當暴挫、廣漢李貞擅磔㆑人。

【暴灑】64（バウサイ） にはかにそそぐ。〔郭璞、江賦〕駭浪暴灑、驚波飛薄。〔注〕翰曰、暴、疾。

【暴曬】64′（バクサイ） さらす。日にかわかす。曝曬。〔小爾雅、廣言〕暴・映、曬也。〔漢書、宣帝紀、暴室、注〕師古曰、取㆓暴曬㆒爲㆑名耳。

【暴作】65（バウサク） にはかにおこる。〔史記、扁鵲傳〕凡此數事、皆五藏蹷㆑中之時、暴作也。

【暴察】66（バウサツ） きびしくしらべる。〔荀子、彊國〕威有㆑三、有㆓道德之威者㆒、有㆓暴察之威者㆒、有㆓狂妄之威者㆒。〔注〕暴察、謂㆓暴急嚴察㆒也。

【暴殘】67（バウザン） あらあらしくむごたらしい。〔墨子、非儒下〕意暴殘之國也、聖人將㆓爲㆑世除㆑害、興㆑師誅罰㆒。

【暴士】68（バウシ） 暴人(94)に同じ。

【暴子】69（バウシ） 暴逆の子。〔列女傳、辯通、趙佛肸母傳〕君有㆓暴臣㆒、妾無㆓暴子㆒、是以言、妾無㆑罪也。

〔暴子眼兒〕70 pao^4 tzŭ^2 yen^3 êrh 出目。暴眼。

【暴死】71（バウシ） 急に死ぬ。頓死。〔漢書、五行志下之上〕猶不㆑能㆓自解㆒、發㆑疾暴死、又凶短之極也。

【暴至】72（バウシ） にはかに至る。〔荀子、賦〕暴至㆓殺傷㆒、而不㆓億忌㆒者與。〔白虎通、壽命〕若上逢㆓亂君㆒、下必災變暴至。

【暴屍】73（バクシ） しかばねをさらす。〔後漢書、五行志一〕固是日幽㆓斃于獄㆒、暴㆓屍道路㆒。

【暴施】74（バウシ） にはかに施し行ふ。〔史記、主父偃傳〕吾日暮途遠、故倒行暴㆓施之㆒。

【暴師】75（バクシ） 軍隊を風雨にさらす。兵を原野に露營させる。〔孫子、作戰〕久暴㆑師、則國用不㆑足。〔史記、蒙恬傳〕暴㆓師於外㆒十餘年。〔漢書、樊噲傳〕且沛公先入定㆓咸陽㆒、暴㆓師霸上㆒、以待㆓大王㆒。

【暴恣】76（バウシ） てあらくほしいまま。〔蘇軾、眞興寺閣詩〕古人雖㆓暴恣㆒、作㆑事今世驚。

【暴室】77（バクシツ） ❶漢代、宮中の旁舍で織作染練を主る署。暴はさらしかわかす意に取つて名づく。應劭の注によれば宮人の獄で❷に同じいことになる。〔漢書、宣帝紀〕爲取㆓暴室嗇夫許廣漢女㆒。〔注〕應劭曰、暴室、宮人獄也、今曰㆓薄室㆒、師古曰、暴室者、掖庭主㆓織作染練㆒之署、故謂㆓之暴室㆒、取㆓暴曬㆒爲㆑名耳。❷漢代、掖庭內に置き、宮中婦人の疾病ある者、或は皇后貴人等の罪ある者を投ずる獄。東漢には暴室丞があつて、宦者が之にあたつてゐた。〔漢書、孝武趙皇后傳〕取㆓牛官令舍婦人新產兒、婢六人㆒、盡置㆓暴室獄㆒。〔後漢書、鄧皇后紀〕廢㆑后送㆓暴室㆒、以㆑憂死。〔注〕漢官儀曰、暴室在㆓掖庭內㆒、丞一人、主㆓宮中婦人疾病者㆒、其皇后貴人有㆑罪、亦就㆓此室㆒也。

【暴疾】78（バウシツ） ❶あらくてはやい。〔詩、邶風、終風〕終風且暴。〔箋〕既竟日風矣、而又暴疾。〔六韜、龍韜、奇兵〕長關遠候、暴疾謬遁者、所㆓以降㆑城服㆑邑也。〔尉繚子、兵令上〕安靜則治、暴疾則亂。❷にはかに發した病。急病。〔唐書、李勣傳〕嘗暴疾。

【暴習】79（バウシフ） にはかに習ひ修める。〔論衡、逢遇〕文興㆑言尙可㆓暴習㆒、行興㆑能不㆑可㆓卒成㆒。

【暴集】80（バウシフ） にはかに集まる。〔王褒、四子講德論〕先生詳㆑之、行潦暴集、江海不㆓以爲㆑多。

〔暴集客〕81（バウシフキヤク） にはかに集まつて來る人。〔後漢書、朱穆傳論、注〕君子愼㆑人所㆓以交㆑己、審㆑己所㆓以交㆑人、富貴則無㆓暴集之客㆒、貧賤則無㆓棄㆑舊之賓㆒矣。

【暴炙】82（バクシヤ） ❶日にさらす。〔漢書、王吉傳〕夏則爲㆔大暑之所㆓暴炙㆒、冬則爲㆔風寒之所㆓匽薄㆒。❷あきらかにかがやく。〔荀子、富國〕名聲足㆔以暴㆓炙之㆒、威強足㆔以捶㆓笞之㆒。〔注〕名聲如㆓日暴火炙㆒、炎赫也。

【暴射】83（バウシヤ） はげしく發射する。

【暴奢】84（バウシヤ） むやみにおごる。

【暴瀉】85（バウシヤ） はげしい下痢。

【暴章】86（バクシヤウ） 表向きにあらはす。暴露する。〔漢書、薛宣傳〕念十金法重、不㆑忍㆓相暴章㆒、故密以㆓手書㆒相曉。

【暴上】87（バウジヤウ） あらあらしいきみ。暴君。〔晏子、諫、下〕夫民無㆚欲㆘殘㆓其家室之生㆒、以奉㆗暴上之僻㆖者㆙。

【暴出】88（バウシユツ） はげしく流れ出る。あれ狂つて出る。〔漢書、五行志上〕霧水暴出、百川逆溢、壞㆓鄉邑㆒、溺㆓人民㆒。

【暴處】89（バクシヨ） 野ざらしになつてをる。露宿する。〔韓詩外傳、一〕邵伯暴㆓處遠野㆒、盧㆓於樹下㆒。

【暴殖】90（バウシヨク） にはかに繁殖する。

【暴臣】91（バウシン） 暴逆な臣。〔列女傳、辯通、趙佛肸母傳〕君有㆓暴臣㆒、妾無㆓暴子㆒、是以言、妾無㆑罪也。

【暴秦】92（バウシン） 亂暴な政治を行つた秦國。〔荀子、堯問〕上無㆓賢主㆒、下遇㆓暴秦㆒。〔漢書、陸賈傳〕賈曰、皇帝起㆓豐沛㆒、討㆓暴秦㆒誅㆓彊楚㆒、自㆓天地剖判㆒以來、未㆓始有㆒也。〔後漢書、杜篤傳〕聚㆓五星於東井㆒、提㆓千將㆒而呵㆓暴秦㆒。

【暴進】93（バウシン） むやみに進む。

【暴人】94（バウジン） あばれもの。亂暴な者。〔荀子、成相〕暴人芻豢、仁人糟糠。〔韓非子、說林下〕以㆑我爲㆓暴人㆒也、暴人安可㆑侮也、曾子不㆑僇命也。〔墨子、尙同下〕得㆓善人㆒而賞㆑之、得㆓暴人㆒而罰㆑之也。

【暴迅】95（バウジン） あらくはやい。荒れ狂つてはやく流れる。〔宋史、蘇頌傳〕江水暴迅、舟橫欲㆑覆。

【暴水】96（バウスイ） あれ狂ふ水。〔漢書、溝洫志〕可㆘復浚以助㆓大河㆒、泄㆓暴水㆒、備㆗非常㆖。

【暴征】97（バウセイ） やたらに稅をかける。〔左氏、昭、二十〕偪介之關、暴㆓征其私㆒、承嗣大夫、強易㆓其賄㆒。

【暴性】98（バウセイ） あらあらしい性質。

〔暴性子〕98′ pao^4 hsing^4 tzŭ 亂暴な。粗暴な。

【暴政】99（バウセイ） 暴虐な政治。苛酷な政治。〔禮、儒行〕雖㆑有㆓暴政㆒、不㆑更㆓其所㆒。

【暴盛】100（バウセイ） 勢よくさかんなこと。〔後漢書、五行志一〕青青者、暴盛之貌也。

【暴勢】101（バウセイ） 暴虐な勢。〔墨子、兼愛中〕不㆘爲㆓大國㆒侮㆗小國㆖、不㆘爲㆓衆庶㆒侮㆗鰥寡㆖、不㆘爲㆓暴勢㆒奪㆗穡人黍稷狗彘㆖。

【暴昭】102（バウセウ） ❶明、路州の人。官は左都御史・刑部尙書。峻節あり、淸儉を以て稱せらる。燕王の兵と戰ひ、執らへられて磔殺さる。〔明史、一百四十二〕・〔萬斯同明史、一百八十五〕・〔明史稿、一百三十二〕。❷淸、長沙の人。字は方子。軍功により官は知縣。書を善くし、詩に巧。著に鐃歌小唱・塞上寒吟がある。

【暴鈔】103（バウセウ） そこなひかすめとる。劫奪する。〔唐書、辛雲京傳〕回紇恃㆓舊勳㆒、每㆓入朝㆒、所在暴鈔。

【暴說】104（バウセツ） 出放題の說。道理を無視した說。

【暴妾】105（バウセフ） あらあらしい妾。〔列女傳、母儀、衞姑定姜傳〕余以㆓巾櫛㆒事㆓先君㆒、而暴妾使㆑余。

【暴然】106（バウゼン） 勢のあるさま。又、あらあらしいさま。〔蘇洵、諫論下〕須臾顧見㆓猛虎暴然向逼㆒、則怯者不㆑待㆑告。

【暴憎】107（バウゾウ） はげしく憎む。〔柳宗元、送㆓薛存義之㆑任序〕老弱無㆓懷㆑詐暴憎㆒、其爲㆑不㆓虛取㆑直也的矣。

【暴賊】108（バウゾク） てあらくそこなふ。〔說苑、脩文〕淫荒剛厲暴賊、而卒以滅。

【暴卒】109（バウソツ） 俄かに死ぬ。〔唐書、杜伏威傳〕伏威好㆓神仙長年術㆒、餌㆓雲母㆒被㆑毒、暴卒。

【暴打】110 pao^4 ta^3 亂暴に打つ。

【暴濤】111（バウタウ） あらいなみ。

【暴奪】112（バウダツ） 暴力に訴へて奪ひ取る。〔墨子、辭過〕暴㆓奪民衣食之財㆒。

【暴沓】113（バウタフ） あらあらしくて貪る。〔唐書、蕭倣傳〕琢以㆓暴沓㆒免。

【暴智】114（バクチ） ちゑをあらはにする。〔後漢書、崔駰傳〕暴㆑智耀㆑世、因以干㆑祿。

【暴漲】115（バウチヤウ） ❶にはかにみなぎる。〔唐書、李建傳〕時久雨、洛暴漲。〔宋史、陳堯佐傳〕每㆓汾水暴漲㆒、州民輒憂擾。❷pao^4 chang^3 俄かに騰貴する。暴騰。

【暴著】116（バクチヨ） めだつてあらはれる。知れる。發

覺する。露顯。〔漢書、孫寶傳〕崇近臣罪惡暴著、而寶懷レ邪附レ下罔レ上。〔後漢書、竇融傳〕皆近事暴著。〔注〕暴、露也、著、見也。

【暴徵】117 バウチヨウ ほしいままに徵收する。〔白居易、杜陵叟詩〕長吏明知不二申破一、急斂暴徵求二孝課一。

【暴潮】118 バウテウ あらしほ。

【暴敵】119 バウテキ あらあらしい敵。亂暴な敵軍。〔魏書、高閭傳〕暴敵輕侵、則設二防固一以禦レ之。

【暴殄】120 バウテン 手あらに物を取扱つて無くする。荒らし絶やす。〔書、武成〕今商王受無道、暴二殄天物一、害二虐烝民一。〔傳〕暴二絶天物一、言レ逆レ天也、逆レ天害レ民、所三以爲二無道一。〔王先謙孔傳參正〕惠棟云、禮王制、田不レ以レ禮曰レ暴二天物一。

【暴徒】121 バウト 無法者の黨類。あばれもののなかま。〔鹽鐵論、大論〕昆盧徐穀之徒、亂二齊趙一、山東關內暴徒、保レ人阻レ險。

〔暴徒星〕122 バウトセイ 星の名。太陽を距ること最も遠い小行星の一つ。Hector

【暴土】123 pʻu^4 tʻu^3 ほこり。塵埃。

【暴怒】124 バウド あらあらしくいかる。激烈に怒る。〔說苑、建本〕小箠則待、大箠則走、以逃二暴怒一也。〔司馬相如、子虛賦〕觀三壯士之暴怒、與二猛獸之恐懼一。〔孔子家語、六本〕今參事レ父、委レ身以待二暴怒一。

【暴騰】125 バウトウ 俄かにあがる。にはかに騰貴する。

【暴鬭】126 バウトウ 亂暴で爭ひをする。又、その者。

【暴動】127 バウドウ 徒黨を組み騷亂を起して國家社會の安寧をみだすこと。

【暴德】128 バウトク 兇暴な惡德。〔書、立政〕桀德、惟乃弗レ作二往任一、是惟暴德、罔レ後。

【暴貪】129 バウドン 烈しくむさぼる。

【暴內】130 バウナイ 賢者を賊ひ人民を害ふ。暴內陵外「を見よ。

〔暴內陵外〕131 バウナイリヨウグワイ 內は其の民を虐げ外は諸侯を凌ぐ。〔周禮、夏官、大司馬〕賊レ賢害レ民則伐レ之、暴レ內陵レ外則壇レ之。〔注〕內、謂二其國一、外、謂二諸侯一。〔疏〕暴レ內、卽上云二賊レ賢害レ民、是也、陵レ外、卽上云二馮レ弱犯レ寡、是也。

【暴悖】132 バウハイ 暴虐で道にもとる。〔史記、秦始皇紀〕義威誅レ之、殄二熄暴悖一。

【暴暴】133 バウバウ 俄かに起るさま。〔荀子、富國〕財貨渾渾如二泉源一、汸汸如二河海一、暴暴如二丘山一。〔注〕暴暴、卒起之貌、言三物多委積、高大如二丘山一也。

【暴白】134 バクハク あばきあらはす。暴露する。〔王守仁、教條示二龍場諸生一、責善〕暴二白其過惡一、痛毀極詆。

【暴發】135 バウハツ ❶急に起る。又、急に事をなしはじめること。〔史記、扁鵲傳〕暴二發於外一、則爲二中害一。❷pao^4 fa^1 暴發富に同じ。

〔暴發兒〕136 バウハツジ にはか成金。〔通俗編、境遇、暴富〕今俚俗猶謂二忽然富貴者一、曰二暴發兒一。

〔暴發富〕137 pao^4 fa^1 fu^4 にはか成金をいふ。

【暴費】138 バウヒ むやみに費す。

【暴病】139 pao^4 ping^4 俄かに病むこと。急病。

【暴布】140 バクフ 白いぬの。晒し布。〔管子、乘馬〕暴布百兩當二一鎰一。〔注〕暴布、白布也。

【暴巫】141 バウフ にはかに巫をして祈らしめること。〔論衡、明雩〕魯繆公之時歲旱、繆公問二縣子一、天旱不レ雨、寡人欲二暴巫一、奚如。

【暴風】142 バウフウ あらいかぜ。あらし。〔禮、月令〕孟冬行二夏令一、則國多二暴風一。〔史記、五帝紀〕堯使三舜入二山林川澤一、暴風雷雨、舜行不レ迷。〔漢書、翼奉傳〕有二暴風一、從二西南一來。〔後漢書、郎顗傳〕時卒有二暴風一。

〔暴風雨〕143 バウフウウ あらいあめかぜ。おほあらし。大風大雨。〔孔子家語、好生〕夜暴風雨至、釐婦之室壞。

【暴富】144 バウフウ ハウフ 急にとむ。俄かに財產家になる。俄分限。にはか成金。〔瑯嬛記、上〕王豐爲二穀城令一、治レ民有レ法、民多暴富。〔通俗編、境遇、暴富〕五代史安重榮傳、重榮起二于軍卒一、暴至二富貴一。

【暴物】145 バウブツ 物をそこなふ。〔漢書、藝文志〕紂在二上位一、逆レ天暴レ物。〔淮南子、泰族訓〕逆レ天暴レ物、則日月薄蝕、五星失レ行。

【暴兵】146 バウヘイ ❶暴虐な兵士。〔吳子、圖國〕其名又有レ五、一曰義兵、二曰強兵、三曰剛兵、四曰暴兵、五曰逆兵。❷バクヘイ 兵を雨露にさらす。兵を露營させる。〔史記、主父偃傳〕秦常積レ衆暴レ兵數十萬人。〔後漢書、馮衍傳上〕遠征萬里、暴兵累年。

〔暴兵氣〕147 バウヘイキ にはかに兵の來る前兆。〔晉書、天文志中〕凡暴兵氣、白如二瓜蔓連結一、部隊相逐、須臾罷而復出、或白氣如二仙人一、如二仙人衣一、千萬連結、部隊相逐、罷而復興、當レ有二千里兵來一、或氣如三人持二刀楯一、雲如レ人色赤、所レ臨城邑、有二卒兵至一、或赤氣如二人持レ節、兵來未レ息、雲如二方虹一、此皆有二暴兵之象一。

【暴斃】148 pao^4 pi^4 急死する。變死する。頓死。

【暴滅】149 バウベツ 暴蔑に同じ。〔左氏、昭、九〕自レ文以來、世有二衰德一、而暴二滅宗周一、以宣二示其侈一、諸侯之貳、不二亦宜一乎。〔會箋〕滅、石經宋本倶作レ蔑、可レ從、襄二十年暴二蔑其君一、而去二其親一、與二此文一同。

【暴蔑】150 バウベツ そこなひないがしろにする。〔左氏、襄、二十〕暴二蔑其君一、而去二其親一。〔資治通鑑、周紀〕今晉大夫、暴二蔑其君一、剖二分晉國一。

【暴勃】151 バウボツ あらあらしくてほしいまま。〔杜牧、原十六衞〕天下平一、暴勃消削。

【暴猛】152 バウマウ あらあらしくたけしい。〔漢書、元帝紀〕暴猛之俗彌長、和睦之道日衰。

【暴嫚】153 バウマン 暴慢に同じ。〔漢書、禮樂志〕治レ身者、斯須忘レ禮、則暴嫚入レ之矣。

【暴慢】154 バウマン あらあらしくてほしいまま。粗暴高慢。〔論語、泰伯〕動二容貌一、斯遠二暴慢一矣。〔集注〕暴、粗厲也、慢、放肆也。〔史記、禮書〕暴慢恣睢、輕レ俗以爲レ高之屬、入レ焉而隊。〔顏氏家訓、教子〕年登二婚宦一、暴慢日滋。

【暴謾】155 バウマン 暴慢に同じ。〔漢書、董仲舒傳〕桀紂暴謾、讒賊並進、賢知隱伏。〔注〕謾、與レ慢同。

【暴民】156 バウミン 兇暴な民。暴虐な民。〔禮、樂記〕暴民不レ作。〔疏〕暴民、謂二兇暴之民一、不レ作、不二動作一也。〔孔子家語、王言〕然後賢民無レ所レ隱、暴民無レ所レ伏。

【暴面】157 バクメン 面をさらす。〔隋書、地理志下〕豫章之俗、頗同二吳中一、衣冠之人、多有二數婦一、暴二面市廛一、競二分銖一以給二其夫一。

【暴揚】158 バクヤウ あらはしあげる。宣揚する。〔漢書、翟方進傳〕暴二揚尚書事一、虧二損聖德之聰明一、皆不敬。

【暴雷】159 バウライ 烈しいかみなり。迅雷。〔史記、殷紀〕武乙獵二於河渭之閒一、暴雷、武乙震死。〔南方草木狀、木類、楓人〕五嶺之閒多二楓木一、歲久則生二瘤癭一、一夕遇二暴雷驟雨一、其樹贅暗長二三五尺、謂二之楓人一。

【暴落】160 バウラク 物價などの俄かに下落すること。

【暴樂】161 バクラク 樹木の葉の落ちてまばらなこと。爆爍。剝落。〔爾雅、釋詁〕毗劉、暴樂也。〔注〕謂二樹木葉缺落、蔭疏暴樂一、見レ詩。〔疏〕木枝葉稀疏不レ均、爲二爆樂一。

【暴亂】162 バウラン 暴動が起つて世が亂れる。又、亂暴をし世を亂す。〔書、周官〕司寇掌二邦禁一、詰二姦慝一、刑二暴亂一。〔周禮、秋官、小行人〕其悖逆暴亂、作レ慝、猶犯レ令者、爲二一書一。〔荀子、富國〕皆知三其汙漫暴亂、而將二大危亡一也。〔韓非子、姦劫弑臣〕夫有三施二與貧困一、則無レ功者得レ賞、不レ忍レ誅罰一、則暴亂者不レ止。〔墨子、非儒下〕暴亂之人得レ活、天下害不レ除。〔史記、秦始皇紀〕寡人以二眇眇之身一、興レ兵誅二暴亂一。〔漢書、鼂錯傳〕興レ利除レ害、尊レ主安レ民、而救二暴亂一也。

【暴濫】163 バウラン あらくてみだりなこと。〔後漢書、襄楷傳〕桓帝時、宦官專レ朝、政刑暴濫、云云、災異尤數。

【暴吏】164 バウリ あらあらしい役人。非道の事をす「る役人。

【暴利】165 バウリ 不當のまうけ。無法な利益。

【暴掠】166 バウリヤク あらしかすめる。強奪する。暴鈔。〔史記、高祖紀〕懷王約三入レ秦無二暴掠一。〔漢書、劉虞傳〕瓚怒、屢違二節度一、又復侵二犯百姓一、云云、積不レ能レ禁、乃遣二驛使奉章一、陳二其暴掠之罪一。〔後漢書、順烈梁皇后紀〕日南蠻夷、攻城暴掠、賦斂煩數。

【暴略】167 バウリヤク 亂暴しかすめる。暴掠に同じ。〔十八史略、宋、太祖〕勿三暴二略生民一。

【暴陵】168 バウリヨウ あばれてそこなふ。〔後漢書、輿服志上〕使丁天下之民物、各得丙安二其性命一、無乙天昬暴陵之災甲。

【暴龍】169 バクリヨウ 春、ひでりの時、蒼龍をつくり、これを日にさらして天に降雨を祈ること。〔後漢書、郎顗傳〕暴レ龍移レ市。〔注〕董仲舒春秋繁露曰、春旱以二甲乙日一爲二蒼龍一一、長八尺、居二中央一、爲二小龍五一、各長四尺、於二東方一、皆東向、其閒相去八尺、小童八人、皆齋三日、服二青衣一而舞レ之、夏以二丙丁日一爲二赤龍一、服二赤衣一、季夏以二戊己日一爲二黃龍一、服二黃衣一、秋以二庚辛日一爲二白龍一、

服二白衣一、冬以二壬癸日一爲二黑龍一、服二黑衣一、牲各依二其方色一、皆燔二雄雞一、燒二豭豬尾一、於二里北門及市中一以祈焉。禮記、歳旱、魯穆公問二於縣子一、縣子曰、爲レ之徙レ市不二亦可一乎、見二檀弓篇一。

【暴力】170 バウリョク 亂暴な力。無法な力。てあら。力づく。腕力。

〔暴力團〕171 バウリョクダン 暴力を揮ひ横行する團體。

【暴戾】172 バウレイ あらあらしくて道理にそむきもとる。〔詩、小雅、頍弁序〕幽王暴戾無レ親、不レ能下燕二樂同姓一、親中睦九族上。〔戰國、魏策〕今戰勝レ魏、覆二十萬之軍一、而禽二太子申一、臣二萬乘之魏一、而卑二秦楚一、此其暴戾定矣。〔史記、游俠傳贊〕跖蹻暴戾、其徒誦レ義無レ窮。〔六部成語、吏部、暴戾、注解〕性情兇曰二暴戾一。

〔暴戾恣睢〕173 バウレイシキ 暴戾で目を怒らし視る。極めて横暴な行爲をいふ。〔史記、伯夷傳〕暴戾恣睢、聚レ黨數千人、横二行天下一。

【暴厲】174 バウレイ あらあらしくはげしい。〔說苑、修文〕暴厲淫荒之動、不レ在二乎體一。〔孔子家語、辯樂〕暴厲之動、不レ在二于體一。〔唐書、張公素傳〕性暴厲、眸子多白。

〔暴厲迅疾〕175 バウレイジンシツ 荒くはげしくて早いこと。〔近古史談、豐篇、花房職之〕暴厲迅疾、天地唯恐レ崩。

【暴列】176 バクレツ あらはしならべる。〔漢書、淮陽憲王欽傳〕奉レ藩無狀、過惡暴列、陛下不レ忍レ致レ法。

【暴練】177 バクレン 練つて日にさらす。〔周禮、天官、染人〕凡染、春暴練、夏纁去、秋染夏、冬獻功。〔注〕暴練、練二其素一而暴レ之。

【暴斂】178 バウレン 租税を亂暴にとりたてる。租税をみだりにとりたてる。〔唐書、楊瑒傳〕暴二斂之一以佐レ費。

【暴露】179 バクロ ㊀風雨にさらす。雨露に身體をさらす。〔左氏、襄、三十一〕不二敢輸一レ幣、亦不二敢暴露一、云云、其暴二露之一、則恐三燥濕之不レ時而朽蠹、以重二敝邑之罪一。〔會箋〕暴露者、置二之于外一也。〔國語、越語上〕句踐說二於國人一曰、寡人不レ知二其力之不一レ足也、而又與二大國一執レ讎、以暴二露百姓之骨於中原一、此則寡人之罪也。〔戰國、秦策〕是故兵終身暴二露於外一、士民潞二病於內一、霸王之名不レ成。〔荀子、王制〕彼將四日日暴二露毀三折之中原一。〔韓非子、初見秦〕前者穰侯之治レ秦也、用二一國之兵一、而欲三以成二兩國之功一、是故兵終身暴二露於外一、士民疲二病於內一。〔史記、項羽紀〕暴二露於野一三年。〔史記、司馬穰苴傳〕邦內騷動、士卒暴二露於境一。〔淮南子、氾論訓〕天下雄雋豪英、暴二露于野澤一。㊁祕密が顯はれる。ばれる。露顯。發覺。

【暴横】180 バウワウ あらあらしくてよこしま。亂暴で無理を通すこと。横暴。〔後漢書、馮異傳〕今諸將皆壯士、屈起多二暴横一。

【暴勝之】181 バウショウシ 清、河東の人。字は公子。武帝の末、直指使者となる。繡衣を著、斧を持つて盜賊を討ち、威名あり。又、能く人を知る。〔前漢書、六十六〕。

【暴節竹】182 バウセツチク 竹の一種。笻竹。〔本草、竹〕集解、時珍曰、暴節竹、出二蜀中一、高節磥砢、卽笻竹也。

【暴不肖人】183 バウフセウジン 兇暴で愚かな人。〔墨子、非命下〕今夫有レ命者、不レ識、昔也三代之聖善人與、抑昔三代之暴不肖人與、以二此說一觀レ之、則必非二昔三代聖善人一也、必暴不肖人也。

【暴鰓龍門】184 バクサイリョウモン あぎとを龍門にさらす。困み疲れる喩。轉じて、試驗に應じて落第する者をいふ。登龍門(**7－22668**・・158)の㊀の對。〔太平御覽、鱗介、龍〕三秦記曰、河津、一名龍門、巨靈跡猶存、去二長安一九百里、水懸レ船而行、旁有レ山、水陸不レ通、龜魚之屬、莫二能上一、江海大魚、集二門下一數千、不レ得レ上、上卽爲レ龍、故云下曝二鰓龍門一垂中耳輳下上。

〔暴勝持斧〕185 ボウショウヂフ 蒙求の標題。漢の暴勝之の故事。暴勝之を見よ。〔漢書、雋不疑傳〕武帝末、郡國盜賊羣起、暴勝之爲二直指使者一、衣二繡衣一持レ斧、逐二捕盜賊一、督二課郡國一、東至レ海、以二軍興一誅二不レ從レ命者一、威振二州郡一。

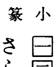
【止レ暴禁レ非】186 バウヲトドメヒヲキンズ 凶暴な非道な行爲をやめさせる。〔莊子、盜跖〕使下子路去二其危冠一、解二其長劍一、而受中教於子上、天下皆曰、孔丘能止レ暴禁レ非。

【以レ暴易レ暴】187 バウヲモツテバウニカフ 暴戾な者を除くために暴戾なことをする。血で血を洗ふ。伯夷・叔齊が周の武王を誹つた辭。〔史記、伯夷傳〕及二餓且一レ死、作レ歌、其辭曰、登二彼西山一兮、采二其薇一矣、以レ暴易レ暴兮、不レ知二其非一矣、神農虞夏、忽焉沒兮、我安適歸矣、于嗟徂兮、命之衰矣、遂餓二死於首陽山一。

【暵】14138

㈠カン 〔集韻〕許旱切 旱 ㄏㄢˋ han^4

㈡カン 〔集韻〕虛旰切 翰


小篆

㈠㈡ ㊀**かわかす。さらす。**日にさらしてかわかす。〔說文〕暵、乾也、耕暴レ田曰レ暵、从レ日、莫聲、易曰、燥二萬物一者、莫レ暵二乎火一。〔桂注〕廣雅、暵、暴也、周禮舞師、敎二皇舞一、帥而舞二旱暵之事一、注云、暵、熱氣也。〔正字通〕暵、曝也。㊁**しぼみ枯れたさま。**〔詩、王風、中谷有蓷〕暵其乾矣。〔傳〕暵、菸貌。〔疏〕說文云、菸、矮也、然則由三菸死而至二於乾燥一、以レ暵爲レ菸也。㊂**あつい。**あつさ。〔周禮、地官、舞師〕敎二皇舞一、帥而舞二旱暵之事一。〔注〕暵、熱氣也。㊃**或は熯(7－19355)・焊(7－19077)**に作る。〔集韻〕暵、或作二熯・焊一。

【暵赫】1 カンカク 日光のはげしくあついさま。〔沈佺期、被レ彈詩〕是時盛夏中、暵赫多二瘵疾一。

【暵暵】2 カンカン 日が物をかわかすさま。又、あついさま。〔太平御覽、天部、日上〕賈誼書曰、周文王問二鬻子一曰、既入二其職一、則於二其民一、暵暵然如二日之正中一也。

【暶】14139 セン ゼン 〔集韻〕旬宣切 先

㊀**あきらか。**〔集韻〕暶、明也。㊁**うるはしい。**美しいさま。〔玉篇〕暶、美皃。

【𣅒】14140 シユウ 終(**8－27372**)の古字。〔集韻〕終、古作レ𣅒。

【𣋁】14141 ム 務(**2－2394**)の古字。〔集韻〕務、古作レ𣋁。

【𣈶】14142 カツ 渴(**7－17788**)の古字。〔五音集韻〕𣈶、古文渴字。

【曅】14143 エフ 曄(**5－14170**)に同じ。〔字彙補〕曅、同レ曄。

【𣋎】14144 サウ 〔奚韻〕息葬切 漾

眼でたはむれる。〔奚韻〕𣋎、眼𣋎、戲也。

【暷】14145 テン 〔字彙補〕音傳

日が動く。〔字彙補〕暷、日動也。

【𣋞】14146 セウ 照(**7－19226**)に同じ。〔川篇〕𣋞、同レ照。

【𣋕】14147 チン 義未詳。〔川篇〕𣋕、他林切。

十二畫

【暸】14148 レウ 〔集韻〕憐蕭切 蕭

あきらか。〔集韻〕暸、明也。

【暰】14149 デン ネン 〔集韻〕乃見切 霰

❶日光。晛（5－13942）に同じ。〔集韻〕晛、日光也、或从レ然。❷あたたか。〔廣雅、釋詁三〕暰、煗也。

【暹】14150 セン 〔集韻〕思廉切 鹽 ㄒㄧㄢ hsien¹

❶日がのぼる。〔集韻〕暹、日光升也。❷すすむ。〔正字通〕暹、進也。❸暹羅は、國の名。〔正字通〕暹、暹羅、海中國名。

名乘 ノリ。タケ。アキラ。

【暹羅】1（シャム） 亞細亞洲の東南に位し、緬甸の東、安南の西にある國。現在のタイ。〔淸會典、禮部、主客淸吏司〕凡四裔朝貢之國、云云、曰、暹羅。〔注〕暹羅、古爲二羅斛・暹二國一、後暹爲二羅斛所一レ併、遂爲二暹羅國一。

【暹羅鴿】2（シャムバト） 眞珠鳩の異名。〔和漢三才圖會、原禽類〕鴿有二數品一、云云、頸有二斑文一者、名二暹羅鴿一。

【暹羅雞】3（シャムドリ） 軍雞の異名。〔和漢三才圖會、原禽類〕雞、暹羅雞、形大二於蜀雞一而尾殊微少、大抵高二尺餘、肩張脛大、距尖而長、身毛多兀而冠小、性勁剛能鬪、雖レ倒不レ欲レ逃、是初自二暹羅一來焉。

【暹羅染】4（シャムゾメ） 更紗染の異名。しやむろぞめ。〔和漢三才圖會、絹布類〕華布、印華布、暹羅染。

【暺】14151 タン ダン 〔集韻〕徒案切 翰

あきらか。⿰日旦（5－13851）に同じ。〔集韻〕⿰日旦、明也、或从レ單。

【⿰日肅】14152 ソク 〔集韻〕蘇谷切 屋

❶かわかす。〔集韻〕⿰日肅、燥也。❷さらす。〔篇海〕⿰日肅、暴也。

【暻】14153 ケイ キヤウ 〔集韻〕俱永切 梗

❶あきらか。〔集韻〕暻、明也。❷景（5－13983）の俗字。〔正字通〕暻、俗景字。

【⿰日爲】14154 ヰ 〔玉篇〕于鬼切 尾

日光。暐（5－14049）に同じ。〔玉篇〕⿰日爲、日光也、暐、同レ上。

【暼】14155 ヘツ ヘチ 〔集韻〕匹蔑切 屑

暼暼は、日の落ちる勢。〔集韻〕暼、暼暼、日落勢。

【暽】14156 リン 〔集韻〕離珍切 眞

人名。〔集韻〕暽、人名、漢有二兪閭侯暽一。

【⿰日敵】14157 テツ テチ 〔集韻〕敕列切 屑

あきらか。〔集韻〕⿰日敵、明也。

【⿰日翕】14158 キフ コフ 〔集韻〕迄及切 緝

日が物を乾かす。〔集韻〕⿰日翕、日乾レ物也。

【⿰日欮】14159 クツ 〔康熙字典〕音⿰風勿

くらいさま。〔康熙字典〕⿰日欮、不レ明貌。

【暾】14160 トン 〔集韻〕他昆切 元 ㄊㄨㄣ t'uen¹

❶日の出るさま。轉じて、朝日をいふ。旽（5－13777）に同じ。〔集韻〕暾、日始出皃、亦作レ旽。〔楚辭、九歌、東君〕暾將レ出二兮東方一。〔注〕謂下日始出二東方一、其容暾暾而盛大上也。❷朝日が物を照らす。又、あたたか。〔正字通〕暾、日始出昫レ物貌。〔蘇軾、吳山人詩〕一去二吳興一十五年、一寸閒田曉日暾。❸にぶい。おろか。〔正字通〕暾、俗謂三人性不二爽利一曰二溫暾一。

【暾谷】1（トンコク） 淸、林旭（6－14551‥68）の字。

【暾暾】2（トントン） ❶日光が滿ちわたるさま。〔楚辭、劉向、九歎、遠逝〕日暾暾其西舍兮、陽炎炎而復顧。〔岑參、春尋二河陽陶處士別業一詩〕風暖日暾暾、黃鸝飛二近村一。❷火の光の盛なさま。〔舊唐書、五行志〕開元五年、洪潭二州災、火延燒二郡舍一、郡人先見二火精赤暾暾飛來一、旋卽火發。

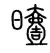
【⿰日敢】14161 ［一］カン 〔集韻〕苦濫切 勘 ［二］トン

［一］日の出るさま。〔廣韻〕⿰日敢、日出皃。［二］暾（5－14160）の譌字。〔正字通〕⿰日敢、暾字之譌、舊注改レ音、非。

【暿】14162 ［一］キ 〔集韻〕虛其切 支 ［二］キ 〔集韻〕許己切 紙

［一］あぶる。又、さかん。熹（7－19380）に同じ。〔集韻〕熹、說文、炙也、一曰、熾也、或作レ暿。［二］盛なさま。又、あつい。〔集韻〕暿、盛皃、一曰熱也。

【曀】14163 ［一］エイ 〔集韻〕壹計切 霽 ㄧˋ i⁴ ［二］イ 〔集韻〕乙冀切 寘 ［三］エツ エチ 〔集韻〕一結切 屑



小篆

［一］［二］［三］❶くもる。日がかげる。〔說文〕曀、天陰沈也、从レ日壹聲、詩曰、終風且曀。〔段注〕各本作二陰而風也一、今正、攷二開元石經一、引作二天地陰沈也一、太平御覽、引作二天陰沈也一。〔釋名、釋天〕曀、翳也、言下雲氣掩二翳日一、使上レ不レ明也。〔小爾雅、廣詁〕曀、冥也。❷くもつて風がふく。〔爾雅、釋天〕陰而風爲レ曀。〔詩、邶風、終風〕終風且曀。〔傳〕陰而風曰レ曀。

【曀曀】1（エイエイ） 陰つて暗いさま。曀は翳。〔詩、邶風、終風〕曀曀其陰、虺虺其靁。〔集傳〕曀曀、陰貌。〔晏子、諫、下〕星之昭昭、不レ若二月之曀曀一、小事之成、不レ若二大事之廢一。〔馮衍、顯志賦〕日曀曀其將レ暮兮、獨於邑而煩惑。

【曀霾】2（エイバイ） くもつて吹く風と土砂を降らす風。〔爾雅、釋天〕風而雨レ土爲レ霾、陰而風爲レ曀。〔詩、邶風、終風〕終風且霾、惠然肯來、云云、終風且曀、不レ日有レ曀。

【曀風】3（エイフウ） くもつて吹くかぜ。〔爾雅、釋天〕陰而風爲レ曀。

【⿱臸日】14164 シン

晉（5－13898）の本字。〔正字通〕⿱臸日、晉本字。

【暨】 14165

㊀キ ケ 〔集韻〕居氣切 ㄐㄧˋ chi4 未

㊁キツ コチ 〔集韻〕居乙切 質

㊂カイ 〔集韻〕居拜切 卦

小篆

㊀❶**日がわづかに見える。**〔說文〕暨、日頗見也、从㆑旦既聲。〔說文通訓定聲〕暨、日出㆓地平㆒謂㆓之旦㆒、暨者乍出微見也。❷**と。**やむを得ないで共にする意。〔爾雅、釋訓〕暨、不㆑及也。〔疏〕公羊傳曰、及者何、與也、會・及・暨、皆與也、曷爲或言㆑會、或言㆑及、或言㆑暨、云云、及、我欲㆑之、暨、不㆑得㆑已也、然則暨者、非㆓我欲㆑之事㆒、不㆑獲㆑已而爲㆑會也、故云㆑不㆑及。❸**およぶ。**いたる。訖(**10−35242**)に通ず。〔說文通訓定聲〕暨、叚借爲㆑訖。〔小爾雅、廣言〕暨、及也。〔華嚴經音義、上〕暨、及預也。〔一切經音義、七〕暨、及也、亦至也。〔禮、表記〕塗不㆑暨㆓于棺㆒。〔注〕暨、及也。〔國語、周語中〕上求不㆑暨。〔注〕暨、至也。〔張衡、西京賦〕左暨㆓河華㆒。〔注〕綜曰、暨、及也。❹**と。ともに。**臮(**9−30116**)・洎(**6−17369**)に通ず。〔說文通訓定聲〕暨、叚借爲㆑臮。〔正字通〕暨、與㆑洎通。〔爾雅、釋詁〕暨、與也。〔書、堯典〕汝羲暨㆑和。〔傳〕暨、與也。〔左氏、昭、六〕暨㆑齊平。〔注〕暨、與也。❺**ぬる。**塈(**3−5423**)に通ず。〔說文通訓定聲〕暨、叚借爲㆑塈。〔禮、喪大記〕塗不㆑暨㆓于棺㆒。〔釋文〕暨、劉本作㆑塈。❻**つよいさま。**〔正字通〕暨、果毅貌。㊁❶**をはる。**やむ。〔集韻〕暨、已也。❷**姓。**〔姓考〕大彭之裔、封㆓於暨㆒、因以爲㆑氏。〔尚友錄〕暨、渤海宮音、又望㆓出餘杭㆒。㊂**いたる。**屆(**4−7666**)に同じ。〔集韻〕屆、說文、行不㆑便也、一曰、極也、至也、古作㆑暨。

解字 會意形聲。旦と既(小食)との合字。既はまた聲。日が地平に出て(旦)微かに見える義。日がわづかに見える。〔說文、暨、段注〕既、小食也、日不㆓全見㆒、故取㆓其意㆒、亦舉㆓形聲㆒包㆓會意㆒。

【暨豔】1 キツエン 三國、吳の吳郡の人。字は子休。張溫に引かれて、選曹郎となり、後、尙書に至る。性狷厲にして淸議を好む。百僚を彈劾し、怨憤を招き、自殺す。〔三國志、五十七〕

【暨暨】2 キキ ❶たけしいさま。果斷で剛毅なさま。〔廣雅、釋訓〕暨暨、武也。〔禮、玉藻〕戎容暨暨、言容詻詻。〔注〕暨暨、果毅貌也。〔蘇洵、張益州畫像記〕謂㆓公暨暨㆒、公來于于。❷已むを得ないで共にする意。〔公羊、隱、元〕會、猶㆑最也、及、猶㆓汲汲㆒也、暨、猶㆓暨暨㆒也、及、我欲㆑之、暨、不㆑得㆑已也。

【暨遜】3 キツソン 晉、餘杭の人。字は茂言。官は廣昌長。封は關內侯。

【暨居】4 キキヨ 獸の名。はりねずみの一種。〔本草、猬〕集解、時珍曰、廣韻云、似㆑猬而赤尾者、名㆓暨居㆒。

【暨陶】5 キツタウ 宋、崇安の人。字は粹夫。元豐の進士第一。官は奉議郎。

【暨陽】6 キヤウ 縣名。❶晉、置く。梁、廢す。今の江蘇省江陰縣の東。〔太平寰宇記〕古暨陽城、在㆓江陰東四十里㆒、漢莫龍所㆑築、以㆑縣捍㆓海寇㆒、因名㆓莫城㆒、晉置㆓暨陽縣於此㆒、隋省、唐復置㆓暨陽縣㆒、仍入㆓江陰㆒、今有㆓莫城鄉㆒、在㆓縣東㆒。❷五代の初、置く。故城は浙江省諸暨縣。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府〕諸暨縣、秦置㆓諸暨縣㆒、屬㆓會稽郡㆒、漢以後因㆑之、隋屬㆓越州㆒、唐仍㆑舊、光啓中、改曰㆓暨陽㆒、五代初吳越復㆑故、宋仍屬㆓越州㆒、元元貞初、升爲㆓諸暨州㆒。

【暨齊物】7 キツセイブツ 五代吳、概齊物(**6−15364・25**)の一名。

【暨南局】8 キナンキヨク 民國、置く。總局は廈門に設けられ、福建暨南局とも名づけらる。鄉里に歸つた華僑の保護、及び華僑の教育、實業の調査報告等の事項を掌る。由來中國の華僑は南洋一帶に在るがため、書經、禹貢の朔南に暨ぶの語を用ひて名づけた。江蘇省に暨南學校があるが、又華僑の子弟のために設けたものである。

【暨羅女】9 キラヂヨ 美人の名。西施のこと。〔李商隱、畫松詩〕亦若㆓暨羅女㆒、平旦粧㆓顏容㆒。

【⿰日曾】 14166

㊀ソウ ゾウ 〔集韻〕徂棱切 蒸

㊁ソウ

㊀**日がくらい。**〔集韻〕⿰日曾、瞢⿰日曾、日不㆑明。㊁䁬(**8−22789**)の譌字。〔康熙字典〕⿰日曾、按、卽䁬字之譌。

【曂】 14167

㊀クワウ ワウ 〔集韻〕胡曠切 漾

㊁クワウ

㊀**あきらか。**〔集韻〕曂、曂眼、明兒。㊁晃(**5−13891**)に同じ。〔正字通〕曂、晃同。

【曃】 14168

㊀タイ 〔集韻〕他代切 隊

㊁タイ ダイ 〔集韻〕徒戴切 隊

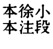
㊀㊁❶**明かでないさま。**曖曃。〔集韻〕曃、曖曃、不㆑明貌。❷或は⿰日隶(**5−13998**)・⿰黑逮(**12−48211**)に作る。〔集韻〕曃、或省、亦作㆑黑。

【曄】 14169

㊀エフ 〔集韻〕域輒切 ㄧㄝˋ yeh4 葉

㊁イフ オフ 〔集韻〕域及切 緝

小篆（大徐本）


小篆（小徐本段注本）

㊀㊁❶**かがやく。**ひかる。もと⿰日𠌶(**5−14208**)・⿱日𠌶に作る。〔正字通〕曄、俗⿰日𠌶字。〔說文〕⿱日𠌶、光也、从㆓日𠌶㆒。〔段注〕鍇本、日在㆓𠌶上㆒、玉篇曰、說文作㆑曅、大徐、日在㆑旁、非也。❷**あきらか。**〔廣雅、釋詁四〕曄、明也。❸**さかん。**〔廣雅、釋詁二〕曄、盛也。〔宋玉、神女賦序〕美貌橫生、曄兮如㆑華。〔注〕善曰、曄、盛貌。❹**いなづまの閃くさま。**〔玉篇〕曄、震電皃。〔後漢書、張衡傳〕列缺曄其照㆑夜。〔注〕曄、光也。❺燁(**7−19390**)に通ず。〔正字通〕⿰日𠌶、與㆑燁通。

名乘 アキラ。

解字 會意。日と華との合字。華は𠌶と音も義も同じ。ひかるさま。〔說文、⿱日𠌶、光也、段注〕也、當㆑作㆑皃、字之誤。

【曄煜】1 イフイク 聲のさかんなさま。一說に、樂器の光をいふ。〔班固、東都賦〕鐘鼓鏗鍧、管絃曄煜。〔注〕善曰、曄煜、聲之盛、翰曰、曄煜、樂器之光也。〔白居易、和㆓夢遊春詩㆒一百韻詩〕親賓盛輝赫、妓樂紛曄煜。

【曄曄】2 エフエフ かがやくさま。うるはしくつやのあるさま。盛なさま。曄然。燁燁。爗爗。〔漢書、敍傳下〕世宗曄曄、思㆑弘㆓祖業㆒。〔注〕師古曰、曄曄、盛貌也。〔班固、西都賦〕蘭茝發㆑色、曄曄猗猗。〔注〕向曰、曄曄、花色貌。〔張衡、西京賦〕流㆓景曜之曄曄㆒。〔注〕綜曰、曄曄、言㆓明盛㆒也。〔蜀志、楊戲傳〕軍師美至、雅氣曄曄。〔左思、蜀都賦〕迎㆓隆冬㆒而不㆑凋、常曄曄而猗猗。〔四皓歌〕曄曄紫芝、以可㆑療㆑饑。

【曄踕】3 エフセフ 衆聲の疾いさま。〔王褒、洞簫賦〕嚐霰曄踕、跳然復出。〔注〕善曰、嚐霰・曄踕、衆聲疾貌、翰曰、曄踕、聲復起也。

【曄然】4 エフゼン 盛なさま。〔馬融、長笛賦〕奄忽滅沒、曄然復揚。〔注〕善曰、曄、盛貌。

【曅】 14170

エフ 曄(**5−14169**)に同じ。〔集韻〕曄、或作㆑曅。

【曆】 14171

レキ リヤク 〔集韻〕狼狄切 ㄌㄧˋ li4 錫

小篆

❶**天體の運行を測る術。**日月星辰の運行を推算して日氣・季節・

時令を定める法。〔說文新附〕曆、曆象也、从レ日厤聲。〔書、洪範〕五曰、曆數。〔洪範五行傳〕曆者、聖人所下以揆二天行一而紀中萬國上也。〔淮南子、本經訓〕星月之行、可二以レ曆推得一也。〔注〕曆、術也。㊁こよみ。日氣・季節・時令を日を追つて記した書。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕視レ曆復開レ書、便利二此月內一。㊂かず。〔爾雅、釋詁〕曆、數也。〔管子、海王〕此其大曆也。〔注〕曆、數也。㊃かぞへる。〔楚辭、離騷〕喟馮レ心而曆レ茲。〔注〕曆、數也。㊄さだめ。まはりあはせ。〔書、大禹謨〕天之曆數在二汝躬一。〔陸機、辨亡論上〕曆命應レ化而微。㊅とし。年代。歲月。〔漢書、諸侯王表序〕周過二其曆一、秦不レ及レ期。㊆よはひ。年齡。〔劉禹錫、爲二杜司徒一慰二義陽公主薨一表〕豈意遘二茲短曆一、奄二謝昌辰一。㊇日記。〔蘇軾、志林〕子宜下置二一卷曆一、晝之所レ爲、夜必書上之。㊈簿帳。〔青瑣詩話〕取二門曆一書二一紀一。㊉通じて厤(2—2991)に作る。〔說文新附〕曆、史記通作レ厤。⑪通じて歷(6—16340)に作る。〔正字通〕曆、通作レ歷、史漢皆作レ歷。

〔參考〕㊀清代、高宗の諱を避けて曆の代りに歷を用ふ。〔清國行政法汎論、皇室、御名敬避〕高宗純皇帝、廟諱曰二弘曆一、曆以レ歷代レ之、曆象・曆數等字、皆不レ得レ用、稱レ曆曰二時憲書一、亦避レ諱也。㊁熟語は歷(6—16340)をも併せ見よ。

【曆翁】1（レキヲウ） 星家。曆法家。〔韓愈、殿中侍御史李君墓誌銘〕星官曆翁莫三能與レ其校二得失一。

【曆應】2（リヤクオウ） 北朝第二代光明院の年號。(1338—1342)〔菅原公時勘文〕帝王代紀曰、堯時有レ草、夾レ階而生、王者以レ是占レ曆、應レ和而生。

【曆家】3（レキカ） 曆法家。天文學者。歷家。

【曆學】4（レキガク） 曆に關する學問。〔曆法西傳、引說〕凡學非二能驟成一、莫レ不下始二於格物一、以致二其知一、而後從而推廣、從而精詳上焉、以レ故古人因二目所レ見、心悟頓、啓レ紀而驗レ之、接續成レ書、以詔二來世一、乃成二一學一、卽曆學亦然矣。

【曆紀】5（レキキ） こよみをいふ。日月が天を行曆して二十八宿三百六十五度の分紀を生ずること。〔素問、三部九候論〕上應二天光星辰曆紀一。〔注〕曆紀、謂下日月行二歷於天一、二十八宿三百六十五度之分紀上也。

【曆記】6（レキキ） こよみに關するかきつけ。〔唐書、歷志三上〕洪範傳曰、曆記始二於顓頊一。

【曆官】7（レキクワン） こよみの事をつかさどる役人。〔陳諷、連理樹賦〕豈比下夫草生二堯砌一、空有二紀于曆官一、芝產二漢宮一、徒用彰中於祀事上。

【曆莢】8（レキケフ） 曆草(10)に同じ。歷莢。〔宋書、符瑞志上〕名曰二蓂莢一、一曰二曆莢一。〔竹書紀年、帝堯陶唐氏〕有レ草、夾レ階而生、月朔、始生二一莢一、月半、而生二十五莢一、十六日以後、日落二一莢一、及レ晦而盡、月小則一葉焦而不レ落、名曰二蓂莢一、一曰二曆莢一。

【曆元】9（レキゲン） 或る曆法で其の曆日を計算し始める最初の時。例へば太初曆では太初元年の前年の十一月甲子朔旦冬至(甲子の日の午前零時)に於て朔の時刻と合一する時を曆元としてゐる。〔後漢書、律曆志中〕建レ曆之本、必先立レ元、元正然後定二日法一、云云、案曆法、黃帝・顓頊・夏・殷・周・魯凡六家、各自有レ元、光・晃所レ據、則殷曆元也。〔宋書、律曆志中〕但改易加時弦望、未レ能三綜二校曆元一也。

【曆草】10（レキサウ） 蓂莢(9—31640‥3)をいふ。堯の時に生じた瑞草で、月の始、一日に一莢生じ、月の半に十五莢生じ、十六日に一莢落ち、晦日に至つて悉く落ちるといふ。歷草。曆莢。〔帝王世紀〕堯時爲二天子一、蓂莢生二于庭一、爲レ帝成レ曆、始一日生二一莢一、至二月半一生二十五莢一、十六日落二一莢一、至二晦日一而盡、小月而一莢厭不レ落。〔王融、三月三日曲水詩序〕佞枝植、曆草滋。

【曆算】11（レキサン） 曆に關する數理。歷算(6—16340‥「35)に同じ。

【曆算全書】12（レキサンゼンシヨ） 書名。七十四卷。清、梅文鼎撰。文鼎の曆算の法は近世推して絕學とす。此の書は其の曆算の書、凡そ二十九種を集めたもので、其の目は、第一冊、平三角舉要五卷。第二冊、塹堵測量二卷・方圓冪積一卷。第三冊、幾何補編五卷。第四冊、環中黍尺六卷。第五冊、弧三角舉要五卷。第六冊、勾股闡微四卷・解八線割圓之根一卷。第七冊、曆學駢枝四卷。第八冊、曆學疑問三卷・曆學疑問補二卷。第九冊、交會管見一卷。交食蒙求三卷。第十冊、揆日候星紀要一卷・歲周地度合攷一卷・冬至攷一卷・諸方節氣加時日軌高度表一卷。第十一冊、五星紀要一卷・火星本法一卷・七政細草補注一卷・仰儀簡儀二銘補注一卷。第十二冊、授時平立定三差詳說一卷・曆學答問一卷。第十三冊、籌算七卷・度算釋例二卷。第十四・十五冊、方程論六卷・少廣拾遺一卷。第十六冊、古算衍略一卷・筆算五卷。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【曆始】13（レキシ） 曆の始め。年始め。又、曆元(9)に同じ。〔五代史、司天考第一〕日月五星皆會二于子一、謂二之上元一、以爲二曆始一。

【曆師】14（レキシ） こよみを作る人。〔考課令〕推二步盈虛一、窮レ理精密、爲二曆師之最一。〔京都御役所向大概覺書、曆師〕江戶・奧州會津・伊豆三島・勢州山田・南都、右五箇所曆師江板行之寫、本曆二十一卷。

【曆紙】15（レキシ） 日曆を編定し長吏をして其の功過を書かせる紙。〔宋史、選擧志一〕宋初承二唐制一、考課雖レ密、而莫レ重下於官給二曆紙一、驗中考批書上。

【曆時】16（レキジ） 時日。

【曆室】17（レキシツ） 律曆を推し測るところ。今の氣象臺の如きもの。〔易林、訟之第六、否〕數窮廓落、困二於曆室一。

【曆日】18（レキジツ） 歷日に同じ。㊀こよみ。〔庾肩吾、謝二曆日一啓〕凌渠所レ奏、弦望旣符。〔南史、傅昭傳〕昭十歲、於二朱雀航一賣二曆日一。〔事物紀原、正朔曆數部、曆日〕物理論曰、疇昔神農正二節氣一、審二寒溫一、以爲二早晚之期一、故立二曆日一。〔學齋佔畢〕若二今曆日一、以レ此觀レ之、則今之曆法已詳二備於漢時一。㊁こよみで定められた日。月日。〔太上隱者、答レ人詩〕山中無二曆日一、寒盡不レ知レ年。

【曆日博士】19（レキジツハカセ） 曆博士(37)に同じ。〔將門記〕孤疑者、曆日博士而已。

【曆象】20（レキシヤウ） 歷象。㊀こよみを推算して天體の運行のありさまを見る。曆はこよみ、象は天體を測量する器。〔書、堯典〕曆二象日月星辰一。〔蔡傳〕曆所二以紀レ數之書、象所二以觀レ天之器。㊁日月星辰の稱。〔易、革、君子以治レ曆明レ時、虞注〕曆象、謂二日月星辰一也。㊂多くの像を畫く。〔左思、魏都賦〕丹青炳煥、特有二溫室一、儀二形宇宙一、曆二象聖賢一。〔注〕翰曰、言下於二溫室殿一、畫中天地之形、賢聖之象、百瑞之物上。

【曆象考成】21（レキシヤウカウセイ） 書名。四十二卷。清、康熙帝御撰の律曆淵源の第一部。上編十六卷を揆天察紀といひ、其の理を闡かにし、下編十卷を明時正度といひ、其の法を詳かにし、又、表十六卷があつて其の用を致した。後、世宗が後編十卷を續定した。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【曆術】22（レキジユツ） 日月運行の現象に本づいて曆を造る術。造曆術。〔史記、歷書〕曆術甲子篇。〔續日本後紀、二〕天長十年十二月甲子、遣下名識二曆術一者遠江介正六位上大春日良棟上、乃令レ造レ之。

【曆書】23（レキシヨ） こよみに關する書。時憲書。歷書(6—16340‥62)に同じ。

【曆數】24（レキスウ） ㊀節氣のめぐり。又、日月運行の度數を測つて曆を作る方法。〔書、洪範〕五曰、曆數。〔傳〕曆數、節氣之度以爲レ曆。〔疏〕算二日月行道所レ歷、計二氣朔早晚之數一、所三以爲二一歲之曆一。〔蔡傳〕曆數者、占步之法、沈澣曰、占者占候、步者推步。〔唐書、殷踐猷傳〕尤通二氏族曆數醫方一。㊁まはりあはせ。自然に定つた運命。又、帝王が天命を受けて帝位につく運。天運。〔書、大禹謨〕天之曆數在二汝躬一。〔傳〕曆數、謂二天道一。〔蔡傳〕曆數者、帝王相繼之次第。〔論語、堯曰〕咨、爾舜、天之曆數在二爾躬一、允執二其中一。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕昔炎精幽昧、曆數將レ終。㊂年代。年數。〔太平記、十一、金剛山寄手等被レ誅〕平氏世を執つて九代、曆數已に百六十餘年に及びぬれば。

【曆正】25（レキセイ） 曆をつかさどる官。歷正(6—16340‥70)に同じ。

【曆生】26（レキセイ） 古、陰陽寮で曆を學ぶ學生。〔職員令〕陰陽寮、云云、曆生十人、掌二習曆一。

【曆節】27（レキセツ） こよみで定められた季節。〔蔡邕、

月令問答〕問者曰、曆云、小暑季夏節也、而今文見二于五月一何也、曰、今不下以二曆節一言上、據二時始暑一而記也。

【曆道】28 レキダウ 曆法に關すること。又、其の學。又、其の學に精通するもの。〔扶桑略記〕永承四年七月十五日、曆道注二月蝕一、而不レ蝕。

【曆頭】29 レキトウ 曆の始め。年頭。道書に五臘があり、正月一日を天臘とし、五月五日を地臘、七月七日を德臘、十二月十二日を民歳臘、十二月正臘を王侯臘といふ。曆頭の臘は天臘日を指していふ。〔施樞、春前一日雪詩〕曆頭只有二今朝臘一。

【曆仁】30 リヤクニン 第八十七代四條天皇の年號。(1238－1239)〔藤原經範勘文〕隋書曰、皇明御レ歷、仁深二海縣一。

【曆年】31 レキネン ❶としつき。歳月。年紀。❷こよみで定めた一年。陽曆で三百六十五日。❸よはひ。❹年代。

【曆牌】32 li^4 p'ai^2 柱曆。カレンダー。

【曆法】33 レキハフ こよみに關する法則。又、こよみのつくりかた。〔唐書、曆志一〕曆法尙矣、自三堯命二羲和一。〔古今治平略、帝王曆法〕曆法何昉乎、自下伏羲畫二八卦一、以象中二十四氣上、炎帝分二八節一以紀二農功一、至二黃帝一創受二河圖一、始設二靈臺一。

【曆尾】34 レキビ こよみのをはり。歳のくれ。歳末。歳除。〔宋祁、除夕二闋詩〕曆尾無二餘日一。

【曆本】35 レキホン ❶曆法の根本。〔經濟類編〕況冬至者曆之本、而求二曆本一者在レ驗レ氣。❷こよみ。又、曆法に關する書物。〔日本書紀、欽明紀〕卜書・曆本、種種藥物、可二付送一。

【曆命】36 レキメイ 曆數天命の略。自然に定つた運命をいふ。〔陸機、辨亡論上〕曆命應レ化而微、王師躡レ運而發。〔注〕善曰、曆命、曆數天命也。

【曆博士】37 レキハカセ 古、陰陽寮の官。曆を作り、又、曆生を教へることを掌る。唐名は司曆・司曆正保。〔職員令〕陰陽寮、云云、曆博士一人、掌三造レ曆及教二曆生等一。〔職原抄〕陰陽寮、曆博士、唐名、司曆、或司曆正保。

【治レ曆明レ時】38 レキヲヲサメトキヲアキラカニス 曆數を推考して四時の序を明かにする。〔易、革〕君子以治レ曆明レ時。

【曇】

14172 タン ドン 〔集韻〕徒南切 ㄊㄢˊ t'an^2 覃

小篆

❶**くもる**。くもり。〔說文新附〕曇、雲布也、从二日雲一、會意。❷**鴆鳥の異名**。曇鳥(24)を見よ。〔抱朴子、登涉〕曇、是鴆鳥之別名。❸**姓**。〔正字通〕曇、姓、奇姓通、曇橘洲、見二史彌遠作致仕表一。❹佛梵語。dhârma の音譯なる曇摩の略。法の意。因つて僧の名に冠して用ひる。〔正字通〕曇、梵音譯、佛法曰レ曇。〔甄正論、上〕竊尋、曇・梵二字、此土先無、玉篇・說文・字林・字統、竟無二此字一、曇・梵二字、本出二佛經一、云云、緇譯人造用、詮二天竺之音一、演二述釋迦之旨一。〔歷代三寶記、七〕曇摩、此云レ法。邦**くもる**。**くもり**。㋑はつきりしない。㋺光澤がない。㋩晴々しない。

解字 會意。日と雲との合字。雲が布きひろがつて日を蔽ふ義。くもる。

【曇一】1 ドンイツ 唐の高僧。蓋韓の張氏の子。景龍出家し、內外學に精通す。時に人中の獅子と稱せらる。著に發正義記がある。〔宋高僧傳、十四〕。

【曇瑩】2 ドンエイ 宋の僧。嘉興の人。號は蘿月・珞琭子。易を談ずるを以て名あり、時人易僧といふ。著に珞琭子三命消息賦注がある。〔四庫提要、一百九〕。

【曇曜】3 ドンエウ ❶後魏の高僧。恒安石窟通樂寺に住居し、武周山谷で石崖に鐫り、靈巖寺を建立す。譯に法藏傳・淨土經がある。〔續高僧傳、一〕。❷明、梵琦(6－14888··15)の小字。

【曇延】4 ドンエン 隋の高僧。桑泉の王氏の子。太行百梯寺に隱る。文帝の時、延興寺に住し、平等沙門に拜せらる。著に涅槃義疏、及び寶性・勝鬘・仁王等の疏がある。〔續高僧傳、八〕。

【曇瑗】5 ドンエン 陳の高僧。金陵の人。詩文に巧。宣帝の時、僧正を授けられ、光宅寺に住す。著に十誦疏・戒本羯磨疏・僧家書儀及び別集がある。〔續高僧傳、二十二〕。

【曇暉】6 ドンキ 梁の女僧。成都の青陽氏の女。俗名は白玉。長樂寺に住す。天監の初、卒す。〔比丘尼傳〕。

【曇晦】7 ドンクワイ 宋、宗杲(3－7106··32)の字。

【曇霍】8 ドンクワク 南涼の高僧。十六國春秋には雲霍に作る。神力を以て物を化す。禿髮利鹿孤に從つて河南より來る。嘗て禿髮傉檀が兵を窮め殺を好むの非を諫む。〔晉書、九十五〕・〔梁高僧傳〕。

【曇花】9 ドンゲ 曇華(13)の❷に同じ。〔剪燈餘話、聽經猿記〕一瓶一鉢一袈裟、幾卷楞嚴到處家、坐穩蒲團忘レ出レ定、滿身香雪墜二曇花一。

【曇花記】10 ドンクワキ 明代の戲曲。屠隆の作。六十種曲本の一。唐の木清泰が蓬萊に遊び、又西方淨土を廻つて修業することを演じたもの。

【曇花館】11 ドンクワクワン 清、周春(2－3441··268)の室名。

【曇花一現】12 ドンゲイチゲン 佛偶〻現れて直ちに去る。珍しい物の喩。優曇華(1－1261··163)の❶を見よ。千載一遇。〔法華經〕佛告舍利弗、如二是妙法一、如二優曇鉢花一、時一現耳。

【曇華】13 ドンゲ ❶草の名。多年生、莖の高さ四五尺、夏、花開き、色は紅黃で甚だ美麗。一名、美人蕉。又、檀特。❷優曇華の略。此の花は佛の瑞應で三千年に一たび咲くという。優曇華(1－1261··163)の❶を見よ。❸宋の高僧。黃梅の江氏の子。號は應菴。年十七にして出家し、晚に明州天童寺に住す。宗杲と倶に二甘露門と稱せらる。隆興の初、卒す。〔新續高僧傳、十五〕。

【曇華閣】14 ドンゲカク 清、張熙純(4－9812··901)の室名。

【曇顯】15 ドンゲン 北齊の高僧。魏の末に鄴中に游び、居に定所なく、常に法會に至る。天保中、敕して佛教と道教と法を爭はしめたるに、顯、道士の陸靜修の術を破り、道教を黜く。後、終る所を知らず。〔續高僧傳、二十三〕。

【曇日】16 クモリビ 空のくもつた日。〔古今集、十四〕くもり日の蔭としなれる我なれば、目にこそ見えね、身をば離れず。

【曇宗】17 ドンシユウ 唐の僧。嵩山の少林寺に居り、王世充の亂を平げて功があつた。〔田雯、遊二少林寺一記〕一碑刊下唐太宗爲二秦王一時討二王世充一賜レ寺僧御劄上、蓋當時僧之立二武功一者十三人、唯曇宗授二大將軍一、其餘不レ欲レ官、賜二紫羅袈裟各一襲一、此可レ補二唐書之闕一矣。

【曇首】18 ドンシユ 後魏、元誕(1－1340··416)の字。

【曇崇】19 ドンスウ 隋の高僧。咸陽の孟氏の子。學行同輩に擢んで、無上士と稱せらる。周の武帝、三藏とし、陟岵寺主に任ず。隋の時、清禪寺に住す。〔續高僧傳、十七〕。

【曇遷】20 ドンセン 隋の高僧。饒陽の王氏の子。詩書周易に通じ、林慮山の淨國寺に隱る。華嚴・十地・維摩等の經を精研す。開皇の初、京に入つて經を講じ、勝光寺及び禪定道場を主る。著に攝論・楞伽・起信・唯識・如實等の疏、及び九識・四明等の章、及び華嚴明難品玄解がある。〔續高僧傳、二十四〕。

【曇曇】21 タンタン くもつたさま。黑い雲のさま。〔玉篇〕曇、曇曇、黑雲貌。〔陸雲、愁霖賦〕雲曇曇而疊結之兮。〔鮑照、遊思賦〕望二波際一兮曇曇。〔江淹、訪二道經一詞〕海外陰兮氣曇曇、江上月兮光灼灼。

【曇珍】22 ドンチン 北齊、薛琡(9－32123··79)の字。

【曇定】23 ドンテイ 後魏、李平(6－14459··717)の字。

【曇鳥】24 ドンテウ 鴆(12－46727)の異名。〔事物異名錄、禽鳥、鴆〕寰宇記、鴆、一名曇鳥、亦曰二同力鳥一。

【曇超】25 ドンテウ 南齊の高僧。清河の張氏の子。錢塘の靈隱山に住す。嘉定中、號を靈悟大師と賜はる。〔梁高僧傳、十一〕。

【曇天】26 ドンテン くもつたそら。又、くもつた天氣。くもり。晴天・雨天の對。

【曇寶】27 ドンハウ 後魏、元琛(1－1340··445)の字。

【曇備】28 ドンビ 晉の女僧。建康の陶氏の女。何后、ために永安寺を建立し、泰元中、卒した。〔比丘尼傳〕。

【曇摩】29 ドンマ 佛❶梵語 dharma の音譯。法をいふ。〔歷代三寶記、七〕曇摩、此云レ法。❷佛の名。舍

衞國の鸚鵡が、來生に出家得道してなつたもの。〔法苑珠林〕昔舍衞國中有二鸚鵡一、解二人言語一、時阿難見二鳥聰黠一、爲說二四諦一、苦寂滅道、二鳥聞レ法、飛向二樹上一、歡喜誦持、夜宿爲二野狸所レ食、緣二此善根一、來生二人中一、出家修道、得レ辟二支佛一、一名曇摩、一名修曇摩。

【曇摩讖】30（ドンマシン） 北涼、曇無讖(41)の一名。

【曇摩羅】31（ドンマラ） 後魏の高僧。西域烏場國の人。洛陽の法雲寺を建立す。〔梁高僧傳、一〕。

【曇夜】32（クモリヨ） 空のくもつた夜。〔萬葉集、十二〕くもり夜のたどきも知らず山越えて、往ます君をば、何時とか待たむ。

【曇巒】33（ドンラン） 後魏、曇鸞の一名。

【曇鸞】34（ドンラン） 後魏の高僧。一に曇巒に作る。雁門の人。自號は有魏玄鑒大士。內外の經籍に通曉す。魏王、號して神鸞とす。汾州去中寺に住す。時に介山の陰に往いて徒を聚めてて經を講じ、後、其の山を號して鸞公巖といふ。著に禮淨土十二偈・續龍樹偈後・安樂集がある。〔續高僧傳、六〕。

【曇籠】35（ドンロウ） 女子の冠の名。燕京では雲髻といふ。〔楊愼外集序〕巾幗女子未笄之冠、燕京名二雲髻一、蜀中名二曇籠一。

【曇雲閣】36（ドンウンカク） 清、曹楙堅(5－14297・・313)の室名。

【曇礦村】37（ドンジヤウソン） 地名。浙江省紹興縣。晉、王羲之が鵝を飼つたところ。〔法書要錄〕山陰有二曇礦村一、卽王右軍籠鵝處。

【曇硝子】38（クモリガラス） すつてつやをけした不透明な硝子。すり硝子。

【曇無竭】39（ドンムケツ） 唐の高僧。幽州の李氏の子。躬ら佛國に至らんとして、流砂に入り、龜茲・疏勒の諸國を經由して罽賓に至り觀世音受記經梵文を得。後、印度より海路にて廣州に至る。〔梁高僧傳、三〕。

【曇無最】40（ドンムサイ） 後魏の高僧。武安の董氏の子。洛都融覺寺に住す。著に大乘義章がある。〔續高僧傳、二十三〕。

【曇無讖】41（ドンムシン） 北涼の高僧。一に曇摩讖に作る。中天竺の人。西域、號して大呪師となす。龜茲より姑藏に至る。沮渠蒙遜に厚遇され、ために涅槃經前後・大集等の經を譯す。魏の太武之を迎へんとしたが、蒙遜許さず。曇無讖、固辭して西歸するや、蒙遜怒り、刺客をして之を路に殺さしめた。〔梁高僧傳、二〕。

【曇陽子】42（ドンヤウシ） 明、王錫爵の女。名は燾貞。曇陽子は其の號。徐景韶に許嫁し、未だ嫁せずして景韶死す。幼にして觀音大士を奉じ、王世貞に曇陽大師傳がある。

【曇柯迦羅】43（ドンカカラ） 三國、魏の高僧。中天竺の人。嘉平中、洛陽に至り、後、終る所を知らず。〔梁高僧傳、一〕。

【曇繡居士】44（ドンシウコジ） 清、吳俊(2－3365・・228)の號。

【曥】14173

ヘウ　曥(5－14117)の俗字。〔正字通〕曥、置二物風日內一令レ乾、本作レ曝、曥、俗瞟字。

【㬎】14174

ケン・キン　㬎(5－14099)に同じ。〔康熙字典〕㬎、說文、㬎作レ㬎。

【曈】14175

小篆

日 トウ ツ 〔集韻〕他東切　ㄊㄨㄥˊ t'ung²　東

日 トウ ツ 〔集韻〕吐孔切　董

日三❶曈曨は、夜があけそめる。ほのぐらい。〔說文新附〕曈、曈曨、日欲レ明也、从レ日童聲。〔集韻〕曈、曈曨、欲レ曙。❷或は晍(5－13908)に作る。〔集韻〕曈、或作レ晍。

【曈曈】1（トウトウ） ❶日の出の太陽のさま。〔李商隱、畫松詩〕形魄天壇上、海日高曈曈。〔白居易、短歌行〕曈曈太陽如二火色一、上行千里下一刻。❷日のやうに光るさま。〔高啓、猛虎行〕目光曈曈當レ路坐、將軍一見弧矢墮。

【曈曚】2（トウモウ） 日の未だ明かでないさま。ほのぐらいさま。〔論衡、自然〕純德行而民曈曚、曉惠之心未二形生一也。〔紇干兪、登二天壇山一望二日出一賦〕浩渺無レ涯、曈曚在レ望、高居二崢嶸之頂一、下視二赫曦之狀一。

【曈曨】3（トウロウ） ❶あかるくなりかけたさま。日の出の太陽のさま。〔陸機、文賦〕情曈曨而彌鮮。〔注〕善曰、埤蒼曰、曈曨、欲レ明也。〔楊億、禁直詩〕初日曈曨豔二屋梁一。❷未だ悟らぬさま。〔張衡、應問〕吉凶分錯、人用曈曨。〔注〕曈曨、言レ未レ悟也。

【曉】14176

小篆（說文）

小篆（段注本）

ケウ　慣ゲウ　〔集韻〕馨鳥切　ㄒㄧㄠˇ hsiao³　篠

❶**あかつき**。よあけ。〔說文〕曉、明也、从レ日堯聲。〔段注〕俗云二天曉一、是也、引申爲二凡明之稱一。〔正字通〕曉、今謂レ曙曰レ曉。〔晉書、陸雲傳〕向レ曉辭去。❷**あきらか**。〔莊子、天地〕冥冥之中、獨見曉焉、無聲之中、獨聞和焉。〔淮南子、俶眞訓〕冥冥之中、獨見曉焉。〔注〕曉、明也。❸**さとい**。又、**さとる**。〔廣雅、釋詁一〕曉、慧也。〔廣雅、釋詁三〕曉、智也。〔南史、韋鼎傳〕少通曉、博涉二經史一。❹**さとす**。〔廣雅、釋詁二〕曉、說也。〔漢書、趙廣漢傳〕叩二堂戶一曉レ賊。〔注〕師古曰、曉、謂二喩告之一。❺**つげる**。まうす。〔漢書、元后傳〕未レ曉二大將軍一。〔注〕師古曰、曉、猶レ白也。❻**こころよい**。〔廣雅、釋詁二〕曉、快也。〔方言、三〕曉、快也、自レ關而東、或曰レ曉。❼**とく**。ぬぐ。出る。〔禮、樂記、蟄蟲昭蘇、注〕蟄蟲以二發出一爲レ曉。❽**あまる**。すぎる。饒(12－44400)に通ず。〔說文通訓定聲〕曉、叚借爲レ饒。〔方言、十三〕曉、過也、嬴也。❾**姓**。〔萬姓統譜〕曉、見二姓苑一、曉枝、醴陵人、嘉靖中、四川墊江縣丞。

名乘　アキ。トシ。トキ。アキラ。サトル。

參考　曉(8－23696)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕曉、天曉。曉、音甌、深目貌。

【曉鴉】1（ゲウア） あけがたのからす。曉鵶に同じ。

【曉鵶】2（ゲウア） あけがたのからす。曉鴉。〔陳羽、早秋滻水送二人歸レ越詩〕涼葉蕭蕭生二遠風一、曉鵶飛度望二春宮一。〔崔峒、題二桐廬李明府官舍一詩〕訟堂寂寂對二煙霞一、五柳門前聚二曉鵶一。

【曉靄】3（ゲウアイ） あけがたのもや。朝もや。晨靄。朝靄。〔徐彥伯、奉二和興慶池競渡一應制詩〕青潭曉靄籠二仙蹕一、紅嶼晴花隔二綵旒一。

【曉櫻】4（アカツキザクラ） 櫻の一種。明星櫻。重瓣で大輪。色がほんのりと赤いので曉の名がある。

【曉鶯】5（ゲウアウ） あかつきのうぐひす。〔司馬禮、宮怨〕柳色參差掩二畫樓一、曉鶯啼送滿宮愁。〔張建封、競渡歌〕五月五日天晴明、楊花繞レ江啼二曉鶯一。

【曉菴】6（ゲウアン） 字號。❶明、善啓(2－3904・・77)の號。❷清、王錫闡(7－20823・・1816)の號。

【曉闇】7（ゲウアン・アカツキヤミ） あけがたの一寸暗い時期。曉に月のないのをいふ語。〔萬葉集、十二〕夕月夜あかつきやみのおぼほしく、見し人ゆゑに戀ひわたるかも。

【曉威】8（ゲウヰ） あけがたのおごそかな四圍の様子。〔蘇味道、詠レ霜詩〕帶レ日浮二寒影一、乘レ風進二曉威一。

【曉慰】9（ゲウヰ） さとしなぐさめる。〔後漢書、陳禪傳〕北匈奴入二遼東一、拜二禪遼東太守一、禪不レ加レ兵、但使三吏卒往曉二慰之一、單于隨レ使還レ郡。

【曉韻】10（ゲウヰン） 明け方の音のひびき。〔方干、除夜詩〕曉韻侵二春角一、寒光隔二歲燈一。

【曉雨】11（ゲウウ） あけがたの雨。あかつきに降る雨。〔蘇軾、新年詩〕曉雨暗二人日一、春愁連二上元一。

【曉烏】12（ゲウウ） 夜あけがたのからす。あけがらす。曙烏。曙鴉。曉鴉。〔羅鄴、秋怨詩〕夢斷南窗啼二

曉烏一、新霜昨夜下二庭梧一。〔顧況、宮詞〕禁柳煙中聞二曉烏一、風吹二玉漏一盡二銅壺一。

【曉雲】13 ゲウウン あけがたの雲。あかつきの雲。〔范雲、送二沈記室一詩〕桂水澄二夜氛一、楚山淸二曉雲一。〔宋之問、扈二從登封一途中作詩〕曉雲連レ幕捲、夜火雜レ星回。

【曉瑩】14 ゲウエイ 宋の高僧。字は仲溫。晩年、羅湖の上に居り、門を閉ぢて世人と交通を絶つ。著に羅湖野錄がある。〔大明高僧傳、八〕。

【曉煙】15 ゲウエン あさもや。曉靄。〔劉孝綽、奉二和昭明太子鍾山解講一詩〕翠蓋承二朝景一、朱旗曳二曉煙一。

【曉猿】16 ゲウエン 夜明け方のさる。〔孔稚珪、北山移文〕蕙帳空兮夜鶴怨、山人去兮曉猿驚。

【曉笳】17 ゲウカ あかつきに聞える笳。笳は、あしの笛。〔無可、送三薛重中丞充二太原副使一詩〕蹈レ沙夜馬細、收レ雨曉笳淸。

【曉暇】18 ゲウカ 夜明け方のひま。〔王勃、九成宮東臺山池賦〕酌二丹墀之曉暇一、候二青禁之宵餘一。

【曉霞】19 ゲウカ ❶あかつきのもや。又、あさやけ。〔皇甫曙、立春日呈二宮傅侍郎一詩〕朝旦微風吹二曉霞一、散爲二和氣一滿二家家一。〔李商隱、壬申七夕詩〕已駕七香車、心心待二曉霞一。❷アカツキ 土佐國の地名。

〖曉霞粧〗20 ゲウカシヤウ 紅で畫く化粧法の一。魏の文帝の宮人薛夜來が水晶の屛風に觸れて傷いた、其の傷が丁度曉霞の將に散ぜんとする如きさまであつたから、それより宮人か臙脂を用ひて之に倣つたといふ。〔粧樓記〕夜來初入二魏宮一、一夕文帝在二燈下一詠、以二水晶七尺屛風一障レ之、夜來至、不レ覺面觸二屛上一、傷處如二曉霞將レ散、自レ是宮人俱用二臙脂一倣畫、名二曉霞粧一。

【曉駕】21 ゲウガ あかつきの車馬。〔孟浩然、唐城館中早發寄二楊使君一詩〕犯レ霜驅二曉駕一、數里見二唐城一。

【曉解】22 ゲウカイ さとり知る。明かに知る。よく心得る。〔左氏、文、十八、明允篤誠、疏〕明者達也、曉二解事務一、照二見幽微一也。〔論衡、問孔〕子路安肯曉解而信レ之。〔晉書、左思傳〕思所二曉解一、不レ及二我少時一。

【曉蓋】23 ゲウガイ 車蓋をいふ。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕晨轀解レ鳳、曉蓋俄レ金。〔注〕善曰、蔡邕獨斷曰、凡乘輿皆羽蓋金華爪。

【曉江】24 ゲウカウ あけがたの江水。〔溫庭筠、春日寄二岳州從事李員外一詩〕剪勝裁二春字一、開レ屛見二曉江一。〔崔塗、鸚鵡洲眺望詩〕幽島暖聞二燕鴈去一、曉江晴覺二蜀波來一。

【曉行】25 ゲウカウ 朝早く行く。〔杜甫、發二潭州一詩〕夜醉長沙酒、曉行湘水春。〔戴叔倫、宿二天笠寺一曉發二羅源一詩〕迢遰羅源路、輕輿候二曉行一。

〖曉行夜宿〗25′ hsiao^{3} hsing^{2} yeh^{4} su^{4} 朝は早く出立し夜は晩く宿につく。

【曉杭】26 ゲウカウ 淸、彭洋中(**4－10003**‥264)の字。

【曉降】27 アカトキクダチ 夜の更けて曉に至る頃。〔萬葉集、十〕この夜らの曉降鳴く鶴の。

【曉角】28 ゲウカク あかつきに鳴る角笛の音。〔沈佺期、關山月詩〕將軍聽二曉角一、戰馬欲二南歸一。〔顧況、聽レ角思レ歸詩〕故園黃葉滿二青苔一、夢後城頭曉角哀。〔杜牧、聞レ蟬詩〕火雲初似レ滅、曉角欲二微淸一。

【曉看】29 ゲウカン あかつきに見る。〔杜甫、春夜喜レ雨詩〕曉看紅濕處、花重錦官城。

【曉寒】30 ゲウカン 夜明けの寒いさま。〔元稹、襄陽爲二盧竇紀事一詩〕鶯聲撩亂曙燈殘、暗覓二金釵一動二曉寒一。〔羅鄴、冬夕江上言レ事詩〕十里溪山新雪後、千家襟袖曉寒生。

【曉鴈】31 ゲウガン あかつきのかり。〔宣和畫譜、花鳥二〕雪天曉鴈圖一。

【曉氣】32 ゲウキ あかつきの空氣。夜明けの氣象。〔李百藥、渡二漢江一詩〕溜潤霞光近、川長曉氣高。〔宋之問、早秋上陽宮侍レ宴序〕滄洲曉氣、化爲二宮闕之形一、閶闔秋風、亂二起金銀之樹一。〔蘇轍、和二孔教授武仲濟南四韻檻泉亭一詩〕洶洶秋聲明月夜、蓬蓬曉氣欲レ晴天。

【曉起】33 ゲウキ 朝早くおきる。あかつきおき。早起。夙興。晨起。〔皮日休、和二魯望曉起廻文一詩〕孤煙曉起初原曲、碎樹微分半浪中。〔元淮、杏花詩〕昨夜南園春雨過、玉人曉起揭レ簾看。

【曉晦】34 ゲウクワイ あきらかなこととくらいこと。〔顏延之、重釋二何衡陽達性論一〕或是曉晦塗隔、隱著事懸。

【曉會】35 ゲウクワイ さとる。〔孫祕、散木賦〕異鵲宵集、祥鴛曉會。

【曉光】36 ゲウクワウ よあけのあかり。あけがたのひかり。あさやけ。しののめ。〔梁簡文帝、侍二遊新亭一應令詩〕曉光浮レ野暎、朝煙承レ日廻。〔閻寬、曉入二宣都渚一詩〕興隨曉光發、道會春意深。〔蘇頲、奉下和九日幸二臨渭亭一登高上應制詩〕曉光雲外洗、晴色雨餘滋。〔王涯、宮詞〕禁樹無風正和暖、玉樓金殿曉光中。

【曉勸】37 ゲウクワン さとしすすめる。〔後漢書、馬援傳〕援又爲レ書與二囂將楊廣一、使三曉二勸於囂一。

【曉鬟】38 ゲウクワン あけがたの寢亂れがみ。〔杜牧、阿房宮賦〕綠雲擾擾梳二曉鬟一。

【曉桂】39 ゲウケイ あかつきのかつら。〔盧綸、幕中秋夜獨坐遲明因陪二陳翃郎中一晨謁二上公一云云詩〕曉桂香浥レ露、新鴻晴滿レ川。

【曉詣】40 アカツキマウデ 朝早く社祠等に參詣すること。〔著聞集、十五〕十四日のあかつきまうでの體にて、夜に入りて髮をおろしければ。

【曉慧】41 ゲウケイ さとい。〔論衡、別通〕曉慧之吏、陳レ所二聞見一。

【曉磬】42 ゲウケイ あかつきの磬の音。磬は、玉又は石で作つた樂器。晨磬。〔鄭谷、宿二澄泉蘭若一詩〕雲集二寒庵一宿、猿先二曉磬一啼。

【曉雞】43 ゲウケイ 夜明けを告げるとりの聲。又、其の時刻。晨雞。〔韓愈、奉二和庫部盧四兄曹長元日朝廻一詩〕天仗宵嚴建二羽旄一、春雲送レ色曉雞號。〔孟浩然、寒夜張明府宅宴詩〕醉來方欲レ臥、不レ覺二曉雞鳴一。

【曉教】44 ゲウケウ さとしをしへる。〔埤雅、釋木、穀〕故鶴鳴一二、以曉二教之一。

【曉曉】45 ゲウゲウ 巧に辯じたてるさま。〔柳宗元、弔二屈原一文〕讒巧之曉曉兮、惑以爲二咸池一。

〖曉曉然〗46 ゲウゲウゼン あきらかなさま。〔新書、道德〕性立則神氣曉曉然發、而通二行於外一矣。

【曉月】47 ゲウゲツ あけがたのつき。〔謝靈運、廬陵王墓下作詩〕曉月發二雲陽一、落日次二朱方一。〔鮑照、舞鶴賦〕星翻漢廻、曉月將レ落。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕霜夜流レ唱、曉月升レ魄。〔沈佺期、夜宿二七盤嶺一詩〕曉月臨レ窗近、天河入レ戶低。

【曉鼓】48 ゲウコ あかつきを報ずるつづみのおと。曙鼓。〔褚載、曉感詩〕曉鼓鼕鼕星漢微、佩金鳴玉闕二光輝一。〔李咸用、秋夕詩〕曉鼓軍容肅。〔五代史、司天考二〕顯德元年正月庚寅、有二大星一墜有レ聲如レ雷、牛馬皆逸、京城以爲二曉鼓一、皆伐レ鼓以應レ之。

【曉後】49 ゲウゴ 明け方の後。〔彭謙、早行詩〕高柳霜前短、殘星曉後明。

【曉悟】50 ゲウゴ さとる。心に會得する。了解。曉解。〔列子、力命〕窮年不二相曉悟一、自以爲二才之得一也。〔孔安國、尙書序、約レ文申レ義敷二暢厥旨一、疏〕既義暢而文要、則觀者曉悟。

【曉寤】51 ゲウゴ さとる。曉悟に同じ。〔淮南子、要略〕精神者、所四以原三本人之所二由生一、而曉下寤其形骸九竅、取二象於天一合同、其血氣與二雷霆風雨一比類、其喜怒與二晝宵寒暑一並明上。

【曉告】52 ゲウコク さとしつげる。さとしきかす。いひきかせる。〔漢書、尹翁歸傳〕翁歸輒召二其縣長吏一、曉告以二姦黠主名一。〔北史、韋珍傳〕淮源舊有二祠堂一、蠻俗恒用レ人祭レ之、珍乃曉告、悉以二酒脯一代用。

【曉滄】53 ゲウサウ 字號。❶淸、蔣炳(**9－31820**‥96)の字。❷淸、朱杲(**6－14424**‥78)の字。❸淸、沈炳垣(**6－17189**‥638)の字。❹淸、董潮(**9－31433**‥134)の字。

【曉蒼】54 ゲウサウ 淸、朱杲(**6－14424**‥78)の字。

【曉草】55 アカツキグサ 鐘の異名。〔倭訓栞〕曉種の義、鐘をいふとぞ。〔吳竹集〕舟人のあかつきぐさになれぬれば、夢見てあかすなにはべの松。

【曉霜】56 ゲウサウ 朝おくしも。あさしも。晨霜。朝霜。〔謝靈運、晚出二西射堂一詩〕曉霜楓葉丹、夕曛嵐氣陰。〔孟浩然、寒夜詩〕錦衾重自暖、遮莫曉霜飛。

【曉察】57 ゲウサツ さとりしる。〔後漢書、霍諝傳〕沛然曉察、必有二于公高門之福一。〔孔子家語、三恕〕其政曉察則民不レ保。

【曉衫】58 ゲウサン 明け方の着物。〔森春濤、江上春興詩〕曉衫猶漬酒痕紅、餘醉未レ醒殘夢中。

【曉霰】60 ゲウサン　あかつきのあられ。〔韻府引、梁簡文帝、詠㆓春雪㆒詩〕曉霰飛㆓銀礫㆒、浮雲暗未㆑開。

【曉山】61 ゲウザン　㊀あけがたのやま。曉峯。曉嶺。〔盧綸、送㆔崔琦赴㆓宣州幕㆒詩〕天際曉山三峽路、津頭臘市九江人。〔盧綸、偶宿㆓山中㆒憶㆓暢當㆒詩〕深山夜雪晴、坐憶㆓曉山明㆒。㊁字號。㋑清、謝身灌（10－35827‥303）の字。㋺清、董劍鍔（9－31433‥199）の號。㋩清、汪曙（6－17154‥76）の字。

【曉止】62 ゲウシ　さとしてとどめる。〔漢書、王莽傳上〕莽遣㆓長史以下㆒分㆑部、曉㆓止公卿及諸生㆒。

【曉市】63 hsiao³ shih⁴　市場の名。㊀北京天橋路の東方に在り、俗に黑市、卽ち盜賊市場といふ。㊁南京城內高井一帶に早朝古物を賣る市場。俗に黑市といふ。

【曉示】64 ゲウシ　さとしめす。曉諭。諭示。〔魏書、蕭寶夤傳〕（王）澄遣㆔人曉㆓示情禮㆒、以㆓喪㆑兄之制㆒、給㆓其齊衰㆒、寶夤從㆑命。

【曉寺】65 ゲウジ　明け方のてら。〔元稹、春曉詩〕狌兒撼起鐘聲動、二十年前曉寺情。〔元稹、鄂州寓㆓館嚴澗宅㆒詩〕何時最是思㆑君處、月入㆓斜窗㆒曉寺鐘。

【曉事】66 ゲウジ　物事に通曉する。事理に明かなこと。〔魏志、曹眞傳、注〕桓範正始中拜㆓大司農㆒、範前在㆓臺閣㆒、號爲㆓曉事㆒。〔韓愈、與㆓袁相公㆒書〕樊宗師通㆑微曉㆑事、可㆓與語㆒。

【曉識】67 ゲウシキ　さとり知る。曉知。〔後漢書、桓榮傳〕莊以㆓童蒙㆒學㆑道九載、而典訓不㆑明、無㆑所㆓曉識㆒。

【曉櫛】68 ゲウシツ　明け方にくしけづる。〔范成大、曉起信㆑筆詩〕午枕汗如㆑洗、曉櫛氣稍蘇。

【曉日】69 ゲウジツ　あさ日。旭日。〔杜甫、狂歌行、贈㆓四兄㆒詩〕吾兄睡穩方舒㆑膝、不㆑襪不㆑巾踏㆓曉日㆒。〔陸龜蒙、鄴宮詩〕曉日靚粧千騎女、白櫻桃下紫綸巾。〔韋應物、貴遊行〕垂楊拂㆓白馬㆒、曉日上㆓青樓㆒。

【曉習】70 ゲウシフ　さとりなれる。熟練。練習。〔漢書、尹翁歸傳〕爲㆓獄小吏㆒、曉㆓習文法㆒。〔後漢書、黃香傳〕曉㆓習邊事㆒、均㆓量軍政㆒、皆得㆓事宜㆒。〔唐書、禮樂志一〕自㆓搢紳大夫㆒、從㆓事其間㆒者、皆莫㆓能曉習㆒。

【曉妝】71 ゲウシヤウ　朝はやくするけしやう。朝化粧。〔沈佺期、李員外秦援宅觀㆑妓詩〕巧落梅庭裏、斜光暎㆓曉妝㆒。〔崔亘、春怨詩〕曉妝脂粉薄、春服綺羅輕。

【曉嶂】72 ゲウジヤウ　高くけはしい峯。〔唐詩紀事、許棠〕曉嶂猿窺㆑戶、寒湫鹿舐㆑冰。

【曉餉】73 ゲウシヤウ　早朝の食事。あさめし。〔韻府引、蘇軾、詩〕小婦簪花曉餉歸。

【曉瘴】74 ゲウシヤウ　明け方の惡氣。〔鄭谷、南遊詩〕山城多㆓曉瘴㆒、澤國少㆓晴春㆒。〔惠洪、過㆓淩水縣㆒詩〕籬落春潮退、桑麻曉瘴昏。

【曉珠】75 ゲウシユ　清、金玥（11－40152‥352）の字。

【曉戍】76 ゲウジユ　明け方の國境のまもり。〔賈島、送㆓友人遊㆑塞詩〕夜泉行客火、曉戍向㆓京煙㆒。〔張蠙、過㆓蕭關㆒詩〕曉戍殘㆓烽火㆒、晴原起㆓獵塵㆒。

【曉樹】77 ゲウジユ　明け方の樹木。〔上官儀、早春桂林殿應詔詩〕曉樹流鶯滿、春堤芳草積。〔唐彥謙、原上詩〕野鷺寒塘靜、山禽曉樹深。

【曉粥】78 ゲウシユク　明け方食ふかゆ。〔杜牧、池州送㆓孟遲先輩㆒詩〕暖灰重擁㆑缾、曉粥還分㆑鉢。

【曉出】79 ゲウシユツ　明け方出る。〔王諲、花萼樓賦〕龍輿親覽、珠旗曉出。

【曉術】80 ゲウジユツ　術に明かに通ずる。〔文心雕龍、總術〕才之能通、必資㆑曉㆑術。

【曉潤】81 ゲウジユン　明け方のうるほひ。〔劉孝威、望㆑雨詩〕交枝含㆓曉潤㆒、雜葉帶㆓新光㆒。

【曉渚】82 ゲウシヨ　明け方のなぎさ。〔張纘、南征賦〕發㆓曉渚㆒而遡㆑風。

【曉鐘】83 ゲウシヨウ　あかつきのかねの音。あけのかね。〔沈佺期、和㆓中書侍郎楊再思春夜宿直㆒詩〕千廬宵駕合、五夜曉鐘稀。〔岑參、奉㆔和中書舍人賈至早朝㆓大明宮㆒詩〕金闕曉鐘開㆓萬戶㆒、玉階仙仗擁㆓千官㆒。〔賈島、三月晦日贈㆓劉評事㆒詩〕共㆑君今夜不㆑須㆑睡、未㆑到㆓曉鐘㆒猶是春。

【曉色】84 ゲウシヨク　あかつきの光。あかつきの景色。〔虞世南、和㆔鑾輿頓㆓戲下㆒詩〕銀書含㆓曉色㆒、金輅轉㆓晨飈㆒。〔孟郊、送㆓從弟郢東歸㆒詩〕曉色奪㆓明月㆒、征人逐㆓群動㆒。〔林泉高致〕曉有㆓春曉秋曉雨曉雪曉、煙巒曉色、秋煙曉色、春靄曉色㆒、皆曉題也。

【曉燭】86 ゲウシヨク　明け方のともし火。〔劉禹錫、武陵書懷五十韻詩〕曉燭羅㆓馳道㆒、朝陽闢㆓帝閽㆒。

【曉蓐】87 ゲウジヨク　明け方のしとね。〔沈約、郊居賦〕緯㆓東菑之故耜㆒、浸㆓北畝之新渠㆒、無㆑褰㆓襞於曉蓐㆒、不㆑抱㆓惄於朝蔬㆒。

【曉心】88 ゲウシン　人をさとさうとする心。〔淮南子、氾論訓〕趣捨人異、各有㆓曉心㆒。

【曉岑】89 ゲウシン　清、歐陽兆熊（6－16185‥132）の字。

【曉進】90 ゲウシン　明け方に進む。〔沈炯、爲㆓僧辯等㆒勸㆓進梁元帝㆒第二表〕五行夕返、六軍曉進。

【曉人】91 ゲウジン　㊀人をさとす。〔漢書、薛廣德傳〕上曰、曉㆑人不㆑當㆑如㆑是耶。㊁hsiao³ jên²　事理に通曉した人。

【曉水】92 ゲウスイ　明け方の水。〔李賀、夜飲朝眠曲〕玉轉㆓濕絲㆒牽㆓曉水㆒、熟㆑粉生㆑香琅玕紫。

【曉吹】93 ゲウスイ　㊀曉の風。朝風。〔姚鵠、風不㆑鳴㆑條詩〕曉吹何曾歇、柔條自不㆑鳴。㊁明け方の角笛の聲。〔賈島、夏日寄㆓高洗馬㆒詩〕不㆘緣㆓馬死㆒西州去㆖、畫角堪㆑聽是曉吹。

【曉井】95 ゲウセイ　あかつきの井戸。〔李郢、曉井詩〕桐陰覆㆑井月斜明、百尺寒泉古甃清。

【曉星】96 ゲウセイ　夜明けの空にまばらに見える星。あけのほし。晨星。又、少數でまばらな物の喩。〔謝朓、京路夜發詩〕曉星正寥落、晨光復泱漭。〔唐高宗、七夕宴㆓懸圃㆒詩〕璜虧夜月落、靨碎曉星殘。〔張嘉貞、奉㆘和早登㆓太行㆒山中言㆖志應制詩〕澤將㆓春雪㆒比、文共㆓曉星㆒連。

【曉旌】97 ゲウセイ　明け方のはた。〔杜淹、寄㆓贈齊公㆒詩〕淚隨㆓溝水㆒逝、心逐㆓曉旌㆒懸。

【曉晴】98 ゲウセイ　よあけの空が晴れたこと。〔杜牧、長安夜月詩〕獨有㆓長門裏㆒、蛾眉對㆓曉晴㆒。〔元好問、乙卯二月二十一日歸㆑自㆓汴梁㆒二十五日又早而雨偶記內鄉一詩追㆓錄於此㆒今三十年矣詩〕桑條沾潤麥溝青、軋軋耕車鬧㆓曉晴㆒。

【曉勢】99 ゲウセイ　明け方の勢。〔翁承贊、對㆑雨述㆑懷示㆓弟承檢㆒詩〕曉勢遮回朝客馬、夜深滴破旅人心。

【曉聲】100 ゲウセイ　あかつきに響く聲。〔李賀、官街鼓詩〕曉聲隆隆催㆓轉日㆒、暮聲隆隆呼㆓月出㆒。

【曉霽】101 ゲウセイ　明け方の雨あがり。晨霽。〔皇甫曾、遇㆓風雨㆒作詩〕曉霽心始安、林端見㆓初旭㆒。〔鄭谷、南宮寓直詩〕曉霽庭松色、風和禁漏聲。

【曉沼】102 ゲウセウ　明け方のぬま。〔溫庭筠、雨中與㆓李先生㆒期㆓垂釣㆒先後相失因作㆓疊韻㆒詩〕小鳥擾㆓曉沼㆒、犂泥齊㆓低畦㆒。

【曉夕】103 ゲウセキ　あさとゆふべ。あさばん。朝夕。晨夕。〔後漢書、馬援傳〕竟不㆑能㆑言、曉夕號泣、婉㆓轉塵中㆒。〔顏氏家訓、序致〕曉夕溫清、規行矩步。〔來鵠、蠶婦詩〕曉夕採㆑桑多㆓苦辛㆒、好花時節不㆑聞㆑身。

【曉舌】104 ゲウゼツ　鳥が朝早く囀づること。〔元稹、五絃彈詩〕風入㆓春松㆒正淩亂、鶯含㆓曉舌㆒憐㆓嬌妙㆒。

【曉雪】105 ゲウセツ　明け方のゆき。〔溫庭筠、寄㆓分司元庶子㆒兼呈㆓元處士㆒詩〕緱嶺參差殘㆓曉雪㆒、洛波清淺露㆓晴沙㆒。〔皮日休、揚州看㆓辛夷花㆒詩〕螓首不㆑言披㆓曉雪㆒、麝臍無㆔主任㆓春風㆒。

【曉說】106 ゲウセツ　さとしきかせる。〔後漢書、李通傳〕臣願質㆑守、俱東曉㆓說其子㆒。

【曉川】107 ゲウセン　明け方の川。〔江總、芳林園天淵池銘序〕曉川漾㆑璧、似㆔日御之在㆓河宿㆒、夜浪浮㆑金、疑㆔月輪之馳㆓水府㆒。〔盧綸、雪㆑謗後書㆑事上㆓皇甫大夫㆒詩〕曉川分㆓牧馬㆒、夜雪覆㆓連營㆒。

【曉宣】108 ゲウセン　曉に詔を出すこと。〔舊唐書、肅宗紀論〕紺轅躬籍㆓于春郊翠幰㆒、先蠶㆓于繭館㆒、或御㆑殿曉宣㆓時令㆒、或登㆑壇宿㆑禮貴㆑神。

【曉泉】109 ゲウセン　清、姜曛（3－6205‥24）の字。

【曉箭】110 ゲウセン　夜あけの時刻を示す漏箭。又、夜あけの時刻。箭は、漏刻の矢で、時刻を示すもの。〔杜甫、奉㆔和賈至舍人早朝㆓大明宮㆒詩〕五夜漏聲催㆓曉箭㆒、九重春色醉㆓仙桃㆒。

【曉戰】111 ゲウセン　明け方の戰。〔李白、塞下曲〕曉戰隨㆓金鼓㆒、宵眠抱㆓玉鞍㆒。〔劉詵、江帆雪影詩〕朔風殷空夜飛㆑霰、百萬玉龍交㆓曉戰㆒。

【曉然】112 ゲウゼン　明かにさとるさま。〔荀子、王制〕百姓曉然、皆知㆘夫爲㆓善於家㆒、而取㆓賞於朝㆒也、爲㆓不善於幽㆒、而蒙㆗刑於顯㆖也。〔漢書、公孫弘傳〕愚臣淺薄、安敢比㆓材於周公㆒、雖㆑然愚心曉

然、見三治道之可二以然一也。〔資治通鑑、周紀〕〔赧王、三十一年〕臣下曉然、皆知二其可レ要也。

【曉蟬】113 ゲウゼン 明け方のせみ。〔張喬、送三友人歸二宣州一詩〕無レ爲謝公戀、吟過曉蟬秋。

【曉奏】114 ゲウソウ ❶明け方、天子に申し上げる。〔沈炯、爲二周儀同一復レ官表〕其曉奏、危光以燭、察命如レ絲、云二誰之尤一、自貽二其咎一。〔劉長卿、送三營田判官鄭侍御赴二上都一詩〕曉奏趨二雙闕一、秋成報二萬箱一。❷明け方、音樂をかなでる。〔沈佺期、和二韋舍人早朝一詩〕長樂宵鐘盡、明光曉奏催。

【曉漱】115 ゲウソウ 明け方にくちすすぐ。〔包佶、宿二廬山一詩〕春飛二雪粉一加二毫潤一、曉漱二瓊膏一冰齒寒。〔郭鈺、郭恒惠二牙刷一詩〕瓊漿曉漱凝二華池一、玉塵晝談灑二晴雪一。

【曉甑】116 ゲウソウ 明け方のこしき。〔陸游、野菜詩〕放翁此意君知否、要レ配吳粳曉甑香。

【曉仄】117 ゲウソク 明け方の日光のほのかなこと。〔張纘、南征賦〕回二曉仄於中川一、起二長飈一而半滅。

【曉賊】118 ゲウゾク 賊をさとす。〔漢書、趙廣漢傳〕富人蘇回爲レ郎、二人劫レ之、有レ頃廣漢將レ吏到レ家、自立二庭下一、使下長安丞龔奢叩二堂戶一、曉中賊曰上、京兆尹趙君謝二兩卿一、無レ得レ殺レ質、此宿衞臣也、釋レ質束レ手、得二善相遇一、幸逢二赦令一、或時解脫、二人驚愕。

【曉村】119 ゲウソン 字號。❶清、錢界（**11－40563**‥26）の號。❷清、楊旭（**6－15112**‥94）の字。

【曉埭】120 ゲウタイ あかつきのゐせき。〔楊億、南朝詩〕繁星曉埭聞レ雞度、細雨春場射レ雉歸。

【曉態】121 ゲウタイ あかつきのありさま。〔蘇軾、常潤道中有レ懷二錢塘一詩〕但知撲撲晴香軟、誰見森森曉態嚴。

【曉達】122 ゲウタツ あきらかに通ずる。物事や道理をよく知つてゐること。曉暢。曉通。通達。〔魏志、溫恢傳〕揚州刺史、曉二達軍事事動靜一、與共咨議。〔南史、沈攸之傳〕曉二達吏事一、自強不レ息。

【曉答】123 ゲウタフ さとしこたへる。〔唐書、顏師古傳〕帝嘗歎、五經去レ聖遠、傳習寖訛、詔二師古一於二秘書省一考定、多レ所二釐正一、既成、悉詔二諸儒一議、於レ是各執レ所レ習、共非二詰師古一、師古輒引二晉宋舊文一、隨レ方曉答、誼レ據該明、出二其悟表一、人人歎服。

【曉旦】124 ゲウタン あかつき。あけがた。〔戴良、宿二高密一詩〕曉旦發二東膠一、落景次二高密一。

【曉池】125 ゲウチ 明け方の池。〔柳宗元、旦攜二謝山人一至二愚池一詩〕新沐換二輕幘一、曉池風露清。

【曉知】126 ゲウチ さとり知る。曉識。〔越絕書、越絕吳內傳〕曉二知王事一、達二於君臣之義一。〔漢書、王莽傳中〕使丙侍中講禮大夫孔秉等、與下州部衆郡曉二知地理圖籍一者上、共校乙治于壽成朱鳥堂甲。

【曉馳】127 ゲウチ 明け方、馳せる。〔顧非熊、送下李相公昭義平復起二彼宣慰員外一副行上詩〕曉馳二雲騎一穿レ花去、夜與二星郎一帶レ月行。

【曉籌】128 ゲウチウ 明け方の時間。籌は、時間を數へるに用ひるかずさし。〔王維、和三中書舍人賈至早朝二大明宮一詩〕絳幘雞人送二曉籌一、尙衣方進翠雲裘。〔李商隱、馬嵬詩〕空聞虎旅鳴二宵柝一、無三復雞人報二曉籌一。

【曉暢】129 ゲウチヤウ 明かに通ずる。通達する。物事や道理をよく知つてゐること。曉達。〔諸葛亮、出師表〕將軍向寵、性行淑均、曉二暢軍事一、試二用於昔日一、先帝稱レ之曰レ能。

【曉漲】130 ゲウチヤウ 夜明けに潮のみなぎること。〔沈佺期、早發二平昌島一詩〕解レ纜春風後、鳴レ榔曉漲前。

【曉聽】131 ゲウチヤウ 明け方きく。〔孟郊、遊二枋口柳溪一詩〕曉聽忽以異、芳樹安能齊。

【曉駐】132 ゲウチユウ 明け方とどまる。〔趙嘏、送三令狐郎中赴二郢州一詩〕霜蹄曉駐秦雲斷、野旆晴翻郢樹秋。

【曉徵】133 ゲウチヨウ 清、錢大昕（**11－40563**‥375）の字。

【曉通】134 ゲウツウ ❶明け方にうつる。〔皮日休、送三董少卿游二茅山一詩〕天影曉通金井水、山靈深護玉門沙。❷物事によく通ずること。通曉（**11－38892**‥124）の❷に同じ。

【曉廷】135 ゲウテイ 清、威應洪（**3－6259**‥191）の字。

【曉亭】136 ゲウテイ 字號。❶清、賽爾赫（**10－36886**‥45）の字。❷清、費金吾（**10－36717**‥88）の字。

【曉庭】137 ゲウテイ あかつきの庭。〔李賀、房中思詩〕月軒下二風露一、曉庭自幽澀。〔鄭谷、十日菊詩〕節去蜂愁蝶不レ知、曉庭還繞折二殘枝一。

【曉啼】138 ゲウテイ 明け方泣く。〔牛嶠、紅薔薇詩〕曉啼珠露渾無レ力、繡簇羅襦不レ著レ行。

【曉眺】139 ゲウテウ 明け方のながめ。〔盧照鄰、七日登二樂遊故墓一詩〕綠野變二初黃一、暘山開二曉眺一。

【曉笛】140 ゲウテキ 明け方の笛の音。〔岑參、早發二焉耆一懷二終南別業一詩〕曉笛引二鄉淚一、秋冰鳴二馬蹄一。

【曉天】141 ゲウテン あかつきのそら。明け方の天。〔陳子昂、春夜別二友人一詩〕明月隱二高樹一、長河沒二曉天一。〔牛叢、題二朝陽巖一詩〕躡レ石攀レ蘿路不レ迷、曉天風好浪花低。

【曉天霞】142 ゲウテンカ 北京人の愛好する菊花の一種。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按、日下舊聞考、云云、蓋京師之菊種亟繁、云云、曉天霞。

【曉天星】143 ゲウテンノホシ 曉天に殘つてゐる星。物事の稀れな喩。曉星（96）に同じ。

【曉奠】144 ゲウテン 明け方のまつり。〔鄭谷、弔二故禮部韋員外一序詩〕曉奠鶯啼殘漏在、風幃燕覓二舊巢一來。

【曉簟】145 ゲウテン 明け方のたかむしろ。〔溫庭筠、初秋寄二友人一詩〕夜琴如レ欲レ雨、曉簟覺二新秋一。

【曉殿】146 ゲウデン 明け方の御殿。〔高啓、奉天殿進二元史一詩〕漏盡秋城催レ仗早、燭明曉殿卷レ簾遲。

【曉渡】147 ゲウト ❶明け方渡る。〔宋之問、夜渡二吳松江一懷古詩〕宿レ帆震澤口、曉渡松江濆。❷明け方の渡し場。〔顧非熊、成レ名後將二茅山一酬二羣公見レ送詩〕暮天行雁斷、曉渡落潮寒。〔羅鄴、冬夕江上言レ事詩〕喔喔晨雞滿二樹霜一、喧喧曉渡簇二舟航一。

【曉燈】148 ゲウトウ あかつきの燈火。〔白居易、閨怨詞〕珠箔籠二寒月一、紗窗背二曉燈一。

【曉得】149 ゲウトク さとり得る。わかる。了解する。知る。承知する。〔朱子全書、學、教人〕你不二曉得一底、我說在二這裏一、教二你曉得一。

【曉突】150 ゲウトツ 明け方の煙突。〔李覯、詩〕曉突誰能炊、午關猶未レ啓。

【曉暾】151 ゲウトン 朝日の光。朝暉。轉じて、朝日をいふ。〔杜牧、昔事二文皇帝一詩〕鳳闕觚稜影、仙盤曉日暾。〔蘇轍、送三吳思道人歸二吳興一詩〕惠山惟有錢夫子、一寸閒田曉日暾。〔殷堯藩、金陵上二李公垂侍郎一詩〕海國微茫散二曉暾一、鬱蔥佳氣滿二乾坤一。

【曉曇】152 ゲウドン 清、李宗埴（**6－14459**‥1627）の號。

【曉拜】153 ゲウハイ 明け方拜む。〔黃滔、鄜時李相公詩〕夜聽二謳詠一銷二塵夢一、曉拜二旌幢一戰二旅魂一。

【曉旆】154 ゲウハイ 明け方ひらめいてゐる旗。〔武元衡、酬二陸員外歙州許員外郢州二使君一詩〕洲草遙池合、春風曉旆張。

【曉方】155 アカツキガタ 夜のあけがた。〔拾遺和歌集、戀、三〕。

【曉望】156 ゲウバウ 夜明け方に望み見る。又、あかつきの眺め。〔張錫、奉三和九月九日登二慈恩寺浮圖一應制詩〕九秋霜景淨、千門曉望通。〔盧綸、綸與二吉侍郎一云云兼寄二夏侯侍御審侯倉曹釗一詩〕曉望怯二雲陣一、夜愁驚二鶴聲一。

【曉白】157 ゲウハク 明け方の空氣の白いこと。〔柳宗元、早梅詩〕朔吹飄二夜香一、繁霜滋二曉白一。

【曉陌】158 ゲウハク 明け方の路。〔姚合、送三張郎中副使赴二澤潞一詩〕曉陌事二戎裝一、風流粉署郎。〔鄭谷、採レ桑詩〕曉陌攜レ籠去、桑林路隔レ誰。

【曉魄】159 ゲウハク 明け方の月。明け方の月光。〔丘遲、夜發二密巖口一詩〕斂朗朝霞澈、驚明曉魄懸。〔任希古、七夕臨二泛昆明池一詩〕岸珠淪二曉魄一、池灰斂二曙煙一。〔駱賓王、晚憩二田家一詩〕霧巖淪二曉魄一、風溆漲二寒沙一。

【曉幕】160 ゲウバク 明け方の幕。〔續齊諧記〕繁露侵二曉幕一、何意空相守。〔顧況、悲歌、四〕何處春風吹二曉幕一、江南綠水通二朱閣一。〔丁仙芝、餘杭醉歌贈二吳山人一詩〕曉幕紅襟燕、春城白頃烏。

【曉發】161 ゲウハツ 朝早く出發する。〔陶翰、柳陌聽二早鶯一詩〕千門候二曉發一、萬井報二春生一。〔孟浩然、湖中旅泊寄二閻九司戶防一詩〕桂水通二百越一、扁舟期二曉發一。

【曉鉢】162 ゲウハツ あさげの鉢。鉢は、僧侶の食器。〔戴良、題二永樂寺水竹居一詩〕從レ今便結二東林社一、曉鉢高擎老衲如。

【曉髮】163 ゲウハツ 白けて來た髮。〔謝朓、冬緒二羈懷一示二蕭諮議虞田曹劉江二常侍一詩〕寒燈耿二宵夢一、清鏡悲二曉髮一。〔趙嘏、寒塘詩〕曉髮梳臨レ水、寒

塘坐見レ秋。〔羅隱、冬暮寄二裴郎中一詩〕曉髮星星入レ鏡宜、早年容易近年悲。

【曉班】165 ゲウハン 朝官の列。〔歐陽脩、席上送二劉都官一詩〕天街樹綠騰二歸騎一、玉殿霜淸綴二曉班一。〔宣和遺事、前集下〕羽服黃冠綴二曉班一。

【曉飯】166 ゲウハン あさめし。〔岑參、送三李翥遊二江外一詩〕夜眠楚煙濕、曉飯湖山寒。〔姚合、寄二九華費拾遺一詩〕夜眠青玉洞、曉飯白雲蔬。

【曉非】167 ゲウヒ 朝に於てまちがつてゐたこと。〔顏氏家訓、序致〕夜覺二曉非一、今悔二昨失一、自憐二無敎一、以至二於斯一。

【曉披】168 ゲウヒ 明け方ひらく。〔王炎、竹賦〕零露兮宵潤、惠風兮曉披。

【曉譬】169 ゲウヒ 明かにさとす。解り易くさとす。曉喩。〔後漢書、橋玄傳〕益固爭不レ能レ得、遽曉二譬岐一、岐堅臥不レ起。〔唐書、裴度傳〕度乃遣レ使曉二譬禍福一。〔宋史、宦者一、秦翰傳〕爲曉譬和二解之一。

【曉筆】170 ゲウヒツ 明け方に筆をとつて書くこと。〔徐陵、諫二仁山深法師罷レ道書〕夜琴晝瑟、是自娛レ懷、曉筆暮詩、論情頓足。

【曉冰】171 ゲウヒヨウ 明け方のこほり。〔元稹、春詩〕館娃朝鏡晚、太液曉冰融。〔張祜、觀二宋州田大夫打毬一詩〕曉冰蹄下裂、寒瓦杖頭鳴。

【曉鬢】172 ゲウビン あさのかみ。起きたてのびんづら。〔何遜、嘲二劉郎一詩〕雀釵橫二曉鬢一、蛾眉豔二宿粧一。

【曉風】173 ゲウフウ 明け方に吹く風。〔何遜、入二西塞一示二南府同僚一詩〕露淸曉風冷、天曙江晃爽。〔唐太宗、遠山澄碧霧詩〕髣髴分二初月一、飄颻度二曉風一。

〖曉風殘月〗174 ゲウフウザンゲツ ㊀明け方の月と風。〔杜常、華淸宮詩〕行盡江南數十程、曉風殘月入二華淸一。〔柳永、雨霖鈴詞〕今宵酒醒何處、楊柳岸曉風殘月。㊁詞曲をいふ。〔桃花扇、傳歌〕學二就曉風殘月墜一、緩拍二紅牙一、奪二了宜春翠一。

【曉伏】175 ゲウフク 明け方かくれる。〔梁簡文帝、箏賦〕隴葉夜黃、關雲曉伏。

【曉聞】177 ゲウブン 明け方に聞く。〔李益、奉二和武相公春曉聞レ鶯詩〕蜀道山川心易レ驚、綠窗殘夢曉聞レ鶯。

【曉屛】178 ゲウヘイ 淸、鄒炳泰(11－39562・・119)の號。

【曉碧】179 ゲウヘキ 明け方のみどり。〔梁簡文帝、七勵〕苦霧綿長、秋河曉碧。〔孟郊、立德新居詩〕曉碧流二視聽一、夕淸濯二衣袍一。

【曉闢】180 ゲウヘキ 明け方に開く。〔宋史、樂志十四〕端門曉闢、瑞氣雲凝。〔陳植、金馬門賦〕天關曉闢、驚二榮水之出レ圖、月殿夜輝、與二銅仙一而共語。

【曉晡】181 ゲウホ 明け方と暮れ方。〔杜甫、大歷三年春白帝城放レ船出二瞿塘峽一詩〕絕島容二煙霧一、環洲納二曉晡一。

【曉峰】182 ゲウホウ ㊀明け方のみね。〔溫庭筠、巫山神女廟詩〕曉峰眉上色、春水臉前波。㊁山名。浙江省定海縣の西南。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、定海縣〕舟山、志云、昌國城東七里有二青雷頭山一、高二里、與二城西五里曉峰山一對峙。

【曉卜】183 ゲウボク 明け方うらなふ。〔戴良、渡レ海詩〕舟子夜喧疑二島近一、估人曉卜驗二潮平一。

【曉梵】184 ゲウボン 朝勤める佛事の聲。朝の勤行の聲。〔陸龜蒙、送三圓載上人歸二日本一詩〕曉梵陽烏當二石磬一、夜禪陰火照二田衣一。

【曉夢】185 ゲウム あけがたのゆめ。〔李賀、美人梳頭歌〕西施曉夢綃帳寒、香鬟墮レ髻半沈檀。〔鮑溶、感懷詩〕曉夢雲月光、過秋蘭蕙色。〔李商隱、錦瑟詩〕莊生曉夢迷二蝴蝶一、望帝春心託二杜鵑一。

【曉霧】186 ゲウム よあけのきり。晨霧。〔虞羽客、結客少年場行〕龍城含二曉霧一。〔韋應物、對レ雨寄二韓庫部協一詩〕颯至池館涼、靄然和二曉霧一。〔劉禹錫、巫山神女廟詩〕曉霧乍開疑二卷幔一、山花欲レ謝似二殘妝一。

【曉明】187 ゲウメイ ㊀明かに解る。〔論衡、別通〕百家之言、令二人曉明一、非二徒窗牖之開、日光之照一也。㊁夜明け。あかつき。

【曉瞑】188 ゲウメイ 未だ明けきらぬあかつきのくらがり。〔白居易、官舍內新鑿二小池一詩〕最愛曉瞑時、一片秋天碧。

【曉陽】189 ゲウヤウ よく解る。〔楚辭、王褒、九懷、陶壅〕意曉陽兮燎寤、乃息レ軫兮存レ茲。

【曉喩】190 ゲウユ さとす。言ひきかす。〔書、盤庚序、疏〕前王三徙、誥令則行、曉喩之易、故無二此言一。〔漢書、刑法志〕欲三以曉二喩衆庶一、不二亦難一乎。〔司馬相如、喩二巴蜀一檄〕遣二信使一、曉二喩百姓一。〔後漢書、安帝紀〕其各敕二所部長吏一、躬親曉喩。〔後漢書、張步傳〕閎爲レ檄、曉二喩吏人一、降二得贛楡等六縣一。

【曉諭】191 ゲウユ さとす。曉喩に同じ。〔漢書、王莽傳下〕遣二七公韓士隗囂等七十二人一、分下二赦令一、曉諭云。

【曉來】192 ゲウライ 明け方から。あかつきがたから。〔杜甫、偪仄行、贈二畢侍御一詩〕曉來急雨春風顚、睡美不レ聞二鐘鼓傳一。〔皮日休、曉次二神景宮一詩〕曉來到二何許一、俄倚包二山腳一。〔王守仁、夜宿二天池一月下聞レ雷詩〕曉來却問山下人、風雨三更捲茆屋。

【曉浪】193 ゲウラウ 明け方のなみ。〔姚合、送三徐員外赴二河中從事一詩〕涼飆下二山寺一、曉浪滿二關城一。

【曉嵐】194 ゲウラン 字號。㊀淸、紀昀(8－27234・・3)の字。㊁淸、王熙震(7－20823・・1293)の字。

【曉爛】195 ゲウラン あきらかにひかる。〔論衡、佚文〕天晏暘者、星辰曉爛、人性奇者、掌文藻炳。

【曉涼】196 ゲウリヤウ 朝の涼しいこと。〔盧照鄰、至二陳倉一曉晴望二京邑一詩〕拂曙驅二飛傳一、初晴帶二曉涼一。〔杜牧、西山草堂詩〕後嶺有二微雨一、北窗生二曉涼一。

【曉領】197 ゲウリヤウ さとりをさめる。〔後漢書、馮衍傳下〕聞二至言一而曉領兮。

【曉林】198 ゲウリン 淸、王植(淸苑の人)(7－20823・・611)の號。

【曉泠】199 ゲウレイ 明かにさとる。曉靈。〔淮南子、脩務訓〕精神曉泠、鈍聞條達。〔注〕曉、明、泠、猶レ了。

【曉靈】200 ゲウレイ 明かにさとる。曉泠。〔文子、精誠〕精神曉靈、屯閔條達。

【曉了】201 ゲウレウ ㊀明かにさとる。了解。〔淨住子、迴向佛道門〕深悟在二別世一、曉了因二緣法一。㊁佛 高僧の名。六祖の嫡嗣。〔五燈會元〕師住二匾擔山一、號二曉了六祖之嫡嗣一也。

【曉蓮】202 ゲウレン あかつきのはちす。〔鄭谷、中秋詩〕淸香聞二曉蓮一、水國雨餘天。

【曉路】203 ゲウロ あかつきのみち。〔戴叔倫、將レ赴二湖南一留二別東陽舊僚一兼示二吏人一詩〕曉路整二車馬一、離亭會二衣冠一。〔王建、七夕曲詩〕兩情纏綿忽如レ故、復畏三秋風生二曉路一。

【曉露】204 ゲウロ あさがたのつゆ。あさつゆ。〔韋應物、曉至二園中一憶二諸弟崔都水一詩〕秋塘徧二衰草一、曉露洗二紅蓮一。〔孟郊、別二妻家一詩〕芙蓉濕二曉露一、秋別南浦中。〔白居易、荷珠賦〕宿雨霽而猶レ在、曉露裛而正鮮。

〖曉露鹿鳴花始發百般攀折一時情〗205 アカツキノツユニシカナイテハナハジメテヒラキモモタビヨヂヲルイチジノココロ 曉の露に、鹿が鳴いて滿庭の萩の花が咲き初めたので、一時の淸興にまかせて、幾枝も折り取つては之を賞玩する。萩を鹿鳴草といふ。鹿鳴の二字は萩の意を含む。〔倭漢朗詠集、萩、菅原道眞詩〕商飆颯颯葉輕輕、壁蛬流レ音數處鳴、曉露鹿鳴花始發、百般攀折一時情。

【曉漏】206 ゲウロウ あけがたの水時計。〔梁武帝、閶闔篇〕衞尉屯兵上、期門曉漏傳。〔杜審言、秋夜宴二臨津鄭明府宅一詩〕露白宵鐘徹、風淸曉漏聞。〔包何、長安曉望詩〕風吹二曉漏一經二長樂一。

【曉樓】207 ゲウロウ ㊀明け方のたかどの。〔杜牧、聞レ角詩〕曉樓煙檻出二雲霄一、景下林塘已寂寥。㊁字號。㋑淸、費丹旭(10－36717・・100)の字。㋺淸、凌曙(2－1669・・67)の字。

【曉壟】208 ゲウロウ 明け方のはたけ。〔方岳、農謠〕春山樹暖鶯相覓、曉壟雨晴人獨耕。

【曉橫】209 ゲウワウ 明け方橫はる。〔范成大、望海亭賦〕三星曉橫、萬境俱寂、浴日未レ動、晨光先激。

【曉惑】210 ゲウワク まどひをさとす。〔文心雕龍、諧讔〕隱語之用、被二于紀傳一、大者興レ治濟レ身、其次弼レ違曉レ惑。

【曉垢離】211 アケゴリ 信心のため、未明に水を浴びて身心を淸淨にすること。〔短夜仇散書〕わしらは今夜はあけごりに行きやすから。

【曉鳥擊】212 アケドリウチ 隱語。まだ就寢して居るうちに襲つて犯人を縛すること。

〖欲レ曉天〗213 アケントホッスルノテン 夜明けのそら。〔嵯峨天皇、春日遊二獵日暮宿二江頭亭子一御製〕征船暮入連レ天水、明月孤懸欲レ曉天。

【曉菴新法】214 ゲウアンシンパフ 書名。六卷。淸、王錫闡撰。

前一巻は句股割圜の諸法を述べ、後五巻は推歩七政交食凌犯の術を記して居る。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【曉讀書齋】215（ゲウドクショサイ）　清、洪亮吉（**6―17402··277**）の號。

【曉讀書齋雜錄】216（ゲウドクショサイザツロク）　書名。八卷。清、洪亮吉撰。經史の文の疑義を考訂したもの。〔授經堂重刊遺集、第二十七・二十八冊〕。

【曉見千兵擁㆓大牙㆒】217（アカツキニミルセンペイノタイガヲヨウスルヲ）　曉暗の中に、數千の兵が大將の旗を擁して前に在るのを發見した。〔賴山陽、題㆘不識庵擊㆓機山㆒圖㆖〕鞭聲肅肅夜過ㇾ河、曉見千兵擁㆓大牙㆒。

【曉入㆓梁王之苑㆒雪滿㆓群山㆒】218（アカツキニリヤウワウノソノニイレバユキグンザンニミテリ）　曉に梁王の兔園に入ると、雪は群山に降り積つてゐる。〔謝觀、白賦〕曉入㆓梁王之苑㆒、雪滿㆓群山㆒、夜登㆓庾公之樓㆒、月明㆓千里㆒。

【曉隨㆓殘月㆒行夕與㆓新月㆒宿】219（アカツキニハザンゲツニシタガツテユキユフベニハシンゲツトトモニヤドル）　明け方には殘月と共に旅をし、夕方には三日月と共に宿を取つて息ふ。〔白居易、客中月詩〕曉隨㆓殘月㆒行、夕與㆓新月㆒宿、誰謂月無ㇾ情、千里遠相逐。

【曉入㆓長松之洞㆒巖泉咽嶺猿吟】220（アカツキニチヤウシヨウノホラニイレバガンセンムセビレイエンギンズ）　曉に旅宿を出で松の森森たる山谷の間に入ると、岩もる清水の音が微かにひびき、嶺上の猿の聲が哀れに聞える。〔倭漢朗詠集、慶滋爲雅、別路江山遠序〕曉入㆓長松之洞㆒、巖泉咽嶺猿吟、夜宿㆓極浦之波㆒、青嵐吹皓月冷。

【向ㇾ曉簾頭生㆓白露㆒終宵床底見㆓青天㆒】221（アカツキニナンナントシテスダレノホトリニハクロヲナセリヨモスガラユカノモトニセイテンヲミル）　曉方には、白露が簾のほとりに降り、終夜、寢ながらにして青空を見る。あばら家のさまを詠じた句。〔倭漢朗詠集、古宮、三善善宗、屋舍壞〕向ㇾ曉簾頭生㆓白露㆒、終宵床底見㆓青天㆒。

【曊】14177　ヒ　昲（**5―13863**）に同じ。〔集韻〕昲、或作ㇾ曊。

【曋】14178　シン　〔字彙補〕始錦切　［寢］

日のやどる所。〔字彙補〕日所ㇾ次隅曰ㇾ曋。〔管子、五行〕貨曋㆓神廬㆒。〔注〕日所ㇾ次隅曰ㇾ曋。

【〓】14179　セキ　舃（**9―30206**）に同じ。〔字彙補〕〓、與ㇾ舃同。

【〓】14180　ノウ　農（**10―38688**）の古字。〔字彙補〕〓、古文農字。

【〓】14181　クワウ　曠（**5―14245**）の古字。〔字彙補〕〓、古文曠字。

【〓】14182　セキ　昔（**5―13816**）に同じ。〔字彙補〕〓、同ㇾ昔。

【〓】14183　ラウ　朗（**5―14402**）に同じ。〔康熙字典〕〓、篇韻、作ㇾ〓。〔字彙補〕〓、音朗。

【〓】14184　シユン　春（**5―13844**）に同じ。〔隸釋〕〓、孔謙碣、修㆓〓秋經㆒、卽春字。

【〓】14185　トン　〔字彙補〕他昆切　［元］

人名。〔字彙補〕〓、人名。

【曌】14186　セウ　照（**7―19226**）に同じ。唐の武后の名。〔康熙字典〕曌、唐書、武后紀、名曌、與ㇾ照同。

【〓】14187　エン　〓（**5―14249**）に同じ。〔說文長箋〕〓、同ㇾ〓。

【〓】14188　バウ　暴（**5―14201**）に同じ。〔音韻〕〓、與ㇾ暴同。

【〓】14189　セウ　義未詳。〔篇韻〕〓、音照。

【曘】14190　ダン　義未詳。〔海篇〕曘、音煖。

【〓】14191　シヨウ　義未詳。〔篇韻〕〓、音從。

【〓】14192　エツ　暍（**5―14047**）に同じ。〔龍龕手鑑〕〓、同ㇾ暍。

十三畫

【曎】14194　エキ　ヤク　〔集韻〕夷益切　［陌］

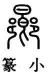
ひかる。〓（**13―48930**）・燡（**7―19459**）に同じ。〔集韻〕〓、光也、或从ㇾ火、从ㇾ日。

【曏】14195

🈩キヤウ　カウ　〔集韻〕許兩切　［養］　ㄒㄧㄤˋ　hsiang4

🈔シヤウ　〔集韻〕始兩切　［養］

🈪キヤウ　カウ　〔集韻〕許亮切　［漾］


小篆

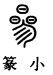
🈩🈔🈪㊀**さき。さきに。さきには。**㋑むかし。〔華嚴經音義、下〕曏、謂㆓往時㆒也。〔儀禮、士相見禮〕曏者吾子。〔注〕曏、曩也。〔呂覽、觀表〕曏者右宰穀臣之觴㆓吾子㆒也甚懽。〔注〕曏、曩也。㋺久しくない前。以前。前日。〔說文〕曏、不ㇾ久也、从ㇾ日鄉聲、春秋傳曰、曏役之三月。〔玉篇〕曏、少時也。㊁**むかふ。**〔儀禮、鄉射禮〕如㆘賓酬㆓主人㆒之禮㆖、〔注〕立鄉ㇾ所ㇾ酬。〔校勘記〕鄉、毛本作ㇾ曏。㊂**あきらかにする。**〔莊子、秋水〕證㆓曏今古㆒。〔注〕曏、明也。㊃通じて鄉（**11―39571**）・向（**2―3301**）・嚮（**2―4565**）に作る。〔說文通訓定聲〕曏、經傳多以ㇾ鄉、以ㇾ向、以ㇾ嚮。㊄俗に晌（**5―13903**）に作る。〔正字通〕曏、俗作ㇾ晌。

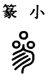
【曏者】1（キヤウシヤ）　さきに。前日。字解の🈩🈔🈪の㊀を見よ。〔呂覽、觀表〕曏者右宰穀臣之觴㆓吾子㆒也。

【曏來】2（キヤウライ）　さきに。曏者に同じ。來は助語。昔來。〔資治通鑑、梁紀〕（武帝、太清三年）見㆓城闕荒圮㆒、異㆓於曏來㆒。〔注〕毛晃曰、昔來、謂㆓之曏來㆒。

【曐】14196　セイ　星（**5―13837**）の篆文。〔字彙〕曐、篆文星字。

【曑】14197　シン　〔集韻〕疏簪切　［侵］


小篆


或體

星の名。商星。或は參（**2―3098**）に作り、古は㕘（**2―3089**）に作る。〔說文〕曑、商星也、从ㇾ晶㐱聲、參、或省。〔九經字樣〕曑、今經典相承多用ㇾ參。〔集韻〕曑、古作ㇾ㕘。

【〓】14198　キク　〔集韻〕乙六切　［屋］　yü4

あつい。燠（**7―19458**）に同じ。〔集韻〕燠、熱也、或从ㇾ日。

【⿰日煞】14199 〖一〗サツ 〖二〗サイ 〖一〗煞(7-19210)に同じ。〔歐陽脩、詞〕今朝斗覺凋零⿰日煞。〖二〗曬(5-14266)の俗字。〔正字通〕⿰日煞、俗曬字。

【曒】14200 〖一〗ケウ 〔集韻〕吉了切 〖篠〗 〖二〗カウ ゴウ 〔集韻〕下老切 〖皓〗

〖一〗〖二〗❶**あきらか**。〔玉篇〕曒、明也。〔後漢書、樂恢傳〕恢獨曒然、不レ汙二於法一。〔注〕曒、明也。❷**玉石の白いもの**。〔五經文字〕曒、玉石之白者。❸**はつきり別れるさま**。〔集韻〕曒、一曰、淸別皃。❹或は⿰日臭(5-14086)に作る。〔集韻〕曒、或作レ⿰日臭。❺皦(8-22792)に同じ。〔正字通〕曒、與レ皦通。❻暤(5-14101)に同じ。〔玉篇〕曒、同レ暤。

【曓】14201 ハウ ボウ 〔廣韻〕薄報切 〖號〗 〖慣〗バウ

にはか。暴(5-14137)に同じ。〔說文〕曓、疾有レ所レ趣也、从二日出本廾一レ之。〔玉篇〕曓、今作レ暴。

【曔】14202 ケイ ギヤウ 〔集韻〕渠映切 〖敬〗

❶**あきらか**。〔玉篇〕曔、明也。❷**かわく**。〔類篇〕曔、乾也。

【⿰日亶】14203 タン ダン 〔集韻〕蕩旱切 〖旱〗

くれる。くれ。〔集韻〕⿰日亶、曛也。

【⿰日詹】14204 エン 〔集韻〕以贍切 〖豔〗

さらす。〔玉篇〕⿰日詹、曬也。

【⿰日零】14205 レイ ⿰日靈(5-14276)に同じ。〔篇海〕⿰日零、同レ⿰日靈。

【曖】14206 〖一〗アイ 〔集韻〕於代切 〖隊〗 ㄞˋ ai⁴ 〖二〗アイ 〔集韻〕於蓋切 〖泰〗

〖一〗〖二〗❶**かげる**。かげつてはつきりしない。〔廣雅、釋訓〕曖曃、翳薈也。〔廣韻〕曖、日不レ明。〔後漢書、申屠蟠傳〕甘二是堙曖一。〔注〕曖、猶レ翳也。❷**くらい**。昏昧のさま。〔玉篇〕曖、暗皃。❸**物のさま**。曖乎(4)・曖迺(8)を見よ。

【曖曖】1（アイアイ） うすぐらいさま。又、おぼろなさま。〔楚辭、離騷〕時曖曖其將レ罷兮。〔注〕曖曖、闇昧貌。〔漢書、司馬相如傳下〕時若曖曖將二混濁一兮。〔崔瑗、座右銘〕曖曖內含レ光。

【曖曖遠人村】2（アイアイタリエンジンノムラ） おぼろにかすめる遠人の村落。〔陶潛、歸二園田居一詩〕曖曖遠人村、依依墟里煙。

【曖曖江村見】3（アイアイトシテカウソンアラハル） 霧がはれてぼんやりと入江の村があらはれて來る。〔謝朓、高齋視レ事詩〕曖曖江村見、離離海樹出。

【曖乎】4（アイコ） 情意の籠つたさま。〔韓非子、主道〕明君之行レ賞也、曖乎如二時雨一、百姓利二其澤一、其行レ罰也、畏乎如二雷霆一、神聖不レ能レ解也。

【曖日】5（アイジツ） うすい光の太陽。〔陳後主、立春日汎二舟玄圃一各賦二一字一六韻成レ篇詩〕春光返二禁苑一、曖日暖二源桃一。

【曖然】6（アイゼン） うす暗いさま。又、おぼろげなさま。〔沈佺期、餞レ遠詩〕曖然淸軒暮、浩思非レ所レ任。

【曖曃】7（アイタイ） 明かでないさま。曃曖。〔廣雅、釋訓〕曖曃、翳薈也。〔字彙〕曃、曖曃、不レ明貌。〔楚辭、遠遊〕旹曖曃其曭莽兮。〔注〕日月晻黮而無レ光也。〔集注〕曖、音愛。曃、音逮。一作レ晻。云云。一作二黤黮一云云。曖曃、昧暗也。〔補注〕曖曃、暗也。

【曖迺】8（アイダイ） ふなうた。漁人の歌聲。欸乃(6-16090‥2)の❶に同じ。〔西溪叢語、上〕劉言史、瀟湘游云、夷女采二山蕉一、緝紗漫二江水一、野花滿レ鬢妝色新、閒歌曖迺深二峽裏一云云、曖迺卽欸乃字。

【曖昧】9（アイマイ） はつきりしない。まぎらはしい。たしかでない。うろん。模糊。〔後漢書、蔡邕傳〕覩二曖昧之利一、而忘二昭晢之害一。〔何晏、景福殿賦〕其奧祕則翳蔽曖昧。〔注〕善曰、翳蔽曖昧、皆謂二幽深不一レ明也。〔晉書、杜預傳〕臣心實了、不下敢以二曖昧之見一、自取中後累上。

【曖阡阡】10（アイトシテセンセン） ぼんやりとして美しいさま。〔謝朓、遊二東田一詩〕遠樹曖阡阡、生煙紛漠漠。〔注〕向曰、曖、不レ明貌。阡阡、茂美貌。

【⿰日黽】14207 ヨウ 〔玉篇〕以證切 〖徑〗

日の光。〔篇海〕⿰日黽、日暉也。

【⿰日𠌶】14208 エフ 曄(5-14169)の正字。〔正字通〕⿰日𠌶、俗作レ曄。

【曗】14209 エフ 曄(5-14169)に同じ。〔篇海〕曗、同レ曄。

【⿰日義】14210 ギ 曦(5-14253)に同じ。〔集韻〕曦、或省。

【鼂】14211 セウ 〔篇韻〕止遙切 〖蕭〗

蝘鼂は、蟲の名。〔篇韻〕鼂、蝘鼂、蟲名。

【⿱𤇾日】14212 音未詳 神の名。〔字彙補〕⿱𤇾日、音未詳。〔太淸金液神氣經〕南岳、姓榮、名⿱𤇾日君。

【⿰日農】14213 バク 暴(5-14137)に同じ。〔楊氏韻寶〕⿰日農、與二曬暴之暴一同。

【署】14214 チヨ 著(9-31410)に同じ。〔字學指南〕署、與レ著同。

【⿰日卿】14215 カ 夏(3-5720)に同じ。〔五音篇海〕⿰日卿、同レ夏。

【⿰日會】14216 クワイ 義未詳。〔海篇〕⿰日會、音會。

十四畫

【⿰日對】14217 タイ ヅイ 〔集韻〕徒對切 〖隊〗

しげる。〔集韻〕⿰日對、茂也。〔宋玉、高唐賦〕⿰日對兮若二松榯一。〔注〕善曰、⿰日對、茂貌。

【曘】14218 ジユ ニユ 〔玉篇〕日朱切 〖虞〗

❶**くらい**。〔舊唐書、盧藏用傳〕曲學所レ習、曘昧所レ守。❷**日の色**。〔玉篇〕曘、日色也。

【⿰日縣】14219 キフ コフ 〔集韻〕乞及切 〖緝〗

❶**さらす**。〔廣雅、釋詁二〕⿰日縣、曝也。❷**かわきかかる**。〔玉篇〕⿰日縣、欲レ乾也。❸或は⿰日巠(5-14081)に作る。〔集韻〕⿰日縣、曝也、或作レ⿰日巠。

【曙】14220 小篆 シヨ ジヨ 〔集韻〕常恕切 御 ㄕㄨˋ shu^4

❶**あけぼの**。よあけ。〔說文新附〕曙、曉也、从レ日署聲。〔類篇〕曙、旦也。〔楚辭、遠遊〕魂營營而至レ曙。❷**あける**。夜があける。〔玉篇〕曙、東方明也。〔淮南子、天文訓〕日入二于虞淵之汜一、曙二於蒙谷之浦一。〔注〕曙、明也。❸一曙は、一朝。一旦。一日。〔呂覽、重己〕一曙失レ之。

名乘 アキラ。

【曙鴉】1 シヨア あけがらす。曉烏。曉鴉。〔楊巨源、春晚東歸留贈二李功曹一詩〕唯有二懷鄉客一、東飛羨二曙鴉一。

【曙鶯】2 シヨアウ 夜あけになくうぐひす。朝鶯。曉鶯。晨鶯。〔李頎、宿二香山寺石樓一詩〕東林曙鶯滿、惆悵欲レ言旋。〔徐夤、薔薇詩〕藂高恐レ凝含レ泥燕、架隱宜レ棲報レ曙鶯。

【曙烏】3 シヨウ 夜あけ方に飛び、又鳴くからす。あけがらす。曉烏。曉鴉。〔梁簡文帝、雙桐生二空井一樂府〕晚葉藏二栖鳳一、朝花拂二曙烏一。〔宋之問、江南曲〕採レ花驚二曙烏一、摘レ葉餧二春蠶一。

【曙雲】4 シヨウン あかつきのくも。あけぼのの雲。〔盧僎、初出二京邑一有レ懷二舊林一詩〕曙雲林下客、霽月池上顏。〔張九齡、奉三和聖製早渡二蒲津關一詩〕長堤春樹發、高掌曙雲開。〔孫逖、酬下萬八賀九雲門下歸二溪中一作上詩〕晚從二靈境一出、林壑曙雲飛。

【曙影】5 シヨエイ あけぼのの光。朝日の光。曙色。〔王褒、九日從レ駕詩〕曙影初分レ地、暗色始成レ光。

【曙烟】6 シヨエン あけぼののけむり。〔高啓、雨中曉臥詩〕井桁烏啼破二曙烟一、輕寒薄被落花天。

【曙霞】7 シヨカ あさやけ。又、明け方のかすみ。〔沈佺期、苑中遇レ雪應制詩〕北闕彤雲掩二曙霞一、東風吹レ雪舞二山家一。〔錢起、登二復州南樓一詩〕孤樹延二春日一、他山卷二曙霞一。

【曙戒】8 シヨカイ ❶あさはやく起きて其の日の事を戒めること。〔管子、形勢〕曙戒勿レ怠。〔注〕每曙而戒、所三以戒二此日之事一。❷清、丘象升(**1－33**‥145)の字。

【曙更】9 シヨカウ 明け方の時刻。曙漏。〔祖詠、宿二陳留李少府揆廳一詩〕旅泊倦二愁臥一、堂空聞二曙更一。〔錢起、夏日陪二史郎中宴一詩〕引滿不レ辭レ醉、風來待二曙更一。

【曙巖】10 シヨガン 清、周喆(**2－3441**‥392)の字。

【曙暉】11 シヨキ あけぼのの光。〔岑參、和二祠部王員外雪後早朝卽事一詩〕長安雪後似二春歸一、積レ素凝レ華連二曙暉一。〔岑參、西掖省卽事詩〕西掖重雲開二曙暉一、北山疏雨點二朝衣一。

【曙曦】12 シヨギ あさひ。旭日。曉暾。朝曦。初日。陽旭。曙日。〔陳沂、詩〕天門開二曙曦一。

【曙鳩】13 シヨキウ 清、翁春(**9－28635**‥35)の字。

【曙光】14 シヨクワウ ❶夜あけのあかるみ。あかつきのひかり。しののめのあかり。朝日の光。〔唐太宗、除夜詩〕對レ此歡二終宴一、傾レ壺待二曙光一。〔岑參、奉三和中書舍人賈至早朝二大明宮一詩〕鷄鳴紫陌曙光寒、鶯囀皇州春色闌。〔唐彥謙、早行遇レ雪詩〕雞犬寂無レ聲、曙光射二寒色一。❷善い物事の起りかかるきざし。進展のきざし。

【曙景】15 シヨケイ 明け方の光。又、夜明けの景色。〔唐高宗、太子納レ妃太平公主出降詩〕龍樓光二曙景一、魯館啓二朝扉一。

【曙月】16 シヨゲツ 夜あけのつき。入り殘る月。殘月。曉月。〔錢起、江寧春夜裴使君席送二蕭員外一詩〕曙月稀星裏、春煙紫禁餘。〔鄭絪、初日照露盤賦〕若三曙月之臨二朝鏡一。

【曙鼓】17 シヨコ 夜明け方に打つ太鼓の音。〔江總、吳興郡盧陵王德政碑〕去謠曙鼓、留歌暮來。

【曙湖】18 シヨコ 清、胡志仁(**9－29400**‥482)の號。

【曙後】19 シヨゴ よあけののち。〔方干、題二睦州烏龍山禪居一詩〕曙後月華猶冷濕、自知坐臥逼二天宮一。

【曙後星孤】20 シヨゴセイコ 明けの空に一つ殘る星の意で、親の死後に殘された一人の女子をいふ。唐の崔曙の故事。〔本事詩〕崔曙作二明堂火珠詩一云、夜來雙月滿、曙後一星孤。〔唐詩紀事、崔曙〕試二明堂火珠詩一云、正位開二重屋一、中天出二火珠一、夜來雙月合、曙後一星孤、云云、曙以二是詩一得レ名、明年卒、惟一女、名星星、始悟二其讖一也。

【曙草】21 アケボノサウ ❶龍膽リンダウ科に屬する草の名。❷アケボノグサ 櫻の異名。〔藏玉和歌集〕曙草、櫻。

【曙舟】22 シヨシウ 清、孫家穀(**3－6987**‥343)の字。

【曙質】23 シヨシツ よあけ方の景色。〔薛能、昇平詞〕曙質絕二埃氛一、彤庭列二禁軍一。

【曙日】24 シヨジツ あけがたの日光。あさひ。朝日。〔王褒、別二陸子雲一詩〕平湖開二曙日一、細柳發二新春一。〔陳子昂、萬州曉發詩〕遠岸孤遠出、遙峰曙日微。

【曙鐘】25 シヨシヨウ よあけのかねのね。あかつきのかね。曉鐘。〔王維、同二崔員外一秋宵寓直詩〕九門寒漏徹、萬井曙鐘多。〔李嶠、餞二駱四一詩〕星月懸二秋漢一、風霜入二曙鐘一。

【曙色】26 シヨシヨク 明け方の色。あけぼののけしき。曙景。〔杜甫、江邊星月詩〕鷄鳴還曙色、鷺浴自晴川。〔李頎、送二魏萬之レ京詩〕關城曙色催レ寒近、御苑砧聲向レ晚多。〔祖詠、望二薊門一詩〕萬里寒光生二積雪一、三邊曙色動二危旌一。

【曙靑】27 シヨセイ 清、葉志超(**9－31387**‥199)の字。

【曙星】28 シヨセイ 明け方のほし。あけの星。〔隋書、來和傳〕開皇末、上表自陳曰、臣當時卽言、公眼如二曙星一、無レ所レ不レ照、當三王有二天下一。〔資治通鑑、陳紀、宣帝、太建七年、注〕曙星、向レ曉之星、其光閃爍。〔方干、送二婺州許錄事一詩〕曙星沒盡提レ綱去、暝角吹殘鏁レ印歸。

【曙雪】29 シヨセツ よあけのゆき。曉雪。〔李頎、送二李回一詩〕千巖曙雪旌門上、十月寒花輦路中。

【曙川】30 シヨセン ❶清、錢維喬(**11－40563**‥249)の號。❷アケカハ 河內國の地名。

【曙染】31 アケボノゾメ 染色の名。紅、又、紫などで、下の方を濃く、上の方を薄くぼかして染めたもの。〔好色二代男〕十八九なる大振袖の娘、云云、曙染の裏を貝の口に紐合し。

【曙燈】32 シヨトウ 明け方のともしび。〔韓愈、陪二杜侍御一遊二湘西兩寺一獨宿有レ題二一首一因獻二楊常侍一詩〕展轉嶺猿鳴、曙燈青睒睒。

【曙風】33 シヨフウ よあけのかぜ。曉風。朝風。〔江淹、效二阮公一詩〕戾戾曙風急、團團明月陰。

【曙飇】34 シヨヘウ よあけのつむじかぜ。〔劉永之、送三鏐子堅之二袁城一詩〕雪色征袍拂二曙飇一。

【曙峯】35 シヨホウ 清、陳厚耀(**11－41698**‥858)の號。

【曙野】36 シヨヤ よあけののべ。〔王勃、採蓮賦〕憐二曙野之絳氣一、愛二晴天之碧雲一。

【曙海樓】37 シヨカイロウ 清、王壽康(**7－20823**‥1652)の室名。

【⿰日蓋】14221 アイ 〔集韻〕於蓋切 泰

❶**日の色**。〔玉篇〕⿰日蓋、日色也。❷**かげる**。くらい。〔正字通〕⿰日蓋、當二是日不レ明。

【⿰日麽】14222 バ マ 〔集韻〕母果切 哿

くらい。日に光がない。⿰日麽曪。〔集韻〕⿰日麽、⿰日麽曪、日無レ光。

【曚】14223 一 ボウ ム 〔集韻〕謨蓬切 ㄇㄥˊ mêng^2 東 二 ボウ ム 〔集韻〕母揔切 董 慣モウ

一二❶**くらい**。ほのぐらい。〔直音〕曚、曚昧也。〔字彙〕曚、日未レ明也。❷通じて蒙(**9－31555**)に作る。〔正字通〕曚、通作レ蒙。

【曚昧】1 モウマイ くらい。うすぐらい。〔蜀志、郤正傳〕昔在鴻荒、曚昧肇初。〔晉書、紀瞻傳〕太極者、蓋謂二混沌之時、曚昧未一レ分。

【曚曨】2 モウロウ 日の光がほのぐらいこと。〔集韻〕曚、曚曨、日未レ明也。

【曛】14224 クン 〔集韻〕許云切 ㄒㄩㄣ hsün^1 文

❶**入日のひかり**。〔集韻〕曛、日入餘光也。〔孫逖、下二京口埭一夜行詩〕孤帆度二綠氛一、寒浦落二紅曛一。❷**入日**。〔王僧孺、從子誄〕唯昏及レ旦、自レ旭徂レ曛。❸**たそがれ**。ひ

ぐれ。ゆふがた。〔玉篇〕曛、黃昏時。〔謝靈運、晩出二西射堂一詩〕夕曛嵐氣陰。〔注〕翰曰、曛、黃昏時。❹赤黃色。纁(8−28011)に通ず。〔素問、六元正紀大論〕爲レ曛。〔注〕曛、赤黃色也。〔楚辭、九章、思美人〕與二纁黃一以爲レ期。〔集注〕纁、一作レ曛。

【曛旭】1 クンキョク　夕刻と朝。日の入りと日の出。夕日と旭日。〔李白、幽歌行〕吾兄行樂窮二曛旭一、滿堂有レ美顏如レ玉。

【曛黃】2 クンクワウ　ゆふがた。たそがれ。黃昏。曛夕。日暮。纁黃。〔駢雅、釋天〕曛黃、日暮也。〔南史、朱昇傳〕起二宅東陂一、晩朝來下、酣二飮其中一、海迫二曛黃一。〔柳宗元、夢歸賦〕類二曛黃之黭漠一兮、欲二周流一而無レ所レ極。

【曛黑】3 クンコク　日がくれてくらい。又、ゆふやみ。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、陳琳詩〕夜聽極二星爛一、朝遊窮二曛黑一。〔舊唐書、李渤傳〕時已曛黑、不レ問二色目一。

【曛日】4 クンジツ　ゆふひ。いりひ。夕陽。落暉。落陽。落日。〔謝靈運、酬二從弟惠連一詩〕夕慮二曉月流一、朝忌二曛日馳一。

【曛夕】5 クンセキ　ゆふべ。たそがれ。夕曛。

【曛霧】6 クンム　黃色を帶びたきり。黃霧。〔鮑照、冬日詩〕曛霧蔽二窮天一、夕陰晦二寒地一。

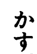
【㬥】14225

[一]ハウ ボウ　〔集韻〕薄報切　[號]

[二]ホク ボク　〔集韻〕步木切　[屋]

[三]ハク　〔集韻〕北角切　[覺]

小篆


古文

[一][二]❶さらす。日にかわかす。暴(5−14137)の本字。古は⿱麃日(5−14237)に作る。〔正字通〕㬥、暴本字。〔說文〕㬥、晞也、从二日出廾レ米、⿱麃日、古文㬥、从レ日麃聲。❷俗に曝(5−14239)に作る。〔集韻〕㬥、俗作レ曝、非レ是。[三]枝葉がまばら。〔集韻〕㬥、木落陰疎也。

【曤】14226

[一]ワク　〔集韻〕鬱縛切　[藥]

[二]クワク

[一]いさましいさま。〔集韻〕曤、勇貌。〔東觀漢紀〕曤哉是翁。[二]矍(8−23792)の譌字。〔正字通〕曤、按、馬援傳本作レ矍。

【曜】14227

エウ　〔集韻〕弋笑切　[嘯]　ㄧㄠ yao^4　ㄩㄝ yüeh^4

❶かがやく。ひかる。〔釋名、釋天〕曜、燿也、光明照燿也。〔詩、檜風、羔裘〕日出有レ曜。❷あきらか。〔太玄經、玄數〕曜曾越卓。〔注〕曜、明也。❸ひかり。〔集韻〕曜、日光也。〔張衡、西京賦〕流二景曜之韡曄一。〔注〕綜曰、曜、光也。❹日・月・五星。〔素問、天元紀大論〕七曜周旋。〔注〕七曜、謂二日月五星一。❺かがやかす。しめす。〔張衡、東京賦〕曜二威中原一。❻燿(7−19520)に通ず。〔正字通〕曜、與レ燿同。〔雷浚、說文外編〕燿爲二曜之正字一、漢書司馬相如傳、獲二曜日月之末光一、史記作レ燿。[邦]七曜日。一週間、即ち七日間を日月五星にあてて呼ぶ稱呼。

[名乘]　アキラ。テル。

【曜威】1 エウヰ　威光をかがやかす。威武をしめす。〔張衡、東京賦〕三農之隙、曜二威中原一。〔注〕綜曰、曜レ威、治レ兵也。〔潘岳、關中詩〕以レ古況レ今、何足レ曜レ威。

【曜煜】2 エウイク　光りかがやく。照曜。晃曜。燁煜。〔梁簡文帝、贈二張纘一詩〕朱旗赫容與、雕棨紛曜煜。

【曜曜】3 エウエウ　光りかがやくさま。煌煌。燁燁。燿燿。〔顏延之、宋郊祀歌〕月御案レ節、星驅扶レ輪、遙興遠駕、曜曜振振。

【曜眼】4 yao^4 yen^3　眼にかがやく。

【曜奇】5 エウキ　すぐれた手柄をたてる。〔袁宏、三國名臣序贊〕卓卓若人、曜二奇赤壁一。

【曜卿】6 エウケイ　三國魏、袁渙(10−34152‥46)の字。

【曜之】7 エウシ　唐、蔣曙(9−31820‥59)の字。

【曜質】8 エウシツ　世の中に在ること。在世。〔謝惠連、祭二古冢一文〕追惟二夫子一、生レ自二何代一、曜質幾年、潛靈幾載。

【曜青】9 エウセイ　清、章煦(8−25761‥49)の字。

【曜星】10 エウセイ　かがやいてゐる星。燿星。〔左思、呉都賦〕精若二曜星一、聲若二雷霆一。

【曜德】11 エウトク　德をかがやかす。德を廣く施すこと。燿德。〔潘岳、夏侯常侍誄〕顯祖曜レ德、牧二兗及荊一。

【曜魄】12 エウハク　北斗星の異名。燿魄寶。〔淵鑑類函、天部、星、曜魄〕尚書大傳曰、北辰謂二之曜魄一。

【曜兵】13 エウヘイ　兵威を示しかがやかす。〔魏志、明帝叡傳〕八月己未、大曜レ兵、饗二六軍一。

【曜北】14 エウホク　清、梁玉繩(6−14825‥223)の字。

【曜明】15 エウメイ　かがやいて明かなこと。又、かがやかし明かにする。〔魏志、文帝紀、注〕宜三旦夕入侍、曜二明其志一。

【曜野】16 エウヤ　野にかがやく。〔張衡、南都賦〕朱帷連レ網、曜レ野映レ雲。〔王粲、羽獵賦〕揚レ輝吐レ火、曜レ野蔽レ澤。

【曜辣】17 エウラツ　圭をいふ。契丹の語。〔江鄰幾雜志〕契丹、謂レ圭爲二曜辣一。

【曜靈】18 エウレイ　❶日。太陽。燿靈。〔楚辭、天問〕角宿未レ旦、曜靈安藏。〔注〕曜靈、日也。〔張衡、歸田賦〕于レ時曜靈俄レ景、繼以二望舒一。〔呉質、在二元城一與二魏太子一牋〕曜靈匿レ景、繼以二華燈一。〔潘岳、寡婦賦〕曜靈曄而遄邁兮。〔左思、蜀都賦〕囂塵張レ天、則埃二壒曜靈一。❷清、單烺(2−3993‥283)の字。

【曜】14227′

エウ　曜(5−14227)に同じ。

【⿰昏荒】14228

コン　昏(5−13806)に同じ。〔字彙補〕⿰昏荒、同レ昏、古無二此字一、元子創之諡二隋煬帝一曰レ⿰昏荒。

【⿱日⿰弟弟】14229

コン　昆(5−13792)に同じ。〔五音篇海〕⿱日⿰弟弟、日レ昆。

【⿰日虢】14230

キヨウ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰日虢、居陵切。

【⿱日監】14231

ラン　〔五音篇海〕來甘切　[覃]

日が到らぬ。〔五音篇海〕⿱日監、日不レ到也。

【曋】14232

タン　義未詳。〔搜眞玉鏡〕曋、音單。

【⿰白童】14233

トウ　義未詳。〔韻經〕⿰白童、音橦。

【⿰早曹】14234

ケツ　碣(8−24326)の古字。〔說文〕碣、⿰早曹、古文。

十五畫

【⿰日巤】14235

レフ　〔集韻〕力涉切　[葉]

❶ひぐれ。日がしづみかかる。〔玉篇〕⿰日巤、日欲レ入也。❷臘(9−30009)の譌字。〔正字通〕⿰日巤、臘字之譌。

【曥】14236

ボク　⿱麃日(5−14237)に同じ。〔字彙〕曥、同レ⿱麃日。

【⿱麃日】14237

ボク　㬥(5−14225)の古字。〔說文〕㬥、⿱麃日、古文㬥从レ日麃聲。

【𣌓】14238 ケイ　暳(5-14135)に同じ。〔集韻〕暳、或不レ省。

【曝】14239
㊀ホク ボク　〔集韻〕步木切　ㄆㄨˋ pʻu^{4}　屋
㊁ハウ ボウ　〔集韻〕薄報切　號
慣 バク

㊀㊁**さらす**。日にさらしてかわかす。暴(5-14137)の俗字。〔集韻〕㬥、日乾也、或作レ暴、俗作レ曝。〔顏氏家訓、書證〕古者暴曬字與ニ暴疾字一相似、惟下少異、後人專輒加ニ傍日一耳。〔陶潛、自祭文〕冬曝ニ其日一。

參考 暴(5-14137)を併せ見よ。

【曝衣】1バクイ　衣を日光にさらす。暴衣。〔儲光羲、樵父詞〕清澗日濯レ足、喬木時曝レ衣。〔直隸志書、昌平州〕農曝レ麥、女曝レ衣。

【曝衣樓】2バクイラウ　七月七日に衣を干す樓臺。漢の武帝の時造る。〔淵鑑類函、歲時部、五月五日、曝衣〕太液池西有ニ漢武帝曝衣樓一、七月七日宮人出レ衣曝レ之。〔李賀、七夕詩〕鵲辭穿線月、螢入曝衣樓。

【曝乾】3バクカン　日にさらしかわかす。〔帝京歲時紀勝、五月、宣忌〕端陽日、蒲艾曝乾。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕曝乾燒灰服ニ少許一。

【曝畫】4バクグワ　繪の蟲干をすること。〔倪瓚、寄ニ王叔明一詩〕曝レ畫繙レ書至ニ夕曛一。

【曝獻】5バクケン　人に物を贈るとき物は微少であるが誠のこもつてゐることをいふ。宋の野人が背を日に曝して暖かであつたため、之を君に獻ぜんといつた故事。獻暴。〔列子、楊朱〕宋國有ニ田夫一、自曝ニ于日一、顧謂ニ其妻一曰、負ニ日之暄一、人莫ニ知者一、以獻ニ吾君一、將レ有ニ重賞一。

【曝顋】6バクサイ　魚があぎとをさらすこと。龍門を上つて龍となることの出來なかつた魚があぎとをさらすことで、志望の達せられない喩。〔辛氏三秦記〕河津、一名龍門、大魚集ニ龍門下一數千、不レ得レ上、上者爲レ龍、不レ上者魚也、故曰レ曝ニ顋龍門一。〔南史、何敬容傳〕曝顋之魚、不レ念ニ杯酌之水一。〔昭明太子、錦帶書、十二月啓、大呂十二月〕徒懷ニ扣角之心一、終想ニ曝顋之患一。

【曝曬】7バクサイ　さらす。暴曬。〔顏氏家訓、風操〕屋漏沾溼、出曝ニ曬之一。

【曝尸】8バクシ　しかばねをさらす。暴屍。〔孔子家語、曲禮子夏問〕送レ死而以ニ寶玉一、是猶レ曝ニ尸於中原一也。

【曝書】9バクシヨ　藏書を日光にさらし風にあてて蟲くひを防ぐこと。書物の蟲干。土用干。曬書。〔韻府引、王隱、晉書〕魏武帝辟ニ高祖一、高祖以ニ漢祚將レ終、不レ欲レ屈ニ節於曹氏一、辭以ニ風痺不レ能レ起、魏武帝遣下親信令史、微服於ニ高祖門下樹陰下一息上、時七月七日、高祖方曝レ書、令史竊知、還具以告、乃重遺辟レ之、勅ニ行者一曰、若復不レ動、便可レ收レ之、高祖懼而應レ命。

【曝書亭】10バクシヨテイ　清、朱彝尊の藏書室の名。浙江省秀水縣に在る。曝書亭書目があり、又其の詩文集を曝書亭集と名づける。曝書亭集を見よ。

【曝書亭集】11バクシヨテイシフ　書名。八十卷。附錄一卷。清、朱彝尊撰。曝書は彝尊の亭號。順治二年より康熙四十八年に至る六十五年間の詩文を編年に編次し、賦・古今詩より哀辭祭文に至るまでを載す。其の目は、卷一は賦、卷二―二十三は古今詩、卷二十四―三十は詞、卷三十一―三十三は書、卷三十四―四十一は序、卷四十二―五十五は跋、卷五十六・五十七は考、卷五十八は考・辯・原、卷五十九は論、卷六十は議・釋・說・策・問、卷六十一は頌・贊・箴・銘・辭・零丁・答問・募疏、卷六十二―六十四は傳、卷六十五―六十七は記、卷六十八は題名、卷六十九―七十一は碑、卷七十二・七十三は墓表、卷七十四―七十九は墓誌銘、卷八十は行狀・誄・哀辭・祭文・附錄葉兒樂府。楊謙に曝書亭集詩注二十二卷がある。〔四庫提要、集、別集類存目〕・〔四部叢刊、第一千六百八十九―一千七百八冊〕。

【曝書亭删餘詞】12バクシヨテイサンヨシ　書名。一卷。原稿目一卷、校勘記一卷。民國、葉德輝撰。清の朱彝尊の詞を收めたもの。朱彝尊の姬人徐氏の手抄本に據つたものと傳へられる。全書朱墨爛然たるは朱彝尊が親ら删改する所といふ。葉氏詳かに校勘記を作る。〔觀古堂彙刻書、第十一冊〕。

【曝日】13バクジツ　日にさらす。〔陶潛、自祭文〕冬曝ニ其日一、夏濯ニ其泉一。

【曝吹】14バクスイ　さらしかわかす。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕受ニ風日之曝吹一。

【曝熱】15 pao^{4} jê^{4}　蒸し暑い。褥暑。

【曝背】16バクハイ　せなかを日にさらす。せなかを日光に煖める。〔蜀志、秦宓傳〕僕得レ曝ニ背於隴畝之中一。〔南史、何尚之傳〕造ニ華林園一、並盛暑役レ人、何尚之諫、上不レ許曰、小人常日曝レ背、此不レ足レ爲レ勞。〔丘遲、永嘉郡教〕曝レ背拘レ牛、屢空ニ於畎畝一、績レ麻治レ絲、無レ聞ニ於窒巷一。〔李頎、野老曝背詩〕百歲老翁不レ種レ田、惟知曝背樂ニ殘年一。

【曝麥】17バクバク　麥を日にさらす。〔直隸志書、昌平州〕士曝レ書、農曝レ麥、女曝レ衣。

【曝陽】18バクヤウ　日にさらす。ひなたぼつこをする。〔奇鬼傳、道正坊宅〕忽見堂上有下偃背衣ニ黠緋一老人上、目且赤而有レ淚、臨レ階曝陽。

【曝涼】19バクリヤウ　日にさらし風を通すこと。蟲干。〔圖書寮式〕凡曝ニ涼佛像經典一者、起ニ七月上旬一、盡ニ八月上旬一。

【曝露】20バクロ　風雨にさらされる。暴露。〔杜甫、通泉縣署屋壁後薛少保畫鶴詩〕曝露墻壁外、終嗟風雨頻。

【㬟】14240 ハク　〔篇海〕音剝

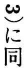
あきらか。〔篇海〕㬟、犖也。

【曞】14241 レイ　〔集韻〕力制切　霽

日の光がさかん。〔集韻〕曞、日光盛。

【曡】14242 テフ デフ　〔集韻〕達協切　葉

かさなる。かさねる。疊(7-21983)に同じ。〔說文〕曡、揚雄說、㠯爲下古理官決レ罪三日、得ニ其宜一、乃行上レ之、从ニ晶宜一。亡新㠯下从ニ三日一大盛上、改爲ニ三田一。〔九經字樣〕曡、今經典相承用ニ疊字一。


小篆

解字 會意。晶(本義は精光。三日の意に假借す)と宜との合字。かさなる・應ずる(宜しきを得て行ふ)・おそれる(慴の假借)の三義がある。揚雄の說に、古の裁判官は罪を決するに三日で其の宜しきを得て之を行つたから、晶と宜とに從つた(以上揚雄の說)。而るに新(王莽)の時、三日(晶)に從ふのは盛に過ぎるとして、三田(畾)に改めた。卽ち疊の字ができて、かさなる意。新で疊に改めたのは、晶が三箇日の義であることを知らなかつたので、陋とすべきである。而るに今皆疊の字を用ひるやうになつた。揚雄の說が本義である。(以上、說文段注による)。要は三義は異なるも、其の字形は總べて三日に從ふものを本字とし、三田に從つたものは後出である。

【曡雅】1テフガ　書名。十三卷。清、史夢蘭撰。博く經史子集中の疊字をとり、次第をつけて編輯したもの。爾雅に倣つて部門を分けない。字が異なつて義の同じものは連類して徵引し、文が同じで解の異なるものは、別に一條を立ててゐる。〔清史藝文志、小學類〕。

【曓】14243 キユウ ク　〔集韻〕丘弓切　東

つつしむ。〔集韻〕曓、謹敬也。

【曟】14244 シン　晨(5-13962)に同じ。〔字彙〕曟、同レ晨。

【曠】14245

〔集韻〕苦謗切 漾 クヮウ ㄎㄨㄤˋ k'uang4

小篆

❶あきらか。晃(5—13891)に同じ。〔說文〕曠、眀也、从レ日廣聲。〔說文通訓定聲〕曠、與レ晃同字。〔後漢書、竇融傳〕曠若レ發レ矇。〔注〕曠、明也。❷のはら。荒地。壙(3—5576)に通ず。〔說文通訓定聲〕曠、叚借爲レ壙、野也。〔左氏、昭、八〕晉師曠、字子野。❸むなしい。ひろい。〔說文、段注〕廣大之明也、引伸爲二虛空之偁一。〔正字通〕曠、空也、虛也。〔詩、小雅、何草不黃〕率二彼曠野一。〔傳〕曠、空也。❹むなしくする。からにする。あける。〔書、皐陶謨〕無レ曠二庶官一。〔傳〕曠、空也。〔孟子、離婁上〕曠二安宅一而弗レ居。〔注〕曠、空也。❺むだに過ごす。〔漢書、賈山傳〕曠レ日十年。❻男やもめ。一人もの。〔正字通〕曠、男子壯無レ室曰レ曠。〔國語、楚語下〕民多二曠者一。〔注〕曠、空也。❼すてる。〔呂覽、無義〕則無レ曠レ事矣。〔注〕曠、廢也。❽うとい。うすい。懬(4—11408)に通ず。〔說文通訓定聲〕曠、叚借爲レ懬。〔禮、檀弓下〕必多曠二於禮一矣夫。〔疏〕曠、猶二疏薄一也。❾へだてる。〔孔子家語、六本〕庭不レ曠レ山。〔注〕曠、隔也。❿ひさしい。〔廣雅、釋詁三〕曠、久也。⓫とほい。〔廣雅、釋詁一〕曠、遠也。〔孔子家語、辯樂解〕曠如二望羊一。〔注〕曠、用レ志廣遠。〔晉書、涼武昭王傳〕遙途嶮曠、未レ知二達不一。⓬ひろい。大きい。廣(4—9493)に通ず。〔說文通訓定聲〕曠、叚借爲レ廣。〔左氏、昭、元〕居二於曠林一。〔注〕曠、大也。〔老子、十五〕曠兮其若レ谷。〔河上公注〕曠者、寬大。〔漢書、鄒陽傳〕獨觀二乎昭曠之道一也。〔注〕師古曰、曠、廣也。⓭或は爌(7—19548)に作る。〔集韻〕曠、或从レ火。⓮姓。〔萬姓統譜〕曠、師曠之後、湖廣沔陽州有二曠氏一。⓯現あそぶ。

【曠夷】1 クヮウイ ひろくてたひらか。〔唐書、賀知章傳〕性曠夷、善二談說一。

【曠怡】2 クヮウイ 性をむなしくし情をよろこばす。晴ればれする。曠性怡情。〔紅樓夢、十八回〕園成景備特精奇、奉レ命羞三題二額曠怡一。

【曠逸】3 クヮウイツ 物事にこだはらず氣樂にすること。〔宋史、李瀆傳〕曠逸自居、恬智交養。

【曠宇】4 クヮウウ ❶ひろいのはら。廣野原。〔楚辭、宋玉、招魂〕幸而得レ脫、其外曠宇些。〔注〕曠、大也、宇、野也。❷心の廣いさま。〔吳志、虞翻傳評〕然權不レ能レ容、非二曠宇一也。

【曠衍】6 クヮウエン ひろびろとしてゐる。うち開けてひろい。〔劉歆、甘泉宮賦〕高巒峻阻、臨眺曠衍。

【曠焉】7 クヮウエン ひろいさま。曠然(61)に同じ。〔劉禹錫、秋霖卽事聯句三十韻詩〕律候今秋矣、歡娛久曠焉。

【曠園】8 クヮウエン 字號。❶明、祁承㸁(8—24634‥34)の號。❷清、本果(6—14421‥52)の字。

【曠遠】9 クヮウエン ひろくてとほい。はるかに遠い。〔戰國、趙策〕夫藺離石祁之地、曠二遠於趙一、而近二於大國一。〔史記、封禪書〕厥曠遠者千有餘載。〔漢書、郊祀志〕及雍五時皆曠遠。〔後漢書、侯霸傳〕縣界曠遠、濱帶江湖、而亡命者多。

【曠恩】10 クヮウオン 廣大なめぐみ。廣恩。〔鄧潤甫、元豐立皇太子赦文〕宜下覃二曠恩一、偏暨中羣品上。

【曠海】11 クヮウカイ ひろいうみ。大海原。〔薛能、下第後夷門乘レ舟至二永城驛一題詩〕唯思曠海無二休日一、郤喜孤舟似二去時一。

【曠隔】12 クヮウカク とほく隔たる。へだたり遠ざかる。〔傅玄、擬二四愁一詩〕日月迴レ耀照二景天一、參辰曠隔會無レ緣。

【曠額】13 クヮウガク 減じた額。〔福惠全書、郵政部、查倒斃〕必有二曠額之補解買補之申明一。

【曠奇】14 クヮウキ はなはだすぐれてゐる。すぐれて大きい。〔歐陽脩、書二懷感事一寄二梅聖兪一詩〕次公才曠奇、王霸馳二筆端一。

【曠貴】15 クヮウキ 職務を怠りながら顯貴に居ること。〔漢書、王商史丹傅喜傳贊〕曠貴最久。〔注〕師古曰、言三居非二其位一、是爲レ曠レ官、故云二曠貴一。

【曠久】16 クヮウキウ 空しく久しい。曠日彌久(46)の略。

【曠空】17 クヮウクウ むなしくする。〔論衡、藝增〕尙書曰、毋レ曠二庶官一、曠、空、庶、衆也。

【曠快】18 クヮウクワイ ひろびろとして心よいこと。〔韻府引、陸游、詩〕山棲亦何有、耳目差曠快。

【曠迴】19 クヮウクワイ 遙かな遠い處。天上をいふ。曠迥。〔漢書、息夫躬傳〕遊二曠迴一兮反亡レ期。〔注〕宋祁曰、姚本、迴、作レ迥。

【曠懷】20 クヮウクワイ ひろびろとした心。豁達な思。〔杜甫、贈二秘書監江夏李公邕一詩〕例及二吾家詩一、曠懷掃二氛翳一。

【曠曠】21 クヮウクヮウ ひろびろとしたさま。廣く大きなさま。廣くはるかなさま。曠茫。〔廣雅、釋訓〕曠曠、大也。〔史記、日者傳〕天地曠曠、物之熙熙。〔淮南子、兵略訓〕滔滔如レ春、曠曠如レ夏。〔枚乘、七發〕浩瀇瀁兮、慌曠曠兮。

【曠廓】22 クヮウクヮク むなしく大きい。ひろびろとして大きい。閎廓。宏廓。〔晉書、孔坦傳〕我后之仁、大赦曠廓、唯李龍是討。〔白居易、和二微之詩一、和レ知レ非詩〕曠廓了如レ空、澄凝勝二於睡一。

【曠濶】23 クヮウクヮツ ひろびろとしたさま。とほくひろいさま。〔孔平仲、曹亭獨登詩〕江湖水方漲、曠濶吾所レ愛。〔郝經、靈泉行〕憑レ高悠悠肆遐矚、天宇曠濶秋毫明。

【曠官】24 クヮウクヮン 其の資質が無くて其の官に居ること。又、職務をおろそかにする。官にありながら其の責務をつくさぬこと。曠職。〔書、皐陶謨〕莫レ曠二庶官一。〔傳〕曠、空也、位非二其人一爲二空官一。〔蔡傳〕曠、廢也、言不レ可丁用二非才一、而使丙庶官曠乙廢厥職甲也。〔曹植、上疏陳二審擧之義一〕官曠無レ人、庶政不レ整者、三司之責也。〔包佶、酬二兵部李侍郎一詩〕酒禮慙二先祭一、刑書已曠レ官。〔六部成語、吏部、曠官、注解〕把二官員分內應レ辨之事一、盡皆荒廢。

【曠官之刺】25 クヮウクヮンノソシリ 官吏が其の職を怠って勤めないことに對するそしり。〔韓愈、爭臣論〕冒進之患生、曠官之刺興。

【曠官之罪】26 クヮウクヮンノツミ 官吏が其の職務を盡さない罪。〔大學衍義補、備二規制一、圖籍之儲〕館閣職清務簡、不レ預二他務一、宜レ委二之校讐刊正一、俾下於二每卷之末一、署二其名銜一、有二不レ究レ心者一、坐以中曠官之罪上。

【曠兮】27 クヮウケイ ひろいさま。〔老子、十五〕曠兮其若レ谷、渾兮其若レ濁。

【曠迥】28 クヮウケイ はるかなところ。曠迴(19)に同じ。〔息夫躬、絕命詞〕遊二曠迥一兮反亡レ期。

【曠闋】29 クヮウケツ むなしくなる。かける。〔蜀志、董和傳〕若遠二小嫌一、難二相違覆一、曠闋損矣。

【曠原】30 クヮウゲン ひろびろとしたはら。曠野。〔穆天子傳、四〕自二西王母之邦一、北至二于曠原之野一。

【曠古】31 クヮウコ 古を空しくする。前例が無い。前代未聞。未曾有。空前。〔北史、趙彥深傳〕彥深小心恭愼、曠レ古絕レ倫。〔丁謂、大蒐賦序〕今國家大蒐、行二曠古之禮一。

【曠古願】32 クヮウコノネガヒ 空前の願。嘗て例のない大きな望み。〔鮑照、和二王丞一詩〕銜二協曠古願一、斟二酌高代賢一。

【曠枯】33 クヮウコ 空しくなる。かれる。〔法言、修身〕熒魂曠枯、糟莩曠沈。

【曠工】34 k'uang4 kung1 仕事を怠る。

【曠功】35 k'uang4 kung1 職務を等閑にする。課業を怠る。

【曠劫】36 クヮウゴフ 佛長い時間。未來に長いのを永劫といひ、過去に長いのを曠劫といふ。〔選擇集〕汝等衆生曠劫以來。〔剪燈餘話、洞天花燭記〕惟茲嘉禮、曠劫罕レ遇。

【曠載】37 クヮウサイ 空しく歲月を送る。曠歲。〔魏志、傅嘏傳〕曁二乎王略虧頹一、曠レ載罔レ綴。

【曠歲】38 クヮウサイ 年月をむなしく過ごす。又、久しい歲月。曠載。曠年。〔陶潛、感二士不遇一賦〕亦苦レ心而曠レ歲。

【曠士】39 クヮウシ 物事に拘泥しないでゆつたりした人。〔鮑照、放歌行〕安知曠士懷。〔李白、設二辟邪伎一鼓二吹雉子斑曲一辭〕所レ貴曠士懷、朗然合二太清一。〔杜甫、同二諸公一登二慈恩寺塔一詩〕自非二曠

士懷一、登レ茲翻二百憂一。

【曠事】40 クヮウジ 成就せぬ事。〔呂覽、無義〕以レ義動、則無二曠事一矣。

【曠失】41 クヮウシツ 失ふ。わすれる。〔王安石、皇后冊文〕齊明夙夜罔レ有二曠失一。

【曠日】42 クヮウジツ ❶終日。〔淮南子、原道訓〕夫臨レ江而釣、曠日而不レ能レ盈レ羅。❷日を空しうする。爲すなくして暮らす。〔漢書、賈山傳〕曠レ日十年。〔注〕師古曰、曠、空也、廢也。❸多くの月日を經ること。長い間に亙ること。曠日經年・曠世不羈(53)を見よ。

【曠日經年】43 クヮウジツケイネン 多くの年月を經る。〔漢書、郊祀志下〕曠レ日經レ年、靡レ有二毫氂之驗一。

【曠日持久】44 クヮウジツヂキウ ❶長い間もちこたへる。〔戰國、趙策〕今得二強趙之兵一、以杜二燕將一、曠レ日持レ久數歲、令三士大夫餘子之力盡二於溝壘一。〔新書、連語〕夫薄可二以曠レ日持レ久者、殆未レ有也。❷爲すなくして長い月日を經る。〔吳志、華覈傳〕如但固守曠レ日持レ久、則軍糧必乏、不レ待二接刃一、而戰士已困矣。

【曠日長久】45 クヮウジツチヤウキウ 多くの年月日を經る。久しきにわたる。曠日彌久。〔新書、過秦下〕去就有レ序、變化應レ時、故曠レ日長久、而社稷安矣。

【曠日彌久】46 クヮウジツビキウ 多くの月日を經る。又、日をむなしくして久しきにわたる。むだに月日をすごす。積日累久。〔戰國、燕策〕太子丹曰、太傅之計、曠レ日彌レ久、心惛然、恐レ不レ能二須臾一、且非二獨於レ此也。〔韓非子、說難〕夫曠レ日彌レ久、而周澤既渥。

【曠如】47 クヮウジョ ひろびろしたさま。曠曠。〔柳宗元、永州龍興寺東丘記〕游之適、大率有レ二、曠如也、奧如也。

【曠職】48 クヮウショク ❶職務を怠る。官にあつて其の職責を盡さないこと。曠官。〔漢書、外戚下、孝成許皇后傳〕洿穢不レ修、曠レ職尸レ官。〔白居易、謝二茶菓等一狀〕臣等深慚二曠職一、寵倍驚レ心。❷官職を人の缺けたままに置くこと。缺位。〔北史、薛端傳〕設レ官分レ職、本康二時務一、苟非二其人一、不レ如レ曠レ職。

【曠世】49 クヮウセイ 一世をむなしくする。また世にない。又、久しい間。曠は空。〔詩、周頌、敬之、示二我顯德行一、疏〕人臣而代二天子一、曠世之所二罕聞一。〔曹植、洛神賦〕奇服曠世、骨像應レ圖。〔陸機、贈三馮文羆遷二斥丘令一詩〕今我與レ子、曠レ世齊レ歡。

【曠世之感】50 クヮウセイノカン 世に類例がないといふ感じ。〔重野成齋、航海朱印船〕吾人寧無二曠世之感一乎。

【曠世之才】51 クヮウセイノサイ 世にめづらしい才能。當世に比べるものがない人材。

【曠世之度】52 クヮウセイノド 當世に類がないと自負する程の大きい氣がまへ。世を見くびる程の器量。〔晉書、郄超傳〕少卓犖不羈、有二曠世之度一。

【曠世不羈】53 クヮウセイフキ 長い間に亙つて手なづけることの出來ないこと。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕東夷獻二其樂器一、肅愼貢二其楛矢一、曠世不羈、應レ化而至。

【曠世不二再鳴一】54 クヮウセイフタタビハナカズ いつまでたつても二度と鳴くことをしない。志す所でなければ、韜晦して再び世に出で才能を用ひない喩。〔阮籍、詠懷詩〕一飛沖二青天一、曠世不二再鳴一。

【曠席】55 クヮウセキ 廣い座敷。〔王融、散曲〕層閨橫二綠綺一、曠席緬二朱纏一。

【曠迹】56 クヮウセキ 大きいあと。大事。〔陸機、長安有狹邪行〕規行無二曠迹一、矩步豈逮レ人。

【曠瘠】57 クヮウセキ 土地のあれてやせてゐること。〔孔平仲、大風發二長蘆一詩〕吾田雖二曠瘠一、飦粥麤可レ給。

【曠積】58 クヮウセキ 空しく積む。用ひないでただ蓄へておくこと。〔吳志、陸凱傳〕左右不レ置二淫邪之色一、後房無二曠積之女一。

【曠絕】59 クヮウゼツ たえる。斷絕する。後がなくなる。〔呂覽、開春〕周厲之難、天子曠絕。〔史記、武帝紀〕封禪用希曠絕、莫レ知二其儀禮一、而羣儒采二封禪尚書周官王制之望祀射レ牛事一。〔後漢書、馬融傳〕稀有曠絕、時時寧息。〔江淹、傷二友人一賦〕乃上代而少レ雙、故叔世而曠絕。

【曠瞻】60 クヮウセン はるかに見る。遠くを眺める。〔左思、吳都賦〕曠瞻迢遞、迥眺冥蒙。〔注〕銑曰、曠瞻・迥眺、皆遠望也。

【曠然】61 クヮウゼン 廣いさま。〔漢書、匡衡傳〕臣愚以爲宜三壹曠然大變二其俗一。〔淮南子、泰族訓〕見二日月光一、曠然而樂。〔說苑、敬愼〕天下曠然平定、周室尊顯。〔後漢書、馬援傳〕大臣曠然、咸不二自疑一。〔嵇康、養生論〕曠然無二憂患一也。

【曠宗】62 クヮウソウ たよるべき宗室をすてる。〔左氏、昭、十〕喪二夫人之力一、弃レ德曠レ宗、以及二其身一。〔注〕曠、空也。〔會箋〕曠レ宗、謂丁一二掃其宗族一、無丙復有乙孑遺甲也。

【曠惰】63 クヮウダ 職務をなげやりにする。怠る。〔蘇洵、審勢〕官吏曠惰、職廢不レ擧。

【曠滯】64 クヮウタイ ひさしくとどこほる。〔唐書、劉洎傳〕非三惟救二曠滯之弊一、固當三矯二拂趨競一也。

【曠代】65 クヮウダイ 絕代。曠世。❶何代も經る。長い年月に亙る。〔摯虞、左丘明讚〕闡二明王典一、光二演春秋一、誕宣二聖旨一、曠代彌休。❷世に稀な。〔謝靈運、傷レ己賦〕丁二曠代之渥惠一、遭二謬眷於君子一。〔陸游、賀二壽皇正旦一表〕以二海宇之富一、而蹈二巢由高世之風一、以二父子之親一、而行二堯舜曠代之事一。

【曠代盛事】66 クヮウダイノセイジ 世にも稀な立派な事柄。〔菊地三溪、赤穗義士〕豈不二曠代盛事一耶。

【曠蕩】67 クヮウタウ ❶廣々としたさま。廣大なさま。〔後漢書、馬融傳〕徒觀二其坰場區宇、恢胎曠蕩一。〔張衡、南都賦〕上平衍而曠蕩、下蒙籠而崎嶇。〔吳志、孫皓傳評〕豈非二曠蕩之恩、過厚之澤一也哉。〔陳琳、爲二曹洪一與二魏文帝一書〕序二王師曠蕩之德一。❷度量がひろく大きい喩。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕聖朝開二弘曠蕩一、重二惜民命一。❸性情の曠達不羈なことをいふ。しまりのないこと。放埒なこと。誇言を吐くこと。〔韻府引、黃庭堅、詩〕人生要レ得レ意、壯士多二曠蕩一。〔王守仁、答二舒國用一書〕君子之所謂灑落者、非二曠蕩放逸、縱レ情肆レ意之謂一也。

【曠盪】68 クヮウタウ ❶廣大なさま。曠蕩に同じ。〔王襃、洞簫賦〕彌望儻莽、聯延曠盪。〔注〕善曰、儻莽・曠盪、寬廣之貌。❷ゆるす。〔陸機、謝二平原內史一表〕雖レ蒙二曠盪一、臣獨何顏、俛レ首頓レ膝、憂愧若レ厲。〔注〕良曰、曠盪、謂レ蒙二寬宥一。

【曠澤】69 クヮウタク ひろく大きい澤。〔列子、黃帝〕遊二吾園一者、不レ思二高林曠澤一、寢二吾庭一者、不レ願二深山幽谷一。

【曠達】70 クヮウタツ 心が廣々として物事にこだはらないこと。心のままに自適して物事に拘束されないこと。豁達。〔晉書、張翰傳〕翰任レ心自適、不レ求二當世一、或謂レ之曰、卿乃可三縱二適一時一、獨不レ爲二身後名一邪、答曰、使三我有二身後名一、不レ如二卽時一盃酒一、時人貴二其曠達一。

【曠淡】71 クヮウタン 廣々としてあはい。心が廣くさつぱりしてゐる。曠澹。〔晉書、王述傳〕但曠淡、微不レ及耳。〔白居易、故京兆元少尹文集序〕襟靈之曠淡、骨肉之敦愛。

【曠澹】72 クヮウタン 心がひろくて淡白なこと。曠淡。〔武少儀、王處士鑿レ山引レ瀑記〕怡心曠澹、篤志廉直。

【曠沈】73 クヮウチン しづむ。なくなる。〔法言、修身〕熒魂曠枯、糟莩曠沈。

【曠墜】74 クヮウツイ 空しくする。おとす。なくする。〔柳宗元、寄二許京兆孟容一書〕恐下一日塡二委溝壑一、曠中墜先緒上。

【曠亭】75 クヮウテイ 清、黃鼎(常熟の人)(**12－47926··676**)の號。

【曠眺】76 クヮウテウ 廣く見渡す。〔郭璞、登二百尺樓一賦〕陟二茲樓一以曠眺。

【曠適】77 クヮウテキ 物事に拘束されないで自由であること。〔宋史、張齊賢傳〕日與二親舊一、觴二詠其間一、意甚曠適。

【曠典】78 クヮウテン 久しく擧行しない典禮。又、世に稀な大典。〔宋史、樂志五〕至道始冊二皇太子一、有司言、太子受レ冊、宜レ奏二正安之樂一、百年曠典、至レ是擧行。

【曠塗】79 クヮウト 廣々したみち。又、とほいみち。〔何承天、鼓吹鐃歌、朱路篇〕流旌拂二飛霞一、雄戟闢二曠塗一。

【曠土】80 クヮウド 廣々とした土地。又、荒れ果てた地。荒地。〔禮、王制〕無二曠土一、無二游民一。〔漢書、食貨志上〕朝亡二廢官一、邑亡二敖民一、地亡二曠土一。

【曠度】81 クヮウド ひろい氣まへ。大度。宏量。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕遠心曠度、贍智宏材。〔梁肅、越州長史李公墓誌銘〕融融和風、綽綽曠度。

【曠度機智】82 クヮウドキチ 度量が廣くきてんがきくこと。〔近古史談、德篇上、酒井忠利〕如二忠利之

曠度機智㆒、豈常人所㆓能及㆒耶。

【曠年】83（クヮウネン）　長い年月を經る。又、久しい歲月。永い間。曠歲。〔公羊、閔、二〕莊公死、子般弒、閔公弒、比三君死、曠年無㆑君。〔後漢書、朱雋傳〕昔秦用㆓白起㆒、燕任㆓樂毅㆒、皆曠㆑年歷㆑載、乃能克㆑敵。〔束晳、玄居釋〕曠年累㆑稔、不㆑墮㆓其志㆒。

【曠敗】84（クヮウハイ）　失敗する。失策する。〔宋史、陳韡傳〕仗㆓陛下威靈㆒、苟逃㆓曠敗㆒耳、何功之有。

【曠廢】85（クヮウハイ）　❶捨てる。怠る。おろそかにする。〔漢書、孔光傳〕天下空虛、百姓飢饉、父子分散、流㆓離道路㆒、以㆓十萬㆒數、而百官羣職曠廢。〔王守仁、教條示㆓龍場諸生㆒、立志〕曠廢隳惰、玩㆑歲愒㆑時。❷すたる。弛廢。荒廢。〔舊唐書、胡證傳〕前任將帥、非㆓統馭之才㆒、邊事曠廢。〔宋史、禮志二〕太宗尙㆓儒雅㆒、勤㆓於治政㆒、修㆓明典章㆒、大抵曠廢擧矣。

【曠放】86（クヮウハウ）　物事にかかはらないで心がさつぱりしてゐること。心が廣くほしいままなこと。磊落。不羈。〔晉書、向秀傳〕嵆意遠而疎、呂心曠而放。〔唐書、杜甫傳〕甫曠放不㆓自檢㆒。

【曠茫】87（クヮウバウ）　廣々としたさま。浩茫(6－17479・・59)に同じ。

【曠望】88（クヮウバウ）　廣くながめ渡す。遠くをながめる。〔何遜、七召〕延㆓袤水陸㆒、曠㆓望東西㆒。〔唐書、王勃傳〕勃嘗登㆓葛憤山㆒曠望、慨然思㆓諸葛亮之功㆒、賦㆑詩見㆑情。〔高適、和㆘賀蘭判官望㆓北海㆒作㆖詩〕迢遙溟海際、曠望滄波開。

【曠邈】89（クヮウバク）　廣々として遠い。茫漠。〔楊炯、庭菊賦〕佇㆓閑庭之曠邈㆒、對㆓涼菊之扶疎㆒。

【曠費】90　k'uang^4　fei^4　空費する。無駄に費すこと。

【曠謐】91（クヮウヒツ）　ひろくて靜かなこと。〔王融、淨行頌、出家順善篇頌〕道場曠謐、禪逕閒淸。

【曠夫】92（クヮウフ）　壯年で妻の無い者。男やもめ。鰥。曠は空。〔孟子、梁惠王下〕內無㆓怨女㆒、外無㆓曠夫㆒。〔漢書、貢禹傳〕內多㆓怨女㆒、外多㆓曠夫㆒。〔韓詩外傳、三〕外無㆓曠夫㆒、內無㆓怨女㆒。〔白虎通、三軍〕踰㆑時則內有㆓怨女㆒、外有㆓曠夫㆒。〔後漢書、周擧傳〕內積㆓怨女㆒、外有㆓曠夫㆒。

【曠蕪】93（クヮウブ）　あれはてる。〔墨子、耕柱〕楚四竟之田、曠蕪而不㆑可㆑勝㆑辟。

【曠碧】94（クヮウヘキ）　ひろくてあをい。〔沈亞之、乞巧文〕天曠碧以凝㆑暮。

【曠邁】95（クヮウマイ）　度量のひろくてすぐれたこと。〔唐書、馬周傳〕資曠邁、鄕人以㆑無㆓細謹㆒薄㆑之。

【曠漭】96（クヮウマウ）　ひろくてはてしがない。〔元結、引極、思㆓元極㆒〕天曠漭兮杳泱茫、氣浩浩兮色蒼蒼。

【曠野】97（クヮウヤ）　❶廣々としたのはら。曠原。〔詩、小雅、何草不黃〕匪㆑兕匪㆑虎、率㆓彼曠野㆒。〔韓非子、解老〕時雨降集、曠野閒靜、而以㆓昏晨㆒犯㆓山川㆒、則風露之爪角害㆑之。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕怊茫茫而無㆑歸兮、悵遠望㆓此曠野㆒。〔吳子、勵士〕今使㆔一死賊伏㆓於曠野㆒。〔漢書、西域上、罽賓國傳〕離㆓一二旬㆒、則人畜棄㆓損曠野㆒而不㆑反。〔阮籍、詠懷詩〕曠野莽茫茫。❷腹の異名。〔事物異名錄、形貌、腹〕黃庭經、腹爲㆓玉池㆒、注、腹爲㆓曠野㆒。

【曠瀁】98（クヮウヤウ）　ひろく大きいさま。〔馬融、長笛賦〕彷徨縱肆、曠瀁敞罔、老壯之槩也。〔注〕良曰、曠瀁敞罔、寬大閑幽貌也。

【曠朗】99（クヮウラウ）　廣々としてほがらかなこと。〔潘岳、寡婦賦〕奉㆓靈坐兮肅淸㆒、愬㆓空宇兮曠朗㆒。〔注〕濟曰、曠朗、虛寂貌。〔張協、七命〕天淸冷而無㆑霞、野曠朗而無㆑塵。

【曠林】100（クヮウリン）　地名。一說に、曠大な林をいふ。〔左氏、昭、元〕昔高辛子有㆓二子㆒、伯曰㆓閼伯㆒、季曰㆓實沈㆒、居㆓于曠林㆒、不㆓相能㆒也。〔注〕曠林、地闕。〔會箋〕賈逵曰、曠、大也、據㆓此說㆒則爲㆓曠廓之林㆒。

【曠敏本】101（クヮウビンポン）　淸、衡山の人。字は魯之。乾隆の進士。經學を以て里中に教授す。學者、岣嶁先生と稱す。弟、斆本、兄と名を齊しくし、時に蘇軾蘇轍兄弟に比せらる。著に岣嶁集がある。〔國朝耆獻類徵、一百二十六〕。

【曠大之度】102（クヮウダイノド）　ひろく大きい度量。〔魏志、文帝紀評〕加㆓之曠大之度㆒、勵以㆓公平之誠㆒。

【𣌭】14246　クヮウ

曠(5－14245)に同じ。〔淮南子、兵略訓〕𣌭𣌭如㆑夏。〔注〕𣌭、同㆑曠。

【曢】14247　ダン

𣌾(5－14267)に同じ。〔集韻〕𣌾、或作㆑曢。

【𣋣】14248　ヒ

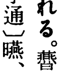
義未詳。〔字彙補〕𣋣、音被、出㆓阿難曇八犍度論㆒。

十六畫

【𣋸】14249　エン

曣(5－14250)に同じ。〔正字通〕曣、同㆑𣋸。

【曣】14250　エン　〔集韻〕伊甸切　霰



小篆

❶**はれる**。𣋸(5－14249)に同じ。〔正字通〕曣、同㆑𣋸。〔說文〕𣋸、星無㆑雲也、从㆑日燕聲。〔段注〕星、卽姓字、謂㆓晴而無㆑雲也。❷**あたたかい**。❸晏(5－13914)に通ず。〔廣雅、釋詁三〕曣、煗也。〔史記、封禪書〕至㆓中山㆒曣㬈。〔漢書、武帝紀〕至㆓中山㆒曣㬈。

【曣㬈】1（エンヲン）　氣の盛なこと。一に晏溫に作る。〔史記、封禪書〕至㆓中山㆒、曣㬈有㆓黃雲蓋㆒焉。

【曣晛】2（エンケン）　日の出をいふ。〔韓詩外傳、四〕詩曰、雨雪瀌瀌、曣晛聿消。〔晉書、左貴嬪傳〕曣晛沾濡、柔㆓潤中畿㆒。

【曤】14251　クヮク　〔玉篇〕呼郭切　藥

あきらか。〔玉篇〕曤、明也。

【曥】14252　リヨ　ロ　〔玉篇〕力魚切　魚

❶**日の色**。〔篇海〕曥、日色也。❷**日がてる**。〔篇海〕曥、日照也。

【曦】14253　キ　慣ギ　〔集韻〕虛宜切　支　ㄒㄧ　hsi^1

❶**日の色**。〔玉篇〕曦、日色也。❷赫曦は、日の光。❸を見よ。❸或は曦(5－14210)・爔(7－19576)に作る。〔集韻〕曦、赫曦、日光、或省、亦从㆑火。〔類篇〕羲、赫曦、日光、或省作㆑曦、亦作㆑爔。〔正字通〕火與㆑日異㆑體、凡日字不㆑宜㆑借㆓火旁㆒。邦**あさひ**。安房國の地名。

【曦菴】1（ギアン）　淸、諸昇(10－35743・・159)の號。

【曦光】2（ギクヮウ）　日のひかり。〔韓愈・孟郊、同宿聯句〕曦光霽㆓曙物㆒、景曜鑠㆓宵祲㆒。

【曦月】3（ギゲツ）　太陽と月。〔水經、江水注〕兩岸連山、略無㆓闕處㆒、重巖疊嶂、隱㆑天蔽㆑日、自㆑非㆓亭午夜分㆒、不㆑見㆓曦月㆒。

【曦軒】4（ギケン）　太陽の乘つてゐる車の意。日をいふ。〔水經、漾水注〕山高入㆑雲、遠望增㆑狀、若㆘嶺紆㆓曦軒㆒、峯枉㆗月駕㆖矣。

【曦侯】5（ギコウ）　明、易道暹(5－13814・・213)の字。

【曦叔】6（ギシュク）　淸、陸日愛(11－41708・・352)の字。

【曦伯】7（ギハク）　淸、計光炘(10－35220・・95)の字。

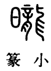
【曦亮】8（ギリヤウ）　淸、張熷(4－9812・・513)の字。

【曧】14254　ユウ　ユ　〔篇海〕以中切　東

日がただしい。〔篇海類編〕曧、日正也。

【曨】 14255

㈠ロウ ル 〔集韻〕盧東切 ㄌㄨㄥˊ lung² 東
㈡ロウ ル 〔集韻〕魯孔切 董



小篆

㈠㈡**おぼろ**。ほのぐらい。日の出の頃の明るさ。〔說文新附〕曨、曈曨也、从㆑日龍聲。〔廣韻〕曨、日欲㆑出也。〔集韻〕曨、曈曨、日出。

【曨昒】1 ロウコツ 夜明け時のほのぼのと明るいさま。〔白居易、和㆓夢得冬日晨興㆒詩〕漏傳㆓初五點㆒、雞報㆓第三聲㆒、帳下從容起、窗間曨昒明、照㆑書燈未㆑滅、煖㆑酒火重生、理㆑曲絃歌動、先聞唱㆓渭城㆒。

【⿱⿰多隹日】 14256

ヨウ 〔字彙補〕音雍

ほがらか。〔字彙補〕⿱⿰多隹日、朗也。

【⿱兓日】 14257

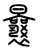
シン

晉(5−13898)に同じ。〔集韻〕晉、或作㆑⿱兓日。

十七畫

【曩】 14258

ナウ 〔集韻〕乃朗切 ㄋㄤˇ nang³ 養



小篆

❶**さき**。**さきに**。さきごろ。前日。以前。又、久しい前。むかし。〔說文〕曩、曏也、从㆑日襄聲。〔爾雅、釋言〕曩、曏也。〔爾雅、釋詁〕曩、久也。〔郝懿行義疏〕曩、曏也。爾雅以㆑曩爲㆑久、說文以㆑曏爲㆑不㆑久、其義兩通、故檀弓曰、曩者爾心或開㆑予、是曩爲㆓未㆑久之詞㆒、文選北征賦云、豈曩秦之所㆑圖、是曩爲㆓久詞㆒。❷**姓**。〔萬姓統譜〕曩、見㆓姓苑㆒。

名乘 ヒサ。

【曩基】1 ナウキ 以前に築いた基礎。〔謝靈運、還㆓舊園㆒作見㆓顏范二中書㆒詩〕曩基卽先築、故池不㆓更穿㆒。

【曩懷】2 ナウクワイ むかしから抱いてゐたおもひ。〔杜甫、上水遣懷詩〕窮迫挫㆓曩懷㆒。

【曩勳】3 ナウクン まへに立てた勳功。〔陸機、豪士賦序〕知㆓曩勳之可㆒㆑矜、暗㆓成敗之有㆒㆑會。

【曩愆】4 ナウケン 前日のあやまち。〔柳宗元、閔生賦〕冀㆓後害之無㆒㆑辱兮、匪㆔徒蓋㆓乎曩愆㆒。

【曩歲】5 ナウサイ さきのとし。過ぎ去つた年。往年。〔括異志〕曩歲漁者於㆓湖中㆒獲㆓一鐵鏈㆒。

【曩載】6 ナウサイ 曩歲に同じ。〔陸機、弔㆓魏武帝㆒文〕雖㆔光昭㆓於曩載㆒、將㆔稅㆓駕於此年㆒。

【曩時】7 ナウジ さきのとき。むかし。往時。曩日。〔漢書、賈誼傳〕假設天下如㆓曩時㆒。〔賈誼、過秦論〕深謀遠慮、行軍用兵之道、非㆑及㆓曩時之士㆒也。

【曩日】8 ナウジツ さきのひ。前日。昔。疇日。昔者。又、さきに。かつて。以前。〔列女傳、節義、蓋將之妻傳〕其妻曰、曩日有㆑救、今又何也。〔梁簡文帝、重請㆓開講㆒啓〕北冀無㆑山、豈自高㆓於曩日㆒。〔陸機、辨亡論上〕夫曹劉之將、非㆓一世所㆒㆑選、向時之師、無㆓曩日之衆㆒。

【曩者】9 ナウシヤ さきに。以前。者は助辭。往時。曩昔。〔禮、檀弓下〕曩者爾心或開㆑予。〔左氏、襄、二十四〕曩者志㆑入而已。〔史記、刺客、荊軻傳〕蓋聶曰、曩者吾與論㆑劍、有㆓不㆑稱者㆒、吾目㆑之。

【曩蹤】10 ナウシヨウ 古人の功烈などをいふ。〔陸雲、晉故散騎常侍陸府君誄〕仰㆓咨遺訓㆒、思㆑齊㆓曩蹤㆒。

【曩眞】11 ナウシン 古の眞人。〔後漢書、崔駰傳〕獨師㆓友道德㆒、合㆓符曩眞㆒、抱㆑景特立、與㆑士不㆑羣。

【曩昔】12 ナウセキ さきの日。さきごろ。かつて。曩日。前日。〔向秀、思舊賦序〕追㆓思曩昔遊宴之好㆒、感㆑音而歎。

【曩祖】13 ナウソ 先祖。祖先。〔平治物語、一、光賴卿參內〕我等が曩祖勸修寺內大臣。

【曩哲】14 ナウテツ 古の哲人。〔國朝漢學師承記、汪中〕雖㆔情符㆓曩哲㆒、未㆑足㆓多矜㆒。

【曩篇】15 ナウヘン まへに作つた詩文。又、古人の作つた詩文。〔陸機、文賦〕或藻思綺合、清麗芊眠、炳若㆓縟繡㆒、悽若㆓繁絃㆒、必所㆑擬之不㆑殊、乃闇合㆓乎曩篇㆒。〔注〕善曰、曩、久也、謂㆓久舊㆒也。

【曩伽結】16 ナウカケツ 果實の名。はらみつ。波羅蜜。〔本草、波羅蜜〕釋名、曩伽結、時珍曰、波羅蜜、梵語也、因㆓此果味甘㆒、故借名㆑之、安南人名㆓曩伽結㆒。

十八畫

【⿰日譽】 14259

ハク 〔集韻〕伯各切 藥

さらす。暷(**5−14085**)に同じ。〔集韻〕暷、暴也、或作㆑⿰日譽。

【⿰日瞿】 14260

ク 〔集韻〕衢遇切 遇

姓。〔集韻〕⿰日瞿、姓也、漢有㆓⿰日瞿丘㆒。

【⿰日聶】 14261

デフ

⿰火聶(**7−19611**)に同じ。〔集韻〕⿰火聶、或从㆑日。

【⿰日爵】 14262

㈠セウ 〔集韻〕子肖切 嘯
㈡シヤク ザク 〔集韻〕疾雀切 藥

㈠**人名**。〔集韻〕⿰日爵、人名、梁有㆓虞⿰日爵㆒。㈡❶**人名**。〔集韻〕⿰日爵、人名、宋有㆓謝⿰日爵㆒。❷**しろい**。皭(**8−22815**)の俗字。〔正字通〕⿰日爵、俗皭字。

【⿰日雚】 14263

クワン 〔集韻〕呼端切 寒

姓。〔奇姓通〕⿰日雚、⿰日雚唯、漢人。

十九畫

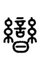
【曪】 14264

ラ 〔集韻〕朗可切 哿

⿰日麼曪は、日に光がない。〔集韻〕⿰日麼、⿰日麼曪、日無㆑光。

【曫】 14265

㈠ラン 〔集韻〕盧丸切 寒
㈡バン マン 〔集韻〕謨還切 刪
㈢レン 〔集韻〕郎甸切 霰

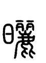


小篆

㈠㈡㈢**たそがれ**。ひぐれ。〔說文〕曫、日且㆑昏時也、从㆑日䜌聲、讀若㆓新城䜌中㆒。〔段注〕䜌、他書作㆑鑾。

【曬】 14266

㈠シ 〔集韻〕所寄切 紙
㈡シ 〔集韻〕所寄切 寘
㈢サイ シヤ 〔集韻〕所賣切 ㄕㄞˋ shai⁴ 卦
㈣サ シヤ 〔集韻〕所嫁切 禡
㈤チ 〔集韻〕抽知切 支



小篆

㈠㈡㈢㈣❶**さらす**。日にかわかす。〔說文〕曬、暴也、从㆑日麗聲。〔玉篇〕曬、暴㆓乾物㆒也。❷**照りつける**。〔漢書、中山靖王傳〕臣聞、白日曬㆑光、幽隱皆照。〔注〕師古曰、曬、暴也、舒也。❸俗に晒(**5−13924**)に作る。〔正字通〕曬、俗作㆑晒、非。❹［現］㋑だしぬく。㋺寫眞を焼き付ける。㈤**のべる**。〔集韻〕曬、舒也。

【曬乾】1 shai^4 kan^1 日に晒す。晒し乾かす。

【曬光】2 サイクヮウ 光をさらす。〔漢書、中山靖王勝傳〕臣聞白日曬レ光、幽隱皆照。〔注〕師古曰、曬、暴也。

【曬經】3 サイケイ 山名。四川省越巂縣の東北。山に廣石があつて、唐の僧玄奘が經文を此にさらしたといふ。〔讀史方輿紀要、四川、越巂衛軍民指揮使司〕曬經關、衛東北三百里、有二曬經山一、山嶺高峻、置二關其上一、關旁有二廣石一、相傳、唐僧三藏曬レ經處也。

【曬黑】4 shai^4 hei^1 日に焼ける。

【曬燥】5 サイサウ さらしかわかす。〔齊民要術、收種〕將レ種前二十許日、開出レ水洮、卽曬令レ燥。〔福惠全書、郵政部、喂養〕乾糞曬燥撲碎、堆二向厦內一。

【曬殺】6 サイサツ さらす。殺は助字。〔楊萬里、詩〕莫レ愁三空腹無二丁字一、且免三秋陽曬二殺人一。

【曬耳】7 サイジ 日旁の氣をいふ。又、晒耳に作る。山東人の語。〔札樸〕日旁氣曰二晒耳一。

【曬書】8 サイショ 書物を日にさらす。晉の郝隆が日中に仰臥し、腹の中の書物をさらすといつた故事。蟲干。曝書。〔世說新語、排調〕郝隆、七月七日、出日中仰臥、人問二其故一、答曰、我曬レ書。〔書言故事、時令、七月〕曬二腹中書一、郝隆七月七日、見三富家皆曬二曝衣帛一、乃出日中仰臥、人問二其故一、曰、我曬二腹中書一耳。

〔曬書堂〕9 サイショダウ 清、郝懿行（11－39430・・34）「の室名。

【曬臺】10 shai^4 tʻai^2 物干臺。

【曬透】11 サイトウ 日光がそそぎさしこむ。まともにてらしつける。〔郝經、狼牆歎〕東日曬透、西日炙周。

【曬曝】12 サイバク 日光にさらす。曬暴。〔圖畫見聞誌、五、故事拾遺〕梁千牛衛將軍劉彥齊、云云、其所レ藏名迹、不二啻千卷一、每二暑伏一曬曝、一一親自卷舒、終日不レ倦。

【曬揚】13 サイヤウ さらしほす。〔福惠全書、錢穀部、漕項、倉收陋弊〕不レ事二曬揚一。

【曬粮】14 shai^4 liang^2 穀物を乾す。

【曬晾】15 shai^4 liang^4 蟲干する。

【曬衣石】16 サイイセキ 佛が衣を日にさらした石。烏萇國、卽ち北天竺に其の遺跡がある。〔水經、河水注〕烏長國、卽是北天竺、佛所レ到國也、佛遺二足跡于此一、其跡長短、在二人心念一、至レ今猶爾、又曬衣石尚在。

【曬鹽池】17 サイエンチ 鹽田内にある滷液を結晶させる場所。〔淸會典事例、戶部、鹽法、考成〕四十三年覆准、淮南各場煎鹽盤鏾、淮北各場曬鹽甎池、飭分二司場員一、查二勘冊報一、由二運司一給二發循環印簿一、令下場員將二煎曬鹽數一、按レ日登記上。

【曬金塘】18 サイキンタウ 地名。湖南省鳳凰縣の北。俗に五馬莽槽といふ。

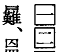
【曬禾石】19 サイクヮセキ 石の名。風雨雷震があつた時、石の上が破裂して、介嘉黍稷の四字が刻まれ、それから屢〻豐年であつたと傳へられる石。〔方輿勝覽〕曬禾石、在二南康一、宋紹興四年五月十日、風雨雷震、石上折裂成二大字一、從橫交互、不レ可レ識、有二道人一辨レ之曰、此介嘉黍稷字也、自レ是郡境屢豐。

【𣌬】14267

㊀ ダン ナン 〔集韻〕乃旦切 翰

㊁ ダン ネン 〔集韻〕尼鰥切 刪

㊂ ダツ ナチ 〔集韻〕乃曷切 曷


小篆

㊀㊁㊂ ❶あたたか。〔說文〕𣌬、安𣌬、昷也、从レ日難聲。〔段注〕昷、各本作レ溫、今正。❷暖かいさま。〔集韻〕𣌬、暍𣌬、暖狀也。❸或は𣌾（5－14268）に作る。〔集韻〕𣌬、或書作レ𣌾。

【𣌾】14268 ダン 𣌬（5－14267）に同じ。〔集韻〕𣌬、或書作レ𣌾。

【𣍆】14269 レツ レチ 〔篇海〕力列切 屑

日が入る。〔篇海〕𣍆、日落也。

二十畫

【𣍈】14270 ワク 〔集韻〕鬱縛切 藥

あきらか。〔集韻〕𣍈、明也。

【曭】14271 タウ 〔集韻〕坦朗切 養

❶くらい。日がうすぐらい。〔集韻〕曭、日無レ光也。❷うすあかるい。曭朗（4）を見よ。

【曭莽】1 タウバウ 日の光があきらかでないこと。うすぐらい。曭𣉲に同じ。〔楚辭、遠游〕旹曖曃以曭莽兮。〔補注〕曭、音儻、日不レ明也、莽、莫朗切、日無レ光也。

【曭𣉲】2 タウバウ うすぐらい。曭莽。〔集韻〕𣉲、曭𣉲、不レ明也。

【曭漭】3 タウバウ 曭𣉲に同じ。〔陸機、感時賦〕望二八極一以曭漭、普二宇宙一而寥廓。

【曭朗】4 タウラウ ぼんやりとあかるいさま。うすぼんやりしているさま。〔何遜、七召〕竹距レ石以衺レ通、水韻レ松而舍レ響、地不レ寒而肅瑟、月無レ雲而曭朗。〔柳宗元、弔二屈原一文〕耀二姱辭之曭朗一兮、世果以レ是之爲レ狂。

【曮】14272

㊀ ガン ゴン 〔五音集韻〕五犯切 豏

㊁ ゲン ゴン 〔集韻〕魚檢切 琰

㊀㊁ ❶日がめぐる。〔玉篇〕曮、日行。❷日の行度。〔類篇〕曮、日躔謂二之曮一。

【曮晲】1 ガンゲイ 日が運行して下土を照らすこと。〔淮南子、要略〕所下以使中人不三妄沒二於勢利一、不上誘二惑於事態一、有レ符二曮晲一。

【𣍃】14273 トン 暾（5－14160）の本字。〔正字通〕𣍃、暾本字。

二十一畫

【曯】14274 ショク ソク 〔韻會〕朱欲切 沃

てらす。通じて燭（7－19480）に作る。〔韻會〕曯、照也、通作レ燭。〔沈亞之、上二冢宰一書〕戎鏡包レ陽、當レ日而曯レ之、則能延レ燧興レ火。

【曞】14275 レキ リャク 〔集韻〕狼狄切 錫

星のさま。〔集韻〕曞、星皃。

二十四畫

【𣍂】14276 レイ 昤（5－13843）に同じ。〔集韻〕昤、昤曨、日光、或从レ靈。

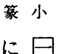
三十二畫

【𣌭】14277 シュン 義未詳。〔字彙補〕𣌭、音惷。

曰部

【曰】14278

㈠曰 エツ ヲチ 〔集韻〕王伐切 ㄩㄝˋ yüeh⁴ 月。
㈡曰 エツ ヲチ 〔集韻〕王勿切 物。


小篆

㈠曰❶いふ。のたまふ。云(1－254)に通ず。〔說文〕曰、詞也、从レ口乚、象二口气出一也。〔段注〕詞者、意內而言外也、有二此意一而有二此言一、亦謂二之曰一、亦謂レ云、云・曰雙聲也。〔廣雅、釋詁四〕曰、言也。〔論語、衞靈公〕不レ曰二如レ之何如レ之何一者。❷いはく。いふことには。人の言や他の文書の語などを引いて述べる時に用ひる語。〔論語、學而〕子曰。〔皇疏〕曰者、發語之端也。〔左氏、隱、元〕有三文在二其手一、曰、爲二魯夫人一。〔禮、緇衣〕南人有レ言、曰、人而無レ恒、不レ可三以爲二卜筮一。〔禮、表記〕大雅曰、德輶如レ毛、民鮮二克擧一レ之。❸となへる。なづける。よぶ。〔增韻〕曰、謂也、稱也。〔書、堯典〕宅二嵎夷一曰二暘谷一。❹物を列擧するときに添へる語。何々である。爲(7－19686)に通ず。〔經傳釋詞、二〕曰、猶レ爲也、謂レ之也、若二書洪範、一曰水、二曰火、三曰木、四曰金、五曰土之屬一是也、故桓四年穀梁傳、一爲二乾豆一、二爲二賓客一、三爲二充君之庖一、公羊傳爲レ作レ曰。〔韓愈、師說〕士大夫之族、曰師曰弟子云者、則羣聚而笑レ之。❺ここに。發語の助辭。欥(6－16017)・聿(9－29215)・遹(11－39129)・粵(8－26935)・越(10－37110)・于(1－252)に通ず。〔戴震、毛鄭詩考正〕說文、欥、詮詞也、从レ欠从レ曰、曰亦聲、引二詩欥二求厥寧一、然則欥蓋本文、同聲叚借用二曰・聿・遹三字一。〔爾雅、釋詁〕爰・曰、于也。〔廣雅、釋詁四〕曰、詞也。〔正字通〕曰、與二粵・越一通。〔經傳釋詞、二〕欥、說文曰、欥、詮詞也、字或作レ聿、或作レ遹、或作レ曰、其實一字也。〔詩、小雅、角弓〕見レ晛曰消。〔詩、大雅、大明〕曰嬪二于京一。〔詩、大雅、抑〕曰喪二厥國一。㈡曰の❺に同じ。［邦］❶いはく。いはれ。わけ。理由。仔細。❷ひらび。漢字の字劃の名。

［名乘］ ノリ。

［解字］ 指事。口と乚との合字。乚は口氣の出る形に象る。故に說文に詈也と訓ず。卽ち意が內にあつて言が外に現れる意。

［參考］ 冃(2－1508)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、冃、音冒、中畫兩傍缺。曰、音月、口上缺。

【曰有】1（エツイウ） 明、瞿罕(8－23747‥6)の字。

【曰睿】2（エツエイ） 明、安思(3－7072‥183)の字。

【曰可】3（エツカ） 明、謝廷瓚(10－35827‥326)の字。

【曰緝】4（エツシフ） 清、梁熙(6－14825‥45)の字。

【曰上】5（エツジヤウ） 明、秦奐(8－24995‥25)の字。

【曰常】6（エツジヤウ） 明、王嗣經(7－20823‥1597)の字。

【曰若】7（エツジヤク） 發語の辭。ここに。〔書、堯典〕曰若稽二古帝堯一。〔蔡傳〕曰・粵・越通、古文作レ粵、曰若者、發語辭、周書、越若來三月、亦此例也。〔王先謙、尙書孔傳參正〕召誥越若與二此曰若一同。

【曰若稽古三萬言】8（エツジヤクケイコサンマンゲン） 經書を解釋することの煩碎冗長に失するを嘲つて言つた語。書經堯典の首に曰若稽古帝堯云云とあり、この曰若稽古の四字を說くに三萬言も費すをいふ。〔漢書、藝文志、說二五字一之文至二於二三萬言一、注〕師古曰、桓譚新論云、秦近君能說二堯典篇目兩字之說一至二十餘萬言一、但說二曰若稽古一三萬言。

【曰仁】9（エツジン） 明、徐愛(4－10110‥1)の字。

【曰靜】10（エツセイ） 明、吳山(2－3365‥192)の字。

【曰千】11（エツセン） 清、何家駿(1－511‥228)の字。

【曰川】12（エツセン） 明、傅瀚(1－939‥22)の字。

【曰放】13（エツハウ） 明、王勳(7－20823‥315)の字。

【曰補】14（エツホ） 清、楊補(6－15112‥348)の字。

【曰兪】15（エツユ） 字號。❶明、舒榮都(9－30300‥98)の字。❷清、馮兪昌(12－44579‥292)の字。

【曰理】16（ワタリ） ❶地名。㋑下總國の地名。㋺因幡國の地名。㋩豐後國の地名。❷姓氏。〔和爾雅〕。

【曰糖崎】17（クミサキ） 姓氏。

一畫

【甲】14279

アフ 〔字彙補〕音押

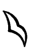
物をとる。〔字學指南〕甲、取レ物也。

二畫

【曲】14280

㈠曰 キヨク コク 〔集韻〕區玉切 ㄑㄩ chʻü¹·³ 沃。
㈡曰 ク 〔集韻〕顆羽切 麌。

小篆


古文

㈠曰❶まがる。かがむ。たわむ。〔說文〕曲、象二器曲受レ物之形一。〔廣雅、釋詁一〕曲、折也。〔易、繫辭下〕其言曲而中。〔虞注〕曲、詘也。〔禮、閒傳〕大功之哭、三曲而偯。〔注〕三曲、一擧レ聲而三折也。〔史記、樂書〕回邪曲直。〔注〕正義曰、曲、折也。〔淮南子、主術訓〕旋曲中レ規。〔注〕曲、屈。❷まげる。かがめる。たわめる。〔論語、述而〕曲レ肱而枕レ之。❸よこしま。邪曲。邪惡。〔戰國、秦策〕以レ曲合二於趙王一。〔注〕曲、邪。❹できない。能力がない。〔荀子、非相〕知行淺薄、曲直有以相縣矣。〔注〕其能否與レ人相縣遠。❺かたよる。〔左思、吳都賦〕固亦曲士之所レ歎也。〔注〕劉曰、曲、謂レ僻也。❻くま。すみ。曲折隱僻の箇所。邊隅。かたほとり。〔詩、秦風、小戎〕亂二我心曲一。〔傳〕心曲、心之委曲也。〔淮南子、齊俗訓〕見二隅曲之一指一。❼わける。くぎる。〔釋名、釋言語〕曲、局也。❽部分。片端。〔中庸〕其次致レ曲。〔章句〕曲、一偏也。〔淮南子、繆稱訓〕察二一曲一者。❾こまかい。くはしい。くはしく。つまびらか。つぶさ。又、こまかい事。〔禮、禮器〕曲禮三千。〔注〕曲、猶レ事也。〔禮、中庸〕其次致レ曲。〔注〕曲、猶二小小之事一也。〔荀子、非十二子〕曲得二其宜一。❿ふし。樂曲。〔宋玉、對二楚王問一〕其曲彌高、其和彌寡。⓫うた。歌詞。元曲等の類。〔文體明辯、樂府〕高下長短、委曲盡レ情、以道二其微一、書曰レ曲。⓬す。養蠶の器。苖(9－30944)・笛(8－25973)に通ず。〔說文通訓定聲〕曲、叚借爲レ苖。〔說文〕曲、或說、曲、蠶薄也。〔段注〕其物以二萑葦一爲レ之、其字俗作レ苖、又作レ笛。〔禮、月令〕具二曲植籧筐一。〔注〕所二以養一レ蠶器也、曲、薄也。〔莊子、大宗師〕或編レ曲。〔釋文〕曲、薄。〔呂覽、季春〕具二栚曲籧筐一。〔注〕曲、薄也、青徐謂二之曲一、受レ桑器也。⓭ばん。棊・將棋の局。局(4－7653)に通ず。〔說文通訓定聲〕曲、叚借爲レ局。〔方言、五〕所二以行一レ棊謂二之局一、或謂二之曲道一。⓮姓。〔萬姓統譜〕曲氏、晉穆侯封二少子於曲沃一、因氏焉、望出二雁門陝郡一。㈡曰地名。曲逆(58)の❷及び曲遇(68)を見よ。〔史記、曹相國世家〕軍二於曲遇一。〔史記、陳丞相世家〕更以二陳平一爲二曲逆侯一。［邦］❶くせ。わるいことにいふ。❷まげる。㋑ぬすむ。㋺質におく。質は七と同音、七は縱畫が曲るからいふ。❸きよく。㋑面白味。㋺輕業などの技の變化。

［名乘］ クマ。

解字 象形。匚は四角な箱を横から見た形であるのに對し、凵は箱の中を圓くして物を受ける形で、之を正面から見た形である。引伸して委曲の意とし、直でないものを曲といひ、樂音も宛曲であるから曲といふ。說文の或說に曲は蠶薄（かひこのす）であるといふ。その字は俗に苗・笛に作る。薄（9－32083）を見よ。

【曲阿】1（キョクア）❶家屋の角をいふ。〔陸機、呉趨行〕重欒承㆓游極㆒、回軒啓㆓曲阿㆒。〔注〕銑曰、阿、角也、言㆑開㆓窓於曲屋之角㆒。❷山名。太陽が平旦に通過するところといふ。〔淮南子、天文訓〕至㆓于曲阿㆒、是謂㆓旦明㆒。〔集解〕曲阿、山名。❸湖の名。江蘇省丹陽縣。〔世說新語、言語〕謝中郎經㆓曲阿後湖㆒、問㆓左右㆒、此是何水、答曰、曲阿湖、謝曰、故當㆓淵注渟著、納而不㆑流。〔顏延之、車駕幸㆓京口㆒三月三日侍㆑遊㆓曲阿後湖㆒作詩、注〕善曰、水經注曰、晉陵郡之曲阿縣之下、陳敏引㆑水爲㆑湖、湖水周四十里、號曰㆓曲阿後湖㆒、集曰、元嘉二十六年也。❹縣名。漢、置く。戰國楚の雲陽邑。江蘇省丹陽縣治。〔漢書、地理志上〕會稽郡、縣二十六、曲阿。〔讀史方輿紀要、江南、鎭江府、丹陽縣〕曲阿城、古曰㆓雲陽㆒、秦始皇以㆔其地有㆓天子氣㆒、鑿㆓北岡㆒以敗㆓其勢㆒、截㆓直道㆒使㆓阿曲㆒、改曰㆓曲阿縣㆒。

【曲阿酒】2（キョクアノサケ）曲阿產の酒。曲阿は今の江蘇省丹陽縣。〔北史、劉藻傳〕車駕南伐、以㆑藻爲㆓征虜將軍㆒、辭㆓於洛水之南㆒、曰、陛下輒當㆘釃㆓曲阿之酒㆒以待㆗百官㆖。〔太平寰宇記〕丹徒有㆓高驪山㆒、傳云、昔高驪國女來㆑此、東海神乘㆑船、致㆓酒禮㆒聘㆑之、女不㆑肯、海神撥㆑船覆㆑酒、流入㆓曲阿湖㆒、故曲阿酒美也。

【曲頞】3（キョクアツ）曲つた鼻すぢ。〔王延壽、王孫賦〕突高匡而曲頞、矘睍歷而隙離。

【曲頤】4（キョクイ）曲つて少し前向きになつたあご。しやくしづら。〔說文〕頣、曲頤也。〔段注〕曲頤者、頤曲而微向㆑前也。

【曲郵】5（キョクイウ）地名。陝西省臨潼縣の東。〔史記、留侯世家〕留侯病、自彊起至㆓曲郵㆒。

【曲郵亭】6（キョクイウテイ）亭の名。陝西省臨潼縣の東。〔漢書、張良傳〕漢十一年、黥布反、於㆑是上自將而東、云云、良疾、強起至㆓曲郵㆒見㆑上。

【曲澳】7（キョクイク）曲つた水のくま。〔陳造、繁昌早發詩〕回㆑柁投㆓曲澳㆒、又寄㆓縿潭夕㆒。

【曲允】8（キョクイン）❶少しのまこと。〔庾信、爲㆓杞公㆒讓㆓宗師驃騎㆒表〕曲允微誠。❷まげてゆるす。〔水滸傳、三十九回〕戴宗道、公明兄長、既然是張二哥相敬之心、只得㆓曲允㆒。

【曲引】9（キョクイン）音樂のふし。曲胤。〔馬融、長笛賦〕故聆㆓曲引㆒者、觀㆓法於節奏㆒。〔注〕善曰、引亦曲也。〔嵆康、琴賦〕曲引向㆑闌、衆音將㆑歇。

【曲胤】10（キョクイン）音樂のふし。曲引。〔馬融、長笛賦〕詳㆓觀夫曲胤之繁會叢雜㆒。〔注〕善曰、胤、亦曲也、字或爲㆑引、蔡雍琴操有㆓思歸引㆒。

【曲隱】11（キョクイン）男女の肢體の奧まり隱れた箇處。曲折隱微の意。〔唐書、安祿山傳〕祿山老愈肥、曲隱常瘡。

【曲院】12（キョクヰン）院の名。浙江省杭縣の西湖に在る。もと麯院といふ。宋代、酒釀の處。清の聖祖が曲院と改めた。

【曲韻】13（キョクヰン）雜劇に用ひられる標準韻の稱。雜劇は主として今の北京地方に起つたため、該地方に行はれる音韻を以て標準とする。

【曲影】14（キョクエイ）まがつたかげ。〔史記、平津侯傳〕未㆑有㆘樹㆓直表㆒而得㆓曲影㆒者㆖也。

【曲銳】15（キョクエイ）明、萊陽の人。字は朝儀。成化の進士。吏能あり、能く獄を斷ず。官は僉都御史・寧夏巡撫。〔國朝獻徵錄、六十二〕・〔國朝列卿記、一百二十九〕・〔明名人傳、二十九〕・〔本朝分省人物攷、九十八〕。

【曲要】16（キョクエウ）腰をまげる。又、曲つた腰。要は腰。〔莊子、漁父〕漁父杖拏逆立、而夫子曲㆑要磬折。〔疏〕仲尼遇㆓天子諸侯㆒、尚懷㆓倨傲㆒、一逢㆓漁父㆒、盡㆑禮曲㆑腰。

【曲腰】17（キョクエウ）腰を曲げる。又、曲つた腰。曲要に同じ。

【曲宴】18（キョクエン）天子が內苑に臣下を留めて宴を賜ふをいふ。曲は小の義。大宴に對していふ。〔曹植、贈㆓丁翼㆒詩〕吾與㆓二三子㆒、曲㆓宴此城隅㆒。〔南史、陳武帝紀〕帝恆崇㆓寬簡㆒、雅尚㆓儉素㆒、常膳不㆑過㆓數品㆒、私饗曲宴、皆瓦器蚌盤。〔朝野類要〕有㆑旨內苑留㆓臣下㆒賜㆑宴、謂㆓之曲宴㆒、與㆓大宴㆒不㆑同之義也。

【曲宛】19（キョクヱン）まがりかがむこと。宛曲。〔釋名、釋兵〕弓、穹也、簫弣之閒曰㆑淵、淵、宛也、言㆓曲宛㆒也。

【曲苑】20（キョクヱン）叢書の名。聖湖正音學校編。杭州文藝書局刊。詞曲に關する先人の著を蒐輯す。其の內容は碧溪漫志五卷（宋、王晦叔）・樂府雜錄（唐、段安節）・羯鼓錄（唐、南卓）・新編錄鬼簿二卷（元、鍾嗣成編、清、王國維注）・衡曲塵譚（明、騷隱居士）・顧曲雜言（明、沈德符）・南詞敍錄（明、徐文長）・舊編南九宮目錄（明、徐文長）・十三調南呂音節譜（明、徐文長）・曲品三卷（明、鬱藍生）・新傳奇品（明、高奕）・曲目韻編二卷（民國、董康）・曲律四卷（明、王驥德）・魏良輔曲律（明、魏良輔）・雨村曲話二卷（清、李調元）・曲話五卷（清、梁廷枏）・詞餘叢話三卷（清、楊恩壽）・曲談（清、王季烈）・劇說六卷（清、焦循）・唐大曲考（清、王國維）・戲曲考原（清、王國維）・古劇脚色考（清、王國維）・優語錄（清、王國維）・錄曲餘談（清、王國維）・宋元戲曲考（清、王國維）・曲錄六卷（清、王國維）。

【曲園】21（キョクヱン）清、兪樾（1－1437‥7）の號。

【曲轅】22（キョクヱン）字號。❶宋、崔公度（4－8178‥254）の號。❷清、文柟（5－13450‥666）の字。

【曲屋】23（キョクヲク）まがりくねつた建物。〔楚辭、大招〕曲屋步壛、宜㆓擾畜㆒只。〔注〕曲屋、周閣也。

【曲恩】24（キョクオン）てあついめぐみ。〔舊唐書、高祖紀論〕酬㆓裴寂㆒則曲恩太過。

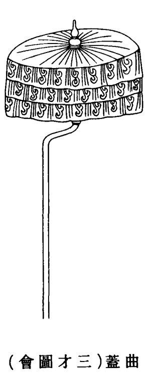
【曲下】25（キョクカ）曲の調子が低い。〔陸機、文賦〕徒悅㆑目而偶㆑俗、固聲高而曲下。

【曲枴】26 ch'ü^1 kuai^3 往復運動を廻轉運動に又は廻轉運動を往復運動に變ずる機械裝置。曲柄。曲肱。クランク。

【曲海】27（キョクカイ）書名。二十卷。清、黃文暘撰。雜劇傳奇を載す。今、傳はらず、揚州畫舫錄卷五に其の目のみを載せ、曲海目といふ。

『曲海總目提要』28（キョクカイソウモクテイエウ）書名。四十六卷。清、無名氏撰。もと樂府考略といふ。董康が其の舊鈔殘本四卷を得、後、盛氏愚齋の藏書三十二冊を借鈔し、補足して此の書を爲す。戲曲の解題を記す。

【曲解】29（キョクカイ）❶樂曲の一節。〔顏氏家訓、雜藝〕今世曲解雖㆑變㆓於古㆒、猶足㆔以暢㆓神情㆒也。❷理を非にまげて解釋すること。又、其の解釋。



曲蓋（三才圖會）

【曲蓋】30（キョクガイ）柄のまがつたかさ。太公望の作つたもの。武王が紂を伐つた時、大風に蓋を折られたので、太公が其の折れた蓋の形に因つて曲蓋を制したといふ。戰國時代には將帥に賜ひ、漢代、天子には四、將軍には一を用ひた。〔晉書、馬隆傳〕宣威將軍加㆓赤幢曲蓋鼓吹㆒。〔古今注、輿服〕曲蓋、太公所㆑作也、武王伐㆑紂、大風折㆑蓋、太公因㆓折蓋之形㆒、而制㆓曲蓋㆒焉、戰國常以賜㆓將帥㆒、自㆓漢朝㆒乘輿用㆑四、謂爲㆓輣輗㆒、蓋有㆓軍號㆒者、賜㆓其一㆒也。

【曲巧】31（キョクカウ）こまかでたくみなこと。技巧を弄すること。〔淮南子、原道訓〕曲巧僞詐。〔新語、本行〕淫伎曲巧。

【曲江】32（キョクカウ）❶川の名。㋑浙江（6－17458‥2）の異名。江流が曲折してゐるからいふ。〔浙江通志〕錢唐江卽浙江、亦名㆓曲江㆒。㋺上源を大溪又は玉溪河といふ。雲南省江川縣の西。盤江に注ぐ。〔讀史方輿紀要、雲南、臨安府、建水川、瀘江〕曲江、在㆓府東北九十里㆒、源出㆓澂江府新興州㆒、繇㆓嶍峨縣石屛州㆒、會㆓諸水流㆒、入㆓於盤江㆒。㋩江蘇省江都縣の南の長江をいふ。〔枚乘、七發〕將㆘以㆓八月之望㆒、觀㆗濤乎廣陵之曲江㆖。〔初學記、地部中、江〕曲江。〔注〕七發曰、觀㆓于廣陵之曲江㆒、曲江、今揚州也。〔汪中、廣陵曲江證〕廣陵、漢縣、今爲㆓甘泉天長之南境㆒、江、北江也。〔梁章鉅、文選旁證〕兪思廉語、唐以前、廣陵自有㆓曲江㆒、當㆑在㆓今瓜州之北㆒、而曲江自有㆓其濤㆒、唐以後、爲㆔沙所㆓張沒㆒。❷池の名。又、曲江池ともいふ。陝西省長安縣の東南。漢の武帝が宜春苑

を此處に造り、水流が之字形に屈曲してゐるので名づく。唐の開元年間に疏鑿を加へた。池畔に紫雲樓・芙蓉苑・杏園・慈恩寺・樂遊原等の勝があつた。池は今堙滅して無い。〔劇談錄〕曲江池、本秦時隑州、開元中疏鑿爲二勝境一、南有二紫雲樓・芙蓉苑一、西有二杏園・慈恩寺一。〔太平寰宇記〕曲江池、漢武帝所レ造、名爲二宜春苑一、其水曲折、有レ似二廣陵之江一、故名。〔杜甫、哀江頭詩〕少陵野老吞レ聲哭、春日潛行曲江曲。㊂縣名。㋑漢、置く。廣東省曲江縣の西。五代梁、今治に徙す。廣東省樂昌縣の南。地は省北の門戶。粤漢鐵路に沿ふ。〔讀史方輿紀要、廣東、韶州府〕曲江縣、漢置レ縣屬二桂陽郡一、吳爲二始興郡治一、隋屬二廣州一、唐宋以來皆爲二韶州一。〔淸史稿、地理志〕廣東、韶州府、縣六、曲江。㋺金、置く。滿洲吉林省寧安縣の東。㊃驛の名。明、置く。雲南省建水縣の北。曲江に臨む。もと二城あり、一は漢が、一は蒙氏が築いた。〔讀史方輿紀要、雲南、臨安府、建水州〕曲江驛、臨二曲江一、爲二往來津要一、又曲江巡司亦置二於此一、志云、府北九十里有二曲江橋府通判一駐焉。㊄字號。㋑唐、張九齡(**4－9812**··919)の號。㋺淸、朱九齡(**6－14424**··713)の字。㋩淸、杜玉林(**6－14477**··295)の字。㋥淸、李先復(**6－14459**··1604)の字。

【曲江宴】33 キョクカウノエン　唐、貞元六年二月朔日、百僚を曲江に會して賜はつた宴。又、唐代、春、其の年の進士試驗に及第した者に、曲江で賜はつた宴。〔舊唐書、德宗紀下〕貞元六年二月戊辰朔、百僚會二宴於曲江亭一、上賦二中和節一、羣臣賜二宴七韻一。〔歲華紀麗、春、曲江之會遄至、注〕摭詩云、唐時、春放榜進士、既捷列二名於慈恩寺一、謂二之題名一、大宴二于曲江亭子一、謂二之曲江會一。

【曲江公】34 キョクカウコウ　唐、張九齡の綽名。九齡は曲江(今の廣東省曲江縣の西)の人であつたからいふ。〔唐書、張九齡傳〕開元後、天下稱曰二曲江公一而不レ名。

【曲江集】35 キョクカウシフ　書名。二十卷。附錄一卷。唐、張九齡撰。其の目は頌・贊・賦共一卷、詩四卷、制書一卷、勅制一卷、勅書五卷、表狀一卷、狀二卷、策書一卷、序・銘・文共一卷、墓誌銘共一卷、頌・碑・銘共一卷、碑碣・銘共一卷。附錄は其の補遺。〔四庫提要、集、別集類〕。

【曲江池】36 キョクカウチ　㊀池の名。曲江の㊁を見よ。㊁戲曲の名。㋑元曲選百種中の一。元、石君寶撰。正名を李亞仙花酒曲江池といふ。〔嘯餘譜〕。㋺明、周憲王撰。李亞仙と鄭元和の事を記す。〔奢摩他室曲叢〕。

【曲江外史】37 キョクカウグワイシ　淸、金農(**11－40152**··91「2)の號。

【曲江居士】38 キョクカウコジ　元、錢惟善(**11－40563**··「247)の號。

【曲江老人】39 キョクカウラウジン　元、錢惟善(**11－40563**··247)の號。

【曲江拾レ菜】40 キョクカウサイヲヒロフ　二月二日に長安の曲江で菜を採つて遊ぶこと。秦中地方の風習。〔秦中歲時記〕二月二日、曲江拾レ菜、士民遊極盛。

【曲考】41 キョクカウ　書名。淸、焦循撰。曲目を記す。

【曲行】42 キョクカウ　㊀まがつた行ひ。〔晏子、問、下〕正行則民遺、曲行則道廢。㊁ch‘ü^{1} hsing^{2} 曲つて步く。

【曲巷】43 キョクカウ　街道から橫に入つた小道。橫町。〔梁昭明太子、相逢狹路間詩〕京華有二曲巷一。〔李白、宴二陶家亭子一詩〕曲巷幽人宅、高門大士家。

【曲校】44 キョクカウ　屋根の飾りの名。〔淮南子、本經訓〕修掞、曲校。〔注〕皆屋飾也。

【曲衡】45 キョクカウ　夫〻に對して公平妥當なこと。〔管子、輕重乙〕唯曲衡之數爲レ可耳。〔纂詁〕曲、委曲也、委曲立二平當之法一。

【曲角】46 キョクカク　道などの折れ曲つた角。〔周賀、玉芝觀王道士詩〕蠹根停二雪水一、曲角積二茶煙一。

【曲閣】47 キョクカク　折れまがつた複道。〔司馬相如、上林賦〕高廊四注、重坐曲閣。〔注〕善曰、曲閣、閣道委曲也。

【曲學】48 キョクガク　邪曲の學問。正道でない學問。〔戰國、趙策〕窮鄉多レ異、曲學多レ辨。

【曲學阿世】49 キョクガクアセイ　眞理にそむいた學問を修めて世の中にこびへつらふ。正學でない學問を修め俗世の人氣に投ぜんと力める。漢の轅固が公孫弘を戒めたことば。〔史記、儒林傳〕轅固之徵也、薛人公孫宏亦徵、側レ目而視レ固、固曰、公孫子務二正學一以言、無二曲學以阿一レ世。

【曲岸】50 キョクガン　まがつたきし。〔漢書、地理志上、鄠有二結埼亭一、注〕師古曰、結、蛣也、埼、曲岸也、其中多レ結、故以名レ亭。〔淮南子、本經訓〕來二谿谷之流一、飾二曲岸之際一。〔魏收、喜レ雨詩〕瀉溜高齋響、添池曲岸平。

【曲囏】51 キョクカン　まがりくねつた難路。〔揚雄、反離騷〕騁二驊騮一以二曲囏一兮、驢騾連蹇而齊レ足。

【曲鑒】52 ch‘ü^{1} chien^{4}　委細御諒察。

【曲几】53 キョクキ　脇息。〔柳宗元、斬二曲几一文〕后皇植物、所レ貴二平直一、聖主取レ焉、以建二家國一。

【曲期】54 キョクキ　つぶさに相約すること。〔荀子、正名〕曲二期遠方異俗之鄉一。

【曲伎】55 キョクギ　よこしまなわざ。〔論衡、逢遇〕爲下不善於欲レ得二不善一之主上、雖二不善一不レ見レ憎、此以二曲伎一合。

【曲鞠】56 キョクキク　つぶさに問ひきはめる。こまかに事情を推究する。鞠は、しらべる。〔張融、答二周顒一書幷答レ所レ問〕卿欲三必曲二鞠其辭一。

【曲鄉】57 キョクキャウ　縣名。漢、置く。侯國。今の山東省の境。〔漢書、地理志上〕山陽郡、縣二十三、曲鄉。〔注〕侯國。

【曲逆】58 キョクギャク　㊀夏の桀王の嬖臣の名。〔管子、輕重甲〕曲逆者桀之所レ善也、湯事レ之以二千金一。㊁川の名。一名、祁河。今、方順河といふ。㊂クゲキ　地名。春秋には逆時といひ、戰國に曲逆と改む。秦・漢、縣を置く。故城は河北省完縣の東南。漢の高祖が陳平を封じて曲逆侯とした。〔戰國、齊策〕魏處曰、趙可レ取二唐曲逆一。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、完縣〕曲逆城、左傳、齊國、夏伐レ晉取二逆時一、酈道元以爲二卽曲逆一也、後爲二趙邑一、秦置レ縣、漢七年擊二韓王信一、自レ代還過二曲逆一曰、壯哉縣、吾行二天下一多矣、惟見二洛陽與レ是耳、因封二陳平一爲二曲逆侯一。

【曲逆侯】59 クゲキコウ　漢の陳平(**11－41698**··538)の封號。〔史記、陳丞相世家〕高帝南過二曲逆一、上二其城一、望二見其屋室甚大一、曰、壯哉縣、吾行二天下一、獨見二洛陽與レ是耳、云云、更以二陳平一爲二曲逆侯一。

【曲躬】60 キョクキュウ　身を曲げる。禮を行ふこと。鞠躬(**12－42892**··14)の㊀に同じ。〔潛夫論、本政〕欲レ使二志義之士、匐匍曲躬以事一レ己。〔後漢書、鄭弘傳〕每正朔朝見、弘曲躬而自卑。

【曲裾】61 キョクキョ　裳の右旁に附ける燕尾狀の布。〔禮、深衣、續衽鉤邊、注〕若二今曲裾一也。〔疏〕鄭云二今曲裾一者、是今朝服之曲裾也。〔漢書、江充傳〕曲裾後垂二交輸一。〔注〕張晏曰、曲裾者如二婦人衣一也、如淳曰、交輸割二正幅一使二一頭狹一若三燕尾垂二之兩旁見二於後一。〔文公家禮、深衣制度、曲裾〕用二布一幅一、如二裳之長一、交解裁レ之、如二裳之制一、但以二廣頭一向レ上、布邊向レ外、左掩二其右一、交映垂レ之、如二燕尾狀一、又稍裁二其內旁一、大半レ之、下令下漸如二魚腹一、而末如二鳥喙內向一、綴中於裳之右旁上、禮記深衣、續レ衽鉤レ邊、鄭注、鉤レ邊若二今曲裾一。

【曲局】62 キョクキョク　拳の如く束ねた婦人の髮。〔詩、小雅、采綠〕予髮曲局、薄言歸沐。

【曲玉】63 マガタマ　上代、裝飾に用ひた玉の名。形の曲つたものが多く、緖につないで頭・手・足などにさげ、又は衣服・太刀等に着けて用ひた。まがたま。勾玉。〔古事記、神代記上〕八坂瓊之曲玉。

【曲均】64 キョクキン　夫〻の事物に對處して宜しきを得る規範。均は、ろくろ、法の意。〔管子、宙合〕物至而對レ形、曲均存矣。〔纂詁〕均、造レ瓦之具也、猶レ言レ法、云云、是委曲之法存二乎我一矣。

【曲襟】65 キョクキン　まがつたゑり。曲領(267)に同じ。〔鹽鐵論、論功〕絲無二文采裙褘曲襟之制一。

【曲謹】66 キョクキン　つぶさにつつしむ。〔宋史、李綱傳下〕平居無事、小廉曲謹、以レ可レ無レ過、忽有二擾攘一、則錯愕無レ所レ措二手足一。

【曲隅】67 キョクグウ　かたすみ。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕塊獨守二此曲隅一兮、然欲切而永歎。

【曲遇】68 クグウ　地名。河南省中牟縣の東。〔史記、曹相國世家〕西擊二秦將楊熊軍於曲遇一。〔注〕集解曰、徐廣曰、在二中牟一。

【曲環】69 キョククワン　㊀まがつてとりまく。〔後漢書、西域、條支傳〕海水曲環。㊁唐、安邑の人。騎射を善くす。數〻吐蕃を伐つて功を立つ。安祿山の反に鄧州を守る。官は開府儀同三司。郡王。卒して司空を追贈さる。〔唐書、一百四十七〕・〔舊唐書、一百二十二〕。

【曲徑】70 キョクケイ　まがつたこみち。〔常建、破山寺後禪院詩〕曲徑通二幽處一、禪房花木深。

【曲莖】71 キョクケイ まがつた莖。〔張衡、東京賦〕羽蓋威蕤葩瑤曲莖。

【曲溪】72 キョクケイ 縣名。民國、置く。雲南省建水縣の北。

【曲瓊】73 キョクケイ まがたま。玉鉤。〔楚辭、宋玉、招魂〕砥室翠翹、挂二曲瓊一些。〔注〕曲瓊、玉鉤也。〔梁簡文帝、東飛伯勞歌〕網戶珠綴曲瓊鉤、芳茵翠被香氣流。〔事物異名錄、服飾、前被〕卓氏藻林、曲瓊、帳上玉鉤也。

【曲藝】74 キョクゲイ ❶小さい技能。小技。〔禮、文王世子〕凡語二於郊一者、必取レ賢斂レ才焉、或以レ德進、或以レ事擧、或以レ言揚、曲藝皆誓レ之。〔注〕曲藝、爲二小技能一也。〔李商隱、詠レ懷寄二秘閣舊寮一詩〕曲藝垂二麟角一、浮名狀二虎皮一。❷目さきの變つた種々のはなれわざ。普通人のなし得ない手足の藝當。手品・曲馬・輕業等。

【曲矯】75 キョクケウ 心が曲つてゐること。〔越絕書、越絕德序外傳記〕子胥賜レ劍、將二自殺一、歎曰、嗟乎衆曲矯、直一人固不レ能二獨立一。

【曲戟】76 キョクゲキ 曲つた戟。〔後漢書、馮衍傳上〕晏嬰臨レ盟、擬以二曲戟一、不レ易二其辭一。

【曲穴】77 キョクケツ 奧深く曲りくねつた穴。〔埤雅、釋獸、貉〕其營窟、與レ貛皆爲二曲穴一、以避二雨暘一、亦以防レ患。〔淮南子、脩務訓〕螘知レ爲レ垤、貛貉爲二曲穴一。

【曲袷】78 キョクケフ 曲げて方形に象つた襟。〔禮、深衣〕曲袷如レ矩以應レ方。〔注〕袷、交領也。

【曲狹】79 キョクケフ まがつてせまい。〔舊唐書、王方慶傳〕山徑危險、石路曲狹。

【曲頰】80 キョクケフ ほほぼね。〔醫宗金鑑〕曲頰、頰骨也、曲如二環形一、受二頰車骨尾之鉤一者。

【曲拳】81 キョクケン まがる。又、まげる。又、身體を屈して禮をする意。〔莊子、人閒世〕外曲者、與レ人之爲レ徒也、擎跽曲拳、人臣之禮也、人皆爲レ之。

【曲嫌】82 キョクケン こまごましたきらひなこと。細嫌。〔何承天、奏二事官名議一文〕盛明之世、事從二簡易一、曲嫌細忌、皆應二蕩除一。

【曲縣】83 キョクケン 古、諸侯の禮で、室の三面に懸けた樂器の全體の稱。軒縣(**10－38187**‥34)に同じ。〔左氏、成、二〕請二曲縣繁纓以朝一。〔注〕軒縣也、周禮、天子樂、宮縣四面、諸侯軒縣、闕二南方一。〔疏〕軒縣三面、其形曲。

【曲懸】84 キョクケン 曲縣に同じ。〔孔子家語、正論解〕請二曲懸之樂繁纓以朝一。

【曲言】85 キョクゲン 裏面に意味を含ませて表面に主旨を表はさぬやうに語ること。又、其の言葉。婉曲な言葉。〔子華子、陽城胥渠問第一〕太古之聖人、所二以範レ世訓レ俗者、有二直言者一、有二曲言者一、直言者、直以レ情責也、曲言者、假以レ指喩也。

【曲原】86 ch'ü^{1} yüan^{2} 御宥恕。曲恕。曲諒。

【曲故】87 キョクコ たくみいつはる。巧詐。曲巧。〔淮南子、俶眞訓〕不下以二曲故是非一相尤上。〔注〕曲故、曲巧也。〔淮南子、脩務訓〕權二自然之勢一、而曲故不レ得レ容者。〔注〕曲故、巧詐也。

【曲顧】88 キョクコ つぶさに顧みる。〔詩、大雅、韓奕、韓侯顧レ之、傳〕顧レ之、曲二顧道義一也。〔白虎通、嫁娶〕夫親迎、輪三周、下レ車曲顧者、防二淫佚一也。

【曲護】89 キョクゴ つぶさにまもる。〔國朝漢學師承記、顧炎武〕況若璩四書釋地、曲二護紫陽一、詘二明洪範一。

【曲肱】90 キョクコウ ❶ひぢをまげる。〔論語、述而〕曲レ肱而枕レ之。〔陶潛、五月旦作和二戴主簿一詩〕居常待二其盡一、曲レ肱豈傷レ沖。❷機械の名。クランク。曲栲(26)を見よ。

〖曲肱軒〗91 キョクコウケン 宋、魏衍(**12－45872**‥5)の室名。

〖曲肱居士〗92 キョクコウコジ 宋、魏衍(**12－45872**‥5)の號。

〖曲肱先生〗93 キョクコウセンセイ 宋、樂洪(**6－15399**‥98)の號。

〖曲肱之樂〗94 キョクコウノタノシミ 淸貧に安んじて道を樂しむこと。曲肱は、貧しくて枕が無く、肱を曲げて枕とすること。〔論語、述而〕食二疏食一飮レ水、曲レ肱而枕レ之、樂亦在二其中一矣。

【曲紅】95 キョクコウ 縣名。曲江(32)の❸に同じ。〔猗覺寮雜記〕曲江周府君碑、府君後漢人、碑陰載、門吏皆云二曲江一、古字簡、多借用、故以レ紅爲レ江、酈元不レ曉二其義一、載二曲江縣一乃云三昔號二曲紅一、又云曲山名、以二地勢一考レ之、武谿自レ北來、自レ西入レ海、古郡城在二其上一、眎江正曲、何名爲レ山哉。

【曲國】96 キョクコク 正しくない國。〔管子、霸言〕曲國正レ之。〔纂詁〕曲、邪也。

【曲瑵】97 キョクサウ 車蓋を飾る玉。〔王融、三月三日曲水詩序〕重英曲瑵之飾。〔注〕銑曰、曲瑵、車蓋玉也。

【曲操】98 キョクサウ 音樂のしらべ。〔後漢書、曹褒傳〕歌詩曲操、以待二君子一。〔注〕操、猶レ曲也。

【曲棧】99 キョクサン 九十九折の棧道。〔文同、又五言詩〕曲棧繞二斜谷一、鉤欄天際分。

【曲士】100 キョクシ ❶かたゐなかの人。つまらぬ人。〔莊子、秋水〕曲士不レ可三以語二於道一者、束二於教一也。〔釋文〕司馬云、鄕曲之士也。〔淮南子、原道訓〕曲士不レ可三與語二至道一、拘二於俗一束二於教一也。〔後漢書、馬融傳論〕羞二曲士之節一、惜二不貲之軀一。〔左思、吳都賦〕齷齪而筭、固亦曲士之所レ歎也。〔注〕銑曰、曲士、小人也。❷心の正しくない人。〔柳宗元、與二大學諸生一喜三詣レ闕留二陽城司業一書〕師儒之席、不レ拒二曲士一。

【曲子】101 キョクシ 樂曲。小唄。〔史官樂史、楊太眞外傳上〕乃製二曲子一曰二得寶子一。

〖曲子相公〗102 キョクシシヤウコウ 五代の時の宰相であつた和凝(**2－3490**‥91)の號。少時、好んで曲子詞を作つたからいふ。〔北夢瑣言〕和凝、少年時、好爲二曲子詞一、布二於汴洛一、泊二入相一、專託レ人收拾、焚毀不レ暇、然相國厚重有レ德、終爲二豔詞所一レ玷、契丹入二夷門一、號爲二曲子相公一。

【曲止】103 キョクシ 一々述べる。詳しく陳述する。止は助辭。〔史記、扁鵲傳〕不レ出二千里一、決者至衆、不レ可二曲止一也。〔注〕索隱曰、止、語助也、不レ可二委曲具言一。

【曲汜】104 キョクシ 水の流れが曲つて行きづまり、又は分流が本流に還るところ。〔謝惠連、泛レ湖歸出二樓中一翫レ月詩〕憩レ榭面二曲汜一。〔注〕濟曰、水決復入曰レ汜。〔謝惠連、西陵遇レ風獻二康樂一詩〕曲汜薄停旅、通川絕二行舟一。〔注〕善曰、曲汜、窮瀆也。

【曲私】105 キョクシ ねぢけてよこしま。私曲。〔荀子、儒效〕志不レ免二於曲私一。

【曲指】106 カネザシ 曲尺(123)に同じ。

【曲師】107 キョクシ よこしまな軍隊。正義に叛く軍隊。〔魏書、島夷、蕭衍傳〕以二彼曲師危卒一、望二我軍鋒一、何異二蛣蜣被レ甲、螂蛆擧一レ尾。

【曲觜】108 キョクシ まがつた嘴。〔孫楚、鷹賦〕曲觜短頸、足若二雙枯一。

【曲齒】109 キョクシ 地名。西康省碩德縣の東。又、柴駝と名づく。往來の通道に當り、大喇嘛寺がある。

【曲事】110 クセゴト 條理にそむいた事。にがにがしいこと。まがごと。咎むべきこと。

【曲兒】111 ch'ü^{3} êrh 流行歌。小唄。又、音樂の節。

【曲辭】112 キョクジ よこしまなことば。又、辭をまげる。〔後漢書、袁譚傳〕曲辭諂媚、交二亂懿親一。〔元結、五規、惡曲〕吾輩全レ直三十年、未二嘗曲レ氣以轉一レ聲、曲レ辭以達レ意。

【曲周】113 キョクシウ 縣名。漢、置く。今、河北省沙河縣の東南。滏陽河の北岸。〔讀史方輿紀要、直隸、廣平府〕曲周縣、漢縣屬二廣平國一、高祖封二酈商一爲二曲周侯一邑二於此一、後漢屬二鉅鹿郡一、晉省、隋開皇六年、復置二曲周縣一、屬二洛州一、大業初廢、唐武德四年復置、仍屬二洛州一、宋因レ之、熙甯三年省、入二雞澤縣一、元祐二年復置。〔淸史稿、地理志〕直隸、廣平府、縣九、曲周。

〖曲周侯〗114 キョクシウコウ 漢、酈商(**11－39753**‥10)の封號。

【曲岫】115 キョクシウ まがりくねつたみね。〔梁簡文帝、三月三日卒爾成詩〕廻沙溜二碧水一、曲岫散二桃夭一。

【曲室】116 キョクシツ 奧の閒。つぼね。內室。密室。〔阮籍、達莊論〕燭龍之光、不レ照二一堂之上一、鐘山之口、不レ談二曲室之內一。〔世說新語、賞譽〕許掾嘗詣二簡文一、爾夜風恬月朗、乃共作二曲室中語一。

【曲集】117 キョクシフ 古の諸侯の國の名。〔逸周書、史記解〕昔者曲集之君、伐レ智而專レ事、彊力而不レ賤二其臣一、忠良皆伏、愉州氏伐レ之、君孤而無レ使、曲集以亡。〔注〕曲集・愉州、皆古諸侯。

【曲者】118 クセモノ ❶わるもの。正しくない者。〔平治物語、信賴謀反〕讒佞至極の曲物なり。❷一くせあるもの。かはりもの。なみなみならぬもの。又、あやしいもの。怪物。又、盜賊。癖物。

【曲赦】119 キョクシヤ 法をまげて赦すべからざる罪人をゆるすこと。〔宋書、孝武帝紀〕〔大明五年秋七月〕庚午、曲二赦雍州一。

【曲榭】120 キョクシヤ 屈曲して連なつてゐる高殿。又、曲折して連なつてゐる臺地。土を積み重ねたの

を臺といひ、臺上に木のあるのを榭といふ。〔張衡、東京賦〕謻門曲榭。〔注〕綜曰、臺有レ木曰レ榭。〔李乂、奉下和幸二韋嗣立山莊一侍宴上應制詩〕曲榭廻廊繞レ澗幽。

【曲邪】121 キョクジャ　よこしま。邪曲。

【曲城】122 キョクジャウ　縣名。晉以後、漢の曲成縣を改め稱す。曲成(145)を見よ。

【曲尺】123 キョクシャク　㊀大工が直角を求めるのに用ひる矩形の金屬製尺度。算法の勾股弦をうつして盛る。我が國では長い方に一尺五寸、枝の方に七寸五分の目を盛る。まがりがね。かねざし。かねじやく。〔通俗編、器用、曲尺〕史記、禮書、索隱、矩、曲尺也、文選、魏都賦注、鉤曲尺也。〔四書大全、辨大學序〕句股之術、如二今木匠曲尺一。〔倭名類聚抄、調度部、木工具〕曲尺、辨色立成云、曲尺、廡賀利賀禰。〔箋注〕按、史記禮書索隱、矩、曲尺也、甘泉賦、般倕棄二其剞劂一兮、王爾投二其鉤繩一、注、呂延濟曰、鉤、曲尺、漢書律歷志、矩者所下以矩二方器械一令上レ不レ失二其形一也、孟子告子上注、矩、所二以爲一レ方也、荀子不苟篇注、矩正レ方之器也、法隆寺古今目錄抄云、番匠鉤金、卽是。㊁かぎの手。直角にまがつた形。矩形。〔白居易、雨夜贈二元十八一詩〕把レ酒循環飲、移レ牀曲尺眠。〔王周石、首山詩〕郤見長江曲尺流。

〖曲尺手〗124 カギノテ　常陸國水戸の町名。

【曲錫】125 キョクシャク　心をつくして賜はること。〔張華、祖二道趙王一應詔詩〕休寵曲錫、備物煥彰。

【曲釋】126 キョクシャク　不正な解釋。又、無理な解釋。〔王安石、贈司空兼侍中文元賈魏公神道碑〕公於二傳注訓詁一不レ爲二曲釋一。

【曲取】127 キョクドリ　曲藝として物をあやつること。

【曲須】128 キョクス　門上の環を銜むもの。又、門環。〔名義考〕京師人謂二門環一曰二曲須一、當二是屈膝一、言三形如二膝之屈一也、古烏栖曲作二屈戌一。

【曲從】129 キョクジュウ　自己の意志をまげて屈從する。〔漢書、王尊傳〕阿諛曲從、附レ下罔レ上。〔後漢書、李固傳〕梁氏迷謬、公等曲從。

【曲術】130 キョクジュツ　まがつたみち。邑中の曲つた道。〔謝靈運、山居賦〕曲術周二平前後一、直陌矗二其東西一。

【曲徇】131 ch'ü^1 hsün^4　情實にとらはれる。私する。

【曲恕】132 キョクジョ　おゆるし。諒。

【曲漵】133 キョクジョ　まがつた浦。曲浦。〔儲光義、同二武平一員外一游レ湖詩〕前溪多二曲漵一、乘レ興莫二先歸一。

【曲繩】134 キョクジョウ　法律をまげる。〔晉書、熊遠傳〕姬公不三曲二繩于天倫一。

【曲鍼】135 キョクシン　まがつた針。〔吳志、虞翻傳、注〕虎魄不レ取二腐芥一、磁石不レ受二曲鍼一。

【曲刃】136 キョクジン　まがつたかたな。〔晏子、雜上〕曲刃鉤レ之、直兵推レ之、嬰不レ革矣。

【曲盡】137 キョクジン　つぶさにつくす。仔細にきはめる。殘らずしおほせる。〔陸機、文賦序〕他日殆可レ謂三曲盡二其妙一。〔注〕向曰、委曲盡二其妙道一矣。〔周書、蘇綽傳〕消二息情理一、斟二酌禮律一、無レ不下曲二盡人心一、遠中明大教上。〔北史、王昕傳〕摹二擬倉楚一、曲二盡風制一。

【曲樞】138 キョクスウ　元、西土の人。裕聖皇太后の宮臣。官は仁宗の時、榮祿大夫・平章政事。〔元史、一百二十七〕。

【曲水】139 キョクスイ　㊀流觴の遊を行ふために作つた環曲した流をいふ。曲水宴・曲水流觴(144)を見よ。㊁地名。㋑江蘇省江寧縣の北。〔建康志〕晉海西公於二鍾山一、立二流杯曲水一、以延二百僚一。〔顏延之、應レ詔讌二曲水一作詩、注〕善曰、水經注曰、舊樂遊苑、宋元嘉十一年、以二其地一爲二曲水一。㋺浙江省紹興縣の西南、蘭亭山。㋩西藏拉薩の西南。㊂川の名。四川省南充縣の西南。源は琉璃鎭。嘉陵江に注ぐ。

〖曲水宴〗140 キョクスイノエン　昔、三月三日に文人等が曲折した流水に盃を流し、詩を賦して遊び、流した盃が己の前を過ぎない間に詩を賦し、其の盃を取つて、酒を飲んだ風流の遊事。我が國でも古、禁中に行はれ、ゴクスイエンと讀むを例とする。曲水流觴(144)を見よ。〔顏延之、三月三日曲水詩序、注〕翰曰、鄭國之俗、三月上巳之日、於二溱洧兩水之上一、執レ蘭招レ魂、祓二除不祥一、上巳卽三日也、曲水者、引レ水環曲爲レ渠、以流二酒盃一而行焉。

〖曲水園〗141 キョクスイエン　園の名。河南省許昌縣城の北。〔清一統志〕有二大竹二十餘畝一、潩水灌二其中一、以達二西湖一、最爲二佳處一、宋文彥博爲レ守時買レ得之、賈昌朝來レ代、一日往遊、題二詩壁上一、潞公聞レ之、卽以二地券一歸二賈文元一、亦不レ辭而受。

〖曲水池〗142 キョクスイチ　池の名。㋑湖北省武昌縣の東。〔太平寰宇記〕梁邵陵王綸爲二太守一、雅好二賓客一、樂二詩酒一、嘗慕二王右軍蘭亭流觴曲水之興一、故效レ之。㋺湖北省鍾祥縣の東門外。〔輿地紀勝〕梁太清中邵陵王綸爲二富水郡太守一、雅好二賓客一、慕二蘭亭流觴一、故效焉。

〖曲水亭〗143 キョクスイテイ　亭の名。江蘇省無錫縣。〔輿地紀勝〕在二無錫縣慧山寺前一、其水九曲、中有二方池一、一名二浣沼一。〔明一統志〕梁建、宋縣令蘇舜欽重甃レ渠、引レ水流レ觴。

〖曲水流觴〗144 キョクスイノリウシヤウ　古、文人等が三月三日に曲折した水流に盃を泛べて、其の盃が己の前を過ぎぬ間に詩を賦し、盃を取つて酒を飲んだ風流の遊び。晉の王羲之が永和九年三月三日に文人を會稽山陰の蘭亭に集めて此の事を行つたことに始まるともいひ、周公が洛邑で流水に酒を泛べたのに本づくともいふ。曲水宴(140)を見よ。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕此地有二崇山峻嶺、茂林脩竹一、又有二清流激湍一、映二帶左右一、引以爲二流觴曲水一。〔晉書、束晳傳〕武帝問二三日曲水之義一、云云、晳曰、昔周公城二洛邑一、因二流水一泛レ酒、故逸詩云、羽觴隨レ波。〔孔叢子、連叢子、楊柳賦〕朋友同好、几筵列行、論レ道飲燕、流川浮レ觴、殽核紛雜、賦レ詩斷レ章、合レ陳二厥志一。〔靖康緗素雜記〕晉武帝嘗問二摯虞三日曲水之義一、云云、束晳進曰、臣請言レ之、昔周公城二洛邑一、因二流水一以泛レ酒、故逸詩云、羽觴隨レ波流、又秦昭王以二三日一置二酒河曲一、見三金人奉二水心之劍一、曰、令下君制二有西夏一、乃霸中諸侯上、因レ此立爲二曲水一、二漢相沿皆爲二盛集一、帝大悅、又韓詩曰、鄭國之俗、三月上巳之日、於二溱洧二水之上一、招レ魂續レ魄、執二蘭草一祓二除不祥一、上巳卽三日也、曲水者、引レ水環曲爲レ渠、以流二酒盃一而行焉、漢書八月祓二霸水一、亦斯義也。

【曲成】145 キョクセイ　㊀變に乘じ物に應じてつぶさに作りあげること。〔易、繫辭上〕範二圍天地之化一而不レ過、曲二成萬物一而不レ遺。〔注〕曲成者、乘レ變以應レ物、不レ係二一方一者也。〔荀子、臣道〕推レ類接レ譽、以待二無方一、曲二成制象一。㊁縣名。漢、置く。侯國。晉以後、曲城と改む。山東省掖縣の東北。〔讀史方輿紀要、山東、萊州、掖縣〕曲成廢縣、漢縣屬二東萊郡一、高帝封二功臣蟲達一爲二侯邑一、又武帝封二中山靖王子萬載一爲二曲成侯一、後漢又封二劉建一爲二侯邑一、仍屬二東萊郡一、晉曰二曲城縣一、劉宋爲二郡治一、後魏曰二西曲城縣一、分二東境一置二東曲城縣一、並屬二東萊郡一、北齊省、隋末復置二曲城縣一、唐武德六年、廢入二掖縣一。

〖曲成侯〗146 キョクセイコウ　漢、蟲達(**10－33633**‥30)の「封號。

【曲制】147 キョクセイ　㊀委曲をつくした法。〔管子、七法〕若夫曲制時擧、不レ失二天時一。〔纂詁〕委曲定二制度一。㊁隊伍を編成する法。〔孫子、始計〕法者、曲制・官道・主用也。〔集注〕李筌曰、曲、部曲也、制、節度也。

【曲政】148 キョクセイ　くはしくこまかいまつりごと。〔管子、侈靡〕分二其多小一、以爲二曲政一。〔纂詁〕分二滿虛之消長多少一、以爲二委曲細之政一。

【曲砌】149 キョクセイ　まがりくねつたいしだたみ。〔盧綸、郊居對レ雨云云詩〕亂漚浮二曲砌一、懸溜響二前除一。

【曲聖】150 キョクセイ　琵琶記の作者高明、字は則誠の稱。南曲中の粹であるからいふ。之に對して還魂記の作者を曲仙といふ。

【曲靖】151 キョクセイ　㊀縣名。民國、置く。雲南省霑益縣の南。㊁府名。淸、置く。唐の曲州・靖州の地。霑益・陸涼・羅平・馬龍・尋甸・宣威の六州及び南寧・平彝二縣を管轄す。今、雲南省曲靖縣。〔淸史稿、地理志〕雲南、曲靖府、領二州六、縣二一、南寧・霑益州・陸涼州・羅平州・馬龍州・尋甸州・平彝・宣威州。

【曲靜】152 キョクセイ　區々たる小術をいふ。靜は謀。〔管子、侈靡〕曲靜之言、不レ可二以爲一レ道。〔纂詁〕曲、小也、靜、靖同、謀也。

【曲沼】153 キョクセウ　まがつた沼。〔杜審言、和三韋承慶過二義陽公主山池一詩〕杜若幽庭草、芙蓉曲沼花。〔洛陽伽藍記、四〕斜峯入レ牖、曲沼環レ堂。〔李文

淵、賦二得四月清和雨乍晴一詩〕波添曲沼當レ軒碧、雲斂遙峰入レ座青。

【曲照】154（キョクセウ） あまねくてらす。〔陸機、謝二平原內史一表〕遂垂二曲照一。〔抱朴子、廣譬〕震雷不レ能細二其音一以協二金石之和一、日月不レ能レ私二其耀一、以就二曲照之惠一。

【曲繞】155（キョクゼウ） めぐりまとふ。〔齊高帝、塞客吟〕曲繞首燕之歎、吹軫絕越之聲。

【曲席】156（キョクセキ） まがり連なつた座席。〔史記、秦紀〕因與二由余一曲席而坐、傳レ器而食。

【曲脊】157（キョクセキ） 背をかがめる。〔韓詩外傳、七〕循レ梁微行、厭レ目曲レ脊、求而不レ得。

【曲折】158（キョクセツ） をれまがる。すぢみちが入りくんで變化の多いこと。あや。轉じて、くはしい事柄。こみ入つた事情。〔史記、魏其武安傳〕夫創少瘳、復請二大將軍一曰、吾益知二吳壁中曲折一。〔史記、李將軍傳〕青欲三上書報二天子軍曲折一。〔後漢書、馬援傳〕分二析曲折一。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕曲折沈浮、尋レ變入レ節。〔李衞公問對、中〕曲折相對。

【曲折語】158′（ゴキョクセツ） 屈折語(**4－7669**‥87)を見よ。

【曲說】159（キョクセツ） 一方にかたよつて正しくない議論。〔管子、宙合〕可三以曲說一、而不レ可三以廣擧一。〔淮南子、繆稱訓〕通二於一伎一、察二於一辭一、可三與曲說一、未レ可二與廣應一也。

【曲節】160（キョクセツ） ㊀みさををを曲げる。〔魏書、李訢傳〕權傾二內外一、百僚莫レ不二曲レ節以事一レ之。㊁音曲のふし。遊藝などのあや。

【曲節草】161（キョクセツサウ） 草の名。莖は方形で青色、節あり、葉は劉寄奴に似、七八月に薄荷に似た花を着く。〔本草、曲節草〕釋名、六月淩、六月霜、綠豆青、蛇藍、集解、頌曰、曲節草生二均州一、四月生レ苗、莖方色青有レ節、葉似二劉寄奴一而青軟、七八月著レ花似二薄荷一、結レ子無レ用。

【曲仙】162（キョクセン） 還魂記の作者湯顯祖（號は臨川）の稱。曲聖(150)を見よ。

【曲泉】163（キョクセン） ㊀人體經穴の名。膝內輔骨下の大筋の上、小筋の下の陷中に在り。〔靈樞經、經脉篇注〕肝經諸穴分寸歌、膝關犢鼻下二寸、曲泉曲膝盡橫紋。㊁明、戚勳(**5－11594**‥15)の號。

【曲旃】164（キョクセン） 柄の曲つた帛の旗。〔史記、武安侯傳〕前堂羅二鐘鼓一、立二曲旃一。

【曲線】165（キョクセン） 連續して曲つた線。〔幾何要法、論圜、總說〕圜成二於線一、線有二二種一、爲レ曲爲レ直、云云、曲線或半或全、半線有二不等之用一、全線或成二圜形一、或成二卵形一。

【曲線板】166（キョクセンバン） 圖を畫く器。

【曲線美】167（キョクセンビ） まるみある線の描きだす美しさ。女の身體のふくよかな線の美しいことなどにいふ。

【曲全】168（キョクゼン） よくまがつて後にまつたきを得るといふ老子の教。意を曲げて安全を求める。〔老子、二十二〕曲則全。〔注〕不二自見一、則其明全也。〔莊子、天下〕人皆求レ福、己獨曲全。〔後漢書、張衡傳〕老子曲全、進レ道若レ退。

【曲全叟】169（キョクゼンソウ） 元、倪瓚(**1－792**‥12)の號。

【曲全道人】170（キョクゼンダウジン） 元、葉審言(**9－31387**‥210)の號。

【曲善】171（キョクゼン） 蟲の名。みみず。曲蟮に同じ。〔野客叢書〕齊地有二蟲類蚯蚓一、大者人謂二之曲善一、擘レ地以行。

【曲蟮】172（キョクゼン） みみず。曲善。蚯蚓。〔周禮、考工記、梓人、注〕卻行螾衍之屬、〔釋文〕螾衍、今曲蟮也。〔東方虯、蚓賦〕乍逶迤而蟮曲、或宛轉而蛇行。

【曲蟺】173（キョクゼン） 蟲の名。みみず。曲蟮に同じ。〔古今注、魚蟲〕蚯蚓、一名蜿蟺、一名曲蟺。

【曲阻】174（キョクソ） 險阻な道。〔趙至、與二嵇茂齊一書〕尋二歷曲阻一。

【曲俗】175（キョクゾク） つまらぬ世のならはし。〔後漢書、馬融傳〕今以二曲俗咫尺之羞一、滅二無貲之軀一、殆非二老莊所一レ謂也。

【曲打】176（キョクウチ） 種々の手わざをして太鼓を打つ。

【曲陀】177（キョクダ） 關の名。雲南省河西縣の北。〔讀史方輿紀要、雲南、臨安府、寧州、河西縣〕曲陀關、蒙氏所レ置、亦曰二萬松營一、元至元二十年立二元帥府於此一、爲二高旅輻輳之地一、明初廢。

【曲隊】178（キョクタイ） 兵士の部隊。〔揚雄、羽獵賦〕曲隊堅重、各案二行伍一。

【曲體】179（キョクタイ） からだを曲げる。勞すること。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕帝知二后勞レ心曲レ體、歎曰、修德之勞、乃如レ是乎。

【曲臺】180（キョクダイ） ㊀秦・漢の宮殿の名。漢の未央宮の內にあり。〔漢書、翼奉傳〕獨有二前殿・曲臺・漸臺・宣室・溫室・承明一耳。〔鄒陽、上二書吳王一書〕秦倚二曲臺之宮一、懸二衡天下一。〔注〕善曰、三輔黃圖曰、未央有二曲臺殿一、良曰、曲臺、秦所レ居宮名。㊁天子の射宮をいふ。〔漢書、藝文志〕曲臺后倉九篇。〔注〕如淳曰、行二禮射於曲臺一、后倉爲レ記、故名二曲臺記一、漢官曰、大二射于曲臺一、晉灼曰、天子射宮也、西京無二太學一、於レ此行レ禮也。㊂太常の別稱。唐の王彥威が太常となつた時、曲臺新禮三十卷を撰す、故に太常を曲臺と稱す。〔事物異名錄、爵位、太常寺〕字典、王彥威爲二曲臺新禮三十卷一、故太常稱二曲臺一。〔舊唐書、王彥威傳〕王彥威、太原人、世儒家、少孤貧苦學、尤通二三禮一、無レ由二自達一、元和中遊二京師一、求レ爲二太常散吏一、卿知二其書生一、補二充檢討官一、彥威於二禮閣一掇二拾自レ隋已來、朝廷沿革吉凶五禮一、以レ類區分、成二三十卷一獻レ之、號曰二元和新禮一、繇レ是知レ名、特授二太常博士一。

【曲臺記】180′（キョクダイキ） 書名。九篇。漢、后蒼撰。天子の射宮、曲臺に於て禮射を行ふことを記したもの。今、佚す。曲臺の㊁を見よ。

【曲塘】181（キョクタウ） まがつたつつみ。〔司空圖、江行詩〕曲塘春盡雨、方響夜深船。

【曲當】182（キョクタウ） つぶさに理にあたる。〔韓詩外傳、五〕其持レ檢應レ變曲當、與レ時遷徙。〔荀子、儒效〕其持レ險應レ變曲當。

【曲綯】183（キョクタウ） 車のしりがひ。車紂(**10－38172**‥166)を見よ。〔方言、九〕車紂、自レ關而東、謂二之緧一、或謂二之曲綯一、或謂二之曲綸一、自レ關而西謂二之紂一。

【曲道】184（キョクダウ） ㊀入りくんだ道。〔漢書、鼂錯傳〕長戟二不レ當レ一、曲道相伏、險阸相薄、此劍楯之地也。㊁碁のうち方。〔方言、五〕所二以行一レ碁、謂二之局一、或謂二之曲道一。

【曲撓】185（キョクタウ） ㊀まがりたわむ。しなふ。たるむ。〔齊民要術、種楡白楊〕白楊、一名高飛、一名獨搖、性甚勁直、堪レ爲二屋材一、折則折矣、終不二曲撓一。㊁無實の罪で無理に殺される。〔禮、月令〕是察二阿黨一、〔注〕阿黨、謂下治獄吏以二私恩一曲撓相爲上也。〔戰國、齊策〕田忌不レ進、戰而不レ死、曲撓而誅。

【曲澤】186（キョクタク） 人體經穴の名。兩肘內廉大筋內側の橫紋頭下の陷中に在り。〔靈樞經、經脉、心主手厥陰心包絡之脉、注〕兩經之中間入二肘中之曲澤穴一。

【曲覃】187（キョクタン） つぶさにおよぶ。〔陳書、姚察傳〕豈期朝恩曲覃、被二之纓紱一、尋二斯寵服一、彌見二慙靦一。〔梁元帝、謝三東宮賜二白牙鏤管筆一啓〕遠降二鴻慈一、曲覃二庸陋一。

【曲端】188（キョクタン） 宋、鎭戎の人。字は正甫。諡は壯愍。兵略に長じ、夏人・金兵を拒ぐ。官は宣州觀察使・渭州知。後、張浚に恭州の獄に送らる。〔宋史、三百六十九〕。

【曲彈】189（キョクビキ） 三味線などを種々のわざをして引くこと。〔嬉遊笑覽、六〕三線の曲びきは、江戸に鳥羽屋三右衞門といひし者、三線にて種々の曲を盡す、云云。

【曲池】190（キョクチ） ㊀曲つた池。〔楚辭、宋玉、招魂〕坐レ堂伏レ檻、臨二曲池一些。〔注〕臨二曲水清池一可二漁釣一也。〔左思、魏都賦〕右則疎圃曲池。〔陸厥、奉二答內兄希叔一詩〕杜レ門清二三徑一、坐レ檻臨二曲池一。㊁古の地名。一に毆蛇に作る。故地は山東省寧陽縣の東北。〔春秋、桓、十二〕公會二杞侯莒子一、盟二于曲池一。〔杜注〕曲池、魯地、魯國汶陽縣北有二曲水亭一。㊂人體經穴の名。兩肘外側の輔骨の陷中にあり。〔靈樞經、本輸〕大腸上合二手陽明一、入二於曲池一、在二肘外輔骨陷者中一也、屈レ臂而得レ之。〔靈樞經、經脉、大腸手陽明之脈、注、分寸歌〕曲池屈骨紋頭盡、肘髎大骨外廉近。

【曲知】191（キョクチ） 一隅ばかりを知つて大道に通じない義。〔荀子、解蔽〕曲知之人、觀二於道之一隅一、猶未二之能識一也。

【曲持】192（キョクモチ） いろいろのわざをして物を持上げる。〔事物紺珠〕弄二米苞・大桶・石臼等一者、俗謂二之力持一、或謂二曲持一。

【曲張】193（キョクチャウ） 弓神の名。〔太平御覽、兵、弓〕龍魚河圖曰、弓之神、名曰二曲張一、太公兵法又曰、弓神

名曲張。〔抱朴子、雜應〕弓名曲張、氏星主之。

【曲暢】194（キョクチャウ） つぶさに通達する。仔細に屆き到る。〔韋處厚、上宰相薦皇甫湜書〕徵會理軸、遣訓詞波、無不蹈正超常、曲暢精旨。〔朱熹、中庸章句序〕諸說之同異得失、亦得以曲暢旁通、而各極其趣。

【曲聽】195（キョクチャウ） 心に副はないがまげて人の說に從ふ。〔漢書、郭解傳〕解夜見仇家、仇家曲聽。

【曲杖】196（キョクチャウ） 曲つた杖。〔韓非子、內儲說上〕周主索曲杖、而羣臣懼。

【曲乘】197（キョクノリ） 種々の曲藝をしながら馬に乘る。曲馬。〔甲陽軍鑑、四〕甲州に鬮口と申す馬乘の上手にて、曲乘は本の事にて。

【曲直】198（キョクチョク） ❶まがつたのとまつすぐなの。よいのとわるいの。是非。善惡。臧否。〔書、洪範〕木曰曲直。〔傳〕木可以揉曲直。〔蔡傳〕曲直者、曲而又直也。〔王先謙孔傳參正〕曲直者、木可揉曲、亦可從繩正直也。〔戰國、秦策〕今取人則不然、不問可否、不論曲直、非秦者去、爲客者逐。〔荀子、不苟〕知當曲直故也。〔史記、李斯傳〕不問可否、不論曲直。❷歌の曲折をいふ。〔禮、樂記〕使其曲直繁瘠廉肉節奏、足以感動人之善心而已矣。

〔曲直瀨〕199（マナセ） 姓氏。

【曲珍】200（キョクチン） 宋、隴干の人。字は君玉。夏人及び羌を征して功を立つ。官は環慶路副總管・忠州防禦使。〔宋史、三百五十〕。

【曲朝】201（キョクテウ） 邪曲の朝廷。〔漢書、梅福傳〕厲具臣而矯曲朝。

【曲調】202（キョクテウ） 音曲の調子。〔白居易、琵琶行〕轉軸撥絃三兩聲、未成曲調先有情。

【曲適】203（キョクテキ） つぶさに適合すること。〔荀子、天論〕其行曲治、其養曲適、其生不傷、夫是之謂知天。

【曲田】204（マガタ） 姓氏。

【曲度】205（キョクド） 歌のふし。音樂のしらべ。曲調。〔左思、吳都賦〕有殷坻頹於前、曲度難勝。〔魏文帝、典論、論文〕曲度雖均、節奏同檢。

【曲磴】206（キョクトウ） まがりくねつた石段。〔王勃、觀佛跡寺詩〕頹華臨曲磴、傾影赴前除。〔何景明、沅州道中詩〕鉤雲盤曲磴、沿月遡迴溪。

【曲得】207（キョクトク） つぶさに得る。〔荀子、非相〕曲得所謂焉。

【曲突】208（キョクトツ） まがつた煙突。曲突徙薪を見よ。〔張協、雜詩〕里無曲突煙、路無行輪聲。

〔曲突徙薪〕209（キョクトツタキギヲウツス） 火災を豫防するため、かまどの火の出口を外へまげそらせ、其邊にあるたきぎをも他へうつす。禍を未然に防ぐ喩。〔漢書、霍光傳〕客有過主人者、見其竈直突、傍有積薪、客謂主人、更爲曲突、速徙其薪、不者、且有火患、主人嘿然不應、俄而家果失火、鄰里共救之、幸而得息、於是殺牛置酒、謝其鄰人、灼爛者在於上行、餘各以功次坐、而不錄言曲突者、人謂主人曰、鄉使聽客之言、不費牛酒、終亡火患、今論功而請賓、曲突徙薪無恩澤、焦頭爛額爲上客耶、主人迺寤而請之。〔淮南子、說山訓〕淳于髡之告失火、云云。〔注〕髡告其鄰突將失火、云云、言者不爲功、救火者焦頭爛額爲上客、刺不備豫。〔書言故事、事物譬類〕防患未然、曲突徙薪。

【曲破】210（キョクハ） 宋代、雜劇に用ひる樂曲の一。其の組織は大曲と似、若干の小曲を組合はせて作る。碧溪漫志によれば大遍・小遍の別あり、北宋の末までは曲破の大曲とは混同しないが、南宋に至り、初めて兩者を結合す。但、兩者の本來の別は詳でない。武林舊事には萬壽無疆薄媚曲破・萬歲梁州曲破・老人星降黃龍曲破等の名を擧げてゐる。

【曲馬】211（キョクバ） 馬上でいろいろのわざをすること。又、馬を使つて種々のわざをなすこと。〔寬永小說〕朝鮮曲馬を、云云、御覽被遊。

【曲牌】212（キョクハイ） 曲調の各種名色のこと。古は曲の音節は皆牌に書き、丁度今の五線譜に似てゐた。故に一に詞調と名づけ、又、詞牌ともいふ。〔陔餘叢考、曲牌名入詩〕客中閒集載舒芬詩云、爲愛宜春令出遊、風光猶勝小梁州、黃鶯兒唱今朝事、香柳娘牽舊日愁、三擣鼓催花下酒、一江風送渡頭舟、嗟予沉醉東風裏、笑剔銀燈上小樓。

【曲包】213（キョクハウ） つぶさにつつむ。〔文心雕龍、隱秀〕深文隱蔚、餘味曲包。

【曲房】214（キョクバウ） 人目に觸れない所のへや。密室。〔枚乘、七發〕往來游讌、縱恣于曲房隱閒之中。〔陸機、擬古詩〕涼風繞曲房、寒蟬鳴高柳。

〔曲房嬿〕215（キョクバウノエン） 曲房の飲宴。〔阮籍、樂論〕昔先王制樂、非以縱耳目之觀、崇曲房之嬿也。

【曲陌】216（キョクハク） まがりくねつたあぜみち。〔陸機、答張士然詩〕迴渠繞曲陌、通波扶直阡。

【曲薄】216′（キョクハク） 養蠶具の名。竹・木・藁・葦等を編んで、龜甲形・長方形・圓形などに作つたかご。蠶箔。一に曲簿に作る。えびら。薄曲（9－32083··42）を見よ。〔倭名類聚抄、調度部、蠶絲具〕蠶簿、兼名苑云、簿、音薄、衣比良、一名筁、養蠶器、施蠶於其上令作繭者也。〔箋注〕廣雅云、筁、謂之簿、兼名苑蓋依之、養蠶以下蓋兼名苑注文也、按簿筁古作薄苗、方言、薄、宋魏陳楚江淮之閒謂之苗、自關而西謂之薄、史記絳侯世家亦作薄、說文、薄、林薄也、一曰蠶薄、又云、苗蠶薄也、並從艸、其器後世用竹造、故變艸從竹、廣韻、簿、蠶具、傍各切、又云、苗亦作筁、是也、苗、或單作曲、說文、曲字注云、或說、曲、蠶薄也、禮記月令、季春具曲植籧筐、鄭注、曲、薄也、許愼淮南子注云、曲、葦薄也、豳風七月傳云、豫蓄萑葦可以爲曲薄。

【曲簿】216″（キョクハク） 曲薄に同じ。

【曲畑】217（ソリハダ） 下野國の地名。

【曲班】218 ch'ü³ pan¹ 高等な妓樓。曲兒班子。

【曲轓】219（キョクハン） まがつた車のおほひ。〔後漢書、輿服志上〕金龍首銜璧、垂五采析羽流蘇、前後雲氣畫帷裳、櫨文畫曲轓。

【曲庇】220（キョクヒ） 道理を曲げて他をかばふ義。おかげ。庇蔭。〔宋史、袁樞傳〕納厚賂、曲庇之。

【曲眉】221（キョクビ） 三日月形にまがつたまゆ。美人の眉の形容。〔楚辭、大招〕曾頰倚耳、曲眉規只。

〔曲眉豐頰〕222（キョクビホウケフ） まがつた眉とゆたかなほほ。美貌の形容。〔韓愈、送李愿歸盤谷序〕曲眉豐頰、清聲而便體。

【曲媚】223（キョクビ） 意をまげて人に媚びる。〔逸周書、官人解〕其貌曲媚、其言工巧。〔注〕曲媚、曲以媚人。〔後漢書、孔融傳〕曲媚姦臣、爲所牽率。

【曲湄】224（キョクビ） まがつたみぎは。〔陸機、感丘賦〕沿黃河之曲湄。

【曲筆】225（キョクヒツ） ことさらに事實をまげてかきしるす。筆のさきで細工をする。舞文。〔後漢書、臧洪傳〕南史不曲筆以求存。〔魏書、游肇傳〕肇之爲廷尉也、世宗嘗私敕肇有所降恕、肇執而不從曰、陛下自能恕之、豈足令臣曲筆也。

【曲品】226（キョクヒン） 書名。二卷。明、呂天成撰。曲目を記す。〔曲苑〕。

【曲父】227（キョクフ） よこしまな父。道にそむいた父。〔韓非子、忠孝〕皆以堯舜之道爲是而法之、是以有亂君、有曲父。

【曲阜】228（キョクフ） ❶地名。山東省曲阜縣治の東。〔禮、明堂位〕成王封周公於曲阜。〔後漢書、郡國志二、注〕帝王世紀曰、少昊自窮桑登帝位、窮桑在魯北、後徙曲阜。〔風俗通、山澤、阜〕春秋左傳魯公伯禽宅曲阜之地、阜者、茂也、言平地隆踊、不屬於山陵也。❷縣名。古の少皞の墟。周初、曲阜といふ。周公、子伯禽を此に封じて魯國とす。孔子此に生まる。漢、魯縣を置き、魯國の治とす。隋、改めて曲阜縣を置く。宋、仙源と改め、金、曲阜とし、以後皆之を沿稱す。山東省滋陽縣の東。津浦鐵路に沿ふ。城中の闕里に孔子廟及び衍聖公府あり、廟中に孔子の講授の處なる杏壇あり、城北に孔子の墓地なる孔林あり、又、顏林・顏廟及び周公泮池等の古蹟がある。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府〕曲阜縣、古少皞之墟、周公封於此、魯所都也、秦爲薛郡治、漢置魯縣、高帝封功臣奚涓爲侯邑、高后初改爲魯國治、云云、隋開皇三年、廢郡改縣曰汶陽、屬兗州、十六年又改曰曲阜縣、唐武德中省、貞觀八年復置、仍屬兗州、宋大中祥符五年改曰仙源縣、金復爲曲阜縣。〔清史稿、地理志〕山東、兗州府、縣十、曲阜。

〔曲阜集〕229（キョクフシフ） 書名。四卷。宋、曾肇撰。前三卷は詩文、末一卷は附錄。〔四庫提要、集、別集類〕。

【曲傳】230 キョクフ　己を曲げてつきしたがふ。〔莊子、山木〕隨二其彊梁一、隨二其曲傳一。〔釋文〕傳音附、司馬云、謂下曲二附己一者隨上之也。

【曲譜】231 キョクフ　❶謠物や音樂の調子の抑揚高低を示し記したもの。樂譜。❷書名。十四卷。清、康熙五十四年、詹事王奕清等奉敕撰。卷首には諸家の論說、及び九宮譜定論一卷を載せ、次は北曲譜四卷、次は南曲譜八卷、次は失宮犯調の諸曲を別に一卷として末に附す。南曲北曲共に宮調を以て提綱し、每曲各〻詳かに其の音律を注した外、其の舊譜の訛字は亦一々辨證して本調の後に載す。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【曲舞】232 クセマヒ　足利時代に行はれた舞曲の一種。〔申樂談義〕申樂は小歌がかりのみにて曲舞は格別也。

【曲復】233 キョクフク　いくたびも曲ること。〔水經、滱水注〕其水自レ源東逕二其縣故城南一、枉渚迴湍、率多二曲復一、亦謂レ之爲二曲逆水一也。

【曲拂】234 キョクフツ　曲りもとる。曲折。〔王融、三月三日曲水詩序〕曲拂邅廻、潺湲徑復。〔注〕良曰、曲拂邅廻、謂二水曲折流一也。

【曲岪】235 キョクフツ　山のまがりうねる形容。〔楚辭、淮南小山王、招隱士〕坱兮軋、山曲岪。〔補注〕岪、音佛、山曲也。

【曲物】236 キョクブツ　❶まがつてゐるもの。〔管子、宙合〕景不下爲二曲物一直上。❷マゲモノ　へぎ板をまげてまるく造つたいれもの。わげもの。〔東雅、十一、器用〕捲は器似レ斗屈レ木爲レ之、云云、屈レ木爲レ之といふは、今俗にまげものといふ物にして、湯桶などいふものの類也。

【曲兵】237 キョクヘイ　曲つた兵器。戈戟の類。〔韓詩外傳、二〕直兵推レ之、曲兵鉤レ之。

【曲柄】238 キョクヘイ　❶曲つた柄。曲柄笠を見よ。❷機械の名。クランク。曲枴(26)を見よ。

〖曲柄笠〗239 キョクヘイリフ　柄の曲つた笠。〔世說新語、言語〕謝靈運好戴二曲柄笠一、孔隱士謂曰、卿欲レ希二心高遠一、何不レ遺二曲蓋之貌一、謝答曰、將不レ畏レ影者、未レ能レ忘レ懷。

【曲屛】240 キョクヘイ　曲つた屛風。〔蘇轍、詩〕繩牀竹簟曲屛風、野水遙山霧雨濛。〔韻府引、陸游、詩〕乘レ閒終擬歸來作、小草斜行滿二曲屛一。

【曲辨】241 キョクベン　つぶさに道理にかなはしめる。〔荀子、王霸〕儒者爲レ之不レ然、必將二曲辨一。〔注〕辨、理也、委曲使レ歸二於理一也。

【曲辯】242 キョクベン　❶ことば巧に言ひまげる。〔淮南子、泰族訓〕大較易レ爲レ智、曲辯難レ爲レ慧。〔說苑、談叢〕曲辯難レ爲レ慧。❷つぶさに辯ずる。〔商子、農戰〕說者得レ意、道路曲辯。

【曲浦】243 キョクホ　まがりくねつてゐる入江。うらわ。灣。〔張融、海賦〕是其回堆曲浦、欹關弱渚之形勢也。〔薛道衡、從二駕天池一應詔詩〕曲浦騰二煙霧一。〔王勃、遊二蓬池一序〕平郊樹直、曲浦蓮肥。

【曲蓬】246 キョクホウ　まがつたよもぎ。〔潘岳、河陽縣作詩〕曲蓬何以直、託レ身依二叢麻一。

【曲木】247 キョクボク　❶まがつた木。〔漢書、公孫弘傳〕揉二曲木一者不レ累レ日、銷二金石一者不レ累レ月。〔劉歆、遂初賦〕曲木惡二直繩一兮、亦小人之誠也。❷佛 キョクモク 曲彔木(281)の略。

〖曲木几〗248 キョクボクキ　自然木で製したけうそく。脇息。〔庾信、奉三報窮秋寄二隱士一詩〕自然曲木几、無名科斗書。

【曲本】249 キョクホン　戲曲の筋書を記した本。院本を見よ。又、唄本の類をいふ。〔輟耕錄、院本名目〕和曲院本、月名法曲・鄆王法曲・燒香法曲・上墳伊州・燒花新水・熙州駱駝・列良贏府・病鄭逍遙樂・四皓逍遙樂・四酸逍遙樂・駕貼萬年歡・昇廩降黃龍・列女降黃龍。

【曲密】250 キョクミツ　祕密なところ。〔張雨、荅二呂氏園館一詩〕到處華房通二曲密一、舊時醉墨悞欹斜。

【曲目】251 キョクモク　戲曲の目錄。宋、周密の官本雜劇段數・元、鍾嗣成の錄鬼簿・明、陶宗儀の院本名目・呂天成の曲品・清、高奕の傳奇品・黃文暘の曲海目・支豐宜の曲目表・民國、王國維の曲錄等がある。

〖曲目韻編〗252 キョクモクヰンペン　書名。二卷。民國、董康撰。戲曲の目錄を韻によつて排列す。〔曲苑〕。

【曲陽】253 キョクヤウ　縣名。❶漢、上曲陽縣を置き、北齊、曲陽と改む。戰國、趙の曲陽邑。今、河北省定縣の西北。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、定州〕曲陽縣、戰國時趙邑、漢置二上曲陽縣一屬二恆山郡一、云云、北齊改爲二曲陽縣一。〔清史稿、地理志〕直隸、定州直隸州、縣二、曲陽。❷漢、置く。唐、廢す。故城は江蘇省東海縣の西南。〔漢書、地理志上〕東海郡、縣三十八、曲陽。〔注〕應劭曰、在二淮曲之陽一。❸漢、置く。侯國。後漢、西曲陽といふ。晉、廢す。故城は安徽省鳳臺縣の東北。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、定遠縣〕曲陽城、漢置二曲陽縣一屬二九江郡一、後漢曰二西曲陽一、應劭曰、以レ在二淮曲之陽一而名、下邳有二曲陽一、故此加、西晉因レ之、後廢、後魏置二彭沛二郡及南陽縣一治二曲陽城一、云云、後齊廢レ郡爲二曲陽縣一、尋又廢入二定遠一、卽此城。❹漢、置く。安南の北境。❺東晉、置く。湖北省漢陽縣の西。❻南朝宋、置く。安徽省舊廬州府の境。❼後魏、置く。河南省郾城縣の境。❽後魏、置く。河北省定縣の西。❾後魏、置く。安徽省六安縣の境。

【曲踊】254 キョクヨウ　舞踊の一種。身を回らして跳び上ること。一說に、横に跳ぶこと。〔左氏、僖、二十八〕距躍三百、曲踊三百、乃舍レ之。〔注〕曲踊、跳踊也。〔疏〕謂向レ上跳而折復下、故以二曲踊一爲二跳踊一耳。〔杜解補正〕邵氏曰、曲踊、横跳也、横跳必先直而旋、故不レ曰レ横而曰レ曲。〔會箋〕躍踊皆是跳也。〔陸龜蒙、江南秋懷寄二華陽山人一詩〕匹夫能二曲踊一、萬騎可二横行一。

【曲沃】255 キョクヨク　❶地名。㋑春秋、晉の地。晉の昭侯は、其の叔父成師を曲沃に封じたが、其の後武公が此處にうつつた。山西省聞喜縣の東。〔左氏、隱、五〕曲沃莊伯。〔注〕曲沃、晉別封、成師之邑、在二河東聞喜縣一。〔漢書、地理志上、河東郡縣二十四、聞喜、注〕故曲沃、晉武公自二晉陽一徙レ此。㋺戰國、魏の地。秦、魏を伐つて之を拔く。河南省陝縣の西南の曲沃鎭。〔史記、秦紀〕惠文君十一年、歸二魏焦・曲沃一。〔史記、魏世家〕襄王五年、秦圍二我焦・曲沃一。〔注〕正義曰、括地志云、曲沃故城、在二陝縣西南三十二里一。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、陝州〕曲沃城、因二曲沃水一爲レ名、春秋時、晉侯使下詹嘉守二桃林之塞一以備上、秦時以二曲沃之官一守レ此、故名。❷縣名。後魏、置く。漢の絳縣の地。山西省曲沃縣の南。隋、今の治に移す。山西省河東道。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府〕曲沃縣、晉新田之地、漢爲二河東郡絳縣地一、後漢爲二絳邑縣地一、晉屬二平陽郡一、後魏太和十一年改置二曲沃縣一、於レ此屬二正平郡一、隋屬二絳州一、唐宋因レ之、明洪武二年改。〔清史稿、地理志〕山西、平陽府、縣十、曲沃。

〖曲沃負〗256 キョクヨクノフ　戰國、魏の人。大夫如耳の母。魏の哀王が太子の妃を自ら納れんとしたのを諫止して賞を受く。〔列女傳、仁智傳〕。

〖曲沃桓叔〗257 キョクヨクノクワンシユク　春秋、晉の穆侯の子。名は成師。昭侯の時、曲沃に封ぜらる。其の地、晉より大。桓叔、德を好み、衆皆之に附く。潘父、昭侯を弑するに及び、迎へられて晉に入らうとしたが、晉人の拒ぐのに會つて敗れ、曲沃に還る。〔史記、三十九〕。

〖曲沃懸匏〗258 キョクヨクノケンパウ　曲沃の地に產する柄のある瓠。笙をつくる材料として貴ばる。匏は瓠(**7－21392**)に同じ。〔潘岳、笙賦〕河汾之寶、有二曲沃之懸匏一焉。〔注〕善曰、崔豹古今注曰、匏、瓠也、有レ柄曰二懸匏一、可レ爲レ笙也、濟曰、曲沃之地在二河汾閒一、其中所レ寶者懸匏、可レ爲二笙底一。

〖曲沃莊伯〗259 キョクヨクノサウハク　春秋、晉の桓叔の子。名は鱓。孝侯を翼に弑し、晉を伐つ。周の平王が虢公をして晉を援けしめるのに會し、走つて曲沃を保つ。〔史記、三十九〕。

〖曲沃武公〗260 キョクヨクノブコウ　晉武公（**5－13898**‥148）を見よ。

【曲牢】261 キョクラウ　堡の名。陝西省長安縣の南。〔資治通鑑、晉紀〕（武帝、太元十六年）遂渡二渭水一、攻二京兆太守韋範于段氏堡一、不レ克、進據二曲牢一。

【曲洛】262 キョクラク　洛水。うねり曲つてゐるからいふ。〔穆天子傳、五〕天子東遊二於黃澤一、宿二于曲洛一。〔崔駰、大將軍臨洛觀賦〕濱二曲洛一而立レ觀、營二高壤一而作レ廬。

【曲欄】263 キョクラン　まがつた欄干。〔唐彥謙、蒲津河亭詩〕孤棹夷猶期獨往、曲欄愁絕每長憑。

【曲裏】264 キョクリ　すみ。曲り入つたところ。〔桃花扇、移防〕黃河曲裏防レ秋將。

【曲律】265 キョクリツ　書名。❶四卷。明、王驥德撰。詞

曲の作法を述ぶ。〔曲苑〕。㊁一卷。明、魏良輔撰。詞曲の唱法を述ぶ。〔曲苑〕。

【曲梁】266 キヨクリヤウ ㊀魚を捕へるやな。〔廣雅、釋器〕曲梁、謂㆓之罶㆒。〔詩、小雅、魚麗、魚麗㆓于罶㆒、傳〕罶、曲梁也、寡婦之笱也。〔方夔、詩〕鴈高孤月臨㆓空塞㆒、魚退殘星過㆓曲梁㆒。㊁まがつたはり。梁(6−14825)の字解を見よ。㊂縣名。㋑漢、置く。侯國。春秋の時の赤狄の地。北齊、廣年縣を此に移す。河北省永年縣の治。〔左氏、宣、十五〕晉荀林父敗㆓赤狄于曲梁㆒。〔讀史方輿紀要、直隸、廣平府〕永年縣、附郭、春秋時晉之曲梁地、漢爲㆓曲梁縣㆒、屬㆓廣平國㆒。㋺後魏、置く。河南省密縣の東北。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、禹州、密縣、密城〕曲梁城在㆓縣東北㆒、後魏分㆓密縣地㆒置㆓曲梁縣㆒、屬㆓滎陽郡㆒、東魏屬㆓廣武郡㆒、北齊廢。

【曲領】267 キヨクリヤウ まがつたえり。圓領。〔釋名、釋衣服〕曲領在㆑內、所㆓以禁中衣領上、橫壅㆑頸、其狀曲也。〔後漢書、東夷、濊傳〕男女皆衣㆓曲領㆒。〔宋史、輿服志五〕三品以上服㆑紫、五品以上服㆑朱、七品以上服㆑綠、九品以上服㆑青、其制曲領大袖。

【曲膂】268 キヨクリヨ せぼねを曲げること。〔柳宗元、宥㆓蝮蛇㆒文〕絕㆑翼去㆑足無㆓以自扶㆒、曲㆑膂屈㆑脇惟行之紆。

【曲慮】269 キヨクリヨ つぶさに考へる。〔後漢書、袁敞傳〕留㆑心曲㆑慮、特加㆓編覆㆒。

【曲陵】270 キヨクリヨウ 縣名。㊀晉、置く。湖北省應城縣の東南。㊁南朝宋、置く。湖北省漢陽縣の西。㊂南齊、置く。湖北省の境。

【曲綸】271 キヨクリン くるまのしりがひ。車紂。〔方言、九〕車紂、自㆑關而東、或謂㆓之曲綸㆒。

【曲僂】272 キヨクル せむし。〔莊子、大宗師〕曲僂發㆑背、上有㆓五管㆒、頤隱㆓於齊㆒、肩高㆓於頂㆒、句贅指㆑天。

【曲戾】273 キヨクレイ まがりねぢける。〔捫蝨新話、風鑒類、僧文曉相法〕鼻不㆓遍匾㆒、亦不㆓曲戾㆒。

【曲軨】274 キヨクレイ 獵車の前頭部に設ける曲つた高大な橫木。其の中に立つて弓を射る。〔漢書、宣帝紀、太僕以㆓軨獵車㆒奉㆓迎曾孫㆒、注〕今之載獵車也、前有㆓曲軨㆒。

【曲禮】275 キヨクレイ キヨクライ ㊀つぶさな禮式。又、行事に關する禮。事禮。曲は事。〔儀禮、士冠禮、題疏〕且儀禮亦名㆓曲禮㆒、故禮器云、經禮三百、曲禮三千、鄭注云、曲、猶㆑事也、事禮謂㆓今禮㆒也、其中事儀三千、言㆑儀者見㆓行事㆒有㆓威儀㆒、言㆑曲者見㆓行事㆒有㆓屈曲㆒、故有㆓二名㆒也。〔胡培翬正義〕王氏應麟云、朱文公從㆓漢書臣瓚注㆒、謂㆓儀禮㆒乃經禮也、曲禮皆微文小節、如㆓今曲禮・少儀・內則・玉藻・弟子職㆒、所謂威儀三千也、後人多宗㆓朱子之說㆒、則以㆓儀禮㆒爲㆓曲禮㆒非也。㊁禮記の篇名。〔禮、曲禮上、題疏〕鄭目錄云、名曰㆓曲禮㆒者、以㆔其篇記㆓五禮之事㆒、祭祀之說、吉禮也、喪荒去㆑國之說、凶禮也、致㆑貢朝會之說、賓禮也、兵車旌鴻之說、軍禮也、事㆑長敬㆑老、執㆑贄納㆑女之說、嘉禮也、此於㆓別錄㆒屬㆓制度㆒。〔禮、曲禮上、集解〕曲禮者、古禮篇之名、禮記多以㆓簡端之語㆒名㆑篇、此篇名㆓曲禮㆒者、以㆓篇首㆒引㆑之也。

【曲櫺】276 キヨクレイ 曲つた窓のあな。一說に、曲つた梠。〔江淹、雜體、許徵君自序詩〕曲櫺激㆓鮮飆㆒。〔注〕善曰、櫺、窓閒孔也、向曰、櫺、屋梠也。

【曲列】277 キヨクレツ くまなく列ねる。〔荀子、王霸〕一日而曲㆓列之㆒。

【曲路】278 キヨクロ まがりみち。折曲つた路。〔越絕書、越絕外傳吳地傳〕胥門外有㆓九曲路㆒、闔廬造以遊㆓姑胥之臺㆒。〔王勃、上巳宴序〕周川故事、初傳㆓曲路之悲㆒、江甸名流、始命㆓山陰之筆㆒。

【曲廬】279 キヨクロ 清、朱霞(建寧の人)(6−14424‥6)の號。

【曲彔】280 キヨクロク 佛僧家の用ひる椅子の名。よりかかる所を圓く曲げて造つたもの。〔禪林象器箋、十九〕曲彔、蓋刻㆑木屈曲貌、今交椅、曲彔然、故略名㆓曲彔木㆒、遂省㆑木單稱㆓曲彔㆒也。〔明高僧傳、曇華傳〕隨㆑分著㆑衣喫㆑飯、二十年來坐㆓曲彔床㆒。

【曲彔木】281 キヨクロクモク 佛曲彔に同じ。

【曲錄】282 キヨクロク 書名。六卷。民國、王國維撰。戲曲の目錄。作者と作品とを時代及び作者の順に排列し、往々作者の傳記逸事を附記し、又、考證を加ふ。其の目は卷一は宋金時代雜劇・院本、卷二は元代雜劇、卷三は明清雜劇、卷四は元明傳奇、卷五は清朝傳奇、卷六は雜劇傳奇。〔晨風閣叢書、第十冊―十二冊〕・〔王忠愨公遺書〕・〔曲苑〕。

【曲論】283 キヨクロン ㊀正しくない議論。〔文心雕龍、論說〕唯君子能通㆓天下之志㆒、安可㆓以曲論㆒哉。㊁書名。㋑一卷。明、何良俊撰。詞曲の評論。〔古學彙刊〕。㋺一卷。明、徐復祚撰。詞曲の評論。〔古學彙刊〕。

【曲話】284 キヨクワ 書名。㊀四卷。清、梁廷枏撰。詞曲の評論。〔藤花亭十種〕・〔曲苑〕。㊁二卷。清、李調元撰。〔函海、七〕。

【曲隈】285 キヨクワイ ㊀まがつたくま。股閒をいふ。〔莊子、徐無鬼〕奎蹏曲隈乳閒股腳、自以爲㆓安室利處㆒。〔釋文〕向云、曲隈、股閒也。㊁川の廻り流れる所。〔淮南子、原道訓〕以㆓曲隈深潭㆒相予。

【曲枉】286 キヨクワウ まがる。まがり。〔列女傳、母儀、魯季敬姜傳〕夫幅者所㆔以正㆓曲枉㆒也。

【曲彎】287 ch'ü^{1} wan^{1} 曲り。曲る。

【曲豔品】288 キヨクエンピン 書名。一卷。明、潘之恒撰。俳優の品評を記す。〔雪堂韻史、七〕。

【曲遊春】289 キヨクイウシユン 詞牌の名。調は蘋洲漁笛譜に見えてゐる。西湖に遊んだ作。〔武林舊事〕都城自㆑過㆓收鐙㆒、貴游巨室、皆爭㆑先出㆑郊、謂㆓之探春㆒、至㆑禁㆑煙爲㆓最盛㆒、若㆓游之次第㆒、則先㆑南而後㆑北、至㆑午則盡入㆓西泠橋・裏湖㆒、其外幾無㆓一舸㆒矣、弁陽老人曲遊春詞云、看㆓畫船㆒盡入㆓西泠㆒、閑㆓卻半湖春色㆒、蓋紀㆑實也。

【曲射礮】290 キヨクシヤハウ 彎曲した彈道を有する砲の名。二種あり。㊀臼砲をいふ。砲身短く、一に短礮と稱す。彈道の彎曲するもの。㊁田鷄砲をいふ。其の彈道の彎曲の度が臼砲に較べれば大きい。

【曲沭戍】291 キヨクジユツジユ 城の名。江蘇省沭陽縣の西北、建梁山の西。〔水經、沭水注〕魏正光中、齊王之鎭㆓徐州㆒也、立㆓大堨㆒遏㆑水西流、兩瀆之會、置㆑城防㆑之、曰㆓曲沭戍㆒。

【曲則全】292 キヨクナレバスナハチマツタシ 曲全(168)を見よ。

【曲女城】293 コクニヨジヤウ 佛地名。羯若鞠若國の王城の一名。〔西域記、二〕。

【曲方氏】294 キヨクハウシ 防風の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕曲方氏、防風。

【曲鬣魚】295 キヨクレフギヨ 鯛の異名。〔本草〕。

【曲洧舊聞】295′ キヨクヰキウブン 書名。十卷。宋、朱弁撰。北宋の君臣の事迹を述べ、兼ねて詩話文評及び諸の考證に及んでゐる。〔四庫提要、子、雜家類〕・〔五朝小說、第十六冊〕・〔說郛、第三十七冊〕・〔知不足齋叢書、第二百十二・二百十三冊〕・〔學津討源、第十四冊〕。

【曲爲㆓之防㆒】296 ツブサニコレガバウヲナス つぶさにふせぎをする。〔漢書、禮樂志〕周監㆓於二代㆒、禮文尤具、事爲㆓之制㆒、曲爲㆓之防㆒。〔注〕師古曰、言㆓每㆑事立㆑制、委曲防閑㆒也。

【曲園雜纂】297 キヨクヱンザツサン 書名。五十卷。清、兪樾撰。隨筆。〔春在堂全集、第三十三―四十冊〕。

【曲高和寡】298 キヨクタカクシテワスルモノスクナシ 曲調が高いのに和するものが少い。才能がありながら不遇である喩。〔宋玉、答㆓楚王問㆒〕客有㆘歌㆓於郢中㆒者㆖、其始曰㆓下里巴人㆒、國中屬而和者數千人、其爲㆓陽阿薤露㆒、國中屬而和者數百人、其爲㆓陽春白雪㆒、國中屬而和者數十人、引㆑商刻㆑羽、雜以㆓流徵㆒、國中屬而和者、不㆑過㆓數人㆒而已、是其曲彌高、其和彌寡。

【曲曲回顧】299 キヨクキヨククワイコ 曲る度每にふりかへつて見る。〔鹽谷宕陰、遊㆓墨水㆒記〕曲曲回顧、花幔蔽㆑地、恍疑㆑無㆑路。

【曲曲灣灣】300 ch'ü^{1} ch'ü^{1} wan^{1} wan^{1} くねくねと曲つた形容。

【曲湖逸人】301 キヨクコイツジン 明、安大嵩(3−7072‥566)の號。

【曲兒班子】302 ch'ü^{3} êrh pan^{1} tzŭ 高等の妓樓。清吟小班(7−17695‥202)に同じ。

【曲而不㆑屈】303 マガレドモタワマズ 曲つて居るけれども折れない。〔左氏、襄、二十九〕直而不㆑倨、曲而不㆑屈。

【曲終奏㆑雅】304 キヨクヲハリテガヲソウス 世俗の音樂を奏し終り、後、更に正しい樂章を唱ふのをいふ。結局の美善なものの喩。〔史記、司馬相如傳贊〕相如雖㆑多㆓虛辭濫說㆒、然其要歸㆓引之節儉㆒、揚雄以爲、靡麗之賦、勸㆑百風㆑一、猶㆘馳㆓騁鄭衞之聲㆒、曲終而奏㆑雅、不㆓已虧㆒乎。

【曲渚回灣】305 キヨクシヨクワイワン まがつたみぎはと入り組

んだ入江。〔海錄碎事、地、陂澤〕周朴、曲渚回灣鎖㆓釣舟㆒。

【曲植蘧筐】306（キヨクチキヨキヤウ） 蠶具の名。曲はかひこのす。植はかひこのすばしら。蘧は竹むしろ。筐はかたみ。植(**6**－**15023**)・蘧(**8**－**26777**)・筐(**8**－**26001**)の各字解を見よ。〔禮、月令〕鳴鳩拂㆓其羽㆒、戴勝降㆓于桑㆒、具㆓曲植蘧筐㆒。〔注〕曲、薄也、植、槌也。

【曲身小子】307（キヨクシンセウシ） 鰕の異名。〔事物異名錄、水族、鰕〕事物紺珠、鰕、名㆓長鬚公・虎頭公・曲身小子㆒。

【曲寮居士】308（キヨクレウコジ） 淸、胡重(**9**－**29400**··262)の號。

【審㆓曲面執㆒】309（キヨクメンセイヲツマビラカニス） 工匠が物の曲直方面形勢をつまびらかに察し、それに適ふやうに用ひること。〔周禮、考工記、總目〕或審㆓曲面執㆒、以飭㆓五材㆒、以辨㆓民器㆒。〔注〕鄭司農云、審㆓曲面執㆒、審㆓察五材曲直方面形執之宜㆒以治㆑之。

【託㆑曲假㆑論】310（キヨクヲタクシロンヲカル） 音曲を假託し、論說を借り用ひる。〔江淹、雜體詩序〕邯鄲託㆓曲於李奇㆒、士季假㆓論於嗣宗㆒。

【臾】 14281

ユ

臾(**9**－**30178**)の俗字。〔正字通〕臾、俗臾字。

【曳】 14282

エイ

〔集韻〕以制切 霽 ㄧˋ i^4 ㄧㄝˋ yeh^4

小篆

❶**ひく**。㋑ひきくくる。〔說文〕曳、臾曳也、从㆑申丿聲。㋺ひきづる。地をすり行く。〔詩、唐風、山有樞〕子有㆓衣裳㆒、弗㆑曳弗㆑婁。〔儀禮、士相見禮〕執㆑玉者則唯舒㆑武、擧㆑前曳㆑踵。㋩ひきよせる。ひつぱる。〔一切經音義、十九〕曳、引也。㋥ひきのばす。〔李商隱、韓碑詩〕長繩百尺曳㆑碑倒。〔司馬相如、子虛賦〕曳㆓明月之珠旗㆒。㋭たなびく。〔曹毗、臨園賦〕青霞曳㆓于前阿㆒、素籟流㆓于森管㆒。❷**ひかれる**。〔賈誼、弔㆓屈原㆒賦〕賢聖逆曳兮、方正倒植。❸**つまづく**。〔後漢書、馮衍傳〕年雖㆓疲曳㆒、猶庶㆓幾名賢之風㆒。〔注〕曳、猶㆑頓也。❹**こえる**。跇(**10**－**37434**)に通ず。〔說文通訓定聲〕曳、叚借爲㆑跇。〔王褒、洞簫賦〕超騰踰曳。〔注〕善曰、曳、亦踰也、或爲㆑跇。❺抴(**5**－**11920**)・拽(**5**－**12013**)に同じ。〔說文通訓定聲〕曳、按、實與㆑抴同、字亦作㆑拽。

名乘 トヲ。ノブ。

解字 會意形聲。申と丿との合字。申はのびる義、丿は抴の義。合して引張る義とする。且つ丿（エイ）は音符。〔說文、曳、段注〕丿見㆓十二篇㆒、余制切、抴也、象㆓抴引之形㆒、形聲包㆓會意㆒也。

【曳曳】1（エイエイ） たなびくさま。搖曳(**5**－**12479**··2)に同じ。〔孟浩然、行至㆓汝墳㆒云云詩〕洛川方罷㆑雪、嵩嶂有㆓殘雲㆒、曳曳半空裏、溶溶五色分。

【曳影】2（エイエイ） 顓頊の靈劍の名。〔拾遺記、一、顓頊〕有㆓曳影之劍㆒、騰㆑空而舒、若四方有㆑兵、此劍則飛起指㆓其方㆒、則剋伐、未㆑用之時、常於㆓匣裏㆒如㆓龍虎之吟㆒。

【曳縞】3（エイカウ） しろぎぬを曳く。衣服の贅澤なのをいふ。〔漢書、食貨志上〕千里游敖、冠蓋相望、乘㆑堅策㆑肥、履㆑絲曳㆑縞。

【曳銜】4（エイカン） ひきふくむ。〔楚辭、天問〕鴟龜曳銜、鮌何聽焉。〔補注〕曳、牽也、引也。

【曳牛】5（エイギウ） うしをひく。牽牛。〔北史、伊馛傳〕馛少勇健、走及㆓奔馬㆒、善射、力曳㆑牛卻行。

【曳裾】6（エイキヨ） ❶もすそを地にひきずる。〔鄒陽、酒賦〕曳㆓長裾㆒、飛㆓廣袖㆒、奮㆓長纓㆒。❷ひそかに訪ねる。〔福惠全書、蒞任部、禁私謁〕若㆓其私宅曳㆑裾、入㆑暮謀㆑面。

〖曳裾侯門〗7（エイキヨコウモン） もすそを王侯の門にひく。權貴の食客をいふ。〔漢書、鄒陽傳〕飾㆓固陋之心㆒、則何王之門、不㆑可㆑曳㆓長裾㆒乎。

【曳笻】8（エイキヨウ） つゑをひく。曳杖。〔陸游、東關詩〕路入㆓東關㆒物象奇、角巾老子曳㆓笻杖㆒。

【曳屨】9（エイク） くつを曳く。步く。出入する。〔韓愈、文〕奔㆓走形勢之途㆒、曳㆓屨侯王之門㆒。

【曳繭】10（エイケン） 蠶が繭を引くやうに長くつづくこと。〔韻府引、元好問、詩〕湘絃沈沈寫㆓幽怨㆒、愁心歷亂如㆓曳繭㆒。

【曳衒】11（エイゲン） 夫婦が連れだつて市中を賣りあるく。〔楚辭、天問〕妖夫曳衒、何號㆓于市㆒。〔注〕昔周幽王之前世、有㆓童謠㆒曰、檿弧箕服、實亡㆓周國㆒、後有㆔夫婦賣㆓是器㆒、以爲㆓妖怪㆒、執而曳戮㆓之於市㆒也。〔補注〕曳、牽也、引也、衒、行且賣也、曳衒、言㆔夫婦相引、行㆓賣於市㆒也。

【曳縰】12（エイシ） 足を引きずる。〔莊子、讓王〕曳縰而歌㆓商頌㆒。

【曳踵】13（エイシヨウ） 踵を地から離さずにすりあしであるく。〔禮、玉藻〕執㆓龜玉㆒擧㆑前、曳㆑踵、蹜蹜如也。〔疏〕踵、謂㆓足後跟㆒也、謂㆘將㆑行之時、初擧㆓足前㆒、後曳㆓足跟㆒、行不㆖㆑離㆑地。

【曳咠】14（エイゼフ） 爭ひ言ふ。〔玉篇〕咠、曳咠、爭言也。

【曳足】15（エイソク） 足を引きずる。〔後漢書、馬援傳〕賊每㆓升㆑險鼓譟㆒、援輒曳㆑足以觀㆑之。

【曳地】16（エイチ） 地上を引きずる。〔後漢書、輿服志上〕建㆓太常十有二旒㆒、九仞曳㆑地。

【曳杖】17（エイチヤウ） つゑをひく。曳笻。〔禮、檀弓上〕孔子蚤作、負㆑手曳㆑杖、消㆓搖于門㆒。〔孔子家語、終記解〕孔子晨作、負㆑手曳㆑杖、逍㆓遙於門㆒。〔南史、任昉傳〕卒然曳㆑杖、徒行㆓邑郭㆒。

【曳咥】18（エイテツ） 河の名。新疆省焉耆縣の西。〔類篇〕曳、西戎有㆑河名㆓曳咥㆒。

【曳白】19（エイハク） 紙筆を手にして空しく沈吟し、一字も記さないで白紙を呈出すること。唐の張奭が無學で、帝の前に試驗された時、終日筆を下すことが出來ず、白紙を呈出して時人に曳白と稱せられた故事。〔唐書、苗晉卿傳〕李林甫爲㆓尙書㆒專㆓國政㆒、以㆓銓事㆒委㆓晉卿及宋遙㆒、云云、天寶二載、判㆓入等者凡六十四人㆒、分㆓甲乙丙三科㆒、以㆓張奭㆒爲㆓第一㆒、奭御史中丞倚之子、倚新得㆓幸於帝㆒、晉卿欲㆑附㆑之、奭本無㆑學、故議者囂然不㆑平、安祿山因㆑間言㆑之、帝御㆓花萼樓㆒、覆實中裁十一二、奭持㆑紙、終日筆不㆑下、人謂㆓之曳白㆒。〔事類全書〕張奭手持㆑紙、終日不㆑成㆓一字㆒、時人謂㆓之曳白㆒。〔六部成語、禮部、曳白、注解〕不㆑能㆑做㆑文、亦不㆑成㆓一字㆒、只以㆓白紙卷子㆒呈交、謂㆓之曳白㆒、俗名㆓交白卷子㆒。

【曳尾】20（エイビ） 尾を引きずる。仕官して束縛を受けるよりは、貧賤でも鄉里に安全を謀る方が勝つてゐるといふ喩。隱者の喩。曳㆓尾塗中㆒(**4**－**7650**··74)を見よ。〔莊子、秋水〕吾聞、楚有㆓神龜㆒、死已三千歲矣、王巾㆑笥而藏㆓之廟堂之上㆒、此龜者、寧其死爲㆓留㆑骨而貴㆒乎、寧其生而曳㆓尾於塗中㆒乎。〔蜀志、郤正傳〕曳㆓尾於塗中㆒、穢㆓濁世之休譽㆒。

〖曳尾堂〗21（エイビダウ） 熊坂邦の號。熊坂台洲(**7**－**19294**··180)を見よ。

【曳仆】22（エイフ） ひきたふす。〔韻府引、唐書、朱偓傳〕每㆑對㆑客、奴童相詬、曳㆓仆諸前㆒。

【曳兵】23（エイヘイ） 兵器をひきずること。敵に向ふ氣勢なく逃れるさま。〔孟子、梁惠王上〕棄㆑甲曳㆑兵而走。

【曳剌】24（エイラツ） 曳落河(28)に同じ。〔馬致遠、薦福「碑曲〕。

【曳輪】25（エイリン） 車の輪を曳き止めて進むことを止める。用心すること。〔易、既濟〕初九、曳㆓其輪㆒、濡㆓其尾㆒、无㆑咎。〔本義〕曳㆑輪則車不㆑前。

【曳婁】26（エイロウ） 衣服の裾を地に曳きずる。婁も曳く意。〔詩、唐風、山有樞〕子有㆓衣裳㆒、弗㆑曳弗㆑婁。〔傳〕婁亦曳也。〔疏〕曳婁、俱是著衣之事、故云㆓婁亦曳㆒也。

【曳光彈】27（エイクワウダン） 夜間敵狀を察知するために投ずる光を發する彈。

【曳落河】28（エイラクカ） 健兒をいふ。回鶻語。〔唐書、房琯傳〕彼曳落河雖㆑多、能當㆓我劉秩㆒乎。〔唐書、回鶻下、同羅傳〕曳落河、猶㆑言㆓健兒㆒云。

【曳履軒】29（エイリケン） 廣東省惠陽縣の沖虛觀にある建物の名。南海の大守鮑靚が葛洪を訪うた所。〔明一統志〕惠州沖虛觀有㆓曳履軒㆒、相傳、南海太守鮑靚、嘗夜訪㆓葛洪㆒、與語達㆑旦乃去、人訝㆓其往來之頻而不㆒㆑見㆑車、使㆓人往密伺㆒㆑之、但見㆓雙燕飛至㆒、網㆑之得㆓雙履㆒。

【曳練坊】30（エイレンバウ） 呉都の街の名。〔呉地記〕孔

子登二泰山一、望二東呉閶門一、歎曰、呉門有二白氣如一レ練、今置二曳練坊及望舒坊一、因レ此。

【曳瑟知林】31 エイシツチリン 林の名。杖の林といふ意。婆羅門が、釋迦佛の身長の一丈六尺であるといふのを疑ひ、一丈六尺の竹の杖で佛身を量らうとしたが、遂に杖が短くて佛身を量ることが出來なかつたので杖を投棄てたものが林となつたと傳へらる。〔大唐西域記、九〕曳瑟知林、唐言二杖林一、林竹脩勁、被レ山滿レ谷、先有二婆羅門一、聞二釋迦佛身長丈六一、常懷二疑惑一、未二之信一也、乃以二丈六竹杖一、欲レ量二佛身一、恆於二杖端一、出過二丈六一、如是增高、莫二能窮一レ實、遂投レ杖而去、因植根焉。

三畫

【更】14283

㊀ カウ キヤウ 〔集韻〕居行切 ㄐㄧㄥ ㄍㄥ 庚 ching¹ kêng¹

㊁ カウ キヤウ 〔集韻〕古孟切 ㄍㄥˋ 敬 kêng⁴

小篆

㊀❶**かへる**。㋑あらためる。㪅(**5―13158**)に同じ。〔集韻〕㪅、隸作レ更。〔說文〕㪅、改也、从レ攴丙聲。〔論語、子張〕更也人皆仰レ之。〔集解〕孔安國曰、更、改也。〔呂覽、先識〕聞二五盡一而更レ之。〔注〕更、猶レ革也。〔漢書、王嘉傳〕又數改二更政事一。〔注〕師古曰、更、亦變。㋺とりかへる。〔小爾雅、廣詁〕更、易也。〔儀禮、大射儀〕更レ爵洗。〔注〕更、易也。〔禮、儒行〕乃留、更レ僕未レ可レ終也。〔釋文〕更、代也。〔呂覽、仲春〕用二圭璧一更二皮幣一。〔注〕更、代也。❷**かはる**。㋑あらたまる。〔管子、侈靡〕應國之稱號亦更矣。〔莊子、達生〕正平則與レ彼更生。㋺いりかはる。交代する。〔漢書、鼂錯傳〕一歲而更。〔注〕師古曰、更、謂二易代一也。❸**こもごも**。かはるがはる。たがひに。〔類篇〕更、迭也。〔張衡、西京賦〕祕舞更奏、妙材騁伎。〔注〕綜曰、更、遞也。❹**さきもり**。漢時、邊戍の稱呼。交代して役に服する義。〔漢書、昭帝紀〕逋二更賦一。〔注〕如淳曰、古者正卒無レ常、人皆當二迭爲一レ之、云云、天下人皆直レ戍レ邊三日、亦名爲レ更、云云、不レ可二人人自行三日戍一、云云、因便一歲一更、諸不レ行者、出二錢三百一入レ官。❺**夜間の時限の稱呼**。一夜を五更に分ける。夜警をする者が更代する義。〔正字通〕更、因レ時變易、漏刻曰レ更。〔班固、西都賦〕衞以二嚴更之署一。〔注〕善曰、薛綜西京賦注曰、嚴更、督レ行レ夜鼓也。❻**つぐ**。つづく。庚(**4―9278**)に通ず。〔說文通訓定聲〕更、叚借爲レ庚。〔國語、晉語四〕姓利相更。〔注〕更、續也。❼**つぐなふ**。〔廣雅、釋言〕更、償也。〔穀梁、襄、三十〕更二宋之所一レ喪財一也。〔注〕更、償也。〔史記、平準書〕悉二巴蜀租賦一、不レ足二以更一レ之。〔注〕集解曰、更、償也。❽**へる**。經(**8―27508**)・徑(**4―10118**)に通ず。〔說文通訓定聲〕更、叚借爲レ經、實爲レ徑、經・更雙聲。〔玉篇〕更、歷也。〔顏氏家訓、書證〕更、歷也、經也。〔詩、小雅、大東、終日七襄、箋〕謂レ更二其肆一也。〔釋文〕更、歷也。〔史記、大宛傳〕必更二匈奴中一。〔注〕索隱曰、更、經也。〔漢書、溝洫志〕更二底柱之艱一。❾**ふける**。すぎる。〔廣雅、釋詁三〕更、過也。❿**よい**。炳(**7―18960**)に通ず。〔說文通訓定聲〕更、叚借爲レ炳。〔周禮、考工記、函人〕則材更也。〔注〕鄭司農云、更、善也。⓫**としより**。叟(**2―3176**)の譌字。經歷をつんだ人の意ともいふ。〔禮、文王世子〕三老五更。〔注〕年老更レ事致レ仕者也。〔釋文〕更、蔡作レ叟。〔魏書、尉元傳〕尊レ老尚レ更。⓬**姓**。〔姓氏尋源〕魏有二更嬴一、見二國策一、當レ爲二五更者之後一以爲レ氏。㊁**さらに**。また。ふたたび。あらためて。その上に。一層。一段と。〔正字通〕更、再也、復也。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕仍更被二驅遣一。〔杜甫、題二李尊師松樹障子一歌〕已知仙客意相親、更覺良工心獨苦。〔王之渙、登二觀鵲樓一詩〕欲レ窮二千里目一、更上一層樓。邦❶**さら**。㋑あら。新しい。㋺いふまでもない。もちろん。❷**さらに**。一向に。ちつとも。

名乘 ノブ。サラ。トヲ。トク。

【更衣】1 カウイ ❶著物をきかへる。ころもがへ。〔史記、外戚世家〕是日武帝起更レ衣、子夫侍尚レ衣。〔漢書、灌夫傳〕坐乃起更レ衣。〔注〕師古曰、更、改也、凡久坐者皆起更レ衣、以二其寒暖或變一也。〔後漢書、祭祀志上〕日中後到二山上一更レ衣。❷賓客が衣をかへる部屋。〔漢書、東方朔傳〕後迺私置二更衣一。〔注〕師古曰、爲二休息易一レ衣之處、亦置二宮人一。〔王先謙補注〕劉敞曰、更衣、休息處爾、非三必有二宮人一也、史文自無レ之、後傳田延年起至二更衣一、然則貴賤同二此名一也。〔漢書、王莽傳下〕見二王路堂一者、張二於西廂及後閣更衣中一。〔注〕晉灼曰、更衣中、謂下朝賀易二衣服一處上、室屋名也。〔漢書、楊敞傳〕延年起至二更衣一。〔注〕師古曰、古者、延賓必有二更衣之處一也。〔容齋四筆、更衣〕堂後小室名レ之曰二更衣一、以爲二姻賓憩息地一。❸古人は厠に行くとき衣を改めたことから、厠に行くのをいふ。〔論衡、四諱〕夫更衣之室、可レ謂レ臭矣、然而有下甘二之更衣之室一、不中以爲上忌。〔傷寒論、注〕古人登レ厠時必更レ衣。〔通俗編、服飾、更衣〕按二諸注一、則更衣乃實言三更二易衣服一、而論衡四諱篇云、更衣之室、可レ謂レ臭矣、則似二指以爲一レ厠、漢人之言、必亦有レ所レ據也。❹㋑古の女官の一。女御に次ぎ、天皇の寢に御す。此の稱は仁明天皇の御代に起る。〔續日本後紀、十一〕並太上天皇更衣也。㋺ワタヌキ 姓氏。

【更衣曲】2 カウイキヨク 唐の新樂府の名。劉禹錫の作。漢の武帝が平陽主の家に行幸し、衞子夫を見て意動き、起つて更衣し因つて之を幸した故事に取つて作る。〔樂府詩集、新樂府辭、樂府雜題、更衣曲〕漢武帝故事曰、武帝立二衞子夫一爲二皇后一、初上行二幸平陽主家一、主置レ酒作レ樂、子夫爲二主謳者一、善歌能造レ曲、每歌挑レ上、上意動、起更レ衣、子夫因侍得レ幸、頭解、上見二其美髮一悅レ之、主遂納二子夫於宮一、更衣曲其取二於此一。〔劉禹錫、更衣曲〕博山炯炯吐二香霧一、紅燭引至更衣處、夜如何其夜漫漫、鄰雞未レ鳴寒雁度、庭前雪壓二松桂叢一、廊下點點懸二紗籠一、滿堂醉客爭笑語、嘈囋琵琶音幕中。

【更位】3 カウヰ 再び帝位に卽くこと。重阼(**11―40132··310**)に同じ。〔太神宮諸雜事記、一〕高野女天皇更位。

【更爲】4 カウヰ あらためつくる。〔論衡、對作〕造端更爲、前始未レ有。

【更盈】5 カウエイ 更嬴に同じ。〔通志、氏族略、更氏、注〕國策、魏有二更盈一、能虛弓落レ鴈。

【更嬴】6 カウエイ 戰國の人。射を善くし、虛發よく鳥を落す。〔戰國、楚策〕更嬴謂二魏王一曰、臣爲レ王引レ弓、虛發而下レ鳥。〔左思、魏都賦〕控レ弦簡發、妙擬二更嬴一。

【更徭】7 カウエウ 交代で邊境の守備に當ること。漢代、人民の義務の一。〔史記、貨殖傳〕庶民農工商賈、率亦歲萬息二千、云云、而更徭租賦出二其中一。

【更繇】8 カウエウ 更徭に同じ。〔漢書、循史、文翁傳〕招二下縣子弟一、以爲二學官弟子一、爲除二更繇一。

【更易】9 カウエキ かへる。〔福惠全書、涖任部、馭衙役〕至レ是畏縮、更易新充二蠢朴者一。

【更嫁】10 カウカ ふたたびよめにゆく。〔漢書、蘇武傳〕子卿婦年少、聞二已更嫁一矣。〔國朝漢學師承記、錢大昕〕去而更嫁、不レ謂二之失一レ節。

【更改】11 カウカイ ❶かへあらためる。〔宋書、律歷志上〕太子率更令・領國子博士何承天、表三更二改元嘉曆法一。❷新債務を發生せしめて舊債務を消滅せしめること。

【更該】12 kêng⁴ kai¹ 尙更云云すべきである。

【更行】13 カウカウ 女が再び緣づくこと。再緣する。再嫁。〔南史、徐孝嗣傳〕父被ㇾ害、孝嗣在ㇾ孕、母年少欲㆓更行㆒、不ㇾ願ㇾ有ㇾ子。

【更香】14 ching¹ hsiang¹ 夜番をする者が燒く線香。一本ごとに交代し、五回交代して五更に至る。

【更號】15 カウガウ ㊀夜廻り番のしるし。〔資治通鑑、唐記〕高祖、武德元年、知㆓其虛實㆒、得㆓其更號㆒。〔注〕更號、持更之號。㊁更め號す。呼び名を改めること。〔史記、晉世家〕曲沃武公已卽ㇾ位三十七年矣、更號曰㆓晉武公㆒。

【更革】16 カウカク あらためる。あらたまる。〔牧野藻洲、撤藩置縣〕王政維新、百弊更革。

【更議】17 カウギ さらに評議する。〔史記、文帝紀〕今釋ㇾ宜ㇾ建而更選㆓於諸侯及宗室㆒、非㆓高帝之志㆒也、更議不ㇾ宜。

【更休】18 カウキウ かはるがはる休む。又、休番の人。〔宋史、滕元發傳〕夏若併ㇾ兵犯ㇾ我、雖㆓八將㆒不ㇾ敵、若其不ㇾ來、四將足矣、卒遣㆓更休㆒防ㇾ秋。〔蘇軾、稼說、送㆓張琥㆒〕可㆓以更休、而地力得ㇾ全。

【更強】19 kêng⁴ ch'iang² 更に勝れた。

【更級】20 サラシナ 信濃國の地名。

【更居】21 カウキヨ 居所をかへる。移轉する。〔史記、貨殖傳〕三河在㆓天下之中㆒、若㆓鼎足㆒、王者所㆓更居㆒也。〔柳宗元、鈷鉧潭記〕既芟ㇾ山而更ㇾ居。

【更擧】22 カウキヨ 繰返して行ふこと。〔左氏、僖、五〕宮士奇以㆓其族㆒行、曰、虞不ㇾ臘矣、在㆓此行㆒也、晉不㆓更擧㆒矣。

【更化】23 カウクワ あらためて敎化する。〔漢書、禮樂志〕爲ㇾ政而不ㇾ行、甚者必變、而更化ㇾ之、廼可ㇾ理也。

【更科】23′ サラシナ 更級に同じ。

【更科日記】23″ サラシナニッキ 書名。一卷。菅原孝標の女の日記。前半は、作者が天喜三年、十三歲で父孝標と共に上總國より京に上るまでの事を記し、後半は、夫俊通が任國信濃より上京中、病死するまでの概略を記したもの。

【更換】24 カウクワン あらためる。とりかへる。交換。〔徐賁、憶長安行〕侯王更換恨ㇾ難ㇾ勝。〔福惠全書、蒞任部、謹關防〕親信紀綱、輪班更換。

【更月】25 キサラギ 陰曆二月の異名。

【更兼】26 kêng⁴ chien¹ 兼ねて。其の他に。其「の上。

【更元】27 カウゲン 年號を改める。改元(**5**−**13114**··40)に同じ。〔古今原始、七〕黃晟曉、漢文帝詔更ㇾ元。

【更弦】28 カウゲン つるいとをかへる。もとをあらためる。〔福惠全書、蒞任部、革陋規〕易ㇾ轍更ㇾ弦、未ㇾ免ㇾ來㆓鮮ㇾ終之誚㆒。

【更鼓】29 カウコ 夜中、時刻をしらせるためにうつ太鼓。〔東軒筆錄、十〕聞㆓更鼓分明㆒、以ㇾ是知㆓其必善政㆒也。〔蘇軾、夜過㆓舒堯文㆒云云詩〕長夜默坐數更鼓。〔元史、齊履謙傳〕請㆘重建㆓鼓樓㆒、增㆗置更鼓㆖。

【更互】30 カウゴ かはるがはる。交互。更互演繹を「見よ。

【更互演繹】31 カウゴエンエキ 甲と乙との理を雙方から引き合はせ、之を伸べ廣げて說明する。〔朱熹、中庸章句序〕於ㇾ是推㆓本堯舜以來相傳之意㆒、質以㆘平日所ㇾ聞㆓父師㆒之言㆖、更互演繹、作㆓爲此書㆒、以詔㆓後之學者㆒。

【更興】32 カウコウ ㊀かはるがはる興る。〔後漢書、桓譚傳〕威德更興、文武迭用。㊁北魏(元魏)の孝莊帝の時、汝南王悅の僭年號。一に更新に作る。(529)㊂北周、柳慶(**6**−**14662**··88)の字。

【更紗】33 サラサ 五彩の模樣を押して染めた金巾。もと印度西岸のサラタ等から渡來した。ポルトガル語 saraça のあて字。

【更葬】35 カウサウ あらため葬る。既に葬った屍を更に葬りなほすこと。改葬。〔呂覽、異用〕周文王使㆓人抇ㇾ池、得㆓死人之骸㆒、吏以聞㆓於文王㆒、文王曰、更㆓葬之㆒。

【更造】36 カウザウ つくりかへる。〔漢書、食貨志下〕更㆓造四銖錢㆒。

【更索】37 カウサク さらにさがしもとめる。〔漢書、藝文志〕道術缺廢、無ㇾ所㆓更索㆒。

【更算】38 カウサン 更賦(91)に同じ。〔後漢書、桓帝紀〕詔、太山琅邪遇ㇾ賊者、勿ㇾ收㆓租賦㆒、復㆓更算㆒三年。

【更始】39 カウシ ㊀舊いものをあらため新らしくはじめる。又、あらたまつてはじまる。更新。革新。〔禮、月令〕數將ㇾ幾ㇾ終、歲且㆓更始㆒。〔荀子、禮論〕其在㆓宇中㆒者、莫ㇾ不㆓更始㆒也。〔莊子、盜跖〕與㆓天下㆒更始、罷ㇾ兵休ㇾ卒。〔史記、吳王濞傳〕唯上棄ㇾ之、而與更始。〔漢書、宣帝紀〕元康二年、赦㆓天下㆒、與㆓士大夫㆒厲精更始。㊁川の名。四川省西陽縣から東流、湖南省永順縣にて西水に注ぐ。一名、北河。〔水經、延江水注〕更始水卽延江枝分之始也、延江水北入㆓涪陵水㆒、云云、又東南至㆓武陵西陽縣㆒、入㆓于西水㆒。㊂年號。㋑漢末、淮陽王(劉玄)の時。(23−25)㋺五胡十六國の西燕の威帝(慕容冲)の時。(385)㋩秦の高祖武元王(乞伏乾歸)の時。(409−412)

【更始帝】40 カウシテイ 後漢、淮陽の玄王の一名。劉玄(**2**−**2224**··260)を見よ。

【更是】41 kêng⁴ shih⁴ 別して。

【更次】42 カウジ ㊀更番の順序次第。〔管子、度地〕令㆘甲士以㆓更次㆒益㆖薪。㊁あらためやどる。〔國語、魯語上〕今命ㇾ臣更㆓次於外㆒、爲㆓有司之以ㇾ班命ㇾ事也、無㆓乃違㆒乎。〔注〕次、舍也。㊂ kêng¹ tzŭ 夜番と夜番とが交代する間の時間。

【更事】43 カウジ ㊀世事を經驗する。〔漢書、平帝紀〕其歷ㇾ職更ㇾ事有ㇾ名之士、則以爲ㇾ難ㇾ保、廢而弗ㇾ擧。〔論衡、程材〕文吏更ㇾ事、儒生不ㇾ習。〔隋書、李雄傳〕吾兒既少、更ㇾ事未ㇾ多。㊁事をかへる。〔史記、魏世家〕更ㇾ事必就㆓易與ㇾ利。㊂しばしばある事柄。常事をいふ。〔史記、秦紀〕晉旱、來請ㇾ粟、繆公問㆓公孫支㆒、支曰、饑穰、更事耳、不ㇾ可ㇾ不ㇾ與。

【更嘗】44 カウシヤウ 實際に經驗する。〔埤雅、釋獸、羝〕諺曰、智如㆓禹湯㆒、不ㇾ如㆓更嘗㆒、是以樊遲請ㇾ學ㇾ稼、孔子曰、吾不ㇾ如㆓老農㆒。〔蘇軾、次㆜韻子由送㆛趙屼歸㆓觀錢塘㆒遂赴㆚永嘉㆙詩〕宦游無㆓遠近㆒、民事要㆓更嘗㆒。

【更酌】45 カウシヤク 互に酒を酌みかはす。〔論語、八佾、管氏亦有㆓反坫㆒集解〕鄭玄曰、若與㆓鄰國君㆒爲㆓好會㆒、其獻酢之禮更酌、酌畢則各反㆓爵於坫上㆒。

【更戍】46 カウジユ かはるがはるまもる。〔宋史、神宗紀二〕熙寧三年、立㆓諸路更戍法㆒。

【更授】47 カウジユ あらためて官職をさづける。改任。〔晉書、石苞傳〕以㆓苞計畫不ㇾ同、慮ㇾ敵過ㇾ甚、故徵還更授。

【更巡】48 カウジユン いりかはりめぐる。〔太玄經、玄攡〕天日錯行、陰陽更巡。

【更鐘】49 カウシヨウ 夜の時刻を報ずるために鳴らす鐘。〔洪邁、俗考〕漢書侯士百餘人、五㆓分夜㆒擊㆓刁斗㆒自守、師古曰、夜有㆓五更㆒、故分而持ㇾ之、唐六典大史門典鐘、二百八十人、掌㆓鐘漏㆒、五五相遞、凡二十五、而及㆓州縣更漏㆒、皆去㆓五更後二點㆒、又幷㆓初更㆒去㆓其二點㆒、首尾止㆓二十一點㆒、至ㇾ今仍ㇾ之、故曰、一更三點禁㆓人行㆒、五鼓三點放㆓人行㆒、宋太祖以㆓鼓多驚ㇾ寢、遂易以㆓鐵磬㆒、此更鼓之變也、或謂㆓之鉦㆒、卽今之雲板也、衞公兵法曰、鼓三百三十三槌爲㆓一通㆒、角吹㆓十二聲㆒爲㆓一疊㆒、鼓止角動也、司馬法曰、昏鼓四通爲㆓大鼜㆒、夜半三通爲㆓晨戒㆒、旦明三通爲㆓發餉㆒、今早晚各止㆓三通㆒、其鐘聲、則一百八撞、以應㆓十二月、二十四氣、七十二候之數㆒。

【更深】50 カウシン ㊀夜がふけゆく。〔杜甫、火詩〕流ㇾ汗臥㆓江亭㆒、更深氣如ㇾ縷。〔鄭震、卜居詩〕月下開ㇾ門微雨過、樓頭聞ㇾ笛二更深。㊁清、趙一漁(**10**−**37171**··404)の字。

【更新】51 カウシン ㊀改めてあらたにする。更始。〔唐書、孫伏伽傳〕是亦與㆓天下㆒更新辭也。㊁北魏の汝南王悅の年號。更興(32)に同じ。

【更審】52 kêng⁴ shen³ 再審する。

【更人】53 カウジン 時刻を掌る吏。〔陸游、三江詩〕更人悄下ㇾ樓。

【更盡】54 カウジン 邊郡の官吏の任期が終ること。漢代には三歲で更迭した。〔唐類函、更盡、注〕漢段會宗爲㆓西域都護騎都尉㆒、三歲更盡、還爲㆓沛太守㆒、邊吏三歲一更。

【更正】55 カウセイ あらためなほす。改正する。〔淸國行政法汎論、內閣、職權〕有㆓部院之審議不ㇾ協者㆒、則內閣隨時更㆓正之㆒。

【更生】56 カウセイ ㊀さらにいきる。いきかへる。よみがへる。回生。蘇生。再生。〔莊子、達生〕正平則與ㇾ彼更生。〔史記、主父偃傳〕人人自以爲更生。〔漢書、王吉傳〕詔書每ㇾ下、民欣然若㆓更生㆒。〔後漢書、章帝紀〕伏惟、恩㆓有死罪以下㆒、並蒙㆓更生㆒。〔拾遺記、一、軒轅皇帝〕仙人甯封、食㆓飛魚㆒而死、二百年更生。㊁菊の異名。〔本草、菊〕

釋名、節華、女節、女華、女莖、日精、更生、傅延年、治蘠、金蕊、陰成、周盈、時珍曰、抱朴子云、仙方所謂日精・更生・周盈皆一菊、而根莖花實之名異也。㊂漢、劉向(**2**-**2224**‥174)の本名。㊃字號。㋑明、顧起綸(**12**-**43689**‥237)の字。㋺清、兪瑅(**1**-**1437**‥58)の字。㋩民國、康有爲(**4**-**9376**‥159)の字。

【更生鄕】57 漢末多事で國用が不足であつたため、子をうんで一歳になると人頭税を課したので、人々は多く子供を殺して税をまぬかれた。鄭産は白土鄕の嗇夫となり、この悲慘な習慣を改めるために自分が代つて一鄕の子供の税を出した。その上、上書して遂に子供の人頭税をまぬかれることが出來たので、人々は白土鄕の名を改めて、更生鄕と稱したといふ仁德の故事。萬姓統譜・尙友錄は改生鄕に作る。〔水經、漣水注〕零陵先賢傳曰、鄭産、字景載、泉陵人也、爲㆓白土嗇夫㆒、漢末多事、國用不㆑足、産㆑子一歳、輒出㆓口錢㆒、民多不㆑擧㆑子、産乃勅㆑民勿㆑得㆑殺㆑子、口錢當㆓自代出㆒、産言㆓其郡縣㆒爲㆑表上言、錢得㆑除、更㆓名白土㆒爲㆓更生鄕㆒。

【更生居士】58 清、洪亮吉(**6**-**17402**‥277)の號。

【更生道人】59 清、沈赤然(**6**-**17189**‥576)の號。

【更生齋文乙集】60 書名。四卷。清、洪亮吉撰。卷一・二・三は贊記序銘跋賦等、卷四は序記書等を載す。〔授經堂重刊遺集、第十四冊〕。

【更制】61 改め制する。又、制度をあらためる。〔漢書、五行志下之下〕諸侯更㆑制、玆謂㆑叛。〔風俗通、正失〕知後子不㆑能㆑行㆓三年之喪㆒、更制㆓三十六日服㆒、治㆓天下㆒致㆓升平㆒。

【更姓】62 朝代が代ること。易姓。〔國語、周語中〕叔父若能光㆓裕大德㆒、更㆑姓改㆑物、以創㆓制天下㆒、自顯庸也。〔注〕更㆑姓、易㆑姓也。〔蜀志、後主劉禪傳、注〕子丕孤竪、敢尋㆓亂階㆒、盜㆓據神器㆒、更㆑姓改㆑物、世濟㆓其凶㆒。

【更旌】63 代りの旗。新しい旗。〔周禮、春官、司常〕歳時共㆓更旌㆒。〔注〕取㆑舊予㆑新。〔疏〕謂㆘受㆓官旌旗㆒用㆑之者、歳之四時來換易、則司常取㆓彼之舊㆒、與㆗此之新㆖也。

【更筮】64 改めてうらなふ。〔禮、曲禮上、卜筮不㆓相襲㆒、疏〕前卜不㆑吉則止、不㆑得㆑因㆓更筮㆒。

【更箭】65 夜の時刻を記す漏刻の矢。箭は漏刻の矢。〔杜甫、冬末云云遇㆓孟雲卿㆒詩〕豈知驅㆑車復同㆑軌、可㆑惜刻漏隨㆓更箭㆒。〔薩都刺、寒夜卽事詩〕枕邊漏水催㆓更箭㆒、城下霜風動㆓捲蘆㆒。

【更選】66 あらためてえらぶ。改選。〔後漢書、班超傳〕更如㆓班超㆒、何故不㆑遣而更選乎。

【更籤】67 夜の時刻をはかるかずとり。漏籤。更籌。〔陳書、世祖紀〕毎㆓雞人伺㆑漏、傳㆓更籤于殿中㆒、乃敕㆓送者㆒、必投㆓籤于階石之上㆒、令㆓鎗然有㆑聲、云、吾雖㆑眠、亦令㆓驚覺㆒也。

【更奏】68 音樂をかはるがはる奏すること。〔宋史、樂志十三〕舜韶更奏、堯酒浮㆑觴。

【更續】69 あらたまりつづく。〔周禮、春官、巾車〕歳時更續、共㆓其幣車㆒。

【更代】70 かはるがはる。こもごも。又、かはる。交代。更替。〔書、冏命、懋㆓乃后德㆒交修㆑不㆑逮、傳〕皆當㆘勉㆓汝君爲㆑德、更代修㆗進其所㆖不㆑及。〔左氏、襄、二十七、疏〕晉楚更代、主㆓諸侯之盟㆒。

【更代冊】71 前任官と後任官とが更代するときに前年來の租税雜税の收支計算を明かにする帳簿。交代冊(**1**-**291**‥216)に同じ。

【更替】72 交代する。代る。交替。更代。

【更端】73 事のいとぐちをかへる。〔禮、曲禮上〕君子問更㆑端、則起而對。〔疏〕更㆑端、別㆑事也。

【更遲】74 ためらふこと。〔琵琶記、拐兒紿誤〕及㆑早回來莫㆓更遲㆒。

【更籌】75 夜の時を計る器。とけい。更は、夜間の時限。籌は、かずとり。更籤。〔庾肩吾、奉㆓和春夜㆒應令詩〕燒香知㆓夜漏㆒、刻燭驗㆓更籌㆒。〔唐書、百官志〕司門郎中・員外郎各一人、掌㆓門關出入之籍及闌遺之物㆒、晝題㆓時刻㆒、夜題㆓更籌㆒。

【更張】76 あらためはる。今までゆるんでゐた事をしめなほす。改め緊縮する。〔漢書、禮樂志〕辟㆘之琴瑟不㆑調、甚者必解、而更㆓張之㆒、迺可㆖鼓也。〔福惠全書、刑名部、人命上、印官親驗〕依㆑樣葫蘆、斷不㆓肯更張㆒、則吾末㆓如㆑之何㆒矣。

【更著】77 着物を着かへる。〔先哲叢談、中江藤樹〕農夫卽舍㆓耒耜㆒、徑趨入㆑屋、更㆓著潔服㆒出。

【更直】78 かはり番に宿直すること。〔張九齡、和㆔許給事直夜簡㆓諸公㆒詩〕他日聞㆓更直㆒、中霄屬㆓所欽㆒。

【更定】79 あらためさだめる。改正する。訂正する。〔史記、賈生傳〕諸律令所㆓更定㆒、及列侯悉就㆑國、其說皆自㆓賈生㆒發㆑之。

【更訂】80 あらためなほす。

【更遞】81 かはるがはる。交代する。更迭。更代。〔易、繫辭上、剛柔相摩、疏〕陽剛而陰柔、故剛柔共相切摩、更遞變化也。

【更迭】82 ㊀かはるがはる。互に。〔班固、西都賦〕窈窕繁華、更盛迭貴。㊁かはる。〔清國行政法汎論、新設官廳〕地方長官更迭之際、後任者、輒設㆘與㆓前任者已設㆒相似之官廳㆖。

【更點】83 ㊀時刻。とき。又、時を報ずる。〔薛能、上㆓鹽鐵尙書㆒詩〕城絕鼓鐘更點後、雨涼烟樹月華新。㊁時間の區分。更率と點率。更率は二時間、點率は二十四分。〔元史、歷志四〕求㆓更點率㆒、置㆓晨分㆒倍㆑之、五約爲㆓更率㆒、又五㆓約更率㆒爲㆓點率㆒。

【更動】84 kêng^1 tung^4 交迭する。變動する。移動する。

【更房】85 ching^1 fang^2 夜番の詰所。

【更法】86 商子の篇名。

【更犯】87 罪人が服役中更に罪を犯すこと。〔唐律、名例、犯罪已發〕若已至㆓配所㆒而更犯者、亦準㆑此。

【更番】88 ㊀かはるがはる番にあたる。交代して衞ること。交番。〔舊唐書、張說傳〕旬日得㆓精兵一十三萬人㆒、分㆓繫諸衞㆒、更番上下、以實㆓京師㆒。㊁kêng^4 fan^1 幾度も。

【更夫】90 ㊀船の上で時刻を司る係。〔六部成語、工部、更夫注解〕船上司㆑更之人也。㊁夜廻りの番。〔福惠全書、蒞任部、發各告示〕鼓樓更夫、毎晩派㆓定五人㆒。

【更賦】91 漢代、邊戍に當る賦役を更といひ、之を免除されるために出す税を更賦といふ。卒更・踐更・過更の三種がある。古は正卒に一定の人はなく、皆交代して之に當り、一月一更として之を卒更といふ。貧者で雇更の錢を得んとするものは、次直の者が錢を出して之を雇ふ。是を踐更といふ。天下の人は原則として皆戍邊にあたり、行かないものは錢三百を出して官に入れ、戍者に給す。之を過更といふ。又、近年の研究では、力役の當番に服するのを踐更、當番者が錢三百を出して力役を、錢二千を出して邊戍を免れるのを過更と稱し、卒更は如淳の誤であるといふ。〔漢書、昭帝紀〕三年以前逋㆓更賦㆒、未㆑入者皆勿㆑收。〔注〕如淳曰、更有㆓三品㆒、有㆓卒更㆒、有㆓踐更㆒、有㆓過更㆒、古者正卒無㆓常人㆒、皆當㆓迭爲㆑之、一月一更、是謂㆓卒更㆒也、貧者欲㆑得㆓顧更錢㆒者、次直者、出㆑錢顧㆑之、月二千、是謂㆓踐更㆒也、天下人皆直㆓戍邊三日㆒、亦名爲㆑更、律所謂繇戍也、云云、諸不㆑行者出㆓錢三百㆒入㆑官、官以給㆓戍者㆒、是謂㆓過更㆒也。〔後漢書、安帝紀〕乙卯、詔除㆓三輔三歳田租更賦口算㆒。〔後漢書、明帝紀〕赦㆓隴西囚徒㆒、減㆓罪一等㆒、勿㆑收㆓今年租調㆒、又所㆑發天水三千人、亦復㆓是歳更賦㆒。〔注〕更、謂㆓戍卒更相代㆒也、賦、謂㆓雇更之錢㆒也。

【更服】92 服を着換へる。禮服に着かへる。〔昭代記〕後有㆓一士人㆒、弔㆓其墳墓㆒、問㆓路農夫㆒、農夫舍㆓耒耜㆒、趨入㆑舍更㆑服先導、跪拜洒掃甚恭。

【更幣】93 幣物をあらためる。別に禮物をもつて聘問する。〔左氏、襄、二十六〕秦人不㆑予、更㆑幣從㆓子產㆒、而後獲㆑之。

【更票】94 kêng^1 p'iao^4 手形の割引。

【更變】95 變る。かへる。變更に同じ。

【更僕】96 侍御の人を交代させる。更僕未㆑可㆑終(98)を見よ。〔孔子家語、儒行解〕略言㆑之、則不㆑能㆑終㆓其物㆒、悉數㆑之則留、更㆑僕未㆑可㆓以對㆒。

【更僕難㆑數】97 侍御の人を交代させる程長くかかつても言ひ盡せない。事物の多いことにいふ。更僕未㆑可㆑終を見よ。〔福惠全書、曲禮部、敬禮城隍〕求無㆑弗㆑應、難㆓更㆑僕數㆒。

【更僕未㆑可㆑終】98 侍御の人を交

代させねばならぬ程長くかかつても言ひ盡し得ない。事の極めて多きにいふ。〔禮、儒行〕哀公曰、敢問㆓儒行㆒、孔子對曰、遽數㆑之不㆑能㆑終㆓其物㆒、悉數㆑之乃留、更㆑僕未㆑可㆑終也。〔注〕遽、猶㆑卒也、物、猶㆑事也、留、久也、僕、大僕也、君燕朝則正㆑位掌㆓擯相㆒、更㆑之者爲㆓久將㆒㆑倦、使㆓之相代㆒。〔疏〕更㆑僕者、更、代也、僕、大僕也、君燕朝則大僕正㆑位掌㆓擯相㆒也、言㆕若委細悉說㆑之則大久、僕侍疲倦、宜㆔更㆓代之㆒、未㆑可㆑終也、若不㆑更㆑僕、則事未㆑可㆑盡也。〔孫希旦集解〕言㆘儒者之行、遽數㆑之、則不㆑能㆑盡㆓其事㆒、盡數㆑之乃當㆓久留㆒、至㆓於僕侍之人倦怠而更代㆒、猶未㆖㆑可㆑盡、極㆓言儒行之廣博而深厚㆒也。

【更名】99（カウメイ）　名を改める。改名する。〔史記、司馬相如傳〕相如既學、慕㆓藺相如之爲㆒㆑人、更㆓名相如㆒。

【更名地】100（カウメイチ）　明代に各藩に分給したものを、清代になつて所在の州縣に編入して民に給した地。〔清會典、戶部〕凡田地之別、有㆓民田㆒、有㆓更名地㆒。〔注〕前明分㆓給各藩㆒之地、國朝編㆓入所在州縣㆒、與㆓民田㆒一體給㆑民爲㆑業、曰㆓更名地㆒。〔清會典事例、戶部、田賦、田賦科則〕山西民賦、田、每畝科銀一釐七絲、至㆓一錢零㆒不㆑等、糧一合五勺至㆔二斗七升㆓不㆑等、屯地、每畝科銀二釐三毫至㆓一分四釐零㆒不㆑等、糧一升八勺至㆔一斗九合零㆓不㆑等、更名地、每畝科銀五釐至㆓一錢四分㆒不㆑等、糧七勺至㆔一斗㆓不㆑等、衞所屯地、每畝科銀一分四釐。

【更老】101（カウラウ）　三老五更をいふ。字解の⓫を見よ。〔潘岳、閑居賦〕養㆓更老㆒以崇㆑年。

【更勞】102（カウラウ）　かはるがはる休む。〔後漢書、桓帝紀〕賜㆓吏更勞㆒一歲。

【更立】103（カウリツ）　かはるがはる立つ。〔禮、祭法〕七代之所㆓更立㆒者、禘郊祖宗、其餘不㆑變也。

【更率】104（カウリツ）　時間の區分。二時間をいふ。更點(83)の❷を見よ。

【更良】105（カウリヤウ）　宋、董史(**9**－**31433**・・77)の字。

【更歷】106（カウレキ）　それからそれへとめぐり步く。遍くへめぐること。〔韓愈、論㆓佛骨㆒表〕更㆓歷諸寺㆒。

【更練】107（カウレン）　❶經驗があつて事に練達してゐる。〔晉書、石苞傳〕聽㆘取王官更㆓練事業㆒者㆖。❷ching^{1} lien^{4}　更夫(96)に同じ。

【更漏】108（カウロウ）　❶時を報ずる漏刻。水時計。〔唐國史補、中〕初惠遠以㆓山中不㆒㆑知㆓更漏㆒、乃取㆓銅葉㆒製㆑器、狀如㆓蓮花㆒、置㆓盆水之上㆒、底孔漏㆑水、半㆑之則沈、每㆓晝夜㆒十二沈、爲㆓行道之節㆒。❷時間。〔許渾、韶州驛樓宴罷詩〕主人不㆑醉下㆑樓去、月在㆓南軒㆒更漏長。

【更漏子】109（カウロウシ）　❶詞牌の名。〔詞譜〕此調有㆓兩體㆒、四十六字者、始㆓于溫庭筠㆒、唐宋詞最多、尊前集注大石調、又屬㆓商調㆒、一百四字者、止杜安世詞。〔西湖志餘〕張淑芳、西湖樵家女、理宗選㆑妃日、賈似道匿以爲㆓己妾㆒、卽德祐太學生百字令中所㆑指新塘楊柳、及無名氏題壁所㆑云新得蛾眉正少年也、淑芳亦知㆓必敗㆒、營㆓別業㆒以遯㆑跡焉、木棉之後、自度爲㆑尼、罕㆑有㆓知者㆒、詞數闋、更漏子云、五雲嶺、九溪塢、待到秋來更苦、至㆑今五雲山下九溪塢尚有㆓尼菴㆒。❷曲牌の名。南曲、高大石調正曲に入る。

【更樓】110　ching^{1} lou^{2}　時刻を報ずる塔。

【更王】111（カウワウ）　王をかへる。〔漢書、天文志〕天下革民更㆑王、是爲㆓亂紀㆒。

【更格盧】112（カウカクロ）　動物の名。袋鼠。袋鼠(**10**－**34171**・・1)を見よ。

【更無㆔俗物當㆓人眼㆒】113（サラニゾクブツノジンガンニアタルナシ）　見渡す限り俗界の事物は少しも見えない。〔白居易、宿㆓靈巖寺上院㆒詩〕高高白月上㆓青林㆒、客去僧歸獨夜深、葷血屛除唯對㆑酒、歌鐘放散秖留㆑琴、更無㆔俗物當㆓人眼㆒、但有㆔泉聲洗㆓我心㆒、最愛曉亭東望好、太湖煙水綠沈沈。

【更闌夜靜長門闃而不㆑開】114（カウタケヨシヅカナリチヤウモンゲキトシテヒラケズ）　君主の寵愛が絶えて、夜寢られぬままに獨り坐すれば、門內も寂然として開かれることがない。〔倭漢朗詠集、戀、張文成、文〕更闌夜靜、長門闃而不㆑開、月冷風秋、團扇杳而共絕。

【曵】14284

エイ　曳(**5**－**14282**)の俗字。〔正字通〕曳、俗加㆑點作㆑曵。

四畫

【㫗】14285

コウ　厚(**2**－**2949**)の本字。〔說文〕㫗、厚也、从㆓反亯㆒。〔段注〕今字厚行而㫗廢矣、凡經典㫗薄字皆作㆑厚。

【皀】14286

リヤウ　良(**9**－**30597**)の本字。〔正字通〕皀、良本字。

【曶】14287

コツ　コチ　〔集韻〕呼骨切　月

小篆（說文）

小篆（段注本）

籀文

❶**ことば**。ことばをだす。辭氣を發する。〔說文〕曶、出㆑气詞也、从㆑曰、勿、象㆓气出形㆒。❷**ゆるがせにする**。又、**はやい**。又、**かすか**。忽(**4**－**10405**)に通ず。〔漢書、古今人表〕中曶。〔注〕師古曰、曶、與㆑忽同。〔漢書、揚雄傳贊〕於㆑時人皆曶㆑之。〔注〕師古曰、曶、與㆑忽同、輕也。〔後漢書、律曆志贊〕象因㆓物生㆒、數本㆓杪曶㆒。❸**しやく**。笏(**8**－**25882**)に通ず。〔說文〕曶、一曰、佩也、象形。〔段注〕咎繇謨、六律五聲八音在㆓治忽㆒、漢書在㆓治忽㆒作㆓七始訓㆒、史記作㆓來始滑㆒、裴駰曰、尙書滑字作㆑曶、音忽、鄭曰、曶者、臣見㆑君所㆑秉、書㆑思對㆑命者也、君亦有㆑焉、據㆑此則象㆑笏字、古作㆑曶、許竹部無㆑笏。❹籀文は回(**3**－**4719**)に作る。〔集韻〕曶、籀作㆑回。

解字　會意。勿([illegible])と曰との合字。勿は辭氣の出る形に象る。ことばを出す。說文の一說に、今の笏で象形であるといふ。古、忽と通用してゐるが、忽とは音は同じく、義は異なる。今は忽が行はれ、曶は廢れた。

參考　日部曶(**5**－**13813**)と別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕曶、同㆑昒。曶、同㆑忽。

【曶曶】1（コツコツ）　すみやかに轉じ去るさま。忽忽。〔楚辭　九章、悲回風〕歲曶曶其若㆑頽兮、時亦冉冉而將㆑至。〔注〕年歲轉去而流沒也。〔補注〕曶、音忽。

【曶鼎】2（コツテイ）　周代の鼎の名。文に「周王冊命、曶繼㆓乃祖㆒治㆓卜事㆒」の辭があるによつて曶鼎といふ。曶は人名。

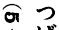
五畫

【⿱日争】14288

サウ　争(**7**－**19663**)に同じ。〔字彙補〕⿱日争、與㆑争同、見㆓漢韓勅碑㆒。

【⿱冊曰】14289

サク　シヤク　〔集韻〕測革切　陌


小篆

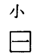
つげる。簡に書いて告げる。曹(**5**－**14296**)の籀文。冊(**2**－**1523**)に通ず。〔篇海〕曹、曹、籀文、同㆑上。〔說文〕曹、告也、从㆑曰从㆑冊、冊亦聲。〔段注〕簡牘曰㆑冊、以㆑簡告誡曰㆑曹、冊行而曹廢。

解字　會意形聲。冊と曰とを合はせ、冊は又聲。簡冊に書いて告げ言ふこと。

【曷】14290

㈠　カツ　ガチ　〔集韻〕何葛切　ㄏㄜˊ　hê^{2}　曷

㈡　アツ　アチ　〔集韻〕阿葛切　曷


小篆

㈠❶**なんぞ**。いづくんぞ。疑問の助辭。害と同じく用ひる。〔經傳釋詞、二〕曷、何也、常語也、字亦作㆑害。〔說文〕曷、何也、从㆑曰匃聲。〔書、盤庚上〕汝曷弗㆑告㆑朕。〔傳〕曷、何也。〔疏〕曷・何同音、故

曷爲レ何也。〔詩、小雅、漸漸之石〕曷其沒矣。〔箋〕曷、何也。〔楚辭、劉向、九歎、逢紛〕曷其不レ舒二于情一。〔注〕曷、何也。❷いつ。いつか。〔書、湯誓〕時日曷喪。〔左氏、昭、元〕吾子其曷歸。❸たれ。たれか。〔詩、小雅、四月〕曷云レ能レ穀。〔箋〕曷之言何也、何者可レ謂レ能レ善。❹なんぞ云云せざる。何不(1－511‥179)に同じ。〔爾雅、釋言〕曷、盍也。〔注〕何不也。〔經傳釋詞、二〕曷、家大人曰、爾雅曰、曷、盍也、郭注曰、盍、何不也、書湯誓曰、時日曷レ喪、詩有杕之杜曰、中心好レ之、曷三飲二食之一、曷、皆謂二何不一也、說者竝訓爲レ何、失レ之。❺蟲の名。蝎(10－33254)に通ず。〔說文通訓定聲〕曷、叚借爲レ蝎。〔史記、蔡澤傳〕先生曷鼻巨肩。〔注〕索隱曰、曷鼻、謂三鼻如二蝎蟲一也。❻鳥の名。鶡(12－46960)・鴠(12－47124)に通ず。〔集韻〕鶡、鶡旦、鳥名、或作レ曷。❼そこなふ。害(3－7165)に通ず。〔說文通訓定聲〕曷、叚借爲レ害。〔詩、商頌、長發〕則莫二我敢曷一。〔傳〕曷、害也。❽おどす。愒(4－10933)に通ず。〔集韻〕愒、相恐怯也、或作レ曷。❾おふ。〔玉篇〕曷、逐也。❿百六韻の一。入聲第七。[二]❶とめる。遏(11－39004)に通ず。〔說文通訓定聲〕曷、叚借爲レ遏。〔爾雅、釋詁〕曷、止也。〔詩、商頌、長發〕則莫二我敢曷一。〔集傳〕曷・遏通。❷およぶ。〔集韻〕曷、逮也。〔詩、小雅、四月〕曷云能穀。〔傳〕曷、逮也。

【曷爲】1 ナンスレゾ 何が故に。なんとして。なんで。〔公羊、文、六〕曷爲不二告朔一、天無二是月一也。〔歐陽脩、春秋論下〕許悼公曷爲書レ葬。

【曷可】2 hê² k'ê³ なんぞ云云すべけんや。

【曷其】3 カイツ 何れの日にか。其は助辭。〔韓愈、古風詩〕天下湯湯、曷其而歸。

【曷月】4 カツゲツ 何れの月。何月。〔詩、王風、揚之水〕懷哉懷哉、曷月予還歸哉。〔集傳〕曷、何也。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕跂予閒二衡嶠一、曷月瞻二秦稽一。

【曷故】5 hê² ku⁴ 何故に。なぜ。

【曷若】6 イカン いかん。何如(1－511‥112)に同じ。〔荀子、彊國〕必爲二天下大笑一、曷若。〔注〕問以爲二何如一也。

【曷勝】7 hê² shêng¹ 何ぞ云云に堪へん。

【曷鼻】8 カツビ すくも蟲のやうな形をした鼻。曷は蝎。〔史記、蔡澤傳〕先生曷鼻巨肩。〔注〕索隱曰、曷鼻、謂三鼻如二蝎蟲一也。

【曷旦】9 カツタン 鳥の名。夜鳴いて旦を求めるといふ。鶡旦(12－47124‥6)に同じ。〔禮、月令〕鶡旦不レ鳴。〔注〕鶡旦、求レ旦之鳥也。〔釋文〕曷、本亦作レ鶡同、鶡旦、鳥名。

【曷剌】10 カツラツ 元の人。兀速兒吉氏。謚は安穆。成宗の時、高麗・和林・江西・福建に使す。〔元史、一百三十五〕。

【曷懶】11 カツラン 路名。金、置く。又、合懶路に作る。朝鮮咸鏡北道の鏡城。北は圖們江から、南は高麗の定州(今の咸鏡南道の定平)に至る地。

【曷樹迦】12 カツジユカ 梵語。鬱勃と譯す。〔翻譯名義集、三、五果〕曷樹迦、此云二鬱勃一。

【曷生派】13 カツセイハ 基督時代に於ける猶太教の一派。Essene のこと。

【曷蘇館】14 カツソクワン 地名。又、合思罕・合蘇款・和碩館に作る。女眞語で籬の意。金、曷蘇館路を置き、今の遼寧省蓋平縣に治し、遼東半島を統轄す。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、蓋州衞〕曷蘇館、在二衞東南一、契丹移二女眞一部數千家、於レ此置レ館領レ之、謂二之熟女眞一、金亦置二曷蘇館路節度使一、後徙二於甯州一、尋廢。

【曷部多】15 カツブタ 梵語。奇特と譯す。〔翻譯名義集、三、諸國〕曷部多、西域記云、唐言二奇特一。

【曷利拏】16 カツリダ 梵語。麞鹿等の總稱。〔翻譯名義集、二、畜生〕曷利拏、揔言二麞鹿等類一。

【曷思麥里】17 カツシバクリ 元の人。西域、谷則斡兒朵の人。軍に西域に從ひ、功多し。官は懷孟河南二十八處都達魯花赤。〔元史、一百二十〕。

【眴】14291 シユン 〔篇海〕須倫切 眞

ひとしい。〔篇海〕眴、勻也。

【昷】14292 キヨ 〔字彙補〕古語切 語

人の字。〔康熙字典〕三國吳志、吳王第三子、距、字昷。

【旱】14293 コウ 厚(2－2949)の本字。〔字彙補〕旱、厚本字。

六畫

【書】14294 シヨ 〔集韻〕商居切 魚 ㄕㄨ shu¹

小篆

❶かく。しるす。記載する。もと書(9－29232)に作る。〔正字通〕書、書、俗作レ書。〔說文〕書、箸也、从レ聿者聲。〔許愼、說文解字敍〕著二於竹帛一謂二之書一、書者、如也。〔孝經緯援神契〕書者、如也、舒也、紀也。〔廣雅、釋言〕書、記也。〔周禮、地官、黨正〕而書二其德行道藝一。〔注〕書、記レ之也。〔論語、衞靈公〕子張書二諸紳一。❷もじ。文字。〔周禮、地官、保氏〕五曰、六書。〔注〕六書、象形・會意・轉注・處事・假借・諧聲也。〔周禮、地官、大司徒〕禮樂射御書數。〔注〕書、六書之品。〔史記、孫武傳〕夜至二斫木下一、見二白書一。〔中庸〕書同レ文。〔許愼、說文解字敍〕黃帝之史倉頡、初造二書契一、依レ類象レ形、故謂二之文一、其後形聲相益、卽謂二之字一、著二於竹帛一、謂二之書一。❸かきかた。書法。習字。字の出來。筆蹟。〔南史、王僧虔傳〕高祖素善レ書、篤好不レ已、與二僧虔一賭レ書畢、謂曰、誰爲二第一一、對曰、臣書第一。❹ふみ。㋑本。かきもの。〔釋名、釋書契〕書、庶也、紀二庶物一也、亦言レ著也、著二之簡紙一、永不レ滅也。〔莊子、天道〕桓公讀二書乎堂上一。㋺しるし。かきつけ。〔左氏、襄、九〕改二載書一。㋩簿帳。〔周禮、天官、序官、司書、注〕司書、主二計會之簿書一。㋥てがみ。たより。〔左氏、昭、六〕晉叔向使レ貽二子產書一。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕適得二府君書一。〔韓愈、答二陳商一書〕辱二惠書一。㋭詔敕。戒命。〔詩、小雅、出車〕畏二此簡書一。〔傳〕簡書、戒命也。〔漢書、董仲舒傳〕亡二應レ書者一。〔注〕師古曰、書、謂下擧二賢良文學一之詔書上也。❺五經の一。尚書。書經。虞夏商周の政事を記した典籍。〔論語、爲政〕書云、孝乎惟孝。〔吳志、陸績傳〕幼敦二詩書一、長玩二禮易一。〔蔡沈、書經集傳序〕先生文公、令三沈作二書集傳一。❻五經六籍の汎稱。〔荀子、天論〕萬物之怪、書不レ說。〔注〕書、謂二六經一也。〔史記、禮書、注〕正義曰、五經六籍、咸謂二之書一。〔論衡、正說〕五經總名爲レ書。❼文體の名。意見を上申するもの。〔文體明辯、書〕按、編內既以二人臣進御之書一爲二上書一、往來之書爲レ書、而此類復稱レ書者、則別以二議論一筆レ之、而爲レ書也、然作者甚少、故諸集不レ載、唯唐李翺有二復性・平賦等書一、而平賦書、法制精詳、議論正大、有二天下一者、誠能推二其說一而行レ之、致レ治不レ難矣、故特採レ之、以爲二一體一。❽姓。〔萬姓統譜〕書、商音、尚書官名、以レ官爲レ

]

氏、書永琇、鬱林人、天順閒、甌寧縣主簿。

名乘 ノリ。ノブ。フン。フム。ヒサ。

參考 日部の書(**5－13928**)は別字。

【書惡】1 ショアク ❶惡を書す。惡事を記す。〔後漢書、張晧傳〕春秋採㆑善書㆑惡。❷筆蹟が惡い。惡筆。〔王羲之、題㆓衞夫人筆陣圖後㆒〕昔宋翼常作㆓此書㆒云云、翼先來書惡、晉太康中、有㆑人、於㆓許下㆒破㆓鍾繇墓㆒、遂得㆓筆勢論㆒、翼乃讀㆑之、依㆓此法㆒學、名遂大振。

【書押】2 ショアフ かきはんをしるす。署名。〔宋史、高宗紀四〕凡制敕、非㆓軍期機速㆒、必先書押、而後報行。

【書案】3 ショアン ❶調査の結果の文書。しらべがき。又、文書の草案。〔後漢書、劉玄傳〕韓夫人毎㆑侍㆑宴、見㆓常侍奏㆑事、輒怒曰、帝方對㆑我飮、正用㆓此時㆒持㆑事來乎、起抵㆓破書案㆒。❷つくゑ。ふづくゑ。〔白居易、偶眠詩〕放㆑盃書案上、枕㆑臂火爐前。〔歐陽脩、讀書詩〕初如㆓兩軍交㆒、乘㆑勝方酣戰、至哉天下樂、終日在㆓書案㆒。

【書衣】4 ショイ 書物の表紙。又、書帙。〔皎然、答㆓蘇州韋應物郎中㆒詩〕書衣流埃積、硯石駮蘚生。

【書意】5 ショイ ❶書法の精神。〔竇臮、述書賦〕漢王童年、自得㆓書意㆒。❷ふみのこころ。手紙の意味。〔呂覽、尊師〕疾㆓諷誦㆒、謹㆓司聞㆒、觀㆓驩愉㆒、問㆓書意㆒。〔韓非子、外儲說左上〕擧㆑燭非㆓書意㆒也。〔史記、匈奴傳〕單于若稱㆓書意㆒、明告㆓諸吏㆒、使㆓無㆑負㆑約有㆑信。

【書帷】6 ショヰ 書齋のとばり。〔徐陵、玉臺新詠序〕永對㆓玩於書帷㆒、長循㆓環於纖手㆒。〔隋煬帝、秦孝王誄〕琴臺夜開、書帷晝閉。〔白居易、代㆑書詩一百韻寄㆓微之㆒詩〕秋風拂㆓琴匣㆒、夜雪卷㆓書帷㆒。

【書幃】7 ショヰ 書齋のとばり。書帷に同じ。〔杜甫、雨詩〕高軒當㆓灔澦㆒、潤色靜㆓書幃㆒。

【書淫】8 ショイン 讀書、又は藏書に耽る癖。又、其の人。淫は過度。〔晉書、皇甫謐傳〕謐耽㆓翫典籍㆒、忘㆓寢與㆑食、時人謂㆓之書淫㆒。〔梁書、文學下、劉峻傳〕劉峻、字孝標、云云、好㆑學家貧、云云、自謂所㆑見不㆑博、更求㆓異書㆒、聞㆓京師有者㆒、必往祈借、清河崔慰祖、謂㆓之書淫㆒。〔皮日休、奉㆓和魯望早秋吴體㆒次韻詩〕書淫傳癖窮欲㆑死、譊譊何必頻相仍。〔何氏語林、八、文學〕劉孝標、少未㆓開悟㆒、晩更厲精、嘗苦㆓所㆑見不㆑博、聞㆑有㆓異書㆒、必往祈借、清河崔慰祖、謂爲㆓書淫㆒。

【書蟫】9 ショイン 書物を害する蟲。しみむし。〔徐賁、丙午中秋與㆓余左司王山人高記室㆒同過㆓張文學宅㆒看㆑月詩〕自憐下界苦㆓迫塞㆒、未㆑得㆔變化同㆓書蟫㆒。

【書院】10 ショヰン ❶唐、玄宗の開元十三年、集賢殿修書所を改めて集賢殿書院と稱し、學士・修撰・校理・知書等の官を置いて、經籍の刊輯、天下の遺書・遺賢を徵求するを掌る。又、麗正書院があり、之も前者と性質を同じくするもので、宋代の如く學校の性質は備へてゐない。宋初に至り、白鹿・嵩陽・應天・嶽麓の四大書院が出來て、始めて好學の士を集めて教授し、南宋に及んで隆盛を極めた。其の長を山長と稱し、多く賢士大夫又は德望高い人を聘して之に當らせ、講學には府州學の教授又は大儒を聘し、若しくは山長又は高弟が之に當る。元には路府州に書院を設け、又、好事者は自ら之を建つ。其の後、日に益〻多く、清末に至つて始めて學堂と改めた。〔唐書、藝文志序〕大明宮光順門外、東都明福門外、皆創㆓集賢書院㆒、學士通㆑籍出入。〔玉海、宮室、院、麗正殿書院〕開元十二年、東都明福門外、亦置㆓麗正書院㆒、十三年、改㆓麗正修書院㆒、爲㆓集賢殿書院㆒。〔隨園隨筆〕書院之名、起㆓唐玄宗時㆒、麗正書院・集賢書院、皆建㆓于朝省㆒、爲㆓修書之地㆒、非㆓士子肄業之所㆒也、宋時有㆓富人曹誠㆒、捐㆑資建立、事聞㆓京師㆒、詔賜㆓名應天書院㆒、以㆑誠爲㆓助教㆒、從㆑此有㆓四大書院之名㆒、睢陽・石鼓・嶽麓・白鹿洞是也、太平興國元年、以㆓江州白鹿洞主明起㆒爲㆓褒信主簿㆒、洞在㆓廬山之陽㆒、李後主時給㆓田數十頃㆒、爲㆓諸生課㆑書之資㆒、起以㆑田入㆑官、故得㆓爵命㆒、而書院幾廢、唐呂溫有㆘題㆓尋眞觀李寬中秀才書院㆒詩㆖。〔清史稿、選擧志、學校下〕光緒二十四年五月、又諭㆓各直省督撫㆒將㆘各省府廳州縣大小書院、一律改爲㆗兼㆓習中西學㆒之學校㆖、其階級以㆓省會之大書院㆒爲㆓高等學㆒、郡城之書院爲㆓中學㆒、州縣之書院爲㆓小學㆒。❷㋑廚子（ヅシ）に似た書物棚。〔御飾記、五〕次に御座敷あり、西向に床あり、床の上に書院あり。㋺書齋。又、講學の所。〔季瓊日錄〕長祿三年十一月十五日、粟室御書院書籍請㆓取之㆒。㊇書院造りの表座敷。儀式の時、また客間などに用ひる。㊁寺院の學問所。〔太閤記、十六〕千宗易に書院の指圖など相談せられ。

【書院造】11 ショヰンヅクリ 建築様式の一。玄關を設け、表座敷には床及び棚を設け、床の側に書院棚を附す。室と室との閒には襖障子を建て、室と入側との境に明障子を設ける。入側の外に濡緣があり、其の界に明障子、雨戶をたてる。現今の日本建築の住宅は殆どこの様式による。

【書院番】12 ショヰンバン 德川幕府の職名。殿中の白書院に勤番したからいふ。本丸諸門の警備、將軍出行の扈從、又、江戶市中の巡廻等に從事した。小性番と竝べて兩番といふ。

【書院本】13 ショヰンボン 府縣の書院に於て刊行した書物をいふ。書院の❶を見よ。〔書林清話、宋司庫州軍郡府縣書院刻書〕書院本、紹定庚寅婺州麗澤書院重刻、司馬光切韻指掌圖二卷。

【書雲】14 ショウン 春分・秋分・夏至・冬至に雲氣を望んで吉凶を占ひ、之を策に書すること。〔左氏、僖、五〕凡分至啓閉、必書㆓雲物㆒、爲㆑備故也。

【書影】15 ショエイ ❶書を影寫したもの。❷書名。十卷。清、周亮工撰。雜事を雜論し、舊文を引據する毎に評文を以てしてある。然し、大抵明末清初のものが多く、古書を引けるは僅かに十の一二である。

【書役】16 ショエキ 官衙の簿書會計等を掌る小役人。書き役。書辦。書差。書記。〔清會典事例、吏部、處分例、書役〕雍正八年議准、在㆑外大小各衙門、有㆘鄉紳奴僕承㆓充書役㆒者㆖、該督撫轉㆓飭該管地方官㆒、查明革除、取㆑具並無㆓宦僕㆒充㆓當書役㆒印結、彙齊送㆑部存案。

【書易】17 ショエキ 易の書。〔史記、大宛傳〕初天子發㆓書易㆒云。〔注〕集解曰、駰案、漢書音義曰、發㆓易書㆒以卜。

【書謁】18 ショエツ 書をもつて謁する。添書を持つてたのむ。〔史記、萬石君傳〕高祖曰、若能從㆑我乎、曰、願盡㆑力、於㆑是高祖召㆓其姊㆒爲㆓美人㆒、以㆑奮爲㆓中涓㆒、受㆓書謁㆒、徙㆓其家長安中戚里㆒、以㆔姊爲㆓美人㆒故也。

【書屋】19 ショヲク 書物をいれるへや。書樓。〔王建、書贈㆓舊渾二曹長㆒詩〕替㆓飮觥籌㆒知㆓戶小㆒、助㆓成書屋㆒見㆓家貧㆒。〔李商隱、自貺詩〕陶令棄㆑官後、仰眠書屋中。

【書可】20 ショカ 可と書く。天子が奏請の書類を許可する時の書式。〔資治通鑑、魏紀〕〔高貴鄉公、甘露二年〕今大將軍問㆑事、但令㆓我書㆑可邪。〔注〕書㆑可、畫㆑可也。

【書架】21 ショカ 書物だな。ほんだな。書棚。〔梅堯臣、次韻和㆓景彝閏臘二十五日省宿㆒詩〕重臘雪花方漫漫、宿廳書架自層層。

〔書架子〕22 shu^1 chia^4 tzŭ 書棚。書橱子。

【書家】23 ショカ 字をたくみにかく人。てかき。書工。能書家。又、書道を教授する人。〔鮮于樞、王大令保母帖詩〕不㆘讓㆓驪黃㆒求㆗駔駿㆖、書家自有㆓九方皐㆒。

【書暇】24 ショカ 讀書の暇。〔周權、卜隱次韻詩〕書暇亦鋤耘。

【書價】25 ショカ 書物の價。〔書林清話、六、宋元刻本歷朝之貴賤〕可㆑見、當日宋本書價、不㆑過㆑如㆑斯而已。

【書解】26 ショカイ 論衡の篇名。

【書崖】27 ショガイ 清、陳昂(**11－41698・・71**)の字。

【書香】28 ショカウ ❶書物のにほひ。學問をなす氣風あるものをいふ。〔傳家寶〕無㆑論㆔書香子弟與㆓村童㆒、因㆑材教導。❷學者の子弟がよく其の家業を繼ぐこと。〔林景熙、述懷次㆓柴主簿㆒詩〕書香劍氣俱寥落。

〔書香銅臭〕29 ショカウドウシウ 書香は學徒、銅臭は商賈をいふ。〔桃花扇、逮社〕混㆓了書香銅臭㆒。

【書藁】30 ショカウ 書物のしたがき。手紙の草稿。〔柳宗元、與㆓韓愈㆒論㆓史官㆒書〕及㆔今乃見㆓書藁㆒、私心甚不㆑喜。

【書客】31 ショカク ❶文字をかく人。〔張籍、秋居詩〕書客多呈㆑帖、琴僧與合㆑弦。❷木筆（コブシ）の異名。〔三柳軒雜識〕木筆爲㆓書客㆒。❸書籍商をいふ。〔桃花扇、逮社〕這三山街書客之大、無㆑過㆓俺蔡益所㆒。

【書格】32 ショカク 文具の一。文字を書くときに用ひ、臂を支へて腕を紙につけないやうにするもの。〔南史、庾易傳〕安西長史袁承、欽㆓其風㆒、贈以㆓鹿

角書格・蚌盤蚌研・白象牙筆一。

【書閣】33 ショカク 書物を藏してゐるたかどの。〔杜審言、和三韋承慶過二義陽公主山池一詩〕海燕巢二書閣一、山雞舞二畫樓一。〔張說、送二喬安邑備一詩〕書閣移二年歲一、文明難二復辭一。

【書學】34 ショガク 文字の書き方の學。書道の學問。〔後漢書、鄧隲傳〕教レ之以二書學一。〔宋書、後廢帝紀〕年五六歲時、始就二書學一、而惰レ業。

【書學諭】35 ショガクユ 教職の名。〔稱謂錄、教職、書學諭〕螢雪叢說、洪內翰景盧、主二泮三山一、以二林少穎一爲二書學諭一。

【書額】36 ショガク 扁額に文字を書く。〔吳地記〕乾元寺、晉高士戴顒舍宅置、乾元初、蘇州節度採訪使鄭桂清、書レ額、奉レ敕、依二年號一爲二乾元寺一。

【書函】37 ショカン 書信の函封。封套。轉じて、手紙。〔後漢書、祭祀志上〕以二吉日一刻二玉牒一、書函藏二金匱一、璽印封レ之。〔事物紀原、布帛雜事部、書函〕吳張溫使レ蜀、謂二先主一曰、謹奉二所レ齎函書一、書之有レ函、不二前見一、疑自レ漢有也。

【書柬】38 shu^1 chien^3 文書。書翰。

【書翰】39 ショカン ㊀筆で書いたもの。文書。〔南史、後主沈皇后傳〕后性端靜有二識量一、寡二嗜欲一、聰敏強記、涉二獵經史一、工二書翰一。〔文心雕龍、書記〕符者孚也、徵召防レ僞、事資二中孚一、三代玉瑞、漢世金竹、末代從レ省、易以二書翰一矣。㊁てがみ。書簡。書札。〔南史、王弘傳〕凡動止施爲、及二書翰儀體一、後人皆依二放之一。〔南史、垣崇祖傳〕(夏侯)恭叔、譙國人、崇祖聞二其才義一、辟爲二主簿一、兼掌二書翰一。

【書翰紙】40 ショカンシ 手紙を書く紙。半切。

【書翰箋】41 ショカンセン 手紙を書く紙。

【書翰袋】42 ショカンブクロ 手紙を入れておく袋。狀袋。封筒。

【書翰文】43 ショカンブン 手紙を認めるに用ひる一種の文體の文。候文。

【書簡】45 ショカン 文書。書札。書翰。〔吳志、趙達傳〕有二書簡上作千萬數一、著二空倉中一封レ之。〔毛詩草木鳥獸蟲魚疏、螟蛉有子〕蜾蠃取二桑蟲一負レ之、于二木空中或書簡筆筒中一、七日而化、爲二其子一。〔宋史、王曾傳〕平生自奉甚儉、有二故人子孫、京來告レ別、送二數軸簡紙一、啓視レ之、皆它人書簡後裁取者。

【書眼】46 ショガン 書物を見るまなこ。〔皮日休、鹿門夏日詩〕書眼若二薄霧一、酒腸如二漏巵一。

【書巖】47 ショガン 字號。㊀清、聞珽(**9**-**29104**‥65)の號。㊁清、王沛恂(**7**-**20823**‥2007)の字。

【書几】48 ショキ つくゑ。書案(3)に同じ。〔黃庭堅、和二答外舅孫莘老一詩〕何時臨二書几一、剡レ芡談至レ莫。

【書紀】49 ショキ 日本書紀(**5**-**13733**‥737)の略。

【書軌】50 ショキ 國中に用ひられる文字と車の兩輪の幅。〔中庸〕今天下、車同レ軌、書同レ文、行同レ倫。〔宋書、傅弘之傳論〕通以二書軌一、班以二王規一。〔謝朓、和三伏武昌登二孫權故城一詩〕三光厭レ分レ景、書軌欲レ同レ薦。

【書記】51 ショキ ㊀かきしるす。又、其のかきもの。書籍。又、書牘奏記の類。〔史記、大宛傳〕畫レ革旁行以爲二書記一。〔漢書、賈山傳〕涉二獵書記一、不レ能レ爲二醇儒一。〔後漢書、陰識傳〕興曰、貴人不レ讀二書記一邪。〔後漢書、仲長統傳〕少好レ學、博二涉書記一。〔陶弘景、藥總訣序〕至二於黃帝一、書記乃興。〔唐書、韋陟傳〕(陟封二郇公一)常以二五采牋一爲二書記一。㊁かきやく。文書記錄を掌る官。書佐。魏の時よりこの名があり、唐代は元帥府及び節度使の僚屬に掌書記があり、略して書記といふ。〔事物紀原、撫字長民部、書記〕漢書百官志曰、王侯及大將軍幕府、皆有二記室一、掌二章表書記一、續事始引二魏志一、太祖以二陳琳阮瑀一爲二記室一、文帝與二吳質一書稱、孔章章表殊健、元瑜書記翩翩、宋江夏王乃以二丘源一爲二掌書記一、而未レ爲二職名一、唐開元元年、敕二節度一置二掌書記一、自後藩侯得二自奏請一也、又魏志、建安中、曹洪欲レ使三阮瑀掌二書記一。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕謀出二股肱一、任切二書記一。〔注〕向曰、書記、謂二文學之士一也。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、阮瑀詩序〕管二書記之任一、故有二優渥之言一。〔白居易、送三令狐相公赴二太原一詩〕青衫書記何年去、紅旆將軍昨日歸。

【書記生】53 ショキセイ 外務省書記生の略。大使館・公使館又は領事館などで庶務を取扱ふ職員。

【書記長】54 ショキチャウ ㊀舊制で、大審院・控訴院などで書記課の事務を指揮監督する官。㊁政黨などで、中央執行委員會に從屬する書記局の長。

【書記翩翩】55 ショキヘンペン 魏の阮瑀の文書の美しいのを褒めた詞。翩翩は美しいさま。〔魏文帝、與二吳質一書〕元瑜書記翩翩、致足レ樂也。〔注〕良曰、記亦書類、翩翩、美兒、言二其文雅之致、足レ爲レ樂也。〔杜審言、贈二蘇綰書記一詩〕知君書記本翩翩、爲許從レ戎赴二朔邊一。

【書櫃】56 ショキ ほんばこ。書笈。〔王安石、勸學文〕有卽起二書樓一、無卽致二書櫃一。

【書儀】57 ショギ ㊀先生に差上げる包み金。〔還魂記、折寇〕左右、取二過書儀一來。㊁書名。十卷。宋、司馬光撰。一に司馬書儀といふ。諸種の公文・書翰等の書式を記す。隋唐の志には蔡超書儀を始めとして數十種を著錄してゐるが、今存するのは此の書のみである。其の目は、表奏公文私書式一卷・冠儀一卷・昏儀二卷・喪儀六卷。〔四庫提要、經、禮類〕。

【書笈】58 ショキフ 書物を入れるおひばこ。笈は負ふやうに造った本箱。書簏。書笥。〔神仙傳、封衡〕封衡有二二侍者一、一負二書笈一、一攜二藥笥一。

【書虛】59 ショキョ 論衡の篇名。

【書魚】60 ショギョ 書物につく蟲。しみ。〔蘇軾、次三韻曹子方運判雪中同游二西湖一詩〕樽前侑酒只新詩、何異三書魚餐二蠹簡一。

【書局】61 ショキョク ㊀官廳で書を編修する處。又、其處の官吏。〔宋史、職官志四〕宣和二年、詔罷二在レ京修書諸局一。〔魏了翁題跋〕范正獻(公)以二書局一從二溫文正於洛一、凡十有五年、於二公之起居動息一、必審視而詳記。〔揮麈錄〕宋惠直爲二德化縣主簿一、時相何清源卽除二書局一。㊁清代、官廳で書籍を刊行する處をいふ。江蘇・浙江・湖北・廣東の諸省に之を設けた。〔書林清話、九、古今刻書人地之變遷〕迨二乎中興一、曾文正、首先於二江寧一設二金陵書局一、於二揚州一設二淮南書局一、同時杭州江蘇武昌繼レ之、既刊二讀本十三經一、四省又合二刊二十四史一。㊂shu^1 chü^2 書鋪。書店。

【書局本】62 ショキョクボン 地方官署で刊行した本。官書。又、單に局本ともいふ。書局の㊁を見よ。

【書具】63 ショグ 文房具。〔王安石、傷二仲永一文〕仲永生五年、未三嘗識二書具一。

【書空】64 ショクウ 指で空間に書く。宙に書く。〔晉書、殷浩傳〕浩雖レ被二黜放一、口無二怨言一、夷レ神委レ命、談詠不レ輟、雖二家人一不レ見三其有二流放之慼一、但終日書レ空、作二咄咄怪事四字一而已。

【書空匠】65 ショクウシャウ 鴈の異名。〔清異錄、禽、書空匠〕乾祐中、冷金亭賞レ菊、分韻賦二秋鴈一、族子祕書丞敞、先就レ詩、曰、天掃二閑雲一秋淨時、書空匠者最相宜。

【書窟】66 ショクツ 書籍の盈ちた室。孟景翼の故事。〔珍珠船〕孟景翼、字輔明、嗜レ學、行輙載レ書隨、所レ坐之處、不レ過レ容レ膝、四面卷軸盈滿、時人謂二之書窟一。

【書課】67 ショクワ 讀書の課業。〔韻府引、陸游、詩〕夜長穉子添二書課一。

【書畫】68 ショグワ 文字と繪畫。〔後漢書、蔡邕傳〕夫書畫辭賦、才之小者、匡レ國理レ政、未レ有二其能一。〔唐書、惠文太子範傳〕聚二書畫一、皆世所レ珍者。

【書畫家】69 ショグワカ 書畫に巧な人をいふ。書家と畫家。〔鮮于樞、王大令保母帖詩〕不下讓二驪黃一求中駬駿上、書家自有二九方皐一。〔宣和畫譜、山水二〕董源江南人也、善レ畫、多作二山石水瀧一、云云、然畫家止以三著二色山水一譽レ之。

【書畫記】70 ショグワキ 書名。六卷。清、吳其貞撰。藏する所、及び見る所の眞跡を錄し、各〻に就いて品題したもの。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【書畫會】71 ショグワクワイ ㊀同好者を集めて卽席に書畫を揮毫する會。〔浮世風呂、一上〕。㊁書畫を陳列し、又、賣却する會。

【書畫船】72 ショグワセン 宋の米芾は好んで書畫を蓄へ、出遊する每に之を船に積んで隨行せしめた。時人之が其の船を米家の書畫船といふ。米家書畫船(**8**-**26832**‥133)を見よ。〔錦字箋〕米元章每二出遊一、以レ船載二書畫一自隨、人皆識レ之曰、是米家書畫船也。〔黃庭堅、贈二米元章一詩〕滄江靜夜虹貫レ月、定是米家書畫船。

【書畫帖】73 ショグワテフ 書畫を交へ書いた折手本。

【書畫跋跋】74 ショグワバツバツ 書名。三卷。續三卷。明、孫鑛撰。王世貞が先に書畫跋を作り、鑛が又其の跋を作る。故に跋の字を重ねて其の義をあらはす。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【書會】75 ショクワイ ㊀民衆に對して講演等を行ひ、時

に唱賺・譚詞等の藝を以て俗耳に入り易からしめることを業とする公民教育の一。南宋時代既に行はれ、明の宣德頃も尙行はれた。〔香囊怨雜劇〕新近老書會做的、十分好關目。㊁文書を發して照會すること。〔六部成語、戶部、書會、注解〕登レ書知會也。

【書儈】76 ショクワイ 書籍の仲買人。古本屋。〔尙書故實〕京師有二書儈孫盈者一、名甚著、盈父曰二仲容一、亦鑒二善畫一、精二於品目一、豪家所レ寶、多經二其手一。

【書懷】77 ショクワイ 思ふところを書く。〔杜甫、旅夜書レ懷詩〕細艸微風岸、危檣獨夜舟。

【書幌】78 ショクワウ 書齋のたれぎぬ。書帷。〔北戶錄、下、米䴵、筆爲レ雙爲レ床爲レ枚、注〕梁簡文帝答二徐瑀一書云、時設二書幌一乍置二筆床一。〔孟浩然、與二王昌齡一宴二王道士房一詩〕書幌神仙籙、畫屛山海圖。

【書卷】79 ショクワン 書物。書籍。古は書籍を卷軸としたから今日まで卷の字を用ひる。すりまき。とぢほん。書策。書册。〔南史、臧嚴傳〕孤貧勤學、行止書卷不レ離レ手。〔庾信、高鳳好レ書不レ知二流麥一贊〕麥流雖レ遠、書卷猶開。〔后山談叢〕古書皆卷、而唐始有二葉子一、今稱二書册一是也。〔天祿志餘〕今書籍必數以レ卷、僅存二卷之名一耳、古人藏レ書作二卷軸一、鄴侯架插二三萬軸一是也、其後以二卷書之難一、因變而爲レ摺、乃分レ之爲二簿帙一、以便二簡閱一。

【書官】80 ショクワン 書をかきうつす役。寫書の官。〔翰林志〕二庫書各有レ錄、小使主レ之、西三間、書官主レ之、號曰二待制一。

【書換】81 カキカヘ 契約期限の滿ちた時、更にその期限を延ばすために、證書を作りなほすこと。

【書館】82 ショクワン ㊀書物を習ふ家。學校。〔論衡、自紀〕八歲出二於書館一、書館小僮百人以上、皆以二過失一袒謫。㊁宮中で書物を藏し、時々書を講ずる處。〔唐書、后妃上、上官昭容傳〕侈二大書館一、增二學士員一。㊂shu¹ kuan³ ㋑講釋師の寄席。講釋場。㋺藝妓屋。

【書觀】83 ショクワン 學校。書院。〔曾鞏、林希著作郞制〕久游二書觀一、宜レ遷二階品一。

【書裙】84 ショクン 裙に文字を書く。晉の王獻之が羊欣の裙に書いた故事。〔宋書、羊欣傳〕欣時年十二、王獻之爲二吳興太守一、甚知二愛之一、欣著二新絹裙一晝寢、獻之書二裙數幅一而去、欣本工レ書、因レ此彌善。〔陸龜蒙、懷二楊台文楊鼎文二秀才一詩〕重思醉墨縱橫甚、書破羊欣白練裙。

【書契】85 ショケイ ㊀文字をいふ。木に彫りつけた文字。契は、木にほりつけること。〔易、繫辭下〕上古結レ繩而治、後世聖人、易レ之以二書契一。〔孔安國、尙書序〕古者伏犧氏之王二天下一也、始畫二八卦一、造二書契一、以代二結繩之政一、由レ是文籍生焉。〔釋文〕書者、文字、契者、刻レ木而書二其側一、故曰二書契一也。㊁證據として用ひるかきつけ。又、記錄の帳簿。〔周禮、天官、小宰〕六曰、聽二取予一以二書契一。〔注〕鄭司農云、書契、符書也、玄謂、書契、謂二出予入受之凡要一、凡簿書之最目、獄訟之要辭、皆曰レ契。〔孫詒讓正義〕說文、契、大約也、凡以二文書一爲二要約一、或書二於符券一、或載二於簿書一、並謂二之書契一、若下宰夫八職、五曰、府、掌二官契一以治レ藏、酒正云、凡有二秩酒一者以二書契一予レ之、質人、掌レ稽二市之書契一、此謂二符券之書契一、若丙司會云、掌下國之官府郊野縣都之百物財用、凡在二書契版圖一者之貳上、大司馬云、羣吏選二車徒一讀乙書契甲、此謂二簿書之書契一也、此云下聽二取予一以中書契上與二酒正之書契一同、自指二符券一而言、故先鄭前注以二符書一爲レ釋、然取予之數、亦自當レ有二簿書一、符券・簿書二者、並爲二凡要一、故後鄭又增二成其義一。〔周禮、地官、質人〕掌レ稽二市之書契一。〔注〕書契、取二予市物一之券也。

【書計】86 ショケイ 書寫と計算。よみかきと算術。古、小學の課目の名。〔禮、內則〕十年、出就二外傳一、居二宿於外一、學二書計一。〔孫希旦集解〕書計、卽六藝中六書九數之學也。〔漢書、食貨志上〕八歲入二小學一、學二六甲五方書計之事一、始知二室家長幼之節一。〔後漢書、楊終傳〕禮制、人君之子、年八歲、爲置二小傅一、教二之書計一、以開二其明一。

【書啓】87 ショケイ ㊀書記。書き役。〔紅樓夢、十八回〕命二書啓相公一寫二請帖一。㊁書信。〔歐陽脩、與二陳員外一書〕下吏以レ私自達二於其屬長一云云、則曰二牋記書啟一。〔剪燈新話、翠翠傳〕書啓推レ案、無二人裁答一。〔福惠全書、筮仕部、延幕友〕錢穀刑名書啓、自須二助理之人一。㊂shu¹ ch'i³ 教へる。教育する。

〖書啓先生〗88 shu¹ ch'i³ hsien¹ shêng 地方官の顧問で、往復の文書を書くことを司る。

【書經】89 ショキヤウ 五經の一。尙書(**4－7493**··85)を見よ。

【書埶】90 ショゲイ 書藝に同じ。〔後漢書、皇后上、和帝陰皇后紀〕后少聰慧、善二書埶一。

【書藝】91 ショゲイ 文字と藝能。〔吳志、孫和傳〕年十四爲置二宮衞一、使三中書令闞澤教以二書藝一、好レ學下レ士、甚見二稱述一。

【書教】92 ショケウ 尙書の教へ。〔禮、經解〕疏通知遠、書教也。〔孔子家語、問玉〕孔子曰、入二其國一其教可レ知也、其爲レ人也、溫柔敦厚、詩教也、疏通知遠、書教也。

【書檄】93 ショゲキ 書狀と檄文。又、廻狀。〔魏志、王粲傳〕軍國書檄、多琳瑀所レ作也。

【書訣】94 ショケツ 書名。一卷。明、豐坊撰。書を評論したもの。〔四庫提要、子、藝術類書〕。

【書篋】95 ショケフ ほんばこ。書箱。〔風俗通、怪神〕文券在二書篋中一。〔魏志、胡質傳〕惟有二賜衣書篋一而已。〔春秋後語〕夜發二書篋數十一、得二周書陰符一而讀レ之。

【書業】96 ショゲフ ㊀著述をいふ。〔吳志、韋曜傳〕使下成二書業一、永足二傳示一、垂中之百世上。㊁學業(**3－7033**··67)に同じ。〔唐書、姜寶誼傳〕游二太學一受二書業一、不レ進、去爲二左翊衞一。㊂shu¹ yeh⁴ 書籍を賣ることを業とするもの。

【書券】97 ショケン かきつけ。〔顏氏家訓、勉學〕鄴下諺云、博士買レ驢、書券三紙、未レ有二驢字一。

【書硯】98 ショケン 文字を書くに用ひるすずり。〔漢南記〕江州蔡子池南、有二石穴一、深二一百許丈、石色青、堪レ爲二書硯一。〔朱熹、訓學齋規〕前輩云、壞レ筆汚レ墨、瘝二子弟職一、書几書硯、自黥二其面一。

【書劍】99 ショケン 書物とつるぎ。古、學者や文人が常に携行したもの。〔陳子昂、送二別出塞一詩〕平生聞二高義一、書劍百夫雄。〔高適、人日寄二杜二拾遺一詩〕一臥東山三十春、豈知書劍老二風塵一。〔李山甫、方干隱居詩〕早晚塵埃得二休去一、且將二書劍一事二先生一。〔溫庭筠、陳琳墓詩〕莫レ怪臨レ風倍惆悵、欲下將二書劍一學中從軍上。

〖書劍飄零〗100 ショケンヘウレイ 士人が客となつて遊歷するをいふ。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕小生書劍飄零、功名未レ遂。

【書言】101 ショゲン 言葉を書き記すこと。〔唐太宗、詠二司馬彪續漢志一詩〕書レ言揚二盛跡一、補レ闕與二洪志一。

〖書言故事〗102 ショゲンコジ 書名。十二卷。宋、胡繼宗編。古來の有名な故事成語をあつめて分類したもの。其の目は、十二支に分ち、子集は人君類・聖壽類等凡て十一條。丑集は親戚類・子孫類等凡て十六條。寅集は師儒類・儒學類等凡て十七條。卯集は神仙類・釋教類等凡て二十四條。辰集は身體說類・身體譬類等凡て十八條。巳集は聲名類・名譽類等凡て十二條。午集は怨讐類・報復類等凡て十七條。未集は科第類・諸科類等凡て十七條。申集は朝制類・三省類等凡て二十八條。酉集は天文類・時令類等凡て三十六條。戌集は都邑類・市肆類等凡て二十一條。亥集は酒類・醉飮類等凡て三十五條。

【書原】103 ショゲン 淸、潘宗洛(**7－18236**··191)の字。

【書戶】104 ショコ ㊀書物のいれてある室。書庫。〔皮日休・張賁・陸龜蒙、藥名聯句〕鼯鼠啼二書戶一、蝸牛上二硯臺一。㊁shu¹ hu⁴ 本屋。書籍店。

【書庫】105 ショコ ㊀書物ぐら。文庫。〔白居易、池上篇序〕乃作二池北書庫一。〔宋史、職官志〕淳化五年、始置二書庫監官一。〔宋史、藝文志〕太宗分二三館書萬餘卷一、別爲二書庫一、目曰二祕閣一。㊁博學の人をいふ。〔北史、循吏、公孫景茂傳〕少好レ學、涉二經史一、時人稱爲二書庫一。

【書賈】106 ショコ 書物を商ふ人。ほんや。書籍商。〔方岳、上二鶴山一作二圖書所扁詩〕明經爲二青紫一、無乃以書賈。〔袁桷、次二韻善之雜興一詩〕嗜癖成二書賈一、身窮付二筆耕一。

【書梱】107 ショコン 二枚の板片を繫綴して書籍を夾み藏めるもの。板帙。〔集韻〕梱、籍書具。〔杜篤、書梱賦〕惟書梱之麗容、象二君子之淑德一。〔表異錄〕承レ書夾曰二書梱一。

【書後】108 ショゴ 文體の名。書卷の終に書き記すもの。跋。〔通雅、器用〕卷前謂二之序一、卷後謂二之跋一、亦謂二之書後一。

【書語】109 ショゴ 書傳中の語句を引用すること。掉

文。〔隋書、李密傳〕密與二宇文化及一隔レ水而語、密數レ之、化及默然、俯視良久、乃瞋レ目大言曰、共レ爾論二相殺事一、何須レ作二書語一耶。

【書口】110 ショコウ 書物のこぐち。書物の兩面の折目。〔古今祕苑〕釘書十約、齊線要レ看二書口黑線一、前後百餘葉、只如二一葉一、勿レ得二或上或下一。

【書工】111 ショコウ ❶書に巧な人。書家（23）に同じ。〔蘇軾、題二王逸少帖一詩〕顏張醉素兩禿翁、追逐世好稱二書工一。❷書物を書き寫す人。筆工。〔唐書、崔行功傳〕初太宗命二祕書監魏徵一、寫二四部羣書一、將レ藏二內府一、置二讎正三十員、書工百員一。

【書功】112 ショコウ 文字を書く仕事。功は仕事。〔杜牧、寄二唐州李玭尙書一詩〕書功筆禿二千管、領節門排十六雙。

【書佐】113 ショサ 官名。かきやく。祐筆。書記。漢代、州の刺史の屬官に功曹書佐があつて選用を主つた。又、郡の太守の屬官に典郡書佐があつて文書を主つた。〔漢書、王尊傳〕太守奇レ之、除補二書佐一。〔後漢書、蔡邕傳〕託二河內郡吏李奇一、爲二州書佐一。

【書差】114 ショサ 書記。小役人。〔清會典事例、吏部、處分例、書役〕咸豐五年奏准、書差勒索平民、及レ例應二拘提之案一、索詐得レ贓、致レ斃二人命一、如二本管官知レ情徇隱者一、革職提問、未レ經二致死一、知レ情徇隱者、降二三級一調用。

【書齋】115 ショサイ 書物を讀むへや。書室。〔王勃、贈二李十四一詩〕直二當花院裏一、書齋望二曉開一。〔杜牧、留二題李侍御書齋一詩〕曾話平生志、書齋幾見レ留。〔歐陽脩、東齋記〕或曰、齋謂三夫閑居平レ心以養二思慮一、若二於レ此而齋戒一也、故曰レ齋。

〔書齋夜話〕116 ショサイヤワ 書名。❶四卷。宋、兪玉撰。字音字義を辨じ、六經に及ぶ。〔四庫未收書目提要、三〕。❷四卷。宋、兪琰撰。經義・考證・訓詁・河圖洛書及び先天・太極の二圖を發明して頗る賅洽である。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【書倉】117 ショサウ 書物を藏する倉庫。書庫。〔拾遺記、後漢〕曹曾慮二先文湮沒一、乃積レ石爲レ倉以藏レ書、故謂二曹氏一爲二書倉一。

【書莊】118 ショサウ 書籍店。本屋。

【書巢】119 ショサウ ❶書物の澤山あるへや。書齋。圖書室。〔陸游、書巢記〕吾室之內、或棲二於櫝一、或陳二於前一、或枕二藉於床一、俯仰四顧、無二非レ書者一。❷字號。㋑宋、陸游（**11－41708**‥7）の號。㋺清、翟灝（**9－28727**‥3）の號。

【書牕】120 ショサウ 書齋のまど。又、書齋。〔蘇軾、歐陽李默以二油煙墨二丸一見レ餉各長寸許戲作二小詩一〕書牕拾二輕煤一、佛帳掃二餘馥一。

【書箱】121 ショサウ ほんばこ。ふばこ。書廚。書篋。書櫝。書笈。〔晉書、王祥傳〕書箱鏡奩之具。

【書冊】122 ショサク 書籍。書卷。書策（124）に同じ。〔后山談叢〕古書皆卷、而唐始有二葉子一、今稱二書冊一。

〔書冊埋レ頭無二了日一〕123 ショサクカウベヲウヅムレウジツナシ 書籍が頭をも埋める程澤山あつて、何時讀み終れるのか分らない。〔朱熹、出山道中口占詩〕川原紅綠一時新、暮雨朝晴更可レ人、書冊埋レ頭無二了日一、不レ如抛却去尋レ春。

【書策】124 ショサク ❶書物。書籍。書卷。書冊。古代は竹に書を寫したからいふ。策は竹簡。〔禮、曲禮上〕先生書策琴瑟在レ前、坐而遷レ之、戒勿レ越。〔戰國、秦策〕科條既備、民多二僞態一、書策稠濁。〔韓非子、顯學〕藏二書策一、習二談論一、聚二徒役一、服二文學一而議說。❷書物をかくし持つて試場に入ること。〔唐國史補、下〕挾藏入レ試、謂二之書策一。

【書筴】125 ショサク 書物。書策（124）に同じ。〔孔子家語、曲禮子夏問〕曰、請三問居二兄弟之喪一、孔子曰、別存二乎書筴一已。

〔書筴之頌語〕126 ショサクノショウゴ 書籍に記されてゐる、生王の盛德を頌美した言葉。實情とかけ離れてゐることの喩。〔韓非子、六反〕今學者皆道二書筴之頌語一、不レ察二當世之實事一。

【書札】127 ショサツ ❶かきもの。かきつけ。〔蜀志、譙周傳〕研二精六經一、尤善二書札一。❷てがみ。ふみ。たまづさ。手簡。牋翰。書翰。書牘。書簡。書狀。書面。〔古詩十九首〕客從二遠方一來、遺二我一書札一。〔南史、陶弘景傳〕自號二華陽陶隱居一、人間書札、卽以二隱居一代レ名。〔杜審言、贈二崔融一詩〕雲天斷二書札一、風土異二炎涼一。〔李白、蘇武詩〕白雁上林飛、空傳二一書札一。

【書算】128 ショサン 書道と數學。〔韓愈、請レ上二尊號一表〕臣得二所レ管國子太學廣文四門及書算律等七館學生、沈周封等六百人狀一。〔福惠全書、筮仕部、延幕友〕向有二子姪一、足レ供二書算一。

【書山】129 ショザン ❶山名。江西省上猶縣の西。一名、大傅山。又、大章山といふ。〔讀史方輿紀要、江西、南安府、上猶縣〕書山、縣西八十里、高千餘丈、橫亙十餘里、形如二書櫃一、一名大章山、王象之云、縣西介二於江西・湖廣・廣東三路一、大章山延袤數百里、出二巨木美材一。❷字號。㋑清、葉酉（**9－31387**‥2）の字。㋺清、錢希孔（**11－40563**‥268）の字。

【書子】130 shu^1 tzŭ 手紙。

【書史】131 ショシ ❶書籍。書物。又、經書と史書。〔江淹、雜體、顏特進延年侍宴詩〕揆レ日粲二書史一、相レ都麗二聞見一。〔北史、甄琛傳〕頗涉二書史一。〔唐書、李靖傳〕姿貌魁秀、通二書史一。❷書名。一卷。宋、米芾撰。西漢から五代に至るまでの前人の墨跡を評論したもの。皆實際に目擊して判斷を下したから印章跋尾及び紙絹表裝等まで一々詳細に記してある。〔四庫提要、子、藝術類〕・〔百川學海、第十冊〕・〔說郛、第八十九冊〕・〔湖北先生遺書、第五十五冊〕。

〔書史會要〕132 ショシクワイエウ 書名。九卷。補遺一卷。續編一卷。明、陶宗儀撰。上古から元に至る間の能書の人を錄し薈めて一編とし、末尾に書法を附す。續編一卷は朱謀垔撰、錄する所は皆明人で、前編の載せない所を補つたもの。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【書司】133 フミノツカサ 後宮十二司の一。內典・經籍及び紙筆・几案・樂器等のことを掌る。尙書（フミノカミ）・典書（フミノスケ）・女孺の職員がある。ふんのつかさ。〔後宮職員令〕書司。〔簾中抄、下、女官〕書司、ふんのつかさ。〔源氏、十七、繪合〕ふんのつかさの御琴召して出で。

【書志】134 ショシ 書物に就いて書き記す。又、其の書。〔書林淸話、古今藏書家紀板本〕張金吾有二愛日精廬藏書志續志一。

【書思】135 ショシ 思ふ所を書く。〔禮、玉藻〕書レ思對レ「命。

【書師】136 ショシ てかき。書家（23）に同じ。〔漢書、藝文志〕漢興、閭里書師合二蒼頡・爰歷・博學三篇一、斷二六十字一以爲二一章一、凡五十五章、並爲二蒼頡篇一。

【書紙】137 ショシ 文字を書いた紙。かきつけ。かきもの。〔平家物語、十一、腰越〕不レ盡二書紙一、併令二省略一候畢。

【書笥】138 ショシ ほんばこ。ふばこ。〔柳宗元、爲二韋京兆一祭二太常崔少卿一文〕我有二書笥一、盈二君尺牘一。

【書肆】139 ショシ ほんや。書鋪。書林。轉じて、書籍を藏するのみで讀むことを知らぬものをいふ。〔法言、吾子〕好レ書而不レ要二諸仲尼一、書肆也、好レ說而不レ見二諸仲尼一、說鈴也。〔任昉、答二劉居士一詩〕才同二文錦一、學非二書肆一、望レ之可レ階、卽レ之難レ至。〔朱熹、建寧府建陽縣學藏書記〕讀二聖賢之書一、而不レ通二于心一、不レ有二于身一、猶不レ免レ爲二書肆一。

【書詩】140 ショシ 書經と詩經。〔阮籍、詠懷詩〕昔年十四五、志尙好二書詩一。

【書辭】141 ショジ ❶訴訟のかきつけと申し立てのことば。〔左氏、昭、十二〕昭子朝而命レ吏曰、婼將下與二季子一訟上、書辭無レ頗。❷書面のことば。〔韓愈、送二石處士一序〕譔二書辭一、具二馬幣一、卜レ日以授二使者一。

【書舟】142 ショシウ 宋、程垓（**8－25081**‥17）の號。

【書式】143 ショシキ ❶書物の形式。〔書林淸話、宋人抄書印書之紙〕張氏所レ見宋板書式、亦雞林紙之類。❷屆書・願書などのかきかたの型。

【書室】144 ショシツ 書屋。書齋。〔蘇軾、溪潭詩〕獨攀二書室一窺二巖竇一、還訪二仙妹一款二石閨一。〔蘇轍、辛丑除日寄二子瞻一詩〕夜長書室幽、燈燭明照レ席。〔瑯嬛記〕寫二作小卷及冊子一甚夥、不三復雜二一他書一、大二書于額一曰、沈郎書室。

【書蝨】145 ショシツ 虫の名。書物が濕氣をうけた時によく發生する蟲で、圖書の糊を食す。樟腦の撒布などによつて防ぐ。

【書社】146 ショシヤ ❶周代、二十五家を一里とし、一里に一社を立て、其の戶口と田地の段別とを記した帳簿を其の社に納めた。これを書社といふ。〔左氏、哀、十五〕因與二衞地一、自レ濟以西、禚媚杏以南、書社五百。〔注〕二十五家爲二一社一、籍書而致レ之。〔荀子、仲尼〕與二之書社三百一、而富人莫二之敢

距㆒也。〔管子、版法解〕士卒往者、人有㆓書社㆒。〔史記、孔子世家〕楚昭王將㆘以㆓書社地七百里㆒封㆗孔子㆖。〔注〕索隱曰、古者二十五家爲㆑里、里各立㆑社、則書社者、書㆓其社之人名於籍㆒、蓋以㆓七百里書社之人㆒封㆓孔子㆒也。㊁讀書の會をいふ。〔蘇軾、杭州故人信至㆓齊安㆒詩〕相期結㆓書社㆒、未㆑怕㆑供㆓詩帳㆒。

【書寫】147 ショシャ　書き寫す。書く。〔後漢書、樊宏傳〕宏所㆑上便宜、及言㆓得失㆒、輒手自書寫、毀㆓削草本㆒。〔顏氏家訓、書證〕孔子存㆓其儀㆒、而不㆑論㆓其文㆒也、先儒尚得㆓改㆑文從㆒㆑意、何況書寫流傳耶。

【書昌】148 ショシャウ　清、周永年(**2**－**3441**··546)の字。

【書廠】149 shu^{1} ch'ang^{3}　大道の講釋場。

【書狀】150 ショジャウ　㊀手紙。書翰。㊁shu^{1} chuang^{4}　法律用語。訴狀・答辯書等の如く、意思を表示する書面をいふ。

【書城】151 ショジャウ　㊀高く積み上げた書。〔北史、李謐傳〕丈夫擁㆓書萬卷㆒、何假㆓南面百城㆒。〔太平清話〕李德茂環㆓積墳籍㆒、名曰㆓書城㆒。㊁字號。㋑清、邢典(**11**－**39301**··45)の號。㋺清、周嘉緗(**2**－**3441**··565)の字。㋩清、葉宏緗(**9**－**31387**··177)の字。㋥清、王安國(**7**－**20823**··1110)の字。

【書常】152 ショジャウ　清、孫銘恩(**3**－**6987**··548)の字。

【書誠】153 ショセイ　清の宗室。字は貫之・季和・子玉。號は樗仙。書・詩に巧。封は輔國將軍。書室を靜虛堂といふ。著に靜虛堂集がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清畫家詩史、戊、上〕。

【書手】154 ショシュ　かきやく。書記。書佐。書吏。〔輟耕錄、書手〕世稱㆓鄉胥㆒爲㆓書手㆒、報應記、宋衎應㆓明經擧㆒、因㆓疾病㆒廢㆑業、爲㆓鹽鐵院書手㆒、蓋唐時已有㆓此名㆒。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕如本衙門吏若干名、書手若干名。

【書取】155 カキトリ　教師の朗讀する文章・文句などを生徒が書取ること。

〖書取畫〗156 shu^{1} ch'ü^{3} hua^{4}　他人の口述する所を聽いて作る畫。自在畫の一種で聽畫ともいふ。

【書種】157 ショシュ　讀書の種子の義。學問をして先人をうけつぐ人をいふ。〔齊東野語、二十、書種文種〕裴度常訓㆓其子㆒云、凡吾輩但可㆑令㆓文種無㆑絕㆒、云云、山谷云、四民皆坐世㆑業、士大夫子弟、能知㆓忠信孝友㆒斯可矣、然不㆑可㆑令㆓讀書種子斷絕㆒、有㆓才氣㆒者出、便當㆑名㆑世矣、似㆑祖㆓裴語㆒、特易㆓文種㆒爲㆓書種㆒耳。〔陸游、緒訓〕子弟才分有㆑限、無㆓如㆑之何㆒、但書種不㆑絕足矣。〔戴復古、見㆓名園荒廢㆒有㆑感詩〕牆東有㆓寒士㆒、書種世相傳。

【書種堂】158 ショシュダウ　宋、周密(**2**－**3441**··482)の室名。

【書出】159 カキダシ　㊀かきはじめ。起筆。㊁掛賣の勘定書。

【書術】160 ショジュツ　文字を書くわざ。〔漢書、王吉傳〕大王不㆑好㆓書術㆒、而樂㆓逸游㆒。

【書春】161 shu^{1} ch'uen^{1}　春聯を書く。

【書初】162 カキゾメ　新年にはじめて文字を書くこと。試筆。試毫。〔俳諧新選〕書初や鶯といふ鳥の跡。

【書署】162′ ショショ　㊀書狀に表書すること。〔說文、檢、書署也、段注〕書署、謂㆑表㆓署書函㆒也、廣韻曰、書檢者、印窠封題也、則通謂㆓印封㆒爲㆑檢矣。㊁標題をかく。題籤。

【書墅】163 ショショ　書齋。學問所。

【書序】164 ショジョ　尙書各篇の首の小序をいふ。馬融・鄭玄・王肅・孔穎達等は孔子の作と稱し、宋に至り、吳棫・朱子は孔子の作に非ずとし、蔡沈も之に因る。近時、康有爲の新學僞經考、崔適の史記探源には指定して劉歆の僞作するところといふ。然し何人の作であるかは今に至る迄決定しない。尙書(**4**－**7493**··85)を見よ。〔書、堯典序、疏〕此序、鄭玄・馬融・王肅並云㆓孔子所㆑作。〔漢書、藝文志〕書之所㆑起遠矣、至㆓孔子㆒纂焉、上斷㆓於堯㆒、下訖㆓於秦㆒、凡百篇、而爲㆓之序㆒、言㆓其作意㆒。〔法言、問神〕或曰、易損㆓其一㆒也、雖㆑惷知㆑闕焉、至㆓書之不㆑備、過半矣、而習者不㆑知、惜乎、書序之不㆑如㆑易也、曰、彼數也、可㆑數焉故也、如㆓書序㆒、雖㆓孔子㆒亦末㆓如㆑之何㆒矣。〔隨書、經籍志㆓一〕孔子删㆑書、別爲㆓之序㆒、各陳㆓作者所㆑由。〔尙書今古文注疏、書序、注〕史遷說、孔子因㆓史文㆒次㆓春秋㆒、紀㆓元年正時日月㆒、蓋其詳哉、至㆔於序㆓尙書㆒、則略無㆓年月㆒、或頗有、然多闕不㆑可㆑錄、故疑則傳㆑疑、蓋其愼也、又說、孔子序㆑書、上記㆓唐虞之際㆒、下至㆓秦繆㆒、編㆓次其事㆒、馬融鄭康成皆曰、書序孔子所㆑作。〔疏〕史公說、見㆓三代世表㆒、又說、見㆓孔子世家㆒、以㆑序爲㆓孔子作㆒者、漢書藝文志云、書之所㆑起遠矣、至㆓孔子㆒纂焉、上斷㆓于堯㆒、下訖㆓于秦㆒、凡百篇、而爲㆓之序㆒、言㆓其作意㆒、儒林傳云、孔子奸㆓七十餘君㆒、自㆑衞反㆑魯、究㆓觀古今篇籍㆒、于㆑是敍㆑書、則斷㆓堯典㆒、劉歆移㆓博士㆒書說亦同、是兩漢諸儒、皆以㆓書序㆒爲㆓孔子所㆑作也、史公云、序㆓尙書㆒則略無㆓年月㆒、云㆓或頗有㆒者、商書有㆓成湯既沒、太甲元年㆒、周書有㆓惟十有一年、武王伐㆑殷㆒一條㆒、是有㆓年月㆒也、云㆓然多闕㆒者、謂㆓其餘皆闕文不㆑可㆑錄也、漢書律歷志引㆓三統㆒、或有㆓年月㆒、與㆓史記㆒不㆑同、至㆓竹書紀年及皇甫謐帝王世紀㆒、所㆑載甚詳、不㆑知㆓何據㆒、故史記三代世表、自㆓共和㆒以來、始有㆓甲子㆒也、云㆘上紀㆓唐虞之際㆒、下至㆗秦穆㆖者、卽今書起㆓堯典㆒訖㆓秦誓㆒也、云㆔編㆓次其事㆒者、今書序之次、今古文或不㆑同、馬鄭又異、鄭于㆓成王征序注㆒云、此伐㆔淮夷與㆓踐奄㆒、是攝政三年伐㆓管蔡㆒時事、其編㆓篇此㆒未㆑聞、則書序非㆓孔子舊編之次㆒也、史記所㆑載書序、有㆓大戊篇目㆒、今本脫㆑之、而僞傳以㆓女鳩女方㆒爲㆓二篇㆒、以就㆓百篇之數㆒、非也、當㆘幷㆓二編㆒爲㆑一、增㆗大戊㆖、馬鄭說見㆓書疏㆒、知㆓孔子所㆑作者、疏以爲㆘依㆓緯文㆒而知㆖之、釋文云、馬鄭之徒、百篇之序、總爲㆓一卷㆒、書序云、作㆑序者不㆔敢廁㆓于正經㆒、故謙而聚㆓于下㆒、今僞孔傳以㆓此序㆒散入㆓經中㆒、各冠㆓諸篇㆒、非㆓舊式㆒也。〔經義考、書、百篇之序〕朱子曰、書序、恐卽是經師所㆑作、決非㆓夫子之言㆒。

【書敍】165 ショジョ　書序に同じ。〔漢書、儒林、張山拊傳〕又采㆓左氏傳、書敍㆒爲㆓作首尾㆒、凡百二篇。

〖書敍指南〗166 ショジョシナン　書名。二十卷。宋、任廣撰。典籍の成語を採掇して、尺牘の用に備へたもの。〔四庫提要、子、類書類〕。

【書升】167 ショショウ　字號。㊀清、耿人龍(**9**－**29026**··61)の字。㊁清、勞之辨(**2**－**2410**··140)の字。

【書證】168 ショショウ　顏氏家訓の篇名。

【書信】169 ショシン　手紙。ふみのたより。書翰。〔晉書、陸機傳〕我家絕無㆓書信㆒、汝能齎㆑書取㆓消息㆒不。〔北史、宇文護傳〕二國分隔、理無㆓書信㆒、主上以㆓彼朝不㆑絕㆓母子之恩㆒、亦賜㆓許奉答㆒、不㆑期㆓今日得㆑通㆓家問㆒。〔劉禹錫、詶㆘楊八副使將㆑赴㆓湖南㆒見㆑寄一絕㆖詩〕知逐㆓征南㆒冠㆓楚才㆒、遠勞㆓書信㆒到㆓陽臺㆒。〔顧況、題㆓葉道士山房㆒詩〕近得㆓麻姑書信㆒否、潯陽江上不㆑通㆑潮。

〖書信館〗170 shu^{1} hsin^{4} kuan^{3}　郵便局。

〖書信船〗171 shu^{1} hsin^{4} ch'üan^{2}　郵便船。

【書紳】172 ショシン　大帶に書きしるす。忘れぬやうにする意を表はす。〔論語、衞靈公〕子張書㆓諸紳㆒。〔疏〕紳、大帶也、子張以㆓孔子之言㆒書㆓之紳帶㆒、意㆔其佩服無㆓忽忘㆒也。〔江淹、雜體、嵇中散康言志詩〕寫㆑懷良未㆑遠、感㆑贈以書㆑紳。

【書人】173 ショジン　書家をいふ。〔粧樓記〕劉秦妹善臨寫、右軍蘭亭及西安帖、足㆑奪㆓眞蹟㆒、秦亦當時翰林書人也。〔宋史、藝文志一〕續古今書人優劣、一卷。

【書髓】174 ショズイ　書のもつともすぐれたもの。書の精粹。〔渭南集〕成都西樓下、刻㆓東坡法帖十卷㆒、擇㆓其尤奇逸者㆒爲㆓一編㆒、號㆓東坡書髓㆒。

【書數】175 ショスウ　六藝中の書と數。よみかきと算術。書計。六藝(**2**－**1453**··171)の㊀を見よ。〔列子、仲尼〕有㆘善治㆓書數㆒者㆖。

【書生】176 ショセイ　㊀學問をする若者。學生。學徒。生徒。轉じて、世務に通じない學者をいふ。〔後漢書、袁安傳〕初安父沒、母使㆔安訪㆓求葬地㆒、道逢㆓三書生㆒。〔後漢書、費長房傳〕曾與㆑人共行、見㆓一書生㆒、黃巾被㆑裘、無㆑鞍騎㆑馬、下而叩頭。〔魏志、臧洪傳〕洪邑人陳容少、爲㆓書生㆒親㆓慕洪㆒。〔南史、沈慶之傳〕陛下今欲㆑伐㆑國、而與㆓白面書生輩㆒謀㆑之、事何由濟。㊁他家に寄食して家事に使はれ、傍ら學問する者。學僕。㊂shu^{1} shêng　私。僕。自稱の辭。

〖書生業〗177 ショセイゲフ　學問をする者の仕事。學業。〔草場佩川、山行示㆓同志㆒詩〕登㆑山恰似㆓書生業㆒、一步步高光景開。

〖書生羽織〗178 ショセイバオリ　普通の羽織よりも長いもの。明治初年、多く壯士や書生が用ひ、後一般に流行した。

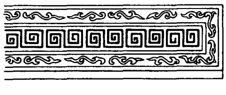
〖書生役者〗179 ショセイヤクシャ　書生芝居の役者。壯士役者。

〖書生芝居〗180 ショセイシバヰ　明治二十四年二月、川上音二郎が始めて書生役者を用ひて演じた新演

劇。又、壯士劇・壯士芝居・新派劇・新派ともいふ。

【書聖】181 シヨセイ 能書を褒めていふ詞。書道に傑出した人。〔梁書、王志傳〕志善二草隸一、當時以爲二楷法一、齊游擊將軍徐希秀、亦號二能書一、嘗謂レ志爲二書聖一。〔稱謂錄、書、書聖〕羊欣云、張芝皇象鍾繇索靖、時並號二書聖一。

【書尺】182 シヨセキ ❶手紙をいふ。〔宋史、王繼恩傳〕詔二中外臣僚一、曾與二繼恩一交識及通二書尺一者、一切不レ問。❷文具の名。文鎭。書鎭。けさん。圭算。〔朱之蕃、書尺詩〕文木裁成體直方、高齋時半二校書郎一。



古白玉琱文書尺
（古玉圖譜）

【書石】183 シヨセキ 清、莊柱（**9－31035**・・105）の字。

【書迹】184 シヨセキ 書跡に同じ。〔顏氏家訓、省事〕書迹未レ堪三以留二愛翫一。〔白居易、祭レ弟文〕嗚呼詞意書迹、無レ不二宛然一。

【書跡】185 シヨセキ かいた文字の形。筆のあと。みづくきのあと。てすぢ。筆跡。手跡。書蹟。〔晉書、劉超傳〕書跡與二帝手筆一相類。〔南史、蕭子雲傳〕其書跡雅、爲二武帝所一レ重。

【書蹟】186 シヨセキ 書迹(184)に同じ。

【書籍】187 シヨセキ ほん。書物。〔後漢書、馬融傳〕職在二書籍一、謹依二舊文一、重述二蒐狩之義一。〔魏志、王粲傳〕吾家書籍文章、盡當レ與レ之。〔晉書、張華傳〕雅愛二書籍一、嘗徙レ居、戴レ書三十乘。〔庾信、周上柱國齊王憲神道碑〕愛二玩書籍一、敦二崇禮樂一。

【書說】188 シヨセツ ❶書物の說く所の義。〔漢書、鼂錯傳〕未三深知二術數一者、不レ問二書說一也。❷書名。三十五卷。後十三卷は宋の呂祖謙撰。前二十二卷は門人時瀾の增修する所。尙書(**4－7493**・・85)の參考書を見よ。〔四庫提要、經、書類〕。

【書節】189 シヨセツ 文書と使者の持つてゐるわりふ。〔史記、淮南衡山傳〕其書節印圖、及他逆無道、事驗明白、甚大逆無道。

【書仙】190 シヨセン 書の名人。〔麗情集〕長安有二倡女曹文姬一、工二翰墨一、爲二關中第一一、時號爲二書仙一。

【書宣】191 シヨセン 清、顧圖河（**12－43689**・・338）の字。

【書船】192 シヨセン 清、盧焯（寧波の人）（**8－23050**・・90）の字。

【書簽】193 シヨセン 書物の表紙に附する標題。書籤に同じ。

【書籤】194 シヨセン 書籍の表の標識紙。書物のはりがみ。書簽。〔杜甫、將レ赴二成都草堂一途中有レ作、先寄二嚴鄭公一詩〕竹寒沙碧完花溪、橘刺藤梢咫尺迷、過客徑須レ愁二出入一、居人不三自解二東西一、書籤藥裹封二蛛網一、野店山橋送二馬蹄一、肯藉二荒庭春草色一、先拚二一飲醉如一レ泥。〔陸龜蒙、奉三和襲美所レ居首夏水木尤清適然有レ作次韻詩〕自記二書籤一白間レ紅。

【書禪】195 シヨゼン 清、郭雍（**11－39474**・・213）の字。

【書祖】196 シヨソ 書道の元祖。〔宋史、藝文志一〕古文大篆書祖一卷。〔廣川書跋〕世稱二王逸少一爲二書祖一、觀二其遺文一、可二以得一レ之。

【書疏】197 シヨソ 書翰。〔史記、袁盎傳〕毎レ朝郎官上二書疏一、未四嘗不三止レ輦受二其言一。〔魏文帝、又與二吳質一書〕雖二書疏往返一、未レ足レ解二其勞結一。

【書屬】199 シヨゾク 添書をもつてたのむ。書謁(18)に同じ。〔後漢書、史弼傳〕遷二河東太守一、被二一切詔書一、當レ擧二孝廉一、弼知レ多二權貴請託一、乃豫勑二斷絕書屬一。

【書堆】200 シヨタイ 書物がうづたかく積まれてゐる。〔魚玄機、夏日山居詩〕軒檻暗傳深竹逕、綺羅長擁亂書堆。

【書袋】201 シヨタイ ❶金代、官吏と士民とを區別するために官吏に證として持たせた袋。〔金史、輿服志下〕書袋之制、大定十六年、世宗以下吏員與二士民一之服無レ別、潛入二民間一受レ賕鬻レ獄、有司不上レ能二檢察一、遂定下懸二書袋一之制上、省・樞密院令・譯史用二紫紵絲一爲レ之、臺・六部宗正・統軍司・檢察司以二黑斜皮一爲レ之、寺監・隨朝諸局幷州縣、並黃皮爲レ之、各長七寸、濶二寸、厚半寸、並於二束帶上一懸レ帶、〔公退則懸二於便服一、違者所司糾レ之。❷書物を入れる袋。〔摭言〕詩卷却拋書袋裏、譬如三閑看二華山一來。

【書袋子】202 shu^{1} tai^{4} tzŭ ❶讀書にのみ耽つて學問を實施しない人物をいふ。❷小供の學用品などを入れる袋。

【書體】203 シヨタイ 文字のかきざま。字體。字形。書道(209)を見よ。〔晉書、衞恒傳〕杜氏殺レ字甚安、而書體微瘦。〔北史、江式傳〕書體與二孔氏一相類、卽前代之古文矣。

【書臺】204 シヨダイ ❶書物を載せる臺。〔庾信、高鳳好レ書不レ知二流麥一贊〕流二連經笥一、對二玩書臺一。❷山名。㋑浙江省武義縣の西。唐の舒元輿の讀書した處。㋺四川省資陽縣の南。漢の王褒の讀書した處と傳ふ。又、井研縣の西にも書臺山がある。

【書題】205 シヨダイ ❶文字を書く。書き記す。〔南史、紀僧眞傳〕以レ閑二書題一、令レ答二遠近書疏一。〔岑參、祁四再赴二江南一別詩〕憐君不二解說一、相憶在二書題一。❷ shu^{1} tʻi^{2} 書籍の題名。標題。

【書刀】206 シヨタウ 古、中國で未だ紙が無くて竹の札に字を記した時代、字を削り消すに用ひた小刀。削。〔周禮、考工記、築氏〕築氏爲レ削長尺博寸合レ六而成レ規、注〕（削）今之書刀也。〔疏〕鄭云、漢時蔡倫造レ紙、蒙恬造レ筆、古者未レ有二紙筆一、則以レ削刻レ字、至レ漢雖レ有二紙筆一、乃有二書刀一、是古之遺法也。〔東觀漢紀〕以二書刀一賜二馬嚴一。

【書套】207 シヨタウ 書物の覆ひ。本の帙。

【書堂】208 シヨダウ ❶書物を讀み又は講ずる所。學堂。又、書齋。〔庾信、鄭常墓誌銘〕就二經黌舍一、略見二書堂一、習二武兵欄一、偏知二劍術一。〔周瑀、潘司馬別業詩〕蕭然有二高士一、清思滿二書堂一。〔廬山志〕李白書堂在二五老峰下一、白嘗至レ此、愛二其險峭一曰、天下壯觀也、因卜二築於此一。❷山名。㋑江西省宜春縣の西南。唐の盧肇の讀書した處。㋺江西省萬載縣の西。晉の習鑿齒の讀書した處。㋩湖南省長沙縣の北。書堂寺がある。唐の歐陽詢及び子通の讀書した處。❸巖の名。廣東省曲江縣の東南。〔方輿勝覽〕在二城東十五里一、巖洞劃然、泉清石潔、爲二張九齡讀書之所一。❹石の名。廣東省翁源縣羅江瀧の水中に在る。〔方輿勝覽〕書堂石、在二翁源縣羅江瀧水中一、高九十丈、周圍五里、唐邑人邵謁、築二書堂一肄レ業。

【書道】209 シヨダウ 文字を巧に書く法。文字の書體は時代によつて異なる。古くは籀文・篆文・隸書等行はれ、後漢に至つて草・行・楷・飛白の諸體行はる。此の頃より書道漸く勃興し、三國六朝に至つて、王羲之が現はれ、書道の基礎成る。降つて隋唐は書を重んじ黃金時代を現出した。歷代の書家を擧げれば左の如くである。〔漢〕曹喜・蔡邕・杜度・崔瑗・崔寔・張芝・師宜官・梁鴻。〔三國・六朝〕鍾繇・韋誕・衞瓘・衞恒・索靖・王羲之・王獻之・謝安・衞夫人・王導・張翼・謝靈運・羊欣・蕭思話・范曄・鄭道昭・王僧虔・張融・蕭子雲・武帝・陶弘景・釋智永。〔隋・唐〕丁道護・釋智果・唐太宗・虞世南・歐陽詢・歐陽通・魏徵・房玄齡・杜如晦・李靖・褚遂良・顏元孫・蕭翼・李懷琳・陸柬之・孫過庭・薛稷・李邕・張懷瓘・張旭・賀知章・李陽冰・顏眞卿・徐浩・韓愈・柳宗元・柳公權・唐玄度・杜牧・釋懷素。〔宋・元・明〕蘇軾・蔡襄・黃庭堅・米芾・歐陽脩・王安石・司馬光・徽宗皇帝・黃伯思・范成大・朱熹・趙子昂・鮮于樞・宋濂・楊基・陶宗儀・楊士奇・解縉・陸支仁・姜立綱・祝允明・文徵明・王世貞・張瑞圖・米萬鍾・董其昌。〔清〕乾隆帝・成親王・桂未谷・王鐸・劉石庵・伊墨卿・鄧石如・錢伯珂・包世臣・何紹基。〔鄭杓、衍極造書篇〕顏魯公、下二問于長史一曰、妙在二執筆一、又曰、如二錐畫一レ沙、如二印印一レ泥、書道盡矣。

【書丹】210 シヨタン 誌銘等を石に書くこと。後漢の蔡邕が石經を丹朱で石に書いたことから出來た語。〔隸釋〕石經、蔡邕自書レ丹、使二工鐫刻一。〔隸釋〕姜堯章云、筆得レ墨則瘦、得レ朱則肥、故書レ丹尤以レ瘦爲レ奇、而圓熟美潤有レ餘、燥勁老古常不レ足、朱使レ然也。

【書單】211 shu^{1} tan^{1} かきもの。書類。

【書單子】212 shu^{1} tan^{1} tzŭ 書籍目錄。

【書斷】213 シヨダン 書名。三卷。唐、張懷瓘撰。上卷は古文・大篆・籀文・小篆・八分・隸書・章草・行書・飛白・草書を論じ、中・下卷には是等の書を能くする者を神・妙・能の三品に分け、神品二十五人、妙品九十八人、能品一百七人を列擧す。書家に三品の目があるのは此の書に始まるといふ。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【書致】214 シヨチ かきしるして尊長の人に送ること。〔禮、曲禮上〕獻二田宅一者操二書致一。〔疏〕書致、謂下圖二書於板丈尺一、委曲書レ之、而致中之於尊

者上也。

【書痴】215 ショチ 書癡(217)に同じ。

【書置】216 カキオキ ❶其の人の所に用事などを書いて置く。置手紙。❷要件・所存などを死後に書きのこす。又、其の手紙。遺言書。〔柳樽、一三〕書置を見れば不孝も知つて居り。

【書癡】217 ショチ 讀書にふけつて他事を顧みない者をそしる語。癡は、ばかもの。讀書狂。〔唐書、竇威傳〕威沈邃有二器局一、貫二覽羣言一、家世貴、子弟皆喜レ武、獨威尙レ文、諸兄詆爲二書癡一。

【書籒】218 ショチウ 古書體の一。籒文(8－26702・・6)に同じ。〔唐書、蕭穎士傳〕十歲補二大學生一、觀レ書、一覽卽誦、通二百家譜系書籒學一。

【書竹】219 ショチク 竹に書く。〔姚合、遊春詩〕嚼レ花香滿レ口、書レ竹粉粘レ衣。

【書軸】220 ショヂク 文字を書いた掛軸。

【書帙】221 ショチツ ❶書物を包むおほひ。ほんづつみ。ちつ。〔拾遺記、四、秦始皇〕張儀・蘇秦二人同レ志好レ學、每假二食於路一、剝二樹皮一、編以爲二書帙一、以盛二天下良書一。❷書物。書卷。〔張謂、同二王徵君一湘中有レ懷詩〕不レ用レ開二書帙一、偏宜レ上二酒樓一。

【書帳】222 ショチヤウ 書物のとばり。轉じて、書齋をいふ。〔梁昭明太子、錦帶書、十二月啓、太簇正月〕神遊二書帳一、性縱二琴堂一。〔駱賓王、冬日過二故人任處士書齋一詩〕雪明書帳冷、水靜墨池寒。

【書場】223 shu¹ ch'ang³ 戲曲講談などを行ふ寄席。詞場。

【書中】224 ショチユウ ❶書物の中。書物の文章の中。書中有レ女顏如レ玉(226)を見よ。❷手紙の文言の中。

〖書中虎〗225 ショチユウノトラ 書家中のすぐれたもの。〔通俗編、書、書中虎〕詞林海錯、李陽冰善レ書、竇臮稱爲二書中虎一。

〖書中有レ女顏如レ玉〗226 ショチユウニヂヨアリカンバセタマノゴトシ 書物を讀んで勉學すれば、榮貴の位を得て、美しい女を娶ることが出來る。〔宋眞宗皇帝、勸學文〕娶レ妻莫レ恨レ無二良媒一、書中有レ女顏如レ玉。

〖書中自有二千鍾粟一〗227 ショチユウオノヅカラセンショウノゾクアリ 書物を讀んで勉學すれば、高官になつて、莫大の俸祿を得ることが出來る。〔宋眞宗皇帝、勸學文〕富レ家不レ用レ買二良田一、書中自有二千鍾粟一。

〖書中自有二黃金屋一〗228 ショチユウオノヅカラワウゴンノヲクアリ 書物を讀んで勉學すれば、富裕の人となることが出來る。〔宋眞宗皇帝、勸學文〕安居不レ用レ架二高堂一、書中自有二黃金屋一。

〖書中車馬多如レ簇〗229 ショチユウシヤバオホクシテムラガルガゴトシ 書物を讀んで勉學すれば、立身出世して澤山の車馬を從へ步く地位にのぼることが出來る。〔宋眞宗皇帝、勸學文〕出レ門莫レ恨レ無二人隨一、書中車馬多如レ簇。

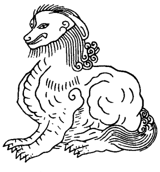
【書廚】230 ショチユウ ❶博學強記の人をいふ。〔十國春秋〕諸學士每レ爲レ文、先問二古今首末於朱遵度一、國人號爲二幕府書廚一。〔宋史、吳時傳〕敏二於爲レ文、未二嘗屬レ稿、落レ筆已就、兩學目レ之、曰二立地書廚一。〔通俗編、文學、書廚〕按、宋李邯鄲格李綱、皆以二博學強記一、人號二書廚一。❷博學であつても實用をなさないものを嘲る語。書簏。〔南齊書、陸澄傳〕讀レ易三年、不レ解二文義一、欲レ撰二宋書一竟不レ成、王儉戲レ之曰、陸公、書廚也。

【書蟲】231 ショチユウ 柳の葉の蟲の食つた跡が、字を書いたやうになつてゐること。〔漢書、眭弘傳〕上林苑中大柳樹、斷枯臥レ地、亦自立生、有下蟲食二樹葉一、成中文字上。〔蘇軾、宿二餘杭法喜寺後綠野亭一望二吳興諸山一云云詩〕稻涼初吠レ蛤、柳老半書レ蟲。〔張矩、詩〕繞二隄水一楊柳、蟲書半成レ文。

【書枕】232 shu¹ chen³ 文具の名。けいさん。圭算。書尺。

【書賃】233 カキチン 書きものをした勞に對する賃錢。

【書鎭】234 ショチン 文具の名。けいさん。文鎭。〔南史、垣榮祖傳〕以レ鐵爲二書鎭・如意一。〔錄異記〕會稽進士李眺、偶檢二得小石一、青色平正、溫溫滑可レ翫、用爲二書鎭一。



古玉辟邪書鎭
（古玉圖譜）

【書呈】235 ショテイ 手紙。〔水滸傳、二一回〕次日寫二了一封書呈一。

【書廷】236 ショテイ 淸、雷搢(12－42245・・73)の字。

【書鼎】237 ショテイ 晉の王羲之が九江に沈めた鼎で四面周匝遍く書を刻し、皆眞隷書を用ふ。〔鼎錄〕王羲之於二九江一作二書鼎一、高五尺、四面周匝書遍刻レ之、沈二於水中一、皆眞隷書。

【書滴】238 ショテキ 墨をするに用ひる水。すみみづ。〔西京雜記、二〕以レ酒爲二書滴一、取二其不レ冰。

【書牒】239 ショテフ 字をかくふだ。〔急就篇、三〕簡札檢署槧牘家。〔注〕竹簡以爲二書牒一。

【書典】240 ショテン 書物。文書。〔後漢書、張衡傳〕自二書典所レ記、未二之有一也。〔魏書、任城王雲傳〕臣每三於侍二坐先帝一、未下嘗不中以二書典一在上レ懷、禮經爲レ事、周二旋之一則不レ輟二於時一。

【書店】241 ショテン ほんや。書肆。書林。

【書塡】242 ショテン 書き入れること。〔十八史略、南宋、理宗皇帝〕令二自書塡行レ之。

【書顚】243 ショテン 草書に妙を得て草聖と稱された唐の張旭(3－9812・・205)の別號。〔歷代名畫記〕張既號二書顚一、吳宜レ爲二畫聖一。

【書田】244 ショデン ❶書籍をいふ。讀むことを耕すことにたとへていふ。〔袁桷、廣招〕耕二書田一而振厲。❷科擧時代、巨族大姓には田產を公置し、凡て族中の子弟が生員以上に補せられると、其の收租を許して膏火を助けさせ、之を書田といつた。福建・廣東・浙江等の省に多く置かれた。❸明、方逢年(5－13620・・615)の字。

【書傳】245 ショデン ❶書いて傳へた書籍。古人の書いた書籍。〔史記、趙奢傳〕括徒能讀二其父書傳一、不レ知レ合レ變也。〔後漢書、班超傳〕超有二口辯一、而涉二獵書傳一。❷尙書の注釋。孔安國の孔傳、蔡沈の蔡傳など。尙書(4－7493・・85)を見よ。〔宋史、藝文志一〕蔡沈、書傳六卷。

【書斗】246 shu¹ tou³ 學校教師に屬する使丁。

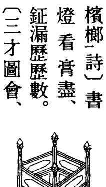
【書圖】247 ショト ❶圖書。〔韓非子、用人〕故人主結二其德一、書圖著二其名一。❷河圖洛書(6－17245・・182)の略。〔韓詩外傳、五〕河洛出二書圖一、麟鳳翔二乎郊一。

【書蠹】248 ショト ❶書物が蟲ばまれる。〔趙抃、書院詩〕雨久藏書蠹、風高老屋斜。❷書物を害ふしみ。蠹魚。〔武元衡、送三許著作分二司東都一詩〕署分刊二竹簡一、書蠹護二芸香一。

【書奴】249 ショド 書法に拘つて變通を知らぬ者をいふ。〔稱謂錄、書、書奴〕法書苑、周越云、凡書執レ法不レ變、縱能入レ石三分、亦號爲二書奴一。

【書筒】250 ショトウ ❶書物を入れるつつ。〔李白、訓二宇文少府一詩〕桃竹書筒綺繡文、良工巧妙稱二絕羣一。❷手紙の封筒。〔軒渠錄〕節日、同舍有レ令下從者以二書筒一盛二門狀一、偏散中於人家上。

【書燈】251 ショトウ 書齋に點す燈火。書檠。〔蘇軾、食二檳榔一詩〕書燈看膏盡、鉦漏歷歷數。〔三才圖會、器用十二、影燈、燭臺、書燈〕不レ知二其制之所レ始、殆後人以レ意創爲レ之者、三物雖三皆借二光於燭一、然或以障レ日、或以障レ風、其用則同レ歸耳。



書燈
（三才圖會）

【書童】252 ショドウ 學僕。書僮に同じ。

【書僮】253 ショドウ 學者に召使はれる子供。學僕。〔說文〕籥、書僮竹笘也。

【書牘】254 ショトク ❶字をかくふだ。又、てがみ。書簡。書翰。〔史記、匈奴傳〕漢遺二單于書牘一、以二尺一寸一。〔南史、范雲傳〕書牘盈レ案、賓客滿レ門。❷ふだに文字を書く。〔漢書、周勃傳〕獄吏乃書二牘背一示レ之。

〖書牘體〗255 ショトクタイ 手紙の文體。

〖書牘文〗256 ショトクブン 書翰文(43)に同じ。

【書腦】257 ショナウ 書物の紙の絲にて綴るべき所。〔宋稗類鈔〕司馬溫公嘗謂二其子公休一曰、賈豎藏二貨寶具一、儒家惟書耳、然當レ知二寶惜一、吾每歲以二上伏及重陽閒一、視二天氣晴明日一、卽淨二几案一于二當レ日所一、側二羣書其上一以曝二其腦一、所三以年月雖レ深、終不二損動一、至三于啓レ卷、必先視二几案潔淨一、藉以二茵褥一、然後端坐看レ之、或欲二行看一、卽承以二方版一、未二嘗敢空手捧レ之、非二惟手汗漬及一、亦慮三觸二動其腦一、每レ至三看二竟一版一、卽側二右手大指面一襯二其沿一、隨レ覆以次二指面一、撚而挾過、故得レ不レ至三揉二熱其紙一、每見下汝輩多以二指爪一撮起上、甚非二吾意一。〔藏書紀要〕書眼要レ細、打得正而小、截レ書、上下天地頭及書腦毛邊、要二放寬展一、以二潤且長一爲レ貴、勿下貪二零紙一以致中短狹上。

【書入】258 カキイレ ❶書き加へること。❷抵當。〔御定書百箇條〕二重質・二重書入・二重賣、御仕置之

事。㊂賣行や利益の期待。

【書年】259ショネン　字號。㊀明、蕭露豐(9－32012‥535)の字。㊁明、八大山人(2－1450‥351)の號。㊂清、戴大有(5－11685‥192)の字。㊃清、熊少牧(7－19294‥157)の字。㊄清、汪大經(6－17154‥295)の字。

【書農】260ショノウ　清、胡敬(9－29400‥110)の號。

【書帊】261ショハ　書物をつつむ覆。書帕。〔通俗篇、服飾、書帊〕西京雜記、祕閣圖書、表以㆓牙籤㆒覆以㆓錦帊㆒、唐書、禮樂志、讀㆓月令于帝前㆒畢、覆以㆑帊、說文、帛二幅爲㆑帊、按、世俗多用㆓帕字㆒、南史張譏傳、錯㆓綵經帕㆒、卽母之遺制、亦用㆑之、然帊爲㆓正文㆒。

【書方】262ショハウ　死者を送る物件を錄した方板。〔禮、曲禮下〕書方・衰・凶器、不㆓以告㆒、不㆑入㆓公門㆒。〔注〕方、板也、士喪禮下篇曰、書㆓賵於方㆒、若九若七若五。〔疏〕書、謂㆘條㆗錄送㆓死者㆒物件數目多少㆖、如㆓今死人移書㆒也、方、板也、百字以上用㆓方板㆒書㆑之、故、云㆓書方㆒也。

【書包】263ショハウ shu¹ pao¹　㊀本の包。帙。㊁學生の鞄。

【書棚】264ショハウ　しよもつだな。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕白蛾飛㆓舞地㆒、幽蠹落㆓書棚㆒。

〖書棚本〗265ショハウボン　坊刻本をいふ。坊本(3－4924‥37)の㊀を見よ。〔劉聲木、萇楚齋隨筆〕宋陳起設㆓書肆於錢塘睦親坊㆒、自號㆓陳道人㆒、刊㆓書籍㆒甚富、後人得㆓其刊本㆒、謂㆓之陳氏書棚本㆒。

【書坊】266ショバウ　㊀書齋。〔韋述、奉㆘和聖製送㆗張說上㆓集賢學士㆒賜㆖宴詩〕台座徵㆓人傑㆒、書坊應㆓國華㆒。㊁書店。書肆。本屋。〔書林清話、刊刻之名義〕勝代至㆑今、四五百年、書坊刻書、皆曰㆓繡梓㆒。〔書林清話、宋坊刻書之盛〕建陽麻沙書坊、紹興庚申、刻㆓曾慥類說五十卷㆒。㊂鎭の名。福建省建陽縣の西、崇化里。昔、全書讀本を出す。

【書房】267ショバウ　㊀書齋。書室。今は大門を入つた處にある一室で、普通之を客廳にあてる。〔元稹、和㆘樂天過㆓祕書閣㆒省㆗舊廳㆖詩〕祕閣書房次第開。〔夷堅志〕陳如塤一妹嫁㆓遠鄉㆒、嘗往㆓其家㆒、見㆓一樓寛敞㆒、施㆑牀欲㆑宿、妹曰、此中多㆑鬼、兄毋㆑取㆑禍、已灑㆓掃書房㆒延待矣。㊁書店。ほんや。㊂shu¹ fang² 塾。

【書帕】268ショハク　㊀書籍と帕。帕は帊に通じ、帛三幅をいふ。明代、官界で相贈遺するに此の二物を用ひた。後、金銀珠寶を以てしたが、猶、書帕と稱した。〔說略〕晉撫缺、晉人尹同皐潘雲翼欲㆑推㆓其座師郭尚友㆒、時魏廓園掌㆓吏科㆒、以㆓此公慣㆑送㆓書帕㆒爲㆑言、余曰、書帕未㆑足㆑定㆓人優劣㆒、且今世界餽遺公行、有㆓以㆑違㆑俗爲㆒㆑高、有㆓以㆑隨㆑俗爲㆒㆑賢、有㆔自己潔而遺㆑人不㆓敢不㆒㆑厚、有㆔自己濁而遺㆑人亦不㆓肯過㆒㆑豐、其才品正邪、當㆘另㆓于書帕外㆒論㆖之。〔日知錄、藝文、監本二十一史、注〕原注、昔時入覲之官、其餽遺一書一帕而已、謂㆓之書帕㆒、自㆓萬歷㆒以後、改用㆓白金㆒。〔識小錄〕往時書帕至㆓三四十金㆒矣、外舅官詹姚公爲㆓翰林㆒時、外官書帕、少者僅㆓三四金㆒、余所㆓親見㆒、此不㆑過㆓往來交際之常㆒、亦何足㆑禁、自㆓今上嚴旨屢申㆒、而白者易以㆑黃矣、猿嫌㆓其重㆒、更易以㆓圓白而光明者㆒、近年來每於㆓相見揖時㆒、口敍㆓寒暄㆒、兩手授受、世風日偸、如㆓江河之下㆒、不㆑可㆑止矣。㊁書帕本の略。

〖書帕本〗269ショハボン ショハクボン　明の隆慶・萬曆間に古書の複製せられたものをいふ。主として贈遺用に用ひたものであるから、外形だけを整へて校刻が不正確であつたり、或は妄りに刪削が加へてあつたりして、すべて古意が失はれてゐる。皆、帕を添へて人に遺るに用ひたので一書一帕の稱があり、世に之を書帕本といふ。〔書林清話、明時書帕本之謬〕明時官吏奉㆑使出差、回㆑京必刻㆓一書㆒、以㆓一書一帕㆒相餽贈、世卽謂㆓之書帕本㆒、語詳㆓顧炎武日知錄㆒、按、明時官出㆓俸錢㆒刻㆑書、本緣㆓宋漕司郡齋好事之習㆒、然校勘不㆑善、訛謬滋多、至㆑今藏書家均視㆓當時書帕本㆒、比㆓之經廠坊肆㆒、名低價賤、殆有㆑過㆑之。

【書拔】270カキヌキ　ぬきがきすること。又、其のもの。

【書法】271ショハフ　㊀書き方が正しい。事の善惡を曲げずに書くこと。〔左氏、宣、二〕孔子曰、董孤古之良史也、書法不㆑隱。㊁文字のかき方の法則。書式。又、書の手本。〔南史、周顒傳〕少從㆓外氏車騎將軍臧質家㆒、得㆓衞恆散隸書法㆒、學㆑之甚工。〔唐書、百官志、注〕習㆑書、出㆓禁中書法㆒、以授㆑之。㊂神君の言を書いた書。一說に、策書の法。又、畫一の法。〔史記、封禪書〕神君所㆑言、上使㆔人受㆓書其言㆒、命㆑之曰㆓書法㆒、其所㆑語、世俗之所㆑知也、無㆓絕殊者㆒、而天子心獨喜、其事祕、世莫㆑知也。〔史記、武帝紀〕其言命㆑之曰㆓書法㆒、其所㆑語、世俗之所㆑知也。〔注〕集解曰、駰案、漢書音義曰、或云策書之法也、正義曰、書、音畫、按、畫一之法。

〖書法考〗272ショハフカウ　書名。八卷。元、盛熙明撰。あらゆる筆法を考證し、梵書・蒙古書に及ぶ。〔四庫提要、子、藝術類〕。

〖書法雅言〗273ショハフガゲン　書名。一卷。明、項穆撰。見る所の眞跡により此の編を爲る。凡て十七篇。〔四庫提要、子、藝術類〕。

〖書法正傳〗274ショハフセイデン　書名。十卷。清、馮武撰。正書の法を論ず。前七卷は皆舊文を綴り、己が意を以て評定し、第八卷は書家の小傳、第九卷は名跡源流、第十卷は馮班の著はす所の鈍吟書要を載す。〔四庫提要、子、藝術類〕。

〖書法離鉤〗275ショハフリコウ　書名。十卷。明、潘之淙撰。論書の舊說をあつめ、分類して編纂す。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【書判】276ショハン　㊀書法の勝れたのを書と云ひ、文理の優れたのを判と云ふ。唐代、人を選拔する目。〔唐書、百官志一〕吏部郞中、以㆓三銓之法㆒、官㆓天下之材㆒、以㆓身言書判德行才用勞效㆒、較㆓其優劣㆒、而定㆓其留放㆒、爲㆓之注擬㆒。〔唐書、選擧志下〕凡擇㆑人之法有㆑四、一曰身、體貌豐偉、二曰言、言辭辯正、三曰書、楷法遒美、四曰判、文理優長、四事皆可㆑取。〔韓愈、河南少尹李公墓誌銘〕考滿以㆔書判出㆓其倫㆒、選㆓主萬年簿㆒。㊁カキハン　文書にある自己の名の下に自筆で一定の字形に書いた判。〔倭訓栞〕かきはん。押字とも、花押ともいへり。或は花書と稱す。歐陽氏も俗以㆓草書名㆒爲㆓押字㆒といへり。堂上にて判ばかりにて名乘を書かざるあり。是花押なればなり。よつて名乘を草名といへり。

〖書判拔萃〗277ショハンバッスイ　書法と文辭との巧拙を見て人を選拔すること。〔歐陽脩、尹師魯墓誌銘〕學㆓書判拔萃㆒、遷㆓山南東道掌書記㆒。

【書班】278 shu¹ pan¹　書記。筆生。

【書比】279ショヒ　物價の高低の比例を書くこと。〔管子、乘馬〕分春曰㆓書比㆒。〔纂詁〕書比、書㆓貴賤之比例㆒也。

【書皮】280 shu¹ pʻi²　㊀本の表紙。㊁帙。書籍の包み紙類。

〖書皮兒〗281 shu¹ pʻi² êrh　書皮に同じ。

【書尾】282ショビ　手紙の末尾。〔羅隱、送㆓秦州從事㆒詩〕若到㆓邊庭㆒有㆓來使㆒、試批㆓書尾㆒話㆓梁州㆒。

【書眉】283 shu¹ mei²　㊀書物の上端。㊁書籍の標題。書籤。

【書品】284ショヒン　書名。一卷。梁、庾肩吾撰。漢から齊梁に至る間の眞草を能くする者を分けて九品とし、每品、繫けるに論を以てす。後、唐になつて、韋續に續書品一卷、李嗣眞に後書品一卷がある。〔四庫提要、子、藝術類〕・〔雪堂韻史、第四冊〕・〔續百川學海、第二十九冊〕・〔漢魏叢書、第七十一冊〕・〔五朝小說、第六冊〕・〔說郛、第八十六・八十七冊〕・〔湖北先生遺書、第五十四冊〕。

【書府】285ショフ　書庫。〔孔安國、尙書序〕藏㆓之書府㆒、以待㆓能者㆒。〔陸倕、感㆓知己㆒賦〕學窮㆓書府㆒、文究㆓辭林㆒。

【書符】286ショフ　護符。〔王建、贈㆓溪翁㆒詩〕看日和㆓仙藥㆒、書符救㆓病人㆒。

【書譜】287ショフ　書名。㊀一卷。唐、孫過庭撰。もと六篇二卷あつたが、今、眞迹總序一篇のみ傳はる。〔四庫提要、子、藝術類〕。㊁宣和書譜。二十卷。撰者未詳。宋、徽宗の時、內府に藏されてゐた諸帖を記したもの。〔四庫提要、子、藝術類〕。㊂續書譜。一卷。宋、姜夔撰。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【書風】288ショフウ　文字のかきぶり。書道の流儀。

【書幅】289ショフク　文字を書いた掛物。

【書物】290ショモツ　㊀書記した物。又、文書を綴ぢたもの。ふみ。書籍。〔後漢書、戴封傳〕時同學石敬平溫病卒、封養視殯斂、以㆓所㆑齎糧㆒、市㆓小棺㆒送㆑喪、到㆑家更斂、見㆔敬平行時書物皆在㆓棺中㆒、乃大異㆑之。㊁カキモノ　文字などを書くこと。又、文字を書いた紙片など。文書。〔毛利家記〕他言有間敷由の書物を給はり候へかし。

〖書物奉行〗291ショモツブギャウ　德川時代、文庫を管理し、圖書記錄を掌り、編修校刊の事を司つた役。

【書文】292 ショブン ❶文字をいふ。〔唐太宗、正日臨朝詩〕車軌同二八表一、書文混二四方一。〔韓愈、喜レ雪獻二裴尚書一詩〕陣勢魚麗遠、書文鳥篆奇。❷撰文と揮毫。〔碑版廣例〕西狹頌、則兼著レ之、曰二仇靖書文一、書文云者、揮レ翰遣レ辭、一人爲レ之也、此後人某撰幷書例所二自起一。

【書屛】293 ショヘイ 屛風に字を書く。〔宋史、曹評傳〕性喜二文史一、書有二楷法一、慈聖命書レ屛、以奉二神宗一、卽賜二玉帶一、旌二其能一。

【書幣】294 ショヘイ ❶書狀と幣物。鄰國を聘問したり賢才を招致するに用ひるもの。〔戰國、趙策〕秦王使二使者報一曰、吾所レ使二趙國一者、小大皆聽二吾言一、則受二書幣一、若不レ從二吾言一、則使者歸矣。〔袁淑、傚二曹子建樂府白馬篇一詩〕五侯競二書幣一、羣公亟爲レ言。❷幣物を書き記す。〔儀禮、聘禮〕宰レ書レ幣。〔注〕書二聘所レ用幣多少一也。

【書癖】295 ショヘキ 讀書を好むくせ。讀書癖。〔高適、上二陳左相一詩〕公才山吏部、書癖杜荊州。〔蘇轍、次二韻王適東軒卽事一詩〕閉レ門憐子成二書癖一。

【書辨】296 ショベン 書吏。書記。〔稱謂錄、書吏、書辨〕明史宦官劉瑾傳、文華殿書辨官張駿等改膽。〔桃花扇、迎駕〕扮二書辨一、取二摺紳一來。〔淸國行政法汎論、文官仕途種類、吏胥之特別遷秩〕吏胥者、謂下各衙門之掌二簿書案牘一者上、其稱呼不二一而足一、或稱二書吏一、或稱レ吏、俗又謂二之書辨一。

【書圃】297 ショホ ❶書物の多くある處。書林。〔司馬相如、上林賦〕脩二容乎禮園一、翺二翔乎書圃一。❷淸、曹錫鑽（**5**－**14297**・・273）の號。

【書舖】298 ショホ 書籍を販賣する店。書店。書鋪。

【書鋪】299 ショホ ❶代書人。〔眞臘風土記〕人家告狀、亦有二書鋪一書寫。❷書舖に同じ。〔張籍、送三楊少尹赴二鳳翔一詩〕得レ錢祗了還二書鋪一、借レ宅常時事二藥欄一。〔通俗編、藝術〕書鋪。

【書簿】300 ショボ 帳面。簿書。

【書封】301 shu¹ fêng¹ ❶封筒。❷封を書く。

【書縫】302 ショホウ 書物のとぢめ。〔林寬、苦雨詩〕潤侵書縫黑、冷浸鬢絲明。

【書本】303 ショホン 書籍。〔書苑〕選二三館書本一、正萬卷。

【書名】304 ショメイ ❶書物の名。〔四庫提要、子、藝術類、易通變〕是書之名、永樂大典作二易通變一、費宏本作二皇極經世通變一。❷名前を書く。〔左氏、僖二十三〕不レ書レ名、未二同盟一也。〔張籍、贈二趙將軍一詩〕會取二安西一將レ報レ國、凌烟閣上大書レ名。

【書名號】305 shu¹ ming² hao⁴ 標點符號の一種。「〰」のしるしで、書名、篇名の左旁につける。橫書のものは、眞下に橫に引く。

【書命】306 ショメイ ❶命令書。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕操因二其未レ破、陰交二書命一、外助二王師一、內相掩襲。❷命令を書く。〔唐書、蘇頲傳〕時李乂對掌レ書レ命。

【書銘】307 ショメイ 書いて金石にきざむ。〔呂覽、審爲〕今使三天下書二銘於君之前一、書レ之曰、左手攫レ之、則右手廢、右手攫レ之則左手廢、然而攫レ之、必有二天下一。

【書面】308 ショメン ❶文書のおもて。文面。❷手紙。書狀。

【書面委任】309 ショメンヰニン 書面で委任の意志をあらはすこと。

【書面契約】310 ショメンケイヤク 書面の作成を以て契約成立の要件とすること。

【書目】311 ショモク 書物の名をつらねしるしたもの。圖書の目錄。〔南史、任昉傳〕昉家雖レ貧、聚レ書至二萬餘卷一、率多二異本一、及二卒後一、武帝使下學士賀縱、共二沈約一、勘中其書目上、官無者、就二其家一取レ之。〔姚合、和二座主相公西亭秋日卽事一詩〕海圖裝二玉軸一、書目記二牙籤一。

【書目擧要】311′ ショモクキヨエウ 書名。一卷。淸、周貞亮・李之鼎編。古今の書目を十一類に分ち、各〻のもとにその版本を詳說したもの。

【書目答問】312 ショモクタフモン 書名。四卷。淸、張之洞撰。一說に、繆荃孫代撰といふ。經史子集の四部とし、其の中、また子目を數十門に分け、各種の書を其の下に錄し、各書に就て其の卷數と著者とを記し、且つ刻本の善惡を署する等、一として學者に益せぬはない。卷首に淸朝著述諸家姓名略を掲ぐ。〔愼始基齋叢書、第三・四冊〕。

【書門】313 ショモン ❶秦の始皇が李斯に命じて、嶧山の頂上に勒せしめた銘。〔水經、泗水注〕嶧山北有二絕巖一、秦始皇觀二禮于魯一、登二于嶧山之上一、命二丞相李斯一、以二大篆一勒二銘山嶺一、名曰二書門一。❷下役。側役人。〔福惠全書、蒞任部、到衙門〕書門皂快各人役、依レ次參謁畢。

【書紋】314 カキモン 紋所を直接衣服に書いたもの。張紋（**4**－**9812**・・693）の對。

【書問】315 ショモン 手紙で安否を問ふ。又、手紙のおとづれ。〔杜預、歲終帖〕歲忽已終、別久益兼二其勞一、道遠書問又簡。〔王羲之、十七帖〕計、與二足下一別、二十六年於今一、雖二時書問一、不レ解二闊懷一。

【書樣】316 ショヤウ 文字のありさま。字形。〔支那通史、上世世態文字〕書樣、較二篆・隸一更簡捷。

【書傭】317 ショヨウ 雇はれて寫字する者。庸書。筆生。〔後漢書、班超傳〕超兄固被レ召詣二校書郞一、超與レ母隨至二洛陽一、家貧、常爲二官書傭一以供養。〔吳夢暘、詩〕近來鄉曲號二書傭一。

【書傭博徒】318 ショヨウハクト 淸、許希沖（**10**－**35298**・・253）の號。

【書吏】319 ショリ ❶官衙の簿書・案牘・會計等を掌る小吏。〔漢書、陳遵傳〕爲二河南太守一、既至レ官、當下遣二從史一西上、召二善レ書吏十人於前一、治二私書一、謝二京師故人一、遵馮レ几口占書レ吏、且省二官事一、書數百封、親疏各有レ意。〔注〕師古曰、占、隱度也、口隱二其辭一以授レ吏也。〔蘇頲、長樂花賦序〕因口二授書吏一、遂墨而成レ作。❷淸代、總督・巡撫・學政・各倉・各關の監督の吏をいふ。〔淸會典、吏部〕設二在官之人一、以治二其房科之事一、曰レ吏、外吏之別四、一曰二書吏一。〔注〕總督・巡撫・學政・各倉・各關監督之吏、皆曰二書吏一。〔淸國行政法汎論、文官仕途種類、吏胥之特別遷秩〕吏胥者、謂下各衙門之掌二簿書案牘一者上、其稱呼不二一而足一、或稱二書吏一、或稱レ吏、俗又謂二之書辨一、云云、又在二外省一奉二職於督撫學政鹽政各倉各監督等衙門一曰二書吏一。❸事務を取る屬官。昔、親王家に勤めた職員で家從の下に位したもの。〔家令職員令〕大書吏一人、少書吏一人。〔注〕掌三勘二署文案一、餘書吏准レ之。

【書留】320 カキトメ ❶文字に記して後に殘して置くこと。又、其の文書。❷書留郵便の略。

【書留郵便】321 カキトメイウビン 郵便物特殊取扱の一。送達を確實にするため、一定の手數料を拂ひ、郵便物の種類・番號及び發送人・受取人の住所・姓名を郵便局備附の帳簿に記載し置き、紛失若しくは誤送のあつた時には其の取調をするもの。

【書留草堂】322 ショリウサウダウ 淸、毛奇齡（**6**－**16772**・・264）の室名。

【書林】323 ショリン ❶書物が多く集つてゐる所。藏書室。又、多くの書籍をいふ。〔揚雄、長楊賦〕今朝廷純仁、遵レ道顯レ義、幷二包書林一、聖風雲靡、英華沈浮、洋二溢八區一、普天所レ覆、莫レ不二沾濡一。〔後漢書、和帝紀〕帝幸二東觀一、覽二書林一、閱二篇籍一。❷書店。書肆。〔書林淸話、明人私刻坊刻書〕書林余氏、正統辛酉、刻二十八史略二卷一。

【書林友】324 ショリンノトモ 學者なかま。〔張說、右侍郞集賢院學士徐公挽詞〕歎息書林友、才華天下選。

【書林淸話】325 ショリンセイワ 書名。十卷。淸、葉德輝撰。各時代に於ける版本について述べたもの。

【書綸】326 ショリン 淸、漢軍正藍旗人。字は紫園。號は碩農。道光の進士。官は四川西昌縣知。廉能の士。詩文に巧。書室を直益山房といふ。著に建南風俗略・有益山房詩集がある。〔續碑傳集、四十二〕。

【書麟】327 ショリン 淸、滿洲鑲黃旗人。謚は文勤。官は乾隆の閒、西安副都統となり、金川を平らげて功あり。廣西提督となる。嘉慶の閒、協辨大學士・湖廣總督となり、川楚の教匪を討つて軍中に卒す。〔淸史稿、三百四十九〕・〔淸史列傳、二十七〕・〔國朝耆獻類徵、三十一〕。

【書類】328 ショルイ ❶書經に關する部類。〔宋史、藝文志序〕經類十、一曰易類、二曰書類、三曰詩類。❷文字で記したものの總稱。かきつけ。文書。

【書例】329 ショレイ ❶書き方の例。書式。❷shu¹ li⁴ 潤筆料の規程。

【書禮】330 ショレイ 書辭と幣物。〔韓愈、送二石處士一序〕冠帶出見レ客、拜二受書禮於門內一。

【書樓】331 ショロウ ❶書物を藏して置く樓。〔唐書、李磎傳〕磎好レ學、家有レ書、至二萬卷一、世號二李書樓一。〔白居易、池上閑詠詩〕靑莎臺上起二書樓一、綠藻潭中繫二釣舟一。〔實賓錄〕書樓張家、五代周張昭遠、好レ學積二書萬卷一、以レ樓居レ之、號二書樓張家一。❷

記憶力のよいこと。宋の韋旻の記憶の優れてゐたことを世人が書樓と稱したことからいふ。〔尙友錄、二〕韋旻、宋、上林人、閉レ門力レ學、衆以二書樓一目レ之。❸shu^1 lou^2 講談の寄席。書館。

【書籠】332 ショロウ 書物いれ。〔廣博物志〕隋開皇初、廣都孝廉侯迺、至二劍門外一、忽見二四黃石一、迺愛レ之收二藏書籠一、負レ之以レ驢、既歇レ鞍取看、皆化爲レ金。

【書錄】333 ショロク ❶書き記す。載錄。❷書名。三卷。宋、董更撰。宋代書家の氏名を記す。上卷は帝王、中卷は北宋百十八人、下卷は南宋四十五人、末に外篇を附し、女子六人を收む。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【書錄解題】334 ショロクカイダイ 書名。直齋書錄解題(**8－23136**··97)を見よ。

【書簏】335 ショロク ❶書物を納れるつづら。〔皮日休、醉中卽席贈二潤卿博士一詩〕茅山頂上攜二書簏一、笠澤心中漾二酒船一。〔宋史、歐陽脩傳〕脩游隨、得二唐韓愈遺藁於廢書簏中一、讀而心慕レ焉。❷本を讀むだけで其の意義を解せず、又、善用しない者の譬。論語讀みの論語知らず。書廚。〔晉書、劉柳傳〕時右丞傅迪、好廣讀レ書、而不レ解二其義一、云云、柳云、卿讀レ書雖レ多、而無レ所レ解、可レ謂二書簏一矣。〔唐書、李邕傳〕父善有二雅行一、淹二貫古今一、不レ能レ屬レ辭、故人號曰二書簏一。

【書論】336 ショロン ❶文章をいふ。〔淮南子、要略〕夫作二爲書論一者、所下以紀二綱道德一、經中緯人事上。❷文體の名。書と論。〔魏文帝、典論、論文〕奏議宜レ雅、書論宜レ理、銘誄尙レ實、詩賦欲レ麗。❸書法の論。〔杜荀鶴、投二長沙裴侍郎一詩〕祇望至公將二卷讀一、不レ求朝士致二書論一。

【好レ書】337 ショヲコノム 書物を讀むのを好む。〔法言、吾子〕好レ書而不レ要二諸仲尼一、書肆也、好レ說而不レ見二諸仲尼一、說鈴也。

【曝レ書】338 ショヲサラス 書籍の蟲ぼしをする。〔王隱晉書〕時七月七日、高祖方曝レ書。〔四民月令〕七月七日、曝二經書及衣裳一、不レ蠹。

【焚レ書】339 ショヲヤク 秦の始皇が天下の詩書及び百家の語を焚滅したことをいふ。〔史記、秦始皇紀〕臣請史官非二秦記一皆燒レ之、非二博士官所一レ職、天下敢有下藏二詩書百家語一者上、悉詣二守尉一雜燒レ之、有三敢偶二語詩書一棄市、以レ古非レ今者族、吏見知不レ擧者與同レ罪、令下三十日不レ燒、黥爲二城旦一、所レ不レ去者、醫藥卜筮種樹之書。

【書耘齋】340 ショウンサイ 清、凌魚(**2－1669**··35)の號。

【書葉軒】341 ショエフケン 宋、張鎡(**4－9812**··361)の室名。

【書獃子】342 shu^1 tai^1 tzŭ 讀書に耽る人。

【書槅子】343 shu^1 kê^2 tzŭ 書籍棚。本棚。

【書兒啼】344 ショジテイ 子供の夜啼きを止めるために禁厭を紙に書いて貼ること。〔庚闡、近遊賦〕書二兒啼於客堂一。

【書舟詞】345 ショシウシ 書名。一卷。宋、程垓撰。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【書集傳】346 ショシフデン 書名。尙書(**4－7493**··85)の參考書を見よ。

【書塾本】347 ショジュクボン 私塾・家庭などで刊行した書籍。宋元の書中に常に木記があつて某人書塾に刊すとしてある。故に書塾本といふ。家刻本。〔書林淸話、南宋臨安陳氏刻書之一〕伯弨十七八時、卽博聞強記、侍二乃翁晉仙一、已好レ吟、泊レ長而四十年閒、宦二游吳楚江漢一、足迹所レ到聲騰名振、但卷帙稍多、因摘二其坦然者一、兼集外所レ得者一、近二二百首一、目爲二端平詩雋一、續芸陳君書塾入レ梓、同好者便二於看誦一。

【書小史】348 ショセウシ 書名。十卷。宋、陳思撰。歷代能書の人の事跡を詳記したもの。蒼頡から郭忠恕に至るまでの計四百三十人を收む。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【書帶園】349 ショタイエン 室名。❶清、梅鼎祚(**6－14830**··274)の室名。❷清、梅朗中(**6－14830**··281)の室名。

【書帶草】350 ショタイサウ 常綠多年生草。葉は韮の如く、長さ尺餘、柔軟で叢生し、中央に短い花莖を生じ、淡紫色の總狀の小花を開く。實圓く碧、もと山東省淄川縣鄭康成の讀書の處から出た。故に又、康成書帶草とも名づく。〔三齊記略〕鄭康成居二不其城南山中一教授、山下草如レ薤、葉長尺餘、人號二康成書帶草一。〔李羣玉、經二費拾遺所一レ居詩〕空餘書帶草、日日上レ階長。〔蘇軾、書軒詩〕庭下已生二書帶草一、使三君疑二是鄭康成一。〔方岳、題二晦翁庭一詩〕田田君子花、籍籍書帶草。

【書棹兒】351 shu^1 chuo^1 êrh 本箱。

【書攤子】352 shu^1 t'an^1 tzŭ 古本の露店。

【書同レ名】353 ショハナヲオナジクス 文字の書體は、その形と音とが統一せられて同じになつた。名は字。天下の政令が一途に出るのをいふ。〔管子、君臣上〕書同レ名、車同レ軌。〔纂詁〕名、字也、稱二其形一曰レ文、稱二其聲一曰レ名。〔中庸〕今天下、車同レ軌、書同レ文、行同レ倫。

【書入時】354 カキイレドキ 收入が多くて大切な時。「名。

【書福樓】355 ショフクロウ 清、嚴杰(**2－4589**··78)の室名。

【書附レ鶴】356 ショツルニフス 手紙を鶴に托する。〔李商隱、碧城詩〕閬苑有レ書多附レ鶴、女墻無レ樹不レ棲レ鸞。

【書八體】356′ ショハッタイ 八種の書體。漢書藝文志によれば、大篆・小篆・刻符・蟲書・摹印・署書・殳書・隸書をいふ。但し許愼の說文などには異說がある。八體(**2－1450**··344)の❷を見よ。

【書令史】357 ショレイシ 案牘を佐理する官。書記の類。〔通典、職官、尙書上、歷代都事主事令史〕晉宋蘭臺寺、正書令史、云云、北齊尙書郞判レ事、正令史側坐、書令史過レ事。

【書六體】358 ショノロクタイ ❶尙書の內容を別けて典・謨・訓・誥・誓・命の六とし、之を書の六體といふ。典は常法の義で堯典・舜典の類、古聖王の事業の後人が則るべきものを述べたもの。謨は大禹謨・皐陶謨・益稷の類、臣下が君のために天下を治める謀を述べたもの。訓は伊訓・太甲・無逸等の類、政教道德に關し、君臣が互に訓誡する語を述べたもの。誥は君臣同僚間の相諭告する語を記したもので、湯誥・盤庚の如く、上から下に對するもの、仲虺之誥・西伯戡黎の如く下から上に對するもの、微子・君奭の如く同僚互に相告げるものがある。誓は甘誓・湯誓・牧誓の類、軍旅の時、王及び將帥が士卒を訓戒する語を記したもの。命は說命・文侯之命・微子之命の類、上から下に職務を命ずるもの。以上の外、貢・歌・征・範の四を加へて書の十例と稱するものもあるが、性質上は上記の六種に包含さるべきものである。❷六種の書體。古文・奇字・篆書・隸書・繆篆・蟲書をいふ。六體(**2－1453**··416)の❶を見よ。

【書苑菁華】359 ショエンセイクワ 書名。二十卷。宋、陳思撰。古人の書を論じた語を集めたもので、體を分けて編次し、凡て三十二類一百六十餘篇に別つ。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【書歸正傳】360 shu^1 kuei^1 chêng^4 chuan^4 かえり說く。話はもとに復つて。

【書缺有レ閒】361 ショカクルコトカンアリ 古書の殘缺してゐるのは永年の閒のことである。〔史記、五帝紀贊〕書缺有レ閒矣、其軼乃時時見二于他說一。

【書三味齋】362 ショサンビサイ 清、錢元章(**11－40563**··299)の號。

【書心畫也】363 ショハシングワナリ 文字は書く者の精神を寫し出すものである。故に心畫といふ。〔法言、問神〕言、心聲也、書、心畫也、聲畫形、君子小人見矣。

【書帶草堂】364 ショタイサウダウ 清、鄭江(**11－39647**··39)「の室名。

【書不レ借レ人】365 ショハヒトニカサズ 書物を大切にして人に貸さぬこと。〔五雜組、事部一〕胡元瑞書、蓋得二之金華虞參政家一者、虞藏書數萬卷、貯二之一樓一、在二池中央一、小木爲レ彴、夜則去レ之、榜二其門一曰、樓不レ延レ客、書不レ借レ人。

【書不レ盡レ言】366 ショハゲンヲツクサズ 文章は口で言ひあらはせる事を十分にしるすことができぬ。〔易、繫辭上〕書不レ盡レ言、言不レ盡レ意。

【借レ書一癡】367 ショヲカルイッチ 書を借りる時は相手に酒一瓻を贈る。癡は瓻の誤、瓻は酒器。〔野客叢書、借書一鴟〕李正文資暇集曰、借二書集一、俗謂、借一癡、與二一癡一、索三癡、還四癡、又杜元凱遺二其子書一曰、書勿レ借レ人、古諺云、借レ書一嗤、還レ書一嗤、後人生二其詞一、至二三四一、譌爲レ癡、或曰、癡甚無レ謂、當レ作レ瓻、廣韻注、張孟押韻所レ載瓻字、皆曰、借レ書盛レ酒器也。

【借レ書留レ眞】368 ショヲカリテシンヲトドム 書を借りて之を寫し、眞本を留めて寫書を返すこと。〔漢書、河閒獻王德傳〕從レ民得二善書一、必爲好寫與レ之、留二其眞一、加二金帛一以招レ之、繇レ是四方道術之人、不レ遠二千里一、或有二先祖舊書一、多下奉以奏二獻王一者上。

【讀レ書亡レ羊】369（シヨヲヨミヒツジヲウシナフ） 書を讀んで居たために牧してゐた所の羊を失ふ。心を外に馳せて道を失ふ喩。〔莊子、駢拇〕臧與レ穀二人相與牧レ羊、而俱亡二其羊一、問二臧奚事一、則挾レ策讀レ書、問二穀奚事一、則博塞以遊、二人者、事業不レ同、其於レ亡レ羊均也。

【不レ喜レ作レ書】370（シヨヲツクルヲヨロコバズ） 文書を作ることを好まぬ。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕素不レ便レ書、又不レ喜レ作レ書、而人間多事、堆レ案盈レ几、不二相酬答一、則犯レ教傷レ義、欲二自勉強一、則不レ能レ久、四不レ堪也。

【擁二書萬卷一】371（シヨマングヮンヲヨウス） 多くの書籍を家に藏するをいふ。〔北史、李謐傳〕鳩二集諸經一、廣校二同異一、云云、爲二孔璠等一、判二決隱伏一、辭氣磊落、觀者忘レ疲、每曰、丈夫擁二書萬卷一、何假二南面百城一。

【校レ書如レ掃レ塵】372（シヨヲカウスルハチリヲハラフガゴトシ） 書籍の文字を校正するのは塵を掃ふやうなもので、幾回校合してもなほ誤りがある。〔夢溪筆談、雜誌二〕宋宣獻博學、喜藏二異書一、皆手自校讎、常謂、校レ書如レ掃レ塵、一面掃一面生、故有二一書一、每三四校、猶有二脫繆一。

【知レ書而德衰】373（シヨヲシリテトクオトロフ） 文字を知れば知識を得て德が衰へる。〔淮南子、泰族訓〕故民知レ書而德衰、知レ數而厚衰。

【學レ書如レ泝二急流一】374（シヨヲマナブハキフリウニサカノボルガゴトシ） 學問は急流を泝るやうなもので、進步の困難なものである。〔蘇軾、文〕學レ書如レ泝二急流一、用二盡氣力一、不レ離二舊處一。

【讀レ書不レ如レ寫レ書】375（シヨヲヨムハシヨヲウツスニシカズ） 書は讀んでも直ちに忘れるものである。故に讀書よりは精を費して寫書する方がよい。十讀不レ如二一寫一（**2－2695**‥734）を見よ。

【書足三以記二名姓一而已】376（シヨハモツテメイセイヲシルスニタルノミ） 書は己の姓名を記す役に立つだけのものである。故に深く學ぶを要せぬとの義。楚の項羽の故事。〔史記、項羽記〕籍曰、書足三以記二名姓一而已、劍一人敵、不レ足レ學、學二萬人敵一。

【書當二快意一讀易レ盡】377（シヨクヮイイニアタレバヨミテツクシヤスシ） 書物を讀んで快い時には、今少し其の氣分に浸つてゐたいと思ふけれども、直きに讀んで了ふ。〔陳師道、得意詩〕書當二快意一讀易レ盡、客有二可人一期不レ來、世事相違每如レ此、好懷百歲幾回開。

【以レ書御者不レ盡二馬情一】378（シヨヲモツテギヨスルモノハウマノジヤウヲツクサズ） 書物によつて其の理を知るのみで實際に通ぜぬものが馬を御しても、馬の心を理解して御することは出來ない。實地に就いて研究せねば役に立たぬ喩。〔戰國、趙策〕諺曰、以レ書爲レ御者、不レ盡二馬之情一、以レ古制レ今者、不レ達二事之變一、故循レ法之功、不レ足二以高一レ世、法レ古之學、不レ足二以制一レ今。

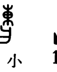
【讀レ書破二萬卷一下レ筆如レ有レ神】379（シヨヲヨムコトマングヮンヲヤブリフデヲクダセバシンアルガゴトシ） 書物萬卷を讀破し、詩文を書き初めると、身に神靈でも宿つたかのやうに立所にできあがる。〔杜甫、奉二贈韋左丞丈一詩〕甫昔少年日、早充二觀國賓一、讀レ書破二萬卷一、下レ筆如レ有レ神。

【書到用時方恨少事非經過不知難】380 shu^1 tao^4 yung^4 shih^2 fang^1 hen^4 shao^3 shih^4 fei^1 ching^1 kuo^4 pu^4 chih^1 nan^2 書物は多いやうでも利用する時になると其の少なきを恨み、事は經驗するのでなければ困難さが分らない。

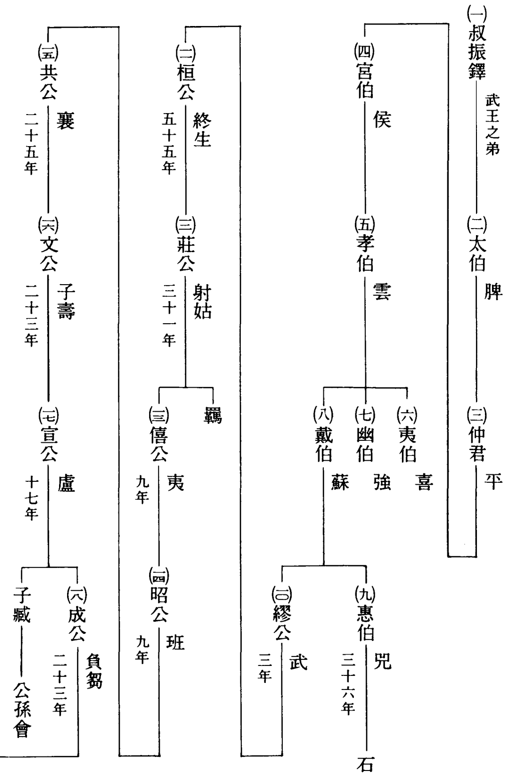
七畫

【倉】14295 クヮイ 會（**5－14306**）の古字。〔玉篇〕倉、古文會。

【曹】14296 サク 冊（**5－14289**）に同じ。〔篇海〕曹、音冊、告也、冊、籀文、同レ上。

【曹】14297 小篆 サウ ゾウ 〔集韻〕財勞切 ㄘㄠˊ ts'ao^2 豪 **❶つかさ**。㋑獄を治める裁判官。𣍘（**5－14323**）に同じ。〔正字通〕曹、从二兩棘一作レ𣍘。〔說文〕𣍘、獄兩曹也、从レ棘、在二廷東一也、从レ曰、治レ事者也。㋺やくしよ。官廳。〔漢書、薛宣傳〕坐レ曹治レ事。〔後漢書、百官志五〕皆置二諸曹掾史一。㋩やくにん。官吏。〔漢書、蕭育傳〕除爲二功曹一。〔漢書、于定國傳〕其父于公爲二縣獄史郡決曹一。㊁かかり。〔後漢書、百官志三〕分爲二四曹一。**❷とも**。ともがら。朋僚。等輩。〔史記、平準書〕分レ曹往。〔注〕索隱曰、曹、輩也。〔史記、倉公傳〕曹偶四人。〔注〕索隱曰、曹偶、猶二等輩一也。**❸つれ**。〔小爾雅、廣言〕曹、偶也。〔楚辭、宋玉、招魂〕分レ曹竝進。〔注〕曹、偶也。**❹むれ**。群衆。〔詩、大雅、公劉〕乃造二其曹一。〔傳〕曹、羣也。〔左氏、昭、十五〕使二曹逃一。〔注〕曹、羣也。〔呂覽、知度〕貪得僞詐之曹遠矣。〔注〕曹、衆。**❺兩曹**は、裁判における原告・被告。〔說文、𣍘、段注〕兩曹、今俗所謂原告・被告也。**❻地名**。春秋衞の地。衞が狄に滅された時、國人が戴公を此に立てた。今、河南省滑縣の南の白

曹（❻參照）



馬城。漕（**7－18131**）に通ず。〔說文通訓定聲〕曹、叚借爲レ漕。〔左氏、閔、二〕立二戴公一以廬二于曹一。〔注〕曹、衞下邑。❼**周の國名**。姬姓。伯爵。周の武王の弟、叔振鐸の封ぜられた國。陶丘に都す。今の山東省定陶縣。春秋の中頃、宋に滅さる。〔詩、曹風、集傳〕曹、國名、其地在二禹貢兗州陶丘之地、雷澤荷澤之野一、周武王以封二其弟振鐸一、今之曹州卽其地也。〔春秋、哀、八〕宋公入レ曹、以二曹伯陽一歸。〔文獻通考、封建考、春秋列國傳授本末事迹〕曹、曹叔振鐸、武王弟、武王克レ商、封二振鐸於曹一、振鐸子太伯、傳二仲君平・宮伯・孝伯・夷伯・幽伯・戴伯・惠伯・石甫・繆公・桓公・莊公・釐公・昭公・共公・文公・宣公・武公・平公・悼公・聲公・隱公・靖公・伯陽一、凡二十五傳、而曹爲二宋所レ滅。❽**姓**。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕曹氏、叔振鐸、文王子而武王弟也、武王克レ商、封二之於陶邱一、云云、爲二宋景公所レ滅、子孫以レ國爲レ氏。

名乘　ノブ。トモ。

解字　會意。𣍘は二つの東と曰との合字。裁判官を意味する。二つの東は二人の裁判官が朝廷の東に居ることを表はし、曰は言辭を以て判決を下すことを表はす。〔說文〕𣍘、獄之兩曹、在二廷東一、从レ東、治レ事者、从レ曰。徐鍇曰、以二言詞一治レ獄也、故从レ曰。〔說文通訓定聲〕治レ事者、从レ曰、按、判レ事以レ言也。

【曹安】1（サウアン）明、松江華亭の人。字は以寧。號は蓼莊。正統の擧人。官は安丘教諭。博學にして文章に巧。著に讕言張語・取嗤稿・蟋蟀吟がある。〔明名人傳、十〕。

【曹衣】2（サウイ）北齊の曹仲達の畫いた衣。其の衣服が緊窄であつたので曹衣出水といはれた。吳帶曹衣（**2－3365**‥280）を見よ。〔圖畫見聞志、敍論〕北齊曹仲達工レ畫、其體稠疊、而衣服緊窄、後人稱レ之、曰二曹衣出レ水。

【曹偉】3（サウヰ）朝鮮李朝、昌寧の人。字は太虛。號は梅溪。諡は文莊。官は戶曹判官。〔海東名臣錄〕。

【曹瑋】4（サウヰ）宋の人。彬の第三子。字は寶臣。諡は武穆。太宗の時、年十九にして大將に任ぜられ、李繼遷の叛を平ぐ。眞宗の時、知鎭戎軍に累遷し、屢〻西羌を破る。官は簽書樞密院事。丁謂に阿附せざりしため、寇準の黨なりと指斥され、萊州觀察使・彰武軍節度使に遷る。讀書を好み、春秋三傳に通じ、兵に將たること四十年、嘗て利を失ひたることなし。〔宋史、二百五十八〕。

【曹誘】5（サウイウ）宋の人。佾の次子。字は公善。諡は忠定。性、謹密にして典故に習熟す。官は安德軍節度使・醴泉觀使。〔宋史、四百六十四〕。

【曹煜】5′（サウイク）明、浮梁の人。嘉靖の進士。著に東溪蔓語がある。〔四庫提要、九十六〕。

【曹堉】6（サウイク）清、吳縣の人。字は稼山。書室を儀鄭堂といふ。著に儀鄭堂殘稿がある。

【曹佾】7（サウイツ）宋の人。彬の孫。字は公伯。官は同中書門下平章事、兼侍中。封は濟陽郡王。神宗に眞の純臣と稱せらる。哲宗の卽位後、少保を加へらる。

【曹寅】8（サウイン）清、漢軍鑲藍旗人。世〻瀋陽に住す。字は子清。又、楝亭。號は荔軒・柳山聱叟。官は通政使・江寧織造。古書を校刊すること甚だ精。著に楝亭詩詞鈔がある。〔清史稿、四百九十〕・〔清史列傳、七十一〕。

【曹胤】9（サウイン）曹英を見よ。

【曹英】10（サウエイ）❶五代周、鎭定の人。字は德秀。初の名は胤。宋の太祖の諱を避けて英と改む。唐・晉・漢三朝に歷仕す。周に入りて翊戴の功を以て昭武節度使を授けられ、世宗の時、官は同平章事・成德軍節度使。〔舊五代史、一百二十九〕。❷明、臨洮の人。字は文華。號は默翁。成化の進士。四川を巡按し、盜賊、趙鐸を捕ふ。後、事を言ひて旨に忤ひ、邵陽知縣に左遷せらる。著に遺興集・恒濟實錄・默翁集・三友主人傳がある。〔明史、二百七十九〕。

【曹銳】11（サウエイ）清、休寧の人。字は鍔堂。號は友梅。吳門に僑居す。官は東城正指揮。畫に巧。〔碑傳集補、五十六〕・〔墨香居畫識、八〕。

【曹叡】12（サウエイ）三國魏の明帝。文帝の子。名は叡。字は元中。諡は明。位を嗣ぎ、司馬懿を以て蜀を拒がしむ。孫權が合肥を攻めるや、帝自ら將として擊ちて之を卻く。公孫淵が遼東に反するや、司馬懿に命じて之を討斬せしむ。帝、口吃にして言少く、沈毅にして斷を好み、深く浮華の士を疾む。大いに宮館を營み、內寵に耽り、歿後、政權遂に司馬氏に歸す。在位十三年にして崩ず。紀元三、太和・青龍・景初。〔三國志、三〕。

【曹璿】13（サウエイ）明、高堂の人。天啓の歲貢。官は保定府教授。平生、忠義を以て自ら許し、時艱を觀る每に慨然として殉國の志あり。闖賊が保定を圍むや、城陷り、賊を罵つて死す。〔勝朝殉節諸臣錄、九〕。

【曹悅】14（サウエツ）宋の人。字は習之。學者、泰宇居士と尊稱す。著に易解全書がある。

【曹掾】15（サウエン）官廳等の屬官。下役人。〔漢書、路溫舒傳〕請二溫舒一署二奏曹掾一。〔漢書、鮑宣傳〕大司空何武、除レ宣爲二西曹掾一。〔賈至、贈二陝掾梁宏一詩〕白頭仍作二功曹掾一、祿薄難レ供二沽酒錢一。

【曹垣】16（サウエン）清の人。振の子。字は星子。人物山水花鳥畫に巧。〔國朝畫識、三〕。

【曹惡】17（サウヲ）衆人のにくむ所をいふ。曹は群。〔國語、周語下〕其所二曹惡一、鮮二其不一レ廢也。〔注〕曹、羣也。

【曹家】18（サウカ）砦の名。河北省密雲縣の東北の司馬臺城の東。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、昌平州、密雲縣〕曹家砦、縣東北九十里、西去二潮河川一六十里、古北口東、第十三關口也、近時嘗爲二寇衝一、有レ城、周六里有奇。

【曹娥】19（サウガ）❶川の名。浙江省紹興縣の東。上流を剡溪といふ。一源は嵊縣の南境。一源は天台山麓。嵊縣の東南で合流す。紹興縣の東、曹娥廟の前を逕て曹娥江といひ、又、東水江といふ。又、北流して上虞縣の界に入り、又、上虞江といふ。其の下流を舜江ともいふ。三江口に至つて海に注ぐ。曹娥の事によりて江に名づく。滬杭甬鐵路に沿ふ。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府、山陰縣〕曹娥江、府東九十二里、剡溪之下流也、自二嵊縣一流入レ界、東折而北至二曹娥廟前一、又北至二上虞縣龍山下一、名二舜江一、又西北折入二於海一、亦謂二之東小江一。❷後漢の孝女。上虞の人。父が江に溺死し、屍を得ず。娥年十四、江に沿ひて號哭し、晝夜聲を絕たず。十七日にして江に投じて死んだ。〔後漢書、百十四〕。

【曹娥墓】20（サウガノハカ）墓の名。浙江省紹興縣の東。墓の旁に曹娥廟がある。曹娥碑を見よ。

【曹娥碑】21（サウガヒ）曹娥の墓碑。邯鄲淳が誄辭を作り、蔡邕が其の文を讀んで黃絹幼婦外孫齏臼の八字を題す。黃絹は色絲で絕、幼婦は少女で妙、外孫は女子の子で好、齏臼は受辛の器で辤、卽ち辭となり、妙絕好辭の隱語である。今、傳へる所の曹娥碑は王羲之の書といはれる。〔邯鄲淳、曹娥碑〕孝女曹娥者、上虞曹盱之女也、其先與レ周同レ祖、末胄荒流、爰茲適居、盱能撫レ節按歌、婆娑樂レ神、以二漢安二年五月一、時迎二伍君一、逆レ濤而上、爲二水所レ淹、不レ得二其尸一、時娥年十四、號慕思レ盱、哀二吟澤畔一、旬有七日、遂自投レ江死、經二五日一、抱二父屍一出、以下漢安迄上于元嘉元年、青龍在二辛卯一、莫中之有上表、度尙設レ祭誄レ之、辭曰、鬱伊孝女、曄曄之姿、偏其反而、令色孔儀、窈窕叔女、巧笑倩兮、宜二其家室一、在二洽之陽一、大禮未レ施、嗟喪二慈父一、彼蒼伊何、無レ父孰怙、訴レ神告レ哀、赴レ江永號、視レ死如レ歸、是以眇然輕絕、投二入沙泥一、翩翩孝女、載沈載浮、或泊二洲渚一、或在二中流一、或趨二湍瀨一、或逐二波濤一、千夫失レ聲、悼痛萬餘、觀者塡レ道、雲二集路衢一、泣淚掩レ涕、驚二慟國都一、是以哀姜哭レ市、杞崩二城隅一、或有二剋レ面引レ鏡、剺レ耳用レ刀、坐レ臺待レ水、抱レ樹而燒一、於戲孝女、德茂二此儔一、何者大國、防レ禮自修、豈況庶賤、露屋草茅、不レ扶自直、不レ鏤自彫、越レ梁過レ宋、比レ之有レ殊、哀此貞厲、千載不レ渝、嗚呼哀哉、辭曰、名勒二金石一、質二之乾坤一、歲數二歷祀一、立レ廟起レ墳、光二于后土一、顯二昭天人一、生賤死貴、利之義門、何悵二華落一、飄零早分、葩艷窈窕、永世配レ神、若三堯二女一、爲二湘夫人一、時效二髣髴一、以昭二後

民一、漢議郎蔡邕聞レ之來觀、夜闇、以レ手摸二其文一而讀レ之、邕題レ文云、黃絹幼婦、外孫韲臼。〔古文苑、邯鄲淳、曹娥碑、注〕會稽典錄曰、上虞長度尙弟子邯鄲淳、字子禮、時甫弱冠、有二異材一、尙先使三魏朗作二曹娥碑一、文成未レ出、子禮至、試使レ爲レ之、操レ筆而成、無レ所二點定一、朗嗟嘆不レ暇、遂毀二其草一。〔世說新語、捷悟、注〕會稽典錄曰、孝女曹娥者、上虞人、父盱、能撫レ節按歌、婆娑樂レ神、漢安二年、迎二伍君神一、泝レ濤而上、爲二水所一レ淹、不レ得二其尸一、娥年十四、號慕思レ盱、乃投二瓜于江一、存二其父尸一、曰、父在、此瓜當レ沈、旬有七日瓜偶沈、遂自投二於江一而死、縣長度尙、悲二憐其義一、爲レ之改葬、命二其弟子邯鄲子禮一、爲レ之作レ碑、按、曹娥碑、在二會稽中一、而魏武楊修、未二嘗過一レ江也、異苑曰、陳留蔡邕、避レ難過レ吳、讀二碑文一、以爲二詩人之作一、無二詭妄一也、因刻二石旁一作二八字一、魏武見而不レ能レ了、以問二羣寮一、莫レ有二解者一、有二婦人一浣二於汾渚一、曰、第四車解、既而禰正平也、衡卽以二離合義一解レ之、或謂、此婦人卽娥靈也。〔事類全書〕後漢楊修、字德祖、大尉震玄孫、好レ學有二俊才一、爲二丞相曹操主簿一、語林曰、修至二江南一、讀二曹娥碑一、碑背有二八字一、曰二黃絹幼婦外孫韲臼一、操不レ解、問レ修曰、卿知否、修曰、知レ之、操曰、且勿レ言、待二朕思一レ之、行三十里、乃得レ之、令二修解一、修曰、黃絹色絲、色絲絕字、幼婦少女、少女妙字、外孫女子、女子好字、韲臼受レ辛、受辛辭字、操曰、一如二朕意一、俗云、有智無智、校三十里。

【曹偕】22（サウカイ） 宋の人。佾の從弟。字は光道。書を讀んで義を知り、節俠を以て自ら喜ぶ。官は河陽總管。嘗て梅堯臣に從つて詩を學ぶ。〔宋史、四百六十四〕。

【曹凱】23（サウガイ） 明、益都の人。字は宗元。正統の進士。刑科給事中を授けらる。磊落にして壯節多く、英宗が北征するや、力諫して從はず。官は景泰中、浙江右參政。石亨に憾まれ、衞經歷に謫せられて卒す。〔明史、百六十四〕・〔萬斯同明史、二百二十〕・〔明史稿、一百五十〕。

【曹交】24（サウカウ） 曹君の弟。名は交。孟子の時の人。〔孟子、告子下〕曹交問曰、人皆可三以爲二堯舜一、有レ諸。

【曹好】25（サウカウ） 衆人の好む所をいふ。曹は群。〔國語、周語下〕且民所二曹好一、鮮二其不一レ濟也。〔注〕曹、羣也。

【曹亨】26（サウカウ） 明の人。鳳の孫。字は伯貞。嘉靖の進士。刑部主事を授けられ、出でて兗州の守となり、治績、天下第一。後、副都御史に陞り、眞定を巡撫し、寇賊を龍泉關に破る。官は南京工部尙書に至る。〔萬斯同明史、二百五十六〕・〔本朝分省人物攷、九十三〕。

【曹絳】27（サウカウ） 宋、貴池の人。字は元象。進士。劉燾・崔執柔・劉正夫と與に太學にあり、四傑と號せらる。詩文に巧。著に秋波集がある。〔尙友錄、七〕。

【曹昂】28（サウカウ） ❶三國魏の人。操の子。字は子修。弱冠にして孝廉に擧げられ、操に隨つて南征し、張繡に殺され、愍王に追封せらる。〔三國志、二十〕。❷後魏、齊郡の人。學識あり、秀才に擧げらる。官は永安中、太學博士、兼尙書郎。常に徒步にて省に至り、清貧を示したが盜に遇ひて大いに綾縑を失ひ、其の矯詐を鄙まれた。〔魏書、七十九〕。

【曹鋼】29（サウカウ） 古、善く琵琶を彈じた人。〔太平御覽、樂部、琵琶〕樂府雜錄曰、貞元中、有二王芬曹保一、其子善才、其孫曹綱及裴興奴、善彈二琵琶一。

【曹確】30（サウカク） 唐、河南の人。字は剛中。進士。官は懿宗の時、同平章事。人となり儒術深邃にして器識方重。位に居ること六年、出でて鎭海節度使となる。畢諴と同じく宰相となり、倶に雅望あり、曹畢と稱せらる。〔唐書、百八十二〕・〔舊唐書、百七十七〕。

【曹岳】31（サウガク） 清、泰興の人。字は次岳。號は秋崖。山水畫を董其昌に學ぶ。朱彝尊・王士禛、皆之を極稱す。〔國朝書畫家筆錄、二〕・〔國朝畫識、六〕。

【曹學】32（サウガク） 明、蜀の人。字は行之。號は太狂。書畫に巧。草書遒勁。

【曹幹】33（サウカン） 官署の部局の幹部。係の主任。〔隋書、禮儀志六〕文官曹幹白紗單衣介幘、尙書二臺曹幹亦同。

【曹翰】34（サウカン） 宋、大名の人。諡は武毅。周の太祖鄴を鎭するや、與に語りて之を奇とし、世宗の帳下に隸し、仕へて樞密承旨に至る。宋初、太祖に從ひて澤潞を征し、江南を平げ、太宗の時、又從つて太原を下し幽州を征し、皆功あり。官は左千牛衞上將軍。〔宋史、二百六十〕。

【曹鑑】35（サウカン） 元、宛平の人。字は克明。諡は文穆。官は至元の初、禮部尙書。官に在ること三十餘年。清介を以て稱せらる。五經に通じ、詩文に巧。〔元史、百八十六〕。

【曹喜】36（サウキ） 後漢、扶風の人。字は仲則。官は建初中、祕書郎。篆書に巧。邯鄲淳、之に師事す。著には筆論一卷がある。〔王羲之筆勢傳〕・〔書斷〕。

【曹琦】37（サウキ） 宋の人。蜀の進士。官は知南平軍。元兵に執らへられ、脫れて南歸し、都統趙安降ると聞き、縊死す。〔宋史、四百五十二〕。

【曹逵】38（サウキ） 明、太倉の人。字は履中。號は沙溪。御史となり、宰臣の不法を糾彈して、隨州判官に謫せられ、蘄水縣の事を攝す。強項を以て稱せられ、雲南按察使に累進。兵を臨安に治め、蠻酋普憲を擒にしたが、巡撫が其の功格を害して上らず、遂に歸る。〔國朝獻徵錄、一百二〕・〔明名臣言行錄、四十〕・〔蘭臺法鑑錄、十五〕・〔本朝分省人物攷、二十三〕。

【曹熙】39（サウキ） 曹穎叔(201)を見よ。

【曹義】40（サウギ） ❶明、儀眞の人。字は敬方。諡は莊武。正統中、都督を以て遼東を鎭守し邊功多し。爵は豐潤伯。〔明史、百七十四〕・〔明史稿、一百五十七〕・〔萬斯同明史、二百十八〕・〔國朝獻徵錄、九〕。❷明、句容の人。字は子宜。永樂の進士。官は翰林院編修・南京吏部尙書。寇が京師を犯すや、崇文門を守る。著に默庵集がある。〔國朝獻徵錄、二十七〕・〔本朝分省人物攷、十一〕。

【曹羲】41（サウギ） 三國、魏の人。眞の次子。官は中領軍。列侯侍從を以て禁闥に出入す。兄爽の專政を諫めたが納れられず、爽敗れ、坐して誅せらる。〔三國志、九〕。

【曹魏】42（サウギ） ❶朝代の名。三國の魏を拓跋氏の魏に對していふ。〔舊唐書、地理志〕曹魏之時、三分鼎峙。❷詩經の曹風と魏風。〔後漢書、王充傳論〕曹魏之刺、所三以明二乎國風一。

【曹丘】43（サウキウ） ❶曹丘生の略。曹丘生が季布を諸侯に有名にした故事から、人を世話する人の意に用ひる。〔史記、季布傳〕楚人曹丘生、辯士、數招レ權顧二金錢一、事二貴人趙同等一、與二竇長君一善、季布聞レ之、寄レ書諫二竇長君一曰、吾聞、曹丘生非二長者一、勿二與通一、及二曹丘生歸一、欲三得レ書請二季布一、竇長君曰、季將軍不レ說二足下一、足下無レ往、固請レ書、遂行、使二人先發一レ書、季布果大怒、待二曹丘一、曹丘至、卽揖二季布一曰、楚人諺曰、得二黃金百斤一、不レ如レ得二季布一諾一、足下何以得二此聲於梁楚閒一哉、且僕楚人、足下亦楚人也、僕游二揚足下之名於天下一、顧不レ重邪、何足下距レ僕之深也、季布迺大說、引入、留數月、爲二上客一、厚送レ之、季布名所二以益聞一者、曹丘揚レ之也。❷複姓。〔史記、季布傳〕楚人曹丘生、辯士。

【曹丘生】44（サウキウセイ） 漢、楚の人。辯才あり。季布に客となり、貴人趙談等に事へて季布の名を諸侯に斡旋して有名ならしめた。〔史記、一百〕。

【曹休】45（サウキウ） 三國、魏の人。操の族子。字は文烈。諡は壯。太祖が評して千里駒といつた。文帝が吳を征するや、征東大將軍となり、黃鉞を假り、呂範等を洞浦に破る。官は揚州の牧。明帝の時、封は長平侯。大和中、復た吳を征して利あらず、癰を背に發して卒す。〔三國志、九〕。

【曹咎】46（サウキウ） 秦の人。官は蘄獄掾。項梁が嘗て事に坐して櫟陽の獄に繫がれるや、咎に請ひて書を獄吏司馬欣にいたして免れるを得た。後、項羽は咎を海春侯・大司馬とし、成皐を守らしめたが、漢兵に擊破され、氾水のほとりに自刭す。〔史記、七〕・〔前漢書、三十一〕。

【曹竟】47（サウキヤウ） 漢、山陽の人。字は子期。儒生。官を去り、王莽に仕へず。赤眉が長安に入るや、之に死す。〔前漢書、七十二〕。

【曹岠】48（サウキヨ） 宋の人。字は巨山。進士。官は左宣教郎。後、饒州通判。

【曹局】49（サウキヨク） 役所の部局。官廳等の事務室。〔南史、陳宣帝諸子、始興王叔陵傳〕自レ旦至レ中、方始寢寐、曹局文案、非レ呼不レ得二輒白一。〔剪燈新話、永州野廟記〕侍衞羅列、曹局分布。

【曹玉】50 サウギヨク ❶明、嘉祥の人。字は廷美。弘治の進士。官は侍御。後、陝西僉事に遷り、雲南に思田の亂を撫慰す。〔明史、百八十〕・〔蘭臺法鑒錄、十三〕。❷曹振(121)を見よ。

【曹金】51 サウキン 明、祥符の人。字は汝礪。嘉靖の進士。官は陝西巡撫。盩厔の妖賊を斬る。著に傳川文集がある。〔四庫提要、七十四〕。

【曹欽】52 サウキン 明の人。吉祥の子。天順の初、奪門の功により、封は昭武伯。後、謀反し、誅に伏す。〔國朝獻徵錄、十〕。

【曹覲】53 サウキン 宋の人。修古の從子。字は仲賓。官は皇祐中、知封州。儂智高が城を犯すや、城陷りて殺さる。〔宋史、四百四十六〕。

【曹芋】54 サウウ 芋の一種。〔和漢三才圖會、柔滑菜〕芋、凡芋類有㆓十四種㆒、云云、曹芋・象芋、皆不㆑可㆑食、惟莖可㆑作㆑菹。

【曹矩】55 サウク 宋、休寧の人。景佑の進士。孝子。官は屯田郎中。其の都官に任ぜられた日、父、汝弼、殿中丞を贈られ、燎黃の夕、靈芝、墓塋に生ず。詔して其の居を忠孝鄉孝芝里とした。〔萬姓統譜〕。

【曹偶】56 サウグウ なかま。ともだち。同輩。〔史記、倉公傳〕曹偶四人。〔注〕索隱曰、曹偶、猶㆓等輩㆒也。〔史記、黥布傳〕布率㆓其曹偶㆒、亡之㆓江中㆒、爲㆓羣盜㆒。〔注〕索隱曰、曹、輩也、偶、類也。

【曹耦】57 サウグウ なかま。ともだち。曹偶に同じ。〔漢書、黥布傳〕率㆓其曹耦㆒、亡之㆓江中㆒、爲㆓羣盜㆒。〔注〕師古曰、曹、輩也。

【曹禾】58 サウクワ 清、江陰の人。字は頌嘉。號は峨嵋。康熙の進士。鴻博に擧げられ、編修を授けらる。官は祭酒。詩に巧。田雯・宋犖等と名を齊しくし、詩中の十子と稱せらる。著に峨嵋集がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、一百十九〕・〔續碑傳集、六十九〕・〔國朝先正事略、三十九〕。

【曹華】59 サウクワ 唐、楚丘の人。初、宣武軍に從つて亂將李迺を縛して闕下に送り、陳留郡王に封ぜらる。官は兗海軍觀察使。學宮を立てて、講誦す。李齐を討平し、從つて義成軍に鎭す。〔唐書、一百九十二〕・〔舊唐書、一百六十二〕。

【曹懷】60 サウクワイ 明、無錫の人。字は于德。正德の進士。官は戶科給事中。武宗の南狩に當り、廷臣と闕に伏して諫めて杖せられ、嘉靖の初、大禮を議するや、直諫を以て旨に忤ひ、詔獄に下され、廷杖さる。出でて思恩の守となつて致仕す。〔明史、一百九十二〕。

【曹珖】61 サウクワウ 明、益都の人。字は用韋。初の名は珍。諱を避けて改む。萬曆の進士。戶部主事・南京太常少卿に歷任す。紅丸の案起るや、力めて奸狀を窮むべきをいふ。天啓の初、光祿卿・大理卿を歷、魏忠賢が政を亂すに値ひ、告歸す。崇禎中、工部尙書を授けられ、中官張憲と協はずして歸を乞ふ。〔明史、二百五十四〕・〔萬斯同明史、二百五十八〕・〔明史稿、三百三十九〕。

【曹璜】62 サウクワウ 明、益都の人。字は于渭。號は礎石。一の字は、伯玉。別號は元素。萬曆の進士。司農郎より出でて西安の守となり、先後、織造三十事・開鑛九事及び宗族河渠刑罰徵收硝鐵行戶の諸議を議し、秦人之に賴る。官は通政司左參議。著に大雲集がある。〔四庫提要、一百七十九〕。

【曹冠】63 サウクワン 宋、東陽の人。字は宗臣。自ら雙溪居士と號す。秦檜の門下の客となる。進士。官は知郴州。著に燕喜集がある。〔四庫未收書目提要、二〕。

【曹奐】64 サウクワン 三國、魏の陳留王。操の孫。字は景明。諡は元。甘露中、安次縣常道鄉公に封ぜらる。高貴鄉公が弑せられるや、公卿迎立して帝とす。司馬炎簒位し、帝を廢して陳留王とす。在位六年、魏、亡ぶ。紀元二、景元・咸熙。〔三國志、四〕。

【曹勛】65 サウクン 宋、陽翟の人。字は公顯。進士甲科に中る。官は靖康の初、武義大夫。徽宗の北遷に從ひ、御衣書を奉じて燕山より遁れ歸る。建炎の初、南京に至り、建議して死士を募り、金に入り、徽宗を奉じて歸る。後、官は昭信軍節度使に至る。〔宋史、三百七十九〕。

【曹冏】66 サウケイ 三國、魏の人。芳の族祖。字は元首。官は弘農太守。齊王芳が帝位に卽くや、年幼にして、政、司馬氏に在り、冏、六代論を撰して曹爽を感悟せしめんとしたが、爽は之を容れなかつた。〔文選、五十二〕・〔全上古三代秦漢三國六朝文、三國文、二十〕。

【曹珪】68 サウケイ ❶五代吳越、仁和の人。官は蘇州刺史。❷金、徐州の人。泰定中、州人の江志が亂を作すや、子、弼、賊中にあり。弼を誅し、幷せて志を殺し、特に三官を進められた。〔金史、一百二十一〕。❸明、黃岡の人。字は廷獻。正德の進士。官は御史。著に南坡奏議がある。

【曹溪】69 サウケイ 川の名。❶安徽省涇縣の東。琴溪に注ぐ。❷廣東省曲江縣の東南。源は縣界の狗耳嶺。溱水に合す。梁の天監元年、僧智藥、船を泛べて韶州曹溪水口に至り、其の香を聞き、其の味を嘗めて、此の水の上流に勝地ありと言ひ、遂に山を開いて寺を立てた。又、唐の六祖慧能此處に居り、大に佛法を起す。柳宗元に曹溪第六祖賜諡碑文がある。〔傳燈錄〕梁天監元年、有㆓僧智藥㆒、泛㆑船至㆓韶州曹溪水口㆒、聞㆓其香㆒、嘗㆓其味㆒曰、此水上流有㆓勝地㆒、遂開㆑山立㆑寺、名㆓寶林㆒、乃云、此去㆓一百七十年㆒、當㆘有㆓無上法寶㆒在㆑此演㆖法。

【曹劌】70 サウケイ 春秋、魯の人。曹沫(181)を見よ。

【曹業】71 サウゲフ 魏の曹操の事業。〔吳志、胡綜傳〕遂破㆓袁軍㆒、以定㆓曹業㆒。

【曹鄴】72 サウゲフ 唐、陽朔の人。字は鄴之。大中の進士。天平節度掌書記より、太常博士に遷り、持論阿らず、祠部郎中を歷、洋州刺史に終る。著に曹祠部集がある。〔唐詩紀事、六十〕・〔全唐詩、二十二〕・〔四庫提要、一百五十一〕。

【曹建】73 サウケン 宋、餘干の人。字は立之。少くして程迥・陸九淵に從學し、得る所あり。淳熙中、朱熹、餘干を過ぎ、與に語りて大いに奇とす。建、家貧、母に事へて孝、弟姪に友愛を盡す。卒するに及び、朱熹其の墓に表す。學者、无妄先生といふ。〔宋元學案、六十九〕。

【曹憲】74 サウケン 唐、江都の人。隋の祕書學士。小學に精通す。漢の杜林・衞宏より以後、古文の亡絕せるを復興す。煬帝の命により、諸儒と桂苑珠叢を撰し、又廣雅に注す。貞觀中、弘文館學士を以て召されたが至らず、家に卽いて朝散大夫に拜せらる。太宗、常に使を遣して就いて難字を問ふ。憲、梁昭明太子の文選を以て諸生に授け、撰する所の音義、當時に重んぜらる。卒年百餘歲。〔唐書、百九十八〕・〔舊唐書、一百八十九上〕。

【曹縣】75 サウケン 縣名。明、置く。もと北齊の曹州の地。今、山東省單縣の西。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、曹州〕曹縣、漢定陶縣地、隋析㆓置濟陰縣㆒、爲㆓曹州治㆒、云云、明初以㆓水患㆒、徙㆓治安陵鎭㆒、二年又徙㆓盤石鎭㆒、卽今治也、四年改㆑州爲㆑縣、屬㆓濟甯府㆒、正統十一年、復置㆓曹州㆒、以㆑縣屬焉。〔清史稿、地理志〕山東、曹州府、縣十、曹。

【曹謙】76 サウケン 明の人。雄の子。書を讀み、文を善くし、機略あり。雄と俱に獄に下され、怨家の爲に箠死さる。〔明史、一百七十五〕・〔明史稿、一百五十七〕。

【曹元】77 サウゲン 明、大寧衞の人。字は以貞。成化の進士。郎中に累遷し、劉瑾と相結ぶ。官は正德中、吏部尙書・兼文淵閣大學士。日に飲酒諧謔す。瑾敗れて、黜けられて民となる。〔明史、三百六〕・〔萬斯同明史、四百二〕・〔明史稿、一百七十二〕・〔國朝獻徵錄、十四〕。

【曹虎】78 サウコ 南齊、下邳の人。南史には曹武に作る。字は士威。宋の前軍將軍。齊の散騎常侍・右衞將軍。後、殺さる。〔南齊書、三十〕・〔南史、四十六〕。

【曹琥】79 サウコ 明、巢の人。字は瑞卿。弘治の進士。官は戶部主事。御史周廣が錢寧を疏劾して謫せられるや、上疏して救ひ、尋甸通判に貶せられ、再び廣信同知に遷る。時に鎭守中貴が貢獻に託して頗る徵斂したが、琥は府事を攝し、堅持して予へず。鞏昌府知に擢んでられ、未だ赴かずして卒す。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十九〕・〔明史稿、一百七十四〕・〔國朝獻徵錄、九十四〕。

【曹伍】80 サウゴ くみ。なかま。隊伍のこと。〔後漢書、馬融傳〕曹伍相保、各有㆓分局㆒。

【曹公】81 サウコウ ❶三國、魏の曹操をいふ。〔蜀志、關羽傳〕初曹公壯㆓羽爲㆑人、而察㆔其心神無㆓久留之意㆒、謂㆓張遼㆒曰、卿試以㆑情問㆑之、既而遼以問㆑

羽、羽歎曰、吾極知㆓曹公待㆑我厚㆒、然吾受㆓劉將軍厚恩㆒、誓以㆓共死㆒、不㆑可㆑背㆑之、吾終不㆑留、吾要㆑當㆘立㆑效以報㆓曹公㆒乃去㆖。遼以㆓羽言㆒報㆓曹公㆒、曹公義㆑之。〔阮瑀、爲㆓曹公㆒作㆑書與㆓孫權㆒書、注〕良曰、初孫策與㆓曹公㆒俱事㆑漢、後孫氏割㆓據江東㆒、稱㆓吳王㆒、曹公與㆓此書㆒、說以㆓禍福㆒、令㆔歸㆓事漢㆒。㊁梅の實をいふ。吳人の語。〔夢溪筆談、譏謔〕吳人多謂㆓梅子㆒爲㆓曹公㆒、以㆓其嘗望㆑梅止㆑渴也、又謂㆑鵞爲㆓右軍㆒、有㆓一士人㆒、遺㆔人醋梅與㆓燖鵞㆒、作㆑書云、醋㆓浸曹公一甏㆒、湯㆓燖右軍兩隻㆒、聊備㆓一饌㆒。

【曹弘】82（サウコウ） 明、益陽の人。字は文淵。永樂の進士。官は刑部右侍郎。淮南に巡撫となり、軍民之になつく。〔國朝獻徵錄、四十六〕・〔蘭臺法鑒錄、十〕・〔本朝分省人物攷、八十一〕。

【曹后】83（サウコウ） ㊀後漢の人。操の中女。名は節。諡は穆。伏后弑せられ、獻帝が立てて皇后とす。魏が禪を受けるや、使を遣して璽綬を求む。后怒りて與へず。數〻請ふや、璽綬を軒下に擲つ。魏氏既に立ち、后を山陽公夫人とす。〔後漢書、十下〕。㊁宋の人。彬の女孫。諡は光獻。慈聖光獻后といふ。明道中、郭后が廢せられるや、聘せられて宮に入り、景祐の初、皇后となる。性、慈儉。稼穡を重んじ、常に禁苑に於て穀物を種ゑ、親ら蠶を養ふ。飛白書を善くす。神宗立ち、尊びて太皇太后とす。王安石が國に當り、舊章を變革するや、后、帝を諫む。〔宋史、二百四十二〕。㊂五代、唐の明宗の后。諡は和武。〔五代史、十五〕。

【曹洪】84（サウコウ） 三國、魏の人。操の弟。字は子廉。諡は恭。操に從つて、董卓の將徐榮と滎陽に戰ひ、操の危急を救ひ、樂城侯に封ぜらる。官は驃騎將軍。〔三國志、九〕。

【曹興】85（サウコウ） 明の人。一名、興才。武昌・平江・中原を平げ、又、洮州の羌を討つ。官は都督僉事。爵は懷遠侯。後、黨に坐して死す。〔明史、一百三十二〕・〔萬斯同明史、一百六十四〕・〔明史稿、一百十八〕。

【曹袞】86（サウコン） 三國、魏の人。操の子。諡は恭。少くして學を好み、文を能くす。兄弟の游娛する每に袞、獨り經典を覃思す。性、儉約。中山王に封ぜらる。文章二萬餘言がある。〔三國志、十九〕。

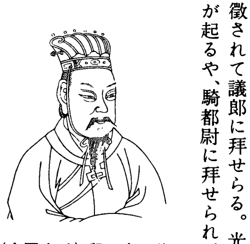
【曹錕】87（サウコン） 民國、河北省天津縣の人。字は仲珊（仲三）。天津北洋武備學堂卒業。袁世凱の知遇を受け、次第に累進し、袁の帝政實行に際し虎威將軍一等伯に封ぜらる。直隸派の首領で、第一奉直戰に勝つてより北京の實權を握り、大總統徐世昌を辭任せしめ、黎元洪を追ひ、自ら買收によつて大總統になつたが、間も無く第二奉直戰に破れて沒落の已む無きに至つた。

【曹倉】88（サウサウ） 後漢の曹曾が石倉を造つて書を藏してから、書籍を藏する倉をいふ。〔拾遺記〕曹曾積㆑石爲㆑倉、以藏㆑書、故謂㆓曹氏㆒爲㆓書倉㆒。

【曹爽】89（サウサウ） 三國、魏の人。眞の子。字は昭伯。明帝の時、官は都督中外諸軍事・錄尙書事。太尉司馬懿と共に遺詔を受けて少主を輔く。齊王芳が卽位するや、爽に侍中を加へ、武安侯に封ず。何晏・鄧颺等勸めて蜀を伐たしむ。爽、大いに卒六七萬人を發し、駱谷より入つたが、兵進まず、軍を引いて還る。爽、飲食車服、乘輿に擬し、驕淫盈溢。會〻車駕、高平陵に朝するや、爽の兄弟皆從ふ。懿、兵を勒して武庫に據り、出でて落水浮橋に屯し、爽に謀叛の心ありと奏す。爽、三族を夷滅せらる。〔三國志、九〕。

【曹莊】90（サウサウ） 鎭の名。㊀河北省饒陽縣の西南。㊁山東省嶧縣の西南。

【曹操】91（サウサウ） 後漢、沛國、譙の人。魏の武帝。嵩の子。字は孟德。小字は阿瞞。一名、吉利。諡は武。少くして機警、權數あり、年二十にして孝廉に擧げられて郞となり、洛陽北部尉に除せられ、頓丘令に遷り、徵されて議郞に拜せらる。光和の末、黃巾の賊が起るや、騎都尉に拜せられ、潁川の賊を討ち、遷りて濟南の相となる。暫時にして徵し還されて東郡太守となるも就かず、疾と稱して鄕里に歸る。會〻董卓が廢立するや、家財を散じて義兵を合し、董卓を討つ。初平中、袁紹表して東郡太守とす。建安中、洛陽に至り、獻帝、操に節鉞を假し、錄尙書事とす。洛陽殘破せるを以て、董昭等、操に勸めて帝を迎へて許に遷都せしむ。更に袁紹・袁術を破り、自ら大將軍となり、冀州牧を領す。位は丞相となり、九錫を加へられ、爵は魏王。夏侯惇、正位に就くを勸め、操自ら周の文王に比す。子の丕、漢を簒ひ、黃初の初、武帝と追尊す。廟號は太祖。操、雄才大略あり。又、風流文學を好み、三十餘年、兵馬の閒に在りて、一日も讀書を廢せず、槊を横へて詩を賦す。〔三國志、一〕。

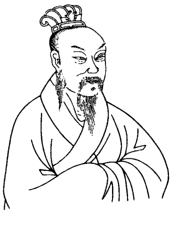


魏太祖（三才圖會）

【曹山】92（サウサン） ㊀山名。㋑安徽省鳳陽縣の西。明の湯和の墓がある。〔太平寰宇記〕相傳、魏武帝東征駐㆓兵於此㆒、故名。㋺江西省宜黃縣の北。もと荷玉山といひ、又、梅山といふ。山巓を羅漢峯といふ。唐の本寂禪師の錫を駐めた處。㊁本寂禪師をいふ。本寂（**6－14421**‥164）を見よ。

【曹山草堂】93（サウザンサウダウ） 清、姜梗（**3－6205**‥12）の室名。

【曹參】94（サウサン） 漢、沛の人。諡は懿。秦の獄掾。蕭何とともに起り、高祖を佐けて天下を定む。封は平陽侯。蕭何の死後、何の推薦で相となり、よく何の政を蹈襲し、百姓、其の寧一を稱す。〔史記、五十四〕・〔前漢書、三十九〕。



曹參（三才圖會）

【曹參趣裝】95（サウサンシユサウ） 蒙求の標題。漢の曹參が、蕭何の薨去した時、家人に命じて旅裝を整へさせ、入りて相たるべしといつた故事。〔漢書、曹參傳〕蕭何薨、參聞㆑之、告㆓舍人㆒趣治㆑行、吾且㆓入相㆒、居無㆑何、使者果召㆑參。

【曹璨】96（サウサン） 宋の人。彬の子。字は韜光。諡は武懿。性、沈毅。射を善くし韜略に習ひ、好んで左氏春秋を讀む。契丹の入寇を禦ぎ、屢〻戰功あり。官は同平章事。〔宋史、二百五十八〕。

【曹子】97（ザウシ） 部屋住の貴公子。曹司（99）の㊁に同じ。

【曹氏】98（サウシ） 五代唐、太原の人。李克用の次妃。諡は貞簡。莊宗を生む。性、謙退。初、晉國夫人に封ぜらる。克用は、性、暴怒。曹氏從容として諫譬し、往々聽かる。莊宗が立つや、尊びて皇太后とす。〔五代史、十四〕・〔舊五代史、四十九〕。

【曹司】99（サウシ） ㊀官吏の詰所。〔唐書、鄭虔傳〕虔聞㆑命、不㆑知㆓廣文曹司何在㆒。㊁（ザウシ）㋑古、禁中の用部屋で官人女官等のつめ所。つぼね。〔彈正臺式〕先參㆓朝堂㆒、後赴㆓曹司㆒。㋺部屋住の貴公子。㋩古、大學寮の教場。〔本朝文粹、七、蜂腰難〕菅家先祖、贈太政大臣、云云、江家先祖、音人卿、云云、皆是、東西曹司之祖宗。〔西宮記、臨時、五〕勸學院、云云、卽爲㆓大學寮南曹司㆒。

【曹司町】100（ザウシマチ） 古、禁中に曹司の多く集つて居た所。つぼねまち。〔新猿樂記〕寢殿・渡殿・曹司町。

【曹司住】101（ザウシズミ） ㊀つぼねに下つて休息すること。〔宇治拾遺、一、利仁薯蕷粥〕一の人の御もとに恪勤して云云、ざうしずみにてありける所へ。㊁未だ主人とならないで、部屋住してゐるもの。

【曹志】102（サウシ） ㊀晉の人。植の孼子。字は允恭。諡は定。少くして好學・才行を以て稱せられ、騎射を善くす。植立てて嗣とす。晉に入りて鄄城縣公。官は博士祭酒。後、散騎常侍に至る。〔晉書、五十〕。㊁明、金華の人。字は伯康。號は拱和居士。元の至正の末、亂に遭ひて隱居す。明の洪武中、遺逸を以て薦められたるも起たず。著に拱和詩集がある。〔四庫提要、一百七十四〕。

【曹州】103（サウシウ） ㊀府名。清、置く。もと春秋の曹國、北齊の曹州の地。濮州及び荷澤・單・鉅野・鄆城・城武・曹・定陶・范・觀城・朝城の十縣を管轄す。〔清史稿、地理志〕山東、曹州府、領㆓州一㆒、縣十㆒、荷澤・單・鉅野・鄆城・城武・曹・定陶・濮州・范・觀城・朝城。㊁を見よ。㊁州名。北齊、置く。春秋の曹國。清、升せて府とす。今の山東省曹縣の地。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府〕曹州、禹貢豫州地、周爲㆓曹國地㆒、戰國屬㆑宋、後屬㆑齊、秦屬㆓碭郡㆒、漢初屬㆓梁國㆒、云云、後周改曰㆓曹州㆒、隋因㆑

之、大業初復曰㆓濟陰郡㆒、唐初亦曰㆓曹州㆒、云云、宋仍曰㆓曹州㆒、崇甯初升爲㆓興仁府㆒、金復曰㆓曹州㆒、元因㆑之、明朝洪武四年、州廢、屬㆓濟寧府㆒、正統十一年復置㆓曹州㆒、屬㆓兗州府㆒、領㆓縣二㆒。

【曹州耿餅】104 ts‘ao^2 chou^1 kêng^2 p‘ing^3 山東省曹州から產する乾柿。

【曹集】105 サウシフ 宋の人。少くして張栻に從學し、士君子の學は一の實の字に過ぎずといふ。官は部曹。干謁を事とせず、南康の知となるに及んで一に朱熹の舊に遵ひ、循吏の績あり。〔宋元學案、七十二〕。

【曹社】106 サウシヤ 曹國の社宮。曹社之謀を見よ。

【曹社之謀】107 サウシヤノハカリゴト 國を亡ぼす謀をいふ。曹人が、衆君子が曹の社宮で曹を亡ぼさうと謀ることを夢みた故事。〔左氏、哀、七〕初曹人或夢、衆君子立㆓于社宮㆒而謀㆑亡㆑曹、曹叔振鐸請㆑待㆓公孫彊㆒、許㆑之、旦而求㆑之、曹無㆑之。〔庾信、哀江南賦〕鬼同㆓曹社之謀㆒、人有㆓秦庭之哭㆒。

【曹昌】108 サウシヤウ 明、壽州の人。字は德隆。父母に至孝。時人、曹孝子といふ。

【曹彰】109 サウシヤウ 三國、魏の人。操の子。字は子文。諡は威。射御を善くし、猛獸を手格す。數〻征伐に從ひ、向ふ所皆功あり。操、嘗て彰の鬚を持して黃鬚兒といふ。黃初中、任城王に封ぜらる。〔三國志、十九〕。

【曹衆】110 サウシユウ 後漢、扶風の人。字は伯師。鄉里の蘇章・竇章・馬融と共に游宦したが、唯〻衆のみ不遇。壽を以て家に終る。才學あり。著に誄書論四篇がある。〔後漢書、一百十上〕。

【曹充】111 サウジユウ 後漢、薛の人。慶氏禮を治め、建武中、博士となる。岱宗に巡狩するに從ひ、封禪の禮を定め、又、詔を受けて七郊三雍大射養老の禮を定む。明帝が卽位するや、漢、再び命を受く、まさに禮を制して百世に示すべしと上言した。官は侍中。嘗て章句辨難を作る。ここに於て慶氏の學あり。〔後漢書、六十五〕。

【曹肅】112 サウシユク 宋、郴の人。字は士先。鄉薦に擧げらる。官は通州寧遠簿。從ひ學ぶ者多く、詩に巧。著述甚だ多し。〔尙友錄、七〕。

【曹卹】113 サウジユツ 春秋、蔡の人。字は子循。孔子の弟子。孔子より少きこと五十歲。〔史記、六十七〕。

【曹純】114 サウジユン 三國、魏の人。仁の弟。字は子和。諡は威。南皮を攻めて袁譚を斬り、封は高陵亭侯。荊州を征し、蜀の先主を長坂に追ひ、其の二女輜重を收め、進んで江陵を降す。建安中、卒す。〔三國志、九〕・〔英雄記鈔〕。

【曹順】115 サウジユン 清、閬中の人。乾隆中、行伍より蠻猓を征するに隨つて功あり。金川に從征し、勇を奮つて敵に克ち、官は甘肅總兵に至る。黃草坪を攻め、先登督戰し、戰死す。〔清史稿、三百四十〕・〔國朝耆獻類徵、三百五十四〕。

【曹昇】116 サウシヨウ 後魏、北海の人。學識清立を以て知らる。官は治書侍御史を歷て、國子祭酒に至る。家產を營まず、餒ゑて鄴に卒す。〔魏書、九十七〕。

【曹松】117 サウシヨウ 唐、舒州の人。字は夢徵。光化の進士。同榜五人、年皆七十餘。時人、五老榜と號す。官は校書郎。詩に巧。詩集あり。〔唐詩紀事、六十五〕・〔全唐詩、二十七〕・〔唐才子傳、十〕。

【曹植】118 サウシヨク サウチ ❶三國、魏の人。武帝の第三子。文帝の弟。字は子建。陳王に封ぜられ、卒後、諡して思といふ。故に陳思王とも稱す。十歲にして善く文を屬し、筆を執ればたちどころに成り、武帝、之を鍾愛す。文帝、其の才を忌んで之を害せんとし、七步を限りて詩を作らしむ。植、聲に應じて煑㆑豆燃㆓豆萁㆒、豆在㆓釜中㆒泣、本是同根生、相煎何太急といふ。文帝、感じて釋す。初、東阿王に封ぜられ、尋いで陳王に改封せらる。既に國に就き、別に見えんことを欲求し、試用を冀つたが終に許されず、悵然として望を絕ち、遂に疾を發して卒す。年四十一。植は文才頗る富贍で、謝靈運は嘗て、天下の文章只一石、子建獨り八斗を得たりと評した。世人目して繡虎といふ。曹子建集がある。〔三國志、十九〕。❷朝鮮李朝、昌寧の人。字は楗仲。號は南溟・山天齋・惺惺子。諡は文貞。死後、領議政を贈らる。〔誌狀輯略〕。

【曹臣】119 サウシン 明、歙の人。字は藎之。嘗て前人の問答雋語を取り、分類編輯して舌華錄を著す。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十一〕。

【曹伸】120 サウシン 朝鮮李朝、昌寧の人。字は叔奮。號は適菴。官は司譯院正。著に詩稿・謏聞瑣錄がある。〔通文館志〕・〔人物志〕。

【曹振】121 サウシン 明、杭州の人。初名は玉。字は叔周。號は二白・玉岑山樵。山水人物花鳥畫に巧。宋元人の筆意を師とす。〔明史稿、一百五十七〕。

【曹眞】122 サウシン 三國、魏の人。本姓は秦。邵の養子。字は子丹。諡は元。曹操の征討に從ひ、功により、大將軍・大司馬に累進し、邵陵侯に封ぜらる。〔三國志、九〕。

【曹森】123 サウシン 清、上元の人。字は大木。號は義池。國子生。畫及び草隸・彫刻に巧。

【曹震】124 サウシン 明、濠の人。太祖に從つて兵を起し、沐英に從つて西蕃を征し、又藍玉に從つて、雲南を平ぐ。爵は景川侯。玉破れて、誅せらる。〔明史、一百三十二〕・〔萬斯同明史、一百六十四〕・〔明史稿、一百十八〕・〔國朝獻徵錄、八〕。

【曹仁】125 サウジン 三國、魏の人。操の從弟。字は子孝。諡は忠。軍功あり、廣陽太守に拜せらる。文帝の時、官は大司馬。陳侯に封ぜらる。〔三國志、九〕。

【曹鐩】126 サウスイ 明、永興の人。字は文載。成化の進士。官は刑部員外郎。久しく決せざりし訟獄を、鐩往いて立どころに決す。紹興府知に擢んでらる。〔本朝分省人物攷、八十三〕。

【曹瑞】127 サウズイ 元、大興の人。錢塘に寓居す。字は瑞卿。號は褐天。繪畫を善くし、隱語小曲を能くす。著に詩酒餘音及び雜劇留鞋記があり、世に行はる。〔錄鬼簿〕・〔桂隱詩集〕。

【曹嵩】128 サウスウ 後漢、譙の人。夏侯氏の子。宦官曹騰に養はれ、因りて曹姓を冒す。字は巨高。性、敦愼にして忠孝。司隸校尉となり、靈帝の時、大司農大鴻臚に擢んでられ、崔烈に代りて太尉となる。魏の黃初の初、太皇帝と追尊す。〔後漢書、七十八〕・〔三國志、一〕。

【曹靖】129 サウセイ 宋、郴の人。字は中立。官は尙書比部郎。賓州の知。黃庭堅に其の能を稱せらる。

【曹昭】130 サウセウ ❶曹大家(280)を見よ。❷明、松江の人。字は明仲。著に格古要論がある。〔四庫提要、一百二十三〕。

【曹節】131 サウセツ ❶後漢、譙の人。字は元偉。仁厚の長者。❷後漢、新野の人。字は漢豐。小黃門より中常侍に遷る。靈帝卽位し、長安鄉侯に封ぜらる。大將軍竇武が大傅陳蕃と中官を誅せんとするや、節等、詔を矯めて之を殺す。黨錮の禍ここに起る。官は長樂衞尉。封は育陽侯。大秋長に轉じて卒す。〔後漢書、一百八〕。❸曹時中(247)を見よ。

【曹荃】132 サウセン 明、無錫の人。字は元宰。崇禎の進士。南京刑部主事に除せられ、時政を疏陳して旨に忤ひ、詹事府錄事に謫せらる。後、大理寺寺副に遷り、黃應恩の瀆職を劾す。福建副使に至る。〔明詩紀事、辛、十九〕。

【曹全】133 サウゼン 後漢、效穀の人。字は景完。建寧中、孝廉に擧げられ、西域戊部司馬を授けらる。時に疏勒國王和德、父を弑して位を簒ひ、職貢を供せず。全、師を興して征討し、和德、面縛して歸し、司寇に死す。師、還りて右扶風槐里令に遷り、弟の喪に遭ひ、官を棄てて歸る。光和中、復た孝廉に擧げられ、郃陽令に拜せらる。曹全碑を見よ。

【曹全碑】134 サウゼンノヒ 漢の碑。陝西省郃陽縣に在る。曹、全郃陽の令となり、其の門下たる王敞の諸人、中平二年に於て石に刊し功を紀す。明の萬曆年間に始めて土中から出た。漢碑の中、極めて完全なものである。〔寰宇訪碑錄、漢〕曹全碑陰、八分書。

【曹組】135 サウソ 宋、潁昌の人。字は元寵。宣和の進士。官は副使。著に箕潁集がある。

【曹曾】136 サウソウ 後漢、濟陰の人。字は伯山。光武帝の時、歐陽歙に從つて尙書を受く。石を積み倉を爲り、書を藏す。世に曹氏書倉といふ。門徒三千人。官は諫議大夫。〔後漢書、一百九上〕。

【曹崈】137 サウソウ 宋の人。字は宗山。進士。官は朝奉郎。著に茗溪集・鍾山集・抱關前集・論語注がある。

【曹琮】138 サウソウ 宋の人。彬の子。字は寶章。諡は忠恪。小心謹畏。官は都指揮使。〔宋史、二百五十八〕。

【曹村】139 サウソン 地名。❶山東省德縣の東北。明の

曹得の墓がある。❷江蘇省蕭縣の東南。津浦鐵路に沿ふ。

【曹達】140 サウタツ　酸化ナトリウム。又、炭酸曹達の略。英語 soda の音譯。中國名は蘇達。

【曹鼐】141 サウダイ　明、寧晉の人。字は萬鍾。諡は文襄。繼母に事へて孝。宣德中、進士第一。官は吏部左侍郎、兼文淵閣大學士。正統の閒、也先が入寇するや、王振、帝を挾みて親征し土木に次す。寇、大いに集り、帝、圍を突くも出づるを得ず、擁して去られ、鼐等も倶に難に及ぶ。〔明史、一百六十七〕・〔萬斯同明史、二百十二〕・〔明史稿、一百三十八〕・〔國朝獻徵錄、十三〕。

【曹黨】142 サウタウ　群をなして亂暴をするもの。群黨。〔管子、法法〕令未レ布、而罰及レ之、則是上妄誅也、上妄誅、則民輕レ生、民輕レ生、則暴人興、曹黨起、而亂賊起矣。〔纂詁〕曹、郡也。

【曹端】143 サウタン　明、澠池の人。字は正夫。私諡は靜修。篤く性理に志し、其の學は實踐躬行を務め、靜存を以て要とする。永樂の擧人。官は霍州學正。嘗て川月交映圖を作つて太極に擬し、世に月川先生と稱せられる。著に孝經述解・四書詳說・周易乾坤二卦解義・太極圖西銘通書解・家規輯略・存疑錄・夜行燭・儒學宗統譜・月川語錄・曹月川集等がある。〔明史、二百八十二〕・〔萬斯同明史、三百八十三〕・〔明史稿、二百六十三〕・〔明儒學案、四十四〕。

【曹長】144 サウチヤウ　❶唐代、尙書丞郎の異稱。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二它名一標二牓官稱一、今漫二疏於此一、以示下子姪之未レ能二盡知一者上云云、尙書丞郎爲二曹長一、御史拾遺爲二院長一。❷我が國の舊軍人階級における陸軍下士官の一。准尉の下、軍曹の上に位する。

【曹頂】145 サウチヤウ　明、南通の人。初、製麪を業とす。嘉靖三十六年の倭寇に、衆を率ゐて奮起し、平潮に至りて伏兵に陷り、馬より墮ちて死す。今、江蘇省南通縣城南の狼山路上に曹公祠及び墓がある。

【曹中】146 サウチユウ　宋の人。輔の弟。字は久德。一に文德に作る。輔と同じく進士に擧げらる。官は祕書省正字。

【曹沖】147 サウチユウ　三國、魏の人。操の子。字は倉舒。諡は哀。幼くして才智あり。孫權、巨象を致す。操、其の輕重を知らんとして羣下に問ふも、皆其の方法を案出するもの無し。沖曰く、象を大船の上に置き、其の水痕の至る所を刻し、物の目方をはかりてこれに載すればはかる事を得と。幾くもなく夭折す。〔三國志、十九〕。

【曹重】148 サウチユウ　清、婁縣の人。初名は爾垓。字は十經。號は南垓(南陔)・千里生。畫を善くし、詩文に巧。度曲を好む。著に濯錦詞・雙魚譜がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十四〕・〔清畫家詩史、甲、上〕・〔國朝畫識、五〕。

【曹攄】149 サウチヨ　晉、譙の人。字は顏遠。少くして孝行あり、學を好み、善く文を作る。臨淄令となるや縣人は彼を聖君と呼ぶ。惠帝の末、官は襄城太守。賊王逌と戰ひ、これに死す。〔晉書、九十〕。

【曹珍】150 サウチン　曹珖(61)を見よ。

【曹超】151 サウテウ　清、和州の人。諸生。學行あり。順治中、鄭成功の亂に親を奉じて出で避け、寇に遇ふ。寇、其の父母を害はんとするや、號泣して代らんと請ひ、釋さるるを得。父の死するに及んで、父の手植の紫薇枯る。超、これに對して哀慟せしに、紫薇再び花を開くといふ。〔清史稿、五百三〕・〔國朝耆獻類徵、三百七十六〕・〔國朝先正事略、五十五〕。

【曹霑】152 サウテン　曹雪芹(276)を見よ。

【曹騰】153 サウトウ　後漢、譙の人。節の子。字は季興。官は順帝の時、中常侍・大長秋。省闥にあること三十餘年、四帝に歷事し、好んで賢能を進達す。桓帝の卽位するや、騰が先帝の舊臣なるを以て費亭侯に封ぜられる。魏の太和中、高帝と追尊される。〔後漢書、一百八〕。

【曹南】154 サウナン　山名。又、南山といふ。山東省曹縣の南。〔春秋、僖、十九〕宋公・曹人・邾人盟二于曹南一。〔詩、曹風、侯人、南山朝隮、傳〕南山、曹南山也。

【曹霸】155 サウハ　唐の人。魏の曹髦の後裔。善く馬を畫く。天寶の末、詔して御馬及び功臣を寫させた。官は左武衞將軍。〔尙友錄、七〕。

【曹馬】156 サウバ　魏と晉とをいふ。魏は曹氏で、晉は司馬氏であるからいふ。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕蕭傳之賢、曹馬之親、兼レ之者公也。〔史通、載文〕曹馬以降、上出二禪書一、下陳二讓表一、跡實同二於莽卓一、言乃類二於虞夏一。

【曹輩】157 サウハイ　ともがら。おなじなかま。同輩。同僚。〔史記、袁盎傳〕梁刺客後曹輩、果遮殺二盎安陵部門外一。〔南史、臧洪傳〕容貌甚偉、曹輩皆敬レ之。

【曹芳】158 サウハウ　三國、魏の齊王。明帝の養子。字は蘭卿。諡は厲。青龍中、齊王に封ぜられ、後、明帝崩じて帝位に卽く。在位十五年、司馬氏、帝を廢して齊王とし、これを河內に遷す。その年號は、正始・嘉平の二。〔三國志、四〕。

【曹襃】159 サウハウ　後漢の人。充の子。字は叔通。父業を傳ふ。叔孫通の漢禮儀を慕ひ、晝夜研精し、孝廉に擧げられ、博士を拜す。章帝の時、召されて冠婚吉凶の制度一百五十篇を定む。官は侍中。著に通義十二篇・演經雜論二十篇がある。又、禮記四十九篇を傳へて諸生千餘人に教授し、慶氏學を世に傳へる。〔後漢書、六十五〕。

【曹髦】160 サウバウ　三國、魏の高貴鄕公。文帝の孫。字は彥士。正始中、郯縣高貴鄕公に封ぜらる。齊王芳廢せられるや公卿に迎立せらる。太學に幸し、諸儒と書・易及び禮を論じ、諸儒及ぶなし。甘露中、黃龍が寧陵の井中に見えるや、之を不祥となし、潛龍詩を作つて自ら諷す。司馬昭見て惡む。立ちて七年、昭に弑せられる。畫に巧。その年號は、正元・甘露の二。〔三國志、四〕。

【曹丕】161 サウヒ　三國、魏の文帝。曹操の長子。名は丕。字は子桓。諡は文。操、卒し、嗣いで丞相・魏王となる。後漢、建安の末、獻帝を廢して山陽公とし、漢を簒ひ、洛陽に都し、國を魏と號し、黃初と改元す。性、文學を好み、博聞強識、著述を以て務とし、典論詩賦一百餘篇あり。廟號は世祖。前後兩度呉を伐ち皆功なし。在位六年にして崩ず。年、五十。その年號は黃初。〔三國志、二〕。

【曹毗】162 サウヒ　晉の人。休の玄孫。字は輔佐。少くして文籍を好み、詞賦を善くす。徵されて太學博士に拜せられ、嘗て揚都賦を著はし、庾闡に亞ぐと稱せられる。官は光祿勳。文筆十五卷がある。〔晉書、九十二〕。

【曹彪】163 サウヒウ　三國、魏の人。操の子。字は朱虎。黃初中、楚王に封ぜらる。令狐愚・王淩等、彪を迎へ許昌に都しようとしたが、顯はれ、彪は遂に自殺した。〔三國志、二十〕。

【曹評】164 サウヒヤウ　宋の人。佾の子。字は公正。射を善くす。官は元祐中、提擧萬壽觀。〔宋史、四百六十四〕。

【曹彬】165 サウヒン　宋、靈壽の人。字は國華。諡は武惠。周の河中都監。後、宋に歸し、蜀を伐つて功あり。官は檢校太師、兼侍中。封は魯國公。卒して濟陽郡王を追贈される。〔宋史、二百五十八〕。

【曹檳】166 サウヒン　清、保昌の人。字は萬爲。雍正の副貢。鴻博に薦試されるも、放歸して教授す。從ひ遊ぶ者甚だ衆し。潛心三十年。著に四書詳說がある。〔碑傳集、一百四十〕。

【曹豳】167 サウヒン　宋の人。叔遠の族子。字は西士。諡は文恭。嘉泰の進士。官は左司諫。王萬・郭磊卿・徐清叟と倶に廉直の名あり。時人、嘉熙四諫と號す。寶章閣待制を以て致仕す。〔宋史、四百十六〕・〔宋元學案、六十一〕。

【曹閔】168 サウビン　明、上海の人。弘治の進士。孝子。官は御史。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十八〕・〔明史稿、一百七十三〕。

【曹布】169 サウフ　汙穢の布。小兒の繦褓の類。〔淮南子、說林訓〕曹氏之裂布、蛷者貴レ之。〔集解〕曹、疑當二讀爲レ褿、廣雅釋器曰、褿、褯也、云云、玉篇衣部曰、褿、小兒衣也、然則褿者疑是小兒承二藉菡屎一之布、故亦謂二之褯一。

【曹孚】170 サウフ　明、吳江の人。字は顒若。號は楓江布衣。繪畫を善くし、詩古文に巧。史鑑・尹寬・淩震と共に四布衣と稱せられる。著に楓江集がある。

【曹傅】171 サウフ　宋、宜春の人。進士。其の堂に名づけて三桂といふ。官は朝請郎。常州の知。

【曹武】172 サウブ　曹虎(78)を見よ。

【曹平】173 $ts'ao^2$ $p'ing^2$　清朝時代に民間で一般に通用した標準秤。然し地方によつて、其の量目は同じでない。上海曹平一兩は五六五・六九七グレーンある。もと江南浙江諸省から漕銀を

徵收するに用ひたので此の名がある。

【曹忭】174（サウベン）　明、江陵の人。字は子誠。別號は紀山。嘉靖の進士。官は翰林庶吉士。後、雲南巡撫。著に翰林集がある。

【曹輔】175（サウホ）　宋、沙縣の人。字は載德。號は靜常先生。元符の進士。祕書省正字を歷、徽宗の微行を上疏切諫す。靖康中、官は簽書。〔宋史、三百五十二〕。

【曹鳳】176（サウホウ）　明、新蔡の人。字は鳴岐。成化の進士。正德の初、右副都御史に歷任し、延綏を巡撫す。數〻鎭守の中官と忤ひ、理院事に召され、憂を以て歸る。劉瑾に其の饋問を通ぜざるを銜まれ、屢〻擠さる。〔萬斯同明史、二百五十六〕・〔國朝獻徵錄、六十二〕・〔明名臣言行錄、四十二〕・〔蘭臺法鑒錄、十二〕・〔本朝分省人物攷、九十二〕。

【曹牟】177（サウボウ）　複姓。〔續通志、氏族略〕曹牟、姓解曰、先賢傳有㆓兗州刺史曹牟君卿㆒、平昌人。

【曹睦】178（サウボク）　明、瑞安の人。字は肅賓。永樂の進士。官は秦府伴讀。秦邸に在ること三十年。四王に歷事し、終始節を一にす。時人、董賈の風ありといふ。

【曹鏷】179（サウボク）　明、吳江の人。字は良金。弘治の進士。官は員外郎。性、鯁介。宦官を折辱して東昌府通判に左遷さる。時に鎭守太監、尤も暴横、鏷、抗章して其の罪を劾し、裁革を乞ふ。武宗これに從ふ。劉瑾怒り、人をして鏷の陰事をさぐらしむるも得る所なし。興化同知・湖廣僉事となる。居る所に土を積んで山となし、桐を其の上に植ゑ、自ら桐丘と號す。繪事及び詩文に巧。〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十七上〕。

【曹本】180（サウホン）　明、滕縣の人。字は子善。貢生を以て太學に學ぶ。官は洪武中、蔚州判官。成祖に從つて山東に轉戰し、再び河北に出で、金陵に長驅す。功により、廣西按察史・山西參政となる。〔國朝獻徵錄、九十七〕・〔本朝分省人物攷、九十五〕。

【曹沫】181（サウマツ）　春秋、魯の人。勇力を以て莊公に事ふ。魯、齊と戰ひ、三たび敗北す。莊公懼れ、遂邑の地を獻じて和し、齊と柯に會して盟ふ。沫、匕首もて、齊の桓公を劫し、三戰に亡へる地を復す。左傳には曹劌に作る。曹柯之盟(328)を見よ。〔史記、八十六〕・〔陔餘叢考、二一〕。

【曹瞞】182（サウマン）　魏の曹操のこと。曹操の幼字は阿瞞といったので、かくいふ。曹操(91)を見よ。〔魏志、武帝操傳〕太祖武皇帝、諱操、字孟德。〔注〕太祖、一名吉利、小字阿瞞、云云、吳人作㆓曹瞞㆒。〔蘇軾、答㆓范祖禹㆒詩〕猶勝白門窮㆓呂布㆒、欲㆘將㆓鞍馬㆒事㆗曹瞞㆖。〔安積艮齋、題㆓赤壁圖後㆒〕彼周郎竭㆓智力㆒、以㆓精兵三萬㆒、破㆓曹瞞數十萬之衆㆒。

【曹務】183（サウム）　官署の分曹で行ふ事務。局・課で司る事務。〔隋書、百官志下〕尚書省、凡三十六侍郎、分㆓司曹務㆒、直㆓宿禁省㆒、如㆓漢之制㆒。〔舊唐書、職官志二〕吏部員外郎一人、掌㆓判曹務㆒。〔唐書、孟郊傳〕郊閒往坐㆓水旁㆒、裴回賦㆑詩、曹務盡廢。

【曹銘】184（サウメイ）　明、新野の人。進士を以て香河縣知となる。上疏して宋儒胡瑗等八人の道學に功ある者を孔子廟に從祀すべきをいひ、用ひらる。儋州の知に陞進す。〔國朝列卿記、七十一〕。

【曹雄】185（サウユウ）　明、西安左衞の人。劉瑾に附す。官は左都督。瑾敗れ、南海の戍となる。〔明史、一百七十五〕・〔萬斯同明史、二百六十二〕・〔明史稿、一百五十七〕。

【曹裕】186（サウユウ）　宋、耒陽の人。字は公善。進士。官は潭州司錄參軍。後、溧水の宰となる。

【曹溶】187（サウヨウ）　清、秀水の人。字は秋嶽、潔躬。號は倦圃（倦圃老人）・花尹・鋤菜翁・金陀老圃・白學先生。明、崇禎の進士。官は御史。順治の初、清に歸し、原官を授けられる。廣東布政使に遷り、山西陽和道に降される。詩に巧。書室を靜惕堂といふ。著に崇禎五十宰相傳・劉豫事蹟・金石表・倦圃蒔植記・粵游草・靜惕堂詩集等がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十八〕。

【曹鸞】188（サウラン）　後漢の人。官は永昌太守。熹平中、上書して大いに黨人を訟し、言甚だ切。帝怒り、檻車にて鸞を收め、槐里獄に送り、これを掠殺せしむ。〔後漢書、九十七〕。

【曹劉】189（サウリウ）　㊀魏の曹植と劉楨との幷稱。〔文心雕龍、比興〕揚・班之倫、曹・劉以下、圖㆓狀山川㆒、影㆓寫雲物㆒。㊁魏の曹操と蜀漢の劉備との幷稱。〔陸機、辨亡論上〕曹・劉之將、非㆓一世所㆑選。〔注〕良曰、曹・劉、謂㆓曹操・劉備㆒也。〔蘇軾、諸葛亮論〕曹・劉之不㆑敵、天下之所㆓共知㆒也。㊂曹子方と劉景文とをいふ。〔蘇軾、六客堂宴會詞〕曹・劉今對兩蘇・張。

【曹劉體】190（サウリウタイ）　魏の曹植と劉楨との詩體。〔滄浪詩話、詩體〕曹劉體、子建・公幹也。

【曹璘】191（サウリン）　明、襄陽の人。字は廷輝。成化の進士。官は御史。孝宗の時、意に抗して講學行孝凡そ十事を勸む。兩粤を巡按し、陳獻章を新會に訪ひ、其の言論に服す。後、山中に居り、三十年間、城市に入らず、徵召に應じなかった。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百四十七〕・〔明史稿、一百六十九〕。

【曹友聞】192（サウイウブン）　宋の人。彬十二世の孫。字は允叔。謚は節。少くして大志あり。寶慶の進士。官は知沔州。元兵興元に入るや、馳せて雞冠山の隘に至り、弟萬と倶に戰ひ、これに死す。龍圖閣學士を追贈された。〔宋史、四百四十九〕。

【曹煜曾】193（サウイクソウ）　清、上海の人。字は麓蒿。康熙の貢生。詩を能くし、弟、炳曾・煐曾と名を齊しくす。時人、劉孝綽に比す。書室を道腴堂といふ。著に道腴堂詩集がある。〔國朝詩人徵略初編、二十三〕。

【曹毓英】194（サウイクエイ）　清、江陰の人。字は子瑜。號は琢如。謚は恭愨。道光中の拔貢。官は兵部尚書。同治中、軍機大臣に任ぜられること五年。兩宮を調護し、諸將を指揮して頗る功あり。〔清史稿、四百二十七〕・〔清史列傳、四十七〕・〔續碑傳集、十二〕。

【曹一介】195（サウイツカイ）　元、東林の人。字は子和。號は筠軒・友竹。著に友竹集がある。

【曹一士】196（サウイツシ）　清、上海の人。字は諤廷。號は濟寰・四焉齋。雍正の進士。官は兵科給事中。奉る所の封事、世道民生に益あり、朝野傳誦す。詩文に巧。著に四焉齋集がある。〔清史稿、三百十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十六〕・〔碑傳集、五十六〕。

【曹允儒】197（サウインジュ）　明、太倉の人。字は魯川。著に握機經・握機緯がある。〔四庫提要、一百〕。

【曹胤昌】198（サウインシヤウ）　明、黃岡の人。字は石霞。官は嘉定令。

【曹于汴】199（サウウベン）　明、安邑の人。字は自梁。萬曆の進士。熹宗立つや、左僉都御史に遷り、趙南星を佐けて京察を主り、力めて善類を扶け、魏忠賢に斥けらる。崇禎の初、官は左都御史。憲規を振擧し、臺中肅然たり。篤く學に志し、朝に立ちて阿らず、古の大臣の風あり。書室を仰節堂といふ。著に共發編・仰節堂集がある。〔明史、二百五十四〕・〔萬斯同明史、三百五十八〕・〔明史稿、二百三十九〕。

【曹煐曾】200（サウエイソウ）　清の人。炳曾の弟。字は祖望。號は春浦。康熙末の貢生。詩に巧。書室を長嘯軒といふ。著に長嘯軒詩集がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【曹穎叔】201（サウエイシュク）　宋、亳州の人。字は秀之。初の名は熙。進士。韓琦・文彥博其の才を薦む。官は龍圖閣直學士・知永興軍。〔宋史、三百四〕・〔宋元學案、五〕。

【曹耀珩】202（サウエウカウ）　清、益陽の人。字は鳴珮（鳴佩）。號は暢菴。康熙の拔貢。官は寧遠縣教諭。書室を聽濤園といふ。著に聽濤園古文がある。〔國朝耆獻類徵、二百五十一〕。

【曹奕霞】203（サウエキカ）　清、嘉善の人。字は秉生。號は晳庭。白牛村に歸隱し、白牛居士と號す。詩に巧。雍正中、博學鴻詞に擧げられるも老疾を以て辭す。著に白牛村集がある。

【曹曰英】204（サウヱツエイ）　清、貴池の人。字は渭符。號は恒齋。官は翰林待詔・內廷纂修。書に巧。〔國朝書人徵略、一〕。

【曹家甲】205（サウカカフ）　清、新建の人。字は爲質。康熙の進士。官は龍溪縣知。職を罷め、足迹天下に半ばす。著に地理原本がある。

【曹學詩】206（サウガクシ）　清、歙の人。字は以南。號は震亭・香雪。乾隆の進士。官は內閣中書。著に香雪文鈔。〔國朝耆獻類徵、二百三十六〕・〔碑傳集、一百五〕。

【曹學佺】207（サウガクセン）　明、侯官の人。字は能始。號は石倉・淼閣・西峯居士。萬曆の進士。天啓中、官は

廣西參議。初、梃擊の獄興るや、學佺、野史紀略を著はして本末を直書す。劉廷元に私かに野史を撰するを劾され、籍を削らる。後、唐王の時、官は禮部尙書。明、亡ぶや、山に入りて縊死す。著に易經通論・周易可說・書傳會衷・春秋闡義・輿地名勝志・蜀中名勝記・西峯字說・石倉歷代詩選・鳳山鄭氏詩選・石倉集がある。〔明史、二百八十八〕・〔明史稿、二百六十九〕・〔明人小傳、四〕。

【曹學程】208（サウガクテイ）　明、全州の人。字は希明。萬曆の進士。官は御史。時に冊封日本正使李宗城遁れ歸る。神宗石星の言に惑ひ、給事一人を遣して冊封使に充てんとす。學程、抗言してきかず。怒に觸れ獄に下され、死罪に論ぜらる。子の正儒、血書を以て三度上書し、身を以て代らんと乞ひ、赦されて寧遠衞に謫戍された。〔明史、二百三十四〕・〔萬斯同明史、三百二十七〕・〔明史稿、二百十七〕。

【曹學閔】209（サウガクビン）　清、汾陽の人。字は孝如。號は慕堂。乾隆の進士。官は內閣侍讀學士。晚年、性命の學を講求する。書室を紫雲山房といふ。著に紫雲山房詩文稿がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、九十二〕。

【曹鑑冰】210（サウカンピヨウ）　清、金山の女子。字は葦堅。號は月娥。婁縣の張殷六に嫁す。家貧しく、生徒に教授して自ら給す。書畫を善くす。人、葦堅先生といふ。〔清畫家詩史、癸、上〕・〔清代閨閣詩史徵略、三〕・〔國朝書識、十七〕。

【曹希文】211（サウキブン）　宋の人。涇の子。著に詩文講義・通鑑日纂がある。〔宋元學案、八十九〕。

【曹起鳳】212（サウキホウ）　清、崑山の人。字は士元。父、行商して蜀に歿す。起鳳、蜀に入り、南は滇界に至り、西は金川に達し、卒に父の骨を得て歸る。〔國朝耆獻類徵、三百九十〕・〔國朝先正事略、五十八〕。

【曹熙衡】213（サウキカウ）　清、錦州の人。字は素徵。官は順治中、貴州按察使。著に峩眉山志がある。〔四庫提要、七十六〕。

【曹吉祥】214（サウキツシヤウ）　明、灤州の人。石亨と結び、兵を率ゐて英宗を迎へ、位に復す。官は司禮太監。其の權勢、石亨と並び稱せられ、世に曹石といふ。後、反を謀り誅せられる。〔明史、三百四〕・〔萬斯同明史、四百五〕・〔明史稿、二百八十三〕。

【曹享時】215（サウキヤウジ）　清、湖南興寧の人。字は敏齋。乾隆の擧人。博學にして文章に巧。著に左氏貫・古文法鑒錄・小戎十藝・文選內外篇・古文備法等がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十五〕。

【曹共公】216（サウノキヨウコウ）　春秋曹の君。曹叔振鐸十二世の孫。名は襄。諡は共。晉の文公、嘗て出遊して曹を過ぎし時、曹公、其の駢脅を見んとして僖負覊の諫を用ひず。文公既に立ちて曹を伐ち、共公を虜にす。後、國に返るを得。在位三十五年にして卒す。〔史記、三十五〕。

【曹玉珂】217（サウギヨクカ）　清、富平の人。字は禹疏。號は陸海。又、緩齋。順治の進士。壽張縣知となつて循吏の名聲あり。後、官は中書科中書に至る。書を善くし、鑑賞に精通す。著に緩齋集がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十一〕・〔碑傳集、一百三十九〕。

【曹欽程】218（サウキンテイ）　明、江西德化の人。進士。官は吳江知縣。魏忠賢の十狗の一。後、李自成に降る。〔明史、三百六〕・〔萬斯同明史、三百五十五〕・〔明史稿、二百八十七〕。

【曹光實】219（サウクワウジツ）　宋、百丈の人。字は顯宗。少くして武勇。父の職を嗣ぎ、永平軍節度管內捕盜遊奕使となり、屢〻賊を破る。太祖に蜀中の俊傑と稱せらる。官は都巡檢使。李繼遷を伐ち、伏兵に遇ひて戰歿す。〔宋史、二百七十二〕。

【曹景宗】220（サウケイソウ）　梁、新野の人。字は子震。諡は莊。齊に任へて遊擊將軍となり、梁武帝の時、竟陵太守となり、天監の初、竟陵縣侯に封ぜられる。屢〻魏を破る。官は侍中中衞將軍。爵を公に進めらる。〔梁書、九〕・〔南史、五十五〕。

【曹乾學】221（サウケンガク）　明、太倉の人。字は叔驥。著に兎園草がある。〔四庫提要、一百七十六〕。

【曹亢俊】222（サウケンシユン）　清、無錫の人。字は偉君。號は柳溪。乾隆の擧人。官は中書。畫に巧。〔清畫家詩史、丙、下〕・〔國朝書畫家筆錄、二〕。

【曹元用】223（サウゲンヨウ）　元、汶上の人。字は子貞。諡は文獻。幼にして書を嗜み、目を經れば誦を成す。官は翰林院編修官・參知政事。嘗て元明善・張養浩と三俊と號せらる。〔元史、一百七十二〕。

【曹言純】224（サウゲンジユン）　清、嘉興の人。字は絲贊。號は古香・種水。歲貢生。詩畫に巧。書室を徵賢堂・五千卷室といふ。著に徵賢堂詩・種水詞がある。

【曹彥可】225（サウゲンカ）　元、亳州の人。至正中、妖寇里中に起り、彥可を劫して旗を寫さしむるや、彥可これに唾す。賊、怒りてこれを殺す。事顯はれ、諡を節愍と賜はる。〔新元史、二百三十三〕。

【曹彥約】226（サウゲンヤク）　宋、都昌の人。字は簡甫。號は昌谷。諡は文簡。嘗て朱熹に從つて學ぶ。淳熙中の進士。官は兵部尙書。書室を星鳳樓といふ。著に輿地綱目・昌谷類稿・經幄管見・昌谷集がある。〔宋史、四百十〕・〔宋元學案、六十九〕。

【曹源宏】227（サウゲンクワウ）　清、嘉善の人。字は天來。號は莆田（甫田）。花鳥畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、三〕・〔國朝畫識、十二〕。

【曹弘達】228（サウコウタツ）　五代、吳越の人。曹仲達（287）を見よ。

【曹洪志】229（サウコウシ）　清、上海の人。字は士心。號は淡持。經學に明通、山水畫に巧。書室を和瑞堂といふ。〔墨香居畫識、十〕。

【曹興才】230（サウコウサイ）　明の人。曹興（85）を見よ。

【曹克明】231（サウコクメイ）　宋の人。光實の從子。字は堯卿。光實、戰死するや、克明、輜重を護つて還り、銀州に軍し、敵中に潛入して其の尸を護り還る。李順雅州を陷れるや、克明これを復す。官は景德中、宜融十州安撫使、後、知鼎州に至る。〔宋史、二百七十二〕。

【曹國舅】232（サウコクキウ）　宋の曹太后の弟。俗に八仙の一と傳ふ。然れども宋史に仙となるの事はなく、又此の外に別に國戚で仙に學んだ者もないから傳聞の妄であらうといふ。〔續文獻通考〕曹國舅、曹太后之弟、隱二跡山巖一、精思慕レ道、遇二鍾離純陽一、純陽問曰、問、子修養所レ養何物、對曰、養レ道、曰道安在、舅指レ天、曰、天安在、舅指レ心、鍾離笑曰、心卽道、卽識二本來面目一矣、遂引入二仙班一。〔陔餘叢考、八仙〕曹國舅、爲二宋曹太后之弟一、考二宋史一、慈聖光獻太后弟曹佾、年七十二而卒、未三嘗有二成仙之事一、此外又別無二國戚而學レ仙者一、則亦傳聞之妄也、道山清話記、晏殊乃仙人曹八百托レ生、所謂曹八百者、豈卽其人耶、然又非二國戚一也。

【曹國珍】233（サウコクチン）　五代晉、固安の人。字は彥輔。少くして亂離に値ひ、因つて河西に客寓し、延州の高萬興兄弟が文辭を好むや書奏を掌る。後、入りて左拾遺となり、尙書郎に累遷す。好んで文學を以て自ら矜るも、文字往往差誤し、搢紳にけなされる。官は陝州行軍司馬。〔舊五代史、九十三〕。

【曹焜妻】234（サウコンノツマ）　清の人。吳朏（**2－3365‥356**）を見よ。

【曹參芳】235（サウサンハウ）　明の人。南國郡博士の弟子員。著に遜國正氣紀がある。〔四庫提要、五十四〕。

【曹士銓】236（サウシセン）　明、都匀の人。諸生。兵亂を大聖洞中に避く。賊、洞を攻め士銓の母子を擄へ、金を索むれども得ず。其の母を刃せんとす。士銓、進みて身を以てこれを蔽ひ、寧ろ我を殺せ、母を傷くるなかれと大呼して、遂に母子共に殺れた。〔勝朝殉節諸臣錄、五十五〕。

【曹士冕】237（サウシベン）　宋の人。彥約の後。字は端可。號は陶齋。幕僚より仕へて州郡に至る。著はす所の法帖譜系は、每條摹刻の始末を敍述し、其の異同工拙を訂し、考證に資するに足る。〔四庫提要、八十六〕。

【曹士謨】238（サウシボ）　明、黃岡の人。明經を以て隨州訓導に任ぜられる。崇禎中、獻賊城に逼るや、郡人相率ゐて引き去る。士謨獨り法を約して城を守る。城破れて執らへられ、賊を罵りて死す。〔崇禎忠節錄、十八〕。

【曹子桓】239（サウシクワン）　曹丕（161）を見よ。

【曹子建】240（サウシケン）　曹植（118）を見よ。

【曹子建集】241（サウシケンシフ）　書名。十卷。魏、曹植撰。一名、陳思王集。其の目は、賦四卷・詩一卷・樂府一卷・頌・贊・銘共一卷・章・表・令共一卷・文・啓・詠・書・誄・哀・辭共一卷・論・說共一卷。凡て賦四十四篇、詩七十四篇、雜文九十三篇。目錄の後に嘉定六年癸酉の字がある。宋人が類書より集めて一書に成したものと見られる。又、張溥の百三名家本は二卷で、其の目は、賦・騷・令・

表・章・書・序・七・論・説・謳・碑・頌・賛・銘・文・誄・哀辭（共一卷）・樂府・詩・補遺（共一卷）。附錄に本傳あり。〔四庫提要、集、別集類〕・〔四部叢刊、第五百八十五・五百八十六冊〕・〔續古逸叢書、第二十一－二十三冊〕。

【曹子念】242サウシネン　明、太倉の人。詩に巧。其の近體歌行は、甚だ其の舅、王元美に似る。〔明詩紀事、庚、二十七〕。

【曹之謙】243サウシケン　元、雲中應の人。字は益甫。早年にて科第に登り、元好問と同じく東曹掾となる。機務倥偬の間、文字を商訂して少しも輟めず。北渡の後、平陽に居ること三十餘年、諸生と學を講じ、衆翕然としてこれに從ふ。著に兌齋集がある。

【曹氏子】244サウシノコ　蟲の名。蠐螬の異名。〔海錄碎事、鳥獸、雜蟲〕齊人曹氏子、乃蠐螬、出二宣室志一。

【曹祠部】245サウシブ　曹鄴(72)を見よ。

【曹自守】246サウジシュ　明、茌平の人。字は邁菴。母に事へて至孝。母、明を失ふや、香を焚いて禱ること月を踰え、母の目忽ち明となる。少くして張氏の女を聘す。未だ娶らずして其の女瞽となるや、女の父、婚を停めんと請ふ。自守竟にこれを娶る。後、吳縣の令となり、治績あり。〔本朝分省人物攷、九十六〕。

【曹時中】247サウジチュウ　明、松江華亭の人。名は節。字を以て行はれる。號は晩宜居士。成化の進士。官は刑部主事・雲南僉事・浙江副使。詩及び書に巧。〔萬斯同明史、二百三十六〕・〔國朝獻徵錄、八十四〕・〔本朝分省人物攷、二十五〕。

【曹爾垓】248サウジカイ　清の人。曹重(148)を見よ。

【曹爾堪】249サウジカン　清、嘉善の人。字は子顧。號は顧菴。順治の進士。官は侍講學士。詩詞を善くし、宋琬・施閏章・王士祿・王士禎・任琬・程可則・沈荃と共に海内八家と稱せらる。著に南溪文略及詞略・杜鵑亭稿がある。〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、一百十五〕・〔國朝詩人徵略初編、二〕。

【曹爾成】250サウジセイ　清、無錫の人。字は得忍。著に禹貢正義がある。〔四庫提要、十四〕。

【曹爾坊】251サウジバウ　清の人。爾堪の弟。字は子閑。書に巧。畫は兄、爾堪と共に名あり。〔清畫家詩史、乙、上〕・〔國朝畫識、二〕。

【曹秀先】252サウシウセン　清、新建の人。字は冰持。號は地山・芝田・鹿門子。謚は文恪。乾隆の進士。官は禮部尚書。典文衡に歷任し、皆士を得と稱せらる。書室を賜書堂といふ。著に賜書堂稿・依元集・使星集・地山初稿等がある。〔清史稿、三百二十七〕・〔清史列傳、二十〕・〔國朝耆獻類徵、八十二〕・〔國朝先正事略、十七〕。

【曹修古】253サウシウコ　宋、建安の人。字は述之。大中祥符の進士。官は仁宗の朝、殿中侍御史。劉太后朝に臨むや、權幸事を用ふ。修古、太后に忤ひ、興化軍の知に出さる。〔宋史、二百九十七〕。

【曹修睦】254サウシウボク　宋の人。修古の弟。修古と共に進士に擧げられる。官は侍御史。後、知壽州に至る。〔宋史、二百九十七〕。

【曹昌言】255サウシヤウゲン　清、新建の人。字は禹拜。著に多識類編・玉隆紀游・輿圖輯略がある。〔四庫提要、一百三十三〕。

【曹守貞】256サウシユテイ　明、江都の人。字は子一。呂柟に從學して理學を究む。嘉靖の進士。官は工部主事。後、平樂知府。書室を畸倖軒といふ。著に畸倖軒稿がある。

【曹叔遠】257サウシユクエン　宋、瑞安の人。字は器遠。謚は文肅。陳傅良の弟子。紹興の進士。國子學錄となり、韓侂冑に忤ひて罷む。後、官は太常少卿・權禮部侍郎・徽猷閣待制。著に周官講義・永嘉年譜地譜名譜人譜がある。〔宋史、四百十六〕・〔宋元學案、五十三〕。

【曹肅荀】258サウシユクシユン　清、洛陽の人。字は伯繩。號は悔遲齋。貢生。著に悔遲齋文鈔がある。

【曹鍾坤】259サウシヨウコン　清、上海の人。號は藝溪老人。算術を研究し、同治中、製造局に入る。

【曹汝霖】260サウジヨリン　民國、江蘇省上海縣の人。字は閏田。我が早稻田大學卒業。前清時代諸役に就き、日露戰爭中、日支間に於ける總ての交涉に任じた。民國成立後多年北京政府の交通總長として活躍したが、五四運動起るや親日派として排斥を受く。其の後實業界に入る。

【曹申吉】261サウシンキツ　清の人。貞吉の弟。字は錫餘。號は澹餘。順治の進士。官は貴州巡撫。文章歌詩に長ず。吳三桂反して貴州を犯すや、申吉これに從ひ、後、終る所を知らず。一說に雲南にて害に遇ふといふ。著に澹餘南行・黔行・黔寄諸集がある。〔清史列傳、八十〕・〔碑傳集、六十三〕。

【曹振鏞】262サウシンヨウ　清の人。文埴の子。字は儷笙。又、懌嘉。謚は文正。乾隆の進士。官は體仁閣大學士・太子太師。官に在ること五十餘年、乾隆・嘉慶・道光の三朝に相となり、侃侃として老成を以て自ら居り、同朝皆これを畏る。〔清史稿、三百六十九〕・〔清史列傳、三十二〕・〔國朝耆獻類徵、三十八〕・〔續碑傳集、二〕。

【曹稹孫】263サウシンソン　宋、瑞安の人。字は德堅。宋亡び、詩古文を以て自ら娛しむ。後、安陽に留まること十餘年、南北の生徒常に數百人。

【曹人刺】264サウヒトノソシリ　君主が其の位に堪へないのを刺るにいふ。古、曹國の人が詩經の候人の章を作つて、共公を刺つたのに本づく。〔詩、曹風、候人序〕候人、刺レ近二小人一也、共公遠二君子一而好レ近二小人一焉。〔晉書、五行志中〕博學二天下儁德茂材、獨行君子一、以答二曹人之刺一。

【曹仁希】265サウジンキ　宋、毘陵の人。一に仁熙に作る。字は企之。畫に巧。

【曹仁熙】265′サウジンキ　宋の人。曹仁希を見よ。

【曹仁虎】266サウジンコ　清、嘉定の人。字は殷來。號は習菴。乾隆の進士。少くして詩に巧。王昶等と倡和す。詞館に入りて後、大典禮に遇ふ每に應奉の文字は皆其の手より出づ。官は侍讀學士。母の喪を以て哀毀して卒す。書室を宛委山房といひ、著に宛委山房集がある。〔清史稿、四百九十〕・〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十九〕・〔國朝先正事略、四十一〕・〔清代學者象傳、三〕。

【曹仁美】267サウジンビ　清、湘陰の人。字は毓楚。又、澤庵。咸豐・同治中、洪楊に從征し、江西・安徽・江蘇・福建に轉戰し、屢〻戰功あり。官は記名提督。捻匪を鍾祥に勦伐し、陣歿す。〔清史稿、四百九十七〕・〔續碑傳集、六十七〕。

【曹粹中】268サウスイチユウ　宋、定海の人。字は純老。號は放齋。宣和の進士。李光の壻。秦檜位に在るの時、光、參政たり。檜、粹中を召すも辭して赴かず。妻に語りて曰く、汝の父、丞相と與に久しく處る能はずと。光が南海に貶謫せらるるや、粹中復た仕へず、自ら放齋と號す。著に詩說がある。〔宋元學案、二十〕。

【曹世表】269サウセイヘウ　後魏の人。字は景昇。性、雅正。尺牘に巧。羣書を涉獵す。數〻反賊を平げ、又劉獲等の反を討つ。官は左將軍兼尙書東道行臺。〔魏書、九十二〕・〔北史、四十五〕。

【曹正儒】270サウセイジユ　明の人。學程の子。學程が獄に下さるるや、三たび血書を上り、父の死に代らんことを乞ひ、父始めて謫戍さる。崇禎の時、孝子として旌表さる。〔明史、二百三十四〕・〔明史稿、二百十七〕。

【曹正國】271サウセイコク　宋の人。字は良有。景定中、待詔となる。畫に巧。

【曹成公】272サウノセイコウ　春秋、曹の君。共公の孫。名は負芻。謚は成。晉の厲公、曹を伐ち、成公を虜にして歸り、子藏を立つ。子藏宋に奔るや、曹人、晉に請ひて成公を復す。在位二十三年にして卒す。〔史記、三十五〕。

【曹錫鑛】273サウセキクワウ　清、上海の人。字は伯熊。號は書圃。諸生。書に巧。

【曹錫淑】274サウセキシユク　清の人。一士の女。字は采荇。同里の擧人、陸正笏に嫁す。詩を作つて軌範あり、能く家學を承く。書室を晩晴樓といふ。著に晩晴樓詩草がある。〔清代閨閣詩人徵略、四〕。

【曹錫寶】275サウセキハウ　清、上海の人。字は鳴書。號は劍亭・古雪齋。晩年、容圃と號す。乾隆の進士。官は陝西道御史。和珅の家人を疏劾し、革職留任され、尋いで原官に復す。和珅敗れ、副都御史を贈られる。〔清史稿、三百二十八〕・〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、九十三〕・〔碑傳集、五十六〕・〔國朝先正事略、二十一〕。

【曹雪芹】276サウセツキン　清、漢軍正白旗人。寅の子。名は霑。字を以て行はれる。一の字は芹圃。著に紅樓夢小說がある。

【曹素功】277サウソコウ　清、歙の人。字は聖臣。歲貢生。製墨に巧。製する所の品は僅かに十八種なるも皆實用に適す。嘗て一時投贈の詩文を輯め、曹氏墨林といふ。〔四庫提要、一百十六〕。

【曹續祖】278 サウゾクソ　清、山西大寧の人。字は子成。號は陶菴。順治の舉人。母を養ひて仕へず、其の學は實踐を以て本となす。著に四書遵注綱領・臥雲洞筆がある。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、三百九十五〕。

【曹大咸】279 サウタイカン　明、江陵の人。字は元和。萬曆の進士。官は禮科給事中。

【曹大家】280 サウタイコ　後漢の班昭。字は惠姬。彪の女、班固の妹、曹壽の妻。固、漢書を著はし、未だ完成せずして卒するや、帝、昭に詔して東觀に就いてこれを踵ぎ成さしめ、數〻召して宮に入れ、后妃諸貴人をして師事せしむ。號して曹大家といふ。家は姑に同じ。大家は女の尊稱。班昭（7－20976··59）を見よ。〔後漢書、列女、曹世叔妻傳〕扶風曹世叔妻者、同郡班彪之女也、名昭、博學高才、世叔早卒、有㆓節行法度㆒、兄固、著㆓漢書㆒、其八表及天文志未㆑及㆑竟而卒、和帝詔㆑昭、就㆓東觀藏書閣㆒、踵而成㆑之、帝數召入㆑宮、令㆓皇后諸貴人師事㆒焉、號曰㆓大家㆒、漢書始出、多㆓未㆑能㆑通者㆒、同郡馬融從㆑昭受㆑讀、後又詔㆓融兄續㆒、繼㆑昭成㆑之。

【曹大章】281 サウタイシヤウ　明、金壇の人。字は一呈。號は含齋。嘉靖の進士。官は翰林院編修。癈疾を以て罷む。著に曹太史含齋集がある。〔明詩紀事、己、十一〕。

【曹大受】282 サウタイジユ　明、麻城の人。號は無可。萬曆の舉人。官は浙江新城令。後、貴州兵備副使。

【曹悼公】283 サウノタウコウ　春秋、曹の君。成公の曾孫。名は午。謚は悼。立ちて九年にして宋に朝し、囚へられ、宋に死す。〔史記、三十五〕。

【曹知白】284 サウチハク　元、松江華亭の人。字は又元。又、貞素。別號は雲西。官は崑山教諭。畫に巧。

【曹仲賢】285 サウチユウケン　曹仲賓を見よ。

【曹仲賓】286 サウチユウヒン　明の人。一に仲賢に作る。九鸞圖を善くした。

【曹仲達】287 サウチユウタツ　㊀北齊、曹國の人。官は朝散大夫。畫に巧。㊁五代、呉越の人。珪の子。本名は弘達。諱を避けて改む。謚は安成。官は台處二州刺史。錢元瓘が國を建てるや丞相に拜せられる。

【曹直院】288 サウチヨクヰン　ふでかけの別名。筆架。〔文房圖贊〕曹直院、名導、字公路、號㆓介軒主人㆒。

【曹廷隱】289 サウテイイン　五代唐、魏州の人。天成の初、官は齊州防禦使。事に坐し、自盡せしめらる。〔舊五代史、七十一〕。

【曹廷樞】290 サウテイスウ　清、嘉善の人。字は古謙。號は六薌謙齋。副貢より、乾隆中の博學鴻詞に擧げらる。幼にして家學を承け、篤く好古に志す。著に謙齋詩集がある。〔鶴徵後錄、五〕。

【曹廷棟】291 サウテイトウ　清の人。廷樞の弟。字は楷人。號は六圃。進取の意を絕ち、門をとざして書を著はす。嘗て所居に土を累ねて山を築き、花木を植ゑて母に奉じ、名づけて慈山といひ、因つて自ら慈山居士と號す。書室を產鶴亭といふ。著に易準・孝經通釋・逸語・昏禮通考・琴學內外篇・宋百家詩存・產鶴亭詩集がある。〔國朝耆獻類徵、四百十九〕・〔清儒學案小識、十四〕。

【曹貞吉】292 サウテイキツ　清、安丘の人。字は升六。號は實菴・珂雪。康熙の進士。官は禮部郎中。其の詩は宋犖に推稱さる。著に實菴詩略・珂雪詩詞がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、一百四十一〕・〔國朝先正事略、三十七〕。

【曹貞秀】293 サウテイシウ　清の人。銳の女。長洲の王芑孫の妻。字は墨琴。書・畫・詩を能くす。書室を寫韻軒といふ。著に十三行臨本・寫韻軒集がある。〔清畫家詩史、癸、上〕・〔清代閨閣詩史徵略、六〕。

【曹洞宗】294 サウトウシユウ　佛禪宗の一派。六祖の弟子行思にはじまる。曹山本寂及び洞山良价の名に取つて宗に名づく。道元禪師のはじめて本邦に弘めたもの。永平寺・總持寺の二派あり。〔祖庭事苑、七〕曹山卽洞山之嗣子、今不㆑言㆓洞曹㆒而言㆓曹洞㆒者、蓋由㆓語便㆒而無㆑他、叢林或指㆑曹爲㆓曹溪㆒、蓋不㆑知㆓世裔來歷之遠近㆒、妄自牽合。

【曹德華】295 サウトククワ　清、新建の人。字は迪諧。又、山甫。乾隆の進士。官は刑部主事。詩を能くし、書・畫に巧。貴遊の請屬に順はず。〔國朝耆獻類徵、一百四十八〕。

【曹破石】296 サウハセキ　後漢、新野の人。節の弟。官は越騎校尉。〔後漢書、一百八〕。

【曹培源】297 サウハイゲン　清、上海の人。字は浩修。貢生より太倉訓導となる。畫は王原祁を師とす。詩に巧。書室を同蘭館といふ。著に同蘭館詩がある。〔清畫家詩史、乙、下〕・〔國朝畫識、八〕。

【曹邦輔】298 サウハウホ　明、定陶の人。字は子忠。嘉靖の進士。寇を平げて功あり。官は隆慶の初、左副都御史。後、南京戸部尚書に至る。〔明史、二百五〕・〔萬斯同明史、二百九十五〕・〔明史稿、一百八十〕・〔國朝獻徵錄、三十一〕。

【曹望之】299 サウバウシ　金、宣德の人。字は景蕭。天德の間、進士及第を賜はる。官は戸部尚書。詩集がある。〔金史、九十二〕。

【曹伯啓】300 サウハクケイ　元、碭山の人。字は士開。謚は文貞。弱冠にして東平の李謙に從學し、學問に篤し。官は集賢學士・侍御史。詩は元祐の格に近い。著に曹文貞詩集がある。〔元史、一百七十六〕。

【曹伯陽】301 サウハクヤウ　春秋、曹の君。悼公の孫。位に卽き、田弋の事を好み、田弋を善くする野人、公孫彊を登用し、且、其の說を用ひ、晉に背いて宋を犯す。宋の景公、これを伐ち、伯陽及び公孫彊を執へて歸り、これを殺す。在位十五年にして曹遂に亡ぶ。〔史記、三十五〕。

【曹不興】302 サウフコウ　三國呉、呉興の人。一に弗興に作る。畫に巧なるを以て名あり。當代、八絕の一に數へらる。孫權が屛風を畫かしめた所が、落筆の點を誤り、蠅に改めて進御した。權は生きた蠅だと考へ手で彈いたといふ。嘗て青溪を過ぎ赤龍の飛上するを見、寫して孫皓に獻じ、祕府に納めらる。宋の文帝の時、久しく旱あり、不興の畫龍を取りて水上に置くと、俄にして雲霧起り、大雨が注いだといふ。又、三國志の注を按ずるに、曹が不興と名づけたのは、蓋し孫氏が曹魏を詛つてゐるから其の意をとつて、此の名を附したといふ。

【曹弗興】303 サウフツコウ　三國、呉の人。曹不興を見よ。〔尙友錄、七〕。

【曹文耀】304 サウブンエウ　明の人。文詔の弟。兄に從つて征討の功あり、河曲の戰に斬獲多し。後、賊を忻州に擊ち、城下に死す。〔明史、二百八十六〕・〔明史稿、二百五十〕。

【曹文姬】305 サウブンキ　唐、長安の妓。艷姿絕倫、尤も翰墨に巧。書仙と號す。後、任生に嫁し、これに事へること五年、偕に雲に乘りて仙去した。〔全唐詩、二十九〕。

【曹文晦】306 サウブンクワイ　元の人。文炳の弟。字は伯輝。穎悟にして多識、室を築きて書を讀み、自ら新山道人と號す。著に新山稿がある。〔元詩紀事、二十三〕。

【曹文公】306′ サウノブンコウ　春秋、曹の君。共公の子。名は壽。周の頃王の二年に卽位し、在位二十三年にして卒した。〔史記、三十五〕。

【曹文埴】307 サウブンシヨク　清、歙の人。字は近薇。號は竹虛。謚は文敏。乾隆の進士。官は戸部尚書。書室を石鼓研齋といふ。著に石鼓研齋文鈔がある。〔清史稿、三百二十七〕・〔國朝耆獻類徵、九十五〕。

【曹文詔】308 サウブンセウ　明、大同の人。寇賊を至る所に平げ、明季の第一の良將の稱あり。王嘉應を討ち、後、賊に眞寧の湫頭鎭に遇ひ、自刎して死す。官は綏東路副總兵・臨洮總兵官。〔明史、二百六十八〕・〔萬斯同明史、三百七十四〕・〔明史稿、二百五十〕・〔明名臣言行錄、八十六〕。

【曹文炳】309 サウブンヘイ　㊀元、天台の人。字は君煥。號は霞閒老人。著に霞閒稿がある。㊁明、松江華亭の人。字は德常。孫宏に師事して花鳥畫を受け、宋旭に師事して畫水法を受け、皆能品に入る。〔明畫錄、六〕。

【曹秉鈞】310 サウヘイキン　清、嘉興の人。字は仲謀。號は種梅。又、水雲・然雲老人。貢生。官は山陰司鐸。書畫に巧。詩を善くす。著に水雲老人詩鈔がある。〔清畫家詩史、戊、下〕。

【曹炳曾】311 サウヘイソウ　清の人。煜曾の從弟。字は爲章。號は巢南・碧蘚齋。康熙末の諸生。詩に巧。書室を放言居といふ。著に放言居詩集がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【曹變蛟】312 サウヘンカウ　明の人。文詔の從子。幼くして文詔に從つて征討し、勇敢を以て聞え、文詔と大小曹將軍と稱せられる。賊、其の名を聞いて皆怖慴す。崇禎中、官は臨洮總兵。李自成と轉戰千餘里に及び、自成東走し、僅に七人を以て逃

る。後、洪承疇に從ひ、松山を援け、執らへられて死す。〔明史、二百七十二〕・〔萬斯同明史、三百七十四〕・〔明史稿、二百三十四〕。

【曹楙堅】313（サウボウケン） 清、吳縣の人。字は艮甫。官は湖北按察使。詞に巧。趙函と名を齊しくす。函の字も艮甫。時人、楙堅を平艮、函を仄艮といひ、其の姓によりてこれを區別す。書室を曇雲閣といふ。著に曇雲閣詩集がある。〔清史稿、四百九十五〕。

【曹本榮】314（サウホンエイ） 清、黃岡の人。字は木欣。號は厚菴。順治の進士。官は國史館侍讀學士。經筵講官に充てられる。傅以漸と易經通注を撰す。其の學、王陽明の致知の說に從ひ、嘗て程朱陸王及び薛瑄の書を論次して五大儒語要を爲る。又、周張精義・王羅擇編等を著はす。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四十三〕・〔國朝先正事略、二十九〕。

【曹孟德】315（サウマウトク） 曹操(91)を見よ。

【曹毋傷】316（サウムシヤウ） 漢の人。官は高祖の左司馬。項羽が高祖を攻めんとするや、人を遣して羽に告げて、沛公、關中に王たらんと欲して珍寶盡くこれを有すといふ。羽、大いに怒り、高祖を攻殺せんとす。高祖、鴻門に行つて謝す。羽、曰く、沛公の左司馬曹毋傷これを言へりと。高祖、歸つてたちどころに毋傷を誅した。〔史記、八〕・〔前漢書、一〕。

【曹明周】317（サウメイシウ） 明、宛陵の人。郢に寓居す。字は郢南。畫に巧。

【曹鳴鶚】318（サウメイガク） 明、大興の人。忠勇を以て著はる。河南道中軍守備となり、兵五百を率ゐて流寇を勦伐す。賊、黨數を糾合して鳴鶚を趙寨に圍む。鳴鶚血戰數晝夜、屈せずして死す。〔明史稿、二百七十四〕・〔勝朝殉節諸臣錄、五〕。

【曹妙清】319（サウメウセイ） 元、錢塘の女子。字は比玉。自ら雪齋と號す。才を以て時に稱せられる。詩歌に巧、音律を解す。著に曹氏絃歌集がある。〔元詩紀事、三十六〕。

【曹門好】320（サウモンノカウ） 曹家の美人。宋の仁宗の時、京師の人が曹王の女孫を賞めた語。〔括異志〕京師凡謂二美者一曰二曹門好一、高大者曰二曹門高一、仁宗乃冊二曹王女孫一爲レ后。

【曹陽墟】321（サウヤウキヨ） 地名。河南省陝縣の西。石橋溝といふ。後漢の獻帝、李傕・郭汜に逼られて、此に露營す。〔潘岳・西征賦〕行二乎漫瀆之口一、憩二乎曹陽之墟一。〔水經、河水注〕河水、又東、得二七里澗一、澗在二陝城西七里一、故因名焉、其水自二南山一通レ河、亦謂二之曹陽坑一。〔元和志〕曹陽墟、俗名二七里澗一。

【曹勇義】322（サウユウギ） 金、廣寧の人。謚は文莊。進士。官は樞密副使・太子少保。虞仲文と同じく樞密に在り、群小に擠されて、出でて三司使となり、宣政大學使を加へられる。〔金史、七十五〕。

【曹利用】323（サウリヨウ） 宋、寧晉の人。字は用之。謚は襄悼。眞宗、澶州に幸するや、遼、使を遣して和を議す。帝、利用をして遼軍に詣らしめ、和議遂に定まる。官は樞密使同平章事・左僕射兼侍中。後、內侍の構ふる所となり、自殺す。〔宋史、二百九十〕。

【曹履吉】324（サウリキツ） 明、當塗の人。字は元甫。號は博望山人。萬曆の進士。官は河南提學僉事。著に博望山人稿がある。〔明詩紀事、庚、七〕。

【曹良史】325（サウリヤウシ） 宋、錢塘の人。字は之才。號は梅南。著に詩詞三摘がある。〔元詩紀事、三十一〕。

【曹良臣】326（サウリヤウシン） 明、安豐の人。謚は忠壯。太祖に歸し、陳友諒・張士誠を破つて功あり。江淮行省參政となり、還つて通州を守る。元の丞相速也が萬騎に將として白河に陣するや、計を以てこれを破る。後、沙漠を征し、戰歿す。爵は宣寧侯。〔明史、一百三十三〕・〔萬斯同明史、一百十六〕・〔明史稿、一百二十一〕。

【曹亮武】327（サウリヤウブ） 清、宜興の人。字は渭公。號は南耕。塡詞を以て名を擅にす。陳維崧と中表兄弟にして其の名聲も相同じ。書室を南耕草堂といふ。著に南耕詞・荊溪歲寒詞・南畊草堂詩稿がある。〔四庫提要、一百八十一〕。

【曹柯之盟】328（サウカノチカヒ） 魯の曹劌が齊と戰ひ、三度敗北す。莊公、懼れて遂邑の地を獻じて和す。魯、齊と柯に盟ふや、劌、匕首を以て齊の桓公を劫し、三戰して亡へる地を魯に歸さしめた。劌は又沫に作る。曹沫(181)を見よ。〔管子、大匡〕果伐レ魯、魯不二敢戰一、去レ國五十里、而爲二之關一、魯請下比二於關內一、以從二于齊一、齊亦毋中復侵上魯、桓公許諾、魯人請レ盟曰、魯小國也、固不レ帶レ劍、今而帶レ劍、是交レ兵、聞二於諸侯一、君不レ如レ已、請去レ兵、桓公曰、諾、乃令二從者一毋レ以レ兵、管仲曰、不可、云云、桓公不レ聽、管仲又諫曰、君必不レ去レ魯、胡不レ用レ兵、曹劌之爲レ人也、堅強以忌、不レ可二以レ約取一也、桓公不レ聽、果與レ之遇、莊公自懷レ劍、曹劌亦懷レ劍、踐レ壇、莊公抽二劍其懷一曰、魯之境、去レ國五十里、亦無レ不レ死而已、左揕二桓公一、右自承曰、均之死也、戮二死於君前一、管仲走レ君、曹劌抽レ劍、當二兩階之閒一曰、二君將レ改レ圖、無レ有二進者一、管仲曰、君與レ地以レ汶爲レ竟、桓公許諾、以レ汶爲レ竟而歸、桓公歸而修二於政一、不レ修二於兵革一、自圉辟レ人、以レ過弭レ師。〔史記、刺客傳〕曹沫者、魯人也、以二勇力一事二魯莊公一、莊公好レ力、曹沫爲二魯將一、與レ齊戰、三敗北、魯莊公懼、乃獻二遂邑之地一以和、猶復以爲レ將、齊桓公許下與レ魯會二于柯一而盟上、桓公與二莊公一既盟二於壇上一、曹沫執二匕首一劫二齊桓公一、桓公左右莫二敢動一、而問曰、子將二何欲一、曹沫曰、齊強魯弱、而大國侵レ魯亦以甚矣、今魯城壞、卽壓二齊境一、君其圖レ之、桓公乃許盡歸二魯之侵地一、既已言、曹沫投二其匕首一、下レ壇北面就二羣臣之位一、顏色不レ變、辭令如レ故、桓公怒欲レ倍二其約一、管仲曰、不可、夫貪二小利一以自快、棄二信於諸侯一、失二天下之援一、不レ如レ與レ之、於レ是桓公乃遂割二魯侵地一、曹沫三戰所レ亡地、盡復予レ魯。〔漢書、蘇武傳〕使レ得下奮二大辱之積志一、庶中幾乎曹柯之盟上。

【曹月川集】329（サウゲツセンシフ） 書名。一卷。明、曹端撰。張伯行が掇拾して成したもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【曹祠部集】330（サウシブシフ） 書名。二卷。唐、曹鄴撰。附曹唐詩一卷。曹鄴・曹唐は共に粵西の人。〔四庫提要、集、別集類〕。

【曹叔振鐸】331（サウノシユクシンタク） 周の文王の第六子。武王、殷に克ち、叔振鐸を曹に封ず。〔史記、三十五〕。

【曹蜍李志】332（サウショリシ） 小人物をいふ。蜍は曹茂の小字、彭城の人。李志の字は彥道、襄陽の人。胤の孫で散騎常侍・陽平太守に歷位した。共に取るに足らぬ人であつたから、轉じて小人物の喩に用ひる。〔世說新語、品藻〕庾道季云、廉頗藺相如雖二千載上死人一、懍懍恆如レ有二生氣一、曹蜍李志雖二見在一、厭厭如二九泉下人一。〔黃庭堅、書二右軍帖後一〕曹蜍李志輩書字、政與二右軍父子一爭レ衡、然不レ足レ傳也、所謂敗壁片紙、皆傳二數百歲一、特存二乎其人一耳。

【曹世叔妻】333（サウセイシユクノツマ） 後漢の人。班固の妹班昭をいふ。曹大家(280)・班昭(**7－20976··59**)を見よ。

【曹福登仙】334（サウフクトウセン） 西皮劇の一種。南天門の別名。

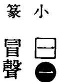
【曹文叔妻】335（サウブンシユクノツマ） 三國魏、譙郡の人。姓は夏侯氏。名は令女。文叔早く死し、令女、年少くして子無きを以て、髮を斷ち耳を割きて貞心の信とす。曹氏の誅せらるるに及び、其の叔父、強ひて嫁せしめんとするや、令女、刀を以て鼻を斷ち、被を蒙りて臥す。司馬懿聞きてこれを嘉し、子を養ひて曹氏の後と爲すことを許す。〔新續列女傳、上〕。

【曹老公觀】336（サウラウコウクワン） 崇元觀の俗稱。北京の西直門に在る。〔北京指南、名勝、廟宇、觀〕崇元觀、明建、在二西直門大街一、明太監曹化淳建、俗名二曹老公觀一。

【曹文貞詩集】337（サウブンテイシシフ） 書名。十卷。後錄一卷。元、曹伯啓撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【曼】

14298



小篆

［一］バン マン 〔集韻〕無販切 ㄨㄢˋ wan4 ㄇㄢˋ man4 願

［二］バン マン 〔集韻〕謨官切 寒

［三］バン マン 〔集韻〕莫半切 翰

［四］バン マン 〔集韻〕母件切 旱

［一］❶ひく。〔說文〕曼、引也、从レ又冒聲。〔列子、湯問〕韓娥因曼レ聲

哀哭。〔釋文〕曼、引。❷ながい。〔一切經音義、六〕曼、長也。〔詩、魯頌、閟宮〕孔曼且碩。〔傳〕曼、長也。〔箋〕曼、脩也。❸ひろい。〔詩、魯頌、閟宮、箋〕曼、廣也。❹よい。うるはしい。〔漢書、司馬遷傳〕曼辭以自解。〔注〕曼、美也。〔淮南子、覽冥訓〕曼聲吞㆑炭。〔注〕曼聲、善聲也。❺つやつやしい。〔楚辭、大招〕蛾眉曼只。〔注〕曼、澤也。〔漢書、司馬相如傳上〕鄭女曼姬。〔注〕文穎曰、曼者、言㆓其色理曼澤㆒。❻きめがこまかい。〔楚辭、天問〕平脅曼膚。〔注〕曼、輕細也。〔淮南子、脩務訓〕曼頰皓齒。〔注〕曼頰、細理也。❼かるい。〔枚乘、七發〕衣裳則雜遝曼煖。〔注〕善曰、曼、輕細也。❽つく。〔莊子、馬蹄〕闉扼鷙曼。〔釋文〕李云、曼、突也。❾ない。〔說文通訓定聲〕曼、發聲之詞、與㆑用㆓蔑・末・沒・靡・莫等字㆒同。〔小爾雅、廣詁〕曼、無也。〔廣雅、釋言〕曼、無也。〔法言、重黎〕神怪茫茫、聖人曼㆑云。〔注〕曼、無也。〔法言、五百〕行有㆑之也、病曼㆑之也。〔注〕曼、無也。❿文采のない繒。縵(8—27829)に通ず。〔說文通訓定聲〕曼、叚借爲㆑縵。〔莊子、說劍〕曼胡之纓。〔釋文〕謂㆔麤纓無㆓文理㆒也。⓫つつむ。幔(4—9050)に通ず。〔說文通訓定聲〕曼、叚借爲㆑幔、莊子馬蹄、闉扼鷙曼、李注、突也、非。⓬萬舞。萬(9—31339)に通ず。〔說文通訓定聲〕曼、叚借爲㆑萬、荀子正論、曼而饋。⓭姓。〔萬姓統譜〕曼、見㆓姓苑㆒。㊁ながい。漫(7—18166)に通ず。〔楚辭、離騷〕路曼曼。〔注〕曼、或作㆑漫。㊂のびる。ひろがる。しく。きはまりない。〔集韻〕曼、曼衍無㆑極也。㊃❶分別のないさま。曼漶(10)を見よ。❷えびす。蠻(10—33914)に通ず。〔公羊、昭、十六〕楚子誘㆓戎曼子㆒殺㆑之。〔釋文〕曼、音蠻、二傳作㆑蠻。

【曼游】1（マンイウ） 三國、魏の韓觀(12—43159‥79)の字。

【曼延】2（マンエン） ❶つらなりつづいてたえないさま。漫延。〔王延壽、魯靈光殿賦〕長塗升降、軒檻曼延。〔注〕濟曰、曼延、言㆓長而不㆑絕。❷獸の名。〔後漢書、安帝紀、注〕曼延者、獸名也、張衡西京賦所㆑云、巨獸百尋、是爲㆓曼延㆒。❸古の演戲の名。漫衍。〔後漢書、安帝紀〕乙酉罷㆓魚龍曼延百戲㆒。〔張衡、西京賦〕巨獸百尋、是爲㆓曼延㆒。〔注〕綜曰、作㆓大獸長八十丈㆒、所謂蛇龍曼延也。

【曼衍】3（マンエン） ❶はてがないこと。無限。無極。又、つらなりつづく。又、變化する。漫衍。〔莊子、寓言〕因以曼衍、所㆓以窮㆑年。〔漢書、鼂錯傳〕土山丘陵、曼延相屬。〔注〕師古曰、曼衍、猶㆓聯延㆒也、屬續也。〔淮南子、俶眞訓〕是故百姓曼㆓衍於淫荒之陂㆒、而失㆓其大宗之本㆒。❷分ち布く。〔揚雄、甘泉賦〕駢交錯而曼衍兮、㟼嶵隗乎其相嬰。〔注〕良曰、曼衍、分布貌。❸古の演戲の名。また漫衍に作る。〔漢書、西域傳贊〕作㆓巴俞都盧海中碭極漫衍魚龍角抵之戲㆒。

【曼翁】4（マンヲウ） 清、余懷(1—515‥15)の號。

【曼基】5（マンキ） 三國魏、溫恢(7—17968‥51)の字。

【曼季】6（マンキ） 晉、鄭豐(11—39647‥257)の字。

【曼姬】7（マンキ） うつくしい女。美姬。〔漢書、司馬相如傳上〕鄭女曼姬、被㆓阿緆㆒揄㆓紵縞㆒。〔注〕文穎曰、曼者、言㆓其色理曼澤㆒也、如淳曰、曼姬、楚武王夫人鄧曼也。

【曼丘】8（マンキウ） 複姓。〔漢書、高帝紀下〕信亡㆓走匈奴㆒、與㆓其將曼丘臣王黃㆒、共立㆓故趙後趙利㆒爲㆑王。〔注〕師古曰、姓、曼丘、名、臣也、曼丘・母丘本一姓也、語有㆓緩急㆒耳。〔通志、氏族略、以㆑地爲㆑氏〕曼丘氏、齊士曼丘不澤、漢韓信將曼丘臣。

【曼丘臣】9（マンキウシン） 漢の人。韓王信の將。信、逃れて匈奴に走るや、臣等共に故の趙王の後の趙利を立てて王とす。〔前漢書、三十三〕。

【曼漶】10（マンクワン） 分別のないさま。くらいさま。はつきりしないさま。碑版書籍版木等の敝壞して辨別出來ないのをいふ。漫漶。〔漢書、揚雄傳下〕苟非㆓其事㆒、文不㆓虛生㆒、爲㆓其泰曼漶而不㆑可㆑知、故有㆓首衡錯測攡瑩數文掜圖告十一篇㆒。〔注〕師古曰、曼漶、不㆓分別㆒貌、猶㆑言㆓濛鴻㆒也。

【曼君】11（マンクン） 字號。❶漢、申章昌(7—21726‥175)の字。❷明、沈靜專(6—17189‥571)の字。

【曼卿】12（マンケイ） 字號。❶宋、石延年(8—24024‥890)の字。❷宋、王夢松(7—20823‥2109)の字。❸金、高德裔(12—45313‥1293)の字。❹金、郭長倩(11—39474‥379)の字。❺金、薛繼先(9—32123‥168)の字。❻清、殷樹柏(6—16627‥163)の字。

【曼頰】13（マンケフ） きめのこまかなほほ。〔淮南子、脩務訓〕曼頰皓齒、形夸骨佳、不㆑待㆓脂粉芳澤㆒、而性可㆑說者、西施・陽文也。

【曼胡】14（マンコ） ❶戟の刃の無いもの。又、鏝胡に作る。〔周禮、考工記、冶氏、倨句外博、疏〕按、莊公四年左氏傳、楚武王荆尸授㆓師孑㆒焉以伐㆑隨、注云、孑、句孑、凡戟而無㆑刃、秦晉之閒謂㆓之孑㆒、或謂㆓之鏔㆒、吳揚之閒謂㆓之伐㆒、東齊秦晉之閒、其大者謂㆓之曼胡㆒。❷粗くてあやのないこと。縵胡。漫胡。

【曼胡纓】15（マンコノエイ） 粗くて文采の無い冠の紐。又、額に飾る抹額。〔韻會〕胡、麤纓無㆓文理㆒曰㆓曼胡之纓㆒。〔莊子、說劍〕曼胡之纓、短後之衣。〔釋文〕司馬云、曼胡之纓、謂㆔麤纓無㆓文理㆒也。〔疏〕曼胡之纓、謂㆓屯項抹額㆒也。〔張協、雜詩〕舍㆑我衡門衣、更被曼胡纓。

【曼根】16（マンコン） 細根をいふ。〔韓非子、解老〕樹木有㆓曼根㆒、有㆓直根㆒。

【曼才】17（マンサイ） 三國吳、嚴畯(2—4589‥140)の字。

【曼山】18（マンザン） 後漢、劉梁(2—2224‥649)の字。

【曼詞】19（マンシ） 美しい詞。曼辭に同じ。

【曼辭】20（マンジ） 美しく飾った辭。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕今雖㆑欲㆘自彫㆓琢曼辭㆒以自飾㆖、無㆑益㆓於俗㆒、不㆑信、適足㆑取㆑辱耳。〔注〕善曰、如淳曰、曼、美也。

【曼綽】21（マンシヤク） 戲曲の高い調子。京師では京腔といふ。〔秦雲、擷英小譜〕。

【曼若】22（マンジヤク） 清、許縵(10—35298‥211)の字。

【曼殊】23（マンジユ） ❶〔佛〕梵語 Manju の音譯。正しくは曼殊室利(25′)。譯して妙吉祥・妙德といふ。維摩經の所謂、文殊師利。〔翻譯名義集〕文殊師利、此云㆓妙德㆒、云云、西域記云、曼殊室利、唐言㆓妙吉祥㆒。❷滿洲。曼殊の轉音といふ。〔皇朝通志、氏族略、愛新覺羅氏〕臣等謹按、愛新覺羅氏、國語以㆑金爲㆓愛新㆒、覺羅、乃姓也、滿洲係㆓滿珠之轉音㆒、亦稱㆓曼珠㆒、我朝龍㆓興東土㆒、每歲西藏獻㆓丹書㆒、稱㆓曼珠師利大皇帝㆒、曼珠、華言㆓妙吉祥㆒也、當時滿珠之鴻號、萬里同㆑符矣。

【曼殊沙】24（マンジユシヤ） 〔佛〕花名。梵語 Manjusaka の音譯。赤團花。柔軟花。藍花と譯す。曼殊沙華。しびとばな。幽靈花。彼岸花。石蒜。〔法華玄贊、二〕曼殊沙者、此云㆓柔軟華㆒、體柔輭、亦令㆔見者離㆓剛礦㆓業㆒故。〔翻譯名義集、八、百華〕曼殊沙、此云㆓柔輭㆒、又云㆓赤華㆒。

【曼殊沙華】25（マンジユシヤゲ） 梵語 Manjusaka の音譯。天上の華の意。彼岸花の異名。〔法華經、序品〕是時天雨㆓曼陀羅華、摩訶曼陀羅華、曼殊沙華、摩訶曼殊沙華㆒而散㆓佛上㆒。

【曼殊室利】25′（マンジユシリ） 〔佛〕菩薩の名。もと、文殊師利といふ。文殊師利(5—13450‥509)を見よ。〔西域記〕曼殊室利、唐言㆓妙吉祥㆒。

【曼壽】26（マンジユ） 長壽をいふ。〔漢書、禮樂志〕德施大、世曼壽。〔注〕師古曰、曼、延也。

【曼叔】27（マンシユク） 字號。❶宋、孫永(3—6987‥13)の字。❷清、呂儁孫(2—3386‥215)の字。

【曼生】28（マンセイ） 字號。❶明、馬嘉松(12—44572‥712)の字。❷清、陳鴻壽(11—41698‥866)の號。

【曼成】29（マンセイ） 三國魏、李典(6—14459‥619)の字。

【曼聲】30（マンセイ） 長い聲。長く引き伸ばした聲。〔列子、湯問〕昔韓娥東之㆑齊匱㆑糧、過㆓雍門㆒鬻㆑歌假㆑食、既去、而餘音繞㆓梁欐㆒、三日不㆑絕、左右以㆓其人弗㆑去、過㆓逆旅㆒、逆旅人辱㆑之、韓娥因曼聲哀哭、一里老幼、悲愁垂㆑涕相對、三日不㆑食、遽而追㆑之、娥還復爲㆓曼聲長歌㆒、一里老幼、喜躍抃舞、弗㆑能㆓自禁㆒、忘㆓向之悲㆒也、乃厚㆑賂發㆑之、故雍門之人、至㆑今善㆓歌哭㆒、放㆓娥之遺聲㆒。

〔淮南子、氾論訓〕及レ至ニ韓娥秦青薛談之謳、侯同曼聲之歌一、憤ニ於志一、積ニ於內一、盈而發レ音。

【曼嘯】31マンセウ 音調を長くしてうそぶく。〔趙飛燕外傳〕悵然曼嘯、涙數行下。

【曼碩】32マンセキ 元、揭傒斯(5－12389・・50)の字。

【曼仙】33マンセン 清、王倩(7－20823・・695)の字。

【曼倩】34マンセン 字號。㊀漢、于定國(1－252・・134)の字。㊁漢、雋不疑(11－41996・・27)の字。㊂漢、東方朔(6－14499・・547)の字。㊃明、沈叔淳(6－17189・・548)の號。

〔曼倩三冬〕35マンセンサントウ 蒙求の標題。漢の東方朔、字は曼倩が、年十三にして書を學び、冬三箇月の間に、文史の事用ふるに足るに至つた故事。〔漢書、東方朔傳〕年十三學レ書、三冬文史足レ用。〔注〕如淳曰、貧子冬日乃得レ學レ書、言ニ文史之事足一レ可レ用也。

【曼羨】36マンセン 廣く散る。一說に、盛大の意。又、長多の意。漫羨。曼衍。〔司馬相如、封禪文〕沕潏曼羨。〔注〕善曰、曼羨、或曰、廣散也、向曰、曼羨、長多兒。〔漢書、司馬相如傳下、沕潏曼羨、注〕師古曰、沕潏曼羨、盛大之意也。

【曼鬋】37マンセン つややかとして美しい鬢。〔楚辭、招魂〕長髮曼鬋、艷陸離些。〔注〕曼、澤也。〔補注〕言ニ美人長髮工結、鬋鬢滑澤一。

【曼然】38マンゼン 長いさま。曼曼(53)に同じ。

【曼矰】39マンソウ 長いいぐるみ。〔王褒、四子講德論〕但懸ニ曼矰一、蒲苴不レ能ニ以射一。〔注〕銑曰、曼、長也、結ニ繳於矢一、謂ニ之矰一也。

【曼陀】40マンダ 佛曼陀羅の略。〔蘇軾、太平寺觀ニ牡丹一詩〕醉中眼纈自爛斑、天雨ニ曼陀一照ニ玉盤一。

〔曼陀羅〕41マンダラ 佛㊀梵語 mandala の音譯。方圓の土壇を築き、諸尊を安置して祭る意。又、諸尊諸德を聚集具足して一大法門をなす意。普通に曼荼羅といふは、之を表はした圖をいふ。卽ち淨土の實相を寫した圖。曼荼羅。滿荼邏。曼拏羅。〔探玄記、二十〕曼荼羅、云ニ道場一也、圓壇也。〔大日經疏、四〕曼荼羅、是輪圓之義。〔獅子莊嚴王菩薩請問經〕道場之處、當レ作ニ方壇一、名ニ曼荼羅一、廣狹隨レ時。㊁雜色の義。〔本草、曼陀羅花〕釋名、時珍曰、法華經言、佛說法時、天雨ニ曼陀羅花一、又道家北斗有ニ陀羅星使者一、手執ニ此花一、故後人因以名ニ花曼陀羅一、梵言ニ雜色一也。㊂きちがひなすびの異名。〔本草、曼陀羅花〕釋名、風茄兒、山茄子、集解、時珍曰、曼陀羅生ニ北土一、人家亦栽レ之、春生夏長、獨莖直上、高四五尺、生不ニ旁引一、綠莖碧葉、葉如ニ茄葉一、八月開ニ白花一。㊃白蓮花の稱。〔法華經〕佛說法、天雨ニ曼陀羅花一。〔翻譯名義集〕曼陀羅、此云ニ適意一、又云ニ白華一。㊄梁の高僧。扶南國の人。梵書を齎して遠來す。詔して僧伽跋羅と共に寶雲・法界體性・文殊般若經共十一卷を譯せしめたが、中國語に通じてゐなかつたので、譯した經文が意に達しないものが多かつた。〔翻譯名義集〕曼陀羅、此言ニ弱聲一、亦云ニ弘弱一、扶南國人、神解超悟、幽明畢觀、無レ憚ニ夷險一、志存ニ弘化一。

〔曼陀羅華〕42マンダラゲ ㊀佛白蓮華の義。曼陀羅の㊃を見よ。㊁山茄子。風茄兒の別名。我邦で氣狂茄、又、朝鮮朝顏といふ。毒草の一種。秋季に花を開き、朝夕につぼむ。果實は成熟の後裂けて四塊となる。花葉種共に猛毒あつて食へば發狂す。曼陀羅の㊂を見よ。

〔曼陀羅華閣〕43マンダラゲカク 清、杜文瀾(6－14477・・387)の室名。

【曼澤】44マンタク きめが細かくつやのあること。〔楚辭、大招〕曼澤怡面、血氣盛只。〔注〕肌膚曼緻、面貌怡懌、血氣充盛、身體強壯也。

【曼煖】45マンダン かろくあたたか。曼は輕細。輕煖。〔枚乘、七發〕衣裳則雜遝曼煖。〔注〕善曰、曼、輕細也。

【曼睇】46バンテイ うつくしいながしめ。〔劉潛、和ニ詠舞一詩〕低釵依ニ促管一、曼睇入ニ繁絃一。

【曼都】47マント 項曼都をいふ。河東の蒲坂の人。仙人となる。〔論衡、道虛〕。

【曼頭】48マントウ 山名。青海省西寧縣の西北。北魏の長孫觀、及び唐の薛孫兒が吐谷渾を敗つた處。〔讀史方輿紀要、陝西、西寧鎭〕曼頭山、在ニ衞西北一、宋泰始六年、北魏主宏、遣ニ其將長孫觀一、西擊ニ吐谷渾王拾寅一、敗ニ之於曼頭山一、唐貞觀八年、李靖等伐ニ吐谷渾一、自ニ庫山一分ニ兩道一、靖趨ニ北道一、其部將薛孤兒、敗ニ吐谷渾於曼頭山一、志云、隋置ニ河源郡一、有ニ曼頭城一、城蓋因レ山得レ名也。

【曼帛】49マンパク 織目の細かなきぬ。〔淮南子、氾論訓〕非三能其綈綿曼帛、溫ニ煖於身一也。〔注〕曼帛、細帛也。

【曼柏】50マンパク 縣名。漢、置く。故城は今の內蒙古烏喇特旗黃河の北。〔漢書、地理志下〕五原郡、縣十六、曼柏。

【曼靡】51マンビ なまめいてうるはしい。曼麗。〔梁昭明太子、七契〕與ニ金石一而鏗鏘、共ニ絲竹一而曼靡。

【曼膚】52マンプ つやがあつてきめのこまかなはだ。〔楚辭、天問〕平脅曼膚、何以肥レ之。

【曼曼】53マンマン 長いさま。遠いさま。漫漫。〔楚辭、離騷〕路曼曼其脩遠兮、吾將ニ上下而求索一。〔注〕釋文、曼、作レ漫、五臣云、漫漫、遠貌。〔補注〕曼・漫、並莫半切、集韻、曼曼、長也。〔甯戚、飯牛歌〕長夜曼曼何時旦。〔司馬相如、長門賦〕夜曼曼其若レ歲、懷鬱鬱其不レ可ニ再更一。〔注〕五臣作レ漫。〔新方言、釋詞〕淮南・吳・越、謂ニ甚長一曰ニ曼曼長一、引ニ伸之一、自ニ夏口一而下、謂レ甚曰レ曼、音如レ蠻。

【曼目】54マンモク 遠くみわたすこと。〔楚辭、九章、哀郢〕曼ニ余目一以流觀兮。〔注〕曼、猶ニ曼曼一、遠貌。

【曼容】55マンヨウ 漢、邴丹(11－39341・・8)の字。

〔曼容自免〕56マンヨウジメン 蒙求の標題。漢の邴丹、字は曼容が、志を養ひて自ら修め、俸祿が六百石以上になると自ら免じ去つた故事。〔漢書、兩龔傳〕勝漢兒子曼容、亦養レ志自修、爲レ官不三肯過ニ六百石一、輒自免去。

【曼理】57マンリ きめのこまやかなこと。曼理皓齒を見よ。

〔曼理皓齒〕58マンリカウシ きめの美しい肌と白い齒。美人の形容。〔韓非子、揚權〕香美脆味、厚酒肥肉、甘レ口而疾レ形、曼理皓齒、說レ情而損レ精。

【曼麗】59マンレイ きめが細かく柔かでうるはしいこと。柔媚で艷麗。〔後漢書、杜篤傳〕曼麗之容、不レ悅ニ於目一、鄭衞之聲、不レ遇ニ于耳一。〔注〕曼、美也。

【曼睩】60マンロク なまめかしく視る。又、美しい眼。曼はつや、一說に、目尻の細く長いさま。睩はながしめ。〔楚辭、招魂〕蛾眉曼睩、目騰レ光些。〔注〕曼、澤也、睩、視也。〔朱注〕曼、長而輕細之皃、睩、目眛盻也。〔張說、鄴都引〕鄴傍高塚多貴臣、蛾眉曼睩共灰塵。

【曼遊藤】61マンイウトウ 藤の一種。葉は細長くて、柳に似、花は紫。〔本草、附錄、諸藤〕曼遊藤、藏器曰、生ニ無爲天門山谷一、狀如ニ寄生一、着ニ大樹一、葉如レ柳、春花色紫、蜀人謂ニ之沉藤藤一、味甘溫無レ毒、久服長レ生延レ年。

【曼達拏】62マンダナ 佛曼陀羅(41)に同じ。

【曼荼羅】63マンダラ 佛曼陀羅(41)に同じ。

〔曼荼羅居〕64マンダラキヨ 曾谷之唯の號。曾谷學川(5－14299・・250)を見よ。

【曼大雷】65マンダレー 地名。もと、ビルマの首都。イラワヂ河に沿ふ。Mandalay の音譯。

【曼怛羅】66マントラ 佛梵語 mantra の音譯。又、曼特羅・滿怛羅・漫怛羅とも書く。眞言の梵名。〔大日經疏〕眞言者、梵曰ニ漫怛羅一。

【曼獨林】67マンドリン 樂器の名。mandoline の音譯。

【曼連樓】68マンレンロウ 草の名。まんれんろう。〔和漢三才圖會、芳草類〕曼連樓、俗稱、正字未レ詳、高尺有餘、枝椏多葉纖小、似ニ青蘭葉一、略似ニ椴木葉一而有レ香、三四月開ニ小白花一、最繁多。

【曼徹斯特】69マンチェスター 地名。英國の都邑の名。Manchester の音譯。

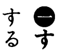
【曼持老人】70マンヂラウジン 清、余懷(1－515・・15)の號。

【曼方野老】71マンハウヤラウ 清、譚宗(10－35978・・24)の號。

【曼荼萬秋樂】72マンダマンシウラク 萬秋樂の異名。〔教訓抄、二〕萬秋樂異名、云云、曼荼萬秋樂。

八畫

【曾】14299


小篆

ソウ　〔集韻〕咨騰切　蒸　ㄘㄥˊ ts'êng^2　ㄗㄥ tsêng^1

㊀**すなはち**。語調をゆるやかにする詞。乃(1－113)・則(2－1194)に通ず。〔說文〕曾、詞之舒也、从レ八从レ曰、㘔聲。〔段注〕按、曾之言、乃也、詩、曾是

不㆑意、曾是在㆑位、曾是在㆑服、曾是莫㆑聽、論語、曾是以爲㆑孝乎、曾謂㆓泰山不㆑如㆓林放㆒乎、孟子、爾何曾比㆓予於管仲㆒、皆訓爲㆑乃、則合㆓語氣㆒、趙注㆓孟子㆒曰、何曾、猶㆓何乃㆒也、是也。〔論語、先進〕曾由與㆑求之問。〔皇疏〕曾、猶㆑則也。〔孟子、公孫丑上〕爾何曾比㆓予於管仲㆒。〔音義〕曾、則也、乃也。〔管子、大匡〕其於㆑我也、曾若㆑是乎。〔注〕曾、則也。❷**かつて**。まへに。嘗(**2－4205**)に通ず。〔說文通訓定聲〕曾、叚借爲㆑嘗。〔玉篇〕曾、經也。〔論語、爲政〕曾是以爲㆑孝乎。〔皇疏〕曾、猶㆑嘗也。❸**なんぞ**。〔方言、十〕曾、何也、湘潭之原、荊之南鄙、謂㆑何爲㆑曾。〔新方言、釋詞〕今通曰㆑曾、俗作㆑怎、或曰㆑訾、音轉如㆑債、四川成都以東、謂㆑何曰㆑訾、揚越亦如㆑之。❹**これ**。〔廣雅、釋言〕曾、是也。❺**かさなる**。**かさねる**。層(**4－7798**)に通ず。〔說文通訓定聲〕曾、叚借爲㆑層。〔楚辭、離騷〕曾歔欷余鬱邑兮。〔注〕曾、累也。〔楚辭、宋玉、招魂〕曾臺累榭。〔注〕曾、重也。〔大戴禮、曾子疾病〕鷹隼以㆑山爲㆑卑、而曾㆓巢其上㆒。❻**ふかい**。〔陸機、招隱詩〕頹響赴㆓曾曲㆒。〔注〕濟曰、曾、猶㆑深也。❼**あがる**。〔楚辭、九歌、東君〕翾飛兮翠曾。〔注〕曾、擧也。❽**高い**。橧(**6－15586**)・增(**8－25816**)に通ず。〔說文通訓定聲〕曾、叚借爲㆑橧、即增。〔淮南子、覽冥訓〕還至㆓其曾㆒、逝㆓萬仞之上㆒。〔注〕曾、高也。❾**すゑ**。〔左氏、襄、十八〕曾臣彪。〔注〕曾臣、猶㆓末位㆒也。❿**ます**。增(**3－5454**)に通ず。〔說文通訓定聲〕曾、叚借爲㆑增。〔孟子、告子下〕曾㆓益其所㆑不㆑能。〔音義〕曾、當㆓讀作㆑增。⓫**姓**。〔通志、氏族略、以㆑國爲㆑氏〕曾氏、亦作㆑鄫、亦作㆑繒、以姓、子爵、今沂州承縣東八十里故鄫城、是也、夏少康封㆓其少子曲烈子鄫㆒、襄六年莒滅㆑之、鄫太子巫仕㆑魯、去㆑邑爲㆓曾氏㆒、見㆓世本㆒、望出㆓魯國㆒。

名乘 ナリ。マス。

解字 會意形聲。もと八と曰と囱との合字。八は氣の發散をあらはし、曰は言葉をいひ、囱は囪、即ち窗の字にして氣の通ずる所、且つ音符。故に本義は、詞が舒びて發する義。それより乃の義に用ひる。〔說文通訓定聲〕曾、詞之舒也、从㆑八从㆑曰、囱聲、與㆑乃略同、按、窗・曾一聲之轉、此以㆓雙聲㆒得㆑聲。▽ （金文）會意。八と田と曰との合字。田はこしき、下の曰は蒸氣を立てる器に象り、それを重ねて氣が發散する、こしきの意を表はす。

【曾阿】1（ソウア） 重なり合つてる山。〔謝混、游㆓西池㆒詩〕惠風蕩㆓繁囿㆒、白雪屯㆓曾阿㆒。〔注〕向曰、曾、重也、阿、大陵也。

【曾櫻】2（ソウアウ） 明、峽江の人。字は仲含。萬曆の進士。官は南京工部侍郎。京師陷り、唐王、號を福州に稱へるや、吏部尙書・文淵閣大學士とす。清兵、福州に至るに及んで、自縊して死す。〔明史、二百七十六〕・〔萬斯同明史、三百六十七〕・〔明史稿、二百五十七〕。

【曾唯】3（ソウヰ） ❶宋の人。易占九世の孫。字は道子。太學に入り文譽あり。寶祐中、丁大全、政を擅にし、右丞相董槐を逐ふや、唯、憤りて此れ亂邦也といひ、同舍生陳宜中・黃鏞・林則祖・劉黻・陳宗等六人と上書して大全の奸を極言す。大全怒り、旨を矯めて籍を削り、崖州に編管す。大全失脚するに及んで、皆免れ歸る。時人、六君子といふ。〔宋史、四百十八〕・〔齊東野語〕。❷明、解一貫(**10－35067**··282)の字。

【曾遊】4（ソウイウ） 以前に遊んだこと。昔時の遊覽。〔高適、下第出㆑京詩〕一生爲㆓遠客㆒、幾處未㆓曾遊㆒。〔澤維顯、冬夜感懷詩〕曾遊回㆑首感㆓滄桑㆒。

【曾煜】5（ソウイク） 清、太倉の人。字は亮工。號は弢菴。貢生。字學を考究す。著に弢菴集がある。

【曾燠】6（ソウイク） 清、南城の人。字は庶蕃。號は賓谷・西溪漁隱。乾隆の進士。庶吉士に選ばれる。官は兩淮鹽運使・貴州巡撫。清代、駢文の第一に推される。書室を賞雨茅屋・藝學軒といふ。著に賞雨茅屋集・江西詩徵・駢體正宗がある。〔清史列傳、三十三〕・〔國朝耆獻類徵、一百九十二〕・〔續碑傳集、二十一〕・〔國朝先正事略、四十二〕。

【曾鎰】7（ソウイツ） 清の人。鯨の孫。字は受伯。畫に巧。〔國朝畫識、十三〕。

【曾陰】8（ソウイン） 重なつたかげ。〔江淹、從㆓冠軍建平王㆒登㆓廬山香鑪峯㆒詩〕日落㆓長沙渚㆒、曾陰萬里生。〔注〕銑曰、曾、重也、言㆓山高而陰遠㆒。

【曾紆】9（ソウウ） 宋の人。布の子。字は公袞。晩號は空青老人。官は直寶文閣。著に空青集がある。

【曾雲】10（ソウウン） 高い雲。かさなつた雲。層雲。〔陸機、文賦〕若㆔翰鳥纓㆑繳、而墜㆓曾雲之峻㆒。〔注〕翰曰、曾、高也。

【曾英】11（ソウエイ） 明、莆田の人。字は彥侯。年二十二にして寇賊を平げて功あり、又、屢〻張獻忠を破る。官は四川左都督。〔明史、二百五十三〕・〔小腆紀年、五〕。

【曾夭】12（ソウエウ） 春秋、魯の人。季氏の家臣。〔左氏、昭公、元年〕。

【曾益】13（ソウエキ） ❶ます。ふやす。又、ふえる。增加。增益。〔孟子、告子下〕天將㆑降㆓大任於是人㆒也、必先苦㆓其心志㆒、勞㆓其筋骨㆒、餓㆓其體膚㆒、空㆓乏其身㆒、行拂㆓亂其所㆑爲、所㆔以動㆑心忍㆑性、曾㆓益其所㆑不㆑能。〔孫奭音義〕曾、當㆓讀作㆑增。❷（ソウエキ）明、浙江山陰の人。字は子謙。著に左略・溫飛卿集箋注がある。〔明史、二百七十八〕。❸清、浙江山陰の人。字は鶴岡。號は謙受。梅を畫くを以て稱せられる。〔國朝耆獻類徵、四百二十三〕・〔碑傳集、一百十七〕・〔清畫家詩史、甲下〕。

【曾曄】14（ソウエフ） 宋の人。鞏の兄。字は叔茂。文章を善くす。

【曾畹】15（ソウエン） 清の人。應遴の長子。字は庭聞。原名は傳燈。詞章に巧。吳門に游び、徐汧に師事す。應遴が兵を起すや、畹、隨つて軍中に侍し、兵潰え、幷涼に走り、寧夏に著籍す。順治の鄕薦に擧げられ、京に至り、甚だ公卿に重んぜらる。後、母を省して江西に歸る。書室を金石堂といふ。著に金石堂集がある。〔國朝詩人徵略初編、四〕。

【曾翁】16（ソウヲウ） 曾祖父をいふ。〔杜甫、寄㆓狄明府博濟㆒詩〕汝門請從㆓曾翁說㆒。〔注〕曾祖也。

【曾恩】17（ソウオン） 宋の人。紘の子。字は顯道。號は懷峴居士。官は祈陽知縣。詩に巧。楊萬里に稱揚される。著に懷峴居士集がある。

【曾開】18（ソウカイ） 宋の人。其の先は贛州の人。徙りて河南府に住す。字は天游。崇寧の進士。官は建炎中、禮部侍郎。秦檜に忤ひ、罷められて徽州の知となり、病を以て免ぜらる。游酢に從學し、劉安世と交る。〔宋史、三百八十二〕・〔宋元學案、二十六〕。

【曾崖】19（ソウガイ） 高い崖。又、長い崖。層崖。〔嵇康、琴賦〕嚶若㆔離鵾鳴㆓清池㆒、翼若㆔游鴻翔㆓曾崖㆒。〔注〕五臣作㆑增、翰曰、增、長、崖、岸也。

【曾坑】20（ソウカウ） 茶の名。〔蘇軾、病中夜讀詩〕曾坑一掬春、紫餅供㆓千家㆒。〔注〕曾坑、茶名。〔避暑錄話〕北苑茶正所㆑產爲㆓曾坑㆒、謂㆓之正焙㆒、非㆓曾坑㆒爲㆓沙溪㆒、謂㆓之外焙㆒、二地相去不㆑遠、而茶種懸絕、沙溪色白、過㆓于曾坑㆒、但味短而微澀、識㆑茶者一啜、如㆑別㆓涇渭㆒也。

【曾閣】21（ソウカク） 二階以上のたかどの。層閣(**4－7798**··7)に同じ。

【曾岳】22（ソウガク） 清、閩縣の人。順天に居る。字は文伯。畫に巧。

【曾鑑】23（ソウカン） 明、桂陽の人。字は克明。天順の進士。官は弘治中、工部尙書。韓文等と宦官を誅せんことを請ひて勝たず。〔明史、一百八十五〕・〔萬斯同明史、二百四十一〕・〔明史稿、一百六十七〕・〔國朝獻徵錄、五十〕。

【曾暉】24（ソウキ） 日光をいふ。〔顏延之、始安郡還㆑都與㆓張湘州㆒登㆓巴陵城樓㆒作詩〕清雰霽㆓岳陽㆒、曾暉薄㆓瀾澳㆒。〔注〕向曰、曾暉、日光也。

【曾幾】25（ソウキ） 宋の人。開の弟。字は吉甫。後、茶山に僑居す。號は茶山居士。諡は文清。官は紹興中、浙江提刑。秦檜に怒られて罷め、檜死して台州の知に起用され、官は權禮部侍郎に終る。嘗て劉安世に從つて經を談じ、又、胡安國に從學す。詩に尤も巧。著に經說・茶山集がある。〔宋史、三百八十二〕・〔宋元學案、三十四〕。

【曾翬】26 ソウキ　明、泰和の人。字は時升。宣德の進士。官は刑部左侍郎・浙江巡撫。〔明史、一百五十九〕・〔萬斯同明史、二百三十〕・〔明史稿、一百四十九〕。

【曾機】27 ソウキ　宋、吉水の人。字は伯虞。號は靜菴。謝諤の高弟。著に靜菴集がある。〔宋元學案、二十八〕。

【曾伋】28 ソウキフ　宋の人。字は彦思。官は紹興の末、袁州の知。袁州の和糴を免ぜられる。

【曾穹】29 ソウキユウ　天をいふ。層穹。〔謝惠連、七月七日夜詠二牛女一詩〕蹀レ足循二廣除一、瞬レ目矖二曾穹一。〔注〕向曰、曾穹、天也。

【曾宮】30 ソウキユウ　數階重なつた高い宮殿。層宮に同じ。〔史記、司馬相如傳〕登二陂陁之長阪一兮、坌入二曾宮之嵯峨一。〔左思、魏都賦〕築二曾宮一以迴匝。

【曾鞏】31 ソウキヨウ　宋、建昌南豐の人。易占の子。字は子固。謚は文定。少くして警敏・筆を援れば直ちに文を成す。歐陽脩一見してこれを奇とす。嘉祐の進士。齊・襄・洪・福・明・亳・滄諸州の知を歷、所在奇績多く、後、中書舍人に拜せられる。元豐六年卒す。年六十五。世に南豐先生といふ。唐宋八家の一人。著に元豐類稿がある。〔宋史、三百十九〕・〔宋元學案、四〕。

【曾曲】32 ソウキヨク　奧深い曲隅。曲は、隈・隅。〔陸機、招隱詩〕哀音附二靈波一、頹響赴二曾曲一。〔注〕濟曰、曾、猶レ深也。

【曾極】33 ソウキヨク　宋の人。滂の子。字は景建。朱熹、其の書及び詩を得て大いに異とす。又、其の文は蘇氏父子に似るといふ。詩案を以て道州に謫せられる。其の著、春陵小集は已に傳はらず、存する所の金陵百詠は、極めて悲壯である。〔四庫提要、一百六十〕。

【曾鈞】34 ソウキン　明、進賢の人。字は廷和。謚は恭肅。嘉靖の進士。官は南京禮科給事中。後、南京刑部侍郎に至る。〔明史、二百三〕・〔萬斯同明史、八十四〕・〔明史稿、一百八十七〕・〔國朝獻徵錄、四十九〕。

【曾華】35 ソウクワ　八重咲の花。〔楚辭、九辯〕何曾華之無レ實兮、從二風雨一而飛颺。

【曾鉌】36 ソウクワ　清、滿洲の人。字は懷清。官は光緒中、湖北巡撫。時に戊戌の政變の後に値ひ、抗疏して變法の利をいひ落職す。拳匪の亂に窮死す。〔清史稿、四百七十〕・〔續碑傳集、三十二〕。

【曾會】37 ソウクワイ　宋、晉江の人。字は宗元。端拱の進士。官は集賢殿修撰・明州の知。

【曾紘】38 ソウクワウ　宋、南豐の人。南豐志には曾綋に作る。字は伯容。宣和の特科進士。官は林郎。致仕して後、江湖に放浪し、詩を賦して樂とす。著に臨漢居士集がある。

【曾閎】39 ソウクワウ　重なり合つて大きい。〔楚辭、劉向、九歎、遠逝〕山峻高以無レ垠兮、遂曾閎而迫レ身。〔注〕曾、重也、閎、大也。

【曾綋】40 ソウクワウ　曾紘(38)を見よ。

【曾貫】41 ソウクワン　元、泰和の人。字は傳道。官は紹興照磨。龍泉の寇を禦ぎてこれに死す。著に周易變通・四書類辯・學庸標著がある。〔四庫提要、六〕。

【曾爟】42 ソウクワン　明、吳江の人。字は日章。洪武中、翰林院侍讀となり、永樂大典の編輯に與る。交趾に使し、後、張輔等と交趾を討つてこれを平げ、贊畫の功多し。〔本朝分省人物攷、十八〕。

【曾棨】43 ソウケイ　明、永豐の人。字は子啓。號は西墅。謚は襄敏。永樂の殿試第一。官は修撰・少詹事。書法に巧。館閣中の諸大制作、多く其の手に出づ。著に西墅集がある。〔四庫提要、一百七十五〕。

【曾經】44 ソウケイ　かつて。以前に經たこと。〔盧照鄰、長安古意詩〕借問吹レ簫向二紫煙一、曾經學レ舞度二芳年一。〔元稹、離思詩〕曾經滄海難レ爲レ水、除却巫山不二是雲一。

【曾鯨】45 ソウケイ　明、莆田の人。金陵に流寓す。字は波臣。伊太利人、利瑪竇の術を折衷し、寫生畫に巧。後人、傳へて波臣派といふ。〔明畫錄、一〕。

【曾協】46 ソウケフ　宋の人。鞏の孫。字は同季。號は無得居士・雲莊。紹興中、進士に擧げられたが第せず。世賞を以て官を得、累任して臨安通判に至り、乾道中、官は權知永州事に至る。著に雲莊集がある。〔四庫提要、一百五十八〕。

【曾頰】47 ソウケフ　肉が豐かな頰。〔楚辭、大招〕曾頰倚耳、曲眉規只。〔注〕曾、重也。

【曾堅】48 ソウケン　明、金谿の人。字は子白。號は滄海逸吏。少くして危素と名を齊しくす。元末の進士。官は翰林學士。後、禮部侍郎。

【曾繭】49 ソウケン　足底にまめが重なる。重繭。〔淮南子、脩務訓〕申包胥贏レ糧跣走、跋涉谷行、上二峭山一、赴二深谿一、游二川水一、犯二津關一、躐二蒙籠一、蹶二沙石一、蹠達レ膝、曾繭重胝、七日七夜、至二於秦庭一。

【曾元】50 ソウゲン　❶甑の隱語。こしき。〔事物異名錄、器用、甑〕宣室志、獨孤彥客二淮泗閒一、佛寺遇二青短衣人一、自稱曾元後、驗レ之乃甑耳。❷春秋、魯の人。參の子。〔禮、檀弓上〕・〔孟子、離婁上〕・〔荀子、大略・法行〕。

【曾玄】51 ソウゲン　曾孫と玄孫。〔爾雅、釋親〕孫之子爲二曾孫一、曾孫之子爲二玄孫一。〔宋書、樂志四〕皇嗣繁且熾、孫子列二曾玄一。〔韋誕、親蠶頌〕美二休祚於億載一、豈百世之曾玄。

【曾怘】52 ソウコ　宋の人。鞏の孫。字は仲常。謚は忠。太學內舍生に補せらる。官は通判溫州。建炎の初、金人、越を陷れるや、執へられ、屈せずして死す。〔宋史、四百四十八〕。

【曾悟】53 ソウゴ　宋の人。鞏の孫。字は蒙伯。宣和の進士。官は靖康中、亳州士曹。金人、亳州を破るや、執へられ、慢罵して殺さる。〔宋史、四百四十八〕。

【曾梧】54 ソウゴ　明、廣昌の人。字は于易。號は棟峯。正德の進士。官は常州知府。著に棟峯遺稿がある。〔四庫提要、一百七十六〕。

【曾虹】55 ソウコウ　高い虹。又、虹。〔沈約、前緩聲歌〕神行燭二玄漢一、帝旆委二曾虹一。

【曾谷】56 ソカヘ ソタニ　姓氏。〔姓林全書〕。

【曾沙】57 ソウサ　春秋の時、沙麓崩る。晉の史これを占して、後、五百四十五年、其の地に當つて貴女を出すべしといふ。曾は高、沙麓を美めていふ。〔謝朓、齊敬皇后哀策文〕清漢表レ靈、曾沙膺レ慶。〔注〕善曰、漢書元后傳、元城建公曰、昔春秋沙麓崩、晉史占レ之曰、後五百四十五年、宜レ有二聖女興一、其齊田乎、今王翁孺徙正直二其地一、日月當レ之、元城東有二五麓之虛一、卽沙麓地、後八十年、當レ有三貴女興二天下一、良曰、曾、高也。

【曾巢】57′ ソウサウ　巢を重ねる。高い物の上に巢を作ること。〔大戴禮、曾子疾病〕鷹鶽以レ山爲レ卑、而曾二巢其上一。

【曾宰】58 ソウサイ　宋の人。鞏の弟。字は子翊。進士。官は湘潭主簿。文章を善くし、經子に本づく。

【曾慥】59 ソウザウ　宋の人。公亮の裔孫。字は端伯。號は至游居士。初、尙書郎と爲り、寶文閣奉祠に直す。博學にして詩を能くす。銀峯に閑居し、百家類說凡そ六百二十餘種を集む。又、高齋漫錄・樂府雅詞を編す。〔四庫提要、一百二十三〕。

【曾三】60 ソウサン　清、余省(**1－515**・・38)の字。

【曾燦】61 ソウサン　清の人。應遴の次子。字は青藜。又、止山。原名は傳燦。號は止菴・江湖散民。少くして詩名あり。海內名家の詩を選び、過日集と號す。明亡び、祝髮して僧となり、閩浙兩廣の閒に遨遊し、後、歸りて六松草堂を築き、躬耕して母を養ふ。易堂九子の一となる。又、書室を西崦草堂といふ。著に止菴集・西崦堂集がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十五〕・〔國朝先正事略、三十七〕。

【曾山】62 ソウザン　高い山。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕苑二太液一、懷二曾山一。〔注〕良曰、言下我今以二彼池一爲レ苑、包中懷其高山上也。

【曾子】63 ソウシ　❶曾參をいふ。曾參(91)を見よ。❷書名。漢書藝文志に曾子十八篇を載せ、大戴禮に曾子十篇を載す。宋の朱熹はこれを取らず、禮記中の大學篇を曾子の意を門人が記したものと定めて之を表章し、論・孟・庸と合はせて四書集注を撰した。清朝考證家に至つて朱熹に服せず、再び大戴禮記中の曾子十篇を重んずるに至つた。其の他、南宋以後、單に大戴禮又は禮記にもよらずに、曾子の言行の傳記諸書に佚存する者を彙集して其の學を闡明することを試みたものに、宋の汪晫・趙海鵬・劉子澄・章樵・宋鳴梧、明の曾承業・戴良、清の馮雲鵷・王安定等がある。〔漢書、藝文志〕曾子十八篇。〔注〕名參、孔子弟子。〔講疏〕殘、晁公武曰、隋志、曾子二卷、目一卷、唐志、曾子二卷、今此書亦二卷、凡十篇、蓋唐本也、視レ漢、亡二八篇一、視レ隋、亡二目一篇一、考二其書一、已見二於大戴禮一、世人久不レ讀レ之、文字謬

誤爲レ甚、王應麟說略同、然宋汪晫編曾子一卷、則亦未レ見ニ此書一也、十篇者、大戴禮之曾子立事・曾子本孝・曾子立孝・曾子大孝・曾子事父母・曾子制言上・曾子制言中・曾子制言下・曾子疾病・曾子天圓是也、曾子大孝篇有下曾子弟子樂正子春與ニ其門弟子一問對事上、則其書亦門弟子所レ記也、清阮元有ニ曾子注釋一。

【曾子問】64（ソウシモン）　禮記の篇名。篇首に曾子問の三字あるに因つて名づく。多く吉凶冠昏の變禮を記す。〔禮、曾子問、題疏〕鄭目錄云、名爲ニ曾子問一者、以ニ其記レ所レ問、多明ニ於禮一、故著ニ姓名一、以顯レ之。

【曾子家語】65（ソウシケゴ）　書名。六卷。清、王定安編。

【曾子家策】66（ソウシノカサク）　曾子の家の書。〔孔融、與ニ諸卿一書〕鄭康成多ニ臆說一、人見ニ其名學一、謂レ有レ所ニ出也、證案大較、要在ニ五經四部書一、如レ非ニ此文一、近レ爲ニ妄矣、若ニ子所レ執、以下爲ニ郊レ天鼓一、必當中麒麟之皮上也、寫ニ孝經本一、當ニ曾子家策一乎。

【曾子疾病】67（ソウシシツペイ）　大戴禮（3―5831‥1506）の篇名。

【曾子制言】68（ソウシセイゲン）　大戴禮（3―5831‥1506）の篇名。上中下の三篇に分る。

【曾子大孝】69（ソウシタイカウ）　大戴禮（3―5831‥1506）の篇名。

【曾子注釋】70（ソウシチユウシヤク）　書名。四卷。清、阮元撰。〔皇清經解、第二百十一冊〕。

【曾子天圓】71（ソウシテンエン）　大戴禮（3―5831‥1506）の篇名。

【曾子本孝】72（ソウシホンカウ）　大戴禮（3―5831‥1506）の篇名。

【曾子立孝】73（ソウシリツカウ）　大戴禮（3―5831‥1506）の篇名。

【曾子立事】74（ソウシリツジ）　大戴禮（3―5831‥1506）の篇名。

【曾子事父母】75（ソウシジフボ）　大戴禮（3―5831‥1506）の篇名。

【曾子不レ入ニ勝母之閭一】76（ソウシハシヨウボノリヨニイラズ）　曾子の至孝をいふ。勝母は村名であるが、其の名を忌んで曾子は其の村に入らなかつたといふ。

【曾颸】77（ソウシ）　高い風。〔謝靈運、初發ニ石首城一詩〕出宿薄ニ京畿一、晨裝搏ニ曾颸一。〔注〕良曰、曾颸、高風也。

【曾史】78（ソウシ）　曾參と史鰌。曾參は仁、史鰌は義を以て聞ゆ。〔莊子、在宥〕下有ニ桀跖一、上有ニ曾史一。

【曾訾】79（ソウシ）　なに。なんぞ。なんすれぞ。〔方言、十〕曾・訾、何也、湘潭之原、荆之南鄙、謂レ何爲レ曾、或謂ニ之訾一、若ニ中夏言ニ何爲一也。

【曾識】79′（ソウシキ）　前々からの知合。〔日本書紀、推古紀〕皇太子親肇作ニ憲法十七條一云云、十三曰、諸任レ官者、同知ニ職掌一云云、然得レ知之日、和如ニ曾識一。

【曾庠】80（ソウシヤウ）　宋の人。致堯の孫。字は明升。嘉祐の進士。官は祕書省著作佐郎。

【曾城】81（ソウジヤウ）　❶二階以上かさなつたしろ。崑崙山に三級あり、上を曾城といひ、太帝の居とする。層城。〔後漢書、張衡傳〕登ニ閬風之曾城一兮、搆ニ不死一而爲レ牀。〔注〕淮南子曰、崑崙山有ニ曾城一、九重、高萬一千里、上有ニ不死樹一在ニ其西一、今以ニ不死木一爲レ牀也。〔水經、河水注〕崑崙之山有ニ三級一、上曰ニ曾城一。〔陸機、贈ニ尙書郞顧彥先一詩〕朝游游ニ曾城一、夕息旋ニ直廬一。〔注〕善作レ層、濟曰、曾、重也。❷鄱陽湖の北の落星湖中の落星寺をいふ。〔陶潛、遊ニ斜川一詩序〕臨ニ長流一、望ニ曾城一。〔駱庭芝、斜川辨〕稱ニ曾城一者、落星寺也、斜川詩云、迴澤散ニ遊目一、緬然睇ニ曾邱一、當ニ正月五日一、春水未レ生、落星寺宛在ニ大澤中一、是所謂迴澤也。

【曾鑄】82（ソウシユ）　清、同安の人。後、上海に籍す。字は少卿。世々海商を業とす。光緒中、米人、中國の工人を暴虐するや、抵制を倡へ、全國が響應した。

【曾受】83（ソウジユ）　清、成都の人。初、行伍より、廓爾喀及び湖南の苗を征するに隨ひ、嘉慶中、川楚の教匪及び河南の教匪李文成を勦伐するに隨ひ皆功あり、官は道光中、湖南提督。歸を乞ひて卒す。〔國朝耆獻類徵、三百十七〕。

【曾宿】84（ソウシユク）　以前に宿つたこと。又、其の所。〔杜甫、重過ニ何氏一詩〕犬迎曾宿客、鴉護落巢兒。

【曾升】85（ソウシヨウ）　宋、福州の人。字は孟高。幼にして粟を入れて吏に補せらる。清康中、金人が邊を犯した時、奮戰して死んだ。

【曾松】86（ソウシヨウ）　宋の人。幾の從孫。字は堅伯。官は江西參事。

【曾勝】87（ソウシヨウ）　清、馬平の人。字は誠齋。諡は勤勇。乾隆中、從つて、湖南の苗・川陝楚の教匪を征して功あり。官は廣東陸路提督。〔清史稿、三百八十五〕・〔續碑傳集、四十九〕。

【曾植】88（ソウシヨク）　宋、晉江の人。字は子直。太學上舍生。官は司農寺丞。湖州の知。

【曾申】89（ソウシン）　春秋、魯の人。參の子。字は子西。詩を子夏に受け、春秋の傳を左丘明に受く。〔經典釋文、敍錄〕。

【曾臣】90（ソウシン）　❶末の臣といふこと。諸侯が天子に對して謙卑する辭。〔左氏、襄、十八〕曾臣彪將下率ニ諸將一以討上焉。〔注〕曾臣、猶ニ末臣一也。〔疏〕曾祖・曾孫者、曾爲ニ重義一、諸侯之於ニ天子一、無レ所レ可レ重、曾臣猶ニ末臣一、謙卑之意耳。❷清、董祐誠（9―31433‥173）の初名。

【曾參】91（ソウシン）　❶春秋、魯の人。點の子。字は子輿。孔子の弟子。親に事へて至孝。嘗て瓜を耘り誤つて其の根を絕つ。點怒り、杖を援りてこれを擊ち、殆んど死せんとし、しばらくしてまた蘇生し、琴を鼓して歌ふ。孔子これを聞き、門人に告げ、參來らば入るる勿れ、小杖には受け、大杖には走る、今、參は父を不義に陷る、孝と爲すを得んやと。參、これを聞き、遂に孔子にいたりて過を謝す。其の性質、魯。日に其の身を三省し、一貫の旨を悟る。大學を述べ、孝經を作り、其の學を子思に傳ふ。後世、宗聖と稱す。〔史記、六十七〕・〔高士傳、上〕。❷春秋魯、費の人。曾子と同名。曾子が費に處つた時、曾參が人を殺し、曾子が殺したと誤傳さる。曾參殺レ人を見よ。

曾子❶

（三才圖會）

【曾參歌聲】92（ソウシンノカセイ）　曾子が衞に居つて商頌を歌つた故事。〔莊子、讓王〕曾子居レ衞、緼袍無レ表、云云、曳縱而歌ニ商頌一、聲滿ニ天地一、若レ出ニ金石一。〔韓愈、送ニ王秀才一序〕曾參歌聲、若レ出ニ金石一。

【曾參殺レ人】93（サウシンヒトヲコロス）　曾子と同姓名のものが人を殺したとき、人が曾子の母に曾參が人を殺したと告げたが母は信じなかつた。三度告げらるるに及んで驚き懼れたといふ故事。いつはりもこれをいふものが多いと遂に眞となる喩。曾母投杼。〔戰國、秦策〕昔者曾子處レ費、費人有下與ニ曾子一同ニ名族一者上、而殺レ人、人告ニ曾子母一曰、曾參殺レ人、曾子之母曰、吾子不レ殺レ人、織自若、有レ頃焉、人又曰、曾參殺レ人、其母尙織自若也、頃之、一人又告レ之曰、曾參殺レ人、其母懼投レ杼、踰レ墻而走、夫以ニ曾參之賢、與ニ母之信一也、而三人疑レ之、則慈母不レ能レ信也。〔史記、甘茂傳〕茂曰、昔魯人有下與ニ曾參一同ニ姓名一者上、殺レ人、人告ニ其母一曰、曾參殺レ人、其母織自若也、頃之、一人又告レ之曰、曾參殺レ人、其母尙織自若也、頃之、又一人告レ之曰、曾參殺レ人、其母投レ杼下レ機、踰レ牆而走、夫以ニ曾參之賢與ニ其母信一之也、三人疑レ之其母懼焉、今疑レ臣者非ニ特三人一、臣恐ニ大王之投一レ杼。〔韓愈、釋言〕市有レ虎、而曾參殺レ人、讒者之效也。

【曾深】94（ソウシン）　高く深いこと。層深。〔范曄、樂游應レ詔詩〕原薄信平蔚、臺澗備曾深。〔注〕良曰、曾、高也、言ニ臺澗盡高深一也。

【曾震】95（ソウシン）　宋、吉水の人。字は東老。謝諤の弟子。官は廣州司戶。著は群玉集。〔宋元學案、二十八〕。

【曾鐩】96（ソウスイ）　明、永興の人。字は文載。成化の進士。官は刑部員外郞。後、紹興府知。

【曾瑞】97（ソウズイ）　元、大興の人。錢塘に寓居す。字は瑞卿。號は褐夫。畫を善くし、隱語小曲を能くす。著に詩酒餘音・雜劇留鞋記がある。

【曾西】97′（ソウセイ）　魯の人。曾參の子。曾申をいふ。曾申（89）を見よ。〔孟子、公孫丑上〕或問ニ乎曾西一曰、吾子與ニ子路一孰賢、曾西蹵然曰、吾先子之所レ畏也。

【曾青】98（ソウセイ）　❶上等なろくしやう。極めて青く、繪具に用ひる。銅精。〔本草、曾青〕釋名、時珍曰、

曾、音層、其青層層而生、故名、或云、其生從レ實至レ空、從レ空至レ層、故曰二曾青一也。〔管子、山至數〕秦之明山之曾青一策也。〔荀子、王制〕南海則有二羽翮齒革曾青丹干一焉。〔荀子、正論〕加レ之以二丹矸一、重レ之以二曾青一。〔歷代名畫記〕蔚之曾青、武昌之扁青。❷仙藥の名。服すれば身體輕快となり、老いずといふ。〔南史、陶弘景傳〕帝給二黃金・朱砂・曾青・雄黃等物一、後合二飛丹一、色如二霜雪一、服レ之體輕。

【曾釗】99 清、南海の人。字は敏修。又、勉士（冕士）。道光の拔貢生。官は欽州學正。藏書を嗜み、數萬卷を積む。書室を面城樓・古輪篸山館といふ。著に周官注疏小箋・面城樓文存がある。〔清史稿、四百八十八〕・〔清史列傳、六十九〕・〔碑傳集補、四十一〕。

【曾晳】100 春秋、魯の人。曾點(128)を見よ。

【曾泉】101 ❶水流の多くある地。〔淮南子、天文訓〕日至二於曾泉一、是爲二蚤食一。〔注〕曾、重也、早食時在二東方多水之地一。❷明、泰和の人。字は本清。永樂の進士。官は御史。宣德の初、事を言ひて氾水典史に謫せらる。民其の惠に感じて生祠を立つ。〔明史、二百八十一〕・〔明史稿、二百六十二〕・〔國朝獻徵錄、九十三〕。

【曾銑】102 明、江都の人。字は子重。諡は襄愍。嘉靖の進士。官は總督陝西三邊軍務。嚴嵩に誣告され、誅に伏す。著に復套議がある。〔明史、二百四〕・〔萬斯同明史、二百九十四〕・〔明史稿、一百八十八〕・〔國朝獻徵錄、五十八〕。

【曾全】103 明の人。轁の子。字は復初。號は碧潭居士。成化の進士。官は戶部主事。

【曾漸】104 宋、南城の人。字は鴻甫。諡は文莊。紹熙の進士。胡安國に私淑す。官は工部侍郎。朝に立ちて風節あり。〔宋元學案、三十四〕。

【曾祖】105 ひぢぢ。父の祖父。曾祖父。曾祖王父の略稱。〔釋名、釋親屬〕曾祖、從レ下推レ上、祖位轉增益也。〔晉書、荀勗傳〕荀勗、字公曾、漢司空爽曾孫也、年十餘歲、能屬レ文、從外祖魏太傅鍾繇曰、此兒當レ及二其曾祖一。

【曾祖姑】106 ひおほをば。曾祖王姑(110)を見よ。〔和名抄、人倫部、父母類〕曾祖姑、爾雅云、曾祖父之姊妹、爲二曾祖姑一。

【曾祖父】107 ひぢぢ。ひいぢぢ。おほおほぢ。祖父の父。曾大父。曾祖王父。〔後漢書、周勰傳〕自二勰曾祖父揚一、至二勰孫恂一、六世一身、皆知レ名云。〔和名抄、人倫部、父母類〕曾祖父、爾雅云、祖父之父、爲二曾祖父一、和名、於保於保知。

【曾祖母】108 ひばば。ひいばば。おほおほば。祖母の母。曾祖王母(112)に同じ。〔容齋四筆、曾太皇太后〕唐德宗卽レ位、訪二求其母沈大后一、歷二順宗及憲宗時一、爲二曾祖母一、故稱爲二曾太皇太后一、蓋別二於祖母一也。〔和名抄、人倫部、父母類〕曾祖母、爾雅云、祖父之母爲二曾祖母一、和名、於保於保波。

【曾祖昆弟】109 從祖昆弟の子。おほをぢの子。〔新書、六術〕從祖昆弟又有レ子、子從二曾祖一而昆弟、故爲二曾祖昆弟一。

【曾祖王姑】110 ひおほをば。〔爾雅、釋親〕曾祖王父之姊妹、爲二曾祖王姑一。

【曾祖王父】111 曾祖。〔爾雅、釋親〕王父之考、爲二曾祖王父一。〔注〕曾、猶レ重也。

【曾祖王母】112 ひばば。ひいばば。曾祖母。〔爾雅、釋親〕王父之妣、爲二曾祖王母一。

【曾則】113 明、陳僧權(**11－41698**・・1088)の初名。

【曾孫】114 ❶孫の子。ひまご。ひいまご。〔爾雅、釋親〕孫之子爲二曾孫一。〔釋名、釋親屬〕曾孫、義如二曾祖一也。〔書、武成〕惟有道曾孫周王發、將レ有三大正二于商一。〔墨子、兼愛中〕傳曰、泰山、有道曾孫周王有レ事、大事既獲。〔漢書、外戚上、衛太子史良娣傳〕史皇孫有二一男一、號二皇曾孫一。❷孫より以下の統稱。子孫。〔詩、周頌、維天之命〕曾孫篤レ之。〔箋〕曾、猶レ重也、自二孫之子一而下、事二先祖一、皆稱二曾孫一。〔集傳〕曾孫、後王也。

【曾逮】115 宋の人。幾の次子。字は仲躬。王蘋に師事す。官は戶部侍郎。學者、習菴先生と稱す。著に習菴集がある。〔宋史、三百八十二〕・〔宋元學案、二十九〕。

【曾臺】116 高くかさなつたうてな。層臺(**4－7798**・・35)に同じ。

【曾撓】117 ❶ゆがむ。又、ゆがめる。〔淮南子、脩務訓〕籠蒙覩、治由笑、目流眺、口曾撓。〔注〕曾、則也、撓、弱也。❷屋根の飾の名。〔淮南子、本經訓〕脩掞・曲校・夭嬌・曾撓。〔注〕皆屋飾也。

【曾誕】119 宋の人。公亮の從孫。孟后の廢に、三度、鄒浩に書を與へて力めて后を復せんことを請ふも、浩答へず。浩が劉氏を立てて南遷せんと論ずるに及び、玉山主人對客問を著はして鄒浩を譏る。時人、韓愈の諍臣論に比す。〔宋史、三百四十五〕。

【曾潭】120 深い淵。層潭に同じ。〔郭璞、江賦〕曾潭之府、靈湖之淵。〔注〕善曰、鄭玄毛詩箋曰、曾、重也。

【曾潭先生】121 宋、傅夢泉(**1－939**・・206)の尊稱。

【曾狆】122 明、霍丘の人。字は習之。嘉靖の進士。官は御史。同官戴銑と南京尙書劉龍・聶賢等を劾し、吏部尙書汪鋐がこれを庇ふや、又、抗疏して汪鋐を攻め、廷杖されて死す。〔明史、二百九〕・〔萬斯同明史、二百九十七〕・〔明史稿、一百九十一〕・〔國朝獻徵錄、六十五〕。

【曾鼎】123 明、泰和の人。字は元友。元末、母を奉じて賊を避け、母が執へらるるや、身を以て翼蔽し、共に免るるを得。濂溪書院山長となり、洪武の初、縣の命令により社學に教ふ。詩・八分・邵子數學を善くす。〔明史、二百九十六〕・〔萬斯同明史、二百十〕・〔明史稿、一百五十〕。

【曾肇】124 宋の人。布の弟。字は子開。諡は文昭。治平の進士。官は元祐中、中書舍人・吏部侍郎。徽宗の時、翰林學士。崇寧の初、元祐の士大夫再び降黜されるや、肇も落職さる。著に內則・外則・曲阜集・西掖集がある。〔宋史、三百十九〕・〔宋元學案、四〕。

【曾覿】125 宋、汴の人。字は純甫。號は海野老農。孝宗の時、潛邸の宮人を以て閤門の事を權知す。後、官は開府儀同三司。事を用ふること、二十年。權、中外に震ひ、大臣を譖逐するに至る。帝、其の姦を知り、漸くこれを疏んじ、爲に覿は憂恚して死す。著に海野詞がある。〔宋史、四百七十〕。

【曾恬】126 宋の人。公亮の曾孫。字は天隱。少くして楊時・劉安世に從學、存心養性の學を修む。官は紹興中、大宗正丞。秦檜、國に當るや、恬、自ら守りて屈せず、外司を求め、台州主管を得。著に上蔡語錄がある。〔宋元學案、二十四〕。

【曾蒧】127 春秋、魯の人。曾點を見よ。

【曾點】128 春秋魯、南武城の人。史記に曾蒧に作る。字は晳。孔子の弟子。嘗て孔子に侍して志をいひ、暮春には春服既に成り、冠者五六人、童子六七人、沂に浴し、舞雩に風し、詠じて歸らんといふ。孔子は喟然として歎じ、吾は點に與せんといふ。季武子の喪に大夫往いて弔す。點、其の門に倚りて歌ふ。〔論語、先進〕・〔史記、六十七〕。

【曾巓】129 高いみね。〔謝靈運、過二始寧墅一詩〕葺レ宇臨二廻江一、築レ觀基二曾巓一。〔注〕良曰、曾、高也、言レ築二觀於高山之巓一。

【曾德】130 元、漁陽の人。繼母、左氏に事へて至孝なり。〔元史、百九十八〕。

【曾惇】131 曾宏父(180)を見よ。

【曾陪】132 かつてそばにつき從ふ。〔白居易、錢湖州以二箬下酒一李蘇州以二五酘酒一相次寄到無レ因二同飮一聊詠レ所レ懷詩〕莫レ怪殷勤醉相憶、曾陪三西省與二南宮一。〔蘇軾、鹿鳴宴詩〕他日曾陪探二禹穴一、白頭重見賦二南山一。

【曾滂】133 宋、臨川の人。字は孟博。陸九淵に師事し、弟子の冠となる。〔宋元學案、五十七〕。

【曾伯】134 元、戴表元(**5－11685**・・211)の字。

【曾否】135 あるかなきか。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕曾否發覺、俱令三本役照二所レ犯年月情由一。

【曾閔】136 曾參と閔子騫。皆孔子の門人で最も孝を以て稱せられたもの。〔後漢書、明帝紀〕曾・閔奉レ親、竭レ歡致レ養。〔蕭廣濟、孝子傳〕閔損與二曾參一、門徒之中、最有二孝稱一、今言レ孝者、莫レ不レ本二之曾・閔一。

【曾閔儔】137 曾參と閔損に等しい孝行のともがら。曾閔を見よ。〔元稹、陽城驛詩〕昔公孝二父母一、行與二曾閔一儔。

【曾父】138 曾祖父をいふ。〔稱謂錄、曾祖、曾父〕大徧覺法師、元奘塔銘、曾父欽祖、康父惠英。

【曾布】139 宋、南豐の人。鞏の弟。字は子宣。諡

は文肅。進士。熙寧の初、集賢校理となり、呂惠卿と青苗・助役・保甲・農田の法を創設す。翰林學士に進められ、三司使を兼ぬ。後、事を以て王安石に忤ひ、出でて饒州の知となる。哲宗の時、知樞密院。時に章惇、相となり、布、惇を贊けて紹述甚だつとめ、引いて執政とならんことを冀ふ。惇、これを忌み、布も復た惇を攻めてこれを罷む。徽宗立つや、布、右僕射となり、獨り國に當り、漸く紹述の説を進め、復た蔡京と協はず。京に構へられ、舒州司戸を授けらる。〔宋史、四百七十一〕・〔宋元學案、九十六〕。

【曾阜】140（ソウフ） ❶かさなつてゐる山。〔沈約、宿二東園一詩〕夕陰帶二曾阜一、長煙引二輕素一。〔注〕良曰、曾、重、阜、山也。❷春秋魯の人。叔孫氏の家臣。〔左氏、昭、元〕。

【曾忭】141（ソウベン） 明、泰和の人。千頃堂書目には曹抃に作る。號は前川。嘉端の進士。官は都給事中。著に前川奏疏がある。〔四庫提要、五十六〕。

【曾抃】142（ソウベン） 曾忭を見よ。

【曾勉】143（ソウベン） 元、楂溪の人。字は楂居。畫に巧。書室を偃月齋といふ。

【曾丰】144（ソウボウ） 宋、樂安の人。字は幼度。乾道の進士。文章を以て鳴る。官は德慶府知。著に緣督集がある。〔宋元學案、五十五〕。

【曾楙】145（ソウボウ） 宋、贛州の人。字は叔夏。元符の進士。官は吏部尚書。著に內外制及び東宮日記がある。

【曾蒙】146（ソウモウ） 前に蒙る。〔李頻、長安書レ懷投二知己一詩〕因依非二不忝一、延薦況曾蒙。

【曾門】147（ソウモン） 曾祖をいふ。〔唐書、孝友、程袁師傳〕改二葬曾門一、以來閱二二十年一乃畢。〔稱謂錄、曾祖、曾門〕錢大昕潛研堂金石文跋尾云、稱二曾祖一爲二曾門一未レ詳二其義一。

【曾璵】148（ソウヨ） 明、瀘州の人。字は東玉。號は少岷山人。正德の進士。官は建昌知府。宸濠の反に、王守仁に從つて賊を破り、南康を復す。著に少岷拾存稿がある。〔明史、二百〕・〔國朝獻徵錄、八十七〕・〔明人小傳、二〕。

【曾鏞】149（ソウヨウ） 清、泰順の人。字は在東。又、鯨堂。號は復齋。乾隆の拔貢。官は東安縣知。著に復齋詩文集がある。

【曾覽】150（ソウラン） かつてみる。〔左思、吳都賦〕古先帝世、曾二覽八紘之洪緒一、一二六合一而光宅。〔注〕善曰、曾、經也。

【曾累】151（ソウルイ） かさなる。〔淮南子、主術訓〕削二薄其德一、曾二累其刑一。〔宋玉、高唐賦〕巫山赫其無レ疇兮、道互折而曾累。〔注〕善曰、曾、重也。

【曾嶺】152（ソウレイ） かさなつた山。高い山。層嶺。〔謝惠連、西陵遇レ風獻二康樂一詩〕屯雲蔽二曾嶺一、驚風涌二飛流一。〔注〕銑曰、曾嶺、高山也。

【曾輅】153（ソウロ） 清、湯大奎(**7－17874**・・193)の字。

【曾魯】154（ソウロ） 明、新淦の人。字は得之。七歲にしてよく五經を暗誦し、稍〻長じて博く古今を學ぶ。凡そ數千年の國體人才制度沿革、能く言はざるなく、遂に文學を以て時に聞ゆ。洪武の初、召されて元史纂修の總裁官となる。官は禮部主事、六階を超えて禮部侍郎を授けらる。著に大明集禮がある。〔明史、一百三十六〕・〔萬斯同明史、一百七十五〕・〔明史稿、一百二十四〕・〔國朝獻徵錄、三十五〕。

【曾樓】155（ソウロウ） 層樓(**4－7798**・・61)に同じ。

【曾麓】156（ソウロク） 清、王睿章(**7－20823**・・1187)の字。

【曾異撰】157（ソウイセン） 明、晉江の人。字は弗人。性、至孝。詩古文を作りて奇氣あり。清貧。崇禎中、鄉に擧げらる。書室を紡授堂といふ。著に紡授堂集がある。〔明史、二百八十八〕・〔明史稿、二百六十九〕。

【曾偉芳】158（ソウキハウ） 明、惠安の人。字は君彥。號は滄巖。萬曆の進士。官は兵部員外郎。事を以て賓州州判に謫せらる。著に西行草がある。〔四庫提要、一百二十五〕。

【曾維綸】159（ソウキリン） 明、江西樂安の人。字は惇吾。萬曆の進士。官は嘉興府同知。書室を來復堂といふ。著に來復堂集がある。〔四庫提要、一百七十九〕。

【曾宇加】160（ソウカ） 賣笑婦の類。〔和漢三才圖會、人倫〕傾城、夜立レ衢倚レ門賣レ婬者、夜發之屬而甚卑賤、俗謂二曾宇加一。

【曾一龍】161（ソウイチリヨウ） 宋の人。曾從龍(199)を見よ。

【曾雲門】162（ソウウンモン） 增野雲門(**3－5454**・・143)を見よ。

【曾易占】163（ソウエキセン） 宋の人。致堯の第五子。字は不疑。天聖の進士。官は太子中允・太常丞。封は魯國公。著に時論三十篇がある。

【曾曰都】164（ソウエツト） 清、南豐の人。字は美公。諸生。業を謝文洊に受く。其の學、諸を己に體するに務め、因つて自ら體齋と號す。經史及び語錄の、人の篤行風化に關するものを取り、有用錄百餘卷を爲る。〔清史稿、四百八十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百〕。

【曾衍綸】165（ソウエンリン） 清、長清の人。知郴州尚增の女。母の病に侍して孝。家、火を失するや、衍綸、火に突入して身を以て母を覆ひて死す。郴人、祠を立ててこれを祀る。〔清史稿、五百十三〕・〔國朝耆獻類徵、媛、一〕・〔碑傳集、一百五十〕。

【曾應遴】166（ソウオウリン） 明、寧都の人。字は無擇。崇禎の進士。兵科給事中に累遷し、工科に轉ず。出でて江西廣東の兵餉を督し、入りて兵科を掌る。唐王の時、太常卿に起用され、楊廷麟等と共に兵を南贛に起し、兵潰ゆ。〔小腆紀年、一〕。

【曾家模】167（ソウカボ） 清、武岡の人。字は資汀。平居生徒に教授するに一に窮經砥行を以て務とす。著に春秋述朱がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十一〕。

【曾孝蘊】168（ソウカウウン） 宋の人。公亮の從子。字は處善。歙州・杭州に歷知し、戰功を立て、功により官は龍圖閣學士となる。〔宋史、三百十二〕。

【曾亨應】169（ソウカウオウ） 明、臨川の人。字は子嘉。崇禎の進士。官は吏部主事。福王の時、清兵と戰つて死す。〔明史、二百七十八〕・〔明史稿、二百五十九〕。

【曾孝廣】170（ソウカウクワウ） 宋の人。公亮の從子。字は仲錫。元祐中、官は水部員外郎。河の決を防ぎ功あり。官は戶部尚書・知杭州。〔宋史、三百十二〕。

【曾孝寬】171（ソウカウクワン） 宋の人。公亮の子。字は令綽。官は吏部尚書。蔭を以て知咸平縣となり、惠政を以て聞え、熙寧中、召されて吏部尚書となり道に卒す。〔宋史、三百十二〕。

【曾孝純】172（ソウカウジユン） 宋の人。公亮の季子。字は君施。紹興中、太常丞に擢んでられたが、執政に沮まれ、遂に門を閉ぢて仕へず。

【曾孝序】173（ソウカウジヨ） 宋、晉江の人。字は逢原。諡は威愍。官は環慶路經略安撫使。事を論じて蔡京に忤ひ、嶺表に竄せられ、後、潭州の知となる。猺人を平げて功あり。龍圖閣直學士に進めらる。後、知青州となり、城を繕ひ、兵を練り、金兵敢て犯さず。延康閣學士に遷るも、青州の民、南都に詣つて留まることを乞うて許さる。後、部將、王定に害せらる。〔宋史、四百五十三〕。

【曾鶴齡】174（ソウカクレイ） 明、泰和の人。字は延年。號は松坡・臞叟。永樂の進士第一。官は侍講學士。著に松坡集・臞叟集がある。〔國朝獻徵錄、二十〕・〔明人小傳、一〕・〔本朝分省人物攷、六十三〕・〔明詩綜、十八下〕。

【曾季貍】175（ソウキリ） 宋の人。宰の曾孫。字は裘父。號は艇齋。人爭つてこれを薦むるも皆起たず。著に艇齋雜著がある。〔宋元學案、三十六〕。

【曾紀鴻】176（ソウキコウ） 清、湘鄉の人。曾國藩の次子。字は栗誠。同治中、國藩卒し、紀鴻賞給擧人を得。兄紀澤と與に算學に精通し、紀鴻尤も代數術に明かで、新法を創立し、著に對數詳解・圜率考眞圖解がある。〔清史稿、五百十二〕。

【曾紀澤】177（ソウキタク） 清、湘鄉の人。國藩の子。字は劼剛(詰剛)。諡は惠敏。一等毅勇侯を襲爵し、同治中、英・佛・露の諸國に使す。露人と力爭して崇厚が已に定めた約を改訂し、更めて新議を立て、伊犂及び烏宗島山・帖克斯川の諸要隘を還附せしむ。官は戶部左侍郎。其の學中西を兼ぬ。著に佩文韻來古編・說文重文本部考・羣經臆說・奏疏・詩古文若干卷がある。〔清史稿、四百五十二〕・〔清史列傳、五十八〕・〔續碑傳集、十五〕。

【曾義山】178（ソウギザン） 元、上高の人。一名は法興。占術を善くす。劉基が高安の丞たりし時、義山過ぎつてこれと語り、相公は絶世聰明にして器宇宏遠、當に一代の偉人たるべし、吾が書、盡く相贈ると。基、遂に其の書の要を領す。後、明の太祖、基に問うて始めて其の授受する所を知り、有司に命じて義山のために居室を營ましめ、其の墳墓を表す。〔新元史、二百二十六〕。

【曾和應】179（ソウクワオウ） ❶宋の人。字は賢叔。梅嶺に隱

居し、吟詠を好む。著に梅溪四體がある。❷明の人。亨應の弟。福王の時、父を奉じて閩に入る。兄、清兵と戰つて死すと聞き、井に赴いて死す。〔明史、二百七十八〕・〔小腆紀年、十一〕。

【曾宏父】180ソウクワウフ　宋、廬梁の人。字は幼卿。自ら鳳墅逸客と稱す。書室を鳳山別墅といふ。著に石刻鋪敍がある。一に曾紆の子の惇、字は宏父と混同されてゐる。〔四庫提要、八十六〕。

【曾乾亨】181ソウケンカウ　明の人。同亨の弟。字は于健。萬曆の進士。官は大理少卿。〔明史、二百二十〕・〔萬斯同明史、三百三十三〕・〔明史稿、二百四〕。

【曾乾度】182ソウケンド　宋の人。文照の子。字は順承。淳化の進士。官は太常少卿。致仕の後、諸生を率ゐて學校を興した。

【曾元蔭】183ソウゲンイン　清、古田の人。字は首玉。畫に巧。家は園林の勝に富み、日〻騷人韻士と其の間に吟賞す。

【曾元中】184ソウゲンチユウ　宋の人。一に元忠に作る。朝陽の孫。大觀の進士。官は廣州教授。門人、文節先生と私諡し、著に春秋曆法・論語解・周易解がある。〔尙友錄、十二〕。

【曾元忠】185ソウゲンチユウ　曾元中を見よ。

【曾原一】186ソウゲンイツ　宋の人。興宗の孫。字は子實。亂を鍾陵に避け、從弟の原郕と共に博學にして詩に巧。戴石屛等と江湖吟社を結ぶ。著に選詩衍義・倉山詩集がある。

【曾公亮】187ソウコウリヤウ　宋の人。會の子。字は明仲。諡は宣靖。進士。官は嘉祐中、同中書門下平章事。熙寧中、太保。性、吝嗇。貨鉅萬に至る。〔宋史、三百十二〕。

【曾興宗】188ソウコウソウ　宋、寧都の人。字は光祖。官は肇慶推官。

【曾國華】189ソウコククワ　清の人。國藩の三弟。字は溫甫。諡は愍烈。咸豐中、國藩が師を江西に督して、江楚通ぜず、國華、師を胡林翼に乞ひ、轉戰して瑞州に至り、始めて通問するを得、功を以て同知に擢んでらる。後、三河鎭の戰に、李續賓に從つて力戰して死す。〔清史稿、四百四十一〕・〔清史列傳、六十四〕・〔續碑傳集、五十九〕・〔中興將帥列傳、一〕。

【曾國荃】190ソウコクセン　清、湘鄉の人。國藩の弟。字は沅甫。諡は忠襄。道光の優貢。咸豐の初、洪楊の軍起つて江西に入るや、國藩と策を畫し、鄉勇三千人を募つて赴援し、吉字營と號し、連戰敵を破り、吉安知府を授けらる。同治中、安慶・江寧に克ち、洪福・李秀成を擒にし、洪楊の軍を成す。官は兩江總督・太子太保。爵は一等威毅伯。〔清史稿、四百十九〕・〔清史列傳、五十九〕・〔續碑傳集、三十〕。

【曾國葆】191ソウコクハウ　清の人。國藩の季弟。字は季洪。諡は靖毅。後、名を貞幹、字を事恆と改め、國藩に從ひ征討して功あり、官は知府。後、國荃と會して安慶を圍み、金陵にせまり、病を以て卒す。〔清史稿、四百十九〕・〔續碑傳集、五十九〕。

【曾國藩】192ソウコクハン　清、湖南湘鄉の人。字は滌笙（滌生）。號は伯涵・子城。諡は文正。道光十八年の進士。咸豐二年、吏部左侍郎となり、母の喪に當つて歸る。太平天國の亂起るに會ひ、籍に在つて團練を督辦し、遂に鄉勇を編制して連りに沿江の各省を復す。封は毅勇侯。同治中興の功臣第一となる。大學士を以て兩江總督に任ぜられ、同治十一年、官に卒す。年六十一。世人、湘鄉太傅といふ。清、道光以後、文武泄沓せしも、國藩が公誠忠樸を以て其の將佐僚屬を倡率してより、風氣これがために一變す。軍を治め官に居り、粹然として儒者の氣象あり、其の學を論ずるや、義理・考據・詞章の三者は一を闕くも不可といふ。作る所の古文も亦一代に卓絕し、世の宗とするところとなる。書室を求闕齋・緜緜穆穆之室といふ。著はす所の書百數十卷・曾文正全集といふ。〔清史稿、四百十一〕・〔清史列傳、四十五〕・〔續碑傳集、五〕・〔中興將帥列傳、一〕。

【曾三異】193ソウサンイ　宋の人。三聘の弟。字は無疑。號は雲巢先生。經學を尊び、屢〻朱熹に從ひて問辨す。官は端平中、承事郎。華州雲臺觀を主管す。小楷に巧。書室を仰高堂といふ。著に新舊官制通考・通釋等がある。

【曾三復】194ソウサンプク　宋、臨江の人。字は無玷。乾道の進士。官は起居郎、兼權刑部侍郎。〔宋史、四百十五〕。

【曾三聘】195ソウサンペイ　宋の人。三復の弟。字は無逸。諡は忠節。朱熹に師事す。乾道の進士。官は祕書郎。光宗の時、三度上疏して時事を陳じ、寧宗立ち、考功郎を兼ぬ。韓侂冑、相となるに及んで故の相、趙汝愚の腹心として兩官を追はれたが、しばらくして原官に復す。〔宋史、四百二十二〕・〔宋元學案、六十九〕。

【曾子固】196ソウシコ　曾鞏(31)を見よ。

【曾子良】197ソウシリヤウ　宋、金溪の人。號は平山。咸淳の進士。官は淳安知縣。元に仕へず、其の室に題して節居といふ。學者、平山先生と稱す。〔宋元學案、八十四〕。

【曾質粹】198ソウシツスイ　明、永豐の人。其の先、亂を避けて豫章に徙る。參の五十九代の孫。字は好古。嘉靖中、詔して曾子の嫡嗣を求めて質粹を得、命じて衣巾を以て奉祀せしめ、五經博士を授く。〔明史、二百八十四〕。

【曾從龍】199ソウジユウリユウ　宋の人。公亮の四世の從孫。字は君錫。初名は一龍。慶元の進士第一。嘉定中、德政を修め、人材を蓄へ、邊備を飭へんことを上言して嘉納され、湖南安撫使を除せらる。時に三京の役あり、南兵の輕進易退を極論し、幾くもなく驗あり、官は知樞密院事に至る。〔宋史、四百十九〕。

【曾叔卿】200ソウシユクケイ　宋の人。鞏の族兄。字は升之。慶曆の進士。官は著作佐郎。介潔の士。〔宋史、四百五十九〕。

【曾如驥】201ソウジヨキ　宋、泰和の人。字は德稱。諡は忠愍。淳祐の進士。官は寶慶通判。元兵入城するや、資江に投じて死す。

【曾如春】202ソウジヨシユン　明、撫州の人。字は景默。嘉靖の進士。官は河南巡撫。後、工部侍郎。

【曾振宗】203ソウシンソウ　元、安仁の人。字は子翬。廉介、善く家を治む。嘗て易經を手書してこれを佩び、常に誦讀した。〔宋元學案、九十三〕。

【曾省吾】204ソウセイゴ　明、鍾祥の人。嘉靖の進士。官は工部尙書。張居正の門より出で、遂に王篆と與に居正の羽翼を爲す。居正卒するや、時人に彈劾され籍を削られた。〔萬期同明史、三百十二〕・〔明史稿、二百九〕。

【曾紹孔】205ソウセウコウ　清、益陽の人。字は泗英。號は我山。貢生。晩年、醫術に精通。年七十餘の時桑植訓導を授けられ、就かずして卒す。著に我山詩文刻がある。其の妻、王賓吾も亦名あり。〔國朝耆獻類徵、媛、二〕。

【曾先之】206ソウセンシ　元、廬陵の人。字は從野。著に十八史略がある。〔四庫提要、五十〕。

【曾祖道】207ソウソダウ　宋、廬陵の人。字は宅之。劉子澄の門人。嘗て陸九淵に師事す。後、朱子の學を宗とす。〔宋元學案、六十九〕。

【曾楚卿】208ソウソケイ　明、莆田の人。字は元贊。萬曆の進士。官は翰林學士。經筵に侍す。張鼐が魏忠賢を劾して罷められるや、楚卿も鼐の門より出でたるを以て、坐して削奪せらる。崇禎の初、禮部侍郎に起用され、尙書に進む。時に溫體仁、國に當る。累りに上疏して歸を乞ふ。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十〕。

【曾擣齋】209ソウソンサイ　宋の人。曾丰(144)を見よ。

【曾存仁】210ソウソンジン　明、吉水の人。字は楙遠（懋遠）。嘉靖の進士。官は禮部主事。旨に忤つて免ぜられ、後、浙江參議に起用さる。痛く中官崔成監を抑へ、譖せられて獄に下さる。官は雲南布政使に終る。〔明史、二百二十〕。

【曾大奇】211ソウタイキ　明、泰和の人。字は端甫。神宗末年、門戶の禍大いに起るや、大奇、治平言十七篇を作りて時弊を指陳す。〔四庫提要、一百二十五〕。

【曾大父】212ソウタイフ　曾祖父をいふ。〔韓愈、崔評事墓誌銘〕曾大父知道。〔稱謂錄、曾祖、曾大父〕陸務觀義莊記、曾大父之曾孫、爲二從祖兄弟一。

【曾太公】213ソウタイコウ　曾祖父をいふ。〔稱謂錄、曾祖、曾太公〕杜確、岑嘉州集序、曾太公文本。

【曾治鳳】214ソウチホウ　宋の人。用虎の弟。字は君儀。開禧の進士。官は直徽猷閣。後、建寧の知。

【曾致堯】215ソウチゲウ　宋、南豐の人。字は正臣。太平興國の進士。官は祕書丞。出でて兩浙轉運使となる。性、剛直にして事を言ふを好む。後、禮部郎中となり、吏部に改められ卒す。著に僊鳧羽翼・廣中台志・清邊前要・西陲紀要・爲臣紀要・直

言集がある。〔宋史、四百四十二〕。

【曾仲鳴】216 ソウチユウメイ　民國、福建省閩侯縣の人。佛國巴里大學及里昂大學を卒業(文學博士)、歸國して廣東國民政府に入り汪兆銘の腹心として汪に隨身し、國民政府祕書長・鐵道部政務次長・候補中央監察委員等を歷任した。一面佛蘭西文學者として佛國に對する中國文學紹介者として知らる。著に、法國文學叢談・支那文學史等がある。

【曾沖子】217 ソウチユウシ　元、江西の人。字は聖和。至元中、程鉅夫、詔を奉じて賢を求め、沖子を擧ぐ。福建提刑司僉事を授けらる。時に閩部、遠くして險、吏、乘じて奸をなし、民、迫つて亂をなす。沖子、部を巡り、警諭感切し、民、畏れてなつく。奉議大夫を以て致仕す。〔新元史、二百二十九〕。

【曾廷瑞】218 ソウテイズイ　明、龍溪の人。郡學生。陳思賢六生の一。燕王登極の詔至るや、教授陳思賢に從つて明倫堂に集まり、舊君の位を設け、詔迎へず、後、執へられて京師に送られて死す。〔明史、百四十三〕。

【曾廷枚】219 ソウテイバイ　清の人。煥の從父。字は升三。又、修吉。號は香墅。廩生。小學に長じ詩文に巧。書體遒媚にして郡中の題榜多く其の手に出で、嘉慶の末、卒す。書室を瓣香山房といふ。著に香墅漫鈔商略・瓣香山房編年・歷朝詩話賸・事物類聞がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十一〕。

【曾貞榦】220 ソウテイカン　清の人。曾國葆(191)を見よ。

【曾朝節】221 ソウテウセツ　明、臨武の人。字は直齋。諡は文恪。萬曆の進士。官は禮部尙書。東京侍講に充てらる。著に易測がある。〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、五十三〕・〔明詩紀事、庚、十二〕。

【曾朝陽】222 ソウテウヤウ　宋、永豐の人。慶曆の進士。石首令となつて其の賦稅を寬くし、忠州從事に改められて民に文學に從事するを教ふ。著に文集二十卷がある。〔尙友錄、十二〕。

【曾姪孫】223 ソウテツソン　またまたをひ。〔釋親考續編、子孫甥姪〕曾姪孫、會典、兄弟之曾孫。

【曾姪孫女】224 ソウテツソンヂヨ　またまためひ。〔釋親考續編、子孫甥姪〕曾姪孫女、會典、兄弟之曾孫女。

【曾姪孫婦】225 ソウテツソンプ　またまた甥のよめ。

【曾傳燦】226 ソウデンサン　清の人。曾燦(61)を見よ。

【曾傳燈】227 ソウデントウ　清の人。曾畹(15)を見よ。

【曾同亨】228 ソウドウカウ　明の人。存仁の子。字は于野。諡は恭端。嘉靖の進士。官は貴州巡撫・工部尙書。〔明史、二百二十〕・〔萬斯同明史、三百三十二〕・〔明史稿、二百四〕。

【曾伯祖】229 ソウハクソ　曾祖父の兄。一說に曾祖父の族兄。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕曾伯祖奭爲二唐宰相一。

【曾方布】230 ソウハウ　姓氏。〔姓名錄抄〕。

【曾望顏】231 ソウバウガン　清、香山の人。道光の進士。編修より光祿寺少卿に陞り、事に遇つて敢言す。官は陝西巡撫。洪楊軍が湖北より陝西を擾亂するや、これを禦いで功あり、四川總督に署せらる。滇匪を勦伐し、名山陷るを以て職を奪はる。〔清史稿、四百三十三〕・〔清史列傳、四十九〕。

【曾法興】232 ソウハフコウ　元の人。曾義山(178)を見よ。

【曾敏行】233 ソウビンカウ　宋、吉水の人。字は達臣。自ら浮雲居士と號し、又、獨醒道人・歸愚老人と號す。年甫めて二十、病を以て仕進する能はざるにより、遂に意を學問に專心し、草蟲畫に巧。著に獨醒雜志がある。〔四庫提要、一百四十一〕。

【曾富騰】234 ソホド　久延毘古の一名。案山子を指す。そぼつといふ動詞からきた名稱。〔古事記、上〕所レ謂久延毘古者、於二今者一山田之曾富騰者也、此神者、足雖レ不レ行、盡知二天下之事一神也。

【曾秉正】235 ソウヘイセイ　明、南昌の人。洪武の初、海州學正となり、天變を以て上疏すること數千言。官は思文監丞・通政副使。數〻事を言ひ、旨に忤つて罷む。〔明史、一百三十九〕・〔萬斯同明史、一百七十九〕・〔明史稿、一百二十九〕。

【曾秉忠】236 ソウヘイチユウ　清、吳川の人。諡は壯果。官は福建陸路提督。

【曾璧光】237 ソウヘキクワウ　清、洪雅の人。字は樞垣。諡は文誠。道光の進士。官は咸豐中、貴州巡撫。時に苗亂に値ひ、璧光、掃盪して、全黔を平定す。〔清史稿、四百二十六〕。

【曾奉先】238 ソウホウセン　宋の人。字は紹忠。歐陽脩に推重せらる。官は賀州法曹。

【曾鳳儀】239 ソウホウギ　明、衡州の人。字は舜徵。號は金簡。萬曆の進士。官は禮部郎中。致仕して歸り、陸九淵主靜の學を講ず。衡山に集賢書院を建て、韓愈・李泌・趙抃・周敦頤の四君子を祀る。〔衡州府志〕。

【曾鳳韶】240 ソウホウセウ　明、盧陵の人。諡は忠毅。洪武の進士。官は建文の時、御史。燕王に仕へずして自殺す。年二十九。〔明史、一百四十三〕・〔萬斯同明史、一百八十六〕・〔明史稿、一百三十二〕。

【曾萬中】241 ソウマンチユウ　明、吉水の人。元末の千戶長。明の江西行省參知政事。陳友諒を吉安に拒ぎ戰死す。〔明史、二百八十九〕・〔本朝分省人物攷、六十三〕。

【曾民瞻】242 ソウミンセン　宋、永豐の人。字は南仲。宣和の進士。官は南昌尉。天文學に通ず。

【曾養性】243 ソウヤウセイ　清、奉天の人。初め耿繼茂に從つて廣東を征し、清南王の藩下に隸す。康熙中、官は藩下左翼總兵官。耿精忠反するや、これに附し、兵を率ゐて浙江を犯す。清軍福建に入るや、衆を率ゐて降り、磔死さる。〔清史列傳、八十〕。

【曾養甫】244 ソウヤウホ　民國、廣東省平遠縣の人。天津北洋大學、英國の大學卒業。採鑛工學を專攻して歸國、國民政府に入り國民政府建設委員會副委員長となる。後國民政府を退き國民黨中央執行委員に擧げられ、一九三六年鐵道部政務次長、次いで廣州市長となる。

【曾用虎】245 ソウヨウコ　宋の人。從龍の弟。字は君遇。興化軍に官となり、城堤を造り、太平陂を起す。民其の利を蒙つて曾公陂といふ。官は江西提刑。

【曾老姑】246 ソウラウコ　曾祖の姊妹をいふ。〔稱謂錄、曾祖之姊妹、曾老姑〕杜甫、送二重表姪王砅一詩、我之曾老姑、爾之高祖母。

【曾樂軒】247 ソウラクケン　宋、張維(烏程の人)(**4－9812**··18)の室名。

【曾王孫】248 ソウワウソン　清、秀水の人。字は道扶。本姓は孫。順治の進士。官は漢中司理。部曹に陞る。書室を清風堂といふ。著に清風堂集がある。〔國朝耆獻類徵、二百八〕。

【曾我耐軒】249 ソガタイケン　江戶の人。名は景章。字は子明。通稱は知章。號は耐軒・詩仙・蘭雪。明治三年九月二十日歿す、年五十五。古賀侗庵・松崎慊堂に師事し、又、昌平黌に學ぶ。官は岡崎藩儒。岡崎藩文學總括。著に五倫名義辨證。耐軒文草・耐軒詩草・幽討餘錄・蘭雪軒彝考がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【曾谷學川】250 ソタニガクセン　京都の人。名は之唯。字は應聖。一に畏聖に作る。通稱は仲助。號は學川・讀騷庵・佛齋・讀經居士・九水漁人・曼荼羅居・善空。寬政九年十月二十日、歿す。年六十。片山北海・高芙蓉に師事し、詩に巧、又、篆刻を以て顯はる。著に印語纂・印籍考・學川遺稿・學川寓筆・學川隨筆・漢篆千字文(高芙蓉輯之唯增補)・漢篆千字補遺・九水漁人遺集・古印彙・自刻印譜・詩文稿・新定地球全圖校訂・雪蕉詩話・篆林捷徑・讀騷庵印冊(一名、曾氏印冊)・讀書庵咏物詩・浪速鄉友錄・浪速人物志・曼荼羅稿・野史詠がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔大阪名家著述目錄〕。

【曾從叔祖】251 ソウジユウシユクソ　曾祖父の從兄弟。〔避暑錄〕曾從叔祖、司空道卿。

【曾曾小子】252 ソウソウセウシ　遠孫をいふ。〔稱謂錄、遠孫、曾曾小子〕說文解字敍注云、曾曾猶三俗言二層層一也、曾、重也、古者裔孫通曰二曾孫一。

【曾文正公】253 ソウブンセイコウ　清、曾國藩の諡。曾國藩(192)を見よ。

【曾文正公詩集】254 ソウブンセイコウシシフ　書名。三卷。清、曾國藩撰。此の集は曾文正公全集中のもので、乙未(道光十五年)から辛未(同治十年)に至るまでの古今體詩を、歲次の序に編成したもの。其の目は、卷一は八十五首(自乙未至壬寅)、卷二は八十首(自癸卯至乙巳)、卷三は六十七首(自丙午至戊申)、卷四は八十六首(自己酉至辛未)。

【曾文正公全集】255 ソウブンセイコウゼンシフ　書名。一百六十八卷。清、曾國藩撰。首卷は上諭三道、御製碑文、一首、神道碑を載す。其の目は、奏稿三十卷・十八家詩抄二十八卷・經史百家雜鈔二十六卷・經史百家簡編二卷・鳴原堂論文二卷・詩集四卷・文集四卷・書札三十三卷・批牘六卷・雜著四卷・求闕齋讀書錄十卷・求闕齋日記類鈔二卷・年譜十

二巻・孟子要略 五巻。

【曾文正公奏議】256（ソウブンセイコウソウギ） 書名。三十巻。清、曾國藩撰。李鴻章編次。長髮賊を平定するに當つての奏議を年月順に列ねたもの。全集本で、單行刊本は世に稀である。

【曾文正公文集】257（ソウブンセイコウブンシフ） 書名。四巻。清、曾國藩撰。門人、李鴻章編次。毎巻に其の目を掲げ、道光十八年より同治五年に至るまでの諸作を歳次に因つて編成したもの。〔清史稿、藝文志〕。

【曾文正公年譜】258（ソウブンセイコウネンプ） 書名。十二巻。黎庶昌撰。〔曾文正公全集、第六十九―七十一冊〕。

【曾歩曾歩】258′（ソフソフ） 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【曾母投杼】259（ソウボトウチョ） 曾參の母が、子の曾參が人を殺したといふ、度重なる人の言を遂に信じて、杼を投げすてて走り出した故事。立派な人も度度の讒にあふと、人に疑はれる喩。曾參殺レ人(93)を見よ。〔吳志、吳主孫權傳〕雖レ有二曾母投杼之疑一、猶冀三言者不レ信以爲二國福一。〔梁簡文帝、六根懺文〕讒言三至、曾母投レ杼、端木一說、越霸吳亡。

【曾洋和尚】260（ソウヤウヲシヤウ） 清、南豐の人。名は傳はらず。其の兩眼は綠色にして凹み禿頭なるにより、洋和尚と呼ばれる。少くして邊將に掠せられて塞上に出入し、蹻勇あり。尋いで脫れ歸る。耿精忠が事を起すや、子弟を部勒してこれを禦ぎ、三百人を以て三千人に勝つ。大吏、官を與へんとするも固辭して受けず、日に短衣草履を著け、漁釣射獵して終る。醉うて擘窠草書をなすに甚だ怪であつた。〔國朝耆獻類徵、四百四十六〕。

【曾我部容所】261（ソガベヨウショ） 阿波の人。名は元寬。字は苞卿。通稱は式部。號は容所。天明七年十二月二十三日歿す。年五十三。著に關市令義解・貴嶺問答校刊・經傳釋文序錄校刊・元行沖孝經考・古文論語集解考・集唐令・式目追加・大織冠傳・明令國字解がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【曾太皇太后】262（ソウタイクワウタイゴウ） 曾祖母で太皇太后となつた人の稱。〔容齋四筆、曾太皇太后〕唐德宗卽レ位、訪二求其母沈太后一、歷二順宗及憲宗時一、爲二曾祖母一、故稱爲二曾太皇太后一、蓋別二於祖母一也。

【曾經二同居一今異者】263（カツテドウキヨヲヘイマコトナルモノ） 不同居繼父の別稱。三父の一。はじめ母に從つて母の後夫の家に入り、同居した後、別居した場合に母の後夫を指していふ。〔文公家禮、四、三父八母〕不二同居一繼父、謂下先隨二母嫁一、繼父同居後異上。

【曾不レ知二夏之爲レ丘】264（カツテカノキウトナルヲシラズ） 立派な大きな家を建てた當時に、それが後、廢墟となるを知らない。夏は大建築。世の推移變轉するをいふ。〔楚辭、九章、哀郢〕曾不レ知二夏之爲レ丘兮、孰二兩東門之可レ蕪。〔注〕夏、大殿也、丘、墟也。

【似二曾相識燕歸來一】265（カツテサウシキエンノキライスルニニタリ） 前から知つてゐる燕が歸つてきたやうだ。實になつかしいとの意。〔晏殊、春恨詞〕無レ可三奈二何花落去一、似二曾相識燕歸來一。

【曾不レ知二路之曲直一兮】266（カツテミチノキヨクチヨクヲシラズ） 一向に我が往く道の方角もわからない。〔楚辭、九章、抽思〕曾不レ知二路之曲直一兮、南指三月與二列星一。

【替】14300

［一］テイ タイ 〔集韻〕他計切 去 ㄊㄧˋ 霽

［二］テツ テチ 〔集韻〕他結切 屑

［一］❶**すたる**。すたれる。おとろへる。普(**8―22768**)・普(**5―14312**)・朁(**5―14316**)に同じ。〔正字通〕替、衰也、說文、本作レ普、或从レ曰作レ普、俗今作レ替。〔說文〕普、廢也、一偏下也、从レ竝白聲、普、或从レ曰、朁、或从レ兟从レ曰。〔段注〕相竝而一邊庳下、則其勢必至二同下一、所謂陵夷也。〔爾雅、釋言〕替、廢也。〔廣韻〕替、廢也。〔左氏、僖、七〕君盟替矣。〔注〕替、廢也。〔楚辭、九章、懷沙〕常度未レ替。〔注〕替、廢也。❷**やめる**。さる。のぞく。すてる。〔詩、小雅、楚茨〕勿レ替引レ之。〔傳〕替、廢也。〔書、旅獒〕無レ替二厥服一。〔傳〕無レ廢二其職一。〔國語、晉語九〕薦レ可而替レ不。〔注〕替、去也。❸**ほろびる**。ほろぼす。〔爾雅、釋言〕替、滅也。〔廣韻〕替、滅也。〔國語、晉語三〕君之冢嗣其替乎。〔注〕替、滅也。❹**おこたる**。〔漢書、五行志中上〕卑俯、替也。〔注〕師古曰、替、廢惰也。❺**ほどこす**。およぶ。逮(**11―38931**)に通ず。〔說文通訓定聲〕替、叚借爲レ逮。〔廣雅、釋詁一〕替、往也。〔太玄經、永〕不レ替不レ爽。〔注〕替、施也。❻**かへる**。〔廣韻〕替、代也。〔字彙〕替、代也。〔蘇軾、跋二漁夫詞一文〕以二山光水色一替二其玉肌花貌一。❼**まつ**。〔爾雅、釋詁〕替、待也。❽**姓**。〔萬姓統譜〕替、見二姓苑一。［二］**ゆるむ**。〔集韻〕替、弛也。〔潘岳、西征賦〕人之升降、隨レ政隆替。

【替懈】1（テイカイ） やめおこたる。〔北夢瑣言、八〕夫世之干レ祿、先資二名第一、既得レ之後、鮮レ不二替懈一。

【替己】2 tʻi⁴ chi³ 娘を嫁すとき、其の父母が嫁入道具中にひそかに入れて置く金銀財寶をいふ。又、すべて內證の金をいふ。

【替壞】3（タイクワイ） 衰へ敗る。〔白居易、新樂府、立部伎〕雅音替壞一至レ此、長令三爾輩調二宮徵一。

【替換】4（タイクワン） かふ。かはる。交代する。又、かはり。かけがへ。代換。改換。〔楊萬里、立春檢二校牡丹一詩〕新舊年頭將二替換一、去留花眼費二商量一。〔冊府元龜〕太和七年八月制、方鎭刺史、三考已下者、不レ得三輒議二替換一。

【替還】5 tʻi⁴ huan² ❶かへす。もどす。❷立替る。

【替工】6 tʻi⁴ kung¹ ❶替はつて仕事をする。❷代理職工。

【替士】7（タイシ） 死神に誘はれて橫死した人。替托(16)に同じ。

【替死】8（タイシ） 人の死にかはる。代死(**1―886··48**)に同じ。〔通俗編、境遇、代死〕按、俚俗亦謂二之替死一、唐孔璋有下請レ替二李邕死一表上。

【替手】9 tʻi⁴ shou³ 交替する人。てがはり。職人などの代人。

【替身】10（タイシン） ❶身代り。替身兒を見よ。❷ tʻi⁴ shen¹ 替托(16)に同じ。

【替身兒】11 tʻi⁴ shen¹ êrh 身代り。〔紅樓夢、二十九回〕榮國府國公的替身。

【替人】12（タイジン） 代りの人。代人。〔唐書、文藝上、杜審言傳〕審言病甚、宋之問・武平一等省二候何如一、答曰、甚爲二造化小兒相苦一、然吾在、久壓二公等一、今且レ死、固大慰、但恨不レ見二替人一云。〔張籍、贈二劉禹錫一詩〕來作二客曹一相替人。

【替僧】13（タイソウ） 明代、凡て皇太子・諸王が生れたときは、幼童一人を剃髮して僧とし、これを替僧といつた。神宗の替僧は名は志善である。〔稱謂錄、僧、替僧〕張爾岐、蒿菴閒話云、明朝凡皇太子諸王生、率剃二度幼童一人一爲レ僧、名曰二替僧一、神宗皇帝替僧名志善、見二張江陵集一。

【替代】14（タイダイ） ❶かはる。代理す。交代す。代替。〔舊唐書、懿宗紀〕待二嶺外事寧之後一、卽與替代歸還。❷身代り。〔通俗編、神鬼、替代〕閒窗括異志、載荊南都頭李遇病困、魂至二陰司一、方與二一相識先死者一語、忽又一人曰三追二到李遇一、遇遂蘇、身下臥二一畫人一、號爲二替代一、然則替代之來久矣。

【替代物】15（タイダイブツ） 同種類の物品で、交代させることが出來る物。法律上の名。特定物の對。

【替托】16 tʻi⁴ tʻuo¹ 死神に誘はれて橫死した人。

【替唄】17（カヘウタ） 元からある歌の調子に他の歌詞をあてはめたもの。

【替辦】18 tʻi⁴ pan⁴ 代つて取りさばく。

【替補】19（タイホ） 兵役に出るべき丁年者が軟弱殘疾等の場合、他の丁年者で代補させること。〔元典章、兵部、替補〕。

【替漏】20（タイロウ） すきま。缺漏。〔魏志、文帝紀注〕堯捐二骨肉一而禪二有虞一、終無二恡色一、舜發二隴畝一而君二天下一、若三固有二之、其相受授、閒不二替漏一、天下已傳矣、所下以急二天命一、天下不上可二一日無レ君也。

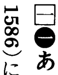
【替戾岡】21（タイレイカウ） 羯語、出る義。後趙の石勒が劉曜を攻めようとして佛圖澄を訪ねた時、澄が秀支替戾岡、僕谷劬禿當といつた。〔晉書、佛圖澄傳〕（石勒將レ攻二劉曜一）以訪レ澄、澄曰、相輪鈴音

云、秀支替戾岡、僕谷劬禿當、此羯語也、秀支、軍也、替戾岡、出也、僕谷、劉曜胡位也、劬禿當、捉也、此言三軍出捉二得曜一也。

【替夫報仇】22（タイフハウキウ） 西皮劇の一種。紅霓關の別名。

【替里尼亞】23（チレニヤ） 海の名。地中海の一部。イタリヤ半島の西にある。Tyrrhenianの音譯。

【最】14301


小篆

㊀サイ 〔集韻〕祖外切 泰　ㄗㄨㄟˋ tsuei⁴
㊁サツ サチ 〔集韻〕粗括切 曷

㊀❶**あつまる。あつめる。**冣(2−1586)に誤り通ず。〔說文通訓定聲〕最、叚借爲二冣之誤字一。〔說文、冣、段注〕玉篇云、最、齊也、聚也、子會切、是以二冣之義一爲二最之義一、而廣韻十四泰云、最、極也、祖外切、是亦冣之義、誤以爲二最之義一也。〔小爾雅、廣詁〕最、叢也。〔公羊、隱、元〕會猶レ最也。〔注〕最、聚也。〔莊子、德充符〕物何爲最レ之哉。〔釋文〕司馬云、最、聚也。〔管子、禁藏〕最二萬物一。〔注〕最、聚也。❷**かなめ。**大事なこと。〔小爾雅、廣詁〕最、要也。〔尙書中候〕乃拜稽首受レ最。〔注〕最、要言也。❸**しめくくり。**〔漢書、嚴助傳〕願奉二三年計最一。〔注〕師古曰、最、凡要也。❹**すぐれる。**よい。第一。首功。〔正字通〕最、尤也、勝也、軍功有二殿最一、云云、最者、凡要之首課、居レ先也、又官吏報レ政、上考亦曰レ最。〔史記、絳侯周勃世家、擊二章邯車騎一殿、注〕集解曰、孫檢曰、一說、上功曰レ最。〔史記、絳侯周勃世家〕攻二槐里好畤一最。〔注〕集解曰、如淳曰、於二將率之中一功爲レ最。〔漢書、樊噲傳〕灌二廢邱一最。〔注〕張晏曰、最、功第一也。〔陸機、文賦〕考二殿最於錙銖一。〔注〕善曰、漢書音義曰、下功曰レ殿、上功曰レ最。❺**つとめ。**適任。〔唐六典、尙書、吏部、考功郎中〕凡考課之法、四善之外、有二二十七最一、一曰、獻レ可替レ否、拾レ遺補レ闕、爲二近侍之最一。❻**もつとも。**一番。〔廣韻〕最、極也。〔史記、項羽紀〕秦滅二六國一、楚最無レ罪。❼**すべる。**すべて。〔史記、絳侯周勃世家〕最從二高帝一。〔注〕索隱曰、最、都凡也、謂下總中擧其從二高祖一攻戰克獲之數上也。〔史記、衞將軍驃騎傳〕最、大將軍青、凡七出擊二匈奴一。❽**ととのふ。**〔玉篇〕最、齊也。〔唐書、封常清傳〕形勢謀略、條最明審。❾**たえる。**〔說文通訓定聲〕最、叚借爲レ絕。〔管子、水地〕秦之水泔最而稽。〔注〕最、絕也。❿**をかしとる。**〔說文〕最、犯取也、从二冃取一。〔段注〕冣之字訓レ積、最之字訓二犯取一、二字義殊而音亦殊。⓫俗に冣に作る。〔集韻〕最、俗作レ冣。⓬**姓。**〔萬姓統譜〕最、見二姓苑一。㊁**とる。つまむ。**撮(5−12748)に通ず。〔莊子、秋水〕鵂鶹夜撮レ蚤、釋文〕撮、崔本作レ最。

名乘 ヨシ。イロ。

解字 最は最(2−1597)の俗體。最は會意。もと冃と取との合字。冃は冒、物を蒙りて前進する、卽ち向ふ見ずに犯してすすむ義。それに取を加へて、犯し取るの義とする。あつまるの義に用ふるは冣字との誤用である。〔說文、最、段注〕鍇曰、犯而取也、按、犯而取、猶二冡而前一、冣之字訓レ積、最之字訓二犯取一、二字義殊而音亦殊。

【最愛】1（サイアイ） ❶いちばんに寵愛すること。最も大切にすること。〔漢書、鄧通傳〕上不レ樂、從容問曰、天下誰最愛レ我者乎。❷夫婦の閒柄。〔愚管抄、五〕最愛の中になりて師家といふ子生みて、云云。

【最尤】2（サイイウ） 最もすぐれたもの。〔唐書、趙憬傳〕令下內庶僚外刺史、課二最尤者一、擢以中不次上。

【最優】3（サイイウ） 最もまさつてゐること。〔南史、齊武陵昭王曄傳〕與二諸王一共作二短句詩一、學二謝靈運體一、以呈二高帝一、帝報曰、見二汝二十字一、諸兒作中最爲レ優者。〔宋史、劉滬傳論〕滬水洛之戰、從容退レ師、滬之才略、其最優者歟。

【最要】4（サイエウ） 最も肝要なること。

〖最要缺〗5（サイエウケツ） 官吏の缺員中、最も急に補充を必要とするものの稱。事務繁多で治め難い地方の官職。〔淸國行政法汎論、地方官廳、地方缺種類〕地方官中、道府以下、均因二土地狀況、事務繁簡一、官缺自有二差等一、曰最要缺、曰要缺、曰中缺、曰簡缺、是也。

【最下】6（サイカ） もつともした。最も劣ること。最上(34)の反對。

【最佳】7（サイカ） 最もよい。〔書林淸話、書節鈔本之始〕癸辛雜識云、廖羣玉九經本最佳。

【最好】8（サイカウ） もつともよい。〔韓偓、三月詩〕四時最好是三月、一去不レ迴唯少年。

【最幸】9（サイカウ） もつとも寵愛する。最愛(1)に同じ。〔唐書、隱太子傳〕帝晚多二內寵一、張婕妤尹德妃最幸。

【最高】10（サイカウ） 最も高い。位置又は程度の最も高いこと。〔柳宗元、構二法華寺西亭一詩〕步登最高寺、蕭散任二疎頑一。〔杜牧、襄陽雪夜感懷詩〕明朝楚山上、莫レ上二最高層一。

〖最高善〗11（サイカウゼン） 人生行爲の最高な目的。至善。

〖最高潮〗12（サイカウテウ） クライマックス。頂點。

〖最高峯〗13（サイカウホウ） 一番高いみね。〔邵長蘅、夜游二孤山一記〕明月上二東南最高峯一。

〖最高學府〗14（サイカウガクフ） 最高程度の學校。大學の異稱。

〖最高法院〗15（サイカウハフヰン） 中華民國、最高の審判機關。もと、大理院と稱す。日本の最高裁判所にあたる。

〖最高顧問府〗16（サイカウコモンフ） 天皇の御諮詢に答へる最高機關。もとの樞密院。又、元帥府の稱。

〖最高寒暖計〗17（サイカウカンダンケイ） 或る時閒內で最高の溫度を示す寒暖計。

〖最高裁判所〗17′（サイカウサイバンショ） 司法機關として直接憲法で認められた最高の國家機關。法令の審查權を持つ終審裁判所。上告及び違憲を理由とする特別の抗告事件について裁判權を有する。東京都に置く。

【最寄】18（モヨリ） 近きあたり。近きほとり。近傍。近在。最中による意。

【最宜】19（サイギ） 最もよろしい。〔道潛、龍井書レ事詩〕長夏投踪此最宜。

【最久】20（サイキウ） 最も久しい。〔漢書、王商史丹傳贊〕其勢尤盛、曠貴最久。

【最鉅】21（サイキョ） もつとも大きい。最大。〔韓愈、南海神廟碑〕海於二天地閒一、爲レ物最鉅。

【最近】22（サイキン） ❶最も近い。❷近ごろ。このごろ。

【最課】23（サイクワ） 第一等の成績。〔王磐、巨源相過詩〕我依二破硯一竊二恩榮一、君佐二雄藩一收二最課一。

【最啓】24（サイケイ） 敵陣を陷れて最も先に入ること。〔商子、境內〕先レ已者、當レ爲二最啓一、後レ已者、訾爲二最殿一。

【最賢】25（サイケン） 最もかしこい。〔莊子、天下〕惠施之口談、自以爲二最賢一。〔史記、滑稽傳〕三子之才能、誰最賢哉。

【最後】26（サイゴ） ❶いちばんあと。事物の終り。最終。〔漢書、張禹傳〕最後出而尊貴。❷命の終る時。死にぎは。最期(29)の❷に同じ。〔太平記、二十一〕抑最後の一念に依て。

〖最後通牒〗27（サイゴツウテフ） 國際文書の一。外交談判が不調に終らうとする場合、自後の最後的要求を相手國に提出して、一定期閒內に其の無條件受諾を要求するもの。

〖最後之鵠〗28 tsuei⁴ hou⁴ chih¹ ku³ 最後の目標。

【最期】29（サイゴ） ❶最後の時。をはり。はて。〔平治物語、三條殿發向〕。❷命の終る時。いまはのきは。まつご。臨終。〔狹衣、三上〕この尼君の最期に逢ひ侍らむずれば。

〖最期屁〗30（サイゴベ） 鼬（イタチ）が迫窮せられて苦しまぎれに最後に放つ惡臭。〔川柳〕三國一の最後屁は那須野なり。

【最工】31（サイコウ） 最もたくみなこと。〔唐書、席豫傳〕帝嘗登二朝元閣一、賦レ詩、羣臣屬和、帝以二豫詩一爲二最工一。

【最功】32（サイコウ） 第一のてがら。上功。〔韓愈、司徒

兼云云許國公神道碑銘〕最功定レ次、孰與高下。

【最早】33 モハヤ　いまは。もう。かくなる上は。とても。〔狂言記、水論壻〕これはこれは、最早堪忍がならぬぞ。

【最上】34 サイジヤウ　㊀もつともうへ。最もすぐれたこと。この上ないこと。〔唐書、劉蕡傳〕嚴尤所レ陳、無二最上之策一。〔唐國史補〕蘇州進レ藕、其最上者、名曰二傷荷藕一、或云、葉甘爲レ蟲所レ傷。㊁ モガミ　姓氏。又、地名。

【最上乘】35 サイジヤウジヨウ　佛最上至極の教法。〔柳宗元、永州龍興寺修二淨土院一記〕上人者、修二最上乘一、解二第一義一。〔白居易、答下孟簡蕭俛等賀二御製新譯大乘本生心地觀經序一狀上〕大仙經典、最上法乘。〔滄浪詩話〕學者須下從二最上乘一、具二正法眼一、悟中第一義上。

【最上層】36 サイジヤウソウ　最も上の段。最も上の部分。〔趙渢、晚宿二山寺一詩〕松門明月佛前燈、菴在二孤雲最上層一。

【最上鶯谷】37 モガミアウコク　出羽の人。名は定矩。字は士規。通稱は德內。號は鶯谷・甑山。天保七年九月五日歿す。年八十三。本田利明に師事し、天文・測量・航海術を學ぶ。官は幕府御普請役元締格・箱館奉行支配役、並びに御簾中御廣間添番。蝦夷地探險家。音韻學に精通す。贈正五位。著に蝦夷草紙・押韻策・孝經古今文異同考・孝經白天章・加減代乘除表・經驗錄・數談・赤人問答・度量衡說統・八線眞數表・八線對數表・北陲祇役志・北陲隨筆・松前史略・藻鹽草・論語彝訓がある。〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄後篇〕。

【最終】38 サイシユウ　をはり。一番しまひ。

【最初】39 サイシヨ　いちばんのはじめ。しよて。最始。又、はじめ。以前。〔順正理論〕壞必最初。

【最勝】40 サイシヨウ　最も勝れてゐること。一番まさつてゐること。〔榮華物語、玉臺〕光明最勝にして、第一無比なり。

【最勝講】41 サイスコ　㊀佛 サイシヨウコウ　古、毎年五月、禁中、清涼殿にて行はれた法會。東大寺・興福寺・延曆寺・園城寺の高僧を召して最勝王經を講ぜしめ、天下太平を祈らせられた。〔源平盛衰記、三、澄憲祈レ雨事〕清涼殿にして恒例の最勝講、始め行はる。㊁ サイスコ　能登國の地名。

【最勝尊】42 サイシヨウソン　佛佛をいふ。佛は尊中の最勝至極であるからいふ。〔無量壽經、上〕願我功慧力、等二此最勝尊一。

【最勝海浦】43 ニナメウラ　豐後國の地名。

【最勝河原】44 サイシヨウガハラ　京都三條の西にあつた火葬場。〔雍州府志、古蹟門、上〕最勝河原、在二三條西封疆之外一、良賤火葬之場也、相傳、古最勝寺在二斯處一、今按、誤二三條河原一者乎、倭俗葬場謂二三昧一、自レ古有二綸旨及御教書下知狀一、職事勤レ之。

【最新】45 サイシン　極めて新しいこと。

【最新式】46 サイシンシキ　一番新らしい型。

【最盛】47 サイセイ　もつともさかんなこと。〔史記、蕭相國世家〕高祖以二蕭何功最盛一、封爲二酇侯一。〔後漢書、賈復傳〕尙和帝女臨潁長公主、時鄧太后臨レ朝、光寵最盛。

【最小】48 サイセウ　もつともちひさいこと。〔新序、節士〕延陵季子者、吳王之子也、嫡同母昆弟四人、長曰レ遏、次曰二餘祭一、次曰二夷昧一、次曰レ札、札卽季子、最小而賢。

【最小公倍數】49 サイセウコウバイスウ　與へられた二つ或は二つ以上の數で整除し得る最小の數を、與へられたる數の最小公倍數といふ。

【最少】50 サイセウ　㊀もつともすくない。㊁もつともわかい。

【最先】51 サイセン　一ばんさき。最もさき。最前。〔漢書、循吏、王成傳〕王成爲二膠東相一、治甚有レ聲、宣帝最先褒レ之。〔淮南子、詮言訓〕馳者不レ貪二最先一、不レ恐二獨後一。

【最前】52 サイゼン　さきに。まへかた。先刻。又、一番まへ。まつさき。先頭。〔謠曲、壇風〕最前の客僧は、何處にわたり候ぞ。

【最善】53 サイゼン　最も善い。一番適當なこと。〔北史、李先傳〕帝問レ先、何者最善可三以益二人神智一。

【最善觀】54 サイゼンクワン　神を全智全能のものと見た所說。

【最尊】55 サイソン　最もたふとい。又、最もたふとぶ。〔書、舜典、肆類二于上帝一、釋文〕馬云、上帝太乙神、在二紫微宮一、天之最尊者。〔左氏、襄、四、疏〕肆夏爲二樂章一、樂之最尊者、兩君相見、尙不レ得レ用レ之。〔春秋繁露、郊義〕天者、百神之君也、王者之所二最尊一也。

【最多】56 サイタ　もつともおほい。〔南史、何思澄傳〕東海三何、子朗最多。

【最大】57 サイダイ　もつともおほきい。最鉅。〔漢書、西南夷傳〕南夷君長以レ十數、夜郞最大。〔後漢書、成武孝侯順傳〕邑戶最大、租入倍二宗室諸家一。

【最大幸福】58 サイダイカウフク　個人・社會の人類生活で、苦樂を差引き殘つた幸福の最大の量。

【最大公約數】59 サイダイコウヤクスウ　與へられた二つ又は二つ以上の數を整除し得る最大の數を、與へられたる數の最大公約數といふ。

【最中】60 サイチユウ　㊀まんなか。もなか。ただなか。正中。〔月離曆指〕黃道左右廣十二度、名爲二黃道帶一、而太陽獨行二其最中一、故名二中線一也。㊁ モナカ　㋑さなか。まさかり。たけなは。㋺最中月に似た菓子の名。

【最中月】61 モナカヅキ　陰曆十五夜の月。

【最澄】62 サイチヨウ　姓は三津首氏。幼名は廣野。諡は傳教大師。延曆四年、叡山に草庵を結び、法華玄義を讀誦し、同七年、一乘止觀院を建つ。二十三年、入唐し、翌年歸り、次いで天台法華宗の公認を得。弘仁十三年六月、遺戒を垂れて示寂す。年五十六。我が國天台宗の祖。著に顯戒論・顯戒論緣起・山家學生式・天台宗本訣鈔・法華心要・因明論等がある。

【最低】63 サイテイ　位置・程度等の最も低いこと。最高(10)の對。

【最低寒暖計】64 サイテイカンダンケイ　或る時間內で最低の溫度を示す寒暖計。

【最殿】65 サイデン　㊀成績の等差をいふ。上功を最といひ下功を殿といふ。〔後漢書、百官志、注〕上功曰レ最、下功曰レ殿。㊁最も後れて入つた者。しんがり。〔商子、境內〕先レ已者、當レ爲二最啓一、後レ已者、訾爲二最殿一。〔注〕入、謂二陷レ陣而入一也、最、殿最之殿也。

【最怕】66 tsuei⁴ p'a⁴　最も恐るべき。

【最美】67 サイビ　一番美しいこと。

【最微】68 サイビ　甚だすこし。かすか。

【最品】69 サイヒン　最もすぐれたもの。〔謝偃、高松賦〕信神經而最品、實祕錄而精選。

【最敏】70 サイビン　すぐれてさとい。〔鹽谷宕陰、送二安井仲平東遊一序〕古人云、性敏者、多不レ好レ學、仲平以二最敏之質一、嗜レ學甚二於飮食一。

【最峯】71 サイホウ　淸、蔣和(**9**－31820‥107)の號。

【最凡】72 サイボン　簿書のすべての結び場。總目。〔周禮、天官、司會〕凡在二書契版圖一者之貳、〔注〕書、謂二簿書一、契、其最凡也。〔疏〕最凡、謂三計要之多少以爲二契要一。〔孫詒讓正義〕最凡、與二最目一義同。

【最末】73 サイマツ　最もすゑ。をはり。最後。〔東鑑、一〕治承四年十一月十二日、以下供奉、畠山次郞重忠候二最末一。

【最明】74 サイミヤウ　佛最も明かなもの。〔四十二章經〕何者最明、心垢滅盡、淨無二瑕穢一、是爲二最明一。

【最明寺】75 サイミヤウジ　㊀北條時賴が鎌倉建長寺山內に建立した禪宗の寺。㊁北條時賴が最明寺に隱棲したので時賴をいふ。

【最目】76 サイモク　書物が出來上つて、其の旨をしめくくりして目錄とすること。古は多く書物の後に附した。說文解字敍の類がこれである。〔周禮、天官、小宰、聽二取予一以二書契一、注〕凡簿書之最目、獄訟之要辭皆曰レ契。〔孫詒讓正義〕最、冣之借字、最目、猶二凡目總目一、司會注、書、謂二簿書一、契、其最凡也、方言、劉歆與二揚雄一書云、欲三頗得二其最目一、是最目漢人常語。

【最樂】77 サイラク　最もたのしいこと。

【最樂堂】78 サイラクダウ　淸、喬光烈(**2**－3990‥70)の室名。

【最吏】79 サイリ　官吏の成績の最も優れたもの。〔唐書、陽嶠傳〕時議建二都督府一、擇二最吏一、故嶠爲二涇州都督一。

【最靈】80 サイレイ　最も不可思議なこと。〔漢書、刑法志〕夫人宵二天地之貌一、懷二五常之性一、聰明精粹、有二生之最靈一者也。〔權德輿、書レ紳詩〕和靜有二眞質一、斯人稱二最靈一。

【最惠國】81 サイケイコク　國際上、或る國が通商等に關して、もつとも利益ある條件を附與した國。

【最惠國條欵】82 サイケイコクデウクワン　最惠國に對する條約の條項。

【最敬禮】83 サイケイレイ　もつとも鄭重な敬禮法。直立

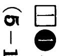
不動の勢をとり、脫帽し、手を膝の下までたれ、うやうやしく腰を屈する禮式。

【最大殿】84サイダイデン　大極殿の一名。〔拾芥抄、中、末、宮城部〕大極殿、云云、又南之最大殿。〔大內裏圖考證、三上〕大極殿、大極一作二最大殿一、左經記作二大殿一。

【最御崎寺】85ホツミサキデラ　土佐國安藝郡室戸崎の上方にある眞言宗の寺。

【朁】14302

🈩サン　〔集韻〕七感切　感
🈔セン ゼン　〔集韻〕慈鹽切　鹽
🈪セン　〔集韻〕子念切　豔


小篆

🈩❶かつて。すなはち。乃ち。曾（5－14299）に同じ。〔說文〕朁、曾也、从レ曰兓聲、詩曰、朁不レ畏レ明。〔段注〕曾之言、乃也。〔玉篇〕朁、發語辭也。❷憯（4－11260）・噆（2－4296）・慘（4－11094）に通ず。〔經傳釋詞、八〕朁、說文、朁、曾也、引二詩朁不レ畏レ明、字或作二憯・噆一、又作レ慘、爾雅、憯、曾也、郭注曰、發語辭、詩、節南山曰、憯莫レ懲嗟、毛傳曰、憯、曾也、釋文作レ噆、十月之交曰、胡憯莫レ懲、釋文、憯、亦作レ慘、云云、曾・朁、皆詞也、故其字竝從レ曰、或言レ曾、或言レ朁、語之轉耳。〔詩、大雅、民勞〕憯不レ畏レ明。〔箋〕憯、曾也。🈔於朁は縣名。今の浙江省於潛縣。〔集韻〕朁、於朁、縣名、在二丹陽一。🈪かりる。たがふ。僭（1－1111）の古字。〔集韻〕僭、說文、假也、古作レ朁。〔漢書、王子矦表序〕或朁差レ失レ軌。〔注〕師古曰、朁、古僭字也。

【曺】14303

サウ　曹（5－14297）に同じ。〔字彙補〕曺、同レ曹。

【蛗】14304

キ　簋（8－26448）に同じ。〔字彙補〕蛗、與レ簋同。

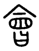
【會】14305

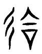
クワイ　會（5－14306）の俗字。〔正字通〕會、俗从レ冒誤。

九畫

【會】14306

🈩クワイ エ　〔集韻〕黃外切　ㄏㄨㄟˇˋ　huei$^{3\cdot4}$　泰
🈔クワツ クワチ　〔集韻〕古活切　ㄎㄨㄞˋ　k‘uai^{4}　曷


小篆


古文

🈩❶ふた。〔說文〕會、合也、从二亼曾省一、曾、益也。〔段注〕禮經、器之蓋曰レ會。〔儀禮、士虞禮〕命二佐食一啓レ會。〔注〕會、合也。〔儀禮、士喪禮〕敦啓レ會。〔注〕會、蓋也。❷あふ。㋑であふ。ゆきあふ。〔爾雅、釋詁〕會、合也。〔書、禹貢〕灉沮會同。〔疏〕謂二二水會合而同入一。〔素問、五運行大論〕左右周レ天、餘而復會也。〔注〕會、遇也。〔後漢書、馮夷傳〕千載一會。〔謝惠連、雪賦〕傷二後會之無レ因。㋺かなふ。ひとつになる。一致する。合致。契合。〔梁昭明太子、答三相東王求二文集及詩苑英華一書〕殊與レ意會。〔陶弘景、與二武帝一啓〕手隨レ意運、筆與レ手會。〔何承天、上二曆新法一表〕其疏密差會、皆可レ知也。❸あつまる。〔廣雅、釋詁三〕會、聚也。〔穆員、觀世音讚序〕善積福會。❹あはせる。あつめる。〔周禮、天官、宮正〕會二其什伍一。〔書、洪範〕會二其有レ極。〔疏〕會、謂二集會一。〔漢書、蘇武傳〕單于召二會武官屬一。〔注〕師古曰、會、謂二集聚一也。❺つどひ。あつまり。㋑衆人が一所に集合して事を施行する。〔禮、檀弓下〕周人作レ會而民始疑。〔注〕會、謂レ盟也。〔左氏、宣、七〕凡師出、與謀曰レ及、不二與謀一曰レ會。〔公羊、隱、元〕會及暨、皆與也、云云、會、猶レ最也。〔注〕最、聚也。㋺諸侯が時を期して天子に接見する。〔詩、小雅、車攻〕會同有レ繹。〔傳〕時見曰レ會。〔論語、先進〕如會同。〔集解〕諸侯時見曰レ會。㋩人々のあつまり。〔史記、高祖紀〕置酒高會。㋥くみ。むれ。〔晉書、嵆阮劉華傳論〕嵆阮竹林之會、劉華芳樽之友。❻みやこ。〔王勃、九成宮頌序〕名都廣會、閭閻摩室。❼であひ。物の交集する箇所。〔方言、十〕湘沅之會。〔注〕會、雨水合處也。〔詩、鄭風、淇澳〕會弁如レ星。〔箋〕會、謂二弁之縫中一。〔禮、雜記下〕會去レ上五寸。〔注〕會、謂二韠之領縫一也。❽しめ。くくり。てらしあはせ。一年のしめくくり。〔周禮、天官、大宰〕歲終則令下百官府各正二其治一受中其會上。〔注〕會、大計也。〔周禮、天官、小宰〕聽二出入以要會一。〔注〕謂二計最之簿書一、月計曰レ要、歲計曰レ會。❾しめる。てらしあはす。〔周禮、天官、外府〕凡邦之小用、皆受焉、歲終則會。❿かなめ。要所。〔晉書、東海王越傳〕端二坐京輦一失二據會一。⓫とき。をり。際遇。機會。〔禮、哀公問〕不レ廢二其會節一。〔疏〕會、猶レ期也。〔管子、問〕出二入死生之會一。〔後漢書、周章傳〕將レ從二反常之事一、必資二非常之會一。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕此乃忠臣肝腦塗レ地之秋、烈士立レ功之會。⓬ひとまはり。周回。〔禮、月令、注〕聖王因二其會一而分レ之。〔疏〕一會、卽一辰也。〔太玄經、玄圖〕章會統元。〔注〕會者、日月交會一終也。⓭めぐりあはせ。百六年を會とする。〔後漢書、董卓傳〕百六有レ會、過レ剝成レ災。〔注〕百六歲有二阻厄一。〔蔡邕、和熹鄧皇后諡議〕康二百六之會一、消二無妄之運一。⓮一萬八百年。曆術の語。〔皇極經世書〕三十年爲二一世一、十二世爲二一運一、三十運爲二一會一、十二會爲二一元一。⓯いたる。〔廣雅、釋詁一〕會、至也。⓰むかふ。〔爾雅、釋詁〕會、對也。⓱なす。〔周禮、天官、食醫〕凡會二膳食之宜一。〔注〕會、成也。⓲さとる。理解する。〔隋煬帝、重與二智者一請レ議書〕智者融會。〔任昉、王文憲集序〕毛玠之淸公、李重之識會。〔注〕翰曰、識會、謂二識鑑一也。⓳たまたま。〔史記、司馬遷傳〕會東從レ上來。〔漢書、蘇武傳〕會武等至二匈奴一。⓴かならず。〔顏氏家訓、勉學〕人生在レ世、會當レ有レ業。〔李白、清平調〕若非二羣玉山頭見一、會向二瑤臺月下一逢。㉑てがた。紙幣。會子。〔文獻通考、錢幣考〕嘉定二年、云云、以二舊會之二一換二新會之一一。㉒四達の道。〔王勃、四分律宗紀序〕價隆二康會一、譽重二摩騰一。〔鮑照、舞鶴賦〕指レ會規レ翔。㉓水が逆流する。〔書、禹貢〕會二于渭汭一。〔傳〕逆流曰レ會。㉔うらなひ。夢あはせの類。〔周禮、春官、占夢、占二六夢之吉凶一、注〕以二日月星辰一占夢者、其術則今八會其遺像也。〔疏〕按、堪輿、大會有レ八、小會亦有レ八。㉕いろどり。ゑ。繪（8－27939）に通ず。〔書、益稷〕日月星辰山龍華蟲爲レ會。〔傳〕會、五采也。〔釋文〕會、馬鄭作レ繪。㉖はた。旝（5－13706）に通

ず。〔說文通訓定聲〕會、叚借爲ㇾ旝。〔詩、大雅、大明〕其會如ㇾ林。〔說文〕詩曰、其旝如ㇾ林。㉗はじめ。甲(7—21725)に通ず。會朝(183)の❸を見よ。㉘能ふ。能くする。出來る。〔池北偶談〕炙輠錄、仁宗皇帝百事不ㇾ會、只會ㇾ做㆓官家㆒。〔新方言、釋言〕今謂㆓不能㆒曰㆓不魏㆒、聲小變如ㇾ會、通以㆓會字㆒爲ㇾ之。〔論語集注、序說〕程子曰、今人不ㇾ會ㇾ讀ㇾ書。㉙古、佮(4—10084)に作る。〔集韻〕會、古作ㇾ佮。㉚姓。〔正字通〕會、姓、漢武陽令會栩。㉛[現]㋑能ふ。出來る。㋺當に云云すべし。㊇筈はないのに。しかも。[二]❶びんかき。かんざし。⿰骨會(12—45285)に通ず。〔說文通訓定聲〕會、叚借爲ㇾ⿰骨會。❷もとどり。鬠(12—45597)に通ず。〔正字通〕會、髻也、與ㇾ鬠通。〔莊子、人閒世、釋文〕司馬云、會撮、髻也。

[名乘] ハル。アフ。アヒ。モチ。サダ。カズ。

[解字] 會意。もと亼と曾の省畫罒との合字。亼は三合、卽ちあつまる義、曾は增の假借、故に增加の義。故にこの二義を合して集合の義に用ひ、更につどひ等の義とする。然して器のふたを會といふのは上下が相合する義からいふ。〔說文、會、段注〕見㆓釋詁㆒、禮經、器之葢曰ㇾ會、爲㆓其上下相合㆒也、凡曰㆓會計㆒者、謂㆔合㆓計之㆒也、皆非㆓異義㆒也、三合而增ㇾ之、會意、云云、土部曰、增、益也、是則曾者、增之假借字。▽ （金文）象形。こしきに蓋をした形に象り、あふ意を表はす。

【會意】1（クワイイ）❶漢字構造法の名。六書の一。字と字とをあはせて一つの新しい字とするもの。人言を信とし止戈を武とする類。一に象意といふ。六書(2—1453・・331)の❶を見よ。〔周禮、地官、保氏、注〕六書、象形・會意・轉注・處事・假借・諧聲也。〔疏〕會意者、武・信之類、是也。人言爲ㇾ信、止戈爲ㇾ武、會㆓合人意㆒、故云㆓會意㆒。〔許愼、說文解字序〕四曰、會意、會意者、比類合誼、以見㆓指撝㆒、武・信是也。〔段注〕劉歆・班固・鄭衆皆曰、會意、會者、合也、合㆓二體之意㆒也、一體不ㇾ足㆔以見㆓其義㆒、故必合㆓二體之意㆒、以成ㇾ字。〔王筠句讀〕合誼卽會意之正解、說文用ㇾ誼、今人用ㇾ義、會意者、合㆓二字三字之義㆒、以成㆓一字之義㆒、不㆘作㆓會悟㆒解㆖也。〔那珂通世、支那通史〕合㆓二字㆒、并㆓取其義㆒、以表㆓新義㆒、謂㆓之會意㆒、如㆓日月爲ㇾ明、口鳥爲ㇾ鳴是也。❷心にかなふ。氣に合ふ。意に適する。又、其のこと。得意。納得。會心。〔晉書、陶潛傳〕好讀ㇾ書、不ㇾ求㆓甚解㆒、每ㇾ有㆓會意㆒、欣然忘ㇾ食。

【會意文字】2（クワイイモンジ）文字形成の一。一定の意義あるものを結合して新に意義ある文字としたもの。人と言とを合せて信と爲す類。

【會肄】3（クワイイ）あつまり習ふ。〔史記、淮南王傳〕與㆘諸侯王列侯會㆓肄丞相㆒諸侯㆖議。〔注〕索隱曰、案、肄、習也。

【會位】4（クワイヰ）諸侯が會合する時の列位。〔左氏、僖、七〕記㆓姦之位㆒。〔注〕位、會位也。

【會友】5（クワイイウ）❶同志の友を集める。〔論語、顏淵〕曾子曰、君子以ㇾ文會ㇾ友、以ㇾ友輔ㇾ仁。〔姚系、秋夕會友詩〕會遇更何時。❷會の仲間。會員。

【會陰】6（エイン）陰部と肛門との閒。ありのとわたり。蟻門渡。海底。〔節用集、五〕屎、會陰同。

【會飮】7（クワイイン）よりあつて酒をのむ。〔史記、廉頗藺相如傳〕秦御史前書曰、某年月日、秦王與㆓趙王㆒會飮、令㆓趙王鼓ㇾ瑟。〔雲笈七籤〕顏眞卿爲㆓湖州刺史㆒、與㆓門客㆒會飮。

【會隱】8（クワイイン）唐の高僧。玄奘の弟子。麟德中、玄則等と禪林要鈔を撰す。〔宋高僧傳、四〕。

【會員】9（クワイヰン）會を組織する人。會に加入する人。

【會要】10（クワイエウ）❶書名。一代の制度や其の損益沿革を部門を分けて記したもの。唐の蘇冕が始めて高祖から德宗に至るまで唐九朝の會要を撰してから、楊紹復等又德宗から宣宗に至るまでの事を採つて續會要を作つた。今の唐會要は宋の王溥が兩書に因つて新に編したもので、唐末のことが附錄としてあり、凡そ一百卷ある。溥は又、五代會要三十卷を撰したが、皆史文の缺を補つたものである。他に徐天麟の西漢・東漢會要、楊晨の三國會要、龍文彬の明會要、徐松の宋會要等がある。〔宋史、王溥傳〕溥好ㇾ學手不ㇾ釋ㇾ卷、嘗集㆓蘇冕會要及崔鉉續會要㆒、補㆓其闕漏㆒、爲㆓百卷㆒、曰㆓唐會要㆒。〔元史、文宗紀二〕勅㆓翰林國史院官同奎章閣學士㆒、采㆓輯本朝典故㆒、準㆓唐宋會要㆒、著爲㆓經世大典㆒。❷物の集る中心の處。要點。〔周易略例〕處㆓璇璣㆒以觀㆓大運㆒、則天地之動、未ㇾ足ㇾ怪也、據㆓會要㆒以觀㆓方來㆒、則六合輻湊、未ㇾ足ㇾ多也。❸月末の勘定と年末の勘定をいふ。要會。

【會宴】11（クワイエン）集つて酒を飮む。會飮(7)に同じ。〔孔子家語、問禮〕別㆓其親疏㆒、序㆓其昭穆㆒、而後宗族會宴。

【會厭】12（エエン）のどびこ。のどちんこ。會厭軟骨といひ、喉閒の氣管の上に在るもの。〔史記、扁鵲倉公傳、正義〕齒已後至㆓會厭㆒、深三寸半、大容㆓五合㆒也。

【會垣】13 huei^{4} yüan^{2} 省城。一省の首府。

【會下】14（エカ エゲ）[佛]禪宗・淨土宗等で、一師の下に會集して學ぶ所。又、其の弟子で未だ一寺を持たずに學寮で修行中の僧。會下僧。〔下學集、下〕會下者以㆓參禪參學㆒爲ㇾ本。

【會可】15（クワイカ）明、梁雲龍(6—14825・・211)の字。

【會加】16（エカ）姓氏。〔壒囊抄〕。

【會家】17（クワイカ）理解し得る人。〔西廂記、張君瑞害㆓相思㆒雜劇〕何須㆘詩對㆓會家㆒吟㆖。

【會嘉】18（クワイカ）明、李肇亨(6—14459・・1791)の字。

【會庌】19（クワイガ）複姓。〔通志、氏族略、以ㇾ族爲ㇾ氏〕會庌氏、音雅、姓纂云、衞靈公子庌生ㇾ竈、爲㆓會庌氏㆒。

【會賀】20（クワイガ）集り賀す。〔風俗通、正失〕安帝始加㆓元服㆒、百官會賀。

【會稿】21（クワイカウ）會合の上、稿を起すこと。〔桃花扇、阻奸〕明日會稿、一同列ㇾ名便了。

【會講】22（クワイカウ）多數の人が聚つて書物を講ずる。輪講。〔齊家寶要〕會講、會食、會茶、擊ㇾ版如ㇾ前。

【會核】23 huei^{4} hê^{2} 立會の上調査する。

【會覈】24（クワイカク）二箇以上の官廳の官吏、又は、二人以上の官吏が一堂に會同して、或る事件について審査すること。京察及び大計に會覈がある。〔淸會典事例、大理寺官制、讞獄、會覈〕凡應㆓三法司畫題㆒事件、刑部將㆓稿面㆒鈐㆓蓋司印㆒、注㆓明緣由㆒、付ㇾ督催ㇾ所㆓彙明㆒、轉交直日司分、用㆓印文㆒移㆓送法司衙門㆒畫題、限㆓十日內㆒亦用㆓印文㆒送回、如稿內有㆓酌議改易之處㆒、限㆓五日內㆒卽將㆘應㆓酌議改易㆒之處㆖、用㆓印文㆒聲㆓明緣由㆒、送㆓回刑部㆒察覈定義、刑部仍用㆓印文㆒、將㆘應ㇾ否㆓改易㆒之處㆖聲明、再送㆓法司衙門㆒。

【會合】25（クワイガフ）❶あつまり合ふ。集合する。〔論語、顏淵、君子以ㇾ文會ㇾ友、疏〕言、君子之人、以㆓文德㆒會㆓合朋友㆒。〔曹植、七哀〕浮沈各異ㇾ勢、會合何時諧。❷あふ。〔王褒、洞簫賦〕帶以㆓象牙㆒、掍㆓其會合㆒。〔白居易、春送㆓盧秀才下第㆒遊㆓太原㆒謁㆓嚴尙書㆒詩〕未ㇾ將㆓時會合㆒、且與ㇾ俗浮沈。

【會勘】26（クワイカン）立合で實地調査する。〔福惠全書、陞遷部、弔㆓案卷㆒〕使㆓後官接審、或委員會勘㆒。

【會銜】27（クワイガン）官吏が上申、又は告示等の公文書に二人以上連署するをいふ。〔淸國行政法汎論、官吏法、官吏義務〕又地方官藩臬兩司、其在㆓平時㆒也、除㆓謝恩時㆒外、不ㇾ能㆓專奏㆒、然兩司會銜奏劾督撫一事、舊慣前例、皆已許ㇾ之。

【會氣】28（クワイキ）八會の氣をいふ。八會とは、府會は太倉、藏會は季脇、筋會は陽陵泉、髓會は絕骨、血會は鬲兪、骨會は大杼、脈會は太淵、氣會は三焦。〔史記、扁鵲傳〕會氣閉而不ㇾ通、陰上而陽內行。〔注〕正義曰、八十一難云、府會太倉、藏會季脇、筋會陽陵泉、髓會絕骨、血會鬲兪、骨會大杼、脈會太淵、氣會㆓三焦㆒、此謂㆓八會㆒也。

【會規】29（クワイキ）會の規則。會則(162)に同じ。

【會期】30（クワイキ）❶會合の時期。〔左氏、襄、五〕晉人將㆔爲ㇾ之合㆓諸侯㆒、使㆓魯衞先會ㇾ吳、且告㆓會期㆒。❷議會の開會から閉會までの時期。

【會歸】31（クワイキ）あつまりおもむく。會集し歸服する。〔呂溫、代㆓百官㆒請ㇾ上㆓尊號㆒表〕俾㆓其會歸有ㇾ所㆓則象㆒。

【會儀】32（クワイギ）人に會ふ時の禮儀。〔魏志、何夔傳〕太子正㆓法服㆒而禮ㇾ焉、他日無㆓會儀㆒。

【會議】33（クワイギ）❶相集つて相談する。會合して評議する。〔史記、平津侯傳〕每㆓朝會議㆒、開㆓陳其

端㆒。〔後漢書、耿恭傳〕肅宗新卽㆑位、乃詔㆓公卿㆒會議。〔獨斷〕凡章表皆啓㆑封、其言㆓密事㆒、得㆓皁囊㆒盛、其有㆓疑事㆒、公卿百官會議。〔六部成語、吏部、會議、注解〕幾處衙門聚會、共商㆓事件㆒。❷或る事項を評議する機關。

〖會議錄〗34 クヮイギロク ❶會議の經過を記錄したもの。❷外交談判の筆錄。法律上の拘束力はない。

【會及】35 クヮイキフ 草の名。五味子(**1**－**257**‥1035)の異名。〔本草、五味子〕釋名、荎藸、玄及、會及。

【會饗】36 クヮイキヤウ あつまつてさかもりする。〔論衡、程材〕春秋會饗、設㆓置三科㆒。

【會客】37 クヮイキヤク ❶集まつた客。〔華陽國志〕時適會客臂血流離、盈㆓于盤器㆒。〔尙書故實〕不㆑濯㆑手而執㆓書畫㆒、因有㆑汗、自㆑是會客不㆑設㆓寒具㆒。〔逸史〕會客同誚㆓責之㆒。❷客を集める。〔酉陽雜俎、藝絕〕暇夜會㆑客、因試㆓其意㆒。

〖會客室〗38 huei⁴ kʻê⁴ shih⁴ 應接間。

【會吟】39 クヮイギン 會は吳の會稽郡、會稽の風土を詠ずるをいふ。〔謝靈運、會吟行、注〕銑曰、會、謂㆓會稽㆒也、吟、猶㆑詠也、意與㆓吳趨行㆒同㆑類。

【會遇】40 クヮイグウ めぐりあふ。出あふこと。であひ。〔史記、孔子世家〕以㆓會遇之禮㆒相見、揖讓而登。〔風俗通、過譽〕春秋諸侯朝覲會遇、大夫亦豫㆓其交㆒。〔姚糸、秋夕會友詩〕會遇更何時、持㆑杯倍殷勤。

【會貨】41 huei⁴ huo⁴ 三月十七日に女神の供物を分配して家に戻ること。浙江紹興地方の風習。

【會過】42 huei⁴ kuo⁴ 會ふ。面會する。

〖會過日子〗43 huei⁴ kuo⁴ jih⁴ tzŭ 世渡りが上手。

【會課】44 クヮイクヮ ❶士子が社に集つて文を作ること。〔呂本中、師友雜著〕崇寧初、予家㆓宿州㆒、汪信民爲㆓州教授㆒、黎確介然等與㆓予及亡弟揆中㆒、會課每旬作㆓雜文一篇、四六表啓一篇、古詩律一篇㆒、旬終會課、不㆑如㆑期者、罰錢二百。❷學校の試驗。〔金史、選擧志一〕凡學生會課、三日作㆓策論一道㆒、又三日作㆓賦及詩各一篇㆒、三月一私試、以㆓季月初㆒先試㆑賦、間㆓一日㆒試㆓策論㆒、中㆑選者、以㆓上五名㆒申㆑部。

【會魁】45 クヮイクヮイ 會試に第六番から第十八番までに合格した者をいふ。最優等生を會元、第二より第五までを經魁といふ。明代に始まる。〔稱謂錄、會魁〕會魁、戒菴漫筆、薛方山中㆓會魁㆒、其三試卷、余爲㆔從㆓臾其常熟門人錢夢王㆒、以㆓東湖書院活板㆒印行。〔淸科場條例〕。

【會館】46 クヮイクヮン ❶他鄕に在る同省又は同縣の人士が、其の地で團體をなし組織してゐる倶樂部をいふ。會員は時々此處に會合し情誼をあたため、貧困、又は失業者を救卹し、共同墓地殯房を設け、相互救助の法を講ずる。〔淸國行政法汎論、地方自治、總論〕社團自治者、有㆓會館㆒、有㆓公所㆒、地方自治者、有㆓保甲㆒、有㆓鄕村㆒是也。❷同志の人が相互に醵金して倶樂部を設け、親睦を計りまた共通利益のことなどを謀る處をいふ。

【會卿】47 クヮイケイ 宋、周學古(**2**－**3441**‥579)の字。

【會計】48 クヮイケイ ❶歲末の總決算。〔周禮、天官、司會〕逆㆓群吏之治㆒、而聽㆓其會計㆒、攷㆓日成㆒、以㆓月要㆒攷㆓月成㆒、以㆓歲會㆒攷㆓歲成㆒。〔疏〕歲計曰㆑會、以㆓一歲之會計㆒、考㆓當歲成事文書㆒。〔周禮、地官、舍人〕歲終則會㆓計其政㆒。〔管子、四時〕三政曰、效㆓會計㆒、毋㆑發㆓山川之藏㆒。〔纂詁〕歲計曰㆑會。〔漢書、食貨志下〕管㆓諸會計事㆒、稍稍置㆓均輸㆒以通㆓貨物㆒。❷出納を計算する。〔孟子、萬章下〕孔子嘗爲㆓委吏㆒矣、曰、會計當而已矣。〔焦循正義〕說文入部云、會、合也、言部云、計、會也、算也、天官小宰、聽㆓出入㆒以㆓要會㆒、注云、謂㆓計最之簿書㆒、月計曰㆑要、歲計曰㆑會、宰夫、乘㆓其財用之出入㆒、注云、乘猶㆑計也、賈氏疏云、計者、算法乘除之名出㆓於此㆒也、大宰、歲終則令㆘百官府各正㆓其治㆒受㆗其會㆖、三歲則大計㆓羣吏之治㆒而誅㆓賞之㆒、注云、會、大計也、然則零星算㆑之爲㆑計、總合算㆑之爲㆑會。❸人をあつめて其の功を計る。會稽。〔史記、夏紀贊〕命曰㆓會稽㆒、會稽者、會計也。

〖會計冊〗49 クヮイケイサツ 會計の帳面。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕以㆓部核由單及司核會計冊㆒爲㆑據。

〖會計士〗50 クヮイケイシ 會社や商店の會計及び會計檢查に關して、其の整理報告等の職務に任ずる者。計理士。

〖會計司〗51 クヮイケイシ 宋の三司の一、會計の最高官府。熙寧七年、中書省に置き、宰相韓絳を任じて提擧す。〔宋史、職官志一〕三司會計司、熙寧七年、置㆓于中書㆒、以㆓宰相韓絳㆒提擧、先㆑是絳言、總㆓天下財賦㆒、而無㆔考㆓較盈虛之法㆒、乃置㆓是司㆒。

〖會計錄〗52 クヮイケイロク 歲入歲出の出納を調査した記錄。〔宋史、田況傳〕(田況)鈎㆓考財賦㆒、盡知㆓其出入㆒、乃約㆓景德會計錄㆒、著㆓皇祐會計錄㆒上㆑之。

〖會計官吏〗53 クヮイケイクヮンリ 會計事務を掌る官吏。

〖會計年度〗54 クヮイケイネンド 官署で會計上に用ひる一年のくぎり。我が國の制では、四月一日から翌年三月三十一日までを一年度とする。

〖會計檢查院〗55 クヮイケイケンサヰン 國務大臣に對し特立の地位を有し、國費の收支、官有物及び國債等に關する計算を檢查確定して、國家の會計を監督する官廳。

〖會計檢查官〗56 クヮイケイケンサクヮン 會計檢查院の檢查官會議を構成する職員。

〖會計之餘功〗57 クヮイケイノヨコウ 會計の剩餘。〔蘇轍、黃州快哉亭記〕今張君不㆓以㆑謫爲㆑患、收㆓會計之餘功㆒、而自放㆓山水之閒㆒。

【會敬】58 huei⁴ ching⁴ 會費。

【會經】59 クヮイケイ 樓の名。四川省閬中縣城の南。〔輿地紀勝〕雍子儀、元祐中家㆓於將相坊㆒、築㆓會經樓㆒、經史子集、京本・蜀本・浙本各一本、總三萬餘卷、蘇軾爲題㆓閣額㆒、范百祿以下皆有㆑詩、蒲宗孟爲㆑記。

【會稽】60 クヮイケイ ❶人をあつめて其の功を計ること。稽は計に同じ。〔史記、夏紀贊〕或言、禹會㆓諸侯江南㆒、計㆑功而崩、因葬焉、命曰㆓會稽㆒、會稽者、會計也。〔注〕集解曰、會稽山、本名㆓苗山㆒、云云、禹上㆓苗山㆒大會計、云云、因而更名㆓苗山㆒曰㆓會稽㆒。〔論衡、書虛〕吳君高說、會稽本山名、夏禹巡狩會㆓計於此山㆒。❷山名。㋑山東省日照縣の北。越王嘗て此の山に登ると傳ふ。小會稽山と號す。㋺浙江省紹興縣の東南。古の防山。又、棟山・茅山・衡山ともいふ。主峯は縣の東南に在る。春秋の時、越王句踐が吳王夫差に攻められて立て籠つたところ。〔周禮、夏官、職方〕東南曰㆓揚州㆒、其山鎭曰㆓會稽㆒。〔左氏、哀、元〕越子以㆓甲楯五千㆒保㆓于會稽㆒。〔山海經、南山經〕會稽之山、四方、其上多㆓金玉㆒、其下多㆓砆石㆒、勺水出焉。〔淮南子、墬形訓〕何謂㆓九山㆒、會稽・泰山・王屋・首山・太華・岐山・大行・羊腸・孟門。〔水經、漸江水注〕又有㆓會稽山㆒、古防山也、亦謂㆑之爲㆓茅山㆒、又曰㆓棟山㆒。❸道の名。民國の初、置く。浙江省治の東南。鄞・慈谿・奉化・鎭海・象山・南田・定海・紹興・蕭山・諸曁・餘姚・上虞・嵊・新昌・臨海・黃巖・天台・仙居・寧海・溫嶺の二十縣を管轄す。今廢す。❹郡名。秦、置く。江蘇の東部と浙江の西部の地。治は吳。今、江蘇省吳縣。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、秦〕會稽、今蘇州・常州・鎭江・松江諸府、及浙江境內州郡、皆是郡治、吳今蘇州府、附郭吳縣是也。❺縣名。隋、置く。民國、紹興縣とす。〔淸史稿、地理志〕浙江、紹興府、縣八、會稽。

〖會稽雞〗61 クヮイケイケイ 會稽の雞。三國、吳の時、會稽の賀邵の沈默を譏つた語。〔世說新語、政事〕賀太傅作㆓吳郡㆒、初不㆑出㆑門、諸強族輕㆑之、乃題㆓府門㆒曰、會稽雞、不㆑能㆑啼、賀聞、故出行、至㆑門反顧、索㆑筆足㆑之、曰、不㆑可㆑啼、殺㆓吳兒㆒。

〖會稽公〗62 クヮイケイコウ 雞の異名。〔袁淑、雞九錫文〕今以㆑君爲㆓使持節金西蠻校尉西河太守㆒、以㆓揚州之會稽㆒封㆑君爲㆓會稽公㆒、以㆓前浚雞山㆒爲㆓湯沐邑㆒。

〖會稽霞擧〗63 クヮイケイカキヨ 蒙求の標題。東晉の廢帝奕の時、諸侯の朝する每に朝堂は猶ほ暗かつたが、唯會稽王の來る時は意氣上り朝の霞が擧る如くであつたといふ故事。〔世說新語、容止〕海西時、諸公每㆑朝、朝堂猶暗、唯會稽王來、軒軒如㆓朝霞擧㆒。

〖會稽外史〗64 クヮイケイグヮイシ 元、于立(**1**－**252**‥85)の號。

〖會稽三康〗65 クヮイケイサンカウ 晉の會稽郡の人。孔愉、字は敬康と、張茂、字は偉康と、丁潭、字は世康との三人をいふ。共に孝を以て聞ゆ。〔晉書、孔愉傳〕孔愉、字敬康、會稽山陰人也、云云、愉年十三而孤、養㆓祖母㆒、以㆑孝聞、與㆓同郡張茂字偉康・丁潭字世康㆒齊㆑名、時人號曰㆓會稽三康㆒。

〖會稽三賦〗66 クヮイケイサンプ 書名。三卷。宋、王十朋撰。會稽風俗賦・民事堂賦・蓬萊閣賦の三つが

收められて居り、皆會稽の風土に關するもののみである。〔四庫提要、史、地理類〕。

【會稽山齋】67（クヮイケイサンサイ）　清、謝應芝(**10**－**35827**‥247)の號。

【會稽山人】68（クヮイケイサンジン）　字號。㊀唐、孫位(**3**－**6987**‥2)の號。㊁民國、蔡元培(**9**－**31818**‥169)の號。

【會稽之恥】69（クヮイケイノハヂ）　戰敗の恥辱。吳王夫差に會稽山に破られた越王句踐が、其の恥辱を忘れぬために臥薪嘗膽の苦を積み、「汝會稽の恥を忘れたるか」と自ら責めて終に復讎を遂げた故事。〔史記、越世家〕苦レ身戮レ力、與二句踐一深謀二十餘年、竟滅レ吳報二會稽之恥一。〔李陵、答二蘇武一書〕昔范蠡不レ殉二會稽之恥一、曹沫不レ死二三敗之辱一。〔史記、貨殖傳〕句踐十年國富、云云、遂報二彊吳一、云云、刷二會稽之恥一。

【會稽二清】70（クヮイケイノニセイ）　唐代、會稽の二名僧、清江と清晝。二人共に詩を善くし、大曆・貞元の間、名を齊しくす。〔海錄碎事、道釋、僧〕江南多二名僧一、會稽有二清江・清晝一、婺州有二軏俊・軏輔一、時號二會稽二清、東陽二軏一。〔全唐詩、第十二函、第一冊、清江〕清江、會稽人、善二篇章一、大曆・貞元間、與二清晝一齊レ名、稱爲二會稽二清一。

【會稽之竹箭】71（クヮイケイノチクセン）　會稽山に産する竹で造つた矢。〔淮南子、墬形訓〕東南方之美者、有二會稽之竹箭一焉。

【會稽掇英總集】72（クヮイケイテツエイソウシフ）　書名。二十卷。宋、孔延之編。越州の長官であつたとき輯めた圖籍・考證・金石・詩文の會稽に關するもの八百五篇を取つたもの。〔四庫提要、集、總集類〕。

【會月】73（クヮイゲツ）　會數を朔望の會に乘じた月。會數(144)を見よ。〔漢書、律歷志下〕會月六千三百四十五、以二會數一乘二朔望之會一得二會月一。

【會見】74（クヮイケン）　㊀あふ。面會する。對面する。〔後漢書、李通傳〕永平中、顯宗幸レ宛、詔二諸李一、隨二安衆宗室一會見。〔周書、王褒傳〕會見之期、貌無レ日矣。㊁かならず見る。會見三汝在二荊棘一を見よ。

【會見何渠央】75（クヮイケンナンゾニハカニツク）　お目にかかる機會がどうして急に無くなつてしまつたのであらうか。〔蘇武、別二李陵一詩〕一別如二秦胡一、會見何詎央。

【會見三汝在二荊棘一】76（カナラズナンヂノケイキョクニアルヲミン）　晉の索靖が天下の將に亂れようとするのを豫言した故事。秦の始皇帝の鑄た銅駱駝は、長安宮城西掖門外に在つたが、魏の明帝はこれを洛陽に徙し宮門の前に置いた。天下が亂れると宮殿は廢壞し、荊棘の中に銅駝獨り存するであらうといふ意。〔晉書、索靖傳〕靖、字幼安、有二先識遠量一、知二天下將一レ亂、指二洛陽門銅駝一歎曰、會見三汝在二荊棘一耳。

【會元】77（クヮイゲン）　㊀會試に第一等の成績を得た者をいふ。第二より第五までを經魁、第六より第十八までを會魁といふ。〔明史、選擧志二〕會試第一爲二會元一、二三甲第一爲二傳臚一云。㊁字號。㋑唐、馬總(**12**－**44572**‥392)の字。㋺宋、程覃(**8**－**25081**‥101)の字。

【會鼓】78（クヮイコ）　つづみの音をあつめ合す。〔楚辭、九歌、禮魂〕成レ禮兮會鼓、傳レ芭兮代舞。

【會悟】79（クヮイゴ）　さとる。領會。解悟。〔南史、羊玄保傳〕王淮之曰、卿二賢明美朗詣、會悟多通。

【會晤】80 huei^{4} wu^{4}　面會する。接見。

【會公】81（クヮイコウ）　字號。㊀清、金德嘉(**11**－**40152**‥1349)の字。㊁清、樊圻(**6**－**15414**‥12)の字。

【會侯】82（クヮイコウ）　字號。㊀清、朱蘭泰(**6**－**14424**‥1018)の號。㊁清、毛際可(**6**－**16772**‥275)の字。

【會語】83（クヮイゴ）　會つて語る。〔資治通鑑、漢紀〕(獻帝、建安十三年)備欲下呼二魯肅等一共會語上。

【會哭】84（クヮイコク）　百官と會して哭禮を行ふ。〔蘇轍、代二三省一祭二司馬丞相一文〕公來レ自レ西、會二哭於庭一。

【會查】85 huei^{4} ch'a^{2}　立あひ檢査する。

【會座】86（ヱザ）　法會の座席。〔太平記、十三〕穆王馬より下りて會座に臨んで、卽ち佛を禮し奉つて。

【會稡】86'（クヮイサイ）　集める。會萃。〔郭璞、爾雅序〕綴二集異聞一、會二稡舊說一。〔唐書、鄭虔傳〕初虔追二紬故書一、可レ誌者得二四十餘篇一、國子司業蘇源明、名二其書一爲二會稡一。

【會喪】87（クヮイサウ）　葬儀に參列する。會葬に同じ。〔白虎通、崩薨〕有下得二會喪奉二送君一者上。〔後漢書、陽球傳〕順帝虞貴人葬、百官會喪還。

【會葬】88（クヮイサウ）　とむらひの式に寄合ふこと。葬儀の列に加はる。〔春秋、文、元〕天王使二叔服來會葬一。〔左氏、隱、元〕衞侯來會葬。〔史記、趙世家〕秦楚燕齊魏出二銳師各萬人一來會葬。〔後漢書、東海恭王彊傳〕京師親戚四姓夫人小侯皆會葬。

【會操】89 huei^{4} ts'ao^{1}　聯合演習。

【會做】90 huei^{4} tsuo^{4}　作ることが出來る。

【會撮】91（クヮイサツ）　もとどり。まげ。項椎の稱。〔莊子、人間世〕支離疏者、頤隱二於齊一、肩高二於頂一、會撮指レ天。〔釋文〕崔云、會撮、項椎也、指レ天、司馬云、會撮、髻也、古者髻在二項中一、脊曲頭低、故髻指レ天也、向云、兩肩疎而上、會撮然也。

【會産】92 huei^{4} ch'an^{3}　公有地。

【會子】93（クヮイシ）　㊀宋の紙幣の名で、高宗の末年に、錢端禮に命じて造らしめたもの。初めは兩浙に行はれたが、後には諸州に通行した。〔宋史、食貨志下三〕戶部侍郎錢端禮、被レ旨造二會子一、儲二見錢於城內外一流轉、其合發官錢、竝許レ兌二會子一、輸二左藏庫一。㊁huei^{3} tzŭ　しばらく。暫時。

【會之】94（クヮイシ）　字號。㊀宋、夏侯嘉正(**3**－**5720**‥115)の字。㊁宋、高覲(**12**－**45313**‥702)の字。㊂宋、龔宗元(**12**－**48837**‥79)の字。㊃宋、秦檜(**8**－**24995**‥59)の字。㊄宋、薛極(**9**－**32123**‥37)の字。㊅宋、李伯宗(**6**－**14459**‥1866)の字。㊆宋、王柏(**7**－**20823**‥888)の字。㊇宋、王逢(**7**－**20823**‥974)の字。

【會址】95（クヮイシ）　會の所在地。

【會師】96（クヮイシ）　軍隊にであふ。〔左氏、文、十六〕楚子乘レ馹、會二師于臨品一。

【會試】97（クヮイシ）　明代、各省の擧人を京師の貢院に集めて行ふ試驗。清、これに因る。合格者は貢士といひ、殿試に應じて進士の資格を得、三年に一回擧行す。卽ち丑辰辛戌の年三月八日に始まり十六日に終る。〔明史、選擧志二〕三年大比、以二諸生一試レ之、直省曰二鄕試一、中式者爲二擧人一、次年以二擧人一試二之京師一曰二會試一。〔清會典、禮部〕凡鄕試中式曰二擧人一、副二於正榜一曰二副貢生一、省各定二其額一、會試中式曰二貢士一。〔注〕會試以二鄕試之次年三月一擧行、若恩科鄕試、或在二三月一者、會試卽在二本年八月一、三場之期、均與二鄕試一同。〔清國行政法汎論、文官仕途種類、科目〕分爲二三試一、一曰鄕試、行二于各省垣一、獨直隸省則行二于順天府一、二曰會試、行二于禮部一、三曰殿試、皇親臨、考二試貢士一是也。〔六部成語補遺、禮部、會試、注解〕擧人入レ京考二取進士一也。

【會試擧人】98（クヮイシキョジン）　會試の試驗に應ずる人。〔六部成語、禮部、會試擧人、注解〕應二會試擧一之人也。

【會次】99（クヮイジ）　朝會の時の席次。〔魏書、張彝傳〕張彝、少而豪放、出二入殿庭一、步眄高上、無レ所二顧忌一、文明太后、雅尙二恭謹一、因二會次一見二其如一レ此、遂召二集百寮一督二責之一、令二其脩悔一。

【會兒】100（クヮイジ）　㊀後唐、朱守殷(**6**－**14424**‥843)の名。㊁huei^{3} êrh　㋑僅かの時間。暫く。㋺後程。

【會州】101（クヮイシウ）　州名。㊀西魏、置く。古、西羌の地。今、甘肅省靖遠縣の東北。〔讀史方輿紀要、陝西、靖遠縣〕古西羌地、云云、西魏置二會州一、後周廢、隋爲二原州地一、大業初屬二平涼郡一、唐初復置二會州一、天寶初曰二會甯郡一、乾元初復曰二會州一、廣德後沒二於吐蕃一、大中閒來歸、尋復爲二番戎所一レ據、宋天聖以後屬二於西夏一、元符二年收復、仍置二會州一。㊁隋、置く。唐、これに因り、後、茂州と改む。今、四川省茂縣の治。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕茂州、古冉駹國地、云云、隋開皇初郡廢、改レ州爲二蜀州一、尋曰二會州一、大業初復爲二汶山郡一、唐武德初仍曰二會州一、四年改爲二南會州一、貞觀七年又改爲二茂州一、天寶初曰二通化郡一、乾元初復爲二茂州一。

【會收】102（クヮイシウ）　とりあげる。〔福惠全書、庶政部、育二養嬰兒一〕每月擇二定某日一會收。

【會式】103（ヱシキ）　佛㊀寺院で行ふ佛事のよりあひ。法會。㊁日蓮宗で每年十月十三日祖師日蓮の忌日に行ふ祭。御命講。御影講。御影供。〔東都歲時記〕。

【會日】104（クヮイジツ）　㊀出あふ日。會合する日。〔史記、孟嘗君傳〕齊爲二會日一、殺レ牛置レ酒。〔曹植、送二應氏一詩〕山川阻且遠、別促會日長。㊁期日。〔漢書、伍被傳〕皆徙二其家屬朔方之郡一、益發二甲卒一、急二其會日一。〔注〕師古曰、促二其期日一。

【會集】105（クヮイシフ）　㊀よりあつまる。よせあつめる。

集會。〔後漢書、周磐傳〕朝會㆓集諸生㆒講論終日。〔李尤、洛銘〕洛出㆓熊耳㆒、東流會集。〔春渚紀聞〕子弟毎會集講㆑武。㊁あつめる。蒐集する。〔趙岐、孟子題辭〕七十子之疇、會㆓集夫子所㆑言、以爲㆓論語㆒。

【會社】106 クワイシヤ ㊀講中。㊁商行爲を目的として二人以上の者が協同し、設立した社團法人。株式會社・合資會社・株式合資會社等がある。公司。

〖會社財產〗107 クワイシヤザイサン 會社の總財產をいふ。

【會射】108 クワイシヤ 會合して弓を射ること。〔程頤、家世舊事〕叔祖多㆓才藝㆒、與㆑人會射、發㆑矢能如㆓其意㆒、常從㆓主人之後㆒、主人中則中、主人遠則亦遠、不㆑差㆓尺寸㆒。

【會赦】109 クワイシヤ 大赦令の發布に會ふこと。〔唐律、名例、應議請減〕及㆓會赦㆒猶流者、各不㆑得㆓減贖㆒、除名配流如㆑法。

【會昌】110 クワイシヤウ ㊀唐の武宗(李瀍)の年號。(841―846)㊁江の名。貢水をいふ。貢水(**10―36665**··35)を見よ。㊂湖の名。浙江省永嘉縣の西南。郭雄瞿三溪の水を受く。西湖・南湖に分たる。〔名勝志〕永嘉縣、會昌湖、起㆑自㆓漢晉㆒、至㆓唐會昌四年㆒、太守韋庸重濬、因以爲㆑名。㊃縣名。㋑唐、置く。後、昭應と改む。今、陝西省臨潼縣。㋺宋、置く。江西省瑞金縣の西南。〔讀史方輿紀要、江西、贛州府〕會昌縣、本雩都縣之九州鎭、宋太平興國七年、析㆓置會昌縣㆒、屬㆓虔州㆒、紹定四年、升㆑縣爲㆑軍、咸淳五年復㆑舊、元元貞初、升爲㆓會昌州㆒、明朝洪武二年、復爲㆑縣。〔淸史稿、地理志〕江西、贛州府、縣八、會昌。

〖會昌一品集〗111 クワイシヤウイチヒンシフ 書名。二十卷。唐、李德裕撰。武宗の時の制誥を載す。別集十卷は、賦詩雜文、外集四卷は遷謫以後、閒居のときに史を論じた文を集む。〔四庫提要、集、別集類〕。

【會商】112 クワイシヤウ 會合して商議する。より集つて相談する。

【會章】113 クワイシヤウ ㊀會の印。㊁會の規則。會則。

【會城】114 クワイジヤウ 一省の省政府の所在地。會垣。

【會尺】115 huei^{4} chʻih^{3} 無盡會の講員。

【會釋】116 ヱシヤク ㊀難義を會通解釋する。和會通釋の略。〔說法明眼論〕一言會釋、一坐飮酒。〔東鑑、二十七〕先祖晴道會釋之上。㊁相手となる。あしらふ。應接。〔源平盛衰記、二十九〕二十騎出だして射さすれば、又二十騎を出し合はせて會釋す。㊂禮をする。挨拶。〔古今著聞集、九〕進み寄りて會釋せられけり。

【會主】117 クワイシユ 會を開く主人。〔淸國行政法汎論、藩部、內外蒙古行政機關、盟長〕毎㆓三年㆒、同㆓盟各旗㆒、乃會㆓盟於一定之地㆒、盟長爲㆓會主㆒、解㆓決種種議題㆒。

【會守】118 クワイシユ 會合して待つ。〔禮、樂記〕弦匏笙簧、會守拊㆑鼓。〔注〕會、猶㆓合也、皆也㆒。

【會首】119 クワイシユ 會主。司會者。會長。〔福惠全書、庶政部、育㆓養嬰兒㆒〕毎年十二人爲㆓會首㆒、毎月輪㆓一人㆒、使㆑値㆓一月之事㆒。

【會衆】120 クワイシユウ ㊀衆くの人を集める。〔班固、西都賦〕收㆑禽會㆑衆、論㆑功賜㆑胙。〔晉書、羊祜傳〕祜毎會㆓衆江沔㆒、遊獵、常止㆓晉地㆒、若禽獸先爲㆓吳人所㆑傷、而爲㆓晉兵所㆑得者、皆封㆓還之㆒。㊁佛 ヱシユ 相集會してゐる大衆。〔大法鼓經、上〕今此會衆、如㆓栴檀林㆒、淸淨純一。

【會聚】121 クワイシユウ よりあつまる。よせあつめる。〔公羊、莊、四〕古者諸侯、必有㆓會聚之事㆒。〔漢書、董仲舒傳〕入有㆓父子兄弟之親㆒、出有㆓君臣上下之誼㆒、會聚相遇、則有㆓耆老長幼之施㆒。〔漢書、食貨志上〕乘㆓牸牝㆒者、擯而不㆑得㆓會聚㆒。

〖會聚光〗122 クワイシユウクワウ 物理學用語。一點に凝集した光。凹面鏡の反射、又凸レンズの透射によつて凝集した光をいひ、發散光と相對す。

【會叔】123 クワイシユク 宋、馬大同(**12―44572**··878)の字。

【會宿】124 クワイシユク あつまり、やどる。〔周賀、留㆓辭杭州姚合郎中㆒詩〕會宿逢㆓高士㆒、辭歸値㆓積霖㆒。〔黃滔、延福里居和林寬何紹餘酬寄詩〕幾度相留侵鼓散、頻聞會宿著僧同。

【會出】125 クワイシユツ 支出を計算すること。〔周禮、天官、職幣〕歲終則會㆓其出㆒。

【會所】126 クワイシヨ ㊀あつまり場所。〔左氏、成、十二〕齊盟所㆓以質㆑信也、會所信之始也。〔南史、宋文帝紀〕至㆓會所㆒賜㆑饌。㊁商業上の取引又は一市・一町・一村の公務を取扱ふために關係者の會合する場所。

【會食】127 クワイシヨク おほぜい一所に集まつて食事をする。又、其の宴會。〔史記、淮陰侯傳〕令㆓其裨將傳㆑飡曰、今日破㆑趙會食、諸將皆莫㆑信。

【會心】128 クワイシン 氣に入る。思ひ通り。心によく適ふ。〔杜甫、晦日尋㆓崔戢李封㆒詩〕晚定崔李交、會心眞罕㆑儔。

〖會心處〗129 クワイシンシヨ 明、姚綬(**3―6202**··66)の室名。

〖會心之處不㆓必在㆑遠〗130 クワイシンノトコロハカナラズシモトホキニアラズ 自分の心に適する處は必ずしも遠方でない。〔世說新語、言語〕簡文入㆓華林園㆒、顧謂㆓左右㆒曰、會心處不㆓必在㆑遠、翳然林水、便自有㆓濠濮閒想㆒也、覺㆓鳥獸魚鱉自來親㆑人。

【會津】131 アヒヅ 岩代國の地名。

【會神】132 クワイシン 精神を一つにあつめあはせる。〔王褒、聖主得㆓賢臣㆒頌〕聚㆑精會㆑神、相得益章。

〖會神仙〗133 クワイシンセン 正月十九日に白雲觀へ遊ぶこと。北京地方の風習。〔燕京歲時記、筵九〕十九日謂㆓之筵九㆒、毎㆑至㆓筵九㆒、皇上幸㆓西廠子小金殿㆒筵宴、看㆓玩藝貫跤㆒、蒙古王公請安告歸、臣工之得㆑著㆓貂裘㆒者、盡於㆓是日㆒脫去、改穿㆓白鋒毛㆒矣、民間無㆓事可㆑紀、遊㆓賞白雲觀㆒者、謂㆓之會神仙㆒焉。

【會審】134 クワイシン 立ち會つて審判する。〔淸會典事例、大理寺、官制、讞獄、會審〕凡遇㆑有㆘應㆓三法司會審㆒事件㆖、刑部卽知㆓會都察院及本寺㆒、本寺堂官率㆓屬官㆒至㆓刑部衙門㆒、秉㆑公會審、定㆑案畫題、儻飾辭推故、竟無㆓堂上官到㆑部者㆒、交㆑部議處。〔福惠全書、刑名部、問擬〕會審處決、通行請㆑旨。

〖會審官〗135 huei^{4} shen^{3} kuan^{1} 會審公廨の判官。

〖會審衙門〗136 huei^{4} shen^{3} ya^{2} men 租界にある會議裁判所。會審公廨を見よ。

〖會審公廨〗137 huei^{4} shen^{3} kung^{1} chieh^{4} 中國人と外國人との間に起つた訴訟を裁判する裁判所。其の起源は一八八五年の天津條約(光緒十一年)によるもので、其の後、會審公廨設定章程十條を定めた。會審は知事、裁判長となり、領事が陪席判事となつて審理する。

【會親】138 クワイシン ㊀結婚後に男家が女家の近親者を招いて宴會するをいふ。〔夢粱錄、嫁娶〕至㆓一月㆒、女家送㆓彌月禮㆒、合㆓壻家㆒開㆑筵、延㆓款親家及親眷㆒、謂㆓之賀滿月會親㆒。㊁婚禮に夫婦の盃の濟んだ後、一座の人々の互に打解けて酒を飮むこと。

【會洲】139 アイス 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【會訊】140 クワイジン 立會つて訊問する。〔淸國行政法汎論、軍機處、職權〕或由㆓刑部㆒會訊、或至㆓刑部㆒會訊。〔國朝漢學師承記、黃宗羲〕崇禎元年五月會訊、許顯純崔應元對簿。

【會水】141 クワイスイ ㊀縣名。漢、置く。故城は甘肅省高臺縣鎭夷城の西北。〔漢書、地理志下〕酒泉郡、縣九、會水。㊁huei^{4} shuei^{3} 水泳の上手なこと。

【會萃】142 クワイスイ あはせあつめる。〔宋史、顏復傳〕會㆓萃古今典範㆒、爲㆓五禮書㆒。

【會數】144 クワイスウ 會計する法。〔管子、山至數〕桓公曰、其會數奈何。

【會正】145 クワイセイ ㊀年の始めに貢賦の政を受けること。一說に會正は歲額を定めて貢賦を爲すをいふ。正は定。〔左氏、文、四〕曹伯如㆑晉會㆑正。〔注〕會、受㆓貢賦之政㆒也。〔會箋〕注云、正、定也、會正者、定㆓歲額㆒以爲㆓貢賦㆒也。㊁huei^{4} chêng^{4} 會長。座長。

【會性】146 クワイセイ 心をあつめる。〔謝靈運、山居賦〕援㆑紙握㆑管、會㆑性通㆑神、詩以言㆑志、賦以敷陳。

【會政】147 クワイセイ 政治の成績を考へる。〔周禮、地官、鄉大夫〕歲終則令㆓六鄉之吏皆會㆑政致㆑事。〔注〕會、計也。

【會齊】148 クワイセイ 一緒に集まる。會合する。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕有㆓窩家㆒會齊。

【會請】149 クワイセイ あはせこふ。〔管子、幼官〕會㆓請命於天地㆒、知㆓氣和㆒、則生物從。〔纂詁〕會、合也、幷請㆓於天地㆒、故曰㆓合請㆒。

【會哨】150 クワイセウ 官吏の會合。官吏の打合會。

【會席】151 クワイセキ ㊀寄合の席。集會の座席。㊁會席料理の略。茶の湯の懷石風に作つた料理。

〖會席茶屋〗152 クワイセキチヤヤ 茶湯の懷石風の饗膳を

出す料理屋。

〔會席料理〕153 クヮイセキレウリ ㊀會席茶屋で茶湯の懷石風に出す饗膳。㊁集會してゐる人々にわりつけて出す饗膳。

【會說】154 huei^{4} shuo^{1} 話すことが出來る。

【會節】155 クヮイセツ 禮を行ふ期節。〔禮、哀公問〕然後以二其所一レ能教二百姓一、不レ廢二其會節一。

【會川】156 クヮイセン ㊀縣名。㋑唐、置く。四川會理縣。〔讀史方輿紀要、四川、會州衞軍民指揮使司〕永昌廢州、衞西五里、元志云、故歸依城卽唐會川縣治也。㋺金、置く。河北省青縣。〔讀史方輿紀要、直隸、河間府、青縣〕會川廢縣、今縣治、後周置二永安縣一、宋曰二乾甯一、云云、金人改曰二會川一、元因レ之、明初省。㊁城名。甘肅省靖遠縣の西南。宋代、築く。〔元一統志〕會州陷二於河西一、僑二治會川城一、名二新會川一、元初又遷二西寧一。㊂字號。㋑唐、連總(11－38902··195)の字。㋺清、金祖靜(11－40152··1322)の字。

【會戰】157 クヮイセン 雙方出合つてたたかふ。〔孫子、虛實〕知二戰之地一、知二戰之日一、則可二千里而會戰一。〔戰國、韓策〕山東之卒、被レ甲冒レ胄以會戰。〔史記、張儀傳〕山東之士、被レ甲蒙レ胄以會戰。

【會錢】158 クヮイセン 金をあつめる。金を出し合ふ。〔唐書、循吏、韋宙傳〕民貧無レ牛、以力耕、宙爲置二社二十家一、月會二錢若干一、探レ名得者、先市レ牛、以レ是爲レ準、久之牛不レ乏。

【會薦】159 クヮイセン うちあはせ申立てる。〔福惠全書、典禮部、朝覲大計〕申二送藩臬一而會薦也。

【會奏】160 クヮイソウ 官吏が二名以上連名で上奏すること。〔清會典事例、吏部、漢員升補〕特降レ旨令下吏部會二同翰林院一、詳覈具奏上。

【會送】161 クヮイソウ あつまりおくる。〔後漢書、禮儀志下〕百官會送、如二故事一。

【會則】162 クヮイソク 某々會と稱するものの規則。

【會泰】163 クヮイタイ 明、李肇亨(6－14459··1791)の字。

【會題】164 クヮイダイ 會同して題奏すること。〔清會典事例、大理寺官制、讞獄、會題〕順治十年題准、凡奉レ旨三法司覈擬事件、刑部審明、成招定レ罪、注二定讞語一、送二都察院一參覈、都察院參覈既確、送二大理寺一平反、會稿具題、三衙門議同者合具二讞語一、不レ同者各出二讞語一具奏。

【會當】165 クヮイタウ 心に豫期するところあるをいふ。〔新方言、釋言〕凡心有レ所二豫期一、常言曰二會當一。

【會黨】166 huei^{4} tang^{3} 祕密結社の徒黨。

【會堂】167 クヮイダウ ㊀衆人のよりあひをする家。公會堂。㊁耶蘇教の寺。教會。

【會道】168 クヮイダウ 唐、林攢(6－14551··113)の字。

【會澤】169 クヮイタク 縣名。清、置く。今の雲南省巧家縣の南。金沙江の東に當り、縣城は野馬河に跨る。〔清史稿、地理志〕雲南、東川府、縣一、會澤。

〔會澤正志齋〕170 アヒザハセイシサイ 水戶の人。名は安。字は伯民。號は正志齋。又、憩齋・欣賞。通稱は恒藏。文久三年七月十四日歿。年八十二。藤田幽谷に師事す。水戶藩儒。官は彰考館教授・同總裁・弘道館督學等に歷任す。著に、孝經考・中庸釋義・刪詩義・典謨述義・讀論日札・讀書日札・讀易日札・讀周官・正志齋雜錄・新論・迪彝篇・艸偃和言・學制略說・洙泗教學解・及門遺範・下學邇言・責難解・泰否炳鑒・江湖負暄・讀直毘靈・讀葛花・讀級戶風・讀萬我能比禮・兩眼考・三眼餘考・息邪漫錄初篇・正志齋文稿・正志齋詩稿・諸夷問答・海寇辨・閑聖編・閑聖漫錄初編・豈好辯・己丑備忘錄・禦侮策・稽古雜錄・言志篇・古詩・銑陣論・時務策・思問錄・諸家學校紀聞・心喪略說・人臣去就說・正志齋遺書・正志齋稽錄・退食閒話・千島異聞・泮林好音・風詹集・辨宇廨志道・眄柯集・烈公行實がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕・〔水戶文籍考〕。

【會單】171 huei^{4} tan^{1} 爲替手形。小切手。支拂命令書。

【會談】172 クヮイダン よりあつて話をする。又、其の話。

【會地】173 huei^{4} ti^{4} 部落の公有地。

【會緻】174 クヮイチ すきまなくあつまる。〔張華、瓌材枕賦〕會緻密固、絕レ際無レ閒。

【會長】175 クヮイチヤウ 會務を總理し會を代表するもの。會頭。

【會丈】176 huei^{4} chang^{4} 立會で土地の測量を行ふ。

【會場】177 クヮイヂヤウ 相會する場所。集會を催す場所。

【會通】178 クヮイツウ ㊀物の一緒になることと變化すること。よく理會して凝滯しない。〔易、繫辭上〕聖人有三以見二天下之動一、而觀二其會通一、以行二其曲禮二。〔疏〕觀二看其物之會合變通一。〔本義〕會、謂二理之所レ聚而不レ可二遺處一、通、謂二理之可レ行而無レ所二礙處一。〔周易折中〕胡氏炳文曰、不レ會則於レ理有二遺闕一、如レ之何可レ通、不レ通則於レ理有二窒礙一、如レ之何可レ行。㊁川の名。㋑元の世祖の時、開く。山東省臨清より東平までの運河。〔讀史方輿紀要、山東、名川〕會通河、在二兗州府濟寧州城南一、元至元中所レ開也、云云、至元中、伯顏始創二海運一、與二濟州河一並行、尋用二韓仲暉等言一、自二安民山開河北一抵二臨清一、引レ汶絕レ濟直屬二漳衞一、名二會通河一。㊂四川省會理縣の東舊州城の東。源は縣の東北の山中。金沙江に注ぐ。

〔會通館〕179 クヮイツウクワン 明、華燧(9－31214··237)の室名。

〔會通君〕180 クヮイツウクン 明、華燧(9－31214··237)の室名。

【會亭】181 クヮイテイ 鎭の名。金、置く。河南省夏邑縣の西南。

【會弔】182 クヮイテウ 寄り集つてとむらふ。〔後漢書、周擧傳〕令下將二大夫以下一到二喪發日一復會弔上。〔唐書、楊綰傳〕未レ幾薨、帝驚悼、云云、詔贈二司徒一、遣二使者一冊授、云云、詔二百官一如レ第弔、遣レ使會弔。

【會朝】183 クヮイテウ ㊀會は諸侯が一所に會すること、朝は諸侯が天子又は他の諸侯の許に挨拶に行くこと。〔左氏、襄、二十一〕會朝、禮之經也、禮、政之輿也、政身之守也。〔漢書、郊祀志下〕昔周史萇弘欲下以二鬼神之術一、輔二尊靈王一會中朝諸侯上。㊁朝廷であふこと。〔莊子、外物〕君曰、漁者有二余且一乎、左右曰、有、君曰、令二余且會一レ朝。㊂甲子の日の朝、卽ち周の武王が殷を討たうとし、會同して牧野に誓つた朝。又、朝のはじめ。朝を終らぬ意。一朝。一說に會戰の朝。〔詩、大雅、大明〕肆伐二大商一、會朝清明。〔傳〕會、甲也、不二崇朝一而天下清明。〔箋〕會、合也、以二天期已至、兵甲之彊、師率之武一、故今伐レ殷、合レ兵以二清明一、尚書牧誓曰、時甲子昧爽、武王朝至二于商郊牧野一乃誓。〔阮元挍勘記〕九經古義云、甲者一也、古皆以レ一爲レ甲、毛公以レ意說レ詩、故訓二會朝一爲二甲朝一。〔傳疏〕小箋云、會、古外切、甲與レ會雙聲、凡器之蓋曰レ會、日之首曰レ甲、二者演レ之爲二居レ首之稱一、云云、詩之甲朝、一謂二甲子日一、一謂二第一日一、天下清明也、案、段說、會甲雙聲通義是也、甲朝、一謂二甲子日一、一謂二第一日一、似三尙非二傳中甲字義一、甲朝猶三彤弓云二一朝一耳、甲者十之首、一者數之始、傳恐二人不レ曉二甲朝之義一、故又申二釋之一、云下不二崇朝一而天下清明上、崇、終也、不レ終レ朝、一朝也、蝃蝀・采綠傳、皆云三自レ旦及二食時一爲二終朝一、終朝、朝之終、甲朝、朝之始、不二終朝一、卽是甲朝。〔集傳〕會朝、會戰之旦也。

【會鼂】184 クヮイテウ 會朝の㊂に同じ。〔楚辭、天問〕會レ鼂爭レ盟、何踐二吾期一。〔注〕一作二會晁請盟一。〔補注〕鼂晁、並朝夕之朝。

【會適】185 クヮイテキ よろしきにかなふ。〔文心雕龍、徵聖〕抑引隨レ時、變通會レ適。

【會典】186 クヮイテン 書名。一代の典制を記したもの。其の體裁は周官に基き、官を以て事を統べ、事を以て官に隸す。明これを會典といひ、正德會典百八十卷、萬曆重修二百二十四卷がある。清これに仍り、康熙・雍正・乾隆・嘉慶・光緒の五次にこれを纂輯した。光緒會典は凡て一百卷、事例一千二百二十卷。明會典(5－13805··615)・清會典(7－17695··218)を見よ。

【會田】187 クヮイデン ㊀相會して獵をすること。田は畋、狩獵をいふ。〔十八史略、春秋戰國、齊〕齊威王與二魏惠王一、會二田于郊一。㊁アヒダ 姓氏。

【會董】188 huei^{4} tung^{3} 村會議員。

【會頭】189 クヮイトウ ㊀江戶幕府の職名。和學講談所の役人。㊁某々會と稱する所の長。會長。

【會鬪】190 クヮイトウ たたかひあふ。相會してたたかふ。〔史記、鄭世家〕子亹自下齊襄公爲二公子一時上、嘗會鬪相仇、及レ會二諸侯一、蔡仲請二子亹無レ行。

【會同】191 クヮイドウ ㊀周代の制で、諸侯が天子に拜謁すること。會は臨時の參朝、同は衆諸侯の參集。又、諸侯の會盟をいふ。來朝。朝覲。〔詩、小雅、車攻〕赤芾金舃、會同有レ繹。〔傳〕時見曰レ會、殷見曰レ同。〔集傳〕此章言、諸侯來會二朝於東都一也。〔周禮、天官、大宰〕大朝覲會同、贊二玉幣玉獻玉

几玉爵一。〔注〕時見曰レ會、殷見曰レ同。〔禮、少儀〕喪事主レ哀、會同主レ詡。〔論語、先進〕宗廟之事、如會同、端章甫、願レ爲二小相一焉。〔集注〕諸侯時見曰レ會、衆覜曰レ同。〔劉寶楠正義〕會同之禮、非三必諸侯會二同於天子一也、春秋繁露、竹林、會同之事、大者主レ小、王道、諸侯會同、賢爲レ主、賢レ賢也、據二此諸文一、明三列國會盟稱二會同一也。〔班固、東都賦〕春王三朝、會二同漢京一。㊁人々の集り。よりあひ。うちあはせる。〔清會典事例、吏部、漢員升補〕特降レ旨令下吏部會二同翰林院一、詳覆具奏上。〔福惠全書、典禮部、朝覲大計〕會二同都察院吏科河南道一。㊂水が落ちあふこと。會合。〔書、禹貢〕雷夏既澤、灉沮會同。〔蔡傳〕會者、水之合也、同者、合而一也。〔史記、夏紀〕雷夏既澤、雍沮會同。㊃契丹（遼）の太宗（耶律德光）の年號。（938－947）㊄縣名。㋑宋、置く。湖南省芷江縣の南。〔讀史方輿紀要、湖廣、靖州〕會同縣、宋渠陽縣狼江寨地、崇寧初置二三江縣一、二年改曰二會同縣一屬二靖州一。〔清史稿、地理志〕湖南、靖州直隸州、縣三、會同。㋺元、置く。廣東省瓊東縣の西北。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府〕會同縣、府東南、云云、本樂會縣地、屬二瓊州一、元至元三十年、析二置會同縣一。〔清史稿、地理志〕廣東、瓊州府、縣七、會同。㊅城の名。四川省會理縣の北。〔元和志〕天寶初於二會川縣側一立二會同軍一。〔唐書、南詔傳〕閤羅鳳取二嶲州會同軍一、據二清溪關一。㊆河の名。河北省の大清河をいふ。

【會同館】192 クワイドウクワン　賓客其の他特定の人の往來に供する公館。周代に始まり、明初には南京公館を改めて會同館とし、永樂の初年、北京にもこれを設立す。後、驛傳を定めるに當つて、京師にあるものを會同館とし、地方に在るものを水馬驛、又は遞運所と稱す。清朝に至つて、會同館は專ら驛の主腦官署となり、皇華驛に於ける驛遞事務を掌ることとなつた。會同四譯館を見よ。〔元史、百官志一〕會同館、秩從四品、掌四接二伴引三見諸蕃蠻夷峒官之來朝貢者一、至元十三年始置、二十五年罷レ之、二十九年復置、元貞元年、以二禮部尙書一領二館事一、遂爲二定制一。〔明史、職官志四〕會同館大勝關各大使一人。〔清國行政法汎論、兵部〕會同館者、附二屬於兵部一、專掌二驛馬傳車等事務一、以供二使命急遞之用一。

【會同四譯館】193 クワイドウシヤククワン　官署の名。隋唐以來四方舘を置いたが、明代には四夷館を置いて、翰林院に隸屬せしめ、四夷の文字を翻譯することを掌らしめた。其の後、太常寺少卿をしてこれを提督せしめた。清初、會同館を設け、四夷館を改めて四譯館と爲し、後、合して會同四譯館と稱し、鴻臚寺少卿をもつて館事を提要せしめ、諸藩の朝貢の使人を接待するを掌らしめた。其の屬に大使・序班・通事等の官あり、清末に廢した。〔明會典〕凡四方番夷、翻二譯文字一、永樂五年設二四夷館一、內分二八館一、曰、韃靼・女直・西番・西天・回回・百夷・高昌・緬甸、選二國子監生一習譯。〔燕都游覽志〕四夷館、在二玉河橋之西一、永樂五年十一月始設、命二禮部一選二國子監生蔣禮等三十八人一、隸二翰林院一習譯。〔清會典事例、禮部、朝貢、象譯〕乾隆十三年議准、現在入貢、統二隸理藩院一接待、據二理藩院一覆稱、高昌館字與二蒙古一同、西大館字與二唐古特一同、是該館並無二承辦事務一、應下將二四譯館一、歸中併禮部會同館上、原設二提督四譯館一、太常寺少卿一人、典務一人、並應二裁汰一、云云、十六年奏准、嗣後在二會同四譯館一、設二立朝鮮譯學一、於二下五旗朝鮮子弟內一、各咨二取四人一、令三在レ館用二心學習一。〔歷代職官表、禮部會同四譯館、國朝官制〕提督會同四譯館、禮部郎中兼鴻臚寺少卿銜一人、掌二四夷朝貢之國一、設二廣廈一以待二貢使之至一、置二象譯一以通二言語一、習二番夷書一。

【會得】194 エトク　心にさとる。がてんする。俗に、事に任ふることをもいふ。會了。領會。〔十國春秋〕宋太宗時、或言、劉昌言二閩語一、恐奏對難レ會、太宗曰、我自會得。〔明儒學案、崇仁學案、夏東岩〕程子云、會得底活潑潑地、不二會得一底只是弄二精神一。

【會讀】195 クワイドク　多くの者が相會して讀書すること。〔鹽谷宕陰、經誼館掲示〕讀書之益、專在二會讀輪講一。

【會讀輪講】196 クワイドクリンカウ　多人數會合して順番に素讀を行ひ、又、輪番に講義をし、討論を行ふこと。〔鹽谷宕陰、經誼館掲示〕讀書之益、專在二會讀輪講一。

【會寧】197 クワイネイ　㊀府名。金、置く。滿洲吉林阿城縣の南の白城。唐の渤海國の時、海古勒地といふ。金、完顏氏の發祥の地。太祖、都を建てて上京といふ。〔金史、地理志上〕會寧府下、初爲二會寧州一、太宗以レ建レ都升爲レ府。㊁縣名。㋑後魏、置く。隋、亦置く。甘肅省靖遠縣の東北。〔讀史方輿紀要、陝西、靖遠縣〕會寧廢縣、今衞治、漢金城郡枝陽縣地、晉廢、後魏置二會寧縣一屬二高平郡一、西魏置二會州一、後周廢レ州、尋幷廢レ縣、隋開皇十六年、復置二會寧縣一屬二原州一。㋺明、置く。甘肅省定西縣の東北。祖厲河の西岸。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府〕會寧縣、本隴西縣地、金人嘗於レ此置二西寧縣一、兼置二西寧州一、州旋廢、以レ縣屬二會州一、元徙二州治此一、尋以レ縣幷入レ州、明初爲二會寧縣一。〔清史稿、地理志〕甘肅、鞏昌府、縣七、會寧。㊂朝鮮、咸鏡北道會寧郡の地名。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮、咸鏡道〕府有レ五、曰二咸興・鏡城・會寧・永興・安邊一。

【會報】198 クワイハウ　某々會と稱する所から定期、又は臨時に發行する報告。

【會榜】199 クワイバウ　會試(97)に同じ。〔見聞錄〕平泉陸公會試時、時王公華爲二太守一、王夢見二城隍庭下、皆保林善人一、問二之名一、樹聲、明日召二陸公之外父李秀才一問レ之曰、汝壻平日何爲、夜夢如レ此可レ異也、李對云、只是不レ苟、已而遂報二會榜第一一。

【會髮】200 クワイハツ　髮をあつめる。〔詩、衞風、淇奧〕充耳琇瑩、會弁如レ星。〔傳〕弁、皮弁、所二以會一レ髮。

【會飯】201 クワイハン　㊀黍と稷をまぜて炊ぐ飯。〔儀禮、公食大夫禮〕賓卒食二會飯一、三飲。〔注〕會飯、謂二黍稷一也。㊁聚まつて食ふ。會食する。〔唐書、裴寬傳〕寬兄弟八人、皆擢二明經一任二臺省刺史一、雅性友愛、於二東都治第一、八院相對、甥姪亦有二名稱一、常擊レ鼓會飯。

【會匪】202 huei^{4} fei^{3}　秘密結社の匪徒。

【會費】203 クワイヒ　會を開設又は維持する費用。會員の負擔する費用。

【會稟】204 huei^{4} pin^{3}　連名で上申する。

【會微】205 クワイビ　唐、韋見素（**12**－43108‥178）の字。

【會府】206 クワイフ　北斗の第一星から第四星に至る總稱。轉じて、政權の集る所、又、尙書省をいふ。〔唐書、天文志一〕斗魁謂二之會府一、陽精之所レ復也。〔宋史、職官志八〕楊億上疏曰、尙書會府、上法二文昌一、治本是資、政典攸レ出。

【會符】207 クワイフ　北宋、哲宗の時、越（安南）仁宗（李乾德）の年號會豐の一稱。（1092－1100）

【會賦】208 クワイフ　人口を計つて其の稅を課すこと。〔淮南子、本經訓〕民力竭二於徭役一、財用殫二於會賦一。〔注〕會二計人口數一、責二其稅斂一也。

【會表】209 クワイヘウ　諸侯が野で會合する時、其の位置を示すために立てる表識。〔左氏、昭、十一〕叔向曰、單子其將レ死乎、朝有二著定一、會有レ表、衣有レ襘、帶有レ結、會朝之言、必聞二于表著之位一、所三以昭二事序一也。

【會票】210 クワイヘウ　かはせ。爲替券。〔日知錄、鈔〕唐憲宗之飛錢、卽如二今之會票一也。〔博物典彙〕飛錢、唐德宗時、令下高賈至二京師一委中錢諸路進奏院及諸軍諸使上、富家輕裝趨二四方一、合レ券取レ之號二飛錢一。

【會弁】211 クワイベン　冠の一種。會は髮を會するので會といふ。弁は皮弁で、皮で作つた冠のこと。又、縫目を玉で飾つた皮製の冠。〔詩、衞風、淇奧〕充耳琇瑩、會弁如レ星。〔傳〕弁、皮弁、所二以會一レ髮。〔箋〕會謂二弁之縫中一、飾レ之以レ玉、皪皪而處、狀似レ星也。〔集傳〕會、縫也、弁、皮弁也、以レ玉飾二皮弁之縫中一、如二星之明一也。

【會辦】212 クワイベン　總辦の輔佐官。〔清國行政法汎論、新設官廳〕凡新設官廳、必有二總辦一人一、統二轄其事務一、有レ時則置二會辦一、以輔二佐之一。

【會甫】213 クワイホ　明、吳道南（**2**－3365‥761）の字。

【會豐】214 クワイホウ　北宋（哲宗）の時、越（安南）仁宗（李乾德）の年號。一に會符に作る。（1092－1100）

【會孟】215 クワイマウ　宋、劉辰翁（**2**－2224‥1078）の字。

【會民】216 クワイミン　民をあつめる。〔周禮、地官、州長〕春秋以レ禮會レ民、而射二于州序一。

【會務】217 クワイム　某々會と稱する所の事務。

【會無】218 クワイム　縣名。漢、置く。晉の時、檜無に

作る。今、四川省會理縣の治。〔漢書、地理志上〕越嶲郡、縣十五、會無。

【會明】219 クワイメイ　明、郝奇遇（**11－39430**‥39）の字。

【會盟】220 クワイメイ　❶各國が集つて約束をとりきめること。諸侯が會同して盟約を結ぶこと。〔左氏、昭、三〕令二諸侯三歲而聘、五歲而朝、有レ事而會、不レ協而盟一。〔史記、秦紀〕秦僻二在雍州一、不レ與二中國諸侯之會盟一。〔漢書、律歷志上〕朝聘會盟、易二大業之本一也。❷地名。江蘇省如皐縣の東。吳楚の會盟の處。〔讀史方輿紀要、江南、泰州、如皐縣〕會盟原、縣東十里、相傳、吳楚會盟處、考二春秋之世一、吳楚始終無二盟會事一、春秋傳哀十二年、衞侯會二吳於鄖一公及衞侯宋皇瑗一盟、杜預曰、鄖、發陽也、海陵縣東南有二發繇口一、縣本海陵地、當二即此原一矣。

【會面】221 クワイメン　であふ。面會。〔古詩十九首〕道路阻且長、會面安可レ知。〔後漢書、范冉傳〕今子遠適二千里一、會面無レ期。

【會面難】222 クワイメンカタシ　面會することのむづかしいこと。〔杜甫、贈二衞八處士一詩〕主稱會面難、一擧累二十觴一。

【會勇】223 huei^4 yung^3　村會の壯丁。

【會郎】224 クワイラウ　里がへり。新夫婦が三日、或は七朝九日に女家に往き拜門の禮を行ひ、女家では華筵を設けて新壻を款待する。これを會郎といふ。〔夢粱錄、嫁娶〕兩新人于二三日或七朝九日一、往二女家一行二拜門禮一云云、廣設二華筵一、款二待新壻一、名曰二會郎一。

【會理】225 クワイリ　❶州の名。元、置く。四川省會理縣の東南。〔讀史方輿紀要、四川、會川衞軍民指揮使司〕會理廢州、漢二絳縣地一、元初隸二閟畔萬戶一、至元四年屬二落蘭部一、十三年改隸二會川路一、十五年置二會理州一、二十七年還屬二閟畔部一、尋復レ故、明初廢。〔清史稿、地理志〕四川、寧遠府、州一、會理州。❷縣名。民國、置く。四川省西昌縣の南。❸huei^4 li^3　會同して處理する。

【會流】226 クワイリウ　集り合つて流れること。〔述異記、上〕灌澠之閒離別亭、漢沔會流處、岸上有二石銘一云、下至二水府一三十一里、皆傳云、李斯刻二此石一。〔孟浩然、陪二張丞相一登二嵩陽樓一詩〕泱漭北彌望、沮漳東會流。

【會立】227 クワイリツ　あつまりたつ。〔史記、張釋之傳〕三公九卿盡會立。〔漢書、張釋之傳〕處士嘗召居二廷中一、公卿盡會立。

【會慮】228 クワイリヨ　國家の特旨に從ふ刑罰の減免にあふこと。慮は特赦の一種。〔唐律、名例、犯十惡〕會レ降者、聽レ從二當贖法一。〔疏議〕會レ降、從二當贖法一者、有下別蒙二敕放一、及會レ慮減上レ罪、得レ同二赦降一以否。

【會禮】229 クワイレイ　會合の儀式。〔春秋、僖、二十一、會二于孟一、注〕楚始與二中國一行二會禮一。

【會了】230 huei^4 la　よくわかる。合點がゆく。會得する。了解する。了會。領會。了は助辭。

【會獵】231 クワイレフ　❶より集つてかりをする。〔遼史、耶律良傳〕會二獵秋山一、良進二秋遊賦一、上嘉レ之。❷戰爭を申しこむことを婉曲にいふことば。會戰の意。〔魏武帝、遺二孫權一書〕近者奉レ辭伐レ罪、旌旗南指、劉琮束レ手、今治二水軍八十萬衆一、方與二將軍一會二獵于吳一。〔孫元晏、赤壁詩〕會獵書來擧レ國驚。

【會聾】232 クワイロウ　つんぼをあつめる。〔孔子家語、六本〕非二其人一、如二會レ聾而鼓一レ之。

【會論】233 クワイロン　一處に會合して議論すること。〔漢書、酷吏、嚴延年傳〕冬月、傳二屬縣囚一、會二論府上一、流レ血數里、河南號曰二屠伯一。

【會話】234 クワイワ　❶むかひ合つてはなしをする。對談。對話。〔孟郊、與二二三友一秋宵會二話清上人院一詩〕何處山不レ幽、此中情又別。❷外國語ではなす。又、其のはなし。

【會灣】235 クワイワン　遼東半島西部の第一の大澳、遼東灣の東岸に在り、中に小島多し。

【會三英】236 クワイサンエイ　芍藥の一。下品。〔海錄碎事、草木、雜花〕會三英、下品、色紫、或紅、多葉而二頭、上品三色紅。

【會城泊】237 クワイジヤウハク　湖名。山東省桓臺縣の東北の烏河口。古の平州。〔水經、濟水注〕濟水、又東北迤爲二淵渚一、謂二之平州一、漯沃縣側有二平安故城一、俗謂二之會城一非也。〔新城縣志〕會城泊、亦名二紅蓮泊一。

【會趣堂】238 クワイシユダウ　宋、王十朋（**7－20823**‥1623）の室名。

【會眞記】239 クワイシンキ　唐代小說の名。唐、元稹撰。一名、鶯鶯傳。張生と崔氏の少女鶯鶯との事を記したもので、元の王實甫の西廂記傳奇の本づく所といふ。宋の王銍は此の記を以て元稹の自敍とし、特に避けて他姓を假りたものとしてゐる。〔五朝小說、第十四冊〕・〔說郛、第一百十五冊〕・〔唐人說薈、第十五冊〕・〔龍威祕書、第二十九冊〕。

【會丹灘】240 クワイタン　灘名。湖北省襄陽縣の東南。〔宋元通鑑〕咸淳七年、范文虎將二衞卒及兩淮舟師十萬一、進至二鹿門一、兀朮夾レ江爲レ陣、別令三一軍趨二會丹灘一。

【會的話】241 huei^4 tê huo^4　積る物語。〔中夏俗語藪、三〕。

【會防局】242 クワイバウキヨク　官署の名。會捕局に同じ。

【會捕局】243 クワイホキヨク　官廳の名。清の光緒二十二年迄上海佛租界內に設けてあつた共同警察署。原名を會防局といふ。

【會英咀華】244 huei^4 ying^1 chü^3 hua^2　立派な品を集めて居るといふ廣告的文句。含英咀華（**2－3350**‥9）を見よ。

【會校成要】245 クワイカウセイエウ　金穀の出入を計算する。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕會校成要、期歲畢具。

【會者定離】246 ヱシヤヂヤウリ　佛會ふものは、亦必ず別れることのあるといふ義。世の無常を觀じた語。〔遺教經〕世皆無常、會必有レ離。〔法華經、譬喩品〕愛別離苦、是故會者定離。

【會中之人】247 huei^4 chung^1 chih^3 jen^2　合點した仲間。〔中夏俗語藪、二〕。

【會祥大慶】248 クワイシヤウタイケイ　北宋徽宗の時、越（安南）仁宗（李乾德）の年號。（1110－1119）

【會任之家】249 クワイニンノイヘ　殺人出獄者を引取り輯睦和合するを任とする者。〔潛夫論、述赦〕出レ獄蹤踖、復犯レ法者、何不レ然、洛陽至レ有レ主三諧二合殺レ人者一、謂二之會任之家一、受レ人十萬、謝レ客數千、又重饋二部吏一、吏與通レ姦、利入深重、幡黨盤牙、請至二貴戚寵權一、說聽二於上一、謁行二於下一、是故雖二嚴令尹一、終不レ能二破壞斷絕一。

【會逢二其適一】250 タマタマソノテキニアフ　偶然意にかなふ。〔文中子、周公〕子謂二仲長子光一曰、山林可レ居乎、曰、會逢二其適一也、焉知二其可一。

【⿰申東】14307　トウ　ツ　〔集韻〕他東切　東

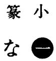
鼓のおとが遠く聞える。〔集韻〕⿰申東、鼓聲遠聞。

參考　⿰申東（**5－14310**）は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕⿰申東、音通、鼓聲。⿰申柬、音引、擊二小鼓一引二樂聲一。

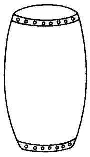
【⿳丷曰大】14308　キ　韋（**12－43108**）の古字。〔說文〕韋、⿳丷曰大、古文韋。

十畫

【朄】14309　イン　〔集韻〕羊進切　震


小篆

❶**こつづみ。又、其の音。**大鼓をならす前にうつもの。〔說文〕朄、擊二小鼓一引二樂聲一也、从レ申柬聲。〔玉篇〕朄、小鼓在二大鼓上一、擊レ之以引レ樂也。❷田（**7－21723**）に誤り通ず。〔詩、周頌、有瞽、應田縣鼓、箋〕田、當レ作レ朄、朄、小鼓、在二大鼓旁一、應鞞之屬也、聲轉字誤、變而作レ田。


鞞鼓
（三才圖會）

【⿰申柬】14310　イン　朄（**5－14309**）に同じ。〔周禮、春官、大師〕令レ奏二鼓⿰申柬一。〔注〕

先擊二小鼓一、乃擊二大鼓一、小鼓爲二大鼓先引一、故曰レ朄、朄、讀爲二道引之引一。

參考 朄(5－14307)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕朄、音通、鼓聲。朄、音引、擊二小鼓一引二樂聲一。

【朅】14311

小篆

㊀ケツ ケチ 〔集韻〕丘傑切 ㄑㄧㄝˋ ch'ieh⁴ 屑

㊁ケツ コチ 〔集韻〕丘謁切 月

㊀㊁❶**さる**。〔說文〕朅、去也、从レ去曷聲。〔呂覽、士容〕富貴弗レ就、貧賤弗レ朅。〔漢書、司馬相如傳〕朅輕擧而遠遊。❷**いさましいさま**。**たけきさま**。桀(6－14753)に通ず。〔詩、衞風、碩人〕庶士有レ朅。〔傳〕朅、武壯貌。〔釋文〕朅、韓詩作レ桀、云、健也。❸**いつ**。**いつか**。曷(5－14290)に通ず。〔正字通〕朅、與レ曷通。〔呂覽、貴因〕朅至。〔注〕朅、何也。❹**なんぞ…ざる**。盍(8－22980)に通ず。〔顏延之、秋胡妻詩〕朅レ來空復辭。〔注〕朅、與レ盍同。❺**ここに**。聿(9－29215)に通ず。〔正字通〕朅、發語辭、朅來猶二聿來一、今詩家以二朅來一爲二去來一。

【朅伽】1ケツカ 佛梵語。犀牛をいふ。〔翻譯名義集〕朅伽、此云二犀牛一。〔事物異名錄、獸畜部、犀〕澠水燕談錄、西域謂レ犀爲二朅伽一。

【朅歸】2ケツキ 去り歸ること。〔楚辭、九辯〕車既駕兮、朅而歸。〔補注〕朅、去也。

【朅休】3ケツキウ 去つて停まりやすむ。〔劉楨、黎陽山賦〕自二魏都一而南邁、迄二洪川一以朅休。

【朅至】4ケツシ 何時到着するかといふ意。〔呂覽、貴因〕武王至二鮪水一、殷使二膠鬲候二周師一、武王見レ之、膠鬲曰、西伯將二何之一、無レ欺レ我也、武王曰、不二子欺一、將レ之レ殷也、膠鬲曰、朅至、武王曰、將下以二甲子一至中殷郊上、子以レ是報矣。〔注〕朅、何也、言、以二何日一來二至殷一也。

【朅來】5ケツライ ❶發語の辭。ここに。聿來(9－29215・12)に同じ。一說、去る。去來。往來。〔正字通〕朅、發語辭、朅來猶二聿來一、今詩家以二朅來一爲二去來一。〔漢書、司馬相如傳下〕回レ車朅來兮、絕二道不周一。〔劉向、七言〕朅來歸耕永自疎。〔後漢書、張衡傳〕回志朅來從二玄諆一。〔注〕朅、去也。❷なんぞ來らざる。どうして來ないのか。朅は盍に同じ。〔顏延之、秋胡詩〕朅レ來空復辭。〔升菴詩話、十二、朅來〕今文語辭、朅來・聿來、不レ知レ所レ始、按楚辭、車既駕兮朅而歸、不レ得レ見兮心傷悲、舊註、朅、去也、又按呂氏春秋、膠鬲見二武王于鮪水一曰、西伯朅去、無レ欺レ我也、武王曰、不二子欺一、將レ伐レ殷也、膠鬲曰、朅至、武王曰、將下以二甲子日一至上、註、朅、何也、若然則朅之爲レ言盍也、若以解二楚辭一、則謂下車既駕矣、盍二而歸一乎、以レ不レ得レ見而以傷悲上也、意尤婉至、則今文所二襲用一朅來者、亦謂二盍來一也、非二是發語之辭一矣、文選註、劉向七言曰、朅來歸耕永自疎、顏延年秋胡妻詩曰、朅來空復辭、義皆謂二盍來一始通。

十一畫

【普】14312 テイ 替(5－14300)に同じ。〔說文〕普、普、或从レ曰。

【⿱殸曰】14313

㊀ネイ ニヤウ 〔集韻〕囊丁切 青

㊁ヂ ニ 〔集韻〕女夷切 支

㊀㊁**つげる**。〔玉篇〕⿱殸曰、告也。

【⿺走最】14314 シユウ 〔篇海〕音聚

地名。⿺走差⿺走最。⿺走差(5－14318)を見よ。〔篇海〕⿺走差⿺走最、地名。

十二畫

【⿱壴曰】14315 ホウ 豐(10－36304)の古字。〔玉篇〕⿱壴曰、古文豐。

【⿱兟曰】14316 タイ 替(5－14300)に同じ。〔說文〕普、⿱兟曰、或从レ兟从レ曰。

十三畫

【⿰曾勿】14317 フ 未だ曾て云云せずの意。⿰曾力(10－34780)を見よ。

【⿺走差】14318 タ 〔篇海〕音詫

⿺走差⿺走最は地名。河北省行唐縣の東。風景絕佳。清の高宗、五臺に幸し、此處を過ぎて詩を作る。〔篇海〕⿺走差、地名、在二行唐縣北一、村名二⿺走差⿺走最一。

【⿺走益】14319 テン 〔篇海〕音添

ます。〔篇海〕⿺走益、益也。

十四畫

【⿱曰㒼】14320 バン 僈(1－1052)の古字。〔五音集韻〕⿱曰㒼、古文僈字。

十五畫

【⿱曰爾】14321 ダ ⿰巾多(4－8887)の古字。〔玉篇〕⿱曰爾、古文⿰巾多。

【⿰申東】14322 サウ 〔篇海〕音遭

日が東方に出る。〔篇海〕⿰申東、日出二東方一也。

十六畫

【𣍘】14323 サウ 曹(5－14297)の本字。〔字彙〕𣍘、曹本字。

【⿺走兼】14324 テン ⿺走益(5－14319)に同じ。〔篇海〕⿺走兼、同レ⿺走益。

十七畫

【朇】14325 ヒ 〔集韻〕頻彌切 支

小篆

ます。裨(10－34338)に同じ。〔說文〕朇、益也、从レ會卑聲。〔段注〕朇・裨、古今字。

二十一畫

【⿱會果】14326 クワ 義未詳。〔字彙補〕⿱會果、音果。

二十三畫

【⿺是轝】14327　ヨ　〔篇海〕音譽

縣名。〔篇海〕⿺是轝、縣名。

二十八畫

【⿺是黌】14328　クヮウ　黌(**12−47985**)に同じ。〔字彙補〕⿺是黌、同レ黌。

三十一畫

【⿰書黌】14329　クヮウ　黌(**12−47985**)に同じ。〔字彙補〕⿰書黌、同レ黌。

月部

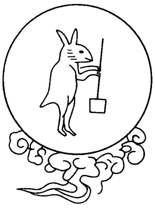
【月】14330　ゲツ　グヮチ　［慣］グヮツ　〔集韻〕魚厥切　ㄩㄝˋ　yüeh⁴　［月］。

小篆（說文）

小篆（段注本）

古文（六書統）

❶つき。㋑太陰の精。地球の衞星。〔說文〕月、闕也、大侌之精、象形。〔釋名、釋天〕月、闕也、滿則闕也。〔廣雅、釋天〕夜光謂二之月一。〔儀禮、覲禮〕禮下月與二四瀆一於北門外上。〔注〕月、太陰之精。〔白虎通、日月〕月之爲レ言、闕也、有レ滿有レ闕也。㋺陰陽で陰にあたる。〔管子、白心〕化レ物多者、莫レ多二於日月一。〔注〕月、陰也。㋩五行で水にあてる。〔論衡、說日〕月者、水之精也。㋥方位で辰にあてる。〔大戴禮、易本命〕辰主レ月。〔孔子家語、執轡〕辰爲レ月。㋭人道で后・妃・大臣・諸侯・衆臣に配する。〔詩、邶風、柏舟〕日居月諸。〔傳〕月、臣象也。〔後漢書、李固傳〕月者、大臣之體也。〔注〕月者、衆陰之長、妃后大臣諸侯之象也。㋬刑殺を主宰するもの。〔鶡冠子、夜行〕月、刑也。〔漢書、天文志〕月者、刑也。㋣一年を十二分した期間の名。〔書、堯典〕以二閏月一定二四時一成レ歲。〔傳〕一歲十二月、月三十日。〔書、洪範〕二曰月。〔疏〕從レ朔至レ晦、大月三十日、小月二十九日。〔禮、禮運〕月以爲レ量。〔注〕天之運行、每三十日、爲二一月一。㋠つきを數へる單位。〔儀禮、喪服〕服二齊衰三月一。〔莊子、逍遙遊〕以二六月一息者也。〔後漢書、和帝紀〕其未レ竟二三月一者、皆免歸二田里一。㋷としつき。光陰。〔陶潛、雜詩〕歲月不レ待レ人。㋦一箇月の間。〔中庸〕不レ能二期月守一也。〔後漢書、楊賜傳〕旬月之間、並各拔擢。㋸月のひかり。つきかげ。〔宋史、陸佃傳〕居レ貧苦學、夜無レ燈、映レ月讀レ書。㋾天子十二章の一。十二章(**2−2695‥376**)を見よ。〔書、益稷〕予欲レ觀二古人之象一、日・月・星辰。**❷つきに。**つきごとに。〔中庸〕日省月試。〔論語、雍也〕其餘則日月至焉而已矣。**❸つきのもの。**婦人の月經。經水。〔正字通〕月、女子天癸、謂二之月事一、以レ時下曰レ入レ月、過レ時不レ下、爲レ不レ月。〔素問、上古天眞論〕月事以レ時下、故有レ子。**❹一百六韻の一。**入聲第六。**❺姓。**〔正字通〕月、姓、金史、月彥明、首建二孔子廟一、明洪武中、月輝・月文憲。［邦］**つきへん。**漢字扁旁の名。


㋾十二章の一
（四書引蒙略圖解）

［名乘］ツギ。

［解字］象形。月のかたちにかたどる。卽ち月のかけた形。〔說文、月、段注〕月闕・疊韻、釋名曰、月缺也、滿則缺也、象二不レ滿之形一。

［參考］つきへんに混同し、又類似するもの、他に丹・肉・舟・冃がある。形を別ければ、本來のつきへんは月で右方が離れ、丹は円で一畫は縱、肉は月で左右共に接し、舟は月又は⺝で中の二畫を斜にし、冃は中の二畫共に離れ左の縱畫が撥ねてない。併し、字書には混じて集め、又、書き別け難い。〔字彙、辨似、五字相似〕月、日月之月、內畫缺レ右。円卽丹字、青清情靖靜等字从レ此。月、肉字傍、內畫連。月、舟字傍、勝朝前等字从レ此。冃、冒字傍、上从レ日二畫居レ中。

【月域】1 ゲツヰキ　西のはての遠いくに。月竁。〔南齊書、樂志〕亘レ地稱レ皇、罄レ天作レ主、月域來賓、日際奉レ土。

【月陰】2 ゲツイン　❶月がくもる。又、つきかげ。月影。〔謝靈運、維摩經十譬贊、浮雲〕泛濫明月陰、薈蔚南山雨。〔謝朓、奉二和隨王殿下一詩〕月陰洞二野色一、日花麗二池光一。〔江淹、效二阮公一詩〕戾戾曙風急、團團明月陰。❷陰曆の干支紀月の十二支をいふ。月建と同じ。正月が寅、二月が卯の類。

〔月陰二重山一兮擎レ扇喩レ之、風息二大虛一兮動レ樹教レ之〕3 ツキチヨウザンニカクレヌレバアフギヲアゲテコレニタトヘ、カゼタイキヨニヤミヌレバキヲユルガシテコレヲシフ　眞理は口說の能くする所ではないが、口說の方便を以て教へ知らしめること。月と風とを眞理に、重山を煩惱に、大虛を空寂に、扇と樹とを方便の說話に比していふ。〔倭漢朗詠集、佛事、止觀第一文〕月隱二重山一兮、擎レ扇喩レ之、風息二大虛一兮、動レ樹教レ之。

【月隱】4 ゲツイン　❶月がかくれる。〔李嘉祐、夜聞二江南人家賽神一因題卽事詩〕月隱二回塘一猶自舞、一門依倚神之祐。〔陸龜蒙、補二沈恭子一詩〕亂翠缺月隱、衰紅淸露愁。❷ツゴモリ　月晦(80)に同じ。

【月宇】5 ゲツウ　清、張旺(**4−9812‥760**)の字。

【月暈】6 ゲツウン　つきがさ。つきをとりまいて生ずる環狀の雲氣。〔太平御覽、天、月〕淮南子曰、畫隨レ灰而月暈闕、許愼注曰、有二軍事一相圍守、則月暈、以二蘆灰一環二缺其一面一、則月暈亦闕二於上一。〔晉書、戴洋傳〕咸和初、月暈在レ角。〔魏書、晁宗傳〕天興五年、月暈左角觸。〔酉陽雜俎、廣動植、毛篇〕虎交而月暈。

〔月暈主レ風〕7 ゲツウンカゼヲツカサドル　月の周圍に笠のやうな光りがあるのは風となるの兆。〔田家五行、雜占論月〕月暈主レ風、何方有レ闕、卽此方風來。

【月運】8 ゲツウン　❶月の運行。〔方言、十二〕日運爲レ躔、月運爲レ逡。〔注〕運、猶レ行也。❷月暈に同じ。〔淮南子、覽冥訓〕畫隨レ灰而月運闕、鯨魚死而彗星出、或動レ之也。〔集解〕陶方琦云、運者、軍也、以下或卽許注羼二入高注中一者、許作レ暈、說文、暈、日月气也、漢書天文志、如淳曰、暈、讀曰レ運、則高本作レ運、亦合也。

【月盈】9 ゲツエイ　月が盈ちる。滿月。〔國語、越語下〕日困而還、月盈而匡。

〔月盈則食〕10 ツキミツレバスナハチショクス　月は滿ちれば必ず缺ける。盛なものは必ず衰へる喩。〔易、豐〕日中則昃、月盈則食。〔孔子家語、六本〕日中則昃、月盈則食。

【月影】11 ゲツエイ　つきかげ。月の光。〔唐玄宗、千秋節賜二羣臣鏡一詩〕臺上冰花澈、窗中月影臨。〔顧況、宿二昭應一詩〕那知今夜長生殿、獨閉二空山一月影寒。〔文天祥、曉起詩〕鐘聲到レ枕曙、月影入レ簾秋。

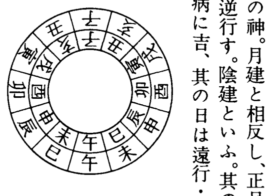
【月要】12 ゲツエウ　其の月中の會計。其の月中の會計豫算。〔周禮、天官、司會〕以二月要一攷二月成一。〔疏〕以二月要一考二月成一者、月計曰レ要、亦與二諸職一參互考二一月成事之書一也。

【月曜】13 ゲツエウ　❶月がかがやく。〔韓駒、淮上書事

詩〕蕭條月曜夜、浩蕩風鳴夜。㊁佛七曜の一。胎藏界の外金剛院の一衆。〔祕藏記末〕月曜肉色、持二半月形一、上有二兔形一。㊂七曜日の第二日目。月曜日。星期一。禮拜一。

【月越】14 ツキゴシ　兩月にわたること。

【月厭】15 ゲツエフ　厭魅の神。月建と相反し、正月、戌に在り、十二辰を逆行す。陰建といふ。其の方位は禳災・祈福・避病に吉、其の日は遠行・歸家・移徙・婚嫁を忌む。〔協紀辨方書、義例二、月厭〕天寶曆曰、月厭者、陰建之辰也、所レ理之方、可二以禳一レ災祈レ福避レ病、所レ値之日、忌二遠行・歸家・移徙・婚嫁一、曆例曰、月厭者正月在レ戌、逆二行十二辰一。



月厭
（協紀辨方書）

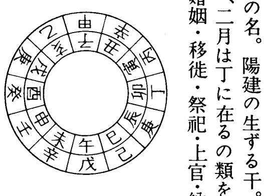
【月宴】16 ゲツエン　月見の酒宴。〔陳旅、詩〕何哉芳月宴、而我阻二幽尋一。

【月掩】17 ゲツエン　太陰が遊星又は恒星をおほふこと。〔舊唐書、肅宗紀〕月掩二歲星一。

【月圓】18 ゲツエン　月が圓い。滿月。〔陶潛、戊申歲六月中遇火詩〕迢迢新秋夕、亭亭月將レ圓。

【月屋】19 ゲツヲク　元、黃庚(**12－47926**‥119)の號。

【月恩】20 ゲツオン　叢辰の名。陽建の生ずる干。子母相從ふ。正月は丙、二月は丁に在るの類をいふ。其の日は營造・婚姻・移徙・祭祀・上官・納財に吉。〔協紀辨方書、義例三、月恩〕月恩者、陽建所レ生之干也、子母相從、謂二之月恩一、其日宜二營造・婚姻・移徙・祭祀・上官・納財一、曆例曰、月恩者、正月丙、二月丁、三月庚、四月己、五月戊、六月辛、七月壬、八月癸、九月庚、十月乙、十一月甲、十二月辛。



月恩
（協紀辨方書）

【月下】21 ゲツカ　㊀つきかげのもと。月光で明るいところ。〔賈島、題二李凝幽居一詩〕鳥宿池邊樹、僧敲月下門。〔李白、淸平調〕若非二羣玉山頭見一、會向二瑤臺月下一逢。〔韋莊、擣練篇〕臨風縹緲疊二秋雪一、月下丁冬擣二寒玉一。〔文同、蓮賦〕張二翠帷於月下一兮、列二綵仗於煙際一。㊁月がくだり低れる。〔王勃、九成宮東臺山池賦〕景沈二西壑一、月下二東濱一。㊂月經が下りる。〔素問、上古天眞論〕二七而天癸至、任脈通、太衝脈盛、月事以レ時下、故有レ子。

【月下香】22 ゲツカカウ　花の名。高さ二三尺で根と葉とは水仙の如く、花は白色で六瓣、夏に花を開き、夜、芳香を放つ。晚香玉(**5－13940**‥32)に同じ。〔臺灣府志〕。

【月下白】23 ゲツカハク　菊の一種。一名玉兔華。花は青白で、月下に見るが如くであるからいふ。〔羣芳譜、月下白〕一名玉兔華、花青白如二月下觀一レ之、徑僅二寸、其形團、其瓣細而厚、葉青而似二水晶一、毬長而狹、其背弓、其亞淺、其枝幹勁挺、高可二三四尺一。

【月下老】24 ゲツカラウ　緣むすびの神。媒妁人。月下老人。月下冰人。唐の韋固が宋城に旅した時、月下に囊に倚つて書を讀んでゐる異人に會つて、其の囊中の赤繩は何物かと問へば緣結びの絲であり、此の絲を以て夫婦となるべきものの足を繫ぐのであると答へたといふ故事。〔續幽怪錄〕唐韋固、少未レ娶、旅二次宋城一、遇二異人一、倚レ囊坐、向二月下一檢レ書、固問、答曰、天下之婚爾、因問二囊中赤繩子一、云此以繫二夫妻之足一、雖二仇家異域一、繩一繫レ之、終不レ可レ易、君妻乃此店北賣菜陳嫗女爾、後十四年、參二相州軍事一、刺史王泰妻以レ女、年十六七、女曰、妾郡守之猶子也、父卒二于宋城任一、時方襁褓、乳母鬻レ蔬以給二朝夕一、宋城宰聞レ之、名二其店一曰二定婚店一。〔書言故事、婚姻類〕婚成、曰レ喜レ諧二月下老之書一。

【月下花前】25 ゲツカクワゼン　男女の私かに約する所を指していふ。あひびきの所をいふ。〔兩世姻緣傳奇〕怎教二我月下花前不一レ動レ情。

【月下冰人】26 ゲツカヒヨウジン　緣むすびの神。轉じて、婚姻のなかうど。月下老と冰上人との故事。冰上人とは晉の令狐策が冰上に立つて冰下の人と語る所を夢にみたが、索紞が之を占つて、冰上の陽と冰下の陰と言を交へるは媒介のことであると解いたといふ故事。月下老(24)及び冰人(**2－1612**‥98)を見よ。

【月牙】27 ゲツガ　三日月。新月。又、其の形のもの。月芽。〔張澄、詩〕別家亦見月牙新。〔楊維楨、璚花珠月二名姬詩〕蒲萄酒灔沈二櫻顆一、翡翠裙翻踏二月牙一。

【月牙湖】28 ゲツガコ　㊀地名。新疆省綏定縣の東南。伊犂河に臨む。清の嘉慶の時、露國、貿易廳を設く。㊁湖名。甘肅省高臺縣の西。

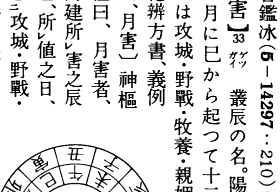
【月河】29 ゲツガ　川の名。㊀河南省桐柏縣の北。源は泌陽縣。淮河に注ぐ。㊁源は陝西省漢陽縣の西。漢江に注ぐ。又、月川水・越河ともいふ。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、興安州、漢陰縣、恒河〕月河、在二縣城西一、源出二縣東六十里之月嶺山一、流二經此南一、注二於漢水一、今城西有二月河堰一、卽引二月河一漑レ田處也。

【月河宰相】30 ゲツカサイシヤウ　宋、莫汲(**9－31078**‥12)の號。

【月芽】31 ゲツガ　新月。三日月。月牙(27)に同じ。〔帝京景物略〕新月曰二月芽兒一。

【月娥】32 ゲツガ　㊀月中の仙女。〔孟郊、看レ花詩〕月蛾雙雙下、楚艷枝枝浮。〔李商隱、燕臺詩〕浪乘畫舸憶二蟾蜍一、月娥未二必嬋娟子一。〔陳陶、贈二別離詩一〕蹄輪送レ客溝水東、月娥揮レ手崦嵫峰。㊁清、曹鑑冰(**5－14297**‥210)の號。

【月害】33 ゲツガイ　叢辰の名。陽建の害する辰をいふ。正月に巳から起つて十二辰を逆行する。其の日は攻城・野戰・牧養・親姻・請醫等を忌む。〔協紀辨方書、義例四、月害〕神樞經曰、月害者、陽建所レ害之辰也、所レ値之日、忌二攻城・野戰・牧養・羣畜・結會・親姻・請醫・巫納・奴婢一、曆例曰、正月起レ巳、逆二行十二辰一。



月害
（協紀辨方書）

【月交】34 ゲツカウ　二十五日をいふ。〔和漢三才圖會、天象類〕四時占候諺語、廿五日謂二之月交一。

【月缸】35 ゲツカウ　燈盞の異名。〔事物異名錄、器用、燈〕事物紺珠、紅缸星缸、俱燈盞也、廣韻又名二月缸一。

【月香】36 ゲツカウ　清、胡桂(**9－29400**‥107)の號。

【月角】37 ゲツカク　相術家の語。右額の中央に寄つたところ。天庭の右鄰。流年運氣(**6－17431**‥307)を見よ。〔庾信、周上柱國齊王憲神道碑〕飛鳳長柳、月角星眉。〔薛道衡、老氏碑〕珠衡月角、天表冠二于百王一。〔事物異名錄、形貌、骨〕稗編、左目上曰二日角骨一、右目上曰二月角骨一。

【月客】38 ゲツカク　㊀女子の經水をいふ。〔駢雅、釋名釋〕月客、月事也。〔神仙服食經〕仙藥有二陽丹陰丹一、陰丹、婦人乳汁也、婦人十五已上、下爲二月客一、有レ孕月客絕、上爲二乳汁一。㊁月卿雲客(98)の略。

【月額】39 ゲツガク　㊀朔日に降る雨。月額雨を見よ。〔金樓子、雜記下〕余初至二荊州一卜レ雨、時孟秋之月、陽亢日久、月旦雖レ雨、俄而便晴、有レ人云、諺曰、雨二月額一、千里赤、蓋旱之徵也。〔袁士元、喜雨詩〕天瓢乍滴終傾倒、月額初開斷復連。㊁一箇月の額。〔宋史、食貨志下五〕鹹脈有二盈縮一、月額有二登耗一。

【月額雨】40 ゲツガクウ　朔日の雨。〔荊楚歲時記〕月額雨、旦日雨也。

【月割】41 ツキワリ　月賦。月にわりあてること。

【月刊】42 ゲツカン　毎月一度づつ次第を逐うて印刷物を發行すること。季刊・旬刊などに對す。

【月函】43 ゲツカン　清、董說(**9－31433**‥18)の字。

【月閒】44 ゲツカン　㊀月光のへだたること。〔張說、寄二司馬道士一詩〕朱闕靑霞斷、瑤堂紫月閒。〔李嘉祐、夜宴二南陵一留別詩〕雲滿二前庭一月色閑。㊁一箇月の閒。毎月。

【月澗】45 ゲツカン　㊀月かげをうかべたたにがは。〔王勃、九成宮頌〕佇二虹旆於月澗一、岳瀆生レ光。〔李嶠、夏晚九成宮呈二同寮一詩〕月澗橫二千丈一、雲崖列二萬重一。㊁字號。㋑宋、劉南甫(**2－2224**‥125二)の號。㋺元、道隱(**11－39010**‥19)の號。

【月檻】46 ゲツカン　觀月の樓。〔柳宗元、桂州訾家洲亭記〕其隙則抗二月檻於廻溪一、出二風榭於篁中一。〔皮日休、奉レ獻二致政裴祕監一詩〕月檻詠二詩情一、花溪釣魚戲。

【月眼】47ゲツガン ㊀月をいふ。〔姚合、天竺寺前立レ石詩〕苔粘二月眼一風挑剔、塵結二雲頭一雨磕敲。㊁見識のすぐれたこと。〔黃庭堅、詩〕讀レ書眼如レ月、罅隙靡レ不レ照。

【月巖】48ゲツガン 字號。㊀宋、程紹開(8－25081・・242)の號。㊁清、周禮(宜黃の人)(2－3441・・497)の號。

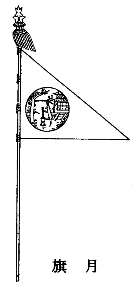
【月忌】49ゲツキ ㊀月中の忌むべき日。俗に毎月の五日・十四日・二十三日の三日をいふ。〔齊東野語〕俗以二毎月初五・十四・二十三日一爲二月忌一、凡事必避レ之、其説不經、後見二衞道夫一云、前輩云此三日、卽河圖數之中宮五數耳、五爲二君象一、故民庶不レ可レ用、此説頗有レ理。㊁〘佛〙毎月一度の忌日。毎月故人の死亡した日に行ふ法要をいふ。年忌に對していふ。

【月季】50ゲツキ 月季花の略。

【月季花】51ゲツキクワ 薔薇の一種。かうしんばら。長春花。月月紅。〔本草、月季花〕釋名、月月紅、勝春、瘦客、鬪雪紅、集解、時珍曰、處處人家多栽二插之一、亦薔薇類也、青莖、長蔓、硬刺、葉小二於薔薇一、而花深紅、千葉厚瓣、逐レ月開、放不レ結レ子也。〔益部方物記〕月季花卽東方所謂四季花者、翠蔓紅蘤、蜀少二霜雪一、此花得二終歲十二月輒一開一。〔宣和畫譜〕趙昌月季花一。〔蘇軾、次二韻子由月季花再生一詩〕幽芳本長春、暫瘁如レ蝕レ月。

【月氣】52ゲツキ 月光。つきしろ。〔顏延之、應レ詔讌二曲水一作詩〕月氣參變。〔注〕善曰、月氣參變、謂二三月一也、月氣毎月一變、故曰レ參也。〔高適、同二韓四薛三一東亭翫レ月詩〕樹陰蕩二瑤瑟一、月氣延二清尊一。

【月旗】53ゲツキ 旗の名。周代、日月を畫いた旗を大常といひ、宋の太祖に至り始めて月旗を制し、青地に月を畫き、中に兎を畫く。〔三才圖會、日旗月旗圖考〕周官司常掌二九旗之物名一、其一曰、日月爲レ常、云云、宋太祖始置二日月旗各一一、天聖鹵簿圖、日旗赤質畫レ日、中以レ雞、月旗青質畫レ月、中以レ兎。


月旗
（三才圖會）

【月輝】54ゲツキ 月のひかり。〔梁簡文帝、夜夜曲〕月輝橫射レ枕、燈光半隱レ牀。〔許敬宗、七夕賦詠成篇詩〕飄飄羅襪光二天步一、灼灼新牀鑒二月輝一。

【月諱】55ゲツキ 俗間に行はれる毎月の忌みごと。例へば五月には屋に上ることを忌む類。〔荊楚歲時記、注〕或問二董勛一曰、俗五月不レ上レ屋云、五月人或上レ屋、見レ影魂便去、勛答曰、蓋秦始皇自爲レ之、禁レ夏不レ得レ行、漢魏未レ改、按、月令仲夏可三以居二高明一、可三以遠二眺望一、可三以升二山陵一、可三以處二臺榭一、今云レ不レ得レ上レ屋、正與レ禮反、俗人月諱、何代無レ之、但當三矯レ之歸二于正一耳。

【月儀】56ゲツギ 時候に關する書牘文。明代法帖中に晉の索靖の月儀章殘本、唐の無名氏の月儀あり、又、日本國見在書目に許敬宗月儀、十二月儀等が擧げられてゐる。

【月吉】57ゲツキツ 毎月の朔日。〔周禮、天官、大宰〕正月之吉、始和、布二治于邦國都鄙一。〔注〕吉、謂二朔日一。〔周禮、地官、族師〕月吉、則屬レ民而讀二邦法一、書二其孝弟睦婣有レ學者一。〔注〕月吉、毎月朔日也。

【月給】58ゲツキフ 月々生活の資を附與すること。又、一箇月の給料。月俸。〔周禮、夏官、掌固〕均二其稍食一。〔疏〕月祿廩者、所レ守之處守、月給二米廩一與レ之、故謂二之稍食一也。〔宋書、沈慶之傳〕月給二錢十萬、米百斛、衞史五十人一。〔宋史、畢士安傳〕出知二潞州一、特加二月給之數一。〔元史、世祖紀二〕丙子詔二宋人一歸順、及二北人陷沒一來歸者皆月給二糧食一。

【月給日】59ゲツキフビ 月給を支拂ふ一定の日。

【月給取】60ゲツキフトリ 月給を受ける人。つとめにん。サラリーマン。

【月腳】61ゲツキヤク 月光の下り照らすをいふ。〔蘇軾、牛口見レ月詩〕掩窓寂已睡、月腳垂二孤光一。

【月宮】62ゲツキユウ ㊀つきのみやこ。月中の宮殿。廣寒宮。〔海內十洲記〕始青之下、月宮之間。〔劉禹錫、懷レ妓詩〕青鳥去時雲路斷、姮娥歸處月宮深。〔白居易、東城桂詩〕月宮幸有二閑田地一、何不三中央種二兩株一。㊁〘佛〙グワツグウ 月天子の宮殿。卽ち月の世界。〔起世經、十〕月天子宮、縱廣正等、四十九由旬、四面周圍、七重垣牆、云云、七寶所成、云云、月天宮殿、純以二天銀天青瑠璃一、而相間錯、云云、彼月天子最勝宮殿、爲二五種風一攝持而行、何等爲レ五、一持、二住、三願、四攝、五行、以二此五風一所二攝持一故、月天宮殿、依レ空而行、云云、於二此月天大宮殿中一有二一大輦一、青瑠璃成、其輦舉高十六由旬、廣八由旬、月天子與二諸天女一在二此輦中一、以二天種種五欲功德一和合受レ樂、觀娛悅豫、隨レ意而行、諸比丘、彼月天子、如二天年月一壽五百歲、子孫相承、皆於レ彼治。

【月宮奠】63 yüeh^{4} kung^{1} tien^{4} 八月十五日に月を祭る儀式。

【月宮殿】64ゲツキユウデン つきのみやこの中にあるといふ御殿。廣寒宮。月宮を見よ。

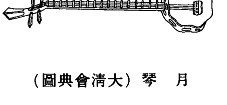
【遊二月宮一】65ゲツキユウニアソブ 唐の玄宗皇帝が月中の廣寒宮に遊んだ故事。〔開元天寶遺事〕明皇與二申天師一、中秋夜遊二月宮一、見レ牓曰二廣寒清虛之府一。〔龍城錄〕開元六年、上皇與二申天師一八月望夜、同遊二月中一、過二一大門一、在二玉光中一、寒氣逼レ人、頃見二一大宮府一、牓曰二廣寒清虛之府一、有二素娥十餘人一、往二來舞三笑於廣陸大桂樹之下一、又聽二樂音清麗一、上皇因製二霓裳羽衣舞曲一。

【月御】66ゲツギヨ ㊀月を御する神。望舒。孅阿。〔廣雅、釋天〕日御謂二之羲和一、月御謂二之望舒一。〔史記、司馬相如傳〕陽子驂乘、孅阿爲レ御。〔注〕索隱曰、樂彥曰、孅阿山名、有二女子一處二其巖一、月歷二巖度一、躍入二月中一、因爲二月御一也。〔顏延之、宋郊祀歌〕月御案レ節、星驅扶レ輪。〔注〕善曰、王逸楚辭注曰、望舒、月御也。㊁月の運行をいふ。〔王僧孺、禮佛唱導發願文〕尺波寸景、大力所レ不レ能レ駐、月御日車、雄才莫二之能遏一。

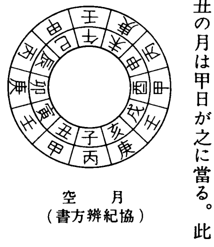
【月漁】67ゲツギヨ 宋、林亦之(6－14551・・271)の號。

【月魚】68ゲツギヨ 唐代、蕃國の朝貢使が宮殿門及び城門通過の際に示す符節で交魚符・巡魚符雌雄各〻十二あり、雄は內に進め、雌は蕃國に給する。〔唐書、車服志〕宮殿門城門給二交魚符巡魚符一、蕃國亦給レ之、雄雌各十二、銘以二國名一、雄者進レ內、雌者付二其國一、朝貢使、各齎二其月魚一而至、不レ合者劾奏。

【月琴】69ゲツキン 樂器の一つ。形は琵琶に似、四絃十二柱。晉の阮咸が始めて作るといふ。其の形は圓くて月に似、聲は琴に似るから月琴といふ。清代、番部合奏樂に用ひたものは八角形で、檀木を以て體とし、槽面は桐を用ひ、四絃である。阮咸。〔三才圖會、阮咸圖說〕武后時、蜀人蒯朗於二古墓中一得二銅器一、似二琵琶一而員、時人莫レ識レ之、元行冲曰、此阮咸所レ造、命二匠人一以レ木爲レ之、以二其形似レ月聲似レ琴、名曰二月琴一。〔皇朝通典、樂、絲、月琴〕月琴、八角木槽而微二凹其面一、柄貫二槽中一、四絃、覆手曲首似二琵琶一、通體用二紫檀一、槽面用二桐木一、本名二阮咸一。


月琴（大清會典圖）

【月空】70ゲツクウ 叢辰の名。月中の陽辰。寅・午・戌の月は壬日、亥・卯・未の月は庚日、申・子・辰の月は丙日、巳・酉・丑の月は甲日が之に當る。此の日は籌謀を設け、計策を陳ずるに吉。〔協紀辨方書、義例三、月空〕曆例曰、寅午戌月壬、亥卯未月庚、申子辰月丙、巳酉丑月甲、天寶曆曰、月中之陽辰也、所レ理之日、宜下設二籌謀一陳中計策上、曆神原始曰、月德自レ南而東、丙甲壬庚、月空自レ北而西、壬庚丙甲、乃天德之衝神也、而曰レ宜下設二籌謀一陳中計策上者、貴人之對、名曰二天空一、宜二上レ書陳一レ言、故天空卽奏書也、此對二月德之神一亦名レ之、以レ空而曰二月空一、故利三於上二表章一也。



月空
（協紀辨方書）

【月窟】71ゲツクツ ㊀月中のいはあな。月中をいふ。〔摯虞、思游賦〕擾二毚兔于月窟一兮、詰二姮娥于蓐收一。〔皮日休、吳中苦雨詩〕如下將二月窟一寫上、似下把二天河一撲上。㊁極西の地。西域の月氏國の地。月⿰齒肖。月窟水を見よ。〔梁簡文帝、大法頌〕西踰二月窟一、東漸二扶桑一。〔張九齡、送三趙都護赴二安西一詩〕自然來二月窟一、何用刺二樓蘭一。〔杜甫、瞿塘懷古詩〕地與二山根一裂、江從二月窟一來。㊂蕃國をいふ。〔劉禹錫、送二工部張侍郎入レ蕃弔祭一詩〕月窟賓二諸夏一、雲官降二九天一。㊃月の出る所。月⿰齒肖を見よ。

【月窟水】72ゲックツノミヅ　西域の月氏國の水。〔李白、蘇武詩〕渴飮㆓月窟水㆒、飢餐㆓天上雪㆒。

【月化】73ゲックワ　月毎に變化する。〔莊子、田子方〕一晦一明、日改月化。

【月伙】74 yüeh^{4} huo^{3}　月傭の勞働者。月工。

【月⿰齒骨】75ゲックツ　月の出る所。月窟。〔漢書、揚雄傳下〕西厭㆓月⿰齒骨㆒、東震㆓日域㆒。〔注〕服虔曰、⿰齒骨、音窟、月⿰齒骨、月所㆑生也。

【月華】76ゲックワ　㊀月の光。月彩。〔梁元帝、烏棲曲〕復値㆓西施新浣㆑紗、共向㆓江干㆒眺㆓月華㆒。〔沈約、應㆓王中丞思遠詠㆑月詩〕月華臨㆓靜夜㆒。〔張若虛、春江花月夜詩〕此時相望不㆓相聞㆒、願逐㆓月華㆒流照㆑君。〔李白、峨眉山月歌〕黃鶴樓前月華白。〔杜荀鶴、旅舍遇㆑雨詩〕月華星彩坐來收、嶽色江聲暗結㆑愁。㊁秋月の周圍に生ずる光華をいふ。〔月令廣義〕月之有㆑華、常出㆓於中秋㆒、或十三至㆓十八夜㆒、月華之狀、如㆓錦雲捧珠㆒、五色鮮熒、磊落匝㆑月、如㆓刺錦㆒、華盛之時、其月如㆓金盆枯赤㆒、而光彩不㆑朗、移㆑時始散、或誤以㆓月暈㆒爲㆑華、非也。㊂清、卞三元(2－2778‥33)の字。

〖月華月光〗77ゲックワ・ゲックワウ　前趙の劉聰の二妃の名。〔晉書、劉聰載記〕聰如㆓中護軍靳準第㆒、納㆓其二女㆒爲㆓左右貴嬪㆒、大曰㆓月光㆒、小曰㆓月華㆒、皆國色也、數月立㆓月光㆒爲㆓皇后㆒。

【月課】78ゲックワ　月々の課業。又、課題。〔魏書、李彪傳〕日省月課、實勞㆓神慮㆒。

【月掛】79ツキガケ　月々の掛金。

【月晦】80ゲックワイ　陰暦のつきのみそか。つごもり。〔劉長卿、晦日陪㆓辛大夫㆒宴㆓南亭㆒詩〕月晦逢㆓休澣㆒、年光逐㆓宴移㆒。〔白居易、春雪詩〕月晦寒食天、天陰夜飛㆑雪。

【月光】81ゲックワウ　つきのひかり。つきかげ。月華。〔詩、陳風、月出〕月出皎兮、傳〕皎、月光也。〔後漢書、天文志上〕燭㆑地如㆓月光㆒。〔李白、靜夜思詩〕牀前看㆓月光㆒、疑是地上霜。

〖月光門〗82 yüeh^{4} kuang^{1} men^{2}　壁を穿つて造つた圓形の門。

〖月光太子〗83グワツクワウタイシ　佛人名。釋尊は過去世に國王の子となり、月光太子と稱す。一日遊行して癩人に遇ひ、病を癒すために其の血髓を請はれ、骨を破り髓を出して病人に塗り、血を飮ませたといふ。〔智度論、十二〕・〔經律異相、三十一〕。

〖月光童子〗84グワツクワウドウジ　佛人名。又、月光兒ともいふ。其の父德護、佛を信ぜず、六師の言を聽いて火坑を作り佛を害せんとす。月光童子が之を諫止したが聽かれず、後に佛の至るに及んで火坑變じて涼池となるのを見て、其の父、心に大いに悔責し、佛に歸依して須陀洹果を得た。佛は月光童子に成佛の記を與へ、且、佛滅後支那國の王となつて三寶を興隆すべきことを說いた。〔法苑珠林〕・〔佛說申日經〕。

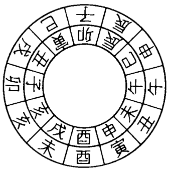
〖月光讀書〗85ゲックワウドクショ　月のひかりで書を照らして讀む。貧乏で苦學するをいふ。〔南齊書、江泌傳〕泌少貧、晝日斫㆑屧、夜讀㆑書、隨㆓月光㆒握㆑卷升㆑屋。〔宋史、陸佃傳〕居貧苦學、夜無㆓燈影㆒、月光讀㆑書。

〖月光馬兒〗86ゲックワウバジ　八月十五日の中秋節に、紙で作つて月に供へる神像。北京の行事。〔燕京歲時記、月光馬兒〕京師謂㆓神像㆒爲㆓神馬兒㆒、不㆔敢斥㆓言神㆒也、月光馬者、以㆑紙爲㆑之、上繪㆔太陰星君如㆓菩薩像㆒、下繪㆓月宮及搗㆑藥之玉兎㆒、人立而執㆑杵、藻彩精製、金碧輝煌、市肆間多㆓賣㆑之者㆒、長者七八尺、短者二三尺、頂有㆓二旗㆒、作㆓紅綠色或黃色㆒、向㆑月而供㆑之、焚㆑香行㆑禮、祭畢、與㆓千張元寶等㆒、一幷焚㆑之。

〖月光菩薩〗87グワツクワウボサツ　佛藥師如來の二脇士の一。〔祕藏記末〕月光菩薩、黃色、左手持㆓青蓮華㆒、上有㆓半月形㆒。

【月官】88ゲックワン　清代、每月京外の官に缺員があれば部の選によつて之を補ひ、之を月官と稱した。〔清會典事例、吏部、漢員銓選、月官考驗〕順治初年定、京官主事以上、外官知縣以上、及由㆓知縣㆒升任之中書・評事・博士等官、並各部寺司務、直隸州州同・州判、均令㆓考試㆒。

【月刑】89ゲッケイ　業辰の名。卽ち月支と相刑する辰。歲刑(6－16326‥43)の㊀を見よ。〔協紀辨方書、義例四、月刑〕按、月刑之義、與㆓歲刑㆒同。



月刑
（協紀辨方書）

【月形】90ゲッケイ　㊀月の形。〔參同契解〕一月之間、月形圓缺。㊁ツキガタ　弦月の形。又、半圓形の稱。

〖月形角〗91ゲッケイカク　月形の二つの弧のなす角。

〖月形漪嵐〗92ツキガタイラン　福岡の人。名は弘。字は伯重。通稱は三太郎・深藏。號は漪嵐。文久二年四月五日歿す、年六十五。古賀精里を師とす。福岡藩士。官は赤間驛町奉行。尊王憂國の念厚く、致仕後、子弟を教育し、藩風を振起す。正四位を贈らる。著に漪嵐遺稿がある。

【月計】93ゲッケイ　一箇月の勘定。其の月の會計。月要(12)を見よ。〔後漢書、章帝紀〕日計不㆑足、月計有㆑餘。〔經鉏堂雜志〕有㆓月計㆒、然後歲計可㆑知。

【月桂】94ゲッケイ　㊀月中にある桂樹。轉じて、つきかげ。月光。〔梁元帝、漏刻銘〕宮槐晚合、月桂宵暉。〔酉陽雜俎、天咫〕舊言、月中有㆑桂、有㆓蟾蜍㆒、故異書言、月桂高五百丈、下有㆓一人㆒常斫㆑之、樹創隨合、人姓吳名剛、西河人、學㆑仙有㆑過、謫令㆑伐㆑樹。〔法書要錄〕星楡之衆象、無㆓月桂之孤光㆒。㊁科擧の試驗に及第すること。晉の郤詵が登第を桂林の一枝、崐山の片玉に喩へた故事に本づき、後轉じて、月中の桂に比す。折桂。〔兼明書、雜說、月桂〕代人謂㆓及第人㆒謂㆑折㆓月桂㆒者、明曰、昔者郤詵射策登第、天子問㆑之曰、卿自以爲㆓何如㆒、對曰、臣以爲㆓桂林之一枝、崐山之片玉㆒、今人謂爲㆑折㆓月桂㆒、何其謬歟、且月中無㆑地、安得㆑有㆑桂、蓋以㆘地影入㆓于月中㆒似㆗樹形㆖耳。〔避暑錄話〕世以㆓登科㆒爲㆓折桂㆒、其後以㆓月中有㆑桂、故又謂㆓之月桂㆒、李潛放榜後作、恩波舊是仙舟客、德字新添月桂名。㊂木の名。桂の一。中國南方に產す。〔本草、月桂〕集解、藏器曰、今江東諸處、每㆑至㆓四五月晦後㆒、多于㆓衢路間㆒得㆓月桂子㆒、大㆓于貍豆㆒、破㆑之辛香、古者相傳、是月中下也、餘杭靈隱寺僧種得㆓一株㆒、近代詩人多㆑所㆓論述㆒、洞冥記云、有㆓遠飛雞㆒、朝往夕還、常銜㆓桂實㆒、歸㆓于南土㆒、南土、月路也、故北方無㆑之、山桂猶堪㆑爲㆑藥、況月桂乎。

〖月桂冠〗95ゲッケイクワン　古、希臘國に靈樹と稱するものあり、其の枝葉を以て輪を作り、鉢卷のやうに頭に被らせて名譽の表章とし、これを月桂冠といふ。今に至るまで競技などの勝者に冠らせる。轉じて、最も名譽ある地位。

〖月桂樹〗96ゲッケイジユ　歐羅巴、地中海邊原產の樹で、常綠亞喬木。樟の類。高さ一二丈、芳香がある。葉は長楕形で質厚く互生する。春、小黃花が短い花軸上に簇生する。實は暗褐色で、種子は豌豆より少し大きい。

【月卿】97ゲッケイ　㊀高位高官の人。顯貴の臣。執政の大臣。天子を日に臣下を月に譬へていふ。〔書、洪範〕卿士惟月。〔傳〕卿士各有㆑所㆑掌、如㆓月之有㆑別。〔高適、送㆘柴司戶充㆓劉卿判官㆒之㆗嶺外㆖詩〕月卿臨㆓幕府㆒、星使出㆓詞曹㆒。〔馬祖常、送㆔忽都達兒著作祠㆓岳瀆㆒詩〕行觀謠俗期㆓星使㆒、歸奏蕃釐拜㆓月卿㆒。㊁公卿(2－1452‥173)の㊀に同じ。三位以上の公卿をいふ。〔伊呂波字類抄〕月卿、公卿、唐名也。

〖月卿雲客〗98ゲッケイウンカク　月卿とは三位以上の公卿、雲客とは雲の上人。殿上人。〔平家物語、十一、一門大路被㆑渡〕。

【月敬】100 yüeh^{4} ching^{4}　月謝。

【月溪】101ゲッケイ　㊀月かげをうかべたたにがは。〔孟郊、寄㆓院中諸公㆒詩〕翠色遶㆓雲谷㆒、碧華凝㆓月溪㆒。〔羅鄴、秋日留㆓別義初上人㆒詩〕霜嶺自添紅葉恨、月溪休㆑和碧雲詞。〔拾得、詩〕雲林最幽棲、傍澗枕㆓月溪㆒。㊁字號。㋑宋、陳以莊(11－41698‥627)の號。㋺清、許遇(10－35298‥56)の號。㋩清、周寶僎(2－3441‥819)の字。

〖月溪逸士〗102ゲッケイイツシ　宋、李如雷(6－14459‥1484)の號。

【月經】103ゲッケイ　婦女のつきのもの。つきやく。生殖器の發育した婦人が、妊娠又は授乳の時期を除いて、每月定期的に子宮から分泌する生理的血液。經水。經行。月役。月事。月信。天癸。〔黃帝素問、上古天眞論〕二七而天癸至、任脈通、太衝脈盛、月事以㆑時下、故有㆑子。〔注〕天癸、天乙所㆑生之癸水也、衝任二脈並起㆓於少腹之內胞中㆒、循㆑腹上行爲㆓經血之海㆒、女子主㆓育胞胎㆒、月有㆓盈虧㆒、故女子亦一月而經水應㆑時下洩、虧卽復生、故於㆓初生之時㆒、男女搆㆑精、當㆑爲㆑有㆑子、虛則

易レ受故也。〔本草、婦人月水〕釋名、月經、天癸、紅鉛、時珍曰、月有二盈虧一、潮有二朝夕一、月事一月一行、與レ之相符、故謂二之月水・月信・月經一、經者、常也、有二常軌一也。

【月嬌】104 ゲツケウ　明、馬湘蘭（**12－44572**‥813）の小字。

【月結】105 yüeh⁴ chieh²　一箇月の營業總額を統計し、其の損益を決算する帳薄。月結統計表・月結報告單などともいふ。

〖月結賬票〗106 yüeh⁴ chieh² chang⁴ p'iao⁴　每月末顧客に對して發行する掛賣代金の請求書。

【月月】107 ゲツゲツ ツキヅキ　つきづき。每月。月每に。〔吳均、行路難詩〕年年月月對二君子一、遙遙夜夜宿未レ央。〔庾信、春日離合詩〕明年花樹下、月月來相尋。

【月月紅】108 ゲツゲツコウ　草の名。月季花の俗稱。ちやうしゆん。ひめがさかづき。いばら。〔本草、月季花〕釋名、月月紅、勝春、瘦客、鬭雪紅。

〖月月竹〗109 ゲツゲツチク　竹の一種。朔日每に筍を生じ、晦日每に皮がはげる。月竹。〔陳鼎竹譜〕月月竹、月生二一筍一、歲十二次、逢レ朔則筍生、晦日則籜脫而葉舒矣、產二嘉定州一。

【月見】110 ゲツケン　㊀月があらはれる。〔梁簡文帝、鏡銘〕雲開月見、水淨珠明。㊁ツキミ　陰曆八月十五夜、及び九月十三夜の明月をめで賞する年中行事。

〖月見宴〗111 ツキミノエン　月見のさかもり。觀月の宴。

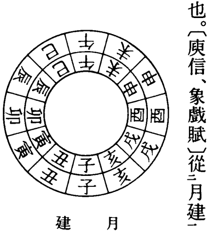
〖月見月〗112 ツキミヅキ　陰曆八月の稱。〔藏玉和歌集〕名にしおはば秋のなかばの空はれて光ことなる月に見る月。

〖月見草〗113 ツキミグサ　㊀萩の異名。㊁ツキミサウ　柳葉菜科の一二年生草本。莖の高さ三四尺。初夏、日沒頃黃色四瓣花を開く。つきみさう。まつよひぐさ。宵待草。

〖月見里〗114 ヤマナシ　姓氏。〔日用重寶記〕。

〖月見二於庚一〗115 ツキカウニアラハル　月が西方にあらはれること。夫に對して婦の正しい位をいふ。月は婦、庚は西。〔唐律、戶婚、月見二於庚一、釋文〕謂三月出二於西一、象レ婦也、日之與レ月、陰陽相對、夫之與レ婦、男女相齊也、此皆取二陰陽位正一、方可レ爲二夫婦一、如不レ正則以レ姦論。

【月建】116 ゲツケン　㊀月のヲザスと訓じ、陰曆で每月初昏に斗柄の指す所の十二辰をいふ。正月建寅・二月建卯の類。〔淮南子、天文訓〕大時者咸池也、小時者月建也。〔庾信、象戲賦〕從二月建一而左轉、起二黃鐘一而順行。㊁叢辰の名。陽建の神。正月、寅に起り、十二辰を順行する。其の方位は戰に凶、其の日は封建、事を視るに吉。〔協紀辨方書、義例二、月建〕天寶曆曰、月建者、陽建之神也、所レ理之方、戰鬭・攻伐、宜レ背レ之、不レ可二抵向一、所レ值之日、宜二封建視一レ事、不レ宜下興二造土功一結中親禮上、正月曆例曰、建寅、順二行十二辰一。



月建
（協紀辨方書）

【月圈】117 yüeh⁴ ch'üan¹　月の圈。月のかさ。

【月弦】118 ゲツゲン　弓張月。弦月。〔謝靈運、七夕詠二牛女一詩〕月弦光照レ戶、秋首風入レ隙。

【月狐】119 ゲツコ　山名。雲南省尋甸縣の東北。又、雙勒峯・鳳梧山ともいふ。〔讀史方輿紀要、雲南、尋甸府〕月狐山、在二東北八里一、綿亙五十餘里、山頂有二雲氣一卽雨、一名鳳梧山、鳳梧所之名本レ此。

【月壺】120 ゲツコ　清、瞿應紹（**8－23747**‥31）の號。

【月庫】121 ゲツコ　唐代、帛を藏する庫。〔唐書、裴延齡傳〕帛以レ素出、以レ色入者、爲二月庫一。

【月湖】122 ゲツコ　㊀湖の名。㋑浙江省鄞縣治の西南。中に十景の勝地がある。〔明一統志〕月湖在二寧波府治西南一。㋺湖北省漢陽縣。城北の大別山の陰に在るものを東月湖、城の西北、梅子山の外に在るものを西月湖といふ。㊁山名。湖南省寶慶縣の東。宋の李綱、此の地を過ぎて詩を留む。山上に唐の雲巖寺がある。㊂明、楊廉（**6－15112**‥394）の號。

〖月湖先生〗123 ゲツコセンセイ　明、楊廉（**6－15112**‥394）の尊稱。

〖月湖老樵〗124 ゲツコラウセウ　宋、史定之（**2－3249**‥248）の號。

【月雇】125 ツキヤトヒ　一箇月いくらと給料を定めて雇入れること。

【月午】126 ゲツゴ　夜半の月。〔劉禹錫、送二惟良上人一詩〕燈明香滿レ室、月午霜凝レ地。〔白居易、立秋夕云云卽事詠懷云云詩〕河秋稍清淺、月午方徘徊。

【月工】127 yüen⁴ kung¹　月雇の勞働者。多くは農業勞働者で農繁期に多い。

【月痕】128 ゲツコン　月影。〔段成式、光風亭夜宴詩〕梓胡雲彩落、疻面月痕消。〔陸游、晨興詩〕野氣增二霜力一、窗光淡二月痕一。

【月槎】129 ゲツサ　清、張漢（**4－9812**‥146）の字。

【月彩】130 ゲツサイ　つきのひかり。月華。〔沈約、竟陵王造二釋迦像一記〕是故日華月彩、炤二燿天外一。〔虞世南、奉レ和二月夜觀一レ星應令詩〕早秋炎景暮、初弦月彩新。〔崔信明、送二金竟陵入一レ蜀詩〕猿聲出レ峽斷、月彩落二江漢一。

【月祭】131 ゲツサイ　月每に祭ること。宗廟の大祭及び春夏秋冬の時祭の外に、祖宗を月々に祭る月祭があつた。月祀（148）を見よ。〔禮、祭法〕王立二七廟一云云、皆月二祭之一。〔國語、楚語下〕古者先王、日祭、月享。〔漢書、韋玄成傳〕月二祭於廟一。

【月齋】132 ゲツサイ　明、徐麟（**4－10110**‥315）の字。

【月窓】133 ゲツサウ　大きな洞穴。〔事物異名錄、坤輿、山〕廣韻藻、凡山洞巖穴、有レ竅通レ明、小曰二星牖一、大曰二月窓一。

【月滄】134 ゲツサウ　清、呂璜（永福の人）（**2－3386**‥49）の號。

【月霜】135 ツキノシモ　月光の明かなのを霜に喩へていふ。〔後撰集、夏〕月の霜をや秋とみつらむ。

【月朔】136 ゲツサク　つきのはじめ。月吉。〔漢書、五行志下之下〕嗇夫馳、庶人走、此月朔之謂也。〔唐書、百官志一〕兩京文武官職事、五品以上、月朔以表參二起居一。〔王昌齡、放歌行〕明堂坐二天子一、月朔朝二諸侯一。

【月三】137 ゲツサン　清、楊捷（**6－15112**‥254）の字。

【月參】138 ゲツサン　每月まゐる。〔北史、薛愼傳〕每月一參。〔唐書、百官志一〕凡王公十五以上預二朝集一、宗親女婦諸王長女月二參。

【月山】139 ゲツザン　字號。㊀元、衞培（**10－34074**‥94）の號。㊁元、任仁發（**1－416**‥226）の號。㊂清、潘亮淵（**7－18236**‥225）の號。

〖月山堂〗140 ゲツザンダウ　清、潘亮淵（**7－18236**‥225）の室名。

〖月山道人〗141 ゲツザンダウジン　元、任仁發（**1－416**‥226）の號。

【月子】142 ゲツシ　㊀つき。月兒。子は助字。〔汪元量、湖州歌〕月子纖纖雲裏見、吳江不レ盡暮潮來。〔雲麓漫鈔、吳中舟師歌〕月子彎彎照二九州一、幾家歡樂幾家愁。㊁產褥。月子房を見よ。㊂yüeh⁴ tzŭ　婦人の產後一箇月間をいふ。

〖月子房〗143 ゲツシバウ　明代、宮中の產殿をいふ。〔崇禎、宮詞〕眉間喜氣報二新黃一、隔月先鋪月子房。

【月支】144 ゲツシ　㊀射帖の名。布帛に畫いて的としたもの。又、素支ともいふ。〔曹植、白馬篇〕控レ弦破二左的一、右發摧二月支一。〔注〕良曰、月支、射帖也。〔顏延之、赭白馬賦〕經二玄蹄一而雹散、歷二素支一而冰裂。〔注〕善曰、玄蹄、馬蹄也、素支、月支也、皆射帖名也、言、馬既良、射者亦中、故玄蹄雹散、月支冰裂也。㊁古の西域の國名。月氏をいふ。〔王僧孺、與二何炯一書〕腦二日逐一、髓二月支一。㊂每月の支出をいふ。〔陸贄、奏議、中書奏議、均二節賦稅一恤二百姓一第二條〕歲計月支、猶恐レ不レ足。

【月氏】145 ゲツシ　古の西域の國名。土耳其種。其の民族は先きに甘肅の西境に居た。漢代、匈奴に破られ、西走して阿母河に至り、大夏に臣服して河北に都し、大月氏といひ、其の故地に留まるものを小月氏といふ。大月氏強盛の時は印度の恒河流域・克什米爾・阿富汗及び葱領東西の地を奄有した。又、月支・月氏に作る。大月氏（**3－5831**‥676）を見よ。〔正韻〕月氏、西域國名、在二大宛西一。〔史記、大宛傳〕皆言、匈奴破二月氏王一、以二其頭一爲二飲器一。〔史記、匈奴傳〕東胡彊而月氏盛。〔新書、匈奴〕使レ備二月氏灌窳之變一。

〖月氏道〗146 ゲツシダウ　縣名。漢、置く。甘肅省の境。〔漢書、地理志下〕安定郡、縣二十一、月氏道。

【月姊】147 ゲツシ　月の異名。月を嫦娥といふによる。月娥。〔李商隱、楚宮詩〕月姊曾逢下二彩蟾一。〔司空圖、遊仙詩〕月姊殷勤留不レ住。

【月祀】148 ゲツシ　月每に先祖を祀ること。月祭（131）を見よ。〔國語、周語上〕日祭、月祀、時享、歲貢。〔注〕月祀二於曾高一。〔荀子、正論〕日祭、月祀、時享、歲貢。〔後漢書、祭祀志中〕各以二其月祀一而

奏レ之。

【月祠】149ゲツシ 月祀に同じ。〔史記、封禪書〕四仲之月祠。

【月駟】150ゲツシ 靈馬のこと。地が月精を生じて馬となすといふ。〔顏延之、赭白馬賦〕稟二靈月駟一、祖二雲螭一兮。〔注〕善曰、春秋考異記云、地生二月精一爲レ馬。

【月次】151ゲツジ ❶つきのやどり。月の天空に於ける位置。〔陸倕、新漏刻銘〕歲躔二閹茂一、月次二姑洗一。〔陸贄、鴻漸賦〕嗈嗈相召、驚二月次一而亂趨。❷ツキナミ ㋑毎月。つきづき。月次祭を見よ。㋺下野國の地名。

【月次繪】152ツキナミノエ 一年中の毎月の行事を畫いた繪。〔明月記〕貞永二年二月二十日、典侍往來幼少之時、令レ參二故齋院一之時、所レ賜之月次繪二卷。

【月次祭】153ツキナミノマツリ 古、六月・十二月の十一日に神祇官で三百四座の神に幣を奉つて、國家の靜謐・聖體の福運を祈つた儀式。六月は實る前であるから水旱の難のないやうに祈り、十二月は收藏の後であるから報賽の義を兼ねたものといふ。〔神祇令〕季夏月次祭、季冬月次祭。〔四時祭式、上〕月次祭、奠二幣案上一神、三百四座並大。〔續日本紀、二〕大寶二年七月己巳、在二山背國乙訓郡一火雷神、毎レ旱祈レ雨、頻有二徵驗一、宜レ入二大幣及月次幣例一。

【月事】154ゲツジ 月經をいふ。月信。月水。〔正字通〕月、女子天癸、謂二之月事一、以レ時下曰レ入レ月、過レ時不レ下爲レ不レ月。〔素問、上古天眞論〕月事以レ時下、故有レ子。〔注〕所三以謂二之月事一者、平和之氣、常以二三旬一而一見也、故愆レ期者、謂二之有レ病。〔史記、太倉公傳〕月事不レ下也。

【月兒】155ゲツジ 月をいふ。月子。月兒羹を見よ。

【月兒羹】156ゲツジカウ 麪を入れた羹汁。〔雲仙雜記〕柳公權作二錦様書一以進、上方御二剪刀麪月兒羹一、命分二賜之一。

【月珥】157ゲツジ 月のまはりの光氣。〔荊州占〕月珥旦戴、不レ出二百日一、王有二大喜一。〔軍圖占候〕月三珥者、大臣有レ喜、若二月冠而復暈者一、天下有二大喜一。

【月爾】158ゲツジ 草の名。わらびの一種。〔爾雅、釋草〕綦、月爾。〔注〕卽紫綦也、似レ蕨、可レ食。〔郝懿行義疏〕廣雅、茈綦、蕨也、茈綦卽紫綦、是郭所レ本、紫綦卽紫蕨、以二其色紫一、因而得レ名。

【月收】159ゲツシウ ❶毎月收める。〔唐書、食貨志五〕月收レ贏以給二外官一。❷一箇月の收入。

【月舟】160ゲツシウ 明、文載(**5－13450**‥350)の字。

【月洲】161ゲツシウ 岩垣龜の號。岩垣月洲(**4－7985**‥55)を見よ。

【月日】162ゲツジツ ❶月と日。僅かな時間にいふ。〔魏書、王建傳〕故求レ全二月日之命一耳。❷つきひ。年月。期間にいふ。〔宋史、賈昌衡傳〕昌衡一隨二月日一給レ之。❸グワツピ 某月某日の意。

【月榭】163ゲツシヤ 月見のうてな。〔庾信、哀江南賦〕月榭風臺、池平樹古。〔李德裕、詠二山桂一詩〕影入二春潭底一、香凝二月榭前一。

【月謝】164ゲツシヤ 毎月、師に納める禮金。授業料。月敬。

【月將】165ゲツシヤウ ❶月々に進歩する。將は、すすむ。〔詩、周頌、敬之〕維予小子、不二聰敬一止、日就月將、學有三緝二熙于光明一。〔禮、孔子閒居〕日就月將。〔杜牧、冬至日寄二小姪阿宜一詩〕一似二小兒學一、日就復月將。❷日月相會する辰をいふ。日月が亥に會すれば、斗柄は寅の方向を指す。故に舊曆正月には月將は亥にあり、十二辰を逆行する。十二月將の神名は亥を登明、戌を河魁、酉を從魁、申を傳送、未を小吉、午を勝光、巳を太乙、辰を天罡、卯を太衝、寅を功曹、丑を大吉、子を神后といふ。十二月將(**2－2695**‥420)を見よ。〔協紀辨方書、義例五、四大吉時〕按、貴登天門爲二選時第一義一、其月將加時、貴人陰陽順逆皆六壬法也。

【月章】166ゲツシヤウ ❶月を畫いた旗。夜、軍を率ゐるに用ひる。〔管子、兵法〕二曰、擧二月章一則夜行。❷字號。㋑清、宏瑜(**3－7086**‥78)の字。㋺清、王作霖(**7－20823**‥1495)の號。

【月章星句】167ゲツシヤウセイク 月や星の如き章句の意で、文章のすぐれたのを稱贊していふ。〔許有孚、詞〕菲詞聊爲二先生一壽、博得二月章星句一。

【月障】168ツキノサハリ 月經をいふ。

【月餉】169ゲツシヤウ 月々の手當。月餉銀を見よ。

【月餉銀】170ゲツシヤウギン 兵卒等に給する一箇月の食費。〔清會典事例、戶部、俸餉、各省兵餉〕順治元年定、各鎭馬兵、月給二餉銀一兩五錢一、步兵一兩。

【月上】171ゲツジヤウ ❶月がのぼる。〔王諲、花萼樓賦〕月上二南山一、燈連二北斗一。〔市河寬齋、東坡赤壁圖詩〕孤舟月上水雲長、崖樹秋寒古戰場。❷維摩詰の女。生れた時、已に八歲位の體で、容姿端正だつたので、人爭つて婚を求めて止まなかつたが、城內に士人を集め、虛空から偈を說いて衆人に聽かせたところ、大衆は皆婬心をやめて禮拜して去つた。後、佛所に詣つて舍利佛と深義を對揚したといふ。〔月上女經〕。

【月上樓】172ゲツジヤウロウ 清、奚疑(**3－5930**‥4)の室名。

【月城】174ゲツジヤウ 城外の小城。俗に馬出しといふもの。城の出丸。三の丸。甕城(**7－21617**‥14)の❶に同じ。〔唐書、李密傳〕世充乘レ勝進攻二密月城一。〔宋史、王審琦傳〕拔二其水砦一、奪二月城一。

【月主】175ゲツシユ 神の名。〔史記、封禪書〕六曰、月主祠二之萊山一。

【月樹】176ゲツジユ 月桂樹をいふ。〔盧照鄰、至眞觀碑〕栽レ松蒔三柏與二月樹一。〔蘇頲、侍二宴安樂公主山莊一應制詩〕當レ軒半落天河水、遶レ徑全低月樹枝。

【月出】177ゲツシユツ ❶月の出ること。〔詩、齊風、鷄鳴〕匪二東方則明一、月出之光。〔江淹、雜體、魏文帝丕遊宴詩〕月出照二園中一、冠珮相追隨。❷詩經、陳風の篇名。女色を好むを刺つた詩。一說に、男女相悅び相念ふの詞。〔詩、陳風、月出序〕月出、刺レ好レ色也、在位不レ好レ德而說二美色一焉。〔集傳〕此亦男女相悅而相念之詞。

【月出游】178ゲツシユツイウ 漢代、一月に一度、高祖の陵寢から高祖の衣冠を取り出して、高祖の廟に遊行させる儀式。〔漢書、叔孫通傳〕通奏レ事、因請レ閒曰、陛下何自築二復道一、高帝寢衣冠、月出二游高廟一、子孫奈何乘二宗廟道上一行哉、惠帝懼曰、急壞レ之、通曰、人主無二過擧一、今已作、百姓皆知レ之矣、願陛下爲二原廟渭北一、衣冠月出二游之一。〔注〕服虔曰、持二高廟中衣一、月旦以游二於衆廟一、已而復レ之、應劭曰、月旦出二高帝衣冠一、備二法駕一、名曰二游衣冠一、如淳曰、高祖之衣冠、藏在二宮中之寢一、三月出游、其道正値二今之所レ作復道下一、故言下乘二宗廟道上一行上也、晉灼曰、黃圖、高廟在二長安城門街一、東寢在二桂宮北一、服言三衣藏二於廟中一、如言二宮中一、皆非也、師古曰、諸家之說、皆未レ允也、謂從二高帝陵寢一出二衣冠一、游二於高廟一、每月一爲レ之、漢制則然、而後之學者、不レ曉二其意一、謂以二月出之時一、而夜游衣冠、失レ之遠也。

【月出汐】179ツキノデシホ 月が昇ると同時に差して來るしほ。

【月初】180ゲツシヨ ❶月の初めに出る月。三日月。初月。〔後漢書、黃琬傳〕日食之餘、如二月之初一。〔觀佛三昧海經〕如來眉相、左右二眉、形如二月初一。❷yüeh⁴ chʻu¹ 月初め。

【月如】181ゲツジヨ 明、詹兆恒(**10－35458**‥58)の字。

【月色】182ゲツシヨク 月の光。月の色。〔岑參、送三王著作赴二淮西幕府一詩〕月色冷二楚城一、淮光透二霜空一。〔雍陶、宿二嘉陵驛一詩〕今宵難レ作二刀州夢一、月色江聲共二一樓一。〔孟貫、寄二山中高逸人一詩〕我憶相逢夜、松潭月色涼。〔吳偉業、初冬月夜過二子俶一詩〕月色破二林巒一、貧家共二一灘一。

【月色苦】183ゲツシヨクサユ 月が皎々と照りわたること。苦は冴える。〔李華、弔二古戰場一文〕日光寒兮草短、月色苦兮霜白。

【月食】184ゲツシヨク ❶月蝕に同じ。〔詩、小雅、十月之交〕彼月而食、則維其常。〔禮、昏義〕月食則后素服而修二六宮之職一。〔管子、四時〕月食則失レ刑之國惡レ之。〔天文略、月食問答〕問、望日月與レ日正對、則月光當二滿圓一矣、然而或全無レ光、或一分有レ光一分無レ光、其故何也、曰、地毬懸二於十二重天之中央一、如三鷄卵黃在二青之中央一、故日由レ西照レ地、地必有二景射レ東、照レ東必有二景射レ西、夫日輪恆在二黃道上一、若遇二望日一、而月輪亦在二黃道上一、與レ日正對望、則地毬障二隔日月之閒一、月輪必入二地景之內一、太陽不レ能レ照レ之、故失レ光而食失、漸出二地景之外一、太陽能照レ之、乃漸復得二原光一也、若渾然相對、全失レ光、若一分對、一分不レ對、對者失レ光、不レ對者否矣、因知三月輪失レ光而食、悉由二於地景一也。❷月が陰曆十五日を過ぎて

再び缺けること。〔易、豐〕月盈則食。〔文獻通考、象緯考、月食、月變〕中興天文志、或曰、日月猶二水火一也、火外レ光、水舍レ景、故月之光生二於日之所一レ照、其魄生二於日之不一レ照也、故當レ日則光盈、照レ之全也、自レ是而闕、以二日光之映、其有一レ不レ全、乃至二於晦一、愈相近、而不二之照一故也。㊂月々に支給する俸給。〔順宗實錄、陽城傳〕月食米當二幾何一。〔石介、蜀道自勉詩〕我乏二尺寸效一、月食二一萬錢。

【月食レ星】185 ツキホシヲシヨクス　星が月に掩はれて見えなくなること。月が星を蝕する。〔文獻通考、象緯考、月食、月變〕中興天文志曰、孟康曰、星入レ月而星見二於月中一、是爲二星食一レ月、月掩レ星而星滅不レ見、是爲二月食一レ星、隋天文志曰、月食二五星一、歲以饑、熒惑以亂、塡星以殺、太白以強國戰、辰以女亂、孝宣本始四年七月甲辰、辰星在レ翼、月犯レ之、地節元年、正月戊午、月食二熒惑一、熒惑在二角亢一、成帝建始四年十一月、食二塡星一、陽朔元年七月、月犯レ心、此其證也。

【月食脩レ刑】186 ゲツシヨクニハケイヲヲサム　月食があれば刑罰を修め正すこと。〔漢書、天文志〕日食修レ德、月食修レ刑。

【月蝕】187 ゲツシヨク　地球が日と月との間に挾まつて、日の光を遮ぎる位置に來る時、月面の全部又は一部分がくらくなる現象。月食を見よ。〔史記、天官書〕蚤爲二月蝕一。〔漢書、韓延壽傳〕候二月蝕一鑄二作刀劍一。〔宋書、律曆志中〕朔則交會、望則月蝕。

【月蝕詩】188 ゲツシヨクノシ　詩篇の名。唐、盧仝作。月食を詠じたもの。韓愈も仝に倣つて月蝕詩を作る。〔盧仝、月蝕詩〕新天子卽位五年、歲次庚寅、斗柄插レ子、律調黃鐘、森森萬木夜僵立、寒氣贔屭頑無レ風、爛銀盤從二海底一出、出來照二我草屋東一、天色紺滑凝不レ流、冰光交貫寒曈曨、初疑白蓮花、浮出龍王宮、八月十五夜、比並不レ可レ雙、此時怪事發、有レ物吞食來、輪如三壯士斧斫二壞桂一、似三雪山風拉二摧百鍊鏡一、照見膽平地埋二寒灰一、火龍珠飛出レ腦卻入二蚌蛤胎一、摧レ環破レ璧眼看盡、當レ天一搭如二煤炲一、磨レ蹤滅レ跡須臾間、便似二萬古不一レ可レ開、云云、傳聞古老說、蝕レ月蝦蟇精、徑圓千里、入二汝腹一如レ此、癡騃阿誰生、云云、須臾癡蟇精、兩吻自決拆、初露半箇璧、漸吐滿輪魄、衆星盡原赦、一蟇獨誅磔、腹肚忽脫落、依レ舊挂二穹碧一、光彩未二蘇來一、慘澹一片白、奈何萬里光、受二此吞吐厄一。〔韓愈、月蝕效二玉川子作一詩〕元和庚寅斗插レ子、月十四日三更中、森森萬木夜僵立、寒氣屓奰頑無レ風、月形如二白盤一、完完上二天東一、忽然有レ物來噉レ之、不レ知是何蟲、如何至三神物遭二此狼狽凶一。

【誦二月蝕詩一】189 ゲツシヨクノシヲシヨウス　宋の蔡相國が能く唐の盧仝の月蝕の詩を諳誦したものに美官を授けた故事。〔捫蝨新話、前輩讀書類皆成レ誦〕世傳、蔡相當レ國日有二二人一、求二美除一、適有二美闕一、二人競欲レ得レ之、且皆有二薦拔一也、蔡莫二適所一レ與、卽謂曰、能誦二盧仝月蝕詩一乎、內一耆年者、應レ聲朗念如レ注二瓶水一、音吐鴻暢、一坐盡傾、蔡喜遂與二美除一、頃因二夜話一及レ此、予因歎、前輩讀書類皆成レ誦如レ此、不レ似二今人滅裂一、艾愼幾云、月蝕詩、要是難レ誦、遽讀レ之有二不レ能レ句者一、予曰、柳子厚天對、更自難レ讀、時時問レ人、人皆不レ解、其屈曲聱牙、不二獨三盤五誥一也、只此便可レ成二侍讀侍講一矣、闔坐大笑。

【月心】190 ゲツシン　清、孟永光(**3**－**6960**‥291)の字。

【月信】191 ゲツシン　つきやく。月事。月經。〔本草、婦人月水〕釋名、時珍曰、月有二盈虧一、潮有二朝夕一、月事一月一行、與レ之相符、故謂二之月水・月信・月經一。

【月神】192 ゲツシン　㊀月の神。蘇摩。〔和漢三才圖會、一、天部、天象總評〕蘇摩、此云二月神一。㊁陰德男神の月誦御食尊を天照皇太神(日の神)に對していふ。〔和漢三才圖會、一、天部、天象總評〕月誦御食尊、陰德男神月神。

【月薪】193 yüeh⁴ hsin¹　月給。

【月人】194 ツキヒト　月の異稱。

【月人壯】195 ツキヒトヲトコ　月の異稱。月中に居て桂を伐るといふ男。又、月を船に喩へて、それを漕ぐ人をいふ。〔萬葉集、十〕仰ぎて待たむ月人壯。

【月人壯子】196 ツキヒトヲトコ　月人壯に同じ。〔萬葉集、十〕天漢舟漕ぎわたる月人壯子。

【月盡】197 ゲツジン　つごもり。晦日。

【月水】198 ゲツスイ　㊀月と水。〔杜甫、愁坐詩〕十月山寒重、孤城月水昏。〔楊維楨、小遊仙詩〕玉皇敕賜西湖水、長作二西湖月水仙一。㊁月經(103)・月信(192)に同じ。〔博物志、異俗〕飮二婦人月水及糞汁一。

【月正】199 ゲツセイ　正月のこと。〔書、舜典〕月正元日、舜格二于文祖一。〔傳〕月正、正月。

【月成】200 ゲツセイ　其の月中の總計算。其の月中に費した總高を記した簿書。月要(12)を見よ。

【月清】201 ゲツセイ　㊀月が清く照る。〔鮑溶、秋懷詩〕秋曉客迢迢、月清風楚楚。㊁yüeh⁴ ch'ing¹ 月拂ひ。

【月精】202 ゲツセイ　㊀月の精。又、姮娥をいふ。〔漢書、敍傳下〕元后娠レ母、月精見レ表。〔晉書、天文志上〕此則月精之生レ水了矣。〔玉海、宮室〕鬱華、日精、結鄰、月精也。㊁兎をいふ。〔三國典略〕兎者、明月之精。〔冊府元龜〕晉中興書徵祥說曰、白兎者、月精也。

【月稅】203 ゲツゼイ　月々納める稅金。

【月竁】204 ゲツセイ　極西の國をいふ。月窟(71)の㊁に同じ。〔顏延之、宋郊祀歌〕月竁來賓、日際奉レ土。〔注〕濟曰、竁、窟也、月窟、西極。〔梁簡文帝、對二蜀父老問一〕月竁來レ庭、風丘欵レ塞。

【月小】205 ゲツセウ　㊀小の月。〔後漢書、律曆志中〕衞承李崇及訢梵等十人以爲、月當レ先レ小。㊁月が小さい。〔蘇軾、後赤壁賦〕山高月小、水落石出。

【月杪】206 yüeh⁴ miao³　月末。月底。

【月照】207 ゲツセウ　㊀月が照す。〔淮南子、說林訓〕月照二天下一。㊁月のやうに白く照る。〔王延壽、魯靈光殿賦〕皓壁皜曜以月照。

【月樵】208 ゲツセウ　清、胡鳳丹(**9**－**29400**‥616)の字。

【月霄】209 ゲツセウ　清、張金吾(**4**－**9812**‥936)の字。

【月夕】210 ゲツセキ　㊀陰曆の八月十五夜。又、花朝と併せて一年の中で、春秋二季の最も樂しむべき時をいふ。又、物に感じて人を懷ふの詞。花朝月夕(**9**－**30734**‥397)の㊀を見よ。〔提要錄〕八月十五爲二月夕一。〔熙朝樂事〕二月十五日爲二花朝節一、蓋花朝月夕、世俗恒言、二八兩月爲二春秋之中一、故以二二月半一爲二花朝一、八月半爲二月夕一。〔舊唐書、羅威傳〕每二花朝月夕一、無二賓佐一賦咏、甚有二情致一。〔杜牧、宣城贈二蕭兵曹一詩〕花時去レ國遠、月夕上レ樓頻。〔馬令南唐書、昭惠周后傳〕花朝月夕無レ不二傷懷一。〔宋史、种放傳〕値二月夕一或至二宵分一、自二豹林一抵二州郭一七十里、徒步與二樵人一往返。〔江采蘋、樓東賦〕度三花朝與二月夕一、若三懶對二乎春風一。㊁つきの夜。つきよ。月夜。〔謝靈運、七夕詠二牛女一詩〕火逝首秋節、新明弦月夕。〔韋應物、白沙亭逢二呉叟一歌〕常陪月夕竹宮齋。㊂月末をいふ。〔荀子、禮論〕月朝卜レ日、月夕卜レ宅、然後葬也。〔注〕月朝、月初也、月夕、月末也。

【月石】211 ゲツセキ　透明で氷のやうな寶石。長石の一種。

【月石老人】212 ゲツセキラウジン　宋、余安行(**1**－**515**‥65)の號。

【月川】213 ゲツセン　明、劉傳(含山の人)(**2**－**2224**‥526)の號。

【月川先生】214 ゲツセンセンセイ　明、曹端(**5**－**14297**‥143)の尊稱。

【月泉】215 ゲツセン　㊀泉の名。浙江省浦口縣に在る。〔林泉隨筆〕余嘗遊二婺州之屬邑一、曰二浦江一、其地有レ泉、名曰二月泉一。㊁清、陳芝圖(**11**－**41698**‥912)の號。

【月泉吟社】216 ゲツセンギンシヤ　宋の呉渭(字は清翁)が作つた詩社の名。呉渭、元初に呉溪に退居して、方鳳・詩翶及び父の呉思齊、子の善等と會して詩文の交りをなし、四方の詩人の之に從ふ者が多かつた。〔天錄識餘、月泉吟社〕浦陽呉清翁嘗樹二月泉吟社一、延二鄉之遺老一、方鳳・謝翶・呉思齊輩主二於家一、至元丙戌小春望日、以二春日田園雜興一爲レ題、預以レ書告二浙東西之以レ詩名者一、令三各賦二五七言律詩一、至二丁亥正月望日一收卷、月終得二詩二千七百三十五卷一、屬二方謝諸公一品二評之一、中レ選者得二二百八十人一、三月三日揭二其甲乙次第一、其第一名贈以二公服・羅一・縑七・筆五帖・墨五笏一、第二名至二五十名一、贈送有レ差、乃錄二其與レ選之詩一、幷摘二出其餘諸人佳句一、與二其贈物回謝小啓一、及其事之始末二爲二一帙一、而板二行之一、首名爲二羅公福一。〔四庫提要、集、總集類〕月泉吟社詩、宋、呉渭編、渭字清翁、號二潛齋一、浦江人、嘗官二義烏令一、入レ元後退二居呉溪一、立二月泉吟社一、云云、李東陽懷麓堂詩話曰、元季國初、東南士人重二詩社一、

每二一有力者一爲レ主、聘二詩人一爲二考官一、隔歳封二題於諸郡之能レ詩者一、期以二明春一集レ卷私試、開レ牓次レ名、仍刻二其優者一、略如二科擧之法一、今世所レ傳惟浦江呉氏月泉吟社、取二羅公福一爲レ首、其所レ刻詩、以二和平溫厚一爲レ主、無二甚警拔一、而卷中亦無二能過レ之者一。

【月泉吟社詩】217ゲツセンギンシヤシ　書名。一卷。宋、呉渭撰。渭、月泉吟社をたて、春日田園雜興詩を徵して、五七言律體に限り、二千七百三十五卷を得たが、其の中凡そ二百八十人を選んだ。此の書は僅に六十人、詩七十四首を錄してゐる。〔四庫提要、集、總集類〕・〔說郛、第八十五冊〕・〔金華叢書、第二百七十一冊〕・〔詩詞雜俎〕。

【月船】218ゲツセン　清、盧鎬(**8－23050**‥19)の號。

【月船居士】219ゲツセンコジ　清、盧鎬(**8－23050**‥19)の號。

【月選】220ゲツセン　吏部に於ける官吏選敍の法、每月行ふもの。清代は大選・急選の別あり、偶數の月に行ふを大選、奇數の月に行ふを急選といひ、滿洲・蒙古・漢軍官は上旬、漢官は下旬、筆帖式は中旬に行つた。〔元史、選擧志三〕凡吏部月選。〔清會典、吏部〕定二月選之法一、雙月曰二大選一、單月曰二急選一、惟閏月不レ選、凡月選、滿洲蒙古漢軍官以二上旬一、漢官以二下旬一、筆帖式以二中旬一、凡月選之缺、有レ分有レ合、各以二其月所レ開之缺一、按二其人之到レ班者一而選レ之。〔清國行政法汎論、文官任命形式、吏部銓選〕吏部之選授、云云、以二其每月施行一、故曰二月選一、月選又有二雙月・單月・雙單月之別一。

【月錢】221ゲツセン　月々に與へる給金。〔宋史、兵志十二〕官優給二月錢一。〔長生殿、驛備〕比二月錢一百般威逼。

【月前】222ゲツゼン　❶月光のさすところ。月下。〔杜牧、望二少華一詩〕好伴二羽人一深洞去、月前秋聽玉參差。❷yüeh^{4} chʻien^{2}　前月。先月。

【月蘇】223ゲツソ　月の朔日。月朔。月光がよみがへる意。〔釋名、釋天〕晦、灰也、火死爲レ灰、月光盡似レ之也、朔、蘇也、月死復蘇生也。

【月送】224ゲツソウ　❶月每に送ること。〔魏書、游明根傳〕太官就レ第月送レ之。❷月が物を照し送る。〔包佶、對レ酒贈二故人一詩〕月送レ人無レ盡、風吹レ浪不レ回。❸ツキオクリ　其の月のことを次の月におくること。

【月僧】225ゲツソウ　唐、宗亮(**3－7106**‥277)の一稱。

【月總】226 yüeh^{4} tsung^{3}　商家で每月末に決算をすること。

【月息】227ゲツソク　月々の利子。月利。〔元史、姦臣、盧世榮傳〕輕二其月息一、以貸二貧民一。

【月村】228ゲツソン　清、圖明阿(**3－4832**‥112)の號。

【月朶】229ゲツダ　菊の異名。おきなぐさ。女莖。帝女花。冷香。〔陸龜蒙、重憶二白菊一詩〕月朶暮開無二絕艷一、風莖時動有二奇香一。〔呂誠、菊田詩〕搖落西風已愴然、金蕤月朶爲二誰妍一。

【月坨】230ゲツダ　清、高鳳臺(**12－45313**‥1336)の字。

【月待】231ツキマチ　十七夜、二十三夜、又は二十六夜などに寢ずに月のあがるのを待つて拜すること。

【月大】232ゲツダイ　大の月。〔日次紀事、一〕正月三日、俗閒、三日、月待。〔唐書、歷志四上〕名與二後朔一同者月大、不レ同者小。

【月代】233ツキシロ　❶月の出ようとする時、空の白むこと。〔今川了俊落書〕遲く出づる月の、月代許り見えて。❷サカヤキ　昔、男子が冠の下にあたる頭髮を半月のやうに剃つたもの。つきびたひ。〔玉海、安元二年七月八日、建春門院崩御、注〕其鬢不レ正、月代甚見苦、面色殊損。

【月臺】234ゲツダイ　❶屋根の無い臺。月見臺。〔梁元帝、南岳衡山九貞館碑〕上二月臺一而遺レ愛、登二景雲一而忘レ老。〔杜甫、徐九少尹見レ過詩〕賞レ靜憐二雲竹一、忘レ歸步二月臺一。❷yüeh^{4} tʻai^{2}　プラットホーム。步廊。站臺。

【月臺票】235 yüeh^{4} tʻai^{2} pʻiao^{4}　停車場の入場券。

【月題】236ゲツダイ　❶絡馬の具。額上の顱に當る月形のもの。ひたひも。ひたひかは。〔莊子、馬蹄〕加レ之以二衡扼一、齊レ之以二月題一。〔釋文〕崔云、馬額上當レ顱、如二月形一者也。❷月をいふ。〔宋書、謝莊傳〕戒二懸日於昭旦一、命二月題於上年一。

【月堂】237ゲツダウ　唐、李林甫(**6－14459**‥2001)の號。

【月丹】238ゲツタン　❶山茶の大きなもの。〔事物異名錄、花卉、山茶〕郝經陵川集詩、注、王承宣云、山茶大者曰二月丹一。❷清、劉巖(**2－2224**‥137)の號。

【月旦】239ゲツタン　❶つきのついたち。月朔。朔日。月旦會を見よ。❷人物の批評。月旦評を見よ。〔晉書、祖納傳〕納嘗問二梅陶一曰、君鄉里立二月旦評一何如、陶曰、善褒惡貶、則佳法也、納曰、未レ益、時王隱在レ坐、因曰、尙書稱、三載考績、三考黜二陟幽明一、何得三一月便行二褒貶一、陶曰、此官法也、月旦、私法也、隱曰、云云、古人有レ言、貞良而亡、先人之殃、酷烈而存、先人之勳、累世乃著、豈但一旦、若必月旦、則顏回食レ埃、不レ免二貪汙一、盜跖引レ少、則爲二清廉一、朝種暮穫、善惡未レ定矣。〔劉峻、廣絕交論〕雌黃出二其脣吻一、朱紫由二其月旦一。〔南史、庾肩吾傳〕論二玆月旦一、類二彼汝南一。〔黃庭堅、次韻答二堯民一詩〕晁子但愛レ我、品藻思二月旦一。

【月旦會】240ゲツタンクワイ　每月一日に會合すること。〔劉氏人譜〕宋劉子平每二月旦一必治二湯餠一、會レ族曰、今日集非下以二酒食一寫上レ禮、尋常宗族不レ睦、則多以三情意不二相通一而起、今每レ月必會集、有レ善相告、有レ過相規、則有レ故相牴牾者、彼此一見、亦相二忘于從容談笑之閒一、豈無二小補一乎。

【月旦評】241ゲツタンヒヤウ　人物の批評をいふ。後漢の許劭が每月朔に品題を定めて鄉黨の人物を品評した故事。〔後漢書、許劭傳〕初劭與レ靖俱有二高名一、好三共覈二論鄉黨人物一、每月輒更二其品題一、故汝南俗有二月旦評一焉。〔呉志、陸瑁傳〕若令三善惡異レ流、貴二汝潁月旦之評一、誠可二以厲レ俗明レ教、然恐未レ易レ行也。〔南齊書、王延之傳〕韜云、卿未三嘗有二別意一、緣二劉家月旦一故邪。〔李商隱、爲二李貽孫一上二李德裕一啓〕叨延二月旦之評一、長積二竹林之戀一。〔陸龜蒙、再抒二鄙懷一酬二謝襲美一詩〕縱有二月旦評一、未レ能二天下知一。〔書言故事、獎譽類〕月旦評、鄉曲所レ推曰二月旦推重一。

【月旦春秋】242ゲツタンシユンジウ　人物の評をすること。月旦は後漢許劭の故事。春秋は孔子の作る所、褒貶の意を寓す。卽ち人物の評論をなし、褒貶の意を寓することをいふ。〔桃花扇、修札〕舌脣纔動、也成二月旦春秋一。

【月單】243ゲツタン　[佛]禪院の主計官が一月に一度收支を計算する決算書。〔禪林象器箋、廿三、簿券門〕月單、舊說曰、副寺收管支用、一月一結、曰二月單一。

【月團】244ゲツダン　❶上等の茶の名。〔盧仝、走レ筆謝三孟諫議寄二新茶一詩〕開レ緘宛見二諫議面一、手閱月團三百片。❷墨の名。〔清異錄、文用、月團〕徐鉉兄弟工二翰染一、崇二飾書具一、嘗出二一月團墨一曰、此價値二三萬一。

【月潭】245ゲツタン　月かげをうかべたふち。〔薛能、贈二隱者一詩〕月潭雲影斷、山葉雨聲齊。

【月壇】246ゲツダン　北京阜城門外にある壇の名。清代、每年八月秋分に皇帝が月を祭られた處。城の西に在り城東の日壇に對す。夕月壇。〔清會典事例、大常寺、陳設〕月壇、夜明位、月白絹方幄次一座、幄內設二座一、上施二月白緞織金鳳坐褥隨衣搭一、靠背一、扶手二、座上設二金鳳方托座一、座下設二地平一、腳踏一、施二月白緞套衣一、前設二爵卓一、上設二爵墊一、瓷琖三十、籩豆案一、上設二登一、鉶簠簋各二、籩豆各十、俎一、內盛二牛一、羊一、豕一、鑪几一、鐙几二、上設二銅鑪一、靠具、白羊角鐙二、幄外左旁設二饌卓一、上設二饌盤一。

【月地】247ゲツチ　月地雲階を見よ。

【月地雲階】248ゲツチウンカイ　月の土地、雲のきざはし。天上界の形容。〔周秦行紀〕香風引到二大羅天一、月地雲階拜二洞仙一。〔杜牧、七夕詩〕雲階月地一相過、未レ抵二經レ年別恨多一。〔蘇軾、次二韻楊公濟奉議梅花一詩〕月地雲階漫一尊。

【月池】249ゲツチ　月の照つてゐる池。〔謝朓、別二王丞僧孺一詩〕花樹雜爲レ錦、月池皎如レ練。〔王惲、遊二百家巖一雜詩〕月池懸溜落二蒼窪一、岩竇分居可二百家一。

【月池宴】250ゲツチノエン　唐の太宗が位に卽き、其の師張嗣宗に月池の上で宴を賜はつた故事。〔唐書、張後胤傳〕大宗卽レ位、進二燕王諮議一、從レ王入朝召見、初帝在二太原一、嘗問、隋運將レ終、得二天下一者何姓、答曰、公家德業、天下繫レ心、若順レ天而動、自レ河以北、指撝可レ定、然後長二驅關右一、帝業可レ成、至レ是自陳レ所レ言、帝曰、是事未二始忘一レ之、乃賜二宴月池一、帝從容曰、今日弟子何如、後胤曰、昔孔子門人三千、達者無二子男之位一、臣翼二

贊一人一、乃王二天下一、計二臣之功一、過二於先聖一、帝爲レ之笑。

【月池硯】251ゲッチケン　硯の一種。瓦頭の圓形の部分に刻んで作つたもの。〔遵生八牋、論硯、高似孫硯箋諸式〕月池硯・方池硯・斧形硯・圭硯。

【月竹】252ゲッチク　竹の一。毎月筍を生ずるもの。毎月竹。月月竹。〔贊寧筍譜〕月竹筍、竹狀、輕短叢生、毎月抽レ筍、謂二之月竹一、筍如二箭竹蒴一、人不レ食也。

【月長】253ゲッチャウ　月毎にます。〔國語、齊語〕國家不二日引一、不二月長一。

【月帳】254ゲッチャウ　月のとばり。月の形容。〔羅隱、七夕詩〕月帳星房次第開、兩情惟恐曙光催。

【月賬】255 yüeh⁴ chang⁴ ❶毎月の支拂ひ。月拂ひ。❷毎月末に掛金を受取ること。

【月賬算】256 yüeh⁴ chang⁴ suan⁴　月末の勘定。

【月中】257ゲッチュウ　❶月のなか。月中桂を見よ。❷月光の中。〔陳羽、廣陵秋夜對月卽事詩〕霜落寒空月上樓、月中歌吹滿二揚州一。❸其の月の中。〔唐書、白居易傳〕月中召入二翰林一、爲二學士一。

【月中桂】258ゲッチュウケイ　月中にあるといふ桂。高さ五百丈、其の下に一人があつて常に之を斫るも、其の伐り口がすぐに合すると傳へる。〔虞喜、安天論〕俗傳、月中仙人桂樹、今視二其初生一、見二仙人之足一、漸已成レ形、桂樹後生焉。〔酉陽雜俎、天咫〕月中有レ桂、高五百丈、下有二一人一常斫レ之、樹創隨合、人姓吳名剛、西河人、學レ仙有レ過、謫令レ伐レ樹。〔李白、贈二崔司戶文昆季一詩〕欲下折二月中桂一、特爲中寒者薪上。〔許渾、下レ第貽二友人一詩〕人心高下月中桂、客思往來波上萍。〔白居易、廬山桂詩〕偃蹇月中桂、結レ根依二青天一。

【月中蟲】259ゲッチュウノムシ　蝦蟇をいふ。〔宣室志〕唐李揆、乾元中爲二禮部侍郎一、嘗一日坐二于庭之前軒一、忽有二大蝦蟆一墜二于庭一、揆駭異、客曰、蝦蟆月中之蟲、今天使來二公堂一、治二上帝一以二榮命一付レ公乎、後數日、果拜二中書侍郎平章事一。

【月中兔】260ゲッチュウノト　月中に居るといふ兎。〔五經通義〕月中有三兔與二蟾蜍一、兔、月陰也、蟾蜍、陽也、而與レ兔並明、陰係二于陽一也。〔杜甫、月詩〕入レ河蟾不レ沒、擣レ藥兔長生。

【月中嫦娥】261ゲッチュウノジャウガ　月中の仙女をいふ。姮娥(**3－6232**··1)を見よ。〔丹鉛總錄〕月中嫦娥、其說始二於淮南及張衡靈憲一、其實因二常儀占レ月而誤、云云、後訛爲二嫦娥一、以二儀娥同音一耳。

【月中聚レ雪】262ゲッチュウユキヲアツム　月光の中で雪をあつめる。白く美しい形容。蜀の劉備が甘后を白綃の中に置いた故事。〔海錄碎事、帝王、后妃〕蜀先主置二甘后於白綃帳中一、望レ之如二月中聚レ雪、時河南獻二玉人長三尺一、夕則擁レ后而玩二玉人一、嬖寵者非三唯嫉二甘后一、亦妬二玉人一也。

【月中蟾蜍】263ゲッチュウノセンジョ　月中に居るといふ蟾蜍。古、羿が不死の藥を西王母に請ひ、其の妻の姮娥が之を盜んで月中に走り、蟾蜍となつたといふ蟾蜍ガマ。〔爾雅翼、蟾蠩〕古稱三月中有二蟾蠩一、故春秋運斗樞曰、政紀乖則蟾蜍月精、四顧感翔、河圖曰、蟾蠩去レ月、天下大亂、淮南子曰、月樞二天下一、食二於詹諸一、許叔重以爲、詹諸月中蝦蟆、食レ月。〔張衡、靈憲〕羿請二不死之藥于西王母一、姮娥竊以奔レ月、託二身于月一、是爲二蟾蜍一。〔酉陽雜俎、天咫〕月中有レ桂、有二蟾蜍一。

【月蟲】264ゲッチュウ　蝦蟇。月中蟲(259)を見よ。

【月除】265ゲッヂョ　月が經過すること。時日の經過すること。〔魏志、王烈傳〕日逝月除、時方已過。

【月汀】266ゲッテイ　❶月かげをうかべたみぎは。〔吳融、池上雙鳧詩〕不レ在二籠欄一夜仍好、月汀星沼剩徘徊。❷清、秦榮光(**8－24995**··191)の號。

【月亭】267ゲッテイ　明、明得(**5－13805**··472)の號。

【月底】268ゲッテイ　❶月のおくそこ。〔劉因、玉簪詩〕花中氷雪避二秋陽一、月底陰陰銷二暗香一。❷月末。月の終。〔清會典事例、內務府、官學、供給〕乾隆十八年奏准、咸安宮官學內、毎日領二過銀兩數目日期一、逐件呈レ堂稽察、月底彙冊咨二送御史衙門一查覆。

【月底現用】269 yüeh⁴ ti³ hsien⁴ yung⁴　小切手類に用ひられる文句で、月末拂の意。

【月底清算】270 yüeh⁴ ti³ ch'ing¹ suan⁴　月末に行ふ商取引上の決濟。

【月底修蕭館主人】271ゲッテイシウセウクヮンシュジン　清、孫義鈞(**3－6987**··364)の號。

【月隄】272ゲッテイ　❶月下の堤防。〔白居易、早朝詩〕月隄槐露氣、風燮樺煙香。❷堤防の一種。大堤の外に築き、河流に接するもの。〔元史、河渠志一、白河〕創築二月隄一、頗有二成功一。〔清會典、工部〕凡工有レ隄。〔注〕隄之式有二大隄一、有二月隄一、有二越隄一、有二遙隄一、有二縷隄一、有二格隄一、有二欅隄一、以二土或石一爲レ之。

【月朝】273ゲッテウ　月の初。〔荀子、禮論〕然後月朝トレ日、月夕トレ宅。〔注〕月朝、月初也、月夕、月末也。

【月天】274ゲッテン　❶月をいふ。〔皮日休、華山李鍊師所居詩〕深夜寂寥存レ想歇、月天時下二草堂一來。〔陸游、山園雜詠詩〕花徑糝紅供二晚醉一、月天生レ暈作二春寒一。❷清、黃龍士(**12－47926**··1347)の字。❸佛グヮッテン　月天子の略。

【月天子】275グヮッテンシ　佛月宮の天子。其の名を寶吉祥といひ、勢至菩薩の化現といふ。〔大日經疏、五〕西門之南、與二日天一相對、應レ置二月天一、乘二白鵝車一。〔嘉祥法華疏、二〕有經云、大勢至、名二寶吉祥一、作二月天子一。

【月點】276ゲッテン　婦人が面上に施すつけぼくろをいふ。〔酉陽雜俎、黥〕今婦人面飾用二花子一、起レ自四昭容上官氏所三製以掩二點跡一、大曆已前、士大夫妻多二妬悍者一、婢妾小不レ如レ意、輒印レ面、故有二月點錢點一。〔談苑〕婦人面飾用二花子一、起レ自三上官昭容、以掩二點跡一、大曆以前、士大夫妻妬、凡婢妾小不レ如レ意、輒印二其面一、故有二月點錢一。

【月點二波心一一顆珠】277ツキハシンニテンズイックヮノシュ　月が波に映ずるさまが恰も一顆の珠の如く美しいことをいふ。〔白居易、春題二湖上一詩〕松排二山面一千重翠、月點二波心一一顆珠。

【月殿】278ゲッデン　❶月の照つてゐる御殿。又、立派な宮殿。〔謝莊、月賦〕去二燭房一、卽二月殿一。〔梁簡文帝、元圃園講頌序〕風生二月殿一、日照二槐煙一。〔梁元帝、梁安寺刹下銘〕雪宮月殿、晨暉夜圓。〔庾信、秦州天水郡麥積崖佛龕銘〕雕二輪月殿一、刻二鏡花臺一。❷高官をいふ。〔琵琶記、宦邸憂思〕只爲二他雲梯月殿一多二勞攘一、落二得淚雨一似レ珠兩鬢霜。

【月兔】279ゲット　❶兔をいふ。〔劉孝威、行行且遊獵篇〕高罝掩二月兔一、勁矢射二天狼一。❷月の異名。月中に兔がゐるといふ傳說からいふ。玉蟾。〔傅玄、擬天問〕月中何有、白兔搗レ藥。〔黃滔、省試內出二白鹿一宣二示百官一詩〕形奪場駒潔、光交月兔寒。〔陸游、十二月初一日得二梅一枝一云云詩〕月兔擣レ霜供二換骨一、湘娥鼓レ瑟爲二招魂一。

【月都】280ツキノミヤコ　❶月中にあるといふ都。月宮殿。〔竹取物語〕月の都の人なり。❷都の異稱。〔金槐和歌集、春〕ひさかたのつきのみやこの春のよの空。

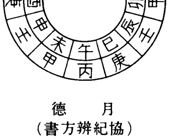
【月頭】281ゲットウ　つきはじめ。つきがしら。月初。〔貢父詩話〕孟蜀時、花蕊夫人、號レ能レ詩、而世不レ傳、王平父、因治二館中廢書一、得二一軸八九十首一、而存者纔三十餘篇、大約似二王建句一、若下廚船進レ食簇二時新一、列坐無レ非二侍從臣一、日午殿頭宣二索鱠一、隔花催喚打魚人、月頭支給買花錢、滿殿宮娥近二數千一、遇著唱名都不レ語、含レ羞急過御牀前上。

【月洞】282ゲッドウ　❶月形の洞穴。〔南齊書、樂志〕重闈月洞、層牖烟施。❷yüeh⁴ tung⁴ アーチ。

【月洞吟】283ゲツドウギン　書名。一卷。宋、王鎡撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【月洞門】284ゲツドウモン　月形の門。〔紅樓夢、四十一回〕來二到了一個月洞門一進去。

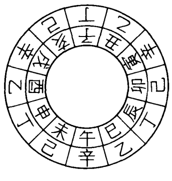
【月德】285ゲットク　❶月の德。〔管子、四時〕大寒乃至、甲兵乃強、五穀乃熟、國家乃昌、四方乃備、此謂二月德一。❷皇后の德。〔梁書、高祖郗皇后傳〕應二祥月德一、比二載坤靈一。❸叢辰の名。月の德神。正・五・九月には丙に在り、二・六・十月には甲に在り、三・七・十一月には壬に在り、四・八・十二月には庚に在り、其の方位は修營に、其の日は宴樂に吉。〔協紀辨方書、義例三、月德〕天寶曆曰、月德者、月之德神也、取レ土修營、宜レ向二其方一、宴樂上官、利レ用二其日一、曆例曰、月德者、正五九月在レ丙、二六十月在レ甲、三七十一月在レ壬、四八十二月在レ庚。



月德
（協紀辨方書）

【月德合】286ゲットクガフ　叢辰の名。月德の合ふ所の干を以て之に當てる。合は五行の精の符會する意。正・五・九月は辛に在り、二・六・十月は己に

在り、三・七・十一月は丁に在り、四・八・十二月は乙に在る。其の方位は衆惡皆消え、其の日は百福並び集るといふ。〔協紀辨方書、義例三、月德合〕五行論曰、月德合者、五行之精、符會爲レ合也、所レ理之地、衆惡皆消、所レ値之日、百福並集、利下以出レ師命レ將、上レ冊受レ封、祠二祀星辰一、營中建宮室上。曆例曰、月德合者、正五九月在レ辛、二六十月在レ己、三七十一月在レ丁、四八十二月在レ乙。



月德合
（協紀辨方書）

【月納】287 ゲツナフ　月々に納めること。月納錢を見よ。

〘月納錢〙288 ゲツナフセン　月掛けの錢。又、月割りの錢。月賦。〔文獻通考、國用考〕免レ行二月納錢一。

【月南】289 ゲツナン　清、許桂林（**10－35298**‥271）の字。

【月坡】290 ゲツパ　清、郭植（**11－39474**‥133）の號。

【月波】291 ゲツパ　❶つきかげのうつつてゐるなみ。〔王惲、夏夜詩〕想得近山多二雨過一、滿庭風竹月波涼。〔朱熹、秋日詩〕一雨生レ涼杜若洲、月波微漾綠溪流。❷樓の名。〔王禹偁、月波詠懷詩序〕月波之名、不レ知レ得二于誰氏一、圖經、故老皆無レ聞焉、因作二古詩一章一、凡六百八十字、陷二于樓壁一、庶使二茲樓之名、與レ詩俱不レ泯也。

〘月波樓〙292 ゲツパロウ　室名。❶清、錢東塾（**11－4056**3‥404）の室名。❷清、卓天寅（**2－2741**‥3）の室名。

〘月波洞中記〙293 ゲツパドウチユウキ　書名。二卷。老子が太白山月波洞壁に題し、唐の任逍遙が得たものといふ。蓋し術家附益の書である。〔四庫提要、子、術數類〕。

【月陂】294 ゲツパ　左右兩教坊外に在る三日月形の舟つき場をいふ。〔教坊記〕左右兩教坊、左多二善歌一、右多二工舞一、外有二水泊一、俗號二月陂一、形如二偃月一也。〔王建、宮詞〕忽地金輿向二月陂一。

【月破】295 ゲツパ　叢辰の名。月建が衝く所の辰。歲破（**6－16326**‥118）に同じ。〔協紀辨方書、義例二、月破〕考原曰、月破者、月建所レ衝之日也、與二歲破一義同。

【月孛】296 ゲツハイ　星命家の十一曜の一。日月五星と順行し、九日に一度を行き、九年に天を一周する。〔張果星宗、星曜行度〕月孛九日行一度、九箇月一宮、九年一周天。

【月牌】297 グワツパイ　毎月位牌に對して行ふ供養。

【月梅】298 ゲツバイ　月に照らされて居る梅の花。〔陳與義、和二孫升之一詩〕月梅疎影夜香聞。

【月報】299 ゲツパウ　月々に報告すること。又、其の印刷物。日報・年報などに對していふ。〔清國行政法汎論、官廳、監督形式〕彙報則有二年報一、有二月報一。

【月望】300 ゲツバウ　十五夜の月。滿月。轉じて、十五日をいふ。〔呂覽、精通〕月也者、羣陰之本也、月望則蚌蛤實。〔淮南子、說山訓〕月望日奪二其光一。〔資治通鑑、晉紀〕（簡文帝、咸安元年）詰朝月望。〔注〕日行遲、一年一周天、月行速、一月一周天、而與レ日會、日月之會、謂二之合朔一、自二合朔之後一、月又先レ日而行、至二十五日一、日月相望、謂二之月望一。

【月貌】301 ゲツバウ　婦人などの美しい形容。〔江總、優塡像銘〕晬雲齒雪、月貌金容。

〘月貌花龐〙302 ゲツバウクワバウ　美人の顏色をいふ。龐はふくよかなこと。〔長生殿、哭像〕掩レ面悲傷、救二不レ得三月貌花龐一。

【月白】303 ゲツパク　❶月が白い。〔杜牧、猿詩〕月白煙青水暗流、孤猿銜レ恨叫二中秋一。〔溫庭筠、過二華清宮一詩〕月白霓裳殿、風清羯鼓樓。〔張蠙、宿二山驛一詩〕月白翻驚レ鳥、雲閑欲レ就レ人。❷月のやうに青白い色。轉じて、水淺黃の淡い色の名。〔史記、封禪書〕祭レ日以レ牛、祭レ月以二羊彘特一、太一祝宰、則衣二紫及繡一、五帝各如二其色一、日赤月白。❸ツキシロ 月が出ようとする時、東の空の白みわたること。月代。

〘月白風清〙304 ツキシロクカゼキヨシ　月はしろく輝き風はすずしく吹く。秋の月夜のさま。〔皮日休、潤卿魯望寒夜見レ訪云云詩〕風清月白更三點、未レ放華陽鶴上人。〔蘇軾、後赤壁賦〕已而歎曰、有レ客無レ酒、有レ酒無レ肴、月白風清、如二此良夜一何。

【月迫】305 ゲツパク　月末。特に十二月にいふ。〔庭訓往來、四月〕月迫上分、節季年預。

【月魄】306 ゲツパク　月の精。又、月の異名。月靈。〔梁簡文帝、相宮寺碑銘〕珠生二月魄一、鍾應二秋霜一。〔高適、塞下曲〕日輪駐二霜戈一、月魄懸二琱弓一。〔劉長卿、湖上遇二鄭田一詩〕杯中忽復醉、湖上生二月魄一。〔金丹諸眞元奧詩〕先使三日魂擒二月魄一、陰文陽武運二初爻一。

【月半】307 ゲツパン　❶一箇月の半ば。十五日をいふ。〔書、胤征、政典曰先レ時者殺無レ赦、疏〕當二月之中一、日月相望、故以二月半一爲レ望。〔儀禮、士喪禮〕月半不二殷奠一。〔禮、祭義〕月半君巡レ牲。〔竹書紀年〕月朔始生二一莢一、月半而生二十五莢一。〔日知錄、考證、月半〕今人謂二十五一爲二月半一、蓋古經已有レ之、儀禮士喪禮、月半不二殷奠一。❷半圓の月。上弦下弦の月をいふ。〔釋名、釋天〕弦、月半之名也、其形一旁曲、一旁直、若二張レ弓施レ弦也、望、月滿之名也、月大十六日、小十五日、日在レ東、月在レ西、遙相望也。

【月番】308 ツキバン　月々代るつとめること。月々の勤番。直月。〔職掌錄、老中〕月番の時は、諸御用一切司レ之。

【月尾】309 ゲツビ　月の終。月末。〔唐書、楊瑒傳〕有司帖試明經不レ質二大義一、乃取二年頭月尾、孤經絕句一。〔郭翼、春日有懷詩〕客裏看レ春愁不レ禁、月頭月尾雨陰陰。

【月評】310 ゲツピヤウ　月々に批評すること。月旦。

【月氷】311 ツキノコホリ　月光が水にきらきらと映ずるのを氷にたとへていふ語。〔拾玉集、六〕月の氷にをしぞ立つなる。

【月賓】312 ゲツピン　明、仇桂芳（**1－355**‥66）の字。

【月布】313 ゲツプ　婦人の月經に用ひる布。〔梅圃餘談〕婦人月布、謂二之騎馬布一、又謂二料峭布一、足レ辟二邪魔一、而張華博物志云、月布在レ戶、婦人留連、注謂、婦人月布埋二門限下一、婦女入レ門、則自淹留不二背去一。

【月府】314 ゲツプ　月のみやこ。月宮。〔梁昭明太子、錦帶書十二月啓、林鐘六月〕藏二形月府一、遁二跡冰床一。〔龍城錄〕唐明皇遊二月宮一、見二天府榜一曰、廣寒清虛之府。〔唐彥謙、敍レ別詩〕蟠拏對レ月吸二深杯一、月府清虛玉兔吼。

【月斧】315 ゲツプ　まさかり。〔蘇軾、白水山佛迹巖詩〕方二其欲レ合時一、天匠麾二月斧一。〔戴復古、寄二報恩長老恭率翁一詩〕風斤月斧日紛然、行看二華屋一突兀在二眼前一。

【月賦】316 ツキノフ　❶賦の名。㋑漢、公孫乘の作。〔西京雜記、四〕（公孫乘爲二月賦一）其詞曰、月出皦兮、君子之光、鵾鷄舞二於蘭渚一、蟋蟀鳴二於西堂一、君有二禮樂一、我有二衣裳一、猗嗟明月、當レ心而出、隱二員巖一而似レ鉤、蔽二脩堞一而分レ鏡、既少進以增レ輝、遂臨レ庭而高映、炎日匪レ明、皓璧非レ淨、躔レ度運行、陰陽以レ正、文林辯囿、小臣不レ佞。㋺宋、謝莊の作。〔謝莊、月賦〕陳王初喪二應劉一、端憂多レ暇、綠苔生レ閣、芳塵凝レ榭、悄焉疚レ懷、不レ怡二中夜一、乃清二蘭路一、肅二桂苑一、騰二吹寒山一、弭二蓋秋坂一、臨二濬壑一而怨レ遙、登二崇岫一而傷レ遠、於レ時斜漢左界、北陸南躔、白露曖レ空、素月流レ天、沈二吟齊章一、殷二勤陳篇一、抽レ毫進レ牘、以命二仲宣一。㋩唐、袁朗の作。〔唐書、文藝、袁朗傳〕袁朗在レ陳、爲二祕書郎一、江總尤器レ之、後主聞二其才一、詔爲二月賦一篇一、洒然無レ留レ思、後主曰、謝莊不レ得三獨美二於前一矣。㋥唐、王冷然の作。〔王冷然、初月賦〕觀二乎皎皎新月一、含レ虛驚レ闕、伺二海蛤一而齊レ生、候二階蓂一而俱發。㋭宋、吳淑の作。〔吳淑、月賦〕惟彼陰靈、三五闕、而三五盈、流二素彩一而冰靜、湛二寒光一而雪凝、顧兔騰精而夜逸、蟾蜍絢彩以宵驚、容二仙桂之托植一、仰二天星一而助レ明。㋬宋、汪莘の作。〔汪莘、月賦序〕余少時讀二謝希逸月賦一、見下其徵引陳熟、比興寒窘、大抵拙二於文一、而乏中於理上、竊嘗以爲レ恨、至レ今取而再三觀レ之、皆不レ能レ易二少時所レ見、因搜下其平生所レ得二於月一者上、假二唐太宗房元齡問對一而爲二之賦一云。㋣明、馮時可の作。〔馮時可、月賦序〕癸未秋夕、馮子獨坐、延レ首東望、月耿二疎林一、少焉涼風勝レ之、直入二余戶一、岑寂無聊、萬慮塡レ膺、蹋天蹐地、偶東鄰沈生攜レ酒過勞、吐二崢嶸之論一、驅二愁思於天外一、頓令二宇宙若一レ闢、遂相與賡レ酧、不レ覺二金樞之西一矣、沈生乃唱韻、卽レ席賦焉。❷ゲツプ ㋑月々に割り當てること。つきわり。㋺一定の金額を幾月かにわりあてて支拂ふこと。月賦拂。

【月拂】317 ツキバラヒ　月々に支拂ひをすること。

【月份】318 yüeh^4 fen　曆月。月。月日。〔北平歲時志、正月〕茲既以月份爲前後、亦並以成著爲連

鎖。

【月份牌】319 yüeh^{4} fen p‘ai^{2} 桂こよみ。月份單。カレンダー。

【月平】320（ゲツペイ） 漢の時代に毎月、市價の高低を評定して平らかにすることをいふ。〔周禮、天官、小宰、聽㆓賣買㆒以㆑質劑、注〕質劑、謂㆓市中平賈㆒、今時月平、是也。〔孫詒讓正義〕月平者、漢時市價、蓋毎月評㆓定貴賤㆒、若㆔今時朔望爲㆓長落㆒也。

【月並】321（ツキナミ） 月次(151)に同じ。❶月毎。おのおのの月。❷つきやく。月經。❸月並發句(323)の略。其の思想が卑俗陳套なのを嘲つていふ。❹物事の陳套で俗氣の多いのを嘲つていふ言葉。❺（ツキナラビ） 月がつづく。今月、來月と打ちつづくこと。

【月並會】322（ツキナミクワイ） 月毎に催す集會。

【月並發句】323（ツキナミホツク） 俳諧の舊派では多く月並會を催すことからいつたのであるが、此の派の宗匠連の嗜好に適する發句は、思想が多く卑俗であつたので之を嘲るに用ひる。

【月餅】324（ゲツペイ） 八月十五日仲秋節に食ふ菓子の名。麥粉をのべ、中に胡麻、西瓜の種子、桃等の餡を入れ油で揚げたもの。自來白・自來紅・翻毛月餅・起稷月餅等の種類がある。中秋月餅。〔熙朝樂事〕八月十五日、謂㆓之中秋㆒、民間以㆓月餅㆒相遺、取㆓團圓之義㆒、是夕、人家有㆓賞月之燕㆒、或攜㆓榼湖海㆒、沿遊徹㆑曉、蘇堤之上、聯袂踏歌、無㆑異㆓白日㆒。〔燕京歲時記、月餅〕中秋月餅、以㆓前門致美齋者㆒爲㆓京都第一㆒、他處不㆑足㆑食也、至㆓供月月餅㆒、到處皆有、大者尺餘、上繪㆓月宮蟾兔之形㆒、有㆓祭畢而食者㆒、有㆘留至㆓除夕㆒而食者㆖、謂㆓之團圓餅㆒。

【月表】325（ゲツペウ） 事柄を月毎に表にかかげて見易いやうにしたもの。年表などに對していふ。〔史紀、太史公自序〕詳著㆓秦楚之際月表第四㆒。〔史記、秦楚之際月表、注〕索隱、曰、張晏曰、時天下未㆑定、參錯變易、不㆔以㆑年記㆒、故列㆓其月㆒、今按、秦楚之際、擾攘僭簒、運數又促、故以㆑月紀㆑事而名㆑表也。

【月票】326 yüeh^{4} p‘iao^{4} 月ぎめの切符。定期券。

【月鼈】327（ゲツベツ） 月とすつぽん。月と朱盆の轉訛。懸隔の甚しい喩。霄壤。雲泥。〔嬉遊笑覽〕似たる物のいたく異なるたとへごとにて月とスツポンと云へるが如し。

【月浦】328（ゲツポ） ❶月の照る濱邊。〔梁元帝、元圃牛渚磯碑〕清風韻響卽代㆓歌仙㆒、桂影浮㆑池仍爲㆓月浦㆒。〔李嶠、江詩〕霞津錦浪動、月浦練花開。❷鎭名。江蘇省寶山縣の西北。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、嘉定縣、南翔鎭〕月浦鎭、在㆓縣東三十六里㆒、因㆑水而名、顧逕巡司置㆓於此㆒。

【月奉】329（ゲツポウ） 月俸に同じ。〔周禮、天官、大宰、祿位、注〕祿若㆓今月奉㆒也。〔孫詒讓正義〕云㆘祿若㆓今月奉㆒也㆖者、釋文云、奉、本或作㆑俸、案、俸卽奉之俗、國語楚語韋注云、祿、奉也、廣雅釋詁云、稟、奉、稟、祿也、漢書高后紀、列侯幸得㆓餐錢奉邑㆒、顏注引㆓韋昭㆒云、粟米曰㆑奉、續漢書百官志、載㆘百官受㆑奉、自㆓大將軍三公㆒、至㆗斗食佐史奉㆖、並云㆓月若干斛㆒、所謂月奉也、賈疏云、古者祿皆月別給㆑之、漢之月奉、亦月給㆑之、故云㆑若㆓今月奉㆒也。〔剪燈新話、富貴癸跡司志〕月奉束脩五定、家遂稍康。

【月俸】330（ゲツポウ） 月々受ける手あて。毎月支拂ふ給料。年俸などに對していふ。月奉。月給。〔韓翃、送㆓金華王明府㆒詩〕家資陶令菊、月俸沈郎錢。〔白居易、與㆓元九㆒書〕月俸四五萬、寒有㆑衣、饑有㆑食。

【月峯】331（ゲツポウ） ❶月のさしのぼつたみね。〔呂溫、終南精舍月中聞㆓磬聲㆒詩〕月峯禪室掩、幽磬靜㆓昏氛㆒。❷字號。㋑明、韓上桂(12－43159‥308)の號。㋺明、孫鑛(3－6987‥86)の號。

【月毛】332（ツキゲ） 馬の毛色。葦毛（アシゲ）の赤ばんだ色。鴾毛。

【月末】333（ゲツマツ） 月の終。月底。〔白居易、戊申歲暮詠懷三首詩〕窮冬月末兩三日、半百年過六七時。〔李賀、昌谷到㆑洛詩〕寒凉十月末、露霰濛㆓曉昏㆒。〔通鑑考異、梁武紀〕今移㆓之於月末㆒。

【月滿】334（ゲツマン） ❶月がいつぱいに照る。〔岑參、送㆓顏評事入㆒㆑京詩〕知君客愁處、月滿㆓巴川㆒時。❷滿月となる。月滿則虧を見よ。〔後漢書、丁鴻傳〕鴻因㆓日食㆒上㆓封事㆒曰、聞者月滿先㆑節、過㆑望不㆑虧。❸期限の月がいつぱいになる。〔禮、服問、反㆓三年之葛㆒、疏〕此著㆑麻月滿、還反服㆓三年之葛㆒也。❹產月になる。

【月滿樓】335（ゲツマンロウ） 清、顧宗泰(12－43689‥312)「の室名。

【月滿則虧】336（ツキミツレバスナハチカク） 月が滿ちて圓くなれば必ず缺ける。物ごとが盛になれば必ず衰へる喩。月盈則食。〔史記、蔡澤傳〕日中則移、月滿則虧、物盛則衰。

【月明】337（ゲツメイ） つきが明るい。明るい月夜。〔庾信、蕩子賦〕關山惟月明。〔沈佺期、巫山高詩〕月明三峽曙、潮滿九江春。〔杜甫、秦州雜詩〕月明垂㆓葉露㆒、雲逐渡㆓溪風㆒。〔楊萬里、夏夜逐㆑涼詩〕夜熱依然午熱同、開㆑門小立月明中。

【月明地】338 yüeh^{4} ming^{2} ti^{4} 月の輝き渡る所。

【月明星稀】339（ツキアキラカニホシマレナリ） 月が明らかなため星の數が少く見える。大賢が出て小人が削られる喩。蜀の先主の奔走を譏つた句。〔魏武帝、短歌行〕月明星稀、烏鵲南飛、繞㆑樹三匝、何枝可㆑依。〔注〕善曰、月明已上四句、喩㆓客子無㆑所㆓依託㆒也、銑曰、以喩㆓大賢出而小人削㆒、而忠信之士游行、當㆑擇㆓其棲託之便㆒矣、若不㆑得㆓其所㆑依、則患害之必至、亦如㆔烏鵲匝㆑樹、求㆓其可㆑託之枝㆒。〔蘇軾、赤壁賦〕客曰、月明星稀、烏鵲南飛、此非㆓曹孟德之詩㆒乎。

【月面】340（ゲツメン） つきのおもて。美しく艶のある顏。美人の顏などの形容。玉顏。〔梁簡文帝、千佛願文〕紺髮日光、蓮眸月面。〔李羣玉、佳人阿最詩〕團團明月面、冉冉柳枝腰。〔宋濂、思春詞〕歌扇但疑遮㆓月面㆒、舞衫猶記倚㆓雲箏㆒。

【月面佛】341（グワツメンブツ） 佛 佛の名。この佛の壽命は僅かに一日一夜であるといふ。〔華嚴疏鈔、十二〕佛名經第六云、月面佛壽一日夜、日面佛壽一千八百歲、梵面佛壽二十三千歲。

【月門】342（ゲツモン） 月の形にくりぬいた門。閱門。〔新方言、釋宮〕今人謂㆘牆竇空如㆓規形㆒、可㆖通㆓人行㆒、曰㆓閱門㆒、亦曰㆓閱洞㆒、俗皆用㆑月、月亦規形、語無㆓大誤㆒。

【月夜】343（ゲツヤ） 月明の夜。〔魏書、李諧傳〕座有㆓清談之客㆒、門交㆓好事之車㆒、或林㆓嬉於月夜㆒、或水㆓宴於影斜㆒。〔舊唐書、錢徽傳〕月夜獨吟。〔杜甫、詠㆓懷古跡㆒詩〕環佩空歸月夜魂。

【月夜烏】344（ツキヨガラス） 月夜に鳴く烏。〔夫木和歌抄、二十七、烏〕月夜がらすの聲も寒けし。

【月夜見男】345（ツキヨミヲトコ） 月の異名。月人壯(195)に同じ。

【月陽】346（ゲツヤウ） 月のやどるところ。畢・橘・修・圉・厲・則・窒・塞・終・極をいふ。〔爾雅、釋天〕月在㆑甲曰㆑畢、在㆑乙曰㆑橘、在㆑丙曰㆑修、在㆑丁曰㆑圉、在㆑戊曰㆑厲、在㆑己曰㆑則、在㆑庚曰㆑窒、在㆑辛曰㆑塞、在㆑壬曰㆑終、在㆑癸曰㆑極、月陽。〔郝懿行義疏〕月陽、猶㆓歲陽㆒也、史記麻書云、月名畢聚、索隱曰、聚音陬、是則正月得㆑甲爲㆓畢陬㆒也、又引㆓虞喜㆒云、月雄在㆑畢、雌在㆑陬、今按、月雄・月雌、卽月陽・月陰也、畢陬乃以㆓月陽㆒配㆓月陰㆒、十二月皆然也。

【月漾】347（ゲツヤウ） 橋の名。河北省雄縣の南。又、易陽橋といふ。明の建文の時、燕王が李景隆を雄縣に破り、兵を此處に降伏せしめた。〔讀史方輿紀要、直隸、河間府、任邱縣、東莊橋〕月漾橋、在㆓廢莫州北易水上㆒、明建文二年、燕王敗㆓李景隆之兵㆒破㆓雄縣㆒、伏㆓兵月漾橋㆒、莫州兵來援、遇㆑伏敗走、橋蓋與㆓雄縣㆒接㆑界。

【月役】348（ツキヤク） 月經(103)に同じ。

【月餘】349（ゲツヨ） 一つきあまり。一箇月餘。〔史記、孔子世家〕去卽過㆑蒲月餘。〔漢書、叔孫通傳〕習㆑之月餘。〔魏志、武帝紀〕遂決㆓泗沂水㆒以灌㆑城月餘。〔晉書、律歷志中〕一月不㆑盡爲㆓月餘㆒。

【月餘日】350（ゲツヨジツ） 一つきあまり。〔韓愈、張中丞傳後序〕雲來時、睢陽之人、不㆑食月餘日矣。

【月蘿】351（ゲツラ） 清、王建衡(7－20823‥1405)の號。

【月來】352（ゲツライ） ❶月がめぐり來る。〔易、繫辭下〕日往則月來。❷（ツキゴロ） 數月この方。一二箇月このかた。月頃。

【月來軒】353（ゲツライケン） 清、錢韞素(11－40563‥254)の室名。

【月老】354（ゲツラウ） ❶緣結びの神。媒酌人。月下老人の略。〔剪燈新話、秋香亭記〕月老難㆑憑、星期易㆑阻。❷梅をいふ。〔林逋、梅花詩〕任教月老應㆓微見㆒、却爲㆓春寒㆒得㆓少留㆒。

【月落】355（ゲツラク） 月が落ちる。〔庾信、鏡賦〕髻上星稀、黃中月落。

〖月落參橫〗356ツキオチシンヨコタハル　月が西に落ちて參星が東によこたはる頃。〔容齋隨筆、梅花橫參〕今人梅花詩詞多用二參橫字一、蓋出二柳子厚龍城錄所一レ載趙師雄事一、然此實妄書、或以爲二劉無言所一レ作也、其語云、東方已白、月落參橫、且以二冬半一視レ之、黃昏時、參已見、至二丁夜一則西沒矣、安得二將レ旦而橫一乎、秦少游詩、月落參橫畫角哀、暗香消盡令二人老一、承二此誤一也、唯東坡云、紛紛初疑月挂レ樹、耿耿獨與二參橫一昏、乃爲二精當一、老杜有下城擁二朝來客一、天橫二醉後參一之句上、以二全篇一考レ之、蓋初秋所レ作也。

〖月落烏啼霜滿レ天〗357ツキオチカラスナイテシモテンニミツ　月は西山に落ち烏が啼いて、天に滿ちるかと思はれるほど霜が眞白に下りてゐる。曉天のさまをうたつたもの。一說に、夜半の景を敍した句といふ。〔張繼、楓橋夜泊詩〕月落烏啼霜滿レ天、江楓漁火對二愁眠一、姑蘇城外寒山寺、夜半鐘聲到二客船一。〔唐詩選注〕曉景、卽寫二眠覺後所一レ見、或云、月落烏啼霜滿レ天、爲二夜半前實景一。

【月利】358ゲツリ　月を單位として計算する利率。

【月裏】359ゲツリ　❶月の中。月光の中。〔李商隱、槿花詩〕月裏寧無レ姊、雲中亦有レ君。〔張昱、中秋望月詩〕月裏分明見二九州一、浮雲西北是瑤樓。❷鏡の中。鏡を月に喩へた語。〔高啓、題二美人對レ鏡圖一詩〕起開二粧閣一笑窺レ奩、月裏分明見二娥影一。

【月律】360ゲツリツ　音調を陰陽の十二律に分つて之を陰曆の一年十二箇月に配したものをいふ。卽ち正月の律は太蔟、二月は夾鐘、三月は姑洗、四月は仲呂、五月は蕤賓、六月は林鐘、七月は夷則、八月は南呂、九月は無射、十月は應鐘、十一月は黃鐘、十二月は大呂といふ。〔禮、月令〕孟春之月、律中二大蔟一。〔呂覽、音律〕二日黃鐘生二林鐘一、林鐘生二太蔟一、太蔟生二南呂一、南呂生二姑洗一、姑洗生二應鐘一、應鐘生二蕤賓一、蕤賓生二大呂一、大呂生二夷則一、夷則生二夾鐘一、夾鐘生二無射一、無射生二仲呂一。〔注〕黃鐘十一月律、林鐘六月律、太蔟正月律、南呂八月律、姑洗三月律、應鐘十月律、蕤賓五月律、大呂十二月律、夷則七月律、夾鐘二月律、無射九月律、仲呂四月律。〔後漢書、順帝紀〕作二樂器一、隨二月律一。〔注〕隨二月律一、謂月令正月律中二太蔟一、二月律中二夾鍾一、三月律中二姑洗一、四月律中二仲呂一、五月律中二蕤賓一、六月律中二林鍾一、七月律中二夷則一、八月律中二南呂一、九月律中二無射一、十月律中二應鍾一、十一月律中二黃鍾一、十二月律中二大呂一。

【月亮】361ゲツリヤウ　月光の明らかなこと。轉じて、月をいふ。〔李益、奉レ酬下崔員外副使攜レ琴宿二使院一見上レ示詩〕庭木已衰空月亮、城砧自急對二霜繁一。〔紅樓夢、三十一回〕算命的管二著月亮一、叫二什麼太陰星一。

〖月亮馬兒〗362ゲツリヤウバジ　兔の繪を畫いた旗。八月十五日、月を祭る机の前に置くもの。月光馬兒(86)を見よ。

【月糧】363ゲツリヤウ　淸代、兵丁が每月支給せられる口糧。〔六部成語、戶部、月糧、注解〕兵丁每月應レ給之口糧也。

【月林】364ゲツリン　月の照らすはやし。〔杜甫、游二奉先寺一詩〕陰壑生二虛籟一、月林散二淸影一。

【月輪】365ゲツリン・グワチリン　❶月をいふ。〔王昌齡、春宮曲〕昨夜風開露井桃、未央前殿月輪高。〔岑參、出レ關經二華嶽寺一訪二法華雲公一詩〕月輪吐二山郭一、夜色空淸澄。〔杜牧、洛陽秋夕詩〕月輪移在二上陽宮一。〔倶舍論、十一〕日月徑量、幾踰繕那、日五十一、月唯五十、云云、月輪下面頗胝迦寶、水珠所レ成、能冷能照。❷ツキノワ　㋑圓い形。㋺袈裟に飾る輪狀のもの。㋩熊の喉にある新月形の白毛。〔夫木和歌抄、二十七、熊〕奥山にすむ荒熊の月のわに。㋥藁で作つた釜敷。㋭硯石の名。㋬武具。指物の名。㋣兔の異名。

〖月輪關白〗366ツキノワクワンパク　藤原兼實をいふ。兼實の別莊が月輪（今、京都市今熊野町）に在つて、月輪山莊と稱したからいふ。

【月鄰】367ゲツリン　淸、龔琴徽(**12**—**48837**··63)の字。

【月廩】368ゲツリン　月俸として受ける扶持米。廩は給米。〔宋史、兵志五〕給二官馬月廩一。〔元史、世祖紀十四〕命二宿衞一受二月廩一。

【月令】369ゲツレイ・グワツリヤウ　❶十二箇月の時節に應じて布く政令。又、その政令を記したもの。〔禮、月令、題疏〕按、鄭目錄云、名曰二月令一者、以三其記二十二月政之所一レ行也。〔史記、三皇紀〕月令、孟春其帝太皞、是也。〔漢書、王莽傳上〕月令兵法。〔楊升菴外集〕呂不韋月令、自二東風解凍一、至二水澤腹堅一、後魏始入レ曆、爲二七十二候一、其所レ載與二夏小正・淮南子時則訓・管子及汲冢書一、互有二出入一、朱文公作二儀禮經傳通解一、備引レ之。❷禮記の篇名。十二箇月の氣候と其の月々に行ふ政令とを記したもの。所謂年中行事である。もと秦の呂不韋が周書七十一篇中の第五十三篇に本づいて集めたもので、漢に至り、禮家が取つて此の篇を作る。禮記(**8**—**24844**··31)を見よ。〔禮、月令、疏〕按、鄭目錄云、名曰二月令一者、以三其記二十二月政之所一レ行也。

〖參考書〗【月令章句】一卷。後漢、蔡邕撰。隋志には十二卷を著錄してゐるが、今佚し、玉函山房輯佚書に一卷を存してゐる。【月令問答】一卷。後漢、蔡邕撰。問答體を以て疑義を發明す。凡そ十三則。今、玉函山房輯佚書・說郛第四冊に收む。【月令解】十二卷。宋、張虙撰。一月を以て一卷とす。〔四庫提要、經、禮類〕。【月令七十二候集解】一卷。元、吳澄撰。七十二候を二十四氣に分屬し、各〻其の所以を訓釋したもの。〔四庫提要、經、禮類存目〕。【月令廣義】二十五卷。明、馮應京撰。應京の原書は一卷のみであつたが、戴任が之を續成して二十五卷とした。其の目は月令統紀・歲令・每月令・春令・正月令・二月令・三月令・夏令・四月令・五月令・六月令・土王令・秋令・七月令・八月令・九月令・冬令・十月令・十一月令・十二月令・閏月令・晝夜令・時令。卷首には序由・編端・圖說がある。〔四庫提要、史、時令類存目〕。【月令明義】四卷。明、黃道周撰。天文測驗の事を記す。〔四庫提要、經、禮類〕。【月令輯要】二十四卷。淸、康熙帝敕撰。圖說一卷を附す。此の書は明の馮應京等の月令廣義に刪定を加へたもので、其の目は圖說・歲令・每月令・春夏冬秋令・土王令・十二月令・閏月令・晝夜令・時刻令である。每類、天道・政典・民用・物候・占驗・雜記の六子目に分ち、每月令には六子目の外、日次一子目を增し、十二月令・閏月令には六子目の外、節序・日次の二子目を增し、各〻圖籍を援引して出典を明かにしてゐる。〔四庫提要、子、時令類〕。【月令承應】戲曲の名。淸、乾隆の初、張照奉敕撰。內廷七種の一。各月令に應じて其の故事を演ずる。【月令粹篇】二十四卷。淸、秦嘉謨撰。【月令演】一卷。淸、徐士俊撰。

〖月令解〗370グワツリヤウカイ　❶書名。月令參考書を見よ。❷逸周書の篇名。

【月例】371ゲツレイ　❶每月きまつてゐることをいふ。❷yüeh^4 li^4　つきづき。每月。〔紅樓夢、七回〕十五的月例香供銀子。

〖月例銀子〗372 yüeh^4 li^4 yin^2 tzŭ　每月の掛金。月掛けの金錢。

【月齡】373ゲツレイ　月が白道上を進行する際、其の位置によつて新月・上弦・滿月・下弦等の名稱がある。其の新月から次の新月までの間を朔望月の日數に分けたもので、新月の正中時から起算した時間の稱。陰曆の日のよりどころとなる。

【月靈】374ゲツレイ　月の異名。月魄。〔南齊書、樂志〕月靈誕レ慶、雲瑞開レ祥。〔魏書、崔光傳〕月靈炳曜、坤儀挺茂。

【月曆】375ゲツレキ　一月中に行つた政事を記す書。〔後漢書、禮儀志上〕每月朔旦、太史上二其月曆一、有司侍郎尚書見二讀其令一、奉二行其政一。

【月露】376ゲツロ　月夜の露。〔謝朓、高松賦〕懷二風音一而送レ聲、當二月露一而留レ影。〔宋之問、秋蓮賦〕嬌二紫臺之月露一、含二玉宇之風煙一。〔沈佺期、酬下蘇員外味道夏晚寓二直省中一見上レ贈詩〕卷レ幔天河入、開レ窗月露微。

〖月露風雲〗377ゲツロフウウン　詩文を作るも月露風雲を形容するに過ぎないといふこと。無用の閑文字をいふ。〔隋書、李諤傳〕競二一韻之奇一、爭二一字之巧一、連レ篇累レ牘、不レ出二月露之形一、積レ案盈レ箱、唯是風雲之狀。

〖月露發二光彩一〗378ゲツロクワウサイヲハッス　月夜に露の輝くさま。〔劉禹錫、新秋對レ月寄二樂天一詩〕月露發二光彩一、此時方見レ秋、夜涼金氣應、天靜火星流、蛩響偏依レ井、螢飛直過レ樓。

【月鷺】379ゲツロ　鴻の異名。〔事物異名錄、禽鳥、鴻〕雲笈七籤、鴻、一名、月鷺。

【月樓】380ゲツロウ　❶月光をあびたたかどの。〔岑參、冬宵家會餞三李郞司兵赴二同州一詩〕曾上月樓頭、

遙見西嶽祠。〔張祜、瓜州聞二曉角一詩〕寒耿星稀照二碧宵一、月樓吹角夜江遙。〔李商隱、汴上送二李郢之二蘇州一詩〕煙幌自應レ憐二白紵一、月樓誰伴詠二黃昏一。❷清、梅清(**6**－**14830**‥170)の號。

【月隴】381ゲツロウ　明、陳大章(**11**－**41698**‥1094)の號。

【月錄】382ゲツロク　月月の出來事の記錄。

【月彎】383ゲツワン　月が弓なりになる。〔丁澤、白玉環詩〕似レ見二霜姿白一、如レ看二月彩彎一。〔倪瓚、剖レ瓜士女圖詩〕月彎削破翠團團、六月人間風露寒。

【月雫】384ツキノシヅク　露の異名。又、菓子の一種。葡萄の砂糖漬。甲斐に產す。

【唱レ月】385ツキニトナフ　月に向つて歌唱すること。〔李賀、洛姝眞珠詩〕寒鬢斜釵玉燕光、高樓唱レ月敲二懸璫一。

【皺レ月】386ツキヲシワム　水に映つた月影が波に搖いで月にしはがよること。〔海錄碎事、天、風景〕全溪詩、戰レ蒲知二鴈唼一、皺レ月覺二魚來一。

【乘レ月】387ツキニジヨウズ　夜を幸として。又、月の光を受けて。〔晉書、袁宏傳〕秋夜乘レ月、率爾與二左右一微服泛レ江。〔張若虛、春江花月夜詩〕不レ知乘レ月幾人歸、落月搖レ情滿二江樹一。〔陸游、訪二村老一詩〕大兒叱レ犢戴レ星出、稚子捕レ魚乘レ月歸。

【醉レ月】387′ツキニエフ　月下に於て酒に醉ふ。〔李白、春夜宴二桃李園一序〕開二瓊筵一以坐レ花、飛二羽觴一而醉レ月。

【喘レ月】388ツキニアヘグ　水牛が熱を畏れ、月を見ても日かと疑つて息をせはしくすること。人の畏懼の甚だしい喩。吳牛喘レ月(**2**－**3365**‥910)を見よ。〔世說新語、言語〕滿奮畏レ風、在二晉武帝坐一、北窗作二琉璃屛一、實密似レ疎、奮有二難色一、帝笑レ之、奮答曰、臣猶二吳牛見レ月而喘一。〔李嶠、牛詩〕在レ吳頻喘レ月、奔夢屢驚レ風。

【中レ月】389ツキヲヘダツ　一箇月を隔てる。中は、へだてる。〔儀禮、士虞禮〕期而小祥曰レ薦二此常事一、又期而大祥曰レ薦二此祥事一、中レ月而禫、是月也、吉祭猶未レ配。〔注〕中、猶レ間也。

【得レ月】390ツキヲウ　❶明月の夜に會ふこと。月の景色を十分に眺める。〔李白、經二亂離一後天恩流二夜郞一憶二舊遊一書レ懷贈二江夏韋太守良宰一詩〕窺レ日畏レ銜レ山、促レ酒喜レ得レ月。❷勢力者に緣故があつて早く地位を得る喩。宋の范仲淹が錢塘を治めた時、兵官は皆薦擧されたが、巡檢蘇麟のみ擧げられず、乃ち近レ水樓臺先得レ月、云云の詩を獻じて始めて推薦された故事。〔淸夜錄〕范文正公鎭二錢塘一、兵官皆被レ薦、獨巡檢蘇麟不レ見レ錄、乃獻レ詩云、近レ水樓臺先得レ月、向レ陽花木易レ爲レ春。公卽薦レ之。〔事文前聚、薦擧門〕近レ水樓臺先得レ月、向レ陽花木易レ爲レ春。

【步レ月】391ツキニホス　つきかげをふんで步く。月夜に步行する。〔南史、王藻傳〕至二於夜一步レ月、而弄レ琴、晝拱レ袂而披レ卷。〔薛道衡、重酬二楊僕射山亭一詩〕空庭聊步レ月、閒坐獨臨レ風、臨レ風時太息、步レ月山泉側。

【月有レ陰】392ツキニインアリ　月には陰がある。月がくもつておぼろなこと。〔蘇軾、春夜詩〕春宵一刻直千金、花有二淸香一月有レ陰。

【月一盤】393ゲツイツバン　薯蕷の異名。後蜀の孟昶が每月朔日に薯藥（ヤマイモ）を食したので、左右がやまいもを月一盤と稱した。盤は食物を盛るはち。〔淸異錄、果、月一盤〕蜀孟昶月旦必素餐、性喜二薯藥一、左右因呼二薯藥一爲二月一盤一。

【月印レ天】394ツキテンニインス　月がくつきりと夜空にあること。〔海錄碎事、臣職、禁直〕范質詩、朝趨二建禮一露烘レ日、夜直承レ明月印レ天。

【月饜尊】395グワツエンソン　［佛］降三世明王の別名。〔大日經疏、五〕次復於二執金剛下一、置二忿怒持明一、降二伏三世一切大作障者一、號二月饜尊一。

【月蓋王】396グワツカイワウ　印度毘舍離國の長者。月蓋長者の尊稱。〔源平盛衰記、八、善友惡友兩太子の事〕波羅奈國月蓋王に二人の太子おはします。善友、惡友といふ。

【月幾レ望】397ツキバウニチカシ　月が滿月に近いこと。月望は陰の極で陽に抗する、故に幾望といつて、盈極に至らず、婦人が常に夫に抗しない象とし、女が尊貴に居る道とする。婦人の謙讓な喩。〔易、歸妹〕六五、帝乙歸レ妹、其君之袂、不レ如二其娣之袂良一、月幾レ望吉。〔程傳〕月望、陰之盈也、盈則敵レ陽矣、幾レ望、未レ至二於盈一也、五之貴高、常不レ至二於盈極一、則不レ亢二其夫一、乃爲レ吉也、女之處二尊貴一之道也。〔易、中孚〕六四、月幾レ望、長匹亡、无レ咎。

【月黑天】398 yüeh⁴ hei¹ t'ien¹　月の無い夜。暗夜。

【月像幢】399ゲツザウタウ　古、朝廷で元日・卽位等の儀式に用ひた仗旗の一。月を畫いたもの。〔續日本紀、二〕大寶元年正月、右月像、玄武、白虎幢。

【月手當】400ツキテアテ　月々のてあて金。

【月如レ珪】401ツキケイノゴトシ　秋の月が靑白く冴えて碧色の玉のやうである。〔江淹、別賦〕秋露如レ珠、秋月如レ珪。〔注〕向曰、夏禹得二玉珪碧色一、圓如二日月一、言二秋月類レ之。

【月椿錢】402ゲツシヨウセン　宋代、軍事費として徵收した稅金。〔宋史、高宗紀六〕紹興八年三月己亥、蠲二農器及牛稅一、戊申蠲二江西湖南諸州月椿錢各萬緡一云云、九年二月甲子、均二定諸州縣月椿錢一。

【月盡頭】403ゲツジントウ　一月の終り。月末。〔通俗編、時序、月盡頭〕徐凝詩、三月盡頭雲葉秀、小姑新著好衣裳。

【月萃哆】404ゲツスイタ グワツズイタ　香附子(**12**－**44518**‥297)の異名。〔本草、莎草香附子〕釋名、時珍曰、俗人呼爲二雷公頭一、金光明經謂二之月萃哆一、記事珠謂二之抱靈居士一。

【月當頭】405ゲツタウトウ　陰曆十一月十五日をいふ。此の夜は月影が最も短く、兒女は夜半に月が中するを待つて影の長さを驗する。當頭は月が中天に至つて頭上に當ること。〔燕京歲時記、月當頭〕冬月十五日、月當頭、如遇二望時一、則塔影無レ尖、人影亦亟短、小兒女之好レ事者、必無レ睡以俟二當頭一、臨レ階取レ影、以驗レ之。

【月聽軒】406ゲツチヤウケン　淸、張淵懿(**4**－**9812**‥828)の室名。

【月乃合】407ユエナイホ　元、靜州天山の人。字は正卿。謚は忠懿。官は禮部尙書。軍功があつた。〔元史、一百三十四〕。

【月徘徊】408ツキハイクワイ　月のたちもとほること。月の天にかかるさま。〔李白、月下獨酌詩〕花閒一壺酒、獨酌無二相親一、擧レ杯邀二明月一、對レ影成二三人一、月既不レ解レ飮、影徒隨二我身一、暫伴二月將レ影、行樂須レ及レ春、我歌月徘徊、我舞影零亂、醒時同交歡、醉後各分散、永結二無情遊一、相期邈二雲漢一。〔張若虛、春江花月夜詩〕可レ憐樓上月徘徊、應レ照二離人妝鏡臺一。〔唐詩選箋注〕月光滿レ樓不レ去、如二徘徊一。〔蘇軾、前赤壁賦〕少焉月出二於東山之上一、徘二徊於斗牛之閒一。

【月不レ足】409ツキタラズ　胎兒などが十箇月に滿たぬ中に生れること。

【月理朶】410ゲツリダ　遼、述律后(**11**－**38803**‥49)の字。

【月臨花】411ゲツリンクワ　林檎の花をいふ。〔元稹、月臨花詩〕凌レ風颺颺花、透レ影朧朧月、巫峽隔二波雲一、姑峯漏二霞雪一、鏡勻嬌面粉、燈泛高籠纈、夜久淸露多、蹄珠墜還結。

【月鈴兒】412ゲツレイジ　蟲の名。すずむしの異名。〔和漢三才圖會、化生蟲〕金鐘蟲、月鈴兒、俗云二鈴蟲一。

【月裏嫦娥】413ゲツリチヤウガ　月中の仙女。美女を形容する語。月中嫦娥(261)に同じ。

【月有二三政一】414ツキニサンセイアリ　一箇月を三つに分けて三旬と爲し、一旬ごとに其の政令を施すこと。〔管子、四時〕月有二三政一、王事必理。〔纂詁〕尹知章云、月三旬異レ政、故曰二三政一也。

【月灩山房】415ゲツエンサンバウ　淸、沈紹賓(**6**－**17189**‥575)の室名。

【月屋漫稿】416ゲツヲクマンカウ　書名。一卷。元、黃庚撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【月至風揚】417ツキイタリカゼアガル　月が度を失はずに箕宿に至り、風が起ること。箕は風を主る星。天下が太平で秩序あるさまをいふ。〔禮緯含文嘉〕朋友有レ舊、內外有レ差、則箕爲二之直一、月至風揚。〔注〕月至、月以レ度至也、月至レ箕則風揚。

【月如二仰瓦一】418ツキギヤウグワノゴトシ　月があほむけた瓦のやうなこと。其の時は必ず雨が降る。〔海錄碎事、天、雨〕諺有レ云、月如二彎弓一、少レ雨多レ風、月如二仰瓦一、不レ求自下。

【月赤察兒】419ユエチチアール　元の人。博爾忽の曾孫。謚は忠武。叛王海都篤娃を破る。官は武宗の時、右丞相。爵は淇陽王。〔元史、一百十九〕。

【月潭居士】420ゲツタンコジ　元、吳簡(**2**－**3365**‥82)の號。

【月重輪行】421（ゲツチョウリンカウ）　樂府瑟調曲の名。漢の明帝が太子の時、樂人が其の德を贊して作つたもの。魏の文帝・明帝、晉の陸機・戴暠に歌辭がある。〔樂府詩集、相和歌辭、瑟調曲、日重光行〕古今樂錄曰、王僧虔技錄、有二日重光行一、今不レ傳、崔豹古今注曰、日重光月重輪、羣臣爲二漢明帝一作也、明帝爲二太子一、樂人作二歌詩四章、以贊二太子之德一、一曰日重光、二曰月重輪、三曰星重輝、四曰海重潤、漢末喪亂後、二章亾、舊說云、天子之德、光明如レ日、規輪如レ月、衆輝如レ星、霑潤如レ海、太子比レ德、故云レ重也。〔魏文帝、月重輪行〕三辰垂レ光、照二臨四海一、煥哉何煌煌、悠悠與二天地一久長、愚見目前、聖覩萬年、明闇相絕、何可二勝言一。

【月田蒙齋】422（ツキダモウサイ）　肥後の人。名は強。字は伯恕。通稱は鐵太郎。號は蒙齋。慶應二年七月二十九日歿す、年六十。世〻荒尾鄕野原八幡宮祠官。官は熊本藩儒・鄕學師・藩學訓導。經學は程朱を宗とす。著に海氣深處詩稿・偶記・詩草・女子日用訓・先天圖說・蒙齋隨筆・蒙齋先生詩集・文集・梨花小窻集がある。〔楠本碩水撰傳〕。

【月不見月】423（ツキミズツキ）　陰曆五月の異名。五月雨の頃、月光が見えぬからいふ。〔藏玉和歌集〕さみだれの晴れ間もみえぬ空よりや月みず月といひはじめけむ。

【月里麻思】424（ユエリマス）　元の人。乃馬氏。太宗の時、宋に使し、長沙飛虎寨に囚へらる。〔元史、一百二十三〕。

【月麗二于箕一】425（ツキキニカカル）　月が箕星にかかる。風の吹く兆。箕は風を主る星。月至風揚(417)を見よ。〔春秋緯〕月麗二于箕一、風揚レ砂矣。

【月麗二于畢一】426（ツキヒツニカカル）　月が畢星にかかる。雨の降る兆。畢は雨を主る星。〔詩、小雅、漸漸之石〕月麗二于畢一、俾二滂沱一矣。〔史記、仲尼弟子傳〕孔子曰、詩不レ云乎、月離二于畢一、俾二滂沱一矣、昨暮月不レ宿レ畢乎、他日月宿レ畢、竟不レ雨。

【月戀揭赤】427（ウルゲンジ）　中央亞細亞、花剌子模の都邑。玉龍傑赤を見よ。

【月魯不花】428（ユエルプホア）　元の人。蒙古遜都思氏。字は彥明。諡は忠肅。元統の進士。劇賊程思忠を降す。官は大都路達魯花赤・山南道廉訪使。後、倭船に遇うて殺さる。〔元史、一百四十五〕。

【愛レ月撤レ燈】429（ツキヲアイシテトモシビヲテッス）　物を愛玩する事の甚しいこと。唐の蘇頲が禁中宿直の夜、月光を愛し、燈燭を撤去した故事。〔開元天寶遺事、撤二出燈燭一〕蘇頲與二李封一掌二文誥一、玄宗顧念之深也、八月十五夜、於二禁中一直宿、諸學士翫レ月備二文酒之宴一、時長天無レ雲、月色如レ晝、蘇曰、清光可レ愛、何用二燈燭一、遂使二撤去一。

【握レ月擔レ風】430（ツキヲニギリカゼヲニナフ）　月をにぎり風をになつて後日に留める意。風月を愛することの深いさま。〔春宴錄〕虞松方レ春謂、握レ月擔レ風、且留二後日一、吞レ花臥レ酒、不レ可レ過レ時。〔書言故事、時令類〕約二人春遊一、曰二相與握レ月擔レ風。

【咏レ月撞レ鐘】431（ツキヲエイジカネヲツク）　禪僧が秋夜に月を詠ずる詩句成り、獨り自ら喜んで鐘を撞いた故事。〔湘山野錄〕金輪寺僧謙、夜半咏二中秋月詩一、得二此夜一輪滿、清光何處無之句一、喜極撞レ鐘。

【映レ月讀レ書】432（ツキニエイジテショヲヨム）　宋の陸佃が貧乏で燈火無く、月光で讀書した故事。〔宋史、陸佃傳〕居レ貧苦學、夜無レ燈、映二月光一讀レ書。

【指レ月認レ指】433（ツキヲユビサシテユビヲミトム）　佛 指を以て月を示したのに、却つて月を見ないで指を見ること。眞を認めぬ喩。月を法とし指を教としていふ。指月(**5**－**12034**‥34)を見よ。〔大佛頂經〕如二人以レ手指レ月、認レ月爲レ指。

【如二月之恆一】434（ツキノコウノゴトシ）　弦月の次第に滿月に就くが如く、事の日增しに榮えゆくこと。天保九如の一。恆は弦。〔詩、小雅、天保〕如二月之恆一、如二日之升一、如二南山之壽一。〔傳〕恆、弦。〔箋〕月上弦而就レ盈。

【隨レ月讀レ書】435（ツキニシタガツテショヲヨム）　月の光を追ひ求めて讀書する。南齊の江泌が貧乏で月光を逐つて苦學した故事。〔南史、江泌傳〕少貧、晝日斫レ屧爲レ業、夜讀レ書隨二月光一、光斜則握レ卷升レ屋、睡極墮レ地則更登。

【帶レ月披レ星】436（ツキヲオビホシヲキル）　夜更けて行き早曉に歸ること。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕帶レ月披レ星、誰著レ你停二眠整宿一。

【望レ月方レ娥】437（ツキヲノゾンデガニクラブ）　月に向つて月中の嫦娥と其の美をくらべる。女の美しい形容。〔謝莊、孝武宣貴妃誄〕望レ月方レ娥、瞻レ星比レ婺。

【抹レ月批レ風】438（ツキヲハラヒカゼヲウツ）　貧家が客を待遇するに風月の外一物も無いのをいふ。客を待遇するの薄いことを謙遜していふ。〔蘇軾、和二何長官一六言次韻詩〕清風初號二地籟一、明月自寫二天容一、貧家何以娛レ客、但知二抹レ月批レ風。〔書言故事、天文類〕待レ客、云二但能抹レ月批レ風。

【鏤レ月裁レ雲】439（ツキニエリクモヲタツ）　月に雕刻し雲を裁ちきる。彫刻の極めて巧みな喩。〔李義府、堂堂詞〕鏤レ月爲二歌扇一、裁レ雲作二舞衣一。

【月湧二大江一流】440（ツキタイカウニワイテナガル）　月が大江に寫つて流れるさま。〔杜甫、旅夜書懷詩〕細草微風岸、危檣獨夜舟、星垂二平野一闊、月湧二大江一流、名豈文章著、官應二老病休一、飄飄何所レ似、天地一沙鷗。

【月魯帖木兒】441（ユエルチムール）　元の人。卜領勤多禮伯臺氏。官は江浙行省平章政事。嘗て太師帖木迭兒を彈劾して正直の名あり。軍中に卒す。〔元史、一百四十四〕。

【月往則日來】442（ツキユケバスナハチヒキタル）　日月が交替に照すこと。〔易、繫辭下〕日往則月來、月往則日來。

【捉二月於采石一】443（ツキヲサイセキニトラフ）　唐の李白が當塗縣の采石を過ぎ、醉うて江中の月影を捉へようとして溺死した故事。〔容齋隨筆、李太白〕世俗多言、李太白在二當塗采石一、因レ醉泛二舟於江一、見二月影一俯而取レ之、遂溺死、故其地有二捉月臺一、予按二李陽冰作、太白草堂集序一、云、陽冰試二絃歌於當塗一、公疾亟、草藁萬卷、手集未レ修、枕上授レ簡俾レ爲レ序、又李華作二太白墓誌一亦云、賦二臨終歌一而卒、乃知二俗傳良不レ足レ信、蓋與乙謂下杜子美因レ食二白酒牛炙一而死上者甲同也。〔明一統志〕捉月亭在二采石山一、世傳、李白過二采石一、在二水中一捉レ月、後人以名レ亭。

【月擧連赤海牙】444（ユエチユイリエンチハイヤ）　元の人。諡は襄靖。釣魚山・雲南の征討に從ふ。官は四川等處行中書省參知政事。麴藥を以て師の疫を療す。〔元史、一百三十五〕。

【月節折楊柳歌】445（ゲツセツセツヤウリウカ）　樂府清商曲の名。無名氏作。正月から十二月に至る十二ヶ月歌及び閏月歌の十三曲がある。〔樂府詩集、清商曲辭、西曲歌下、月節折楊柳歌〕正月歌、春風尙蕭條、去レ故來入レ新、苦心非二一朝一、折楊柳、愁思滿二腹中一、歷亂不レ可レ數、二月歌、翩翩烏入レ鄕、道逢二雙鷰飛一、勞レ君看二三陽一、折楊柳、寄二言語一儂歡、尋還不二復久一、三月歌、汎レ舟臨二曲池一、仰レ頭看二春花一、杜鵑緯レ林啼、折楊柳、雙下俱徘徊、我與レ歡共取、四月歌、芙蓉始懷レ蓮、何處覓二同心一、俱生世尊前、折楊柳、捻レ香散二名花一、志得二長相取一、五月歌、菰生四五尺、素身爲レ誰珍、盛年將可レ惜、折楊柳、作二得九子粽一、思想勞二歡手一、六月歌、三伏熱如レ火、籠窗開二北牖一、與レ郎對レ榻坐、折楊柳、銅塸貯二蜜漿一、不レ用二水洗溴一、七月歌、織女遊二河邊一、牽牛顧自歎、一會復周年、折楊柳、攬結長命草、同心不二相負一、八月歌、迎歡裁二衣裳一、日月流如レ水、白露凝二庭霜一、折楊柳、夜聞擣衣聲、窈窕誰家婦、九月歌、甘菊吐二黃花一、非レ無二杯觴用一、當下奈二許寒一何上、折楊柳、授レ歡羅衣裳、舍レ笑言不レ取、十月歌、大樹轉蕭索、天陰不レ作レ雨、嚴霜半夜落、折楊柳、林中與二松柏一、歲寒不二相負一、十一月歌、素雪任二風流一、樹木轉枯悴、松柏無レ所レ憂、折楊柳、寒衣履二薄冰一、歡詎知レ儂否、十二月歌、天寒歲欲レ暮、春秋及二冬夏一、苦心停欲レ度、折楊柳、沈亂枕席間、纏綿不レ覺レ久、閏月歌、成閏暑與レ寒、春秋補二小月一、念レ子無二時間一、折楊柳、陰陽推レ我去、那得レ有二定主一。

【月移二花影一上二欄干一】446（ツキハクワエイヲウツシテランカンニノボス）　春夜に月光が次第に移つてゆく様を詠じた句。〔王安石、夜直詩〕金爐香盡漏聲殘、翦翦輕風陣陣寒、春色惱レ人眠不レ得、月移二花影一上二欄干一。

【月從二雪後一皆奇夜】447（ツキハセツゴヨリミナキヤナリ）　雪の降つた後の月夜は何時も奇景である。〔范至能、親戚小集詩〕避レ濕違レ寒不レ出レ門、一冬未レ省レ正二冠巾一、月從二雪後一皆奇夜、天向二梅邊一有二別春一、秉レ燭登臨空語レ舊、擁レ爐情味莫レ懷レ新、榮華勢利輸レ人慣、贏得尊前見在身。

【月科兒裏的小孩子】448 yüeh^4 k'ê^1 êrh li^3 tê hsiao^3 hai^2 tzŭ　生れて一箇月にならぬ赤子。

【月攘㆓一雞㆒以待㆓來年㆒】449（ツキニイツケイヲヌスミ モツテライネンヲマツ）　毎月一鷄をぬすみ、來年を待つて然る後に全く非違を止めようとすること。惡事を知つて速かに改めることの出來ない喩。〔孟子、滕文公下〕戴盈之曰、什一、去㆓關市之征㆒、今茲未㆑能、請輕㆑之以待㆓來年㆒然後已、何如、孟子曰、今有㆘人日攘㆓其鄰之雞㆒者㆖、或告㆑之曰、是非㆓君子之道㆒、曰、請損㆑之、月攘㆓一雞㆒以待㆓來年㆒然後已、如知㆓其非㆑義、斯速已矣、何待㆓來年㆒。

【月也者羣陰之本也】450（ツキナルモノハ グンインノモトナリ）　月は多くの陰氣のもとである。〔呂覽、精通〕德也者、萬民之宰也、月也者、羣陰之本也。

【繪㆑月者不㆑能㆑繪㆓其明㆒】451（ツキヲエガクモノハ ソノメイヲエガクアタハズ）　月を畫くものは其の皎々たる明るい光を畫くことは出來ない。轉じて、言語・文字の表現不可能な喩。〔鶴林玉露、人、繪事〕繪㆑雪者、不㆑能㆑繪㆓其清㆒、繪㆑月者、不㆑能㆑繪㆓其明㆒、繪㆑花者、不㆑能㆑繪㆓其馨㆒、繪㆑泉者、不㆑能㆑繪㆓其聲㆒、繪㆑人者、不㆑能㆑繪㆓其情㆒、然則言語文字、固不㆑足㆓以盡㆑道也。

【月到㆓天心㆒處風來㆓水面㆒時】452（ツキテンシンニイタルトコロ カゼスイメンニキタルノトキ）　月が中天にかかり、風が水面を吹き來る時。水月相映じて清らかな景を敍べた句。胸中灑落で光風霽つの如く、些の私欲も無く、從容として道に合うた境地を寓したもの。〔邵雍、清夜吟〕月到㆓天心㆒處、風來㆓水面㆒時、一般清意味、料得少㆓人知㆒。

一畫

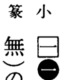
【肙】14331　シウ　舟(9－30350)に同じ。〔字彙補〕月、卽舟字、見㆓蜀郡屬國碑㆒。

二畫

【有】14332

🈩 イウ ウ　〔集韻〕云九切　ㄧㄡˇ　yu³　［有］

🈔 イウ ウ　〔集韻〕尤救切　［宥］


小篆

🈩 ❶ある。㋑存在する。ない（亡・無）の反對。〔正字通〕有、對㆑無之稱。〔論語、泰伯〕有若㆑無。〔孟子、梁惠王上〕庖有㆓肥肉㆒、廄有㆓肥馬㆒。㋺あることもある。無いのが常であるのにあらはれることもある。〔說文〕有、不㆑宜㆑有也、春秋傳曰、日月有㆑食㆑之、从㆑月又聲。〔段注〕謂㆘本是不㆑當㆑有而有之偁㆖、引伸遂爲㆓凡有之偁㆒、日下之月、衍字也。〔經傳釋詞、三〕有、猶㆑或也、云云、書盤庚曰、乃有㆓不吉不迪、顚越不恭、暫遇㆓姦宄㆒、乃有、乃或也、有與㆑或古同聲、而義亦相通。〔穀梁、莊、二十八〕一有一亡曰㆑有。㋩所持する。〔論語、公冶長〕陳文子有㆓馬十乘㆒。❷おほい。ゆたか。〔詩、小雅、魚麗〕君子有㆑酒、旨且有。〔集傳〕有、猶㆑多也。〔詩、大雅、公劉〕爰衆爰有。〔箋〕有、財足也。〔詩、魯頌、有駜〕歲其有。〔集傳〕有、有㆑年也。❸とみ。所有物。資財。〔列子、說符〕羨㆓施氏之有㆒。〔注〕有、富也。〔荀子、王霸〕內不㆕修㆔正其所㆓以有㆒。〔注〕有、土地貨財也。❹もちまへ。〔廣雅、釋詁三〕有、質也。〔集韻〕有、一曰、質也。❺もつ。㋑とる。にぎる。〔廣雅、釋詁二〕有、取也。〔歐陽脩、晝錦堂記〕所謂將相而富貴、皆公所㆑宜㆓素有㆒。㋺をさめる。〔詩、周南、芣苢〕薄言有㆑之。〔傳〕有、藏㆑之也。❻たもつ。もちつづける。〔禮、哀公問〕不㆑能㆑有㆓其身㆒。〔注〕有、猶㆑保也。〔大學〕有㆑國者不㆑可㆓以不㆑愼。❼したしむ。〔左氏、昭、二十〕是不㆑有㆓寡君㆒也。〔注〕有、相親有。❽認める。〔詩、王風、葛藟〕亦莫㆓我有㆒。〔傳〕有、識有也。❾もつぱらにする。〔禮、坊記〕父母在、不㆔敢有㆓其身㆒。〔注〕有、猶㆑專也。❿さかひ。境域。或(5－11563)・域(3－5158)に通ず。〔說文通訓定聲〕有、叚借爲㆑或、卽域字。〔詩、商頌、烈祖〕奄㆓有九有㆒。〔傳〕九有、九州也。⓫語調をととのへる助辭。〔經傳釋詞、三〕有、語助也、一字不㆑成㆑詞、則加㆓有字㆒以配㆑之、若㆓虞夏殷周皆國名、而曰㆓有虞・有夏・有殷・有周㆒是也、推㆓之他類㆒、亦多有㆑此、故邦曰㆓有邦㆒、家曰㆓有家㆒。〔書、泰誓上〕以㆓爾有衆㆒、底㆓天之罰㆒。〔書、多方〕有夏誕厥逸。〔詩、大雅、文王〕有周不㆑顯。⓬形容の助辭。〔經傳釋詞、三〕有、狀㆑物之詞也。〔詩、周南、桃夭〕有蕡其實。⓭爲(7－19686)に通ず。〔經傳釋詞、三〕有、猶㆑爲也、云云、孟子滕文公篇曰、人之有㆑道也、飽食煖衣、逸居而無㆑教、則近㆓於禽獸㆒、言㆓人之爲㆑道如㆑此也、若㆑言㆘民之爲㆑道也、有㆓恆產㆒者有㆓恆心㆒、無㆓恆產㆒者無㆗恆心㆖矣、爲・有、一聲之轉、故爲可㆓訓爲㆑有、有亦可㆓訓爲㆑爲。〔國語、晉語一〕克㆑國得㆑妃、其有㆑吉、孰大㆑焉。⓮古は𠂇(1－112)に作る。〔集韻〕有、古作㆑𠂇。⓯百六韻の一。上聲第二十五。⓰姓。〔尙友錄〕有、有巢氏之後。〔正字通〕明洪武有日興、上加㆑亠、賜㆓姓有㆒。⓱［佛］㋑諸法は相續して斷えざること。生死の果報を指していひ、有にして無ならざる義。〔大乘義章、八〕生死果報、是有不㆑無、故名爲㆑有。〔後漢書、西域傳〕空有兼遣之宗。㋺十二因緣の一。未來の果報を招くべき現在の業因をさしていふ。業因能く未來の果報を有する義。〔大乘義章、四〕有者、現在行業、能有㆓當果㆒、故名爲㆑有。〔釋氏要覽〕生滅故名㆑有、墮㆓苦集諦中㆒、是有也。🈔また。又(2－3115)に通ず。〔說文通訓定聲〕有、叚借爲㆑又。〔集韻〕有、復也、通作㆑又。〔書、堯典〕朞三百有六旬有六日。〔詩、邶風、終風〕不㆑日有曀。〔箋〕有、又也。〔儀禮、鄉射禮〕惟君有㆓射于國中㆒。〔注〕古文有作㆑又。〔孟子、滕文公下〕邪說暴行有作。

［名乘］　スミ。トホ。アリ。ナホ。ナリ。モチ。

【有以】1（ユヱアリ）　❶譯がある。理由がある。〔李白、春夜宴㆓桃李園㆒序〕古人秉㆑燭夜遊、良有㆑以也。❷爲す。作爲する。以と爲とは音義通ず。〔老子、二十〕衆人皆有㆑以、而我獨頑似㆑鄙。〔全解〕有㆑以、謂㆓其有㆑所㆓作爲㆒。

【有意】2（イウイ）　❶こころがある。意志がある。〔史記、蘇秦傳〕今乃有㆑意㆓西面而事㆑秦。❷ yu³ i⁴　㋑故意に。殊更に。㋺云云せんとする。

【有意義】3（イウイギ）　意義のあること。價値のあること。

【有意思】4（イウイシ）　趣がある。趣味がある。〔南史、晉安王子懋傳〕晉安王子懋、字雲昌、武帝第七子也、諸子中、最爲㆓清恬有意思㆒。

【有意者】5（イウイシヤ）　希望者。

【有意犯】6（イウイハン）　竊盜強盜のやうに有意で罪を犯すもの。無意犯(7－19113‥10)の對。

【有意故造】7（イウイコザウ）　した心あつてわざと構へなしたこと。有心故造。

【在㆓有意無意之閒㆒】8（イウイムイノカンニアリ）　意があるのでもなく、又意がないのでもない。晉の庾敳が意賦を作り、從子亮に意の有無を問はれたのに答へた語。〔世說新語、文學〕庾子嵩作㆓意賦㆒成、從子文康見問曰、若有㆑意邪、非㆓賦之所㆑盡、若無㆑意邪、復何所㆑賦、答曰、正在㆓有意無意之閒㆒。

【有位】9（イウヰ）　位を有するもの。在位者。❶天子の

位をいふ。〔書、大禹謨〕欽哉、愼乃有位、敬修其可願。〔傳〕有位、天子位。〔蔡傳〕人君當謹其所居之位、敬修其所可願欲者。❷百官をいふ。〔易、萃〕九五、萃有位、无咎。〔注〕處聚之時、最得盛位、故曰萃有位也。〔書、伊訓〕制官刑、儆于有位。〔傳〕言、湯制治官刑法、以儆戒百官。

【有爲】10 イウヰ ❶爲す所がある。事功を爲すはたらきあること。役に立つこと。〔易、革〕不可以有爲也。〔禮、儒行〕養其身以有爲也。〔疏〕言養身爲行道德也。〔孟子、公孫丑下〕將大有爲之君、必有所不召之臣。〔注〕言、古之大聖大賢、有所興爲之君、必就大賢臣而謀事、不敢召也。〔焦循正義〕爲、作也、興亦作也、故以興釋爲。〔孟子、離婁下〕人有不爲也、而後可以有爲。〔莊子、在宥〕有爲而累者人道也。〔法言、脩身〕下交不驕、則可以有爲矣。〔魏志、袁術傳〕誠英乂有爲之時也。❷職務がある。〔李頻、送友人喩坦之歸睦州詩〕莫戀漁樵興、生涯各有爲。❸佛 ウヰ 諸種の因縁が生ずる現象。人世の生住變滅は定まりなく、先に有つたもの今は無く、今あるものも後に無いことをいふ。有爲轉變。〔景德傳燈錄、二十八、南陽慧忠國師語〕大品經云、不可離有爲而說無爲。〔俱舍論光記、五〕因縁造作名爲、色心等法、從因縁生、有彼爲故、名曰有爲。

【有爲法】11 ウヰハフ 佛因縁から生ずる一切の事物。有爲ともいふ。無爲法に對す。〔金剛經〕一切有爲法、如夢幻泡影、如露亦如電。

【有爲之才】12 イウヰノサイ 將來物事を立派に爲し遂げられる才能。期待出來る才能。

【有爲生死】13 ウヰシヤウジ 佛凡夫の分段生死をいふ。菩薩の變易生死を無爲生死といふの對。〔勝鬘經〕有有爲生死・無爲生死。

【有爲轉變】14 ウヰテンペン 佛人世の物事がうつり變つて暫くも留まらぬこと。無常ではかないこと。〔華嚴演義鈔、二十一〕雜集論云、若法有生住異滅、可名有爲。〔太平記、三十六、清氏叛逆事〕有爲轉變の世の習ひ、今に始めぬ事なれども。

『有爲無常』15 ウヰムジヤウ 佛有爲法は轉變して常の無いこと。〔華嚴演義鈔、十六下〕以有所作爲、故名有爲、有爲是無常。

【有謂】16 イウヰ ❶事の稱すべきものがあること。いはれがある。理由がある。〔韻會〕謂、事有可稱曰有謂、失于事宜不可名言曰無謂。〔莊子、齊物論〕聖人不從事於務、不就利、不違害、不喜求、不縁道、無謂有謂、有謂無謂。〔許郴、經李翰林所居詩〕深居應有謂、濟代豈無才。❷言ふことがある。〔杜甫、杜鵑詩〕聲音咽咽如有謂、號啼略與嬰兒同。

【有殷】17 イウイン ❶殷をいふ。有は助辭。〔書、召誥〕今相有殷。❷財產の多いこと。〔福惠全書、刑名部、欸犯〕于是擇有殷民。

【有筠】18 イウヰン 清、蔣寶齡(9－31820··206)の號。

【有要】19 イウエウ 體要がある。すぢみちの大要あること。又、大切なこと。緊要なこと。有用。〔書、呂刑〕刑罰世輕世重、惟齊非齊、有倫有要。〔傳〕各有倫理、有要善。

『有要沒緊兒的』20 yu³ yao⁴ mei² chin³ êrh tê ぐずぐずして。

【有益】21 イウエキ 利益がある。役に立つ。有利。〔書、旅獒〕不作無益害有益。〔韓非子、六反〕姦僞無益之民六、而世譽之如彼、耕戰有益之民六、而世毀之如此。〔漢書、蓋寬饒傳〕日有益、月有功。

『有益處』22 yu³ i⁴ ch'u 有益な。

『有益山房』23 イウエキサンバウ 清、書綸(5－13294··326)「の室名。

【有弇】24 イウエン 雨の神。〔江淹、雜體、張黃門苦雨詩〕有弇興春節。〔注〕翰曰、有弇、雨師也。

【有縁】25 イウエン ❶縁がある。縁が深い。〔古詩、爲焦仲卿妻作〕下官奉使命、言談大有縁。〔魏志、董昭傳〕昭說楊曰、袁・曹雖爲一家、云云、當故結之、況今有縁。〔晉書、李密傳〕人亦有言、有因有縁。〔北史、齊宗室下、琅邪王儼傳〕後主泣啓太后曰、有縁更見家家、無縁永別。❷佛 ウエン 佛道に縁あるもの。因縁。〔梁簡文帝、奉阿育王寺錢啓〕金瓶寶函、有縁斯出。〔平家物語、二、康賴祝言〕有縁の衆生をみちびき。

【有閻】26 イウエン 春秋時代の地名。河南省洛陽の附近。衞の受けた朝宿の邑。〔左氏、定、四〕取於有閻之土、以共王職。〔注〕有閻、衞所受朝宿邑也、蓋近京畿也。

【有鹽】27 イウエン 鹽があること。〔地理通釋〕唐天下有鹽之縣一百五。

【有夏】28 イウカ ❶中國本土。中國。中華。有は助辭、夏は大の義。〔書、湯誓〕有夏多罪。〔書、君奭〕惟文王尙克修和我有夏。〔傳〕文王庶幾能修政化、以和我所有諸夏。❷夏后氏をいふ。有は助辭。〔書、召誥〕我不可不監于有夏、亦不可不監于有殷。

【有家】29 イウカ ❶家をいふ。有は助詞。〔易、家人〕閑有家、悔亡。〔韓愈、平淮西碑〕天既全付予有家。❷卿大夫の家をいふ。〔書、皐陶謨〕夙夜浚明有家。〔傳〕卿大夫稱家。〔蔡傳〕有家、大夫也。〔孫星衍今古文注疏〕家謂有采地之臣、有家謂卿大夫之佐事者。❸嫁ぐことをいふ。〔孟子、滕文公下〕女子生而願爲之有家。❹富裕の家をいふ。

【有價】30 イウカ 價格のあること。

『有價物』31 イウカブツ 金錢上の價格を有する物件。

『有價證券』32 イウカシヨウケン 確實の財產權となるべきもので、且、公定價格を有するもの。卽ち公債證書及び株券の類。

『有價證券僞造罪』33 イウカシヨウケンギザウザイ 有價證券を僞造變造し、又は之に虛僞の記入をして行使する罪。

【有介】34 イウカイ 清、許友(10－35298··4)の字。

【有戒】35 イウカイ 明、陳鎰(11－41698··17)の字。

【有界】36 ウカイ 佛有の世界の略。欲界・色界・無色界の三界をいふ。

【有海】37 ウカイ 佛三界の生死をいふ。有は果報、海は生死の無邊に喩へる。〔寶積經〕生死有海、苦哉痛哉。

【有開】38 イウカイ 宋、鞠仲謀(12－42892··52)の字。

【有害】39 イウガイ 害がある。不利益になる。〔鬼谷子、捭闔〕失意有害。〔漢書、溝洫志〕通渠有三利、不通有三害。

【有崖】40 イウガイ はてのあること。〔莊子、徐無鬼〕不可以有崖。

【有涯】41 イウガイ ❶かぎりがある。はてがある。〔莊子、養生主〕吾生也有涯、而知也無涯、以有涯隨無涯、殆已。❷明、孟洋(3－6960··264)の字。❸佛 ウガイ 變轉して常住でないこと。〔平家物語、灌頂卷、小原入御の事〕有涯は秋の月、雲に伴つて隱れ易く。

【有行】42 イウカウ 見るべき行がある。又、其の行。〔孔子家語、執轡〕能行德法者爲有行。

【有昂】43 イウカウ 明、左激(4－8720··158)の字。

【有昊】44 イウカウ 昊天をいふ。有は助詞。〔詩、小雅、巷伯〕有北不受、投畀有昊。〔傳〕昊、昊天也。

【有效】45 イウカウ ❶ききめがある。げんがある。有驗。〔漢書、元帝紀〕屢敕公卿、日望有效。❷其の物の資格があること。通用の力があること。法律上の效果を生ずること。

『有效數字』46 イウカウスウジ 零に對して一から九までの數の稱。

【有高】47 アリダカ 現在あるだけの額。

【有客】48 イウカク 詩經、周頌、臣工之什の篇名。微子が來朝して祖廟に見えたことを詠じた詩。〔詩、周頌、有客序〕有客、微子來見祖廟也。

【有鬲】49 イウカク 夏の國の名。今の山東省德縣の北、鬲縣の故城。寒浞が后相を殺すや、其の臣靡、有鬲氏に奔る。後、遂に國を以て氏とす。〔姓氏尋源〕德州西北有鬲城、卽有隔、漢之隔縣、世族譜、誤以有鬲與有隔爲一。〔文獻通考、封建考、周封建之制〕有鬲氏、夏爲羿浞所代、夏之遺臣靡奔有鬲氏、自有鬲氏率遺民滅浞立少康、有鬲、今平原鬲縣。

【有學】50 イウガク ウガク 尙ほ學修すべき道があるといふ意。佛家では小乘四果の中の、前の三果をいひ、第四果を無學といふ。〔法華玄贊、一〕戒定慧三、正爲學體、進趣修習、名爲有學、進趣圓滿、止息修習、名爲無學。

『有學集』51 イウガクシフ 書名。五十卷。清、錢謙益撰。初學集に繼いで作る。錢氏が清に入つて後の詩文集。清史稿藝文志に著錄されてゐる。

【有閒】52 イウカン ❶しばらくの閒がある。しばらくあつて。有頃。〔列子、仲尼〕孔子愀然有閒。〔墨

子、經上〕有レ閒中也。〔張衡、東京賦〕撫然有レ閒、乃莞爾而笑。〔注〕綜曰、有レ閒、謂レ有二頃之閒一也。㊁疾の少しく癒えること。〔左氏、昭、七〕晉侯有レ閒。〔注〕閒、差也。㊂暇がある。〔歐陽脩、讀書詩〕古人重二溫故一、官事幸有レ閒。〔日本書紀、推古紀〕冬月有レ閒、以可レ使レ民。㊃閒隙がある。すきがある。仲が惡い。〔左氏、昭、十三〕諸侯有レ閒矣、不レ可二以不一レ示レ衆。〔注〕閒、隙也。

【有漢】53 イウカン ㊀漢をいふ。有は助詞。〔後漢書、東夷傳贊〕雜レ華澆レ本、遂通二有漢一。〔韋孟、諷諫詩〕於赫有漢、四方是征。㊁ウカン 備中國の地名。〔老牛餘喘〕。

【有奇】54 イウキ あまり。はした。有餘。有は又、奇は零餘。〔漢書、食貨志下〕首長八分有奇。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕通計五千五十七兩三錢有奇。

【有氣】55 yu^{3} chʻi^{4} ㊀怒る。㊁有氣音。

〖有氣音〗56 yu^{3} chʻi^{4} yin^{1} 破裂音が破裂の際に強い氣息に伴はれて生ずる音。無氣音の對。

【有喜】57 イウキ ㊀喜びがある。〔易、无妄〕九五、无妄之疾、勿レ藥有レ喜。㊁はらむ。妊娠する。〔通俗編、婦女、有喜〕番禺記、廣州謂二婦人娠者一曰二有歡喜一、按、今江以南通爲二此言一、但省二去歡字一不レ同耳。

【有期】58 イウキ ㊀期限のあること。無期(**7－19113**・・147)の對。㊁yu^{3} chʻi^{2} 遠からず。不日。近近の內。

〖有期懲役〗59 イウキチヨウエキ 一月以上十五年以下の懲役。

〖有期徒刑〗60 イウキトケイ 罪人を十二年乃至十五年閒、徒刑に服せしめるをいふ。

〖有期流刑〗61 イウキリウケイ 國事犯に科する刑罰。十二年乃至十五年閒、島地の獄に幽閉し、定役に服せしめない。

【有愧】62 イウキ ［佛］自己の惑業に對して慚愧の念あるをいふ。〔遺教經〕有愧之人、則有二善法一。

【有機】63 イウキ 動植物のやうに生活機能を具へ、生活力を有するもの。無機(**7－19113**・・158)の對。

〖有機酸〗64 イウキサン 有機物から製出せられた酸。例へば蟻酸・酒石酸・乳酸・安息酸などの類。

〖有機體〗65 イウキタイ ㊀有機物で組成される體。生活機能を持つてゐる物、卽ち動植物。有機物。無機體(**7－19113**・・161)の對。㊁宇宙・國家等の如く各部分が一定の目的の下に統一され、部分と全體とが必然的關係を有するもの。有機的團體。

〖有機物〗66 イウキブツ ㊀有機體で組成せられた物。無機物の對。㊁有機化合物に同じ。

〖有機化學〗67 イウキクワガク 有機化合物を研究對象とする化學。

〖有機化合物〗68 イウキクワガフブツ 動物或は植物を構成する物質、及びその生活作用によつて生ずる物質。主に炭素を主成分とした化合物。有機物。有生物。

【有魏】69 イウギ 魏をいふ。有は助詞。〔陸機、答二賈長淵一詩〕爰茲有魏、卽二宮天邑一。

【有訖】70 イウキツ をはりがある。かぎりがある。〔後漢書、孟嘗傳〕桓帝時、尙書同郡楊喬、上書薦レ嘗曰、沈二淪草莽一、好爵莫レ及、廊廟之寶、棄二于溝渠一、且年歲有レ訖、桑楡行盡。〔唐書、高適傳〕適上疏曰、關中比レ饑、士人流入レ蜀者、道路相繫、地入有レ訖、而科斂無レ涯。

【有給】71 イウキフ 給料を受ける。無給の對。

〖有給職〗72 イウキフシヨク 給料を受ける職をいふ。

【有脚】73 イウキヤク あしをもつ。有脚書廚を見よ。

〖有脚湖〗74 イウキヤクコ 水の流出する河川の有る湖。

〖有脚書廚〗75 イウキヤクシヨチユウ 博識の人をいふ。脚のある書齋の意。程信民の故事。〔中吳紀聞、三〕剛正自守、不レ惑二於禍福一、嘗憤二聖道不一レ明、欲レ排二異端之學一、家不レ置二釋老像一、祭祀未三嘗焚二紙錢一、儒家甚宗レ之、自レ幼讀二書于南峰山先都官墓廬一、攻苦食レ淡、手未二嘗釋一レ卷、記問精確、經傳子史、無レ不二通貫一、鄕人號爲二有脚書廚一。

〖有脚陽春〗76 イウキヤクヤウシユン 到る處に恩德を施す人。脚のある陽春の意。其の仁德を施すを春の萬物を發生させるに比していふ。唐の宋璟の故事。〔開元天寶遺事、有脚陽春〕宋璟愛レ民恤レ物、朝埜歸レ美、時人咸謂レ璟爲二有脚陽春一、言三所レ至之處、如二陽春煦一レ物也。〔王惲、春夜宴二史右相宅一詩〕陽春原有レ脚、玉度瑩無レ瑕。〔書言故事、德量類〕所レ到施レ恩、謂二有脚陽春一。

【有窮】77 イウキユウ ㊀きわまりがある。〔莊子、則陽〕君以レ意在二四方上下一、有レ窮乎。㊁困窮することがある。〔論語、衞靈公〕子路慍見曰、君子亦有レ窮乎、子曰、君子固窮、小人窮斯濫矣。㊂古の國の名。今、山東省德縣の地。夏の時、其の君羿、鉏から窮石に遷り有窮氏と號す。有は助辭。〔書、五子之歌〕有窮后羿、因二民弗一レ忍、距二于河一。〔傳〕有窮、國名、羿、諸侯名。〔莊子、天運〕吾止二之於有窮一。〔水經、河水注〕鬲縣、故有窮后羿國也。㊃複姓。〔萬姓統譜〕有窮、古諸侯國也、至二后羿一篡二夏后相一。

【有極】78 イウキヨク 極つたところ。極致。至極の道。〔書、洪範〕五、皇極、皇建二其有極一。〔傳〕大中之道、大立二其有中一、謂レ行二九疇之義一。〔蔡傳〕極、猶二北極之極一、至極之義、標準之名、中立而四方之所レ取レ正焉者也、言、人君當レ盡二人倫之至一、語二父子一則極二其親一、而天下之爲二父子一者、於レ此取レ則焉、語二夫婦一則極二其別一、而天下之爲二夫婦一者、於レ此取レ則焉、語二兄弟一則極二其愛一、而天下之爲二兄弟一者、於レ此取レ則焉、以至二一事一物之接、一言一動之發一、無レ不レ極二其義理之當然一、而無二一毫過不及之差一、則極建矣。

【有金】79 アリガネ 手許にあるだけの金。

【有釁】80 イウキン きずがある。すきがある。又、仲がわるい。有隙。〔國語、晉語五〕合而後行、離則有レ釁。〔注〕釁、隙也。

【有虞】81 イウグ 舜をいふ。有虞氏を見よ。〔莊子、大宗師〕彭祖得レ之、上及二有虞一、下及二五伯一。〔楚辭、離騷〕及二少康之未一レ家兮、留二有虞之二姚一。

〖有虞氏〗82 イウグシ 舜をいふ。堯の禪を受けて天子となる。先に虞(今の山西省平陸縣)に國したから有虞氏と稱した。有は助辭。〔周禮、冬官、考工記〕有虞氏上レ陶、夏后氏上レ匠、殷人上レ梓、周人上レ輿。〔禮、明堂位〕鸞車、有虞氏之路也。〔竹書紀年〕帝舜有虞氏。

【有空】83 ウクウ ［佛］森羅萬象の歷然として存在するを有といひ、其の實體の空虛なるを空といふ。

【有過】84 イウクワ あやまちがある。〔易、益〕君子以見レ善則遷、有レ過則改。

【有光】85 イウクワウ ㊀ひかりがある。ほまれがある。〔書、泰誓中〕于レ湯有レ光。〔漢書、敍傳下〕臨レ朝有レ光。〔孔子家語、致思〕夫遠而有レ光者飾也。㊁淸、羅遵殿(**9－28397**・・354)の字。

〖有光紙〗86 イウクワウシ ロール紙。

〖有光亭〗87 イウクワウテイ 皇居の振天府內にある四阿造の一亭。木材は明治二十七八年戰役の際、淸兵が威海衞に設けた防材を用ひ、石材は各處の砲臺にあつた石を用ひられたものといふ。

【有官】88 イウクワン 官職のある者。〔書、周官〕凡我有官君子、欽二乃攸一レ司。〔蔡傳〕此則居二守官職一者咸在、曰二凡有官君子一者、合二尊卑小大一、而同訓レ之也。

〖有官宅〗89 イウクワンタク 官位に就くことをいふ。〔世說新語、言語上〕南郡龐士元、聞三司馬德操在二潁川一、故二千里候レ之、至、遇二德操采一レ桑、元從二車中一謂曰、吾聞、丈夫處レ世、當二帶レ金佩一レ紫、焉有下屈二洪流之量一、而執中絲婦之事上、德操曰、子且下レ車、子適知二邪徑之速一、不レ慮二失レ道之迷一、昔伯成耦耕、不レ慕二諸侯之榮一、原憲桑樞、不レ易二有官之宅一、何有二坐則華屋、行則肥馬、侍女數十一、然後爲レ奇、此乃許父所二以忼慨一、夷齊所二以長歎一、雖レ有二竊秦之爵、千駟之富一、不レ足レ貴也、士元曰、僕生二出邊垂一、寡レ見二大義一、若不下一叩二洪鐘一、伐中雷鼓上、則不レ識二其音響一也。

【有卦】90 ウケ 陰陽道の語。人の生年の木・火・土・金・水の五性が十二運の胎・養・長・冠・帝・沐・臨の年に當れば、七年閒吉事が續くとして有暇といひ、衰・病・死・墓・絕の年に當れば五年閒凶事が續くとして無暇といふ。卦は暇の假借字。無卦(**7－19113**・・245)の對。〔大般若經〕貧窮無暇入二有暇一。

〖有卦無卦〗91 ウケムケ 陰陽道で運の良い年まはりと運の惡い年まはりをいふ。有卦を見よ。

【有形】92 イウケイ かたちがある。又、其の物體。形而下。〔韓非子、喩老〕有形之類、大必起二於小一。

〖有形人〗93 イウケイジン 無形人である法人の對。卽ち

自然人をいふ。

〖有形財產〗94（イウケイザイサン） 貨幣有形物の財。商品の類。

〖有形資本〗95（イウケイシホン） 一定の價格ある有形の資本。土地・建築物の類。

〖有形出二於無形一〗96（イウケイムケイニイヅ） 形あるものは形の無いものから生れ出る。〔列子、天瑞〕有形者生二於無形一、則天地安從生。〔文子、道原〕有レ形則有レ聲、無レ形則無レ聲、有形產二於無形一、故無形者有形之始也。〔淮南子、說山訓〕有形出二無形一、未レ有下天地能生二天地一者上也。

【有頃】97（シバラクアリテ） しばらくあつて。有閒。〔戰國、齊策〕居有レ頃、倚レ柱彈二其劍一。〔史記、趙世家〕有レ頃烈侯復問。

【有慶】98（イウケイ） よいことがある。〔易、升〕用レ見二大人一、勿レ恤、有レ慶也。〔疏〕必致二慶善一、故曰レ有レ慶也。

【有教】99（イウケウ） ❶教へる所あるをいふ。〔論語、衞靈公〕有レ教無レ類。❷［佛］（ウケウ）空教に對する語で、小乘の俱舍教、大乘の法相宗を指していふ。

【有嬌】100（イウケウ） 古の諸侯の名。又、有蟜に作る。其の女は少典の妃となり、炎帝を生む。〔史記、三皇紀〕炎帝神農氏、姜姓、母曰二女登一、有嬌氏之女、爲二少典妃一、感二神龍一而生二炎帝一、人身牛首、長二於姜水一、因以爲レ姓。〔注〕按二國語一、炎帝黃帝、皆少典之子、其母又皆有嬌氏之女、據二諸子及古史考一、炎帝之後、凡八代五百餘年、軒轅氏代レ之、豈炎帝黃帝是昆弟而同二母氏一乎、皇甫謐以爲二少典有嬌氏諸侯國號一、然則姜姬二帝、同出二少典氏一、黃帝之母又是神農母氏之後代女、所二以同是有嬌氏之女一也。

【有蟜】101（イウケウ） 古の諸侯。有嬌に同じ。〔國語、晉語四〕少典取二于有蟜氏一。

【有郤】102（イウゲキ） 有隙に同じ。〔史記、項羽紀〕今者有二小人之言一、令二將軍與レ臣有一レ郤。〔史記、曹相國世家〕參始微時、與二蕭何一善、及レ爲二將相一有レ郤。

【有隙】103（イウゲキ） 閒隙がある。仲が惡い。有郤。〔戰國、燕策〕秦趙有レ隙。〔史記、樊噲傳〕大王今日至、聽二小人之言一、與二沛公一有レ隙、臣恐三天下解レ心疑二大王一也。〔魏志、公孫瓚傳〕虞瓚益有レ隙。

【有結】104（ウケツ） ［佛］煩惱をいふ。有とは生死の果報。結とは人を束縛して生死の境界に在住せしめる貪・瞋・痴の煩惱をいふ。〔法華經、序品〕盡二諸有結一、心得二自在一。〔性靈集、七〕早脫二有結一、頓入二無漏一。

【有見】105（ウケン） ［佛］有に執着する。謬つた見解。〔智度論、七〕有二二種見一、有見無見。

【有臉】106 yu^2 lien^3 恥を知る。顏が立つ。

【有驗】107（イウケン） ❶しるしがある。〔法言、問神〕君子之言、幽必有レ驗二乎明一、遠必有レ驗二乎近一。❷（ウゲン） 密法を修業して種々の靈驗を現はすこと。〔平家物語、三、赦文の事〕入道相國、有驗の高僧・貴僧に仰せて大法祕法を修し。

【有限】108（イウゲン） かぎりがある。きりがある。無限（7－19113‥280）の對。〔魏文帝、令梁朝歌與二吳質一書〕塗路難レ局、官守有レ限。〔徐陵、與二齊尙書僕射楊遵彥一書〕散二有限之微財一、供二無期之久客一。〔蘇軾、登二玲瓏山一詩〕腳力盡時山更好、莫下將二有限一趁中無窮上。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕有限姻緣、方纔甯貼。

〖有限公司〗109 yu^3 hsien^4 kung^1 ssŭ 有限株式會社。

〖有限責任〗110（イウゲンセキニン） 債務者が自己の財產の一部を以てのみ債務辨濟の責に任ずることをいふ。有限責任は契約によつて之を定めることもできるが、なほ法律は幾多の場合に於て此の有限責任の制度を認めてゐる。例へば、株式會社の株主は其の引受けた株金額の範圍內に於てのみ責任を負ふ。無限責任（7－19113‥286）の對。

〖有限直線〗111（イウゲンチヨクセン） 直線中の或る限られた部分。

【有源】112（イウゲン） 明、陳本深（11－41698‥1267）の字。

【有古】113（イウコ） 遠謀あること。〔逸周書、常訓解〕民乃有古。〔注〕皆有二經遠之規一、謂二之有古一。

【有狐】114（イウコ） 詩經、衞風の篇名。衞國の政善からず、男女時を失ひ配偶を喪ふを刺つた詩。〔詩、衞風、有狐序〕有狐、刺レ時也、衞之男女失レ時、喪二其妃耦一焉、古者國有二凶荒一、則殺レ禮而多レ昏、會下男女之無二夫家一者上、所三以育二人民一也。

【有扈】115（イウコ） ❶古の國の名。今、陝西省鄠縣の北、夏后啓に滅ぼさる。其の子孫、國を以て氏と爲し、後、扈氏といふ。〔書、甘誓〕啓與二有扈一戰二于甘之野一。〔呂覽、先己〕夏后相、與二有扈一戰二於甘澤一而不レ勝、六卿請レ復レ之、夏后相曰、不可、吾地不レ淺、吾民不レ寡、戰而不レ勝、是吾德薄而教不レ善也。〔文獻通考、封建考、周封建之制〕有扈氏、夏禹崩、啓立、有扈氏不レ服、啓伐而滅レ之、天下咸朝、有扈國在二雍州南鄠縣一。❷複姓。〔萬姓統譜〕有扈、夏諸侯國、今弘農人、見二英賢傳一。

〖有扈氏〗116（イウコシ） 有扈に同じ。〔書、甘誓〕有扈氏威二侮五行一、怠二棄三正一。

【有瞽】117（イウコ） 詩經、周頌、臣工之什の篇名。樂を作つて太祖に大合樂することを詠じたもの。〔詩、周頌、有瞽序〕有瞽、始作レ樂而合二乎太祖一也。〔鄭注〕王者治定制レ禮、功成作レ樂、合者、大合二諸樂一而奏レ之。

【有口】118（イウコウ） よく事を論ずること。くちやかましい。〔漢書、陸賈傳〕孝惠時、呂太后用レ事、欲レ王二諸呂一、畏二大臣及有レ口者一。

〖有口無行〗119（イウコウムカウ） 口さきばかりで實行のないこと。〔後漢書、史弼傳〕所二與羣居一、皆有レ口無レ行。〔注〕有二虛言一無二實行一也。

【有孔】120（イウコウ） あなのあること。

〖有孔性〗121（イウコウセイ） 物體が無數の小孔を有する性質。

〖有孔蟲〗122（イウコウチユウ） 動物學用語。原生動物中、根足蟲類に屬し、體は原形質の小塊で、外に石灰質の殼を被り、無數の小孔があつて、絲狀の僞足をもち、海中に棲息する。

【有功】123（イウコウ） ❶成功すること。又、てがらあること。又、其の者。〔易、需〕利レ涉二大川一、往有レ功也。〔國語、齊語〕有功休德。〔戰國、秦策〕明主則不レ然、賞必加二於有功一、刑必斷二於有罪一。〔老子、二十二〕不二自伐一、故有レ功。〔韓非子、八姦〕明主之爲二官職爵祿一也、所下以進二賢材一勸中有功上也。〔司馬法、仁本〕危二有功之君一。〔漢書、高帝紀下〕立二有功一平二定海內一。❷字號。㋑宋、黃勳（12－47926‥316）の字。㋺元、劉敏（2－2224‥571）の字。㋩明、支可大（5－13061‥194）の字。❸地名。㋑（コウ）紀伊國の地名。㋺（アリコト）紀伊國の地名。

〖有功者〗124（イウコウシヤ） てがらのある者。功勞のある者。〔淮南子、繆稱訓〕有レ功者受二吾田宅一。

〖有功賞牌〗125（イウコウシヤウハイ） 或る物品の世上に與へる利益が十分と認めた時、其の製作者に博覽會などから與へる賞牌。

【有恆】126（イウコウ） 常のあること。一定不變。〔書、湯誥〕若二有レ恆性一、克綏二厥猷一、惟后。〔傳〕順二人有常之性一、能安二立其道教一、則惟爲レ君之道也。〔論語、述而〕子曰、善人吾不二得而見一レ之矣、得レ見二有レ恆者一、斯可矣。〔集注〕恆、常久之意。

〖有恆心〗126′（イウコウシン） 一定不變の心がある。〔孟子、滕文公上〕有二恆產一者有二恆心一、無二恆產一者無二恆心一。

〖有恆心齋〗127（イウコウシンサイ） 清、程鴻詔（8－25081‥203）の號。

【有國】128（イウコク） 國をいふ。有は助辭。〔墨子、尙賢下〕來有國有土、告二女訟刑一。

【有穀】129（イウコク） ❶食祿がある。〔詩、小雅、正月〕佌佌彼有レ屋、蔌蔌方有レ穀。〔箋〕穀、祿也。❷穀物がある。〔後漢書、光武帝紀下〕詔曰、往歲水旱爲レ災、云云、朕惟百姓無二以自贍一、惻然愍レ之、其命二郡國有レ穀者一給レ廩。

【有齋】130（イウサイ） 清、陳濆（11－41698‥181）の號。

【有罪】131（イウザイ） ❶罪が有る。罪が定まる。又、其の者。〔書、皐陶謨〕天討二有罪一。〔詩、小雅、雨無正〕舍二彼有罪一、既伏二其辜一。〔周禮、夏官、大司馬〕救二無辜一伐二有罪一。〔左氏、隱、十一〕不レ徵レ辭、不レ察二有罪一。〔戰國、秦策〕明主則不レ然、賞必加二於有功一、刑必斷二於有罪一。〔韓非子、姦劫弑臣〕孝公不レ聽、遂行二商君之法一、民後知二有罪之必誅一、而私レ姦者衆也。〔管子、權修〕殺二不辜一而赦二有罪一。〔墨子、明鬼下〕恐レ失二有罪一。❷yu^3 tsuei^4 失敬しましたの意。

〖有罪有罪〗132 yu^3 tsuei^4 yu^3 tsuei^4 失禮しました。挨拶の語。

〖有罪同受〗133 yu³ tsuei⁴ t'ung² shou⁴ 罪があれば共にひき受ける。死なば諸共。

〖有罪破產〗134（イウザイハサン） 破產宣告を受けた債務者が不義の行爲、卽ち財產の隱匿などをした時をいふ。

【有相】135（イウサウ） 〘佛〙見るべく現ずべき形あるもの。造作の相ある者。無相(7－19113‥402)の❸の對。〔大日經疏、一〕可レ見可レ現之法、卽爲二有相一、凡有相者皆是虛妄。

〖有相業〗136（イウサウゴフ） 〘佛〙淨土があると信じて佛を念じ、往生を求めるやうな行業をいふ。〔往生要集、下末〕有相業、謂、或觀二相好一、或念二名號一、偏厭二穢土一、專求二淨土一。

〖有相宗〗137（イウサウシユウ） 〘佛〙法相宗をいふ。三論宗を無相宗といふの對。〔傳燈錄〕佛大勝多立二有相宗・無相宗・定慧宗・戒行宗・無得宗・寂靜宗一、達摩破レ之。

【有造】138（イウザウ） 造成する所あること。德を成就すること。造は爲す。〔詩、大雅、思齊〕肆成人有レ德、小子有レ造。〔傳〕造、爲也。

【有像】139（イウザウ） 〘佛〙物質的のもの。無像の對。

【有作】140（イウサク） ❶作品がある。詩文などの成るにいふ。〔杜甫、立秋雨院中有レ作詩〕山雲行二絕塞一、大火復西流。❷〘佛〙（サウ）人爲的の所作。無作(7－19113‥333)の對。〔傳通記糅鈔、五〕舊譯經論云二有作無作一、新譯經論云二安立非安立一。

【有子】141（イウシ） ❶子がある。よい子がある。〔詩、大雅、大明〕文王嘉止、大邦有レ子。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕子厚少精敏、無レ不二通達一、逮二其父時一、雖二少年一已自成人、能取二進士第一、嶄然見二頭角一、衆謂二柳氏有一レ子矣。❷孔子の弟子の有若をいふ。〔禮、檀弓上〕有子問二於曾子一曰、問二喪於夫子一乎。〔注〕有子、孔子弟子有若也。〔論語、學而〕有子曰、其爲レ人也孝弟、而好レ犯レ上者鮮矣。〔集注〕有子、孔子弟子、名若。❸孔子の弟子の冉求をいふ。〔左氏、哀、十一〕有子曰、就用レ命焉。〔注〕有子、冉求也。

〖有子萬事足〗142 yu² tzŭ³ wan⁴ shih⁴ tsu² 子さへあれば何も不足がない。

【有史】143（イウシ） 歷史の存在すること。

〖有史以來〗144（イウシイライ） 人類の歷史があつてからこの方。

【有司】145（イウシ） やくにん。官吏。〔書、大禹謨〕玆用不レ犯二于有司一。〔周禮、夏官、諸子〕置二其有司一。〔禮、少儀〕曰レ納二甸於有司一。〔左氏、昭、七〕若從二有司一、是無レ所レ執二逃臣一也。〔論語、泰伯〕籩豆之事、則有司存。〔孟子、梁惠王下〕吾有司死者三十三人。〔莊子、漁父〕今子旣上無二君侯有司之勢一。〔荀子、非相〕俄則束二乎有司一。〔蜀志、諸葛亮傳〕若有下作レ姦犯レ科及爲二忠善一者上、宜下付二有司一、論中其刑賞上。〔六部成語、吏部、有司、注解〕凡官有下管二轄民人一之責任上者、皆謂二之有司一。

〖有司徹〗146（イウシテツ） 儀禮の篇名。〔儀禮、有司徹、題疏〕鄭目錄云、少牢之下篇也、大夫旣祭、儐二尸於堂一之禮、祭畢、禮二尸於室中一、天子諸侯之祭、明日而繹、有司徹於二五禮一屬レ吉、大戴第九、小戴第十二、別錄少牢下篇第十七。

〖有司之牧夫〗147（イウシノボクフ） 專ら民を治めることに任ずる官吏。〔書、立政〕文王罔レ攸レ兼二于庶言庶獄庶愼一、惟有司之牧夫。〔蔡傳〕有司、有二職主一者、牧夫、牧人也。

【有志】148（イウシ） こころざしがある。又、其の人。〔禮、禮運〕孔子曰、大道之行也、與二三代之英一、丘未二之逮一也、而有レ志焉。〔老子、三十三〕強行者有レ志。〔後漢書、班超傳〕爲レ人有二大志一、不レ修二細節一。

【有私】149（イウシ） 私心のあること。不公平な行のあること。無私の對。〔後漢書、第五倫傳〕或問レ倫曰、公有レ私乎。

【有思】150（イウシ） 道德が純一に備つて居ること。有は助辭。〔韓非子、詭使〕閒靜安居、謂二之有思一。〔翼毳〕書堯典云、文思安安、注、道德純備、謂二之思一、有如二有德有仁之有一。

【有疵】151（イウシ） 文章の中に少しの缺點のあること。〔六部成語、禮部、有疵、注解〕文章中有二毛病一也。

【有事】152（イウジ） ❶仕事がある。用事がある。又、職務のある者。〔書、酒誥〕有正有事無レ彝レ酒。〔蔡傳〕有事、有二職業一者。〔論語、爲政〕有レ事弟子服二其勞一。❷平生と變つたことがある。事件がおこる。主として戰と祭事のあること。〔左氏、襄、十〕莒人閒二諸侯之有一レ事也。〔論語、季氏〕季路見二於孔子一曰、季氏將レ有レ事二於顓臾一。〔李非格、書二洛陽名園記後一〕天下當二無事一則已、有レ事則洛陽必先受レ兵。

【有時】153（イウジ） 時々。時あつて。時には。〔周禮、考工記總目〕天有レ時以生、有レ時以殺、草木有レ時以生、有レ時以死。〔孟子、萬章下〕孟子曰、仕非レ爲レ貧也、而有レ時乎爲レ貧、娶レ妻非レ爲レ養也、而有レ時乎爲レ養。

〖有時候〗154 yu³ shih² hou 時としては。時々。ある時。

【有辭】155（イウジ） 言ひ分がある。〔書、呂刑〕鰥寡有レ辭二于苗一。〔孔叢子、論書〕陳氏戮二其小臣一、臣有レ辭。

【有周】156（イウシウ） 周の國。有は助辭。〔書、召誥〕比二介于我有周御事一。〔墨子、非命下〕惟我有周受二之大帝一。〔風俗通、十反〕武王建二有周之號一。〔韋孟、諷諫詩〕至二于有周一。

【有秋】157（イウシウ） 穀物のよくみのること。よい收穫。豐年。有年。〔書、盤庚〕若二農服レ田力レ穡、乃亦有レ秋。〔漢書、成帝紀、書不レ云乎服レ田力レ嗇乃亦有レ秋、注〕應劭曰、農夫服レ田、厲二其膂力一、乃有二秋收一也。〔孟浩然、同二獨孤使君一東齋作詩〕廨宇宜二新霽一、田家賀二有秋一。

【有識】158（イウシキ） ❶ものしり。見識ある人。識者。〔左氏、僖、十六、退而告レ人曰、注〕恐爲二有識所一レ譏。〔史記、季布傳〕臣恐、天下有識聞レ之、有三以闚二陛下一也。〔漢書、劉向傳〕三老官屬有識之士、詠二頌其美一。〔魏志、崔琰傳〕斯誠有識所二以惻一レ心也。❷事理に明かとなる年頃。三十歲に達したものをいふ。〔張華、答二何劭一詩〕自三予及二有識一、志不レ在二功名一。〔注〕濟曰、有識自二三十成立一之後、本謂二志不レ在三馳二逐功名一也。❸〘佛〙（ウシキ）識を有するもの。有情。生き物。〔觀經散善義〕含靈聞レ之生レ信、有識覩者西歸。❹（イウソク）朝廷又は武家の儀禮典故に通ずる人。故實家。有職(198)に同じ。

〖有識者〗159（イウシキシヤ） 見識ある者。〔魏志、鄧艾傳〕有識者笑レ之。

〖有識之士〗160（イウシキノシ） 見識ある人。事理に明かな人。〔說苑、善說〕天下有識之士。〔後漢書、何皇后紀〕有識之士、心獨怪レ之。

〖有識之哂〗161（イウシキノワラヒ） 見識のある人のあざけり。〔隋書、蘇夔傳〕頗爲二有識所一レ哂。

【有室】162（イウシツ） ❶王室をいふ。有は助辭。一說に、卿大夫をいふ。〔書、立政〕乃有室大競。〔蔡傳〕惟有夏之君、當二王室大強之時一。〔孫星衍今古文注疏〕有室、猶レ云二有家一、謂二卿大夫一也。❷妻がある。〔禮、曲禮上〕三十曰レ壯、有レ室。〔注〕有レ室、有レ妻也、妻稱レ室。〔疏〕妻居二室中一、故呼レ妻爲レ室、不レ云レ有レ妻而云レ有レ室者、含二妾媵一也。〔孟子、滕文公下〕丈夫生而願二爲レ之有一レ室、女子生而願二爲レ之有一レ家、父母之心、人皆有レ之。

【有實】163（イウジツ） ❶まことのあること。〔後漢書、郎顗傳〕有レ貌無レ實、佞人也、有レ實無レ貌、道人也。❷（アリノミ） 梨の異名。

【有舍】164（イウシヤ） 宿舍のあること。〔李覯、袁州州學記〕生師有レ舍、庖廩有レ次。

【有性】165（ウシヤウ） 〘佛〙佛門に歸依して出離解脫する性あるをいふ。佛性のあること。〔圓覺經〕有性無性齊成二佛道一。

〖有性生殖〗167（イウセイセイシヨク） 雌雄兩性あつて行はれる生殖作用。

【有商】168（イウシヤウ） 殷をいふ。有は助辭。〔書、太甲中〕皇天眷二佑有商一。

【有章】169（イウシヤウ） あやがある。文飾のあること。〔詩、小雅、都人士〕其容不レ改、出レ言有レ章。〔左氏、襄、三十一〕動作有レ文、言語有レ章、以臨二其下一、謂三之有二威儀一也。

【有象】170（イウシヤウ） すがたがある。けはひがある。〔老子、二十一〕其中有レ象。

〖有象無象〗171（ウザウムザウ） ❶天地間のありとあらゆるもの。有形無形。森羅萬象。萬物。有相無相。❷たくさんにあるつまらぬ物。うぞむぞ。

【有獎】172（イウシヤウ） 賞金がつく。割增金附。

【有常】173（イウジヤウ） 常のあること。永久不變。有恆。〔韓非子、解老〕不下以二無爲一爲中有常上、不下以二無爲一爲中有常上則虛。

【有情】174（イウジヤウ） ❶心あること。情がある。なさけ

がある。〔杜甫、哀江頭詩〕人生有レ情淚沾レ臆、江水江花豈終極。❷存在するけはひがある。實情がある。〔莊子、太宗師〕夫道有レ情有レ信、無レ爲無レ形。❸趣がある。情趣がある。〔歷代名畫記、十、隋〕董與レ展、皆天性縱任、亡レ所二祖述一、動レ筆形似、畫外有レ情。❹男女相思の心がある。戀愛。❺[佛]ウジヤウ 生きて喜怒哀樂の心をもつてゐるもの。動物。無情卽ち草木などの對。〔大日經疏、十七〕此有情者、梵正音索哆、是著義、云云、又名二薩埵一、是有情義。

〖有情居〗175 ウジヤウコ [佛]有情の好んで居住する所。九所あるので九有情居ともいふ。〔俱舍論、八〕前七識住、及第一有、無想有情、是名爲レ九、諸有情類、唯於二此九一欣欣樂住、故立二有情居一。

〖有情樹〗176 ウジヤウジユ 木の名。頓遜の國に在るといふ淫樹の名。〔瑯嬛記〕頓遜國有二淫樹一、花如二牡丹一而香、種有二雌雄一、必二一種幷レ種乃生、花去レ根尺餘、有二男女陰形一、以別二雌雄一、種必相去勿レ遠、二形晝開夜合、故又以二夜合一爲レ名、又謂二之有情樹一。

〖有情緣慈〗177 ウジヤウエンジ [佛]衆生の苦を見て起す慈悲。三種緣慈の一。

〖有情世間〗178 ウジヤウセケン [佛]生あるものの世界。

〖有情趣兒的〗179 yu^{3} chʻing^{2} chʻü^{4} êrh tê 面白い。

【有爵】180 イウシヤク 爵位を有する。〔禮、雜記下〕於レ是有レ爵而后杖也。

〖有爵者〗181 イウシヤクシヤ 爵位を有する人。周代、命士以上をいふ。〔周禮、夏官、射人〕凡有爵者。〔注〕有爵者、命士以上。

〖有爵議員〗182 イウシヤクギヰン 爵位あるによつて貴族院議員となつたもの。

【有若】183 イウジヤク 春秋、魯の人。孔子の弟子。字は子有。孔子より少きこと十三歲。孔子の歿後、其の貌が孔子に似てゐるので、門人が立てて師とした。〔史記、六十七〕・〔琅琊代醉編、十〕。

【有手】184 シウシユ [佛]象の異名。〔百論疏、上之下〕象有二七肢一、以二手勝一故、從レ勝受レ名爲二有手一、故外國人呼レ象以爲二有手一。

【有守】185 イウシユ 執り守る所がある。操守がある。〔書、洪範〕凡厥庶民有レ猷、有レ爲有レ守。〔傳〕民戢有レ道、有レ所レ爲、有レ所二執守一。〔孔傳參正〕有レ守、則不レ爲二不義一。〔宋史、蘇軾傳論〕意之所レ向、言足三以達二其有猷一、行足三以遂二其有爲一、至二於禍患之來一、節義足三以固二其有守一。

【有珠】186 スウ 北海道膽振國の郡名。

【有趣】187 イウシユ おもむきがある。趣味がある。〔王融、芳樹曲〕綺羅已自憐、暄風多有レ趣。〔孟浩然、北澗泛レ舟詩〕沿洄自有レ趣、何必五湖中。〔桃花扇、聽稗〕一訪二佳麗一、倒也有レ趣。

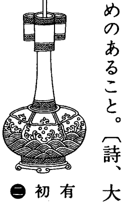
【有終】188 イウシユウ をはりあり。をはりを全うする。〔易、謙〕謙亨、君子有レ終。〔書、湯誥〕尙克時忱、乃亦有レ終。〔詩、大雅、蕩〕靡レ不レ有レ初、鮮二克有レ終。〔禮、喪服四制〕告二民有レ終也。〔孝經、喪親章〕喪不レ過二三年一、示二民有レ終也。

〖有終之美〗189 イウシユウノビ 終始一貫してよく物事を立派に成し遂げること。龍頭蛇尾でなく結果が立派であること。

【有衆】190 イウシユウ くにたみ。人民。朝廷から人民をよぶ稱。有は助詞。〔書、胤征〕嗟予有衆。〔書、泰誓上〕以二爾有衆一、底二天之罰一。

【有娀】191 イウシユウ 古の國の名。殷の契の母の簡狄は有娀氏の女。〔詩、商頌、長發〕有娀方將、帝立レ子生レ商。〔傳〕有娀、契母也。〔呂覽、音初〕有娀氏有二二佚女一、爲二之九成之臺一、飮食必以レ鼓。〔楚辭、離騷〕望二瑤臺之偃蹇一兮、見二有娀之佚女一。〔注〕有娀、國名。〔史記、殷紀〕殷契母曰二簡狄一、有娀氏之女、爲二帝嚳次妃一、三人行浴、見三玄鳥墮二其卵一、簡狄取呑レ之、因孕生レ契、契長而佐レ禹治レ水有レ功。〔注〕正義曰、記云、桀敗二於娀之墟一、有娀當レ在二蒲州一也。〔淮南子、墬形訓〕有娀在二不周之北一。

【有初】192 イウシヨ ❶はじめのあること。〔詩、大雅、蕩〕靡レ不レ有レ初、鮮二克有レ終。❷投壺の戲に於て最初の箭の中つたものをいふ。〔投壺新格〕有初、首箭中也、君子作レ事謀レ始、以二其能謹一レ始、故賞レ之。❸元、貢性之(**10－36665**··72)の字。



❷ 有初
(投壺新格)

【有仍】193 イウジヨウ 古の國名。今の山東省濟寧縣。夏の帝相、有仍氏を娶りて少康を生む。漢書古今人表には有扔に作る。〔史記、楚世家〕桀爲二有仍之會一、有緡叛レ之。〔注〕集解曰、賈逵曰、仍緡、國名。〔路史〕仍太昊後、卽任也。〔文献通考、封建考、周封建之制〕有仍氏、寒浞子奡殺二帝相妃一、仍氏女曰二后緡一、歸二有仍一生二少康一。

【有色】194 イウシヨク ❶女色あるもの。なまめかしい容色あるもの。〔管子、戒〕如レ此而又近二有色一、而遠二有德一。〔纂詁〕尹知章云、親二治容一、疎二賢俊一。❷[佛]ウシキ 欲界と色界との生物。色身を有する者。〔金剛磐若波羅蜜經〕若有色、若無色。

〖有色天〗195 ウシキテン [佛]色界の諸天をいふ。

〖有色人種〗196 イウシヨクジンシユ 黃色・銅色・黑色人種の總稱。白色人種に對していふ。

【有食】197 イウシヨク 生活の資のあること。遺產のあること。〔韓愈、祭二十二郞一文〕彼有レ食、可二守以待レ終レ喪、則待レ終レ喪、而取以來。

【有職】198 イウシヨク ❶つかさどるところがある。〔荀子、王霸〕治レ國有レ道、人主有レ職。〔魏志、陳思王植傳〕列二有職之臣一、賜二須臾之問一。❷イウソク 朝廷又は武家の儀式典禮などをしらべる學問。又其れに通ずる人。故實家。有識。❸ウシキ 已講・內供・阿闍梨の三職の總稱。

〖有職家〗199 イウソクカ 故實に明るい人。

〖有職故實〗200 イウソクコジツ ❶有職は博學の人。轉じて、朝廷又は武家の儀禮・典故に通ずる人。故實は前代の儀式典禮・法令舊慣等の先例。❷故實を研究する學問。參考書は總合したものに古事類苑・古今要覽稿・武家名目抄・和名抄等があり、各部門では、公事に西宮記・北山抄・江家次第・公事根源等、內裏に大內裏圖考證・禁腋祕抄、官職に官職祕抄・職原抄、裝束に雅亮裝束抄・助無智祕抄・飾抄・海人藻芥・胡曹抄・服飾管見、武家禮法に今川大双紙・宗五大双紙、武技に騎射祕抄・犬追物類鏡・流鏑馬次第・笠懸聞書、武具に本朝軍器考・集古十種・武器考證等がある。

〖有職僧綱〗201 ウシキソウガウ 官職ある僧。

【有心】202 イウシン ❶心に思ふ所がある。〔詩、小雅、巧言〕他人有レ心、予忖二度之一。〔列子、仲尼〕亦非三有レ心者所二能得一レ遠。❷氣をつける。〔福惠全書。蒞任部、謹二操守一〕大吏有レ心、其尸二祝于鄕一。❸yu^{2} hsin^{2} 故意に。殊更に。わざと。

〖有心人〗203 イウシンノヒト 待つて居る人。〔桃花扇、偵戲〕傳二將隨口話一、報二與有心人一。

〖有心故造〗204 イウシンコザウ 有意故造(ア)に同じ。

【有身】205 イウシン 孕む。〔詩、大雅、大明〕大任有レ身、生二此文王一。〔傳〕身、重也。〔箋〕重、謂二懷孕一也。〔疏〕以三身中復有二一身一、故言レ重。〔史記、高祖紀〕見二蛟龍於其上一、已而有レ身、遂產二高祖一。〔史記、呂后紀〕宣平侯女爲二孝惠皇后一、時無レ子、詳爲レ有レ身、取二美人子一名レ之、殺二其母一、立二所レ名子一、爲二太子一。〔漢書、元后傳〕交二送政君太子宮一、見二丙殿一、得二御幸一有レ身。

【有侁】206 イウシン 有莘(211)に同じ。〔呂覽、本味〕有侁氏女子採レ桑、得二嬰兒于空桑之中一、云云、命レ之曰二伊尹一。〔注〕侁、讀曰レ莘。

【有信】207 イウシン ❶まことがある。〔老子、二十一〕其中有レ信。〔漢書、高帝紀下〕上曰、豨常爲二吾使一、甚有レ信。❷梁、劉諒(**2－2224**··651)の字。

【有津】208 アロツ 伊豫國の地名。

【有娠】209 イウシン 孕む。有身。〔一切經音義、一〕詩云、太任有レ娠。〔漢書、高帝紀上〕父太公往視、則見二交龍於上一、已而有レ娠。〔注〕孟康曰、娠音身、漢史身多作レ娠、古今字也。

【有神】210 イウシン 神をいふ。有は助辭。〔書、武成〕惟爾有神、尙克相レ予。

〖有神論〗210′ イウシンロン theism の譯語。❶世界そのものを超越して存在しつつ、之を創造し、維持し、攝理してゐる人格的な生きた唯一の神を信ずる立場。人格神論。無神論(**7－19113**··962)の對。❷一般に、何等かの意味で、神の存在を認める立場。

【有莘】211 イウシン ❶古の國名。莘國。〔孟子、萬章上〕伊尹耕二於有莘之野一、而樂二堯舜之道一焉。〔新語、愼微〕屈二於有莘之野一。㋑陝西省郃陽縣の東南、今、莘里といふ。〔太平寰宇記〕莘國、姒姓、夏禹之後、武王母太姒卽此國之女。〔郃陽縣志〕縣東

南有二有莘里一、卽古莘國。㋺河南省陳留縣の東。〔左氏、僖、二十八〕晉侯登二有莘之虛一以觀レ師。㊇〔括地志〕古莘國、在二陳留縣東五里一、故莘城。山東省曹縣の北。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、曹州、曹縣〕莘城、縣北十八里、元和志、古莘仲國也、在二濟陰縣東南三十里一、夏本紀、鯀納二有莘氏女一生レ禹、又伊尹耕二於有莘之野一、春秋僖二十八年、晉侯次二於城濮一、登二有莘氏之墟一、以觀レ師、杜預曰、古莘國城是也。❷湯王の妃。有莘氏の女であるからいふ。〔新序、雜事一〕湯之興也、以二有莘一。〔後漢書、文苑、崔琦傳〕周興二三母一、有莘崇レ湯。〔注〕湯娶二有莘氏女一、德高而明。❸清、趙伊(**10－37171**・・3ʹ)の字。

〖有莘氏〗212 イウシンシ　有莘國をいふ。〔墨子、尙賢中〕伊摯、有莘氏女之私臣。〔韓詩外傳、七〕伊尹、故有莘氏僮也、負レ鼎操レ俎、調二五味一而立爲レ相。

【有㜪】213 イウシン　湯王の妃。有莘の❷に同じ。〔列女傳、母儀、湯妃有㜪傳〕湯妃有㜪者、有㜪氏之女也、殷湯娶以爲レ妃、生二仲壬外丙一、亦明二教訓一致二其功一。〔漢書、古今人表、上中〕有㜪氏、湯中妃、生二大丁一。〔注〕師古曰、㜪、與レ莘同。

【有人】214 イウジン　ある人。又、人をいふ。有は助辭。〔法華經、譬喩品〕在二門外一立、聞二有人言一。

【有數】215 イウスウ　❶自然の道理がある。數は術。〔莊子、天道〕不レ徐不レ疾、得二之於手一、而應二於心一、口不レ能レ言、有レ數存二焉於其閒一。〔釋文〕李云、數、術也。❷定つた運命がある。因緣。〔白居易、村中留二李三一固言レ宿詩〕如二我與レ君心一、相知應レ有レ數。❸一定の數がある。〔左氏、桓、二年〕夫德儉而有レ度、登降有レ數。〔漢書、文帝紀〕賜二天下孤寡布帛絮一各有レ數。❹數へるばかり。少ないことにいふ。屈指。〔國朝漢學師承記、汪中〕君往謁、時爲レ述二揚州割據之迹、死レ節之人一、作二廣陵對三千餘言一、博徵二載籍一、貫二串史事一、天地閒有數之文也。

【有正】216 イウセイ　官守あるもの。有司。〔書、酒誥〕有正有事無レ彝レ酒。〔蔡傳〕有正、有二官守一者。

〖有正味齋〗217 イウセイミサイ　清、呉錫麒(**2－3365**・・719)の室名。

〖有正味齋集〗218 イウセイミサイシフ　書名。十六卷。外集五卷。詞八卷。駢體文二十四卷。清、呉錫麒撰。別に有正味齋絶句二卷あり、絶句のみを抄錄す。

【有生】219 イウセイ　❶生ずる。〔列子、黃帝〕灰然有レ生矣。❷生命あるもの。いきもの。萬物。有生不レ生を見よ。❸人をいふ。〔袁宏、三國名臣序贊〕夫萬歲一期、有生之通塗。〔注〕翰曰、有生、謂二生人一也。

〖有生物〗220 イウセイブツ　有機體(65)に同じ。

〖有生於無〗221 イウハムニシヤウズ　有は無から生ずる。〔老子、四十〕天下萬物生二於有一、有生二於無一。

〖有生不生〗222 イウセイハシヤウセズ　萬物は造化の造るもので自ら生ずるものではない。〔列子、天瑞〕有生不レ生、有化不レ化。〔鬳齋口義〕有生者、生二於不生一、有化者、原二於不化一、不生不化、乃能生二其生一、化二其化一、此卽造化是也、不レ能レ不レ生、不レ能レ不レ化者、萬物是也。

〖有生之最靈者人也〗223 イウセイノサイレイナルモノハヒトナリ　生物の中、最も靈妙なものは人である。〔列子、楊朱〕人肖二天地之類一、懷二五常之性一、有生之最靈者人也。

【有成】224 イウセイ　❶成功がある。出來あがる。〔詩、小雅、黍苗〕召伯有レ成、王心則寧。〔禮、郊特牲〕適子冠二於阼一、以著レ代也、醮二於客位一、嘉レ有レ成也。❷明、王鏊(**7－20823**・・1059)の字。

【有政】225 イウセイ　まつりごと。政事。有は助辭。〔書、君陳〕友二于兄弟一、克施二有政一。〔論語、爲政〕友二于兄弟一、施二於有政一。

【有勢】226 イウセイ　勢力のあること。又、その人。〔管子、明法解〕民倍二公法一而趨二有勢一。

【有聖】227 イウセイ　聖人をいふ。有は助辭。〔左思、魏都賦〕得レ聞二上德之至盛一、匪レ同二憂於有聖一。

【有靜】228 イウセイ　靜かなこと。有は助辭。〔江淹、雜體、謝僕射混遊覽詩〕動復歸二有靜一。

【有聲】229 イウセイ　❶聲がある。音がする。〔公羊、宣、八〕去二其有レ聲者一、廢二其無レ聲者一。❷よいほまれがある。名聲がある。〔詩、大雅、文王有聲〕文王有レ聲、遹二駿有聲一。〔傳〕文王有二令聞之聲一者。〔後漢書、馬棱傳〕轉二會稽太守一、治亦有レ聲。〔陸機、漢高祖功臣頌〕有レ聲二梁魏一。

〖有聲畫〗230 イウセイグワ　詩をいふ。聲ある畫の意。〔黃滔、茗溪風雨中章德茂同汎詩〕爲レ君留レ此有聲畫、題作二扁舟烟雨圖一。

〖有聲之聲〗231 イウセイノコヱ　音聲に發した聲。〔韓詩外傳、一〕有聲之聲、不レ過二百里一、無聲之聲、延及二四海一。〔淮南子、繆稱訓〕有聲之聲、不レ過二百里一。

〖有聲電影〗232 イウセイデンエイ　トーキー。

【有稅】233 イウゼイ　稅のかかること。

〖有稅品〗234 イウゼイヒン　稅のかかる品物。無稅品の對。

〖有稅口岸〗235 yu^3 shuei^4 k'ou^3 an^4　有稅貿易港。

【有擾】236 yu^2 jao^3　御馳走になりました。御邪魔しました。

〖有擾有擾〗237 yu^2 jao^3 yu^2 jao^3　御馳走に預りました。

【有責】238 イウセキ　人が自分の行爲に關して他の者に答辯すべき責任のあることをいふ。

〖有責行爲〗239 イウセキカウヰ　法律上の責任ある行爲。

【有績】240 イウセキ　功績のあること。〔孔叢子、論書〕以殊二有績一。

【有節】241 イウセツ　❶節度がある。〔李德裕、欹器賦〕表二人道之隆替一、明二百事之有レ節。❷唐、趙珝(**10－37171**・・114)の字。

【有錢】242 イウセン　錢がある。金をもつ。〔漢書、食貨志上〕今募二天下一入二粟縣官一、得二以拜レ爵、得二以除レ罪、如レ此富人有レ爵、農民有レ錢、粟有レ所レ渫。〔賀知章、題二袁氏別業一詩〕莫二謾愁レ沽レ酒、囊中自有レ錢。

【有蘇】243 イウソ　古の國名。今の河南省濟源縣の西北。己姓。商王紂、有蘇を伐つて其の女妲己を得た。〔史記、殷紀、注〕集解曰、皇甫謐曰、有蘇氏美女、索隱曰、國語、有蘇氏女、妲字、己姓也。

【有宗】244 イウソウ　❶宗旨のあること。尊び則るところあること。〔老子、七十〕言有レ宗。〔傅亮、感レ物賦〕頌二三百於無邪一、貫二五千於有宗一。❷南朝宋、謝元(**10－35827**・・72)の字。❸［佛］シユウ　俱舍宗をいふ。

【有則】245 イウソク　❶法度がある。〔易、震〕笑言啞啞、後有レ則也。〔傅玄、晉宗廟歌、饗神歌〕禮有レ儀、樂有レ則。❷宋、趙惟憲(**10－37171**・・396)の字。

【有邰】246 イウタイ　古の國名。炎帝の後。姜姓。后稷の母の家。陝西省武功縣の南。〔詩、大雅、生民〕卽二有邰家室一。〔史記、周紀〕周后稷、名弃、其母、有邰氏女、曰二姜嫄一。

【有待】247 イウタイ ウダイ　❶待つあること。たよりにする所の有ること。〔禮、儒行〕愛二其死一以レ有レ待也、養二其身一以レ有レ爲也。〔莊子、逍遙遊〕夫列子御レ風而行、冷然善也、旬有五日而後反、彼於二致レ福者一、未二數數然一也、此雖レ免二乎行一、猶有レ所レ待者也。〔莊子、齊物論〕吾有レ待而然者邪。〔孔子家語、儒行解〕愛二其死一以有レ待也。❷［佛］他の力によつて存するもの。凡夫の意。食物・衣服等の資を待つからいふ。〔行宗記、二上〕身名二有待一、必假二資緣一。〔梁僧傳、道安傳〕捐二米千斛一、彌覺二有待爲レ煩。

〖有待之身〗248 ウダイノミ　［佛］凡夫の身。すべて他の助力により食物・衣服等の資をまつて生存する義。〔止觀、四上〕有待之身、必假二資籍一。

【有堂】249 イウダウ　字號。❶清、呉志忠(**2－3365**・・616)の字。❷清、汪日宣(**6－17154**・・251)の號。

【有道】250 イウダウ　❶道德を身にそなへてゐること。又、其の人。〔書、武成〕惟有道曾孫周王發、將レ有二大正于商一。〔禮、禮器〕昔先王尙二有德一、尊二有道一。〔呂覽、觀世〕子列子窮、容貌有二饑色一、云云、其妻望而拊レ心曰、聞、爲二有道者妻子一、皆得二逸樂一、今妻子有二饑色一矣。〔史記、游俠傳〕此皆學士所謂有道仁人也。〔後漢書、安帝紀〕擧二有道之士一。❷天下のよく治まること。〔論語、季氏〕天下有レ道、則禮樂征伐自二天子一出。〔白虎通、號〕天下有レ道、人皆樂也。❸漢代、擧士科目の一。〔後漢書、郭太傳〕司徒黃瓊辟二太常趙典一擧二有道一。❹唐、王貞白(**7－20823**・・1953)の字。

〖有道學士〗251 イウダウガクシ　道德ある學士。〔燕談錄〕三司副使、例得二待制一、陳貫白二鹽鐵副使一直二昭文館一、或唁レ之、貫曰、與下其居二天章一作中不才待制上、何下如在二昭文一爲中有道學士上、唁者愧服。

〖有道之國〗252 イウダウノクニ　道ある國。よく治まる國。〔漢書、天文志〕常出二於有道之國一。

〖有道之士〗253 イウダウノシ　道德ある人。〔列子、說符〕列禦寇、蓋有道之士也。〔呂覽、謹聽〕昔者禹一沐

而三捉レ髮、一食而三起、以禮二有道之士一。

【有道先生】254 イウダウセンセイ 宋、郭希朴(11－39474・・261)の號。

【有道大夫】255 イウダウタイフ 後漢の李恢の綽名。性格が高尙であつたからいふ。〔海錄碎事、人事、高潔〕李恢、字仲興、漢桓靈閒、高尙不レ仕、號二有道大夫一。

【就二有道一而正】256 イウダウニツイテタダス 有道の士に就いて己の行の是非を正す。〔論語、學而〕子曰、君子食無レ求レ飽、居無レ求レ安、敏二於事一而愼二於言一、就二有道一而正焉、可レ謂レ好レ學也已。〔注〕有道、有二道德一者。

【有宅】257 イウタク 居る所のあること。有度。〔書、舜典〕五流有レ宅、五宅三居。〔傳〕五刑之流、各有レ所レ居。

【有度】258 イウタク ❶居る所のあること。書經には有宅に作る。〔史記、五帝紀〕五流有レ度、五度三居。〔注〕正義曰、度、音徒洛反、尙書作レ宅、孔安國云、五刑之流、各有レ所レ居也。❷計略がある。〔後漢書、李通傳〕光武曰、如二宗卿師一何、通曰、已自有レ度。〔注〕度、計度也、音大各反。❸イウド 明、鄭憲(11－39647・・116)の字。❹篇名。㋑呂氏春秋、似順論の篇名。㋺韓非子の篇名。

【有男】259 イウダン 複姓。〔萬姓統譜〕友男、姒姓、史記、禹後有二有男氏一。

【有檀】260 イウダン 寺院が檀家を有すること。

【有豸】261 イウチ 禍亂などの解けて治ること。豸は解。〔左氏、宣、十七〕使三郤子逞二其志一、庶有レ豸乎。〔注〕豸、解也、欲レ使二郤子從一レ政、快レ志以止レ亂。

【有知】262 イウチ 知識のあるもの。〔穀梁、僖、十六〕石無レ知之物、鶂微有レ知之物。

【有恥】263 イウチ 恥を知る。〔論語、子路〕行レ己有レ恥。

【有智】264 イウチ ❶有知に同じ。〔孔子家語、執轡〕治二德法一者爲二有智一。❷チウ 姓氏。〔和爾雅〕。

【有智無智校三十里】265 イウチムチクラブレバサンジフリ 智ある者と智のない者との差の甚だしい喩。魏の武帝、楊脩と共に曹娥碑下を過ぐ。碑背に黃絹幼婦外孫齏臼の八字あり、楊脩已に解し、武帝解せず、共に行くこと三十里にして始めて覺つたといふ故事。曹娥碑(5－14297・・21)を見よ。〔世說新語、捷悟〕魏武嘗過二曹娥碑下一、楊脩從、碑背上題作二黃絹幼婦外孫齏臼八字一、魏武謂レ脩曰、解不、答曰解、魏武曰、卿未レ可レ言、待二我思一レ之、行三十里、魏武乃曰、吾已得、令二脩別記一レ所レ知、脩曰、黃絹色絲也、於レ字爲レ絕、幼婦少女也、於レ字爲レ妙、外孫女子也、於レ字爲レ好、齏臼受レ辛也、於レ字爲レ辭、所謂絕妙好辭也、魏武亦記レ之、與レ脩同、乃歎曰、我才不レ及レ卿、乃覺二三十里一。〔事類全書〕俗云、有智無智、校三十里。

【有秩】266 イウチツ ❶秦漢の官名。鄉戶五千每に有秩を置いて、一鄉の財入を掌る。〔史記、范雎傳〕今自二有秩一以上、至二諸大吏一。〔漢書、外戚傳序〕有秩斗食。〔漢書、百官公卿表上〕鄉有二三老・有秩・嗇夫・游徼一。〔後漢書、百官志五〕鄉置二有秩・三老・游徼一、本注曰、有秩、郡所レ署、秩百石、掌二一鄉人一。〔注〕漢官曰、鄉戶五千、則置二有秩一。〔資治通鑑、周紀〕(赧王、四十九年)今自二有秩一以上、至二諸大吏一。〔注〕漢承二秦制一、鄉置二有秩一、漢官曰、鄉戶五千、則置二有秩一、掌二一鄉之入一。❷常有ること。〔詩、商頌、烈祖〕嗟嗟烈祖、有レ秩二斯祜一。〔傳〕秩、常。❸次序あること。〔陸機、答二賈長淵一詩〕對二揚天人一、有秩斯祜。〔注〕有三其次二於此福一、秩、次。

【有頂】267 ウチヤウ 佛❶色界の第四天で、本名を色究竟天といふ。形ある世界の最頂に位するので有頂と稱する。〔法華經、序品〕從二阿鼻獄一、上至二有頂一。❷無色界の第四處、非想非非想天をいふ。世界の最頂であるから有頂といふ。〔妙句解、六〕非非想天、名爲二有頂一、是於二三界有漏世間一、極頂之故。

【有頂天】268 ウチヤウテン ❶佛有頂を見よ。〔法華經〕從二阿鼻獄一、上至二有頂天一。❷喜んで我を忘れること。うはのそら。夢中。

【有中】269 イウチユウ ❶中庸の道を得ること。有極(78)を見よ。❷有形のものの中。〔列子、天瑞〕有中之最巨者、難レ終難レ窮。❸南唐、李中(6－14459・・586)の字。

【有住】270 イウヂユウ 寺院に住職のあること。無住(7－19113・・623)の對。

【有徵】271 イウチヨウ ❶證據がある。しるしがある。〔左氏、昭、八〕叔向曰、子野之言、君子哉、君子之言、信而有レ徵、故怨遠二於其身一。〔管子、權修〕見二其可一也、喜レ之有レ徵、見二其不可一也、惡レ之無レ刑。❷明、余夢鯉(1－514・・12)の字。

【有直】272 イウチヨク 元、梁益(6－14825・・22)の字。

【有定】273 イウテイ 元、陳友定(11－41698・・644)の一名。

【有蹄】274 イウテイ 蹄の有るもの。

【有蹄類】275 イウテイルイ 蹄の有るものに屬する動物學上の分類。

【有體】276 イウテイ ❶かたちがある。又、其の物。〔易、繫辭下〕陰陽合レ德、而剛柔有レ體。〔江淹、效二阮公一詩〕有體入二無形一。❷佛ウタイ 形體を具へる物。實體あるもの。❸アリテイ 事實どほり。ありのまま。

【有體物】277 イウタイブツ 人の感官に觸れる物で權利の目的たり得る物。

【有的】278 イウテキ ❶射的。弓を射るまと。有は助詞。〔詩、小雅、賓之初筵〕發二彼有的一、以祈二爾爵一。〔傳〕的、質也。❷yu^3 tê ㋑あります。㋺或る人。或るもの。

【有的事】279 yu^3 tê shih^4 ありがちの事。勿論有るとも。

【有的主兒】280 yu^3 tê chu^3 êrh 金持。金のある人。

【有的沒的】281 yu^3 tê mei^2 tê なにやらかにやら。〔紅樓夢、二十五回〕有的沒的、都在這裡。

【有天】282 イウテン 天をいふ。有は助辭。〔國語、晉語四〕親二有天一用二前訓一。

【有天無日】283 yu^3 tʻien^1 wu^2 jih^4 空に日が無い。途方もないことをいふ。〔紅樓夢、三回〕他嘴裡一時甜言蜜語、一時有天無日。

【有天沒日頭】284 イウテンボツジツトウ 天に日が無い。出鱈目なことをいふ。〔七修類稿〕眞个有天沒日頭、宋神童詩也。

【有典】285 イウテン 常の道。人の常性。有は助辭。〔書、皐陶謨〕天敍二有典一、敕二我五典一、五惇哉。〔傳〕天次二敍人之常性一。

【有土】286 イウド 國をたもつ。又、其の國君。〔書、皐陶謨〕達二于上下一、敬哉有土。〔蔡傳〕有土、有二民社一也。〔墨子、尙賢下〕於來有國有土。〔史記、外戚世家〕非二王侯有土之士女一、不レ可三以配二人主一也。

【有土之君】287 イウドノキミ 國君をいふ。〔逸周書、芮良夫解〕觀二天下有土之君一。〔莊子、漁父〕又問曰、有土之君與。〔管子、五輔〕今有土之君、皆處欲レ安。〔白虎通、社稷〕王者諸侯俱兩社何、俱有土之君。

【有渡】288 ウド 駿河國の郡名。

【有動】289 ウドウ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【有得】290 イウトク ❶得る所がある。〔史記、天官書〕五星皆從二太白一而聚二乎一舍一、其下之國可二以レ兵從二天下一、居レ實有レ得也、居レ虛無レ得也。〔南史、陶潛傳〕開レ卷有レ得、便欣然忘レ食。〔張子、正蒙〕晝有レ爲宵有レ得、息有レ養瞬有レ存。❷トウトク 富裕なこと。有福。分限。有德。

【有德】291 イウトク ❶道德ある人。〔書、皐陶謨〕天命二有德一、五服五章哉。〔周禮、春官、大司樂〕凡有道者有德者、使レ教焉。〔注〕德、能躬行者。〔禮、樂記〕禮樂皆得、謂二之有德一、德者得也。〔孟子、告子下〕尊レ賢育レ才、以彰二有德一。〔逸周書、王會解〕戴レ仁抱レ義、掖レ信歸二有德一。〔韓非子、解老〕德無レ舍則不レ全、用レ之思レ之則不レ固、不レ固則無レ功、無レ功則生二有德一。〔管子、形勢〕錯二國於不レ傾之地一者授二有德一也。〔史記、樂書〕經二萬里一兮歸二有德一。〔新書、數寧〕禮祖二有功一宗二有德一。〔漢書、董仲舒傳〕異二貴賤一而勸二有德一也。❷德がある。〔老子、三十八〕上德不レ德、是以有レ德。❸トウトク 富裕なこと。有得の❷に同じ。

【有德公】292 イウトクコウ 德川吉宗の諡號。

【有德者】293 イウトクシヤ 德のある者。〔論語、憲問〕有レ德者必有レ言。〔淮南子、繆稱訓〕有レ德者受二吾爵祿一。〔漢書、公孫弘傳〕有レ德者進。

【有毒】294 イウドク 害毒がある。〔左氏、僖、二十二〕君其無レ謂二邾小一、蜂蠆有レ毒、而況國乎。

【有姙】295 イウニン 孕む。有身。〔後漢書、獻帝伏皇后紀〕帝以二貴人有一レ姙、累爲請不レ能レ得。〔注〕說文曰、姙、孕也。

【有年】296 イウネン ❶五穀が皆熟する。有秋。豐年。〔書、多士〕爾厥有レ幹二有レ年三于茲洛一。〔詩、小雅、甫田〕食二我農人一、自レ古有レ年。〔春秋、桓、三〕有レ

年。〔杜注〕五穀皆熟、書レ有レ年。〔春秋、宣、十六〕冬、大有レ年。❷幾年もたつ。數年。〔陶潛、移レ居詩〕懷レ此頗有レ年、今日從二茲役一。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕海内之士、聞二下風一而望二餘光一者、蓋亦有レ年矣。❸字號。㋑明、薛穰(**9**－**32123**‥72)の字。㋺明、田登(**7**－**21723**‥241)の字。㋩清、西成(**10**－**34763**‥360)の字。❹（ネウ）播磨國の地名。

【有能】297（イウノウ）　才能のある者。〔禮、禮器〕是故昔先王尚二有德一、尊二有道一、任二有能一。

【有馬】298（アリマ）　攝州の地名。

〖有馬草〗299（アリマサウ）　草の名。ありまらん。うちやうらん。〔和漢三才圖會、濕草類〕有馬草、攝州有馬多有レ之、故名、有馬草高尺許、葉似二初生椶櫚葉一而小、二三月抽レ莖開二黃花一、形略似二蘭花一而不レ香。

【有肺】300（イウハイ）　動物中で肺臟を有するもの。

【有方】301（イウハウ）　❶四方をいふ。有は助辭。〔書、多方〕猷告二爾有方多士、暨殷多士一。〔國語、鄭語〕求二財於有方一。〔注〕使下各以二其方賄一來上、方之所レ無則不レ貢也。❷道にかなつた行。有道。〔莊子、人間世〕與レ之爲二有方一、則危二吾身一。〔釋文〕李云、方、道也。❸常がある。きまつた場所がある。一定の方角がある。〔論語、里仁〕父母在、不二遠遊一、遊必有レ方。〔集解〕鄭玄曰、方、猶レ常也。〔集注〕遊必有レ方、如三已告云レ之東、卽不二敢更適一レ西。

〖有方之士〗302（イウハウノシ）　禮を守る人。有道の士。〔禮、經解〕是故隆レ禮由レ禮、謂二之有方之士一。〔史記、禮書〕法レ禮足レ禮、謂二之有方之士一。

【有邦】303（イウハウ）　邦をいふ。有は助辭。〔書、皋陶謨〕無レ教二逸欲有邦一。

【有望】304（イウバウ）　❶のぞみがある。見こみがある。〔左氏、成、九〕先君猶有レ望也。〔左氏、昭、十六〕宣子曰、孺子善哉、吾有レ望矣。❷遠くを望む。〔中庸〕遠レ之則有レ望、近レ之則不レ厭。〔宋玉、神女賦〕近レ之既妖、遠レ之有レ望。❸明、許鳴遠(**10**－**35298**‥395)の字。

【有卑】305（イウヒ）　地名。有庳に同じ。〔集韻〕卑、有庳、國名、象所レ封、或作レ卑。

【有尾】306（イウビ）　尾の有るもの。

〖有尾類〗307（イウビルイ）　動物學上の分類の名。兩棲類中の尾の有るもの。

【有庳】308（イウビ）　古の地名。舜が其の弟象を封じた處。湖南省道縣の北。又、有卑・有鼻に作る。〔孟子、萬章上〕象至不仁、封二之有庳一。〔白虎通、封公侯〕舜封二弟象有庳之野一也。〔文獻通考、封建考、周封建之制〕有庳、舜封レ象、使三吏治二其國一、而納二其貢稅一、有庳在二今道州一。

【有眉】309（イウビ）　清、許友(**10**－**35298**‥4)の一名。

【有鼻】310（イウビ）　地名。舜が象を封じたところ。有庳。〔漢書、昌邑哀王劉髆傳〕舜封二象於有鼻一。〔注〕師古曰、有鼻、在二零陵一、今鼻亭、是也。〔水經、湘水注〕應水又東南流逕二有鼻墟南一、王隱曰、應陽縣本泉陵之北部、東五里有鼻墟、言二象所レ封也。

【有駜】312（イウヒツ）　詩經、魯頌、駉之什の篇名。僖公の君臣に道あることを頌した詩。〔詩、魯頌、有駜序〕有駜、頌二僖公君臣之有一レ道也。

【有馮】313（イウヒヨウ）　よるところがあること。〔詩、大雅、卷阿〕有レ馮有レ翼、有レ孝有レ德。〔南史、謝弘微傳論〕易云、積善之家必有二餘慶一、弘微立履、所レ蹈人倫、播二美其世一、濟不レ隕、蓋有レ馮焉。

【有緡】314（イウビン）　夏の時の國名。桀王に滅ぼさる。今、山東省金鄕縣に東緡の故城がある。〔左氏、昭、十一〕桀克二有緡一以喪二其國一。

【有夫】315（イウフ）　❶男をいふ。〔左氏、襄、十〕有夫出征、而喪二其雄一。❷夫（ヲット）をもつ。〔古樂府、陌上桑〕使君自有レ婦、羅敷自有レ夫。

〖有夫姦〗316（イウフカン）　有夫の婦人が他の男と姦通すること。

【有孚】317（イウフ）　明、馮顒(**12**－**44579**‥45)の字。

【有溥】318（イウフ）　清、康廣仁(**4**－**9376**‥173)の名。

【有福】319（イウフク）　❶さいはひのあること。〔易、泰〕勿レ恤二其孚一、于レ食有レ福。〔左氏、僖、十三〕救レ災恤レ鄰道也、行レ道有レ福。❷財産に富み、ゆたかに生活すること。有得。

〖有福同享〗320 yu^3 fu^2 tʻung^2 hsiang^3　福あれば共に受ける。

【有分】321（イウブン）　❶わけまへがある。〔左氏、昭、十二〕四國皆有レ分、我獨無レ有。❷區別がある。〔莊子、齊物論〕有レ倫有レ義、有レ分有レ辯。〔注〕羣分而類別也。❸職分がある。〔禮、禮運〕男有レ分、女有レ歸。〔注〕分、職也。

【有苗】322（イウベウ）　古の南方の蠻族。三苗をいふ。有は助詞。〔書、大禹謨〕惟時有苗弗レ率、汝徂征。〔傳〕三苗之民、數干二王誅一。〔文獻通考、封建考、周封建之制〕有苗氏、縉雲氏之後、作二五虐之刑一、殺二戮無一レ事、堯遏二絕其世一、舜攝レ政、放二之於三危一、又命レ禹徂征、七旬而格。

【有辯】323（イウベン）　區別がある。〔莊子、齊物論〕有レ分有レ辯。

【有朋】324（イウホウ）　朋友がある。〔論語、學而〕有レ朋自二遠方一來、不二亦樂一乎。

【有北】325（イウホク）　北方の寒冷で不毛の地をいふ。有は助辭。〔詩、小雅、巷伯〕豺虎不レ食、投二畀有北一。〔疏〕以下北方太陰之氣、寒涼而無二土毛一、不レ生二草木一、寒凍不上レ可二居處一、故棄二於彼一、欲三凍二殺之一。〔拾遺記、一、高辛〕軒轅去二蚩尤之凶一、遷二其民善者於鄒屠之地一、遷二惡者於有北之鄕一。

【有僕】326（イウボク）　明、姚奇允(**3**－**6202**‥145)の字。

【有本】327（イウホン）　❶根本がある。〔禮、禮器〕先王之立レ禮也、有レ本有レ文、忠信禮之本也、義理禮之文也。〔孟子、離婁下〕原泉混混、不レ舍二晝夜一、盈レ科而後進、放二乎四海一、有レ本者如レ是。❷字號。㋑明、崔源(**4**－**8178**‥73)の字。㋺明、祝瀾(**8**－**24672**‥116)の字。

【有米】328（アリマイ）　ありあひの米。現米。

【有民】329（イウミン）　民をいふ。有は助詞。〔書、益稷〕予欲三左二右有民一。

【有亡】330（イウム）　有無に同じ。〔禮、檀弓上〕稱二家之有亡一。〔韓愈、唐故相權公墓碑〕未三嘗問二有亡一。

【有無】331（イウム）　❶あることとないこと。あるなし。〔書、益稷〕懋遷二有無一化レ居。〔左氏、僖、二十一〕務レ穡勸レ分。〔注〕勸レ分有無相濟。〔墨子、明鬼下〕鬼神有無之別。〔鹽鐵論、本義〕通二有無之用一。〔班固、東都賦〕窮二覽萬國之有無一。❷佛（ムウ）有に執着する謬見と無に執着する謬見。〔十卷楞伽經、五〕邪見論二生法一、妄想計二有無一。❸（ムウ）いやおう。諾否。

〖有無相生〗332（ウムアヒシヤウズ）　有と無とが相互に生ずること。有があつて無があること。相對的關係をいふ。〔老子、二〕有無相生、難易相成。

〖有無相通〗333（ウムアヒツウズ）　あるものとないものとがお互に融通し合ふ。〔拙堂文集、題二管鮑行賈圖一〕然諾相信、有無相通、取レ之不レ疑、與レ之不レ吝。

〖交二易有無一〗334（イウムヲカウエキス）　彼我兩者の閒で互に其の餘りある物を各〻其の無い物と取り易へること。〔史記、越世家〕此天下之中、交二易有無一之道通、爲レ生可二以致一レ富矣。〔管子、小匡〕以二其所一レ有、易二其所一レ無、買レ賤鬻レ貴。

【有名】335（イウメイ）　❶なだかい。著名。有名之士を見よ。〔管子、版法〕爵二貴有名一以休レ之。❷名義だけ存する。有名無實を見よ。❸名のあるもの。天地をいふ。天地の道を無名といふの對。有名萬物之母(339)を見よ。

〖有名之士〗336（イウメイノシ）　名高い人。〔史記、鄭當時傳〕天下有名之士也。〔漢書、平帝紀〕有名之士、則以爲レ難レ保。

〖有名亡實〗337（イウメイムジツ）　有名無實に同じ。〔漢書、循吏、黃霸傳〕澆レ淳散レ樸、並行二僞貌一、有レ名亡レ實。

〖有名無實〗338（イウメイムジツ）　❶名前のみ美しくて實質が伴はない。〔國語、晉語八〕宣子曰、吾有二卿之名一、而無二其實一。〔吳志、趙達傳〕但有名無實、其精微若レ是。〔陸機、五等諸侯論〕割二削宗子一、有レ名無レ實。〔注〕謂下有二王侯之名一、實無中其國上。〔白居易、才識兼茂明二於體用一科策一道〕厥後相循、有名無實。❷佛（ウミヤウムジツ）假名だけあつて實體のないもの。〔涅槃經〕有レ名無レ實者、如二我衆生乃至旋火輪及名句等五種世法一、是名二世諦一。

〖有名萬物之母〗339（イウメイハバンブツノハハ）　無から生じた有、卽ち天地は萬物を生ずる母である。〔老子、一〕無名天地之始、有名萬物之母。〔全解〕有名者、天地是也、天地生二萬物一、故曰二萬物之母一。

【有命】340（イウメイ）　❶天命のあるもの。王者をいふ。〔書、咸有一德〕監二于萬方一、啓二迪厥有命一。〔書、伊訓〕假二手于我有命一。〔蔡傳〕有命、有二天命一者。❷天命。有は助詞。〔詩、大雅、大明〕天監在レ下、有命既集。〔陸雲、大將軍宴會被レ命作詩〕有命再集、皇輿凱歸。❸宿命論を說くもの。〔墨子、

非命上〕子墨子言曰、執㆓有命㆒者、以雜㆓於民間㆒者衆、執㆓有命㆒者之言曰、命富則富、命貧則貧、命衆則衆、命寡則寡、命治則治、命亂則亂、命壽則壽、命夭則夭、命雖㆓強勁㆒何益哉。

【有明】341 イウミン ㊀明朝をいふ。〔陔餘叢考、有明中葉天子不㆑見㆓羣臣㆒〕前明中葉以後、諸帝罕㆚有㆘與㆓大臣㆒相見㆖者㆙。㊁アリアケ ㋑ありあけの月。ありあけの月ある頃のあかつき。殘月天。又、ありあけの月。〔古今和歌集、十三、戀、三〕有明のつれなく見えし別れより。㋺夜通して夜明に至ること。終夜。㋩よどほしともすあかり。常夜燈。㋥錢十五文をいふ。〔類聚名物考、調度〕。

【有銘】342 アルミ 琉球の地名。

【有樣】343 アリサマ ものごとのなりゆきのさま。おもむき。情態。狀況。

【有門】344 イウモン 明、傳燈(1−1019··196)の字。

【有裕】345 イウユウ 唐、崔圓(4−8178··19)の字。

〖有裕堂〗346 イウユウダウ 宋、向子忞(2−3301··104)の室名。

【有熊】347 イウユウ ㊀黃帝(12−47926··664)の號。〔法言、重黎〕昔在有熊・高陽・高辛・唐虞三代、咸有㆓顯德㆒。〔注〕咸曰、有熊、少典之子黃帝也。㊁古の地名。黃帝の都。今の河南新鄭縣。〔通典、州郡七、滎陽郡〕新鄭祝融之墟、黃帝都㆓于有熊㆒、亦在㆑此也。

〖有熊氏〗348 イウユウシ 黃帝(12−47926··664)の號。

【有融】349 イウユウ 字號。㊀唐、鄭朗(11−39647··273)の字。㊁明、劉煒(2−2224··9)の字。

【有與】350 イウヨ 人の容貌の兩眼・兩耳・兩手・兩足と相並ぶをいふ。〔莊子、養生主〕人之貌有㆑與也。〔注〕兩足共行曰㆓有與㆒。

【有餘】351 イウヨ ㊀或る數より稍〻多いことをあらはすことば。あまりがある。〔詩、小雅、都人士〕匪㆓伊帶㆒㆑之、帶則有㆑餘。〔逸周書、官人解〕色示㆓有餘㆒。〔戰國、齊策〕鄒忌修八尺有餘、而身體昳麗。〔老子、二十〕衆人皆有㆑餘。㊁佛ヨウ 未だ究極まで事理をきはめつくさぬこと。〔勝鬘經〕亦是如來方便、有餘不了義。〔寶窟中末〕有餘者、明㆑義不㆑盡、對㆓盡理之說㆒。

〖損㆓有餘㆒〗352 イウヨヲソンス 餘りあるを減らす。〔老子、七十七〕天之道、損㆓有餘㆒而補㆓不足㆒。〔說苑、指武〕損㆓其有餘㆒、而繼㆓其不足㆒。

〖有餘爲㆑害〗353 イウヨガイトナス あまりあるのを害とする。〔莊子、盜跖〕平爲㆑福、有餘爲㆑害。

〖有餘不足〗354 イウヨフソク あまりあることと足りないこと。〔孫子、虛實〕角㆑之而知㆓有餘不足之處㆒。〔史記、孟嘗君傳〕無㆔以知㆓其有餘不足㆒。

【有用】355 イウヨウ つかひ途がある。やくに立つ。又、入りようである。〔韓非子、外儲說左上〕今世之談也、皆道㆓辯說文辭之言㆒、人主覽㆓其文㆒、而忘㆓有用㆒。〔管子、侈靡〕親左㆓有用㆒。

〖有用處〗356 yu^3 yung^4 ch'u やくに立つ。

〖有用之物〗358 イウヨウノモノ 役に立つ物。〔孔叢子、陳士義〕將以㆓我無用之貨㆒、取㆓其有用之物㆒。

〖有用之用〗359 イウヨウノヨウ 有用なものが役に立つこと。無用之用(7−19113··850)の對。〔莊子、人間世〕人皆知㆓有用之用㆒、而莫㆑知㆓無用之用㆒。

【有容】360 イウヨウ 字號。㊀明、趙德宏(10−37171··814)の字。㊁清、劉乃大(2−2224··1156)の字。

【有勞】361 イウラウ 骨折をする。〔左氏、昭、十二〕昔諸侯遠㆑我而畏㆑晉、今我大城㆓陳蔡不羹㆒、賦皆千乘、子與有㆑勞焉、諸侯其畏㆑我乎。

【有洛】362 イウラク 洛水をいふ。有は助辭。〔書、五子之歌〕畋㆓于有洛之表㆒。

【有利】363 イウリ 利益がある。〔鹽鐵論、國病〕大夫難㆑罷㆓鹽鐵㆒者、非㆑有㆑利也、憂㆓國家之用、邊境之費㆒也。

〖有利不思本〗364 yu^3 li^4 pu^4 ssŭ^1 pen^3 金を貸す人は借手が利息さへ納めて居れば、元金を催促することはせぬ。

【有理】365 yu^2 li^3 理由がある。わけがある。

〖有理式〗366 イウリシキ 根號を含まぬ代數式。無理式(7−19113··877)の對。

〖有理數〗367 イウリスウ 整數又は分數の稱。無理數(7−19113··878)の對。

〖有理整式〗368 イウリセイシキ 根號を含まぬ整式。

〖有理分數〗369 イウリブンスウ 根號を含まぬ分數。

【有立】370 イウリツ 明、兪貞木(1−1437··125)の字。

【有力】371 イウリヨク ㊀ちからがある。腕力がある。〔詩、邶風、簡兮〕有㆑力如㆑虎。〔老子、三十三〕勝㆑人者有㆑力、自勝者強。〔莊子、大宗師〕夜半有㆑力者、負㆑之而走。〔墨子、兼愛中〕可㆑謂㆓畢勁有力㆒矣。㊁勢力又ははたらきがある。〔漢書、外戚上、高祖薄姬傳〕魏氏有力。㊂己の刑を贖ふ資力のある者。〔福惠全書、刑名、問擬、釋㆓笞杖徒流決贖不㆑同〕饒裕之家、謂㆓之有力㆒、照㆑例贖㆑罪、折㆑銀上㆑庫、如㆓笞一十㆒、贖銀二錢五分、米則五斗。㊃確かな見込がある。

〖有力者〗372 イウリヨクシヤ りきりやうのある者。又、勢力のある人。〔呂覽、恃君〕有力者賢、暴傲者尊。〔韓愈、應㆓科目㆒時與㆑人書〕有力者哀㆓其窮㆒、而轉㆓運之㆒。

【有倫】373 イウリン ㊀常あること。刑罰のみだれぬこと。〔書、康誥〕司㆑師、茲殷罰有㆑倫。〔傳〕殷家刑罰有㆓倫理㆒。〔書、呂刑〕刑罰、世輕世重、惟齊非㆑齊、有㆑倫有㆑要。〔蔡傳〕有㆑倫有㆑要者、法之經也、云云、至㆓其倫要所㆒㆑在、蓋有㆓截然而不㆑可㆑紊者㆒矣。㊁道理あること。理論あること。〔莊子、齊物論〕有㆑倫有㆑義。〔注〕物物有㆑理。〔疏〕倫、理也、羣物糾紛有㆓理存㆒焉。㊂たぐひあること。萬物の分別あるをいふ。有倫生㆓於無形㆒を見よ。㊃明、毛倫(6−16772··239)の字。

〖有倫生㆓於無形㆒〗374 イウリンムケイニシヤウズ 形質を具へた萬物は無形の自然から生ずる。〔莊子、知北遊〕有倫生㆓於無形㆒、精神生㆓於道㆒。〔疏〕倫、理也、人倫有爲之事、生㆓於無形之內㆒。

【有輪】375 ウリン 佛生死の輪廻。有は生死の果報。輪は其の旋轉して極りのないのを車輪に譬へたもの。〔嘉祥仁王經疏、三〕發㆓一念菩提心㆒、故破㆓無始有輪㆒。

【有鄰】376 イウリン 同類のものが集つて來ること。〔論語、里仁〕子曰、德不㆑孤、必有㆑鄰。

【有零】377 イウレイ はした。有餘(351)の㊀に同じ。〔福惠全書、編審部、開報冊單〕徵銀三錢三分有零。

【有黎】378 イウレイ 顓頊の子の祝融をいふ。有は助辭。〔後漢書、張衡傳〕睹㆓有黎之圮墳㆒。〔注〕黎、顓頊之子祝融也。

【有禮】379 イウレイ ㊀禮儀がある。又、禮を堅く執りまもるもの。〔書、皋陶謨〕天秩㆓有禮㆒。〔左氏、桓、十八〕申繻曰、女有㆑家、男有㆑室、無㆓相瀆㆒也、謂㆓之有禮㆒。〔左氏、閔、元〕親㆓有禮㆒。〔國語、周語上〕樹㆓於有禮㆒。〔孔叢子、記義〕於㆓鹿鳴㆒見㆓君臣之有禮㆒也。㊁yu^2 li^3 慇懃。禮義が堅い。

【有料】380 イウレウ 料金がいる。無料(7−19113··909)の對。

【有僚】381 イウレウ 官職。役人。有は助辭。〔書、洛誥〕伻㆘嚮㆓卽有僚㆒、明作㆑有功、惇大成㆖裕。〔傳〕當㆑使㆔臣下各嚮㆓就有官㆒。

【有漏】382 イウロウ ㊀こはれて物の漏ること。〔剪燈餘話、武平靈怪錄〕有漏從教老㆓歲華㆒。㊁佛ロウ 煩惱。煩惱中に迷つて、悟を開かぬ凡夫の境涯。漏は煩惱。有漏道。有漏路。〔俱舍論、一〕說㆓一切法㆒略有㆓二種㆒、謂㆓有漏無漏㆒。

【有祿】383 イウロク 祿秩を有するもの。〔越絕書、越絕請糴內傳〕吳王率㆔其有祿與㆓賢良㆒、遯而去。

〖有祿人〗384 イウロクジン 清代、官俸每月一石以上のものをいふ。〔淸會典事例、刑部、刑律受贓〕有祿人。〔注〕凡月俸一石以上者。

【有王】385 イウワウ 王をいふ。有は助辭。〔書、召誥〕有王雖㆑小、元子哉。

【難㆑有】386 アリガタシ ㊀珍しい物で容易にないこと。〔魏書、成淹傳〕淹才詞、便爲㆑難㆑有。㊁かたじけない。恐れ多い。勿體ない。

【有有娘】387 イウイウヂヤウ 情にあつく容貌の良い女。有情有色の略。〔淸異錄、釋族、無無老〕沙門受英、住㆓池陽村刹㆒、示㆑人語曰、萬論千經、不㆑如㆓無念無營㆒、時郡娼婦滿瑩娘、多㆑姿而富㆑情、眞妓女中麟鳳、進士湯振祖、以㆓無念無營有情有色㆒製㆓一聯㆒云、門前草滿無無老、床底錢多有有娘。

【有一天】388 yu^3 i^4 t'ien^1 或る日。

【有嘉堂】389 イウカダウ 明、謝少南(10−35827··309)の室名。

【有懷堂】391 イウクワイダウ 室名。㊀清、韓菼(12−43159··18)の室名。㊁清、田肇麗(7−21723··405)の室名。㊂清、王永命(7−20823··1181)の室名。

【有獲齋】392 イウクワクサイ 清、李道平(6−14459··1687)の號。

【有垢眞如】393 ウコウシンニヨ 佛衆生はもともと眞如の實性を具へてゐるが煩惱に覆はれてあらはれない、これをいふ。煩惱に覆はれてあらはれな

い眞如實性。〔大乘止觀〕。

【有管類】394（イウクワンルイ） 動物學用語。輭體動物中、瓣鰓類の一目。

【有爪類】395（イウサウルイ） 動物學用語。節足動物中の一類。

【有巢氏】396（イウサウシ） 上古の聖人。人に居處の法を教へ禽獸の害を避けしむ。又、大巢氏に作る。〔韓非子、五蠹〕上古之世、人民少而禽獸衆、人民不レ勝二禽獸蟲蛇一、有二聖人作一、構レ木爲レ巢、以避二羣害一、而民悅レ之、使レ王二天下一、號曰二有巢氏一。〔古三墳書〕有巢氏生俾下人居二巢穴一、積二鳥獸之肉一、聚中草木之實上、天下九頭咸歸二有巢一。〔路史、禪通紀〕有巢氏、駕二六龍一、從二日月一、是曰二古皇一。

【有始覽】397（イウシラン） 呂氏春秋の篇名。八覽の一。有始・應同・去尤・聽言・謹聽・務本・諭大の七篇に分る。

【有羞僧】398（ウシウソウ） 佛未だ得道しない僧。〔大智度論〕持戒不レ破、身口清淨、能別二好醜一、未レ得レ道、是名二有羞僧一。

【有日子】399 yu^3 jih^4 tzŭ 日が定まる。

【有奬券】400 yu^2 chiang^3 chʻüan^4 景品付の債券・證券など。

【有若レ無】401（アレドモナキガゴトシ） 內に智德を藏してゐても外見は無いやうに裝うてみせびらかさぬ。才德を誇らぬをいふ。〔論語、泰伯〕曾子曰、以レ能問二於不能一、以レ多問二於寡一、有若レ無、實若レ虛、犯而不レ校、昔者吾友嘗從二事於斯一矣。

【有主物】402（ウシユモツ） 佛確定した所有主のある物。〔資持記、中、一之四〕。

【有所思】403（イウシヨシ） 漢の鐃歌の名。十八曲の一。悲絕の辭。作者未詳。又、漢の太樂食擧第七曲にも之を用ひてゐる。齊の王融、梁の劉繪の作は離思を述べ、南朝宋の何承天の作は思親の情を述ぶ。其の他、梁の武帝・簡文帝・昭明太子・庾肩吾・沈約、陳の後主・顧野王、唐の李白・韋應物等に歌辭がある。〔樂府詩集、鼓吹曲、漢鐃歌、有所思〕樂府解題曰、古詞言、有レ所レ思、乃在二大海南一、何用問二遺君一、雙珠玳瑁簪、聞君有二他心一、燒レ之、當レ風揚二其灰一、從レ今已往、勿二復相思一、而與レ君絕レ世、按、古今樂錄、漢太樂食擧第七曲、亦用レ之、不レ知二與レ此同否一、若二齊王融如何有所思、梁劉繪別離安可再一、但言二離思一而已、宋何承天有所思篇曰、有レ所レ思、思二昔人一、曾閔二二子善養レ親、則言下生罹二荼苦一、哀中慈親之不上レ得レ見也。〔古樂府、有所思〕有レ所レ思、乃在二大海南一、何用問二遺君一、雙珠瑇瑁簪、用レ玉紹二繚之一、聞君有二他心一、拉雜摧二燒之一、摧二燒之一、當レ風揚二其灰一、從レ今以往、勿二復相思一、相思與レ君絕、鷄鳴狗吠、兄嫂當レ知レ之、妃呼レ豨、秋風肅肅晨風颸、東方須臾高知レ之。

【有親的】404 yu^3 chʻin^1 tê 血族の。同族の。親族の。

【有是有】405 yu^3 shih yu^3 あることはある。有るには有るが。

【有世界】406（ウノセカイ） 佛欲界・色界・無色界の三界をいふ。卽ち悟りの世界に對して此の世をいふ。

【有栖川】407（アリスガハ） 姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【有足蛇】408（イウソクダ） 蜥蜴。又やもりの類。蠍虎。〔蘇軾、蠍虎詩〕跂跂有足蛇、脈脈無角龍。

【有袋類】409（イウタイルイ） 動物學上の分類の名。腹部に育兒の袋及び乳房ある哺乳類。

【有竹居】410（イウチクキヨ） 明、沈貞吉(**6－17189**‥608)の室名。

【有直香】411（アマカ） 和泉國の地名。

【有肚子】412 yu^3 tu^4 tzŭ 懷妊した。

【有頭緒】413 yu^3 tʻou^2 hsü 筋道がある。

【有難淚】414（アリガタナミダ） 嬉しさの餘り出る淚。感淚。

【有肺類】415（イウハイルイ） 動物學用語。輭體動物中、腹足類の一目。

【有髮僧】416（ウハツソウ） かみをそらない僧。〔客越志〕寺屋盡傾、惟一有髮僧在、飲酒數杯而下、問二大慈路一。

【有斐齋】417（イウヒサイ） 皆川愿の號。皆川淇園(**8－22699**‥28)を見よ。

【有部宗】418（ウブシユウ） 佛宗名。小乘宗の一。有爲無爲の一切法を盡く立てて實有となす。故に說一切有部といふ。〔宗翰論述記〕。

【有吻類】419（イウフンルイ） 動物學上の分類の名。細長い口器を有する昆蟲類。

【有沒有】420 yu^3 mei^2 yu ㊀有るか。㊁持つか。㊂居るか。

【有味兒】421 yu^3 wei^4 êrh 風味がある。匂ひがある。

【有樂流】422（イウラクリウ） 織田信長の弟、有樂齋長益の創めた茶道の一派。

【有話說】423 yu^3 hua^4 shuo^1 話すことがある。用向がある。

【有一得三】424 yu^3 i^1 tê^2 san^1 一つの事を尋ね出して同時に三つの事が分つた。一つの事から段々と手がかりがついた。

【有一無二】425 yu^3 i^1 wu^2 êrh^4 一つあつて二つと無い。

【有嘉樹軒】426（イウカジユケン） 淸、王藻(**7－20823**‥428)の室名。

【有求必應】427 yu^3 chʻiu^2 pi^4 ying^4 神の靈驗を頌する語。

【有賺無賠】428 yu^3 chuan^4 wu^2 pʻei^2 利益があつて損がない。丸儲け。

【有言在先】429 yu^3 yen^2 tsai^4 hsien^1 先に言つておいた。

【有厚無厚】430（イウコウムコウ） 極めて厚いものは厚薄を云ふことができないから、厚さの無いのと異らない。故に有厚と無厚とはもと同じであるといふ詭辯論。〔荀子、脩身〕夫堅白同異、有厚無厚之察、非レ不レ察也。〔注〕莊子又曰、無厚不レ可レ積也、其大千里、無厚謂二厚之極一、不レ可レ爲二厚薄一也、不レ可レ積、言二其委積至多、不一レ可二復積一、凡無厚不レ可レ積、因二於有厚可一レ積、故得二其大千里一、千里者、擧二大之極一也。

【有根有梢】431 yu^3 ken^1 yu^3 shao^1 根柢がある。本末整つた。

【有財餓鬼】432（ウザイガキ） 佛餓鬼の一種。一は多財餓鬼といひ、祭祀等の食物及び棄てられた食を喰ふもの。二は小財餓鬼といひ、膿血等を食ふもの。〔三界義〕。

【有曹之智】433（イウサウノチ） 魯の曹沫が柯の會で匕首を執つて齊の桓公を劫かし、其の侵地を魯に歸させた故事。曹沫(**5－14297**‥181)を見よ。〔史記、刺客、曹沫傳〕曹沫者魯人也、以二勇力一事二魯莊公一、莊公好レ力、曹沫爲二魯將一與レ齊戰、三敗北、魯莊公懼、乃獻二遂邑之地一以和、猶復以爲レ將、齊桓公許與レ魯會二於柯一而盟、桓公與二莊公一既盟二於壇上一、曹沫執二匕首一劫二齊桓公一、桓公左右莫二敢動一、而問曰、子將二何欲一、曹沫曰、齊強魯弱、而大國侵レ魯亦以甚矣、今魯城壞卽壓二齊境一、君其圖レ之、桓公乃許盡歸二魯之侵地一、既已言、曹沫投二其匕首一、下レ壇北面就二羣臣之位一、顏色不レ變、辭令如レ故、桓公怒欲レ倍二其約一、管仲曰、不可、夫貪二小利一以自快、棄二信於諸侯一、失二天下之援一、不レ如レ與レ之、於レ是桓公乃遂割二魯侵地一、曹沫三戰所レ亡地、盡復予レ魯。

【有象無象】434（ウザウムザウ） ㊀形のあるもの、ないものすべてをいふ。萬物。㊁數多いだけで役に立たぬもの。

【有產階級】435（イウサンカイキフ） 地主や資本家等、資產のある階級。財產があつて勞働の要なく、ゆたかな生活を營む上流階級。無產階級(**7－19113**‥340)の對。

【有枝添葉】436 yu^3 chih^1 tʻien^1 yeh^4 枝に葉を添へる。話などを殊更に大げさにする。尾にひれをつける。

【有滋有味】437 yu^3 tzŭ^1 yu^3 wei^4 滋味ある。旨味ある。

【有償契約】438（イウシヤウケイヤク） 當事者雙方が利益を受くべき契約。無償契約の對。

【有眞意齋】439（イウシンイサイ） 淸、潘世恩(**7－18236**‥183)の號。

【有甚不像】440 yu^3 shen^2 pu^3 hsiang^4 なんのすかぬと云ふことがあらう。

【有甚麼事】441 yu^3 shen^2 mê shih^4 何用ですか。何事ですか。

【有井進齋】442（アリヰシンサイ） 德島の人。名は範平。號は進齋。明治二十二年五月歿す、年六十。那波鶴峯・岩本贅庵を師とす。官は東京府師範中學教諭。著に論語論文・補標史記評林校がある。

【有鈔主兒】443 yu^3 chʻao^4 chu^3 êrh 金のある相手。

【有專之勇】444（イウセンノユウ） 吳の專諸が吳の公子光のために匕首を魚炙の腹中に置き、王僚を刺殺した故事。專は又、鱄に作る。〔史記、專諸傳〕專諸者

吳堂邑人也、云云、於㆑是公子光謂㆓專諸㆒曰、此時不㆑可㆑失、不㆑求何獲、且光眞王嗣、當㆑立、季子雖㆑來不㆓吾廢㆒也、專諸曰、王僚可㆑殺也、母老子弱、而兩弟將㆑兵伐㆑楚、楚絕㆓其後㆒、方今吳外困㆓於楚㆒而內空、無㆓骨鯁之臣㆒、是無㆓如㆑我何㆒、公子光頓首曰、光之身子之身也、四月丙子、光伏㆓甲士於窟室中㆒、而具㆑酒請㆓王僚㆒、王僚使㆓兵陳㆒自㆑宮至㆓光之家㆒、門戶階陛左右皆王僚之親戚也、夾立侍、皆持㆓長鈹㆒、酒既酣、公子光佯爲㆓足疾㆒入㆓窟室中㆒、使㆘專諸置㆓匕首魚炙之腹中㆒而進㆖之、既至㆓王前㆒、專諸擘㆑魚、因以㆓匕首㆒刺㆓王僚㆒、王僚立死、左右亦殺㆓專諸㆒、王人擾亂、公子光出㆓其伏甲㆒以攻㆓王僚之徒㆒、盡滅㆑之、遂自立爲㆑王、是爲㆓闔閭㆒、闔閭乃封㆓專諸之子㆒以爲㆓上卿㆒。

【有增無減】445 yu^3 tsêng^1 wu^2 chien^3　增しても減ることはない。

【有多麼重】446 yu^3 tuo^1 mê chung^4　どの位の重さがあるか。又、如何に重くともの意。

【有胎盤類】447（イウタイバンルイ）　動物學上の分類の名。胎兒に胎盤ある哺乳類。

【有地之官】448（イウチノクワン）　其の土地を掌る官。〔周禮、秋官、蜡氏〕縣㆓其衣服任器于有地之官㆒。〔注〕有地之官、主㆓此地㆒之吏也。

【有著之款】449（イウチヤクノクワン）　一定の豫算の定める所によつて支辨する經費。〔六部成語、補遺、戶部、有著之款、注解〕言、其款有㆓著落㆒可㆓靠用㆒也。

【有女同車】450（イウヂヨドウシヤ）　詩經、鄭風の篇名。鄭の太子忽が齊と婚せぬことを刺つた詩。一說に、男女淫奔の詩。〔詩、鄭風、有女同車序〕有女同車、刺㆑忽也、鄭人刺㆓忽之不㆑昏㆓于齊㆒、太子忽嘗有㆑功㆓于齊㆒、齊侯請㆑妻㆑之、齊女賢而不㆑取、卒以㆑無㆓大國之助㆒、至㆓於見㆒㆑逐、故國人刺㆑之。〔集傳〕此疑亦淫奔之詩。

【有杕之杜】451（イウテイシト）　詩經、唐風の篇名。晉の武公が孤寡特立して賢を求めぬことを刺つた詩。〔詩、唐風、有杕之杜序〕有杕之杜、刺㆓晉武公㆒也、武公寡特、兼㆓其宗族㆒、而不㆓求㆑賢以自輔㆒焉。

【有條有理】452 yu^3 t'iao^2 yu^2 li^3　條理の正しいこと。立派な理由あるをいふ。

【有等有等】453 yu^2 têng^3 yu^2 têng^3　お待たせして失禮しました。受等受等。

【有頭無尾】454（イウトウムビ）　龍頭蛇尾。〔朱子全書、論語、顏淵〕問、居㆑之無㆑倦、行㆑之以㆑忠、曰、若㆑是有頭無尾底人、便是忠也不㆑久、所㆘以孔子先將㆓箇無倦㆒逼㆗截他㆖。

【有法無法】456（イウハフムハフ）　法のあることと法のないこと。〔史記、太子公自序〕有法無法、因㆑時爲㆑業。

【有孚之辭】457（イウフノジ）　まことのあることば。〔白居易、得戊兄爲㆓辛所㆑殺判〕請聽㆓有孚之辭㆒。

【有聞必錄】458 yu^3 wen^2 pi^4 lu^4　聞いたことは必ず書きつける。

【有耶無耶】459（ウヤムヤ）　どつちつかず。あいまい。ぐずぐず。不分明。〔浮世風呂〕有や無やに行かうといふもんだす。

【有豫之義】460（イウヨノギ）　晉の豫讓が、智伯が己を國士を以て遇したことに感じ、これに報いるために其の讎趙襄子を刺さんとした故事。〔戰國、趙策上〕晉畢陽之孫豫讓、始事㆓范中行氏㆒而不㆑悅、去而就㆓智伯㆒、智伯寵㆑之、及㆔三晉分㆓智氏㆒、趙襄子最怨㆓智伯㆒、而將㆓其頭㆒以爲㆓飲器㆒、豫讓遁㆓逃山中㆒曰、嗟呼、士爲㆓知㆑己者㆒死、女爲㆓說㆑己者㆒容、吾其報㆓智氏之讎㆒矣、乃變㆓姓名㆒爲㆓刑人㆒、入㆑宮塗㆑廁、欲㆔以刺㆓襄子㆒、襄子如㆑廁心動、執㆓問塗者㆒、則豫讓也、刃㆓其杅㆒曰、欲㆘爲㆓智伯㆒報㆖讎、左右欲㆑殺㆑之、趙襄子曰、彼義士也、吾謹避㆑之耳、且智伯已死無㆑後、而其臣至㆓爲報㆒㆑讎、此天下之賢人也、卒釋㆑之。

【有蘭書屋】461（イウランシヨヲク）　清、石球(**8**－**24024**··135)の室名。

【有竹莊主人】462（イウチクサウシユジン）　明、沈周(**6**－**17189**··185)の號。

【有話說下】463 yu^3 hua^4 shuo^1 hsia^4　御用あらば仰せられよ。

【有髮頭陀寺】464（イウハツヅダジ）　太學をいふ。宋代、太學が極めて質素であつたので、之を清苦に甘んずる僧寺に比して稱した語。〔鶴林玉露、人、無官御史〕太學古語云、有髮頭陀寺、無官御史臺、言㆓其清苦而鯁亮㆒也、嘉定間、余在㆓太學㆒聞㆓長上同舍㆒言、乾淳間齋舍質素、飲器止㆓陶瓦㆒、棟宇無㆑設㆑飾、近時諸齋亭榭簾幙、競爲㆓靡麗㆒、每㆓一會飲㆒、黃白錯落、非㆓頭陀寺比㆒矣、國有㆓大事鯁論㆒、間發㆓言侍從之所㆒㆑不㆓敢言㆒、攻㆓臺諫之所㆒㆑不㆓敢攻㆒、由㆑昔迄㆑今偉節相望、近世以來非㆑無㆓直言㆒、或陽爲㆓矯激㆒、或陰有㆓附麗㆒、亦未㆑能㆔純然如㆓古之眞御史㆒矣、余謂、必甘㆓清苦㆒如㆓老頭陀㆒、乃能據㆓鯁亮㆒如㆓眞御史㆒。

【有了邊兒了】465 yu^3 la pien^1 êrh la　端緒がついた。見込みがついた。

【有了置沒了棄】466 yu^3 la chih^4 mei^2 la ch'i^4　金があれば家や田地を買ひ、無くなれば賣り飛ばす。

三畫

【朲】14333　フク　服(**5**－**14345**)の古字。〔說文〕服、朲、古文服从㆑人。

【⿵冂月】14334　ワイ　〔篇海〕烏賄切　賄

はく。〔篇海〕⿵冂月、吐也。

參考　肉部の⿵冂月(**9**－**29258**)とは別字。

【⿰几月】14335　キ　期(**5**－**14378**)に同じ。〔正字通〕⿰几月、同㆑期。

【⿰丌月】14336　キ　期(**5**－**14378**)に同じ。〔集韻〕期、或作㆑⿰丌月。

【⿱亓月】14337　キ　期(**5**－**14378**)に同じ。〔集韻〕期、或作㆑⿱亓月。

四畫

【⿰凶月】14338　バウ　朢(**5**－**14391**)に同じ。〔六書故〕⿰凶月、同㆓望・朢㆒。

【朊】14339　ゲン　グワン　〔玉篇〕虞遠切　阮

月光のかすかなこと。〔篇海〕朊、月光微也。

參考　肉部の朊(**9**－**29286**)とは別字。

【朋】14340　ホウ　ボウ　〔集韻〕蒲登切　蒸　ㄆㄥˊ　p'êng^2

❶**とも。**㋑友だち。倗(**1**－**772**)に通ず。〔說文通訓定聲〕朋、實叚借爲㆑倗、倗者、俌也、故爲㆓朋友㆒、爲㆓朋黨㆒。㋺あひ弟子。同師同門の閒柄。〔周禮、地官、大司徒〕五曰、聯㆓朋友㆒。〔注〕同師曰㆑朋。〔公羊、定、四〕朋友相衞。〔注〕同門曰㆑朋。〔論語、學而〕有㆑朋自㆓遠方㆒來。〔皇疏〕同處㆓師門㆒曰㆑朋。㋩くみ。なかま。つれ。〔易、兌〕君子以㆓朋友㆒講習。〔虞注〕同類爲㆑朋。〔書、洛誥〕孺子其朋。〔傳〕少子愼㆓其朋黨㆒。〔楚辭、離騷〕世並擧而好㆑朋兮。❷**たぐひ。**〔廣雅、釋詁三〕朋、比也、類也。〔易、損〕或益㆓之十朋之龜㆒。〔侯注〕朋、類也。〔詩、唐風、椒聊〕碩大無㆑朋。〔傳〕朋、比也。❸**むれる。**むらがる。〔書、益稷〕朋㆓淫于家㆒。〔傳〕朋、羣也。〔山海經、北山經〕羣居而朋飛。〔注〕朋、猶㆑輩也。❹**對のもの。**組のもの。㋑三卿。〔詩、魯頌、閟宮〕三壽作㆑朋。〔箋〕作㆑朋、三卿也。㋺羣臣。〔詩、大雅、

假樂〕燕及二朋友一。〔傳〕朋友、羣臣也。㊇三鳥。〔禽經〕一鳥曰レ隹、二鳥曰レ雔、三鳥曰レ朋。㊁兩樽。〔詩、豳風、七月〕朋酒斯饗。〔傳〕兩樽曰レ朋。❺**たから**。錢。古は五つ、又は一對の貝を單位としていふ。〔易、損〕或益二之十朋之龜一。〔崔憬注〕雙貝曰レ朋。〔詩、小雅、菁菁者莪〕錫二我百朋一。〔箋〕古者貨貝五貝爲レ朋。❻**組合**。小部落。〔晉書、地理志上〕在昔帝堯、協二和萬邦一、制二八家一爲レ鄰、三鄰爲レ朋、三朋爲レ里。❼**神鳥の一**。鳳(**12－46671**)の古字。說文は𠕁に作る。〔說文〕鳳、𠕁、古文鳳、象形、鳳飛、羣鳥從已レ萬數、故已爲二朋黨字一。❽**姓**。〔奇姓通〕朋水、永嘉人、淳祐閒安遠知縣。

解字 象形。鳳鳥の變。その貌にかたどる。鳳鳥飛べば羣鳥が從ふことから、朋黨の字義とするといふ。一說に、倗の字に假借し、倗は俌、卽ち朋友の義に用ひるといふ。〔說文通訓定聲〕朋、神鳥也、从レ鳥凡聲、朋、古文鳳、象形、鵬亦古文鳳、象形、又从レ鳥、云云、愚按、據二許書一實叚借爲二倗字一、倗者、俌也、故爲二朋友一爲二朋黨一。▽

（甲骨文）象形。數個の貝を絲で貫き並列した形に象る。

參考 字の說に種々あつて、二つの月が照らし合ふのだとも、二つの肉が相寄るのだとも、又、二つの貝の寄つたのだともいひ、又、鳳の古字で、月・肉・舟に關係がないから、斜めに朋とするのがよいなどともいふ。〔字彙〕本作レ𠕁、象二鳳飛之形一、隸變作レ朋、非レ月、非レ月、非レ月、故斜書レ之。

【朋愛】1 ホウアイ 愛する友。相愛の友。〔張說、送二李問政河北簡一レ兵詩〕斗酒貽二朋愛一、躊躕出二御溝一。

【朋友】2 ホウイウ ❶とも。ともだち。相弟子。くみのもの。朋は同師同門のとも、友は同志のとも。〔周禮、地官、大司徒〕五曰、聯二朋友一。〔注〕同師曰レ朋、同志曰レ友。〔周禮、地官、司諫〕朋友正二其行一。〔左氏、襄、十四〕士有二朋友一。〔論語、公治長〕願車馬衣輕裘、與二朋友一共敝レ之而無レ憾。〔管子、大匡〕朋友不レ能二相合摎一。〔荀子、大略〕然則賜願息二於朋友一。〔尉繚子、戰威〕卒伯如二朋友一。〔法言、學行〕朋友以磨レ之。❷羣臣をいふ。〔詩、大雅、假樂〕燕及二朋友一。〔傳〕朋友、羣臣也。

【朋友有レ信】3 ホウイウシンアリ 朋友の閒は信を以て相交るのが道である。五倫の一。〔孟子、滕文公上〕聖人有レ憂レ之、使三契爲二司徒一、教以二人倫一、父子有レ親、君臣有レ義、夫婦有レ別、長幼有レ序、朋友有レ信。

【朋友講習】4 ホウイウカウシフ 同志の友が相集つて學問を研究すること。〔易、兌〕麗澤兌、君子以二朋友一講習。

【朋友之服】5 ホウイウノフク 朋友閒に於て着る服。〔孔叢子、記義〕四人者爲レ之服二朋友之服一。

【朋遊】6 ホウイウ ともだち。〔後漢書、朱穆傳論〕志抑二朋游之私一、遂著二絕交之論一。〔杜審言、贈二蘇味道一詩〕輿駕還二京邑一、朋遊滿二帝畿一。

【朋淫】7 ホウイン ❶黨を組んでみだらな事をする。むらがつて淫事を行ふ。〔書、益稷〕朋二淫于家一。〔蔡傳〕朋淫者、朋二比小人一、而淫二亂于家一。❷親近者の閒で淫事を行ふ。〔書、益稷、朋淫、傳〕羣二淫於家一、妻妾亂。〔疏〕羣朋淫二佚於室家之內一。〔史記、夏紀〕朋二淫于家一。〔注〕集解曰、鄭玄曰、朋淫、淫二門內一。〔魏書、江陽王繼傳〕姑姊嫁婦女、朋淫無レ別。

【朋悅】8 ホウエツ あつまりよろこぶ。〔顏延之、赭白馬賦〕乾心降而微怡、都人仰而朋悅。

【朋家】9 ホウカ 家の中で徒黨を組む。〔書、泰誓中〕朋レ家作レ仇、脅權相滅。〔傳〕臣下朋黨、自爲二仇怨一。

【朋海】10 ホウカイ 淸、楊恩壽(**6－15112・・444**)の號。

【朋好】11 ホウカウ 友人のよしみ。又、仲のよい友。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕人神幽明絕、朋好雲雨乖。〔福惠全書、涖任部、待游客〕夙稱二朋好一。

【朋甲】12 ホウカフ 朋黨をいふ。〔畫跋〕孫祖仁出二古圖一、人物衣冠、作二唐士服一、爲二舉子一者七十八人、列二二隊立一、若二相嘲競一、指呼紛紜、衆客不レ喩、余曰、此殆昔朋甲圖也、唐之士子、中世最盛、各立二朋甲一、相二爲敵國一、是圖之設、得レ無レ患レ此耶。

【朋姦】13 ホウカン 黨を組んで惡事をする。〔管子、明法〕外內朋黨、雖レ有二大姦一、其蔽レ主多矣。〔宋史、洪彥昇傳〕遷二殿中侍御史一、論下蔡京敗二壞先朝法度一、朋姦誤上レ國。

【朋義】14 ホウギ ともだちのみち。〔韓維、次韻和三君實寄二景仁一詩〕近觀二敕レ子詩一、尤見二朋義敦一。

【朋舊】15 ホウキウ 朋友。〔張說、餞二唐州高使君一詩〕常時好二閑獨一、朋舊少二相遇一。

【朋銀】16 ホウギン 官兵に供給する馬匹の購入費として、平時官吏の奉餉內から控除する銀。〔淸國行政法〕。

【朋會】17 ホウクワイ 朋友の集會。〔梅堯臣、詩〕飲酒衆所レ嗜、未レ若二朋會樂一。

【朋劫】18 ホウケフ 徒黨の勢を以て上に向かひせまること。〔韓非子、三守〕羣臣持レ祿養レ交、行二私道一而不レ致二公忠一、此謂二朋劫一。

【朋故】19 ホウコ ともだち。故は舊故。〔盧照鄰、贈二益府裴錄事一詩〕停レ弦變二霜露一、對レ酒懷二朋故一。

【朋儕】20 ホウサイ なかま。ともがら。同儕。朋曹。〔禮、曲禮上、在二醜夷一不レ爭、疏〕此一句、明二朋儕禮一也。〔陸倕、爲二息纉一謝三敕二賜朝服一啓〕姻族移レ聽、朋儕改レ矚。〔元稹、幕中諸公徵樂會飮詩〕鈿車迎二妓樂一、銀翰屈二朋儕一。

【朋曹】21 ホウサウ なかま。ともがら。朋儔。朋輩。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕賢良蔽而不レ羣兮、朋曹比而黨譽。〔何遜、聊作百一體詩〕樞機愼二僕隸一、媒孽畏二朋曹一。

【朋執】22 ホウシフ ともだち。執は父執の意。〔盧思道、盧記室誄〕內無二怙恃一、外寡二朋執一。

【朋情】23 ホウジヤウ 朋友を思ふ情。〔謝朓、直二中書省一詩〕朋情以鬱陶、春物方駘蕩。

【朋酒】24 ホウシユ ❶古、鄕飮酒の禮に房戶の閒において賓主に供する兩樽の酒。朋は對の意。〔詩、豳風、七月〕朋酒斯饗、日殺二羔羊一。〔傳〕兩樽曰レ朋。〔疏〕朋者、輩類之言、此言二朋酒一、則酒有二兩樽一、故言二兩樽曰一レ朋。〔集傳〕兩尊曰レ朋、鄕飮酒之禮、兩尊壺于二房戶閒一、是也。❷朋友の會飮すること。〔晉書、陶潛傳〕畜二素琴一張一、絃徽不レ具、每二朋酒之會一、則撫而和レ之。

【朋充】25 ホウジユウ 仲買人許可狀所持者と合資で仲買店を開業すること。〔淸會典事例、刑部、戶律、市廛、私充牙行埠頭〕一、各處關口地方、有二土棍人等一、開立寫船保載等行、合夥朋充、盤二踞上下一、遇レ有下重載雇二覓小船一起レ剝、輒敢恃レ強代攬、勒索使用、以致三擾二累客商一者上、該官地方官查拏、照下牙行及無籍之徒用二強邀一截二客貨一例上、枷號一月、杖八十。〔福惠全書、錢穀部、比較〕或私帮朋充。

【朋從】26 ホウジユウ 同類の相從ふこと。〔易、咸〕憧憧往來、朋從二爾思一。

【朋春】27 ホウシユン 淸、滿洲正黃旗人。何和里四世の孫。一に彭春に作る。姓は棟鄂氏。康熙の閒、露西亞を斥け、後、噶爾丹と戰ひ、戰功あり。官は本旗都統。〔淸史稿、二百八十六〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十七〕・〔從政觀法錄、十〕・〔滿洲名臣傳、二十五〕。

【朋心】28 ホウシン 心を合はせる。同志となる。〔後漢書、李固杜喬傳贊〕李杜司レ職、朋心合力。

【朋簪】29 ホウシン をさなじみ。朋友。〔蘇軾、太夫人以二無咎生日一置酒留レ予夜歸書二小詩一賀上詩〕壽樽餘瀝到二朋簪一、要下與二郎君一語中夜深上。〔國朝漢學師承記、王蘭泉先生〕與二王西沚錢竹汀兩先生一、艤二舟白公堤下一、朋簪雜遝、詩酒飛騰、望レ之者若二神仙一然。

【朋勢】30 ホウセイ 多勢の仲閒の勢力。〔國語、吳語〕請王厲レ士、以奮二其朋勢一。〔注〕朋、羣也。

【朋黨】31 ホウタウ ❶友だちのなかまの團體。又、同志が相結んで黨外の者を排斥する團體。一味徒黨。〔戰國、趙策〕臣聞、明主絕レ疑去レ讒、屛二流言之迹一、塞二朋黨之門一。〔韓非子、有度〕交衆與多、外內朋黨。〔管子、法禁〕以二朋黨一爲レ友。〔史記、蘇秦傳〕塞二朋黨之門一。〔史記、蔡澤傳〕禁二朋黨一、以勵二百姓一。〔晉書、郤詵傳〕動則爭競、爭競則朋黨、朋黨則誣謂、誣謂則臧否失レ實、眞僞相冒。〔升菴外集〕君子有レ朋而無レ黨、小人有レ黨而無レ朋、易曰、朋至斯孚、語曰、有レ朋自二遠方一來、朋者、君子之善類也、語曰、君子不レ黨、又曰、羣而不レ黨、黨者、小人之凶類也、後世朋黨二字連稱、以困二君子一、名實皆紊矣。❷唐の朋黨。憲宗の時、牛僧孺・李宗閔等時政の失を指摘するや、宰相李吉甫、其の言を惡んで帝に哀訴す。吉甫の子、德裕に至り、穆宗に申請して宗閔等を出す。是

より宗閔・德裕等各〻朋黨を立てて抗爭すること四十年、宣宗に至り、二人共に貶せられるに及んで止む。〔唐書、李德裕傳〕德裕、元和宰相吉甫子也、云云、授二御史中丞一、始吉甫相二憲宗一、牛僧孺・李宗閔、對二直言策一、痛詆二當路一、條二失政一、吉甫訴二于帝一且泣、有司皆得レ罪、遂與爲レ怨、吉甫又爲レ帝謀、討二兩河反將李逢吉一沮解、其言レ功未レ既、而吉甫卒、裴度實繼レ之、逢吉以二議不一レ合罷去、故追二銜吉甫一而怨レ度、擯二德裕一不レ得レ進、至二是閒一帝暗庸、訹レ度、使下與二元稹一相怨奪中其宰相上而己代レ之、欲下引二僧孺一益樹上レ黨、乃出二德裕一爲二浙西觀察使一、俄而僧孺入相、由レ是牛李之憾結矣。〔資治通鑑、唐紀〕〔文宗、大和八年十一月〕李宗閔言、李德裕制命已行、不レ宜二自便一、乙亥、復以二德裕一爲二鎭海節度使一、不三復兼二平章事一、時德裕宗閔、各有二朋黨一、互相擠援、上患レ之、每歎曰、去二河北賊一易、去二朝廷朋黨一難。㊂宋の朋黨。㋑仁宗の時、呂夷簡が郭皇后を廢せんとし、范仲淹之に反對す。夏竦・杜衍等は夷簡に黨し、歐陽脩は仲淹を直とし、仲淹は饒州に貶せられ、脩は逐はる。世、脩等を目して黨人といふ。〔宋史、歐陽脩傳〕脩爲二龍圖閣學士河北都轉運使一、云云、杜衍等相繼以二黨議一罷去、脩慨然上疏曰、杜衍・韓琦・范仲淹・富弼、天下皆知三其有二可レ用之賢一、而不レ聞三其有二可レ罷之罪一、自レ古小人讒二害忠賢一、其說不レ遠、欲三廣陷二良善一、不レ過三指爲二朋黨一。㋺新・舊二法の爭。神宗の時、司馬光新法を廢し、光の死後、其の黨分れて洛・蜀・朔三黨となる。哲宗の時、呂惠卿・章惇・蔡京・蔡卞等用ひられ新法を復す。徽宗に至り、向太后は舊黨の韓忠彥・曾布等を用ひて新法を廢す。徽宗親政に及び蔡京等復た勢を得、司馬光等を目して姦黨とし、州縣に姦黨の碑を立てしむ。洛蜀朔三黨(**6**－17383‥91)を見よ。〔宋史、司馬光傳〕徽宗立復二太子太保一、蔡京擅レ政、復降二正議大夫一、京撰二姦黨碑一、令二郡國皆刻一レ石、長安石工安民、當レ鐫レ字、辭曰、民愚人、固不レ知二立レ碑之意一、但如二司馬相公一者、海內稱二其正直一、今謂二之姦邪一、民不レ忍レ刻也、府官怒欲レ加レ罪、泣曰、被レ役不二敢辭一、乞免レ鐫二安民二字於石末一、恐レ得二罪於後世一、聞者愧レ之、靖康元年還贈レ謚、建炎中配二饗哲宗廟庭一。

【朋黨論】32 ホウタウロン　文章の篇名。宋、歐陽脩撰。君子の朋黨と小人の朋黨とを辨じたもの。〔宋史、歐陽脩傳〕初范仲淹之貶二饒州一也、脩與二尹洙余靖一、皆以レ直二仲淹一見レ逐、目レ之曰二黨人一、自レ是朋黨之論起、脩乃爲二朋黨論一以進。〔歐陽公事狀〕自二范文正公之貶一、先公與二余襄公等一、坐二黨人一被レ逐、朋黨之說遂起、久而不レ能レ解、一時名士、皆被三目爲二黨人一、公爲二朋黨論一以獻、群言遂息、大救二當時之弊一。

【朋黨之私】33 ホウタウノワタクシ　私に朋黨を結ぶこと。〔漢書、鄒陽傳〕捐二朋黨之私一、挾二孤獨之交一。

【朋黨執レ虎】34 ホウタウハトラヲモトラフ　朋黨の力の強いことは猛き虎をも執へる。朋黨の力はよく理を枉げ正を陷れるをいふ。〔漢書、中山靖王勝傳〕夫衆煦漂レ山、聚蟁成レ靁、朋黨執レ虎、十夫撓レ椎、是以文王拘二於牖里一、孔子阨二於陳蔡一。

【朋黨比周】35 ホウタウヒシウ　同志が相結んで助け合ひ、黨外の者を排斥すること。〔荀子、彊國〕不二比周一、不二朋黨一。〔韓非子、孤憤〕朋黨比周、以弊レ主。〔漢書、景帝紀〕朋黨比周、以レ苛爲レ察、以レ刻爲レ明。〔淮南子、主術訓〕朋黨周比。

【朋知】36 ホウチ　ともだち。〔謝靈運、初發二石首城一詩〕重經二平生別一、再與二朋知一辭。

【朋儔】37 ホウチウ　ともだち。侶儔。朋儕。〔韓愈、送二窮文一〕子之朋儔、非レ六非レ四。〔蘇軾、送二晁美叔一詩〕我年二十無二朋儔一、當時四海一子由。

【朋徒】38 ホウト　なかま。朋輩。學徒。〔後漢書、儒林傳序〕自三安帝覽レ政薄二於藝文一、博士倚レ席不レ講、朋徒相視怠散。

【朋梅】39 ホウバイ　元、王振鵬(**7**－20823‥1719)の字。

【朋輩】41 ホウバイ　身分年齡の同じくらゐなともだち。同輩。朋儕。儔侶。〔世範、上〕不レ可三相視如二朋輩一。

【朋輩附】42 ホウバイツキ　朋輩との交際。朋輩の氣受。

【朋比】43 ホウヒ　朋黨を作ること。比は親しむ。〔唐書、選擧志上〕向閒楊虞卿兄弟、朋二比貴勢一。〔福惠全書、荒政部、積貯〕半沒二于官役朋比之侵漁一。

【朋附】44 ホウフ　黨を結ぶ。仲間を作る。〔舊唐書、文宗紀下〕掃二淸朋附之徒一、匡二飭貞廉之俗一。

【朋分】45 ホウブン　ともに其の物を分つ。共用すること。〔楊廉、竹枕詩〕剖レ篁編レ枕荷二朋分一、攜向二南窓一臥二火雲一。

【朋朋】46 ホウホウ　風の聲。〔釋祖銘、詩〕林風來朋朋、吹レ我形影弔。

【朋來】47 ホウライ　朋の來ること。〔易、蹇〕九五、大蹇、朋來。

【朋鄰】48 ホウリン　鄰り近所。〔韓愈、祭二馬僕射一文〕惟西有レ虺、顚二覆朋鄰一。

【朋類】49 ホウルイ　ともだち。なかま。〔魏志、鄧艾傳〕艾性剛急、輕犯二雅俗一、不レ能三協二同朋類一。

【朋僚】50 ホウレウ　同僚又は朋友。朋寮。〔晉書、裴秀傳論〕聲蓋二朋僚一、稱爲二領袖一。〔謝朓、和二劉中書一詩〕山川隔二舊賞一、朋僚多二雨散一。

【朋寮】51 ホウレウ　同僚又は朋友。朋僚に同じ。〔白居易、唐故漂水縣令太原白府君墓誌銘序〕見レ知二於郡守一、流二譽於朋寮一。

【得レ朋】52 ホウヲウ　友を得る。〔易、坤〕西南得レ朋。〔注〕西南致レ養之地、與レ坤同レ道者也、故曰レ得レ朋。〔庾信、北園射堂新成詩〕擇レ賢方至レ此、傳レ卮欣レ得レ朋。〔韓愈、送三侯參謀赴二河中幕一詩〕幸同學省官、末路再得レ朋。

【朋九萬】53 ホウキウマン　宋の人。烏臺詩案を編す。〔四庫提要、六十四〕。

【朋鶴草堂】54 ホウカクサウダウ　清、林時躍(**6**－14551‥347)の室名。

【朋字未レ正】55 ホウノジイマダタダシカラズ　朋の字、二つの月を斜めに書くをいふ。唐の劉晏は神童の稱あり。十歲にして祕書正字となる。玄宗、幾字を正し得たるやと問ふ。晏、對へて朋の字未だ正しからずと曰ふ。〔海錄碎事、臣職部、五監〕劉晏十歲爲二正字一、玄宗問、正二得幾字一、對曰、餘字皆正、唯朋字未レ正。

【朋楚藏布】56 ホウソザウフ　川の名。西藏薩噶部落の東南。三源あり、一は舒爾穆藏拉山、一は錫爾中瑪山、一は瓜查嶺。恒河に注ぐ。支流は羅楚藏布河・長楚河・牛藏布河・帕里藏布河。又、蓬楚藏布・朋出藏布にも作る。

【有下朋自二遠方一來上】57 トモエンパウヨリキタルアリ　道に志を同じうする友が遠方からはるばる訪ねてくる。〔論語、學而〕有下朋自二遠方一來上、不二亦樂一乎。〔集注〕朋、同類也、自二遠方一來、則近者可レ知。

【朋】14340′

ホウ　朋(**5**－14340)に同じ。

【肟】14341

ゴ　〔篇海〕音午

あきらか。〔篇海〕肟、明也。

【肭】14342

ヂク ニク　〔集韻〕女六切　屋

㊀**ついたちづき**。〔集韻〕肭、說文、朔而月見二東方一、謂二之縮肭一。㊁朒(**5**－14356)の譌字。〔正字通〕肭、朒字譌省、正韻、朒从レ肉、舊从レ內誤、據二此說一、內當レ作レ肉、且以レ聲求レ之、从レ肉爲レ正。

【肦】14343

ハン　〔集韻〕逋還切　删

わける。頒(**12**－43378)・班(**7**－20976)に同じ。〔正字通〕肦、同レ頒。〔禮、王制〕名山大澤不二以肦一。〔注〕肦、讀爲レ班。〔釋文〕肦、賦也。

【肬】14344

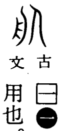
テン デン　〔篇海〕直遠切　阮

月の入った後の光。〔篇海〕肬、月落有レ明也。

【服】

14345

㊀ フク ブク 〔集韻〕房六切 ㄈㄨˊ 屋
㊁ ハク 〔集韻〕弼角切 覺
㊂ フウ ブウ 〔集韻〕扶缶切 有
㊃ ホク ボク 〔集韻〕鼻墨切 職



㊀❶用ひる。〔說文〕服、用也。〔莊子、寓言〕直服二人之口一而已矣。〔注〕服、用也。❷ふないた。舟の兩旁のそへいた。〔說文〕服、用也、一曰、車右騑、所二㠯舟旋一、从レ舟𠬝聲。〔說文通訓定聲〕服、按、本義、舟兩旁夾木也、一說、舟人行レ舟者、轉注爲二服箱一、爲二服馬一、爲二佩服一、爲二衣服一。❸車の横木。車に立乘した時に憑りかかるもの。兩方の横木の上にあつて軾より高い。〔詩、小雅、大東〕不レ以二服箱一。〔傳〕服、牝服也。〔周禮、地官、山虞〕凡服耜。〔注〕服、牝服、車之材也。〔周禮、考工記、車人〕牝服二柯。〔注〕牝服、長八尺、謂レ較也。❹車の箱。車體。〔儀禮、既夕禮〕賓奠二幣于棧左服一。〔注〕服、車箱。❺車をひく馬。四頭だての馬車の、中央の轅を夾む兩馬。〔正字通〕服、車駕四馬、在レ內兩馬曰レ服、外兩馬曰レ騑。〔詩、鄭風、大叔于田〕兩服上襄、兩驂雁行。〔箋〕兩服、中央夾レ轅者。〔戰國、衞策〕拊レ驂而笞レ服。〔注〕兩馬在レ中爲レ服。〔顏延之、陽給事誄〕配二服驂衡一。〔注〕善曰、服、服馬也、服、謂二中央兩馬夾レ轅者一。❻馬を車につける。駕す。〔詩、小雅、大東〕不二以服レ箱。〔集傳〕服、駕也。❼おびる。〔呂覽、孟春〕服二青玉一。〔注〕服、佩也。〔呂覽、順民〕服レ劍臂レ刀。〔注〕服、帶。❽のせる。負ふ。負(10－36660)に通ず。〔詩、小雅、大東〕不レ以二服箱一。〔會箋〕服之言、負也、車箱以レ負二器物一謂二之服一、牛以レ負二車箱一亦謂二之服一。❾きもの。衣服。又、おびもの。身に佩びる物。〔廣韻〕服、衣服。〔正字通〕服、衣服、身所二佩服一也。〔易、訟〕以レ訟受レ服。〔虞注〕服、謂二鞶帶一。〔詩、小雅、六月〕載是常服。〔傳〕服、戎服也。〔箋〕戎車之常服、韋弁服也。〔儀禮、鄉飲酒禮〕鄉朝服。〔注〕朝服、冠玄端緇帶素韠白屨。〔左氏、僖、二十四〕子臧之服不レ稱也。❿きる。衣服を着ける。〔孝經、卿大夫章〕非二先王之法服一不二敢服一。⓫日用の品。器用。車馬服飾の汎稱。〔周禮、春官、都宗人〕正三都禮與二其服一。〔注〕服、謂二衣服及宮室車旗一。〔禮、大傳〕易二服色一。〔注〕服色、車馬也。〔山海經、西山經〕是司二帝之百服一。〔注〕服、器服也。⓬も。又、喪にこもる。〔正字通〕服、喪服、三年朞、杖朞大功小功緦、以二尊卑親疏一爲二等差一。〔禮、學記〕師無レ當二于五服一。〔禮、大傳〕絕族無レ移レ服。⓭こと。〔詩、小雅、六月〕共二武之服一。〔箋〕服、事也。⓮ことをとる。事とする。𠬝(2－3124)に通ず。〔說文通訓定聲〕服、叚借爲レ𠬝。〔詩、大雅、蕩〕曾是在レ服。〔傳〕服、服二政事一也。〔詩、周頌、噫嘻〕亦服二爾耕一。〔箋〕服、事也。〔大戴禮、子張問入官〕羣臣服レ汙矣。〔注〕服、事也。⓯職業。〔書、旅獒〕無レ替二厥服一。〔傳〕使レ無レ廢二其職一。⓰おこなふ。〔書、說命中〕乃言惟服。〔傳〕皆可二服行一。〔左氏、文、十八〕服レ讒蒐レ慝。〔注〕服、行也。〔荀子、宥坐〕上先服レ之。〔注〕服、行也。〔孔子家語、入官〕祭二里言一而服レ之。〔注〕服、行也。⓱ととのへる。治める。〔正字通〕服、服御令二整齊一也。〔詩、周南、葛覃〕服レ之無レ斁。〔箋〕服、整也、乃能整二治之一無二厭倦一。⓲かざる。〔楚辭、九歌、東皇太一〕靈偃蹇兮姣服。〔注〕服、飾也。⓳とる。手にとる。〔論語、爲政〕有レ事弟子服二其勞一。〔皇疏〕服、謂二執持一也。〔國語、吳語〕夜中乃令二服レ兵擐レ甲。〔注〕服、執也。⓴得る。〔老子、五十九〕是謂二早服一。〔河上公注〕服、得也。㉑ならふ。なれる。〔禮、孔子閒居〕君子之服レ之也。〔注〕服、猶レ習也。〔楚辭、九章、橘頌〕橘徠服兮。〔注〕服、習也。〔漢書、鼂錯傳〕服二其水土一。〔注〕師古曰、服、習也。㉒したがふ。㋑むつむ。聽從する。〔書、武成〕大賚二于四海一、而萬姓悅服。〔疏〕服、聽從。〔呂覽、先己〕期年而有扈氏服。〔注〕服、從也。㋺かなふ。あたる。〔書、舜典〕五刑有レ服。〔傳〕服、從也。〔書、呂刑〕五罰不レ服。〔傳〕不レ服、不レ應レ罰也。㋩くだる。降服。〔呂覽、論威〕敵已服矣。〔注〕服、降。㋥おそれる。〔正字通〕服、慴服。〔淮南子、說林訓〕鳥力勝レ日而服二於鵻一。〔注〕服、猶レ畏也。㋭しりぞく。〔呂覽、不廣〕莎隨莎服。〔注〕服、退也。㋬かがむ。へりくだる。〔管子、任法〕賤人以二服約卑敬悲色一告二愬英主一。〔注〕服約、謂二屈服隱約一也。㉓滿足せしめる。〔戰國、秦策〕勝而不レ驕、故能服レ世。〔注〕服、慊也。㉔のむ。藥を飲む。〔禮、曲禮下〕醫不二三世一、不レ服二其藥一。〔史記、倉公傳〕令三更服二丸藥一。㉕一度にのむ藥の量。〔庾信、燕歌行〕定取二金丹一作二幾服一、能令三華表得二十年一。㉖領土の名。王畿の外の區域の稱。五百里を一服とする。〔正字通〕服、五服、書禹貢、甸服・侯服・綏服・要服・荒服、言レ服二天子之事一也、周分爲二九服一、侯・甸・男・采・衞・要・夷・鎭・蕃是也。〔書、益稷〕弼二成五服一。〔傳〕侯・甸・綏・要・荒服也、服五百里。〔書、周官〕五服一朝。〔周禮、夏官、職方氏〕乃辨二九服之邦國一。㉗おもふ。伏(1－438)に通ず。〔說文通訓定聲〕服、叚借爲レ伏、按伏而思レ之也。〔詩、周南、關雎〕寤寐思服。〔傳〕服、思レ之也。〔莊子、田子方〕吾服レ女也甚忘。〔注〕服者、思存之謂也。㉘えびら。箙(8－26148)に通ず。〔說文通訓定聲〕服、叚借爲レ箙。〔詩、小雅、采薇〕象弭魚服。〔箋〕服、矢服也。〔周禮、春官、巾車〕小服皆疏。〔注〕服、讀爲レ箙。㉙鳥の名。ふくろふ。鵩(12－46999)に通ず。〔正字通〕服、賈誼有二服賦一、俗作レ鵩。〔史記、屈原賈生傳〕楚人命レ鴞曰レ服。〔注〕集解曰、晉灼曰、異物志有二山鴞一、體有二文色一、土俗因レ形名レ之曰レ服、不レ能二遠飛一、行不レ出レ域。㉚牛を車につける。犕(7－20122)に通ず。〔說文通訓定聲〕服、叚借爲レ犕。〔易、繫辭下〕服レ牛乘レ馬。〔說文〕犕、易曰、犕レ牛乘レ馬。㉛古は⿰月人(5－14333)に作る。〔說文〕服、⿰月人、古文服从レ人。㉜姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕服氏、周內史叔服之後、漢有二江夏太守服徵一、又後漢九江大守服虔注二漢書一、河南人望出二西平一。㊁啼き呼ぶ。〔集韻〕服、啼呼也。㊂車箱。〔集韻〕服、牝服、車箱也。〔周禮、考工記、車人〕牝服二柯。〔注〕鄭司農云、服、讀爲レ負。㊃❶はらばふ。匐(2－2545)に通ず。〔集韻〕匐、伏レ地也、或作レ服。〔禮、檀弓下〕扶服救レ之。〔釋文〕本又作二匍匐一。❷心が結ぼれる。腷(9－29720)に通ず。〔集韻〕腷、腷臆、竟不レ

泄兒、或作レ服。

名乘 ヨ。ユキ。コト。ハトリ(姓)。

解字 形聲。舟に從ひ、𠬝は音符。又、古文、舟と人との合字。會意。本義は、說文によれば用ひる義とする。說文通訓定聲は本義を舟板の義とする。この字、古文舟と人との合字。卽ち人が舟を運用する義にして、それより事をとり用ふるの義に用ひたものならん。又、服字、舟と𠬝との合字にして、形聲にして會意をかぬ。𠬝には由來治むるの義あり、故に舟人が舟をやりて往還する義、般と同意。又、𠬝は音符。轉じて、人の事に從ふの義とし、又、假借して犕・箙・伏等の義とする。〔說文、服、段注〕从レ舟从レ人者、凡事如二舟之於レ人取切用一也、凡事皆當レ如二人之操レ舟也。〔說文通訓定聲〕服、用也、一曰、車右騑、所二以舟旋一、从レ舟𠬝聲、古文从レ舟从レ人、會意、按、本義、舟兩旁夾木也、一說、舟人行レ舟者、與レ般同意。

参考 肉部五畫の服(**9－29410**)は別字。

【服闇】1（フクアン） 暗いところで事を成すこと。〔禮、曲禮上〕孝子不レ服レ闇、不レ登レ危、懼レ辱レ親也。〔注〕服、事也、闇、冥也、不下於二闇冥之中一從上レ事、爲三卒有二非常一、且嫌レ失レ禮也。

【服位】2（フクヰ） 衣服と位置。〔周禮、天官、內宰〕正二后之服位一。〔疏〕正二后之服位一者、服、謂レ若二內司服褘衣已下六服一、皆正レ之使三服當二其用一、位謂三后助レ祭之位一、正レ之使レ不レ失二其所一。〔管子、立政〕生則有二軒冕服位、穀祿田宅之分一。〔晏子、諫、上〕夫服位有レ等。

【服衣】3（フクエ） 喪にきる衣服。〔經信卿母集〕。

【服育】4（フクイク） 蟬のぬけがら。〔論衡、無形〕蠐螬化爲二服育一、服育轉而爲レ蟬。

【服穢】5（フクヱ） 服忌のけがれ。

【服妖】6（フクエウ） 服裝に關するあやしげなこと。風俗が狂慢で變り易く、剽輕奇怪な服裝をすること。〔漢書、五行志中之上〕貌之不恭、是謂二不肅一、厥咎狂、厥罰常雨、厥極惡、時則有二服妖一。〔漢書、五行志中之上〕風俗狂慢、變レ節易レ度、則爲二剽輕奇怪之服一、故有二服妖一。〔後漢書、五行志一〕桓帝、元嘉中、京都婦女作二愁眉啼粧、墮馬髻、折腰步、齲齒笑一、始レ自二大將軍梁冀家所一レ爲、京都歙然、諸夏皆放效、此近二服妖一也。

【服役】7（フクエキ） ❶公の仕事につとめる。使はれてつとめる。〔莊子、漁父〕先生不レ羞、而比二之服役一。〔漢書、食貨志上〕今農夫五口之家、其服役者、不レ下二二人一。〔注〕師古曰、服、事也、給二公事之役一也。〔漢書、匈奴傳下〕上二氣力一而不二服役一。❷兵隊のつとめに從ふこと。又、懲役に服すること。罪囚の苦役につくこと。

【服汙】8（フクヲ） みだらな事を行ふ。私謁を行ふをいふ。〔大戴禮、子張問入官〕孔子云、邇臣便辟不二正廉一、而羣臣服汙矣。〔注〕服、事也、汙、濫也、言二私謁一也。

【服臆】9（フクオク ホクオク） 胸がふさがつて氣の洩れぬさま。腷臆。〔史記、扁鵲傳〕言未レ卒、因噓唏服臆。〔論衡、別通〕父兄在二千里之外一、且レ死、遺二教戒之書一、子弟賢者、求索觀讀、服臆不レ舍。

【服假】10（フクカ） 喪服を着る間を服といひ、忌籠りて出仕せぬ間を暇といふ。喪に際して官から賜はる忌。忌服。服暇。〔法曹至要抄、下〕一年服假事。

【服暇】11（フクカ） 服假に同じ。〔簾中抄、下〕服暇、父母一年。

【服駕】12（フクガ） 車を馬につける。〔淮南子、覽冥訓〕服二駕應龍一、驂二青虬一。

【服行】13（フクカウ） おこなふ。〔書、說命中、乃言惟服、傳〕美三其所レ言皆可二服行一。

【服降】14（フクカウ） したがひ降る。降伏。〔史記、高祖紀〕且人已服降、又殺レ之、不祥。

【服耕】15（フクカウ） 耕作に從事する。〔詩、周頌、噫嘻〕亦服二爾耕一、十千維耦。〔箋〕服、事也。

【服格】16（フクカク） 車を引いて至る。格はいたる。〔淮南子、人間訓〕羸弱服二格於道一、大夫箕二會於衢一。

【服顏】17（フクガン） 淸、倪一膊(**1－792**‥34)の字。

【服忌】18（フクキ） ぶくといみ。喪服を着て喪に籠り居る期間の稱。忌は後世に出來たもの。忌み愼しむ意。忌中は家に籠つて出でず、忌明ければ常のやうに事を執るが、服の果てぬ間は尙死穢ありとして神事には出ない。死者の親疏によつて其の期間に相違あり、武家の例では父母には忌五十日、服十三箇月、祖父母には忌三十日、服百五十日、兄弟には忌二十日、服九十日。

【服炁】19（フクキ） 服氣に同じ。〔關尹子、注〕方士服レ炁嚥レ津、棄レ本逐レ末。

【服紀】20（ブクキ） 忌服の期間。喪にゐる期限。〔喪葬令〕凡服紀者、爲二君父母及夫本主一、一年。

【服氣】21（フクキ） 道家修養の法。氣を服用すること。〔晉書、張忠傳〕忠隱二於泰山一、恬靜寡欲、淸虛服氣。〔晉書、許邁傳〕常服レ氣、一氣千餘息。

【服義】22（フクギ） ❶正義に從ひよる。正義を行ふ。〔鶡冠子、道端〕服レ義行レ仁、以一二正業一。〔楚辭、招魂〕身服レ義而未レ沬。〔注〕身服二仁義一。〔劉歆、移レ書讓二太常博士一〕挾二恐レ見レ破之私意一、而亡二從レ善服レ義之公心一。〔孔子家語、弟子行〕畏レ天而敬レ人、服レ義而行レ信。❷正義なことに感服する。〔後漢書、趙孝傳〕鄉黨服二其義一。

【服疑】23（フクギ） 新書の篇名。

【服休】24（フクキウ） ❶燕息の近臣。一說に、坐して道を論ずる臣。〔書、酒誥〕矧惟爾事、服休服采。〔鄭注〕燕息之近臣。〔蔡傳〕坐而論レ道之臣。❷唐、陸禹臣(**11－41708**‥260)の字。

【服牛】25（フクギウ） 牛に車をつけること。又、其の牛。〔易、繫辭下〕服レ牛乘レ馬。〔晏子、諫、下〕對曰、服牛死。〔孔子家語、五帝德〕服牛乘馬。

【服享】26（フクキャウ） 服從する。〔左氏、昭、二十六〕諸侯服享、二世共レ職。〔會箋〕服享、猶二服從一也。

【服竟】27（フクキャウ） 忌あけ。服喪の期が了る。〔後漢書、獨行、劉茂傳〕遭二母憂一去レ官、服竟後爲二沮陽令一。

【服御】28（フクギョ） ❶天子の御用になる衣服車馬の類をいふ。〔戰國、趙策〕無下非二大王之服御一者上。〔漢書、文帝紀〕減二諸服御一。〔後漢書、梁皇后紀〕服御珍華。〔班固、東都賦〕損二乘輿之服御一。〔顏延之、赭白馬賦序〕服御順レ志、馳驟合レ度。〔唐書、后妃傳序〕自餘六尙、分二典乘輿服御一。❷使用する意。〔嵆康、琴賦〕永服御而不レ厭、信古今之所レ貴。❸明、周冕(鄞の人)(**2－3441**‥463)の字。

【服御物】29（フクギョブツ） 天子のお召しもの。〔史記、張釋之傳〕釋之案下律盜二宗廟服御物一者上爲レ奏。

【服馭】30（フクギョ） ❶馬を車につけて馭すること。〔荀子、王霸〕王良造父者、善服馭者也。〔陳書、高祖武帝紀上〕山車澤馬、服御登閑。❷服御に同じ。〔枕中記〕衣裝服馭、日益鮮盛。〔白居易、問二王澤流人心感一對〕念二其惡貧一、則服馭之費損矣。「字。

【服恭】31（フクキョウ） 淸、馮行貞(**12－44579**‥185)の字。

【服玉】32（フクギョク） かんむりをかざるたま。〔周禮、天官、玉府〕共二王之服玉佩玉珠玉一。〔注〕鄭司農云、服玉、冠飾十二玉。

【服勤】33（フクキン） ほねをりの仕事に從ひつとめる。服勞。〔禮、檀弓上〕服勤至レ死。〔疏〕服勤者、謂三服二持勤苦勞辱之事一。

【服屨】34（フクク） 儀式の服制に應じたくつ。〔周禮、天官、屨人〕掌二王及后之服屨一。〔注〕屨自明矣、必連二言服一者、著レ服各有レ屨也。〔疏〕屨舃從二裳色一、裳既多種、故連二言服一也。

【服具】35（フクグ） 喪中に必用な器具。喪具。〔漢書、朱建傳〕及二建母死一、貧未レ有二以發一レ喪、方假二貣服具一。

【服槐】36（フククヮイ） ゑんじゆの實を食する。常にゑんじゆの實を食べると氣力旺盛で長壽を得るといふ。〔本草、槐〕發明、頌曰、十月上巳日、取二槐子一、去レ皮納二新甁中一、封レ口二七日、初服二一枚一、再服二二枚一、日加二一枚一、至二十日一、又從二一枚一起、終而復始、令三人可二夜讀書一、延レ生益二氣力一、大良、時珍曰、梁書言、庾肩吾常服二槐實一、年七十餘、髮鬢皆黑、目看二細字一、亦其驗也。

【服官】37（フククヮン） 官につくこと。仕官すること。〔禮、內則〕五十命爲二大夫一、服二官政一。〔注〕統二一官之政一也。

【服管】38 fu^2 kuan^3 服從する。聽從する。

【服玩】39（フククヮン） 服翫に同じ。〔後漢書、曹節傳〕車馬服玩、擬二於天家一。〔顏氏家訓、風操〕珍寶服玩。

【服翫】40（フククヮン） 必要の器具と玩好の品。〔南史、魚弘傳〕服翫車馬、皆極二一時之驚絕一。〔洛陽伽藍記、二〕昭德里有二五宅一、惟倫最爲二豪侈一、齋宇光麗、服翫精奇。〔白居易、感情詩〕中庭曬二服翫一、忽見二故鄉履一。

【服解】41（ブクゲ） 古、官吏が父母の喪に服するために職を解かれること。〔類聚三代格、七〕服解郡

司、理須㆓復任㆒、不㆑可㆘停㆓前人㆒擬㆗他人㆖。

【服刑】42 フクケイ 刑罰を受けること。

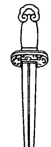
【服形】43 フクケイ 道家修養の術。肉體上の欲を去ること。服氣。〔列子、黃帝〕朕閒居三月、齋㆑心服㆑形、思㆑有㆓以養㆑身治㆑物之道㆒、弗㆑獲㆓其術㆒。〔口義〕服㆑形、猶㆓今人言㆑服㆑氣也。

【服卿】44 フクケイ 字號。❶明、周之冕(2－3441‥683)の號。❷明、周冕(2－3441‥463)の字。

【服闋】45 フクケツ 三年の喪を終へて服を釋くこと。忌あけ。〔後漢書、劉平傳〕服闋拜㆓全椒長㆒。〔風俗通、十反〕三年服闋。〔六部成語、吏部、服闋、注解〕丁㆓父母憂㆒、已滿㆓三年㆒、服制已終、例應㆓起復㆒。

【服虔】46 フクケン 後漢、滎陽の人。初の名は重。又の名は祇。字は子愼。業を太學に受け、左氏傳解を作る。官は靈帝の時、九江太守。亂に遭ひ、客中病んで死す。初、鄭玄春秋に注せんとして未だ成らず、偶〻虔と客舍中に遇ひ、其の傳に注したる意を人に語るを聽くに、多く己の意に合す。因つて既に注する所のものを盡く虔に與ふ。虔、之に因つて服氏注を作るといふ。〔後漢書、一百九下〕。

【服劍】47 フクケン ❶佩びてゐるつるぎ。佩劍。〔戰國、齊策〕遣㆓太傅㆒齎㆓黃金千斤、文車二駟、服劍一㆒。〔注〕服劍、王所㆓自佩㆒劍。❷つるぎをおびる。〔淮南子、脩務訓〕服㆑劍者期㆓于銛利㆒。❸短い劍。服刀。〔西淸古鑑、劍、周服劍〕右身長一尺三寸四分、臘廣一寸四分、兩從各五分有半分、鍔一分有半分、以㆑玉爲㆑莖、與㆑首通、重二十五兩。



❸周服劍
（西淸古鑑）

【服古】48 フクコ 昔に從ふ。〔國朝漢學師承記、序〕河洛尚知㆑服㆑古、不㆑改㆓舊章㆒。

【服賈】49 フクコ 商賣に從事する。〔書、酒誥〕肇牽㆓車牛㆒遠服㆑賈、用孝㆓養厥父母㆒。〔傳〕載㆓其所㆑有、求㆑易㆑所㆑無、遠行㆓賈賣㆒、用㆓其所㆑得珍異㆒、孝㆓養其父母㆒。〔元好問、鴈門道中書㆑所㆑見詩〕傾㆑身營㆓一飽㆒、豈樂㆓遠服㆒㆑賈。

【服貢】50 フクコウ 祭服を貢すること。一說に、絺紵の類を貢すること。〔周禮、天官、大宰〕以㆓九貢㆒致㆓邦國之用㆒、云云、七曰、服貢。〔注〕鄭司農云、服貢、祭服、玄謂、服貢、絺紵也。〔疏〕云㆓服貢祭服㆒者、後鄭亦不㆑從、以㆘大行人因㆑朝而貢有㆓祭服㆒、此歲之常貢、不㆖㆑得㆓有成服㆒。〔孫詒讓正義〕先鄭云㆓服貢祭服㆒者、卽禹貢玄纁玄纖縞之屬、先鄭說㆓服貢㆒、亦謂㆓服材㆒、非㆑謂㆓制成衣服㆒。

【服紗】51 フクサ 袱紗(10－34232‥1)に同じ。❶ふくらかに柔らかなこと。衣裳・食膳などの柔らかなことをいふ。❷絹・縮緬等の地に紋樣のある裏をつけた風呂敷のやうなもので、贈物を覆つたり、其の上にうちかけたりするもの。〔好色二代男、四〕。❸茶の湯で、茶器を拭ひ、又は茶碗を受けるに用ひる八寸四方位の帛。❹本式でない、卽ち形をくづしたもの。ふくさ料理。ふくさ帶。

【服瑣】52 フクサ 織目のこまかい布。くさりを連ねたやうなあやあるもの。〔急就篇、二〕服瑣緰幣。〔注〕服瑣、細布、織爲㆓連瑣之文㆒也、緰幣、細布之尤精者也。

【服采】53 フクサイ 朝祭の近臣。一說に、起つて事を作す臣。〔書、酒誥〕矧惟爾事、服休服采。〔注〕鄭玄曰、朝祭之近臣。〔蔡傳〕服采、起而作㆑事之臣也。

【服罪】54 フクザイ つみにしたがひ服す。伏罪。〔公羊、莊、三〕何賢㆓乎紀季㆒、服㆑罪也。〔荀子、君子〕世曉然皆知㆘夫爲㆑姦、則雖㆓隱竄逃亡㆒之由不㆖㆑足㆓以免㆒也、故莫㆑不㆓服㆑罪而請㆒。〔漢書、傅介子傳〕王亦服㆑罪。〔蜀志、諸葛亮傳評〕亮之爲㆓相國㆒也、云云、開㆓誠心㆒、布㆓公道㆒、云云、服㆑罪輸㆑情者、雖㆑重必釋、游辭巧飾者、雖㆑輕必戮。

【服喪】55 フクサウ 喪に服すること。〔晏子、不合經術者〕審㆓於服喪㆒。〔漢書、王莽傳中〕莽爲㆓太后㆒、服喪三年。

【服裝】56 フクサウ みなり。なりふり。よそほひ。

【服箱】57 フクサウ 車の横木と箱。箱は車の物を容れる所。一說に、車箱に駕する。服は駕。又一說に器物を載せる車箱。服は負。〔詩、小雅、大東〕睆彼牽牛、不㆑以㆓服箱㆒。〔傳〕服、牝服也、箱、大車之箱也。〔集傳〕服、駕也、箱、車箱也、牽牛不㆑可㆔以服㆓我之箱㆒。〔陳奐傳疏〕牝卽牛、服者、負之假借字、大車重載、牛負㆑之、故謂㆓之牝服㆒。〔會箋〕服、易繫辭服牛乘馬之服、箱、萬斯箱之箱、車內容㆑物處曰㆑箱、云云、然以㆓經文㆒求㆑之、服、當㆘作㆓虛字㆒解㆖、不㆑得㆔以爲㆓牝服㆒、服之言、負也、車箱以㆑負㆓器物㆒謂㆓之服㆒、牛以㆑負㆓車箱㆒亦謂㆓之服㆒。

【服藻】58 フクサウ 卿大夫の禮服。大夫の服章には藻火を用ひるからいふ。〔陸雲、大將軍宴會被㆑命作詩〕冕弁振㆑纓、服藻垂㆑帶。〔注〕鄭玄孝經注曰、大夫服藻火。

【服之】59 フクシ 淸、馮行貞(12－44579‥185)の字。

【服矢】60 フクシ 箙の矢。一說に、服は負、矢を負ふこと。〔荀子、議兵〕操㆓十二石之弩㆒、負㆓服矢五十箇㆒。〔集解〕盧文弨曰、元刻作㆓負矢㆒、無㆓服字㆒、與㆓漢書㆒同、王念孫曰、此本作㆓服矢五十箇㆒、服矢卽負矢、負與㆑服、古同㆑聲而通用、故漢書作㆑負、今本作㆑負㆓服矢㆒者、校書者依㆓漢書㆒旁㆓記負字㆒、而寫者誤合㆑之也、元刻無㆓服字㆒、則又後人依㆓漢書㆒刪㆑之也、兪樾曰、服字實不㆑可㆑無、服者箙之叚字、說文竹部、箙弩、矢箙也、經傳通以㆑服爲㆑之、詩采薇篇、象弭魚服、國語齊語、服無㆑矢、皆是也、負㆓服矢五十个㆒者、盛㆓矢五十个於㆑服㆒而負㆑之也、若但云㆑負㆑矢、則矢無㆑服、不㆑可㆑負、若云㆑負㆓矢服㆒、則疑五十个以㆑服計矣、故曰㆑負㆓服矢五十个㆒、古人之辭所㆓以簡而明㆒也、漢書奪㆓服字㆒、元刻從㆑之、非㆑是。

【服祇】61 フクシ 服虔(46)を見よ。

【服事】62 フクジ ❶事につく。官の仕事に從事する。〔周禮、地官、大司徒〕十有二曰、服事。〔注〕服事者、謂㆘爲㆓公家㆒服㆑事者㆖、玄謂㆘生㆑材養㆓竹木㆒者㆖。〔管子、法法〕服㆑事任㆑官。❷歸服しつかへる。從ひつかへる。〔左氏、桓、二〕是以民服㆓事其上㆒、而下無㆓覬覦㆒。〔左氏、昭、十二〕今周與㆓四國㆒服㆓事君王㆒。〔左氏、襄、二十五〕服㆓事我先王㆒。〔論語、泰伯〕三㆓分天下㆒、有㆓其二㆒、以服㆓事殷㆒。〔四書逸箋〕叢說云、禹貢五服之內所㆑封諸侯、朝貢皆有㆑時、各依㆓服數㆒、以事㆓天子㆒、故曰㆓服事㆒。〔逸周書、太子晉解〕服㆓事於商㆒。

【服侍】63 fu^2 shih^4 手傳ふ。世話する。

【服餌】64 フクジ 丹藥を服食する。藥を飮む。又、服用する藥餌。〔魏書、裴伯茂傳〕余攝養舛和、服餌寡術。〔隋書、經籍志四〕而又有㆓諸服餌㆒。

【服周】65 フクシウ 明、王冕(洛陽の人)(7－20823‥957)の字。

【服日】66 フクジツ 道家修養の法。〔雲笈七籤〕太虛眞人曰、以㆓月五日夜半㆒、存㆓日象㆒在㆓心中㆒、日從㆑口入、使㆑照㆓一心之內㆒。

【服習】67 フクシフ したがひなれる。聽從して習熟する。〔左氏、僖、十五〕生㆓其水土㆒、而知㆓其人心㆒、安㆓其教訓㆒、而服㆓習其道㆒。〔管子、七法〕存㆓乎服習㆒。〔新書、保傅〕若㆓其服習積貫㆒。〔漢書、鼂錯傳〕二曰、卒服習。〔吳質、在㆓元城㆒與㆓魏太子㆒牋〕服㆓習禮教㆒。

【服車】68 フクシヤ ❶公事に用ひるくるま。公用車。官車。〔周禮、春官、巾車〕服車五乘。〔注〕服車、服㆑事者之車。〔疏〕服車、服㆑事者之車者、其孤卿以下皆是輔佐之臣、服㆓事於上㆒、故以㆓服事之事㆒解㆑之也。〔禮、少儀〕有㆓貳車㆒者之乘馬服車不㆑齒。〔注〕服車、所㆑乘車也。❷車に馬をつける。卽ち馬車に乘る。〔左氏、哀、二十七〕服㆑車而朝。〔會箋〕服㆑車、猶㆑曰㆑駕㆑車、言㆑服㆓兩馬於乘車㆒也。

【服舍】69 フクシヤ ❶文人の短命を哀悼する詞。服は鵩鳥で、賈誼が鵩鳥を見て壽の長からざるを嘆じた故事に本づく。〔漢書、賈誼傳〕誼爲㆓長沙傳㆒三年、有㆔服飛入㆓誼舍㆒、止㆓於坐隅㆒、服似㆑鴞不祥鳥也、誼既以㆑適居㆓長沙㆒、長沙卑濕、誼自傷悼以爲、壽不㆑得㆑長、廼爲㆑賦以自廣、其辭曰、單閼之歲、四月孟夏庚子日斜、服集㆓余舍㆒、止㆓于坐隅㆒、貌甚閒暇、異物來崪、私怪㆓其故㆒、發㆑書占㆑之、讖言㆓其度㆒、曰、野鳥入㆑室、主人將㆑去、問㆓於子服㆒、余去何之、吉虖告㆑我、凶言㆓其災㆒、淹速之度、語㆓余其期㆒。❷喪に服する時に居る所の家。〔史記、五宗世家〕與奸㆓服舍中㆒。〔漢書、江都易王劉非傳〕建居㆓服舍㆒、召㆓易王所㆑愛美人淖姬等凡十人㆒與姦。〔注〕師古曰、倚廬堊室之次也。〔資治通鑑、漢紀〕(景帝三年)及㆓楚王戊來朝㆒、錯因言、戊往年爲㆘薄㆓太后服㆒、私姦㆗服舍㆖、請㆑誅之。〔注〕師古曰、服舍、居㆑喪之次、若㆓堊室之屬㆒也。

【服者】70 ブクシヤ 喪に服してゐる人。〔山槐記〕元曆元年八月、忌㆓佛事及服者㆒事。

【服章】71 フクシヤウ 古、天子以下公侯の服に施した飾

り模樣。周禮春官司服の鄭注によれば、天子には十二章、公には九章、侯伯には七章、子男には五章、四命には三章、三命・再命には一章を用ひ、一命並びに不命の士には用ひぬといふ。後世には天子親王にのみ用ひ、公侯以下には用ひぬ。〔左氏、宣、十二〕君子小人、物有二服章一。〔會箋〕物卽服物也、服章、言二其所レ服之采章一。〔大學衍義補、備二規制一、冕服之章〕丘濬曰、舜欲レ觀二古人之象一、則是章服在二舜之前一已有矣、古人自二天子一以下至レ士、皆有二服章一、多少之數、以レ次而殺、上得レ兼レ下、下不レ得レ僭レ上、今世冕服、惟天子及親王有レ之、自二公侯一以下、皆無レ有也。

【服衆】72 fu^{2} chung^{4}　衆人の感情を和げて人望を收めること。

【服從】73（フクジュウ）　服したがふ。率從。〔禮、內則〕四十始仕、方レ物出レ謀發レ慮、道合則服從、不可則去。〔孫希旦集解〕服從、謂下服二其事一而從上レ君也。〔韓非子、解老〕猶未レ知レ退、而不レ服二從道理一。〔史記、匈奴傳〕然至二冒頓一而匈奴最彊大、盡服二從北夷一。〔漢書、韋玄成傳〕百蠻服從。〔魏志、武帝紀〕更始乃論二荆州服從之功一、侯者十五人。

【服從關係】74（フクジュウクワンケイ）　權力者の意見に從ふべき關係。

【服術】75（フクジュツ）　喪服を服すべき人の尊卑親疏の別を分類した道。〔禮、大傳〕服術有レ六、一曰親親、二曰尊尊、三曰名、四曰出入、五曰長幼、六曰從服。〔注〕術、猶レ道也。

【服乘】76（フクジョウ）　乘物。〔魏志、崔琰傳〕變二易服乘一、志在二驅逐一。

【服色】77（フクショク）　衣服車馬等の色。王朝がかはると共に服色をあらたむ。夏の黑色、殷の白色、周の赤色を尙ぶの類。〔禮、大傳〕改二正朔一、易二服色一。〔注〕服色、車馬也。〔疏〕易二服色一者、服色、車馬也、易レ之、謂三各隨二所レ尙赤白黑一也。〔史記、殷紀〕改二正朔一、易二服色一。〔漢書、文帝紀〕公孫臣明二服色一。〔左思、魏都賦〕改二正朔一、易二服色一。

【服食】78（フクショク）　❶衣服と飮食。〔書、旅獒〕畢獻二方物一、惟服食器用。❷食物や藥を服用する。のむ。くふ。伏食。〔漢書、郊祀志下〕服二食不終之藥一。❸道家の養生法。丹藥を服用すること。〔古詩十九首〕服食求二神仙一、多爲二藥所一レ誤。〔注〕向曰、服レ藥失レ性、反害レ生也。〔嵆康、養生論〕呼吸吐納、服食養レ身、使二形神相親、表裏倶濟一也。〔唐書、藝文志三〕神仙服食方十卷。

【服飾】79（フクショク）　❶衣服のかざり。規定の裝束につけるしるし。服章。〔漢書、王莽傳中〕五威將乘二乾文車一、駕二坤六馬一、背負二鷩鳥之毛一、服飾甚偉。〔後漢書、董卓傳〕言三其服飾近二天子一也。〔風俗通、正失〕沐浴服飾寢二其中一。❷薦玉のかざり。〔周禮、春官、典瑞〕掌二玉瑞玉器之藏一、辨三其名物與二其用事一、設二其服飾一。〔注〕服飾、服玉之飾、謂二繅藉一。〔疏〕云レ設二其服飾一者、謂三繅藉在レ玉、若二人之衣服之飾一也。

【服織】80（ハトリ）　駿河國の地名。

【服信】81（フクシン）　悅んで從ふ。〔管子、正〕其民服信以聽。〔纂詁〕說服信從。

【服生】82（フクセイ）　漢、濟の人。易を田何に受け、易傳數篇を著す。〔史記、一百二十一〕。

【服制】83（フクセイ）　❶身分職業などに應じて著るそれぞれの衣服の規定。制服。〔書、益稷、予欲レ觀二古人之象一、傳〕欲三觀二示法象之服制一。〔史記、武安侯傳〕以レ禮爲二服制一。〔漢書、元后傳〕變二更正朔一、服制亦當二自更一。❷喪服の制度。喪中の定め。喪服には斬衰・齊衰・大功・小功・緦麻の五等がある。〔禮、喪服四制〕喪有二四制一、變而從レ宜。

【服席】84（フクセキ）　瓦器の名。もたひ。服匿。〔演繁露〕高麗有二溫器一、名二服席一、卽北狄所謂服匿者也。

【服善】85（フクゼン）　善にしたがふ。善言に聽從する。〔說苑、反質〕吾聞レ之、君子服レ善則益恭、細人服レ善則益倨、我以自備、恐レ有二細人之心一也。

【服屬】86（フクゾク）　❶つきしたがふ。てしたになる。從屬服從。〔史記、朝鮮傳〕眞番・臨屯皆來服屬。〔漢書、黥布傳〕諸侯兵皆服二屬楚一者、以二布數以レ少敗一レ衆也。❷忌服のかかるみうち。〔漢書、淮安王安傳、注〕安于二天子服屬一、爲二從父叔父一。〔梁武帝、推二恩六親一詔〕凡是宗戚有二服屬一者、並可レ賜二沐食一。

【服率】87（フクソツ）　服したがふ。率服。〔後漢書、董卓傳〕初卓之入也、步騎不レ過二三千一、自嫌二兵少一、恐レ不レ爲三遠近所二服率一。

【服體】88（フクタイ）　形體を屈服すること。萬物がしたがひ服して瑞祥を示すをいふ。〔禮、仲尼燕居〕諸侯朝、萬物服體、而百官莫二敢不一レ承レ事矣。〔注〕服體、體服也、謂三萬物之符長皆來爲二瑞應一也。〔疏〕萬物服體者、服、謂二屈服一、體、謂二形體一、言三飛走動植之物、而皆來爲二瑞應一也。

【服刀】89（フクタウ）　刀の短いもの。拍髀。〔漢書、西域傳上〕山有レ鐵自作レ兵、兵有二弓矛・服刀・劍甲一。〔注〕服刀、拍髀也。

【服澤】90（フクタク）　地名。堯が舜を擧用したところ。一に濩澤・順澤・負夏に作る。〔墨子、尙賢上〕古者堯擧二舜於服澤之陽一。〔閒詁〕畢云、未レ詳二其地一、服與レ蒲、音之緩急、或卽蒲澤、今蒲州府、詒讓案、文選曲水詩序、李注引二帝王世紀一云、堯求レ賢、而四嶽薦レ舜、堯乃命二于順澤之陽一、疑卽本二此書一、史記五帝本紀、就二時於負夏一、集解引二鄭玄一云、負夏、衞地、孟子離婁篇、舜生二於諸馮一、遷二於負夏一、趙注云、諸馮負夏、皆地名、負海也、趙岐云、負海必有レ所レ本。案、服澤、疑卽負夏。〔墨子、尙賢中〕古者舜耕二歷山一、陶二河瀨一、漁二雷澤一、堯得二之服澤之陽一、擧以爲二天子一。〔路史、有虞氏紀〕舜之潛德、堯寔知レ之、於レ是疇二咨於衆一、得二之服澤之陽一。

【服知】91（フクチ）　知を用ひる。〔莊子、寓言〕惠子曰、孔子勤レ志服レ知也。〔疏〕服、用也。

【服秩】92（フクチツ）　官吏の制服の品級。〔晉書、職官志〕僕射服秩印綬、與レ令同。

【服茶】93（フクサ）　はんけちの類。ふくさ。手帕。我が國で茶の湯の時に用ひる。〔和漢三才圖會、庖廚具〕手帕、服茶、俗服紗、俗云不久左、按、手帕、拭二茶湯諸器一、又啜時被レ掌持二熱甌一、用二紫光絹一袷縫、大抵方八寸、橫少短、洛陽鹽瀨氏之手帕得レ名。

【服聽】94（フクチャウ）　從ひ聽く。命令に服從する。〔大戴禮、少閒〕君時同二於民一布政也、民時同二於君一服聽也。〔戰國、燕策〕秦爲二西帝一、趙爲二中帝一、燕爲二北帝一、立爲二三帝一、而令二諸侯一、韓魏不レ聽、則秦伐レ之、齊不レ聽、則燕趙伐レ之、天下孰敢不レ聽、天下服聽、因驅二韓魏一以攻レ齊。〔呂覽、孝行〕人主孝則名章榮、下服聽、天下譽。〔史記、淮陰侯傳〕割レ大弱レ彊、以立二諸侯一、諸侯已立、天下服聽、而歸二德於齊一。

【服重】95（フクヂュウ）　服虔(46)を見よ。

【服鳥】96（フクテウ）　梟（フクラフ）の異名。鵩鳥。服鳥賦を見よ。〔論衡、指瑞〕賈誼爲二長沙王太傅一、服鳥集レ舍。

【服鳥賦】97（フクテウノフ）　文章の名。漢、賈誼の作。文選十三卷には鵩鳥賦に作る。服舍(69)の❶を見よ。〔史記、賈生傳贊〕讀二服鳥賦一、同二死生一、輕二去就一、又爽然自失矣。

【服田】98（フクデン）　耕作に從ふ。〔書、盤庚上〕若二農服レ田力レ穡、乃亦有レ秋。

【服匿】99（フクトク）　匈奴で酒酪を盛る器。罌に似て口小、腹大で底が四角なもの。樂器に代用する。もたひ。缶の類。〔漢書、蘇武傳〕(於軒王)賜二武馬畜服匿穹廬一。〔注〕劉德曰、服匿如二小旃帳一、孟康曰、服匿如レ罌、小口大腹方底、用レ受二酒酪一、穹廬、旃帳也、晉灼曰、河東北界人、呼下小石罌受二二斗一所上曰二服匿一、師古曰、孟晉二說是也。〔范成大、盧溝詩〕河邊服匿多二生口一。

【服毒】100（フクドク）　毒を飮む。

【服軟】101 fu^{2} juan^{3}　服從する。

【服念】102（フクネン）　おもうて忘れぬこと。〔書、康誥〕要囚、服念五六日至二于旬時一。〔蔡傳〕服念、服膺而念レ之。

【服馬】103（フクバ）　四頭立の馬車の中央にあつて轅（ナガエ）をさしはさむ兩馬。他の左右の馬を驂といふ。轉じて、乘馬をいふ。字解[二]の❹を見よ。〔釋名、釋車〕游環在二服馬背上、驂馬之外一。〔詩、鄭風、叔于田〕叔適レ野、巷無二服馬一。〔箋〕服馬、猶二乘馬一也。〔隋煬帝、秦孝王誄〕服馬顧而不レ能レ行、挽夫悲而不レ成レ曲。

【服佩】104（フクハイ）　身につける。おびる。又、心に銘じて忘れぬ。佩服。〔蔡邕、讓二高陽鄕侯一章〕非二臣容體所一レ當二服佩一。

【服伯】105（フクハク）　清、章戡功(8－25761・・185)の字。

【服法】106 fu^{2} fa^{3}　法律に服從する。

【服美】107（フクビ）　衣服が美しい。〔左氏、襄、二十七〕服美不レ稱、必以レ惡終。

【服媚】108（フクビ）　身につけて愛する。〔左氏、宣、三〕以三蘭有二國香一、人服二媚之一如レ是。〔注〕媚、愛也。

【服部】109ハトリ ㊀機ハタを織る。又、其の人。㊁ハットリ 姓氏。又、地名。

【服部愛軒】110ハットリアイケン 明石の人。名は保章・章。字は子裁。通稱は石九郞。號は愛軒。明治四十三年五月三日歿す。年六十四。藩の景德館に學び、後、林鶴梁に就く。官は明石藩儒。後、埼玉縣中學・成城學校・彥根中學・錦城學校教師に歷任す。著に愛軒遺文がある。

【服部寬齋】111ハットリクワンサイ 江戶の人。名は保庸。字は紹卿。通稱は藤五郞。號は寬齋・龍溪。享保六年六月三日歿す、年五十五。木下順庵を師とす。官は幕府儒官。經學は程朱を宗とす。著に御伽物語・寬齋遺稿・寬齋日記・桑韓唱酬集・談苑・徒然筆のままがある。〔近代著述目錄後篇〕。

【服部元雄】112ハットリゲンユウ 服部白賁(118)を見よ。

【服部愿卿】113ハットリゲンケイ 江戶の人。名は惟恭。字は愿卿。元文五年三月十一日歿す、年十七。南郭の次子。詩に巧。著に鍾情集・蒙求啓がある。〔國書解題〕。

【服部蘇門】114ハットリソモン 京都の人。名は天游。字は伯和。通稱は六藏。號は蘇門道人・嘯翁・三教主人。別稱は服蘇門。明和六年九月十六日歿す、年四十六。伊藤介亭を師とす。觀自在堂を上長者千本東入街に卜築し、生徒に教授す。其の學、漢魏の傳注を主とし、兼ねて佛教に涉る。初、徂徠の說を追慕し講習私淑したが、後、其の非を知り、物氏を攻擊するを以て己が任とす。著に嘯臺遺響・嘯臺餘響・前戲錄・後戲錄・赤倮倮・蘇門文鈔・中山傳言錄校・燃犀錄・燃犀續錄・燃犀別錄・燃犀餘錄・燃犀遺錄・碧巖方語解・落草談・落草放言・續放言がある。〔近代名家著述目錄〕・〔先哲叢談、續、九〕。

【服部大方】115ハットリタイハウ 信濃の人。名は誼。字は和甫。通稱は澤典學。號は大方。文化頃の人。官は磐城二本松藩儒。初、江戶に塾を開いて教授す。著に易通・易說・學髓・學髓外編・學庸考・古書編圖・附錄古文脈・詞原音局・人事原・人事原後編・說易闡旨・大日本風土略・天人雜記・讀春秋・名言通・名言通次編・王制圖考がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔國書解題〕。

【服部南郭】116ハットリナンクワク 京都の人。名は元喬。字は子遷。通稱は小右衞門。號は南郭・芙蕖館・周雪。寶曆九年六月二十一日歿す、年七十七。荻生徂徠を師とす。官は柳澤侯儒。致仕後、塾を江戶に開いて教授す。詩文を以て一世に稱せらる。著に遺契・儀禮圖抄・郭注莊子校・左傳白文校・十八史略校・新刻蒙求校・大東世語・唐詩品彙七律校・唐詩品彙絕句校・唐詩選校・唐詩事略校・張注列子校・燈下書・南郭文集・南郭文集二編・南郭文集三編・南郭文集四編・南郭絕句・文筌小言・明詩選校がある。〔近代名家著述目錄〕。

【服部梅圃】117ハットリバイホ 播磨の人。名は行命。號は梅圃。通稱は與右衞門。寶曆五年歿す、年七十。〔先哲叢談、續、七〕。

【服部白賁】118ハットリハクヒ 攝津の人。本姓は中西。名は元雄。字は仲英。通稱は多門。號は白賁。別稱は服仲英。明和四年六月八日歿す、年五十五。服部南郭を師とす。南郭の義子。塾を開いて教授す。家學を奉じ、詩を善くす。著に赤水漫錄・蹈海集・蹈海集拾遺・白賁埜雜錄がある。〔近代著述目錄後篇、先哲叢談、正、六〕。

【服部栗齋】119ハットリリッサイ 攝津の人。名は保命。字は佑甫。通稱は善藏。號は栗齋。寬政十二年五月十一日歿す、年六十五。五井蘭洲を師とす。官は飯野藩儒。梅圃の季子。致仕後、村士玉水の遺言によつて其の家塾を繼承す。後、松平樂翁より麴町に地を賜はり、麴溪書院を設く。平生著述を好まず、洛閩の學術を發揮し、山崎氏の遺書に精通するを以て專主とす。博く群籍に涉り、旁ら詩文をよくす。著に隱居放言がある。〔先哲叢談、續、七〕。

【服韍】120フクフツ 韍を服する。韍は祭服の蔽膝。〔禮、明堂位〕有虞氏服レ韍。〔注〕韍、冕服之韠也。

【服物】121フクブツ ㊀身につける衣服及び器物。〔周禮、秋官、大行人〕其貢服物。〔注〕服物、玄纁絺纊也。〔禮、祭義〕以具二服物一、以修二宮室一。〔疏〕以具二服物一者、以備二具衣服及祭物一。〔韓愈、畫記〕載二服物一者。㊁民を從へる。〔晉書、石苞傳〕以二威德一服レ物。

【服聞】122フクブン 從ひ聞く。〔蜀志、杜微傳〕服二聞德行一。

【服兵】123フクヘイ 武器を持つ。兵器をとる。〔國語、吳語〕夜中乃令下服レ兵擐レ甲、係二馬舌一出中火竈上。〔注〕服、執也。

【服斃】124フクヘイ 伏したふれる。自殺する。〔莊子、說劍〕劍士皆服二斃其處一也。〔釋文〕司馬云、忿レ不レ見レ禮、皆自殺也。

【服冕】125フクベン 冕服を着る。大夫の服を着ること。〔左氏、哀、十五〕苟使二我入レ獲レ國、服レ冕乘レ軒、三死無レ與。〔注〕冕、大夫服。〔陸機、謝二平原內史一表〕服レ冕乘レ軒、仰齒二貴游一。

【服辯】126フクベン 判決に服することと異議を申立てて辯解すること。伏辯に同じ。〔元典章〕凡府司官對レ衆審訖、取二服辯文狀一。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄〕獄囚取二服辯一。〔注〕服者心服、辯者辯理、不レ當則辯、當則服、或服或辯、故曰二服辯一。

【服滿】127フクマン 忌服のあけること。〔淸國行政法汎論、官吏分限、守制〕會典卷五云、服滿坐レ補二原部一。

【服民】128フクミン 歸服した民。〔荀子、議兵〕殷之服民。

【服務】129フクム つとめに就く。

【服務規律】130フクムキリツ 官吏などの服務に關する規定。

【服務年限】131フクムネンゲン 服務すべき年限。

【服霧】132フクム 道家修鍊の法。〔眞誥〕服霧法、常於二平旦寢靜之中一坐臥任レ己、先閉レ目內視、彷彿如レ見二五臟一畢、因口呼出レ氣、使下目見二五色之氣一、相繞纏在二面上一鬱然上、因口納二此氣一、五十過畢、咽唾五十過、久之、當下乘二雲霧一而遊上。

【服命】133フクメイ 天子から賜はつた位と其の位の者の着る服。章服と命數。〔書、微子之命〕往敷二乃訓一、愼二乃服命一。〔傳〕愼二汝祖服命數一。

【服問】134フクモン 禮記の篇名。〔禮、服問、題疏〕鄭目錄云、名曰二服問一者、以下其善中問以知レ有レ服、而遭レ喪所二變易一之節上、此於二別錄一屬二喪服一也。

【服養】135フクヤウ 衣服と飲食物。〔韓非子、五蠹〕茅茨不レ翦、采椽不レ斲、糲粢之食、藜藿之羹、冬日麑裘、夏日葛衣、雖二監門之服養一、不レ虧二於此一矣。

【服約】136フクヤク 上からおさへつけられてのびないこと。〔管子、任法〕賤人以二服約卑敬悲色一、告二愬其主一。〔纂詁〕尹知章云、服約、謂二屈服隱約一也。

【服藥】137フクヤク ㊀くすりを飲む。〔禮、曲禮下〕醫不二三世一、不レ服二其藥一。〔史記、扁鵲傳〕病有二六不治一、形羸不レ能レ服レ藥、五不治也。〔論衡、自紀〕適輔二服藥引導一。〔吳志、孫綝傳〕慮服レ藥死。〔嵇康、養生論〕夫服レ藥求レ汗。㊁宦官が初めて去勢することをいふ。〔癸辛雜識〕凡宦官初閹名曰二服藥一、則以二名字一申二兵部一、看レ命則看二服藥日時一、全不レ用二始生日時一、常擇二善良日時一乃腐。

【服用】138フクヨウ ㊀身につけ用ひる。用ひる。〔禮、內則〕子弟猶歸二器衣服裘衾車馬一、則必獻二其上一、而后敢服二用其次一也。〔王昌齡、上二李侍郞一書〕就使三四賢生二於明時一、無レ所二服用一。㊁藥を飲むこと。

【服膺】139フクヨウ むねにつける。肌身を離さぬ。よくおぼえて片時も忘れぬ。〔中庸、八章〕回之爲レ人也、云云、得二一善一、則拳拳服膺、而弗レ失レ之矣。〔章句〕服、猶レ著也、膺、胸也、奉持而著二之心胸之間一、言二能守一也。〔莊子、盜跖〕服膺而不レ舍。〔漢書、東方朔傳〕膺腐齒落、服膺而不レ釋。〔注〕師古曰、服膺、俯二服其胸臆一也。〔東方朔、答二客難一文〕服膺而不レ可レ釋。〔後漢書、班固傳上〕服二膺六藝一。〔魏志、王烈傳〕道德服膺。〔顏氏家訓、止足〕吾終身服膺。

【服翼】140フクヨク 鳥の名。蝙蝠カウモリの異名。又、伏翼に作る。〔爾雅、釋鳥〕蝙蝠、服翼。〔疏〕蝙蝠、一名服翼。〔方言、八〕蝙蝠、自レ關而東、謂二之服翼一。〔新序、雜事五〕黃鵠白鶴、一擧千里、使下之與二燕服翼一試中之堂廡之下、廬室之間上、其便未二必能レ過二燕服翼一也。

【服勞】141フクラウ ㊀したがひつとめる。〔書、君牙〕惟乃祖乃父、世篤二忠貞一、服二勞王家一。〔傳〕服二事勤三勞王家一。㊁ほねをりの仕事にしたがひつとめる。〔論語、爲政〕有レ事弟子服二其勞一。

【服劉】142フクリウ 晉の趙王倫の得た異鳥の名。〔晉書、趙王倫傳〕倫於二殿上一得二異鳥一、問皆不レ知レ名、累日向レ夕、宮西有二素衣小兒一、言二是服劉鳥一、

倫使下錄二小兒弁鳥一、閉中置牢室上、明旦開視、並失レ所レ在、倫目上有レ瘤、時以爲レ妖。

【服閭】143（フクリヨ） 漢の人。仙人。嘗て海邊の諸祠中を往來して三仙に逢ひ、蓬萊山の西に住む。

【服臨】144（フクリン） 服しのぞむ。〔漢書、文帝紀〕服臨者皆無レ踐。

【服禮】145（フクレイ） 禮儀に習熟する。〔韓非子、問田〕臣聞、服禮辭讓、全之術也、修レ行退レ智、遂之道也。

【服連】146（フクレン） 車の名。器物を載せて人の挽くもの。てぐるま。服輂。服摙。〔管子、海王〕行二服連軺輂一者、必有二一斤一鋸一錐一鑿一。〔庶物異名疏〕服連見二管子一、蓋輂名、所下以載二任器一人挽上者。

【服摙】147（フクレン） 服連・服輂に同じ。〔太平御覽、治道、賦斂〕淮南子曰、西門豹曰、王主富レ民、霸主富レ武、亡國富二府庫一、今君欲レ爲二霸者一也、臣故蓄二積於民一、君以爲レ不レ然、臣請先登鼓レ之、鉀兵粟米、可二立具一也、乃登レ城而鼓レ之、致二鉀笴兵弩一而出、再鼓、服摙載レ粟而至。〔注〕服、駕出也、摙、擔。〔淮南子、人閒訓、集證〕陶氏曰、一切經音義引注作二摙、擔也一、按故書、輂作レ連、云云、摙字、說文不レ收、當二卽連字一、說文、連、負車也、與レ輂義通。

【服輂】148（フクレン） 車の名。又、服連に作る。一說に、服は牛馬につけること、輂はになふこと。〔淮南子、人閒訓〕再鼓、服二輂粟一而至。〔注〕服、駕レ牛也、輂、擔也。〔集證〕管子海王篇曰、行二服連軺輂一者、云云、連亦與レ輂同、服輂皆車名、故管子淮南皆並稱二服輂一、許注訓レ輂爲レ擔、於レ義少疏矣。

【服輅】149（フクロ） 馬を車につける。〔張衡、思玄賦〕擾二應龍一以服レ輅。〔注〕善曰、輅、車也。

【衣レ服】150（フクヲキル） 着物を身につける。〔禮、玉藻〕衣レ服冠而坐。

【釋レ服】151（フクヲトク） ❶衣服をとく。〔儀禮、鄉飲酒禮〕主人釋レ服乃息、可レ正。〔注〕釋二朝服一、更服二玄端一。〔禮、雜記下〕釋レ服、出二公門外一。❷喪服をぬぐ。〔唐書、歐陽詢傳〕子通中書舍人、母喪、居レ廬四年、不レ釋レ服。

【釋レ服從レ吉】152（フクヲトキテキツニシタガフ） 祖父母父母又は夫の喪中に在る者が、自ら喪服を釋いて普通の衣服を著、樂しみに耽り哀弔の意を忘れることをいふ。之を行へば、人の子孫は十惡の一の不孝罪を構成し、人の妻は不義罪を構成する。〔唐律、名例、十惡、七曰、不孝、注〕居二父母喪一、身自嫁娶、若作レ樂、釋レ服從レ吉。

【服元喬】153（フクゲンケウ） 服部南郭(116)を見よ。

【服元雄】154（フクゲンユウ） 服部白賁(118)を見よ。

【服子愼】155（フクシシン） 服虔(46)を見よ。〔錢大昕、惠先生棟傳〕惠氏世守二古學一、而先生所レ得尤深、擬二諸漢儒一、當レ在二何劭公服子愼之閒一。

【服水土】156 fu² shuei² t'u³ 身體が氣候風土に慣れる。土地に慣れる。

【服蘇門】157（フクソモン） 服部蘇門(114)を見よ。

【服仲英】158（フクチユウエイ） 服部白賁(118)を見よ。

【服不氏】159（フクフシ） 周官の名。夏官の屬。猛獸を養ひ、能く馴れつかない獸を馴らすことを掌る。〔周禮、夏官、序官〕服不氏。〔注〕服不、服二不服之獸一者。〔疏〕在レ此者、以下其服二不服之獸一、象中王者伐レ叛柔服之義上、故在レ此也。〔周禮、夏官、服不氏〕掌下養二猛獸一而教中擾之上。

【服弁服】160（フクベンフク） 服弁は喪冠の名。凶事の時に服弁の服を用ひること。斬衰・齊衰の服。〔周禮、春官、司服〕凡凶事、服弁服。〔注〕服弁、喪冠也、其服、斬衰齊衰。

【服夷之伎】161（フクイノギ） 服從した夷狄の間に行はれる演藝。〔柳宗元、嶺南節度使饗軍堂記〕興王之舞、服夷之伎。

【服之四制】162（フクノシセイ） 正服・義服・加服・降服をいふ。五服著用の加減例であつて、死者と生者との身分關係を示すもの。正服は情誼名分上當然服すべき喪服、義服は義を以て結合した者の服、加服は輕い服を用ひる者が或る事情のために重い服を用ひる義で、降服は其の反對の場合に用ひる。〔儀禮圖、齊衰不杖期降正義服圖〕降服、衰四升冠七升、既葬以二其冠一、爲二受衰七升冠八升一、正服、衰五升冠八升、既葬以二其冠一、爲二受衰八升冠九升一、義服、衰六升冠九升、既葬以二其冠一、爲二受衰九升冠十升一。

【服中生レ子】163（フクチユウコヲウム） 服內生レ子に同じ。

【服內生レ子】164（フクナイコヲウム） 喪中に子を生む。非常な罪惡、十惡の一となる。〔唐律、名例〕在二父母喪一生レ子、及娶レ妾。〔疏議〕在二父母喪一生レ子者、皆謂二二十七月內而懷胎者一、若父母未レ亡以前而懷胎、雖下於二服內一而生レ子者上不レ坐、縱除レ服以後始生、但計二胎月一、是服內而懷者、依レ律得レ罪、其娶レ妾、亦準二二十七月內一爲レ限。

【服內納レ妾】165（フクナイセフヲイル） 喪中に妾をかかへる。非常な罪惡、十惡の一となる。服內生レ子に同じ。

【柔レ服而伐レ貳】166（フクスルヲヤスンジテジアルヲウツ） 服從者を和げ二心あるものを討つ。〔左氏、成、九〕勤以撫レ之、寬以待レ之、堅彊以御レ之、明神以要レ之、柔レ服而伐レ貳、德之次也。

【服之不レ衷身之災也】167（フクノカナハザルハミノワザハヒナリ） 衣服が身に相當しないのは人に怪しまれるから身の災となる。衷は適。〔左氏、僖、二十四〕鄭子華之弟子臧、出二奔宋一、好二聚鷸冠一、鄭伯聞而惡レ之、使二盜誘一レ之、八月、盜殺二之於陳宋之閒一、君子曰、服之不レ衷、身之災也。

【服】14345′ フク 服(5−14345)に同じ。

【枂】14346 イン 陰(11−41691)に同じ。〔字彙補〕枂、與レ陰同。

【⿰月五】14347 ゴ ⿰月午(5−14341)に同じ。〔篇海類編〕⿰月五、同レ⿰月午。

五畫

【朎】14348 レイ リヤウ 〔集韻〕郎丁切 靑

月の美しい光。〔集韻〕朎、朎朧、月光也。

【肮】14349 キツ キチ 〔篇海〕居律切 質

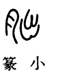
姓。〔篇海〕肮、姓也、出二韻譜一。

【⿰月兄】14350 キヤウ 〔篇海〕音況

川の名。又、山名。〔篇海〕⿰月兄、水名、又山名。

【朏】14351

㊀ヒ 〔集韻〕妃尾切 尾 ㄈㄟˇ fei³
㊁ハイ 〔集韻〕滂佩切 隊
㊂ハイ 〔集韻〕普罪切 賄
㊃ホツ ホチ 〔集韻〕普沒切 月
㊄キツ ギチ 〔集韻〕逆乙切 質


小篆

㊀㊁㊂㊃❶**月初めのうすぐらい月。**古は⿰出月(5−14352)に作る。〔說文〕朏、月未レ盛之朙也、从二月出一、周書曰、丙午朏。〔釋名、釋天〕朏、月未レ成レ明也。〔集韻〕朏、說文、月未レ盛之明、古作レ⿰出月。❷**みかづき。**陰曆三日に始めて見える月。〔書、召誥〕三月惟丙午朏。〔傳〕朏、明也、月三日明生之名。❸**物のさま。**朏朏(4)の❶・朏明(5)を見よ。❹**獸の名。**朏朏(4)の❷を見よ。㊄**くらい。おろか。**〔集韻〕朏、無二知意一也。

解字 會意。月と出との合字。本義は月の出で始めて未だ光の明かでないもの、三日月。

參考 肉部の朏(9−29373)は別字。

【朏菴】1（ヒアン） 淸、紀炅(8−27234‥21)の號。

【朏朒】2（ヒヂク） 月初めに出る月。新月。三日月。〔蘇軾、贈二眼醫王生彥若一詩〕空花誰開落、明月自朏朒。

【朏魄】3（ヒハク） ❶月の黑い影。〔謝莊、月賦〕朒朓

警レ闕、朏魄示レ沖。〔注〕善曰、說文曰、朏、月未レ盛レ光、魄、月始生魄然也。〔唐書、曆志三下〕日君道也、無二朏魄之變一。❷月の光る部分と光らない部分。一說に、日と月。〔顏延年、應レ詔讌二曲水一作詩〕朏魄雙交、月氣參變。〔注〕向曰、朏魄、日月也。❸三日月。陰曆三日の月。〔顏延之、應レ詔讌二曲水一作詩、朏魄雙交、注〕善曰、朏魄雙交、謂二三日一也、凡朏魄之交、皆在二月三日之夕一、云云、孔安國尚書傳曰、朏、明也、月三日、明生之名。

【朏朏】4 ヒヒ ❶夜のまさに明けんとしてうすぐらいさま。明け方。〔楚辭、王逸、九思、疾世〕時朏朏兮且旦。〔注〕昢、一作レ朏、日月始出、光明未レ盛爲レ朏。〔補注〕昢、日將レ曙、朏、月未レ盛也。❷獸の名。白尾で立て髮のある貍の如きもの。之を養へば憂を釋くといふ。〔山海經、中山經〕又北四十里曰二霍山一、有レ獸焉、其狀如レ貍而白尾有レ鬣、名曰二朏朏一、養レ之可二以已レ憂。〔王海若、文〕安得二朏朏一與レ之遊、而釋二我之憂一。❸塵の積ったさま。〔西京雜記、六〕魏襄王冢、云云、石枕一枚、塵埃朏朏甚高、似二是衣服一。

【朏明】5 ヒメイ ❶天の將に明けんとしてうすぐらい時。夜明け方。〔淮南子、天文訓〕日登二于扶桑一、爰始將レ行、是謂二朏明一。〔注〕朏明、將レ明也。❷清、胡渭(9-29400‥8)の字。

【⿰山月】14352 ヒ 朏(5-14351)の古字。〔集韻〕朏、古作レ⿰山月。

【朐】14353 ㊀キョウ ク 〔集韻〕詡拱切 腫 ㊁ク グ 〔字彙〕其俱切 虞

㊀あたたかい。昫(5-13852)に同じ。〔集韻〕昫、日出溫也、或作レ朐。㊁くびき。車軛。軥(10-38236)に通ず。〔字彙〕朐、車軛也。〔左氏、昭、二十六〕繇レ朐汰レ輈。〔注〕朐、車軛。〔釋文〕朐、本又作レ軥。

參考 肉部の朐(9-29360)とは別字。〔正韻〕脯、屈中曰レ朐、从レ肉从レ句、與レ朐不レ同、朐从二日月之月一、音吁。

六畫

【⿰月㕣】14354 セン 船(9-30407)に同じ。〔字彙補〕⿰月㕣、與レ船同。

【⿰月共】14355 コウ ク 〔集韻〕虎孔切 董 月の暗いこと。〔集韻〕⿰月共、⿰月共⿰月共、月不レ明。

【朒】14356 ヂク ニク 〔集韻〕而六切 屋 ㄋㄩˋ nü⁴

小篆（段注本）

❶ついたちづき。陰曆の朔に東に出る月。〔說文〕朒、朔而月見二東方一、謂二之縮朒一、从レ月肉聲。〔段注〕各本篆作レ朒、解作二內聲一、今正。❷ちぢまる。〔玉篇〕朒、縮朒、不二寬伸一之貌。〔漢書、五行志下之下〕王侯縮朒。〔注〕鄭氏曰、縮朒、不レ任レ事之貌也。❸足らぬ。不足。又、古の算法の名。過不足を知って元數を知る法。〔小學紺珠、九數〕方田・粟米・差分・少廣・商功・均輸・盈朒。〔注〕一云、贏不足。〔周禮、地官、保氏、六曰九數、注〕九數、云云、贏不足。

【朒朓】1 ヂクテウ 朒は朔日に東に出る月、朓は晦日に西に出る月。〔謝莊、月賦〕朒朓警レ闕、朏魄示レ沖。〔注〕善曰、說文曰、朒、朔而月見二東方一、縮朒然、朓、晦而月見二西方一也。

【⿰月亙】14357 コウ ⿰月亘(5-14384)に同じ。〔篇海〕⿰月亙、同レ⿰月亘。

【朓】14358 ㊀テウ 〔集韻〕土了切 篠 ㊁テウ 〔集韻〕他彫切 蕭 ㊂テウ 〔集韻〕他弔切 嘯 ㄊㄧㄠˋ tʻiao⁴

小篆（說文）

小篆（段注本）

㊀㊁㊂❶みそかづき。晦に西に見える月。〔說文〕朓、晦而月見二西方一、謂二之朓一、从レ月兆聲。〔漢書、五行志下之下〕京房傳曰、云云、晦而月見二西方一、謂二之朓一。〔注〕孟康曰、朓者、月行疾、在二日前一、故早見。❷月がかたむく。〔集韻〕朓、月側也。❸あらはれる。〔太玄經、玄告〕聖人察二乎朓一。〔注〕朓、見也、晦而月見二西方一爲レ朓、朓、朓、變之貌也。❹はやい。〔廣雅、釋詁一〕朓、疾也。〔漢書、孔光傳〕謂二朓側慝一。〔注〕孟康曰、朓、行疾也。

參考 肉部の朓(9-29462)は別字。

【朔】14359 サク 〔集韻〕色角切 覺 ㄕㄨㄛˋ shuo⁴

小篆

❶ついたち。陰曆で月の第一日。〔說文〕朔、月一日始蘇也、从レ月屰聲。〔釋名、釋天〕朔、蘇也、月死復蘇生也、朔、月初之名也。〔書、舜典、正月上日、傳〕上日、朔日也。〔疏〕月之始日、謂二之朔一。❷こよみ。古、中國で天子が歲末季冬に諸侯に頒布した來歲十二箇月のこよみ。同時に施政の方針を授ける。諸侯は之を受けて祖廟に藏し、每月一日に特羊を供へ、廟に告げ受けて之を施行する。〔周禮、春官、大史〕頒二告朔于邦國一。〔注〕天子頒二朔於諸侯一、諸侯藏二之祖廟一、至二朔朝一、於レ廟告、而受行レ之也。〔禮、玉藻〕聽二朔於南門之外一。〔論語、八佾〕子貢欲レ去二告朔之餼羊一。❸天子の政令。〔隋書、音樂志〕六戎仰レ朔。❹はじまる。生れる。〔後漢書、馬融傳〕月朔二西陂一。〔注〕朔、生也。❺はじめ。〔廣雅、釋詁一〕朔、始也。〔禮、禮運〕皆從二其朔一。〔注〕朔、亦初也。❻あさ。夜明。〔白虎通、三正〕夏以二平旦一爲レ朔、殷以二鷄鳴一爲レ朔、周以二夜半一爲レ朔。〔莊子、逍遙遊〕朝菌不レ知二晦朔一。〔釋文〕朔、旦也。❼きた。北方。〔爾雅、釋訓〕朔、北方也。〔書、堯典〕宅二朔方一、曰二幽都一。〔傳〕北稱レ朔。〔書、洛誥〕我卜二河朔黎水一。〔釋文〕朔、北也。❽小鼓。樂のはじめにならすつづみ。〔釋名、釋樂器〕鞞、在レ前曰レ朔、始也、在レ後曰レ應、應、應二大鼓一也。〔周禮、春官、小師、下レ管擊二應鼓一徹レ歌、注〕應與二朄及朔一、皆小鼓也。❾姓。〔萬姓統譜〕朔、望出二南陽一、見二何氏姓苑一。

【朔牖】1 サクイウ 北むきのまど。北窗。〔陸雲、登臺賦〕闢二南牕一而蒙レ暑兮、啓二朔牖一而履レ霜。

【朔雲】2 サクウン ❶朔北の雲。北地の雲。〔宋璟、送二張說巡一レ邊詩〕德風邊草偃、勝氣朔雲平。〔嚴武、軍城早秋詩〕昨夜秋風入二漢關一、朔雲邊月滿二西山一。〔李夢陽、雲中曲〕白登山寒低二朔雲一、野馬黃羊各一羣。❷朔方・雲中の二郡をいふ。〔顏延之、赭白馬賦〕眷二西極一而驤レ首、望二朔雲一而蹀レ足。〔注〕銑曰、朔雲、朔方、雲中二郡也。

【朔裔】3 サクエイ 北方の邊境。〔魏文帝、連珠〕蓋聞、琴瑟高張、則哀彈發、節士抗行、則榮名至、是以申胥流二音于南極一、蘇武揚二聲于朔裔一。〔魏書、張袞傳〕時劉顯地廣兵強、跨二有朔裔一、會其兄弟乖離、共相疑阻。〔後燕錄〕苻堅既敗二於晉一、慕容垂至二澠池一、請三奉レ詔輯二寧朔裔一、堅許レ之、自二涼馬臺一、作レ筏而渡。

【朔易】4 サクエキ 冬季に於て改易すべきこと。〔書、堯典〕平二在朔易一。〔傳〕北稱レ朔、易謂二歲改一易於

北方㆓。〔疏〕人則㆔時在㆑野、冬入㆓隩室㆒、物則㆔時生長、冬入㆓囷倉㆒、是人之與㆑物、皆改易也。〔蔡傳〕朔易、冬月歲事已畢、除㆑舊更㆑新、所㆓當改易㆒之事也。

【朔客】5 サクカク　北方の客。北人。〔李賀、申胡子觱篥歌幷序〕申胡子朔客李氏、本亦世家子、得㆓祀江夏王廟㆒、當年踐履失㆑序、遂奉㆓官北郡㆒、自稱㆑學㆓長調短調㆒、久未㆑知㆑名、今年四月、吾與對㆓舍於長安崇義里㆒、遂將㆑衣質㆑酒、命㆑予合飮、氣熱杯闌、因謂㆑吾曰、李長吉、爾徒能㆓長調㆒、不㆑能㆑作㆓五字歌詩㆒、直強迴㆓筆端㆒、與㆓陶謝詩勢㆒相遠幾里、吾對後、請撰㆓申胡子觱篥歌㆒、以㆓五字㆒斷㆑句、歌成、左右人合譟相唱、朔客大喜、擎㆑觴起立、命㆓花娘㆒出㆑幕、徘徊拜㆑客、吾問㆑所㆑宜、稱㆑善㆓平弄㆒、於㆑是以㆓弊辭㆒配㆑聲、與㆑予爲㆑壽、顏熟感㆓君酒㆒、含嚼蘆中聲、花娘篸綏妥、休㆑睡芙蓉屛、誰截太平管、列㆑點排㆓空星㆒、直貫開花風、天上驅㆑雲行、今夕歲華落、令㆔人惜㆓平生㆒、心事如㆓波濤㆒、中坐時時驚、朔客騎㆓白馬㆒、劍弝懸㆓蘭纓㆒、俊健如㆓生獰㆒、肯拾㆓蓬中螢㆒。

【朔雁】6 サクガン　北方のかり。〔謝靈運、撰征賦〕眷㆓轉蓬之辭㆑根、悼㆓朔雁之赴㆑越。〔江總、幷州羊腸坂詩〕驚風起㆓朔雁㆒、落照盡㆓胡桑㆒。〔許敬宗、奉㆓和秋暮言㆑志應制詩〕波擁羣鳧至、秋飃朔雁歸。

【朔氣】7 サクキ　❶北方の寒烈の氣。〔木蘭詩〕朔氣傳㆓金柝㆒、寒光照㆓鐵衣㆒。〔上官儀、詠㆑雪詩〕禁園凝㆓朔氣㆒、瑞雲掩㆓晨曦㆒。〔杜審言、送㆓崔融㆒詩〕旌旗朝朔氣、笳吹夜邊聲。〔張翥、寄㆓題顧仲瑛玉山㆒詩〕關山凝㆓朔氣㆒、星斗麗㆓寒芒㆒。❷節氣。二十四氣の每月の首にあるもの。〔周禮、春官、大史、疏〕一年之內有㆓二十四氣㆒、節氣在㆑前、中氣在㆑後、節氣、一名朔氣、朔氣在㆑晦、則後月閏、中氣在㆑朔、則前月閏。

【朔禽】8 サクキン　雁の異名。北方の寒地を好むからいふ。〔謝靈運、山居賦〕海鳥違㆑風、朔禽避㆑涼。〔自注〕朔禽、鴈也。

【朔空】9 サククウ　北方のそら。北地。〔駱賓王、詠㆓雲酒㆒詩〕朔空曾紀㆑曆、帶地舊疏㆑泉。

【朔晦】10 サククワイ　ついたちとつごもり。一日とみそか。朔日と晦日。〔漢書、李尋傳〕朔晦正㆓終始㆒、弦爲㆓繩墨㆒、望成㆓君德㆒。〔魏志、高堂隆傳、注〕因更推㆓步弦望朔晦㆒。

【朔管】11 サククワン　北胡の笛。一說に、羌笛。管は十二月に配して北方にあるから朔といふ。〔謝莊、月賦〕聽㆓朔管之秋引㆒。〔注〕善曰、朔管、羌笛也、說文曰、管十二月位在㆓北方㆒、故云㆑朔、向曰、朔管、謂㆓北胡之笛㆒也。

【朔月】12 サクゲツ　❶月のついたち。朔日。〔詩、小雅、十月之交〕十月之交、朔月辛卯。〔陳奐傳疏〕朔月、月朔也、朔月辛卯、辛卯朔也。〔禮、玉藻〕朔月少牢五俎四簋。❷shuo^4 yüeh^4　十月の異稱。

【朔縣】13 サクケン　縣名。民國、置く。漢の馬邑縣、唐の朔州の地。山西省寧武縣の北の長城の外、桑乾河の上流。

【朔鼓】14 サクコ　小鼓。樂のはじめにならすもの。〔文獻通考、樂考、革之屬〕朔鼓、有瞽詩曰、應㆑田縣鼓、先儒以㆑田爲㆑朄、則朔鼓皆小鼓也、以㆓其引鼓㆒故曰㆑朄、以㆓其始鼓㆒故曰㆑朔。

【朔後】15 サクゴ　朔日の後。〔書、武成、惟一月壬辰旁死魄、疏〕魄者形也、謂㆓月之輪郭無㆑光之處㆒名㆑魄也、朔後、明生而魄死、望後、明死而魄生。

【朔鴻】16 サクコウ　北方の鴻雁。〔唐德宗、豐年多㆑慶九日示㆑懷詩〕爽氣肅㆓時令㆒、早衣聞㆓朔鴻㆒。

【朔哭】17 サクコク　ついたちに哭すること。〔顏氏家訓、風操〕晦歌朔哭。

【朔差】18 サクサ　曆の朔日と天文の朔日との差。〔宋書、律曆志下〕備閱㆓曩法㆒、疎越實多、或朔差㆓三日㆒、氣移㆓七晨㆒、未㆑聞㆘可㆔以下通㆓於今㆒者㆖也。〔唐書、曆志一〕朔差百八萬五千四百九十四二分。

【朔塞】19 サクサイ　朔北のとりで。〔杜審言、和㆔李大夫嗣眞奉㆑使存㆓撫河東㆒詩〕緬邈朝廷問、周流朔塞旋。〔李嶠、旌詩〕影麗㆓天山雪㆒、光搖㆓朔塞風㆒。〔王昌齡、宿㆓灞上㆒寄㆓侍御璵弟㆒詩〕昨聞㆓羽書飛㆒、兵氣連㆓朔塞㆒。

【朔參】20 サクサン　月のついたちに參朝する。又、每月朔日のみ參朝する官吏。〔通典、禮、嘉、元正冬至受㆓朝賀㆒〕神龍元年四月十四日、初令㆓文武官五品以上、每朔望參日、陞㆑殿食㆒。〔文獻通考、王禮考、朝儀〕石林葉氏曰、在京朝官以上、朔望一朝㆓紫宸㆒、爲㆓朔參官㆒、遂爲㆓定制㆒。

【朔霰】21 サクサン　北方の地のあられ。〔晏殊、中園賦〕涼月皎兮鐘漏寂、朔霰飛兮天宇敻。

【朔州】22 サクシウ　州名。❶後趙、置く。河北省蔚縣の東。❷五胡の夏、置く。陝西省膚施縣の東南。❸後魏、僑置す。北齊、北朔州を置き、唐、朔州といひ、金・明、之に仍る。山西省朔縣。〔讀史方輿紀要、山西、大同府〕朔州、戰國時燕地、秦爲㆓鴈門代二郡地㆒、漢初屬㆓韓國㆒、尋屬㆓定襄鴈門二郡㆒、云云、後魏爲㆓懷朔鎭地㆒、遷㆑洛後爲㆓朔州地㆒、又置㆓桑乾神武二郡㆒、後齊改㆓桑乾㆒曰㆓廣寧㆒、神武曰㆓大平㆒、並屬㆓朔州㆒、後周郡廢、隋開皇初、置㆓朔州總管府㆒、大業初、府廢、改㆑州爲㆓代郡㆒、尋又改爲㆓馬邑郡㆒、唐復置㆓朔州㆒、天寶初、改㆓馬邑郡㆒、乾元初、復㆑故、天祐末、改置㆓振武軍於此㆒、遼改㆑軍爲㆓順義軍㆒、宋宣和中、曰㆓朔寧府㆒、金仍爲㆓朔州㆒、元屬㆓大同路㆒、明初以㆓州治鄯陽縣㆒省入、領㆓縣一㆒。〔清史稿、地理志〕山西、朔平府、州一、朔州。

【朔周】23 サクシウ　北周、赫連達（**10－37010‥49**）の字。

【朔日】24 サクジツ　ついたち。陰曆の月の第一日。〔詩、小雅、十月之交〕十月之交、朔日辛卯。〔禮、月令〕（季秋之月）受㆘朔日與㆗諸侯所㆑稅㆓於民㆒輕重之法、貢職之數㆖。〔疏〕天子有㆓朔日政令㆒。

【朔旬】25 サクジュン　朔日と旬日。曆日をいふ。〔傅玄、又答㆓程曉㆒詩〕羲和運㆓玉衡㆒、招搖賦㆓朔旬㆒。

【朔閏】26 サクジュン　朔日と閏月。〔長曆〕仲尼丘明每於㆓朔閏㆒發㆑文、蓋矯㆓正得失㆒、因以宣㆓明曆數㆒也。

【朔食】27 サクショク　每月朔日に薦める御膳。常日よりも豐富なものにするのが常禮である。〔禮、內則〕男女夙興、沐浴衣服、具㆓視朔食㆒。〔注〕朔食、天子太牢、諸侯少牢、大夫特豕、士特豚也。〔唐書、彭景直傳〕天子始祖・高祖・曾祖・祖考之廟、皆朔加薦、以象㆓生時朔食㆒、號曰㆓日祭㆒。

【朔水】28 サクスイ　川の名。廣東省始皇縣の東。源は江西省信豐縣の界の甜菜嶺。又、涼水縣の東南にも在り、源は江西省信豐縣の界の律竹嶺。倶に邪階水に注ぐ。

【朔吹】29 サクスイ　北風。朔風。〔唐太宗、飮馬長城窟行〕寒沙連㆓騎跡㆒、朔吹斷㆓邊聲㆒。〔丁仙芝、渡㆓揚子江㆒詩〕海盡邊陰靜、江寒朔吹生。

【朔垂】30 サクスイ　北方の邊地。〔劉琨、勸進表〕擧㆓哀朔垂㆒、上下泣血。〔陸機、贈㆔馮文羆遷㆓斥丘舍㆒詩〕逝將㆔去㆑我、陟㆓彼朔垂㆒。〔注〕善曰、爾雅曰、朔、北方也、說文曰、垂、遠邊也。

【朔陲】31 サクスイ　朔垂に同じ。

【朔政】32 サクセイ　古、天子が季冬に來歲の曆と政令を諸侯にわかち、（一說に、天子が季冬でなく、每月の朔に其の月に行ふ政令を諸侯にわかつといふ。）諸侯は之を祖廟に藏し、各月の朔に於て廟に告げ、受けて政治を行ふをいふ。告朔。〔公羊、文、六、不㆑告㆑月者何、不㆑告㆑朔也、注〕禮、諸侯受㆓十二月朔政於天子㆒、藏㆓於大祖廟㆒、每月朔朝㆑廟、使㆔大夫南面奉㆓天子命㆒、君北面而受㆑之、比㆑時、使㆓有司先告㆑朔。〔穀梁、文、六、猶㆑朝㆓于廟㆒、注〕禮天子以㆓十二月朔政㆒、班㆓告于諸侯㆒、諸侯受㆓於禰廟㆒。〔穀梁、文、十六、天子告㆓朔于諸侯㆒、注〕每月天子以㆓朔政㆒班㆓于諸侯㆒、諸侯受而納㆓之禰廟㆒。

【朔雪】33 サクセツ　北地の雪。朔は北。〔鮑照、學㆓劉公幹體㆒詩〕胡風吹㆓朔雪㆒、千里渡㆓龍山㆒。〔李白、千里思詩〕迢迢五原關、朔雪亂㆓邊花㆒。〔張仲素、塞下曲〕朔雪飄飄開㆓鴈門㆒、平沙歷亂卷㆓蓬根㆒。

【朔岱】34 サクタイ　岱郡をいふ。北にあるから朔といふ。〔曹植、王仲宣誄〕出臨㆓朔岱㆒、庶績咸熙。〔注〕向曰、粲父爲㆓岱郡太守㆒。

【朔黨】35 サクタウ　宋の哲宗の時、元祐三黨の一。劉摯・梁燾・王巖叟・劉安世を首領とし、之を輔けるものは三黨中尤も衆い。洛黨・蜀黨に對していふ。〔小學紺珠、名臣類下、元祐三黨〕洛黨、程頤爲㆓領袖㆒、朱光庭賈易等爲㆓羽翼㆒、蜀黨、蘇軾爲㆓領袖㆒、呂陶等爲㆓羽翼㆒、朔黨、劉摯爲㆓領袖㆒。

【朔旦】36 サクタン　ついたちの朝。〔書、大禹謨〕正月朔旦、受㆓命于神宗㆒。〔後漢書、順帝紀〕三朝之會、朔旦立春。

【朔旦冬至】37 サクタントウジ　ついたちの朝が冬至の節に會ふ。十一月甲子朔旦冬至は、曆を制する紀元となる。〔史記、武帝紀〕朔旦冬至、與㆓黃帝時㆒等。〔宋書、律曆志中〕壬辰元以來、至㆓景初元年

丁巳歲㆒、積四千四十六算上㆒、此元以㆓天正建子黃鐘之月㆒、爲㆓曆初元首之歲夜半甲子朔旦冬至㆒。

【朔地】38 サクチ 北方のえびすの地。朔北の地。朔土。朔野。〔杜牧、今皇帝陛下一詔徵㆑兵不㆑日功集詩〕漢武慙㆑誇朔方地、周宣休㆑道太原師。

【朔調】39 サクテウ 地名。王莽、上谷郡を更め稱す。〔後漢書、耿弇傳〕後爲㆓朔調連率㆒。〔注〕王莽改㆓上谷郡㆒、曰㆓朔調㆒。

【朔奠】40 サクテン 朔日に供物を捧げる禮。〔禮、檀弓上〕有㆑薦㆑新、如㆓朔奠㆒。

【朔塗】41 サクト 北方の道。朔途。〔陸機、贈㆓馮文羆㆒詩〕佇立望㆓朔塗㆒。〔沈佺期、送㆓陸侍御餘慶北使㆒詩〕朔途際㆓遼海㆒、春思繞㆓轘轅㆒。

【朔土】42 サクド 朔北の地。〔後漢書、袁譚傳〕揚㆓休烈朔土㆒。〔魏志、烏丸傳〕威振㆓朔土㆒。〔潘岳、關中詩〕盧播違㆑命、投㆓畀朔土㆒。

【朔南】43 サクナン 朔北と南邊。北方と南方の地。〔書、禹貢〕東漸㆓于海㆒、西被㆓于流沙㆒、朔南暨㆓聲教㆒。〔鄭注〕朔、北方也、南北不㆑言㆑所㆑至、容㆓踰之㆒。〔鮑照、河清頌〕朔南暨㆑教、海北騰㆑聲。

【朔馬】44 サクバ 北地の馬。〔孔稚珪、上㆑和㆑虜表〕宣帝撫納安靜、朔馬不㆑驚。〔鄭愔、塞外詩〕邊聲亂㆓朔馬㆒、秋色引㆓胡笳㆒。

【朔方】45 サクハウ ❶北の方。朔北。〔書、堯典〕申命㆓和叔㆒、宅㆓朔方㆒、曰㆓幽都㆒。〔傳〕北稱㆑朔。〔蔡傳〕朔方、北荒之地。〔詩、小雅、出車〕城㆓彼朔方㆒。〔傳〕朔方、北方也。❷郡名。㋑漢、置く。武帝の時、匈奴を逐ひ、河南の地を取つて置いたもの。今、綏遠省の境內の黃河以南の鄂爾多斯の地。綏遠の南境。故城は鄂爾多斯右翼後旗の界內。〔漢書、地理志下〕朔方郡、戶三萬四千三百三十八、口十三萬六千六百二十八、縣十、云云、朔方。〔水經、河水注〕河水又東南逕㆓朔方縣故城東北㆒、云云、衞青取㆓河南地㆒、爲㆓朔方郡㆒、使㆔校尉蘇建築㆓朔方城㆒、卽此城也。㋺後魏、置く。陝西省清澗縣の西。㋩隨、置く。陝西省橫山縣の西。❸縣名。㋑漢、置く。內蒙古鄂爾多斯右翼後旗の界內。❷の㋑を見よ。㋺後魏、置く。陝西省清澗縣の地。㋩唐、置く。陝西省橫山縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、楡林鎭、夏州城〕朔方廢縣、唐夏州治也、本漢縣、屬㆓朔方郡㆒、云云、唐貞觀二年、改爲㆓朔方縣㆒。

【朔方軍】46 サクハウグン 行政區劃の名。唐の開元中、置く。治は靈州。今の甘肅省靈武縣の西南。甘肅省靈武縣以北及び綏遠省西南部の地を統轄す。大中以後、靈武節度使といひ、大順の初、靈鹽二州を領す。甘肅省寧夏道の東北部の地。〔讀史方輿紀要、州城形勢、唐〕朔方節度使、治靈州、開元九年置。

【朔方備乘】47 サクハウビジヨウ 書名。六十八卷。卷首十二卷・凡例目錄二卷。清、何秋濤撰。北方諸國の事を詳記す。康熙乾隆欽定の書、及び正史に據り、旁ら古今名家の著述を參考して作る。冠卷には、上諭・李鴻章の序がある。卷首十二卷は聖訓三卷・聖藻一卷・欽定書八卷（平定羅刹方略四卷・欽定大清一統志・欽定皇朝通典・欽定皇朝文獻通考・欽定大清會典各一卷）に分つ。皆朔方に關する記事を節錄す。卷一からの目は、○聖武述略六卷—東海諸部內屬述略・索倫諸部內屬述略・喀爾喀內屬述略・準噶爾蕩平述略・烏梁海內屬述略・哈薩克內屬述略。○考二十四卷—北徼星度考・北徼界碑考・北徼條例考・北徼喀倫考・北徼形勢考・俄羅斯館考・俄羅斯學考・雅克薩城考・尼布楚城考・波羅的等路疆域考・錫伯利等路疆域考・俄羅斯亞美里加屬地考・北徼城垣考・北徼邑居考・艮維窩集考・庫葉附近諸島考・北徼山脈考・艮維諸水考・色楞格河源流考・額爾齊斯河源流考・北徼水道考・北徼教門考・北徼方物考・烏孫部族考。○傳六卷—漢魏北徼諸國傳・周齊隋唐北徼諸國傳・遼金元北徼諸國傳・元代北徼諸王傳・歷代北徼用兵將帥傳・國朝北徼用兵將帥傳。○紀事本末二卷—俄羅斯互市始末・土爾扈特歸附始末。○記二卷—俄羅斯進呈書籍記・俄羅斯叢記。○考訂諸書十五卷—考訂職方外紀・考訂使俄羅斯行程錄・考訂異域錄・考訂龍沙紀略・考訂綏服紀略・考訂俄羅斯佐領考・考訂俄羅斯事輯・考訂俄羅斯事補輯・考訂貟齋籤記・考訂俄羅斯國總記・考訂俄羅斯盟聘記・考訂海國圖志・考訂元代北方疆域考・考訂唐輶紀行。○辨正諸書五卷—辨正西域聞見錄・辨正簷曝雜記・辨正癸巳存稿・辨正瀛環志略・羣書正誤。○表七卷—北徼事蹟表・北徼沿革表・北徼地名異同表・俄羅斯境內分部表・北徼世次表・北徼頭目表。○圖說一卷。

【朔望】48 サクバウ 陰曆の朔日と十五日。又、其の時に行ふ朝謁の禮。〔漢書、律歷志上〕是爲㆓朔望之會㆒。〔漢書、外戚、孝成許皇后傳下〕其孝㆓東宮㆒、毋㆑闕㆓朔望㆒。〔注〕師古曰、朔望、朝謁之禮也。〔後漢書、岑彭傳〕以㆓朔望㆒問㆓太夫人起居㆒。〔潘岳、悼亡詩〕朔望臨㆓爾祭㆒。〔注〕翰曰、朔、月初、望、十五日。〔顏氏家訓、終制〕朔望祥禫。〔宋史、岳飛傳〕朔望設㆓祭于其家㆒。

【朔漠】49 サクバク 北方流沙の地。北方の沙漠の地。〔後漢書、袁安傳〕今朔漠既定。〔謝惠連、雪賦〕河海生㆑雲、朔漠飛㆑沙。〔杜甫、詠㆓懷古跡㆒詩〕一去紫臺連㆓朔漠㆒、獨留㆓青冢㆒怨㆓黃昏㆒。

【朔鄙】50 サクヒ 北方のゐなか。朔北の邊邑。〔盧諶、贈㆓崔溫㆒詩〕朔鄙多㆓俠氣㆒、豈唯地所㆑固。

【朔湄】51 サクビ 北地の水邊。〔張載、擬㆓四愁㆒詩〕我所㆑思兮在㆓朔湄㆒、欲㆓往來㆒之白雪飛。

【朔風】52 サクフウ きたかぜ。北風。朔吹。〔王讚、雜詩〕朔風動㆓秋草㆒、邊馬有㆓歸心㆒。〔杜甫、遣㆑興詩〕朔風飄㆓胡雁㆒、慘淡帶㆓砂礫㆒。〔張子容、涼州歌〕朔風吹㆑葉雁門秋、萬里烟塵昏㆓戍樓㆒。〔韋應物、自㆓鞏洛㆒舟行入㆓黃河㆒卽事寄㆓府縣寮友㆒詩〕孤村幾處臨㆓伊岸㆒、一鴈初晴下㆓朔風㆒。

【朔平】53 サクヘイ ❶府名。清、置く。唐の朔州。朔州及び右玉・左雲・平魯の三縣を管轄す。民國、廢す。山西省右玉縣。〔清史稿、地理志〕山西、朔平府、領㆓州一、縣三㆒、右玉、朔州、左雲、平魯。❷縣名。金、置く。滿洲熱河省林西縣東の巴林の境。〔讀史方輿紀要、直隸、附考、兀良哈〕廢慶州、臨潢西百六十里、志云、本太保山黑河之地、云云、金亦曰㆓慶州㆒、改置㆓朔平縣㆒。

【朔幣】54 サクヘイ 古、每月朔日、國司が其の領內の神社に奉幣したこと。〔釋紀〕淡路國例式日、正月元日、國內諸神奉㆓朔幣㆒事、每月朔日、准㆑之。

【朔鼙】55 サクヘイ 樂を奏する時、始めに擊つ小鼓。〔釋名、釋樂器〕鼙、聲在㆑前曰㆑朔、朔、始也、在㆑後曰㆑應、應㆓大鼓㆒也。〔儀禮、大射儀〕一建鼓在㆓其南㆒東㆑鼓、朔鼙在㆓其北㆒。〔注〕朔、始也、奏㆑樂、先擊㆓西鼙樂㆒、爲㆔賓所㆓由來㆒也。

【朔飆】56 サクヘウ あらい北風。飆は暴風。〔何遜、宿㆓南洲浦㆒詩〕霜洲渡㆓旅鴈㆒、朔飆吹㆓宿莽㆒。

【朔邊】57 サクヘン 北方のかたよつた地。北方の邊地。〔漢書、敍傳下〕薄伐㆓獫允㆒、恢㆓我朔邊㆒。〔杜審言、贈㆓蘇綰書記㆒詩〕知君書記本翩翩、爲許㆔從㆑戎赴㆓朔邊㆒。

【朔北】58 サクホク 北方塞外の地。北方。〔李陵、答㆓蘇武㆒書〕幾死㆓朔北之野㆒。〔宋書、樂志四〕朔北饗應、海表景附。

【朔霧】59 サクム 北方のきり。〔盧照鄰、結客少年場行〕龍旌昏㆓朔霧㆒、鳥陣卷㆓胡風㆒。

【朔門】60 サクモン 北地の門。北方の地。〔王丘、奉㆔和聖製送㆓張尙書巡㆑邊詩〕朔門正炎月、兵氣已秋風。

【朔野】61 サクヤ 北地の野。〔班固、幽通賦〕飆㆓颻風㆒而蟬蛻兮、雄㆓朔野㆒以颺㆑聲。〔晉書、熊遠傳〕威風赫然、聲振㆓朔野㆒。

【朔來】62 サクライ 棗の隱語。漢の武帝が東方朔を呼んで、叱叱、朔來朔來、といつたのを朔來朔來とは棗であり、叱叱とは四十九であると答へた故事。〔武帝外傳〕上林獻㆑棗、帝以㆑杖擊㆓殿檻㆒呼㆓東方朔㆒曰、叱叱、朔來朔來、此匣中何物、朔曰、上林之棗、四十九枚、上曰、何以知㆑之、朔曰、呼㆑朔者上也、以㆑杖擊㆑檻者兩木也、朔來朔來者棗也、叱叱者四十九也、上大笑。

【朔路】63 サクロ 北方の道路。朔塗。〔陸機、贈㆓弟士龍㆒詩〕企㆓佇朔路㆒、言送㆓爾歸㆒。

【朔隴】64 サクロウ 北方の隴山の地方。〔魏書、韓子熙傳〕朔隴猖狂、歷歲爲㆑亂、荆徐蠢動、職是之由。

【朔蓬之簳】65 サクホウノカン 朔北から產する蓬で作つたつよい矢。〔列子、湯問〕乃以㆓燕角之弧、朔蓬之簳㆒射㆑之。〔注〕勁矢。

【朔而生望而落】66 サクニシテシヤウジバウニシテオツ 古、帝堯の階に蓂莢といふ草が生え、月の初めに一葉を生じ、漸次十五日まで一葉宛を增し、十六日より一葉宛落ち、之に因つて旬朔を知つたといふ故事。〔宋書、符瑞志上〕帝堯在位七十年、有㆑草、夾㆑階而

生、月始生二一莢一、月半而生二十五莢一、十六日以後、日落二一莢一、及レ晦而盡、月小則一莢焦而不レ落、名曰二蓂莢一、一曰二曆莢一。〔故事成語考、花木〕朔而生、望而落、堯堦蓂莢。

【⿰月屰】14360 サク 朔(5-14359)の古字。〔集韻〕朔、古作レ⿰月屰。

【朕】14361 🈩チン ヂン 〔集韻〕直稔切 寢 ㄓㄣˋ chen4 🈔チン ヂン 〔集韻〕丈忍切 紾

小篆

🈩❶われ。おのれ。貴賤を通じての自稱。⿰舟关(9-30460)に同じ。〔正字通〕朕、⿰舟关字之譌。〔說文〕⿰舟关、我也、闕。〔獨斷、上〕朕、我也、古者尊卑共レ之、貴賤不レ嫌。〔孟子、萬章上〕二嫂使レ治二朕棲一。〔集注〕象欲レ使レ爲二己妻一。〔楚辭、離騷〕朕皇考曰二伯庸一。〔注〕朕、我也。❷天子の自稱。秦の始皇帝に始まる。〔爾雅、釋詁〕朕、我也。〔注〕古者貴賤皆自稱レ朕。〔疏〕秦始皇二十六年、定爲二至尊之稱一、漢因不レ改、以迄レ今。〔公羊、宣、十二、寡人無レ良、注〕天子自稱曰レ朕。〔史記、秦始皇紀〕臣等昧死上二尊號一、王爲二秦皇一、命爲レ制、令爲レ詔、天子自稱曰レ朕。〔白虎通、號〕或稱レ朕何、亦王者之謙也、朕、我也。❸きざし。しるし。あと。〔莊子、應帝王〕遊二无朕一。〔釋文〕朕、崔云、兆也。〔鬼谷子、捭闔〕見二變化之朕一。〔注〕朕、迹也。〔淮南子、詮言訓〕遊二無朕一。〔注〕朕、兆也。🈔ぬひめ。つぎめ。あはせめ。舟のはぎめ。甲札のぬひめ。〔說文、朕、段注〕按、朕在二舟部一、其解當レ曰二舟縫也一、戴先生曰、舟之縫、謂曰レ朕、故札續之縫亦謂二之朕一、釋詁曰、朕、我也、此如二印・吾・台・余之爲レ我、皆取二其音一、不レ取二其義一。〔周禮、考工記、函人〕眡二其朕一、欲二其直一也。〔注〕鄭司農云、朕、謂二革制一。

參考 眹(8-23313)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕朕、陳去聲、天子自稱。眹、陳上聲、目童子。

【朕躬】1 チンキュウ 我が身。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕惟祖惟父、股肱先正、其孰恤二朕躬一。

【朕垠】2 チンギン きざしとかたち。〔淮南子、覽冥訓〕日行月動、星燿而玄運、電奔而鬼騰、進退屈伸、不レ見二朕垠一。〔注〕朕、兆朕也、垠、形狀也。

【朕埜】3 チンギン きざしとかたち。朕垠に同じ。埜は垠の古文。〔淮南子、兵略訓〕神出而鬼行、星燿而玄運、進退詘伸、不レ見二朕埜一。

【朕虞】4 チングゥ 我が虞官の意。虞は、官名、山澤を掌るもの。朕は我。舜が益に命じた故事。後世、王莽、自ら稱して予といひ、予虞の官を置く。〔書、舜典〕咨益、汝作二朕虞一。〔疏〕此官以レ虞爲レ名、帝言レ作二我虞一耳、朕非二官名一也、云云、漢書、王莽自稱爲レ予、立二予虞之官一、則莽謂二此官名一爲二朕虞一、其義必不レ然也。

【朕兆】5 チンテウ きざし。しるし。兆朕。〔說文新附通誼〕凡言二朕兆一者、謂下其幾其微、如二舟之縫一、如中龜之坼上也。〔宋史、楊大全傳〕事有下幾二微于朕兆一者上、可レ諫二陛下一乎。

【朕言不レ再】6 ワガゲンフタタビセズ 我が言ふ所はこれに盡きて復た他に說く所はない。これ以上言はない。〔書、大禹謨〕惟口出レ好興レ戎、朕言不レ再。〔蔡傳〕吾之命レ汝、蓋已審矣、豈復更有二他說一。

【朕之杜預】7 チンノトヨ 魏の肅宗が尙書袁翻の才學を賞し杜預の才學に比して呼んだ語。杜預は晉の人、左傳の注の作者。〔魏書、袁翻傳〕肅宗・靈太后、曾讌二於華林園一、擧レ觴謂二羣臣一曰、袁尙書朕之杜預、欲下以二此杯一敬屬中元凱上、今爲盡レ之、侍坐者莫レ不二羨仰一、翻名位俱重、當時賢達咸推二與之一、然獨善二其身一、無レ所二獎拔一、排二抑後進一、懼二其淩レ己、論者鄙レ之。

【胶】14362 カウ 交(1-291)に同じ。〔韻會小補〕胶、同レ交、日月之交道也。

【朗】14362′ ラウ 朗(5-14364)の略字。

七畫

【朖】14363 ラウ 朗(5-14364)の本字。〔佩觿集〕朖、朗本字。

【朗】14364 ラウ 〔集韻〕里黨切 養 ㄌㄤˇ lang3

小篆

❶ほがらか。あきらか。朖(5-14363)に同じ。〔說文〕朖、朙也、从レ月良聲。〔段注〕今字作レ朗。〔詩、大雅、既醉〕高朗令レ終。〔傳〕朗、明也。〔國語、楚語下〕其聖能光遠宣朗。〔注〕朗、明也。❷たからか。たからかに。朗詠の❶を見よ。❸或は⿰日良(5-13938)に作り、又、⿰良刀(2-2022)に作る。〔集韻〕朗、或从レ日、古作レ⿰月兩、亦書作レ⿰良刀。古は⿰月兩(5-14375)に作り、❹姓。〔萬姓統譜〕朗、見二姓苑一。

名乘 アキ。アキラ。トキ。

【朗菴】1 ラウアン 清、李國亮(6-14459··1252)の字。

【朗咏】2 ラウエイ 聲高らかに歌ふ。朗詠。〔土屋鳳洲、西鄕南洲傳〕南洲徐起、朗咏者數。

【朗詠】3 ラウエイ ❶聲高らかに歌ふ。朗吟。〔孫綽、遊二天台山一賦〕凝二思幽巖一、朗二詠長川一。〔注〕翰曰、朗、高也。❷雅樂の一種。平安朝時代に行はれ、漢詩文の秀句を訓讀に和げて謠つた節。〔倭漢朗詠集、私注〕倭者、本朝也、本朝以レ歌述二其懷一、漢者唐家也、唐家以レ詩言二彼志一、此詩歌之詠有二秀逸一、則人皆誦、故曰二朗詠一。〔中右記〕寬治六年三月二十八日、此間遞朗詠、或管絃之在二長曲一句、或指二象魏一而北レ轅句等也。❸倭漢朗詠集の略稱。

【朗窰】4 ラウエウ 陶器の名。江西巡撫の朗某が、初めて景德鎭で作らせたものといふ。

【朗耀】5 ラウエウ 明かにかがやく。〔千字文〕曦暉朗耀。

【朗鶲】6 ラウヲウ 鳥の名。候鳥の一。じやうびたき。

【朗鑒】7 ラウカン 明かな鏡。〔陸機、君子行〕朗鑒豈遠假、取レ之在二傾冠一。

【朗渠】8 ラウキヨ 清、劉清(2-2224··424)の號。

【朗旭】9 ラウキヨク ほがらかな朝日。〔王微、詠レ愁詩〕憂隨二積霖一密、慨因二朗旭一彰。

【朗吟】10 ラウギン 聲高らかにうたふ。朗詠。〔杜陽雜編、上〕上試二制科於宣政殿一、稱レ旨者必翹レ足朗吟、謂二侍臣一曰、此皆朕門生也。〔劉得仁、中秋詩〕朗吟看正好、惆悵又西傾。〔如不及齋文鈔、春雨樓記〕朗下吟好雨知二時節一之什上。〔朱熹、醉下二祝融峰一詩〕濁酒三杯豪氣發、朗吟飛下祝融峰。

【朗晃】11 ラウクワウ 蛤の一種。形厚く唇が黑い。〔事物異名錄、水族、蛤〕興化府志、朗晃、蛤蜊類、形厚而唇黑。

【朗溪】12 ラウケイ ❶川の名。沅水に注ぐ。又、朗江・渠水ともいふ。湖南省黔陽縣の西南。渠水(7-17764··20)の❷を見よ。❷縣名。唐、置く。諸葛武侯駐兵の處と傳ふ。湖南省黔陽縣の西南の臥龍巖。〔讀史方輿紀要、湖廣、辰州府、沅州〕黔陽縣、漢鐔城縣地、屬二武陵郡一、云云、唐貞觀八年、析二置朗溪縣一、屬二巫州一。

【朗月】13 ラウゲツ ほがらかなつきかげ。明月。〔魏文帝、與二梁朝歌令吳質一書〕白日既匿、繼以二朗月一。〔嵇康、琴賦〕冬夜肅清、朗月垂レ光。〔潘岳、悼亡詩〕朗月何朧朧。

【朗乾】14 ラウケン 清、沈映輝(6-17189··430)の字。

【朗悟】15 ラウゴ 智が明かでさとりが早い。才敏。穎悟。〔顏氏家訓、省事〕近世有二兩人一、朗悟士也。〔宋史、高宗紀一〕資性朗悟、博學彊記。

【朗公】16 ラウコウ 明、吳執御(2-3365··638)の字。

【朗興】17 ラウコウ 後魏、費穆(10-36717··71)の字。

【朗齋】18 ラウサイ 字號。❶清、夏鑾(當塗の人)(3-5720··265)の號。❷清、張曜(4-9812··57)の字。

㊂清、梅朗中(6-14830‥281)の字。

【朗山】19ラウザン ㊀山名。昇山の異名。晉の王朗が登つたから名づく。〔海錄碎事、地、總載、山〕昇山、在二州南一、晉司徒王朗每登遊覽、因名二朗山一、上有二陸鴻漸井一。㊁清、馬慧裕(12-44572‥755)の號。

【朗山堂】20ラウザンダウ 清、項聖謨(12-43343‥75)の室名。

【朗子】21ラウシ 晉、桓豁(6-14774‥17)の字。

【朗思】22ラウシ 清、沈昀(6-17189‥23)の字。

【朗州】23ラウシウ 州名。隋、置く。唐、之に因る。今、湖南省常德縣。〔讀史方輿紀要、湖廣〕常德府、禹貢荊州之域、春秋戰國時屬レ楚、秦置二黔中郡一、漢武陵郡、云云、隋平レ陳廢レ郡、改爲二朗州一、太業初、復改レ州爲二武陵郡一、唐仍曰二朗州一、天寶初曰二武陵郡一、乾元初復爲二朗州一。

【朗儁】24ラウシユン ほがらかで且つすぐれてゐる。〔北史、李渾傳〕儀貌端偉、神情朗儁。

【朗如】25ラウジヨ 清、潘維城(7-18236‥110)の字。

【朗誦】26ラウシヨウ 聲高らかによむこと。朗讀。〔近古史談、織篇、稻葉一徹〕一徹從容入レ室、朗二誦壁間所レ挂詩一。

【朗心】27ラウシン あきらかな心。〔袁宏、三國名臣序贊〕公瑾英達、朗心獨見。〔注〕良曰、朗、明也。

【朗青】30ラウセイ 清、王德榜(7-20823‥1994)の字。

【朗清】31ラウセイ あきらかで清い。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕是日也、天朗氣清、惠風和暢。

【朗照】32ラウセウ ㊀ほがらかにてる。朗かに輝く。〔雲笈七籤〕三光朗照、五神澄清。㊁lang³ chao 御諒察。

【朗嘯】33ラウセウ ほがらかにうそぶき歌ふ。〔王績、答二刺史杜之松一書〕高吟朗嘯、挈レ榼攜レ壺。

【朗川】34ラウセン 清、王之鈇(7-20823‥1561)の號。

【朗倩】35ラウセン 清、沈顥(6-17189‥79)の字。

【朗然】36ラウゼン ㊀ほがらかなさま。朗朗。〔呂覽、士容〕其狀朗然不レ儇。〔晉書、衞玠傳〕又嘗語レ人曰、與レ玠同遊、冏若二明珠之在一レ側、朗然照レ人。㊁ラウネン 唐の高僧。南徐の魏氏の子。上元中、潤州招隱寺統領大德となる。著に古今決がある。〔宋高僧傳、十五〕

【朗然子】37ラウゼンシ 宋、劉希岳(2-2224‥766)の號。

【朗達】38ラウタツ ほがらかでひろく通達する。通朗明達。〔晉書、孫盛傳〕王公神情朗達、常有二世外之懷一。

【朗旦】39ラウタン ほがらかな朝。〔支遁、八關齋詩〕鳴禽戒二朗旦一、備禮寢二玄役一。

【朗池】40ラウチ 縣名。唐、置く。通典・新唐志・九域志・元一統志は皆朗池に作り、舊唐志・太平寰宇記は郎池に作る。四川省營山縣の北。〔讀史方輿紀要、四川、順慶府、蓬州〕營山縣、漢宕渠縣地、梁相如縣地、唐武德四年、析二相如縣地一、置二朗池縣一、屬二果州一、寶應元年、改屬二蓬州一。

【朗暢】41ラウチヤウ ほがらかでのびやか。朗通。〔陸機、文賦〕頌優遊以彬蔚、論精微而朗暢。〔先哲叢談、伊藤蘭嵎〕音吐朗暢辨論明備、座者皆歎賞曰、眞儒者也。

【朗亭】42ラウテイ 字號。㊀清、徐燦(崑山の人)(4-10110‥142)の字。㊁清、沈兆霖(6-17189‥610)の字。

【朗笛】43ラウテキ ほがらかなふえの音。〔陸機、演連珠〕賁鼓密而含レ響、朗笛疎而吐レ音。

【朗徹】44ラウテツ すきとほつてみえる。すきとほるほど清い。〔晉書、樂廣傳〕神姿朗徹、當レ爲二名士一。

【朗天】45ラウテン ほがらかなそら。〔王褒、四子講德論〕神光燿暉、洪二洞朗天一。

【朗讀】46ラウドク 聲高らかによむ。さえた聲で明かに讀む。朗誦。〔李商隱、與二陶進士一書〕有下默而視レ之不レ暇二朗讀一者上、又有下始朗讀而中有二失レ字壞レ句不レ見二本意一者上。

【朗讀法】47ラウドクハフ 口語體又は文語體の文章を正しく且つ興味あるやうに讀む方法。

【朗抱】48ラウハウ くもりのないこころ。抱は懷抱。〔李羣玉、長沙陪三裴大夫登二北樓一詩〕朗抱雲開レ月、高情鶴見レ秋。

【朗白】49ラウハク あきらかで白い。〔論衡、率性〕摩拭朗白。

【朗伯】50ラウハク 清、黃晉良(12-47926‥1172)の字。

【朗璞】51ラウハク 明かな玉。〔陸機、演連珠〕朗璞蒙レ垢、不レ能レ吐レ暉。

【朗發】52ラウハツ あきらかにあらはれる。〔中村栗園、練二心膽一論〕智識朗發。

【朗拔】53ラウバツ 明かですぐれる。〔陸機、薦二賀循郭訥一表〕風度簡曠、器識朗拔。

【朗夫】54ラウフ 清、陸燿(11-41708‥21)の字。

【朗甫】55ラウホ 清、陸燿(11-41708‥21)の字。

【朗邁】56ラウマイ 明かですぐれる。〔呂溫、司空曙字文〕風儀朗邁、振二拔氛囂一。〔國史略、宣化天皇〕帝器宇清通、神襟朗邁。

【朗密】57ラウミツ 明かでこまかい。〔嵇康、琴賦〕朗密調均、華繪彫均。

【朗榆】58ラウユ 樹の名。榆に似たもの。〔左氏、莊四、卒二於樠木之下一、疏〕木有二似レ榆者一、俗呼爲二朗榆一。

【朗朗】59ラウラウ ㊀音聲の清くすんでゐるさま。〔韓愈、奉二使常山一早次二太原一云云詩〕朗朗聞二街鼓一。㊁あかるいさま。明かなさま。〔世說新語、容止〕時人目二夏侯太初一、朗朗如二日月之入一レ懷。

【朗陵】60ラウリヨウ 縣名。漢、置く。朗陵山を以て名づく。劉宋の時、縣廢さる。故城は河南省確山縣。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、朗陵。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、確山縣〕朗陵城、漢縣、治レ此、光武封二臧宮一爲二侯邑一、晉仍屬二汝南郡一、武帝封二何曾一爲二朗陵公一是也、後廢、梁置二安昌縣一。

【朗陵公】61ラウリヨウコウ 封號。㊀晉、何曾(1-511‥137)の封號。朗陵を見よ。㊁晉、何劭(1-511‥129)の封號。〔傅咸、贈二何劭王濟一詩序〕朗陵公何敬祖、咸之從內兄。〔注〕善曰、臧榮緒晉書曰、何劭襲二封朗陵郡公一。

【朗麗】62ラウレイ ほがらかでうるはしい。〔姚逖、五星同色賦〕三光朗麗、雨必降二于旬一。

【朗廬】63ラウロ 阪谷素の號。阪谷朗廬(11-41562‥24)を見よ。

【朗雲堂】64ラウウンダウ 清、項聖謨(12-43343‥75)の室名。

【朗公谷】65ラウコウコク 谷の名。舊名、琨瑞溪。沙門竺僧朗のゐたところ。〔水經、濟水注〕朗公谷、舊名琨瑞溪、有二沙門竺僧朗一、少事二佛圖澄一、碩學淵通、尤明二氣緯一、隱二于此谷一、因謂二之朗公谷一。

【朗仔轄】66ラウシカツ 清代、西藏係の官職の名の一。秩は五品。〔淸會典、理藩院、設官〕管二理拉撒番民一朗仔轄二人。

【朗目疎眉】67ラウモクソビ あきらかな眼とまばらな眉毛。〔南史、陶弘景傳〕神儀明秀、朗目疎眉、細形長額聳耳。

【朗卜切喀巴普】68ランプチエコバプ 山名。西藏阿里の境內。岡底斯山の南幹の始まる所で狼楚河の源。

【朘】14365

セン 〔集韻〕遵全切 ［先］

ちぢまる。ちぢむ。へる。〔廣韻〕朘、縮朒。〔集韻〕朘、縮也。〔漢書、董仲舒傳〕民日削月朘。〔注〕孟康曰、朘、音揎、謂二轉褰蹴一也。

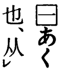
［參考］ 肉部の朘(9-29531)と同異の說がある。

【朙】14366

メイ 明(5-13805)の古字。〔玉篇〕朙、古文明。

【朚】14367

［一］クワウ 〔廣韻〕呼光切 ［陽］
［二］バウ マウ 〔集韻〕謨郎切 ［陽］
［三］マウ ミヤウ 〔集韻〕眉耕切 ［庚］
［四］マウ ミヤウ 〔集韻〕莫更切 ［敬］

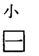

小篆

［一］**あくるひ**。翌日。〔說文〕朚、翌也、从レ明亡聲。〔段注〕翌也、未レ聞、當レ作レ昱、昱、明也。［二］**いそがしい**。忙(4-10334)・茫(9-30900)に通じ、或は朙に作る。〔說文、朚、段注〕朚、卽今之忙字、亦作レ茫、俗作レ忙。〔廣雅、釋詁一〕朚、遽也。〔集韻〕朚、博雅、遽也、或作レ朙。［三］**めくら**。盲(8-23132)に同じ。〔集韻〕盲、說文、目無二牟子一、或作レ朚。［四］朚悵は、道を失ふさま。〔集韻〕朚、朚悵、失レ道皃。

【望】 14368

㊀ バウ マウ 〔集韻〕無放切 ㄨㄤˋ wang⁴ 漾

㊁ バウ マウ 〔集韻〕武方切 陽


小篆

㊀㊁❶**のぞむ**。㋑まちのぞむ。〔說文〕望、出亡在レ外、望二其還一也、从レ亡朢省聲。〔戰國、齊策〕女朝出而晚來、則吾倚レ門而望、女暮出而不レ還、則吾倚レ閭而望。〔史記、春申君傳〕世有二無レ望之福一。〔韓愈、復志賦〕往者不レ可レ復兮、冀二來今之可一レ望。㋺したふ。〔詩、陳風、宛丘〕洵有レ情兮、而無レ望兮。〔箋〕無レ可二觀望而則法一。〔後漢書、趙壹傳〕士大夫想二望其風采一。㋩ねがふ。〔後漢書、袁術傳〕懼非二海內企望之意一也。㋥遠く見わたす。〔釋名、釋姿容〕望、茫也、遠視茫茫也、又望、惘也、視レ遠惘惘也。〔詩、衞風、河廣〕跂予望レ之。〔箋〕可三以望二見之一。〔魏徵、述懷詩〕出沒望二平原一。㋭あふぐ。仰ぎ見る。〔詩、小雅、都人士〕萬民所レ望。〔箋〕咸瞻望。〔晉書、劉毅傳〕王公貴人、望レ風憚レ之。㋬みる。〔廣雅、釋詁一〕望、視也。〔張籍、祭二退之一詩〕有レ花必同賞、有レ月必同望。㋣のぞく。うかがふ。〔廣雅、釋詁三〕望、覗也。〔吳志、甘寧傳〕覘望知レ之。㋠むきあふ。〔馬融、圍棊賦〕緣邊遮迾兮、往往相望。〔魏文帝、燕歌行〕牽牛織女遙相望。❷**のぞみ**。ねがひ。希求するところ。〔漢書、黥布傳〕大喜レ過レ望。〔後漢書、彭寵傳〕意望甚高。❸**ながめ**。見はらし。〔錢起、尋二華山雲臺觀道士一詩〕竹行拂二烟雨一、溪望亂二金碧一。〔孟貫、冬日登二江樓一詩〕遠村雖レ入レ望、危檻不レ堪レ凭。❹**やうす**。容止。風望。〔北史、崔鑒傳〕風望閑雅。❺**尊敬**。信用。〔後漢書、蔡邕傳〕無三乃失二人望一乎。❻**標的**。尊び敬ふ所のもの。〔左氏、襄、十四〕夫君、神之主而民之望也。〔後漢書、盧植傳〕盧尙書、海內大儒、人之望也。❼**めあて**。かんばん。〔廣韻〕帘、青帘、酒家望子。❽**ほまれ**。名聲。〔詩、大雅、卷阿〕令聞令望。〔疏〕爲三人所二觀望一。〔晉書、桓沖傳〕德望不レ及二謝安一。❾**いへがら**。門族。〔北史、孫紹傳〕中正賣二望於下里一。〔北史、韓麒麟傳〕檢二其門望一。❿**祭の名**。王侯が領內の山川を遠望して禮を致す祭。又、其の祭られる主體、名山大川の類。〔廣雅、釋天〕望、祭也。〔書、舜典〕望二于山川一。〔傳〕皆一時望二祭之一。〔周禮、春官、大司樂〕以祀二四望一。〔注〕四望、五嶽四鎭四瀆。〔左氏、宣、三〕望、郊之屬也。〔左氏、僖、三十一〕望、郊之細也。〔穀梁、僖、三十一〕猶二三望一。〔注〕望者、祭二山川一之名也、謂二海也岱也淮也一、非二其疆界一則不レ祭。〔淮南子、人閒訓〕郊望。〔注〕望、祭二日月星辰山川一也。〔史記、五帝紀〕望二于山川一。〔注〕正義曰、望者、遙望而祭二山川一也。⓫**むね**。屋棟。〔釋名、釋宮室〕檼或謂二之望一、言二高可一レ望也。⓬**草の名**。〔爾雅、釋草〕望、乘車。⓭**うらむ**。責める。譚(**10—36049**)に通ず。〔說文通訓定聲〕望、叚借爲レ譚。〔韻會〕望、又責望・怨望。〔史記、袁盎傳〕絳侯望二袁盎一。〔注〕正義曰、望、怨也。〔史記、張耳陳餘傳〕不レ意君之望レ臣深也。〔注〕索隱曰、望、怨責也。⓮**はぢる**。〔孟子、公孫丑上〕望望然去レ之。〔注〕望望、慙愧之貌也。⓯**しきり**。防(**11—41576**)に通ず。〔說文通訓定聲〕望、叚借爲レ防。〔呂覽、下賢〕神覆二宇宙一而無レ望。〔注〕無レ望、無二界畔一也。⓰**くらべる**。方(**5—13620**)に通ず。〔說文通訓定聲〕望、叚借爲レ方。〔禮、表記〕以レ人望レ人。〔疏〕望、比也。⓱**もち**。もちづき。朢(**5—14391**)に通ず。〔說文通訓定聲〕望、叚借爲レ朢。〔釋名、釋天〕望、月滿之名也、月大十六日、小十五日、日在レ東、月在レ西、遙在望也。〔韻會〕望、案、說文、日月之望、本作レ朢、瞻望之望、从レ亡朢省聲、今通作レ望、而古文制字之義、遂亡。〔書、召誥〕惟二月既望。〔傳〕二月十五日、日月相望、因紀レ之。〔蘇軾、後赤壁賦〕是歲十月之望。⓲**人のさま**。望望(126)を見よ。⓳**至る**。〔廣雅、釋詁一〕望、至也。⓴**姓**。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕望氏、姜姓、風俗通、齊太公望之後、姓苑云、今魏興人景枋登科記有二望儼一。

名乘 ミ。モチ。

解字 形聲。亡と朢の省畫との合字。出亡して外にあるものの還りをまちのぞむ義。故に亡に從ふ。朢は音符。但し、朢にも亦君臣相望む意がある。故に形聲であるが會意をかねてゐる。朢(**5—14391**)を見よ。▽ (甲骨文) 象形。背伸びして目を見開き遠く見やる人に象る。

參考 朢(**5—14391**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕望・朢二字同音、望、仰望之望。朢、月滿與レ日相朢、如二臣朝一レ君、故从二臣月一。

【望夷】1 バウイ 望夷宮の略。〔說苑、尊賢〕二世以封二於望夷一。

〔望夷宮〕2 バウイキユウ 宮名。秦の趙高、二世皇帝を此處に弑す。故址は陝西省咸陽・涇陽二縣の境の畦村。〔史記、秦始皇紀〕丞相高殺二二世望夷宮一。

【望雲】3 バウウン 雲を望み見る。❶子が他鄉で親をおもふ喩。望雲之情を見よ。❷德化を慕ふ喩。〔海內十洲記〕漢武帝時、西域遠夷入貢云、常占二東風入レ律、百旬不レ休、青雲干呂、連月不レ散、意中國有二好道君一。〔李德林、天命論〕望レ雲觀レ海、應レ化歸レ風。❷臣が主君をおもふ喩。〔張方平、乞二致仕一表〕精鶩二紫宸一、猶結二望雲之戀一。

〔望雲集〕4 バウウンシフ 書名。五卷。明、郭奎撰。奎は余闕の門人。五言詩は漢魏に近く、七言古體は李白による。〔四庫提要、集、別集類〕

〔望雲騅〕5 バウウンスヰ 名馬の名。唐の德宗が八馬を以て蜀に幸した時、望雲騅だけが途中斃れずに來往したといふ。〔元稹、望雲騅馬歌序〕德宗皇帝以二八馬一幸レ蜀、七馬道斃、唯望雲騅來往不レ頓、貞元中老二死天廐一、臣稹作レ歌以記レ之。

〔望雲山館〕6 バウウンサンクワン 清、章鋆(**8—25761・・8**)の「室名。

〔望雲之情〕7 バウウンノジヤウ 子が他鄉で親を思ふ心。唐の狄仁傑が故鄉の方の雲を望見して其の下に在る父母を慕つた故事。〔舊唐書、狄仁傑傳〕薦二授幷州法曹一、其親在二河陽別業一、仁傑赴二幷州一、登二太行山一、南望見二白雲孤飛一、謂二左右一曰、吾親所レ居、在二其雲下一、瞻望佇立久レ之、雲移乃行。

〔望雲書屋〕8 バウウンシヨヲク 清、歐陽厚均(**6—16185・・**120)の室名。

〔望雲聽雨山房〕9 バウウンチヤウウサンバウ 清、丁履恆(**1—2**「・・308)の室名。

【望影】10 バウエイ 姿を遠くから望み見る。〔陸機、漢高祖功臣頌〕窮レ神觀レ化、望レ影揣レ情。

【望瘞】11 バウエイ 祭の名。又、其の祭をすること。望は山川等を祭ること。瘞は牲を埋めて地を祭ること。〔桃花扇、拜壇〕贊、望瘞。

【望瑤】12 バウエウ 堡の名。陝西省膚施縣の北。

【望衍】13 バウエン ❶祭の名。幣を用ひて山川の神を招き致すこと。衍は進、神を招き致すために、進んで之を禮する意。衍祭(**10—34033・・11**)を見よ。〔周禮、春官、男巫〕掌二望祀望衍授號一、旁招以レ茅。〔注〕杜子春云、望衍謂二衍祭一也、玄謂、衍讀爲レ延、聲之誤也、延、進也、謂三但用レ幣致二其神一。〔孫詒讓正義〕云二延進也一者、爾雅釋詁文、謂三但用レ幣致二其神一者、但用レ幣、則無二牲及粢盛一也、致二其神一、即是進而禮レ之、故云二望延一、然則望衍與二望祀一同、唯禮有二詳略一耳。❷唐代、西域の帆延國の別名。〔唐書、西域下、帆延傳〕或曰二望衍一、曰二梵衍那一、居二斯卑莫運山之旁一、云云、地寒、人穴處、王治二羅爛城一。

【望淵】14 バウエン　唐、盧宗回(8－23050‥263)の字。

【望遠】15 バウエン　遠方をのぞむ。〔穀梁、桓、十四〕望レ遠者、察二其貌一而不レ察二其形一。〔韓愈、送三李愿歸二盤谷一序〕窮居而閒處、升レ高而望レ遠。

〔望遠鏡〕16 バウヱンキヤウ　遠距離の物體を明かに見るに用ひるめがね。反射望遠鏡と屈折望遠鏡との二種がある。とほめがね。縮遠鏡。千里鏡。〔和漢三才圖會、天部〕月桂、或有下以二望遠鏡一見二月形一者上、曰、月全不レ圓、其周帀有二斫闕一而如二斑雪之紋一婆娑。

【望憶】17 バウオク　のぞみおもふ。

【望河】18 バウカ　親しみ近づくことの出來ない意。〔書言故事、瞻仰類〕敍下未レ得二親近一意上、曰三徒切二望河一、宋之問明河篇、明河可レ望不レ可レ親。

【望海】19 バウカイ　縣名。❶後漢、置く。安南の北境。❷五代の時、呉越、置く。浙江省鎭海縣。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府〕定海縣、本句章縣地、唐爲二鄮縣之望海鎭一、五代時、錢氏更名二靜海鎭一、尋置二望海縣一、屬二明州一。

〔望海堝〕20 バウカイクワ　地名。明の洪武の初、都督耿忠、其の上に堡を築いて、倭寇に備ふ。永樂十七年、總兵劉江之を增築す。滿洲遼寧省金縣の東北。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、金州衞〕望海堝堡、衞東南七十餘里、地特高、可レ駐二兵千餘一、洪武初、都督耿忠於レ此築レ堡備二倭寇一、至必先經、此海濱咽喉地也、永樂十七年、總兵劉江用レ石壘レ之、倭乘二海艏一入犯、直逼二城下一、登レ岸索レ戰、江出レ奇敗レ之、賊奔二櫻桃匯空堡一、江圍レ之、特開二西壁一以待二其奔一、分二兩翼一夾擊、盡殲レ之、遼之倭患遂絕。

〔望海臺〕21 バウカイダイ　臺の名。又、漢武臺・望海市臺といふ。周の穆王、八駿に乘じて東の海上に遊び、之を築いて海市を望むと傳ふ。唐の太宗、高麗から師を還して漢武臺にやどる。河北省滄縣の東北。〔魏氏土地記〕章武縣東一百里、有二武帝臺一、南北有二二臺一、相去六十里、俗云、漢武帝東巡二海上一所レ築。〔讀史方輿紀要、直隸、河間府、滄州、鹽山縣〕望海臺、縣東北、一名漢武臺、魏氏土地記、章武縣東百里、有二漢武帝臺一、南北有レ二、相去六十里、基高六十丈、俗云、漢武東巡二海上一所レ築、唐史、貞觀十九年、自二高麗一班レ師入二臨榆關一、次二漢武臺一、顧問二侍臣一、對曰、此是燕齊之士爲二漢武一求レ仙處。

【望海堂】22 バウカイダウ　遼、耶律倍(9－29008‥31)の室名。

〔望海潮〕22′ バウカイテウ　詞牌の名。〔青泥蓮花記〕柳耆卿與二孫何一爲二布衣交一、孫知レ杭、門禁甚嚴、耆卿欲レ見レ之不レ得、作二望海潮詞一、使三妓楚楚歌二於孫前一、孫卽日迎二耆卿一預坐。〔錢塘遺事〕孫何帥二錢塘一、柳耆卿作二望海潮詞一贈レ之、有二三秋桂子、十里荷香之句一、此詞流播、金主亮聞レ之、欣然起二投レ鞭渡レ江之志一、謝處厚詩云、那知卉木無情物、牽二動長江萬里愁一、予謂、此詞雖三牽二動長江之愁一、然湖山之淸麗、使下士大夫流二連於歌舞嬉游之樂一、遂忘中中原上、是則深可レ恨耳。

〔望海峯〕23 バウカイホウ　峯の名。望海寺がある。山西省五臺縣の五臺山の東臺。

【望江】24 バウカウ　縣名。❶隋、置く。今、安徽省懷寧縣の西南。南のかた長江に臨む。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府〕望江縣、漢統縣地、云云、開皇十八年、改曰二望江縣一、唐武德五年、置二高州一、尋改爲二智州一、七年州廢、縣屬二嚴州一、八年屬二舒州一、宋末嘗遷二治於東流縣之香口鎭一、元還二舊治一。〔淸史稿、地理志〕安徽、安慶府、縣六、望江。❷唐、置く。貴州省の境。

〔望江亭〕25 バウカウテイ　❶亭の名。㋑一名、貴池亭。安徽省貴池縣の南齊山。〔九華山錄〕貴池亭俗呼二望江亭一、以下其見二大江一可上望二淮南一也。㋺江西省南昌縣の東百花洲の上。❷元曲選百種中の一。元、關漢卿撰。正名を望江亭中秋切鱠といふ。

〔望江南〕26 バウカウナン　❶詞調の名。もと樂曲の名。隋の煬帝、西苑を爲り、池を掘り、龍鳳舸を浮べ、望江南曲八闋を作る。唐に及んで始めて詞調の名となり、李德裕其の句拍を用ひて改めて謝秋娘を作る。溫庭筠の望江南、白居易の江南憶、劉禹錫の春去也、李後主の望江梅、馮延巳の江南憶、一名歸塞北・夢仙游はみな同一の詞調である。〔海山記〕煬帝闢レ地周二百里爲二西苑一、內爲二十六院一、聚二巧石一爲レ山、鑿レ池爲二湖海一、又鑿二北海一、周廻四十里、中有二三山一、效二蓬萊方丈瀛洲一、上皆臺榭廻廊、水深數丈、開レ溝通二五湖北海一、盡通二行龍鳳舸一、帝多泛二東湖一、因製二湖上曲、望江南八闋一云。〔隋煬帝、望江南〕湖上月、偏照二列仙家一、水浸二寒光一鋪二枕簟一、浪搖二晴影一走二金蛇一、偏稱泛二靈槎一。〔樂府雜錄〕李衞公爲二亡妓謝秋娘一撰二望江南一、亦云二夢江南一、白樂天作二憶江南三首一、第一江南好、第二第三江南憶、自注云、此曲亦名二謝秋娘一、每首五句、予考二此曲一、自レ唐至レ今、皆南宮字句亦同止レ是、今曲兩段蓋近世曲子、無二單遍者一、然衞公爲二秋娘一作二此曲一、已出二兩名一、樂天又名以二憶江南一、又以二謝秋娘一、近世又取二樂天首句一、名以二江南好一。❷草の名。いちささげ。〔和漢三才圖會、濕草類〕望江南、花名二茶花兒一、俗云二鼬虹豆一。

【望幸】27 バウカウ　❶臣民が君の臨幸を待ち望むこと。〔漢書、食貨志下〕儲二設共具一而望レ幸。❷妃嬪が君王の寵愛を冀ひ望むこと。〔袁桷、題二美人圖班姬一詩〕望レ幸眸凝二秋水一、倚レ愁眉蹙二春山一。〔杜牧之、阿房宮賦〕縵立遠視望レ幸焉、有レ不レ得レ見者三十六年。

【望高】28 バウカウ　高いところを望む。〔新論、正賞〕知二是望レ高目亂而心惑一也。

【望看】29 wang^{4} k'an^{4}　訪問する。

【望竿】30 バウカン　目じるしの旗竿。〔水滸傳、三回〕門前挑二出望竿一、掛二着酒旆一。

【望眼】31 バウガン　望み見る。ぢつと見る。〔琵琶記、義倉賑濟〕只恐公婆懸二望眼一。

〔望眼成レ穿〕32 バウガンセンヲナス　穴のあく程見詰める。〔王惲、詩〕落日響音杳、秋空望眼穿。

【望希】33 wang^{4} hsi^{1}　望み希ふ。願ひたい。

【望祈】34 wang^{4} ch'i^{2}　望み祈る。

【望氣】35 バウキ　雲氣をのぞみ見て人事の吉凶機運を占ふ。又、その人。候氣。〔墨子、迎敵祠〕望氣舍近二守宮一。〔史記、項羽紀〕吾令三人望二其氣一、皆爲二龍虎一、成二五采一、此天子氣也、急擊勿レ失。〔史記、封禪書〕上乃遣三望氣佐候二其氣一云。〔史記、孝文紀〕趙人新垣平、以二望氣一見。〔漢書、宣帝紀〕望レ氣者言、長安獄中、有二天子氣一。〔後漢書、光武帝紀論〕望氣者蘇伯阿、爲二王莽一使至二南陽一。〔干寶、晉紀總論〕望氣者又云、豫章有二天子氣一。〔羅山文集、六十二、望氣〕望氣者、蓋保章氏之餘流歟、周禮春官保章氏、以レ星觀二妖祥一、以レ雲辯二吉凶一、以レ風命二乖別一。

〔望氣臺〕36 バウキダイ　臺の名。雲氣を見る一種の氣象臺。又、尹喜臺といふ。河南省靈寶縣の南。〔太平寰宇記〕春秋時關令尹喜見二紫氣丈餘飛入一レ關、曰、必有二異人過一レ此、次日、老子果騎二青牛一至、後人卽二其處一立レ臺。

【望求】37 wang^{4} ch'iu^{2}　希望する。

【望救】38 バウキウ　たすけをもとめる。〔福惠全書、刑名部、問擬〕人溺二于水一、焚二于火一、號呼望レ救。

【望鄕】39 バウキヤウ　故鄕の方をのぞみ見る。鄕里をなつかしくおもふ。思鄕。懷鄕。〔禮、奔喪〕齊衰望レ鄕而哭。〔劉長卿、秋日登二吳公臺上寺一云云詩〕古臺搖落後、秋日望鄕心。〔李益、夜上二受降城一聞レ笛詩〕不レ知何處吹二蘆管一、一夜征人盡望レ鄕。

〔望鄕館〕40 バウキヤウクワン　館の名。晉の永嘉の亂に、安陽公主・平城公主、兩河の界にのがれて民家の妻となり、常に故鄕を慕ふ。村民之に感じて築くといふ。これを公主望鄕館といふ。〔述異記、下〕晉永嘉亂、既已至レ江、諸公主不レ得二隨去一、安陽公主・平城公主、奔二入兩河界一、悉爲二民家妻一、常怏怏不レ悅、有二故鄕之思一、村民感レ之、共築二一臺一以居レ之、謂二之公主望鄕之館一、至レ今歸然、王朗懷舊賦云、將軍出塞之臺、公主望鄕之館、漢成帝遣二將軍王潰戍一レ邊、及二帝崩一王莽簒逆、潰與レ莽有レ隙、遂留不二敢歸一、因逃二入胡中一、士卒相率築レ臺、爲二望鄕之處一。

〔望鄕臺〕41 バウキヤウダイ　臺の名。❶漢の成帝、將軍王潰をして邊を戍らしむ。王莽の簒逆に及び、潰、胡中に逃れ、士卒相率ゐて臺を築いて望鄕の處とす。王朗の懷舊賦に將軍出塞の臺といふのは此を指す。❷望鄕館をいふ。❸隋の蜀王秀、築く。四川省成都城北の九淸里。〔王勃、蜀中九日詩〕九月九日望鄕臺、他席他鄕送レ客杯、人情已厭南中苦、鴻鴈那從二北地一來。〔太平寰宇記〕益州記云、昇仙亭、夾レ路有二二臺一、一名望鄕臺。〔成都記〕望鄕臺、隋蜀王秀所レ築。❹四川省廣元縣の南。〔九域志〕利州有二望鄕臺一。〔武元衡、送二柳郞中裴起居一詩〕望鄕臺上秦人在。❺河北省良鄕縣の北。其の下に洪羊洞があり、宋の將、楊業の

埋骨の處と傳へらる。❻俗に冥界に望鄉臺あり靈鬼が之に登つて現世の家內の情狀を望見すと傳ふ。

【望魚】42（バウギヨ） 鱭魚の異名。〔本草、鱭魚〕釋名、鮆魚、鮤魚、鱴刀、魛魚、鰽魚、望魚。

【望衢】43（バウク） 道を望み見る。〔任昉、王文憲集序〕望レ衢罕レ窺二其術一、觀レ海莫レ際二其瀾一。

【望空】44（バウクウ） 內容を知らずに處理すること。めくら判を捺すこと。〔干寶、晉紀總論〕當レ官者以二望空一爲レ高、而笑二勤恪一。〔注〕濟曰、望空、謂下不レ識二是非一、但望レ空署レ白而已上。

【望懷】45（バウクワイ） のぞみ思ふ。思をはせてしたふ。〔左氏、成、八〕小國所二望而懷一也。

【望外】46（バウグワイ） 願つてゐたより一層まさつてゐること。おもひのほか。思つた以上。期待以上。〔醒睡笑、五〕出二望外一。

【望獲】47（バウクワク） 上古の帝。天皇をいふ。〔路史、三皇紀〕粵有二天皇一、是曰二天靈一、望獲強尊。〔注〕以レ獲爲レ名、以レ望爲レ姓、字子潤、號二中天皇君一。

【望奎】48（バウケイ） 縣名。民國、置く。滿洲黑龍江省綏化縣の北。呼蘭河と通肯河の會流の處。

【望溪】49（バウケイ） 清、方苞(**5－13620**··390)の號。

【望霓】50（バウゲイ） ひでりの時に雨雲を待ち望むこと。切に望む喩。〔孟子、梁惠王下〕民望レ之、若三大旱之望二雲霓一。〔集注〕霓、虹也、雲合則雨、虹見則止。

【望橋】51 wang^{4} ch'iao^{2} 艦橋。

【望闕】52（バウケツ） 宮城をのぞむ。天子をこひしたふこと。〔白居易、與二崇文一詔〕望闕之戀、深固難レ奪レ志。

【望月】53（バウゲツ） ❶月をながめる。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕望レ月方レ娥、瞻レ星比レ婺。〔拾遺記、六、後漢〕任末、云云、夜則映レ星望レ月、暗則縛二麻蒿一以自照。❷（モチヅキ）㋑滿月。陰曆の十五夜の月。㋺姓氏。

〖望月駒〗54（モチヅキノコマ） 古、八月の駒牽に、信濃國望月牧から禁中に奉つた駒。

〖望月毅軒〗55（モチヅキキケン） 江戶の人。本姓は京極。名は綱。字は孟玉。通稱は萬一郎。號は毅軒。昌平黌・野村篁園に學ぶ。官は幕府儒官・修史局地誌課一等編修。最も本朝の典故に精通す。明治十一年十一月二十五日歿す。年六十一。著に皇統譜がある。

【望見】56（バウケン） はるかに眺める。〔左氏、定、三〕邾子望二見之一怒。〔孟子、盡心下〕有レ衆逐レ虎、虎負レ嵎、莫二之敢攖一、望二見馮婦一、趨而迎レ之。〔戰國、秦策〕非レ若レ是也、則臣之志願、少賜二游觀之閒一、望二見足下一而入レ之。〔晏子、重而異者〕景公登二箐室一而望見。〔墨子、號令〕望二見寇一擧二一郵一。〔史記、廉頗傳〕已而相如出望二見廉頗一。〔淮南子、道應訓〕望二見桓公一而悲。

【望懸】58（バウケン） 待ちこがれる。〔長生殿、夜怨〕君情何淺、不レ知二人望懸一。

【望湖】59（バウコ） 湖水をのぞむ。〔蘇軾、至二秀州一贈二錢端公安道一竝寄二其弟惠山老一詩〕山頭望レ湖光潑レ眼、山下濯レ足波生レ指。

【望後】60（バウゴ） 陰曆十五日以後。〔齋藤拙堂、月瀨紀勝〕遂以二望後三日一來。

【望公】61（バウコウ） 清、高儼(**12－45313**··306)の字。

【望候】62 wang^{4} hou^{4} 待つ。

〖望候望候〗63 wang^{4} hou^{4} wang^{4} hou^{4} 御來臨を待つ。

【望崑】64（バウコン） 清、吳熊光(**2－3365**··880)の字。

【望祭】65（バウサイ） 山川の神を遠望して祭ること。字解の❿を見よ。〔書、舜典〕望二于山川一。〔傳〕九州名山・大川・五岳・四瀆之屬、皆一時望二祭之一。〔史記、楚世家〕乃望二祭羣神一。〔白虎通、封禪〕望二祭山川一。〔論衡、吉驗〕乃望二祭山川一。

【望歲】66（バウサイ） 年穀の豐饒を望むをいふ。歲は有年の年と等しく、年穀の豐かにみのること。〔左氏、昭、三十二〕閔閔焉如二農夫之望一レ歲。〔注〕王憂レ亂、常閔閔冀二望安定一、如三農夫之憂レ飢、冀二望來歲之將レ熟。〔會箋〕望レ歲之歲、猶三有レ年之年一、謂二豐熟一也。〔左氏、哀、十六〕國人望レ君、如レ望レ歲焉。〔注〕歲、年穀也。〔風俗通、正失〕國人望レ君、如レ望レ歲焉。〔潘岳、藉田賦〕徒望レ歲以自必。

【望想】67（バウサウ） のぞみ思ふ。なつかしがる。慕ふ。〔晉書、孫楚傳〕垂二夢於傅巖一、望二想於渭濱一。

【望朔】68（バウサク） 十五日と朔日。朔望。

【望參】69（バウサン） ❶官吏が每月十五日のみ參朝すること。〔通典、禮、嘉、元正冬至受二朝賀一〕神龍元年四月十四日、初令二文武官五品以上、每朔望參日陞レ殿食一。❷佛（マウサン）禪林の職名。副參の候補者をいふ。

【望山】70（バウザン） ❶古、弩上に設けた機器。小銃の照星のやうなもの。〔夢溪筆談、器用〕予頃年在二海州一、人家穿レ地得二一弩機一、其望山甚長、望山之側爲二小短一、如二尺之有一レ分。❷清、尹繼善(**4－7631**··108)の號。

〖望山碑〗70′（バウザンヒ） 鄕里を離れてゐる人が、故山の墓を拜する代りに建てた碑。〔鹽鐵論、散不足〕蓋無二出レ門之祭一、今富者祈二名嶽一望二山川一。

【望子】71（バウシ） ❶あなたを待ちのぞむ。〔史記、齊世家〕吾太公望レ子久矣。❷酒家のかんばん。酒帘。幌子。商家の旗看板。〔廣韻〕帘、青帘、酒家望子。〔東京夢華錄〕中秋節前、諸店皆賣二新酒一、重新結絡、門面彩樓、花頭畫竿、醉鄉錦旆、市人爭飲、至二午未閒一、家家無レ酒、拽二下望子一。〔通俗編、器用、望子〕按、今江以北、凡市賈所レ懸標識、悉呼二望子一、訛二其音一、乃云二幌子一。❸wang^{4} tzŭ 哨兵。遠見の者。

【望之】72（バウシ） 字號。❶晉、戴貌(**5－11685**··118)の字。❷晉、卞壺(**2－2778**··12)の字。❸宋、董儼(**9－31433**··66)の字。❹宋、竇儼(**8－25695**··22)の字。❺宋、楊紘(**6－15112**··104)の字。❻宋、呂嘉問(**2－3386**··173)の字。❼明、宋儀望(**3－7078**··242)の字。❽明、孟洋(**3－6960**··264)の字。❾明、來儼然(**1－581**··283)の字。❿清、史致儼(**2－3249**··247)の號。⓫清、鄒文蘇(**11－39562**··118)の字。

【望祀】73（バウシ） 牲粢を盛に供し、山川を遠望してまつる祭。望祠。望秩。〔周禮、地官、牧人〕望祀、各以二其方之色一牲二毛之一。〔注〕望祀、五嶽・四鎭・四瀆也。〔周禮、春官、男巫〕掌二望祀・望衍・授號、旁招以レ茅。〔注〕望祀、謂レ有二牲粢盛者一。〔孫詒讓正義〕此望祀、通含二類造禬禜之神一、則似レ不三專據二四望一、與二牧人義一微異。〔禮、王制〕柴而望二祀山川一。〔史記、秦始皇紀〕至二雲夢一、望二祀虞舜於九疑山一。〔漢書、文帝紀〕望祀不レ祈二其福一。

【望祠】74（バウシ） 望祀に同じ。〔史記、孝武紀〕將三以望二祠蓬萊之屬一。〔漢書、武帝紀〕望二祠蓬萊一。

【望視】75（バウシ） 仰ぐやうにして物を視る。遠くを眺めるやうな目つきをして視る。望陽。望羊。盳洋。〔禮、內則〕家望視而交睫、腥。〔注〕望視、視レ遠也。〔疏〕望視、謂二家視望揚一。〔左氏、哀、十四〕有二陳豹者一、長而上僂、望視。〔注〕目望陽。〔會箋〕晏子諫上篇、杜扃望羊待二于朝一、史記孔子世家、眼如二望羊一、莊子秋水篇、盳洋向レ若而歎、陸德明曰、盳、莫剛反、本亦作二望洋一、司馬崔云、盳洋猶二望羊一、仰視貌、家語辨樂篇、黮而黑、頎然長、曠如二望羊一、王肅注、望羊、遠視也、羊・陽古字通用、或解爲レ如二羊之望一者非也。〔荀子、正論〕莫二敢望視一。〔孔叢子、居衞〕或折レ臂望視。

【望舟】76（バウシウ） 遠くに見える舟。〔謝靈運、登二臨海嶠一初發二彊中一作與二從弟惠連一可下見二羊何一共和上之詩〕隱汀絕二望舟一、鶩棹逐二驚流一。

【望秋】77（バウシウ） 秋のみのりを望みまつこと。〔北史、隋高祖文帝紀〕且殷之五遷、恐二人盡死一、是則以二吉凶之土一、制二長短之命一、謀レ新去レ故、如二農望レ秋。

【望日】80（バウジツ） もちのひ。陰曆十五日の稱。〔唐書、歷志五〕月蝕有レ差、以二望日所一レ入定レ數。〔剪燈新話、愛卿傳〕以二季夏望日一、會二于鴛湖凌虛閣一。

〖望日蓮〗79 wang^{4} jih^{4} lien^{2} 日廻りの花。

【望實】80（バウジツ） 見かけと內實。名と實。〔任昉、王文憲集序〕經師人表、允資望實。〔資治通鑑、晉紀（成帝、咸和四年）〕求二之望實一、懼レ非二良計一。〔注〕望者、見二於外一者也、實者、有二諸中一者也。〔蘇軾、論二周東遷一〕一旦示レ弱、竄二於蠻夷一、望實皆喪矣。

【望樹】82（バウジユ） 鎭の名。讀書臺がある。秦の甘羅が讀書した處と傳ふ。河北省鹽山縣の東南。

【望粥】83（モチガユ） 正月十五日に食する赤豆粥。〔枕草子〕十五日はもちがゆのせく參る。

【望春】84（バウシユン） ❶春を望む。〔梁元帝、望春詩〕葉濃知二柳密一、花盡覺二梅疎一、蘭生未レ可レ握、蒲小不レ堪レ書。❷百舌の異名。〔事物異名錄、禽鳥部上、百舌〕山堂肆考、百舌、又名二反舌一、一名望春、一名喚起、江南人謂二之喚春一、又催明鳥、亦名二喚起一。❸辛夷の異名。

〖望春宮〗85 バウシユンキユウ 宮殿の名。隋の文帝、建つ。故址は陝西省長安縣の東。〔唐書、地理志一〕京兆萬年縣、有二望春宮一、臨二滻水一、西岸有二北望春宮一。〔西京記〕西京禁苑、內有二望春宮一、在二高原之上一、東臨二灞滻一。

〖望春樓〗86 バウシユンロウ 唐代の樓の名。〔唐書、食貨志三〕韋堅於二長樂坡一、瀕二苑牆一、鑿二潭於望春樓下一、以聚二漕舟一。〔唐書、郭子儀傳〕破二賊河上一、執二安守忠一以獻、遂朝二京師一、云云、帝御二望春樓一待レ之。

【望苴】87 バウシヨ 唐代、今の雲南省にゐた蠻族の一。〔唐書、南蠻上、南詔傳〕望苴蠻者、在二蘭蒼江西一、男女勇捷、不レ鞍而騎、善用二矛劍一。

【望諸】88 バウシヨ 澤の名。孟諸澤をいふ。今、河南省商丘・虞城二縣の界。望諸君を見よ。〔周禮、夏官、職方氏〕正東曰二青州一、云云、其澤藪曰二望緒一。

〖望諸君〗89 バウシヨクン 戰國の時、樂毅、燕を去つて趙に降る。趙、樂毅を觀津に封じ、號して望諸君といふ。〔史記、樂毅傳〕樂毅知二燕惠王之不レ善代一レ之、畏レ誅、遂西降レ趙、趙封二樂毅於觀津一、號曰二望諸君一。〔注〕索隱曰、望諸、澤名、在レ齊、蓋趙有レ之、故號焉。

【望舒】90 バウジヨ ㊀月の御者。〔廣雅、釋天〕日御謂二之義和一、月御謂二之望舒一。〔楚辭、離騷〕前二望舒一使二先驅一兮、後二飛廉一使二奔屬一。〔注〕望舒、月御也。〔後漢書、蔡邕傳〕元首寬則望舒朓。〔注〕望舒、月也。〔揚雄、羽獵賦〕望舒彌レ轡。〔初學記、天、上、月〕淮南子云、月一名二夜光一、月御曰二望舒一、亦曰二纖阿一。㊁元、周修(**2**－**3441**‥237)の字。

〖望舒荷〗91 バウジヨカ 蓮の一種。月が出ると葉がひろがり、月が沒すると卷くといふ。又、草の名で、近く望むと、卷いた蓮の葉のやうであり、遠く望めばひろがつた蓮の葉のやうであるからいふ。〔拾遺記、六、後漢〕漢靈帝、云云、渠中植レ蓮、大如レ蓋、長一丈、南國所レ獻、其葉夜舒晝卷、一莖有二四蓮叢生一、名曰二夜舒荷一、亦云、月出則舒也、故名二望舒荷一。〔拾遺記、九、晉時事〕太始十年、浮支國獻二望舒草一、其色紅、葉如レ荷、近望則如二卷荷一、遠望則如二舒荷一、團團似レ蓋、亦云、月出則葉舒、月沒則葉卷、植二於宮中一、因穿レ池廣百步、名曰二望舒荷池一。

【望松】92 バウシヨウ 縣名。漢、置く。陝西省舊延安府の境。〔漢書、地理志下〕上郡、縣二十三、望松。

【望色】93 バウシヨク 顏色をながめ見る。〔史記、扁鵲傳〕越人之爲レ方也、不レ待二切脈一、望レ色、聽レ聲。〔注〕正義曰、素問云、面色青、脈當二弦急一、面色赤、脈當二浮而短一、面色黑、脈當二沈浮而滑一也。

【望蜀】94 バウシヨク 貪つて飽くことを知らない喩。得レ隴望レ蜀(**11**－**41904**‥38)を見よ。〔後漢書、岑彭傳〕勑二彭書一曰、兩城若下、便可三將レ兵南擊二蜀虜一、人苦レ不レ知レ足、既平レ隴復望レ蜀、每二一發レ兵、頭鬚爲白。〔十八史略、東漢、世祖光武皇帝〕(建武)十二年、云云、上既平二隴右一曰、人苦レ不二自足一、既得レ隴望レ蜀。〔李白、古風〕物苦レ不レ知レ足、得レ隴又望レ蜀。

【望親】95 バウシン 親戚の人を訪問する。〔紅樓夢、四回〕一爲レ送二妹待選一、二爲二望親一。

【望仁】96 バウジン 清、徐起元(**4**－**10110**‥368)の號。

【望聖】97 バウセイ 宋、徐師回(**4**－**10110**‥456)の號。

【望夕】98 バウセキ 陰曆十五日の夕方。〔幽怪錄〕開元十八年正月望夕。

【望切】99 wang^4 chʻieh^4 切に望む。切に希望する。

【望絶】100 バウゼツ 望が絶える。〔司馬相如、長門賦〕日黃昏而望絶兮。〔論衡、指瑞〕望絶心感。

【望川】101 バウセン ㊀川をのぞむ。〔水經、沅水注〕沅水又東、施水注レ之、水南出二施山一、溪源有二陽欺崖一、崖色純素、望同二積雪一、下有二二石室一、先有レ人居二處其閒一、細泉輕流、望レ川競注。〔成公綏、鴻雁賦序〕應レ節而羣至、望レ川以奔集。㊁明、鄭渭(**11**－**39647**‥9)の號。

【望仙】102 バウセン ㊀閣の名。陳の後主、建つ。〔陳書、後主張貴妃傳〕于二光昭殿前一、起二臨春・結綺・望仙三閣一。㊁宮殿の名。漢の武帝、建つ。〔沈約、遊二沈道士館一詩〕復立二望仙宮一。〔注〕善曰、望仙宮、在二華陰一、漢武帝所レ造。㊂宮觀の名。㋑漢の武帝、華陰縣の界に建つ。〔三輔黃圖、三、甘泉宮〕集靈宮・集仙宮・存仙殿・存神殿・望仙臺・望仙觀、俱在二華陰縣界一、皆武帝宮觀名也。㋺唐の武宗、宮中に建つ。〔唐書、武宗紀〕會昌三年、是夏、作二望仙觀于禁中一。㊃樓の名。㋑唐の玄宗、建つ。〔元稹、連昌宮詩〕上皇正在二望仙樓一、太眞同凭二闌干一立。㋺唐の武宗、建つ。〔唐書、武宗紀〕會昌五年六月甲申、作二望仙樓于神策軍一。

〖望仙橋市〗103 バウセンケウシ 地名。橋は顧浦に架す。江蘇省嘉定縣の西。〔王鳴盛、詩〕望仙橋畔盡漁家、豆架瓜棚傍水斜。

【望前】104 バウゼン 陰曆十五日以前。〔水滸傳、一百六回〕此時正是八月中旬、望前天氣、那輪幾望的明月、照耀的如二白晝一般一。〔齋藤拙堂、月瀨紀勝〕至二於今歲一、欲下以二今月望前一來上。

【望走】105 バウソウ 望み見て走り赴く。〔左氏、昭、十八〕望走在レ晉。〔注〕每瞻二望晉一歸二赴之一。〔會箋〕望走、是望而走集。

【望族】106 バウゾク 鄉黨に推重される家がら。人望ある家柄。令族。〔秦觀、王儉論文〕王謝二氏、最爲二望族一、江左以來、公卿將相、出二其門一者十七八。〔國朝漢學師承記、王昶〕明六俊之後、爲二吳下望族一。

【望尊】107 バウソン 人望が高い。〔宋濂、送二東陽馬生一序〕先達德隆望尊。

【望陀】108 マウダ 上總國の地名。

〖望陀布〗109 マウダヌノ 古、上總國望陀郡から調物として奉つた布。

【望臺】110 wang^4 tʻai^2 ものみやぐら。望樓。

【望達】111 バウタツ 出世をのぞむ。榮達を希望する。〔陳子昂、諫レ用レ刑書〕臣本蜀之匹夫、官不レ望レ達。

【望地】112 バウチ 名望と地位。〔竇臮、述書賦〕國署二年名一、家標二望地一。

【望秩】113 バウチツ 山川の神の資格の順序によつて之を遠望して祭ること。望祀。望祭。〔書、舜典〕歲二月、東巡守、至二于岱宗一、柴望二秩于山川一。〔傳〕東岳諸侯竟內、名山大川、如二其秩次一望二祭之一、謂下五岳牲禮視二三公一、四瀆視二諸侯一、其餘視中伯子男上。〔史記、封禪書〕歲二月、東巡狩、至二于岱宗一、岱宗、泰山也、柴望二秩于山川一。〔孔叢子、巡狩〕望二秩于山川一。〔漢書、郊祀志上〕望二秩于山川一、偏二于羣神一。〔注〕師古曰、望、謂二在レ遠者望而祭一レ之、秩、次也、羣神、丘陵墳衍之屬。

【望塵】114 バウチン ㊀ちりの起るを望見する。〔左氏、宣、十二〕潘黨望二其塵一。〔五代史、唐臣、周德威傳〕周德威勇而多レ智、能望レ塵以知二敵數一。㊁貴顯の人の來るを待つこと。〔晉書、石崇傳〕廣城君每レ出、崇降二車路左一、望レ塵而拜。〔書言故事、瞻仰類〕未レ展二望塵之拜一。

【望亭】115 バウテイ 鎭の名。吳の孫權の建てた望亭(もと御亭といふ)がある。江蘇省無錫縣の東南。滬寧鐵路に沿ふ。〔姑蘇志〕唐李襲譽以三梁庾肩吾詩有二御亭一回望之句一、故改稱。〔讀史方輿紀要、江南、常州府、無錫縣〕望亭鎭、孫吳時置二亭於此一、曰二御亭一、云云、隋置二御亭驛一、唐改曰二望亭一、光啓中、置二屯於此一、大順初、孫儒作レ亂、據二廣陵一、遣二其黨劉建鋒一、據二常州一、破二無錫望亭諸屯一、圍二蘇州一。

【望帝】116 バウテイ 杜鵑の異名。蜀王杜宇は望帝と號す。後、化して杜鵑となるといふ。〔華陽國志、蜀志〕周失二紀綱一、云云、杜宇稱二帝號一曰二望帝一、云云、會有二水災一、其相開明、決二玉壘山一以除二水害一、帝遂委以二政事一、法二堯舜禪授之義一、遂禪二位于開明一、帝升二西山一隱焉、時適二月、子規鳥鳴、故蜀人悲二子鵑鳥鳴一也。〔成都記〕望帝魂化爲レ鳥、名曰二杜鵑一。〔太平寰宇記〕蜀王杜宇號二望帝一、後因レ禪レ位、自亡去、化爲二子規一。〔琵琶記、琴訴二荷池一〕日煖監田玉生レ烟、似三望帝春心托二杜鵑一。

【望朝】117 wang^4 chʻao^2 婚禮後、嫁の親が始めて男の家へ挨拶に行くこと。浙江海寧地方での風習。

【望潮】118 バウテウ ㊀海蟹の一種。潮が至れば穴を出て望むから名づく。又、招潮ともいふ。〔本草、蟹〕集解、時珍曰、似二蟛蜞一而生二海中一、潮至出レ穴而望者、望潮也、可レ食。〔蟹譜〕蟹之類、隨レ潮解レ甲更生新者、故字從レ解、又蟹名有二望潮者一、解レ甲之徵也。〔事物異名錄、水族部、蟹〕蟹論、呂亢守二台州一、命レ工作二蟹圖一凡十二種一、云云、七望潮。㊁いひだこの異名。〔閩書〕鱆魚、一名二望潮魚一、紫色腹圓、有レ腹無レ頭、頭在二腹下一、多足而長、皆環レ口、上有二圓文星聯凸起一、腹內有二黃褐色一、質如二卵黃一、有二黑如二烏鰂墨一、有三白粒如二大麥一、味皆美。㊂モチシホ 陰曆十五日の海潮。

【望傳】119 wang^4 chʻuan^2 聞き傳へ。

【望都】120 バウト ❶山名。別名、孤山・都山。河北省唐縣の東北。〔後漢書、郡國志二、注〕堯山・望都山、相去五十里。❷縣名。㋑漢、置く。戰國、趙の慶都邑。金、慶都と改めたが、清代、堯の母慶都の名を避け、復改めて望都といふ。今、河北省清苑縣の西南。〔漢書、地理志下〕中山國、縣十四、望都。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、慶都縣〕望都故城、本戰國時趙邑、史記秦始皇七年、將軍鰲死以攻二龍孤慶都一、括地志、定州恆陽縣有二白龍山一、又有二扶龍山一、唐縣、東北有二孤山一、所謂龍孤也、慶都蓋邑名、漢因置二望都縣於此一、劉昫曰、唐初分二安喜北平二縣一置二望都縣一、治二安險故城一、貞觀八年、始移二今治一。〔清史稿、地理志〕直隸、保定府、縣十四、望都。㋺五代、梁、置く。漢、海陽縣の地。今、河北省盧龍縣の南。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、盧龍縣〕海陽城、漢置二海陽縣一、屬二遼西郡一、云云、五代梁乾德初、契丹阿保機掠二定州一、望都民居二於此一、因置二望都縣一。❸複姓。〔晉書、劉聰載記〕將作大匠望都公靳陵、坐二溫明徽光二一殿不レ成、皆斬二於東市一。

【望睹】121 バウト 望み見る。〔晏子、諫、上〕北面望二睹齊國一。

【望筩】122 バウトウ 渾天儀の具。のぞきくだ。〔宋史、天文志一〕置二望筩橫簫於游儀中一、以窺二七曜之行一、而知二其躔離之次一。

【望得】123 バウトク のぞみが得られる。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕太平之責塞、優游之望得。

【望坡】124 バウハ 清、陳若霖(**11－41698**··961)の字。

【望拜】125 バウハイ ❶遙望して拜謁する。禮貌の甚だ恭しいこと。〔戰國、齊策〕顛蹶之請、望拜之謁、雖レ得則薄矣。〔注〕遙望拜謁而求レ救、言二禮貌過恭一也。❷遠望して拜し祭る。〔史記、孝武紀〕天子遂東、始立二后土祠汾陰脽上一、如二寬舒等議一、上親望拜如二上帝禮一。〔漢書、禮樂志〕天子自二竹宮一而望拜。

【望望】126 バウバウ ❶慚ぢるさま。一說に、去つて顧みないさま。〔孟子、公孫丑上〕望望然去レ之。〔注〕望望然、慙愧之貌也。〔集注〕望望、去而不レ顧之貌。❷心を失ふさま。〔禮、檀弓下〕顏丁善居レ喪、云云、望望焉如二有レ從而弗レ及。❸思ひしたふさま。〔禮、問喪〕其往送也、望望然、汲汲然、如レ有二追而弗一レ及也。〔注〕望望、瞻望之貌也。

【望八】127 バウハチ 八十歲に近い。やがて八十歲になること。〔朱熹、次二山行韻一呈二秀野一詩〕默數二流年一欣二望八一、閒尋二隱訣一話二存三一。

【望板】128 wang^4 pan^3 屋根裏の板。

【望夫】129 バウフ 山名。❶上に姜女廟と望夫石がある。秦代の貞婦孟姜が夫を望んだ處と傳へる。滿洲遼寧省綏中縣の境。望夫石の❷を見よ。❷一名、石竚山。山西省黎城縣の西北。〔水經、濁漳水注〕漳水又東北歷二望夫山之南一、有三石人竚二于山上一、狀有レ懷二于雲表一、因以名焉。❸一名、棗子磯。安徽省當塗縣の西北。〔太平寰宇記〕當塗縣望夫山、昔有レ人往レ楚、累歲不レ還、其妻登二此山一望レ之、久乃化爲レ石。❹江西省德安縣の西北。〔水經、江水注〕又東逕二望夫山南一。〔輿地紀勝〕昔人行レ役未レ回、其妻登レ山而望、每レ登レ山、輒以レ箱盛レ土而上、積日累レ功、漸高峻、故名。❺湖北省房縣の東南。〔輿地紀勝〕在二房陵縣南東渡口一。❻一名、菁山。湖北省陽新縣の西南。〔武昌記〕昔有二婦人一送二夫出征一、至レ此化爲レ石、雙履之迹猶存。〔輿地紀勝〕上有二望夫石一、石上產二蕪菁一。❼陝西省紫陽縣の南の水濱。上に望夫石がある。❽一名、界山。廣東省電白縣の東北。

【望夫雲】130 バウフウン 雲南の洱海に起る雲の名。此の雲が起れば、絕對に通行出來ないといふ。孽龍、海中に居り、其の雌、蒼山に居り、相會はんとするとき、蒼山に周圍二十里ほどの雲が起つて海中に至り、はげしい風が起るといふ。〔述異記〕趙州有二洱海一、土人詣二大理府一必由レ之、然風波甚惡、其海中有二望夫雲起一、則不二敢行一、相傳、鎭二一孽龍一在二海中央一、其雌龍在二蒼山一、每レ欲二相會一、則蒼山雲起、排如二階級一、環二二十里一、至二海中一而止、是日狂風拔レ木、然凝二視天上雲一、未二嘗稍轉移一、眞怪事也。

【望夫歌】131 バウフカ 樂曲の名。羅嗊曲。〔全唐詩話、元(稹)〕元稹贈二詩劉採春一曰、云云、更有二惱レ人腸斷處一、選レ詞能唱二望夫歌一、望夫歌卽羅嗊之曲也。

【望夫石】132 バウフセキ ❶湖北省武昌の北山の上に在る石。古、貞女が國難に赴く夫を此の山上に見送りそのまま化して石となつたものと傳ふ。〔神異經〕武昌貞婦望レ夫、化而爲レ石。〔幽明錄〕武昌北山上有二望夫石一、狀若二人立一、古傳云、昔有二貞婦一、其夫從レ役遠赴二國難一、餞二送此山一、立望レ夫、而化爲二立石一、因名焉。❷滿洲遼寧省綏中縣境の望夫山に在る石の名。秦代、貞婦孟姜が夫を望んだ處といふ。〔淸一統志〕奉天寧遠州西南有二望夫山一、上有二姜女廟・望夫石一、石上有二亂杵蹤一、相二傳秦時貞婦孟姜望レ夫之處一。❸傳奇の名。清初、海上の變に常熟の戴高の子、研生と、王氏の女の琴娘とが婚約のまま音信が絕えたが、幾星霜を歷て團圓したことを演ず。

【望風】133 バウフウ ❶遠くから仰ぎしたふ。のぞみしたふ。〔李陵、答二蘇武一書〕望レ風懷レ想、能不二依依一。〔注〕翰曰、望レ風、謂二遠望一也。〔魏志、王粲傳〕海內回レ心望レ風。〔任昉、王文憲集序〕見二公弱齡一、便望レ風推服。❷いきほひをのぞみみる。〔漢書、杜欽傳〕天下莫レ不二望レ風而靡一。〔後漢書、袁紹傳〕諸城無レ不レ望レ風。〔阮籍、爲二鄭沖一勸二晉王一牋〕楡中以西、望レ風震服。〔賴山陽、下二筑後河一過二菊池正觀公戰處一感而有レ作詩〕當時國賊擅二鴟張一、七道望レ風助二豺狼一。

【望氛】134 バウフン 氣を遠望する。〔左氏、昭、二十〕梓愼望レ氛。〔注〕氛、氣也、時魯侯不レ行二登臺之禮一、使二梓望レ氛。

【望平】135 バウヘイ 縣名。漢、置く。滿洲遼寧省境の遼河の東岸。〔漢書、地理志下〕遼東郡、縣十八、望平。

【望表】136 バウヘウ 山川を望祭する時、神位をあらはすしるしとして立てた木をいふ。〔國語、晉語八〕置二茅蕝一、設二望表一。〔注〕望表、謂下望二祭山川一、立レ木以爲レ表、表中其位上也。

【望慕】137 バウボ のぞみしたふ。仰慕。〔魏志、管寧傳〕望二慕閶闔一。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕望慕結不レ解、貽二爾新詩文一。

【望萬】138 wang^4 wan^4 安心する。

【望門】139 バウモン 門を望む。〔列子、楊朱〕望レ門百步。〔後漢書、張儉傳〕儉得二亡命一、困迫遁走、望レ門投止。

【望羊】140 バウヤウ 遠く視るさま。又、仰ぎ視るさま。望佯。望洋。望陽。望視(75)を見よ。〔史記、孔子世家〕丘得二其爲一レ人、黯然而黑、幾然而長、眼如二望羊一、如レ王二四國一、非二文王一、其誰能爲レ此也。〔論衡、初稟〕四乳乃生、以二四乳一論二望羊一、亦知二爲レ胎之時已受一レ之矣。〔孔子家語、辯樂解〕曠如二望羊一。〔注〕望羊、遠視也。

【望佯】141 バウヤウ 仰ぎ視るさま。望羊に同じ。〔釋名、釋姿容〕望佯、佯、陽也、言三陽氣在レ上、擧レ頭高、似二若レ望之然一也。

【望洋】142 バウヤウ 仰ぎ視るさま。望羊に同じ。望洋之歎を見よ。〔吳萊、次二定海候濤山一詩〕寄レ言漆園叟、此去眞望洋。

【望洋之歎】143 バウヤウノタン 偉大な人物や深遠な學問等に對して、己の凡庸・淺短をさとり、感歎の情に堪へない時にいふ。〔莊子、秋水〕河伯始旋二其面目一、望洋向レ若而歎。〔釋文〕司馬崔云、望洋猶二望羊一、仰視貌。〔集釋〕洋・羊皆叚借字、其正字當レ作レ陽、論衡骨相篇、武王望陽、言三望二視太陽一也、太陽在レ天、宜二仰而觀一、故訓爲二仰視一。

【望陽】144 バウヤウ 仰ぎ視るさま。望羊に同じ。〔論衡、骨相〕文王四乳、武王望陽。

【望郎】145 バウラウ 郎中をいふ。〔稱謂錄、郎中古稱、望郎〕方干、陪二李郎中宴一詩、閒世星郎夜、時亦稱二望郎一。

【望履】146 バウリ 貴人尊者に對面することをいふ謙辭。顏を望むといふを避けて、其の履を望むといふ。〔韻府引、陸游、詩〕再拜求レ望レ履。

【望鄰】147 wang^4 lin^2 そこらあたり。

【望禮】148 バウレイ 望祭して禮する。〔漢書、禮樂志〕望二禮五嶽一。

【望櫓】149 バウロ ものみやぐら。望樓。望臺。〔左氏、宣、十五〕登二諸樓車一、〔注〕樓車、車上望櫓。

【望樓】150 バウロウ ❶ものみやぐら。望櫓。〔邵謁、顯茂樓詩〕繁華朱翠盡東流、唯有三望樓對二明月一。❷舊海軍の鎭守府或は要港部に屬し、海岸の要所に設置せられ、海上の見張、附近を通過する艦船との通信、氣象の觀測・通報、海難の報告等を掌る。❸天守閣。

【望六】151 wang^4 liu^4 やがて六十歲になる年頃。六十歲近い。

【望烏臺】152 バウウダイ 臺の名。越王句踐が赤烏の字護

によつて國に入る事が出來たので、其の異祥を記念するために作つた。〔王子年、耆舊傳〕越王入レ國、丹烏夾レ王而飛、故句踐得レ入レ國也、起二望烏臺一、言二烏之異一也。

【望火的】154 wang^4 huo^3 tê 火見番。

【望火馬】155 バウクワバ 火光を望見してはげしく走る馬。立身出世のために爭つて奔走する人をいふ。〔事物異名錄、人事部、奔競〕編珠集、嘉祐中、未レ有二謁禁一、士人爭馳騖請託、有三一人號二望火馬一、有三一人號二日遊神一、言二日夜奔競一也。

【望花甲】156 wang^4 hua^4 chia^3 望六（151）に同じ。

【望溪集】157 バウケイシフ 書名。八卷。淸、方苞撰。苞は經學に通じ、最も禮に詳であるから、其の文も謹嚴簡潔で、古文家の所謂桐城派に屬してゐる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【望古堂】158 バウコダウ 淸、周宏起（**2**－**3441**··617）の室名。

【望湖閣】159 バウコカク 元、倪瓚（**1**－**792**··12）の室名。

【望湖亭】160 バウコテイ ❶亭の名。㋑江西省新建縣の東北、吳城鎭の內。㋺浙江省杭縣の孤山。〔邵長衡、夜遊二孤山一記〕已舍レ艇取二徑沮洳閒一、至二望湖亭一。❷戲曲の名。明、沈自晉撰。玉夏齋傳奇十種本の內。吳江の秀才錢萬錢が顏陋と高贊の女白英との結婚を成立せしめたる苦心を敍す。我が國にては寬政十年に森羅子之を飜案して月下淸談五卷を作る。〔蟫廬曲談〕原本已佚、今歌場所二流行一者、僅照鏡一折、而其江兒水・川撥棹二曲、爲二俗伶所一レ增、非二原本一也、尚有二題詩合巹激怒于歸四折一、見二醉怡情中一。

【望湖樓】161 バウコロウ 樓の名。四川省富順縣の西湖の畔。〔蘇軾、六月二十七日望湖樓醉書五絕詩〕黑雲翻レ墨未レ遮レ山、白雨跳レ珠亂入レ船、卷レ地風來忽吹散、望湖樓下水如レ天。〔淸一統志、四川省、成都府、故蹟部〕望湖樓、在二簡州南三里一。

【望洪亭】162 バウコウテイ 亭の名。江蘇省銅山縣。〔蘇軾、登二望洪亭一詩〕河漲西來失二舊洪一、孤城渾在二水光中一。

【望省樓】163 バウセイロウ 樓の名。唐の崔日知が太常卿となり、都寺廳事の後に作つたもの。尚書省と相望んでゐるので名を得た。〔國史纂異〕崔日知歷二職中外一、恨レ不レ居二八座一、及レ爲二太常卿一、於二都寺廳事後一起二一樓一、與二尚書省一相望、時人謂二之望省樓一。

【望嵩樓】164 バウスウロウ 明、李濂（**6**－**14459**··811）の室名。

【望齊門】165 バウセイモン 門の名。吳王闔閭が、太子波に迎へた齊女のために建てたもの。〔吳越春秋、闔閭內傳〕（闔閭）復謀レ伐レ齊、齊子使二女爲一レ質二於吳一、吳王因爲二太子波一聘二齊女一、女少思レ齊、日夜號泣、因乃爲レ病、闔閭乃起二北門一、名曰二望齊門一、令三女往二遊其上一。

【望川原】166 バウセンゲン 地名。四川省雙流縣の西。〔杜預、益州記〕廣都縣有二望川原一、鑿レ石二十里、引取二耶江水一、灌二廣都田一、云下後漢所二穿鑿一者上。

【望天砲】167 wang^4 t'iên^1 p'ao^4 臼砲。

【望楠樓】168 バウナンロウ 淺見安正の號。淺見絅齋（**7**－**17697**··23）を見よ。

【望梅花】169 バウバイクワ ❶詞牌の名。もと唐の教坊曲の名。〔詞律〕和・孫二詞、倶實詠二梅花一者、是知二此調未レ可レ作二他用一也。❷曲牌の名。南曲は仙呂宮正曲に入り、又、商調引に入る。

【望衡對宇】170 バウカウタイウ 衡を望み宇に對す。近所に住むこと。衡はかぶきもん、宇は家ののき。〔水經、沔水注〕望衡對宇、歡情自接。

【望衡居士】171 バウカウコジ 淸、劉章甫（**2**－**2224**··1035）の號。

【望古遙集】172 バウコエウシフ 古の秀れた人を想望して遙かに相集まること。〔顏延之、陶徵士誄〕嗟乎若士、望レ古遙集。〔注〕向曰、望二古逸人一、遙與相集也。

【望三益齋】173 バウサンエキサイ 淸、吳棠（**2**－**3365**··284）の號。

【望穿雙眼】174 wang^4 ch'uan^1 shuang^1 yen^3 兩眼で穴のあく程見つめる。眼穿。望眼成レ穿（32）を見よ。

【望文生義】175 バウブンセイギ 文章を解釋するに當つて、字義を詳に考へず前後を通觀して推定的解釋を試みること。望レ文生レ義（**5**－**13450**··1090）を見よ。〔說文通訓定聲〕潛、左襄二十六傳、王夷師熸、注、吳楚之閒謂二火滅一爲レ熸、按、卽潛字之變、杜望レ文生レ訓耳。〔輶軒語、語學、通經、讀レ經宜レ明二訓詁一〕訓詁有二四忌一、一望文生義。〔注〕古書多有二一字數義之字一、有二假借字一、有二譌脫字一、若不レ加二詳考一、姑就二本文一串レ之、此名二望文生義一。

【望聞問切】176 バウブンモンセツ 醫家の四診の要訣。望は目で察する、聞は耳で占ふ、問は言葉で問ひただす、切は指でさする。〔醫學準繩六要、望法〕在昔軒岐愍二生民之疾苦一、乃探レ賾索レ隱、遡レ流窮レ源、垂レ法以福二後世一、而以二望聞問切一著爲二四診法一、以決二陰陽表裏寒熱虛實死生吉凶一。〔古今醫統、望聞問切訂〕按、望聞問切四字、誠爲二醫之綱領一、若得二四字之旨一、則於二醫學一可レ謂レ至矣。〔難經、六十一難〕望而知レ之謂二之神一、聞而知レ之謂二之聖一、問而知レ之謂二之工一、切脈而知レ之謂二之巧一、望而知レ之者、望二見其五色一以知二其病一、聞而知レ之者、聞二其五音一以別二其病一、問而知レ之者、問二其所レ欲五味一以知二病所レ起所一レ在也、切脈而知レ之者、診二其寸口一、視二其虛實一以知三其病在二何藏府一也。

【望隴思蜀】177 wang^4 lung^3 ssŭ^1 shu^3 つけあがること。望蜀（94）を見よ。

【望】14368′ バウ 望（**5**－**14368**）に同じ。

【⿰月告】14369 カウ 浩（**6**－**17479**）に同じ。〔字彙〕⿰月告、同レ浩。

【腕】14370 セン 〔篇海類編〕音泉

月。〔篇海類編〕腕、月也。

【胳】14371 ハン 磐（**8**－**24401**）に同じ。〔字彙補〕胳、同レ磐。

【脧】14372 ソウ 脧（**5**－**14372**）の譌字。〔字彙補〕脧、疑卽脧字。

八畫

【朜】14373 トン 〔集韻〕他昆切 元

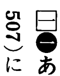
月の光。暾（**5**－**14398**）に同じ。〔集韻〕暾、月光也、或省。

【朝】14374

㊀テウ 〔集韻〕陟遙切 ㄓㄠ chao^1 蕭

㊁テウ デウ 〔集韻〕馳遙切 ㄔㄠˊ ch'ao^2 蕭

㊂チユ 〔集韻〕追輸切 虞


小篆

㊀❶**あさ**。あした。もと⿰𠦝舟（**9**－**30507**）に作る。〔集韻〕朝、古作レ⿰𠦝舟。〔說文〕⿰𠦝舟、旦也、从レ倝舟聲。〔爾雅、釋詁〕朝、早也。〔廣韻〕朝、早也、又旦至二食時一爲二終朝一。〔禮、文王世子〕朝夕至二于大寢之門外一。〔釋文〕旦曰レ朝。〔禮、祭義〕周人祭レ日以二朝及闇一。〔注〕朝、日出時也。❷**はじめ**。初時。〔洪範五行傳〕自二平旦一至二食時一、爲二日之朝一、上旬爲二月之朝一、自二正月一盡二四月一、爲二歲之朝一。〔尚書大傳、三朝〕正月一日爲二歲之朝、月之朝、日之朝一。㊁❶**まみえる**。朝見する。㋑諸侯が春に天子に謁見すること。〔集韻〕朝、覲レ君之總稱。〔周禮、春官、大宗伯〕春見曰レ朝。〔詩、小雅、沔水〕朝二宗于海一。〔箋〕諸侯春見二天

子一曰レ朝。㋺軍事以外で天子に諸侯が謁すること。〔禮、王制〕天子無レ事、與二諸侯一相見曰レ朝。〔注〕事、謂二征伐一。㋩諸侯と諸侯とが會見する。〔周禮、秋官、大行人〕凡諸侯之邦、交世相朝也。〔左氏、成、十二〕諸侯閒二於天子之事一、則相朝也。〔注〕王事閒缺、則脩二私好一。〔穀梁、桓、九〕諸侯相見曰レ朝。㋥臣が君に謁見する。〔爾雅、釋言〕陪、朝也。〔注〕臣見レ君曰レ朝。〔漢書、韓信傳〕稱レ病不レ朝。㋭子が父母の機嫌を伺ふ。〔禮、内則〕昧爽而朝。㋬恩をうけた人に禮謁する。〔史記、張丞相傳〕常先朝二王陵夫人一。❷**朝づとめする**。臣下が朝、君に見えること。〔正字通〕朝、古者朝而聽レ政、百官咸見、故朝見曰レ朝、夕見曰レ夕。〔左氏、成、十二〕朝而不レ夕。〔疏〕旦見レ君、謂二之朝一。❸**とふ**。おとづれる。〔正字通〕朝、同類往見曰レ朝。〔史記、司馬相如傳〕相如舍二都亭一、臨邛令謬爲二恭敬一、日往朝二相如一。〔陔餘叢考、朝〕古時凡詣レ人皆曰レ朝、呂覽、堯朝二許由於沛澤之中一、是也。❹**あつまる**。會同。〔禮、王制〕耆老皆朝二于庠一。〔注〕朝、猶レ會也。❺**まつりのには**。政事する處。〔禮、曲禮下〕天子當レ宁而立、諸公東面、諸侯西面、曰レ朝。〔疏〕凡天子三朝、其一在二路門内一、謂二之燕朝一、其二是路門外之朝、謂二之治朝一、其三是皐門之内、庫門之外、謂二之外朝一。〔禮、曲禮下〕在レ朝言レ朝。〔注〕朝、謂下君臣謀二政事一之處上也。〔禮、月令〕賞二公卿諸侯大夫於朝一。〔注〕朝、大寢門外。❻**まつりごと**。〔呂覽、直諫〕朞年不レ聽レ朝。〔注〕朝、政也。❼**まつりごとをとる**。〔荀子、宥坐〕朝七日而誅二少正卯一。〔注〕朝、謂レ聽レ朝也。❽**つかさ**。官廳。太子・卿大夫・諸侯・地方太守が事を見る處。〔正字通〕朝、諸侯亦有二三朝一、又、郡守聽事、古亦稱レ朝。〔國語、魯語下〕合二家事于内朝一。〔注〕家、大夫也、内朝、家廟也。〔顏延之、應詔燕二曲水一作詩〕君二彼東朝一。〔注〕善曰、東朝、東宮也。〔後漢書、劉寵傳〕山谷鄙生、未三嘗識二郡朝一。〔王先謙集解〕通鑑胡注、郡聽事曰二郡朝一、府聽事曰二府朝一。❾**當代の天子の治下**。〔舊唐書、憲宗紀〕擧レ族歸レ朝。❿**一人の天子の在位する期間**。〔後漢書、黨錮傳序〕有レ名二當朝一。〔杜甫、蜀相詩〕兩朝開濟老臣心。⓫**一系の天子が統治する期間**。〔舊唐書、魏徵傳〕漢朝之刑以弊。〔李白、襄陽歌〕君不レ見晉朝羊公一片古碑材、龜頭駁落生二莓苔一。〔張喬、題二古觀一詩〕松留千載鶴、碑隔六朝人。⓬**めす**。召見する。召(**2**−**3240**)に通ず。〔説文通訓定聲〕朝、段借爲レ召。〔楚辭、劉向、九歎、遠遊〕朝二西靈於九濱一。〔注〕朝、召也。⓭**拜する**。〔禮、玉藻〕玄端而朝二日於東門之外一。⓮**そそぐ**。水流が大水に注入する。〔書、禹貢〕江漢朝二宗于海一。〔徐敬業、古意詶三到長史溉登二琅邪城一詩〕金溝朝二灞滻一。〔注〕水入二大水一曰レ朝。⓯鼂(**12**−**48274**)に通ず。〔左氏、昭、七〕衞史朝。〔漢書、古今人表〕史鼂。⓰晁(**5**−**13889**)に通ず。〔集韻〕朝、覲レ君之總稱、又姓、通作レ晁。⓱**姓**。〔姓氏急就篇〕朝氏、蔡大夫朝吳聲子之子、漢鼂錯亦作レ朝。三**縣名**。朝那(331)を見よ。邦**てう**。或る地に天子の在位せられる期間。

名乘 カタ。アサ。トモ。トキ。ノリ。

【朝靄】1 テウアイ 朝のもや。〔江淹、蕭驃騎解二嚴輸黃鉞一表〕朝靄方卷、郢氛已廓。

【朝鶯】2 テウアウ 朝のうぐひす。〔韓愈、早春雪中聞レ鶯詩〕朝鶯雪裏新、雪樹眼前春。〔吳鼎芳、柳枝詞〕綠陰如レ雨萬條斜、啼罷朝鶯又晚鴉。

【朝暗】3 アサグレ 日出前の暗をいふ。

【朝衣】4 テウイ ❶朝廷に出る時に著るきもの。官服。朝服。朝衣朝冠を見よ。〔後漢書、劉寬傳〕使下侍婢奉二肉羹一、飜汗中朝衣上。〔張協、詠史詩〕抽レ簪解二朝衣一、散レ髮歸二海隅一。〔沈佺期、酬下蘇員外味道夏晚寓二直省中一見上レ贈詩〕大官供二宿膳一、侍史護二朝衣一。❷朝に著た衣。朝衣新暮衣弊を見よ。

〔朝衣朝冠〕5 テウイテウクワン 朝廷に出る時に著る衣冠をいふ。〔孟子、公孫丑上〕伯夷、云云、立二於惡人之朝一、與二惡人一言、如下以二朝衣朝冠一坐中於塗炭上。

〔朝衣東市〕6 テウイトウシ 大臣が誅戮される喩。漢の鼂錯の故事。衣二朝衣一斬二東市一を見よ。

〔朝衣新暮衣弊〕7 テウイアラタニシテボイヤブル 朝に著た新しい衣服が暮に弊れる。極めて繁華な喩。〔太平御覽、車部、轂〕桓譚新論曰、楚之郢都、車掛レ轂、民摩レ肩、市路相交、號爲二朝衣新而暮衣弊一。

〔衣二朝衣一斬二東市一〕8 テウイヲキテトウシニキラル 朝廷に出仕する衣を着けたまま東市に斬られる。漢の鼂錯の故事。〔史記、吳王濞傳〕錯衣二朝衣一斬二東市一。〔漢書、鼂錯傳〕廷尉毆劾二奏錯一曰、云云、錯不レ稱二陛下德信一、欲レ疏二羣臣百姓一、又欲下以二城邑一予上レ吳、亡二臣子禮一、大逆無道、錯當二要斬一、父母妻子同產、無二少長一、皆棄市、臣請論如レ法、制曰可、錯殊不レ知、迺使二中尉召レ錯、紿載行レ市、錯衣二朝衣一斬二東市一。

【朝意】9 テウイ 朝廷の意志。又、天子のおぼしめし。朝旨(178)に同じ。

【朝彝】10 テウイ 朝廷の規則。皇彝。〔武后、爲二武奉御一謝二尙方監一表〕上不レ汨二於朝彝一、下無レ招二於官謗一。

【朝位】11 テウヰ 朝廷の位次。〔漢書、高后紀〕今欲下差二次列侯功一、以定中朝位上。

【朝威】12 テウヰ 朝廷の御威光。天子の御威光。みいつ。稜威。〔後漢書、吳祐等傳贊〕邪卿出レ疆、專命二朝威一。

【朝右】13 テウイウ 朝廷の高官。〔後漢書、王堂傳〕爲二汝南太守一、教二掾吏一曰、古者勞二於求一レ賢、逸二於得一レ人、使下其憲二章朝右一、簡中覈才職上。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕謬二其疲隷一、授二之朝右一。〔注〕善曰、朝右、謂二別駕一也。

【朝邑】14 テウイフ 縣名。西魏、後魏の南五泉縣を改め置く。漢の臨晉縣の地。今、陝西省大荔縣の東。黃河の西岸。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、同州〕朝邑縣、古大荔戎國、漢爲二臨晉縣地一、後魏太和十一年、於レ此置二南五泉縣一、屬二澄城郡一、西魏改爲二朝邑縣一、屬二同州一、隋因レ之、唐乾元三年、改爲二河西縣一、屬二河中府一、大歷初復レ故、仍屬二同州一。〔清史稿、地理志〕陝西、同州府、縣八、朝邑。

〔朝邑縣志〕15 テウイフケンシ 書名。二卷。明、韓邦靖撰。上卷は總志・風俗・物產・田賦の四篇、下卷は名宦・人物・雜記の三篇。〔四庫提要、史、地理類〕。

【朝陰】16 アサカゲ 朝日によつて生じた陰。朝の日陰。

【朝隱】17 テウイン ❶仕官して高い位に居りながら、競ふ心がなく、恬淡として隱士の操を守るをいふ。〔法言、淵騫〕或問、柳下惠非二朝隱者一歟、曰、君子謂二之不恭一、古者高二餓顯一下二祿隱一。〔後漢書、張衡傳〕庶前訓之可レ鑽、聊朝隱二乎柱史一。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕染二迹朝隱一。〔注〕善曰、史記、東方朔曰、如三朔所謂避二俗於朝廷閒一也。〔南史、王僧祐傳〕爲二著作佐郎一、遷二司空祭酒一、謝レ病不下與二公卿一游上、齊高帝謂二王儉一曰、卿從、可レ謂二朝隱一、答曰、臣從非三敢妄同二高人一、直是愛レ閑多病耳。〔世說新語、賞譽下〕王瓚之、歷二官五兵尙書一、未三嘗詣二一朝貴一、江湛謂二何偃一曰、王瓚之、今、便是朝隱。❷明、屠湖(**4**−**7761**··26)の字。

【朝雨】18 テウウ 朝の雨。曉雨。〔王維、送三元二使二安西一詩〕渭城朝雨浥二輕塵一、客舍青青柳色新。〔王昌齡、送二歐陽會稽之一レ任詩〕萬室霽二朝雨一、千峰迎二夕陽一。〔韋應物、簡二盧陟一詩〕澗樹含二朝雨一、山鳥弄二餘春一。

【朝烏】19 テウウ ❶明け方の烏。〔傅玄、走狗賦〕邈二朝烏之輕機一兮、絕二猛獸之逸軌一。〔南史、西域、高昌國傳〕有二朝烏者一、旦旦集二王殿前一、爲二行列一、不レ畏レ人、日出然後散去。❷アサヒ 朝日。〔萬葉集、十〕。

【朝雲】20 テウウン ❶朝の雲。〔應瑒、報二趙淑麗一詩〕

朝雲不レ歸、夕結成レ陰。〔鄭世翼、巫山高〕霏霏暮雨合、靄靄朝雲生。❷女神の名。瑤姬。朝雲暮雨を見よ。〔杜甫、奉三送崔都水翁下二峽詩〕白狗黃牛峽、朝雲暮雨祠。❸宋の錢塘の妓。蘇軾の妾の名。姓は王氏。〔蘇軾、朝雲詩序〕予家有二數妾一、四五年相繼辭去、獨朝雲者、隨レ予南遷、因讀二樂天集一、戲二作此詩一、朝雲、姓王氏、錢塘人、嘗有レ子曰二幹兒一、未レ暮而夭云。〔蘇軾、悼二朝雲一詩序〕朝雲始不レ識レ字、晚忽學レ書、粗有二楷法一、蓋嘗從二泗上比丘尼義沖一學レ佛、亦略聞二大義一、且レ死誦二金剛經四句偈一而絕。❹後魏、河間王琛の妓女の名。善く篪を吹き、巧に團扇歌・隴上聲を爲す。琛、秦州刺史たりし時、諸羌叛いて降らず、朝雲僞りて貧嫗となり篪を吹いて諸羌に乞ふ。諸羌流涕し相率ゐて降る。當時の語に曰く、快馬健兒も老嫗の篪を吹くに如かずと。〔洛陽伽藍記、四〕河間王琛、妓女三百人、盡皆國色、有二婢朝雲一、善吹レ篪、能爲二團扇歌・隴上聲一、琛爲二秦州刺史一、諸羌外叛、屢討レ之不レ降、琛令下朝雲假爲二貧嫗一、吹レ篪而乞上、諸羌聞レ之、悉皆流涕、相率歸降、秦民語曰、快馬健兒、不レ如二老嫗吹一レ篪。

〔朝雲曲〕21（テウウンキヨク） 樂府、淸商曲辭、江南弄七曲の一。梁の武帝・沈約に曲辭がある。其の曲名は宋玉の高唐賦にいふ巫山神女の語に取る。朝雲暮雨を見よ。〔樂府詩集、淸商曲辭、江南弄、朝雲曲〕古今樂錄曰、朝雲曲、和云、徙倚折二耀華一、宋玉高唐賦序曰、楚襄王與二宋玉一、遊二雲夢之臺一、望二高唐之觀一、獨有二雲氣變化無一レ窮、王問レ玉曰、此何氣也、玉曰、所謂朝雲也、王曰、何謂二朝雲一也、玉曰、昔者先王嘗遊二高唐一、怠而晝寢、夢見二一婦人一、曰、妾巫山之女也、爲二高唐之客一、聞三君遊二高唐一、願薦二枕席一、王因幸レ之、去而辭曰、妾在二巫山之陽、高丘之阻一、旦爲二朝雲一、暮爲二行雨一、朝朝暮暮陽臺之下、旦朝視レ之如レ言、故爲立レ廟、號曰二朝雲一、麗道元水經注曰、巫山者、帝女居焉、宋玉謂、帝之季女、名曰二瑤姬一、未レ行而亡、封二于巫山之臺一、精魂爲二草實一、謂二靈芝一、所謂巫山之女、高唐之姬也、朝雲曲、蓋取二於此一。〔梁武帝、朝雲曲〕張二樂陽臺一歌二上謁一、如レ寢如レ興芳晻曖、容光既豔復還沒、復還沒、望不レ來、巫山高、心徘徊。〔沈約、朝雲曲〕陽臺氤氳多二異色一、巫山高、高上無レ極、雲來雲去長不レ息、長不レ息、夢二來遊一、極二萬世一度二千秋一。

〔朝雲暮雨〕22（テウウンボウ） 楚の懷王、高唐に遊ぶ。一婦人夢に枕席を薦む。王、因つて之を幸す。辭するに臨み、妾は巫山の陽、高丘の岨にあり、旦には朝雲となり、暮には行雨となり、朝朝暮暮、陽臺の下に在りといふ。王寤めて、旦朝に言の如く雲雨あるを見、よつて巫山の陽に廟を建てたといふ故事。後、男女の契にいふ。情交。〔宋玉、高唐賦序〕昔者楚襄王、與二宋玉一游二於雲夢之臺一、望二高唐之觀一、其上獨有二雲氣一、崪兮直上、忽兮改レ容、須臾之間、變化無レ窮、王問レ玉曰、此何氣也、玉對曰、所謂朝雲者也、王曰、何謂二朝雲一、玉曰、昔者先王嘗游二高唐一、怠而晝寢、夢見二一婦人一、曰、妾巫山之女也、爲二高唐之客一、聞三君游二高唐一、願薦二枕席一、王因幸レ之、去而辭曰、妾在二巫山之陽、高丘之岨一、旦爲二朝雲一、暮爲二行雨一、朝朝暮暮陽臺之下、旦朝視レ之如レ言、故爲立レ廟、號曰二朝雲一。〔注〕善曰、襄陽耆舊傳曰、赤帝女姚姬、未レ行而卒、葬二於巫山之陽一、故曰二巫山之女一、楚懷王遊二於高唐一、晝寢、夢見二與レ神遇一、自稱二是巫山之女一、王因幸レ之、遂爲置二觀於巫山之南一、號爲二朝雲一、後至二襄王時一、復遊二於高唐一。

〔朝雲浮二四海一日暮歸二故山一〕23（テウウンシカイニウカビニチボコザンニカヘル） 朝方には四方に浮ぶ雲も夕方には故山に歸る。〔應瑒、別詩〕朝雲浮二四海一、日暮歸二故山一、行役懷二舊土一、悲思不レ能レ言、悠悠涉二千里一、未レ知二何時旋一。

【朝映】24（テウエイ） あしたに照りはえる。〔闕名、竹賦〕白日朝映、素輪夜接。

【朝英】25（テウエイ） 字號。❶明、閔珪（11―41251‥10）の字。❷淸、吳楙（2―3365‥380）の字。

【朝盈】26（テウエイ） 朝みつること。朝盈夕虛を見よ。

〔朝盈夕虛〕27（テウエイセキキヨ） 朝にみち夕に虛しくなる。朝榮夕滅に同じ。〔風俗通、窮通〕孟嘗君逐二於齊一見レ反、譚子迎二於澅一曰、君怨二於齊大夫一乎、孟嘗君曰、有、譚子曰、願君勿レ怨、請於レ市論、朝而盈焉、夕而虛焉、求在故往、亡故去、孟嘗君曰、謹受レ命。

【朝榮】28（テウエイ） ❶朝に榮える。朝榮夕滅を見よ。❷朝に咲く花。〔鮑照、升天行〕翩翻類二迴掌一、恍惚似二朝榮一。〔注〕濟曰、翩翻・恍惚、謂二須臾閒一也、如二迴掌之反覆、朝榮之開落一也、榮、華也。

〔朝榮夕滅〕29（テウエイセキメツ） 朝に榮え夕にほろびる。人生の常なきをいふ。〔晉書、王沈傳〕朝榮夕滅、旦飛暮沈。〔魏書、韓顯宗傳〕然官位非レ常、有二朝榮而夕悴一。〔潘岳、朝菌賦〕奈何兮繁華、朝榮兮夕斃。

【朝謁】30（テウエツ） 君主等の居所に行つてまみえる。朝見。〔漢書、霍光傳〕獵二黃山苑中一、使二蒼頭奴二朝謁一。〔後漢書、淸河孝王慶傳〕朝二謁陵廟一。〔魏志、東夷、濊傳〕四時朝謁。

【朝宴】31（テウエン） 禁中で催される宴會。朝廷の酒宴。〔顏延之、拜二陵廟一作詩〕陪廁迴二天顧一、朝宴流二聖情一。

【朝煙】32（テウエン） ❶朝もや。〔唐太宗、詠レ雨詩〕新流添二舊澗一、宿霧足二朝煙一。❷（アサケブリ） 朝飯を炊くために立ち上る煙。朝の炊事の煙。

【朝恩】33（テウオン） ❶朝廷のめぐみ。朝廷の恩澤。〔後漢書、劉虞傳〕遣レ使告二峭王等一、以三朝恩寬弘、開二許善路一。〔舊唐書、李玄通傳〕吾荷二朝恩一、作二藩東夏一、當下守二臣節一、以レ忠報上レ國。❷明、蔣有（9―31820‥3）の字。

【朝家】34（テウカ） 天皇の御家。皇室。王室。王家。朝廷。轉じて、國家をいふ。〔後漢書、應劭傳〕是以朝家外而不レ內、蓋爲レ此也。〔注〕朝家、猶二國家一也。〔戴復古、南嶽詩〕朝家遣レ使嚴二祀典一。

〔朝家教學之意〕35（テウカケウガクノイ） 朝廷で學問を勸める旨意。〔李覯、袁州州學記〕是惟朝家教學之意。

【朝歌】36（テウカ） ❶地名。古の沬邑。殷の武乙、此の地に徙り、後、紂、之に都す。世に殷墟といふ。周の武王、紂を滅し、其の地に康叔を封じて衞國とす。秦末、項羽、司馬卬を立てて殷王とし、此處に都せしむ。河南省濬縣の西。〔書、酒誥、明二大命于妹邦一、傳〕紂所レ都朝歌以北、是。〔尉繚子、武議〕屠二牛朝歌一。〔史記、樂書〕紂爲二朝歌北鄙之音一。〔淮南子、說山訓〕墨子非レ樂、不レ入二朝歌之邑一。〔帝王世紀〕武乙徙二朝歌一。❷縣名。㋑漢、置く。河南省濬縣の西。〔漢書、地理志上〕河內郡、縣十八、朝歌。㋺南朝宋、僑置す。安徽省鳳陽縣。〔南齊書、州郡志上〕鍾離郡、燕縣・朝歌・虞・零。

〔朝歌夜絃〕37（テウカヤゲン） 朝は歌ひ夜は音樂を奏する。終日遊樂にふけるにいふ。〔杜牧、阿房宮賦〕朝歌夜絃、爲二秦宮人一。〔如不及齋文鈔、春雨樓記〕朝歌夜絃、醉呶之聲。

〔朝歌野調〕38 chao^1 ko^1 yeh^3 tiao^4 粗野な歌ひ方をし、且つ人を罵る歌。

【朝霞】39（テウカ） ❶あさやけ。朝燒。霞は赤い雲氣。〔楚辭、遠遊〕飡二六氣一而飮二沆瀣一、漱二正陽一而含二朝霞一。〔注〕淩陽子明經言、春食二朝霞一、朝霞者、日始出赤黃氣也。〔補注〕莊子云、御二六氣之辨一、李云、平旦爲二朝霞一、日中爲二正陽一、日入爲二飛泉一、夜半爲二沆瀣一、天玄地黃爲レ六也。〔漢書、司馬相如傳下〕呼二吸沆瀣一兮餐二朝霞一。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕虹霓紛其朝霞兮。〔陸機、歎逝賦〕恨二朝霞之難一レ挹。〔李嘉祐、仲夏江陰官舍寄二裴明府一詩〕朝霞晴作レ雨。❷（アサガスミ） 朝たなびくかすみ。

〔朝霞擧〕40（テウカアガル） 晉の廢帝海西公の時、會稽王の容姿が立派であつたため、入朝する每に、朝燒の雲氣が出た樣に四邊が明るくなつた故事。〔世說新語、容止〕海西時、諸公每レ朝、朝堂猶暗、唯會稽王來、軒軒如二朝霞擧一。

〔朝霞出レ門〕41（テウカモンヲイヅ） 朝霞不レ出レ門暮霞行二千里一を見よ。〔海錄碎事、天、雨〕山谷集、朝霞出レ門、暮霞千里、言二雨候之遲速一。

〔朝霞不レ出レ門暮霞行二千里一〕42（テウカニハモンヲイデズボカニハセンリニユク） 朝燒は降雨の前兆だから、其の日には外出を見合はせ、夕燒は晴天の前兆だから、其の翌日は遠行する。〔通俗編、天文、朝霞不レ出レ門暮霞行二千里一〕范成大詩、朝霞不レ出レ市、暮霞行二千里一、我豈知二天道一、吳儂諺云爾、按、素問、霞擁二朝陽一雲奔二雨府一、楚辭、虹霓紛二其朝霞一、夕淫淫而淋雨、李嘉祐詩、朝霞晴作レ雨、耿湋詩、報レ雨早霞生、朝霞主レ雨之說、其來最久、而儲光義詩、落日燒霧明、農夫知二雨止一、暮霞主レ晴、亦經二入唐人詩一矣。

【朝賀】43（テウガ） ❶朝見してよごとを述べること。參內して賀を奉ること。又、其のよごと。〔史

記、秦始皇紀〕改二年始一、朝賀自二十月朔一。〔漢書、宣帝紀〕朝賀自レ古未二之有一也。〔東方朔、非有先生論〕各奉二其職一、而來朝賀。〔後漢書、陳翔傳〕正旦朝賀。㊁昔、正月元日、天皇が大極殿に出御して行はれた公事。朝拜。〔內記式〕凡元日朝賀、依レ有二滯故一、延用二二三日一者、其宣命之辭、猶用二朔日一。

【朝衙】44 テウガ 朝早く朝廷に出勤する。早衙。〔白居易、城上詩〕城上鼕鼕鼓、朝衙復晚衙。

【朝駕】45 テウガ 朝早く車に馬をつけること。朝出發すること。〔國語、魯語下〕齊朝駕則夕極二於魯國一、不三敢憚二其患一、而與レ晉共二其憂一。〔唐書、杜牧傳〕黎陽距二白馬津一三十里、新鄉距二盟津一一百五十里、陴壘相望、朝駕暮戰。

【朝開】46 テウカイ ㊀花などの朝ひらくこと。〔南方草木狀〕朱槿自二二月一開レ花、至二中冬一卽歇、其花深紅色五出、大如二蜀葵一、一叢之上、日開二數百朶一、朝開暮落。〔包融、賦二得岸花臨レ水發一詩〕朝開川上日、夜發浦中霞。〔杜荀鶴、題二花木障一詩〕朝由來畫看勝二栽看一、免レ見二朝開暮落時一。㊁アサケ 夜が明けたばかりの頃。朝明。

〖朝開暮落花〗47 テウカイボラククワ 木槿の異名。〔吳彥華、花史〕木槿、一名二朝開暮落花一、白曰レ椴、紅曰レ櫬、一名二日及一。

【朝漑】48 テウガイ 朝に水をそそぎかける。〔李治、觀二主人植一レ槐詩〕朝漑復夕漑、乳井幾成レ枯。

【朝考】49 テウカウ ㊀朝考へる。〔國語、魯語下〕卿大夫朝考二其職一、晝講二其庶政一。㊁清代、科擧の制で、新たに進士に及第した者を引見する前に、天子自ら課題を授けて考試を行ふこと。此の制は雍正元年の上諭に本づく。〔清會典事例、禮部、貢擧、朝考〕雍正元年諭、新科進士於二引見之前一、先行二考試一、知二其學問一、再行二引見選拔一、庶二人才不一レ致二遺漏一、考試題目、將二詩文四六各體一出レ題、視二其所一レ能、或一篇、或二三篇、或各體皆作、悉聽二其便一。〔清國行政法汎論、文官仕途種類、拔貢生〕各省學政、每二十二年一、於二生員中一、選拔科考二一試成績優等者、更行二試驗一、又督撫會同覆試、厥後學政給二與證書一、前レ赴二禮部一、進應二考試一、卽朝考也。

【朝行】50 テウカウ 朝早くゆく。〔韓愈、賀二徐州張僕射白兔一狀〕伏聞、今月五日、營田巡官陳從政獻二瑞兔一、毛質皦白、天馴二其心一、其始實得二之符離安阜屯一、屯之役夫、朝行遇レ之、迫レ之弗レ逸、人立而拱。〔岑參、酬二成少尹駱谷行見一レ呈詩〕夜宿月近レ人、朝行雲滿レ車。

【朝沆】51 テウカウ 朝の露の氣。朝の沆瀣。〔徐陵、東陽雙林寺傳大士碑〕自修二禪遠壑一、絕二粒長齋一、非レ服二流霞一、卽餐二朝沆一。

【朝耕】52 テウカウ 朝たがやす。朝耕暮耘を見よ。

〖朝耕暮耘〗53 テウカウボウン 朝に耕し夕に草ぎる。農事にいそしむことをいふ。〔輟耕錄、檢田吏〕延祐七年三月、初賣レ衣買二得犂與一レ鉏、朝耕暮耘、受二辛苦一、要下還二私債一輸中官租上。

【朝綱】54 テウカウ 朝廷の綱紀。〔後漢書、儒林傳論〕自二桓靈之閒一、君道秕僻、朝綱日陵、國隙屢啓。〔宋史、袁甫傳〕政事雖レ委二中書一、然必擇二風采著聞者一爲二臺諫一、敢於二論駁者一爲給レ舍、所下以戢二官邪一、肅中朝綱上也。

【朝講】55 テウカウ 朝に行ふ講義。〔無可、送下契公自二桂陽一赴中南海上詩〕中餐湘鳥下、朝講海人來。

【朝蕚】56 テウガク 朝のはなぶさ。〔韓愈、詠レ雪贈二張籍一詩〕緯繣觀二朝蕚一、冥茫矚二晚埃一。

【朝諤】57 テウガク 明、郭尚賓（**11－39474**··318）の字。

【朝刊】58 テウカン 日刊新聞で、每朝發行する新聞。夕刊の對。

【朝看】59 テウカン 朝にみる。〔李頎、寄二韓鵬一詩〕爲レ政心閑物自閑、朝看飛鳥暮飛還。

〖朝看水東流〗60 アシタニミルミツノトウリウスルヲ 朝、川が東流してゆくのを看る。中國の川は一般に東に流れるからいふ。〔中國新法國文教科書、明日歌〕朝看水東流、暮看日西墜。

【朝寒】61 テウカン 朝さむいこと。〔說苑、臣術〕晏子侍二於景公一、朝寒、請レ進二熱食一、對曰、嬰非二君之廚養臣一也、敢辭、公曰、請進二服裘一、對曰、嬰非二田澤之臣一也、敢辭、公曰、然夫子於二寡人一奚爲者也、對曰、社稷之臣也。

【朝鴈】62 テウガン 朝飛んでゐる鴈。〔應瑒、侍二五官中郎將建章臺集一詩〕朝鴈鳴二雲中一、音響一何哀。

【朝顏】63 アサガホ ㊀蔓草の名。夏時、漏斗狀の美花を著ける。牽牛花。㊁桔梗の異名。㊂木槿の異名。㊃蜉蝣の異名。㊄襲の色目の名。表裏ともに縹色。㊅小便所にすゑる陶器。朝顏の花の形に似たもの。㊆麩燒の異名。〔池田正式狂歌合〕。

〖朝顏合〗64 アサガホアハセ 朝顏の花を比べて優劣を競ふこと。〔擁書漫筆〕天王寺別當大圓寺の朝顏合せ。

〖朝顏染〗65 アサガホゾメ 元祿時代、流行した染模樣の名。紺又は紫で大形に染めたもの。

【朝氣】66 テウキ ㊀朝の爽かな氣。〔沈佺期、嶽館詩〕空濛朝氣合、窈窕夕陽開。㊁人間の朝の氣力をいふ。〔孫子、軍爭〕是故朝氣銳、晝氣惰、暮氣歸。〔注〕孟氏曰、司馬法曰、新氣勝二舊氣一、新氣卽朝氣也。〔李衞公問對、下〕朝氣銳、晝氣惰。

【朝起】67 テウキ 朝早く起きる。〔羅鄴、河上逢二友人一詩〕宵吟憐二桂魄一、朝起怯二菱花一。

【朝寄】68 テウキ 朝廷からの委任。〔晉書、謝安傳〕安雖レ受二朝寄一、然東山之志、始末不レ渝。

【朝晞】69 テウキ 朝かわく。〔宋史、樂志十六〕寒日短、草露朝晞。

【朝欷】70 テウキ 朝すすりなく。〔韓愈、雪後寄二崔二十六丞公一詩〕朝欷暮唏不レ可レ解、我心安得レ如二石頑一。

【朝規】71 テウキ 朝廷のおきて。官の規則。官規。〔後漢書、西羌傳論〕邊難漸大、朝規失二綏御之和一。〔沈約、薦二沈麟士一表〕必能孚二朝規於邊鄙一。

【朝飢】72 テウキ 朝うゑる。朝の空腹。調飢。〔詩、周南、汝墳〕惄如二調飢一。〔箋〕未レ見二君子一之時、如二朝飢之思一レ食。〔鄭嵎、津陽門詩〕枯腸渴肺忘二朝飢一。

【朝喜】73 テウキ 朝よろこぶ。〔杜荀鶴、春閨怨〕朝喜花豔レ春、暮悲花委レ塵。

【朝貴】74 テウキ 貴くて權勢ある朝臣。朝廷の貴權臣。〔齊書、王秀之傳〕未三嘗詣二一朝貴一。

【朝暉】75 テウキ 朝日のひかり。暉は日光。晨暉。〔陸機、日出東南隅行〕扶桑升二朝暉一、照二此高臺端一。〔杜甫、秋興詩〕千家山郭靜二朝暉一、日日江樓坐二翠微一。

〖朝暉夕陰〗76 テウキセキイン 朝日のひかりと夕日のかげり。又、朝の光明と夕方の陰影。日出日沒の景色をいふ。〔范仲淹、岳陽樓記〕朝暉夕陰、氣象萬千、此則岳陽樓之大觀也。

【朝歸】77 テウキ 朝がかへる。朝になる。〔高無際、大明西垣竹賦〕曉視含レ煙、朝歸捧レ日、挺二八柱一以獨秀、與二三槐一而交レ密。

【朝儀】78 テウギ ㊀朝廷で行はれる儀式作法。臣の君に朝する儀式典禮。〔周禮、夏官、司士〕正二朝儀之位一、辨二其貴賤之等一。〔孫詒讓正義〕正二朝儀之位一者、此亦天子治朝之朝位也、此官掌レ正二其儀敍一。〔史記、叔孫通傳〕叔孫通說レ上曰、臣願徵二魯諸生一、與二臣弟子一共起二朝儀一、上曰、可。〔曹植、責レ躬詩〕犯二我朝儀一。〔杜甫、紫宸殿退朝口號〕戶外昭容紫袖垂、雙瞻二御座一引二朝儀一。㊁字號。㋑明、曲銳（**5－14280**··15）の字。㋺明、邊偉（**11－39216**··3）の字。

【朝戲】79 テウギ 朝たはむれる。〔陸機、鼈賦〕朝戲二蘭渚一、夕息二中塘一。〔鮑照、舞鶴賦〕朝戲二於芝田一、夕飲二於瑤池一。

【朝曦】80 テウギ あさひ。朝旭。朝暾。〔李德裕、柳柏賦〕含二輕煙於夕景一、泣二零露于朝曦一。〔宋史、朱昂傳〕傲二朝曦兮南榮一、遡二夕飈兮北疏一。

【朝議】81 テウギ 朝廷で議する。又、其の會議。又、其の決定事項。廟議。〔史記、魏其矦傳〕孝景時、每朝二議大事一。〔後漢書、盧植傳〕初秉二機政一、朝議欲レ加二封爵一。〔魏志、明帝紀〕堅二守朝議一。〔潘岳、關中詩〕朝議惟疑。

〖朝議郎〗82 テウギラウ 文散官の名。隋、置く。唐、之に因る。〔通典、職官、文散官〕朝議郎・承議郎、並隋置、散官、大唐因レ之。〔文獻通考、職官考〕朝議郎、隋置、散官、唐因レ之。

〖朝議大夫〗83 テウギタイフ ㊀官名。隋、置く。文散官。唐、之に因る。其の名位は朝散大夫に略〻同じ。〔通典、職官、文散官〕朝議大夫、隋置、散官、以取四漢諸大夫得三上二奉朝議一爲レ名、大唐因レ之。㊁清代、從四品の文官が封典を受けた稱號。〔劉綸、韋君前謨墓誌銘〕曾祖封二朝議大夫一。

【朝九】84 テウキウ 清、金時儀（**11－40152**··1276）の字。

【朝汲】85 テウキフ 朝水をくむこと。〔裴迪、金屑泉詩〕迎レ晨含二素華一、獨往事二朝汲一。

【朝享】86 テウキヤウ ㊀羣廟及び毀廟の主を盡く大廟に集めて朝儀を行ふこと。大祫の祭をいふ。

〔周禮、春官、司尊彝〕凡四時之間祀、追享・朝享。〔注〕鄭司農云、追享・朝享、謂二禘祫一也、在二四時之間一、故曰二間祀一。〔義疏〕羣廟及毀廟之主、盡入二大廟一有二朝義一焉、故大祫謂二之朝享一。〔唐書、玄宗紀〕天寶十載正月壬辰、朝二獻于太清宮一、癸巳、朝二享于太廟一。㊁天子が毎月の朔日にその月の政を聽治するために宗廟で行ふ祭。朝廟(430)を見よ。㊂天子に來朝すること。〔漢書、蕭望之傳〕闕二於朝享一、不レ爲二畔臣一。〔漢書、韋玄成傳〕威儀濟濟、朝二享天子一。

【朝鏡】87 テウキヤウ 朝のかがみ。〔梁昭明太子、美人晨粧詩〕北窗向二朝鏡一、錦帳復斜縈。〔沈佺期、覽レ鏡詩〕恍忽夜川裏、蹉跎朝鏡前。〔羅隱、撫州別院兵曹詩〕十年別鬢疑二朝鏡一、千里歸心著二晩鐘一。

【朝饗】88 テウキヤウ 天子が朝獻に次いで大廟を祭る禮をいふ。〔夢溪筆談、故事一〕上親郊郊廟冊文、皆曰二恭薦歲事一、先二景靈宮一、謂二之朝獻一、次二太廟一、謂二之朝饗一、末乃有レ事二于南郊一。

【朝宮】89 テウキユウ 天子の宮殿。帝王の居所。〔史記、秦始皇紀〕乃營二作朝宮渭南上林苑中一。

【朝擧】90 テウキヨ 字號。㊀明、何屋(**1**－**511**‥75)の字。㊁清、孟超然(**3**－**6960**‥328)の字。

【朝御】91 テウギヨ 天子が朝に召し上る。〔魏書、崔光傳〕伏願、陛下追二殷二宗感變之意一、側躬聳誠、惟新二聖道一、節二夜飲之忻一、彊二朝御之膳一、養二方富之年一、保二金玉之性一、則魏祚可二以永隆一、皇壽等二於山岳一。

【朝旭】92 テウキヨク あさひ。朝曦。曉暾。〔馮子振、十八公賦〕朝旭瞥而西檽透明。〔韋承慶、靈臺賦〕喜則春露融二於朝旭一。

【朝巾】93 テウキン 朝のづきん。〔薛逢、老去也詩〕朝巾暮櫛不二自省一、老皮皴皺文縱橫。

【朝菌】94 テウキン ㊀糞上に朝生えて晩に枯れるといふ芝菌。〔莊子、逍遙遊〕朝菌不レ知二晦朔一。〔釋文〕司馬云、大芝也、天陰生二糞上一、見レ日則死、一名日及、故不レ知二月之終始一也、崔云、糞上芝、朝生暮死、晦者不レ及レ朔、朔者不レ及レ晦。㊁むくげ。木槿。舜英。舜華。〔莊子、逍遙遊、釋文〕支遁云、一名舜英、朝生暮落。〔潘尼、朝菌賦序〕朝菌者、時人以爲二蕣華一、莊王以爲二朝菌一、其物向レ晨而結、絕レ日而殞。㊂蟲の名。蠶娥に似て水中に生れる朝生暮死の蟲。孳母。蟲邪。蜉蝣。〔淮南子、道應訓〕故朝菌不レ知二晦朔一、蟪蛄不レ知二春秋一。〔注〕朝菌、朝生暮死之蟲也、生二水上一、狀似二蠶娥一、一名孳母、海南謂二之蟲邪一、則亦蜉蝣之類。

〖朝菌不レ知二晦朔一〗95 テウキンハクワイサクヲシラズ 朝生暮死の朝菌は朔日から晦日に至る僅か一箇月の長さも知らない。壽命の短い喩。又、はかない喩。朝菌は芝菌、一說に、木槿、一說に、蜉蝣。朝菌を見よ。晦は三十日、朔は一日。〔莊子、逍遙遊〕朝菌不レ知二晦朔一、蟪蛄不レ知二春秋一、此小年也。〔淮南子、道應訓〕故朝菌不レ知二晦朔一、蟪蛄不レ知二春秋一。

【朝槿】96 テウキン むくげ。朝に開いて夕にしぼむ。うつろひ易いものの喩。木槿。〔王僧孺、爲二何庫部舊姬一擬二蘼蕪之句一詩〕妾意在二寒松一、君心遂二朝槿一。〔王維、積雨輞川庄作詩〕山中習靜觀二朝槿一、松下清齋折二露葵一。

【朝覲】97 テウキン ㊀諸侯が天子に謁見すること。春に朝といひ、秋に覲といふ。〔周禮、春官、大宗伯〕春見曰レ朝、夏見曰レ宗、秋見曰レ覲、冬見曰レ遇。〔周禮、秋官、大司寇〕朝覲會同。〔禮、樂記〕朝覲、然後諸侯知三所二以臣一。〔孟子、萬章上〕堯崩、三年喪畢、舜避二堯之子於南河之南一、天下諸侯朝覲者、不レ之二堯之子一而之レ舜。〔大戴禮、主言〕蠻夷諸夏、雖二衣冠不一レ同、言語不レ合、莫レ不三來至、朝二覲於王一。〔史記、貨殖傳〕朝覲聘享出二其中一。〔漢書、禮樂志〕制二朝覲之禮一。㊁古、主上が上皇又は皇太后の宮に行幸せられたこと。〔續日本後紀、三〕承和元年正月癸丑、天皇朝二覲後太上天皇於淳和院一、太上天皇逢迎。

【朝吟】98 テウギン 朝に詩歌をうたふこと。〔李頎、送三康洽入レ京進二樂府一歌〕朝吟二左氏嬌女篇一、夜誦二相如美人賦一。〔李商隱、酬二令狐郞中一詩〕朝吟搘二客枕一、夜讀漱二僧瓶一。〔崔塗、苦吟詩〕朝吟復暮吟、只此望二知音一。

【朝煦】99 テウク 朝あたたかなこと。〔陸機、演連珠〕春風朝煦、蕭艾蒙二其溫一。

【朝駈】100 アサガケ 早朝不意に敵を攻めること。〔高國記〕朝かけして責落し。

【朝化】101 テウクワ 朝廷の教化。〔蜀志、馬超傳〕明二宣朝化一、懷二保遠邇一。〔隋書、煬帝紀上〕遵二奉朝化一、思レ改二戎俗一。〔隋書、韓擒虎傳〕申二國威于萬里一、宣二朝化于一隅一。

【朝貨】102 テウクワ 有爲の人材。〔還魂記、淮泊〕有二朝貨一、與二帝王家一。

【朝華】103 テウクワ 朝咲く花。又、朝に花が開くこと。〔魏志、王昶傳〕朝華之草、夕而零落。〔陸機、文賦〕謝二朝華於已披一、啓二夕秀於未一レ振。〔夏侯湛、朝華賦〕皎日升而朝華、玄景逝而夕零。

【朝過】104 テウクワ ㊀朝あやまつ。朝過夕改を見よ。㊁朝に通り過ぎること。〔柳宗元、桂州訾家洲亭記〕車輿步騎、朝過夕視、訖二千百年一、莫二或異顧一。

〖朝過夕改〗105 テウクワセキカイ 朝に過つて夕に改める。〔漢書、翟方進傳〕上疏謝レ罪、乞二骸骨一、上報曰、定陵侯長、已伏二其辜一、君雖二交通一、傳不レ云乎、朝過夕改、君子與レ之、君何疑焉、其專心壹意毋レ怠、近二醫藥一以自持。

【朝靴】106 テウクワ 清代、禮裝用の長靴。

【朝課】107 テウクワ 朝のつとめ。〔白居易、朝課詩〕從容朝課畢、方與レ客相見。〔陸游、晨起詩〕年耄停二朝課一、家貧省二小飧一。

【朝晦】108 テウクワイ 朝夕。〔列子、湯問〕生二於朝一、死二於晦一。

【朝會】109 テウクワイ ㊀諸侯・臣下が朝廷に參り集まること。又、其の儀式。〔左氏、昭、十三〕是故明王之制、使二諸侯歲聘以志一レ業、閒朝以講レ禮、再朝而會以示レ威、注〕三年而一朝、六年而一會。〔史記、殷紀〕朝會以レ書。〔漢書、張敞傳〕時罷二朝會一。〔孔叢子、巡狩〕其禮與二巡守朝會一無レ變。〔後漢書、劉寬傳〕朝會裝嚴。㊁學校で、始業前に職員・生徒を集めて訓育上の話や合同體操などを行ふ集會。

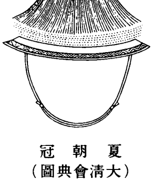
【朝光】110 テウクワウ 朝日のひかり。〔唐太宗、正日臨レ朝詩〕組練輝二霞色一、霜戟耀二朝光一。〔柳宗元、禮部賀二甘露一表〕朝光初燭、方湛湛而不レ晞。〔宋史、律歷志三〕五更五點後、發レ鼓曰、朝光發、萬戶開、羣臣謁。

【朝幌】111 テウクワウ 朝のとばり。朝の帳中。〔李賀、惱公詩〕細管吟二朝幌一、芳醪落二夜楓一。

【朝官】112 テウクワン ㊀朝廷の役人。〔白居易、論二元稹一第三狀〕索二弓箭一、嚇二辱朝官一。㊁一品以下の官吏で、朝廷に常參する者をいふ。我が國舊制の勅任官以上に當る。〔宋史新編〕凡一品以下、常參之者、謂二之朝官一、祕書郎以下、未二常參一者、謂二之京官一。

〖禁二朝官飲酒一〗113 テウクワンノインシユヲキンズ 金の海陵が正隆五年、朝廷の官吏の飲酒を禁じたこと。〔日知錄之餘、二〕金熙宗天會十三年正月甲戌詔、公私禁レ酒、海陵正隆五年、禁二朝官飲酒一、犯者死、國人使二燕飲一者罪。

【朝冠】114 テウクワン 朝廷へ出る時の冠。公式の冠。〔孟子、公孫丑上〕立二於惡人之朝一、與二惡人一言、如下以二朝衣朝冠一坐中於塗炭上。

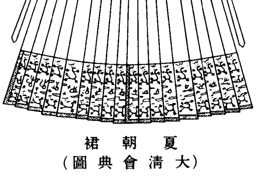


夏朝冠
（大清會典圖）

【朝還】115 テウクワン 朝かへる。〔神仙傳〕李阿者、蜀人、傳世見レ之不レ老、常乞二於成都市一、所レ得復散、賜二與貧窮者一、夜去朝還、莫レ知レ所レ止。

【朝歡】116 テウクワン 朝よろこぶ。朝のよろこび。〔李益、漢宮少年行〕豈知人事無二定勢一、朝歡暮戚如二掌翻一。〔李端、慈恩寺懷舊詩〕始聚終成レ散、朝歡暮不レ同。

【朝裙】117 テウクン 清代、大禮服を著た時に著けるはかまのやうなもの。〔清會典事例、禮部、冠服〕冬、朝裙、片金加二海龍緣一。



夏朝裙
（大清會典圖）

【朝徑】118 テウケイ 朝のこみち。〔李賀、南園詩〕小樹開二朝徑一、長茸濕二夜煙一。

【朝啓】119 テウケイ ㊀朝ひらく。〔盧綸、宿二定陵寺一詩〕禪室夜聞風過レ竹、奠筵朝啓露霑レ裳。㊁朝廷が政事を始める。〔趙良、器冠賦〕九日朝啓、千官奉職、劒履鏘鏘、旗旗翼翼。

【朝卿】120 テウケイ 清、劉清泰(**2**－**2224**‥1125)の初名。

【朝敬】121テウケイ 朝廷に出て天子に見えること。朝見。朝謁。〔宋書、徐廣傳〕臣年時衰耄、朝敬永闕、端二居都邑一、徒增二替怠一。

【朝經】122テウケイ 朝廷の規則。〔任昉、爲二齊明皇帝一作レ相讓二宣城郡公一第一表〕增二一職一、已黷二朝經一。

【朝慶】123テウケイ 朝廷の慶事に喜びを申し上げること。〔蜀志、劉琰傳〕琰竟棄市、自レ是大臣妻母、朝慶遂絕。

【朝憩】124テウケイ 朝いこふ。朝やすむ。〔傅咸、班鳩賦〕朝憩二椒塗一、夕宿二蘭房一、時連二翩于庭柯一、見二飛燕之頡頏一。

【朝磬】125テウケイ 朝の磬のひびき。〔公乘億、魏州故禪大德奬公塔碑〕響亮朝磬、淸泠夜鐘。〔唐宣宗、百丈山詩〕更有二上方一人罕レ到、暮鐘朝磬碧雲端。〔李嘉祐、蔣山開善寺詩〕客尋二朝磬一至、僧背二夕陽一歸。

【朝鷄】126テウケイ 朝の鷄の鳴き聲。聽二朝鷄一を見よ。

〖聽二朝鷄一〗127テウケイヲキク 歐陽脩が、宋の處士常秩が仕へないで淸節を全うしたのを稱した語。〔石林詩話〕常秩居二汝陰一、有二盛名一、屢召不レ至、歐陽文忠公亦推二重之一、所謂笑殺潁川常處士、十年騎馬聽二朝鷄一者、是也、荆公當レ國力致レ之、遂起、聲譽稍減、嘗大雪趨レ朝、待二門於仗舍一、寒甚不レ可レ忍、喟然若レ有レ所レ恨者、乃舉二文忠詩一以自戲、曰、凍殺潁川常處士、也來騎馬聽二朝鷄一。

【朝闕】128テウケツ 帝王の居所。宮城。宮闕。〔後漢書、梁冀傳〕宜下崇二賢善一以補中朝闕上。〔范曄、樂游應詔詩〕崇盛歸二朝闕一。

【朝見】129テウケン 臣下が參內して天子に拜謁すること。朝謁。朝覲。拜謁。〔史記、秦始皇紀〕其後公卿希レ得二朝見一。〔漢書、霍光傳〕光每二朝見一、上虛レ己斂レ容、禮下レ之已甚。〔後漢書、馬援傳〕朝見位次二九卿一。〔魏志、東夷、倭傳〕漢時有二朝見一。〔顏氏家訓、風操〕江左朝臣、子孫初釋レ服、朝二見二宮一。

【朝卷】130テウケン 朝に捲き上げる。〔李咸用、湘浦有レ懷詩〕鬼樹夜分千炬火、漁舟朝卷一篷霜。

【朝眷】131テウケン みかどのめぐみ。朝廷の御恩。天恩。朝恩。〔魏書、崔光韶傳〕荷二朝眷一、未二敢仰從一。〔資治通鑑、梁紀〕（武帝、中大通元年）下官等皆受二朝眷一。〔注〕朝眷、謂二朝廷恩眷一也。

【朝搴】132テウケン 朝ぬきとる。〔楚辭、離騷〕朝搴二阰之木蘭一兮、夕攬二洲之宿莽一。

【朝劍】133テウケン 參朝者のつるぎ。〔陳植、金馬門賦〕朝劍迎レ花、春旂拂レ柳。

【朝憲】134テウケン 朝廷の規則。國家のおきて。國憲。國法。〔梁書、謝幾卿傳〕會レ意便行、不レ拘二朝憲一。

〖朝憲紊亂〗135テウケンブンラン 國家存立の根本になつてゐる規則・制度を侵害し、政府の顚覆、國體の變改などを企てること。

【朝獻】136テウケン ❶朝覲して方物を貢獻すること。〔晉書、張華傳〕去レ州四千餘里、歷世未レ附者二十餘國、並遣レ使朝獻。❷祭時の儀式の名。㋑祭の時に爵を獻ずること。〔周禮、春官、司尊彝〕其朝獻用二兩著尊一。〔注〕朝獻、謂二尸卒レ食、王酳レ之。〔義疏〕王氏安石曰、朝獻、卽朝踐、以二籩豆一言レ之則曰レ踐、以レ爵言レ之則曰レ獻。㋺宋代、郊廟の時、先づ景靈宮に告げること。〔夢溪筆談、故事一〕上親郊郊廟冊文、皆曰二恭薦歲事一、先二景靈宮一、謂二之朝獻一、次二太廟一、謂二之朝饗一、末乃有レ事二于南郊一。

【朝譴】137テウケン 朝廷のとがめ。上から譴責されること。天譴。〔韋嗣立、奉レ和二張岳州王潭州別詩一序〕後受二朝譴一、各自東西。

【朝權】138テウケン まつりごとの權力。朝廷の權能。政權。政柄。朝柄。〔晉書、陶侃傳〕季年懷二止足之分一、不レ與二朝權一。

【朝元】139テウゲン 玄元廟に朝すること。玄元は老子をいふ。朝元閣を見よ。〔王建、宮詞〕太平天子朝レ元日、五色雲車駕二六龍一。

〖朝元閣〗140テウゲンカク 唐代、道觀の名。一名、降聖閣。老子を祀る。〔李商隱、華淸宮詩〕朝元閣迥羽衣新。〔杜常、華淸宮詩〕朝元閣上西風急、都入二長楊一作二雨聲一。〔三體詩增注〕朝元閣、降聖閣也、天寶七載、老君降二於朝元閣一、改曰二降聖閣一、程大昌雍錄曰、長生殿齋殿也、有レ事二于朝元閣一、則齋二沐於此殿一、蓋朝元閣乃祠二玄元一之所。〔雍錄〕朝元閣、在二驪山一、天寶七載、玄元皇帝見二於朝元閣一、改二名降聖閣一。

【朝言】141テウゲン 明、吳誾（**2**－3365‥121）の字。

【朝彥】142テウゲン ❶朝廷の役人。朝士。〔盧諶、答二魏子悌一詩〕遇レ蒙二時來會一、聊齊二朝彥跡一。❷宋、林宋卿（**6**－**14551**‥374）の字。❸アサヒコ朝日をいふ。朝日子。

【朝鉉】143テウゲン 明、譚維鼎（**10**－**35978**‥40）の字。

【朝戶】144アサト ❶朝方にあける戶。❷アサベ姓氏。

【朝口】145アサクチ 朝のくちあけの賣買。〔小樽、一〕朝口と本屋も負ける延喜式。

【朝侯】146テウコウ 漢代、特に功德のあつた諸侯に賜はる位。九卿に次ぐ。〔獨斷〕諸侯有二功德一者、天子特命爲二朝侯一、位次二諸卿一。〔漢官儀〕諸侯功德優盛、朝廷所レ敬者、位特進、在二三公下一、其次朝侯、在二九卿下一。

【朝紅】147テウコウ 朝咲く紅花。〔韋應物、對二雜花一詩〕朝紅爭レ景新、夕素含レ露翻。

【朝貢】148テウコウ 諸侯や屬國などが天子に來朝してみつぎものを上ること。〔漢書、王莽傳上〕臣莽國邑、足三以共二朝貢一。〔後漢書、光武帝紀下〕詣レ闕朝貢。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏〕敢不レ修二朝貢一。

【朝雊】149テウコウ 朝にきじがなくこと。〔詩、小雅、小弁〕雉之朝雊、尙求二其雌一。〔箋〕雊、雉鳴也。〔馬融、長笛賦〕山雞晨羣、野雉朝雊。〔潘岳、射雉賦〕麥漸漸以擢レ芒、雉鷕鷕而朝雊。

【朝覯】150テウコウ あしたにあらはれる。〔陸機、演連珠〕靈輝朝覯、稱レ物納レ照。〔注〕靈輝、日也、覯、見也。

【朝哭】151テウコク 朝に哭する。〔國語、魯語下〕公父文伯之母、朝哭二穆伯一、而莫哭二文伯一、仲尼聞レ之曰、季氏之婦、可レ謂レ知レ禮矣、愛而無レ私、上下有レ章。

【朝昏】152テウコン 朝夕。朝晚。〔謝靈運、入二彭蠡湖口一作詩〕萬感盈二朝昏一。〔宋書、王僧達傳〕歲時是課、足レ繼二朝昏一。

【朝婚】153テウコン 朝見の禮と婚禮。〔隋書、禮儀志五〕王侯入學、五品朝婚、通給レ之。

【朝差】154テウサ 朝廷から派遣されること。〔日本政記、後鳥羽天皇論〕國司雖三仍出二於朝差一、而非三必有二其實一、徒有二其名一耳。

【朝座】155テウザ ❶朝廷。朝堂。〔宗文昶、陪三駕幸二終南山一詩〕東棗羞二朝座一、西桃獻二夜宮一。❷佛前方の人に對面して坐ること。朝立の朝と同義、下から上に對する辭。〔禪林象器箋、二〕。

〖朝座夕座〗156テウザセキザ 佛法華八講などの時、朝夕に勤めること。又、其の說教。

【朝采】157テウサイ ❶朝のいろどり。〔李義府、詠レ烏詩〕日裏颺二朝采一、琴中伴二夜啼一。❷字號。㋑淸、錢元昌（**11**－**40563**‥298）の字。㋺淸、汪霦（**6**－**17154**‥125）の字。

〖朝采二山上薇一〗158アシタニサンジヤウノワラビヲトル 伯夷が首陽山に薇を採つた如く、每朝山上に於て薇を採る。隱逸の士を詠じたもの。〔白居易、續古詩十首〕朝采二山上薇一、暮采二山上薇一、歲晏薇亦盡、飢來何所レ爲。

【朝宷】159テウサイ 朝廷の役人。〔沈佺期、夏日梁王席送二張岐州一詩〕天人開二祖席一、朝宷候二征麾一。

【朝裁】160テウサイ あしたに植ゑる。〔南齊書、東昏侯紀〕朝裁暮拔、道路相繼。

【朝爽】161テウサウ 朝さわやかなこと。〔方岳、秀錦樓賦〕受二山氣之朝爽一兮、截二鷺波之晚淸一。

〖朝爽閣〗162テウサウカク 淸、黃虞稷（**12**－**47926**‥1048）の室名。

【朝搔】163 chao¹ sao¹ 阿片採集の時、前日宵切したものを翌朝露の乾かない間に搔取ること。

【朝霜】164テウサウ ❶朝のしも。〔曹植、送二應氏一詩〕天地無二終極一、人命若二朝霜一。〔左思、雜詩〕秋風何冽冽、白露爲二朝霜一。〔盧綸、淸如二玉壺冰一詩〕氣若二朝霜動一、形隨二夜月盈一。❷アサシモノ消ヶの枕詞。

【朝朔】165テウサク ❶朔日を迎へまつること。〔穀梁、莊、十八〕天子朝レ日、諸侯朝レ朔。❷明、鄭一初（**11**－**39647**‥297）の字。

【朝策】166テウサク 朝廷の書籍。〔魏志、陳思王植傳〕使下名挂二史筆一、事列中朝策上。

【朝衫】167テウサン 朝廷に出仕する時の衣服。朝衣。朝服。〔韓愈、酬二司門盧四兄雲夫院長望レ秋作一詩〕自知短淺無レ所レ補、從レ事久此穿二朝衫一。

【朝參】168テウサン ❶在京官が朝廷に出勤すること。〔舊唐書、輿服志〕八品九品著レ碧、朝參之處、聽二兼服レ黃。〔宋史、禮志二〕其日請レ放二朝參一。〔明律、吏律、職制〕無レ故不三朝二參公座一。❷佛早朝

の參禪。〔禪門清規〕闔院大衆、朝參夕聚。

【朝參辭見】169 テウサンジケン 朝廷に參り天子に謁見して奏上すること。〔唐律、衞禁、因ㇾ事入ㇾ宮輒宿、疏議〕因ㇾ事得ㇾ入㆓宮殿㆒者、謂㆓朝參辭見㆒、迎輸造作之類。

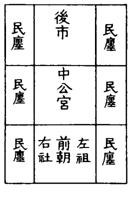
【朝餐】170 テウサン 朝、食事をすること。又、朝の食事。朝餉。〔郭泰機、答㆓傅咸㆒詩〕況復已朝餐、曷由知㆓我飢㆒。

【朝山】171 テウザン ㊀山川を遙拜祭祀する。〔鹽鐵論、散不足〕蓋無㆓出ㇾ門之祭㆒、今富者祈㆓名嶽㆒、望㆓山川㆒、椎牛擊鼓、戲倡儛像。〔後漢書、光武紀下〕北海王興齊王石朝㆓于東嶽㆒。㊁俗に遠處に在るものに對して香を進めることをいふ。〔通俗編、神鬼、朝山〕按、俗于㆓遠處㆒進ㇾ香、謂㆓之朝山㆒、據ㇾ文則此俗之興、由㆓于西漢㆒。㊂寺院に至つて佛を禮拜すること。〔西藏新志〕其熱心禮ㇾ佛者、至㆘不ㇾ遠㆓千里㆒而來㆓拉薩㆒、向㆓達賴宮殿㆒長跪㆖、曰㆓朝山㆒、又曰㆓朝活佛㆒。

【朝山意林庵】172 アサヤマイリンアン 京都の人。名は素心。字は藤丸。通稱は勝藏。號は意林庵。初、五山の長老に學び、後、李文學に學ぶ、詩を善くす。寛文四年歿す、七十六。著に意林庵遺稿がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕・〔先哲叢談、正、二〕。

【朝士】173 テウシ ㊀周官の名。秋官の屬。外朝の法を掌る。〔周禮、秋官、朝士〕掌ㇾ建㆓邦外朝之灋㆒。㊁官吏の朝に在るもの。朝廷の官吏。〔新語、懷慮〕朝士不ㇾ商。〔魏志、崔琰傳〕甚有㆓威重㆒、朝士瞻望。

【朝司】174 テウシ 役人。官吏。〔曹植、上疏陳㆓審擧之義㆒表〕朝司惟良、萬機內理。



朝市廛里
（禮器圖）

【朝市】175 テウシ ㊀朝廷と市場。人のあつまる所。人なか。市朝。〔左氏、襄、十九〕雖ㇾ有ㇾ刑、不ㇾ在㆓朝市㆒。〔史記、張儀傳〕今三川周室、天下之朝市也。〔王康琚、反招隱詩〕小隱隱㆓陵藪㆒、大隱隱㆓朝市㆒。㊁朝開く市。あさいち。早市。〔周禮、地官、司市〕朝市、朝時而市、商賈爲ㇾ主。〔注〕販夫販婦、朝資夕賣。

【朝市廛】176 テウシノチリ 人なかのちり。朝市は朝廷と市場。〔藤原實隆、解ㇾ印後書ㇾ懷詩〕三十年來朝市廛、片舟歸去五湖春。

【朝市眷戀之徒】177 テウシケンレンノト 名譽や利益にあこがれて執着する徒輩。〔李涀、書㆓漁父歌後㆒〕以㆓朝市眷戀之徒㆒、而出㆓山林獨往之語㆒。

【朝旨】178 テウシ 朝廷の御旨意。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕朝旨以、董㆓司岳牧㆒、敷㆓興邦敎㆒。

【朝使】179 テウシ 朝廷よりの使者。〔張籍、送㆓新羅使㆒詩〕萬里爲㆓朝使㆒、離ㇾ家今幾年。〔本朝文粹、二、意見十二箇條〕請㆜停㆛止依㆓諸國小吏幷百姓告言訴訟㆒、差㆚遣朝使㆙事。

【朝姿】180 アサスガタ 朝起きたままの姿。〔拾玉集、四〕つゆの色こき朝姿かな。

【朝思】181 テウシ 朝おもふ。朝思夕計を見よ。

【朝思夕計】182 テウシセキケイ 朝夕に思ひはかる。〔徐陵、在㆓吏部尚書㆒答㆓諸求ㇾ官人㆒書〕僕七十之歲、朝思夕計、並願㆘與㆓諸賢㆒爲㆗眞善知識㆖。

【朝施】183 テウシ 朝に施行する。朝施暮戮を見よ。

【朝施暮戮】184 テウシボリク 朝に法令を施して暮に戮する。〔唐書、柳澤傳〕夫驕奢起㆓於親貴㆒、綱紀亂㆓於寵倖㆒、禁㆓之於親貴㆒、則天下從、制㆓之於寵倖㆒、則天下畏、親貴爲而不ㇾ禁、寵倖撓而不ㇾ制、故政不ㇾ常令不ㇾ一、則姦詐起而暴亂生焉、雖㆓朝施暮戮㆒、而法不ㇾ行矣。

【朝肆】185 テウシ ㊀朝廷と市場。肆は市場。一說に、肆は市場や朝廷の人なかへ死骸をさらすこと。市朝。〔曹植、責ㇾ躬詩〕不ㇾ忍㆔我刑、暴㆓之朝肆㆒。〔注〕善曰、殺ㇾ人陳㆓其尸㆒曰ㇾ肆、論語、子服景伯曰、吾力猶能肆㆓諸市朝㆒、杜預左氏傳注曰、肆、市列也。㊁朝店を開くこと。朝肆暮家を見よ。

【朝肆暮家】186 テウシボカ 朝に店を開き、暮に家にかへる。〔段成式、劍俠傳、賈人妻〕朝肆暮家、日贏㆓錢三百㆒。

【朝寺】187 テウジ 役所。漢代、尙書・御史の止るところを皆寺といふ。〔潘岳、在㆓懷縣㆒作詩〕登ㇾ城望㆓郊甸㆒、游ㇾ目歷㆓朝寺㆒。〔注〕善曰、風俗通曰、今尙書・御史所ㇾ止、皆曰ㇾ寺也。

【朝次】188 テウジ 朝廷の席次。朝列。〔後漢書、劉平傳〕脩ㇾ身行ㇾ義、應ㇾ在㆓朝次㆒。

【朝事】189 テウジ ㊀宗廟を祀つて血腥を薦めること。〔周禮、天官、籩人〕朝事之籩。〔注〕鄭司農云、朝事、謂㆔清朝未ㇾ食先進㆓寒具口實之籩㆒、玄謂、以㆓司尊彝之職㆒參ㇾ之、朝事、謂㆘祭㆓宗廟㆒薦㆓血腥㆒之事㆖。〔禮、祭義〕建㆓設朝事㆒、燔燎羶薌。〔注〕朝事、謂㆘薦㆓血腥㆒時㆖也。〔疏〕朝事謂㆓旦朝祭事㆒。㊁國政をいふ。〔後漢書、姜肱傳〕中常侍曹節等、專㆓執朝事㆒。㊂臣服することをいふ。〔釋名、釋州國〕趙、朝也、本小邑、朝㆓事於大國㆒也。㊃大戴禮の篇名。

【朝時】190 テウジ 朝する時。朝廷の會議の時。〔史記、廉頗藺相如傳〕相如每㆓朝時㆒、常稱ㇾ病。

【朝滋】191 テウジ 露などが朝に多いこと。〔宋璟、梅花賦〕凍風晚濕夙露朝滋、又如㆔英皇泣㆓於九疑㆒。

【朝餌】192 テウジ ㊀朝の食物。〔魏書、李騫傳〕援㆓巢父㆒以戲ㇾ潁、追㆓許子㆒而升ㇾ箕、供㆓暮餐於沆瀣㆒、給㆓朝餌於瓊芝㆒。㊁アサエ 朝、鳥に食はせるゑさ。

【朝室】193 テウシツ 朝の閒居るへや。〔柳宗元、柳州東亭記〕朝室以ㇾ夕居ㇾ之、夕室以ㇾ朝居ㇾ之。

【朝日】194 テウジツ ㊀天子が政を聽く日。〔戰國、齊策〕王至㆓朝日㆒、宜㆘召㆓田單㆒而揖㆓之於庭㆒、口勞ㇾ之、乃布ㇾ令、求㆓百姓之饑寒者㆒收㆗穀之㆖。〔漢書、于定國傳〕上於ㇾ是數以㆓朝日㆒引㆓見丞相御史㆒。〔注〕師古曰、五日一聽ㇾ朝、故云㆓朝日㆒也。㊁早朝參內すること。〔漢書、鮑宣傳〕諸生會者千餘人、朝日遮㆓丞相孔光自言㆒。〔注〕師古曰、朝日、謂㆓早旦欲ㇾ入ㇾ朝也。㊂古、王者が日を祭る禮。〔周禮、天官、掌次〕朝日祀㆓五帝㆒、則張㆓大次小次㆒、設㆓重帟重案㆒。〔注〕朝日、春分拜㆓日於東門之外㆒。〔禮、玉藻〕玄端而朝㆓日於東門之外㆒。〔穀梁、莊、十八〕天子朝ㇾ日、諸侯朝ㇾ朔。〔漢書、郊祀志上〕朝朝ㇾ日。〔漢書、賈誼傳〕三代之禮、春朝朝ㇾ日、秋暮夕ㇾ月、所㆓以明ㇾ有ㇾ敬也。〔注〕師古曰、朝ㇾ日以ㇾ朝、夕ㇾ月以ㇾ暮、皆迎㆓其初出㆒也。㊃朝昇る太陽。旭日。〔蔡邕、協和婚賦〕面若㆓明月㆒、輝似㆓朝日㆒。〔顏延之、秋胡詩〕明豔侔㆓朝日㆒。〔江淹、閩虫草木頌、杜若〕同衛㆓夕露㆒、共炯㆓朝日㆒。㊄㋑アサヒノ 咲榮（エミサカフ）の枕詞。㋺アスカ 姓氏。㋩アサキ 姓氏。

【朝日影】195 アサヒカゲ 朝日のひかり。〔萬葉集、四〕朝日影にほへる山に照る月の。

【朝日宮】196 アサヒノミヤ 伊勢神宮の別稱。

【朝日壇】197 chao^{1} jih^{4} t'an^{2} 日壇（**5－13733**・557）に同じ。

【朝日蓮】198 テウジツレン 蓮の一種。日の出入に隨つて開閉する。〔益部方物記〕朝日蓮、花色或黃或白、葉浮㆓水上㆒、翠厚而澤、形如㆓菱花㆒差大、開則隨㆓日所ㇾ在、日入輒斂而自藏㆓於葉下㆒。

【朝日御旗】199 アサヒノミハタ 日章旗をいふ。

【朝日將軍】200 アサヒシヤウグン 木曾義仲の俗稱。〔大日本史、源義仲傳、注〕平家物語曰、義仲賜㆓朝日將軍院宣㆒、而諸書無㆓確據㆒、蓋義仲自稱也。〔合類節用、官位門〕朝日將軍、壽永二年、源義仲、震㆓兵威㆒補㆓征夷將軍㆒、暫在㆓其職㆒、俗呼ㇾ之云ㇾ爾。

【朝日照㆓北林㆒】201 テウジツホクリンヲテラス 朝日は君、北林は小人をいひ、君が小人を用ひ賢人を遠ざけるをいふ。〔曹植、雜詩〕高臺多㆓悲風㆒、朝日照㆓北林㆒。〔注〕善曰、朝日、喩㆓君之明㆒、照㆓北林㆒、言ㇾ狹、比㆓喩小人㆒。

【朝秀】202 テウシウ 蟲の名。朝生暮死の蟲。かげろふ。蜉蝣。朝菌。朝蟜。〔太平御覽、蟲豸、茲母〕淮南子曰、朝秀不ㇾ知㆓晦朔㆒。〔注〕許愼注曰、朝生暮死虫也、生㆓水上㆒似㆓蠶蛾㆒、一曰㆓茲母㆒。〔劉峻、辨命論〕朝秀晨終、龜鵠千歲。

【朝蟜】203 テウシウ 朝秀に同じ。〔廣雅、釋蟲〕朝蟜、孳母也。〔疏證〕蟜、一作ㇾ秀、莊子逍遙遊篇、朝菌不ㇾ知㆓晦朔㆒、淮南道應訓引作㆓朝秀㆒、高誘注云、朝秀、朝生暮死之蟲也、生㆓水上㆒、似㆓蠶蛾㆒、一名㆓孳母㆒、海南謂㆓之蟲邪㆒、廣志云、蜉蝣在㆓水中㆒、翕然生覆㆓水上㆒、尋死隨ㇾ流、與㆓高注㆒相合、其卽朝秀與。

【朝集】204 テウシフ ㊀朝に集る。〔左思、詠史詩〕朝集㆓金張館㆒、暮宿㆓許史廬㆒。㊁朝廷に集合する。朝廷に參集する。〔日本書紀、雄略記〕國司・郡司、隨ㇾ時朝集。

【朝集院】205 テウシフヰン 八省院十二堂の一。朝集堂に同じ。〔日本後紀、二十一〕弘仁二年正月、饗㆓渤海使於朝集院㆒、賜ㇾ祿有ㇾ差。

【朝集使】206 テウシフシ ㊀漢代、每歲各郡から京に

赴き、郡政及び歳計を報告した役人。又、上計使者と稱す。唐は漢の制に因り、各道毎歳使者を遣はし京師に朝集し、天子宰相に謁見せしめた。〔漢制攷〕漢之朝集使、謂二之上計吏一、謂レ上二一年計會文書及功狀一也。〔舊唐書、太宗紀下〕貞觀五年正月癸未、朝集使請二封禪一。㊁昔、四度使の一。朝集帳を奉る使者で、地方廳一年間の政績を太政官に申送するもの。〔續日本紀、十二〕天平七年閏十一月壬寅、天皇臨レ朝、召二諸國朝集使等一。

【朝集堂】207（テウシフダウ）　八省院十二堂の一。應天門を入つて左右にある堂で、左を東朝集堂、右を西朝集堂といふ。朝集院。朝集殿。〔日本後紀、二十四〕於二朝集堂一、饗二王孝廉等一、賜二樂及祿一。

【朝集帳】208（テウシフチヤウ）　昔、其の國內の池溝・官舍、國衙の器仗、公私船・驛馬・傳馬・神社・僧尼等の事を記した帳簿。

【朝集殿】209（テウシフデン）　八省院十二堂の一。朝集堂に同じ。〔日本紀略〕弘仁十三年正月壬子、饗二王文矩等朝集殿一。

【朝社】210（テウシヤ）　朝廷と社稷。〔書、盤庚下〕乃正二厥位一、〔傳〕正二郊廟朝社之位一也。

【朝妝】211（テウシヤウ）　朝のよそほひ。朝化粧。〔張正見、衰桃賦〕譬二蘭缸之夜炷一、似二明鏡之朝妝一。

【朝祥】212（テウシヤウ）　朝に祥の祭を行ふこと。祥は喪中の祭事。〔禮、檀弓上〕魯人有二朝祥而莫歌者一。〔集解〕孔子曰、祥、謂二二十五月一、大祥歌哭不レ同レ日、故仲由笑レ之、云云、愚謂、大祥者、喪再期而殷祭之名也、祥、吉也、喪一期而除二要經一、故其祭謂二之小祥一、再期而除二衰杖一、故其祭謂二之大祥一。〔晉書、劉隗傳〕況龜匹夫、莫晏朝祥、慢レ服之愆。

【朝章】213（テウシヤウ）　㊀國家の憲章。朝廷の綱紀。朝綱。朝典。〔後漢書、胡廣傳〕達二練事體一、明二解朝章一。〔任昉、王文憲集序〕朝章國紀、典彝備物。〔注〕向曰、章、章程。㊁字號。㋑明、謝綬（朝城の人）（**10**－**35827**‥112）の字。㋺明、詹珪（**10**－**35458**‥10）の字。

【朝奬】214（テウシヤウ）　朝廷で恩賞を賜はつて奬めはげますをいふ。〔太平記、十七、山門牒送二南都一〕乍忘二朝奬一、還插二野心一、討二揚氏一兮爲レ辭、在二藩溪一兮作レ逆。

【朝璋】215（テウシヤウ）　宋、陸圭（**11**－**41708**‥85）の字。

【朝餉】216（テウシヤウ）　㊀あさめし。あさがれい。朝の食事。朝食。朝飧。朝餐。〔張耒、西華道中詩〕主人掃二土塌一、秣馬具二朝餉一。〔黃庭堅、覺範師種竹頌〕牛羊折角入二朝餉一。㊁（アサガレヒ）朝餉間の略。

【朝餉間】217（アサガレヒノマ）　主上の朝餉を召上られる所。清涼殿內に在る。〔禁祕抄〕朝餉、二間、南平敷二枚、東北立二屛風一、夜御殿方、有二副障子一、御屛風內外、案二御調度一。

【朝上】218（テウジヤウ）　朝早く上ること。〔庾信、答二趙王一啓〕鋒旗朝上、刁斗夜鳴。〔無名氏、天賦〕日朝上而疑レ璧、河夜橫而如レ帶。

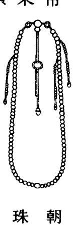
【朝上二東坡一步夕上二東坡一步】219（アシタニハトウバニノボツテアユミユフベニモトウバニノボツテアユム）　朝も夕も東坡の風景を賞する意。〔白居易、步東坡詩〕朝上二東坡一步、夕上二東坡一步、東坡何所レ愛、愛二此新成樹一。

【朝城】220（テウジヤウ）　縣名。唐、置く。漢の東武陽縣。今、山東省陽穀縣の西。〔讀史方輿紀要、山東、東昌府、濮州〕朝城縣、漢置二東武陽縣一、屬二東郡一、云云、開元七年、改曰二朝城縣一、仍屬二魏州一。〔淸史稿、地理志〕山東、曹州府、縣十、朝城。

【朝常】221（テウジヤウ）　朝廷の法式。〔國語、楚語上〕民不レ廢二時務一、官不レ易二朝常一。

【朝爵】222（テウシヤク）　㊀朝廷の爵位。〔日本政記、後村上天皇〕方今中興、朝爵復レ故。㊁明、陳璘（**11**－**41698**‥602）の字。

【朝珠】223（テウシユ）　淸代、天子及び五品以上の文官、四品以上の武官、翰林院中書等の官員が頸に掛ける珠數をいふ。珊瑚・瑪瑙・水晶・柳青・琥珀・翡翠・沉香等を以て造る。珠の數は一百八顆ある。〔淸會典事例、禮部、冠服、皇帝冠服〕朝珠、用二東珠一百有八一、佛頭記念背雲大小墜、珍寶雜飾、各惟其宜。〔淸會典事例、禮部、冠服、冠服通例〕凡朝珠、王以下、文職五品・武職四品以上、及翰詹科道官侍衛、公主福晉以下、五品官命婦以上、均得レ用、以二雜寶及諸香一爲レ之。



朝珠
（淸會典圖）

【朝種】224（テウシユ）　朝にうゑる。朝種暮穫を見よ。

【朝種暮穫】225（テウシユボクワク）　朝に種ゑて暮に取入れる。事をなす間の短いことから、方針の定まらない喩。〔漢書、郊祀志下〕世有二僊人一、服二食不終之藥一、遙興輕擧、登レ遐倒レ景、覽二觀縣圃一、浮二游蓬萊一、耕二耘五德一、朝種暮穫、與二山石一無レ極、黃治變化、堅冰淖溺。〔博物志、藥術〕陳葵子、微火炒令レ爆、咤散著二熟地一、遍躡レ之、朝種暮生、遠不レ過レ經レ宿耳。〔晉書、祖納傳〕朝種暮穫、善惡未レ定矣。

【朝終】226（テウシユウ）　朝に死ぬこと。〔南史、徐勉傳〕時人間喪事、多不レ遵レ禮、朝終夕殯、相尙以速。

【朝衆】227（テウシユウ）　多くの臣下。〔左氏、僖、十八〕衛侯以レ國讓二父兄子弟及朝衆一。

【朝從】228（テウジユウ）　朝見と扈從。參內とお供。〔史記、淮陰侯傳〕信知三漢王畏二惡其能一、常稱レ病不二朝從一。

【朝宿】229（テウシユク）　邑の名。朝宿邑を見よ。

【朝宿邑】230（テウシユクイフ）　周の時代、諸侯の大功ある者に天子が賜はつた邑。朝覲の時に止宿する所。又、泰山を祀る時の諸侯の宿地。〔公羊、桓、元〕許田者何、魯朝宿之邑也、諸侯時朝二乎天子一、天子之郊、諸侯皆有二朝宿之邑一焉、此魯朝宿之邑也。〔漢書、郊祀志上〕古者、天子五載一巡狩、用二事泰山一、諸侯有二朝宿地一。

【朝出】231（テウシユツ）　朝に出掛ける。〔戰國、齊策〕王孫賈、年十五、事二閔王一、王出走、失二王之處一、其母曰、女朝出而晚來、則吾倚レ門而望、女暮出而不レ還、則吾倚レ閭而望、女今事レ王、王出走、女不レ知二其處一、女尙何歸。〔史記、匈奴傳〕單于朝出レ營、拜二日之始生一、夕拜レ月、其坐長レ左而北鄕、日上二戊己一。〔南齊書、竟陵文宣王子良等傳論〕朝出二閶闔一、暮司二方岳一。

【朝蕣】232（テウシユン）　むくげの異名。朝槿。〔元稹、夢遊春七十韻詩〕朝蕣玉佩迎。

【朝所】233（アシタドコロ　アイタンドコロ）　古、太政官中にあつた室の名。參議以上の食堂。朝膳所。朝政所。或は八省院の別名ともいふ。

【朝處】234（テウシヨ）　朝廷に參集すること。〔管子、四稱〕辟若二野獸一、無レ所二朝處一。〔纂詁〕無レ所二朝參聚處一。

【朝茹】235（テウジヨ）　朝の食物。〔韋應物、曉坐二西齋一詩〕寢齋有二單絺一、靈藥爲二朝茹一。

【朝升】236（テウシヨウ）　㊀あしたに官位がのぼる。〔國語、晉語五〕其主朝升レ之、而莫戮二其車一。〔舊唐書、白居易傳〕是非排陷、朝升暮黜、天子亦無二如レ之何一。㊁朝にのぼる。〔詩、曹風、候人、箋〕薈蔚之小雲、朝升二于南山一。〔陸雲、南征賦〕式二飛廉一以朝升。

【朝鐘】237（テウシヨウ）　朝につくかねの音。晨鐘。曉鐘。〔王褒、和二從弟祐山家一詩〕空林鳴二暮雨一、虛谷應二朝鐘一。〔李咸用、山中詩〕朝鐘暮鼓不レ到レ耳、明月孤雲長挂レ情。

【朝食】238（テウシヨク）　朝餉（216）に同じ。〔詩、陳風、株林〕乘二我乘駒一、朝二食于株一。〔左氏、成、二〕余姑翦二滅此一而朝食。〔荀子、儒效〕朝二食於戚一。

【朝臣】239（テウシン）　㊀朝廷に出仕する役人。官吏。〔管子、明法解〕如レ此者、非二朝臣少一也。〔史記、灌夫傳〕於レ是上問二朝臣一、兩人孰是。〔漢書、劉向傳〕朝臣和二於內一。〔獨斷〕公卿・侍中・尙書、衣レ帛而朝、曰二朝臣一。㊁複姓。〔通志、氏族略、諸方複姓〕朝臣氏、日本國使人、朝臣眞人。㊂（アソミ　アソン）姓（カバネ）の名。第二等に位する神別の民に賜はつたもの。又、四位以上の爵位ある人の敬稱。〔日本書紀、天武紀下〕作二八色之姓一、一曰眞人、二曰朝臣。〔續日本紀〕寶龜四年五月、阿曾美爲二朝臣一。

【朝信】240（テウシン）　明、孫璽（平湖の人）（**3**－**6987**‥142）の字。

【朝眞】241（テウシン）　心を澄ませること。佛家の坐禪の如きもの。道家の語。〔水滸傳、五十三回〕到二松鶴軒內一、正値三眞人朝眞纔罷、坐二在雲床上一。

【朝眞暮僞】242（テウシンボギ）　朝には眞を言ひ、暮には僞をいふ。〔白居易、放言五首詩〕朝眞暮僞何人辯、古往今來底事無。

【朝晨】243（テウシン）　あさ。あした。〔阮瑀、雜詩〕鷄鳴當二何時一、朝晨尙未レ央。

【朝紳】244（テウシン）　㊀身分の高い人。高位高官の人。搢紳。紳は朝臣がつける大帶。〔韓愈・張籍・孟郊・張徹、會合聯句〕朝紳鬱二青綠一、馬飾曜二珪珙一。〔趙抃、詩〕公議協二朝紳一。㊁明、孔彥縉（**3**－**6933**‥296）の字。

【朝進】245（テウシン）　朝に進み入る。〔黃庭外景經〕脾神

還歸依二大家一。〔注〕脾神朝進二明堂一、暮歸二其宮一。

【朝審】246テウシン 清代、刑部の獄に監置する死刑犯、及び勅命の案件、京控の事件を裁決し、皇帝の親斷を仰ぐこと。秋審と同じく一年一回九月に開く。〔清會典事例、刑部、刑律斷獄、有司決囚等第一〕刑部現監重犯、每年一次朝審、刑部於二霜降前一、摘二重囚緊要情節一、刊二刷招冊一、進二呈御覽一、仍分二送九卿詹事科道各一冊一、於二霜降後十日一、在二天安門外金水橋西一、會同詳審、擬二定情實緩決可矜一具題、請レ旨定レ奪、其情實者、俟二命下之日一、刑科三次覆奏、經二御筆勾除一者正レ法、其餘仍監固。〔福惠全書、刑名部、問擬〕復行二朝臣集議一、名曰二朝審一。〔六部成語、刑部、朝審、注解〕秋審各案二刑部一、定議具奏、皇上又派二大臣一在二朝中一、會議一次、曰二朝審一。

【朝推】247テウスイ 吏部の推薦を用ひず、朝臣から直接推薦し任用すること。〔六部成語訂正、吏部、朝推、注解〕由二朝臣一推用。

【朝遂】248テウスイ あしたになしとげる。〔晉書、周馥傳〕知レ無レ不レ爲、古人所レ務、敢竭二忠誠一、庶レ報二萬分一、朝遂夕隕、猶生之願。

【朝醉】249テウスイ 朝酒にゑふこと。〔鄭谷、巴江詩〕朝醉暮醉雪開霽、一枝兩枝梅探レ春。〔何中、讀二晉史一詩〕嗟哉嵇阮輩、酒鄉爲二隱淪一、朝醉既及レ暮、暮醉還及レ晨。

【朝趨】250テウスウ 朝におもむく。朝はしる。〔宋之問、太平公主山池賦〕奕奕濟濟兮、夜旋二玉邸一、隱隱崇崇兮、朝趨二帝宮一。

【朝正】251テウセイ ❶正月、朝廷に伺候する。一說に、參內して政教を受ける。〔左氏、文、四〕昔諸侯朝二正於王一。〔注〕謂三朝而受二其政教一也。〔會箋〕朝レ正、言レ朝二正月一也。❷正月、廟に參拜する。〔春秋、文、六、閏月不レ告レ月猶朝二于廟一、疏〕其日又以レ禮祭二於宗廟一、謂二之朝廟一、周禮謂二之朝享一、云云、歲首爲レ之、則謂二之朝正一。〔左氏、襄、二十九〕春王正月、公在レ楚、釋レ不三朝二正于廟一也。

【朝生】252テウセイ ❶あしたに生ずる。〔山海經、海外東經〕君子國有二薰華草一、朝生夕死。❷朝に生れて暮に死する虫。蜉蝣。朝菌。朝秀。〔戰國、秦策〕君危二於累卵一、而不レ壽二於朝生一。〔注〕朝生、蜉蝣也。❸木槿の異名。〔戰國、秦策〕君危二於累卵一而不レ壽二於朝生一。〔校注〕木槿也、朝榮夕死。

【朝生壽】253テウセイノジユ 木槿の朝に生じて夕に死する僅かの壽命。一說に、朝生は蜉蝣。短命の喩。朝生の❷❸を見よ。〔戰國、秦策〕王之春秋高、一日山陵崩、太子用レ事、君危二於累卵一、而不レ壽二於朝生一。

【朝生暮死】254テウセイボシ 朝に生れて夕に死する。極めて短命な喩。朝菌(94)及び朝秀(202)を見よ。〔爾雅、釋蟲、蜉蝣渠略、注〕叢二生糞土中一、朝生暮死、豬好啖レ之。

【朝生暮死花】255テウセイボシクワ きつねのゑかきふで。きつねのたいまつ。鬼筆。〔本草、土菌〕附錄、鬼筆、拾遺、藏器曰、鬼筆生二糞穢處一、頭如レ筆紫色、朝生暮死、名二朝生暮死花一。

【朝生夕已死】256アシタニウマレテユフベニスデニシス 朝に生れて夕に死んでしまふ。極めて短命なことにいふ。〔白居易、秋蝶詩〕朝生夕已死、氣類各相從。

【朝成】257テウセイ 朝になる。朝できあがる。朝成暮毀及び朝成暮偏を見よ。

【朝成暮毀】258テウセイボキ 朝に完成し、暮に破毀する。造營の頻繁な喩。〔宋書、少帝紀〕穿レ池築レ觀、朝成暮毀、徵二發工匠一、疲二極兆民一。

【朝成暮偏】259テウセイボヘン 朝に完成して、暮にはあまねく行きわたる。南朝梁の劉孝綽の文章が速かに流行したことを言つた語。〔南史、劉孝綽傳〕辭藻爲二後進所一レ宗、時重二其文一、每レ作二一篇一、朝成暮偏、好事者咸誦傳、寫流聞二河朔一。

【朝政】260テウセイ 朝廷の政治。廟堂の政策。〔漢書、元后傳〕內懷二姦邪一、欲レ筦二朝政一。〔張衡、東京賦〕訪二萬機一、詢二朝政一。

【朝星】261テウセイ 星を禮拜する。朝斗(375)を見よ。

【朝清】262テウセイ ❶朝きよくすむこと。〔宋書、樂志二〕圜火夕燿、方水朝清。❷清、馬化隆(**12－44572‥740**)の一名。

【朝晴】263テウセイ 朝はれる。〔杜甫、水檻遣興詩〕蜀天常夜雨、江檻已朝晴。

【朝誓】264テウセイ 朝のちかひ。朝の命令。〔袁淑、詠二冬至一詩〕司瑞記二夜晞一、書雲掌二朝誓一。

【朝請】265テウセイ ❶朝廷に伺候する禮。漢代、春に朝、秋に請といふ。〔說文、覲、段注〕按、史記・漢書皆作二朝請一、徐廣云、律、諸侯春朝曰レ朝、秋曰レ請。〔史記、吳王濞傳〕身有二內病一、不レ能二朝請一。❷官名。漢代、奉朝請は定員が無く、もと官位としなかつたが、後漢に至つて三公・外戚・皇室・諸侯を多く之に任じた。朝會請召を奉ずることを掌る。晉・宋・齊・梁、並に之に因り、隋の開皇以後、朝請郞・朝請大夫と改む。〔漢書、劉向傳〕關內侯奉二朝請一。〔後漢書、和帝紀〕奉二朝請一者黃金。〔事物紀源、勳階寄祿部、朝請〕通典曰、漢竇嬰爲二朝請一、竇太后憎二嬰門籍一、不レ得レ入二朝請一、此其始也、漢律、諸侯春朝二天子一曰レ朝、秋曰レ請、又曰、奉朝請、無レ員、本不レ爲レ官、漢東京罷省、三公外戚皇室諸侯、多奉二朝請一、奉朝請者、奉二朝會請召一而已、隋開皇中、罷二奉朝請一、置二朝請大夫一、爲二散官一、取下漢公卿年高德重者、以二列侯一奉二朝請一之義上也。

【朝請郞】266テウセイラウ 官名。隋、置く。奉朝請の義にとる。唐、之に因る。朝請の❷を見よ。〔文獻通考、職官考〕朝請郞、隋置、散官、蓋採二晉及六朝、並有二奉朝請一爲レ名、唐因レ之。

【朝請大夫】267テウセイタイフ 官名。隋、置く。唐、之に因る。朝請郞を見よ。〔通典、職官、文散官〕朝請大夫、隋置、散官、取下漢將軍公卿年高德重者、以二列侯就第一特進奉二朝請一之義上、大唐因レ之。

【朝醒】268テウセイ 朝、醉がさめる。〔陸機、飲酒樂〕夜飲舞遲銷レ燭、朝醒弦促催レ人。

【朝聲】269テウセイ 朝のこゑ。朝の鳴き聲。〔梁簡文帝、賦レ得二隴坻雁初飛一詩〕隴狹朝聲聚、風急暮行稀。〔李義府、詠二鸚鵡一詩〕慕レ侶朝聲切、離レ羣夜影寒。

【朝隮】270テウセイ 朝早く雲氣の升ること。〔詩、鄘風、蝃蝀〕朝隮二于西一、崇朝其雨。〔箋〕朝有二升氣一、於二西方一。〔詩、曹風、候人〕薈兮蔚兮、南山朝隮。

【朝隮二于西一崇レ朝其雨】271アシタニニシニノボレバアシタヲフルマデニソレアメフル 朝に虹が西にたちのぼれば、早旦から食事の頃までに雨が降り出す。〔詩、鄘風、蝃蝀〕朝隮二于西一、崇レ朝其雨。〔傳〕隮、升、崇、終也、從レ旦至二食時一爲二終朝一。

【朝霽】272テウセイ 朝に雨がはれる。〔王勃、採蓮賦〕或暑雨兮朝霽、乍涼颸兮暮起。〔李乂、奉二和春日遊レ苑喜レ雨應詔詩〕葉向二朝霽一密、花含二宿潤一開。

【朝虀】273テウセイ 朝の鹽づけの菜。〔韓愈、送レ窮文〕朝虀暮鹽、惟我保レ汝。

【朝燒】274アサヤケ 日の出の空に赤くやけたやうに棚引く雲氣。

【朝夕】275テウセキ ❶朝と夕。あさゆふ。轉じて、あけくれ。ふだん。朝晡。朝暮。旦暮。〔書、說命上〕朝夕納レ誨。〔詩、商頌、那〕溫恭朝夕、執レ事有レ恪。〔左氏、昭、三〕景公欲レ更二晏子之宅一、辭曰、君之先臣容焉、且小人近レ市、朝夕得レ所レ求、小人之利也、敢煩二里旅一。〔戰國、楚策〕昭子曰、臣朝夕以レ事聽レ命、而魏入二吾君臣之閒一、臣大懼、臣非レ畏レ魏也。〔漢書、禮樂志〕朝夕習レ業。❷朝づとめと夕づとめ。又、朝見と暮見。〔詩、小雅、雨無正〕邦君諸侯、莫二肯朝夕一。〔正字通〕朝見曰レ朝、夕見曰レ夕。❸日景を計る器具。〔管子、七法〕不レ明二於則一、而欲レ出二號令一、猶下立二朝夕於運均之上一、擔レ竿而欲上レ定二其末一。❹テウヂヤク 朝夕人に同じ。〔年中恆例記、正月御參內始〕。

【朝夕池】276テウセキチ 海をいふ。天池。朝夕之池を見よ。〔初學記、地部中、海〕釋名曰、海一云二朝夕池一。

【朝夕人】277テウジヤクニン 武家時代、官廳で雜役に使役された下官。朝夕。朝夕雜色。

【朝夕烏】278テウセキウ 朝に去り暮に來るからす。一に、烏を鳥に作る。〔漢書、朱博傳〕何武爲二御史大夫一、云云、府中列二柏樹一、常有二野烏數千一、棲二宿其上一、晨去暮來、號曰二朝夕烏一。〔顏氏家訓、文章〕漢書、御史府中列二柏樹一、常有二野鳥數千一、棲二宿其上一、晨去暮來、號二朝夕鳥一、而文士往往誤作二烏鳶一用レ之。

【朝夕雜色】279テウジヤクザウシキ 朝夕人に同じ。〔東鑑、四十三〕建長五年正月二日、小侍所司平岡左衞門尉實俊、令三朝夕雜色等迴二其散狀一。

【朝夕之策】280テウセキノサク 朝夕に運らす策略。〔班固、答賓戲〕意者且運二朝夕之策一。

【朝夕之池】281テウセキノイケ 海をいふ。朝夕は潮汐。〔漢書、枚乘傳〕游二曲臺一臨二上路一、不レ如二朝夕之

池一。〔注〕蘇林曰、呉以二海水朝夕一爲レ池也。〔枚乘、上書重諫二呉王一文〕游二曲臺一臨二上路一、不レ如二朝夕之池一。〔注〕銑曰、朝夕池、海也。

【朝夕不レ倦】282（テウセキウマズ） 朝から晩迄うまない。〔左氏、昭、三〕寡人願レ事レ君、朝夕不レ倦。

【朝石】283（テウセキ） 明、侯良柱（1－633‥157）の字。

【朝籍】284（テウセキ） 朝官の名籍。〔唐書、韋貫之傳〕貫之劾二忠義不レ宜レ汙二朝籍一。〔姚合、寄二九華費冠卿一詩〕闕下無二朝籍一、林間有二詔書一。

【朝雪】285（テウセツ） 朝のゆき。〔張九齡、庭梅詠詩〕朝雪那相妬、陰風已屢吹。〔李頎、無盡上人東林禪居詩〕禪戶積二朝雪一、花龕來二暮猿一。

【朝節】286（テウセツ） 夏至の日に角黍舒鴈を互に贈ること。池陽の風俗。〔海錄碎事、天、端午〕池陽風俗、不レ喜二端午一、而重二夏至一、以二角黍舒鴈一相饋遺、謂二之朝節一。

【朝渉】287（テウセフ） 朝に河を渉ること。又、其の人。斮二朝渉之脛一を見よ。〔孔叢子、抗志〕商紂斬二朝渉一、而天下稱レ暴。〔樓穎、伊水門詩〕朝渉伊水門、伊水入レ門流。

〔斮二朝渉之脛一〕288（テウセフノケイヲキル） 殷の紂王が冬の朝、水流を渡る者の脛が能く寒氣に耐へるのを見て、之を斬つて視たといふ故事。〔書、泰誓下〕斮二朝渉之脛一、剖二賢人之心一、作レ威殺戮、毒二痛四海一。〔傳〕冬月見二朝渉レ水者一、謂二其脛耐一レ寒、斬而視レ之。

【朝穿】289（テウセン） 朝うがつ。朝ほる。朝穿暮塞を見よ。

【朝穿暮塞】290（テウセンボソク） 朝にうがち、暮にふさぐ。造營の頻繁な喩。〔齊書、東昏侯紀〕興築繕造、日夜不レ窮、晨構夕毀、朝穿暮塞、絡以二隨珠一、方斯已陋、飾以二璧瑙一、曾何足レ道。

【朝踐】291（テウセン） 祭に籩豆を獻ずる禮をいふ。朝獻（136）の㊁を見よ。〔周禮、春官、司尊彝〕其朝踐用二兩獻尊一、其再獻用二兩象尊一。〔注〕朝踐、謂下薦二血腥一、酌レ醴、始行中祭事上。〔王安石、周官新義〕朝踐者、籩人醢人所謂朝事也、踐、籩豆、詩所謂籩豆有レ踐、是也。

【朝翦】292（テウセン） 朝に打ち滅ぼす。〔庾信、周驃騎大將軍開府侯莫陳道生墓誌銘〕洛城夜捷、河梁朝翦。

【朝鮮】293（テウセン） ㊀國の名。箕子が殷の亂を避けて朝鮮に王となつたのは古朝鮮で、其の版圖は遼河一帶の地で、今の朝鮮半島內には、多く地を持たなかつたものらしい。其の後、四十代の孫否、秦に畏服し、其の子準、燕王盧綰と鴨綠江を界とするに至り、遼河の地を失ひ、既に半島內に南下した事が知られる。後、衞滿に逐はれ、馬韓に走り、古朝鮮亡ぶ。凡そ九百年四十二世。尋いで衞滿は平壤に都し、其の孫右渠に至り、漢の武帝の征討を受けて、元封三年に滅ぶ。凡て三世八十七年。其の後、馬韓・辰韓・弁韓の三韓、或は新羅・百濟・高句麗の三國、迭に興廢し、新羅に統一され、西曆九百十八年、王建が高句麗を建て、明の時、李成桂、朝鮮國を創む。後、韓國と改稱し、明治四十三年以來、我が國に併合されたが、昭和二十年八月解放され、北緯三十八度線で南北に分斷された。其の名稱の由來は或は汕水ある故といひ、東表日出の地なる故といふ。三韓（1－12‥246）及び、新羅（5－13572‥524）・百濟（8－22679‥169）・高句麗（12－45313‥1096）を見よ。〔管子、揆度〕燕之紫山白金、一策也、發・朝鮮之文皮、一策也。〔太平御覽、四夷、東夷朝鮮〕尙書大傳曰、武王勝レ殷、繼二公子祿父一、釋二箕子之囚一、箕子不レ忍二商之士一、走之二朝鮮一、武王聞レ之、因以二朝鮮一封レ之、箕子既受二周之封一、不レ得レ無二臣禮一、故於二十二祀一來朝。〔史記、朝鮮傳〕朝鮮王滿者、故燕人也、自二始全燕時一、嘗略二屬眞番朝鮮一、爲置レ吏、築二鄣塞一、秦滅レ燕、屬二遼東外徼一、漢興、爲二其遠難一レ守、復修二遼東故塞一、至二浿水一爲レ界、屬レ燕、燕王盧綰反、入二匈奴一、滿亡命、聚レ黨千餘人、魋結蠻夷服、而東走出レ塞、渡二浿水一、居二秦故空地上下鄣一、稍役二屬眞番朝鮮蠻夷、及故燕齊亡命者一、王レ之、都二王險一。〔注〕索隱曰、朝、音潮、鮮、音仙、以レ有二汕水一故名也。〔漢書、武帝紀〕元封二年四月、朝鮮王攻二殺遼東都尉一、迺募二天下死罪一、擊二朝鮮一、秋遣二樓船將軍楊僕左將軍荀彘一、將二應募罪人一擊二朝鮮一。〔後漢書、東夷、濊傳〕濊北與二高句驪沃沮一、南與二辰韓一接、東窮二大海一、西至二樂浪一、濊及沃沮句驪、本皆朝鮮之地也、昔武王封二箕子於朝鮮一、箕子教以二禮義田蠶一、又制二八條之教一。〔明外史、朝鮮傳〕朝鮮、箕子所レ封國也、漢以前曰二朝鮮一、始爲二燕人衞滿所一レ據、漢武帝平レ之、置二眞番臨屯樂浪元菟四郡一、漢末有二扶餘人高氏一、據二其地一、改二國號一曰二高麗一、又曰二高句麗一、居二平壤一、卽樂浪也、已爲二唐所一レ破東徙、後唐時、王建代二高氏一、兼二幷新羅百濟地一、徙居二松嶽一、曰二東京一、而以二平壤一爲二西京一。〔明通紀〕洪武二十五年、高麗權知事李成桂、請レ更二國號一、命仍二古號一爲二朝鮮一。㊁縣名。㋑漢、置く。今の平壤。〔漢書、地理志下〕樂浪郡、縣二十五、朝鮮。〔括地志〕高麗王險城、卽古朝鮮。㋺後魏、置く。河北省盧龍縣の東。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、盧龍縣、新昌城〕朝鮮城、漢樂浪郡屬縣地、云云、後魏主燾延和初、徙二朝鮮民於肥如一、置二朝鮮縣一、幷置二北平郡一治レ此、高齊移二郡治新昌一、幷二朝鮮縣一入焉。

【朝鮮志】294（テウセンシ） 書名。二卷。撰者不詳。首に疆域沿革を述べ、次いで六大綱に分つて、京都・風俗・古都・古蹟・山川・樓臺を經とし、八道に屬するところを以て緯としてゐる。八道は、京畿・忠清・慶尙・全羅・黃海・江原・平安・咸鏡。〔四庫提要、史、地理類〕。

【朝鮮賦】295（テウセンフ） 書名。一卷。明、董越撰。朝鮮の風土を述べて此の賦を爲る。併せて謝靈運の山居賦の例に倣ひ自ら之が注を作る。明史朝鮮傳の言ふ所と一々相符合して居る。〔四庫提要、史、地理類〕。

【朝鮮英祖】296（テウセンノエイソ） 李朝、第二十一代の王。李昑（6－14459‥216）を見よ。

【朝鮮睿宗】297（テウセンノエイソウ） 李朝、第八代の王。李晄（6－14459‥245）を見よ。

【朝鮮孝宗】298（テウセンノカウソウ） 李朝、第十七代の王。李淏（6－14459‥124）を見よ。

【朝鮮景宗】299（テウセンノケイソウ） 李朝、第二十代の王。李昀（6－14459‥37）を見よ。

【朝鮮憲宗】300（テウセンノケンソウ） 李朝、第二十四代の王。李奐（6－14459‥261）を見よ。

【朝鮮顯宗】301（テウセンノケンソウ） 李朝、第十八代の王。李棩（6－14459‥81）を見よ。

【朝鮮史略】302（テウセンシリヤク） 書名。六卷。撰者不詳。檀君に始まり、高麗の恭讓王王瑤に終るまでの朝鮮治亂興廢を記す。〔四庫提要、史、載記類〕。

【朝鮮肅宗】303（テウセンノシユクソウ） 李朝、第十九代の王。李焞（6－14459‥643）を見よ。

【朝鮮純祖】304（テウセンノジユンソ） 李朝、第二十三代の王。李玜（6－14459‥333）を見よ。

【朝鮮仁祖】305（テウセンノジンソ） 李朝、第十六代の王。李倧（6－14459‥536）を見よ。

【朝鮮仁宗】306（テウセンノジンソウ） 李朝、第十二代の王。李峼（6－14459‥119）を見よ。

【朝鮮世祖】307（テウセンノセイソ） 李朝、第七代の王。李瑈（6－14459‥404）を見よ。

【朝鮮正祖】308（テウセンノセイソ） 李朝、第二十二代の王。李祘（6－14459‥364）を見よ。

【朝鮮世宗】309（テウセンノセイソウ） 李朝、第四代の王。李祹（6－14459‥556）を見よ。

【朝鮮成宗】310（テウセンノセイソウ） 李朝、第九代の王。李娎（6－14459‥300）を見よ。

【朝鮮宣祖】311（テウセンノセンソ） 李朝、第十四代の王。李昖（6－14459‥77）を見よ。

【朝鮮太祖】312（テウセンノタイソ） 李朝の始祖。李旦（6－14459‥567）を見よ。

【朝鮮太宗】313（テウセンノタイソウ） 李朝、第三代の王。李芳遠（6－14459‥1852）を見よ。

【朝鮮端宗】314（テウセンノタンソウ） 李朝、第六代の王。李弘暐（6－14459‥1216）を見よ。

【朝鮮團扇】315（テウセンウチハ） 團扇の一種。楕圓形で、細い竹條を骨として紙を張り、其の上に薄く漆を塗つたもの。多くは繪畫・模樣などがない。

【朝鮮中宗】316（テウセンノチユウソウ） 李朝、第十一代の王。李懌（6－14459‥69）を見よ。

【朝鮮定宗】317（テウセンノテイソウ） 李朝、第二代の王。李曔（6－14459‥289）を見よ。

【朝鮮哲宗】318（テウセンノテツソウ） 李朝、第二十五代の王。李昪（6－14459‥730）を見よ。

【朝鮮文宗】319（テウセンノブンソウ） 李朝、第五代の王。李珦（6－14459‥206）を見よ。

【朝鮮明宗】320（テウセンノメイソウ） 李朝、第十三代の王。李峘（6－14459‥262）を見よ。

【朝鮮燕山君】321（テウセンノエンザンクン） 李朝、第十代の王。李

李倧（6－14459‥797）を見よ。

【朝鮮光海君】322 テウセンノクワウカイクン　李朝、第十五代の王。李琿（6－14459‥346）を見よ。

【朝膳】323 テウゼン　❶朝の食事。朝食。朝餐。〔皮日休、雨中遊包山精舍詩〕施稀無夏屋、境僻乏朝膳。〔梅堯臣、龍女祠祈順風詩〕長蘆江口發平明、白鷺洲前已朝膳。❷アサノオモノ　午の刻に天皇が召上る御食膳。〔侍中群要〕午一刻供朝膳事。

【朝祖】324 テウソ　出棺の一日前に、魂帛を奉じて廟に至り、祖に告げる禮。〔吾學錄〕朝祖之禮、象其人平生出必辭尊者也、開元・政和二禮無之、古者奉柩朝於祖、載以輁軸、書儀、家禮皆仍其制、今人家廟狹隘、難於遷轉、改奉魂帛以代柩、取其便也。

【朝甦】325 テウソ　朝によみがへる。甦は蘇に同じ。〔宋璟、梅花賦〕豔於春者、望秋先零、盛於夏者、未冬已萎、或朝甦而速謝、或夕秀而遄衰、曷若茲卉歲寒特妍。

【朝宗】326 テウソウ　❶諸侯が天子に拜謁すること。春に朝、夏に宗といふ。又、歸服すること。〔周禮、春官、大宗伯〕以賓禮親邦國、春見曰朝、夏見曰宗。〔謝朓、拜中軍記室辭隨王牋〕願朝宗而每竭。❷河水が海にあつまり流れこむこと。〔書、禹貢〕江漢朝宗于海。〔詩、小雅、沔水〕沔彼流水、朝宗于海。〔傳〕水猶有所朝宗。❸字號。㋑宋、黃沔（12－47926‥828）の字。㋺宋、章頔（8－25761‥135）の字。㋩宋、張汴（4－9812‥666）の字。㋥明、吳海（2－3365‥53）の字。㋭明、屠滽（4－7761‥79）の字。㋬明、汪廣洋（6－17154‥206）の字。㋣清、侯方域（1－633‥141）の字。

【朝奏】327 テウソウ　あしたに天子に申し上げること。朝奏暮召を見よ。〔韓愈、左遷至藍關示姪孫湘詩〕一封朝奏九重天、夕貶潮州路八千。

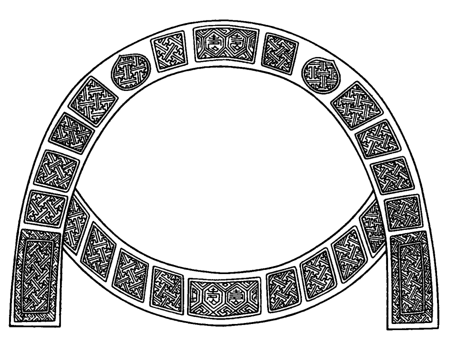
【朝奏暮召】328 テウソウボセウ　朝に奏上して暮に召し出される。意見が早く用ひられて任用されること。〔史記、主父偃傳〕乃上書闕下、朝奏暮召入見。〔唐書、魏元忠傳〕布衣之人、懷奇抱策、而望朝奏夕召、豈易得哉。

【朝甑】329 テウソウ　朝のこしき。甑は釜にのせて食物を蒸し炊ぐもの。〔陸游、雜題詩〕朝甑米空烹芋粥、夜缸油盡點松明。

【朝飧】330 テウソン　あさめし。朝餉。朝食。朝餐。〔杜甫、春陵行〕朝飧是草根、暮食乃樹皮。〔韓愈、酬藍田崔丞立之詠雪見寄詩〕朝飧思共飯、夜宿憶同氈。

【朝那】331 テウダ チユ　縣名。❶漢、置く。故城は甘肅省平涼縣の西北。〔集韻〕朝那、縣名。〔史記、匈奴傳〕冒頓悉復收故河・南塞、至朝那・膚施。〔史記、文帝紀〕十四年、匈奴謀入邊爲寇、攻朝那塞。〔漢書、地理志下〕安定郡、縣二十一、朝那。❷後魏、置く。甘肅省靈臺縣の西南。❸南朝宋、置く。陝西省南鄭縣の地。

【朝帶】332 テウタイ　朝服に著ける帶。腰帶ともいふ。文武官の品階によつて、金帶・玉帶・銀帶・鍮石帶・銅鐵帶等の別がある。〔古玉圖譜、服御部、唐玉雲龍朝帶〕右帶前後各十三胯、插尾二玉、色瑩白如羊脂、琱以雲龍之文、玲瓏三層、細入毫髮、臣謹按、實錄云、腰帶之制、蓋自古皆有革帶也、皆兩持垂頭、至秦二世、始名腰帶、至唐高祖、詔、腰帶向下插垂頭、上元元年敕文官、幷帶手巾算袋刀子礪石、武官亦聽帶、文武三品以上金帶・玉帶、十三胯、四品金帶十一胯、五品十胯、六品以犀九胯、七品銀帶、八品九品、鍮石帶並八胯、庶人六胯銅鐵帶、今此帶五爪龍、非臣下所當用、必天子所服御也、製作精工唐物也。



唐羊脂白玉雲龍朝帶（古玉圖譜）

【朝代】333 テウダイ　國朝。皇系。時代。

【朝罩】334 テウタウ　朝に魚を捕へるかご。〔溫庭筠、罩魚歌〕朝罩罩城南、暮罩罩城西。

【朝堂】335 テウダウ　一國の大政の出づる所。朝廷。政事堂。〔後漢書、明帝紀〕公卿百官、以帝威德懷遠、祥物顯應、乃並集朝堂、奉觴上壽。〔班固、西都賦〕左有庭中朝堂、百寮之位。

【朝達】336 テウタツ　現職の官吏をいふ。〔稱謂錄、現任官員、朝達〕南部新書、長安擧子、自六月後、落第不出京者、謂之過夏、醵率酒饌、請題目於知己朝達、謂之私試。

【朝旦】337 テウタン　あさ。あした。〔書、召誥、太保朝至于洛卜宅、疏〕乃以此朝旦、至於洛、卽卜宅。〔魏志、管輅傳、注〕朝旦爲輝、日中爲光。〔謝靈運、於南山往北山經湖中瞻眺詩〕朝旦發陽崖、景落憩陰峰。

【朝端】338 テウタン　朝臣の首位。朝右。〔王儉、褚淵碑文〕暨遂沖旨、改授朝端。〔注〕翰曰、言受尚書令、暨遂天子深意、旋改授司徒、以爲朝臣之首也、端、首也。

【朝團】339 テウダン　朝、集まりかたまる。朝、集團を形づくつてゐる。〔徐陵、陳公九錫文〕瀹露鄉雲、朝團曉映、山車澤馬、服馭登閑。

【朝雉】340 テウチ　朝に飛ぶきじ。〔劉禹錫、荊州歌〕渚宮楊柳暗、麥城朝雉飛、可憐踏青伴、乘暖著輕衣。

【朝晝】341 テウチウ　朝と晝。又、僅かな時間。〔南齊書、虞玩之傳〕自頃以來、衰耗漸篤、爲性不懶惰、而倦怠頓來、耳目本聰明、而聾瞶轉積、腳不支身、喘不緒氣、景刻不推、朝晝不保。

【朝頂】342 ch'ao^{2} ting^{3}　山上の廟に燒香すること。

【朝聽】343 テウチヤウ　朝廷のきくところ。天子の耳。〔晉書、桓溫傳〕操弄虛說、以惑朝聽。

【朝著】344 テウチヤク　❶官衙の吏員の著定をいふ。〔左氏、昭、十一〕朝有著定。〔注〕著定、朝內列位常處、謂之表著。❷ch'ao^{2} chê　向つて。

【朝廚】345 テウチユウ　朝のくりや。朝の臺所。〔白居易、答謝家最小偏憐女詩〕雨荒春圃唯生草、雪壓朝廚未有煙。〔方干、偶作詩〕夜學事須憑雪照、朝廚爭奈絕煙何。

【朝重】346 テウチユウ　明、劉穩（2－2224‥67）の字。

【朝除】347 テウヂヨ　朝の間にのぞきさる。〔宋史、張方平傳〕元昊既臣、而與契丹有隙、來請絕其使、議者不可、方平曰、得新附之小羌、失久和之強敵、非計也、宜賜元昊詔使之審處、但嫌隙朝除、則封冊暮下、如此、於西北爲兩得矣、時韙其謀。

【朝直】348 テウチヨク　朝廷に入侍する。朝廷に宿直する。〔鄭谷、朝直詩〕朝直叨居省閣閒、由來疎退校安閑。

【朝廷】349 テウテイ　❶群臣が天子に謁見し、天子が萬機を聽くところ。朝庭。朝堂。廟堂。〔詩、召南、騶虞序〕朝廷既治、天下純被文王之化。〔禮、玉藻〕廟中齊齊、朝廷濟濟翔翔。〔孟子、公孫丑下〕朝廷莫如爵、鄉黨莫如齒、輔世長民、莫如德。〔荀子、王制〕我今將來致之幷閱之砥礪之於朝廷。〔管子、權修〕朝廷不肅。〔史記、秦始皇紀〕先帝爲咸陽朝廷小、故營阿房宮。〔新語、思務〕亂之於朝廷。❷天子をいふ。〔潘岳、楊荊州誄〕寢伏牀蓐、念在朝廷。〔注〕翰曰、朝廷、謂天子也。

【朝廷羽翮】350 テウテイノウカク　朝廷に於いて羽翼となつて働くもの。〔唐書、李程傳〕卿朝廷羽翮也。

【朝廷之容】351 テウテイノヨウ　朝廷に於ける儀容。〔周禮、地官、保氏〕二曰、賓客之容、三曰、朝廷之容。〔注〕鄭司農云、云云、朝廷之容、濟濟蹌蹌。

【朝廷若無人】352 テウテイヒトナキガゴトシ　無爲にして治まる形容。〔淮南子、泰族訓〕聖主在上位、廓然無形、寂然無聲、官府若無事、朝廷若無人。

【朝定】353 テウテイ　契丹語で朋友をいふ。〔臆乘〕契丹主聞唐莊宗爲亂兵所害、哭曰、我朝定、猶華言朋友也。

【朝亭】354 テウテイ　亭の名。後、西侯津亭といふ。廣東省治の西の戙船澳。〔宋書、羊希傳〕希遣平越長史鄒琰於朝亭拒戰、軍敗見殺、羊希遣兵禦之於朝亭。

【朝庭】355 テウテイ　朝廷に同じ。〔漢書、馮奉世傳〕四方

飢饉、朝庭方爲レ憂。〔注〕宋祁曰、庭、當レ作レ廷。〔漢書、趙充國傳〕朝庭毎レ有二四夷大議一、常與二參兵一謀、問二籌策一焉。

【朝酲】356 テウテイ 二日醉。宿醉。〔漢書、禮樂志〕泰尊柘漿析二朝酲一。〔注〕應劭曰、酲、病レ酒也、析、解也、言四柘漿可三以解二朝酲一也。〔梁元帝、劉生詩〕菊花連夜飲、竹葉解二朝酲一。

【朝鳥】357 アサドリ 朝の間に塒を出る鳥。

【朝朝】358 テウテウ 毎朝。旦旦。〔列子、仲尼〕朝朝相與辨。〔梁簡文帝、寒閨詩〕綠葉朝朝黃、紅顏日日異。〔賈至、早朝二大明宮一呈二兩省僚友一詩〕共沐二恩波一鳳池上、朝朝染レ翰侍二君王一。

〖朝朝莫夕〗359 テウテウボセキ 天子に朝見えることと、夕に見えること。〔周禮、夏官、道僕〕以二朝夕燕一出入、〔注〕朝夕、朝朝莫夕。〔疏〕朝朝莫夕、在二正朝一來往。

〖朝朝暮暮〗360 テウテウボボ 毎朝毎晩。〔宋玉、高唐賦序〕旦爲二朝雲一、暮爲二行雨一、朝朝暮暮陽臺之下。〔白居易、長恨歌〕蜀江水碧蜀山青、聖主朝朝暮暮情。

【朝嘲】361 テウテウ 鳥が朝になくこと。〔禽經〕山鳥朝嘲、水鳥夜㖸。

【朝敵】362 テウテキ 天子に背いてむほんする者。國賊。〔川田甕江、岩倉公所レ藏正宗鍛刀記〕鐵舟馳過二轅門一、大呼曰、身是朝敵山岡鐵舟、有レ急赴二總督府一、不二敢不レ告、朝敵猶レ曰二國賊一也、衆愕眙、莫二之或レ止。

【朝覿】363 テウテキ 星などが朝に現はれること。〔左氏、昭、四〕西陸朝覿而出レ之。〔注〕春分之中、奎星朝見二東方一。〔國語、周語中〕火朝覿矣。〔注〕火、心星也、覿、見也、朝見、謂三夏正十月晨見二於辰一。

【朝徹】364 テウテツ ❶忽ちに妙道に通達すること。〔莊子、大宗師〕已生レ外矣、而後能朝徹、朝徹而後能見レ獨。〔釋文〕司馬云、朝、旦也、徹、達也、朝旦達二妙之道一、李云、夫能洞照不レ崇レ朝而遠徹也。❷朝、隅々までゆき渡る。〔李華、含元殿賦〕天華夾霽、朗日朝徹。❸清、楊士聰(**6－15112**··555)の字。

【朝天】365 テウテン ❶天子に謁見する。〔舊唐書、韓弘傳〕朝天有レ慶、就レ日方伸。〔杜甫、偪仄行〕東家蹇驢許レ借レ我、泥滑不二敢騎朝レ天。〔燕子箋、授書〕紫禁朝レ天拜舞同。❷天帝に拜謁する。臘月二十四日竈神が天帝に見え、一年中の其の家の善惡を語るといふ。〔范成大、祭レ竈詞〕古傳、臘月二十四日、竈君朝レ天欲レ言レ事。❸宮殿の名。呉の治城。楊呉、紫極宮を建て、宋は天慶觀に改め、明の洪武中、朝天と改む。江蘇省江寧縣の西。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣、治城〕陸游曰、今天慶觀在二治城山麓一、金陵記、治城卽今府治西北、朝天宮、楊呉之紫極宮、宋之天慶觀也。

〖朝天髻〗366 テウテンケイ 結髮の名。五代の蜀の國に流行。〔宋史、五行志三〕蜀孟昶末年、婦女競治レ髮爲二高髻一、號二朝天髻一。〔呉省蘭、十國宮詞、注〕孟昶末年、婦女競治レ髮爲二高髻一、號二朝天髻一。

〖朝天子〗367 テウテンシ 曲の名。朝天紫を見よ。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕朝天子。〔嘯餘譜〕朝天子、卽謁金門。

〖朝天紫〗368 テウテンシ 蜀の牡丹花の名。色は正紫、金紫夫人の服色に似てゐるから名づける。後人が之を曲名としたが、紫を改めて子に作るのは誤。〔羣芳譜、牡丹〕朝天紫、色正紫、如二金紫夫人服色一、今作レ子、非也。

【朝天鐙】369 ch'ao^{2} t'ien^{1} têng^{4} 足を曲げて頭の上にあげる藝。

〖朝天嶺〗370 テウテンレイ 山名。四川省廣元縣の北。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、廣元縣〕朝天嶺、山勢崔巍、路徑險絕、有二朝天驛一、自二漢中府褒城縣一至レ此、凡四百四十里、自レ驛而南、則由二保寧府潼川州一而達二成都一、自レ驛而西、則由二劍門綿漢一而達二成都一、蓋衿束之地也。

〖朝天女戶〗371 テウテンヂヨコ 明代、殉葬された宮人の父兄の官をいふ。世襲するを得。錦衣衞千百戶の類。

〖朝天番椒〗372 テウテンバンセウ 植物の名。てんぢくまもり。一年生草本。夏、白色の花を著ける。

【朝典】373 テウテン 朝廷のおきて。朝廷の典章。朝章。〔南史、王僧祐傳〕肆レ情運レ氣、不レ顧二朝典一。〔鮑照、論二國制一啓〕上著二朝典藩邦之度一、下揆二國訓繁簡之宜一。

【朝奠】374 テウテン 朝そなへものをしてまつる。〔禮、檀弓上〕朝奠日出、夕奠逮レ日。〔注〕陰陽交接、庶二幾遇レ之。

【朝斗】375 テウト 北斗星を禮拜する。〔庶物異名疏〕唐律、賣レ鯉者、賣レ蠡者、皆杖六十、蓋以二鯉朝レ斗、蠡朝レ星也。

【朝東】376 テウトウ ❶朝には東。〔晉子夜歌〕朝東暮復西。❷ch'ao^{2} tung^{1} 東向き。西側。

【朝登】377 テウトウ 朝、登用する。〔後漢書、孔融傳〕昔趙宣子、朝登二韓厥一、夕被二其戮一、喜而求レ賀。

【朝屯】378 テウトン 朝たむろす。〔徐陵、陳文帝哀策文〕甘泉夜照、細柳朝屯。〔韋元甫、木蘭歌〕朝屯二雪山下一、暮宿二青海傍一。

【朝暾】379 テウトン あさひ。曉暾。朝旭。〔呉少微、隴頭水詩〕嚴霜斂二曙色一、大明辭二朝暾一。〔韋應物、登レ高望二洛城一作詩〕帝宅夾二清洛一、丹霞捧二朝暾一。

【朝呑】380 テウドン 朝に呑む。〔神異經〕東南方有レ人焉、周二行天下一、身長七丈、腹圍如二其長一、四戴二雞父魌頭一、朱衣縞帶、以二赤蛇一繞レ額、尾合二於頭一、不レ飲不レ食、朝呑二惡鬼三千一、暮呑二三百一、此人以レ鬼爲レ飯、以レ露爲レ漿、名曰二尺郭一、一名二食邪一。

【朝曇】381 アサグモリ 朝、空がくもること。

【朝南】382 ch'ao^{2} nan^{2} 南にむく。南向。

【朝佩】383 テウハイ 明、邊瑀(**11－39216**··7)の字。

【朝拜】384 テウハイ ❶朝、拜謁する。又、朝おがむ。〔陶弘景、授二陸敬游十賚一文〕可二以登齋朝拜、出入盥漱一。〔宋史、禮志六〕夕之名者、朝拜之偶也、古者旦見曰レ朝、暮見曰レ夕。❷古、正月元旦に天皇が大極殿に出御し、百官が賀詞を申上げる公事。みかどをがみ。朝賀。〔式部省式、上〕凡賀正之日、云云、皆聽二朝拜一。

【朝培】385 テウバイ 朝につちかふ。〔任士林、吉祥草賦〕朝培夕溉、十有五朞、春風秋露、十日以拔滋。

【朝方】386 アサガタ 朝のほど。

【朝報】389 テウハウ 朝廷(政府)からの日々の詔令・奏章等を載せた文書。今の官報の類。〔周麟之、跋二孫覺春秋經解一文〕初王荊公欲下釋二春秋一以行中天下上、而莘老之書已出、一見而有二惎心一、自知レ不二復能レ出二其右一、遂詆二聖經一而廢レ之、曰、斷爛朝報也。〔朝野類要〕朝報、日出二事宜一也。〔還魂記、鬧殤〕朝報高陞。

【朝紡】390 テウバウ 朝に絲をつむぐ。〔李子卿、聽二秋蟲一賦〕不レ語朝紡、含レ嚬夜織。

【朝望】391 テウバウ ❶朝に望見する。又、朝のながめ。〔梁元帝、關山月詩〕朝望青波道、夜上白登臺。〔劉禹錫、江陵嚴司空云云詩〕綵雲朝望青城起。❷朝廷の人望。〔南史、孔休源傳〕彈肅禮闈、雅允朝望。〔北史、高乾傳〕多其親戚郷閭、不レ稱二朝望一。❸明、孫偉(**3－6987**··4)の字。

【朝帽】392 テウバウ ❶朝廷に出る時に被る帽子。禮帽。〔柳宗元、同下劉二十八院長述レ舊言レ懷感レ時書レ事奉二寄澧州張員外使君一五十二韻之作上云云詩〕春衫裁二白紵一、朝帽掛二烏紗一。❷清代の禮帽。春夏に涼朝帽、秋冬に暖朝帽を用ひる。〔清會典事例、禮部、冠服、冠服通例〕十五年題准、毎年春用二涼朝帽及夾朝衣一、或三月十五日或二十五日爲レ始、秋用二暖朝帽及緣皮朝衣一、或九月十五日或二十五日爲レ始。

【朝貌】393 アサガホ ❶香袋の緒の結び方の一種。❷アサガタチ 朝の寢起の顏や姿。朝容。

【朝幕】394 テウバク 朝廷と幕府。〔橋本景岳墓表〕協二和朝幕一。

【朝發】395 テウハツ 朝出發する。〔宋玉、對二楚王問一〕鯤魚朝發二崑崙之墟一、暴二鬐於碣石一、暮宿二於孟諸一。

【朝坂】396 テウハン 坂の名。陝西省朝邑縣の南。〔元和志〕朝邑縣、以三北據二長坂一爲レ名。〔同州志〕華原在二朝邑縣西一、繞二縣西一而北而東、以絕二於河一、古河堧也、一名二朝坂一、亦謂二之華原山一。

【朝班】397 テウハン 朝廷百官の席次。班は列次。朝列。〔唐會要、文武百官朝謁班序〕貞元二年九月五日、勅應二文武百官朝謁班序一。〔杜甫、秋興詩〕一臥二滄江一驚二歲晚一、幾回青瑣點二朝班一。

【朝飯】398 テウハン 朝めし。〔後漢書、賈復傳〕吏士皆飢、可二且朝飯一。〔蘇軾、泗州僧伽塔詩〕却到二龜山一未二朝飯一。

【朝攀】399 テウハン 朝にひく。朝攀暮折を見よ。

〖朝攀暮折〗400 テウハンボセツ ❶朝な夕な引いたり折つたりする。〔元好問、折楊柳怨詩〕路人愛二是風流樹一、無下奈二朝攀暮折一何上。❷攀折は、高所に登る

ため草木につかまり引く意。〔崔顥、行路難詩〕我昔初在㆓昭陽㆒時、朝攀暮折登㆓玉墀㆒。

【朝晩】401（テウバン） 朝と晩。朝夕。〔南史、沈洙傳〕朝晩二時、同㆓等刻數㆒。

【朝盤】402（テウバン） 朝食を盛る皿。〔戴叔倫、寄㆓禪師寺華上人㆒次韻㆓三韻詩㆒〕朝盤香積飯、夜甕落花泉。

【朝飛】403（テウヒ） 朝早くとぶ。朝とばす。〔徐陵、裴使君墓誌〕朝飛㆓火箭㆒、夜聳㆓雲梯㆒。〔杜荀鶴、塞上詩〕氷河夜渡偷來馬、雪嶺朝飛獵去人。

〖朝飛操〗404（テウヒサウ） 樂府、琴曲歌辭の一。齊の牧犢子の作。一名、雉朝飛操。年五十にして妻なく、野に出でて雉の雌雄相隨つて飛ぶを見、感じて作る。 雉朝飛（**11－41987**・・35）を見よ。〔古今注、音樂〕雉朝飛者、牧犢子所レ作也、齊處士、湣宣時人、年五十無レ妻、出㆓薪於野㆒、見㆓雉雄雌相隨而飛㆒、意動心悲、乃作㆓朝飛之操㆒、將㆓以自傷㆒焉、其聲中絕、魏武帝宮人有㆓盧女者㆒、故冠軍將軍陰叔之妹、年七歲、入㆓漢宮㆒、學㆓鼓琴㆒、琴特鳴異㆓於諸妓㆒、善爲㆓新聲㆒、能傳㆓此曲㆒。

〖朝飛暮卷〗405（テウヒボケン） 朝に飛び暮に卷く。〔王勃、滕王閣詩〕畫棟朝飛南浦雲、朱簾暮捲西山雨。〔桃花扇、傳歌〕朝飛暮卷、雲霞翠軒。

【朝美】406（テウビ） 字號。❶宋、權邦彥（**6－15926**・・164）の字。❷明、周成（**2－3441**・・311）の字。

【朝寐】407（アサネ） 朝遲く迄ねること。

【朝弼】408（テウヒツ） 宋、陳範（**11－41698**・・512）の字。

【朝逼】409（テウヒヨク） 朝にせまりをかす。〔崔提、野燎賦〕霜皚皚而夜塗、霰淅淅而朝逼。

【朝府】410（テウフ） 政府。朝廷。〔後漢書、岑晊傳〕褒レ善糾レ違、肅㆓清朝府㆒。

【朝浮】411（テウフ） 朝にうかぶ。〔庾信、謝㆔趙王賚㆓乾魚㆒啓〕醴水朝浮、光疑㆓朱鼈㆒、文鰩夜觸、翼似㆓青鸞㆒。〔庾信、哀江南賦〕沴氣朝浮、妖精夜殞。

【朝敷】412（テウフ） 朝にしきのべる。〔晉書、曹毗傳〕名爲㆓實賓㆒、福萌禍胎、朝敷㆓榮華㆒、夕歸㆓塵埃㆒。

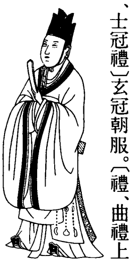
【朝賦】413（テウフ） ❶朝に詩をうたふ。〔張說、巡レ邊應制詩〕天文日月麗、朝賦管絃新。❷朝に詩をつくる。〔陸游、自嘲詩〕夜作㆓看レ花夢㆒、朝賦㆓飲レ酒詩㆒。

【朝舞】414（テウブ） 朝儛に同じ。〔晏子、問、下〕景公出遊、問㆓於晏子㆒曰、吾欲㆘觀㆓於轉附朝舞㆒、遵レ海而南、至㆗於琅琊㆖。

【朝儛】415（テウブ） 二川の名。朝水は、河南省內鄉縣の東北に發し、新野縣で白河に合す。今名、刁河。儛は、潕の譌、今、舞・潕を用ふ。潕水は、河南泌陽縣の西北に發し、葉・舞陽を經、汝南河の上流を爲す。孟子の趙注以來、朝儛を山とし、後儒が山東省に在りとしたのは誤。淸の宋翔鳳の四書釋地辨證に詳しい考證がある。〔孟子、梁惠王下〕昔者齊景公問㆓於晏子㆒曰、吾欲㆘觀㆓於轉附朝儛㆒、遵レ海而南、放㆗於琅邪㆖。

【朝風】416（テウフウ） 朝早く吹く風。〔王融、春遊迴文詩〕池蓮照㆓曉月㆒、幔錦拂㆓朝風㆒。

【朝服】417（テウフク） 朝廷に出仕する時の制服。禮服。朝衣。〔儀禮、士冠禮〕玄冠朝服。〔禮、曲禮上〕必朝服而命レ之。〔論語、鄉黨〕吉月必朝服而朝。〔戰國、齊策〕朝服衣冠窺レ鏡、謂㆓其妻㆒曰、我孰㆓與城北徐公美㆒。〔莊子、則陽〕解㆓朝服㆒而幕レ之。



服朝侯諸
（圖禮三）

〖朝服雖レ敝必加㆓於上㆒〗418（テウフクヤブルトイヘドモカナラズウヘニクハフ） 朝廷へ出る時の服は、やぶれて居つても必ず上に著ける。尊重すべき地位に在る人に對しては、其の人がたとへ無力・暗昧でも、之に敬意をはらふべきをいふ。〔穀梁、僖、八〕朝服雖レ敝必加㆓於上㆒、弁冕雖レ舊必加㆓於首㆒。

【朝拂】419（テウフツ） 朝はらひのける。〔歐陽脩、黃楊樹子賦〕鳳蓋朝拂、銀牀暮空。

【朝黻】420（テウフツ） 朝廷の官位。〔顏延之、應レ詔讌㆓曲水㆒作詩〕三妨㆓儲隸㆒、五塵㆓朝黻㆒。〔注〕翰曰、五塵㆓朝黻㆒、謂㆔五任㆓朝官㆒也。

【朝物】421（テウブツ） 朝廷の文物。〔後漢書、明帝紀贊〕備㆓章朝物㆒、省㆓薄墳陵㆒。

【朝氛】422（テウフン） 朝の氣。〔盧照鄰、巫山高〕巫山望不レ極、望望下㆓朝氛㆒。

【朝文】423（テウブン） 明、徐紘（**4－10110**・・96）の字。

【朝聞】424（テウブン） 朝に聞く。〔論語、里仁〕朝聞レ道、夕死可矣。〔晉書、桓彝等傳論〕首陽高節、求レ仁而得レ仁、泗上微言、朝聞而夕死。

〖朝聞夕改〗425（アシタニキキユフベニアラタム） 自分のあやまちを聞かされると、速かに改める。〔晉書、周處傳〕雲曰、古人貴㆓朝聞夕改㆒、君前塗尙可、且患㆓志之不レ立、何憂㆓名之不レ彰。

【朝平】426（テウヘイ） 縣名。漢、置く。河北省南和縣の地。〔漢書、地理志下〕廣平國、縣十六、朝平。

【朝兵】427（テウヘイ） 朝の陣營。〔庾信、周車騎將軍賀婁公神道碑銘〕受㆓脤河陽㆒、偏㆓師洛浦㆒、置㆓陣成皐㆒、連㆓旗廣武㆒、朝兵滅レ竈、夜營多レ鼓、箭起㆓六麋㆒、鋒摧㆓九虎㆒。

【朝柄】428（テウヘイ） 朝廷の權力。朝權。〔漢書、劉向傳〕世執㆓朝柄㆒。

【朝聘】429（テウヘイ） 諸侯が朝見して物を獻上し、天子の御機嫌を伺ふこと。〔禮、昏義〕尊㆓於朝聘㆒。〔中庸〕朝聘以レ時。〔左氏、襄、八〕朝旦聽㆓朝聘之數㆒。〔左氏、昭、五〕朝聘有レ珪、享頫有レ璋。〔公羊、莊、四〕古者諸侯必有㆓會聚之事㆒、相㆓朝聘之道㆒。〔荀子、王制〕喪祭・朝聘・師旅、一也。

【朝廟】430（テウベウ） 諸侯が前年の季冬に天子から賜はつて各自の宗廟に藏して置いた今年の曆と政令とを請ひ受けるために、毎月朔日に餼羊を供へて宗廟を祭ること。又、天子が其の月の政を聽治する日に宗廟で行ふ祭。朝享。〔春秋、文、六〕閏月不レ告レ月、猶朝㆓于廟㆒。〔杜注〕諸侯每月必告レ朔聽レ政、因朝㆓宗廟㆒。〔疏〕天子聽㆓朔南門之外㆒、是也、其日又以レ禮祭㆓於宗廟㆒、謂㆓之朝廟㆒、周禮謂㆓之朝享㆒。

【朝步】431（テウホ） 朝あゆむ。〔書、武成〕越翼日癸巳、王朝步レ自レ周、于征㆓伐商㆒。〔李白、贈㆔胡公求㆓白鷳㆒詩〕夜棲寒月靜、朝步落花閑。

【朝晡】433（テウホ） あしたとゆふべ。朝夕。朝昏。朝暮。朝餔を見よ。〔陸機、弔㆓魏武帝㆒文〕朝晡上㆓脯糒之屬㆒。〔魏志、董卓傳、注〕朝晡上レ飯、何用レ米爲。

〖朝晡鼓〗434（テウホコ） 鼓の名。〔初學記、樂部下、鼓〕纂要曰、施㆓於府寺㆒曰㆓朝晡鼓㆒、在㆓村墅㆒曰㆓枹鼓㆒。

【朝餔】435（テウホ） 朝晡に同じ。餔は午後四時過ぎ。〔後漢書、王符傳〕非㆓朝餔㆒不レ得レ通。〔注〕說文曰、餔、謂㆓日加レ申時㆒也。

【朝莫】436（テウボ） 朝暮。莫は暮に同じ。〔周禮、春官、世婦〕大喪比㆓外內命婦之朝莫哭不敬者㆒、而苛㆓罰之㆒。

【朝暮】437（テウボ） 朝夕。朝晡。旦暮。〔孟子、公孫丑下〕王驩朝暮見。〔韋應物、休㆓暇東齋㆒詩〕由來束帶士、請謁無㆓朝暮㆒。

〖朝暮人〗438（テウボノヒト） 命の旦夕に逼つた人をいふ。間もなく死ぬ人。〔漢書、楊惲傳〕太僕定有㆓死罪數事㆒、朝暮人也。〔注〕師古曰、言レ不㆓久活㆒也。

【朝謨】439（テウボ） 朝廷のはかりごと。政府の政策。〔沈約、爲㆓柳世隆㆒讓㆓封公㆒表〕朝謨謹肅、宰略遐震。

【朝奉】440（テウホウ） 金持の老人。貨殖の雄。安徽の方言。漢に奉朝請の官が有つたのに本づく。〔夢粱錄、顧覓人力〕朝奉顧㆓倩私身轎番安童等人㆒。〔通俗編、稱謂、朝奉〕徽俗稱㆓富翁㆒爲㆓朝奉㆒、亦有レ出、漢有㆓奉朝請㆒、無㆓定員㆒、本不レ爲㆓官位㆒、東京罷省、三公外戚皇室諸侯、多奉㆓朝請㆒、奉朝請者、逢㆓朝會請召㆒而已、退之・東坡並用レ之、蓋如㆘俗稱㆓郎中員外司務舍人待詔㆒之類㆖。〔夷堅志〕羅晏好遊㆓漢州㆒、每レ至必館㆓於王志行朝奉家㆒。

〖朝奉郎〗441（テウホウラウ） 官名。諫官の一。司諫の異稱。〔稱謂錄、古諫官各稱、朝奉郎〕文獻通攷、宋元豐寄祿、左右司諫爲㆓朝奉郎㆒、左右正言爲㆓承議郎㆒。

【朝逢】442（テウホウ） 朝にあふ。〔汪克寬、三友堂賦〕嗤㆓市道之澆漓㆒、或朝逢而夕舍。〔李頎、送㆓錢子入レ京詩〕朝逢㆓入レ秦使㆒、走レ馬喚レ君歸。

【朝梵】443（テウボン） 朝に聞える梵唄。〔王維、藍田山石門精舍詩〕朝梵林未レ曙、夜禪山更寂。

【朝邁】445（テウマイ） 朝早く出掛けて行く。〔潘岳、懷舊賦〕啓㆓開陽㆒而朝邁、濟㆓清洛㆒以徑渡。

【朝眠】446（テウミン） 朝にねむる。〔皮日休、練瀆詩〕白鳥都不レ知、朝眠還暮浴。

【朝務】447（テウム） 朝廷の事務。施政のつとめ。〔南史、齊高帝諸子上、豫章王嶷傳〕嶷不レ參㆓朝務㆒而言レ事、密謀多見㆓信納㆒。

【朝霧】448（テウム） 朝のきり。曉霧。〔張協、七命〕巾㆓雲軒㆒、踐㆓朝霧㆒。〔唐太宗、冬日臨㆓昆明池㆒詩〕寒野凝㆓朝霧㆒、霜天散㆓夕霞㆒。

【朝命】449（テウメイ） 朝廷の命令。君主の命。君命。おほやけのさしづ。〔史記、南越尉佗傳〕稱レ王、朝命如二諸侯一。〔後漢書、張歩傳〕太守奉二朝命一。〔潘岳、悼亡詩〕僶俛恭二朝命一、廻レ心反二初役一。

【朝明】450（テウメイ） ❶朝日の出る時。朝明け。夜明け。〔太平御覽、天、日上〕淮南子曰、至二于曲阿一、是謂二朝明一、臨二于曾泉一、是謂二早食一。❷朝のあかるいこと。〔韓愈、感春詩〕朝明夕暗已足レ歎、況乃滿地成二摧頽一。❸（アサアケ）あけがた。❹（アサケ）伊勢國の舊郡名。

【朝沐】451（テウモク） 朝にかみをあらふ。〔戴叔倫、暮春沐髮云云詩〕朝沐敞二南闈一、盤跚待二日晞一。

【朝野】452（テウヤ） 朝廷と民間。又、官人と人民。〔後漢書、朱穆傳〕朝野嗟毒。〔晉書、杜預傳〕陛下聖明神武、朝野清晏。〔張協、詠史詩〕昔在二西京一時、朝野多二歡娯一。〔孔穎達、毛詩正義序〕政遇二醇和一、則歡娯被二於朝野一。

【朝野羣載】453（テウヤグンサイ） 書名。三十卷。三善爲康撰。朝野の詩文及び雜文を收錄したもの。〔改定史籍集覽、第十八冊〕。

【朝野雜記】454（テウヤザツキ） 書名。四十卷。宋、李心傳撰。本名は建炎以來朝野雜記。宋の南渡以後の事跡を取つて分門編類したもの。甲集二十卷は上德・郊廟・典禮・制作・朝事・時事・故事・雜事・官制・取士・財賦・兵馬・邊防の十三門に分れ、乙集二十卷は、門類は甲集に略〻同じく、門毎に子目を分けて居る。〔四庫提要、史、政書類〕。

【朝野僉載】455（テウヤセンサイ） 書名。六卷。舊本、唐、張鷟撰と題す。鷟は玄宗の時の人で天寶以前に歿したのに、書中に敬宗・宣宗の時の事があるから、今書は原本ではない。遂初堂書目に據れば、無名氏朝野僉載補遺あり、蓋し今傳はる本は卽ち其の補遺ならんかといふ。〔四庫提要、子、小說家類〕・〔續百川學海、第二十二冊〕・〔古今說海、第十三冊〕・〔五朝小說、第七冊〕・〔說郛、第四十八冊〕・〔唐人說薈、第一冊〕。

【朝野類要】456（テウヤルイエウ） 書名。五卷。宋、趙昇撰。朝廷の故事をあつめ、類を以て編纂し、十四門に分つ。其の目は、班朝・典禮・故事・稱謂・擧業・醫卜・入仕・職任・法令・政事・帥幕・降免・憂難・餘紀。〔四庫提要、子、雜家類〕・〔武英殿袖珍版全書、第二百二十二冊〕・〔知不足齋叢書、第一百冊〕・〔守約篇叢書、第四十六冊〕。

【朝野新聲太平樂府】457（テウヤシンセイタイヘイガフ） 書名。九卷。元、楊朝英撰。戲曲の散曲を總集したもの。

【朝陽】458（テウヤウ） ❶山の東面。朝、先づ日を見るからいふ。〔爾雅、釋山〕山西曰二夕陽一、山東曰二朝陽一。〔注〕旦卽見レ日。〔詩、大雅、卷阿〕鳳凰鳴矣、于二彼高岡一、梧桐生矣、于二彼朝陽一。〔傳〕山東曰二朝陽一。〔疏〕孫炎曰、朝先見レ日也。〔張衡、思玄賦〕旦余沐二於清源一兮、晞二余髮於朝陽一。〔注〕衡曰、山東曰二朝陽一。❷朝日。旭日。〔潘岳、藉田賦〕若下湛露之晞二朝陽一兮、衆星之拱中北辰上也。〔鮑照、園葵賦〕承二朝陽之麗景一。❸府名。清末、置く。民國、縣に改む。❹縣名。㋑漢、置く。濟南郡に屬す。もと侯國。後漢、東朝陽といひ、後魏に朝陽といひ、齊周の時省き、隋、復た置く。故城は山東省章丘縣の西北。〔漢書、地理志上〕濟南郡、縣十四、朝陽。〔注〕侯國。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、章邱縣〕朝陽城、漢縣、屬二濟南郡一、高帝封二華寄一爲二侯邑一、宣帝時封二廣陵厲王子舜於此一、後漢曰二東朝陽一、以三南陽郡有二朝陽一、故此加レ東也、晉因レ之、改屬二樂安國一、後魏仍曰二朝陽縣一、屬二濟南郡一、後齊廢、隋復置、開皇十六年、改曰二臨濟一、又別置二朝陽縣一。㋺漢、置く。後漢・晉、之に因る。故城は河南省鄧縣の東南。〔漢書、地理志上〕南陽郡、縣三十六、朝陽。〔注〕應劭曰、在二朝水之陽一。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、鄧州、新野縣〕朝陽城、在二縣西朝水之陽一、漢縣屬二南陽郡一、晉屬二義陽郡一、尋廢、亦曰二朝城一、俗呼二刁城一。㋩清、置き、後、府と爲す。民國、縣に改む。熱河省淩源縣の東。大淩河の西北岸。❺字號。㋑宋、程鳴鳳(**8**—**25081**··296)の字。㋺元、吳暾(**2**—**3365**··405)の字。㋩明、吳琳(**2**—**3365**··339)の字。㋥岡田宜生の號。岡田新川(**4**—**7962**··55)を見よ。❻元、戚崇僧(**5**—**11594**··60)の室名。❼ch'ao^{2} yang^{2} 南向き。❽（アサヒ）信濃國の地名。

【朝陽閣】459（テウヤウカク） 明、謝鐸(**10**—**35827**··162)の室名。

【朝陽素】460（テウヤウソ） 北京人の愛養する菊花の一種。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按二日下舊聞考一、云云、蓋京師之菊種亟繁、云云、朝陽素。

【朝陽洞】461（テウヤウドウ） ❶地名。漢王山があり、上に漢王習射臺がある。滿洲吉林省和龍縣の南の里圖們江の北岸。❷洞の名。㋑江蘇省無錫縣の西南の安陽山。㋺浙江省定海縣の普陀山。

【朝陽鳳】462（テウヤウノホウ） 山の東面で鳴く鳳凰。珍しいことや、めでたいことの喩。又、立派な人物の喩。〔詩、大雅、卷阿〕鳳凰鳴矣、于二彼高岡一、梧桐生矣、于二彼朝陽一。〔唐書、韓瑗傳〕自下瑗與二褚遂良一相繼死上、內外以レ言爲レ諱、將二二十年一、帝造二奉天宮一、御史李善感、始上疏極言、時人喜レ之、謂爲三鳳鳴二朝陽一。〔元稹、春蟬詩〕豈無二朝陽鳳一、羞下與二微物一爭上。

【朝陽門】463（テウヤウモン） 門の名。俗に齊化門といふ。北京內城に在る。

【朝陽先生】464（テウヤウセンセイ） 元、戚崇僧(**5**—**11594**··60)の尊稱。

【朝飫】465（テウヨ） 十分な朝食。又、朝食。〔劉子翬、諭レ俗詩〕稻畦裛二連顚一、按レ穗給二朝飫一。

【朝用】466（テウヨウ） 字號。❶明、晏珠(**5**—**13914**··35)の字。❷明、宗璽(**3**—**7106**··122)の字。

【朝容】467（アサガタチ） 朝の寢起の顏や姿。朝貌。〔賴政集〕今さは花のあさがたち見ん。

【朝饔】468（テウヨウ） あさめし。朝食。〔孟子、滕文公上、饔飧、集注〕朝曰レ饔、夕曰レ飧。

【朝饔夕飧】469（テウヨウセキソン） 朝夕に食ふ。轉して、飲食以外に事とする所のないこと。〔李東陽、後東山草堂賦〕吾儕細人、朝饔夕飧、觀レ山而不レ窮二其巓一、望レ海而不レ極二其源一。

【朝來】470（テウライ） ❶あさから。朝早くから。天明から。〔世說新語、簡傲〕西山朝來致レ有二爽氣一。〔杜甫、驄馬行〕朝來久試華軒下、未レ覺千金滿二高價一。〔劉禹錫、秋風引〕朝來入二庭樹一、孤客最先聞。〔姚合、游春詩〕漸覺春相泥、朝來睡不レ輕。❷地名。㋑（アサゴ）但馬國の郡名。㋺（アサク）丹後國の地名。㋩（アック）紀伊國の地名。❸（アサコ）姓氏。〔拾芥抄〕。

【朝朗】471（アサボラケ） 夜明けの空のうすくあかるくなること。〔源氏物語、葵〕うちとけぬ朝ぼらけに出で給ふ。

【朝落】472（テウラク） 朝におちる。〔蕭昕、總章右个賦〕玉露朝落、金風夕扇。〔杜甫、奉レ送三郭中丞兼太僕卿充二隴右節度使一詩〕罘罳朝共落、棆桷夜同傾。

【朝嵐】473（テウラン） 朝の山氣。〔方岳、秀錦樓賦〕搴三朝嵐與二夕霏一兮、秀色鬱其可レ餐。

【朝蘭】474（テウラン） 朝に開いてゐる蘭。〔張協、雜詩〕飛雨灑二朝蘭一、輕露栖二叢菊一。

【朝流】475（テウリウ） 朝にながれる。〔庾信、刀銘〕鐵錟朝流、金精夜下。

【朝律】476（テウリツ） 漢の趙禹が作つた律の名。朝廷の儀式に關する法規。〔晉書、刑法志〕張湯越宮律二十七篇、趙禹朝律六篇。

【朝立】477（テウリフ） ❶［佛］佛祖及び靈位に向つて毎朝參拜すること。❷（アサダチ）朝早く出立すること。

【朝涼】478（アサスズ） 夏の朝の未だ暑くならない時。

【朝麟】479（テウリン） 朝の麒麟。〔馮子振、十八公賦〕捋二怒鬚於書虎一、晞二衝髮於朝麟一。

【朝唳】480（テウレイ） 朝になく。〔謝脁、遊二敬亭山一詩〕獨鶴方レ朝唳、飢鼯此夜啼。

【朝嶺】481（テウレイ） 朝のみね。〔唐充容、徐氏奉二和御製小山一賦〕纖塵集兮朝嶺峻、宵露晞兮夕澗空。

【朝禮】482（テウレイ） ❶禮拜する。參詣する。〔國語、越語下〕王命レ工、以二良金一寫二范蠡之狀一、而朝二禮之一。❷馬を調習する禮。〔韓詩外傳、二〕周旋步驟、朝禮畢矣。〔荀子、哀公〕步驟馳騁、朝禮畢矣。〔集解〕郝懿行曰、朝、與レ調古字通、毛詩言二調飢一、卽朝飢、此言二馬之馳驟一、皆調習也。❸小學校などで、全員が集合して朝の挨拶をすること。

【朝列】483（テウレツ） 朝廷に於ける百官の列位。役人の地位。朝班。〔潘岳、秋興賦序〕攝レ官承レ乏、猥廁二朝列一。〔謝靈運、九日從二宋公戲馬臺集一送二孔令一詩〕歸客遂二海隅一、脫レ冠謝二朝列一。〔南康記〕昔有盧耽、嘗於二元會一至レ朝、不レ及二朝列一、化爲二白鵠一。

【朝艣】484（テウロ） 朝に漕ぎゆく舟。〔吳萊、風雨渡二揚子江一詩〕吟倚二金山一有二暮鐘一、望窮二采石一無二朝艣一。

【朝露】485（テウロ） 朝のつゆ。久しくない喩。はかない喩。〔韓非子、大體〕故至安之世、法如二朝露一、純樸

不レ散、心無二結怨一、口無二煩言一。〔漢書、蘇武傳〕人生如二朝露一、何久自苦如レ此。〔注〕師古曰、朝露見レ日則晞、人命短促亦如レ之。〔後漢書、劉瑜傳〕秉忠謨不レ遂、命先二朝露一。〔潘岳、悼亡詩〕淒淒朝露凝。〔涅槃經、三十八〕是壽命常爲二無量怨讎所一レ遶、念念減損無レ有二增長一、猶二山瀑水不一レ得二停住一、亦如二朝露一、勢不二久停一。

【朝鷺】486 テウロ　朝のさぎ。〔張說、岳州別二梁六一詩〕近洲朝鷺集、古戍夜猿哀。

【朝漏】487 テウロウ　朝の時。朝の時刻。〔陳後主、前有一樽酒行〕莫レ論朝漏促、傾レ巵待二夕筵一。

【朝和】488 アサナギ　朝、海・陸風の交代の際に暫時起る無風狀態をいふ。朝凪。〔萬葉集、七〕朝凪に眞梶こぎ出て。

【朝往】489 テウワウ　朝にゆく。〔洞冥記〕有二遠飛雞一、夕則還依レ人、曉則絶二飛四海一、朝往夕還、常銜二桂枝之實一、歸二於南山一。

【杖レ朝】490 テウニツヱツク　朝廷で杖をつくこと。古、八十歳以上の老人に許された恩典。〔禮、王制〕五十杖二於家一、六十杖二於鄕一、七十杖二於國一、八十杖二於朝一。

【輟レ朝】491 テウヲヤム　朝廷の政事を休む。廢朝。〔禮、曲禮下〕故輟レ朝而顧、君子謂二之固一。〔事物紀原、朝廷注措部、輟朝〕唐會要曰、開元十八年十一月張說薨、輟レ朝罷二元會一、又大和三年七月、崔龜從奏云、正觀中任瓌卒、有司對レ仗奏聞、太宗責二其乖レ禮、岑文本歿、其夕罷二警嚴一、張公謹亡、哭不レ避二辰日一、臣謂、大臣薨、禮合レ輟レ朝、推レ是則太宗以來、尙未レ行二茲禮一也、會要首錄二開元事一、當下是自二明皇一始上也。

【臨レ朝】492 テウニノゾム　朝廷にのぞむ。〔漢書、敍傳下〕孝成煌煌、臨レ朝有レ光、威儀之盛、如レ圭如レ璋。

【朝干飯】493 アサガレヒ　朝の食事。又、天皇の朝の供御。朝餉。〔名目抄〕。

【朝漢臺】494 テウカンダイ　臺の名。廣東省治の東北。〔水經、浪水注〕佗因レ岡作レ臺、北面朝レ漢、云云、朔望升拜、名曰二朝臺一。〔元和志〕在二縣東北二十里一、尉佗初遇二陸賈一處。

【朝景色】495 アサゲシキ　朝のけしき。朝の風景。

【朝月夜】496 アサヅクヨ　夜が未だあけはなれず、月のなほ殘つて居る時。

【朝倉椒】497 アサクラセウ　木の名。あさくらさんせう。朝倉山椒。〔和漢三才圖會、味果類〕朝倉椒、朝倉山椒、始出二於但馬朝倉谷一。

【朝妻船】498 アサツマブネ　㊀古、近江國坂田郡朝妻湊に出入し、湖上を往復した船。〔和名抄、近江國、坂田郡〕朝妻鄕、安佐都末。㊁寶永・正德の頃、英一蝶が小舟に遊女の水干・烏帽子を着て棹さす姿を畫いて朝妻舟と稱した。

【朝商人】499 アサアキンド　朝に物を賣歩く商人。〔浮世風呂、初上〕あさあきんどのこゑ。

【朝大夫】500 テウタイフ　周官の名。秋官の屬。都家の國治を掌る。〔周禮、秋官、朝大夫〕掌二都家之國治一、日朝以聽二國事故一、以告二其君長一。

【朝中措】501 テウチユウソ　詞牌の名。〔詞苑叢談〕劉原父出守二揚州一、歐陽公作二朝中措一餞レ之、平山闌檻倚二晴空一、山色有無中。

【朝附日】502 アサツクヒ　朝方の日。朝日。

【朝未來】503 アサマダキ　夜のあけきらない頃。早朝。黎明。

【朝簿廳】504 テウボチヤウ　朝官の名簿を掌る役所。〔稱謂錄、司務古稱、朝簿廳〕因話錄、吏察主二朝官名籍一、謂二之朝簿廳一。

【朝隴首】505 テウロウシユ　漢の郊祀歌の名。一に白麟歌（8－22678··1185）といふ。

【不レ崇レ朝】506 テウヲヘズ　朝の終る程の時間をも要しないこと。又、それ位の間も續かないこと。不レ終レ朝。〔詩、衞風、河廣〕誰謂二宋遠一、曾不レ崇レ朝。

【不レ終レ朝】506′ テウヲヘズ　朝の終るまではつづかぬ。〔箋〕崇、終也、行不レ終レ朝、亦喩レ近。〔老子、二十三〕飄風不レ終レ朝、驟雨不レ終レ日。

【朝益暮習】507 アシタニエキシクレニナラフ　朝に教を受けて知識を增し、夕にそれを反復習熟する。〔管子、弟子職〕朝益暮習。

【朝改暮變】508 テウカイボヘン　朝に改め暮にかへる。やたらに變更することをいふ。朝令暮改。

【朝客高流】509 テウカクカウリウ　身分の高い人々。貴顯紳士。〔于鄴、揚州夢記〕當時朝客高流、無レ不二臻赴一。

【朝祈暮賽】510 テウキボサイ　朝夕に參詣して祈願する。賽は、れいまつり。〔源平盛衰記、三、一院女院嚴島御幸〕抑至心繫念之輩、朝祈暮賽之人、自レ古迄レ今、星羅雲布。

【朝外異內】511 テウグワイイナイ　王朝時代、內位に敍すべき家柄の者をば外位に敍し、外位に敍すべき家柄の者をば內位に敍したこと。〔江家次第、二、攝政時敍位〕諸宮給、雖二下姓一敍二內階一、自餘依レ姓敍二內外階一、云云、朝外、是朝臣姓敍二外階一也、車持類也、異內、是非二朝臣姓一、敍二內階一也、如二清原眞人一、眞人・宿禰、云云、已上不レ敍二外階一、必敍二內階一。

【朝活暮死】512 テウクワツボシ　朝に生れて夕に死ぬ。極めて短命な喩。朝生暮死。

【朝觀夕覽】513 テウクワンセキラン　朝夕にみる。〔名畫記〕高平公進二書畫一表曰、前代帝王、多求二遺逸一、朝觀夕覽、收二鑒于斯一。

【朝乾夕惕】514 テウケンセキテキ　朝夕戒懼して少しも怠らないこと。乾は乾々、つとめること。〔易、乾〕君子終日乾乾、夕惕若、厲无レ咎。〔疏〕終二竟此日一、健健自強、勉力不レ有二止息一、夕惕者、謂下終二竟此日一、後至二向夕之時一、猶懷中憂惕上。

【朝三暮四】515 テウサンボシ　詐術を用ひて人を愚弄すること。春秋の宋の狙公が、飼つてゐる猿に、朝三つ、暮四つのとちの實をやるぞといつたら大層怒つたので、それなら朝四つ、暮三つやることにしようといふと猿が大層喜んだといふ故事。〔列子、黃帝〕宋有二狙公者一、愛レ狙、養レ之成レ羣、能解二狙之意一、狙亦得二公之心一、云云、將レ限二其食一、恐二衆狙之不一レ馴二於己一也、先誑レ之曰、與二若芧一、朝三而暮四、足乎、衆狙皆起而怒、俄而曰、與二若芧一、朝四而暮三、足乎、衆狙皆伏而喜、物之以二能鄙一相籠、皆猶レ此也、聖人以レ智籠二羣愚一、亦猶三狙公之以レ智籠二衆狙一也、名實不レ虧、使二其喜怒一哉。〔莊子、齊物論〕狙公賦レ芧曰、朝三暮四、衆狙皆怒、曰、然則朝四而暮三、衆狙皆悅。

【朝散大夫】516 テウサンタイフ　㊀散官の名。隋、置く。官名のみで其の職掌のない大夫。文武官吏の德望ある者に賜はる。〔通典、職官、文散官〕朝散大夫、隋置、散官、大唐因レ之。㊁大名の從五位下の無役のものをいふ。〔要筐辨志、下〕從五位下、朝散大夫。

【朝祀喪戎】517 テウシサウジユウ　朝禮・祭禮・喪禮・軍禮をいふ。〔左氏、定、十五〕將二左右周旋進退俯仰、於レ是乎取レ之、朝祀喪戎、於レ是乎觀レ之。

【朝秦暮楚】518 テウシンボソ　㊀あしたは秦國に居り、夕は楚國に泊る。住所が定まらない喩。世の中を流浪する喩。〔晁補之、北渚亭賦〕託二生理於四方一、固朝秦而暮楚。〔桃花扇、逮社〕歎二朝秦暮楚、三載依レ劉。㊁うつりかはる。反服常ないものの喩。〔福惠全書、刑名部、問擬〕此業之爲二朝秦暮楚一者非二一日一矣。

【朝齏暮鹽】519 テウセイボエン　朝は野菜を食ひ、晚はしほを嘗める。貧困の生活をいふ。極貧。〔韓愈、送レ窮文〕朝齏暮鹽、惟我保レ汝。

【朝川善庵】520 アサカハゼンアン　江戶の人。名は鼎。字は五鼎。號は善庵・學古塾。山本北山の學統をうけ、經學は折衷を主とす。著に易說家傳紀聞・周易愚說・孝經會通・孝經六書・孝經證注・孝經孔傳音注・孝經定本・古文孝經證注・古文孝經考異・古文孝經私記・訂正孝經孔氏傳・訂正孝經鄭氏注・韓非子正誤・乾道本韓非子・左國八考・左傳諸注補考・詩書困知說・論語漢說發揮・荀子箋釋・大學原本釋義・四字經・仁義略說・學古塾規式・瀛奎律髓・刪定紀效新書・千字文・東坡詩鈔・分田備考・田園地方紀元・樂我堂遺集・樂我堂集・樂我堂詩文集・善庵詩鈔・善庵隨筆・善庵文鈔・下田紀事・鄭將軍成功傳がある。〔先哲叢談、續、十〕。

【朝川同齋】521 アサカハドウサイ　加賀の人。名は鼐。一名、愼。字は士修・永甫。通稱は晉四郎。號は同齋・嘉遯・眠雲山房・小泉漁夫。安政四年十月二十二日歿す、年四十四。官は肥前松浦侯儒。學は市河米庵・朝川善庵に師事し、折衷を主とす。書を善くす。著に尙書古今文管窺・天正本孫子曹註輯補・紀效新書祕解・文章書式・征韓實記・長政暹羅戰記・眠雲札記がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【朝督暮責】522 テウトクボセキ　朝暮にせめただす。〔李衞公問對、上〕雖二朝督暮責一、無レ益二於事一矣。

【朝不レ及レ夕】523 アシタニユフベニオヨバズ　一日を無事に終れない。夕方まではもたない。事の急迫してゐるこ

と。〔左氏、僖、七〕朝不レ及レ夕、又何以待レ君。〔左氏、襄、十六〕敝邑之急、朝不レ及レ夕。

【朝不レ保レ夕】524 朝不レ慮レ夕に同じ。

【朝不レ謀レ夕】525 朝には夕刻の事を考へてゐない。事のさしせまつてひまのないこと。〔左氏、昭、元〕(趙孟)對曰、老夫罪戾是懼、焉能恤レ遠、吾儕偸レ食、朝不レ謀レ夕、何其長也。〔注〕言下欲三苟免二目前一、不上レ能レ念二長久一。

【朝不レ慮レ夕】526 朝に夕方のことがどうなるか考へられない。生命の旦夕にせまる喩。〔李密、陳情表〕劉日薄二西山一、氣息奄奄、人命危淺、朝不レ慮レ夕。

【朝名市利】527 名を爭ふは朝廷に於てし、利を爭ふは市中に於てする。〔戰國、秦策〕張儀曰、臣聞、爭レ名者於レ朝、爭レ利者於レ市、今三川周室、天下之市朝也。

【朝蠅暮蚊】528 朝には蠅があつまり、暮には蚊がさわぐ。小人のはびこる喩。〔韓愈、雜詩〕朝蠅不レ須レ驅、暮蚊不レ可レ拍。

【朝令暮改】529 朝に命令を下し、夕に又それをかへる。法令の出ることが頻繁であてにならないこと。朝改暮變。一に改は得に作り、朝に租稅を課する令を出して暮に徵集する意。〔鼂錯、說三文帝令二民入レ粟受一レ爵〕賦斂不レ時、朝令暮改。〔漢書、食貨志上〕賦斂不レ時、朝令而暮改。〔補注〕王念孫曰、改本作レ得、言二急征暴賦、朝出レ令而暮已得一、非レ謂二其朝令而暮改一也、漢紀正作二朝令暮得一。

【朝令夜遁】530 朝に朝廷に立つて命令し、夜には去つて身をのがれる。功成つて身退くの速かなこと。〔莊子、田子方〕朝令而夜遁、終身無レ聞。

【在レ朝言レ朝】530′ その立場において事を謀ること。朝は、君臣の政事を謀る處。在官言官(3－4881··43)の❶を見よ。

【朝亦隨二群動一】531 朝夕世人に從つて行動する。〔白居易、自詠五首詩〕朝亦隨二群動一、暮亦隨二群動一。

【朝扣二富兒門一】532 朝から金持の家に出入してこびへつらふこと。〔杜甫、奉レ贈二韋左丞一二十二韻詩〕朝扣二富兒門一、暮隨二肥馬塵一、殘杯與二冷炙一、到處潛二悲辛一。

【朝比奈玄洲】533 名古屋の人。名は文淵。字は涵德。通稱は甚左衞門。號は玄洲。略稱は晁文淵。享保中の人。荻生徂徠の說を奉ず。著に客館璀粲集・蓬島遺珠前編がある。〔國書解題〕。

【朝比奈南山】534 河內の人。名は泰亮。字は君采。號は南山。荻生徂徠の說を奉ず。官は狹山藩儒。歿年は未詳。著に南山集がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【朝承レ恩暮賜レ死】535 朝に君恩を承けて富貴に榮えるかと思ふと、暮には忽ち旨に忤つて譴斥され、死を賜つて身を亡ぼす。〔白居易、太行路詩〕君不レ見左納言右納史、朝承レ恩暮賜レ死。

【朝聞レ道夕死可】536 朝に道を聞き知つたならば、其の日の夕に死んでも宜しい。道を知らなければならぬことを極言した語。〔論語、里仁〕子曰、朝聞レ道、夕死可矣。

【朝遊二北里一暮南鄰】537 酒色の在る所を追つて遊樂に耽り、朝には北里に遊び暮には南鄰に遊ぶ。遊樂に耽る喩。〔駱賓王、帝京篇〕王侯貴人多二近臣一、朝遊二北里一暮南鄰。〔箋注〕北里南鄰、共烟花所レ在。

【朝揉レ輪而夕乘レ車】538 朝に車の製造に取り掛り、夕に其の車に乘る。甚だ急に失する喩。〔管子、七法〕不レ明二於化一、而欲二變レ俗易一レ教、猶二朝揉レ輪而夕欲一レ乘レ車。

【朝如二青絲一暮成レ雪】539 朝は立派な綠の黑髮も、夕には白髮となる。人の容姿の衰へやすいのを詠じた句。〔李白、將進酒〕君不レ見高堂明鏡悲二白髮一、朝如二青絲一暮成レ雪。

【朝蹋二落花一相伴出】540 朝に落花を踏んで友人と逍遙する。〔白居易、春來頻與二李二賓客一郭外同遊因贈二長句一詩〕風光引レ步酒開レ顏、送レ老銷レ春嵩洛閒、朝踏二落花一相伴出、暮隨二飛鳥一一時還、我爲二病叟一誠宜レ退、君是才臣豈合レ閑、可レ惜濟レ時心力在、放教二臨レ水復登一レ山。

【朝蒙二恩遇一夕焚坑】541 朝には特別の恩寵を受けても、夕には身を焚き殺される。人生の浮沈をいふ。焚坑は、焚書坑儒(7－19100··38)の厄。〔西鄕南洲、沖永良部島謫居中作詩〕朝蒙二恩遇一夕焚坑、人生浮沈似二晦明一。

【朝爲二榮華一夕爲二顦顇一】542 朝は富貴でも夕は貧賤となる。〔班固、答賓戲〕朝爲二榮華一、夕爲二顦顇一、福不レ盈レ眥、禍溢二於世一。

【朝忘二其事一夕失二其功一】543 朝の中に爲すべき事を忘れて居ては、夕方に其の仕事を成就することは出來ない。〔管子、形執〕曙戒勿レ怠、後稺逢レ殃、朝忘二其事一、夕失二其功一。

【朝詠遊仙詩暮歌采薇曲】544 朝には遊仙詩を詠じ、暮には采薇曲を歌ふ。隱士の生活をいふ。〔白居易、出山吟〕朝詠遊仙詩、暮歌采薇曲、臥レ雲坐二白石一、山中十五宿。

【朝憎鶯百囀夜妬燕雙棲】545 朝は鶯の嬉しげに鳴くのを聞いて憎らしく思ひ、夜は燕の雌雄の雙び棲むのを見て嫉妬の情に堪へない。閨怨の情を詠じたもの。〔白居易、閨怨詞三首〕朝憎鶯百囀、夜妬燕雙棲、不レ慣經春別、唯知到レ曉啼。

【朝暖就二南軒一暮寒歸二後屋一】546 朝暖かい間は南の軒端の日當りの好い處に往き、夕方寒くなれば奧の部屋で暖を取る。〔白居易、郭虛舟相訪詩〕朝暖就二南軒一、暮寒歸二後屋一、晚酒一兩杯、夜棊三數局。

【朝辭白帝彩雲閒千里江陵一日還】547 朝に白帝城を發して、其の日の夕に江陵に還る。揚子江の水流の迅急なことを形容した語。白帝城は今の四川省奉節縣。江陵は今の湖北省荊州江陵縣。〔水經、江水注〕自二三峽一七百里中、兩岸連山、略無二闕處一、重巖疊嶂、隱レ天蔽レ日、非二停午夜分一、不レ見二曦月一、至二于夏水襄一レ陵、沿泝阻絕、王命急宣、有レ時朝發二白帝一、暮到二江陵一、其閒千二百里、雖二乘レ奔御一レ風、不二以疾一也。〔李白、早發二白帝城一詩〕朝辭白帝彩雲閒、千里江陵一日還、兩岸猿聲啼不レ住、輕舟已過萬重山。〔盛弘之、荊州記〕朝發二白帝一、暮宿二江陵一、凡一千二百餘里、雖二雲雪迅鳥一不レ能レ過也。

【朝而受レ業晝而講貫夕而習復夜而計レ過】548 朝に學業を受け、晝はそれを研究し、夕は復習し、夜は過失を反省する。〔國語、魯語下〕士朝而受レ業、晝而講貫、夕而習復、夜而計レ過、無レ憾而後卽レ安。

【朝】14374′

テウ 朝(5－14374)に同じ。

【朤】14375

ラウ 朗(5－14364)の古字。〔玉篇〕朤、古文朗。

【胃】14376

ハ 霸(12－42490)の古字。〔說文〕霸、胃、古文或作レ此。

【朞】14377

キ 〔集韻〕居之切 ㄐㄧ chī 支

とき。ひとまはり。一周した時。一年又は一月。稘(8－25118)に通じ、期(5－14378)に同じ。〔集韻〕稘、說文、復二其時一也、或作レ朞、亦書作レ期。〔書、堯典〕朞三百有六旬有六日。〔傳〕四時曰レ朞。〔疏〕朞、卽匝也。

參考 朞と期(5－14378)は同字と見るべきで、共に稘(8－25118)に通ずる。

【朞月】1 ❶滿一箇月。〔左氏、僖、八〕夏、狄伐レ晉、報二采桑之役一也、復朞月。❷滿一箇年。〔論語、子路〕苟有二用レ我者一、朞月而已可也、三年有レ成。

【朞年】2 一周年。滿一箇年。期年。〔左氏、僖、八〕朞年狄必至、示二之弱一矣。〔注〕期年、十二月也。〔大戴禮、本命、朞而生レ臏、注〕朞年天

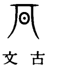
道一備。〔淮南子、原道訓〕昔舜耕㆓於歷山㆒、朞年而田者爭處㆓墝埆㆒、以㆓封壤肥饒㆒相讓、釣㆓於河濱㆒、朞年而漁者爭處㆓湍瀨㆒、以㆓曲隈深潭㆒相豫。

【期】14378

キ　〔集韻〕渠之切　支　ㄑㄧˊ chʻi²

ギ　ㄐㄧ chi¹

慣ゴ


小篆

古文

❶**あふ**。約束してであふ。〔說文〕期、會也、从㆑月其聲。〔段注〕會者、合也、期者、要約之意、所㆔以爲㆓會合㆒也。〔廣雅、釋詁四〕期、會也。〔國語、周語中〕期㆓於司里㆒。〔注〕期、會也。❷**きめる**。固く決する。定める。〔左氏、哀、十六〕期死非㆑勇也。〔注〕期、必也。❸**ちぎる**。約束する。〔玉篇〕期、契約也。〔詩、鄘風、桑中〕期㆓我乎桑中㆒。〔史記、留侯世家〕與㆓老人㆒期、後何也。❹**あてにする**。〔廣韻〕期、信也。〔書、大禹謨〕期㆓于予治㆒。〔傳〕期、當也。❺**もとめる**。〔漢書、武帝紀〕非㆓期不㆑同、所㆑急異㆑務也。〔注〕李奇曰、期、要也。❻**めあてにする**。目的とする。〔書、大禹謨〕刑期㆓于無㆑刑。❼**をはる**。きはまる。〔廣雅、釋言〕期、卒也。〔莊子、庚桑楚〕志㆓乎期費㆒。〔注〕期、卒也、費、耗也。❽**とき**。をり。適當な時。〔廣雅、釋言〕期、時也。〔玉篇〕期、時也。〔周禮、天官、大宰〕前㆑期十日。〔注〕期、所㆑諏之日也。〔漢書、楊僕傳〕失㆑期內顧。❾**かぎり**。期限。〔廣韻〕期、限也。〔詩、小雅、南山有臺〕樂只君子、萬壽無㆑期。〔左氏、僖、十七〕梁嬴孕過㆑期。❿**ほど**。程限。〔呂覽、懷寵〕徵斂無㆑期。〔注〕期、度。⓫**まつ**。〔莊子、寓言〕以期㆓年耆㆒。〔注〕期、待也。

⓬**ひとまはり**。一周した時月。稘(**8－25118**)に通ず。〔說文通訓定聲〕期、叚借爲㆑稘。〔集韻〕稘、說文、復㆓其時㆒也、或作㆑朞、亦書作㆑期。〔易、繫辭上〕凡三百有六十、當㆓期之日㆒。〔論語、陽貨〕期可㆑已矣。⓭**人壽の百年**。〔書、大禹謨〕耄期倦㆓于勤㆒。〔蔡傳〕九十曰㆑耄、百年曰㆑期。〔禮、曲禮上〕百年曰㆑期頤。⓮**一晝夜**。〔左氏、昭、二十三〕叔孫旦而立、期焉。〔注〕從㆑旦至㆑旦爲㆑期。⓯**つなぐ**。綦(**8－27555**)・羈(**9－28417**)に通ず。〔說文通訓定聲〕期、叚借爲㆑綦、實爲㆑羈。〔左氏、定、四〕楚公子結、字子期。〔荀子、富國〕期㆓文理㆒。〔注〕期、當㆑爲㆑綦。⓰**句末の助辭**。其(**2－1472**)に通ず。〔說文通訓定聲〕期、又助語之詞、按、與㆑用㆓其・箕・己・記・忌・居字㆒皆同。〔詩、小雅、頍弁〕實維何期。〔箋〕期、辭也。〔釋文〕期、本亦作㆑其。⓱**八方に通ずる道の分岐點**。〔爾雅、釋宮〕八達謂㆓之崇期㆒。〔釋名、釋道〕崇、充也、道多㆑所㆑通、人充㆓滿其上㆒、如㆓共期㆒也。⓲勤(**2－2424**)に通ず。〔說文通訓定聲〕期、叚借爲㆑勤、禮記射義、旄期稱㆑道不㆑亂者、不、注、或爲㆑勤、僞禹謨、耄期倦㆓於勤㆒、以㆑期爲㆓期頤之期㆒、非㆑是、期・勤一聲之轉。⓳夔(**3－5747**)に通ず。〔揚雄、蜀都賦〕其旁則有㆓期牛兕旄、金馬碧鷄㆒。〔注〕郭璞山海經注、蜀山中有㆓大牛㆒、肉重數千斤、名曰㆓夔牛㆒、期・夔聲相近。⓴期期は、口のどもるさま。〔史記、張丞相傳〕臣期期、知㆓其不可㆒。〔注〕正義曰、期、以㆓口吃㆒每㆑語、故重㆓言期期㆒也。

名乘　ノリ。トシ。トキ。サネ。

【期頤】1 キイ　百歲の人をいふ。此の語の出典なる禮記の文は、百年を期と曰ひ、頤はる、と讀むべきであるが、同書の上文に、二十を弱と曰ひ、冠す、とあるのに本づいて弱冠といふ語ができたと同樣に、期と頤を連讀して老人の意に用ひる。〔禮、曲禮上〕百年曰㆑期頤。〔注〕期、猶㆑要也、頤、養也、不㆑知㆓衣服食味㆒、孝子要㆑盡㆓養道㆒而已。〔疏〕人年百歲、不㆔復知㆓衣服飮食寒煖氣味㆒、故人子用㆑心、要㆓求親之意㆒而盡㆓養道㆒也。〔孫希旦集解〕百年者、飮食居處動作、無㆑所㆑不㆑待㆓於養㆒、方氏愨曰、人生以㆓百年㆒爲㆑期、故百年以㆑期名㆑之、朱子曰、期與㆑朞字同、論語期可㆑已矣、周匝之義、期謂㆓百年已周㆒、頤謂㆑當㆑養而已、期如㆓上句幼弱老悼等字㆒、頤如㆓上句學冠不刑等字㆒。

【期頤衍慶】2 キイエンケイ　清代、百歲以上で五世同居の者に賜つた扁額の文字。衍慶は、よろこびが後世に延びおよぶこと。〔清會典事例、禮部、風教、五世同堂〕乾隆五十三年諭、據㆓保寧奏、成都縣民劉萬迎、現年一百一歲、五世同㆑堂、曾元繞㆑膝、請㆑旨旌表等語㆒、劉萬迎壽逾㆓期頤㆒、慶延㆓五世㆒、洵屬㆓昇平人瑞㆒、特賜㆓御書扁額㆒、並親製㆓詩章㆒、以示㆓寵榮㆒、所㆑有應㆑行㆓加恩賞賚、及建坊旌表㆒之處、仍著㆓該部㆒查例具題、欽㆑此、尋頒㆓御書期頤衍慶扁額㆒。

【期頤偕老】3 キイカイラウ　清代、夫婦共に百歲に達した者に天子の賜つた文字。〔清會典事例、禮部、風教、夫婦同登耆壽〕乾隆二十五年題覆、安徽省太湖縣壽民朱憲章、同妻劉氏、現年俱一百歲、例准㆓旌表㆒、給㆓銀建坊㆒、並給㆓予期頤偕老四字㆒、奉㆑旨、壽民朱憲章暨妻劉氏、百歲同臻、期頤偕老、允爲㆓熙朝人瑞㆒、錫㆓此嘉名㆒、用式㆓閭里㆒、仍賜㆓御製詩章㆒、以示㆓恩榮㆒而光㆓旌典㆒、並著㆑賞給㆓緞二疋・銀二十兩㆒。〔清國行政法汎論、皇室、授與榮典權、旌表、高齡〕夫婦均至㆓百歲㆒者、則期頤偕老。

【期頤聚順】4 キイシユウジユン　期頤衍慶に同じ。聚順は、よい事の多くあつまること。〔清會典事例、禮部、風教、五世同堂〕乾隆四十五年諭、據㆘鄭大進奏、襄陽縣民趙元寅、年一百十一歲、曾元五世、實屬㆓昇平人瑞㆒、照㆑例請㆑旌等語㆖、趙元寅著㆓照所㆑請、准㆓其旌表㆒、並於㆓例應㆑賞者㆒、著加㆑恩多㆑賞一倍、再行㆓加賞御筆扁額㆒、用昭㆓嘉奬㆒、欽㆑此、尋頒㆓御書期頤聚順扁額㆒。

【期運】5 キウン　めぐり合せた時期。〔顏延之、北使洛詩〕在昔輟㆓期運㆒、經始闊㆓聖賢㆒。

【期運集】6 キウンシフ　樂府、鼓吹曲辭、梁の鼓吹曲の一。梁、沈約作。漢の有所思を改め、武帝の德が盛で、教化の遠く及ぶを歌つたもの。〔隋書、音樂志上〕漢曲有所思、改爲㆓期運集㆒、言㆓武帝膺㆑籙受㆑禪、德盛化遠㆒也。〔沈約、期運集〕期運集、惟皇膺㆓寶符㆒、龍躍㆓清漢渚㆒、鳳起㆓方城隅㆒、謳歌共適㆑夏、獄訟兩違㆑朱、二儀啓㆓佳祥㆒、千載猶㆓旦暮㆒、舞蹈流㆓帝功㆒、金玉昭㆓王度㆒。

【期要】7 キエウ　❶約束。〔禮、學記〕大信不㆑約、〔疏〕約、謂㆓期要㆒也。〔魏志、毋丘儉傳、注〕欽與㆓郭淮㆒書曰、云云、夫當㆑仁不㆑讓、況救㆓君之難㆒、度㆓道遠艱㆒、故不㆑果㆓期要㆒耳。❷婚姻契約を履行すべき期日。婚禮を擧げるべき日。〔唐律、戶婚、違㆑律爲㆑婚〕卽應㆑爲㆑婚、雖㆓已納㆑娉、期要未㆑至而強娶、及期要至、女家故違者、各杖一百。

【期遠】8 キエン　後周、沈遘(**6－17189**‥161)の字。

【期考】9 chʻi² kʻao³　學期試驗。

【期間】10 キカン　一定の時間から他の一定の時期に至るまでの間。

【期期】11 キキ　❶どもるさま。期は必。吃つて必ず必ずと重ねて言つた語。〔史記、張丞相傳〕及㆘帝欲㆛廢㆓太子㆒、而立㆓戚姬子如意㆒爲㆚太子㆙、大臣固爭㆑之、莫㆓能得㆒、上以㆓留侯策㆒卽止、而周昌廷㆓爭之㆒彊、上問㆓其說㆒、昌爲㆑人吃、又盛怒曰、臣口不㆑能㆑言、然臣期期知㆓其不可㆒、陛下雖㆑欲㆑廢㆓太子㆒、臣期期不㆑奉㆑詔、上欣然而笑。〔注〕正義曰、期、以㆓口吃㆒每㆑語、故重㆓言期期㆒也。〔漢書、周昌傳〕然臣期期其不可。❷キヲキス　期日を約束する。〔左氏、僖、二十三〕期㆑期而不㆑至、無㆑赦。

【期期艾艾】12 キキガイガイ　口吃者の語。艾艾(**9－30648**‥8)を見よ。〔書言故事、殘疾類、期期艾艾〕口訥曰㆓期期艾艾㆒。〔漢書、周昌傳〕昌爲㆑人吃、又盛怒曰、臣口不㆑能㆑言、然臣期期知㆓其不可㆒、陛下欲㆑廢㆓太子㆒、臣期期不㆑奉㆑詔。〔注〕師古曰、以㆓口吃㆒故、每重㆓言期期㆒。〔世說新語、言語〕鄧艾口吃、語稱㆓艾艾㆒、晉文王戲㆑之曰、卿云㆓艾艾㆒、定是

幾艾、對曰、鳳兮鳳兮、故是一鳳。

【期牛】13 キギウ　岷山に住む大牛の名。夔牛。〔揚雄、蜀都賦〕其旁則有二期牛兕旄、金馬碧鷄一。〔注〕郭璞山海經注、蜀山中有二大牛一、肉重數千斤、名曰二夔牛一、期・夔聲相近。

【期銀】14 chʻi^2 yin^2　一定の期限內に支拂ふ金。

【期貨】15 chʻi^2 huo^4　期日を定めて取引する商品。

〔期貨買賣〕16 chʻi^2 huo^4 mai^3 mai　定期賣買。

【期會】17 キクワイ　❶必ず實行せんと計畫する。又、約束する。〔六韜、犬韜、分合〕將欲下期二會合戰一、約中誓賞罰上。〔史記、項羽紀〕與二淮陰侯韓信・建成侯彭越一期會而擊二楚軍一。〔新書、俗激〕小期會不レ答。❷とき。機會。〔史記、貨殖傳〕此寧有二政教發徵期會一哉。❸一年間の會計。又、單に會計。〔漢書、王吉傳〕其務在二於期會簿書、斷獄聽訟一而已。〔如不及齋文鈔、春雨樓記〕放翁之在二成都一、周二旋簿書期會之閒一。

【期外】18 キグワイ　一定の時限外。

【期決】19 キケツ　豫め決する。〔史記、太倉公傳〕他所三診期二決死生一。

【期結】20 chʻi^2 chieh^2　端午（五月）・仲秋（九月）・年關（十二月）の三期を決算期とし、該期間の營業總額を統計し、其の損益を決算する帳簿。

【期月】21 キゲツ　❶滿一箇月。〔中庸、七章〕擇二乎中庸一、而不レ能二期月守一也。〔章句〕期月、匝二一月一也。❷滿一周年。〔論語、子路〕苟有二用レ我者一、期月而已可也。〔疏〕期月、周月也、謂レ周二一年之十二月一也。〔劉寶楠正義〕積レ月成レ年、故周年謂二之期年一、又謂二之期月一、言二十二月至レ此一合一也。

〔期月之閒〕22 キゲツノカン　滿一箇月の閒。〔後漢書、耿純傳〕期月之閒、兄弟稱レ王。

【期賢】23 キケン　呂氏春秋、開春論の篇名。

【期限】24 キゲン　定めの時期。ひぎり。かぎり。〔劉孝威、思歸引〕乘レ障無二期限一、思レ歸安可レ論。

【期功】25 キコウ　一年の喪服と大功・小功の喪服。朞功。期功彊近を見よ。〔日知錄、禮制、期功喪去レ官〕古人於二期功之喪一、皆去レ官持レ服。

〔期功彊近之親〕26 キコウキヤウキンノシン　忌服のかかる親類をいふ。期は一年の喪服で、祖父母・伯叔父・兄弟のために服すべきもの。功は大功小功の喪服で、布の織方の粗なのを大功といひ、精なのを小功といふ。大功は九月で從父昆弟のために服し、小功は五月で再從兄弟・外祖父母のために服すべきもの。彊は勢力のあるもの、近は近い親類をいふ。〔李密、陳情表〕外無二期功彊近之親一、內無二應門五尺之僮一。〔注〕向曰、期功、謂二大功小功之親一、彊、盛也。

【期尅】27 キコク　時刻。〔曹唐、和二周侍御買レ劍詩〕見說夜深星斗畔、等閒期尅月支頭。

【期歲】28 キサイ　一周年。滿一年。期年。〔任昉、王文憲集序〕期歲而孤。〔注〕濟曰、期歲、一歲也。

【期死】29 キシ　死を覺悟する。〔左氏、哀、十六〕復言非レ信也、期レ死非レ勇也。

【期至】30 キシ　定めた時期が來る。〔詩、衞風、氓〕乘二彼垝垣一以望二復關一、〔箋〕前既與レ民以レ秋爲レ期、期至、故登二毀垣一。

【期思】31 キシ　❶縣名。㋑漢、置く。春秋、楚の期思邑。河南省固始縣の西北。〔左氏、文、十〕期思公復遂、爲二右司馬一。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、期思。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州、固始縣〕期思城、古蔣國、楚滅レ之爲二期思邑一、漢置二期思縣一、屬二汝南郡一、英布大夫賁赫封二期思侯一卽此、後漢仍屬二汝南郡一、晉屬二弋陽郡一、劉宋因レ之、齊永元二年、沒二於後魏一、正光中、置二邊城郡於此一、梁仍爲二期思縣一屬二光州一、陳亦置二邊城郡一、隋初郡廢、縣屬二光州一、兵亂後廢。㋺南齊、置く。湖北省舊黃州府の境。㊇隋、置く。河南省商城縣の東。㊁宋、置く。河南省光山縣。❷複姓。〔續通志、氏族略〕期思氏、風俗通曰、楚大夫居二期思城一因以爲レ氏、姓氏辨證云、春秋楚期思公復遂之後、有三去レ思、單爲二期氏一。

【期日】32 キジツ　日を定める。又、定めた日。日限。〔周禮、地官、山虞〕令三萬民時斬レ材、有二期日一。〔孫詒讓正義〕有二期日一者、謂下依二其所レ用木之多少一、爲中其出レ山入レ山之日數上。〔禮、曾子問〕如將レ冠レ子、而未レ及二期日一、而有二齊衰大功小功之喪一、則因二喪服一而冠。〔列子、說符〕至二期日之夜一。〔荀子、王霸〕佻二其期日一。

【期日子】33 chʻi^2 jih^4 tzŭ　日を限る。日をきる。

【期處】34 キシヨ　約束の場所。〔列女傳、節義傳〕期處既成。

【期親】35 キシン　近い親戚。一年の喪のかかる親類。期親祖父母を見よ。

〔期親尊長〕36 キシンソンチヤウ　一年の喪服ある尊屬親及び年長者の總稱。期親祖父母を見よ。

〔期親祖父母〕37 キシソフボ　曾孫・玄孫が曾祖・高祖に犯した罪は、五月・三月の服喪の義務しか有せぬ者としてではなく、一年の服喪の義務を有する近親者と見做して、刑罰を重くする。〔明律、名例、稱二期親祖父母一〕凡稱二期親一及稱二祖父母一者、曾高同、稱レ孫者曾玄同、嫡孫承レ祖與二父母一同、其嫡母繼母慈母養母與二親母一同、稱レ子者男女同。〔纂注〕期親、期年喪服之親、律稱二期親一有レ二、有下止言二期親一者上、則祖與二曾高一在二其中一、如下聞二期親尊長喪一匿不レ擧レ哀、杖八十上是也、有下與二祖父母一並稱者上、則祖父母兼二曾高一言二期親一、以二伯叔兄弟及在室之姑姊妹一、如下謀二殺祖父母及期親尊長一、皆淩遲處上レ死、是也。

〔謀レ殺二期親尊長一〕38 キシンソンチヤウヲコロサンコトヲハカル　期親尊長を殺さんことを謀る。人倫の最も重い罪。〔唐律、賊盜、謀レ殺二期親尊長一〕諸謀レ殺二期親尊長・外祖父母・夫・夫之祖父母父母一者、皆斬。

〔略二賣期親卑幼一〕39 キシンヒエウヲリヤクバイス　期親卑幼を欺いて賣却する。之は鬬毆殺罪を以て罰し、承諾を得て賣却した者は各〻一等を減ずる。期親卑幼は一年の喪服ある卑屬親で、弟・妹・子・孫等をいふ。〔唐律、賊盜、略二賣期親卑幼一〕諸略二賣期親以下卑幼一、爲二奴婢一者、並同二鬬毆殺法一、卽和賣者、各減二一等一、其賣二餘親一者、各從二凡人和略法一。

【期盡】40 キジン　時期がをはる。〔詩、召南、摽有梅序、疏〕然則男自二二十一以及二二十九一、女自二十五一以至二十九一、皆爲二盛年一云云、若男三十、女二十爲二期盡一。

【期世】41 キセイ　期は示の誤。示世は、世に示す。〔墨子、非儒下〕其道不レ可二以期一レ世。〔閒詁〕兪云、晏子春秋雜篇、作二其道也、不レ可二以示一レ世、此文期字、亦示字之誤、古文其字作レ亓、見二集韻一、示誤爲レ亓、因誤爲レ期矣。

【期生】42 キセイ　晉、褚爽（**10－34457**··18）の小字。

【期成】43 キセイ　事の成るを期する。必ず成し遂げることを目的とする。

〔期成原因〕44 キセイゲンイン　當然の結果を生む原因。

〔期成同盟〕45 キセイドウメイ　多人數が或る事柄の期成を盟ふこと。或る目的を達成させるために協同一致する同盟。

【期節】46 キセツ　をり。とき。季節。時候。〔論衡、寒溫〕水旱之至、自有二期節一。

【期待】47 キタイ　あてにしてまつ。まちうける。所期。豫期。〔王褘、章生歸二括蒼一詩〕睎レ余猶二弟兄一、往往過二期待一。

【期呈】48 chʻi^2 chʻêng^2　官廳が人民の告訴の文書を受付ける日。每月三八の日。

【期程】49 キテイ　日程を立てる〔張說、蜀道後レ期詩〕客心爭二日月一、來往預期レ程。

【期朝】50 キテウ　一晝夜。今日の朝から明日の朝まで。〔禮、內則〕漬、取二牛肉一、必新殺者薄切レ之、必絕二其理一、湛二諸美酒一、期朝而食レ之、以二醢若醯醷一。〔注〕期朝、今旦至二明旦一也。〔孫希旦集解〕期朝、匝二一日一也。

【期條】51 chʻi^2 tʻiao^2　定期相場。

【期度】52 キド　定まつたきまり。一定の法度。〔漢書、霍光傳〕晝夜出二入長信宮殿中一、亡二期度一。〔後漢書、光武十王、濟南安王康傳〕出入進止、宜レ有二期度一。

【期內】53 キナイ　一定の期限內。〔周禮、秋官、朝士〕凡士之治有二期日一、云云、期內之治聽、期外不レ聽。

【期年】54 キネン　滿一箇年。一周年。期月。〔左氏、僖、八〕虢射曰、期年狄必至、示二之弱一矣。〔會箋〕期年、十二月也。〔國語、楚語下〕期年乃有二柏擧之戰一。〔莊子、外物〕期年不レ得レ魚。〔韓非子、十過〕居未二期年一、靈王南遊、羣臣從而劫レ之、靈王餓而死二乾溪之上一。〔墨子、明鬼下〕期年、燕將馳レ祖。〔史記、燕世家〕不二期年一、千里馬至者三。

【期望】55 キバウ　あてにしのぞむ。期待して望む。〔劉浩、秋蠅詩〕期望秋風回、一掃無二餘孽一。

【期費】56（キヒ） 財用をきはめる。極費。〔莊子、庚桑楚〕券外者志二乎期費一。〔集解〕兪云、荀子書每用二綦字一、王霸篇楊注、綦、極也、亦或作レ期、期費猶レ言二極費一、費謂二財用一、案、券外者志二乎期費一、言四契二合乎外一者、志欲三窮二極其財用一也。

【期風】57（キフウ） 時期每に吹く風。季節風。〔管子、幼官〕十二期風至、戒二秋事一。

【期服】58（キフク） 一箇年の喪。齊衰。〔清會典、本宗九族五服正服之圖〕凡嫡孫、父卒、爲二祖父母一承レ重、服二斬衰三年一、若爲二曾高祖父母一承レ重服亦同、祖在爲二祖母一、止服二杖期一。

【期票】59 ch‘i^{2} p‘iao^{4} ❶約束手形。期日拂約束手形。❷錢莊票の一。最大限十日以內に兌現するを常とする。

【期米】60（キマイ） 米穀取引所で、定期取引で賣買される米。定期米。

【期滿】61（キマン） 期限の滿了すること。〔清國行政法汎論、文官仕途種類〕至二期滿一、則不レ由二考試一。

【期滿免除】62（キマンメンヂョ） ❶一定の期間を經過して、或る義務を免除されること。❷犯罪人が一定の期間を經過したため、受くべき刑の執行を免除されること。

【期命】63（キメイ） ❶約束して定めること。期は物の會するところ。命は物に名づけること〔荀子、正論〕故凡言議期命是非、以二聖王一爲レ師。〔注〕期、物之所レ會也、命、名レ物也。❷運命の極ること。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕權之期命、於レ是至矣。〔注〕翰曰、期命、謂二權命盡之期至一也。

【期門】64（キモン） 官名。漢の武帝、置く。僕射を長官とし、兵を執つて送從することを掌る。期門の名は、武帝が微行を好み、侍中常侍武騎及び待詔、隴西北地の良家子弟の騎射を善くするものと、殿門で落合ふことを期約したのに始まる。平帝、期門僕射を改めて虎賁中郎將といひ、三國魏、宂從僕射といふ。〔漢書、東方朔傳〕武帝微行、常用二飲レ酎已一、八九月中與下侍中常侍武騎、及待詔隴西北地良家子能二騎射一者上期二諸殿門一、故有二期門之號一、自レ此始。〔漢書、百官公卿表上〕期門掌二執レ兵送從一、武帝建元三年、初置、比レ郎無レ員、多至二千人一、有二僕射一、秩比千石、平帝元始元年、更二名虎賁郎一、置二中郎將一、秩二千石。〔後漢書、儒林傳序〕自二期門羽林之士一、悉令レ通二孝經章句一。〔後漢書、銚期傳、帝嘗輕與二期門一近出、注〕武帝將レ出、必與二北地良家子一期二於殿門一、故曰二期門一。〔張衡、西京賦〕陰戒二期門一、微行要屈。〔宋書、百官志下〕宂從僕射、云云、魏世因二其名一而置二宂從僕射一。〔李華、弔二古戰場一文〕主將驕レ敵、期門受レ戰。

【期約】65（キヤク） 限り定めた約束。〔六韜、豹韜、敵強〕中外相應、期約皆當。〔後漢書、南匈奴傳〕宜レ令下云云以二恩信一招降、宣二示購賞一、明中其期約上。〔韓愈、送二區冊一序〕然後可レ告下以出二租賦一奉中期約上。

【期餘】66（キヨ） 明、黃閏(**12－47926**··481)の字。

【剋レ期】67（キヲコクス） 期限を定める。刻レ期。〔後漢書、鍾離意傳〕意遂於レ道解二徒桎梏一、恣レ所レ欲レ過、與剋レ期俱至。

【弛レ期】68（キヲユルム） 期日をのばす。〔戰國、魏策〕魏惠王死、葬有レ日矣、天大雨レ雪、云云、羣臣多諫二太子一者、云云、請二弛レ期更レ日。

【期雲館】69（キウンクワン） 唐、晁采(**5－13889**··6)の室名。

【期不負齋】70（キフフサイ） 清、周家楣(**2－3441**··563)の號。

【違レ期不レ充】71（キニタガヒテミタサズ） 租稅上納の期限に違うて納稅の義務を果たさないこと。〔律書訓解、課程〕。

【待レ期之信】72（キヲマツノシン） 信義を重んずる喩。後漢の郭伋が幷州の牧を拜し、管內を巡行した時、自分を送迎する諸兒と約束した期日より一日さきに着いたため、野亭に止り期日を待つて其の地に入つた故事。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕盡二任棠置レ水之情一、弘二郭伋待レ期之信一。〔注〕善曰、司馬彪續漢書曰、郭伋拜二幷州牧一行レ部、西河到二美稷一、數百小兒各騎二竹馬一逢迎、伋問曰、兒曹何自レ遠來、對曰、聞二使君到一喜、故來迎、伋謝曰、辛二苦諸童諸小兒一、復送至二郭門外一問、使君何日當レ還、伋謂二別駕一計レ日告レ之、行レ部還入二美稷一、先レ期一日、伋念レ負二諸兒一、卽止二野亭一、須レ期乃往、伋重レ信得二人心一、皆此類也。

【不レ期而會】73（キセズシテクワイス） 約束しないで偶然に聚つて來る。會は會同。〔穀梁、隱、八〕春、宋公・衞侯、遇二于垂一、不レ期而會曰レ遇、遇者志相得也。〔史記、周紀〕是時、諸侯不レ期而會二盟津一者、八百諸侯。〔通俗編、交際、不レ期而會〕穀梁傳、不レ期而會曰レ遇、貫之會、不レ期而至者、江人黃人也。

【⿰月忩】14379 ソウ ス 〔字彙〕倉紅切 東

赤い色。〔字彙〕⿰月忩、赤色。

參考 肉部の⿰月忩(**9－29639**)は別字。

【⿰月花】14380 テウ 〔篇海〕他凋切 蕭

祭の名。〔篇海〕⿰月花、祭名。

【腁】14381 チン

朕(**5－14361**)に同じ。〔說文長箋〕腁、與レ朕同。

【⿰月坒】14382 ハイ 〔字彙補〕普乃切 賄

月が未だ盛明にならないこと。〔字彙補〕⿰月坒、月未二盛明一也。

【⿱月朋】14383 シヤウ

義未詳。〔篇海類編〕⿱月朋、音晶。

九畫

【⿰月亙】14384 コウ 〔篇海〕居鄧切 徑

月が出る。〔篇海〕⿰月亙、月出也。

【⿰月英】14385 エイ ヤウ 〔玉篇〕於京切 庚

月の色。〔玉篇〕⿰月英、月色也。

【⿰月冎】14386 クワン 〔集韻〕呼官切 寒

❶**四凶の名。**通じて鴅(**12－46742**)・驩(**12－45086**)に作る。〔集韻〕⿰月冎、⿰月冎吺、四凶之一、通作レ鴅、今通作レ驩。❷鴅(**12－46726**)の譌字。〔正字通〕⿰月冎、从レ丹、按、驩兜、古作二鴅吺一。

參考 肉部の⿰月冎(**9－29726**)は別字。

【朡】14387 ソウ ス 〔集韻〕祖叢切 東

❶**つなぐ。**〔呂覽、開春〕晉誅二羊舌虎一、叔嚮爲二之奴一而朡。〔注〕朡、繫也。❷艐(**9－30479**)に同じ。〔集韻〕艐、船著不レ行也、隸作レ朡。

【⿰月⿱龹廾】14388 トウ

滕(**7－18036**)に同じ。〔字彙補〕⿰月⿱龹廾、與レ滕同。

十畫

【⿰卓月】14389 テウ

朝(**5－14374**)の本字。〔字彙〕⿰卓月、朝本字。

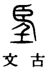
【⿰月荒】14390 クワウ 〔集韻〕虎晃切 養

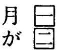
⿰月黨⿰月荒は、月がほのぐらい。〔集韻〕⿰月荒、⿰月黨⿰月荒、月不レ明也。

【朢】 14391

[一] バウ マウ 〔集韻〕無放切 漾

[二] バウ マウ 〔集韻〕武方切 陽


小篆


古文

[一][二]❶**もちづき**。もち。月が滿ちる。滿月。〔說文〕朢、月滿也、與レ日相望、似レ朝レ君、从レ月从レ臣从レ壬、壬、朝廷也。〔沈濤、說文古本考〕月大十六日、月小十五日、日在レ東、月在レ西、遙相朢也。❷古は𦣠(9−30073)に作る。❸望(5−14368)に通ず。〔說文〕朢、𦣠、古文朢省。〔說文通訓定聲〕朢、今皆以レ望爲レ之。

解字 會意。月と臣と壬との合字。月が滿ちる。滿月。月が滿ちて日と相望むことは、臣が君の朝廷に朝するに似てゐる義。壬は廷の假借で朝廷。望月の望の本字。

參考 元來、望(5−14368)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕望・朢二字同音、望、仰望之望。朢、月滿與レ日相望、如二臣朝一レ君、故从二臣月一。

【⿰月夌】 14392

リヨウ 凌(2−1669)に同じ。〔正字通〕⿰月夌、與レ凌同。

十一畫

【膰】 14393

シヨウ 塍(3−5323)の俗字。〔正字通〕膰、俗塍字。

【⿰月旋】 14394

[一] セン ゼン 〔篇海〕徐兗切 銑

[二] セン ゼン 〔篇海〕徐緣切 先

[一][二]❶**みじかい**。〔篇海〕⿰月旋、短也。❷便⿰月旋は、小さいさま。〔篇海〕⿰月旋、便⿰月旋、小貌。

參考 肉部の⿰月旋(9−29821)の譌字。

【⿰月見】 14395

デン ネン 〔篇海〕奴見切 霰

月が出る。〔篇海〕⿰月見、月出也。

【⿰月眔】 14396

音未詳 人名。〔字彙補〕⿰月眔、音未詳。〔穆天子傳、四〕⿰月眔黛送二天子一。

【腹】 14397

ホク 〔字彙補〕奉木切 屋

たもつ。〔字彙補〕腹、有也。

十二畫

【⿰月敦】 14398

トン 〔集韻〕他昆切 元

❶**月の光**。〔玉篇〕⿰月敦、月光也。❷或は朜(5−14373)に作る。〔集韻〕⿰月敦、或省。

【⿰月黑】 14399

コツ ゴチ 〔篇海〕胡骨切 月

にごる。あかがつく。〔篇海〕⿰月黑、濁垢也。

【朣】 14400

トウ ヅ 慣ドウ 〔集韻〕徒東切 東

❶**月が初めて出る**。〔集韻〕朣、月初出也。❷**おぼろなさま**。朣朧(2)を見よ。

參考 肉部の膧(9−29859)は別字。

【朣朦】1 ドウモウ ❶おぼろなさま。明るくなるさま。〔陶翰、宿二天竺寺一詩〕湖色濃蕩漾、海光漸朣朦。❷明かでないさま。〔後漢書、張衡傳〕吉凶紛錯、人用朣朦。〔注〕朣朦、言レ不レ晤也。

【朣朧】2 ドウロウ 月かげの明るくなりかかるさま。おぼろなさま。〔潘岳、秋興賦〕月朣朧以含レ光兮。〔注〕善曰、埤蒼曰、朣朧、欲レ明也、良曰、朣朧、月初出皃。〔韓愈、謁二衡嶽廟一遂宿二嶽寺一題二門樓一詩〕夜投二佛寺一上二高閣一、星月掩映雲朣朧。

【⿰月矞】 14401

キツ キチ 〔集韻〕訣律切 質

❶**月が東北の方に在ること**。〔篇海〕⿰月矞、月在レ乙、東北方也。❷**月が西に傾く**。〔集韻〕⿰月矞、一曰、月見二西方一。❸通じて橘(6−15551)に作る。〔集韻〕⿰月矞、通作レ橘。

參考 肉部の⿰月矞(9−29874)は別字。

【朤】 14402

ラウ 朗(5−14364)に同じ。〔字彙補〕朤、與レ朗同。

【⿰月黽】 14403

シヨウ ジヨウ 〔集韻〕神陵切 蒸

妊娠する。子をはらむ。〔集韻〕⿰月黽、妊也。

【⿰月尋】 14404

ジン 〔集韻〕徐心切 侵

姓。〔玉篇〕⿰月尋、姓也。

十三畫

【⿰月敫】 14405

ケウ 皎(8−22724)に同じ。〔字彙〕⿰月敫、同レ皎。

【⿰月⿱夂韋】 14406

ハン ⿱夂韋(12−42977)の古字。〔字彙補〕⿰月⿱夂韋、古文⿱夂韋字。

【⿰歲月】 14407

クワイ 義未詳。〔海篇〕⿰歲月、音誨。

十四畫

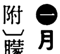
【⿸厂⿰月犬】 14408

エフ 〔篇海〕於葉切 葉

月の動くさま。〔篇海〕⿸厂⿰月犬、月動貌。

【朦】 14409

ボウ ム 慣モウ 〔集韻〕謨蓬切 東 ㄇㄥˊ mêng^2


小篆

❶**月のおぼろなこと**。〔說文新附〕朦、月朦朧也、从レ月蒙聲。❷**月が入りかかる**。〔類篇〕朦、朦朧、月將レ入也。❸現㋑かぶせる。㋺欺く。

參考 肉部の朦(9−29984)は別字。

【朦鬱】1 モウウツ うす暗くむすぼれる。〔素問、氣交變大論〕大雨至、埃霧朦鬱、上應二鎭星一。

【朦狡】2 モウカウ 愚昧でずるい。〔陶弘景、發眞隱訣序〕眞人立レ象垂レ訓、本不下爲二朦狡一設上言。

【朦吃】3 meng^2 ch'ih^1 ごまかして飲食する。金を拂はずに飲食する。

【朦官】4（モウクワン） 官吏をごまかす。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕不㆓敢任㆑意以㆑少增㆑多、以㆑欠作㆑完、朦㆑官取㆑咎。

【朦混】5（モウコン） ❶ごまかす。瞞着する。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕思㆘朦㆓混新官㆒以希㆗接受㆖。❷ mêng^2 huen^1 不明瞭な。

【朦事】6 mêng^2 shih^4 ごまかす。

【朦請】7 mêng^2 ch'ing^3 ごまかして請求する。

【朦錢】8 mêng^2 ch'ien^2 金錢をごまかす。金を流用しごまかす。

【朦住】9 mêng^2 chu^4 ❶蔽ふ。隱す。❷ぼんやりする。あつけに取られる。

【朦抵】10（モウテイ） くらます。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕僞㆓造欠冊㆒朦抵。

【朦蔽】11（モウヘイ） 瞞着する。ごまかしかくす。隱匿する。〔福惠全書、錢穀部、比較〕被㆓奸書朦蔽㆒。

【朦騙】12 mêng^2 p'ien^4 かたる。だます。

【朦昧】13（モウマイ） おぼろにくらい。〔素問、氣交變大論〕鬱冒朦昧、心痛暴瘖。

【朦朦】14（モウモウ） おぼろなさま。うす暗いさま。又、混沌として區別・秩序のないさま。〔風俗通、愆禮〕犯㆑禮違㆑制、使㆓東嶽一郡朦朦㆒焉。〔晁補之、求志賦〕冬朦朦其多㆑雨兮。

【朦弄】15 mêng^2 nung^4 ごまかす。朦混。

【朦朧】16（モウロウ） ❶月かげのおぼろなさま。〔連文釋義〕朦朧、月將㆑入爲㆑朦、日將㆑出爲㆑朧。〔來鵬、寒食詩〕蜀魂啼來春寂莫、楚魂吟後月朦朧。❷おぼろげに見えるさま。ぼんやりしたさま。〔李嶠、早發㆓苦竹館㆒詩〕合沓巖嶂深、朦朧煙霧曉。〔羅隱、商於驛樓東望有㆑感詩〕歌繞㆓夜梁㆒珠宛轉、舞嬌㆓春席㆒雪朦朧。❸物事のはつきりしないこと。事理の不確實なこと。曖昧。朦朧奏請を見よ。

【朦朧組】17（モウロウグミ） 朦朧車夫の仲間。

【朦朧體】18（モウロウタイ） 詩文などの意義の明かでないもの。又、繪畫の輪廓のおぼろなもの。

【朦朧車夫】19（モウロウシヤフ） 無理に乘車をすすめ、法外の車代を強請する無賴の人力車夫。

【朦朧奏請】20（マウロウソウセイ） 事實を調査せず曖昧な奏請をすること。〔明律、吏律、職制、文官不㆑許㆑封㆓公侯㆒〕所司朦朧奏請、輒封㆓公爵㆒者、當該官吏及受㆑封者、皆斬。

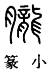
【朦朧保擧】21（モウロウホキヨ） 十分の調査をせず曖昧に人材を推擧すること。〔明律、吏律、擧㆓用有㆑過官吏㆒〕諸衙門不㆑許㆓朦朧保擧㆒。〔六部成語、吏部、朦朧保擧、注解〕比如㆘屬員立㆓了功勞㆒、而懇㆓請上官保奏㆒、而上官竝不㆔明㆓查其功之大小、事之眞僞㆒、卽行㆗保奏㆖、謂㆓之朦朧保擧㆒。

【朦月夜】22（オボロツキヨ） おぼろに曇つた月の夜。主に春の夜にいふ。朧月夜。

【⿰月農】14410 ノウ 農(10－38688)に同じ。〔字彙補〕⿰月農、與㆑農同。

十六畫

【朧】14411 ロウ ル 〔集韻〕盧東切 東 ㄌㄨㄥˊ lung^2


小篆

おぼろ。さだかでない。〔說文新附〕朧、朦朧也、从㆑月龍聲。

參考 肉部の朧(9－30029)は別字。

【朧光】1（ロウクワウ） おぼろ月の光。〔張華、情詩〕明月曜㆓清景㆒、朧光照㆓玄墀㆒。

【朧月】2（ロウゲツ） おぼろに霞んだつき。おぼろづき。〔新論、兵術〕列宿滿㆑天、不㆑及㆓朧月㆒、形不㆑一、光不㆑同也。〔太平廣記、韋卿材〕半夜朧月、信㆑足而行。

【朧月夜】3（オボロツキヨ） 月かげのおぼろな夜。かすんだ月の夜。主に春の夜をいふ。朧夜。

【朧幢】4（ロウドウ） 鼓の聲のたたみ重なるさま。朧橦。籠僮。籠銅。〔通俗編、聲音、朧幢〕按、朧幢、疊㆓鼓聲㆒也、太平御覽引㆓樂府㆒、作㆓朧橦㆒、唐人承用者、亦字不㆑同、沈佺期詩、籠僮上㆓西鼓㆒、柳宗元詩、籠銅桴鼓手自操、又詩、蹀躞騶先駕、籠銅鼓報㆑衙、自後如㆓周伯琦、更移壺滴瀝、衙報鼓籠銅之類㆒、遂多用㆓籠銅字㆒。

【朧明】5（ロウメイ） おぼろなさま。〔元稹、嘉陵驛詩〕仍對牆南滿山樹、野花撩亂月朧明。

【朧夜】6（オボロヨ） おぼろ月の夜。朧月夜。

【朧朧】7（ロウロウ） おぼろなさま。薄明るいさま。〔潘岳、悼亡詩〕歲寒無㆓與同㆒、朗月何朧朧。〔注〕善曰、埤蒼曰、朧朧、欲㆑明也。〔崔曙、早發㆓交崖山㆒還㆓太室㆒作詩〕蕭蕭過㆓穎上㆒、朧朧辨㆓少陽㆒。〔王昌齡、西宮春怨詩〕斜抱㆓雲和㆒深見㆑月、朧朧樹色隱㆓昭陽㆒。

【⿰月羲】14412 キ 〔字彙〕虛宜切 支

❶**月の光。**〔字彙〕⿰月羲、月光也。❷曦(**5－14253**)の譌字。〔正字通〕⿰月羲、曦字之譌。

十九畫

【⿰月菐】14413 ワク 〔搜眞玉鏡〕於縛切 藥

おんな。〔搜眞玉鏡〕⿰月菐、女也。

二十畫

【⿰月黨】14414 タウ 〔集韻〕坦朗切 養

月がほのぐらい。〔集韻〕⿰月黨、月不㆑明也。

大漢和辭典 巻五 終り

大漢和辞典　巻五

昭和三十二年八月二十五日　初版発行
平成十一年十月二十日　修訂第二版第五刷発行

著者　諸橋轍次
発行者　鈴木荘夫
発行所　株式会社　大修館書店
東京都千代田区神田錦町三ノ二四
電話〇三―三二九五―六二三一（販売部）　〇三―三二九四―二三五三（編集部）
振替〇〇一九〇―七―四〇五〇四

© Tatsuto Morohashi 1989 Printed in Japan

ISBN4-469-03138-0（セット）
ISBN4-469-03143-7

Ⓡ本書の全部または一部を無断で複写（コピー）することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。

原字・文字盤製作	石井茂吉
本文写真植字印字	株式会社写研
本文写真植字印字	五常写植印刷株式会社
挿図版下	星野写真工芸株式会社
本文写真製版	近藤写真製版所
本文・扉印刷	横山印刷株式会社
見返印刷	錦明印刷株式会社
本文用紙抄造	王子製紙株式会社
用紙類調達	日本紙パルプ商事株式会社
表紙クロス	ダイニック株式会社
金版彫刻	坪井金版彫刻所
製函	中田製函所
製本	関山製本社